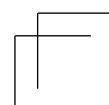
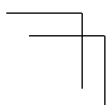


日本大学 法学部

【平成26年度以降～令和元年度以前入学者】



科目名索引

● : 教職課程科目

ア	
アジアの歴史Ⅰ	220
アジアの歴史Ⅱ	225
アメリカ経済論	3744
アメリカ政治論	3749
イ	
イノベーションと知的財産Ⅰ	3754
イノベーションと知的財産Ⅱ	3759
異文化メディア	3764
インターンシップA	3
インターンシップB	8
インベスター・リレーションズⅠ	3769
インベスター・リレーションズⅡ	3774
ウ	
運輸政策	3779
エ	
英検／IELTSⅠA	1116
英検／IELTSⅠB	1136
英検／IELTSⅡA	1156
英検／IELTSⅡB	1171
英検／IELTSⅢA	1186
英検／IELTSⅢB	1196
英検／IELTSⅣA	1206
英検／IELTSⅣB	1211
英語A	951
英語B	966
英語C	981
英語D	1001
英語E	1011
英語F	1016
英語G	1021
英語H	1026
英語演習A	1031
英語演習B	1036
英語演習C	1041
英語演習D	1051
英語演習E	1061
英語演習F	1066
英語演習G	1071
英語演習H	1096
映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	3784
映像／デジタル・ジャーナリズムⅡ	3794
カ	
会計学Ⅰ	3799
会計学Ⅱ	3809
外国ジャーナリズム史B	3819
外国法A（アジア）Ⅰ	3824
外国法A（アジア）Ⅱ	3829
外国法A（EU）Ⅰ	3834
外国法A（EU）Ⅱ	3839
外国法A（英米）Ⅰ	3844
外国法A（英米）Ⅱ	3859
外国法A（独）Ⅰ	3874
外国法A（独）Ⅱ	3879
外国法B（アジア）Ⅰ	3884
外国法B（アジア）Ⅱ	3889
外国法B（EU）Ⅰ	3894
外国法B（EU）Ⅱ	3899
外国法B（英米）Ⅰ	3904
外国法B（英米）Ⅱ	3919
外国法B（独）Ⅰ	3934
外国法B（独）Ⅱ	3939
学際教養A【東京の社会文化史】	230
学際教養B【近代日本の戦争と社会】	245
科学の歴史Ⅰ	260
科学の歴史Ⅱ	265
ガバナンス論	3944
環境政策	3949
環境論Ⅰ	270
環境論Ⅱ	275
観光政策	3954
韓国語ⅠA	3398
韓国語ⅠB	3403
韓国語ⅡA	3408
韓国語ⅡB	3413
監査論Ⅰ	3959
監査論Ⅱ	3964
管理会計論Ⅰ	3969
管理会計論Ⅱ	3974
キ	
企業会計法Ⅰ	3979
企業会計法Ⅱ	3984
企業不祥事論Ⅰ	3989
企業不祥事論Ⅱ	3994
企業法務Ⅰ	3999
企業法務Ⅱ	4004
キャリア・デザインA	13
キャリア・デザインB	18
キャリア・デベロップメントA	23
キャリア・デベロップメントB	28
キャリア入門	33
教育学Ⅰ	280
教育学Ⅱ	285
● 教育課程論	8479
● 教育原論	8484
● 教職実践演習（中・高）	8489
教育政策	4009
● 教育制度論	8499
● 教育相談	8504
● 教育の方法・技術論	8509
行政学Ⅰ	4014
行政学Ⅱ	4024
行政管理研究	4034
行政管理論	4039
行政広報研究	4044
行政広報論	4049

行政実務演習	4054	計量政治学	4567
行政組織研究	4059	原価計算論Ⅰ	4572
行政組織論	4064	原価計算論Ⅱ	4577
行政法Ⅰ	4069	健康科学Ⅰ	382
行政法Ⅱ	4090	健康科学Ⅱ	387
共通科目特論　A	38	● 現代教職論	8514
教養演習ⅠA	290	現代行政論Ⅰ	4582
教養演習ⅠB	321	現代行政論Ⅱ	4587
金融商品取引法Ⅰ	4113	現代政治理論	4592
金融商品取引法Ⅱ	4118	現代メディア社会論Ⅰ	4602
金融法Ⅰ	4123	現代メディア社会論Ⅱ	4612
金融法Ⅱ	4128	憲法Ⅰ（人権）	4622
ク		憲法Ⅱ（統治機構）	4672
グローバル・コミュニケーションⅠ	4133	憲法A（人権）	4728
ケ		憲法B（統治機構）	4753
経営学Ⅰ	4138	コ	
経営学Ⅱ	4158	公共経営論	4778
経営管理論	4178	公共経済学Ⅰ	4783
経営情報システム論Ⅰ	4183	公共経済学Ⅱ	4793
経営情報システム論Ⅱ	4188	公共政策基礎演習	4803
経営組織論	4193	公共政策特殊講義A	4848
経営訴訟法Ⅰ	4198	公共政策特殊講義B	4853
経営訴訟法Ⅱ	4203	公共政策論	4858
経営分析論	4208	公共選択論	4863
経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ	4213	広告コミュニケーションⅠ	4868
経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅱ	4218	広告コミュニケーションⅡ	4873
経営法学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅰ	4223	広報広告コミュニケーション演習Ⅰ	4878
経営法学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅱ	4228	広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	4883
経済学Ⅰ	4233	広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	4893
経済学Ⅱ	4258	公法特殊講義Ⅰ（憲法）A	4903
経済行政法Ⅰ	4283	公法特殊講義Ⅰ（憲法）B	4908
経済行政法Ⅱ	4288	公法特殊講義Ⅱ（行政法）A	4913
経済刑法Ⅰ	4293	公法特殊講義Ⅱ（行政法）B	4918
経済刑法Ⅱ	4298	公務員制度論	4923
経済史	4303	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	4928
経済思想史Ⅰ	4313	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	4938
経済思想史Ⅱ	4318	国際関係史Ⅰ	4948
刑事政策Ⅰ	4323	国際関係史Ⅱ	4963
刑事政策Ⅱ	4328	国際関係法〔公法系〕AⅠ	4978
経済政策論	4333	国際関係法〔公法系〕AⅡ	4988
経済法Ⅰ	4338	国際関係法〔公法系〕BⅠ	4998
経済法Ⅱ	4343	国際関係法〔公法系〕BⅡ	5008
警察政策	4348	国際関係法〔私法系〕AⅠ	5018
刑事訴訟法Ⅰ	4353	国際関係法〔私法系〕AⅡ	5023
刑事訴訟法Ⅱ	4381	国際関係法〔私法系〕BⅠ	5028
刑事法Ⅰ	4395	国際関係法〔私法系〕BⅡ	5038
刑事法Ⅱ	4400	国際関係論Ⅰ	5048
刑事法特殊講義ⅠA	4405	国際関係論Ⅱ	5053
刑事法特殊講義ⅠB	4415	国際金融論Ⅰ	5058
刑事法特殊講義ⅡA	4425	国際金融論Ⅱ	5063
刑事法特殊講義ⅡB	4440	国際経営法学Ⅰ	5068
刑事法特殊講義ⅢA	4455	国際経営法学Ⅱ	5074
刑事法特殊講義ⅢB	4460	国際経営論Ⅰ	5080
刑事法特殊講義ⅣA	4465	国際経営論Ⅱ	5085
刑事法特殊講義ⅣB	4475	国際経済法Ⅰ	5090
芸術論Ⅰ	352	国際経済法Ⅱ	5095
芸術論Ⅱ	367	国際経済論Ⅰ	5100
刑法Ⅰ	4485	国際経済論Ⅱ	5105
刑法Ⅱ	4527	国際契約法Ⅰ	5110
計量経済学	4562	国際契約法Ⅱ	5115

国際研修（英）ⅠA	1311	社会学Ⅱ	432
国際研修（英）ⅠB	1316	● 社会科・公民科教育法Ⅰ	8529
国際研修（中）ⅠA	3156	● 社会科・公民科教育法Ⅱ	8539
国際研修（中）ⅠB	3161	● 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	8549
国際研修（独）ⅠA	2426	● 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	8559
国際研修（独）ⅠB	2431	社会思想の歴史Ⅰ	457
国際研修（仏）ⅠA	2806	社会思想の歴史Ⅱ	462
国際研修（仏）ⅠB	2811	社会情報システム研究	5378
国際政治学Ⅰ	5120	社会情報システム論	5383
国際政治学Ⅱ	5135	社会政策論Ⅰ	5388
国際政治経済特殊講義A	5150	社会政策論Ⅱ	5393
国際政治経済特殊講義B	5155	社会調査概論	5398
国際税法Ⅰ	5160	社会保障法Ⅰ	5403
国際税法Ⅱ	5165	社会保障法Ⅱ	5413
国際取引法AⅠ	5170	社会保障論Ⅰ	5423
国際取引法AⅡ	5175	社会保障論Ⅱ	5433
国際取引法BⅠ	5180	宗教学Ⅰ	467
国際取引法BⅡ	5186	宗教学Ⅱ	472
国際民事紛争処理法Ⅰ	5192	出版メディアⅠ	5443
国際民事紛争処理法Ⅱ	5197	出版メディアⅡ	5448
国会論	5202	上級簿記論Ⅰ	5453
コミュニケーション演習Ⅰ	5207	上級簿記論Ⅱ	5458
コミュニケーションの科学A	5213	少年法Ⅰ	5463
コミュニケーションの科学B	5223	少年法Ⅱ	5468
コンピュータ・リテラシーA	103	商法Ⅰ（会社法）	5473
サ		商法Ⅱ（商取引法）	5508
債権法各論	5233	商法Ⅲ（支払システム法）	5523
債権法総論	5238	商法Ⅳ（保険法）	5544
財政学Ⅰ	5243	商法Ⅴ（運送法）	5558
財政学Ⅱ	5253	情報システム論Ⅰ	5573
サイバー法Ⅰ	5263	情報システム論Ⅱ	5578
サイバー法Ⅱ	5268	消防政策	5583
財務諸表論Ⅰ	5273	情報通信政策	5588
財務諸表論Ⅱ	5278	情報の科学Ⅰ	5593
産学連携と知的財産Ⅰ	5283	情報の科学Ⅱ	5598
産学連携と知的財産Ⅱ	5288	情報法Ⅰ	5603
産業技術と知財A（情報通信）Ⅰ	5293	情報法Ⅱ	5608
産業技術と知財A（情報通信）Ⅱ	5298	人材マネジメント論Ⅰ	5613
産業技術と知財B（機械・エネルギー）Ⅰ	5303	人材マネジメント論Ⅱ	5618
産業技術と知財B（機械・エネルギー）Ⅱ	5308	● 人文地理学概論Ⅰ	8569
産業技術と知財C（バイオ・環境化学）Ⅰ	5313	● 人文地理学概論Ⅱ	8574
産業技術と知財C（バイオ・環境化学）Ⅱ	5318	心理学Ⅰ	477
産業技術と知財D（コンテンツ）Ⅰ	5323	心理学Ⅱ	497
産業技術と知財D（コンテンツ）Ⅱ	5328	ス	
産業技術と知財F（エレクトロニクス）Ⅰ	5333	数学Ⅰ	517
産業技術と知財F（エレクトロニクス）Ⅱ	5338	数学Ⅱ	522
産業立地論	5343	スピーキング・リスニング（中）ⅠA	3166
シ		スピーキング・リスニング（中）ⅠB	3206
自主創造の基礎Ⅰ	123	スピーキング・リスニング（中）ⅡA	3246
自主創造の基礎Ⅱ	163	スピーキング・リスニング（中）ⅡB	3261
自然人類学Ⅰ	392	スピーキング・リスニング（中）ⅢA	3276
● 自然地理学概論Ⅰ	8519	スピーキング・リスニング（中）ⅢB	3281
● 自然地理学概論Ⅱ	8524	スピーキング・リスニング（独）ⅠA	2436
実践教養A	397	スピーキング・リスニング（独）ⅠB	2466
実践教養B	402	スピーキング・リスニング（独）ⅡA	2496
ジャーナリズム・スタディーズⅠ	5348	スピーキング・リスニング（独）ⅡB	2506
ジャーナリズム・スタディーズⅡ	5358	スピーキング・リスニング（独）ⅢA	2516
ジャーナリズム倫理Ⅰ	5368	スピーキング・リスニング（独）ⅢB	2521
ジャーナリズム倫理Ⅱ	5373	スピーキング・リスニング（仏）ⅠA	2816
社会学Ⅰ	407	スピーキング・リスニング（仏）ⅠB	2841

スピーキング・リスニング（仏）ⅡA	2866
スピーキング・リスニング（仏）ⅡB	2881
スペイン語ⅠA	3376
スペイン語ⅠB	3382
スペイン語ⅡA	3387
スペイン語ⅡB	3393
セ	
西欧政治思想史Ⅰ	5623
西欧政治思想史Ⅱ	5628
政策過程論	5638
政策研究A	5643
政策評価論	5648
政策法務論	5653
政治学Ⅰ	5658
政治学Ⅱ	5683
政治学原論	5708
政治過程論	5718
政治経済原書研究A	5723
政治経済原書研究B	5748
政治経済専門研究A	5773
政治経済専門研究B	5803
政治コミュニケーション	5833
政治制度論	5838
政治哲学	5843
政治経済理論特殊講義A	5848
政治経済理論特殊講義C	5853
精神分析学Ⅰ	527
● 生徒指導・進路指導論	8579
税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	5858
税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	5868
税法ⅡA（所得税法）	5878
税法ⅡB（法人税法）	5883
税法ⅢA（資産税法）	5888
税法ⅢB（消費・諸税法）	5893
生命の科学Ⅰ	537
生命の科学Ⅱ	542
● 西洋史概論Ⅰ	8584
● 西洋史概論Ⅱ	8589
西洋政治史Ⅰ	5898
西洋政治史Ⅱ	5903
西洋の歴史Ⅰ	547
西洋の歴史Ⅱ	552
西洋法制史Ⅰ	5913
西洋法制史Ⅱ	5918
世界文学Ⅰ	557
世界文学Ⅱ	577
ゼミナール3年	5923
ゼミナール4年	6545
選挙制度論	7111
専門演習A	7121
専門演習B	7156
専門演習C	7191
専門演習D	7206
専門演習E	7221
専門演習F	7231
ソ	
総合講座A【芸術/文学/思想と「時代」】	597
総合講座B【ジェンダーから見たワークとライフ】	602
ソーシャル・キャピタル論	7236
タ	

体育実技ⅠA【オンライン】	3440
体育実技ⅠB【オンライン】	3531
体育実技ⅠC	3622
体育実技ⅠC（テニス中級）	3686
体育実技ⅠC（テニス初級）	3693
体育スポーツ科学Ⅰ	607
体育スポーツ科学Ⅱ	612
男女共同参画論	7242
チ	
地域開発論	7247
地域コミュニケーションA	7252
地域政策	7262
地球科学Ⅰ	617
地球科学Ⅱ	623
● 地誌学概論Ⅰ	8594
● 地誌学概論Ⅱ	8599
知的財産英語	7267
知的財産法A（特許・実用新案）Ⅰ	7272
知的財産法A（特許・実用新案）Ⅱ	7282
知的財産法B（意匠）	7292
知的財産法C（商標・不正競争）	7297
知的財産法D（著作権）Ⅰ	7302
知的財産法D（著作権）Ⅱ	7312
知的財産法E（関連条約）Ⅰ	7322
知的財産法E（関連条約）Ⅱ	7327
知的財産政策	7332
地方財政論Ⅰ	7337
地方財政論Ⅱ	7342
地方自治法Ⅰ	7347
地方自治法Ⅱ	7352
地方自治論Ⅰ	7357
地方自治論Ⅱ	7372
中国語演習C	3046
中国語演習D	3066
中国語演習E	3086
中国語演習F	3091
中国語演習G	3096
中国語演習H	3106
中国語基礎文法A	2976
中国語基礎文法B	3011
中国語資格試験対策ⅠA	3126
中国語資格試験対策ⅠB	3131
中国語資格試験対策ⅡA	3136
中国語資格試験対策ⅡB	3141
中国語資格試験対策ⅢA	3146
中国語資格試験対策ⅢB	3151
中国語基礎表現A	2896
中国語基礎表現B	2936
調査ジャーナリズム	7387
地理学Ⅰ	629
地理学Ⅱ	639
テ	
哲学Ⅰ	649
哲学Ⅱ	664
● 哲学概論Ⅰ	8604
● 哲学概論Ⅱ	8609
ト	
ドイツ語演習C	2246
ドイツ語演習D	2271
ドイツ語演習G	2296

ドイツ語演習H	2321
ドイツ語基礎表現A	1926
ドイツ語基礎表現B	1996
ドイツ語基礎文法A	2066
ドイツ語基礎文法B（月曜2時限）	2156
ドイツ語資格試験対策ⅠA	2366
ドイツ語資格試験対策ⅠB	2376
ドイツ語資格試験対策ⅡA	2386
ドイツ語資格試験対策ⅡB	2396
ドイツ語資格試験対策ⅢA	2406
ドイツ語資格試験対策ⅢB	2416
統計学Ⅰ	679
統計学Ⅱ	684
倒産法Ⅰ	7392
倒産法Ⅱ	7397
● 道徳教育の理論と方法	8614
● 東洋史概論Ⅰ	8619
● 東洋史概論Ⅱ	8624
東洋法制史Ⅰ	7402
東洋法制史Ⅱ	7407
TOEICⅠA	1321
TOEICⅠB	1356
TOEICⅡA	1391
TOEICⅡB	1421
TOEICⅢA	1451
TOEICⅢB	1476
TOEICⅣA	1501
TOEICⅣB	1506
TOEFLⅠA	1216
TOEFLⅠB	1236
TOEFLⅡA	1256
TOEFLⅡB	1271
TOEFLⅢA	1286
TOEFLⅢB	1296
TOEFLⅣA（iBT）	1301
TOEFLⅣB	1306
● 特別活動論	8629
● 特別支援教育概論	8634
都市政策	7412

ニ	
日本経済論Ⅰ	7417
日本経済論Ⅱ	7422
日本語Ⅰ	3296
日本語Ⅱ	3306
日本語Ⅲ	3316
日本語Ⅳ	3321
日本語Ⅴ	3326
日本語Ⅵ	3336
日本語Ⅶ	3346
日本語Ⅷ	3356
日本語Ⅸ	3371
日本語Ⅹ	3366
日本国憲法	203
● 日本史概論Ⅰ	8638
● 日本史概論Ⅱ	8648
日本ジャーナリズム史Ⅰ	7427
日本ジャーナリズム史Ⅱ	7437
日本政治過程論	7442
日本政治史Ⅰ	7447
日本政治史Ⅱ	7452

日本政治思想史Ⅰ	7462
日本政治思想史Ⅱ	7467
日本政治特殊講義B（選挙運動論）	7472
日本政治論Ⅰ	7477
日本政治論Ⅱ	7482
日本大学の歴史	208
日本の近現代Ⅰ	689
日本の近現代Ⅱ	694
日本の自然A	699
日本の自然B	704
日本の社会A	709
日本の社会B	714
日本の前近代Ⅰ	719
日本の前近代Ⅱ	724
日本の文化A	729
日本の文化B	734
日本文学Ⅰ	739
日本文学Ⅱ	759
日本法制史Ⅰ	7487
日本法制史Ⅱ	7492
ニュース英語Ⅰ	7497
ニュース英語Ⅱ	7512

ハ

● 発達と学習【新課程】	8658
発展教養A【生きる方法の宗教的探究】	779
発展教養B【人生の意味の宗教的探究】	789
犯罪心理学	7527

ヒ

比較行政論	7532
比較憲法Ⅰ	7537
比較憲法Ⅱ	7542
比較ジャーナリズム史	7547
比較政治学	7557
東アジア経済論	7562
東アジア政治論Ⅰ	7567
東アジア政治論Ⅱ	7572
ビジネスロー文献講読Ⅰ	7577
ビジネスロー文献講読Ⅱ	7583

フ

福祉契約論	7589
福祉政策	7594
物権・担保物権法	7599
フランス語演習C	2696
フランス語演習D	2701
フランス語演習E	2706
フランス語演習F	2711
フランス語演習G	2716
フランス語演習H	2726
フランス語基礎表現A	2536
フランス語基礎表現B	2571
フランス語基礎文法A	2606
フランス語基礎文法B	2651
フランス語資格試験対策ⅠA	2746
フランス語資格試験対策ⅠB	2766
フランス語資格試験対策ⅡA	2786
フランス語資格試験対策ⅡB	2791
フランス語資格試験対策ⅢA	2796
フランス語資格試験対策ⅢB	2801
文化人類学Ⅰ	799
文化人類学Ⅱ	804

文章表現法Ⅰ	809
文章表現法Ⅱ	859
ヘ	
平和学	7609
ホ	
法医学Ⅱ	7614
防衛政策	7619
法学Ⅰ	7624
法学Ⅱ	7680
法学演習AⅠ（憲法基礎演習）	7695
法学演習AⅡ	7710
法学演習BⅠ	7725
法学演習BⅡ	7735
法学演習EⅠ	7745
法学演習EⅡ	7750
法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅰ	7755
法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅱ	7760
法思想史Ⅰ	7765
法思想史Ⅱ	7775
法情報学Ⅰ	7785
法情報学Ⅱ	7790
法哲学Ⅰ	7795
法哲学Ⅱ	7805
法律外国語AⅠ【経営法学科】	7815
法律外国語AⅡ【経営法学科】	7820
法律外国語BⅠ	7826
法律外国語BⅡ	7831
簿記原理Ⅰ	7836
簿記原理Ⅱ	7851
マ	
マーケティング戦略論Ⅰ	7866
マーケティング戦略論Ⅱ	7871
マーケティング論Ⅰ	7876
マーケティング論Ⅱ	7881
マクロ経済学Ⅰ	7886
マクロ経済学Ⅱ	7906
ミ	
ミクロ経済学Ⅰ	7921
ミクロ経済学Ⅱ	7941
民事執行・保全法	7956
民事訴訟法	7963
民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	7984
民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）B	7994
民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）A	7999
民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）B	8004
民事法特殊講義Ⅳ（商法）A	8009
民事法特殊講義Ⅳ（商法）B	8014
民事法特殊講義Ⅴ（不動産登記法）	8019
民事法特殊講義Ⅵ（商業登記法）	8024
民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）A	8029
民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）B	8034
民法Ⅰ（民法総則）	8039
民法Ⅱ（物権法）	8096
民法Ⅲ（担保物権法）	8110
民法Ⅳ（債権法総論）【法職課程】	8124
民法Ⅴ（債権法各論）	8152
民法Ⅵ（親族法）	8173
民法Ⅶ（相続法）	8188
民法総則	8203
メ	

メディア演習Ⅰ	8213
メディア演習Ⅱ	8218
メディア演習Ⅲ	8223
メディア・コミュニケーションの科学A	8228
メディア・コミュニケーションの科学B	8238
メディア史	8248
メディア／情報産業Ⅰ	8253
メディア調査	8258
メディア・テキストの基礎Ⅰ	8263
メディア・テキストの基礎Ⅱ	8268
メディア・テキストの基礎Ⅲ	8313
メディア・ビジネス	8328
メディア文化演習Ⅰ	8335
メディア文化演習Ⅱ	8340
メディア文化演習Ⅲ	8346
メディア法Ⅰ	8351
メディア法Ⅱ	8361
メディア理論	8366
ヨ	
ヨーロッパ経済論	8371
ヨーロッパ政治論Ⅰ	8376
ヨーロッパ政治論Ⅱ	8381
ラ	
WritingⅠA	1896
WritingⅠB	1901
WritingⅡA	1916
WritingⅡB	1921
WritingⅢA	1906
WritingⅢB	1911
リ	
ReadingⅠA	1751
ReadingⅠB	1786
ReadingⅡA	1816
ReadingⅡB	1851
ReadingⅢA	1886
ReadingⅢB	1891
リーディング・ライティング（中）ⅠA	3116
リーディング・ライティング（中）ⅠB	3121
リーディング・ライティング（中）ⅡA	3286
リーディング・ライティング（中）ⅡB	3291
リーディング・ライティング（独）ⅠA	2346
リーディング・ライティング（独）ⅠB	2356
リーディング・ライティング（独）ⅡA	2526
リーディング・ライティング（独）ⅡB	2531
リーディング・ライティング（仏）ⅠA	2736
リーディング・ライティング（仏）ⅠB	2741
リサーチ・ペーパー（メディアと社会）	8386
リサーチ・ペーパー（情報と社会）	8391
リサーチ・ペーパー（政治行動論）	8396
リサーチ・ペーパー（メディアと文化）	8401
リスク・コミュニケーション	8406
Listening & SpeakingⅠA	1511
Listening & SpeakingⅠB	1546
Listening & SpeakingⅡA	1581
Listening & SpeakingⅡB	1621
Listening & SpeakingⅢA（木曜3時限）	1661
Listening & SpeakingⅢB（木曜3時限）	1696
Listening & SpeakingⅣA	1731
Listening & SpeakingⅣB	1741
立法過程論	8412

倫理学Ⅰ	909
倫理学Ⅱ	919
● 倫理学概論Ⅰ	8663
● 倫理学概論Ⅱ	8673
□	
労働事情	8417
労働政策	8422
労働法Ⅰ	8432
労働法Ⅱ	8442
ローカル／コミュニティ・メディアⅠ	8452
ローマ法Ⅰ	8457
ローマ法Ⅱ	8467
ロシア語ⅠA	3418
ロシア語ⅠB	3423
ロシア語ⅡA	3428
ロシア語ⅡB	3433
論理学Ⅰ	929
論理学Ⅱ	939

I 群

共通科目

I 群

共通科目

科目名	インターンシップA	担当者	柴田 秀一	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
学生自らキャリア目標を明確にし、就職活動に臨む準備を整えるため、それぞれ志望するマスコミュニケーション・メディア各業界別にグループを作り、業界研究と発表を繰り返し、第3学年夏から冬にかけて集中するマスコミ・メディアインターンシップに臨むための講座である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
マスコミ業界ないしメディア関連企業への就職を目指す学生が、業界研究やインターンシップ実習などの演習を通して、就業に対する理解を深める人材育成を目的とし、志望する業界への理解を深め、学内選抜だけでなく一般公募によるインターンシップに積極的に参加できるような能力を身につける事を目標とする。

【履修条件】
第2学年又は、第3学年でメディア関連企業就職希望者。初回講義出席必須。志望業界毎にグループ分けし、第2回よりグループ毎実習開始。

【授業方法】		
志望業界毎に編成したグループで業界研究を行いグループ発表する。夏季休業中に実施されるインターンシップ実習へのエントリーを行う（後学期履修者はインターンシップ経験者の場合はその発表をする）。現業に携わるゲストスピーカーによる特別講習を実施する。授業毎リアクションペーパー提出。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループによる業界研究及び発表、グループ討論は、必ずしも講座時間中だけでなく、発表の為のグループ打ち合わせ等も含む(ピア評価を取り入れる)、模擬面談（やり取りの直接評価）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。					4							
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。						4						
③	学齢からこれまでもを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。							4					
④	学齢からこれまでもを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。								4				
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。									4			
⑥	自らの意思や、長所、短所を理解し、適切な業種選択は具体的な職種を見つけることができる。								4				
⑦	グループ討論などで司会やまとめ役を積極的に担当できる。											4	
⑧	エントリーシートで、自分の短所、長所を含め、インターンシップの志望動機や希望企業の分析等を説明できる。							4					
⑨	面談で、インターンシップ希望企業の志望理由、業界分析、自分の長所、短所がはきはきと説明できる。										4		
⑩	互いに志望する同じ業界の研究を共同して行うことができる。												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポート（ES）が、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥、⑧にかかわる事柄が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5		40			70
討論・発表等	第5～10回の講座におけるグループワークおよび打ち合わせのための討論において自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑦、⑨、⑩にかかわる意見表明が身についているかを評価する。（ピア評価）							10		5	5	20
授業への参画度	リアクションペーパーで毎回、授業理解度、参加度、自己表明度等を評価する。	1	1	1	1	1	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	6	6	6	6	10	10	40	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
業界研究発表は終了後その場での評価を述べ、レポート等は解説し、模擬面談、グループ討論などは事後に口頭で解説、指導する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定せず、参考書は、随時提示する。				

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 企業内セミナー（インターンシップとほぼ同じことを行い、時に選考を含む作業の企画実務）を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		グループ面談や個別面談等のモデルケースのやり取りを実際に行ってみて、他の受講生がそれを見てどう感じるか評価も含めて実践する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	インターンシップとキャリア形成／初回ガイダンス (志望業界の研究・発表の為にグループ分けを行うので、履修登録を悩んでいる者も必ず初回に出席すること)	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、仕事に就く意味や、勤労の意欲を理解、表明できる。	
	事前学修	マスコミ・メディア、Web各社のインターンシップの概要を調べておく。自らの第一志望、第二志望の業界業種を決めておく	180分
	事後学修	グループ分け後に連絡を取れるよう各グループでコミュニケーションを密に出来るようにする。	60分
2	各業界に分かれグループワーク (業界研究に着手)	業界研究についてのオリエンテーション／グループワーク 自ら志望する業界（新聞、出版、放送、広告、エンタテインメント、Web）に分かれて業界の歴史と現在の状況を研究するグループワークに着手する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑦、⑩に関連して、自らの志望する業界・企業の研究について、業界の歴史と社会的作用、自らの希望を加味して調べ、資料を分析し、グループ討論で意見表明できる。	
	事前学修	自身の志望業種を絞り、第1志望業界をグループ分けの根本にする。その業界の歴史、主な企業、自らの志望順位等の下調べをしておく	180分
	事後学修	グループワークでの業界研究に必要な情報を入手する方法を出版資料だけでなくWebなどでも調べ、発表に備える。	60分
3	インターンシップの実際を経験者から聞く①	実際にインターンシップを経験した学生の話聞く① 4年生などで3年次にインターンシップをした経験者がその経験を発表し、受講生の質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターン全体の流れを理解し、インターンシップをどう利用し、どう評価されるかの理解を深め、質問ができる。	
	事前学修	実際にインターンシップをした学生の企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。	180分
	事後学修	経験者の話を聞いた上で、インターンシップで申し込みからインターンシップ実施まで、注意すべき点を確認しておく。	60分
4	インターンシップの実際を経験者から聞く②	実際にインターンシップを経験した学生の話聞く② 4年生などで3年次にインターンシップ経験者がその経験を発表し、受講生の質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥に関連して、インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターン全体の流れを理解し、インターンシップをどう利用し、どう評価されるかの理解を深め、質問ができる。	
	事前学修	実際にインターンシップをした学生の企業の概要、インターンシップの今後の予定などを前もって調べておく。	180分
	事後学修	経験者の話を聞いた上で、インターンシップで申し込みからインターンシップ実施まで、注意すべき点を確認しておく。	60分
5	業界研究発表① 新聞業界	業界研究発表① 新聞業界 グループ研究発表&ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
	事前学修	新聞業界について基本的なことを知っておく。 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。	180分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分
6	業界研究発表② 出版業界	業界研究発表② 出版業界 グループ研究発表&ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。	
	事前学修	出版業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。	180分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	業界研究発表③ 広告業界		業界研究発表③ 広告業界 グループ研究発表&ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。		
	事前学修	広告業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。		180分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。		60分
8	業界研究発表④ 放送業界		業界研究発表④ 放送業界 グループ研究発表&ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。		
	事前学修	放送業界について基本的なことを知っておく。 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。		180分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。		60分
9	業界研究発表⑤ コンテンツ（エンタテインメント）業界		業界研究発表⑤ コンテンツ（エンタテインメント）業界について グループ研究発表&ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。		
	事前学修	コンテンツ業界について基本的なことを知っておく。 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う。		180分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。		60分
10	業界研究発表⑥ Web業界		業界研究発表⑥ Web業界 グループ研究発表&ディスカッション この回にインターンシップ公募用模擬ES配布する。模擬ESを書きあげて次回担当教員に提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、⑤、⑥、⑦、⑩に関連して、自らの志望業界の歴史や主要企業、社会的貢献度や自己実現度を含め、資料を調べ理解し、他人に分かりやすく説明できる。		
	事前学修	インターネット業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う		180分
	事後学修	研究発表を聴き、業界の特徴をまとめ記しておく。		60分
11	インターンシップ一般公募対策 ESの書き方の基礎		インターンシップ一般公募対策 第一志望企業に出すESを提出する。 志望理由は詳しく、わかりやすく、質問には具体的に答えるなどESの書き方の基礎を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関して、その内容を理解しESに記述することができ、第三者に分かりやすく説明できる。		
	事前学修	模擬ESにできるだけ詳しくわかりやすく、具体的に記入し当日提出する。		180分
	事後学修	講座を聴いて改めて自分の書いたESを推敲しブラッシュアップする。		60分
12	ゲストスピーカー講演①		マスコミ業界に求められる人材① （ゲストスピーカー）	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関してゲストスピーカーの話を理解、積極的に質問し、自らの希望業界や企業のインターンシップ実効に生かすことができる。		
	事前学修	ゲストスピーカーについてプロフィールをよく読み、必ず質問を考えておく。		180分
	事後学修	自らにあてはめ、インターンシップに臨む業界についてまとめておく。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゲストスピーカー講演②	マスコミ業界に求められる人材② (ゲストスピーカー)	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関してゲストスピーカーの話を理解、積極的に質問し、自らの希望業界や企業のインターンシップ実効に生かすことができる。	
	事前学修	ゲストスピーカーについてプロフィールをよく読み、必ず質問を考えておく。	180分
	事後学修	自らにあてはめ、インターンシップに臨む業界についてまとめておく。	60分
14	講座内でESを書き上げる。	講座内で、自らのインターンシップ第一志望企業にES（公募企業用模擬ES）を書き上げて提出する（制限時間70分）	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関して、その内容を理解しESに記述することができ、第三者に分かりやすく説明できる。	
	事前学修	模擬ESを70分で完成提出できるように、あらかじめ、必ず書いておく。	220分
	事後学修	これまでの講座で疑問点が生じていないかもう一度洗いなおす。	20分
15	ES解説と講座前期総括	ES解説と講座前期総括 前回講座で提出されたESの傾向や、注意事項を開設府フィードバックし、具体的に描く、詳細に書く、分かりやすく書くとはどういうことか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関して、その内容を理解しESに記述することができ、第三者に分かりやすく説明できる。 自らの提出ESと比べ、欠点を補い修正ができる。	
	事前学修	インターンシップAの講座について、要点と質問をまとめて記しておく。	40分
	事後学修	最終的に自らの志望するインターンシップの日程を確認しESを実際を書く	200分

科目名	インターンシップB	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
学生自らキャリア目標を明確にし、就職活動に臨む準備を整えるため、それぞれ志望するマスコミ・メディア各業界別にグループを作り、業界研究と発表を繰り返し、第3学年夏から冬にかけて集中するマスコミ・メディアインターンシップに臨むための講座である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
マスコミ業界ないしメディア関連企業への就職を目指す学生が、業界研究やインターンシップ実習などの演習を通して、就業に対する理解を深める人材育成を目的とし、志望する業界への理解を深め、学内選抜だけでなく一般公募によるインターンシップに積極的に参加できるような能力を身につける事を目標とする。

【履修条件】
後学期中に企業のインターンシップ実習に参加する意思がある者。今夏季休業中にインターンシップ実習に参加した者。

【授業方法】		
インターンシップ実習の報告（個人発表）を通して、クラス全体で就業に対する理解を深める。また、現業に携わるゲストスピーカーによる特別講義を実施する。後学期受講者で夏期休暇中にインターンシップを経験した場合はその内容を発表する。授業毎リアクションペーパー提出。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループによる業界研究、発表、グループ討論第10～11回（ピア評価も使用）、模擬面談第8～9回（やり取りの直接評価）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。 【態度】		4						
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。 【技能】			4					
③	学齢からこれまでもを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。【知識】				4				
④	学齢からこれまでもを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。【知識】					4			
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。【技能】					4			
⑥	自らの意思や、長所、短所を理解し、適切な業種選択は具体的な職種を見つけることができる。【技能】				4				
⑦	グループ討論などで司会やまとめ役を積極的に担当でき、互いに志望する同じ業界について共同して研究できる。【態度】							4	
⑧	エントリーシートで、自分の短所、長所を含め、インターンシップの志望動機や希望企業の分析等を説明できる。【技能】				4				
⑨	面談で、インターンシップ希望企業の志望理由、業界分析、自分の長所、短所がはきはきと説明できる。【技能】						4		
⑩	自ら経験した出来事を、その出来事を知らないものにも分かりやすく、的確に説明することができる。【態度】								4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポート、ESが書式等の条件を満たし、課題に多季節に答えている内容となっているかを基準に到達目標①～⑥、⑧にかかわる事柄が身についているかを評価する	5	5	5	5	5	5		40			70
討論・発表等	討論、模擬面談等で自分の意見や物事の説明が十分にできたかを基準に、到達目標⑦、⑨、⑩にかかわる意見表明や説明が身についているかどうか評価する。(ピア評価を使用することもある。)							7		7	6	20
授業への参画度	毎回リアクションペーパーを配り、授業理解度、参加度、自己表現度等を評価する。	1	1	1	1	1	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	6	6	6	6	10	7	40	7	6	100

【課題に対するフィードバックの方法】
インターン個人発表はその場でアドバイス、模擬面談、グループ討論は終了後にアドバイス、グループ討論はピア評価も併用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。 参考書は、適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業内セミナー（インターンシップとはほぼ同じことを行い、時に選考を含む作業の企画実務）を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		グループ討論やグループ面談・個別面談のモデルケースのやり方を実際に試みて、ほかの受講生がそれを見てどう感じるかも含めて、合評形式での討論、面談を再現する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	インターンシップ初回ガイダンス。 今後の講座の進め方とアンケート インターンシップ経験者は、経験した会社名や期間を記し、未経験者は、今後の計画、絞り込む業界や、希望する職種を記す。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤にかかわる事柄を踏まえて、インターンシップ経験者は自らの志望業界、志望企業のへの就職に向けて、志望動機、将来の希望、現在の自らの力を理解したうえで改めて仕事に就く意思を持つことができる。	
	事前学修	インターンシップ経験者は、自分の経験をまとめておく。提出E S、作文等あれば用意、また、実施演習や行ったグループディスカッションのテーマ等を分かり易くまとめておく。未経験者は今後のインターンシップ日程を調べ、エンリー出来るようにする。	180分
	事後学修	講座の進め方をうけてインターンシップ経験の発表準備をする。まだ、未経験の受講者は、自己の志望動機や、希望が書けるようにしておく。	60分
2	インターンシップ実習経験個人発表①	インターン実習経験個人発表①（業界別・個人別） インターンシップAを受けた後のインターンシップ経験者は、業界別にインターンシップ経験を発表する形式は、パワーポイント、レジュメ、動画等を使い、未経験受講者にも分かりやすくものを心掛ける。	
	この回の到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるようにする。	
	事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）	180分
	事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめ記しておく。	60分
3	インターン実習経験個人発表②	インターン実習経験個人発表②（業界別・個人別）	
	この回の到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるようにする。	
	事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）	180分
	事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめ、記しておく	60分
4	インターン実習経験個人発表③	インターン実習経験個人発表③（業界別・個人別）	
	この回の到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるようにする。	
	事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）	180分
	事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめ知るしておく。	60分
5	インターン実習経験個人発表④	インターン実習経験個人発表④（業界別・個人別）／E S・作文演習	
	この回の到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるようにする。	
	事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）	180分
	事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）	60分
6	インターン実習経験個人発表⑤	インターン実習経験個人発表⑤（業界別・個人別）／E S・作文演習	
	この回の到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験受講は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるようにする。	
	事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）	180分
	事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	インターン実習経験個人発表⑥	インターン実習経験個人発表⑥（業界別・個人別）／E S・作文演習	
	この回の到達目標	インターン実習経験者が個人発表を行う。到達目標①～⑥、⑩にかかわる事柄を踏まえ、インターンシップ経験受講者は、発表者と自らの体験と比較、課題の達成等足りなかった部分を補うことができる。インターンシップ未経験受講者は、それを参考に今後のインターンシップへの参加の方法、志望動機、やりたい事柄を記すことができるようにする。	
	事前学修	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）	180分
	事後学修	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）	60分
8	インターンシップ模擬個人面談①	インターンシップ 模擬個人面談① インターンシップ経験者は、後の採用試験に照準を合わせ、志望動機や、自らの経験、考え方を他人に分かりやすく説明、主張できるよう、個別模擬面接を行う。インターンシップ未経験者は、インターンシップ時の選考がある場合に備え、経験しておく。そのため合評形式で行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧～⑩にかかわる事柄を踏まえて、インターンシップ経験受講者はより一歩進めて採用試験に照準を合わせ、志望動機、自らの今までの経験を生き生きと人に語ることができるようにする。また、インターンシップ未経験受講者は、インターンシップでも選考があることを踏まえ模擬面接に対処できるようにする。	
	事前学修	ES（エントリーシート）を書いた上、シミュレーションをして模擬面接想定質問を立て、答えを話してみる。また、自らの弱いところや、カバーできていない業界研究の範囲がないか確かめる。	180分
	事後学修	模擬面談をやり終えたうえで、答えられなかったことや分からなかったことについては、もう一度調べなおし、きちんと記して残しておく。	60分
9	インターンシップ 模擬個人面談②	インターンシップ 模擬個人面談② インターンシップ経験者は、後の採用試験に照準を合わせ、志望動機や、自らの経験、考え方を他人に分かりやすく説明、主張できるよう、個別模擬面接を行う。インターンシップ未経験者は、インターンシップ時の選考がある場合に備え経験しておく。そのため合評形式で行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧～⑩にかかわる事柄を踏まえて、インターンシップ経験受講者はより一歩進めて採用試験に照準を合わせ、志望動機、自らの今までの経験を生き生きと人に語ることができるようにする。また、インターンシップ未経験受講者は、インターンシップでも選考があることを踏まえ模擬面接に対処できるようにする。	
	事前学修	ES（エントリーシート）を書いた上、シミュレーションをして模擬面接想定質問を立て、答えを話してみる。また、自らの弱いところや、カバーできていない業界研究の範囲がないか確かめる。	180分
	事後学修	模擬面談をやり終えたうえで、答えられなかったことや分からなかったことについては、もう一度調べなおし、きちんと記して残しておく。	60分
10	インターンシップ グループ討論①	インターンシップ グループ討論① インターンシップ経験者は、後の採用試験に照準を合わせ、志望動機や、自らの経験、考え方を他人に分かりやすく説明、主張できるよう、グループ討論を行う。インターンシップ未経験者は、インターンシップ時の選考がある場合に備え経験しておく。そのため合評形式で行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦、⑩にかかわる事柄を理解し、グループ討論で出された課題について、自らの考えを分かりやすく述べ、課題解決のためグループで協力して、時には会話をリードしながら、意見が出なくなってしまう時には新たな視点を示すといった全体を見られる討論ができるようにする。	
	事前学修	グループ討論について、様々な企業で行われる討論の題について調べ、討論のシミュレーションをしてみる。	60分
	事後学修	最新のマスコミ企業の動向をまとめインターンシップだけでなく今後の就職活動に生かす。様々な題で、グループディスカッションを友人らと行って慣れておくこと。	180分
11	インターンシップ グループ討論②	インターンシップ グループ討論② インターンシップ経験者は、後の採用試験に照準を合わせ、志望動機や、自らの経験、考え方を他人に分かりやすく説明、主張できるよう、グループ討論を行う。インターンシップ未経験者は、インターンシップ時の選考がある場合に備え経験しておく。そのため合評形式で行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦、⑩にかかわる事柄を理解し、グループ討論で出された課題について、自らの考えを分かりやすく述べ、課題解決のためグループで協力して、時には会話をリードしながら、意見が出なくなってしまう時には新たな視点を示すといった全体を見られる討論ができるようにする。	
	事前学修	グループ討論について、様々な企業で行われる討論の題について調べ、討論のシミュレーションをしてみる。	60分
	事後学修	最新のマスコミ企業の動向をまとめインターンシップだけでなく今後の就職活動に生かす。様々な題で、グループディスカッションを友人らと行って慣れておくこと。	180分
12	エントリーシートの書き方/筆記試験・作文・時事問題	エントリーシートの書き方/筆記試験・作文・時事問題 インターンシップ経験者は、一歩進めて採用試験のためのエントリーシートを、未経験者はインターンシップの選考に必要なエントリーシートの書き方の基礎を学ぶ。また、字の読み書き・時事問題・作文は実際に問題を解かないと力がつかない。実践をしてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧、⑩にかかわる事柄を踏まえ、エントリーシートの志望動機等を具体的にわかりやすく、書いた人物に興味を持ってもらえるように書くことができる。	
	事前学修	企業のエントリーシートにどんなものがあるか調べ、質問の形式を知る。次々回提出のエントリーシートを、下書きしてみる。漢字の読み書き・時事問題・作文はかならず出るので普段から、Webを含めマスメディアで取りあげられているものに触れまとめておくことが重要。	180分
	事後学修	自分が書いてみたESと講座で示されたESの書き方の表現が同じであったか点検し、足りない点についてブラッシュアップしておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マスコミ業界の実務と最新動向について (ゲストスピーカー)	マスコミ業界の実務と最新動向について (ゲストスピーカー)	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥にかかわる事柄を踏まえ、ゲストスピーカーの話す内容が、特に自分の目指す仕事のどこに役立つにkづくことができること。また、自分の望む職種に応用が可能かを見通す力を持てること。	
	事前学修	ゲストスピーカーの仕事について、事前に調べておく。また、	180分
	事後学修	ゲストの話の中で、自らの志望業種、仕事に応用できるものはすべて、記しておく。	60分
14	ES (エントリー・シート) の作成、提出	講座内でES (エントリー・シート) の作成 (制限時間70分で) 、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧にかかわる事柄を踏まえ、講座時間内に志望動機等を具体的にわかりやすく、書いた人物に興味を持ってもらえるように書くことができる。	
	事前学修	制限時間内にきちんと書けるように、事前に書式を渡すので、必ず時間を計って書いてみる。	200分
	事後学修	提出したESは事前に書いたものはすべて網羅できたかどうか確かめ、不備があれば次回解説に備え、記しておく。	40分
15	エントリーシート解説 インターンシップまとめ	エントリーシート解説 インターンシップまとめ 前回提出されたエントリーシートで陥りやすい点や、具体的に書くとはどういうことが、分かりやすく書くとはどういうことか解説説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑩にかかわる事柄を踏まえて、インターンシップの講座で行ってきたことを振り返り、その集大成として前回提出したエントリーシートに、特に到達目標⑧が盛り込まれて書かれていること。	
	事前学修	インターンシップA/Bで得た事柄や、インターンシップ経験で今後社会に出て重要と思われるものを記しておく。	200分
	事後学修	この時点で、3年次生は、既に自分の目指す仕事の方向や業種・企業等が定まっている事が必要。	40分

科目名	キャリア・デザインA	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
働く際に必要となる労働事情や労働法制の概略を説明するとともに、キャリアに関する理論、ジョブカード、教育訓練などキャリアに関する施策などキャリアデザインを考えるうえで必要となる事項について説明する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働事情や労働法制の状況を理解したうえで、大学卒業後の長い職業生涯について、自律的に考え、適切に行動できるようにする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
担当教員の講義を中心に進めるが、適宜グループディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	労働事情と労働法制について説明することができる。				2	2						
②	キャリアに関する理論を説明することができる。				2	2						
③	自分のジョブカードを作成できる。				2	2						
④	就職に向けて企業情報を収集できる。				2	2			2			
⑤	自身のキャリアデザインを描き、実行することができる。				2	2			2		2	
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより、到達目標①②に関する基礎知識が身についているかを評価する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	15	15	20	30							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッションの内容をプレゼンテーションする際に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	企業が求める人材像	企業が求める人材像から自らのキャリア形成の方向性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関し、企業が求める人材と自らのキャリアを比較し、自分の取り組むべきキャリア形成の方向性について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	労働法の基礎知識	職業生活を送る上で必要な労働法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関し、職業生活を送る上で必要な労働法、労働政策について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	社会保障制度	職業生活を送る上で必要な社会保障制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関し、保険、年金等職業生活を送る上で必要な社会保障制度について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
4	日本型雇用慣行	日本型雇用慣行について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関し、日本型雇用慣行とその変容、そこから生じる職業生活を送る上での課題等について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	賃金制度	企業の賃金制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、賃金制度、生涯所得の設計、リストラ手段等について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	労働時間、ワークライフバランス	企業の労働時間制度とワークライフバランスの実現に向けた取組について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、企業の労働時間、ワークライフバランスを実現するための方策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	女性をとりまく労働環境	女性をとりまく労働環境について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、女性をとりまく労働環境、次世代支援と女性活躍推進の考え方について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
8	若者の就労事情	若者の就労事情について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、若者の就労事情、就職氷河期世代やフリーターの実情について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
9	企業情報の収集	企業情報の収集と評価について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、企業情報の収集の方法、法令に基づき公表されている企業情報の種類、それらの評価の方法について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
10	キャリアコンサルティング	キャリアコンサルティングについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤に関し、キャリアコンサルティング、日本型0-netについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
11	教育訓練、人材育成	企業の教育訓練、人材育成の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、教育訓練、人材育成についての企業のスタンス、そこから導出される主体的キャリア形成の必要性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
12	労働組合	労働組合の仕組み、現状等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、労働組合と職業生活を送る上で果たす役割、個別労働紛争解決制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働組合関係者による講話	労働組合幹部の講話を聴き、労働組合の意義等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関し、労働組合幹部の講話、質疑応答等を通じ、労働組合の意義等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	転職と就職支援	離転職する場合のルール、政策的支援について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤に関し、離職を余儀なくされる場合又は自発的に転職する場合のルール、セーフティネット等及びジョブカードについて、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	総括	これまでの授業で学んだこと等から自らのキャリア形成について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関し、自らのキャリア形成と職業人生の方向性についてイメージし、説明することができる。、	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	キャリア・デザインB	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
国・地方における公務員の種類、働き方を概観するとともに、具体的な政策立案、法律改正などの事例をもとに、実際の公務員の仕事について学修する。また、公務員のキャリアデザイン、働き方について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公務員を志望する場合は、自らの目指すべき公務員像を描けるようにするために、政策策定の過程、行政機関の運営、公務員の働き方などの基本的知識を修得する。 公務員を希望しない場合には、実際の国会や政府の動きを理解し、公務員の働き方を参考に、自分の目指したい働き方を考える。

【履修条件】
当初から公務員に関心のない学生にとっては負担感があるかもしれないので留意して欲しい。

【授業方法】
担当教員の講義を中心に行うが、必要に応じグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公務員の働き方を説明することができる。						2	2						
②	法律制定の過程を説明することができる。						2	2						
③	政策策定の過程を説明することができる。						2	2						
④	行政機関の運営を説明することができる。						2	2						
⑤	自身のキャリアデザインを描き、実行することができる。						2	2			2		2	
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	基本的知識について正確に理解できているか評価する。	5	5	5	5							20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	12	15	15	15	20						77
討論・発表等	事前に情報収集したものを担当教員の求めに応じ、積極的に発表した場合、評価の対象とする。	3										3
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した場合は解答例を題材に講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旧労働省、厚生労働省、大分県庁等において三十数年の公務員経験を有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		政策立案、議会対応等について自らの経験を具体例として紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと導入講義	授業の目的、内容等について学修する。実務経験として、担当教員の公務員としてのキャリアについて紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関し、授業の内容、目的を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで講義の目的、概要等を調べる。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	行政機関と公務員	国、地方の行政機関とそこで働いている公務員の実際の姿について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、国、地方の行政機関（現業部門も含め）とそこで働いている公務員の実際の姿について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	国の政策立案過程	国の政策立案過程（出されていれば骨太2021を扱う。）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、国の政策立案過程（出されていれば骨太2021）について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
4	政策立案の実例	国の政策立案過程（ホットイシューを扱う）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、国の政策立案過程について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	法令関係業務	法律改正から施行（政省令の制定も含め）のプロセスと公務員の業務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、法律改正から施行（政省令の制定も含め）のプロセスと公務員の業務について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	国会業務	国会審議と公務員の業務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、国会審議（臨時国会開催中であれば、インターネット国会中継にアクセス）と国会関連業務について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国会業務経験者の講話 (国会係長経験者を予定)	国会業務経験者の講話を聴き、国会関係業務の実際の姿について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、国会関連業務に関し、公務員の果たす役割について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	ゲストスピーカーに質問することも視野に入れ、テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
8	予算編成	予算編成と公務員の業務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関し、令和3年度予算の内容、編成プロセスについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
9	予算の執行	予算の執行と公務員の業務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、予算の執行と公務員の業務について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
10	国の地方機関の仕事	国の地方機関（地方労働局を取り上げる）の仕事と公務員の業務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、国の地方機関の仕事と公務員の業務について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
11	地方労働局幹部による講話	地方労働局幹部の講話を聴き、地方機関における公務員の業務と生活について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関し、地方機関における公務員の業務と生活について理解し、説明することができる。	
	事前学修	ゲストスピーカーに質問することも視野に入れ、テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
12	県庁、市役所等の仕事	県庁、市役所等の仕事と地方公務員の業務について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、県庁、市役所等の仕事と地方公務員の業務について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	県庁幹部による講話	県庁幹部の講話を聴き、県庁職員の仕事と生活について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関し、県庁職員の仕事と生活について理解し、説明することができる。	
	事前学修	ゲストスピーカーに質問することも視野に入れ、テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	求められる公務員像、公務員の働き方、採用	これまでの授業と担当教員の経験も踏まえ、公務員に求められるものは何か学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関し、公務員に求められるものは何か、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を調べ、情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	総括	これまでの事業で学んだことから、自らのキャリア又はあるべき公務員像（公務員を志望しない者）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関し、自らの公務員としてのキャリアもしくはあるべき公務員像についてイメージし、説明することができる。	
	事前学修	今までの授業内容を復習し、自分の現状と比較してみる。	150分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	90分

科目名	キャリア・デベロップメントA	担当者	柴田 秀一	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
大学卒業後の進路選択について、指針を示し、自らの希望・能力を考えた職種選択が可能なよう、自己分析、適性評価を行うなど、自らの意志と行動で、職業に就けるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
職業の多様化・細分化に伴い、仕事や雇用形態も複雑化している。大学卒業後の進路を、4年次には自らの考えで選択・決定出来る事よう養成することを目的に、自らの力で進路を切り開いて行く力をつけることを目標とする。

【履修条件】
共通科目として、法学部全学科学生が受講可能である。レポート課題・討論などの内容から、特に、マスコミ業界を目指す学生は受講を勧めるが、一般企業、公務員等志望者にも受講可能な内容である。

【授業方法】
インターンシップ、キャリアデベロップメント両方受講が望ましい。受講生の発言や討論によって授業進め、受講生が、多人数の前で意見表明しやすくする。専門性の高いゲストを呼ぶこともあり、授業毎にリアクションペーパーを書かせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ討論はピア評価を使用し、「自己紹介」（第6～7講）「発表」（第5講）「将来の青図を描いて発表する」は、発表後直接評価する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。 【態度】		3						
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。 【知識】			3					
③	学齢からこれまでに振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。【知識】		3						
④	学齢からこれまでに振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。【技能】			3					
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。【技能】						3		
⑥	グループ討論などで積極的に司会やまとめ役を担当できる。 【態度】							3	
⑦	エントリーシートで、自己の短所、長所を含め、希望職種の志望動機や希望業界の分析等が説明できる。【態度】							3	
⑧	発表で、希望職種の志望理由、希望業界の分析、自己長所、短所がはきはきと説明できる。【態度】							3	
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑦が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5	40				70
討論・発表等	適職発表、将来の自分像、自己紹介、において自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標にかかわる自己表現力が身についているかを評価する。						10		10			20
授業への参画度	授業毎リアクションペーパーを求める。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		7	7	7	7	7	15	40	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワーク、レポート、発表等は終わった後随時、解説指導を加える時間を取る。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考書は適宜提示する。				

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業採用試験での面接員、評価、採用試験企画担当、リクルート担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		人材の望まれ方、仕事に対する知識、情熱、判断力等の披歴やコミュニケーション能力を磨く課題を提示し、実践できるようにする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション 仕事をするために。 これからのキャリアデベロップメントAをどう進めていくかシラバスを中心に説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。		
	事前学修	アルバイト、パートタイムワーク等を通じて、働くとは何かどんな意味を持つか、800字程で書いておく。		120分
	事後学修	仕事の選択のためにやらなければならない事、特に自己分析、他己分析について、友人知人に聞く準備をしておく。		120分
2	何故仕事をするか① 仕事をする意味	何故仕事に就くか① 仕事をする意味 何のために働くか、労働とはどういうことか。 正社員・契約社員・総合職・一般職・起業・個人事業主などの		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。		
	事前学修	仕事をする。仕事に就くとはどういう事か考えてみる。自己実現、社会貢献、協調協力、経済活動等思いつくことをすべてあげて記してみる。講座で発表する		120分
	事後学修	どんな方向の仕事だったらやりたいか、業界・業種を考得てみる。		120分
3	何故仕事をするか②	何故仕事に就くか② 仕事をする意味が分かったら、好きな事を仕事にするか、好きなことは取って趣味として仕事をしていないときにするか。受講者が考えを述べながら探る。		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。		
	事前学修	好きなことを仕事として行うか、それとも好きなことは趣味などで、仕事をしていない時にするか、自分はどちらを取るか考えておき、講座で意見を出し合う		180分
	事後学修	講座を聴き改めて考察する。		60分
4	自己分析① 分析の仕方	自己分析① 分析の仕方、課題提示 自分はどんな仕事に向いているか自己分析、するとともに、知人や自分に近い人などに自分の向く仕事や、他から見える自分の性格等を聞いた他己分析をした結果を発表する。		
	この回の到達目標	到達目標①～③、および④に関連して自らの適職等の分析と、周辺の人に尋ね他から見た適職、向く業種等の分析ができ、表明できる。		
	事前学修	自らどんな仕事に向いているか考察した上で、友人知人に、自分はどんな仕事に向いていると思うか授業前に聞いておく他己分析を行っておく。自らの考えと一致していればよいが、一致していなかった場合は、何故なのか考えてみる。		180分
	事後学修	改めて、自己分析と他人からの意見を総合して、自らの進路を考えてみる。(2時間)		60分
5	自己分析② 自分の一生を考えてみよう。	自己分析② 自分の一生を考えてみよう。 課題： 生涯の青図を描いて発表する。 5年後、10年後、15年後、20年後の自分の理想は何かどうありたいか。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、5年後、10年後、15年後、20年後の自分があるべき希望の姿がどうありたいかを考える		
	事前学修	5年後、10年後、15年後、20年後の自分について、どうありたいか考察し記し、発表の準備をする。		180分
	事後学修	他の学生の発表や意見表明と比較して、自らの将来を再考してみる。		60分
6	自己分析③ 自己紹介①	自己分析③ 受講生が自己紹介①(1人1分間)を受講生の前でしてみる。 受講生全員が、一人1分間の自己紹介でどれだけ自分のことを表明できるかやってみる。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関連して、自分がどんな人間か、人の前で話すことができる。わかりやすく親しみやすい言葉を使い自己紹介をする。		
	事前学修	事前に自己分析、他己分析した内容から、自らを他人に紹介する場合に分かりやすく、親しみやすい言葉を選び、1分で何度も話す練習をしてみる。		180分
	事後学修	他の学生の発表を聞き、自分の自己紹介を改めて考えてみる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	自己分析④ 自己紹介②	自己分析④ 受講生が自己紹介②（1人1分間）を試みる。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関連して、自分がどんな人間か、人の前で話すことができる。わかりやすく親しみやすい言葉を使い自己紹介をする。		
	事前学修	事前に自己分析、他己分析した内容から、自らを他人に紹介する場合に分かりやすく、親しみやすい言葉を選び、1分程度何度も話す練習を試みる。	1	180分
	事後学修	他の学生の発表を聞き、自分の自己紹介を改めて考えてみる。		60分
8	業界研究（Ⅰ） 出版物、Web情報での研究	業界研究（Ⅰ） 自らの目指すところとは何か？ 出版資料等での分析と最新資料をWebで検索して研究する。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自ら志望する業界、企業についてその成り立ちや動向を調べ、自らの仕事として適切か分析することができる。		
	事前学修	自らの目指す仕事、業界等を大まかでもいいから決めて、その業界仕事の成り立ち、社会的貢献度、自らの抱く好感度などを記し、事前に興味のある会社や仕事の順に重要度の高いものから調べる。	1	180分
	事後学修	講座を聞いてみて、再び自己分析を利用して自分の職業を具体的に考えてみる。		60分
9	業界研究（Ⅱ） OB・OGからの情報	業界研究（Ⅱ） Web、書籍をはじめキャリアセミナー、OB・OGからの情報を分析する。 OBGからの確実な経験情報を得るのは重要であるが、そうした手立てをどうつけるか等を講座で明らかにする。		
	この回の到達目標	達目標①～⑤に関連して、自ら志望する業界、企業についてその成り立ちや動向を調べ、自らの仕事として適切か分析することができる。		
	事前学修	方向が決まれば、実際の業界研究に着手し資料づくりを始める。		120分
	事後学修	情報の整理をする。どんな情報が自分に足りないか、何を求めるべきか整理し、小野情報を得る手法を考える。		120分
10	インターンシップ（Ⅰ） 概要	インターンシップ 概要（Ⅰ）行ってみる。試してみる。調べてみる。殆どの企業が3年の夏から秋にかけて行う。インターンシップは選考を兼ねる企業が年々増えている。その実態と対策を示す。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自らの希望業種、仕事についてインターンシップを申し込み、実際の企業の仕事を体験することができる。		
	事前学修	インターンシップとは何か概要と時期を具体的に調べておく。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。		180分
	事後学修	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。		60分
11	インターンシップ（Ⅱ） インターンシップ経験者の話	インターンシップ（Ⅱ） インターンシップ経験者の話 これまでインターンシップを経験した先輩受講生から、経験談を聞き、自らの実践の参考にする。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自らの希望業種、仕事についてインターンシップを申し込み、実際の企業の仕事を体験する準備ができる。		
	事前学修	自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。		120分
	事後学修	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。		120分
12	法学部学生として どう考えるか。	法学部学生であることと、一般常識 入社試験、面接の常識・非常識 この講座の先にある、採用試験を見据え、その場で必ずある一般常識や筆記試験で、法学部性として知っておくべき事柄を示す。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、法学部学生として、知っておくべき一般常識や、法知識について説明、実践できる。		
	事前学修	法律用語・一般常識の入社試験問題集を実際に解いてみる。		120分
	事後学修	法学部学生として、専門知識がきちんと身についたか。また、改めて自己分析と自己紹介の練習をしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レポート講座内 課題	仕事について。何を目指してきたか、自分にとっての仕事とは何か。しごとの対価として給与をもらうとはどういうことが、また起業するかなど、様々な仕事に対する考え方を踏まえレポートを講座内で70分で仕上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連して、仕事についての講座内レポートを制限時間内に書ける。	
	事前学修	レポート課題を制限時間内に書けるように、あらかじめ出された課題を時間に合わせて書く。	180分
	事後学修	提出したレポート内容をもう一度考察してチェックする。	60分
14	ゲストスピーカー招聘	ゲストスピーカー招聘 仕事について。何を目指してきたか、仕事とは何か。実際に就職し、仕事をしながら生活している先輩の話を聞く。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、ゲストスピーカーの話の内容を自らの職業選びの参考にできる。	
	事前学修	ゲストのプロフィールをよく読み、必ず質問できるように質問内容を考えておく。	120分
	事後学修	仕事選びについて、ゲストの話の中で実行できるものを直ちにすぐ実行に移す。	120分
15	提出したレポート講座内課題解説、講座まとめ	レポートの解説とまとめ、質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧について、本講座で実践した自己分析、他己分析、自己紹介等を使い、自らの提出したレポートについて、自ら評価分析し、足りない点を補うことが出来る。	
	事前学修	これまでの講座の重要事項をまとめて記しておく。	120分
	事後学修	インターンシップや採用試験に進めるようにエントリーシートの準備をする。	120分

科目名	キャリア・デベロップメントB	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
大学卒業後の進路選択について、指針を示し、自らの希望・能力を考えた職種選択が可能なよう、自己分析、適性評価を行うなど、自らの意志と行動で、職業に就けるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
職業の多様化・細分化に伴い、仕事や雇用形態も複雑化している。大学卒業後の進路を、4年次には自らの考えで選択・決定出来る事よう養成することを目的に、自らの力で進路を切り開いて行く力をつけることを目標とする。

【履修条件】
共通科目として、法学部全学生が受講可能。レポート課題・討論などの内容から、マスコミ志望者に勧めるが、一般企業、公務員等受講可能。

【授業方法】
受講生の発言や討論によって授業進め、受講生が、多人数の前で意見表明しやすくする。専門性の高いゲストを呼ぶこともあり、授業毎にリアクションペーパーを書かせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ討論はピア評価を使用し、「自己紹介」（第6～7講）「発表」（第5講）「将来の青図を描いて発表する」は、発表後直接評価する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	勤労の義務について理解し、職に就く、あるいは起業の意思がある。 【態度】				3							
②	報酬を得、生活する社会的意味を理解できる。 【知識】					3						
③	学齢からこれまでもを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通しての長所、短所を自己分析できる。【知識】				3							
④	学齢からこれまでもを振り返り、自らの生活、学校での学習、クラブ活動等を通して、家族、親戚、中人、知人の意見を聞き、自らの長所、短所を他己分析できる。【技能】					3						
⑤	5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、5年後、10年後、20年後の自己の未来について、具体的に希望を持ち、文章化、あるいは語ることが出来る。【技能】								3			
⑥	グループ討論などで積極的に司会やまとめ役を担当できる。 【態度】										3	
⑦	エントリーシートで、自己の短所、長所を含め、希望職種の志望動機や希望業界の分析等が説明できる。【態度】										3	
⑧	発表で、希望職種の志望理由、希望業界の分析、自己長所、短所がきはきはきと説明できる。【態度】										3	
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑦が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5	5	40				70
討論・発表等	適職発表、将来の自分像、自己紹介、において自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標にかかわる自己表現力が身についているかを評価する。						10		10			20
授業への参画度	授業毎リアクションペーパーを求める。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		7	7	7	7	7	15	40	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワーク、レポート、発表等は終わった後随時、解説指導を加える時間を取る。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考書は適宜提示する。				

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業採用試験での面接員、評価、採用試験企画担当、リクルート担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		人材の望まれ方、仕事に対する知識、情熱、判断力等の披歴やコミュニケーション能力を磨く課題を提示し、実践できるようにする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション 仕事をするために。 これからのキャリアデベロップメントAをどう進めていくかシラバスを中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。	
	事前学修	アルバイト、パートタイムワーク等を通じて、働くとは何かどんな意味を持つか、800字程で書いておく。	120分
	事後学修	仕事の選択のためにやらなければならない事、特に自己分析、他己分析について、友人知人に聞く準備をしておく。	120分
2	何故仕事をするか① 仕事をする意味	何故仕事に就くか① 仕事をする意味 何のために働くか、労働とはどういうことか。 正社員・契約社員・総合職・一般職・起業・個人事業主などの	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。	
	事前学修	仕事をする。仕事に就くとはどういう事か考えてみる。自己実現、社会貢献、協調協力、経済活動等思いつくことをすべてあげて記してみる。講座で発表する	120分
	事後学修	どんな方向の仕事だったらやりたいか、業界・業種を考得てみる。	120分
3	何故仕事をするか②	何故仕事に就くか② 仕事をする意味が分かったら、好きな事を仕事にするか、好きなことは取えて趣味として仕事をしていないときにするか。受講者が考えを述べながら探る。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し働くことはどういうことか、何のために働くか、労働とはどういうことか理解できる。	
	事前学修	好きなことを仕事として行うか、それとも好きなことは趣味などで、仕事をしていない時にするか、自分はどちらを取るか考えておき、講座で意見を出し合う	180分
	事後学修	講座を聴き改めて考察する。	60分
4	自己分析① 分析の仕方	自己分析① 分析の仕方、課題提示 自分はどんな仕事に向いているか自己分析、するとともに、知人や自分に近い人などに自分の向く仕事や、他から見える自分の性格等を聞いた他己分析をした結果を発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③、および④に関連して自らの適職等の分析と、周辺の人に尋ね他から見た適職、向く業種等の分析ができ、表明できる。	
	事前学修	自らどんな仕事に向いているか考察した上で、友人知人に、自分はどんな仕事に向いていると思うか授業前に聞いておく他己分析を行っておく。自らの考えと一致していればよいが、一致していなかった場合は、何故なのか考えてみる。	180分
	事後学修	改めて、自己分析と他人からの意見を総合して、自らの進路を考えてみる。(2時間)	60分
5	自己分析② 自分の一生を考えてみよう。	自己分析② 自分の一生を考えてみよう。 課題： 生涯の青図を描いて発表する。 5年後、10年後、15年後、20年後の自分の理想は何かどうありたいか。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、5年後、10年後、15年後、20年後の自分があるべき希望の姿がどうありたいかを考える	
	事前学修	5年後、10年後、15年後、20年後の自分について、どうありたいか考察し記し、発表の準備をする。	180分
	事後学修	他の学生の発表や意見表明と比較して、自らの将来を再考してみる。	60分
6	自己分析③ 自己紹介①	自己分析③ 受講生が自己紹介①（1人1分間）を受講生の前でしてみる。 受講生全員が、一人1分間の自己紹介でどれだけ自分のことを表明できるかやってみる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関連して、自分がどんな人間か、人の前で話すことができる。わかりやすく親しみやすい言葉を使い自己紹介をする。	
	事前学修	事前に自己分析、他己分析した内容から、自らを他人に紹介する場合に分かりやすく、親しみやすい言葉を選び、1分で何度も話す練習をしてみる。	180分
	事後学修	他の学生の発表を聞き、自分の自己紹介を改めて考えてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	自己分析④ 自己紹介②	自己分析④ 受講生が自己紹介②（1人1分間）を試みる。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑥、⑧に関連して、自分がどんな人間か、人の前で話すことができる。わかりやすく親しみやすい言葉を使い自己紹介をする。		
	事前学修	事前に自己分析、他己分析した内容から、自らを他人に紹介する場合に分かりやすく、親しみやすい言葉を選び、1分程度何度も話す練習を試みる。	1	180分
	事後学修	他の学生の発表を聞き、自分の自己紹介を改めて考えてみる。		60分
8	業界研究（Ⅰ） 出版物、Web情報での研究	業界研究（Ⅰ） 自らの目指すところとは何か？出版資料等での分析と最新資料をWebで検索して研究する。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自ら志望する業界、企業についてその成り立ちや動向を調べ、自らの仕事として適切か分析することができる。		
	事前学修	自らの目指す仕事、業界等を大まかでもいいから決めて、その業界仕事の成り立ち、社会的貢献度、自らの抱く好感度などを記し、事前に興味のある会社や仕事の順に重要度の高いものから調べる。	1	180分
	事後学修	講座を聞いてみて、再び自己分析を利用して自分の職業を具体的に考えてみる。		60分
9	業界研究（Ⅱ） OB・OGからの情報	業界研究（Ⅱ） Web、書籍をはじめキャリアセミナー、OB・OGからの情報を分析する。OBGからの確実な経験情報を得るのは重要であるが、そうした手立てをどうつけるか等を講座で明らかにする。		
	この回の到達目標	達目標①～⑤に関連して、自ら志望する業界、企業についてその成り立ちや動向を調べ、自らの仕事として適切か分析することができる。		
	事前学修	方向が決まれば、実際の業界研究に着手し資料づくりを始める。		120分
	事後学修	情報の整理をする。どんな情報が自分に足りないか、何を求めるべきか整理し、小野情報を得る手法を考える。		120分
10	インターンシップ（Ⅰ） 概要	インターンシップ 概要（Ⅰ）行ってみる。試してみる。調べてみる。殆どの企業が3年の夏から秋にかけて行う。インターンシップは選考を兼ねる企業が年々増えている。その実態と対策を示す。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自らの希望業種、仕事についてインターンシップを申し込み、実際の企業の仕事を体験することができる。		
	事前学修	インターンシップとは何か概要と時期を具体的に調べておく。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。		180分
	事後学修	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。		60分
11	インターンシップ（Ⅱ） インターンシップ経験者の話	インターンシップ（Ⅱ） インターンシップ経験者の話 これまでインターンシップを経験した先輩受講生から、経験談を聞き、自らの実践の参考にする。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、自らの希望業種、仕事についてインターンシップを申し込み、実際の企業の仕事を体験する準備ができる。		
	事前学修	自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。		120分
	事後学修	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。		120分
12	法学部学生として どう考えるか。	法学部学生であることと、一般常識 入社試験、面接の常識・非常識 この講座の先にある、採用試験を見据え、その場で必ずある一般常識や筆記試験で、法学部性として知っておくべき事柄を示す。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、法学部学生として、知っておくべき一般常識や、法知識について説明、実践できる。		
	事前学修	法律用語・一般常識の入社試験問題集を実際に解いてみる。		120分
	事後学修	法学部学生として、専門知識がきちんと身についたか。また、改めて自己分析と自己紹介の練習をしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レポート講座内 課題	仕事について。何を目指してきたか、自分にとっての仕事とは何か。しごとの対価として給与をもらうとはどういうことが、また起業するかなど、様々な仕事に対する考え方を踏まえレポートを講座内で70分で仕上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連して、仕事についての講座内レポートを制限時間内に書ける。	
	事前学修	レポート課題を制限時間内に書けるように、あらかじめ出された課題を時間に合わせて書く。	180分
	事後学修	提出したレポート内容をもう一度考察してチェックする。	60分
14	ゲストスピーカー招聘	ゲストスピーカー招聘 仕事について。何を目指してきたか、仕事とは何か。実際に就職し、仕事をしながら生活している先輩の話を聞く。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、ゲストスピーカーの話の内容を自らの職業選びの参考にできる。	
	事前学修	ゲストのプロフィールをよく読み、必ず質問できるように質問内容を考えておく。	120分
	事後学修	仕事選びについて、ゲストの話の中で実行できるものを直ちにすぐ実行に移す。	120分
15	提出したレポート講座内課題解説、講座まとめ	レポートの解説とまとめ、質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧について、本講座で実践した自己分析、他己分析、自己紹介等を使い、自らの提出したレポートについて、自ら評価分析し、足りない点を補うことが出来る。	
	事前学修	これまでの講座の重要事項をまとめて記しておく。	120分
	事後学修	インターンシップや採用試験に進めるようにエントリーシートの準備をする。	120分

科目名	キャリア入門	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○		○	

【授業の概要】
キャリアデザインの必要性、手法、支援施策とともに、キャリアデザインを考える際に必要となる労働をめぐる諸事情について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
長い職業生活において、自らのキャリア形成を考え、行動していくために、キャリアデザインの重要性を理解し、自らのキャリアデザインを描く能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
担当教員による講義を中心に行うが、学生の理解を促進するために、随時グループディスカッションを行うほか、目標への到達度を把握するため、小テストを行い、レポートを課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	キャリアデザインの必要性を認識し、それを描くことができる。				1	1			1		1	
②	自身のキャリアデザインを実現するために、具体的な行動をとることができる。				1	1			1		1	
③	労働環境にかかわる情報を収集し、それを活用することができる。				1	1			1			
④	自身のキャリアデザインと大学における学びを接続することができる。				1	1			1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テストにより、到達目標①②③④に関わる基礎知識や態度を評価する。	12	12	12	12							48
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわるリテラシー、知的姿勢および態度が身についているかを評価する。	8	8	8	8							32
討論・発表等	グループ討議における討議への参加等により、①②③④を評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	授業への参画は、成績評価の前提となる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッションの内容の発表時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約のこと

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと講義（働くことの意味）	授業の目的、進め方を理解する。働くことの意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関し、働くことの意味について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、授業の目的、進め方について考えておく	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する	120分
2	働くことの意味と人生	標準的なライフステージ、生涯賃金、フリーターの実情等を通じ、働くことと人生との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関し、働くことの意味について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する	120分
3	キャリアと企業の求める人材	企業の求める人材について理解し、キャリア形成の意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、企業の求める人材像について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
4	労働法（賃金、労働時間）	アルバイトに関連して労働法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、アルバイトする際に知っておかなければならない労働法（賃金、労働時間関係）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
5	労働法（安全、労働保険）	アルバイトに関連して労働法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関し、アルバイトする際に知っておかなければならない労働法（安全、労働保険）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
6	職業生涯と労働政策	職業生涯において労働政策がどのように関わっているのか学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関し、職業生涯において労働政策がどのように関わっているのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本的雇用システムの変容と主体的キャリア形成		日本的雇用システムの変容に伴い、企業の人材育成法も変わる中で、個人が主体的にキャリア形成に努めることの重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、日本的雇用システムの変容に伴い、企業の人材育成法も変わる中で、個人が主体的にキャリア形成に努めることの重要性について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
8	過重労働とワークライフバランス		いわゆる過重労働が生じる背景とワークライフバランスの必要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、いわゆる過重労働が生じる背景とワークライフバランスの必要性について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
9	女性をとりまく労働問題		女性をとりまく労働問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関し、女性をとりまく労働問題について、次世代育成の視点も含め、理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
10	非正規雇用労働者		非正規雇用労働者をとりまく状況について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、非正規雇用労働者をとりまく状況、働き方改革（いわゆる同一労働同一賃金）、雇用類似労働について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
11	ハラスメント		ハラスメントについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント、パワーハラスメントについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分
12	労働組合		労働組合について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関し、労働組合、個別労働紛争処理制度について理解し、説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	企業の実際のすがた	製造業や建設業の多重下請け構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、製造業や建設業の多重下請け構造について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
14	企業の実際のすがた	くるみん、えるぼし、ユースエール等の制度と実際にそれを獲得している企業について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関しくるみん、えるぼし、ユースエール等の制度とそれを獲得している企業の現状について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分
15	総括	授業で学んだことを活かして自らのキャリアデザインについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、自らのキャリアデザインについて、理解し、説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集しておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し整理する。	120分

科目名	共通科目特論 A	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などで判断力・思考力・分析力等の資質、いわゆる論理的思考力を有しているかを問われるが、他のどのような職業においても重要な資質であるといえよう。本講座では、前述のような試験で必要となる基本的な論理学の知識を学びながら、論理的な思考力を身につけていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における種々の問題を、論理的・科学的・合理的かつ批判的に考察し解決に導く力を養うのために、判断力・思考力・分析力等の論理的思考能力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
論理的思考法についての講義（動画配信）、さらに理解を深め知識を確実なものとするための課題を交互に行っていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とは何かを説明できる。				4	4						
②	さまざまな論証のタイプがあること、それらの違いを説明できる。				4		4	4				
③	どのタイプの論証であるかを決定することができ、その理由を説明できる。				4		4	4				
④	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				4	4		4				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	10	20	20								50
小テスト等	到達目標①②③に関わる講義中に課す課題への取り組みの 成果を評価する。	10	15	20	5							50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	40	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題・授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006	参考書	推奨
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三	大修館書店	2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/論理的思考とは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、論理的思考とは何か、また論理学の基本的用語などについて説明する。	
	この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理学の基本的な用語について説明できる（関連SB0s①②③）。	
	事前学修	シラバスを確認する。公務員試験や法科大学院適性試験でどのような問題が出されているか調べる。	90分
	事後学修	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。	120分
2	命題、演繹、推測	命題とは何か、命題から構成される論証とは何か、さらに論証の2つのタイプ、演繹と推測の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	論証とは何か、演繹と推測の違いとは何かを理解し、それについて説明できる（関連SB0s①②③）。	
	事前学修	授業内容をシラバスで再確認する。論理的思考とはどのようなものか、自分なりに考えておく。	120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、命題とは何か、演繹と推測の違いについて説明できるようにする。	120分
3	定言命題	真と偽、矛盾と反対の違い、定言命題とは何かを説明する。また定言命題をヴェン図で書く方法について説明する。	
	この回の到達目標	定言命題とは何か、また矛盾と反対の違いとは何かを理解し、それについて説明できる（関連SB0s②③）。	
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。矛盾とはなにか、自分なりに考えておく。	120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、矛盾と反対の違いについて説明できるようにする。	120分
4	ヴェン図による判断、仮言命題、選言命題	ヴェン図の説明、ヴェン図を用いての真偽の判断の方法、および仮言命題と選言命題について説明する。	
	この回の到達目標	ヴェン図の書き方を理解し、それを用いた真偽の判断方法について説明できる（関連SB0s②③）。	
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。特にヴェン図の書き方をしっかりと復習しておく。	120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。定言、仮言、選言命題の違いを確認する。	120分
5	両刀論法	両刀論法とは何か説明する。またその論破の方法について考える。	
	この回の到達目標	両刀論法とはなにかを理解し、その論破の方法について説明できる（関連SB0s②③）。	
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ジレンマとは何か、ジレンマに陥るとはどのような状況か、友達と話しあってみよう。	120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。両刀論法論破に関するポイントを明確にしておこう。	120分
6	条件連鎖、ド・モルガンの法則	条件連鎖とは何か、またド・モルガンの法則について説明する。	
	この回の到達目標	条件連鎖がどのようなもので何に使われるのかを理解し、それについて説明できる（関連SB0s②③）。	
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ド・モルガンの法則や対偶について高校で習った人は復習、習っていない人は調べておく。	120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。逆・裏・対偶の違い、ド・モルガンの法則について説明できるか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	消去法、背理法		消去法、背理法を用いた条件連鎖について説明する。	
	この回の到達目標	消去法、背理法とは何か、条件連鎖の中でそれらがどのように使われるのかを理解し、説明できる（関連SB0s②③）。		
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。背理法について高校で習った人は復習、習っていない人は調べしておく。		120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。		120分
8	存在文の条件連鎖		存在文と全称文の違い、存在文が入る場合の条件連鎖の方法について説明する。	
	この回の到達目標	存在文とは何か説明できる。また、それが含まれる条件連鎖の方法を説明できる（関連SB0s②③）。		
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。		120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。		120分
9	条件連鎖とヴェン図		条件連鎖と同じように、ヴェン図でも演繹かどうか判別できる。そこでヴェン図を用いたその方法を説明する。	
	この回の到達目標	ヴェン図による演繹かどうかの判別方法を理解し、説明できる（関連SB0s②③）。		
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ヴェン図の書き方を復習しておく。		120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。ヴェン図の書き方が修得できているか確認する。		120分
10	命題論理概説		命題論理とはどのようなものか、また命題論理で用いる記号について説明する。	
	この回の到達目標	命題論理とはどのようなものであるのか、また命題論理で用いられる記号について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。		
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。これまで出てきた命題の特徴は何か考えておく。		120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。命題論理における命題とこれまで出てきた命題との違いを明確にしておく。		120分
11	真理値表		真理表とは何か、その見方、使い方について説明する。	
	この回の到達目標	真理表とはどのようなものでいかに使われるのか理解し、説明できる（関連SB0s②③）。		
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。命題論理で用いる記号について復習しておく。		120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に真理表の見方・使い方を理解できているか、しっかりと復習しておく。		120分
12	真理値分析		真理値分析の方法と、推論が正しいかどうかの判別方法について説明する。	
	この回の到達目標	真理値分析の方法、それによる推論の正しさの判別方法について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。		
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。真理表の見方・使い方について復習しておく。		120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。特に真理値分析のやり方を確実に理解できているか確認、しっかりと復習しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	命題論理応用問題	命題論理を用いた応用問題を行い、それぞれにおける真理値分析の特徴的な手法を説明する。	
	この回の到達目標	真理値分析のさまざまな応用の仕方について理解し、説明できる（関連SB0s②③）。	
	事前学修	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。真理値分析のやり方について復習しておく。	120分
	事後学修	ノートを参考に授業内容を復習する。各種問題集などを見て、命題論理に関する問題を解いてみる。	120分
14	講義全体の復習と授業内試験	これまでの講義の復習と、理解度確認のための授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	SB0s①②③④を評価するための出題に対し、十分な解答をすることができる。	
	事前学修	配布物やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	150分
	事後学修	配布物やノートをみながら、答案の自己評価をする。	120分
15	試験問題の解説、講義全体の振り返り	前回行った授業内試験の解説を行う。その後、講義全体の学びを振り返る。	
	この回の到達目標	SB0s①②③④を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s④にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
	事前学修	配布物やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	120分
	事後学修	配布物やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。本講義での学びを振り返る。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
キーボードを使った文字入力、ファイルのコピー、ファイル名の変更といった基本的なコンピュータの操作ができることを条件とします。

【授業方法】		
授業形態が対面授業となった場合は、コンピュータ教室に用意されているWindows PCを使用します。オンライン授業やハイブリッド授業となった場合は、各自のPCを準備して受講してください。この講義ではGoogleドキュメント、Googleスプレッドシート、Googleスライドを使用するため、Windows、Mac、ChromebookのいずれかのPCを所有していれば受講できます。		
授業の進め方や評価方法の詳細は、講義第1回目に説明します。説明動画も作成予定のため、あわせてご覧ください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義で学修した内容をもとに、課題を解決する方法を自ら考えて作成します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作や文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているか評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題により、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているか総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間内に作成する課題（成績の評価対象）の解説を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。授業計画にしたがって、講義中に実習や課題作成で使用するコンピュータのファイルを配布します。				

【オフィスアワー】
keiimafuku@gmail.comまでメール、または木曜3. 4限の講義後をお願いします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義ガイダンス、コンピュータの利用方法	講義で学ぶ文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトがどのようなものであるか理解する。講義の進め方、講義の準備、授業評価について理解する。講義で作成するファイルの保存方法、課題の提出方法について理解する。電子メールを用いる際のマナーや、インターネットの正しい利用方法を理解する。Google WorkspaceとMicrosoft Officeの違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に対し、授業内で学修する内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトがどのようなものであり、どのようなソフトがあるか調べる。講義の質問についてのメールを書く際のマナーや、インターネットの正しい利用方法を調べる。	120分
	事後学修	講義で学ぶ内容を確認する。講義で使用するファイルの配布、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。	120分
2	文章作成ソフトを用いた文章作成とレイアウト調整	フォントの種類、大きさの変更、用紙の余白調整、1行の文字数、ページ内の行数を調整する機能を正しく使用できるようになる。箇条書きについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフトとはどのようなソフトウェアで、どのような機能があるか調べる。	120分
	事後学修	文章を入力して全体を整える機能を復習する。	120分
3	文章作成ソフトを用いた図、表、グラフの作成	文章作成ソフトで図の作成、表の作成、グラフ作成できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフトで図、表、グラフを作成する機能を調べる。	120分
	事後学修	文章作成ソフトで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。	120分
4	文章作成ソフトを用いた章および節の番号設定、図表の番号設定	章や節の番号、図、表の番号を自動設定し、本文中で参照できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	長い文章で章、節をどのように設定すると望ましいか考えておく。図表番号をつける場所（上か下か）を調べておく。	120分
	事後学修	章番号、図表番号を正しく組み合わせて自動で設定する機能の使い方を復習する。	120分
5	プレゼンテーションソフトによるスライド作成とプレゼンテーション	プレゼンテーションソフトで資料を作る際の注意点を理解し、実際にスライドを作成してプレゼンテーションが出来るようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①④に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	プレゼンテーションソフトとはどのようなソフトであるか調べる。見やすいスライド、見づらいスライドがどのようなものか調べる。	120分
	事後学修	プレゼンテーションソフトを使用したプレゼンテーションのファイル作成と、実際にプレゼンテーションを行う際の注意点について確認する。	120分
6	表計算ソフトの基礎	表計算ソフトにデータを入力し、計算し、グラフを作成するといった基本的なファイル作成の流れについて理解する。セルを参照する方法である相対参照、絶対参照について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	表計算ソフトとはどのようなソフトであるか調べる。	120分
	事後学修	表計算ソフトで計算式を入力する際に重要となる、セルを参照する際に使う相対参照、絶対参照について理解できているか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	表計算ソフトによる関数を使った計算とグラフ作成		複雑な計算を容易に計算できる集計関数（SUM, AVERAGE, COUNT, COUNTA, MAX, MIN, STDEV）と、計算結果を用いたグラフ作成機能について理解する。関数の結果を別の関数の引数に使う方法を理解する。作成したグラフの修正方法を理解する。異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフの作成方法を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使用した機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
	事前学修	表計算ソフトの関数とはどのようなものであるか調べる。表計算ソフトでのグラフ作成方法を調べる。	120分
	事後学修	関数の使い方を確認する。引数、戻り値が何であるか復習する。グラフにはどのような種類があり、異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフをどのように作成するか確認する。	120分
8	表計算ソフトの課題1		表計算ソフトの基本的な扱いを理解しているか、計算、関数、グラフ作成についての課題を作成して確認する。
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	表計算ソフトの基本操作を理解しているか確認する。	120分
	事後学修	課題の作成で、理解が不十分だった箇所を復習する。	120分
9	表計算ソフトの関数1 IF, RANK		セル内容に応じて処理を変更するIF関数の使い方を理解する。範囲内のデータの順番を計算するRANK関数の使い方を通じて、関数にも相対参照、絶対参照があることを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	関数の引数、戻り値について理解しているか確認する。	120分
	事後学修	IF関数により、セルの内容に応じて処理を変更できることを復習する。関数の引数の相対参照、絶対参照について理解しているか確認する。	120分
10	表計算ソフトの関数2 SUMIF COUNTIF VLOOKUP		条件を満たしたデータだけ合計するSUMIF関数、条件を満たすデータを数えるCOUNTIF関数、条件を満たすデータを取り出すVLOOKUP関数の使い方を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義で学んだSUM関数、COUNT関数の使い方を確認する。IF関数の条件の書き方を確認する。	120分
	事後学修	SUMIF, COUNTIF関数とIF関数の条件の記述方法の違いを復習する。	120分
11	表計算ソフトの関数3 IF+VLOOKUP, 便利な関数		IF関数と他の関数を組み合わせて、セル内容に応じて処理を変更する具体的な方法を理解する。表計算ソフトで頻繁に利用する関数を正しく使用できるようになる。
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義で学んだIF関数、VLOOKUP関数の使い方を確認する。	120分
	事後学修	IF関数と他の関数を組み合わせた処理により、条件に応じた複雑な処理ができることを確認し、記述方法を復習する。	120分
12	表計算ソフトの機能1 並べ替え、フィルタ		データを並べ替える機能について理解する。指定した項目だけを抽出するフィルタの機能について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。	120分
	事後学修	2つ以上のキーで並べ換える方法を確認する。フィルタで、必要なデータのみ表示する方法を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	表計算ソフトの機能2 ピボットテーブル、スライサ	元データに含まれる項目からまとめたい項目を選んで集計するピボットテーブルの機能を正しく使用できるようになる。グラフ化したデータから必要な情報だけ取り出すスライサについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	クロス集計とはどのような操作であるか調べる。	120分
	事後学修	講義で使用しなかった列を使ってピボットテーブルが作成できるか確認する。スライサでも講義とは別の条件を設定してデータを抽出できるか確認する。	120分
14	表計算ソフトによる統計 相関係数、回帰直線	複数のデータ間の関連性をどのように表すか理解し、過去のデータから将来の値を予測する方法について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題を正しく作成し、講義で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	相関係数、回帰直線という単語について調べ、概要を確認する。	120分
	事後学修	表計算ソフトを使った相関係数、回帰直線の作成方法を復習する。	120分
15	表計算ソフトの課題2、総合解説	講義で使用した表計算ソフト1の機能を使った課題を作成し、正しく学修できているか確認する。講義全体で学んだ内容について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題の解説をもとに理解が不十分であった点を補い、学んだ内容を正確に説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義で学んだすべての内容を復習する。	120分
	事後学修	課題の作成で、理解が不十分となっていた点を復習する。講義全体で学んだ内容で忘れていた内容を復習する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
キーボードを使った文字入力、ファイルのコピー、ファイル名の変更といった基本的なコンピュータの操作ができることを条件とします。

【授業方法】		
授業形態が対面授業となった場合は、コンピュータ教室に用意されているWindows PCを使用します。オンライン授業やハイブリッド授業となった場合は、各自のPCを準備して受講してください。この講義ではGoogleドキュメント、Googleスプレッドシート、Googleスライドを使用するため、Windows、Mac、ChromebookのいずれかのPCを所有していれば受講できます。		
授業の進め方や評価方法の詳細は、講義第1回目に説明します。説明動画も作成予定のため、あわせてご覧ください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義で学修した内容をもとに、課題を解決する方法を自ら考えて作成します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作や文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているか評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題により、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているか総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間内に作成する課題（成績の評価対象）の解説を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。授業計画にしたがって、講義中に実習や課題作成で使用するコンピュータのファイルを配布します。				

【オフィスアワー】
keiimafuku@gmail.comまでメール、または木曜3. 4限の講義後にお願いします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義ガイダンス、コンピュータの利用方法	講義で学ぶ文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトがどのようなものであるか理解する。講義の進め方、講義の準備、授業評価について理解する。講義で作成するファイルの保存方法、課題の提出方法について理解する。電子メールを用いる際のマナーや、インターネットの正しい利用方法を理解する。Google WorkspaceとMicrosoft Officeの違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に対し、授業内で学修する内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトがどのようなものであり、どのようなソフトがあるか調べる。講義の質問についてのメールを書く際のマナーや、インターネットの正しい利用方法を調べる。	120分
	事後学修	講義で学ぶ内容を確認する。講義で使用するファイルの配布、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。	120分
2	文章作成ソフトを用いた文章作成とレイアウト調整	フォントの種類、大きさの変更、用紙の余白調整、1行の文字数、ページ内の行数を調整する機能を正しく使用できるようになる。箇条書きについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフトとはどのようなソフトウェアで、どのような機能があるか調べる。	120分
	事後学修	文章を入力して全体を整える機能を復習する。	120分
3	文章作成ソフトを用いた図、表、グラフの作成	文章作成ソフトで図の作成、表の作成、グラフ作成できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	文章作成ソフトで図、表、グラフを作成する機能を調べる。	120分
	事後学修	文章作成ソフトで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。	120分
4	文章作成ソフトを用いた章および節の番号設定、図表の番号設定	章や節の番号、図、表の番号を自動設定し、本文中で参照できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	長い文章で章、節をどのように設定すると望ましいか考えておく。図表番号をつける場所（上か下か）を調べておく。	120分
	事後学修	章番号、図表番号を正しく組み合わせて自動で設定する機能の使い方を復習する。	120分
5	プレゼンテーションソフトによるスライド作成とプレゼンテーション	プレゼンテーションソフトで資料を作る際の注意点を理解し、実際にスライドを作成してプレゼンテーションが出来るようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①④に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	プレゼンテーションソフトとはどのようなソフトであるか調べる。見やすいスライド、見づらいスライドがどのようなものか調べる。	120分
	事後学修	プレゼンテーションソフトを使用したプレゼンテーションのファイル作成と、実際にプレゼンテーションを行う際の注意点について確認する。	120分
6	表計算ソフトの基礎	表計算ソフトにデータを入力し、計算し、グラフを作成するといった基本的なファイル作成の流れについて理解する。セルを参照する方法である相対参照、絶対参照について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	表計算ソフトとはどのようなソフトであるか調べる。	120分
	事後学修	表計算ソフトで計算式を入力する際に重要となる、セルを参照する際に使う相対参照、絶対参照について理解できているか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	表計算ソフトによる関数を使った計算とグラフ作成	複雑な計算を容易に計算できる集計関数（SUM, AVERAGE, COUNT, COUNTA, MAX, MIN, STDEV）と、計算結果を用いたグラフ作成機能について理解する。関数の結果を別の関数の引数に使う方法を理解する。作成したグラフの修正方法を理解する。異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフの作成方法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、これまでの授業で使用した機能について理解し、与えられた課題を正しく作成することができる。	
	事前学修	表計算ソフトの関数とはどのようなものであるか調べる。表計算ソフトでのグラフ作成方法を調べる。	120分
	事後学修	関数の使い方を確認する。引数、戻り値が何であるか復習する。グラフにはどのような種類があり、異なる種類のグラフを組み合わせた複合グラフをどのように作成するか確認する。	120分
8	表計算ソフトの課題1	表計算ソフトの基本的な扱いを理解しているか、計算、関数、グラフ作成についての課題を作成して確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	表計算ソフトの基本操作を理解しているか確認する。	120分
	事後学修	課題の作成で、理解が不十分だった箇所を復習する。	120分
9	表計算ソフトの関数1 IF, RANK	セル内容に応じて処理を変更するIF関数の使い方を理解する。範囲内のデータの順番を計算するRANK関数の使い方を通じて、関数にも相対参照、絶対参照があることを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	関数の引数、戻り値について理解しているか確認する。	120分
	事後学修	IF関数により、セルの内容に応じて処理を変更できることを復習する。関数の引数の相対参照、絶対参照について理解しているか確認する。	120分
10	表計算ソフトの関数2 SUMIF COUNTIF VLOOKUP	条件を満たしたデータだけ合計するSUMIF関数、条件を満たすデータを数えるCOUNTIF関数、条件を満たすデータを取り出すVLOOKUP関数の使い方を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義で学んだSUM関数、COUNT関数の使い方を確認する。IF関数の条件の書き方を確認する。	120分
	事後学修	SUMIF, COUNTIF関数とIF関数の条件の記述方法の違いを復習する。	120分
11	表計算ソフトの関数3 IF+VLOOKUP, 便利な関数	IF関数と他の関数を組み合わせて、セル内容に応じて処理を変更する具体的な方法を理解する。表計算ソフトで頻繁に利用する関数を正しく使用できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	講義で学んだIF関数、VLOOKUP関数の使い方を確認する。	120分
	事後学修	IF関数と他の関数を組み合わせた処理により、条件に応じた複雑な処理ができることを確認し、記述方法を復習する。	120分
12	表計算ソフトの機能1 並べ替え、フィルタ	データを並べ替える機能について理解する。指定した項目だけを抽出するフィルタの機能について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。	120分
	事後学修	2つ以上のキーで並べ換える方法を確認する。フィルタで、必要なデータのみ表示する方法を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	表計算ソフトの機能2 ピボットテーブル、スライサ	元データに含まれる項目からまとめたい項目を選んで集計するピボットテーブルの機能を正しく使用できるようになる。グラフ化したデータから必要な情報だけ取り出すスライサについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に対し、授業内で使用した機能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	クロス集計とはどのような操作であるか調べる。	120分
	事後学修	講義で使用しなかった列を使ってピボットテーブルが作成できるか確認する。スライサでも講義とは別の条件を設定してデータを抽出できるか確認する。	120分
14	表計算ソフトによる統計 相関係数、回帰直線	複数のデータ間の関連性をどのように表すか理解し、過去のデータから将来の値を予測する方法について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題を正しく作成し、講義で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	相関係数、回帰直線という単語について調べ、概要を確認する。	120分
	事後学修	表計算ソフトを使った相関係数、回帰直線の作成方法を復習する。	120分
15	表計算ソフトの課題2、総合解説	講義で使用した表計算ソフト1の機能を使った課題を作成し、正しく学修できているか確認する。講義全体で学んだ内容について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業中に指定された課題の解説をもとに理解が不十分であった点を補い、学んだ内容を正確に説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義で学んだすべての内容を復習する。	120分
	事後学修	課題の作成で、理解が不十分となっていた点を復習する。講義全体で学んだ内容で忘れていた内容を復習する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。

【授業方法】
オンデマンドによる授業動画を視聴してもらい、それをもとに実際にPCを利用し実習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法	
	この回の到達目標	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法、Google Classroom等について説明する。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	法学部情報システムの利用環境等について確認する。	120分
2	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウィルス、スパイウェア等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
	事前学修	最近のネットにおける問題点を調べておく。	120分
	事後学修	情報モラルやセキュリティ問題について復習する。	120分
3	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付の方法について説明する。	
	この回の到達目標	インターネットを用いた情報検索（収集、加工、分析、評価）の方法を身に付ける。また、Eメールを使えるようにし、メールにファイルを添付して送れるようにする。	
	事前学修	スマートフォンとPCの違いを調べておく。	120分
	事後学修	インターネットを使って興味のあるテーマを情報検索してみる。Eメールにファイル添付して自分宛てに送ってみる。	120分
4	Microsoft Word の使用法 1	Microsoft Word の基本操作方法や、ファイルの管理方法、保存方法等について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作方法を理解し、また、ファイルの管理や保存等を適切に行うことができる。	
	事前学修	ビジネス文書の体裁を調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内で行った課題について、再度同じ作業を確認しておくこと。	120分
5	Microsoft Word の使用法 2	Microsoft Word を使用し、モニタ画面のキャプチャー等の方法を用い、利用マニュアルを作成する。	
	この回の到達目標	モニター画面等のキャプチャーや、スクリーンショット機能等を利用できるようになる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
	事後学修	PC画面をキャプチャーし、簡単なマニュアルを作成してみる。	120分
6	Microsoft Word の使用法 3	Microsoft Word の基本的機能である、表や図、図形や画像の挿入・利用方法について説明する。	
	この回の到達目標	文書内に、表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できるようになる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、課題内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	課題ファイルに表や画像等を挿入するなど、授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Word の使用法 4	Microsoft Word の機能である論文作成のための書式（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）について説明する。	
	この回の到達目標	Word の機能（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）を用い、論文やレポートを作成することができる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、表や画像等の挿入について確認しておく。	120分
	事後学修	論文書式の機能について復習しておくこと。	120分
8	Microsoft Excel の使用法 1	Microsoft Excel の基本操作と表計算ソフトの利用方法について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、表計算ソフトの利用方法について説明できるようになる。	
	事前学修	表計算ソフトについて調べておくこと。	120分
	事後学修	Excelの基本操作について、再度確認しておくこと。	120分
9	Microsoft Excel の使用法 2	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）が利用できるようになる。	
	事前学修	Excel の関数について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
10	Microsoft Excel の使用法 3	Excelの基本関数（IF等）の使い方やグラフ（棒グラフ）の作成方法について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの基本関数（IF等）を利用でき、また、グラフを作成できるようになる。	
	事前学修	前回の作業の復習をしておくこと。	120分
	事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
11	Microsoft Excel の使用法 4	その他のグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）の作成方法や複合参照について説明する。	
	この回の到達目標	現したい内容によって、様々なグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）を使い分けることができるようになる。	
	事前学修	グラフの種類と役割についてしらべておくこと。	120分
	事後学修	各グラフについて、作成方法や機能について復習しておくこと。	120分
12	Microsoft Excel の使用法 5	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について理解できるようになる。	
	事前学修	データベースとは何かについて調べておくこと。	120分
	事後学修	データベース機能について復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Power Point の使用法 1	Microsoft Power Point の基本操作について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Power Point の基本操作について理解し、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。	
	事前学修	プレゼンテーション資料の作成テーマについて検討しておくこと。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
14	Microsoft Power Point の使用法 2	Microsoft Power Point の効果的表現（アニメーション等）について説明する。	
	この回の到達目標	プレゼンテーション資料について、効果的な表現（アニメーション等）がで	
	事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
15	総まとめ、解説	総まとめ、解説	
	この回の到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
	事前学修	前回までの学修内容について再確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。

【授業方法】
オンデマンドによる授業動画を視聴してもらい、それをもとに実際にPCを利用し実習を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題の講評・解説を、次回授業時に実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法	
	この回の到達目標	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法、Google Classroom等について説明する。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	法学部情報システムの利用環境等について確認する。	120分
2	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウィルス、スパイウェア等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報モラルやセキュリティについて学修し、安全に情報活用できる知識を身に付ける。	
	事前学修	最近のネットにおける問題点を調べておく。	120分
	事後学修	情報モラルやセキュリティ問題について復習する。	120分
3	インターネットによる情報検索とEメールの利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付の方法について説明する。	
	この回の到達目標	インターネットを用いた情報検索（収集、加工、分析、評価）の方法を身に付ける。また、Eメールを使えるようにし、メールにファイルを添付して送れるようにする。	
	事前学修	スマートフォンとPCの違いを調べておく。	120分
	事後学修	インターネットを使って興味のあるテーマを情報検索してみる。Eメールにファイル添付して自分宛てに送ってみる。	120分
4	Microsoft Word の使用法 1	Microsoft Word の基本操作方法や、ファイルの管理方法、保存方法等について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Word の基本操作方法を理解し、また、ファイルの管理や保存等を適切に行うことができる。	
	事前学修	ビジネス文書の体裁を調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内で行った課題について、再度同じ作業を確認しておくこと。	120分
5	Microsoft Word の使用法 2	Microsoft Word を使用し、モニタ画面のキャプチャー等の方法を用い、利用マニュアルを作成する。	
	この回の到達目標	モニター画面等のキャプチャーや、スクリーンショット機能等を利用できるようになる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、基本操作を確認しておくこと。	120分
	事後学修	PC画面をキャプチャーし、簡単なマニュアルを作成してみる。	120分
6	Microsoft Word の使用法 3	Microsoft Word の基本的機能である、表や図、図形や画像の挿入・利用方法について説明する。	
	この回の到達目標	文書内に、表や図、図形や画像を挿入し、効果的に活用できるようになる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、課題内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	課題ファイルに表や画像等を挿入するなど、授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Word の使用法 4	Microsoft Word の機能である論文作成のための書式（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）について説明する。	
	この回の到達目標	Word の機能（脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル等）を用い、論文やレポートを作成することができる。	
	事前学修	前回保存したファイルを開き、表や画像等の挿入について確認しておく。	120分
	事後学修	論文書式の機能について復習しておくこと。	120分
8	Microsoft Excel の使用法 1	Microsoft Excel の基本操作と表計算ソフトの利用方法について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel の基本操作を理解し、表計算ソフトの利用方法について説明できるようになる。	
	事前学修	表計算ソフトについて調べておくこと。	120分
	事後学修	Excelの基本操作について、再度確認しておくこと。	120分
9	Microsoft Excel の使用法 2	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの基本関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、RANK等）が利用できるようになる。	
	事前学修	Excel の関数について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
10	Microsoft Excel の使用法 3	Excelの基本関数（IF等）の使い方やグラフ（棒グラフ）の作成方法について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの基本関数（IF等）を利用でき、また、グラフを作成できるようになる。	
	事前学修	前回の作業の復習をしておくこと。	120分
	事後学修	授業内課題について、関数を用い完成させること。	120分
11	Microsoft Excel の使用法 4	その他のグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）の作成方法や複合参照について説明する。	
	この回の到達目標	現したい内容によって、様々なグラフ（折れ線グラフ、2軸グラフ、円グラフ）を使い分けることができるようになる。	
	事前学修	グラフの種類と役割についてしらべておくこと。	120分
	事後学修	各グラフについて、作成方法や機能について復習しておくこと。	120分
12	Microsoft Excel の使用法 5	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について説明する。	
	この回の到達目標	Excelの簡易データベース機能（並べ替え、フィルター、小計）について理解できるようになる。	
	事前学修	データベースとは何かについて調べておくこと。	120分
	事後学修	データベース機能について復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Power Point の使用法 1	Microsoft Power Point の基本操作について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Power Point の基本操作について理解し、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。	
	事前学修	プレゼンテーション資料の作成テーマについて検討しておくこと。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
14	Microsoft Power Point の使用法 2	Microsoft Power Point の効果的表現（アニメーション等）について説明する。	
	この回の到達目標	プレゼンテーション資料について、効果的な表現（アニメーション等）がで	
	事前学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
	事後学修	課題作成（プレゼンテーション資料）を進めておくこと。	120分
15	総まとめ、解説	総まとめ、解説	
	この回の到達目標	前回までのすべての授業内容について理解している。	
	事前学修	前回までの学修内容について再確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容についてわからないことがないか確認すること。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者間での相互評価（第7回は作成資料について、第15回はプレゼンテーションについて）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成課題へのフィードバック(講評・解説)を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に定めない。講義時に課題、参照資料等のプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
tanikawa.yukikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講座ガイダンス コンピュータの基礎的取り扱い		社会が求める能力とは、情報活用の実践力、授業計画と評価方法、コンピュータの起動・終了とファイルの管理方法
	この回の到達目標	講座の到達目標と進め方を理解する。 ①に関連して、コンピュータの起動・終了操作を適切に実施することができる。また、コンピュータの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講座全体を概観する。	30分
	事後学修	講座ガイダンスの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。 「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。 コンピュータの起動・終了操作、ファイルの管理方法を復習する。	90分
2	電子メールの利用 理解しやすい資料の作成（MS-Word）		電子メールの利用：NU-Mailを利用した自己紹介文の作成と提出 理解しやすい資料の作成（MS-Word）（1）：異なる編集方法による2種類の資料の比較による違いの検討、見本にそった2種類の資料作成、作成に必要なMS-WORDの基本操作の確認
	この回の到達目標	②に関連して、電子メールの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。 ③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
	事前学修	NU-MailのログインIDとパスワードを確認し、ログインしてみる。 「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	1種類目の資料と2種類目の資料の違いと、それによる効果・弊害を整理して提出する。 1種類目の資料の作成を完了する。	180分
3	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（2）：見本にそった2種類の資料作成 MS-WORDの基本操作を活用して資料を作成する。
	この回の到達目標	③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
	事前学修	2種類目の資料の見本を確認し、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。	60分
	事後学修	2種類目の資料の作成を完了する。	180分
4	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（3）：理解しやすい資料作成のための方法（講義） 理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。
	この回の到達目標	③に関連して、資料作成において受け手にとっての理解しやすさを考える重要性を理解し、説明することができる。理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法を知る。	
	事前学修	理解しやすい資料の作成（1）の「異なる編集方法による2種類の資料の比較による違いの検討」で自分なりに整理した「違い」とそれによる「効果・弊害」を見直す。	90分
	事後学修	講義内容を復習する。	150分
5	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでに学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。
	この回の到達目標	③に関連して、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
	事前学修	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。	120分
	事後学修	テーマをもとにした資料の作成を完了する。 作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。	180分
6	データの分析と解釈 （MS-Excel）		データの分析と解釈（MS-Excel）（1）：データ分析の基本的な考え方（講義）
	この回の到達目標	③に関連して、データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を理解する。	
	事前学修	「データの分析と解釈（MS-Excel）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。	30分
	事後学修	講義内容を復習する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	理解しやすい資料の作成（MS-Word） データの分析と解釈（MS-Excel）	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価（他者の資料を見てフィードバックする、また他者からのフィードバックを得る） データの分析と解釈（MS-Excel）（2）：課題（分析テーマ）説明、表計算ソフトであるMS-Excelの特徴と基本操作の説明、分析対象データのExcelへの入力	
	この回の到達目標	③に関連して、「理解しやすい資料」に必要な要件とそのための方法を説明することができる。 ③に関連して、表計算ソフトであるMS-Excelの特徴を理解し、基本的な操作を実行できる。	
	事前学修	MS-Excelの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	他者の資料、また相互評価でのコメントをもとに、自身の資料の改善点を考える。 課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体を概観する。MS-Excelの基本操作を復習する。 分析対象データのExcel入力を完了する。	180分
8	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（3）：測定値の特徴を表す値の算出（数式、関数の活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、Excelの数式や関数を用いて平均や分散などの値を算出する方法を知り、実際に操作して算出できる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	30分
	事後学修	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。	210分
9	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（4）：測定値の分布状況の可視化（ヒストグラムの活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を知り、実際に操作して作成できる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	30分
	事後学修	測定項目毎のヒストグラムの作成を完了する。	240分
10	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（5）：測定値の特徴の読み取り、調査項目間で比較可能な値の算出（偏差値の活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、算出値、および作成したグラフ（ヒストグラム）をもとに、講義内容（データ分析の基本的な考え方）を活用して、測定値の特徴を読み取ることができる。また、読み取った特徴を説明できる。これまでに学んだExcel操作を応用して、各測定値の偏差値が算出（測定値の標準化）できる。	
	事前学修	測定値の特徴の読み取りに関する講義内容を再確認する。 課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	90分
	事後学修	講義内容を参考に、算出した値（平均や分散など）とヒストグラムから読み取った測定値の特徴を整理して提出する。 各測定値に対する偏差値の算出を完了する。	180分
11	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（6）：調査項目間の違いの可視化（グラフの活用）と測定値の特徴の読み取り	
	この回の到達目標	③に関連して、これまでに学んだExcel操作を応用して、利用目的に応じたグラフを作成できる。さらに、偏差値および作成したグラフをもとに、講義内容（データ分析の基本的な考え方）を活用して、各測定値の特徴を読み取ることができる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。 測定値の特徴の読み取りに関する講義内容を再確認する。	90分
	事後学修	指示したグラフ作成を完了する。 講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴を整理して提出する。	150分
12	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（7）：分析レポートの作成	
	この回の到達目標	③に関連して、課題（分析テーマ）に対する考察を、読み取った測定値の特徴をもとに、算出値や作成したグラフも適宜用いながら、論理だてて説明することができる。	
	事前学修	これまでに整理した測定値の特徴を確認する。	90分
	事後学修	分析レポートの作成を完了し、提出する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)		効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (1) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 課題(目的と取り組み内容)説明、MS-PowerPointの特徴と基本操作の確認、プレゼンテーション資料の基とする企画書の選択、資料の構想を練り、構想に沿って資料を作成する	
	この回の到達目標	②④に関連して、インターネットを活用して、プレゼンテーション資料作成に必要な情報を収集することができる。MS-PowerPointの特徴と基本操作を知り、実際に操作できる。MS-PowerPointの基本操作を活用して、構想にそったプレゼンテーション資料を作成することができる。		
	事前学修	「効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint))」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。		60分
	事後学修	MS-PowerPointの基本操作を復習する。プレゼンテーション資料の作成を完了する。		180分
14	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)		効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (2) : 口頭発表時の留意点 (講義)、プレゼンテーションの口頭発表シナリオ作成 プレゼンテーション資料にそって口頭発表シナリオを作成、シナリオをもとにページ毎の訴求点も考慮してプレゼンテーション資料をブラッシュアップ	
	この回の到達目標	④に関連して、効果的に伝えるための「口頭発表の際の留意点」を理解し、それらを踏まえて、発表シナリオを作成することができる。シナリオをもとにプレゼンテーション資料をブラッシュアップすることができる。		
	事前学修	課題シートを再読し、口頭発表の要件 (時間他) を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えたい点 (訴求点) をピックアップする。		90分
	事後学修	口頭発表シナリオの作成およびシナリオをもとにしたプレゼンテーション資料のブラッシュアップを完了する。		150分
15	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)		効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (3) : 企画プレゼンテーション実施 講座全体のまとめ	
	この回の到達目標	④に関連して、「効果的なプレゼンテーション」を行うために必要な要件を説明することができる。		
	事前学修	作成したプレゼンテーション資料および口頭発表シナリオを確認する。プレゼンテーション (口頭発表) の練習をする。		120分
	事後学修	プレゼンテーション資料および発表シナリオのブラッシュアップを完了し提出する。 講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。		120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者間での相互評価（第7回は作成資料について、第15回はプレゼンテーションについて）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成課題へのフィードバック(講評・解説)を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に定めない。講義時に課題、参照資料等のプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
tanikawa.yukikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講座ガイダンス コンピュータの基礎的取り扱い		社会が求める能力とは、情報活用の実践力、授業計画と評価方法、コンピュータの起動・終了とファイルの管理方法
	この回の到達目標	講座の到達目標と進め方を理解する。 ①に関連して、コンピュータの起動・終了操作を適切に実施することができる。また、コンピュータの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講座全体を概観する。	30分
	事後学修	講座ガイダンスの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。 「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。 コンピュータの起動・終了操作、ファイルの管理方法を復習する。	90分
2	電子メールの利用 理解しやすい資料の作成（MS-Word）		電子メールの利用：NU-Mailを利用した自己紹介文の作成と提出 理解しやすい資料の作成（MS-Word）（1）：異なる編集方法による2種類の資料の比較による違いの検討、見本にそった2種類の資料作成、作成に必要なMS-WORDの基本操作の確認
	この回の到達目標	②に関連して、電子メールの基本的な機能を理解し、安全に操作できる。 ③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
	事前学修	NU-MailのログインIDとパスワードを確認し、ログインしてみる。 「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	1種類目の資料と2種類目の資料の違いと、それによる効果・弊害を整理して提出する。 1種類目の資料の作成を完了する。	180分
3	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（2）：見本にそった2種類の資料作成 MS-WORDの基本操作を活用して資料を作成する。
	この回の到達目標	③に関連して、必要なMS-WORDの基本操作を知り、資料作成において実際に操作できる。	
	事前学修	2種類目の資料の見本を確認し、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。	60分
	事後学修	2種類目の資料の作成を完了する。	180分
4	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（3）：理解しやすい資料作成のための方法（講義） 理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。
	この回の到達目標	③に関連して、資料作成において受け手にとっての理解しやすさを考える重要性を理解し、説明することができる。理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法を知る。	
	事前学修	理解しやすい資料の作成（1）の「異なる編集方法による2種類の資料の比較による違いの検討」で自分なりに整理した「違い」とそれによる「効果・弊害」を見直す。	90分
	事後学修	講義内容を復習する。	150分
5	理解しやすい資料の作成（MS-Word）		理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでに学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を応用して資料作成する。
	この回の到達目標	③に関連して、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用することができる。	
	事前学修	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。	120分
	事後学修	テーマをもとにした資料の作成を完了する。 作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。	180分
6	データの分析と解釈 （MS-Excel）		データの分析と解釈（MS-Excel）（1）：データ分析の基本的な考え方（講義）
	この回の到達目標	③に関連して、データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を理解する。	
	事前学修	「データの分析と解釈（MS-Excel）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。	30分
	事後学修	講義内容を復習する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	理解しやすい資料の作成（MS-Word） データの分析と解釈（MS-Excel）	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価（他者の資料を見てフィードバックする、また他者からのフィードバックを得る） データの分析と解釈（MS-Excel）（2）：課題（分析テーマ）説明、表計算ソフトであるMS-Excelの特徴と基本操作の説明、分析対象データのExcelへの入力	
	この回の到達目標	③に関連して、「理解しやすい資料」に必要な要件とそのための方法を説明することができる。 ③に関連して、表計算ソフトであるMS-Excelの特徴を理解し、基本的な操作を実行できる。	
	事前学修	MS-Excelの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	他者の資料、また相互評価でのコメントをもとに、自身の資料の改善点を考える。 課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体を概観する。MS-Excelの基本操作を復習する。 分析対象データのExcel入力を完了する。	180分
8	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（3）：測定値の特徴を表す値の算出（数式、関数の活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、Excelの数式や関数を用いて平均や分散などの値を算出する方法を知り、実際に操作して算出できる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	30分
	事後学修	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。	210分
9	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（4）：測定値の分布状況の可視化（ヒストグラムの活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を知り、実際に操作して作成できる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	30分
	事後学修	測定項目毎のヒストグラムの作成を完了する。	240分
10	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（5）：測定値の特徴の読み取り、調査項目間で比較可能な値の算出（偏差値の活用）	
	この回の到達目標	③に関連して、算出値、および作成したグラフ（ヒストグラム）をもとに、講義内容（データ分析の基本的な考え方）を活用して、測定値の特徴を読み取ることができる。また、読み取った特徴を説明できる。これまでに学んだExcel操作を応用して、各測定値の偏差値が算出（測定値の標準化）できる。	
	事前学修	測定値の特徴の読み取りに関する講義内容を再確認する。 課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。	90分
	事後学修	講義内容を参考に、算出した値（平均や分散など）とヒストグラムから読み取った測定値の特徴を整理して提出する。 各測定値に対する偏差値の算出を完了する。	180分
11	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（6）：調査項目間の違いの可視化（グラフの活用）と測定値の特徴の読み取り	
	この回の到達目標	③に関連して、これまでに学んだExcel操作を応用して、利用目的に応じたグラフを作成できる。さらに、偏差値および作成したグラフをもとに、講義内容（データ分析の基本的な考え方）を活用して、各測定値の特徴を読み取ることができる。	
	事前学修	課題シートを再読して課題（分析テーマ）全体と今回取り組む課題の位置づけを確認する。 測定値の特徴の読み取りに関する講義内容を再確認する。	90分
	事後学修	指示したグラフ作成を完了する。 講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴を整理して提出する。	150分
12	データの分析と解釈（MS-Excel）	データの分析と解釈（MS-Excel）（7）：分析レポートの作成	
	この回の到達目標	③に関連して、課題（分析テーマ）に対する考察を、読み取った測定値の特徴をもとに、算出値や作成したグラフも適宜用いながら、論理だてて説明することができる。	
	事前学修	これまでに整理した測定値の特徴を確認する。	90分
	事後学修	分析レポートの作成を完了し、提出する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (1) : 企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 課題(目的と取り組み内容)説明、MS-PowerPointの特徴と基本操作の確認、プレゼンテーション資料の基とする企画書の選択、資料の構想を練り、構想に沿って資料を作成する	
	この回の到達目標	②④に関連して、インターネットを活用して、プレゼンテーション資料作成に必要な情報を収集することができる。MS-PowerPointの特徴と基本操作を知り、実際に操作できる。MS-PowerPointの基本操作を活用して、構想にそったプレゼンテーション資料を作成することができる。	
	事前学修	「効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint))」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。	60分
	事後学修	MS-PowerPointの基本操作を復習する。プレゼンテーション資料の作成を完了する。	180分
14	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (2) : 口頭発表時の留意点 (講義)、プレゼンテーションの口頭発表シナリオ作成 プレゼンテーション資料にそって口頭発表シナリオを作成、シナリオをもとにページ毎の訴求点も考慮してプレゼンテーション資料をブラッシュアップ	
	この回の到達目標	④に関連して、効果的に伝えるための「口頭発表の際の留意点」を理解し、それらを踏まえて、発表シナリオを作成することができる。シナリオをもとにプレゼンテーション資料をブラッシュアップすることができる。	
	事前学修	課題シートを再読し、口頭発表の要件 (時間他) を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えた点 (訴求点) をピックアップする。	90分
	事後学修	口頭発表シナリオの作成およびシナリオをもとにしたプレゼンテーション資料のブラッシュアップを完了する。	150分
15	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint)	効果的に企画内容を伝える (MS-PowerPoint) (3) : 企画プレゼンテーション実施 講座全体のまとめ	
	この回の到達目標	④に関連して、「効果的なプレゼンテーション」を行うために必要な要件を説明することができる。	
	事前学修	作成したプレゼンテーション資料および口頭発表シナリオを確認する。プレゼンテーション (口頭発表) の練習をする。	120分
	事後学修	プレゼンテーション資料および発表シナリオのブラッシュアップを完了し提出する。 講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初歩的な情報理論、コンピュータの基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。

【授業方法】		
講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1、2回の確認小テストを行う。実習は原則としてマイクロソフトオフィスの主要アプリ（Word、Excel、PowerPoint）を利用する。論文（骨子）、口頭発表、確認小テストに関する講評・解説は授業内で行う。Google Classroomをベースに教材や解説動画の配布ならびに実習結果の提出、質疑応答などを行う（オンデマンド方式）。個別の質問についてはGoogle Classroomの限定公開コメントやメールを使って対応。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PowerPointのスライドショーの記録機能を利用し各自口頭発表の音声を記録したファイルを提出。一定期間クラスに公開し質疑応答や相互評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	初歩的な情報理論や、到達目標①②に関わる用語等について小テストを実施し理解度を確認し評価する。	10	10									20
レポート等	Word/Excel実習、論文（骨子）作成等において、到達目標③の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。			40								40
討論・発表等	模擬発表会（各自PowerPointのスライドショーの記録機能を利用し口頭発表の音声記録したファイルを提出）を実施し、これに対して到達目標④の観点から評価する。				40							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	40	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については次回授業にて解説・講評を行う。提出物や口頭発表に関する講評はその都度、授業内にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に指定する				

【オフィスアワー】
メールまたはGoogle Classroomの限定公開コメントにて質問を受け付ける。tsuchiya.masatoshi1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	統計ソフトウェアを活用し日本経済や産業の計量経済分析・予測の実務を経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		Excelの統計解析ツールを使って基礎的な統計分析の実習を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】【PCの基本操作の確認】	【ガイダンス】講義の目的、講義計画・成績評価の方法、実習テキスト、参考書などの紹介を行い、受講生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。 【PCの基本操作の確認】PCやネットワーク環境の利用方法、ファイルの管理等について確認する。出欠管理票（Excelファイル）に必要事項を記入し提出する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連しPCやネットワーク環境の基礎的な取り扱い、ファイルの管理方法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定するので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行うこと。初回はシラバスを確認し講義全体を概観する。		120分
	事後学修	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので、ポイントの復習を怠らないこと。特に実習項目については自ら再度実行することで理解度が格段に上がる。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を認識する。		120分
2	【情報通信技術の概要】情報処理関連用語の解説、コンピュータとは	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理の解説。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的な情報処理技術やコンピュータの動作原理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。		120分
	事後学修	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標準化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。		120分
3	【情報通信技術と社会】 【小テスト】	情報通信技術（ICT）と社会：情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産の保護、ネット利用の留意点などの解説。解説を踏まえた小テスト（ICTと情報処理の基礎に係る確認テスト）を実施。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、情報セキュリティやネット利用に係る知的財産保護等について理解し実践できる。		
	事前学修	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。		120分
	事後学修	健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産の保護などの基本知識を再確認する。		120分
4	【実習基礎編1】Wordの基本操作、PowerPointの基本操作	コンピュータの基本操作の確認： Windowsの基本操作、基本的な文書作成（Word）、標準的な口頭発表用スライドの作成（PowerPoint）、PowerPointの実習では日本大学法学部を紹介するスライドを作成し基本操作を確認する		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Windowsの基本を理解し、WordやPowerPointの基本機能を適切に利用することができる。		
	事前学修	自らのコンピュータに係る知識を確認する。		60分
	事後学修	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要。Windowsの基本操作とWordやPowerPointの基本についてコンピュータを動かして再確認する。		180分
5	【実習基礎編2】Excelによるデータ集計、グラフ作成	コンピュータの基本操作の確認： データ集計・整理・分析、グラフの作成、データベース機能の活用（Excel）		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの基本的機能を理解しデータ分析、グラフの作成などを適切に実施できる。		
	事前学修	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。		60分
	事後学修	Excelの三大機能（表計算、グラフ、データベース）の基本を再確認する。		180分
6	【アカデミックスキル1（情報の収集）】インターネット上の情報の利用	インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用について講義。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してインターネット上の情報利用の留意点を理解し、適切に実践できる。		
	事前学修	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用について自らのイメージをまとめる。		120分
	事後学修	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し自分なりの説明を取りまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	【アカデミックスキル2（情報の評価・分析）】	統計学の基本的な概念の確認、コンピュータを活用した情報整理法の例の紹介。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し統計分析の基本的な概念を理解し、説明できる。		
	事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認。		120分
	事後学修	統計学のポイントについて復習する。		120分
8	【アカデミックスキル3（情報の創造・発信）】論文とは	論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用の仕方、注と文献表の役割と書き方）、口頭による研究発表の方法（テーマと問題設定、論理展開と発表用スライドの構成など）の解説。		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文・レポートの要件や口頭発表の基本について理解し実践できる。		
	事前学修	これまでに学習した文章作成方法の確認。		120分
	事後学修	情緒的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識する。		120分
9	【実習応用編1】 Excelによる統計解析実習	Excelによる統計解析実習（正規分布、統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析）、併せてRなど統計用ソフトの紹介。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの統計分析ツールを適切に利用することができる。		
	事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。		60分
	事後学修	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析を実行する。		180分
10	【実習応用編2】 オブジェクトの挿入などWordの応用機能の利用実習	Wordの利用実習： 図表などオブジェクトの挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等		
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、オブジェクトの挿入、セクション区切りなどWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。		
	事前学修	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。		60分
	事後学修	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を確認。		180分
11	【実習応用編3】 「見出し」スタイルなどWordの応用機能の利用実習	【実習応用編3】 Wordの利用実習：アウトライン設定、見出しスタイルの適用、目次・索引の作成、アウトライン表示の活用、Excel等との連携など		
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、「見出し」スタイル、アウトライン設定などWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。		
	事前学修	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。		60分
	事後学修	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。		180分
12	【実習応用編4】 Wordによる論文の作成（論文骨子のみも可とする）	第8回で確認した論文の要件を踏まえ、Wordによる論文作成（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）：Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用し論文を作成。参考としてLaTeXによる論文作成例の紹介。（次の口頭発表の前提として、少なくとも論文骨子までは作成する）		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Wordのアウトライン、見出しスタイル、文献管理など論文・レポート作成に有用なツールを適切に利用することができる。		
	事前学修	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討する。		120分
	事後学修	Wordのこれらの機能は社会人になった後も極めて有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【実習応用編5】PowerPointの利用実習	PowerPointの利用実習：口頭発表用（読ませるのではなく見せる）スライドの要件を踏まえ実習（マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、スライドショーの記録、ノート・配布資料の作成等）	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、PowerPointのを利用し口頭発表用のスライドを効率的に作成することができる。	
	事前学修	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	フォントの種類やサイズ、1枚あたりの行数など口頭発表用スライド（見せるスライド）の要件を復習し、発表用のスライドの作成を行う。	180分
14	【オンデマンド発表会】口頭発表音声記録付きのPowerPointファイルを一定期間クラスに公開	作成した論文のポイントについて、PowerPointのスライドショーの記録機能を利用し口頭発表の音声を記録したファイルを提出。クラスメンバーに対し一定期間オープンにし質疑応答や相互評価などインタラクティブな対応を行う	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordで作成した論文（骨子）のポイントについてPowerPointを使い適切に口頭発表ができる。	
	事前学修	自らの問題意識、主張を明確に意識し発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	質疑応答や相互評価の指摘をふまえ発表資料を改訂する。	120分
15	【総まとめ講義】	論文、口頭発表の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントの整理、ICT関連の最新動向の紹介を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、PCをはじめとするICTを適切かつ効率的に活用することができる。	
	事前学修	AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。	60分
	事後学修	今後はアカデミックスキルとの関連を意識しつつコンピュータやネットワークなどの情報技術を利活用することが重要であり、実習内容について繰り返し実行し自分のものにする。	180分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初歩的な情報理論、コンピュータの基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。

【授業方法】		
講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1、2回の確認小テストを行う。実習は原則としてマイクロソフトオフィスの主要アプリ（Word、Excel、PowerPoint）を利用する。論文（骨子）、口頭発表、確認小テストに関する講評・解説は授業内で行う。Google Classroomをベースに教材や解説動画の配布ならびに実習結果の提出、質疑応答などを行う（オンデマンド方式）。個別の質問についてはGoogle Classroomの限定公開コメントやメールを使って対応。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PowerPointのスライドショーの記録機能を利用し口頭発表の音声を記録したファイルを提出。一定期間クラスに公開し質疑応答や相互評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	初歩的な情報理論や、到達目標①②に関わる用語等について小テストを実施し理解度を確認し評価する。	10	10									20
レポート等	Word/Excel実習、論文（骨子）作成等において、到達目標③の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。			40								40
討論・発表等	模擬発表会（オンラインの場合は、各自PowerPointのスライドショーの記録機能を利用し口頭発表の音声を記録したファイルを提出）を実施し、これに対して到達目標④の観点から評価する。				40							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	40	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験については次回授業にて解説・講評を行う。提出物や口頭発表に関する講評はその都度、授業内にて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に指定する				

【オフィスアワー】
メールまたはGoogle Classroomの限定公開コメントにて質問を受け付ける。tsuchiya.masatoshi1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	統計ソフトウェアを活用し日本経済や産業の計量経済分析・予測の実務を経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		Excelの統計解析ツールを使って基礎的な統計分析の実習を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】【PCの基本操作の確認】	【ガイダンス】講義の目的、講義計画・成績評価の方法、実習テキスト、参考書などの紹介を行い、受講生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。 【PCの基本操作の確認】PCやネットワーク環境の利用方法、ファイルの管理等について確認する。出欠管理票（Excelファイル）に必要事項を記入し提出する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連しPCやネットワーク環境の基礎的な取り扱い、ファイルの管理方法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定するので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行うこと。初回はシラバスを確認し講義全体を概観する。	120分	
	事後学修	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので、ポイントの復習を怠らないこと。特に実習項目については自ら再度実行することで理解度が格段に上がる。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を認識する。	120分	
2	【情報通信技術の概要】情報処理関連用語の解説、コンピュータとは	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理の解説。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的な情報処理技術やコンピュータの動作原理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。	120分	
	事後学修	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標準化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。	120分	
3	【情報通信技術と社会】 【小テスト】	情報通信技術（ICT）と社会：情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産の保護、ネット利用の留意点などの解説。解説を踏まえた小テスト（ICTと情報処理の基礎に係る確認テスト）を実施。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、情報セキュリティやネット利用に係る知的財産保護等について理解し実践できる。		
	事前学修	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。	120分	
	事後学修	健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産の保護などの基本知識を再確認する。	120分	
4	【実習基礎編1】Wordの基本操作、PowerPointの基本操作	コンピュータの基本操作の確認：Windowsの基本操作、基本的な文書作成（Word）、標準的な口頭発表用スライドの作成（PowerPoint）、PowerPointの実習では日本大学法学部を紹介するスライドを作成し基本操作を確認する		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Windowsの基本を理解し、WordやPowerPointの基本機能を適切に利用することができる。		
	事前学修	自らのコンピュータに係る知識を確認する。	60分	
	事後学修	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要。Windowsの基本操作とWordやPowerPointの基本についてコンピュータを動かして再確認する。	180分	
5	【実習基礎編2】Excelによるデータ集計、グラフ作成	コンピュータの基本操作の確認：データ集計・整理・分析、グラフの作成、データベース機能の活用（Excel）		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの基本的機能を理解しデータ分析、グラフの作成などを適切に実施できる。		
	事前学修	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。	60分	
	事後学修	Excelの三大機能（表計算、グラフ、データベース）の基本を再確認する。	180分	
6	【アカデミックスキル1（情報の収集）】インターネット上の情報の利用	インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用について講義。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してインターネット上の情報利用の留意点を理解し、適切に実践できる。		
	事前学修	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用について自らのイメージをまとめる。	120分	
	事後学修	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し自分なりの説明を取りまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【アカデミックスキル2（情報の評価・分析）】		統計学の基本的な概念の確認、コンピュータを活用した情報整理法の例の紹介。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し統計分析の基本的な概念を理解し、説明できる。		
	事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認。		120分
	事後学修	統計学のポイントについて復習する。		120分
8	【アカデミックスキル3（情報の創造・発信）】論文とは		論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用の仕方、注と文献表の役割と書き方）、口頭による研究発表の方法（テーマと問題設定、論理展開と発表用スライドの構成など）の解説。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文・レポートの要件や口頭発表の基本について理解し実践できる。		
	事前学修	これまでに学習した文章作成方法の確認。		120分
	事後学修	情緒的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識する。		120分
9	【実習応用編1】 Excelによる統計解析実習		Excelによる統計解析実習（正規分布、統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析）、併せてRなど統計用ソフトの紹介。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Excelの統計分析ツールを適切に利用することができる。		
	事前学修	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。		60分
	事後学修	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析を実行する。		180分
10	【実習応用編2】 オブジェクトの挿入などWordの応用機能の利用実習		Wordの利用実習： 図表などオブジェクトの挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、オブジェクトの挿入、セクション区切りなどWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。		
	事前学修	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。		60分
	事後学修	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を確認。		180分
11	【実習応用編3】 「見出し」スタイルなどWordの応用機能の利用実習		【実習応用編3】 Wordの利用実習：アウトライン設定、見出しスタイルの適用、目次・索引の作成、アウトライン表示の活用、Excel等との連携など	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、「見出し」スタイル、アウトライン設定などWordの応用的な機能を理解し適切に利用できる。		
	事前学修	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。		60分
	事後学修	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。		180分
12	【実習応用編4】 Wordによる論文の作成（論文骨子のみも可とする）		第8回で確認した論文の要件を踏まえ、Wordによる論文作成（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）：Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用し論文を作成。参考としてLaTeXによる論文作成例の紹介。（次の口頭発表の前提として、少なくとも論文骨子までは作成する）	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、Wordのアウトライン、見出しスタイル、文献管理など論文・レポート作成に有用なツールを適切に利用することができる。		
	事前学修	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討する。		120分
	事後学修	Wordのこれらの機能は社会人になった後も極めて有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【実習応用編5】PowerPointの利用実習	PowerPointの利用実習：口頭発表用（読ませるのではなく見せる）スライドの要件を踏まえ実習（マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、スライドショーの記録、ノート・配布資料の作成等）	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、PowerPointのを利用し口頭発表用のスライドを効率的に作成することができる。	
	事前学修	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。	60分
	事後学修	フォントの種類やサイズ、1枚あたりの行数など口頭発表用スライド（見せるスライド）の要件を復習し、発表用のスライドの作成を行う。	180分
14	【オンデマンド発表会】口頭発表音声記録付きのPowerPointファイルを一定期間クラスに公開	作成した論文のポイントについて、PowerPointのスライドショーの記録機能を利用し口頭発表の音声を記録したファイルを提出。クラスメンバーに対し一定期間オープンにし質疑応答や相互評価などインタラクティブな対応を行う	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、Wordで作成した論文（骨子）のポイントについてPowerPointを使い適切に口頭発表ができる。	
	事前学修	自らの問題意識、主張を明確に意識し発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	質疑応答や相互評価の指摘をふまえ発表資料を改訂する。	120分
15	【総まとめ講義】	論文、口頭発表の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントの整理、ICT関連の最新動向の紹介を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、PCをはじめとするICTを適切かつ効率的に活用することができる。	
	事前学修	AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。	60分
	事後学修	今後はアカデミックスキルとの関連を意識しつつコンピュータやネットワークなどの情報技術を活用することが重要であり、実習内容について繰り返し実行し自分のものにする。	180分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
演習科目であるから、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	20		80								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20		80								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の15回目に実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Word 2019 ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2020年	教科書	必携
よくわかる Excel 2019ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。キーボードからの文字入力を試す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、キーボードからの文字入力を行う。		
	事前学修	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。		120分
	事後学修	ワードのテキストLesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。		120分
2	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作1（テキストLesson1～Lesson11）」		ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、ワードのテキストレッスン1～レッスン11までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	ワードのテキストLesson1～Lesson11を予習すること。		120分
	事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。		120分
3	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作2（テキストLesson11～Lesson17）」		ワードのテキストレッスン12～レッスン17までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	ワードのテキストLesson11～Lesson17を予習すること。		120分
	事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。		120分
4	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作1（テキストLesson20～Lesson25）」		ワードのテキストレッスン20～レッスン25までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	ワードのテキストLesson20～Lesson25を予習すること。		120分
	事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。		120分
5	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作2（テキストLesson26～Lesson32）」		ワードのテキストレッスン26～レッスン32までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	ワードのテキストLesson26～Lesson32を予習すること。		120分
	事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。		120分
6	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作1（テキストLesson1～Lesson5）」		エクセルのテキストレッスン1～レッスン5までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。		120分
	事後学修	一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 2 (Lesson6～Lesson8)」	エクセルのテキストレッスン6～レッスン8までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson6～Lesson8を予習すること。	120分
	事後学修	一次方程式、累計、割合計算など、自らができなかった部分の演習問題を完成させてみる。	120分
8	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 3 (Lesson9～Lesson12)」	エクセルのテキストレッスン9～レッスン12までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson9～Lesson12を予習すること。特に関数について予習しておくこと。	120分
	事後学修	関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い確認すること。	120分
9	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 4 (Lesson13～Lesson16)」	エクセルのテキストレッスン13～レッスン16までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson13～Lesson16を予習すること。	120分
	事後学修	グラフを作成するための要素がなんであるか理解すること。演習問題を再度行い理解すること。	120分
10	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 1 (Lesson18～Lesson21)」	エクセルのテキストレッスン18～レッスン21までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson18～Lesson21を予習すること。	120分
	事後学修	一次方程式の計算や関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
11	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 2 (Lesson22～Lesson26)」	エクセルのテキストレッスン22～レッスン26までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson22～Lesson26を予習すること。	120分
	事後学修	グラフを作成する際の要素が何であるか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
12	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 3 (Lesson27～Lesson30)」	エクセルのテキストレッスン27～レッスン30までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson27～Lesson30を予習すること。	120分
	事後学修	必要なデータが抽出できるか、また、ピボットテーブルの作成方法と機能について再度演習問題を行い理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パワーポイントの操作	配布したパワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	配布したパワーポイントの教材に関して予習すること。	120分
	事後学修	パワーポイントの操作方法ばかりでなく、レジュメを作成できるよう文書を要約できるようにする。	120分
14	実技試験 授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
	事前学修	講義で行ってきたそれぞれのソフトウェアに関する演習問題の総合的な復習を行うこと。	120分
	事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。	120分
15	実技試験の解説	実技試験の解説を行う。あわせて各ソフトウェアの操作方法に関する質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成できること。	
	事前学修	実技試験でできなかったところを自ら学習しておくこと。	120分
	事後学修	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう実技試験の問題を再度行う。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
演習科目であるから、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	20		80								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20		80								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の15回目に実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Word 2019 ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2020年	教科書	必携
よくわかる Excel 2019ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。キーボードからの文字入力を試す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、キーボードからの文字入力を行う。		
	事前学修	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。		120分
	事後学修	ワードのテキストLesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。		120分
2	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作1（テキストLesson1～Lesson11）」		ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、ワードのテキストレッスン1～レッスン11までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	ワードのテキストLesson1～Lesson11を予習すること。		120分
	事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。		120分
3	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作2（テキストLesson11～Lesson17）」		ワードのテキストレッスン12～レッスン17までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	ワードのテキストLesson11～Lesson17を予習すること。		120分
	事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。		120分
4	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作1（テキストLesson20～Lesson25）」		ワードのテキストレッスン20～レッスン25までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	ワードのテキストLesson20～Lesson25を予習すること。		120分
	事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。		120分
5	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作2（テキストLesson26～Lesson32）」		ワードのテキストレッスン26～レッスン32までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	ワードのテキストLesson26～Lesson32を予習すること。		120分
	事後学修	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。		120分
6	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作1（テキストLesson1～Lesson5）」		エクセルのテキストレッスン1～レッスン5までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。		120分
	事後学修	一 次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 2 (Lesson6～Lesson8)」	エクセルのテキストレッスン6～レッスン8までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson6～Lesson8を予習すること。	120分
	事後学修	一次方程式、累計、割合計算など、自らができなかった部分の演習問題を完成させてみる。	120分
8	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 3 (Lesson9～Lesson12)」	エクセルのテキストレッスン9～レッスン12までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson9～Lesson12を予習すること。特に関数について予習しておくこと。	120分
	事後学修	関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い確認すること。	120分
9	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 4 (Lesson13～Lesson16)」	エクセルのテキストレッスン13～レッスン16までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson13～Lesson16を予習すること。	120分
	事後学修	グラフを作成するための要素がなんであるか理解すること。演習問題を再度行い理解すること。	120分
10	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 1 (Lesson18～Lesson21)」	エクセルのテキストレッスン18～レッスン21までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson18～Lesson21を予習すること。	120分
	事後学修	一次方程式の計算や関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
11	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 2 (Lesson22～Lesson26)」	エクセルのテキストレッスン22～レッスン26までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson22～Lesson26を予習すること。	120分
	事後学修	グラフを作成する際の要素が何であるか、演習問題を再度行い理解すること。	120分
12	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 3 (Lesson27～Lesson30)」	エクセルのテキストレッスン27～レッスン30までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	エクセルのテキストLesson27～Lesson30を予習すること。	120分
	事後学修	必要なデータが抽出できるか、また、ピボットテーブルの作成方法と機能について再度演習問題を行い理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パワーポイントの操作	配布したパワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	配布したパワーポイントの教材に関して予習すること。	120分
	事後学修	パワーポイントの操作方法ばかりでなく、レジュメを作成できるよう文書を要約できるようにする。	120分
14	実技試験 授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
	事前学修	講義で行ってきたそれぞれのソフトウェアに関する演習問題の総合的な復習を行うこと。	120分
	事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。	120分
15	実技試験の解説	実技試験の解説を行う。あわせて各ソフトウェアの操作方法に関する質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成できること。	
	事前学修	実技試験でできなかったところを自ら学習しておくこと。	120分
	事後学修	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう実技試験の問題を再度行う。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	毛利 康秀	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。

【授業方法】
PC教室にてコンピュータ (Windows) を利用した演習を行う。⇒ただし、前学期は全てオンデマンド方式にて実施する。(4/1更新) 課題に関する講評・解説等は、授業内で適宜個別に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
模範的な作成例を例示するほか、授業の最終回に解説を行う形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。毎週プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日 6 限、授業の前後の時間帯，授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mohri-y@chs.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		出版社にてコンピュータの操作およびコンピュータの操作に関連する教材の制作に携わる。 ビジネスの現場で通用する実用的な資料を、教材作成のノウハウを活用して説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作	
	この回の到達目標	法学部のコンピュータにログインができる、パスワード等の変更ができる、インターネットや電子メールを活用することができる	
	事前学修	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。	120分
	事後学修	Windowsパソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
2	Wordの基本的な操作（１）	Wordの基本的な操作の確認	
	この回の到達目標	Wordの基本的な機能を活用して、実用的な文書を作成することができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
3	Wordの基本的な操作（２）	ビジネス文書の作成	
	この回の到達目標	Wordのページ設定を使いこなし、ビジネス文書の基本的な構成を理解したうえで、実用的なビジネス文書を作成することができる。	
	事前学修	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認した上で、Wordのページ設定全般（行数・文字数の設定、余白の設定）について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
4	Wordの基本的な操作（３）	インターネットからの情報の収集・加工	
	この回の到達目標	インターネットで検索し、著作権の考え方を理解した上で、必要な情報を取り込んでWord上で活用することができる。	
	事前学修	インターネットの検索機能を使いこなせるようにしておく。Wordのメニュー欄をひとつおき確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
5	Wordの基本的な操作（４）	スクリーンショット機能の活用、図解の描画	
	この回の到達目標	著作権の考え方を理解した上で、スクリーンショット機能を活用してインターネットの情報を取り込み、図形の機能を活用して図解を描画することができる。	
	事前学修	スクリーンショットとは何か、検索してしらべておく。Wordの描画ツールの機能について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
6	タイピングの練習	タイピング技法の習得、タイピング結果の貼り付け	
	この回の到達目標	タイピングが練習できるサイトを利用してタイピングの練習を行い、より速く正確なタイピング技法を習得することができる。プリントスクリーンの機能を活用して、タイピングの練習結果を画像としてWordに取り込むことができる。	
	事前学修	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。	120分
	事後学修	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Excelの基本的な操作（１）		Excelの基本的な機能の確認、行と列の考え方の確認
	この回の到達目標	Excelの行と列の概念を理解できる。Excelを活用して、データ入力、書式設定、簡単な計算式の入力を行うことができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
8	Excelの基本的な操作（２）		算術演算子の活用、関数の活用、グラフの作成
	この回の到達目標	Excelを活用して、計算式を使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（棒グラフ）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、算術演算子とは何か、関数とは何かについて下調べしておく。グラフの作成方法についても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
9	Excelの基本的な操作（３）		算術演算子の活用、セルの絶対指定、グラフの作成
	この回の到達目標	セルの相対参照、絶対参照の考え方を理解し、使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（円グラフ、折れ線グラフ）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、セルの相対参照、絶対参照とは何かについて下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
10	Excelの応用的な操作（１）		計算式の構成、I F 関数、絶対指定／相対指定の応用、条件付き書式、散布図の作成
	この回の到達目標	BMI 指数（肥満指数）を例に、必要な計算式の構成、計算式中の絶対指定／相対指定の応用的な使いこなし、条件付き書式を活用して見やすい表を作ることができる。作成したデータを活用してグループグラフ（散布図）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、BMI 指数、条件付き書式とは何かについて下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
11	Excelの応用的な操作（２）		アンケートデータの集計とグラフの作成
	この回の到達目標	アンケート結果の入力データを例に、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数などを活用して、効率的なデータの集計を行うことができる。データの性質に応じて最適なグラフを選択し、表現することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数とは何かについて、下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
12	WordとExcelの連携		Excelで作成したデータをWordに貼り付けてレポートを作成する
	この回の到達目標	Excelで作成した表やグラフのデータをコピーし、Wordに貼り付けて活用することができる。「形式を選択して貼り付け」の考え方を理解し、状況に応じて使い分けることができる。	
	事前学修	WordとExcelを同時に使用方法について、インターネットで検索して調べておく。形式を選択して貼り付けとは何かについても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PowerPointの活用（１）	プレゼンテーションとは何かについての理解を深める。	
	この回の到達目標	プレゼンテーションとは何かについて理解することができる。PowerPointを活用したプレゼンテーションの概要をつかむことができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。プレゼンテーションとは何かについても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントを参照し、特にWordとExcelとも共通するPowerPointの操作方法について確認しておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
14	PowerPointの活用（２）	自由課題でのプレゼンテーション資料の作成	
	この回の到達目標	発表するべきテーマについて、プレゼンテーションの構成について考えることができる。その構成をPowerPoint上で表現することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、PowerPointの主な機能について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にアニメーション機能など、PowerPointならではの機能を効果的に使いこなすスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
15	PowerPointの活用（３）	PowerPointの課題の完成、授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック	
	この回の到達目標	自由課題でのプレゼンテーション資料を完成させることができる。これまでの授業で学んだWord、Excel、PowerPointの機能を再確認し、必要に応じて使いこなすことができる。	
	事前学修	PowerPointの課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。	120分
	事後学修	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	毛利 康秀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。

【授業方法】
PC教室にてコンピュータ (Windows) を利用した演習を行う。 課題に関する講評・解説等は、授業内で適宜個別に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
模範的な作成例を例示するほか、授業の最終回に解説を行う形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。毎週プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日 6 限、授業の前後の時間帯，授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mohri-y@chs.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		出版社にてコンピュータの操作およびコンピュータの操作に関連する教材の制作に携わる。 ビジネスの現場で通用する実用的な資料を、教材作成のノウハウを活用して説明する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業内容の説明、コンピュータの基本的な操作	
	この回の到達目標	法学部のコンピュータにログインができる、パスワード等の変更ができる、インターネットや電子メールを活用することができる	
	事前学修	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。	120分
	事後学修	Windowsパソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
2	Wordの基本的な操作（１）	Wordの基本的な操作の確認	
	この回の到達目標	Wordの基本的な機能を活用して、実用的な文書を作成することができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
3	Wordの基本的な操作（２）	ビジネス文書の作成	
	この回の到達目標	Wordのページ設定を使いこなし、ビジネス文書の基本的な構成を理解したうえで、実用的なビジネス文書を作成することができる。	
	事前学修	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認した上で、Wordのページ設定全般（行数・文字数の設定、余白の設定）について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
4	Wordの基本的な操作（３）	インターネットからの情報の収集・加工	
	この回の到達目標	インターネットで検索し、著作権の考え方を理解した上で、必要な情報を取り込んでWord上で活用することができる。	
	事前学修	インターネットの検索機能を使いこなせるようにしておく。Wordのメニュー欄をひとつおき確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
5	Wordの基本的な操作（４）	スクリーンショット機能の活用、図解の描画	
	この回の到達目標	著作権の考え方を理解した上で、スクリーンショット機能を活用してインターネットの情報を取り込み、図形の機能を活用して図解を描画することができる。	
	事前学修	スクリーンショットとは何か、検索してしらべておく。Wordの描画ツールの機能について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
6	タイピングの練習	タイピング技法の習得、タイピング結果の貼り付け	
	この回の到達目標	タイピングが練習できるサイトを利用してタイピングの練習を行い、より速く正確なタイピング技法を習得することができる。プリントスクリーンの機能を活用して、タイピングの練習結果を画像としてWordに取り込むことができる。	
	事前学修	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。	120分
	事後学修	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Excelの基本的な操作（１）	Excelの基本的な機能の確認、行と列の考え方の確認	
	この回の到達目標	Excelの行と列の概念を理解できる。Excelを活用して、データ入力、書式設定、簡単な計算式の入力を行うことができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。著作権の考え方についての理解を深める。	120分
8	Excelの基本的な操作（２）	算術演算子の活用、関数の活用、グラフの作成	
	この回の到達目標	Excelを活用して、計算式を使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（棒グラフ）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、算術演算子とは何か、関数とは何かについて下調べしておく。グラフの作成方法についても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
9	Excelの基本的な操作（３）	算術演算子の活用、セルの絶対指定、グラフの作成	
	この回の到達目標	セルの相対参照、絶対参照の考え方を理解し、使いこなすことができる。Excelに入力したデータを活用して、グラフ（円グラフ、折れ線グラフ）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、セルの相対参照、絶対参照とは何かについて下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
10	Excelの応用的な操作（１）	計算式の構成、I F 関数、絶対指定／相対指定の応用、条件付き書式、散布図の作成	
	この回の到達目標	BMI 指数（肥満指数）を例に、必要な計算式の構成、計算式中の絶対指定／相対指定の応用的な使いこなし、条件付き書式を活用して見やすい表を作ることができる。作成したデータを活用してグループグラフ（散布図）を作成し、調整することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、BMI 指数、条件付き書式とは何かについて下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
11	Excelの応用的な操作（２）	アンケートデータの集計とグラフの作成	
	この回の到達目標	アンケート結果の入力データを例に、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数などを活用して、効率的なデータの集計を行うことができる。データの性質に応じて最適なグラフを選択し、表現することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、COUNTIF関数、AVERAGEIF関数とは何かについて、下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
12	WordとExcelの連携	Excelで作成したデータをWordに貼り付けてレポートを作成する	
	この回の到達目標	Excelで作成した表やグラフのデータをコピーし、Wordに貼り付けて活用することができる。「形式を選択して貼り付け」の考え方を理解し、状況に応じて使い分けることができる。	
	事前学修	WordとExcelを同時に使用方法について、インターネットで検索して調べておく。形式を選択して貼り付けとは何かについても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にグラフの作成と調整のスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PowerPointの活用（１）	プレゼンテーションとは何かについての理解を深める。	
	この回の到達目標	プレゼンテーションとは何かについて理解することができる。PowerPointを活用したプレゼンテーションの概要をつかむことができる。	
	事前学修	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。プレゼンテーションとは何かについても下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントを参照し、特にWordとExcelとも共通するPowerPointの操作方法について確認しておく。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
14	PowerPointの活用（２）	自由課題でのプレゼンテーション資料の作成	
	この回の到達目標	発表するべきテーマについて、プレゼンテーションの構成について考えることができる。その構成をPowerPoint上で表現することができる。	
	事前学修	インターネットを活用し、PowerPointの主な機能について下調べしておく。	120分
	事後学修	配布したプリントで紹介した機能を再確認し、いつでも活用できるようにしておく。特にアニメーション機能など、PowerPointならではの機能を効果的に使いこなすスキルを高める。必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。	120分
15	PowerPointの活用（３）	PowerPointの課題の完成、授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック	
	この回の到達目標	自由課題でのプレゼンテーション資料を完成させることができる。これまでの授業で学んだWord、Excel、PowerPointの機能を再確認し、必要に応じて使いこなすことができる。	
	事前学修	PowerPointの課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。	120分
	事後学修	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
情報処理の基本的な素養（コンピュータやネットワーク、経営情報、統計処理等々への理解）がほとんど無い学生を前提とする。

【授業方法】
PC教室で基本課題と復習課題の2系統の配付資料（基本的にはデジタルデータ）による講義と実習を行う。 あるいはWebでオンデマンド型の講義と実習を行う。 なお出欠確認は、毎回の課題の提出状況を基本とし、並行して出欠管理システム（レスポンス）を利用して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第12回、第13回のプレゼンテーションの評価について相互に検討・批評する。 第14回のスモールデータ分析（経営トレンド分析）について相互に検討し多角的な視点を獲得する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講生が提出した課題や中間試験、期末試験等については、全体的にはGoogleClassroom、個別には電子メールを通じて週末までにフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業の際に資料（デジタルデータ、必要に応じてアナログデータ）を配付・提示する。				

【オフィスパワー】
原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	現代社会と情報システム	・授業ガイダンス 法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について	
	この回の到達目標	現代社会におけるICT関連課題、法学部情報システム（COLNet）の重要性、またPCの操作技術習得の重要性を理解する。	
	事前学修	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・日本大学法学部のHPより初期パスワードの変更作業を行う。 (2時間)	120分
2	情報システムと個人情報の保護 インターネットの光と陰	・各種デジタルデータの保存と管理・再利用、ネットワーク・コンピューティングと情報倫理 ・Microsoft WordやExcelの入門	
	この回の到達目標	個人情報の保護に留意して法学部情報システム（COLNet）の各種ツールを活用できる。	
	事前学修	・リモートアクセスにチャレンジして【課題01¥課題1.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 ・2回目の授業以降はポータルサイトから事前学習の内容について連絡を致します。 (2時間)	120分
	事後学修	・リモートアクセスで【課題1.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
3	Microsoft Wordによるリポート作成	・リポート作成法（コピペと言われないレポートの作成方法） ・フォント、インデント、脚注（参考文献・参考資料・参考URL）、ページ設定、ページ番号等々。	
	この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft Wordによるリポート作成技法を習得する。	
	事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ご案内状.docx】を閲覧しWordの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
	事後学修	・Microsoft Wordのページ設定（余白・字数・行数の調整）について理解しておく。 ・【ショートカット・キー一覧.pdf】を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
4	Microsoft Wordの各種編集技法の習得	Microsoft Wordの基本操作2 (Desk Top Publishing 1) ・各種技法を採り入れたフライヤーの作成 ・高度情報化社会；インターネットの仕組みとビジネスモデル	
	この回の到達目標	Microsoft Wordの各種編集技法（特に各種DTP技法）を習得する。	
	事前学修	・配付資料から指定した5つのショートカット・キーを学習しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・指定した5つ以外の利用度の高いショートカット・キーもマスターする。 ・リモートアクセスで【ご案内状.docx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
5	Microsoft Excel入門	Microsoft Excelの基本操作1 ・表計算と編集（データ入力と合計・平均関数）、PCの構造と機能、保存メディアの種類と機能	
	この回の到達目標	Microsoft Excelの入門として基本的な表計算技法を習得する。 またデータの各種保存方法を習得する。	
	事前学修	・リモートアクセスで【課題01¥受講者数統計.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
	事後学修	・リモートアクセスで【受講者数統計.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・復習課題でMicrosoft Excelの合計・平均関数とオートフィル機能を復習しておく。 (2時間)	120分
6	Microsoft Excelの各種グラフ作成	Microsoft Excelの基本操作2 ・（各種グラフ作成、基本的関数の利用） ・HP閲覧（検索エンジンの利用とデータ収集）	
	この回の到達目標	Microsoft Excelによる基本的なグラフ作成技法を習得する。 またWeb上のデータの検索とダウンロード、その後の編集技法を習得する。	
	事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ (5) グラフとオートシェイプ.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で各種グラフを作成しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価A.xlsx】の予習結果を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各種組織の公開データの分析的利用	Microsoft Excelの応用操作 1 ・（各種グラフ、DB関数） ・HP閲覧（EDINETや企業・自治体のデータ収集）	
	この回の到達目標	企業や官公庁の公開データの検索・閲覧・ダウンロードとMicrosoft Excelによるデータベース機能を習得する。	
	事前学修	・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価B.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・経済・経営・会計・ICT関連の「調査課題」を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
8	電子メールの送受信と個人情報保護の基礎	Microsoft Excelの応用操作 2（経営トレンド分析） ・電子メールの利用（Excelファイルに読み取りパスワード設定を付けて添付して送信する）	
	この回の到達目標	学生として公的なNUメールの利用技法とマナー、添付ファイルのパスワード設定等々のネットワーク・エチケットを習得する。	
	事前学修	・各企業のHPや金融庁EDINETから任意の企業の有価証券報告書を閲覧し必要なデータをExcelファイルに保存しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・指定課題で復習してリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 ・【復習14¥0. ABC分析.xlsx】に読み取りパスワードを付けて電子メールに添付して提出する。 (2時間)	120分
9	データ分析の基礎と学術論文作成技法	・ABC分析について ・リポート作成（ExcelデータのWordへの転用） ・社会科学系論文・リポートの作成方法について ・ファイルサーバの利用と管理	
	この回の到達目標	データ分析・評価の基礎と学術論文作成に際して基本的な技法を習得する。	
	事前学修	・日本社会学会等、任意の社会科学系の学会のHPより論文投稿規定を閲覧し、理解しておくこと。 ・リモートアクセスで【課題11Word & Excel】を閲覧し理解に努める。 (2時間)	120分
	事後学修	・論文・リポートの作成要件・形式について復習しておく。 ・プレゼンのテーマについて調査・決定しておく。 (2時間)	120分
10	情報発信の基礎	PowerPointによるプレゼン資料の作成 1 (アウトライン重視の効果的なプレゼン資料の作成)	
	この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成技法を習得する。	
	事前学修	・プレゼン・テーマのアウトラインをWordに記述して指定フォルダにアップロードしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)	120分
11	プレゼンテーションの全体像	PowerPointによるプレゼン資料の作成 2 (聴取者にマッチした訴求度の高いプレゼン資料の作成、評価の視点)	
	この回の到達目標	プレゼンテーションについて全体的な評価の視点を形成・獲得する。	
	事前学修	・新たなデータを加えて各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・各自のPowerPoint課題の作成作業を更に進めておく。 (2時間)	120分
12	PowerPointを利用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション 1 (学生によるプレゼンテーション 1)	
	この回の到達目標	学生によるPowerPointを利用したプレゼンテーションに対して理解し、質疑応答への参加、その後の全体的な評価の視点を形成する。	
	事前学修	・プレゼンテーションについて解説した指定教材を読み込んでおくこと。 (2時間)	120分
	事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に記入しておく。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PowerPointと副次的資料を併用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション2 (学生によるプレゼンテーション2)	
	この回の到達目標	PowerPointとその他資料を併用したプレゼンテーション技法を理解し、各自のプレゼンテーション能力を高める。	
	事前学修	・プレゼンテーションの評価基準をWordにまとめリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に纏めておく。 ・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 ・リモートアクセスで【復習11¥ 5 逆トーナメントデータ分析.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で作業を進めておく。(2時間)	120分
14	ビッグデータの分析	Excelによるスモールデータの分析 (ピボットテーブルによるデータの分析と解釈)	
	この回の到達目標	個人や企業・官公庁等の行動から生成されるビッグデータの分析の基礎としてMicrosoft Excelの最新技法、ピボットテーブルの分析技法を習得する。	
	事前学修	・官公庁HPから『各種白書』や業界団体、任意の企業のHPから業績Excelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・分析結果を再検討して更に異なる視点で検討した結果をWordにまとめておく。 ・Web上で「HTMLタグ」について5個以上の基本的なものについて理解しておく。 (2時間)	120分
15	プログラミング入門 フローチャートとアルゴリズム	・スクリプティング入門 (HTML入門) ・講義全体の復習・スクリプティング入門 (HTML入門)	
	この回の到達目標	ホームページの構造とプログラミングへの理解の基礎としてHTMLによるホームページの基礎的な作成技法を習得する。	
	事前学修	・10行のHTMLを完成させておく。 (2時間)	120分
	事後学修	☆「期末課題」を完成後に指定期日までに当該フォルダへアップロードする。 (2時間)	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	山田 正雄	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
情報処理の基本的な素養（コンピュータやネットワーク、経営情報、統計処理等々への理解）がほとんど無い学生を前提とする。

【授業方法】		
PC教室で基本課題と復習課題の2系統の配付資料（基本的にはデジタルデータ）による講義と実習を行う。 あるいはWebでオンデマンド型の講義と実習を行う。 なお出欠確認は、毎回の課題の提出状況を基本とし、並行して出欠管理システム（レスポん）を利用して行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第12回、第13回のプレゼンテーションの評価について相互に検討・批評する。 第14回のスモールデータ分析（経営トレンド分析）について相互に検討し多角的な視点を獲得する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。					1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。					1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。										1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。										1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講生が提出した課題や中間試験、期末試験等については、全体的にはGoogleClassroom、個別には電子メールを通じて週末までにフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業の際に資料（デジタルデータ、必要に応じてアナログデータ）を配付・提示する。				

【オフィスアワー】
原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。必ず事前に電子メールでアポイントメントを取ってください。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	現代社会と情報システム	・授業ガイダンス - 法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について	
	この回の到達目標	現代社会におけるICT関連課題、法学部情報システム（COLNet）の重要性、またPCの操作技術習得の重要性を理解する。	
	事前学修	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・日本大学法学部のHPより初期パスワードの変更作業を行う。 (2時間)	120分
2	情報システムと個人情報の保護 インターネットの光と陰	・各種デジタルデータの保存と管理・再利用、ネットワーク・コンピューティングと情報倫理 ・Microsoft WordやExcelの入門	
	この回の到達目標	個人情報の保護に留意して法学部情報システム（COLNet）の各種ツールを活用できる。	
	事前学修	・リモートアクセスにチャレンジして【課題01¥課題1.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 ・2回目の授業以降はポータルサイトから事前学習の内容について連絡を致します。 (2時間)	120分
	事後学修	・リモートアクセスで【課題1.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
3	Microsoft Wordによるリポート作成	・リポート作成法（コピペと言われないレポートの作成方法） ・フォント、インデント、脚注（参考文献・参考資料・参考URL）、ページ設定、ページ番号等々。	
	この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft Wordによるリポート作成技法を習得する。	
	事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ご案内状.docx】を閲覧しWordの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
	事後学修	・Microsoft Wordのページ設定（余白・字数・行数の調整）について理解しておく。 ・【ショートカット・キー一覧.pdf】を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
4	Microsoft Wordの各種編集技法の習得	Microsoft Wordの基本操作2 (Desk Top Publishing 1) ・各種技法を採り入れたフライヤーの作成 ・高度情報化社会；インターネットの仕組みとビジネスモデル	
	この回の到達目標	Microsoft Wordの各種編集技法（特に各種DTP技法）を習得する。	
	事前学修	・配付資料から指定した5つのショートカット・キーを学習しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・指定した5つ以外の利用度の高いショートカット・キーもマスターする。 ・リモートアクセスで【ご案内状.docx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
5	Microsoft Excel入門	Microsoft Excelの基本操作1 ・表計算と編集（データ入力と合計・平均関数）、PCの構造と機能、保存メディアの種類と機能	
	この回の到達目標	Microsoft Excelの入門として基本的な表計算技法を習得する。 またデータの各種保存方法を習得する。	
	事前学修	・リモートアクセスで【課題01¥受講者数統計.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 (2時間)	120分
	事後学修	・リモートアクセスで【受講者数統計.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・復習課題でMicrosoft Excelの合計・平均関数とオートフィル機能を復習しておく。 (2時間)	120分
6	Microsoft Excelの各種グラフ作成	Microsoft Excelの基本操作2 ・（各種グラフ作成、基本的関数の利用） ・HP閲覧（検索エンジンの利用とデータ収集）	
	この回の到達目標	Microsoft Excelによる基本的なグラフ作成技法を習得する。 またWeb上のデータの検索とダウンロード、その後の編集技法を習得する。	
	事前学修	・リモートアクセスで【復習01¥ (5) グラフとオートシェイプ.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で各種グラフを作成しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価A.xlsx】の予習結果を指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各種組織の公開データの分析的利用	Microsoft Excelの応用操作 1 ・（各種グラフ、DB関数） ・HP閲覧（EDINETや企業・自治体のデータ収集）	
	この回の到達目標	企業や官公庁の公開データの検索・閲覧・ダウンロードとMicrosoft Excelによるデータベース機能を習得する。	
	事前学修	・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価B.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・経済・経営・会計・ICT関連の「調査課題」を配布するので概観しておく。 (2時間)	120分
8	電子メールの送受信と個人情報保護の基礎	Microsoft Excelの応用操作 2（経営トレンド分析） ・電子メールの利用（Excelファイルに読み取りパスワード設定を付けて添付して送信する）	
	この回の到達目標	学生として公的なNUメールの利用技法とマナー、添付ファイルのパスワード設定等々のネットワーク・エチケットを習得する。	
	事前学修	・各企業のHPや金融庁EDINETから任意の企業の有価証券報告書を閲覧し必要なデータをExcelファイルに保存しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・指定課題で復習してリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 ・【復習14¥0. ABC分析.xlsx】に読み取りパスワードを付けて電子メールに添付して提出する。 (2時間)	120分
9	データ分析の基礎と学術論文作成技法	・ABC分析について ・リポート作成（ExcelデータのWordへの転用） ・社会科学系論文・リポートの作成方法について ・ファイルサーバの利用と管理	
	この回の到達目標	データ分析・評価の基礎と学術論文作成に際して基本的な技法を習得する。	
	事前学修	・日本社会学会等、任意の社会科学系の学会のHPより論文投稿規定を閲覧し、理解しておくこと。 ・リモートアクセスで【課題11Word & Excel】を閲覧し理解に努める。 (2時間)	120分
	事後学修	・論文・リポートの作成要件・形式について復習しておく。 ・プレゼンのテーマについて調査・決定しておく。 (2時間)	120分
10	情報発信の基礎	PowerPointによるプレゼン資料の作成 1 (アウトライン重視の効果的なプレゼン資料の作成)	
	この回の到達目標	情報発信の基礎としてMicrosoft PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成技法を習得する。	
	事前学修	・プレゼン・テーマのアウトラインをWordに記述して指定フォルダにアップロードしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)	120分
11	プレゼンテーションの全体像	PowerPointによるプレゼン資料の作成 2 (聴取者にマッチした訴求度の高いプレゼン資料の作成、評価の視点)	
	この回の到達目標	プレゼンテーションについて全体的な評価の視点を形成・獲得する。	
	事前学修	・新たなデータを加えて各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・各自のPowerPoint課題の作成作業を更に進めておく。 (2時間)	120分
12	PowerPointを利用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション 1 (学生によるプレゼンテーション 1)	
	この回の到達目標	学生によるPowerPointを利用したプレゼンテーションに対して理解し、質疑応答への参加、その後の全体的な評価の視点を形成する。	
	事前学修	・プレゼンテーションについて解説した指定教材を読み込んでおくこと。 (2時間)	120分
	事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に記入しておく。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PowerPointと副次的資料を併用したプレゼンテーション	PowerPointによるプレゼンテーション2 (学生によるプレゼンテーション2)	
	この回の到達目標	PowerPointとその他資料を併用したプレゼンテーション技法を理解し、各自のプレゼンテーション能力を高める。	
	事前学修	・プレゼンテーションの評価基準をWordにまとめリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に纏めておく。 ・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 ・リモートアクセスで【復習11¥ 5 逆トーナメントデータ分析.xlsx】を閲覧し理解できる範囲で作業を進めておく。(2時間)	120分
14	ビッグデータの分析	Excelによるスモールデータの分析 (ピボットテーブルによるデータの分析と解釈)	
	この回の到達目標	個人や企業・官公庁等の行動から生成されるビッグデータの分析の基礎としてMicrosoft Excelの最新技法、ピボットテーブルの分析技法を習得する。	
	事前学修	・官公庁HPから『各種白書』や業界団体、任意の企業のHPから業績Excelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・分析結果を再検討して更に異なる視点で検討した結果をWordにまとめておく。 ・Web上で「HTMLタグ」について5個以上の基本的なものについて理解しておく。 (2時間)	120分
15	プログラミング入門 フローチャートとアルゴリズム	・スクリプティング入門 (HTML入門) ・講義全体の復習・スクリプティング入門 (HTML入門)	
	この回の到達目標	ホームページの構造とプログラミングへの理解の基礎としてHTMLによるホームページの基礎的な作成技法を習得する。	
	事前学修	・10行のHTMLを完成させておく。 (2時間)	120分
	事後学修	☆「期末課題」を完成後に指定期日までに当該フォルダへアップロードする。 (2時間)	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	鈴木 正章	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
毎時、出席できること。機器台数により、50名を限度とする。コンピュータ・ネットワーク初心者可。

【授業方法】
授業は教科書や配布資料を使って基礎的な事項のポイントについて解説し、教科書の中に設定されている課題にそって実習を行う。なお、採点の内容と講評は、後日ポータルサイトで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
評価の方法・配点・講評についてポータルサイトを使って受講者に全員に配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Windows10対応30時間でマスターWord&Excel2016	実教出版編集部	実教出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日および木曜日の１９：３０ー１９：５０の時間帯で授業講堂で受付ます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【授業内容の説明】	Windows10の画面構成および起動・終了、アプリケーションソフト起動・終了、学内パソコンの使い方、情報とメディアの活用法について学修する	
	この回の到達目標	学内パソコンを使って1回目の授業内容について操作ができる。	
	事前学修	教科書の「Windows10の基礎」についてあらかじめ熟読しておくこと。	120分
	事後学修	学内パソコン使用について習熟すること。	120分
2	【インターネット】【Eメール】【課題の提出方法】	学内ネットワークの活用 クラウドの活用	
	この回の到達目標	インターネットやEメールを利用できる。また、学内及び学外パソコンから課題が提出できる。	
	事前学修	Internet Explorerのについて熟読しておくこと	120分
	事後学修	様々なホームページを開き、学内メールも使ってみる。	120分
3	【wordの基本】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（1）文章の入力・文書の読み込み、保存および印刷	
	この回の到達目標	アプリword2016を使って起動・文字の入力・文書の保存・印刷・終了ができる。	
	事前学修	教科書の「Word2016の基礎的な使い方」について熟読しておくこと。	120分
	事後学修	Word2016の画面構成の理解と文字入力に習熟しておくこと。	120分
4	【文書作成】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（2）文書の書式設定	
	この回の到達目標	ページの書式設定した文書作成ができる。	
	事前学修	教科書の文書の作成について熟読しておくこと。	120分
	事後学修	文字入力と文書の書式設定に習熟しておくこと。	120分
5	【文書の編集(1)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（3）Wordの編集機能	
	この回の到達目標	文字のサイズやフォントの変更・箇条書き・表の作成及び編集ができる。	
	事前学修	教科書の編集機能について熟読をしておくこと。	120分
	事後学修	編集機能を使った様々な文書を作成すること。	120分
6	【文書の編集(2)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（4）Wordの編集機能	
	この回の到達目標	図・写真・テキストボックスを文書内に挿入できる。	
	事前学修	教科書の画像・テキストボックスの挿入を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	画像やテキストボックスを挿入した文章の作成に慣れておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Excelの基本(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（1）表の作成	
	この回の到達目標	Excel2016の画面構成を理解した上で表を作成しデータの入力ができる。	
	事前学修	教科書のExcel2016の画面構成とそれらの機能について熟読し理解しておくこと。	120分
	事後学修	Excel2016を使って表を作成できるようにする。	120分
8	【Excelの基本(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（2）計算式の挿入	
	この回の到達目標	表の中に合計・平均などの数式を挿入し計算できる。	
	事前学修	教科書のExcel2016の様々な書式設定を理解しておくこと。	120分
	事後学修	数式の入力と様々な書式設定をして表を作成する。	120分
9	【Excelの基本(3)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（3）Excelのデータからグラフを作成	
	この回の到達目標	Excelのデータから様々なグラフ（棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ・複合グラフなど）を作成できる。	
	事前学修	教科書のグラフの挿入の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
	事後学修	表データから様々なグラフを作成する。	120分
10	【Excelの基本(4)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（4）グラフの編集	
	この回の到達目標	Excelで作成したグラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができる	
	事前学修	教科書のグラフの書式設定変更の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
	事後学修	表データからグラフを作成し、グラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができるようにしておく。	120分
11	【Excelの活用(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（5）Excelの活用（基本的な関数）	
	この回の到達目標	Excelで活用する関数を挿入することができる。	
	事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
	事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分
12	【Excelの活用(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（6）Excelの活用（相対参照・絶対参照）	
	この回の到達目標	順位づけ・四捨五入・判定・条件による集計の関数が活用できる。	
	事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
	事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【PowerPointの基本(1)】	PowerPointを活用したプレゼンテーション（1）PowerPointの基本的な使い方とプレゼンテーションの設計	
	この回の到達目標	PowerPointの画面構成を理解した上で、テーマに基づいたプレゼンテーションの設計ができる・	
	事前学修	プレゼンテーションの内容とその構成について計画を立てる。	120分
	事後学修	PowerPointの画面構成との役割について習得しておくこと。	120分
14	【PowerPointの基本(2)】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（2）ワードアート・Smart Art・図の挿入・アニメーション効果・動画の挿入	
	この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を理解し、活用できる。	
	事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	ワードアート、Smart Art、図の挿入やアニメーション効果を利用したプレゼンテーションの作成する。	120分
15	【PowerPointのまとめ】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（3）プレゼンテーションの方法とまとめ	
	この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を使って一つのまとまったプレゼンテーションが作成できる。	
	事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	「まとめ」として一つのオリジナルなプレゼンテーションの企画と作成。	120分

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	鈴木 正章	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT (Information and Communication Technology) が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、学生が「情報活用能力」を高め、社会で活躍できる人材となるためのPCの様々な操作方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。

【履修条件】
毎時、出席できること。機器台数により、50名を限度とする。コンピュータ・ネットワーク初心者可。

【授業方法】
授業は教科書や配布資料を使って基礎的な事項のポイントについて解説し、教科書の中に設定されている課題にそって実習を行う。なお、採点の内容と講評は、後日ポータルサイトで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。				1					1		
②	インターネットや電子メールの基本的機能を理解し、安全に操作することができる。				1					1		
③	Word、Excelの基本的機能を理解し、適切に利用することができる。									1		
④	PowerPointを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。									1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	PCの基本的操作やWord・Excelの操作について、到達目標①③の観点から授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施し、十分に身につけているかを評価する。	10		40								50
小テスト等												
レポート等	授業中に作成する課題等において、到達目標①②③④の観点から十分に習得できているかを総合的に評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	5	60	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
評価の方法・配点・講評についてポータルサイトを使って受講者に全員に配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Windows10対応30時間でマスターWord&Excel2016	実教出版編集部	実教出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日および木曜日の１９：３０ー１９：５０の時間帯で授業講堂で受付ます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【授業内容の説明】	Windows10の画面構成および起動・終了、アプリケーションソフト起動・終了、学内パソコンの使い方、情報とメディアの活用法について学修する	
	この回の到達目標	学内パソコンを使って1回目の授業内容について操作ができる。	
	事前学修	教科書の「Windows10の基礎」についてあらかじめ熟読しておくこと。	120分
	事後学修	学内パソコン使用について習熟すること。	120分
2	【インターネット】【Eメール】【課題の提出方法】	学内ネットワークの活用 クラウドの活用	
	この回の到達目標	インターネットやEメールを利用できる。また、学内及び学外パソコンから課題が提出できる。	
	事前学修	Internet Explorerのについて熟読しておくこと	120分
	事後学修	様々なホームページを開き、学内メールも使ってみる。	120分
3	【wordの基本】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（1）文章の入力・文書の読み込み、保存および印刷	
	この回の到達目標	アプリword2016を使って起動・文字の入力・文書の保存・印刷・終了ができる。	
	事前学修	教科書の「Word2016の基礎的な使い方」について熟読しておくこと。	120分
	事後学修	Word2016の画面構成の理解と文字入力に習熟しておくこと。	120分
4	【文書作成】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（2）文書の書式設定	
	この回の到達目標	ページの書式設定した文書作成ができる。	
	事前学修	教科書の文書の作成について熟読しておくこと。	120分
	事後学修	文字入力と文書の書式設定に習熟しておくこと。	120分
5	【文書の編集(1)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（3）Wordの編集機能	
	この回の到達目標	文字のサイズやフォントの変更・箇条書き・表の作成及び編集ができる。	
	事前学修	教科書の編集機能について熟読をしておくこと。	120分
	事後学修	編集機能を使った様々な文書を作成すること。	120分
6	【文書の編集(2)】	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（4）Wordの編集機能	
	この回の到達目標	図・写真・テキストボックスを文書内に挿入できる。	
	事前学修	教科書の画像・テキストボックスの挿入を熟読しておくこと。	120分
	事後学修	画像やテキストボックスを挿入した文章の作成に慣れておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Excelの基本(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（1）表の作成	
	この回の到達目標	Excel2016の画面構成を理解した上で表を作成しデータの入力ができる。	
	事前学修	教科書のExcel2016の画面構成とそれらの機能について熟読し理解しておくこと。	120分
	事後学修	Excel2016を使って表を作成できるようにする。	120分
8	【Excelの基本(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（2）計算式の挿入	
	この回の到達目標	表の中に合計・平均などの数式を挿入し計算できる。	
	事前学修	教科書のExcel2016の様々な書式設定を理解しておくこと。	120分
	事後学修	数式の入力と様々な書式設定をして表を作成する。	120分
9	【Excelの基本(3)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（3）Excelのデータからグラフを作成	
	この回の到達目標	Excelのデータから様々なグラフ（棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ・複合グラフなど）を作成できる。	
	事前学修	教科書のグラフの挿入の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
	事後学修	表データから様々なグラフを作成する。	120分
10	【Excelの基本(4)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（4）グラフの編集	
	この回の到達目標	Excelで作成したグラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができる	
	事前学修	教科書のグラフの書式設定変更の仕方を熟読および理解しておくこと。	120分
	事後学修	表データからグラフを作成し、グラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができるようにしておく。	120分
11	【Excelの活用(1)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（5）Excelの活用（基本的な関数）	
	この回の到達目標	Excelで活用する関数を挿入することができる。	
	事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
	事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分
12	【Excelの活用(2)】	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（6）Excelの活用（相対参照・絶対参照）	
	この回の到達目標	順位づけ・四捨五入・判定・条件による集計の関数が活用できる。	
	事前学修	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。	120分
	事後学修	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【PowerPointの基本(1)】	PowerPointを活用したプレゼンテーション（1）PowerPointの基本的な使い方とプレゼンテーションの設計	
	この回の到達目標	PowerPointの画面構成を理解した上で、テーマに基づいたプレゼンテーションの設計ができる・	
	事前学修	プレゼンテーションの内容とその構成について計画を立てる。	120分
	事後学修	PowerPointの画面構成との役割について習得しておくこと。	120分
14	【PowerPointの基本(2)】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（2）ワードアート・Smart Art・図の挿入・アニメーション効果・動画の挿入	
	この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を理解し、活用できる。	
	事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	ワードアート、Smart Art、図の挿入やアニメーション効果を利用したプレゼンテーションの作成する。	120分
15	【PowerPointのまとめ】	PowerPoint活用したプレゼンテーション（3）プレゼンテーションの方法とまとめ	
	この回の到達目標	PowerPointの様々な機能を使って一つのまとまったプレゼンテーションが作成できる。	
	事前学修	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	「まとめ」として一つのオリジナルなプレゼンテーションの企画と作成。	120分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	大久保 いづみ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅰ」を未修得の者に限る。（再履修者向けクラス）

【授業方法】
講義動画を視聴し、そこで提示された課題に主体的かつ能動的に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でアナウンスする。 okubo.izumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
	事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
	事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
	事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
	事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
	事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
	事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
	事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
	事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
	事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
	事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。後学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
	事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	杉本 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎1」を未修得の者に限る。（再履修者向けクラス）

【授業方法】
講義動画を視聴し、そこで提示された課題に主体的かつ能動的に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Zoomを利用して実施するので、事前にメールにてアポイントメントをとること。sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
	事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
	事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
	事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
	事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
	事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
	事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
	事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
	事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
	事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
	事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する。後学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
	事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅰ」を未修得の者に限る。（再履修者向けクラス）

【授業方法】
講義動画を視聴し、そこで提示された課題に主体的かつ能動的に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】 グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】 グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】 プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室(9号館4階9405号) nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
	事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
	事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
	事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
	事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
	事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
	事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
	事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
	事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
	事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
	事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する。後学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
	事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 研究室にて 事前にメールで予約を取ること。 e-mail : akiko_fujita@lapinrose.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士，特許庁工業所有権審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容	弁護士登録20年の経験なども機会があればお話ししたいと思います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎Ⅰにおけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
令和3年度転籍・編入者等学生用クラス。別途、ポータルシステムで配信されるクラス分けのお知らせを確認すること。

【授業方法】
講義動画を視聴し、そこで提示された課題に主体的かつ能動的に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
	事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
	事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
	事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
	事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
	事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
	事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
	事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
	事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
	事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
	事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。後学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
	事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
令和3年度転籍・編入者等学生用クラス。別途、ポータルシステムで配信されるクラス分けのお知らせを確認すること。

【授業方法】
講義動画を視聴し、そこで提示された課題に主体的かつ能動的に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前にmiyazawa.takayoshi@nihon-u.ac.jpまで必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
	事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
	事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
	事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
	事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
	事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
	事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
	事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
	事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
	事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
	事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。後学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
	事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎1」を未修得の者に限る。（再履修者向けクラス）

【授業方法】
講義動画を視聴し、そこで提示された課題に主体的かつ能動的に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。						1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。						1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。						1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。						1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。						1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。						1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。						1	1	1	1	1	1
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
	事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
	事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
	事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
	事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
	事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
	事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
	事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
	事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
	事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
	事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅰの授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（次学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	和田 万紀	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループの一員として課題に取り組み、日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する 3 つの構成要素及び以下に示す能力と学修スキルを身に付ける。

【履修条件】
「自主創造の基礎1」を未修得の者に限る。（再履修者向けクラス）

【授業方法】
講義動画を視聴し、そこで提示された課題に主体的かつ能動的に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できる。							1	1	1	1	1	1
②	【論理的・批判的思考力】予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。							1	1	1	1	1	1
③	【問題発見・解決力】授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。							1	1	1	1	1	1
④	【挑戦力】授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。							1	1	1	1	1	1
⑤	【コミュニケーション力】グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							1	1	1	1	1	1
⑥	【リーダーシップ・協働力】グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。							1	1	1	1	1	1
⑦	【省察力】自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。							1	1	1	1	1	1
⑧	【学修スキル】プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。							1	1	1	1	1	1
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	4	2	2	2	2	2	4	2			20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	22	22	22	2	2	4	2			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封	2021	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分から13時まで。事前に予約すること。学科、学年、学生番号、名前、授業科目名、授業時間割、質問内容を明記する。 wada.maki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス	授業の趣旨や方法などに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業の趣旨や方法などに関して説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読するとともに、シラバスのチェックを行う。	120分
	事後学修	授業の趣旨・方法や到達目標の再確認を行う。	120分
2	日本大学の歴史を訪ねてみよう	日本大学の創立・発展の歴史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本大学の創立・発展の歴史について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、予習動画の視聴を行う。	120分
	事後学修	自主創造の精神を確認する。	120分
3	大学生になるために	教科書の第3章を使用し、大学の学びについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学の学びについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、高校と大学の違いを調べる。	120分
	事後学修	教科書第3章末の課題に取り組む。	120分
4	有権者としての自覚をもとう	教科書の第4章を使用し、主権者教育について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主権者としての有権者の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、主権者の役割について調べる。	120分
	事後学修	教科書第4章末の課題に取り組む。	120分
5	図書館を利用してみよう	図書館に実際に足を運び、図書館の利用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館の利用について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、図書館の入館方法を確認する。	120分
	事後学修	他大学のOPACを利用する。	120分
6	情報を収集・整理してみよう	教科書の第6章を使用し、情報の収集・整理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集・整理について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、情報リテラシーの概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第6章末の課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的思考を身につけよう	教科書の第7章を使用し、論理的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論理的思考について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読み、批判的思考の概念について調べる。	120分
	事後学修	教科書第7章末の課題に取り組む。	120分
8	論説を要約してみよう	教科書の第8章を使用し、論説の要約について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説の要約について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、新聞の社説を読む。	120分
	事後学修	教科書第8章末の課題に取り組む。	120分
9	論文と説明文の違いを理解しよう	教科書の第9章を使用し、論文と説明文の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文と説明文の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、文章の違いについて考える。	120分
	事後学修	教科書第9章末の課題に取り組む。	120分
10	レポートを書いてみよう	教科書の第10章を使用し、レポートの書き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、レポートの書き方について説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、著作権の重要性を考える。	120分
	事後学修	参考文献の引用、表記方法を確認する。教科書第10章末の課題に取り組む。	120分
11	プレゼンテーションをしてみよう	教科書の第11章を使用し、プレゼンテーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、プレゼンテーションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、プレゼンテーションの役割を考える。	120分
	事後学修	教科書第11章末の課題に取り組む。	120分
12	ディスカッションをしてみよう	教科書の第12章を使用し、ディスカッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディスカッションについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第12章末の課題に取り組む。興味あるテーマでディスカッションをする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベートをしてみよう	教科書の第13章を使用し、ディベートについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ディベートについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、興味あるテーマをいくつか提案する。	120分
	事後学修	教科書第13章末の課題に取り組む。	120分
14	自分のキャリアをデザインしてみよう	教科書の第14章を使用し、キャリア・デザインについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、自分のキャリアをデザイン説明することができる。	
	事前学修	教科書を読むとともに、キャリア・デザインの概念を調べる。	120分
	事後学修	教科書第14章末の課題に取り組む。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	教科書の第15章を使用し、これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する。後学期のグループ討論のテーマ案を確認する。	180分
	事後学修	後学期の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	大久保 いづみ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造” のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でアナウンスする。 okubo.izumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	杉本 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎2」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Zoomを利用して実施するので、事前にメールにてアポイントメントをとること。sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	テーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎Ⅱにおけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室(9号館4階9405号) nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎2におけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎2の授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学F Dガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 1 6 : 3 0 pm～ 1 7 : 3 0 pm 研究室にて 事前にメールで予約を取ること。 e-mail : akiko_fujita@lapinrose. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士，特許庁工業所有権審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士登録 2 0 年の経験なども機会があればお話ししたいと思います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	テーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎Ⅱにおけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
令和3年度転籍・編入者等学生用クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guideー		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎Ⅱにおけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
令和3年度転籍・編入者等学生用クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。						2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。						2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。						2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。						2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。						2	2	2	2	2	2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前にmiyazawa.takayoshi@nihon-u.ac.jpまで必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎Ⅱにおけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	末澤 国彦	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎Ⅱ」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。							2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。							2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。							2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。							2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。							2	2	2	2	2	2
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブック “自主創造”のためのLearning Guide－		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	テーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎Ⅱにおけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	和田 万紀	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
日本大学憲章を具体化する第一歩として「自主創造の基礎」を通し、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有することを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができる。

【履修条件】
「自主創造の基礎2」未修得者向け、再履修クラス。

【授業方法】		
参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加型（能動的）学習方法をとる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【論理的・批判的思考力】取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。								2	2	2	2	2	2
②	【問題題発見・解決力】取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。								2	2	2	2	2	2
③	【挑戦力】見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。								2	2	2	2	2	2
④	【コミュニケーション力】多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。								2	2	2	2	2	4
⑤	【リーダーシップ・協働力】チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。								2	2	2	2	2	2
⑥	【省察力】自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。								2	2	2	2	2	2
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	10	10					60
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					5	5					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2021年版 自主創造の基礎	日本大学法学部編	北樹出版	2021	教科書	必携
日本大学FDガイドブックー“自主創造”のためのLearning Guideー		※自主創造の教科書に同封		参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分から13時まで。事前に予約すること。学科、学年、学生番号、名前、授業科目名、授業時間割、質問内容を明記する。 wada.maki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマAについての検討	前学期最後の授業で指定したテーマAについて、背景説明・論点の抽出・検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
	事後学修	抽出された論点について整理をする。	120分
2	テーマAについてのグループごとの討論	テーマAについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
3	テーマAについてのグループごとのまとめ	テーマAについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
4	テーマAについてのグループごとの発表	テーマAについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマAについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
5	テーマBの選定	テーマAについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマBの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマA及びテーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。興味関心のあるテーマ候補を準備する。	120分
	事後学修	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。	120分
6	テーマBについてのグループごとの討論	テーマBについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマBについてのグループごとのまとめ	テーマBについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	180分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	60分
8	テーマBについてのグループごとの発表	テーマBについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分
9	教員・学生による講評	テーマBについて教員および学生による講評を行うとともに、テーマCの選定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマBについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点、課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・Bの発表を振り返る。	120分
10	テーマCについてのグループごとの討論	テーマCについて、グループごとの討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	自分の論点を整理し、まとめる。	120分
	事後学修	グループの他のメンバーの論点整理を評価する。	120分
11	テーマCについてのグループごとのまとめ	テーマCについて、グループごとのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	パワーポイントのスライド原案を作成する。	120分
	事後学修	パワーポイントのスライド完成版を点検する。	120分
12	テーマCについてのグループごとの発表	テーマCについて、グループごとの発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	発表のリハーサルを行う。	120分
	事後学修	次回発表に向けた反省点、課題を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教員・学生による講評	テーマCについて教員および学生による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、テーマCについて説明することができる。	
	事前学修	前回発表の反省点，課題をまとめる。	120分
	事後学修	テーマA・B・Cの発表を振り返る。	120分
14	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう	テーマABCで取り上げられた論点について小論文を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して，小論文でテーマABCについて説明することができる。	
	事前学修	小論文の文字数を確認する。書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する。参考文献の引用，表記方法を確認する。	120分
	事後学修	参考文献の引用，表記方法が適切であったか確認する。	120分
15	これまでの学びを振り返ってみよう	自主創造の基礎Ⅱにおけるこれまでの学びについて振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して，これまでの学びについて説明することができる。	
	事前学修	自主創造の基礎Ⅱの授業目的，到達目標を確認する。	180分
	事後学修	次年度（学期）の目標を設定する。	60分

科目名	日本国憲法	担当者	田上 雄大	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○							

【授業の概要】
憲法は、国の最高法規であり、国民主権・人権尊重・平和主義などの基本原則をベースとした「国家統治の基本法」であり、「人権保障のバイブル」である。本講義では、日本国憲法を素材とし、重要箇所の条文解釈を学修するが、同時に、最新の憲法問題を数多く知ること、憲法を身近なものとして学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、市民としての正しい政治的判断ができるようになるために、憲法（人権・統治機構）の基礎知識を身につけ、日本国憲法の将来を展望する能力を修得する。また、学説・判例の学修を通じて、法的・論理的思考力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式。配布したレジュメに沿って講義を行う。学生の興味関心などに応じて、シラバスの内容から多少変更される可能性がある。そのため、フレキシブルな姿勢で講義にのぞむことが求められる。なお、受講するうえで少なくとも日本国憲法や明治憲法の条文を必要に応じて講義中に確認できる状態にしておくこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	立憲主義をはじめとする憲法の基礎的な概念を説明できる。						2						
②	日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明できる。						2						
③	日本国憲法に定める統治機構の概要を説明できる。						2						
④	憲法問題を議論し、日本国憲法の将来を展望できる。						2						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	35	35								90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④に関連して、グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかどうかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	35	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じてリアクションペーパー等を配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法入門	東裕（編集）	一藝社	令和3年	参考書	任意
六法（デイリー六法、ポケット六法など）				参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後（水曜日 5 限、二部 2 限）に学内の開かれたスペースまたは講義する（した）講堂で行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【憲法の役割】	1、ガイダンスを行い、今後の講義の進め方について説明する。 2、憲法を学ぶうえで基礎となる憲法の役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の講義進行を理解し、これに向けた学習体制を確立すること及び憲法の役割を理解し、説明することができる。	
	事前学修	1、シラバスを確認し、今後の学修計画を構想しておくこと。 2、憲法とはどのようなものか考えておくこと。	120分
	事後学修	1、ガイダンスを踏まえて学修計画を具体化すること。 2、憲法の役割について整理しておくこと。	120分
2	【主権】	国家体制と主権とのかかわりなどを理解するとともに、主権の持つさまざまな意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、主権の概念を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	主権のさまざまな意味を整理し、まとめておくこと。	120分
3	【天皇の地位と権能】	諸外国にはない日本国憲法の特徴である天皇の憲法上の地位や皇室制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇や皇室制度の特徴を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	天皇や皇室制度の概要をまとめておくこと。	120分
4	【戦争放棄】	日本国憲法に関する議論の中心にあることが少なくない憲法9条の成り立ちや解釈について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、憲法9条の成立過程や解釈を理解し、そのうえで自衛権について説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	憲法9条の成立過程や自衛権の解釈についてまとめておくこと。	120分
5	【基本的人権とその限界】	基本的人権の歴史を理解するとともに、その種類や限界について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、基本的人権の性質を理解し、その保障と限界について説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	基本的人権の歴史や特徴をまとめておくこと。	120分
6	【法の下での平等】	差別と区別との違いを理解するとともに、憲法上の平等と平等の範囲外について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、さまざまな平等の種類を理解したうえで、平等の例外や弊害について説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	平等のあり方とその例外についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【思想・良心の自由】【信教の自由】【政教分離】		精神的な営みの役割を理解するとともに、内心の自由、信教の自由及び政教分離について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、人間の精神的な活動と憲法とのかかわりを理解したうえで、その限界や政教分離の意義について説明することができる。		
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。		120分
	事後学修	内心の自由や信教の自由の意義、政教分離の形態についてまとめておくこと。		120分
8	【表現の自由】【学問の自由】		表現の自由がさまざまな活動の根幹にあることを理解するとともに、その保障と制約の態様や学問の自由について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、表現の自由や学問の自由の重要性を理解し、その制約のあり方について説明することができる。		
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。		120分
	事後学修	表現の自由にかかわる問題についてまとめておくこと。		120分
9	【身体的自由権】【経済的自由権】		身体的自由権や経済的自由権の意義を理解するとともに、その特徴や事例について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、身体的自由権や経済的自由権の意義を理解し、さまざまな事例に照らして説明することができる。		
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。		120分
	事後学修	これまで学習した各種自由権についてまとめておくこと。		120分
10	【参政権】		参政権が国民固有の権利であることを理解するとともに、国民の主権の行使の一形態ともいえる参政権の重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、参政権の重要性を理解し、参政権にかかわる諸問題について説明することができる。		
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。		120分
	事後学修	参政権の意義についてまとめておくこと。		120分
11	【教育を受ける権利】		教育権の所在を理解するとともに、教育を受ける権利の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、教育権の所在を理解し、教育権のあり方について説明することができる。		
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。		120分
	事後学修	教育権にかかわる問題についてまとめておくこと。		120分
12	【労働者の権利】		労働者の権利の保障の重要性を理解するとともに、勤労権や労働基本権について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、勤労権や労働基本権を理解し、労働者が権利を持つことの重要性について説明することができる。		
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。		120分
	事後学修	労働者の権利についてまとめておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【立法】【行政】	国民の代表たる機関の役割を理解するとともに、立法権、行政権の性質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、立法権や行政権の役割を理解し、その特徴や限界について説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	国会や内閣の概要についてまとめること。	120分
14	【司法】【憲法尊重擁護義務】【憲法改正】	裁判員や憲法改正国民投票といった国民がかかわりうる制度のシステムを理解するとともに、司法権や裁判員制度、憲法尊重擁護義務、憲法改正について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、 1、司法権の役割や裁判員制度の概要 2、憲法尊重擁護義務の意義、憲法改正の概要 を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	司法の役割や裁判員制度の概要、憲法尊重擁護義務の意義、憲法改正の概要についてまとめること。	120分
15	【試験】【まとめ】	1、授業内試験を実施する。 2、これまでの講義のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学習したことを理解し、自らの見解を踏まえて論理的に説明することができる。	
	事前学修	今までの講義を振り返り、自らの見解を整理しておくことが望ましい。	180分
	事後学修	今までの講義や試験を踏まえて改めて見解をまとめることが望ましい。	120分

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
学祖山田顕義の生涯とその事績、日本法律学校の設立から、その後の日本大学の歴史を中心に、日本における高等教育の歴史・その役割について日本近現代史の流れをたどりながら講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本大学について深く知り、広く深い知識と多様な価値観、さらに精神の豊かさにもとづく、「帰属意識」・「愛校心」・「一体感」をもつために、学祖や日本大学の歴史に関する系統だった知識を修得し、学生が学ぶ大学の創設者・大学の歴史を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド授業です。事前に「レジュメ」、参考資料を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「小テスト」（授業内課題）ではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学祖山田顕義に関する事績と日本大学の歴史についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。			1						
②	日本大学の歴史を学び、学生が大学生としての学びに気づき、自立的に学ぶ姿勢を確立し生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。			1						
③	日本大学をはじめとする、日本の高等教育の歴史を知り、大学での学ぶ意義を説明できる。			1						
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テスト（授業内課題）により、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10	10									20
レポート等	3回のレポート（授業外課題）を課します。レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	40	30	10								80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート（授業外課題）は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、小テスト（授業内課題）は返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学の誕生 上・下	天野郁夫	中央公論新社（新書）	2009	参考書	推奨
高等教育の時代 上・下	天野郁夫	中央公論新社（叢書）	2013	参考書	推奨
新制大学の誕生 上・下	天野郁夫	名古屋大学出版会	2016	参考書	推奨
新制大学の時代	天野郁夫	名古屋大学出版会	2019	参考書	推奨
備考	ほかに授業時に参考文献を紹介します。				

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	教育制度史からみた日本大学史 山田顕義と幕末		本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日本大学の歴史を教育制度史から概述する。山田顕義の誕生から倒幕運動を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度史からみた日本大学の歴史、山田顕義の誕生から幕末の討幕運動について説明できる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		120分
	事後学修	教育制度史からみた日本大学の歴史、山田顕義と幕末の討幕運動について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		120分
2	山田顕義と明治維新 山田顕義と「建白書」		明治初期の日本について、主に岩倉使節団の意義について概述し、山田顕義と明治維新、とくに岩倉使節団との関係について考える。岩倉使節団に随行した山田が帰国後、著した「建白書」を読み、彼の考えを知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と明治維新について説明できるとともに、山田「建白書」について自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「山田顕義と明治維新」、山田「建白書」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	山田顕義と明治維新、山田「建白書」について講義の内容を復習し、教科書を参照しながら、ノートに整理しておく。		150分
3	山田顕義と法典編纂		条約改正と法典編纂の関係を概述し、山田顕義が法典編纂に如何に関わったのかを考える。また、「日本における法典編纂の必要性」について解答しピア評価を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と法典論争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「法典編纂」「民法典論争」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	山田顕義と法典編纂について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
4	山田顕義と大津事件		大津事件の概述し、政府・司法界の対応と山田顕義の関わり合いを考える。さらに山田顕義の小テストをおこない、そのピア評価を実施する。小テストは解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と大津事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「大津事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	山田顕義と大津事件について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
5	帝国大学の誕生-日本における高等教育機関の誕生と発展-		大学の誕生、フンボルト型大学、アメリカ型大学 東京大学や官立専門学校の設立、帝国大学の誕生、司法制度の整備における人材の確保と私立法律学校の役割など、近代国家としてスタートした日本の高等教育機関について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における高等教育機関の誕生について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「日本における高等教育機関の誕生」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	日本における高等教育機関の誕生について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
6	日本法律学校の創設 山田顕義の死と日本法律学校		山田顕義は、日本大学の創設者ではなく、学祖とよばれる。東京府に提出した学校の設置認可書に、山田の名前はない。何故、学祖とよばれるのか、山田の日本法律学校の創設にはたした役割を考える。さらに小テストをおこない、ピア評価を実施する。小テストについて解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学祖山田顕義と日本法律学校の創設、山田の死と日本法律学校について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「日本法律学校」「山田の死と日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	学祖山田顕義と日本法律学校の関係について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	松岡康毅と日本法律学校		松岡康毅をむかえて日本法律学校は再出発し、日本大学と称し専門学校令によって法令上、専門学校となった。大学と称したもの、法令上は大学ではなかった。専門学校令以前の高等教育機関のおかれた状況を把握し、専門学校令のもつ意味、専門学校令と日本大学の関係を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「松岡康毅と日本法律学校」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「松岡康毅と日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	「松岡康毅と日本法律学校」「専門学校令と日本大学」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
8	大学令と日本大学		大学令によって日本大学は名実ともに大学となった。大正時代を概観して原敬内閣の政策の意義をとらえ、大学令と日本大学、日本大学のさらなる発展を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学令と日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「大学令」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと		90分
	事後学修	大学令と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
9	澤柳事件と瀧川事件		澤柳事件・瀧川事件をつうじて「大学の自治」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、澤柳事件・瀧川事件、「大学の自治」「教授会の自治」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「澤柳事件・瀧川事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	澤柳事件・瀧川事件、「大学の自治」「教授会の自治」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
10	日本大学の法人化ー私立大学の法人組織をめぐってー		私立大学の法人化の意味するところと、それをめぐる日本大学をはじめとする私立大学の取り組みを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の法人化、私立大学の法人化について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「私立大学の法人化」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	日本大学の法人化、私立大学の法人化について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
11	戦時体制下の日本大学 天皇主権説		戦時体制下の大学、太平洋戦争と日本大学、また天皇主権説について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、戦時下の日本大学、また天皇主権説について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「戦時体制下の日本大学」「天皇主権説」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	「戦時体制下の日本大学」「天皇主権説」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
12	天皇機関説事件		天皇機関説事件と「大学の自治」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天皇機関説事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「天皇機関説事件」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	天皇機関説事件と「大学の自治」について講義の内容を復習し、ノートに整理しておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	美濃部の天皇機関説		美濃部達吉の天皇機関説について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、美濃部達吉の天皇機関説について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「美濃部達吉の天皇機関説」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	美濃部の天皇機関説について講義内容を復習し、ノートに整理しておくこと。	150分
14	新制日本大学		新制日本大学から、高度成長期の日本大学の発展・拡充、日大紛争、さらに「自主創造」を掲げた日本大学の戦後の軌跡を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新制日本大学の誕生から、高度成長時代の日本大学、さらに「自主創造」を掲げた、現在の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されている「新制日本大学の誕生から今日の日本大学まで」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	新制日本大学から「自主創造」について講義の内容を復習し、ノートに整理しておく。	150分
15	授業外課題の解説、「日本大学の歴史」に関する講義総括		授業外課題解説、講義総括をおこなう。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	解説を踏まえ、再度授業外課題に取り組む。参考書を読む。	150分

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	共通科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
学祖山田顕義の生涯とその事績、日本法律学校の設立から、その後の日本大学の歴史を中心に、日本における高等教育の歴史・その役割について日本近現代史の流れをたどりながら講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本大学について深く知り、広く深い知識と多様な価値観、さらに精神の豊かさにもとづく、「帰属意識」・「愛校心」・「一体感」をもつために、学祖や日本大学の歴史に関する系統だった知識を修得し、学生が学ぶ大学の創設者・大学の歴史を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド授業です。事前に「レジュメ」、参考資料・「参考図」などを配布して、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「小テスト」（授業内課題）ではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学祖山田顕義に関する事績と日本大学の歴史についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						1						
②	日本大学の歴史を学び、学生が大学生としての学びに気づき、自立的に学ぶ姿勢を確立し生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						1						
③	日本大学をはじめとする、日本の高等教育の歴史を知り、大学での学ぶ意義を説明できる。						1						
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テスト（授業内課題）により、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10	10									20
レポート等	3回のレポート（授業外課題）を課します。レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	40	30	10								80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート（授業外課題）は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、小テスト（授業内課題）は返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学の誕生 上・下	天野郁夫	中央公論新社（新書）	2009	参考書	推奨
高等教育の時代 上・下	天野郁夫	中央公論新社（叢書）	2013	参考書	推奨
新制大学の誕生 上・下	天野郁夫	名古屋大学出版会	2016	参考書	推奨
新制大学の時代	天野郁夫	名古屋大学出版会	2019	参考書	推奨
備考	ほかに授業時に参考文献を紹介します。				

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	教育制度史からみた日本大学史 山田顕義と幕末		本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、日本大学の歴史を教育制度史から概述する。山田顕義の誕生から討幕倒幕運動を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度史からみた日本大学の歴史、山田顕義の誕生から討幕倒幕運動について説明できる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		120分
	事後学修	教育制度史からみた日本大学の歴史、山田顕義の誕生から討幕倒幕運動について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		120分
2	山田顕義と明治維新 山田顕義と「建白書」		明治初期の日本について、主に岩倉使節団の意義について概述し、山田顕義と明治維新、とくに岩倉使節団との関係について考える。岩倉使節団に随行した山田が帰国後、著した「建白書」を読み、彼の考えを知る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と明治維新、山田「建白書」説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「山田顕義と明治維新」、山田「建白書」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	「山田顕義と明治維新」、山田「建白書」について講義の内容を復習し、教科書を参照しながら、ノートに整理しておく。		150分
3	山田顕義と法典編纂		条約改正と法典編纂の関係を概述し、山田顕義が法典編纂に如何に関わったのかを考える。また、「日本における法典編纂の必要性」について解答しピア評価を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と法典論争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「法典編纂」「民法典論争」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	山田顕義と法典編纂について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
4	山田顕義と大津事件		大津事件の概述し、政府・司法界の対応と山田顕義の関わり合いを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義と大津事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「大津事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	山田顕義と大津事件について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
5	帝国大学の誕生－日本における高等教育機関の誕生と発展－		大学の誕生、フンボルト型大学、アメリカ型大学 東京大学や官立専門学校の設立、帝国大学の誕生、司法制度の整備における人材の確保と私立法律学校の役割など、近代国家としてスタートした日本の高等教育機関について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における高等教育機関の誕生について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「日本における高等教育機関の誕生」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	日本における高等教育機関の誕生について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
6	日本法律学校の創設 山田顕義の死と日本法律学校		山田顕義は、日本大学の創設者ではなく、学祖とよばれる。東京府に提出した学校の設置認可書に、山田の名前はない。何故、学祖とよばれるのか、山田の日本法律学校の創設にはたした役割を考える。さらに小テストをおこない、ピア評価を実施する。小テストについて解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学祖山田顕義と日本法律学校、山田の死と日本法律学校について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「日本法律学校」「山田の死と日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	学祖山田顕義と日本法律学校の創設の関係について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	松岡康毅と日本法律学校		松岡康毅をむかえて日本法律学校は再出発し、日本大学と称し専門学校令によって法令上、専門学校となった。大学と称したもの、法令上は大学ではなかった。専門学校令以前の高等教育機関のおかれた状況を把握し、専門学校令のもつ意味、専門学校令と日本大学の関係を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「松岡康毅と日本法律学校」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「松岡康毅と日本法律学校」の参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	「松岡康毅と日本法律学校」「専門学校令と日本大学」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
8	大学令と日本大学		大学令によって日本大学は名実ともに大学となった。大正時代を概観して原敬内閣の政策の意義をとらえ、大学令と日本大学、日本大学のさらなる発展を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学令と日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「大学令」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	大学令と日本大学について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
9	澤柳事件と瀧川事件		澤柳事件と瀧川事件をつうじて「大学の自治」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、澤柳事件と瀧川事件、「大学の自治」「教授会の自治」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「澤柳事件と瀧川事件」に関する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	澤柳事件と瀧川事件、「大学の自治」「教授会の自治」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
10	日本大学の法人化－私立大学の法人組織をめぐって－		私立大学はの法人化の意味するところと、それをめぐる日本大学をはじめとする私立大学の取り組みを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本大学の法人化、私立大学の法人化について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「私立大学の法人化」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	日本大学の法人化、私立大学の法人化について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
11	戦時体制下の日本大学 天皇主権説		戦時体制下の大学、太平洋戦争と日本大学、また天皇主権説について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、戦時下の日本大学、天皇主権説について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「戦時体制下の日本大学」「天皇主権説」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	「戦時体制下の日本大学」「天皇主権説」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	
12	天皇機関説事件		天皇機関説事件と「大学の自治」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天皇機関説事件について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されている「天皇機関説事件」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	「天皇機関説事件」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。	150分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	美濃部の天皇機関説		美濃部達吉の天皇機関説について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、美濃部達吉の天皇機関説について説明できるとともに、自らの見解を述べることができる。		
	事前学修	事前に配布されている「美濃部達吉の天皇機関説」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	美濃部の天皇機関説について講義内容を復習し、ノートに整理しておくこと。		150分
14	新制日本大学から今日の日本大学		新制大学の誕生の意義を考える。新制日本大学から、高度経済成長期の日本大学の発展・拡充、日大紛争、さらに「自主創造」を掲げた日本大学の戦後の軌跡を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新制日本大学の誕生から、高度経済成長期の日本大学、さらに「自主創造」を掲げた、現在の日本大学について説明できるとともに、自らの見解を述べることができる。		
	事前学修	事前に配布されている「新制日本大学の誕生から今日の日本大学」に関連する参考資料を精読し、その要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	新制日本大学から「自主創造」について講義の内容を復習し、教科書を参照してノートに整理しておく。		150分
15	授業外課題解説、「日本大学の歴史」に関する講義総括		授業外課題解説、講義総括をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、山田顕義、日本大学の歴史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	再度、本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	解説を踏まえ、再度授業外課題に取り組み。参考書を読む。		150分

Ⅱ 群

総合科目

Ⅱ 群

総合科目

科目名	アジアの歴史 I	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
孫文の死から長征までの近代中国の歴史について政治史を中心に展開しつつも、この期に展開された政治思想・政治体制をテーマと取り上げて講義を進める。20世紀はじめに共和国となった中国は、国内政治は混乱し、しかも日本をふくめた欧米列強に主権が奪われた状態にあった。1920年代から40年代の中国史の展開を、「孫文の三民主義」、蒋介石の台頭、「毛沢東の農村革命論」、などを取り上げて詳述したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国近代史についての知識・理解を発展・深化させるために、基礎的な事項を確認しつつ、この時代の基本的な認識を獲得し、出来事の歴史的な意義や、その出来事と歴史との関係づけられる能力を修得する。さらに学んだ認識を論理的に説明できる能力を修得する。

【履修条件】
履修条件はありません。歴史に興味がある学生、中国史に興味がある学生で、自立的に学ぶ学生なら大歓迎です。

【授業方法】
オンデマンド授業です。各回の授業では「レジュメ」を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「小テスト」（授業内課題）ではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	20世紀初頭から日中戦争までの中国近代史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。【知識】					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、20世紀初頭から日中戦争までの中国における、国民党と中国共産党の動向を把握し、学んだことをもとに、自らの見解を明らかにできる。【態度・習慣】					2	2	2	2				
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。【態度・習慣】					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テスト(授業内課題)により、(1)講義内容が把握できているか、(2)講義内容が深化されているかを評価する。	10	15									25
レポート等	3回のレポート(授業外課題)を課します。レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	25	25	25								75
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート(授業外課題)は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、小テスト(授業内課題)は返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
革命とナショナリズム 1925-1945 〈シリーズ中国近現代史③〉	石川禎浩	岩波書店(岩波新書)	2010	教科書	必携
中国ナショナリズム	小野寺史郎	中央公論新社(中公新書)	2017	参考書	推奨
東アジア国際政治史	川島真・服部龍二編	名古屋大学出版会	2007	参考書	任意
世界大戦と国民形成 新編 原典中国近代思想史 第4巻	坂元ひろ子ほか編	岩波書店	2010	その他	任意
国家建設と民族自救 新編 原典中国近代思想史 第5巻	野村浩一ほか編	岩波書店	2010	その他	任意
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017	その他	任意
備考	適宜、参考文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国史の近代とはー開講にあたってー／清末の三つの政治潮流	本科目の趣旨や授業運営の方法を説明する。そのうえで清末の三つの政治潮流と民国の成立を講述する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、清末の三つの政治潮流と民国の成立について説明できる。	
	事前学修	(1) シラバスを熟読して履修を検討する。(2) テキストを購入して読んでみる。	120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
2	民国の成立から袁世凱政権へ	辛亥革命によって成立した共和国は、大総統の地位が、なぜ孫文から袁世凱へ権力の移譲が行われなければならないのか、また袁世凱の死によって中国はどのようなようになったかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民国の成立から袁世凱政権、さらに袁世凱の死の意味するものについて説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
3	第一次世界大戦と中国	第一次世界大戦期において、中国はどのようにかわったかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次世界大戦と中国について説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
4	第一次大戦後の中国と世界情勢	第一次大戦後の中国の国際的地位の向上と世界情勢について考える。その後、第一次大戦期と第一次世界大戦後の中国についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次大戦後の中国と世界情勢を説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業内容をまとめる。	120分
5	中国共産党の結成と国共合作の成立	中国共産党の結成と国共合作の成立について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国共産党の結成と国共合作の成立について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
6	孫文の死 五・三〇運動	孫文の死から五・三〇運動までの中国の政治・社会状況について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、孫文の死から五・三〇運動までの中国の政治・社会状況についてを説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	孫文の三民主義		孫文の三民主義を中心に、革命思想を考える。その後、孫文の革命思想、三民主義について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孫文の革命思想、三民主義を説明できるとともに、自らの見解を述べることができる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。		120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。		120分
8	蒋介石の台頭と中国共産党		蒋介石の台頭とともに、国共合作のパートナーであった共産党との関係がどのようなになったのか、その影響も含めて、その意義を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、蒋介石の台頭と中国共産党の関係を説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。		120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。		120分
9	国民政府による「中国の統一」		国民政府による「中国の統一」は、どのように展開したか、その意義や特徴を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民政府による中国の統一について説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。		120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。		120分
10	共産党の革命運動と農村根拠地の拡大		共産党の革命運動と農村根拠地の拡大を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、共産党の革命運動と農村根拠地の拡大について説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。		120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。		120分
11	毛沢東の農民革命論		毛沢東の農民革命論について、その内容・意味するところ、さらに特徴を考える。毛沢東の農民革命論の小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストの解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、毛沢東の農民革命論について、その内容・意味や特徴を説明できるとともに、自らの見解を説明できる。説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。		120分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。		120分
12	農村革命の実際と紅軍		農村革命の実際と紅軍という組織について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、農村革命の実際と紅軍という組織について説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。		120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中華ソヴィエト共和国の成立	中華ソヴィエト政府の成立とその意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中華ソヴィエト政府の成立とその意味について説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
14	長征と毛沢東	長征と毛沢東について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、長征と毛沢東について説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	180分
	事後学修	プリント（レジュメ・史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	150分
15	授業外課題の解説、「アジアの歴史Ⅰ」に関する講義総括	授業外課題解説、講義総括をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民国の成立から国民党による「全国統一」、国民政府と中国共産党との関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
	事後学修	解説をふまえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度、授業外課題に取り組む。。	90分

科目名	アジアの歴史Ⅱ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
1920年代から1940年代までの中国近代史を学ぶ。第一次世界大戦後、中国の国際的な地位は向上し、列強は高揚する中国のナショナリズムに協調して対応していった。そのなかで、二十一ヵ条要求を契機に日中関係は悪化し、1930年代には満州事変、日中戦争へと、日本との戦争の時代をむかえた。これらがどのように推移し、両国間のその後の歴史を規定したかを講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
すでに知っている第一次世界大戦後の中国近代史の基礎的な事項を、さらに発展・深化させるために、歴史的な展開を論理的に説明でき、さらに出来事の歴史的な意義や、その出来事がのち歴史をいかに規定したかを関係づけられる能力を修得する。20世紀初めの日中関係はいかなる展開をしたを説明できる能力を修得する。

【履修条件】
履修条件はありません。歴史に興味がある学生、中国史に興味がある学生で、自立的に学ぶ学生なら大歓迎です。

【授業方法】		
オンデマンド授業です。各回の授業では「レジュメ」を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「小テスト」（授業内課題）では、次の授業において確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	1920年代から40年代の、中国近代史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、1920年代から40年代までの中国における、国民党と共産党の協力と対立、日本の侵略を把握し、学んだことをもとに、自らの見解を明らかにできる。					2	2	2	2				
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テスト（授業内課題）により、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10	15									25
レポート等	3回のレポート（授業外課題）を課します。レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	25	25	25								75
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート（授業外課題）は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、小テスト（授業内課題）は返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
革命とナショナリズム 1925-1945 〈シリーズ中国近現代史③〉	石川禎浩	岩波書店（新書）	2010	教科書	必携
中国ナショナリズム	小野寺史郎	中央公論新社（新書）	2017	参考書	推奨
東アジア国際政治史	川島真・服部龍二編	名古屋大学出版会	2007	参考書	任意
華北駐屯日本軍	櫻井良樹	岩波書店	2015	参考書	推奨
世界大戦と国民形成 新編 原典中国近代思想史 第4巻	坂元ひろ子ほか編	岩波書店	2010	参考書	任意
国家建設と民族自救 新編 原典中国近代思想史 第5巻	野村浩一ほか編	岩波書店	2010	その他	任意
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017	その他	任意
備考	適宜、参考文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 張作霖時代の終わり 新しい世界秩序		張作霖時代の終わりと新しい世界秩序に関して、中国と日本との関係を考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、張作霖時代の終わりと新しい世界秩序に関して中国と日本との関係を説明できる。		
	事前学修	(1) シラバスを熟読して履修を検討する。(2) テキストを購入して読んでみる。		120分
	事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。		120分
2	第一次世界大戦と二十一条要求		二十一条要求と列強の対応と、二十一条要求が日中両国の関係のターニングポイントであったことを考える。その後、二十一条要求と満洲問題についての小テストをおこなう。同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、二十一条要求が日中両国の関係のターニングポイントであったことを説明できる。		
	事前学修	配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・予習)に答える。		120分
	事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。		120分
3	満洲事変はなぜ起こったのか？ ー国民の意識と軍人の考えー		国民の意識と軍人の考えを通じて、満洲事変にいたる過程を考える	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、国民の意識と軍人の考えを通じて、満洲事変にいたる過程を説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。		120分
	事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業内容をまとめる。		120分
4	謀略作戦の主体と将来の戦争に備えた作戦		満洲事変をおこした主体が考えた謀略作戦と将来の戦争に備えた作戦について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、満洲事変をおこした主体が考えた謀略作戦と将来の戦争に備えた作戦を説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。		120分
	事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどを1500字程度にまとめる。		120分
5	満洲事変の推移 張学良の不抵抗と日本の軍事行動		満洲事変の推移を把握するとともに、張学良の不抵抗と日本の軍事行動について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、満洲事変の推移を把握するとともに、張学良の不抵抗と日本の軍事行動説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。		120分
	事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどにまとめる。		120分
6	リットン調査団の派遣		リットン調査団の派遣について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、リットン調査団の派遣について説明できる。		
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」(前回の復習・今回の予習)に答える。		120分
	事後学修	プリント(史料・地図など)や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	リットン報告書		リットン報告書について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1リットン報告書について説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
8	日本の国際連盟脱退		日本の国際連盟脱退について考える。満洲事変について的小テストをおこなう。同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の国際連盟脱退について説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
9	北清事変と支那駐屯軍の創設		北清事変と支那駐屯軍の創設のもつ意味を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北清事変と支那駐屯軍の創設とその歴史的意義を説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
10	第一次世界大戦と支那駐屯軍の変遷		支那駐屯軍の変遷を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、支那駐屯軍の変遷を説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
11	華北分離工作と国民政府の対応		満洲事変以降の日本の対中政策の展開と中国の対応を考える。その後、満洲事変以降の日本の対中政策の展開と中国の対応について的小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、満洲事変以降の日本の対中政策の展開と中国の対応について説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
12	支那駐屯軍の変貌と盧溝橋事件		支那駐屯軍の変貌と盧溝橋事件の関係について考える。
	この回の到達目標	の到達目標①②に関連して、支那駐屯軍の変貌と盧溝橋事件の関係について説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	西安事変	民衆の抗日意識の高揚と西安事変、西安事変の歴史的な意味について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西安事変とその意味を説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	120分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	120分
14	日中戦争	日中戦争の展開と国際関係の中での意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日中戦争の展開と国際関係の中での意味を説明できる。	
	事前学修	テキスト・配布参考資料を読んで「事前確認プリント」（前回の復習・今回の予習）に答える。	180分
	事後学修	プリント（史料・地図など）や授業中のメモをもとに授業でえられた知見や気づきなどをまとめる。	150分
15	授業外課題の解説、「アジアの歴史Ⅱ」に関する講義総括	授業外課題解説、講義総括をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、満洲事変、盧溝橋事件と支那駐屯軍の関係、日中戦争について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
	事後学修	解説をふまえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度、授業外課題に取り組む。	90分

科目名	学際教養A【東京の社会文化史】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 大岡担当の「東京の社会文化史」では、都市論のさまざまなアプローチを織り込みながら、明治・大正・昭和の東京に関するトピックスを掘り下げ、この巨大都市の変化とその特質を考察する。その際、特に地域社会構造（コミュニティ）や生活文化などに重点を置きながら検討する。そして受講生とともにこれからの都市への向き合い方を考える場としたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」（Bコース）の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
東京の過去・現在・未来に関心を持つ者、街歩きが好きな者を歓迎する。単位だけが欲しいという者、参加意欲のない者の履修はお断りします。

【授業方法】
レジュメとパワーポイント・画像・映像を使用し、時折ディスカッションを通じて参加型の形式を取り入れる。毎回授業内課題の提出を求める。感染状況次第だが、課外でフィールドワークを行うこともある。レスポンドで出欠確認する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 リアクションペーパー。ピア・レビュー。フィールドワーク。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、レポート試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小レポート・作業課題により、(1)講義内容が把握できているか、(2)講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにより、内容の理解と授業への参加度を評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評をClassroomで発表

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。講義中に読書リストを配布する。				

【オフィスアワー】
火曜16:20～17:30。メールでアポイントを取ることが望ましい。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史資料や公文書の保存・公開の重要性。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	「東京の社会文化史」とはどういう講義か	さまざまな都市へのアプローチを踏まえ、本講義の狙いと視点、講義概要を説明する。評価方法、単位取得条件、注意事項、文献紹介についても言及する。	
	この回の到達目標	本講義の狙いを理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読して、頭に入れておく。特に講義の趣旨や全体像を概観しておく。	120分
	事後学修	ガイダンス資料を熟読しながら、履修を検討する。	120分
2	東京遷都	江戸幕府を崩壊させた明治新政府は、なぜ江戸への遷都を選んだのだろうか。	
	この回の到達目標	東京遷都の歴史過程と遷都戦略の意味を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
3	明治の東京改造	江戸幕府の崩壊によって荒廃した街をどのように復興させていくのか。明治の東京改造の試みや構想を分析し、封建都市から近代都市へ脱却の意味を考える。	
	この回の到達目標	明治のまちづくりの歴史的意義を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。なぜ東京を改造しなくてはならなかったを考えてみる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
4	下町の社会構造と暮らし	江戸との連続性の強い下町の住民像と生活様式を分析し、明治の下町の地域社会のあり方から考える。	
	この回の到達目標	「下町」的なものの原型を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「下町」についての自分のイメージをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
5	山の手の主婦の日記を読む	明治30年代の山の手の主婦が書いた日記を分析し、下町とは相対的に異なった「山の手」の生活様式や地域社会のあり方について考える。	
	この回の到達目標	「山の手」的なものの原型を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「小林信子日記」を読んで、レポートをまとめる（宿題）。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
6	最暗黒の東京——都市下層社会論	都市スラム（都市下層社会）がどのようなものであり、なぜ形成されたのか、そこを「最暗黒」と名指しするような視線（眼差し）が市民の間に生まれたのはなぜか。	
	この回の到達目標	都市空間の格差や差別についての視点を獲得する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「スラム」についての自分のイメージをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	工業化と地域社会 ——新下町論	東京の工業化に伴って生まれた地域社会＝「新下町」の社会構造や生活様式の特質について分析する。	
	この回の到達目標	「下町」的なものの変容について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。月島は「下町」か？、自分の答えをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
8	郊外の思想と住宅地形成	東京の人口が飽和し都市問題が発生する中で、「郊外」の価値が発見される。そのなかでイギリスの「田園都市」思想が日本に紹介されるが、日本的な変容を遂げ定着していく。	
	この回の到達目標	日本における郊外住宅地形成の過程を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「郊外」についての自分のイメージをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
9	百貨店と商業空間の変容	百貨店の誕生を取り上げ、都市空間の消費化について考える。	
	この回の到達目標	都市の発展と消費社会化との関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「百貨店」に関わる自分の体験をまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
10	関東大震災と朝鮮人虐殺	関東大震災の被害を概観したうえで、その直後に起こった朝鮮人虐殺事件の実態とその背景について考える。	
	この回の到達目標	都市空間における差別と不平等への視点を獲得し、「共生の作法」の重要性を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。関東大震災について知っていることを書き出す。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
11	震災復興と都市構造の変容	関東大震災後の復興事業の実施過程や内容を検討する。	
	この回の到達目標	土地区画整理事業をはじめとする復興事業の意義や問題点を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。震災復興で出来た施設を挙げる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
12	東京の盛り場論(1)―浅草	江戸時代から続く宗教的盛り場である浅草を取り上げ、変容し続ける娯楽空間のダイナミズムを考える。	
	この回の到達目標	「盛り場」とは何か、その活力の源泉についての考え方を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。盛り場とは何か、自分なりの考えをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	東京の盛り場論(2)―銀座・新宿	震災後の「モダン東京」を象徴する盛り場である銀座・新宿を取り上げ、都市構造の変容と盛り場の変容との関係を考える。	
	この回の到達目標	都市構造の変容と盛り場の変容との関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。銀座と新宿のイメージを自分なりにまとめる	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
14	戦争と東京 ――地域の組織化と空襲による破壊	戦時下における都市住民の組織化と地域社会の変容、および戦争末期の東京大空襲の実態を踏まえ、「都市は戦争できない」というテーゼについて考える。	
	この回の到達目標	戦争という「非日常」の経験を媒介にして、都市の「日常」への視点を得る。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。自分の地域の町内会や空襲について調べておく。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分
15	まとめ 都市への向き合い方（ディスカッション）	近代都市東京の歴史を素材として、都市の諸相について検討してきた本講義を振り返り、「都市への向き合い方」を考えるディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	自分なりの「都市への向き合い方」を思考し、伝達することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を振り返る。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。	120分

科目名	学際教養A【儒教的世界】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。齋藤担当のの社会文化論Aでは【中国の社会文化】について講義をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド授業です。各回の授業では「レジュメ」を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「小テスト」(授業内課題)ではピア評価し、次の授業においてポイントの確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テスト（授業内課題）により、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。。	10	10									20
レポート等	3回のレポート（授業外課題）を課します。レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	30	30	20								80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート（授業外課題）は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、小テスト（授業内課題）は返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめて学ぶ中国思想	渡邊義浩ほか	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店（ジュニア新書	2004	参考書	推奨
中国の論理	岡本隆司	中央公論新社（新書）	2016	参考書	推奨
テーマで読み解く 中国の文化	湯浅邦弘ほか	ミネルヴァ書房	2016	参考書	任意
三国志演義	井波律子	岩波書店（新書）	1994	参考書	任意
中国近代史	岡本隆司	筑摩書房（新書）	2013	参考書	任意
備考	教科書は使用しない。上記以外の参考書については授業のなかで、適宜、紹介してゆく。				

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 漢民族 王朝と宦官		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。その上で漢民族・王朝と宦官について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、漢民族、王朝と宦官について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	120分
2	帝王の呼び名、省 王朝について		中国では、本名のほかにいくつもの「名前」が付けられ、呼び方などについて社会のルールができてきた。名前と社会ルールの関係、省の名の由来、王朝の変遷を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、帝王の呼び名、省の名の由来、王朝について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、帝王の呼び名、省、王朝について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
3	文字と文献の歴史		中国における文字や文献、さらに文書行政について検討したい。文字と記録紙の使用・普及があつて各種の行政が可能となり、また円滑に処理できるようになった。文字と記録紙の発明・普及と文書行政の関係を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文字・記録紙の普及と文書行政の関係について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、文字（漢字）や文書行政について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
4	中国の神話・聖王について		中国の神話の成立と後世への影響について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国の神話・聖王について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、中国の神話・聖王について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
5	革命思想・讖緯思想		革命思想と讖緯思想が、王朝の政治・支配の正当性・儀式形成に大きな影響をあたえ、また支配者が援用したことを考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、革命思想・讖緯思想が王朝の政治や支配体制に大きな影響を与えたことについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、革命思想・讖緯思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
6	孔子の生涯と思想		儒教的世界の思想を知るうえで不可欠な孔子の生涯を思想を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孔子の生涯を思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、孔子の生涯を思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	孔子のことば		『論語』にみられる孔子のことばを読み解き、その意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孔子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、孔子のことばについて要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
8	墨子の生涯と思想 墨子のことば		墨子の生涯と思想と墨子のことばについて理解し、孔子の思想と比較して考える。その後、孔子と墨子に関する小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、墨子の生涯と思想と墨子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、墨子の生涯と思想と墨子のことばについて要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
9	孟子の生涯と思想		儒教的世界の思想を知るうえで不可欠な孟子の生涯と思想を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孟子の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、孟子の生涯と思想について要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。。		150分
10	孟子のことば		『孟子』にみられる孟子のことばを読み解き、その意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、孟子のことばについて説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、孟子のことばについて要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。。		150分
11	荀子の生涯と思想 荀子のことば		荀子の生涯と思想と荀子のことばについて理解し、孔子の思想・孟子の思想と比較して考える。その後、孔子と孟子、荀子に関する小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前近代中国における法・法と統治について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、前近代中国における法・法と統治について要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
12	天命思想と皇帝制度		天命思想と皇帝制度について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天命思想と皇帝制度について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、天命思想と皇帝制度について要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	中華思想と天下		中華思想の形成と天下を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中華思想と天下について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、前近代中国の家について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
14	前近代の東アジアの国際秩序		前近代における、中国を中心とした東アジア世界の国際秩序について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前近代の東アジアの国際秩序について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、前近代の東アジアの国際秩序について要点をノートに整理しておくこと。	180分
	事後学修	授業の内容を復習し、さらに適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
15	授業外課題解説、中国に関する「社会文化論A」に関する講義総括		授業外課題解説、講義総括を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する社会文化論について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	150分
	事後学修	解説をふまえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度、授業外課題に取り組む。	90分

科目名	学際教養A【沖縄表象文化論】	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定される。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 前嵩西担当の本講義では「沖縄表象文化論」と題して、人類学を中心とした人文科学の方法論を主に用い、近現代の沖縄に関する具体的なできごとやイメージを扱う。特異な文化と歴史を有する沖縄を取り巻く現代社会の政治的状況を鑑みつつ、構造的差別、国民国家、平和主義といった沖縄とともに問うべき普遍的問題群について考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を充実させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
文化人類学を履修済みの者、初回に参加し講義の趣旨をよく理解した者を対象とする。

【授業方法】
毎回の討議、レビューシートもしくはそれに代わるコメントやレポートの提出（可能な場合はグループワーク）を中心とする。可能であればゲスト・スピーカーを囲んでの討論や小規模なフィールドワークを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レビューシート、小レポート、フィールドワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、(1)講義内容が把握できているか、(2)講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	前嵩西一馬、勝方＝稲福恵子	昭和堂	2010年	教科書	必携
備考	資料等適宜配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日14:30～15:00もしくは昼休み。あるいはメールにて相談可。maetakenishi.kazuma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文化イベントや市民講座などにおける企画運営。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会における文化の役割やその政治性についての議論を通して教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 沖縄と学ぶことの意味について考える	沖縄学についての歴史、現状および沖縄を対象とする様々な人文・社会科学の諸領域についての概略を述べる	
	この回の到達目標	本講義の趣旨を理解すると同時に自分なりの問題設定を確認する。	
	事前学修	シラバスを熟読し、沖縄を学ぶことの自分なりの意義について言語化し整理しておく。	120分
	事後学修	配付資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
2	琉球・沖縄の歴史と言語 1	沖縄における言語的世界の概観とそのリアリティについて考える。	
	この回の到達目標	沖縄という具体的な場所で、ことばを通してことばを考えることの不可能性と可能性を議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、ことば（特に標準語や方言）について自分なりの経験や定義をまとめておく	120分
	事後学修	沖縄における言語的世界についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
3	琉球・沖縄の歴史と言語 2	沖縄における言語的世界のリアリティをめぐる諸問題について考える。	
	この回の到達目標	沖縄の歴史という具体的な時間でのなかで、ことばを通してことばを考えることの不可能性と可能性を議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、ことば（特に標準語や方言）について自分なりの困難な経験や印象的なできごとをまとめておく。	120分
	事後学修	沖縄における言語的世界についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
4	文化の翻訳 1	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品や論考を通して考える。	
	この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自らの沖縄のイメージについてまとめておく。	120分
	事後学修	沖縄を扱う具体的な作品についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
5	文化の翻訳 2	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品や論考を通して考える。	
	この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自らの沖縄のイメージがどのように作られてきたのかまとめておく。	120分
	事後学修	沖縄を扱う具体的な作品についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
6	文化の翻訳 3	日本語の世界において沖縄のことばがどのように扱われているか具体的な作品やできごとを扱った批評や論考を通して考える。	
	この回の到達目標	文学作品や現代美術、映画や舞台などを扱った批評や論考を通して、文化の可能性と問題点について議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、社会における沖縄のイメージがどのように作られてきたのかまとめておく	120分
	事後学修	沖縄を扱う具体的な批評や論考についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や論争などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	芸術・芸能を味わう 1		沖縄の伝統芸能におけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。 ゲストスピーカーを囲んで討議を予定する。	
	この回の到達目標	伝統芸能の世界における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分が触れたことのある沖縄の伝統文化のイメージをまとめておく。		120分
	事後学修	沖縄の伝統文化についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。		120分
8	芸術・芸能を味わう 2		現代美術におけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。	
	この回の到達目標	現代美術の舞台における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分が触れたことのある沖縄のアートのイメージをまとめておく。		120分
	事後学修	沖縄を中心とする日本における現代美術についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。		120分
9	芸術・芸能を味わう 3		観光やショービジネスを中心とするメディアにおけることばやパフォーマンスの可能性と問題について考える。	
	この回の到達目標	観光やショービジネスを中心とする沖縄の文化産物における諸問題を紹介し、文化の持つリアリティを共有する。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、沖縄のイメージがどのように形成されてきたかを自分なりにまとめておく		120分
	事後学修	沖縄を中心とする日本における文化産物についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。		120分
10	宗教と信仰の世界 1		王権論と世界観について考える。	
	この回の到達目標	沖縄と日本における人類学・民俗学で扱われてきた王権論について考える。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分なりの宗教や信仰のイメージについてまとめておく。		120分
	事後学修	沖縄と日本における王権論や宗教的世界観についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。		120分
11	宗教と信仰の世界 2		シャーマニズムについて考える。	
	この回の到達目標	沖縄と日本における人類学・民俗学で扱われてきたシャーマニズム論について考える。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分自身が持っている宗教的世界観や信仰に対するリアリティについてまとめておく。		120分
	事後学修	沖縄と日本におけるシャーマニズム論や宗教的世界観についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。		120分
12	戦争の記憶と基地問題 1		具体的な戦争の記憶と基地問題を巡る問題群を通して、共同体について考える。	
	この回の到達目標	戦争の記憶を語り継ぐ世代的な意義と基地問題を通して共同体のあり方を議論する。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自分自身が接してきた戦争関連のニュースや基地問題に関する言説についてまとめておく。		120分
	事後学修	戦争の記憶と基地問題についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された資料などに触れる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦争の記憶と基地問題 2	具体的な戦争の記憶と基地問題を巡る問題群を通して、国民国家について考える。	
	この回の到達目標	戦争の記憶を語り継ぐ世代的な意義と基地問題を通して国民国家のあり方を議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、戦争の記憶と基地問題をめぐる議論についてまとめておく。	120分
	事後学修	戦争の記憶と基地問題についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された作品などに触れる。	120分
14	復帰と反復帰について	同化と異化の問題を文学と政治の領域で考える。	
	この回の到達目標	アイデンティティやエスニシティといった分析概念を整理しつつ、そこからこぼれ落ちるリアルな民族誌的風景を考える。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、日本と沖縄の関係性をめぐる議論についてまとめておく。	120分
	事後学修	復帰と反復帰についての資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された論考などに触れる。	120分
15	まとめ	これまでのトピックをもとに、沖縄と学ぶアリーナの内と外で討議を行う。	
	この回の到達目標	講義内容とレビューシートへのフィードバックを振り返り、沖縄の文化や社会に対するイメージの変化について議論する。同時に自分自身の言葉が生まれることによって、世界が活気を帯びる様子を共有する。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、沖縄の文化や歴史について自分なりの言葉で整理をする。	120分
	事後学修	これまでの資料やノートを見直して講義内容を復習する。期末レポートを作成する。	120分

科目名	学際教養B【近代日本の戦争と社会】	担当者	大岡 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 大岡担当の「近代日本の戦争と社会」では、戦争・軍隊と社会との関係を歴史的に考察する。なぜ人びとは兵士となることを受け入れたのか？、庶民はどのように戦争と関わりを持ったのか？、兵隊はどのように戦い、どのように死んでいったのか？ 戦時下の兵士や市民のリアルに迫るとともに、彼らの意識や行動を社会構造の問題として考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
本講義は軍事史や戦史を扱うものではない。初回に出席して、講義の趣旨を良く理解してから履修すること。勉学意欲のない者や単位だけが欲しいという者は履修しないほしい。

【授業方法】
レジュメとパワーポイント、映像を使用する。毎回リアクションペーパーの提出を求める。レスポンドで出欠確認をする。こちらの問題提起に対し、自分なりに思考し、あるいは表現するなど、授業に積極的に参加して欲しい。 感染状況にもよるが、展示施設への見学会も行う予定。 教材の配布、学生への連絡、課題の提出にはClassroomを使用する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 リアクションペーパー。フィールドワーク。ピア・レビュー。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、レポート試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにより、毎回の理解度とともに授業への参加度を評価する。また授業中のディスカッション・質疑での発言を評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評はポータルサイトClassroomに掲示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の軍隊	吉田裕	岩波新書	2002	参考書	推奨
日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実	吉田裕	中公新書	2018	参考書	推奨
餓死した英霊たち	藤原彰	ちくま学芸文庫	2018	参考書	推奨
兵たちの戦争 手紙・日記・体験記を読み解く	藤井忠俊	朝日新聞社	2019	参考書	推奨
備考	使用しない。読書リストは授業中に配布する。				

【オフィスアワー】
火曜16:20～17:30。メールでアポイントを取ることが望ましい。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容	歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション——戦場を想像することの意味	現代日本人の戦争観の一端を紹介し、それを踏まえながら本講義の問題意識や狙い、視角を説明する。 あわせて、講義計画や履修上の注意について述べる。	
	この回の到達目標	本講義の趣旨を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読する。講義の趣旨を良く理解する。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
2	国民国家と軍隊	近代における戦死者の数の増大や戦争形態の変化をもたらした国民国家について比較史的に考える。	
	この回の到達目標	国民国家概念の理解の上に立って、国民国家と戦争・軍隊との関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。国民国家についての知識を確認しておく。	120分
	事後学修	国民国家と軍隊との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
3	戦争とナショナリズム——日清戦争を中心に	日清戦争を事例に戦争とナショナリズムとの関係について考える。	
	この回の到達目標	ナショナリズムが戦争や軍隊に与える影響と、戦争や軍隊がナショナリズム形成に与える影響について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。ナショナリズムについて知っていることをまとめる。	120分
	事後学修	戦争とナショナリズムとの関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
4	総力戦体験と戦争違法化——第一次世界大戦の意義	総力戦という形態をと、それが生み出した惨禍が戦争の違法化という新しい理念を生み出したことを中心に、第一次世界大戦の歴史的意義を考察する。	
	この回の到達目標	戦争社会史のうえでの第一次世界大戦の歴史的意義について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦について知っていることをまとめる。	120分
	事後学修	戦争の歴史にとっての第一次世界大戦の意義を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
5	「良兵」を作り出す社会——軍隊と社会構造	なぜ徴兵制が受容されたのかを社会構造の問題として考える。	
	この回の到達目標	軍隊を支える社会的な基盤を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の軍隊についてのイメージをまとめておく。	120分
	事後学修	軍隊と社会構造との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
6	戦場の兵士——軍事郵便や兵士の日記を読む	兵士が家族などに当てた手紙や兵士の日記を素材に、戦場での兵士の体験や意識を探る。	
	この回の到達目標	戦場の実態や兵士の置かれた状況をリアルに認識するとともに、日本軍兵士の蛮行の構造的要因を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦場では何が起こっていたか、知っていることをまとめる。	120分
	事後学修	日本軍兵士の蛮行の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	マス・メディアと「大衆の国民化」 ——満州事変を例として	満州事変期の排外主義的ナショナリズムの高揚についてのマス・メディアの役割を考える。	
	この回の到達目標	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。満州事変についての知識を確認しておく。	120分
	事後学修	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
8	総力戦体制と国民(1) ——国民の精神・身体の動員	総力戦体制下の国民動員政策について考察する。	
	この回の到達目標	思想・身体の動員システムについて理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「総力戦」に関する知識を確認しておく。	120分
	事後学修	国民の精神・身体の動員メカニズムを中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
9	総力戦体制と国民(2) ——強制と同意	総力戦体制下の国民動員がなぜ可能であったのかを、システムの強制性と同意の契機の両側面から考察する。	
	この回の到達目標	総力戦体制と国民との関係を構造的・重層的に捉える視点を獲得する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。国民は戦争の被害者であるか?、考えをまとめる。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分
10	しょうけい館（戦傷病者資料館）見学会	九段下にあるしょうけい館（戦傷病者資料館）を見学し、等身大の兵士の姿や軍隊のシステム、戦場の実態と過酷な従軍体験、戦後の傷痍軍人が置かれた状況等について学ぶ。	
	この回の到達目標	展示物から戦争や軍隊のリアリティを学ぶ。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。しょうけい館のWEBサイトをみて、施設の概要を確認しておく。	120分
	事後学修	見学で感じたこと、学んだことをレポートにまとめる。	120分
11	ピア・レビューとディスカッション	しょうけい館の見学レポートについてのピア・レビューを実施、そこで出た論点について全体でディスカッションする。	
	この回の到達目標	多様な意見に触れることで、戦争や軍隊のリアリティに関する理解や戦争と社会との関係についての学びを深める。	
	事前学修	しょうけい館の見学レポートを執筆する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容やピア・レビューでの指摘を振り返る。関連する文献を読む。	120分
12	兵士たちの無残な死 ——餓死・玉砕死・特攻死	映像や手記、証言などを通じて、戦場における悲惨な状況を明らかにし、その構造的要因について考える。	
	この回の到達目標	戦場の実態や兵士たちの死に方の特異性や構造的要因を理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦死に意味があるのか?、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	無残な死の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。関連する文献を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	チョウ・ムンサンの遺書 ——極限下の人間から何を学べるか？	B C級戦犯として処刑された朝鮮人軍属の遺書を読み、戦争における生と死、罪と罰について考える。	
	この回の到達目標	戦争における加害と被害の重層性という問題への理解を深める。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦犯や戦争裁判についての知識を確認する。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
14	戦争の「傷痕」 ——忘れられた戦争犠牲	「忘れられた皇軍」などの映像を視聴し、戦争の記憶と忘却に関わる諸問題を考える。	
	この回の到達目標	「戦争の記憶」をめぐる問題の所在を理解し、それについて考えることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦争はいつ終わるのか、戦後はいつ終わるのか？、自分なりの答えをまとめる。	120分
	事後学修	日本の戦後処理の特質を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。	120分
15	おわりに	まとめのディスカッション	
	この回の到達目標	講義内容を振り返り、あるいはディスカッションにおける他の受講生の発言に触れることを通じ、自らの達成や認識の変化を確認し、今後の課題を考えることができる。	
	事前学修	講義内容を復習する。講義を通じて、自分の戦争観、さらには人間観や社会観どのような変化があったのか、ディスカッションでの発言を考えておく。	120分
	事後学修	プリントやノートを見直して講義内容・ディスカッションでの議論を復習する。 関連する文献を読む。期末レポートを執筆する。	120分

科目名	学際教養B【「儒教国家」の別の側面】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。齋藤担当の社会文化論Bでは【中華世界の諸相】について講義をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。適宜、資料・史料・地図・各種の「参考図」などを配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「振り返りシート」を使った小レポートとピア評価	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テスト（授業内課題）により、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10	10									20
レポート等	3回のレポート（授業外課題）を課します。レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②③の能力が身についているかを評価する。	30	30	20								80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート（授業外課題）は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、小テスト（授業内課題）は返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめて学ぶ中国思想：思想たちとの対話	渡邊義浩ほか編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店（ジュニア新書）	2004	参考書	推奨
中国の論理	岡本隆司	中央公論新社（新書）	2016	参考書	推奨
テーマで読み解く 中国の文化	湯浅邦弘編著	ミネルヴァ書房	2016	参考書	任意
科挙と官僚制	平田茂樹	山川出版社	2017	参考書	任意
儒教の歴史〔宗教の世界史 5〕	小島 毅	山川出版社	2017	参考書	任意
仏教の歴史2〔宗教の世界史 4〕	末木文美士編	山川出版社	2018	参考書	任意
道教の歴史〔宗教の世界史6〕	横手 裕	山川出版社	2015	参考書	任意
備考	教科書は使用しない。上記以外の参考書については授業のなかで、適宜、紹介してゆく。				

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」の担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 「四書五経」		本科目の趣旨・授業内容・授業運営の方法を説明する。その上で、「四書五経」の成立と展開を考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「四書五経」について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、「四書五経」の要点をノートにまとめる。	120分
2	朱子学の成立		朱子学が南宋時代に成立し、のちには儒教のなかで朱子学が体制教学となり、朝鮮・日本にも大きな影響を及ぼした。朱子学について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、朱子学の成立について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、朱子学の成立について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、朱子学の成立について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
3	陽明学の成立		朱子学は、南宋時代に儒教の正統とされ、元代の科挙で重視され、明新時代には官学とされた。しかし16世紀初めには、朱子学の在り方を批判する風潮も生まれ、陽明学が成立した。陽明学について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、陽明学について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、陽明学の成立について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、陽明学の成立について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
4	九品官人法と門閥貴族		秦代に官僚制度が整った中国では、多くの行政官が必要となった。科挙以前にも官吏登用法が実施され人材が確保された。官僚とし求められた文物や基準は、実務を遂行していくにあたっての知識・技能ではなかった。そこで求められたものは何かを考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、九品官人法と門閥貴族について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、九品官人法と門閥貴族について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、九品官人法と門閥貴族について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
5	科挙の創設・発展・完成		科挙は隋代で成立し、20世紀初頭までつづいた。試験による選抜であるが、そこに求められたのは実務を遂行するための基礎的な知識ではなかった。社会的指導者に求められたものと、実際の政治との関係について考える。その後、中国の官吏登用法についての小テストをおこなひ、同時に別紙にピア評価をおこなう。また、小テストの解説をする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科挙の導入・発展・展開について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、科挙の導入・発展・展開について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、科挙の導入・発展・展開について適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分
6	唐宋変革 士大夫の成立 士と庶の別		唐から宋への変容を把握し、士大夫の成立、士と庶の別について社会的な視点から考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、唐宋変革・士大夫の成立について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、唐宋変革・士大夫の成立について要点をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	授業の内容を復習し、唐宋変革・士大夫の成立について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	民間信仰と宗教・祖先祭祀と儒教・菩薩信仰と仏教・道教		中国では、支配者・知識人が価値をおいた思想や信仰のほかに、民間信仰があった。農民や漁民、商人の精神的な拠りどころになった信仰や、祖先信仰と儒教、菩薩信仰と仏教、さらに道教について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民間信仰と宗教・祖先祭祀と儒教・菩薩信仰と仏教・道教について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、民間信仰と宗教・祖先祭祀と儒教・菩薩信仰と仏教・道教について要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	授業の内容を復習し、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分	
8	老子の生涯と思想 老子のことば		道教の源流の一つとなった老荘思想のうち、老子の生涯と思想について、そのことばを把握して考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、老子の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、老子の生涯と思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	授業の内容を復習し、老子の生涯と思想について適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分	
9	莊子の生涯と思想 莊子のことば		道教の源流の一つとなった老荘思想のうち、莊子の生涯と思想について、そのことばを把握して考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、莊子の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、莊子の生涯と思想について要点をノートに整理しておくこと。	120分	
	事後学修	授業の内容を復習し、莊子の生涯と思想について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	120分	
10	韓非子の生涯と思想 韓非子のことば		法家思想の集大成といわれるのが韓非子である、その韓非子の生涯と思想について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、韓非子の生涯と思想について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、韓非子の生涯と思想について要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	授業の内容を復習し、韓非子の生涯と思想について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分	
11	法家思想－法と術・勢－		韓非子に代表される法家思想が中国の法と社会においてどのような影響を及ぼしたかを、法と術・勢から考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国社会における法家思想－法と術・勢－について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、法家思想－法と術・勢－について要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	授業の内容を復習し、中国社会における法家思想－法と術・勢－について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分	
12	伝統中国法 「儒教国家」の別の側面		伝統中国法の視点から「儒教国家」の別の一面を考える。その後、伝統中国法についての小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。また小テストの解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、伝統中国法について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、伝統中国法について要点をノートに整理しておくこと。	90分	
	事後学修	授業の内容を復習し、伝統中国法について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。	150分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	歴史観と歴史書（含 新出土文献の発見）		中国では、古来、具体的な年代と事柄を記録する習慣があった。歴史書の体裁と歴史観を取り上げ、正史の編纂が王朝支配に欠かせないものとなったことを考え、あわせて新たに発見された史料にもふれていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、歴史観と歴史書について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、歴史観と歴史書について要点をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	授業の内容を復習し、歴史観と歴史書について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
14	『三国志』と『三国志演義』		『三国志』と『三国志演義』の成立を比較し、官撰書の特徴や民衆世界のヒーローについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、『三国志』と『三国志演義』について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを精読し、『三国志』と『三国志演義』について要点をノートに整理しておくこと。		180分
	事後学修	授業の内容を復習し、『三国志』と『三国志演義』について、適宜参考文献にあたってノートに整理しておく。		150分
15	授業外課題解説、中国についての「社会文化論B」に関する講義総括		中国についての「社会文化論B」に関する授業外課題解説、講義総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国に関する社会文化論について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。		
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。		150分
	事後学修	解説を踏まえ、再度、授業外課題を解く。		90分

科目名	学際教養B【マイノリティ・スタディーズ】	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法や政治・行政、経済、ジャーナリズムなどの仕組みや社会で起こる様々な現象は、それぞれの地域における規範や伝統・慣習、意識などといった文化にも規定されている。この講義では、特定の時代・地域を対象としてとりあげ、社会システムや社会現象と文化との関わりを考察する。 前嵩西担当の本講義では「マイノリティ・スタディーズ」と題して、現代社会における少数者を取り巻く諸問題を扱う。具体的な文化理論と時事的問題を紹介しつつ、当事者性、エスニシティ、ジェンダーなどの領域を、言語・文化・権力を軸に考察する。誰かの言葉と世界や社会が天秤にかけられゆめく均衡に、自分の考えや経験を小さな錘として載せ置く作業を共有する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「社会と文化」(Bコース)の「教養基幹科目」での学修を発展させるとともに、専門科目での学修に幅や奥行きをもたらすために、特定の時代・地域における社会構造や社会現象について、文化的なアプローチから説明する能力を修得する。またこの学修を通じて、異文化に対して開かれた態度で接する能力を習得する。

【履修条件】
文化人類学を履修済みの者、初回に参加し講義の趣旨をよく理解した者を対象とする。特に当事者性を有する、もしくは強い関心のある者の参加を望む。

【授業方法】
毎回の討議、グループワーク、レビューシートの提出、場合によってはレポートの提出を求める。可能であれば、ゲスト・スピーカーを囲みでの討論や小規模なフィールドワークを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レビューシート、小レポート、フィールドワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の社会や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
②	特定の社会や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	社会や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。履修状況に応じて小テスト等の評価が含まれる場合もある。定期試験か授業内試験か、あるいはレポート試験にするかは、受講者数や学生の理解状況をふまえて調整する。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10										10
レポート等	テキストを読んで課されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①に到達しているかを評価する。	10										10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次回の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。資料等適宜配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日14:30～15:00もしくは昼休み。以下のメールで事前連絡すること。 maetakenishi.kazuma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文化イベントや市民講座などにおける企画運営。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実社会におけるエンパワーメントの重要性やアイデンティティ・ポリティクスの課題などの議論を通して教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション マイノリティと学ぶことの意味について考える	マイノリティ・スタディーズという領域の可能性と問題について考える。	
	この回の到達目標	本講義の趣旨を理解すると同時にマイノリティという言葉が指し示す可能性と問題点について確認する。	
	事前学修	シラバスを熟読し、マイノリティという言葉が指し示す可能性と問題点について自分なりにまとめておく。	120分
	事後学修	配付資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
2	マイノリティとは誰か。	本講義で扱う様々なマイノリティの問題群をどのように学んでいくか、その形式を自ら選択するために議論する。	
	この回の到達目標	マイノリティの問題と可能性を学ぶことの意義とその方法について議論する。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、自分なりにマイノリティを学ぶ意義とその方法についてまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
3	少数的意見を聴く 1	ホームレスから移民、就職活動や婚活まで、様々な社会的問題と個人的活動を、マイノリティの視点を通して見つめたときに浮かび上がるシステムについて整理する。特に資本主義の問題について扱う。	
	この回の到達目標	資本主義社会における諸条件を考察することで見えてくるマイノリティの姿を考える。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「経済」についてマイノリティと学ぶ意義についてまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
4	少数的意見を聴く 2	ジェンダー、LGBTについて具体的な作品やニュースを通して議論する。	
	この回の到達目標	「性」という最も個人的であるがゆえに社会的な条件を考察することで見えてくるマイノリティの意味を考える。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「性」についてマイノリティと学ぶ意義についてまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
5	少数的意見を聴く 3	ジェンダー、JGBTについて具体的な作品やニュースを通して議論する。	
	この回の到達目標	「性」という最も個人的であるがゆえに社会的な条件を、具体的な作品を通して考察することで見えてくるマイノリティの可能性を考える。	
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「性」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された文献や作品などに触れる。	120分
6	少数的立場に立つ 1	集団における個のあり方を、エスニシティ、人種問題という条件を通して議論する。	
	この回の到達目標	国家や共同体の中に存在する個人のリアリティを、エスニシティ・人種という条件を通して歴史的に考える。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめる。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された事件や作品などに触れる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	少数的立場に立つ2		エスニシティ、人種問題について具体的な作品や事件を通して議論する。	
	この回の到達目標	国家や共同体の中に存在する個人の可能性を、エスニシティ・人種という条件を通して民族誌的に考える。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。		120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品や論考などに触れる。		120分
8	少数的立場に立つ3		マイノリティの立場について、同化と異化の視点から議論する。ゲスト・スピーカーを囲む予定。	
	この回の到達目標	マイノリティの立場について、具体的な声を通して同化と異化の視点から議論する。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、「エスニシティ」・「人種」についてマイノリティと学ぶ可能性についてまとめておく。		120分
	事後学修	ゲスト・スピーカーの語りを中心に、配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。		120分
9	当事者とは誰か		当事者性をめぐる問題について議論する。	
	この回の到達目標	マイノリティの語りに接するときには不可避に生じる当事者性の問題について考える。		
	事前学修	前回のゲスト・スピーカーの語りに応答するレポートを作成する。		120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品や論考などに触れる。		120分
10	研究者とは誰か		マイノリティを代弁するもしくは代表する立場を取る「研究者」という立場の功罪について議論する。	
	この回の到達目標	マイノリティを研究する行為のメタレベルを問う議論の倫理的意味について考える。		
	事前学修	前回の講義内容を振り返りつつ、マイノリティと学ぶ可能性における研究者の役割についてまとめておく。		120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考などに触れる。		120分
11	病と老いについて		「マイノリティになる」最も身近な事例のひとつとして、疾病と老化をとりあげ議論する。	
	この回の到達目標	制度や文化におけるマイノリティの役割について考える。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティという概念を自らの実人生の文脈に位置づける作業を行う。		120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された作品などに触れる。		120分
12	多文化主義について		マイノリティの声に対して社会がどのように応答してきたか、その具体的政策のひとつとして、多文化主義の歴史と課題を紹介する。	
	この回の到達目標	アメリカ社会における多文化主義の功罪について具体的な資料をもとに議論する。		
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、多文化主義について自分のことばでまとめておく。		120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考などに触れる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	学校文化について	いじめ問題やスクール・カーストなど我々の社会の重要な装置としての教育に潜む課題について、マイノリティの視点から議論する。	
	この回の到達目標	誰もが共有する学校空間における「マイノリティ」の経験について言語化する作業を行う。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、自らの学校生活について自分のことばで振り返っておく。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考や作品などに触れる。	120分
14	社会運動について	日本における典型的なマイノリティの社会問題とされてきた基地問題を取り上げ、「現地との温度差」を軸に議論する。	
	この回の到達目標	具体的なドキュメンタリー作品を通して、基地問題について議論する。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティの諸問題と自分自身の社会性を切り結ぶ作業を共有する。	120分
	事後学修	配布資料やノートを見直して講義内容を復習する。講義や討議において紹介言及された論考や作品などに触れる。	120分
15	まとめ	これまで扱ってきた様々なマイノリティの問題群をもとに、その可能性を中心にまとめの討議を行う。	
	この回の到達目標	これまで学んできたことを振り返り、自分の言葉で整理する。	
	事前学修	前回までの講義内容を振り返りつつ、マイノリティの諸問題と可能性をめぐって自分自身との繋がりをあらためて考える。	120分
	事後学修	これまでの資料やノートを見直して、講義内容を復習する。期末レポート作成の準備をする。	120分

科目名	科学の歴史 I	担当者	栗原 岳史	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会は科学技術に依存しているため、例えば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解がますます求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合はなおさらである。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的背景を踏まえた考察ができる人材となるために、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
スライドと配布資料を用いた講義方式を中心にして授業を行う。授業では、毎回の授業ごとに、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を簡潔で明瞭にまとめたコメントとして提出することを出席者の義務とする。このコメントは成績評価方法の「討論・発表等」に含まれる。コメントについては次回以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における科学技術の役割について説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、社会における科学技術に関連した諸問題を見出し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、筆記試験により評価する(状況によりレポートに変更する場合もある。レポートの詳細は授業で連絡する。)	30	30									60
小テスト等												
レポート等	課題に関する文献の書評をレポート(中間レポートとする)として提出することで、到達目標③に関わる能力が身についているか評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(小レポート)	到達目標③に関わる能力が身についているか、毎回の授業で、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめて提出したコメントを「小レポート」として評価する。			30								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業，もしくはポータルシステム等にてコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会の中の科学』	中島秀人	放送大学教育振興会	2008	参考書	任意
『<科学の発想>をたずねて自然哲学から現代科学まで』	橋本毅彦	左右社	2010	参考書	任意
『科学の社会史―ルネサンスから20世紀まで』	古川安	南窓社，1989年；増訂版，2001 年；ちくま学芸文庫版，2018 年		参考書	任意
『科学史技術史事典 [縮刷版]』		弘文堂	1994年	参考書	任意
『日本語の作文技術』	本多勝一	朝日文庫，1982年(新版，2015年)	1982年	参考書	任意
『レポートの組み立て方』	木下是雄	ちくま学芸文庫	1990年	参考書	任意
備考	その他，高校生のときに使用した世界史の教科書があれば，それも参考書とする。				

【オフィスアワー】
授業時間の前後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、「科学」とは何か？	・授業の目的、進め方、評価方法を説明する。 ・人類が遺した遺跡史料などを通じて、人類が自然についてどのように見ていたのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人類が自然についてどのような見方をしていたのかを説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
2	「科学」の始まり	古代オリエント文明における「科学」（自然に関する体系的な見方のこと）の特徴について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、古代オリエント文明の「科学」の特徴について理解して、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
3	古代ギリシアの「科学」	古代ギリシア時代の代表的な「科学」者であるタレスからアリストテレスの自然観について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、古代ギリシア時代の代表的な「科学」、すなわち当時の自然観について、その特徴を理解して、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
4	ヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」	古代ギリシア文明を引き継いだヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、古代ギリシア文明を引き継いだヘレニズム・古代ローマ時代の「科学」について、その特徴を理解して、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
5	アラビアの「科学」	古代ギリシアの「科学」ひきつぎ、イスラム教を中心としたアラビア世界で発達した「科学」について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アラビアの「科学」について、その特徴を理解し、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
6	12世紀ルネサンスと中世ヨーロッパの「科学」	中世欧州における「科学」の発達と、アラビアの「科学」を導入した欧州で起こった「12世紀ルネサンス」について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、12世紀ルネサンスと中世ヨーロッパの「科学」について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	近代科学の誕生(1) コペルニクスの天文学と地動説	近代科学のはじまりとなったコペルニクスの天文学と地動説について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コペルニクスの天文学と地動説について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
8	近代科学の誕生(2) ティコとケプラーの天文学	コペルニクスの地動説を発展させたティコとケプラーの天文学について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ティコとケプラーの天文学について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
9	近代科学の誕生(3) ガリレオ・ガリレイの科学	近代科学の成立においてガリレオ・ガリレイの成し遂げた業績について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガリレオ・ガリレイの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
10	近代科学の誕生(4) ニュートンと力学の成立	近代科学の誕生をもたらしたといえる力学におけるニュートンの業績について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ニュートンの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
11	近代科学の誕生(5) ラヴォワジエと近代化学の成立	近代的な化学の成立において重要な貢献をなしたラヴォワジエの業績について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ラヴォワジエの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
12	産業革命と科学・技術・社会 (1) 産業革命を支えた発明家たち	18世紀英国で起こり、世界を大きく変革させることになった産業革命について、それを支えた発明家たちの業績を中心に、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命を支えた発明家たちの業績について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	産業革命と科学・技術・社会（2）産業革命と社会の変革	18世紀英国で起こり、世界を大きく変革させることになった産業革命について、どのような社会変革がもたらされたのか、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、産業革命における社会変革について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
14	進化論の成立ーダーウィンと進化論	ダーウィンの進化論がどのように成立したのかについて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ダーウィンの進化論について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
15	科学の制度化と職業的科学者の誕生	19世紀にすすんだ科学の制度化と職業的な科学者の誕生したことについて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学の制度化と職業的な科学者の誕生について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

科目名	科学の歴史Ⅱ	担当者	栗原 岳史	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会は科学技術に依存しているため、例えば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解がますます求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合はなおさらである。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史（特に近現代）を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的背景を踏まえた考察ができる人材となるために、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
スライドと配布資料を用いた講義方式を中心にして授業を行う。授業では、毎回の授業ごとに、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめたコメントとして提出することを出席者の義務とする。このコメントは成績評価方法の「討論・発表等」に含まれる。コメントについては次回以降の授業でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会における科学技術の役割について説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、社会における科学技術に関連した諸問題を見出し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関わる事例や問題に関する各能力が身についているか、レポートにより評価する。レポートの詳細は授業で連絡する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	課題に関する文献の書評をレポート(中間レポートとする)として提出することで、到達目標③に関わる能力が身についているか評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(小レポート)	到達目標③に関わる能力が身についているか、毎回の授業で、その日の授業に関する疑問、質問、その他意見を、簡潔で明瞭にまとめて提出したコメントを「小レポート」として評価する。			30								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業，もしくはポータルシステム等にてコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会の中の科学』	中島秀人	放送大学教育振興会	2008	参考書	任意
『<科学の発想>をたずねて自然哲学から現代科学まで』	橋本毅彦	左右社	2010	参考書	任意
『科学の社会史―ルネサンスから20世紀まで』	古川安	南窓社，1989年；増訂版，2001年；ちくま学芸文庫版，2018年		参考書	任意
『科学史技術史事典〔縮刷版〕』		弘文堂	1994年	参考書	任意
『日本語の作文技術』	本多勝一	朝日文庫，1982年(新版，2015年)	1982年	参考書	任意
『レポートの組み立て方』	木下是雄	ちくま学芸文庫	1990年	参考書	任意
『科学者ってなんだ?』	梶雅範編	丸善	2007年	参考書	任意
備考	その他，高校生のときに使用した世界史の教科書があれば，それも参考書とする。				

【オフィスアワー】
授業時間の前後

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 現代の科学と社会	- 授業の目的、進め方、評価方法を説明する。 19世紀以降の現代の科学は、それ以前の科学と比べて、その規模が拡大しただけでなく、社会と深く結びつくようになった。現代の科学の特徴について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学と社会の特徴について考え、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
2	19世紀の化学産業と第一次世界大戦	19世紀の化学産業と20世紀初頭に起こった第一次世界大戦について、主に科学者のフリッツ・ハーバーの生涯を通じて、科学と国家の関係について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、19世紀の化学産業と第一次世界大戦について理解して、説明できる。	
	事前学修	世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
3	20世紀の物理学	20世紀に物理学は大きな変革を遂げたが、放射能の発見に関する科学と社会の関係を通じて、物理学の変革について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、20世紀の物理学の変革について、その特徴を理解して、説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
4	20世紀の戦争と科学1	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。核エネルギーの発見から原子爆弾構想の起源までの科学と社会の歴史を通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、核エネルギーの発見から原子爆弾構想の起源までの科学と社会の歴史について、その特徴を理解して、説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
5	20世紀の戦争と科学2	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。現代に通じる科学の研究体制が形成された第二次世界大戦と科学動員体制の歴史について、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第二次世界大戦と科学動員体制の歴史について、その特徴を理解し、説明できる。	
	事前学修	第二次世界大戦に関する世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
6	20世紀の戦争と科学3	20世紀の科学は戦争と深くかかわるようになった。第二次世界大戦の終結後の冷戦の時代の科学について、インターネット構想の起源などを通じて、その特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、冷戦の時代の科学について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	第二次世界大戦に関する世界史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	日本における科学と政治(1)	日本における科学と政治について、原子力の平和利用をめぐる社会的背景の歴史を通じて、その特徴を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における原子力の平和利用をめぐる社会的背景の歴史について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
8	日本における科学と政治(2)	日本における科学と政治について、科学に関する日米関係の歴史を通じて、その特徴を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学に関する日米関係の歴史について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史のの該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
9	日本における科学と政治3	日本における科学と政治について、日本への技術導入の歴史を事例にして、その特徴を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における科学と政治について、日本への技術導入の歴史を事例にして、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	第二次世界大戦とその直後にに関する日本史の該当箇所を調べておくこと。また配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
10	現代の科学研究の実際(1)	現代の科学研究の実際について、現代の生物学研究を事例にして、その特徴を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学研究の実際について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
11	現代の科学研究の実際(2)	現代の科学研究の実際について、DNA二重らせん構造の発見における人間と社会の関係を事例にして、その特徴を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代の科学研究の実際について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分
12	現代の科学研究の実際(3)	現代の科学研究の実際について、一つの学術論文が作成されるまでと、それに関する論文捏造問題の事例を通じて、その特徴を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術論文と論文捏造問題について、その特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。		120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	現代の科学・技術の諸問題(1)		現代の科学・技術の諸問題について、代表的な公害問題である水俣病をめぐる科学・企業・行政の対応の歴史を通じて、その特徴を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な公害問題である水俣病の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
14	現代の科学・技術の諸問題(2)		現代の科学・技術の諸問題について、代表的な公害問題であるイタイイタイ病をめぐる科学・企業・行政の対応の歴史を通じて、その特徴を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な公害問題であるイタイイタイ病の歴史について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分
15	現代の科学・技術の諸問題(3)		現代の科学・技術の諸問題について、代表的な環境問題であるフロンガスによるオゾン層破壊が「発見」され、その対策がなされる歴史を通じて、その特徴を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代表的な環境問題であるフロンガスによるオゾン層破壊の発見と対策について、その特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。	120分
	事後学修	配布資料の該当箇所をよく読むこと。また参考資料に目を通すことが望ましい。	120分

科目名	環境論Ⅰ	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
環境論とは、人間と自然環境との関係に関する理論であり、古くは古代ギリシアより近代的理論へ通じる議論がおこなわれてきた。近代日本においては、急激な産業発展にともなって公害問題が拡大し、近年の社会・経済のグローバル化で地球環境問題は世界の共通認識になった。本科目では、我々の身近な環境問題から地球環境問題についての具体的事例学習を通して、環境問題発生の仕組みを理解し、課題解決に向けた主体的な考察ができるようになることを目的とする。毎回、授業の最後（授業時間内）に小レポートを課し、授業で取り上げたテーマについて、自分なりの課題解決策を考えてもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
世の中で起きている現象とその主体である人間と自然環境の関係について、公平な立場に立って正しく理解し、課題解決に向けて主体的な考察ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
スライド及び配布プリント（PDF等で配布）を用いた講義形式。参考となる書籍や映像資料については適宜紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また、リアクションペーパーへの回答や課題に対するリアクションなどは、各回の冒頭に共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって環境および環境変化要因を理解し説明出来るようになる。						2	2				2		
②	学生が、主体性をもって環境問題の抽出をおこない、自分の意見を提示出来るようになる。							2	2	2		2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	ランダムで実施予定の小テストにおいて、各回で説明のある理論等への理解の程度を評価する。	20										20
レポート等	提出されたレポートが、課題に対して適切に回答する内容になっているかを基準とし、到達目標①②にかかわるテーマの発見と説明能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、試験時間後にポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパーへの回答は、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考	必要な場合は、適宜指示をおこなう。				

【オフィスアワー】
月曜日14:30～16：00/水曜日14:30～16：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスー環境を環境問題から考えるー	前期授業内容の説明，評価方法の説明，「環境」という言葉の意味は？	
	この回の到達目標	前期授業内容の把握，評価方法の理解，「環境」という単語の意味を理解し説明できる。（SB0 s ①）	
	事前学修	シラバス内容の理解	120分
	事後学修	前期授業計画と授業内容の理解	120分
2	環境論とは	環境の定義，環境問題の定義，環境論とは何を学ぶ学問分野か？	
	この回の到達目標	環境および環境問題という言葉の理解，環境論にて学ぶ対象を理解し説明できる（SB0 s ①）	
	事前学修	環境という言葉に対するイメージを考える	120分
	事後学修	個々人の持つ環境のイメージと実際の環境および環境問題の定義との関係性を理解する	120分
3	環境の概念とその歴史的変遷	環境問題と社会，「環境」に対する意識の変遷	
	この回の到達目標	環境の概念の歴史的変遷を学び，環境に対する意識の変遷を理解し説明できる（SB0 s ①）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	個々人の持つ環境に対するイメージがどのような歴史的背景を基に構築されてきたのかを理解する	120分
4	環境変化から環境問題へ	環境問題の発生要因	
	この回の到達目標	環境問題と社会そして環境問題発生要因との関係性を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	第2回および第3回内容を踏まえ，現象としての環境問題に関する復習をおこなう	120分
5	規制と環境保全	危険性評価と環境保全へ向けた活動	
	この回の到達目標	環境保全へ向けた法規制や危険性評価，様々な活動を学び，これらの内容を説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	実際の環境保全活動やこれに関連した法規制・政策的誘導の意図に関する理解を深める	120分
6	環境問題①	大気環境・大気汚染とは？	
	この回の到達目標	大気環境に関わる様々な環境問題を取り上げてこの原因や影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	大気環境に関わる様々な環境問題を取り上げてこの原因や影響を理解する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	環境問題②	植生変化と人間活動，里山の自然環境	
	この回の到達目標	人為的影響に関わる植生変化と人間活動を取り上げてその過程や影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	生物環境に関わる様々な環境問題を取り上げてこの原因や影響を理解する	120分
8	環境問題③	有機化学物質とその生態系への影響	
	この回の到達目標	有機化学物質・外因性内分泌攪乱化学物質を例に挙げた環境問題の過程と影響を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	化学物質とその生態系への影響に関する具体的な現象の影響と過程を理解する	120分
9	環境問題④	資源エネルギーの需要予測と枯渇問題について	
	この回の到達目標	エネルギー問題の増大に係わる今日的要因と解決策に関する現状を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	エネルギーに関する様々な問題とこの現状に関する様々な見解を理解する	120分
10	課題学習	テーマの設定および課題の作成	
	この回の到達目標	個々人の設定したテーマに関して，着想から資料収集，報告に至る過程を理解し実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	第1回～第9回の授業テーマについて理解を深める	120分
	事後学修	様々な自然環境の状況やこれに係わる環境問題に関するレポートの作成	120分
11	環境問題を捉える視点①	環境倫理とは？	
	この回の到達目標	環境倫理の三つの主張を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	学問分野としての環境倫理の主張に関する理解を深める	120分
12	環境問題を捉える視点②	様々な自然の捉え方，自然と人間の関係性に関する考察	
	この回の到達目標	様々な分野における自然の捉え方を学び，現代の自然観に基づく自然の捉え方を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	様々な分野における自然観を理解し，これと人間との関係に関する理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	環境問題を捉える視点③	環境問題における科学技術の役割	
	この回の到達目標	科学技術と社会とのかかわりを学び、環境問題と科学技術の関係性を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	「科学」「技術」「科学技術」の定義およびこれらと環境との関係に関しての理解を深める	120分
14	環境問題を捉える視点④	環境問題に関わる社会的政治的側面	
	この回の到達目標	環境問題とこの影響に関する社会的政治的側面を理解し説明できる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	環境問題に内在する社会的政治的側面の理解を深める	120分
15	前学期授業の総括および授業内試験	前学期授業内容のまとめ、授業内試験、試験内容の解説	
	この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	前学期の授業内で学んだ様々な自然現象とこれらの人間との関係を復習する	120分

科目名	環境論Ⅱ	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
近年の日本においては里地里山に代表される生活環境と社会環境の変化が，固有の生態系に対して悪影響を与えていることが指摘されている。これは，地域の自然環境が人間との関係を持ちながら維持されてきたことによっている。本科目では，ローカルからグローバルまで様々な空間スケールで発生する環境問題に対し，自然科学がどのようなアプローチを取ってきたかを学習すると共に，人間と環境の関係を理解し，将来に向け持続可能な人間環境を考えていくことが出来るようになることを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な時空間スケールの環境問題に対し，その中で展開される自然科学的アプローチを理解し説明できるようになる。また、環境変化と人間社会との繋がりを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特にないが、環境論Ⅰの単位取得済みであることが望ましい

【授業方法】
スライド及び配布プリント（PDF等で配布）を用いた講義形式。参考となる書籍や映像資料については適宜紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また，リアクションペーパーへの回答や課題に対するリアクションなどは、各回の冒頭に共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって環境および環境変化要因を理解し説明出来るようになる。					2	2				2		
②	学生が、主体性をもって変化の中から問題の抽出をおこなうことが出来るようになる。						2	2	2		2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、確実な知識とこれを説明する能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	ランダムで実施予定の小テストにおいて、各回で説明のある理論等への理解の程度を評価する。	20										20
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準とし、到達目標①②にかかわるテーマの発見と説明能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説は、試験時間後にポータルシステムを通じておこなう。各授業内で記入したリアクションペーパーへの回答は、適宜授業内にて情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考	必要な場合は、適宜指示をおこなう。				

【オフィスアワー】
月曜日14:30～16：00/水曜日14:30～16：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	後学期の授業概要の説明，評価方法の説明	
	この回の到達目標	前期授業内容との関連性の理解，評価方法の理解を通し前期授業内容との繋がりを習得する（SB0 s ①）	
	事前学修	シラバス内容の理解	120分
	事後学修	後期授業計画と授業内容の理解	120分
2	環境論とは	環境論の歴史，前期授業内容の復習（環境の定義，環境問題の定義など）	
	この回の到達目標	単語の理解，環境論にて学ぶ対象に関する理解，環境変化～問題解決までの流れを理解し説明できる（SB0 s ①）	
	事前学修	前学期授業内容の復習もしくは「環境」という単語を調べる	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
3	環境の概念とその歴史の変遷	環境問題と社会，「環境」に対する意識の変遷（前期授業内容の復習を含む）	
	この回の到達目標	環境の概念の歴史の変遷を学び，環境に対する意識の変遷を理解し説明できる（SB0 s ①）	
	事前学修	前回の授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	個々人の持つ環境に対するイメージがどのような歴史的背景を基に構築されてきたのかを理解する	120分
4	環境問題の特性	科学的不確実性と予測	
	この回の到達目標	環境問題に内在する科学的不確実性を理解し，個々人で見つけることができるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	環境および環境問題の定義を復習	120分
	事後学修	各自の理解に基づく科学的不確実な点を整理する	120分
5	課題学習①	環境学/環境科学の視点、問題設定と解決への道筋	
	この回の到達目標	問題設定および問題解決へ向けた視座を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
	事前学修	各自の理解に基づく科学的不確実な点を整理する	120分
	事後学修	環境論・環境関連分野における学問的問題点と映像資料内の科学的不確実性の関連を復習する	120分
6	環境と生態系	植生環境と保全	
	この回の到達目標	植生環境を例に挙げ，その変化の過程と要因を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回までの授業内容の復習	120分
	事後学修	植生環境の変化とこれに関わる人間活動との関係を復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	生態系の分断と破壊	自然生態系の変化	
	この回の到達目標	人為的要因に端を発する生態系の分断や破壊がどのような現象か理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
8	海洋環境	海洋の機能と役割	
	この回の到達目標	海洋環境の変化と他の自然圏との相互関係を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
9	大気環境	大気の機能と役割	
	この回の到達目標	大気環境の変化と他の圏との相互関係を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
10	課題学習②	自然現象の変化に係る時間・空間スケールを学び、理解する	
	この回の到達目標	個々人の設定したテーマに関して、着想から資料収集、報告に至る研究過程を実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	第6回～第9回授業内容の理解	120分
	事後学修	様々な環境問題に関するレポートの作成	120分
11	環境保護の思想と現在の地球環境①	エコロジー思想の系譜	
	この回の到達目標	エコロジー思想の歴史と今日的な意味を理解し説明できるようになる（SB0 s ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
12	環境保護の思想と現在の地球環境②	ディープ・エコロジー	
	この回の到達目標	ディープ・エコロジーとこの考え方に基づく自然観を理解し説明できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地球時代の環境論	現在における地球観を通して見た環境とは？	
	この回の到達目標	後学期中に習得した様々な環境変化とその要因，社会的意味などを通した現在の地球観(自然観)を理解し，個々人の知識として利用できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
14	後学期授業の総括	後学期授業内容のまとめ	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深めることで，様々な自然観を基にした環境を理解することが出来るようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容及び配布資料の復習	120分
15	授業内試験および試験内容の復習	授業内試験、試験内容の解説	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深め，個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回までの授業内容の確実な理解を進める	120分
	事後学修	後学期の授業内で学んだ具体的な自然現象の発生過程と人間の生活環境との関係を復習する	120分

科目名	教育学Ⅰ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
教育学は人間の教えと育ちプロセスを考察する学問です。一般的に、教育学は学校教育や教室での教育実践のみを分析対象にする学問と思われがちですが、実際はそうではありません。人類の歴史において、学校教育が登場し、機能していた期間は、わずかなものに過ぎません。この授業では、人類史のなかの教えと育ちを多様な側面から分析します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者が人間の教えと育ちをの関係を明瞭に理解できることを目的とします。教育学の諸課題について、受講者がみずからの考えをみずからの言葉で表現できるようになることを講義の到達目とします。

【履修条件】
教育学分野、社会学分野、歴史研究（日本史、世界史、政治史）に関心のある学生を対象としています。「息をしていれば単位が取得できる」と考える受講者は受けつけません。また、教室内の秩序を著しく乱す受講者に対しては、厳しい措置を取ります。ご承知おください。

【授業方法】
毎回レジュメと史資料を配布し、それに沿って講義をします。そのほかに、写真資料、音声資料、映像資料なども使用することがあります。なお、授業中における、私語、講堂外での受講、コメントペーパーの代筆（不正行為）などは、厳しくご対応いたします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育学の概要について説明できる。				2	2	2	2		2		
②	教育的事象と現代社会の関係について説明できる。				2	2	2	2		2		
③	社会科学の研究成果にもとづいた知見から現代社会を説明できる。				2	2	2	2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート(60%)。到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	15	15	15			15					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペーパー)	コメントペーパー(40%)。到達目標①②③⑥授業内容を踏まえた議論が展開できる。	10	10	10			10					40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25			25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績に関する講評はポータルサイトで発表します。また、授業中にコメントペーパーについて応答します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『メリーポピンズ』(1964年版)『ウォルト・ディズニーの約束』(2013年版)	DVD(ディズニー)	不問(DVDでなくとも可)		教科書	必携
学ぶ、向きあう、生きる	楠原彰	太郎次郎社エディタス	2013	参考書	任意
差別の現在	好井裕明	平凡社	2015	参考書	任意
働くことと学ぶこと	里見実	太郎次郎社	1995	参考書	任意
日本人のしつけは衰退したか	広田照幸	講談社	1999	参考書	任意
〈民主〉と〈愛国〉	小熊英二	新曜社	2002	参考書	任意
貧困の戦後史	岩田正美	筑摩書房	2017	参考書	任意
高校紛争 1969-1970	小林哲夫	中央公論新社	2012	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時30分～16時。研究室にて。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	現代日本の教育改革・入試／シラバス／カリキュラム	
	この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	シラバスを参照してください。ウェブ検索などでかまいませんので、「教育学」について検討してください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
2	日本教育社会史①	近世の教育文化と明治以降の近代教育システム	
	この回の到達目標	近代以前の教育史とその位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
3	日本教育社会史②	戦後教育スタート・戦前と戦後の連続性と精神史	
	この回の到達目標	近代以前の教育史とその位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
4	日本教育社会史③	高校生がエリートだったころ・『コクリコ坂から』みる青少年文化と社会運動の萌芽	
	この回の到達目標	日本における近代教育の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
5	日本教育社会史④	紛擾から闘争へ 闘争から紛争へ・学生運動の毀したもの	
	この回の到達目標	教育史における戦争と学校教育の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
6	日本教育社会史⑤	管理教育と校内暴力・『金八先生』のリアリティ	
	この回の到達目標	戦後の教育改革と都鄙格差について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本教育社会史⑥	『ハレンチ学園』から『ビリギャル』の欺瞞・現代日本教育課題	
	この回の到達目標	学生自治と「エリート教育」の関係と位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
8	近代教育のルーツ①	近代教育以前の子ども像・絵画／玩具／被服／童話／絵本の教育史	
	この回の到達目標	1970年～80年代の戦後教育史を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
9	近代教育のルーツ②	子どもの「価値」変遷・遺棄と保護の教育史	
	この回の到達目標	1990年代～2000年代の戦後教育史を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
10	近代教育のルーツ③	児童小説の変遷・修正される家族観と子ども観	
	この回の到達目標	近代教育の外側に存在した子ども観を理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
11	近代教育のルーツ④	児童小説に描写された家族と子どもの幸福・だれが幸福の定義を定めるのか？	
	この回の到達目標	近代教育成立以前の教育文化について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
12	近代教育のルーツ⑤	個々人の「こだわり」と近代社会・トラウマ語り超えて	
	この回の到達目標	近代教育成立以前の教育文化について理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	近代教育のルーツ⑥	量から質の時代へ・多様な家族像と乱反射する価値観の多様性	
	この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
14	変容する価値観①	社会における男女の区分とLGBTQ・映像資料にみる男女の社会的役割の表象と差別問題	
	この回の到達目標	社会科学のなかの教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分
15	変容する価値観②	男女の区分タブーの変遷・構築される価値観と差別問題 近代日本の女性観	
	この回の到達目標	教育学の位置づけを理解し説明できるようになることを到達目標とします。	
	事前学修	前回の配布資料と受講者のコメントペーパーを見返して、予習をしておいてください。	120分
	事後学修	配布資料の整理。配布プリントに穴埋め欄がありますので、できるかぎり、記述の抜けがないようにしてください。	120分

科目名	教育学Ⅱ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
教育学は人間の教えと育ちプロセスを考察する学問です。一般的に、教育学は学校教育や教室での教育実践のみを分析対象にする学問と思われるがちですが、実際はそうではありません。人類の歴史において、学校教育が登場し、機能していた期間は、わずかなものに過ぎません。この授業では、人類史のなかの教えと育ちを多様な側面から分析します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「教育」とは、なにかということを考えられることを目的としています。「教育」にできること、「教育」にできないこと、「教育」がしてよいこと、「教育」がしてはいけないことを身につけられることを目標としています。

【履修条件】
教育学分野、社会学分野、歴史研究（日本史、世界史、政治史）に関心のある学生を対象とします。「息をしていれば単位が取得できる」と考える受講者は受けつけません。教室内の秩序を著しく乱す受講者に対しては、厳しい措置を取ります。ご承知おください。

【授業方法】
講義形式。授業終了後に受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、50～60件の代表的な意見をプリントにまとめて配布します。紙上討論というかたちで、受講生の意見に対して、そのつど応答をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育学の概要について説明できる。					2	2	2	2		2		
②	教育的事象と現代社会の関係について説明できる。					2	2	2	2		2		
③	社会科学の研究成果にもとづいた知見から現代社会を説明できる。					2	2	2	2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート(60%)。設題の内容を理解した記述ができる。 到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	15	15	15			15					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペーパー)	コメントペーパー(40%)。授業内容を踏まえた議論が展開できる。到達目標①②③⑥について、設題の内容を理解した記述ができる。	10	10	10			10					40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25			25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
成績に関する講評はポータルサイトで発表します。また、授業中にコメントペーパーについて応答します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
悪と全体主義	仲正昌樹	NHK出版	2018	参考書	推奨
今こそアーレントを読み直す	仲正昌樹	講談社	2009	参考書	任意
日本とドイツ	仲正昌樹	光文社	2006	参考書	任意
全体主義の起源	ハンナ・アーレント	みすず書房	2017	参考書	任意
エルサレムのアイヒマン	ハンナ・アーレント	みすず書房	2017	参考書	任意
否定と肯定	デボラ・E・リップシュタット	ハーバーコリンズ・ジャパン	2017	参考書	任意
思い出のアンネ・フランク	ミープ・ヒース	文藝春秋	1994	参考書	推奨
雲は答えなかった	是枝裕和	PHP研究所	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業にて担当教員から明示します。基本的には、「教育学Ⅰ」と同様の時間です。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	社会問題と「教え」と「育ち」	
	この回の到達目標	当該授業にて取り扱う社会問題の性格について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
2	貧困と公教育①	個々人のニーズと公教育・給食制度を手がかりに	
	この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
3	貧困と公教育②	隔離されていく貧困層・『ちびまる子ちゃん』の世界観の喪失	
	この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
4	貧困と公教育③	貧困のイメージと公教育の機会均等・福祉の切り捨てを超えて	
	この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
5	貧困と公教育④	社会階層と教育格差の再生産・「幸せな貧困」でよいのか？	
	この回の到達目標	貧困と公教育の関係について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
6	分断と公教育①	人種による社会階層の分断・アメリカにおける人種差別	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	分断と公教育②	ユダヤ人の迫害史・『アンネの日記』とヨーロッパの差別問題	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
8	分断と公教育③	『アンネの日記』その後史 ナチス・ドイツの台頭と市民	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
9	分断と公教育④	ミープ・ヒースとアドルフ・アイヒマン 市民的勇気と「凡庸な悪」	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
10	分断と公教育⑤	ヨーロッパ各地の公教育・ドイツとオランダの教育実践	
	この回の到達目標	貧困と、それによる分断が公教育システムと社会にもたらす影響について理解し、みずからの言葉でその内容を説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
11	公教育の使命①	オランダとフィンランドの公教育・理想と現実	
	この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
12	公教育の使命②	アメリカの公教育と教育改革・改革による公教育の崩壊	
	この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公教育の使命③	国家と個人・アメリカの家庭教育	
	この回の到達目標	ヨーロッパにける教育観と人間観について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
14	多様性と差別問題①	「曖昧な生きづらさ」と差別問題 吃音／斜視／異形／脱毛／拒食／LGBTQ／在日コリアン／在日台湾人／アトピー性皮膚炎／性犯罪被害／情緒不安定……	
	この回の到達目標	現代の差別問題について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。なお、タイトルにつけた「生きづらさ」の事例は、すべて、これまで、この授業を履修していた学部生の事例です。講堂には、このような多様なアイデンティティ抱えた学部生が雑居しています。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	コメントペーパーの振り返り。	120分
15	多様性と差別問題②	排除される障害者・「健常者に迷惑をかけない」というバイアスを超えて	
	この回の到達目標	現代の差別問題について理解し、その内実を自己の言葉で説明することができる。	
	事前学修	配布資料をもとに復習。	120分
	事後学修	レポート作成。	120分

科目名	教養演習ⅠA	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
【教養演習ⅠA 科目の概要】総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表します。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指します。【授業概要】香川の担当する演習では、現代の多様な当事者研究（差別問題研究）の視点から、個々人の興味関心のある社会問題や社会事象について分析、検討をします。なお、受講の前提として、香川の担当する「教育学Ⅰ/Ⅱ」のいずれかの単位を取得しているか、当該科目を履修登録していることを要件とします。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
総合科目における学問分野に関係する豊かな教養を身に付け、客観的・論理的に説明できる資質を修得します。

【履修条件】
特にありませんが、初回の授業には必ず出席してください。

【授業方法】		
【香川の演習】①テキスト（場合によっては配付資料を使用する場合もある）の講読します。②受講生の個人報告を中心とした演習形式で行います。発表では各自の理解内容・調査内容・疑問点などを報告し、全員で議論します。レポート等についての講評は授業内で行います。なお、予習と復習の時間は、あくまで目安ですので、個々人の学習状況に応じて、調整してください。2019年度の個人報告テーマ事例……ディズニー映画の女性表象、車椅子使用者の男性と非使用者女性の恋愛、ジェンダー・マイノリティと映像作品、学習塾の教師像、性犯罪被害者とその支援、発達障害当事者の研究、コロナ禍と学生生活の実態研究など。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					2							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							2					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								2				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	20		30								50
授業への参画度	到達目標の②④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。		20		30							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の発表時に担当者の側から発表の総括を行います。また、ポータルサイトを利用してフィードバックを実施します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
当事者研究の研究	石原孝二	医学書院	2013	参考書	任意
摂食障害の語り	中村英代	新曜社	2011	参考書	任意
趣味の社会学 文化・階層・ジェンダー	片岡栄美	青弓社	2019	参考書	任意
病気と表象	サンダー・L・ギルマン	ありな書房	1997	参考書	任意
家族はなぜ介護してしまうのか	木下衆	世界思想史社	2019	参考書	任意
病の言語表象	木村功	和泉書院	2016	参考書	任意
映画とジェンダー／エスニシティ	塚田幸光	ミネルヴァ書房	2019	参考書	任意
ライフストーリー研究に何ができるか	櫻井厚・石川良子	新曜社	2015	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業にて教員から教示します。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	授業の内容と進め方について解説します。担当教員の専攻する学問領域についても検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨めるようにする。また、演習に関連する学問領域の特質を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスをもとに、担当教員の専攻する学問領域の特質について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
2	当事者研究と教育社会学	社会学分野における当事者研究の性格について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、当事者研究の位置づけに関して、その概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、前回の授業内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
3	当事者研究の位相	社会学分野のなかで蓄積された質的研究の性格と当事者研究について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究の位相についてその概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、前回の授業内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
4	当事者研究と教育社会学研究	教育社会学分野の諸研究と当事者研究の関係について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と教育社会学研究の相関についてその概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
5	個々人の生活世界と当事者研究	受講生のこれまでの経験を踏まえて、当事者研究について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
6	被教育体験と当事者研究（個人報告）	個人の被教育体験と当事者研究の関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	労働世界と当事者研究（個人報告）	個々人のアルバイト経験を通して、組織や集団と当事者研究の関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
8	差別問題（人種差別）と当事者研究（個人報告）	差別問題と当事者研究の関係について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
9	差別問題（知的障害に関する諸研究）当事者研究（個人報告）	差別問題と当事者研究の関係について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分
10	差別問題（精神疾患に関する諸研究）当事者研究（個人報告）	差別問題と当事者研究の関係について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
11	差別問題（身体障害に関する諸研究）と当事者研究（個人報告）	差別問題と当事者研究の関係について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	180分
12	犯罪社会学と当事者研究（個人報告）	犯罪社会学の諸研究と当事者研究の関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会問題と当事者研究（個人報告）	社会問題とされる諸現象と当事者研究の関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	180分
14	「社会病理」と当事者研究（個人報告）	「社会病理」とラベリングされる諸現象と当事者研究の関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	60分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	180分
15	総括討議	前期の授業内容に関して、総括討議を実施します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料をもとに授業の内容をふり返る。	120分

科目名	教養演習ⅠA【日本軍兵士の被害と加害】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。本演習では「日本軍兵士の被害と加害」と題し、吉田裕『日本軍兵士』『日本の軍隊』を輪読する。近年、下級兵士や庶民の目線に立って、戦争のリアリティを描き出そうとする新しい戦争史研究が生まれてきている。こうした学問的成果に学びながら、戦争や軍隊の本質について議論したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
本演習のテーマに関心を持ち、知的な発見や学問的討論に飢えている者、大学時代に「学問でも頑張った」と言えるものが欲しいという者を歓迎する。単位だけが目的の人、主体的な学習の意欲・能力のない人はご遠慮ください。

【授業方法】
まずはテーマに関連する文献を読解する。取り上げる範囲を事前に読んでくることは全員必須である。教員や他の受講生の質問に答えられるように、内容をよく理解しておく。 発表者はテキストの論点を簡潔に整理したうえで、批判的に考察・論評を加え、討論したい問題を提起する。 それを踏まえ、全員で質疑応答と討論を行う。 なおテキストは、受講生の関心により変更することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション。プレゼンテーション。ただし、形だけの「アクティブ・ラーニング」、内容が伴わない小学生レベルのディスカッション・プレゼンテーションの真似事からは脱却して欲しい。その場に何事か刺激や気づき、新しい論点を付け加えていくために、頭をフル回転させ、自分の意見を保つ努力をし、下手でも良いから情熱を持って伝えようとする事が求められる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を 明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れ て客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60	
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調 査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイ ント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価 する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20	
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質 問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまと められるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20	
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		10	30	30	30							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の終わりに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実	吉田裕	中央公論新社	2018年	教科書	必携
日本の軍隊ー兵士たちの近代史	吉田裕	岩波書店	2002年	教科書	必携
アジア・太平洋戦争	吉田裕	岩波書店	2007年	参考書	推奨
餓死した英霊たち	藤原彰	ちくま書店	2018年	参考書	推奨
中国戦線従軍記：歴史家の体験した戦場	藤原彰	岩波書店	2019年	参考書	推奨
兵たちの戦争 手紙・日記・体験記を読み解く	藤井忠俊	朝日新聞社	2019年	参考書	推奨
ものいわぬ農民	大牟羅 良	岩波書店	1958年	参考書	推奨
戦没農民兵士の手紙	岩手県農村文化懇談会	岩波書店	1961年	参考書	推奨
備考	書ききれないので、その他の参考文献は教室で指示する。				

【オフィスアワー】
火曜13時～14時　金曜18時～18時30分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		記憶の継承に関わる社会教育や学校教育における平和教育の方法について。官庁や自治体、企業における文書の作成・保存・公開の重要性について。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／イントロダクション 本演習の問題意識など導入講義	本演習の問題意識、演習の課題と方法、演習の進め方、テキストの紹介、単位取得要件などについて説明する。また参加者の自己紹介を行う。 スケジュールの決定。	
	この回の到達目標	演習の目的を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読する。テキストを入手する。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、履修を決める。	120分
2	『日本軍兵士』(1)	筆者のプロフィールと研究の位置づけ（レクチャー） 序章 アジア・太平洋戦争の長期化	
	この回の到達目標	著者の問題意識、本書の課題と方法の特色、研究史上の位置づけを理解する。 アジア・太平洋戦争の性格について理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
3	『日本軍兵士』(2)	第1章 死にゆく兵士たち―絶望的抗戦期の実態 1 第2章 身体から見た戦争―絶望的抗戦期の実態 2	
	この回の到達目標	絶望的抗戦下の日本軍の戦いと兵士たちの置かれた状況を理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
4	『日本軍兵士』(3)	第3章 無残な死、その歴史的背景 終章 深く刻まれた「戦争の傷跡」	
	この回の到達目標	兵士の無残な死をもたらした日本軍の組織的問題点、そうした軍隊や軍事指導者を生み出した日本社会の構造的な問題点を理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
5	『日本軍兵士』(4)	『日本軍兵士』総括討論 ①日本軍とその戦いの実態から我々は何を学ぶことができるか？ ②本著作の現代的意義は何か？ ③次なる課題は何か？	
	この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、あらためて本書の現代的意義を確認する。	
	事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
	事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
6	『日本の軍隊』(1)	序章 分析の視角 第1章 近代社会の形成と軍隊	
	この回の到達目標	日本の近代化と軍隊との関係について理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『日本の軍隊』(2)	第2章 軍隊の民衆的基盤	
	この回の到達目標	民衆が軍隊を受容する構造的な要因を理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
8	『日本の軍隊』(3)	第3章 総力戦の時代へ 第4章 十五年戦争と兵士	
	この回の到達目標	軍隊改革の挫折と反近代的で精神主義的な軍隊への変貌の歴史的過程について理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
9	『日本の軍隊』(4)	『日本の軍隊』総括討論 ①軍隊と社会との関係はどのようなものなのか？そこから何を学べるか？ ②本書の現代的意義は何か？ ③次なる課題は何か？	
	この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、本書の現代的意義を確認する。	
	事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
	事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
10	演習後半の課題設定 「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」	後半ではメンバーが分担して、兵士の手紙・日記・体験記を読解し、そこから何を学び取るかを報告する。どのような史料を取り上げるか、誰が何をテーマに報告するかを決める。	
	この回の到達目標	テーマを理解し、自分の課題や役割を決める。	
	事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
	事後学修	自分の分担した史料を読み進め、報告の準備をする。	120分
11	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(1)	分担した史料に関する研究発表	
	この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
	事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
	事後学修	発表と討論を復習する。	120分
12	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(2)	分担した史料に関する研究発表	
	この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
	事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
	事後学修	発表と討論を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(3)	分担した史料に関する研究発表	
	この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
	事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
	事後学修	発表と討論を復習する。	120分
14	「兵士の手紙・日記・体験記を読み解く」(4)	分担した史料に関する研究発表	
	この回の到達目標	史料から兵士の置かれた状況や戦場の実態を学ぶ。	
	事前学修	史料を読んで討論の準備をする。	120分
	事後学修	発表と討論を復習する。	120分
15	総括討論 加害と被害の重層性をめぐって	前期の演習の成果を確認するとともに、日本軍兵士における加害と被害の重層性について、討論を行う。	
	この回の到達目標	演習での学びを振り返り、自己にどのような認識の変化があり、何が達成されたかを確認する。	
	事前学修	これまでの演習のレジュメやノートを読み直し、総括討論の準備をする。	120分
	事後学修	前期の成果の振り返りと今回の討論のまとめを行う。 次なる自己の問題意識を確認する。	120分

科目名	教養演習ⅠA【スポーツについて考える】	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。 佐藤担当のこの演習では、「スポーツを考える」と題し、我が国において文化としてスポーツが根付きつつある中、スポーツの魅力とは何か、現代スポーツの問題点は何か、スポーツと社会の関わりについて関係資料や調査結果を用いながら、スポーツの本質について議論を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
2年生以上の履修とし、できるだけ総合科目「体育スポーツ科学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
オンライン（ライブ）形式で授業を行う。事前に配付する資料を用いて演習形式で進め、テーマ毎に個人及び共同報告（発表）をしてもらい、それについて質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	個人発表及び共同報告（発表）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答、提出レポートに対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
月、火曜日（12:10～13:00 Zoom等）※事前に連絡をすること satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	スポーツを考える	ガイダンス ・講義計画、授業方法、成績評価等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法についての説明 講義		
	この回の到達目標	SB0s③		
	事前学修	「スポーツ」に関する個人及び社会が関心を持っていることについて調べ、その概要をまとめる		60分
	事後学修	ガイダンス内容を振り返り、以降の計画を立てる。 当該授業回の内容をまとめる		60分
2	スポーツの魅力について（１）	・テーマについての説明 ・調査方法の確認		
	この回の到達目標	SB0s①、③		
	事前学修	スポーツの魅力について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。		60分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。		180分
3	スポーツの魅力について（２）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答		
	この回の到達目標	SB0s①～④		
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。		120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。		120分
4	スポーツの魅力について（３）	・個人及び共同発表（２） ・質疑応答		
	この回の到達目標	SB0s①～④		
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。		120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。		120分
5	スポーツの魅力について（４）	・個人及び共同発表（３） ・質疑応答 ・テーマのまとめ		
	この回の到達目標	SB0s①～④		
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。		120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。		120分
6	現代スポーツの問題点（１）	・テーマについての説明		
	この回の到達目標	SB0s①、③		
	事前学修	現代スポーツの問題点について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。		60分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	現代スポーツの問題点（２）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答		
	この回の到達目標	SB0s①～④		
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。		120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。		120分
8	現代スポーツの問題点（３）	・個人及び共同発表（２） ・質疑応答		
	この回の到達目標	SB0s①～④		
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。		120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。		120分
9	現代スポーツの問題点（４）	・個人及び共同発表（３） ・質疑応答 ・テーマのまとめ		
	この回の到達目標	SB0s①～④		
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。		120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。		120分
10	スポーツと社会（１）	・テーマについての説明		
	この回の到達目標	SB0s①、③		
	事前学修	スポーツと社会について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。		60分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 テーマについての調査を行い報告書を作成する。		180分
11	スポーツと社会（２）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答		
	この回の到達目標	SB0s①～④		
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。		120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。		120分
12	スポーツと社会（３）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答		
	この回の到達目標	SB0s①～④		
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。		120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	スポーツと社会（４）	・個人及び共同発表（１） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	発表内容及び質疑応答についてまとめ、自分の考えを整理する。 テーマに関するレポートを作成する。	120分
14	スポーツとは何か	・オリンピック、パラリンピックについて	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	オリンピックムーブメントについて関連する資料を調べまとめる。	60分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。	180分
15	全体の振り返り	・レポートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	各テーマ毎作成したレポートを振り返り、疑問点などを抽出する。	180分
	事後学修	各自の取り組みを振り返る。 授業で得た知見を基にスポーツを様々な視点で考える。	180分

科目名	教養演習ⅠA	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に係るテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。野口が担当する演習では、古代から継続されている神祀りに着目する。人々が自然をどのように捉え、どのように共存してきたのかを、『日本書紀』や『古事記』に登場する神々の性質を個々に調査することによって明らかにする。そして我々はどのように自然と共存すべきかを考えたい。加えて、神祀りの歴史変遷を通して形成された地域文化の基層について受講生全員で議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関する豊かな教養を身につけ、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンテーションの能力を修得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。学生主体の授業なので、学生による個人報告（プレゼンテーション）と、学生による議論、質疑応答を求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッションとプレゼンテーション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身につける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに即った調査・研究を行うことができる。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に参加して問題解決を図ることができる。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることができる。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決を図ることができる。								3				
④	適切なレジユメの作成により、自分の意見を他の人々に正しく伝えることができる。質疑応答に参加して、議論を実りあるものにすることができる。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点を明確にし、プレゼンテーションに対する議論・質疑応答の成果も取り入れた、論理的な内容であるかを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標②④に関して、プレゼンテーションにおける調査内容が適切であるか、レジュメなどが適切に作成されているかを評価する。また他の学生との質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標③④に関して、他のプレゼンテーションに対する質疑応答への参加度を評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の終了前に講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
式内社調査報告 全24巻	式内社研究会編	皇學館大学出版部	1977	参考書	推奨
日本の神々ー神社と聖地 全13巻	谷川健一編	白水社	1979	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応する。noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス（説明）及び導入講義	授業のテーマと問題意識についての説明と、演習課題に対する準備・調査などの方法、並びに演習の進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、授業の目的である、神社という空間が各時代の文化の蓄積により成立していることを理解することで、自然と共存した地域の文化特性を学修する。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、日本の神社について知っていることをまとめておく。	100分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、演習課題についての理解を整理する。	100分
2	日本の神祭りとは？（説明）	政治は「マツリゴト」と言われるが、その本質を理解することで、人々はなぜ神祀りをするのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、古代と現在との認識の相違を理解することができる。	
	事前学修	日本の神祭りとは何か、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
3	伊勢神宮・内宮とは？（説明）	伊勢神宮・内宮の祭神とその歴史を通して、伊勢神宮・内宮の祭祀変遷を理解し、地域文化の特性を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、伊勢神宮・内宮周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	伊勢神宮・内宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
4	伊勢神宮・外宮とは？（説明）	伊勢神宮・外宮の祭神とその歴史を通して、伊勢神宮・内宮の祭祀変遷を理解し、地域文化の特性を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、伊勢神宮・内宮周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	伊勢神宮・外宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
5	春日大社とは？（プレゼンテーション）	春日大社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、春日大社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	春日大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
6	住吉大社とは？（プレゼンテーション）	住吉大社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、住吉大社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	住吉大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	宗像大社とは？（プレゼンテーション）	宗像大社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、宗像大社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	宗像大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
8	出雲大社とは？（プレゼンテーション）	出雲大社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、出雲大社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	出雲大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
9	大神神社とは？（プレゼンテーション）	大神神社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、大神神社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	大神神社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
10	鹿島神宮とは？（プレゼンテーション）	鹿島神宮について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、鹿島神宮の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	鹿島神宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
11	熱田神宮とは？（プレゼンテーション）	熱田神宮について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、熱田神宮の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	熱田神宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
12	霧島神宮とは？（プレゼンテーション）	霧島神宮について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、霧島神宮の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	霧島神宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	香取神宮とは？（プレゼンテーション）	香取神宮について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、香取神宮の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	香取神宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
14	筑波山神社とは？（プレゼンテーション）	筑波山神社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、筑波山神社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	筑波山神社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
15	まとめ	神祭りに関する歴史変遷を理解したことを通して、自然を崇めた祭祀継承により構築された日本文化の有様について討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、これまでの学びを振り返り、何をどのように理解したのかを確認することができる。	
	事前学修	これまでのプレゼンテーションから得た情報整理を読み直し、討論の準備をする。	140分
	事後学修	学びの成果を振り返り、今回の討論で得られた新たな問題意識をまとめておく。	140分

科目名	教養演習ⅠA【社会科学の考え方】	担当者	原山 浩介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。原山担当のこの演習では、社会科学において基本的なツールとなる「概念」、テキストの「読み方」、そして社会科学的思考の意味を、内田義彦『読書と社会科学』（岩波新書）から丁寧に読み取る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、人数調整、および演習の報告順等を決めるため、必ず第1回目には出席すること。

【授業方法】
輪読形式で、司会・報告者・コメンテーターを週替わりで交代しながら進める。一冊の本を時間をかけてじっくりと読んでいく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	報告者、司会、コメンテーターを決めて発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答等に対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
読書と社会科学	内田義彦	岩波書店（岩波新書）	1985	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
演習前後（教室）、および火曜日16:20～17:50（研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	演習のねらいと進め方についての説明、教科書の概要説明を行う。さらに、短い資料を読んで、その場でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	演習のねらい、テキストの概要を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、演習のねらいについて自らの理解を作っておく。教科書を入手して演習に持参する。	60分
	事後学修	演習での説明内容、および配付した資料の内容を振り返り、社会科学の発想の仕方、および演習の進め方について理解する。	120分
2	『読書と社会科学』1 輪読の試行	I 「読むこと」と「聴くこと」：はじめに 同一のテキストをもとに複数の報告者が報告レジュメをもとに報告を行う。テキストの出来不出来を競うのではなく、どのようなレジュメが良いのかを検討する。	
	この回の到達目標	演習でのよりよい報告の仕方、進め方について議論しながら考える。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、各自が報告レジュメを用意する。さらに、演習で議論したいことを考えておく。	120分
	事後学修	自分が作った報告レジュメを、演習での議論を参考に作り直し、今後、報告レジュメを作るためのトレーニングをする。	120分
3	『読書と社会科学』2 「読む」を考える	I 「読むこと」と「聴くこと」：読みの構造 (1)	
	この回の到達目標	「読む」ということの意味について理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。	120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「読む」ということの意味について整理する。	120分
4	『読書と社会科学』3 「読む」から「読み深め」へ	I 「読むこと」と「聴くこと」：読みの構造 (2) ／読み深めの諸相 (1)	
	この回の到達目標	「読む」ということの意味についてさらに理解を深める。	
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。	120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「読む」ということの意味について整理する。	120分
5	『読書と社会科学』4 「読み深め」の理解	I 「読むこと」と「聴くこと」：読み深めの諸相 (2)	
	この回の到達目標	「読む」ということの意味についてさらに理解を深める。	
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。	120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「読む」ということの意味について整理する。	120分
6	『読書と社会科学』5 「聴く」と「読む」構え	I 「読むこと」と「聴くこと」：読み深めの諸相 (3) ／聴くということ	
	この回の到達目標	ここまでの章段の内容を踏まえ、「読む」ということに必要となる構えを構築できる。	
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。	120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「読む」際に必要となる構えを自らの問題として考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	『読書と社会科学』6 「学術語」とは何か	Ⅱ 自由への断章		
	この回の到達目標	「読む」ということとかかわって、「学術語」の持つ意味についておおよその理解を持つ。		
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。		120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「読む」と「学術語」の意味を整理する。		120分
8	『読書と社会科学』7 「読む」と社会科学	Ⅲ 創造現場の社会科学：はじめに		
	この回の到達目標	「読む」ということを社会科学との関わりから理解する。		
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。		120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「読む」ことを社会科学との関わりから整理する。		120分
9	『読書と社会科学』8 「日常語」と「学術語」	Ⅲ 創造現場の社会科学：日常語で見えるもの		
	この回の到達目標	「日常語」を「学術語」との関わりの中で理解する。		
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。		120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「日常語」「学術語」の関係を整理する。		120分
10	『読書と社会科学』9 「概念装置」	Ⅲ 創造現場の社会科学：社会科学のウルトラ・アイ？（1）		
	この回の到達目標	「概念装置」とは何かについて理解する。		
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。		120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「学術語」という論点を更に発展させて「概念装置」について理解を深める。		120分
11	『読書と社会科学』10 「概念装置」を深める	Ⅲ 創造現場の社会科学：社会科学のウルトラ・アイ？（2）		
	この回の到達目標	「概念装置」についての理解を深める。		
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。		120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「学術語」という論点を更に発展させて「概念装置」について理解を深める。		120分
12	『読書と社会科学』11 自らのための「概念装置」	Ⅲ 創造現場の社会科学：概念装置の手作りを（1）		
	この回の到達目標	学問をすることの意味をテキストに即して理解できる。		
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。		120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、学問の持つ意味を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『読書と社会科学』12 学問の意味	Ⅲ創造現場の社会科学：概念装置の手作りを（2）	
	この回の到達目標	学問をすることの意味を自分の問題として考えることができる。	
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。	120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、学問の持つ意味を自分の問題として整理する。	120分
14	『読書と社会科学』13 思考が自由であることとは	Ⅲ創造現場の社会科学：概念装置の手作りを（3）	
	この回の到達目標	思考がどれだけ「自由」にできているかを自ら点検することの重要性について理解できる。	
	事前学修	該当部分を読み、疑問点を調べた上で、著者が伝えようとしていることを整理し、演習で議論したいことを考えておく。	120分
	事後学修	テキストの該当部分を読み直し、演習での議論を振り返りながら、「自由」と「学問」の関係について整理する。	120分
15	総括討論	テキスト全体を振り返り、社会科学的思考の意味を議論する。	
	この回の到達目標	テキストに出てきた「古典としての読み」の持つ意味を再確認しながら、社会科学という方法について自ら思考を深めることができる。	
	事前学修	これまでの読んできたテキストをもう一度見直し、「読む」ということの意味を、社会科学との関わりで整理しておく。	120分
	事後学修	「概念装置」「古典としての読み」「学問」「自由」といった、テキストに出てきた重要な論点を振り返りながら、自分が何のために学び、読み、議論するのかを考える。	180分

科目名	教養演習ⅠA	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目に関係するテキストを題材して、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それを基に受講生全員で質疑応答を行い、取り上げられた問題の理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を修得することを目指すこととする。本クラスにおいては、「社会文化を実験する」という観点から、心を測る、というキーワードを設定する。授業では、心理学における古典的研究例について追試して、それらの結果を整理して、討議を重ねながら考察をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身につけ、成果としてまとめる。テキストの精読、問題の所在を明確にして、仮説を設定する。それに基づき客観的、論理的に説明できる能力を修得する。また、発表や討議、質疑応答等を通じて、プレゼンテーションの能力を修得する。そして、社会文化を実験するというテーマにおいて、心を測ることについて考察を進めることとする。、

【履修条件】
心理学Ⅰ及びⅡを履修していることが望ましい。各授業後にテーマごとにレポート提出を課すので、単位のためや時間割の都合で履修するのではなく、主体的な学習意欲をもち履修する。

【授業方法】		
zoomによる講義演習を行う予定である。「社会文化を実験する」という大きなテーマのもとに、本演習では、人の心の働きを「測る」ことの意味について考える。事前に紹介する文献等を読み、検査実習や実験実習のための準備またはデータ収集、整理、分析等を行う。それらを発表資料としてまとめておく。講義では、自分の資料やデータを発表して、他の受講生の資料やデータ等と比較検討しながら、質疑応答及び全員で討議をすすめる。それらを踏まえて、レポートを提出する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	資料とデータの収集、データ整理と分析、考察、発表資料の作成を予習で行い、講義における発表、そして講義では、全員での討議を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的用語を理解し、知識を身につける。総合科目の知識と教養を活用して、倫理観・使命感を持って則り調査研究を行うことができる					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的にとらえて、問題点を論理的に説明できる。他者の意見について、自説を論理的に説明できる。							3					
③	図書館等を利用した情報収集を行い、問題を明確にすることができる。他者との討議に積極的に参加して、問題解決を図ることができる。								3				
④	収集した情報やデータを基にして、自分の考えを他者に正しく伝えることができる。他者との討議に参加して議論を深めて、そこから考察をすることができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対する問題点の所在を明確化し、各自の調査を基に、質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論ができているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標②④に関して、各自の発表で、課題の理解、調査発表が適切か、発表資料が適切に使用できているか、を評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開すると思に、発表をより良い形でまとめられるように提案ができるか、を評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答、提出レポートの講評を授業中またはポータルサイトとうにおいて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新装版 教材心理学	木下 他	ナカニシヤ出版	2020	その他	必携
心理学	和田万紀	弘文堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分から13時まで。事前に予約すること。学科、学年、学生番号、名前、授業科目名、授業時間割、質問内容を明記する。 wada.maki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	心は測ることができるのか	講義計画、授業方法、成績評価基準等の説明と確認。 事前学習、事後学習の進め方、各課題へのふいーそバック方法の説明	
	この回の到達目標	SB0s①②③④	
	事前学修	心を測る、ことができるのかどうかについて、自分の考えをまとめる。 また教科書等を参考にして、従来の考え方についてまとめる。	120分
	事後学修	第1回講義の内容を振り返り、授業履修のための事前準備と計画を立てる	120分
2	心を測る、その事例を学ぶ	実際の研究例を紹介して、実際にどのように「心を測る」ことが行われたのか。その方法と結果を説明して、検討する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④ 実際の研究例について、配布資料及び教科書等を用いて討議する。	
	事前学修	「心を測る」研究例について、配布資料を読んで、その方法と結果をまとめる。	120分
	事後学修	「心を測る」研究例について、自分の考えと討議の結果について検討して、まとめる。疑問点を抽出して次回の講義で確認する。	120分
3	心を測る 「ミューラーリヤーの錯視」（１）	教材心理学より「ミューラーリヤーの錯視」をとりあげる。錯視の研究例として、ミューラーリヤーの錯視の実験を行い。データ収集と整理を行う。他の受講生のデータを統合して、考えをまとめる。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	心理学における錯視研究の事例を参照して、その研究方法、結果、説明理論等についてまとめる。	120分
	事後学修	実習で得た自分と他の受講生のデータを整理して分析する。その結果を、発表用資料として作成する。	120分
4	心を測る 「ミューラーリヤーの錯視」（２）	「ミューラーリヤーの錯視」の実実験を行い。データ収集と整理を行う。他の受講生のデータを統合して、考えをまとめる。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	「ミューラーリヤーの錯視」の結果について、作成した発表用資料を用いて、発表準備を行う。	120分
	事後学修	授業での発表、および討議を踏まえて、レポート作成をする。	120分
5	心を測る 鏡像描写（１）	ミューラーリヤーの錯視」の結果について、作成した発表用資料を用いて、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	知覚と運動の関係について、鏡像描写について教科書等を参考にしてまとめる。実習の手続き等について、用意するものなど確認をする。	120分
	事後学修	実習の結果について、自分と他の受講生とのデータを整理、分析する。発表のための資料の整理と作成を行う。	120分
6	心を測る 鏡像描写（２）	鏡像描写の実験結果を発表して、他の受講生とのデータの比較を通して、討議を行う。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	鏡像描写の実習結果について、作成した発表用資料を用いて、発表準備を行う。	120分
	事後学修	授業での発表、討議を踏まえて、レポートを作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	心を測る 語の記銘	「語の記銘」実験を行い。データ収集と整理を行う。他の受講生のデータを統合して、考えをまとめる。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	記憶に関して教科書等を参考にしてまとめる。実習の手続きを確認して、資料をそろえる。	120分
	事後学修	実習結果について、自分と他の受講者の結果を収集して、整理してまとめて、発表用の資料を作成する。	120分
8	心を測る 語の記銘（2）	「語の記銘」の実習結果発表を行い。他の受講生のデータと比較検討して、討議を行う。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	記憶に関して、語の記銘の実習結果についてまとめて、発表資料を作成して、発表準備をする。	120分
	事後学修	実習結果について、自分と他の受講者の結果を比較検討して、レポートを作成する。	120分
9	心を測る 性格の認知（1）	「性格の認知」について実習を行い、データの整理と分析を行う。、	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	性格の認知について、教科書や資料等をまとめる。実習の手続き等の確認と準備をする。	120分
	事後学修	性格の認知についての実習結果をまとめて、資料を作成する。	120分
10	心を測る 性格の認知（2）	「性格の認知」の実習結果を発表して、他の受講生のデータとの比較を行い討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	性格の認知についての結果をまとめて、発表準備をする。	120分
	事後学修	性格の認知について、発表と討議をまとめて、レポートを作成する	120分
11	心を測る 心理尺度の作成	心理尺度の作成について、実習を行いデータの収集を行う。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	心理尺度の構成について、教科書等をまとめる。実習の手続きなど準備する。	120分
	事後学修	心理尺度の構成について、実習で得られた自分と他の受講生のデータをまとめて発表資料作成の準備をする	120分
12	心を測る 心理尺度の作成	心理尺度の作成について、発表を行い討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	心理尺度の構成について、自分と他の受講生のデータを整理して、発表資料の作成をする。	120分
	事後学修	心理尺度の構成について、発表と討議の結果をまとめてレポートを作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	心を測る 投影法の基礎（1）	投影法の基礎について、実習を行い、自分と他の受講生のデータを収集してまとめる。	
	この回の 到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	投影法について、教科書等をまとめる。実習の手続き等を確認して準備する	120分
	事後学修	投影法の基礎の実習データについて、自分と他の受講生のデータを整理して分析する・	120分
14	心を測る 投影法の基礎（2）	投影法の基礎について、発表を行い、討議を行う。	
	この回の 到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	投影法の基礎について、実習結果を整理して発表資料を作成する	120分
	事後学修	発表の結果や討議をまとめて、レポートを作成する	120分
15	講義のまとめ	講義全体をまとめる。各テーマについて総合的に討議をする。	
	この回の 到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	これまでの講義資料、発表、討議等の資料をまとめて、疑問点等を抽出する。	120分
	事後学修	講義全体を振り返り、心を測る、ということについて、考えをまとめてレポートを作成する。	120分

科目名	教養演習ⅠB	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
【教養演習IIB科目の概要】総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表します。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指します。【授業概要】香川の担当する演習では、現代の多様な当事者研究（差別問題研究）の視点から、個々人の興味関心のある社会問題や社会事象について分析、検討をします。なお、受講の前提として、香川の担当する「教育学I/II」のいずれかの単位を取得しているか、当該科目を履修登録していることを要件とします。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目における学問分野に関係する豊かな教養を身に付け、客観的・論理的に説明できる資質を修得します。

【履修条件】
特にありませんが、初回の授業には必ず出席し、ガイダンスを受講してください。

【授業方法】

①テキスト（場合によっては配付資料を使用する場合もある）の講読します。②受講生の個人報告を中心とした演習形式で行います。発表では各自の理解内容・調査内容・疑問点などを報告し、全員で議論します。レポート等についての講評は授業内で行います。なお、予習と復習の時間は、あくまで目安ですので、個々人の学習状況に応じて、調整してください。2019年度の個人報告テーマ事例……ディズニー映画の女性表象、車椅子使用者の男性と非使用者の恋愛、ジェンダー・マイノリティと映像作品、学習塾の教師像、性犯罪被害者とその支援、ブラック部活など。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					2							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							2					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								2				
④	適切なレジユメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにする事が出来る。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	20		30								50
授業への参画度	到達目標の②④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。		20		30							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の発表時に担当者の側から発表の総括を行います。また、ポータルサイトを利用してフィードバックを実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパ政治思想の誕生	将基面貴巳	名古屋大学出版会	2013	参考書	任意
オオカミ少女はいなかった	鈴木光太郎	新曜社	2008	参考書	任意
人口問題の正義論	松元雅和	世界思想社	2019	参考書	任意
セクシャリティの多様性と排除	好井裕明	明石書店	2010	参考書	任意
現実はいつも対話から生まれる	ケネス・J・ガーゲン	ディスカヴァー	2018	参考書	任意
私がアルビノについて調べ考えて書いた本	矢吹康夫	生活書院	2017	参考書	任意
民族という虚構	小坂井敏晶	東京大学出版会	2002	参考書	任意
失われた子どもたち	タラ・ザーラ	みすず書房	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業にて教員から教示します。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	初回の授業にて教員から教示します。	授業の内容と進め方について解説します。担当教員の専攻する学問領域についても検討します。前期の授業との関係についても説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨めるようにする。また、担当教員の専攻する学問領域の特質を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスをもとに、担当教員の専攻する学問領域の特質について検討する。	60分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分
2	社会問題と教育社会学	社会問題と教育社会学の関係、性格について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、社会問題と教育社会学研究の位置づけに関して、その概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、前回の授業内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
3	社会問題の諸相	現代社会において構築される社会問題の位相について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題の位相についてその概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、前回の授業内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
4	社会問題と人々のまなざし	社会問題に対する同時代の人々の認識について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題研究と社会問題に対する諸言説についてその概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
5	社会問題と教育課題	現代社会において表出する教育課題の「語られ方」を検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題と教育課題の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
6	被教育体験と社会問題（個人報告）	個人の被教育体験と社会問題の関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、個々人の被教育体験と社会問題の関係について説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	就職活動と社会問題（個人報告）	現代日本の就職活動の変遷を考察するとともに、就職活動にともなう社会問題について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、就職活動と社会問題の関係について説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
8	学校教育と社会問題（個人報告）	学校教育と社会問題の関係について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、学校教育と社会問題の関係について説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
9	差別問題と社会問題（個人報告）	差別問題と社会問題の関係について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、差別問題と社会問題の関係が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
10	映像分析（テレビドラマ・映画）と社会問題の表象（個人報告）	映像資料のなかに描かれた社会問題について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題がいかに映像資料に反映されているかという概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分
11	映像分析（ドキュメンタリー番組）と社会問題（個人報告）	映像資料のなかに描かれた社会問題について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、社会問題がいかに映像資料に反映されているかという概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分
12	映像分析（アニメーション）と社会問題（個人報告）	映像資料のなかに描かれた社会問題について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	差別問題（人種差別）と社会問題（個人報告）	反知性主義とアメリカ・ヨーロッパの差別問題関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	120分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分
14	差別問題（ユダヤ人の迫害）と社会問題（個人報告）	反知性主義とアメリカ・ヨーロッパの差別問題関係について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	60分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	180分
15	総括討議	後期の授業内容に関して、総括討議を実施します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、当事者研究と自己の生活世界の関係が概要が説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業にて配布された資料をもとに、個人報告の内容について検討する。	180分
	事後学修	配布資料と受講者のコメントペーパーのコピーをもとに授業の内容をふり返る。	120分

科目名	教養演習 I B【戦争の記憶—その過去・現在・未来】	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。この演習では、「戦争の記憶—その過去・現在・未来」と題し、関連文献の輪読と個人研究を行う。なぜ「戦争の記憶」をめぐる対立が起こるのか。解決への糸口はどこにあるのか。本演習は「戦争の記憶」の作られ方や対立のメカニズムを理解し、未来を展望する視座の獲得を目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
本演習のテーマに関心を持ち、知的な発見や学問的討論に飢えている者、大学時代に「学問でも頑張った」と言えるものが欲しいという者を歓迎する。単位だけが目的の人、主体的な学習の意欲・能力のない人はご遠慮ください。

【授業方法】
まずはテーマに関連する文献を読解する。取り上げる範囲を事前に読んでくることは全員必須である。教員や他の受講生の質問に答えられるように、内容をよく理解しておく。 発表者はテキストの論点を簡潔に整理したうえで、批判的に考察・論評を加え、討論したい問題を提起する。 それを踏まえ、全員で質疑応答と討論を行う。 なお、テキストは受講生の関心により変更することもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション。プレゼンテーション。ただし、形だけの「アクティブ・ラーニング」、内容が伴わない小学生レベルのディスカッション・プレゼンテーションの真似事からは脱却して欲しい。その場に何事か刺激や気づき、新しい論点を付け加えていくために、頭をフル回転させ、自分の意見を保つ努力をし、下手でも良いから情熱を持って伝えようとする事が求められる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を 明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れ て客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60	
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調 査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイ ント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価 する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20	
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質 問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまと められるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20	
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		10	30	30	30							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の講義における講評。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
戦争の記憶 コロンビア大学特別講義 学生との対話		キャロル・ブラック	講談社	2019	教科書	必携
戦争を記憶する 広島・ホロコーストと現在		藤原帰一	講談社	2001	教科書	必携
日本人の戦争観		吉田裕	岩波書店	2005	教科書	必携
記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争		成田龍一・吉田裕	岩波書店	2015	参考書	推奨
備考	その他の参考文献は教室で指示する。					
【オフィスアワー】						
火曜13時～14時 金曜18時～18時30分						
【実務経験を活かした実践的教育について】						
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。			
実務経験に基づく実践的教育の内容		記憶の継承に関わる社会教育や学校教育における平和教育の方法について。官庁や自治体、企業における文書の作成・保存・公開の重要性について。				

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 本演習の問題意識など導入講義		本演習の問題意識、演習の課題と方法、演習の進め方、テキストの紹介、単位取得要件などについて説明する。また参加者の自己紹介を行う。 スケジュールの決定。	
	この回の到達目標	演習の目的を理解する。		
	事前学修	シラバスを熟読する。テキストを入手する。		120分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、履修を決める。		120分
2	『戦争の記憶』(1)		1 MEMORY AND HISTORY / 「歴史」とは何か、「記憶」とは何か 2 OPERATIONS OF MEMORY / 「戦争の記憶」はいかにして作られるのか	
	この回の到達目標	「歴史」と『記憶』の違い、および現代において「記憶」が問題になるのはなぜかを理解する。		
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。		120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。		120分
3	『戦争の記憶』(2)		3 THE COMFORT WOMEN IN PUBLIC MEMORY / 慰安婦」の記憶 4 THE PAST IN THE PRESENT / 歴史への責任——記憶が現在に問い掛けること おわりに	
	この回の到達目標	『戦争の記憶』をめぐる現代的問題と未来への課題を認識する。		
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。		120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。		120分
4	『戦争を記憶する』(1)		第1章 2つの博物館——広島とホロコースト 第2章 歴史と記憶の間 第3章 正しい戦争——アメリカ社会と戦争	
	この回の到達目標	日米の戦争記憶の比較から、問題の所在を理解する。またアメリカの戦争観を理解する。		
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。		120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。		120分
5	『戦争を記憶する』(2)		第4章 日本の反戦 第5章 国民の物語	
	この回の到達目標	アメリカとの比較で日本の戦争記憶の特質を理解する。		
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。		120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。		120分
6	『日本人の戦争観』(1)		第1章 歴史意識と政治一九〇年代における政策転換 第2章 「太平洋戦争史観」の成立—占領期	
	この回の到達目標	問題の所在を理解する。占領期の戦争観の形成とその歴史的背景を理解する。		
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。		120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『日本人の戦争観』(2)	第3章 認識の発展を阻むもの―占領から講和へ 第4章 ダブル・スタンダードの成立―一九五〇年代	
	この回の到達目標	日本政府の戦争観におけるダブルスタンダードの構造と背景を理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
8	『日本人の戦争観』(3)	第5章 戦争体験の「風化」―高度成長期 第6章 経済大国化のなかの変容―一九七〇年代	
	この回の到達目標	戦争体験の風化と高度経済成長を背景とした戦争観の変容を理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
9	『日本人の戦争観』(4)	第7章 ダブル・スタンダードの動揺―一九八〇年代 第8章 歴史からの逃避―現在そして将来	
	この回の到達目標	冷戦体制の崩壊前後における国際環境の変容と戦争観の動揺との関係について理解する。	
	事前学修	該当部分を読み、著者の論点を整理し、疑問点や問題提起を準備する。 参考文献を読む。	120分
	事後学修	演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。	120分
10	前半総括討論	前半期の総括討論を行う。	
	この回の到達目標	これまでの討論を踏まえ、あらためて「戦争の記憶」「戦争観」の現代的状況について理解を深め、将来への展望を考える。	
	事前学修	これまでの演習を振り返り、得られた認識や気づきを整理する。 討論において発言することを準備しておく。	120分
	事後学修	次の課題に向けての準備を確認する。	120分
11	個人発表(1) 兵士たちの記憶	分担したテーマについての個人発表	
	この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
	事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
	事後学修	発表と討論を復習する。	120分
12	個人発表(2) サブカルチャーの中の戦争	分担したテーマについての個人発表	
	この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
	事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
	事後学修	発表と討論を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	個人発表(3) 戦時生活の記憶	分担したテーマについての個人発表	
	この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
	事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
	事後学修	発表と討論を復習する。	120分
14	個人発表(4) 記憶の衝突	分担したテーマについての個人発表	
	この回の到達目標	発表を聞き、論点を深めるための討論に積極的に参加し、理解を深める。	
	事前学修	参考文献を読んでおく。	120分
	事後学修	発表と討論を復習する。	120分
15	総括討論	総括討論を通じて、演習の成果を確認するとともに、今後の課題を確認する。	
	この回の到達目標	演習での学びを振り返り、自己にどのような認識の変化があり、何が達成されたかを確認する。	
	事前学修	これまでの演習のレジュメやノートを読み直し、総括討論の準備をする。	120分
	事後学修	前期の成果の振り返りと今回の討論のまとめを行う。 次なる自己の問題意識を確認する。	120分

科目名	教養演習 I B【スポーツのパフォーマンスについて】	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。 佐藤担当のこの演習では、「スポーツのパフォーマンスについて考える」と題し、主にスポーツ心理学、体力科学の領域の研究成果や調査結果を用いて、「パフォーマンス」について議論したい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
2年生以上の履修とし、できるだけ総合科目「体育スポーツ科学Ⅰ、Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。授業時及び事前・事後学修時に実習や調査等を課し、個人報告（発表）をしてもらい、それについて議論、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	議論、質疑応答、個人報告（発表）を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
議論、質疑応答、提出レポートに対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
これから学ぶスポーツ心理学	荒木雅信	大修館書店	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日（12:10～13:00 Zoom等）※事前に連絡をすること satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	スポーツパフォーマンスとは	ガイダンス ・講義計画、授業方法、成績評価等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法についての説明 講義 ・スポーツパフォーマンスについて	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	「スポーツパフォーマンス」について関心を持っていることについて調べ、その概要をまとめる	120分
	事後学修	ガイダンス内容を振り返り、以降の計画を立てる。 当該授業回の内容をまとめる	120分
2	スポーツ心理学的アプローチ（１）	・スポーツ心理学の研究について ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動のメカニズムについて、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
3	スポーツ心理学的アプローチ（２）	・運動のメカニズムについて ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動のメカニズムについて、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
4	スポーツ心理学的アプローチ（３）	・運動学習の原理とは ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動学習について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
5	スポーツ心理学的アプローチ（４）	・運動、スポーツ指導とスポーツ心理学 ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動・スポーツ指導について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
6	スポーツ心理学的アプローチ（５）	・運動制御（反応とは何か） ・目標設定とパフォーマンス ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	運動制御について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	スポーツ心理学的アプローチ（6）	・運動、スポーツの動機付け ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	動機付け（内的、外的）について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
8	スポーツ心理学的アプローチ（7）	・心理検査紙を用いたパフォーマンス評価	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	授業時に配付した心理検査紙を事前に実施し、回答をまとめてくる。	120分
	事後学修	スポーツ心理学におけるパフォーマンスについて自分の考えをまとめ報告書を作成する。	120分
9	スポーツ心理学的アプローチ（8）	・まとめ ・個人発表 ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	事前に配付された資料（報告書）を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
10	体力科学的アプローチ（1）	・体力科学の研究について ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	体力科学について、配付資料及び関連資料を用いて事前にまとめる。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
11	体力科学的アプローチ（2）	・トレーニングとパフォーマンス（1） ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
12	体力科学的アプローチ（3）	・トレーニングとパフォーマンス（2） ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	体力科学的アプローチ（４）	・トレーニングとパフォーマンス（３） ・議論	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
14	体力科学的アプローチ（５）	・トレーニングとパフォーマンス（４） ・質疑応答	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	トレーニングに関する配付資料を熟読し、質疑応答の準備する。	120分
	事後学修	当該授業回の内容をまとめる。 自分の考えを整理し疑問点を抽出する。	120分
15	全体の振り返り	・レポートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	SB0s①～④	
	事前学修	全体を振り返り授業で取り上げたスポーツのパフォーマンスについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	各自の取り組みを振り返る。 授業で得た知見を基にスポーツのパフォーマンスを様々な視点で考える。	120分

科目名	教養演習ⅠB	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】 総合科目の諸科目に関係するテキスト教材として、各自が研究・調査をおこない、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑応答し、テキストに扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に着けることを目指す。野口が担当する演習では、全国に建立されている神社において、なぜこの地にこの神々が祀られているのかを調査することで、地域特有の文化の有様を学修する。また地域文化の歴史変遷にも触れ、今後の自然と共存について受講生全員で議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 総合科目の諸分野に関する豊かな教養を身につけ、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンテーションの能力を修得する。

【履修条件】 なし。

【授業方法】 事前に配付する資料を用いて演習形式で行う。学生主体の授業なので、学生による個人報告（プレゼンテーション）と、学生による議論、質疑応答を求める。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッションとプレゼンテーション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身につける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに即った調査・研究を行うことができる。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に参加して問題解決を図ることができる。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることができる。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決を図ることができる。								3				
④	適切なレジュメの作成により、自分の意見を他の人々に正しく伝えることができる。質疑応答に参加して、議論を実りあるものにすることができる。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点を明確にし、プレゼンテーションに対する議論・質疑応答の成果も取り入れた、論理的な内容であるかを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標②④に関して、プレゼンテーションにおける調査内容が適切であるか、レジュメなどが適切に作成されているかを評価する。また他の学生との質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標③④に関して、他のプレゼンテーションに対する質疑応答への参加度を評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の終了前に講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
式内社調査報告 全24巻	式内社研究会編	皇學館大学出版部	1977	参考書	推奨
日本の神々ー神社と聖地 全13巻	谷川健一編	白水社	1979	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応する。noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス（説明）及び導入講義	授業のテーマと問題意識についての説明と、演習課題に対する準備・調査などの方法、並びに演習の進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、授業の目的である、神社という空間が各時代の文化の蓄積により成立していることを理解することで、自然と共存した地域の文化特性を学修する。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、日本の神社について知っていることをまとめておく。	100分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、演習課題についての理解を整理する。	100分
2	日本の神祭りとは？（説明）	政治は「マツリゴト」と言われるが、その本質を理解することで、人々はなぜ神祭りをするのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、古代と現在との認識の相違を理解することができる。	
	事前学修	日本の神祭りとは何か、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
3	伊勢神宮・内宮とは？（説明）	伊勢神宮・内宮の祭神とその歴史を通して、伊勢神宮・内宮の祭祀変遷を理解し、地域文化の特性を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、伊勢神宮・内宮周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	伊勢神宮・内宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
4	伊勢神宮・外宮とは？（説明）	伊勢神宮・外宮の祭神とその歴史を通して、伊勢神宮・内宮の祭祀変遷を理解し、地域文化の特性を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、伊勢神宮・内宮周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	伊勢神宮・外宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	説明を振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
5	春日大社とは？（プレゼンテーション）	春日大社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、春日大社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	春日大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
6	住吉大社とは？（プレゼンテーション）	住吉大社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、住吉大社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	住吉大社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	宗像大社とは？（プレゼンテーション）		宗像大社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、宗像大社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	宗像大社について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
8	出雲大社とは？（プレゼンテーション）		出雲大社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、出雲大社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	出雲大社について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
9	大神神社とは？（プレゼンテーション）		大神神社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、大神神社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	大神神社について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
10	鹿島神宮とは？（プレゼンテーション）		鹿島神宮について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、鹿島神宮の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	鹿島神宮について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
11	熱田神宮とは？（プレゼンテーション）		熱田神宮について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、熱田神宮の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	熱田神宮について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分
12	霧島神宮とは？（プレゼンテーション）		霧島神宮について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、霧島神宮の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。		
	事前学修	霧島神宮について、知っていることをまとめておく。		120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	香取神宮とは？（プレゼンテーション）	香取神宮について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、香取神宮の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	香取神宮について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
14	筑波山神社とは？（プレゼンテーション）	筑波山神社について調査し、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、筑波山神社の祭神とその周辺の地域文化の特性を理解することができる。	
	事前学修	筑波山神社について、知っていることをまとめておく。	120分
	事後学修	プレゼンテーションを振り返り、得られた情報や疑問点を整理しておく。	120分
15	まとめ	神祭りに関する歴史変遷を理解したことを通して、自然を崇めた祭祀継承により構築された日本文化の有様について討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、これまでの学びを振り返り、何をどのように理解したのかを確認することができる。	
	事前学修	これまでのプレゼンテーションから得た情報整理を読み直し、討論の準備をする。	140分
	事後学修	学びの成果を振り返り、今回の討論で得られた新たな問題意識をまとめておく。	140分

科目名	教養演習 I B【食の社会学】	担当者	原山 浩介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに受講生全員で質疑・応答し、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を適切に表現する方法を身に付けることを目指す。原山担当のこの演習では、今日の「食」という、ごく日常生活局面を、人文学・社会科学の領域横断的な学問分野の広がりの中で捉え直し、多角的に検討することを目的として、各回のテーマに即した資料を題材にしながら議論を行う。受講者が、積極的な議論への参加を通じて、日常とのつながりのなかの「学」を経験する形を取る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身に付け、一つの成果としてまとめるために、テキストを精読してテーマを見つけ、客観的・論理的に説明できる能力を修得する。また、発表・質疑応答を通じてプレゼンの能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、人数調整、および演習の報告順等を決めるため、必ず第1回目には出席すること。

【授業方法】
司会・報告者・コメンテーターを週替わりで交代しながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	報告者、司会、コメンテーターを決めて発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して専門的な用語を理解し知識を身に付ける。総合科目の知識と教養を活用し、倫理観・使命感を持ってルールに則った調査・研究を行うことが出来る。					3							
②	テキストの精読と様々な調査によって従来の研究を批判的かつ客観的に見、問題点を論理的に説明出来る。他者の発表に対して自論を論理的に説明出来る。							3					
③	図書館やインターネットなどを利用して問題点を見つけることが出来る。受講生の質疑応答に積極的に参加して問題解決をはかることが出来る。								3				
④	適切なレジュメの作成などにより、自分の意見を他の人々に正しく伝えることが出来る。質疑応答に参加して、議論を実りのあるものにすることが出来る。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題点の所在を明確化し、各自の調査をもとに質疑応答の成果も取り入れて客観的な立論が出来ているか否かを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標の②④に関して、各自の発表で課題の理解・調査・発表が適切に行われているか、レジュメ・パワーポイント・スライドなどが適切に使用できているか否かを評価する。質疑応答への参加度も評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標の③④に関して、他の受講生の発表に積極的に質問し、自論を展開するとともに、発表をよりよい形でまとめられるように提案が出来るか否かを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表（内容、方法等）、質疑応答等に対しての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特に指定しない					
備考					

【オフィスアワー】
演習前後（教室）、および火曜日16:20～17:50（研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	演習のねらいと進め方についての説明を行う。さらに、短い資料を読んで、その場でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	演習のねらいを理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、演習のねらいについて自らの理解を作っておく。	60分
	事後学修	演習での説明内容、および配付した資料の内容を振り返り、「食」をめぐる議論の可能性について考えを深める。	120分
2	食をめぐる論点整理1 食料の確保と「主食」の意味	事前配付資料を参考に、現代の食をめぐる論点について整理するとともに、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	現代の食をめぐる論点を理解する。	
	事前学修	事前配布資料を読み、そこに出てくる食をめぐる論点について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、食をめぐる論点について再整理する。	120分
3	食をめぐる論点整理2 安全・安心と農業現場	事前配付資料を参考に、現代の食をめぐる論点について整理するとともに、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	現代の食をめぐる論点について、とりわけ「食の安全」をめぐって理解を深める。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「食の安全」をめぐる論点について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、「食の安全」をめぐる論点について再整理する。	120分
4	食をめぐる社会問題の同時代史	事前配付資料を参考に、食をめぐる諸問題の同時代史的背景について整理するとともに、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	食をめぐる社会問題を同時代史的に理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、食をめぐる諸問題の同時代史的背景について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、食をめぐる同時代史的背景について再整理する。	120分
5	遺伝子組換えとゲノム編集1 技術的背景と現行制度	事前配付資料を参考に、遺伝子組換えやゲノム編集について整理するとともに、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	遺伝子組換え・ゲノム編集といった諸技術の概要と、それらが社会問題として扱われる際の論点を理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、遺伝子組換えなどの技術とそれらをめぐる議論について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、遺伝子組換えなどの技術とそれをめぐる議論について再整理する。	120分
6	遺伝子組換えとゲノム編集2 社会的な影響と問題点	事前配付資料を参考に、遺伝子組換えやゲノム編集といった技術をめぐる社会的影響について整理するとともに、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	遺伝子組換え・ゲノム編集といった諸技術の社会的影響について理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、遺伝子組換えなどの技術の社会的影響について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、遺伝子組換えなどの技術のグローバルな影響を再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「産消提携」という問題提起1 有機農業との関わりから	事前配付資料を参考に、有機農産物の産消提携が取り組まれるまでの経過と、これに対する評価について整理するとともに、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「産消提携」が農業をめぐってひとつの問題提起としての意味を持ったことを理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、「産消提携」と有機農業について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、「産消提携」と有機農業について再整理する。	120分
8	「産消提携」という問題提起2 食の「ローカライゼーション」	事前配付資料を参考に、食の「ローカライゼーション」をめぐる動向について整理し、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	食の「ローカライゼーション」をめぐる動向について理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、食の「ローカライゼーション」をめぐる動向について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、食の「ローカライゼーション」をめぐる動向について、身近なところでどのような取り組みがあるのかを見据えながら再整理する。	120分
9	「食の安全」の希求1 市民運動ベースの安全	事前配付資料を参考に、市民運動ベースの「食の安全」への取り組みについて整理し、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	市民運動ベースの「食の安全」への取り組みについて理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、市民運動を通じて「食の安全」がどのように希求されてきたのかを整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、市民運動を通じた「食の安全」の可能性と問題点を再整理する。	120分
10	「食の安全」の希求2 BSE問題と食品安全行政の変容	事前配付資料を参考に、日本社会における「食の安全」に対する見方が大きく変わる契機となったBSE問題について整理し、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	BSE問題が食品安全行政に及ぼした影響を理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、BSE問題とは何かをめぐって理解しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、BSE問題と食品安全行政の関係について再整理する。	120分
11	「食の安全」の希求3 「科学」をどうみるか	事前配付資料を参考に、科学的知見をベースにした「食の安全」に対する見方が、一般の人びとの「食の安全」に対する発想とどのようなギャップを孕んでいるのかをめぐって整理し、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「科学」と人びとの日常感覚のギャップについて理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、「科学」をベースにした「食の安全」についての議論をめぐる可能性と問題点を整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、「科学」を社会においてどのように位置づけるべきなのかについて再整理する。	120分
12	グローバリゼーションのなかの「食」と「農」	事前配付資料を参考に、経済のグローバル化のなかで、「食」と「農」がどのような問題に直面しているのかを整理し、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グローバリゼーションのなかで、日常の「食」と、これを支える「農」がどのような位置にあるのかを理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、グローバリゼーションと「食」「農」の関係について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、グローバリゼーション下で「食」と「農」をめぐって考えていくべき課題を再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	誰が農業を担うのか1 小農の存在意義	事前配付資料を参考に、小農の存在意義とその担い手をめぐる現状と課題について整理し、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	小農が食料生産において持つ意義と、今日の課題を理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、小農の意義と課題について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、小農をベースにした農業のあり方について再整理する。	120分
14	誰が農業を担うのか2 農業労働力の国境を越えた移動	事前配付資料を参考に、人の移動のグローバル化に伴う農業の担い手の多様化、すなわち外国人労働者が担う農業の現状と課題について整理し、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	国境を越えた農業労働者の移動を捉え、その可能性と課題を理解する。	
	事前学修	事前配付資料を参考に、国境を越えた労働力の移動の現状を、農業労働に即して整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料、演習での説明、ディスカッションを振り返り、農業における外国人労働者の現状と課題について再整理する。	120分
15	総括討論	演習で扱ってきた論点を振り返りながら、「食」をめぐって考えていくべき課題を整理するためのディウカッションを行う。	
	この回の到達目標	「食」をめぐる論点・課題についてのパースペクティブを持つ。	
	事前学修	これまでの読んできた配付資料をもう一度見直し、「食」をめぐる諸課題のなかで何が重要なのかを自分なりに整理しておく。	120分
	事後学修	「食」について将来にわたって考えていくための土台をどのように作ることができるか、自分なりに整理する。	180分

科目名	教養演習ⅠB	担当者	和田 万紀	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
総合科目の諸科目に関係するテキストを題材として、各自が調査研究wお行い、演習形式で発表して討議する。これらの一連の過程を通して、テキストで扱われている問題に関する理解を深めるとともに、各自の意見を論理的、かつ適切に表現する方法を獲得する。本クラスにおいては、「社会文化を実験する」というテーマのもとに、関連文献の収集と調査研究を行う。特に「社会文化を実験する」というテーマに関して、各自が問題の設定、文献情報の収集、仮説生成を行い、文献研究や調査結果を用いて議論する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目の諸分野に関係する豊かな教養を身につけ、成果としてまとめて発表して討議する。各自が問題を設定して、仮説を生成し、それに基づく客観的論理的根拠から客観的論理的に説明できる能力を修得する。資料作成や発表、討議を通じてプレゼンテーションの能力を修得する。

【履修条件】
心理学ⅠⅡを履修していることが望ましい。

【授業方法】
zoomによる講義演習を行う予定であるが、コロナの影響による変更も有る。各自の問題設定に基づく文献等情報収集を行い。講義時または事前事後学修時にデータ収集、調査等を行う。その調査研究結果に基づき、個人発表または共同発表を行い。他の受講生との討議を行い、レポートとして提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	文献情報収集、調査等によるデータ収集と整理分析をもとに、発表と討議を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストを精読して、専門的用語を理解して知識を身に着ける。総合科目の知識と教養を活用して、倫理観、使命感を持って、ルールに則る調査研究を行うことができる。					3							
②	テキストの精読と、様々な調査研究により、従来の研究を批判的かつ客観的に理解することができる。その中にある問題を論理的に説明できる。他者の発表に対して、自論を論理的に説明できる。							3					
③	図書館等を利用して文献や従来の調査研究成果の情報収集して、問題を明確にして自分の仮説を設定できる。他の受講生との討議に積極的に参加して、問題解決にいたることができる。								3				
④	収集した文献情報、データ等を基にした資料等を作成して、自分の意見を他の人に正しく伝えることができる。討議に参加して、議論を実りあるものに行うことができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関して、課題に対して問題を所在を明確化して、仮説を設定する。それらを基にした調査研究を行い。その結果の発表と討議を通して、客観的立論ができたかを評価する。	10	20	20	10							60
討論・発表等	到達目標②④に関して、各自の文献・情報収集及びデータ整理と分析が適切に行われているか、それらをまとめて発表する際に、発表資料等は適切に採用、準備されているか、積極的に討議に参加をしているか、を評価する。		10		10							20
授業への参画度	到達目標③④に関して、他の受講生の発表に対して積極的に質疑し、自論を展開するとともに、発表をより良い形でまとめて提案できるかを評価する。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義、ポータルサイト等において講評等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会心理学再入門	スミス&ハスラム 編、樋口&藤島監訳	新曜社	2017	教科書	必携
心理学	和田万紀	弘文堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分ー13時。事前予約をしてください。法学部から割り当てられたメールアドレスで、学科、学年、学生番号、名前、授業科目名、時間割を必ず記入して質問すること。wada.maki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会文化を実験する はじめに	本演習の問題意識、演習の課題と方法、演習の進め方、テキスト等の紹介、評価の方法等について説明する。	
	この回の到達目標	本演習の目的と進め方を理解して、評価の方法を確認する。	
	事前学修	シラバスと教科書を熟読して、社会文化を実験する、というテーマについての、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	第1回講義を振り返り、履修を決定する。	120分
2	社会文化を実験する 1 社会的促進と社会的手抜き	トリプレットの研究を中心として、目的、方法、結果を考察し、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	{社会心理学再入門} 第1章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。、	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加から、自分が作成した資料をまとめなおしてレポートを作成する	120分
3	社会文化を実験する 2 態度と行動	ラスピール等の研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第2章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加から、自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
4	社会文化を実験する 3 認知的不協和	、フェスティンガーの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB O s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第3章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加から、自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
5	社会文化を実験する 4 規範形成	シェリフの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第4章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
6	社会文化を実験する 5 同調	アッシュの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第5章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会文化を実験する 6 少数派の影響	モスコビッチの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第6章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
8	社会文化を実験する 7 服従	ミルグラムの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第7章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
9	社会文化を実験する 8 暴政	ジンバルドーの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門8章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
10	社会文化を実験する 9 集団間関係と葛藤	シェリフの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第9章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
11	社会文化を実験する 10 差別	タジフェルの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第10章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
12	社会文化を実験する 11 ステレオタイプと偏見	ハミルトンとギフォードの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第11章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会文化を実験する 12 緊急時の援助行動	ラタネの研究を中心として、目的、方法、結果を考察して、その現代的意味と意義を討議する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	社会心理学再入門第12章を読み、内容をまとめて、発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
14	社会文化を実験する	各自が設定する問題意識を明確にして、文献資料等を収集して、発表する。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	各自が設定する問題意識のもとに、文献資料を収集して、まとめて発表資料を作成する。	120分
	事後学修	講義での他の受講生の発表や討議への参加化から。自分が作成した資料をまとめなおして、レポートを作成する。	120分
15	社会文化を実験することで何が明らかになるのか	総括的討議を行い、講義全体を振り返り、まとめる。	
	この回の到達目標	SB0 s ①②③④	
	事前学修	講義での資料や自分のまとめ、レポートを総括して学修を振り返り、自分に何が達成されたのかを確認する。	120分
	事後学修	総括討議を経て、自分の中にある問題意識、仮説がどの様に変化し、課題として何が残されたのか、次の問題意識の確認を行う。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。パワーポイント、映像などを紹介しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜自由コメントを執筆し、学修の深化を図る。それらに対しては、次回以降の授業などでフィードバック（講評）する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。					2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。						2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。							2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『長寿と画家 巨匠たちが晩年に描いたものとは?』	河原 啓子	フィルムアート社	2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
kawahara.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家としての、取材、インタビューなど。
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場取材によるタイムリーな情報などを授業で反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	芸術の価値 クリエイティブ・クラス AIは何をもたらすか	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
2	既成価値観の見直し（1）	岡本太郎の対極主義 芸術とは何か 「なんだ、これは！」	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
3	既成価値観の見直し（2）	身のまわりを見つめ直す 赤瀬川原平『老人力』にみる新しい立脚点	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
4	既成価値観の見直し（3）	荒川修作 反芸術 弱者に向けた芸術	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
5	既成価値観の見直し（4）	おたく クール？ 村上隆 コンテンポラリー・アートの意味	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
6	既成価値観の見直し（5）	ポップ・アート 日常的イメージの引用 アンディ・ウォーホル 他	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	既成価値観の見直し（6）	芸術を思索すること オノ・ヨーコとジョン・レノン	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
8	複製技術時代の芸術（1）写真の発 明	写真は人々の認識をどのように変えたか 情報授受の変容	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
9	複製技術時代の芸術（2）写真の発 展	記録か芸術か？ 報道写真 表現としての写真	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
10	複製技術時代の芸術（3）映画の発 明	映画前史からたどる 世界初の映画の登場と影響	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
11	複製技術時代の芸術（4）映画、映 像の発展	娯楽か芸術か？ 多様な映像 進展する映像技術	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
12	複製技術時代の芸術（5）音楽の複 製	生演奏か？ 録音か？ グレン・グールドの問題提起	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ミュージアムの存在意義	各国のミュージアムをめぐって メディアとしての文化装置	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
14	文化政策	日本 アメリカ フランスを比較する 国家の文化や芸術に対する価値観 世界文化遺産	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
15	まとめ	芸術とは何か 文化とは何か	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。取り扱うジャンルによっては、パワー・ポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しながら講義を進める。リアクションペーパーなどを利用して各自の意見を提出してもらうこともある。それらは事後にフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などで講評する。 出席管理については、授業内指示します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の前後に受け付ける。 メールアドレス : kinase.norikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	授業内容と関連。
実務経験に基づく実践的教育の内容		都留文科大学、明治大学ほかで美術史、芸術学、絵画論などを担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	序論Ⅰ：芸術論Ⅰについて 授業の紹介、オリエンテーション。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、この授業の概要と目的を考察し、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術作品には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることに。	120分
	事後学修	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。	120分
2	西洋美術史から見た日本美術史 各論1-① 仏教伝来と飛鳥時代	仏教伝来と飛鳥時代について、 鑑賞と解釈の方法や、建築、絵画、彫刻、工芸の定義について説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
3	各論1-② パルテノン神殿と奈良の法隆寺	パルテノン神殿と奈良の法隆寺について、 伽藍造営経緯、作品様式とアルカイックスマイル等諸技法を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	各論1-③ 薬師寺と唐招提寺	薬師寺と唐招提寺について、 歴史記念建造物や世俗建築の概略を説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
5	各論1-④ 天平時代、奈良盛期	天平時代、奈良盛期におけるクラシック様式について、 国家事業としての東大寺造営との関連で解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	西洋美術史から見た日本美術史 各論2-① 平安時代の美術と西洋への影響	浄瑠璃寺、平等院及びサグラダファミリアやモネの絵画を鑑賞し、平安時代の美術と西洋への影響について説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各論2-② 曼荼羅と密教尊像	大陸より伝承した図像形式である曼荼羅と密教尊像を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	各論2-③ 絵巻物とやまと絵	絵巻物とやまと絵における、画面構成法、説話表現について説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで分類・整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
9	西洋美術史から見た日本美術史 各論3-① 鎌倉時代における寺院建築	鎌倉時代における寺院建築再興や、大仏様と禅宗様について解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	各論3-② 絵画、彫刻、工芸における 鎌倉様式	絵画、彫刻、工芸における鎌倉様式について、精緻な肖像に見る写実や、日本とヨーロッパの写実表現の概略を説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
11	各論3-③ 室町時代 楼閣建築と庭園造営	室町時代における楼閣建築と庭園造営について、パラッツォ、ヴィッラの歴史と並行して解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	各論3-④ 水墨画、詩画軸山水 雪舟	水墨画、詩画軸山水、雪舟について、書斎と風景描写、同時代のルネサンス風景画とともに説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	授業まとめ	前学期の授業を俯瞰して、授業のまとめを致します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。	120分
	事後学修	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。	120分
14	理解度の確認 1 授業内試験	理解度の確認として、授業内試験を実施する予定です。 解説や振り返りも行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	授業内試験の準備。前期内容の振り返り。	120分
	事後学修	授業内試験の整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分
15	理解度の確認 2 フィードバック	理解度の確認として、フィードバックを実施致します。 解説や振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	フィードバックの準備。前期内容の振り返り。	120分
	事後学修	フィードバックの整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	石井 香絵	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特に無し。

【授業方法】
講義形式。レジュメ、スライド、視聴覚機器を使用し作例を具体的に紹介しながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて実施

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
木曜 1 限、授業前後に受け付ける。授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	「芸術」「美術」とは何か 図像・様式と写実の歴史	
	この回の到達目標	「芸術」「美術」の基本的概念の把握。	
	事前学修	「芸術」「美術」について自身の知識、見解を整理しておく。	120分
	事後学修	美術史学の基本事項について復習。	120分
2	近代の西洋と日本	20世紀前後の西洋と日本① 写実主義の展開 日本の江戸と近代化	
	この回の到達目標	近代における西洋と日本の影響関係の把握。	
	事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	19世紀東西文化の復習。	120分
3	近代の西洋と日本	20世紀前後の西洋と日本② 印象派とジャポニスム 日本の近代化	
	この回の到達目標	印象派を中心とする東西の影響関係の理解。	
	事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ジャポニスムについて復習。	120分
4	世紀末芸術	世紀末芸術 象徴主義、アール・ヌーヴォーの展開	
	この回の到達目標	19世紀末の表現形式の理解。	
	事前学修	世紀末芸術について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	世紀末芸術の思想・視覚表現について復習。	120分
5	表現主義とキュビズム	表現主義とキュビズム マティス、ピカソの時代 色とかたちの追求	
	この回の到達目標	20世紀初頭のムーブメントの理解。	
	事前学修	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	表現主義とキュビズムについて復習。	120分
6	ダダイズム、シュルレアリスム	ダダイズム、シュルレアリスム ツァラ、デュシャン、ブルトンの時代	
	この回の到達目標	第一次世界大戦後の美術状況の理解。	
	事前学修	20世紀前半の美術、文学活動について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ダダ、シュルレアリスムについて復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	戦前・戦後の日本美術		前衛と戦争の影 占領下とその後の日本美術
	この回の到達目標	占領下とその後の日本美術について理解。	
	事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	戦前、戦後美術の復習。	120分
8	戦後の西洋美術		アンフォルメル、アクションの時代① 抽象表現主義 未定形の表現
	この回の到達目標	戦後の抽象芸術について理解。	
	事前学修	戦後西洋美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	アンフォルメル、抽象表現主義の復習。	120分
9	日本の前衛美術		アンフォルメル、アクションの時代② アンフォルメル旋風と日本 具体美術協会
	この回の到達目標	50年代日本の表現展開について理解。	
	事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	50年代日本美術の復習。	120分
10	戦後アメリカ美術		ネオダダ、反芸術① カラー・フィールド・ペインティングからネオ・ダダへ
	この回の到達目標	50年代アメリカの美術状況について理解。	
	事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	50年代日本とアメリカ美術の復習。	120分
11	日本の前衛美術		ネオダダ、反芸術② 読売アンデパンダン展の時代とその後
	この回の到達目標	60年代日本の表現展開について理解。	
	事前学修	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	60年代日本美術の復習。	120分
12	ミニマル、コンセプチュアル・アート		ミニマル・アート、もの派、コンセプチュアル・アート 要素の抽出 ミニマルへの普遍的美意識
	この回の到達目標	日本と西洋におけるミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの理解。	
	事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ポップ・アート	ポップ・アート 日用品、マス・メディアへの視点 イメージの提示	
	この回の到達目標	アメリカを中心とするポップ・アートの展開について理解。	
	事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ポップ・アートについて復習。	120分
14	新表現主義	シミュレーショニズム、ニュー・ペインティング 未視感から既視感へ 新表現主義の台頭	
	この回の到達目標	80年代の表現展開について理解。	
	事前学修	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	シミュレーショニズム、ニューペインティングについて復習。	120分
15	まとめ	まとめ、現代の動向	
	この回の到達目標	授業全体のまとめおよび00年代以降の展開について理解。	
	事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	授業全体の復習。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。パワー・ポイント、映像などを紹介しながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜自由コメントを執筆し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などでフィードバック（講評）する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『長寿と画家 巨匠たちが晩年に描いたものとは?』	河原 啓子	フィルムアート社	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
kawahara.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家としての、取材、インタビューなど。
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場取材によるタイムリーな情報などを授業で反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	芸術とは何か 私たちの視野を広げてくれる芸術 アートの存在意義	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
2	芸術家の創造・思想・人生（1）フラ ンシスコ・デ・ゴヤ	近代の先駆者 さまざまな試み	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
3	芸術家の創造・思想・人生（2）ジョ ゼフ・マロード・ウィリアム・ター ナー	風景画の意義 自然と人間	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
4	芸術家の創造・思想・人生（3）エド ガー・ドガ	社会を見つめるまなざし 写真の影響	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
5	芸術家の創造・思想・人生（4）ク ロード・モネ	《印象・日の出》当時のジャーナリズムをふり返る 印象派とは	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
6	芸術家の創造・思想・人生（5）オー ギュスト・ルノワール	酷評された作品 世論とは何か 女性表現の開拓	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	芸術家の創造・思想・人生 (6) エドヴァルド・ムンク	《叫び》はなぜ人々を魅了するのか 病、死をどうとらえるか	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
8	芸術家の創造・思想・人生 (7) アンリ・マティス	フォーヴィスム（野獣派）とは 《ジャズ》最晩年の作品	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
9	芸術家の創造・思想・人生 (8) ジョルジュ・ルオー	キリスト教絵画 ヨーロッパの精神文化 独自の世界を構築	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
10	芸術家の創造・思想・人生 (9) パブロ・ピカソ	キュビズム（立体派）とは ピカソの革新とは何か	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
11	芸術家の創造・思想・人生 (10) マルク・シャガール	夢や愛を描く 世界的活躍の軌跡	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
12	芸術家の創造・思想・人生 (11) 葛飾北斎	江戸後期の浮世絵師の挑戦 ジャポニスムへの影響	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	芸術家の創造・思想・人生（12）横山大観	明治、大正、昭和をふり返る 富士の描写にみられるもの芸術家の創造・思想・人生	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
14	芸術家の創造・思想・人生（13）伊藤若冲 熊谷守一	わが道を行く画家たち 自分らしい生き方とは	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分
15	まとめ	人生と芸術 芸術鑑賞の意義	
	この回の到達目標	授業で学習したことに関連する知識を増やし、自分の考えを明確にする。	
	事前学修	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。	120分
	事後学修	授業で学習したことを再検討してみる。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。取り扱うジャンルによっては、パワー・ポイント、視聴覚機器などを用いて映像などで紹介しながら講義を進める。リアクションペーパーなどを利用して各自の意見を提出してもらうこともある。それらは事後にフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。それらに関しては、次回以降の授業などで講評する。 出席管理については、授業内指示します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の講義中にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の前後に受け付ける。 メールアドレス : kinase.norikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	授業内容と関連。
実務経験に基づく実践的教育の内容		都留文科大学、明治大学ほかで美術史、芸術学、絵画論などを担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	序論Ⅱ：芸術論Ⅱについて 授業の紹介、オリエンテーション。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、この授業の概要と目的を考察し、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることを。	120分
	事後学修	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。	120分
2	西洋美術史から見た日本美術史 各論4-① 安土桃山、織豊時代	安土桃山、織豊時代について、 国宝姫路城を例として説明します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
3	各論4-② 西洋美術の伝播と導入 暮らしを彩る工芸意匠、狩野派	西洋美術の伝播と導入、暮らしを彩る工芸意匠について、 狩野派、茶の湯と茶室、数寄屋造から和式家屋への展開を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	各論4-③ 宗達光琳派	宗達光琳派について、 季節の推移を味わい、ルネサンスの風神（ゼフュロス）画も説明します。。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
5	西洋美術史から見た日本美術史 各論5-① ロココの雅宴画 寛文美人画と浮世絵	ロココの雅宴画、寛文美人画と浮世絵について、 師宣肉筆、木版製作工程を解説します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	各論5-② 春信、歌麿、広重、北斎などの 錦絵	春信、歌麿、広重、北斎などの錦絵について 色彩や輪郭、バリの日本美術流行とともに説明します。。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各論5-③ 舶来機器と洋風絵画 源内	舶来機器と洋風絵画について 源内、蘭学と油彩、オランダ絵画の影響を解説します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	各論5-④ 文人画、銅版、動植物絵	文人画、銅版、動植物絵について、 空気と線などによる遠近法、モナ・リザの空気遠近法、イタリアの美人画を説明します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
9	西洋美術史から見た日本美術史 各論6-① 学制発布と美術教育の始まり	学制発布と美術教育の始まり、印象派とパリ留学について、 明治以後の建築様式を解説します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	各論6-② 日本美術を鑑賞致します	日本美術を鑑賞致します。 伝統保持や復古再生について説明します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分
11	各論6-③ アールヌーヴォー アールデコ 万国博覧会	アールヌーヴォー、アールデコについて、 建築装飾、工芸作品を多様に楽しみ、鑑賞する眼を養う。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	準備を行なう。講義全体を概観し、比較・検討できるように調べてみる。	120分
	事後学修	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	各論6-④ 近現代における芸術 20世紀初め西洋美術の影響	近現代における芸術、20世紀初め西洋美術の影響について、 洋画や彫刻における充実の様相を説明します。	
	この回の 到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	興味に応じた予習。シラバスを確認するとともに、授業内容の関連事項について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートなどで整理し、自分なりに系統立ててみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	授業まとめ	後学期の授業を俯瞰して、授業のまとめを致します。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。	120分
	事後学修	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。	120分
14	理解度の確認 1 授業内試験	理解度の確認として、授業内試験を実施する予定です。 解説や振り返りも行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、取り扱う事柄について知識を深め、説明できるようにしましょう。	
	事前学修	授業内試験の準備。後期内容の振り返り。	120分
	事後学修	授業内試験の整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分
15	理解度の確認 2 フィードバック	理解度の確認として、フィードバックを実施致します。 解説や振り返りを行います。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、自ら楽しめる事項を見つけ、理解できるようになりましょう。	
	事前学修	フィードバックの準備。後期内容の振り返り。	120分
	事後学修	フィードバックの整理。これまでの学習内容を確認する。全体講評。	120分

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	石井 香絵	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
芸術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、また人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動である。こうした考えのもと、個々の芸術作品はもとより、芸術を取り巻く様々な問題にも目を向けて、授業を進めて行くことにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々なジャンルの芸術に接することで豊かな教養を身に付け、総合科目の基礎的学修を達成するために、社会における芸術や文化の役割について説明できる力を修得する。また、様々な芸術作品を鑑賞しながら既成の価値観を見直し、多元化が進む社会における問題解明能力を向上させることができる能力も修得する。

【履修条件】
特に無し。

【授業方法】
講義形式。レジュメ、スライド、視聴覚機器を用いて具体的な作例を紹介しつつ授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーやレポートなどによって自身の意見をまとめて表現し、学修の深化を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	芸術や文化に関して、専門的・客観的な知識を身に付けることができる。				2							
②	芸術・文化と社会との関係について、日本や世界の事例を考慮して自分の言葉で表現できる。					2						
③	芸術をとりまく社会的状況に関して論理的・批判的に説明することができる。また、多様な価値観を理解して自分の言葉で説明することができる。						2					
④	芸術や文化をとりまく諸問題に目を向け、問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理して表現できるようになる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかを授業内小テストもしくはリアクションペーパーなどによって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④に関して、その目標とする能力が身に付いているかをレポートなどによって評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて実施

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
授業前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	複製技術とメディア	美術、視覚メディアと素材 画材の歴史 複製技術とマチエール メディア・アート考察	
	この回の到達目標	視覚メディアの歴史について把握	
	事前学修	日常的に使っている視覚メディア、今は使われなくなった視覚メディアについて自身の経験、見解を整理しておく。	120分
	事後学修	美術、視覚メディア史の基本事項について復習。	120分
2	写真と絵画	写真と油絵① 写真の登場と美術、社会への影響	
	この回の到達目標	写真と絵画それぞれの役割と歴史について理解	
	事前学修	油絵、写真の歴史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	写真と油絵の歴史について復習。	120分
3	写真と絵画	写真と油絵② 錦絵と写真鏡 “Photography”と「写真」	
	この回の到達目標	明治期の浮世絵と写真の役割について理解	
	事前学修	絵、写真の歴史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	写真と油絵の歴史について復習。	120分
4	近代の複製技術	複製技術の展開① 出版文化と複製イメージ 製版の多様性	
	この回の到達目標	近代の様々な複製技術について理解	
	事前学修	版画、印刷史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	複製技術史の復習。	120分
5	近代の複製技術	複製技術の展開② 銅版、石版、木口木版の隆盛	
	この回の到達目標	近代の様々な複製技術について理解	
	事前学修	版画、印刷史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	複製技術史の復習。	120分
6	万国博覧会	博覧会の時代① 博覧会ブームの時代 万国博覧会	
	この回の到達目標	万博を中心とする博覧会の歴史について理解	
	事前学修	欧米、日本の近代化政策について予習。	120分
	事後学修	博覧会と近代化政策について復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	博覧会と作品観賞	博覧会の時代② 作品をみる「場所」考察	
	この回の到達目標	博覧会の流行と展開について理解	
	事前学修	欧米、日本の近代化政策について予習。	120分
	事後学修	博覧会と近代化政策について復習。	120分
8	美術作品の「素材」	コラージュの登場と展開① 素材の拡張 キュビズム以後	
	この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
	事前学修	20世紀美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	コラージュのはじまりと展開について復習。	120分
9	美術作品の「素材」	コラージュの登場と展開② 現代のコラージュとその文脈	
	この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
	事前学修	20世紀美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	コラージュの展開について復習。	120分
10	美術作品の「素材」	ミニマリズムと素材① ミニマル・アート、もの派と素材	
	この回の到達目標	美術作品における素材の拡張について理解	
	事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	ミニマル・アートについて復習。	120分
11	美術作品の「素材」	ミニマリズムと素材② コンセプチュアル・アートと素材	
	この回の到達目標	美術作品における素材について理解	
	事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	コンセプチュアル・アートについて復習。	120分
12	彫刻の定義と歴史	「彫刻」と「立体」 彫刻作品の定義と役割・歴史	
	この回の到達目標	彫刻作品の定義と役割・歴史について理解	
	事前学修	彫刻作品について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	彫刻史について復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディア・アート	メディア・アート史① 実験映像の時代とCG黎明期	
	この回の到達目標	メディア・アートの定義・歴史について理解	
	事前学修	メディア・アートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	メディア・アート史の復習。	120分
14	メディア・アート	メディア・アート史② CGの発展、「マルチメディア」とは何か	
	この回の到達目標	メディア・アートの定義・歴史について理解	
	事前学修	メディア・アートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	メディア・アート史の復習。	120分
15	まとめ	まとめ 美術と画材の拡張②	
	この回の到達目標	授業全体のまとめ。美術作品の「素材」についての再考。	
	事前学修	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。	120分
	事後学修	授業全体の復習。	120分

科目名	健康科学 I	担当者	佐藤 秀明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
WHO憲章では健康について「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」と定義している。このことから健康を理解するには様々な視点から考える必要があるといえる。本講義では健康に関連するテーマ（諸問題や健康被害等）を取り上げ、健康を取り巻く環境について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康問題や健康に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康を保持増進するための環境について健康を総合的に考え、的確に判断する能力を修得する。

【履修条件】
健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。

【授業方法】
授業形態は、オンライン（オンデマンド）である。各授業回に授業動画及び関連資料を配信する。各授業回では小テストを実施し、適宜解答及び解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー（第7回、第13回、第15回）、課題レポート（2回）を活用する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。						2	2	2	2				
②	健康被害について、具体例を示し説明できる。						2	2	2	2				
③	健康を取り巻く環境について具体例を示し説明できる。						2	2	2	2				
④	社会的な健康問題について、関連する情報を用いて説明できる。						2	2	2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③についての知識が身についているかを確認する。	20	20	20								60
レポート等	到達目標①～④についての知識が身についているかを、レポートにより評価する。	5	5	5	25							40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答及び解説（第7回、第13回）、レポート課題の講評。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会を変える健康のサイエンス 健康総合科学への21の扉	東京大学医学部健康総合科学科 編	東京大学出版会	2016	参考書	任意
健康格差	マイケル・マーモット	日本評論社	2017	参考書	任意
シンプル衛生学公衆衛生学2020	鈴木 庄亮（監修）	南江堂	2020	参考書	任意
備考	なし				

【オフィスアワー】
月曜日（10:30～13:00、Zoom等）※事前に連絡をしてください。E-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	健康とは何か	1. ガイダンス（講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明）の内容を説明する 2. 事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法について説明する 3. WHOの健康の定義について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康の定義をから「健康とは何か」を説明できる。	
	事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する。 2. WHOの健康の定義（日本語及び英語）を読み、そこに示されている視点を調べてくる。	45分
	事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以降の学習計画を立てる。	30分
2	健康とウェルビーイング	1. 健康を理解する上で重要な「考え方」について説明する。 2. 予防医学について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ウェルビーイングとは何かを具体例を挙げて、また予防医学について説明することができる。	
	事前学修	健康におけるウェルビーイングとは何か調べ、価値判断と事実判断に基づく考え方を	45分
	事後学修	講義内容をまとめ、価値判断と事実判断に基づく考え方の具体例と予防医学について理解を深める。	60分
3	ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケア	1. 健康にかかわるサービスの提供について、先進国と発展途上国の関係の変遷について説明する。 2. 従来の健康づくりとヘルスプロモーションの目的、戦略、活動方法の違いを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアの理念について具体例を示し説明することができる。	
	事前学修	オタワ憲章とアルマ・アタ宣言を読み、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアについて調べてくる。	60分
	事後学修	講義内容をまとめ、ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケアについて理解を深める。	60分
4	健康診断の活用	1. 健康管理の手段として健康診断はどのように活用されるか、また検診と健診の違いを説明する。 2. ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康診断の意義とその活用方法について説明することができる。	
	事前学修	定期健康診断の情報（個人のもの）を準備する。	30分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康診断の意義とその活用方法について理解を深める。	60分
5	環境と健康 （気候変動による健康被害）	1. 人間の内部環境と外部環境の関係を説明する。 2. 気候変動による健康被害を知り、「緩和策」及び「適応策」について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
	事前学修	物理的環境とホメオスタシス（恒常性）について調べてくる。	45分
	事後学修	講義内容をまとめ、人間の内部環境と外部環境の関係について理解を深める。	60分
6	環境と健康 （公害による健康被害）	1. 化学的環境について説明する。 2. 公害によってもたらされる健康被害について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取り巻く環境による健康被害について説明することができる。	
	事前学修	身近な環境汚染問題について調べてくる。	45分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康被害を引き起こす環境汚染問題についての理解を深める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小テストの解答及び解説 第2回～第6回	・第2回～第6回授業回の小テストの解答及び解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容をまとめてくる。	60分
	事後学修	小テストの解答及び解説を踏まえて、これまでの内容についてリアクションペーパーを作成する。	90分
8	環境と健康 (暑熱・寒冷環境と健康)	暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害とその予防策及び対応策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、暑熱環境及び寒冷環境によって引き起こされる健康被害、その対処法について説明できる。	
	事前学修	暑熱環境の健康被害である熱中症、寒冷環境の健康被害である低体温症について調べてくる。	30分
	事後学修	講義内容をまとめ、暑熱環境及び寒冷環境下での健康被害とその予防策及び対応策について理解を深める。	60分
9	危機管理と健康（感染症）	1. 人類と感染症の関わりについて説明する。 2. 三大感染（エイズ、結核、マラリア）と顧みられない熱帯病を知り、グローバルヘルスの重要性を説明する。 3. 季節性と新型の違いを知り、適切な予防策と対応策を説明する。 4. インフルエンザの世界流行の歴史を概観し、流行がもたらした被害について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、感染症とは何か具体例を示し説明することができる。	
	事前学修	新興感染症及び再興感染症について調べてくる。	60分
	事後学修	講義内容をまとめ、感染症についての理解を深める。	60分
10	危機管理と健康（性感染症）	1. ウイルスと細菌による感染症の違いについて説明する。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自然免疫と獲得免疫について説明することができる。	
	事前学修	人間の免疫機能について関連資料を調べてくる。	60分
	事後学修	講義内容をまとめ、自然免疫と獲得免疫についての理解を深める。	60分
11	現代人の病気	現代社会において罹患する特徴的な病気について、その原因と予防策を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日本人が罹患する病気とその原因について説明することができる。	
	事前学修	日本人に多い病気について関連資料を調べ、まとめる。	30分
	事後学修	講義内容をまとめ、日本人が罹患する病気とその原因について理解を深める。	60分
12	統計と健康	保健統計から健康測定と健康指標について示し、どのような取り組みがなされているかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、統計データの見方とそこから社会が抱える健康問題を示すことができる。	
	事前学修	「健康日本21」について調べ、その目的と具体的な取り組みについてまとめてくる。	30分
	事後学修	講義内容をまとめ、統計データの見方とそこから社会が抱える健康問題を示すことができるように理解を深める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小テストの解答と解説 第8回～第12回	・第8回～第12回授業回の小テストの解答及び解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容をまとめる。	60分
	事後学修	小テストの解答及び解説を踏まえて、これまでの内容についてリアクションペーパーを作成する。	60分
14	健康の社会的決定要因	健康格差を生み出す社会的要因について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康の社会決定要因とは何かを説明することができる。また、その原因を示し解決策を述べる ことができる。	
	事前学修	配付資料及び関連する資料を読み、健康格差とそれを生み出す社会的な要因についてまとめる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康格差の現状を踏まえ、その原因と解決策について理解を深める。	30分
15	健康を取り巻く環境について考える	健康に関連する諸問題や健康被害についてまとめる	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、健康とは何か健康問題と関連付けて説明することができる。	
	事前学修	全ての講義内容をまとめて課題レポートを作成する。	180分
	事後学修	授業の振り返りを行い、健康を取り巻く環境について理解を深める。	90分

科目名	健康科学Ⅱ	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人生100年時代といわれるが、寿命と健康が同じものとして考えることは難しい。健康の保持増進に関連する「ストレス」や「生活習慣」に関する知識を学修し、主体的に健康行動を実践できる態度を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯を通じて生活において重要な構成要素である「健康」について理解するために、健康課題や健康の保持増進に関連する知識を学修する。また、それらを踏まえて、健康課題を探究し、その課題に対して総合的に判断する能力を修得する。

【履修条件】
健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。

【授業方法】
授業形態は、オンライン（オンデマンド）である。各授業回に授業動画及び関連資料を配信する。各授業回では小テストを実施し、適宜解答及び解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー（第7回、第13回、第15回）、課題レポート（2回）を活用する

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「健康とは何か」を説明できる。				2	2	2	2				
②	数多くの健康情報を体系的にまとめ、主体的に正しく判断できる				2	2	2	2				
③	健康の保持増進の方法について科学的な根拠を示し説明できる。				2	2	2	2				
④	健康課題について、問題提起し関連する知識を用いてその解決策を示すことができる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③についての知識が身についているかを確認する。	20	20	20								60
レポート等	到達目標①～④についての知識が身についているかをリアクションペーパー及びレポートにより評価する。	5	5	5	25							40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解答及び解説（第13回）、レポート課題の講評。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養の健康科学	高井 茂、中井 定	創成社	2017	参考書	任意
現代人のからだと心の健康―運動の意義と応用	平木場 浩二	杏林書院	2006	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日（10:30～13:00、Zoom等）※事前に連絡をしてください。E-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	健康寿命と平均寿命	・ガイダンス（講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明）の内容を説明する ・事前学習及び事後学習の進め方、各課題へのフィードバック方法について説明する ・健康寿命について説明する。また健康日本21の目標についても触れる。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康寿命から「健康とは何か」を説明できる。		
	事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する。 2. 健康寿命について調べてくる。		135分
	事後学修	ガイダンス内容と取り組み方などを振り返り、以後の学習計画を立てる。		105分
2	健康を損なう要因	・健康を損なう要因の一つである喫煙、アルコールのリスクを説明する。 ・薬物依存について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、薬物依存や喫煙・アルコールのリスクを説明することができる。また、それらの対策として講じられている取り組みについて説明することができる。		
	事前学修	薬物依存、受動喫煙、サードハンド・スモークの被害について関連資料を調べてくる。		105分
	事後学修	講義内容をまとめ、薬物依存、喫煙、アルコールのリスクについての理解を深める。		135分
3	心の健康	・メンタルヘルスについて説明するとともに、心理検査の用いて自己のメンタルヘルスについて理解する。 ・ストレスのメカニズムについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、心理検査の使用と評価方法について説明することができる。		
	事前学修	メンタルヘルスについて調べる。		110分
	事後学修	講義内容をまとめ、ストレスのメカニズムとメンタルヘルスについて理解を深める。		130分
4	ストレスマネジメント	・認知的評価とストレスへの対処について説明する。 ・ストレスコーピングについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ストレスのメカニズムと対処方法について説明することができる。		
	事前学修	ストレスのメカニズムについて復習する。		120分
	事後学修	講義内容をまとめ、ストレスのメカニズムと対処方法について理解を深める。		120分
5	生活習慣と健康	肥満を栄養・運動・休養の視点から概観し、健康に大きな影響を及ぼす生活習慣の重要性を説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生活習慣と肥満の関係について説明することができる。		
	事前学修	自らの生活習慣（栄養・運動・休養）を振り返り、配布シートに記入する。		150分
	事後学修	講義内容をまとめ、生活習慣と肥満の関係について理解を深め、自身の生活習慣の振り返りを行う。		90分
6	栄養と健康	・身体を作る基本ともいえる三大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂肪）の吸収メカニズムとその働きについて説明する。 ・その他の栄養素（ビタミンとミネラル）の働きについて説明する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、栄養素の消化吸収について説明することができる。		
	事前学修	五大栄養素について調べてくる。		120分
	事後学修	講義内容をまとめ、栄養素の消化吸収について理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	健康的な食生活	・健康の保持増進・質を向上させるための「食生活」について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康にかかわる食行動について説明することができる。	
	事前学修	食品の表示制度について調べる。	90分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康にかかわる食行動について理解を深める。	150分
8	運動と健康 体力とその必要性	・健康に関連する体力要素を知り、授業では、簡単な自己診断を行い健康体力への理解を深める。 ・活性酸素の功罪について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康に影響を及ぼす運動の功罪について説明することができる。	
	事前学修	運動が健康に与える良い影響と悪い影響について調べる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康に影響を及ぼす運動の功罪について理解を深める。	120分
9	健康的な運動	・「運動不足」による健康への悪影響とともに、「運動のやりすぎ」による健康被害について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、健康に影響を及ぼす運動の功罪について説明することができる。	
	事前学修	運動が健康に与える良い影響と悪い影響について調べる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康に影響を及ぼす運動の功罪について理解を深める。	120分
10	運動処方について	・健康の維持増進を目的とした運動プログラムの考え方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康の維持増進を目的とした運動プログラムの作成手順および考え方を説明することができる。	
	事前学修	ストレングストレーニング（主に自重トレーニング）、エアロビクストレーニングについて調べる。	150分
	事後学修	講義内容をまとめ、運動処方について理解を深める。	90分
11	疲労と休養	・疲労のメカニズムと休養の適切な選択について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、疲労の種類・メカニズムと休養の種類の示し、適切な休養を選択することができる。	
	事前学修	身体的な疲労と精神的な疲労について調べる。 積極的休養と消極的休養について調べる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、疲労のメカニズムと休養の選択についての理解を深める。	120分
12	睡眠と健康	・睡眠のメカニズムについて示し、睡眠の質及び量について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、睡眠のメカニズムを示し、質の高い睡眠とは何か説明することができる。	
	事前学修	適切な睡眠の有無が健康に及ぼす影響について調べる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、睡眠のメカニズムと睡眠の質について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小テストの解答及び解説 第2回～第12回	・第2回～第12回授業回の小テストの解答及び解説を行う。 ・これまでの内容の振り返りとしてリアクションペーパーの作成を行う	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、健康に関連する課題について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容をまとめる。	130分
	事後学修	小テストの解答及び解説を踏まえて、自己評価を行う。疑問点や不明点を挙げ、質問を準備する。	110分
14	コミュニケーションと健康	人との関わりが健康に与える影響に示し、コミュニケーションの必要性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、コミュニケーションの有無が健康に及ぼす影響について説明することができる。	
	事前学修	孤独死の原因について調べる。	120分
	事後学修	講義内容をまとめ、健康と関係するコミュニケーションについての理解を深める。	120分
15	健康行動について考える	健康に影響を及ぼす、ストレス及び生活習慣についてまとめる	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、健康とは何かをストレス及び生活習慣に関する知識を用いて説明することができる。	
	事前学修	全ての講義内容をまとめて課題レポートを作成する。	180分
	事後学修	授業の振り返りを行い、健康を獲得するための健康行動について理解を深める。	60分

科目名	自然人類学Ⅰ	担当者	近藤 修	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人類の特質を理解するには、まず哺乳類・霊長類の特徴を捉え直しておく必要がある。このため、授業では「霊長類とはどういう哺乳類か」を概観した上で、現在のヒトの身体的特徴を説明する。そうしたヒトの身体形質の特徴が、ヒトの持つ特殊な生活様式と環境とに強く関係していること、更には「直立姿勢と二足歩行」という特性が、大きな脳と小さな顔面、音声言語の獲得、身体の有毛性、家族の形成などのヒトの諸特徴と深く関連している点なども解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「生物としてのヒト」という視点を持ち、ヒトの身体特徴を学習することで、ヒトの身体形質と文化環境は不可分の関係にあることを理解する。また、ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を培い、「人類の真の特徴」とは何かを正しく捉える基礎力を養成することを目的とする。この講義によって、「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学ぶ。また、それに基づいて、「ヒトが文化を創ったというよりは、文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
疑問をもつこと、自分で考えること、それらをわかりやすく説明することが求められます。

【授業方法】
講義の回と、質問や疑問に対する議論・解説の回を交互に行う。 講義回に対する、質問や疑問、議論・解説の回の議論はrespon（レスポンス）を利用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	前回の講義内容と関連する教科書項目の内容にたいする、疑問や自分の考えをレポートしてもらい、それらをベースに議論と解説を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を理解し説明できるようになる						2		2	2				
②	「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学び、これに基づき「文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになる							2	2	2				
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①，②に関して，6回の小レポートと最終回のレポートの合計点により評価する。小レポート（3回）かつ最終レポートの提出がなければ不合格とする。	50	50									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内におこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
人間の本質にせまる科学：自然人類学の挑戦	井原、梅崎、米田	東京大学出版会	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kondo-o@bs.s.u-tokyo.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス「ヒトの生物学とは」	講義の形式、評価の方法の説明。授業のテーマ、内容、スケジュール、教科書の説明。講師の自己紹介と「自然人類学とは」の概説	
	この回の到達目標	講義の内容、テーマを把握する。	
	事前学修	シラバスの内容を熟読する	120分
	事後学修	履修をきめたら、教科書を購入して眺める。	120分
2	ヒト以外の霊長類の行動や社会	ヒト以外の霊長類の行動や社会を学び、「ヒト」の行動、社会の特徴をふりかえる。	
	この回の到達目標	「ヒト」の行動、社会の特徴を進化的に考えるために、ヒト以外の霊長類の行動や社会を学び、比較する。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
3	質問解説	前回講義、単元に関連する質問に対する解説講義とディスカッション。	
	この回の到達目標	ヒト以外の霊長類と「ヒト」の違いについて、自分で考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
4	猿人とはどんな人類だったのか？	初期人類から猿人（アウストラロピテクス）にかけての進化を概説する。	
	この回の到達目標	ヒトと大型類人猿（チンパンジー）の共通祖先や初期の人類の姿・形、生活を知る。また、どのようにして過去の「ヒト」を知ることができるかを考える。	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
5	質問解説	前回講義、単元に関連する質問に対する解説講義とディスカッション。	
	この回の到達目標	「ヒト」と大型類人猿の進化の分岐点について、わかっていること、わからないことなどを自分で考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
6	ホモ・サピエンスはなぜ、いかにして世界に広がったか	「ホモ属」の誕生からホモ・サピエンスの拡散までを概説する。	
	この回の到達目標	「ヒト」進化のなかでヒト的な特徴がどのように生まれ、獲得されていったのかを考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	質問解説		前回講義、単元に関連する質問に対する解説講義とディスカッション。
	この回の到達目標	「ヒト」の進化的特徴とは何かを考え、その進化的意義とともに背景を考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
8	ヒトの直立二足歩行の力学と進化		ヒトの特徴の一つである直立二足歩行について、その進化を概説し、力学的意味を考える
	この回の到達目標	ヒト進化における意味と同時に、他の動物の直立姿勢、二足歩行との違いを考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
9	質問解説		前回講義、単元に関連する質問に対する解説講義とディスカッション。
	この回の到達目標	「ヒト」の直立二足歩行と他の動物のそれとの違い（力学的な）を考え、進化的な意味を考察する	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
10	旧人ネアンデルタールの盛衰		ネアンデルタール人の進化的位置とホモ・サピエンスとの交替劇を解説する
	この回の到達目標	ネアンデルタール人の絶滅、終焉のなぞについて、わかっていることをしり、考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分
11	質問解説		前回講義、単元に関連する質問に対する解説講義とディスカッション。
	この回の到達目標	ヒト進化史上の諸集団の盛衰について、ネアンデルタール人を題材に考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。	120分
12	言語の起源と進化		ヒトの特徴の一つである「言語」について、その起源と進化を概説する
	この回の到達目標	「言語」の定義について、他の動物のコミュニケーションとの違いを理解する。また、ヒト進化における意味を考える	
	事前学修	教科書の関連単元を読む	120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	質問解説		前回講義、単元に関連する質問に対する解説講義とディスカッション。	
	この回の到達目標	ヒトの「言語」の特徴を理解し、進化的な意義を考える		
	事前学修	教科書の関連単元を読む		120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。		120分
14	人類進化から縄文時代と日本人の成り立ちを考える		日本人の基層集団としての縄文人について概説する	
	この回の到達目標	ホモ・サピエンスの拡散の結果として、日本列島に到着した現日本人の姿、形、暮らしを知る		
	事前学修	教科書の関連単元を読む		120分
	事後学修	講義、教科書に関する、質問や疑問点をレポートする。		120分
15	質問解説+期末レポート解説		前回講義、単元に関連する質問に対する解説講義とディスカッション。加えて、期末レポートについて説明する	
	この回の到達目標	日本人の成り立ちについて、理解し、縄文時代人の生活の多様性を考える		
	事前学修	教科書の関連単元を読む		120分
	事後学修	解説講義とディスカッションをとおして自分で考えたことを、調べたり確認したるする。期末レポートとして、教科書を読み、自分で調べたことをレポートとしてまとめる。		150分

科目名	実践教養A	担当者	舘野 正生	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
瞑想（精神集中）を実践していきたい。近年、瞑想による脳機能の著しい増加が科学的に検証されGoogle社などの企業で研修として行われており、また、精神疾患に有効であることも明らかになってきているが、東洋では人間を精神身体的に向上させ、心身の平穏を得るための実践として、紀元前から行われ続けてきていたものであった。この時間はこの東洋に伝わる実践を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神的に過酷な環境を生き、心身を病んでいく人が多い中、精神的に安定し、より生きやすくなるために、瞑想（精神集中）を習慣付け、それを修得する。加えて、やがて社会に出て仕事を行うとき、その仕事がよりよくできるために、脳機能を高められる実践を修得する。

【履修条件】
自分のために真剣に行える人に参加してほしい。授業開始時間から精神集中を行うので遅刻しないこと。

【授業方法】		
主に参加者による発表が中心となる。参加者が調べてきた瞑想（精神集中）法を全員で行い、それらについてレポートを書き紹介する方法が中心となる。個人発表を複数回行ってもらうが、後半の発表は全員、テキスト『氣の呼吸法』を用いる。参加者は他の参加者が紹介する様々な実践を行ってみて、自分に合ったものを見付けだし、身に付けてほしい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	主に発表と授業内レポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	瞑想（精神集中）に関する知識を充分に取得し、それを説明することができる。						2						
②	瞑想（精神集中）を実践することで他者との関係など、対象を冷静に観察し、それを説明することができる。								2	2		2	
③	瞑想（精神集中）を実践することで、いつも冷静な自分であることができ、それを説明できる。								2	2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③に関して、授業内で瞑想（精神集中）を実践し、身に付けることができているかなどをレポートにより評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①、②、③に関して、瞑想（精神集中）に関する発表を行い、その内容が理解できているか、その実践により得られた状態に基づいた行動ができるようになりつつあるか評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(中間レポート)	第7回に、それまでの回の実践によって積み重ねられた、現在の自分の状態について中間レポートを提出してもらい、到達目標②、③に関わる、自分と対象のどちらにも執われない立場が身に付き行動ができるようになりつつあるかを確認し評価する。		10	10								20
その他(期末レポート)	第14回に、全体を振り返り、実現できた自分の状態に関する期末レポートを提出してもらい、到達目標②、③に関わる、自分と対象のどちらにも執われない立場が身に付いているかを確認し評価する。		10	10								20
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で発表に対し講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『氣の呼吸法』（幻冬舎文庫）	藤平光一	幻冬舎	2008	教科書	必携
備考					

【オフィシアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する。	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	瞑想について	参加者は瞑想に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話聞いて、授業者からの発問に回答し、瞑想を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、瞑想について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り行つて、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	瞑想について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	精神集中について	前回のレポート紹介と講評。参加者は「精神集中」に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話聞いて、授業者からの発問に回答し、精神集中を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、精神集中について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	「精神集中」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	呼吸法について	前回のレポート紹介と講評。参加者「呼吸法」に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話聞いて、授業者からの発問に回答し、呼吸法を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、精神集中について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	呼吸法について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	動禅について	前回のレポート紹介と講評。参加者は動禅に関し調べてきたことを紹介し、さらに授業者の話聞いて、授業者からの発問に回答し、動禅を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、動禅について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	動禅について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	静禅について	前回のレポート紹介と講評。参加者は静禅について調べてきたことを紹介し、授業者の話聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、静禅を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、静禅について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	静禅について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
	この回の到達目標	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に紹介し、それについてさらにレポートを書く。		
	事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
8	気功について		前回のレポート紹介と講評。参加者は気功について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、気功を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、気功について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。		
	事前学修	「動禅と静禅」について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
9	武道と呼吸法について		前回のレポート紹介と講評。参加者は武道と呼吸法について調べてきたことを紹介し、『禅と武道』を元にした授業者の話を聞き、メモを取り、武道の呼吸法を行い、それに対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、武道と呼吸法について、その定義を理解し、実践方法を明確に知り、それをレポートに表現できる。		
	事前学修	「武道と呼吸法」について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
10	『氣の呼吸法』 「はじめに」と「第1章」		前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを紹介し、『氣の呼吸法』 「はじめに」と「第1章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、『氣の呼吸法』 「はじめに」と「第1章」の内容を明確に理解し、それをレポートに表現できる。		
	事前学修	テキスト『氣の呼吸法』 「はじめに」と「第1章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
11	『氣の呼吸法』 「第2、3章」		前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを紹介し、『氣の呼吸法』 「第2、3章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、『氣の呼吸法』 「はじめに」と「第2、3章」の内容を明確に理解し、それをレポートに表現できる。		
	事前学修	テキスト『氣の呼吸法』 「第2、3章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
12	『氣の呼吸法』 「第4章」		前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを紹介し、『氣の呼吸法』 「第4章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、紹介表し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、『氣の呼吸法』 「第4章」の内容を明確に理解し、それをレポートに表現できる。		
	事前学修	テキスト『氣の呼吸法』 「第4章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『氣の呼吸法』「第5章」	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを紹介し、『氣の呼吸法』「第5章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、『氣の呼吸法』「第5章」の内容を明確に理解し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	テキスト『氣の呼吸法』「第5章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	後半のまとめ	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、紹介し、それを提出する。。	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、いつも冷静な自分であることができ、それを説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	生きやすくなること	前回のレポート紹介と講評。参加者は授業者による講義全体のまとめの話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、これまでの授業で学んだ実践を行い、、いつも冷静な自分であることができ、生きやすくなることができ、それを説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	初回からのノート、授業内レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	実践教養B	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		

【授業の概要】
「自分を知る」ということを行う。自分を知ることが人類の歴史の中で紀元前から探究、実践されてきた、人間が生きていく上で基礎となる重要な訓練であった。そこでこの時間は古来からの実践を知り、現代の様々な方法を行って、自分を知り、自分の軸を創ることを修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者に気を使い過ぎるあまり、自分が無く、八方美人で嫌だといった声が聞かれるが、それを解決しより生きやすくなるために、自分はどうの人であるのかを明らかにし、それを軸にして他者と関わるができるようになる自分を実現する能力を修得する。また就職活動のエントリーシートでの自己紹介や自己PRにも役立てられる自己分析力を身に付ける。

【履修条件】
自分のために真剣に行える人に参加してほしい。

【授業方法】
授業者による講義（知識）と、参加者が調べてきた自分を知る方法を行い（実践）、それらについてレポートを書き紹介するという双方向形式が中心となる。参加者は他の参加者が紹介する様々な方法を行ってみて、自分を明らかにしていってほしい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	主に発表と授業内レポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分を知ることの意義を充分に知って理解し、それを説明することができる。										2		
②	自分を知る訓練を実践し、自分のことが分かっていくことによって、相手のことも尊重し理解することができ、それを説明できる。					2		2	2				
③	自分の軸を創ることで、いつも冷静な自分であることができ、それを説明できる。								2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内レポート】到達目標①、②に関する、知識を理解し、自分が分かるようになりつつあるかを授業内レポートにより評価する。	15	15									30
討論・発表等	到達目標①、②、③に関して、自分を知ることに関する発表を行い、その内容が理解できているか、それによってさらに自分のことが明らかにでき、自分の軸が創られつつあるかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(中間レポート)	第8回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標②に関わる、自分のことも他者のことも知り、そのどちらも尊重する立場が身に付きつつあるかを確認する。		20									20
その他(期末レポート)	第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分を軸にしつつ他者との良好な関係を創れる立場が身に付いているかを確認する。		20									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	65	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、発表に対し講評し、第8回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず。				

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する。	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスと授業内レポートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	自分を知る方法について	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者の話聞いて、授業者からの発問に回答し、いくつかのテストを行い、レポートを書き、紹介し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知る方法と意義について明確に理解し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	自分を知る方法について調べ、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	西洋における自分を知ること	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による自分を知ることに関する西洋の先人たちの話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、西洋における自分を知ることについて理解し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	西洋で行われてきた自分を知ることについて調べ、ノートにまとめておく。)	120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	東洋における自分を知ること	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを発表し、授業者による「自分を知ること」に関する話を聞き、メモを取り、授業者から提示されたテストを行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。	
	この回の到達目標	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による自分を知ることに関する東洋の先人たちの話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	事前学修	東洋で行われてきた自分を知ることについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	自分はどのような人かについて	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを紹介し、授業者による話を聞き、授業者から提示されたテストを行い、レポートを書き、それを提出する。。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分はどのような人であるかを知る意義を理解し、自分を探り、自分の一面を明らかにすることができ、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	自分はどのような人かについて考え、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	ヴィパッサナーについて	前回のレポート紹介と講評。参加者はヴィパッサナーについて調べてきたことを紹介し、その実践を行い、授業者の話聞き、授業者からの発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、ヴィパッサナーについて、その内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。	
	事前学修	ヴィパッサナーについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	仏教の身調べと内観について		前回のレポート紹介と講評。参加者は身調べと内観について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、身調べと内観について、その内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにし、それを説明することができる。		
	事前学修	身調べと内観について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
8	ここまでのまとめと講評		前回のレポート紹介と講評。参加者は第7回までの授業で分かった、自分を知ることの意義をレポートにまとめたものを簡略に紹介し、他者の内容を聞き、分かったことをレポートを書く。	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関して、ここまでの授業で分かった自分について知ることが、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。		
	事前学修	第7回までの授業で分かった、自分を知ることの意義をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
9	「自分を観察すること」について		前回のレポート紹介と講評。参加者は自分を観察することについて調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を観察することについて、その内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。		
	事前学修	自分を観察することについて調べ、ノートにまとめておく。)		120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
10	自分を観察することとマインドフルネスについて		前回のレポート紹介と講評。参加者はマインドフルネスについて調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を観察することマインドフルネスについて、その内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。		
	事前学修	自分を観察することとマインドフルネスについて調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
11	就職活動での自己分析について		前回のレポート紹介と講評。参加者は就職活動での自己分析について調べてきたことを紹介し、授業者の話を聞き、授業者が提示するテストを行い、それによって分かった自分について、レポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、就職活動での自己分析についてその内容・意義を理解し、その実践によって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。		
	事前学修	就職活動での自己分析について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
12	自分を知るテスト		前回のレポート紹介と講評。参加者は自分が選んだ書籍の内容を紹介し、そこに説かれているテストを参加者全員で行い、レポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知るテストを行い、それによって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。		
	事前学修	自分を知るテストが書かれた書籍を1冊選び、そこで紹介されている内容をまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自分以外のタイプを知る	前回のレポート紹介と講評。参加者は自分以外のタイプを知ることについて調べてきたことを紹介し、授業者の話聞き、それによって分かった意義などについて、レポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分以外のタイプを知ることの意義を理解し、自分以外のタイプを明確に知ることによって自分の一面を明らかにすることができ、それを説明できる。	
	事前学修	自分以外のタイプを知ることについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、授業内レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	自分はどのような人であるか	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容によって分かった自分を紹介し、参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、レポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、授業後半の内容を有効に使い自分のことが明確にできているかを確認し、さらに追究していくことができ、それを説明できる。	
	事前学修	第9回から第13回までのレポートを確認し、自分はどのような人であるかをまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	自己紹介	前回のレポート紹介と講評。前回の自分はどのような人かに基づき、「自己紹介」を作成し、それを紹介する。参加者は他者の自己紹介に対して意見を書き、それを紹介し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、これまでの授業で学んだ実践を行い、いつも冷静な自分であることができ、それを説明できる。	
	事前学修	初回からの授業内レポートなど、すべてを振り返って、自己紹介文を書いておく。	120分
	事後学修	参加者からの見解を踏まえて、よりいい自己紹介文を作成する。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後、経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ、社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し、社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
講義を中心に社会学の世界を探っていく。教科書中心の授業、教科書の具体的事例などに関し、資料や映像なども使用しながら進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し、その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、レポートに関する講評・解説などを振り返りながら実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もう一つの地域社会論―酒田大火30年、「メディア文化の街」ふたたび	仲川秀樹	学文社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜1限、授業前後、授業講堂にて。授業中に詳細を指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会学の世界を知る	授業の内容、授業の進め方、試験・成績評価などの説明をします。教科書や参考文献の紹介など、授業の準備について説明します。社会学の授業の流れを知り、授業の準備となります。	
	この回の到達目標	社会学的考えることは何か、社会学の対象は何か、社会学の世界を理解し、説明することができます。	
	事前学修	授業内容の確認として、シラバスを読んでおいてください。社会学という学問と、地域社会を知るために、教科書の序文を読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業の進め方とシラバスを再点検し、教科書の序文を再読してください。	120分
2	社会学とメディアの関係	社会学の概念、社会学とメディアとの関係を説明します。社会学とメディアの密接な関係を知り、社会学の関心が広がります。	
	この回の到達目標	社会学とメディア文化の関係を考えます。メディア文化の視点が社会学で必要かを理解し、説明することができます。	
	事前学修	社会学という学問の理解と、メディア文化の関係を教科書、第1章の序文からよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
3	社会学の対象とは	メディア文化が根ざしたフィールドワークを考えます。実証的方法の重要性を知り、社会学の学修スタイルがわかります。	
	この回の到達目標	社会学の対象領域を考えます。都市と地域を理解し、説明することができます。	
	事前学修	地域社会の特徴を、教科書第1章の1からよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
4	地域社会に根差したメディア文化とは	洋画専門館「グリーン・ハウス」の存在がもたらした地域性を考えます。なぜ、メディア文化の街といわれたのかを学修します。	
	この回の到達目標	地域社会にある、地域性を考えます。地域の文化を知り、地域を理解し、その地域を説眼することができます。	
	事前学修	地域社会に根差した洋画専門館について、教科書第1章の2から内容をよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
5	都市とメディア環境充足度とは	大都市と地方都市のメディア環境を比較し、都市の活性化のための計画を考えます。	
	この回の到達目標	その都市の活性度を知り、都市に何が必要かを理解し、説明することができます。	
	事前学修	メディア環境の意味を、教科書第1章の3からよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分
6	地域社会を時代から考える	1970年代のメディア文化を映像や資料をもとに学修します。	
	この回の到達目標	地域の歴史的背景を知るのには時代性の理解が必要です。時代と地域の関係を理解し、説明することができます。	
	事前学修	1970年代の時代背景の特質を教科書第1章の4からよみとってください。	120分
	事後学修	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地域社会の事例	山形県酒田市中心市街地を対象に、地方都市のメディア文化の関係を学修します。	
	この回の到達目標	酒田市中心市街地の衰退要因である、酒田大火と中心市街との関係を理解し、中心市街地の詳細を説明することができます。	
	事前学修	酒田大火の歴史を教科書第2章の1と2からよみとってください。	120分
	事後学修	酒田大火によって街はどのように変貌したのかを自分なりに考えてください。	120分
8	地域社会の衰退	中心市街地から郊外型社会へと流れが変わり、地域社会の衰退がもたらしたものは、郊外型社会です。その過程を学修します。	
	この回の到達目標	地域社会の変化を理解し、説明することができます。	
	事前学修	地方都市のモータリゼーションがもたらした状況を、教科書第2章の3からよみとってください。	120分
	事後学修	中心市街地の衰退の意味を、郊外型店舗登場との関係からまとめてください。	120分
9	地域社会の活性化へ向けて	地域活性化へ向けた取り組みとしてのメディア文化的项目を学修します。	
	この回の到達目標	地域社会活性化の方法について理解し、説明することができます。	
	事前学修	地方都市活性化の取り組みを、教科書第3書の1から事前に学習してください。	120分
	事後学修	メディア文化的项目が若者に浸透した事例を講義ノートから振り返ってください。	120分
10	地域社会の活性化へ向けて	地方アイドルによるまちおこしプロジェクトを学修します。	
	この回の到達目標	地方都市から発信したアイドルプロジェクトを考えます。アイドルでのまちおこしを理解し、説明することができます。	
	事前学修	地方アイドル登場の社会的背景を教科書第3書の2からよみとってください。	120分
	事後学修	地方アイドル登場によって街がどのように変化するのか、教科書講義ノートから予測してください。	120分
11	アイドルによる地域活性化とは	アイドル誕生と商店街との関係、住民、まちの活性化を学修します。	
	この回の到達目標	商店街発アイドル誕生の過程を知り、中心市街地活性化の必要策を理解し、説明することができます。	
	事前学修	地方アイドルが商店街活性化に与えて影響を教科書第3章の3からよみとってください。	120分
	事後学修	商店街はどのように発展するのか、商店街アイドルの実態を振り返ってください。	120分
12	地域社会の中心市街地活性化とは	地域社会の動向を握る中心市街地商店街の進化を学修します。	
	この回の到達目標	商店街の進化の背景にあるメディア文化項目を検証します。プロジェクトを理解し、商店街の進化の背景を説明することができます。	
	事前学修	商店街の活性化から、商店街の進化の過程を、教科書第4章の1から探ってください。	120分
	事後学修	郊外に比較し、衰退続ける商店街に、進化の可能性とは何か、講義ノートから振り返ってください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	地方都市のメディア文化再考		洋画専門館「グリーン・ハウス」と「世界一と言われた映画館」ロードショー公開がもたらしたメディア文化の街を学修します。	
	この回の到達目標	メディア文化の街を知り、それが中心市街地に与えた影響を考えます。メディア文化の街を理解し、説明することができます。		
	事前学修	メディア文化の街の象徴として君臨していた洋画専門館を教科書第1章の2から再考してください。		120分
	事後学修	ドキュメンタリー映画になった地方都市の洋画専門館が果たした役割を講義から振り返ってください。		120分
14	地域社会のこれから		メディア文化の街のゆくえを総括します。	
	この回の到達目標	メディア文化の街のこれからを考えます。地域社会はいかにあるべきかを理解し、説明することができます。		
	事前学修	地域社会のメディア文化的プロジェクト、「地方アイドル」「洋画専門館」の事実を再考してください。		120分
	事後学修	社会学的思考による地域社会の分析をこれまでの講義、実践的な取り組みから総括してください。		120分
15	社会学と地域社会の総括		「社会学1」講義の総括、振り返ります。	
	この回の到達目標	社会学の世界における都市と地域、地域社会の存在を再考しながら、地方都市の現状を考えます。地方都市を理解し、地方都市の課題を説明することができます。		
	事前学修	本講義のノートと教科書で履修した部分を振り返ってください。		120分
	事後学修	教科書と講義用ノートから、社会学における地域社会の意義をまとめてください。		120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	服部 慶亘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、「社会学Ⅱ」も継続履修することが望ましい。

【授業方法】		
受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。		
なお、社会情勢などを考慮して講義形式を変更する可能性もある。その場合、遠隔授業（GoogleClassroomを用いたオンデマンド）となり、多少のシラバス変更もあるので、履修の際は担当者からのアナウンスに留意されたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、講義中に学生との対話を通して、講義内容の多様性を体感する。そこでの発見を、事後学修に活かせるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはということかを説明できる。					2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。						2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。							2			2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂ストレス・スパイラルー悩める時代の社会学	服部慶亘	新協（ジャパン・プレス・フォト）	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu2020@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の方針、展開方法、目標などを確認する。	
	この回の到達目標	社会学の性格（性質）について理解できる。	
	事前学修	シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。	120分
	事後学修	テキストを入手し、「プロローグ」に目を通しておく。	120分
2	状況（情況）判断①	疑似環境、状況（情況）的影響について。	
	この回の到達目標	目の前の現実をとらえる「客観的」な視点を身につけられる。	
	事前学修	前回の講義内容を確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
3	状況（情況）判断②	レディネス（readiness）の重要性について。	
	この回の到達目標	目の前の現実をとらえる「客観的」な視点を身につけられる。	
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
4	社会（学）とは何か？	社会学の研究対象である「社会」について、その構造と機能を理解する。	
	この回の到達目標	「社会」の成り立ちを理解し、自身の行いを振り返ることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容をふまえて、「日常生活」について説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
5	社会的動物としての人間①	現代人にとって欠如傾向にある福祉的観点（Double Happiness）を理解する。	
	この回の到達目標	世の中の諸問題に対応する視点を養える。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
6	社会的動物としての人間②	人間が他の哺乳動物と異なる点について考察する。	
	この回の到達目標	我々について、動物学的な知識もふまえて理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人間関係の諸相と構造①	人間とヒトの違いについて理解する。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
8	人間関係の諸相と構造②	人間（Human Being）の本質について考える。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
9	人間関係の諸相と構造③	人間関係における地位（status）について理解する。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	7～8回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
10	人間関係の諸相と構造④	人間関係における役割（role）について理解する。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	7～9回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
11	人間関係の諸相と構造⑤	「地位－役割」の関係性について理解する。	
	この回の到達目標	人間を「社会学的単位」として理解できる。	
	事前学修	7～10回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
12	人間関係の諸相と構造⑥	地位を性質的に分類する。	
	この回の到達目標	自分自身の「存在」する意味について理解できる。	
	事前学修	7～11回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人間関係の諸相と構造⑦	構造的地位としての「アイドル」（idol）について考える。	
	この回の到達目標	「地位－役割」の関係性とイメージについて理解できる。	
	事前学修	区分7～12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
14	人間関係の諸相と構造⑧	構造的役割と対人的役割および生得的役割としての「性差」について考える。	
	この回の到達目標	「ジェンダー」について、その社会的・文化的性質を理解できる。	
	事前学修	7～13回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
15	「社会学Ⅰ」まとめ	ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。	
	この回の到達目標	社会学的な発想が身についたか、現実を客観的に受け入れる視点が身についたか、自分自身で確認できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	原山 浩介	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
地域社会への社会的アプローチについて、その方法を学修する。講義では、社会学の理論的な枠組みを説明し、現実の社会と理論性の双方を理解できるようにする。また地域調査の事例を踏まえつつ、社会調査の方法についても説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎週の講義で提出する小課題の講評・解説などを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会学（新版）	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義前後（講義室）、および火曜日16:20～17:50（研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	地域を知るための社会学	講義のガイダンスを行うとともに、地域社会をめぐる社会的な理解・分析の意義を説明する。	
	この回の到達目標	地域社会への社会的なアプローチについて説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義のねらいを理解するとともに、地域社会という枠組みのなかで自ら関心を持っていることを整理しておく。	120分
	事後学修	講義で示した概念を、テキストを参考にしながら整理・復習する。	120分
2	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト	二つの概念を説明して地域社会を考える手がかりを示すとともに、社会的な分析における対概念の意義を説明する。	
	この回の到達目標	対概念の意義と、二つの概念について説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、二つの概念がどのようなものかを整理しておく。	120分
	事後学修	テキストの指定箇所と講義レジュメの双方を読み、二つの概念と対概念の意義について理解を深める。	120分
3	「共同体」を考える	イエ・ムラ論をベースにしながら、「共同体」を捉えるための基礎理論を説明する。	
	この回の到達目標	イエ・ムラ論について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、イエとムラという二つの概念について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、村落共同体について理解を深める。	120分
4	農村社会の変容と現在	日本社会が都市化社会へと展開するなかでの、農村の過疎化や限界集落の出現を説明するとともに、そうした傾向に対応する地域活性化などの地域レベルの動きを説明する。	
	この回の到達目標	過疎問題と地域活性化や新規就農・居住者をめぐる一連の現象について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、農村の地域活性化について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、今日の農村社会をめぐる諸問題について理解を深める。	120分
5	開発と地域社会の葛藤	地域の「開発」をめくり、その恩恵の背後で引き起こされる諸問題をどう考えるのかを説明・検討する。	
	この回の到達目標	「開発」の持つ両義性を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「開発」をめぐる諸問題について考えておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、「開発」をめぐる諸問題について理解を深める。	120分
6	公害／環境問題と地域社会	地域社会における「公害」「環境問題」がどのようにもたらされたのかを説明する。	
	この回の到達目標	「公害」「環境問題」を地域社会・被害者に即して説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「公害」「環境問題」について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、「公害」「環境問題」について、住民生活の具体性に関わらせて理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	住民組織の意義	地域社会に対して働きかけをする基盤となるNPOなどの集団形成とその意義について説明する。	
	この回の到達目標	NPO、協同組合などの住民組織について説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、NPOについて整理しておく。	120分
	事後学修	講義レジュメを読み直し、住民組織の持つ意味について理解を深める。	120分
8	エスニシティから見る現代の都市社会	多様性と同調圧力を念頭に置きながら、現代の都市社会をエスニシティに即して再把握し、説明する。	
	この回の到達目標	エスニシティに即して都市社会を説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、エスニシティについて自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	テキストの指定箇所と講義レジュメの双方を読み、エスニシティの視点から都市社会の現状と課題を整理する。	120分
9	外国人労働者と地域社会	21世紀における日本の外国人労働者をめぐり、制度的な背景とともに、現状と課題を説明する。	
	この回の到達目標	外国人労働者をめぐる現状と課題を説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、日本における外国人労働者の現状について整理しておく。	120分
	事後学修	テキストの指定箇所と講義レジュメの双方を読み、外国人労働者をめぐる課題を整理する。	120分
10	「他者性」と地域社会	「他者」ないし「他者性」という用語は、社会学を含む人文学において、複数のコンテキスト／理論設定で用いられている。このことを説明しながら、現代における人／社会をめぐる認識の作られ方を検討する。	
	この回の到達目標	「他者」「他者性」という用語を領域横断的に把握し、説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所、および配付資料を読み、自分なりに「他者」とは何かを考えておく。	120分
	事後学修	日常生活において「他者」を考えるということはどういうことなのかを自分なりに整理しておく。	120分
11	地域社会を調査するⅠ 質的調査と量的調査	社会調査をめぐり、質的調査と量的調査の相違、およびそれぞれの意義について説明する。	
	この回の到達目標	質的調査と量的調査を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、社会調査の基本事項について自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、質的調査と量的調査の違いについて理解を深める。	120分
12	地域社会を調査するⅡ 課題設定と調査票の作成	面接調査をめぐり、課題設定、調査票の作成、調査方法について説明する。	
	この回の到達目標	面接調査の方法を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、面接調査の方法について自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメを参考にしながら、面接調査の実施を想定して、調査票を作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地域社会を調査するⅢ オーラル・ヒストリーの方法と課題	オーラル・ヒストリーについて、社会学的な視点からその方法と性格を説明する。	
	この回の到達目標	オーラル・ヒストリーの基本的な性格を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、オーラル・ヒストリーとは何かを自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、オーラル・ヒストリーについて理解を深める。	120分
14	ネットワーク社会と地域社会の空洞化	ネットワーク社会化について説明するとともに、そのなかでの地域社会の意義と課題を説明する。	
	この回の到達目標	ネットワーク社会について説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を読み、ネットワーク社会について自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	テキストの指定箇所と講義レジュメの双方を読み、ネットワーク社会化のなかでの地域社会の課題について整理する。	120分
15	地域社会への社会学的アプローチについてのまとめ	講義の振り返りを行い、地域社会に社会学的なアプローチをすることの意義を確認する。	
	この回の到達目標	地域社会に対する社会学的なアプローチの意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義の内容を、テキスト・レジュメ・資料を見直して確認しておく。	120分
	事後学修	試験に向けて講義内容を復習・整理しておく。	120分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	馬渡 玲欧	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特に無し。ただし、授業上の諸注意を遵守すること。前期については「社会調査」の話がメインとなるため、その点も留意されたい。

【授業方法】
授業方法は基本的に講義形式で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション・発表等はありません。レスポンスシートの共有や応答などについては適宜翌授業回で対応できるように工夫します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業冒頭で課題や質問にコメントをすることもあります。適宜、メールやポータルサイトを使用します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・社会調査へのアプローチ	大谷信介（他）	ミネルヴァ書房	2013	参考書	任意
質的社会調査の方法	岸政彦（他）	有斐閣	2016	参考書	任意
社会学入門	筒井淳也（他）	有斐閣	2017	参考書	任意
社会学 新版	長谷川公一（他）	有斐閣	2019	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
非常勤のため、何か相談があれば適宜メールにて連絡をください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス：社会学で何を学ぶのか	初回授業のガイダンスとして、社会学で何を学ぶことができるのか、確認する。授業全体の流れ、成績評価の方法、履修上の諸注意などをあわせて告知する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。		
	事前学修	シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを頭に入れたうえで、自分の関心を整理しておく。興味のある各回のトピックについて、予備知識を調べておく。		60分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
2	社会調査でなにをするのか	社会調査（量的・質的）の実施に関する制度や組織、法などについてまずは学習する。調査の種類、データの集め方についても学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
3	社会調査の歴史	社会調査の歴史について概観する。ブースの社会踏査、シカゴ学派、アメリカの量的調査の成り立ちなどを学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
4	社会調査の基本的な考えかた	社会調査で頻繁に使用する用語や概念について学習する。仮説の作り方について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の意義と限界を理解する。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
5	質問紙調査の基本：調査票のつくりかた	質問紙調査の流れを確認する。そのうえで質問文作成の注意点を学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
6	サンプリング	サンプリングの歴史、サンプリングの原理や方法について学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	質問紙調査の実際	単純集計、クロス表、基礎統計量について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
8	質問紙調査の実際	前回の復習後、推定や検定などを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
9	質的調査の基本	質的調査で何が行われているか学ぶ。また、調査における注意点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
10	フィールドワーク	質的調査のなかでも「フィールドワーク」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
11	参与観察	質的調査のなかでも「参与観察」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
12	生活史	質的調査のなかでも「生活史」で何を行なうのか、概観する。できる限り、古典的著作の紹介も行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会調査と社会のかかわり1	出生・労働・老いなどの人生のさまざまなイベントについて、量的・質的調査がどのようにアプローチするか、改めて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
14	社会調査と社会のかかわり2	前回に引き続き、出生・労働・老いなどの人生のさまざまなイベントについて、量的・質的調査がどのようにアプローチするか、改めて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して社会調査の方法を正確に理解する。	
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。	120分
15	試験	授業内試験と解説・これまでの振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、これまでの授業を踏まえながら、社会学的観点と社会学的説明を試験問題に即して総合的に展開できるようにする。到達目標③に関して、自分の関心に応じて論を立てることができる。	
	事前学修	これまでの授業を振り返り、試験準備をする。	220分
	事後学修	授業全体を振り返り、配布資料、メモ記録、ノート、文献リストをまとめる。	80分

科目名	社会学Ⅰ	担当者	渡邊 隼	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学の基本的な考え方と概念について学んだ後，経験的な社会学の基礎となる様々なデータの集め方（社会調査法）について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分たちの暮らす社会を社会的な観点から理解するために必要な枠組みと概念を身につけ，社会に関するデータの集め方とその意義を正しく理解し，社会についてデータに基づいた議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回の配布資料にもとづく講義形式をとる。ただし、受講者数や受講者の問題関心によって、授業の方法、成績評価の方法を多少変更する可能性がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会学的な観点から社会について知るとはどういうことかを説明できる。				2	2						
②	社会調査の方法を正確に理解し，その意義と限界について論じることができる。					2	2					
③	社会のあり方についてデータに基づいた議論を展開できる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを期末レポートによって評価する。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業時に提出が求められる小レポート課題に対しては、原則として次回の授業時にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学 新版』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019	参考書	推奨
『21世紀を生きるための社会学の教科書』	ケン・ブラマー（赤川学監訳）	筑摩書房	2021	参考書	推奨
備考	このほかに授業内で関連文献を紹介する。受講者からの参考文献・資料についての質問も歓迎する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、原則として授業の前後の時間に受けつける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	・授業のガイダンス ・社会学はいかなる学問か ・社会学の研究視点		・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 ・社会学の成立と展開について説明する。 ・社会学の研究や社会調査を行なうにあたって必要とされる視点を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学がどのような学問であるのかを説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読んで授業の概要について理解しておく。現代社会の諸問題のなかで、興味関心があるものをいくつか考えておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
2	社会学の理論（1）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会システム、文化と社会規範をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
3	社会学の理論（2）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会意識、法と社会システムをあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
4	社会学の理論（3）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、経済と社会システム、産業・職業をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
5	社会学の理論（4）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会階級・社会階層をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
6	社会学の理論（5）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会変動の概念をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会学の理論（6）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、近代化、産業化、情報化をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
8	社会学の理論（7）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、人口理論、人口構造をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
9	社会学の理論（8）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、人口問題、少子高齢化、人口減少社会の問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
10	社会学の理論（9）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフトなどをあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
11	社会学の理論（10）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、官僚制、アソシエーション組織の概念をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
12	社会学の理論（11）		現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会関係と社会的孤立をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会学の理論（12）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会的行為をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
14	社会学の理論（13）	現代社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会的役割をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。	120分
15	授業内容のまとめ	授業内容のまとめを行い、期末レポート執筆に向けて注意すべきことを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。	120分
	事後学修	期末レポート執筆に向けて準備作業に着手する。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
教科書の内容に沿いながら、講義中心に進める。講義では、基礎的な思考から、実証研究の成果を分析し、地方都市のまちおこしや、地域活性化、地方再生の道をメディア文化とポピュラーカルチャーの取り組みから探ってみる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、レポートの講評・解説などを振り返りとして実施します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンパクトシティと百貨店の社会学	仲川秀樹	学文社	2012		
備考					

【オフィスアワー】
月曜1限、授業前後、授業講堂にて。授業中に詳細を指示します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会学を実践するとは	社会学Ⅱの進め方。授業内容の確認、シラバスの要点、成績評価などについて説明し、確認します。	
	この回の到達目標	社会学Ⅱでは、シラバスに沿いながら、社会学の実践的な方法を考えます。社会学が理論と検証によってすることを理解し、説明することができます。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読んでください。教科書の序文を読み、授業の導入に役立ててください。	120分
	事後学修	教科書の序文から、目次全体を把握し、次回の講義の要点を確認してください。	120分
2	中心市街地研究とは	地域社会の内容から、中心市街地の研究をすすめていきます。中心市街地再生のために必要な方法論を考えます。	
	この回の到達目標	地域社会の問題を解決するための実践的な方法を考えていきます。その前提として、地域社会と中心市街地の活性化に必要な基礎理解につとめ、中心市街地を理解し、説明することができます。	
	事前学修	教科書の序文にある、中心市街地の研究過程をよみとってください。	120分
	事後学修	社会学における中心市街地研究の特徴を、講義ノートから理解を深めてください。	120分
3	コンパクトシティとは	中心市街地を再生するために、コンパクトシティの必要性について説明します。コンパクトシティとは何かを考えます。	
	この回の到達目標	大都市と比べ地方都市の衰退が叫ばれて久しいなか、コンパクトシティによる新たな地方都市を考えます。コンパクトシティを社会的に理解し、説明することができます。	
	事前学修	教科書第1章の、社会学から考えるコンパクトシティを事前によんでください。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
4	コンパクトシティの必要性とは	コンパクトシティにおけるまちづくりを考えた場合の問題と課題を考えます。コンパクトシティの問題を解決するために方法論を説明します。	
	この回の到達目標	コンパクトシティを社会的に構築するために必要な方法を考えます。方法論を理解することで、コンパクトシティの重要性を説明できます。	
	事前学修	教科書第1章の、コンパクトシティのシステム問題を事前に読んでください。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
5	中心市街地のメディア環境とは	中心市街地に人が集まるには、中心市街地のシンボルに注目することです。そのシンボルを理解し、人が集まり理由を説明することができます。	
	この回の到達目標	メディア環境とは、メディア文化を背景としています。メディアから発した娯楽性の高いエリアを理解し、メディア環境を説明することができます。	
	事前学修	教科書第2章の、中心市街地のシンボルを事前に読んでください。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
6	中心市街地のシンボル、ローカル百貨店とは	ローカル百貨店の存在から中心市街地のシンボルの意味を考えます。	
	この回の到達目標	メディア環境を象徴するのがローカル百貨店の存在であることを考えます。ローカル百貨店の存在を理解し、中心市街地に必要な理由を説明できます。	
	事前学修	教科書第2章の、中心市街地と百貨店を事前に読んでください。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	メディア文化の発信とは	ローカル百貨店によるメディア環境構築を考えます。	
	この回の到達目標	地方都市にメディア環境を構築するには、ローカル百貨店の役割が必要なことを理解し、説明することができます。	
	事前学修	ローカル百貨店の必要性を、教科書第2章からよみとってください。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。	120分
8	学生が考える百貨店のあり方とは	百貨店のあり方―大学生調査1―について検証し、学生の考え方を探ります。	
	この回の到達目標	大学生の意識調査を探ります。そこからローカル百貨店は何をすべきかを理解し、説明することができます。	
	事前学修	教科書第3章の、調査結果を読んでください。	120分
	事後学修	調査内容をカテゴリーごとに理解するようつとめてください。	120分
9	学生が考える百貨店のあり方とは	百貨店のあり方―大学生調査2―について検証し、学生の考え方を活かします。	
	この回の到達目標	大学生の意識調査から検証した内容を地方都市の若者の関心を結びつけてみます。ローカル百貨店の役割が明確になり、理解し、説明できます。	
	事前学修	教科書第3章の、調査結果を読んでください。	120分
	事後学修	調査内容をカテゴリーごとに理解するようつとめてください。	120分
10	ポピュラーカルチャー的空間とは	地方都市の中心市街地再生のための実践的な取り組みとして、ポピュラーカルチャー的空間の構築をめざします。	
	この回の到達目標	ポピュラーカルチャー的空間構築のために必要なものを考えます。エンタテインメントの重要性を理解し、ポピュラーカルチャーの必要性が理解でき、説明することができます。	
	事前学修	教科書第3章の、実践例を読んでください。	120分
	事後学修	ポピュラーカルチャーとエンタテインメントの関係を振り返ってください。	120分
11	百貨店とエンタテインメントを考える	ポピュラーカルチャー的イベントの取り組みから発信できるものを考えます。	
	この回の到達目標	人が集まる中心市街地に必要な環境を理解し、説明することができます。	
	事前学修	教科書第3章の、実践例を読んでください。	120分
	事後学修	ポピュラーカルチャーとエンタテインメントの関係を振り返ってください。	120分
12	地方都市の若者の居場所と百貨店空間とは	中心市街地再生にかかわるローカル百貨店と若者の居場所を考えます。	
	この回の到達目標	若者が集まることは中心市街地再生のために重要なことです。そのために若者の居場所をローカル百貨店空間に求めることの必要性を理解し、説明することができます。	
	事前学修	教科書第4章の百貨店の、重要性和メディア環境の構築を読んでください。	120分
	事後学修	自分たちが考えるメディア環境を講義ノートから整理してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コンパクトシティに必要な空間とは	中心市街地シンボルと人が集まる空間とは、ローカル百貨店のメディア環境構築であることを再考します。	
	この回の到達目標	メディア環境には、人が集まり、地方都市再生の鍵になることを考えます。あらためてメディア環境とローカル百貨店の関係を理解し、必要なスタイルを説明することができます。	
	事前学修	教科書第6章の、学生たちのレポートを読んでください。	120分
	事後学修	自分たちが考える人が集まる空間を講義ノートから整理してください。	120分
14	地方都市再生の方法とは	コンパクトシティとローカル百貨店にみる地方再生をまとめます。	
	この回の到達目標	地方都市の活性化は、中心市街地再生にあることを理解し、その理由を説明することができます。	
	事前学修	地域社会を再考するために必要なコンパクトシティ構想と百貨店の役割を教科書から再考してください。（2時間）	120分
	事後学修	社会学の実証研究としてのフィールドワークの意味を理解するようつとめてください。	120分
15	社会学ができること	社会学Ⅱの総括、振り返ります。	
	この回の到達目標	社会学を学修し、理解し、社会に実践する方法を説明することができます。	
	事前学修	社会学Ⅱでは、実証研究の重要性をあつかいました。その対象をあらためて整理してください。（2時間）	120分
	事後学修	基礎研究から実証研究、そして実践的な取り組みにある、社会学的方法論の理解につとめてください。（2時間）	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	服部 慶亘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特にないが、同一担当者による「社会学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】		
受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。なお、社会情勢などを考慮して講義形式を変更する可能性もある。その場合、遠隔授業（GoogleClassroomを用いたオンデマンド）となり、多少のシラバス変更もあるので、履修の際は担当者からのアナウンスに留意されたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、講義中に学生との対話を通して、講義内容の多様性を体感する。そこでの発見を、事後学修に活かせるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂ストレス・スパイラルー悩める時代の社会学	服部慶亘	新協（ジャパン・プレス・フォト）	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu2020@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の方針、展開方法、目標などを確認する。	
	この回の到達目標	【後期からの履修者】社会学の性格（性質）について理解できる。 【前期からの継続履修者】前期の解説内容を実践に移すレディネスを養える。	
	事前学修	後期から履修を開始する学生は、シラバスを読んで講義の目的・目標を理解する。 前期からの継続履修学生は、これまでの講義内容をテキストやノート、資料を読んで復習しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。なお、後期から履修を開始する学生は、テキストを入手して「プロローグ」に目を通しておく。	120分
2	問題行動の根源①	「問題行動」をとらえる際の留意点について考える。	
	この回の到達目標	「問題」という状況を理解する視点を養える。	
	事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
3	視聴覚機器による問題行動の理解①	韓国で放送された日本のアニメーションがどのように編集されるのか、映像を通して確認する。	
	この回の到達目標	日本では問題とされていないシーンが韓国でどう理解されているか、実感できるようになる。	
	事前学修	前回までの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
4	視聴覚機器による問題行動の理解②	韓国で放送された日本のアニメ主題曲がどのように編集されるのか、映像を通して確認する。	
	この回の到達目標	日本と韓国の、子どもたちへのメッセージの違いから歌詞（内容）に変化が生じることを理解する。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
5	問題行動の根源②	「罪」の定義および構造について理解する。	
	この回の到達目標	人間の動作が「罪」に至るまでの流れを理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
6	問題行動の根源③	「自我」と「超自我」の関係性について理解する。	
	この回の到達目標	「罪」と「自我」「超自我」の関係性について理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	問題行動の根源④	「行為」と「行動」の性質の違いについて理解する。	
	この回の到達目標	一般に混同されがちな「行為」「行動」の概念について、リーガルマインドにも照らし合わせつつ理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
8	問題行動の根源⑤	社会的自我について理解する。	
	この回の到達目標	自分自身の行為・行動が他者からどのように映っているのか、それを確認する方法を理解できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
9	問題行動の根源⑥	「主我」と「客我」の関係性を理解する。	
	この回の到達目標	『Let It Go』をもとに、社会的自我について理解を深めることができる。 アノミー（anomie）現象について、実例を上げて説明する。 現代社会における「人生縮小化」傾向について考える。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
10	問題行動の誤対処①	「人生縮小化」について。	
	この回の到達目標	「問題」に直面した時に起こり得る「リセット願望」と「リロード願望」について理解する。	
	事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
11	問題行動の誤対処②	人間の本能的反応としての「防衛機制」について理解する。	
	この回の到達目標	人間の本能と問題行動との関係性を理解できる。	
	事前学修	9～10回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。	120分
12	「正義」の含意①	日本人の発想（一元論、二元論、多元論）と「正義」の関係性を考える。	
	この回の到達目標	日本人の行動・思考パターンが諸外国から理解されにくい現実を、実例を上げて説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「正義」の含意②	「正義」の定義および性質について理解する。	
	この回の到達目標	「正義」の絶対性と相対性について理解できる。	
	事前学修	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
14	「正義」の含意③	「正義」と献身について。	
	この回の到達目標	「正義」の絶対的な側面について、自分自身の行いを振り返って考えられる。	
	事前学修	1 2 ～ 1 3 回目の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。	120分
15	「社会学Ⅱ」まとめ	ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。	
	この回の到達目標	社会学的な発想が身についたか、現実を客観的に受け入れる視点が身についたか、自分自身で確認できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。	120分
	事後学修	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。	120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	原山 浩介	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
私たちの日常の重要な部分を構成する「消費社会」のなりたちを糸口にしなが、社会学的な理解と分析について学修する。講義で社会学的な理解のエッセンスを具体例を交えて説明し、教科書の内容との連関を説明することで、社会学的な理解の全体像をつかめるようにする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。				2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。					2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎週の講義で提出する小課題の講評・解説などを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考					

【オフィスアワー】
講義前後（講義室）、および火曜日16:20～17:50（研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会学的な理解・分析とは	講義のガイダンスを行うとともに、社会学的な理解・分析の意義を説明する。	
	この回の到達目標	社会学的な理解・分析の基本的な意味について説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義のねらいを理解するとともに、現代社会の諸問題のなかで自ら関心を持っていることを整理しておく。	120分
	事後学修	講義で示した概念を整理し、講義レジュメを復習する。	120分
2	消費社会の生成	消費社会の生成過程について、資本主義の展開とフォーディズムとの関係を中心に置きながら説明する。	
	この回の到達目標	消費社会の基本的な性格を説明できる。対概念の意義と、二つの概念について説明できる。	
	事前学修	事前配付資料を読み、消費社会がどのように成立したのかを考えておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、消費社会の基本的な性格について理解を深める。	120分
3	家族の機能	家族の持つ機能が産業社会化の展開とともにどのように変容しているのかを説明する。	
	この回の到達目標	現代の家族の機能について説明できる。	
	事前学修	家族についての自らの捉え方を、事前配布資料を参考に考えておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所を読み、消費社会との関わりにおいて、家族の機能について理解を深める。	120分
4	性別役割分業の生成と変化	性別役割分業とジェンダーの視点から、消費社会のなかの家族について説明する。	
	この回の到達目標	日常生活に根ざしたものとしてジェンダーを説明できる。	
	事前学修	事前配付資料の指定箇所を読み、ジェンダーについて自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、再度、ジェンダーについて整理する。	120分
5	社会問題とは何か	社会的構築主義の視点から社会問題化の過程と、その後の問題構造の変容を説明する。	
	この回の到達目標	社会問題についての構築主義的な説明ができる。	
	事前学修	事前配付資料の指定箇所を読み、社会的構築主義について整理しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、社会問題とは何かを整理する。	120分
6	集合的主体としての消費者	消費者が集合的主体としての性格を伴って、日本社会で認知される過程、ならびに消費者という把握方法の変容過程を説明する。	
	この回の到達目標	消費者の政治的・社会的な位置について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、「消費者」という把握の方法について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所を読み、集合的主体としての消費者の性格について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	消費者と市民運動	社会運動論の枠組みを用いながら、消費者運動の諸相を説明する。	
	この回の到達目標	社会運動とは何かを説明できる。	
	事前学修	事前配付資料の指定箇所を読み、社会運動とは何かについて自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、社会運動について理解を深める。	120分
8	地域社会のなかの消費者	消費行為をめぐって、都市の地域社会においてどのような取り組みがなされているのかを説明する。	
	この回の到達目標	地域レベルの市民運動、協同組合の意味について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料の指定箇所を読み、協同組合について自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所を読み、地域における消費者運動について理解を深める。	120分
9	高度大衆消費社会と消費社会論	高度大衆消費社会と呼ばれる現象、ならびに「記号的消費」と呼ばれる消費社会論の到達点について説明する。	
	この回の到達目標	消費社会論の概要を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料を読み、消費社会論について自分なりに理解しておく。	120分
	事後学修	事前配布資料と講義レジュメの双方を読み、消費社会論について理解を深める。	120分
10	消費文化の変容と個人化・分断	消費を起点に、社会および社会問題の分断と個別化について説明し、現代社会が直面している分断状況を説明する。	
	この回の到達目標	現代社会の分断状況を説明できる。	
	事前学修	事前配付資料の指定箇所を読み、現代社会が直面している課題について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、現代社会の分断状況について理解を深める。	120分
11	格差・階層化と現代社会	労働・消費の両面において、格差の拡大と階層化が進んでいることを、「新自由主義」と呼ばれる現象とともに説明する。	
	この回の到達目標	格差・階層化を21世紀の問題として説明できる。	
	事前学修	事前配付資料の指定箇所を読み、格差の拡大と階層化の背景を考えておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、格差・階層化について理解を深める。	120分
12	自己決定の両義性 ¹ 消費者の決定権の重要性	個人の自己決定が尊重されることの意義と、それを成り立たせている考え方を説明する。	
	この回の到達目標	自己決定を尊重することのメリットを論理的に説明できる。	
	事前学修	事前配付資料の指定箇所を読み、自己決定の重要性について整理しておく。	120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、自己決定の意義について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	自己決定の両義性2 自己決定の困難		自己決定が個人に対して及ぼす困難、ならびに自己決定を過剰に要求することが持つ問題点について説明する。	
	この回の到達目標	自己決定が個人に対してどのように抑圧的に作用するのかを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料を読み、「消費」のメタファーについて整理しておく。事前配付資料の指定箇所を読み、自己決定を要求することの問題点について整理しておく。		120分
	事後学修	事前配付資料の指定箇所と講義レジュメの双方を読み、自己決定の問題点について理解を深める。		120分
14	現代資本主義と消費のメタファー		現代資本主義をめぐる議論を紹介しながら、「消費」のメタファーが公共圏においてどのような意味を持っているのかを説明する。	
	この回の到達目標	「消費」を政治選択のメタファーとして捉えることの意味を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料を読み、「消費」のメタファーについて整理しておく。		120分
	事後学修	事前配布資料に再び目を通した上で、メタファーと現実の消費行為の連関を理解する。		120分
15	社会学的な理解・分析についてのまとめ		講義の振り返りを行い、社会学的な理解と分析によって何が見えるようになるのかを説明・確認する。	
	この回の到達目標	社会学的な理解・分析の持つ意義について説明できる。		
	事前学修	これまでの講義の内容を、配付資料・レジュメ・資料を見直して確認しておく。		120分
	事後学修	試験に向けて講義内容を復習・整理しておく。		120分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	馬渡 玲欧	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では、社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び、現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ、社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特に無し。ただし、授業上の諸注意を遵守すること。

【授業方法】
授業は基本的に講義形式で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション・発表等はありません。レスポンスシートの共有や応答などについては適宜翌授業回で対応できるように工夫します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。				2	2						
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。					2	2					
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。						2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを筆記試験によって評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業冒頭で課題や質問にコメントをすることもあります。適宜、メールやポータルサイトを使用します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会学 新版	長谷川公一（他）	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
非常勤のため、何か相談があれば適宜メールにて連絡をください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス：社会学で何を学ぶのか	初回授業のガイダンスとして、社会学で何を学ぶことができるのか、確認する。授業全体の流れ、成績評価の方法、履修上の諸注意などをあわせて告知する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴をまずは理解する。		
	事前学修	シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを頭に入れたうえで、自分の関心を整理しておく。興味のある各回のトピックについて、予備知識を調べておく。		60分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
2	公共空間	身近な「公共空間」における人々の相互行為や振る舞いを考察することを通して、社会学の考え方に触れる。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「公共空間」の特徴を説明できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考書籍に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
3	メディア	身近な「メディア」（マス・メディア、コミュニケーション・メディアなど）と人々の付き合い方を考察することを通して、社会学の考え方に触れる。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「メディア」の特徴を説明できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
4	家族	身近な「家族」をめぐる諸問題と諸理論について、具体的な事例に基づき検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して「社会学な観点」の特徴を理解する。到達目標②に関して日本社会の「家族」の特徴を説明できるようになる。到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
5	福祉国家	近現代の福祉国家の展開について概観する。近年の社会政策の動向、医療・福祉のあり方についても可能な限り触れる。		
	この回の到達目標	到達目標①に関して、「福祉国家」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「福祉国家」の特徴を説明できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
6	福祉国家	近年の社会政策の動向について、より具体的な事例に基づき検討する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グローバリゼーション		グローバリゼーションの展開について、諸概念・諸理論の特徴をまず概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、「グローバリゼーション」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会と「グローバリゼーション」の関連を説明できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
8	グローバリゼーション		グローバリゼーションの展開について、より具体的な事例に基づき検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
9	都市空間		近現代の都市空間をめぐる諸問題と諸理論について、学説史的展開を踏まえながら概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、「都市空間」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「都市空間」の特徴を説明できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
10	都市空間		近現代の都市空間をめぐる諸問題と諸理論について、より具体的な事例に基づき検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
11	環境		近現代の公害問題・環境問題と諸理論について、学説史的展開を踏まえながら概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、「公害・環境問題」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「公害・環境問題」の特徴を説明できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
12	環境		近現代の公害問題・環境問題と諸理論について、より具体的な事例に基づき検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	社会運動		これまでの講義内容を踏まえつつ、近現代の様々な社会運動と社会運動論の展開について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、「社会運動」をめぐる社会学的観点を学ぶ。到達目標②に関して日本社会の「社会運動」の特徴を説明できるようになる。到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
14	社会運動		これまでの講義内容を踏まえつつ、近現代の様々な社会運動と社会運動論の展開について、より具体的な事例に基づき検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の関心を論として展開できるようになる。		
	事前学修	授業で扱うトピックについて自分の関心を整理しておく。あわせて参考文献に目を通しつつ、予備知識を調べておく。		120分
	事後学修	授業内容について、ノートや配布資料を読み返し、疑問点を洗い出す。関連文献について調べ、可能な限り目を通す。		120分
15	試験		授業内試験と解説・これまでの振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、これまでの授業を踏まえながら、社会学的観点と社会学的説明を試験問題に即して総合的に展開できるようになる。		
	事前学修	これまでの授業を振り返り、試験準備をする。		220分
	事後学修	授業全体を振り返り、配布資料、メモ記録、ノート、文献リストをまとめる。		80分

科目名	社会学Ⅱ	担当者	渡邊 隼	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この授業では，社会学的な観点から社会の成り立ちを理解する方法を学び，現代の日本社会がもつ特徴について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の日本社会を多様な側面から社会学的に分析・理解するために必要な概念と枠組みを身につけ，社会学的な議論を展開する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
毎回の配布資料にもとづく講義形式をとる。ただし、受講者数や受講者の問題関心によって、授業の方法、成績評価の方法を多少変更する可能性がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会について社会学的な観点から考えることができる。						2	2					
②	現代日本社会の特徴を社会学的に説明できる。							2	2				
③	社会的な問題について客観的な根拠を持って論じることができる。								2			2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②について、関連する知識が身についているかどうかを期末レポートによって評価する。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、授業内での提出物等によって、議論が展開できているかどうか評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業時に提出が求められる小レポート課題に対しては、原則として次回の授業時にフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『社会学 新版』	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志	有斐閣	2019	参考書	推奨
『21世紀を生きるための社会学の教科書』	ケン・ブラマー（赤川学監訳）	筑摩書房	2021	教科書	推奨
備考	このほかに授業内で関連文献を紹介する。受講者からの参考文献・資料についての質問も歓迎する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問は、原則として授業の前後の時間に受けつける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	・ガイダンス ・授業内容のイントロダクション ・日本社会の諸問題	・授業の進め方、成績評価の方法などを説明する。 ・社会学の研究を行なうにあたって必要とされる視点を説明する。 ・社会学的視点から日本社会の諸問題へアプローチする方法について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学がどのような学問であるのかを説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読んで授業の概要について理解しておく。現代の日本社会における諸問題のなかで、興味関心があるものをいくつか考えておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
2	社会学と現代社会（1）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、地域概念、コミュニティ概念をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
3	社会学と現代社会（2）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
4	社会学と現代社会（3）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族概念、世帯概念をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
5	社会学と現代社会（4）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族の構造をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分
6	社会学と現代社会（5）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、家族の変容、家族の機能をあつかう。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。		
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。		120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会学と現代社会（6）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、生活のとらえ方、生活の変容をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
8	社会学と現代社会（7）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会的ジレンマの諸問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
9	社会学と現代社会（8）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会関係資本論をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
10	現代社会の社会問題（1）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、貧困、失業、差別、社会的排除などの社会問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
11	現代社会の社会問題（2）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、自殺、犯罪、非行などの社会問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
12	現代社会の社会問題（3）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、児童虐待、いじめ、DV、ハラスメントなどの社会問題をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現代社会の社会問題（4）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、ラベリング理論、逸脱論をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。	120分
14	現代社会の社会問題（5）	現代の日本社会を理解するための社会学の知見（理論、方法、視点、用語、発想、考えかた）を説明する。具体的には、社会構築主義をあつかう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	前回の配布資料を読んでおく。講義であつかう内容について、ニュースや書籍などを通じて知っておく。	120分
	事後学修	配布資料を読んで、授業内容を復習しておく。授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。	120分
15	授業内容のまとめ	授業内容のまとめを行い、期末レポート執筆に向けて注意すべきことを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会学の概念、用語、調査、研究が、どのようなものであるのかを説明することができる。	
	事前学修	授業全体をふり返り、配布資料を読んでおく。	120分
	事後学修	期末レポート執筆に向けて準備作業に着手する。	120分

科目名	社会思想の歴史Ⅰ	担当者	川本 隆	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれる。また、なにかと便利だが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈している。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたい。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ルターからモンテスキューに至る社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うために、時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
配布プリントによる講義形式授業。毎回授業内容コメント課題で講義内容に関する質問・意見を求め、フィードバックされることで理解を深める。チェックテスト（4択問題5問）を毎回行う。最終的な学期末レポートは1回提出するのみ。期末試験はない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ルターからモンテスキューに至る社会思想を取り上げ、各時代の社会意識や時代精神を踏まえて多角的な批判をしつつ、それらの社会思想の変遷を説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて論述することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課されるチェックテストの 成果で評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、学期末レ ポートにより評価する。Google Classroomの提出欄に、 Googleフォームを用いてアップロード提出すること。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内小レ ポート等)	到達目標①②に関わって講義中に課される授業内容コメン ト課題を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間チェックテストについては答案回収直後に、学期末レポートについては最終授業時に、それぞれ講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
指定教科書なし。					
備考	Colnet「教材提示」フォルダにアップするPDF資料と授業時に配布するプリントで授業を進める。				

【オフィスアワー】
金曜日、19：30～20：30（アポイントを取ること）。授業講堂にて。kawamoto.takashi11@nihon-u.ac.jp（川本）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	総論：社会思想史とは何か		社会思想の成り立ちと性格、および歴史とのかかわりについて学修する。また、年間講義計画・成績評価の方法、参考文献紹介などの確認を行う。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	本講座「社会思想の歴史」で学ぶことの内容を理解できる。また、受講するに際して固定観念に縛られない柔軟な姿勢の重要性を知り、これからの学修に生かすことができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、気になる何人かの思想家について一般的な理解がどのようなものか、インターネットサイトをを通して概観し、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業時に配布された「履修上の注意」および資料を精読し、重要と思われる項目をマーカー塗布またはアンダーラインして把握する。		120分
2	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター①人と思想		当時のキリスト教世界においてなぜ贖宥状が必要だったか、社会において教会がどのような役割を果たしていたかを把握する。	
	この回の到達目標	当時のカトリック教会の腐敗状況をふまえ、ルター『95箇条の論題』の放つ時代的意義を理解できる。		
	事前学修	「Colnet＞学生教員共有＞川本隆＞教材提示」フォルダにアクセスし、「ルター」のPDF資料を読み、理解しがたい箇所・重要だと思われる箇所をそれぞれノートに書きだし、受講に備える。		120分
	事後学修	Colnetの「教材提示」フォルダにあるルター関連のPDFで授業内容を復習し、授業で取り上げられなかった資料に目を通して理解を深め、内容整理する。		120分
3	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター②思想と影響		「95か条の論題」の成立背景を確認しつつ、ルターの信仰義認説の概要と意義を理解する。また、ルターの放った主教改革の狼煙がどのように同時代人に受け止められていくかを学修する。	
	この回の到達目標	ルターが最初から宗教改革者になろうとして「95箇条の論題」を公表したわけではない事情を理解し、思想と反響のズレを把握できる。		
	事前学修	前回配布の資料をよみ、問題点・疑問点をピックアップしておく。		120分
	事後学修	Colnetの「教材提示」フォルダに提示された新しいルター関連のPDFを参考に授業内容を復習し、キリスト教的信仰の意味を理解しようと努める。		120分
4	ルネサンス期の社会思想：エラスムス		「宗教改革」がカトリック内部から生じてくる背景を理解し、エラスムスの時代批判の意義を確認する。	
	この回の到達目標	『痴愚神礼讃』の成立背景およびルターとの関連性・相違点を把握する。		
	事前学修	配布されたプリントやColnetのPDF資料をもとに、ルターのプロテスタンティズムとエラスムスやモアのカトリック的改革との違いを予想する。		120分
	事後学修	時代のキリスト教を改革しようとする精神は共通しているにもかかわらず、ルターとエラスムスの両者が対立していくのはなぜかについて、自分の考えをノートにまとめる。		120分
5	ルネサンス期の社会思想：モア		主著『ユートピア』の成立事情とその影響を学修する。	
	この回の到達目標	「どこにもないところ」としてのモアの『ユートピア』を、時代状況に照らしつつ、人文主義的技巧を駆使した作品として理解する。		
	事前学修	キリスト教教会の時代的な腐敗と国王の覇権主義との関係に注意しながら、モアの複雑な立ち位置を想像してみる。		120分
	事後学修	主著『ユートピア』が対話篇で綴られている理由は、プラトンの影響が考えられる。作中人物としてのモアと書き手としてのモアの使い分けに留意しながら彼の思想をまとめる。		120分
6	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリとその時代		エラスムスと同時代でありながらキリスト教的な枠を突き抜ける、マキアヴェリ思想の時代的意義について学修する。	
	この回の到達目標	ルネサンス期のイタリアの傭兵の成立事情とマキアヴェリの傭兵評価を等身大で理解する。		
	事前学修	マキアヴェリの時代背景を知るには、イタリア・ルネサンスの時期の傭兵の役割を知る必要がある。PDF資料の「傭兵の二千年史」（抜粋）を一読しておく。		120分
	事後学修	エラスムス、モア、ルターの3者と全く異なる発想がマキアヴェリにあることを確認し、ノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリ『君主論』		都市国家フィレンツェにおけるマキアヴェリの政治的位置に配慮しながら、『君主論』をはじめとするマキアヴェリ思想の意義を学修する。	
	この回の到達目標	一見、冷徹な皮肉屋にみえて単純な権謀術に還元できない思想家マキアヴェリの多様な側面を理解し、説明できる。		
	事前学修	Colnetに提示されたマキアヴェリ関連の資料PDFを読み、「フォルトゥーナ」「ヴィルトゥ」「スタト」というキーワードを抑えながら、マキアヴェリ思想の輪郭をまとめる。		120分
	事後学修	授業時に触れられない『リウィウス論』について調べ、『君主論』との異同をノートにまとめる。		120分
8	近代の社会契約思想：ホッブズ『リヴァイアサン』の成立		ホッブズの時代背景（2つの市民革命）を踏まえて、ホッブズのリヴァイアサン思想の成立事情を学修する。	
	この回の到達目標	王党派にも革命派にも属さないホッブズ特有の位置を踏まえながら、ホッブズ思想の時代に与えた影響を等身大で把握できる。		
	事前学修	ピューリタン革命の時代にホッブズがどのような立場で思想を形成していたかを考えながら、事前資料PDFを読んでおく。		120分
	事後学修	ホッブズに「絶対王政擁護者」というレッテルを貼ることが不適切である。その根拠を問いただし、王党派、長老派、独立派、平等派との関係に配慮しながら、ホッブズ思想の特徴を列記する。		120分
9	近代の社会契約思想：ホッブズ『リヴァイアサン』の思想		自然権を譲渡する必要からコモンウェルスが生成する事情を理解し、ホッブズ思想が近代人権思想の源流であることを理解し説明できる。	
	この回の到達目標	コモンウェルスの成立要件と相対主義的倫理の回避に必要なポイントを的確に説明できる。		
	事前学修	マキアヴェリの君主論とホッブズのリヴァイアサン思想を比較する際、決定的に異なる特徴は何か？ 予想される項目をノートに列記する。		120分
	事後学修	「自然権」と「自然法」の相違に注意しながら、コモンウェルスの必要性を箇条書きにまとめる。また「リヴァイアサン」の挿絵の意味を考え、ホッブズ思想の時代的意義をノートにまとめる。		120分
10	近代の社会契約思想：ロック『統治論』の背景		机上の理論家でなく、名誉革命の立役者でもあったロックの『統治論』の成立背景を学修する。	
	この回の到達目標	ピューリタン革命から名誉革命の時代的推移において、国王と議会の対立がどのように変容していったか、また、この変容にロックの思想に深くかかわっている事情を理解し説明できる。		
	事前学修	ピューリタン革命から名誉革命に至るロックの時代背景を、PDF資料の年譜を見ながら、おおまかに把握しておく。		120分
	事後学修	時代の嵐に翻弄されながらもロックはどのような政治体制を待望していたのか？ 授業内容を踏まえつつ、その概要をノートに整理する。		120分
11	近代の社会契約思想：ロック『統治論』の思想		ロックの思想が議会制民主主義の基礎づけを果たしたとされる根拠を学修する。	
	この回の到達目標	「プロパティ」という用語の背後に「神」があることに気をつけながら、人間固有の権利がロックにおいてどのように規定されているかを理解し、説明できる。		
	事前学修	ホッブズで明確に区別されていた「自然権」と「自然法」との区別がロックではなくなる。その理由を考えながら、『統治論』の抜粋PDF資料を精読する。		120分
	事後学修	イギリスの議会政治の歴史的発達とロックの『統治論』は密接な関係に留意しつつ、ロック思想の基本的特徴をノートにまとめる。		120分
12	近代の社会契約思想：ルソー『人間不平等起源論』		ルソーのパーソナリティの特異性と『不平等論』の成立事情を学修する。	
	この回の到達目標	ルソーのステレオタイプな「自然に帰れ」論を括弧にくくり、彼の個人史から読み取れるパーソナリティを踏まえて、『不平等論』の成立事情を理解し、説明できる。		
	事前学修	ルソーの思想を等身大で見るための予備作業として、ColnetにアップされたPDF資料で彼の人生遍歴を概観し、重要と思われるエピソードにマーキングをしておく。		120分
	事後学修	アムール・ド・ソワ とアムール・ド・プロブルは同じ愛でありながら、極端な差異としてとらえられる点に気をつけながら、『不平等論』の骨子をノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	近代の社会契約思想：ルソー『社会契約論』	『不平等論』と『社会契約論』との「自然状態」概念の相違に着目しつつ、後者の論のパラドックス（全面譲渡の謎）を読み解く。	
	この回の到達目標	『不平等論』と『社会契約論』とで「自然状態」が異なる根拠を理解し、『社会系契約論』におけるルソーの狙いを客観的視点で説明できる。	
	事前学修	『不平等論』と『社会契約論』とでは「自然状態」のとらえ方の相違点をColnetにアップされたPDF資料から読み取り、箇条書きでノートに書きだす。	120分
	事後学修	「全面譲渡」という極端な形で描かれるルソーの社会契約論を時代背景と照らし合わせて考え、ノートにまとめる。	120分
14	仏リベラリズム：モンテスキュー『法の精神』	法服貴族という立場からフランスの王政の暴走に法的な歯止めをかけようとしたモンテスキュー思想の意義を学修する。	
	この回の到達目標	モンテスキューの権力分立論の根拠を、当時のフランスの時代状況と照らし合わせて理解し説明できる。	
	事前学修	法服貴族というモンテスキューの身分（立ち位置）が彼の思想とどのような関係にあるか？ PDF資料を読んで予想される内容をノートに書きだす。	120分
	事後学修	「穏和な整体」というときの「穏和」の意味に注意しながら、モンテスキューの権力分立論の独自性（特徴）についてノートにまとめる。	120分
15	前学期のまとめ	時代状況に即して思想家たちの行った改革の総まとめを行う。	
	この回の到達目標	ルネサンス・宗教改革の時代から近代にいたる社会思想の潮流をトータルかつ客観的に把握し、説明できる。	
	事前学修	年代順に並べなおすと、マキアヴェリ、エラスムス、モア、ルター、ホッブズ、ロック、モンテスキュー、ルソーの順になるにもかかわらず、なぜ上記のような順で概説したか考え、その根拠をノートにまとめる。	120分
	事後学修	「カトリシズム的改革とプロテスタンティズム」、「アダム的人間とプロメテウス的人間」、「社会契約思想と権力分立論」、「自然法概念」の推移、という4項目について、これまで学んできたことをトータルに整理し、ノートにまとめる。	120分

科目名	社会思想の歴史Ⅱ	担当者	川本 隆	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれる。また、なにかと便利だが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈している。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたい。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アダム・スミスからマレイ・ブクチンに至る社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うために、時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
配布プリントによる講義形式授業。毎回授業内容コメント課題で講義内容に関する質問・意見を求め、フィードバックされることで理解を深める。チェックテスト（4択問題5問）を毎回行う。最終的な学期末レポートは1回提出するのみ。期末試験はない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アダム・スミスからマレイ・ブクチンに至る社会思想を取り上げ、各時代の社会意識や時代精神を踏まえて多角的な批判をしつつ、それらの社会思想の変遷を説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて論述することができる。					2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課されるチェックテスト の成果で評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、学期末レ ポートにより評価する。Google Classroomの提出欄に、 Googleフォームを用いてアップロード提出すること。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内小レ ポート等)	到達目標①②に関わって講義中に課される授業内容コメン ト課題を評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間チェックテストについては答案回収直後に、学期末レポートについては最終授業時に、それぞれ講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
指定教科書なし。					
備考	Colnet「教材提示」フォルダにアップするPDF資料と授業時に配布するプリントで授業を進める。				

【オフィスアワー】
金曜日、19：30～20：30（アポイントを取ること）。授業講堂にて。kawamoto.takashi11@nihon-u.ac.jp（川本）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	市民社会の思想：アダム・スミスの道徳哲学		時代背景を踏まえつつ、『道徳感情論』を中心に性善説・性悪説をのりこえるスミスの道徳論の形成について学修する。	
	この回の到達目標	スミスの時代の道徳学説の諸説を対照し、スミスが独自の道徳感情論を形成する経緯を理解し、説明できる。		
	事前学修	ColnetのPDF資料「アダム・スミス」の年譜と概要を読み、気になる点（飲み込めない箇所）をマーキングして受講に備える。	120分	
	事後学修	道徳感覚学派の利他的人間像と、マンデヴィル、ヒュームらの利己的人間像の特徴をまとめ、スミスがどのようにこれらの道徳論を超越していったかをノートに整理する。	120分	
2	市民社会の思想：アダム・スミス『国富論』		『国富論』の「見えざる手」の理論と分業の功罪について学修する。	
	この回の到達目標	スミスの重商主義批判を踏まえつつ、『国富論』を単純な市場開放論といえない面があることを的確に指摘し、説明できる。		
	事前学修	スミスの道徳論が「共感」や「公平な観察者」というテクニカルタームにどうつながっていくか、予想をたて、ノートに書きだす。	120分	
	事後学修	スミスの自由主義的経済思想の特徴を列記し、その発展系が現代のグローバル社会の新自由主義思想といえるかどうか、自分の考えをノートにまとめる。	120分	
3	市民社会の思想：カントの道徳哲学と法論		カントの義務倫理の成立背景をたどり、キリスト教倫理との関係を含め、カントの理想が今日どのような意味をもつかを考察する。	
	この回の到達目標	厳格なカントの義務倫理が何を根拠にして生じるのか、道徳法則にしたがう自由のパラドックスをどのように解くか、という問いについての的確に応答し説明できる。		
	事前学修	Colnetに挙げられた資料を読み、カントの道徳論は厳格な義務倫理といわれる理由について、予想を立て、それをノートに書きだす。	120分	
	事後学修	不幸な介護殺人や鴎外の『高瀬舟』などの事例で、カントの「生きる義務」という価値観が適用できる可能性についてノートにまとめる。	120分	
4	市民社会の思想：スピノザの市民社会論		日常意識を超える神の視点では「必然性」と「自由」が一つであること、そのような「永遠の相のもと」で生きることに真の幸福があることを、スピノザの主著『エチカ』から学修する。	
	この回の到達目標	超越神論と汎神論の相違を踏まえ、スピノザの哲学において自由と必然が合致すること、また、この視点は、政治哲学的な意味も含意していることを理解できる。		
	事前学修	スピノザの汎神論のが、人間中心的な道徳観（個）を超える普遍の立場でありながら、民主主義的でありうるというパラドックスをどう解いたら良いか？ Colnetに挙げられた資料を一読し予想してみる。	120分	
	事後学修	スピノザ哲学では、自我の主権意識にこだわるほうが真理から遠のくことになるのはなぜか、その理由を考えながら、スピノザの倫理思想をノートにまとめる。	120分	
5	市民社会の思想：ヘーゲルの弁証法		ドイツ観念論の完成者といわれるヘーゲル哲学の体系構築に不可欠の弁証法について学修する。	
	この回の到達目標	ヘーゲル哲学体系における「弁証法」という方法の役割およびその内実についての的確に理解し、説明できる。		
	事前学修	「正→反→合」という図式的理解を「カツ→カレー→カツカレー」という喩えに変えることには問題がある。Colnetに挙げられた資料を読み、その問題点を予想し、ノートに書きだす。	120分	
	事後学修	ヘーゲルにとって弁証法はわき役であったにもかかわらず、体系構成の重要な方法と位置づけられる根拠を考えながら、ヘーゲル弁証法のポイントをノートにまとめる。	120分	
6	市民社会の思想：ヘーゲル『法の哲学』家族論		ヘーゲル『法の哲学』における人倫の第一段階「家族」について学修する。	
	この回の到達目標	ヘーゲル『法の哲学』の「人倫」と「道徳性」との違いを踏まえ、人倫における「家族」の役割について理解し、説明できる。		
	事前学修	カントの道徳性を超えるヘーゲルの人倫（倫理）とは何か？ Colnetに挙げられた資料を読んでその内実を予想し、ノートにまとめ、受講に備える。	120分	
	事後学修	家族の一体性・普遍性が「解体」されるとはどういうことか？ 家族の空中分解を意味するわけではないことに注意しながら、『法の哲学』における家族から市民社会への移行の論理を、ノートにまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	市民社会の思想：ヘーゲル『法哲学』市民社会論		ヘーゲル『法の哲学』における人倫の第二段階「市民社会」と第三段階「国家」について学修する。	
	この回の到達目標	ヘーゲル『法の哲学』における市民社会の問題点とその克服の方法に関するヘーゲルの見解を理解し、説明できる。		
	事前学修	ヘーゲルのとらえる市民社会が「欲求の体系としての強制国家」といわれる根拠は何か。Colnetに挙げられた資料を参考に予想を立て、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	人倫の弁証法的発展としての「家族→市民社会→国家」の歩みの必然性を職業団体の「誇り」の意識に注意しながら、ノートにまとめる。		120分
8	経済社会の思想：マルクス『経済学・哲学草稿』		初期の『経済学・哲学草稿』を中心にマルクスが「労働の疎外」を当時どのように考えていたかについて学修する。	
	この回の到達目標	本来、喜びと充足をもたらすはずの労働においてなぜ人間は疎外されてしまうのか？ この問題に関する初期のマルクスの分析を理解し、説明できる。		
	事前学修	労働における人間の「自己疎外」、すなわち「働けば働くほど人間が貧しくなる」という逆説がなぜ生じるか？ その回答を予想し、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	チャップリンの『モダン・タイムス』の20世紀と19世紀ドイツの状況と対比しながら、マルクスの労働疎外論のもつ意味について、ノートにまとめる。		120分
9	経済社会の思想：マルクス『資本論』の物象化論		マルクス『資本論』における商品の分析と物象化論的錯視の意味について学修する。	
	この回の到達目標	アソシアシオンという協同社会がいまだ実現されていないことを踏まえ、マルクスの資本主義社会に対する批判的分析のもつ意義について理解し、説明できる。		
	事前学修	マルクスの思想とマルクス主義は異なる。その意味について、Colnetに挙げられた資料を参考に予想を立て、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	「アソシアシオン」「物象化論的錯視」というキーワードを抑えながら、労働者を解放しようとしたマルクスの意図と構想のポイントをノートにまとめる。		120分
10	現代の環境思想：レイチェル・カーソン『沈黙の春』と日本の公害		カーソンの『沈黙の春』の成立事情と1970年代の日本の公害問題と現代の環境問題とを関連づけて学修する。	
	この回の到達目標	文学者ではなく海洋生物学者としてカーソンが『沈黙の春』で警告した内容を的確に把握し、説明できる。		
	事前学修	Colnetに挙げられたカーソンの『沈黙の春』冒頭の「明日の寓話」を読み、「白い粉」は何の寓意かを予想し、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	生態系が「目に見えないネットワーク」であることを見定めつつ、授業で触れられなかった彼女の思想をまColnetに挙げられた資料にあるカーソンの思想をノートにまとめる。		120分
11	現代の環境思想：ディープ・エコロジー①自己実現		「エゴ」と「セルフ」区別を踏まえつつ、アルネ・ネス「拡大自己実現」の思想を学修する。	
	この回の到達目標	「自己同一化」というキーワードを抑えつつ、「自我ego」から区別されるネスの「自己Self」概念を的確に理解し、ネスのホーリズムの立場を説明できる。		
	事前学修	起点を共有しながらも、本質的に異なる概念とされる「自我」と「自己」。その異同の内実は何かについて、Colnetに挙げられた資料を読みながら予想を立て、ノートに書きだす。		120分
	事後学修	実体としての「自我」、関係としての「自己」という両概念の特性に注意しながら、ネスの思想をノートにまとめる。		120分
12	現代の環境思想：ディープ・エコロジー②エプロン・ダイアグラム		ディープエコロジーの思想と運動の違いに留意しながら、エプロン・ダイアグラムとプラットフォーム原則について学修する。	
	この回の到達目標	ディープエコロジー運動にあつては、エプロン・ダイアグラムにおいて、レベル1の宗教・哲学よりも、レベル2のプラットフォーム原則のほうが重視されることの根拠について、的確に理解し、説明できる。		
	事前学修	ディープエコロジー運動において、思想や信条などの哲学的理念を共有事項とすると、なぜ問題なのかについて、Colnetに挙げられた資料から予想を立て、受講に備える。		120分
	事後学修	プラットフォーム原則の第4原則「不可欠の必要」があえて「曖昧な」書き方になっている点に注意しながら、プラットフォーム原則全体の要点をノートに整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	現代の環境思想：ディープ・エコロジー③食の思想		ディープ・エコロジストとは微妙に異なる「生命中心主義」の論客ピーター・シンガーと対比しつつ、アルネ・ネスが食に関してどのような立場にあったかについて学修する。	
	この回の到達目標	食の哲学・自然観をめぐってアルネ・ネスとピーター・シンガーの見解が微妙に異なる事情にあることを理解し、両者の異同を的確に説明できる。		
	事前学修	生きるためには食べなければならない、食べるためには殺さなければならない。この矛盾に対するネスの「生命圏平等主義」の主張の意味は何か？ 自分なりの考えをノートにまとめ、受講に備える。		120分
	事後学修	生きものの「いのちを解く」現場から離れた現代人の食生活の問題は何かを考えながら、人間が「生きる」ことの意味をネスがどのようにとらえていたかについて、ノートにまとめる。		120分
14	現代の環境思想：アルネ・ネスのセルフ論		エーリヒ・フロムとスピノザを引き合いに出しながら、アルネ・ネスの「セルフ」論をより深く学修する。	
	この回の到達目標	フロムとスピノザに関するネスの見解を手がかりにしつつ、第11回で学んだネスの「自己実現」論をより深いレベルで理解し、フロムとスピノザからネスが何を学んだかについて説明できる。		
	事前学修	Colnetに挙げられた資料を読み、なぜ「自己愛」と「他者愛」が両立可能なのかについて、自分なりにノートにまとめ、受講に備える。		120分
	事後学修	フロムから共感論のほかに、“preserve in his being”というスピノザの主張がなぜ必要となるのか、「エゴの脱色（解放）」という視点から、ネスの自己実現論をノートにまとめる。		120分
15	現代の環境思想：ソーシャル・エコロジー		ディープ・エコロジーの発想で見落とされがちな、社会関係（人間対人間の関係）の問題をマレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジー思想から学修する。	
	この回の到達目標	エコロジー問題を考える際に、対自然関係よりも対人間関係が優先課題となる理由について、現代社会の事例を挙げて理解し、説明できる。		
	事前学修	ブクチンの『エコロジーと社会』第1章に登場する、カリフォルニア出身のエコロジストの言説のおかしな点とは何か？ Colnetに挙げられた資料を読み、自分なりの考えをノートにまとめる。		120分
	事後学修	生物資源を略奪するドイツの製薬会社の事例を参考に。社会的な人間相互の関係を改善せずには、地球環境問題の真の解決には至らない、というブクチンの主張をノートにまとめる。		120分

科目名	宗教学 I	担当者	舘野 正生	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 宗教とは定義では「人間と超越的存在との関わり」とされるが、この超越的存在とは人間が成長・進化した次の段階の存在のことである。本授業では、人間が進化・成長して次の段階に向かって行くことを宗教の本義とみて、次の段階に進んだ先人たちから、どのように生きればいいのかを教わり、成長・進化するための方法を身に付ける実践を行っていきたい。このことから、特定の宗教の歴史や教義などを話すことは行わない。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 現代の世の中を生きる基礎を創るために、どのように生きればいいかに関する知識、技法を学修する。それによって生きやすくなることを到達目標とする。
--

【履修条件】 真剣に取り組めること。欠席しないこと。5回の欠席で成績は付かない。
--

【授業方法】		
様々な題材を自分が成長していくことに結び付けたレポートを書くということを繰り返すことと、成長・進化していくための実践を行うことで、自分で自分を成長させてゆくという形態で行っていく。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは中間・期末のレポートなどで使用するので、必ず記録しバックアップも取ること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業者の話を聞きそれに対してレポートを書くということを、毎回の授業で複数回、行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	宗教の定義・本義を十分に理解し、それを説明できる。				2	2		2				
②	自分の現状を明確にでき、それを基にさらに成長したことを説明できる。						2					
③	宗教の本義に基づき、いかなる時もそれに基づいて行動することができる。				2			2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内】到達目標①、②に関する知識が取得でき、それを説明できているかを授業内レポートにより評価する。(40%) 【中間】第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標①、②に関わる、自分と他者のどちらにも執われない立場が身に付きつつあり、それを説明できるかを確認する。(20%) 【期末】第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分と他者のどちらにも執われない立場が身に付き、それを説明できるかを確認する。(20%)	40	20	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	満点の100点から、欠席は1回につき5点、減点する。											
その他(宿題)	到達目標③に関し、宗教の根本義に基づいた行動ができるようになりつつあるか評価する。			20								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それについて説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	宗教の定義	宗教の定義に関して、語源、歴史、研究者による定義などについて概説し、本授業で行うことを説明する。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①に関して、宗教とはどのようなものか、その定義を理解し、根本義は何かを明確にし、それについて説明できる。	
	事前学修	宗教という言葉の定義を広く調べた上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	人生の目標・目的	前回のレポート紹介と講評。人間が生きている環境、そこをどのように生きればいいのか、その目標・目的について扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、生きることの意味、人生の目標・目的を明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	人生の中間目標、最終目的について考え、ノートにまとめておく	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	人間はどのように生きればいいのか。	前回のレポート紹介と講評。日常でどのように生きているか、どのように生きることがいい方向となるのかについて扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、人間はどのように生きればいいのかを明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	自分が日常をどのように生きているかを確認し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	主人公とは何か。	前回のレポート紹介と講評。日常の自分は一体何によって動かされているのかなどに関する話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分の人生を自分で生きることを明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	自分が何を求めて生きているか、ノートに書き出し、まとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	主人公は誰か	前回のレポート紹介と講評。他人を相手にするのみでは人生が進んでいかないことなどについての授業者の話の聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分の主人公を明確にし、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	承認欲求について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	向上・進化できたこと		参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、ここまでの授業を利用して自分が進化向上できたことを確認し、さらなる進化を目指すことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
8	執われとは		前回のレポート紹介と講評。人間の苦しみはどこから生ずるのかについて授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、自分が執われていることを自覚し、そこから離れることができ、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	仏教に於ける「執(しゅう)着(じゃく)(執著)」について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
9	執われからの展開（初段階）		前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開に関する初段階の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標②に関して、精神的な次元を明確にし、その次元を高めていくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	自分の精神的立場が一点に執われ続けていることを、自分の日常を記録することで調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
10	執われからの展開（高段階）		前回のレポート紹介と講評。精神的次元をさらに高める話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標①、②に関して、精神的な次元を明確にし、その次元を高めていくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	自分の日常のふるまいを精神的次元にあてはめて、それを記録しノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
11	自分の短所・欠点		前回のレポート紹介と講評。短所・欠点を元に、そこから展開していく話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標②に関して、自分の短所・欠点を明確にし、それをどうすればよいかを考えられるようになり、それを基に行動し、それについて説明できる。		
	事前学修	自分の短所・欠点を調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
12	精神的な弱さについて		前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さについての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標目標②に関して、自分の精神的な弱さについて理解し、それを乗り越えていく行動ができるようになり、それについて説明できる。		
	事前学修	精神的弱さについて調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	精神集中について		前回のレポート紹介と講評。精神集中についての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標目標②に関して、精神集中の意義について理解し、自分に合ったものを行うことができ、それについて説明できる。	
	事前学修	精神集中について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	後半のまとめ		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標目標③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、さらに修正していくことができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	生きやすくなることについて		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標目標③に関して、これまでの授業を振り返り、どのように生きればいいかを確認し、より生きやすくなることができ、それを基に行動し、それについて説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題、すべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題、すべてを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	宗教学Ⅱ	担当者	舘野 正生	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
宗教とは定義では「人間と超越的存在との関わり」とされるが、この超越的存在とは人間が成長・進化した次の段階の存在のことである。本授業では、人間が進化・成長して次の段階に向かって行くことを宗教の本筋とみて、次の段階に進んだ先人たちから、どのように生きればいいのかを教わり、成長・進化するための方法を身に付ける実践を行っていきたい。このことから、特定の宗教の歴史や教義などを話すことは行わない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の世の中を生きる基礎を創るために、どのように生きればいいかに関する知識、技法を学修する。それによって生きやすくなることを到達目標とする。

【履修条件】
真剣に取り組めること。欠席しないこと。5回の欠席で成績は付かない。

【授業方法】		
様々な題材を自分が成長していくことに結び付けたレポートを書くということを繰り返すことと、成長・進化していくための実践を行うことで、自分で自分を成長させてゆくという形態で行っていく。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは中間・期末のレポートなどで使用するので、必ず記録しバックアップも取ること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業者の話を聞きそれに対してレポートを書くということを、毎回の授業で複数回、行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分と他者を充分に知り理解し、それを説明することができる。					2	2						
②	達成目標①に基づき、自他に執われず、いかなる時も客観的に冷静に判断することができるようになり、それを説明できる。							2	2				
③	自分の行動を観察し、意識的にすることができ、自他に執われず、いかなる時も客観的に冷静に行動することができるようになり、それを説明できる。								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	【授業内】到達目標①、②に関して、十分に自分を理解でき、客観的に冷静に判断することができて、それを説明できるかを授業内レポートにより評価する。(40%) 【中間】第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを提出してもらい、到達目標②に関わる、自分と他者のどちらにも執われない判断が身に付きつつあり、それを説明できるかを確認する。(20%) 【期末】第14回に、全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを提出してもらい、到達目標③に関わる、自分と他者のどちらにも執われない行動が身に付き、それを説明できるかを確認する。(20%)	20	40	20								80
討論・発表等												
授業への参画度	満点の100点から、欠席は1回につき5点、減点する。											
その他(宿題)	到達目標②、③に関し、客観的に冷静に判断・行動することができ、それを説明できるかを評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この授業の内容を的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それについて説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	自分を知ること	授業者による「自分を知る」ことに関する先人たちの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知ることの重要性を歴史的に理解し、その意義を明確にし、それについて説明できる。	
	事前学修	自分はどのような人かについて探究することの意義を調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	自分を知る方法	前回のレポート紹介と講評。参加者は「自分を知る」ためのテストを行い、自分について分かったことをレポートに書き、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自分を知ることによって自分に対する理解を深め、外側から自分の軸を創ることができ、それについて説明できる。	
	事前学修	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、さらに理解を深める。	120分
4	変えられること、変えられなこと	前回のレポート紹介と講評。「変えられること、変えられなこと」、それをどうすればいいか、などについての話に対し、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、自分を含め観察し、調和の取れた生き方ができるようになり、それについて説明できる。	
	事前学修	自分が「どうにもできないこと、どうにかできること」について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	無常、無我について	前回のレポート紹介と講評。仏教の「無常」、「無我」についての話などを聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、「無常」、「無我」が自分を含め観察するということであることを理解し、それについて説明できる。	
	事前学修	仏教の「無常」、「無我」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	人間の暗い面	前回のレポート紹介と講評。「人間の暗い面」についての先人の見解、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、人間の暗い面を十分に理解し、自分に当てはめて納得し、またそれについて説明できる。	
	事前学修	「人間の暗い面」について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	向上・進化できたこと		参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、ここまでの授業を利用して自分が進化向上できたことを確認し、さらなる進化を目指すことができ、それについて説明できる。		
	事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
8	人間の邪悪さ		前回のレポート紹介と講評。「人間の邪悪さ」に関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、人間の邪悪さを十分に理解し、自分に当てはめて納得でき、それについて説明できる。		
	事前学修	人間の邪悪さについて調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
9	失敗に対する捉え方		前回のレポート紹介と講評。失敗に対する先人たちの見解、授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、失敗に対する先人たちの捉え方を理解し、自分に活用でき、それについて説明できる。		
	事前学修	失敗について自分の経験から考え、見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
10	失敗に対処すること		前回のレポート紹介と講評。失敗に対する先人たちの対処の仕方、授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、失敗に対する先人たちの対処の仕方を理解し、自分に活用でき、それについて説明できる。		
	事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートとを振り返り、失敗にどのように対応すればよいかを思考し、それをノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
11	対象に対する思い込み		前回のレポート紹介と講評。対象に対する思い込みに関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、対象に執われていることから、客観的に観察し、執われることから離れることができ、それについて説明できる。		
	事前学修	対象を捉えるとき、自分の思いをかぶせることについて調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
12	自分の進化を停滞させるもの		前回のレポート紹介と講評。自分の進化を停滞させるものに関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の進化を停滞させるものを明確に知り、それを修正して生きていくことができ、それについて説明できる。		
	事前学修	自分の進化を停滞させるものについて調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	自分の行動は自分が選んで行っているか		前回のレポート紹介と講評。自分の行動は自分が選んで行っているかに関する授業者の話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標③に関して、自分の行動を意識的に自分で選んで生きることができ、それについて説明できる。	
	事前学修	自分の行動は自分が選んで行っているかについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	後半のまとめ		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標②、③に関して、授業後半の内容を有効に使うことができているかを確認し、さらに修正していくことができ、それについて説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	自分が生きやすくなり、それが人類の進展に繋がっていること		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標③に関して、これまでの授業を振り返り、自分が生きやすくなり、それを人類の進展に繋げることができ、それについて説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題のすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	初回からのノート、授業内レポート、宿題のすべてを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	心理学 I	担当者	木村 敦	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査やデモの体験およびレポート作成、授業内試験(理解度確認課題)等も適宜実施する。授業内試験(理解度確認課題)・レポートについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
すべての成績評価指標について、授業中に解説や総評、評価基準の開示を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第4版	和田万紀 編	弘文堂	2014	教科書	推奨
心理学概説：心理学のエッセンスを学ぶ	巖島行雄・横田正夫 編	啓明出版	2014	参考書	任意
備考	基本的には毎回配布資料に基づいて授業を進行しますが、興味のある内容について学修を深めるために教科書と参考書を案内します。なお、「心理学I」の教科書は法学部全クラス共通で指定されているものです。				

【オフィスアワー】
一部金曜4限、二部金曜1限、授業内にて個別に質問を受け付けます。オンライン授業の場合はClassroomやメールで受け付けます。E-mail：kimura.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【法学部で心理学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学を学ぶことが自他の心理や行動を把握する上でどのように役立つかを説明できる。また、到達目標①～⑥に関連して、授業期間中に心理学を学修する範囲や計画、到達度の判断基準について自身で述べることができる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【心理学とは】	心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学の実験法について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
3	【心理学の歴史と研究法】	複雑で曖昧さのある人間心理・行動を客観的に分析・考察するアプローチや手法に関して、とくに実験法と調査法の特性を比較しながら説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学の実験と調査について具体例や基礎用語を挙げながら説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書序章・1章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
4	【感覚・知覚(1)感覚】	視覚を例として、感覚入力から見えに至るまでの基礎的な知覚情報処理について説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の認知特性について述べるができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、感覚・知覚の特性について説明できるようになる。また、到達目標③④に関連して、視覚に関するデモを体験して、その現象から視覚系のはたらきについてどのようなことがいえるか論じることができる。	
	事前学修	配布資料や教科書2章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
5	【感覚・知覚(2)知覚】	視覚的注意について、中心視・周辺視との関連から機能や制約について説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の認知特性について述べるができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、視覚的注意の基礎的特性やその個人差について説明できる。また、到達目標③④に関連して、視覚に関するデモを体験して、その現象から視覚系のはたらきについてどのようなことがいえるか論じることができる。	
	事前学修	配布資料や教科書2章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
6	【記憶】	記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、記憶プロセスの基礎的特性や関連理論、目撃証言の信憑性について説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書3章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【理解度確認課題（1）の実施】	理解度確認課題の実施を通じてここまでの学習内容についての到達度を把握する。なお、解説は第8回に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、授業内理解度確認課題への参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
	事前学修	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。	120分
	事後学修	授業内テストの解説を振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分
8	【学習】	条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、レスポナデント条件付けとオペラント条件づけについて、具体例を挙げて比較説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書3章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
9	【感情(1)感情の機能と働き】	感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的な情動理論や基本表情モデルについて説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書4章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
10	【感情(2)感情のコントロール】	感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ネガティブ感情の役割やアンガーマネジメント、アサーションといった感情のコントロールに関する基礎理論について説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書4章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
11	【感情(3)動機づけ】	欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動機づけのモデルや欲求階層に関する基礎理論について説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書4章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分
12	【性格・パーソナリティ】	心理学における性格・パーソナリティの捉え方について説明できるようになる。また、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連して、性格の類型論と特性論について説明するとともに、ビッグファイブ理論に基づいて自己のパーソナリティを説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書5章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【理解度確認課題（2）の実施】	理解度確認課題の実施を通じてここまでの学習内容についての到達度を把握する。なお、解説は第14回に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、授業内理解度確認課題への参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
	事前学修	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。	120分
	事後学修	授業内テストの解説を振り返り、理解しきれなかった点について再度まとめなおす。	120分
14	【学修内容の振り返りと授業内レポートの作成】	今学期の学修内容を振り返るとともに、レポートの課題や形式について確認した上で、レポートを作成する。	
	この回の到達目標	到達度①～⑥に関連して、心理学の学修が自身の生活や専門においてどのような貢献を果たし得るかについて論じることができるようになる。	
	事前学修	今学期の学修内容を振り返るとともに、レポートの課題や形式について確認した上で、レポートを作成する。	120分
	事後学修	作成したレポートの内容と学修内容の対応について整理し直す。	120分
15	【総括と到達度自己チェック】	授業総括や到達度の自己チェック課題を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達度①～⑥に関連して、科目各到達目標に対する自己の到達度を述べるとともに、到達していない部分についての補習課題を通じて、当該の用語・理論について説明できるようになる。	
	事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。	120分
	事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。	120分

科目名	心理学 I	担当者	田中 堅一郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。

【授業方法】
講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う（殆ど板書はしない）。時間が許せば、講義内容について討論の時間を設ける。「法学部総合ポータルサイト」を毎週必ずチェックすること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
法学部総合ポータルサイトに試験の正解と配点を掲示します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学〔第4版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2017	教科書	必携
誠信心理学辞典 新版	下山晴彦	誠信書房	2014	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問等は、e-mailでアポイントをとること（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	心理学Ⅰのガイダンス・導入講義	心理学Ⅰの講義概要、成績評価についての留意点、心理学の領域、心理学の研究法：実験法、調査法、観察法、面接法	
	この回の到達目標	講義概要、成績評価についての留意点について理解し、心理学がどのような領域に広がっているか理解することができる。	
	事前学修	教科書の「序章」「第1章」を中心に全体を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
2	科学としての心理学の歴史	科学としての心理学が始まる前と後	
	この回の到達目標	科学としての心理学が始まった19世紀後半を中心とした歴史的経緯を理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「序章」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
3	感覚・知覚 1	視覚の仕組み	
	この回の到達目標	視覚の基本的な機能について、心理学の視点から考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
4	感覚・知覚 2	視覚のしくみ（その2）、聴覚・味覚・触覚・嗅覚について	
	この回の到達目標	視覚のみならず、それ以外の五感の機能について理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
5	学習 1	心理学での「学習」とはなにか（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習）	
	この回の到達目標	学習の中でももっとも基本的な、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習について理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2 学習」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
6	学習 2	洞察学習、観察学習、条件づけの応用	
	この回の到達目標	5で学んだ条件づけ以外の学習について理解し、それらをどのように応用できるかについて理解することができる。	
	事前学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	感情 1	感情とは何か、感情の生起メカニズム	
	この回の到達目標	感情はどのように生ずるのかについて生理学的・心理学的な視点から理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・1, 2」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
8	感情 2	動機づけ、欲求不満	
	この回の到達目標	動機づけ（モチベーション）と欲求不満（フラストレーション）の基本的なメカニズムについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・4」を通読する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
9	記憶	記憶の種類とそれらの性質	
	この回の到達目標	記憶はどのように研究され、記憶の種類とそれらの性質について理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章・1」を通読する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
10	パーソナリティ 1	性格に関する理論	
	この回の到達目標	古来から今日まで人の性格はどのように捉えられてきたかについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第5章」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
11	パーソナリティ 2	パーソナリティ検査の種類	
	この回の到達目標	パーソナリティはどのようにして測るかについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第8章・4」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
12	パーソナリティ 3	知能、知能検査	
	この回の到達目標	知能とは何か、それはどうやって測定するかについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第8章・4」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発達 1	誕生から児童期までの成長	
	この回の到達目標	人間の誕生から小学生を卒業するまでの発達について、心理学的な視点から理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・1，2」を通読する。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
14	発達 2	生涯を発達として考える	
	この回の到達目標	「アイデンティティ」という概念を広めたE. エリクソンによる生涯発達について理解し、自分自身のこれからの発達について考察することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・3」を通読する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
15	総括	心理学Ⅰで学んだことの総括	
	この回の到達目標	これまで学習した内容を復習し、重要なポイントについて理解することができる。	
	事前学修	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、留意点で述べられたことを参考書に示された辞書などで調べる。	120分

科目名	心理学 I	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。 授業内試験・レポートについては、それぞれ週週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第4版	和田万紀 編	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー、日本オリンピック委員会医・科学スタッフ（スポーツカウンセラー）等を経験してきました。 担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、心理学的理論・立場を日常生活（キャリア形成含）や健康・スポーツの現場で実践できるよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス/法学部で心理学Ⅰを学ぶ】		授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるか、心理学の領域について担当教員の実務経験を踏まえた概要を解説し、受講者が説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
	この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。		
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。		120分
	事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【心理学とは】		心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。	
	この回の到達目標	心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書1章を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
3	【心理学の歴史と研究法】		心の探究に関する研究の歴史の変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	心の探究に関する研究の歴史の変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書序章を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
4	【感覚・知覚(1)感覚の特徴と知覚】		感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。	
	この回の到達目標	感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。		
	事前学修	教科書2章pp. 53-63を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）		120分
5	【感覚・知覚(2)視覚】		知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書2章pp. 63-72を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
6	【感覚・知覚(3)認知と感性】		知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。	
	この回の到達目標	知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。		
	事前学修	教科書2章pp. 74-76を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【記憶】		記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書3章pp. 81-91を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
8	【学習】		条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書3章pp. 91-99を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
9	【感情(1)感情の機能と働き】		感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書4章pp. 105-117を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
10	【感情(2)感情のコントロールと心の健康】		感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書4章pp. 117-120を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
11	【感情(3)動機づけと行動】		欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書4章pp. 121-124を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
12	【性格(1)性格の捉え方】		心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。	
	この回の到達目標	心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。		
	事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【性格(2)性格と精神疾患】	パーソナリティに関する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	パーソナリティに関する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
14	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度と修得内容を確認する。	
	この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
	事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）	120分
15	【総括/心理学Ⅰ】	授業内テストの解説や心理学Ⅰ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）	120分
	事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）	120分

科目名	心理学 I	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
心理学の概観を俯瞰して、人間理解とその方法を修得する。心理学の基本概念や用語等を用いて自分や他者の心の姿、形、働きを理解して説明できる力を獲得する。そして授業中に実験実習や検査実習を実施して、得られた結果を検討して、新たな視点や仮説を設定して適用できる力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心理学の基本用語や概念、方法を用いて、論理的な人間理解の省察に応用展開するするために、自他の心理的過程や心の働きについて、その知識を発展、応用させて、適用できる力を修得する。また授業内の実験実習や検査実習等の結果を、他者との討議を通じて、新たな視点や仮説を提起できる力を修得する。

【履修条件】
マスコミなどで語られている「心理学」とは異なりますので、思い込みは捨ててください。単位や時間割の都合で履修されると下記の授業内容が負担になる場合がありますので注意してください。

【授業方法】
講義は、オンデマンド講義動画配信で行います。 講義中に、エクササイズ（検査実習や実験など）や課題を示しますので、これらを毎回提出します。また別途、レポートを課します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパー及びエクササイズ（検査実習や実験など）の課題を行い、提出します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	心理学の基礎用語や概念を基に、自己の心の働きを理解して説明できる。					2							
②	心理学の基礎用語や概念を基に、他者の心の働きを理解して説明できる。						2						
③	検査実習や実験実習で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、説明できる。							2					
④	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説を設定できる。								2				
⑤	心理学の基礎用語や概念を基に、自他の心の働きの差を説明できる。												2
⑥	検査実習や実験実習等で得られた結果を検討して、心理学の基礎用語や概念を用いて理解して、新たな仮説の検討の方法を立案できる。										2		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②⑤に関連して、基本用語と概念がどれほど獲得できたのかを定期試験によって評価する。	15	15			10						40
小テスト等												
レポート等	到達目標③④⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通して考察できたかをレポートで確認して評価する。			10	15		15					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②⑤に関連して、各授業で示された課題についてのリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5			10						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	15	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトや講義等でお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学第4版	和田万記	弘文堂	2021	教科書	必携
「ミューラーリヤーの錯視」教材心理学課題1（分売）	木下 他	ナカニシヤ出版	2020	教科書	必携
「性格の認知」教材心理学課題6（分売）	木下 他	ナカニシヤ出版	2020	教科書	必携
備考	「ミューラーリヤーの錯視」「性格の認知」は講義中のエクササイズで使用して課題提出になります。分売になりますので購入時に注意してください。				

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分より13時まで行う。なお事前予約を必要とする。業科目名、時限、学科、学年、学生番号、名前を明記して、wada.maki@nihon-u.ac.jp連絡してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	心は「みえる化」できるのか？	授業計画、評価方法、参考文献とその購入方法を説明する。心を「見える化」するとはどのようなことなのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「心理学」と「現代心理学」の相違を、基本用語と概念を用いて説明して比較できる。。	
	事前学修	「こころをみえる化」することはできるのか、について自分の考えをまとめて記述する。。	120分
	事後学修	試験の日程、課題提出方法、課題購入方法を確認する。心理学のイメージ、こころを「みえる化」することについて、自分の考えと学修内容との相違をまとめて記述する。	120分
2	心理学の歴史	なぜ「現代心理学」なのか。現代心理学はいかに誕生したのか。実験心理学の誕生について心理学の歴史から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代心理学の誕生と、心理学における実験という方法の誕生の歴史的過程について、理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、現代心理学の誕生前後について記述する。	120分
	事後学修	「心理学の過去は長いが歴史は短い」の意味を学修内容をまとめて記述する。	120分
3	心理学の方法（１）	心理学の代表的な方法と特徴を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、心理学の代表的な方法と特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書、資料等から、心理学の方法について、実験法、心理検査法、調査法についてまとめて記述する。	120分
	事後学修	心理学の代表的な方法について、具体例を挙げながら長所、短所を学修内容をまとめて記述する。	120分
4	心理学の方法（２）	心は実験できるのか。心理学における実験という方法について具体例を通してその短所、長所を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実験という方法を用いた具体的研究例から、心理学における実験という方法のその長所、短所について理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書と配布資料を読み、実験法を用いた研究例を記述する。	120分
	事後学修	心理学で実験という方法を用いる長所と短所を学修内容をまとめて記述する。	120分
5	感覚と知覚（１）	見ることと見えること。人間の感覚の特徴について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤につ関連して、人間の感覚の特徴を基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、人間の感覚の特徴について具体例を記述する。	120分
	事後学修	閾という概念、感覚の特徴、感覚と知覚の差、について学修内容をまとめて記述する。	120分
6	感覚と知覚（２）	知覚の特徴、注意の機能について検討する。実験実習を行い、結果について他者との討議を通して発展的に検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、感覚と知覚の差、知覚の特徴、注意の機能について理解して説明できる。到達目標③④⑥に関連して、実験実習を実施して、データの整理、仮説の検討、考察を記述して、他者との討議から結論づけることができる。	
	事前学修	教科書配布資料を読み、感覚と知覚の差、知覚の特徴、注意の機能についてまとめて記述する。	120分
	事後学修	実験実習とその後の他者との討議で得られた自他のデータの比較検討行い、仮説を検証、発展させてレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	記憶の仕組み		記憶の仕組みについて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、記憶の種類や記憶の仕組み、忘却、知識等を基本用語と概念を用いて理解して、説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、記憶の仕組みをまとめて記述する	120分
	事後学修	記憶の仕組みについて、学修内容をまとめて記述する。	120分
8	感情の働き		感情は非合理的なのか。感情のコントロールとストレスについて検討する。検査実習を行い、自分の感情のコントロールとストレス対処法の特徴について検討して、他者の結果との差を討議する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、情報としての感情、という視点から感情が心の働きに与える影響を理解する。到達目標③④⑥に関連して検査実習を行い、自分の感情のコントロールの特徴、ストレス対処の特徴を説明して、他者との討議を通じて結論づけることができる。	
	事前学修	教科書資料や経験から、判断や行動などが感情に強く影響された具体例を記述する。	120分
	事後学修	自分の感情のコントロールの特徴とストレス対処の特徴について、検査実習の結果を検討して、他者との討議の結果から、レポートを作成する。	120分
9	動機と行動		動機と行動について、動機の種類、強さ、構造、欲求不満と耐性及び対処法について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、行動の原因を動機の種類、特徴から理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、動機と行動について、基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
	事後学修	動機と行動について、動機が存在しても行動が生じなかった例、発達の過程で特に強く感じた動機の例を述べて、その過程を学修内容をまとめて記述する。	120分
10	認知と行動		行動の原因として、帰属過程を含む認知的側面から検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、認知と行動の関係と過程について、基本用語と概念を理解して説明できる。	
	事前学修	教科書資料を読み、認知と行動についての基本用語と概念についてまとめて記述する。	120分
	事後学修	行動変容に与える認知過程の影響を、学修内容をまとめて記述する。	120分
11	性格のとらえ方		性格の特徴について、特性論と類型論等の説明、性格検査の種類とその特徴を検討する。検査実習を行い、その結果から自分の性格特徴について基礎用語と概念を用いて記述して、討議を通じて他者と比較検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、性格のとらえ方について基本用語と概念を用いて説明し、検査方法の種類と長所短所を説明できる。到達目標③④⑥に関連して、検査実習の結果から自分の性格特徴を説明し、他者との討議を通じて自他の性格特徴の差を説明できる。	
	事前学修	教科書資料を読み、性格のとらえ方について基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
	事後学修	検査実習の結果と討議から、自分の性格の特徴と他者の性格の特徴との差について比較検討してレポートを作成する。	120分
12	心の発達（１）		乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達の特徴を検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達について理解して基本用語と概念を用いて説明できる。	
	事前学修	教科書、資料を読み、心の発達における乳幼児期の特徴についての基本用語と概念をまとめて記述する。	120分
	事後学修	乳幼児期、児童期の認知的、社会的発達の特徴について、学修内容をまとめて記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	心の発達（２）		青年期とそれ以降について、認知的、社会的発達の特徴を検討する。検査実習を実施して、自分の自我発達の特徴を記述して、他者との討議を通して比較検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、青年期の発達の特徴を基本用語と概念を用いて理解して説明できる。到達目標③④⑥に関連して、検査実習の結果から自分の自我発達の特徴を記述して、他者との討議を通じて他者との差異を説明して、結論づけることができる。	
	事前学修	教科書資料を読み、青年期とそれ以降の発達の特徴を基本用語と概念を用いてまとめて記述する。	120分
	事後学修	青年期の認知的、社会的発達の特徴を学修内容をまとめて記述する。検査実習と他者との討議の結果からレポートを作成する。	120分
14	意識と行動		意識と行動について、心理学の歴史と心の働きから理解して、現代心理学での位置づけを検討する。また無意識の研究例を示して、意識と無意識、無意識と行動等について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、意識と行動、意識と無意識に関する研究例を、基本用語と概念を用いて説明することができる。	
	事前学修	教科書と資料を読み、意識と行動の説明を基本用語と概念を用いてまとめて記述する。	120分
	事後学修	意識と行動、意識と無意識に関する学修内容をまとめて記述する。	120分
15	「現代心理学」から「心の働き」を考える		授業のまとめを行い、各授業で示されたキーワードの説明を補足する。
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、心理学の基本用語と概念を用いて、授業で示された各キーワードを説明することができる。	
	事前学修	授業の教科書、ノート、資料等を全て整理してまとめて、試験の準備をする。	120分
	事後学修	到達目標①②⑤に関連して、自分の到達度を評価して、不足を補う。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	木村 敦	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学Iを履修していること（担当教員は問わない）。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査やデモの体験およびレポート作成、授業内試験(理解度確認課題)等も適宜実施する。 授業内試験(理解度確認課題)・レポートについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
すべての成績評価指標について、授業中に解説や評価基準の開示を行う。定期試験を実施する場合は、後日ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学概説：心理学のエッセンスを学ぶ	敝島行雄・横田正夫編	啓明出版	2014	教科書	任意
備考	基本的には毎回配布資料に基づいて授業を進行しますが、興味のある内容について学修を深めるために教科書を案内します。前期「心理学I」（木村クラス）で案内した参考書と同じ書籍です。				

【オフィシアワー】
一部金曜 4 限、二部金曜 1 限、授業内で個別質問を受け付ける。オンライン授業の場合はClassroomやメールで受け付ける。E-mail: kimura.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【法学部で心理学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのような役立つ可能性があるかについて説明できるようになる。※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、心理学を学ぶことが自他の心理や行動を把握する上でどのように役立つかを説明できる。また、到達目標①～⑥に関連して、授業期間中に心理学を学修する範囲や計画、到達度の判断基準について自身で述べることができる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【社会心理学】	社会的認知や社会的状況が心理や行動に及ぼす影響について説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の心理学的特性について述べるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、状況が個人の心理や行動に及ぼす影響について説明できる。また、到達目標⑤～⑥に関連して、社会的認知に関する調査体験を通じて自他の社会的認知特性の個人差について説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書10章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
3	【環境心理学】	物理的環境と人間行動の相互作用について説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の心理学的特性について述べるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、物理的環境と対人環境がそれぞれ人間の心理・行動に及ぼす影響について比較しながら説明することができる。また、到達目標⑤～⑥に関連して、刺激遮蔽能力の個人差について説明できる。	
	事前学修	配布資料や教科書14章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
4	【臨床・異常心理学】	臨床心理学が扱う精神疾患や、心理学における正常と異常の考え方、それらの査定法としての心理アセスメント技法について説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の心理学的特性について述べるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標③、⑤～⑥に関連して、質問紙法と投影法心理検査の体験を通じて各技法の長所・短所について説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料や教科書11・12章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
5	【発達・健康心理学】	発達段階に応じた発達課題があること、および心理学の観点からのストレスマネジメントの技法やソーシャルサポートについて説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の心理学的特性について述べるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標②～③に関連して、社会生活における自制心の役割とその発達、向上について説明することができる。また、到達目標③に関連して、大学生の健康と発達に関する課題を認識することができる。	
	事前学修	配布資料や教科書9・13章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
6	【行動の生物学的基礎】	心理現象に関わる脳機能や神経系のはたらきについて説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の認知特性について述べるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、社会における計画的行動に関する脳機能について説明することができる。	
	事前学修	配布資料や教科書2章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【理解度確認課題（1）の実施】	理解度確認課題の実施を通じてここまでの学習内容についての到達度を把握する。なお、解説は第8回に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、授業内理解度確認課題への参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
	事前学修	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。	120分
	事後学修	授業内テストの解説を振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分
8	【性格・パーソナリティ】	パーソナリティと健康との関連について説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の特性傾向について述べるができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標③、⑤に関連して、パーソナリティ特性と社会的な役割や健康との関連について説明することができる。	
	事前学修	配布資料や教科書8章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
9	【思考】	意思決定に影響を及ぼす認知的バイアスやヒューリスティック、知能観等について説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の認知特性について述べるができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①、③、⑤に関連して、知能観の個人差や主観的確率推定の偏りとその社会認知的要因について説明することができる。	
	事前学修	配布資料や教科書6章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
10	【色彩心理学と伝わるデザイン】	色彩の知覚的特性や感情効果について具体的な例を挙げて説明できるようになる。また、学習トピックに関する自分自身の経験や予測について述べるができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標⑤、⑥に関連して、色彩現象に関するデモ体験を通じて、カラーコミュニケーションにおける留意点について説明することができる。	
	事前学修	配布資料や教科書4章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
11	【コミュニケーション】	対人コミュニケーションの構造、および言語・非言語コミュニケーションの特性やディスコミュニケーションの要因について説明することができる。また、子どもを対象とした司法面接を行う際の心理学的側面からの留意点について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、司法面接において面接官と被面接者の間でディスコミュニケーションが生じないようにどのような言語的表現や面談プロセスが必要かについて、具体例を挙げながら説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、社会性尺度を用いた自己の社会性スキルの把握および他者との比較を通じて、自己の社会性スキル向上のための課題について述べるができる。	
	事前学修	配布資料や資料に記載された参考文献を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
12	【理解度確認課題（2）の実施】	理解度確認課題の実施を通じてここまでの学習内容についての到達度を把握する。なお、解説は第13回に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、授業内理解度確認課題への参加を通じて心理学の基礎用語や概念に関する自己の到達度を述べる。	
	事前学修	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。	120分
	事後学修	授業内テストの解説を振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【日常生活の心理学】	食事といった身近な場面における心理・行動に関する最新の知見を学習し、これまで学習した心理学の知見を整理し直すとともに、日常生活への応用について自分の意見を述べられるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常生活の中で社会心理学の理論や技法がどのように役立てられているかについて、具体例や基礎用語を挙げながら説明することができる。	
	事前学修	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。	120分
14	【学修内容の振り返りと授業内レポートの作成】	今学期の学修内容を振り返るとともに、レポートの課題や形式について確認した上で、レポートを作成する。	
	この回の到達目標	到達度①～⑥に関連して、心理学の学修が自身の生活や専門においてどのような貢献を果たし得るかについて論じることができるようになる。	
	事前学修	今学期の学修内容を振り返るとともに、レポートの課題や形式について確認した上で、レポートを作成する。	120分
	事後学修	作成したレポートの内容と学修内容の対応について整理し直す。	120分
15	【総括と到達度自己チェック】	授業総括や到達度の自己チェック課題を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達度①～⑥に関連して、科目各到達目標に対する自己の到達度を述べるとともに、到達していない部分についての補習課題を通じて、当該の用語・理論について説明できるようになる。	
	事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。	120分
	事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	田中 堅一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。「心理学Ⅰ」を履修することが望ましい。

【授業方法】
講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う(殆ど板書はしない)。時間が許せば、講義内容について討論の時間を設ける。「法学部総合ポータルサイト」を毎週必ずチェックすること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
法学部総合ポータルサイトに試験の正解と配点を掲示します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学〔第4版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀	弘文堂	2017	教科書	推奨
産業・組織心理学エッセンシャルズ(第4版)	外島裕・田中堅一郎	ナカニシヤ出版	2019	参考書	推奨
備考	教科書よりも、参考書の使用頻度が多いです。				

【オフィスアワー】
質問等は、e-mailでアポイントをとること（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	心理学Ⅱのガイダンス・導入講義	心理学の応用領域について	
	この回の到達目標	講義概要、成績評価についての留意点、心理学の応用領域について理解できる。	
	事前学修	講義ノートとテキストを確認して、「心理学Ⅰ」で学んだことを振り返る。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
2	応用心理学の歴史的経緯	心理学の応用はいつから始まったか	
	この回の到達目標	応用心理学がどのように始まり発展してきたかについて理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
3	ワーク・モチベーション1	科学的管理法、ホーソン研究、達成動機理論	
	この回の到達目標	仕事におけるモチベーションの歴史的経緯と基本的な用語を理解することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
4	ワーク・モチベーション2	期待-価値モデル、目標設定理論と目標による管理	
	この回の到達目標	ワーク・モチベーションをどうすれば高めることができるかについて、その手立てを理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
5	同調と服従	同調行動と権威への服従を実験で再現したら	
	この回の到達目標	同調行動と権威への服従を心理学の視点から理解し、ナショナリズムやホロコーストの原因について考察できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・3）に目を通す。参考書の該当箇所に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
6	説得と応用を科学する	人を説得するのに効果的な手立てはあるか	
	この回の到達目標	効果的な説得と要請の仕方について理解し、効果的に説得するにはどうすればよいか考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・2）に目を通す。参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所にも目を通す。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	リーダーシップを心理学の視点から考える 1	特性アプローチ、行動アプローチ	
	この回の到達目標	リーダーシップをリーダーの特性面と行動面から理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
8	リーダーシップを心理学の視点から考える 2	状況適合的アプローチ	
	この回の到達目標	効果的なリーダーシップが、リーダーを取り巻く状況へ適合できるか否かで決まることを理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
9	職業適性	「自分に合う仕事は何か」を科学する	
	この回の到達目標	職業の適性について理解し、自分自身の職業適性を考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「3 人事測定の方法」）に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
10	組織における意思決定の落とし穴 1	プロスペクト理論	
	この回の到達目標	日常生活における一見すると「不合理な」判断を、心理学的視点から理論的に考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
11	組織における意思決定の落とし穴 2	コミットメントのエスカレーション	
	この回の到達目標	経営者・運営管理者が陥る「非合理的」な意思決定について理解し、その対処法について考えることができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書の該当箇所目を通す。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
12	職場におけるストレス 1	ストレスとは何か	
	この回の到達目標	ストレスに関する基本用語（例えば、ストレッサーとストレイン）を理解することができる。	
	事前学修	教科書「第4章・5」、事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	職場におけるストレス 2	ストレスへの対処	
	この回の到達目標	ストレスによる障害を理解し、ストレスに対処することができる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書の該当箇所に目を通す。	120分
	事後学修	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する。	120分
14	法と心理学	法学における心理学の役割とは	
	この回の到達目標	心理学は法学にどのような貢献ができるかを理解できる。	
	事前学修	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書の該当箇所に目を通す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる。	120分
15	総括	講義の総括	
	この回の到達目標	これまで学習した内容を復習し、重要なポイントについて理解することができる。	
	事前学修	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す。	60分
	事後学修	講義ノートと参考書を確認して、講義の総括と期末試験についての留意点を確認し、試験準備を行う。	180分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を定期試験で評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の結果との差異について説明して、結論づけることができたかをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを確認して評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学 第4版	和田万紀 編	弘文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー、日本オリンピック委員会医・科学スタッフ（スポーツカウンセラー）等を経験してきました。担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、心理学的理論・立場を日常生活（キャリア形成含）や健康・スポーツの現場で実践できるよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス/心理学Ⅱを学ぶ】		授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で心理学を学ぶことが自身にどのよう に役立つ可能性があるかについて、心理学の領域について担当教員の実務経験を踏まえた概要を解説し、受講者が説明できるようになる。説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
	この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。		
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）		120分
2	【発達の心理学①】		発達と成熟、ピアジェの認知発達理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	発達と成熟、ピアジェの認知発達理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
3	【発達の心理学②】		身体・心理の発育発達について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	身体・心理の発育発達について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
4	【発達の心理学③】		エリクソンの心理社会的発達理論を中心にした発達課題を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	エリクソンの心理社会的発達理論を中心にした発達課題を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（1時間）		120分
5	【社会の心理学①】		対人認知、態度と態度変容の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	対人認知、態度と態度変容の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）		120分
6	【社会の心理学②】		対人魅力、恋愛、援助行動の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	対人魅力、恋愛、援助行動の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）		120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【社会の心理学③】	集団心理的諸特徴(社会的促進・抑制、社会的手抜き等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	集団心理的諸特徴(社会的促進・抑制、社会的手抜き等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
8	【社会の心理学④】	集団心理的諸特徴(集団規範、凝集性、同調、服従)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	集団心理的諸特徴(集団規範、凝集性、同調、服従)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
9	【言語・思考・知能の心理学】	思考の特徴、推論等についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	思考の特徴、推論等についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
10	【健康の心理学①】	ストレスについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	ストレスについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
11	【健康の心理学②】	ストレスとメンタルヘルスの関係と予防について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	ストレスとメンタルヘルスの関係と予防について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
12	【臨床・異常の心理学①】	精神疾患の基礎知識を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	精神疾患の基礎知識を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【臨床・異常の心理学②】	精神疾患(うつ病、統合失調症、神経症、解離性障害、アディクション等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	精神疾患(うつ病、統合失調症、神経症、解離性障害、アディクション等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。(2時間)	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)	120分
14	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
	この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
	事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。(2時間)	120分
	事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。(2時間)	120分
15	【総括/心理学Ⅱを総括する】	授業内テストの解説や心理学Ⅱ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	授業内テストの解説や心理学Ⅱ総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。(2時間)	120分
	事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。(2時間)	120分

科目名	心理学Ⅱ	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
社会的存在としての人間理解を深め、発展させるために、社会心理学の基礎用語と概念、方法を学び、他者の存在が個人の心の働きに与える影響を理解して、発展させる力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
他者の存在が個人の心の働きに与える影響を論理的に説明して、人間理解の省察に応用展開するために、社会心理学の基礎用語と概念、方法に関する知識とそれを適用できる力を修得する。

【履修条件】
心理学Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
講義を中心とする。授業中に実験実習、検査実習を行い、集団討議を通じて結果の検討、考察を行います。試験の講評等はポータルサイトを通じて行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出、及び実験実習、検査実習を授業中に行い、集団討議を通じてレポートを提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、社会的認知とその形成の特徴を説明できる。						2					
②	社会心理学の基礎用語、概念を理解してし、他者存在の影響から個人の社会的行動の特徴を説明できる。							2				
③	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集団の特徴と、集団における個人の心の働きの特徴を説明できる。					2						
④	社会心理学の基礎用語、概念を理解して、集合行動について説明できる。				2							
⑤	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者と議論することができる。									2		
⑥	実験実習や検査実習等の結果を社会心理学の基礎用語と概念を用いて記述して、他者との議論を経て、結論づけることができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関連して、知識の獲得の程度を各講義 での課題提出等で評価する。	5	5	5	5							20
レポート等	到達目標⑤⑥に関連して、実験実習や検査実習の結果を検 討して、他者との討議を通じて自己の結果の特徴、他者の 結果との差異について説明して、結論づけることができた かをレポートで確認して評価する。					20	20					40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、各授業ごとに課題提出 とリアクションペーパー等を確認して評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、またはポータルサイトでお知らせします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
心理学第4版	和田万記	弘文堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12時20分より13時まで。事前予約を必要とする。科目名、時間割、学科、学年。学生番号、名前、を記入してwada.maki@nihon-u.ac.jpへ連絡してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	社会的動物としての人間とはどのような存在か。		授業計画、評価方法、参考文献とその購入方法を説明する。社会的動物としての人間存在について、社会心理学からの考え方を説明する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連して、社会心理学の視点を理解して説明することができる。		
	事前学修	評価方法などを確認する。社会的動物とは何かについて、自分の考えを記述する。		120分
	事後学修	社会的動物としての人間存在に関して、学修内容から社会心理学の視点と自分の考えの相違をまとめて記述する。		120分
2	自己認知		自己概念と自己認知、現実自己と理想自己、他人の目に映る自分の姿、という視点から、自己の姿の特徴を検討する。実験実習の結果を他者との討議を通じて検討して、自己認知の特徴を記述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己認知と他者認知の特徴について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。到達目標⑤⑥に関連して、実験実習の結果を他者との討議を通じて一般化して結論づけることができる		
	事前学修	自分を意識化する、自己認知には複数の視点があることを具体例から確認して記述する。		120分
	事後学修	自己認知の特徴について、学修内容をまとめて記述する。実験実習の結果と討議からレポートを作成する。		120分
3	社会的認知		対人認知、社会的推論の形成と特徴を説明して検討する。実験実習を行い、結果について他者との討議を通じて検討して社会的認知の特徴を一般化する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対人認知、社会的推論の特徴を社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。到達目標⑤⑥に関連して、実験実習の結果を他者との討議を通じて一般化して結論付けることができる。		
	事前学修	教科書、資料から、対人認知と社会的推論の特徴について社会心理学の基本用語と概念からまとめて記述する。		120分
	事後学修	対人認知、社会的推論の特徴について、学修内容をまとめて記述する。実験実習と討議を通じて結果を検討して、レポートを作成する。		120分
4	上手な自己表現（１）自己呈示		上手な自己表現とは何か、自己呈示の種類と自分の自己呈示の特徴及び対人関係への影響を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己呈示について社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。		
	事前学修	教科書、資料等から、自己呈示にはどのような様な種類があるのか、上手な自己表現、下手な自己表現とは何かについて記述する。		120分
	事後学修	誰に、自分のどのような側面を、どのような提示方法で、見せるのか。その結果対人関係はどのように変化するかについて、学修内容をまとめて記述する。		120分
5	上手な自己表現（２）自己開示		自己開示の定義、機能、対人関係への影響、自己開示と適応及び社会的スキル等について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自己開示について社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。		
	事前学修	教科書、資料等から、自己開示について社会心理学の基本用語と概念を用いて記述する。		120分
	事後学修	自分にとって「上手な自己表現」とは何か、自己開示はどのように上手な自己表現に寄与するのか、について学修内容をまとめて記述する。		120分
6	援助行動・援助要請行動		援助行動と援助要請行動について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、援助行動と援助要請行動の生起過程について、社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明することができる。		
	事前学修	なぜ援助行動ができないのか、なぜ援助要請行動ができないのか、について具体例を記述する。		120分
	事後学修	援助行動が起きるまでと援助要請行動が起きるまでの心理的過程について学修内容をまとめて、援助行動、援助要請行動を起こすことができない要因を記述する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	攻撃行動	攻撃行動の生起要因、及び抑制要因、攻撃行動の対人機能などを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、攻撃行動の生起過程と抑制要因について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料等から攻撃行動の原因、生起過程、抑制要因について記述する。	120分
	事後学修	攻撃行動について学修内容をまとめて記述する。	120分
8	態度と行動	態度と行動の一貫性について、態度の定義、態度形成、態度の強度と持続性、態度変容、説得的コミュニケーション等から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、態度と行動について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明することができる。	
	事前学修	教科書、資料等から態度の形成 集団認知と集団間関係、態度変容、説得的コミュニケーションについて記述する。	120分
	事後学修	態度と行動の一貫性について、学修内容をまとめて記述する。	120分
9	他者の存在の影響	空気を読む、とは何か。規範の形成と種類、同調行動等について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、規範の形成と個人の行動について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
	事前学修	他者の存在により自分の判断や行動が影響を受けた例から、その原因と心理的過程、結果を記述する。	120分
	事後学修	裸の王子様の寓話について、規範の形成、同調行動から学修内容をまとめて記述する。	120分
10	集団と個人	集団と個人に関して、集団の形成過程と特徴、集団による意思決定、集団作業、問題解決等から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集団と個人に関して社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
	事前学修	教科書、資料から、集団の形成過程と特徴、集団による意思決定、集団作業、問題解決等について記述する。	120分
	事後学修	集団と個人について、学修内容をまとめて記述する。	120分
11	組織の特徴	組織の特徴について、リーダーシップとフォロワー、ストレスとサポート、組織における協力と葛藤、日本型組織の特徴、組織の発達と終焉等について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、組織の特徴について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
	事前学修	教科書、資料から、組織と個人、ストレスとサポート、組織における協力と葛藤等に関してまとめて記述する。	120分
	事後学修	組織の特徴について、学修内容をまとめて記述する。	120分
12	集団認知と集団間関係	集団認知と集団間関係について、社会的ジレンマ、集団間差別等からその特徴を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集団認知の特徴、集団間関係について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
	事前学修	教科書、資料等から集団認知と集団間関係について、社会的ジレンマ、集団間差別等をまとめて記述する。	120分
	事後学修	集団認知の特徴と集団間関係について、学修内容をまとめて記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	集合行動	集合行動の特徴と没個性化について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、集合行動の特徴と没個性化等について社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
	事前学修	教科書、資料等から、集合行動について具体例や研究例をまとめて記述する。	120分
	事後学修	集合行動の特徴と没個性化について学修内容をまとめて記述する。	120分
14	流行、流言	流行、流言についてその発生、普及、終息過程から、なぜ私たちはそれを信じるのか、を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、流行や流言の発生、普及、終息過程について、社会心理学の基本用語と概念を用いて説明できる。	
	事前学修	流行や流言に自分が影響を受けた例、受けなかった例を考えて、その理由と心理的過程を記述する。	120分
	事後学修	流行、流言について、学修内容をまとめて記述する。	120分
15	他者の存在と個人	授業全体を振り返り、社会心理学の基本用語と概念の確認をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他者の存在が個人に与える影響について、社会心理学の基本用語と概念を用いて理解して説明できる。	
	事前学修	授業の教科書、ノート、資料等を全て整理してまとめて、質問等を記述する。未提出物がないかを確認する。	120分
	事後学修	到達目標について、自分の達成度をそれぞれ評価して、試験の準備をする。	120分

科目名	数学 I	担当者	川根 深	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
数学は、自然現象を理解できるだけでなく、人間の社会活動においても論理的思考に大いに役立つことは言うまでもない。この授業では、文系理系問わず現代社会の複雑なシステム（例えば、インターネットなど）を理解していく上で必要な数学的思考を身につけるを目指す。特に、初等関数（2次関数、3次関数、指数関数、対数関数、三角関数など）の基本的な性質と計算及び、微分積分の性質と計算を通して、数学の論理的な思考を身につけることに重点を置く。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法学はあまり数学的な思考を必要としないと考える人が多いように思える。しかし、現代社会の仕組みは十分に数学的に構成されている。法律もまたそうである。この授業では、数学的な論理思考を通して、社会の仕組み（日本国憲法、法律など）をしっかりと理解し、いろいろな問題に対処できる社会人としての問題解決力の素養を身につけることを目的とする。

【履修条件】
高校時代、数学I、数学IIの授業を受けているのが望ましい。

【授業方法】		
オンラインによる授業 特に、Zoomを用いた双方向授業を実施する。 レポートや試験はgoogle classroomを用いて行う予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	数式の計算、方程式と不等式、について理解し、課題を解く方法を指摘することができる。						2					
②	初等関数のグラフが描け、初等関数の性質を理解し説明できる。						2					
③	文章化された問題を、数学的に定式化できる。							2				
④	学修者は、文章化された問題を数学的に定式化し、論理的に解くことができる。					2						
⑤	現代社会の具体的な課題に対して、数学における表現で定式化して、それを論理的に思考し解決できる。				2			2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、達成度を2回の授業内試験で確認して評価する。	15	15	4	4	2						40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとに知識の獲得の程度をレポートで確認して評価する。	25	25	4	4	2						60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	8	8	4						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解答を次回に示す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
数学の基礎	矢野 健太郎、石原 繁	裳華房	2016	参考書	推奨
大学生の数学リテラシー	飯島徹徳、岩本悌治、佐々木隆之	共立出版	2001	参考書	推奨
数学入門	石村園子	共立出版	2004	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
kawane.fukashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【式の計算】	「数学I」の授業のあり方と法学の関係について簡単に説明する。また、成績評価の方法について説明する。 整式の加法・減法、因数分解、整式の除法、分数式	
	この回の到達目標	達成目標①に関して、2次式、3次式の計算が整理でき、因数分解ができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、第1回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 また、参考書等で高校で習ってきた整式の計算と因数分解、分数式の計算の確認をする。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第1回レポートの課題に取り組んで解答し、次回までに提出する。	120分
2	【方程式と不等式】	2次方程式、2次不等式 解の公式を用いた因数分解、解と係数の関係、その不等式への応用	
	この回の到達目標	達成目標①に関して、2次方程式の解の公式の導出と因数分解、その不等式への応用ができる。	
	事前学修	講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 解の公式の確認と2次不等式の解放について、参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第2回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
3	【2次関数、2次関数の応用】	2次関数のグラフ、2次関数の性質、頂点座標、最大・最小値	
	この回の到達目標	達成目標②に関して、2次関数のグラフが描けて、2次関数の性質を説明できる。	
	事前学修	第3回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 2次関数の性質と2次関数のグラフを参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第3回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
4	平面図形と式（1）	直線方程式、円の方程式、円と接線	
	この回の到達目標	達成度②に関して、直線方程式と円のグラフが描けて、それらの性質が説明できる。	
	事前学修	第4回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 直線方程式と円の方程式のグラフと性質を参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第4回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
5	平面図形と式（2）	不等式と領域 円の内側と外側、直線と円、2次関数と直線	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、直線と円の位置関係、そのグラフから範囲を読み取ることができる。 また、不等式の示す領域をグラフに描くことができる。	
	事前学修	第5回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 円と直線のグラフから示めされた領域（範囲）を図示できるように参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第5回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
6	指数関数	指数の計算法則、指数関数の性質、指数関数のグラフ、指数方程式、指数不等式	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、指数の計算、指数関数のグラフを描くことができる。また、指数方程式を解くことができる。	
	事前学修	第6回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 指数の計算法則、指数関数のグラフについて参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第6回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	対数関数	対数の計算法則、対数関数の性質、対数関数のグラフ、対数方程式、対数不等式	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、対数の計算、対数関数のグラフを描くことができる。また、対数方程式を解くことができる。	
	事前学修	第7回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 対数の計算法則、対数関数のグラフについて参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第7回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
8	中間試験 1 (45分) 中間試験の解説 (45分)	第1回から第7回までの講義内容に関する確認のための中間試験 (式と計算、方程式と不等式、2次関数、直線方程式と円、不等式と領域、指数関数、対数関数) 中間試験をダウンロードして時間内に解答して提出する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関して、45分間の試験で第1回から第7回までの内容について理解度を確認する。	
	事前学修	第1回から第7回までの講義資料とレポート内容をしっかりと見返して理解できていない単元を押させる。	120分
	事後学修	中間試験の内容を確認するとともに、理解が乏しいと思われる単元をもう一度確認して知識の整理を行う。	120分
9	三角関数 (1)	三角比、弧度法、三角関数の性質、三角関数のグラフ	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、三角比の計算ができ、角度を弧度法で明記できる。三角関数のグラフが描ける。三角関数の性質を説明できる。	
	事前学修	第9回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 三角比の計算、三角関数のグラフと性質について参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第9回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
10	三角関数 (2)	加法定理、2倍角・半角の公式、和積の公式、三角関数の合成	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、加法定理の計算、2倍角・半角公式の計算、和積の公式の計算ができる。	
	事前学修	第10回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 加法定理の仕組みを参考書等で確認し計算に取り組む。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第10回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
11	微分法 (1)	関数の極限、平均変化率、微分係数、導関数	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、関数の極限値の計算ができる。整式の微分係数と導関数が計算できる。	
	事前学修	第11回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 関数の極限値の計算、整式の微分について参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第11回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
12	微分法 (2) 微分の応用	接線と法線の方程式、関数の増減とグラフ	
	この回の到達目標	達成目標②に関して、接線方程式が求められる。関数の増加減少をグラフを描き説明できる。	
	事前学修	第12回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 接線方程式、関数の増減表とグラフを参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第12回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	積分法（１）	不定積分、定積分	
	この回の到達目標	達成目標①②に関して、整式の不定積分の計算、定積分の計算ができる。	
	事前学修	第13回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 整式の不定積分の計算、定積分の計算について参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第13回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
14	積分法（２） 積分の応用	定積分と微分、定積分と面積、回転体の体積	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関して、定積分と微分の関係が説明できる。2つの関数で囲まれた部分の面積が計算できる。	
	事前学修	第14回講義資料をダウンロードして講義内容を確認する。 整式の定積分の計算と面積の関係、2つの関数で囲まれた部分の面積の計算について参考書等で確認する。	120分
	事後学修	授業の内容の確認、第14回レポートの課題に取り組んで解答し、それを次回までに提出する。	120分
15	期末試験(45分) 期末試験の解説(45分)	第9回から第14回までの講義内容に関する確認のための期末試験 (三角関数、加法定理、微分法、積分法)	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関して、45分間の試験で第9回から第14回までの内容について理解度を確認する。	
	事前学修	第9回から第14回までの講義資料とレポート内容をしっかりと見返して理解できていない単元を押させる。	120分
	事後学修	期末試験の内容を確認するとともに、理解が乏しいと思われる単元をもう一度確認して知識の整理を行う。	120分

科目名	数学Ⅱ	担当者	川根 深	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代社会の科学技術の発展は目を見張るものがある。それに伴い科学技術の特許や著作権を守るための法律の整備が急速に進んでいる。この授業では、それを踏まえて科学発展に必要なコンピュータの基礎ともなっている数列や線形代数について学んでいく。特に、数列、ベクトル、行列、連立1次方程式、また、集合と論証について学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会事象を数学で表現して処理するために、基本的な知識の定着と発展、応用を目的として、数列、ベクトル、行列、連立1次方程式、集合と論証を学ぶことを通して、応用展開を行う力を修得する。

【履修条件】
前期 数学Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】		
オンライン Zoomを利用した双方向の授業を行う。 課題レポート等の提出は、google classroomを用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	数列、ベクトル、行列、連立1次方程式、集合と命題について理解し、課題を解く方法を指摘できる。							2					
②	数列、ベクトル、行列、連立1次方程式、集合と命題について理解し、課題を解く方法を理解して、発展問題に応用できる							2					
③	文章化された問題を、数学的に定式化できる。								2				
④	文章化された問題を、数学的に定式化し、操作できる。						2						
⑤	社会の具体的な課題に対して、数学における表現で定式化して、操作できる。					2							
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤について、2回の授業内試験で確認して評価する。	15	15	4	4	2						40
小テスト等												
レポート等	各授業ごとに、達成目標①②③④⑤について、レポートで確認して評価する。	25	25	4	4	2						60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	8	8	4						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解答をオンラインで掲載する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生の数学リテラシー	岩本悌治、佐々木隆幸、飯島徹穂	共立出版	2004	参考書	推奨
数学入門	石村園子	共立出版	2004	参考書	任意
基礎の数学	矢野健太郎、石原繁	裳華房	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
kawane.fukashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス 数と集合	【ガイダンス】授業の進め方、成績評価について説明する。 【数と集合】いろいろな数、複素数、実数、無理数、有理数などを集合的に考察し、学修する数列や線形代数の概要を簡単に説明する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、数の種類を集合という概念で分類分けできる。また、その数の性質を説明できる。		
	事前学修	第1回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
2	数列（1） 等差数列	等差数列 例えば、偶数、奇数といった等差数列の一般項と初項から第n項までの和について、等差数列を特徴づける初項と公差を学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、等差数列の一般項を求めることができ、初項から第n項までの和を求めることができる。		
	事前学修	第2回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
3	数列（2） 等比数列	等比数列 等比数列の一般項と初項から第n項までの和について、等比数列を特徴づける初項と公比を学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、等比数列の一般項を求めることができ、初項から第n項までの和を求めることができる。		
	事前学修	第3回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
4	平面ベクトル（1） 平面座標、ベクトルの演算	平面ベクトル ベクトルの演算（和とスカラー倍）、ベクトルの成分		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ベクトルの和と差が計算できる。ベクトルの成分表示から具体的にベクトル大きさと向きをx-y平面上に描くことができる。		
	事前学修	第4回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
5	平面ベクトル（2） 内積、図形への応用	ベクトルの内積の定義と計算、ベクトルの平行と垂直、図形への応用		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、内積の計算ができる。ベクトルの平行条件と垂直条件を説明できる。三角形や平行四辺形への応用ができる。		
	事前学修	第5回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分
6	空間ベクトル（1） 空間座標、ベクトルの成分	3次元空間における座標、空間ベクトルの成分、空間ベクトルの演算		
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、空間ベクトルの和と差が計算できる。空間ベクトルの成分表示から具体的にベクトル大きさと向きをx-y-z空間に描くことができる。		
	事前学修	第6回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。		120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	空間ベクトル（2） 内積、直線・平面方程式	空間ベクトルの内積の計算、空間座標における直線方程式・平面方程式	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、空間ベクトルの内積が計算できる。空間座標での直線方程式と平面方程式が求められる。	
	事前学修	第7回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
8	中間試験（45分） 中間試験の解説（45分）	第1回から第7回までの内容について授業内中間試験（45分）を行う。 数と集合、等差数列、等比数列、平面ベクトル、空間ベクトル 中間試験の解説を行う（45分）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、数列、ベクトルの基本的な内容が説明できる。	
	事前学修	第1回から第7回までの講義資料とレポートの内容を再確認する。	120分
	事後学修	中間試験の内容で、理解度が乏しい単元について再度、参考書等で確認してしっかりと理解を深める。	120分
9	行列（1） 行列の定義、行列の演算	行列の定義、行列の演算（和とスカラー倍）、行列の積	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、行列の和と差の計算ができる。行列の積の計算ができる。	
	事前学修	第9回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
10	行列（2） 逆行列、行列式	転置行列、正方行列の行列式の定義、逆行列の定義	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、転置行列が求められる。正方行列の行列式が計算でき、逆行列が求められる。	
	事前学修	第10回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
11	連立1次方程式（1） 消去法、基本変形	連立1次方程式 行列表示、基本変形、消去法（掃き出し法）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、連立1次方程式の行列表示ができる。基本変形で解くことができる（掃き出し法）	
	事前学修	第11回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
12	連立1次方程式（2） 逆行列、クラメルの公式	連立1次方程式の逆行列を用いた解法、クラメルの公式による解法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、逆行列を求めて連立1次方程式が解くことができる。クラメルの公式を用いた行列式の計算で解くことができる。	
	事前学修	第12回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	集合と論証（1） 部分集合、和集合、補集合	集合と要素、部分集合、共通部分、和集合、補集合	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、集合と要素を説明できる。部分集合、和集合、補集合を分けて説明できる。	
	事前学修	第13回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
14	集合と論証（2） 命題と条件	命題の真偽、必要条件・十分条件、逆・裏・待遇、背理法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、命題の真偽の判定ができる。命題の逆・裏・待遇が説明できる。命題の背理法による証明ができる。	
	事前学修	第14回講義資料をダウンロードして、その内容を確認する。また、参考書等で関連事項を調べる。	120分
	事後学修	授業内容をもう一度確認し、課題レポートを次回までに解答し、提出する。	120分
15	期末試験（45分） 期末試験の解説（45分）	第9回から第14回までの内容の確認するための期末試験（45分）を行う。 行列、連立1次方程式、集合と論証 期末試験の解説を行う（45分）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、行列、連立1次方程式、集合と論証について基礎的内容が説明できる。	
	事前学修	第9回から第14回までの講義資料とレポートの内容を再確認する。	120分
	事後学修	期末試験の内容で、理解度が乏しい単元について再度、参考書等で確認してしっかりと理解を深める。	120分

科目名	精神分析学Ⅰ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フロイトの精神分析学を学び、精神分析学的人間理解とその方法を学ぶ。精神分析学の基礎を概観し、精神病理的現象を客観的に解釈して、判断する力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神病理学的現象を客観的に判断して解釈し、論理的な人間理解の省察に応用展開するために、精神分析学の基本用語と概念及び方法の知識とその適用を行う力を修得する。また講義内で検査実習を実施して、新たな視点の発見や提示ができる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査やリアクションシート、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ授業時やポータルサイトを通じて解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、自分の心理的反応を説明できる。				2							
②	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、他者の心理反応を説明できる。							2				
③	フロイトの思想、当時の文化、社会などを理解して説明できる。					2						
④	フロイトが行った芸術や文学作品の分析を、理解して説明できる。						2					
⑤	精神分析学と分析心理学等の他の理論との相違から、精神病理的現象を理解することができる。						2					
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、基本概念と用語が獲得できたか否かを授業内試験で評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内での課題提示や検査実習等について、レポートとして提出して評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを提出して、基本用語と概念が獲得できたか否かを確認して評価する。	4	4	4	4	4						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー等を経験してきました。
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、精神分析理論・立場からメンタルヘルスの向上や文化的価値創造に繋げることが出来るよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス/精神分析学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で精神分析を学ぶことが自身にどのように役立つ可能性があるかについて、精神分析学の領域について担当教員の実務経験を踏まえた概要を解説し、受講者が説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
	この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）	120分
2	【無意識・夢とは】	意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。	
	この回の到達目標	意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。	
	事前学修	無意識・夢について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	【錯誤行為、心の構造とは】	心的装置、エス、自我、超自我について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	心的装置、エス、自我、超自我について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	錯誤行為、心の構造について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	【防衛機制とは】	抑圧、合理化、同一化、反動形成等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	抑圧、合理化、同一化、反動形成等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	防衛機制について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分
5	【心の発達】	フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	フロイト発達理論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	【心の発達と性格形成】	各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	フロイトの性格形成について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【精神分析と心の病①】	ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	フロイトにおけるヒステリーについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
8	【精神分析と心の病②】	転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	転換性障害の心理面について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
9	【精神分析と心の病③】	パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	人格障害について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
10	【精神分析と心の病の治療①】	転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	転移・逆転移について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
11	【精神分析と心の病の治療②】	精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	自由連想法における解釈と終結について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
12	【フロイト以降の精神分析①】	分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	分析心理学、自我心理学・対象関係論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【フロイト以降の精神分析②】	独立学派、自己心理学の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	独立学派、自己心理学の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	独立学派、自己心理学について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
14	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
	この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
	事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）	120分
15	【総括/精神分析学を総括する】	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）	120分
	事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）	120分

科目名	精神分析学Ⅰ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フロイトの精神分析学を学び、精神分析学的人間理解とその方法を学ぶ。精神分析学の基礎を概観し、精神病理的現象を客観的に解釈して、判断する力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
精神病理学的現象を客観的に判断して解釈し、論理的な人間理解の省察に応用展開するために、精神分析学の基本用語と概念及び方法の知識とその適用を行う力を修得する。また講義内で検査実習を実施して、新たな視点の発見や提示ができる力を修得する。

【履修条件】
事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。

【授業方法】
講義を中心とするが、授業に関連する調査やリアクションシート、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ授業時やポータルサイトを通じて解説・全体講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特になし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、自分の心理的反応を説明できる。					2							
②	精神分析学の基礎用語、概念、理論を理解して、他者の心理反応を説明できる。								2				
③	フロイトの思想、当時の文化、社会などを理解して説明できる。						2						
④	フロイトが行った芸術や文学作品の分析を、理解して説明できる。							2					
⑤	精神分析学と分析心理学等の他の理論との相違から、精神病理的現象を理解することができる。							2					
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関連して、基本概念と用語が獲得できたか否かを授業内試験で評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内での課題提示や検査実習等について、レポートとして提出して評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	到達目標①②③④⑤に関連して、各授業ごとにリアクションペーパーを提出して、基本用語と概念が獲得できたか否かを確認して評価する。	4	4	4	4	4						20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間もしくはポータルシステムにて「講評」を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	担当教員は実践心理の専門家として臨床心理士の資格を有し、心療内科心理カウンセラー、児童相談所心理判定員、スクールカウンセラー等を経験してきました。
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当科目では在職中の経験等の話も交えながら、精神分析理論・立場からメンタルヘルスの向上や文化的価値創造に繋げることが出来るよう、これまでの知見と経験を活かした講義を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス/精神分析学を学ぶ】	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、法学部で精神分析を学ぶことが自身にどのように役立つ可能性があるかについて、精神分析学の領域について担当教員の実務経験を踏まえた概要を解説し、受講者が説明できるようになる。 ※当クラスでは、履修者の人数や習熟度、授業スケジュール等に応じて当科目の成績評価の方法をシラバス記載の内容から一部変更する場合がある。初回ガイダンスやポータル授業連絡を通じて履修者・履修検討者にその旨を適宜周知するので、よく確認の上、履修を検討してほしい。	
	この回の到達目標	授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）	120分
2	【無意識・夢とは】	意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。	
	この回の到達目標	意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。	
	事前学修	無意識・夢について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
3	【錯誤行為、心の構造とは】	心的装置、エス、自我、超自我について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	心的装置、エス、自我、超自我について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	錯誤行為、心の構造について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
4	【防衛機制とは】	抑圧、合理化、同一化、反動形成等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	抑圧、合理化、同一化、反動形成等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	防衛機制について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分
5	【心の発達】	フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	フロイト発達理論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
6	【心の発達と性格形成】	各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	フロイトの性格形成について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【精神分析と心の病①】	ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	フロイトにおけるヒステリーについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
8	【精神分析と心の病②】	転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	転換性障害の心理面について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
9	【精神分析と心の病③】	パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	人格障害について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
10	【精神分析と心の病の治療①】	転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	転移・逆転移について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
11	【精神分析と心の病の治療②】	精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	自由連想法における解釈と終結について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
12	【フロイト以降の精神分析①】	分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	分析心理学、自我心理学・対象関係論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【フロイト以降の精神分析②】	独立学派、自己心理学の概略ついて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	独立学派、自己心理学の概略ついて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。	
	事前学修	独立学派、自己心理学について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）	120分
14	【授業内テスト及び振り返り】	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。	
	この回の到達目標	授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認し修得内容について振り返ることが出来るようになる。	
	事前学修	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）	120分
	事後学修	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）	120分
15	【総括/精神分析学を総括する】	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	この回の到達目標	授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。	
	事前学修	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）	120分
	事後学修	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）	120分

科目名	生命の科学 I	担当者	小泉 敬彦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
生命現象の基本的な仕組みを分子レベルで理解することが本講義の狙いである。まず、生命体がどのようなものであるかその基本概念を解説したのち、生物の基本構造である細胞を構成する分子について説明する。そして、DNAという分子に記録されている遺伝情報がどのように伝達し、発現するのか解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の様々な生物学的問題を解決するために、生命現象の基本的な仕組みを知り、社会人としての基本的生命科学のさらなる知識を身につけ、これを客観的に分析し問題解決につなげることのできる能力を修得する。

【履修条件】
「生命の科学II（後期）」を継続して聴講することが望ましい。

【授業方法】
講義の形式はオンデマンド（YouTubeによる動画配信）とし、講義資料を別途配布する。受講者の理解度を確認するため、毎回の講義で小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	生命がどのようなものであるのかを理解し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、生命体や分子について理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ポータルを通じて、毎回の授業後に小テストを実施する。 それに基づいて、到達目標①～④を満たしているかどうか 確認する。	30	30	30	10							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの翌週に解説を行う。最終回については、解説をオンデマンド形式で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
電子メール（takahiko.koizumi@gmail.com）にて質問をお寄せください。予めアポイントメントを取ってもらえれば、ZOOMによる相談も受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス ー生命とはー		地球は生命であふれている。生命の誕生とその本質について考え、生物がたどる一生（生活環）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物がたどる一生について理解を深め、具体的な生物種を例に取って説明することができる。		
	事前学修	生物はどんな一生を送るのだろうか。ヒト以外の生物種を1つ例に取って、その一生について調べておくこと。		120分
	事後学修	身の回りにおいて「成長」および「生殖」のステージにある生物をそれぞれ野外で探しておくこと。		120分
2	細胞		細胞は、生命としての機能を有する最小の単位である。細胞の構造を知り、その種類や機能、そして細胞が辿る一生について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物のからだは細胞から成り立っていることを理解し、生物が生きていくうえで細胞が果たす役割について説明することができる。		
	事前学修	細胞は何から出来上がっているのだろうか。動物・植物について細胞小器官の名称をそれぞれリストアップしておくこと。		120分
	事後学修	動物と植物の細胞構造の相違点を挙げて、それによって個体レベルで生じる違いについて考えておくこと。		120分
3	DNA		DNAは生命の設計図である。生物の遺伝現象を司るDNAの成り立ちを知り、DNAの情報に基づいてからだを構成するタンパク質を生み出す仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物のからだはDNAの情報に基づいて構成されていることを理解し、多様なタンパク質が生み出される仕組みについて説明することができる。		
	事前学修	どうして生物はDNAを持っているのだろうか。ヒト・ショウジョウバエのDNAを構成する塩基対の数について調べておくこと。		120分
	事後学修	DNAの情報を「転写」し、「翻訳」するプロセスについて理解しておくこと。		120分
4	タンパク質		私たちのからだを構成する皮膚、骨、筋肉、臓器などの組織はすべてタンパク質からできている。タンパク質の働きによって生物のからだは形づくられ、正常に保たれる仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物のからだはタンパク質からできていることを理解し、生命現象を維持するためのタンパク質の働きについて説明することができる。		
	事前学修	タンパク質はどのようにできているのだろうか。タンパク質の立体構造（一次から四次構造）について調べておくこと。		120分
	事後学修	生物の体内におけるタンパク質の働きについて理解しておくこと。		120分
5	酵素		生物の体内では様々な化学反応が起こっている。それを触媒する働きをする「酵素」の特性を知り、生物が生命現象を営む仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、酵素が生体内における化学反応を司っていることを理解し、酵素の働きについて具体的な例を挙げて説明することができる。		
	事前学修	私たちが食べたものはどのように分解され、吸収されるのだろうか。ヒトの唾液・胃液・小腸に含まれる代表的な酵素について調べておくこと。		120分
	事後学修	身の回りにおいて「酵素」の働きが活用されている事例について調べておくこと。		120分
6	免疫系		生物の体内は、病原体などの異物の侵入に絶えずさらされている。生物がこれらの異物から身を守る仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、免疫系によって病原体から守られていることを理解し、その仕組みについて説明することができる。		
	事前学修	免疫は何から身を守っているのだろうか。ヒトの体内に侵入する異物として考えられるものをリストアップしておくこと。		120分
	事後学修	免疫系が異物を認識し、攻撃する仕組みについて理解しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	薬		からだの機能を正常に保つために「薬」は使用される。しかし、その用法を間違えれば「毒」にもなりかねない。具体的な事例を交えながら、薬が効く仕組みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、薬が効く仕組みについて理解を深め、薬の正しい服用方法を実践できる。	
	事前学修	薬はどうして効くのだろうか。身近にある医薬品の商品名と主な有効成分について調べておくこと。	120分
	事後学修	身の回りにある薬が持つ副作用について調べておくこと。	120分
8	ウイルス		ウイルスは病原体の一つである。ウイルスの基本構造とその生態を知り、感染症を引き起こす仕組みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ウイルスの生態について理解を深め、感染症から身を守る術を実践できる。	
	事前学修	ウイルスとは何者だろうか。ウイルスと細菌の違いについて調べておくこと。	120分
	事後学修	ウイルスの種類と個々の特徴について理解しておくこと。	120分
9	細胞分化		組織によってからだを構成する細胞の種類は異なる。受精卵から細胞分裂を経て多様な細胞へと分化していく仕組みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、器官によって細胞の種類が異なることを理解し、それらの具体的な特性について説明することができる。	
	事前学修	複雑な構造のからだはどのようにして出来上がるのだろうか。人間のからだを構成する細胞の種類について調べておくこと。	120分
	事後学修	細胞が分化する仕組みについて理解しておくこと。	120分
10	遺伝子発現		DNAという一つの設計図に基づいて多様な細胞をつくり出すため、生物は遺伝子の発現を調節している。遺伝子発現が変動する原因、そしてその仕組みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、遺伝子が発現することで多様なタンパク質が生み出されることを理解し、生物が遺伝子の発現を調節する仕組みについて説明することができる。	
	事前学修	どうして多様な細胞が出来上がるのだろうか。第3回の講義で扱った「転写」について復習しておくこと。	120分
	事後学修	遺伝子発現が調節される仕組みについて理解しておくこと。	120分
11	ホメオスタシス		生物が体内環境を正常に保つことは、常に変化する生息環境において生き抜くためには必要不可欠である。外界の変化に対して耐え、生物が身を守る仕組みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物の体内と体外では環境が異なることを理解し、体内環境が正常に保たれる仕組みについて説明することができる。	
	事前学修	どうして周囲の環境が変わっても生物は生きていられるのだろうか。維持すべき体内環境として考えられる候補をリストアップしておくこと。	120分
	事後学修	ホメオスタシスを実感できる身近な現象について探しておくこと。	120分
12	感覚器		生物は生息環境に適応するために様々な刺激を感じ取っている。生物が外界からやってくる多様な刺激を感じ取る仕組みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物が知覚する刺激とそれに対応した感覚器について理解し、刺激を感じ取る仕組みを説明することができる。	
	事前学修	生物は周囲の環境をどのように感じ取っているのだろうか。ヒトが持つ感覚器をリストアップしておくこと。	120分
	事後学修	普段の生活の中で、感覚器を使っていると実感する場面について、具体的な例を探しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	神経系・内分泌系		神経系と内分泌系は、生物体内の恒常性を保つ働きをする。からだの各組織へ情報を伝達する仕組み、そして生命活動が正常に保たれる仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物のからだが多数の器官から出来上がっていることを理解し、それぞれが連携する仕組みについて説明することができる。		
	事前学修	離れて配置された細胞組織・器官どうしはどのように連携を取っているのだろうか。「ニューロン・シナプス・ホルモン」の用語について調べておくこと。		120分
	事後学修	神経系・内分泌系によって、生命活動が正常に保たれる仕組みについて理解しておくこと。		120分
14	環境応答		生物は環境の変化によってストレスを受ける。生物がストレスに対処し、その環境に適応して生き抜くための仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、生物が環境に適応する仕組みについて理解を深め、具体的な例を挙げて説明することができる。		
	事前学修	生物は環境の変化に対してどのように対処しているのだろうか。例として、気温の上昇と低下の際に生じるからだの変化について考えておくこと。		120分
	事後学修	身の回りにおいて生物の環境応答に関する実例を探しておくこと。		120分
15	バイオテクノロジー		生命現象を理解してコントロールするには、細胞レベルでの動態を客観的に捉える必要がある。遺伝子発現の状態を数値化するための技術とその応用事例について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、遺伝子発現を客観的に捉える方法について理解し、それが現代社会において活用されている事例を説明することができる。		
	事前学修	生物の体内で起こるミクロな現象をどのようにして調べるのだろうか。「PCR」の原理について調べておくこと。		120分
	事後学修	身の回りにおいてバイオテクノロジーが活用されている実例を探しておくこと。		120分

科目名	生命の科学Ⅱ	担当者	小泉 敬彦	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
生命現象の基本的な仕組みを分子レベルで理解することが本講義の狙いである。まず、分子や遺伝子がどのように細胞を機能させているのか、その原理を学ぶ。さらに、相棒集団がどのように組織化され、個体を形成していくのかについて動物の現象を例に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の様々な生物学的問題を解決するために、生命現象の基本的な仕組みを知り、社会人としての基本的生命科学のさらなる知識を身につけ、学修した内容の本質を的確にとらえて平易に説明できる能力を修得する。

【履修条件】
「生命の科学I（前期）」から継続して聴講することが望ましい。

【授業方法】
講義の形式はオンデマンド（YouTubeによる動画配信）とし、講義資料を別途配布する。受講者の理解度を確認するため、毎回の講義で小テストを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	生命がどのようなものであるのかを理解し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、生命体や分子について理解し、説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ポータルを通じて、毎回の授業後に小テストを実施する。 それに基づいて、到達目標①～④を満たしているかどうか 確認する。	30	30	30	10							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの翌週に解説を行う。最終回については、解説をオンデマンド形式で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
電子メール（takahiko.koizumi@gmail.com）にて質問をお寄せください。予めアポイントメントを取ってもらえれば、ZOOMによる相談も受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスー生物の分類ー		生物の種を見分けることは、生物多様性を認識するための最初のステップである。「種」とは何かについて考え、分類する意義について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、身のまわりに多様な生物種が存在していることを理解し、種間における相違点を発見することができる。		
	事前学修	身の周りにはどんな生物が住んでいるのだろうか。日常で目にする生物を10種類探してリストアップしておくこと。		120分
	事後学修	身近な生物種を例に挙げて、正式な種名（和名でよい）を調べておくこと。		120分
2	進化・種分化		生物は誕生以来、様々な姿形や生態を手に入れて生き残ってきた。進化を通じて生物が多様化する仕組みについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多様な生物種を生み出した「進化」について理解を深め、身近な生物種について進化の歴史を類推することができる。		
	事前学修	ヒトはどうやって生まれたのだろうか。ヒト・ゴリラ・ニホンザルの共通点および相違点について調べておくこと。		120分
	事後学修	種が分化するメカニズムについて理解しておくこと。		120分
3	系統		ゲノム中には生物が辿ってきた進化の歴史が刻まれている。それを紐解くことで、生物の系統関係を調べる方法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、進化の歴史に関する情報がゲノム中に蓄積されることを理解し、それに基づいて進化の歴史を推定する手法について説明することができる。		
	事前学修	どのようにすれば生物の進化の歴史を調べられるのだろうか。複数のDNAの塩基配列を比較する手順について調べておくこと。		120分
	事後学修	系統関係が明らかになったことで、分類が再編された事例を調べておくこと。		120分
4	遺伝		生物の形質は親から子へと受け継がれる。遺伝子の本質を知り、生物の遺伝様式について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「遺伝」という現象について理解を深め、親の形質が子へと受け継がれる仕組みについて説明することができる。		
	事前学修	どのように形質（特徴）が親から子へと受け継がれ、からだに表れるのだろうか。「遺伝」を実感できる身近な現象について調べておくこと。		120分
	事後学修	「遺伝」が関与する身近な現象について探しておくこと。		120分
5	個体群		野外に生息する生物は、交配を通じて遺伝的なまとまりである「個体群」を形成する。個体群内において遺伝的多様性が保たれる仕組みについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物が遺伝的多様性を保つ仕組みを理解し、個体群を遺伝子の集合として認識することができる。		
	事前学修	どうして生物は群れるのだろうか？群れをなす生物として身近なものを探してリストアップしておくこと。		120分
	事後学修	身近な生活の中で「個体群」を認識する場面を探しておくこと。		120分
6	保全		近年の人間活動によって地球上の環境は大きく改変され、多くの生物種が絶滅の危機に瀕している。これらの生物種を守ることの意義を考え、保全に向けた方策について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、生物が絶滅に瀕している現状について理解し、その原因および現代社会との関連について説明することができる。		
	事前学修	どうしたら生物を絶滅の危機から救えるのだろうか。絶滅に瀕している生物についてウェブや文献を使って調べ、リストアップしておくこと。		120分
	事後学修	絶滅の危機に瀕している生物種を1つ例に挙げ、その現状と対策について調べておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	育種		人類はDNAの存在を知る以前から、家畜や農作物の特性を選び抜き、そして創り出してきた。具体的事例を交えながら、その遺伝的背景について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、育種を進めてきた人類の歴史を踏まえて、生物の特性を選び抜くプロセスにおける遺伝的背景について説明することができる。		
	事前学修	農家の野菜はどうして美味しいのだろうか。食料品売り場に並べられた「品種」を探して、リストアップしておくこと。		120分
	事後学修	動物のペットを1つ例にとって、その品種が生み出されたプロセスについて調べておくこと。		120分
8	量的形質		生物の形質には、単一または複数の遺伝子で決まるものがある。そのうち、後者に該当する量的形質を司る仕組みについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物の形質が決まる仕組みについて理解し、具体的な事例を挙げて説明することができる。		
	事前学修	生物の形質はどのように決まるのだろうか。カテゴリー分けされない連続的な形質を探して、リストアップしておくこと。		120分
	事後学修	身の回りの生物に見られる「量的形質」を探しておくこと。		120分
9	遺伝子組み換え・ゲノム編集		現代科学の発展によって、遺伝子を「調べる」だけでなく「操作する」ことまで可能となった。対象とする遺伝子の探索、そして操作・編集の仕組みについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺伝子进行操作する技術について理解を深め、その身近な応用事例について説明することができる。		
	事前学修	遺伝の仕組みを知ると何ができるのだろうか。遺伝子組み換え技術が使われている身近な例について調べておくこと。		120分
	事後学修	身の周りで「遺伝子組み換え」の技術が活用されている事例を探しておくこと。		120分
10	バイオメティクス		長い進化の過程で形づくられてきた生物のからだは実にユニークで、そこから私たちが学びとれることは多い。生物のからだをヒントにして、人間が新しい技術を産み出すプロセスと実際の応用事例について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生物が持つユニークな特徴について理解を深め、その特徴を応用した身近な事例について説明することができる。		
	事前学修	生物のからだから何を学びとれるのだろうか。生物の仕組みが私たちの生活に応用されている事例について調べておくこと。		120分
	事後学修	バイオメティクスの技術が活用されている事例を探しておくこと。		120分
11	生物多様性		生物多様性は、遺伝子・種・生態系の大きく3つの階層で捉えられる。こうした異なる視点から生物多様性を捉える意義を考え、その重要性について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、様々な階層における生物の多様性について理解を深め、私たちの生活との関わりについて説明することができる。		
	事前学修	どのようにして生物は多様化してきたのだろうか。身の回りで観察できる生物種を数えてみて、種名がわかればリストアップしておくこと。		120分
	事後学修	生物多様性と私たちの生活との関わりについて考えておくこと。		120分
12	食物連鎖		生物はエネルギーを産み出すほか、「食べる」ことでエネルギーを獲得する。食べる一食べられる関係からなる生物間のつながりを知り、生態系の中での食物を通じたエネルギーの流れについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生物のエネルギー獲得について理解を深め、生態系全体を通じたエネルギーの流れについて説明することができる。		
	事前学修	生物は、生きるためのエネルギーをどのように得ているのだろうか。ヒトの場合を想定して調べておくこと。		120分
	事後学修	身近な環境の中にある食物連鎖を探しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	共生・寄生		どんな生物種も、必ず他種の生物と関わりを持って生きている。その例として、共に助け合って生きる「共生」と、相手に寄りかかって生きる「寄生」について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生物の多様な生き方について理解を深め、具体的な例を挙げて説明することができる。		
	事前学修	どのように生きるのが生物にとって都合がいいのだろうか。共生・寄生する生物の例をそれぞれ探しておくこと。		120分
	事後学修	身の回りにおいて「共生」および「寄生」する生物種をそれぞれ探しておくこと。		120分
14	外来種		人間の移動や物流が盛んになったことで、本来の生息域を越えた生物の移動が引き起こされている。在来の生物種からなる生態系というシステムにおけるバランスの観点から、外来種が侵入することによる問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、外来種の問題が深刻化している現状について理解し、その原因について説明することができる。		
	事前学修	そこにいる生物はいつ、どこで生まれたのだろうか。外来種として認識されている生物について調べ、リストアップしておくこと。		120分
	事後学修	身の回りにおいて見られる「外来種」を探しておくこと。		120分
15	環境アセスメント		道路・ダムの建設や発電設備の設置など、人間にとっての利便性は増す一方で、生物の生活様式は大きく変わる。こうした開発が生物に及ぼす影響の評価および予測方法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、私たちの生活が生態系に及ぼす影響について理解し、その対策事例について説明することができる。		
	事前学修	私たちの生活は、周囲に住んでいる生物の生活をどのように変えるのだろうか。生物の生活様式を変えうる私たちの行動について考え、リストアップしておくこと。		120分
	事後学修	環境アセスメントが関与する身近な事例について調べておくこと。		120分

科目名	西洋の歴史Ⅰ	担当者	馬淵 彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ルネサンスの時代から啓蒙思想の時代に至るまでの人物や事件、思想、文化などを取り上げて、ヨーロッパにおける政治、経済、社会、宗教、文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、ルネサンスや宗教改革や自然科学革命に関連する人物や事件・思想・文化などを理解した上で、「三時代区分問題」を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・リアクションペーパー・ピア評価・ワールドカフェなど。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ルネサンスから啓蒙思想までの期間の人物や事件、思想、文化などを取り上げて、西洋での政治、経済、社会、宗教、文化などの歴史的変化を説明ができる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、西洋史における時代三区分の問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋の歴史：古代・中世編』	山本 茂ほか編集	ミネルヴァ書房	1988	参考書	任意
『西洋の歴史：近現代編』	木下 尚一ほか編集	ミネルヴァ書房	1998	参考書	任意
『教養のための西洋史入門』	中井 義明ほか著	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
『世界史とヨーロッパ』	岡崎 勝世	講談社現代新書	2003	参考書	推奨
『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』	歴史学研究会	青木書店	2002	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
Google Classroomのコメント機能を介して、質問・相談等を受ける。〔対面授業に移行した場合〕研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜 2 限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゆがめられた西洋史	西洋史で用いられる三時代区分について、その特徴と問題点を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋史における時代区分法の問題を、どのような方法で検討できるか説明できる。	
	事前学修	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。	120分
	事後学修	授業の視点がどのようなものかまとめる。	120分
2	西洋史とは何か	西洋史という歴史研究・教育領域での日本の特殊な歴史的背景と関係していること、また今日では西洋史という枠組みが揺らいでいることをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「西洋史」という歴史研究・教育領域と日本の特殊な歴史背景と関係、および今日における西洋史という枠組みの動揺を説明できる。	
	事前学修	西洋とは何か、また西洋史が東洋史など他の歴史とどう区別されているのか考えておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	古代・中世・近代とは何か	古代・中世・近代とは何か	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパ世界に直線史観がどのような経緯で入ったのか、またどのような変容を遂げたのかを説明できる。	
	事前学修	循環史観と直線史観とは何か、また代表的なものにそれぞれどのようなものがあるか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	古代ギリシアの世界	ルネサンスの基調となった人文主義と、また、人文主義者が憧れた古代ギリシアの世界を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「ルネサンス」期の人々が古代ギリシアの世界に憧れた理由を説明できる。	
	事前学修	古代ギリシアとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	古代ローマの世界	人文主義者が憧れた古代ローマの世界を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「ルネサンス」期の人々が古代ローマの世界にあこがれた理由を説明できる。	
	事前学修	古代ローマとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	ルネサンスと三時代区分法	「ルネサンス」による時代三区分法の特徴とその問題点を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「ルネサンス」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
	事前学修	「ルネサンス」とは何か、また「ルネサンス」との呼称がついている歴史用語にどのようなものがあるかを調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	宗教改革とルター	宗教改革とルターの福音解釈について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ルターの説く福音信仰による個人の救いとはどういうことかを説明できる。	
	事前学修	「宗教改革」とは、何をどのように改革しようと試みたものなのかを調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。	120分
8	宗教改革と三時代区分	「中世」的世界観の発展したものとしてルターの宗教改革を位置づけられるか考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「宗教改革」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
	事前学修	己（個人）の魂の革新をえるために格闘し続けてきた隠修士・修道士に、古代ローマ時代から宗教改革期までの時期にどのようなグループ（修道院・修道会）があり、どのように発展してきたかを調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	近代自然科学の誕生	近代自然科学の土台となっている方法と理論を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ある種のキリスト教的自然観が近代科学の誕生に影響を与えていたことを説明できる。	
	事前学修	なぜイギリスでは地動説がキリスト教からの反発を受けず、ニュートンたちによって近代自然科学が確立したのかを調べたり考えたりしておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	自然・社会科学と三時代区分	法・政治・経済・社会における科学ブームとその反動を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「科学革命」・「啓蒙思想」で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点を説明できる。	
	事前学修	近代自然科学の成果と啓蒙思想の発展がどのように関係しているか、また17世紀から19世紀において科学的・合理的世界とは異なる（あるいは反する）思想にどのようなものがあったかを調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	時代三区分法の問題点	西洋史に三時代区分法を用いた場合、歴史解釈上のどのような問題が生じるかをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、なぜ三時代区分が歴史研究において深刻な問題を生じさせるのかを説明できる。	
	事前学修	「ルネサンス」「宗教改革」「科学革命」のどれによってでも、「中世」と「近代」を区分する際に、過去の実態を見誤らせられることを再確認しておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	近代歴史学の登場	西洋における歴史研究の手法や理念がどのように発展したかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学の手法が、これまで人類が持っていた歴史研究手法とは異なり、特殊であることを説明できる。	
	事前学修	近代歴史学がどのように誕生したのか、近代歴史学はそれまでの歴史研究とどのような点で異なるかを調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	歴史研究の方法	近代歴史学の手法では、どのように歴史研究がなされるのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学の手法による歴史研究の長所・可能性と短所・限界を説明できる。	
	事前学修	今日の歴史研究者が、近代歴史学に基づいて実際にどのように研究作業を遂行しているかを調べる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	「西洋の歴史Ⅰ」に関する講義総括、期末レポート（あるいは授業内試験）	講義を総括し、期末レポート（あるいは授業内試験）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
	事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
	事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業の中で理解しきれていない箇所をまとめる。	120分
	事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	西洋の歴史Ⅱ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
フランス革命からドイツ帝国成立に至るまでの人物や事件・思想・文化などを主に取り上げて、ヨーロッパにおける政治・経済・社会・宗教・文化などにわたる幅広い歴史像を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くするために、フランス革命からドイツ統一に至るまでの人物や事件・思想・文化などを理解した上で、19世紀に新たに登場した歴史観とその歴史学上の諸問題を説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価・ワールドカフェなど。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス革命からドイツ統一までの期間の人物や事件、思想、文化などを取り上げて、西洋での政治、経済、社会、宗教、文化などの歴史的変化を説明ができる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、西洋史における進歩史観の問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験(参照不可・即題)により評価する。なお受講者数によっては、定期試験とすることもありうる。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『西洋の歴史：古代・中世編』	山本 茂ほか編集	ミネルヴァ書房	1988	参考書	任意
『西洋の歴史：近現代編』	木下 尚一ほか編集	ミネルヴァ書房	1998	参考書	任意
『教養のための西洋史入門』	中井 義明ほか著	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
『世界史とヨーロッパ』	岡崎 勝世	講談社現代新書	2003	参考書	推奨
『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』	歴史学研究会	青木書店	2002	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
Google Classroomのコメント機能を介して、質問・相談等を受ける。〔対面授業に移行した場合〕研究室にて一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	西洋史と歴史観（ガイダンス）	西洋史と種々の進歩史観の関係について、その特徴と問題点を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種の歴史観が西洋史の理解を誤らせる可能性があることを説明できる。	
	事前学修	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。	120分
	事後学修	授業の視点がどのようなものかまとめる。	120分
2	近代歴史学の特殊性と課題	「近代歴史学」の特殊性と課題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代歴史学に対して多くの批判があり、それらがどのようなものであるかを説明できる。	
	事前学修	歴史学も科学とだという主張が、どのようなことを根拠になされているかを調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	歴史学と他の学問との違い	近代歴史学でしか説明できない過去の世界はあるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史学が過去を研究する手法において他の学問とは異なること点を説明できる。	
	事前学修	歴史学以外に過去を扱う学問にどのようなものがあるか、またそれらの学問と歴史学では過去の研究方法でどのように異なるかを調べたり考えたりしてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	歴史学の視点	自分の理想や価値観といった今日の世界観を通して、過去を物語っていいのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史学では、現在のためという外側からでなく、過去そのものの内側から理解することがなぜ大切であるかを説明できる。	
	事前学修	歴史研究において優れた研究とは何か、また劣った研究とは何かを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	フランス革命	フランス革命と進歩史観について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス革命が啓蒙主義や進歩史観やナショナリズムとどのように関係しているかを説明できる。	
	事前学修	フランス革命の経緯とフランス革命の政治的・社会的・文化的影響を調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	ナポレオン	ナポレオンに対する二つの異なる歴史像と、フランス以外のナショナルな歴史観を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ナポレオンの登場によってなぜナショナルな歴史観がヨーロッパ各地に芽生えたのかを説明できる。	
	事前学修	ナポレオン1世について、彼の功績や失脚の経緯などを調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	産業革命		「産業革命」の起源と社会的影響や、自由主義・急進主義・社会主義・階級意識に基づく歴史観を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「産業革命」を一つの契機として、なぜ自由主義や急進主義、社会主義、階級層的な歴史観が芽生えたのかを説明できる。		
	事前学修	「産業革命」はどのような歴史現象だったのか、また社会構造をどのように変容させる出来事だったのかを調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
8	ウィーン体制		ウィーン体制の起こりと、ウィーン体制に関連する超民族共同体的・漸進的保守主義の歴史観を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、メッテルニヒやウィーン体制によって、反ナショナリズム的、漸進的保守主義の歴史観が強められたことを説明できる。		
	事前学修	「ウィーン体制」とは何かについて調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
9	1848年の革命		1848年の革命の起こりと発展、そしてこの革命で種々の歴史観の衝突したことを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、フランス革命、ナポレオン、産業革命、ウィーン体制などによって生じた理想的社会像が1848年に衝突し、暴動や革命へと発展したことを説明できる。		
	事前学修	ヨーロッパの革命とされる1848年に、どのような革命がどの地域で生じたのかを調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
10	イタリア統一と東方問題		イタリア統一と東方問題について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、イタリア統一での政府の政策と民衆の民族意識のそれぞれの役割についてと、東方問題がイタリア統一にどのように関係したのかを説明できる。		
	事前学修	東方問題がなぜ生じたのか、またヨーロッパ列強間でどのような対立構図が生じていたのかを調べてくる。また、イタリアの統一がどのように達成されたのかを調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
11	ドイツ統一		ドイツ統一と、民族主義に根差す歴史観の発展について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ統一での政府の政策と民衆の民族意識のそれぞれの役割について説明できる。		
	事前学修	ドイツの統一がどのように達成されたのかを調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
12	進歩史観の根源と問題点		歴史研究において、歴史の発展法則や理論を発見したいという誘惑についてその根源と問題点を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、西洋史の学びが西洋の過去の実態の理解のためではなく、無意識のうちに別の目的のための道具にすり替えられていくカラクリについて説明できる。		
	事前学修	西洋の歴史のこの講義の5回から11回まで学習したことを復習しておく。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	歴史学の真の目的と社会貢献	歴史の学びは今日の現代社会に役に立つのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問としての歴史研究（近代歴史学）が、今日の社会に重要な役割を果たしていることを説明できる。	
	事前学修	西洋の歴史解釈が、特定の理想や信念に基づいて歪められていた実態を、ここまでの講義内容を振り返ることで再確認する。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	「西洋の歴史Ⅱ」に関する講義総括、期末レポート（あるいは授業内試験）	講義を総括し、期末レポート（あるいは授業内試験）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
	事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
	事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業の中で理解しきれていない箇所をまとめる。	120分
	事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
①毎回のテーマにそって、解説を行う ②毎回の授業のテーマに即した課題について考え、授業の理解を深めるため必要があれば質問をする（リアクションペーパーの提出） ③課題や質問について、次回の授業で説明を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で課題に取り組み、授業の理解を深めるために質問を行う（リアクションペーパーの提出）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義の理解にどのように取り組んだかをリアクションペーパーによって判断し、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他(小論文1)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、小論文によって評価する。	20	5	5								30
その他(小論文2)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、小論文によって評価する。	25	10	5								40
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小論文については、次週の授業にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業の中で、参考文献を適宜指示する。				

【オフィスアワー】
講義に関する質問等をメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するための基礎となる授業の概要について理解し、自分がどのように授業の事前学習および事後学習をしたらよいか把握したうえで、実行できる	
	事前学修	シラバスをよく読んでおく	120分
	事後学修	配布されたプリントを読んだうえで、疑問点を抽出して調べる	120分
2	19世紀フランスの歴史と文学(1)	19世紀フランスの歴史と社会(1) 19世紀フランス文学概観(1)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会および文学について概説できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
3	19世紀フランスの歴史と文学(2)	19世紀フランスの歴史と社会(2) 19世紀フランス文学概観(2)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀後半のフランスの歴史と社会および文学について概説できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
4	キリスト教概説(1)	キリスト教の教義、その他	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀を特徴づける反教権主義(反聖職者主義)について理解することを目標に、キリスト教の概要を学ぶ。そのうえで、反教権主義とは何かについて説明できる(1)	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
5	キリスト教概説(2)	キリスト教概説：フランス史におけるキリスト教について	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、19世紀を特徴づける反教権主義(反聖職者主義)について理解することを目標に、キリスト教の概要を学ぶ。そのうえで、反教権主義とは何かについて説明できる(2)	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
6	啓蒙思想と19世紀文学(1)	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学(1)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、啓蒙思想およびフランス大革命とロマン主義文学の関連について説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	啓蒙思想と19世紀文学（2）		啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学（2）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ルソーの宗教観についてロマン主義文学との関わりで説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
8	啓蒙思想と19世紀文学（3）		啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件（1）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
9	啓蒙思想と19世紀文学（4）		啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件（2）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ヴォルテールの反教権主義とロマン主義文学の関連について説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
10	ミシュレのフランス革命史序説		ミシュレ『フランス革命史』序説とヴォルテール	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、民衆史家としてのミシュレのフランス史の特徴について説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
11	ミシュレの中世史（1）		ミシュレ『魔女』（1）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ミシュレ『魔女』の背景となるフランス中世史の概略について説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと		120分
12	ミシュレの中世史（2）		ミシュレ『魔女』（2）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ミシュレの女性観について、ジェンダーの視点を交えて説明できる		
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること		120分
	事後学修	教科書を読みかえし、疑問点を抽出しておくこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゾラとドレフュス事件（１）	ドレフュス事件の背景と経緯およびゾラの小説『真実』（１）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	配布されたプリントをよく読んでおくこと	120分
14	ゾラとドレフュス事件（２）	ドレフュス事件の背景と経緯およびゾラの小説『真実』（２）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドレフュス事件について理解し、ゾラがどのように事件に関わったかを説明することができる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	配布されたプリントをよく読んでおんで理解すること	120分
15	まとめ	小論文の課題に取り組む	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で扱った作品をその社会的背景とともに理解し、それらの作品について自分なりに解釈し、その内容を説明できる	
	事前学修	小論文の準備をすること	120分
	事後学修	前期全体の復習をすること	120分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造(想像)的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義・ワークシート作成を取り入れながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ワークシート作成等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(ワークシート)	授業中に質問やコメントをどの程度(頻度)／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト/レポートの講評・解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材については授業中に文献リストを配布する。				

【オフィスアワー】
火曜昼休み （4号館424研究室） shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文学作品・映画字幕の翻訳、現役作家インタビュー
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本における外国語文学の受容、及びドイツ語圏文学作品成立の背景などを具体的な事例を用いて講義に反映させてゆきます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス ドイツ語圏文学概論	19世紀から現代までのドイツ語圏文学概論	
	この回の到達目標	20世紀から現代にかけて発展した様々なメディアの中で文学の持つ特徴を説明することができる。（関連SB0s①②③）。	
	事前学修	シラバス確認	120分
	事後学修	ドイツ語圏における20世の歴史についてまとめる。	120分
2	テーマ1-1 様々なメディアと文学1	様々なメディアが発信するメッセージを具体例を見ながら概観し、その中の文学が持つ特徴を考察する。	
	この回の到達目標	様々なメディアと比較した中で文学がもつ特徴について自分の意見を言うことができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
3	テーマ1-2 様々なメディアと文学2	様々な形態のメディアの中から、物語という概念を考察する。	
	この回の到達目標	物語がどのようなところにあるのか、どのような役割を果たしているのか自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
4	テーマ2-1 EUの礎1	リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの生い立ちと『パン・ヨーロッパ』	
	この回の到達目標	リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの生い立ちと『パン・ヨーロッパ』について説明することができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
5	テーマ2-2 オーストリア文学の特徴 多民族多文化国家の文学1	シュティフターの『ウィーンとウィーン人』の中で描かれている人物像から現在のEUにつながるコスモポリタンな社会を概観し、リヒャルド・クーデンホーフ・カレルギーの『パン・ヨーロッパ』の中に描かれた世界との関連性を考察する。	
	この回の到達目標	『ウィーンとウィーン人』に描かれる社会の特徴と『パン・ヨーロッパ』に描かれた世界とクーデンホーフ・カレルギーが生きた世界の特徴について自分の考えを述べることができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
6	テーマ3-1 ユダヤ人とドイツ文学1	ザッヘル・マゾッホの『ユダヤ人の生活』の中に描かれているユダヤ人の生活について概観する。	
	この回の到達目標	ザッヘル・マゾッホと『ユダヤ人の生活』について概略とその特徴を説明し、について意見をいうことができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマ3-2 ユダヤ人とドイツ文学2	ヴェーザ・カネッティの『黄色い街』の中に描かれているユダヤ人の生活について概観し、マゾッホの描いたユダヤ人と比較する。	
	この回の到達目標	マゾッホとカネッティの描くユダヤ人の生活からそこで描かれているユダヤ人の比較、作者の意図について自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
8	テーマ4-1 カフェ文化と文学1	ウィーンのカフェ文学を概観し、リヒャルド・ミクリーンのカフェについての文章をもとにカフェの持つ役割について考察する。	
	この回の到達目標	ミクリーンのテキストに描かれているカフェの特徴と社会における役割と効果について自分の考えを述べることができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
9	テーマ4-2 カフェ文化と文学2	ペーター・アルテンベルクとイルゼ・アイヒンガーの短編を題材に、カフェ文学の特徴について概観する。	
	この回の到達目標	カフェ文学の特徴について自分の考えを説明することができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
10	テーマ5-1 ナチスとドイツ文学1	ナチスとドイツ文学について概観する。	
	この回の到達目標	ナチス時代とその中における文学について、当時の文学の特徴について意見が言える。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
11	テーマ5-2 ナチスとドイツ文学2	エーリッヒ・フリート『ナチスの陰の子ども時代』を例に第2次世界大戦前後の文学について考察する。	
	この回の到達目標	時代背景を踏まえて、作品について自分の意見をいうことができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
12	テーマ5-3 ナチスとドイツ文学3	イルゼ・アイヒンガー『より大きな希望』を例に第2次世界大戦前後の文学について考察する。	
	この回の到達目標	時代背景を踏まえて、作品について自分の意見をいうことができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んでナチスと第二次世界大戦についてまとめ、作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ6-1 不自由さの中の自由	イルゼ・アヒンガー『縛られた男』を例に自由について考察する。	
	この回の到達目標	『縛られた男』と自由について自分の意見をいうことができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
14	レポート作成 1	レポートを作成する	
	この回の到達目標	期末レポート案を練り、ポイントをおさえてレポートを作成する。	
	事前学修	自分で選んだ作品について、ワークシートの手順を基にレポートを作成し、説明できるようにしておく。（関連SB0s①②③）	120分
	事後学修	レビューの結果を反映させてレポートの最終版を作成する。	120分
15	レポートプレゼン＋講評	完成させたレポートについて講評	
	この回の到達目標	①②③の到達目標について十分な内容のレポートを作成し、それについて説明できる。	
	事前学修	レポートの作成	210分
	事後学修	自分の発表内容とグループ内の発表内容を比較考察し、改善点をまとめる。	30分

科目名	世界文学Ⅰ	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
本シラバスの内容を了解し、指示に従って受講できる者。

【授業方法】		
Googleclassroomにおいて事前に資料（司馬遷の『史記』における春秋・戦国期の伝記に関連するもの）を配付する。授業では配付資料に沿って解説し、講読・鑑賞を行う。授業終了後は毎回受講者にリアクションペーパーの提出をもとめる。次回以降必要に応じてその回答内容にコメントを加え、問題提議などを行いつつ、適宜発表・討論の場をつくっていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回Googleclassroomにおいてリアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、試験（期末提出課題）によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	受講中に質問や意見発表をどの程度（頻度）／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomにおいて適宜フィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用せず、配付教材を用いる。参考文献も授業中に指示する。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、場合によっては対面でも対応する。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	はじめに・「管晏列伝」―管仲と鮑叔・「友情とは」導入		講義内容の説明／評価等について／配付資料(1)「管晏列伝を読む」の初めの部分を中心に鑑賞。春秋時代の斉（姜斉）とその時代に生きた管仲・鮑叔に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	前期講義内容を理解するとともに、春秋時代と斉（姜斉）について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	シラバスをよく読み、『史記』と春秋戦国時代について調べ、前期初回の授業にのぞむ		30分
	事後学修	配付資料(1)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA01に回答する		210分
2	「斉大公世家」― 斉の襄公と公孫無知のクーデタ・「友情とは」について		配付資料(1)「管晏列伝を読む」の前半部分を中心に鑑賞。春秋時代の斉（姜斉）と斉の襄公等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	春秋時代の斉（姜斉）と斉の襄公について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(1)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の斉（姜斉）について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(1)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA02に回答する		200分
3	「管晏列伝」― 斉の桓公・管鮑之交・「友情とは」まとめ		配付資料(1)「管晏列伝を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。斉の桓公や「管鮑之交」等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	斉の桓公や「管鮑之交」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(1)や前回の講義内容等を振り返り、春秋五覇と斉の桓公について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(1)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA03に回答する		190分
4	「秦本紀」― 春秋時代の秦と晋・「正義とは」導入		配付資料(2)「秦本紀を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。春秋時代の周王朝とその諸侯の秦および晋等に関連するエピソードや人物について学修する	
	この回の到達目標	春秋時代の周王朝、秦および晋について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(1)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の周王朝について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(2)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA04に回答する		180分
5	「秦本紀」― 仮途滅虢・百里奚・「正義とは」について		配付資料(2)「秦本紀を読む」の前半部分を中心に鑑賞。「仮途滅虢」・百里奚等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	「仮途滅虢」という言葉や百里奚という人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(2)や前回の講義内容等を振り返り、晋の献公について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(2)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA05に回答する		180分
6	「秦本紀」― 泛舟之役・三百野人・「正義とは」まとめ		配付資料(2)「秦本紀を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。秦の穆公および「泛舟之役」「三百野人」に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	秦の穆公および「泛舟之役」「三百野人」といった言葉について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(2)や前回の講義内容等を振り返り、晋の恵公について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(2)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA06に回答する		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「晋世家」― 晋の驪姫之乱と公子重耳・「逆境に生きる」導入		配付資料(3)「晋世家を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。驪姫之乱と晋の亡命公子 重耳等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	晋の公子 重耳という人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(2)や前回の講義内容等を振り返り、驪姫の乱について復習し（あるいは調べ）基礎知識を確認しておく		60分
	事後学修	配付資料(3)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA07に回答する		180分
8	「晋世家」― 割股報君・楚の成王・「逆境に生きる」ということ		配付資料(3)「晋世家を読む」の前半部分を中心に鑑賞。「割股報君」・楚の成王等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	「割股報君」という言葉と楚の成王について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(3)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の楚について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(3)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA08に回答する		180分
9	「晋世家」― 晋文公と介子推・「逆境に生きる」まとめ		配付資料(3)「晋世家を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。晋文公・介子推等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	晋の文公と介子推について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(3)や前回の講義内容等を振り返り、晋の文公について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(3)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA09に回答する		180分
10	「刺客列伝」― 知伯と趙襄子・「報いる」導入		配付資料(5)「刺客列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。知伯・趙襄子等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	知伯・趙襄子といった人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(3)や前回の講義内容等を振り返り、晋末の六卿についてについて調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA10に回答する（2時間）		180分
11	「刺客列伝」― 知伯と豫讓・「報いる」ということ		配付資料(5)「刺客列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。知伯・豫讓等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	豫讓という人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、晋の三分についてについて調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA11に回答する		180分
12	「刺客列伝」― 聶政と聶栄・「報いる」まとめ		配付資料(5)「刺客列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。聶政・聶栄等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	聶政という人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、古代中国の戦国時代について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA12に回答する		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	「楽毅列伝」― 先従隗始・「立ち向かう」導入		配付資料(6)「楽毅列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。燕の昭王・「先従隗始」等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	燕の昭王および「先従隗始」という言葉について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の燕について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習考察するとともに、リアクションペーパーA13に回答する		180分
14	「楽毅列伝」― 斉の湣王と蘇秦・「立ち向かう」ということ		配付資料(6)「楽毅列伝を読む」の前半部分を中心に鑑賞。斉の湣王・蘇秦等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	斉の湣王・蘇秦について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(6)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の斉（田斉）と蘇秦という人物について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習考察するとともに、リアクションペーパーA14に回答する		180分
15	「楽毅列伝」― 楽毅の書簡・「立ち向かう」まとめ		配付資料(6)「楽毅列伝を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。楽毅の書簡と彼の心情について学修するとともに、前期の学修をふりかえる。	
	この回の到達目標	楽毅の書簡とその心情について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(6)や前回の講義内容等を振り返り、春秋末の呉の伍子胥（ゴ シショ）という人物について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーA15に回答、前期の学修を振り返る。		240分

科目名	世界文学 I	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
文学・芸術への関心と意見交換の意志。

【授業方法】
神々の法（家族愛）と人間の法（国家）の相克を描いたギリシャ悲劇 ソポクレスの『アンティゴネー』（前441）と、ナチスによる占領下のフランスで執筆上演されたアヌイの翻案『アンチゴース』（1942）を読み、意見交換する。 【オンデマンド方式】を採用し、動画の視聴と課題により演習授業をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実践する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④に関する各能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート等）によって評価する。	20	20	10	10							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴やワークシート/コメントシートへの取り組みを含む）、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評と解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業（動画）内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
				教科書	必携
				教科書	必携
備考	ソポクレス『アンティゴネー』（柳沼重剛訳）とアヌイ『アンチゴヌ』（芥川比呂志訳）は共にPDFを配信				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる文学作品（戯曲）について概説し、「世界の文学」を読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、半期で取り上げる「世界の文学」作品を読むことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲（演劇）と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	古代ギリシャの劇場と劇の構造	古代ギリシャの劇場および劇の構造について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、古代ギリシャの劇場および劇の構造を理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	ギリシャ悲劇について調べ、メモを作成する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	『アンティゴネー』 1	ソポクレス『アンティゴネー』のプロロゴス・第1エペイソディオン・第1スタシモンを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	『アンティゴネー』 2	『アンティゴネー』 第2エペイソディオン・第2スタシモン・第3エペイソディオン・第3スタシモンを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	『アンティゴネー』 3	『アンティゴネー』 第4エペイソディオン・第4スタシモン・第5エペイソディオン・第5スタシモンを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『アンティゴネー』 4	『アンティゴネー』 エクソドスを読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	フィードバック 1 とアヌイ	提出レポートについてフィードバックをおこない、ジャン・アヌイ（1910-87）について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	『アンチゴネー』について、テーマを設定し小レポートを書く。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	『アンチゴヌー』 1	アヌイ『アンチゴヌー』 pp. 6-32, 1. 3 を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	『アンチゴヌー』 2	アヌイ『アンチゴヌー』 pp. 32, 1. 3-57, 1. 11 を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	『アンチゴヌー』 3	アヌイ『アンチゴヌー』 pp. 57, 1. 11-83 を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	作品を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	『アンチゴヌー』 まとめ	提出レポートについてフィードバックをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該作品を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	アヌイ『アンチゴヌー』について、テーマを設定し小レポートを書く。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『アンティゴネー』と『アンチゴーンヌ』の比較	ソポクレス『アンティゴネー』とアヌイ『アンチゴーンヌ』を比較する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソポクレスとアヌイの作品を比較したうえで、自分の考えを説明し応答（対話）することができる。	
	事前学修	ソポクレス『アンティゴネー』とアヌイ『アンチゴーンヌ』を比較し、両者の共通性と差異について考え、メモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	フィードバック	提出小論文について、フィードバックをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期で扱った文学（戯曲）作品の社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	『アンティゴネー』と『アンチゴーンヌ』の比較に関する小論文の作成を完成させる。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、要点をまとめる。	60分
15	振り返り	半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して「世界の文学」について得たものを説明できる。	
	事前学修	半期を振り返り、授業を通して得られたものはなにかメモする。	120分
	事後学修	半期で学んだことを整理する。	60分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造(想像)的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
①毎回のテーマにそって、解説を行う ②毎回の授業のテーマに即した課題について考え、授業の理解を深めるため必要があれば質問をする(リアクションペーパーの提出) ③課題や質問について、次回の授業で説明を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で課題に取り組み、授業の理解を深めるために質問を行う(リアクションペーパーの提出)

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義の理解にどのように取り組んだかをリアクションペーパーによって判断し、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他(小論文1)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、小論文によって評価する。	20	5	5								30
その他(小論文2)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、小論文によって評価する。	25	10	5								40
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、授業内で質問に回答する。小論文についてはポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
死刑囚最後の日	ヴィクトル・ユゴー	光文社文庫	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③④を達成するための基礎となる授業の概要について理解し、自分がどのように授業の事前学習および事後学習をしたらよいか把握したうえで、実行できる	
	事前学修	シラバスをよく読んでおく	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
2	19世紀の歴史と社会（1）	19世紀の歴史とヴィクトル・ユゴーの政治的軌跡（1）	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会について概説できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
3	19世紀の歴史と社会（2）	19世紀の歴史とヴィクトル・ユゴーの政治的軌跡（2）	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、19世紀前半のフランスの歴史と社会について概説できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
4	『レ・ミゼラブル』について知る（1）	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想（1）ジャンとナポレオン	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
5	『レ・ミゼラブル』について知る（2）	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想（2）国民公会への言及	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱った作品の概要を理解し、社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
6	『レ・ミゼラブル』について知る（3）	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想（3）ミリエル司教と死刑	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱ったテキストを理解し、その社会的背景との関連においてその作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『レ・ミゼラブル』について知る (4)	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想（４）フランス革命	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱ったテキストを理解し、社会的背景との関連において作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
8	『レ・ミゼラブル』について知る (5)	『レ・ミゼラブル』に示されたユゴーの思想（５）1832年の民衆蜂起	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱ったテキストを理解し、社会的背景との関連において作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
9	『クロード・グー』について知る (1)	『クロード・グー』に示されたユゴーの社会観	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱ったテキストを理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
10	『死刑囚最後の日』について知る (1)	『死刑囚最後の日』序文について（１）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、授業で扱ったテキストを理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
11	『死刑囚最後の日』について知る (2)	『死刑囚最後の日』序文について（２）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の序文を理解し、批評的に意見を述べることができ、他者の意見を適切に理解して適切に応答できる。さらに授業で提示された質問について教科書を参考に適切に解答できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
12	（『死刑囚最後の日』について知る (3)	『死刑囚最後の日』本文について（１）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『死刑囚最後の日』について知る (4)	『死刑囚最後の日』本文について (2)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
14	『死刑囚最後の日』について知る (5)	『死刑囚最後の日』本文について (3)	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、教科書『死刑囚最後の日』の本文を理解し、社会的背景との関連においてそれらの作品の特徴を説明できる	
	事前学修	前回の授業で与えられた課題について調べること	120分
	事後学修	教科書を読み、疑問点を抽出しておくこと	120分
15	まとめ	小論文1, 2の作成	
	この回の到達目標	後期のまとめとして小論文を作成する中で、扱った作品について時代背景とともに理解し、その内容について説明できる。さらに自分なりに批判考証して、その内容を適切に表現できる	
	事前学修	小論文の準備をする	120分
	事後学修	後期全体の復習をすること	120分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義・グループディスカッション・発表等を適宜取り入れながら進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、筆記試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト/レポートの講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に文献リストを配布する。				

【オフィスアワー】
火曜昼休み （4号館424研究室） shindou.sugi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	文学作品・映画字幕の翻訳、現役作家インタビュー
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本における外国語文学の受容、及びドイツ語圏文学作品成立の背景などを具体的な事例を用いて講義に反映させてゆきます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス ドイツ語圏文学概論		20世紀ドイツ語圏文学の背景と文学の特徴を概観する。	
	この回の到達目標	20世紀から現代にかけて発展した様々なメディアの中で文学の持つ特徴を説明することができる。（関連SB0s①②③）。		
	事前学修	シラバス確認		120分
	事後学修	ドイツ語圏における20世の歴史についてまとめる。		120分
2	テーマ1-1 心理学と文学1		フロイトの精神分析学と背景となった19世紀末から20世紀初頭のオーストリアの文化を概観し、そこから影響を受けた文学について、アルトゥール・シュニッツラーの短編を例に考察する。	
	この回の到達目標	精神分析とフロイトとその時代のウィーンについて説明できる。（関連SB0s①②③）		
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）		120分
3	テーマ1-2 心理学と文学2		ビクトール・フランクルの『夜と霧』に描かれている人間の描写について考察する。	
	この回の到達目標	ビクトール・フランクルの作品について考察したことを説明することができる。（関連SB0s①②③）		
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）		120分
4	テーマ2-1 推理小説1		推理小説の成立について概観し、ヴォルフ・ハースの探偵小説を例に推理小説を分析する手法について導入する。	
	この回の到達目標	推理小説の歴史について説明し、具体的に作品の中の分析のポイントについて意見をいうことができる。（関連SB0s①②③）		
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）		120分
5	テーマ2-2 推理小説2		ヴォルフ・ハースや他の推理小説を分析する。	
	この回の到達目標	推理小説について自分の読み方を説明することができる。（関連SB0s①②③）		
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）		120分
6	テーマ3-1 ノンフィクション文学1		ナチスと白バラの運動について概観し、インゲ・ショルの『白バラは散らず』の成立について講義、ノンフィクション文学について考察する。	
	この回の到達目標	白バラと『白バラは散らず』について説明することができる。（関連SB0s①②③）		
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。		120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマ3-2 ノンフィクション文学2	『白バラは散らず』を読んで、そこに書かれている内容について自分の考えを述べ、他の人の意見についてレビューをする。	
	この回の到達目標	『白バラは散らず』を読んで考察した内容を説明し、他の人の考えについてコメントすることができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
8	テーマ4-1 皆伐文学 ― 言葉が皆伐された後1	ナチスのプロパガンダと言語について概観し、戦後ドイツ語に起こった言語と文学の危機についてギュンター・アイヒ、ブレヒト、ツェーランの詩を例に戦後のドイツ語文学について考察する。の詩を例に考察する。	
	この回の到達目標	ナチス時代とその後のドイツ語の状況について説明することができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
9	テーマ4-2 皆伐文学 ― 言葉が皆伐された後2	コククリート・ポエジーなど、言葉の実験例を考察する。	
	この回の到達目標	第二次世界大戦後のドイツ語圏文学の特徴について、具体的な作品を通じて説明することができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
10	テーマ5-1 グリム童話はどう読まれたか1	グリム童話の成立と作品の特徴とドイツ語圏の受容について考察する。	
	この回の到達目標	グリム童話について新しく得た知見について説明できる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
11	テーマ5-2 グリム童話はどう読まれたか2	グリム童話の背景を踏まえてテキストを読む。	
	この回の到達目標	グリム童話について具体的にテキストに言及しながら自分の考えを述べることができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
12	テーマ6-1 過去を振り返る1：冷戦時代のドイツ文学	東西ドイツの歴史を踏まえてトーマス・ブルスィヒの『太陽通り』を読む。	
	この回の到達目標	東西ドイツの歴史について簡単な説明し、当時の文学の特徴について意見が言える。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んでナチスと第二次世界大戦についてまとめ、作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ6-2 過去を振り返る2：21世紀から	ティムール・ヴェルメシュ『帰ってきたヒトラー』を例にアイコンとしてのヒトラーと時代を考察する。	
	この回の到達目標	時代背景を踏まえて、『帰ってきたヒトラー』について自分の意見を述べることができる。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	予習プリントと関連文献を読んで作品についてのファーストインプレッションを書いておく。	120分
	事後学修	講義資料及びワークシートの考察ポイントに沿って、ワークシートをまとめる。（関連SB0s①②③）	120分
14	レポート作成	作成するレポートについて章立てと参考文献について検討する。	
	この回の到達目標	期末レポート案について説明をし、レポートを作成する。（関連SB0s①②③）	
	事前学修	自分で選んだ作品について、ワークシートの手順を基にレポートを作成し、説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	レビューの結果を反映させてレポートの最終版を作成する。	120分
15	レポートのプレゼンテーションと講評	完成させたレポートの発表と講評	
	この回の到達目標	①②③の到達目標について十分な内容のレポートを作成し、それについて説明できる。	
	事前学修	レポートの作成	210分
	事後学修	自分の発表内容を自己評価して、改善点をまとめる。	30分

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
本シラバスの内容を了解し、指示に従って受講できる者。

【授業方法】		
Googleclassroomにおいて事前に資料（司馬遷の『史記』における春秋・戦国期の伝記に関連するもの）を配付する。授業では配付資料に沿って解説し、講読・鑑賞を行う。授業終了後は毎回受講者にリアクションペーパーの提出をもとめる。次回以降必要に応じてその回答内容にコメントを加え、問題提議などを行いつつ、適宜発表・討論の場をつくっていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回Googleclassroomにおいてリアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、試験によって評価する。	10	5	5								20
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、レポートによって評価する。	10	5	5								20
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	受講中に質問や意見発表をどの程度（頻度）／適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomにおいて適宜フィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用せず、配付教材を用いる。参考文献も授業中に指示する。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、場合によっては対面でも対応する。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	はじめに・「廉頗・藺相如列伝」― 戦国七雄の趙・和氏之璧・「動じない」導入		講義内容の説明／評価等について／配付資料(8)「廉頗・藺相如列伝を読む①」の初めの部分を中心に鑑賞。古代中国の戦国七雄の趙と「和氏之璧」に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	後期講義内容を理解するとともに、戦国七雄の趙・「和氏之璧」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	シラバスをよく読み、『史記』と戦国七雄について調べ、後期初回の授業にのぞむ		30分
	事後学修	配付資料(8)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB01に回答する		210分
2	「廉頗・藺相如列伝」― 怒髪衝冠・完璧帰趙・「動じない」とは		配付資料(8)「廉頗・藺相如列伝を読む①」の前半部分を中心に鑑賞。「怒髪衝冠」「完璧帰趙」に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	「怒髪衝冠」「完璧帰趙」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(8)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の秦について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(8)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB02に回答する		200分
3	「廉頗・藺相如列伝」― 秦の昭王・渾池之会・「動じない」ということ		配付資料(8)「廉頗・藺相如列伝を読む①」の中盤部分を中心に鑑賞。秦の昭王と藺相如、「渾池之会」に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	秦の昭王、そして「渾池之会」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(8)や前回の講義内容等を振り返り、古代中国の楽器（琴・瑟・編鐘など）について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(8)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB03に回答する		190分
4	「廉頗・藺相如列伝」― 負荊請罪・刎頸之交・「動じない」まとめ		配付資料(8)「廉頗・藺相如列伝を読む①」の残りの部分を中心に鑑賞。「負荊請罪」「刎頸之交」に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	「負荊請罪」「刎頸之交」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(8)や前回の講義内容等を振り返り、古代中国の身分制度「卿・大夫・士」について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(8)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB04に回答する		180分
5	「魏公子列伝」― 戦国七雄の魏と秦・食客三千・「謙る」導入		配付資料(9)「魏公子列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。戦国七雄の魏と秦、「食客三千」等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	戦国七雄の魏と秦、「食客三千」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(8)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の魏について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB05に回答する		180分
6	「魏公子列伝」― 虚位以待・信陵君と平原君・「謙る」ということ		配付資料(9)「魏公子列伝を読む」の中盤部分を中心に鑑賞。「虚位以待」・趙の平原君等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	「虚位以待」と趙の平原君について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、戦国四君の信陵君以外の三名について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB06に回答する		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「魏公子列伝」― 竊符救趙・將在外，君命有所不受・「謙る」まとめ		配付資料(9)「魏公子列伝を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。「竊符救趙」「將在外，君命有所不受」等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	「竊符救趙」「將在外，君命有所不受」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、「長平の戦い」「兵符」について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB07に回答する		180分
8	「呂不韋列伝」― 奇貨可居・「のし上がる」導入		配付資料(10)「呂不韋列伝を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。「奇貨可居」等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	「奇貨可居」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の韓について調べ、秦の昭王について復習、基礎知識を確認しておく		60分
	事後学修	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB08に回答する		180分
9	「呂不韋列伝」― 嬴政誕生・「のし上がる」ということ		配付資料(10)「呂不韋列伝を読む」の中盤部分を中心に鑑賞。安国君、子楚（嬴異人）そして後に始皇帝となる秦王嬴政の誕生に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	安国君、子楚、そして「嬴政誕生」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、白起そして范雎（ハン ショ）という人物について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB09に回答する		180分
10	「呂不韋列伝」― 位極人臣・周朝滅亡・「のし上がる」まとめ		配付資料(10)「呂不韋列伝を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。「周朝滅亡」と呂不韋の絶頂期までに関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	周王朝とその滅亡、そして呂不韋の絶頂期までの半生について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、戦国時代の周王朝について調べ、基礎知識を得ておく		60分
	事後学修	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB10に回答する		180分
11	「王翦伝」― 廉頗と李牧・「大事を成す」導入		配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」のはじめの部分を中心に鑑賞。趙の李牧、そして廉頗のその後等に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	趙の廉頗、李牧といった人物について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、「刎頸之交」「合従連衡」「合従軍」について復習し（あるいは調べ）、基礎知識を確認しておく		60分
	事後学修	配付資料(12)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB11に回答する		180分
12	「王翦伝」― 王弟叛変・嫪之乱・「大事を成す」について		配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」の前半部分を中心に鑑賞。「王弟叛変」「嫪之乱」に関連するエピソードについて学修する	
	この回の到達目標	「王弟叛変」「嫪之乱」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、「函谷関」「宦官」について復習し（あるいは調べ）、基礎知識を確認しておく		60分
	事後学修	配付資料(12)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB12に回答する		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	「王翦伝」― 呂不韋失脚・王翦攻鄴・「大事を成す」について	配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」の中盤部分を中心に鑑賞。「呂不韋失脚」「王翦攻鄴」に関連するエピソードについて学修する		
	この回の到達目標	「呂不韋失脚」「王翦攻鄴」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、地図で趙都の邯鄲と鄴、韓都の新鄭・燕都の薊・魏都の大梁などの位置関係や地理を確認し（あるいは調べ）、基礎知識を得ておく	60分	
	事後学修	配付資料(12)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB13に回答する	180分	
14	「王翦伝」― 秦滅韓趙・荊軻刺秦・秦滅燕魏・李信と蒙恬・「大事を成す」ということ	配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」の中盤部分を中心に鑑賞。「秦滅韓趙」「荊軻刺秦」「秦滅燕魏」・李信と蒙恬に関連するエピソードについて学修する		
	この回の到達目標	「秦滅韓趙」「荊軻刺秦」「秦滅燕魏」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、荊軻という人物について調べ、基礎知識を得ておく	60分	
	事後学修	配付資料(12)とノートを見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB14に回答する	180分	
15	「王翦伝」― 秦軍大敗・王翦滅楚・統一天下・「大事を成す」まとめ	配付資料(12)「王翦伝（白起・王翦列伝）を読む」の残りの部分を中心に鑑賞。「秦軍大敗」「王翦滅楚」「中華統一」に関連するエピソードについて学修する 後期のまとめ		
	この回の到達目標	「秦軍大敗」「王翦滅楚」「中華統一」について説明でき、扱ったエピソードから、自らの生き方に対して有益な部分を見つけ考察することができる（関連SB0s①②③④）		
	事前学修	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、地図で楚都の寿春、斉都の臨淄などの位置を確認し（あるいは調べ）、基礎知識を得ておく。また後期の配付資料とノートを見直しておく	60分	
	事後学修	後期の配付資料とノートを再度見直して講義内容を復習し考察するとともに、リアクションペーパーB15に回答する	240分	

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
異なる言語・文化・時代に創造された「世界の文学」を読み、多角的な視点から考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間や社会についての認識を深め倫理観を高めるために、世界の文学を味読し理解する能力を修得する。また、作品を通して、創造（想像）的思考力と共感力を身につける。

【履修条件】
文学・芸術への関心と発言（意見交換）の意志を持っていること。

【授業方法】
戦争が迫るなか疫病に襲われた社会を描くカレル・チャペックの『白い病』（1937）と、二・二六事件が起きる直前の「もやもやした」空気を活写した岸田國士の『風俗時評』（1936）を読み、意見交換する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク等

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取り上げた文学作品を理解し、その理解を説明することができる。				2		2					
②	取り上げた文学作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。					2	2	2				
③	取り上げた文学作品への理解に基づき、その社会的背景について説明することができる。					2	2	2				
④	取り上げた文学作品に関わる他者の意見を理解し、適切に応答することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する各能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート等）によって評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）かつ適切におこなったかを基準に、①②③④に関する各能力が身についているかを評価する。	5	10	5	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評と解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、もしくは授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
白い病	カレル・チャベック	岩波文庫	2020	教科書	必携
岸田國士 III	岸田國士	ハヤカワ演劇文庫	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる文学作品（戯曲）について概説し、「世界の文学」を読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、半期で取り上げる「世界の文学」を読むことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	K. チャペックについて	チェコの作家 カレル・チャペック（1890-1938）について概説し、意見交換をおこない、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、K. チャペックについての概略を理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	チェコの作家 カレル・チャペックについて調べ、メモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	『白い病』 1	『白い病』第1幕 第1場～第3場を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	『白い病』 2	『白い病』第1幕 第4場～第5場を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	『白い病』 3	『白い病』第2幕 第1場～第4場を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	『白い病』 4	『白い病』第3幕を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『白い病』まとめ	『白い病』全体について、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	フィードバック 1	提出レポートについてフィードバックをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	『白い病』について、テーマを設定しレポートを書く。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	岸田國土について	劇作家 岸田國土（1890-1954）について概説し、意見交換をおこない、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	岸田國土について調べ、メモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	『風俗時評』 1	『風俗時評』の前半を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	『風俗時評』 2	『風俗時評』の後半を読み、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読し、内容についてのコメントと疑問点をメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	フィードバック 2	提出レポートについて、フィードバックをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	『風俗時評』について、テーマを設定しレポートを書く。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『白い病』と『風俗時評』	『白い病』と『風俗時評』を比較し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	『白い病』と『風俗時評』を比較し、共通性と差異性についてメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	フィードバック 3	提出レポートについて、フィードバックをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期で扱った作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	半期で扱った二つの作品に関する小論文作成作業を完了させる。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	フィードバック 4 と振り返り	小論文についてフィードバックをおこない、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期の授業で得たものについて説明できる。	
	事前学修	半期の授業で得たものはなにかメモする。	180分
	事後学修	授業で何を得たか整理する。	60分

科目名	総合講座A【芸術/文学/思想と「時代」】	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文学/芸術と「危機」の関係をめぐって、様々なジャンル（詩・小説・評論・美術・音楽等）の作品分析により、考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
豊かな創造性を養うために、文学/芸術に親しむ習慣を身につけ、ものごとを複眼的視点から見ることができる能力を修得する。

【履修条件】
必ず初回に出席し、成績評価の方法・課題レポート作成の注意点を理解すること。

【授業方法】
ゲスト（彫刻家を予定）を含む複数の講師が共通テーマに基づき、様々なジャンルの作品分析を講義形式でおこなう。適宜、ビデオ・画像等を用いる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業ごとにアクションシート作成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	授業で扱う作品への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。				2		2	2				
②	授業で扱う問題やテーマを理解し、その理解を説明することができる。				2	2	2					
③	授業で扱う問題やテーマへの理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	①②③に関する各能力が身についているかを、3回のレポートによって評価する。	30	30	30								90
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見交換をどの程度（頻度）/適切に行ったかを基準に、①③に関する各能力が身についているかを評価する	5		5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	30	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評を各区分の翌週以降に配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回の授業時に各講師がプリントを配布する。全体の「参考文献表」は初回に配付する。				

【オフィスアワー】
授業の質問は授業終了後、または火曜昼休みに対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		各講師の実践的な経験に基づき、各授業ごとに反映	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義 【真道 杉】	共通テーマ「芸術/文学/思想と「時代」」に関する概論と、受講の仕方についての説明	
	この回の到達目標	テーマについての概要を理解し説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読しておく。	120分
	事後学修	授業の内容をノートにまとめる。	120分
2	コロナ禍のクラシック音楽文化ーウィーン・フィルの事例を中心に 【佐藤 英】	2020年前半のウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の活動を中心に扱い、コロナ禍の前後でクラシック音楽文化がどのように変わったかを把握する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、音楽と社会がどのような結びつきを持っているかを理解することができる。	
	事前学修	これまでに聞いたことのあるクラシック音楽を思い出し、印象深かった作品をYouTube等で聞いてみる。知っている曲の作曲者の生没年等を調べる。	120分
	事後学修	授業のプリントやノートで要点を整理する。紹介する映像等を視聴し、授業の理解を深める。	120分
3	コロナ禍のクラシック音楽文化ーウィーン・フィルの事例を中心に② 【佐藤 英】	2020年後半のウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の活動を中心に扱い、コロナ禍においてクラシック音楽文化がどのように展開されているかを把握する。そのうえで、クラシック音楽文化の今後の可能性について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、音楽と社会がどのような結びつきを持っているかを理解したうえで、今後の音楽文化の可能性について、自分の考えを述べることができる。	
	事前学修	紹介する映像/音声などを利用し、ウィーン・フィルのさまざまな演奏を聞く。さらに、授業のプリント、参考文献等を使用し、クラシック音楽文化について理解を深める。	120分
	事後学修	授業内で得た知見を整理し、レポートを執筆する。	120分
4	シェイクスピア劇に見る「時代」 (1) 【松山博樹】	ウィリアム・シェイクスピアの戯曲『リチャード三世』(1597)の時代背景を考察し、困難な時代を生きざるをえない人間の性を明らかにする。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、ウィリアム・シェイクスピアの『リチャード三世』について自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	法学部図書館所蔵の『リチャード三世』(ウィリアム・シェイクスピア)を手に取り、目を通しておくとよい。また、英国ルネサンスについて調べておくとさらによい。	120分
	事後学修	次週の講座に備え、「シェイクスピア劇に見る「時代」(1)」の振り返りをおこなうこと。	120分
5	シェイクスピア劇に見る「時代」 (2) 【松山博樹】	前週の講座を批判的に振り返り、ウィリアム・シェイクスピアの戯曲『リチャード三世』(1597)の時代背景を考察し、困難な時代を生きざるをえない人間の性を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、ウィリアム・シェイクスピア『リチャード三世』について自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	前週の講座内容を踏まえ、再び法学部図書館所蔵の『リチャード三世』(ウィリアム・シェイクスピア)を手に取り、目を通しておくとよい。また、薔薇戦争後のチューダー王朝の在り方について調べておくとさらによい。	120分
	事後学修	シェイクスピア劇に見る「時代」(2)」の振り返りをおこなうこと。	120分
6	ドゥルーズと社会：未開、野蛮、文明 (1) 【吉澤保】	ジル・ドゥルーズの哲学は、フランスの五月革命に結び付けられることが多いが、この授業ではドゥルーズ(『アンチ・オイディプス』1972年刊行、ガタリとの共著)が我々の社会をどのように考えているのかを取り上げる。ドゥルーズは、我々の社会を、未開社会、国家、資本主義(その裏面としての家族主義)という三つの要素によって考えている。しかしそれだけではなく、スキゾフレニアという要素も、社会の極限として認めている。歴史のいわば主役は、個人でも社会全体でもなく、無意識の「欲望する機械」である。この哲学が、社会分析の有力な概念装置としていまだに今日性をもつことを示す。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ドゥルーズについて自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	ドゥルーズとその著作(『アンチ・オイディプス』)について、構造主義、ポスト構造主義、精神分析、文化人類学、言語学、マルクス主義などについて調べる。	120分
	事後学修	授業の内容を振り返り、整理して、それに対する自分の考えをまとめる。生産的な質問を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	ドゥルーズと社会：未開、野蛮、文明（2）【吉澤保	ドゥルーズをそのまま読む限り、既成秩序からの逃走（永遠の脱領土化）という今となっては色あせたように見える実践的帰結しか導き出せないかもしれない。可能なら、例えばラトゥールのような哲学者が真摯に受け止めている現在の差し迫った環境の危機について、ドゥルーズ哲学からなにか示唆を導き出すことができないかという問題に最終的に迫ることを目指す。ドゥルーズによれば、状況は常に危機的であり、それゆえに創造的であり、その結果として我々が存在する（あるいは存在しない）ということになろう。我々（民族であれ、国民であれ、人間であれ、環境であれ…）にとっては切実な安全か危険かという問題は、ドゥルーズの物差しでは、二次的なものにすぎない。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ドゥルーズについて自分の意見を伝えることができる。		
	事前学修	ジル・ドゥルーズとその著作について、また国家装置、主体化、戦争機械、管理社会などについて、調べる。		120分
	事後学修	授業の内容を振り返り、整理して、それに対する自分の考えをまとめる。生産的な質問を考える。		120分
8	フランソワ・ラブレールとルネサンス——信仰の危機と人間性の回復（1）【石橋正孝】	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景にフランソワ・ラブレールとその著作について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ラブレールについて自分の意見を伝えることができる。		
	事前学修	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。		120分
	事後学修	講義で扱った本文を再度読み直し、バフチンの参考書と照らし合わせながら、生命の喜びと生命の死を文化の創造と破壊のサイクルに当てはめて読み直す。		120分
9	フランソワ・ラブレールとルネサンス——信仰の危機と人間性の回復（2）【石橋正孝】	バフチンの理論を参照しながら、唯名論争、宗教革命をキーワードにフランソワ・ラブレールを読む。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問をして知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、ラブレールとルネサンスについて自分の意見を伝えることができる。		
	事前学修	唯名論争、宗教革命について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。		120分
	事後学修	講義で扱った本文を、講義で学んだ歴史的・文化的文脈の中で再度読み直し、中世から近代への移行をもたらした要因について考察する。		120分
10	関東大震災と日本文学【宮澤隆義】	戦前の日本文学と危機との関係について、関東大震災を中心に紹介する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問して知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、震災に対する文学者たちの反応について理解を深める。		
	事前学修	戦前の日本史と文学史について、おおまかな流れを調べておく。		120分
	事後学修	配布プリント掲載の作品・人物について調べ、考察を深める。		120分
11	アジア・太平洋戦争と日本文学【宮澤隆義】	戦前から戦中にかけての日本文学の動向を紹介する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、積極的に質問して知見を豊かにするとともに、到達目標①、②に関連して、アジア・太平洋戦争への文学者たちの応答について理解を深める。		
	事前学修	戦前～戦中の日本史と文学史について、おおまかな流れを調べておく。		120分
	事後学修	配布プリント掲載の作品・人物について調べ、考察を深める。		120分
12	ゲストスピーカー による特別講義【八木ヨシオ+真道】	20世紀から21世紀における都市空間再生とパブリックアート		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、知見を豊かにするとともに生産的な質問を到達目標①、②に関連して、扱った造形作品について自分の意見を伝えることができる。		
	事前学修	パブリックアートについて調べ、画集やインターネットで作品を見ておく。		120分
	事後学修	講義の内容を振り返り、そこから得たものをまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「弥助」：危険の時代における人間生活を考察する 1 【ロックリー・トーマス】	織田信長の黒人家臣「弥助」の生涯について概観し、日本の戦国時代又は当時の海外の世界の状況を考察する。日本における人間生活を異文化の観点から考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、考察の観点を考え、到達目標①、②に関連して、「弥助」とその時代について自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	参考本又はネット上にある論文などを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。	120分
14	「弥助」：危険の時代における人間生活を考察する 1 【ロックリー・トーマス】	織田信長の黒人家臣「弥助」の生涯についてさらに理解を深め、日本における人間生活を異文化の観点から考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、考察の観点を考え、到達目標①、②に関連して、「弥助」とその時代について自分の意見を伝えることができる。	
	事前学修	1 回目の授業を踏まえて、参考文献を読む。	120分
	事後学修	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。	120分
15	振り返り 【真道 杉】	授業全体を振り返り、学期中に扱った事例を元に「時代」と芸術/文学/思想について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、授業内で扱ったテーマについて自分の意見を伝えることができるとともに、到達目標③に関連して、他の人の意見についてコメント（レビュー）ができる。	
	事前学修	半期の授業を振り返り、何を得たかメモしてみる。	120分
	事後学修	授業で学んだことを今後に活かすにはどうすればよいか考える。	120分

科目名	総合講座B【ジェンダーから見たワークとライフ】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
テーマは「ジェンダーから見たワークとライフ」である。ワークに関してはサービス残業・過労死等の異常状態の解消、男女共同参画社会の実現に向けての対策が問題となる。さらに家事、育児、介護を含むライフには、無償労働である家事労働をどのように解釈し、今後社会がどのような支援を行い、男女の間で公平に分担するのかという問題がある。これらの諸問題を講義とディスカッションなどを通じて解決への方向を模索していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジェンダーの視点から現代社会の現状を分析し、それを説明するとともに今後の解決策を提案できるようにしたい。コロナ禍で浮き彫りになったように女性の「構造的弱さ」をいかに考えていくかは今後の大きな課題である。社会動向と密接なジェンダー問題の重要性を理解し、現代社会の動向を的確に把握できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
【対面授業】オムニバス形式による講師陣からの問いかけを通して考えていく。ゲスト（講座テーマに関連する分野で知見を持つ専門家）を含む12人の講師が、それぞれの専門分野から講義を行う。適宜、ビデオ・画像等を用いる。講義の中での学生同士の話し合い、質問時間等を設ける。毎回、リアクションペーパーの記入を課題とする。7回目と最終回は、総括としてディスカッションを中心に進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生同士の話し合い、ディスカッション、コメントペーパー記入、質問タイムの設定	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジェンダー概念を理解し、概念形成の背景を論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①に関連して、現代社会における諸問題を抽出し、それらについて分析できる。				2	2	2	2				
③	①と②を総合して、現代社会の諸問題の解決に向けて、自らの解決策を説明し、他者と共有できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、レポートによって判断する。	20	20	20								60
討論・発表等	到達目標③が達成できているかについて、ディスカッション後に授業内で作成する小論文で判断する。			20								20
授業への参画度												
その他(レアクション ペーパー)	到達目標①②が達成できているかについて、レアクションペーパーによって判断する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をポータルサイトで発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	原則として、各講師がプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜 12:10～13:00 (9号館9409研究室) kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ゲストスピーカーにおける社会経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業における労働問題への対応の経験および男性の育児参加に関わる体験	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション導入講義	各回の授業内容に関する説明。ジェンダー、ワーク・ライフ・バランスに関する問題提起【黒滝真理子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの目標の具体的な内容を理解し、その達成に向けてどのように学修すればよいかを説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読んで、特に興味をもった内容に関して調べておくこと。	120分
	事後学修	配布された参考文献に関して、興味あるものを選んで読んでおくこと。	120分
2	ジェンダー学とその射程	ジェンダー学の多様性と汎用性、ジェンダー概念とLGBTQ概念との関係についての考察【江島泰子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ジェンダー学の範疇とその可能性について説明できる。	
	事前学修	「ジェンダー」および「LGBTQ」という用語について、簡単な定義を確認しておく。	120分
	事後学修	講義で何を学んだかを整理し、ジェンダー概念をめぐる自らの問題意識について説明できるようにする。	120分
3	歴史で考えるジェンダー	「女らしさ」「男らしさ」が歴史的にどのように形成され、どのような意味を持ったか。このことを近代の働き方や家族のあり方との関係で考える。【大岡 聡】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「歴史で考える」ことの重要性を理解する。	
	事前学修	200年前・100年前・50年前の家族は、それぞれどのようなものであったとイメージしますか。自分が抱いているイメージを箇条書きで書いてください。	120分
	事後学修	講義を受講して、自らの認識にどのような変化があったかをまとめなさい。	120分
4	現代社会のなかのジェンダー	法的な「両性の平等」のなかで、「性別役割分業」が根強く存在した戦後の日本社会をみた上で、その固定的な考え方が次第に解体する今日までの過程と、今日においてもなお向き合ねばならないジェンダーに関わる諸問題を考える。【原山浩介】	
	この回の到達目標	到達目標①②③と関連して、今日の社会が抱えるジェンダーに関わる諸課題を理解する。	
	事前学修	「性別役割分業」について、事典や書籍を参考にしながら、その意味を箇条書きにしてまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を参考に、今日の社会において最も重要であると考えるジェンダーに関わる問題を取り上げ、その内容をまとめる。	120分
5	「男らしさ」を問う	「女らしさ」と同様に、「男らしさ」もまた人びとの生き方を拘束している社会的・文化的な概念である。歴史の中で「男らしさ」がいかなる役割を果たしてきたのかをたどることで、自らの意識や自分を取り巻く社会のあり方を問い直してみよう。【ゲストスピーカー】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、男性史の観点からジェンダーについて説明できる。	
	事前学修	あなたの親の世代の「男らしさ」と、学生の世代の「男らしさ」には違いがあるでしょうか。思うところをまとめなさい。	120分
	事後学修	講義を受講して、自らの認識にどのような変化があったかをまとめなさい。	120分
6	言語の観点からみた「らしさ」	言語を通して考えるジェンダー【黒滝真理子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ジェンダーと言語について説明できる。	
	事前学修	日英の「女性らしい表現・コミュニケーションスタイル」「男性らしい表現・コミュニケーションスタイル」を身近から探し列挙しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、言語性差を引き起こしてきた歴史・社会・文化の背景についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ディスカッション(1)	ジェンダーの概念を捉え、現在の日本が抱えるジェンダーの諸問題をあげて、それらがジェンダー問題とどのようにリンクしているかを考える。【黒滝真理子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本におけるジェンダーの諸問題についてディスカッションを行い、ジェンダーの概念を理解する。	
	事前学修	現在の日本が抱えるジェンダーにまつわる諸問題(例えば、少子化、労働、ケアワークなど)を整理してノートにまとめておく。ジェンダーの視点から、これらの問題をどのように考えたらよいのか、検討し、自分なりの改善策を提案できるようにしておく。	120分
	事後学修	グループで意見交換を行い、全体発表を聞いたのちに、自分の考えと他者の考えの相違について整理し、その差異の原因について自分なりに検討する。	120分
8	海外の視点から	フランスのワーク・ライフ・バランス【神尾真知子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フランスでは、どのように女性が有償労働を継続できるような政策をとっているのか、ジェンダーの視点で見るとどのような問題があるのかについて説明できる。	
	事前学修	フランスはどのような国か、基本的な情報を収集して、整理しておく。	120分
	事後学修	フランスのワーク・ライフ・バランス政策を踏まえて、日本のワーク・ライフ・バランス政策が、女性に「自由な選択」を保障しているのか、批判的に検討する。	120分
9	日本の子育て支援	日本における子育て支援策を学習し、その課題を検討する【橋爪幸代】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における子育て支援施策について説明できる。	
	事前学修	日本における子育て支援策について調べ、どのような課題があるかをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義から学んだことを整理し、日本における子育て支援施策における課題とそれに対する解決策を考える。	120分
10	男性の育児	男女共同での育児の在り方について考える【ゲストスピーカー】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ジェンダーから見た育児に関する諸問題について説明できる。	
	事前学修	男性の育児休暇取得率について調べ、男性の育児参加を妨げている諸要因について自分なりの考えておく。	120分
	事後学修	講義から何を学んだかを整理し、男女共同参画社会の実現に必要な諸政策について考える。	120分
11	夫婦の氏と親子の氏～「個人」と「家族」の関係からみえるもの	日本における氏の歴史的遷と選択的夫婦別氏制度の導入可能性【大杉麻美】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わが国における氏の歴史的変遷をながめるとともに、最近の選択的夫婦別姓制度導入に関する議論を理解する。	
	事前学修	民法750条を読んで、婚姻時に氏を選択するということについて調べておく。	120分
	事後学修	わが国において、「氏」はどのように捉えられるべきか。家族にとって、わたくしたちにとって、氏はどのような役割を果たしているのか、まとめておく。	120分
12	ジェンダーから見た「格差社会」	日本における非正規雇用の若年女性・シングルマザー・独居中高年女性が置かれている困難な状況を具体的に検討し、ジェンダーの視点から「格差社会」を問い直す。【ゲストスピーカー】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「格差社会」とジェンダーとの関係について説明ができる。。	
	事前学修	日本における非正規雇用の割合、とくに女性における非正規雇用の割合について調べておく。	120分
	事後学修	講義から学んだことを整理し、日本における貧困問題に関して解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ワークとライフの接合点(1) 法的権利とケアから考える	賃金労働と無償労働【松島雪江】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本におけるジェンダーの諸問題についてディスカッションを行い、ジェンダーの概念を理解する。	
	事前学修	「ただ働き」から連想される労働を考えておく。その労働がなぜ無償なのか、その理由と正当性についても考えておく。	120分
	事後学修	無償労働が無償で行われている理由、無償労働が賃金労働に及ぼす影響についてまとめ、それにより生じる問題について記述できるようにする。	120分
14	ワークとライフの接合(2) ケアを制度の視点から考える	多様化する家族と介護の在り方について考える【矢田尚子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、多様化する介護と家族の在り方についての実状を理解し、制度上の課題について説明できる。	
	事前学修	「地域包括ケアシステム」、「介護保険制度」、「扶養」、「特別な寄与分制度」について調べ、まとめておく。	120分
	事後学修	レジュメにそって、講義内容を復習し、講義の中で示した家族と介護の在り方について書かれた著作を読んでもみる。	120分
15	ディスカッション(2)とまとめ	「ワークとライフ」について、ジェンダーの視点から考える。到達目標①②③の確認、解説【黒滝真理子】	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ディスカッションを行うことで、日本における「ワークとライフ」の諸問題の理解を深め、これらについて、ジェンダーの視点と関連させて自分なりの見解を述べ、改善策を提案できる。到達目標①②③それぞれが達成できているかをディスカッションのなかで再検討し、自分なりの検証結果を述べることができる。	
	事前学修	「ワークとライフ」に関して現在の日本が抱える諸問題について、自分なりの見解をまとめて他者に説明できるようにしておく。また、ジェンダーの視点から、これらの問題をどのように考えたらよいのか、検討しておく。	120分
	事後学修	ディスカッションで交わされた様々な意見について整理し、ディスカッションの前後で自分の見解に変化があったか検討してみる。その上で、自分の考えと他者の考えの相違について整理し、その差異の原因について自分なりに検討する。①②③について自分が達成できていたか、ディスカッションを振り返って考え、今後の行動目標を定める。	120分

科目名	体育スポーツ科学Ⅰ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツに関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない一領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し、スポーツの価値を認め、健康な生活をおくるために、獲得した認識を論理的に説明できることを目的とする。スポーツに関する基礎的知識を身につけて、様々なスポーツをおこなうために、身体に関する科学的知識を修得するところを目標とする。

【履修条件】
関連書籍を事前に読んでおくこと。授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。オンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー・小レポート・期末レポート等を提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スポーツに関わる基本的な概念を理解し、スポーツの価値を認め、論理的に説明できる。						2	2	2	2				
②	世界との関わりで日本のスポーツの特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。						2	2	2	2				
③	身体に関する科学的知識を理解し、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標②③にかかわるスポーツに関わる基本的な概念について理解しているかを評価する。		20	20								40
レポート等	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているか、提出されたりレポートの書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを評価する。	20	20	10								50
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②に関して、オンデマンド教材（ビデオ等）の各テーマ課題に取り組み、積極的な学修態度が身についているかを評価する。		10									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末レポート，小レポートの講評・解答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はありません。必要に応じて教材の配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室（9号館 3階 9310号） メールにて事前に予約すること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/ スポーツ科学とは何か	①スポーツ科学とは何か、②授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、スポーツ科学の理論体系について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、学習計画について検討する。	120分
2	スポーツとは何か	スポーツ科学の体系について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、スポーツ科学の理論体系について説明できる。	
	事前学修	スポーツを楽しめる能力(スポーツリテラシー)について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、スポーツとは何かについて自分なりの説明でまとめる。	120分
3	スポーツと体力_1 (トレーニングの原理・原則)	トレーニングの原理・原則について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、体力の構成要素の防衛体力、行動体力について説明できる。	
	事前学修	トレーニングの原理・原則について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの原理・原則について理解を深める。	120分
4	スポーツと体力_2 (トレーニングの種類)	トレーニングの種類について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニングの種類について説明できる。	
	事前学修	今までのスポーツ経験からトレーニングの種類について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの種類についてまとめる。	120分
5	スポーツと体力_3 (トレーニング計画とその実際)	トレーニング計画とその実際について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニング計画とその実際について説明できる。	
	事前学修	トレーニング目標の設定について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニング計画とその実際について理解を深める。	120分
6	スポーツコーチング_1 (コーチングとは)	アスリートとコーチングの現状について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーチングフィロソフィについて説明できる。	
	事前学修	アスリートとコーチングの現状について調べる。	120分
	事後学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、コーチングフィロソフィについて理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	スポーツコーチング_2（コーチに必要な資質と能力）	コーチに必要な資質と能力について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コーチに必要な資質と能力を説明できる。	
	事前学修	今までのスポーツ経験からコーチに必要な資質と能力について自分なりの考えをまとめる。	120分
	事後学修	コーチに必要な資質と能力について理解を深める。	120分
8	スポーツコーチング_3（スポーツコーチングの実践）	スポーツコーチングの実践を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツコーチングの実践を説明できる。	
	事前学修	スポーツ競技を1つの選択し、その競技の国際競技力と強化方を調べる。	120分
	事後学修	スポーツコーチングの実践について日本の国際競技力と強化策について理解を深める。	120分
9	スポーツとドーピング_1（スポーツの価値）	スポーツの価値について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツの価値について説明できる。	
	事前学修	スポーツの価値について調べる。	120分
	事後学修	スポーツの価値について自分なりの説明でまとめる。	120分
10	スポーツとドーピング_2（アンチ・ドーピングのルール）	世界アンチ・ドーピング規程、および我が国の対応について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界アンチ・ドーピング規程、および我が国の対応について説明できる。	
	事前学修	ドーピングが禁止される理由について調べる。	120分
	事後学修	世界アンチ・ドーピング規程、および我が国の対応について理解を深める。	120分
11	スポーツとドーピング_3（アスリートの権利）	世界アンチ・ドーピング規程におけるアスリートの権利について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、世界アンチ・ドーピング規程におけるアスリートの権利について考察する。	
	事前学修	世界アンチ・ドーピング規程におけるアスリートの権利について調べる。	120分
	事後学修	世界アンチ・ドーピング規程におけるアスリートの権利について理解を深める。	120分
12	スポーツとオリンピック_1（オリンピックの歴史）	オリンピックはどのようにして始まったのか？	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピックの歴史について説明できる。	
	事前学修	オリンピックの歴史について調べる。	120分
	事後学修	オリンピックの歴史について調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	スポーツとオリンピズム_2（オリンピックの理念）	オリンピックはどんな願いが込められている？	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリンピックの理念について説明できる。	
	事前学修	オリンピックの理念について調べる。	120分
	事後学修	オリンピックの理念について調べる。	120分
14	スポーツとオリンピズム_3（オリンピック競技大会）	2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を「みる」「ささえる」。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スポーツを「みる」「ささえる」について説明できる。	
	事前学修	スポーツを「みる」「ささえる」について調べる。	120分
	事後学修	スポーツを「みる」「ささえる」について理解を深める。	120分
15	まとめ/ 振り返り	期末レポート及び解説、学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を説明することができる。	
	事前学修	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を見直し、復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	体育スポーツ科学Ⅱ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツに関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない一領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し、スポーツの価値を認め、健康な生活をおくるために、獲得した認識を論理的に説明できることを目的とする。スポーツに関する基礎的知識を身につけて、様々なスポーツをおこなうために、身体に関する科学的知識を修得するところを目標とする。

【履修条件】
関連書籍を事前に読んでおくこと。授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。

【授業方法】
すべての授業回(全15回)をオンラインで実施する。授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。オンデマンド教材(ビデオ等)として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー・小レポート・期末レポート等を提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	多面にわたるスポーツの価値を認め、論理的に説明できる。					2	2	2	2				
②	世界との関わりで日本のスポーツの特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述することができる。					2	2	2	2				
③	身体に関する科学的知識を理解し、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより，実施到達目標②③にかかわるスポーツに関わる基本的な概念について理解しているかを評価する。		20	20								40
レポート等	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているか、提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを評価する。	20	20	10								50
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②に関して、オンデマンド教材（ビデオ等）の各テーマ課題に取り組み、積極的な学修態度がみについているかを評価する。		10									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験， レポートの講評・解答及び解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書はありません。必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室(9号館 3階 9310号) メールにて事前に予約することtanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/スポーツ科学とは何か	スポーツ科学で扱うテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解し、スポーツ科学の概観を説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノート・資料を確認して、学習計画について検討する。	120分
2	スポーツと文化	スポーツと文化について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スポーツと文化について説明できる。	
	事前学修	スポーツと文化について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、スポーツと文化について理解を深める。	120分
3	スポーツと発育発達_1（発育発達期の身体的特徴）	発育発達期（ジュニア期）の身体的特徴について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、発育発達期（ジュニア期）の身体的特徴について理解する。	
	事前学修	発育発達期（ジュニア期）の身体的特徴はどのような状態か自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、発育発達期（ジュニア期）の身体的特徴について自分なりの説明でまとめる。	120分
4	スポーツと発育発達_2（一貫指導の重要性）	発育発達期（ジュニア期）のプログラムについて理解し、その重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、発育発達期（ジュニア期）のプログラムについて説明できる。	
	事前学修	発育発達期（ジュニア期）のプログラムについて調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、発育発達期（ジュニア期）のプログラム、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
5	スポーツと発育発達_3（発育発達に応じた指導）	発育発達に応じた指導について理解し、その重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、発育発達に応じた指導について説明できる。	
	事前学修	発育発達に応じた指導について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、発育発達に応じた指導について、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
6	スポーツと栄養_1（五大栄養素の役割）	五大栄養素の役割について理解し、その重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、五大栄養素の役割について説明できる。	
	事前学修	五大栄養素の役割について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、五大栄養素の役割と、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	スポーツと栄養_2（トレーニングと食事）	トレーニングと食事について理解し、その重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、トレーニングと食事について説明できる。	
	事前学修	トレーニングと食事について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、トレーニングと食事、その重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
8	スポーツと栄養_3（バランスの取れた食事）	バランスの取れた食事を理解し、健康に与える影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、バランスの取れた食事の重要性と、留意点について説明できる。	
	事前学修	バランスの取れた食事について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、バランスの取れた食事の重要性と、留意点について自分なりの説明でまとめる。	120分
9	スポーツと武道_1（柔道の誕生と発展）	柔道の誕生と発展を理解し、スポーツと武道に与える影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、柔道の誕生と発展に関しての重要性について説明できる。	
	事前学修	柔道の誕生と発展について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、柔道の誕生と発展の重要性について自分なりの説明でまとめる。	120分
10	スポーツと武道_2（柔道の国際化）	柔道の国際化について理解し、スポーツと武道に与える影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、柔道の国際化について説明できる。	
	事前学修	柔道の国際化について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、柔道の国際化について考え、自分なりの説明でまとめる。	120分
11	スポーツと武道_3（柔道技術の原理）	柔道技術の原理について理解し、その重要性と留意点について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、柔道技術の原理を理解し、その重要性と留意点について説明できる。	
	事前学修	柔道技術の原理について調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、柔道技術の原理について、自分なりの説明でまとめる。	120分
12	スポーツ外傷・障害	スポーツ活動中に多い外傷・障害について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ活動中に多い外傷・障害について説明できる。	
	事前学修	今までのスポーツ経験からスポーツ外傷・障害についてまとめる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、スポーツ外傷・障害について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	内科的スポーツ障害	スポーツ活動中に多い内科的障害について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ活動中に多い内科的障害について説明できる。	
	事前学修	今までのスポーツ経験から内科的スポーツ障害についてまとめる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、内科的スポーツ障害について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。。	120分
14	外傷・障害の救急処置	スポーツ現場で行う救急処置について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツ現場で行う救急処置について説明できる。	
	事前学修	救急処置にはどのようなものがあるか調べる。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、スポーツ現場で行う救急処置について理解を深め、自分なりの説明でまとめる。	120分
15	まとめ/振り返り	期末レポート及び解説、学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の振り返りを行い、自己の達成を評価する。	
	事前学修	講義ノート・資料を見直し、復習する。	120分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	120分

科目名	地球科学 I	担当者	永田 玲奈	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「地球科学」と聞くとなんだか小難しい印象を持つかもしれないが、実は私たちが地球で生活するそれだけで「地球科学」の知識は自然と身につけている。子供の頃に疑問に思った「雨はなぜ降るのか？」や「風はなぜ吹くのか？」に答えられる学問それが「地球科学」である。本講義では地球科学の中でも「気象」に焦点を当て、授業を聞いて外に出てみると空の見方が変わるような知識を学修する。ここで、気象に関する豆知識をいくつか紹介する。豆知識①：夏にピカッと光る雷は実は静電気である。豆知識②：物語のように人が雲に乗ることはできない。上記に示したような、学べば学ぶほどわくわくする気象現象について楽しく学修する授業としたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年増加している大雨や台風による気象災害から身を守る一番の方法は「気象の知識を身につけること」である。本講義では、気象現象の仕組みを知ることによって気象災害に対処できる知識を身につけることを目的とする。実は、恐竜が生息していた時代は現在よりも地球の気温は高かった。ではなぜ、地球温暖化が今問題となっているのだろうか？地球温暖化の問題を正しく知ること、この問題を解決するために自分たちに何ができるのを考察し、人に伝える力を修得する。この授業では、皆さんに理系の教科を学ぶ楽しさも知ってもらいたい。「楽しく学んでいるうちにいつの間にか知識が修得できている」それがこの授業の目指すところである。

【履修条件】
もともと理系が好き！という学生も理系の授業はちょっと…という学生もどちらも大歓迎です。文系の学生にわかりやすく解説しますので、理系の教科が得意でなくてもぜひ挑戦して下さい。最初は慣れないかもしれませんが、学んでいくうちにだんだんと楽しくなってくると思います！

【授業方法】		
①授業形態：オンデマンド形式（毎週約15分の動画を3本視聴）． ②成績評価：小テスト（選択式）をポータルで3回実施し，その合計点数で成績評価が決まる． ③課題について：授業視聴後に毎回Google Classroomで確認テストを解いてもらう（選択式で3問）．成績評価には関係ないが小テスト対策として毎週受けること． ④質問・感想：Google Classroomでリアクションペーパーの提出を任意でお願いします（成績評価には関係ない）．出来る限りお返事したいと思っています． ★オンライン授業ですが，できるだけ皆さんとのコミュニケーションを大切にしたいと思っています．明るく楽しく授業を進めていきましょう！		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	私たちの生活に気象がいかに影響を与えているかを知り，身近な気象現象について人に説明できるようになる．							2	2				
②	気象災害から身を守る知識を身につける．					2		2	2				
③	地球温暖化や気候変動に対する正しい知識を得ることで，今自分にできることを考える力がつく．					2	2	2	2				
④	地球の環境問題について他人に問題提起できる能力を養う．					2	2	2	2				
⑤	毎日当たり前に見ている天気予報が理解できるようになる．							2	2				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等	ポータルを使用して3回の小テストを実施する．到達目標①②③④⑤に関わる気象・気候の基礎知識が身についているかを確認する．		15	15	15	30	25						100
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
			15	15	15	30	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの実施期間が終わるごとに解説ファイルをGoogle Classroomにて公開する。また、確認テストの解説は授業の最初に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない.				
【オフィスアワー】					
質問などある場合はリアクションペーパーかGoogle Classroomの限定コメント, もしくはメールでご連絡下さい (nagata.rena@nihon-u.ac.jp) .					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義ガイダンス～日々の生活に見られる気象現象を知ろう！～	全15回の授業で学ぶ気象現象の概要について説明を行う。このことにより、今後の授業の流れとこれから気象現象を深く学ぶための予備知識を身につけることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全15回の講義で学ぶ気象現象の名前と簡単なメカニズムについて把握することで、今後の学修に役立つ知識を身につける。	
	事前学修	シラバスに書いてあるこの授業で取り扱う気象現象か、もしくは日々の生活の中で気になっている気象現象をいくつか選んで、その現象が発生するメカニズムについて調べてくること。	120分
	事後学修	①授業動画をもとに作成したノートとPDF資料を見ながら今後の授業の流れをまとめること。また、これから授業動画の内容をうまくノートに取るためにはどうしたらよいか自分に合った方法を考えること。 ②ガイダンスで話した中で興味を持った内容はwebなどで検索してみる。	120分
2	地球大気組成と成り立ち～特別な環境を持つ星「地球」～	地球は太陽系の惑星の1つだが、地球には太陽系の他のどの惑星とも異なるユニークな大気を持ち、海があり生命体が存在するという特別な惑星である。太陽系には隠れミッキーのような形のクレーターを持つ惑星や、高さ25kmの火山を有する惑星など興味深い惑星が存在する。他の太陽系の惑星と比較しながら、なぜ地球だけが特別な環境を持つ惑星となったのかその歴史について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、なぜ、地球大気だけに人間が生きるのに十分な酸素が存在するのか？その鍵は海の誕生である。私たちにとって至って当たり前である「海」と「酸素」。それらがいかにして誕生したのかその謎について理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球大気にどのようにして酸素が誕生したのかについて調べてくること。 ②太陽系の惑星の中で興味のある星を1つ選んで（地球以外）その特徴を調べる。	120分
	事後学修	①現在の地球環境が形成された過程についてノートにまとめること。 ②地球以外の太陽系の7つの惑星の特徴をまとめる。	120分
3	大気の鉛直構造と大気の運動～なぜ風は吹くのか？～	風はなぜ吹くのか？と考えたことがあるだろうか。その鍵は東京ドームを出る際に強風が発生するメカニズムにある。本講義では、身近な現象を通して大気の流れのメカニズムを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、普段私たちが感じる風は「大気の流れ」である。飛行機に乗ると耳がキーンとするのはなぜか？その答えは大気の鉛直構造を知ることで得られる。また、流れ星は宇宙からやってきた1mm～数cm程度のチリが地球大気に突入し燃えて輝く現象である。今回はこのような日頃疑問に感じている気象の豆知識について理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球大気は4つの層に分けられる。この4つの層の名前と特徴について調べてくること。 ②気圧とは何かと地上気圧はだいたいどれくらいの値であるかを調べ、天気予報で示される地上天気図で実際の地上気圧の値を見てみる。	120分
	事後学修	①気圧と高度の関係について良く理解するとともに、地上で吹く風と上空で吹く風に働く力の違いについてもしっかりと理解すること。 ②今後天気図が折々出てくるので、以下のサイトにある気象庁の地上天気図を見て天気図に慣れておくこと (https://www.jma.go.jp/jp/g3/)。	120分
4	地球のエネルギー収支～大気がなければ地球の気温は－18℃？～	地球は私たち生物が生きるのに適した気温に保たれている。この「適した気温」が作り出されるメカニズムについて学修する。また、赤道に近い地域は気温が高く、極に近い地域は気温が低い。同じ地球にもかかわらずこのような気温差が生じるのはなぜなのだろうか？普段当たり前と思っているこれらの疑問を解き明かす。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、季節変化はなぜあるのか知っているだろうか？ちなみに、太陽からの距離が季節に応じて変わるからではない、日本は四季の移り変わりがはっきりしており季節に応じた美しい景観を愛でることができる。この四季が生じるメカニズムについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球大気が地球の気温を生命体が生きるのに適した温度に保ってくれるメカニズムについて調べてくること。キーワードは「温室効果」。 ②なぜ季節があるのかについて調べてくる。	120分
	事後学修	①地球の平均の地表気温が15℃に保たれているメカニズムについてノートにまとめること。 ②以下のサイトから南半球と北半球の地点を1つずつ選び、月平均気温のグラフを見ることで南半球と北半球では季節が逆になっていることを確かめること（比較には緯度30～60度の中緯度がおすすめ）。 https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/climatview/frame.php	120分
5	降水過程～雨はどうやって降るのか？～	私たちに恵みをもたらす雨はどうやって降ってくるのだろうか？雨が降る際には雲が存在するのだが、では雲から雨が降る仕組みはどうなっているのだろうか？この講義を聞いた後には、雨を眺めながらその発生メカニズムを思い出さずにはいられないような内容を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、雨が降る仕組みは暑い夏の日にはペットボトルを室温に置いておくとペットボトルの表面に水滴が生じるメカニズムと同じである。普段目にする身近な例をもとに雨が降る仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	①空気中を降ってくる雨粒はどのような形をしているのかと、その理由について調べてくること。 ②大気の状態が不安定とはどのような状態を言うのか？また、大気の状態が不安定になるとどのような現象が発生するのかについて調べてくる。	120分
	事後学修	①雨が降る仕組みについてノートにまとめること。この際、上昇気流が発生する原因や雲がどうやって発生するのかについても説明すること。 ②以下の『積乱雲のでき方』の動画を見ながら、積乱雲が発生するメカニズムと積乱雲が発生した際に気を付ける点をノートにまとめること。 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/sub1.html	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	大規模な大気の運動～地球をめぐる大気の流れと高気圧・低気圧～	外に出るたびに感じる風は実は地球の大きな流れの一部である。私たちが普段よく耳にする「低気圧」・「高気圧」・「前線」とは一体何なのか？そして、実は前線にはいくつか種類があることなど天気予報を見る際に役立つ知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、天気予報で頻繁に耳にする用語を学ぶことで、第8回の日本の四季に応じた気圧配置を理解する基礎作りを行うことができる。	
	事前学修	①熱帯にスコールが多い理由を調べ、「亜熱帯高圧帯」という用語と亜熱帯高圧帯と砂漠との関係について調べてくること。 ②温帯低気圧の特徴と、前線にはどのような種類があるのかを調べてくること。	120分
	事後学修	①大気大循環がどのように熱を北へ運ぶのかについてノートにまとめること。この際、ハドレー循環・フェレル循環・温帯低気圧・極循環の4つの単語を入れること。 ②天気予報を見る際に天気図で低気圧・高気圧の位置を確認し、自分の住んでいる地域の今日・明日の天気が晴れなのか雨なのかを自分で予報してみること。	120分
7	中小規模の気象現象～台風・集中豪雨・竜巻～	中小規模現象は雷・台風・竜巻・集中豪雨などが挙げられるが、これらの現象は時には災害を引き起こす。中小規模現象の発生メカニズムと特徴を正しく理解するとともに、実際に遭遇した際の対処法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、近年、台風や集中豪雨による災害が頻発している。これらの現象から身を守るためには正しい知識の修得が必要である。今後増えると思われる気象災害に対処するための知識を修得し、気象情報の活用法について学ぶ。	
	事前学修	①台風と温帯低気圧の特徴を比較し、台風・ハリケーン・サイクロンの違いについても調べてくること。 ②台風・突風・集中豪雨などの中小規模の気象現象による過去の災害の事例について調べること。	120分
	事後学修	①雷や突風はどのような状況で発生するのかについて理解し、実際に遭遇した際に自分がどう行動すべきかをノートにまとめること。 ②授業で話したようにこれからやってくる梅雨には大雨被害が発生しやすい。授業で紹介した『今後の雨』のサイトを日々見ることで、自分が住んでいる地域での大雨発生を事前に知る能力を身につけること。 https://www.jma.go.jp/jp/kaikotan/index.html	120分
8	日本の気候と卓越する気圧配置～冬の日本海側はなぜ雪が多いのか？～	日本には冬は寒く雪が降り、夏は暑いという季節に応じた特徴的な天候が見られる。この天候をもたらす気圧配置について学ぶ。なぜ冬の東京には雪があまり降らないのか？なぜ春の天気は変わりやすいのかなど、日々感じている気象の素朴な疑問について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、日本の季節に応じた気圧配置を学ぶことで、天気予報を見る際に現在よりもその内容を深く理解することを目標とする。また、冬季に耳にする「西高東低の気圧配置」や夏季によく聞く「太平洋高気圧」とは何かを理解し、天気図を見てその日のおおまかな天気を知ることができる。	
	事前学修	①日本の四季の中で好きな季節を選び、その季節に見られる天候の特徴について調べてくること。 ②冬季に日本の日本海側に雪が降る気圧配置について調べ、冬季の金沢に雷が多い理由について調べてくること（金沢の雷のキーワードは「大気の状態が不安定」）。	120分
	事後学修	①日本の天候の特徴について、四季ごとに見られる気圧配置も含めてまとめること。その際に以下のサイトを参考にすること。 ②また、このサイトの下の方にある「地域ごと天候の詳細はこちら」をクリックして、この資料をもとに自分が住んでいる地域の天候についてもまとめること。 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kisetsu_riyou/tenkou/gaisetu.html	120分
9	気候変動とは？～今の気候は地球にとって「標準の気候」ではない？～	第4回に学んだように赤道付近は暖かく極付近は寒い。このような気候は地球の長い歴史の中では決して「標準の気候」ではない。過去の地球には現在よりもかなり暖かく極付近にさえ海水などの氷が存在しなかった時代や、逆に赤道付近の気温がマイナスとなるほど寒い時代もあった。今では考えられないような地球の過去の気候について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現在地球温暖化に伴う異常気象が問題になっている。過去の地球の気候変動を知ることで、第10回～第12回に学ぶ地球温暖化が過去と比較していかに異常であることを理解するための基礎知識を養うことができる。	
	事前学修	①今後地球温暖化の回でも重要になってくるので、氷河・氷床・海水の違いについて調べてくること。 ②スノーボールアースイベント（全球凍結）とは何かについてと、全球凍結時の地球の平均気温は何度だったのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①最終氷期における陸地の氷の分布と海面水位との関係について理解し、氷期―間氷期サイクルについてよく復習しておくこと。第9回以降に地球温暖化の話の中でこの知識が必要になってきます。 ②授業で出てきた「氷床コア」から過去の気温以外に何がわかるのかについて調べること。	120分
10	近年の気候変動～地球温暖化について正しく知ろう！～	「最近天気がおかしい」と感じることはあるだろうか？猛烈な雨や強い台風など私たちが今までに経験したことのない異常気象が頻発している。この原因は人間活動が引き起こしている気温の上昇、つまり「地球温暖化」であると考えられている。第9回で学んだように、現在よりも地球の気温が高い時代があったにも関わらず地球温暖化が問題とされるのはなぜなのか、その理由について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、地球温暖化の原因を知ることで地球温暖化の問題点を正しく理解し、この問題について私たち人類はどのように対処していけば良いのかについて考える力を養う。また、今後地球温暖化が進んだ場合の地球環境の変化に対する予測を学修することで、この問題に真剣に取り組む精神を養うことができる。	
	事前学修	①地球温暖化とはどのような現象であり、地球温暖化を引き起こす原因は何であるのかについて調べてくること。 ②温室効果ガスとは何かとその種類について調べてくること。	120分
	事後学修	①地球温暖化は過去の気候と比較して何が異常であるのかについて第9回の内容も参考にしながらノートにまとめること。 ②日本の二酸化炭素排出量の推移について調べ、世界の他の国の排出量と比較してみる（第12回に役立ちます）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
11	地球温暖化の影響～海面上昇や大雨の増加～		地球温暖化の影響とみられる現象が世界各地で報告されている。例えば、大陸上の氷（氷河・氷床）の融解による海面上昇や、夏の高温日や大雨の増加など気象災害につながる現象の増加も見られる。地球温暖化の影響について具体例を挙げながら学ぶことで、いかにこの問題の解決が急を要するのかを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「今も寒い冬を経験することがあるのだから地球温暖化は起きていない」と主張する人もいるが、実はこの理論は正しくない。日本の冬は地球温暖化の影響で寒くなる年もあるのだ。地球温暖化にとって一番大事なことは人々が正しい知識を持つことである。地球温暖化の影響を正しく理解しその知識を周囲に広める力を養うことができる。	
	事前学修	①地球温暖化に伴う日本の降水量の変化について調べてくること。この際、最近発生している大雨との関係についても調べること。 ②海面水位の上昇により世界でどのような影響が出ているのか調べてくること。	120分
	事後学修	①地球温暖化によりなぜ海面水位が上昇するのかそのメカニズムについて第9回で学んだ最終氷期の海面水位の特徴と比較しながらまとめること。 ②地球温暖化にも関わらず日本が寒い冬を経験するメカニズムについてまとめること。	120分
12	地球温暖化に対する国際的な取り組み～身近にできる地球温暖化対策も学びましょう！～		地球温暖化対策は経済活動の停滞につながるため、対策について消極的な国も少なくはないが、紆余曲折を経ながら「地球温暖化に真剣に取り組もう！」とする国々の意識は少しずつ高まってきている。地球温暖化対策に関して話し合う会議である「COP」とは何か？何が話し合われているのかについて学ぶとともに、今日から私たちができる地球温暖化対策についても学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、国際的な地球温暖化対策について深く知ること自分たちが今何をすべきなのかを考える力を養う。また、身近にできる地球温暖化対策を学ぶことで、日々の暮らしで地球温暖化について考える習慣を身につけることができる。	
	事前学修	①地球温暖化対策に関連して以下の用語を調べること：COP、京都議定書、パリ協定。 ②私たちが身近にできる地球温暖化対策にはどのようなものがあるのかを調べてくること。	120分
	事後学修	①京都議定書からパリ協定に至るまで、世界の地球温暖化対策はどのように変化していったのかその変遷についてノートにまとめること。 ②今後自分が実施しようと思う身近な地球温暖化対策についてノートに書き出し、実際に行ってみる。	120分
13	エルニーニョと世界の天候～ペルーでアンチョビが獲れなくなると日本は冷夏？～		エルニーニョ現象は熱帯太平洋の海洋で起こる現象であるが、遠い日本の天候にも影響している。エルニーニョ現象が発生すると日本は冷夏・暖冬になりやすい。エルニーニョ現象は世界の天候に大きな影響を与え、時には気象災害が発生するような極端な現象を引き起こす。海洋で発生するエルニーニョ現象が大気にもたらす影響について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連して、エルニーニョ現象とはどのような現象であるかと、エルニーニョ現象が世界の天候へ与える影響についても理解する。現在までは大気のみを扱ってきたが、この回では海洋と大気が密接に関係しているという概念を学ぶことができる。	
	事前学修	①エルニーニョ現象とはどのような現象であるのかと、ラニーニャ現象との違いについて調べること。 ②エルニーニョ・ラニーニャ現象発生時に世界で起きた過去の異常気象について調べてくること。	120分
	事後学修	①エルニーニョ・ラニーニャ現象発生時の熱帯太平洋の大気と海洋の特徴についてまとめること。 ②エルニーニョ現象発生時に世界や日本で見られる天候の特徴についてまとめること。	120分
14	ヒートアイランド現象～なぜ東京の夏は暑いのか？～		東京などの都心部では夏に郊外よりも気温が高くなる。これは都市化により発生する「ヒートアイランド現象」によるものである。都市では平均気温の上昇だけではなく、熱帯夜や局地的な豪雨の増加も顕著となっている。都市が作り出すヒートアイランド（熱の島）はいかにして作り出されているのか、そのメカニズムについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「都市は暑い！」と感じたことはあっても「それはなぜ？」と聞かれると答えられる人は多くない。夏に都市を歩きながら、暑さをもたらす要因とそのメカニズムを考えることができる知識を習得する。	
	事前学修	①都市の高温化であるヒートアイランド現象の発生要因について調べてくること。 ②ヒートアイランド現象を緩和する対策にはどのようなものがあるのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①ヒートアイランドの要因についてノートにまとめ、自宅の周辺でヒートアイランドの要因と考えられるものを探してみる。 ②夏の暑い日に樹木の下でクールアイランド効果を実感してみる。	120分
15	講義のまとめ～講義の知識を気象災害から身を守るために生かそう！～		第2回～第14回の講義を振り返るとともに、今まで得た知識をもとにした応用編も学ぶ。また、復習を行いながらすべての講義で学んだ知識を結び付けることができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、本講義の主な目標は1)天気予報を見る際に深く理解できる知識を身につける、2)気象災害に対処できる知識と情報活用能力を修得する、3)地球温暖化などの環境問題について他人に問題提起できる能力を養うである。講義を聴きながら自分が上記の1)～3)についてどの程度達成できたかを自己評価することができる。	
	事前学修	第2回～第14回の講義について通しで復習して、内容を思い出ししておくこと。また、この講義を受けた内容で一番生活に役立った知識は何かも考えてくること。	120分
	事後学修	講義の中で一番興味をもったトピックについてwebで調べたり書籍を読むなどして、さらに理解を深めること。	

科目名	地球科学Ⅱ	担当者	永田 玲奈	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本に住んでいる私たちにとって地震や火山噴火は至って当たり前の現象である。だが、「なぜ地震は起こるのか？」や「なぜ火山は噴火するのか？」を正しく説明できる日本人は少ないだろう。この授業では地球46億年の歴史の中で「現在の地球」がいかにして作り上げられたのかを紐解きながら、地震や火山などの自然災害が起こるメカニズムとその対処方について学修する。皆さんは地球の内部に宝石がたくさん存在する場所があることを知っているだろうか？また、実は砂漠の定義は「砂がたくさんあること」ではない。このような知られざる地球の不思議についても知識を身につけてもらいたい。地球は学べば学ぶほどもっと知りたくなりますよ！

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「日本で過去に発生した地震は？」と問われたら東日本大震災を思い出すだろう。また、2014年には御嶽山が突然噴火し多くの犠牲者が出た。この授業では地震大国であり火山大国である日本で安全に生きていくために、災害発生時の対処方法について自分で考える力を養う。地球の内部は硬い岩石でできているイメージがあるかもしれないが、実は地球の内部には液体の金属から成る層が存在する。また、地下鉄銀座線の渋谷駅で電車が地上に出る理由は実は地形と関係している。地球の内部と表面について学ぶことで、普段見慣れた風景が今までとは違って見える面白さを認識する。皆さんに「地球と仲良くなれた」と感じてもらえるような授業にしたい。

【履修条件】
もともと理系が好き！という学生も理系の授業はちょっと…という学生もどちらも大歓迎です。文系の学生にわかりやすく解説しますので、理系の教科が得意でなくてもぜひ挑戦して下さい。きっと理系の授業が好きになりますよ。また、前期の地球科学Ⅰを受講していなくても受講できます。前期と重複する内容も少しありますが、初めて聞くことを想定して話をしますので大丈夫です！

【授業方法】		
①授業形態：オンデマンド形式（毎週約15分の動画を3本視聴）． ②成績評価：小テスト（選択式）をポータルで3回実施し，その合計点数で成績評価が決まる． ③課題について：授業視聴後に毎回Google Classroomで確認テストを解いてもらう（選択式で3問）．成績評価には関係ないが小テスト対策として毎週受けること． ④質問・感想：Google Classroomでリアクションペーパーの提出を任意でお願いします（成績評価には関係ない）．出来る限りお返事したいと思っています． ★オンライン授業ですが，できるだけ皆さんとのコミュニケーションを大切にしたいと思っています．明るく楽しく授業を進めていきましょう！		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	火山や地震などの自然災害に実際に直面した際の対処方法が身に付く。			2	2	2				
②	地球環境の成り立ちを知ることで環境問題に対する意見を述べられるようになる。		2		2	2				
③	普段何気なく見ている風景や地形の成り立ちを理解することができる。				2	2				
④	地球に対する日常の疑問を解き明かすことができる。		2	2	2	2				
⑤	地球の成り立ちや地震・火山・地形などの地球科学に関連するニュースを深く理解できるようになる。		2	2	2	2				
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)													
小テスト等	ポータルを使用して3回の小テストを実施する。到達目標①②③④⑤に関わる地球科学の基礎知識が身についているかを確認する。	35	10	15	20	20							100
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)	35	10	15	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの実施期間が終わるごとに解説ファイルをGoogle Classroomにて公開する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
質問などある場合はリアクションペーパーかGoogle Classroomの限定コメント、もしくはメールでご連絡下さい（nagata.rena@nihon-u.ac.jp）。	
【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	無実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義ガイダンス～地球の内部と表面について知ろう！～	全15回の授業で学ぶ地球内部と表面の概要について説明を行う。このことにより、今後の授業の流れとこれから地震・火山などの現象を深く学ぶための予備知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全15回の講義で学ぶ現象の名前と簡単なメカニズムについて把握することで、今後の事前学修に役立つ知識を身につけることができる。	
	事前学修	地球に関して日頃から疑問に思っていることやシラバスの中で興味のあるテーマを1つ選び、自分なりに調べてくること。	120分
	事後学修	①講義の流れをノートにまとめることで講義概要をしっかりと頭に入れ、今後の講義に備えること。また、授業動画を見ながらノートを取る方法について自分にあったやり方を考えること。 ②ガイダンスで話した中で興味を持った内容について自分で調べること。	120分
2	地球の誕生～火の玉地球から現在の地球になるまで～	46億年前に誕生したばかりの原始地球は「火の玉地球」と呼ばれるマグマに覆われた高温状態だった。高温の「火の玉地球」から、海が存在し生命体が居住可能な現在の地球はどのようにして形成されたのかその過程について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、昨年、小惑星「リュウグウ」のサンプルが地球に帰還して話題となったが、なぜ小惑星の探査は重要なのだろうか？また、地球はどうやって生物が住むことのできる環境になったのだろうか？地球の歴史を理解することで、これらの疑問点を説明することができる。	
	事前学修	①なぜ原始地球は真っ赤に溶けた火の玉のような状態だったのか、その理由について調べてくること。 ②小惑星とは何かと、小惑星を調べると何がわかるのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①地球の誕生から現在の地球環境ができるまでの過程をノートにまとめること。 ②地球以外の太陽系の惑星の衛星について調べ、地球の衛星である月と比較してみること。	120分
3	地球環境の変遷～地球環境の古文書「地層」とは？～	地球の長い歴史においてその環境は劇的に変化してきた。地球環境の変化を知る鍵が地層である。地層は「地球環境の古文書」と呼ばれるほど地球環境に関する多くの情報が詰まっている。地層から過去の地球の情報を取り出す方法とそれによって明らかになった地球環境の変遷の歴史について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、オーロラはどうやって発生するのか？また、「チバニアン」や「地磁気逆転」など、現在話題になっているこれらの用語について理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球の過去を知ることが出来る「地層」とは何か調べてくること。 ②オーロラはどうやって発生するのか、またオーロラを見ることのできる地域はどこなのかについて調べてくること。	120分
	事後学修	①地層からどうやって地球環境の変遷を知ることができるのかについてノートにまとめること。 ②地質時代の中で1つ時代を選び、当時の地球環境について調べること。	120分
4	世界の大地形～地震が多いところと少ないところがあるのはなぜ？～	陸地には険しい山脈がある一方で、平野が広がる地域も見られる。実は、険しい山がある地域は地震が多い。今回は地形と地震の多さとの関係について学修する。また、普段は海水に覆われて見ることはできないが実は面白い海底地形についても学ぶ。	
	この回の到達目標	戦国武将・武田信玄の軍旗には「動かざること山の如し」と書いてあったといわれているが、実は山はゆっくりと動いている。到達目標②③④⑤に関連して、地球内部の動きによりどのような地形が形成されるのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	①海底地形にはどのようなものがあるのか調べてくること。 ②ヨーロッパのアルプス山脈と北米大陸にあるアパラチア山脈がどこに位置するのかを調べ、2つの山脈の形状を比較すること。	120分
	事後学修	①新期造山帯と古期造山帯がどこに位置するのかを分布図をよく見て頭に入れること。 ②アルプス山脈以外の褶曲山脈が世界のどこにあるのか探してみること。	120分
5	地球の内部構造～地球はひび割れたゆで卵？～	地球の内部はどうなっているのだろうか？と考えたことはあるだろうか。実は地球の内部は卵の黄身・白身・殻のような3層構造になっている。第4回に「地球は動く」という話をしたが、第5回では地球内部の動きについて詳しく学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、人々が魅了される美しい宝石は地球内部で作られている。地球内部の構造を知ることで宝石がどうやって生成されどこからやってくるのか理解し、説明することができる。	
	事前学修	①地球の内部構造の分け方には2種類ある。2種類の分け方について調べてくること。 ②地震波とは何かとその種類について調べてくること。	120分
	事後学修	①地球の2種類の分け方についてまとめ、各層の名前を頭に入れること。 ②今後プレートは重要になってくるので、プレートとは何かと日本周辺のプレートの名称とその位置を覚えること。	120分
6	プレートテクトニクスと大陸移動説～昔大陸は1つだった！～	現在地球には6つの大陸が存在するが、昔々大陸は1つだった。第5回で地球内部は動くという話をしたが、この大陸の移動は「プレート」の動きで説明できる。プレートについて正しく理解することで、ハワイ諸島が北西方向に並んでいる理由やヨーロッパのアルプス山脈誕生のメカニズムについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、日本やヨーロッパのアルプス山脈に高く険しい山脈が存在する理由は、プレートの運動で説明できる。プレートについて理解することで、地球上で見られる地形の成り立ちについて説明できるようになる。	
	事前学修	①プレート同士の境目である「プレート境界」の種類を調べ、プレート境界が世界のどこに位置しているのかを種類ごとに調べてくること。 ②プレート境界に形成される海底地形について調べてくること。	120分
	事後学修	①「広がる境界」と「狭まる境界」に見られる地形の特徴と、なぜその地形が形成されるのかについてノートにまとめること。 ②日本付近に見られる海溝の名前を調べ、Google Earthで確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	地震はなぜ起こる？～日本はどうして地震が多いのか～		日本は地震大国である。世界で起こる地震のなんと約10%が日本周辺で発生している。地震が発生した際によく耳にする「震度」や「マグニチュード」などの用語について正しい知識を見につけるとともに、地震はなぜ起こるのかそのメカニズムについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、地震に慣れている私たち日本人だが、時折災害をもたらすような大きな地震を経験することがある。第8回に大きな地震が発生した時の対処法について学ぶが、今回は「地震への対処法」をよりよく理解するためにまずは地震発生メカニズムについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	①海溝型地震と内陸型地震が起こるメカニズムについて調べてくること。 ②断層と活断層の違いについて調べてくること。	120分
	事後学修	①海溝型地震と内陸型地震地震が発生するメカニズムと被害の特徴についてまとめること。 ②マグニチュード・震度・震源などの地震に関する用語をしっかりと理解し、次回地震が発生した際に地震情報を見てにすぐに理解できるようにすること。	120分
8	大規模地震のメカニズム～阪神・淡路大震災と東日本大震災の例から～		東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震と、阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震はともに甚大な被害をもたらした地震であるが、その発生メカニズムは異なる。地震は発生メカニズムによって被害に違いが生じるという点を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、過去に大きな被害をもたらした2つの地震についてその発生メカニズムと被害状況を学ぶことで、今後大きな地震が来た際に自分がどのような行動をとるべきなのかについて考えることができる。	
	事前学修	①断層運動の種類について調べること。 ②東日本大震災と阪神淡路大震災ではどのような被害が生じたのか事前に調べてくること。特に阪神淡路大震災発生時には皆さんは生まれていなかったため、当時の報道写真を探して被害の実態を予習しておくこと。	120分
	事後学修	①阪神・淡路大震災と東日本大震災における被害の違いについて地震発生メカニズムから説明できるようにノートにまとめること。 ②自宅にいる時と外出時に大きな地震が発生した時の自分の行動をシミュレーションしておくこと。	120分
9	火山噴火の仕組み～なぜ火山は噴火するのか？～		よく耳にする「活火山」とは何か？なぜ日本列島には火山が多いのか？なぜ火山は噴火するのか？火山大国である日本に住んでいる私たちが普段疑問に思っていることや、実際に火山噴火に遭遇した際に気を付ける点について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、火山噴火のメカニズムや火山が噴火すると何が起きるのかを理解することで、明日起こるかもしれない火山噴火に備える知識を身につけることができる。	
	事前学修	①なぜ日本列島に火山が多いのかその理由について調べてくること。 ②火山噴火時に噴出される「火山噴出物」にはどのようなものがあるのかを調べてくること。	120分
	事後学修	①火山大国日本で火山と上手に付き合っていくために「火山はどこにでき、どうして噴火するのか」についてノートにまとめること。 ②日本の活火山の分布図から自分の住んでいる地域にある火山、もしくは興味のある火山について詳しく調べてみる	120分
10	日本の火山活動と災害～長崎県の雲仙岳を例に～		イタリアの古代都市ポンペイを一瞬にして消し去り、1990年代の雲仙岳の噴火でも多くの犠牲者を出した火砕流の怖さについて学修する。また、ディズニーシーのプロメテウス火山は、調査により噴火の歴史を知ることができるほど精巧に作られた人工火山である。プロメテウス火山形成の歴史を学ぶことで、火山噴火についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、長崎県雲仙岳で発生した火砕流のメカニズムと被害状況を理解することで、今後火山噴火に直面した際に役だつ知識を身につけることができる。また、次にディズニーシーを訪れた際にプロメテウス火山の形成過程について人に語れるようになる。	
	事前学修	①火山噴火時に発生する「火砕流」とはどのような現象であるのかについて調べてくること。 ②水蒸気噴火とマグマ水蒸気噴火の違いについて調べてくること。	120分
	事後学修	①1990年代に発生した雲仙岳の噴火の特徴と被害の概要をまとめること。 ②自分が住んでいる地域にある火山もしくは自分が興味のある火山について授業で紹介したwebサイトから情報を取得してみる	120分
11	氷河地形～現在の地形を見れば昔の氷河の分布がわかる？～		1万8000年前の日本の平均気温は今よりも6～9℃ほど低かったと考えられており、そのころには日本の多くの山にも「氷河」が存在した。その証拠が日本の山に「氷河地形」として残っている。氷河とは何か？そして氷河が作り出す地形の種類と形成過程について学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、氷河地形は「今よりもだいぶ気温が低い時代があり、その当時そこに氷河が存在した」ことを示す。氷河と氷河が作り出す地形の形成過程を学修することで、山岳に見られる地形から過去の気候変動が読み取れるという概念を理解できるようになる。	
	事前学修	①氷河地形であるU字谷・モレーン・氷河湖がどのように形成されるのか調べてくること。 ②現在日本で見られる氷河はどこにあるのかを調べ、Google Earthで日本の氷河を見ておくこと。	120分
	事後学修	①氷河とは何かと、氷河が作る地形の特徴とその形成過程についてノートにまとめること。 ②世界で見られる氷河地形を自分で探し、Google Earthで確認すること。	120分
12	海洋が地球環境に果たす役割～海洋の変動が気候を決める？～		海洋の深層には2000年で地球を一巡りするゆっくりとした循環が存在し「海洋のコンベアベルト」と呼ばれている。1万2000年前に海洋のコンベアベルトが停止し、地球が急激に寒冷化したことがわかっている。ここでは、海洋の深層循環が気候に影響するメカニズムについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標②④⑤に関連して、よく耳にする「氷期」とはなにか？寒い氷期が終わると地球の平均気温が上昇するのだが、その際にどのような現象が生じるのかについて理解し説明できるようになる。	
	事前学修	①「海洋のコンベアベルト」・「ヤングドライアス期」とは何かを調べてくること。 ②第11回に学んだ氷河湖についてよく復習し、「氷河湖決壊洪水」はなぜ発生するのかを調べてくること。	120分
	事後学修	①海洋のコンベアベルトとはどのような循環なのかと、ヤングドライアス期の原因についてノートにまとめること。 ②海流が気候に与える影響についてもまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	川が作る地形～東京の地下鉄はなぜ地上を走るのか？～		わたしたちが毎日何気なく見ている風景の中には川が作った地形が多く存在する。日本の川は大雨が降ると一気に増水するため洪水被害が発生することもあるが、一方で私たちは川の恩恵を受けて生きている。ここでは川が作り出す地形について学修するとともに、身近な川の意外と知らない豆知識についても学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、私たちは川が作った土地を利用して生活しているということを理解する。また、東京では地下鉄が地上に出たり、逆に地上を走る電車が急に地下にもぐったりするが、これは川が作る地形が関係している。電車に乗りながら東京の地形の成り立ちを考えられる力を身につける。	
	事前学修	①世界と日本の川の特徴を比較すること。また、興味のある川を選びその川の源流（つまり川の始まり）はどこにあるのかを調べてくること。 ②川が作る地形にはどのような種類があるのかを調べてくること。	120分
	事後学修	①川の上流と下流ではどのような地形が形成されるのかと、その理由についてまとめること。 ②渋谷の地形と新宿の地形の特徴についてその形成過程を比較しながらまとめること。	120分
14	砂漠とは何か？～砂がなくても「砂漠」です！～		「砂漠」には「砂」という文字が含まれているが、実は砂漠の定義は「砂がたくさんあること」ではない。砂漠の定義から砂漠の気温の日変化や砂漠の空気から水分を取り出す方法など、知ると驚く砂漠の知識を含めて「砂漠とはなにか」を学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、砂漠の正しい定義となぜそこに砂漠が存在するのかその形成メカニズムを学修するとともに、日本では「鳥取砂丘」で知られる砂丘と砂漠の違いについて理解することができる。	
	事前学修	①砂漠の定義と、砂漠と砂丘の違いについて調べてくること。 ②砂漠にできる地形の種類とそのでき方について調べてくること。	120分
	事後学修	①回帰線砂漠と海岸砂漠のでき方についてと、なぜ砂漠は日中と夜間で気温差が大きいのかについてまとめること。 ②砂丘と砂漠の違いを理解し、鳥取砂丘の形成過程についてまとめること。	120分
15	講義のまとめ～安全に地球に住むために私たちが気を付けること～		第2回～第14回の講義の復習を行う。全講義の中で学生さんから質問やコメントが多かった内容について重点を置いて復習を行うとともに、必要に応じて追加情報も織り込むことでさらなる知識の向上を図る。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、全ての講義内容について通して復習することで各回で学んだ知識を体系化することが可能となり、地震や火山噴火などの自然災害に直面した際に自分の身を守る手段として活用できるようになる。	
	事前学修	第2回～第14回について通して復習し、一番興味があったことや疑問に思うことをまとめてから講義に臨むこと。	120分
	事後学修	現在の地球がどのようにして成り立ったのかをよく理解することで、地震や火山噴火などの災害時に自分がどのように対応したら良いのかについて考えること。	120分

科目名	地理学 I	担当者	小関 勇次	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 我々の身近な生活空間である日本の国土の自然環境と地理的諸課題について、地図を用いて空間的に解析していく。具体的な学習項目は日本の地形環境と気候環境、自然災害と防災について検討する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 日本の自然環境の特質について理解すること。 地図を活用して地理的事象を考察する力（空間的思考力）を身に付けること。 自然と人間活動のかかわりを考察できること。

【履修条件】 特になし

【授業方法】 オンライン授業の場合、オンデマンドでの配信とリアルタイムZoom配信を基本として授業をすすめる。 授業ごとにワークシート（プリント）をpdfで配布するので必ずダウンロード&プリントアウトして準備する。 ワークシートは作業学習が多いので事前学習に十分時間がけること。 試験は予定しているが状況により実施できない場合、代替措置としてレポート課題と授業内の理解度・習熟度の確認テストを評価とする。 テキストは推奨とし、地図帳は必携（高校時代の地図帳可）とする。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	地理的技能をを伴う地形図読解、地形判読について理解度や習熟度を確認するために回答を求める。課題については発表や報告を予定している。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境（地形環境と気候環境）の特質について具体的に説明できる。				2	2	2	2				
②	地形図から発想・判読・活用するスキルを身に付けている。				2	2						
③	日本における自然災害を列挙することができ、防災についての課題を検討できる。					2	2	2				
④	自然と人間活動の関わりについて事例を挙げて説明できる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	オンライン試験を実施し到達目標①②③④の達成度を評価する。	30	10	10	10							60
小テスト等	地理的技能については確認テストにより到達目標②③の習熟度で評価する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③及び④に関して地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。			10	10							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業での質問に対しての回答・確認テストの講評・レポートの講評などは大学のポータルサイトを通じて対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 新日本地理－自然環境と日本地理－	山村順次	原書房	2008	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
オンライン授業後に質問に対応する他、ポータルを活用する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校の地理歴史科の教諭として36年間勤務し、主に地理を担当した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		教職志望の学生には授業に役立つ知識や技能の習得を目指した授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 地理学とは	講座内容・シラバスの確認・授業方法等の確認 地理学とは 地理学の領域について	
	この回の到達目標	講座内容とシラバスを確認し授業方法等について理解する。 地理学の概念について理解する。（関連SB0s①）	
	事前学修	授業の準備（テキスト・シラバス・授業方法等） 地理学をWeb検索して、地理学について400文字程度で定義しておく。	120分
	事後学修	あなたに外国人の友達がいる、【日本の自然】について紹介する手紙を書くこととする。あなたはどのように紹介するか、400文字で紹介する。（次回の授業で報告）	120分
2	日本の地形環境の特質	世界から見た日本の地形環境～日本は島国？山国？～ 課題報告【日本の自然】	
	この回の到達目標	日本の地形環境の特質につて事例を挙げて説明できる。 日本の自然について紹介できる。（関連SB0s①）	
	事前学修	地図帳を参考に世界の大地形を作図しておく。 テキストやWebを利用して日本の自然環境の特色をまとめておく。	180分
	事後学修	配布ワークシート（日本の地形環境の特質）を完了させる。	60分
3	山地の地形	日本における山地の分布・種類・成因 褶曲山地・火山の成因	
	この回の到達目標	白地図に日本の山地の分布を図示できる。 山地の分布・種類・成因を説明できる。 地形図から形状の違いを判断できる。（関連SB0s①②）	
	事前学修	配布されている白地図ワークシートに日本の山地の分布を完成させておく。 地形図コンターワーク（火山地形）の作業を進めておく。	180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート及び火山地形の地形図作業を完了させる。	60分
4	平野の地形	日本における平野の分布・種類・成因 地形図から沖積平野の微地形分類及び特徴	
	この回の到達目標	白地図に日本の平野の分布を図示できる。 平野の分布・種類・成因を説明できる。 地形図から氾濫原の微地形分類ができる。（関連SB0s①②）	
	事前学修	配布されている白地図ワークシートに日本の平野の分布を完成させておく。 氾濫原における微地形分類の作業を進めておく。	180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート及び氾濫原微地形分類の作業を完了させる。	60分
5	海岸の地形	日本における砂浜海岸と礫浜海岸の分布・種類・成因 地形図から海岸地形の種類と特徴	
	この回の到達目標	日本の海岸について砂浜と礫浜の分布を判別できる。 堆積海岸と侵食海岸の形状の違いを説明できる。 地形図から海岸地形の分類ができる。（関連SB0s①②）	
	事前学修	配布されているワークシートの堆積海岸と侵食海岸のイラストを描いてくる。 授業担当者の論文「消える砂浜」を精読し内容を把握しておく。	180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート及び海岸地形の地形図作業を完了させる。	60分
6	島嶼の地形	日本における島嶼の地形と成因。島の成因（裾礁・堡礁・環礁・火山島） 海洋国家日本の領域	
	この回の到達目標	島の成因を説明できる。 裾礁・堡礁・環礁などの珊瑚地形の堆積・侵食が説明できる。 日本の領域を大まかに描ける。（関連SB0s①②④）	
	事前学修	配布されているワークシートの堆積海岸と侵食海岸のイラストを描いてくる。 授業担当者の論文「消える砂浜」を精読し内容を把握しておく。	180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート及び珊瑚地形（南大東島）の地形図作業を完了させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本の気候環境の特質		日本の気候環境の特質 気候と日本の生活文化の形成（年中行事・俳句・挨拶）	
	この回の到達目標	日本の気候環境の特質を説明できる。 気候環境と生活文化の関連を紹介できる。（関連SB0s①④）		
	事前学修	ケッペンの気候分類から日本の気候型の特徴をまとめる。 日本の気候環境と年中行事との関連について具体的事例を400文字程度で記述する。（授業で報告）		180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート（日本の気候環境の特質）を完了させる。		60分
8	日本の気候区		日本の気候環境と気圧配置 日本の気候区分と気候区の特徴	
	この回の到達目標	日本の気候環境を決定する日本周辺の気圧配置を描くことができる。 日本の気候区分と気候区の特徴を説明できる。（関連SB0s①）		
	事前学修	配布されているワークシートの気圧配置図をと日本の気候型を白地図に描く。 日本の気候区の特徴をまとめておく。		180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート（日本の気圧配置図・気候区・気候区の特徴）を完了させる。		60分
9	台風と雪		台風の発生システムとその影響 日本における降雪エリア（スノーライン）と降雪の要因	
	この回の到達目標	台風の発生システムを説明できる。 降雪エリア（スノーライン）を引くことができる。 降雪の要因を図示することができる。（関連SB0s①）		
	事前学修	日本における近年の台風被害の事例を調べてくる。 日本における近年の豪雪被害の事例を調べてくる。		180分
	事後学修	台風の発生システムとその影響について整理する。 降雪エリア（スノーライン）と降雪の作図を完了させる。		60分
10	自然と災害①気象災害		日本の主な気象災害の種類と発生要因 台風・竜巻・集中豪雨・豪雪の被害想定	
	この回の到達目標	日本の主な気象災害の事例を列挙できる。 気象災害の発生要因を説明できる。 被害写真から気象災害の種類を判別できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	日本における近年の気象災害の事例を調べてくる。 気象庁のHPを検索して気象災害の発生要因を調べる。		180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシート（日本の気象災害）を完了させる。 気象災害の被害想定反復練習。		60分
11	自然と災害②地震と火山		日本の地震と火山の分布と発生要因 地震・火山の被害想定 地震の二次災害（津波と液状化）	
	この回の到達目標	日本の地震と火山の分布と発生要因を説明できる。 被害写真から地震・火山・津波・液状化を判別できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	日本における近年の地震・火山災害の事例を調べる。 地震と火山の発生システムを作図してくる。		180分
	事後学修	授業内に終了できなかったワークシートの作図（地震・火山の発生システム）を完了させる。 地震・火山の被害想定反復練習。		60分
12	東日本大震災の教訓		東日本大震災の振り返り 東日本大震災の教訓（防災の課題・復興の課題）	
	この回の到達目標	東日本大震災について概要を説明できる。 東日本大震災について復興の課題を指摘できる。 原子力発電の是非について自分なりの見解が持てる。（関連SB0s③④）		
	事前学修	東日本大震災についてWeb検索し動画を視聴しておく。 東日本大震災の被害概況をまとめておく。		120分
	事後学修	原子力発電のメリット&デメリットを精査して、原子力発電に対する自分なりの見解を記述する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	防災①地震防災	地震の災害リスクと被害想定 地震防災の取り組みと課題	
	この回の到達目標	地震の被害想定ができる。 地震防災の課題が指摘できる。（関連SB0s③④）	
	事前学修	高校時代の地震に対する避難訓練や防災訓練について振り返る（授業で紹介）。 地震防災の避難訓練や防災訓練の課題について振り返る（授業で紹介）。	120分
	事後学修	自宅周辺を想定して、地震発生時の避難行動を整理する。	120分
14	防災②洪水ハザード	集中豪雨時の洪水リスクと被害想定 洪水ハザードマップの活用 避難行動の課題	
	この回の到達目標	洪水の被害想定ができる。 洪水ハザードマップを活用できる。 避難行動の課題を指摘できる。（関連SB0s③④）	
	事前学修	自宅周辺の洪水ハザードマップを入手、又は市町村HPからハザードマップをプリントアウトしておく。 ハザードマップから洪水発生時の避難行動について確認しておく。（避難場所・避難時間など）	60分
	事後学修	自宅周辺の自然災害を想定して【地域防災の課題】レポート作成・提出。	180分
15	オンライン試験	授業内容の理解を問う試験（50分 100点） 授業の振り返り	
	この回の到達目標	SB0s①②③④を評価するための試験に対して十分解答することができる。 授業を振り返り自己評価ができる。	
	事前学修	試験の準備。配布されたワークシートやノート類の総復習。	180分
	事後学修	答案の自己評価と授業の振り返り。	60分

科目名	地理学 I	担当者	品田 光春	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
我々の身近な生活空間である日本の国土の自然環境と地理的諸課題について、地図を用いて空間的に解析していく。具体的な学習項目は日本の地形環境と気候環境、自然災害と防災について検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の自然環境の特質について理解すること。 地図を活用して地理的事象を考察する力（空間的思考力）を身に付けること。 自然と人間活動のかかわりを考察できること。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義資料（プリント）を中心とした講義形式。関連する動画教材も多用する。また、毎回の小テスト・課題についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境（地形環境と気候環境）の特質について具体的に説明できる。						2	2	2	2				
②	地形図から発想・判読・活用するスキルを身に付けている。						2	2						
③	日本における自然災害を列挙することができ、防災についての課題を検討できる。							2	2	2				
④	自然と人間活動の関わりについて事例を挙げて説明できる。						2	2	2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～④に関する基礎知識・技能が身についているかを、毎回の授業後の小テストまたは提出課題により評価する。	4	4	4	4	4						20
レポート等	到達目標①～④に関する基礎知識・技能が身についているかを、期末レポートにより評価する。	16	16	16	16	16						80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはgoogle classroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
shinada.mitsuharu11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、地理学とは何か	本授業の進め方、受講上の注意、地理学とは何かについて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、本授業の全体の内容や進め方、受講上の注意、地理学とは何かについて理解する。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理学の概要について調べる。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（地理学の学問的特性など）について復習する。	120分
2	地図の利用	地理学における地図の利用法について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、地理学における地図の利用法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（地図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（各種地図の利用法など）について復習する。	120分
3	地形図読解の基礎	地形図読解の基礎について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、基礎的な地形図読解ができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（地図記号、等高線など）について復習する。	120分
4	日本の地形の概要	日本の地形の概要について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の地形の概要について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（環太平洋造山帯など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の地形の概要・特徴など）について復習する。	120分
5	日本の山地 北アルプス	日本の山地の事例として北アルプスについて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の山地の特徴と北アルプスの地域特性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（氷河地形など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（北アルプスの地域特性、氷河地形など）について復習する。	120分
6	日本の河川と平野 木曾三川と濃尾平野	日本の河川と平野の事例として、木曾三川と濃尾平野について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の河川と平野の特徴と濃尾平野の地域特性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（木曾三川、輪中など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の河川と平野の特徴と濃尾平野の地域特性など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	リアス式海岸 三陸海岸		リアス式海岸の事例として、三陸海岸について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、リアス式海岸の特徴と三陸海岸の地域特性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（リアス式海岸など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（リアス式海岸の特徴と三陸海岸の地域特性など）について復習する。		120分
8	海岸砂丘 鳥取砂丘		海岸砂丘の事例として 鳥取砂丘について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、海岸砂丘の特徴と鳥取砂丘の地域特性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（海岸砂丘など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（海岸砂丘の特徴と鳥取砂丘の地域特性など）について復習する。		120分
9	日本の気候の概要		日本の気候の概要について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の気候の概要について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（気候区分など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（気候区分、日本の気候の概要など）について復習する。		120分
10	瀬戸内式気候と讃岐平野のため池		瀬戸内式気候と気候景観としての讃岐平野のため池について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、瀬戸内式気候の特徴と讃岐平野の地域特性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（瀬戸内式気候など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（瀬戸内式気候の特徴と讃岐平野の地域特性など）について復習する。		120分
11	新潟県の豪雪地域		新潟県の豪雪地域について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本における降雪のメカニズムと豪雪地域の地域特性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（日本海岸気候など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本における降雪のメカニズムと豪雪地域の地域特性など）について復習する。		120分
12	日本の自然災害の概要		日本の自然災害の概要について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の自然災害の概要と防災の実態について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（ハザードマップなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の自然災害の概要と防災の実態など）について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の地震災害	日本の地震災害の特徴について具体的事例をあげて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の地震災害のメカニズムと特徴について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（地震など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の地震災害のメカニズムと特徴など）について復習する。	120分
14	日本の火山災害	日本の火山災害の特徴について具体的事例をあげて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、日本の火山災害のメカニズムと特徴について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（火山など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の火山災害のメカニズムと特徴など）について復習する。	120分
15	まとめと補足	授業全体のまとめと、授業内容の補足説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関して、前回までの全学習内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容を復習し、期末レポート作成の準備をする。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業全体の重要要事項について復習する。	120分

科目名	地理学Ⅱ	担当者	小関 勇次	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本における地理的諸課題の中から地域構造における地域的特色、歴史的発展過程を主要テーマとして授業を展開する。特に日本が劇的に変化した高度経済成長期以後の人工改変については時系列地図を用いて考察していく。併せて都市と農村、中央と地方などの関係や課題について検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の地域構造における地域的特色、歴史的発展過程を理解し検討することで地域を診断する能力を養う。また、地図を活用して地域の特徴や変容を見出す地域調査法を習得する。授業を通じて、地域を見る目、地域性を見い出す能力、地域を比較・検討する分析力を身に付ける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
オンライン授業の場合、オンデマンドでの配信とリアルタイムZoom配信を基本として授業をすすめる。 授業ごとにワークシート（プリント）をpdfで配布するので必ずダウンロード&プリントアウトして準備する。 試験は予定しているが状況により実施できない場合、代替措置としてレポート課題と授業内の理解度・習熟度の確認テストを評価とする。 テキストは推奨とし、地図帳は必携（高校時代の地図帳可）とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	時系列地図を用いての地域解析などの地理的技能をを伴う授業の場合、オンラインで個別の指導を行う。 また、レポートや課題報告については、発表を通じて相互評価を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の地域構造について地域的特色、歴史的発展過程を説明できる				2	2	2	2				
②	高度経済成長期以後における地域の変容について時系列地図を用いて説明できる。				2	2	2	2				
③	農業と工業、都市と農村、中央と地方の諸課題について比較・検討できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	オンライン試験を実施し到達目標①②③の達成度を評価する。	20	20	20								60
小テスト等	時系列地図を用いての地域解析など地理的技能を確認するために小テストを行い到達目標①②の習熟度を評価する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に関して地理学的分析に基づく論理展開ができているかについて評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業での質問に対しての回答、確認テストの講評、レポートの講評などは大学のポータルサイトを通じて対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 新日本地理－自然環境と日本地理＝	山村順次	原書房	2008	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
オンライン授業後に質問に対応する他、ポータルを活用する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校の地理歴史科の教員として36年間勤務し、主に地理を担当した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		教職志望の学生には授業に役立つ知識や技能の習得を目指した授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	シラバスの確認 地理学Ⅱの授業内容と授業方法の紹介	
	この回の到達目標	地理学Ⅱのシラバス・授業内容・授業方法を理解する。（関連SB0s①）	
	事前学修	シラバスの確認・地理学Ⅱの授業内容と授業方法の確認。 「日本の生活と文化」について、興味関心のあるテーマについて考えてくる。	60分
	事後学修	出身地域の伝統文化について、400文字程度で紹介する。（次回の授業で報告）	180分
2	日本の生活と文化	出身地域の伝統文化紹介 日本の文化の独自性 日本人の世界観・価値観	
	この回の到達目標	日本文化を紹介することができる。 日本文化の独自性を説明できる。 日本人の世界観・価値観を紹介できる。（関連SB0s①）	
	事前学修	日本文化について、興味関心のあるテーマを調べてくる。 日本の年中行事を調べてくる。 日本人の世界観・価値観について討論できる準備ををする。	120分
	事後学修	「文化の伝播と変容」について事例を取り上げ400文字程度で記述する。	120分
3	風土論と景観論	和辻哲郎の「風土論」 風土と景観の違い	
	この回の到達目標	日本の風土を紹介できる。 日本的な景観を紹介できる。 風土・景観・景色の違いを説明できる。（関連SB0s①）	
	事前学修	和辻哲郎の「風土論」をWeb検索して要旨を400文字程度で記述しておく。 日本的な景観を取材し（写真を撮る）授業で紹介できるように準備する。	180分
	事後学修	日本的景観の報告会で共有された情報を整理する。	60分
4	地域の見方・考え方	地域とは何か～地域の見方・考え方～ 空間の概念と構造	
	この回の到達目標	地域とは何か説明できる。 空間の概念と構造を説明できる。（関連SB0s①）	
	事前学修	「地域」をキーワードとして400文字程度で定義付けをしてくる。（授業で報告）	120分
	事後学修	未完のワークシート「地域の概念図」を完成させる。	120分
5	地域性と県民性	地域性・県民性 文化圏の比較（東日本と西日本）	
	この回の到達目標	地域性とは何か、説明できる。 東日本と西日本の文化の違いを見出せる。 県民性を紹介できる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	「郷土の地域性と県民性」について400文字程度でまとめておく（授業で報告）。	120分
	事後学修	授業で共有された「地域性・県民性」についての記録を整理する。	120分
6	日本の農業地域 ～米づくりの今～	日本の農業地域 伝統的稲作と現代の米作	
	この回の到達目標	日本の農業地域について事例を挙げて説明できる。 伝統的稲作について理解している。 現代農業の特色を紹介できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	事前に配布された「日本の農業地域」のワークシート作業を完了させる。	120分
	事後学修	「日本の農業の将来構想」について400文字程度にまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本の工業地域 ～臨海コンビナート～		日本の工業地域 港湾の形態と機能（東京湾）	
	この回の 到達目標	日本の主要な工業地域について列挙できる。 港湾の形態と機能について説明できる。 臨海コンビナートの特色を説明できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	配布されたワークシート「東京湾海図」の作業を進めておく。 臨海コンビナートの特色を調べておく。		120分
	事後学修	未完の「東京湾海図」チャートワークを完了させる。		120分
8	里山資本主義 ～里山からの提言～		里山・中山間地域の概念 里山資本主義	
	この回の 到達目標	里山・中山間地域の生活について説明できる。 里山の魅力を紹介できる。 持続可能な地域づくりのアイデアを紹介できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	「里山資本主義」について、文献を読むかWeb検索して400文字程度で定義付けをしてくる。		120分
	事後学修	「里山の魅力」「持続可能な地域づくり」のアイデアを400文字程度記述する。		120分
9	日本の村落の形態と機能		村落の立地条件 伝統的村落の形態と機能	
	この回の 到達目標	村落の立地条件について説明できる。 伝統的村落の形態と機能を説明できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	事前に配布された「村落」に関する地形図作業を進めておく。		120分
	事後学修	未完の地形図作業（条里集落）を完了させる。		120分
10	日本の都市の形態と機能		都市の立地条件 都市の形態と機能	
	この回の 到達目標	都市の立地条件について説明できる。 都市の形態と機能について説明できる。（関連SB0s③）		
	事前学修	事前に配布された「都市」に関する地形図作業を進めておく。		120分
	事後学修	未完の地形図作業（城下町）を完了させる		120分
11	都市化と地域変容① 高度経済成長		都市化・都市の発展 高度経済成長の功罪 都市問題	
	この回の 到達目標	日本の高度経済成長期について説明できる。 都市化と都市の発展に伴う諸課題を指摘できる。（関連SB0s②）		
	事前学修	「高度経済成長期」をキーワードとして文献・Web検索し要点を400文字程度でまとめておく。		120分
	事後学修	未完のワークシート「都市問題」について整理する。		120分
12	都市化と地域変容② 首都圏		首都圏の変容 東京の発展と諸課題	
	この回の 到達目標	首都圏における地域変容について事例をあげて説明できる。 東京の発展について説明できる。 再開発について検討できる。（関連SB0s②）		
	事前学修	事前に配布された時系列地図「東京の発展」について作業をすすめておく。		120分
	事後学修	「都市の再開発」について自分の見解を400文字程度でまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	都市化と地域変容③ 地方	地方の変容 人工改変による地域変容の問題 過疎化と高齢化	
	この回の到達目標	地方の地域変容について事例をあげて説明できる。 人工改変による地域変容の問題を指摘できる。 地方における過疎化・高齢化問題を議論できる。（関連SB0s②）	
	事前学修	事前に配布された時系列地図「人工改変展」について作業をすすめておく。	120分
	事後学修	「過疎化・高齢化」問題について自分の見解を400文字程度でまとめる。	120分
14	都市化と地域変容④ 郷土	郷土の変容 郷土の地域変容に伴う諸課題 郷土の将来構想	
	この回の到達目標	郷土の地域変容について紹介できる。 郷土の地域変容に伴う諸課題を指摘できる。 郷土の未来について提案できる。（関連SB0s②）	
	事前学修	「地図で読む郷土の変容」の主題でレポートを作成・提出する。（授業で報告）	180分
	事後学修	授業で報告された内容について整理する。自分のレポートの校正・修正。	60分
15	オンライン試験	授業内容の理解を問う試験（50分 100点） 授業の振り返り	
	この回の到達目標	SB0s①②③を評価するための試験に対して十分解答することができる。 授業を振り返り自己評価ができる。	
	事前学修	試験の準備。配布されたワークシートやノート類の総復習。	180分
	事後学修	答案の自己評価と授業の振り返り。	60分

科目名	地理学Ⅱ	担当者	品田 光春	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本における地理的諸課題の中から地域構造における地域的特色、歴史的発展過程を主要テーマとして授業を展開する。特に日本が劇的に変化した高度経済成長期以後の人工改変については時系列地図を用いて考察していく。併せて都市と農村、中央と地方などの関係や課題について検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の地域構造における地域的特色、歴史的発展過程を理解し検討することで地域を診断する能力を養う。また、地図を活用して地域の特徴や変容を見出す地域調査法を習得する。授業を通じて、地域を見る目、地域性を見い出す能力、地域を比較・検討する分析力を身に付ける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義資料（プリント）を中心とした講義形式。関連する動画教材も多用する。また、毎回の小テスト・課題についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の地域構造について地域的特色、歴史的発展過程を説明できる				2	2	2	2				
②	高度経済成長期以後における地域の変容について時系列地図を用いて説明できる。				2	2	2	2				
③	農業と工業、都市と農村、中央と地方の諸課題について比較・検討できる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③に関する基礎知識・技能が身についているかを、毎回の授業後の小テストまたは提出課題により評価する。	4	4	4	4	4						20
レポート等	到達目標①～③に関する基礎知識・技能が身についているかを、期末レポートにより評価する。	16	16	16	16	16						80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはgoogle classroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
shinada.mitsuharu11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、地理学とは何か	本授業の進め方、受講上の注意、地理学とは何かについて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、本授業の全体の内容や進め方、受講上の注意、地理学とは何かについて理解する。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理学の概要について調べる。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（地理学の学問的特性など）について復習する。	120分
2	日本の人口と社会	日本の人口分布の変遷と社会問題の特徴について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の人口分布の変遷と社会問題の特徴について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（過密、過疎など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の人口分布の変遷と社会問題の特徴など）について復習する。	120分
3	過疎地域	過疎地域について具体的事例をあげて、詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、過疎地域の地域問題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（過疎法など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（過疎地域の地域問題の特徴など）について復習する。	120分
4	日本の農業の概要と農業地域（1）米	日本の農業の概要と米作農業地域について具体的事例をあげて、詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の農業の概要と米作農業地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（米作農業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の農業の概要と米作農業地域の地域特性の変遷など）について復習する。	120分
5	日本の農業地域（2）畑作	日本の畑作農業地域について具体的事例をあげて、詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の畑作農業地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（畑作農業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の畑作農業地域の地域特性とその変遷など）について復習する。	120分
6	日本の農業地域（3）果樹	日本の果樹作農業地域について具体的事例をあげて、詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の果樹作農業地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（果樹作農業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の果樹作農業地域の地域特性とその変遷など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	日本の林業の概要と林業地域	日本の林業の概要と林業地域について具体的事例をあげて、詳しく解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の林業の概要と林業地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（林業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分	
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の林業の概要と林業地域の地域特性とその変遷など）について復習する。	120分	
8	日本の水産業の概要と水産業地域	日本の水産業の概要と水産業地域について具体的事例をあげて、詳しく解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の水産業の概要と水産業地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（水産業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分	
	事後学修	配布プリントの重要事項（本の水産業の概要と水産業地域の地域特性とその変遷など）について復習する。	120分	
9	日本の鉱業・エネルギー資源の概要	日本の鉱業・エネルギー資源の概要について詳しく解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の鉱業・エネルギー資源の概要について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（鉱業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分	
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の鉱業・エネルギー資源の概要など）について復習する。	120分	
10	日本の鉱業地域 産炭地域	日本の鉱業地域の事例として、産炭地域について詳しく解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、産炭地域の地域特性とその変遷について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（石炭産業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分	
	事後学修	配布プリントの重要事項（産炭地域の地域特性とその変遷など）について復習する。	120分	
11	日本のエネルギー資源地域 原子力発電	日本のエネルギー資源地域の事例として、原子力発電所が立地する電源地域について詳しく解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、原子力発電所の立地動向と電源地域の地域特性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（原子力発電など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分	
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本における原子力発電所の立地動向と電源地域の地域特性など）について復習する。	120分	
12	日本の工業の概要と工業地域（1）在来工業	日本の工業の概要と工業地域の事例として、在来工業について詳しく解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の工業の概要と在来工業の立地の実態について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（在来工業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分	
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の工業の概要と在来工業の立地など）について復習する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の工業地域（2）近代工業	日本の近代工業の立地と工業地域の形成について、具体的事例をあげて詳しく解説する。。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、日本の近代工業の立地と工業地域の形成について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（近代工業など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（日本の近代工業の立地と工業地域の特徴など）について復習する。	120分
14	日本の工業地域（3）企業城下町	企業城下町の特徴について具体的事例をあげて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、企業城下町形成のメカニズムとその特徴について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（企業城下町など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（企業城下町形成のメカニズムとその特徴など）について復習する。	120分
15	まとめと補足	授業全体のまとめと、授業内容の補足説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関して、前回までの全学習内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容を復習し、期末レポート作成の準備をする。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業全体の重要要事項について復習する。	120分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	35	35	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『人間が人間でなくなるとき』	岡山敬二	亜紀書房	2014	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
2	「人間らしさ」とは——心と身体をめぐって	前回ガイダンスの内容を確認したあと、「人間とは何か」という問いと哲学の問いの関係について、その意味を心と身体という点から考える。	
	この回の到達目標	「人間とは何か」という問いと哲学の問いとの関係性について、その意味を心と身体という点から理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
	事前学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて、心と身体という点から思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかについて、その意味を心と身体という点から確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	哲学的人間観の諸相	デカルトとニーチェ、この二人の哲学者を通して、哲学的人間観の代表的な諸相を比較、検討する。	
	この回の到達目標	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	デカルトやニーチェとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	「私」という存在	デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり（je pense donc je suis）」という命題について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	デカルトの哲学、とくに「われ思う、ゆえにわれあり」という命題の意味を調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	人間はどこまで動物か	動物における心や利害、言語能力のありようについて、その意味を考える。	
	この回の到達目標	動物における心や利害、言語能力のありようについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	人間と動物との違い、心や利害意識、言語能力とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	動物における心や利害、言語能力の有無について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	人間らしさの基準とは	人間存在に固有の言語と認識能力について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	言語とは、認識とは何かについて思い、考えることを整理しておくこと	90分
	事後学修	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人類（ホモ・サピエンス）の「心」の歴史	人類の心の歴史をたどりながら、動物の行動と人間の行動を比較し、その違いについて考える。	
	この回の到達目標	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ヒト（ホモ・サピエンス）の誕生について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについて、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
8	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについて考える。	
	この回の到達目標	人間と機械や動物との違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ここまでの講義内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについて、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	人間と機械や動物との違いについて、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
9	心と身体の違いについて——デカルトをめぐって	デカルトに始まる身心問題の歴史的背景を確認し、その意味について考える。	
	この回の到達目標	デカルトに始まる身心問題について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	心（精神）と身体（肉体）と物質の違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	デカルトに始まる身心問題について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
10	心と身体の間接点について——デカルトを超えて	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	心（精神）と身体（肉体）や物質とはどうつながるのかについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	デカルトの身心関係論の問題や限界について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
11	「生きられる身体」としての自己の身体へ	物体存在ではない、内面としての「私」によって裏打ちされた身体のあり方について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	内面としての「私」に裏打ちされた身体について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	物質と身体（肉体）との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	内面としての「私」に裏打ちされた身体について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
12	「世界内存在」としての身体——表現、表情をめぐって	身体の実現や表情という点から自己と他者との関係性について考える。	
	この回の到達目標	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	表情や表現とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「身体図式」とは一身体行動のなりたちをめぐって	感覚連合説の難点とゲシュタルトとしての「身体図式」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ゲシュタルトとしての身体図式について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	幻影肢という現象、ゲシュタルトという概念とはどういうものかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ゲシュタルトとしての身体図式について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
14	生きられた世界―日常生活へと巻き戻して	日常生活で経験される世界のありように照らし合わせ、フッサールの「生活世界」の意味と役割について考える。	
	この回の到達目標	生活世界と科学的、客観的な世界観との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	フッサールとはどういう哲学者であったのかを調べておくこと。日常生活の世界と科学的世界観との違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	生活世界と科学的、客観的な世界との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分
15	授業の全体の総括	授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。	
	この回の到達目標	人間と機械や動物との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	講義内容の全体を振り返り、人間と機械や動物との違いや関係について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	人間と機械や動物との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。	150分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	金子 佳司	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
毎回、授業の動画ファイルを配信しますが、それと同時に文書のファイルも配信しますので、まず、文書ファイルを読んで予習し、その上で動画の授業を受けてください。また、毎回、簡単な課題を出しますので、授業後には、授業内容を踏まえて課題に答え、提出してください。この課題の解答の提出をもって出席と見なします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回課す課題の解答の提出をもって評価する。	20	10	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解答については、必要がある場合には随時個々に、GoogleClassroom上でコメントする。また、定期試験の解説・講評を、後日、GoogleClassroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない。					
備考					

【オフィスアワー】
GoogleClassroomのコメント欄で随時受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	哲学について	「哲学とは何か」「哲学はいつ始まったのか」という問題を考える。	
	この回の到達目標	哲学という学問について理解する。	
	事前学修	このシラバス全体を読み授業の概要を理解する。また、予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
2	哲学史観について	アリストテレスの哲学史観を学ぶ。	
	この回の到達目標	哲学の歴史について理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
3	哲学の始まり (1)	ミレトス派の自然観を学ぶ。	
	この回の到達目標	最初の哲学と言われているミレトス派の人々の哲学を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
4	哲学の始まり (2)	ピュタゴラスとヘラクレイトスの自然観を学ぶ。	
	この回の到達目標	ミレトス派に続いて登場したピュタゴラスとヘラクレイトスの哲学を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
5	哲学の新たな展開	エレア派の考え方を学ぶ。	
	この回の到達目標	エレア派の哲学がそれまでの哲学とどのように異なるかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
6	エレア派の影響	エンペドクレスとアナクサゴラスの自然観を学ぶ。	
	この回の到達目標	エレア派の哲学がその後の哲学にどのように影響したかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	原子論の成立	レウキッポスとデモクリトスの原子論を学ぶ。	
	この回の到達目標	エレア派の哲学と原子論の関係を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
8	自覚的な哲学者の登場	ソフィストとソクラテスの思想を学び、哲学者とは何かを考える。	
	この回の到達目標	ソフィストとソクラテスの考え方や生き方の違いを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
9	イデア論	プラトンがなぜイデア論を唱えるようになったかを考える。	
	この回の到達目標	プラトンのイデア論を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
10	プラトン哲学	プラトンのイデア論に基づく世界観を学ぶ。	
	この回の到達目標	イデア論の基づくプラトンの哲学を理解する。	
	事前学修	上記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
11	アリストテレス哲学 (1)	アリストテレスの世界観を学ぶ。	
	この回の到達目標	アリストテレス哲学における世界観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
12	アリストテレス哲学 (2)	アリストテレスの人生観を学ぶ。	
	この回の到達目標	アリストテレス哲学における人生観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヘレニズム時代の哲学(1)	エピクロスの快楽主義を学ぶ。	
	この回の到達目標	エピクロスの快楽主義とその背後にある世界観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
14	ヘレニズム時代の哲学(2)	ストア派の禁欲主義を学ぶ。	
	この回の到達目標	ストア派の禁欲主義とその背後にある世界観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
15	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
	この回の到達目標	この授業全体を振り返って、古代ギリシア哲学の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	哲学Ⅰ	担当者	江川 晃	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オンデマンド動画による講義。10回の小課題（5点）を出します。その内容は授業のまとめです。感想・意見・質問等は自由にお書きください。必ず期日内に提出してください。次回、それをもとに授業を進めていきます。哲学レポートの書き方も指導します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の最後に質問・意見・感想等を記入すること。翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、レポートにより評価する。	20	20	10								50
小テスト等	小課題（5点×10回＝50点）Googleclassroomから提出のこと！	50										50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	20	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題は翌週の授業にてコメントします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文書プリント、パワポ動画を配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日1限、授業終了後Googleclassroomにて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	予備校の経営、講師、生徒指導、家庭訪問、進路指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		予備校にて、高校の現代国語、倫理社会の授業担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	「哲学」という語が、日常使われる場合と学問として使われる場合の相違に関して考えてみる。 なぜ人類にとって、哲学が必要なのかを考えてみる。 前期・後期の内容を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①についてスケッチを描けるようになる。	
	事前学修	シラバスを読んでこよう。	120分
	事後学修	配布プリントの復習。	120分
2	「哲学」とは何か	日本において「哲学」という語がいつできたか。 それは何を意味したのか。	
	この回の到達目標	「哲学」という語の語源と意味を理解する。	
	事前学修	プリントを読んでくること。	120分
	事後学修	「哲学」という語の語源と意味を復習する。	120分
3	ギリシアの自然哲学 1	ミレトス学派とピュタゴラス学派、ヘラクレイトスとパルメニデス学派の相違。	
	この回の到達目標	自然哲学とは何かについて理解する。	
	事前学修	プリントを読んで、ギリシアの自然哲学の流れを把握してくること。	120分
	事後学修	哲学発生の意義の理解。	120分
4	ギリシアの自然哲学 2	エンペドクレスの生きる自然とデモクリトスの死せる自然	
	この回の到達目標	到達目標③各思想の対比。	
	事前学修	プリントを読んでく、エンペドクレスの意義について把握してくること。	120分
	事後学修	タレスからデモクリトスまでの流れを理解する。	120分
5	ソクラテス	ソクラテスの対話の真意とは何か。	
	この回の到達目標	到達目標②ソクラテス哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	ソクラテスについてのプリントを読んでくること。	120分
	事後学修	ソフィスト、徳の定義について把握。	120分
6	プラトン	プラトンの想起説と魂の不死。	
	この回の到達目標	到達目標②プラトン哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	プラトンについての配布プリントを読んでくること。	120分
	事後学修	「イデア」を具体的に説明できるように復習しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	アリストテレス		アリストテレスの自然学と形而上学
	この回の到達目標	アリストテレス哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	アリストテレスとは誰だ。	120分
	事後学修	「存在論」とは何か。	120分
8	科学革命		コペルニクス・ケプラー・ガリレオ・ニュートンの反アリストテレス主義。
	この回の到達目標	科学革命における宗教・哲学・科学について関連させ説明できる。 到達目標③科学革命における自然哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
	事前学修	天動説と地動説を調べる。	120分
	事後学修	科学革命の構造の理解。	120分
9	デカルトの哲学		デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」
	この回の到達目標	到達目標②デカルト哲学の立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	プリントを讀んでくること。	120分
	事後学修	デカルトの「精神と物質の二元論」を説明できるようにしておこう。	120分
10	F. ベーコン		種族イドラ・洞窟のイドラ・市場のイドラ・劇場のイドラ
	この回の到達目標	到達目標②ベーコンの経験論の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	プリントを讀んでくること。	120分
	事後学修	「イドラ」とは何かを説明できるように復習しよう。	120分
11	カント		カントの哲学
	この回の到達目標	到達目標②カント哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	「コペルニクスの転回」とは何か。	120分
	事後学修	「純粋理性」とは。	120分
12	キルケゴール 1		キルケゴールの実存主義
	この回の到達目標	到達目標②キルケゴールの実存主義の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	レギーネとの恋物語について調べていこう。	120分
	事後学修	「血の騒ぐもの」と「実存」	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	キルケゴール 2	実存の三段階(美的実存・倫理的実存・宗教的実存)	
	この回の到達目標	キルケゴールの実存主義の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	実存の進化。	120分
	事後学修	人生にとっての「挫折」の意義をオオ考えよう。	120分
14	哲学のレポート	哲学レポートの書き方（まとめ）	
	この回の到達目標	哲学のレポートを書き方を理解する。	
	事前学修	どのレポート課題を選択するか考えてこよう。	120分
	事後学修	書き始める。	120分
15	レポート提出 まとめ	授業補足と前期レポート提出	
	この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
	事前学修	レポートの完成・提出と解説。	120分
	事後学修	反省。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評・解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	35	35	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『人間が人間でなくなるとき』	岡山敬二	亜紀書房	2014	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス/「哲学とは何か」		ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め、履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
2	「人間らしさ」とは一時間と死をめぐって		前回ガイダンスの内容を確認したあと、「人間とは何か」という問いと哲学の問いの関係について、その意味を時間と死という点から考える。	
	この回の到達目標	「人間とは何か」という問いと哲学の問いとの関係性について、その意味を時間と死という点から理解し、説明することができる。：関連SB0s①②		
	事前学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて、時間や死という点から思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかという意味について、時間と死という点から確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
3	時間とは何か		時間（現在・過去・未来）の存在の不思議さとその意味について考える。	
	この回の到達目標	時間の存在の矛盾や不思議さについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	時間の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	時間の存在の矛盾や不思議さについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
4	時間の見方——アリストテレスとアウグスティヌスをめぐって		アリストテレスとアウグスティヌスの時間論を比較し、その違いの意味について考える。	
	この回の到達目標	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	アリストテレスやアウグスティヌスとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
5	現象学の視点——フッサールをめぐって		フッサールをはじめとする現象学の時間論を考察する準備として、「現象学的還元」という方法の意味について考える。	
	この回の到達目標	「現象学的還元」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	フッサールとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	「現象学的還元」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
6	「内的時間意識」の諸相——フッサールの時間論をめぐって		フッサールの時間論の「把持」と「予持」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	フッサールのいう「把持」と「予持」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	フッサールの時間論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	フッサールのいう「把持」と「予持」について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	積み重なる時間——メルロ=ポンティをめぐって		メルロ=ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	メルロ=ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	メルロ=ポンティとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	メルロ=ポンティの時間論の「現在野」について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
8	授業の前半部の総括		授業の前半部の内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について考える。	
	この回の到達目標	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ここまでの講義内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
9	死とは——人間と死		人間存在と死の問題の関係について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	人間存在と死の問題の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	生と死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	人間存在と死の問題の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
10	魂は不死なのか		形而上学的不死思想（プラトンなど）について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	形而上学的な死生観について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	死後の世界、魂の不死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	形而上学的な死生観について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
11	死は悪なのか		非形而上学的死生観（エンペドクレス、ソクラテスなど）について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	死の善と悪について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	死の悪について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	死の善と悪について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
12	死と時間——エピクロスをめぐって		エピクロスの死生観を確認し、死と時間意識の関係について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	死と時間意識の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	死と時間の関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	死と時間意識の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	死と存在——ハイデガーをめぐって		ハイデガーの存在論にとっての死の問題の意味と役割について考える。	
	この回の到達目標	存在論と死の問題の関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ハイデガーとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	存在論と死の問題の関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
14	時間と運命——ハイデガーの時間論をめぐって		ハイデガーの時間論における「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ハイデガーのいう「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	運命や縁の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ハイデガーのいう「本来的時間性」と「非本来的時間性」との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分
15	授業の全体の総括		授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。	
	この回の到達目標	人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	講義内容の全体を振り返り、人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	人間存在と時間や死の問題との関係について、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。		150分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	金子 佳司	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
毎回、授業の動画ファイルを配信しますが、それと同時に文書のファイルも配信しますので、まず、文書ファイルを読んで予習し、その上で動画の授業を受けてください。また、毎回、簡単な課題を出しますので、授業後には、授業内容を踏まえて課題に答え、提出してください。この課題の解答の提出をもって出席と見なします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。								2	2			
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回課す課題の解答の提出をもって評価する。	20	10	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解答については、必要がある場合には随時個々に、GoogleClassroom上でコメントする。また、定期試験の解説・講評を、後日、GoogleClassroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない。					
備考					

【オフィスアワー】
木曜日午後 希望者は授業教室にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	近代哲学について	哲学は近代になって西ヨーロッパで大きく変化したが、その変化とその影響について考える。	
	この回の到達目標	近代哲学は新たなものとして西ヨーロッパで生まれ、その後「近代化」の名のもとに全世界に大きな影響を与えたことを理解する。	
	事前学修	このシラバス全体を読み、教科書を使って授業の概要を理解する。また、予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
2	近代哲学成立の歴史的背景	中世の崩壊と宗教改革、およびルネッサンスについて学ぶ。	
	この回の到達目標	どのような歴史的経緯を経て、西ヨーロッパで近代哲学が生まれたかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
3	「科学革命」の時代	17世紀の西ヨーロッパで世界観が大きく変化したことを学ぶ。	
	この回の到達目標	17世紀の西ヨーロッパで生まれた近代哲学が「新しいもの」であることを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
4	デカルト哲学の原点	デカルトの「我思うゆえに我あり（＝私は思考する、だから私は存在する）」という言葉が何を意味するかを考える。	
	この回の到達目標	デカルトの「我思うゆえに我あり（＝私は思考する、だから私は存在する）」の哲学的な意味を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
5	デカルトの世界観	デカルトの物心二元論の世界観とその問題点を考える。	
	この回の到達目標	デカルトの物心二元論の世界観の内容を理解し、そこに心身問題があることを理解する。また、その心身問題をスピノザが心身並行論で解決しようとしたことも理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
6	ホッブズ哲学	ホッブズの唯物論的な世界観と社会契約説を学ぶ。	
	この回の到達目標	ホッブズの世界観と国家観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ロックの認識論	ロックの経験主義に基づく認識論を学ぶ。	
	この回の到達目標	経験主義に基づくどのような認識論が成立するかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
8	バークリーとヒュームの認識論	経験主義に基づく認識論を徹底させたバークリーとヒュームの認識論を学ぶ。	
	この回の到達目標	経験主義に基づいて認識論を徹底するとどうなるかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
9	フランス啓蒙主義と産業革命	フランス啓蒙主義について学び、それと産業革命との関係を考える。	
	この回の到達目標	フランスに始まる啓蒙主義の思想とはどのようなものであり、それが産業革命とどのような関係にあるかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
10	カントの認識論	ロックらのイギリス経験主義の認識論の問題を踏まえながらも、デカルトらの理性主義（合理主義）も継承したカントの認識論を学ぶ。	
	この回の到達目標	人間の認識の成立には、経験だけではなく、経験に基づかないもの（アприオリなもの）をも必要とすることを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
11	カントの道徳論	カントの幸福主義批判と彼の「義務」に基づく道徳論を学ぶ。	
	この回の到達目標	カントが幸福主義を批判した理由と「義務」を尊重した理由を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
12	ヘーゲル哲学	ヘーゲルの観念論的世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。	
	この回の到達目標	ヘーゲルの「絶対者」と弁証法を理解し、それらに基づく歴史観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	マルクス哲学		マルクスの唯物論的世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。
	この回の到達目標	ヘーゲルから弁証法を継承しながらも、ヘーゲルとは異なり唯物論を唱えたマルクスの歴史観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
14	サルトルの実存主義		サルトルの「実存は本質に先立つ」「人間は自由の刑に処せられている」という言葉の意味を考え、実存主義に基づく人生観を学ぶ。
	この回の到達目標	サルトルの実存主義に基づく人生観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
15	総まとめ		授業の総まとめと理解の確認
	この回の到達目標	この授業全体を振り返って、近代哲学の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	哲学Ⅱ	担当者	江川 晃	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
古代ギリシアから現代に至るまでの哲学のなかで主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「哲学とは何か」というテーマを軸に、人間存在のなりたち、人間と自然や社会、文化との関係性について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる哲学的視野を身につけるために、哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な哲学的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オンデマンド動画による講義。10回の小課題（5点）を出します。その内容は授業のまとめです。感想・意見・質問等は自由にお書きください。必ず期日内に提出してください。次回、それをもとに授業を進めていきます。哲学レポートの書き方も指導します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題に質問・意見・感想等を記入すること。翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	哲学の根本問題をめぐる立場や方法、概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。								2	2			
③	様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	20	20	10								50
小テスト等	小課題（5点×10回＝50点）	20	20	10								50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題は翌週の授業にてコメントします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文書プリント、パワポプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日1限、授業終了後, googleclassroomにて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	予備校の経営、講師、生徒指導、家庭訪問、進路指導。
実務経験に基づく実践的教育の内容		予備校にて、高校の現代国語、倫理社会の授業担当。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	プラグマティズム 1	「信念は行動の規則」である。	
	この回の到達目標	到達目標②パースの哲学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	C. S. パースとはだれか。	120分
	事後学修	疑念、信念、習慣、行動を関連付ける。	120分
2	プラグマティズム 2	信念の固め方は4つある。固執の方法・権威の方法・先天的方法・科学的方法。	
	この回の到達目標	到達目標②パースのプラグマティズムの主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	探究とは何か。プリントを読んでおこう。	120分
	事後学修	4つの信念の固め方。	120分
3	情報は記号である	情報記号論：シネマ“MATRIX”の哲学	
	この回の到達目標	到達目標②パースの記号論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	シネマ“MATRIX”を見よう。	120分
	事後学修	VRと“MATRIX”の関係。現実とは何か。	120分
4	構造主義 1	メディアはその下位に神話作用を持っており、われわれはそれにより支配される。	
	この回の到達目標	到達目標②バルト哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	ロラン・バルトとはだれか。	120分
	事後学修	メディアの裏に隠された意図を知る。	120分
5	構造主義 2	モードは服であるが、言語として説明ができるのだ！	
	この回の到達目標	到達目標②バルトのモード論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	流行とは何か。	120分
	事後学修	言語として流行を見る。	120分
6	分析哲学 1	ウィトゲンシュタインの「事実の像が命題だ！」	
	この回の到達目標	到達目標②ウィトゲンシュタインの写像理論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	ウィトゲンシュタインとは誰だ。（2時間）	120分
	事後学修	「写像理論」と「語りえぬもの」（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	分析哲学 2		「なぜ古い非科学なのか」ポパーの反証理論を考える。
	この回の到達目標	到達目標②ポパーの反証理論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	カール・ポパーとは誰だ。	120分
	事後学修	「反証可能なものこそ科学だ！」	120分
8	言語行為論		日常言語学派「話すことは同時に3つの行為をしている」について考える。
	この回の到達目標	到達目標②オースティンの言語行為論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	A. J. オースティンとは誰だ。	120分
	事後学修	発語行為、発語内行為、発語媒介行為の理解。	120分
9	心の哲学 1		心は脳にあるのか
	この回の到達目標	到達目標②「心脳同一説」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	心はどこにあるか。	120分
	事後学修	「心脳同一説」の批判。	120分
10	心の哲学 2		ロボットに心はあるのか
	この回の到達目標	到達目標②心の哲学における「機能主義」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	AIは心を持つか。	120分
	事後学修	「機能主義」の理解。	120分
11	脳神経科学を哲学する		「脳倫理」の試み
	この回の到達目標	到達目標②道徳的判断を脳の中の機能の求める「脳倫理」の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	プリントを讀んでくること。	120分
	事後学修	「脳」に責任はあるか。	120分
12	われわれに「自由意思」はあるのか		われわれが決定する前に、脳が行動をすでに決定している。
	この回の到達目標	到達目標②「脳倫理」の自由意志論の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	B. リベットの実験とは。	120分
	事後学修	「脳倫理」とは。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	iPS細胞の哲学	生命科学と哲学：iPS細胞は人類に幸福をもたらすか？	
	この回の到達目標	到達目標②iPS細胞の哲学の方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。	
	事前学修	iPS細胞とは何か。	120分
	事後学修	再生医療の哲学	120分
14	レポート指導 2	哲学レポートの書き方 2（まとめ）	
	この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
	事前学修	課題を決めること。	120分
	事後学修	書き始めよう。	120分
15	試験と解説	授業補足と期末レポート提出	
	この回の到達目標	到達目標③様々な哲学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。	
	事前学修	レポートの完成・提出と解説。	120分
	事後学修	反省。	120分

科目名	統計学 I	担当者	荒関 仁志	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データを整理・要約するための記述統計を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、記述統計の諸概念を正確に理解し、データから適切な仕方て情報を引き出す能力を修得する。

【履修条件】
各自が自由に使えるパソコンがご自宅にあること。また、利用可能なパソコンにはエクセルがインストールされていることを履修の条件とします。

【授業方法】
事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業では講義ノートパワーポイントを使って授業を行い、各授業の最後に確認のための簡単なレポートを提出と、不定期で課題レポートの提出を課します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回のレポート課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。						2	2					
②	記述統計の基礎を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。						2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。							2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、記述統計による適切な分析を通して社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題は、翌週の授業内で議論および回答を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ファーストブックシリーズ統計学がわかる	向後千春, 富永敦子	技術評論社	2007年		
備考					

【オフィスアワー】
授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内（一部金曜4限、二部金曜1限）で行うか、以下のメールでご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。araseki.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【統計の基礎】	統計と確率の関係について講義を行います。 特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を講義で明らかにします。また、指定教科書についての説明も行います。さらに、各自のパソコンのエクセルで「データ分析」が使えるようにするための設定手順も合わせて講義します。	
	この回の到達目標	法学部における統計理解の重要性を理解する。 また、確率・統計には不確実性が含まれており、その解釈が重要になることを理解する。	
	事前学修	統計に関する各自の考えをまとめてください。 これに関しては、授業内で確認レポートとして皆さんに解答してもらいます。	120分
	事後学修	今日の授業ノートを再度読み返し、統計に関する各自の考えをまとめてください。	120分
2	【データの平均と分散】	平均と分散、特に分散についての重要性について講義します。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について講義を行います。	
	この回の到達目標	統計にいける平均神話の不確実性と、分散の重要性を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第1章を熟読してください。特に、「1-1 平均を調べる」と「1-2 度数分布」については、各自理解をして授業に臨んでください。（2時間）	120分
	事後学修	確認レポートで提出した「統計処理手順」を、再度自宅のパソコンで計算できるようにしてください。（2時間）	120分
3	【統計分布】	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理	
	この回の到達目標	統計における統計分布の重要性を理解する。 また、統計における「大数の定理」と「中心極限定理」を理解する。	
	事前学修	今日の授業で講義を行い、下記の単語を予めインターネットなどで調べてください。 ・正規分布 ・大数の定理 ・中心極限定理	120分
	事後学修	統計処理における「データの正規性」が重要な役割を果たします。 データの正規分布と中心極限定理が密接な関係にあることを理解し、身の回りの正規分布を示すデータを探してみてください。	120分
4	【仮説検定】	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができます。この信頼区間に考えが、有意差検定の基本であることを講義します。	
	この回の到達目標	仮説検定の基本的考えである、統計分布の信頼区間と棄却域を理解する。	
	事前学修	指定教科書第2章を熟読して下さい。	120分
	事後学修	この区間推定と信頼区間（と棄却域）は、有意差検定の根幹を成す考えですので、再度講義ノートを確認してください。	120分
5	【仮説検定の実際】	有意差検定の考え方の基本を講義します。 第4回に講義した「信頼区間」との関係を講義します。 また、有意差検定の考え「帰無仮説」や「対立仮説」についても講義します。	
	この回の到達目標	仮説検定における「帰無仮説」を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第3章の「3-1」を熟読してください。 また、先週講義した「信頼区間」についても再度確認しておいてください。	120分
	事後学修	今日の授業が、統計Ⅰの要となります。 「統計分布」と「信頼区間」の考えが重要なつながりがあることを再確認してください。	120分
6	【カイ2乗検定の数理】	カイ2乗検定の考え方を講義します。 有意差検定の最も基本になる考えを、このカイ2乗検定を使って具体的に説明します。	
	この回の到達目標	カイ2乗検定の基本となった数学を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第3章「3-2」と「3-3」を熟読してください。	120分
	事後学修	カイ2乗検定を理解してください。特に、授業内レポートについて再度確認をしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【カイ2乗検定の計算】	カイ2乗検定の計算の実際を講義します。 特に、実際のデータを使って、カイ2乗検定の具体的な計算方法の手順を講義します。	
	この回の到達目標	実際のデータを利用して、カイ2乗検定処理を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第3章「3－4」を熟読してください。特に計算について理解をしてください。	120分
	事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
8	【対応のないt検定の数理】	有意差検定で、最も利用されている「t検定（対応なし）」の考え方を講義します。 特に、正規分布とt分布、その信頼区間の関係について詳しく講義します。	
	この回の到達目標	対応のないt検定の数学的理解を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第4章を熟読してください。 特に、計算方法について理解をしてください。	120分
	事後学修	次回の課題レポート課題に関係しますので、必ず「t検定」の仕組みを理解してください。	120分
9	【対応のないt検定の計算】	実際のデータを使った「t検定（対応なし）」の計算方法について講義します。計算の手順と、エクセルにおける「データ分析」を使った計算方法も講義します。その上で、計算結果の解釈方法も講義します。また、「t検定（対応なし）」の前提条件である「等分散性」についても説明します。	
	この回の到達目標	「対応のないt検定」の計算と、その前提となる「等分散検定」を理解する。	
	事前学修	第8回の講義内容と指定教科書第4章を再度読み返してください。	120分
	事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。）	120分
10	【対応のあるt検定の数理と計算】	実際のデータを使った「t検定（対応あり）」を使った計算方法も講義します。その上で、計算結果の解釈方法も講義します。さらに、第9回講義に「t検定（対応なし）」との違いについても講義します。	
	この回の到達目標	対応のあるt検定の数学的な理解と計算ができる。	
	事前学修	指定教科書第5章を再度読み返してください。	120分
	事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
11	【分散分析の数理】	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を講義します。 特に「t検定」との違いと、「分散分析」の考え方を講義します。 特にF分布とF値の考えを理解することを目的とします。 また、分散分析の前提条件である等分散性についても講義します。	
	この回の到達目標	分散分析の数学的構造を理解する。	
	事前学修	指定教科書第6章を熟読してください。	120分
	事後学修	F分布の成り立ちと信頼区間との関係を確認してください。 この理解は、第12回以降の講義に必須です。	120分
12	【1要因分散分析の数理と計算】	実際のデータを使った「分散分析（1要因）」についての計算方法を講義します。 特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順についても解説します。	
	この回の到達目標	1要因の分散分析の数学的仕組みを理解する。	
	事前学修	指定教科書第6章を再度読み返してください。	120分
	事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【2要因分散分析の数理と計算】	「分散分析(2要因)」について「分散分析(1要因)」との違いについて講義を行います。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について詳しく説明します。	
	この回の到達目標	2要因分散分析の計算方法と交互作用について理解する。	
	事前学修	指定教科書第7章を熟読してください。 特に「交互作用」について理解してください。	120分
	事後学修	「分散分析(2要因)」の仕組みと「交互作用」について理解してください。 この理解は、第12回以降の講義に必須です。	120分
14	【2要因分散分析の数理と計算と交互作用の計算】	実際のデータを使った「分散分析(2要因)」についての計算方法を講義します。 特に「交互作用」について詳しく説明します。	
	この回の到達目標	2要因分散分析の計算方法と交互作用についての実際の計算方法を理解する。	
	事前学修	指定教科書第7章を再度読み返してください。	120分
	事後学修	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して 指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。	120分
15	【仮説検定のまとめ】	総復習として、半年間行った講義内容を、データ分析の立場から講義します。 この講義によって、統計分析の適用範囲を正しく理解することを目指します。 まとめ及び振り返り。	
	この回の到達目標	本講座で理解した統計処理が、どのようなフィールドで利用可能かを理解する。	
	事前学修	今まで講義について、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。	120分
	事後学修	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。	120分

科目名	統計学Ⅱ	担当者	荒関 仁志	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代社会における学術研究や政策立案の過程では、データの統計分析が必須となる。この授業では、データ分析とこれに基づいた意思決定に必要な統計学の基礎として、データからその背後にある構造について推論する統計的推測の方法を中心に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会的事象を科学的方法によって理解するため、統計学の目的と役割を踏まえ、統計的推測の原理を正確に理解し、データをもとに適切な仕方 で統計的推測を行う能力を修得する。

【履修条件】
統計Ⅰを受講していること。また、各自が自由に使えるパソコンがご自宅にあること。なお、利用可能なパソコンにはエクセルがインストールされていることを履修の条件とします。

【授業方法】
事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業では講義ノートパワーポイントを使って授業を行い、各授業の最後に確認のための簡単なレポートを提出と、不定期で課題レポートの提出を課します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、レポート課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	統計分析の目的と方法について説明できる。					2	2					
②	統計的推測の方法を正しく理解し、これをデータ分析に適用できる。					2	2					
③	社会的データの統計分析を元に、社会の現状について議論を展開できる。						2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、関連する知識が身についているかどうかを小テスト等によって評価する。	50										50
レポート等	到達目標②③について、授業内外での課題遂行等によって、適切な統計的推測に基づいて社会に関する議論を展開する力が身についているかどうかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題は、翌週の授業内で議論および回答を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ファーストブックシリーズ統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】	向後千春, 富永敦子	技術評論社	2008年		
備考					

【オフィスアワー】
授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内（一部金曜4限、二部金曜1限）で行うか、以下のメールでご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。araseki.hitoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【多変量解析の基礎】	本講義で行う「多変量解析」について講義を行います。 指定教科書について解説します。 また、各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても説明します。	
	この回の到達目標	法学における「多変量解析」の重要性を理解する。	
	事前学修	多変量解析について、各自インターネットで調べておいてください。	120分
	事後学修	第2回の講義までに各自のパソコンの設定を確認してください。	120分
2	【散布図と相関】	教科書の例題を参考に、データに構造を表す「散布図と相関」について講義します。 特に、データ間に関係がデータ解析に重要な要素であることを理解します。	
	この回の到達目標	散布図の作り方と相関の重要性を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第1章を熟読してください。	120分
	事後学修	様々なデータに関する散布図を作成し、その背景にある相関関係を調べてください。	120分
3	【相関係数の計算】	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について解説し、その計算方法を説明します。また、偏差積についても講義します。	
	この回の到達目標	相関係数の数理と計算方法を理解する。	
	事前学修	指定教科書に第3章を熟読してください。	120分
	事後学修	相関係数の計算方法を確認してください。その場合、指定教科書の確認テストを計算することをお勧めします。	120分
4	【無相関検定の数理】	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について講義します。 この「無相関検定」を行う場合には、前期で学習した「有意差検定」を利用することを解説します。	
	この回の到達目標	無相関検定の数理を理解し、かつ、無相関検定の問題点を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第3章を熟読してください。 また、統計Ⅰで講義した「有意差検定」について確認してください。	120分
	事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
5	【回帰分析の数理】	講義では「回帰分析」の考え方を講義します。特に計算の要となる「最小二乗法」について詳しく説明します。	
	この回の到達目標	回帰分析の数理を理解し、その適用範囲を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第4章を熟読してください。	120分
	事後学修	回帰分析は何を計算できるのかを理解してください。特に、データからの推測が可能な統計処理であることを理解してください。	120分
6	【単回帰分析の数理】	本講義では、実際のデータを使った「単回帰分析」についての具体的な計算方法について講義します。また、この単回帰分析と相関係数との関係についても解説します。	
	この回の到達目標	単回帰分析の数理を理解し、実際の計算方法を習得する。 その上で、回帰分析の結果の妥当性を検証するための「決定係数」について理解する。	
	事前学修	指定教科書の第4章を再度読んでください。	120分
	事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【偏相関係数の数理と計算】	ここでは「偏相関」についての考え方と、その数学的意味を講義します。また、「偏相関」の計算方法についても解説します。	
	この回の到達目標	偏相関係数の仕組みを理解し、偏相関係数の計算方法を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第5章を熟読してください。（2時間）	120分
	事後学修	偏相関の考えは少々複雑で理解し難いので、必ず「確認テスト」を計算して、偏相関の理解を確実にしておいてください。（2時間）	120分
8	【重回帰分析の数理】	ここでは「重回帰分析」の考え方と計算方法を講義します。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について詳しく講義します。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても解説します。	
	この回の到達目標	重回帰分析の数理を理解する。その上で「多重共線性」などの問題点について理解する。	
	事前学修	指定教科書の第6章を熟読してください。	120分
	事後学修	「重回帰分析」の考え方を理解してください。必要なら「確認テスト」で各自確認をしてください。	120分
9	【重回帰分析の計算】	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を講義します。ここでは1ステップずつの計算方法を説明し、その後でエクセルの「データ分析」を使った計算方法も説明します。	
	この回の到達目標	重回帰分析の実際の計算方法を理解する。また、その計算結果の妥当性を検証する方法を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第6章を再度読んでおいてください。	120分
	事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
10	【相関行列の意味】	多変量解析における「相関行列」について講義します。第3回の講義で説明した「相関」との関係性を解説し、「相関行列」の利用方法を解説します。	
	この回の到達目標	相関行列と偏相関行列の計算方法を理解し、それらの意味について理解する。	
	事前学修	指定教科書の第7章を熟読してください。	120分
	事後学修	第7章の「確認テスト」を各自解答し、「相関行列」を理解してください。	120分
11	【主成分分析の数理】	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを説明します。また、主成分分析では何が分るのかも説明します。	
	この回の到達目標	主成分分析の理解を行い、かつ、本分析の適用範囲を理解する。	
	事前学修	「主成分分析」は、指定教科書にはありません。事前に「資料」を配布しますので、それを熟読してください。	120分
	事後学修	配布資料を使って、実際の計算方法を理解してください。	120分
12	【主成分分析の計算】	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を解説します。授業内で課題を出しますので、それを回答することで各自主成分分析の計算方法を確認します。	
	この回の到達目標	主成分分析を実際のデータに適応して計算することを理解する。また、計算結果の解釈ができることを目的とする。	
	事前学修	配布資料と指定教科書の第8章を再度読んでください。	120分
	事後学修	どのような時に、主成分分析を使うかを各自理解してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【因子分析の数理】	「因子分析」の考え方を講義します。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法も解説します。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても解説します。また、「主成分分析」との違いも解説します。	
	この回の到達目標	因子分析と主成分分析との違いを理解する。 かつ、因子分析の応用範囲を理解する。	
	事前学修	指定教科書の第8章を熟読してください。	120分
	事後学修	因子分析の理解自体は難しくありませんが、その計算方法が非常に面倒ですので、不明な点などがありましたら、再度教科書を読んで確認してください。	120分
14	【因子分析の計算】	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に、手順を追って計算方法を講義します。また、因子分析の解釈の方法も合わせて解説します。	
	この回の到達目標	因子分析を具体的なデータに適用して、計算方法を理解する。 また、計算結果の解釈をが正しくできることを目的とする。	
	事前学修	指定教科書の第8章を再度読んでください。	120分
	事後学修	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。	120分
15	【まとめ】	総復習として、半年間行った講義内容を、多変量解析の立場から講義します。この講義によって、多変量解析の適用範囲を正しく理解することを目指します。 まとめ及び振り返り。	
	この回の到達目標	本授業で理解した統計処理がどのような分野に適応されるかを正しく理解できることを目的とする。	
	事前学修	今まで講義について、多変量解析において、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。	120分
	事後学修	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。	120分

科目名	日本の近現代Ⅰ	担当者	大岡 聡	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
19世紀後半における日本の国民国家形成過程とその問題点を学習する。①日本は欧米諸国との関係でどのような道を選び取ったのか、それはアジアとの関係にどのような影響を与えたか、②日本が選び取った道筋は、その後の日本の歩みにどのような刻印を与えたのか、③近代社会の形成は、ふつうの人びとの生き方や価値観にどのような変化を与えたか、そのことの持つ意味は何か。これらの問いを受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の近代社会の形成過程やその特質を学び、「近代」の意味を考えることは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄である。本講義はそれらについて基本的な認識を獲得するために行われる。基礎的な歴史的事項の習得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的に分析する力をつけ、その歴史的意義や問題点を発見したり、国際比較の中で日本の近代の特質を理解すること、そして獲得した認識を論理的に説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
到達目標と無関係なので、課外活動やオリンピックを理由とする不勉強や欠席に特別な配慮はしない。履修者過多の場合は履修制限する。

【授業方法】		
毎回レジュメと史料を配布し、パワーポイントを用い、それに沿って講義する。配布の史料の他、写真、音声、映像などの教材も使用する。講義中に授業内課題を課すので期日までに提出する。また講義中の発問について自分なりの答えを積極的に考えてほしい。教材の配布、受講生への連絡、課題の提出はすべてClassroomを通じて行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題・リアクションペーパー	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の国民国家形成過程に関わる基本的な事象や概念について論理的に説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、19世紀の世界との関わりで日本の近代の特質とその問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述できる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、中間・期末課題により評価する。	15	15	10								40
小テスト等												
レポート等	講義内容を補完する書物、または博物館見学に関わるレポートにより、到達目標①②に関わる学習内容の深化の度合いを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業内課題により講義内容の理解度を評価すると同時に、授業への能動的参加の度合いを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をClassroomで発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の200年（新版）	アンドルー・ゴードン	みすず書房	2013	参考書	推奨
幕末・維新	井上勝生	岩波新書	2006	参考書	推奨
民権と憲法	牧原憲夫	岩波新書	2006	参考書	推奨
日清・日露戦争	原田敬一	岩波新書	2007	参考書	推奨
備考	教科書は使用しない。読書リストは講義中に配布する。なお中学校歴史教科書又は高校日本史教科書を予習用教材とする。出版社は問わない。				

【オフィスアワー】
火曜 16:20～17:30。事前にアポイントを取ることが望ましい。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立歴史民俗博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史の編さん・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的史料の保存・公開はもちろん、公文書の作成・保存・公開がいかに重要であるかについて示唆を与える。特に史料・公文書の汚損・隠蔽・改ざんがいかに犯罪的であるかについての理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって／日本の「近代」とは	前半では、①教養とは何か、歴史を学ぶとはどういうことか ②講義概要と視点、目標 ③評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では教科書記述の比較などを踏まえながら、日本史上の「近代」という時代区分について考える。	
	この回の到達目標	本講義の内容を理解する。「近代」という時期区分についての基本的理解を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	120分
	事後学修	ガイダンス資料をよく読んで、履修を検討する。プリントや講義中のメモに沿って。講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	幕末の社会情勢と幕藩体制の危機	19世紀前半の社会情勢について、正統性の危機という観点から考察する。	
	この回の到達目標	19世紀前半の社会変動の基本的性格について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回配布資料とシラバスを熟読する。 江戸時代の支配のしくみについて、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
3	「開国」の歴史的意義	近世の対外関係の特質と「外患」の世界史的な背景を踏まえながら、「開国」の歴史的意義について考える。	
	この回の到達目標	「開国」の歴史的意義について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 「鎖国」や「開国」について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
4	公論・尊王・世直し	「開国」後の幕藩体制の危機と、それを克服しようとする諸政治構想について考察する。	
	この回の到達目標	「開国」後の政治社会情勢と、当該期の危機を克服しようとする諸政治構想について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 「開国」後の社会情勢について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
5	「国民」になるということ	明治の日本が直面した国民国家形成という課題について考える。	
	この回の到達目標	国民国家概念の習得の上に、明治の諸改革を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。「国民」とは何か？ 自分なりの答えを考えておく。 明治初期の諸政策について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
6	文明開化論 ——対外的自立と＜文明化＞	対外的自立という課題との関係で＜文明化＞に関わる明治政府の政策について考える。	
	この回の到達目標	＜文明化＞の歴史的意義を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 「文明開化」について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	<国民化>と<文明化> ―前半期の振り返り	<国民化>と<文明化>概念を軸に、前半期の講義を小括し、その後前半期の振り返り課題と、講義内容の理解を問う中間課題に取り組む	
	この回の到達目標	小レポートを通じて前半の学習成果について、論理的に説明できる。前半期の学びを振り返り、成果と課題を自己評価する（関連SB0s①②③）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。	180分
	事後学修	前半期の講義を振り返り、その内容の定着を図る。問題点を真摯に受け止め、今後の学習態度・方法を考え直す。	60分
8	「文明」への懐疑 ―明治前期の民衆運動と「近代」	明治前期の民衆運動を通して、「近代」の意味について考える。	
	この回の到達目標	明治前期の民衆運動の歴史的意義を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。 明治前期の民衆運動について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
9	「国民」の誕生？ ―自由民権と明治憲法	自由民権運動や明治憲法の制定、明治憲法体制について、<国民化>と<文明化>との関係で考察する。	
	この回の到達目標	自由民権運動や明治憲法の制定、明治憲法体制について、<国民化>と<文明化>との関係で説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 自由民権運動と明治憲法について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
10	日本外交の「2つの顔」 ―<文明化>と東アジア国際関係の再編	明治前期の日本外交の2側面と、そのことが東アジア国際関係に持った意味を考える。	
	この回の到達目標	明治前期の日本外交の特質と東アジア国際関係との関わりについて説明する（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 明治政府の外交について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
11	<文明化>と対アジア外交論の諸潮流 ―征韓論・興亜論・脱亜論・小国主義	幕末から明治前期にかけての対アジア外交論の諸潮流とその歴史的な意味について考察する。	
	この回の到達目標	幕末から明治前期にかけての対アジア外交論の諸潮流を<文明化>との関わりで説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 征韓論や脱亜論について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
12	日清戦争論 ―「文明戦争論」とその実態	日清戦争に至る東アジア情勢、および日清戦争の歴史的意義を<文明化>や<国民化>との関係で考える。	
	この回の到達目標	日清戦争に至る東アジア情勢、および日清戦争の歴史的意義について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 日清戦争について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	東アジア国際情勢の変化と日露戦争	日清戦争後の東アジア情勢の変化を踏まえながら、日露戦争への道を考える。	
	この回の到達目標	日清戦争後の東アジア情勢の変化を踏まえながら、日露戦争の開戦までの経緯を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 日露戦争について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
14	日露戦争と日比谷焼打事件——20世紀の開幕	日露戦争後の日本の帝国主義外交や日比谷焼打事件を取り上げ、日露戦争の歴史的意義を考える。	
	この回の到達目標	①日露戦後の帝国主義外交と韓国併合の過程について、説明することができる。②日比谷焼打事件を通じて、戦争とナショナリズムとの関係や、ナショナリズムの両義性について理解し、説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。 日露戦後の内政・外交について、中学・高校の教科書で復習しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
15	期末課題と振り返り	講義内容の理解を問う期末課題に取り組む。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③を達成するため、今期の学びの振り返りを行い、自己の達成を評価できる。SB0s①②に関わる適切なレポートを作成できる。	
	事前学修	プリントやノートに沿って、全講義内容を復習し、期末課題に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。レポートを完成させる。	210分
	事後学修	プリントやノートをみながら、答案の自己評価をする。 本講義での学びを振り返る。	30分

科目名	日本の近現代Ⅱ	担当者	大岡 聡	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
20世紀初頭、世界の諸帝国の仲間入りをした日本は、それゆえ国内外にさまざまなジレンマを抱え込むことになり、これに規定されて内政・外交にわたる針路の変更を繰り返した。「帝国日本」は結局破局への道を歩むことになるが、その過程では現代日本社会につながるような社会変容も起きている。20世紀前半の日本の歩みと、それを規定した基本的な要因を受講生とともに考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本の近代の帰結としてアジア・太平洋戦争における破滅・破壊を迎えたこと、および日本の現代社会への転換過程やその特質を修得することは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄であるので、本講義はそのために行われる。基礎的な歴史的事項の修得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的・客観的に分析する技能と態度、出来事の歴史的意義や問題点の発見力を身につけ、獲得した認識を論理的に説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
到達目標と無関係なので、課外活動を理由にした不勉強について、特別な配慮はしない。履修者過多の場合は履修制限することもある。

【授業方法】
毎回レジュメと史料を配布し、それに沿って講義する。配布の史料の他、写真、音声、映像などの教材も使用する。講義中に授業内課題を発表し、期日までに提出する。講義中の発問について、積極的に自分の考えを持つことを求める。なお、教材の配布、学生への連絡、課題の提出にはClassroomを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題・リアクションペーパー	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「帝国」日本の展開と崩壊に関わる基本的な事象や概念について論理的に説明できる。					2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、20世紀前半の世界との関わりで、当該期の日本のあゆみの特質と問題点を把握し、それに関する自らの見解を論述できる。					2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、中間・期末課題により評価する。	15	15	10								40
小テスト等												
レポート等	講義内容を補完する書物、または博物館見学に関するレポートにより、到達目標①②に関わる学習の深化の度合いを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業内課題・リアクションペーパーにより、授業の理解度ともに授業への参加度を評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評と成績分布をClassroomで発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
十五年戦争小史	江口圭一	ちくま学芸文庫	2020	参考書	推奨
アジア・太平洋戦争	吉田裕	岩波新書	2007	参考書	推奨
日本の200年（新版）	アンドルー・ゴードン	みすず書房	2013	参考書	推奨
〈日本人〉の境界	小熊英二	新曜社	1998	参考書	推奨
備考	教科書は使用しない。読書リストは講義中に配布する。なお中学校歴史教科書又は高校日本史教科書を予習用教材とする。出版社は問わない。				

【オフィスアワー】
火曜 16:20～17:30。メールでアポイントを取ることが望ましい。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国立歴史民俗博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史の編さん・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		歴史的史料の保存・公開はもちろん、公文書の作成・保存・公開がいかに重要であるかについて示唆する。特に歴史的史料・公文書の汚損・隠蔽・改ざんがいかに犯罪的であるかについての理解を促す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって／「帝国」になるということ	前半では、①講義概要と視点、目標、授業計画、②評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介、日本の近現代Ⅰで講義した19世紀後半の日本の特質について説明する。後半では「帝国」日本の版図や民族構成を確認し、20世紀前半の日本が「帝国」であり、多民族国家であったことを確認する。	
	この回の到達目標	講義概要や履修上の注意事項を理解する。「帝国」日本の版図の拡大過程や民族構成を年表や統計表から読み取り、日本が「帝国」であること理解して、説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	シラバスを熟読する。日本の領土拡大過程を中学・高校の教科書で確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
2	日本の植民地主義と植民地支配	植民地支配を正当化する言説の特質を比較史的に考察した上で、日本の植民地支配の内実を検討する。	
	この回の到達目標	日本の植民地主義と植民地支配の特質を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の植民地支配に関する記述をを中学・高校の教科書で確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
3	「裏日本」とは何か―地域間の不均等発展	統計表を分析しながら、産業革命前後における日本の地域間の不均等発展を確認し、その要因を考察する。	
	この回の到達目標	「上から」の近代化との関係で、地域間の不均等発展を説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。日本の産業革命に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
4	帝国主義世界の変容と日本の針路―第一次世界大戦のインパクト	帝国主義世界の変容と日本の抱えたジレンマゆえ、「帝国」拡大路線の修正を余儀なくさせたことについて、考察する。	
	この回の到達目標	第一次世界大戦後の日本の針路修正の構造的要因を説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦と日本との関わりについての中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
5	工場労働者の「誕生」とその意識の変容	産業革命期の工場労働者が抱えた矛盾とそれを乗り越えようとする労働者意識の特質について考察する。	
	この回の到達目標	産業革命期の工場労働者労働者意識の変容やその特質について説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。産業革命期～第1次世界大戦期の工場労働者に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
6	サラリーマン家族の肖像	都市新中間層の増加と彼らが営む家族のあり方について考察する。	
	この回の到達目標	都市新中間層の増加の背景と彼らが営む家族のあり方の特徴を説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	大正期の都市社会の変化や大衆文化に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	帝国のデモクラシー——普選体制論	デモクラシー状況・大衆社会状況に対応した政治体制の変容を考察する。	
	この回の到達目標	「帝国」であることと大衆民主制への変容との関係について説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	大正デモクラシーや「憲政の常道」に関する中学・高校の教科書記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
8	「帝国」と「大衆」の時代／前半期の振り返り	前半期に講義した1900～1920年代を「帝国」と「大衆」の時代という観点で小括する。そのうえで前半期の振り返りと内容理解を問う中間課題に取り組む。	
	この回の到達目標	「帝国」と「大衆」の時代の時代というまとめを踏まえ、1900～1920年代の日本の歴史像について、自分なりに説明することができる。前半期の取り組みと自己の達成を評価することができる（関連SB0s①②③）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。	180分
	事後学修	前半期を振り返り、その内容の定着を図る。問題点を真摯に受け止め、今後の学習態度・方法を考え直す。	60分
9	岐路に立つ帝国日本——満州事変の歴史的意義	満州事変に始まる日本の対外針路の転換の構造的要因と、同時代の世界における位置づけを考える。	
	この回の到達目標	満州事変の歴史的意義について考察し、それを論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。満州事変に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
10	戦争拡大の構図——日中全面戦争	日中戦争開戦および開戦後の日本軍の蛮行がその後の歴史過程に与えた影響について考える。	
	この回の到達目標	日本軍の蛮行の構造的要因を理解し、それを論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。日中戦争前後の日本に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
11	アジア・太平洋戦争論	アジア・太平洋戦争の開戦過程と、この戦争の特質について検討する。	
	この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の開戦の経緯を踏まえながら、この戦争の特質を論理的に説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。アジア・に関する中学・高校の教科書の記述を確認しておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
12	総力戦体制と国民生活	総力戦体制下の国民生活の諸相について理解した上で、国民が戦争に同調していくメカニズムを検討する。	
	この回の到達目標	総力戦概念、および戦時国民生活や国民の意識の特徴について説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。戦時下の国民生活に関する中学・高校の教科書の記述を確認する。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「大日本帝国」の崩壊	戦線の崩壊と国民生活や国土の破壊を経て、敗戦にいたる過程について検討する。	
	この回の到達目標	日本の敗戦過程について理解することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	日本の敗戦過程に関する中学・高校の教科書の記述を確認する。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
14	戦争体験と戦後デモクラシー	戦後改革の歴史的意義を踏まえつつ、日本の戦後処理の問題点について考察する。	
	この回の到達目標	戦後改革と日本の戦後処理の意義と問題点について、説明することができる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	戦後改革に関する中学・高校の教科書の記述を書くにしておく。	120分
	事後学修	プリントや講義中のメモに沿って、講義内容をノートにまとめ直し復習する。	120分
15	期末課題と振り返り	講義内容の理解を問う期末課題に取り組む。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③を達成するため、今期の学びの振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。SB0s①②に関わる適切なレポートを作成できる。	
	事前学修	プリントやノートに沿って、全講義内容を復習し、期末課題に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	210分
	事後学修	プリントやノートをみながら、課題の自己評価をする。 本講義での学びを振り返る。	30分

科目名	日本の自然A	担当者	瀬戸口 信一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本各地の自然環境についての知識を獲得するために、人間活動との関係とそこでの課題を学び、その特質を記述することができる。以下4つの到達目標を具体的に達成する。①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。

【履修条件】
外国人留学生のみ

【授業方法】
講義形式・問題解決型学習・グループワーク・映像や写真を元にした学習などいろいろな授業方法を試みます。小テストの講評・解説をフィードバックとして授業内で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・グループディスカッションなど	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境の特質について説明できる。					2	2	2	2				
②	海外からの視点（留学生の視点）から日本の自然環境について説明できる。					2	2	2	2				
③	日本の自然環境と海外の自然環境の差異を比較を説明できる。					2	2	2	2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	(1) 自然環境に関する基礎知識に関する小テストの得点。	17	10	7								34
レポート等	(2) 課題の提出状況。	17	10	7								34
討論・発表等												
授業への参画度	(3) 授業への平常評価参加度。	17	10	5								32
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		51	30	19								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の「小テスト」・前期後期の最後の時間に行われる「まとめの小テスト」において、テストの解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「中学校社会科地図」	帝国書院編集部編	帝国書院	2019年 度		
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、事前にメールでアポイントメントを取ってください。（メールアドレス s-setoguchi@nifty.com)金曜日17：50～18：20 受付場所（授業講堂）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期のガイダンス、導入授業	シラバスの説明・学びたいことの要望調査	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、日本の自然について問題意識を持ち、これから1年間日本の自然について積極的に学ぶ姿勢を持つことができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読みまた関連書籍を読んで概観しておくこと。	120分
2	日本の地理入門	日本の地域区分・都道府県・地図帳の使い方など	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の地域区分・都道府県・県庁所在地などの基礎的知識を身に着ける。 到達目標②に関連して、地図帳の使い方を身に着ける。 到達目標③④に関連して、これから学ぶ「日本の自然」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	日本の自然入門に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
3	日本の地形（1）	日本の山地と海岸（世界との比較で）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の山地と海岸の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の山地と海岸」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	日本の地形（日本の山地と海岸）に関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
4	日本の地形（2）	日本の川と平野（世界との比較で）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の川と平野の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の川と平野」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
	事前学修	日本の地形（日本の川と平野）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
5	日本の気候（1）	世界から見た日本の気候の特色	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界から見た日本の気候の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「世界から見た日本の気候の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	日本の気候（世界から見た日本の気候）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
6	日本の気候（2）	日本の気候区分（日本各地の気候の特色）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の気候区分を理解し、各地の気候の特色を説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の気候区分」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	日本の気候（日本の気候区分）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本の自然災害（１）	日本の地震・風水害の歴史と実態	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の地震や風水害の歴史と実態を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の地震・風数がいの歴史と実態」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	日本の自然災害（地震・風水害）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
8	日本の自然災害（２）	防災の現実と課題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の防災の現実と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の防災の現実」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
	事前学修	日本の自然災害（防災）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
9	日本の自然環境と産業（１）	世界と比べた日本の農業の特色と課題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の農業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の農業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる	
	事前学修	日本の自然環境と産業（農業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
10	日本の自然環境と産業（２）	世界と比べた日本の漁業の特色と課題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の漁業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の漁業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	日本の自然環境と産業（漁業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
11	日本の自然環境と産業（３）	世界と比べた日本の林業の特色と課題	
	この回の到達目標	目標①②に関連して、日本の林業の特色と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の林業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	日本の自然環境と産業（林業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
12	日本の環境問題	日本の公害問題の歴史と課題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の公害問題の歴史と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の公害問題の歴史」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	日本の環境問題（公害問題）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	日本の環境問題		日本の資源・エネルギー問題と環境問題の課題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の資源エネルギー問題や環境問題の課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本の環境問題（日本の資源・エネルギーと環境問題）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。		120分
14	日本の景観		世界自然遺産と世界文化遺産の実態と課題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の世界自然遺産と世界文化遺産の実態と課題を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「日本の世界自然遺産と世界文化遺産の実態」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。		
	事前学修	日本の景観（世界自然遺産と世界文化遺産）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。		120分
15	前期の授業の総まとめ		前期の授業を振り返り、学んだことを再確認する。 その後、前期の授業の「総まとめの小テスト」を実施し解説・振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだ日本の「自然地理」の内容を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、前期に学んだ日本の「自然地理」の内容について課題意識をもって考えまとめることができる。		
	事前学修	前期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。		120分
	事後学修	これまでの復習を行い、後期の授業の準備を行う。		120分

科目名	日本の自然B	担当者	瀬戸口 信一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本各地の自然環境についての知識を獲得するために、人間活動との関係とそこでの課題を学び、その特質を記述することができる。①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。

【履修条件】
外国人留学生のみ

【授業方法】
講義形式・問題解決型学習・グループワーク・映像や写真を元にした学習などいろいろな授業方法を試みます。小テストの講評・解説をフィードバックとして授業内で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・グループディスカッションなど	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の自然環境の特質について説明できる。						2	2	2	2				
②	海外からの視点（留学生の視点）から日本の自然環境について説明できる。						2	2	2	2				
③	日本の自然環境と海外の自然環境の差異を比較を説明できる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	(1) 自然環境に関する基礎知識に関する小テストの得点。	17	10	7								34
レポート等	(2) 課題の提出状況。	17	10	7								34
討論・発表等												
授業への参画度	(3) 授業への平常評価参加度。	17	10	5								32
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		51	30	19								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎時間の「小テスト」・前期後期の最後の時間に行われる「まとめの小テスト」において、テストの解説・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「中学校社会科地図」	帝国書院編集部編	帝国書院	2019年 度		
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、事前にメールでアポイントメントを取ってください。（メールアドレス s-setoguchi@nifty.com)金曜日17：50～18：20 受付場所（授業講堂）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期のガイダンス 北海道地方（１）	シラバスの説明・学びたいことの要望調査 北海道地方の自然環境と人々の暮らし	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北海道の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「北海道の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。 北海道地方の自然環境と人々の暮らしに関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
2	北海道地方（２）	北海道地方の自然環境と産業	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北海道地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「北海道地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	北海道地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
3	東北地方（１）	東北地方の自然環境と人々の暮らし	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東北地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「東北地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	東北地方の自然環境と人々の暮らしに関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
4	東北地方（２）	東北地方の自然環境と産業	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東北地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「東北地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	東北地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
5	関東地方（１）	関東地方の自然環境と人々の暮らし	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関東地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「関東地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	関東地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
6	関東地方（２）	関東地方の自然環境と産業	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関東地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「関東地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	関東地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中部地方（１）	中部地方の自然環境と人々の暮らし	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中部地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	中部地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
8	中部地方（２）	中部地方の自然環境と産業	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中部地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	中部地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
9	近畿地方（１）	近畿地方の自然環境と人々の暮らし	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近畿地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「近畿地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	近畿地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
10	近畿地方（２）	近畿地方の自然環境と産業	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近畿地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	近畿地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
11	中国四国地方（１）	中国・四国地方の自然環境と人々の暮らし	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国・四国地方の自然環境と人々の暮らしを理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中国四国地方の自然環境と人々の暮らし」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	中国・四国地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
12	中国四国地方（２）	中国・四国地方の自然環境と産業	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国・四国地方の自然環境と産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「中部地方の自然環境と産業の特色」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	中国・四国地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	九州地方（１）		九州地方の自然環境と人々の暮らし 九州地方の自然環境と産業
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、九州地方の自然環境と人々の暮らし、自然環境と産業の特色を理解し説明することができる。 到達目標③④に関連して、「九州地方の自然環境と人々の暮らし」「九州地方の自然環境と産業」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	九州地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。九州地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
14	九州地方（２）		南西諸島の自然環境と人々の暮らし・産業
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、南西諸島の自然環境と人々の営み・産業の特色を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、「南西諸島の自然環境と人々の暮らし・産業」の中に課題意識を持ち、それについて考え討議の中で自分の意見を発信できるようになる。	
	事前学修	南西諸島の自然環境と人々の営み・産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。 前期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。	120分
15	後期の授業の総まとめ		前期の授業を振り返り、学んだことを再確認する。 その後、前期の授業の「総まとめの小テスト」を実施し、解説・振り返りを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだ「日本の各地方の自然環境と人々の暮らしと産業」の内容を理解し、説明することができる。 到達目標③④に関連して、前期に学んだ「日本の各地方の自然環境と人々の暮らしと産業」について課題意識を持ったことを考えまとめることができる。	
	事前学修	後期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。	120分
	事後学修	1年間の自然地理の授業で学んだことをこれからの日本での生活に実践的に生かす。	120分

科目名	日本の社会A	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って学び、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、参加者がグローバルな人材となるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
参加者が国際間で活躍できるグローバルな人材となるために、参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較し、知識を身に付け、自分、自国といった狭い見解のみに執られない、人間として成熟することを修得する。

【履修条件】
外国人留学生のみ単位となるが、それ以外の参加者も望みたい。

【授業方法】
演習形式。発表者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ、個人での各種発表、およびレポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の社会についての十分な知識を得て、日本と自国の社会を比較し、公正に説明することができる。											
②	日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることに取り組むことができる。											
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第7回と第14回に、それまでの回から理解したことなどに関するレポートを公表、提出してもらい、到達目標②にかかわる、日本と自国のどちらにも偏重せず、他国を尊重する態度が身に付いてるかを確認する。		60									60
討論・発表等	毎回の授業でのグループ、個人の各発表において、分担箇所の理解が十分にできているか、発表資料が十全に作られているか、自分の見解を述べることができているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、公正な説明が十分に身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度												
その他(授業内レポート)	毎回の授業内レポートについて、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、日本の社会の十分な知識をもちつつ偏らない、公正な説明ができる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	80									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』	蔭山克秀	かんき出版	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 taten0.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本の社会Aの学習	日本の社会Aの授業内容、修得しうる能力などについて説明する。参加者は授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自国と日本を偏らない視点で観ることの意義を説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスとメモ、レポートを確認し、その内容を十分に理解する。	120分
2	グローバル化と情報化	テキストの01「格差社会を拡散させるグローバル化の猛威」、02「情報化のキーワードはつながる」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、グローバル化と情報化について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	少子高齢化と安全な社会づくり	前回のレポート紹介と講評。テキストの03「世界一のスピード！日本は少子高齢化超特急だ」、04「環境問題だけじゃない！安全で幸せな社会づくり」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、少子高齢化と安全な社会づくりについて、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	文化と現代文化	前回のレポート紹介と講評。テキストの05「国や地域によって千差万別！生活に密着している文化」、06「マンガ・アニメは日本の誇る現代文化だ」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、文化と現代文化について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	自由と責任、正義について	前回のレポート紹介と講評。テキストの07「責任を伴わない自由なんてありえない！」、08「多数決こそが正義は危険！」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と責任、正義について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	基本的人権と主権者について	前回のレポート紹介と講評。テキストの09「あたり前だけどあたり前じゃない基本的人権」、10「天皇は神から人に、国民は家臣から主権者に!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、基本的人権と主権者について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間レポート試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの内容をまとめた中間レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、さらにそれを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業内レポート、発表資料を振り返り、自分の見解を中間レポートとしてまとめておく。	120分
	事後学修	他者の見解を元に、授業内レポートを確認し、学んだことをまとめる。	120分
8	国民民主権と自衛隊について	前回のレポート紹介と講評。テキストの11「国民こそが国家の支配者だ!」、12「自衛隊は戦力ではなく実力!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、国民民主権と自衛隊について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	人権と差別問題について	前回のレポート紹介と講評。テキストの13「犯罪者にだって人権はある!？」、14「日本に存在する差別問題」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、人権と差別問題について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	自由と最低限度の生活について	前回のレポート紹介と講評。テキストの15「おれは自由だ〜って誰から、何から?」、16「健康で文化的な最低限度の生活って何?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と最低限度の生活について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	参政権と人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの17「参政権なんていらねーよとかいっちゃダメ!」、18「人権は無制限には尊重できない!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、参政権と人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	憲法と人権について	前回のレポート紹介と講評。テキストの19「憲法に載っていない人権がある?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、憲法と人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	新しい人権について		前回のレポート紹介と講評。テキストの20「社会の変化が生み出した新しい人権」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、新しい人権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。		
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
14	後半のまとめと講評		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、後半の授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、それを説明することができる。		
	事前学修	第8回から第13回までのレジュメ、レポートを確認し、まとめておく。		120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
15	総括と講評		前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体を振り返ってまとめた期末レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、これまでの授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、それを説明できる。		
	事前学修	初回から授業内レポート、発表資料のすべてを振り返り、自分の見解を期末レポートとしてまとめておく。		120分
	事後学修	他者の見解を元に、授業ノート確認し、学んだことをまとめる。		120分

科目名	日本の社会B	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って学び、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、参加者がグローバルな人材となるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
参加者が国際間で活躍できるグローバルな人材となるために、参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較し、知識を身に付け、自分、自国といった狭い見解のみに執られない、人間として成熟することを修得する。

【履修条件】
外国人留学生のみ単位となるが、それ以外の参加者も望みたい。

【授業方法】
演習形式。発表者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ、個人の各種発表、およびレポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の社会についての十分な知識を得て、日本と自国の社会を比較し、公正に説明することができる。				2	2						
②	日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることに取り組むことができる。						2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、②に関わる日本の社会の十分な知識をもちつつ偏らない、公正な説明ができる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	毎回の授業でのグループ、個人の各発表において、分担箇所の理解が十分にできているか、発表資料が十全に作られているか、自分の見解を述べることでできているかを基準に、到達目標①、②に関わる理解、公正な説明が十分に身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度												
その他(中間レポート)	第7回に、それまでの回から理解したことなどに関する中間レポートを発表、提出してもらい、到達目標②にかかわる、日本と自国のどちらにも偏重しない態度が身に付いているかを確認する。		25									25
その他(期末レポート)	第14回に、これまでの全体を振り返って、理解したことなどに関する期末レポートを発表、提出してもらい、到達目標2②についての両国を尊重し、より良い関係を創造する力が身に付いているかを確認する。		35									35
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	80									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』	蔭山 克秀	かんき出版	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本の社会Bの学習	日本の社会Bの授業内容、修得しうる能力などについて説明する。参加者は授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自国と日本を偏らない視点で観ることの意義を説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスと授業ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	主権と選挙権	前回のレポート紹介と講評。テキストの21「少数意見の持ち主もみんなが主権者」、22「お金がなくても選挙権を持っている」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、主権と選挙権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	選挙違反、政治と金	前回のレポート紹介と講評。テキストの23「連呼に電話に戸別訪問。いったいどれが選挙違反！？」、24「政治にカネがかかるは事実」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、選挙違反、政治と金について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	主張の偏り、国会議員	前回のレポート紹介と講評。テキストの25「あなたの主張、偏っていない？」、26「国会議員が何をする人かわかりますか？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、主張の偏り、国会議員について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	120分
5	国会、内閣	前回のレポート紹介と講評。テキストの27「ヤジ、バンザイ、審議拒否…国会の仕事って？」、28「国会と内閣ってどう違うんだっけ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、国会、内閣について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	官僚、黙秘権	前回のレポート紹介と講評。テキストの29「官僚って何をする人？」、30「令状がないなら帰れ黙秘します！は憲法上の権利」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、官僚、黙秘権について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間レポート試験と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの内容をまとめた中間レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができ、それを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業内レポート、発表資料を振り返り、自分の見解を中間レポートとしてまとめておく。	120分
	事後学修	他者の見解を元に、授業内レポートを確認し、学んだことをまとめる。	120分
8	裁判員制度、国会・内閣・裁判所	前回のレポート紹介と講評。テキストの31「えっ！私が裁判員になるの？」、32「国会・内閣・裁判所はグー・チョキ・パーの関係」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、裁判員制度、国会・内閣・裁判所について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	地方、住民投票	前回のレポート紹介と講評。テキストの33「地方らしさの発揮って何をするの？」、34「外国人でも中学生でも政治に参加できる！？住民投票」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、地方、住民投票について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	経済、悪徳商法	前回のレポート紹介と講評。テキストの35「ごはんを食べ、服を買い、映画を観るのが経済」、36「悪徳商法には引っ掛かりたくない」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、経済、悪徳商法について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	自由と平等、会社組織	前回のレポート紹介と講評。テキストの37「自由を取るか、平等を取るか。それが分かれ目だ」、38「会社で一番偉いのは社長じゃない！？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、自由と平等、会社組織について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	働く意味、働き方	前回のレポート紹介と講評。テキストの39「働くことの意味ってなんだろう？」、40「これからの働き方はどうなっていくんだろう？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、働く意味、働き方について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	需要と供給、紙幣の価値	前回のレポート紹介と講評。テキストの41「需要と供給ってどういうこと？」、42「ただの紙なのに、1万円札に価値があるのはなぜ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、需要と供給、紙幣の価値について、自国と日本の状況について明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	後半のまとめと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、後半の授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、それを説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのレジュメ、レポートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	総括と講評	前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体を振り返ってまとめた期末レポートを提出し、それを発表し、他者の発表についてレポート用紙にメモを取り、授業者からの発問に回答し、それを提出する。授業者はそれらを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、これまでの授業により、日本と自国の社会との相違を理解し、公正な立場を身に付け、両国の間に立ってより好い関係を創ることができるようになり、それを説明できる。	
	事前学修	初回から授業内レポート、発表資料のすべてを振り返り、自分の見解を期末レポートとしてまとめておく。	120分
	事後学修	他者の見解を元に、授業ノートを確認し、学んだことをまとめる。	120分

科目名	日本の前近代 I	担当者	清水 光明	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】 古文書や図像などのさまざまな史料（歴史研究の材料）を使ってどのように歴史研究を進めていくのか、ということの切り口にして、歴史学の特質について学修する。特に、前近代の日本の史料（漢文や古文のようなもの）を中心素材として学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 自ら学び、自ら考えるための、知識獲得・相対的考察の基礎として、さまざまな資料から情報を抽出し、活用することへの初歩的な理解や、歴史に関するさまざまな情報を取捨選択するための初歩的な能力を修得する。
--

【履修条件】 恒常的に出席することができない者、授業に積極的に取り組むことができない者は、履修するべきではない。
--

【授業方法】 講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に配布した文献の一部を音読してもらったり、簡単な質問に答えてもらう機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人間の営為のなかで、どのように情報が残されていくのか、ということについて一定度の説明ができる。				2	2	2	2				
②	残された過去の情報をもとに、どのようにして「歴史」が明らかにされるのか、ということについて一定度の説明ができる。				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	35	65									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に対する全体の講評を、後日ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業の各回に関連する参考文献について紹介する。				

【オフィスアワー】
授業後の質問等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・方法を紹介し、意義と取り組むべき課題を提示する	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、その到達目標の意義を理解する（関連SB0s①②）	
	事前学修	シラバスに目を通す。今までに触れてきた「歴史」について、振り返っておく	120分
	事後学修	授業の内容を復習し、参考文献のうち興味を持った文献を手にとってみる	120分
2	主題1 基礎 歴史学とは何か？ （1）―その目的と境界―	歴史学の目的とその境界について概観する	
	この回の到達目標	歴史学の目的と境界についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
3	主題1 展開 歴史学とは何か？ （2）―隣接諸分野との関係―	歴史学と隣接諸分野（政治学・法学・経済学等）との関係について概観する	
	この回の到達目標	歴史学と隣接諸分野との関係についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
4	主題2 基礎 時代区分とは何か？ （1）―戦前の歴史学から戦後歴史学まで―	日本史の時代区分論について、戦前の歴史学から戦後歴史学までの主要な議論を概観する	
	この回の到達目標	日本史の時代区分論（戦前の歴史学～戦後歴史学）についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
5	主題2 展開 時代区分とは何か？ （2）―現代歴史学の諸動向―	日本史の時代区分論について、現代歴史学の諸動向を概観する	
	この回の到達目標	日本史の時代区分論（現代歴史学）についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
6	主題3 基礎 史料とは何か？（1） ―一次史料と二次史料―	史料についての基礎的な知識や留意点を概観する	
	この回の到達目標	史料についての初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	主題3 展開 史料とは何か？（2） — 口承文芸とオーラル・ヒストリー —	無文字社会（アイヌ等）の歴史を辿るための「史料」の性格とその留意点を概観する	
	この回の到達目標	無文字社会の歴史を辿るための「史料」の性格と留意点について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
8	中間まとめ	前半の授業内容を振り返り、後半の授業の導入を述べる。授業内試験の説明も行う	
	この回の到達目標	前半の授業内容について振り返ることで、さらに一步深い理解に基づいた説明ができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
9	主題4 基礎 史料批判とは何か？ （1）— その目的と方法 —	史料批判の目的と方法について概観する	
	この回の到達目標	史料批判の目的と方法について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
10	主題4 展開 史料批判とは何か？ （2）— 言語論的転回との関係 —	史料批判と言語論的転回の関係について、主要な議論を概観する	
	この回の到達目標	史料批判と言語論的転回の関係について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
11	主題5 基礎 拡大する史料（1）— 書物研究の進展—	研究の進展にともなって新たな史料が開拓された事例（書物研究等）について概観する	
	この回の到達目標	書物研究の事例について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
12	主題5 展開 拡大する史料（2）— 偽文書と由緒—	偽文書を活用した研究の方法や事例について概観する	
	この回の到達目標	偽文書を活用した研究の方法や事例について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	主題6 基礎 史料と現在（1）―整理・保存・活用―	史料の整理・保存・活用について概観する	
	この回の到達目標	史料の整理・保存・活用について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
14	主題6 展開 史料と現在（2）―歴史実践とパブリック・ヒストリー―	歴史実践とパブリック・ヒストリーについて概観する	
	この回の到達目標	歴史実践の諸相やパブリック・ヒストリーの動向について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
15	授業内試験及びまとめ	授業内試験を実施する	
	この回の到達目標	人間の営為のなかでどのように情報が残されるのかということ、及び残された過去の情報をもとにどのように「歴史」が明らかにされるのかということについて、一定程度説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	授業で説明した問題について、いかに解答するべきか考えておく	210分
	事後学修	今学期の授業内容を振り返り、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	30分

科目名	日本の前近代Ⅱ	担当者	清水 光明	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
江戸時代の社会について、史料を切り口に、いくつかの話題から掘り下げて考えていく。具体的には、漢文や古文のような江戸時代の史料を読み解きながら、日本の近世の村や、日本の近世の社会の特質について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら学び、自ら考えるための、知識獲得・相対的考察の基礎として、日本の近世の村や日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解を持つ。それを踏まえて、現在の社会との類似点・相違点を考えることにより、現在の社会を捉え直す視点を獲得する。

【履修条件】
恒常的に出席することができない者、授業に積極的に取り組むことができない者は、履修するべきではない。

【授業方法】
講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に配布した文献の一部を音読してもらったり、簡単な質問に答えてもらう機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	歴史的な視点に立ち、歴史的事象について説明できる。				2	2	2	2				
②	日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解をもち、説明できる。				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験。到達目標①②についての基本的な知識を身につけ、適切な理解ができているかを、筆記試験により評価する。	30	70									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	70									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に対する全体の講評を、後日ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業の各回に関連する参考文献について紹介する。				

【オフィスアワー】
授業後の質問等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の内容・方法を紹介し、意義と取り組むべき課題を提示する	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、その到達目標の意義を理解する（関連SB0s①②）	
	事前学修	シラバスに目を通す。今までに触れてきた「歴史」について、振り返っておく	120分
	事後学修	授業の内容を復習し、参考文献のうち興味を持った文献を手にとってみる	120分
2	主題1基礎 近世日本の政治体制と東アジア（1）―統治組織の構造―	近世日本の政治体制の性格について、統治組織の構造を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の政治体制の性格（統治組織の構造）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
3	主題1展開 近世日本の政治体制と東アジア（2）―中国・朝鮮との比較から―	近世日本の政治体制の性格について、中国・朝鮮との比較を中心に検討する	
	この回の到達目標	近世日本の政治体制の性格（中国・朝鮮との比較）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
4	主題2基礎 近世日本の民間社会と庶民（1）―身分集団の様態―	近世日本の民間社会の特徴について、身分集団の様態を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の民間社会の特徴（身分集団の様態）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
5	主題2展開 近世日本の民間社会と庶民（2）―出版文化の隆盛―	近世日本の民間社会の特徴について、出版文化の隆盛を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の民間社会の特徴（出版文化の隆盛）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
6	主題3基礎 近世日本の対外関係と長崎（1）―出島・唐人屋敷・通詞―	近世日本の対外関係の実態について、出島・唐人屋敷・通詞といったキーワードを中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の対外関係の実態（出島・唐人屋敷・通詞）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	主題3 展開 近世日本の対外関係と長崎（2）—異国人・遊女・混血児—	近世日本の対外関係の実態について、異国人・遊女・混血児といったキーワードを中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本の対外関係の実態（異国人・遊女・混血児）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
8	中間まとめ	前半の授業を振り返り、後半の授業の導入を述べる。授業内試験の説明も行う	
	この回の到達目標	前半の授業内容について振り返ることで、さらに一步深い理解に基づいた説明ができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
9	主題4 基礎 近世琉球の政治・社会と東アジア（1）—中国・日本・薩摩との関係—	近世琉球の様態について、中国・日本・薩摩との関係を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世琉球の様態（中国・日本・薩摩との関係）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
10	主題4 展開 近世琉球の政治・社会と東アジア（2）—琉球文化の諸相—	近世琉球の様態について、その文化の諸相を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世琉球の様態（琉球文化の諸相）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
11	主題5 基礎 近世日本の政治・社会と知的ネットワーク（1）—私塾・会読・遊学—	近世日本に生起した知的ネットワークの様態について、私塾・会読・遊学を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本に生起した知的ネットワークの様態（私塾・会読・遊学）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
12	主題5 展開 近世日本の政治・社会と知的ネットワーク（2）—武士の上方在番と学問受容—	近世日本に生起した知的ネットワークの様態について、武士の上方在番の事例を中心に概観する	
	この回の到達目標	近世日本に生起した知的ネットワークの様態（武士の上方在番の事例）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	主題6基礎 幕末・維新时期へ（1） —天皇・朝廷の政治的浮上とその背景—	幕末・維新时期の諸相について、天皇・朝廷の政治的浮上を中心に概観する	
	この回の到達目標	幕末・維新时期の諸相（天皇・朝廷の政治的浮上）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
14	主題6展開 幕末・維新时期へ（2） —ロシアの出現とその波紋—	幕末・維新时期の諸相について、ロシアの出現を中心に概観する	
	この回の到達目標	幕末・維新时期の諸相（ロシアの出現）について初歩的な知識を得て、それを説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	前回の授業の内容を復習し、事前に配布した文献に目を通しておく	120分
	事後学修	事前に配布した文献に目を通し、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	120分
15	授業内試験及びまとめ	授業内試験を実施する	
	この回の到達目標	歴史的な視点に立ち、日本の近世社会の特質について基礎的な知識を持ち、それを一定程度説明することができる（関連SB0s①②）	
	事前学修	授業で説明した問題について、いかに解答するべきか考えておく	210分
	事後学修	今学期の授業内容を振り返り、授業中に紹介した文献を積極的に読んでみる	30分

科目名	日本の文化A	担当者	浅野 充	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本では1年の各時期に、また人の生涯を通じてさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について学修していく。また、例えば、江戸や東京について、最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考察し学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
留学生が日本において有意義な留学生生活を送るための基盤として、日本の年中行事について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を獲得する。日本の年中行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
外国人留学生のみ。

【授業方法】
テキスト購読を主とし、リアクションペーパー＝小テストを毎回提出してもらいます。小テストのフィードバックは授業内にて行う。最後に授業内試験ないし授業内レポートを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の年中行事、習慣の意味を知り、説明できる				2	2	2	2				
②	日本の文化、生活、社会について、自分の国のそれと比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できる				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解が身についているかを、日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書くレポートにより評価する。	30	40									70
小テスト等	到達目標①②について、毎回の授業終了時に実施する小テスト＝リアクションペーパーにより、各回の到達目標に即して達成されているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールとポータルシステムを利用する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本人のしきたり』青春新書46	飯倉晴武	青春出版社	2003年		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後で対応する。オンライン授業の場合は基本的にメールで対応する。メールはasano.mitsuru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【干支と六曜】	授業計画などのガイダンスと導入。干支や六曜などを導入として取り上げ、日本の習慣やしきたりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自国の文化、生活、社会と比較する素地をつくる。	
	事前学修	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣との比較や、日本での生活とで思い浮かぶことをまとめておくこと。	120分
2	【日本の正月行事、しきたり】	テキストを購読する。序章：旧暦・氏神と鎮守・ハレとケ。第1章正月行事のしきたり1：初日の出。初詣。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
3	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する。第1章正月行事のしきたり2：門松・しめ飾り・年男・若水・鏡餅・鏡開き。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
4	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する。第1章正月行事のしきたり3：おとそ・おせち料理・雑煮・お年玉・書き初め。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
5	【日本の正月の行事、しきたり】	テキストを購読する。第1章正月行事のしきたり4：初夢・七草がゆ・鏡開き・小正月・左義長・藪入り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の正月の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
6	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する。第2章年中行事のしきたり1：節分・初午・針供養・ひな祭り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。なお、取り上げたしきたりが、ちょうど時期的に合っているものについては、自分の住居の近所の行事を見学したりすることも良いかと思います。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する。第2章年中行事のしきたり2：お彼岸・花祭り・八十八夜・端午の節句。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
8	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する。第2章年中行事のしきたり3：衣替え・七夕・土用の丑の日。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
9	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する。第2章年中行事のしきたり4：お盆・盆踊り・お月見・重陽の節句。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
10	【日本の年中行事、しきたり】	テキストを購読する。第2章年中行事のしきたり5：恵比須講・西の市・年の市・除夜の鐘・年越しそば。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の年中行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
11	【日本の結婚のしきたり】	テキストを購読する。第3章結婚のしきたり1：婚姻・見合い・仲人・結納。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の結婚の制度、しきたりについて、学修、整理をし、自国の結婚の制度、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
12	【日本の結婚のしきたり】	テキストを購読する。第3章結婚のしきたり2：神前結婚式。三三九度。披露宴。お色直し。引出物。里帰り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の結婚の制度、しきたりについて、学修、整理をし、自国の結婚の制度、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【日本の懐妊・出産のしきたり】	テキストを購読する。第4章懐妊・出産のしきたり1：帯祝い・へその緒・お七夜。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の懐妊・出産のしきたりについて、学修、整理をし、自国の懐妊・出産のしきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
14	【日本の懐妊・出産のしきたり】	テキストを購読する。第4章懐妊・出産のしきたり2：赤飯・お宮参り・お食い初め・初誕生祝い。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の懐妊・出産のしきたりについて、学修、整理をし、自国の懐妊・出産のしきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと。	120分
15	【これまでの講義内容のまとめ】 【レポート作成】	日本の文化Aの講義内容のまとめと、授業に関するレポート作成を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が自分なりに達成できたかどうかをレポート作成を通じて確認する。	
	事前学修	日本の文化Aの授業内容について、配信教材のノート・小テストを見直し、確認しておくこと	120分
	事後学修	レポート課題の確認と、日本のしきたりなどで、テキスト以外で、さらに知りたいことを整理しておくこと。フィードバックは、1週間後くらいに配信する。	120分

科目名	日本の文化B	担当者	浅野 充	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本では、お祝いや弔事（葬儀など）の時などにさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について学修していく。また、例えば歴史都市、最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考察し学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
留学生が日本において有意義な留学生生活を送るための基盤として、日本の慶事（お祝い）や弔事（葬儀など）の行事、手紙の作法について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を獲得する。日本の慶事・弔事の行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになる。

【履修条件】
外国人留学生のみ。

【授業方法】
テキスト購読を主とし、リアクションペーパー＝小テストを毎回提出してもらいます。小テストのフィードバックは授業内にて行う。最後に授業内試験ないし授業内レポートを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の慶事や弔事の行事、手紙作法の意味を知り、説明できる				2	2	2	2				
②	日本の文化、生活、社会について、自分の国のそれと比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できる				2	2	2	2				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての理解が身についているかを、日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書くレポートにより評価する。	30	40									70
小テスト等	到達目標①②について、毎回の授業終了時に実施する小テスト＝リアクションペーパーにより、各回の到達目標に即して達成されているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールとポータルシステムを利用する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本人のしきたり』青春新書46	飯倉晴武	青春出版社	2003年		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後で対応する。オンライン授業の場合はメールで対応します。メールはasano.mitsuru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【日本の休日制度】	授業計画などのガイダンスと導入を行う。導入については、日本の休日制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の休日制度と文化との関わりを理解し、その歴史や現状を理解し、学修する。	
	事前学修	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱った休日などについて、自分の国の休日と比較し、まとめること。	120分
2	【日本の祝い事】	テキストを購読する。第5章祝い事のしきたり1：七五三・十三参り・成人式。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝い事の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。第2回、第3回で取り上げたしきたりが自分の周りで行われているようでしたら、見学させてもらいたいと思います。	120分
3	【日本の祝い事】	テキストを購読する。第5章祝い事のしきたり2：還暦の祝い・長寿の祝い。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝い事の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
4	【日本の贈答の行い方】	テキストを購読する。第5章祝い事のしきたり：地鎮祭・棟上式。第6章贈答のしきたり1：中元・歳暮。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の祝い事・贈答の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。	120分
5	【日本の贈答の行い方】	テキストを購読する。第6章贈答のしきたり2：贈答品の包装・水引・のし・贈答品の表書き。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の贈答の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめること。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめること。第4回、第5回で取り上げたしきたりを自分が実際に行った体験がある人は良く思いだしておくこと。	120分
6	【ハロウィーン】	10月31日に行われるハロウィーンについて調べてみる。	
	この回の到達目標	西洋から入ってきた行事であるハロウィーンについて、その歴史や、日本や中国、韓国などでの現在の行われ方を理解する。	
	事前学修	自分がこれまで経験したハロウィーンの内容について、整理しておく。	120分
	事後学修	自分の国では今年のハロウィーンはどのように行われていたかを調べてみる。新しいことが行われているかどうか調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する。第7章手紙のしきたり1：手紙と葉書・表書き・裏書き。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、自国の手紙の書き方、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに、日本で自分にきた手紙を読み返してみる。	120分
	事後学修	授業で講義した内容を基に、配信資料を参考にしながら、表書きと裏書きを書く練習をしてみる。	120分
8	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する。第7章手紙のしきたり2：頭語と結語・時候のあいさつ。実際に、手紙の文章の書き方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、自国の手紙の書き方、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに、日本で自分にきた手紙を読み返してみる。	120分
	事後学修	授業で講義した内容を基に、配信資料を参考にしながら、手紙の文章を書く練習をしてみる。	120分
9	【日本の手紙の書き方】	テキストを購読する。第7章手紙のしきたり3：手紙の禁忌言葉・年賀状・暑中見舞い。実際に、往復はがきの書き方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の手紙の書き方、しきたりについて、学修、整理をし、自国の手紙の書き方、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに、日本で自分が書いた往復はがきについて思い起こしておく。	120分
	事後学修	授業で講義した内容を基に、配信資料を参考にしながら、往復はがきの返信の書き方を練習をしてみる。	120分
10	【日本の葬儀】	テキストを購読する。第8章葬式のしきたり1：末期の水・死装束・北枕。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに自分が日本で書いた手紙を思い起こしておく。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめる。	120分
11	【日本の葬儀】	テキストを購読する。第8章葬式のしきたり2：通夜・葬式・焼香・戒名・位牌。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀の行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめる。	120分
	事後学修	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめる。	120分
12	【日本の葬儀】	テキストを購読する。第8章葬式のしきたり3：お布施・出棺・香典・忌中と忌明け・精進落とし・年忌法要。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の葬儀に関わる準備、行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめる。	120分
	事後学修	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【日本の縁起もの】	テキストを購読する。第9章縁起のしきたり：おみくじ・神輿・厄年・ダルマ・招き猫・絵馬・清めの塩。ピックアップしてあります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今回購読した日本の縁起ものに関わる行事、しきたりについて、学修、整理をし、自国の行事、しきたりと比較する。	
	事前学修	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと。	120分
	事後学修	自分の自分が行ったことのある京都の観光地などは歴史的にみるとどの時代のものかを整理しておくこと。	120分
14	【歴史都市京都】	観光都市・歴史都市の京都について学修する。平安京を中心にして日本の古代の都の具体的実像を理解し、確認する。その後の（中世・近世・近代・現代）の京都の変遷を理解し、確認する。京都の人気観光スポットを概観する。	
	この回の到達目標	日本の平安京と中国の唐の長安城とを比較し、両者の類似点、相違点を整理する。中世以後の京都の歴史を学修し、理解する。京都の人気観光スポットを確認し、その歴史と注目点を学修し、理解する。現在の京都御所の所在地、歴史、注目点を学修するために、京都御所の歴史を概観する。	
	事前学修	旅行などで、京都のどこに行ったかを思いだし整理しておくこと。地図などを駆使することもお勧めです。京都御所について、歴史や所在地について調べてみる。	120分
	事後学修	今後、京都のどこに行きたいかをあらためて考えてみる。世界遺産、国宝などの該当寺社なども調べてみると興味がわくと思います。	120分
15	【これまでの講義内容のまとめ】 【レポート作成】	日本の文化Bの講義内容のまとめと、授業に関するレポート作成を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が自分なりに達成できたかどうかをレポート作成を通じて確認する。	
	事前学修	日本の文化Bの授業内容について、配信教材のノート・小テストを見直し、確認しておくこと。	120分
	事後学修	レポート課題の確認と、日本のしきたりなどで、テキスト以外で、さらに知りたいことを整理しておくこと。フィードバックは、1週間後くらいに配信する。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	小野 美典	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし(古典の文章を扱うが口語訳等は適宜配付する。口語訳するのが目的ではなく、文学を理解するのが目的なので、高校初級程度の古典の力があれば理解できるように講義を進める)。古語辞典(電子辞書可)を持参すること。

【授業方法】
この授業では、日本の古典文学を扱う。平安末鎌倉時代を生きた鴨長明という1人の隠者の作品(『方丈記』『鴨長明集』『発心集』)を読み進めることにより、長明の文学に迫っていきたい。授業方法は、プリント資料を使いながらの講義形式の授業。各自の意見を提出する(その紹介)などして、一方通行の授業にならないように注意する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自の意見・質問を取り上げて次回の授業で学習の深化を図る双方向授業も実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。				2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。					2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。						2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回の授業終了時に実施するチェックテストによって、①②③④に関して、どの程度の学習がなされて授業内容を理解しているかをチェックすることで、各自の到達度を評価する。	20	10	10	10							50
レポート等	課題レポートによって、①②③④に関して、授業内容を理解をした上で各自が問題意識を持って発展学習・調査を行いそれをレポートに達成できているかを評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	15	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の週の授業内に対応。また、15週目の講義でも総合的なフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（担当者がプリントを用意する）。				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスと時代背景の基礎知識		〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。 〔2〕平安末鎌倉初期の歴史と文学の概観。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平安時代末から鎌倉時代にかけての文学史的状況についての基本的な事項が説明できることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕シラバスを精読して授業の概要をつかむとともに、授業中に質問したい事項をまとめておく。〔2〕歴史や文学の本で平安末鎌倉初期のことに触れている著作を持っていたら、その該当箇所を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、平安時代から鎌倉時代にかけての文学史の流れの全容を再確認しておく。		120分
2	鴨長明の生きた時代の概観		鴨長明の生きた時代の歴史的状況	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、鴨長明の生きた時代の歴史的状況についての基本的な事項が説明できることを目標とする。		
	事前学修	高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧などで、平安時代と鎌倉時代の文学史に関して書かれている部分を精読する。また、そこに書かれている内容に関して、図書館・ネットなどで深く調査しておく。		120分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、日本の鴨長明の生きた時代の特徴をまとめておく。		120分
3	鴨長明とその作品		鴨長明の経歴と代表的文学作品	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、鴨長明の一生とその代表的な作品の概要が説明できるようになることを目標とする。		
	事前学修	鴨長明に関して、高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧、或いは図書館・ネットなどで調査し、概要をつかんでおく。		120分
	事後学修	『方丈記』と『発心集』に関して、まとめておく。		120分
4	『方丈記』序文の思想世界		『方丈記』を読む〔その1〕——序章「ゆく川の流れ」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、序文に見られる鴨長明の思想に関して説明できるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの序章「ゆく川の流れ」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文の中で対比的に描かれているものを指摘する。		120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、序章「ゆく川の流れ」に対する理解を深める。〔2〕当該本文にもし題名を付けるとしたらどのような題が相応しいか考える。		120分
5	五大災害		『方丈記』を読む〔その2〕——五大災害「治承の辻風」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、長明の描写の妙が説明できるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの五大災害「治承の辻風」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「治承の辻風」に関して、頭注を参考にしながら、他作品での記述について調べておく。		120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、五大災害「治承の辻風」に対する理解を深める。〔2〕『平家物語』ほかの記述と『方丈記』の違いについて考える。		120分
6	日野山の閑居		『方丈記』を読む〔その3〕——閑居礼賛「日野山の住まい」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、鴨長明が閑居を礼賛する理由について各自で説明できるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの閑居礼賛「日野山の住まい」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文で長明が礼賛している事項を箇条書きで挙げておく。		120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、閑居礼賛「日野山の住まい」に対する理解を深める。〔2〕長明が閑居を礼賛する理由について考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	鴨長明の自問自答		『方丈記』を読む〔その4〕——終章「自問自答」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、『方丈記』終章の「自問自答」の解釈をめぐって諸説あることを理解し、各自の言葉でそれに対する意見を述べるができるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの終章「自問自答」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文は非常に哲学的で深遠な内容を含むので、最終的に長明が言おうとしている内容が何なのかを各自で押さえておく。		120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、「自問自答」に対する理解を深める。〔2〕『方丈記』の概要を整理する。		120分
8	『発心集』序文		『発心集』を読む〔その1〕——序「心の師とはなるとも、心を師とすることなかれ」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、鴨長明の「心」への関心について各自で説明できるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの序「心の師とはなるとも、心を師とすることなかれ」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。		120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、序「心の師とはなるとも、心を師とすることなかれ」に対する理解を深める。〔2〕長明が「心」をどのように理解し考えていたのかをまとめる。		120分
9	「讃州源大夫の発心」		『発心集』を読む〔その2〕——巻三の四「讃州源大夫、にはかに発心、往生の事」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、鴨長明が考えていた発心のありように関して、自分なりの意見が述べられるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの巻三の四「讃州源大夫、にはかに発心、往生の事」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕源大夫の行動とそれを周囲の人々がどう見ているかを整理しておく。		120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、巻三の四「讃州源大夫、にはかに発心、往生の事」に対する理解を深める。〔2〕発展学習として、当該説話をもとにして書かれた、芥川龍之介の『往生絵巻』を読んでみる。		120分
10	「異相往生」		『発心集』を読む〔その3〕——巻三の八「蓮華城、入水の事」1	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、諸資料に基づいた「異相往生」の概要を各自の言葉で説明できるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの巻三の八「蓮華城、入水の事」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕蓮華城の死後の発言について整理しておく。		120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、巻三の八「蓮華城、入水の事」に対する理解を深める。〔2〕「異相往生」について整理しておく。		120分
11	「入水往生」		『発心集』を読む〔その4〕——巻三の八「蓮華城、入水の事」2	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「往生」を遂げることの負の側面に関して、各自の言葉で説明できるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕前回学修した「異相往生」と巻三の八「蓮華城、入水の事」との関連について考える。〔2〕蓮華城の死後に関してまとめておく。		120分
	事後学修	鴨長明が考えていた「往生」のあり方に関して、各自でまとめる。		120分
12	「この世の快樂」		『発心集』を読む〔その5〕——巻五の十三「貧男、差図を好む事」1	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、貧男とそれを嘲笑する人々の相違点について、説明できるようになることを目標とする。		
	事前学修	〔1〕プリントの巻五の十三「貧男、差図を好む事」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕貧男の行為に対する長明の考えを整理しておく。		120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、巻五の十三「貧男、差図を好む事」に対する理解を深める。〔2〕貧男とそれを批判する人々の差異をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「長明が理想とする快樂」	『発心集』を読む〔その6〕——巻五の十三「貧男、差図を好む事」2	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、鴨長明が理想としていた境地に関して、説明できるようになることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕前回学修した巻五の十三「貧男、差図を好む事」の本文を読み、全体の概要をまとめておく。〔2〕貧男の考えの問題点について考える。	120分
	事後学修	長明が考えていた「快樂」とは何かについてまとめる。	120分
14	半年間の学びの振り返り1	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認レポートについて。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、鴨長明の文学の特質を説明できるとともに、実際の章段の読解を通じて『方丈記』『発心集』の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	これまでの講義内容をまとめ、鴨長明の文学の特質について整理し理解する。レポートの準備と対策をしておく。	180分
	事後学修	各自のレポートの題材に何を取り上げるかを熟慮し、必要な資料を収集する。	120分
15	半年間の学びの振り返り2	〔1〕14回目に説明したレポートを完成させて提出。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、鴨長明の文学の特質を他者に向かって説明できることを目標とする。	
	事前学修	14回目の授業で説明されたレポートの作成注意に則ったレポートを完成させる。	180分
	事後学修	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	60分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動による欠席を含め、一切ないものとする。また、初回の講義には必ず出席すること。また、皆出席が前提であり、各期4回を超える欠席は原則として、単位を認定しない。

【授業方法】
板書や配布プリント、映像資料を中心として講義をするが、講義ノートは必需品である。授業内試験の解説は最終回に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	特にないが、発言をもとめることはある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最初の講義で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜 5 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】【言語遊戯とは】	年間講義計画・評価法などについてのガイダンスと、言語遊戯について概観する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、言語遊戯の歴史について、説明できる。		
	事前学修	シラバスを熟読すること。		120分
	事後学修	江戸時代について概観する。		120分
2	【江戸文学とはなにか】	江戸文学とは何かを理解し、前時代との差異を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、江戸文学史を説明できる。		
	事前学修	今回のテーマについて予習する。		120分
	事後学修	講義を踏まえてノートをまとめる。		120分
3	【言語遊戯の発生】	言語遊戯の発生について理解し、その文学的背景を身につける。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して言語遊戯における和歌の位置について、説明できる。		
	事前学修	今回のテーマについて予習する。		120分
	事後学修	講義を踏まえてノートをまとめる。		120分
4	【中世の連歌となぞ】	中世・近世の「なぞ」について理解し表現の方法を身につける。		
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して多様化する言語遊戯と連歌の関係について、説明できる。		
	事前学修	今回のテーマについて予習する。		120分
	事後学修	なぞについて調査し、レポートする。		240分
5	【変容する文芸と言語遊戯】	川柳前夜について講義する。新たなジャンルの誕生過程と時代背景を理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、川柳誕生の時代背景と読者層について、説明できる。		
	事前学修	今回のテーマについて予習する。		120分
	事後学修	都市としての「江戸」について調査する。		180分
6	【新たな文芸都市、江戸】	川柳と文運東漸について理解し、新興都市における文化の発展について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、上方から江戸への文化移動について、説明できる。		
	事前学修	今回のテーマについて予習する。		120分
	事後学修	講義を踏まえてレポートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【通俗化された歴史と川柳】	歴史と川柳について講義する。詠史句について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、庶民の文芸への参画について説明し、自分の考えを述べることができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	240分
8	【川柳に描かれた習俗】	日常句と川柳について講義する。現在も変わらぬ人の心理について作品を通して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当時の習俗と現代の習俗の違いを説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
9	【パロディとは何か】【百人一首と言語遊戯】	パロディについて、百人一首を題材に講義する。古来より親しまれてきた古典をどのように変換し、笑いに換えるかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パロディについて説明でき、その上で、百人一首を用いた言語遊戯について自分の考えをのべることができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	百人一首について調査し、まとめる。	180分
10	【文芸における見立て】	見立てについて講義する。共通理解のもと作られたさまざまな文芸について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、見立ての技法について説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
	事後学修	見立てを用いた作品について調査する。	180分
11	【現代の漫画と見立て絵本】	見立て絵本について講義する。その豊かな表現力を理解し、現在の漫画との差異を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して漫画と見立て絵本の関連性について説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
12	【芸能と言語遊戯】	言語遊戯と他文芸について講義する。話芸や歌舞伎に用いられた言語遊戯を理解し、豊かな表現力を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、芸能に表現された言語遊戯について説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【浮世絵に描かれた言語遊戯】	浮世絵と言語遊戯について講義する。実際に「判じ絵」を鑑賞し、その面白さを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、浮世絵に描かれた言語遊戯の意図を理解し、自分の考えを述べることができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	浮世絵についてレポート作成。	180分
14	【確認テストと解説】	授業内試験と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講義の全体像を的確に説明できる。	
	事前学修	前期内容を踏まえ、ノートをまとめる。	120分
	事後学修	川柳についてのレポート作成。	180分
15	【全体の概観】	前期のまとめ。全体を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④のすべてについて、自分の理解度を文章化できる。	
	事前学修	解説をもとに質問を考える。	120分
	事後学修	前期講義を復習する。今回のテーマについて予習する。	120分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回の復習テストの実施とそのフィードバック。提出されたレポートについては、講評を公開する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。取り上げる作品等の情報はポータルシステムで公開する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス『万葉集』とは？	前期の授業計画と内容、目標についての説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大まかな8世紀の日本で成立した『万葉集』の概略を理解することができる。	
	事前学修	高校の教科書などを使って、『万葉集』がどのように成立しかののか、まとめておく。	120分
	事後学修	授業ノートを整理し、学修の振り返りをするとともに、今後の学修計画を検討しておく。	120分
2	8世紀の日本とは？	「日本」と「天皇」の成立時期とその意義について学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「日本」・「天皇」の成立を通して、8世紀の日本が行った外交政策について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	『万葉集』が成立した時期と、「日本」「天皇」が成立した時期について確認する。	120分
3	田辺福麻呂とは？	田辺福麻呂に関する説明を受け、渡来人系歌人の一実態を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宮廷歌人的な存在でもあった田辺福麻呂の人物像を通して、古代の官人の地方赴任時の業務について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
4	田辺福麻呂の宴席歌とは？	田辺福麻呂が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席でのルールを学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、田辺福麻呂の宴席歌からうかがえる、地方の地名が同音の別の語を連想させ、歌のレトリックとして用いられる表現の戯遊性について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における田辺福麻呂の役割について確認する。	120分
5	秦朝現とは？	秦朝元に関する説明を受け、宴席で歌を披露することができなかった歌人の事情を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、秦朝元からうかがえる渡来系氏族の一実態と、天皇臨席の宴席における人間関係（政敵を含む）の一端を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
6	宴席の座席は決まっているの？	秦朝元が歌を披露した宴席歌群全体を通して、天皇臨席の宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、身分によって「大殿」と「南の細殿」に席が分けられ、身分の高い人から順に歌を披露されていくこの時代の宴席の特徴について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における秦朝元の役割を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	大伴家持とは？		大伴家持に関する説明を受け、家持がいかに宴席に慣れていたかを学ぶことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当時21歳の大伴家持をはじめ若い貴族子弟が参集された宴席での、家持の立ち位置を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
8	宴席のルールとは？		大伴家持が参加した「黄葉」を主客にした宴席全体を通して文雅を愛する子弟たちの宴席歌の特徴について学ぶことができる。その後、復習問題を出す。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、身分秩序に基づいた席順、歌を披露する順番、歌で表現しなければならないルール等と理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における大伴家持の役割を確認する。	120分
9	大伴坂上郎女の伝記的情報とは？		大伴坂上郎女の伝記的情報とはどのようなものか学ぶことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、『万葉集』が伝える坂上郎女の伝記的情報の特殊性を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
10	女性歌の「引き留め歌」とは？		大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、女性歌の宴席での役割を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坂上郎女歌の宴席歌「引き留め歌」の特徴を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する①。	120分
11	禁酒令とは？		古代の禁酒令について学ぶことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日照りの害や疫病、災害に関する対策の一つで公布される禁酒令とそれらが目的ではなく公布された禁酒令との違いを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
12	酒と宴席歌の関係性とは？		大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、酒と歌との関係性について学ぶことができる。その後、復習問題を出す。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、酒と宴席歌との関連性を通して、宴席歌における表現の意図についても理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する②。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	藤原仲麻呂とは？	藤原仲麻呂の政治家としての活躍を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、藤原氏の頂点に立っていた時の藤原仲麻呂の人物像について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
14	宴席における君臣秩序とは？	藤原仲麻呂が歌を披露した宴席歌群を通して、歌による君臣秩序の作用を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、あえて歌の形で自分の力を誇示した藤原仲麻呂の宴席歌の特徴について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における藤原仲麻呂の役割を確認する。	120分
15	前期のまとめ	前期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修した宴席歌の特徴を整理し、宴席は社交の場であり、平城京時代の歌文化がいかに豊饒であったかを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	貴族は宴席で歌を披露するルールをどのように理解していたのかを確認する①。	180分

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の基本・読解・解釈を通じ、様々な時代の文学の様相を知ること、読解力や文脈を読む力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、さらには問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
21世紀を生きる上で必要な人文的教養を身につけるために、文学テキストの知識やそれを読む技術、そして継続的に文学・文化を批判的に受容しつつ自らの思考・感情を磨いてゆく能力を修得する。グローバル化の世界状況に対し必要となる、日本文学の基礎的教養を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義時にテキストを示す。毎回、前回提出のコメントを毎回読み上げ講評する。なお、扱う文学者は講義の進行具合に応じて変化する可能性があることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントに対するレスポンスを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業終了時に実施する小テスト・コメントにより、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15	10								40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内での解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に示す資料を主に使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前にmiyazawa.takayoshi@nihon-u.ac.jpまで必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。近代と日本の文学について。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義の概要をつかむことができる。	
	事前学修	明治期の歴史について確認しておくこと。	120分
	事後学修	近代と日本の文学について、講義内容を復習しておくこと。	120分
2	政治小説とSF	明治期の「ユートピア」思想	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	明治期の歴史について確認しておくこと。	120分
	事後学修	政治小説とSFについて、講義内容を復習しておくこと。	120分
3	坪内逍遙	近代小説の理論と実践	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	坪内逍遙について確認しておくこと。	120分
	事後学修	坪内逍遙と二葉亭四迷について、講義内容を復習しておくこと。	120分
4	二葉亭四迷	言文一致について	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	二葉亭四迷について確認しておくこと。	120分
	事後学修	泉鏡花と柳田国男について、講義内容を復習しておくこと。	120分
5	森鷗外（１）	〈立身出世〉の問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	森鷗外について確認しておくこと。	120分
	事後学修	森鷗外について、講義内容を復習しておくこと。	120分
6	森鷗外（２）	ベルリンの空間	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	森鷗外について確認しておくこと。	120分
	事後学修	森鷗外について、講義内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	明治初期のジャーナリスト／樋口一葉（１）	江戸から東京へ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	松原岩五郎、横山源之助、樋口一葉について確認しておくこと。	120分
	事後学修	松原岩五郎、横山源之助、樋口一葉について、講義内容を復習しておくこと。	120分
8	樋口一葉（２）	近代における〈子ども〉	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	樋口一葉について確認しておくこと。	120分
	事後学修	樋口一葉について、講義内容を復習しておくこと。	120分
9	自然主義（１）	永井荷風と初期自然主義	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	永井荷風について確認しておくこと。	120分
	事後学修	永井荷風について、講義内容を復習しておくこと。	120分
10	自然主義（２）	島崎藤村と田山花袋	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	島崎藤村、田山花袋について確認しておくこと。（２時間）	120分
	事後学修	島崎藤村、田山花袋について、講義内容を復習しておくこと。（２時間）	120分
11	泉鏡花、柳田國男	〈山〉とロマン主義的「文学」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	泉鏡花、柳田國男について確認しておくこと。	120分
	事後学修	泉鏡花、柳田國男について、講義内容を復習しておくこと。	120分
12	夏目漱石（１）	労働力の問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	夏目漱石について確認しておくこと。	120分
	事後学修	夏目漱石について、講義内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	夏目漱石（2）	歙山の時空間	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	夏目漱石について確認しておくこと。	120分
	事後学修	夏目漱石について、講義内容を復習しておくこと。	120分
14	芥川龍之介、谷崎潤一郎	ロシア革命のインパクト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	芥川龍之介、谷崎潤一郎について確認しておくこと。	120分
	事後学修	芥川龍之介、谷崎潤一郎について、講義内容を復習しておくこと。	120分
15	振り返り	近代と日本の文学について。半期の講義を振り返り、理解の到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解し、最終課題を提出することができる。	
	事前学修	最終課題の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	近代と日本の文学について、前期講義内容の確認をしておくこと。	120分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	小野 美典	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし(古典の文章を扱うが口語訳等は適宜配付する。口語訳するのが目的ではなく、文学を理解するのが目的なので、高校初級程度の古典の力があれば理解できるように講義を進める)。古語辞典(電子辞書可)を持参すること。

【授業方法】
この授業では、日本の古典文学を扱う。平安時代の歌物語『伊勢物語』『大和物語』を読む。授業方法は、プリント資料を使いながらの講義形式の授業。各自の意見をリアクションペーパーに書いて提出する(その紹介)などして、一方通行の授業にならないように注意する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自の意見・質問を取り上げて次回の授業で学習の深化を図る双方向授業も実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。				2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。					2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。						2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回の授業終了時に実施するチェックテストによって、①②③④に関して、どの程度の学習がなされて授業内容を理解しているかをチェックすることで、各自の到達度を評価する。	20	10	10	10							50
レポート等	課題レポートによって、①②③④に関して、授業内容を理解をした上で各自が問題意識を持って発展学習・調査を行いそれをレポートに達成できているかを評価する。	5	5	20	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	15	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の週の授業内に対応。また、15週目の講義でも総合的なフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（担当者がプリントを用意する）。				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと歌物語の基礎知識	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。〔2〕歌物語の概要。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、歌物語についての基本的な事項を説明できることを目標とする。	
	事前学修	高校時代に学習した便覧・文学史のテキストなどで歌物語にどのようなものがあるのか調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、歌物語の概要に関して整理しておく。	120分
2	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要とその特質	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』についての基本的な事項を説明できることを目標とする。	
	事前学修	高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧などで、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』に関して書かれている部分を読み直す。また、そこに書かれている内容に関して、図書館・ネットなどで深く調査しておく。	120分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の特質をまとめておく。	120分
3	『伊勢物語』の序段を読む	『伊勢物語』を読む〔その1〕——初段「初冠」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「初冠」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの初段「初冠」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。 〔2〕有職故実としての語句「初冠」について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、初段「初冠」に対する理解を深める。〔2〕「いちはやきみやび」とは何なのかをまとめておく。	120分
4	『伊勢物語』の芥川伝説	『伊勢物語』を読む〔その2〕——六段「芥川」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「芥川」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの六段「芥川」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。 〔2〕当該本文の構成の面白さについて考えておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、六段「芥川」に対する理解を深める。	120分
5	『伊勢物語』が描く男女のすれ違い	『伊勢物語』を読む〔その3〕——二十四段「梓弓」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「梓弓」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの二十四段「梓弓」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。 〔2〕古典世界における「弓」「矢」の呪術的な意味合いについて調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、二十四段「梓弓」に対する理解を深める。〔2〕女の心情の変化を整理する。（2時間）	120分
6	『伊勢物語』が描く男の理想像	『伊勢物語』を読む〔その4〕——四十五段「ゆく蜚」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「ゆく蜚」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの四十五段「ゆく蜚」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。 〔2〕蜚の見られる季節やその特色について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、四十五段「ゆく蜚」に対する理解を深める。〔2〕和歌に込められた男の思いをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	『伊勢物語』の和歌を楽しむ	『伊勢物語』を読む〔その5〕——百二十三段「鶉」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「鶉」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの百二十三段「鶉」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「深草」の地について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百二十三段「鶉」に対する理解を深める。〔2〕男の心情の変化について整理する。	120分
8	『伊勢物語』の結末	『伊勢物語』を読む〔その6〕——百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、在原業平の辞世の歌に込められた思いが説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「辞世の歌」について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」に対する理解を深める。〔2〕業平の恋愛について整理しておく。	120分
9	『大和物語』の芦刈伝説	『大和物語』を読む〔その1〕——百四十八段「芦刈」 （1）	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、『大和物語』の芦刈説話の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの百四十八段「芦刈」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕男の心情の変化について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百四十八段「芦刈」に対する理解を深める。	120分
10	『大和物語』の芦刈伝説と他の作品	『大和物語』を読む〔その2〕——百四十八段「芦刈」 （2）	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、登場人物の心情の変化が論理的に説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの百四十八段「芦刈」の本文を読み、ストーリーを整理する。〔2〕「芦刈伝説」について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百四十八段「芦刈」に対する理解を深める。〔2〕物語中の和歌の役割について考えてみる。	120分
11	『大和物語』の伝説の描き方	『大和物語』を読む〔その3〕——百五十段「猿沢の池」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「猿沢の池」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの百五十段「猿沢の池」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百五十段「猿沢の池」に対する理解を深める。〔2〕猿沢の池に関して発展学習として調べてみる。	120分
12	『大和物語』の人物描写	『大和物語』を読む〔その4〕——百五十六段「姥捨」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「姥捨」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕男の心情の変化について調べておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を再読し、登場人物三人の人物像を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	『大和物語』と他の作品の比較研究	『大和物語』を読む〔その5〕——百五十八段「鹿鳴く声」	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、「鹿鳴く声」の段の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	〔1〕プリントの百五十八段「鹿鳴く声」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕『今昔物語集』掲載本文との違いについて考えておく。	120分
	事後学修	〔1〕プリントを再読し、百五十八段「鹿鳴く声」に対する理解を深める。〔2〕男の恋心が取り戻された理由について整理する。	120分
14	半年間の学びの振り返り1	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認レポートについて。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、歌物語の特質を説明できるとともに実際の章段の読解を通じて『伊勢物語』『大和物語』の概要が説明できることを目標とする。	
	事前学修	これまでの講義内容をまとめ、「歌物語に見られる「生」「愛」「死」のかたち」について整理し理解する。レポートの準備と対策をしておく。	180分
	事後学修	各自のレポートの題材に何を取り上げるかを熟慮し、必要な資料を収集する。	120分
15	半年間の学びの振り返り2	〔1〕14回目に説明したレポートを完成させて提出。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、歌物語や『伊勢物語』『大和物語』の特質を他者に向かって説明できることを目標とする。	
	事前学修	14回目の授業で説明されたレポートの作成注意に則ったレポートを完成させる。	180分
	事後学修	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	60分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動による欠席を含め、一切ないものとする。また、初回の講義には必ず出席すること。また、皆出席が前提であり、各期4回を超える欠席は原則として、単位を認定しない。

【授業方法】
板書や配布プリント、映像資料を中心として講義をするが、講義ノートは必需品である。授業内試験の解説は最終回に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的には行わないが、発言を求めることはある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の後、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最初の講義で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜 5 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【日本の芸能】	後期講義のガイダンスと評価について理解する。また、日本の芸能の発生について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本の芸能の発生について、説明できる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	60分
	事後学修	歌舞伎以前の芸能について、調査する。	180分
2	【かぶきの発生】	かぶきの発生について理解し、その時代背景について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎の発生と前時代の芸能との関係を説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
3	【劇場の誕生と三味線】 【台頭する若衆歌舞伎】	劇場の誕生から若衆歌舞伎まで理解し、その成り立ちを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、劇場について現代の劇場との比較ができる。また若衆歌舞伎について、説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	三味線について調査する。	240分
4	【元禄歌舞伎とその時代】	元禄歌舞伎について、その経済成長などの時代背景とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、元禄歌舞伎のみならず、その時代背景についても説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
5	【歌舞伎を鑑賞する】	狂言舞踊を鑑賞し、感想文を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、鑑賞した作品について、説明でき、その上で、批評できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
6	【歌舞伎を飾る】	歌舞伎の舞台装置について、その成り立ちを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、さまざまな舞台装置について説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【歌舞伎十八番と家の芸】	歌舞伎十八番について考え、現代まで続く「家の芸」について、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、歌舞伎十八番について、説明でき、なおかつ、文章で表現できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。その上で、レポート作成する。	240分
8	【歌舞伎を見る】	歌舞伎十八番の解説と鑑賞	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して作品を鑑賞し、感想文を書く。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	60分
	事後学修	感想文作成	180分
9	【歌舞伎のジャンル】	時代物と世話物など、歌舞伎のジャンルについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎のジャンルを説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
10	【歌舞伎のドラマツルギー】	「世界」と趣向について講義する。歌舞伎の作劇法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歌舞伎のドラマツルギーを説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分
11	【木阿弥とその時代】	河竹黙阿弥の作品について、その表現と魅力について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、黙阿弥が生きた幕末・明治の世相と芸能について、説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	黙阿弥の生涯について調査する。	180分
12	【白浪ものを鑑賞する。】	作品鑑賞と解説をする。作品は講義の中で決める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、黙阿弥作品を鑑賞し、その魅力や時代性を説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義を踏まえて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【歌舞伎における悪】	歌舞伎における「悪」の描かれ方について、南北と黙阿弥を通して、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、黙阿弥と南北の作品の描き方を説明できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。	120分
	事後学修	講義をもとに、ノートをまとめる。	120分
14	【授業内試験と解説】	後期試験と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各項目を理解した上で、文章化できる。	
	事前学修	試験の準備をする。	120分
	事後学修	解説をもとにレポート作成	240分
15	【江戸歌舞伎の概観】	後期のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義全体を把握した上で、江戸の歌舞伎について批評できる。	
	事前学修	講義全体を把握する。	120分
	事後学修	最終的に全体をまとめる。	120分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回の復習テストの実施とそのフィードバック。提出されたレポートについては講評を公開する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②④にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等	到達目標①②③についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	15							70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。取り上げる作品等の情報はポータルシステムで公開する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス「梅花宴」とは？	後期の授業計画と内容、目標についての説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、元号の典拠となった『万葉集』梅花宴の概略を理解することができる。	
	事前学修	ポータルで配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業ノートを整理し、学修の振り返りをするとともに、今後の学修計画を検討しておく。	120分
2	石上宅嗣とは？	石上宅嗣に関する説明を受け、渡来系歌人の特徴を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある石上宅嗣の略歴を通して、古代の官人の実態について理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	今回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
3	歌文化の形成について	石上宅嗣が歌を披露した宴席歌群全体を通して、『万葉集』に登場する歌人はごく一部の官人であることを学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大伴家持と交流がなく、漢文学に精通している石上宅嗣が、宴席でふさわしい歌を詠んでいることから、平城京の歌文化の背景には歌に限らない幅広い教養の官人の存在も理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における石上宅嗣の役割を確認する。	120分
4	葛井広成とは？	葛井広成に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある葛井広成を通して、8世紀の歌文化の形成にはこうした渡来系氏族を含めて成立したことを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	今回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
5	宴席歌の特徴とは？	葛井広成が歌を披露した宴席歌群全体を通して、親しい仲間同士が集まった宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「蟬」の声に着目しながら宴席にける同調を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	宴席における葛井広成の役割を確認する。	120分
6	文馬養とは？	文馬養に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある文馬養を通して、平城京の歌文化の成熟に貢献した氏族の存在を理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	今回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	宴席の「終宴歌」とは？		文馬養が歌を披露した宴席歌群全体を通して、直属の上司が主催した宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上司も含む仕事仲間が参集した宴席での歌の披露方法とその特徴について理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	宴席における文馬養の役割について確認する。		120分
8	秦八十島とは？		秦八十嶋に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、渡来系歌人でもある秦八十島を通して、無位から官途を歩み始めなければならない官人の存在を理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。		120分
9	上司を和ませる宴席歌とは？		秦八十嶋が歌を披露した宴席歌群全体を通して、赴任先の地方で開催された宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宴席歌全体の流れを確認することで渡来系歌人の秦八十島の歌がいかに洒落ていて適切なものであったのかを理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	宴席における秦八十嶋の役割を確認する。		120分
10	大伴坂上郎女とは？		大伴坂上郎女に関する説明を受け、女性歌の特徴と役割を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、女性歌としての坂上郎女歌の特徴を理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。		120分
11	歌の表現から考えられる作者の意図とは？		大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席歌と明記のない作品の読み方までも学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、坂上郎女歌を読む行為を通して、社交の具としての歌に長けた坂上郎女を理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する。		120分
12	「梅花宴」とは？		「梅花宴」に関する研究史について学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「梅花宴」32首における類似性が同調と融和の証であり、宴席歌にとっては必須条件であったことを理解することができる。		
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。		120分
	事後学修	研究史における問題点を確認する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「梅花宴」の参加者とは？	「梅花宴」の参加者の動向を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「梅花宴」の参加者は大伴旅人との個人的な交遊が認められる者以外は、たまたま大宰府に訪れていた官人たちであったことを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。	120分
14	「梅花宴」の舞台・大宰府とは？	「梅花宴」に参加した歌人の配置と披露された歌の順番を通して、大宰府という第二の政庁における宴席の特徴を学ぶことができる。その後、復習問題を出す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、参加者が全員男性であったことから女性を侍らせるような性格の宴席ではなく、旅人は参加者たちを文人と見做し、蘭亭の雅会のごとき清遊を企図した宴席であったことを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	研究論文を読むことを通して、自分の考えはどのように述べるべきなのかを確認する。	120分
15	後期まとめ	後期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学修した宴席歌の特徴を整理し、平城京と大宰府の歌文化がいかに豊饒であったかを理解することができる。	
	事前学修	前回の授業で配布した資料を読んでおく。	120分
	事後学修	貴族は宴席をどのような場所として捉えていたのかを確認する②。	180分

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本文学の詳細な読解・解釈を通じ、周辺の資料をも読みながら文学の様相を知ること、積極的な読解や文章に対する判断力を習得する。それにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観や日本及び世界の社会システムを理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文学テキストを通じて幅広い文学的・歴史的教養を身につけ、それにより時代や関係性などを詳細に読解し自ら判断するための知識や洞察力を習得する。今後の世界の状況に対して必要な日本文学の教養を習得し、発信できるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義時にテキストを示す。毎回、前回提出のコメントを読み上げる。なお、扱う文学者は講義の進行具合によって変更する可能性があることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コメントへのレスポンスを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文学テキストを読む基本的なリテラシーと知識を身につけることで、そこに表れている倫理観を時代的・個別的な背景を含め読み取ることができる。					2							
②	日本文学の歴史と、各テキストが執筆された背景を知ること、当時の日本や世界の状況についての知識を身につけ、説明することができる。						2						
③	文章の読解やレポート執筆等を通して、他者の文章のうちに働く論理を読み取り、それに対して批判的な意見を含めた自分の考えを叙述することができる。							2					
④	文学作品のなかから何が問題となっているのか、あるいはそこで扱われているテーマを発見し、その著者がどのような結論を導いたかを読みつつ、自らの思考を説明する。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての知識・読解力・論理性・批判性・説得力が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業終了時に実施するコメントシートでの文章作成により、毎回到達目標①③にかかわるテキストに関する自分なりの理解・質問・説明力と、到達目標②にかかわる背景知識が身についているかを確認する。	15	15	10								40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内での解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義中に示すテキストを主に使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前にmiyazawa.takayoshi@nihon-u.ac.jpまで必ずアポイントメントを取ること。）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	「戦後」文学について。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義の概要をつかむことができる。	
	事前学修	「戦後」の歴史について確認しておくこと。	120分
	事後学修	「戦後」文学について復習をしておくこと。	120分
2	太宰治・坂口安吾	敗戦と文学者	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	太宰治・坂口安吾について確認しておくこと。	120分
	事後学修	太宰治・坂口安吾について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
3	大岡昇平の戦争（１）	「捕虜」の問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	大岡昇平について確認しておくこと。	120分
	事後学修	大岡昇平について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
4	大岡昇平の戦争（２）	戦争と人肉食というテーマをめぐって	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	大岡昇平について確認しておくこと。	120分
	事後学修	大岡昇平について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
5	武田泰淳と中国（１）	武田泰淳の評論を中心に	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	武田泰淳について確認しておくこと。	120分
	事後学修	武田泰淳について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
6	武田泰淳と中国（２）	武田泰淳の小説を中心に	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	武田泰淳について確認しておくこと。	120分
	事後学修	武田泰淳について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	三島由紀夫	三島由紀夫のパフォーマンスと思想	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	三島由紀夫について確認しておくこと。	120分
	事後学修	三島由紀夫について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
8	庄野潤三・安岡章太郎	「第三の新人」について（1）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	「第三の新人」について確認しておくこと。	120分
	事後学修	「第三の新人」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
9	小島信夫	「第三の新人」について（2）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	「第三の新人」について確認しておくこと。	120分
	事後学修	「第三の新人」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
10	安部公房（1）	『壁』ほか初期の小説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	安部公房について確認しておくこと。	120分
	事後学修	安部公房について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
11	安部公房（2）	『砂の女』を中心に	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	安部公房について確認しておくこと。	120分
	事後学修	安部公房について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
12	大江健三郎（1）	初期（いわゆる「アルバイト小説」）を中心に	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	大江健三郎について確認しておくこと。	120分
	事後学修	大江健三郎について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	大江健三郎（２）	「飼育」・『個人的な体験』を中心に	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	大江健三郎について確認しておくこと。	120分
	事後学修	大江健三郎について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
14	中上健次と津島佑子	物語と小説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容を理解し、それに関する自分の意見を記述することができる。	
	事前学修	「戦後」の歴史について確認しておくこと。最終課題の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	中上健次と津島佑子について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
15	現代と「戦後文学」について	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義内容を理解し、最終課題を提出することができる。	
	事前学修	最終課題の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	「戦後」と文学の関係について、講義内容の復習をしておくこと。一年間の講義内容の確認をしておくこと。	120分

科目名	発展教養A【生きる方法の宗教的探究】	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 舘野担当の発展教養Aでは、多くの思想・宗教の基礎にある「いかに生きるか」に着目し、様々な課題を検討し思考を高めることによって、生きる基礎を創ることを行なっていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次回授業開始時に講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート、小テスト答案などを提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2				
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で発表に対し講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず。				

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。tatenom.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の内容を的確に理解する。	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、この授業の内容、形式などを的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	授業者の話をよく聞き、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	宗教の定義とその根本義について	「宗教」の定義に関して考察し、その基本となる意義を説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、宗教とその根本義について理解し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	「宗教」という言葉の定義について、詳しく調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	人工知能について	前回のレポート紹介と講評。人工知能の発展によって人間の環境が大きく変わることに、それに対応するためにどのようにすればいいか、生きればいいのかについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、人工知能について考察し、どのように生きればいいのかを考察し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	人工知能について、現状について調査し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	人工知能を超えるもの	前回のレポート紹介と講評。人工知能を超えるものについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、人工知能を超えることについて考察し、そのためにどのように生きればいいのかを考察し、それをレポートに表現できる。	
	事前学修	人工知能を超えるものについて調査し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	何を求めて生きているか	前回のレポート紹介と講評。自分が何を求めて生きているかに関する受講者の話を聞き、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、何を求めて生きているかを明確にし、その基本に立って生き、それを明確に説明できること。	
	事前学修	自分が何を求めて生きているかに対し考察しノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	自分の主人公について	前回のレポート紹介と講評。自分の主人公とは何かを考察し、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、自分の主人公を明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	自分の主人公について調査、考察し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	ここまでの振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に紹介し、それについてさらにレポートを書く。
	この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
8	執われを超えること		前回のレポート紹介と講評。執われを超えることについて授業者の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、自分の執われと、それを超えることを明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	自分が執われていることについて、現状を検討してノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
9	精神的次元の展開		前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開について話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、精神的次元の展開の内容を明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	精神的次元の展開について考察し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
10	欲求階層説における自己超越		前回のレポート紹介と講評。欲求階層説における自己超越などの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、欲求階層説における自己超越の内容を明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	欲求階層説について調査し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
11	近代科学の特徴と欠点		前回のレポート紹介と講評。近代科学の特徴と欠点を考察し、そこからどのように展開していけばいいかについて検討し、受講者は授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、近代科学の特徴と欠点についての内容を明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	近代科学と宗教について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
12	精神的な弱さとその超克について		前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さとその超克についての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、精神的な弱さとその超克についての内容を明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	精神的弱さについて調査し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	精神集中		前回のレポート紹介と講評。精神集中について、受講者は調べてきたことを発表し、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、精神集中の内容、効果についての内容を明確にし、それを説明できる。	
	事前学修	精神集中、その効果について調査し、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、第8回から第13回までの授業内容を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	全体の振り返りと講評		前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、全体の授業を利用し、それを実践して、自分にとって有益であることを確認し、さらなる向上を目指すことができ、それを説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	発展教養A【法学部のためのイスラーム概説】	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】								
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 長谷部担当の発展教養Aでは、「法学部のためのイスラーム概説」を講義する。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新聞学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、イスラームの教義、世界秩序観、法、奴隷制、税制、神秘主義等を概観したうえで、現代の事象を検討する。								

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)								
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。								

【履修条件】								
なし								

【授業方法】								
講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。14回目の講義で試験を実施し、15回目の講義で返却・解説する。								

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問用紙を用いた双方向的な講義。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2						
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2					
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2						
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問用紙に記された質問には、翌週回答する。14回目の講義で実施する試験は、15回目の講義で返却・解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『岩波イスラーム辞典』	大塚和夫他編	岩波書店	2002	参考書	推奨
『イスラームのとらえ方』	東長靖	山川出版社	1996	参考書	任意
『西アジア』上巻	屋形禎亮・佐藤次高	朝日新聞社	1993	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	現代の中東・イスラーム地域	2000年以降の「中東・イスラーム地域」について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、2000年以降の「中東・イスラーム地域」について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
2	イスラーム生誕	イスラーム、ムハンマド、コーランについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム、ムハンマド、コーランについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
3	スンナ派とシーア派	正統カリフ、スンナ派、シーア派、ウマイヤ朝、アッバース朝について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、正統カリフ、スンナ派、シーア派、ウマイヤ朝、アッバース朝について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
4	イスラーム的世界秩序と法	イスラーム的世界秩序、シャリーア、フィクフ、法源について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム的世界秩序、シャリーア、フィクフ、法源について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
5	法の担い手とその養成	スンナ派四法学派、シーア派一法学派、ウラマー、マドラサ、ワクフについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スンナ派四法学派、シーア派一法学派、ウラマー、マドラサ、ワクフについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
6	マムルークとイクター制	マムルーク、カリフの鼎立、イクター制について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、マムルーク、カリフの鼎立、イクター制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	スーフィーと聖者	スーフィズム、聖者、タリーカについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、スーフィズム、聖者、タリーカについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
8	歴史的前提としてのオスマン帝国	オスマン帝国について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
9	オスマン帝国の崩壊	オスマン帝国における秩序原理の再編、専制、立憲制、第一次世界大戦について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国における秩序原理の再編、専制、立憲制、第一次世界大戦について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
10	オスマン崩壊後の中東	アラブ諸国体制、トルコ共和国について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、アラブ諸国体制、トルコ共和国について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
11	パレスチナ問題の行方	パレスチナ問題について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、パレスチナ問題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
12	イスラーム復興運動の展開	イスラーム復興運動について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、イスラーム復興運動について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アラブの春とイスラーム国	アラブの春とイスラーム国について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、アラブの春とイスラーム国について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
14	混迷のシリア、授業内試験	シリア情勢について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、シリア情勢について理解し、説明することができる。	
	事前学修	本講義全体の復習。	120分
	事後学修	再度、試験問題を解く。	120分
15	試験解説、講義総括	試験問題を解説し、本講義を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、試験問題を解説することができる。	
	事前学修	再度、本講義全体の復習。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	120分

科目名	発展教養B【人生の意味の宗教的探究】	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 舘野担当の発展教養Bでは、多くの思想・宗教の基礎にある「いかに生きるか」に着目し、様々な課題を検討し思考を高めることによって、生きる基礎を創ることを行なっていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
2年次より履修可能。

【授業方法】
題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次回授業開始時に講評する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	主に発表、発言と授業内レポート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。						2	2				
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で、前回レポートの講評し、第7回と第15回には中間、期末レポートを講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず。				

【オフィスアワー】
事前にメールにて連絡の上、メールやzoomで対応する。 tateno.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	授業の内容を的確に理解する		今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、この授業の内容、形式などを的確に理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	授業者の話をよく聞き、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。	120分
	事後学修	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。	120分
2	自分・自我・自己について		自分・自我・自己に関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、自分・自我・自己について理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	自分ということについて考え、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
3	自分を超越えるということについて		前回のレポート紹介と講評。自分を超越えるということに関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、自分を超越えるということについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
4	人間の次の段階について		前回のレポート紹介と講評。人間の次の段階に関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、人間の次の段階について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	人間の次の段階について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
5	仏教の仏・菩薩・神などについて		前回のレポート紹介と講評。仏教の仏・菩薩・神などに関しての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、仏教の仏・菩薩・神などについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	仏教の仏・菩薩・神、ユダヤ教、キリスト教の神について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
6	仏教のダルマなどについて		前回のレポート紹介と講評。仏教のダルマ、ユダヤ教のルアッハ、キリスト教の pneuma に関する先人の見解、授業者による話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	この回の到達目標	到達目標に関して、仏教のダルマなどについて理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	仏教のダルマ、ユダヤ教のルアッハ、キリスト教の pneuma について調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第6回までの振り返りと講評		第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き、提出し、授業者はそれを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業によって分かったことを理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	第6回までのノート、レポートを確認し、自分にとっての意味を明らかにし、それをノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
8	人間が生きるための犠牲について		前回のレポート紹介と講評。人間が生きるための犠牲に関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、人間が生きるための犠牲について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	人間が生きるための犠牲について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
9	仏教に於ける戒と律		前回のレポート紹介と講評。仏教に於ける戒と律に関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、仏教に於ける戒と律について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	仏教に於ける戒と律について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
10	仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理		前回のレポート紹介と講評。仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理などに関する授業者の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、仏教に於ける戒と律と現代社会に於ける規律、倫理について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
11	唯識思想		前回のレポート紹介と講評。仏教の唯識思想の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、唯識思想について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	対象は自分の思考が現れたものであるという見解について調べ、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分
12	華嚴思想に於ける唯心		前回のレポート紹介と講評。仏教の華嚴思想に於ける唯心思想の話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、華嚴思想に於ける唯心について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。		
	事前学修	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自分の主体について	前回のレポート紹介と講評。受講者は自分の主体に関する授業者の話聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、自分の主体について理解し、自分にとっての意味を明確にし、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	自分の主体とは何かについて調べ、ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
14	第8回から13回までの振り返りと講評	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、ここまでの授業によって分かったことを理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	第8回から第13回までのノート、レポートを確認し、自分にとっての意味を明らかにし、それをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。	120分
15	講義全体のまとめ	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出し、授業者はそれを講評する。	
	この回の到達目標	到達目標に関して、について理解し、それをレポートに表現し説明できる。	
	事前学修	初回からのノート、レポートすべてを振り返り、自分にとっての意味を明らかにし、自分の見解を書いておく。	120分
	事後学修	初回からのノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。	120分

科目名	発展教養B【法学部のためのオスマン史概説】	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
日本および世界の各地域・各時代における特定の思想や文化（宗教・民俗・文芸など）に焦点を当て、そのなりたちや関係性について基本的な知識や視点を学修する。そのことを通じて、人間の生き方や社会のあり方を規定する理念・理想の役割を問いなおし、考え深めてゆくための基礎的教養を身につける。 長谷部担当の発展教養Bでは、「法学部のためのオスマン史概説」を講義する。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新聞学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、支配体制、国際体系、ナショナリズム、自由と平等、法の継受、立憲制、議会制、外国投資などにつき、オスマン帝国を事例に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
総合科目「哲学と思想」（Aコース）の「教養基幹科目」での学修の発展・充実をめざす学びの一環として、人生や社会にとって思想や文化の果たす役割や意義の理解を深めるために、特定の思想や文化のなりたちやありようについての基礎的な知識を理解し、説明できる能力を修得する。そのなかで、思想や文化の多様性や重層性の認識をふまえ、物事を相対化できる視点・能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。14回目の講義で試験を実施し、15回目の講義で返却・解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問用紙を用いた双方向的な講義。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	特定の思想や文化についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。							2	2				
②	特定の思想や文化について、自分が生きている社会との接点や相違点などの関係性を理解し、説明することができる。								2	2			
③	思想や文化における多様な視点について比較・検討・考察を実施することができる。						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問用紙に記された質問には、翌週回答する。14回目の講義で実施する試験は、15回目の講義で返却・解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オスマン帝国	小笠原弘幸	中央公論新社	2018	参考書	任意
オスマン帝国	鈴木董	講談社	1992	参考書	任意
オスマン帝国 500年の平和	林佳世子	講談社	2008	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	13世紀までの中東・イスラーム地域	13世紀までの「中東・イスラーム地域」について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、13世紀までの「中東・イスラーム地域」について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
2	オスマン史1―君侯国から帝国へ	オスマン帝国の歴史のうち、1300年から1453年までについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1300年から1453年までについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
3	オスマン史2―古典的支配体制の成立	オスマン帝国の古典的な支配体制について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の古典的な支配体制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
4	オスマン史3―後期支配体制の形成	オスマン帝国の歴史のうち、1453年から1789年までについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1453年から1789年までについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
5	オスマン史4―近代西洋国際体系への参入	オスマン帝国の歴史のうち、1789年から1876年までについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1789年から1876年までについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
6	オスマン史5―二つのナショナリズム	オスマン帝国の二つのナショナリズムについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の二つのナショナリズムについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	オスマン史6―自由と平等	オスマン帝国の歴史のうち、1876年から1922年までについて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の歴史のうち、1876年から1922年までについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
8	法の継受1―オスマンと日本	オスマン帝国と日本における法の継受について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国と日本における法の継受について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
9	法の継受2―オスマンの民法典論争	オスマン帝国の民法典論争について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の民法典論争について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
10	憲法と議会制1―オスマン憲法の制定	オスマン帝国の憲法について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の憲法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
11	憲法と議会制2―二つの立憲制	オスマン帝国の第一次立憲制と第二次立憲制について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の第一次立憲制と第二次立憲制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
12	外国投資と商法1―日本資本のトルコ投資	トルコ共和国における日本資本の導入について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、トルコ共和国における日本資本の導入について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	外国投資と商法2—政体の変容と法の連続性	オスマン帝国とトルコ共和国における法の連続性について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国とトルコ共和国における法の連続性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布されているレジュメを精読する。	120分
	事後学修	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。	120分
14	国制と法、授業内試験	オスマン帝国の国制と法について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、オスマン帝国の国制と法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	本講義全体の復習。	120分
	事後学修	再度、試験問題を解く。	120分
15	試験解説、講義総括	試験問題を解説し、本講義を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3に関連して、試験問題を解説することができる。	
	事前学修	再度、本講義全体の復習。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、再度試験を解く。	120分

科目名	文化人類学Ⅰ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけることを目標とする。

【履修条件】
毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。

【授業方法】
適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーと資料読解もしくは視聴の併用で90分間のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義後に提出するレビューシート（もしくはそれに代わるコメントやレポート）へのフィードバックを次回の講義にて行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念に基づいた上で、それらに伴う倫理観を身につけるようになる。				2						
②	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について理解した上で、その可能性について説明ができるようになる。					2					
③	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、日本におけるマイノリティの現状と可能性について論理的・批判的に考察し説明することができる。						2				
④	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例から、様々な問題を発見し、解決に向けた努力を考察できる。							2			
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ほぼ毎回配布するレビューシートにより、第2～4回は到達目標①にかかわる理解が、第5～9回は到達目標②にかかわる説明力が、第10～14回は到達目標③と④にかかわる論理力と思考力が身についているかを確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	勝方＝稲福恵子・前 嵩西一馬	昭和堂	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後もしくは昼休みを含む休み時間に質問を受け付ける。事前にメールにて予約を取ることを薦める。メールアドレスは、以下のとおり。maetakenishi.kazuma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期ガイダンス及び導入講義	授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介などについて説明できる。	
	事前学修	シラバスの確認と教科書の内容を確認することで、講義全体の概要を見通す。また、本講義を履修することの意義についてまとめておく。	120分
	事後学修	ガイダンス内容を確認し、講義ノートをもとに、今後の学習計画を立てるとともに、文化を学ぶ意義をあらためて自身に引き付けて捉え直す作業を行う。	120分
2	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(1)	文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、「文化理解」について自分なりの経験を探し出し、ノートにまとめる。	120分
3	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(2)	社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、自らが所属する社会の固有の問題についてひとつ選び、自分なりの意見をノートにまとめる。	120分
4	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な概念について(3)	民族あるいはエスニシティーに関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民族あるいはエスニシティーに関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、民族やエスニシティーといった概念に関連する具体的作品（小説、映画、漫画、美術作品など）を選び、鑑賞し、ノートにまとめる。	120分
5	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(1)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱ったトピックやテーマをひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分
6	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(2)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの問題点について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの問題点について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った問題点をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について(3)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの可能性を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの可能性について説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。		120分
8	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程と現状について(1)		日本におけるマイノリティの諸相を踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの現状を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本におけるマイノリティの諸相を踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの現状を説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。		120分
9	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程と現状について(2)		日本におけるマイノリティの諸相を踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの問題を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本におけるマイノリティの諸相を踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの問題を説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。		120分
10	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(1)		資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分
11	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(2)		資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分
12	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(3)		資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(4)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
14	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について(5)	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
15	前学期まとめ	これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理し、説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いたこれまでの復習を行う。	120分

科目名	文化人類学Ⅱ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけることを目標とする。

【履修条件】
毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。

【授業方法】
適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーと資料の読解および視聴の併用で90分間のトレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義後に提出するレビューシート（もしくはそれに代わるコメントやレポート）へのフィードバックを次の講義にて行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念に基づいた上で、それらに伴う倫理観を身につけるようになる。				2						
②	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について理解した上で、その可能性について説明ができるようになる。					2					
③	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、日本におけるマイノリティの現状と可能性について論理的・批判的に考察し説明することができる。						2				
④	資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例から、様々な問題を発見し、解決に向けた努力を考察できる。							2			
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ほぼ毎回配布するレビューシートにより、第2～4回は到達目標①にかかわる理解が、第5～9回は到達目標②にかかわる説明力が、第10～14回は到達目標③と④にかかわる論理力と思考力が身についているかを確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
沖縄学入門 空腹の作法	勝方＝稲福恵子・前 嵩西一馬	昭和堂	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に質問を受け付ける。事前にメールにて予約を取ることを薦める。メールアドレスは、以下のとおり。maetakenishi.kazuma@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期ガイダンス（授業計画、参考文献紹介など）	授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介などについて説明できる。	
	事前学修	シラバスの確認。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容確認。	120分
2	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(1)	文化人類学にとって文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
3	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(2)	社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
4	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像(3)	人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
5	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(1)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
6	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(2)	文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえたうえで、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(3)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分
8	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(4)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分
9	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像(5)		文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相について説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分
10	マイノリティの可能性について(1)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分
11	マイノリティの可能性について(2)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分
12	マイノリティの可能性について(3)		具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を説明できる。		
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。		120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ポストモダン以降の人類学と文化理論について(1)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
14	ポストモダン以降の人類学と文化理論について(2)	具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を説明できる。	
	事前学修	前回の配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いた復習を行う。	120分
15	後学期まとめ	これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理し、説明できる。	
	事前学修	配布資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。	120分
	事後学修	配布資料および教科書を用いたこれまでの復習を行う。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目】に人数調整をするので必ず出席すること】演習科目なので課題に真剣に取り組む学生の履修を望む。人数調整を実施した場合、第1回の欠席者には履修が認められない場合もある。

【授業方法】
テキストとプリント資料併用で、講義と演習を組み合わせた授業。各自の文章を教材として使用（全員にオープン）することもあるので了承の上で履修して欲しい。14回目に授業内試験、15回目にその解説と講評を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の提出とそれに対する担当者のコメント・添削など。場合によっては、受講生の間で課題の相互批評などを行い、学修の深化を図ることもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の課題に対して担当者の側から添削などをおこなう。次回以降の授業で、講評を述べる形でのフィードバックもありうる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法〔新訂版〕——21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典ほか	翰林書房	2019年		
備考	教科書は2019年11月出版の「新訂版」を用意すること。それ以前の「改訂版」などとは大幅に内容が異なっているので注意。				

【オフィスパワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	授業の方法と目的の理解		〔1〕講義概要の説明（成績評価の方法なども詳細に説明するので、必ず出席すること）。 〔2〕テキストの概要とその使い方の説明。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨むことができるようになる。また、文章表現の基本的な事項を理解し、正しく使うことができるようになることを目標とする。		
	事前学修	シラバス全体を読んで授業の概要と流れをつかむ。また、テキスト4ページの「はじめに」を読んでテキストの編集意図を理解しておく。		120分
	事後学修	講義中の配付プリントとテキストを読み返し、理解の徹底に努める。		120分
2	様々な提出文書1		履歴書の書き方1〔概説〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、様々な提出文書の概要を知るとともに、正しい履歴書の書き方に関する基本的な事項を理解し、正しく書くことができるようになることを目標とする。		
	事前学修	テキストの第9章を読んでおく。特に語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。		120分
	事後学修	講義中の説明をもとに再度テキストを読み返し、理解の徹底に努める。テキストに掲載されている「履歴書」〔例〕に記入してみる。		120分
3	様々な提出文書2		履歴書の書き方2〔注意点〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、社会人としてよりふさわしい履歴書、高い評価の得られる履歴書に関する基本的な事項を理解し、正しく書くことができるようになることを目標とする。		
	事前学修	図書館の資料や各種ウェブサイトで、履歴書記入に際しての注意点を事前に調査しておく。		120分
	事後学修	講義中に配布した履歴書の下書きを完成させる。また、最終的には完成させたものを課題学習として提出する。		120分
4	様々な提出文書3		履歴書の書き方3〔実例をもとに〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、履歴書による自己アピールに関して理解し、各自の履歴書作成に活かすことができるようになることを目標とする。		
	事前学修	前回の事後学習において作成した履歴書に不備がないか事前に確認する。		120分
	事後学修	講義中の配付プリントとテキストを読み返し、テキスト第9章の理解の徹底に努める。		120分
5	手紙の書き方1		手紙の書き方1〔手紙の基本と形式〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、社会の様々な場において適切な手紙文が書けるようになることを目標とする。		
	事前学修	テキストの第7章の前半（手紙文の構成）を読んでおく。初めて目にする語句で語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。		120分
	事後学修	テキストの第7章の課題1をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。		120分
6	手紙の書き方2		手紙の書き方2〔手紙文の構成と実例〕	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、伝統的な手紙の書き方を理解し、実際に各自で適切な手紙文が書けるようになることを目標とする。		
	事前学修	テキストの第7章の後半（手紙を書くときの注意）を読んでおく。初めて目にする語句で語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。		120分
	事後学修	講義中に指示された手紙文を作成する。最終的には完成させたものを課題学習として提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	手紙の書き方3	手紙の書き方 3 [カバーレターとは]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、カバーレターの特徴と利用法を理解し、実際に各自で適切なカバーレターが作成でき、それを利用することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	今回の講義内容はテキストには書あまり詳しくかかれていない事項なので、図書館の資料や各種ウェブサイトで、「カバーレター・添え状」に関して事前に調査しておく。	120分
	事後学修	講義中の配付プリントを読み返し理解の徹底に努めるとともに、各自でカバーレターを書いてみる。最終的には完成させたものを課題学習として提出する。	120分
8	手紙の書き方4	手紙の書き方 4 [実作演習]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、より良い手紙文の作成法を理解し、実際に活かすことができるようになることを目標とする。また、各自で作成した手紙文に関する意見交換・論評によって、受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かすことができるようになることも目標とする。	
	事前学修	第6回の事後学習で取り組んだ提出課題にミスがないか、再度確認する。	120分
	事後学修	テキストの第7章の課題2をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。	120分
9	文章作成法1	小論文・作文の書き方 1 [小論文と作文]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、各自の意見を客観的に文章化する理論の基礎的な事項を身に付け、それを実践的に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第3章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	講義中の説明をもとに再度テキストを読み返し、理解の徹底に努める。特にテキスト21ページ以降の構成に関しては理解の徹底に努める。	120分
10	文章作成法2	小論文・作文の書き方 2 [文章を書く上での基礎知識 1]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、文章作成上の基本的なルールを理解し、それを実際の文章作成に活かせるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第1章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	テキストの第1章の課題1・2をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。	120分
11	文章作成法3	小論文・作文の書き方 3 [文章を書く上での基礎知識 2]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、不適切な文や文章がどのようなものかを理解し、そうした誤りを犯さないで正しい文章表現ができるようになることを目標とする。	
	事前学修	テキストの第2章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。	120分
	事後学修	テキストの第3章の課題をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。	120分
12	文章作成法4	小論文・作文の書き方 4 [実作演習 1]	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい文章が書けるようになることを目標とする。また、相互に鑑賞・批判することにより、自己の文章作成法に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	今回は授業内での課題演習をおこなうので、9・10・11回で学習した内容を事前に復習して講義に臨む。	120分
	事後学修	自分が書き上げた課題に誤字・脱字がないか確認する。また、日本語として不自然な表現、わかりにくい言い回しがないか確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章作成法5	小論文・作文の書き方5〔演習の解説〕。併せて次回の授業内試験の概要の説明。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい文章が書けるようになることを目標とする。また、相互に鑑賞・批判することにより、自己の文章作成法に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	前回の事後学習の内容を再度確認して、講義に臨む。	120分
	事後学修	返却された各自の答案の良い点・悪い点を考える。また、講義中に配布された他の人々の課題文の良い点・悪い点を各自で考える。	120分
14	学習のまとめ1	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、正しい文章が書けるようになることを目標とする。	
	事前学修	これまでの講義内容をまとめ、前日に公表された試験概要に沿って、対策を立てておく。	180分
	事後学修	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。	120分
15	学習のまとめ2	〔1〕14回目に実施した試験の解説・講評。質疑応答。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、相互に文章を論評することにより、自己の文章作成法に活かすことができるようになることを目標とする。	
	事前学修	14回目の授業内試験の問題を再度確認し、授業での解説に備える。	120分
	事後学修	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。	180分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目】に人数調整を実施するので、必ず動画を視聴してください】積極的に授業に参加できる学生向けの授業です。

【授業方法】
オンデマンド型の講義です。事前学習を行い、動画を視聴します。動画内で指示される課題を行い提出します。フィードバックされた課題をリライトします。 課題作文の執筆や相互に読み合うなど、学生による演習型（アクティブラーニング）の授業です。課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 課題作文やその発表など、学生によるアクティブラーニングの授業です。ほぼ毎回、課題を提出してもらい、添削をしたものをフィードバックし、全員で課題について討論、検討します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後に添削をし、翌週の授業時に返却・解説（フィードバック）をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法 新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典他	翰林書房	2019年	教科書	必携
備考	参考書は適宜、授業中に示します。				

【オフィスアワー】
メールにて質問を受け付けます。詳細については第1回目の講義で説明をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	授業ガイダンス、導入授業		人数調整を行います。 授業の進め方、受講に当たってのルール、用意するものについて説明します。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、真摯に受講できるか見極めることができる。		
	事前学修	シラバスをよく読み、テキストを準備し、一通り読み、どのような目的を持って学ぶか、ノートにまとめておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で指示された課題を提出してください。		120分
2	電子メールの書き方・デジタル機器を用いた文章作成		インターネットやデジタル機器を用いた文章作成を理解し、電子メールを使って自分の考えを的確に相手に伝える方法を学びます。	
	この回の到達目標	マナーを理解してコミュニケーションツールとしてメール機能を使いこなすことができる。 電子メールで自分の考えを的確に伝えることができる。デジタル機器を用いた文章作成が適切にできるようにできる。		
	事前学修	テキスト第8章をよく読み、課題1・2、およびテキスト第4章をよく読み、課題1をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で示された課題を行い、提出してください。		120分
3	書くために知っておきたい知識		文章を書く際の基本的な知識の理解を深めましょう。	
	この回の到達目標	段落・禁則・句読点・記号の使い方などを理解し、適切に使うことができる。		
	事前学修	テキスト第1章をよく読み、課題1・2をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で示された課題を行い、提出してください。		120分
4	悪文とは		文を書く時の注意点を理解し、実践で活かしましょう。	
	この回の到達目標	主語・述語の対応、一文の長さ、慣用表現などについて理解し、日常生活置いて適切に用いることができる。		
	事前学修	前回配布する資料をよく読み、課題をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で示された課題を行い、提出してください。		120分
5	自己紹介文を書く1		効果的な自己紹介の方法を考え、400字程度で自己紹介文を書きます。	
	この回の到達目標	効果的な自己紹介文とはどのようなものか、理解し、適切に表現することができる。		
	事前学修	テキスト第9章をよく読み、課題1をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義でのポイントを踏まえて、課題1を推敲し提出してください。		120分
6	自己紹介文を書く2 効果的な文書作成		添削を受けた自己紹介文を修正しリライトします。 また、効果的なエントリーシートの書き方について考えます。	
	この回の到達目標	効果的な文書作成ができる。		
	事前学修	テキスト第9章をよく読み、実際に履歴書を書いてみよう。		120分
	事後学修	リライトの提出、およびテキスト53ページの課題2を行い提出してください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	手紙を書く 1		時候の挨拶など、手紙の基本的な書き方について学びます。 円滑なコミュニケーションができるようにしましょう。 実際に手紙を書いてみましょう。	
	この回の到達目標	手紙の基本的な書き方を理解し、実践することができる。		
	事前学修	テキスト第7章をよく読み、手紙の構成はどのようなものか、前回指示された内容について下書きをしておこう。		120分
	事後学修	講義内で示された条件に沿って、実際に手紙を書いて提出してください。		160分
8	手紙を書く 2		書いた手紙を添削、清書します。敬語表現などにも注意しながら書いてみましょう。	
	この回の到達目標	内容に応じて適切な手紙を書くことができる。 さまざまな手紙の種類		
	事前学修	時候の挨拶など、実践で記したもの以外の表現も確認しておきましょう。		120分
	事後学修	前回書いた手紙を添削、清書し提出してください。		120分
9	敬語を適切に使おう		敬語の種類を理解し、その使用方法を学び適切な敬語表現ができることを目指しましょう。	
	この回の到達目標	適切な敬語表現ができる。		
	事前学修	テキスト第6章をよく読み、課題をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で示された課題を行い提出してください。		120分
10	課題作文 1		読書体験を書こう。今まで読んだ本の中で印象深かったものについて、感想や自分に与えた影響についてまとめます。	
	この回の到達目標	読書体験を適切に表現し、伝わりやすい文章を作成することができる。		
	事前学修	自分が読んだ本の中からみんなに紹介したい作品を1冊、準備しておきましょう。その際に、図書館を利用しましょう。		120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。		120分
11	課題作文2		前回の課題について、自分の書いた文章を受講生同士で読み合い、合評します。	
	この回の到達目標	効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか、理解し実践することができる。		
	事前学修	自分が紹介した本を、どのように表現したらみんなが読みたくなるか、テキスト第5章をよく読んで、プレゼンテーションの方法を考え、ノートにまとめておきましょう。		120分
	事後学修	添削で示された部分を復習し、指示された課題を提出してください。		120分
12	文章表現の基本 1		わかりやすい文章とはどのようなものを考えます。	
	この回の到達目標	良い文章を書くための方法を理解することができる。		
	事前学修	テキスト第2章をよく読み、課題1・2をやっておきましょう。		120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。		160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章表現の基本 2	論理的な文章の書き方を学び、実際に書いてみよう。	
	この回の到達目標	論理的な文章とはどのようなものか理解し、書くことができる。	
	事前学修	テキスト第3章をよく読み、課題1のBをテーマについて構成を考え提出してください。	160分
	事後学修	テキスト第3章・課題2を行い提出してください。	160分
14	文章表現の基本 3	前回書いた文章を添削し、合評します。	
	この回の到達目標	添削された部分を理解し、修正する、また、他の受講生の考えを理解し、評価をすることができる。	
	事前学修	前回配布する資料をよく読み、分かりやすい文章とはどのようなものか考えをノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	添削で示された部分をリライトしておきましょう。	120分
15	前期のまとめ	前期に学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	前期に学んだことを振り返り、学習したことが理解できる。	
	事前学修	テキストを再度よく読んでください。	120分
	事後学修	配付資料をよく読んで文章表現の基礎を確認し、ノートにまとめておきましょう。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】 様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。
--

【履修条件】 【第一回目の講義に人数調整を行うため、必ず出席すること。】その際に、「大学で学びたいこと」（600字程度）を手書きで書き、持参すること。4年生の優遇は、就職活動を含め、一切ないものとする。また、皆出席が前提であるため、4回以上の欠席は原則単位を認定しない。また、連続する講義のため、後期も受講することが望ましい。詳細は最初の講義で説明する。

【授業方法】 基本的には、時間内にレポート、小テストを行い、添削および解説を行う。また、学生間の相互添削なども予定している。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的には文章作成が中心だが、学生間の相互添削なども予定している。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それをを用いて自己を表現することができる。						2						
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2					
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2				
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2	
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題について添削指導、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	毎回プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜 4 限 授業終了後授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【受講理由の執筆】	前期のガイダンス。授業全体を把握してもらう。その上で、受講理由を400字程度で作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常的な文章作成ができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、自分の文章力を把握する。（2時間）	120分
	事後学修	次の課題について準備する。（2時間）	120分
2	【小論文を書いてみる】	小論文作成（800字程度）。現在の自分の文章力の把握と書くスピードを認知する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論理的な文章を書くことができる。	
	事前学修	自分の文章力を元に、800字程度の文章を作成する。（3時間）	180分
	事後学修	本課題について考え、改めて書いてみる。（3時間）	180分
3	【文章の基礎】	文章の基礎を学ぶ。「読む人が読みやすく、わかりやすい文章」とは何かを講義を通して理解する。また、課題を通じて、文章記号への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的な文章作法を体得できる。	
	事前学修	前回の文章をふまえて、改めて自身の文章力を見直す。（1時間）	60分
	事後学修	今回の講義を踏まえて文章を作る。（3時間）	180分
4	【わかりやすい文章とは】	文章の長さや文末表現。読み手が混乱しない文章作成を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他人に読みやすい文章が作成できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	自分の文章力を見直す。（2時間）	120分
5	【他人紹介】	受講生がペアを組んで、それぞれインタビューした上で、相手のことを紹介する文章を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、耳で聞いた内容を正確に文章にできる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作成する。（2時間）	120分
6	【相互添削】	前回作成した文章を相手に読んでもらい、添削しあう。その上で、清書して提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を添削することができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【悪文訂正】	悪文について講義する。「絶対的悪文」ともいうべき、誰が読んでも読みづらい文章を読む。これを反面教師として、「読みやすい文章」の書き方を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を読み、自己の文章に反映することができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
8	【間違えやすい表現を学ぶ】	課題を通して、話し言葉と書き言葉について学び、加えて文語表現と文体の統一について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正しい文章表記を身につけることができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
9	【引用表現】	課題を通して、引用について学び、引用と剽窃（いわゆる「パクリ」）の違いを理解し、正しい引用法を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、正しく引用することができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）	120分
10	【参考文献収集】	参考文献について、その表記の仕方や収拾の仕方をを身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しく参考文献一覧が表記できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	文献収集し、参考文献一覧を作成する。（4時間）	240分
11	【警護を学ぶ】	課題を通して敬語について理解し、学生時代はもちろん、社会に出ても恥ずかしくない敬語の用法を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい敬語で話すことができる。また、敬語を用いた文章作成ができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義ノートをまとめ、練習問題に取り組む。（2時間）。	120分
12	【手紙やメールの書き方】	手紙について 「はがき」「封書」の用途の違いや、年賀状などの略式あいさつなど、一般的な手紙の用途について身につける。また、「改まった手紙やメール」の書き方も身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、改まった手紙を書くことができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義ノートをまとめ、挨拶状を作成する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【小論文の自己添削】	第2回の講義で作成した文章を講義ノートなどをもとに、自己添削する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基礎的な文章力を養うことができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義内で添削した文章を清書する。（3時間）	180分
14	【エントリーシート作成】	課題を通して効果的なエントリーシートの書き方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、効果的なエントリーシートが作成できる。	
	事前学修	前期の講義を振り返り、質問を考える。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
15	【文章能力テストと解説】	手紙と敬語、悪文に関するテストと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の基本が理解できる。	
	事前学修	授業内試験の準備（2時間）	120分
	事後学修	全体の復習（2時間）	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	高橋 優美穂	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
原則、毎回課題が課されるため、その課題に取り組むことができる学生向けの授業である。【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
教科書と参考資料を用いた講義と演習を組み合わせる進めていく。なお、課題で作成してもらった文章は、受講者全員で共有することがあるので、その点を了承の上で履修してほしい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	30	30									60
討論・発表等	到達目標③④に関して、書評の相互評価を通じて、客観的・論理的に自己の意見を述べるられているかを評価する。			20	20							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題はすべて添削を行い、返却する。優秀なものは個人名を伏せて、他の受講生と共有する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法―21世紀を生きる社会人のたしなみ〔新訂版〕	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質疑応答は、メールにて行う。メールアドレス：takahashi.yumiho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 文章を書く①：自己紹介文	授業内容や教科書の使用方法など、授業に関する事項の説明を行う。また、受講生の文章執筆能力を確認するため、自己紹介文を執筆し、課題①として提出してもらう。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、自己紹介文の執筆を通じて、文章執筆能力を見つめ直すことができるようになる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	60分
	事後学修	講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	180分
2	文章を書く②：文章執筆の基礎知識	文章を書く時の基本ルールについて、教科書を用いて講義を行い、課題①のリライト（修正）をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、原稿用紙の使い方や句読点のルールなど、細かな点に気を配りながら、文章を書くことができるようになる。	
	事前学修	教科書の5～10ページを読んでくる。とくに原稿用紙の使い方については熟読しておくこと。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
3	文章を書く③：文章を書く時の注意点	文を書く上でのルールについて、教科書を用いて講義を行い、課題②を執筆する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、主語と述語がねじれた文のように、文の構造に注目しながら、作文を執筆できるようになる。	
	事前学修	教科書11～14ページを読んでくる。	120分
	事後学修	教科書11ページの課題1・2を解き直し、復習をする。	120分
4	文章を書く④：文章の構成	文章の構成について、教科書を用いて講義を行う。課題②の清書を行い、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、主語と述語がねじれた文のように、文の構造に注目しながら、作文を執筆できるようになる。	
	事前学修	教科書19～22ページを読んでくる。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
5	作文を書く①：文章執筆の実践	課題作文②のフィードバックを行い、文章執筆の基本事項および作文の定義を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、文章執筆上の基礎事項を修得することができる。到達目標③について、自己の意見を客観的に述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書20ページを読んでくる。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。とくに作文・論作文・論文の違いを明確にすること。	120分
6	作文を書く②：リライトの実践	指定したテーマに沿って600字程度の論作文を執筆し、課題③として提出する。	
	この回の到達目標	到達目標③について、意見を客観的、論理的に述べることができるようになる。到達目標④について、自己の文章を修正することができるようになる。	
	事前学修	教科書や講義資料を読み返し、文章作成の基本事項について復習しておく。	60分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	書評を書く①：書評とは何か	書評とは何かについて講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④について、書評の見本を読むことで、様々な文体があることを知り、自己の作文に活かすことができるようになる。	
	事前学修	新聞や書評サイトに掲載された書評を1～2本読む。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
8	書評を書く②：資料を引用する	資料の用い方と引用の仕方について講義を行う。書評を執筆する新書について、要約を作成し、課題④として提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、書評を執筆する書籍が取り上げている問題の現状を、他の資料を参考にして理解することができるようになる。到達目標③について、自己の意見を客観的に述べるために必要な資料を、的確に探すことができるようになる。	
	事前学修	書評を執筆する新書を1冊選び、読み進めておく。	120分
	事後学修	書評に用いる書籍をについて、どのように紹介すれば良いかを考えておく。	120分
9	課題④のフィードバック	要約の仕方や引用の仕方について、提出された課題④をもとにフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、文章執筆上の基礎事項を修得することができるようになる。到達目標④について、自己の文章を修正することができるようになる。	
	事前学修	自分が書いた書評を読み返し、修正すべき点があるかどうか検討する。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
10	書評を書く③：資料を探す	書評を書くために、文献資料を探す方法を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標③について、自己の意見を客観的に述べるために必要な資料を探すスキルを身につける。	
	事前学修	法学部図書館OPACにアクセスし、興味のあるキーワードで資料検索を試みる。	180分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	60分
11	書評を書く④：参考文献一覧を書く	参考文献一覧の執筆ルールについて講義を行い、参考文献一覧を完成させ、課題⑤として提出する。	
	この回の到達目標	到達目標③について、文献資料を用いて自己の意見を客観的・論理的に述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書17～18ページを読んでくる。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	120分
12	書評を書く⑤：書評を完成させる	書評の清書をし、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容を踏まえて文章を執筆することで、適切な文章表現ができるようになる。	
	事前学修	書評の文章構成を考える。	120分
	事後学修	自分が書いた書評を読み返し、修正すべき点があるかどうか検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	相互批評をする	提出された書評について、学生同士で批評を行い、課題⑥として提出する。	
	この回の到達目標	到達目標③④について、学生間で相互批評をすることで、自己の意見を客観的・論理的に述べられるようになる。また他者の意見に触れ、自己の文章作成に活かすことができるようになる。	
	事前学修	自分が書いた書評を読み返し、修正すべき点があるかどうか検討する。	120分
	事後学修	フィードバックされた課題の良い点、悪い点を整理する。	120分
14	課題⑥のフィードバック	提出された課題⑥について、フィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④について、学生間で相互批評をすることで、自己の意見を客観的・論理的に述べられるようになる。また他者の意見に触れ、自己の文章作成に活かすことができるようになる。	
	事前学修	自分が提出した批評文を読み返し、修正すべき点があるかどうか検討する。	120分
	事後学修	フィードバックされた課題の良い点、悪い点を整理する。	120分
15	前期のまとめと質疑・応答	前期のまとめを行い、質疑・応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容を踏まえて文章を執筆することで、適切な文章表現ができるようになる。	
	事前学修	執筆した書評を提出できるように、準備をする。	120分
	事後学修	授業内に行った解説・講評などを参考にして、これまでの授業内容をまとめる。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	竹田 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】		
教員による講義と、受講者による課題の実践を組み合わせた授業を行う。講義では、いくつかの実例をもとに、文章表現のための基本的事項について解説する。その後、受講者は講義での解説を踏まえて、実際に文章を作成する。作成した文章は、教員による添削・指導を受けて修正し、完成を目指す。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回に課題を設け、文章の作成を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
classroomのコメント、メールなどで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、文章表現について	この授業の進め方、成績評価の方法などについて説明する。また、文章表現を学ぶ意義について解説する。	
	この回の到達目標	授業の概要、文章表現を学ぶ意義について理解することができる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく確認する。	120分
	事後学修	配布プリントを読み返し、授業の概要・意義を確認する。	120分
2	自己紹介文を書く	自己紹介文を作成する。	
	この回の到達目標	自分について書くことを通じて、自分の基本的な文章表現能力について把握することができる。	
	事前学修	自分について、どのような特徴、経歴があるか、整理しておく。	120分
	事後学修	自分の書いた文章を客観的に見直し、自己添削をする。	120分
3	履歴書を書く 1 自己PR文を書く	自己紹介文を見直し、自己PR文として書き直す。	
	この回の到達目標	自己PR文を書くことを通じて、客観的に自己について分析することができる。また、就職活動などで求められる文章作成において必要な文体、形式、説得力ある表現の仕方などを意識することができる。	
	事前学修	自分について、どのような長所があるか、またその根拠になるようなエピソードがあるか、自己分析しておく。	120分
	事後学修	自分の書いた文章を客観的に見直し、自己添削をする。	120分
4	履歴書を書く 2 履歴書の書き方	実際の書式に沿って履歴書の書き方を確認する。	
	この回の到達目標	基本的な書式、ポイント、注意点を理解して、履歴書を作成することができる。	
	事前学修	履歴書にどのような項目があるか確認しておく。また、それに沿って自分が書く内容を準備しておく。	120分
	事後学修	自分の作成した履歴書を客観的に見直し、自己添削する。	120分
5	履歴書を書く 3 言葉づかい	敬語などの言葉づかいのマナーについて再確認する。	
	この回の到達目標	場面に応じて適切な敬語表現を使うことができるようになる。	
	事前学修	自分の普段の言葉づかいなどを見直し、どのような場面ではどのような表現がふさわしいかを考える。	120分
	事後学修	授業の解説、確認テストなどの内容を振り返って、自分の言葉づかいを改めて見直す。	120分
6	手紙を書く	さまざまなケースに合わせた手紙の書き方について学修する。	
	この回の到達目標	手紙を書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点を理解して、実際に手紙を書くことができる。	
	事前学修	どのような場合に手紙を書く必要があるのか、その意味について考えておくこと。	120分
	事後学修	自分の書いた手紙を客観的に見直し、自己添削する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	メールを書く		手紙とメールの特性の違いを理解し、メールの書き方について学修する。	
	この回の到達目標	メールを書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点などを理解して、実際にメールを書くことができる。		
	事前学修	どのような場合にメールを書く必要があるのか、その意味について考えておくこと。		120分
	事後学修	自分の書いたメールを客観的に見直し、自己添削する。		120分
8	ビジネス文書を作る		さまざまなケースに合わせたビジネス文書の書き方について学修する。	
	この回の到達目標	ビジネス文書を書く際の基本的なルール、適切な言葉遣い、注意点などを理解して、実際に作成することができる。		
	事前学修	どのような場合にビジネス文書を作る必要があるのか、その意味について考えておくこと。		120分
	事後学修	自分の書いたビジネス文書を客観的に見直し、自己添削する。		120分
9	文章を読む1 パラグラフ		文章を書く前に、まずは正しく読み取ることを練習する。まずは「パラグラフ」について理解する。	
	この回の到達目標	文章における「パラグラフ」の機能について理解し、それを意識しながら文章の意味を正しく読み取ることができる。		
	事前学修	いつも自分がどのように文章を読んでいるか、改めて意識化しておくこと。		120分
	事後学修	配布プリントを見直し、パラグラフの機能を理解すること。		120分
10	文章を読む2 要約する		文章の内容を正しく読み取り、その読み取った内容を要約することで理解を確かにする。	
	この回の到達目標	長い文章を正しく読み取り、自分の言葉で的確に要約することができる。		
	事前学修	パラグラフを意識しながら長い文章を読み、その内容を整理しておく。		120分
	事後学修	自分の書いた要約を客観的に見直し、自己添削する。		120分
11	レポートを書く1 問いを立てる		小レポート作成に向けて、テーマを考え、問題設定をする。	
	この回の到達目標	小レポートのテーマについて検討し、適切な問題設定をする。		
	事前学修	自分の興味のあるテーマについて簡単に情報収集をしておく。		120分
	事後学修	配布プリントを見直し、各自のテーマについてブレインストーミングをして問を掘り下げる。		120分
12	レポートを書く2 調べて書く		小レポートを作成する。執筆に必要な情報報酬集の仕方を学修する。	
	この回の到達目標	正しい情報収集の仕方、情報の取扱い方を理解することができる。		
	事前学修	各自のテーマについてさらに情報収集、ブレインストーミングをしておく。		120分
	事後学修	配布プリントを見直し、適切な方法によって情報収集をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レポートを書く3 引用と参考文献	小レポートを作成する。調べた情報をレポートに使用する際の注意点、引用の仕方、参考文献の示し方について学修する。	
	この回の到達目標	情報の取扱い方、引用、参考文献のルールを正しく理解して、レポートを書くことができる。	
	事前学修	自分で調べた情報について、書誌情報を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布プリントを見直し、引用の仕方、参考文献の示し方を理解する。	120分
14	レポートを書く4 構成に沿って書く	小レポートを作成する。全体の構成を作って、論理的な文章を書く。	
	この回の到達目標	論理的な書き方について理解し、説得力ある文章を書くことができる。	
	事前学修	どのような展開で説明すればよいか、論証するために必要な根拠は何か、自分でも考えておくこと。	120分
	事後学修	配布プリントを見直し、自分のレポートの論理構成、文章について推敲しながら、レポートを書き進める。	120分
15	レポートの提出とふりかえり	小レポートを提出する。これまでの授業内容、添削の内容を踏まえて完成させる。	
	この回の到達目標	これまでの授業内容を正しく理解して、形式・内容の整ったレポートを書くことができる。	
	事前学修	ここまでで作成したレポートを見直し、最後まで書き進める。	120分
	事後学修	ここまで授業内容について改めて確認しつつ、自分のレポートを自己添削する。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目の授業に、必ず出席しなければならない。

【授業方法】
教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。補助教材としてプリントを配布することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内、もしくはポータルの通知で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語表現の基礎知識が身に付いているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他(課題)	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文章検文章読解・作成能力検定公式テキスト準2級	日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定協会	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）の場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと受講者数の調整	授業計画とその内容の説明を理解し、授業の準備をどのように行うべきかを考えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③についての説明を理解することができる。	
	事前学修	これまでの文章作成に対しての自身の問題点は何だったかを考えておく。	120分
	事後学修	授業ノートを整理・確認し、文章を書く際の注意点とこの講義の目的を理解し、自分の学修計画を練る。	120分
2	第1章基礎力「語彙」	熟語や慣用句を正しく使用することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、与えられた意味内容や用法から、その熟語や慣用句を適切に選ぶことができる。	
	事前学修	教科書の「コラム」に掲載されている四字熟語の読み方と意味を理解しておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
3	第1章基礎力「文法」	最近よく見かける言葉遣いで、適切とは言えないものは何か見極めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ら抜き言葉やレ足す言葉などを理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、適切とはいえない表現とはどのようなものかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
4	第2章読解力「意味内容・文章構成」	段落の役割とその相互関係とは何かを考えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、段落の役割やその段落どうしの関係を理解、文章化することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、文章には何が書かれているのか、あるいは筆者の考えは何かを読み取るとはどのようなことかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
5	第2章読解力「資料分析」	資料を読み取る方法を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、図表やグラフを読み取る際、注意をしなければならないことを理解し、文章化することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、正しい資料の読み取り方とはどのようなことかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
6	第3章作成力（1）「書く力」	分かりやすい表現とはどのような表現なのかを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読み手のことを想像しながら、文章を書くことができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、わかりやすさの原理とはどのようなことかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3章作成力（1）「表現」	分かりやすい表現とはどのような表現なのかを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どのような表現を用いれば、読み手にわかってもらえるのか深く理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、わかりやすい表現をする工夫を考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
8	第4章作成力（2）「伝える力」	相手に配慮することが求められる手紙の書き方を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙を書く時相手にどのような配慮をすべきかを理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、手紙の文章で注意すべきことを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
9	第4章作成力（2）「総合・通信文」	相手に配慮することが求められる手紙の書き方を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙を書く時情報を正確に伝えるにはどうすればよいのか理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、手紙で自分の思いを正確に伝えるにはどうすればいいのかを考えておく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
10	第5章作成力（3）「考える力」	論理的な文章展開の方法を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の考えを主張するだけでなく、自分とは異なる考え方にも配慮した文章をどのように書けばいいのか理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、論説文の型はどのようなものが適切なのかを考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
11	第5章作成力（3）「総合・論説文」	論理的な文章展開の方法を学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説文を作成する手順を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読み、適切な論説文の構成とはどのようなものか考えておく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
12	まとめ問題 第1・2問	これまでの学修の中で、基礎力と読解力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、四字熟語やグラフ付きの文章を正しく使用したり読んだりすることができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ問題 第3・4問	これまでの学修の中で、読解力と作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章構成に関する問題や手紙文を推敲する問題を正解することができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
14	まとめ問題 第5問	これまでの学修の中で、作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を的確に伝えるだけでなく、自分の意見が他と異なる時はブレーン・ストーミングを行い、自分の立場や意見を支える材料集めたり、理由を考えたりすることができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
15	授業内復習テスト	復習テストの実施とその解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の読解・作成能力を的確に測定し、能力を向上させることができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	200分
	事後学修	ポータルで公表された解答例を基に、自身の学修の振り返りを行う。	90分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目に人数調整をするので必ず出席すること。

【授業方法】
提出する課題を添削して返却する。欠席・課題未提出は原則として認めないので注意すること。なお、シラバスの授業進行はテーマが前後することもあることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。						2						
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。							2					
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。								2				
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。											2	
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前にmiyazawa.takayoshi@nihon-u.ac.jpまで必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。文章表現について	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己紹介を行うことができる。	
	事前学修	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。	120分
	事後学修	文章表現について、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
2	自己紹介	自己紹介文を書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	文章表現について、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	自己紹介文について、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
3	記憶	記憶を書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	自己紹介文について、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	記憶を書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
4	悪文	悪文に学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	記憶を書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	悪文に学ぶことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
5	事実と意見	事実と意見の書き分けに注意して書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	悪文に学ぶことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	厳密に書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
6	悪文について	悪文に学びながら書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	厳密に書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	言い換えに注意して書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	エピソード	エピソードを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	言い換えに注意して書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	エピソードを書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
8	構成と比較・対照	構成に注意し、比較・対照を活用しながら書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	エピソードを書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	近親者に向けて書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
9	要約	要約文を書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	近親者に向けて書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	長文記事をまとめることについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
10	課題の練り直し	再度推敲しながら書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	長文記事をまとめることについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	肯定・否定の意見を書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
11	引用・参考文献	引用・参考文献の書き方を身につける	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	肯定・否定の意見を書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	学生生活の報告について、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
12	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	学生生活の報告について、前回内容の確認をしておくこと。	120分
	事後学修	レポートの目標を設定することについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	資料の要約	専門的な資料を要約する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	レポートの目標を設定することについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
	事後学修	引用・参考文献をまとめることについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
14	レポート執筆	レポートを執筆する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	引用・参考文献をまとめることについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
	事後学修	レポートを執筆することについて、講義の要点の復習をしておくこと。	120分
15	振り返り	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。最終課題の提出	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期の最終課題文を作成することができる。	
	事前学修	レポートを執筆することについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。	120分
	事後学修	半期を振り返り、要点を復習すること。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回で人数調整をする場合があるので、履修希望者は必ず出席してください。

【授業方法】
オンラインによるオンデマンド方式の授業となります。Google Classroomにアップロードされた授業動画を視聴し、練習問題や課題に取り組んでください。Classroomを活用した個人作業、ピア・ワークを複合した演習形式で進めます。出席確認は、出席管理システム（レスポん）で実施します。質問については、ClassroomやGmail（NUメール）で対応します。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 第4、5、6、10、13回はピア・ワークによるディスカッションを実施し、演習問題や文章作成に取り組みます。また、第5、6、11回はピア・ワークを通して、事前学修に取り組みます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等および討論・発表等に該当する、演習問題とピア・ワークについては作成例の提示と解説を、小テストについては添削と解説を行います。レポート等に該当する総合演習問題については解説と講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
木曜日の授業の前後以外にも、Google ClassroomやGmail（NUメール）で随時対応します。watanabe.shigeto11★nihon-u.ac.jp ★印を@に変更してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	学修活動に関するガイダンス 導入講義	学修活動と全体のスケジュールを確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術を踏まえて学修活動の見通しを持つことができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。	120分
	事後学修	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。	120分
2	表記法の確認	表記の基準と読みやすさについて演習問題に取り組み、確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関して、表記の仕方を工夫することで読みやすい文章を書くための準備ができる。	
	事前学修	メールや提出物などで日常的に用いている表記について確認し、各自の表記の特徴をまとめておきます。	120分
	事後学修	図書館やP Cで各自が用意した文章を表記の基準に注意しながら読み、必要に応じて修正します。	120分
3	文章作成の基本	文章作成の基本を踏まえて、わかりやすい文章の書き方を修得します。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関して、わかりやすい文章の特徴を理解し、実践することができる。	
	事前学修	わかりやすい文章を書くための演習問題に取り組みます。	120分
	事後学修	作成例を基にリライトし、文章作成の基本について振り返ります。	120分
4	要約文の作成	要点の捉え方と文章化の手順を踏まえて実践し、ピア・ワークで確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、課題文の要点を捉えた要約文を作成することができる。	
	事前学修	要約文作成のポイントについて想起し、まとめておきます。	120分
	事後学修	作成例を基に要約文をリライトし、演習問題に取り組みます。	120分
5	敬意表現：尊敬語	尊敬語の適切な使用について修得し、実践のための準備をします。 演習問題にピア・ワークで取り組みます。	
	この回の 到達目標	到達目標①④に関して、尊敬語を適切に使用することができる。	
	事前学修	尊敬語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。	120分
	事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、尊敬語の使用が適切かどうかについて再確認します。	120分
6	敬意表現	謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱの適切な使用について修得し、実践のための準備をします。 演習問題にピア・ワークで取り組みます。	
	この回の 到達目標	到達目標①④に関して、謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱを適切に使用することができる。	
	事前学修	謙譲語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。	120分
	事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、謙譲語の使用が適切かどうかについて再確認します。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	敬意表現：丁寧語・美化語	丁寧語・美化語の適切な使用について修得し、実践のための準備をします。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関して、丁寧語・美化語を適切に使用することができる。	
	事前学修	丁寧語・美化語の使用について想起し、曖昧な部分を確認しておきます。	120分
	事後学修	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、丁寧語・美化語の使用が適切かどうかについて再確認します。	120分
8	敬意表現：誤用例の解説と小テスト	誤用例について学び、小テストで到達度を確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、誤用例を踏まえて、適切に敬語を使用することができる。	
	事前学修	敬語使用全般について弱点がないかを整理し、確認しておきます。	120分
	事後学修	小テストを踏まえて、敬語使用についての弱点を確認し、復習に取り組みます。	120分
9	実用文：手紙文の基本	手紙文の基本ルール（レイアウトを含む）を修得します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、手紙文の基本ルール（レイアウトを含む）を修得し、作成の準備ができる。	
	事前学修	手紙文作成に関する、現段階での知識を整理し、曖昧な部分を確認しておきます。	120分
	事後学修	作成例を基に手紙文の基本ルールについて整理し、確認しておきます。	120分
10	実用文：手紙文の作成とリライト	基本ルールを活用して手紙文を作成し、通してリライトします。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関して、手紙文を作成し、推敲によって完成度を高めることができる。	
	事前学修	手紙文作成の準備をし、演習問題に取り組みます。	120分
	事後学修	作成例を基に演習問題に取り組みます。	120分
11	実用文：メールの基本	教員とのメール、就職活動時のメールについての注意点を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、メールによる円滑なコミュニケーションができるようになる。	
	事前学修	日常的なメールの使用に問題点がないか、ピア・ワークで確認しておきます。	120分
	事後学修	作成例を基にメールをリライトし、演習問題に取り組みます。	120分
12	実用文：エントリーシート作成の基本	基本的な知識と手順を踏まえて、自己分析シートの記述をピア・ワークによって見直します。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、自己分析を通してエントリーシート作成の基本を修得することができる。	
	事前学修	自己分析シートを作成し、ピア・ワークで読み合わせをします。	120分
	事後学修	エントリーシートの効果的な作成の仕方について整理しておきます。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	実用文：自己PRの作成	基本的な知識と手順を踏まえて自己PRを作成し、ピア・ワークで読み合わせをします。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、アピールポイントを効果的に読み手に伝える自己PRを作成することができる。	
	事前学修	自己分析シートを踏まえてアピールポイントを確認します。	120分
	事後学修	作成例を基に自己PRをリライトします。	120分
14	総合演習問題についての準備と実施	敬意表現と手紙について復習し、総合演習問題によって到達度を確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、学修内容を整理し、到達度を確認することができる。	
	事前学修	敬意表現と手紙文についての学修内容を整理します。	120分
	事後学修	敬意表現と手紙文について自己点検をします。	120分
15	総合演習問題についての振り返りと自己点検報告の作成	総合演習問題について解説と講評によって振り返り、自己点検報告を作成します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、文章作成に関する自己点検をすることができる。	
	事前学修	敬意表現と手紙文について自己点検し、弱点について分析します。	120分
	事後学修	敬意表現と手紙文についての弱点を再確認し、克服のための手立てを講じ、実践します。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	大熊 圭子	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】演習科目なので課題に真剣に取り組む学生。人数調整を実施した場合、第1回の欠席者には履修が認められない場合もある。

【授業方法】
文章表現に関する注意点を簡単に説明したのち課題に取り組み、担当者および受講生が課題解答例について議論し、担当者がコメントする。受講生の到達目標の達成状況によっては各回の授業内容を入れ替えたり多少変更する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題やそれについて議論するなど、アクティブラーニングの授業です。積極的に課題に取り組み、議論の場でも積極的に意見を出すことを重視します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題についてはコメントを入れて返却、それ以外の課題については授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
【増補版】 大人のための国語ゼミ	野矢茂樹	筑摩書房	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって	講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意点、教科書の紹介などを行う。	
	この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。書くことにあたり何が重要かを説明できる（関連SB0s①）。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	60分
	事後学修	シラバス・ガイダンスの説明をよく理解し、履修を検討する。	120分
2	相手のことを考えて書くその重要性	必ず読み手のことを念頭に書かなければならないことについて考える。	
	この回の到達目標	読み手のことを考えて書く理由を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書1-1をよく読んで、読み手のことを考えて書く必要性について考えておく。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書1-1をよく読んでおくこと。	120分
3	相手のことを考えて書いてみる	どのような読み手かを考え、その読み手にあった文章を実際を書いてみる。	
	この回の到達目標	読み手のことを考えた文章を書くことができる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	前回の講義内容を念頭に、教科書1章をすべて読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書1章を読み直すこと。	120分
4	事実・推測・意見	事実、推測、および意見の区別、またそれを理解して文章を書くことを学ぶ。	
	この回の到達目標	事実、推測、および意見の区別について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書2-1をよく読んで、事実・推測・意見の違いを自分で理解しているか考える。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書2-1を読み直すこと。	120分
5	事実の多面性	表現の仕方により、同じ事実がさまざまに理解されてしまうことを学ぶ。	
	この回の到達目標	なぜ表現の仕方に注意しなければならないかを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書2-2をよく読んで、事実の多面性とはどのようなことか考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書2-2を読み直すこと。	120分
6	意見の多様性	意見を共有していない相手に対しての表現の注意点について学ぶ。	
	この回の到達目標	意見を共有していない相手に対して文章を書くときに注意すべきことを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書2-3をよく読んで、自分の意見を含ませる表現について考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書2-3を読み直すこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	暗黙の前提		無意識のうちに自分だけの前提を用いていないか注意して文章を書いていくことを学ぶ。
	この回の到達目標	暗黙の前提について、またそれについて文章を書く上でなぜ注意しなければならないのかを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書2-4をよく読んでおくこと。特に暗黙の前提について考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書2-4を読み直すこと。	120分
8	整理してから書く		いきなり書かない、書く内容をきちんと整理してから書くこと、その理由を学ぶ。
	この回の到達目標	書く前に行うべきことを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書3章を読んでおくこと。特に3-1について思いつくままに書いてこなかったか考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書3-1を読み直すこと。	120分
9	整理の方法		文章を書くにあたり、どのような整理の仕方があるか、その基本について学ぶ。
	この回の到達目標	思いつくままに書かないために、すべきことを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書3-2をよく読んで、文章を書くための基本的な作法について考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書3-2を読み直すこと。	120分
10	整理できていない文章		整理できていない文章が読み手にどのような印象（よくない）を与えるか、例を使って学んでいく。
	この回の到達目標	思いつくままに書いてはいけない理由を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書3-3を読み、そこにある思いつくままに書かれている文章を読んで気づいたことをメモしておこう。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書3-3を読み直すこと。	120分
11	接続関係（順接）		順接の接続関係の基本的なこと、およびその中でも特に注意しなければならない点について学ぶ。
	この回の到達目標	接続関係（順接）を考えつつ文章を書く重要性について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書4-1をよく読んでおくこと。さまざまな接続詞の使い方について考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書4-1を読み直すこと。	120分
12	接続関係（逆説）		逆接の接続関係の基本的なこと、およびその中でも特に注意しなければならない点について学ぶ。
	この回の到達目標	接続関係（逆説）を考えつつ文章を書く重要性について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書4-1を再度よく読んでおくこと。接続詞を意識的に使っているか、正しく使ってきたかを考えておこう。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書4-1を読み直すこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文と文のつながり	文と文を適当につなげていくのではなく、その関連性を明らかにするために接続表現を用いて書いていくことを学ぶ。	
	この回の到達目標	文同士の関連性について考えて書くことの重要性について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書4-2をよく読んでおくこと。文と文との関係と接続詞について考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書4-2を読み直すこと。	120分
14	つなげて書く	実際に、各文がつながっていると思われる文章を書いて、その文章の接続関係について考察してみる。	
	この回の到達目標	自分や他の人が書いた文章がつながっているかどうかを判断し、そのように判断した結果の理由を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書4-3をよく読んでおくこと。さまざまな文章を読んで、その中の接続詞の役割について考えておこう。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書4-3を読み直すこと。	120分
15	講義全体の振り返り	講義全体の振り返りを行い、各自で自分の文章を書く力がどの程度であるか、どこに問題があるかを考える。	
	この回の到達目標	自分の文章作成能力の評価をすることができる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書1章～4章をよく読んで復習しておくこと。	180分
	事後学修	学んだことが単なる知識ではなく、実際に文章を書く際に必ず意識的にその知識を用いて書くことができるように、何度も文章を書いてみよう。	120分

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	茅原 雅之	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。論説文などの正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、文章表現に習熟していくための授業をおこなう。前期開設のⅠでは、文章表現の基本的な事項を身に付けることを中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目には人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については、添削によって、問題点と良かった点を指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生が作成した文章をもとに、その問題点と評価すべき点についてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出の課題については教員が添削し、問題点を指摘し、改善を促す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法〔新訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・他	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後に直接の相談を受け付ける。質問・相談については電子メールにでも対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入講義	教科書の内容確認。授業計画に関する詳細な説明。到達目標の説明。	
	この回の到達目標	実社会に対応する上で必要となる文章力が、どの程度のものであるのかを理解する。	
	事前学修	辞書・教科書の準備。	120分
	事後学修	配布資料（漢字）についての復習。	120分
2	手紙の書き方。（1）	手紙文の基本構成・社会的慣習を学ぶ。	
	この回の到達目標	社会生活を営む上で必要になる手紙文の書き方を理解する。	
	事前学修	配布資料（手紙の構成）に関する予習。	120分
	事後学修	配布資料（手紙の構成）に関する復習。	120分
3	手紙の書き方。（2）	各種の手紙文を作成する。	
	この回の到達目標	社会的慣例に則った手紙文の作成が可能となる。	
	事前学修	教科書〈手紙を書こう〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈手紙を書こう〉項目の復習。	120分
4	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（1）	適切な文章と不適切な文章を比較する。	
	この回の到達目標	適切な文の長さ・主述の一致・句読点の用法について基本を理解する。	
	事前学修	配布資料〈読みやすい文章とは〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈読みやすい文章とは〉の復習。	120分
5	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（2）	文章表現の誤った用例を確かめていく。	
	この回の到達目標	形式名詞・形式形容詞・形式動詞、文体、括弧の用法について基本を理解する。	
	事前学修	教科書〈よい文章を書くために〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈よい文章を書くために〉項目の復習。	120分
6	文章表現の基礎，敬語の確認。（1）	各種敬語を学ぶ。	
	この回の到達目標	形式名詞・形式形容詞・形式動詞、文体、括弧の用法について基本を理解する。	
	事前学修	配布資料〈敬語の理解〉に関する予習。	120分
	事後学修	配布資料〈敬語の理解〉に関する復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文章表現の基礎、敬語の確認。 (2)	敬語表現への理解を深める。	
	この回の到達目標	敬語表現を正しくつかいこなす。	
	事前学修	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の復習。	120分
8	文章表現の基礎、原稿用紙の使い方。	原稿用紙を使用する際の基本を学ぶ。	
	この回の到達目標	禁足文字・括弧・英数字・引用文の記述など、原稿用紙を自在に使用できるようになる。	
	事前学修	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の復習。	120分
9	文章表現の基礎、段落・構成の組み方。	構成の組み方を学習する。	
	この回の到達目標	文章の構成が何かを理解する。構成と段落の関係を理解する。	
	事前学修	教科書〈さあ文書をかいてみよう〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈さあ文書をかいてみよう〉項目の復習。	120分
10	紹介文（小説・映画・漫画、その他）を書いてみよう。（1）	自身の考えを他者に伝える。	
	この回の到達目標	自分と他者の考え方・価値基準の違いを理解する。	
	事前学修	自分が紹介したいと思う作品の選定。	120分
	事後学修	自分が紹介したいと思う作品の適否確認。	120分
11	紹介文（小説・映画・漫画、その他）を書いてみよう。（2）	自身の考えを文章に置き換えていく。	
	この回の到達目標	自身の考えを他者に伝えることの重要性和難しさを理解する。	
	事前学修	紹介文の文章構成を考える。	120分
	事後学修	提出課題〈紹介文〉の作成。	120分
12	エントリーシートの作成。	エントリーシートが何かを理解し、作成法を学ぶ。	
	この回の到達目標	エントリーシートの作成が可能になる。	
	事前学修	教科書〈効果的な文章作成〉項目の予習。	120分
	事後学修	提出課題〈エントリーシート〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章表現の基礎、漢字の確認。 (1)	各種の漢字について学ぶ。	
	この回の到達目標	文章表現の基礎として漢字を使いこなせるようになる。	
	事前学修	教科書〈練習問題〉項目の予習。	120分
	事後学修	教科書〈練習問題〉項目の復習。	120分
14	授業のまとめ。	前授業の学習内容を再確認していく。授業内容に関する質疑応答。	
	この回の到達目標	授業を統括する。文章表現の意義と重要性を理解する。	
	事前学修	授授業にて理解不十分であった点を自己点検する。	120分
	事後学修	授業内容の自己総括。	120分
15	到達度試験、および解答と解説。	文章表現に対する学習の達成度をはかる。	
	この回の到達目標	授業の理解について達成度を確認する。自身の文章表現力の水準を理解する。	
	事前学修	到達度試験に関する学習。	120分
	事後学修	到達度試験に関する自己反省。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目には人数調整をするので必ず出席すること】演習科目なので課題に真剣に取り組む学生の履修を望む。人数調整を実施した場合、第1回の欠席者には履修が認められない場合もある。

【授業方法】		
受講生が文章表現に関する課題に演習形式で取り組み、担当者がそれにコメントなどを付す形式で授業を進める。毎回の授業の積み重ねが重要なため、欠席に対しては厳しい対応をおこなう。受講生の到達目標の達成状況によっては各回の授業内容を入れ替え・変更する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の提出とそれに対する担当者のコメント・添削など。場合によっては、受講生の間で課題の相互批評などを行い、学修の深化を図ることもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それをを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の課題に対して担当者の側から添削などをおこなう。次回以降の授業で、講評を述べる形でのフィードバックもありうる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法』新訂版―21世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考	教科書は2019年11月出版の「新訂版」を用意すること。それ以前の「改訂版」などとは大幅に内容が異なっているので注意。なお「古い「改訂版」などは既に書店に在庫はない。				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の方法と目的の概説	〔1〕 授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。 〔2〕 文章表現の概説	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、この科目の授業の概要と目的を理解し、問題意識を持って授業に臨むことができるようになる。また、文章表現の基本的な事項を理解し、正しく使うことができるようになる。	
	事前学修	高等学校で使用した国語便覧などで、文章表現の基本的事項に関して書かれている部分を精読する。	60分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。文章表現の基本的事項を整理し、確認する。	180分
2	敬語法 1	敬語法の基本概念	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、敬語法の基本的な事を理解し、正しく使うことができるようになる。	
	事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
	事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
3	敬語法 2	社会の中に見られる敬語の誤用	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、敬語法を理解し、それを実際に生かすことができるようになる。	
	事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
	事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
4	敬語法 3	注意すべき敬語の用法	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、敬語法を正しく理解し、自己の文章に適切に使うことができるようになる。	
	事前学修	配布プリントの敬語法の事項を読み、課題をおこなう。	120分
	事後学修	課題の復習をおこない理解の徹底をはかる。	120分
5	贈答にかかわる文章表現 1	祝儀・不祝儀袋のおもて書きの慣例と贈答にまつわる文化（一）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、季節ごとのふさわしい文章作成ができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。	120分
	事後学修	プリントを再読し、講義で指摘された事項を整理しておく。	120分
6	贈答にかかわる文章表現 2	祝儀・不祝儀袋のおもて書きの慣例と贈答にまつわる文化（二）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、祝儀・不祝儀の場での適切な文章表現や各種の表書きができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。	120分
	事後学修	プリントを再読し、講義で指摘された事項を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小論文・論作文の実践演習 1	要約の方法の理解	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、文章を要約することができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「要約の方法の理解」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「要約の方法の理解」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
8	小論文・論作文の実践演習2	要約の実践とその応用	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、要約の実践とその応用を文章表現に活かすことができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「要約の実践とその応用」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「要約の実践とその応用」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
9	小論文・論作文の実践演習3	意見論述の方法	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、意見論述の方法を文章作成に活かすことができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「意見論述の方法」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「意見論述の方法」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	120分
10	小論文・論作文の実践演習4	意見論述の実践	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、様々な課題作文・課題小論文において、適切な意見論述ができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「意見論述の実践」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「意見論述の実践」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
11	小論文・論作文の実践演習5	引用のある小論文作成（一）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、引用のある課題作文・課題小論文を適切に書くことができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「引用のある小論文作成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「引用のある小論文作成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
12	小論文・論作文の実践演習6	引用のある小論文作成（二）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、他の受講生の引用が適切であるかを判断することができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「引用のある小論文作成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「引用のある小論文」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小論文・論作文の実践演習7	小論文の構成（一）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、構成に配慮の行き届いた小論文を書くことができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「小論文の構成」について理解しておく。また、課題練習をおこなう。	120分
	事後学修	「小論文の構成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
14	小論文・論作文の実践演習8	小論文の構成（二）	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、他の受講生の小論文を客観的に批判し、不適切な箇所を説明することができるようになる。	
	事前学修	配付プリントを読んで、「小論文の構成」について理解しておく。また、他の受講生の文章を事前に読んでおく。	120分
	事後学修	「小論文の構成」に関して整理するとともに、応用問題に各自で取り組む。	180分
15	総合的理解と自らの理解の適切なレポート化	各自で用意したレポートの回収。その後、レポートの出題意図・採点基準について解説する。また、授業全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、半年間の学びを踏まえた課題をレポート化し、自らの意見を客観的に提示することができる。	
	事前学修	14回までの授業内容を振り返り、各自のレポートを完成させ、授業内に提出できる準備をする〔事後学習のために必ずレポートの複写を手元に残しておくこと〕	180分
	事後学修	授業内に行われた「レポートの出題意図・採点基準・解説」をもとに、各自のレポートの良い点と悪い点を確認し、よりよいレポートにするためにはどうしたらよいかを考える。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
積極的に授業に参加し、課題を必ず提出できる学生向けの授業です。受講希望者は、第1回目の授業を必ず視聴して、ガイダンスを受けてください。なお、担当者の前期科目・文章表現法Ⅰを受講していることが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド型の講義です。 課題作文を作成する、学生による演習型（アクティブラーニング）の授業です。課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	課題作文を作成する、学生によるアクティブラーニングの授業です。 ほぼ毎回、課題作文を提出してもらいます。添削したものをフィードバックし、全員で課題について合評します。積極的に意見を述べることが求められます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活かす ことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削し、翌週の授業時に返却・解説（フィードバック）をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本語表現法 新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典他	翰林書房	2019年	教科書	必携
備考	参考書は授業中に適宜紹介します。				

【オフィスアワー】
メールにて受け付けます。詳細については第1回目の講義で説明します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス、導入授業	授業の進め方、受講に当たってのルール、必要なものについて説明します。	
	この回の到達目標	本講義の学習内容を理解し、積極的に文章で表現しようとする意識を持つことができる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、本講義を重する理由をノートのとめておいてください。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
2	冠婚葬祭のマナー	冠婚葬祭のマナーを学びます。 祝儀・不祝儀袋の書き方、水引の意味など、伝統文化なども学びます。	
	この回の到達目標	祝儀袋などの書き方、日本の伝統文化について理解することができる。	
	事前学修	テキスト第10章をよく読み、課題1をやっておきましょう。	120分
	事後学修	付録6のbに祝儀袋の書き方にしたがってもう一度書き、確認し提出してください。	120分
3	文章の読解と要約について	新聞のコラム欄を利用して、文章の読解と要約する方法を学びます。	
	この回の到達目標	書かれた内容を理解し、要約することができる。	
	事前学修	前回配布する資料をよく読み、課題を行ってください。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
4	文章表現の基礎の復習	文章を執筆する際における注意事項を確認します。	
	この回の到達目標	段落・禁則・句読点・記号など文章を書く上で基本的な知識を理解し、実践に活かすことができる。	
	事前学修	テキスト第1章をよく読み、課題2をやっておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
5	叙事文を書く1	不特定多の読者を対象とする出来事や事実を伝える文を書いてみましょう。	
	この回の到達目標	文章による表現と話し言葉による表現を理解し、適切に表現することができる。	
	事前学修	テキストの第1・2章をよく読み、前回示された課題について、構想をノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
6	叙事文を書く2	出来事や事実を「分かりやすく、正確に、生き生きと、簡潔に」伝えるにはどうしたらよいかということを考え、課題文をリライトします。	
	この回の到達目標	誤字・脱字なく文章を書き、文章の構成を考えて書くことができる。	
	事前学修	前回提出した課題文を、もう一度読み直し、「別の目」で添削をしておきましょう。	120分
	事後学修	課題文をリライトして提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論理的な文章を書く 1 レポート作成方法	論理的な文章の構成などを学びわかりやすい文章の書き方を学びます。	
	この回の到達目標	独りよがりにならない「レポート」「論文」を書く方法を理解し、実践に活かすことができる。	
	事前学修	前回示される課題1について、どのように論じるか、考えノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
8	論理的な文章を書く 2 「客観的」な文章とはなにか。	「私」を主語としない「客観的」な事実の記述方法を学びます。	
	この回の到達目標	「客観的」とはどのようなことか、理解し、文章を書くことができる。	
	事前学修	「客観的な文章」とはどのようなものか、考えをノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	課題 1 について、添削された部分を理解し、リライトします。	120分
9	論理的な文章を書く 3 「意見の対立」 1	資料を読み、「意見の対立」からどのように結論を導き出すかを学びます。	
	この回の到達目標	反対意見の存在を認め、反証することができる。	
	事前学修	前回配布する資料から「意見の対立」について考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	前回配布する資料から「意見の対立」について考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
10	論理的な文章を書く 4 「意見の対立」 2	前回に引き続き、「意見の対立」からどのように結論を導き出すかを学びます。	
	この回の到達目標	反対意見の存在を認め、反証することができる。	
	事前学修	前回配布する資料から「意見の対立」について考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	前回配布する資料から「意見の対立」について考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
11	論理的な文章を書く 5 「文献の引用」 1	資料の引用や先行研究を参考文献として明示する際に必要な知識について学びます。	
	この回の到達目標	適切に文献を引用することができる。	
	事前学修	テキスト第2章を再度よく読み、文献の引用方法についてノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分
12	論理的な文章を書く 6 「文献の引用」 2	前回に引き続き、資料の引用や先行研究を参考文献として明示する際に必要な知識について学びます。	
	この回の到達目標	先行研究に学び、適切に引用し、自身の意見に反映させることができる。 参考文献が適切に明示できる。	
	事前学修	前回の講義を再度確認し、参考文献リストの作成方法を考え、ノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	講義内で指示された課題を行い、提出してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	論理的な文章を書く 7	最終レポートテーマに従って、論理的な文章にまとめてみましょう。	
	この回の到達目標	課題について適切な先行研究を調査・参照し、それに対する自身の意見を述べるができる	
	事前学修	テーマについて適切な参考文献を調査・参照し、文章に適切に引用できるように準備をしておきましょう。	120分
	事後学修	補足資料がないか、図書館を利用して調べておきましょう。	120分
14	論理的な文章を書く 8	レポートを客観的に読み直します。	
	この回の到達目標	これまでに学んだことを活かして、リライトができる。	
	事前学修	レポートの問題点をまとめておきましょう。	120分
	事後学修	添削で示された部分をリライトしておきましょう。	120分
15	まとめ	半期で学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	半期で習得した方法を活かし、適切な表現を用いて文章を作成することができる。	
	事前学修	テキストを再度よく読み、講義で学んだことをノートにまとめておきましょう。	120分
	事後学修	授業目的、到達目標が達成できたかを確認し、課題を提出してください。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	高橋 啓之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第一回目の講義で人数調整を行うため、必ず出席すること】その際に、「私の弱点」というタイトルで、600字程度の文章を手書きで書き、持参すること。4年生の優遇は、就職活動を含め、一切ないものとする。また、皆出席が前提であるため、4回以上の欠席は原則単位を認定しない。詳細は最初の講義で説明する。

【授業方法】
基本的には文章作成と添削が中心だが、時間内に小テストを行う。また、学生間の相互添削やグループ討議、発表も取り入れていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生間の相互添削や発表、グループ討議など、説教的に取り入れていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題に対する添削と解説。また、最終レポートに関してはポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	毎回プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜 4 限 授業終了後 授業講堂にて。メールによる質問、相談については授業時に説明する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンスと受講理由】	後期のガイダンス。講義の全体像を把握する。また、400字程度で受講理由を文章化する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、読みやすい文章作成ができる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。（1時間）	60分
	事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（3時間）	180分
2	【説明スキーマとは】	課題を通して、説明スキーマについて理解し、現時点での自分の説明力を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ただし文章が作成できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて、自分の弱点をノートにまとめる。（2時間）	120分
3	【相互添削】	前回の講義をもとに説明スキーマを理解し、学生間で相互添削し、説明力を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の文章を批判し、自分の文章に活かすことができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（3時間）	180分
4	【グループ討議と意見書作成】	各グループに分かれて同一課題について討議し、意見書を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の意見を評価したうえで、全体の意見をまとめることができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて、自分の意見をまとめる。（4時間）	240分
5	【文章を構成する】	文章の構成について、序論・本論・結露など各論の意味を理解し、身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、構成表を作成することができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	60分
	事後学修	講義を踏まえて、構成表を作成する。（3時間）	180分
6	【パラグラフ・ライティング】	パラグラフ・ライティングについて学び、エントリー・シートの構成を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わかりやすい文章を作成することができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	テーマにしたがって、エントリー・シートを作成する。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【マッピングについて】	マッピングについて理解し、思考マップ・構想マップの方法を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分で選んだテーマについて、思考・構想マップが作成できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（1時間）	60分
	事後学修	マッピングを試みる。（3時間）	180分
8	【学生によるプレゼンテーション前半】	自分のお勧めの本をレジメを用いてプレゼンする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を主張でき、なおかつ他人のプレゼンを評価できる。	
	事前学修	今回のテーマについてレジメを作成する。（4時間）	240分
	事後学修	講義を踏まえてノートを自分なりに整理する。（1時間）	60分
9	【学生によるプレゼンテーション後半】	各自お勧めの本をレジメをもとに発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の意見を主張でき、なおかつ他人のプレゼンを評価できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（1時間）	60分
	事後学修	講義を踏まえて文章を読み、レポートにまとめる。（3時間）	180分
10	【客観的文章とは】	課題を通して、客観的文章について理解し、論文と感想文の差異を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、客観的文章が理解できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
11	【文章を評価する】	同世代の書いたレポートを批評し、考え方のバリエーションを広げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、同世代のレポートを読むことにより、視野をひろげることができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）	120分
12	【テーマの決定】	最終レポートに関して、自分の興味のある課題を、特定条件のもとに選び表紙を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、これまでの講義をもとに、「論文」としてふさわしい課題を選択することができる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	次週行う作業のため、文献を収集する（4時間）	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【構成表作成】	最終レポートの構成表を作成し、理解の深度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の選択した課題の構成表を作成できる。	
	事前学修	今回のテーマについて予習する。（2時間）	120分
	事後学修	講義を踏まえて文章を作る。（4時間）	240分
14	【下書きの相互評価】	下書きを提出し、学生間で相互評価する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、他人の論文を評価できる。	
	事前学修	後期内容を復習し、質問を用意する。（2時間）	120分
	事後学修	レポート作成。（10時間）	600分
15	【まとめ、レポート提出と小テスト】	レポートを提出する。また、まとめとして、講義全体に関する小テストとその解説により全体像を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、正しく論理的な文章を作成できる。	
	事前学修	後期の講義ノートをもとめる。（2時間）	120分
	事後学修	講義をもとに改めてレポートを作成する。（2時間）	60分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	高橋 優美穂	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
原則、毎回課題が課されるため、その課題に取り組むことができる学生向けの授業である。【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
教科書と参考資料を用いた講義と演習を組み合わせる進めていく。なお、課題で作成してもらった文章は、受講者全員で共有することがあるので、その点を了承の上で履修してほしい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	作成された課題をもとにペア・ワークや、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。				2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。					2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。						2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。									2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。	20	35	35	10							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	35	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題はすべて添削を行い、返却する。優秀なものは個人名を伏せて、他の受講生と共有する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語表現法―21世紀を生きる社会人のたしなみ〔新訂版〕	庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴	翰林書房	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質疑応答は、メールにて行う。メールアドレス：takahashi.yumiho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 文章を書く①：自己紹介文	授業内容や教科書の使用方法など、授業に関する事項の説明を行う。また、受講生の文章執筆能力を確認するため、自己紹介文を執筆し、課題作文として提出してもらう。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、自己紹介文の執筆を通じて自己の文章作成能力の現状を理解することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	60分
	事後学修	講義資料を読み返し、内容の理解徹底に努める。	180分
2	メールの書き方	電子メールの書き方について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、電子メールの文案作成を通じてビジネスシーンで求められる文章表現を身につけることができる。	
	事前学修	教科書47～52ページを読んでくる。	120分
	事後学修	指定した内容に関するメール文を作成する。完成したものは課題として提出する。	120分
3	履歴書の書き方①：概説	履歴書の基本的な書き方について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、履歴書の作成だけでなく、それに付随する自己PRや志望動機で求められる文章表現を学ぶことで、就職活動で使用する日本語表現を身につけることができる。	
	事前学修	教科書57ページを読んでくること。	120分
	事後学修	授業内で配布する履歴書に記入してみる。	120分
4	履歴書の書き方②：注意点	2回目の授業内容を踏まえて、履歴書の下書きを完成させる。授業内で清書も行い、完成したものは課題として提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、履歴書の作成を通じて就職活動をするにふさわしい日本語表現を身につけることができる。	
	事前学修	図書館の所蔵資料やウェブサイト等で、履歴書記入上の注意点を確認しておく。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返し、履歴書の書き方を復習する。	120分
5	履歴書の書き方③：課題のフィードバック	3回目の課題を返却し、フィードバックを行う。また実際の履歴書を参照しながら、記入のポイントを復習する。	
	この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べることができるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
	事前学修	2回目の事後学修で記入した履歴書に不備がないか確認する。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返して、授業内容の理解の徹底に努める。	120分
6	手紙の書き方①：形式・構成	手紙の書き方について、基本事項や形式について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、さまざまな文章形態があることを学び、手紙の基本的事項を身につけることができるようになる。	
	事前学修	教科書39～46ページを熟読する。	60分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返して、授業内容の理解の徹底に努める。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	手紙の書き方②：実例	手紙文の実例を示し、授業内で手紙文を作成する。完成したものは課題として提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、手紙の作成を通じて、場に応じた日本語表現を身につけることができる。	
	事前学修	教科書39～46ページを熟読してくる。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返して、授業内容の理解の徹底に努める。	120分
8	手紙の書き方③：課題のフィードバック	課題を返却し、フィードバックを行う。また実際に提出された手紙文を参照しながら、手紙文のポイントを復習する。	
	この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるができるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
	事前学修	自分が執筆した手紙文に不備がないか確認する。	120分
	事後学修	教科書や講義資料を読み返して、授業内容の理解の徹底に努める。	120分
9	手紙の書き方④：カバーレター（添え状）を書く	カバーレターや、返信のはがきの書き方について講義をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、カバーレターと返信はがきの書き方を通じて、場に応じた日本語表現を身につけることができる。	
	事前学修	図書館の所蔵資料やウェブサイトでカバーレター（添え状）について調査をする。	120分
	事後学修	講義資料を読み直して理解を深め、カバーレターを作成する。完成したものは課題として提出する。	120分
10	敬語法	敬語法の基本について講義を行い、敬語を適切に使えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、敬語法の学修を通じて、正しい日本語表現を身につけ、的確に運用することができるようになる。	
	事前学修	教科書33～36ページを読んでくる。	180分
	事後学修	教科書33ページの課題を解き直し、敬語法への理解を深める。	60分
11	冠婚葬祭と文章表現	祝儀袋・不祝儀袋や水引といった、冠婚葬祭に関する文章表現を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、冠婚葬祭のマナーについて学修し、その場に応じた言葉の運用ができるようになる。	
	事前学修	教科書59～64ページを読んでくる。	120分
	事後学修	教科書59ページの課題1・2を解き直し、授業内容への理解を深める。	120分
12	論作文①：執筆する	各自指示されたテーマで、400字程度の論作文を執筆する。完成したものは課題として提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容をふまえ、正しい日本語表現で文章を執筆することができる。	
	事前学修	11回目に示されるテーマについて、文献資料がないか調べておく。	120分
	事後学修	図書館でテーマに関する参考文献を探し、読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	論作文②：相互批評	12回目に作成した課題をもとに、学生間での相互批評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるができるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
	事前学修	12回目の課題について、補足資料を調査し、目を通しておく。	120分
	事後学修	返却された課題と、相互批評の内容を踏まえて、自分の課題の修正点を考える。	120分
14	論作文②：執筆する	各自指示されたテーマで、400字程度の論作文を執筆する。完成したものは課題として提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、これまでの授業内容をふまえ、正しい日本語表現で文章を執筆することができる。	
	事前学修	14回目に示されるテーマについて、文献資料がないか調べておく。	120分
	事後学修	図書館でテーマに関する参考文献を探し、読んでおく。	120分
15	課題のフィードバック 後期の授業内容に関するまとめ	課題の講評を行い、後期の授業のまとめとする。	
	この回の到達目標	到達目標③④について、自己の意見を客観的、論理的に述べるができるようになる。また課題作文のフィードバックを受けて、他者の意見を踏まえて、自己の文章をより適切なものにすることができる。	
	事前学修	14回目の課題について、補足資料を調査し、目を通しておく。	120分
	事後学修	授業内に行った解説や質疑応答をもとに、これまでの授業をまとめ、理解を深める。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	竹田 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
教員による講義と、受講者による課題の実践を組み合わせた授業を行う。講義では、いくつかの実例をもとに、文章表現のための基本的事項について解説する。その後、受講者は講義での解説を踏まえて、実際に文章を作成する。作成した文章は、教員による添削・指導を受けて修正し、完成を目指す。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 各回に課題を設け、文章の作成を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題を添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
classroomのコメント、メールなどで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、文章表現について	この授業の進め方、成績評価の方法などについて説明する。また、文章表現を学ぶ意義について解説する。	
	この回の到達目標	授業の概要、文章表現を学ぶ意義について理解することができる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく確認する。	120分
	事後学修	配布プリントを読み返し、授業の概要・意義を確認する。	120分
2	文章の基本 1 わかりやすい表現	場面に応じて適切な文章表現ができるよう、文章の基本ルールを再確認する。まずはわかりやすい表現のために留意すべき点について学修する。	
	この回の到達目標	主語・述語の関係、修飾語・被修飾語の関係、慣用表現などを理解し、まぎらわしい表現でない、明瞭な文章が書けるようになる。	
	事前学修	自分の文章について、どういうことを意識して書いているか、改めて確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリント、確認テストなどを読み返し、自分の文章表現について見直すこと。	120分
3	文章の基本 2 場面に応じた文章表現	場面に応じて適切な文章表現ができるよう、文章の基本ルールを再確認する。ここではアカデミックな場にふさわしい表現について学習する。	
	この回の到達目標	アカデミックな文章においてふさわしい語彙や表現が適切に使用できるようになる。論理的で明瞭な文章表現ができるようになる。	
	事前学修	自分の文章について、どういうことを意識して書いているか、改めて確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリント、確認テストなどを読み返し、自分の文章表現について見直すこと。	120分
4	レビューを書く 1 対象の設定	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。まずは何について書くか、対象を検討し、その内容を分析する。	
	この回の到達目標	レビューを書く対象について、どのような特徴があるか、どこをレビューのポイントにしたいかを自分で考えることができる。	
	事前学修	レビューを書く対象の候補を考えて、よく内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	レビューを書く対象について、自分なりに要点を整理しておくこと。	120分
5	レビューを書く 2 構成を作る	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。対象についての内容整理に基づき、レビューの構成・展開を考える。	
	この回の到達目標	強調したいポイントを効果的に示すためにどのような情報が必要か、どのような構成・展開が必要か、自分で考えることができる。	
	事前学修	レビューを書く対象について、自分なりに要点を整理し、どのポイントを強調したいかを決めておく。	120分
	事後学修	自分で考えた構成に沿って、執筆を進める。	120分
6	レビューを書く 3 執筆する	自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。構成に沿って執筆、推敲する。	
	この回の到達目標	レビューを書く対象について、要点を押さえて紹介しつつ、自分の評価・分析を示すことができる。	
	事前学修	自分で考えた構成に沿って、執筆を進める。	120分
	事後学修	自分の書いたレビューを客観的に見直し、自己添削する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	レビューを書く 3 相互批評		自分の決めた題材（本・映画など）について、紹介・批評する文章を作成する。他の受講者が書いたレビューを相互批評することで、より優れた表現を目指す。	
	この回の到達目標	他の受講生の書いたレビューを読むことで、自分の書いたものについても客観的な視点を持って見直すことができる。		
	事前学修	他の受講生の書いたレビューを読む。		120分
	事後学修	相互批評で示されたポイントを意識して、改めて自分の書いたレビューを見直す。		120分
8	レポートを書く 1 テーマの設定		レポートを作成する。レポート執筆時の注意点や、問題提起の仕方などについての解説を受けた後、どのようなテーマで書くかを検討する。	
	この回の到達目標	自分でレポートテーマを設定し、問題提起することができる。		
	事前学修	あらかじめいくつかテーマになりそうなものを考えておくこと。		120分
	事後学修	配布プリントを見直し、どのようなテーマ設定、問題提起をすべきか、改めて検討する。		120分
9	レポートを書く 2 ブレインストーミング		レポートを作成する。レポートで扱うテーマ、トピックをより明確にするために、ブレインストーミングを行う。	
	この回の到達目標	自分が設定したレポートテーマについてより掘り下げて検討し、具体的な内容についての構想ができる。		
	事前学修	自分が設定したレポートテーマについて、情報収集をしておくこと。		120分
	事後学修	ブレインストーミングで出てきたアイデアを整理しておくこと。		120分
10	レポートを書く 3 構成を作る		レポートを作成する。ブレインストーミングの結果を踏まえて、具体的なレポートの構成を考える。	
	この回の到達目標	レポートの論理的な構成・展開を自ら考えることができる。		
	事前学修	ブレインストーミングで出てきたアイデアを整理し、どのような内容をレポートに盛り込むか決めておくこと。		120分
	事後学修	作成した構成に基づいて、執筆に必要な情報を調査しておくこと。		120分
11	レポートを書く 4 序論を書く		レポートを作成する。序論を執筆して添削を受ける。	
	この回の到達目標	序論として書くべき内容を理解した上で、的確に書くことができる。		
	事前学修	作成した構成に基づいて、執筆に必要な情報を調査・整理しておくこと。		120分
	事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。		120分
12	レポートを書く 5 本論を書く		レポートを作成する。本論を書き進め、添削を受ける。	
	この回の到達目標	本論の展開の仕方、論証の仕方を理解した上で、的確に書くことができる。		
	事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。		120分
	事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レポートを書く 6 結論を書く	レポートを作成する。結論を書き進め。添削を受ける。	
	この回の到達目標	結論として書くべき内容を理解した上で、的確に書くことができる。	
	事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
	事後学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
14	レポートを書く 7 仮提出	レポートを作成する。引用、注や参考文献一覧などの形式を整え、レポートを仮提出する。	
	この回の到達目標	引用、注、参考文献などの形式を正しく理解して、書くことができる。	
	事前学修	作成した構成に基づいて、レポートを書き進めておくこと。添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
	事後学修	配布プリントを見直し、自分のレポートの論理構成、文章、形式について推敲しながら、レポートを書き進める。	120分
15	レポートの提出とふりかえり	レポートを提出する。これまでの授業内容、添削の内容を踏まえて完成させる。	
	この回の到達目標	これまでの授業内容を正しく理解して、形式・内容の整ったレポートを書くことができる。	
	事前学修	ここまでに作成したレポートを見直し、添削で受けた指摘を修正しておくこと。	120分
	事後学修	ここまでの授業内容について改めて確認しつつ、自分のレポートを自己添削する。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目の授業に、必ず出席しなければならない。

【授業方法】
教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。補助教材としてプリントを配布することもある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内、もしくはポータルの通知で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等	到達目標④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他(課題)	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルによる通知。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文章検文章読解・作成能力検定公式テキスト2級	日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定協会	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと受講者数の調整	授業計画とその内容の説明を理解し、授業の準備をどのように行うべきかを考えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③についての説明を理解することができる。	
	事前学修	これまでの文章作成に対しての自身の問題点は何だったかを考えておく。	120分
	事後学修	授業ノートを整理・確認し、文章を書く際の注意点とこの講義の目的を理解し、自分の学修計画を練る。	120分
2	第1章基礎力「語彙・文法」	文章における基礎力である語彙と文法に関する能力を更に向上させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本語の語彙は4種類（和語・漢語・外来語・混種語）に分けられるが、実際に使用する際に適切な語彙を自ら選ぶことができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
3	第1章基礎力「語彙・文法」	文章における基礎力である語彙と文法に関する能力を更に向上させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的な観点からよく見られる間違いを理解し、適切な表現を用いることができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
4	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、要約するときの手順を理解し、適切な要約文を作成することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
5	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、要約文を使って自分の考えを述べる際に適切な文章構成を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
6	第2章読解力「意味内容・文章構成・資料分析」	文章や図表から、自分が必要とする情報を読み取り、要約することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、図表やグラフからどのようにデータを分析すべきか、どのようなことは分析できないのかを識別する能力を向上させることができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3章作成力（1）書く力「表現」	読み手の立場に立つ推敲のコツを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、誤字・脱字に注意するだけでなく、さらに分かりやすい表現にすることはできないかを考えることができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
8	第3章作成力（1）書く力「表現」	読み手の立場に立つ推敲のコツを学ぶことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推敲する際にチェックすべき表現上や表記上のポイントを理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
9	第4章作成力（2）伝える力「総合」	横書きの通信文等の基本形式とその目的を学び、実際の通信文を書くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横書きの通信文の基本形式を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
10	第4章作成力（2）伝える力「通信文」	横書きの通信文等の基本形式とその目的を学び、実際の通信文を書くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、横書きにおける敬意の表し方や基本形式の変形を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
11	第5章作成力（3）考える力「総合」	論説文を書く際の注意点を理解し、実際に書くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論説文の型とそれを作る手順を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分
12	第5章作成力（3）考える力「総合」	論説文を書く際の注意点を理解し、実際に書くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、良い論説文である条件を理解することができる。	
	事前学修	教科書の「解説」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ問題 第1・2問	これまでの学修の中で、読解力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グラフからの的確にデータを読み取り、自分の考えを論理的に述べることができる。また適切なレポートを書くことができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
14	まとめ問題 第3・4問	これまでの学修の中で、作成力が適切に身についているのか確認することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な手紙や論説文を書くことができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	150分
	事後学修	授業中取り上げた問題で、間違った箇所を再度確認し、次回からは正解するようにする。	90分
15	授業内復習テスト	復習テストの実施とその解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章の読解・作成能力を的確に測定し、能力を向上させることができる。	
	事前学修	教科書を読んでおく。	200分
	事後学修	ポータルで公表された解答例を基に、自身の学修の振り返りを行う。	90分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回目に人数調整をするので必ず出席すること。なお、前期の「文章表現法」に関する講義を履修していることが望ましい。

【授業方法】
提出する課題を添削して返却する。欠席・課題未提出は原則として認めないので注意すること。なお、シラバスの進行はテーマを変更することもあることをお断りしておく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み、本館1614研究室にて（事前にmiyazawa.takayoshi@nihon-u.ac.jpまで必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション。文章表現について	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己紹介を行うことができる。	
	事前学修	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。	120分
	事後学修	文章表現について、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
2	エピソード	夏期休暇中の出来事を書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	文章表現について、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	夏期休暇中の出来事を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
3	引用	引用・参考文献の書き方を身につける	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	夏期休暇中の出来事を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	引用して書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
4	データの援用	データを援用して書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	引用して書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	データを援用して書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
5	手紙	手紙を書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	データを援用して書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	手紙を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
6	メール	メールを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	手紙を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	メールを書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	依頼文		依頼文を書く
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	メールを書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	依頼文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
8	自己PR文		自己PR文を書く
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	依頼文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	自己PR文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
9	志望動機		エントリーシート形式で志望動機を書く
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	自己PR文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	エントリーシート形式で書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
10	推敲を行う		これまでの文章を改めて推敲する
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	エントリーシート形式で書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	書評を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
11	書評		書評を書く
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	書評を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	課題文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
12	アウトライン		小論文のアウトラインを書く
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	課題文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	小論文のアウトラインを書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	要約	専門的な資料を要約する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	小論文のアウトラインを書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
	事後学修	引用・参考文献のまとめについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
14	小論文	小論文の仕上げ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、半期の最終課題文を作成することができる。	
	事前学修	引用・参考文献のまとめについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
	事後学修	小論文の仕上げについて、講義内容の要点を確認しておくこと。	120分
15	振り返り	半期の授業を振り返り、理解の到達度を確認する。最終課題の提出。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を理解し、課題文を作成することができる。	
	事前学修	小論文の仕上げについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
	事後学修	半期の講義について、要点の復習をしておくこと。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
第1回に人数調整をする場合があるので、履修希望者は必ず出席してください。

【授業方法】
オンラインによるオンデマンド方式の授業となります。Google Classroomにアップロードされた授業動画を視聴し、練習問題や課題に取り組んでください。Classroomを活用した個人作業、ピア・ワークを複合した演習形式で進めます。出席確認は、出席管理システム（レスポん）で実施します。質問については、ClassroomやGmail（NUメール）で対応します。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 第4、5、8、12、13回にピア・ワークによるディスカッションを通して、演習問題、文章作成、振り返りに取り組みます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。				2						
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。					2					
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。						2				
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。									2	
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomを活用して、演習問題の解説・作成例の提示、提出物の講評、小テスト・小論文の添削・返却・解説、課題小論文の解説と講評をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しません。プリントを配布します。				

【オフィスアワー】
木曜日の授業の前後以外にも、Google ClassroomやGmail（NUメール）で随時対応します。watanabe.shigeto11★nihon-u.ac.jp ★印を@に変更してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	学修活動に関するガイダンス 導入講義	学修活動と全体のスケジュールを確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関して、学修活動の見通しを持つことができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。	120分
	事後学修	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。	120分
2	論理的な文章の基本:パラグラフ・ライティングの概念	パラグラフ・ライティングの概念を捉え、活用の準備をします。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、パラグラフ・ライティングの概念を理解し、活用の準備をすることができる。	
	事前学修	インターネット上で論理的な文章を探し、その特徴をまとめておきます。	120分
	事後学修	パラグラフ・ライティングの概念を踏まえて、図書館やP Cで各自が用意した文章を読みます。	120分
3	論理的な文章の基本：概念の理解についての確認	パラグラフ・ライティングについての演習問題に取り組み、実践します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、パラグラフ・ライティングの概念を理解し、実践することができる。	
	事前学修	学修内容を踏まえて、パラグラフ・ライティングで書かれている文章をインターネット上で探します。	120分
	事後学修	作成例を踏まえて、もう一度演習問題に取り組みます。事前配布された演習問題に取り組みます。	120分
4	論理的な文章の基本：パラグラフの構造化	パラグラフの構造化について実践し、ピア・ワークで確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、論理的な文章の基本となる、パラグラフの構造化ができる。	
	事前学修	各自の用意した文章が、パラグラフ・ライティングで書かれているかについて再確認します。	120分
	事後学修	作成例を踏まえて、パラグラフの構造化に取り組みます。事前配布された演習問題に取り組みます。	120分
5	論理的な文章の基本：結束性の高め方	センテンスやパラグラフの結束性の高め方について実践し、ピア・ワークで確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②④に関して、接続詞やキーワードを効果的に配置し、センテンスやパラグラフの結束性を高めることができる。	
	事前学修	キーワードの効果的な配置について想起し、注意点についてまとめておきます。	120分
	事後学修	接続詞やキーワードの効果的な配置に注意し、センテンスやパラグラフの結束性の高め方についてももう一度実践します。	120分
6	情報収集の基本と発想法 表記と表現についての確認	情報収集の基本と活用法について確認し、実践します。発想法として、論理的思考と批判的思考の基本を修得します。 表記と表現についての確認：表記と表現について小テストで確認します。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、論理的思考と批判的思考に基づいて情報を収集し、活用することができる。 到達目標①②③に関して、わかりやすい文章を書くために必要な表記と表現を身に付けることができる。	
	事前学修	表記と表現についての確認に備え、文章作成に関する知識を整理しておきます。	120分
	事後学修	図書館やP Cを利用し、情報収集を実践します。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小論文攻略法：提案型小論文	提案型小論文の攻略法を修得し、小論文（721～800字）を作成します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、提案型小論文の攻略法を修得し、小論文を作成することができる。	
	事前学修	提案型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
	事後学修	授業時に作成した小論文をリライトします。	120分
8	小論文の推敲と提出	リライトした小論文（721～800字）をピア・ワークでチェックし、提出します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、小論文を推敲し、完成度を高めることができる。	
	事前学修	リライトした小論文を推敲し、完成度を高めます。	120分
	事後学修	作成例を参照し、提案型小論文の作成手順を再確認します。	120分
9	パラグラフ・ライティングの修得についての確認 論理的思考と批判的思考についての確認	パラグラフ・ライティングの修得について、演習問題で確認します。論理的思考と批判的思考の修得について、演習問題で確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、パラグラフ・ライティング、論理的思考と批判的思考を身に付けることができる。	
	事前学修	事前配布された演習問題に取り組み、これまでの学修を振り返ります。	120分
	事後学修	パラグラフ・ライティング、論理的思考と批判的思考が身に付いているか、自己点検します。	120分
10	小論文攻略法：抽象題型小論文	抽象題型小論文の攻略法を修得します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、抽象題型小論文の攻略法を修得し、作成することができる。	
	事前学修	抽象題型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
	事後学修	作成例を参照し、抽象題型小論文の作成手順を再確認します。	120分
11	小論文攻略法：自己PR型小論文	アピールポイントを効果的に読み手に伝える自己PR型小論文の攻略法を修得します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関して、自己PR型小論文の攻略法を修得し、アピールポイントを効果的に読み手に伝えることができる。	
	事前学修	自己PR型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。	120分
	事後学修	作成例を参照し、自己PR型小論文の作成手順を再確認します。	120分
12	小論文攻略法：情報活用法についての確認と実践	情報活用法について確認し、ピア・ワークで実践します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、情報活用法を身に付け、実践することができる。	
	事前学修	課題小論文の作成に必要な情報が何であるかについて検討し、図書館やPCで情報収集をします。	120分
	事後学修	情報収集で得たデータを小論文に活用できるよう整理します。）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小論文攻略法：課題小論文作成の準備	ピア・ワークを通して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文（721～800字）の作成の準備をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文を作成するための準備をすることができる。	
	事前学修	各論のパラグラフのトピックを決め、アウトラインを考えます。	120分
	事後学修	課題小論文の下書きを作成します。	120分
14	課題小論文の作成	課題小論文（721～800字）を作成し、提出します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、パラグラフ・ライティングによる課題小論文を作成することができる。	
	事前学修	課題小論文の下書きを推敲します。	120分
	事後学修	課題小論文の下書きを熟読し、完成度を検証します。	120分
15	課題小論文についての振り返り 自己点検報告の作成	課題小論文（721～800字）について解説と講評で振り返り、文章作成に関する自己点検報告を作成します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題小論文の作成過程・完成度を検証し、自己点検をすることができる。	
	事前学修	提出した課題小論文をリライトします。 文章作成に関する自己点検の準備をします。	120分
	事後学修	課題小論文の振り返りを通して、文章作成上の注意事項を各自でまとめ、発展的な学習へつなげます。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	大熊 圭子	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】演習科目なので課題に真剣に取り組む学生。人数調整を実施した場合、第1回の欠席者には履修が認められない場合もある。

【授業方法】
文章表現に関する注意点を簡単に説明したのち課題に取り組み、担当者および受講生が課題解答例について議論し、担当者がコメントする。受講生の到達目標の達成状況によっては各回の授業内容を入れ替えたり多少変更する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題やそれについて議論するなど、アクティブラーニングの授業です。積極的に課題に取り組み、議論の場でも積極的に意見を出すことを重視します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。					2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。						2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。							2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題についてはコメントを入れて返却、それ以外の課題については授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
【増補版】 大人のための国語ゼミ	野矢茂樹	筑摩書房	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって	講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意点、教科書の紹介などを行う。	
	この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。書くことにあたり何が重要かを説明できる（関連SB0s①）。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	60分
	事後学修	シラバス・ガイダンスの説明をよく理解し、履修を検討する。	120分
2	文章を書くにあたっての基本	前期に学んだ、基本的な文章を書くための作法について概説する。	
	この回の到達目標	基本的な文章の書き方を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書1～4章をよく読んで、文章を書く基本について理解しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書1～4章をよく読んでおくこと。	120分
3	要約	要約することにより重要な点を読み取り、自分で書く際にも要約から考えることが重要であることを学ぶ。	
	この回の到達目標	要約することの重要性を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書5章を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書5章を読み直すこと。	120分
4	根拠について	主張を述べるときに根拠を示す必要性を学ぶ。	
	この回の到達目標	根拠を示さなければならない理由を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書6-1をよく読んで、根拠の重要性について考えておく。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書6-1を読み直すこと。	120分
5	理由・原因と根拠	理由・原因・根拠の相違点について学ぶ。	
	この回の到達目標	理由・原因・根拠の相違点を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書6-2をよく読んで、理由と原因、根拠とはなにか考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書6-2を読み直すこと。	120分
6	良い根拠・弱い根拠	良い根拠とはどのようなものか、それを使って文章を書くことを学ぶ	
	この回の到達目標	良い根拠と弱い根拠の違いを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書6-3をよく読んで、根拠の持つ力の強弱について考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書6-3を読み直すこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	質問することについて	相手に対して的確な質問をする練習をする、またその理由について学ぶ。	
	この回の到達目標	的確な質問をすることの重要性について説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書7-1をよく読んでおくこと。質問することの意義について考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書7-1を読み直すこと。	120分
8	さまざまな種類の問い	的確な質問をするために、問を分類して考えてみる。	
	この回の到達目標	さまざまな問いがあることと、それぞれがどのようなものであるかを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書7-2を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書7-2を読み直すこと。	120分
9	なぜ質問するのかを考えて質問する	何のために相手に質問をするのか、それを意識して的確な質問をすることを学ぶ。	
	この回の到達目標	質問する理由を、自分が何か書くという目的の観点から説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書7-3をよく読んで、文章を書くための基本的な作法について考えておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書7-3を読み直すこと。	120分
10	反論について	自分と違う意見を持つ相手に対し反論する方法を学ぶ	
	この回の到達目標	反論の方法を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書8-1を読み、そこに載っている、思いつくままに書かれている文章を読んで気づいたことをメモしておこう。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書8-1を読み直すこと。	120分
11	反論の練習	さまざまな文章例を用いて反論の方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	具体的な反論の方法を説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書8-2をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書8-2を読み直すこと。	120分
12	反論する	実際に自分で反論して、反論になっているかどうかを議論する。	
	この回の到達目標	なぜそれが良い反論であるかを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書8-3を再度よく読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、再度教科書8-3を読み直すこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章を書く	これまで学んだことを活かして、自分でテーマを選び文章を書いてみる。	
	この回の到達目標	文章表現の作法に則って文章を書くことができる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	文章を書くにあたり、よくわからないところを復習しておく。	120分
	事後学修	自分で書いた文章について、自己採点をする。	120分
14	小論文または作文を書く	これまでの総まとめとして、小論文または作文を書いてみる。	
	この回の到達目標	小論文または作文を書きあげるために必要なことを説明できる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書を総復習しておく。	120分
	事後学修	自分で書いた文章について、自己採点をする。	120分
15	講義全体の振り返り	講義全体の振り返りを行い、各自で自分の文章を書く力がどの程度であるか、どこに問題があるかを考える。	
	この回の到達目標	自分の文章作成能力の評価をすることができる（関連SB0s①②③④）。	
	事前学修	教科書をよく読んで復習しておくこと。	180分
	事後学修	学んだことが単なる知識ではなく、実際に文章を書く際に必ず意識的にその知識を用いて書くことができるように、何度も文章を書いてみよう。	120分

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	茅原 雅之	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための授業を演習形式でおこなう。文章の正確な理解のもと、自分の考え・意見を適切に表現できるスキルを身に付けるとともに、様々な文章表現に習熟していくための授業をおこなう。後期開設のⅡでは、文章表現の応用を中心におこなう。なお、演習系科目としてアクティブラーニング中心の授業となるため、第1回の授業で人数調整をおこなう場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の様々な場において自己を適切に表現できるようになるために、正しい文章表現の方法を修得する。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により、幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力を高めることができる能力を修得する。

【履修条件】
【第1回目に人数調整をするので必ず出席すること】

【授業方法】
講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については、添削によって、問題点と良かった点を指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	正しい日本語を使って、適切な文章表現ができる。また、様々な場に対応した適切な文章表現の知識を身につけ、それを用いて自己を表現することができる。				2							
②	課題となった文章の読解やそれに関する文章作成によって、諸問題の現状を自己の文章で的確に説明することができる。					2						
③	課題に対する文章作成によって、客観的・論理的・批判的に自己の意見を述べる ことができる。						2					
④	多様な意見を尊重しつつ、自己の文章をより適切なものとする ことができる。受講生相互の課題批判、担当者からのコメントなどを自己の文章作成に適切に活か すことができる。									2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、日本語の基礎知識が身に付いているかを評価する。	20	10	10								40
レポート等	到達目標①②③に関して、課題を正しく理解して正しい日本語で文章表現できるか否かを評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標の④に関して、他の受講生の作成した文章などに積極的に質問するとともに、担当者から自己の文章に出されたコメントに次回以降適切に対応できるか否かを評価する。				10							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出の課題については教員が添削し、問題点を指摘し、改善を促す。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
質問・相談については電子メールにて対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jpまた授業の前後（月曜2限もしくは金曜2限）にも，直接の相談を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション。文章表現の基礎、漢字の確認。（1）	授業計画の説明。各種の漢字について学ぶ。	
	この回の到達目標	授業内容の全体像を把握する。各種〈四字熟語〉の意味を理解する。	
	事前学修	一般的に使用されている四字熟語について調査しておく。	120分
	事後学修	配付資料〈四字熟語〉の復習。	120分
2	文章表現の基礎、〈ことわざ・故事成語〉の確認。	各種の〈ことわざ・故事成語〉について学ぶ。	
	この回の到達目標	社会生活に必要とされる程度の〈ことわざ・故事成語〉について理解する。	
	事前学修	配布資料〈ことわざ・故事成語〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈ことわざ・故事成語〉の復習。	120分
3	小論文とは何か。	小論文とは何か、論理的な文章とは何かを学ぶ。	
	この回の到達目標	小論文が何かを理解する。	
	事前学修	配布資料〈小論文の書き方「車社会」〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈小論文の書き方「車社会」〉の復習。	120分
4	小論文を書く。（1）	与えられた課題をもとに文章構成を組み立てる。	
	この回の到達目標	三段構成の文章を書くことができる。	
	事前学修	配布資料〈小論文の書き方「思いやり」〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈小論文の書き方「思いやり」〉の復習。	120分
5	小論文を書く。（2）	小論文を記述する際の言葉遣いを学ぶ。	
	この回の到達目標	敬体と常体の文体を、使い分けることができる。	
	事前学修	小論文執筆のための資料準備。	120分
	事後学修	提出課題〈小論文「思いやり」〉の作成。	120分
6	小論文を書く。（3）	小論文の各種応用問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	複合型課題の小論文に対応できる。	
	事前学修	配布資料〈小論文の書き方「デザイナーベビー」〉の予習。	120分
	事後学修	提出課題〈小論文「デザイナーベビー」〉の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小論文を書く。（４）	公務員試験における小論文の傾向を学ぶ。	
	この回の到達目標	公務員試験の小論文に対応できる。	
	事前学修	配布資料（公務員の出題傾向）の予習。	120分
	事後学修	提出課題（小論文「他者への気遣いとマナー」）の作成。	120分
8	小論文を書く。（５）	公務員試験対策の資料準備について学ぶ。	
	この回の到達目標	小論文執筆に必要となる各種資料を集めることができる。	
	事前学修	配布資料（小論文の書き方「少子化対策」）の予習。	120分
	事後学修	提出課題（小論文「少子化対策」）の作成。	120分
9	小論文を書く。（６）	公務員試験の実例をもとに時間内に小論文を作成する。	
	この回の到達目標	公務員試験の既出問題を、制限時間以内に執筆することができる。	
	事前学修	小論文執筆のための資料準備。	120分
	事後学修	提出課題（小論文「超高齢化社会」）の作成。	120分
10	エッセイとは何か。	エッセイの起源から現在に至るまでの展開を学ぶ。	
	この回の到達目標	エッセイが何かを説明することができる。	
	事前学修	エッセイについての事前調査。	120分
	事後学修	配布資料（各種エッセイ）の復習。	120分
11	エッセイを書く。（１）	エッセイとは「自分」を表現すること。	
	この回の到達目標	エッセイにより、自分を表現することができる。	
	事前学修	エッセイでもって自分の何を表現したいのか考えておく。資料を集める。	120分
	事後学修	提出課題（３分スピーチ）の作成。	120分
12	エッセイを書く。（２）	エッセイにおける「文筆力」を学ぶ。	
	この回の到達目標	短い文章の中に、文筆力を駆使して文を書くことが出来る。	
	事前学修	エッセイにて表現する（文筆力）について考えておく。構想を立てておく。	120分
	事後学修	提提出課題（仮称「エッセイ」）の作成。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文章表現の基礎，漢字の確認。 (2)	間違いやすい漢字について学ぶ。	
	この回の到達目標	社会一般で誤用が目立つ漢字について、間違いを指摘することができる。	
	事前学修	配布資料〈間違いやすい漢字〉の予習。	120分
	事後学修	配布資料〈間違いやすい漢字〉の復習。	120分
14	授業全体のまとめ。	これまでの授業に関する総合的な質疑応答。	
	この回の到達目標	漢字・小論文・エッセイについて、知識と執筆方法を確かなものにする。	
	事前学修	これまでの授業で理解できなかった点について自己点検する。	120分
	事後学修	授業全体の自己総括をする。	120分
15	到達度試験、および解答と解説。	文章表現に対する学習の達成度をはかる。	
	この回の到達目標	授業の達成度について自己確認する。自身の文章表現力の水準を理解する。	
	事前学修	到達度試験に関する学習。	120分
	事後学修	到達度試験に関する自己反省。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	嘉吉 純夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
金曜日の第3時限の講座は1年次生のみ履修可(例年受講者過多のため)とします。金曜日の第4時限と火曜日の第5時限の講座に関しては全学生履修可です。

【授業方法】
講義形式で進めるが、知識の供給に加えて、できるだけ問題提起を行って生き生きした講義になるよう心がけたい。なお、成績評価(単位認定)の判定基準となる授業内試験を第13回の講義時に行い、その講評を後日行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2					
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2				
③	様々な倫理学的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回または第15回の中で、試験結果の講評というかたちでフィードバックする(オンライン授業になった場合は、Googleのクラスルームにおけるストリームで行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日の第3時限・第4時限、火曜日の第5時限の各講義終了後、授業講堂にて講義内容に関する質問のみ受け付ける。kayoshi.sumio11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	倫理学とはどのような学問か		本講座の運営方針および「倫理学入門」（倫理学の考察対象についての概説、倫理学の歴史の概観等々）
	この回の到達目標	到達度①に関連して、倫理学の探究課題が道德教育とは異なり、道德哲学的側面をもっていることを認識・説明することができる。	
	事前学修	日本の社会が直面している倫理的状況について、また自分自身の身の回りに生起している倫理にかかわる出来事について、そこにどんな問題があるかを自分なりに析出して考えておく。	120分
	事後学修	講義内容を反芻し、倫理学の学問的個性と特徴について理解を深めておく。	120分
2	倫理の起源/倫理と宗教の関係性		人類の歴史と倫理の成立・発展の意義および諸宗教における倫理的部分の考察
	この回の到達目標	到達度①に関連して、人類の歴史と倫理の起源について理解するとともに、現代における宗教倫理について偏見なしに認識・説明することができる。	
	事前学修	人類学に関する知見を、図書館や市販文献を利用して入手しておく。また、世界宗教(キリスト教、イスラーム、仏教)の基本的教義と現状について理解しておく。	120分
	事後学修	講義内容を吟味して、自分自身の生き方における倫理性と宗教性(あるいは非倫理性と非宗教性)について考察を深める。	120分
3	倫理の普遍性と相対性/倫理と文化の関係性		いつでも、どこでも、誰にでも妥当する倫理はありうるかという倫理学上の根本問題をめぐる普遍主義と相対主義の対立および日本人の倫理観の特徴の考察
	この回の到達目標	到達度①に関連して、倫理の普遍的な性格と、社会の変化に応じて変化する相対的な部分とを認識して、われわれ日本人の倫理観の特徴を自覚・説明することができる。	
	事前学修	われわれ日本人の倫理観の特質を、倫理の普遍性と相対性(いつでも、どこでも、誰にでも妥当する倫理はありうるか)という観点から自分なりに考えておく。できれば、各種のいわゆる日本人論に関連する文献に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、国際化が進行する現代において、われわれは今後どのような倫理的態度を身に着ける必要があるか、自分なりに省察する。	120分
4	正邪善悪をめぐる倫理的判断と法的判断のズレ/倫理と法の関係性/動機説対結果説		倫理的判断と法的判断の関係性と異同および行為の正邪善悪の判定基準をめぐる動機説と結果説(帰結主義)の対立に関する考察
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理的判断と法的判断がずれる場合があることを知り、さらに倫理学においても、正邪善悪の判定基準を行為の動機に置くか結果に置くかの理論的対立があることを十分に認識して、このことが实际的に、われわれ自身の行為の判定と評価にも大きく影響することを具体的に説明することができる。	
	事前学修	動機説(motivism)と結果説(consequentialism)について、倫理学関連の文献を用いて下調べしておく。また、前者の支持者であるドイツの思想家カントと後者の支持者であるイギリスの思想家ベンサムについて、基本的な事項をリサーチしておく。	120分
	事後学修	講義内容を振り返り、自分が対立する両説のどちらの側により多く共感を覚えるか、そしてそれは何故か、論点を整理して省察する。	120分
5	われわれの倫理的行為の導き手として最も信頼に値するのは「知」か「情」か「意」か		ソクラテスの知性主義(主知主義)、近世イギリス感情主義倫理およびカントの「善意志」の思想に関する対比的考察
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理的行為の選択や倫理的なスタンスが知・情・意のどれに重点を置くかで変わることを理解し説明することができる。	
	事前学修	人間性を構成する要素のうち、自分自身にとって、知性、感情、意志(理性的意志)のいずれが実人生上最も重要か考えておく。	120分
	事後学修	ソクラテスの知性主義、イギリスの道德感覚学派および同情主義倫理、カント的主意主義のいずれが妥当か、講義内容を踏まえ、自分自身の立場を反省して再構築する。	120分
6	倫理の根底に据えるべきは「義務」か「幸福」か/義務説対幸福説		義務説と幸福説(倫理的な最高善を道德法則の履行とみなすかそれとも幸福の獲得・実現とみなすか)の対立に関する考察
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、倫理の根幹をなすのは道德的義務の実現か幸福の達成かという根本的な問題について、その重要性について説明することができ、かつまたこの問題について自分自身の立場を確立して説明することができる。	
	事前学修	道德的義務の履行と人間的幸福の獲得とが対立するような出来事や事象について、どういうものがあるか考えておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、論点を整理し、両説それぞれの功罪をよく吟味して、自分自身として義務説・幸福説どちらの側に軍配を上げるか決定する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	カントの義務倫理学の総体および美点と欠点の詳説		本講座第4回～第6回の講義を踏まえた、近代倫理学の祖の一人としてのカントの倫理思想の総合的分析と批判的考究	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、「原則の人」と呼ばれるカントの堅牢な道徳哲学について理解し説明することができる。また、それによって自分自身の生き方の指針を再考して確立する。		
	事前学修	ドイツの思想家カントの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。		120分
	事後学修	講義で指摘されたカントの倫理思想の美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。		120分
8	ベンサムの総量功利主義の主眼と功罪の考究		本講座第4回～第6回の講義を踏まえた、近代的な幸福説(幸福主義)の確立者ベンサムの公衆的快楽主義的功利主義の分析と批判的考究	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、「最大多数の最大幸福」を標榜するベンサムの総量功利主義について、先入観を排してその本意とするところを認識・理解し、適切に説明することができる。また、それによって自分自身の人生観を再構築する。		
	事前学修	イギリスの思想家ベンサムの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。		120分
	事後学修	講義で指摘されたベンサムの総量功利主義思想の美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。		120分
9	J. S. ミルの質的功利主義とP. シンガーの選好功利主義の考究		前回の講義を踏まえた、ベンサムの総量功利主義の修正バージョンとしてのミルの質的功利主義および最新のシンガーの選好功利主義の分析と批判的考究	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、幸福や快楽の質の差を認めるミルの思想的立場の是非および生命の質の差を肯定するシンガーの思想的立場の是非について批判的な考察ができる。また、それを通して自分自身の道徳感覚を研ぎ澄ます。		
	事前学修	イギリスの思想家j. s. ミルの人生と思想的業績について、図書館や書店を利用して関連文献を入手し、下調べをしておく。また、オーストラリア出身の倫理学者P. シンガーについて、インターネットを利用して情報を入手しておく。		120分
	事後学修	講義で指摘されたミルとシンガーの功利主義思想のそれぞれの美点と欠点について、講義内容を再考察して整理し、さらにそれによって自分自身の倫理観・人生観の練成の一助とする。		120分
10	「愛」について考える		現代における愛のかたちの多様化および愛をめぐる危機的状況の考察	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、愛と倫理の間に生じる葛藤について理解し、自分自身の恋愛観・結婚観を確立して人生の指針とすることができる。		
	事前学修	インターネットを利用して、いわゆるLGBTとSOGIについて、最新の情報を入手しておく。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、愛による幸福はいかにして得られ保たれるか、自分自身の問題として真摯に省察する。		120分
11	「自由と責任」について考える		倫理的責任の根底をなす「自由」の重要性和「他者危害の原則」に関する考察	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、自由と倫理的責任の関係を理解し、倫理現代社会において肝心要の人間の自由が縮小の危機にさらされていること(主体的倫理観の喪失)を自覚して説明することができる。		
	事前学修	J. S. ミルの『自由論』を援用するので、図書館や書店において入手し通読しておく。		120分
	事後学修	講義内容を反芻し、自分自身の言わば「自由度」を測定して、自分の望む生き方がいかにして可能となるかその方策を具体的に考える。		120分
12	科学技術文明の功罪と管理社会において生きる現代人の在り方・生き方について考える		科学技術文明と管理社会にどっぷり浸かり、経済至上主義的価値観に縛られ翻弄される現代人の人生(人間の労働マシン化、消費マシン化、情報反応マシン化、社畜化等々の危機)に対する批判的考究	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、現代社会に生きるわれわれの倫理的主体性の喪失の危機について認識し、この状況に対する自己の生き方を模索して自分なりの倫理観、価値観、人生観を確立する。		
	事前学修	ニーチェの思想を援用するので、関連文献によって実存哲学およびその祖の一人ニーチェについて下調べをしておく。		120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、自分自身が直面している(さらには今後直面するであろう)諸問題について、自分なりの解決策を模索する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	総括と補足説明および授業内試験	ここまでの講義の総括と補足説明(30分)、《授業内試験》の実施(60分)	
	この回の到達目標	ここまでの講義内容を総括・補足し、到達度①、②、③ のすべてを確認・評価するために《授業内試験》を実施するので、この考查において合格ラインを越えることで所定の単位を得ることができる。	
	事前学修	試験の基礎問題部分については、ここまでの講義内容を復習しておく。論述問題部分については、自分なりの見識を確立し、それを適切に表現できるようにシミュレーションしておく。	120分
	事後学修	試験で問われたことについて、あらためて省察し、自分なりの考えを再構築する。	120分
14	質疑応答と現代の倫理的問題の考察	現代の倫理的問題、講義内容、現代の倫理的問題等々についての質問用紙を利用した質疑応答(オンライン授業になり、受講者多数のため不可能の場合は、「《続》愛について考える-愛の理想と現実、現代における愛の危機」というテーマで講義を配信します)	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、みずからの習熟度や達成を質疑応答を通して確認し、不足する部分について上積みをする。	
	事前学修	これまでの講義内容について、質問すべき事項・質問したい事柄を考えておく。	120分
	事後学修	質疑応答を思い返しながら、本講座から得た学識を自分なりにまとめ、自分自身の倫理観を確立する。	120分
15	「生と死」そして「不幸脱出法」について考える	ショーペンハウアー、キルケゴール、ラッセル等の思想家たちの思想を援用した人生論と幸福論の展開	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、自分自身の今後の、特に実社会に出てからの人生行路の指針を得て、社会の風潮に流されることなく生きられるようになる。	
	事前学修	図書館や書店において岩波文庫所収『ラッセル 幸福論』を入手して読んでおく。	120分
	事後学修	講義内容を再考察するとともに、自分自身の人生の現状に照らして現代人の不幸の原因となるものを探索・考究し、その解消に向けて対策を講じる。	120分

科目名	倫理学 I	担当者	佐々木 聖使	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。

【授業方法】		
講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。						2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。							2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。					2		2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に、適宜質問して理解度を確認する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞やネット情報などを使用				

【オフィスアワー】
二部水曜2限 授業終了後 授業講堂にて。メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，導入授業	授業概要と倫理について	
	この回の到達目標	どのように授業を進めていくのか理解する	
	事前学修	高校時代の『倫理社会と現代』を復習してくること（2時間）	120分
	事後学修	道徳と倫理の違いについて確認すること（2時間）	120分
2	倫理とは何か	現代社会における倫理	
	この回の到達目標	「倫理」の意味について理解する	
	事前学修	南博『日本的自我』（岩波新書）を読んでもくこと（2時間）	120分
	事後学修	友人や後輩・先輩との人間関係に必要なことを考えること（2時間）	120分
3	日本社会の倫理	日本的社会と人間関係	
	この回の到達目標	身の回りの人間関係がどのようになっているのかを理解する	
	事前学修	中根千枝『タテ社会の力学』（講談社学術文庫）を読んでもくこと（2時間）	120分
	事後学修	日本の人間関係の特色について確認すること（2時間）	120分
4	日本人の倫理と価値観	アメリカ人の正義・日本人の「和」	
	この回の到達目標	国によって倫理的な考え方に違いがあることを理解する	
	事前学修	池田謙一『日本人の考え方 世界の人の考え方』（勁草書房）を読んでもくこと（2時間）	120分
	事後学修	国や文化によって、人間関係の違いを確認しておくこと（2時間）	120分
5	僕はどこにいるのか	社会の中での自己位置の確認	
	この回の到達目標	自己と集団との関係はどのようにあるのか理解する	
	事前学修	南博『日本人の心理と生活』（勁草書房）を読んでもくこと（2時間）	120分
	事後学修	家族や友だちにとっての自分の立場を確認すること（2時間）	120分
6	社会と自己	弱気な私と強気な集団	
	この回の到達目標	日本人特有の自我について理解する	
	事前学修	増成隆士『現代の人間観と世界観』（放送大学教材）を読んでもくこと（2時間）	120分
	事後学修	集団的犯罪行為はなぜ起こるのか、新聞記事を調べること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「らしさ」と文化	日本人の同調性と倫理的行動	
	この回の到達目標	他者との同調行動をなぜ行なうのか理解する	
	事前学修	大平健『豊かさの精神病理』（岩波新書）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	なぜ人と同じ行動を取るのか考えてみること（2時間）	120分
8	メディアと人間関係	メディアが変える人間関係	
	この回の到達目標	情報機器との関係がどのようなものかを理解する	
	事前学修	梅本吉彦『情報社会と情報倫理』（丸善）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	TVやゲーム機がどのように日常生活の中に入り込んでいるのか、確認すること（2時間）	120分
9	情報と人間関係	TV・コンピューターが生み出すデジタル人間と倫理	
	この回の到達目標	スマホがどのように人間関係を変えようとしているのか理解する	
	事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	IT革命 がもたらす倫理的問題について考えること（2時間）	120分
10	情報社会の人間関係	疑似現実世界の人間関係	
	この回の到達目標	仮想空間が現実空間の人間関係に与えている影響について理解する	
	事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	Virtual reality がもたらす倫理的問題について考えること（2時間）	120分
11	情報社会の恋愛	愛情は「モノ」でしか表現できないのか	
	この回の到達目標	情報機器によって恋愛関係が変化していることを理解する	
	事前学修	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	Virtual な恋愛について、考えてみること（2時間）	120分
12	青年期の人間関係	反抗 ― 自立 ― 恋愛の関係に就いて	
	この回の到達目標	青年期に直面する人間関係の難しさを理解する	
	事前学修	福島章『青年期の心』（講談社現代新書）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	それぞれが直面している倫理的問題を箇条書きしてみること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人間形成と自己実現	青年期の自己実現の意味と目的	
	この回の到達目標	私たちはどのように「自己実現」を目指すのかを理解する	
	事前学修	小林司『「生きがい」とは何か』（NHKブックス）を読んでくること（2時間）	120分
	事後学修	何のために生きているのか、自己実現との関係で考えてみること（2時間）	120分
14	まとめ	講義の重要事項についての解説と補足	
	この回の到達目標	これまでの授業をフィードバックしてまとめる	
	事前学修	これまでの講義ノートの整理と重要な点についての確認をすること（2時間）	120分
	事後学修	学年末試験の対策を講じること（2時間）	120分
15	授業内試験、振り返り	前期末試験及び振り返り	
	この回の到達目標	授業内容を、どの程度理解しているのかを確認する	
	事前学修	前期授業内容の総復習（2時間）	120分
	事後学修	自己採点をすること（2時間）	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	嘉吉 純夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
金曜日の第3時限の講座は1年次生のみ履修可(例年受講者過多のため)とします。金曜日の第4時限と火曜日の第5時限の講座に関しては全学生履修可です。

【授業方法】		
紋切型で総花的な講義になるのを避けるため、古代ギリシアに遡って限定的に詳説する。アニメやゲームのモチーフやキャラクターの原型・モデルが多数登場するギリシア神話から始め、一般の教科書に書かれていない知見を盛り込んで、聴講者にとって興味深く楽しい授業になるように心がける。なお、唯一の成績評価(単位認定)の基準となる授業内試験を第13回の講義時に行い、その講評を第14回目もしくは第15回目の講義時に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2				
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2			
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2				
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回または第15回の中で、試験結果の講評というかたちでフィードバックする(オンライン授業になった場合は、Googleのクラスルームにおけるストリームにて行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日の第3時限・第4時限、火曜日の第5時限の各講義終了後、授業講堂にて講義内容に関する質問のみ受け付ける。kayoshi.sumio11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	古代ギリシア文明の成立・発展と倫理意識の萌芽	クレタ島をめぐる伝説と神話とそこに見られる道徳的教訓に関する考察、ポリス(都市国家)の成立・発展と倫理意識の発達	
	この回の到達目標	到達度①に関連して、クレタ島をめぐる伝説と神話に登場するテーセウスによるミーノータウロス(ミノタウロス)退治の逸話、およびイーカロス(イカロス)の翼にまつわる逸話の示唆するところの道徳的意義を看取して説明することができる。	
	事前学修	関連文献やインターネットを利用して、クレタ島を中心に花開いたミノア文明について調べておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、そこに感知される古代ギリシア人の倫理観の萌芽の意義について、自分自身の関心にしたがって再考察する。	120分
2	古代ギリシアの神々の生誕と系譜および人類の誕生にまつわる物語とヘシオドスの世界観・人間観・倫理観	「ティーターン神族の支配からゼウスを頂点とするオリュンポス十二神の支配へ」、「プロメーテウスによる人類の救い」、「パンドラーの壺(しわゆるパンドラの箱)にまつわる物語」、「掟の女神テミス、復讐の女神ネメシス、運命の女神たち(モイライ)の役割」等々の伝説についての考察	
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、古代ギリシア神話の奥深さ・興味深さを認識し、そこから人間性と人間の生き方に対する古代ギリシア人の眼差し(人間観、人生観、倫理観)を看取・玩味して説明することができる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、ヘシオドスの『神統記』と『仕事と日々』を入手し通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を反芻し、そこから現代に生きるわれわれへのメッセージをを見出して、自分自身の生き方に対する示唆を導き出して省察する。	120分
3	ホメロスと三大悲劇詩人によるトロイ戦争にまつわる英雄伝説とそこに見られる運命観・死生観(上)	古代ギリシア人にとって不可欠の教養とされたホメロスの叙事詩を中心に、トロイ戦争にまつわる人間模様を考究する。まずは、一般的なギリシア神話から、事の発端と開戦までのいきさつを紹介し、神々と英雄たちの絡み合いを考察する。	
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、古代ギリシア人の血となり肉となった英トロイ戦争にまつわる英雄たちの神観・人間観・人生観を十分に理解し、説明できる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、ホメロスの『イリアス』と『オデュッセイア』を入手し通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を反芻し、ここまでの展開を把握し、この後の展開と結末について、自分なりの予測を立てておく。	120分
4	ホメロスと三大悲劇詩人によるトロイ戦争にまつわる英雄伝説とそこに見られる運命観・死生観(下)	最強の勇者アキレウス(アキレス)と悲劇の英雄ヘクトールの一騎打ち、知将オデュッセウスによる「トロイの木馬作戦」、オデュッセウスの祖国への帰還における冒険譚等々の有名な物語を含む一連の英雄伝説に見られるヒロイズムとその倫理性に対する考察	
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、「古代ギリシア人のバイブル」と評され、ソクラテス、プラトン、アリストテレスにも(さらに言うと、二千数百年の時を隔て有名な哲学者ニーチェにも)多大な影響を与えたホメロスおよびその後のアイスキュロス、ソフォクレスらの悲劇詩人たちの劇作に通底する死生観、運命観、倫理観を十分に説明できる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、ホメロスの『イリアス』と『オデュッセイア』を入手し通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を反芻し、古代ギリシアの英雄伝説を貫くアレテー(卓越性)に基づく英雄主義的人生観、運命観、価値観を抽出・把握し、その倫理的意義と現代的意義を考察する。	120分
5	英雄伝説、悲劇作品、ヘロドトスの歴史書、イソップ物語等々に見られる道徳的教訓	モイラ(分け前、分限、定め、運命)、ヒュプリス(傲慢、慢心)、アーテー(迷妄、破滅)等々の倫理的観念をめぐる考察、およびDVDによるエウリピデス『メーディア(王女メディア)』の鑑賞	
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、古代ギリシアの倫理思想の根底に存在する道徳訓や人生訓を総合的に理解し説明することができる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、ソフォクレスの『オイディプス王(オイディプス王)』およびエウリピデスの『メーディア(王女メディア)』を入手し通読しておく。	120分
	事後学修	みずからの人生と他の人々の不幸・破滅を招く要因としての慢心と激情(怒り、憎しみ)について、われわれ現代人の状況と照らし合わせて考察する。	120分
6	ソクラテス以前の自然哲学者たちの倫理観	ミレトス学派による万物のアルケー(始原)の探究に始まり、原子論によって完成されるところの自然哲学の歴史、およびその中で輩出した賢者タレス、ピュタゴラス、デモクリトスそれぞれ固有の人生観と倫理観の考究	
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、現代の倫理的諸問題の理解にもつながる自然哲学者たちの倫理意識や美意識を洞察して的確に説明することができる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(加来彰俊訳、岩波文庫)を入手し、タレス、ピュタゴラス、デモクリトスの章を通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を反芻し、一種の応用問題として、現代の環境破壊の問題、心身問題、快楽主義的人生観が引き起こす社会問題等を自分なりに推考する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	ソフィストたちによる伝統的道德に対する挑戦とソクラテスによる倫理の本源に迫る真摯な問題提起		ソフィストたちの相対主義思想による伝統的倫理観の動揺と彼ら(特にプロタゴラスとゴルギアス)に対するソクラテスの批判についての考究
	この回の到達目標	到達度①および②に関連して、現代の倫理学にも色濃く影を落とす倫理的相対主義をめぐる問題を洞察して、その適否について偏見を排して説明することができる。	
	事前学修	関連図書やインターネットを利用して、ソフィストについて下調べをしておく。また、図書館や書店を利用して、プラトンの著作『テアイテトス』と『ゴルギアス』を入手して通読しておく。	120分
	事後学修	現代においても散見されるソフィスト的な論理や主張について、自分なりにその問題点を抉り出して省察する。	120分
8	ソクラテスの人生と倫理思想		ソクラテスの対話の本質、アポリア(行き詰まり)に導く問答法(論駁法)と助産術、ソクラテス裁判の実態、考古学的に発掘されたソクラテスの牢獄、「悪法も法なり」という解釈の誤り、ソクラテスの宗教性等々、ソクラテスにまつわる多岐にわたる考察
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、ソクラテスの精神性と倫理思想の本質および死生観と彼の刑死について、俗流の解釈を排して、的確に理解し説明することができる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、プラトンの著作『ソクラテスの弁明』、『クリトン』および『パイドン』を入手し通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を玩味し、なぜソクラテスがなぜ、ゴータマ(釈迦)・孔子・イエスとともに世界の四聖人の一人として、いまだに人類の精神的指導者とみなされているのか推考・推察する。	120分
9	プラトンのイデア論と魂不死説および理想国家論		魂の不死が論じられている『パイドン』、イデアへの愛求が開示されている『饗宴』、そして「善のイデア」を認識した哲学者たちによる哲人政治の理想が語られている『国家』を取り上げる。いずれもプラトンの代表作とされ、巷には通俗的・教科書的説明が満ちあふれているが、その線を越えて、さらに深掘した探究と考察を試みたい。
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、西欧思想の多くの面(たとえば、哲学、科学論、美学、政治思想等々)に決定的な影響を与えたプラトニズムについての的確に説明できる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、プラトンの著作『パイドン』、『饗宴』および『国家』を入手し通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を反芻して、プラトンの倫理思想の美質だけではなく、彼の構想している理想国家における上部構造が雁字搦めの完全な管理社会であることを感知し、そこから現代社会において加速度的に進行する管理社会化の危険性と恐ろしさを十分に看取・感得し、批判的に考察しておく。	120分
10	小ソクラテス学派の人びとの個性的な価値観と倫理思想		小ソクラテス学派のうちのアリスティッポスを学祖とするキュレネ学派の快楽主義的倫理思想とアンティステネスとその弟子ディオゲネスによるキュニコス学派の反俗的倫理思想についての考察、およびそれらの思想の現代人にとっての有効性の考究
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、キュレネ学派の利己的快楽主義の思想とキュニコス学派の反俗的倫理思想について両者の倫理思想史的意義を理解し説明することができる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(岩波文庫)を入手し、該当箇所を通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、アリスティッポスやヘゲシアスの快楽主義的倫理観が、自分自身の生き方に資するところがあるかどうか省察する。また、キュニコス学派の反俗的価値観・自足的幸福観が、欲望の体系としての現代社会においてどのような意義をもつか考察する。	120分
11	アリストテレスの世界観、人間観、倫理観		アリストテレスの宇宙観から始めて、彼の人間観、人生観、幸福観を考究する。彼の宇宙観と世界観は、中世後半のキリスト教思想に決定的な影響を与えたが、やがて近世物理学によって否定されることになった。しかし、彼の倫理思想は、その後も高い評価を受けつつ現代にいたっている。その時代性と現代性を検証する。
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、「学」としての倫理学の確立者とみなされるアリストテレスの思想を理解し、西欧の倫理学史に対する彼の学問的貢献についての的確に理解し説明することができる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、アリストテレスの著作『ニコマコス倫理学』を入手し通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、アリストテレスの倫理思想の現代における有効性について、自分自身のケースに照らして洞察するとともに、彼の倫理観の限界についても批判的な考察を行っておく。	120分
12	アリストテレスのアレテー論と幸福論		アリストテレスのアレテー(卓越性、徳)の観念に基づく活動說的・自己実現說的幸福論、およびその基礎を形成する知性的アレテー(知恵、思慮、技術)と性格的アレテー(勇気、節制、温和等々のいわゆる中庸の徳)の分析に関する、教科書的な説明にとどまらない考察
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、知の巨人アリストテレスの倫理思想の神髄を理解し、その倫理思想の美点と欠点を的確に理解し説明することができる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、アリストテレスの著作『ニコマコス倫理学』を入手し通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、アリストテレスの幸福論とアレテー論の現代における有効性について、自分自身のケースに照らして洞察するとともに、彼の思想に漂う「エリート臭」についても批判的に評価を行っておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	総括と補足説明および授業内試験	ここまでの講義の総括と補足説明(30分)、《授業内試験》の実施(60分)	
	この回の到達目標	ここまでの講義内容を総括・補足し、到達度①、②、③ のすべてを確認・評価するために《授業内試験》を実施するので、この考查において合格ラインを越えることで所定の単位を得ることができる。	
	事前学修	試験の基礎問題部分については、ここまでの講義内容を復習しておく。論述問題部分については、自分なりの見識を確立し、それを適切に表現できるようにシミュレーションしておく。	120分
	事後学修	試験で問われたことについて、あらためて省察し、自分なりの考えを再構築する。	120分
14	ヘレニズム期の「心のあり方」に基づく倫理思想(上)	精神的快楽主義に立つエピクロスが最高の幸福の境地とみなす「アタラクシア(心の平安)」の倫理的・倫理思想史的意義の考究	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、エピクロスの精神的快楽主義の美点と問題点を、十分に認識して説明できる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(岩波文庫)を入手し、該当箇所を通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、エピクロスの説く精神の安らぎと身体は無苦痛をもって幸福とみなす思想が、競争社会の渦中であって喘ぎ苦しむ現代人にとって、一服の清涼剤となるかどうか内省的に考察する。	120分
15	ヘレニズム期の「心のあり方」に基づく倫理思想(下)	ゼノンを開祖とするストア学派が至高の境地とみなす「アパテイア(不動心、無情念)」の倫理的・倫理思想史的意義の考究	
	この回の到達目標	到達度①、②、③ のすべてに関連して、古期ストア学派の禁欲的倫理思想(ストイシズム)の美点と欠点について、十分に認識して説明できる。	
	事前学修	図書館や書店を利用して、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』(岩波文庫)を入手し、該当箇所を通読しておく。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、古代ストア学派の説く禁欲主義的倫理思想が、欲望の体系たる現代社会の渦中で喘ぐわれわれの心を癒す鎮静剤となるかどうか、内省的に考察する。	120分

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	佐々木 聖使	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
倫理学上の根本問題をめぐる主要な立場や方法、概念について基本的な知識を学修する。「倫理とはなにか」というテーマを軸に、人間の生き方、人間関係のありよう、人間と社会との関係性のあり方について、根本から問いなおし、考え深めてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における様々な問題に柔軟に対応できる高い倫理観を養うために、倫理学上の根本問題をめぐる立場や方法、概念の意味を理解することを通して、様々な倫理的立場や方法の可能性や限界を解釈し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。

【授業方法】		
講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倫理学の根本問題をめぐる立場や概念について基本的な知識を理解し、説明することができる。					2	2					
②	倫理学の主要な立場や方法、概念について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。						2	2				
③	様々な倫理的立場や方法について比較・検討・考察を実施することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。小テスト、レポート等により評価する場合もある。	35	35	30								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中、適宜質問をして理解度を確認する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞記事やネット記事を参照する				

【オフィスアワー】
二部水曜2限 授業終了後 授業講堂にて。メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	環境倫理とはなにか	
	この回の到達目標	現代起きている環境問題について確認する	
	事前学修	夏期休業中の環境問題に関する新聞記事を確認すること	120分
	事後学修	環境の何が問題となっているのか、復習しておくこと	120分
2	自然とは何か	東洋では自然をどのように考えてきたのか	
	この回の到達目標	中国を代表する東洋的自然観は、どのような特色があるのかを理解する	
	事前学修	安田喜憲『森を守る文明・支配する文明』（PHP新書）を読んでくること	120分
	事後学修	中国以外の自然観を調査すること	120分
3	西洋人の自然観	キリスト教的自然観と私たちの自然観とどのように違うのか	
	この回の到達目標	西洋文明のもとにあるキリスト教ではどのように自然を考えているのか、どのように私たちと違うのかを理解する	
	事前学修	旧約聖書の「創世記」冒頭部分を読んでくること	120分
	事後学修	現代日本に於けるキリスト教の影響を考えてみること	120分
4	日本人の自然観	古代日本人の感じた神聖なる自然への眼差し	
	この回の到達目標	古代日本人は、どのように自然を考えていたのかを理解する	
	事前学修	土橋寛『日本語に探る古代信仰』（中公新書）を読んでくること	120分
	事後学修	身近な神社のご神木に、どのような種類があるか、調べてみること	120分
5	現代日本人の自然観	宮崎駿はもののけ姫で、何を主張しようとしたのか	
	この回の到達目標	現代日本人の代表として、宮崎駿がどのような自然観を持っているのか、彼のアニメを通して理解する	
	事前学修	「もののけ姫」のビデオを見てくること	120分
	事後学修	宮崎駿の他のアニメで、どのように自然を描いているのか、調べてみること	120分
6	文明と自然観	世界の各文明がもっている自然観の違いを比較しながら考える	
	この回の到達目標	自然観は、民族や宗教、文化や歴史によってまったく違っていることを理解する	
	事前学修	森本哲郎『そして文明は歩む』（新潮社）を読んでくること	120分
	事後学修	授業内容の文明における自然観の違いを、表にしてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	環境破壊の根源	破壊をもたらした近代社会の構造的原因は何か	
	この回の到達目標	現代社会が直面している環境破壊の原因がどこにあるのかを理解する	
	事前学修	A. トフラー『第三の波』のなかで、近代社会の特色を確認すること	120分
	事後学修	身近な環境問題にどのようなものがあるのか、確認すること	120分
8	環境倫理と新しい世界観・価値観	近代社会の終焉と新しい世界像	
	この回の到達目標	環境問題が、新しい社会制度を生み出そうとしていることを理解する	
	事前学修	A. トフラーの主張する、新しい社会について、調べてくること	120分
	事後学修	「近代主義」の先の「人間と自然」の関係はどのようなものか、レポートにまとめること	120分
9	生命倫理の基本的考え方	生命倫理とバイオテクノロジー	
	この回の到達目標	医療技術の進展が、いのちに対する考え方を変えようとしている現状を理解する	
	事前学修	日常の新聞記事の中で、医療問題や終末期医療の問題を確認すること	120分
	事後学修	環境倫理と生命倫理の区別を確認すること（2時間）	120分
10	生殖医療技術と人間関係 1	体外受精がもたらす問題	
	この回の到達目標	急激に変化している生殖医療技術が、どのような問題を生み出そうとしているのかを具体的に理解する	
	事前学修	体外受精における精子提供や卵子提供について確認してくること	120分
	事後学修	生殖医療を自らの問題として考えること	120分
11	生殖医療技術と人間関係 2	代理母問題を通して	
	この回の到達目標	産みの母と法的な母が分離しようとしている現状を理解する	
	事前学修	向井亜紀と高田延彦夫婦の代理出産の事例を確認してくること	120分
	事後学修	代理母以外に子供を持つ方法はあるのかを考えること	120分
12	生殖医療技術と人間関係 3	同性婚や性転換がもたらす影響	
	この回の到達目標	医療技術の進展によって、肉体的性別と社会的性別の区別を生み出し始めていることを理解する	
	事前学修	ジェンダーと性的役割の葛藤を確認してくること	120分
	事後学修	生殖医療技術が、どのような倫理的問題を起こすのかをまとめること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	脳死・臓器移植問題	人間の心はどこに宿るのか。生命倫理と心身論	
	この回の到達目標	脳死問題は、私たちの「自我」がどこにあるのか、根源的な問題を突きつけていることを理解する	
	事前学修	クレア・シルヴィア『記憶する心臓』（角川書店）を読んでくること	120分
	事後学修	臓器移植ネットワークのデータで、移植者のみならず移植希望者の数を確認すること	120分
14	新しい「死」	安楽死と生命の尊厳、現代医療技術がもたらす新しい死のあり方と意味	
	この回の到達目標	現代の医療技術の進展によって、新しい「死」が生み出されていることを理解する	
	事前学修	奥野修司『魂でもいいから、そばにいて』（新潮社）を読んでくること	120分
	事後学修	家族の死について、両親などより聞き取りをすること	120分
15	授業内試験、振り返り	学期末試験及び振り返り	
	この回の到達目標	授業内容をどの程度理解していたのかを確認する	
	事前学修	授業内容の総復習	120分
	事後学修	自己採点をすること	120分

科目名	論理学 I	担当者	江川 晃	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書きしていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう。

【授業方法】		
オンデマンド動画により、講義と演習を交互に行ないます。まず動画1では基本的な形式論理学の原理を説明します。次に動画2で、徹底的に演習した後、具体的な応用問題を考えていただきます。動画3では、解答を詳しく説明します。最後に課題を出しますので期日まで提出してください。「考えるより慣れていきましょう」		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に演習問題配布しますので予習しておくこと。 事後、質問を受けつけます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。						2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようになっているか分析し反論することができる。						2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。						2	2	2	2				
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、レポートにより評価する。 (50点)	20	20	10								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。 (5点×10回=50点)	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週授業はじめに解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材に関しては、すべてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日 4 限、授業終了後,googleclassroomにて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	3 0 年間、予備校教育経験（数学・物理）。教育相談・父兄面接・家庭訪問・事務も経験した。
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	：論理学とは何か	
	この回の到達目標	論理学はトレーニングであることを理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読玩味すること。（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンス動画をよく復讐すること。（2時間）	120分
2	1 直接推理	（1）対当推理	
	この回の到達目標	対当推理の理解。	
	事前学修	プリントで対当推理とは何かを読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	4つの対当推理を理解しておくこと。（2時間）	120分
3	演習	（矛盾対当・反対対当・小反対対当・大小対当推理関する具体的な問題）	
	この回の到達目標	実生活での推理解。理解。	
	事前学修	問題を考えてくること。（2時間）	120分
	事後学修	もう一度、問題を復習すること。（2時間）	120分
4	変形推理	（2）変形推理（E判断、I判断、A判断）	
	この回の到達目標	変形推理解。理解。	
	事前学修	「変形推理とは何か」をプリントで見えておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	変形推理のタイプを区別できるように復習すること。（2時間）	120分
5	演習	演習（E判断、I判断、A判断の変形推理）	
	この回の到達目標	実践能力開発。	
	事前学修	問題を考えておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	該当問題の復習（2時間）	120分
6	2 間接推理	（1）定言三段論法（定言三段論法の構造と、格式）	
	この回の到達目標	三段論法の格・式の構造理解。	
	事前学修	三段論法に関するプリントの該当箇所をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	授業内容（格式、妥当な推理）の復習、（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	演習	(ベン図による妥当性判定に関する練習問題)	
	この回の到達目標	妥当性判定トレーニング。	
	事前学修	妥当性に関する練習問題をやっておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	ベン図による練習問題の復習(2時間)	120分
8	仮言三段論法	(2) 仮言三段論法	
	この回の到達目標	仮言三段論法の構造理解。	
	事前学修	仮言三段論法とは何かを把握しておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	授業内容の復習(2時間)	120分
9	演習	(仮言三段論法の問題)	
	この回の到達目標	仮言三段論法の実践トレーニング。	
	事前学修	具体的問題を見ておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	問題練習の復習。(2時間)	120分
10	選言三段論法	(3) 選言三段論法	
	この回の到達目標	選言三段論法の構造理解。	
	事前学修	「選言三段論法とは何か」を調べておこう。(2時間)	120分
	事後学修	授業内容復習(2時間)	120分
11	演習	(選言三段論法に関する問題)	
	この回の到達目標	選言三段論法の実践トレーニング。	
	事前学修	配布プリントの選言三段論法に関する問題を考えておく(2時間)	120分
	事後学修	授業復習(2時間)	120分
12	3 命題論理	(1) 論理語 (2) 命題計算	
	この回の到達目標	命題計算の意味。	
	事前学修	命題論理について把握しておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	授業内容復習(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	演習		(命題計算)
	この回の到達目標	命題計算の実践。	
	事前学修	問題予習 (2時間)	120分
	事後学修	問題復習 (2時間)	120分
14	模擬試験 振り返り		模擬試験及び振り返り
	この回の到達目標	総復習。	
	事前学修	今までの授業をまとめておこう! (2時間)	120分
	事後学修	回答をよく理解しておこう。 (2時間)	120分
15	試験本番 解説		授業内試験と解説
	この回の到達目標	レポート提出と解説。	
	事前学修	総復習の内容を完ぺきにする。 (2時間)	120分
	事後学修	もう一度やりなそう。 (2時間)	120分

科目名	論理学 I	担当者	大熊 圭子	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書や配布プリントに沿って動画により講義する（オンデマンド）。動画の途中および最後に理解度チェックのための課題を出す。提出してもらった課題については、翌週の動画内またはクラスルームにて解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的思考とはなにかについて説明できる。				2	2	2	2				
②	①を踏まえながら、論証を読み取り、その構造がどのようなになっているか分析し反論することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006	教科書	必携
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三	大修館書店	2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜 18:00～19:00 研究室（本館 8F）（もしくはzoom） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって／ロジカルシンキングとは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、テキストの紹介などを行う。後半では論理的思考とはどのようなものか考える。	
	この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理的思考とはどのようなものか説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	60分
	事後学修	シラバス・ガイダンス時の説明をよく理解し、履修を検討する。	120分
2	順接の接続関係	順接の接続関係において、特に注意しなければならないものについて考える。	
	この回の到達目標	順接の接続関係とその留意点について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	教科書第1章を読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。	120分
3	順接と逆説の接続関係	順接の接続関係についての補足説明、および逆説の接続関係において、特に注意しなければならないものについて考える。	
	この回の到達目標	逆説の接続関係とその留意点について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第1章を再度よく読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 接続表現を積極的に用いて文章を書いてみる。	120分
4	接続の構造	指示表現を用いる意義を理解する。また接続の関係に注意し、文の構造をしっかりとつかむ方法について考える。	
	この回の到達目標	論理的な文章の構造を把握するための方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第2章を読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の練習問題に取り組む。	120分
5	議論の組み立ての問題	より複雑な論理的な文章を読み、その構造をより分かりやすく表現する方法について考える。	
	この回の到達目標	複雑な文章の論理的構造を評価するための方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第2～3章を読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、どのような論理展開になっているか考える。	120分
6	論証の種類	論証とはどのように組み立てられているのか、また論証の3タイプとそれぞれを図で表す方法について考える。	
	この回の到達目標	論証が導出に関して3つのタイプに分けられること、それぞれの違いを説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書第4章をよく読んでノートを確認しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、それが3つのタイプのどれか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	論証の分析		論証の3つのタイプを用いて、より複雑な論証の構造を分析する。 さらに、論証の評価の方法、特に根拠の評価について考える	
	この回の到達目標	3タイプの論証が、実際の議論の中でどのように使われているのか、また根拠についての評価の方法を説明できる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第4章を再度よく読んでノートを作成しておく。		120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、それが3つのタイプのどれか考え、論証図を作成してみる。		120分
8	論証の評価		導出とは何か、また論証の導出の評価について、その有効的な評価方法を考える。	
	この回の到達目標	論証の結論がより正しくするために重要な導出の意味、その評価の仕方を説明できる（関連SB0s①②③）。		
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書4.2をよく読んでノートを作成しておく。		120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、そこに含まれる導出について評価してみる。		120分
9	推測と演繹について		推測と演繹の違いについて考える。また仮説形成とはなにか考える。	
	この回の到達目標	推測と演繹の違いを例を挙げて説明できる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第5章をよく読んでノートを作成しておく。		120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞などを読んで、論証を持つ文章を見つけ、それが推測か演繹か考えてみる。		120分
10	仮説形成		仮説形成型論証の特徴とその評価について考える。	
	この回の到達目標	仮説形成型論証の特徴とその評価について説明できる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書5.2をよく読んでノートを再作成、疑問点を明らかにしておく。		120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞や広告などから仮説形成タイプの論証を見つけ、評価してみる。		120分
11	帰納について 価値評価について		帰納についてその評価のポイントについて考える。また価値評価型論証とは何か、その構造について考える。	
	この回の到達目標	帰納とはなにか、また価値評価型論証とは何かを説明できる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第6章をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。		120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 推測（帰納ではない）と帰納の例をそれぞれ考えてみる。		120分
12	価値評価型論証の評価		価値評価型論証の評価の方法について考える。	
	この回の到達目標	価値評価型論証とは何か、その評価方法を説明できる（関連SB0s①②）。		
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第6章を再度よく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。		120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞や広告などから価値評価型論証を見つけ、その導出について評価してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	価値評価型論証の評価	価値評価型論証の評価の方法、特に対立評価について考える。	
	この回の到達目標	価値評価型論証の評価方法を対立評価も含めて説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第6章をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞や広告などから価値評価型論証を見つけ、その対立評価を提出してみる。	120分
14	前期の授業の振り返りと総合問題	前期の講義内容の理解を問う授業内試験を行う。試験に先立ち、講義の学びの振り返りを簡単にを行う。	
	この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答をすることができる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
	事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験（総合問題）に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	180分
	事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価をする。	120分
15	講義全体の振り返りと総合問題の解説	前回行った授業内試験の解説を行う。その後、もう一度前期講義の学びの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
	事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	120分
	事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。 本講義での学びを振り返る。	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	江川 晃	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書いていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう～。

【授業方法】		
オンデマンド動画により、講義と演習を交互に行ないます。まず動画1では基本的な形式論理学の原理を説明します。次に動画2で、徹底的に演習した後、具体的な応用問題を考えていただきます。動画3では、解答を詳しく説明します。最後に課題を出しますので期日まで提出してください。「考えるより慣れていきましょう」		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前に演習問題配布しますので予習しておくこと。 事後、質問を受けつけます。受講票の裏に質問と理解度を記入の事。 翌週コメントします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。				2	2	2	2				
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週授業はじめに解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材に関しては、すべてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日 4 限、授業終了後の教室にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	3 0 年間、予備校教育経験（数学・物理）。教育相談・父兄面接・家庭訪問・事務も経験した。
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論証の構造	4 論証の構造・演習	
	この回の到達目標	後期授業の大まかな把握。	
	事前学修	配布プリントの該当箇所をよく読んでおく。（2時間）	120分
	事後学修	論証図について授業中に取り上げた問題等を復習する。（2時間）	120分
2	5 演繹と推測	(1) 演繹と推測の違い・演習	
	この回の到達目標	演繹と推測の違い把握。	
	事前学修	演繹と推測の違いについて把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	授業内容復習。（2時間）	120分
3	仮説	(2) 仮説形成	
	この回の到達目標	仮説について把握。	
	事前学修	仮説とは何かを把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	授業の復習（2時間）	120分
4	6 否定	(1) 否定と反対・演習	
	この回の到達目標	反論と否定の関係。	
	事前学修	否定・反対・両立不可能について把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	否定・反対・両立不可能について復習（2時間）	120分
5	ド・モルガンの法則 1	(2) 「かつ」と「または」	
	この回の到達目標	ド・モルガン（1）の把握。	
	事前学修	「かつ」と「または」の論理的違いについて予習しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	具体的な問題をもう一度考え直そう。（2時間）	120分
6	ド・モルガン（2）	(3) 「すべて」と「存在する」（ド・モルガンの法則 2）	
	この回の到達目標	ド・モルガン（2）の把握。	
	事前学修	「すべて」と「存在する」の論理的違いについて予習しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	具体的な問題をもう一度考え直そう。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7 条件構造	(1) 逆・裏・対偶	
	この回の到達目標	逆・裏・対偶の把握。	
	事前学修	条件構造とは何か予習しておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	逆・裏・対偶を具体的な問題を通じてよく理解しておこう。(2時間)	120分
8	条件連鎖	(2) 条件連鎖・演習	
	この回の到達目標	条件連鎖の構造把握。	
	事前学修	条件連鎖の構造を予習しておこう。(2時間)	120分
	事後学修	授業復習(2時間)	120分
9	演習	第7章練習問題 問題1～4	
	この回の到達目標	条件連鎖のトレーニング。	
	事前学修	問題を事前に解いておこう。(2時間)	120分
	事後学修	問題1～4を復習しよう。(2時間)	120分
10	8 推論の技術	(1) 存在文の扱い方・演習	
	この回の到達目標	存在文の理解。	
	事前学修	「存在文の扱い方」をよく読んでおこう。(2時間)	120分
	事後学修	具体例の復習。(2時間)	120分
11	消去法	(2) 消去法・演習	
	この回の到達目標	消去法理解。	
	事前学修	消去法とは何かを把握しておこう。(2時間)	120分
	事後学修	具体例・演習の復習。(2時間)	120分
12	背理法	(3) 背理法・演習	
	この回の到達目標	背理法の意味理解。	
	事前学修	「背理法とは何か」を把握しておこう。(2時間)	120分
	事後学修	具体的問題をもう一度独力で解答してみよう。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	試験の傾向と対策(模試)		試験の傾向と対策(1)
	この回の到達目標	総復習。	
	事前学修	プリントの予習 (2時間)	120分
	事後学修	傾向と対策(1)復習 (2時間)	120分
14	試験の傾向と対策 (解答)		試験の傾向と対策(2)
	この回の到達目標	模擬問題理解。	
	事前学修	プリントの予習 (2時間)	120分
	事後学修	傾向と対策(2)復習 (2時間)	120分
15	レポート試験		授業内レポート試験と解説
	この回の到達目標	後期理解度の最大発揮。	
	事前学修	試験の傾向と対策を徹底的に理解しておこう。(2時間)	120分
	事後学修	試験復習 (2時間)	120分

科目名	論理学Ⅱ	担当者	大熊 圭子	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	総合科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座では、特に論理的な文章を読み書きしていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材となるために、論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できる能力を修得する。また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書や配布プリントに沿って講義する。パワーポイント等を用いて説明、あわせて理解度チェックのための課題を行う。課題のうち提出してもらったものは翌週に解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	あいまいな文章と論理的に明確な文章との否定の違いを説明できる。				2	2	2	2				
②	論証を読み取り、それが論理的に正しいものかどうかの判断の方法を説明することができる。				2	2	2	2				
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について評価し、それを説明することができる。				2	2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述式試験により評価する。	15	25	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	到達目標①②に関わる講義中に課す課題への取り組みの成果を評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評を翌週に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 論理トレーニング	野矢茂樹	産業図書	2006	教科書	必携
実践ロジカル・シンキング入門	野内良三	大修館書店	2003	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火18:00～19:00 研究室（本館 8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。okuma.keiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって／ロジカルシンキングとは	前半では、講義概要、評価方法、単位取得要件、受講上の注意、文献紹介などを行う。後半では、論理学の基本的用語などについて説明する。	
	この回の到達目標	ガイダンス内容を理解する。論理的思考とはどのようなものか説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	シラバスを熟読する。	60分
	事後学修	シラバス・ガイダンス時の説明をよく理解し、履修を検討する。 論理学Ⅰを履修していない場合、テキストの第6章までを読んでおく。	120分
2	否定の形	文の否定の形、および反対と否定の違いについて考える。	
	この回の到達目標	否定の形、および否定と反対の違いについて説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	教科書7.1を熟読し、ノートにまとめておく。否定や反対についてその違いを考えてみる。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを参考にしながら復習する。様々な文の否定の形を作ってみる。	120分
3	連言文と選言文	連言文と選言文とは何か、その否定の形について考える。	
	この回の到達目標	連言文と選言文の否定の形について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書7.2を読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 連言文と選言文を新聞や本の中から探し、その否定の文を考え、書いてみる。	120分
4	存在文と全称文	存在文と全称文とは何か、その否定の形について考える。	
	この回の到達目標	存在文と全称文の違い、およびそれぞれの否定の形を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書7.3を読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 存在文と全称文の否定の形についての練習問題を解いてみる。	120分
5	逆・裏・対偶	逆・裏・対偶とは何か、対偶の特別性について考えてみる。	
	この回の到達目標	逆・裏・対偶とは何か、対偶がなぜ重要かについて説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書8.1を読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の練習問題に取り組む。	120分
6	条件連鎖	条件連鎖の方法、その目的について考える。	
	この回の到達目標	条件連鎖について、その目的・方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回の講義内容を復習する。教科書8.2を読んでノートを確認しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	存在文の条件連鎖	存在文が含まれるときの条件連鎖の方法について考える。	
	この回の到達目標	存在文が含まれる条件連鎖について、その方法を説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.1をよく読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の存在文が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
8	消去法	消去法とは何か、消去法を用いた条件連鎖について考える。	
	この回の到達目標	消去法とは何か、また消去法を用いて条件連鎖を行う方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.2をよく読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の消去法が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
9	背理法	背理法とは何か、背理法を用いた条件連鎖について考える。	
	この回の到達目標	背理法とは何か、また背理法を用いて条件連鎖を行う方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書9.3をよく読んでノートを作成しておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書の背理法が含まれる条件連鎖に関する練習問題に取り組む。	120分
10	条件連鎖のまとめ	条件連鎖の方法について復習する。	
	この回の到達目標	さまざまなタイプの論証を条件連鎖により演繹かどうかを確認する方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第8章、第9章を再度よく読んでノートを再作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 教科書にある条件連鎖に関する練習問題・課題問題に取り組む。	120分
11	批判のための視点	批判のためにどのような点に着目すべきかについて考える。	
	この回の到達目標	さまざまなタイプの論証を批判的に読み取るための方法について説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書10.1をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。論理学Ⅰを履修していない場合、テキストのⅡ論証～を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞など様々な文章を読んで、批判できるポイントを探してみる。	120分
12	立論、異論、批判	立論、異論、批判とはなにか、その違いについて考える。	
	この回の到達目標	異論とは何か、批判とは何か、その違いを明確に説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書10.2をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞の社説や投書欄を読んで、それについて批判をしたり異論を提出してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	批判する		論証を読み取り、より強力な批判の方法を考える。
	この回の到達目標	より強力な批判とするにはどうすればよいかを説明できる（関連SB0s①②）。	
	事前学修	前回までの講義内容を復習する。教科書第11章をよく読んでノートを作成、疑問点を明らかにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書を用いて、講義内容をノートにまとめ直し復習する。 新聞の社説や投書欄を読んで、それについてさまざまな観点から批判をしたり異論を提出してみる。	120分
14	前期の授業の振り返りと総合問題実施		前期の講義内容の理解を問う授業内試験（総合問題）を行う。試験に先立ち、講義の学びの振り返りを行う。
	この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答することができる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
	事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、授業内試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	180分
	事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価をする。	120分
15	講義全体の振り返りと総合問題の解説		前回行った授業内試験の解説を行う。その後、後期講義の学びの振り返りを行う。
	この回の到達目標	SB0s①②を評価するための出題に対し、十分な解答を行えたか自ら評価できる。SB0s③にあるような振り返りを行ない、自己の達成を評価できる。	
	事前学修	教科書やノートに沿って、全講義内容を復習し、疑問点がないか確認する。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。	120分
	事後学修	教科書やノートをみながら、答案の自己評価を再度行い、学んだことを定着させる。 本講義での学びを振り返る。	120分

Ⅲ群

外国語科目

Ⅲ群

外国語科目

科目名	英語A	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
2年次生以上対象。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。

【授業方法】
オンデマンド方式。毎回の授業時間にGoogle Classroomを通して教材と課題を提示します。学生にはその教材の説明と指示に従って演習をしてもらい、授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週以降の授業内にレポート形式で提出してもらい、それについて授業内で解説を加えた上で、それを踏まえてGoogle Classroomのコメント欄等を使ってディスカッションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	年度を問わず	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
NUメール（itakura.torull@nihon-u.ac.jp）またはGoogle Classroom内のコメントで質問や相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(1) 1章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(2) 1章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、1. Seven Billion and Counting(3) 1章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(1) 2章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(2) 2章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、2. Who Wants to Be a Millionaire?(3) 2章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger (1) 3章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger (2) 3章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、3. Poverty's Partner: Hunger (3) 3章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum (1) 4章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum(2) 4章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、4. Of Terror and Tantrum(3) 4章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		前期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。		
	事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。		
	事前学修	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。		60分
	事後学修	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。		30分

科目名	英語A	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
留学生のみの授業と成ります。原則、英語B（留学生）と通年で履修。

【授業方法】
オンデマンド。講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	Introduction及び導入講義	Students will learn about the objectives of the course		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		30分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
2	Ancient Japan and East-Asia	Learn about relations between Japan, Korea and China in ancient times		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Ancient Japan and East-Asia so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
3	Foreign Settlements in Japan.	Learn about foreign towns and communities in Japan in the leate medeival and early modern period.		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Foreign Settlements in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
4	Kim Chung-son.	Learn about a renegade samurai in the Imjin War		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kim Chung-son so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
5	Korean Potters in Japan.	Learn about the history of Korean potters in Japan.		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Korean Potters in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
6	Yamada Nagamasa.	Learn about the Japanese man who nearly became a king in Thailand.		
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Yamada Nagamasa so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Tagawa Matsu.		Learn about the life of Tagawa Matsu the mother of Zheng Chenggong.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Tagawa Matsu so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
8	Zhu Shun-sui.		Learn about the life of Zhu Shun-sui a refugee schollar in Edo Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Zhu Shun-sui so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
9	Maria Guyomar de Pina		Learn about Maria Guyomar de Pina, an important Japanese lady in Thai history.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Maria Guyomar de Pina so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
10	Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan.		Learn about the history of Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
11	Sun Yat-sen in Japan.		Learn about Sun Yat-sen in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Sun Yat-sen in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
12	Prince Cuong De.		Learn about the Vietnamese prince, Cuong De, in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Prince Cuong De so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	The Takasago Volunteers	Learn about the history of the Takasago Volunteers	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Takasago Volunteers so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
14	Kyaw Din.	Learn about Kyaw Din and Japanese soccer history.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kyaw Din so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Revise for the semester exam.	30分
15	Semester exam Review	Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can complete the semester assessment.	
	事前学修	Prepare for the assessment	30分
	事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	英語A	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
オンデマンド授業。1年次に英語Aを履修していない学生対象。原則、英語Bと通年で履修すること。

【授業方法】
「オンデマンド授業」。授業動画の配信による講義と演習方式。動画配信、課題配信・回収、フィードバックなど授業に関する指示はすべてGoogle Classroom上で実施。シラバスに変更がある場合は第1回目の授業で説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						1			1		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テキストの課題で目標達成度を確認。授業動画でテキストの解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Level-Up Trainer for the TOEIC TEST(Revised Edition)	A. Yokogawa他	National Georaphic Learning	2019	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
質問や相談がある場合には sato.akiko01@nihon-u.ac.jp にメールをください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス (動画) 授業の進め方について 1年生一斉テストについて (TOEIC) (課題) Pre-testの受験	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、TOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。Pre-testを受験することで、現在の英語力を確認することができる。	
	事前学修	ポータルサイトよりクラスコードを送付するので、各自、授業までにGoogle Classroomに登録すること。シラバスを読み、講義全体を概観をする。TOEICの形式を調べておく。ノートを用意する。	30分
	事後学修	TOEIC HPを読み、目標スコアを決める。前期のTOEICの学習計画を立てる。	30分
2	Unit 1 テスト形式を知る その1	Unit 1 テスト形式を知る その1 (動画) TOEICテストとは？ (課題) Unit 1 Listening の解答をFormで提出	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの学習方法を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
	事前学修	Listening 問題に取り組む前にできるだけ英文を聴き、耳を慣らしておく。Pre-testに出てきたわからない単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。	30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。	30分
3	Unit 1 テスト形式を知る その2	Unit 1 テスト形式を知る その2 (動画) Unit 1 Listening 解説 (課題) Unit 1 Reading の解答をFormで提出	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テスト形式を理解し、今後のTOEICの学習に役立てることができる。	
	事前学修	前回の復習をする。	30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。	30分
4	Unit 2 基本戦略① その1	Unit 2 基本戦略① その1 (動画) Unit 1 Reading 解説 (課題) Unit 2 Listening の解答をFormで提出	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。	
	事前学修	前回の復習をする。	30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。	30分
5	Unit 2 基本戦略① その2	Unit 2 基本戦略① その2 (動画) Unit 2 Listening 解説 (課題) Unit 2 Reading の解答をFormで提出	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。	
	事前学修	前回の復習をする。	30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。	30分
6	Unit 3 基本戦略② その1	Unit 3 基本戦略② その1 (動画) Unit 2 Reading 解説 (課題) Unit 3 Listening の解答をFormで提出	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。	
	事前学修	前回の復習をする。	30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	Unit 3 基本戦略② その2	Unit 3 基本戦略② その2 (動画) Unit 3 Listening 解説 (課題) Unit 3 Reading の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本戦略を学び、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
8	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その1	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その1 (動画) Unit 3 Reading 解説 (課題) Unit 4 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の基本構造を身に付けることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
9	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その2	Unit 4 英文の基本構造を見抜く その2 (動画) Unit 4 Listening 解説 (課題) Unit 4 Reading の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の基本構造を身に付けることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
10	Unit 5 解答の根拠の登場順 その1	Unit 5 解答の根拠の登場順 その1 (動画) Unit 4 Reading 解説 (課題) Unit 5 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、解答の根拠の登場順のルールを理解することができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
11	Unit 5 解答の根拠の登場順 その2	Unit 5 解答の根拠の登場順 その2 (動画) Unit 5 Listening 解説 (課題) Unit 5 Reading の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、解答の根拠の登場順のルールを理解することができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
12	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その1	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その1 (動画) Unit 5 Reading 解説 (課題) Unit 6 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正解の言い換えパターンに慣れ、スコア・アップに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その2	Unit 6 正解の言い換えパターンを知る その2 (動画) Unit 6 Listening 解説 (課題) Unit 6 Reading の解答をFormで提出	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正解の言い換えパターンに慣れ、スコア・アップに結びつけることができる。	
	事前学修	前回の復習をする。	30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。	30分
14	テストの実施	テキストの復習テストを実施する (動画) Unit 6 Reading 解説 (課題) 復習テストを受験する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テストを通じて、現在の自分の英語力を確認することができる。	
	事前学修	テストに向けて、前期に学んだことを総復習する。	120分
	事後学修	テストでわからなかったところを復習する。	30分
15	前期の授業をふり返る	前期授業の振り返り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習を通じて、前期に学んだテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	前期授業でわからなかったことをまとめておく	30分
	事後学修	後期のTOEIC受験に向け、現在の英語力を自己分析し、夏休み・後期の学修計画を立てる。	30分

科目名	英語B	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し，2年次以降の発展的な英語科目に備え，リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC， TOEFL， 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために，リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
2年次生以上対象。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。

【授業方法】
オンデマンド方式。毎回の授業時間にGoogle Classroomを通して教材と課題を提示します。学生にはその教材の説明と指示に従って演習をしてもらい、授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週以降の授業内にレポート形式で提出してもらい、それについて授業内で解説を加えた上で、それを踏まえてGoogle Classroomのコメント欄等を使ってディスカッションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	年度を問わず	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
NUメール（itakura.torull@nihon-u.ac.jp）またはGoogle Classroom内のコメントで質問や相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (1) 5章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (2) 5章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、5. The Double-Edged Net (3) 5章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans (1) 6章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans (2) 6章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、6. The Issues of Oceans(3) 6章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、7. Water, Water, Everywhere(1) 7章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	7. Water, Water, Everywhere(2) 7章のエッセイの中盤を精読します。 英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法を確認して精読の理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、7. Water, Water, Everywhere(3) 7章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	前章のまとめ、小テストとその解説。 基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(1) 8章のエッセイの導入部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。	
	事前学修	章のまとめの小テストを行うことがあります。前章の単語、構造分析、訳等を復習しておくこと。 授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(2) 8章のエッセイの中盤を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、8. An obsession with Possessions(3) 8章のエッセイの結論部を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		後期の授業の振り返り。 前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。		
	事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。		
	事前学修	後期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。		60分
	事後学修	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。		30分

科目名	英語B	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
留学生のみの授業と成ります。 原則、英語B（留学生）と通年で履修。

【授業方法】
オンデマンド。講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、授業内試験（レポートを含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2019	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Tei Ei-Kei		Learn about Tei Ei-kei and coffee culture in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		30分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
2	Kairakutei Black		Learn about Kairakutei Black and rakugo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Ancient Japan and East-Asia so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
3	Victor Starrfin		Learn about Victor Starrfin a Russian baseball pioneer in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Foreign Settlements in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
4	Rash Behari Bose		Learn about Rash Behari Bose and curry in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kim Chung-son so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
5	Leo Sirota		Learn about Leo Sirota and classical music in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Korean Potters in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
6	Beate Sirota Gordon		Learn about Beate Sirota Gordon and the Japanese constitution.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Yamada Nagamasa so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Chen Kenmin		Learn about Chen Kenmin and Chinese food history in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Tagawa Matsu so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
8	Rikidozan		Learn about the life of Zhu Shun-sui a refugee scholar in Edo Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Zhu Shun-sui so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
9	Ando Momofuku		Learn about Ando Momofuku and ramen culture in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Maria Guyomar de Pina so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
10	Korean food in Japan		Learn about the history of Korean food in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
11	Oh Sadaharu		Learn about Oh Sadaharu and baseball in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Sun Yat-sen in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
12	Konishiki Yasokichi		Learn about Konishiki Yasokichi and sumo in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Prince Cuong De so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Murata Renho	Learn about Murata Renho and Japanese politics	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Takasago Volunteers so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
14	Son Masayoshi	Learn about Son Masayoshi and business in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kyaw Din so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Revise for the semester exam.	30分
15	Semester exam	Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can complete the semester assessment.	
	事前学修	Prepare for the assessment	30分
	事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	英語B	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに修得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な英語科目に備え、リーディングや文法などの基礎力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リーディングや文法などの基礎力を身につける。

【履修条件】
オンデマンド授業。1年次に英語Bを履修していなかった学生対象。原則、英語Aと通年で履修すること。

【授業方法】
「オンデマンド授業」。授業動画の配信による講義と演習方式。動画配信、課題配信・回収、フィードバックなど授業に関する指示はすべてGoogle Classroom上で実施。シラバスに変更がある場合は第1回目の授業で説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な読解力を活用することができる。						2			2		
②	英文の構造を理解するために必要な語彙・文法の知識を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テキストの課題で目標達成度を確認。授業動画でテキストの解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Level-Up Trainer for the TOEIC TEST(Revised Edition)	A. Yokogawa他	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考	辞書を持参すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
質問や相談がある場合には sato.akiko01@nihon-u.ac.jp にメールをください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス (動画) 後期授業の進め方について 1年生一斉テストについて (TOEIC) (課題) Pre-testの受験 (復習)		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、前期最初に受けたPre-testを受験することで、現在の英語力を確認することができる。		
	事前学修	各自、授業までにGoogle Classroomに登録すること。		30分
	事後学修	前期の学修状況を踏まえ、TOEIC目標スコアを再確認する。後期のTOEICの学習計画を立てる。		30分
2	Unit 7 機能疑問文を開き取る その1	Unit 7 機能疑問文を開き取る その1 (動画) TOEIC受験に向けて注意事項など (課題) Unit 7 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、機能疑問文を理解し、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	Listening 問題に取り組む前にできるだけ英文を聴き、耳を慣らしておく。Pre-testに出てきたわからない単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
3	Unit 7 機能疑問文を開き取る その2	Unit 7 機能疑問文を開き取る その2 (動画) Unit 7 Listening 解説 (課題) Unit 7 Reading の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、機能疑問文を理解し、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
4	Unit 8 動詞の時制を見極める その1	Unit 8 動詞の時制を見極める その1 (動画) Unit 7 Reading 解説 (課題) Unit 8 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の時制を学び、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
5	Unit 8 動詞の時制を見極める その2	Unit 8 動詞の時制を見極める その2 (動画) Unit 8 Listening 解説 (課題) Unit 8 Reading の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞の時制を学び、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
6	Unit 9 接続詞 vs. 前置詞 その1	Unit 9 接続詞 vs. 前置詞 その1 (動画) Unit 8 Reading 解説 (課題) Unit 9 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して接続詞と前置詞の違いを学び、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	Unit 9 接続詞 vs. 前置詞 その2	Unit 9 接続詞 vs. 前置詞 その2 (動画) Unit 9 Listening 解説 (課題) Unit 9 Reading の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞と前置詞の違いを学び、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
8	Unit 10 複数パッセージの攻略 その1	Unit 10 複数パッセージの攻略 その1 (動画) Unit 9 Reading 解説 (課題) Unit 10 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、複数パッセージの問題に慣れ、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
9	Unit 10 複数パッセージの攻略 その2	Unit 10 複数パッセージの攻略 その2 (動画) Unit 10 Listening 解説 (課題) Unit 10 Reading の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、複数パッセージの問題に慣れ、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
10	Unit 11 接続副詞に強くなる その1	Unit 11 接続副詞に強くなる その1 (動画) Unit 10 Reading 解説 (課題) Unit 11 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続副詞の役割を理解し、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
11	Unit 11 接続副詞に強くなる その2	Unit 11 接続副詞に強くなる その2 (動画) Unit 11 Listening 解説 (課題) Unit 11 Reading の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続副詞の役割を理解し、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分
12	Unit 12 NOT型設問のコツ その1	Unit 12 NOT型設問のコツ その1 (動画) Unit 11 Reading 解説 (課題) Unit 12 Listening の解答をFormで提出		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、NOT型設問のパターンに慣れ、スコアに結びつけることができる。		
	事前学修	前回の復習をする。		30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 12 NOT型設問のコツ その2	Unit 12 NOT型設問のコツ その2 (動画) Unit 12 Listening 解説 (課題) Unit 12 Reading の解答をFormで提出	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、NOT型設問のパターンに慣れ、スコアに結びつけることができる。	
	事前学修	前回の復習をする。	30分
	事後学修	授業課題の中でわからなかった単語・フレーズ・センテンスをノートに書きとって調べる。スクリプトが配布された場合はその音読をする。	30分
14	テストの実施	テキストの復習テストを実施する (動画) Unit 12 Reading 解説 (課題) 復習テストを受験する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テストを通じて、現在の自分の英語力を確認することができる。	
	事前学修	テストに向けて、後期に学んだことを総復習する。	120分
	事後学修	テストでわからなかったところを復習する。	30分
15	後期の授業をふり返る	後期授業の振り返り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習を通じて、前期に学んだテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	後期授業でわからなかったことをまとめておく	30分
	事後学修	キャリア・デザインの一環として、現在の英語力を自己分析し、就職活動時までのTOEIC学修計画を立てる。	30分

科目名	英語C	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
初回授業に出席できる学生で、WordとPower Pointの基本操作ができる学生のみ履修可。

【授業方法】
オンデマンド方式。毎回コメントを執筆あるいは発表してもらいます。小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	英語でプレゼンテーションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
メールで対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	リスニングやスピーキングに役立つサイトや参考文献の紹介	
	この回の到達目標	辞書だけでなく適切な参考書やサイトを確認するを。	
	事前学修	シラバスを読んでおく。	60分
	事後学修	ガイダンスプリントの確認を行う。	60分
2	スピーキングについて	グループ創作会話 その1 英語表現の確認 文法プリント演習	
	この回の到達目標	場面想定ของกลุ่ม会話	
	事前学修	プリントの確認を行う。	60分
	事後学修	1分間プレゼンテーションのテーマを考える	60分
3	1分間英語プレゼンテーションについて	文法プリント 文法プリント演習 英語原稿作成。	
	この回の到達目標	一つのテーマについて英語である程度の長さの文章を作成するための表現を学ぶ。	
	事前学修	表現方法の確認を行う。	60分
	事後学修	原稿の推敲を行う。	60分
4	文法確認テストとリスニングチェック	TOEIC, TOEFL文法テストとリスニングチェック 説得性のある英語表現について	
	この回の到達目標	相手に伝えるための身体表現について学ぶ。	
	事前学修	文法の問題を見直す。	60分
	事後学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
5	英語プレゼンテーション その1	英語プレゼンテーション その1 コメント交換	
	この回の到達目標	英語プレゼンテーションの基本的な技術を学ぶ。	
	事前学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
	事後学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
6	英語プレゼンテーション その1	英語スピーチ その2 コメント交換 3分間英語プレゼンテーションについて	
	この回の到達目標	プレゼンテーションの基本的な技術を学び、具体的なコメントを行えるようにする。	
	事前学修	英語スピーチの原案修正を行う。	60分
	事後学修	3分間プレゼンテーションのテーマを考える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 1	視覚的効果と具体的な表現について	
	この回の到達目標	パワーポイントを使って効果的なプレゼンテーションを行うための基本的な技術を学ぶ。	
	事前学修	英語スピーチの原稿修正を行う。	60分
	事後学修	パワーポイントの表紙を作成する。	60分
8	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 1	パワーポイント作成と修正	
	この回の到達目標	3分間英語プレゼンテーションのテーマ展開と構成の基本を学ぶ。	
	事前学修	プリントの見直しを行う。	60分
	事後学修	タイピング練習を行う。	60分
9	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションについて 2	パワーポイント作成と修正	
	この回の到達目標	パワーポイントの英文作成のコツを学ぶ。	
	事前学修	発表用のパワーポイントのシートを作成する。	60分
	事後学修	英文の推敲を行う。	60分
10	復習テストと発表の最終確認	文法とリスニングの復習テスト 英語プレゼンテーション 原稿推敲	
	この回の到達目標	発表前の英語プレゼンテーションの問題点を解決する。	
	事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を確認する。	60分
	事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
11	英語プレゼンテーション その 1	英語ミニプレゼンテーション 1 学生によるコメント交換	
	この回の到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
	事前学修	英語プレゼンテーションの予行演習を行う。	60分
	事後学修	英語プレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
12	英語プレゼンテーション その 2	英語ミニプレゼンテーション 2 学生によるコメント交換	
	この回の到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
	事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
	事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英語プレゼンテーション その3	英語ミニプレゼンテーション 3 学生によるコメント交換	
	この回の 到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
	事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
	事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
14	英語プレゼンテーション その4	英語ミニプレゼンテーション 4 学生によるコメント交換 試験に備えての注意事項説明	
	この回の 到達目標	互いの発表の工夫点や問題点について認識し、改訂版に備える。	
	事前学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。	60分
	事後学修	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。	60分
15	発表についての総評とテスト	まとめと復習テスト	
	この回の 到達目標	発表についての原稿とパワーポイントのシートを完成させる。	
	事前学修	発表の完成版を作る。	60分
	事後学修	テスト問題と解答の確認を行う。	60分

科目名	英語C	担当者	目黒 庸一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
原則，英語Dと通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信、および課題配信。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含 む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身につ ているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Global Issues in Action: Tasks that Work [タスクで考える 国際問題：自分の中のテキストを探して]	柳川浩三・Simon Johnson	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。meguro.youichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 高等学校（英語）
実務経験に基づく実践的教育の内容	高等学校（英語）の実務経験を活かした授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction・導入講義	授業の概要、目的、成績評価などについてのオリエンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリエンテーションの内容をもとに今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバス、テキストの準備。	30分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
2	Chapter 2. Show and tell	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
3	Chapter 2. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
4	Chapter 3. Help me!	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
5	Chapter 3. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
6	Chapter 4. The world is waiting for your help	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Chapter 4. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
8	Review and quiz	Review quiz	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解・使用することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
9	Chapter 5. Explore global problems	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
10	Chapter 5. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
11	Chapter 6. Human migration	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
12	Chapter 6. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Chapter 7. Choose or be chosen?	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
14	Chapter 7. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
15	Semester exam	授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解・使用することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分

科目名	英語C	担当者	A.チャーンサイド	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
University streaming system dictates who is able to take this class

【授業方法】
On demand. Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Pair and group discussion. Encouragement of critical thinking whenever possible	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						1			1		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						1			1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	In class listening/speaking test 25%	13	12									25
小テスト等	Minitest and Quiz 25%	13	12									25
レポート等												
討論・発表等	Presentation 25%	12	13									25
授業への参画度	Class participation 25%	12	13									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback given in class or by email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topic Talk Second Edition	David Martin	EFL Press		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Wed 10:30 - 18:00 Room TBD alexander.chirnside@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	First meeting	Getting to know each other. Self-introductions. Interrogation of teacher. Explanation of yes/no questions	
	この回の到達目標	Ability to ask simple questions in English	
	事前学修	Prepare to introduce yourself in English. Prepare possible questions to ask teacher about himself (30min)	30分
	事後学修	Review grammar rules of yes/no questions (30min)	30分
2	Simple questioning	Yes/no question activity. Explanation of wh questions	
	この回の到達目標	Ability to confidently ask simple questions in English	
	事前学修	Prepare at least 20 yes/no questions to ask teacher (30min)	30分
	事後学修	Review grammar rules of wh questions. Read General Service List 1-970 (30min)	30分
3	Family affairs	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss family matters in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards (30min)	30分
	事後学修	Review Family vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
4	Family affair	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to discuss family matters in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
5	Food	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss food in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Food vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
6	Food	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to discuss food in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Minitest day 1	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 1, GSL 1-500. Topics 1 and 2 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve information on family and food in a test setting	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 1 and 2 test. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	Time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss time in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Time vocabulary and question structures. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	Time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to discuss time in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
10	House and home	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4, House and Home. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss house and home in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 80 words. (30min)	30分
	事後学修	Review House and Home vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	House and home	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4 House and Home listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to discuss house and home in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	Minitest day 2	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 2, GSL 501-970. Topics 3 and 4 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve information on time and house and home in a test setting	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 3 and 4 test (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Music	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 5 Music, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss music in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	Creating a new topic	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
	この回の到達目標	Ability to create questions about a specific topic in English	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	Final class	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
	この回の到達目標	Ability to utilize skills acquired in previous classes	
	事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
	事後学修	Review semesters work and prepare a summer break study plan. (30min)	30分

科目名	英語D	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
初回の授業に必ず出席できる学生。WordとPower Pointの基本操作が可能な学生のみ履修可。

【授業方法】
毎回コメントを執筆してもらいます。小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を別途設けます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業での理解度を確認するテスト	30	30									60
レポート等	最終レポート	10	10									20
討論・発表等	英語によるプレゼンテーション	10	10									20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎週授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント使用				

【オフィスアワー】
メールで予約の上、対応いたします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス 英文聞き取り 文法確認	
	この回の到達目標	授業の概要を把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読しておく。	30分
	事後学修	配布プリントを確認する。	30分
2	スピーキングに必要な慣用表現とは？	英語表現の確認 英語スピーチのポイント確認	
	この回の到達目標	スピーキングに必要な慣用表現を学ぶ。	
	事前学修	推奨サイトを確認する。	30分
	事後学修	配布プリントを確認する。	30分
3	英文タイピング上達のコツ	文法テスト タイピング練習英文聞き取り	
	この回の到達目標	英文タイピング上達のコツをつかむ	
	事前学修	推奨サイトを確認する。	30分
	事後学修	タイピングの練習を行う。	30分
4	1分間英語スピーチのコツとは？	英語スピーチ その1 コメント 英文聞き取り	
	この回の到達目標	1分間英語スピーチの構成を学び、ポイントをつかむ。	
	事前学修	スピーチの原稿を作成する。	30分
	事後学修	スピーチの原稿を修正する。	30分
5	1分間英語スピーチの表現方法について	英語スピーチ その2 コメント 英文聞き取り	
	この回の到達目標	1分間英語スピーチの慣用表現方法について学ぶ。	
	事前学修	スピーチの原稿を完成する。	30分
	事後学修	スピーチの原稿を修正する。	30分
6	1分間英語スピーチのコメントについて	英語スピーチ その3 コメント 英文聞き取り	
	この回の到達目標	スピーチについての英語のコメントの表現法を学ぶ。	
	事前学修	スピーチの原稿を修正する。	30分
	事後学修	スピーチの原稿を修正する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	英語のプレゼンテーションについて	プレゼンテーションのワークシート作成 英文聞き取り	
	この回の到達目標	5分間プレゼンテーションの概念について学び、ワークシートを作成する。	
	事前学修	プレゼンテーションのテーマを考える。	30分
	事後学修	ワークシートの修正を行う。	30分
8	英語のプレゼンテーションのアイデアと展開について	復習テスト タイピング練習	
	この回の到達目標	英語のプレゼンテーションのアイデアについて、実例を検証しながら、その問題点を探る。	
	事前学修	ワークシートを交換の上、互いに修正を行う。	30分
	事後学修	英語プレゼンテーション パワーポイント作成。	30分
9	英語プレゼンテーションのシート修正	英語プレゼンテーションの内容確認とワークシート修正	
	この回の到達目標	英語プレゼンテーションのシートを完成させる。	
	事前学修	英語プレゼンテーション パワーポイント修正。	30分
	事後学修	英語プレゼンテーション ワークシートの修正を行う。	30分
10	英語プレゼンテーション実践1	英語プレゼンテーション 1 コメント交換	
	この回の到達目標	英語プレゼンテーションを聞いて、長所短所について、的確なコメントを述べる	
	事前学修	プレゼンテーションの予行演習	30分
	事後学修	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。	30分
11	英語プレゼンテーション実践2	英語プレゼンテーション 2 コメント	
	この回の到達目標	英語プレゼンテーションを聞いて、長所短所について、的確なコメントを述べる	
	事前学修	プレゼンテーションの予行演習	30分
	事後学修	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。	30分
12	英語プレゼンテーション実践3	英語プレゼンテーション 3 コメント	
	この回の到達目標	英語プレゼンテーションを聞いて、長所短所について、英語でコメントを述べる	
	事前学修	プレゼンテーションの予行演習	30分
	事後学修	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	英語プレゼンテーション 実践4		英語プレゼンテーション 4 英文コメント作成
	この回の 到達目標	英語プレゼンテーションを聞いて、長所短所について、英語でコメントを執筆する。	
	事前学修	英語表現プリントを確認する。	30分
	事後学修	コメントを確認する。	30分
14	復習テスト		プレゼンテーションの内容について英語でまとめる。
	この回の 到達目標	後期の学習内容の確認	
	事前学修	英語表現プリントを確認する。	30分
	事後学修	プリントを確認する。	30分
15	復習テスト返却と解説		プレゼンテーションの内容と英文を最終確認する。
	この回の 到達目標	英文シートと発表原稿の修正点を再確認する。	
	事前学修	プリントを確認する。（30分）	30分
	事後学修	テスト解答の確認を行う。（30分）	30分

科目名	英語D	担当者	目黒 庸一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
原則、英語Cと通年で履修すること。

【授業方法】
講義および演習

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	英文を読んだり、聞いたりするだけではなく、その内容についてどう考えるか、どうすべきかを英語で表現することが中心となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含 む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身につ ているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Global Issues in Action: Tasks that Work [タスクで考える 国際問題：自分の中のテキストを探して]	柳川浩三・Simon Johnson	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。meguro.youichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 高等学校（英語）
実務経験に基づく実践的教育の内容		高等学校（英語）の実務経験を活かした授業を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction・導入講義	授業の概要、目的、成績評価などについてのオリエンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オリエンテーションの内容をもとに今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバス、テキストの準備。	30分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
2	Chapter 8. Who are the Barumbans?	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
3	Chapter 8. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
4	Chapter 9. Presumptions: Pink or blue?	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
5	Chapter 9. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
6	Chapter 10. Gender equality and roles	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Chapter 10. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
8	Review and quiz	Review quiz	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解・使用することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
9	Chapter 11. The universal language of humor	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
10	Chapter 11. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
11	Chapter 12. Humanitarian aid	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
12	Chapter 12. Supplementary material	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Current global issues (1)	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
14	Current global issues (2)	Listening, Reading, and Speaking	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トピックに関する様々な英語媒体を理解することができる。トピックに関して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	トピックついて、様々な情報源から英文を聞き（読み）、それについて、平易な英語で自分の意見を表現する。語彙や文法項目を復習する。	30分
15	Semester exam	授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な英語媒体を理解することができる。語彙や文法などの言語項目を理解・使用することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分

科目名	英語D	担当者	A.チャーンサイド	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○			○		

【授業の概要】
高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年時以降の発展的な英語科目に備え、リスニングおよびスピーキングの英語基礎力を習得します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに対応するために、リスニングおよびスピーキングの基礎力を身につけます。

【履修条件】
University streaming system dictates who is able to take this class

【授業方法】
On demand. Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Working in groups, working in pairs, question and topic creation, peer evaluation of work done

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要なリスニング力を活用することができる。						2			2		
②	英語で意思疎通をするために必要なコミュニケーション力を活用することができる。						2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	In class Speaking/Listening test 25%	12	13									25
小テスト等	Minitest and quiz 25%	12	13									25
レポート等												
討論・発表等	Presentation 25%	13	12									25
授業への参画度	Class participation 25%	13	12									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments will be given, if possible, in current class. If not, then the following week's class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topic Talk Second Edition	David Martin	EFL Press		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Wed 10:30 - 18:00 Room TBD alexander.chirnside@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction to communication		Getting to know each other, again. Talking about summer break in groups, then in front of class. Interrogation of teacher. Explanation of any grammar or vocabulary issues that arise.	
	この回の到達目標	Ability to feel comfortable conversing with non-Japanese speaker		
	事前学修	Prepare to talk about your summer break in English. Prepare possible questions to ask teacher about his break (30min)		30分
	事後学修	Reflect on speaking performance in today's class. Could it have been better? How? (30min)		30分
2	Basic question reinforcement. More complex questions		In groups compare questions. make a list of the ten best questions by group. Predict answers. Ask teacher questions, compare his answers to your predictions.	
	この回の到達目標	Ability to feel comfortable questioning non-Japanese speaker		
	事前学修	Prepare at least 20 yes/no and wh questions about summer break to ask teacher (30min)		30分
	事後学修	Review new questions learned today. Read General Service List 1000-2000 (30min)		30分
3	Discussing transportation and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation		
	事前学修	Select 10 words from 1000-1500, write on vocabulary cards (30min)		30分
	事後学修	Review Transportation vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
4	Discussing transportation and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
5	Discussing sport and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)		30分
	事後学修	Review Sports vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
6	Discussing sport and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 3, GSL 1000-1500. Topics 6 and 7 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1000-1500. Prepare for Topics 6 and 7 test. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Numbers vocabulary and question structures. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Watch The Simpsons on YouTube (30min)	30分
10	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10, TV. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 80 words. Watch The Roadrunner on YouTube (30min)	30分
	事後学修	Review TV vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10 TV listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	Recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 4, GSL 1501-2000. Topics 8 and 10 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1500-2000. Prepare for Topics 8 and 10 test (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Discussing school and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 13 School, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of school	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	New topic questions creation	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
	この回の到達目標	Ability to work in teams to crewe questions for team-negotiated topic	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	Revision of semester's work, listening and speaking tests	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in semester	
	事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
	事後学修	Review semester's work and prepare a winter break study plan. (30min)	30分

科目名	英語E	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about Japanese history and culture in English so than you can explain Japanese history in English to foreign visitors.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for students who have scored highly on the placement test and are invited to join. It will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド。講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						3		3	3		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						3		3	3		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						3		3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英吾で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019年	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction及び導入講義		Learn about the aims and objectives of the course	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		60分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
2	From Edo to Tokyo - The Making of a Global City		Learn about the history of Tokyo	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the From Edo to Tokyo - The Making of a Global City story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
3	Kimono: Elegant Symbols of Japan		Learn about the history of kimono	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kimono: Elegant Symbols of Japan story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
4	Kabuki - Pop Culture of the Past		Learn about the history of kabuki	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
5	Sumo - A Weighty Sport		Learn about the history of sumo	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kabuki - Pop Culture of the Past story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
6	Shinkansen - The Bullet Train		Learn about the history of the bullet train	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Shinkansen - The Bullet Train story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Manga - Global storytelling from Japan	Learn about the history of manga	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Manga - Global storytelling from Japan story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
8	Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan	Learn about the history of Japanese arts and crafts	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
9	Cinema - Moving Art	Learn about the history of Japanese cinema	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Cinema - Moving Art story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
10	How to do a presentation	Learn about making presentations in English	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about effective presentation making in English.	
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
11	Presentation Making	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
12	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	Assessment Presentations	Assessment lesson	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	Assessment Presentations	Assessment lesson	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
	事前学修	Revise	60分
	事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英語F	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
You will learn about some powerful and inspirational women in Japanese history so than you can explain Japanese history in English to foreign visitors.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for students who have scored highly on the placement test and are invited to join. It will be in English only and aimed at improving speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド。講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						3		3	3		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						3		3	3		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						3		3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー・トーマス	東京書籍	2019年	教科書	必携
備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Samurai - Legendary Warriors of Japan	Learn about the history of samurai	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai - Legendary Warriors of Japan story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Please read the contents of syllabus.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
2	Korean Samurai: Fighting for Peace	Learn about the history of a renegade Japanese samurai in Korea	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean Samurai: Fighting for Peace story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
3	Samurai of California - Nagasawa Kanaye	Learn about Nagasawa Kanae, and wine in California	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai of California - Nagasawa Kanaye story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
4	Wako - Terrors and Darlings of the Seas	Learn about the history of pirates in Japan and East Asia	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Wako - Terrors and Darlings of the Seas story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
5	Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy	Learn about the Tensho Embassy to Europe	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
6	A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga	Learn about Hasekura Tsunenaga's journey to Rome	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan		Learn about Yasuke	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
8	An English Japanese Lord - William Adams		Learn about William Adams	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about An English Japanese Lord - William Adams story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
9	Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand		Learn about Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
10	A Chinese Revolution Built in Japan		Learn about Sun Yat-sen and his time in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Chinese Revolution Built in Japan story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
11	Presentation Making		Learn about presenting in English - using gestures.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English		
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分
12	Presentation Making		Learn about presenting in English - structure and transitions.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Making	Learn about presenting in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	Assessment Presentations	Presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	Assessment Presentations	Presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英語G	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
This course will teach you about Britain and its relationship with Japan so than you can explain Anglo-Japanese history in English.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for second year students who took 英語E/F in the first year. It will be taught in English only so as to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness

【履修条件】
原則、英語Hと通年で履修。CEFRB1・B2・C1を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
オンデマンド。講義および演習形式。This class follows the conceptual framework of Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						4		4	4		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						4		4	4		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						4		4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Britain and Japan in History	Thomas Lockley	DTP出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	First Class及び導入講義	Learn about the aims and objectives of the course	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the aims and objectives of the course to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Read the syllabus.	60分
	事後学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
2	Introduction and summary writing	Learn about Introduction and summary writing	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
3	William Adams and lecture notes.	Learn about William Adams and lecture notes.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
4	Edo period	Learn about Edo period	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
5	Mid 19th century	Learn about Mid 19th century	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Read and prepare questions for next class.	60分
6	Choshu Five	Learn about Choshu Five	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Read and prepare questions for next class.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Choshu Five		Learn about Choshu Five	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Read and prepare Texts for next class.		60分
8	Late 19th century		Learn about Late 19th century	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Read and prepare Texts for next class.		60分
9	Early 20th century		Learn about Early 20th century	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Read and prepare Texts for next class. Learn new vocabulary. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Read and prepare Texts for next class.		60分
10	Presentation Skills		Learn about presenting in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English		
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.		60分
11	Presentation preparation		Learn about presenting in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分
12	Presentation preparation		Learn about presenting in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation preparation	Learn about presenting in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	Presentations	Carry out assessments	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	Presentations	Carry out assessments	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	英語H	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
This class will teach you about Britain. Its society, history and culture so than you can explain and explore Britain and British themes.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
This class is for second year students who took 英語E/F in the first year. It will be taught in English only so as to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness

【履修条件】
CEFRB1・B2・C1を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
オンデマンド。講義および演習形式。This class follows the conceptual framework of Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Use listening, reading and critical thinking skills to be able to understand English texts						4		4	4		
②	Use speaking and writing communication skills to be able to present and discuss issues in English						4		4	4		
③	Reflect upon work and lesson content to be able to improve understanding of lesson topics and English skills						4		4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レポートにより評価する。		10	10								20
討論・発表等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表(授業内)により評価する。	15	15									30
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)活発に参加したかを基準に評価する。		15	15								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Britain: Society, History and Culture	Thomas Lockley	DTP出版	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	British geography		Learn about British geography	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		60分
	事後学修	Prepare news discussion.		60分
2	British History 1		Learn about British History 1	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Prepare text for lesson.		60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.		60分
3	British History 2		Learn about British History 2	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Prepare text for lesson.		60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.		60分
4	Britain in the 20th century		Learn about Britain in the 20th century	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Prepare text for lesson.		60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.		60分
5	The English Language		Learn about The English Language	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Prepare text for lesson.		60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.		60分
6	British Food		Learn about British Food	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Prepare text for lesson.		60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	British Society		Learn about British Society	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Prepare text for lesson.		60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.		60分
8	British Transport		Learn about British Transport	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Prepare text for lesson.		60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.		60分
9	Presentation Skills		Learn about Presentation Skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Think about skills necessary in presentations.		60分
	事後学修	Learn new words and complete reflections, Prepare news discussion.		60分
10	Presentation preparation		Learn about Presentation preparation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Think of topic for presentation.		60分
	事後学修	Continue research and presentation preparation.		60分
11	Presentation preparation		Learn about Presentation preparation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Continue research and presentation preparation.		60分
	事後学修	Continue research and presentation preparation.		60分
12	Presentation preparation		Learn about Presentation preparation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Continue research and presentation preparation.		60分
	事後学修	Continue research and presentation preparation.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation preparation	Learn about Presentation preparation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Practice presentation	60分
	事後学修	Continue research and presentation preparation	60分
14	Presentations	Carry out assessment presentation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Practice presentation.	60分
	事後学修	Practice presentation.	60分
15	Presentations	Carry out assessment presentation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Practice presentation.	60分
	事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	英語演習A	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「言語/哲学」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「言語/哲学」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と議論への意志があること。後期の英語演習Bと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信、および課題配信。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「言語/哲学」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2		2			2		
②	「言語/哲学」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2		2			2		
③	「言語/哲学」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記/レポート試験の講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『事態の捉え方と述語のかたち―英語から見た日本語』	黒滝真理子	開拓社	2019	教科書	必携
備考	配布資料併用				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション及び導入講義 社会言語学・認知言語学とは	社会言語学・認知言語学の全体像について学修する。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。		30分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。		30分
2	言語と社会の関わり	「ことばは何故変わるのか」という問題提起のもと、異文化間コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分
3	社会言語学の「社会との関わり」	個別の状況における言語使用や言語選択などから、日常に絡んだ「言語と社会の関係」を捉える。例えば、年齢、階級、性別、民族、アイデンティティなど。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分
4	言語の多様性・バリエーション	言語の多様性・バリエーションの実態とそれが生じる背景や歴史を考える。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分
5	言語とジェンダー/アイデンティティ	「言語とジェンダー」や「言語とアイデンティティ」		
	この回の到達目標	到達目標③に基づき、他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要に応じて自分の見解を修正しつつ）することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分
6	ポライトネス理論	ポライトネス理論と敬語行動		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	言語政策	社会言語学の周辺を探索。		
	この回の到達目標	到達目標③に基づき、他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要に応じて自分の見解を修正しつつ）することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
8	認知言語学への導入	認知言語学とは何かについて考える。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
9	認知言語学の位置付け	言語理論の歴史における認知言語学の位置付けを概観し、何故認知言語学の重要性が高まってきたかを理解するために背景を捉える。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
10	カテゴリー化・プロトタイプ・スキーマ	カテゴリー化・プロトタイプ・スキーマを学習する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
11	認知文法と構文	認知文法と構文について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
12	意味拡張の仕組みと多義性	意味拡張の仕組みと多義性を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	認知能力としてのメタファーとメトニミー	認知能力としてのメタファーとメトニミーを学習し、具体例を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。	
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
14	授業内試験（あるいはレポート）・振り返り	授業内試験（あるいはレポート）及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に基づき、英語文献を理解し、批判的に説明したり、適切に応答することができる。	
	事前学修	弱点ノートの見直しをして学期末試験に臨む。	50分
	事後学修	間違えた箇所の復習をし、講義全体の確認をする。	10分
15	前期授業の総括	試験（あるいはレポート）の講評・解説と授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に基づき、英語文献を理解し、批判的に説明したり、適切に応答することができる。	
	事前学修	振り返りの内容の確認をする。	30分
	事後学修	理解不十分な箇所をチェックし、講義全体の確認をし、後期の授業に臨めるようにする。	30分

科目名	英語演習B	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
英語の応用として、言語/哲学に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、言語/哲学に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と議論への意志があること。前期の英語演習Aと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
英語で書かれた文献のプリント教材も併用し、演習形式で授業を展開していく。随時質疑応答の機会を設け、ディスカッションを行いながら理解度を高める。毎回小テストを実施する。フィードバックは授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜、簡単な問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語/哲学に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				3		3			3		
②	言語/哲学に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				3		3			3		
③	言語/哲学に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				3		3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の講評・解説・採点後の返却

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『事態の捉え方と述語のかたち―英語から見た日本語』	黒滝真理子	開拓社	2019	教科書	必携
備考	配布資料併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:10~13:00（休暇中は除く）kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション及び導入講義 認知言語学とは	認知言語学の全体像について学修する。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。		30分
	事後学修	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。		30分
2	メタファー	メタファーを応用した例文を解釈し、メタファーへの理解を深める。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分
3	ことばの意味変化	日英語対照の観点から「ことばの意味変化」を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分
4	ことばの意味変化	日英語対照の観点から「ことばの意味変化」を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語文献への理解に基づき、批判的に意見を述べることができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分
5	文法化と主体化	「文法化と主体化」について学習する。		
	この回の到達目標	到達目標③に基づき、他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要に応じて自分の見解を修正しつつ）することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分
6	日英語対照	対照研究の面白さと意義を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日英語対照研究の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。		30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	「日本語らしさ」と「英語らしさ」	「日本語らしさ」と「英語らしさ」について分析し、整理する。		
	この回の到達目標	到達目標③に基づき、他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要に応じて自分の見解を修正しつつ）することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
8	「日本語らしさ」と「英語らしさ」	「日本語らしさ」と「英語らしさ」について分析し、整理する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日英語対照研究の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
9	事態把握	日英語の「事態把握」の相違を把握する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
10	事態把握	日英語の「事態把握」の相違を把握する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、認知言語学の理解を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
11	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、言語の本質と働きに関わる洞察力をもって、批判的に意見を述べることができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	
12	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」	認知言語学からみた「英語らしさ」「日本語らしさ」を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、言語の本質と働きに関わる洞察力をもって、批判的に意見を述べることができる。		
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分	
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	認知言語学と文化学	「認知言語学と文化学」を説き、「認知→言語→学」の流れをまとめる。本授業の総括及び理解度の確認をする。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、言語の本質と働きに関わる洞察力をもって、批判的に意見を述べるができる。	
	事前学修	前回の授業内容を再読し、理解できた点とできなかった点を確認する。前もって教科書の該当部分と配布資料に目を通しておく。	30分
	事後学修	学習項目を見直し、教科書の該当部分と配布資料を読みながら授業内容や要点を確認・整理・理解し、疑問点があれば書き上げるなど、弱点ノートを作成する。	30分
14	授業内試験及び振り返り	授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に基づき、英語文献を理解し、批判的に説明したり、適切に応答することができる。	
	事前学修	弱点ノートの見直しをして学期末試験に臨む。	50分
	事後学修	間違えた箇所の復習をし、講義全体の確認をする。	10分
15	授業の総括	試験の講評・解説と授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に基づき、英語文献を理解し、批判的に説明したり、適切に応答することができる。	
	事前学修	振り返りの内容の確認をする。	30分
	事後学修	1年を通して学習したことを踏まえ、さらに英語力を身に着ける術を模索する。	30分

科目名	英語演習C	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と議論への意志

【授業方法】
英国ロマン派の詩を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				2					2		2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題(レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)おこなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	PDFで配信する（必ず印刷して使用のこと）				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30 講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英詩入門 1	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる詩作品について概説し、英詩を読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、英詩を原語で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を確認する。	30分
2	英詩入門 2	英詩の構造について解説し、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、英詩の構造について理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	英詩について調べたうえで、「詩とは何か」自分なりに考えてみる。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。さらに、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。	60分
3	愛について	Robert Burns, “O my love’s like a red, red rose”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
4	象徴について	William Blake, “The Sick Rose”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
5	ハエと人間	William Blake, “The Fly”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
6	生・死・自然（1）	William Wordsworth, “She dwelt among the untrodden ways”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	生・死・自然（2）	William Wordsworth, “A slumber did my spirit seal”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
8	生・死・自然（3）	William Wordsworth, “We are seven”を読む（1）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
9	生・死・自然（4）	William Wordsworth, “We are seven”を読む（2）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
10	夢と現実（1）	S. T. Coleridge, “Something Childish, But Very Natural”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
11	夢と現実（2）	P. B. Shelley, “To ---” (Song)を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
12	愛と休息	Lord Byron, “So, we’ ll go on no more a roving”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヒバリのソネット	William Shakespeare, “When in disgrace with fortune and men’s eyes” (Sonnet 29)を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で読んだ英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの英詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	半期のまとめ	半期の授業を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期で読んだ諸英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英詩についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	心に残った詩を暗唱し、前期で読んだ英詩についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
	事後学修	半期の授業で何が得られたか、あらためて確認する。	60分

科目名	英語演習C	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志。

【授業方法】
人文科学に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						2					2		2
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題(レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)おこなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、プリント教材や動画、音声データを配布する。				

【オフィスアワー】
メール(宛先：matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp)にて対応する。Zoomによる対話形式での相談を希望する場合はメールで予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	カルチュラルスタディーズ入門	カルチュラルスタディーズについて概説を行い、カルチュラルスタディーズを英語で学ぶ意義を明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、カルチュラルスタディーズを英語で学ぶことの意義を説明できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、カルチュラルスタディーズに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
2	「Frozen」	「Frozen」を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、カルチュラルスタディーズの歴史、特徴、背景などを分析する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Frozen」を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された「Frozen」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Frozen」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
3	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
4	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
5	「Harry Potter and the Philosopher's Stone」	「Harry Potter and the Philosopher's Stone」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Harry Potter and the Philosopher's Stone」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された「Harry Potter and the Philosopher's Stone」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Harry Potter and the Philosopher's Stone」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
6	「The Remains of the Day」	「The Remains of the Day」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Remains of the Day」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された「The Remains of the Day」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、「The Remains of the Day」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「The Full Monty」	「The Full Monty」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Full Monty」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「The Full Monty」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「The Full Monty」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	「Bridget Jones's Diary」	「Bridget Jones's Diary」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Bridget Jones's Diary」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「Bridget Jones's Diary」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Bridget Jones's Diary」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	「Braveheart」	「Braveheart」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Braveheart」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「Braveheart」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Braveheart」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	「The Crying Game」	「The Crying Game」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Crying Game」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「The Crying Game」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「The Crying Game」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「Billy Elliot」、「Brassed Off」	「Billy Elliot」、「Brassed Off」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Billy Elliot」、「Brassed Off」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「Billy Elliot」、「Brassed Off」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Billy Elliot」、「Brassed Off」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	「Notting Hill」、「Trainspotting」	「Notting Hill」、「Trainspotting」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Notting Hill」、「Trainspotting」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「Notting Hill」、「Trainspotting」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Notting Hill」、「Trainspotting」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	期末レポート／解説	60分間の期末レポートを実施し、答案回収後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、期末レポートに解答できる。	
	事前学修	期末レポートに備えて総復習を行う。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習D	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と議論への意志

【授業方法】
英米の近現代詩を輪読する。発表や意見交換を中心に演習形式で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3					3		3
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						3					3		3
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3					3		3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	PDFを配信する（必ず印刷して使用のこと）				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英詩入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明（再確認）する。また、取り上げる近現代のイギリス・アメリカ・アイルランドの詩作品について概説し、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、英詩を原語で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。さらに、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。	60分
2	ことばの音楽	E. A. Poe, “Annabel Lee”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
3	ことばと認識	E. Dickinson, “Success is counted sweetest” / “My life closed twice before its close”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
4	死別（1）	Thomas Hardy, “The Walk”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
5	死別（2）	Thomas Hardy, “The Voice”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
6	求愛と神話（1）	W. B. Yeats, “He Wishes for the Cloths of Heaven”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	求愛と神話（２）	W. B. Yeats, “Leda and the Swan”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
8	自然と人間	Robert Frost, “The Pasture” / “Stopping by Woods on a Snowy Evening”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
9	自由詩（１）	D. H. Lawrence, “Snake”を読む（１）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
10	自由詩（２）	D. H. Lawrence, “Snake”を読む（２）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
11	多元化された私	T. S. Eliot, “La Figlia Che Piange”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
12	信仰の問題	Edmund Blunden, “Report on Experience”を読む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該の英詩作品を読み、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	当該作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	半期のまとめ	半期の授業を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半期で読んだ英詩について、理解（解釈）の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの英詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。	60分
	事後学修	授業を振り返り、当該作品についての自分の考え（解釈）を整理する。	60分
14	小論文とテーマ設定	小論文のテーマ設定・書き方について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、小論文の書き方を説明することができる。	
	事前学修	心に残った英詩のテーマについてメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容（小論文の書き方）について整理する。	60分
15	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英詩についてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
	事前学修	任意に選んだ英詩についてテーマを設定し、小論文作成作業を完了させる。	180分
	事後学修	半期の授業で何が得られたか、あらためて確認する。	60分

科目名	英語演習D	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「文学/思想」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「文学/思想」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と発言への意志。

【授業方法】
人文科学に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				3					3		3
②	「文学/思想」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				3					3		3
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				3					3		3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、プリント教材や動画、音声データを配布する。				

【オフィスアワー】
メール(宛先：matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp)にて対応する。Zoomによる対話形式での相談を希望する場合はメールで予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	カルチュラルスタディーズ入門	カルチュラルスタディーズについて概説を行い、カルチュラルスタディーズを英語で学ぶ意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、カルチュラルスタディーズを英語で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、カルチュラルスタディーズに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
2	「My Fair Lady」	「My Fair Lady」を題材に示されるモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、カルチュラルスタディーズの歴史、特徴、背景などを分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「My Fair Lady」を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「My Fair Lady」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「My Fair Lady」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
3	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
4	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
5	「United Kingdom」	「United Kingdom」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「United Kingdom」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「United Kingdom」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「United Kingdom」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
6	「The Wild West」	「The Wild West」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Wild West」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「The Wild West」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「The Wild West」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「Vietnam」	「Vietnam」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Vietnam」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「Vietnam」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Vietnam」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	「The American Dream」	「The American Dream」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The American Dream」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「The American Dream」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「The American Dream」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	カルチュラルスタディーズについて英語で読む	グループごとに割り振られるカルチュラルスタディーズに関する英語文献を読み、グループで和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語文献を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語文献を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語文献に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	「Historical Change」	「Historical Change」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Historical Change」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「Historical Change」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Historical Change」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	「The Black Experience」	「The Black Experience」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Black Experience」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「The Black Experience」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「The Black Experience」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「The Gay Experience」	「The Gay Experience」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Gay Experience」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「The Gay Experience」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「The Gay Experience」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	「The Female Experience」	「The Female Experience」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。 グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「The Female Experience」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「The Female Experience」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「The Female Experience」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	期末レポート／解説	60分間の筆記レポートを実施し、答案回収後に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、期末レポートに解答できる。	
	事前学修	期末レポートに備えて総復習を行う。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習E	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「芸術/文化」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と議論への意志

【授業方法】
イギリス作家の戯曲（演劇台本）を一年間で読み切る。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。なお、初回の授業で履修条件・成績評価方法について詳しく説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。						2			2		2		
③	「芸術/文化」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						2			2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TAKING SIDES	Ronald Harwood	EIHOSHA	1997		
備考	上記テキストは絶版のためPDFを配信する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30 講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	演劇（戯曲）入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる演劇作品（戯曲）および劇作家について概説し、戯曲を読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、戯曲を原著で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて説明し、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
3	背景・登場人物・舞台装置	テキストの前書き，“Characters,” “Set,” pp. 3-6 を読み、内容、背景等について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の背景・登場人物・舞台装置について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読・音読し、第二次世界大戦前後のドイツについて調べ、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第1幕を読む（1）	第1幕（Act One）pp. 7- 12 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の導入部について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。作品の歴史的・社会的背景等について不明な点は調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第1幕を読む（2）	第1幕（Act One）pp. 13-16 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第1幕を読む（3）	第1幕（Act One）pp. 16-21 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第1幕を読む（4）	第1幕（Act One）pp. 21-25 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
8	第1幕を読む（5）	第1幕（Act One）pp. 25-28 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
9	第1幕を読む（6）	第1幕（Act One）pp. 29-33 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
10	第1幕を読む（7）	第1幕（Act One）pp. 33-37 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
11	第1幕を読む（8）	第1幕（Act One）pp. 37-41 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
12	第1幕の読み合わせ（1）	第1幕（Act One）前半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第1幕の読み合わせ（2）	第1幕（Act One）後半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	第1幕のまとめ	第1幕を振り返り、関連ビデオやCDを視聴し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	第1幕を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して演劇作品についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	第1幕についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
	事後学修	前期で学んだことを整理する。	60分

科目名	英語演習F	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「芸術/文化」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「芸術/文化」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と議論への意志

【授業方法】
イギリス作家の戯曲（演劇台本）を一年間で読み切る。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。なお、初回の授業で履修条件・成績評価方法について詳しく説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。				3			3		3		
②	「芸術/文化」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。				3			3		3		
③	「芸術/文化」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。				3			3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
TAKING SIDES	Ronald Harwood	EIHOSHA	1997		
備考	上記テキストは絶版のためPDFを配信する。				

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第1幕の振り返り	本科目の趣旨や授業の進め方等についての説明（再確認）。第1幕を振り返り、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の第1幕について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	第一幕の内容を再確認しておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	30分
2	第2幕を読む（1）	第2幕（Act Two）・第1場（Scene One）-第2場（Scene Two）pp. 46-50 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所を熟読・音読し、第二次世界大戦直後のドイツについて調べ、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第2幕を読む（2）	第2幕（Act Two）・第1場（Scene One）-第2場（Scene Two）pp. 46-50 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。作品の歴史的・社会的背景等について不明な点は調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第2幕を読む（3）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 50-54 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第2幕を読む（4）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 54-58 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	60授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第2幕を読む（5）	第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 59-63 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第2幕を読む（6）		第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 63-66 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
8	第2幕を読む（7）		第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 67-71 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
9	第2幕を読む（8）		第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 71-74 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
10	第2幕を読む（9）		第2幕（Act Two）・第2場（Scene Two）pp. 75-76 を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して演劇作品の当該箇所を読み、作品について理解し、説明することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
11	第2幕の読み合わせ（1）		第2幕（Act Two）前半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品を解釈し、その解釈について説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
12	第2幕の読み合わせ（2）		第2幕（Act Two）後半の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品を解釈し、その解釈について説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第2幕のまとめ	第2 幕を振り返り、資料映像・音源を視聴し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	第2 幕全体を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	作品全体のまとめ	作品全体を振り返り、盛り込まれたテーマや問題点について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演劇作品についての理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	作品全体を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して演劇作品についてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
	事前学修	作品についての小論文作成作業を完了させる。	180分
	事後学修	授業で何を得たか整理する。	30分

科目名	英語演習G	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
前期終了科目。応用学習に必要な英語力と議論への意志。

【授業方法】		
オンデマンド。講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2		2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー・トーマ ス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
10:30-11:00 Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	Introduction及び導入講義	Learn about the themes and aims of the course.		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Read the syllabus.		60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.		60分
2	Edo to Tokyo	Learn about Edo to Tokyo		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Read and prepare Texts for next class.		60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.		60分
3	Akihabara	Learn about Akihabara		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Read and prepare Texts for next class.		60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.		60分
4	Yamanote	Learn about Yamanote		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Read and prepare Texts for next class.		60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.		60分
5	The Imperial Palace	Learn about The Imperial Palace		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Read and prepare Texts for next class.		60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.		60分
6	Asakusa	Learn about Asakusa		
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Read and prepare Texts for next class.		60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Roppongi and Shibuya	Learn about Roppongi and Shibuya	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
8	Kyoto	Learn about Kyoto	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
9	Mount Fuji	Learn about Mount Fuji	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Read and prepare Texts for next class.	60分
	事後学修	Prepare example sentences and read and prepare Texts for next class.	60分
10	Presentation skills	Learn about Presentation skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Think about presentation skills.	60分
	事後学修	Think about topics for presentation.	60分
11	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Think about topics for presentation.	60分
	事後学修	Continue with preparation and research.	60分
12	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Practice Presentation.	60分
	事後学修	Continue with preparation and research.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Preparing presentations	Learn about Preparing presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Practice Presentation.	60分
	事後学修	Continue with preparation and research.	60分
14	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Practice Presentation.	60分
	事後学修	Practice Presentation.	60分
15	Assessment Presentations	Learn about Assessment Presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.	
	事前学修	Practice Presentation.	60分
	事後学修	Reflect on semester.	60分

科目名	英語演習G	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英語演習Hを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。							2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。							2		2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記／レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）おこなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-Up English (Advanced)	JACETリスニング研究会	南雲堂	2019	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2002	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分	
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分	
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さと内容を持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さと内容を持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
8	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
9	会話の応答文選択		2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
10	短文の語句空所補充		英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
11	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
12	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語演習G	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と議論への意志

【授業方法】		
法廷ドラマを一年間で読み切る。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。なお、初回の授業で履修条件・成績評価方法について詳しく説明する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。							2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。							2		2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Twelve Angry Men (Modern Plays)	Reginald Rose	Methuen Drama; New 版	1996	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法廷ドラマ入門	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。また、取り上げる演劇作品（戯曲）について概説し、法廷（陪審）ドラマを読むことの意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法廷ドラマを原著で学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があればメモしておく。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、本科目で学ぶことの意義を再確認する。	30分
2	演劇と小説の違い	戯曲（演劇）と小説の違いについて説明し、輪読の分担等をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、戯曲（演劇）と小説の違いについて理解し、その理解を説明することができる。	
	事前学修	演劇（戯曲）と小説の違いについて調べておく。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
3	第1幕を読む（1）	第1幕（1）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの導入部について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
4	第1幕を読む（2）	第1幕（2）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
5	第1幕を読む（3）	第1幕（3）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
6	第1幕を読む（4）	第1幕（4）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	第1幕を読む（5）	第1幕（5）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
8	第1幕を読む（6）	第1幕（6）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
9	第1幕を読む（7）	第1幕（7）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
10	第1幕を読む（8）	第1幕（8）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
11	第1幕を読む（9）	第1幕（9）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
12	第1幕を読む（10）	第1幕（10）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前半部の読み合わせ	前半部の一部を履修者でキャストイングし、読み合わせをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	テキストの意味を再確認しながら音読し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	前半部のまとめ	前半部を振り返り、関連ビデオを視聴し、意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	前半部を読み返し、内容理解を再確認し、解釈する。疑問点等があれば質問事項をメモする。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	筆記試験と振り返り	60分間の筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して法廷ドラマについての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	法廷ドラマ（前半）についての筆記試験に備えて総復習をおこなう。	120分
	事後学修	半期で学んだことを整理する。	60分

科目名	英語演習G	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
前期終了科目。応用学習に必要な英語力と議論への意志。

【授業方法】
社会科学に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。							2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。							2		2		2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度(頻度)お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムにて適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、プリント教材や動画、音声データを配布する。				

【オフィスアワー】
メール(宛先：matsuyama.hiroki@nihon-u.ac.jp)にて対応する。Zoomによる対話形式での相談を希望する場合はメールで予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	英米社会比較入門		英米社会の歴史、特徴、違いなどについて概説を行い、それを英語で学ぶ意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、英米社会について英語で学ぶことの意義を説明できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、英米社会に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
2	Britain: Literature and Religion		「Britain: Literature and Religion」に関するモデルプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、「Britain: Literature and Religion」の特徴などを分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Britain: Literature and Religion」を読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された「Britain: Literature and Religion」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Britain: Literature and Religion」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
3	英米社会に関する英語テキストを読む		グループごとに割り振られる英米社会に関する英語テキストを読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語テキストを読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された英語テキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語テキストに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
4	英米社会に関する英語テキストを読む		グループごとに割り振られる英米社会に関する英語テキストを読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語テキストを読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された英語テキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語テキストに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
5	英米社会に関する英語テキストを読む		グループごとに割り振られる英米社会に関する英語テキストを読み、和訳、意見交換、発表準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループに割り振られた英語テキストを読み、理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された英語テキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、割り振られた英語テキストに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分
6	「Britain: Queen's English」		「Britain: Queen's English, Prince's English」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Britain: Queen's English, Prince's English」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。		
	事前学修	事前に配布された「Britain: Queen's English, Prince's English」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Britain: Queen's English, Prince's English」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「Britain: Class」	「Britain: Class」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Britain: Class」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「Britain: Class」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Britain: Class」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
8	「Britain: Ireland」	「Britain: Ireland」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「Britain: Ireland」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「Britain: Ireland」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「Britain: Ireland」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
9	「America: West」	「America: West」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「America: West」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「America: West」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「America: West」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
10	「America: Heroes」	「America: West」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「America: Heroes」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「America: Heroes」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「America: Heroes」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
11	「America: Rock Music」	「America: Rock Music」について、担当グループが発表し、聴衆グループはその内容について質疑を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「America: Rock Music」について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された「America: Rock Music」を読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、「America: Rock Music」に関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
12	期末課題1	出題された課題について、和訳を作成し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に学んだ内容について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語テキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、英語テキストに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	期末課題2	出題された課題について、資料を作成し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に学んだ内容について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語テキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、英語テキストに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
14	期末課題3	出題された課題について、発表動画を作成し、提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に学んだ内容について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語テキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、英語テキストに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分
15	期末課題発表会	出題された課題について、発表動画を視聴し、意見交換を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に学んだ内容について理解の説明、意見表明、応答（対話）することができる。	
	事前学修	事前に配布された英語テキストを読み、和訳、感想などをノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、英語テキストに関して得られた知見及び私見をノートにまとめる。	60分

科目名	英語演習G	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
None

【授業方法】
オンデマンド授業。講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					2		2		2		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					2		2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを，課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に，到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に，到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:50 研究室（9406研究室）joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction・導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	Edo to Tokyo	Learn about the story Edo to Tokyo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	Kimono	Learn about the story Kimono	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	Kabuki	Learn about the story Kabuki	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	Sumo	Learn about the story Sumo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	Shinkansen	Learn about the story Shinkansen	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Manga		Learn about the story Manga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
8	Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan		Learn about the history of Japanese arts and crafts	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
9	Cinema - Moving Art		Learn about the history of Japanese cinema	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
10	Presentation Skills		Investigating technology and examples for “on-demand” presentations.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
11	Presentation Skills		Using gestures in presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
12	Presentation Skills		Structure and transitions in presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Skills	Reviewing presentation skills	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	Presentation Skills	Creating presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	Semester Exam	Semester assessment Review	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment	
	事前学修	Revise for the semester exam	30分
	事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	英語演習H	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。前期に英語演習Gを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	①ディスカッション：言語分野の英語文献を読み、グループで意見交換を行う。②プレゼンテーション：関連資料を用いながら、ディスカッションの成果を発表し、他グループの意見を聴く。③振り返り：プレゼンテーションで得た知識についてグループで議論し、レポート用紙にまとめる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。						3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。						3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。						3		3		3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、筆記/ レポート試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-Up English (Advanced)	JACETリスニング研究 会	南雲堂	2019	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2002	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生 に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
8	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
9	会話の応答文選択		2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
10	短文の語句空所補充		英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
11	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
12	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英語演習H	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
応用学習に必要な英語力と議論への意志

【授業方法】
法廷ドラマを一年間で読み切る。発表や意見交換を中心に演習形態で進める。なお、初回の授業で履修条件・成績評価方法について詳しく説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等を利用した発表・意見交換・グループワーク等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。							3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べることができる。							3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。							3		3		3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを、課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に、到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に、到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評・解説を後日ポータルシステム（Google Classroom）で配信、または授業内でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Twelve Angry Men (Modern Plays)	Reginald Rose	Methuen Drama; New 版	1996	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日14:40-15:30講師室（10号館）E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	作品前半の振り返り	本科目の趣旨や授業の進め方等についての説明（再確認）。法廷ドラマの前半を振り返り、輪読の分担等をおこなう。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの前半について、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、法廷ドラマ前半の内容を再確認しておく。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		30分
2	第1幕を読む（1 1）	第1幕（1 1）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
3	第1幕を読む（1 2）	第1幕（1 2）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
4	第1幕を読む（1 3）	第1幕（1 3）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
5	第2幕を読む（1）	第2幕（1）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分
6	第2幕を読む（2）	第2幕（2）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。		60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	第2幕を読む（3）	第2幕（3）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
8	第2幕を読む（4）	第2幕（4）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
9	第2幕を読む（5）	第2幕（5）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
10	第2幕を読む（6）	第2幕（6）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
11	第2幕を読む（7）	第2幕（7）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	
12	第2幕を読む（8）	第2幕（8）を読み、内容について意見交換する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。		
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分	
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第2幕を読む（9）	第2幕（9）を読み、内容について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの当該箇所を読み、理解の説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	該当箇所のコンテキストを確認してうえでテキストを熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
14	作品全体のまとめ	作品全体を振り返り、盛り込まれた社会的テーマや問題点について意見交換する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法廷ドラマの社会的意義について理解を深め、解釈し、説明・意見表明・応答（対話）することができる。	
	事前学修	作品全体を読み直し、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。	60分
	事後学修	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。	60分
15	レポート試験と振り返り	レポート（小論文）試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して法廷ドラマについてのレポート（小論文）試験に論述解答できる。	
	事前学修	法廷ドラマについての小論文作成作業を完了させる。	180分
	事後学修	授業で何を得たか整理する。	30分

科目名	英語演習H	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
None

【授業方法】
オンデマンド授業。講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					3		3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを，課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に，到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に，到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:50 研究室（最初講義で: TBA）joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	Samurai - Legendary Warriors of Japan	Learn about the history of samurai	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	Korean Samurai: Fighting for Peace	Learn about the history of a renegade Japanese samurai in Korea	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	Samurai of California - Nagasawa Kanaye	Learn about Nagasawa Kanae, and wine in California	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	Wako - Terrors and Darlings of the Seas	Learn about the history of pirates in Japan and East Asia	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy	Learn about the Tensho Embassy to Europe	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga	Learn about Hasekura Tsunenaga's journey to Rome	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan	Learn about Yasuke	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
8	An English Japanese Lord - William Adams	Learn about William Adams	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
9	Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand	Learn about Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
10	A Chinese Revolution Built in Japan	Learn about Sun Yat-sen and his time in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
11	Presentation Skills	Learn about presentation technology and techniques.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
12	Presentation Skills	Learn about presenting in English - using gestures.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Skills	Learn about presenting in English - structure and transitions.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	Presentation Skills	Creating presentations.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	Semester Exam	Semester assessment Review	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment	
	事前学修	Revise for the semester exam	30分
	事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	英語演習H	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
英語の応用として、人文・社会科学のうち「歴史/社会」に関わる英語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、「歴史/社会」に関わる英語文献を読み、理解する能力を修得する。また、そうした理解を他者に伝え、応答できる能力を修得する。

【履修条件】
前期終了科目。応用学習に必要な英語力と議論への意志。

【授業方法】		
オンデマンド。講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「歴史/社会」に関わる英語文献を理解し、その理解を説明することができる。					3		3		3		
②	「歴史/社会」に関わる英語文献への理解に基づき、批評的に意見を述べるができる。					3		3		3		
③	「歴史/社会」に関わる他者の意見を傾聴し、適切に応答（必要なら自分の考えを修正）することができる。					3		3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関する各能力が身についているかを，課題 (レポートなど)により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答等が適切にできたかを基準に，到達目 標①②③に関わる各能力および態度が身についているかを 評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	授業内で質問や意見交換等を適切に又どの程度（頻度）お こなったかを基準に，到達目標①②③に関わる各能力およ び態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー・トーマス	東京書籍	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Samurai - Legendary Warriors of Japan		Learn about the history of samurai	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai - Legendary Warriors of Japan story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
2	Korean Samurai: Fighting for Peace		Learn about the history of a renegade Japanese samurai in Korea	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean Samurai: Fighting for Peace story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
3	Samurai of California - Nagasawa Kanaye		Learn about Nagasawa Kanae, and wine in California	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai of California - Nagasawa Kanaye story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
4	Wako - Terrors and Darlings of the Seas		Learn about the history of pirates in Japan and East Asia	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Wako - Terrors and Darlings of the Seas story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
5	Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy		Learn about the Tensho Embassy to Europe	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分
6	A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga		Learn about Hasekura Tsunenaga's journey to Rome	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan	Learn about Yasuke	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
8	An English Japanese Lord - William Adams	Learn about William Adams	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about An English Japanese Lord - William Adams story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
9	Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand	Learn about Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	60分
10	A Chinese Revolution Built in Japan	Learn about Sun Yat-sen and his time in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Chinese Revolution Built in Japan story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	60分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
11	Presentation Making	Learn about presenting in English - using gestures.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
12	Presentation Making	Learn about presenting in English - structure and transitions.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Making	Learn about presenting in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
14	Assessment Presentations	Presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Continue with Presentations.	60分
15	Assessment Presentations	Presentations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	60分
	事後学修	Reflect on the semester.	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
1. 指定された範囲の予習・課題を行うこと 2. やる気があること 3. 英検2級を受験すること

【授業方法】		
Zoomでのライブ方式（リアルタイム型）で授業を実施する。 毎回指定範囲の小テスト、リスニング、ライティングの解説、授業内にテキストを使い、リスニングや文法を中心に勉強をする。英検の試験日程に合わせ、模擬試験、面接対策を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
英検２級の受験、授業内試験、小テスト等で目標達成度を確認。テストはClassroom内で返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Let's Output in Basic English	佐藤臨太郎	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	その他、プリントを使用する。				

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜17：50～）にZoom上で対応する。事前に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入授業	オリエンテーション 授業の進め方、英検2級の概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の概要を理解することができる。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。英検2級がどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
	事後学修	英検2級についてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。 オリエンテーションのおさらいをする。	30分
2	模擬試験と解説	英検2級の概要と特徴を簡潔に説明する。 模擬試験（過去問）を受け、合格点に達するか現時点での実力を見極める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の模擬試験の受験を通して自分の実力を確認することができる。	
	事前学修	英検2級のテスト形式を把握し、それぞれのパートの問題を解いてみる。	30分
	事後学修	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。	30分
3	英語の基礎力チェックと学習計画	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級合格のための基礎力がどれだけあるかを確認し、学習計画を立てることができる。	
	事前学修	模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。	30分
	事後学修	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。	30分
4	自己紹介の英語を聞き取る・be動詞と一般動詞	Unit1の自己紹介に関する英語の聞き取りとbe動詞と一般動詞の相違と使い方を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、be動詞と一般動詞に関する文法問題が解けるようになり、自己紹介に関する英語を聞き取ることができる。	
	事前学修	小テストの該当箇所の予習をする。テキストのbe動詞と一般動詞についての解説を読む。	30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit1の音声を読み、be動詞と一般動詞の文法を復習する。	30分
5	英語のEメールと自己紹介を英語で書く	小テスト、テキストUnit1のEメールの英文に関する問題を解き、自己紹介の英語を書く。ペアで自己紹介をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語のEメールを読むことができ、自己紹介の英文を書き、ペアで自己紹介をし合うことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit1のEメールに関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を読み、わからなかったところを復習する。小テストでできなかった単語の復習をする。	30分
6	ネットの使用法についての英語の聞き取りと現在形・過去形・進行形	小テスト、Unit2のネットの使用法についての英語を聞き、内容を把握する。現在形・現在進行形・過去形・過去進行形について理解し、文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ネットの使用法についての英文を聞き取ることができる。現在形・過去形・現在進行形・過去進行形について理解し、文法問題を解くことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit2のネットの使用法に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit2の音声を読み、現在形・現在進行形・過去形・過去進行形の文法を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	英文ブログの読解と過去形と進行形で英文を書く		小テスト、Unit2の英文で書かれたブログを読み、問題を解く。過去形・進行形を使用した英文を書く。Writingの書き方とポイントを解説する。ペアで過去形と進行形を使用して話す練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、英文で書かれたブログの内容を理解し、過去形・進行形を使った英文を書き、Writingのポイントを理解し、過去形や進行形を使った英文を書くことができる。		
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit2のネットの使用法に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。Writingの過去問をWEBサイトや対策本などで調べる。		30分
	事後学修	Unit2の英文で書かれたブログ読む。進行形の文章の書き方を復習する。論理的な英文の書き方（introduction/Body (reasons&examples)/ Conclusion）を復習する。		30分
8	休暇の過ごし方に関する英語の聞き取りと未来形		小テスト、Unit3の休暇の過ごし方についての英語を聞き、内容を把握する。未来形について理解し、文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、休暇の過ごし方についての英文を聞き取ることができる。未来形について理解し、文法問題を解くことができる。		
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit3の休暇の過ごし方に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。		30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit3の音声を聞き、未来形の文法を復習する。		30分
9	休暇の過ごし方に関する英語の読解と未来形を使用した英文を書く		小テスト、Unit3の英文で書かれたブログを読み、問題を解く。未来形を使用した英文を書く。ペアで予定について話し合う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語の休暇の過ごし方についての英文を読むことができ、未来形を使用した英文を書き、ペアで予定について話し合うことができる。		
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit3の休暇の過ごし方に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。		30分
	事後学修	Unit3の英文で書かれたブログを読む。未来形を用いた文章の書き方を復習する。		30分
10	小旅行に関する英語の聞き取りと現在完了形と現在完了進行形		小テスト、Unit4の小旅行についての英語を聞き、内容を把握する。現在完了形・現在完了進行形について理解し、文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小旅行についての英文を聞き取ることができる。現在完了形・現在完了進行形について理解し、文法問題を解くことができる。		
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit4の休暇の過ごし方に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。		30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit4の音声を聞き、現在完了形・現在完了進行形の文法を復習する。		30分
11	小旅行に関する英語の読解と現在完了形と現在完了進行形を使用した英文を書く		小テスト、Unit4の小旅行についての英文を読み、問題を解く。現在完了・現在完了進行形を使用した英文を書く。ペアで小旅行について話し合う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、小旅行に関する英文を読むことができ、現在完了形・現在完了進行形を使用した英文を書き、ペアでこれまでの経験や継続していることについて話し合うことができる。		
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit4の小旅行に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。		30分
	事後学修	Unit4の小旅行に関する英文を読む。現在完了形・現在完了進行形を用いた文章の書き方を復習する。		30分
12	子どもの頃の思い出に関する英語の聞き取りと過去完了形と過去完了進行形		小テスト、Unit5の子どもの頃の思い出についての英語を聞き、内容を把握する。過去完了・過去完了進行形について理解し、文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子どもの頃の思い出についての英文を聞き取ることができる。過去完了形・過去完了進行形について理解し、文法問題を解くことができる。		
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit5の子どもの頃の思い出に関連する英文を聞く。わからない単語を調べる。		30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit5の音声を聞き、過去完了形・過去完了進行形の文法を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	子どもの頃の思い出に関する英語の読解と過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書く	小テスト、Unit5の子どもの頃の思い出に関する英文を読み、問題を解く。過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書く。ペアで子どもの頃の思い出について話し合う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子どもの頃の思い出についての英文を読むことができ、過去完了形・過去完了進行形を使用した英文を書き、ペアで過去の経験や過去に継続していたことについて話し合うことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit5の子どもの頃の思い出に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	Unit5の子どもの頃の思い出に関する英文を読む。過去完了形・過去完了進行形を用いた文章の書き方を復習する。	30分
14	前期テストとふり回り	前期学習内前期の総復習のための授業内テストと解説、前期の内容のふり回り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで前期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
	事前学修	前期に学んだことをテキストを中心に総復習する。	120分
	事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手な部分と得意な部分を分析し、今後の対策を考える。	45分
15	前期のふり回り	前期授業内テストの解説。英検2級の問題の回答方法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり回り、学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。	120分
	事後学修	前期に学んだところを総復習する。	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IBを履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信と課題提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくる。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット１の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、1100 Words You Need to Know（以下1100と略す）のパートAの訳（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット１の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット１の単語、1100のパートAの単語を覚えること。	30分
3	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット２の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、1100のパートBの訳（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、図面問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット２の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット２の単語、1100のパートBの単語を覚えること。	30分
4	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット３の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、1100のパートCの訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット３の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット３の単語、1100のパートCの単語を覚えること。	30分
5	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット４の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、1100のパートDの訳（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット４の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット４の単語、1100のパートDの単語を覚えること。	30分
6	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット５の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット５の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット５の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	短く答える問題	テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、短く答える問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
8	フローチャートを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
9	メモを完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分
10	リーディング多項選択式の問題	テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。	35分
11	見出しを選ぶ問題	テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。	35分
12	正誤問題	テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正誤問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英検2級受験を目指す学生。

【授業方法】
授業形態はオンデマンド型とする。 下記英検に特化したテキストと、スピーキングに特化したNHKラジオテキストを使用し、音読を中心に、読み、書き、リスニング、スピーキングの力をつける。音読の場合は添付した音源の後についてリピートをし各ダイアログを暗記し次回の授業でテストを行なう。テキストの文法事項を理解して、語彙を増やしてもらう。授業回数の後半では、こちらで用意したプリントを使用し英検面接の練習を行なう。更に準1級、1級を目指して、実力をつけるために、添付された英字新聞の社説の読解を行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 英検2級面接で行われる会話の内容をイメージして各自、声に出して練習する。見本は前もって添付する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。									1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフイードバックを行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検2級マスターコース（リニューアル問題対応）	今村洋美 他	金星堂	2018	教科書	必携
NHKラジオ英会話タイムトライアル（5月号）	スティーヴ・ソレイシー	NHKラジオ出版	2021	教科書	必携
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問は随時メールで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	英検2級受験で求められる英語の実力についての説明をし、その実力をつけるために本授業で行われる内容を具体的に述べる。宿題の英文プリントを添付する。	
	この回の到達目標	英検2級受験に必要な実力をどの様に付ければ良いのかを理解し、各学生は自分でなにをなすべきか分かり、行動するようになる。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。	40分
	事後学修	配られたスクリプトを読み、理解できないところを確認し次回の授業で質問するようにする。	80分
2	Lesson 1-(1) NHKテキスト：英会話タイムトライアル（プリント）	前回配られたプリントの内容並びに文法確認。テキストLesson 1 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。 NHKテキスト：英会話タイムトライアル（プリント）添付した音源で英語の発話練習。	
	この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。	
	事前学修	テキストLesson 1 のリーディングの問題を解くこと。前回配られたプリントを読むこと。	60分
	事後学修	授業で学習したことを確認する。必要な英文並びに英単語を暗記すること。	60分
3	Lesson 1-(2) NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 1	小テスト。テキストLesson 1 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト5月号Day 1の音読練習。	
	この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	配られたプリントの中の英単語と英文とを暗記し小テストの準備ををする。	60分
	事後学修	リスニングのスクリプトを音読し、NHKテキスト Day 1を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
4	Lesson 2-(1) NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 2	小テスト。テキストLesson 2 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキストDay 2の音読練習。	
	この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	テキストLesson 2 のリーディングの問題を解くこと。	60分
	事後学修	テキストLesson 2 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト ダイアログ(2) を暗記し、次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
5	Lesson 2-(2) NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 3	小テスト。テキストLesson 2 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト day 3の音読練習。	
	この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
	事後学修	リスニングのスクリプトを音読し、NHKテキスト Day 3を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
6	Lesson 3-(1) NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 4	小テスト。テキストLesson 3 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 4の音読練習。	
	この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	テキストLesson 3 のリーディングの問題を解くこと。	60分
	事後学修	テキストLesson 3 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキストDay 4を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lesson 3-(2) NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 8	小テスト。テキストLesson 3 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 8の音読練習。	
	この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
	事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト Day 8を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
8	Lesson 4-(1) NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 9	小テスト。テキストLesson 4 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 9の音読練習。	
	この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	テキストLesson 4 のリーディングの問題を解くこと。	60分
	事後学修	テキストLesson 4 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト Day 9を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
9	Lesson 4-(2) NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 10	小テスト。テキストLesson 4 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 10の音読練習。	
	この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
	事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト Day 10を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
10	Lesson 5-(1) NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 11	小テスト。テキストLesson 5 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 11の音読練習。	
	この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	テキストLesson 5 のリーディングの問題を解くこと。	60分
	事後学修	テキストLesson 5 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト Day 11を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
11	Lesson 5-(2) 英検2級模擬テスト NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 15	小テスト。テキストLesson 5 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。テキストについている英検2級模擬テストを解く練習。NHKテキストDay 15の音読練習。	
	この回の到達目標	英検2級受験に慣れるようになる。	
	事前学修	テキストについている英検2級模擬テストを解いてくる。	60分
	事後学修	授業で学習したことを復習し、英検2級受験に慣れるようにする。NHKテキストDay 15の音読練習。	60分
12	英検2級受験面接練習（1） NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 16	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。NHKテキストDay 16の音読練習。	
	この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。	
	事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオの英文を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。	60分
	事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。NhkテキストDay 16の音読練習。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英検2級受験面接練習（2） NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 17	面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。NHKテキストDay 17の音読練習。	
	この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。	
	事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオの英文を暗記し、テキストのリスニングのスキプトで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。	60分
	事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。NHKテキストDay 17の音読練習。	60分
14	英文読解の補強 NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 18	社説を英文で読み、時事英語の知識を得る。NHKテキストDay 18の音読練習。	
	この回の到達目標	今後英文で書かれた社説を効率良く、正確に読めるようになる方法を学ぶ。時事英語の知識の付け方が分かるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配られた英文のプリントを読み、理解出来ない箇所を確認してくること。	60分
	事後学修	授業で学習したことを確認し、必要な文法事項の再確認をし、有用な表現、英単語を覚えること。NHKテキストDay 18の音読練習。	60分
15	前期授業の反省並びに確認。 NHKテキスト 英会話タイムトライアル 5月号 Day 22	前期授業の振り返り。NHKテキストDay 22の音読練習。	
	この回の到達目標	前期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	
	事前学修	前期に学習したことを徹底的に確認すること。NHKテキストのダイアログの暗記とリスニングで配られたスキプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
	事後学修	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。	60分

科目名	英検／IELTS I A	担当者	小島 和枝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。英語IBを履修することが望ましい。

【授業方法】
〔オンデマンド型授業〕：各Lesson を1授業で進めていく。筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	短文や長文を読み、自分の意見が述べられるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート提出で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken Pre 2: Sure to Succeed	Sakabe, T. , Okajima, N, and Noel, W.	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール等で対応します。kojima.kazue@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、授業に求めること、教材、提出物、成績の付け方等。オンデマンド授業に慣れる。ポータルにアクセスし、指示に従い、オンデマンド授業へアクセス。そしてLesson1に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検と教材を理解し、出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、その内容を確認する。教材に目を通し、英検とはについて考える。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
2	Lesson 2	Lesson2：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。全授業と同様、ポータルにアクセスし、オンデマンド授業に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる語彙力を学び、使いこなすことができる。	
	事前学修	Lesson2をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
3	Lesson3	Lesson3：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる前授業で学んだ語彙力を使い短文の語句が正しく補充できる。	
	事前学修	Lesson 3 をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
4	Lesson4	Lesson4：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、会話文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson4をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
5	Lesson5	Lesson5：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson5をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
6	Lesson6	Lesson6：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の内容一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson6をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lesson7		Lesson7：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、短文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson7をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
8	Lesson8		Lesson8：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、会話文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson8をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
9	Lesson9		Lesson9：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の応対文選択ができる。	
	事前学修	Lesson9をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
10	Lesson10		Lesson10：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson10をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
11	Lesson11		Lesson11：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の文章一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson11をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
12	Lesson12		Lesson12：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる発話力を学び、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	Lesson12をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Practice Test	56ページのPractice Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわるPractice Testに取り組み、英検について学び、今まで学んだことを発揮する場を得ることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
14	Simulation Test	74ページのSimulation Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検の出題問題傾向を学び、Practice Test や本授業で学んだことを考え直すことができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
15	テストとフィードバック	本授業で学んできた基礎的な問題と応用問題を解く。そして、本授業のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検について学び、自分の意見も述べることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
1. 指定された範囲の予習・課題を行うこと 2. やる気があること 3. 英検2級を受験すること

【授業方法】		
Zoomでのライブ方式（リアルタイム型）で授業を実施する。 毎回指定範囲の小テスト、リスニング、ライティングの解説、授業内にテキストを使い、リスニングや文法を中心に勉強をする。英検の試験日程に合わせ、模擬試験、面接対策を行う。その他、映画や洋楽の聞き取りなども適宜行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第4回目以降、毎授業時に演習問題を解く際にペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
英検２級の受験、授業内試験、小テスト等で目標達成度を確認。テストはClassroom内で返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Let's Output in Basic English	佐藤臨太郎	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	その他、プリントを使用する。				

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜17：50～）にZoom上で対応する。事前に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	オリエンテーション，導入授業		オリエンテーション 授業の進め方、英検2級の概要を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の概要を理解することができる。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。英検2級がどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。	30分
	事後学修	英検2級についてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。 オリエンテーションのおさらいをする。	30分
2	模擬試験と解説		英検2級の概要と特徴を簡潔に説明する。 模擬試験（過去問）を受け、合格点に達するか現時点での実力を見極める。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級の模擬試験の受験を通して自分の実力を確認することができる。	
	事前学修	英検2級のテスト形式を把握し、それぞれのパートの問題を解いてみる。	30分
	事後学修	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。	30分
3	英語の基礎力チェックと学習計画		今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英検2級合格のための基礎力がどれだけあるかを確認し、学習計画を立てることができる。	
	事前学修	模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。	30分
	事後学修	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。	30分
4	義務に関する英語を聞き取る・助動詞		Unit6の義務に関する英語の聞き取りと助動詞を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞に関する文法問題が解けるようになり、義務に関する英語を聞き取ることができる。	
	事前学修	小テストの該当箇所の予習をする。テキストの助動詞についての解説を読む。	30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit6の音声を聞き、助動詞を復習する。	30分
5	義務に関する英文の読解と英作		小テスト、テキストUnit6の英文に関する問題を解き、助動詞を用いた英語を書く。ペアで助動詞を用いて話し合う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、義務に関する英文を読み、英文を書き、ペアで話し合うことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit6の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を読み、わからなかったところを復習する。小テストでできなかった単語の復習をする。	30分
6	食べ物についての英語の聞き取りと現在形・過去形・進行形		小テスト、Unit7の食べ物についての英語を聞き、内容を把握する。受動態について理解し、文法問題を解く。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、食べ物についての英文を聞き取ることができる。受動態について理解し、文法問題が解くことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit7の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit7の音声を聞き、受動態を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	読解と受動態を用いた英文を書く		小テスト、Unit7のトマトの起源に関する英文を読み、問題を解く。受動態を使用した英文を書く。ペアで受動態を用いて話す練習をする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、受動態を用いた英文の内容を理解し、受動態を使った英文を書くことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit7の英文を読み、わからない単語を調べる。Writingの過去問をWEBサイトや対策本などで調べる。	30分
	事後学修	Unit7の英文を読む。受動態を用いた英文の書き方を復習する。論理的な英文の書き方（introduction/Body(reasons&examples)/ Conclusion）を復習する。	30分
8	to不定詞を用いた英語の聞き取りと文法		小テスト、Unit8のto不定詞を使用した英語を聞き、内容を把握する。不定詞について理解し、文法問題を解く。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞を使用した英文を聞き取ることができる。不定詞について理解し、文法問題が解くことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit8の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit8の音声を聞き、不定詞の文法を復習する。	30分
9	to不定詞を用いた英語の読解と不定詞使用した英文を書く		小テスト、Unit8の不定詞を用いた英文を読み、問題を解く。不定詞を使用した英文を書く。ペアで将来の夢や希望について話し合う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞を用いた英文を読むことができ、不定詞を使用した英文を書き、ペアで将来の夢や希望について不定詞を使って話し合うことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit8の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	Unit8の英文を読む。不定詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
10	血液型に関する英語の聞き取りと動名詞		小テスト、Unit9の血液型についての英語を聞き、内容を把握する。動名詞について理解し、文法問題を解く。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、血液型についての英文を聞き取ることができる。動名詞について理解し、文法問題が解けるようになる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit9の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit9の音声を聞き、動名詞の文法を復習する。	30分
11	血液型に関する英語の読解と動名詞を使用した英文を書く		小テスト、Unit9の血液型についての英文を読み、問題を解く。動名詞を使用した英文を書く。ペアで血液型について話し合う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、血液型に関する英文を読むことができ、動名詞を使用した英文を書き、ペアーで動名詞を使用して話し合うことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit9の血液型に関連する英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	Unit9の血液型に関する英文を読む。動名詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
12	現在分詞・過去分詞を用いた英文の聞き取りと文法理解		小テスト、Unit10の分詞を用いた英語を聞き、内容を把握する。現在分詞・過去分詞について理解し、文法問題を解く。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞を用いた英文を聞き取ることができる。現在分詞・過去分詞について理解し、文法問題が解けるようになる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit10の英文を聞く。わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	小テストでできなかった単語の復習をする。授業をふり返り、テキストのUnit10の音声を聞き、現在分詞・過去分詞の文法を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現在分詞・過去分詞を用いた英文の読解と英作	小テスト、Unit10の分詞を用いた英文を読み、問題を解く。現在分詞・過去分詞を使用した英文を書く。ペアで書いた文章を読み合う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞を用いた英文を読むことができ、現在分詞・過去分詞を使用した英文を書き、ペアで発表し合うことができる。	
	事前学修	小テストの該当範囲の単語を覚える。テキストのUnit10の英文を読み、わからない単語を調べる。	30分
	事後学修	Unit10の英文を読む。現在分詞・過去分詞を用いた文章の書き方を復習する。	30分
14	後期テストとふり回り	後期学習内前期の総復習のための授業内テストと解説、後期の内容のふり回り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで後期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。	
	事前学修	後期に学んだことをテキストを中心に総復習する。	120分
	事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手な部分と得意な部分を分析し、今後の対策を考える。	45分
15	後期のふり回り	後期授業内テストの返却と解説。英検2級の問題の回答方法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり回り、学習計画を立てることができる。	
	事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。	120分
	事後学修	後期に学んだところを総復習する。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検 I Aを履修していること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信と課題提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師 上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分
8	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分
9	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分
10	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
11	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
12	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.194-203の訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パート別考え方のアイデア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、パート別考え方のアイデアに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英検2級受験を目指す学生。

【授業方法】		
下記英検に特化したテキストと、スピーキングに特化したNHKラジオテキストを使用し、音読を中心に、読み、書き、リスニング、スピーキングの力をつける。音読の場合はCDの後について全員でリピートをし各ダイアログを暗記し次回の授業でテストを行なう。テキストの文法事項を理解して、語彙を増やしてもらう。授業回数の後半では、こちらで用意したプリントを使用し英検面接の練習を行なう。更に、準1級、1級を目指して実力をつけるために英字新聞の社説を読み、語彙力、読解力を強化する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループで英検2級面接で行われる内容に関して会話をし、意見を纏めて発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。										1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英検2級マスターコース（リニューアル問題対応）	今村洋美 他	金星堂	2018	教科書	必携
NHKラジオ 英会話タイムトライアル 10月号	スティーブ・ソレイ シイ	NHK出版	2021	教科書	必携
備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				

【オフィスアワー】
火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて 1 2 時 1 5 分～ 1 2 時 3 5 分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、導入授業		英検2級受験についての説明。英検2級レベルよりやや難解な英文のプリントを読み、文法事項の説明をする。
	この回の到達目標	英検2級受験の際に必要な情報を得、勉強の仕方が分かる。これまでに得てきた英語の知識を確認し新たに英語の実力を深める。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、手持ちの教材で英語の知識の確認をしてくること。	60分
	事後学修	配られた英文のプリントを読み、有用な表現と英単語を覚え小テストの準備をすること。	60分
2	Lesson 6(1) NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 1		小テスト。テキストLesson 6 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 1の音読練習。
	この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	テキストLesson 6 のリーディングの問題を解くこと。	60分
	事後学修	テキストLesson 6 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト Day1を暗記し、次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
3	Lesson 6(2) NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 2		小テスト。テキストLesson 6 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 2の音読練習。
	この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
	事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト Day 2を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
4	Lesson 7(1) NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 3		小テスト。テキストLesson 7 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 3の音読練習。
	この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	テキストLesson 7 のリーディングの問題を解くこと。	60分
	事後学修	テキストLesson 7 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト Day 3を暗記し、次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
5	Lesson 7(2) NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 4		小テスト。テキストLesson 7 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 4の音読練習。
	この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。	60分
	事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト Day 4を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。	60分
6	Lesson 8(1) NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 8		小テスト。テキストLesson 8 のリーディングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 8の音読練習。
	この回の到達目標	英検2級頻出単語を覚えるようになる。文法事項を理解出来るようになる。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	テキストLesson 8 のリーディングの問題を解くこと。	60分
	事後学修	テキストLesson 8 のリーディングの問題の英文の復習。NHKテキスト Day 8を暗記し、次回の授業での小テストの準備をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Lesson 8(2) NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 9		小テスト。テキストLesson 8 のリスニングの問題を解き、解答確認作業。NHKテキスト Day 9の音読練習。	
	この回の到達目標	リスニング力がつき、英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。		
	事前学修	配られたプリントの英文を読んで理解してくること。		60分
	事後学修	リスニングのスク립トを音読し、NHKテキスト Day 9を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。		60分
8	英検2級受験面接練習（1） NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 10		面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。NHKテキストDay 10の音読練習。	
	この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。		
	事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。		60分
	事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。NHKテキストDay 10の音読練習。		60分
9	英検2級受験面接練習（2） NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 11		面接カードを使い面接の練習を行なう。最初教師が中心に面接を行い、後に学生同士で行なってもらい、スピーキングの練習を行なう。NHKテキストDay 11の音読練習。	
	この回の到達目標	面接で自然に英語で説明したり自分の意見を述べられるようになる。		
	事前学修	前回まで練習して来たNHKラジオのダイアログ8回分を暗記し、テキストのリスニングのスク립トで音読練習をし、スムーズに英語を発話できるように準備してくること。		60分
	事後学修	効率的に英語を発話できるように練習すること。NHKテキストDay 11の音読練習。		60分
10	テキスト：模擬テスト① NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 15		テキストの模擬テスト①（1～23）を解き、説明、解説を行なう。NHKテキスト Day 15の音読練習～	
	この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。		
	事前学修	テキストの模擬テスト①（（1）～（23））を解き、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にすること。		60分
	事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。NHKテキスト Day 15を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。		60分
11	英文読解力を強化 模擬テスト② NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 16		テキスト模擬テスト②（24～29）を解き、説明、解説を行なう。NHKテキスト Day 16の音読練習。	
	この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。		
	事前学修	テキスト模擬テスト②（24～29）を解き、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にすること。		60分
	事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。NHKテキスト Day 16を暗記し次回の授業での小テストの準備をすること。		60分
12	英文読解力の補強 模擬テキスト③ NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 17		模擬テスト③（30～39）を解き、説明、解説を行なう。NHK添付されたDay 17の音読練習。	
	この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解の力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。		
	事前学修	模擬テスト③（30～39）を解き、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にすること。		60分
	事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。NHKテキスト Day 17の音読練習。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英文読解の補強 リスニングテスト① NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 18	プリントでやや難解な英文を読み、説明、解説を行なう。 テキストのリスニング模擬テスト①を行い、解答、説明。 NHKテキスト Day 18の音読練習。	
	この回の到達目標	重要な文法事項を確認し、読解並びにリスニングの力をつける。英語の発音が矯正され、有用な英文を覚えそれが身につくようになる。	
	事前学修	配られたプリントの英文を読んで、理解困難な箇所をチェックし、授業で質問出来る様にすること。	60分
	事後学修	授業で学んだことを復習し、重要な表現や英単語を覚えること。	60分
14	英文読解の補強 リスニングテスト② NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 22	社説を英文で読み、時事英語の知識を得る。 テキストのリスニング模擬テスト②を行い、解答、説明。 NHKテキストDay 22の音読練習。	
	この回の到達目標	今後英文で書かれた社説を効率良く、正確に読めるようになる方法を学ぶ。時事英語の知識の付け方が分かるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配られた英文のプリントを読み、理解出来ない箇所を確認してくること。	60分
	事後学修	授業で学習したことを確認し、必要な文法事項の再確認をし、有用な表現、英単語を覚えること。NHKテキスト Day 22の音読練習。	60分
15	後期授業の反省並びに確認。 NHKテキスト 英会話タイムトライアル10月号 Day 23	後期授業の振り返り。NHKテキストDay 23の音読練習。	
	この回の到達目標	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	
	事前学修	後期に学習したことを徹底的に確認すること。NHKテキストのダイアログの暗記とリスニングで配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。	60分
	事後学修	後期授業で学んだことを振り返り、各自足りないところを理解し、今一度確認すること。	60分

科目名	英検／IELTS I B	担当者	小島 和枝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。

【授業方法】
各Lesson を1授業で進めていく。筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	短文や長文を読み、自分の意見を求める時があるので、述べられるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								1	1		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート提出で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken 2: Sure to Succeed	Sakabe, T. , Okajima, N, and Noel, W.	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール等で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、授業に求めること、教材、提出物、成績の付け方等。そしてLesson1に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検と教材を理解し、出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、その内容を確認する。教材に目を通し、英検とはについて考える。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
2	Lesson 2	Lesson2：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる語彙力を学び、使いこなすことができる。	
	事前学修	Lesson2をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
3	Lesson3	Lesson3：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる前授業で学んだ語彙力を使い短文の語句が正しく補充できる。	
	事前学修	Lesson 3 をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
4	Lesson4	Lesson4：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、会話文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson4をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
5	Lesson5	Lesson5：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson5をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
6	Lesson6	Lesson6：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の内容一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson6をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lesson7		Lesson7：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、短文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson7をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
8	Lesson8		Lesson8：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、会話文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson8をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
9	Lesson9		Lesson9：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の応対文選択ができる。	
	事前学修	Lesson9をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
10	Lesson10		Lesson10：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson10をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
11	Lesson11		Lesson11：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の文章一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson11をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
12	Lesson12		Lesson12：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる発話力を学び、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	Lesson12をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Practice Test		56ページのPractice Testに取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわるPractice Testに取り組み、英検について学び、今まで学んだことを発揮する場を得ることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
14	Simulation Test		74ページのSimulation Testに取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検の出題問題傾向を学び、Practice Test や本授業で学んだことを考え直すことができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
15	テストとフィードバック		本授業で学んできた基礎的な問題と応用問題を解く。そして、本授業のフィードバックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検について学び、自分の意見も述べることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡBを履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信と課題提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④にかかわる能力が身に付いているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③④にかかわる積極的な学修態度が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 3 2 のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット１の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、1100 Words You Need to Know（以下1100と略す）のパートAの訳（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット１の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット１の単語、1100のパートAの単語を覚えること。	30分
3	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット２の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、1100のパートBの訳（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図面問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット２の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット２の単語、1100のパートBの単語を覚えること。	30分
4	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット３の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、1100のパートCの訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文章完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット３の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット３の単語、1100のパートCの単語を覚えること。	30分
5	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット４の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、1100のパートDの訳（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット4の単語、1100のパートDの単語を覚えること。	30分
6	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット５の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	短く答える問題		テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、短く答える問題に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。		35分
8	フローチャートを完成させる問題		テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。		35分
9	メモを完成させる問題		テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。		35分
10	リーディング多項選択式の問題		テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。		
	事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。		35分
11	見出しを選ぶ問題		テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。		
	事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。		35分
12	正誤問題		テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、正誤問題に習熟することができる。		
	事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。		35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	小島 和枝	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。英語IBを履修することが望ましい。

【授業方法】
〔オンデマンド型授業〕：各Lesson を1授業で進めていく。筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	短文や長文を読み、自分の意見を求める時があるので、述べられるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート提出で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken Pre 2: Sure to Succeed	Sakabe, T. , Okajima, N, and Noel, W.	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール等で対応します。kojima.kazue@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検/IELTSについて	本科目についての説明：授業の進め方、授業に求めること、教材、提出物、成績の付け方等。オンデマンド授業に慣れる。ポータルにアクセスし、指示に従い、オンデマンド授業へアクセス。そしてLesson1に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検と教材を理解し、出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、その内容を確認する。教材に目を通し、英検とはについて考える。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
2	Lesson 2	Lesson2：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。ポータルにアクセスし、指示に従う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる語彙力を学び、使いこなすことができる。	
	事前学修	Lesson2をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
3	Lesson3	Lesson3：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる前授業で学んだ語彙力を使い短文の語句が正しく補充できる。	
	事前学修	Lesson 3 をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
4	Lesson4	Lesson4：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、会話文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson4をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
5	Lesson5	Lesson5：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson5をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
6	Lesson6	Lesson6：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる読解力を学び、長文の内容一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson6をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lesson7		Lesson7：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、短文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson7をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
8	Lesson8		Lesson8：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる作文力を学び、会話文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson8をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
9	Lesson9		Lesson9：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の応対文選択ができる。	
	事前学修	Lesson9をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
10	Lesson10		Lesson10：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson10をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
11	Lesson11		Lesson11：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる聴解力の会話文の文章一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson11をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
12	Lesson12		Lesson12：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる発話力を学び、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	Lesson12をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Practice Test		56ページのPractice Testに取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわるPractice Testに取り組み、英検について学び、今まで学んだことを発揮する場を得ることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
14	Simulation Test		74ページのSimulation Testに取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検の出題問題傾向を学び、Practice Test や本授業で学んだことを考え直すことができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
15	テストとフィードバック		本授業で学んできた基礎的な問題と応用問題を解く。そして、本授業のフィードバックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわる英検について学び、自分の意見も述べることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

科目名	英検／IELTS II A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習により、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。後学期に英検IELTSⅡBを履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業、動画配信、および課題配信。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション、プレゼンテーションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび学期末試験の解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・英検2級サクセスコース	今村洋美、他	金星堂	2009	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2002	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
8	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
9	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
10	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
11	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
12	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検ⅡAを履修していること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信と課題提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									2	2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④にかかわる能力が身に付いているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③④にかかわる積極的な学修態度が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師 上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分
8	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分
9	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分
10	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
11	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
12	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.194-203の訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パート別考え方のアイデア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パート別考え方のアイデアに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、News Media 返答の作り方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	小島 和枝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
英語と資格に興味があり学習意欲があること。

【授業方法】
各Lesson を1授業で進めていく。筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	短文や長文を読み、自分の意見を求める時があるので、述べられるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート提出で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Eiken 2: Sure to Succeed	Sakabe, T. , Okajima, N, and Noel, W.	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール等で対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	英検/IELTSについて		本科目についての説明：授業の進め方、授業に求めること、教材、提出物、成績の付け方等。 Lesson1に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる英検と教材を理解し、出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本授業のシラバスを読み、その内容を確認する。教材に目を通し、英検2級について考える。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
2	Lesson 2		Lesson2：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる語彙力を学び、使いこなすことができる。	
	事前学修	Lesson2をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
3	Lesson3		Lesson3：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる前授業で学んだ語彙力を使い短文の語句が正しく補充できる。	
	事前学修	Lesson 3 をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
4	Lesson4		Lesson4：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる読解力を学び、会話文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson4をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
5	Lesson5		Lesson5：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる読解力を学び、長文の応答文選択ができる。	
	事前学修	Lesson5をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
6	Lesson6		Lesson6：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる読解力を学び、長文の内容一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson6をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lesson7		Lesson7：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる作文力を学び、短文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson7をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
8	Lesson8		Lesson8：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる作文力を学び、会話文の語句を並び替えることができる。	
	事前学修	Lesson8をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
9	Lesson9		Lesson9：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる聴解力の会話文の応対文選択ができる。	
	事前学修	Lesson9をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
10	Lesson10		Lesson10：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる聴解力の会話文の一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson10をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
11	Lesson11		Lesson11：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる聴解力の会話文の文章一致選択ができる。	
	事前学修	Lesson11をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
12	Lesson12		Lesson12：筆記では短文、会話、長文の語句空所補充をする。リスニングでは応答文選択に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる発話力を学び、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	Lesson12をよく読み、わからない単語や文法を学んでくる。	60分
	事後学修	授業で配布された配布物を読み、学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Practice Test	56ページのPractice Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわるPractice Testに取り組み、英検について学び、今まで学んだことを発揮する場を得ることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
14	Simulation Test	74ページのSimulation Testに取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる英検の出題問題傾向を学び、Practice Test や本授業で学んだことを考え直すことができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分
15	テストとフィードバック	本授業で学んできた基礎的な問題と応用問題を解く。そして、本授業のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④にかかわる英検について学び、自分の意見も述べることができる。	
	事前学修	本授業で学んだことをよく復習してくる。	60分
	事後学修	学んだことを復習する。取り組んで間違えた個所も復習する。	60分

科目名	英検／IELTS II B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、中級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。前期に英検IELTSⅡAを履修していること

【授業方法】
オンデマンド授業、動画配信、および課題配信。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション、プレゼンテーションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								2	2		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								2	2		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								2	2		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび学期末試験の解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・英検2級サクセスコース	今村洋美、他	金星堂	2009	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2002	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分	
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分	
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
8	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
9	会話の応答文選択		2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
10	短文の語句空所補充		英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
11	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
12	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。後学期に英検IELTSⅢBを履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業、動画配信、および課題配信。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション、プレゼンテーションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。		20	20									40
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。		15	15									30
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。		15	15									30
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)	50	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび学期末試験の解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生の英検対策総合演習	Joseph, John、他	金星堂	2012	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2002	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
8	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
9	会話の応答文選択		2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
10	短文の語句空所補充		英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
11	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
12	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	目黒 庸一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
IELTS受検を予定している者。英検／IELTSⅢBと通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信、および課題配信。IELTSの対策を演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。									3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。									3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。									3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS: Subjects and Strategies; アイエルツのための英語総合演習	Ishitani, Y. & Bullsmith, C.	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。meguro.youichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校（英語）
実務経験に基づく実践的教育の内容		高等学校（英語）の実務経験を活かした授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction・導入講義	授業の概要、目的、成績評価などについてのオリエンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、オリエンテーションの内容をもとに今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバス、テキストの準備。	30分
	事後学修	テキストを概観し、IELTSの概要を把握する。また、これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
2	Reading (1)-1	IELTSの選択肢問題、短文解答問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
3	Reading (1)-2 Supplementary	IELTSの選択肢問題、短文解答問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
4	Reading (2)-1	IELTSの英文完成問題、表完成問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
5	Reading (2)-2 Supplementary	IELTSの英文完成問題、表完成問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
6	Reading Test	IELTS Reading Practice Test	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Listening (1)-1	IELTSの選択肢問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を聞き理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
8	Listening (1)-2 Supplementary	IELTSの選択肢問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を聞き理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
9	Listening (2)-1	IELTSの英文完成問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を聞き理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
10	Listening (2)-2 Supplementary	IELTSの英文完成問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を聞き理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
11	Listening Test	IELTS Listening Practice Test	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を聞き理解することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
12	Writing (1)	IELTS Writing: グラフの説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図表などから得た情報を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Writing (2)	IELTS Writing: プロセスの説明	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図表などから得た情報を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
14	Speaking (1)	IELTS Speaking testの流れとPart 1	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意見や感想を平易な英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
15	Semester exam	授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を理解することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。前学期に英検IELTSⅢAを履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業、動画配信、および課題配信 j。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション、プレゼンテーションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験により評価する。	20	20									40	
小テスト等	授業内に実施する小テスト等により、到達目標①②にかかわるリーディング、文法などの基礎力が身についているかを評価する。	15	15									30	
レポート等	グループワークやペアワーク等にどの程度(頻度)参加しているかを基準に、到達目標①②にかかわるか積極的な学習態度が身についているかを評価する。	15	15									30	
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)	50	50								100	

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび学期末試験の解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生の英検対策総合演習	Joseph, John、他	金星堂	2012	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2002	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	英検／IELTSの学修	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分	
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分	
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
8	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
9	会話の応答文選択		2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
10	短文の語句空所補充		英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
11	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
12	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	目黒 庸一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英検、IELTSの学習を通して、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
IELTS受検を予定している者。英検／IELTSⅢAと通年で履修すること。

【授業方法】
IELTSの対策を演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、課題の単語を覚え、単語テストで80%以上の正解率に達することができる。								3	3		
②	学修者は、積極的にテキストに熟達し、英語の内容をコミュニケーションすることができる。								3	3		
③	学修者は、単語ノート、単語カード、文法ノートなどを作成し、継続的に英語学習できる。								3	3		
④	学修者は、リーディング・テストにおいて比較的短時間で英文の内容を把握することができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標④にかかわるリーディング能力等が身についているかを判断するため、テストにより評価する。テストは採点されて翌週返却される。				50							50
小テスト等	到達目標①にかかわる語彙力等が身についているかを小テストにより確認する。	20										20
レポート等												
討論・発表等	グループ講義等において、適切な内容の説明・発言ができたかを、そして発言内容・回数を、あるいはノート等の検査を基準に、到達目標②③にかかわる発表能力・学習習慣が身についているかを評価する。		20	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	10	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS: Subjects and Strategies; アイエルツのための英語総合演習	Ishitani, Y. & Bullsmith, C.	南雲堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。meguro.youichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校（英語）
実務経験に基づく実践的教育の内容		高等学校（英語）の実務経験を活かした授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction・導入講義	授業の概要、目的、成績評価などについてのオリエンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、オリエンテーションの内容をもとに今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバス、テキストの準備。	30分
	事後学修	テキストを概観し、IELTSの概要を把握する。また、これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分
2	Reading (3)-1	IELTSの見出し選択問題、正誤問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
3	Reading (3)-2 Supplementary	IELTSの見出し選択問題、正誤問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
4	Reading (4)-1	IELTSの英文完成問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
5	Reading (4)-2 Supplementary	IELTSの英文完成問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
6	Reading Test	IELTS Reading Practice Test	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を読み理解することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Listening (3)-1	IELTSの短文解答問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を聞き理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
8	Listening (3)-2 Supplementary	IELTSの短文解答問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を聞き理解することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
9	Listening Test	IELTS Listening Practice Test	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を聞き理解することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
10	Writing (3)	IELTS Writing: 賛成・反対のエッセイ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、与えられたテーマに対し自分の考えを英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
11	Writing (4)	IELTS Writing: Whatで問うエッセイ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、与えられたテーマに対し自分の考えを英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
12	Speaking (2)-Part 2	IELTS, Speaking Part 2	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、与えられたテーマに対し自分の考えを英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Speaking (2)-Part 3	IELTS, Speaking Part 3	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、与えられたテーマに対し自分の考えを英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	30分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
14	Speaking test	IELTS Speaking Practice Test	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、与えられたテーマに対し自分の考えを英語で表現することができる。	
	事前学修	指定された課題を行う。課題内の語彙や文法項目を確認する。	60分
	事後学修	再度問題を解きなおす。語彙や文法項目を復習する。	30分
15	Semester exam	授業内試験及び振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、学習方略を適切に用いて、英文を理解することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容を復習する。	60分
	事後学修	これまでの学習方法を振り返り、より効果的な学習方法を検討する。	30分

科目名	英検／IELTS IVA	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、最上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IVBを履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信と課題提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								4	4		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A,B,C,D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	図表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット１の解説（Aグループ）、リーディングのテスト、1100 Words You Need to Know（以下1100と略す）のパートAの訳（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、穴埋め、図表完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット１の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット１の単語、1100のパートAの単語を覚えること。	30分
3	図表を完成させる問題（図面）	テキスト、リスニングのユニット２の解説（Bグループ）、リーディングのテスト、1100のパートBの訳（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、図面問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット２の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット２の単語、1100のパートBの単語を覚えること。	30分
4	文を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット３の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、1100のパートCの訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章完成問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット３の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット３の単語、1100のパートCの単語を覚えること。	30分
5	多項選択式の問題	テキスト、リスニングのユニット４の解説（Dグループ）、リーディングのテスト、1100のパートDの訳（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多項選択式の問題に習熟することができる。また到達目標①に関連して、1100の範囲の単語を覚えることができる。	
	事前学修	ユニット４の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット４の単語、1100のパートDの単語を覚えること。	30分
6	表を完成させる問題	テキスト、リスニングのユニット５の解説（Aグループ）、リーディングのテストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表完成の問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット５の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット５の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	短く答える問題		テキスト、リスニングのユニット6の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、短く答える問題に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。		35分
8	フローチャートを完成させる問題		テキスト、リスニングのユニット7の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フローチャート問題に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。		35分
9	メモを完成させる問題		テキスト、リスニングのユニット7の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、メモを完成させる問題に習熟することができる。		
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。		35分
10	リーディング多項選択式の問題		テキスト、リーディングのユニット1の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング多項選択式の問題に習熟することができる。		
	事前学修	リーディング、ユニット1の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	リーディング、ユニット1の単語を覚えること。		35分
11	見出しを選ぶ問題		テキスト、リーディングのユニット2の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、見出しを選ぶ問題に習熟することができる。		
	事前学修	リーディング、ユニット2の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	リーディング、ユニット2の単語を覚えること。		35分
12	正誤問題		テキスト、リーディングのユニット3の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正誤問題に習熟することができる。		
	事前学修	リーディング、ユニット3の問題を事前にやっておくこと。		25分
	事後学修	リーディング、ユニット3の単語を覚えること。		35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	サマリーを完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット4の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サマリーを完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット4の単語を覚えること。	35分
14	短く答える問題	テキスト、リーディングのユニット5の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディング、短く答える問題に習熟することができる。	
	事前学修	リーディング、ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	リーディング、ユニット5の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	英検／IELTS IVB	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
受講者は、最上級レベルの英検、IELTSの問題に取り組むことで英語圏における社会生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における社会生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。英検IVAを履修していること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信と課題提出。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修した領域から自由課題などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。								4	4		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを授業内試験（課題などを含む）により評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストに関しては採点され返却される。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
IELTS 32のドリル＋模試	松本恵美子ほか	三修社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールでアポイントメントをとればいつでも面談に応じる、研究室（9号館1階9017研究室） morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送、英語）、東進ハイスクール講師（初代英語講師）、オレゴン州立大学夏期語学研修シャパロン、公益財団法人日本英語検定協会英検セミナー講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記実務経験から、英語は自学自習、特に万単位での英単語の暗記が効果的かつ基本であると認識しているので、そのような指導をする。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、英語の学び方について	講師紹介、テキストの紹介、グループ分け（A, B, C, D）、授業方針の説明、英語の学び方、単語の覚え方、英語の発音・イントネーション等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、語学学習についての正しい認識を獲得し、英語を学ぶことの意義について説明できる。	
	事前学修	学修者は、アイエルツのテキストの１７ページまでを熟読してくること。	20分
	事後学修	配布されたプリントについて熟読すること。	40分
2	情報を一致させるマッチング問題	テキスト、リーディングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	30分
3	文を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文を完成させる問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	30分
4	図表を完成させる問題	テキスト、リーディングのユニット8の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マッチング問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	30分
5	グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	30分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	30分
6	棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、棒グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題	テキスト、ライティングのユニット3の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、円グラフの内容を分析し、特徴を要約する問題に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット3の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット3の単語を覚えること。	35分
8	ダイアグラム	テキスト、ライティングのユニット4の解説（Cグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダイアグラムに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット4の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット4の単語を覚えること。	35分
9	エッセイの基本構造	テキスト、ライティングのユニット5の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、エッセイの基本構造に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット5の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット5の単語を覚えること。	35分
10	Type2の答え方	テキスト、ライティングのユニット6の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Type2の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット6の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット6の単語を覚えること。	35分
11	Type3の答え方	テキスト、ライティングのユニット7の解説（Bグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Type3の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット7の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット7の単語を覚えること。	35分
12	Type4の答え方	テキスト、ライティングのユニット8の解説（Cグループ）、リーディングのテスト、Basic Word List, pp.194-203の訳（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Type4の答え方に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット8の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット8の単語を覚えること。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パート別考え方のアイデア	テキスト、スピーキングのユニット1の解説（Dグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、パート別考え方のアイデアに習熟することができる。	
	事前学修	ユニット1の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット1の単語を覚えること。	35分
14	News Media 返答の作り方	テキスト、スピーキングのユニット2の解説（Aグループ）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、News Media 返答の作り方 に習熟することができる。	
	事前学修	ユニット2の問題を事前にやっておくこと。	25分
	事後学修	ユニット2の単語を覚えること。	35分
15	リーディング・テストおよび単語テスト、まとめ	リーディングテスト、および単語テストをする。その後、各グループによる解説をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーディングテスト、単語テストに解答することができる。	
	事前学修	これまでのテキスト、プリントの総復習をする。	50分
	事後学修	リーディングテスト、および単語の復習をする。	10分

科目名	TOEFL I A	担当者	堀 千和子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Googleクラスルームを通して、学修内容と関連するトピックについて発表し、クラス内でコメントを交換します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。 小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
VOA Science & Technology Report（VOAで学ぶ最先端技術とPBL基礎演習）	村尾純子，深山晶子，野口ジュディー	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
E-mailにて対応します。hori.chiwako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFL ITPの解説	ガイダンス、TOEFL ITPの解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	TOEFLを勉強する目標をたてておく。これまで使用した英語の単語集、文法解説書をまとめておく。	30分
	事後学修	配布された資料を基に、授業内容を復習して応用問題を解く。英語の自己紹介をGoogleクラスルームに投稿する。	30分
2	英語ニュースの特徴、見出しのルール、TOEFLの文法問題	英語ニュースの特徴、見出しのルール、TOEFLの文法問題	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、英語ニュースの構造や特徴を説明することができる。見出しのルールを理解して、適切に意味を把握できる。	
	事前学修	配信された教材でわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	授業内容を復習して、応用問題を解く。	30分
3	教科書ユニット1	教科書 Unit 1「顔認証システム」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
4	教科書ユニット2	教科書 Unit 2「AI時代に生き残る方法」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
5	教科書ユニット3	教科書 Unit 3「VRが変える医療」内容把握と文法事項の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
6	教科書ユニット4	教科書 Unit 4「都市型農業の未来」内容把握と文法事項の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書ユニット5	教科書 Unit 5 「日本の伝統芸がNASAで大活躍」 内容把握と文法事項の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
8	教科書ユニット6	教科書 Unit 6 「ロボットが高齢社会をアシスト」 内容把握と文法事項の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
9	教科書ユニット7	教科書 Unit 7 「金属のリサイクル」 内容把握と文法事項の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
10	教科書ユニット8	教科書 Unit 8 「進化するカメラ」 内容把握と文法事項の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
11	教科書ユニット9	教科書 Unit 9 「蚊との戦い」 内容把握と文法事項の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
12	教科書ユニット10	教科書 Unit 10 「次世代VRの世界」 内容把握と文法事項の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書Unit 1から10の復習	教科書Unit 1から10の復習	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、既習事項の語彙と文法を活用することができる。	
	事前学修	既習事項を復習して、重要な語彙、文法をまとめておく。	30分
	事後学修	間違えた問題を復習する。	30分
14	期末レポートの作成	期末レポートの作成の説明、質問の受付	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、今期の学習内容に関連するトピックでレポートにまとめることができる。クラスメートのレポート内容について、Googleクラスルームを通してコメントすることができる。	
	事前学修	教科書の学習内容に関連する英字新聞の記事を見つける。	30分
	事後学修	作成したレポートを提出し、Googleクラスルームのクラスメートの投稿にコメントをする。	30分
15	TOEFLのリスニング問題	TOEFLのリスニング問題、文法、読解問題の演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、TOEFL ITPのリスニング問題に頻出する日常会話を聞き取り、理解することができる。到達目標②③に関連して、既習事項と関連づけて、TOEFLの文法を運用することができる。リーディング問題を理解することができる。	
	事前学修	配信された教材でわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	間違えた問題を復習する。よく出てくる会話表現を音読して覚える。重要な語彙、文法をまとめる。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google classroom上で課題の解説，質疑・応答を行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニング	2010	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	い い ず な 書 店 編 集 部	い い ず な 書 店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。メールアドレス:satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	TOEFL-ITPとは？		TOEFL-ITPの概要、授業の概要、授業の目的、授業方法、成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。また、本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。		10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。		50分
2	動詞と文型（1）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2（動詞と文型（1））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
3	動詞と文型（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 3（動詞と文型（2））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
4	接続詞（1）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46（接続詞（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46（接続詞（1））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
5	接続詞（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 47（接続詞（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 47（接続詞（2））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
6	TOEFL ITP対策		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.19-21) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。		
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.19-21) を解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	名詞	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 38（名詞）のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 38（名詞）のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
8	TOEFL ITP対策	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02（Short Conversations）のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test!（p.26-27）の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02（Short Conversations）のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test!（p. 26-27）を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
9	仮定法（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 28（仮定法（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 28（仮定法（1））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
10	仮定法（2）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 29（仮定法（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 29（仮定法（2））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
11	仮定法（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 30（仮定法（3））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 30（仮定法（3））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
12	TOEFL ITP対策	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New medicine）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.31-33）の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03（The Discovery of a New medicine）のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test!（p.31-33）を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	助動詞（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8（助動詞（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8（助動詞（1））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	助動詞（2）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 9（助動詞（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 9（助動詞（2））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
15	助動詞（3）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 10（助動詞（3））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 10（助動詞（3））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I A	担当者	木村 登志子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニング	2010	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールにて受付します。kimura.toshiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 米国大学院留学、企業翻訳
実務経験に基づく実践的教育の内容	米国大学院留学や企業翻訳の経験を活用しながら問題を学習していきます	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション TOEFL-ITPとは？	TOEFL-ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
2	TOEFL ITP対策（1）	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) の Building Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.19-21) の実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
3	TOEFL ITP対策（2）	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) の Building Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.19-21) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
4	TOEFL ITP対策（3）	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 01 (The Racial Discrimination Problem) の Try the TOEFL Test!, Vocabulary Check! (p.16-18) の演習と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
5	TOEFL ITP対策（4）	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test! (p.26-27) の実施	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
6	TOEFL ITP対策（5）	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test! (p.26-27) の解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	TOEFL ITP対策 (6)	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 02 (Short Conversations) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills!, Speaking, Vocabulary Check! (p.22-25) の演習と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
8	TOEFL ITP対策 (Listening1)	Listening for TOEFL ITP	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を考え、リスニングスキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
9	TOEFL ITP対策 (Listening2)	Listening for TOEFL ITP	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を考え、リスニングスキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
10	TOEFL ITP対策 (7)	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03 (The Discovery of a New medicine) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.31-33) の実施	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
11	TOEFL ITP対策 (8)	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03 (The Discovery of a New medicine) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.31-33) の解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
12	TOEFL ITP対策 (9)	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 03 (The Discovery of a New Medicine) のTry the TOEFL Test!, Vocabulary Check! (p.28-30) の演習と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキストの振り返り (1)	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit1-3の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
14	テキストの振り返り (2)	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit1-3の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
15	春学期の振り返り	Mini test実施	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学習してきた内容の問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	夏休みに向けた学習目標を設定する。	60分

科目名	TOEFL I A	担当者	黒滝 真理子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信、および課題配信。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Skills for Better Reading 〈Intermediate〉 3nd	石谷由美子	南雲堂	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	配布資料併用				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション (TOEFL-ITPとは)	TOEFL-ITPの概要，授業のテーマや内容、授業スケジュール、事前・事後学習の方法、成績評価方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	意見サポート型エッセイ	Unit 1A (Conclusion/Reasons)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	意見サポート型エッセイ	Unit 1B (Conclusion/Reasons)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	意見サポート型エッセイ	Unit 2A (Social Trends)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	意見サポート型エッセイ	Unit 2B (Social Trends)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	意見サポート型エッセイ	Unit 3A(Results/Causes)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	意見サポート型エッセイ	Unit 3B(Results/Causes)		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
8	パラグラフ並列型エッセイ	Unit 4A(Several Explanations)		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
9	パラグラフ並列型エッセイ	Unit 4B(Several Explanations)		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
10	パラグラフ並列型エッセイ	Unit 5A(Comparisons)		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
11	パラグラフ並列型エッセイ	Unit 5B(Comparisons)		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
12	パラグラフ並列型エッセイ	Unit 6A(For and against)		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パラグラフ並列型エッセイ	Unit 6B(For and against)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	パラグラフ並列型エッセイ	Unit 7A(Classification)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
15	パラグラフ並列型エッセイ	Unit 7B(Classification)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	講義全体の復習をし、後期の授業に備える。	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	堀 千和子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書を使用しての演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Googleクラスルームを通して、学修内容と関連するトピックの発表をし、クラスメートにコメントをもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
VOA Science & Technology Report（VOAで学ぶ最先端技術とPBL基礎演習）	村尾純子，深山晶子，野ロジュディー	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
E-mailにて対応します。hori.chiwako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFL ITPの解説、夏期休暇中の英語ニュース	TOEFL ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。夏期休暇中の英語ニュース	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	TOEFLを勉強する今期の目標をたてておく。シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	30分
2	教科書ユニット1 1	教科書 Unit 11「昼寝の効果」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
3	教科書ユニット1 2	教科書 Unit 12「進化するスマートフォンアップ」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
4	教科書ユニット1 3	教科書 Unit 13「がん細胞を光らせる」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
5	教科書ユニット1 4	教科書 Unit 14「宇宙にAIが行く時代」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
6	教科書ユニット1 5	教科書 Unit 15「コウモリが教える老化の意味」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書ユニット１１から１５までの復習	教科書ユニット１１から１５までの復習テスト	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教科書で学習した語彙と文法を別の文脈でも活用することができる。	
	事前学修	ユニット１１から１５までの重要語句と文法を復習する。	30分
	事後学修	間違えた問題を振り返り、今後の学習に役立てる。	30分
8	教科書ユニット１６	教科書 Unit 16「電池のいらない携帯電話」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
9	教科書ユニット１７	教科書 Unit 17「星は死ぬのか」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
10	教科書ユニット１８	教科書 Unit 18「コーヒーがロンドンを変える」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
11	教科書ユニット１９	教科書 Unit 19「驚異の天然材料」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分
12	教科書ユニット２０	教科書 Unit 20「インターネットの未来は？」内容把握と文法事項の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、科学的な読み物を理解することができる。教科書の会話の聞き取りができる。	
	事前学修	ユニット冒頭のWarm-up Exerciseを解く。本文中のわからない語句を調べる。	30分
	事後学修	本文を復習して、読解およびリスニング問題に回答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書ユニット16から20の復習	教科書Unit 16から20の復習テスト	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教科書で学習した語彙と文法を別の文脈でも活用することができる。	
	事前学修	ユニット16から20の重要語句と文法を復習する。	30分
	事後学修	間違えた問題を振り返り、今後の学習に役立てる。	30分
14	期末レポートの作成	期末レポートの作成、質問の受付	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、今期の学習内容に関連するトピックでレポートにまとめることができる。クラスメートのレポート内容について、Googleクラスルームを通してコメントすることができる。	
	事前学修	教科書の学習内容に関連する英字新聞の記事を見つける。	30分
	事後学修	作成したレポートを提出し、Googleクラスルームのクラスメートの投稿にコメントをする。	30分
15	後期の振り返り	TOEFL ITPの模擬テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書を中心に、語彙や文法など今期に学習した内容を振り返る。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、模擬テストで間違えた問題をもう一度解いて、今後の英語の学習に役立てる。	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	オンライン授業の場合は、Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。対面授業の場合には、一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
オンライン授業の場合は，Google classroom上で課題の解説，質疑・応答を行なう。対面授業の場合には，授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニング	2010	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	い い ず な 書 店 編 集 部	い い ず な 書 店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
オンライン授業の場合は，メールで対応します。メールアドレス：satou.kenji@nihon-u.ac.jp 対面授業の場合には，金曜日の12時10分から13時の間に佐藤（健）研究室（本館8階1814研究室）にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	TOEFL-iBTとは？		TOEFL-iBTの概要，授業の概要，授業の目的，授業方法，成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。また，本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	TOEFL ITP対策		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) の解説。
	この回の到達目標	達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	比較（1）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21（比較（1））のExerciseの解説。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，比較に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21（比較（1））のExerciseのを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	比較（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 22（比較（2））のExerciseの解説。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，比較に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 22（比較（2））のExerciseのを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	比較（3）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 23（比較（3））のExerciseの解説。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，比較に関する知識を身につけるとともに，それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 23（比較（3））のExerciseのを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	TOEFL ITP対策		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05 (The American Insurance System) の Building Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.44-45) の解説。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05 (The American Insurance System) の Building Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.44-45) を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し，事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	副詞		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43（副詞）のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43（副詞）のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
8	TOEFL ITP対策		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。		
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) を解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
9	不定詞（1）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 13（不定詞（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 13（不定詞（1））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
10	不定詞（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 14（不定詞（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 14（不定詞（2））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
11	動名詞（1）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 17（動名詞（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 17（動名詞（1））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
12	動名詞（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 18（動名詞（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 18（動名詞（2））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	分詞（1）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 19（分詞（1））のExerciseの解説。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 19（分詞（1））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	分詞（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 20（分詞（2））のExerciseの解説。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 20（分詞（2））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
15	TOEFL ITP対策		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 08（Conversation between a Professor and a Student）の One Point Grammar!, Try the TOEFL Test!（p.62-63）の解説。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 08（Conversation between a Professor and a Student）の One Point Grammar!, Try the TOEFL Test!（p.62-63）を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

科目名	TOEFL I B	担当者	木村 登志子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									1	1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニング	2010	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールにて受付します。kimura.toshiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 米国大学院留学、企業翻訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国大学院留学や企業翻訳の経験を活用しながら問題を学習していきます

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション TOEFL-iBTとは？	TOEFL-iBTの概要，事前・事後学習の方法，成績評価方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	60分
2	TOEFL ITP対策（1）	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) の実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き，わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	60分
3	TOEFL ITP対策（2）	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.38-39) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解き，スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き，わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	60分
4	TOEFL ITP対策（3）	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 04 (Looking for Reference Book in the Library) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills, Speaking, Vocabulary Check! (p.34-37) の演習と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解き，スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き，わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	60分
5	TOEFL ITP対策（4）	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05 (The American Insurance System) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.43-45) の実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き，わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	60分
6	TOEFL ITP対策（5）	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05 (The American Insurance System) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.43-45) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，実際にTOEFL-ITPの問題を解き，スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き，わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	TOEFL ITP対策 (6)	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 05 (The American Insurance System) のTry the TOEFL Test!, Vocabulary (p.40-42) の演習と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
8	TOEFL ITP対策 (Listening1)	Listening for TOEFL ITP	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を考え、リスニングスキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
9	TOEFL ITP対策 (Listening2)	Listening for TOEFL ITP	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を考え、リスニングスキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
10	TOEFL ITP対策 (7)	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) の実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
11	TOEFL ITP対策 (8)	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のOne Point Grammar!, Try the TOEFL Test! (p.50-51) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
12	TOEFL ITP対策 (9)	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 06 (Instructions on Class by a Professor) のTry the TOEFL Test!, Building Listening Skills, Speaking, Vocabulary Check! (p.46-49) の演習と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキストの振り返り	Mini test 『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit4-6の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
14	TOEFL-ITPの模擬試験(1)	TOEFL-ITPの模擬試験	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	60分
15	TOEFL-ITPの模擬試験(2)	TOEFL-ITPの模擬試験とその解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学習してきた内容の問題を解き、スキルを理解することができる。	
	事前学修	指定された範囲の課題を解き、わからない単語や表現を調べる。	60分
	事後学修	テストに向けた学習目標を設定する。	60分

科目名	TOEFL I B	担当者	黒滝 真理子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 450点以上を取得するために必要な基礎的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な基礎的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 450点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークなどによる演習を一部実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								1	1		
②	文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								1	1		
③	基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴などを含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Skills for Better Reading 〈Intermediate〉 3nd	石谷由美子	南雲堂	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	配布資料併用				

【オフィスアワー】
水曜日12:10~13:00 あるいは火曜日の授業後（休暇中は除く）kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション (TOEFL-ITPとは)	TOEFL-ITPの概要，授業のテーマや内容、授業スケジュール、事前・事後学習の方法、成績評価方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に，授業内容を復習する。	50分
2	直線型エッセイ	Unit 8A(History)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	直線型エッセイ	Unit 8B(History)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	直線型エッセイ	Unit 9A(Processes)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	直線型エッセイ	Unit 9B(Processes)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	直線型エッセイ	Unit 10A(Causes and Effects)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	直線型エッセイ		Unit 10B(Causes and Effects)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
8	異質パラグラフ型エッセイ		Unit 11A(Definition of a new word)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
9	異質パラグラフ型エッセイ		Unit 11B(Definition of a new word)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
10	異質パラグラフ型エッセイ		Unit 12A(Research)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
11	異質パラグラフ型エッセイ		Unit 12B(Research)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
12	異質パラグラフ型エッセイ		Unit 13A/B(New Products, New Services)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	異質パラグラフ型エッセイ	Unit 14A/B(Reading Graphs)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができ、文法的に正しい英文を完成させるために基礎的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
14	授業内試験	授業内試験及び後期授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。	
	事前学修	後期に学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。	30分
	事後学修	間違えた箇所を復習する。	30分
15	振り返り	試験の講評、学習の振り返りおよびTOEFL-ITP対策	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。	
	事前学修	講義全体を確認し、復習する。	30分
	事後学修	講義全体の復習をし、TOEFL-ITP対策を立てる。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOEFL IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画もしくは音声の視聴と課題による演習の授業となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。										2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。										2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。										2	2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解答・解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kaga.takehiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		・授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 ・TOEFLの初期演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容を把握することができる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を概観しておく。		10分
	事後学修	初期演習の復習を行う。		30分
2	・TOEFL実践的演習(1) ・多義語の演習		・テキストChapter 1: Seven Billion and Counting（前半）を精読し、それに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLリーディングの設問の諸々の傾向を把握し、何が問われているかを理解し、対応できる。		
	事前学修	Chapter 1: Seven Billion and Counting（前半）を予習する。		60分
	事後学修	学習した「多義語」の意味を復習し、覚える。		30分
3	・TOEFL実践的演習(2) ・重要単語の用法の演習		・テキストChapter 1: Seven Billion and Counting（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の理解を深める演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の用法が理解・判別できる。		
	事前学修	Chapter 1: Seven Billion and Counting（後半）を予習する。		60分
	事後学修	学習した「重要単語」の復習を行う。		30分
4	・TOEFL実践的演習(3) ・前置詞の用法の演習		・テキストChapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(前半)に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する重要な「前置詞の用法」の知識を広げる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った前置詞の用法が重要単語の用法ができる。		
	事前学修	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?（前半）を予習する。		60分
	事後学修	学習した「前置詞の用法」の復習を行う。		30分
5	・TOEFL実践的演習(4) ・接頭辞から語彙を増やす演習		・Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(後半)に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・接頭辞から語彙を増やす演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。接頭辞から語彙を増やすことができる。		
	事前学修	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?（後半）を予習する。		60分
	事後学修	学習した接頭辞、および新しい語彙を復習し、覚える。		30分
6	既習内容の総復習(1)		Chapter 1～2の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の総復習・振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習・振り返りを通じて、誤答箇所を理解し、各自の課題を見出すことができる。		
	事前学修	Chapter 1～2を再読し、単語・構文・内容を総復習する。		60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	・TOEFL実践的演習(5) ・word formの演習		・Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger (前半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLにおける word formに関連した問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。word formに関連した問題を解くことができる。		
	事前学修	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger (前半) を予習する。		60分
	事後学修	TOEFLの word formの重要事項を復習する。		30分
8	・TOEFL実践的演習(6) ・TOEFL頻出「重要単語」の意味・用法		・Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger (後半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味・用法を理解する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の意味・用法が判別できる。		
	事前学修	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger (後半) を予習する。		60分
	事後学修	今回新たに学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。		30分
9	・TOEFL実践的演習(7) ・多義語の意味判別の演習		・テキストChapter 4: Of Terror and Tantrums (前半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。		
	事前学修	Chapter 4: Of Terror and Tantrums (前半) を予習する。		60分
	事後学修	今回新たに学習した多義語の意味を復習し、覚える。		30分
10	・TOEFL実践的演習(8) ・多義語の知識を増やす演習		・テキストChapter 4: Of Terror and Tantrums (後半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLの読解において重要な「多義語」の知識を増やす演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。		
	事前学修	Chapter 4: Of Terror and Tantrums (後半) を予習する。		60分
	事後学修	今回新たに学習した多義語を復習し、覚える。		30分
11	既習内容の総復習(2)		テキストChapter 3～4の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の総復習・振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Chapter 3～4の総復習・振り返りを通じて、各自の課題を見出すことができる。		
	事前学修	Chapter 3～4を再読し、単語・構文・内容を総復習する。		60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。		30分
12	・TOEFL実践的演習(9) ・読解における多義語の意味判別の演習		・テキストChapter 5: Double Edged Net (前半) に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLの読解において重要な「多義語」の意味を理解・判別する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った多義語の意味が理解・判別できる。		
	事前学修	Chapter 5: Double Edged Net (前半) を予習する。		60分
	事後学修	今回新たに学習した多義語の意味を復習し、覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	・TOEFL実践的演習(10) ・TOEFL「重要単語」の意味・用法	・テキストChapter 5: Double Edged Net（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の知識を広げる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った重要単語の意味・用法が理解できる。	
	事前学修	Chapter 5: Double Edged Net（後半）を予習する。	60分
	事後学修	今回新たに学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。	30分
14	・TOEFL実践的演習(11) ・重要な「前置詞」の意味・用法	・テキストChapter 6: The Issues of Oceansに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する重要な「前置詞の意味・用法」の知識を広げる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で扱った前置詞の意味・用法が理解・判別できる。	
	事前学修	Chapter 6: The Issues of Oceansを予習する。	60分
	事後学修	今回学習した「前置詞の用法」の復習を行う。	30分
15	既習内容の総復習(3)	テキストChapter 5～6の総復習のTOEFL形式の読解・語彙・文法の総復習・振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習と振り返りを通じて、各自の課題を見出すことができる。	
	事前学修	Chapter 5～6を再読し、単語・構文・内容を総復習する。	60分
	事後学修	今学期の学習を踏まえて、各自の弱点等を認識し、今後の英語学習の方向性を考える。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOEFL IIBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】		
オンデマンド授業、動画配信、課題配信。 小テストを行います。 初回のガイダンスで詳細を説明しますので、必ず受講してください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	オンライン授業でアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内テスト、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴状況などを含む）、到達目標①②にかかわる学修態度が身についているかを、評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『AFPニュースで見る世界4』	宍戸 真	成美堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業内で指示します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	評価方法、授業方法、小テストの方法について、重要な説明をします。必ず視聴してください。	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる、TOEFLの問題について理解する。授業方法や、小テストの方法を理解し、今後の目標と学習計画を立てることが出来る。	
	事前学修	授業の予習の仕方について説明しますので、教科書を準備してください。シラバスに事前に目を通して、質問があれば準備しておいてください。	30分
	事後学修	教科書を準備して、課題や出席の方法について確認してください。	30分
2	Lesson 1 Emojis	重要単語、重要表現の確認をします Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる、リスニング力を身に着ける	
	事前学修	事前に単語を調べないで臨んでください。単語力に自信の無い方は事前に調べても大丈夫です。	30分
	事後学修	単語を復習してください。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
3	Lesson 1 Emojis	表現力を豊かにする絵文字について学ぶ Reading	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる 読解力を身に着ける。	
	事前学修	要点や目標を読んでおいてください。あるいは、単語は事前に調べなくてもよいです、その場合、初見でどのくらい読めるか、速読できるかをスピードを計って調べてください。	30分
	事後学修	Unit1 を復習すること。授業内で習った単語を覚えてください。	30分
4	Lesson 2 Robots	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる、リスニング力を身に着ける	
	事前学修	要点をノートにまとめること。不明な単語は予め調べてください。	30分
	事後学修	重要表現をまとめること。授業内で習った単語を再度確認して覚えてください。	30分
5	Lesson 2 Robots	ロボットの発展に伴う仕事の変化について考えます。 Reading	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる 読解力を身に着ける。	
	事前学修	Lesson 2を予め、意味の不明な単語を読んでおいてください。	30分
	事後学修	Lesson 2の授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
6	Lesson3 Shopping	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわるリスニング力を伸ばす。 意味の小さい語は飛ばすして聞き取ることができる。	
	事前学修	Lesson 3 の単語をあらかじめ調べておいてください。	30分
	事後学修	Lesson3の重要表現の確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	Lesson3 Shopping		オンラインショッピングと実店舗での買い物について考えます。 Reading	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる読解力を伸ばす。単語を固まりとしてとらえ、そして小さい意味の単語を飛ばし読みできる。		
	事前学修	Lesson3の重要表現の確認。意味の不明な単語をあらかじめ調べておいてください。		30分
	事後学修	Lesson3の授業内で学習した単語を覚えてください。		30分
8	Lesson4 Volunteer Overseas		重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	Lesson4キーワードを速く見つける。		
	事前学修	到達目標①②③にかかわるリスニング力を伸ばす。重要表現の確認。該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。		30分
	事後学修	Develop Your Vocabularyの確認。授業内で学習した単語を覚えてください。		30分
9	Lesson4 Volunteer Overseas		Reading ボランティア活動について、個人レベルから、政府レベルでの国際貢献について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる読解力のテクニックを駆使して早く読むことができる。		
	事前学修	意味の不明な単語をあらかじめ調べておいてください。		30分
	事後学修	授業内で学習した単語を覚えてください。		30分
10	Lesson 5 Culture		重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②の力、リスニング力を伸ばすため、英語を意味の塊で把握する。		
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。		30分
	事後学修	重要単語の確認。授業内で学習した単語を覚えてください。		30分
11	Lesson 5 Culture		Reading 海外における日本のポップカルチャー（大衆文化）の人気について考えましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する読解力を伸ばす。速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習する。目標<頭で英語に慣れる：文法力・語彙力を生かす> ことができる。		
	事前学修	重要表現の確認。意味の不明な単語をあらかじめ調べておいてください。		30分
	事後学修	授業の要点をまとめておくこと。授業内で学習した単語を覚えてください。		30分
12	Lesson 7 English in the Office		重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネイティブのスピードに慣れる		
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。		30分
	事後学修	わからなかった点などは、書きとめて置き、今後の対策をねること。学習した単語を覚えてください。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lesson 7 English in the Office	Reading 英語を社内公用語とする企業が増えつつあります。言語政策について考えましょう。	
	この回の到達目標	速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。到達目標①②③に関連して目標<頭で英語に慣れる：文法力・語彙力を生かす> ことができる。	
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。頻出単語を覚えてください。	30分
14	Lesson8 The National Parks	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連するリスニング力を伸ばす。ネイティブのスピードに慣れる。	
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった点は、教科書を確認しましょう。間違えた箇所やあやふやな箇所はノートにまとめておきましょう。	30分
15	Lesson8 The National Parks	国立公園において、自然保護か観光開発かどちらを優先すべきか考えましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、目標<頭で英語に慣れる：文法力・語彙力を生かす> ことができる。速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。	
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。	30分
	事後学修	重要表現はまとめておきましょう。	30分

科目名	TOEFL II A	担当者	森下 正昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOFEL IIBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験・期末試験の解説を動画内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL ITP	Mark D. Stafford & Chizuko Tsumatori	Cengage Learning	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール(morishita.masaaki@nihon-u.ac.jp)やGoogle Classroomにて質問や相談に対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の概要、成績評価方法、事前・事後学習の方法、TOEFL ITPの内容等について解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式と授業の概要を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、疑問点があれば次週に質問ができるように整理しておく。	30分
2	Reading - Unit 01: Racial Discrimination Problem	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
3	Reading - Unit 01: 接続詞	接続詞に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、接続詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
4	Listening - Unit 02: Short Conversations	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
5	Listening - Unit 02: 名詞	名詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	Try the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
6	Reading - Unit 03: The Discovery of a New Medicine	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Reading - Unit 03: 仮定法	仮定法に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
8	中間試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期前半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
	事前学修	前期前半の授業内容の総復習をしておく。	40分
	事後学修	前期前半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
9	Listening - Unit 04: Looking for Reference Books in the Library	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
10	Listening - Unit 04: 助動詞	助動詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
11	Reading - Unit 05: American Insurance System	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
12	Reading - Unit 05: 比較	比較に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Listening - Unit 06: Instructions on Class by a Professor	スピーチの解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、スピーチの意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
14	Listening - Unit 06: 副詞	副詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、副詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
15	講期末試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期後半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
	事前学修	前期後半の授業内容の総復習をしておく。	50分
	事後学修	前期後半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	10分

科目名	TOEFL II B	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内テスト、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解答・解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues of Our Age	Peter Weld	金星堂	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kaga.takehiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		・授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 ・TOEFLに向けた初期演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容を把握することができる。		
	事前学修	シラバスとテキストを読み、授業の全体を概観する。		10分
	事後学修	ガイダンス、および初期演習の復習を行う。		30分
2	・TOEFL実践的演習(1) ・TOEFL「重要構文」の演習		・テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「重要構文」を見抜き、理解できるようになる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「重要構文」を見抜き、理解することができる。		
	事前学修	テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回学習した「重要構文」の復習を行う。		30分
3	・TOEFL実践的演習(2) ・TOEFL頻出「多義語」の演習		・テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「多義語」の知識を広げる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「多義語」を的確に判別できる。		
	事前学修	テキストChapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した「多義語」の復習を行う。		30分
4	・TOEFL実践的演習(3) ・英語の文体的特徴の演習		・テキストChapter 8: An Obsession with Possessionに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英語の文体的特徴（並列法、パラレリズム、対照法等）を理解する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した英語の文体的特徴を認識できる。		
	事前学修	テキストChapter 8: An Obsession with Possessionの予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した文体的特徴の復習を行う。		30分
5	既習内容の総復習 1		テキストChapter 7～8のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習テストを行う。その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習と振り返りを通じて、各自の課題点・改善点を見出すことが出来る。		
	事前学修	テキストChapter 7～8を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。		60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。		30分
6	・TOEFL実践的演習(4) ・TOEFL頻出「熟語の多義」の演習		・テキストChapter 9: Heading for a Crashに関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する「熟語の多義」を判別する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した「熟語の多義」を識別できる。		
	事前学修	テキストChapter 9: Heading for a Crashの予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した熟語の多義を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	・TOEFL実践的演習(5) ・英語の「同綴異義語」の演習		・テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英語の「同綴異義語」の意味を判別する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した英語の「同綴異義語」を認識し、判別できる。		
	事前学修	テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（前半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した「多義語」の復習を行う。		30分
8	・TOEFL実践的演習(6) ・TOEFL頻出word formsの演習		・テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出するword formsの演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した内容に基づいて、適切なword formを選べるようになる。		
	事前学修	テキストChapter 10: Survival of the Most Flexible（後半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習したword formsの重要事項の復習を行う。		30分
9	既習内容の総復習 2		テキストChapter 9～10のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習と振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習テストを通じて、誤答箇所を認識・理解し、各自の課題点・改善点を見出すことができる。		
	事前学修	テキストChapter 9～10を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。		60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。		30分
10	・TOEFL実践的演習(7) ・注意すべき「否定語」の演習		・テキストChapter 11: Teach Your Children Well（前半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・TOEFLに頻出する注意すべき「否定語」を習得する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「否定語」を認識できる。		
	事前学修	テキストChapter 11: Teach Your Children Well（前半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した注意すべき「否定語」の復習を行う。		30分
11	・TOEFL実践的演習(8) ・注意すべき「否定構文」の演習		・テキストChapter 11: Teach Your Children Well（後半）に関するTOEFL形式の問題を解く。 ・英文において注意すべき「否定構文」を理解できるようになる演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「否定構文」を正確に理解できる。		
	事前学修	テキストChapter 11: Teach Your Children Well（後半）の予習を行う。		60分
	事後学修	今回新たに学習した「否定構文」の復習を行う。		30分
12	・TOEFL実践的演習(9) ・注意すべき一見simpleな英語表現の演習		・テキストChapter 12: The Other Precious Liquid に関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 英文において解釈に注意すべき一見simpleな英語表現を理解する演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき一見simpleな英語表現を的確に理解できる。		
	事前学修	テキストChapter 12: The Other Precious Liquidの予習を行う。		60分
	事後学修	今回学習した「注意すべき一見simpleな英語表現」の復習を行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	既習内容の総復習 3	テキストChapter 11～12のTOEFL形式の読解・文法・語彙の総復習と振り返りを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総復習と振り返りを通じて、各自の課題点・改善点を見出すことが出来る。		
	事前学修	テキストChapter 11～12を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。		60分
	事後学修	授業で提示された重要事項を復習する。		30分
14	・TOEFL実践的演習(10) ・注意すべき「熟語表現」の演習	・テキストChapter 12: The Other Precious Liquidに関するTOEFL形式の問題を解く ・TOEFLにおいて注意すべき「熟語表現」の理解を深める演習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した注意すべき「熟語表現」を的確に理解できる。		
	事前学修	テキストChapter 14: Good Help, Bad Helpの予習を行う。 （*Chapter 13は飛ばします。）		60分
	事後学修	今回新たに学習した注意すべき「熟語表現」の復習を行う。		30分
15	・TOEFL実践的演習(11) ・日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習	・テキストChapter 15: Are You Happy? に関するTOEFL形式の問題を解く ・日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指定箇所の英文を理解し、それに対するTOEFL形式の問題を解くことができる。また授業で学習した日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」を適切に理解できる。		
	事前学修	テキストChapter 15: Are You Happy?の予習を行う。		60分
	事後学修	今回学習した日本人学習者が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の復習を行う。 今学期学習した内容を振り返り、今後の自分の学習の方向性を考える。		30分

科目名	TOEFL II B	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期TOEFL IIAを併せて履修することが望ましい

【授業方法】
演習授業を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内テスト、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき、（授業動画の視聴状況などを含む）到達目標①②③にかかわる学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評・解説は授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『AFPニュースで見る世界4』	穴戸 真	成美堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業内で指示します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	評価方法、授業方法、小テストの方法について、重要な説明をします。必ず視聴してください。	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる力を身に着けるため、今後の目標と学習計画を立てていきます。また、ネットを通して復習する方法を伝えます。	
	事前学修	授業の予習の仕方について説明しますので、教科書を準備してください。シラバスに事前に目を通して、質問があれば準備しておいてください。	30分
	事後学修	教科書を準備して、課題や出席の方法について確認してください。	30分
2	Lesson9 Old and New	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわるリスニング力身に着ける	
	事前学修	事前に単語を調べないで臨んでください。単語力に自信の無い方は事前に調べても大丈夫です。	30分
	事後学修	単語を復習してください。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
3	Lesson9 Old and New	古くて趣のある物、新しくて最新技術のものどちらを好みますか。考えましょう。 Reading	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる読解力を身に着ける。	
	事前学修	重要単語や要点や目標を読んでおいてください。単語は事前に調べなくてもよいです。その場合は、初見でどのくらいの速度で読めるか時間を計りましょう。	30分
	事後学修	Unit10を復習すること。授業内で習った単語を覚えてください。	30分
4	Lesson11 Social Inequality	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわるリスニング力をつける。ある程度の数の単語をまとめて聞くことができる。	
	事前学修	要点をノートにまとめること。不明な単語は予め調べてください。	30分
	事後学修	重要表現をまとめること。授業内で習った単語を再度確認して覚えてください。	30分
5	Lesson11 Social Inequality	格差社会の問題について感がメア省速度に着目して速読します。 Reading	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる読解力を身に着ける。アイ・スパン 一目で見られる範囲を広げて、ある程度の数の単語をまとめて読むことができる。	
	事前学修	予め、意味の不明な単語を読んでおいてください。	30分
	事後学修	授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
6	Lesson12 Trading Partnership	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわるリスニング力を身に着ける。今回は、意味の小さい語は飛ばすして聞き、意味のある重要な単語を聞き取ることができる。	
	事前学修	Lesson12を復習すること。単語をあらかじめ調べておいてください。	30分
	事後学修	Lesson12の重要表現の確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lesson12 Trading Partnership	グローバル化と保護主義について考えましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる重要なテクニックを身に着ける。単語をかたまりとしてとらえることが出来る。	
	事前学修	重要表現の確認。意味の不明な単語をあらかじめ調べておいてください。	30分
	事後学修	授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
8	Lesson13 Japanese Interpretation of Foreign Customs	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	キーワードを速く見つけ、発話内容の真意を理解する。到達目標①②③にかかわるリスニング力を身に着ける。	
	事前学修	重要表現の確認。要点や目標を読んでおいてください。	30分
	事後学修	Develop Your Vocabularyの確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
9	Lesson13 Japanese Interpretation of Foreign Customs	日本で解釈された海外の文化や習慣について、考えましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる読解力を付けることが出来る。スキミングテクニックを駆使して早く読むことができる。	
	事前学修	意味の不明な単語をあらかじめ調べておいてください。	30分
	事後学修	授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
10	Lesson14 Luxury Tax	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわるリスニング力を身に着ける。英語のかたまりで意味を把握する。	
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。	30分
	事後学修	重要単語の確認。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
11	Lesson14 Luxury Tax	一部の高額商品について、特別な税金を課すべきでしょうか。考えましょう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる<頭で英語に慣れる：文法力・語彙力を生かす> ことができる。	
	事前学修	重要表現の確認。意味の不明な単語をあらかじめ調べておいてください。	30分
	事後学修	授業の要点をまとめておくこと。授業内で学習した単語を覚えてください。	30分
12	Lesson15 Space Travel	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわるリスニング力を身に着ける。ネイティブのスピードに慣れる	
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった点などは、書きとめて置き、今後の対策をねること。学習した単語を覚えてください。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lesson15 Space Travel	宇宙旅行が将来的に手軽になった場合、利用したいですか？ 安全面、料金の問題がクリアになってきた昨今、皆さんは宇宙旅行は楽しみにしていますか？	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる読解力を高める。＜頭で英語に慣れる：文法力・語彙力を生かす＞ ことができる。	
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。頻出単語を覚えてください。	30分
14	Lesson16 Local Food	重要表現の確認をします。 Listening	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわるリスニング力を高める ネイティブのスピードに慣れる	
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。	30分
	事後学修	わからなかった点は、教科書を確認しましょう。間違えた箇所やあやふやな箇所はノートにまとめておきましょう。	30分
15	Lesson16 Local Food	速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③にかかわる読解力を高める 目標＜頭で英語に慣れる：文法力・語彙力を生かす＞ ことができる。	
	事前学修	意味の不明な単語を確認しておくこと。	30分
	事後学修	重要表現はまとめておきましょう。	30分

科目名	TOEFL II B	担当者	森下 正昭	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 500点以上を取得するために必要な標準的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な標準的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 500点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOFEL IIAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	標準的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								2	2		
②	文法的に正しい英文を完成させるために、標準的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								2	2		
③	標準的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験・期末試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL ITP	Mark D. Stafford & Chizuko Tsumatori	Cengage Learning	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール(morishita.masaaki@nihon-u.ac.jp)やGoogle Classroomにて質問や相談に対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の概要、成績評価方法、事前・事後学習の方法、TOEFL ITPの内容等について解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式と授業の概要を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、疑問点があれば次週に質問ができるように整理しておく。	30分
2	Reading - Unit 07: Financial Crisis	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
3	Reading - Unit 07: 関係詞	関係詞に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
4	Listening - Unit 08: Conversation between a Professor and a Student	会話の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会話の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	CDで会話を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
5	Listening - Unit 08: 準動詞	準動詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、準動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
6	Reading - Unit 09: Native American	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Reading - Unit 09: 受動態	受動態に関する問 題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標② に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答 し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
8	中間試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期前半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
	事前学修	後期前半の授業内容の総復習をしておく。	40分
	事後学修	後期前半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	20分
9	Listening - Unit 10: Civil War	講義の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	CDで講義を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
10	Listening - Unit 10: 前置詞	前置詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、前置詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
11	Reading - Unit 11: Environmental Problem	本文の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、長文の意味を正確に把握し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	本文を読み、Try the TOEFL Test!とVocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
12	Reading - Unit 11: 現在完了	現在完了に関する問題提起と解説。Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在完了に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	Building Reading Skills!とTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Listening - Unit 12: Astronomy	講義の解釈と、Try the TOEFL Test!およびVocabulary Check!の解答・解説。ペアでSpeakingの練習。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の意味を正確に把握し、自分で滑らかに発音することができ、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	CDで講義を聴き、Try the TOEFL Test!、Building Listening Skills!、Vocabulary Check!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
14	Listening - Unit 12: 疑問詞	疑問詞に関する問題提起と解説。Try the TOEFL Test!の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、疑問詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	One Point GrammarとTry the TOEFL Test!を解答し、わからない単語の意味を辞書で調べ、理解できない文章や問題を把握しておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に理解できなかった箇所や間違えた問題を見直す。	20分
15	期末試験と解説	授業内試験を実施し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期後半に身につけた知識を活用して、試験問題に正確に解答することができる。	
	事前学修	後期後半の授業内容の総復習をしておく。	50分
	事後学修	後期後半の学習において理解できなかった箇所について、その解釈を再確認する。	10分

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
後期のTOEFLⅢBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	内容理解確認の小テストを行う。 授業の内容に関する意見・コメントの提示。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題、小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません。Googl Classroom に資料をアップロードします。				

【オフィスアワー】
金曜日、授業後の教室、本館講師室。niwayama.yasukoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFLとはどのような試験なのか。	他の資格試験と比較しながらTOEFL－ITPについて解説し、授業方法、評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、これまでの英語学習についてまとめておくこと。	30分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し学習の計画を立てる。	30分
2	TOEFLの解説①（§1 Listening）	リスニングの問題の傾向の演習と解説。リスニング演習の語彙・内容理解のテストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、リスニングの問題の傾向を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。	30分
	事後学修	授業で使用されたプリントの語彙・文法事項を復習する。	30分
3	TOEFL の解説②（§2 Structure and Written Expression）	TOEFL－ITPの文法問題の傾向の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文法問題の傾向を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	配布されたプリント1（心理学関連の英文）の語彙と文法の重要点を調べる。	30分
	事後学修	プリント1の語彙を覚え、内容の確認と文法事項の復習をする。	30分
4	TOEFLの解説③（§3 Reading）	TOEFLの解説③（§3 Reading）、プリント1（心理学）演習①：語彙・イディオム、専門分野の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、心理学分野の語彙・イディオム、専門用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント1（心理学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。	30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
5	リスニング：Part A、リーディング（心理学）演習②	リスニングPart A の傾向（話の核となるキーワード）、プリント1（心理学）の演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングPart A の傾向と心理学関係の知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント1（心理学）の文の構造を予習しておく。	30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。	30分
6	リスニング：Part B（設問の予想）、プリント1（心理学）の演習③	リスニング：Part B の傾向（設問の予想）、プリント1（心理学）の演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（設問の予想）、心理学に関連する文のバックグラウンドを理解でき、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント1（心理学）の内容のバックグラウンドを調べる。	30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	リスニング：Part C の傾向（繰り返しられる情報）、文法問題①（品詞）		リスニング：Part C の傾向（繰り返しられる情報）、プリント2（文法問題①：品詞）の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（繰り返しられる情報）、プリント2（文法問題1）に関する知識を身につけ、それに関連する文法問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント2（文法問題1）の語彙・文法事項を予習しておく。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分
8	リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①		リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）、プリント3（経済学）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント3（経済学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分
9	リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造		リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）、プリント3（経済学）の演習②：文の構造を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント3（経済学）の文の構造を予習しておくこと。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分
10	リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③		リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）、プリント3（経済学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント3（経済学）のバックグラウンドを調べる。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。		30分
11	リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）の演習		リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）の演習と解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）、プリント4（文法問題2：動詞）を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント4（文法問題2）の語彙・文法事項を調べる。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。		30分
12	リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①		リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①：語彙・イディオム、専門用語の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part B の傾向（イントネーション）、プリント5（アメリカ史）演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解し身につけ、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント5（アメリカ史関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造	リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造の解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング：Part C の傾向（問題の予測）、プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント5（アメリカ史）の文の構造について予習しておく。	30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。	30分
14	プリント5（アメリカ史）演習③ バックグラウンドの理解	プリント5（アメリカ史）演習③：バックグラウンドの解説。授業の内容の理解確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アメリカ史のバックグラウンドおよび重要表現を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント5（アメリカ史）の内容のバックグラウンドを調べる	30分
	事後学修	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
15	TOEFL-ITP対策：速読	振り返りのための小テストとその解説。	
	この回の到達目標	到達目標の②③に関連して、TOEFL-ITP形式の問題を解くことができる。	
	事前学修	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、授業中の演習問題に間違えた問題をもう一度解く。前期の授業の総括をする。	30分

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期終了科目。同講師による同曜日・同時限のTOEFL IIIBは開講されないため、履修の際には注意すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。									3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。									3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google classroom上で課題の解説，質疑・応答を行なう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Power-up Trainer for the TOEFL® ITP	Mark D. Stafford他	センゲージ ラーニング	2010	教科書	必携
総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated	い い ず な 書 店 編 集 部	い い ず な 書 店	2018	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。メールアドレス:satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFL-ITP/iBTとは？	TOEFL-ITP/iBTの概要、授業の概要、授業の目的、授業方法、成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITP/iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。また、本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	文型と品詞	文型と品詞について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文型と品詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	事前に配布された資料を熟読しておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	態（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 11（態（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 11（態（1））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
4	態（2）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 12（態（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 12（態（2））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
5	TOEFL ITP対策	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 09 (Native Americans) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.68-69) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。	
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 09 (Native Americans) のBuilding Reading Skills!, Try the TOEFL Test! (p.68-69) を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
6	完了形（1）	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 6（完了形（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 6（完了形（1））のExerciseを解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	完了形（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 7（完了形（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 7（完了形（2））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
8	TOEFL ITP対策		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 11（An Environmental Problem）のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test!（p.79-81）の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。		
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 11（An Environmental Problem）のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test!（p.79-81）を解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
9	前置詞（1）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 44（前置詞（1））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 44（前置詞（1））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
10	前置詞（2）		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 45（前置詞（2））のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 45（前置詞（2））のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
11	TOEFL ITP対策		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 10（The Civil War）のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test!（p.74-75）の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。		
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 10（The Civil War）のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test!（p.74-75）を解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
12	疑問詞		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 31（疑問詞と疑問文）のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞と疑問文に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 31（疑問詞と疑問文）のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	TOEFL ITP対策		『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 10 (Astronomy) のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test! (p.86-87) の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際にTOEFL-ITPの問題を解くことができる。		
	事前学修	『Power-up Trainer for the TOEFL® ITP』のUnit 10 (The Civil War) のOne Point Grammar, Try the TOEFL Test! (p.86-87) を解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
14	関係詞 (1)		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 24 (関係詞 (1)) のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 24 (関係詞 (1)) のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分
15	関係詞 (2)		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 25 (関係詞 (2)) のExerciseの解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 25 (関係詞 (2)) のExerciseを解いておく。		30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。		30分

科目名	TOEFL ⅢB	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-ITP 550点以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リスニング・リーディングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-ITP 550点以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期のTOEFLⅢAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	理解度確認の小テストを行う。 授業内容の意見・コメントの提示を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	発展的なレベルの英文の内容を正確に聞き取ることができる。								3	3		
②	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								3	3		
③	発展的なレベルの英文の内容を短時間で的確に把握するために英語の読解力を活用することができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	10	20	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	20	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、授業内課題の解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません。				

【オフィスアワー】
金曜日、授業後の教室、本館講師室にて質問等を受け付けます。niwayama.yasuko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEFLとはどのような試験なのか	TOEFL－ITPの概要、事前・事後学習の方法、成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、TOEFL－ITPの各セクションの問題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み授業の全体像を把握し、これまでの英語学習についてまとめておくこと。	30分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、英語学習の計画を立てる。	30分
2	TOEFLの解説①（§ 1 Listenin	TOEFLのリスニングの問題の傾向の演習と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFLのリスニングの問題の傾向を知りそれに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。	30分
	事後学修	リスニングを復習し、プリントの語彙・文法事項を復習する。	30分
3	TOEFL の解説②（§ 2 Structure and Written Expression）	TOEFL の解説②（§ 2 Structure and Written Expression）：TOEFL の文法問題の演習と解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連し、TOEFL の文法問題の傾向を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	配布されたプリント 1（社会学関連の英文）の語彙を調べる。	30分
	事後学修	配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項の復習をする。	30分
4	TOEFLの解説③（ § 3 Reading ）、プリント 1（社会学）演習①：	TOEFLの解説③（ § 3 Reading ）：プリント 1（社会学）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語の解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、TOEFLのリーディングの社会学の内容の文の語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を身に付け、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント 1（社会学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
	事後学修	返却された小テストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
5	リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り）、プリント 1（社会学）の演習②：文の構造の理解	リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り、プリント 1（社会学）の演習②：文の構造についての解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り）、プリント 1（社会学）の演習②：文の構造を理解して、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント 1（社会学）の文の構造を予習しておくこと。	30分
	事後学修	リスニングの復習、返却された小テストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
6	リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント 1（社会学）の演習③：バックグラウンドの理解	リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント 1（社会学）の演習③：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part B の傾向（疑問詞）、プリント 1（社会学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント 1（社会学）の内容のバックグラウンドを調べる。	30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、プリント2（文法問題：接続詞）の演習		TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、TOEFLーITP の文法問題（接続詞）の演習と解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）、TOEFLーITP の文法問題を理解し、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント2（文法問題）の語彙・文法事項を予習しておくこと。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分
8	リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①		リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語の解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニングPart A の傾向（否定の表現）、プリント3（医学・健康）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われている用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント3（医学・健康問題関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分
9	リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の演習②		リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の演習②：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）、プリント3（医学・健康）の文のバックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント3（医学・健康）の文の構造を予習しておくこと。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分
10	リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）の演習		リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）の演習と解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）、プリント4（文法問題2：時制）を理解し、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント4（文法問題2：時制）の語彙・文法事項を予習しておくこと。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分
11	TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）演習①		TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語の解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）、プリント5（環境問題）の中の語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント5（環境問題に関連する英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分
12	リスニング Part Bの傾向、プリント5（環境問題）演習②		リスニング Part B の傾向、プリント5（環境問題）演習②：バックグラウンドの解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リスニング Part B の傾向、プリント5（環境問題）の文のバックグラウンドを理解し、それに関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	プリント5（環境問題）の文の構造を予習しておくこと。		30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3：比較）	リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3：比較）の演習と解説。理解度確認テスト。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）、プリント6（文法問題3）を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	プリント6（文法問題3）の語彙・文法事項を予習しておくこと。	30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
14	TOEFL-ITP対策（1）リスニング問題、文法問題	今までの演習の理解度確認テストと解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEFL-ITPのリスニング問題、文法問題を身につけ、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	これまでのプリントと小テストの総復習。	30分
	事後学修	リスニングの復習、返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。	30分
15	TOEFL-ITP対策（2）リスニング問題、リーディング問題	TOEFL-ITPのリスニング問題、リーディング問題の演習と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-ITPのリスニング問題およびリーディング問題の形式を理解し、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、返却されたテストの復習をして、間違えたところをもう一度見直す。	30分

科目名	TOEFL IVA (iBT)	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リーディング・ライティングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期終了科目(後期の継続履修はできません) 前期木曜1限のTOFEL IVBと併せて履修すること。Criterionを副教材として受講すること(受講料は自己負担)。

【授業方法】
Zoom授業と授業内課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								4	4		
②	英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。								4	4		
③	パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴などを含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(criterion)	到達目標①③が達成しているかを、criterionにより評価する。	10		10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Academic Writing Strateries	中谷安男	金星堂	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、クライテリオン受講料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション（TOEFL-iBTとは）	TOEFL-iBTの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、事前・事後学習の方法、成績評価の方法や参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 1 Flow of sentences）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
3	アカデミック・ライティング	パラグラフリーディング（Chapter 2 Basic paragraph）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 3 Developing coherence）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	アカデミック・ライティング	パラグラフリーディング（Chapter 6 Generating Ideas）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	パラグラフリーディング	パラグラフリーディング（Chapter 7 How to attract your readers）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アカデミック・ライティング手法	パラグラフフリーディング (Chapter 8 Supporting your ideas)、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	アカデミック・ライティング手法	パラグラフフリーディング (Chapter 9 Concluding paragraphs)、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	アカデミック・ライティング手法	パラグラフフリーディング (Chapter 10 Comparison and contrast paragraphs)、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	アカデミック・ライティング手法	パラグラフフリーディング (Chapter 11 Essay structure)、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	クライテリオン(1)	クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	クライテリオン(2)	クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	TOEFL IVB	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得するために必要な発展的な語彙・文法の知識を身につける。同時に、リーディング・ライティングの方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際研修や交換留学を実現するために必要な発展的な英語の技能を修得する。具体的には、TOEFL-iBT 79 (TOEFL-ITP550点) 以上を取得することのできる能力を身につける。

【履修条件】
前期終了科目。水曜4限のTOFEL IVAと併せて履修すること。Criterionを副教材として受講すること（受講料は自己負担）。

【授業方法】
Zoom授業と授業内課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。								4	4		
②	英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。								4	4		
③	パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴などを含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(criterion)	到達目標①③が達成しているかを、criterionにより評価する。	10		10								20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Writing Frontiers	熊本、大井、上村、Sano、松本	金星堂	2017	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	プリント教材併用、、クライテリオン受講料（5回で1200円）は受講者負担。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション (TOEFL-iBTとは)	TOEFL-iBTの概要、授業のテーマや内容、授業スケジュール、事前・事後学習の方法、成績評価の方法や参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、TOEFL-iBTの各セクションの出題形式を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し理解を深める。	50分
2	パラグラフからエッセイへ	Chapter 4 (Different Varieties of English)とアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し理解を深めると同時に、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	プロセス・ライティング/リーディング	Chapter 7 (Introducing your hometown)とアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
4	プロセス・ライティング	Chapter 9 (Why are they so popular?) とアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的な文章を完成させるために、理由を表すつなぎ言葉などの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
5	パラグラフのアウトライン	Chapter 11 (Comparing Shogi and Chess) とアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
6	パラグラフからエッセイへ/パラグラフ・リーディング	パラグラフ・リーディング (Chapter 12 Things can be the same; things can be different) とアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パラグラフからエッセイへ/パラグラフ・リーディング	パラグラフ・リーディング (Chapter 12 Things can be the same; things can be different) とアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	パラグラフからエッセイへ/パラグラフ・リーディング	パラグラフ・リーディング (Chapter 13 Expressing your opinion) とアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英文の内容を論理的に捉えるために読解力を活用することができる。到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	アカデミック・ライティング手法	Chapter 14 International students at various universities) とアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文法的に正しい英文を完成させるために発展的なレベルの語彙・文法の知識を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	アカデミック・ライティング手法	エッセイ・パターンとアカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	クライテリオン(1)	クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
12	クライテリオン(2)	クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、パラグラフの構成と展開を考慮に入れて、自分の意見を明確な英文で表現することができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	国際研修(英) I A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
英語のみの授業と成ります。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。講義および演習形式。This class will rely on critical discussions and participation from students to increase opportunities to use English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	海外の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	海外の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		15	15								30
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材は先生が配る物と成ります。				

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:50 研究室（9406研究室） joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	First Lesson.	Introduction to the course.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can understand the learning objectives of the course	
	事前学修	Please read the contents of syllabus.	30分
	事後学修	Complete assignment for next class	30分
2	Coherence and Cohesion in Writing	Analyzing articles for coherence.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about recent media while learning about coherence in writing.	
	事前学修	Prepare texts and readings	30分
	事後学修	Complete assignment for next class	30分
3	Coherence and Cohesion in Writing	Writing a coherent summary	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking while writing a coherent summary	
	事前学修	Prepare texts and readings	30分
	事後学修	Complete assignment for next class	30分
4	Rhetorical Analysis 1	Rhetorical analysis of an advertisement. Identifying rhetorical strategies.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking and rhetorical analysis of an advertisement.	
	事前学修	Prepare texts and readings	30分
	事後学修	Complete assignment for next class	30分
5	Rhetorical Analysis 1	Writing your rhetorical analysis.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking and writing their rhetorical analysis of an advertisement.	
	事前学修	Prepare texts and readings	30分
	事後学修	Complete assignment for next class	30分
6	Rhetorical Analysis 1	Peer review	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking and provide feedback and analysis of classmates' rhetorical analyses of an advertisement.	
	事前学修	Prepare texts and readings	30分
	事後学修	Complete assignment for next class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Rhetorical Analysis 1		Completing rhetorical analysis 1	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking and writing their rhetorical analysis of an advertisement.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
8	Rhetorical Analysis 2		Summarize opinion news cast	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
9	Rhetorical Analysis 2		Analysis of opinion news casts	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking and rhetorical analysis of an opinion news cast		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		60分
10	Rhetorical Analysis 2		Identifying rhetorical strategies in opinion news casts	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking and rhetorical analysis of an opinion news cast		
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.		30分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.		30分
11	Presentation Skills		Finding an authentic text for rhetorical analysis	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods		
	事前学修	Continue with Presentations.		30分
	事後学修	Continue with Presentations.		30分
12	Presentation Skills		Analyzing your text for rhetorical strategies	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods		
	事前学修	Continue with Presentations.		30分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Presentation Skills		Preparing your presentation of the rhetorical strategies used in the text	
	この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分
14	Presentation Skills		Presenting your rhetorical analysis of authentic writing to class	
	この回の到達目標	As per SB0s ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Continue with Presentations.		60分
15	Semester Assessment		Presenting your rhetorical analysis of authentic writing to class	
	この回の到達目標	As per SB0s①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Continue with Presentations.		60分
	事後学修	Reflect on the semester		30分

科目名	国際研修(英) I B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
This class is for study abroad. In this course you will develop skills in analytical thinking, reading, writing, and discussion. These skills will help you in a study abroad context and English learning environments.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
To help prepare students for study abroad, this class will be in English only to improve speaking, listening, reading and writing in English as well as critical thinking and intercultural awareness.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。講義および演習形式。This class will rely on critical discussions and participation from students to increase opportunities to use English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								2	2	2	2
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて英語の文章が書ける								2	2	2	2
③	英語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								2	2	2	2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標②③にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		15	15								30
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②③にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:50 研究室（9406研究室） joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Review Rhetorical Triangle 1		Summarizing what we learned last semester	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Review material from last semester.		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
2	Rhetorical Triangle 2		Discussing analysis of texts and the role of authorship and audience	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
3	Rhetorical Triangle 2		Analyzing film	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
4	Rhetorical Triangle 2		Analysis of a short film	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
5	Rhetorical Triangle 2		Analysis of a short film (annotated)	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
6	Rhetorical Triangle 2		Analysis of a short film (annotated)	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Rhetorical Triangle 2		American and Japan: How audiences differ	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
8	Rhetorical Triangle 2		American and Japan: How audiences differ: Case studies	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
9	Rhetorical Triangle 2		Choosing a longer film for analysis	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
10	Rhetorical Triangle 2		Film: Comparative Analysis (Japanese perspective)	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
11	Rhetorical Triangle 2		Film: Comparative Analysis (Japanese perspective)	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分
12	Rhetorical Triangle 2		Film: Comparative Analysis (American perspective)	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts and readings		30分
	事後学修	Complete assignment for next class		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Rhetorical Triangle 2	Film: Comparative Analysis (American perspective)	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts and readings	30分
	事後学修	Complete assignment for next class	30分
14	Rhetorical Triangle 2	discussions	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts and readings	30分
	事後学修	Complete assignment for next class	30分
15	Rhetorical Triangle 2	Course wrap-up and reflections	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment.	
	事前学修	Revise for the semester exam	30分
	事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	石川 太郎	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
前期・後期それぞれ学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。 注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
対面授業。オンデマンドとの併用は行わない。実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Primary Trainere for the TOEIC L&R test	Junnnosuke Hamasaki	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	ガイダンス（小テスト実施予定）	
	この回の到達目標	今後の授業の進め方の説明	
	事前学修	前年度の授業の復習	30分
	事後学修	小テストの復習	30分
2	TOEIC: pre-test実施	TOEICテストの概要（実際に問題を解いてもらう）	
	この回の到達目標	TOEIC試験形式に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	part 1～3	Unit 1: TOEIC L&R テストの全体像を知る 1:リスニングセクション	
	この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前2回の授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	part4～7	Unit 1: TOEIC L&R テストの全体像を知る 2:リーディングセクション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	part 1～3	Unit 2: 人物の動作に注目する 1:リスニングセクション	
	この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	part4～7	Unit 2: 人物の動作に注目する 2:リーディングセクション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	part 1～3		Unit 3: 疑問詞を聞き取る 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
8	part4～7		Unit 3: 疑問詞を聞き取る 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
9	part 1～3		Unit 4: 物の位置・状態を表す表現を身に付ける 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
10	part4～7		Unit 4: 物の位置・状態を表す表現を身に付ける 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
11	part 1～3		Unit 5: 話がかみ合う応答を選ぶ 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
12	part4～7		Unit 5: 話がかみ合う応答を選ぶ 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	part 1~3		Unit 6: 設問を先読みする 1:リスニングセクション
	この回の到達目標	リスニング・セクションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
14	part 1~3 and part4~7		これまでの授業中で扱いきれなかった項目を扱う集中授業
	この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	前回までの授業内容の復習	30分
	事後学修	全体の復習	30分
15	part 1~3 and part4~7		前期授業のまとめ
	この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	総復習	30分
	事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を義務付ける。（受験料及び教材費は自己負担）

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMateの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Score Booster for the TOEIC Test Intermediate』	Naoyuki Bamba	金星堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Classroom、メールで対応します。アドレス（suzuki.fusako@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション Unit1 旅行に関連する英語表現の聞き取り と名詞の種類①基礎		授業の進め方、TOEICの概要を説明しながら、テキストUnit 1 のStep2までを解説。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解することができる。名詞の働きを理解する。		
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。TOEICがどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。		30分
	事後学修	TOEICテストについてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。 オリエンテーションのおさらいをする。名詞の働きを復習する。		30分
2	Unit 1 旅行に関連する英語表現の聞き取り と名詞の種類②応用		旅行に関連する英語と名詞について理解し、Unit 1 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、旅行に関する聞き取りの問題と名詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 の単語を覚えて、名詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	名詞の使い方を復習し、旅行に関連する表現を復習する。		30分
3	Unit 2 食事に関連する英語表現の聞き取り と形容詞①基礎		食事に関連する英語表現と形容詞の種類と用法、テキストUnit 2 のStep2	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞に関連する読解問題と食事に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 2 の単語を覚えて、形容詞の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	形容詞の使い方を復習し、食事に関連する表現を復習する。		30分
4	Unit 2 食事に関連する英語表現の聞き取り と形容詞の種類②応用		食事に関連する英語と形容詞の種類と用法、Unit 2 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、食事に関する聞き取りの問題と形容詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 2 の単語を覚えて、形容詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	形容詞の使い方を復習し、食事に関連する表現を復習する。		30分
5	Unit 3 メディアに関連する英語表現の聞き 取りと副詞①基礎		メディアに関連する英語表現と副詞の種類と用法、テキストUnit 3 のStep2	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、副詞に関連する読解問題とメディアに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 3 の単語を覚えて、副詞の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	副詞の使い方を復習し、メディアに関連する表現を復習する。		30分
6	Unit 3 メディアに関連する英語表現の聞き 取りと副詞の種類②応用		メディアに関連する英語と副詞の種類と用法について理解し、Unit 3 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、メディアに関する聞き取りの問題と副詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 3 の単語を覚えて、副詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。副詞の使い方を復習し、メディアに関連する表現を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 4 エンターテインメントに関連する英語表現の聞き取りと時制①基礎		エンターテインメントに関連する英語表現と時制、テキストUnit 4 のStep2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制に関連する読解問題とエンターテインメントに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 4 の単語を覚えて、時制の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	時制の使い方を復習し、エンターテインメントに関連する表現を復習する。		30分
8	Unit 4 エンターテインメントに関連する英語表現の聞き取りと時制②応用		エンターテインメントに関連する英語と時制について理解し、Unit4のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、エンターテインメントに関する聞き取りの問題と時制に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 4 の単語を覚えて、時制の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。時制を復習し、エンターテインメントに関連する表現を復習する。		30分
9	Unit 5 ショッピングに関連する英語表現の聞き取りと主語と動詞の一致①基礎		ショッピングに関連する英語表現と主語と動詞の一致、テキストUnit 5 のStep2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語と動詞の一致とショッピングに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 5 の単語を覚えて、主語と動詞の一致について読む。課題を行う。		30分
	事後学修	主語と動詞の一致について復習し、ショッピングに関連する表現を復習する。		30分
10	Unit 5 ショッピングに関連する英語表現の聞き取りと主語と動詞の一致②応用		ショッピングに関連する英語と主語と動詞の一致について理解し、Unit 5 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ショッピングに関する聞き取りの問題と主語と動詞の一致に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 5 の単語を覚えて、主語と動詞の一致の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。主語と動詞の一致について復習し、ショッピングに関連する表現を復習する。		30分
11	Unit 6 クライアントに関連する英語表現の聞き取りと能動態と受動態①基礎		クライアントに関連する英語表現と能動態と受動態の用法、テキストUnit 6 のStep2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、能動態と受動態に関連する読解問題とクライアントに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 6 の単語を覚えて、能動態と受動態の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	能動態と受動態の使い方を復習し、クライアントに関連する表現を復習する。		30分
12	Unit 6 クライアントに関連する英語表現の聞き取りと能動態と受動態②応用		クライアントに関連する英語と能動態と受動態について理解し、Unit 6 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、クライアントに関する聞き取りの問題と能動態と受動態に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 6 の単語を覚えて、能動態と受動態の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。能動態と受動態の使い方を復習し、クライアントに関連する表現を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Unit 7 就職に関連する英語表現の聞き取りと動名詞と不定詞①基礎		就職に関連する英語の特徴と動名詞と不定詞、Uit 7 のStep2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動名詞と不定詞詞に関連する読解問題と就職に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 7 の単語を覚えて、動名詞と不定詞の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	動名詞と不定詞の使い方を復習し、就職に関連する表現を復習する。		30分
14	Unit 7 就職に関連する英語表現の聞き取りと動名詞と不定詞②応用		就職に関連する英語と動名詞と不定詞について理解し、Unit 7 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、就職に関する聞き取りの問題と動名詞と不定詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit7の単語を覚えて、動名詞と不定詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	動名詞と不定詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。		30分
15	前期のふりかえり（テストとまとめ）		前期の総復習のための授業内テストと前期学習内容の振り返り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで前期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。		
	事前学修	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。		30分
	事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考える。		30分

科目名	TOEIC I A	担当者	藤本 淳史	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】		
オンデマンド授業。TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 ①Google Classroomにアクセスしてください（アクセスコードなどは初回授業前にポータルでお伝えします）。 ②教科書のページを開き、Google Classroomの動画を視聴し、ワードファイルに記入していきます。 ③そのワードファイルに記入した答えなどをGoogle Classroomにアップロードしてもらいます。 *第一回目の授業で授業方法や授業計画についてGoogle Classroomで説明します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomで解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
fujimoto.atsushill@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション Unit 01 人物の動作と状態 (Part 1) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	Unit 01 表・用紙 (Part 7)	Unit 01 表・用紙 (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの表・用紙 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの疑問詞を使った疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの広告 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3)	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの日常場面での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	Unit 03 品詞 (Part 5)	Unit 03 品詞 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの品詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4)	・ClassMATE Mini test 1 Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのアナウンス・ツアー (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	Unit 04 動詞 (Part 5)	・ClassMATE Mini test 2 Unit 04 動詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの動詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	Unit 05 物の状態と位置 (Part 1)	・ClassMATE Mini test 3 Unit 05 物の状態と位置 (Part 1) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの物の状態と位置 (Part 1) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	Unit 05 チャット (Part 7)	・ClassMATE Mini test 4 Unit 05 チャット (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのチャット (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2)	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7)	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの手紙・Eメール (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 07 電話での会話 (Part 3)	Unit 07 電話での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの電話での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATEの課題にもう一度トライする。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5)	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5) 演習と解説をします。 前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・関係代名詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	ふり返り	前期で学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
	事後学修	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業（動画配信・課題配信） GoogleFormsを利用して出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	GoogleClassroomなどを使って、アクティブ・ラーニングを実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleFormsを使った課題の場合は、模範解答を見て見直してください。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Primary Trainer for the TOEIC L&R Test（ゼロから始めるTOEIC L&Rテスト対策）』	濱崎 潤之輔	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【目標の設定】	授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認をする。	30分
2	【単語テスト】 【TOEIC L&Rテストの全体像を知る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	【単語テスト】 【TOEIC L&Rテストの全体像を知る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 1について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
4	【単語テスト】 【人物の動作に注目する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
5	【単語テスト】 【人物の動作に注目する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 2について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
6	【単語テスト】 【疑問詞を聞き取る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【単語テスト】 【疑問詞を聞き取る】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 3について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
8	【単語ノート点検】 【ClassMATE】 【物の位置・状態を表す表現を身に付ける】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
9	【ClassMATE】 【物の位置・状態を表す表現を身に付ける】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 4について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
10	【ClassMATE】 【話がかみ合う応答を選ぶ】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
11	【ClassMATE】 【話がかみ合う応答を選ぶ】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 5について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
12	【ClassMATE】 【設問を先読みする】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートについて、⑥～⑩までの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【ClassMATE】 【設問を先読みする】	ClassMATE教材の復習。教科書Unit 6について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	ClassMATE教材の復習をし、分からない単語や文法事項を確認しておく。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分
14	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	学習範囲の総復習	60分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	【フィードバック】	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）原則通年で履修すること。

【授業方法】		
対面授業 テキストに沿って1授業で1 Unit終える進度(予定より進度が遅くなることがありますのでご了承ください)。 授業内で事前に解いてきた答えを読んでもらい、英語を発する機会を多くとる。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ClassMATEやGoogle Classroomを用いてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Seize the Keys of the TOEIC L&R Test	安丸雅子、渡邊晶子、砂川典子、高森暁子、十時康、Andrew Zitzmann	金星堂	2020	教科書	必携
TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。osumi.yurikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction of this course	TOEICがどのような目的の試験か、またこの半期の授業の説明をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、資格試験TOEICの概要を理解し、毎日少なくとも30分は英語学習に取り組む自覚を持つことができる。	
	事前学修	この授業のシラバスを読み、自分の最新のTOEICスコアを確認する。 TOEIC L&R TESTのWeb Siteに目を通す。	30分
	事後学修	テキストのIntroductionをCheckLinkを活用し、解答する。	30分
2	Introduction & Unit 1 Daily Life 文型・品詞	Introductionの解説とDaily Lifeに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Daily Lifeに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を、文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 1の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 1を解く。	60分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 1 を毎日読み上げる。 Unit 1の音読を含めた復習。	60分
3	Unit 2 Shopping 代名詞・疑問詞	Shoppingに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Shoppingに関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を、文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 2の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 2 を解く。	90分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 2 を毎日読み上げる。 Unit 2 の音読を含めた復習。	60分
4	Unit 3 Parties & Events 形容詞・副詞	Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 3 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 3を解く。	90分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 3 を毎日読み上げる。 Unit 3の音読を含めた復習。	60分
5	Unit 4 Traffic & Travel 前置詞	Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Parties & Events に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 4 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 4 を解く。	90分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 4 を毎日読み上げる。 Unit 4 の音読を含めた復習。	60分
6	Unit 5 Office Work 接続詞	Office Work に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Office Work に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 5 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 5 を解く。	90分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 5 を毎日読み上げる。 Unit 5 の音読を含めた復習。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 6 Marketing & ICT 名詞と動詞の一致	Marketing & ICT に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Marketing & ICT に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	Class Mateに取り組む、小テストに備える。 テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 6 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 6 を解く。	130分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 6 を毎日読み上げる。 Unit 6 の音読を含めた復習。	60分
8	Review Test 1	今までUnit 1-6 で学んできた英語力でTOEIC模擬テストに取り組む実力アップを実感する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Review Test 1 を解き、合っているところ、間違えたところ、共に理解する。	
	事前学修	Class Mateに取り組む、小テストに備える。 テキスト巻末のKey VocabularyのUnit 1-6 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 Unit 1-6を音読を取り入れて復習。	150分
	事後学修	Review Testの音読を取り入れた復習。 Key VocabularyのUnit 1-6 の音読し、全単語を発音、意味と一致させる。	60分
9	Unit 7 Production & Logistics 助動詞	Production & Logistics に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Production & Logistics に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	Class Mateに取り組む、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 7 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 7 を解く。	130分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 7 を毎日読み上げる。 Unit 7 の音読を含めた復習。	60分
10	Unit 8 Employment 時制	Employment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Employment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	Class Mateに取り組む、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 8 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 8 を解く。	130分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 8 を毎日読み上げる。 Unit 8 の音読を含めた復習。	60分
11	Unit 9 Personnel 受動態	Personnel に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Personnel に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	Class Mateに取り組む、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 9 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 9 を解く。	130分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 9 を毎日読み上げる。 Unit 9 の音読を含めた復習。	60分
12	Unit 10 Business 分詞・分詞構文	Business に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Business に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	Class Mateに取り組む、小テストに備える。 Key VocabularyのUnit 10 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 10 を解く。	130分
	事後学修	Key Vocabulary Unit 1-10 を毎日読み上げる。 Unit 10 の音読を含めた復習。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Unit 11 Health & Environment 不定詞・動名詞		Health & Environment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Health & Environment に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key VocabularyのUnit 11 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 11 を解く。	130分
	事後学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key Vocabulary Unit 1-11 を毎日読み上げる。 Unit 11 の音読を含めた復習。	120分
14	Unit 12 Finance 関係詞		Finance に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題に取り組む。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Finance に関するTOEIC形式のListening & Reading 問題を文法的にも理解し、解答できる。	
	事前学修	Key VocabularyのUnit 12 の単語を毎日一回読み上げ、覚える。 CheckLinkを活用してUnit 12 を解く。	130分
	事後学修	Class MateのTOEIC模擬テストに取り組み、TOEIC IPに備える。 Key Vocabulary Unit 1-12 を毎日読み上げる。 Unit 12 の音読を含めた復習。	120分
15	Review Test ②、まとめ		今までUnit 7-12 で学んできた英語力でTOEIC模擬テストに取り組み実力アップを実感する。 禁欲的な英語学習と共に、楽しみながら学ぶ方法を知る。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、Review Test 2 を解き、合っているところ、間違えたところ、共に理解する。 テキストを使う以外の英語の学習法を知り、自分で楽しみながら英語を学び続けられる方法を見つける。	
	事前学修	今まで学んできたUnit 7-12、できればUnit 1-12までを復習。	120分
	事後学修	Unit 1-12 を音読を取り入れて復習し、また楽しみながら学ぶ学習方法(NHK英語講座、映画、英語ドラマ、TED Talk、Democracy Nowなど) を夏季休暇も継続。	60分

科目名	TOEIC I A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライントレーニングのClassMATEを副教材として受験することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で受験すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用し、アクティヴ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC受験、授業内試験、小テスト、クラスメイトポイントで達成度を確認。ユニット毎の小テストを含め、採点結果は返却し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST』TOEIC L&R TESTへの総合アプローチ-BASIC- 成美堂 2021	吉塚弘	成美堂	2021	教科書	必携
『THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST 』Revised Edition 学校語彙で学ぶTOEICテスト単語集	西谷恒志	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問や相談等：machida.junko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当等。企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践の経験を生かします。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		授業の進め方、評価方法、TOEIC概要説明
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、450点獲得の為に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけ、出題問題の傾向に慣れることで、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得する方法を認識できる。	
	事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC L&Rの概要についてWebサイトで調べてみる。	30分
2	模擬テスト		Preliminary Lesson（Pre-test）の問題を理解し、問題を解答、解説を視聴。
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、TOEIC L&R450点獲得の為にリーディングとリスニング英語運用能力を自己分析し、出題問題の傾向を探り、戦略的な勉強計画を構築できる。	
	事前学修	Preliminary Lesson（Pre-test）の問題を解いてみる。 解からない意味の語彙を調べる。	30分
	事後学修	Preliminary Lesson（Pre-test）の間違った箇所の問題を解き直し、確認する。	30分
3	Unit 1 Restaurants		Unit 1: Restaurants (GR: 人称代名詞) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト1実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、Restaurants (GR: 人称代名詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分
4	Unit 2 Entertainment		Unit 2: Entertainment (GR: 不定代名詞) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト2実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、Entertainment (GR: 不定代名詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 2 の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分
5	Unit 3 Business		Unit 3: Business (GR: 再帰代名詞) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト3とCM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、Business (GR: 再帰代名詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 3 の問題を解いてくる。 CM (ClassMATE) の手続きを完了し、準備をする。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分
6	Unit 4 Office		Unit 4: Office (GR: 現在完了形) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト4、CM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、Office (GR: 現在完了形) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 4 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを準備する。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit 5 Telephone		Unit 5: Telephone (GR:動詞 [主語と動詞の一致]) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト5、CM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、Telephone (GR:動詞 [主語と動詞の一致]) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit5 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	Role Play の各自パートの練習をする。	30分
8	Unit 6 Letters & E-mails		Unit 6: Letters & E-mails (GR:形容詞) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト6、CM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、Letters & E-mails (GR:形容詞) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit6 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分
9	Unit 7 Health		Unit 7 :Health (GR:前置詞 [時・期間]) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト7、CM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為にHealth (GR:前置詞 [時・期間]) の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit7 の問題を解いてくる。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
10	Unit 8: The Bank & The Post Office		Unit 8: The Bank & The Post Office (GR:前置詞 [所属・関連]) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト8、CM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、The Bank & The Post Officeの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit8 の問題を解いてくる。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分
11	Unit 9 Employment Unit 10 New Products		Unit 9 Employment /Unit 10 New Products (GR:数量形容詞) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト9、CM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、Employment、New Products の頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit 9,10 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分
12	Unit 11 Daily Life Unit 12 Job Applications		Unit11 Daily Life (GR:接尾辞と品詞一形容詞) / Unit12 Job Applications (GR:比較) を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト10、CM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、Daily Life、Job Applicationsの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit11,12 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 13 Shopping Unit 14 Education	Unit 13 Shopping (GR:受動態)/Unit 14: Education (GR:接続詞 [相関接続詞]) を理解し、それに対応する問題を解答。	
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、Shopping、Educationの頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit13, 14 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。期末テストの準備をする。	30分
14	期末試験 授業の振り返り	授業内筆記試験実施	
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップする。出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得する。	
	事前学修	Unit1~Unit14までの復習をする。	60分
	事後学修	前期授業の学習内容を確認する。	30分
15	まとめと解説	期末試験解説、学習内容のまとめ	
	この回の到達目標	Unit1~Unit14までの学習修得の成果を確認する。	
	事前学修	前期授業の学習内容を確認する。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分

科目名	TOEIC I A	担当者	木村 登志子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 ((ClassMATE))	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Business Encounters	Michael P. Critchley	南雲堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。kimura.toshiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	マスコミ勤務・米国大学院留学・企業翻訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		マスコミ勤務、米国の大学院留学、そして企業翻訳経験をもとに実践的な英会話スキルを学習を進めます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	・TOEIC Listening & Reading Testとは？ ・授業の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	60分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	60分
2	Pre-test	・Pre-testを実施する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testを受験して、自分の実力を確認することができる。	
	事前学修	テキストを事前に入手する。テキストの概要をよく読む。	60分
	事後学修	Pre-testを復習し、わからなかった単語を調べる。	60分
3	Pre-testのふり返り	・Pre-testのListeningを復習する ・Pre-testのListeningの小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testのListeningの復習を通じて、TOEICのListeningの問題形式を習得することができる。	
	事前学修	テキスト付属の音声ファイルを聴く。	60分
	事後学修	Pre-test Listeningの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
4	仕事、職歴①	・Pre-testのReadingを復習する ・Pre-testのReadingの小テスト ・Unit 1 仕事、職歴 — 動詞・五文型①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testのReadingの復習を通じて、TOEICのReadingの問題形式を習得することができる。動詞と五文型、仕事、職歴の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	Pre-testのReading 小テストの勉強をする。	60分
	事後学修	Unit 1のListeningの復習を行い、音読する。	60分
5	仕事、職歴②	・Unit 1 Listeningの小テスト ・Unit 1 仕事、職歴 — 動詞・五文型②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞と五文型、予定の表現を使ったReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、動詞と五文型、予定の表現を使ったReadingの問題を解くことができる。Unit 1の問題を解く。わからない単語、フレーズを調べておく。	60分
	事後学修	Unit 1のReading を復習し、音読する。	60分
6	オフィスでの電話応答①	・Unit 1 Readingの小テスト ・Unit 2 オフィスでの電話応答 — 名詞①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞や数量を使ったLiteningの問題を解くことができる。	
	事前学修	Unit 1 Readingの小テストの勉強をする。	60分
	事後学修	Unit 2のListeningのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	オフィスでの電話応答②		・ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定） ・ClassMATE Mini test 1 ・Unit 2 オフィスでの電話応答 ― 名詞②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞や数量を使ったReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 1の課題をやる。	60分
	事後学修	Unit 2のReadingのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	60分
8	製品の発注①		・ClassMATE Mini test 2 ・Unit 3 製品の発注 ― 形容詞・副詞①
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、命令、依頼、形容詞、副詞を使ったListening問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 2の課題をやる。	60分
	事後学修	Unit 3のListeningのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	60分
9	製品の発注②		・ClassMATE Mini test 3 ・Unit 3 製品の発注 ― 形容詞・副詞②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、命令、依頼、形容詞、副詞を使ったReading問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 3の課題をやる。	60分
	事後学修	Unit 3のReadingのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	60分
10	電話対応での伝言メモ①		・ClassMATE Mini test 4 ・Unit 4 電話対応での伝言メモ ― フレーズ・リーディング①
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フレーズ・リーディングの方法を覚えることができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 4の課題をやる。	60分
	事後学修	Unit 4のListening を復習し、音読する。	60分
11	電話対応での伝言メモ②		・ClassMATE Mini test 5 ・Unit 4 電話対応での伝言メモ ― フレーズ・リーディング②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フレーズ・リーディングを使った問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 5の課題をやる。	60分
	事後学修	Unit 4のListening を復習し、音読する。	60分
12	顧客への接客、セールス		・ClassMATE Mini test 6 ・Unit 5 顧客への接客、セールス ― フレーズ・リーディング③
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フレーズ・リーディングを使った応用問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Week 6の課題をやる。	60分
	事後学修	ClassMATE 模擬テスト(40問) の課題をやる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ClassMATEの復習	・ClassMATEで配信された課題を範囲にテスト形式で復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ClassMATEを復習することで、前期に学んだ解法のテクニックを定着させることができる。	
	事前学修	ClassMATEの課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
14	前期試験とふり返り	・テキストの前期試験 ・プリント課題をやる	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身に付けることができる。	
	事前学修	試験の範囲を勉強する。	60分
	事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	60分
15	前期のふり返り	・テストフィードバック ・前期の授業をふり返る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	前期にテキスト、ClassMATEで学んだところでわからなかったところを調べておく。	60分
	事後学修	夏休み以降のTOEICの自主学習の計画を立てる。	60分

科目名	TOEIC I B	担当者	石川 太郎	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。

【授業方法】
対面授業。オンデマンドとの併用は行わない。実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATRE課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Primary Trainere for the TOEIC L&R test	Junnnosuke Hamasaki	National Geographic Learning	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	part 1～3 and 4～7	前期授業の確認と復習	
	この回の到達目標	前期の授業中に感じたリスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	前期授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
2	part 4～7	Unit 6: 設問を先読みする 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	Unit 6の予習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
3	part 1～3	Unit 7: 文脈を意識する 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
4	part 4～7	Unit 7: 文脈を意識する 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
5	part 1～3	Unit 8: 動名詞とto不定詞を理解する 1: リスニングセッション	
	この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分
6	part 4～7	Unit 8: 動名詞とto不定詞を理解する 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	part 1～3		Unit 9: 手紙の特徴を理解する 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
8	part 4～7		Unit 9: 手紙の特徴を理解する 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
9	part 1～3		Unit 10: 代名詞を理解する 1:リスニングセッション	
	この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
10	part 4～7		Unit 10: 代名詞を理解する 2:リーディングセッション	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
11	part 1～3		Test演習 1 （リスニングセッション中心）	
	この回の到達目標	リスニング・セッションに慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分
12	part 4～7		Test演習 2 （リーディング中心）	
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる		
	事前学修	前回授業の復習		30分
	事後学修	単語、熟語の復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	part 4～7		Test演習 3（文法項目中心）
	この回の到達目標	文法・リーディング問題に慣れる	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	文法事項の復習	30分
14	part 1～3 and 4～7		3回の演習及び授業で扱いきれなかった項目を扱う
	この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	前回授業の復習	30分
	事後学修	単語、熟語、文法の復習	30分
15	part 1～3 and 4～7		後期授業のまとめ
	この回の到達目標	リスニング及びリーディングへの苦手意識の克服	
	事前学修	総復習	30分
	事後学修	自己採点	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を義務付ける。（受験料及び教材費は自己負担）

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMateの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Score Booster for the TOEIC Test Intermediate』	Naoyuki Bamba	金星堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Classroom、メールで対応します。アドレス（suzuki.fusako@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	後期のオリエンテーション Unit 8 人事に関連する英語表現の聞き取り と現在分詞と過去分詞①基礎		後期の授業の進め方、テキストUnit 8 のStep2までを解説。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、現在分詞と過去分詞に関連する読解問題と人事に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。		30分
	事後学修	オリエンテーションのおさらいをする。現在分詞と過去分詞の働きを復習する。		30分
2	Unit 8 人事に関連する英語表現の聞き取り と現在分詞と過去分詞の種類②応用		人事に関連する英語と名詞について理解し、Unit 8 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、人事に関する聞き取りの問題と現在分詞と過去分詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 8 の単語を覚えて、現在分詞と過去分詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	現在分詞と過去分詞の使い方を復習し、人事に関連する表現を復習する。		30分
3	Unit 9 広告・宣伝に関連する英語表現の聞き取り と代名詞①基礎		広告・宣伝に関連する英語表現と代名詞の種類と用法、テキストUnit 9 のStep2	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞に関連する読解問題と広告・宣伝に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 9 の単語を覚えて、代名詞の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	代名詞の使い方を復習し、広告・宣伝に関連する表現を復習する。		30分
4	Unit 9 広告・宣伝に関連する英語表現の聞き取り と代名詞の種類②応用		広告・宣伝に関連する英語と代名詞の種類と用法、Unit 9 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、広告・宣伝に関する聞き取りの問題と代名詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 2 の単語を覚えて、代名詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	代名詞の使い方を復習し、広告・宣伝に関連する表現を復習する。		30分
5	Unit 1 0 会議に関連する英語表現の聞き取り と比較①基礎		会議に関連する英語表現と比較、テキストUnit 1 0 のStep2	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、比較に関連する読解問題と会議に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 0 の単語を覚えて、比較の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	比較の使い方を復習し、会議に関連する表現を復習する。		30分
6	Unit 1 0 会議に関連する英語表現の聞き取り と比較の種類②応用		会議に関連する英語と比較の種類と用法について理解し、Unit 1 0 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、会議に関する聞き取りの問題と比較に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 0 の単語を覚えて、比較の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。比較の使い方を復習し、会議に関連する表現を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 1 1 予算・費用に関連する英語表現の聞き取りと前置詞①基礎		予算・費用に関連する英語表現と前置詞、テキストUnit 1 1のStep2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞に関連する読解問題と予算・費用に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 1の単語を覚えて、前置詞の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	前置詞の使い方を復習し、予算・費用に関連する表現を復習する。		30分
8	Unit 1 1 予算・費用に関連する英語表現の聞き取りと前置詞②応用		予算・費用に関連する英語と時制について理解し、Unit 1 1のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、予算・費用に関する聞き取りの問題と前置詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 1の単語を覚えて、前置詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。前置詞を復習し、予算・費用に関連する表現を復習する。		30分
9	Unit 1 2 オフィスに関連する英語表現の聞き取りと接続詞①基礎		オフィスに関連する英語表現と接続詞、テキストUnit 1 2のStep2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の一致とオフィスに関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 2の単語を覚えて、接続詞について読む。課題を行う。		30分
	事後学修	接続詞の一致について復習し、オフィスに関連する表現を復習する。		30分
10	Unit 1 2 オフィスに関連する英語表現の聞き取りと接続詞②応用		オフィスに関連する接続詞について理解し、Unit 1 2のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オフィスに関する聞き取りの問題と接続詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 2の単語を覚えて、接続詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。接続詞について復習し、オフィスに関連する表現を復習する。		30分
11	Unit 1 3 日常生活に関連する英語表現の聞き取りと前置詞と接続詞の相違①基礎		日常生活に関連する英語表現と前置詞と接続詞の相違の用法、テキストUnit 1 3のStep2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞と接続詞に関連する読解問題と日常生活に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 3の単語を覚えて、前置詞と接続詞の相違を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	前置詞と接続詞の使い方を復習し、日常生活に関連する表現を復習する。		30分
12	Unit 1 3 日常生活に関連する英語表現の聞き取りと前置詞と接続詞の相違②応用		日常生活に関連する英語と前置詞と接続詞の相違について理解し、Unit 1 3のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常生活に関する聞き取りの問題と前置詞と接続詞の相違に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 3の単語を覚えて、前置詞と接続詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。前置詞と接続詞の使い方を復習し、日常生活に関連する表現を復習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Unit 1 4 営業と販売促進に関連する英語表現の聞き取りと関係代名詞①基礎		営業と販売促進に関連する英語の特徴と関係代名詞、Unit 1 4 のStep2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係代名詞に関連する読解問題と営業と販売促進に関する聞き取りの問題と読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 4 の単語を覚えて、関係代名詞の部分を読む。課題を行う。		30分
	事後学修	関係代名詞の使い方を復習し、営業と販売促進に関連する表現を復習する。		30分
14	Unit 1 4 営業と販売促進に関連する英語表現の聞き取りと関係代名詞②応用		営業と販売促進に関連する英語と関係代名詞について理解し、Unit 1 4 のStep3の演習問題の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、営業と販売促進に関する聞き取りの問題と関係代名詞に関連する読解問題を解くことができる。		
	事前学修	テキストUnit 1 1 4 の単語を覚えて、関係代名詞の復習をする。課題を行う。		30分
	事後学修	関係代名詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の復習をする。		30分
15	後期のふりかえり（テストとまとめ）		後期の総復習のための授業内テストと後期学習内容の振り返り。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストの復習テストを受験することで後期に習得した知識やスキルをどれだけ発揮できるか確認することができる。		
	事前学修	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。		30分
	事後学修	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考える。		30分

科目名	TOEIC I B	担当者	藤本 淳史	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomで解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
fujimoto.atsushil1@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4)		Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのUnit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
2	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5)		Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの接続詞・前置詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
3	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2)		Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのYes/No疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
4	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7)		Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
5	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3)		Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ① (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
6	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5)		Unit 10 Part 5の復習 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 5の復習 (Part 5) をする。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 11 留守番電話 (Part 4)	Unit 11 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの留守番電話 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	Unit 11 の文書 (Part 7)	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3)	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ② (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7)	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 7の復習 (Part 7) をする。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2)	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) をする。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6)	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの時制・代名詞・語い問題 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4)	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6)	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのつなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	ふり返り	後期で学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	これまでの内容を復習して後期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
	事後学修	後期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
演習

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	GoogleClassroomなどを使って、アクティブ・ラーニングを実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。									1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleFormsを使った課題の場合は、模範解答を見て見直してください。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Primary Trainer for the TOEIC L&R Test（ゼロから始めるTOEIC L&Rテスト対策）』	濱崎 潤之輔	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
yamashita.takako11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【目標の設定】	授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらい、単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
2	【単語テスト】 【文脈を意識する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 (学習Unitは変更・省略する場合があります)	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	30分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	40分
3	【単語テスト】 【文脈を意識する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 7について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
4	【単語テスト】 【動名詞とto不定詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
5	【単語テスト】 【動名詞とto不定詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 8について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
6	【単語テスト】 【手紙の特徴を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【単語テスト】 【手紙の特徴を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 9について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
8	【ClassMATE】 【単語ノート点検】 【代名詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 単語ノートの内容を点検する。遅れたり点検を受けない場合は減点とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
9	【ClassMATE】 【代名詞を理解する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 10について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
10	【ClassMATE】 【意図問題を攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
11	【ClassMATE】 【意図問題を攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 11について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分
12	【ClassMATE】 【複数パッセージを攻略する】	単語テストの教材の音読と解答。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	単語テスト（プリント教材及びインターネット教材ClassMATE）の準備学習。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【ClassMATE】 【複数パッセージを攻略する】	ClassMATE教材の復習。教科書Unit 12について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	ClassMATE教材の復習をし、分からない単語や文法事項を確認しておく。 教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べ、問題を解く。	40分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分
14	【授業内試験と振り返り】	授業内試験及び学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	学習範囲の総復習	60分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	40分
15	【フィードバック】	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②についての説明を聞き理解した上で、自己の目標を設定できる。	
	事前学修	重要箇所や分からないところの確認をする。	30分
	事後学修	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】		
毎授業 1 Unit を進める。音声に合わせてオーバーラッピング、シャドウイングを行う。予習してきた内容をもとに、テキストの問題を答え合わせをし、文法的解説も加え、総合的理解をする。事前学修、事後学修、授業中もTOEICと同じくらい集中力を要します。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ClassMATEやGoogle Classroomを用いてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC の受験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Top Tips for the TOEIC L&R Test 考えて解くTOEIC L&R TEST 実践演習	Shari J. Berman、小林裕子、早坂信	成美堂	2020	教科書	必携
TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。yuriko.osumill@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Introduction of this course and start learning		この授業半期の進め方を簡単に説明し、早速TOEIC実践演習に取り組む。
	この回の到達目標	Unit 1 TOEIC PART 1&2 の解説を聞き、自分の間違えたところを理解し、実際のTOEIC Part 1&2 のスコアアップを図ることができる。	
	事前学修	テキストを購入し、音声をダウンロードし、Unit 1 を解く。知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	60分
	事後学修	Unit 1 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
2	Unit 2 Part 3		TOEIC Part 3 会話問題対策をする。
	この回の到達目標	TOEIC Part 3 に関して戸惑うことなく解けるようになる。会話が流れ始める前に質問に目を通せるようになる。到達目標①②に関連して、Part 3 に於いてのスコアアップを図ることができる。	
	事前学修	音声を使ってUnit 2 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	60分
	事後学修	Unit 2 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
3	Unit 3 Part 4		TOEIC Part 4 説明問題対策をする。
	この回の到達目標	TOEIC Part 4 に関して戸惑うことなく解けるようになる。会話が流れ始める前に質問に目を通せるようになる。到達目標①②に関連して、Part 3 に於いてのスコアアップを図ることができる。	
	事前学修	音声を使ってUnit 3 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	60分
	事後学修	Unit 3 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
4	Unit 4 Part 5		TOEIC Part 5 短文穴埋め問題対策をする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC Part 5 短文穴埋め問題を文法的に、又は文意から解くことができる。	
	事前学修	Unit 4 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	60分
	事後学修	Unit 4 を音読しながら復習する。	100分
5	Unit 5 Part 6		TOEIC Part 6 長文穴埋め問題対策をする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC Part 6 長文穴埋め問題のコツを知り、Vocabularyも増やし、文法的に、また文意に合う答えを見つけることができる。	
	事前学修	Unit 5 をすべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする（この地道な努力が大事、大事）。	80分
	事後学修	Unit 4 を音読しながら復習する。	110分
6	Unit 6 Part 7		TOEIC Part 7 読解問題（single passage, multiple passages）対策をする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、難易度の高いTOEIC Part 7 を自分の力を十分に発揮して解き、着実にスコアアップにつなげることができる。	
	事前学修	Unit 6 の解説分も含めよく読み、すべて解く。知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。徐々に同じ単語を辞書で調べていることに気づき、そのような単語から記憶に定着してゆくのを実感するであろう。	80分
	事後学修	Unit 6 を音読をしながら、毎日復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 7 On the Move-Busses, Trains & Planes	交通に関してのTOEIC 問題をPart 1-7 すべてのパートの実践問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、交通に関してのvocabulary, idiomsをTOEIC 全てのパート演習で解き、交通に関して慣れることができる。	
	事前学修	オンライン教材ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 7 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	100分
	事後学修	Unit 7 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
8	Unit 8 On the Menu / On the Itinerary-Sightseeing, Restraunts & Hotels	TOEICで頻繁に出てくる、メニューや旅行日程の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICで頻繁に出てくる、メニューや旅行日程の題材をTOEIC全てのパート演習で解き、慣れることができる。	
	事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 8 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	100分
	事後学修	Unit 8 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
9	Unit 9 On Sale / ON Order -Shopping	TOEICで頻繁に出てくる、買い物の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICで頻繁に出てくる、買い物の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れ、スコアアップにつなげることができる。	
	事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 9 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	100分
	事後学修	Unit 9 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
10	Unit 10 Off the Clock	TOEICで頻繁に出てくる、レジャー、エンターテイメントの題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICで頻繁に出てくる、レジャー、エンターテイメントの題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れることができる。	
	事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備える。 Unit 10 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	100分
	事後学修	Unit 10 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
11	Unit 11 On the Air	TOEICで頻繁に出てくる、メディア、広告の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICで頻繁に出てくる、メディア、広告の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れることができる。	
	事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備え、またTOEIC模擬テストも解き、TOEIC IP に備える。 Unit 11 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	130分
	事後学修	Unit 11 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
12	Unit 12 On the Agenda	TOEICで頻繁に出てくる、会議、スケジュール変更の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICで頻繁に出てくる、会議、スケジュール変更の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れることができる。	
	事前学修	ClassMateに取り組み、小テストに備え、またTOEIC模擬テストも解き、TOEIC IP に備える。 Unit 12 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	140分
	事後学修	Unit 12 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 13 At the Office	TOEICで頻繁に出てくる、オフィスでの交渉、販売の題材をTOEIC 全てのパート演習で解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICで頻繁に出てくる、オフィスでの交渉、販売の題材をTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れる。	
	事前学修	Unit 13 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	100分
	事後学修	Unit 13 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
14	Unit 14 During the Interviews	学生の皆さんが興味のあるの題材である就職活動、自己のPRをTOEIC 全てのパート演習で解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学生の皆さんに現実味のある題材である就職活動、自己のPRをTOEIC 全てのパート演習で解き、慣れることができる。	
	事前学修	Unit 14 を音声を使って、すべて解く。 知らない単語は辞書で調べ、その文の中での品詞と意味ををメモする。	100分
	事後学修	Unit 14 を音声を使ってオーバーラッピング、シャドウイングをしながら復習をする。	100分
15	多様な学習法の紹介	禁欲的に机に向かい取り組む学習方法と楽しみながら学ぶ方法を両立させることを提示。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、禁欲的に机に向かい取り組む学習方法と楽しみながら学ぶ方法を両立させることを認識し、自分に合っている学習法を見つけ、毎日英語に触れ、自分で学ぶことを認識できる。	
	事前学修	テキストの復習をし、分からないところがあれば質問できるようにする。NHK語学講座、TED Talk、英語ドラマ、英語の映画(英語字幕も試す)、Democracy Now!などをネットも使い、自分に合っている学習法を見つける。	200分
	事後学修	自分に合っている学習法を持続させる。	200分

科目名	TOEIC I B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライントレーニングのClassMATEを副教材として受験することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で受験すること。

【授業方法】
講義、及び演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用し、アクティヴ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										1			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC受験、授業内試験、小テスト、クラスメイトポイントで達成度を確認。ユニット毎の小テストを含め、採点結果は返却し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Effective Approaches to the TOEIC L&R TEST』スコアアップの為の総合英語（改定新版）	田中清美 他	南雲堂	2021	教科書	必携
『THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST 』Revised Edition 学校語彙で学ぶTOEICテスト単語集	西谷恒志	成美堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問や相談等：machida.junko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	TOEIC一部上場企業内研修において、TOEIC L&R研修講座担当等。
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業において求められるTOEIC L&Rの授業実践の経験を生かします。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Unit 1		Unit 1 PART1 物の位置と状態を開き取る PART5 語幹を共有する名詞、動詞、形容詞、副詞を理解し、それに対応する問題を実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、PART1, 5の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
2	Unit 2		Unit 2 PART 2 基本的な疑問文に応える PART 6 気をつけるべき英語の語順 PART 7 広告文を理解し、それに対応する問題を実施。語彙テスト1の内容を解答。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、PART2, 6, 7の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
3	Unit 3		Unit 3 PART 3 電話での会話 PART 5 数にからんだ語の用法 ①を理解し、それに対応する問題を実施。語彙テスト2解答。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、PART 3, 5の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 3の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。	30分
4	Unit 4		Unit 4 PART 4 スピーチ PART 6 数にからんだ語の用法 ② PART 7 チャットのやりとりを理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト3実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、PART 4, 6, 7の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit4 の問題を解いてくる。 音読、オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
5	Unit 5, 6		Unit 5 PART 1 人物の動作と様子 PART 5 ねらわれやすい現在形と未来を表す表現 Unit 6 PART 2 いろいろな Wh- 疑問文 PART 6 ねらわれやすい過去形と完了形の表現 PART 7 図表と文書を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト4とCM 実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、 PART 1, 2, 6, 7の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit3 の問題を解いてくる。 CM（ClassMATE）の手続きを完了し、準備をする。 オンラインクイズで語彙の確認をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
6	Unit 7, 8		Unit 7 PART 3 カジュアルな日常会話 PART 5 比較がらみの表現 ① Unit 8 PART 4 録音メッセージ・広告 PART 6 比較がらみの表現 ② PART 7 雑誌・新聞の記事を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト5、CM実施。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、PART 3, 4, 5, 6, 7の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit7, 8 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMを準備する。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 9, 10	Unit 9 PART 1 建物・乗り物と周りとの関係 PART 5 文と文との結びつきの表現 ① Unit 10 PART 2 いろいろな形の問いかけに対応する PART 6 文と文との結びつきの表現 ② PART 7人材募集と応募の手紙の記事を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト6、CM実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、PART 1, 2, 5, 6, 7 の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit9, 10の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
8	Unit 11, 12	Unit 11 PART 3 同僚との多様なやりとり PART 5 V-ing と V-ed の使い分け ① Unit 12 PART 4 案内放送 PART 6 V-ing と V-ed の使い分け ② PART 7 お知らせ文を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト7、CM実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、PART 3, 4, 5, 6, 7の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 11, 12の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
9	Unit 13, 14	Unit 13 PART 1 複数の人物の様子 PART 5 まぎらわしい動詞の語形、意味、語法 Unit 14 PART 2 How と Why の広がる意味とその応答 PART 6 まぎらわしい前置詞の表現 PART 7 説明文とレシピを理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト8、CM実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&R450点獲得の為にPART 1, 2, 5, 6, 7の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 13, 14の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
10	Unit 15, 16	Unit 15 PART 3 ビジネス会話 PART 5 不定詞の重要表現① Unit 16 PART 4 ガイドの説明 PART 6 不定詞の重要表現 ② PART 7 社内文書 を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト9、CM実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、TOEIC L&R450点獲得の為に、PART 3, 4, 5, 6, 7の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 15, 16の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
11	Unit 17, 18	Unit 17 PART 1 風景写真・人物と背景写真の描写 PART 5 条件と仮定法の表現 ① Unit 18 PART 2 特殊な疑問文にすばやく反応する PART 6 条件と仮定法の表現 ② PART 7 トリプルパッセージの問題 を理解し、それに対応する問題を解答。語彙テスト10、CM実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、PART 1, 2, 5, 6, 7の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit 17, 18 の問題を解いてくる。 オンラインクイズで語彙の確認をする。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分
12	Unit 19, 20	Unit19 PART 3 オフィス内の会話 PART 5 疑問詞か関係詞か接続詞の that か Unit 20 PART 4 ニュース PART 6 気をつけたい助動詞の用法 PART 7 製品などの説明書を理解し、それに対応する問題を解答。CM実施。	
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、PART 3~7の頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップし、英語運用能力（Communicative Competence）を習得できる。	
	事前学修	Unit19, 20 の問題を解いてくる。 CMの準備をする。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Review Test	Review Test (PART 1~7) を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	今までの授業内容を振り返る。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。期末テストの準備をする。	30分
14	後期授業内確認テスト 授業の振り返り	後期授業内確認テストを理解し、実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得できる。	
	事前学修	Unit1~Unit14までの復習をする。	60分
	事後学修	前期授業の学習内容を確認し、間違えた箇所を確認する。	30分
15	まとめ	後期授業内確認テスト解説、結果、学習内容のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②TOEICに関連して、Unit1~Unit20までの学習修得の成果を確認する。	
	事前学修	後期授業の学習内容を確認する。	30分
	事後学修	間違えた問題を解き直す。	30分

科目名	TOEIC I B	担当者	木村 登志子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初めてTOEICを学ぶ初心者レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450点を獲得するために、出題形式を学びながら、初心者レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5		挑戦力				
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6		コミュニケーション力				
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7		リーダーシップ・協働力				
	A-4	問題発見・解決力	A-8		省察力				
達成されるべき具体的行動				関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
				A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	初心者レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。						1		
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初心者レベルの英語コミュニケーションをとることができる。							1	
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Business Encounters	Michael P. Critchley	南雲堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します kimura.toshiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	マスコミ勤務・米国大学院留学・企業翻訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		マスコミ勤務・米国大学院留学・企業翻訳の経験をもとに、実践的な英語学習を進めます	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	・TOEIC Listening & Reading Testとは？ ・授業の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。	60分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。 テキストを入手する。	60分
2	Pre-test	・Pre-testを実施する ・ClassMATE導入①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testを受験して、自分の実力を確認することができる。	
	事前学修	テキストを入手する。 ClassMATEの使い方を覚える。	60分
	事後学修	Pre-testを復習し、わからなかった単語を調べる。	60分
3	Pre-testのふり返し	・Pre-testを復習する ・ClassMATE導入②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Pre-testで学習した様々な対応に関する単語・表現に関するスキルアップができる。	
	事前学修	・Pre-test Listeningの英文スクリプト・Pre-testのReadingの小テストの勉強をする ・指定された範囲の問題を解く。わからない単語、フレーズを調べておく。	60分
	事後学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
4	接客、セールスの表現	・ClassMATE Mini test ・接客、セールスの表現に関する単語・表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接客、セールスの表現に関する単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
5	ビジネスパートナー	・ClassMATE Mini test ・ビジネスパートナーに関する単語・表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ビジネスパートナーに関する単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
6	苦情対応	・ClassMATE Mini test ・苦情対応に関する単語・表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、苦情対応に関する単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	申し込みの手続き	・ClassMATE Mini test ・申し込みの手続きに関する単語・表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、申し込みの手続きに関する単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
8	空港での出迎え	・ClassMATE Mini test ・空港での出迎えに関する単語・表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、空港での出迎えに関する単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
9	初対面のクライアント	・ClassMATE Mini test ・初対面のクライアントに関する単語・表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、初対面のクライアントに関する単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
10	海外出張でのタイムスケジュール	・ClassMATE Mini test ・海外出張でのタイムスケジュールに関する単語・表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、海外出張でのタイムスケジュールに関する単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
11	海外からのクライアントへの様々な対応	・ClassMATE Mini test ・海外からのクライアントへの様々な対応に関する単語・表現	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、海外からのクライアントへの様々な対応に関する単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
12	テキストの振り返り①	・ClassMATE Mini test ・テキストの振り返り①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習してきた様々な単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキストの振り返り②	・ClassMATE Mini test ・テキストの振り返り②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習してきた様々な単語・表現に関するリスニングとそのスキルアップができる。	
	事前学修	ClassMATEの指定された範囲の課題にもう一度トライする。	60分
	事後学修	ClassMATEのわからなかった問題を復習する。	60分
14	後期試験とふり返り	・テキストの後期試験 ・プリント課題をやる	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身に付けることができる。	
	事前学修	試験の指定された範囲の課題を勉強する。わからなかったところを調べておく。	60分
	事後学修	試験の復習をし、わからなかったところをテキストやノートで復習する。	60分
15	後期のふり返り	・テストフィードバック ・後期の授業をふり返る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	後期にテキスト、ClassMATEで学んだところでわからなかったところを調べておく。	60分
	事後学修	春休み以降のTOEICの自主学習の計画を立てる。	60分

科目名	TOEIC II A	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC 1回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、ⅡBとともに通年で履修してください。

【授業方法】
オンデマンド。TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
google classroom内で

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 7	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
メールで受けつけます。inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEICとは	ガイダンス(問題構成など)、Part2、Part5	
	この回の到達目標	問題構成を知る。TOEIC試験の特徴を知る。	
	事前学修	TOEICの問題形式を調べる	30分
	事後学修	テキストで問題形式を確認する、問題の復習	30分
2	TOEICの全体的なアプローチ	Part2,Part5、音読練習	
	この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を知る。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	Part2,5 の位置づけ	Part2,5、音読練習	
	この回の到達目標	Part2 と Part5 の出題形式を細かく知る。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	Listening Section の概略	サンプル問題(listening)、Part5	
	この回の到達目標	Listening Section のそれぞれの取り組み方を理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	Reading Section の概略	サンプル問題(reading)、Part2	
	この回の到達目標	reading section のそれぞれの形式の取り組み方を理解する。	
	事前学修	前回までの復習、サンプル問題(reading section)の問題を解き、解答を確認する。	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	Part1,2 の実践演習	Part1,2 (教科書 Test1)、Part5 (別問題)	
	この回の到達目標	Part1,2の形式、傾向を理解し、練習方法を把握する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Part5 の演習	ClassMATEの課題、Part5(Test1 101-110)、Part2 (別問題)	
	この回の到達目標	Part5の形式、傾向を理解し、練習方法を把握する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	Part1, 2, 5の演習	ClassMATEの課題、Part1, 2 (Test2)、Part5(Test1 111-120)	
	この回の到達目標	Part1, 2に習熟する。Part5の形式を理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	Part2(定型表現)、Part3入門	ClassMATEの課題、Part2 (定型表現)の練習、Part5 (Test2 121-130)、Part3 (Test1 32-55)	
	この回の到達目標	定型表現の整理をして、頻出表現を把握する。さらに、練習の仕方を理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	Part3 演習	ClassMATEの課題、Part3 (Test1 56-70)、Part2(別問題)、Part5(Test2 101-110)	
	この回の到達目標	Part3の形式を理解し、慣れる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	Part4 入門	ClassMATEの課題、Part4 (Test1 71-85)、 Part2 (別問題)、Part5(Test2 111-120)	
	この回の到達目標	Part4の形式を理解し、慣れる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	Part4 演習	Part4 (Test1 76-100)、Part2 (別問題)、Part5 (Test2 121-130)	
	この回の到達目標	Part4の形式を理解し、慣れる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Part6 入門	Part6 (Test1 131-138)、Part5 (別問題)	
	この回の到達目標	Part4の形式と傾向をより理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	Part6 演習	Part6 (Test1 139-146)、Part5 (別問題)	
	この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
	事前学修	これまでの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
15	まとめ、TOEIC IP受験	TOEIC IP受験、今後の学習計画を吟味する。	
	この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
	事前学修	これまでの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。資料の視聴と課題により、演習授業を行う。 下記の授業計画は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを使用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他 (ClassMATE)												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題への解説をGoogle Classroomに提示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING & READING TEST	石井 隆之 他	成美堂	2017	教科書	必携
Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会	朝日出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Google Classroomにて対応する。詳細は初回ガイダンスにて説明する。takasaka.akiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・課題提示	授業の進め方、履修上の注意事項、TOEIC概要の説明等。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC科目におけるスケジュールや授業の進め方を理解し、前期の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバスに目を通し、授業全体について大まかに把握しておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を確認し、前期の学習計画を立てる。	30分
2	Listening Sectionの形式および解法	Unit 1: Listening Section Vocabularyテキスト Section A Unit 1&2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Listening Section (Part 1～Part 4) の形式と解法を身につけることができる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
3	Reading Section の形式および解法	Unit 1: Reading Section Vocabularyテキスト Section A Unit 3&4	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Reading Section (Part5～Part7) の形式と解法を身につけることができる。	
	事前学修	当該範囲の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
4	Train Station: Listening	Unit 2: Listening Section Vocabularyテキスト Section A Unit 5&6	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、WH疑問文の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
5	Train Station: Reading	Unit 2: Reading Section VocabularyテキストSection A Unit 7&8	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、準動詞の問題に対応できる	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
6	Department Store: Listening	Unit 3: Listening Section VocabularyテキストSection A Unit 9&10 ClassMATEの使い方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一般疑問文の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Department Store: Reading	Unit 3: Reading Section ClassMATE: Week 1 & Mini test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、5文型の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
8	Restaurant: Listening	Unit 4: Listening Section ClassMATE: Week 2 & Mini test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選択疑問文の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
9	Restaurant: Reading	Unit 4: Reading Section ClassMATE: Week 3 & Mini test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞と接続詞の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
10	Hotel: Listening	Unit 5: Listening Section ClassMATE: Week 4 & Mini test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、否定疑問文の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
11	Hotel: Reading	Unit 5: Reading Section ClassMATE: Week 5 & Mini test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞と仮定法の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
12	Hospital: Listening	Unit 6: Listening Section ClassMATE: Week 6 & Mini test	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、付加疑問文の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Hospital: Reading	Unit 6: Reading Section VocabularyテキストSection A Unit 11&12	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞と冠詞の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
14	Bank: Listening	Unit 7: Listening Section VocabularyテキストSection A Unit 13&14	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、間接疑問文の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
15	まとめ	前期学習内容の総まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&Rへの理解をさらに深めることができる。	
	事前学修	前期の学習内容をふり返り、気付いた点をまとめる。	30分
	事後学修	総まとめをもとに、今後のTOEIC対策を考える。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、実践演習を行い、解説をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているかを評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて 解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: LEVEL 1	北尾 泰幸	朝日出版社	2018	教科書	必携
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、 小石裕子	アルク	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
オンデマンド形式におけるメール対応

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、TOEICの概要の説明	
	この回の到達目標	TOEICの概要を理解できる。	
	事前学修	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。	30分
2	Part1.2のストラテジーの学習	写真問題、質疑応答問題についての理解	
	この回の到達目標	Part1.2の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	配布資料の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	Part3のストラテジーの学習	小テスト1(Part1.2.5.6) 会話問題についての理解	
	この回の到達目標	Part3の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	単語1-50を暗記する。 テキストpp.2-3.5-6.を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
4	Part4のストラテジーの学習	小テスト2(Part3.4.7) トーク問題等についての理解	
	この回の到達目標	Part4の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	単語51-100を暗記する。 テキストpp.3-4.7-8.	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
5	Part1.2.と動詞	小テスト3(Part1.2.5.6) 時制に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、時制に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語101-150を暗記する。 テキストpp.9-10.12-13.を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
6	Part3.4:Travel	小テスト4(Part3.4.7) アナウンス等に関するの表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、ショート・リーディングに関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語151-200を暗記する。 テキストpp.10-11.14-15	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Part1.2と動詞（2）	小テスト5(Part1.25.6) 更なる時制に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、品詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語201-250を暗記する。 テキストpp.16-17.19-20を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
8	Part3.4:Amusement	小テスト6(Part3.4.7) イベントに関する表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、イベントに関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語251-300を暗記する。 テキストpp.17-18.21-22.	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	Part1.2と代名詞	小テスト7(Part1.2.5.6) 代名詞に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、代名詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語301-350を暗記する。 テキストpp.23-24.26-27.を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
10	Part3.4:Meeting	小テスト8(Part3.4.7) 広告に関する表現についての理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、広告に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語351-400を暗記する。 テキストpp.24-25.28-29.	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
11	Part1.2と不定詞、動名詞	小テスト9(Part1.2.5.6) 不定詞と動名詞についての理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、不定詞、動名詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語401-450を暗記する。 テキストpp.30-31.33-34.を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
12	人事・雇用	人事・雇用に関する表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、人事部に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	テキストpp.31-32.35-36.	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの学習の確認	これまでの戦略の確認による、自己達成度の向上確認	
	この回の到達目標	これまでの解法の戦略を駆使して、TOEIC問題を解答できる。	
	事前学修	単語小テスト1-9とUnit1-5の確認をする。	60分
	事後学修	配布プリントの復習	30分
14	英語圏の文化の学習	英語圏の思考形式の理解と、ディクテーション	
	この回の到達目標	英語圏の思考形式を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。	
	事前学修	英語圏の思考形式に関する調査をWEBなどを活用し調べる。	30分
	事後学修	英語圏人々の思考形式を確認する。	30分
15	英語圏の文化とTOEIC	小テスト10 英語圏と日本での人々の思考形式の相違の理解	
	この回の到達目標	英語圏と日本での人々の思考形式の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。	
	事前学修	単語451-550を暗記する。	30分
	事後学修	TOEIC形式の確認をする。	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】		
オンデマンド授業。TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 ①Google Classroomにアクセスしてください（アクセスコードなどは初回授業前にポータルでお伝えします）。 ②教科書のページを開き、Google Classroomの動画を視聴し、ワードファイルに記入していきます。 ③そのワードファイルに記入した答えなどをGoogle Classroomにアップロードしてもらいます。 *第一回目の授業で授業方法や授業計画についてGoogle Classroomで説明します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomで解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
fujimoto.atsushil1@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション Unit 01 人物の動作と状態 (Part 1) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
2	Unit 01 表・用紙 (Part 7)	Unit 01 表・用紙 (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの表・用紙 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
3	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)	Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの疑問詞を使った疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
4	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	Unit 02 広告 (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの広告 (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
5	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3)	Unit 03 日常場面での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの日常場面での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
6	Unit 03 品詞 (Part 5)	Unit 03 品詞 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの品詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4)	・ClassMATE Mini test 1 Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのアナウンス・ツアー (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	Unit 04 動詞 (Part 5)	・ClassMATE Mini test 2 Unit 04 動詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの動詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	Unit 05 物の状態と位置 (Part 1)	・ClassMATE Mini test 3 Unit 05 物の状態と位置 (Part 1) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの物の状態と位置 (Part 1) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	Unit 05 チャット (Part 7)	・ClassMATE Mini test 4 Unit 05 チャット (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのチャット (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2)	Unit 06 基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの基本構文 (依頼／提案・勧誘／申し出) と応答の決まり文句 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7)	Unit 06 手紙・Eメール (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの手紙・Eメール (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 07 電話での会話 (Part 3)	Unit 07 電話での会話 (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの電話での会話 (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATEの課題にもう一度トライする。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5)	Unit 07 代名詞・関係代名詞 (Part 5) 演習と解説をします。 前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・関係代名詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	ふり返り	前期で学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
	事後学修	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。						2		
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。							2	
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストはGoogle Classroomで回答を確認し必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Tactics for the TOEIC TEST Listening and Reading Test Introductory Course	Grant Trew	Oxford	2017	教科書	必携
備考	ISBN978 0 19 452976 1				

【オフィスアワー】
Google Classroomを通じて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	通訳者、グローバル企業において輸出入業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		英語による実践実務への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと教科書の使い方、TOEIC試験について	Introduction to the course Becoming familiar with TOEIC	
	この回の到達目標	TOEIC試験の構成を知る。	
	事前学修	教科書の裏表紙にあるMP3ファイルにアクセスし、音声を聞き始める。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
2	Photo Questions	Unit 1 Nouns and Verbs	
	この回の到達目標	Part 1について回答の対策を知る。名詞、動詞について音声より理解する。	
	事前学修	Unit1の音声箇所をリスニングする。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
3	Question and Response	Unit 2 Tag questions	
	この回の到達目標	内容の意味を把握し間違いを避ける。付加疑問文を理解する。	
	事前学修	Unit 2の音声箇所をリスニングする。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
4	Conversations	Unit 3 Offers and Suggestions	
	この回の到達目標	設問にある単語や表現から内容を予測する。	
	事前学修	Unit 3の音声箇所をリスニングする。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
5	Announcements	Unit 4 Talks	
	この回の到達目標	Who, Whereで始まる問題に解答する。	
	事前学修	Unit 4の音声箇所をリスニングする。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
6	リスニングパート	Unit 1 - Unit 4 review	
	この回の到達目標	TOEICのリスニングパート全体について振り返り。苦手箇所を知り、対策を計る。	
	事前学修	Unit 1-4 review listening	30分
	事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Incomplete Sentences	Unit 5 Talking about the future	
	この回の到達目標	時間の使い方について実際に回答し体感した上で対策する。	
	事前学修	Unit 5 練習問題	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
8	Text Completion	Unit 6 Part of Speech	
	この回の到達目標	品詞を見極めることで時間を短縮する。	
	事前学修	Unit 6 練習問題	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
9	Blank questions	Unit 5 - Unit 6 review	
	この回の到達目標	空欄を充す問題について回答の時間短縮する対策。	
	事前学修	Unit 5 - Unit 6 review	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
10	Reading Comprehension	Unit 7 Using context	
	この回の到達目標	読解問題について内容を読み解き語彙問題に回答する。	
	事前学修	Unit 7 練習問題	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
11	TOEIC Reading Parts	Reading part review	
	この回の到達目標	読解問題全般について対策を立てる。	
	事前学修	Reading part review	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
12	TOEIC Listening Test	TOEIC Practice Test (1) Listening Part and review	
	この回の到達目標	Practice Testを実施し弱点を知る。	
	事前学修	TOEIC Practice Test 1 Listening Part	30分
	事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEIC reading Test	TOEIC Practice Test (1) Reading Test	
	この回の到達目標	Practice Testを実施し弱点を知る。	
	事前学修	TOEIC Practice Test 1 Reading Part	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
14	Examination and Feedback	Summary of Unit 1~7	
	この回の到達目標	期末試験の実施と解説。	
	事前学修	Review all the units	30分
	事後学修	Review all the units	30分
15	Summary	Review Unit 1-7	
	この回の到達目標	TOEIC Part 1-7の全体的な対策を立てる。	
	事前学修	Review Practice Test (1) and all the units	30分
	事後学修	vocabulary note	30分

科目名	TOEIC II A	担当者	佐藤 明子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
月5限、金5限は前期終了科目（後期のBはありません）。火5限、水5限は原則通年で履修すること。TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付けます。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】		
Zoomを使ったライブ授業なので、Wifi環境が整った場所でできるだけ顔を出して受講してください。テキスト、オンライン教材を使って、問題演習、小テスト、グループワークなどをしながらTOEICの受験対策をします。TOEICを受験していただきます。（シラバスに変更がある場合は初回授業で説明します）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Zoom授業内でペア・ワーク、グループ・ワークなどを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア450-500点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICのスコア、テキストの課題ポイント、ClassMATEの課題達成ポイント、授業への参画度等で目標達成度を確認。Zoomでテキストの解説をします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Seize the Keys of the TOEIC L&R TEST	Masako Yasumaru他	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	TOEIC受験、オンライン・トレーニング料が別途かかります。授業の際は辞書を用意すること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
質問はZoom授業後、またはメールで受け付けます。 sato.akiko01@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義 TOEICとは	(前期の授業はZoomで実施) ・授業の進め方について ・教科書、TOEICについての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。テキストを購入する。授業用のノートを用意する。	60分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	60分
2	Unit 1 Daily Life その1	・Unit 1 Daily Life (文型・品詞) その1	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型・品詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 1を予習する。	60分
	事後学修	Unit 1のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
3	Unit 1 Daily Life その2	・Unit 1 Daily Life (文型・品詞) その2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文型・品詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 1を復習する。	60分
	事後学修	Unit 1のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
4	Unit 2 Shopping その1	・Unit 2 Shopping (代名詞・疑問詞) その1	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・疑問詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 2を予習する。	60分
	事後学修	Unit 2のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
5	Unit 2 Shopping その2	・Unit 2 Shopping (代名詞・疑問詞) その2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・疑問詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 2を復習する。	60分
	事後学修	Unit 2のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
6	Unit 3 Parties & Events その1	・Unit 3 Parties & Events (形用詞・副詞) その1	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形用詞・副詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 3を予習する。	60分
	事後学修	Unit 3のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 3 Parties & Events その 2	・Unit 3 Parties & Events（形用詞・副詞）その 2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形用詞・副詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 3を復習する。	60分
	事後学修	Unit 3のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
8	Unit 4 Traffic & Travel その 1	・Unit 4 Traffic & Travel（前置詞）その 1	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 4を予習する。	60分
	事後学修	Unit 4のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
9	Unit 4 Traffic & Travel その 2	・Unit 4 Traffic & Travel（前置詞）その 2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 4を復習する。	60分
	事後学修	Unit 4のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
10	Unit 5 Office Work その 1	・Unit 5 Office Work（接続詞）その 1	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 5を予習する。	60分
	事後学修	Unit 5のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
11	Unit 5 Office Work その 2	・Unit 5 Office Work（接続詞）その 2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 5を復習する。	60分
	事後学修	Unit 5のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
12	Unit 6 Marketing & ICT その 1	・Unit 6 Marketing & ICT（名詞・主語と動詞の一致）その 1	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞・主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 6を予習する。	60分
	事後学修	Unit 6のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 6 Marketing & ICT その2	・Unit 6 Marketing & ICT（名詞・主語と動詞の一致）その2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞・主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 6を復習する。	60分
	事後学修	Unit 6のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
14	前期試験と復習	前期試験 試験でわからなかったところをテキストで確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだテキストの解法のテクニックを理解できているか確認することができる。	
	事前学修	テスト勉強をする。	120分
	事後学修	テストをもう一度やってみる。	60分
15	前期のふり返し	テストの返却と前期のふり返し	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、前期に学んだことをふり返し、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	前期に学んだことを復習する。	60分
	事後学修	夏休み中のTOEICの学習計画を立てる。	60分

科目名	TOEIC II B	担当者	井上 悦男	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEIC 1回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、II Bとともに通年で履修してください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	会話練習でパートナーと協力して話し合いながらお互いの発音をチェックし、修正する機会を設ける。その際、学習法や受験回数など個々人の経験などについて話す機会を設ける。また、TOEIC試験でスコアを伸ばすためにどのような取り組みをすべきかを考え、その内容を簡単なメモにして提出する機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
発音練習などはその場で簡単にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 7	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典	南出康生編	大修館書店	2014	参考書	任意
ジーニアス総合英語	中邑光男、山岡憲史、柏野健次編	大修館書店	2017	参考書	任意
TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2019	参考書	任意
備考	『ジーニアス英和辞典』と同程度の英和辞典を使用してください。文法事項など苦手なところがあれば、『ジーニアス総合英語』で自習することを勧めます。メールなどで質問してもらっても構いません。単語帳が必要な場合には、『公式ボキャブラリーブック』を勧めますが、公式問題集の解説に単語がまとめられているので、それだけで十分かと思います。ただし、『公式ボキャブラリーブック』はそれぞれの語の例文の音源をダウンロード				

【オフィスアワー】
質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。授業時間：月曜４・５・６限、水曜１限inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	形式と対策方法	ガイダンス(問題構成の確認)、Part5（別問題）	
	この回の到達目標	問題構成の再確認。	
	事前学修	既習事項の確認	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
2	Part6の演習	Part6（Test2 131-138）、Part1（別問題）、音読練習	
	この回の到達目標	Part6、Part1の正解数を増やす。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
3	Part6の習熟	Part6（Test2 139-146）、Part2（別問題）、音読	
	この回の到達目標	Part6（5/8問）、Part2（7割程度）、程度正解すること。ただし、Part2は複数回聴くことができる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
4	Part7（1つの文書）の演習	Part7（Test1 147-160）、Part3（別問題）、音読	
	この回の到達目標	Part7の形式に慣れる。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
5	Part7（1つの文書）の習熟	Part7（Test1 161-175）、Part4（別問題）、音読	
	この回の到達目標	Part7に習熟する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
6	Part7（2つの文書）の演習	Part7（Test1 176-200）、Part2（別問題）、音読	
	この回の到達目標	Part4の正解率を高める。Part7で時間配分を把握する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Part3の演習	ClassMATEの小テスト、Part3（Test2 32-55）、Part5（別問題）、音読練習	
	この回の到達目標	Part3の正解率を高める。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
8	Part3の習熟	ClassMATEの小テスト、Part3（Test2 56-70）、Part5（別問題）、音読練習	
	この回の到達目標	Part3の英文の内容を細部まで理解する。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
9	Part4の演習	ClassMATEの小テスト、Part4（Test2 71-85）、Part5（別問題）、音読練習	
	この回の到達目標	本番を意識して問題を解ける。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
10	Part4の習熟	ClassMATEの小テスト、Part4（Test2 86-100）、Part5（別問題）、音読練習	
	この回の到達目標	本番を意識して問題を解ける。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
11	Part7(1つの文書)習熟、Listening Section 実戦対策	ClassMATEの小テスト、Part7（Test2 147-160）、Listening Section（別問題）、音読練習	
	この回の到達目標	読解問題の本文を正確に読める。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
12	Part7(1つの文書)習熟、Listening Section 実戦対策	Part7（Test2 161-175）、Listening Section（別問題）、音読練習	
	この回の到達目標	読解問題の本文を正確に読める。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Part7(複数の文書)習熟 Listening Section 実戦対策	Part7 (Test2 176-200)、Listening Section (別問題)、音読練習	
	この回の到達目標	Part7後半の複数文書の問題形式への対策を考えながら解けること。	
	事前学修	前回までの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分
14	Reading Section 実戦対策	Reading Section (別問題)、音読	
	この回の到達目標	時間配分を考えながら、実戦形式の問題に取り組むこと。間違えた箇所の解説を理解する。	
	事前学修	これまでの復習	30分
	事後学修	答えの確認	30分
15	まとめ	TOEIC IP受験、まとめ	
	この回の到達目標	TOEICの全パートの中で受講生自身が苦手なパートを把握し、対処の仕方を考える。	
	事前学修	これまでの復習	30分
	事後学修	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
演習形式により授業を行う。 下記の授業計画は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを使用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。										2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。											2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他 (ClassMATE)												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題への解説をGoogle Classroomに提示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING & READING TEST	石井 隆之 他	成美堂	2017	教科書	必携
Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会	朝日出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Google Classroomにて対応する。詳細は初回ガイダンスにて説明する。takasaka.akiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・課題提示	授業の進め方、履修上の注意事項、TOEIC概要の説明等と課題提示等。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC科目におけるスケジュールや授業の進め方を理解し、後期の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバスに目を通し、授業全体について大まかに把握しておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を確認し、後期の学習計画を立てる。	30分
2	Bank: Reading	Unit 7: Reading Section Vocabularyテキスト Section B Unit 1&2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、否定と比較の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
3	Workplace: Listening	Unit 8: Listening Section Vocabularyテキスト Section B Unit 3&4	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、肯定文と否定文の問題に対応できる。	
	事前学修	当該範囲の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
4	Workplace: Reading	Unit 8: Reading Section Vocabularyテキスト Section B Unit 5&6	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接頭辞共通の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
5	Fitness Club: Listening	Unit 9: Listening Section VocabularyテキストSection B Unit 7&8	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、提案への応答の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
6	Fitness Club: Reading	Unit 9: Reading Section VocabularyテキストSection B Unit 9&10 ClassMATEの使い方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接尾辞共通の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Sightseeing: Listening		Unit 10: Listening Section ClassMATE: Week 1 & Mini test
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、依頼への応答の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
8	Sightseeing: Reading		Unit 10: Reading Section ClassMATE: Week 2 & Mini test
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、派生語（複数品詞）の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
9	International Conference: Listening		Unit 11: Listening Section ClassMATE: Week 3 & Mini test
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、勧誘への応答の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
10	International Conference: Reading		Unit 11: Reading Section ClassMATE: Week 4 & Mini test
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、派生語（形容詞）の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
11	Computer Society: Listening		Unit 12: Listening Section ClassMATE: Week 5 & Mini test
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、感謝・謝罪への応答の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
12	Computer Society: Reading		Unit 12: Reading Section ClassMATE: Week 6 & Mini test
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、類似語の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Employment: Listening	Unit 13: Listening Section VocabularyテキストSection B Unit 11&12	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意外な応答の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
14	Employment: Reading	Unit 13: Reading Section VocabularyテキストSection B Unit 13&14	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、同音異義語の問題に対応できる。	
	事前学修	上記箇所の課題に取り組む。	30分
	事後学修	フィードバックを確認し、間違えた箇所を解き直し、重要表現を覚える。	30分
15	まとめ	後期学習内容の総まとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEIC L&Rへの理解をさらに深めることができる。	
	事前学修	後期の学習内容をふり返り、気付いた点をまとめる。	30分
	事後学修	総まとめをもとに、今後のTOEIC対策を考える。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて 解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
一步上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: LEVEL 1	北尾 泰幸	朝日出版社	2018	教科書	必携
新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子	アルク	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 Google Classroom または、授業後講堂にて実施。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方、TOEICの概要の説明	
	この回の到達目標	TOEICの概要を理解できる。	
	事前学修	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。	30分
2	Part5. 6. の戦略の学習	短文穴埋め問題、長文穴埋め問題についての理解	
	この回の到達目標	Part5. 6. の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	配布プリントの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
3	Part7. の戦略の学習	小テスト1(Part1. 2. 5. 6.) 読解問題についての理解	
	この回の到達目標	Part7. の一般的な解法を理解できる。	
	事前学修	単語501-550を暗記する。 テキストpp. 37-38. 40-41. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
4	Part3. 4. :Shopping	小テスト2(Part3. 4. 7.) 準動詞に関する問題の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、チャットに関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語551-600を暗記する。 テキストpp. 38-39. 42-43. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
5	Part1. 2. と名詞・冠詞	小テスト3(Part1. 2. 5. 6.) 分詞に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、分詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語601-650を暗記する。 テキストpp. 44-45. 47-48. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
6	Part3. 4:Advertisement	小テスト4(Part3. 4. 7.) 出張等に関する表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、旅行に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語651-700を暗記する。 テキストpp. 45-496. 49-50. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Part1.2と数量詞	小テスト5(Part1.2.5.6.) 分詞構文、使役動詞に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、分詞構文、使役構文に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語701-750を暗記する。 テキストpp. 51-52. 55-56. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
8	Part3.4:Daily Life	小テスト6(Part3.4.7.) 会議、天候に関する表現の理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、会議、天候に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語751-800を暗記する。 テキストpp. 52-53. 57-58. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
9	Part1.2と仮定法	小テスト7(Part1.2.5.6.) 比較構文に関する問題の理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、比較構文に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語801-850を暗記する。 テキストpp. 59-60. 62-63. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
10	Part3.4:Office Work	小テスト8(Part3.4.7.) 商品注文に関する表現についての理解	
	この回の到達目標	会話問題、説明文問題、ダブル・パッセージに関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語851-900を暗記する。 テキストpp. 60-61. 64-65. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分
11	Part1.2と分詞	小テスト9(Part1.2.5.6.) 不定代名詞についての理解	
	この回の到達目標	写真問題、質疑応答問題、不定代名詞に関する問題の解法が理解できる。	
	事前学修	単語901-950を暗記する。 テキストpp. 66-67. 70-71. を解いてくる。その際 Warm-up の Vocabulary も行う。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。Warm-up の Vocabulary の単語を確認する。	30分
12	図表のリスニング・パート	図表問題の取り組み方の理解	
	この回の到達目標	図表の解法 (Part3.4.7) の解法が理解できる。	
	事前学修	テキストpp. 67-68. 72-73. を解いてくる。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの学習の確認	これまでのストラテジーの確認による、自己達成度の向上確認	
	この回の到達目標	これまでの解法のストラテジーを駆使して、TOEIC問題を解答できる。	
	事前学修	単語小テスト1-9とUnit6-10の確認をする。	60分
	事後学修	配布プリントの復習	30分
14	英語圏の文化の学習	英語圏の思考形式の理解と、ディクテーション	
	この回の到達目標	英語圏における世界観を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。	
	事前学修	英語圏の人々の世界観に関する調査をWEBなどを活用し調べる。	30分
	事後学修	英語圏人々の世界観を確認する。	30分
15	英語圏の世界観とTOEIC	小テスト10 英語圏と日本での人々の世界観の相違の理解	
	この回の到達目標	英語圏と日本での人々の世界観の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。	
	事前学修	単語951-1005を暗記する。	30分
	事後学修	TOEIC形式の確認をする。	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。

【授業方法】
TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomで解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治	桐原書店	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
fujimoto.atsushil1@nihon-u.ac.jpまでメールをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4)		Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのUnit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
2	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5)		Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの接続詞・前置詞 (Part 5) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
3	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2)		Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのYes/No疑問文 (Part 2) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
4	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7)		Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
5	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3)		Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ① (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分
6	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5)		Unit 10 Part 5の復習 (Part 5) 演習と解説をします。 ・ClassMATEの使い方を覚える (配信スタート予定)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 5の復習 (Part 5) をする。		
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)		30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 11 留守番電話 (Part 4)	Unit 11 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの留守番電話 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 1の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
8	Unit 11 の文書 (Part 7)	Unit 11 トリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトリプルパッセージ (3つの文書) (Part 7) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 2の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
9	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3)	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのオフィスでの会話 ② (Part 3) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 3の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
10	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7)	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 7の復習 (Part 7) をする。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 4の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
11	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2)	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのPart 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) をする。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
12	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6)	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの時制・代名詞・語い問題 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分) ClassMATE Week 6の課題をやる。	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4)	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのトーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
14	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6)	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) 演習と解説をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICのつなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) の問題形式に慣れ、問題を解くことができる。	
	事前学修	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)	30分
	事後学修	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)	30分
15	ふり返り	後期で学んだことを振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	これまでの内容を復習して後期授業のまとめに備えること。(30分)	30分
	事後学修	後期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。(30分)	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【授業方法】
授業方法については後期の方針が決定の後に知らせる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。								2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストはGoogle Classroomで回答を確認し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Tactics for the TOEIC TEST Listening and Reading Test Introductory Course	Grant Trew	Oxford	2017	教科書	必携
備考	ISBN978 0 19 452976 1				

【オフィスアワー】
Google Classroomを通じて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	通訳者、グローバル企業において輸出入業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		英語による実践実務への対策	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	TOEIC試験全般について	Review Unit 1~7	
	この回の到達目標	受験したTOEIC試験について振り返り今後の時間配分について対策を立てる。	
	事前学修	教科書の裏表紙にあるMP3ファイルにアクセスし、音声を聞き始める。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
2	Photo Questions	Unit 8 Present Tenses, Prepositions	
	この回の到達目標	現在形についてリスニング練習。前置詞について理解する。	
	事前学修	Unit 8 音声箇所をリスニングする。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
3	Question and Response	Unit 9 Questions with Indirect answers	
	この回の到達目標	リスニング問題での間接的な答え方について慣れる。	
	事前学修	Unit 9 音声箇所をリスニングする。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
4	Conversations	Unit 10 Opinions	
	この回の到達目標	意見を述べている内容のリスニング問題を理解する。	
	事前学修	Unit 10 音声箇所をリスニングする。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
5	Talks	Unit 11 Voice mails and recorded messages	
	この回の到達目標	録音されたメッセージを理解する。	
	事前学修	Unit 11 音声箇所をリスニングする。	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
6	TOEIC listening parts	Unit 8 - Unit 11 review	
	この回の到達目標	TOEICのリスニングパート全体について振り返り。苦手箇所を知り、対策を計る。	
	事前学修	Unit 8 - Unit 11 音声箇所をリスニングする	30分
	事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Incomplete Sentences	Unit 12 Using prefixes	
	この回の到達目標	接頭語を知り迅速に的確に答える。	
	事前学修	Unit 12 練習問題	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
8	Text Completion	Unit 13 Pronouns and possessive forms	
	この回の到達目標	代名詞と所有格を復習しTOEICの問題を解く。	
	事前学修	Unit 13 練習問題	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
9	Reading Comprehension	Unit 14 Answering NOT questions	
	この回の到達目標	難解な'NOT question'への対応を知る。	
	事前学修	Unit 14 練習問題	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
10	TOEIC Reading Parts	Reading parts review	
	この回の到達目標	読解問題全般について対策を立てる。	
	事前学修	Reading Part review	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
11	TOEIC Listening Part	TOEIC Practice Test (2) Listening Part and review	
	この回の到達目標	Practise Testを実施し対策を立てる。	
	事前学修	TOEIC Practice Test (2) Listening Part	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
12	TOEIC Reading Part	TOEIC Practice Test (2) Reading Part and review	
	この回の到達目標	Practice Testを実施し対策を立てる。	
	事前学修	TOEIC Practice Test (2) Reading Part and review	30分
	事後学修	vocabulary note	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Part 2 and Part 5	Questions and responses, blank questions	
	この回の到達目標	高得点に繋がるPart 2, Part 5の力を磨き正答率を高める。	
	事前学修	Review Practice Test (2)	30分
	事後学修	vocabulary note	30分
14	Examination and Feedback	Summary of all the units	
	この回の到達目標	期末試験の実施と解説。	
	事前学修	Review all the units	30分
	事後学修	Review all the units	30分
15	Summary	Review all the units	
	この回の到達目標	TOEIC Part 1-7の全体的な対策を立てる。	
	事前学修	Review all the units	30分
	事後学修	vocabulary note	30分

科目名	TOEIC II B	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEICの形式は理解しているが、まだ初級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC450-500点を獲得するために初級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
火5限、水5限は原則通年で履修すること。(月5限、金5限は前期終了科目なので、後期のBの開講はありません)。TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付けます。(受験料、受講料は自己負担)

【授業方法】
オンライン授業が継続される場合はZoomを使ったライブ授業の予定です。Wifi環境が整った場所でできるだけ顔を出して受講してください。テキスト、オンライン教材を使って、問題演習、小テスト、グループワークなどをしながらTOEICの受験対策をします。TOEICを受験していただきます。(授業形態が変わるなど、シラバスに変更がある場合には初回授業で説明します)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク、グループ・ワークなどの演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア400-450点を取得する。									2			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、初級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。										2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC, テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Seize the Keys of the TOEIC L&R TEST	Masako Yasumaru他	金星堂	2020年	教科書	必携
備考	辞書を持ってくること（電子辞書でも可）				

【オフィスアワー】
希望する方はまずはメールで連絡をください。sato.akiko01@nihon-u.ac.jp（9号館6階9605研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション TOEICとは CaLaboの使い方を学ぶ	・授業の進め方について ・教科書、TOEICについての説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。テキストを購入する。授業用のノートを用意する。	60分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	60分
2	Unit 7 Production & Logistics その1	・Unit 7 Production & Logistics（助動詞）その1 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 7を予習する。	60分
	事後学修	Unit 7のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
3	Unit 7 Production & Logistics その2	Unit 7 Production & Logistics（助動詞）その2	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、助動詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 7を復習する。	60分
	事後学修	Unit 7のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
4	Unit 8 Employent その1	・Unit 7 Employment（時制）その1 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時制の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 8を予習する。	60分
	事後学修	Unit 8のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
5	Unit 8 Employent その2	・Unit 8 Employent（時制）その2 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代名詞・疑問詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 8を復習する。	60分
	事後学修	Unit 8のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
6	Unit 9 Personnel その1	・Unit Unit 9 Personnel（受動態）その1 ・Listening or Readingのグループワーク（グループ対抗クイズ）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受動態の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 9を予習する。	60分
	事後学修	Unit 9のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Unit 9 Personnel その2		・Unit Unit 9 Personnel (受動態) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受動態の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit9を復習する。	60分
	事後学修	Unit 9のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
8	Unit 10 Business その1		・Unit 10 Business (分詞・分詞構文) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞・分詞構文の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 10を予習する。	60分
	事後学修	Unit 10のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
9	Unit 10 Business その2		・Unit 10 Business (分詞・分詞構文) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞・分詞構文の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 10を復習する。	60分
	事後学修	Unit 10のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
10	Unit 11 Health & Environment その1		・Unit 11 Health & Environment (不定詞・動名詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞と動名詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 11を予習する。	60分
	事後学修	Unit 11のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分
11	Unit 11 Health & Environment その2		・Unit 11 Health & Environment (不定詞・動名詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不定詞と動名詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 11を復習する。	60分
	事後学修	Unit 11のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
12	Unit 12 Finance その1		・Unit 12 Finance (関係詞) その1 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係詞の基礎を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 12を予習する。	60分
	事後学修	Unit 12のListeningの英文スクリプトの音読やディクテーションをする。またその意味が言えるか確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 12 Finance その2	・Unit 12 Finance (関係詞) その2 ・Listening or Readingのグループワーク (グループ対抗クイズ)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞・主語と動詞の一致を学び、TOEICの問題に応用することができる。	
	事前学修	Unit 12を復習する。	60分
	事後学修	Unit 12のReadingの英文スクリプトを音読する。またその意味が言えるか確認する。	60分
14	後期試験と復習	後期試験 試験でわからなかったところをテキストで確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだテキストの解法のテクニックを理解できているか確認することができる。	
	事前学修	テスト勉強をする。	120分
	事後学修	テストをもう一度やってみる。	60分
15	後期のふり返り	テストの返却と後期のふり返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、後期に学んだことをふり返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	後期に学んだことを復習する。	60分
	事後学修	今後のTOEICの学習計画を立てる。	60分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	北村 豊	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
授業形態は「対面方式」。実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。小テストは授業内で返却を行う。授業内試験後に、試験の解説を行い、内容を振り返る。TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ivan’s Adventure in the business world (1)	Yutaka Kitamura	On Demand Publishing	2018	教科書	必携
備考	テキストは高麗書林（ http://www.komabook.co.jp/ ）でのみ入手可能。詳しい購入手順については大学のポータルサイト経由の「授業連絡」でお知らせします。				

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yutaka.kitamura1@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	TOEICとは		General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。英英辞典の使い方を学ぶ。
	この回の到達目標	授業の進め方、TOEICの概要を理解する。英英辞典の使い方を習得する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	TOEIC第1部について		リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	TOEICリスニング第1部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(10-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。	30分
	事後学修	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。	30分
3	TOEIC第2部について		リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	TOEICリスニング第2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(18-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
	事後学修	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
4	TOEIC第3部について		リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	TOEICリスニング第3部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(18-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
	事後学修	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
5	TOEIC第4部について		リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	TOEICリスニング第4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(27-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
	事後学修	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分
6	TOEIC第5部について		リーディング第5部：演習と解説 TOEICリーディング第5部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。
	この回の到達目標	TOEICリーディング第5部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(84-85頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)	30分
	事後学修	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	TOEIC第6部について		リーディング第6部：演習と解説 TOEICリーディング第6部の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリーディング第6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(86-87頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
8	TOEIC第7部（前半部分、single passage）について		リーディング第7部（前半部分、single passage）：演習と解説 TOEICリーディング第7部前半（single passage）の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリーディング第7部前半（single passage）の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部前半（single passage）問題演習の準備、テキスト(88-94頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第7部前半（single passage）問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
9	TOEIC第7部（後半部分、double passage）について		リーディング第7部（後半部分、double passage）：演習と解説 TOEICリーディング第7部後半（double passage）の内容・意図を理解し、それに対応する問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリーディング第7部後半（double passage）の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部後半（double passage）問題演習の準備、テキスト(94-97頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第7部後半部分（double passage）問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
10	TOEIC第1部と第2部について		リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第1－2部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリスニング第1－2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リスニング第1－2部問題演習の準備、テキスト(10-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。		30分
	事後学修	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。		30分
11	TOEIC第3部と第4部について		リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第3－4部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリスニング第3－4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リスニング第3－4部問題演習の準備、テキスト(26-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。		30分
	事後学修	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。		30分
12	TOEIC第5部と第6部について		リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 自宅トレーニング方法の紹介 TOEICリーディング第5－6部の意図を理解し、それに対応する質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリーディング第5－6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第5－6部問題演習の準備、テキスト(30-41頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEIC第7部single passage問題について	リーディング問題演習（第7部前半single passage問題）と解説 自宅トレーニング方法の紹介	
	この回の到達目標	TOEICリーディング第7部前半single passage問題の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リーディング第7部（前半）問題演習の準備、テキスト(51-59頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）	30分
	事後学修	リーディング第7部前半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
14	TOEIC第7部double passage問題について	リーディング問題演習（第7部後半double passage）と解説 自宅トレーニング方法の紹介	
	この回の到達目標	TOEICリーディング第7部後半double passage問題の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リーディング第7部（後半）問題演習の準備、テキスト(51-59頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）	30分
	事後学修	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。自宅トレーニングを行う。	30分
15	前期の振り返りと学習内容の定着	前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。試験後解説と前期学習内容の振り返り。	
	この回の到達目標	前期授業の総まとめとしての授業内試験を通して、前期の授業で扱った内容を確認し、ビジネス英語全般の理解を深める。	
	事前学修	「前期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。（30分）	30分
	事後学修	「前期のまとめ」の内容の復習。前期授業の学習内容を確認する。（30分）	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験すること。オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務づける。（受験料、受講料は自己負担）原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペア・ワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が達成できているかを、課題(TOEIC、テスト、レポートなどを含む)により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The TOEIC TEST Trainer Target 650	Masahiko Yamaguchi 他3名	CENGAGE Learning	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。suzuki.kyokoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	・ TOEIC Listening & Reading Test とは？ ・ 授業の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②も関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R Test のHPに目を通す。	30分
	事後学修	今日のオリエンテーションで学んだことを生かして、今後の学習スケジュールを立てる。	30分
2	提案-時制1	Unit 1 Listening Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 を学習して、提案の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	テキストを入手する。インターネットやアプリで英語力がUPしそうな教材を見つける。 Unit 1 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 1 Listening Sectionを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
3	提案-時制1	Unit 1 Listening Section の小テスト Unit 1 Reading Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 1 を学習して、時制の表現を使ったReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ Unit 1 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・ Unit 1 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 1 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
4	確認-時制2	Unit 1 Reading Section の小テスト Unit 2 Listening Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 2を学習して、確認の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ Unit 1 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・ Unit 2 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 2 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
5	確認-時制2	Unit 2 Listening Sectionの小テスト Unit 2 Reading Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 2を学習して、時制の表現を使ったReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ Unit 2 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・ Unit 2 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 2 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
6	会話を始める-助動詞	Unit 2 Reading Sectionの小テスト Unit 3 Listening Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 3を学習して、会話を始めるときの表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ Unit 2 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・ Unit 3 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 3 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	会話を始める-助動詞	ClassMATE Mini Test 1 Unit 3 Listening Sectionの小テスト Unit 3 Reading Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 3を学習して、助動詞を使ったReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・Unit 3 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 3 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 3 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
8	ニュース報道-フレーズリーディング	ClassMATE Mini Test 2 Unit 3 Reading Sectionの小テスト Unit 4 Listening Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit4を学習して、ニュース報道を使ったListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 2の課題をやる。 ・Unit 3 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 4 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 4 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
9	ニュース報道-フレーズリーディング	ClassMATE Mini Test 3 Unit 4 Listening Sectionの小テスト Unit 4 Reading Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 4を学習してフレーズリーディングを使ったReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 3の課題をやる。 ・Unit 4 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 4 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 4 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
10	義務-代名詞	ClassMATE Mini Test 4 Unit 4 Reading Sectionの小テスト Unit 5 Listening Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 5を学習して、義務の表現を使ったListening の問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 4の課題をやる。 ・Unit 4 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 5 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 5 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
11	義務-代名詞	ClassMATE Mini Test 5 Unit 5 Listening Sectionの小テスト Unit 5 Reading Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 5を学習して、代名詞を使ったReading の問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 5の課題をやる。 ・Unit 5 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 5 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 5 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
12	理由-前置詞	ClassMATE Mini Test 6 Unit 5 Reading Sectionの小テスト Unit 6 Listening Section の学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6 を学習して理由の表現を使ったListening の問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 6の課題をやる。 ・Unit 5 Reading Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 6 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 6 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	理由-前置詞		ClassMATE 模試 Unit 6 Listening Sectionの小テスト Unit 6 Reading Section の学習
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 6を学習して前置詞を使ったReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE 模試をやる。 ・Unit 6 Listening Section の小テストの勉強をする。 ・Unit 6 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読む。	30分
	事後学修	Unit 6 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
14	前期試験と振り返り		テキストの前期試験
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身につけることができる。	
	事前学修	試験の範囲を勉強する。	120分
	事後学修	試験の復習をし、分からなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	前期の振り返り		テスト返却 前期の授業を振り返る
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学んだことを振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	前期にテキスト、ClassMATEで学んだところで分からなかったところを調べておく。	30分
	事後学修	夏休み以降の勉強の計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	辻岡 宏子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で課題や試験についてフィードバックを行う。TOEICの受験、授業内課題、ClassMATEの課題達成ポイント、特別課題等で目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Best practice for the TOEIC listening and reading test revised edition	Yoshizuka	Seibido	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにて対応。tsujioka.hiroko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと学習方法	Class mate, TOEIC test registration	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICの概要を理解し、今後の学習目標を立てることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。	30分
	事後学修	TOEICの目標点数を決めて、学習スケジュールをたてる。	30分
2	TOEIC診断テスト	TOEIC Part1 to Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEIC Testの形式、内容を考察し学習スケジュールに応用することができる。	
	事前学修	語彙復習	30分
	事後学修	ジャーナル 1 TOEIC Testの振り返り	30分
3	Restaunt	人称代名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 文法復習 1	30分
	事後学修	ジャーナル 2 授業振り返り	30分
4	Entertainment	不定代名詞と再帰代名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 文法復習 2	30分
	事後学修	ジャーナル 3 授業振り返り	30分
5	Business	現在、過去時制	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 リーディング	30分
	事後学修	ジャーナル 4 授業振り返り	30分
6	Office	現在完了	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定） 課題 問題分析	30分
	事後学修	ジャーナル 5 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Telephone	期間を表す前置詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 1	30分
	事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分
8	Letter & e-mail	場所を表す前置詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 2	30分
	事後学修	ジャーナル 7 授業振り返り	30分
9	Health	数量形容詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用する。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 3	30分
	事後学修	ジャーナル 8 授業振り返り	30分
10	Bank & Post office	自動詞と他動詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 4	30分
	事後学修	ジャーナル 9 授業振り返り	30分
11	New Products	形容詞を作る接尾辞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 5	30分
	事後学修	ジャーナル 10 授業振り返り	30分
12	Travel 1	副詞を作る接尾辞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 6	30分
	事後学修	ジャーナル 11 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Travel 2	分詞構文	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 shadowing	30分
	事後学修	ジャーナル 1 2 授業振り返り	30分
14	Job applications	比較	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 総復習	30分
	事後学修	ジャーナル 1 3 授業振り返り	30分
15	Shopping	受動態	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 前期の学習内容のまとめ	30分
	事後学修	ジャーナル 1 4 授業振り返り	30分

科目名	TOEIC ⅢA(木曜3限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google classroomなどを利用してアクティブラーニングを実施。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②が身につけているかを評価する。	15	15									30
その他()	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他 (ClassMATE)												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FAST PASS FOR THE TOEIC® L&R TEST	上仲、是近共著	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにて対応します。 kuwayama.keikoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	TOEIC TESTとTOEIC III Aの授業の概要について説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、前期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	テキストのpp. 6-12を読んでTOEICの構成等について確認をする。	30分
	事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、前期の学習計画を立てる。	30分
2	TOEICについての説明、プレテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明。プレテストとしてTOEIC Reading Partの模擬試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
	事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	Unit 1	Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して名詞に関する問題を解くことが出来る	
	事前学修	pp. 24 - 28の問題を解く。	30分
	事後学修	事前学修で解いたテキストpp. 24 - 28の間違ったところを中心に復習する。Mini TOEIC L&R Test (pp. 29 - 33)の問題を解いて提出	30分
4	Unit 1	テキストMini TOEIC L&R Test (pp. 29 - 33)の解答と解説を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る	
	事前学修	Mini TOEIC L&R Test (pp. 29 - 33)の問題をもう一度解いてみる	30分
	事後学修	テキストMini TOEIC L&R Testの間違ったところを中心に復習する。	30分
5	第1回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 1 - 45) テキストVocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙、文法関連の問題を解くことが出来る	
	事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 34-38の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。事前学修で解いたテキストpp. 34-38の問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
6	第2回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 46 - 90) テキスト Mini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Entertainment」関連の問題を解くことが出来る	
	事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題をもう一度見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違ったところを中心に復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3回英単語試験 Unit 3	単語試験 (No.91 - 143)/ テキストVocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して音声を聴いて会話の内容を正確にとらえることが出来る	
	事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 44 - 48の問題を解く。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 34 - 38の間違えたところを中心に復習する。	30分
8	第4回英単語試験 Unit 3	単語試験 (No.144 - 195)/ Mini TOEIC L&R Testの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して助動詞関連の問題を解くことが出来る	
	事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	第5回英単語試験 Unit 4	単語試験 (No.196 - 248)/ Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して音声を聴いて相手の話している内容を理解することが出来る	
	事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 54 - 58の問題を解く。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 54 - 58の間違えたところを中心に復習する。	30分
10	第6回英単語試験 Unit 4	単語試験 (No.249 - 300) Mini TOEIC L&R Testの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してListening Part 2の問題を正確に解くことが出来る	
	事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する	30分
11	第7回英単語試験 Unit 5	単語試験 (No.301 - 345) Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してListening Part 4の音声を聴いて問題を解くことが出来る	
	事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 64 - 68の問題を解く。ClassMATE Week 5の課題をやる。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。事前学習で解いたテキストの問題の間違えたところを中心に復習する。	30分
12	第8回英単語試験 Unit 5	単語試験 (No.346 - 398)/ Mini TOEIC L&R Testの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 1, Part 6の形式に慣れることが出来る	
	事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第9回英単語試験 Unit 6	単語試験 (No.399 - 450)/ Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して文章問題の英文の内容を正確にとらえて問題を解くことが出来る	
	事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 74 - 78の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 74 - 78の間違えたところを中心に復習する。	30分
14	第10回英単語試験 Unit 6	単語試験 (No.451 - 495) Mini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICテスト全体の流れをつかんで、時間内に問題を解くことが出来る	
	事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
15	第11回英単語試験 TOEIC模擬試験 まとめ	単語試験 (No.496 - 548) TOEIC模擬問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICテスト全体の流れをつかんで、時間内に問題を解くことが出来る	
	事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストUnit 1-6のVocabularyやミニテストを振り返る。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。TOEIC模擬問題を振り返って復習する	30分

科目名	TOEIC ⅢA(木曜4限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google classroomなどを利用してアクティブラーニングを実施。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他 (ClassMATE)	。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FAST PASS FOR THE TOEIC® L&R TEST	上仲、是近共著	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	TOEIC TESTとTOEIC III Aの概要について説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、前期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	テキストのpp. 6-12を読んでTOEICの構成等について確認をする	30分
	事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、前期の学習計画を立てる。	30分
2	TOEICについての説明、プレテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストとしてTOEIC Reading Partの模擬試験を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
	事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	Unit 1	Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して名詞に関する問題を解くことが出来る。	
	事前学修	pp. 24 - 28の問題を解く。	30分
	事後学修	事前学修で解いたテキストpp. 24 - 28の間違ったところを中心に復習する。Mini TOEIC L&R Test (pp. 29 - 33)の問題を解いて提出	30分
4	Unit 1	テキストMini TOEIC L&R Test (pp. 29 - 33)の解答と解説を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る	
	事前学修	Mini TOEIC L&R Test (pp. 29 - 33)の問題をもう一度解いてみる。	30分
	事後学修	テキストMini TOEIC L&R Testの間違ったところを中心に復習する。	30分
5	第1回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 1 - 45)/ テキストVocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して語彙、文法関連の問題を解くことが出来る	
	事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 34-38の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。事前学修で解いたテキストpp. 34-38の問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
6	第2回英単語試験 Unit 2	単語試験 (No. 46 - 90)/ テキスト Mini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Entertainment」関連の問題を解くことが出来る	
	事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題をもう一度見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違ったところを中心に復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3回英単語試験 Unit 3	単語試験 (No.91 - 143)/ テキストVocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して音声を聴いて会話の内容を正確にとらえることが出来る	
	事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 44 - 48の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 34 - 38の間違えたところを中心に復習する。	30分
8	第4回英単語試験 Unit 3	単語試験 (No.144 - 195)/ Mini TOEIC L&R Testの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して助動詞関連の問題を解くことが出来る。	
	事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する	30分
9	第5回英単語試験 Unit 4	単語試験 (No.196 - 248)/ Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して音声を聴いて相手の話している内容を理解することが出来る	
	事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 54 - 58の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 54 - 58の間違えたところを中心に復習する。	30分
10	第6回英単語試験 Unit 4	単語試験 (No.249 - 300) Mini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してListening Part 2の問題を正確に解くことが出来る	
	事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	第7回英単語試験 Unit 5	単語試験 (No.301 - 345) Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してListening Part 4の音声を聴いて問題を解くことが出来る	
	事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 64 - 68の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。事前学習で解いたテキストの問題の間違えたところを中心に復習する	30分
12	第8回英単語試験 Unit 5	単語試験 (No.346 - 398)/ Mini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 1, Part 6の形式に慣れることが出来る	
	事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す。	30分
	事後学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す。 (事後学修) 単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第9回英単語試験 Unit 6	単語試験 (No. 399 - 450) / Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して文章問題の英文の内容を正確にとらえて問題を解くことが出来る	
	事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 74 - 78の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 74 - 78の間違えたところを中心に復習する。	30分
14	第10回英単語試験 Unit 6	単語試験 (No. 451 - 495) Mini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICテスト全体の流れをつかんで、時間内に問題を解くことが出来る	
	事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する	30分
15	第11回英単語試験 TOEIC模擬試験 まとめ	単語試験 (No. 496 - 548) TOEIC模擬問題を解く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICテスト全体の流れをつかんで、時間内に問題を解くことが出来る	
	事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストUnit 1-6のVocabularyやミニテストを振り返る。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。TOEIC模擬問題を振り返って復習する。	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	北村 豊	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。 小テストは次の授業で返却を行う。授業内試験後解説と振り返りを行う。 TOEIC受験に向けて、小テストや問題演習、ペアワークやグループワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Ivan’s Adventure in the business world (2)	Yutaka Kitamura	On Demand Publishing	2017	教科書	必携
備考	テキストは高麗書林（ http://www.komabook.co.jp/ ）でのみ入手可能。詳しい購入手順については大学のポータルサイト経由の「授業連絡」でお知らせします。				

【オフィスアワー】
質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yutaka.kitamura1@nihon-u.ac.jpまでメール送信の事。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	General introduction	General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。TOEICのスコア表の読み方を学ぶ。 英英辞典の応用的な使い方を習得する。	
	この回の到達目標	授業の進め方、TOEICの概要を理解する。TOEICのスコア表の読み方を学び、自分で学習戦略を立てられる。 英英辞典の応用的な使い方を習得する。	
	事前学修	授業の概要を大学のHPで確認する。（30分）	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。（30分）	30分
2	TOEICリスニング第1部について	リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリスニング第1部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(1-5頁)に取り組む。	30分
	事後学修	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。	30分
3	TOEICリスニング第2部について	リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリスニング第2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(6-11頁)に取り組む。（30分）	30分
	事後学修	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。	30分
4	TOEICリスニング第3部について	リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリスニング第3部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(12-19頁)に取り組む。（30分）	30分
	事後学修	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
5	TOEICリスニング第4部について	リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリスニング第4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(20-28頁)に取り組む。（30分）	30分
	事後学修	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分
6	TOEICリーディング第5部について	リーディング第5部：演習と解説 リーディング第5部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリーディング第5部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。	
	事前学修	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。（30分）	30分
	事後学修	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	TOEICリーディング第6部について		リーディング第6部：演習と解説 リーディング第6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	TOEICリーディング第6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
8	TOEICリーディング第7部前半single passageについて		リーディング第7部（前半single passage）：演習と解説 リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の準備、テキスト(39-47頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
9	TOEICリーディング第7部後半double passageについて		リーディング第7部（後半double passage）：演習と解説 リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部後半問題演習の復習、テキスト(47-58頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
10	TOEICリスニング第1－2部について		リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説 リスニング第1－2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	リスニング第1－2部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リスニング第1－2部問題演習の準備。テキスト(59-63頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
11	TOEICリスニング第3－4部について		リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説 リスニング第3－4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	リスニング第3－4部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リスニング第3－4部問題演習の準備。テキスト(64-67頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分
12	TOEICリーディング第5－6部について		リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 リーディング第5－6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	リーディング第5－6部の問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第5－6部問題演習の準備。テキスト(5-22頁)に取り組む。(30分)		30分
	事後学修	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。(30分)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	TOEICリーディング第7部前半single passageについて		リーディング問題演習（第7部前半single passage）と解説 リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	リーディング第7部前半single passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の準備。テキスト(68-72頁)に取り組む。（30分）		30分
	事後学修	リーディング第7部前半single passage問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。頻出単語を暗記する。（30分）		30分
14	TOEICリーディング第7部後半double passageについて		リーディング問題演習（第7部後半double passage）と解説 リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に取り組む。	
	この回の到達目標	リーディング第7部後半double passageの問題とその意図を高いレベルで理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。		
	事前学修	リーディング第7部後半double passage問題演習の準備。テキスト(78-89頁)に取り組む。（30分）		30分
	事後学修	リーディング第7部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行うと同時に、トレーニングの成果の確認をする。授業内最終テストに備える。		30分
15	後期授業の総まとめと振り返り		Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。その後解説と後期学習内容の振り返り。	
	この回の到達目標	後期授業の総まとめとしての授業内試験（及びその後の解説）を通して、後期学習内容の理解を深める。		
	事前学修	「後期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。		30分
	事後学修	「後期のまとめ」の内容の復習。後期授業の学習内容を確認する。 今後の自分の学習計画を立て、将来の受験に備える。		30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験すること、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務づける。（受験料、受講料は自己負担）原則通年で履修すること。

【授業方法】
問題演習、小テスト、ペア・ワークをしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペア・ワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、 レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①②が身に付いているかを 評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価す る。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The TOEIC TEST Trainer Target 650	Masahiko Yamaguchi 他3名	CENGAGE Learning	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。suzuki.kyokoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	苦情-接続詞	Unit 7 Listening Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 7を学習して苦情の表現を使ったListening 問題を解くことができる。	
	事前学修	・Unit 7 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 7 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
2	苦情-接続詞	Unit 7 Listening Sectionの小テスト Unit 7 Reading Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 7を学習して接続詞を用いたReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・Unit 7 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 7 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 7 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
3	交通情報-スキミング	Unit 7 Reading Sectionの小テスト Unit 8 Listening Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 8を学習して交通情報のListening の問題を解くことができる。	
	事前学修	・Unit 7 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 8 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 8 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
4	交通情報-スキミング	Unit 8 Listening Sectionの小テスト Unit 8 Reading Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 8を学習してスキミングを用いてReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・Unit 8 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 8 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 8 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
5	Yes/Noで答える質問-関係詞	Unit 8 Reading Sectionの小テスト Unit 9 Listening Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 9を学習してYes/Noで答える質問のListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	・Unit 8 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 9 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 9 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
6	Yes/Noで答える質問-関係詞	Unit 9 Listening Sectionの小テスト Unit 9 Reading Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 9を学習して関係詞を用いたReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・Unit 9 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 9 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 9 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	意見-分詞構文	ClassMATE Mini Test 1 Unit 9 Reading Sectionの小テスト Unit 10 Listening Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 10を学習して意見の表現を使ったListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 1の課題をやる。 ・Unit 9 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 10 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 10 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
8	意見-分詞構文	ClassMATE Mini Test 2 Unit 10 Listening Sectionの小テスト Unit 10 Reading Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 10を学習して分詞構文を用いたReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 2の課題をやる。 ・Unit 10 Listening Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 10 Reading Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 10 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
9	意見の一致・不一致-仮定法	ClassMATE Mini Test 3 Unit 10 Reading Sectionの小テスト Unit 11 Listening Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11 を学習して意見の一致・不一致のListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE Week 3の課題をやる。 ・Unit 10 Reading Sectionの小テストの勉強をする。 ・Unit 11 Listening Sectionの語彙を調べておく。Training Pointを読んでおく。	30分
	事後学修	Unit 11 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
10	意見の一致・不一致-仮定法	ClassMATE Mini Test 4 Unit 11 Listening Sectionの小テスト Unit 11 Reading Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 11を学習して仮定法のReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Mini Test 4 Unit 11 Listening Sectionの小テスト Unit 11 Reading Sectionの学習	30分
	事後学修	Unit 11 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
11	会議-スキミング	ClassMATE Mini Test 5 Unit 11 Reading Sectionの小テスト Unit 12 Listening Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 12を学習して会議に関するListeningの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Mini Test 5 Unit 11 Reading Sectionの小テスト Unit 12 Listening Sectionの学習	30分
	事後学修	Unit 12 Listening Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分
12	会議-スキミング	ClassMATE Mini Test 6 Unit 12 Listening Sectionの小テスト Unit 12 Reading Sectionの学習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit 12を学習してス棄民後を用いたReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	ClassMATE Mini Test 6 Unit 12 Listening Sectionの小テスト Unit 12 Reading Sectionの学習	30分
	事後学修	Unit 12 Reading Sectionのテキストを音読し、復習として自分で訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	総復習	ClassMATE 模試 Unit 12 Reading Sectionの小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期やったことを用いてListeningとReadingの問題を解くことができる。	
	事前学修	・ClassMATE 模試の課題をやる。 ・Unit 12 Reading Sectionの小テストを勉強する。	30分
	事後学修	授業で学習したことの復習。	30分
14	後期試験と振り返り	テキストの後期試験	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期の復習テストを受験することで必要な語彙や解法のテクニックを身につけることができる。	
	事前学修	後期の範囲を勉強する。	30分
	事後学修	試験の復習をし、分からなかったところをテキストやノートで復習する。	30分
15	後期の振り返り	テスト返却 後期の授業を振り返る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学んだことを振り返り、今後の学習の計画を立てることができる。	
	事前学修	後期にテキスト、ClassMATEで学んだところで分からなかったところを調べておく。	30分
	事後学修	今学年が終わっても引き続きTOEICの勉強を続けていくための計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
講義および演習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomなどを利用してアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で課題や試験についてフィードバックを行う。TOEICの受験、授業内課題、ClassMATEの課題達成ポイント、特別課題等で目標達成度を確認。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Perfect practice for the TOEIC L & R test Revised edition	Ishii	Seibido	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールにて対応。tsujioka.hiroko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと学習方法	Class mate, TOEIC test registration	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICの内容と学習方法を考察することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。TOEIC L&R TestのHPに目を通す。	30分
	事後学修	TOEICの目標点数を決めて、学習スケジュールをたてる。	30分
2	TOEIC診断テスト	TOEIC Part1 to Part 7	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEIC Testの形式、内容を考察することができる。	
	事前学修	語彙復習	30分
	事後学修	ジャーナル 1 授業振り返り	30分
3	Studying Abroad	動詞の時制	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 文法復習 1	30分
	事後学修	ジャーナル 2 授業振り返り	30分
4	International Conference	自動詞と他動詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 文法復習 2	30分
	事後学修	ジャーナル 3 授業振り返り	30分
5	Holidays	主語と動詞の一致	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 リーディング	30分
	事後学修	ジャーナル 4 授業振り返り	30分
6	Leisure	動名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	ClassMATEの使い方を覚える（配信スタート予定）	30分
	事後学修	ジャーナル 5 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Restaurant	不定詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 1	30分
	事後学修	ジャーナル 6 授業振り返り	30分
8	Online Shopping	副詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 2	30分
	事後学修	ジャーナル 7 授業振り返り	30分
9	Global Warming	分詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 3	30分
	事後学修	ジャーナル 8 授業振り返り	30分
10	Web Sites	名詞の可算、不可算	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 4	30分
	事後学修	ジャーナル 9 授業振り返り	30分
11	Workplace	代名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 5	30分
	事後学修	ジャーナル 10 授業振り返り	30分
12	Nursing Care	接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 ClassMATE Week 6	30分
	事後学修	ジャーナル 11 授業振り返り	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Global Trading	受動態と使役	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 shadowing	30分
	事後学修	ジャーナル 1 2 授業振り返り	30分
14	Eco-Friendly Economy	関係詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 総復習	30分
	事後学修	ジャーナル 1 3 授業振り返り	30分
15	Business Trips	形容詞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、上記テーマや内容に関する文法、語彙を説明し使用することができる。	
	事前学修	課題 後学期の学習内容のまとめ	30分
	事後学修	ジャーナル 1 4 授業振り返り	30分

科目名	TOEIC ⅢB(木曜4限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICの受験とオンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。講義及び演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者全体のアクティブラーニングによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを、課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②が身についているかを評価する	15	15									30
その他()	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他 (ClassMATE)												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、授業内試験、小テスト、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FAST PASS FOR THE TOEIC® L&R TEST	上仲、是近共著	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30、またはメールでも対応します。 メールアドレス : kuwayama.keiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	TOEIC III Bの概要について説明。授業の進め方、成績評価、課題等について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、後期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	前期に貰ったTOEICの授業に関する資料をもう一度確認をする	30分
	事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、後期の学習計画を立てる。	30分
2	第12回英単語試験 TOEICについての説明、ミニテスト	単語試験 (No. 549-600) / TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、ミニテストと解答と解説を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	前期にテキストを通じて学んだことを振り返る。単語のテキストを見て単語を覚えて練習問題を解く。	30分
	事後学修	授業で行ったミニテストを振り返る	30分
3	第13回英単語試験 Unit 7	単語試験 (No. 601 - 630/1~15) / Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る	
	事前学修	・第13回英単語試験の範囲の単語を覚える。 ・テキストpp. 84 - 88の問題を解く。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。事前学習で解いたテキストの問題の間違えたところを中心に復習する	30分
4	第14回英単語試験 Unit 7	単語試験 (No. 16 - 60) / Mini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連のTOEICの問題を解くことが出来る	
	事前学修	第14回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストTOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する	30分
5	第15回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. 61 - 113) / Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して「前置詞」関連の問題を解くことが出来る	
	事前学修	第15回英単語試験の範囲の単語を覚える。・テキストpp. 94 - 98の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 94 - 98の間違えたところを中心に復習する。	30分
6	第16回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. 114 - 165) / Mini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して音声聴いて内容を正確にとらえてPart 4の問題を解くことが出来る。	
	事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第17回英単語試験 Unit 9	単語試験 (No. 166 - 218) / Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る	
	事前学修	第18回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 104 - 108の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 104 - 108の間違えたところを中心に復習する。	30分
8	第18回英単語試験 Unit 9 /	単語試験 (No. 219 - 263) / テキストMini TOEIC L&R Testの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第18回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	第19回英単語試験 Unit 10	単語試験 (No. 264 - 315) / Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 1, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第19回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 114 - 118の問題を解く。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 114 - 118の間違えたところを中心に復習する。	30分
10	第20回英単語試験 Unit 10	単語試験 (No. 316-360) / テキストMini TOEIC L&R Test の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る	
	事前学修	第20回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	第21回英単語試験 Unit 11	単語試験 (No. 361-413) / Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第21回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 124 - 128の問題を解く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 124 - 128の間違えたところを中心に復習する。	30分
12	第22回英単語試験 Unit 11	単語試験 (No. 414-465) / テキストMini TOEIC L&R Test解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 3, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第22回英単語試験の範囲の単語を覚える。Mini TOEIC L&R Testの問題と自分の解答を見直す	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第23回英単語試験 Unit 12	単語試験 (No. 466-518) / Vocabulary Builder / Strategies for the Listening Section / Strategies for the Reading Sectionの解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る	
	事前学修	第23回英単語試験の範囲の単語を覚える。テキストpp. 134 - 138の問題を解く	120分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 134 - 138の間違えたところを中心に復習する。TOEIC模擬試験(Reading)に取り組んで提出。	30分
14	第24回英単語試験 TOEIC模擬試験(Reading)	単語試験 (No. 519-570) / 前回授業で解いたTOEIC模擬問題の解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
	事前学修	第24回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題をもう一度解いてみる。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
15	後期の振り返り TOEIC模擬試験(Listening)	後期の授業を振り返る。TOEIC模擬試験(Listening)の解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期、後期で学んだことを見直し、今後のTOEIC対策を立てることが出来る。	
	事前学修	後期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。TOEIC模擬試験の復習をする。	30分
	事後学修	後期に学んだことを振り返り、今後の目標と計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC ⅢB(木曜3限)	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC450点程度取得している中級レベルの学生を対象としたクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC600点を獲得するために中級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを 副教材として受講することを義務付ける。（受験料、受講料は自己負担）

【授業方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト受験対策として単語等の小テスト、テキストを使用したTOEIC のミニテストを行ったうえで時間を見て他のTOEIC問題を解いたり、リスニングパートをペアワークをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク、グループワークなどの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア600点を取得する。								3			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、中級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①が達成できているかを、授業内試験とTOEICにより評価する。	50										50
小テスト等	到達目標①が達成できているかを、小テストにより評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標②が身に付いているかを評価する。		30									30
その他()												
その他(ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①が達成できているか評価する。	10										10
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEIC-IPもしくは公開テスト、TOEIC模擬試験、TOEIC のミニテスト、ClassMATEのポイント等で目標達成度を確認。テスト、速読用の小レポート等に関しては当日もしくは後日解答、解説、返却等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FAST PASS FOR THE TOEIC® L&R TEST	上仲、是近共著	センゲージラーニング	2019	教科書	必携
改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子	アルク	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日8:30 - 8:50 / 木曜日12:30 - 12 : 50, 14:30 - 40, 16:10 - 16:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	TOEIC III Bの概要について説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICの概要を理解して、後期の学習目標を立てることが出来る。	
	事前学修	テキストのpp. 6-12を読んでTOEICの構成等についてもう一度確認をする。	30分
	事後学修	授業で聴いた内容を振り返り、後期の学習計画を立てる。	30分
2	TOEICについての説明、プレテストまたはミニテスト	TOEIC-IPもしくは公開テストの概要、パート別の説明、プレテストもしくはミニテストと解答と解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEICのプレテストを通じてパート別の問題形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	テキストのダウンロードした音声などを聴き、または速読用の本を読んでプレテストに備える。	30分
	事後学修	プレテストの問題の中で間違えたところを中心に復習する。	30分
3	第13回英単語試験 Unit 7	単語試験 (No. . 601 - 630/1`15)/ テキストMini TOEIC L&R Test (pp. 89 - 93) の小テスト、解答と解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してミニテストを通じてTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える。 ・テキストWarm-Up Listeningの音声聴く	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
4	第14回英単語試験 Unit 7	単語試験 (No. . 16 - 60)/ テキストpp. 84 - 88までの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連のTOEICの問題を解くことが出来る。	
	事前学修	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 84 - 88の問題を解く。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 84 - 88の間違えたところを中心に復習する。	30分
5	第15回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. . 61 - 113)/ テキスト Mini TOEIC L&R Test (pp. 99 - 103)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連の問題を解くことが出来る。	
	事前学修	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
6	第16回英単語試験 Unit 8	単語試験 (No. . 114 - 165)/ テキストpp. 94 - 98までの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して「Office Work」関連の語彙の修得、リスニング、リーディングの問題を解くことが出来る。	
	事前学修	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 94 - 98の問題を解く。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 94 - 98の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第17回英単語試験 Unit 9 ClassMATE Mini test 1	単語試験 (No. 166 - 218)/ ClassMATE Mini test 1 /テキストMini TOEIC L&R Test(pp.109 - 113)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
8	第18回英単語試験 Unit 10 ClassMATE Mini test 2	単語試験 (No. 219 - 263)/ ClassMATE Mini test 2/テキストMini TOEIC L&R Test(pp.119 - 123)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
9	第19回英単語試験 ClassMATE Mini test 3 Unit 9 & 10	単語試験 (No. 264 - 315) /テキストpp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の解答と解説。ClassMATE Mini test 3	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 1, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. 104 - 108 / pp. 114 - 118の間違えたところを中心に復習する。	30分
10	第20回英単語試験 ClassMATE Mini test 4 Unit 11	単語試験 (No. 316-360)/ ClassMATE Mini test 4 /テキストMini TOEIC L&R Test(pp.129 - 133)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する。	30分
11	第21回英単語試験 ClassMATE Mini test 5 Unit 12	単語試験 (No. 361-413)/ ClassMATE Mini test 5 / Mini TOEIC L&R Test(pp.139 - 143)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC全体の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストMini TOEIC L&R Testの間違えたところを中心に復習する	30分
12	第22回英単語試験 ClassMATE Mini test 6 Unit 5& Unit 6	単語試験 (No. 414-465)/ ClassMATE Mini test 6 / テキストUnit 11 & Unit 12 : pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138までの解答と解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してPart 3, Part 7の形式に慣れることが出来る。	
	事前学修	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える。pp. pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138の問題を解く。ClassMATEを復習して Mini test の準備をする。	30分
	事後学修	単語の小テストで間違えた語を覚え直す。テキストpp. pp. 124 - 128 / pp. 134 - 138の間違えたところを中心に復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第23回英単語試験 TOEIC模擬試験（学期末試験）	単語試験（No.466-518）/ TOEIC模擬問題50問（又は100問）を解く。その後解答と解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連してTOEIC模擬試験（学期末試験）を通してTOEIC全体の解法のテクニックを身につけることが出来る	
	事前学修	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える。今までオンラインで学習したClassMATEの問題を選んで解く。	120分
	事後学修	模擬試験のリーディングの問題を再度解く。分からない語を辞書で調べ英文を訳す。	30分
14	第24回英単語試験 TOEIC模擬試験の復習、 その他の問題	単語試験（No.519-570）/TOEIC模擬試験を復習する。リスニングパートのペアワーク、リーディングパートの練習等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して模擬試験を振り返ることでTOEICに必要な語彙、パート別の解答の仕方などを身につけることが出来る。	
	事前学修	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える。13回目の授業で行った模擬試験問題で間違えたところを中心に復習する。	30分
	事後学修	テキストUnit 6- 12のリーディングの問題をもう一度解く。	30分
15	後期の振り返り	後期の授業を振り返る。リスニングの練習、他	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して前期に学んだことを見直し、今後のTOEIC対策を立てることが出来る。	
	事前学修	後期にテキストの中で間違えた問題をピックアップして見直す。	30分
	事後学修	後期に学んだことを振り返り、今後の目標を立てる。	30分

科目名	TOEIC IVA	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC500点程度取得している上級レベルの学生を対象とするクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC730点を獲得するために上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で受講すること。

【授業方法】
Zoomによるライブ授業。ブレイクアウトセッションで個別にシャドーイングのプレゼンをする。グループワークで演習をしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ブレイクアウトセッションでグループ・ワークの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア730点を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、課題提出、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。課題、テストは返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 7』	ETS	コミュニケーション 協会ビジネス協会	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日15:00-16:00　電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	前期ガイダンス（zoomによるライブ授業の進め方 ・ TOEICを受験する目的を考える）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
	事前学修	シラバスを読む。	30分
	事後学修	今日の振り返り。配布されたプリントを読む。 資料の動画を視聴する。	30分
2	TED talksを活用した学習法についての概要 シャドーイング方法についての概要	①TOEICテストパート別対策と学習法 ②課題提出について ③オンラインClassMATE教材について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICテストの概要を理解し、スコアの到達目標のための勉強法を知ることができる。	
	事前学修	教科書を購入し、資料を復習する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、課題を提出する。	30分
3	リスニング学習法 音読とシャドーイング方法	①シャドーイングと音読の方法について ②TOEIC リスニングパートについて ③TED talksの課題の取り組み方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICリスニングパートについて理解し、シャドーイングとリスニングの学習方法を知ることができる。	
	事前学修	指定された課題を準備する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
4	シャドーイング課題のプレゼン TOEIC Listening Part	①TOEIC Listening Partの解き方について ②シャドーイング課題を实践する→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音読・シャドーイングの方法を身に付けることでListeningの正解率を上げることができる。	
	事前学修	指定された課題を準備する。音読とシャドーイングテストの練習をする。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。オンライン教材を申し込む。	30分
5	Reading Part について シャドーイングでリスニング力をつける	①Reading Part の解説と解き方 ②音読とシャドーイングの实践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Reading Partについて理解することができる。また速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングテストの練習をする。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
6	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの实践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける		①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。		
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。		30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。		30分
8	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける		①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。		
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。		30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。		30分
9	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける		①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。		
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。		30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。		30分
10	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける		①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。		
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。		30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。		30分
11	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける		①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。		
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。		30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。		30分
12	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける		①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。		
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。		30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週のテストに備える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEIC-IPのための復習テスト	TOEIC-IP模擬テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまで学習したことを使ってTOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	これまで学習したことを復習する。	30分
	事後学修	最終シャドーイングテストに向けて練習をする。	30分
14	前回テストのフィードバック	前回テストのフィードバック 最終シャドーイングテストに向けて練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、復習する部分を確認することができる。	
	事前学修	最終課題のシャドーイングの練習を継続する。	30分
	事後学修	オンライン教材が完成しているか確認する。 シャドーイングの練習を継続する。	30分
15	シャドーイングテスト	最終シャドーイング課題をプレゼンする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最終シャドーイング課題のパフォーマンスを通して、英語のリスニング・スピーキング能力を示すことができる。	
	事前学修	最終シャドーイング課題を練習する。	30分
	事後学修	これまでの振り返り。音読・シャドーイングの練習を続け、今後のTOEICテストに向けて計画を立てる。	30分

科目名	TOEIC IVB	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
すでにTOEIC500点程度取得している上級レベルの学生を対象とするクラス

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEIC730点を獲得するために上級レベルの基礎力と解法のテクニックを身に着ける。

【履修条件】
TOEICを受験することと、オンライン・トレーニングのClassMATEを副教材として受講することを義務付ける（受験料、受講料は自己負担）。原則通年で受講すること。

【授業方法】
TOEICテストに備えての演習授業。個別にシャドーイングのプレゼンをする。グループワークで演習をしながらTOEICの受験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ワークの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英語基礎力を身につけ、TOEICスコア730点を取得する。								4			
②	TOEICで重視されるビジネスシーンを想定し、上級レベルの英語コミュニケーションをとることができる。									4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②が達成できているかを課題（TOEIC、テスト、レポートなどを含む）により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、到達目標①、②が身に付いているかを評価する。	15	15									30
その他 (ClassMATE)	ClassMATEにより、到達目標①、②が達成できているか評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
TOEICの受験、課題提出、ClassMATEの課題達成ポイント等で目標達成度を確認。課題、テストは返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 7』	ETS	コミュニケーション 協会ビジネス協会	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日15:00-16:00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	後期ガイダンス（授業の進め方 ・ TOEICを受験する目的を考える）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関してTOEICを受験するための目的を理解し、自分の到達目標を設定することができる。	
	事前学修	シラバスを読む。	30分
	事後学修	今日の振り返り。配布されたプリントを読む。 資料の動画を視聴する。	30分
2	TED talksを活用した学習法についての概要 シャドーイング方法についての概要	①TOEICテストパート別対策と学習法 ②課題提出について ③オンラインClassMATE教材について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、TOEICテストの概要を理解し、スコアの到達目標のための勉強法を知ることができる。	
	事前学修	教科書を購入し、資料を復習する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、課題を提出する。	30分
3	リスニング学習法 音読とシャドーイング方法	①シャドーイングと音読の方法について ②TOEIC リスニングパートについて ③TED talksの課題の取り組み方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、TOEICリスニングパートについて理解し、シャドーイングとリスニングの学習方法を知ることができる。	
	事前学修	指定された課題を準備する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
4	シャドーイング課題のプレゼン TOEIC Listening Part	①TOEIC Listening Partの解き方について ②シャドーイング課題を実践する→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音読・シャドーイングの方法を身に付けることでListeningの正解率を上げることができる。	
	事前学修	指定された課題を準備する。音読とシャドーイングテストの練習をする。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。オンライン教材を申し込む。	30分
5	Reading Part について シャドーイングでリスニング力をつける	①Reading Part の解説と解き方 ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Reading Partについて理解することができる。また速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングテストの練習をする。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
6	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
8	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
9	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
10	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
11	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。	30分
12	生の材料で速読力をつける シャドーイングでリスニング力をつける	①インターネットの生の材料を使って速読力を養う ②音読とシャドーイングの実践をする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、速読力とシャドーイングのテクニックを使って、英語の体幹を鍛え、TOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	音読とシャドーイングの練習をする。 ClassMATEオンライン教材を完成する。	30分
	事後学修	学習した内容を復習し、次週のテストに備える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TOEIC-IPのための復習テスト	TOEIC-IP模擬テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまで学習したことを使ってTOEICテストの正解を導き出すことができる。	
	事前学修	これまで学習したことを復習する。 ClassMATEオンライン教材を完成する。	30分
	事後学修	最終シャドーイングテストに向けて練習をする。	30分
14	前回テストのフィードバック	前回テストのフィードバック 最終シャドーイングテストに向けて練習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、復習する部分を確認することができる。	
	事前学修	最終課題のシャドーイングの練習を継続する。	30分
	事後学修	オンライン教材が完成しているか確認する。 シャドーイングの練習を継続する。	30分
15	シャドーイングテスト	最終シャドーイング課題をプレゼンする→教員からのフィードバック	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最終シャドーイング課題のパフォーマンスを通して、英語のリスニング・スピーキング能力を示すことができる。	
	事前学修	最終シャドーイング課題を練習する。	30分
	事後学修	これまでの振り返り。音読・シャドーイングの練習を続け、今後のTOEICテストに向けて計画を立てる。	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
Classes will be conducted Face-to-Face in the classroom observing Covid-19 prevention measures. Students will participate in pair work, small group work, and class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group work	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Final Speaking Test	40										40
小テスト等	2 listening quizzes	20	20									40
レポート等	Homework	10										10
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral comments in class to students on their performance and written feedback on homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 1, 2nd Edition with digital book	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com. If you have questions see me Saturday 3rd period or 4th period at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with a foundation for building human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Course Introduction、及び導入講義		Instructor & course introduction; ice breaking activities; introducing yourself to others	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to understand the content and style of the class. Students will be able to introduce themselves to others.		
	事前学修	Come to class well rested and ready to participate. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
2	Personal introductions		Introducing yourself/ Personal information	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to introduce themselves and question others for basic personal information.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
3	Formal introductions		Formal language used in the workplace for introductions; job titles and duties	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to use more formal language to introduce themselves and others. They will also be able to initiate and sustain a short conversation about jobs and duties.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
4	What a life!		Daily life as a student	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about their daily routine.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson.		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson.		30分
5	What a life!		Discussing typical daily life	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to use time expressions to talk about daily activities.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
6	Free-time		Hobbies	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about things they can do and things they like to do.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Free-time		Leisure activities; Listening Test 1	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about free-time activities.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
8	Places		Talking about your hometown and what you can do there.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to describe their hometown and its facilities.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
9	Places		Hometown facilities	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about the available facilities in their hometown area.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
10	Getting around		Directions	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to talk about their commute to college.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
11	Getting around		Ask for and give directions	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to ask for for and give directions.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
12	Shopping		Describing shopping habits	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to describe their shopping style.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Shopping	Shopping habits	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will be able to ask for assistance from shop clerks when shopping.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of their speaking and listening skills by participating in a small group discussion.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of their speaking and listening skills by participating in a small group discussion.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I A(金曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
On Demand. Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions on the google classrooms system and should be engaged in active listening and note taking during class time	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	There are a total of twelve (12) quizzes given during the semester . The best ten scores will each be 10 % of the grade for a total of 100%.	50	50									100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Following the deadline for submission of each Quiz, each students will receive their score along with the correct answers to the quiz.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考 There is no assigned textbook for this class.					

【オフィスアワー】
Students are free to send a request for a zoom, Line or other type of one on one meeting . The Professor will be happy to talk with the student at a mutually agreeable time . [jeffrey.tarlofsky11@nihon-u.ac.jp]

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	1. Theme : Introduction		Content: Meet the instructor . Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading Lecture #1 Excerpts from How The West Was Won (1962) and Cimarron (1931)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short assessment/placement test (not used for grading). Students use the test to access their interest in the class and their ability to achieve their goals		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review the syllabus and course description.		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Frontier		30分
2	2. Theme : The West: A Time and A Place		Content: Quiz # 1 Lecture #2 Excerpts from Cimarron . “Black Hats” vs “White hats” .	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take notes during lecture and perform the assigned tasks in the pre-screening activity		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #1 and all notes and prepare for Quiz #1		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Make sure you have a means of keeping your notes organized and available for taking quizzes		30分
3	3. Theme : East Vs West		Content: Quiz #2 Lecture #3 The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier . Part One of Stagecoach.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #2 and all notes and prepare for Quiz #2		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: John Ford’ s Stagecoach		30分
4	4. Theme : The Victims of Social Prejudice		Content: Quiz #3 Lecture#4 On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #3 and all notes and prepare for Quiz #3		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading ; The Timeless Wickedness of Ellsworth H. Gatewood		30分
5	5. Theme : Finding Common Ground		Content: Quiz #4 Lecture # 5 Excerpts from Stagecoach :The search for redemption	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #4 and all notes and prepare for Quiz #4		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Establish a clear timeline of events in the film		30分
6	6. Theme : Redemption and Revenge		Content: Quiz #5 Lecture #6 Excerpts from Stagecoach ; Final Confrontations	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #5 and all notes and prepare for Quiz #5		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: Wagon Trains of the Old West		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7. Theme : Cattle Culture in the American West	Content: Quiz #6 . Lecture #7 : Excerpts from A Bend of The River (1952) and Wagon Master (1950).	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #6 and all notes and prepare for Quiz #6	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Cattle Ranching and Cattle Drives	30分
8	8. Theme : Comprehensive Midterm Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review lecture notes	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Review quizzes	30分
9	9. Theme : Manifest Destiny	Content: Quiz # 7 Lecture # 8 Excerpts from Red Rive (1948)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #7 and all notes and prepare for Quiz #7	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Branding , Howard Hawkes	30分
10	10. Theme : A Question of Survival	Content: Quiz #8 Lecture #9 Excerpts from Red River (1948) Back to White and Black hats again.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #8 and all notes and prepare for Quiz #8	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Catastrophic Situation of Texas Cattle Ranchers	30分
11	11. Theme : The Culture of Violence	Content: Quiz # 9 Lecture #10 Excerpts from Red River (1948) “I don’ t want to have to kill you…”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #9 and all notes and prepare for Quiz #9	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading :Cowboy Clothes, Coffee and Food	30分
12	12. Theme : Power struggle between Generations	Content: Quiz #10 . Lecture #11 : Excerpts from Red River (1948) “Who will stop me?”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #10 and all notes and prepare for Quiz #10	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading ; Wayne and Clift, Dunson and Matt	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	13. Theme : Screening Between the Lines		Content: Quiz #11 Lecture #12 The nature of Matt and Tom' s relationship	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #11 and all notes and prepare for Quiz #11		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : The Economics of Inequality		30分
14	14. Theme : Juvenile Delinquency and the West		Content: Quiz #12 Lecture #13 Excerpts from The Left handed Gun (1958)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.		
	事前学修	30 minutes minimum : Review Lecture #12 and all notes and prepare for Quiz #12		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : The True Story of Billy The Kid		30分
15	15. Theme : Comprehensive Final Review		Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review lecture notes		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Review quizzes		30分

科目名	Listening & Speaking I A(水曜5時限・ 二部月曜1時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
On Demand. Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions on the google classrooms system and should be engaged in active listening and note taking during class time	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	There are a total of twelve (12) quizzes given during the semester . The best ten scores will each be 10 % of the grade for a total of 100%.	50	50									100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Following the deadline for submission of each Quiz, each students will receive their score along with the correct answers to the quiz.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考 There is no assigned textbook for this class.					

【オフィスアワー】
Students are free to send a request for a zoom, Line or other type of one on one meeting . The Professor will be happy to talk with the student at a mutually agreeable time . [jeffrey.tarlofsky11@nihon-u.ac.jp]

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	1. Theme : Introduction	Content: Meet the instructor . Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading Lecture #1 Excerpts from How The West Was Won (1962) and Cimarron (1931)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short assessment/placement test (not used for grading). Students use the test to access their interest in the class and their ability to achieve their goals	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review the syllabus and course description.	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Frontier	30分
2	2. Theme : The West: A Time and A Place	Content: Quiz # 1 Lecture #2 Excerpts from Cimarron . “Black Hats” vs “White hats” .	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take notes during lecture and perform the assigned tasks in the pre-screening activity	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #1 and all notes and prepare for Quiz #1	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Make sure you have a means of keeping your notes organized and available for taking quizzes	30分
3	3. Theme : East Vs West	Content: Quiz #2 Lecture #3 The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier . Part One of Stagecoach.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #2 and all notes and prepare for Quiz #2	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: John Ford’ s Stagecoach	30分
4	4. Theme : The Victims of Social Prejudice	Content: Quiz #3 Lecture#4 On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #3 and all notes and prepare for Quiz #3	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading ; The Timeless Wickedness of Ellsworth H. Gatewood	30分
5	5. Theme : Finding Common Ground	Content: Quiz #4 Lecture # 5 Excerpts from Stagecoach :The search for redemption	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #4 and all notes and prepare for Quiz #4	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Establish a clear timeline of events in the film	30分
6	6. Theme : Redemption and Revenge	Content: Quiz #5 Lecture #6 Excerpts from Stagecoach ; Final Confrontations	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #5 and all notes and prepare for Quiz #5	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: Wagon Trains of the Old West	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7. Theme : Cattle Culture in the American West	Content: Quiz #6 . Lecture #7 : Excerpts from A Bend of The River (1952) and Wagon Master (1950).	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #6 and all notes and prepare for Quiz #6	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Cattle Ranching and Cattle Drives	30分
8	8. Theme : Comprehensive Midterm Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review lecture notes	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Review quizzes	30分
9	9. Theme : Manifest Destiny	Content: Quiz # 7 Lecture # 8 Excerpts from Red Rive (1948)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #7 and all notes and prepare for Quiz #7	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Branding , Howard Hawkes	30分
10	10. Theme : A Question of Survival	Content: Quiz #8 Lecture #9 Excerpts from Red River (1948) Back to White and Black hats again.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #8 and all notes and prepare for Quiz #8	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Catastrophic Situation of Texas Cattle Ranchers	30分
11	11. Theme : The Culture of Violence	Content: Quiz # 9 Lecture #10 Excerpts from Red River (1948) “I don’ t want to have to kill you…”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #9 and all notes and prepare for Quiz #9	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading :Cowboy Clothes, Coffee and Food	30分
12	12. Theme : Power struggle between Generations	Content: Quiz #10 . Lecture #11 : Excerpts from Red River (1948) “Who will stop me?”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #10 and all notes and prepare for Quiz #10	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading ; Wayne and Clift, Dunson and Matt	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	13. Theme : Screening Between the Lines		Content: Quiz #11 Lecture #12 The nature of Matt and Tom' s relationship	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #11 and all notes and prepare for Quiz #11		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : The Economics of Inequality		30分
14	14. Theme : Juvenile Delinquency and the West		Content: Quiz #12 Lecture #13 Excerpts from The Left handed Gun (1958)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.		
	事前学修	30 minutes minimum : Review Lecture #12 and all notes and prepare for Quiz #12		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : The True Story of Billy The Kid		30分
15	15. Theme : Comprehensive Final Review		Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review lecture notes		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Review quizzes		30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
University streaming system dictates who is able to take this class

【授業方法】
On demand. Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Pair work, group work, question creation

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	In class speaking/listening test 25%	12	13									25
小テスト等	Minitest and quiz 25%	12	13									25
レポート等												
討論・発表等	Presentation 25%	13	12									25
授業への参画度	Participation 25%	13	12									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
In class feedback given immediately or next week

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topic Talk Second Edition	David Martin	EFL Press		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Wed 10:30 - 18:00 Room TBD alexander.chirnside@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory communication Basic questions	Getting to know each other. Self-introductions. Interrogation of teacher. Explanation of yes/no questions	
	この回の到達目標	Feeling comfortable meeting non-Japanese people	
	事前学修	Prepare to introduce yourself in English. Prepare possible questions to ask teacher about himself (30min)	30分
	事後学修	Review grammar rules of yes/no questions (30min)	30分
2	Basic question reinforcement More complex questions	Yes/no question activity. Explanation of wh questions	
	この回の到達目標	Ability to elicit information from non-Japanese	
	事前学修	Prepare at least 20 yes/no questions to ask teacher (30min)	30分
	事後学修	Review grammar rules of wh questions. Read General Service List 1-970 (30min)	30分
3	Discussing family matters	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards (30min)	30分
	事後学修	Review Family vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
4	Discussing family matters	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe own family and ask about others	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
5	Discussing food	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Food vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
6	Discussing food	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe food likes and dislikes	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 1, GSL 1-500. Topics 1 and 2 test	
	この回の到達目標	Develop test-taking skills	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 1 and 2 test. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Time vocabulary and question structures. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	Discussing time	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to discuss time and its effect on our lives	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
10	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4, House and Home. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to describe one's living environment	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 80 words. (30min)	30分
	事後学修	Review House and Home vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	Discussing where we live	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4 House and Home listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to describe one's living environment	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 2, GSL 501-970. Topics 3 and 4 test	
	この回の到達目標	Develop test-taking skills	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 3 and 4 test (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Discussing music	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 5 Music, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to discuss music likes and dislikes	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	Topic creation in groups	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
	この回の到達目標	Create original topic using format modeled on format in previous classes	
	事前学修	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	Retrieving information, previously exposed to, in test format	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
	この回の到達目標	listening and speaking tests	
	事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
	事後学修	Review semesters work and prepare a summer break study plan. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities

【授業方法】
This class will be conducted on demand. Details will be notified in google classroom later. The aim of this course is to equip students with the communicative skills they need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and develop their legal vocabulary to be able to use in the legal profession.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write, listen and speak English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the semester	15	15								30	60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Individual/group presentations	15	15								30	60
授業への参画度	Students' attitude to learning	20	20								40	80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50								100	200

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syogo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays before or after the class. You may also contact me by email - azmiah2763@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	Orientation及び導入講義	Introduction of the teacher and students, guidelines for the classes		
	この回の到達目標	Discussion of the syllabus		
	事前学修	Read the contents of the syllabus.		35分
	事後学修	Prepare answers for before you read questions in Unit 1, page 2 and bring it to class.		35分
2	Law in Daily Life	Students familiarize themselves on the practical use of law in daily life		
	この回の到達目標	Students learn to listen and understand the contents of the reading passage		
	事前学修	Learn new legal terms in English and Japanese		30分
	事後学修	Read the reading passage in Unit 1, page 3 and find the meaning of the difficult words		40分
3	Law in Daily Life	Learn pronunciation and intonation of legal terms		
	この回の到達目標	Listen to the CD for the reading passage, learn pronunciation and intonation. Reading the passage in class. Answering the comprehension questions.		
	事前学修	Complete the vocabulary expansion exercise on page 4		30分
	事後学修	Review the reading passage and write the difficult legal terms in the word cards		45分
4	Law in Daily Life	Discussing the debate question "Litigation is not suited to Japanese culture"		
	この回の到達目標	Writing the answer for the debate question.		
	事前学修	Summarize the reading passage in the textbook		45分
	事後学修	Prepare answers for the questions in before you read in Unit 2 "Legal Systems around the World"		30分
5	Legal Systems	Legal Systems around the World		
	この回の到達目標	Discussing about legal systems around the world		
	事前学修	Answer the legal terms section on page 8		30分
	事後学修	Read the passage on page 9 and check the meaning of unfamiliar words		45分
6	Legal Systems	Discuss about legal systems around the world		
	この回の到達目標	Listen to the CD on legal systems around the world. Reading the passage on legal systems around the world.		
	事前学修	Answer the comprehension questions on page 10		50分
	事後学修	Find the meaning of the vocabulary and answer the vocabulary expansion questions on page 10		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Adversarial and Inquisitorial	Discussion on adversarial and inquisitorial systems	
	この回の到達目標	Discussing the debate question - arguments for and against the two systems	
	事前学修	Summarize the contents in the reading passage on page 9	60分
	事後学修	Prepare answers to the question on kinds of courts in Japan	45分
8	Japanese Court System	The Japanese Court System	
	この回の到達目標	Discuss the court system in Japan and answer the before you read questions	
	事前学修	Answer the legal terms exercise on page 14	35分
	事後学修	Reading passage on page 15 and checking the meaning of unfamiliar words	60分
9	Lay Assessors	Should lay assessors also participate in civil cases?	
	この回の到達目標	Discussion on should lay assessors participate in both criminal and civil cases	
	事前学修	Answer the debate question for homework	45分
	事後学修	Summarize the reading passage in the notebook. Highlight the difficult words	60分
10	Presentation	Introducing basic presentation techniques	
	この回の到達目標	Students practice the basic presentation techniques to help them make short presentations in class.	
	事前学修	Students think of two topics on current legal/social issue in Japan for the presentation and write a brief outline for their presentation.	60分
	事後学修	Students prepare an outline for one of the topics on current legal/social issues in Japan	40分
11	Legal Professionals	Discussion of the legal profession in Japan	
	この回の到達目標	Discussion of the legal profession in Japan	
	事前学修	Students think of the legal professions in Japan and write a brief description of them	40分
	事後学修	Students answer the exercise on legal terms on page 20 and find the meaning of unfamiliar terms in the reading passage	35分
12	Legal Professionals	Discussion of passage on legal professionals in Japan	
	この回の到達目標	Listening to the reading passage on CD and trying to understand the contents	
	事前学修	Answer the comprehension questions on page 22	30分
	事後学修	Preparing answer for the debate question on page 25	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation	Preparation for presentation	
	この回の到達目標	Students bring the draft of power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
	事前学修	Students prepare the script for the power point slides	45分
	事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	Presentation	Final group presentation	
	この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience	
	事前学修	Prepare for the presentation at home	45分
	事後学修	Peer review and evaluating the presentations of classmates	60分
15	Wrap up	Wrap up, review and final test	
	この回の到達目標	To give feedback on their assignments to the students	
	事前学修	Review for the test	60分
	事後学修	Doing research as homework assignment during the summer vacation	60分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	S. ヴインセント	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
特になし

【授業方法】
On-demand lessons

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	Class quizzes based on lesson content	20	20									40
レポート等	Weekly response to lesson content	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	Participation, attendance etc.	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
Written feedback on writing responses	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス／著	東京書籍	2019	教科書	必携
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
備考					

【オフィスアワー】	
Through email vincent.sean@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Course Introduction		Introducing the textbook, using Google classroom	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Read syllabus		30分
	事後学修	Review lesson content, write a short report		45分
2	The Making of a Global City: From Edo to Tokyo		The history of Tokyo, describing cities, recommendations for visitors to Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 24-31		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
3	Legendary Warriors of Japan: Samurai		The history of Samurai, talking about women in Samurai society, explaining Samurai to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 32-39		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
4	Elegant Symbols of Japan: Kimono		The history of the Kimono, describing popular fashion in Japan, explaining the Kimono to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 40-47		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
5	Pop Culture of the Past: Kabuki		The history of Kabuki, talking about Kabuki today, explaining Kabuki to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 48-55		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
6	A Weighty Sport: Sumo		The history of Sumo, talking about favourite sports, explaining Sumo to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 56-63		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	The Bullet Train: Shinkansen		The history of the Shinkansen, talking about travelling on Shinkansen, explaining the Shinkansen to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 64-71		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
8	Global Storytelling from Japan: Manga		The history of Manga, explaining the popularity of Manga, explaining Manga to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 72-79		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
9	How the World Discovered Japan: Arts and Crafts		The history of art in Japan, talking about hobbies and interests, explaining Japanese art and craft to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 80-87		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
10	Moving Art: Cinema		The history of cinema in Japan, talking about favorite movies, explaining Japanese cinema to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 88-95		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
11	Cosplay Mecca: Akihabara		Cosplay culture in Japan, interesting places in Akihabara, how to give directions	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 96-104		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
12	The Line to Nowhere and Everywhere: Yamanote		Using the train in Tokyo, giving travel advice, talking about the pros and cons of public transport in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 106-113		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Chrysanthemum Throne: The Imperial Palace		The history of the Imperial family, the role of the Emperor today, helping foreign visitors discover the Imperial Palace
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan	
	事前学修	Textbook pp. 114-121	45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)	45分
14	Where the streets glisten silver: Ginza		The history of Ginza, talking about shopping habits, explaining shopping in Japan to foreign people
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan	
	事前学修	Textbook pp. 138-145	45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)	45分
15	Districts of Diversity and Fun: Roppongi and Shibuya		Interesting areas in Roppongi and Shibuya, LGBTQ+ rights in Japan
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan	
	事前学修	Textbook pp. 146-153	45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)	45分

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	ハートリライアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義および演習形式、オンライン活動、クラスオンデマンド、クラスオンデマンド、

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク。 学生中心の学習。 オンライン活動	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
ryanxhartley@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction	Learn about the learning objectives of the class.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	Edo to Tokyo	Learn about the story of Edo to Tokyo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Ancient International Japan story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	Kimono	Learn about the story of Kimono	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Japan Towns story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	Kabuki	Learn about the story of Kabuki	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: the African samurai story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	Sumo	Learn about the story of Sumo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Tensho Embassy story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	Shinkansen	Learn about the story of Shinkansen	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the William Adams story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Manga		Learn about the story of Manga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Hosokawa Tama story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
8	Akihabara		Learn about the story of Akihabara	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the International Nagasaki story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
9	Yamanote		Learn about the story of Yamanote	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
10	Imperial Palace		Learn about the story of the Imperial Palace	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Tagawa Matsu story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
11	Asakusa		Learn about the story of Asakusa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Japanese families of European merchants story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
12	The Meiji Jingu		Learn about the story of Meiji Jingu	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean embassies to Tokugawa Japan story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Sushi and Tempura	Learn about the story of Tempura and Sushi	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Zhu Shun-sui story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	Noodles	Learn about the story of Noddles	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Waegwan story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	Semester Exam	Semester assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment	
	事前学修	Revise for the semester exam	30分
	事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
This class will be conducted Face-to-Face in the classroom. Students will participate in pair work, small group work, and class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	role plays, pair work, small group discussions	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Final Speaking Test	40										40
小テスト等	2 Listening quizzes	20	20									40
レポート等	Homework	10										10
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral feedback on performance in classroom and written feedback for homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 1, 2nd Edition with digital book	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com. Please ask questions after the class (Saturday 3rd period, 4th period) at the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with the foundation to build human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Welcome back/ Summer break		Introduction of second half of the course; ice-breaking activities; talking about summer	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to understand the content and style of the course. They will also be able to converse about what they did during the summer.		
	事前学修	Come to class well rested and ready to participate. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
2	What's happening?		Talking about what's happening in your life	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to describe their current life.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
3	What's happening?		Talking about what's happening in your life	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to use the present continuous to talk about daily activities.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
4	People		Describing people's physical appearance	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to describe how people look.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
5	People		Describing people's character	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to describe people's personality.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
6	Having fun		Invitations	
	この回の到達目標	At the end of this class students will be able to make and respond to invitations.		
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Having fun	Making future arrangements	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to discuss plans for the future and make arrangements.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	Vacation	Memorable vacations	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about some of their most memorable trips.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	Movies	English through movies	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their favorite movies.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	Life stories	Talking about early memories	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to speak about their childhood memories.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	Life stories	Life stories of famous people	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about famous people's lives.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	Hopes and intentions	The future	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their hopes and dreams for the future.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Hopes and intentions	After graduation	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their hopes and dreams after they graduate.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will exhibit and gain and understanding of their speaking and listening skills through participation in a small group discussion.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	Evaluation	Speaking Test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will exhibit and gain and understanding of their speaking and listening skills through participation in a small group discussion.	
	事前学修	Completion of homework and review of lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I B (金曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
On Demand. Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	There are a total of twelve (12) quizzes given during the semester. The best ten scores will each be 10% of the grade for a total of 100%.	50	50									100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Following the deadline for submission of each Quiz, each students will receive their score along with the correct answers to the quiz.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考 There is no assigned textbook for this class.					

【オフィスアワー】
Students are free to send a request for a zoom, Line or other type of one on one meeting . The Professor will be happy to talk with the student at a mutually agreeable time. [jeffrey.tarlofsky11@nihon-u.ac.jp]

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	1. Theme : Another Search for Redemption	Content: Lecture #1 Excerpts from The Gunfighter (1950)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 Minutes Minimum : Pre-study : The Legends of Billy the Kid and Johnny Ringo	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Range Wars	30分
2	2. Theme : The West: A Time and A Place	Content: Quiz # 1 Lecture #2 Excerpts from Shane (1953), Seeing through the eyes of a child.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 Minutes Minimum : Pre-study : Review Lecture #1 and all notes and prepare for Quiz #1	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Free Range Vs The Homestead Act	30分
3	3. Theme : Why Shane stays in the Valley	Content: Quiz #2 Lecture #3 Excerpts from Shane (1953), Another pair of eyes	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #2 and all notes and prepare for Quiz #2	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Great Gun Debate	30分
4	4. Theme: Still Another Search for Redemption	Content: Quiz #3 Lecture #4 Excerpts from Shane (1953) A case of murder	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #3 and all notes and prepare for Quiz #3	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Stump	30分
5	5. Theme : The Shadow Self	Content: Quiz #4 Lecture #5 Excerpts from Shane (1953), When a man confronts himself	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #4 and all notes and prepare for Quiz #4	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : A very surprising ending	30分
6	6. Theme : Lawless Lawmen	Content: Quiz #5 Lecture #6 Excerpts from The Westerner (1940), One Eyed Kicks (1961) and Unforgiven (1992)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during the screening and ask and answer questions afterwards .	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #5 and all notes and prepare for Quiz #5	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: Lawmen of The Old West	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7. Theme : Comprehensive Midterm Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review lecture notes	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Review quizzes	30分
8	8. Theme : Law Vs Lawlessness	Content: Quiz #6 . Lecture #7 : Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) “What kind of Community is this?”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #6 and all notes and prepare for Quiz #6	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Cattle Ranching and Cattle Drives	30分
9	9. Theme : Manifest Destiny	Content: Quiz # 7 Lecture # 8 Excerpts The Man Who Shot Liberty Valance (1962) : The John Ford Acting Company	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #7 and all notes and prepare for Quiz #7	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : prepare to make a timeline of events in the film	30分
10	10. Theme : A Question of Survival	Content: Quiz #8 Lecture #9 Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) Going to school with John Ford	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #8 and all notes and prepare for Quiz #8	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: Aging Icons of the Western	30分
11	11. Theme : The Culture of Violence	Content: Quiz # 9 Lecture #10 Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) “When the truth becomes legend, print the legend. “	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #9 and all notes and prepare for Quiz #9	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : The American Indian	30分
12	12. Theme : Images of the American Indian : Stereotypes	Content: Quiz #10 . Lecture #11 : Excerpts from Cimarron (1931)Stagecoach (1939) and Drums Along The Mohawk (1939) .	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #10 and all notes and prepare for Quiz #10	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Weapons and Warriors	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	13. Theme : Evolving Images of the American Indian; from Savagery to Nobility		Content: Quiz #11 Lecture #12 Excerpts from She Wore a Yellow Ribbon (1949), Winchester ' 73 (1950) and Broken Arrow (1950).	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #11 and all notes and prepare for Quiz #11		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Compare and Contrast films about the American Indian.		30分
14	14. Theme : The Evolution of John Ford and the Image of the American Indian.		Content: Quiz #12 Lecture #13 Excerpts from The Searchers (1956) , Cheyenne Autumn (1964)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.		
	事前学修	30 minutes minimum : Review Lecture #12 and all notes and prepare for Quiz #12		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : When John Ford Lost his Audience		30分
15	15. Theme : Comprehensive Final Review		Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.		
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review lecture notes		30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Review quizzes		30分

科目名	Listening & Speaking I B(水曜5時限・ 二部月曜1時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.

【授業方法】
On Demand. Excerpts from classic American Western films serve as the basis for lectures, note taking and discussions and homework readings.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Students are encouraged to ask and answer questions during class time and must engage in various activities (especially note taking) which ensure they engage in active listening .	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	There are a total of twelve (12) quizzes given during the semester. The best ten scores will each be 10% of the grade for a total of 100%.	50	50									100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Following the deadline for submission of each Quiz, each students will receive their score along with the correct answers to the quiz.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考 There is no assigned textbook for this class.					

【オフィスアワー】
Students are free to send a request for a zoom, Line or other type of one on one meeting . The Professor will be happy to talk with the student at a mutually agreeable time. [jeffrey.tarlofsky11@nihon-u.ac.jp]

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	1. Theme : Another Search for Redemption	Content: Lecture #1 Excerpts from The Gunfighter (1950)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 Minutes Minimum : Pre-study : The Legends of Billy the Kid and Johnny Ringo	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Range Wars	30分
2	2. Theme : The West: A Time and A Place	Content: Quiz # 1 Lecture #2 Excerpts from Shane (1953), Seeing through the eyes of a child.	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 Minutes Minimum : Pre-study : Review Lecture #1 and all notes and prepare for Quiz #1	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Free Range Vs The Homestead Act	30分
3	3. Theme : Why Shane stays in the Valley	Content: Quiz #2 Lecture #3 Excerpts from Shane (1953), Another pair of eyes	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #2 and all notes and prepare for Quiz #2	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Great Gun Debate	30分
4	4. Theme: Still Another Search for Redemption	Content: Quiz #3 Lecture #4 Excerpts from Shane (1953) A case of murder	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #3 and all notes and prepare for Quiz #3	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: The Stump	30分
5	5. Theme : The Shadow Self	Content: Quiz #4 Lecture #5 Excerpts from Shane (1953), When a man confronts himself	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #4 and all notes and prepare for Quiz #4	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : A very surprising ending	30分
6	6. Theme : Lawless Lawmen	Content: Quiz #5 Lecture #6 Excerpts from The Westerner (1940), One Eyed Kicks (1961) and Unforgiven (1992)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during the screening and ask and answer questions afterwards .	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #5 and all notes and prepare for Quiz #5	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: Lawmen of The Old West	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	7. Theme : Comprehensive Midterm Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review lecture notes	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Review quizzes	30分
8	8. Theme : Law Vs Lawlessness	Content: Quiz #6 . Lecture #7 : Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) “What kind of Community is this?”	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students take a short quiz followed by in class correction and discussion. Students do note taking and ask questions during the lecture.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #6 and all notes and prepare for Quiz #6	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Cattle Ranching and Cattle Drives	30分
9	9. Theme : Manifest Destiny	Content: Quiz # 7 Lecture # 8 Excerpts The Man Who Shot Liberty Valance (1962) : The John Ford Acting Company	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #7 and all notes and prepare for Quiz #7	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : prepare to make a timeline of events in the film	30分
10	10. Theme : A Question of Survival	Content: Quiz #8 Lecture #9 Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) Going to school with John Ford	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #8 and all notes and prepare for Quiz #8	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading: Aging Icons of the Western	30分
11	11. Theme : The Culture of Violence	Content: Quiz # 9 Lecture #10 Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962) “When the truth becomes legend, print the legend. “	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #9 and all notes and prepare for Quiz #9	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : The American Indian	30分
12	12. Theme : Images of the American Indian : Stereotypes	Content: Quiz #10 . Lecture #11 : Excerpts from Cimarron (1931)Stagecoach (1939) and Drums Along The Mohawk (1939) .	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #10 and all notes and prepare for Quiz #10	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Weapons and Warriors	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	13. Theme : Evolving Images of the American Indian; from Savagery to Nobility	Content: Quiz #11 Lecture #12 Excerpts from She Wore a Yellow Ribbon (1949), Winchester '73 (1950) and Broken Arrow (1950).	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review Lecture #11 and all notes and prepare for Quiz #11	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : Compare and Contrast films about the American Indian.	30分
14	14. Theme : The Evolution of John Ford and the Image of the American Indian.	Content: Quiz #12 Lecture #13 Excerpts from The Searchers (1956) , Cheyenne Autumn (1964)	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Review Lecture #12 and all notes and prepare for Quiz #12	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Reading : When John Ford Lost his Audience	30分
15	15. Theme : Comprehensive Final Review	Content: Review and reorganize all lecture notes and quizzes .make sure all quizzes and other work has been submitted	
	この回の到達目標	As per the specific behavioral objectives students do note taking during lecture and ask and answer questions.	
	事前学修	30 minutes minimum : Pre-study : Review lecture notes	30分
	事後学修	30 minutes minimum : Post study : Review quizzes	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
University streaming system dictates who is able to take this class

【授業方法】
On demand. Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Working in groups, working in pairs, question and topic creation, peer evaluation of work done

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。									1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									1	1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	In class Speaking/Listening test 25%	12	13									25
小テスト等	Minitest and quiz 25%	12	13									25
レポート等												
討論・発表等	Presentation 25%	13	12									25
授業への参画度	Class participation 25%	13	12									25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments will be given, if possible, in current class. If not, then the following week’s class

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Topic Talk Second Edition	David Martin	EFL Press		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Wed 10:30 - 18:00 Room TBD alexander.chirnside@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction to communication		Getting to know each other, again. Talking about summer break in groups, then in front of class. Interrogation of teacher. Explanation of any grammar or vocabulary issues that arise.	
	この回の到達目標	Ability to feel comfortable conversing with non-Japanese speaker		
	事前学修	Prepare to talk about your summer break in English. Prepare possible questions to ask teacher about his break (30min)		30分
	事後学修	Reflect on speaking performance in today's class. Could it have been better? How? (30min)		30分
2	Basic question reinforcement. More complex questions		In groups compare questions. make a list of the ten best questions by group. Predict answers. Ask teacher questions, compare his answers to your predictions.	
	この回の到達目標	Ability to feel comfortable questioning non-Japanese speaker		
	事前学修	Prepare at least 20 yes/no and wh questions about summer break to ask teacher (30min)		30分
	事後学修	Review new questions learned today. Read General Service List 1000-2000 (30min)		30分
3	Discussing transportation and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation		
	事前学修	Select 10 words from 1000-1500, write on vocabulary cards (30min)		30分
	事後学修	Review Transportation vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
4	Discussing transportation and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of transportation		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
5	Discussing sport and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)		30分
	事後学修	Review Sports vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分
6	Discussing sport and its effect on our lives		Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of sport		
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)		30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 3, GSL 1000-1500. Topics 6 and 7 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1000-1500. Prepare for Topics 6 and 7 test. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
8	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)	30分
	事後学修	Review Numbers vocabulary and question structures. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
9	Discussing numbers and their effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of numbers	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Watch The Simpsons on YouTube (30min)	30分
10	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10, TV. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 80 words. Watch The Roadrunner on YouTube (30min)	30分
	事後学修	Review TV vocabulary and question structures. (30min)	30分
11	Discussing TV and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10 TV listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of TV	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分
12	Recalling information in minitest format	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 4, GSL 1501-2000. Topics 8 and 10 test	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in previous two weeks	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1500-2000. Prepare for Topics 8 and 10 test (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Discussing school and its effect on our lives	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 13 School, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice	
	この回の到達目標	Ability to converse with non-Japanese speaker on the subject of school	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)	30分
	事後学修	Check GSL 1501-2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)	30分
14	New topic questions creation	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.	
	この回の到達目標	Ability to work in teams to crewe questions for team-negotiated topic	
	事前学修	Select 10 words from GSL 1501-2000, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)	30分
	事後学修	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)	30分
15	Revision of semester's work, listening and speaking tests	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks.	
	この回の到達目標	Ability to retrieve, in test format, information exposed to in semester	
	事前学修	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)	30分
	事後学修	Review semester's work and prepare a winter break study plan. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities

【授業方法】		
The class will be conducted on campus during real time. If there is a change, it will be posted on google classroom.		
This course will continue to develop the communicative skills students need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write,listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the semester	15	15								30	60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Individual/group presentations	15	15								30	60
授業への参画度	Students' attitude to learning	20	20								40	80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50								100	200

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syugo Hotta	Asahi	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays before or after the class. You may also contact me by email - azmiah2763@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Feedback and Syllabus 導入講義	Feedback on the final evaluation, students talk about their summer vacation. Discussion of the syllabus for the fall semester	
	この回の到達目標	Students write about how they spent the summer vacation and present it to class	
	事前学修	Review the units studied in the spring semester	60分
	事後学修	Research on how modern Japanese law evolved	60分
2	Foreign Laws	Japan adopting foreign laws	
	この回の到達目標	Understand the reasons why Japan adopted some foreign laws into their legal system and listen to the reading passage on the CD	
	事前学修	Check the unfamiliar words in the reading passage and write their meanings in the word cards	60分
	事後学修	Answering the comprehension questions on page 28	45分
3	Role of lawyers in courts	Discuss the role of lawyers in courts	
	この回の到達目標	Learn to speak and write arguments for and against the topic of the role of lawyers in courts	
	事前学修	Summarize the reading passage on page 27	60分
	事後学修	Prepare answers on the role of the Japanese Constitution	40分
4	Japanese Constitution	Role of the Japanese Constitution	
	この回の到達目標	Group discussion on the present Constitution and the necessity to amend it	
	事前学修	Answer the exercise on legal terms on page 32	30分
	事後学修	Read the passage and check the unfamiliar words and answer the comprehension questions	60分
5	Japanese Constitution	Articles of the Japanese Constitution	
	この回の到達目標	Discussing arguments for and against maintaining a self defense force	
	事前学修	Answer the debate question on page 36	45分
	事後学修	Research on the nature of crimes committed in Japan and the punishments imposed	40分
6	Criminal Law	Criminal Law in Japan	
	この回の到達目標	Discussion of criminal law in Japan and other countries	
	事前学修	Listen to the class CD on criminal law in Japan and check the dictionary for the meaning of unfamiliar words	40分
	事後学修	Answer the comprehension questions on page 42	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Movie	Watching a movie on a criminal trial	
	この回の到達目標	Students watch the movie without subtitles/captions	
	事前学修	Do a research on the movie to be watched	50分
	事後学修	Students write their opinion about the movie. Answer the debate question on page 42	60分
8	Civil Law	Criminal law and civil law	
	この回の到達目標	Distinguish the differences between criminal and civil law	
	事前学修	Students write answers to the legal terms on page 44 and read the passage and check the meaning of unfamiliar words on page 45	60分
	事後学修	Answer the comprehension questions on page 46	35分
9	Litigation in Japanese Culture	Discuss about litigation in Japanese Culture	
	この回の到達目標	Students discuss in groups if litigation is acceptable or not in Japanese culture and make short presentation in class	
	事前学修	Summarize the reading passage and make note of the unfamiliar words	60分
	事後学修	Research on the differences between criminal and civil procedure	40分
10	Commercial Law	Importance of Commercial Law	
	この回の到達目標	Importance of commercial law and difficulties to take legal action against foreign companies	
	事前学修	Research on the type of legal action taken against foreign companies and refer to some recent cases in Japan	60分
	事後学修	Exercise on legal terms and listen to the reading passage on class CD on page 57	40分
11	Legislation	Legislation relating to commercial law in Japan	
	この回の到達目標	The extent to which legislation in Japan protects producers and consumers	
	事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 58	60分
	事後学修	Summarize the reading passage and check the dictionary for the meaning of unfamiliar words	60分
12	Lay Judge System	Lay Judge System in Japan	
	この回の到達目標	The necessity to have the lay judge system in Japan	
	事前学修	Think of arguments for and against the lay judge system	60分
	事後学修	Listen to the reading passage on CD and write down the unfamiliar words	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation	Preparation for presentation	
	この回の到達目標	Students bring the draft power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
	事前学修	Students prepare the explanation/description for the power point slides	45分
	事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	Presentation	Final individual presentation	
	この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience, peer review and evaluation	
	事前学修	Prepare for the presentation at home	30分
	事後学修	Peer review and evaluating the presentations of the classmates	45分
15	Wrap up	Wrap up, review and final test	
	この回の到達目標	To complete the course successfully	
	事前学修	Review the lessons studied in the fall semester for the test	60分
	事後学修	Feedback on the assignments done in class, students express their opinion on the lessons and textbook	30分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	S. ヴィンセント	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
特になし

【授業方法】
On-demand lessons

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。										1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										1	1		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	Class quizzes based on lesson content	20	20									40
レポート等	Weekly response to lesson content	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	Participation, attendance etc.	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on writing responses

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス／著	東京書籍	2019	教科書	必携
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
Through email vincent.sean@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Course Introduction		Introducing the textbook, using Google classroom	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Read syllabus		30分
	事後学修	Review lesson content, write a short report		45分
2	The Making of a Global City: From Edo to Tokyo		The history of Tokyo, describing cities, recommendations for visitors to Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 24-31		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
3	Legendary Warriors of Japan: Samurai		The history of Samurai, talking about women in Samurai society, explaining Samurai to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 32-39		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
4	Elegant Symbols of Japan: Kimono		The history of the Kimono, describing popular fashion in Japan, explaining the Kimono to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 40-47		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
5	Pop Culture of the Past: Kabuki		The history of Kabuki, talking about Kabuki today, explaining Kabuki to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 48-55		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
6	A Weighty Sport: Sumo		The history of Sumo, talking about favourite sports, explaining Sumo to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 56-63		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	The Bullet Train: Shinkansen		The history of the Shinkansen, talking about travelling on Shinkansen, explaining the Shinkansen to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 64-71		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
8	Global Storytelling from Japan: Manga		The history of Manga, explaining the popularity of Manga, explaining Manga to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 72-79		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
9	How the World Discovered Japan: Arts and Crafts		The history of art in Japan, talking about hobbies and interests, explaining Japanese art and craft to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 80-87		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
10	Moving Art: Cinema		The history of cinema in Japan, talking about favorite movies, explaining Japanese cinema to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 88-95		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
11	Cosplay Mecca: Akihabara		Cosplay culture in Japan, interesting places in Akihabara, how to give directions	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 96-104		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
12	The Line to Nowhere and Everywhere: Yamanote		Using the train in Tokyo, giving travel advice, talking about the pros and cons of public transport in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 106-113		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Chrysanthemum Throne: The Imperial Palace		The history of the Imperial family, the role of the Emperor today, helping foreign visitors discover the Imperial Palace
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan	
	事前学修	Textbook pp. 114-121	45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)	45分
14	Where the streets glisten silver: Ginza		The history of Ginza, talking about shopping habits, explaining shopping in Japan to foreign people
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan	
	事前学修	Textbook pp. 138-145	45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)	45分
15	Districts of Diversity and Fun: Roppongi and Shibuya		Interesting areas in Roppongi and Shibuya, LGBTQ+ rights in Japan
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan	
	事前学修	Textbook pp. 146-153	45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)	45分

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	ハートリライアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English communication elementary level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
なし

【授業方法】
参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。クラス-オンデマンド。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワーク。 学生中心の学習。 オンライン活動	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初心者レベルのリスニング力を活用することができる。								1	1		
②	英語で意思疎通をするために必要な初心者レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								1	1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記 試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】

Email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】

ryanxhartley@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Ginza	Learn about the story of Ginza	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	Nara	Learn about the story of Nara	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	Mt. Fuji	Learn about the story of Mt. Fuji	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Wako		Learn about the story of Wako	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
8	The Tensho Embassy		Learn about the story of The Tensho Embassy	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
9	Hasekura Tsunenaga		Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
10	Yasuke		Learn about the story of Yasuke	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
11	William Adams		Learn about the story of William Adams	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
12	Yamada Nagamasa		Learn about the story of Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
14	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	Semester Exam	Semester assessment	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIB. CEFR A2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Listening tests.	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	25	25									50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Interchange Intro, 5thEdition ISBN 9781316620113	Jack Richards	Cambridge UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class or at jwoodjapan@hotmail.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above, students can get information about the course objectives.	
	事前学修	Check the syllabus.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	Unit 1 What's your name?	Meeting and greeting people.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can introduce selves, greet others, and ask for names and phone numbers.	
	事前学修	Be ready to study English.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	Unit 2. Where are my keys?	Objects and locations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can name objects and talk about their locations.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases. (	30分
4	Unit 3A. Where are you from?	Cities and countries	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about cities and countries and where people are from.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	Unit 3B. Where are you from?	Personality and appearance	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe how people look and also their personalities.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	Unit 4A. Is this coat yours?	Clothing and colors	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can say different parts of clothing and colors.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 4B. Is this coat yours?	Weather and seasons	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe weather and seasons.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	Unit 5A. What time is it?	Clock times, time of day	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk ask for and tell time.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	Unit 5B. What time is it?	Everyday activities	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe current activities.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	Unit 6A. I ride my bike to school	Transportation	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can ask for and give information about going to work or school.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	Unit 6B. I ride my bike to school	Family relationships, daily routines	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about family relationships and daily and weekly routines.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	Unit 7A. Does it have a view?	Houses and apartments	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can ask about and describe houses and apartments.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 7B. Does it have a view?	Rooms and furniture	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about the furniture in a room.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 8. Where do you work?	Jobs and workplaces	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can ask for and give information about jobs and workday routines.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Study for test.	60分
15	Test and review.	Test and review.	
	この回の到達目標	Test and review.	
	事前学修	Study for test.	60分
	事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	ダイアン ホーリー ナガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Willingness to work independently, complete assignments on time, and communicate in English with classmates.

【授業方法】		
Online by demand. There will be a short lecture each week and students will complete the exercises in the textbook, complete a Google Docs quiz, upload their audio for a reading aloud assignment, upload a mini-talk in English on the week's topic, and respond to classmates talks.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning will be throughout this semester.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。									2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。									2	2		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	Written assignment for each chapter. This is worth 100 points each week with a total of 1500 points. Students must achieve an overall average of at least 60%.	33										33
討論・発表等												
授業への参画度	Students receive extra points by responding to other students' recorded messages.		1									1
その他(Reading aloud)	Intonation and pronunciation practice: Read aloud from the textbook three times and record their readings. This is worth 100 points each week, with a total of 1500 points. Students must achieve an overall average of at least 60%.		33									33
その他(Speaking practice)	Students will record weekly mini-talks related to the subject in the textbook. Students will be graded on a rubric that includes speaking length, grammar, vocabulary, completion of the assignment on time, and effort. This is worth 100 points each week with a total of 1500 points. Students must achieve an overall average of at least 60%.		33									33
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	67									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students' work will be graded weekly. Written work will be scored out of a possible 100 points and speaking activities scored by a rubric worth 100 points each.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Chat and Share! Topic Starters for Today's Students	Diane Nagatomo	Kinseido	2020	教科書	必携
備考	Students MUST have textbook and MUST participate. Attendance is mandatory.				

【オフィスアワー】
dianehawley.nagatomol1@nihon-u.ac.jp；hawley.diane.edla@ocha.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction及び導入講義	Orientation: Communicating in English. Pair work, listening, and self introductions	
	この回の到達目標	Introduction to the class, pair work, self-introductions, campus life	
	事前学修	Read the syllabus, study the textbook	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
2	Weekends	Unit 2 Weekends	
	この回の到達目標	Who has the most days off?	
	事前学修	Listen to the online lecture, read the textbook and listen to the audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
3	Japanese culture	Unit 3 Japanese culture	
	この回の到達目標	Japanese words in English	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
4	Healthy living	Unit 4 Healthy living	
	この回の到達目標	Living a long and healthy life	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	60分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
5	Fashion	Unit 5 Fashion	
	この回の到達目標	A controversial fashion ad	
	事前学修	Question and answer worksheet	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
6	Lifestyle	Unit 6 Lifestyle	
	この回の到達目標	Living with less: minimalism	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	60分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Celebrations	Unit 7 Celebrations	
	この回の到達目標	The highest earning song	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
8	Travel	Unit 8 Travel	
	この回の到達目標	Alternative places to stay	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
9	Food	Unit 9 Food	
	この回の到達目標	Japanese food in the world	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
10	Environment	Unit 10 The Environment	
	この回の到達目標	Earth Day	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
11	Business	Unit 11 Business	
	この回の到達目標	SMS and Email	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
12	Internet and social media	Unit 12 The Internet and Social Media	
	この回の到達目標	The internet and Social Media	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Sports	Unit 13 Sports	
	この回の到達目標	The first woman to run the Boston Marathon	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
14	Barrier-free society	Unit 14 A Barrier-free Society	
	この回の到達目標	No limitations!	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
15	Modern Families	Unit 15 Modern Families	
	この回の到達目標	Modern Families	
	事前学修	Read textbook and listen to audio CD.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	B. ダム	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
At least 75% attendance, active participation, textbook.

【授業方法】
Face-to-Face in the classroom. Students will participate in communication activities such as pair work and small group discussions. Audio recordings will also be played to improve listening comprehension.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Listening and Speaking tasks

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	1 Final Speaking Test	40										40
小テスト等	2 Listening Quizzes	20	20									40
レポート等	Homework	10										10
討論・発表等												
授業への参画度	Active participation in communication activities.	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will receive oral comments on performance during class and written comments on homework.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 2, 2nd Edition with digital book	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Experience at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		This content of this course is a foundation to help build human relationships in the workplace.	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Introduction、及び導入講義		Instructor and course introduction, ice breaker activities, How to Introduce Yourself
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of the style and content of the course. They will also learn how to introduce themselves and how to introduce a friend to others.	
	事前学修	Look through the textbook and become familiar with its layout. Come to class well rested and ready to participate. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
2	Lifestyles		Introducing yourself / Introducing a friend, daily life, routines
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to talk about their daily life and routine.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
3	Lifestyles		Lifestyles
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to use adverbs of frequency to talk about daily routines.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
4	Leisure		Leisure: hobbies & interests
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to use the simple present and present continuous when discussing sports and leisure.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
5	Leisure		Likes and dislikes
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to talk about their likes and dislikes.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
6	Getting along		Getting along: requests & permission
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to make and respond to requests.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Getting along	Getting along: requests & permission; Listening Test 1; Submission of Video Task #1	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to make requests and ask for permission.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
8	Interests	Favorite hobbies and interests	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to discuss their favorite hobbies and interests.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
9	Interests	Favorite hobbies and interests	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the the students will be able to listen for specific information about people's hobbies and interests.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
10	Telling a story	Storytelling, adjectives of emotion	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to tell a story about a personal experience	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
11	Telling a story	Talking about past events	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to tell and retell stories	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
12	Celebrations	Celebrations around the world	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above the students will be able to describe in detail how people celebrate various holidays around the world.	
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Celebrations		Celebrations in Japan; Listening Test 2; Submission of Video Task #2	
	この回の到達目標	As per SB0s①②above the students will be able to describe celebrations of Japanese holidays and festivals.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
14	Final Speaking Test Self-reflection & Course feedback		Final Speaking Test Student reflection on their learning this term Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SB0s①②above students will complete tasks that allow them to review the course communication goals.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
15	Final Speaking Test, Self-reflection & Course feedback		Final Speaking Test Student reflection on their learning this term Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SB0s①②above students will complete two questionnaires evaluating their learning outcomes and the course activities.		
	事前学修	Completion of assigned homework and review of previous lesson. (30min)		60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. During this semester, this course will be on-demand.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
前期 「East Asia in Japanese history」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税)	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after class (Wednesday 3rd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction及び導入講義		Students will learn about the objectives of the course.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read and discuss the course objectives, so as to improve their comprehension of written and spoken English.		
	事前学修	Read the contents of the syllabus.		30分
	事後学修	Students must learn some new vocabulary each week. There will be a short vocabulary test at the beginning of each lesson.		30分
2	Ancient Japan and East Asia		Learn about Japan's international contacts in ancient times	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Ancient Japan and East Asia, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
3	Foreign settlements in Japan		Learn about foreign settlements in Japan in the sixteenth and seventeenth centuries	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of foreign settlements in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
4	Kim Chung-son		Learn about the Japanese and Korean hero, Kim Chung-son	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kim Chung-son, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
5	Korean potters in Japan		Learn about the Korean potters who worked in Japan following the Imjin War	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Korean potters in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
6	Yamada Nagamasa		Learn about the seventeenth century merchant and diplomat, Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Yamada Nagamasa, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Tagawa Matsu		Learn about the life of Tagawa Matsu	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tagawa Matsu, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
8	Zhu Shun-sui		Learn about the Chinese scholar and diplomat, Zhu Shun-sui, and his influence in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Zhu Shun-sui, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
9	Chinese merchants in Tokugawa Japan		Learn about Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
10	Sun Yat-sen in Japan		Learn about the life of Sun Yat-sen, the first Chinese President, and his relations with Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Sun Yat-sen in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
11	Prince Cuong De		Learn about the life of the Vietnamese revolutionary, Prince Cuong De, and his relations with Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Prince Cuong De, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
12	The Takasago volunteers		Learn the history of the Takasago volunteers	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of the Takasago volunteers, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Kyaw Din		Learn about the Burmese man, Kyaw Din, who popularized soccer in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kyaw Din, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
14	Semester Revision		Semester revision. Practice exam with feedback.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Revise all of the course vocabulary.		30分
	事後学修	Revise for the exam.		30分
15	Semester Test		Semester test. Feedback on exam questions and answers.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for semester exam.		30分
	事後学修	Review exam questions and answers.		30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL SDGs—Sustainable Development Goals	笹島茂 著 et al	Sansusha	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日） / richard.walker@nihon-u.ac.jp（anytime）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction及び導入講義 + No Poverty + Zero Hunger		The United Nations (UN): What is it? / No Poverty + Zero Hunger (SDGs 1 + 2)	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above. Students get to know the teacher, textbook, and activities.		
	事前学修	Read syllabus and reflect!		60分
	事後学修	Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.		60分
2	Good Health and Well-being		The UN Agenda 2030 & its antecedents. Good Health and Well-being (SDG 3). Choose a Member State	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use media to discuss SDG 3 (and connect them to SDGs 1 and 2). They will move towards small discussions. Students are given a UN Member State to research		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分
3	Role Play #1 (connected to SDGs 1, 2 or 3).		Role Play #1 (connected to SDGs 1, 2 or 3). Discussion and presentations. Vocab test #1.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG's 1, 2 and/or 3 using a range of materials.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分
4	Diplomatic Simulation #1 / Working Paper #1.		Diplomatic Simulation #1 / Working Paper #1. Sharing data and finding allies. Related to SDGs 1-3	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning SDGs 1-3.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
5	Quality Education (SDG 4).		Quality Education (SDG 4). Choose a Member State 2.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues related to SDG 4, Quality Education.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
6	Equalities (SDG 5 + 10)		Gender Equality / Reduced Inequalities (SDG 5 + 10).	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning equalities. They will move towards small discussions.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Role Play #2 (connected to SDGs 4, 5 or 10).		Role Play #2 (connected to SDGs 4, 5 or 10). Discussion and presentations. Vocab test #2.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG's 4, 5 and/or 10 using a range of materials.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		120分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分
8	Diplomatic Simulation #2 / Working Paper #2.		Diplomatic Simulation #2 / Working Paper #2. Sharing data and finding allies.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning SDGs 4, 5 or 10.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
9	Cleanliness (SDG 6)		Clean Water and Sanitation (SDG 6). Choose a New Member State 3.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will consider questions on cleanliness. They will move towards small discussions.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
10	Energy (SDG 6).		Affordable and Clean Energy (SDG 6).	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues about energy using a range of materials.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
11	Role Play #3 (connected to SDGs 6 or 7).		Role Play #3 (connected to SDGs 6 + 7). Discussion and presentations. Vocab test #3	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG's 6 and/or 7 using a range of materials.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分
12	Diplomatic Simulation #3 / Working Paper #3.		Diplomatic Simulation #3 / Working Paper #3. Sharing data and finding allies.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related to SDG 8.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Economic Matters (SDG 8)	Decent Work and Economic Growth (SDG 8). Choose a New Member State 4.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use look at economic-related problems related to global issues. They will move towards small discussions.	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.	120分
14	Role Play #4 (connected to SDGs 8).	Role Play #4 (connected to SDG 8). Discussion and presentations. Vocab test #4	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG 8 using a range of materials.	
	事前学修	Previous class notes	120分
	事後学修	Write a review of partners speeches.	120分
15	Diplomatic Simulation #4 / Working Paper #4. Sharing data and finding allies.	Diplomatic Simulation #4 / Working Paper #4. Sharing data and finding allies.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related to SDG 8.	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	100分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	100分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
オンデマンド授業。講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:50 研究室（最初講義で: TBA）joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction、及び導入講義		Learn about the learning objectives of the class.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Read syllabus.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
2	Ancient Japan and East-Asia		Learn about the story of Ancient Japan and East-Asia	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
3	Foreign settlements in Japan		Learn about the story of Foreign settlements in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
4	Kim Chung-son		Learn about the story of Kim Chung-son	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
5	Korean potters in Japan		Learn about the story of Korean potters in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
6	Yamada Nagamasa		Learn about the story of Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Tagawa Matsu		Learn about the story of Tagawa Matsu	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
8	Zhu Shun-sui		Learn about the story of Zhu Shun-sui	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
9	Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan		Learn about the story of Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
10	Sun Yat-sen in Japan		Learn about the story of Sun Yat-sen in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
11	Prince Cuong De		Learn about the story of Prince Cuong De	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
12	The Takasago volunteers		Learn about the story of The Takasago volunteers	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Kyaw Din		Learn about the story of Kyaw Din
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	Revision		Revise for the semester exam
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Revise for the semester exam	30分
15	Semester Exam		Semester assessment Review
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment	
	事前学修	Revise for the semester exam	30分
	事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	S. ヴインセント	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally, students should continue to Listening and Speaking II B

【授業方法】
On-demand lessons

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	Class quizzes based on lesson content	20	20									40
レポート等	Weekly response to lesson content	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	Participation, attendance etc.	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Written feedback on writing responses

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス／著	東京書籍	2019	教科書	必携
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
				その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
Through email vincent.sean@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Course Introduction		Introducing the textbook, using Google classroom	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Read syllabus		30分
	事後学修	Review lesson content, write a short report		45分
2	The Making of a Global City: From Edo to Tokyo		The history of Tokyo, describing cities, recommendations for visitors to Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 24-31		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
3	Legendary Warriors of Japan: Samurai		The history of Samurai, talking about women in Samurai society, explaining Samurai to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 32-39		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
4	Elegant Symbols of Japan: Kimono		The history of the Kimono, describing popular fashion in Japan, explaining the Kimono to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 40-47		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
5	Pop Culture of the Past: Kabuki		The history of Kabuki, talking about Kabuki today, explaining Kabuki to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 48-55		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
6	A Weighty Sport: Sumo		The history of Sumo, talking about favourite sports, explaining Sumo to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 56-63		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	The Bullet Train: Shinkansen		The history of the Shinkansen, talking about travelling on Shinkansen, explaining the Shinkansen to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 64-71		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
8	Global Storytelling from Japan: Manga		The history of Manga, explaining the popularity of Manga, explaining Manga to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 72-79		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
9	How the World Discovered Japan: Arts and Crafts		The history of art in Japan, talking about hobbies and interests, explaining Japanese art and craft to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 80-87		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
10	Moving Art: Cinema		The history of cinema in Japan, talking about favorite movies, explaining Japanese cinema to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 88-95		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
11	Cosplay Mecca: Akihabara		Cosplay culture in Japan, interesting places in Akihabara, how to give directions	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 96-104		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
12	The Line to Nowhere and Everywhere: Yamanote		Using the train in Tokyo, giving travel advice, talking about the pros and cons of public transport in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 106-113		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	Chrysanthemum Throne: The Imperial Palace		The history of the Imperial family, the role of the Emperor today, helping foreign visitors discover the Imperial Palace	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 114-121		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
14	Where the streets glisten silver: Ginza		The history of Ginza, talking about shopping habits, explaining shopping in Japan to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 138-145		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
15	Districts of Diversity and Fun: Roppongi and Shibuya		Interesting areas in Roppongi and Shibuya, LGBTQ+ rights in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 146-153		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None.

【授業方法】
オンデマンド。講義および演習形式。 前期のみの講座 ― 後期は授業がありません。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
East Asia in Japanese History	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10：30-11：30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction及び導入講義		Students will learn about the objectives of the course	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		30分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
2	Ancient Japan and East-Asia		Learn about relations between Japan, Korea and China in ancient times	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Ancient Japan and East-Asia so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
3	Foreign Settlements in Japan.		Learn about foreign towns and communities in Japan in the leate medeival and early modern period.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Foreign Settlements in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
4	Kim Chung-son.		Learn about a renegade samurai in the Imjin War	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kim Chung-son so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
5	Korean Potters in Japan.		Learn about the history of Korean potters in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Korean Potters in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
6	Yamada Nagamasa.		Learn about the Japanese man who nearly became a king in Thailand.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Yamada Nagamasa so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Tagawa Matsu.		Learn about the life of Tagawa Matsu the mother of Zheng Chenggong.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Tagawa Matsu so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
8	Zhu Shun-sui.		Learn about the life of Zhu Shun-sui a refugee scholar in Edo Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Zhu Shun-sui so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
9	Maria Guyomar de Pina		Learn about Maria Guyomar de Pina, an important Japanese lady in Thai history.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Maria Guyomar de Pina so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
10	Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan.		Learn about the history of Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
11	Sun Yat-sen in Japan.		Learn about Sun Yat-sen in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Sun Yat-sen in Japan so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
12	Prince Cuong De.		Learn about the Vietnamese prince, Cuong De, in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Prince Cuong De so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	The Takasago Volunteers	Learn about the history of the Takasago Volunteers	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Takasago Volunteers so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
14	Kyaw Din.	Learn about Kyaw Din and Japanese soccer history.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kyaw Din so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Revise for the semester exam.	30分
15	Semester exam Review	Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can complete the semester assessment.	
	事前学修	Prepare for the assessment	30分
	事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIIA. CEFR A2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Listening tests.	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	25	25									50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Interchange Intro, 5th Edition ISBN 9781316620113	Jack Richards	Cambridge UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above, students can get information about the course objectives.	
	事前学修	Check the syllabus.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	Unit 9A. I always eat breakfast.	Basic foods	
	この回の到達目標	Basic foods	
	事前学修	Be ready to study English.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	Unit 9B. I always eat breakfast.	Meals	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss healthy and unhealthy food and eating habits.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	Unit 10A. What sports do you like?	Sports	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can ask and tell about free-time activities.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	Unit 10B. What sports do you like?	Abilities and talents	
	この回の到達目標	.As per SBOs ①② above, students can ask for and give information about abilities and talents.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	Unit 11A. I'm going to have a party.	Months and dates	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can use months and dates and talk about birthdays.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Unit 11B. I'm going to have a party.	Doing things at different times of the year.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talke about planes for the evening, weekend and other occasions.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
8	Unit 12A. How do you feel?	Parts of the body, health	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe health problems, using parts of the body.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
9	Unit 12B. How do you feel?	Health problems and advice, medicine	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about common medications and give advice for health problems.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
10	Unit 13A. How do I get there?	Stores, things to buy	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about stores and other places.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
11	Unit 13B. How do I get there?	Tourist attractions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can ask for and give directions.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
12	Unit 14. I had a good time.	Weekends, vacations, fun activities	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can ask for and give information about weekend and vacation activities.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 15A. Where were you born?	Date and place of birth	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can mention various feelings and emotions, including not feeling	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 15B. Where were you born?	School days	
	この回の到達目標	.As per SBOs ①② above, students can describe school experiences and memories.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Study for test.	60分
15	Testt and review.	Test and review.	
	この回の到達目標	Test and review.	
	事前学修	Study for test	60分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	ダイアン ホーリー ナガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Willingness to work independently, complete assignments on time, and communicate in English with classmates.

【授業方法】
Online by demand. There will be a short lecture each week and students will complete the exercises in the textbook, complete a Google Docs quiz, upload a mini-talk in English on the week's topic, and respond to classmates talks.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning will be throughout this semester.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	Written assignment for each chapter. This is worth 100 points each week with a total of 1500 points. Students must achieve an overall average of at least 60%.	48										48
討論・発表等												
授業への参画度	Students receive extra points by responding to other students' recorded messages.		4									4
その他(Reading aloud)												
その他(Speaking practice)	Students will record weekly mini-talks related to the subject in the textbook. Students will be graded on a rubric that includes speaking length, grammar, vocabulary, completion of the assignment on time, and effort. This is worth 100 points each week with a total of 1500 points. Students must achieve an overall average of at least 60%.		48									48
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	52									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students' work will be graded weekly. Written work will be scored out of a possible 100 points and speaking activities scored by a rubric worth 100 points each.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Simply Speaking	Diane Nagatomo	Kinseido	2000	教科書	必携
備考	Students MUST have textbook and complete the written and speaking assignments.				

【オフィスアワー】
ianehawley.nagatomol1@nihon-u.ac.jp ； hawley.diane.edla@ocha.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction及び導入講義	Orientation	
	この回の到達目標	Hi! How are you?	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	30分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
2	Study	Unit 2 What's your major?	
	この回の到達目標	What's your major?	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
3	Appearances	Unit 3 What did she look like?	
	この回の到達目標	What did she look like?	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
4	Travel	Unit 4 Let's take a trip!	
	この回の到達目標	Let's take a trip!	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
5	Restaurants	Unit 5 How about going out for dinner?	
	この回の到達目標	How about going out for dinner?	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
6	Shopping	Unit 6 Let's go shopping!	
	この回の到達目標	Let's go shopping!	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Illnesses	Unit 7 How are you feeling?	
	この回の到達目標	How are you feeling?	
	事前学修	Read textbook and listen to audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
8	Communication	Unit 8 Hello? Can I speak to Mary?	
	この回の到達目標	Hello? Can I speak to Mary?	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
9	Daily schedules	Unit 9 I'm so busy!	
	この回の到達目標	I'm so busy!	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
10	Careers	Unit 10 What do you do?	
	この回の到達目標	What do you do?	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
11	Sports	Unit 11 Let's watch sports!	
	この回の到達目標	Let's watch sports!	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
12	Holidays	Unit 12 Let's celebrate!	
	この回の到達目標	Let's celebrate!	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Entertainment	Unit 13 That's entertainment!	
	この回の到達目標	That's entertainment!	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
14	Health	Unit 14 Let's stay healthy!	
	この回の到達目標	Let's stay healthy!	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
15	News	Unit 15 I heard it on the news!	
	この回の到達目標	I heard it on the news!	
	事前学修	Watch the online lecture, read the textbook and listen to the audio.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom: reading aloud activity and speaking activity uploaded to Flipgrid. Make sure all assignments for the semester are completed by the deadline.	120分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	B. ダム	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.

【授業方法】
This class will be conducted Face-toFace in the classroom. Students will participate in pair work, small group work, and class discussions.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Pairwork, group work, and role plays

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。										2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										2	2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Final Speaking Test	40										40
小テスト等	2 listening quizzes	20	20									40
レポート等	Homework	10										10
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Oral comments on performance in class and written comments on homework assignments.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Breakthrough Plus 2, 2nd Edition with digital book	Miles Craven	Macmillan Education	2018-2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com Please ask questions after the class (Saturday 2nd period) at classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 Experience working at an international company training clients in business communication
実務経験に基づく実践的教育の内容		The content of this course will provide the student with the foundation to build human relationships in the workplace.

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction、及び導入講義		Course and instructor introduction, summer vacation activities	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about what they did during the summer break.		
	事前学修	Come to every class well rested and ready to participate. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
2	Food and Drink		Food and Drink; countable and uncountable nouns	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about their food and drink preferences.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
3	Food and Drink		Food and Drink; famous foods around the world and in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about famous dishes.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
4	Rules		Rules in life, i.e. at school, at home, at work, and in public facilities.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to discuss what is permitted or not allowed in various contexts.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
5	Rules		Talking about rules in your life	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to discuss what is permitted or not allowed in various contexts.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
6	Adventures		Adventure activities	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about exciting things they have done.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Adventures		Adjectives to describe experiences; Listening Test 1	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about adventure activities and how they make you feel.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
8	Health		Suggestions and advice on how to keep healthy	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk give and receive advice on how to keep healthy		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
9	Health		Symptoms and treatment of various illnesses	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about various illnesses and their symptoms.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
10	Comparisons		Making comparisons and expressing preferences	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to compare various consumer products and express their preferences.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
11	Comparisons		Adjectives to describe objects and people	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to compare various consumer products and express their preferences.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分
12	Christmas		The Cultural and Spiritual meaning of Christmas	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to understand the true meaning of Christmas.		
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)		30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	The Modern World	Modern technology in our lives; Listening Test 2	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above at the end of this class students will be able to talk about technology in their life	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	30分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
14	Evaluation	Speaking test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of their speaking and listening comprehension skills by participating in a small group discussion.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分
15	Evaluation	Speaking test Review Course questionnaire	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students will gain an understanding of their speaking and listening comprehension skills by participating in a small group discussion.	
	事前学修	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)	60分
	事後学修	Reflection and review of lesson. (30min)	30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Group work, brainstorm, discussions.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students can request feedback during the lesson and at the end of semester.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
前期「Multicultural Stories from Modern Japan」(Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税	Thomas Lockley	DTP Publishing	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Email gary@garyhayden.co.uk. Please ask questions after class, (Wednesday 3rd period) in the classroom.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
1	Tei Ei-kei		Learn about the life Tei Ei-kei and his role in introducing coffee culture to Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Tei Ei-kei, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
2	Kairakutei Black		Learn about Kairakutei Black, Japan's first foreign-born Rakugoka	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Kairakutei Black, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
3	Victor Starrfin		Learn about the Russian refugee and Japanese baseball star, Victor Starrfin	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Victor Starrfin, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
4	Rash Behari Bose		Learn about Rash Behari Bose and his role in popularizing curry in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Rash Behari Bose, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
5	Leo Sirota		Learn about the Russian-born composer Leo Sirota, and his life in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Leo Sirota, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
6	Chen Kenmin		Learn about the life of Chen Kenmin who helped to popularize Chinese food in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Chen Kenmin, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Rikidozan		Learn about the Korean-Japanese wrestler, Rikidozan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Rikidozan, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
8	Ando Momofuku		Learn about Ando Momofuku, Japanese inventor of the instant noodle	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Ando Momofuku, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
9	Korean food in Japan		Learn about the rising popularity of Korean food in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Korean food in Japan, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
10	Oh Sadaharu		Learn about the life of the Chinese-Japanese baseball player and manager, Oh Sadaharu.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Oh Sadaharu, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
11	Konishiki Yasokichi		Learn about the life of the Hawaiian born sumo-wrestler Konishiki Yasokichi.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Konishiki Yasokichi, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分
12	Beate Sirota Gordon		Learn about the life of the women's rights advocate, Beate Sirota Gordon	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Beate Sirota Gordon, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Learn new vocabulary for next week's test.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Son Masayoshi		Learn about the life of the Japanese businessman, Son Masayoshi	
	この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text on the topic of Son Masayoshi, so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for vocabulary test.		30分
	事後学修	Summarize group discussion in textbook. Prepare for next week's practice exam.		30分
14	Semester Revision		Semester revision. Practice exam with feedback.	
	この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (practice exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Revise all of the course vocabulary.		30分
	事後学修	Revise for the exam.		30分
15	Semester Test		Semester test. Feedback on exam questions and answers.	
	この回の到達目標	As per SB0s①② above, students will read, discuss and write about an English text (exam), so as to improve their understanding of written and spoken English.		
	事前学修	Prepare for semester exam.		30分
	事後学修	Review exam questions and answers.		30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
CLIL SDGs—Sustainable Development Goals	笹島茂 著 et al	Sansusha	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日） / richard.walker@nihon-u.ac.jp（anytime）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Intro: Industry, Innovation & Infrastructure (SDG 9)		UN Resolutions & Hot Topics. Industry, Innovation & Infrastructure (SDG 9)	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students will discuss SDG 9. They will move towards small discussions. Students will be given a UN Member State to research		
	事前学修	Read syllabus and review notes from the first semester		60分
	事後学修	Read articles handed out by the teacher and do assigned tasks.		60分
2	Sustainable Cities and Communities (SDG 11).		Sustainable Cities and Communities (SDG 11). Choose a Member State.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use media to discuss SDG 11. They will move towards small discussions. Students are given a UN Member State to research		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分
3	Role Play #1 (connected to SDGs 9 or 11).		Role Play #1 (connected to SDGs 9 + 11). Discussion and presentations. Vocab test #1.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG's 9 or 11 using a range of materials.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分
4	Diplomatic Simulation #1 / Working Paper #1.		Diplomatic Simulation #1 / Working Paper #1. Sharing data and finding allies. Related to SDGs 9 + 11.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning SDGs 9 or 11.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
5	Responsibility in a Capitalist Age (SDG 12)		Responsible Production and Consumption (SDG 12). Choose a New Member State 2.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues related to SDG 12, Responsible Production and Consumption.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
6	Climate Change (SDG 13)		Climate Action (SDG 13)	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning climate change. They will then move towards small discussions.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Role Play #2 (connected to SDGs 12 + 13).		Role Play #2 (connected to SDGs 12 + 13). Discussion and presentations. Vocab test #2.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG's 12 + 13 using a range of materials.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		120分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分
8	Diplomatic Simulation #2 / Working Paper #2.		Diplomatic Simulation #2 / Working Paper #2. Sharing data and finding allies.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning SDGs 12 or 13.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
9	Life Below Water/Life on Land (SDG 14 + 15)		Life Below Water/Life on Land (SDG 14 + 15). Choose a New Member State 3.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will consider questions on life below water and on land. They will move towards small discussions.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
10	Improving Institutions (SDG 16)		Peace, Justice and Strong Institutions (SDG 16).	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues about institutions using a range of materials.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher		60分
11	Role Play #3 (connected to SDGs 14-16).		Role Play #3 (connected to SDGs 14-16). Discussion and presentations. Vocab test #3	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG's 14-16 using a range of materials.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分
12	Diplomatic Simulation #3 / Working Paper #3.		Diplomatic Simulation #3 / Working Paper #3. Sharing data and finding allies.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related to SDG 14-16		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	Bringing It All Back Home		Partnerships for the Goals (SDG 17).	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use look at how all the SDGs are inter-related and how partnerships can be made between different bodies. They will move towards small discussions.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read the worksheets on speeches.		60分
14	Role Play #4 (connected to SDGs 17).		Role Play #4 (connected to SDG 17). Discussion and presentations. Vocab test #4	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG 17 using a range of materials.		
	事前学修	Previous class notes		120分
	事後学修	Write a review of partners speeches.		120分
15	Diplomatic Simulation #4 / Working Paper #4. Sharing data and finding allies.		Diplomatic Simulation #4 / Working Paper #4. Sharing data and finding allies.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related to SDG 17.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		100分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.		100分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
オンデマンド授業。講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:50 研究室（最初講義で: TBA）joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	Tei Ei-kei	Learn about the story Tei Ei-kei	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	Kairakutei Black	Learn about the story Kairakutei Black	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
3	Victor Starrfin	Learn about the story Victor Starrfin	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
4	Rash Behari Bose	Learn about the story Rash Behari Bose	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
5	Leo Sirota	Learn about the story Leo Sirota	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分
6	Beate Sirota Gordon	Learn about the story Beate Sirota Gordon	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Chen Kenmin		Learn about the story Chen Kenmin	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
8	Rikidozan		Learn about the story Rikidozan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
9	Ando Momofuku		Learn about the story Ando Momofuku	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
10	Korean Food in Japan		Learn about the story Korean Food in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
11	Oh Sadaharu		Learn about the story Oh Sadaharu	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
12	Konishiki Yasokichi		Learn about the story Konishiki Yasokichi	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Murata Renho		Learn about the story Murata Renho	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
14	Son Masayoshi		Learn about the story Son Masayoshi	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Complete example sentences and learn new words and complete reflections.		30分
15	Semester Exam		Semester assessment Review	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment.		
	事前学修	Revise for the semester exam		30分
	事後学修	Reflect on the semester		30分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	S. ヴインセント	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
特になし

【授業方法】
On-demand lessons

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	Weekly quizzes based on class content	20	20									40
レポート等	Weekly response to lesson content	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	Participation, attendance etc.	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on response papers

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロックリー トーマス／著	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Contact through email vincent.sean@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Course review		Review of the first semester	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Read syllabus		30分
	事後学修	Review lesson content, write a short report		45分
2	Tourist Heaven: Asakusa		Describing Asakusa, talking about religion in Japan, helping foreign visitors discover Asakusa	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 122-129		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
3	A Peaceful Escape in the Middle of Tokyo: Meiji Jingu Shrine		Describing Meiji Jingu shrine, talking about religion in Japan, helping foreign visitors discover Meiji Jingu Shrine	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 130-137		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
4	The Beating Heart of Japan: Kyoto		The history of Kyoto, talking about traditional Japanese culture, explaining Japanese culture to foreign people	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 154-161		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
5	A deer old capital: Nara		The history of Nara, talking about UNESCO World Heritage sites, helping foreign visitors in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 162-169		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
6	Global Foods of Japan: Sushi and Tempura		Food culture in Japan, writing about food you can make, describing how to make food	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 170-177		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Happiness in a Bowl: Noodles		Food culture in Japan, writing about food your favourite food, food etiquette in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 178-185		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
8	A Glorious Goddess of Japan: Mount Fuji		Importance of nature in Japanese culture, natural disasters in Japan, what to say in an emergency	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 186-194		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
9	Samurai of California: Nagasawa Kanae		To learn about interesting people from history, to learn about American culture in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 196-203		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
10	Korean Samurai: Kim Chung-seon		To learn about interesting people from history, to learn about Korean culture in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 204-211		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
11	Terrors and Darlings of the Sea: Wako		To learn about interesting people from history, talking about Chinese culture in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 212-219		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
12	Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy		To learn about interesting people from history, talking about European culture in Japan	
	この回の到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 220-227		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	A Bittersweet Roman Journey: Hasekura Tsunenaga		To learn about interesting people from history, to learn about South American culture in Japan	
	この回の 到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 228-235		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
14	The Strongest Man in Medieval Japan: Yasuke		To learn about interesting people from history, to learn African culture in Japan	
	この回の 到達目標	To practice reading, listening, communication and writing skills. To think about how foreign people view Japan. To critically evaluate images/stereotypes of Japan		
	事前学修	Textbook pp. 236-243		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分
15	Final class		Review of the year	
	この回の 到達目標	Review language skills learned throughout the course		
	事前学修	TBC		45分
	事後学修	Response paper on lesson content (100-150 words)		45分

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	トーマス・ロッキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Upper-elementary level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オンデマンド。講義および演習形式。 前期のみの講座　ー　後期は授業がありません。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な初級レベルのリスニング力を活用することができる。								2	2		
②	英語で意思疎通をするために必要な初級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the term	10	10									20
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	Students' attitude to learning	40	40									80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Multicultural Stories from Modern Japan	Thomas Lockley	DTP出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日10:30-11:30 研究室（1602研究室）lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	Tei Ei-Kei	Learn about Tei Ei-kei and coffee culture in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Please read the contents of syllabus.	30分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
2	Kairakutei Black	Learn about Kairakutei Black and rakugo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Ancient Japan and East-Asia so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
3	Victor Starrfin	Learn about Victor Starrfin a Russian baseball pioneer in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Foreign Settlements in Japan so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
4	Rash Behari Bose	Learn about Rash Behari Bose and curry in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kim Chung-son so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
5	Leo Sirota	Learn about Leo Sirota and classical music in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Korean Potters in Japan so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
6	Beate Sirota Gordon	Learn about Beate Sirota Gordon and the Japanese constitution.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Yamada Nagamasa so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Chen Kenmin	Learn about Chen Kenmin and Chinese food history in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Tagawa Matsu so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
8	Rikidozan	Learn about the life of Zhu Shun-sui a refugee scholar in Edo Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Zhu Shun-sui so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
9	Ando Momofuku	Learn about Ando Momofuku and ramen culture in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Maria Guyomar de Pina so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
10	Korean food in Japan	Learn about the history of Korean food in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
11	Oh Sadaharu	Learn about Oh Sadaharu and baseball in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Sun Yat-sen in Japan so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
12	Konishiki Yasokichi	Learn about Konishiki Yasokichi and sumo in Japan.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Prince Cuong De so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Murata Renho	Learn about Murata Renho and Japanese politics	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about The Takasago Volunteers so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
14	Son Masayoshi	Learn about Son Masayoshi and business in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Kyaw Din so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test.	30分
	事後学修	Revise for the semester exam.	30分
15	Semester exam Review	Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can complete the semester assessment.	
	事前学修	Prepare for the assessment	30分
	事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	Listening & Speaking ⅢA(木曜3時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIIB. CEFR B1

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Listening tests.	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	25	25									50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2nd Edition, ISBN9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students can get information about the course objectives.	
	事前学修	Check the syllabus.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	Unit 1A People and Places	Who we are and where we are from	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe people and places and introduce themselves.	
	事前学修	Be ready to study English.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	Unit 1B People and Places	What we do and where we live	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their school/jobs and describe where they live.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	Unit 2A Daily Life	What we like doing in free time	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their hobbies and likes/dislikes.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	Unit 2B Daily Life	What we do in daily life, how often we do things.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their daily lives, including habits and customs.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	Unit 3A Home	Where we live	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe the area they live, including shops and where things are.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 3B Home		What we need to do and our homes	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can explain what they need to do and describe their homes.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
8	Unit 4A Holidays		Our past, what we hear	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about what they did in the past and what people tell them.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
9	Unit 4B Holidays		Dates and months, holidays.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe time, including dates and months, as well as various holidays.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
10	Unit 5A Shops		What we want, shopping	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe what they want to buy and learn how to talk to shop assistants.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
11	Unit 5B Shops		Department stores, excuses, in a store	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about department stores, how to make excuses and follow directions in a store.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
12	Unit 6A Education		Classmates, teachers, school subjects	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their classmates and teachers and also about what subjects they are studying in university.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 6B Education	TCourses, languages and education, preferences	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about unexpected things that have happened to them,	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 7A Family	Family, family life	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe their families and family life, as well as people they know.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Study for test.	60分
15	Test and review.	Test and review.	
	この回の到達目標	Test and review.	
	事前学修	Study for test.	60分
	事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking ⅢA(木曜4時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IIIB. CEFR B1

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Listening tests.	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	25	25									50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2nd Edition, ISBN9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above students can get information about the course objectives.	
	事前学修	Check the syllabus.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	Unit 1A People and Places	Who we are and where we are from	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe people and places and introduce themselves.	
	事前学修	Be ready to study English.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	Unit 1B People and Places	What we do and where we live	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their school/jobs and describe where they live.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	Unit 2A Daily Life	What we like doing in free time	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their hobbies and likes/dislikes.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	Unit 2B Daily Life	What we do in daily life, how often we do things.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their daily lives, including habits and customs.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	Unit 3A Home	Where we live	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe the area they live, including shops and where things are.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 3B Home		What we need to do and our homes	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can explain what they need to do and describe their homes.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
8	Unit 4A Holidays		Our past, what we hear	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about what they did in the past and what people tell them.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
9	Unit 4B Holidays		Dates and months, holidays.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe time, including dates and months, as well as various holidays.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
10	Unit 5A Shops		What we want, shopping	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe what they want to buy and learn how to talk to shop assistants.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
11	Unit 5B Shops		Department stores, excuses, in a store	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about department stores, how to make excuses and follow directions in a store.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
12	Unit 6A Education		Classmates, teachers, school subjects	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their classmates and teachers and also about what subjects they are studying in university.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 6B Education	TCourses, languages and education, preferences	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about unexpected things that have happened to them,	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 7A Family	Family, family life	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe their families and family life, as well as people they know.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Study for test.	60分
15	Test and review.	Test and review.	
	この回の到達目標	Test and review.	
	事前学修	Study for test.	60分
	事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
オンデマンド授業。講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、筆記試験（授業内試験）により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テストにより評価する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:50 研究室（最初講義で: TBA）joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction・導入講義	Learn about the learning objectives of the class.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	Edo to Tokyo	Learn about the story Edo to Tokyo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	Kimono	Learn about the story Kimono	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	Kabuki	Learn about the story Kabuki	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	Sumo	Learn about the story Sumo	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	Shinkansen	Learn about the story Shinkansen	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	Manga		Learn about the story Manga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
8	Akihabara		Learn about the story Akihabara	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
9	Yamanote		Learn about the story Yamanote	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
10	Imperial Palace		Learn about the story Imperial Palace	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
11	Asakusa		Learn about the story Asakusa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
12	The Meiji Jingu		Learn about the story The Meiji Jingu	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Sushi and Tempura	Learn about the story Sushi and Tempura	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	Noodles	Learn about the story Noodles	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	Semester Exam	Semester assessment Review	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment	
	事前学修	Revise for the semester exam	30分
	事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Willingness to work independently, complete assignments on time, and communicate in English with classmates.

【授業方法】
Online by demand. There will be a short lecture each week and students will complete the exercises in the textbook, complete a Google Docs quiz, upload a mini-talk in English on the week's topic, and respond to classmates talks.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning will be employed in some instances if necessary.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。										3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										3	3		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	Written assignment for each chapter. This is worth 100 points each week with a total of 1500 points. Students must achieve an overall average of at least 60%.	48										48
討論・発表等	Students will respond to classmates recorded talks.		4									4
授業への参画度	Students will record weekly mini-talks related to the subject in the textbook. Students will be graded on a rubric that includes speaking length, grammar, vocabulary, completion of the assignment on time, and effort. This is worth 100 points each week with a total of 1500		48									48
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	52									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
No textbook. Materials will be provided in Google Classroom					
備考	Students’ work will be graded weekly. Written work will be scored out of a possible 100 points and speaking activities scored by a rubric worth 100 points.				

【オフィシアワー】
dianehawley.nagatomoll@nihon-u.ac.jp Hawley.diane.edla@ocha.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introduction及び導入講義	TED Talk # 1	
	この回の到達目標	Einstein the parrot	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	10分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	30分
2	Sleep	TED Talk # 2	
	この回の到達目標	Want to succeed? get more sleep	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	30分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	30分
3	Success	TED Talk # 3	
	この回の到達目標	Eight secrets of success	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	30分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	30分
4	plastics	TED Talk # 4	
	この回の到達目標	Which bag should you use?	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	VGoogle-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
5	Happiness at work	TED Talk # 5	
	この回の到達目標	This is what makes people happy at work	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
6	Goals	TED Talk # 6	
	この回の到達目標	How to practice anything	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	Community innovation	TED Talk # 7		
	この回の到達目標	How community innovation can save wildlife		
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分	
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分	
8	Goals	TED Talk # 8		
	この回の到達目標	Three things I learned		
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分	
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分	
9	Working from home	TED Talk # 9		
	この回の到達目標	Why working at home is good for business		
	事前学修	Question and answer worksheet	90分	
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分	
10	AIDS and HIV	TED Talk # 10		
	この回の到達目標	Dangerous evolution of AIDS		
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分	
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分	
11	Success	TED Talk 11		
	この回の到達目標	Success is a continuous journey		
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分	
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分	
12	Gratitude	TED Talk # 12		
	この回の到達目標	The power of saying thank you		
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分	
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroomand speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Globalization problems	TED Talk # 13	
	この回の到達目標	Dark History of Bananas	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
14	Language	TED Talk # 14	
	この回の到達目標	Evolution's great mystery: language	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
15	Exam まとめ	Exam	
	この回の到達目標	Final report	
	事前学修	Review previous TED Talks and investigation of other TED Talks	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid. Make sure all assignments are submitted on time.	120分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業 内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テ ストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加 したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態 度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Rock UK: A Cultural History of Popular Music in Britain. ISBN:9784863122048	Hullah, P & Teranishi, M	Cengage Learning	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日） / richard.walker@nihon-u.ac.jp（anytime）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction・導入講義		The role of music in our daily lives. Is rock and pop nothing more than entertainment?	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above. Students get to know the teacher, textbook, and activities.		
	事前学修	Read syllabus and reflect!		60分
	事後学修	Read and complete work from Unit 1		60分
2	A Message To You		Readings of our favorite songs - classical, rock or pop. Pop Video as a tool for class discussions. Basic semiotics in Pop Culture.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use media to discuss the communicative effect of selected songs.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Read and complete work from Unit 2		60分
3	Before Rock and Roll		Changes in Anglo-American Society that led to Modern-day Popular Music.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about the types of changes in Anglo-American Society that laid the template for Modern-day Popular Music		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Read and do work from Unit 3.		60分
4	Talking 'bout My Generation		A Decline in Christianity & Rise in Americanization. Geographical & Class Divisions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at the New Beliefs and Foreign Cultures affecting our own.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Read and complete work from Unit 3.		60分
5	Before I Get Too Old		Popular icons and ways to challenge established opinions in society. Presentations #1	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues related to past and present social conventions and popular icons past and present.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and read texts handed out by the teacher. Read reading in Unit 4.		60分
6	Good Vibrations?		Summers of Love and Experimentation in Music: the Good and the Bad.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions concerning love and subcultures.		
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.		60分
	事後学修	Review and complete exercises from Unit 4.		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	War! What is it good for?	Why turn on, tune in, and drop out? Social protests and their results.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about SDG's 4, 5 and/or 10 using a range of materials.	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	120分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read and complete Unit 5 exercises.	60分
8	Escapism: why we need it.	Pop culture as a way of providing escape from Modern Life. Flamboyant Icons.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at escapism and flamboyance	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read Unit 6 exercises.	60分
9	Space Odyssey	Glamour in pop culture; the appeal of (space) travel...	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will consider questions on what space travel represents and represented in the past.	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read and complete Unit 6 exercises.	60分
10	Androgyny and Increasing Genders	Waves of Feminism as reflected in Pop. Presentations #2.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues about gender using a range of materials. Presentation 2	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read and complete Unit 7 exercises.	60分
11	Economic Depression: Public Anger and Confrontations	Why do genres such as punk emerge?	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will study the reasons for economic depression, songs which reflect this and which confront difficult issues	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read and complete Unit 8 exercises.	60分
12	Censorship	What topics should be censored, whether in music or other media?	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related censorship	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read and complete Unit 8 exercises.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Final Presentation: Preparation	Using any of the themes in unit 1-8, prepare a Power Point presentation. Times and other guidelines given in class.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use class time to prepare, practice and/or share ideas about their final presentation (3).	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	120分
14	Final Presentations 1/2	Presentations and discussions 1/2	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will present their presentations	
	事前学修	Review notes / prepare Powerpoint presentation	120分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	120分
15	Final Presentations 2/2	Presentations and discussions 2/2	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related to SDG 8.	
	事前学修	Review notes / prepare Powerpoint presentation	100分
	事後学修	Write a review of partners speeches.	100分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	ハートリ ライアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習），オンライン活動		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	オンライン活動	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。										3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。										3	3		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロッキリー・トーマ ス	東京書籍	201 9	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
ryanxhartley@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introduction		Learn about the aims and objectives of the course	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the course objectives to help improve intercultural understanding.		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		30分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
2	From Edo to Tokyo - The Making of a Global City		Learn about the history of Tokyo	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the From Edo to Tokyo - The Making of a Global City story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Write the example sentences and read the lesson text.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
3	Kimono: Elegant Symbols of Japan		Learn about the history of kimono	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kimono: Elegant Symbols of Japan story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
4	Kabuki - Pop Culture of the Past		Learn about the history of kabuki	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Kabuki - Pop Culture of the Past story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
5	Sumo - A Weighty Sport		Learn about the history of sumo	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about Sumo to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
6	Shinkansen - The Bullet Train		Learn about the history of the bullet train	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Shinkansen - The Bullet Train story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Manga - Global storytelling from Japan		Learn about the history of manga	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Manga - Global storytelling from Japan story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
8	Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan		Learn about the history of Japanese arts and crafts	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
9	Cinema - Moving Art		Learn about the history of Japanese cinema	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Cinema - Moving Art story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
10	How to do a presentation		Learn about making presentations in English	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn about effective presentation making in English.		
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.		30分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.		30分
11	Presentation Making		Learn and practice presentations skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods		
	事前学修	Continue with Presentations.		30分
	事後学修	Continue with Presentations.		30分
12	Presentation Making		Learn and practice presentations skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods		
	事前学修	Continue with Presentations.		30分
	事後学修	Continue with Presentations.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can make presentations and learn about presentation methods	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Continue with Presentations.	30分
14	Presentation Making	Learn and practice presentations skills	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Continue with Presentations.	30分
15	Assessment Presentations	Assessment lesson	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can perform assessment presentations	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	Listening & Speaking III A	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
The class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities.

【授業方法】		
The class will be conducted on demand. Details will be posted on google classroom later. This course aims to equip students with communicative skills they need to feel comfortable speaking and listening English in a wide variety of situations. Students will participate in activities designed to improve their listening comprehension and ability to make themselves understood in spoken English including formal and informal conversations.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve language skills.	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the semester	15	15									30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Individual/group presentation	15	15									30
授業への参画度	Students` attitude to learning	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell, Syogo Hotta	Asahi	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can speak to the instructor on Mondays before or after class. You may also contact me by email - azmiah2763@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Orientation・導入講義	Introduction of the teacher and students, guidelines for the classes	
	この回の到達目標	Discussion of the syllabus	
	事前学修	Read the contents of the syllabus	35分
	事後学修	Discuss and prepare answers for the before you read questions in Unit 1, page 2	35分
2	Law in Daily Life	Practical use of law in daily life	
	この回の到達目標	Students familiarize themselves on the practical use of law in daily life. Students learn to listen and understand the contents of the reading passage	
	事前学修	Learn new legal terms in English and Japanese	30分
	事後学修	Read the passage in Unit 1, page 3 and find the meaning of the difficult words	40分
3	Law in Daily Life	Learn pronunciation and intonation of legal terms	
	この回の到達目標	Listen to CD for the reading passage, learn pronunciation and intonation. Reading the passage in class. Answering the comprehension questions in pairs	
	事前学修	Complete the vocabulary expansion exercise on page 4	30分
	事後学修	Review the reading passage and write the difficult legal terms in the word cards	45分
4	Law in Daily Life	Discussing the debate question	
	この回の到達目標	Discussing the debate question in class in small groups. Writing the answers	
	事前学修	Summarize the reading passage in the textbook	45分
	事後学修	Prepare answers for the questions in before you read in Unit 2	30分
5	Legal Systems around the World	Legal Systems in the World	
	この回の到達目標	Discussing about legal systems in the world	
	事前学修	Answer the legal terms section on page 8	30分
	事後学修	Read the passage on page 9 and check the meaning of unfamiliar words	45分
6	Legal Systems around the World	Talk about legal systems around the world	
	この回の到達目標	Listen to the CD on legal systems around the world. Shadowing exercise in pairs	
	事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 10	50分
	事後学修	Find the meaning of the vocabulary and answer the vocabulary expansion questions on page 10	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Legal Systems around the World	Discussion on adversarial and inquisitorial systems	
	この回の到達目標	Discussing the debate question in groups - arguments for and against the two systems	
	事前学修	Summarize the contents in the reading passage on page 9	60分
	事後学修	Prepare answers to the question on kind of courts in Japan	45分
8	The Japanese Court System	Discuss about the Japanese Court System	
	この回の到達目標	Discuss the court system in Japan and answer the before you read questions	
	事前学修	Answer the legal terms exercise on page 14	35分
	事後学修	Reading passage on page 15 and checking the meaning of unfamiliar words	60分
9	Should Lay Assessors also participate in Civil Cases	Discuss the role of Lay Assessors in Japan	
	この回の到達目標	Discussion in groups on should lay assessors participate in both criminal and civil cases	
	事前学修	Answer the debate question for homework	45分
	事後学修	Summarize the reading passage in the notebook. Highlight the difficult words	60分
10	Basic Presentation Techniques	Introducing basic Presentation Techniques	
	この回の到達目標	Students practice the basic presentation techniques in pairs and groups	
	事前学修	Students think of two topics on current legal/social issue in Japan for the presentation and write a short outline	60分
	事後学修	Students prepare an outline for one of the topics on current legal/social issues in Japan	40分
11	Legal Professionals	Role of legal professionals in Japan	
	この回の到達目標	Discussion of the legal professions in Japan	
	事前学修	Students think of the legal professions in Japan and write a brief description of them	40分
	事後学修	Students answer the exercise on legal terms on page 20 and find the meaning of unfamiliar terms in the reading passage	35分
12	Legal Professionals	Discussion of passage on legal professionals in Japan	
	この回の到達目標	Listening to the reading passage on CD and trying to understand the contents	
	事前学修	Answer the comprehension questions on page 22	30分
	事後学修	Preparing answer for the debate question on page 25	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Preparation for Presentation	Students prepare for their class presentation	
	この回の到達目標	Students bring the draft of power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
	事前学修	Students prepare the script for the power point slides	45分
	事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	Final Group Presentation	Students make group presentations in class	
	この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience	
	事前学修	Prepare for the presentation at home	45分
	事後学修	Peer review and evaluating the presentation of classmates	60分
15	Wrap up and Review	Wrap up, review and final tests	
	この回の到達目標	To give feedback on their assignments to the students	
	事前学修	Review for the test	60分
	事後学修	Doing research as homework assignment during the summer vacation	60分

科目名	Listening & Speaking ⅢB(木曜3時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVA. CEFR B2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Listening tests.	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	25	25									50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2ndEdition, ISBN 9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above, students can get information about the course objectives.	
	事前学修	Check the syllabus.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	Unit 9A Experiences	Places we've visited, recommendations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about places they have been to and also make recommendations.	
	事前学修	Be ready to study English.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	Unit 9B. Experiences.	Problems, experiences	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can explain and ask about problems and talk about experiences they have had.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	Unit 10A. Travel	Time, tickets, trains	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about time (schedules), buying train tickets and traveling on trains.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	Unit 10B. Travel	Local transportation, recommendations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss local transportation and recommend places to visit.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	Unit 11A. Food	Restaurants	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can understand menus and order and pay in restaurants.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 11B. Food		Kinds of food, agreement and disagreement	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe different kinds of food, talk about what they eat, and show agreement and disagreement.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
8	Unit 12A. Feelings		Health problems, advice	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about health problems and give advice and refuse advice.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
9	Unit 12B. Feelings		Our feelings, news stories	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can express how they feel and why and also understand some news stories.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
10	Unit 13A. Nature		Weather, future	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the weather, along with future possibilities and ask for details.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
11	Unit 13B. Nature		Countryside/city, animals, duration	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can compare the countryside and the city, as well as talk about animals and duration.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
12	Unit 14. Opinions		Opinions, news	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give opinons about movies, news and social issues.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 15. Technology	Machines, Internet	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss machines and things they can do on the Internet	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 16A. Love	Relationships	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe events in relationships and give news about them.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Study for test.	60分
15	Test and review.	Test and review.	
	この回の到達目標	Test and review.	
	事前学修	Study for test.	60分
	事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking ⅢB(木曜4時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVA. CEFR B2

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Listening tests.	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	25	25									50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評及びテストの解説を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Outcomes Elementary, 2ndEdition, ISBN 9781305093461	Dellar, Walkley	National Geographic Learning	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above, students can get information about the course objectives.	
	事前学修	Check the syllabus.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	Unit 9A Experiences	Places we've visited, recommendations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about places they have been to and also make recommendations.	
	事前学修	Be ready to study English.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	Unit 9B. Experiences.	Problems, experiences	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can explain and ask about problems and talk about experiences they have had.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	Unit 10A. Travel	Time, tickets, trains	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about time (schedules), buying train tickets and traveling on trains.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	Unit 10B. Travel	Local transportation, recommendations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss local transportation and recommend places to visit.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	Unit 11A. Food	Restaurants	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can understand menus and order and pay in restaurants.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 11B. Food		Kinds of food, agreement and disagreement	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can describe different kinds of food, talk about what they eat, and show agreement and disagreement.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
8	Unit 12A. Feelings		Health problems, advice	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about health problems and give advice and refuse advice.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
9	Unit 12B. Feelings		Our feelings, news stories	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can express how they feel and why and also understand some news stories.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
10	Unit 13A. Nature		Weather, future	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can talk about the weather, along with future possibilities and ask for details.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
11	Unit 13B. Nature		Countryside/city, animals, duration	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can compare the countryside and the city, as well as talk about animals and duration.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
12	Unit 14. Opinions		Opinions, news	
	この回の到達目標	As per SB0s ①② above, students can ask for and give opinons about movies, news and social issues.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 15. Technology	Machines, Internet	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss machines and things they can do on the Internet	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 16A. Love	Relationships	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe events in relationships and give news about them.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Study for test.	60分
15	Test and review.	Test and review.	
	この回の到達目標	Test and review.	
	事前学修	Study for test.	60分
	事後学修	Review.	30分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Willingness to work independently, complete assignments on time, and communicate in English with classmates.

【授業方法】
There will be a short lecture each week and students will complete the exercises in the textbook, complete a Google Docs quiz, upload a mini-talk in English on the week's topic, and respond to classmates talks.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Active learning may be used if necessary.

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	Written assignment for each chapter. This is worth 100 points each week with a total of 1500 points. Students must achieve an overall average of at least 60%.	48										48
討論・発表等												
授業への参画度	Students can obtain bonus points by responding to other students' talks.		4									4
その他(speaking practice)	Students will record weekly mini-talks related to the subject in the textbook. Students will be graded on a rubric that includes speaking length, grammar, vocabulary, completion of the assignment on time, and effort. This is worth 100 points each week with a total of 1500		48									48
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		48	52									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Students will be expected to redo and resubmit their assignments if their scores are not sufficient.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
No textbooks: handouts will be provided or will be uploaded to Google Classroom					
備考	Students' work will be graded weekly. Written work will be scored out of a possible 100 points and speaking activities scored by a rubric worth 100 points.				

【オフィスアワー】
hawley.diane.edla@ocha.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Wear nothing new	Introduction to first semester, TED Talk # 1	
	この回の到達目標	Wear nothing new	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
2	Want to be more creative?	TED Talk # 2	
	この回の到達目標	Want to be more creative?	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
3	Try something new for 30 days	TED Talk # 3	
	この回の到達目標	Try something new for 30 days	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
4	How we find life on other planets	TED Talk # 4	
	この回の到達目標	How we find life on other planets	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
5	A brief history of dogs	TED Talk # 5	
	この回の到達目標	A brief history of dogs	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
6	How a vaccine is made	TED Talk # 6	
	この回の到達目標	How a vaccine is made	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Pandemic	TED Talk # 7	
	この回の到達目標	When the pandemic is over	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
8	Japanese history	TED Talk # 8	
	この回の到達目標	Teenage samurai	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
9	Books	TED Talk # 9	
	この回の到達目標	Books are here to stay	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
10	Discrimination and prejudice	TED Talk # 10	
	この回の到達目標	Courage of Harriet Tubman	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
11	Technology	TED Talk # 11	
	この回の到達目標	What a smart phone is made of	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
12	Sports	TED Talk # 12	
	この回の到達目標	How sports affects your brain	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Sleep	TED Talk # 13	
	この回の到達目標	What would happen if you don't sleep?	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
14	Food culture	TED Talk # 14	
	この回の到達目標	The world eats with chopsticks	
	事前学修	Follow instructions on Google Classroom: Watch TED Talk and study the reading.	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid.	120分
15	Exam まとめ	Report/Exam	
	この回の到達目標	Final report	
	事前学修	Review previous TED Talks and investigation of other TED Talks	90分
	事後学修	Google-docs assignment from Google Classroom and speaking activity uploaded to Flipgrid. Make sure all assignments are submitted on time.	30分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	R.ウォーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
The teaching methods will use an approach called Content and Language Integrated Learning (CLIL).

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，授業内試験（レポート等も含む）により評価する。	20	20									40
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，小テストなどにより評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループワークやペアワークなどにどの程度（頻度）参加したかを基準に，到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Rock UK: A Cultural History of Popular Music in Britain. ISBN:9784863122048	Hullah, P & Teranishi, M	Cengage Learning	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
職員室（月曜日） / richard.walker@nihon-u.ac.jp（anytime）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Introduction/Mirrors		Revisiting the question: Is rock and pop nothing more than entertainment? New Romantics, Early Futurism and AI
	この回の到達目標	As per SBOs①② above. Discuss New Romantics, Early Futurism and AI	
	事前学修	Review notes and videos from semester pne	60分
	事後学修	Read and complete work from Unit 9	60分
2	Artists: Should they be Role Models?		Discussion of Role Models + whether artists should be expected to be one.
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use media to discuss the issue of futurism and also the responsibiity of artists	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read and complete work from Unit 10	60分
3	Realism & Embracing Pessimism		Authentic reactions during Hard Times. Constructive criticism of Establishment Figures
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about miserabilism, realism, and the possible benefits of stoicism.	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read and do work from Unit 10	60分
4	Music and Political Issues		A discussion on songs which embrace social issues and consciousness-raising events: should politics be part of entertainment?
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at the how musicians and the music industry discusses music and political issues.	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read Unit 11	60分
5	Immigration and Nationalism		How immigration and nationalism affected the Anglo-American pop scene. Presentation 1.
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss how immigration and nationalism affected Anglo-American pop scenes.	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and read texts handed out by the teacher. Read and complete work from Unit 11.	60分
6	Patriotism and Identity		Should we preserve local and national identities in this global age?
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at questions related to national and regional identities.	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and complete exercises from Unit 4.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Women in Pop	Moving and Shaking towards Equality for Women	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will talk about female pioneers in pop culture	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	120分
	事後学修	Read and complete Unit 12 exercises.	60分
8	It's Never Been a Man's World	What do Female Artists represent in 2021?	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use different media to look at gender in pop	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read Unit 13.	60分
9	Not Raving but Drowning?	Why did clubbing take off in the West? What is the appeal of hip-hop and rap	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will consider questions on the role of dance in culture	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher. Read and complete Unit 13 exercises.	60分
10	Where Are We Now?	How has the Internet affected the production, creation, and enjoyment of music? Presentations 2.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss current issues about how the Internet affected the production, creation, and enjoyment of music?	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read and do Unit 14 exercises	60分
11	Modern Life Is Rubbish?	Measuring Quality of life. 2021 c/w 1921 & 1981	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will study ways of measuring quality of life	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read and complete Unit 14 exercises.	60分
12	A Culturally Significant Art Form	Rock and pop isn't just there to entertain...	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss how rock and pop has a deep role in Anglo-American cultures	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Read and complete Unit 15 exercises.	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Music and Politics Since 2001	Using any of the themes in unit 9-15, prepare a Power Point presentation. Presentation times and other guidelines given in class.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will use class time to prepare, practice and/or share ideas about their final presentation (3).	
	事前学修	Read articles handed out by the teacher. Read assigned pages in the textbook and do assigned tasks.	60分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	120分
14	Final Presentations 1/2	Presentations and discussions 1/2	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will present their presentations	
	事前学修	Review notes / prepare Powerpoint presentation	120分
	事後学修	Review and read articles handed out by the teacher.	120分
15	Final Presentations 2/2	Presentations and discussions 2/2	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students will discuss issues related to SDG 8.	
	事前学修	Review notes / prepare Powerpoint presentation	100分
	事後学修	Write a review of partners speeches.	100分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
None

【授業方法】
オンデマンド授業。講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。グーグルクラスルームのディスカッションボードでグループディスカッションにも参加が必要です。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Listening tests.	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class.	25	25									50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日16:20-17:50 研究室（最初講義で: TBA）joe.geluso@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Ginza	Learn about the story of Ginza.	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Read syllabus.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
2	Kyoto	Learn about the story of Kyoto	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
3	Nara	Learn about the story of Nara	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
4	Mount Fuji	Learn about the story of Mount Fuji	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
5	Nagasawa Kanaye	Learn about the story of Nagasawa Kanaye	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
6	Kim Chung-son	Learn about the story of Kim Chung-son	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Wako		Learn about the story of Wako	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
8	The Tensho Embassy		Learn about the story of the Tensho Embassy	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
9	Hasekura Tsunenaga		Learn about the story of Hasekura Tsunenaga	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
10	Yasuke		Learn about the story of Yasuke	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
11	William Adams		Learn about the story of William Adams	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分
12	Yamada Nagamasa		Learn about the story of Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.		
	事前学修	Prepare texts for lesson.		30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Sun Yat-sen	Learn about the story of Sun Yat-sen	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
14	Kairakutei Black	Learn about the story of Kairakutei Black	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the story so as to improve overall language skills.	
	事前学修	Prepare texts for lesson.	30分
	事後学修	Learn new words and complete reflections.	30分
15	Semester Exam	Semester assessment Review	
	この回の到達目標	As per SBOs①② above, students can carry out the semester assessment	
	事前学修	Revise for the semester exam	30分
	事後学修	Reflect on the semester	30分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	ハートリライアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
原則、英語Fと通年で履修。CEFRB1/B2を取得していることが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体の発表やペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、発表 (授業内) により評価する。	15	15									30
小テスト等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、小テ ストにより評価する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②にかかわる学習態度が身についているかを、 グループワークやペアワーク等にどの程度（頻度）活発に 参加したかを基準に評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	ロッキリー・トーマ ス	東京書籍	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
ryanxhartley@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Samurai - Legendary Warriors of Japan		Learn about the history of samurai	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai - Legendary Warriors of Japan story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Please read the contents of syllabus.		30分
	事後学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
2	Korean Samurai: Fighting for Peace		Learn about the history of a renegade Japanese samurai in Korea	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Korean Samurai: Fighting for Peace story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
3	Samurai of California - Nagasawa Kanaye		Learn about Nagasawa Kanae, and wine in California	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Samurai of California - Nagasawa Kanaye story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
4	Wako - Terrors and Darlings of the Seas		Learn about the history of pirates in Japan and East Asia	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Wako - Terrors and Darlings of the Seas story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
5	Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy		Learn about the Tensho Embassy to Europe	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分
6	A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga		Learn about Hasekura Tsunenaga's journey to Rome	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga story to help improve intercultural understanding		
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.		30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan	Learn about Yasuke	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
8	An English Japanese Lord - William Adams	Learn about William Adams	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about An English Japanese Lord - William Adams story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
9	Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand	Learn about Yamada Nagamasa	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Learn new vocabulary for the short test. Prepare news discussion.	30分
	事後学修	Finish reflection and learn new vocabulary.	30分
10	A Chinese Revolution Built in Japan	Learn about Sun Yat-sen and his time in Japan	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the Chinese Revolution Built in Japan story to help improve intercultural understanding	
	事前学修	Think of a topic for the semester presentation.	30分
	事後学修	Think of a topic for the semester presentation.	30分
11	Presentation Making	Learn about presenting in English - using gestures.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Continue with Presentations.	30分
12	Presentation Making	Learn about presenting in English - structure and transitions.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Continue with Presentations.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation Making	Learn about presenting in English.	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Continue with Presentations.	30分
14	Assessment Presentations	Carry out assessments	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Continue with Presentations.	30分
15	Assessment Presentations	Carry out assessments	
	この回の到達目標	As per SBOs ①②③ above, students can learn how to do effective presentations in English	
	事前学修	Continue with Presentations.	30分
	事後学修	Reflect on the semester.	30分

科目名	Listening & Speaking III B	担当者	F.マリッカル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Intermediate level.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
The class will be conducted in English and all the students are expected to speak in English in the class. The students must be motivated and be prepared to actively participate in class activities.

【授業方法】
The class will be conducted on demand. Details will be posted on google classroom later. This course will continue to develop the communicative skills students need to feel comfortable speaking and listening to English in a wide variety of situations.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	As per SBO above, students can read, write, listen and speak in English and engage in critical thinking about the learning objectives so as to improve overall language skills.

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な中級レベルのリスニング力を活用することができる。								3	3		
②	英語で意思疎通をするために必要な中級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								3	3		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Speaking/Listening test at the end of the semester	15	15									30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Individual/group presentation in class	15	15									30
授業への参画度	Students` attitude to learning	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback on assignments done in class and at home will be given to the students at the end of the semester.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Law in Japan, Law in the World	Richard Powell	Asahi	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students may speak to the instructor on Mondays before or after the class. You may also contact me by email - azmiah2763@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Feedback and Syllabus	Feedback on final test, students talk about the summer vacation	
	この回の到達目標	Students write about how they spent the summer vacation and present it to class	
	事前学修	Review the units studied in the spring semester	60分
	事後学修	Research on how modern Japanese law evolved	60分
2	Foreign Laws	Japan adopting Foreign Laws	
	この回の到達目標	Understand the reasons why Japan adopted some foreign laws into the legal system and listening to the reading passage on the CD	
	事前学修	Check the unfamiliar words in the reading passage and write their meanings in the word cards	60分
	事後学修	Answering the comprehension questions on page 28	45分
3	Role of Lawyers	Discuss the role of lawyers in courts	
	この回の到達目標	Learn to speak and write arguments for and against the role of the lawyer in courts	
	事前学修	Summarize the reading passage on page 27	60分
	事後学修	Prepare answers on the role of the Japanese Constitution	40分
4	The Japanese Constitution	Role of the Japanese Constitution	
	この回の到達目標	Group discussion on the present Constitution and the necessity to amend it	
	事前学修	Answer the exercise on legal terms on page 32	30分
	事後学修	Read the passage and check the unfamiliar words and answer the comprehension questions	60分
5	The Japanese Constitution	Discussing the important articles of the Japanese Constitution	
	この回の到達目標	Discussing arguments for and against maintaining a self defense force	
	事前学修	Answer the debate question on page 36	45分
	事後学修	Research on the nature of crimes committed in Japan and the punishments imposed	35分
6	Criminal Law	Criminal Law in Japan	
	この回の到達目標	Discussion of criminal law in Japan and in other countries	
	事前学修	Listen to the class CD on criminal law in Japan and check the unfamiliar words	40分
	事後学修	Answer the comprehension questions on page 42	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Movie	Watching a movie on a criminal trial	
	この回の到達目標	Students watch the movie without Japanese subtitles/captions	
	事前学修	Do a research on the movie to be watched	50分
	事後学修	Students write their opinion about the movie and bring it to class	60分
8	Civil Law	Differences between criminal and Civil Law	
	この回の到達目標	Distinguish the differences between criminal and civil law	
	事前学修	Students write answers to the legal terms on page 44 and read the passage and check the meaning of unfamiliar words on page 45	60分
	事後学修	Answer the comprehension questions on page46	35分
9	Litigation	Litigation in Japanese Culture	
	この回の到達目標	Students discuss in groups if litigation is acceptable or not in Japanese culture	
	事前学修	Summarize the reading passage and make note of the unfamiliar words	60分
	事後学修	Research on the differences between criminal and civil procedure	40分
10	Commercial Law	Importance of Commercial Law in Japan	
	この回の到達目標	Importance of commercial law and difficulties to take legal action against foreign companies	
	事前学修	Research on the type of legal action taken against foreign companies and refer to some recent cases in Japan	60分
	事後学修	Exercise on legal terms and listen to the reading passage on class CD on page 57	40分
11	Legislation	Legislation relating to commercial law in Japan	
	この回の到達目標	The extent to which legislation in Japan protects producers and consumers	
	事前学修	Read the passage and answer the comprehension questions on page 58	60分
	事後学修	Summarize the reading passage and write down the unfamiliar words	60分
12	Lay Judge	Lay Judge System in Japan	
	この回の到達目標	The necessity to have the Lay Judge System in Japan	
	事前学修	Think of arguments for and against the lay judge system	60分
	事後学修	Listen to the reading passage on the CD and write down the unfamiliar words	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Presentation	Preparation for Presentation	
	この回の到達目標	Students bring the draft power point slides to class. Comments/suggestions by the instructor	
	事前学修	Students prepare the description for the power point slides	45分
	事後学修	Prepare for the presentation in class next week	45分
14	Presentation	Final Group Presentation	
	この回の到達目標	To be able to express themselves in front of an audience, peer review and evaluation	
	事前学修	Prepare for the presentation at home	30分
	事後学修	Peer review and evaluating the presentations of classmates	45分
15	Wrap up and Review	Wrap up, review, feedback and final test	
	この回の到達目標	To complete the course successfully	
	事前学修	Review the lessons studied in the fall semester for the test	60分
	事後学修	Feedback on the assignments done in class, students express their opinion on the lessons and textbook	30分

科目名	Listening & Speaking IVA(月曜3限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVB. CEFR B1 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rdEdition, ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory lecture	Learning what the class is about .	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above, students can get information about the course objectives	
	事前学修	Check the syllabus.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	Unit 1.1 A World of Difference	Family and culture	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about the affect of culture on families living in different countries.	
	事前学修	Be ready to study English.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	Unit 1.2 A World of Difference	Lifestyles, everyday situations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their lifestyles and how it affects what they do evert day.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	Unit 2.1 The work week	Successful people	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss what makes people successful or not	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	Unit 2.2 The work week	Payment for jobs, opinions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about how much people make doing various jobs and give their opinions about this and other things.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	Unit 2.3 The work week	Free-time activities	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about what they do when they're not working or at school-their free-time activities.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 3.1 Good times, bad times.		Relationships	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about relationships, especially their early loves.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
8	Unit 3.2 Good times, bad times!		Getting along, good matches	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss what makes people fall in love and what kinds of relationships are the best.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
9	Unit 4.1 Getting it right		Personal habits and philosophies	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about what they think is the most important in their lives and how they go about doing things every day.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
10	Unit 4.2 Getting it right		Laws, what's important in life	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss various laws and how they help establish what's important in our lives.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
11	Unit 5.1 Our changing world		Predictions about the future	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can make predicitions about the future and what they think will happen to them and to the world.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
12	Unit 5.2 Our changing world		Weather, space	
	この回の到達目標	.As per SBOs ①② above, students can talk about the weather and make predictions about it and also talk about space.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Unit 5.3 Our changing world	Environment, making arrangements	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about the environment and what they think will happen to it in the future as well as how to make arrangements to meet someone or go somewhere.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 6.1 What matters to me	Close relatives, family	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about who they feel closest to in their family and how they feel about other relatives.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	Unit 6.2 What matters to me	Possessions, descriptions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their most important possessions and why they value them and also describe what they own.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Listening & Speaking IVA(月曜4限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
Ideally students should continue to Listening and Speaking IVB. CEFR B1 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rdEdition, ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introductory lecture		Learning what the class is about .	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above, students can get information about the course objectives		
	事前学修	Check the syllabus.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
2	Unit 1.1 A World of Difference		Family and culture	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about the affect of culture on families living in different countries.		
	事前学修	Be ready to study English.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
3	Unit 1.2 A World of Difference		Lifestyles, everyday situations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their lifestyles and how it affects what they do evert day.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
4	Unit 2.1 The work week		Successful people	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss what makes people successful or not		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
5	Unit 2.2 The work week		Payment for jobs, opinions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about how much people make doing various jobs and give their opinions about this and other things.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
6	Unit 2.3 The work week		Free-time activities	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about what they do when they're not working or at school-their free-time activities.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 3.1 Good times, bad times.		Relationships	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about relationships, especially their early loves.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
8	Unit 3.2 Good times, bad times!		Getting along, good matches	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss what makes people fall in love and what kinds of relationships are the best.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
9	Unit 4.1 Getting it right		Personal habits and philosophies	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about what they think is the most important in their lives and how they go about doing things every day.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
10	Unit 4.2 Getting it right		Laws, what's important in life	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss various laws and how they help establish what's important in our lives.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
11	Unit 5.1 Our changing world		Predictions about the future	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can make predicitions about the future and what they think will happen to them and to the world.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
12	Unit 5.2 Our changing world		Weather, space	
	この回の到達目標	.As per SBOs ①② above, students can talk about the weather and make predictions about it and also talk about space.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Unit 5.3 Our changing world		Environment, making arrangements	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about the environment and what they think will happen to it in the future as well as how to make arrangements to meet someone or go somewhere.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
14	Unit 6.1 What matters to me		Close relatives, family	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about who they feel closest to in their family and how they feel about other relatives.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
15	Unit 6.2 What matters to me		Possessions, descriptions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their most important possessions and why they value them and also describe what they own.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

科目名	Listening & Speaking IV B (月曜4限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This is the highest Listening and Speaking level. CEFR B2 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rd Edition ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Introductory lecture	Learning what the class is about.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above, students can get information about the course objectives.	
	事前学修	Check the syllabus.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
2	Unit 7.1 Passions and fashions	Passions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about what they are passionate about in their lives.	
	事前学修	Be ready to study English.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
3	Unit 7.2 Passions and fashions	Personal experiences	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their own life experiences and how they have affected them.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
4	Unit 8.1 No fear!	Phobias-what we're afraid of	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss what makes them afraid in their daily lives and how they deal with it.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
5	Unit 8.2 No fear!	Danger, true and false facts about our lives	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss what kinds of things are dangerous and give true and false information about their own lives.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
6	Unit 9.1 It depends how you look at it	Justice	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can go over various kinds of justice for crimes committed.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 9.2 It depends how you look at it		Difficult situations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe difficult situations they've had in the past and how they dealt with them or will deal with them in the future.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
8	Unit 9.3 It depends how you look at it		Punishment, imprisonment	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss how criminals are punished for their crimes and how which ways are the most effective.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
9	Unit 10.1 All things high tech		Future cities	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe what cities of the future may look like and how they will change from now.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
10	Unit 10.2 All things high tech		Online	
	この回の到達目標	.As per SBOs ①② above, students can talk about what they like to do online and what their favorite websites are.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
11	Unit 10.3 All things high tech		Objects, advice	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe objects they own, identifying them, and also can give advice to tourists.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
12	Unit 11.1 Seeing is believing		Understanding what happened or what we see	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe optical illusions and what happened in a detective story.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Unit 11.2 Seeing is believing		Crime detection, stories
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about modern crime detection and also tell stories about events that have happened to them.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 12.1 Telling it like it is		Famous people, impacts
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about famous people and how they have affected the world and our lives.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	Unit 12.2 Telling it like it is		News
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about where they get their news information and what the current news is.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Listening & Speaking IV B (月曜3限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
English Communication. Advanced level

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Speaking, listening, reading, and writing to improve communicative skills in English.

【履修条件】
This is the highest Listening and Speaking level. CEFR B2 and above.

【授業方法】
講義および演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	参加者主体のペアワークやグループワークによる演習を実施します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文の内容を的確に把握するために必要な上級レベルのリスニング力を活用することができる。								4	4		
②	英語で意思疎通をするために必要な上級レベルのコミュニケーション力を活用することができる。								4	4		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	Student discussion in class	50	50									100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションの講評を授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
American Headway 3, 3rd Edition ISBN 9780194726115	Liz & John Soars	Oxford UP	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Students can contact me before or after class as well as at jwoodjapan@hotmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Introductory lecture		Learning what the class is about.	
	この回の到達目標	As per SBOs①②above, students can get information about the course objectives.		
	事前学修	Check the syllabus.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
2	Unit 7.1 Passions and fashions		Passions	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about what they are passionate about in their lives.		
	事前学修	Be ready to study English.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
3	Unit 7.2 Passions and fashions		Personal experiences	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about their own life experiences and how they have affected them.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
4	Unit 8.1 No fear!		Phobias-what we're afraid of	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss what makes them afraid in their daily lives and how they deal with it.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
5	Unit 8.2 No fear!		Danger,true and false facts about our lives	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss what kinds of things are dangerous and give true and false information about their own lives.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
6	Unit 9.1 It depends how you look at it		Justice	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can go over various kinds of justice for crimes committed.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Unit 9.2 It depends how you look at it		Difficult situations	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe difficult situations they've had in the past and how they dealt with them or will deal with them in the future.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
8	Unit 9.3 It depends how you look at it		Punishment, imprisonment	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can discuss how criminals are punished for their crimes and how which ways are the most effective.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
9	Unit 10.1 All things high tech		Future cities	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe what cities of the future may look like and how they will change from now.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
10	Unit 10.2 All things high tech		Online	
	この回の到達目標	.As per SBOs ①② above, students can talk about what they like to do online and what their favorite websites are.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
11	Unit 10.3 All things high tech		Objects, advice	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe objects they own, identifying them, and also can give advice to tourists.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分
12	Unit 11.1 Seeing is believing		Understanding what happened or what we see	
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can describe optical illusions and what happened in a detective story.		
	事前学修	Prepare homework.		30分
	事後学修	Remember English words and phrases.		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Unit 11.2 Seeing is believing		Crime detection, stories
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about modern crime detection and also tell stories about events that have happened to them.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
14	Unit 12.1 Telling it like it is		Famous people, impacts
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about famous people and how they have affected the world and our lives.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分
15	Unit 12.2 Telling it like it is		News
	この回の到達目標	As per SBOs ①② above, students can talk about where they get their news information and what the current news is.	
	事前学修	Prepare homework.	30分
	事後学修	Remember English words and phrases.	30分

科目名	Reading I A	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
Reading IBと併せて履修することが望ましい。 ず定められた語数・冊数を読み、そしてリアクションペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円です。

【授業方法】
zoomによるライブ授業です。ブレイクアウトセッションで画面共有をしながら一週間で読んだものについてbook talkをします。教員は毎回多読の進行状況、読み方、リアクションペーパーに関してフィードバックをします。IRC管理サイトを利用して、感想を入力します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自分のペースで読み進めていき、毎回グループで本についての発表をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					1		1			1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員がリアクションをサイトでチェックし、口頭でフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
多聴多読マガジン2021年4月号	コスモピア	コスモピア	2021	その他	任意
備考	法学部図書館 6 階の洋書多読本を使用します				

【オフィスアワー】
水曜日 15：00～16：00電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要を説明 Reading Marathonとは？ Graded Readers他、多読本の種類について	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連しReading Marathonの内容と前期授業の進め方について理解し、多読の進め方について理解することができる。	
	事前学修	シラバスを読んでくる。	30分
	事後学修	履修を決めた学生は資料で多読の進め方の動画を視聴する。	90分
2	多読本について	各出版社多読本の特徴と種類の説明を受ける。 多読本の探し方	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し多読本の種類と本の探し方について理解することができる。	
	事前学修	多読本の種類について資料の動画を視聴する。	30分
	事後学修	法学部図書館のデジタル書籍とyoutubeの書籍を視聴してみる。	90分
3	IRCの使い方 多読と英語力	IRCの説明と登録方法 多読の効用について。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し多読の効用について知ることができる。	
	事前学修	多読本2，3冊授業で紹介できるように準備をする。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
4	Book talkを始める	本を最低4冊読み進める→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 自分の読むスピードを知る	
	この回の到達目標	到達目標③に関連しGroup Book Talk&発表の流れを理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
5	多読の効用	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 グループメンバーのリアクションにコメントをつける。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、メンバーの投稿にコメントする方法を知ることができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
6	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。 また、文字と音声の高低、抑揚の関係性を知り、内容の意味を深く理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し目標音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
8	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
9	マラソン中間評価	前期中間点の目標を達成しているかを確認する 期末までの読み方の指導を受け、最終目標のための計画を立てる	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでの読み方について評価を受け、今後の読み方の計画を立てることができる。	
	事前学修	中間目標を達成しているか確認する。	30分
	事後学修	最終目標に向かって計画的に読み進める。 図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
10	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。	
	事前学修	最終目標に向かって計画的に読み進める。 最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
11	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
12	多読を継続 最終課題について	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表 最終課題の説明。 走行距離を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、英文の速読力と多読の関係性を理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	多読を継続		本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自分の英文の読み方を確認することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	各自のこれまでのキロ数と冊数を確認して読み進める。 最終課題の提出をする。	90分
14	前期課題の提出と発表		前期課題を提出し、課題をグループで発表する。 各自読むスピードを確認し、前期初めと比較してみる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、多読と速読力の関係性を理解することができる。	
	事前学修	これまでの冊数とキロ数を確認して読み進める。	30分
	事後学修	目標達成ができているかを最終確認する。	90分
15	ランキング発表		前期top runners 発表&表彰。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、多読を継続することで養われた英語力について理解することができる。	
	事前学修	各自のキロ数と冊数を最終確認し、読み進める。	30分
	事後学修	前期各自が読んだ本のリアクション・ペーパーをIRCサイトで読み返す。 夏休み期間も多読を継続するように努める。	90分

科目名	Reading I A	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業概要及び到達目的・目標(授業内/外の「多読」活動=読書量に応じて成績評価)を意識し、興味を持って主体的・積極的に授業に取り組む者。引き続きReading I Bを受講する予定の者。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。 英文精読(訳読)及び関連資料及び映像を使って情報の確認を行う。(別教材で「多読」も実施。)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題(授業内試験、レポート、小テストを含む)により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき(授業動画の視聴なども含む)、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業翌週に、内容理解の質問の解説を行います。調査報告の講評を行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Welcome to Britain【Revised Edition】英国の(いま)を知りたい[改訂新版]	Tim Knight	音羽書房鶴見書店	2018		必携
King Arthur and the Knights of the Round Table	Stephen Colbourn	MACMILLAN	2008		必携
備考	2冊とも授業にて使用するので必ず購入すること。				

【オフィスアワー】
Gmail(oyama.seiko11@nihon-u.ac.jp)または、「限定公開」(Google Classroom)にて問い合わせてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス＋ 'King Arthur' とは？	ガイダンス＋初回reading("King Arthur and the Knights of the Round Table"について) 所謂「アーサー王伝説」に関する一般的な情報を把握し、説明できる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、'King Arthur'を読むにあたり、その関連・背景情報を把握できる。	
	事前学修	(事前にテキストが入手可能な場合)テキスト全体に目を通し、気になる点をメモして授業に臨む。 加えて、テキスト以外に「イギリス」関連で興味のあることも併せてメモする。	30分
	事後学修	テキスト全体を概観し、次回(第2回)展開範囲(Chapter 1)を中心に、まずは辞書を使わずにどの程度内容が把握でき そうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→学期末の学習成果を自己評価できるようにするため。)	30分
2	「イギリス」とは？(名称)	1. (毎回開始時に全体にて)「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を 整理し、説明できる。2. Chapter 1 The United Kingdom? (前半)演習と解説 (※ 1chapter/2classesペースの予定。) 個々の英文の構造・内容を理解し、読解内容全体の情報整理・説明できる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、英文を正確に読解し、「イギリス(英国)」等の正式名称・定義を理解できる。	
	事前学修	1. "King Arthur"("多読"用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観す る。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を 活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必 要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所 は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
3	「イギリス」とは？ (実情/現状)	1. 「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 1 The United Kingdom? (後半) 演習と解説 「イギリス」の定義及び「連合王国」の実情を理解し、説明できる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、英文を正確に読解し、「イギリス」の実情を把握できる。	
	事前学修	1. "King Arthur"については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合 致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文 (文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
4	「多文化国家イギリス」(1)	1. 「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 2 Multicultural Britain (前半) 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説 明できる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、イギリスが多文化国家に至る、歴史背景を理解できる。	
	事前学修	1. "King Arthur"("多読"用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観す る。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を 活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想/記録する。	30分
	事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必 要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所 は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
5	「多文化国家イギリス」(2)	1. 「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 2 Multicultural Britain (後半) 演習と解説：「多民族/多文化国家」の実情及び その問題点を把握し、説明できる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、多文化国家イギリスが抱える課題を読み解くことができる。	
	事前学修	1. "King Arthur"については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合 致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文 (文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
6	「言語」で見るイギリス(1)	1. 「多読」("King Arthur"(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 14 Language (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・ 説明できる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、イギリス人にとって「言語」にまつわる事柄を、英文読解により理解できる。	
	事前学修	1. "King Arthur"("多読"用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観す る。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を 活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. "King Arthur"のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必 要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所 は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「言語」で見るイギリス(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 14 Language (後半) 演習と解説:「英語」'English'を通して、イギリス人(的)価値観を理解し、説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、イギリス人の「言語」に対する価値観を、英文読解により理解できる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
8	「イギリスとEU」(1)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 3 The UK and the EU (前半) 演習と解説: 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、イギリスとEUの関係性を理解できる。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材): 指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書に当たり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
9	「イギリスとEU」(2) 'Brexit'はいかに起きたか	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 3 The UK and the EU (後半) 演習と解説:'Brexit'をめぐる、イギリスとEUとの関係性の現状及び問題点を把握し、説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、'Brexit'がいかに起きたかを読み取れる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
10	「階級」について(1)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 5 Social class (前半) 演習と解説: 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、イギリス人の「階級」に対する考え方を理解できる。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材): 指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書に当たり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
11	「階級」について(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 6 Social class (後半) 演習と解説: 「階級」'Social class'とはどういうものか、加えてその現状(イギリス社会の構造及びその歴史的変遷)について理解し、説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、イギリスの「階級社会」の現状を理解できる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
12	(受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○(前半) ※受講者の要望/選択によるもの。但し、(Chapter1, 2, 3, 4-7, 10, 14以外) ※何れのChapterにおいても、第11回迄と同様に個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、(これまでの学習(イギリス基本編)を踏まえ、受講者各自全体の意見を調査により選択されたトピック(Chap.)の内容を読解できる。 (受講者の選択によるトピック(Chapter)) ※選択後に指定する。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材): 指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書に当たり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	(受講者の選択によるトピック (Chapter)) ※選択後に指定する。		1. 「多読」(“King Arthur”(1 5分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○ (第1 2回の続き) (後半) 演習と解説：Chapterのテーマから問題点を摘出・解明し、説明できる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、(これまでの学習(イギリス基本編)を踏まえ、受講者各自全体の意見を調査により選択されたトピック (Chap.)の内容を読解できる。 (受講者の選択によるトピック (Chapter)) ※選択後に指定する。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
14	イギリスに関する基本情報の整理		1. 「多読」(“King Arthur”練習(1 5分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. 学期内展開範囲の総復習:学習内容全般を見直し、今一度必要に応じて修正/補足を行い、正確に把握し説明できる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3か月の学習を通じて理解した、イギリスについての基本情報の整理・修正ができる。学習事項に関連した調査報告を行うと共に、受講者間の意見交換が行える。	
	事前学修	学期内展開範囲全ての(理解不十分と思われる)語彙・表現をを復習する。テキスト展開箇所全般の構文・内容についても各自見直しを行う。(不明なものは授業にて確認すること。)	30分
	事後学修	学習内容全体を見直し、必要に応じて修正・確認を行うことで、正確に学習内容を記録する。	30分
15	(3か月の)学習成果(一定の客観的評価及びイギリス(英語圏文化)に関して得た知識・情報の整理		3か月の学習を通じた、各自の「イギリス観」及び自国文化との比較・対照を行い、説明できる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、一定の量及びレベルの英文の構造及び内容が理解できていることを確認・自己認識すると共に今後の課題を明確にすることができる。	
	事前学修	3か月の学習内容を次の3点に関して整理・分析し、(1)習得された語彙や基本的文法事項理解の確認、(2)“King Arthur”のストーリー展開/(3)関連情報を含め「イギリス」について得た情報、(4)「英語圏」＝「異文化」を通じて得た受講者各自の意見・感想を記録を完成させる。	30分
	事後学修	初回事前学習からの学習成果を自己分析・確認にもとづき、今後の課題(英語学習に関する具体的目標)を設定する。 (受講者各自の専門分野に関する英文(文献やニュース等最新のWeb情報など)どれくらい読めるようになったかを確認することで、学習効果及び今後の課題をより明確化させる。)	30分

科目名	Reading I A	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReading I Bと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド講義。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。最初に英語関係の映像教材を見せる。そしてテキストの発音・文法・構文・和訳などを解説する。辞書（電子辞書可）用意しておくこと。課題の解答は次の週の講義映像で解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修能力が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、動画にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 導入講義		授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。。第5章の米国から始める。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
2	【米国の全体理解】【発音】		第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
3	【米国の文化】【動詞】		第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、自動詞と他動詞の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
4	【米国の文化】【補語と目的語】		第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、補語と目的語の違いを確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
5	【米国の文化】【助動詞】		第5章 米国（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、助動詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
6	【米国の文化】【現在進行形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、現在進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【米国の文化】【過去進行形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、過去進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
8	【米国の文化】【未来進行形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、未来進行形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
9	【米国の文化】【現在完了形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、現在完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
10	【米国の文化】【過去完了形】		第5章 米国（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国の歴史と文化を理解し、過去完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、米国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
11	【カナダの文化】【未来完了形】		第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、未来完了形の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
12	【カナダの文化】【関係代名詞】		第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、関係代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【カナダの文化】【関係副詞】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、関係副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	【カナダの文化】【複合関係詞】	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。複合関係詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、カナダの歴史と文化を理解し、複合関係詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、カナダの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、米国とカナダの歴史と文化を理解し、英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	Reading I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReading IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google classroom上で課題の解説，質疑・応答を行なう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Genius Basic English Grammar（大学生のためのジーニアス基礎英文法）	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応します。メールアドレス：satou.kenji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび導入講義	授業の概要、授業の目的、授業方法、成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	文型と品詞	文型と品詞について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文型と品詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	事前に配布された資料を熟読しておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	Lesson 1 時制-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時制に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
4	Lesson 1 時制-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時制に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 1（時制）の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
5	Lesson 2 完了形-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
6	Lesson 2 完了形-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 2（完了形）の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lesson 3 助動詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
8	Lesson 3 助動詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 3（助動詞）の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
9	Lesson 4 受動態-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
10	Lesson 4 受動態-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 4（受動態）の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
11	Lesson 5 不定詞（１）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
12	Lesson 5 不定詞（１）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））発展問題の解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 5（不定詞（１））の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lesson 6 不定詞（2）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（2））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（2））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
14	Lesson 6 不定詞（2）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞（2））の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 6（不定詞）発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
15	Pre-Lesson 文の種類・動詞と文型	『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson（文の種類・動詞と文型）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文の種類・動詞と文型に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のPre-Lesson（文の種類・動詞と文型）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

科目名	Reading I A	担当者	堤 裕美子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReading IBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
前の授業で与えた課題は授業内で詳しく説明を行う。説明後の質問の受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Legal Minds 15 Journeys in Law	鳥飼慎一郎、溜箭雅之	金星堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
tsutsumi.yumiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Reading IIAとは：英文精読と授業方法の意義を理解する		ガイダンス。受講希望者は必ず出席して下さい。授業のルーティン、英文の読み方やノートの取り方、評価について説明します。	
	この回の到達目標	英文精読を行う意義・目的を理解し、その実践方法を体験する。		
	事前学修	テキストの「本書の使い方」「目次」に目を通し、テキストの目的を認識すること。		30分
	事後学修	音声ファイルをダウンロードし、予習復習に使えるか確認をすること。		30分
2	英文精読の鉄則：ノリで訳さない		Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.9 "Overview of the Complaint"	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。		
	事前学修	p. 9の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分
3	英文精読の鉄則：日本語と英語に橋を架ける		Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.11 "Plaintiff's Story"	
	この回の到達目標	Plaintiff's Storyの文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。		
	事前学修	p. 11の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分
4	第1章のまとめ：原告支持か、被告支持か？		Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.13 "Let's Hear the Verdict"	
	この回の到達目標	Let's Hear the Verdictの文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。		
	事前学修	p. 13の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。（30分）		30分
5	英文精読のコツ：単語の意味調べは最低3つ		Case 2「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p.15 "Overview of the Complaint"	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。		
	事前学修	p. 15の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分
6	英文精読のコツ：構文に親しむ		Case 2「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p.16 "Plaintiff's Story"	
	この回の到達目標	"Plaintiff's Story"の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。		
	事前学修	p. 16の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 2 「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p. 19 “Let’s Hear the Verdict”	
	この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
	事前学修	p. 19の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。	30分
8	数字の言い方に親しむ	Case 3 「高すぎる勉強代？顧客がBMW社に求めた一罰百戒」 p. 21 “Overview”	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
	事前学修	p. 21の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
9	日英の固有名詞を比較する	Case 3 「高すぎる勉強代？顧客がBMW社に求めた一罰百戒」 p. 22 “Plaintiff’s Story”	
	この回の到達目標	“Plaintiff’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
	事前学修	p. 22の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
10	第3章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 3 「高すぎる勉強代？顧客がBMW社に求めた一罰百戒」 p. 25 “Let’s Hear the Verdict”	
	この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
	事前学修	p. 25の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
11	英語の人名表記に親しむ	Case 4 「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」 p. 27 “Overview”	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
	事前学修	p. 27の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
12	英文精読のコツ：英文の熟語、意味を掴むコツを理解する	Case 4 「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」 p. 28 “Prosecution’s Story”	
	この回の到達目標	“Prosecution’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
	事前学修	p. 28の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第4章のまとめ：原告支持か？被告支持か？	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」p.31 “Let’s Hear the Verdict”	
	この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
	事前学修	p.31の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
14	授業のまとめと総括	今学期の授業のまとめ（試験を含む）	
	この回の到達目標	半期の学習成果を試験を行い確認する	
	事前学修	今学期の授業を振り返る	30分
	事後学修	授業の見直しをする	30分
15	語彙力の強化	知っておきたい司法の英単語（p.6. 7, 8）	
	この回の到達目標	英文を理解するために欠かせない司法の英単語を学習する	
	事前学修	小テスト箇所の復習	30分
	事後学修	重要語彙を覚える	30分

科目名	Reading I A	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則Reading I B と通年で履修してください。

【授業方法】
オンデマンド方式。毎回の授業時間にGoogle Classroomを通して教材と課題を提示します。学生にはその教材の説明と指示に従って演習をしてもらい、授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週以降の授業内にレポート形式で提出してもらい、それについて授業内で解説を加えた上で、それを踏まえてGoogle Classroomのコメント欄等を使ってディスカッションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		3					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		4			1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点后に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Our Society, Our Diversity, Our Movies	Joseph Tabolt	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
NUメール（itakura.torull@nihon-u.ac.jp）またはGoogle Classroom内のコメントで質問や相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容及び英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、他者に説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明をメモしたルーズリーフを読み直し、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit1 United by Desperation の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit1 United by Desperation の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit1の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit2 Assigning a Label の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit2 Assigning a Label の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit2の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit3 Prejudice and Egocentrism の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit3 Prejudice and Egocentrism の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit3の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit4 Human vs. Property の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit4 Human vs. Property の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit4の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。		
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		前期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。		
	事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。		60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。		30分
15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】		前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。		
	事前学修	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。		60分
	事後学修	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。		30分

科目名	Reading I A	担当者	佐藤 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
毎週必ず定められた語数・冊数を読み、そしてリアクション・ペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円（予定）です。

【授業方法】

対面授業です。前期終了科目です(後期のBはありません)。パソコン教室を利用します。自分が興味のある本を図書館やインターネットで探し、とにかくたくさん読みます。読んだ本はIRCの多読サイトのリアクション・ペーパーに記録していきます。また対面授業ではクラスメートにお薦めの本のプレゼンをしたり、多読に役立つクイズを実施します。多読は絵本のような本からスタートできるので、英語が苦手な人でも根気さえあれば楽しく続けられる勉強方法です。履修者数により、授業方法が変わる可能性があります。その場合はGoogle Classroomで指示します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	IRC の多読サイト、対面授業でクラスメートとコミュニケーションをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					1		1			1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
IRCのリアクション・ペーパーや対面授業のプレゼンに教員が口頭でコメントをします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図書館 6 階の多読用リーダー					
インターネットで紹介されている絵本など					
備考	教材は図書館にある多読用リーダーを使用します。IRCの教材費が別途かかります（510円程度の予定）。				

【オフィスアワー】
希望する学生は、前もってメール（sato.akiko01@nihon-u.ac.jp）で連絡をください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	多読とは？ テキスト紹介 ＊初回の授業方法についてはGoogle Classroomで指示します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語の「多読」の学習効果を理解し、教材を探すことができる。	
	事前学修	シラバスをよく読むこと	30分
	事後学修	多読の教材を探す。	30分
2	多読の方法	多読の本のを見つけ方 リアクション・ペーパーの書き方 授業内POP大賞について	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、効果的な多読学習の進め方とリアクション・ペーパーの書き方を学び、多読を通して速読力を身に付ける方法を学ぶことができる。	
	事前学修	Google Classroomで配布された資料を読む。	30分
	事後学修	図書館6階の多読リーダーで本を探す。	30分
3	多読とプレゼン	多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。	30分
4	多読とプレゼン	多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。	30分
5	多読とプレゼン	多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分
6	多読とプレゼン	多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	多読とプレゼン		多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分
8	多読とプレゼン		多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分
9	多読とプレゼン		多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分
10	多読とプレゼン		多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分
11	多読とプレゼン		多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分
12	多読とプレゼン		多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる。	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	多読とプレゼン		多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト POPの提出
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分
14	多読とプレゼン		多読とリアクションペーパーの記録、本の紹介のプレゼン、ミニテスト クラス内POP大賞の決定
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、毎回興味ある本を探し、大量に英語に触れることで自然に英語を読むことへの抵抗感がなくなり、英文を読むことの楽しさを感じることができる。それにより英語の苦手意識を克服し、TOEICなどの資格試験のスコア・アップにつなげることができる	
	事前学修	図書館・インターネットで興味のある本を探す。	30分
	事後学修	授業内で終わらなかったレポートを完成させる。クラスメートのリアクション・ペーパーにコメントを書く。	30分
15	前期のふり返り		(オンデマンド授業) ランキングの確認 多読の授業をふり返る
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の多読を通して、英語の速読力、正確に読む力、未知の単語、フレーズ、センテンスを文脈から推測する力を身に付けることができる。	
	事前学修	前期自分が読んだ本の記録に目を通し、目標に達しているか確認する。まだの場合は最終日までに目標キロ数まで読み終わる。	30分
	事後学修	多読を通して、英語力に変化があったか自己分析をし、今後の英語学修にどのようにその力を生かせるか考える。	30分

科目名	Reading I B	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業外で毎週必後期のReading IBと併せて履修することが望ましい。 ず定められた語数・冊数を読み、そしてリアクションペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円です。

【授業方法】
学生主体で進める演習授業です。グループで一週間で読んだものについてbook talkをします。教員は毎回多読の進行状況、読み方、リアクションペーパーに関してフィードバックをします。IRC管理サイトを利用して、感想を入力します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	自分のペースで読み進めていき、毎回グループで本についての発表をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					1		1					
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					1		1					
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					1		1			1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
教員がリアクションをサイトでチェックし、口頭でフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
多聴多読マガジン2021年4月号	コスモピア	コスモピア	2021	その他	任意
備考	法学部図書館 6 階の洋書多読本を使用します				

【オフィスアワー】
水曜日 15：00～16：00電話かメールでアポイントメントをお取りください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		授業の概要を説明 Reading Marathonとは？ Graded Readers他、多読本の種類について	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連しReading Marathonの内容と前期授業の進め方について理解し、多読の進め方について理解することができる。		
	事前学修	シラバスを読んでくる。		30分
	事後学修	履修を決めた学生は多読の進め方の動画を視聴する。		90分
2	多読本について		各出版社多読本の特徴と種類の説明を受ける。 多読本の探し方	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し多読本の種類と本の探し方について理解することができる。		
	事前学修	多読本の種類についての動画を視聴する。		30分
	事後学修	法学部図書館6階にある本棚で多読本を探す。またデジタル書籍とyoutubeの書籍を視聴してみる。		90分
3	IRCの使い方 多読と英語力		IRCの説明と登録方法 多読の効用について。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し多読の効用について知ることができる。		
	事前学修	多読本2，3冊授業で紹介できるように準備をする。		30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。		90分
4	Book talkを始める		本を最低4冊読み進める→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 自分の読むスピードを知る	
	この回の到達目標	到達目標③に関連しGroup Book Talk&発表の流れを理解することができる。		
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。		30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。		90分
5	多読の効用		本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 グループメンバーのリアクションにコメントをつける。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、メンバーの投稿にコメントする方法を知ることができる。		
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。		30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。		90分
6	多読を継続		本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。 また、文字と音声の高低、抑揚の関係性を知り、内容の意味を深く理解することができる。		
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。		30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
8	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
9	マラソン中間評価	後期中間点の目標を達成しているかを確認する 期末までの読み方の指導を受け、最終目標のための計画を立てる	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでの読み方について評価を受け、今後の読み方の計画を立てることができる。	
	事前学修	中間目標を達成しているか確認する。	30分
	事後学修	最終目標に向かって計画的に読み進める。 図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
10	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。	
	事前学修	最終目標に向かって計画的に読み進める。 最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
11	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表 クラス全体で教員推薦の一冊を音声とともに読み進めていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、音声の流れに沿って英文をそのまま理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分
12	多読を継続 最終課題について	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表 最終課題の説明。 走行距離を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、英文の速読力と多読の関係性を理解することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	図書館やyoutubeで本を読み進め、読後にリアクションをIRCに投稿する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	多読を継続	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自分の英文の読み方を確認することができる。	
	事前学修	最低4冊を読み、IRCにリアクションを入れる。紹介できる本を決めておく。	30分
	事後学修	各自のこれまでのキロ数と冊数を確認して読み進める。 最終課題の提出をする。	90分
14	後期課題の提出と発表	後期課題を提出し、課題をグループで発表する。 各自読むスピードを確認し、前期初めと比較してみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、多読と速読力の関係性を理解することができる。	
	事前学修	これまでの冊数とキロ数を確認して読み進める。	30分
	事後学修	目標達成ができているかを最終確認する。	90分
15	ランキング発表	後期top runners 発表&表彰。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、多読を継続することで養われた英語力について理解することができる。	
	事前学修	各自のキロ数と冊数を最終確認し、読み進める。	30分
	事後学修	各自が読んだ本のリアクション・ペーパーをIRCサイトで読み返す。 今後も多読を継続するように努める。	90分

科目名	Reading I B	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
授業概要及び到達目的・目標を意識し、興味を持って主体的・積極的に授業に取り組む者。

【授業方法】
講義および演習授業を行う。 英文精読(訳読)及び関連資料及び映像を使って情報の確認を行う。(別教材で「多読」実施。)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	受講者各自による、授業にて取り扱うトピックに関連した資料・文献の調査・報告を行い、受講者相互による情報や意見交換を行う。(成績評価の一部とする。)※具体的実施方法については初回にて解説します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む)により評価す る。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき(授業動画の視聴なども含む)、 到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身につしてい るかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業後の課題(内容理解の質問への解答)の解説を翌週オンデマンドにて行います。その他質問にも「限定公開」(Google Classroom)にて対応 します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Welcome to Britain【Revised Edition】英国の(いま)を知 りたい[改訂新版]	Tim Knight	音羽書房鶴見書店	2018		必携
King Arthur and the Knights of the Round Table	Stephen Colbourn	MACMILLAN	2008		必携
備考	2冊とも授業にて使用するので必ず購入すること。				

【オフィスアワー】
Gmail(oyama.seiko11@nihon-u.ac.jp) もしくは「限定公開」のコメント(Google Classroom)にて問い合わせてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	(3か月で展開する)(イギリス関連の)テーマはどんな展開か？	ガイダンス＋初回授業 (前期Reading I Aでの展開範囲)「アーサー王伝説」の登場人物及びストーリー展開を説明できる。 ＋本科目での展開範囲関連情報を把握し、説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、(前期「イギリス基本編」を得た)イギリス基本情報の整理と、本科目での展開を予想することができる。	
	事前学修	(前期Reading I Aでの学習を踏まえて)テキスト全体に目を通し、気になる点をメモして授業に臨む。 加えて、テキスト以外に「イギリス」関連で興味のあることも併せてメモする。	30分
	事後学修	テキスト全体を概観し、次回(第2回)展開範囲(Chapter 6)を中心に、まずは辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→学期末の学習成果を自己評価できるようにするため。)	30分
2	イギリスの学校制度とは？(1)	1. (毎回開始時に全体にて)「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。2. Chapter6 Schools and education (前半)演習と解説(※1chapter/2classesペースの予定。) 個々の英文の構造・内容を理解し、読解内容全体の情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、イギリスの教育システム・学校制度について概観できる。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
3	「(イギリスの)入試システム」とは？	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter6 Schools and education (後半) 演習と解説 イギリスの教育システムを理解(大学入試(相当)のものを含めた)し、説明できるようにすると共に、日本との比較・対照を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、(例えばイギリスで教育を受ける場合)どのような教育課程・大学入学までのコースを経るかを理解できる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
4	「イギリスの大学」について知る	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter7 University students and higher education (前半) 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、(受講者と同じ立場の)イギリスの大学及び大学生について知ることができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想/記録する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
5	「イギリスの大学生」について知る	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter7 University students and higher education (後半) 演習と解説：イギリスの大学の実情及びその問題点を把握し、説明できる。併せて、日本人大学生との比較・対照を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、(受講者と同じ立場の)イギリスの大学生の学生生活について理解すると共に、日本との比較・対照することができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
6	イギリス人にとっての「(紅)茶」とは？	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 4 7 Tea (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、イギリスを代表する飲料である「(紅)茶」に対するイギリス人のとらえ方を理解することができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	イギリスにおける「(紅)茶の歴史」とは？	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter4 Tea (後半) 演習と解説: ‘Tea’を通して、イギリス人(的)価値観を理解し、説明できる。併せて日本の「茶(の湯)」文化との比較・考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、「(紅)茶」に関する語彙・定義を理解すると共に日本との違いを理解することができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
8	イギリス人にとっての「食」とは？(1)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter11 Food (前半) 演習と解説: 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、イギリス人の、「食」に対する価値観を理解することができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材): 指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書に当たり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
9	イギリス人にとての「食」とは？(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter11 Food (後半) 演習と解説: イギリスの食文化及び食に対する価値観(宗教を含めて)を理解し、説明できるようにすると共に、日本との比較・対照を行う。 とEUとの関係性の現状及び問題点を把握し、説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、イギリスの「食」にまつわる様々な語彙・定義を正確に理解することができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
10	イギリスの政治システムとは？(1)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter10 Politics and government (前半) 演習と解説: 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、の政治システムの基本を理解することができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材): 指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書に当たり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分
11	イギリスの政治システムとは？(2)	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter10 Politics and government (後半) 演習と解説: 「議会政治」の国イギリスの政治システム及び現状を理解し、説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英文読解により、日本とイギリスの政治システムの比較・対照を行うことができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
12	(受講者による選択後の)トピックを 読解する ※テーマは選択後に指示する。	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○(前半) ※受講者の要望/選択によるもの。(未習のもの) ※何れのChapterにおいても、第11回迄と同様に個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、(これまでの学習を踏まえ)受講者間による話し合いにて決定したトピックを)これまでの学習事項と関連付けて読解・情報整理することができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”(「多読」用教材): 指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書に当たり、各文の構文・大体の意味を予想する。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(受講者による選択後の)トピックを 読解する ※テーマは選択後に指示する。	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○(第12回の続き)(後半) 演習と解説: Chapterのテーマから問題点を摘出・解 明し、説明できる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、(これまでの学習を踏まえ)受講者間による話し合いにて決定したトピックを)これまでの学習事 項と関連付けて読解・情報整理することができる。	
	事前学修	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合 致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。	30分
	事後学修	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文 (文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。	30分
14	(3か月の)学習成果(1) 語彙/文法/読解力の自己評価	1. 「多読」(“King Arthur”練習(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明でき る。 2. 学期内展開範囲の総復習:学習内容全般を見直し、今一度必要に応じて修正/補足を行い、正 確に把握し説明できる。 + ((受講者による) Book report 等を予定)	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、実践してきた読解により得た知識の修正・補足を行うことで、受講者各自による学習の自己評 価を行うことができる。	
	事前学修	学期内展開範囲全ての「理解が不十分(であった)と思われる語彙・表現の確認を行う。テキスト展開箇所全般の構 文・内容についても各自見直しを行う。	30分
	事後学修	学習内容全体を見直し、必要に応じて修正・確認を行うことで、正確に学習内容を記録する。	30分
15	(3か月の)学習成果(2) 3か月の読解で得た)知識/情報の整 理	3か月の学習を通じた、各自の「イギリス観」及び自国文化との比較・対照を行い、説明できる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、(試験により)一定量及びレベルの英文をどれだけ正確に読めるようになったか、それに必要な 語彙が修得できたかを確認し、学習内容と各自の今後の課題を把握することができる。	
	事前学修	3か月の学習内容を次の3点に関して整理・分析する。(1)習得された語彙や基本的文法事項理解の確認、(2)“King Arthur”のストーリー展開/(3)関連情報を含め「イギリス」について得た情報、(4)「英語圏」＝「異文化」を通じて 得た受講者各自の意見・感想を記録する。	30分
	事後学修	初回事前学習からの学習成果を自己分析・確認にもとづき、今後の課題(英語学習に関する具体的目標)を設定す る。 (受講者各自の専門分野に関する英文(文献やニュース等最新のWeb情報など)どれくらい読めるようになったかを確認 することで、学習効果及び今後の課題をより明確化させる。)	30分

科目名	Reading I B	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期のReading I Aと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド講義。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。最初に英語関係の映像教材を見せる。そしてテキストの発音・文法・構文・和訳などを解説する。辞書（電子辞書可）用意しておくこと。課題の解答は次の週の講義映像で解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修能力が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、動画にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘	鳳書房	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 導入講義		授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。。第5章の米国から始める。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、授業の進め方とノートの取り方を学び、品詞の機能を確認し、TOEICの概要を理解することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の全体的テーマを理解して、最初のページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
2	【ロシアの全体理解】【発音】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、英語の母音や子音や発音の仕方を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
3	【ロシアの文化】【受動態】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。受動態の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、受動態を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
4	【ロシアの文化】【助動詞】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、助動詞を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
5	【ロシアの文化】【仮定法】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。仮定法の基本理解の確認。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、仮定法の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分
6	【ロシアの文化】【話法】		第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。話法の基本理解の確認。。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、話法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。		30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【ロシアの文化】【分詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。分詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、分詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
8	【ロシアの文化】【動名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。動名詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、動名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
9	【ロシアの文化】【名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。名詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
10	【ロシアの文化】【代名詞】	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。代名詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアの歴史と文化を理解し、代名詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ロシアの歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
11	【中国の文化】【冠詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。冠詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、冠詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
12	【中国の文化】【形容詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。形容詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、形容詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【中国の文化】【副詞】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、副詞の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
14	【中国の文化】【比較】	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。比較の基本理解の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、中国の歴史と文化を理解し、比較の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、中国の歴史と文化を理解して、該当ページの単語を調べて自分なりの訳をしておく。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、予習で間違った部分の確認して、単語の意味を理解して、スペリングを間違えることなく書けるようになる。	30分
15	【授業内試験】【振り返り】	授業内試験と復習とまとめと振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ロシアと中国の歴史と文化を理解し、英語の用法を確認し、TOEICのスコアに結び付けることができる。	
	事前学修	試験範囲の全体的復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分
	事後学修	講義ノートを確認して、間違った部分の復習をする。単語、文法、訳の確認をする。	30分

科目名	Reading I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期のReading IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	オンライン授業の場合は、Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。対面授業の場合には、一部ペアワークおよびグループワークによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				1		1						
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				1		1						
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				1		1			1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
オンライン授業の場合は、Google classroom上で課題の解説，質疑・応答を行なう。対面授業の場合には，授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Genius Basic English Grammar（大学生のためのジーニアス基礎英文法）	大修館書店編集部	大修館書店	2020	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
アクシスジーニアス英和辞典	中邑光男	大修館書店	2019	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
オンライン授業の場合は，メールで対応します。メールアドレス：satou.kenji@nihon-u.ac.jp 対面授業の場合には，火曜日の12時10分から13時の間に佐藤（健）研究室（本館8階1814研究室）にて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび導入講義	授業の概要、授業の目的、授業方法、成績評価の方法・基準・割合などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目的およびその達成方法などについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	Lesson 7 動名詞-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の標準問題を解いておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	30分
3	Lesson 7 動名詞-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動名詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 7（動名詞）の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
4	Lesson 8 分詞（１）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（１））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（１））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
5	Lesson 8 分詞（１）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（１））の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 8（分詞（１））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
6	Lesson 9 分詞（２）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（２））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（２））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lesson 9 分詞（２）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（２））の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 9（分詞（２））の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
8	Lesson 10 比較-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
9	Lesson 10 比較-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 10（比較）の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
10	Lesson 11 関係詞（１）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（１））の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（１））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
11	Lesson 11 関係詞（１）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（１））の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 11（関係詞（１））の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
12	Lesson 12 関係詞（２）-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（２））標準問題の解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（２））の標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lesson 12 関係詞（2）-2	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（2））の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係詞に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 12（関係詞（2））の発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
14	Lesson 13 仮定法-1	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13（仮定法）の標準問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13（仮定法）標準問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分
15	Lesson 13 仮定法-2	Genius Basic English Grammar』のLesson 13（仮定法）の発展問題の解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定法に関する知識を身につけるとともに、それに関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	『Genius Basic English Grammar』のLesson 13（仮定法）発展問題を解いておく。	40分
	事後学修	授業内容を復習し、事前学習の際に間違えた問題をもう一度解く。	20分

科目名	Reading I B	担当者	堤 裕美子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期のReading IAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Legal Minds 15 Journeys in Law	鳥飼慎一郎、溜箭雅之	金星堂	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
tsutsumi.yumiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期の授業内容を展望する	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.33 “Overview of the Complaint”(1)	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
	事前学修	テキストの「本書の使い方」「目次」に目を通し、テキストの目的を認識すること。	30分
	事後学修	音声ファイルの保存先を確認し、予習復習に使えるか確認をすること。	30分
2	原告の訴えを正しく理解する	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.33 “Overview of the Complaint”(2)	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
	事前学修	p.33の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
3	英文に即した和訳の理解に慣れる	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.34 “Plaintiff’s Story”	
	この回の到達目標	“Plaintiff’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
	事前学修	p.34の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
4	第5章のまとめ：原稿支持か、被告支持か？	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」p.37 “Let’s Hear the Judgment”	
	この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment”の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
	事前学修	p.37の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
5	法的文書を読む	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」p.41 “Overview”	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。	
	事前学修	p.41の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
6	比較的長い文章の流れを掴む	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」p.42 “Petitioner’s Story”	
	この回の到達目標	“Petitioner’s Story”の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。	
	事前学修	p.42の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第6章のまとめ：原告支持か、被告支持か？		Case 6「CIA工作員の身元暴露事件―国家機密の漏えいと報道の自由」 p. 45 “Let’s Hear the Judgment”	
	この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。		
	事前学修	p. 45の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分
8	英文精読のコツ：名詞を説明する過去分詞		Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 p. 47 “Overview”	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。		
	事前学修	p. 47の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分
9	英文精読のコツ：～ingの役割を見極める		Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 p. 48 “Defendant’s Story”	
	この回の到達目標	“Defendant’s Story” の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。		
	事前学修	p. 48の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分
10	第7章のまとめ：原告支持か、被告支持か？		Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 p. 51 “Let’s Hear the Verdict”	
	この回の到達目標	“Let’s Hear the Verdict” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。		
	事前学修	p. 51の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分
11	英文精読のコツ：接続詞		Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 53 “Overview”	
	この回の到達目標	Overviewの文章から、裁判の概要を英文ともに正しく理解する。		
	事前学修	p. 53の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分
12	英文精読のコツ：略語を知る		Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 54 “Petitioner’s Story”	
	この回の到達目標	“Petitioner’s Story” の文章から、裁判の詳しい経緯が説明された英文を精読し、文章内容共に正しく理解する。		
	事前学修	p. 54の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。		30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第8章のまとめ：原告支持か、被告支持か？	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 57 “Let’s Hear the Judgment”	
	この回の到達目標	“Let’s Hear the Judgment” の文章から、裁判の判決を英文精読により、文章の構造内容を共に正しく理解する。	
	事前学修	p. 57の精読用ワークシートの和訳に取り組む。意味の分からない単熟語を調べてくる。	30分
	事後学修	正しく読めなかった英文を復習する。英文の構造を正しく理解できるようになったか確かめ、重要語彙を覚える。	30分
14	授業のまとめと総括	今学期の授業のまとめ（試験を含む）	
	この回の到達目標	半期の学習成果を試験を行い確認する	
	事前学修	今学期の授業を振り返る	30分
	事後学修	授業の見直しをする	30分
15	司法英語を学習する	知っておきたい司法の英単語 (p. 6, 7, 8)	
	この回の到達目標	英文を理解するために欠かせない司法の英単語を学習する	
	事前学修	小テスト箇所の復習	30分
	事後学修	重要語彙を覚える	30分

科目名	Reading I B	担当者	板倉 亨	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
初級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則Reading I A と通年で履修してください。

【授業方法】
オンデマンド方式。毎回の授業時間にGoogle Classroomを通して教材と課題を提示します。学生にはその教材の説明と指示に従って演習をしてもらい、授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第2回以降、英語の基本的な構文・文法の課題を与え、翌週以降の授業内にレポート形式で提出してもらい、それについて授業内で解説を加えた上で、それを踏まえてGoogle Classroomのコメント欄等を使ってディスカッションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	初級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						1		1				
②	初級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						1		1				
③	初級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						1		1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・授業内試験は試験後の授業内で講評・解説をし、レポート課題は添削・採点後に授業内で返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Our Society, Our Diversity, Our Movies	Joseph Tabolt	金星堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
NUメール（itakura.torull@nihon-u.ac.jp）またはGoogle Classroom内のコメントで質問や相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。また、前期Reading I Aで学修した語彙や構文・文法について、振り返りまとめ直します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業内容及び英文の正確な読解に必要な構文・文法の概要を理解し、他者に説明することができる。また、授業の概要を確認し理解することで、この授業の予習・復習や課題提出をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。前期のReading IAを受講していた場合には、前期に学修した構文・文法をしっかりと見直しておくこと。	30分
	事後学修	ガイダンスの説明をメモしたルーズリーフを読み直し、この授業についてしっかりと理解すること。	30分
2	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit5 Choosing a Home の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
3	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit5 Choosing a Home の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
4	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit5の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
5	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit6 Be an Intercultural Interpreter の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit6 Be an Intercultural Interpreter の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
7	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit6の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
8	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit7 An Illegal Life の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
9	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit7 An Illegal Life の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
10	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit7の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit8 Foreign Language and Self-confidence の本文前半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
12	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	基本的な語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、Unit8 Foreign Language and Self-confidence の本文後半を精読します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
13	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	章のまとめ、小テストとその解説。この章の本文の内容と、そこで使われている語彙や構文・文法を、小テストや発表・ディスカッションを通して確認しながら、それらを活用して、章末にあるUnit8の確認問題を解き、解説や補足説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
14	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。	60分
	事後学修	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。	30分
15	【構文・文法を踏まえた英文の読み方】	後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法をしっかりと確認しながら精読の仕方を理解し、自分の力でより速く正確に英文を読解できる。また到達目標③に関連して、その自らの読解を論理的に説明し、他者と意見交換することができる。	
	事前学修	後期の授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。	60分
	事後学修	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。	30分

科目名	Reading II A	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド＋課題研究の形態で行う。課題を期日までに提出してもらい、翌週動画や音声で説明を行う。加えて文法の説明をする。。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出された課題をclassroomに期日までに提出し、次回の授業で説明を受ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に解答を配布し解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの国と人々		金星堂		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
必要な時にメールで連絡を受け付ける。ishikawa.masaru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
	この回の到達目標	単位を修得するための過程を理解する。	
	事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	40分
	事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	授業方法に慣れる	Unit 1Europeを読む 五文型の説明	
	この回の到達目標	五文系を理解する。	
	事前学修	指示された個所を訳し提出する。	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
3	文法を理解したうえでの和訳	Unit1 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	文法の知識を和約に反映できるようになる。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出する。	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
4	文脈を考慮に入れた訳	Unit1 前回の続きから和訳 不定詞の説明	
	この回の到達目標	不定詞が理解できる。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	文脈にあった訳に訂正する。	30分
5	テキストの内容の理解を深める。	Unit1 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	内容を理解しながら訳せるようになる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
6	ingの理解	Unit2 Itaryを読む ingの説明	
	この回の到達目標	文法を理解したうえで訳せるようになる。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	語彙力アップ	Unit2 前回の続きから和訳 小テスト	
	この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
	事前学修	試験範囲の復習	30分
	事後学修	試験で間違った個所を復習する。	30分
8	If節の用法	Unit2 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い	
	この回の到達目標	条件文と仮定法の区別ができる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
9	文法の復習	Unit2 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	今までに学んだ文法を確実に把握する。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	文法の知識に基づいて訳しなおす。	30分
10	テキストの内容の理解を深める。	Unit3 Franceを読む that節の説明	
	この回の到達目標	that節を理解する。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
11	正確の和訳	Unit3 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	文法に照らして正確の和訳ができる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	正確に訳せているか復習する。	30分
12	詳細な辞書の引き方	Unit3 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	辞書の引き方をたず。	
	事前学修	指示された個所の予習	39分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	文法のおさらい		Unit3 前回の続きから和訳
	この回の到達目標	これまでで習った文法を確実に把握する。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	文法を意識して訳しなおす。	30分
14	訳の確認		Unit3 前回の続きから和訳
	この回の到達目標	テキストの訳を正確なものにする。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正	30分
15	前期の授業のまとめ		Unit 3 前回の続きから和訳 小テスト
	この回の到達目標	小テストでよい点数を取る。	
	事前学修	試験範囲の復習	30分
	事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	Reading II A	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReadingIIBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき(授業動画の視聴なども含む)、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Insights 2021『世界を読むメディア英語入門2021』	村尾純子 他	(株) 金星堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
motoji.kumiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	前期の授業の進め方、テキスト（英字新聞）について、英語学習法を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英字新聞について知り、学習計画を立てることができる。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、授業の全体像を把握しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。	30分
2	Chapter 1 Accepting Diversity	Chapter 1 Accepting Diversityの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 1のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
3	Chapter 2 Washi Helps Us Get Through Summer	Chapter 2 Washi Helps Us Get Through Summerの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 2のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
4	Chapter 3 The Secrets of the Ocean Floor	Chapter 3 The Secrets of the Ocean Floorの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、科学・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 3のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
5	Chapter 4 What Messages Resonate with You?	Chapter 4 What Messages Resonate with You?の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 4のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
6	Chapter 5 Let's Change the World from #KuToo	Chapter 5 Let's Change the World from #KuTooの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会・文化に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 5のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Review Chapter 1-5	Chapter 1-5の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-5で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
	事前学修	Chapter 1-5の本文を再読する。	30分
	事後学修	Chapter 1-5の本文の内容を再確認する。	30分
8	Spiders Will Change the Fashion Industry	Chapter 6 Spiders Will Change the Fashion Industryの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、技術に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 6のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
9	Chapter 7 Sharp Decline in Butterfly Population	Chapter 7 Sharp Decline in Butterfly Populationの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、環境に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 7のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
10	Chapter 8 Volcanic Ash Attracts Tourists	Chapter 8 Volcanic Ash Attracts Touristsの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 8のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
11	Chapter 9 Seeking Work-Life Balance	Chapter 9 Seeking Work-Life Balanceの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 9のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
12	Chapter 10 For the Empowerment of Women	Chapter 10 For the Empowerment of Womenの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 10のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Review Chapter 6-10	Chapter 6-10の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 6-10で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
	事前学修	Chapter 6-10の本文を再読する。	30分
	事後学修	Chapter 6-10の本文の内容を再確認する。	30分
14	前期授業のまとめ①	前期の学習内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-10で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
	事前学修	Chapter 1-10で学んだ内容を復習する。	30分
	事後学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	前期授業のまとめ②	前期の学習内容を再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 1-10で学習した重要単語を活用して英字新聞の記事を読むことができる。	
	事前学修	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
	事後学修	前期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
Reading IIBと合わせて履修することが望ましい。積極的な授業参加が望まれます。居眠りやスマホに夢中な学生は欠席扱いになる事もあります。

【授業方法】
対面授業。オンラインとの併用は行わない。予習は必ずして来て下さい。授業中はペアワークやグループワーク、音読などずっと座っているよりは常に口や体を動かす機会の方が多くなる予定です。フィードバックは授業内に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワーク、音読などの演習をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークへの参加度等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading in Action	Tetsuhito Shizuka	kinseido	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	これまでとこれからの英語学習について	イントロダクション：授業の進め方や予習、復習の仕方	
	この回の到達目標	今後の授業の進め方や予習、復習の仕方	
	事前学修	高校までの英語の総復習	30分
	事後学修	Unit 1の予習	30分
2	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 1 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
	事前学修	Unit 1の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 1 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 2 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
	事前学修	Unit 2の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	Unit 2 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
6	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 3 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	語彙力及び文法強化	
	事前学修	Unit 3の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	リーディング、ライティング&スピーキング力養成		Unit 3 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成		
	事前学修	授業の復習		30分
	事後学修	授業の復習		30分
8	読解、音読、シャドーイング、文法解説		Unit 4 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	語彙力及び文法強化		
	事前学修	Unit 4の予習		30分
	事後学修	授業の復習		30分
9	リーディング、ライティング&スピーキング力養成		Unit 4 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成		
	事前学修	授業の復習		30分
	事後学修	授業の復習		30分
10	読解、音読、シャドーイング、文法解説		Unit 5 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	語彙力及び文法強化		
	事前学修	Unit 5の予習		30分
	事後学修	授業の復習		30分
11	リーディング、ライティング&スピーキング力養成		Unit 5 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成		
	事前学修	授業の復習		30分
	事後学修	授業の復習		30分
12	読解、音読、シャドーイング、文法解説		Unit 6 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	語彙力及び文法強化		
	事前学修	Unit 6の予習		30分
	事後学修	授業の復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	リーディング、ライティング&スピーキング力養成		Unit 6 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	この回の到達目標	リーディング、ライティング&スピーキング力養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
14	読解、音読、シャドーイング、文法解説及び読んだ内容の要約		これまでの授業で扱えなかった箇所を集中して扱う。質疑応答
	この回の到達目標	語彙力及び文法強化に加え読解及びライティング&スピーキング力養成	
	事前学修	総復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
15	読解、音読、シャドーイング、文法解説及び読んだ内容の要約		試験&解説
	この回の到達目標	語彙力及び文法強化に加え読解及びライティング&スピーキング力養成	
	事前学修	総復習	30分
	事後学修	試験で出題された箇所の確認	30分

科目名	Reading II A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて英文を正確によむための方法を身につける

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。ReadingIIBを履修すること

【授業方法】
オンデマンド授業、動画配信、および課題配信。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッションとプレゼンテーションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換することができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身に付いているかを、課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身に付いているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Pass 1	Bennet, Andrew E.	南雲堂	2013	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分	
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分	
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さと内容を持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さと内容を持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
8	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
9	会話の応答文選択		2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
10	短文の語句空所補充		英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
11	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
12	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	中村 達	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則として後学期のReading II Bと通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Skills for Better Reading<Intermediate>	Yumiko Ishitani	南雲堂	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	授業内容、テキスト、事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文を論理的、批判的に読む方法を知ることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	理由と結論の構造	意見を明確にする文章の理由と結論の働きについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意見を支える理由を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 12-13）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
3	意見を述べる文章のクロスリーディング	意見を明確にする文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 14）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
4	社会事象に関する文章の構造	トピックとなる社会事象を紹介し、原因や背景を掲示する文章の構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会事象に関する文章を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 16-17）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
5	社会事象に関する文章のクロスリーディング	社会事象に関する文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 18）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
6	ニュースとその原因に関する文章	ニュースを結果ととらえ、なぜその結果が引き起こされたのか原因が述べられる文章の構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ニュースとその原因に関する文章を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 20-21）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	ニュースとその原因に関する文章のクロスリーディング	ニュースとその原因に関する文章をクロスリーディングする		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。		
	事前学修	テキストの予習 (pp. 22) をし、問題を解く。		30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。		30分
8	社会事象と複数の原因の可能性に関する文章	ある社会事象に関して複数の原因の可能性を述べる文章の構造について		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ある社会事象に関して複数の原因の可能性を述べる文章を読み解く方法を知ることができる。		
	事前学修	テキストの予習 (pp. 26-27) をし、問題を解く。		30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。		30分
9	社会事象と複数の原因の可能性に関する文章のクロスリーディング	社会事象と複数の原因の可能性に関する文章をクロスリーディングする		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。		
	事前学修	テキストの予習 (pp. 28) をし、問題を解く。		30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。		30分
10	比較を伴う文章	比較を伴う文章の構造について		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較を伴う文章を読み解く方法を知ることができる。		
	事前学修	テキストの予習 (pp. 30-31) をし、問題を解く。		30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。		30分
11	比較を伴う文章のクロスリーディング	比較を伴う文章をクロスリーディングする		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。		
	事前学修	テキストの予習 (pp. 32) をし、問題を解く。		30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。		30分
12	賛成と反対の意見を紹介する文章	賛成と反対の意見を紹介する文章の構造について		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、賛成と反対の意見を紹介する文章を読み解く方法を知ることができる。		
	事前学修	テキストの予習 (pp. 34-35) をし、問題を解く。		30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	賛成と反対の意見を紹介する文章のクロスリーディング	賛成と反対の意見を紹介する文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習 (pp. 36) をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
14	まとめ・授業内試験	前期のまとめと授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本的な文法の知識や表現力を活用し、与えられたテーマによるパラグラフを読むことができる。	
	事前学修	Unit1から6までの既習事項を振り返る。	30分
	事後学修	試験問題の復習をする。	30分
15	試験のふりかえり・学習到達度の確認	筆記試験について講評し、学習内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習到達度を確認することができる。	
	事前学修	学習内容に誤解がないか確認する。	30分
	事後学修	英文を論理的・批判的に読むのに必要な読解方法について要点を整理する。	30分

科目名	Reading II A	担当者	堀 紳介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オンデマンド授業

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等により、アクティブ・ラーニングを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	特になし				

【オフィスアワー】
火曜日10：40～12：10 hori.shinsukell@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】前期授業の概要の説明	中学、高校で学んだ英語表現、英単語。受動英語と能動英語の違いについて学ぶ。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解へとつながる英語リーディング法を学び、それを実践することができる。	
	事前学修	シラバスの確認	30分
	事後学修	英文を精読	30分
2	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
3	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
4	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
5	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
6	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
8	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
9	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
10	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
11	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分
12	英字新聞（英字新聞以外含む）講読		それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。		
	事前学修	英文を精読		30分
	事後学修	英文を精読		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
14	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	既習事項の確認、復習	30分
15	【前期授業のまとめ】	英国社会、文化、これまで読んだ英文に関する総括を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解を意識した英語リーディング法を実践できる。	
	事前学修	既習事項の確認、復習	30分
	事後学修	後期授業の範囲を読んでおくこと。	30分

科目名	Reading II A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期のReadingIIBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom利用し、アクティヴラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Dear Learners 』Drop Everything And Read	永本義弘・町田純子・八木茂那子・Ian Ellsworth	南雲堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
machida.junko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		授業のテーマ、方針、内容、評価基準等を確認し、授業準備に役立てることができるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、言語運用能力として英文を速く、正確に理解できる読解力を身に付ける為に、文章構造や段落構成、段落展開を踏まえた直読直解、大意把握、サマリーの仕方等に慣れ、同時にgrammarの基礎を理解し運用できることが狙いであることを把握できる。	
	事前学修	シラバスを確認し、教科書を準備する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を復習し、整理する。	30分
2	Sowing Seeds of Peace, Education & Hope		Unit 1 Malala Malala (Sense Group Reading & Shadowing) を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	p4 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 1 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
3	Sowing Seeds of Food Savings		Unit2 OzHarvest Market (Scanning) を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit2 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit2 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
4	Sowing Seeds of Safety		Unit3 An Eye on Crime (Topic Sentences & Main Ideas) を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit3 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit3 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
5	Sowing Seeds of Work		Unit4 Work Balance (Making a Summary) を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit4 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit4 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
6	Sowing Seeds of Exercise		Unit5 Sport BMX and Urban Fun? (Paragraph Development) を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。 英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit5 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 5の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Sowing Seeds of Happiness		Unit6 Happiness (Skimming & Content Words) を理解し、問題を解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit 6 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 7 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
8	Sowing Seeds of Entertainment		Unit7 Sports and Gamesを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit7 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit7 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
9	Sowing Seeds of Health		Unit8 Medical Scienceを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit8 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit8 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
10	Sowing Seeds of Psychology		Unit9 Resilienceを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit9 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit9 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
11	Sowing Seeds of Facts		Unit10 Efforts to Flag Fake-newsを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit10 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit10 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
12	Sowing Seeds of Intelligence		Unit11 Brain Development を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit11 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit11 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Sowing Seeds of Friendship & Humanity		Unit12 Yosegaki Hinomaru、Unit13 A Heroを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文構造を正しくとらえながら、その内容を理解し、概要を説明することができる。英語のパラグラフの構成をよく理解し、英文を読み書きする際に応用することができる。基本的な発話音声や文法・構文のルールのもとに語彙を身に付け、使いこなすことができる。	
	事前学修	Unit12、13 Warm Upの問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit12.13 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
14	前期授業内確認テスト 授業の振り返り		テスト内容を理解し、解答できる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Unit1からUnit13までの範囲の問題に解答できる。	
	事前学修	Unit1~Unit13までの復習をして、テストに備える。	60分
	事後学修	テストの間違った箇所の復習をする。	30分
15	まとめ		前期授業内試験の解説、結果報告、学習内容のまとめ
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期授業の学習内容と、間違えたところを確認し、語彙や文法の基礎を踏まえて言語運用能力として英文を速く、正確に理解できる。	
	事前学修	講義全体の復習をする。	30分
	事後学修	前期講義の学習内容を確認し後期学習に取り組めるようにする。	30分

科目名	Reading II B	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
課題を出し、翌週答え合わせをする。加えて文法の説明も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題を出し。期日までに提出してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストを実施した翌週に回答を配布し解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヨーロッパの国と人々		金星堂		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
必要な時にメールで連絡を受け付ける。ishikawa.masaru11

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画の説明	
	この回の到達目標	単位を修得するための過程を理解する。	
	事前学修	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。	40分
	事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	30分
2	授業方法に慣れる	Unit 4 Spainを読む 五文型の説明	
	この回の到達目標	五文系を理解する。	
	事前学修	指示された個所を期日までに提出	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った箇所の復習	30分
3	文法を理解したうえでの和訳	Unit4 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	文法の知識を和約に反映できるようになる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	文法に即した訳に直す。	30分
4	文脈を考慮に入れた訳	Unit4 前回の続きから和訳 不定詞の説明	
	この回の到達目標	不定詞が理解できる。	
	事前学修	指示された個所を訳して提出	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
5	テキストの内容の理解を深める。	Unit4 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	内容を理解しながら行くセル用になる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	内容を理解したうえで訳しなおす。	30分
6	ingの理解	Unit5 Britainを読む ingの説明	
	この回の到達目標	文法を理解したうえで訳せるようになる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	語彙力アップ	Unit2 前回の続きから和訳 小テスト	
	この回の到達目標	小テストでよい点を取る。	
	事前学修	試験範囲の復習	30分
	事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分
8	If節の用法	Unit5 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い	
	この回の到達目標	条件文と仮定法の区別ができる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った個所の復習	30分
9	文法の復習	Unit6 Benelux前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	今までに学んだ文法を確実に把握する。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	これまでの文法事項の復習	30分
10	テキストの内容の理解を深める。	Unit6 Bを読む that節の説明	
	この回の到達目標	that節を理解する。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正	30分
11	正確の和訳	Unit6 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	文法に照らして正確の和訳ができる。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	正確な訳を学ぶ。	30分
12	詳細な辞書の引き方	Unit6 前回の続きから和訳	
	この回の到達目標	辞書の引き方をたず。	
	事前学修	指示された個所の予習	39分
	事後学修	正確な辞書の引き方を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	文法のおさらい		Unit6 前回の続きから和訳
	この回の到達目標	これまでに習った文法を確実に把握する。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	訳の訂正と間違った箇所を復習する。	30分
14	訳の確認		Unit6 前回の続きから和訳
	この回の到達目標	テキストの訳を正確なものにする。	
	事前学修	指示された個所の予習	30分
	事後学修	間違った箇所を復習する。	30分
15	前期の授業のまとめ		Unit 6 前回の続きから和訳 小テスト
	この回の到達目標	小テストでよい点数を取る。	
	事前学修	試験範囲の復習	30分
	事後学修	間違った箇所を理解し直す。	30分

科目名	Reading II B	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期のReading IIAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用してアクティブラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき、到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび筆記試験の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Insights 2021 『世界を読むメディア英語入門2021』	村尾純子 他	(株) 金星堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
motoji.kumiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	後期の授業の進め方、前期学習内容の復習など。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習内容を理解し、後期の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期の学習内容を整理、確認する。	30分
	事後学修	後期の英語学習計画を立てる。	30分
2	Chapter 11 Setting up Lanes for Self-Driving Cars	Chapter 11 Setting up Lanes for Self-Driving Carsの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 11のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
3	Chapter 12 High School Hawker Scaring Away Nuisance Birds	Chapter 12 High School Hawker Scaring Away Nuisance Birdsの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 12のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
4	Chapter 13 Fusion of AI with Human Sensibility	Chapter 13 Fusion of AI with Human Sensibilityの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ファッション・テクノロジーに関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 13のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
5	Chapter 14 Infrastructure Inspection Using Drones	Chapter 14 Infrastructure Inspection Using Dronesの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、技術に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 14のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
6	Chapter 15 Use Your Aesthetics in Business	Chapter 15 Use Your Aesthetics in Businessの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教育・ビジネスに関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 15のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Review Chapter 11-15	Chapter 11-15の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-15で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
	事前学修	Chapter 11-15の本文を再読する。	30分
	事後学修	Chapter 11-16の本文の内容を再確認する。	30分
8	Chapter 16 Tourism Brings Gifts and Woes	Chapter 16 Tourism Brings Gifts and Woesの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 16のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
9	Chapter 17 Cloning Your Pets	Chapter 17 Cloning Your Petsの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会・国際に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 17のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
10	Chapter 18 Old Flowers Come Back to Life	Chapter 18 Old Flowers Come Back to Lifeの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・環境に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 18のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
11	Chapter 19 No Snow? Let's Make Some!	Chapter 19 No Snow? Let's Make Some!の本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文化・国際・スポーツに関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 19のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分
12	Chapter 20 Promising iPS Cell Technology	Chapter 20 Promising iPS Cell Technologyの本文を読んで内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、医療に関する英字新聞の記事を読んで理解することができる。	
	事前学修	Chapter 20のKey Expressions 1, 2, 3, Background Knowledge, Newspaper Englishの問題に解答する。	45分
	事後学修	本文の内容を確認し、音読練習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Review Chapter 16-20		Chapter 16-20の復習
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 16-20で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
	事前学修	Chapter 16-20の本文を再読する。	30分
	事後学修	Chapter 16-20の本文の内容を再確認する。	30分
14	後期授業のまとめ①		後期の学習内容を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-20で学習した重要単語を覚え、英字新聞の記事を正しく理解することができる。	
	事前学修	Chapter 11-20で学んだ内容を復習する。	30分
	事後学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
15	後期授業のまとめ②		後期の学習内容を再確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、Chapter 11-20で学習した単語を活用して英字新聞の記事を読むことができる。	
	事前学修	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。	30分
	事後学修	後期の学習内容を再確認する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
Reading IIAと合わせて履修することが望ましい。積極的な授業参加が望まれます。居眠りやスマホに夢中な学生は欠席扱いになる事もあります。

【授業方法】
予習は必ずして来て下さい。授業中はペアワークやグループワーク、音読などずっと座っているよりは常に口や体を動かす機会の方が多くなる予定です。フィードバックは授業内に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	前期に引き続きペアワークやグループワーク、音読などの演習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2			2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験、小テスト、ペア・ワークやグループ・ワークへの参加度等で目標達成度を確認。テストは後日返却し、必要に応じて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading in Action	Tetsuhito Shizuka	kinseido	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。授業時間：月曜7限、土曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション：前期の授業のまとめと後期の授業進め方や予習、復習の仕方	
	この回の到達目標	前期の授業のまとめと後期の授業進め方や予習、復習の仕方	
	事前学修	前期の授業内容の総復習	30分
	事後学修	Unit 7の予習	30分
2	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 7 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	Unit 7の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	要約及びライティング&スピーキング	Unit 7 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 8 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	Unit 8の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	要約及びライティング&スピーキング	Unit 8 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
6	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 9 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	Unit 9の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	要約及びライティング&スピーキング	Unit 9 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 10 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	Unit 10の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
9	要約及びライティング&スピーキング	Unit 10 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
10	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 11 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	Unit 11の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	要約及びライティング&スピーキング	Unit 11 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	読解、音読、シャドーイング、文法解説	Unit 12 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	Unit 12の予習	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	要約及びライティング&スピーキング	Unit 12 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	授業の復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
14	読解、音読、シャドーイング、文法解説及びライティング&スピーキング	これまでの授業で扱えなかった箇所を集中して扱う。質疑応答	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	総復習	30分
	事後学修	授業の復習	30分
15	読解、音読、シャドーイング、文法解説及びライティング&スピーキング	試験&解説	
	この回の到達目標	4技能（ライティング、リスニング、リーディング、スピーキング）の養成	
	事前学修	総復習	30分
	事後学修	試験で出題された箇所の確認	30分

科目名	Reading II B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
受講者は、初級レベルのReadingの問題に取り組むことで英語圏における日常生活を送るに十分な基礎的能力課程を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者は、英語圏における日常生活に必要な英語力を身につけるために、語彙・文法力、そしてそれを運用する能力、またそれらを学び続ける能力を修得する。

【履修条件】
学習意欲が十分であれば履修可とする。ReadingIIBを履修すること

【授業方法】
入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）です。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッションとプレゼンテーションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	言語分野の英語文献を読むために英語の知識を活用することができる。				2		2			2		
②	言語分野の英語文献の関連資料を収集し、文献の理解を深めることができる。				2		2			2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身に付いているかを、課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身に付いているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験問題の解説を後日ポータルサイト等で連絡する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Reading Pass 1	Bennet, Andrew E.	南雲堂	2013	教科書	必携
現代英米情報辞典	飛田茂雄、他	研究社	2000	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12:10-13:00 研究室（4号館1階414研究室） mizumoto.kojiatnihon-u.ac.jp（atは@に変えること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校、高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		中学校、高等学校教員として初等、中等教育に関わったものとして、基礎力の不足している学生に対して、適切な教育をすることが出来る	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	本科目の趣旨、授業運営の方法等を説明する。その上で、本科目の性格、出題傾向、出題形式等について明らかにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、本科目の出題傾向、出題形式を理解できる。		
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明な点があれば、教員に質問出来るようにしておく。	60分	
	事後学修	授業で配布されたプリント等に基づいて授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	60分	
2	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
3	会話文の文空所補充	単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
4	長文の内容一致選択	ある程度の長さを持つ文章を検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
5	会話の応答文選択	2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	
6	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。		
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分	
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
8	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
9	会話の応答文選択		2人の間で英語で交わされる会話を聞き、その内容を正確に聞き取れているかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
10	短文の語句空所補充		英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
11	会話文の文空所補充		単語を組み合わせ、文法的に正しい文を作ることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の統語関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分
12	長文の内容一致選択		ある程度の長さを持つ文章を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、ある程度の長さを持つ文章を読み、正確で、早い文章読解を身につけることができる。		
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。		60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会話の応答文選択	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語で交わされる会話を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
14	短文の語句空所補充	英語の、語彙、熟語、文法、連語関係等にかんして検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、英語の語彙、熟語、文法、連語関係にかんする知識を増やすことができる。	
	事前学修	教科書の中で、あらかじめ指定された範囲の問題をやっておく。辞書、文法書、あるいはインターネット等あらゆる情報源を使用して自らの力で問題を解いてみる。	60分
	事後学修	授業内容を復習し、再度、事前学修、授業時に扱った問題を解いてみて、理解を深め、記憶を定着させる。	60分
15	筆記試験と学修の振り返り	筆記試験を実施しするとともに試験終了後解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②にかかわって、筆記試験に解答できる。	
	事前学修	筆記試験に備えて、この学期に行った学修内容を総復習する。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、自分の学修の進捗を確認する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	中村 達	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
原則として後学期のReading II Aと通年で履修すること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはセメスター後に課題の解説をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Skills for Better Reading<Intermediate>	Yumiko Ishitani	南雲堂	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・前期の振り返り	授業内容、テキスト、事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文を論理的、批判的に読む方法を知ることができる	
	事前学修	シラバスを読み、学習内容を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	分類化する文章	あるトピックに関して何かを分類化する文章の理由と結論の働きについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分類化する文章を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 38-39）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
3	分類化する文章のクロスリーディング	分類化する文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 40）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
4	時間的変遷に関する文章の構造	あるトピックの時間的変遷や歴史に関する文章の構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時間的変遷に関する文章を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 44-45）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
5	時間的変遷に関する文章のクロスリーディング	あるトピックの時間的変遷や歴史に関する文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 46）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
6	過程を説明する文章	何かの過程を説明する文章の構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、何かの過程を説明する文章を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 48-49）をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	過程を説明する文章のクロスリーディング	過程を説明する文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習 (pp. 50) をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
8	原因から結果へ進む文章	ある社会事象の原因を紹介し、結果へと進む文章の構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原因から結果へ進む文章を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習 (pp. 52-53) をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
9	原因から結果へ進む文章のクロスリーディング	ある社会事象の原因を紹介し、結果へと進む文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習 (pp. 54) をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
10	言葉の定義に関する文章	言葉の定義に関する文章の構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、言葉の定義に関する文章を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習 (pp. 58-59) をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理する。	30分
11	言葉の定義に関する文章のクロスリーディング	言葉の定義に関する文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習 (pp. 60) をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
12	調査とその結果を紹介する文章	調査とその結果を紹介する文章の構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、調査とその結果を紹介する文章を読み解く方法を知ることができる。	
	事前学修	テキストの予習 (pp. 62-63) をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	調査とその結果を紹介する文章のクロスリーディング	調査とその結果を紹介する文章をクロスリーディングする	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習問題の正解や自分の考えを示すことができる。	
	事前学修	テキストの予習 (pp. 64) をし、問題を解く。	30分
	事後学修	学習内容を復習し、要点を整理すること。	30分
14	まとめ・授業内試験	後期のまとめと授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本的な文法の知識や表現力を活用し、与えられたテーマによるパラグラフを読むことができる。	
	事前学修	Unit7から12までの既習事項を振り返る。	30分
	事後学修	試験問題の復習をする。	30分
15	試験のふりかえり・学習到達度の確認	筆記試験について講評し、学習内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学習到達度を確認することができる。	
	事前学修	学習内容に誤解がないか確認をしておく。	30分
	事後学修	英文を論理的・批判的に読むのに必要な読解方法について要点を整理する。	30分

科目名	Reading II B	担当者	堀 紳介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義および演習

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom等により、アクティブ・ラーニングを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。				2		2					
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。				2		2					
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。				2		2			2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを，課題（授業内試験，レポート，小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む），到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	特になし				

【オフィスアワー】
火曜日10：40～12：10 hori.shinsukell@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】前期授業の概要の説明	中学、高校で学んだ英語表現、英単語。受動英語と能動英語の違いについて学ぶ。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解へとつながる英語リーディング法を学び、それを実践することができる。	
	事前学修	シラバスの確認	30分
	事後学修	英文を精読	30分
2	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
3	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
4	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた比較的平易な英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
5	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
6	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、英国社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
8	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
9	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
10	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、日本社会、文化について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
11	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
12	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	英文を精読	30分
14	英字新聞（英字新聞以外含む）講読	それなりに難易度の高い英語で書かれた英文記事を読む（難易度1～3） 英文解説：授業内課題として英文和訳を課し、その解説をしながら進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、時事、環境、法律など難解な内容について書かれた英文記事を読み、速読、速解を実践することができる。	
	事前学修	英文を精読	30分
	事後学修	既習事項の確認、復習	30分
15	【後期授業のまとめ】	英国社会、文化、これまで読んだ英文に関する総括を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、速読、速解を意識した英語リーディング法を実践できる。	
	事前学修	既習事項の確認、復習	30分
	事後学修	前期、後期授業に読んだ英文を改めて読み直し、復習すること。	30分

科目名	Reading II B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
中級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
前期Reading IIAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義、及び演習形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティヴ・ラーニングを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	中級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。						2		2				
②	中級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。						2		2				
③	中級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。						2		2		2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）到達目標①②③にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の課題やテストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CBS News Break 5』	熊井 信弘 / Stephen Timson 共著	成美堂	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
machida.junko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、Early Language Learning		ガイダンス。UNIT1 Language Lessons 最新情報英文の要点を把握し、短時間で要約しながら理解を深め、読解問題にあたる。taskベースで進み、サイトにて確認し、Critical Thinkingとして日本関連のニュースがアメリカでどのように受け止められているかを知る。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、教科書を準備する。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらい、Unit 1 の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
2	Food / Consumerism		UNIT2 U.S. Consumers Waste Food を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 2の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 2の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
3	Sport / Wellness		UNIT3 Keeping eSports Athletes in the Game を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 3の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 3の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
4	Life Skills / Trend		UNIT4 Adulting Classes for Millennials を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 4の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 4の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
5	Public Health / Ecology		UNIT 5 Is Your Bottled Water Safe? を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 5の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 5の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
6	Health / Lifestyle		UNIT 6 Sleepless in Japan を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、CBS記事ニュースからの抜粋で、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 6の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 6の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Global Warming / Environment		NIT7 Alarming New Climate Report を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 7の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 7の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
8	Gender Equality / Activism		UNIT8 Cracking the Dress Code: #KuToo Movement を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 8の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 8の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
9	Language / Human Interest		UNIT9 Grammar Table Lady Offers Advice を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 9の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 9の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
10	Holiday / Volunteerism		UNIT10 Halloween Treats for Kids with Disabilities を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 10の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 10の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
11	Tourism / Economy		UNIT11 A Tax on Tourism? を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 11の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 11の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
12	Food Culture / Marketing & Mental Health / Education		UNIT 12 Japan Really Loves Kit Kat Bars UNIT 13 Mindfulness: Schools in England Teach Students to Relaxを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 12, 13の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 12, 13の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Communication /Lifestyle / Culture/ Generation Gap		UNIT14 Connecting through Cursive UNIT15 Great Train Race: Rail Service in Japan and the U.S.を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得し、英語のCommunicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。	
	事前学修	Unit 14, 15の問題を解いてくる。	30分
	事後学修	Unit 14, 15の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。	30分
14	後期授業内確認テスト		後期授業内確認テスト内容を理解し、解答する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、Unit 1 からUnit15までの範囲の問題に解答できる。	
	事前学修	Unit 1 ~Unit15までの復習をして、テストに備える。	60分
	事後学修	Unit 1 ~Unit15までの復習をする。	30分
15	まとめ		後期授業内確認テストの解説、講評、まとめ
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期講義の学習内容と、間違えたところを確認できる。	
	事前学修	Unit1~Unit15までの復習をする。	30分
	事後学修	テストの間違えた箇所の復習をし、後期授業の学習内容を確認する。	30分

科目名	Reading III A	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
上級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期の Reading IIIB と合わせて履修することが望ましい。(1)日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2)英字新聞を読む基礎英語力があること。(3)インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4)学習意欲があること。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴と課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom を使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					3		3					
②	上級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					3		3					
③	上級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					3		3			3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能動的・積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび課題の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English for Mass Communication (2021 Edition)時事英語の総合演習-2021年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか	朝日出版社	2021年出版	教科書	必携
備考	テキストに関連するThe New York Times, The Washington Postなどの記事をGoogle Classroomで配布します。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。 この授業の目的である「時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。」のために行う必要のあることを解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。授業資料の確認の方法。ネットでニュースを視聴する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標及びその達成方法などについて説明することができる。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。	30分
	事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	60分
2	国内政治	Chapter 1 国内政治 Japan to lift coronavirus state of emergency for Tokyoを読む。日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、日本の政治ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 1 国内政治を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
3	latest domestic news	第2回授業で配布された日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第2回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第2回授業で配布された日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る。	90分
4	news clip on the latest domestic news	第3回授業で配布された日本の政治に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	課題：第3回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。	60分
	事後学修	課題スク립トと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	30分
5	経済・ビジネス（1）	Chapter 2 経済・ビジネス(1) IMF downgrades already-glum economic outlook due to coronavirus crisisを読む。経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、経済・ビジネスニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
6	latest economy / business news	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第5回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第5回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	news clip on the latest economy / business news		第6回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のnews clipのスク립トを確認する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第6回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。	60分
	事後学修	課題スク립トと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	30分
8	経済・ビジネス（2）		Chapter 3 経済・ビジネス（2）Japan wants manufacturing back from China, but breaking up supply chains is hard to doを読む。経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、経済・ビジネスニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 3 経済・ビジネス（2）を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
9	latest economy / business news		第8回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第8回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第8回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る	90分
10	news clip on the latest economy / business news		第9回授業で配布された経済・ビジネスに関する最新のnews clipのスク립トを確認する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第9回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。	60分
	事後学修	課題スク립トと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	30分
11	外交・国際会議		Chapter 4 外交・国際会議 Trump begins state visit to Japanを読む。外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、外交・国際会議を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 4 外交・国際会議を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
12	latest foreign affair / international conference news		第11回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第11回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第11回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	news clip on the latest foreign affair / international conference news		第12回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。		
	事前学修	課題：第12回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。		60分
	事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。		30分
14	地球環境		Chapter 10 地球環境 All retailers in Japan required to charge fee for plastic bags from July 1を読む。地球環境に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、地球環境を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。		
	事前学修	テキスト Chapter 10 地球環境を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。		40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。		30分
15	latest global environment news		第14回授業で配布されたに地球環境関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第14回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。		
	事前学修	第14回授業で配布された外交・国際会議に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。		90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る		90分

科目名	Reading III B	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○			○		

【授業の概要】
上級レベルの英文読解に必要とされる読解の方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。具体的には、文法および語彙・語法の知識に基づいて、英文を正確に読むための方法を身につける。

【履修条件】
後期の Reading IIIB と合わせて履修することが望ましい。(1)日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2)英字新聞を読む基礎英語力があること。(3)インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4)学習意欲があること。

【授業方法】
講義と演習による授業。インターネット上のニュースを教材に使用。Google Classroomでの課題解答、提出により演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroom を使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	上級レベルの英文を正確に読むために、文法および語彙・語法の知識を活用することができる。					3		3					
②	上級レベルの英文の内容を正確に和訳または要約し、発表することができる。					3		3					
③	上級レベルの英文の内容について、他者と意見交換をすることができる。					3		3			3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③にかかわる能力が身についているかを、課題（授業内試験、レポート、小テストを含む）により評価する。	20	20	10								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②③にかかわる能動的・積極的な学修態度が身についているかを評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび課題の解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
English for Mass Communication (2021 Edition)時事英語の総合演習-2021年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか	朝日出版社	2021年出版	教科書	必携
備考	テキストに関連するThe New York Times, The Washington Postなどの記事をGoogle Classroomで配布します。				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、導入授業		事前・事後学習の方法、成績評価方法等について説明する。 この授業の目的である「時事英語を中心とした上級レベルの英文を論理的・批判的に読むために必要な読解の方法を修得する。」のために行う必要のあることを解説する。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法など説明する。オンライン資料へのアクセスを確認し、授業準備・復習に役立てるようにする。授業資料の確認の方法。ネットでニュースを視聴する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本授業の目標及びその達成方法などについて説明することができる。授業の準備・復習に必要な環境を整えることができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、テキスト全体に目を通し学修の準備をする。		30分
	事後学修	授業ガイダンスに従い実際に授業準備ができるか確認する。テキスト Chapter 11 気象・災害を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。		60分
2	気象・災害		Chapter 11 気象・災害 Permafrost collapse is speeding climate change, study warnsを読む。日本の政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、気象・災害ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。		
	事前学修	テキスト Chapter 11 気象・災害を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。		40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。		30分
3	latest climate news		第2回授業で配布された気象・災害に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第2回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。		
	事前学修	第2回授業で配布された気象・災害に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。		90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る。		90分
4	news clip on the latest climate news		第3回授業で配布された気象・災害に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。		
	事前学修	課題：第3回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。		60分
	事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。		30分
5	海外政治情勢		Chapter 6 海外政治情勢 Trump administration sues to delay release of Bolton bookを読む。海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、海外政治情勢ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。		
	事前学修	テキスト Chapter 6 海外政治情勢を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。		40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。		30分
6	latest foreign affairs news		第5回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第5回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。		
	事前学修	第5回授業で配布された海外政治に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。		90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	news clip on the latest foreign affairs news		第6回授業で配布された海外政治情勢に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第6回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。	60分
	事後学修	課題スク립トと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	30分
8	軍事		Chapter 5 軍事 Chinese state media claims country's navy is not affected by coronavirusを読む。軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、軍事ニュースを理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 5 軍事を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
9	latest military news		第8回授業で配布された軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第8回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第8回授業で配布された軍事に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る	90分
10	news clip on the latest military news		第9回授業で配布された軍事に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	課題：第9回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。	60分
	事後学修	課題スク립トと授業ノートと比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。	30分
11	裁判・法令		Chapter 9 裁判・法令 Hefty fines and longer prison terms for reckless drivingを読む。裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、裁判・法令を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。	
	事前学修	テキスト Chapter 9 裁判・法令を読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。	40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。	30分
12	latest court and law news		第11回授業で配布された裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第11回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。	
	事前学修	第11回授業で配布された裁判・法令に関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。	90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートと比較して、知識の確認と定着を図る	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	news clip on the latest court and law news		第12回授業で配布された裁判・法令に関する最新のnews clipのスク립トを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文で報道されたニュースを、学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら聞き取り、理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。到達目標③に関連して、難解な内容について、他の学生と調査、推論、議論することで協働してプレゼンテーションを行うことができる。		
	事前学修	課題：第12回授業のニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーションを行い、内容を理解する。Google Classroom 上にディクテーションの解答を提出する。		60分
	事後学修	課題スク립トと授業ノートを比較し、再度ニュースを視聴して、知識の確認と定着を図る。		30分
14	テクノロジー		Chapter 13 テクノロジー Asteroid as powerful as 10 billion WWII atomic bombs may have wiped out the dinosaursを読む。テクノロジーに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を配布する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英語で発信されたニュースのなかで、地球環境を理解するのに必要な語彙、背景知識を理解し、使用することができる。		
	事前学修	テキスト Chapter 13 テクノロジーを読み、ニュースの内容についてレポートできるように準備をする。		40分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。		30分
15	latest technology news		第14回授業で配布されたテクノロジーに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上級レベルの英文記事を第14回授業で学修した語彙・背景知識を使用して、予測・推論しながら理解することができる。そのために必要な調査をすることができる。		
	事前学修	第14回授業で配布されたテクノロジーに関する最新のThe New York Times, The Washington Postなどの記事を読む準備。		90分
	事後学修	予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認を行い、Google Classroom 上の課題を解くことで知識の定着を図る。課題：そのニュースに関するABC, CBS, NBC, CNN, BBC, CBC, EURONEWSなどのニュースのディクテーション。予習ノートと授業ノートを比較して、知識の確認と定着を図る		90分

科目名	Writing I A	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
初級レベルの英文作成に必要とされる英語の表現力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の意見を明確に平易な英文で表現するために、基本的な文法や表現力を身につける。

【履修条件】
初回授業に出席できること。Power Point および Wordの基本操作ができる学生のみ履修可能です。

【授業方法】
履修人数および履修学生の英語運用力によって調整いたします。基本的には、表現実例を使用しながら、毎週実際に文章を書きます。また、作成した英文を皆の前で発表してもらいます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	英語でプレゼンテーションを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文を書くために必要な基本的な文法の知識や表現力を活用することができる。								1	1		1
②	自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。								1	1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験，レポート，小テストを含む) により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	30	10									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修人数にもよりますが、原則として毎週チェックの上、コメントを入れて返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント配布				

【オフィスアワー】
前期はメールで対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	英文ライティングの注意事項についての授業で使用するPowerPointとWordの使用方法についての確認	
	この回の到達目標	ライティングに役立つ辞書について確認する。	
	事前学修	シラバスを熟読しておく。	60分
	事後学修	ガイダンスの確認を行う。	60分
2	英文ライティングの実例検証 Word使用方法についての確認	文法確認 英文実例（自己紹介）の表現分析 英文作成演習と発表	
	この回の到達目標	英文ライティングに必要なWordの使用方法の習得 英文コメントの原稿作成	
	事前学修	プリントの予習を行う。	60分
	事後学修	作成した英文の確認を行う。	60分
3	英文ライティングの実例検証Power Point使用方法についての確認	文法確認 英文実例（場面説明）の表現分析 英文作成演習 グループ発表（3～5分間程度）の編成	
	この回の到達目標	Power Pointの英文フレーズ 初級技術の確認と習得	
	事前学修	プリントの予習を行う	60分
	事後学修	英文の確認と修正を行う	60分
4	読む英文と見せる英文について	文法確認 英文実例（状況説明）の表現分析 英文作成演習 グループ内での英文チェック	
	この回の到達目標	Power Pointの英文ライティング中級技術の確認習得	
	事前学修	英文の確認を行う	60分
	事後学修	テーマ確認を行う	60分
5	英文ライティングに必要な 文法チェック その1	まとめと文法確認テスト ライティングのテーマ発表およびテーマについての確認 グループ内での英文チェック	
	この回の到達目標	文法の確認と発表のテーマ設定	
	事前学修	テーマ検討を行う	60分
	事後学修	テーマ検討と再確認を行う	60分
6	英文ライティングに必要な 表現チェック その2	文法確認 英文実例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その1 グループのワークシート打ち合わせ その1	
	この回の到達目標	英文表現の習得と発表の段取り決定	
	事前学修	文法見直しを行う	60分
	事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	パワーポイントの英文作成の基礎について		文法確認 英文事例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その2 グループのワークシート打ち合わせ その2
	この回の到達目標	パワーポイントのシートにふさわしい英文習得	
	事前学修	プリントの確認を行う。	60分
	事後学修	ワークシートについて検討する。	60分
8	短い英文フレーズの組み合わせ方法について		文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 グループのワークシート打ち合わせ その3
	この回の到達目標	英文の構成展開を再確認し 細かな間違いについて修正する。	
	事前学修	プリントの予習を行う。	60分
	事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分
9	より明確な英文について		文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 パワー・ポイントの英文作成演習 その1
	この回の到達目標	英文の文法ミスとレイアウトのコツを学ぶ。	
	事前学修	プリントを確認しておく。	60分
	事後学修	ワークシートの修正を行う。	60分
10	口頭発表の英文原稿作成について		文法確認 パワー・ポイントの英文作成演習 その2
	この回の到達目標	発表に必要な英文を学ぶ。	
	事前学修	表現集を確認しておく。	60分
	事後学修	ワークシートの修正を行う。	60分
11	文法の総復習 表現の一貫性と英文内容 についての最終確認		まとめと文法確認テスト
	この回の到達目標	発表原稿のチェックを経て精度の高い英文を書く。	
	事前学修	文法プリントの予習を行う。	60分
	事後学修	文法プリントの確認を行う。	60分
12	英文ライティングの相互チェック		グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1
	この回の到達目標	クラスメートの英語の発表についての的確なコメントを行う。	
	事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
	事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英文手紙の書き方 その1 感謝の手紙の書き方について	グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1	
	この回の到達目標	英語プレゼンテーションを聞き、その内容や伝達方法について英語でコメントを行えるようにする。	
	事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
	事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
14	英文手紙の書き方 その2 謝罪の手紙についての書き方	グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
	この回の到達目標	英文で的確なコメントを書けるようにする。	
	事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
	事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
15	全体のまとめと講評	まとめと復習テスト	
	この回の到達目標	レポートの最終確認と推敲を行う。	
	事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
	事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

科目名	Writing I B	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
初級レベルの英文作成に必要とされる英語の表現力を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の意見を明確に平易な英文で表現するために、基本的な文法や表現力を身につける。

【履修条件】
Power Point および Wordを使用できる学生のみ履修可能です。

【授業方法】
履修人数および履修学生の英語運用力によって調整いたします。基本的には、表現実例を使用しながら、毎週実際に文章を書きます。また、作成した英文を皆の前で発表してもらいます。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英文を書くために必要な基本的な文法の知識や表現力を活用することができる。								1	1		1
②	自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。								1	1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題(授業内試験，レポート，小テストを含む)により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	30	10									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則として添削返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリント配布				

【オフィスアワー】
休み時間（金曜14：30～）、教室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義 前期の復習	英文ライティングの注意事項についての授業で使用するPowerPointとWordの使用方法についての再確認	
	この回の到達目標	ライティングに役立つ辞書について確認する。	
	事前学修	シラバスを熟読しておく。	60分
	事後学修	ガイダンスの確認を行う。	60分
2	英文ライティングの実例検証 Word使用方法についての確認	文法確認 英文実例（自己紹介）の表現分析 英文作成演習と発表	
	この回の到達目標	英文ライティングに必要なWordの使用方法の習得 英文コメントの原稿作成	
	事前学修	プリントの予習を行う。	60分
	事後学修	作成した英文の確認を行う。	60分
3	英文ライティングの実例検証Power Point使用方法についての確認	文法確認 英文実例（場面説明）の表現分析 英文作成演習 グループ発表（3～5分間程度）の編成	
	この回の到達目標	Power Pointの英文フレーズ 初級技術の確認と習得	
	事前学修	プリントの予習を行う	60分
	事後学修	英文の確認と修正を行う	60分
4	読む英文と見せる英文について	文法確認 英文実例（状況説明）の表現分析 英文作成演習 グループ内での英文チェック	
	この回の到達目標	Power Pointの英文ライティング中級技術の確認習得	
	事前学修	英文の確認を行う	60分
	事後学修	テーマ確認を行う	60分
5	英文ライティングに必要な 文法チェック その1	まとめと文法確認テスト ライティングのテーマ発表およびテーマについての確認 グループ内での英文チェック	
	この回の到達目標	文法の確認と発表のテーマ設定	
	事前学修	テーマ検討を行う	60分
	事後学修	テーマ検討と再確認を行う	60分
6	英文ライティングに必要な 表現チェック その2	文法確認 英文実例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その1 グループのワークシート打ち合わせ その1	
	この回の到達目標	英文表現の習得と発表の段取り決定	
	事前学修	文法見直しを行う	60分
	事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	パワーポイントの英文作成の基礎について		文法確認 英文事例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その2 グループのワークシート打ち合わせ その2
	この回の到達目標	パワーポイントのシートにふさわしい英文習得	
	事前学修	プリントの確認を行う。	60分
	事後学修	ワークシートについて検討する。	60分
8	短い英文フレーズの組み合わせ方法について		文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 グループのワークシート打ち合わせ その3
	この回の到達目標	英文の構成展開を再確認し細かな間違いについて修正する。	
	事前学修	プリントの予習を行う。	60分
	事後学修	ワークシートの検討を行う。	60分
9	より明確な英文について 主観から客観へ		文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 パワー・ポイントの英文作成演習 その1
	この回の到達目標	英文の文法ミスとレイアウトのコツを学ぶ。	
	事前学修	パワーポイント作成のための資料収集を行う。	60分
	事後学修	パワーポイントの修正を行う。	60分
10	英文原稿作成について テーマ設定の注意点について		文法確認 パワー・ポイントの英文作成演習 その2
	この回の到達目標	発表に必要な英文を学ぶ。	
	事前学修	プリントを確認する。	60分
	事後学修	ワークシートを修正する。	60分
11	文法の総復習 表現の一貫性と英文内容 についての最終確認		まとめと文法確認テスト
	この回の到達目標	発表原稿のチェックを経て精度の高い英文を書く。	
	事前学修	文法プリントの予習を行う。	60分
	事後学修	文法プリントの確認を行う。	60分
12	英文ライティングの相互チェック		グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1 語彙力と表現力をさらに深める。
	この回の到達目標	クラスメートの英語の発表についての的確なコメントを行う。	
	事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
	事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	英文手紙の書き方 その1 感謝の手紙の書き方について	例文紹介と検証 語彙力と表現力の再確認 グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
	この回の到達目標	英語プレゼンテーションを開き、その内容や伝達方法について英語でコメントを行えるようにする。	
	事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
	事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
14	英文手紙の書き方 その2 謝罪の手紙についての書き方	例文紹介と実習 語彙力と表現力の最終確認 グループ内での英文チェックグループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2	
	この回の到達目標	英文で的確なコメントを書けるようにする。	
	事前学修	英文コメントのプリントを予習する。	60分
	事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
15	全体のまとめと講評	まとめと復習テスト	
	この回の到達目標	レポートの最終確認と推敲を行う。	
	事前学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分
	事後学修	英文コメントのプリントを確認する。	60分

科目名	Writing III A	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の見解を客観的かつ的確に論じるために、論理的に書く能力を身につける。

【履修条件】
後期のWriting IIIBと併せて履修することが望ましい。Criterionを副教材として受講すること（受講料は自己負担）。

【授業方法】
Zoom授業と授業内課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを利用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。										3	3		3
②	論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。										3	3		3
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴などを含む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10	10									20
その他(criterion)	到達目標②が達成しているかを，criterionにより評価する。		20									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
3-Points Academic Writing:Organization, Content, Language	深山/幸重/尾鍋/村尾	金星堂	2019	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	配布資料併用				

【オフィスアワー】
メールで対応します。kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	アカデミック・ライティング		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。		10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める		50分
2	エッセイとは		Unit 1（エッセイの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
3	エッセイとは		Unit 1（エッセイの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
4	エッセイのタイトル		Unit 2（タイトルの決定法）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
5	エッセイのタイトル		Unit 2（タイトルの決定法）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
6	Introductionとは		Unit 3（Introductionの役割）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Introductionの書き方		Unit 3（Introductionの役割）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
8	Bodyの構造		Unit 4（Bodyの構造）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
9	Bodyの構造		Unit 4（Bodyの構造）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
10	conclusionのまとめ方		Unit 5（conclusionのまとめ方）、クライテリオン	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
11	conclusionとクライテリオン(1)		Unit 5（conclusionのまとめ方）、クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
12	クライテリオン(2)		クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。		
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(3)	Unit 6（フィードバックに挑戦）、クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
14	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)、授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
15	クライテリオン(5)	クライテリオン5、試験の講評と振り返り	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分

科目名	Writing ⅢB	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分の見解を客観的かつ的確に論じるために、論理的に書く能力を身につける。

【履修条件】
前期のWriting ⅢAと併せて履修することが望ましい。Criterionを副教材として受講すること（受講料は自己負担）。

【授業方法】
講義および演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一部ペアワークやグループワークなどによる演習を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。									4	4		4
②	論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。									4	4		4
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴などを含 む）、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身につ ているかを評価する。	10	10									20
その他(criterion)	到達目標②が達成しているかを，criterionにより評価す る。		20									20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
3-Points Academic Writing:Organization, Content, Language	深山/幸重/尾鍋/村尾	金星堂	2019	教科書	必携
ジーニアス英和辞典 第5版	南出康世	大修館書店	2014	その他	推奨
備考	配布資料併用				

【オフィスアワー】
水曜日 12:10~13:00（休暇中は除く） kurotaki.mariko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	アカデミック・ライティングとは		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業 の準備を体系的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容と展開方法を的確に把握することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、授業の全体像を把握しておく。授業に関する質問を考えてくる。		10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習し、授業全体の説明について理解を深める、		50分
2	エッセイとは		Unit 7（エッセイの最終原稿提出）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
3	リサーチ・ペーパー		Unit 8（リサーチ・ペーパーの構造とIntroduction）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
4	abstract		Unit 9（abstractの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
5	abstract		Unit 10（abstractの草稿）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分
6	abstract		Unit 11（abstractの最終原稿）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。		
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。		30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	プレゼンテーション	Unit 12（プレゼンテーションの基本的特徴）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
8	視覚資料と発表原稿	Unit 13（視覚資料の作成）、Unit 14（発表原稿の完成）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、論理的かつ的確な英文を書くために、応用レベルの文法の知識や表現力を活用することができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
9	プレゼンテーション	Unit 15（プレゼンテーションの評価）、アカデミック・ライティング手法	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
10	クライテリオン(1)	クライテリオン1	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分
11	クライテリオン(2)	クライテリオン2 (revise)	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	クライテリオン1 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン2 で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
12	クライテリオン(3)	クライテリオン3	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。	30分
	事後学修	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	クライテリオン(4)	クライテリオン4(revise)	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	クライテリオン3で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、より完成度の高いエッセイになるよう修正する。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、事前学習の際に間違えた語彙や文法の問題を復習する。クライテリオン4で書いたエッセイのフィードバック結果を熟読し、修正箇所を確認しておく。	30分
14	クライテリオン(5)	クライテリオン5、授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	4回のクライテリオンで書いたエッセイを振り返り、ライティングで犯しやすいミスを列挙しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、5回のクライテリオンで書いたエッセイを音読する。	30分
15	ライティングの総括	試験の講評と振り返り	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、論理的に書くプロセスを重視しながら、パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。	
	事前学修	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。アカデミック・ライティングの手法を復習する。	30分
	事後学修	講義全体の確認をし、復習する。	30分

科目名	Writing II A	担当者	中村 達	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
文の構成・表現スタイル・伝達内容の3点を柱に、アカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEFL-iBT, IELTSやTOEIC S&Wなどの資格試験に対応できるライティングスキルを修得するために、論理的かつ明確な英文が表現できる能力を身につける。

【履修条件】
後期のWriting IIBと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド授業。動画の視聴の課題により、演習授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ明確な英文を書くために必要な文法の知識や表現力を活用することができる。										2	2		2
②	パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。										2	2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題(授業内試験、レポート、小テストを含む)により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含む）、到達目標①②にかかわる能積極的な学修態度が身についているかを評価する。	25	25									50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing	Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, and Ruth Fallon	成美堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応する。nakamura.toru@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：ライティングの基本についての解説	授業内容、テキスト、事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文を書くために基本的な文法の知識や表現力を活用し、自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	パラグラフとは何か	パラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、パラグラフの基本構造を理解することができる。	
	事前学修	テキストの説明（pp. 2-5）を熟読し理解する。	30分
	事後学修	パラグラフの基本構造に関して得られた知識を基に文を作成し提出する。	30分
3	時間の流れとパラグラフ	時間の流れに沿ったパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時間の流れに沿ったパラグラフの構造を理解できる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 8-10）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分
4	時間の流れに沿って書く	時間の流れに沿ったパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時間の流れに沿ったパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 11-12）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン(pp. 13) を用いて文を作成し提出する。	30分
5	手続き・手順とパラグラフ	手続きや手順を伝えるパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、手続きや手順を伝えるパラグラフの構造を理解できる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 14-16）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分
6	手続き・手順を伝える	手続きや手順を伝えるパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、手続きや手順を伝えるパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 17-18）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 19）を用いて文を作成し提出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	感情表現とパラグラフ	感情表現に関する言葉とパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、感情表現を用いたパラグラフの構造を理解できる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 20-22）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分
8	感情を伝える	感情を伝えるパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、感情を伝えるパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 23-24）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 25）を用いて文を作成し提出する。	30分
9	人物描写とパラグラフ	人物描写に関する表現とパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人物描写の表現を用いたパラグラフの構造を理解できる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 26-28）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分
10	人物を描写する	人物の外見、正確、気質などを伝えるパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人物の外見、正確、気質などを伝えるパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 29-30）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 31）を用いて文を作成し提出する。	30分
11	場所描写とパラグラフ	場所描写に関する表現とパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、場所描写の表現を用いたパラグラフの構造を理解できる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 32-34）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分
12	場所を描写する	場所、場面の特徴を伝えるパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、場所、場面の特徴を伝えるパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 35-36）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 37）を用いて文を作成し提出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	定義とパラグラフ	人物や物事を定義する表現とパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人物や物事を定義するパラグラフの構造を理解できる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 38-40）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分
14	人物や物事を定義する	人物や物事を定義するパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人物や物事を定義するパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 41-42）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 43）を用いて文を作成し提出する。	30分
15	まとめ・授業内試験	前期のまとめと授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文を書くために基本的な文法の知識や表現力を活用し、与えられたテーマによるパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	今までに学んだ表現を復習する。	30分
	事後学修	テキストを用いて試験問題の復習をする。	30分

科目名	Writing II B	担当者	中村 達	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		○

【授業の概要】
文の構成・表現スタイル・伝達内容の3点を柱に、アカデミック・ライティングの手法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
TOEFL-iBT, IELTSやTOEIC S&Wなどの資格試験に対応できるライティングスキルを修得するために、論理的かつ明確な英文が表現できる能力を身につける。

【履修条件】
前期のWriting IIAと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
講義および演習

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	論理的かつ明確な英文を書くために必要な文法の知識や表現力を活用することができる。								2	2		2
②	パラグラフの構成と展開を考慮に入れた文章構成ができる。								2	2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる能力が身についているかを，課題 (授業内試験、レポート、小テストを含む) により評価す る。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参画状況に基づき（授業動画の視聴なども含 む）、到達目標①②にかかわる能積極的な学修態度が身に ついているかを評価する。	25	25									50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing	Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, and Ruth Fallon	成美堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールで対応する。nakamura.toru@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、前期の振り返り	授業内容、テキスト、事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文を書くために基本的な文法の知識や表現力を活用し、自分の意見を明確に平易な英文で表現することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく。	10分
	事後学修	授業で配布された資料を基に、授業内容を復習する。	50分
2	比較・対照とパラグラフ	比較、対照表現を用いたパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、類似点や相違点を伝えるパラグラフの基本構造を理解することができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 44-46）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分
3	比較・対照する	比較、対照表現を用いたパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、類似点や相違点を伝えるパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 47-48）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 49）を用いて文を作成し提出する。	30分
4	原因・結果とパラグラフ	原因、結果に関する表現を用いたパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原因や結果を伝えるパラグラフの基本構造を理解することができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 50-52）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分
5	因果関係を説明する	因果関係に関するパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、因果関係を伝えるパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 53-54）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 55）を用いて文を作成し提出する。	30分
6	問題・解決策とパラグラフ	問題と解決策に関する表現とパラグラフの構造について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、問題と解決策に関する表現を用いたパラグラフの構造を理解できる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 56-59）をする。	30分
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	問題・解決策を説明する	問題と解決策を説明するパラグラフを書く		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、問題と解決策を説明するパラグラフを書くことができる。		
	事前学修	テキストの予習（pp. 60-62）をする。	30分	
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 63）を用いて文を作成し提出する。	30分	
8	意見とパラグラフ	意見を述べる表現とパラグラフの構造について		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意見を述べる表現を用いたパラグラフの構造を理解できる。		
	事前学修	テキストの予習（pp. 64-66）をする。	30分	
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分	
9	賛成意見を述べる	賛成意見を述べるパラグラフを書く		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、賛成意見を述べるパラグラフを書くことができる。		
	事前学修	テキストの予習（pp. 67-68）をする。	30分	
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 69）を用いて文を作成し提出する。	30分	
10	反対意見とパラグラフ	反対意見を伝えるパラグラフの構造について		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、反対意見を述べる表現を用いたパラグラフの構造を理解できる。		
	事前学修	テキストの予習（pp. 70-72）をする。	30分	
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分	
11	反対意見を述べる	反対意見を理由をあげて説明するパラグラフを書く		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、反対意見を述べるパラグラフを書くことができる。		
	事前学修	テキストの予習（pp. 74-75）をする。	30分	
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 76）を用いて文を作成し提出する。	30分	
12	データ分析とパラグラフ	データ分析に関する表現を用いたパラグラフの構造について		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、データ分析に関する表現を用いたパラグラフの構造を理解できる。		
	事前学修	テキストの予習（pp. 76-81）をする。	30分	
	事後学修	復習後、確認テストを行い提出する。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グラフや表を利用したデータを説明する	グラフや表を利用したデータを説明するパラグラフを書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グラフや表を利用したデータを説明するパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 82-84）をする。	30分
	事後学修	テキストのアウトライン（pp. 85）を用いて文を作成し提出する。	30分
14	Eメール	Eメールに関する表現を学び、書く	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文Eメールを書くことができる。	
	事前学修	テキストの予習（pp. 86-88）をする。	30分
	事後学修	英文Eメールを実際書き、提出する。	30分
15	まとめ・授業内試験	後期のまとめと授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英文を書くために基本的な文法の知識や表現力を活用し、与えられたテーマによるパラグラフを書くことができる。	
	事前学修	今までに学んだ表現を復習する。	30分
	事後学修	テキストを用いて試験問題の復習をする。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。

【授業方法】
講義による。視聴覚教材も適宜利用して、耳と目からもドイツ語にしたしんでもらうつもりである。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間内に対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』	ヘルマン・トロール 他	第三書房	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ドイツとドイツ語入門		ドイツ語の世界に入門。かんたんなあいさつからABCの発音。講義のすすめかた案内。教材について。	
	この回の到達目標	ドイツ語の発音。かんたんな相差っ表現により発音になれる。		
	事前学修	教材の下見。ひと通り目を通しておく。（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
2	ドイツ語の基本1		テキストLektion1 人称代名詞・動詞sein, haben, trinken テーマ「ドイツへの到着」	
	この回の到達目標	基本動詞を使ったかんたんな表現をまなぶ。読み方の練習。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
3	ドイツ語の名詞には性がある		テキストLektion2/名詞の性 動詞の位置 テーマ「ライン河」	
	この回の到達目標	名詞の性の理解。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
4	疑問文の作り方		テキストLektion2 疑問文 ja と nein	
	この回の到達目標	疑問文のしくみと応用。道をたずねる。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
5	名詞には性がある		テキストLektion3 不規則な動詞 名詞の格 1/4格 テーマ Es gibt Wein. ドイツ・ワイン!	
	この回の到達目標	男性・女性・中性名詞の代表的なものを覚えよ!		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
6	否定文になれよう。		テキストLektion3 否定冠詞 kein 否定をふくむ疑問文のこたえ	
	この回の到達目標	nein, nichtという否定表現になれる。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	名詞の格変化		テキストLektion4 名詞の1/3/4格の使い方 テーマ「エネルギー問題」	
	この回の到達目標	名詞の格変化と複数形をマスターする。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
8	所有表現 2格 ザクセン2格とは？		テキストLektion4 名詞の2格の使い方	
	この回の到達目標	所有表現になれる。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
9	前置詞のしくみ		テキストLektion5 前置詞の使い方 例文 作文 テーマ「ドイツの地理」	
	この回の到達目標	前置詞にも格支配があって、ややこしいが、一連の流れで考えよう。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
10	人称代名詞		テキストLektion5 人称代名詞 1/3/4格の使い方	
	この回の到達目標	人称代名詞が出で来る短い文章を読んで、ひの代名詞はだれをさしているか判断します。そう難しくはありませんが、教室で覚えましょう。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
11	前置詞とその用法です。		テキストLektion6 3・4格支配の前置詞 テーマ「ドイツの環境政策・廃棄物処理など」	
	この回の到達目標	ここでも、格支配がつきものです。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分
12	11課のつづき		テキストLektion6 3・4格支配の前置詞 テーマ「ドイツの環境政策・廃棄物処理など」	
	この回の到達目標	前置詞の用法全般を習います。前置詞のある文の訳読をしているうちに、こつがわかります。場数が大事なドイツ語学習なのです。		
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)（30分）		30分
	事後学修	ノート整理・宿題（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの単元でまだ消化不良な項目の復習です。	前期の復習 和訳練習 語彙力アップ指導	
	この回の到達目標	苦手、未理解、まだ覚えきれないという学習の事実にむきあつての復習です。試験対策でもあります。	
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
	事後学修	ノート整理・宿題 (30分)	30分
14	読解練習	辞書を使ってかんたんな読解練習。	
	この回の到達目標	簡単な応用練習です。辞書をつかって、かんたんな初見のドイツ文にとりくみましょう。	
	事前学修	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)	30分
	事後学修	試験準備学習 (30分)	30分
15	前期試験まとめ	前期筆記試験(予定) 内容・範囲は授業内で指示する。	
	この回の到達目標	前期の学習内容の理解。	
	事前学修	試験範囲学習。範囲は事前に伝えておきます。	30分
	事後学修	試験結果の反省。 (30分)	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、文章講読、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法学習、文章講読、問題演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身につくドイツ語・初級（改訂新版）	前田良三・高木葉子	郁文堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講義計画 文字と発音		前期の学習を展望する。 ドイツ語の文字と発音を知る。
	この回の到達目標	授業と教科書の趣旨を理解する。 ドイツ語特有の発音と綴り字を知る。	
	事前学修	ドイツやドイツ語について、図書館や情報機器を利用して調べてみる。	30分
	事後学修	発音と綴り字の要点を確認する。 教科書添付のCDを聴いて口頭練習をする。	30分
2	動詞の現在人称変化(1) 定動詞の位置		規則動詞の人称変化の仕組みを知る。 定動詞の位置を学ぶ。
	この回の到達目標	規則動詞の人称変化を覚える。 基本的な文の定動詞の位置を知る。	
	事前学修	人称変化と語順について教科書の説明を読み、英語と比べてみる。	30分
	事後学修	人称変化の基本となる規則動詞の現在人称変化を確実なものとする。 例文、練習問題を読み直し、定動詞の位置を確認する。	30分
3	名詞の性と格変化 疑問代名詞の格変化 数詞(1)		名詞に文法上の性と4つの格変化があることを知る。 文の中で冠詞や名詞がどのように用いられるかを学ぶ。 1～20までの数字を学ぶ。
	この回の到達目標	練習を通して定冠詞の変化を定着させる。	
	事前学修	教科書の説明を読み、英語と比較してみる。	30分
	事後学修	定冠詞、不定冠詞、名詞の格変化の定着につとめる。 教科書添付のCDを聴いて、口頭練習をする。	30分
4	名詞の複数形 定冠詞類と不定冠詞類		冠詞の格変化の復習をする。 冠詞の格変化の応用として冠詞類を学ぶ。 複数形の作り方を学ぶ。
	この回の到達目標	冠詞と冠詞類の関係を知り、格変化を容易にする。 複数形の五つの型を知る。	
	事前学修	英語の複数形を振り返る。	30分
	事後学修	定冠詞、不定冠詞の格変化を確かなものとする。 定冠詞類、不定冠詞類に属している語を確認する。 例にあがっている語の複数形を確認する。	30分
5	動詞の現在人称変化(2) 命令形		規則動詞の現在人称変化を復習する。 規則動詞の現在人称変化の応用、発展として不規則動詞の現在人称変化を学ぶ。 命令文を作る。
	この回の到達目標	不規則動詞を人称変化させる。 三つの形式の命令文を作る。	
	事前学修	規則動詞の現在人称変化を確かめる。 親称、敬称の二人称について復習する。	30分
	事後学修	不規則動詞の幹母音の変化を確認する。 命令文の三つの形式を確認する。	30分
6	人称代名詞の格変化 問題演習(1) 発音練習(1)		人称代名詞の格変化を学ぶ。 人称代名詞の格変化、指示関係に注意しながら文章練習をする。 1課、2課の文法項目を復習する。 発音と綴り字の復習をする。
	この回の到達目標	人称代名詞を格変化させる。 1課、2課の文法項目を確認する。 発音と綴り字の習得を確かめる。	
	事前学修	人称代名詞の1格を確認する。 英語の人称代名詞の使い方を振り返る。	30分
	事後学修	人称代名詞の格変化を確かめる。 教科書添付のCDを聴いて、口頭練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	問題演習(2) 発音演習(2) 数詞(2)		3 課、4 課の文法項目を復習する。 発音と綴り字の復習をする。 21～100までの数字を学ぶ。
	この回の到達目標	3 課、4 課の文法項目を確認する。 発音と綴り字の習得を確かめる。	
	事前学修	3 課、4 課を読み直す。	30分
	事後学修	教科書添付のCDを聴いて、口頭練習をする。	30分
8	前置詞		前置詞の格支配について学ぶ。 例文と練習問題によって主な前置詞の使い方を知る。
	この回の到達目標	格支配に配慮しながら前置詞を用いる。	
	事前学修	冠詞、名詞、代名詞の格変化を復習する。	30分
	事後学修	具体的な用例を読み直し、前置詞の使い方を確認する。	30分
9	話法の助動詞 非人称動詞		話法の助動詞の人称変化を学ぶ。 話法の助動詞を用いた文を作る。 日常的に用いられる非人称表現を練習する。
	この回の到達目標	話法の助動詞を人称変化させる。 話法の助動詞と不定詞の位置を知る。 非人称動詞を用いた文を作る。	
	事前学修	英語の助動詞、非人称表現を振り返る。	30分
	事後学修	話法の助動詞の人称変化を確認する。 例文を読み直し、助動詞を用いた文の語順を確かめる。 es gibt + 4格など、重要な非人称表現を確認する。	30分
10	分離動詞		基礎動詞と前綴りのつながり方を知る。 分離動詞、非分離動詞の辞書での記述を確かめる。 分離動詞が入った文の語順に着目する。
	この回の到達目標	分離動詞を用いた文を読み取る。	
	事前学修	動詞の位置に関して今まで学んだことを復習する。	30分
	事後学修	分離動詞、非分離動詞の基礎動詞、前綴りの扱い方を確認する。	30分
11	接続詞と副文		接続詞の種類を学ぶ。 動詞の位置等に注目して読解訓練をする。
	この回の到達目標	接続詞の種類による語順の違いを理解する。 従属接続詞を伴った副文を読み取る。	
	事前学修	動詞の位置に関して、今まで学んだことを復習する。	30分
	事後学修	例文、練習問題を、接続詞の役割に注意して読み直してみる。	30分
12	再帰動詞		人称代名詞を復習する。 再帰代名詞の3 格と4 格を学ぶ。 再帰動詞を用いた文を読む。
	この回の到達目標	再帰動詞を辞書で調べる。 再帰動詞を用いた文を読み取る。	
	事前学修	人称代名詞を復習する。	30分
	事後学修	再帰代名詞の3 格、4 格を確認する。 再帰動詞の具体的な使い方を熟語表現として練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	動詞の三基本形 過去人称変化		規則動詞、不規則動詞の動詞の三基本形を学ぶ。 辞書や不規則動詞変化表で三基本形の記述を確認する。 過去形を用いた文を読む。
	この回の到達目標	主な動詞の三基本形を作る。 文の現在と過去の時称を動詞から読み取る。	
	事前学修	英語の動詞の三基本形を振り返ってみる。 規則動詞と不規則動詞の現在人称変化を復習する。	30分
	事後学修	規則動詞の三基本形の作り方を確実なものとする。 説明や問題文にある不規則動詞の三基本形を確認する。	30分
14	完了時称		完了の助動詞seinとhabenの使い分けを知る。 語順に注意しながら完了形の文を作る。
	この回の到達目標	完了の助動詞を使い分ける。 完了時称の文を作る。	
	事前学修	英語の完了時称を振り返る。 habenとseinの人称変化を復習する。	30分
	事後学修	語順、用法について英語との違いなどを確認する。	30分
15	読解練習 前期まとめ		文法事項を中心にこれまでの学習を復習する。
	この回の到達目標	読解練習をしながら、前期の文法事項を確かめる。	
	事前学修	前期の学習を振り返ってみる。	30分
	事後学修	重要項目を再度確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aも併せて履修すること。予習は必須。12月にドイツ語検定4級を推奨する。

【授業方法】
発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を演習形式で行う。確認小テスト・単語テストを適宜実施する。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。独和辞書は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却する。次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子	朝日出版社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Nuメールアドレス

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：ドイツ語圏の国々について	ドイツ語とドイツ語圏の国々、授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語を話す国や地域についてを理解し、説明することができる。授業の全体的な方針を理解することができる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。	30分
2	ドイツ語のつづり字と母音の発音	ドイツ語の母音のつづり字と発音の関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベット、発音の規則、母音の読み方を理解し、教科書の単語を発音することができる。	
	事前学修	ドイツ語のアルファベットと英語のアルファベットの違いを確認してくる。	30分
	事後学修	アルファベット、単語のアクセント位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
3	ドイツ語のつづり字と子音の発音	ドイツ語の子音つづり字と発音の関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、子音の読み方を理解し、教科書の単語と挨拶表現を発音することができる。	
	事前学修	ローマ字読みで読める単語を読む練習をしてくる。	30分
	事後学修	子音のつづり字の発音、挨拶表現、単語をの発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
4	動詞〔規則動詞〕の変化	Lektion 1 動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。動詞の辞書の引き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主語になる代名詞、動詞の変化、動詞の辞書の引き方について理解し、簡単な文を作ることができる。	
	事前学修	教科書の単語を読む練習をしてくる。	30分
	事後学修	主語になる代名詞と動詞の変化と位置を復習し、確実に覚えること。	30分
5	動詞の位置	平叙文・疑問文の動詞の位置、重要動詞の現在人称変化、疑問詞について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平叙文・疑問文の動詞の位置について理解し、簡単な文を作ることができる。	
	事前学修	seinとhabenの変化と疑問詞を発音練習をしてくる。	30分
	事後学修	seinとhabenの変化と疑問詞を復習し、確実に覚えること。	30分
6	自己紹介ーはじめましてー：講読	会話文を音読し、訳を行う。自己紹介の表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の変化について理解し、学習した単語を用いて自分について表現することができる。	
	事前学修	会話文を音読練習をしておく。	30分
	事後学修	重要表現練習を復習し、需要動詞を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	名詞の性・数・格	Lektion 2 名詞の〔性・数・格〕、定冠詞、不定冠詞、疑問代名詞について学習する。格の用法、名詞の辞書の引き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、格の用法、名詞の辞書の引き方、疑問代名詞について理解し、説明することができる。	
	事前学修	会話文の名詞を辞書で調べてくること。ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認してくること。	30分
	事後学修	定冠詞、不定冠詞の格変化を確実に覚えること。格の用法について復習してくること。	30分
8	職業は何ですか：講読	会話文を音読し、訳を行う。職業と専攻名を表現する練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問詞を使った疑問文について理解し、学習した単語を用いて自分について表現することができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	テキストの重要表現と単語を復習すること。	30分
9	不規則動詞の変化、命令形	Lektion 3 動詞〔不規則動詞〕の変化、命令形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不規則動詞の変化、命令形について理解し、学習した単語を用いて自分の好きなこと表現することができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	不規則動詞の変化を確実に覚えること。命令形を復習すること。	30分
10	趣味は何？：講読	会話文の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。代名詞の変化、非人称のesについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人称代名詞の変化、非人称表現について理解し、学習した単語を用いて自分の趣味について表現することができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	代名詞の変化を確実に覚えること。非人称のesを使った表現を復習すること。	30分
11	様々な冠詞類について	Lektion 4 定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞の使い方、否定文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、定冠詞類、所有冠詞、否定冠詞の使い方を理解し、冠詞類を用いた文を作ることができる。	
	事前学修	名詞を辞書で調べて、複数形を調べてくること。	30分
	事後学修	所有冠詞を確実に覚えること。	30分
12	パン屋で買い物：講読	会話文の発音練習と訳を行う。買い物の時の表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、否定文の作り方と疑問文の答え方について理解し、買い物で使う基本表現を使いこなせることができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現を復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsches Brot: 講読	テキストP81 の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、冠詞の種類と格変化を確認しながら、テキストを訳することができる。	
	事前学修	テキストの発音練習をしていくこと。冠詞の種類と格変化を確認しながら、辞書を使用し訳をしていくこと。	30分
	事後学修	テキストの重要表現と単語を復習すること。	30分
14	重要表現の復習	練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期学習した文法事項の問題を解答できる。	
	事前学修	前期学習した文法と重要表現を復習してくる。	40分
	事後学修	出来なかった箇所を復習する。重要表現と単語を覚える。	40分
15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞類と代名詞の変化について説明し、自分や身近な人について学習した単語を用いて表現することができる。	
	事前学修	今までの重要表現練習と重要単語を総復習する。	50分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音、基本文法を確認しながら、テキストを講読し、確認のための小テストを適宜行う演習方式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00~14:30に、事前に以下のアドレスでアポイントを取った上受け付ける。kawashima.masayuki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介。ドイツ語のアルファベットを学ぶ。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解し、ドイツ語のアルファベットを知ることができる。	
	事前学修	ドイツと言え何を連想するか考えておくこと。	30分
	事後学修	授業で触れた事柄をまとめておくこと。	30分
2	発音	子音、母音、単語の発音	
	この回の到達目標	単語の発音の仕方を理解できる。	
	事前学修	テキストのvi頁からx頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。	30分
3	規則動詞	規則動詞の現在人称変化の構造と語順	
	この回の到達目標	規則動詞の現在人称変化の仕方を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキストのxi頁から6頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	冠詞と名詞	冠詞と名詞の構造と格の語順と用法	
	この回の到達目標	冠詞と名詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキストの7頁の設問に回答し、8頁を訳出しておくこと。また9頁から13頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	不規則動詞と命令形	不規則動詞と命令形の形態と用法	
	この回の到達目標	不規則動詞の形態と命令形の形態と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト14頁の設問に回答し、15頁を訳出しておくこと。またテキスト16頁から19頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の意味と用法	
	この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト20頁の設問に回答し、21頁を訳出しておくこと。またテキスト22頁から25頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	前置詞		前置詞の用法と格支配	
	この回の到達目標	前置詞の用法と格支配を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。		
	事前学修	テキスト26頁の設問に回答し、27頁を訳出しておくこと。またテキスト28頁から32頁に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。		30分
8	副文		副文の構造と用法	
	この回の到達目標	副文の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。		
	事前学修	テキスト32頁から34頁に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。		30分
9	話法の助動詞		話法の助動詞の形態と用法	
	この回の到達目標	話法の助動詞の形態と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。		
	事前学修	テキスト35頁の設問に回答し、36頁を訳出しておくこと。またテキスト37頁から39頁に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。		30分
10	複合動詞		複合動詞の前綴りと複合動詞の用法	
	この回の到達目標	複合動詞の構造と用法を理解できる。		
	事前学修	テキスト40頁の設問に回答し、41頁を訳出しておくこと。またテキスト42頁から44頁に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。		30分
11	再帰動詞と非人称動詞		再帰動詞と非人称動詞の構造と用法	
	この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。		
	事前学修	テキスト44頁から46頁に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。		30分
12	形容詞		形容詞の用法と比較用法	
	この回の到達目標	形容詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。		
	事前学修	テキスト47頁の設問に回答し、48頁を訳出しておくこと。またテキスト49頁から53頁に目を通しておくこと。		30分
	事後学修	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	映像教材によるドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴	
	この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、まとまった感想をまとめることができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、十分に理解できていない点があれば質問できるように準備すること。	30分
	事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
14	振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認することができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
	事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を再確認すること。	30分
15	到達度の確認と動詞の3基本形	授業内試験の解答と動詞の3基本形について	
	この回の到達目標	到達度を確認し、今後の対策を検討することができる。動詞の3基本形の構造を理解できる。	
	事前学修	テキスト57頁に目を通しておくこと	30分
	事後学修	不備が確認できた場合は、それを補うこと。理解した動詞の3基本形の実例を記憶すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等	到達目標①、②、③、④が身についているかを、各課におけるレポートにより評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『希望のドイツ語』	小塩 節	朝日出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日8:50～10:40 月曜日4:20～5:50 kawajiri.tatsuaki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス アルファベート	授業の進め方、辞書の選び方について説明する。ドイツ語やドイツ語圏についておおまかなアウトラインを理解する。アルファベートの発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、アルファベートを正しく発音できる。	
	事前学修	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。	30分
	事後学修	アルファベートを暗記して発音できるようにすること。	30分
2	ドイツ語の発音	特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、簡単な挨拶を発音できる。	
	事前学修	教科書2，3ページの単語をCDを聞きながら発音してみること。	30分
	事後学修	ローマ字読みできない複母音を特に練習すること。	30分
3	第1課 動詞の人称変化および語順について	平叙文では主語がつねに文頭に来るわけではないことを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、決定疑問文・疑問詞疑問文を作ることができる。	
	事前学修	教科書4ページのテキストを音読しておくこと。	30分
	事後学修	教科書6ページの練習問題で動詞の人称変化に習熟すること。	30分
4	第1課 読章 「私たちはドイツ語を学ぶ」	定動詞の位置に注意しつつテキストを読み、ドイツ語の語順に習熟する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、簡単な自己紹介ができる。また、相手に尋ねることができる。	
	事前学修	教科書4ページを定動詞の位置に注意しながら予習してくること。	30分
	事後学修	【事後学習】不定代名詞manの用法を復習すること。	30分
5	第2課 名詞の姓・格、冠詞の変化、複数形	名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、「Was (Wer) ist ～ ? Das ist ～ .」の構文を使い、人や物を紹介できる。	
	事前学修	教科書8ページのテキストを音読しておくこと。	30分
	事後学修	【事後学習】教科書10ページの練習問題で動詞の人称変化を復習しておくこと。	30分
6	第2課 読章 「朝食」	不規則動詞の辞書での調べ方を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格の意味を理解し、格変化できる。	
	事前学修	教科書8ページを予習してくること。名詞は意味だけでなく性別も調べておくこと。	30分
	事後学修	定冠詞・不定冠詞の使い分けを整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3課 冠詞類、人称代名詞の格変化	定冠詞類・不定冠詞類の意味および語尾変化を学修する。welcherの用法に習熟する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、任意の名詞を受ける際に正しい人称代名詞を選ぶことができる。	
	事前学修	格の概念について整理しておくこと。	30分
	事後学修	教科書10ページの練習問題で冠詞類の変化に慣れておくこと。	30分
8	第3課 読章 「労働時間」	変則的な語尾変化の動詞を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、否定詞 nicht と kein を使い分けることができる。	
	事前学修	教科書12ページを予習してくる。名詞は性・数・格も調べておくこと。	30分
	事後学修	動詞が特定の格の目的語をとることを理解する。	30分
9	第4課 前置詞	前置詞は4種類あり、それぞれ特定の格を支配することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、適切に使うことができる。	
	事前学修	2、3課の冠詞類の格変化を今一度確認しておくこと。	30分
	事後学修	よく出てくる前置詞と定冠詞の融合形を覚えること。	30分
10	第4課 命令法	命令形は相手に応じて3種類の使い分けがあることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、3種類の命令形を理解し、適切に使うことができる。	
	事前学修	動詞の人称変化、特にe→i (e) 型の不規則動詞を復習しておくこと。	30分
	事後学修	教科書19ページの練習問題で命令法に慣れること。	30分
11	第4課 読章 「ドイツー森の国」	前置詞の多様な意味を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の不定詞句から3種類の命令文を作ることができる。	
	事前学修	教科書16ページを予習してくる。3・4格支配の前置詞の場合は、名詞が何格なのかを意識すること。	30分
	事後学修	3・4格支配の前置詞の3、4格の使い分けを復習しておくこと。	30分
12	第5課 形容詞の用法、付加語形容詞の語尾変化	名詞を修飾する場合、形容詞には述語的、付加語的という2つの用法があることを学修する。また、形容詞は副詞としても使われることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、述語的用法と付加語的用法の違いを理解する。よく使われる形容詞を用いて、人や事物の性質・状態を説明できる。	
	事前学修	形容詞の語尾変化表と2、3課の格変化表を見比べておくこと。	30分
	事後学修	教科書22ページの練習問題を解いておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課 読章 「菩提樹」	名詞の複数形や付加語形容詞等の辞書の引き方に習熟する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、付加語形容詞に適切な語尾を付けることができる。	
	事前学修	教科書20ページを予習してくる。付加語形容詞や名詞の複数形はそのままでは辞書に載っていないので、語尾をとって調べる。	30分
	事後学修	名詞の複数形から単数形を導き出すことに慣れておく。	30分
14	第6課 形容詞の名詞化、形容詞の比較変化	形容詞を名詞化する方法とその用法、特に多用される中性名詞化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、比較の構文を使い簡単な作文ができる。	
	事前学修	付加語形容詞の語尾変化を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書26ページの練習問題を解いておく。比較の種々の用法を整理しておく。	30分
15	第6課 読章 「整頓好き」	比較の様々な用法について学修する。基数詞を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基数詞を使い簡単な計算ができる。	
	事前学修	教科書24ページを予習してくる。形容詞の比較級・最上級が付加語で使われるときは語尾が2種類付くので注意すること。	30分
	事後学修	基数詞の発音、つづりを練習しておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
火曜4時限目ドイツ語基礎文法A(真道)を同時に受講すること。授業に積極的に参加すること。火曜4時限目ドイツ語基礎文法A(真道)に登録すると、自動的に本授業に登録されます。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ペア・ワーク、グループワーク形式で実践的なトレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で課題ごとに随時フィードバックを行います。試験については後日ポータルで講評します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書については、初回授業で説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定試験の国際ライセンスの知識と技能を生かして、実践的かつ効果的にA1からA2のドイツ語能力を養成します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能について、検定試験についての説明 教材についての説明	
	この回の到達目標	学修目標について説明することができる。	
	事前学修	シラバス確認	30分
	事後学修	教材準備	30分
2	Start auf Deutsch	ドイツ語と英語の類似点から類推する コンテキストで意味を類推する	
	この回の到達目標	ドイツ語と英語の類似点からドイツ語の単語の意味を類推することができる。 コンテキストで意味を類推することができる。（SB0s①②）	
	事前学修	CD確認 アルファベート予習	30分
	事後学修	アルファベート・発音復習 -語彙習得	30分
3	Lektion 1 Café d1	カフェでの会話	
	この回の到達目標	カフェでの会話を聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	文法事項・表現確認	30分
	事後学修	Lektion 1練習問題・語彙習得	30分
4	Lektion 2 Sprachkurs 1	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現 1	
	この回の到達目標	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備	30分
	事後学修	Lektion 2 練習問題・語彙習得	30分
5	Lektion 2 Im Sprachkurs 2	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現2	
	この回の到達目標	ドイツ語の講座を受講するのに必要な表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	会話練習	30分
	事後学修	Lektion 2 練習問題・語彙習得	30分
6	Lektion 3 Städte - Länder - Sprachen 1	街・国・言語についての表現 1	
	この回の到達目標	街・国・言語についての表現理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 3 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 2	街・国・言語についての表現 2	
	この回の到達目標	街・国・言語についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 3 練習問題・語彙習得	30分
8	Lektion 4 Menschen und Häuser 1	人と住まいについての表現 1	
	この回の到達目標	人と住まいについての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 4 練習問題・語彙習得	30分
9	Lektion 4 Menschen und Häuser 2	人と住まいについての表現 2	
	この回の到達目標	人と住まいについての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 4 練習問題・語彙習得	30分
10	Lektion 5 Termine 1	アポイントメントについての表現 1	
	この回の到達目標	アポイントメントについての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得	30分
11	Lektion 5 Termine 2	アポイントメントについての表現 2	
	この回の到達目標	アポイントメントについての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 5 練習問題・語彙習得	30分
12	6 Orientierung 1	道案内についての表現 1	
	この回の到達目標	道案内についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 6 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	6 Orientierung 2	道案内についての表現 2	
	この回の到達目標	道案内についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 6 練習問題・語彙習得	30分
14	筆記試験・振り返り	A1レベルの試験	
	この回の到達目標	これまで学んだ3技能を場面に合わせて運用できる。	
	事前学修	試験準備	120分
	事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分
15	口述試験・まとめ	A1レベルの試験	
	この回の到達目標	これまで学んできた会話の技能を場面に合わせて運用できる。	
	事前学修	試験準備	60分
	事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習(練習問題)をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、あるいはポータルシステム等を利用して行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プレーミエ ドイツ語総合読本【改訂版】	神竹道士	白水社	2021	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
遠隔授業ではメール（suzuki.mitsuru11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【ドイツ語の全体像】	前期ガイダンス 文字と発音	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の準備段階であり、文字（綴り）と発音（発音記号）との関係性を説明できる。	
	事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める。	30分
	事後学修	文字と発音の復習	30分
2	【単語と挨拶】	発音・単語	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、まず基本単語を読むことができる。	
	事前学修	CD・ネット等でドイツ語の発音を聞いてみる。	10分
	事後学修	授業1回目～2回目の復習	50分
3	【動詞の現在人称変化】	規則変化、主語になる人称代名詞、動詞 sein、疑問文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、動詞の基本変化とそれにもなう事項を説明できる。	
	事前学修	授業1回目～2回目の復習	15分
	事後学修	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
4	【名詞の性数格】	名詞の性、冠詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、格変化の概略を説明することができる。	
	事前学修	授業1回目～3回目の復習	15分
	事後学修	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
5	【冠詞】	動詞 haben、補足疑問文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、冠詞の変化を中心に格変化ができる。	
	事前学修	授業1回目～4回目の復習	15分
	事後学修	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
6	【名詞の複数形】	名詞の複数形	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、名詞の複数形を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～5回目の復習	15分
	事後学修	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【冠詞類】	定冠詞類・不定冠詞類、否定文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、定冠詞（類）・不定冠詞（類）の変化を表にすることができる。	
	事前学修	授業1回目～6回目の復習	15分
	事後学修	7回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
8	【不規則変化動詞】	動詞 haben、補足疑問文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、不規則変化動詞の活用ができる。	
	事前学修	授業1回目～7回目の復習	15分
	事後学修	8回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
9	【命令文】	命令、勧誘	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、命令・勧誘表現ができる。	
	事前学修	授業1回目～8回目の復習	15分
	事後学修	9回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
10	【人称代名詞の格】	人称代名詞の格変化	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、人称代名詞を格変化表が理解できる。	
	事前学修	授業1回目～9回目の復習	15分
	事後学修	10回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
11	【前置詞】	前置詞の格支配	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、前置詞の目的語の格変化ができる。	
	事前学修	授業1回目～10回目の復習	15分
	事後学修	11回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
12	【話法の助動詞】	話法の助動詞の意味と語順、並列接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、話法の助動詞を使った文を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～11回目の復習	15分
	事後学修	12回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【未来の助動詞】	ドイツ語の未来形、zu 不定詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ドイツ語で未来形を作った理由を説明できる。	
	事前学修	授業 1 回目～1 2 回目の復習	15分
	事後学修	1 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
14	【形容詞の格変化】	形容詞の用法と格変化	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、変化表を使って形容詞の格変化をさせることができる。	
	事前学修	授業 1 回目～1 3 回目の復習	15分
	事後学修	1 4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
15	【形容詞の名詞化】	名詞として使われる形容詞、序数詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、形容詞を名詞化させる理由を理解し、変化させることができる。	
	事前学修	授業 1 回目～1 4 回目の復習	15分
	事後学修	1 5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。前もって予習用プリントを配布。常時、教科書と独和辞典を使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却、授業内試験については、後日、フィードバックの解説・講評をポータルサイトにより配信。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィール・シュパース！(4訂版)	橋本政義、ハイク・ピナウ、他	郁文堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で。あるいはmiura.mikiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【発音の基礎】【挨拶の表現】	ガイダンス（授業の進め方、独和辞典等についての説明）、それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。アルファベットと発音の基礎、挨拶表現を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、発音の基礎を理解して、教科書5頁の文章を正しい発音で読み、文を理解することができる。	
	事前学修	シラバスと教科書1頁のアルファベット、第1課「こんにちは」の5頁を読んで準備する。	30分
	事後学修	1頁と5頁の文を音読して、正しい発音を身につける練習をする。	30分
2	【動詞の現在人称変化】	動詞の現在人称変化とその位置の決まりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、動詞の現在人称変化について理解し、日常生活を表す簡単な文を作ることができる。	
	事前学修	6頁と7頁の問題を解いて準備する。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、教科書にあるwohnen、sein、habenの変化表を暗記する。	30分
3	【自己紹介】	お互いに自己紹介するシーンを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、コミュニケーションの第1歩である挨拶表現を身につけ、相手の言っていることを理解し、自己紹介をすることができる。	
	事前学修	8頁のシーンを読んで準備する。	30分
	事後学修	8ページの挨拶表現を暗記し、自己紹介する文を5文作る。	30分
4	【名詞の性と格】【定冠詞と不定冠詞の違い】	名詞には男性・女性・中性の性別があり、文中での働きによって1・2・3・4格の区別があること、定冠詞と不定冠詞縫ついて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、格について理解し、文中の名詞の性別と格を指摘し、辞書で引いた名詞にはその性別と格に応じて、正しい冠詞をつけることができる。	
	事前学修	第2課「サッカー・ワールドカップ」の10～11頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
5	【サッカー・ワールドカップ】	まとまった文章中で、動詞と名詞に注目して、文の構造を理解することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、冠詞の用法と名詞の複数形について理解し、それらが用いられている文の解釈をすることができる	
	事前学修	予習プリントを参考に、独和辞典を引いて、9頁の文章を読んで準備する。	35分
	事後学修	9頁の文中で使われている冠詞を指摘し、その格を確認する。10頁と11頁にある定冠詞と不定冠詞の格変化表を暗記する。	25分
6	【郵便局で】	数詞、国名、料金のききかたについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、数字を使って、郵便料金と郵便物を出す宛先の国名を言い、料金を聞き取ることができる。	
	事前学修	12～13頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	数詞を音読し、パートナーを見つけて13頁の会話文を練習する。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【不規則変化の動詞】 【分離動詞】	現在形で不規則に変化する動詞と実際の文章で別れる「分離動詞」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、現在形で不規則に変化する動詞と分離動詞について理解し、それらを辞書で調べることができ、それらを用いた文を作ることができる。	
	事前学修	第3課「ケーキ」の15～16頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。15頁にある不規則動詞の変化を暗記する。	25分
8	【ケーキ】 【レストランで注文】	ドイツのカフェやレストラン事情と注文の仕方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツの食文化を理解して説明することができ、カフェやレストランで注文することができる。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、14頁と17頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	パートナーと17頁の会話を練習する。	20分
9	【前置詞】 【人称代名詞】	前置詞の意味と「格支配」、人称代名詞の格変化を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、前置詞と人称代名詞について理解し、それらを使って文を作ることができる。	
	事前学修	第4課「パン」の19～20頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。20頁にある人称代名詞の変化表を暗記する。	25分
10	【パンの文化】	ドイツ人の食生活について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツのパンと人々の食生活の関係について理解し、説明することができる。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、18頁と21頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	日本とドイツの食習慣の違いについてまとめる。	20分
11	【さまざまな冠詞】 【名詞に付ける形容詞】	定冠詞・不定冠詞以外の冠詞と、名詞に付ける形容詞の語尾について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いろいろある冠詞類の意味を区別して、使い方を理解し、正しく発音することができる。	
	事前学修	第5課「メーアヒェン」の23頁と24頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。23頁にあるdieserとmeinの変化表を暗記する。	25分
12	【有名なメーアヒェン】 【プレゼントへのコメント】	1文が長い場合の文章理解の仕方について、および、自分の意見を表現する方法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、相手に意見を求めるコミュニケーションのパターンを身につけて、使うことができる。グリムや童話について理解し、説明することができる。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、22頁と25頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	グリム兄弟はどういう仕事をしたのかをまとめ、「ホレおばさん」や「ラップンツェル」などの童話のあらすじを調べてみる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【話法の助動詞】【形容詞の比較変化】	話法の助動詞の意味と変化と構文のついて、おろび、形容詞原級・比較級・最上級について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、話法の助動詞構文と形容詞の比較変化について理解し、これらを用いた文を作ることができる。	
	事前学修	第6課「運転に気をつけて！」の27～28頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。27頁の変化表を暗記し、27頁と28頁の例文を音読して、正しい発音を身につける。	25分
14	【アオトバーンと教習所】	複合名詞の辞書での調べ方とその発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、複合語を正しく発音して意味をつかむことを理解し、アオトバーン事情とドイツでの運転免許証の取り方とについて説明することができる。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、26頁と29～30頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	26頁と30頁を音読する。この回のテーマについて、ドイツと日本で違う点をまとめる。	20分
15	【振り返り】【授業内試験】	前学期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の全般に関し、どの程度身についたかを授業内試験によって判断する。	
	事前学修	前学期での学習内容を総復習して、理解してないところはないかどうか確認する。。	120分
	事後学修	授業内試験で正答を出せなかった箇所に関し、教科書やノートを調べて再検討する。	20分

科目名	ドイツ語基礎表現A(水曜5時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
月曜4限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」と同時に履修すること。抽選の際には、私の授業に登録すること(渡辺先生の授業にも自動登録される)。授業の進度が早いため、その覚悟で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、問題練習(独検過去問を含む)等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール(三訂版)	上野成利ほか	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義、アルファベット	今後の学習についての概要を説明する。アルファベットを練習する。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、アルファベットを身につけることができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書を購入した人はひととおり目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第2回の授業までに教科書を準備しておくこと。教科書にひととおり目を通しておくこと。	30分
2	挨拶表現、発音、数詞	簡単な挨拶表現を説明する。数字についても、きちんと読めて覚えることを目指す。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、基本的に挨拶と数字を言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書を持参して授業に参加すること。学習事項を前もって少し予習しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
3	出会いと自己紹介(動詞の現在人称変化)	動詞の現在人称変化について解説する。関連する会話文を読む。自己紹介の基本的な表現を説明する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の現在人称変化を説明することができる。関連する問題を解くことができる。自己紹介をすることができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
4	家族について尋ねる(名詞の性/冠詞の格変化)	名詞の性/冠詞の格変化について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動名詞の性/冠詞の格変化を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
5	明日の予定を尋ねる(不規則変化動詞/命令形)	不規則変化動詞/命令形について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞/命令形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
6	これまでの復習	これまでの学習事項の要点を解説する。関連する会話文や練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまでの学習事項の要点を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	買い物に行く(1)(定冠詞類・不定冠詞類)	定冠詞類・不定冠詞類について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、定冠詞類・不定冠詞類を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
8	買い物に行く(2)(複数形/人使用代名詞)	複数形/人使用代名詞について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、複数形/人使用代名詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
9	週末の予定を尋ねる(前置詞の格支配)	前置詞の格支配について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞の格支配を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
10	独検模試(5級)の実施と解説	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
11	趣味について尋ねる(形容詞の格変化)	形容詞の格変化について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、形容詞の格変化を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
12	昼食を食べに行く(話法の助動詞/未来形)	話法の助動詞/未来形について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞/未来形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの復習	これまでの学習事項の要点を解説する。関連する会話文を読み、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまでの学習事項の要点を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
14	理解度の確認、前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、筆記試験を解くことができる。	
	事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検4級受験のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項についてあらためて全体像を見直し、弱点を把握しその対策を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A(水曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
・1年生は、今年度のうちに、「ドイツ語基礎文法」も履修すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則として、この授業はドイツ語基礎表現Bと通年で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読や問題練習(独検過去問を含む)を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
イン・ドイチュラントドイツ語インフォメーション 映像付-	秋田静雄ほか	朝日出版社	2016年	教科書	必携
新・独検合格単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義、アルファベート	今後の学習についての概要を説明する。アルファベートを練習する。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、アルファベートを身につけることができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書を購入した人はひととおり目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第2回の授業までに教科書を準備し、教科書の全体に目を通しておくこと。	30分
2	つづりと発音、第0課 ドイツ語のあいさつ、数詞①	簡単な挨拶表現を説明する。数字についても、きちんと読めて覚えることを目指す。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、基本的に挨拶と数字を言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	教科書を準備して授業に参加すること。アルファベートが言えるように、音声教材を活用して練習してくること。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
3	第1課 導入の会話、人称代名詞、動詞の現在人称変化、数詞②	導入の会話を通して、人称代名詞、さらに動詞の人称変化について学習する。数字も引き続き言えるものを増やしてゆく。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、人称代名詞、動詞の人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
4	第1課 sein、疑問詞、数詞③	英語のbe動詞に相当する動詞seinの人称変化を解説し、関連する練習問題を解く。引き続き、数字も練習する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞seinの人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
5	第2課 導入の会話、haben、名詞の性、数詞④⑤⑥⑦	動詞habenの人称変化を解説し、関連する練習問題を解く。引き続き、数字も練習する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞habenの人称変化を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
6	第2課 語順、決定疑問文と答え方、数詞の復習	ドイツ語の語順に関する法則と疑問文の作り方について解説し、関連する練習問題を解く。数字も、100まで言えるようにする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語の語順に関する法則と疑問文の作り方を説明することができる。数字を100まで言うことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3課 導入の会話、定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
8	第3課 数詞、並列の接続詞、第4課 導入の会話	数詞、並列の接続詞について解説し、関連する練習問題を解く。4課の導入の会話を通じて、次の授業のポイントを説明する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、数詞、並列の接続詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
9	第4課 不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞	不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
10	第5課 導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(1)、名詞の3格、人を表す疑問代名詞	不規則変化動詞、3格の用例、疑問代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、3格の用例、疑問代名詞を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
11	独検(5級) 模試の実施と解説	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
12	第6課 導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(2)、人称代名詞、非人称のes	導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(2)、人称代名詞、非人称のesについて解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在人称変化の不規則な動詞、人称代名詞、非人称のesについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの復習	次回の試験に向けて、前期の学習内容を一通り復習する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握してその対策を説明することができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
14	理解度の確認、前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、筆記試験を解くことができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	前期の内容の総復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検4級受験のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項についてあらためて全体像を見直し、弱点を把握しその対策を説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習を復習すること。	30分
	事後学修	理解が十分でなかったところを中心に、復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
全回を通し、A 1-1レベルのドイツ語を習得するために必要な表現練習を行う。特に「やりとり」する能力に重点を置く。わかりやすい丁寧な説明を心がけ、一方的な講義ではなく履修者のみなさんとコミュニケーションを取りながら、疑問点を積み残すことのないように進める。練習問題や会話練習を通して、理解度が高まるようにする。失敗を恐れず、積極的にドイツ語を使うことで、間違いに気づき上達を試みる。また、母国語や既習言語との比較をしながら、ドイツ語と比較し異文化理解も深める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークを通し、能動的な学修を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Supergut! コミュニケーションツールとしてのドイツ語をいっしょに学ぼう！[改訂版]	小笠原藤子・永井千鶴子	三修社	2021	教科書	必携
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道杉他	三修社	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後に可能ですが、あらかじめメールで連絡をとること。ogasawara.fujiko@nihon-un.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		試験官として培った知識をもとに、A1, A2レベルの効率的、実践的なドイツ語能力を養成する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入 (Einstiegsphase)	授業の内容紹介および進め方、評価方法の説明	
	この回の到達目標	授業の進め方を理解し、自分の言語知識などを客観的に把握する	
	事前学修	シラバスを読んでおく	30分
	事後学修	教科書の準備	30分
2	Lektion 1 Guten Tag!	ドイツ語の発音を学びながら、挨拶と数を学習する	
	この回の到達目標	挨拶を覚え、数字を言えるようになる。	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	Lektion 1	自己紹介：名前や出身や居住地を言えるようにする	
	この回の到達目標	簡単な自己紹介ができる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	Lektion 2 Wer ist das?	体調の表現	
	この回の到達目標	体調を表現できる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	Lektion 2	友達の紹介：三人称の表現を学ぶ	
	この回の到達目標	友達を紹介できるようになる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
6	Lektion 3 Was machst du gern?	趣味を表現する	
	この回の到達目標	趣味を表現することができるようになる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3	du とSie、言語の表現を学ぶ	
	この回の到達目標	二人称duとSieの使い分けができる、自分の話せる言語の程度を表現できる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	Lektion 4 Das ist meine Familie.	家族に関する単語を覚え、三人称の表現を学ぶ	
	この回の到達目標	家族に関する単語を覚える	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
9	Lektion 4	家族紹介の表現を学ぶ	
	この回の到達目標	家族の年齢や趣味、仕事や性格を話したり書いたりできる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
10	Lektion 5 Einkaufen im Laden	買い物に必要な名詞を学び、複数形を学ぶ	
	この回の到達目標	買い物に必要な表現を覚える	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	Lektion 5	買い物の表現を学ぶ	
	この回の到達目標	買い物のやりとりができる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	Lektion 6 Machen wir einen Termin!	時間の表現を学ぶ	
	この回の到達目標	時間を言うことができる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 6	約束の表現を学ぶ	
	この回の到達目標	約束をし、待ち合わせの場所や時間を決めることができる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	30分
14	前期まとめ	前期の語彙、表現の復習 (前期のまとめは、3課が終わった時点で一度入れることもある)	
	この回の到達目標	前期の表現を確認し、使うことができる	
	事前学修	該当ページを読んでおく	60分
	事後学修	授業の復習	30分
15	前期確認・振り返り	前期の内容を確認する	
	この回の到達目標	前期の内容の不明点をなくす	
	事前学修	既習内容を確認し、今後の学習計画を立てる	60分
	事後学修	前期の振り返り	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	岡本 奈穂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aも併せて履修すること。また、この授業を通年で履修すること。

【授業方法】		
オンラインでの同時双方向型（Zoom）授業を中心に、パワーポイント教材や発音練習・チェック教材を併用して進めます（状況に応じて、一部、対面授業を行う可能性があります）。 毎回の授業で、その日に学習した文章についての確認テストを行います。 また、小テストとしてドイツ語のプレゼンテーション（2回）を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業では、実際に声を出して発音や会話の練習を行うなど積極的な参加を必須とします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る						1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する						1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする						1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する						1			1	1		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問等のフィードバックは原則として授業中に行います。課題は採点（添削）後に返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタート！ベーシック コミュニケーション活動で学ドイツ語	藤原三枝子他	三修社	2015	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考	独和辞典は、『アクセス独和辞典』三修社、『アポロン独和辞典』同学社、『クラウン独和辞典』三省堂のいずれかをおすすめします。				

【オフィスアワー】
月曜日18:00～（要事前連絡） ecna80113@g.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス ドイツ&ドイツ語入門	授業計画、成績評価、授業に関する諸注意・準備等について説明する。 現代ドイツとドイツ語の概要を学習する。	
	この回の到達目標	授業計画、成績評価、授業に関する諸注意・準備等について理解し、今後の授業の準備をスムーズに行うことができる。また、到達目標①に関連して、ゆっくりとしたテンポで基本的なドイツ語を聞き取ったり発音したりすることができる。	
	事前学修	パワーポイント教材を事前に読んでおくこと。	30分
	事後学修	発音練習・チェック教材の準備をしておくこと。	30分
2	発音（母音）	アルファベート、発音の原則、母音の読み方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語のアルファベートやドイツ語の単語を聞き取ったり発音したりすることができる。	
	事前学修	教科書P.6を事前に読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
3	発音（子音）	子音の読み方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語の単語を聞き取ったり発音したりすることができる。	
	事前学修	教科書P.7を事前に読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
4	Lektion 1：挨拶、国名と都市名	挨拶や国名・都市名を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ドイツ語で挨拶をしたり、単語を聞き取ったり発音したりすることができる。	
	事前学修	教科書P.8-9を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
5	Lektion 1：自己紹介	自己紹介（名前、出身地、専攻、居住地など）の会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、出身地、専攻、居住地などドイツ語で自己紹介することができる。	
	事前学修	教科書P.9-11を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
6	Lektion 1：相手に尋ねる、Ja/Nein	相手に名前、出身地、専攻、居住地などを尋ねる会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相手に名前、出身地、専攻、居住地などを尋ねることができる。質問に対して、“Ja”または“Nein”で答えることができる。	
	事前学修	P.12-13を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 1：他者紹介	他者紹介（名前，出身地，専攻，居住地など）の会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，名前，出身地，専攻，居住地などドイツ語で他者を紹介することができる。	
	事前学修	教科書P. 15を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
8	Lektion 1：体調	体調について話したり尋ねたりする会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，ドイツ語で体調について話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 17を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
9	プレゼンテーション（1）	これまで学んだ表現を使って，プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，ドイツ語で簡単なプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの内容を練習しておくこと。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの内容を復習しておくこと。	30分
10	Lektion 2：趣味（1）	趣味について話したり尋ねたりする（ich, Sieの）会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，“ich”や“Sie”を使って趣味について話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 20-21を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
11	Lektion 2：趣味（2）	趣味について話したり尋ねたりする（er, sieの）会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，“er”や“sie”を使って趣味について話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 22-23を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
12	Lektion 2：数字	1-100までの数字を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，1-100までの数字をドイツ語で言ったり聞いたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 25を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 2：申込用紙	名前、住所、電話番号、年齢、職業について話したり尋ねたりする会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、住所、電話番号、年齢、職業についてドイツ語で話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 24-25を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
14	プレゼンテーション（2）	これまで学んだ表現を使って、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語で簡単なプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの内容を練習しておくこと。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの内容を復習しておくこと。	30分
15	授業内試験と解説	授業内試験と解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本的な表現を聞き取る、単純な文章を理解する、身近な話題について簡単なやり取りをする、自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現することができる。	
	事前学修	これまでに学習した内容をよく復習しておくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	森田 悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
学部の規定による。

【授業方法】
講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題についての講評

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プレーミエ ドイツ語総合読本	神竹、國光、田島	白水社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時ただし、できる限り事前に申し出ること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスとドイツ語とは	ドイツ語学習の意味と広がりを考える	
	この回の到達目標	①に関連してドイツ語の学習についてやさしさと難しさを理解し学習計画を立てることができる。	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）	30分
2	ドイツ語の綴りと発音	発音、綴り字等について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の綴りと発音説明することができる。	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
3	ドイツ語の名詞	名詞の性と格について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の動詞について説明することができる。	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
4	ドイツ語の名詞	名詞の性と格について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の名詞と格そして冠詞について説明できる	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
5	冠詞	冠詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の冠詞について説明できる	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
6	定冠詞・不定冠詞	定冠詞、不定冠詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の冠詞について説明できる	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	動詞		動詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の動詞について説明できる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等を調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
8	動詞		動詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の動詞について説明できる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
9	人称代名詞・前置詞・接続詞		人称代名詞・前置詞・接続詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の人称代名詞・前置詞・接続詞について説明できる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）		30分
10	不規則動詞		不規則動詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の人称代名詞・前置詞・接続詞について説明できる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
11	話法の助動詞		話法の助動詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の話法の助動詞について説明できる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
12	話法の助動詞		話法の助動詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の話法の助動詞について説明できる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	形容詞		形容詞について学修する
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の形容詞について説明できる	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
14	形容詞		形容詞について学修する、これまでの学習を確認する
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語のこれまで学修事柄を確認し評価することができる	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
15	これまでの学習を振り返る		これまでの学習の確認と補充
	この回の到達目標	①②③に関連してこれまで学修したドイツ語の理解を補足し学修事項を確認説明できる	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	河田 一郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、役に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽を聞く時間を設け解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ（改訂版）	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
別枠で、時間を設ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[ガイダンス, 振り返り]	授業の進め方等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語文法の学習方法を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	[ドイツ語の発音について]	ドイツ語の基本的な発音、特有な発音について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
8	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
9	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
10	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
11	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
12	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[ヒアリング練習]	ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験，振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。やむをえぬ事由で欠席が複数回におぶときは、事前か事後に申し出て、指導を受けてください。

【授業方法】
前期教材、ドイツ語基礎表現Aの後半を使用して指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等		5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に確認する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』	ヘルマン・トロール 他	第三書房	2016	教科書	必携
備考	現代のドイツの環境意識をテーマに、やさしくドイツ語を学べます。				

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期試験の結果と前期の復習	前期の復習授業。	
	この回の到達目標	前期学習内容をふまえて、後期の学習の到達点と今後の学習指針をあたえる。	
	事前学修	前期の復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
2	過去時制の文章の訳読1	テキストLektion7 ドイツのお城に泊まる 話法の助動詞	
	この回の到達目標	自力で訳文を作る練習。その成果を発表してもらう。後期からは、プリントによる訳読問題も配布してテキストとあわせて実力を養います。プリントは教場にて配布します。	
	事前学修	単語調べ。（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
3	過去時制の文章の訳読2	テキストLektion7 ドイツのお城に泊まる 名詞の複数形	
	この回の到達目標	自主的に指定の訳読訳文を作り、講義中にその精度を確かめる。各回の分量はそんなに多くはありません。	
	事前学修	単語調べ。（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
4	過去時制の文章の訳読3	テキストLektion8 待ち合わせはどうやって？ 時刻表現・再帰動詞	
	この回の到達目標	時刻表現の習得。日常表現の習得。	
	事前学修	単語調べ。（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
5	過去時制の文章の訳読4	テキストLektion8 待ち合わせはどうやって？	
	この回の到達目標	過去形になれる。規則動詞・不規則動詞の使い分け。	
	事前学修	単語調べ。（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
6	過去時制の文章の訳読6	テキストLektion9 旅行案内所にて 分離／非分離動詞の使い方	
	この回の到達目標	過去時制になれる。同上。動詞のバリエーションを解説。分離・非分離動詞のしくみ。	
	事前学修	単語調べ。（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	現在完了形と、「わたしは～したい」とい表現法。(旅行用語)	テキストLektion9 旅行案内所にて。旅行に必要な表現について。	
	この回の到達目標	実用的表現の取得。かんたんな表現で、知りたいことをたずねる。	
	事前学修	単語調べ。(30分)	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
8	いつ、どこで、だれと？という問いかけと答え。	テキストLektion10 誰と会ったのですか？ 完了表現	
	この回の到達目標	駅や道ばたで案内を乞うときの表現の習得。地図的な用語。都市名や建物、美術館などを使った慣用表現。プリントにて教材を補います。	
	事前学修	単語調べ。(30分)	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
9	完了表現について学ぶ。	テキストLektion10 誰と会ったのですか？ 完了表現(実は現在形のかわりに多用される)	
	この回の到達目標	haben支配sein支配の動詞の識別(簡単です)ですが、ここをおさえないと日常会話で変なことになります。	
	事前学修	単語調べ。(30分)	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
10	書き言葉・話し言葉	テキストLektion11 過去と完了表現のちがい(1) 過去形の基本	
	この回の到達目標	話し言葉は「現在完了」文書は「過去形」で表す基本を習います。	
	事前学修	単語調べ。(30分)	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
11	10課におなじ。	テキストLektion11 過去と完了表現のちがい(2) 過去形の応用 字力で訳文をつくってもらい練習をします。	
	この回の到達目標	文章表現は過去形。会話は現在完了形の原則を意識します。	
	事前学修	単語調べ。(30分)	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分
12	四季折々、一年の季節などカレンダー的表現。	テキストLektion12 冬時間と夏時間 形容詞の比較 付加語的用法	
	この回の到達目標	日常的に使われる時間・季節・行事などの表現を学ぶ。	
	事前学修	単語調べ。(30分)	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	やや上級な表現法。	接続法というもうひとつの動詞の変化（１）	
	この回の到達目標	かんたんな接続法の例文を覚えます。	
	事前学修	単語調べ。（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
14	非現実話法の使い方	接続法というもうひとつの動詞の変化（２）	
	この回の到達目標	非現実話法とは仮定法のこと。典型的な表現で基本をまなびましょう。	
	事前学修	前回までのまとめ学習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）	30分
15	後期試験 まとめ	学期末の教場筆記試験 まとめ、振返り	
	この回の到達目標	試験合格60点以上	
	事前学修	試験準備（60分以上）	60分
	事後学修	試験の反省。（30分）	15分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、文章講読、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法学習、文章講読、問題演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
身につくドイツ語・初級（改訂新版）	前田良三・高木葉子	郁文堂	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義計画 前期の復習	後期の学習を展望する。 前期学んだ文法と発音規則をまとめる。	
	この回の到達目標	前期で学んだ学習内容を振り返り、後期の学習の見通しを得る。	
	事前学修	前期で学んだ語形変化を、人称変化と格変化に分けて復習する。 前期で学んだ語順をまとめる。	30分
	事後学修	重要事項を再度確認する。 CDを用いて口頭練習をする。	30分
2	形容詞の格変化(1)	冠詞の変化を復習する。 形容詞の格変化の成り立ちを知る。	
	この回の到達目標	形容詞の格変化の仕組みを理解する。	
	事前学修	定冠詞、不定冠詞、名詞の格変化(第2課)を復習する。	30分
	事後学修	変化についての基本的な考え方を理解した上で、練習問題の具体例を読み直す。	30分
3	形容詞の格変化(2) 序数詞	形容詞の格変化の練習問題を解く。 序数詞の練習をする。	
	この回の到達目標	格変化した形容詞が含まれる文を作る。 序数詞の作り方を知る。	
	事前学修	形容詞の格変化の復習をする。 基数詞の復習をする。	30分
	事後学修	問題文を読み直し、形容詞の格変化を確かめる。 CDを聴き、序数詞の口頭練習をする。	30分
4	形容詞・副詞の比較変化	形容詞・副詞の比較変化を練習する。 例文によって主な比較表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	主要な比較表現を読み取る。	
	事前学修	英語の形容詞、副詞の比較表現を振り返る。	30分
	事後学修	例文、練習問題の具体例を読み直し、比較表現を確認する。	30分
5	zu不定詞	zu不定詞の用法を例文で学ぶ。 分離動詞のzu不定詞を作る。 他の文成分が入ってzu不定詞句になった場合の語順に着目する。	
	この回の到達目標	zu不定詞を用いた文を読み取る。	
	事前学修	英語のto不定詞の用法を振り返る。	30分
	事後学修	zu不定詞句内の語順、分離動詞のzu不定詞の作り方などを確認する。	30分
6	動作受動 自動詞の受動	werdenとseinの人称変化、過去分詞の作り方を確認する。 受動文の作り方を学ぶ。 werdenの三つの用法をまとめる。	
	この回の到達目標	動作受動の受動文を作る。 自動詞を用いた受動文を作る。 様々な時称の受動文を作る。	
	事前学修	werdenとseinの人称変化を復習する。	30分
	事後学修	例文によって受動文の様々な表現形式を確かめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	状態受動 分詞の用法		状態受動の文を作る。 現在分詞、過去分詞の用法を知る。
	この回の 到達目標	状態受動の文を作る。 分詞が用いられた文を読み取る。	
	事前学修	三基本形の復習をする。 現在分詞、過去分詞を作り方を確認する。	30分
	事後学修	例文を読み直し、状態受動、現在分詞、過去分詞の用法を確かめる。	30分
8	定関係代名詞 不定関係代名詞		定冠詞の格変化を確認する。 関係文の作り方を学ぶ。
	この回の 到達目標	関係代名詞を格変化させる。 関係文を作る。	
	事前学修	定冠詞の格変化を復習する。 英語の関係代名詞の使い方を振り返る。	30分
	事後学修	例文を読み直し、関係代名詞と先行詞の性、数、格と、動詞の位置などを確認する。	30分
9	関係代名詞の練習 指示代名詞		定関係代名詞、不定関係代名詞を用いた文の練習をする。 指示代名詞の用法を学ぶ。
	この回の 到達目標	関係文を用いた文に慣れる。 指示代名詞の使い方を知る。	
	事前学修	関係代名詞の使い方を復習する。	30分
	事後学修	例文、練習問題を読み直し、関係代名詞、指示代名詞の使い方を確認する。	30分
10	接続法の人称変化 要求話法 間接話法		接続法の人称変化を学ぶ。 接続法第1式の使い方を学ぶ。
	この回の 到達目標	接続法第1式、第2式を作る。 間接話法、要求話法を読み取る。	
	事前学修	英語の間接話法、仮定法を振り返る。	30分
	事後学修	接続法の人称変化を復習する。 間接話法、要求話法の例文を読み直し、接続法を確認する。	30分
11	非現実話法(1)		接続法の人称変化を確認する。 接続法第2式の使い方を学ぶ。
	この回の 到達目標	非現実話法、婉曲話法を読み取る。	
	事前学修	接続法第2式の人称変化を復習をする。	30分
	事後学修	例文を読み直し、接続法第2式使い方を確認する。	30分
12	非現実話法(2)		接続法第2式を用いた文の練習をする。
	この回の 到達目標	接続法第2式を用いた文を読み取る。	
	事前学修	非現実話法、婉曲話法の例文を読み直す。	30分
	事後学修	練習問題の文を読み直し、接続法第2式使い方を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	読解表現練習(1)	接続法を用いた文を読む(前回の継続)。 各課本文に関する質問に答える。	
	この回の到達目標	接続法を用いた文に慣れる。 各課本文に関する質問に答える文を作る。	
	事前学修	接続法第2式の用法をまとめてみる。	30分
	事後学修	各課本文に関する質問と答えを口頭練習する。	30分
14	読解表現練習(2)	各課本文に関する質問に答える。	
	この回の到達目標	各課本文に関する質問に答える文を作る。	
	事前学修	該当する本文を読み直す。	30分
	事後学修	各課本文に関する質問と答えを口頭練習する。	30分
15	読解表現練習(3)	各課本文に関する質問に答える。 必要に応じて後期の学習の補足をする。	
	この回の到達目標	各課本文に関する質問に答える文を作る。	
	事前学修	該当する本文を読み直す。	30分
	事後学修	各課本文に関する質問と答えを口頭練習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bも併せて履修すること。ドイツ語検定4級を推奨する。

【授業方法】
ドイツ語基礎表現Aの続き行う。発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を演習形式で行う。確認小テストを適宜行う。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。独和辞書を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却する。翌週の授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子	朝日出版社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Nuメールアドレス

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習	前期に学習した動詞と名詞の変化の確認、単語の発音について復習し、練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期学習した重要動詞を確認し、文を作ることができる。	
	事前学修	前期に練習した単語の発音を復習すること。	30分
	事後学修	動詞の人称変化を復習し、確実に覚えること。	30分
2	前置詞	5課 前置詞の使い方について説明する。重要表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の格支配、意味を理解し、説明することができる。	
	事前学修	名詞、冠詞類の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞の格支配と使い方を復習すること。	30分
3	どう行けばいいですか？	前置詞と代名詞の融合形、前置詞格をとる動詞について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。行き方を尋ねる表現練習と行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞を使った文を確認し、行き方を尋ねる表現や道順ついて表現することができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現練習と前置詞の問題を復習する。	30分
4	話法の助動詞	6課 話法の助動詞の変化とその文型、未来形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、話法の助動詞の変化と意味を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の例文を発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	話法の助動詞の変化と意味を確実に覚える。重要表現練習を復習する。	30分
5	お城を見てみたい	接続詞と副文について説明する。時刻の表現について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。「～したい」の表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、従属の接続詞と副文について理解し、説明することができる。時刻の表現と自分のしたいことについて表現することができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現練習と接続詞の問題を復習する。	30分
6	形容詞	7課 形容詞の付加語的用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化について理解し、説明することができる。	
	事前学修	冠詞の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞の変化について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	料理の注文	形容詞の比較表現について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。注文する時の表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の比較表現について理解し、説明することができる。レストランで注文する時の表現を使いこなせることができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現練習と形容詞の比較表現について復習する。	30分
8	分離動詞と非分離動詞	8課 分離動詞とその構文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞とその構文について理解し、説明することができる。	
	事前学修	重要動詞の人称変化を復習してくること。	30分
	事後学修	分離動詞とその構文について復習する。	30分
9	週末の予定は？	zu不定詞について学習する。 会話文の発音練習と訳を行う。予定を尋ねる表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、zu不定詞句の用法について理解し、説明することができる。自分の予定について表現することができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現練習とzu不定詞句についてを復習する。	30分
10	テキスト講読	テキストP83の発音練習と訳を行う。重要表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、テキスト中の比較表現、分離動詞や副文について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストP83の発音練習と辞書を使用し訳をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現と重要動詞の文を復習する。	30分
11	現在完了形	9課 動詞の三基本形と現在完了形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の三基本形と現在完了形の文について理解し、説明することができる。	
	事前学修	sein , habenの人称変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	動詞の三基本形を確実に覚える。現在完了形について復習する。	30分
12	週末に何したの？	会話文の発音練習と訳を行う。過去の出来事を尋ねる表現練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の過去の出来事について表現することができる。	
	事前学修	会話文の訳と発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	重要表現と現在完了形の文を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	過去形と再帰表現	10課 過去形、再帰代名詞と再帰動詞について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去形の人称変化、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、説明することができる。	
	事前学修	動詞の三基本形と人称代名詞を復習してくる。	30分
	事後学修	過去形の人称変化、再帰動詞について復習する。	30分
14	重要表現の復習	練習プリントで後期学習した文法事項の問題を解答する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の使い方と分離動詞、現在完了形、過去形の文を確認し、それに対応する問題を解答することができる。	
	事前学修	後期学習した文法と重要表現を復習してくる。	40分
	事後学修	出来なかった箇所を復習する。重要表現と重要単語を覚える。	40分
15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前置詞の使い方と分離動詞、現在完了形、過去形の文を確認し、説明することができる。	
	事前学修	今までの重要表現練習と重要単語を復習してくる。	50分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00~14:30に、事前に以下のアドレスでアポイントを取った上受け付ける。kawashima.masayuki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	授業計画、成績評価の方法などの説明と前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	前期の成果を確認できる。	
	事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業によってあぶりだされたドイツ語の文法・語彙に対するあやふやな点を再確認して、しっかり記憶すること。	30分
2	比較級と最上級	形容詞の比較用法の構造と用法	
	この回の到達目標	形容詞の比較級・最上級の構造について理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト55頁の設問に回答し、56頁を訳出しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	過去形	過去形の構造と用法	
	この回の到達目標	過去形の構造と用法について理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト57頁から60頁に再び目を通し、61頁にも目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	複合時制	複合時制(未来時制・完了時制)の構造と用法	
	この回の到達目標	複合時制の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、63頁を訳出しておくこと。またテキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	関係代名詞	関係代名詞の構造と用法	
	この回の到達目標	関係代名詞の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト67頁の設問に回答し、68頁を訳出しておくこと。またテキスト69頁から71頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	受動態	受動態の構造と用法	
	この回の到達目標	受動態の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト71頁から73頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	接続法第1式	接続法第1式の構造と用法	
	この回の到達目標	接続法第1式の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト74頁の設問に回答し、75頁を訳出しておくこと。またテキスト76頁から77頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	接続法第2式	接続法第2式の構造と用法	
	この回の到達目標	接続法第2式の構造と用法を理解し、その理解にもとづいて文を読解できる。	
	事前学修	テキスト77頁から79頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	ドイツの平和と国際連合	国際連合とドイツの平和について	
	この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(1)を、これまでに獲得した知識に基づいて読解できる。	
	事前学修	テキスト80頁の設問に回答し、81頁本文13行目まで訳出しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	ドイツの平和と墨子	中国の思想家墨子とドイツの平和について	
	この回の到達目標	ドイツの平和について書かれた長文(2)を、これまでに獲得した知識に基づいて読解できる。	
	事前学修	テキスト81頁の最後までを訳出しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	文法の再確認	テキスト全体について重要な事項の再確認	
	この回の到達目標	テキスト全体がこれまで獲得した知識により、理解できていることを確認できる。	
	事前学修	テキスト全体を振り返り、よく理解できない箇所があれば、質問できるように準備すること。	30分
	事後学修	授業で扱った重点をまとめておくこと。	30分
12	国際連合とハーグ平和会議	国際連合とハーグ平和会議について	
	この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(1)を、これまで獲得した知識に基づいて読解できる。	
	事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目まで訳出しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際連合とクーデンホーフ・カレルギー	国際連合とクーデンホーフ・カレルギーについて	
	この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(2)を、これまで獲得した知識に基づいて読解できる。	
	事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文22行目から最後まで訳出しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
14	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
	この回の到達目標	映像教材を理解し、感想をまとめることができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
	事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	振り返り	授業内試験及び後期の授業の振り返り	
	この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認できる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
	事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等	到達目標①、②、③、④が身についているかを、各課におけるレポートにより評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『希望のドイツ語』	小塩 節	朝日出版	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂 土曜日9:00～10:30 月曜日4:20～5:50 kawajiri.tatsuaki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 前期の復習	前期に学修した重要文法事項について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動詞の人称変化、名詞の格変化について理解し、変化できる。	
	事前学修	前期範囲のテキストを音読しておくこと。	30分
	事後学修	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。	30分
2	第7課 再帰動詞、非人称のes、zu不定詞	「再帰」とは何かを学修する。英語のいわゆる「訳さない it」である非人称のesの多岐にわたる用法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、zu不定詞句を用いて自分の趣味を紹介することができる。	
	事前学修	動詞の人称変化および人称代名詞の格変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。	30分
3	第7課 読章 「ろうそくの灯りのもとで」	重要な熟語「es gibt 4格」の用法について学修する。序数のいい方を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、序数を使い自分の誕生日を言うことができる。	
	事前学修	【準備学習】教科書28ページを予習してくる。前置詞が特定の動詞と結びついているときは、前置詞から引かず、動詞の使い方を調べる。	30分
	事後学修	【事後学習】序数の使い方を復習しておく。	30分
4	第8課 動詞の3基本形および過去人称変化	過去形の作り方および用法を学修する。また、過去分詞の様々な用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、分詞は形容詞であることを理解し、付加語形容詞や名詞化として用いることができる。	
	事前学修	不規則動詞変化表の読み方をもう一度確認しておく。	30分
	事後学修	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておく。	30分
5	第8課 読章 「トーマス・マン」	不規則動詞の過去形から不定詞を見つけ出すことに習熟する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、過去形の文章を作ることができる。	
	事前学修	教科書32ページを予習してくる。動詞は必ず3基本形を調べておく。	30分
	事後学修	規則動詞の3基本形のパターンを覚えておく。	30分
6	第9課 分離動詞・非分離動詞	前つづりのついた複合動詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、分離動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
	事前学修	動詞の人称変化、3基本形の出し方を今一度確認しておく。	30分
	事後学修	分離動詞・非分離動詞の3基本形の作り方を練習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第9課 副文（従属文）		副文（従属文）は主文に含まれた文であり、定動詞後置になることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、主文と副文を判別することができる。		
	事前学修	平叙文、疑問文の定動詞の位置を今一度確認しておくこと。		30分
	事後学修	よく使われる従属接続詞をまとめておくこと。		30分
8	第9課 読章 「自分の意見」		長文の構造を把握すること（どれが主文でどれが従属文かを理解すること）を身につける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、従属接続詞を用いて、2つの文章を的確に接続することができる。		
	事前学修	教科書36ページを定動詞の位置に注意して（主文なのか従属文なのかを意識して）予習してくること。		30分
	事後学修	主文と従属文からなる複文の構造に慣れておくこと。		30分
9	第10課 話法の助動詞		助動詞構文では本動詞が後置されることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、本動詞に様々なニュアンスを付ける話法の助動詞について理解し、的確に使い分けることができる。		
	事前学修	不定詞と定動詞の違いについて確認しておくこと。		30分
	事後学修	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。		30分
10	第10課 読章 「ドイツの手工業－マイスター制度」		分離動詞は話法の助動詞とともに使われると分離しないことを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意の文章を話法の助動詞を用いた文章に書き換えることができる。		
	事前学修	教科書40ページを枠構造に注意しながら予習してくること。		30分
	事後学修	語順の点で英語と最も違う枠構造に慣れておくこと。		30分
11	第11課 完了形		完了形の作り方とその用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特に日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。		
	事前学修	haben と sein の現在人称変化を復習しておくこと。		30分
	事後学修	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。		30分
12	第11課 読章 「クリスマスツリー」		過去形と現在完了形の違いについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞・非分離動詞の過去分詞から、容易に不定詞を導き出すことができる。		
	事前学修	教科書44ページを予習してくること。過去分詞はすべて不定詞・過去基本形の形を出しておくこと。		30分
	事後学修	過去分詞から不定詞を導き出すことに慣れておくこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 関係代名詞	関係文も従属文であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、適切な関係代名詞を選ぶことができる。	
	事前学修	従属文の定動詞の位置について確認しておくこと。	30分
	事後学修	教科書50ページの練習問題で関係文に慣れておくこと。	30分
14	第12課 読章 「ウィーンのカフェ」	不定関係文章について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の先行詞に対して関係文章を作ることができる。。	
	事前学修	教科書48ページを関係代名詞の格に注意しながら予習してくること。	30分
	事後学修	関係代名詞のえらび方を復習しておくこと。	30分
15	接続法	接続法の作り方と用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常よく使われる接続法の言い回しを理解し、使うことができる。	
	事前学修	動詞の人称変化、過去基本形の作り方を特に整理しておくこと。	30分
	事後学修	直説法との違いを整理しておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
火曜 4 時限目ドイツ語基礎文法A（真道）を同時に受講すること。 授業に積極的に参加すること。火曜 4 時限目ドイツ語基礎文法A（真道）に登録すると、自動的に本授業に登録されます。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ペア・ワーク、グループワーク形式で実践的なトレーニングをします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で課題ごとに随時フィードバックを行います。試験については後日ポータルで講評します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書については、初回授業で説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定試験の国際ライセンスの知識と技能を生かして、実践的かつ効果的にA1からA2のドイツ語能力を養成します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能について、検定試験についての説明 教材についての説明	
	この回の到達目標	学修目標について説明することができる。	
	事前学修	シラバス確認	30分
	事後学修	教材準備	30分
2	Lektion 7 Berufe 1	職業についての表現 1	
	この回の到達目標	職業についての表現を聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 7 練習問題・語彙習得	30分
3	Lektion 7 Berufe 2	職業についての表現2	
	この回の到達目標	職業についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 7 練習問題・語彙習得	30分
4	Lektion 8 Berlin sehen1	ベルリン観光をするために必要な表現 1	
	この回の到達目標	ベルリン観光をするのに必要な表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 8 練習問題・語彙習得	30分
5	Lektion 8 Berlin sehen 2	ベルリン観光をするために必要な表現 2	
	この回の到達目標	ベルリン観光をするために必要な表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 8 練習問題・語彙習得	30分
6	Lektion 9 Ferien und Urlaub 1	長期休暇と旅行についての表現 1	
	この回の到達目標	長期休暇と旅行についての表現理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 9 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 9 Ferien und Urlaub 2	長期休暇と旅行についての表現 2	
	この回の到達目標	長期休暇と旅行についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 9 練習問題・語彙習得	30分
8	Lektion 10 Essen und trinken 1	食事についての表現 1	
	この回の到達目標	食事についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 10 練習問題・語彙習得	30分
9	Lektion 10 Essen und trinken 2	食事についての表現 2	
	この回の到達目標	食事についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 10 練習問題・語彙習得	30分
10	Lektion 11 Kleidung und Wetter 1	服装と天気についての表現 1	
	この回の到達目標	服装と天気についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 11 練習問題・語彙習得	30分
11	Lektion 11 Kleidung und Wetter 2	服装と天気についての表現 2	
	この回の到達目標	服装と天気についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 11 練習問題・語彙習得	30分
12	Lektion 12 Körper und Gesundheit 1	体と健康についての表現 1	
	この回の到達目標	体と健康についての表現を理解し、聞き取り、同じ場面を再現することができる。(SB0s①-④)	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 12 練習問題・語彙習得	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 12 Körper und Gesundheit 2	体と健康についての表現 2	
	この回の到達目標	体と健康についての表現を理解し、簡単な文章を書くことができる。（SB0s①-④）	
	事前学修	小テスト準備、教科書の表現に目を通しておく。	30分
	事後学修	Lektion 12 練習問題・語彙習得	30分
14	筆記試験・振り返り	A2レベルの試験	
	この回の到達目標	これまで学んだ3技能を場面に合わせて運用できる。	
	事前学修	試験準備	120分
	事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分
15	口述試験・まとめ	A2レベルの試験	
	この回の到達目標	これまで学んできた会話の技能を場面に合わせて運用できる。	
	事前学修	試験準備	60分
	事後学修	できなかった箇所を振り返る	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習(練習問題)をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、あるいはポータルシステム等を利用して行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プレーミエ ドイツ語総合読本【改訂版】	神竹道士	白水社	2021	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
遠隔授業ではメール（suzuki.mitsuru11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【前期学習事項の確認】	ガイダンス、前期学習事項の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、前期学習事項の重要な点を確認し、弱点を克服する。	
	事前学修	夏休み前の学習事項を見直しておく。	30分
	事後学修	授業1回目の復習	30分
2	【比較】	形容詞・副詞の比較変化	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、形容詞・副詞を比較変化させることができる。	
	事前学修	前期学習事項・授業第1回目の復習	10分
	事後学修	授業1回目～2回目の復習	50分
3	【比較表現】	非人称	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、非人称表現を理解することができ、重要なものを使うことができる。	
	事前学修	授業1回目～2回目の復習	15分
	事後学修	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
4	【分離動詞・非分離動詞】	分離動詞・非分離動詞の区別	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、分離動詞・非分離動詞を使うことができる。	
	事前学修	授業1回目～3回目の復習	15分
	事後学修	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
5	【3基本形】	不定形・過去基本形・過去分詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～4回目の復習	15分
	事後学修	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
6	【完了形】	現在完了形	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、現在完了形を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～5回目の復習	15分
	事後学修	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【従属接続詞】	副文と従属接続詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、副文を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～6回目の復習	15分
	事後学修	7回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
8	【再帰動詞】	再帰動詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、再帰動詞の構造を説明できる。	
	事前学修	授業1回目～7回目の復習	15分
	事後学修	8回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
9	【再帰表現】	再帰表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、再帰表現を使うことができる。	
	事前学修	授業1回目～8回目の復習	15分
	事後学修	9回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
10	【定関係代名詞】	定関係代名詞、副文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、定関係代名詞の変化をさせることができる。	
	事前学修	授業1回目～9回目の復習	15分
	事後学修	10回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
11	【指示代名詞】【不定関係代名詞】	指示代名詞と定冠詞の関係、不定関係代名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、指示代名詞の格変化ができる。	
	事前学修	授業1回目～10回目の復習	15分
	事後学修	11回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
12	【動作受動】	動作受動とその時制	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、受動文を作ることができる。	
	事前学修	授業1回目～11回目の復習	15分
	事後学修	12回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【自動詞の受動】 【状態受動】	英語の受動文との違い	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、受動文を作ることができる。	
	事前学修	授業 1 回目～ 1 2 回目の復習	15分
	事後学修	1 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
14	【接続法概説】	接続法の意味	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、接続法の意味を説明できる。	
	事前学修	授業 1 回目～ 1 3 回目の復習	15分
	事後学修	1 4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
15	【接続法の形態】	接続法第 I 式、接続法第 II 式	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、日常的な接続法を使うことができる。	
	事前学修	授業 1 回目～ 1 4 回目の復習	15分
	事後学修	1 5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却。授業内試験は、後日、ポータルシステムによりフィードバックの解説・講評を配信。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フィール・シュパース！（4訂版）	橋本政義、ハイク・ピナウ、他	郁文堂	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12時20分～12時50分、木曜日17時50分～18時20分、授業講堂（前もってアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【従属の接続詞】 【zu不定詞】	ガイダンス（授業の進め方等について説明）。従属の接続詞とzu不定詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、従属の接続詞を用いた副文構文とzu不定詞について理解し、さらに詳しい表現をするためにこれらを使うことができる。	
	事前学修	シラバスを読み、第7課「環境問題」の32～33頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直して、文の書き換えに慣れる。	25分
2	【地球温暖化と教育】	ドイツの日常生活における環境意識とドイツを取り巻く温暖化に対する姿勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、文章を読んでアルプスにおける地球温暖化の影響とドイツの環境保護教育について理解し、説明することができる。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、31頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	31頁を読み返し、日本との違いをまとめる。32頁にある5個の従属の接続詞を暗記する。	20分
3	【時刻の表現】	時刻の言い方とそれが出てくるシーンを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時刻を自分で言ったり、聞き取ったりすることができる。人にものを尋ねるときの丁寧な言い方を理解する。	
	事前学修	3頁と12頁の数詞を復習し、34頁を読んで準備する。	35分
	事後学修	パートナーを見つけて、34頁の会話を練習する。	25分
4	【過去形】 【現在完了形】	三基本形のうち、過去基本形を使う過去形の人称変化と、過去分詞を使う現在完了形を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、過去形と現在完了形の作り方を理解し、それらを使った基礎的な文を作ることができる。	
	事前学修	第8課「週末の過ごし方」の36～37頁の問題を解いて準備する。（35分）	40分
	事後学修	間違った箇所の問題を解き直す。36頁の三基本形の表を音読する。	20分
5	【ドイツの週末】	過去形と過去分詞から不定詞を特定し、辞書で確認し、文章を読み進めてドイツ人の生活の一旦に触れる学修をする。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、文章中の過去形と現在完了形を指摘し、ドイツで週末を過ごした日本人の体験から、ドイツ人の生活の基本にあるものを説明することができる。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、35頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	35頁を音読し、ドイツの「閉店法」について調べる。	20分
6	【自由な時間】	自分がどのようなことをして時間を過ごしたか、現在完了形と過去形を使って表現する学修をする	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、ある日をどう過ごしたか、ドイツ人がよく話題とすることに答える表現ができる。	
	事前学修	38頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、38頁の文を音読する。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【受動態】 【再帰動詞】	受動態との作り方と、再帰動詞とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、受動態と再帰動詞について理解し、それらを用いて文を作ることができる。	
	事前学修	第9課「ベルリンの壁」の40～41頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、41頁にあるsich freuenの変化を暗記する。	25分
8	【第2次大戦後のドイツ史】	ベルリンの壁を中心に、ドイツ現代史の一端を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、第2次大戦後にドイツがたどった歴史について理解し、ベルリンの壁と東ドイツについて説明することができる。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、39頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	39頁を復習し、1945年から現在に至るドイツの歴史を簡単な年表風にまとめる。	20分
9	【おススメの表現】	音楽・美術・演劇等の文化活動の内容と行われる場所を関連付けて、より詳しい表現を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、従属の接続詞を用いて、「～かどうか」と質問したり、「もし～ならば」と人に勧める表現の文を作ることができる。	
	事前学修	42頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。42頁を音読し、キーセンテンスを暗記する。	25分
10	【関係代名詞】	関係代名詞の形と格変化、および、関係代名詞を使って作る副文を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、関係代名詞について理解し、それらを用いた文を作ることができる。	
	事前学修	第10課「政党」の44頁の問題を解いて準備する。	30分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。44頁にある定関係代名詞の表を暗記し、文を音読する。	30分
11	【政党のイメージカラー】	ドイツの主だった政党とそのイメージカラーの由来を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツの主な政党について理解し、説明することができる。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、43頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	43頁の文で使われている関係代名詞を指摘し、その性別と格を把握する。	20分
12	【その後について尋ねる】	現在完了形や前置詞を伴った関係文で、より詳しく表現することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、関係代名詞を用いて、「あれはどうなりましたか？」と質問ができる。	
	事前学修	45～46頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。45頁の会話を、パートナーと練習する。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【接続法】	接続法の作り方と用法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の用法について理解して説明し、適切に訳すことができる。	
	事前学修	第11課「クリスマス」の49～50頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
14	【クリスマス】	主人公の日本人学生によるドイツ体験の総まとめを、手紙文で学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、クリスマスから新年にかけてドイツの習慣について理解し、説明ができる。手紙の書式を理解する。	
	事前学修	予習プリントを参考にして、辞書を引き、47頁を読んで準備する。	35分
	事後学修	さまざまな文法事項を確認しながら、47頁を音読する。	25分
15	【振り返り】【授業内試験】	後学期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後学期の学習内容がどの程度身についたかを判断する。	
	事前学修	後学期の学習内容を振り返り、理解していない箇所がないかどうか、確認する。	120分
	事後学修	試験で正答できなかった箇所について、教科書やノートで確認する。	20分

科目名	ドイツ語基礎表現B(水曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
・1年生は、今年度のうちに、「ドイツ語基礎文法」も履修すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則として、この授業はドイツ語基礎表現Aと通年で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読やグループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
イン・ドイチュラントドイツ語インフォメーション 映像付-	秋田静雄ほか	朝日出版社	2016年	教科書	必携
新・独検合格単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010年	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期の復習		前期に学習した文法事項や表現を復習する。
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	第7課 導入の会話、前置詞		導入の会話を通じて、前置詞について解説し、関連する練習問題を解く。
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞の概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
3	第7課 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形		前置詞について、新しい用例を解説し、関連する練習問題を解く。
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
4	第8課 導入の会話、話法の助動詞、話法の助動詞の現在人称変化、話法の助動詞の主な意味		導入の会話を通じ、話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
5	第9課 導入の会話、分離動詞、数詞の復習		導入の会話を通じて、分離動詞について解説し、関連する練習問題を解く。数詞もあらためて復習する。
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、分離動詞について説明することができる。数字もいうことができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
6	第9課 命令形、時刻表現		命令形の法則と、時刻表現について解説し、関連する練習問題を解く。
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、命令表現と時刻表現について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第10課 導入の会話、形容詞の格変化	導入の会話を通じ、形容詞の格変化について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、形容詞の格変化について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
8	第10課 再帰代名詞と再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、再帰代名詞と再帰動詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
9	第11課 導入の会話、動詞の三基本形、過去人称変化	導入の会話を通じ、動詞の三基本形と過去形について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形と過去形について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
10	独検4級 模試の実施(筆記試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
11	独検4級 模試の解説(リスニング試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
12	第11課 従属接続詞	従属接続詞と語順について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、従属接続詞と副文について説明できる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	後期の復習		後期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検3級受験のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、文法問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点の把握とその克服のための指針を説明することができる。		
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。		30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。		30分
14	理解度の確認、後期の学習内容の振り返り		後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。		
	事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。		30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。		30分
15	この一年で学習したこと、これからのドイツ語の学習について		後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。		
	事前学修	これまでの学習内容を復習すること。		30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。		30分

科目名	ドイツ語基礎表現B(水曜5時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
月曜4限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」と同時に履修すること。抽選の際には、私の授業に登録すること(渡辺先生の授業にも自動登録される)。授業の進度が早いため、その覚悟で受講すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、問題練習(独検過去問を含む)等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール(三訂版)	上野成利ほか	社	2018年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。授業で指示を聞いてから購入すること。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を復習する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の復習を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	駅の窓口で尋ねる(分離動詞/接続詞と副文)	分離動詞/接続詞と副文について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、分離動詞/接続詞と副文を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
3	休暇の計画を尋ねる(zu不定詞/再帰代名詞)	zu不定詞/再帰代名詞について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、zu不定詞/再帰代名詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
4	これまでの復習	後期に学習した学習事項の要点を解説する。関連する会話文を読み、問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項の要点を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
5	旅の体験を語る(1)(動詞の3基本形/過去形)	動詞の3基本形/過去形について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、動詞の3基本形/過去形を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
6	旅の体験を語る(2)(現在完了形/非人称表現)	現在完了形/非人称表現について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在完了形/非人称表現を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	意見を交換する(1)(受動態/比較表現)	受動態/比較表現について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、受動態/比較表現を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
8	これまでの復習	後期に学習した学習事項の要点を解説する。関連する会話文を読み、問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項の要点を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
9	意見を交換する(2)(関係代名詞・関係副詞)	関係代名詞・関係副詞について解説する。関連する会話文を読む。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、関係代名詞・関係副詞を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
10	独検模試の実施	独検の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	指示された独検の過去問題を自宅で解いてくこと。	30分
	事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出ても正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分
11	独検模試の実施	独検の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	指示された独検の過去問題を自宅で解いてくこと。	30分
	事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、知識が確実なものとなるよう、あらためて正解となる理由をよく考えること。	30分
12	別れと再会の約束(接続法)	接続法について解説する。関連する問題を解くことができる。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、接続法を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習内容を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくこと。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの復習	後期に学習した学習事項の要点を解説する。関連する会話文を読み、問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項の要点を説明することができる。関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。	30分
14	理解度の確認、後期の学習内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習を振り返り、理解が十分でないところをどこか、確認しておくこと。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	後期の復習、今後のドイツ語の学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Aを終了した学生

【授業方法】		
前期に引き続きコミュニケーション重視の教科書を用い、わかりやすい丁寧な説明を心がけ、一方的な講義ではなく履修者のみなさんとコミュニケーションを取りながら、疑問点を積み残すことのないように進めます。練習問題や会話練習を通して、理解度が高まるようにします。失敗を恐れず、積極的にドイツ語を使うことで、間違いに気づき上達を試みます。また、母国語や既習言語との比較をしながら、ドイツ語と比較し異文化理解も深める。随時復習を取り入れます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアやグループでのゲームやアクティビティをふんだんに取り入れ、効率的にドイツ語の発音や表現を身につけるアクティブ・ラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Supergut! コミュニケーションツールとしてのドイツ語をいっしょに学ぼう！[改訂版]	小笠原藤子・永井千鶴子	三修社	2021	教科書	必携
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道杉他	三修社	2013	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後に可能ですが、時間がかかる場合は、あらかじめメールで連絡を取ってください。ogasawara.fujiko@nihon-un.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		試験官として培った知識をもとに、A1, A2レベルの効率的、実践的なドイツ語能力を養成します。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、前期の復習	授業内容および進め方、評価方法の説明、前期の復習	
	この回の到達目標	前期の復習を行い、新たな項目を学ぶ準備をする	
	事前学修	シラバスを読んでおく	30分
	事後学修	授業の復習	60分
2	前期の復習、Lektion 7 Lernen wir zusammen!	家族紹介、約束の取り決めなどを復習後、Lektion 7の身の回り品、家具等の表現を学ぶ	
	この回の到達目標	自分の部屋にある家具や物を描写できる	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	Lektion 7	部屋や家具、身の回り品の描写	
	この回の到達目標	自分の部屋や持ち物を描写することができる	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	Lektion 8 Wie komme ich am besten nach Kyoto?	電車を使った目的地への案内	
	この回の到達目標	乗り物の種類を覚え、手段として用いることができる	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	Lektion 8	どこへどう行き、何をするかの表現の仕方	
	この回の到達目標	自分がどのような乗り物でどこへ行き、そこで何をするのかを分離動詞も用いて表現できる	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
6	Lektion 9 Kann ich etwas später nach Hause kommen?	話法の助動詞を用いた表現	
	この回の到達目標	話法の助動詞を用い、色や洋服、身の回り品の単語を覚え、友達にあげる誕生日プレゼントを描写できる	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 9	1日の流れを説明	
	この回の到達目標	話法の助動詞を用い、1日の流れを説明できる	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	前半まとめ	3課のまとめと確認	
	この回の到達目標	前半の3課をよく理解する	
	事前学修	前半の学習項目をよく復習してくる	60分
	事後学修	授業の復習、前半の振り返り、後半の学習計画を立てる	40分
9	Lektion 10 Was hast du in den Ferien gemacht?	過去の表現（1）	
	この回の到達目標	過去の多様な表現を理解する	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
10	Lektion 10	過去の表現（2）	
	この回の到達目標	休みに何をしたかを表すことができる	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	Lektion 11 Warst du in Osaka?	過去の表現（3）	
	この回の到達目標	過去にどこに行ったのか理解し表現する	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	Lektion 11	過去の表現（4）	
	この回の到達目標	過去にどこに行き、何をしたのか使える	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 12 Heute möchte ich Ihnen eine Stadt in Deutschland vorstellen.	都市紹介に必要な表現	
	この回の到達目標	簡単な都市紹介に必要な語彙を習得	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
14	Lektion 12	都市紹介練習	
	この回の到達目標	簡単な都市紹介をしてみる	
	事前学修	該当ページを読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
15	まとめ・振り返り	今学期のまとめ	
	この回の到達目標	今学期の内容を理解し、まとめられる	
	事前学修	確認ができるよう、十分に準備をしてくる	120分
	事後学修	今学期の振り返りと今後の学習計画を立てる	60分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	岡本 奈穂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bも併せて履修すること。また、この授業を通年で履修すること。

【授業方法】
オンラインでの同時双方向型（Zoom）授業を中心に、パワーポイント教材や発音練習・チェック教材を併用して進めます（状況に応じて、一部、対面授業を行う可能性があります）。 毎回の授業で、その日に学習した文章についての確認テストを行います。 また、小テストとしてドイツ語のプレゼンテーション（2回）を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業では、実際に声を出して発音や会話の練習を行うなど積極的な参加を必須とします。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問等のフィードバックは原則として授業中に行います。課題は採点（添削）後に返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタート！ベーシック コミュニケーション活動で学ドイツ語	藤原三枝子他	三修社	2015	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考	独和辞典は、『アクセス独和辞典』三修社、『アポロン独和辞典』同学社、『クラウン独和辞典』三省堂のいずれかをおすすめします。				

【オフィスアワー】
月曜日18:00～（要事前連絡） ecna80113@g.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス ドイツ語検定にチャレンジ（1）	授業計画，成績評価，授業に関する諸注意・準備等について説明する。 ドイツ語検定のためのヒアリング練習を行う。	
	この回の到達目標	授業計画，成績評価，授業に関する諸注意・準備等について理解し，今後の授業の準備をスムーズに行うことができる。また，到達目標①②に関連して，基本的なドイツ語を聞き取ったり単純な文章を理解することができる。	
	事前学修	パワーポイント教材を事前に読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
2	Lektion 3：時間（1）	時間を表す会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，時間についてドイツ語で話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 31-33を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
3	Lektion 3：時間（2）	時間と1日の活動を含む会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，時間と1日の活動についてドイツ語で話すことができる。	
	事前学修	教科書P. 33-35を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
4	Lektion 3：曜日	時間と曜日を含む会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，時間と曜日を含む活動についてドイツ語で話すことができる。	
	事前学修	教科書P. 36を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
5	Lektion 7：月，季節，日付	季節や月について話したり尋ねたりする会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，季節や月についてドイツ語で話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 82-83を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
6	Lektion 7：誕生日	日付や誕生日について話したり尋ねたりする会話文を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，季節や月についてドイツ語で話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 84-86を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し，授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	プレゼンテーション（１）	これまで学んだ表現を使って、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語で簡単なプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの内容を練習しておくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
8	Lektion 4：食べ物と飲み物（１）	食べ物や飲み物について話す会話を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、食べ物や飲み物についてドイツ語で話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書. 43-44を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
9	Lektion 4：食べ物と飲み物（２）	好きな食べ物や飲み物について話す会話を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、好きな食べ物や飲み物についてドイツ語で話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 45-47を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの内容を復習しておくこと。	30分
10	Lektion 4：レストラン（１）	レストランでの会話文（注文）を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レストランでドイツ語で注文することができる。	
	事前学修	教科書P. 48-49を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
11	Lektion 4：レストラン（２）	レストランでの会話文（味、会計）を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、料理の味についてドイツ語で話したり尋ねたり、レストランで会計を頼んだりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 50-51を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
12	Lektion 6：買い物	商品の色や大きさについて話す会話を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、商品の色や大きさについてドイツ語で話したり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	教科書P. 71を事前に声を出して読んでおくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーション（2）	これまで学んだ表現を使って、プレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語で簡単なプレゼンテーションを行うことができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの内容を練習しておくこと。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの内容を復習しておくこと。	30分
14	授業内試験と解説	授業内試験と解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本的な表現を聞き取る、単純な文章を理解する、身近な話題について簡単なやり取りをする、自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現することができる。	
	事前学修	これまでの学習内容をよく復習しておくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分
15	ドイツ語検定にチャレンジ（2）	ドイツ語検定のためのヒアリング練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本的なドイツ語を聞き取ったり単純な文章を理解することができる。	
	事前学修	これまでの学習内容をよく復習しておくこと。	30分
	事後学修	授業内容をよく復習し、授業中に出てきた単語を発音できるようにしておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	森田 悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
学部の規定による

【授業方法】
講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験に相当するもの

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プレーミエ 総合ドイツ語読本	神竹、國光、田島	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、ただし事前に申し出ることが望ましい

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期学修事項の確認とガイダンス	後半の学習のためのガイダンス、前半の確認	
	この回の到達目標	①②③に関連して前期に学んだ中から是非とも復習したい事項について再度確認できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
2	前期学修事項の中から特に重要な事項を復習	前半の学習の確認	
	この回の到達目標	①②③に関連して前期の学習事項の中で特に重要なことを説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
3	形容詞の比較表現	形容詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して形容詞について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
4	分離動詞	分離動詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して分離動詞を説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
5	過去	動詞の三基本形。過去形について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して動詞の過去形について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
6	現在完了・従属の接続詞	現在完了・従属の接続詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して現在完了・従属の接続詞について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	現在完了・従属の接続詞	現在完了・従属の接続詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して現在完了・従属の接続詞について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
8	再帰代名詞	再帰代名詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して再帰代名詞について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
9	再帰代名詞	形容詞・比較について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して再帰代名詞について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
10	関係代名詞	関係代名詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して関係代名詞について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
11	受動	関係代名詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して受動について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
12	接続法	接続法について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して接続法について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	接続法		接続法について学修する
	この回の到達目標	①②③に関連して受動について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
14	これまでの学修の振り返り		授業内試験相当及び、振り返り
	この回の到達目標	①②③に関連してこれまで学習したことを説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
15	これまでの学修の検証		これまで学んだことの確認と補充
	この回の到達目標	①②③に関連してこれまでの学修事項を説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	河田 一郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なドイツ語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語を使ってA1-2レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになることが目的である。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、役に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽を聞く時間を設け解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ（改訂版）	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
別枠で、時間を設ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[分離動詞について]	分離動詞について学ぶ、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3基本形について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	[現在完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	[現在完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[zu不定詞について]	不定詞について学び、和訳することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験、振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。

【授業方法】
テキスト『プロムナード やさしいドイツ語文法』(白水社)を主教材に、そのほか視聴覚教材もまじえてわかりやすく指導していく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出レポートを評価して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブロムナード やさしいドイツ語文法』	荻原耕平 他	白水社	2016	教科書	必携
備考	「はじめに」などの前書きに目をとおしておいてください。				

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ドイツとドイツ語入門		ドイツ語が話されている国々を知る。 アルファベット/基本的あいさつ。以後の進捗は学習成果によって多少ズレこむ可能性もある。
	この回の到達目標	ドイツ文化。ドイツ語の基本イメージの理解。あわせて、ドイツ語圏の歴史や現代のすがたなども、文化的情報とともに伝えていきたい。	
	事前学修	教科書の下見。ひととおり目を通しておく。	30分
	事後学修	ノート整理。復習。以下同様に心がけてください。	30分
2	ドイツ語の名詞		Lektion1 ドイツ語の発音・名詞のいろいろ。
	この回の到達目標	まず、単語を正確に発音する。アルファベット・特殊文字の読み方。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
3	動詞入門		Lektion2 人称代名詞と動詞の現在人称変化 その①
	この回の到達目標	人称代名詞を使つての簡単な表現になれる。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
4	動詞と平易な文章		Lektion2 動詞の現在人称変化 その②
	この回の到達目標	日常表現から親しむ構文理解。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。復習。（30分）	30分
5	名詞の性①		Lektion3 名詞の性と格の意味とその運用。
	この回の到達目標	いっけんメンドクさそうな定冠詞・不定冠詞の格変化は、実は文意を理解するたにいかにもドイツ的論理性があることに納得してもらおう。そのうえでの反復練習である。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	復習・ノート整理。（30分）	30分
6	名詞の性と格②		変化表を覚えるのが主たる仕事ではない。それがどのように文意を表すかを正しく理解することが大事。
	この回の到達目標	ドイツ語現在形の文章にたくさんふれ、反復練習によって理解度を深める。	
	事前学修	前回の復習。（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	定冠詞類と不定冠詞類①		英語のaとanにあたる不定冠詞の学習。例文によって慣れてもらう。
	この回の到達目標	定冠詞・不定冠詞の暗記。ここが、英語とちがって、ドイツ語らしい論理的構造なのです。最初はなんでも難しい。Aller Anfang ist schwer。(すべて最初は難しいものだ)というドイツの諺のとおりなのです。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分
8	定冠詞類と不定冠詞類②		いずれも定冠詞・不定冠詞に準ずるもの。表現の幅をひろげよう。
	この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の文章に慣れる。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分
9	人称代名詞		意味あいとは英語とおなじだが、おぼえることに一苦労するかもしれない。あくまでも授業中に反復練習して覚えてもらう。
	この回の到達目標	人称代名詞の使い方。概念は英語とおなじですが、ここにも格変化があります。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分
10	不規則動詞・命令形		動詞のパリエーションである不規則動詞。これが意外に頻繁に使用されるものである。規則性はないが、構文でマスターしよう。
	この回の到達目標	主要不規則動詞のマスター。gehen, kommen, sprechenなど、頻繁に使用するものですから、覚えやすいです。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分
11	前置詞		前置詞を使った構文の学習。前置詞にも「格支配」がありますが、そろそろ慣れてくる頃です。
	この回の到達目標	前置詞をふくむ文章にたくさんふれて慣れていく。習うより慣れよ!!	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分
12	分離動詞・接続詞		分離動詞といったいっけん難そうな用語だが、運用はごく簡単。動詞のひとつ。接続詞は英語のイメージとおなじ。ただし、ドイツ語ならではの約束もあり。
	この回の到達目標	分離動詞・接続詞を使った例文に親しむ。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	話法の助動詞		英語のcanやmustのこと。意味はほぼ似ている。例文をたくさん読もう。
	この回の到達目標	助動詞の運用と読解。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分
14	前期の総復習		前期試験をひかえて、とくに重要な部分を復習します。模擬問題も用意します。
	この回の到達目標	前期の学習内容を復習し、曖昧なところをなくす。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	ノート整理。（30分）	30分
15	前期試験。 まとめ		試験内容は、事前の授業内で説明します。
	この回の到達目標	前期の復習と自分の理解度の反省と補填。	
	事前学修	復習（30分）	30分
	事後学修	自己診断のうえ後期にそなえてください。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Aも併せて履修すること。12月にドイツ語検定4級を推奨する。

【授業方法】
身近な基本表現を多く使い、練習を積み重ねながら着実に文法を身につけられるように演習形式を主に授業を進める。確実に習得すべき事項に関しては確認の小テストを実施する。独和辞書は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストと課題は返却する。次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
たいむりい	森田悟	朝日出版社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Nuメールアドレス

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス：ドイツ語について		ドイツ語について、授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の歴史について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。	30分
2	母音字の発音		1課 発音規則を説明し、ドイツ語のつづり字と発音の関係を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音規則を理解し、アルファベットと教科書の単語が発音することができる。	
	事前学修	ドイツ語のアルファベットと英語のアルファベットの違いを確認しておくこと。	30分
	事後学修	アルファベット、単語のアクセントの位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。	30分
3	子音字の発音		子音字の読み方、簡単な挨拶表現、数字の読み方を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、子音字の読み方を理解し、教科書の単語が発音することができる。	
	事前学修	ローマ字読みで読める単語を発音練習してくる。	30分
	事後学修	子音つづり字の発音、挨拶表現、数字を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。 数字の小テストを実施する。	30分
4	主語と動詞〔規則動詞〕の変化		2課 主語と動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の形は主語の種類で決まることを理解し、動詞を辞書で引くことができる。	
	事前学修	教科書の単語を発音練習をしてくること。	30分
	事後学修	主語になる代名詞と規則変化動詞の人称変化を確実に覚えること。	30分
5	語順について		語順について説明し、平叙文、疑問文の動詞の位置を学習する。重要動詞〔sein, haben〕の変化を練習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の位置で文のタイプが決まることを理解し、平叙文、疑問文を作ることができる。 練習問題P8	
	事前学修	練習問題P8 I を予習してくること。	30分
	事後学修	動詞の位置を復習する。小テストを実施するので、重要動詞〔sein, haben〕の変化は確実に覚えること。	30分
6	名詞の性と数		3課 名詞の性と数について説明し、名詞の種類と複数形、定冠詞、不定冠詞、所有冠詞について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の三つの種類と複数形について理解し、名詞を辞書で引くことができる。 練習問題P8	
	事前学修	ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認しておくこと。	30分
	事後学修	名詞の複数形、定冠詞、不定冠詞について復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	名詞の種類と代名詞の関係	名詞の種類と代名詞の使い方、否定文の作り方について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の種類と代名詞の使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P12	
	事前学修	練習問題P12 I を辞書引きながら予習してくる。	30分
	事後学修	三人称の代名詞の使い方について復習すること。 間違えた個所の問題を解き直す。	30分
8	名詞の格変化	4課 文中での名詞の役割を表す[1・2・3・4格]の格について説明する。冠詞類の変化、否定冠詞を使った否定文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どの名詞が主語か目的語か名詞の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	名詞の性、複数形、定冠詞、不定冠詞についてもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	名詞の格変化についてを復習すること。小テストを実施するので、定冠詞、不定冠詞の変化は確実に覚えること。	30分
9	名詞の格変化の練習	名詞の格変化を理解し、冠詞の種類と使い方について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞と冠詞の格変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P16	
	事前学修	練習問題P16を辞書引きながら予習してくる。	30分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
10	動詞〔不規則動詞〕の変化	5課 動詞の語幹も変化する動詞〔不規則動詞〕の変化について説明し、命令表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞の変化と称代名詞の格変化について理解し、説明することができる。	
	事前学修	動詞の規則変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	不規則動詞の変化、命令表現について復習すること。小テストを実施するので、人称代名詞の変化は確実に覚えること。	30分
11	代名詞の格変化	人称代名詞の格変化、非人称表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代名詞の格変化と不規則動詞の変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P20	
	事前学修	練習問題P20を辞書引きながら予習してくる。	30分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
12	前置詞と格支配	6課 前置詞と格支配について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞によって結び付く名詞の格が決まる格支配について理解し、説明することができる。	
	事前学修	名詞、定冠詞、不定冠詞の変化についてもう一度復習しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞の格変化と意味について復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	3・4格支配の前置詞	3・4格支配の前置詞について説明し、練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格変化と使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P24 I	
	事前学修	練習問題P24 I を辞書引きながら予習してくる。	30分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。 前置詞の使い方を確実に覚える。	30分
14	重要文法の復習	練習プリントで、動詞と名詞と前置詞の練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を理解し、解答できる。	
	事前学修	前期学習した文法事項を復習し、練習してくる。	40分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。 重要単語を覚える。	40分
15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の変化、名詞と冠詞の格変化、前置詞の使い方を説明することができる。	
	事前学修	前期の文法と重要単語を総復習する。	50分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標①、②、③が身についているかを、各課におけるレポートにより評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	3	3	4								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	33	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ語なんて怖くない』	西村祐子・Rudolf Petrik	同学社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂　土曜日10:30～12:20　月曜日17:50～19:40　kawajiri.tatsuaki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス アルファベート	授業の進め方、辞書の選び方について説明する。 アルファベートの発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、アルファベートを正しく発音できる。	
	事前学修	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。	30分
	事後学修	アルファベートを暗記して発音できるようにすること	30分
2	第1課 ドイツ語の発音	特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、簡単な挨拶を発音できる。	
	事前学修	添付CDで9、10ページの単語の発音をよく聞いておくこと。	30分
	事後学修	教科書11ページの単語を発音して意味を調べること。	30分
3	第2課 動詞の現在人称変化、sein 動詞、語順について	動詞は人称と数に応じて語尾変化することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、語尾変化した動詞から不定詞を導き出すことができる。	
	事前学修	教科書15ページの人称代名詞に目を通しておくこと	30分
	事後学修	教科書12ページの不定詞句を使って文章を作ってみること。	30分
4	第2課 練習問題	定動詞の位置に注意しながら問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、決定疑問文・疑問詞疑問文を作ることができる。	
	事前学修	教科書17ページを予習しておくこと。動詞はすべて現在人称変化してみること。	30分
	事後学修	自己紹介の仕方を練習しておくこと。	30分
5	第3課 名詞の姓と格変化（単数）について	名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の格の意味を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書19～21ページに目を通し、定冠詞・不定冠詞の使い分けを頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	課題に出された単語を定冠詞を付けて格変化させること。	30分
6	第3課 練習問題	格の用法に注意しながら問題を解いていく。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、定冠詞と不定冠詞の基本的意味を理解し、使い分けることができる。	
	事前学修	教科書23ページを予習しておくこと。名詞はすべて定冠詞をつけて格変化しておくこと	30分
	事後学修	課題に出された単語を不定冠詞を付けて格変化させること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第4課 名詞の複数形、人称代名詞の格変化、定冠詞類について	名詞の複数形には様々なタイプがあることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の名詞を受ける際に正しい人称代名詞を選ぶことができる。	
	事前学修	定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	第6回授業で課題に出した単語の複数形を格変化させること。	30分
8	第4課 練習問題	英語とは使い方が違う単数3人称の人称代名詞に注意して問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問形容詞welcherの用法を理解し、使うことができる。	
	事前学修	教科書29ページを予習しておくこと。年代聞き取りの問題は、ドイツ語でつづりを書いておくこと。	30分
	事後学修	基数詞を発音し、書けるようにしておくこと。	30分
9	第5課 不定冠詞類 小テスト(1)	所有冠詞、否定冠詞keinの用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、nichtとkeinの違いを理解し、使い分けることができる。	
	事前学修	不定冠詞の格変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	与えられた文章を否定文にしてみること。	30分
10	第5課 練習問題	nicht の位置について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、否定疑問に対して的確に答えることができる。	
	事前学修	教科書35ページを予習しておくこと。Aの問題は自分でも質問を作ってみること。	30分
	事後学修	nichtとkeinの使い分けについて整理しておくこと。	30分
11	第6課 不規則動詞、従属文について	不規則動詞の現在人称変化を学修する。従属文では定動詞が後置されることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、よく使われる不規則動詞を用いて簡単な文章を作ることができる。	
	事前学修	平叙文と疑問文の定動詞の位置を復習しておくこと。	30分
	事後学修	不規則動詞変化表の見方を復習しておくこと。	30分
12	第6課 練習問題	不規則動詞の辞書での調べ方を復習しつつ問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、従属接続詞を用いて、2つの文章を的確に接続することができる。	
	事前学修	教科書41ページを予習しておくこと。Bの問題は従属文も使って作文してみること。	30分
	事後学修	教科書36ページの不規則動詞の変化を覚えること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第7課 前置詞	前置詞は特定の格を支配することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、的確な前置詞を選ぶことができる。	
	事前学修	定冠詞・不定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと	30分
	事後学修	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを整理しておくこと。	30分
14	第7課 非人称のes	英語のいわゆる「訳さない it」である非人称のesの多岐にわたる用法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ふだんよく使われる非人称の表現を理解し、文章を作ることができる。	
	事前学修	3人称の人称代名詞の用法を復習しておくこと。	30分
	事後学修	多用される非人称の熟語表現、特にes gibt を使って文章を作ってみること。	30分
15	第7課 練習問題	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いに注意して問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書47ページを予習しておくこと。3・4格支配の前置詞では、3格の場合は4格に、逆に4格の場合は3格になるような文章を作ってみること。	30分
	事後学修	時刻の言い方を練習しておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、役に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽を聞く時間を設け解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語ルネサンス（第3版）	本郷、佐藤ほか	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜10:30～ 授業終了後、時間を設ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[ガイダンス, 振り返り]	授業の進め方等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語文法の学習方法を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	[ドイツ語の発音について]	ドイツ語の基本的な発音、特有な発音について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
8	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
9	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
10	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
11	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
12	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[ヒアリング練習]	ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験，振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を課題とします。課題の中に小テストの要素が入る場合もあります。 課題の解説は次の授業で行います。発音の説明と練習も適宜行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験に代 わる課題により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけて いるかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評 価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ [改訂版]	河田一郎 他	三修社	2021年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kurose.shiholl@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【ドイツ語のアルファベット】	授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 ドイツ語のアルファベットの読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットの発音ができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 ドイツ語のアルファベットの発音練習を行う。	30分
2	【ドイツ語の発音】	ドイツ語の発音の原則と注意すべき発音について学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のつづりの読み方を理解し、発音ができる。	
	事前学修	教科書 8 ～ 9 ページを見ながら、音声を聞く。	30分
	事後学修	教科書 8 ～ 9 ページの発音練習を行う。	30分
3	【動詞の現在人称変化】 【数詞 0 ～ 2 0】	主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化について学習する。 数詞 0 から 2 0 までの読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化について理解し、動詞を変化させることができる。数詞 0 から 2 0 までを発音できる。	
	事前学修	教科書 1 0 ページを読む。 教科書 1 1 ページの数詞の音声を聞いてくる。	20分
	事後学修	主語になる人称代名詞、現在人称変化、数詞 0 ～ 2 0 を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題 1 の1. ～5., 2 の1. ～3. を行う。 発音練習を行う。	40分
4	【sein, habenの現在人称変化】 【定形の位置】	重要動詞sein, habenの現在人称変化、定形の位置について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、sein, habenの現在人称変化、定形の位置について理解し、sein, habenを変化させることができる。ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 1 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	sein, habenの現在人称変化を暗記する。 教科書 1 2 ページの練習問題 1 の6. ～7., 2 の4. ～7., 3 を行う。 発音練習を行う。	40分
5	【名詞の性と格、定冠詞】	名詞の性、定冠詞の形と格の用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞の性と格、定冠詞について理解し、定冠詞を変化させることができる。	
	事前学修	教科書 1 3 ～ 1 4 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	定冠詞の変化を暗記する。 教科書 1 6 ページの練習問題 1 の1., 5., 2 の2. を行う。 発音練習を行う。	40分
6	【不定冠詞、複数形】	不定冠詞の形、名詞の複数形のタイプと格変化について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞と名詞の複数形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 1 4 ～ 1 5 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	不定冠詞と複数形の格変化を暗記する。 教科書 1 6 ページの練習問題 1 の2. ～4., 2 の1., チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【幹母音が変わる現在形】 【数詞 2 0 ～ 1 0 0】	語幹の母音が変わる動詞の変化について学習する。 数詞 2 0 ～ 1 0 0 の読み方を学習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、母音が変わる動詞の現在形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。数詞 2 0 以上を発音できる。	
	事前学修	教科書 1 7 ～ 1 8 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。 教科書 1 8 ページの数詞の音声を聞く。	20分
	事後学修	特に注意すべき動詞の現在人称変化、2 0 ～ 1 0 0 の数詞を暗記する。 教科書 1 9 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	40分
8	【人称代名詞の 3 格・4 格、定冠詞類】	人称代名詞の 3 格・4 格、3 人称の人称代名詞の用法、定冠詞類の意味と形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の 3 格・4 格、3 人称の人称代名詞の用法、定冠詞類の意味と形について理解し、変化させることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 2 1 ～ 2 2 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	人称代名詞の 3 格・4 格、定冠詞類の種類と変化を暗記する。 教科書 2 4 ページの練習問題 1, 2 を行う。 発音練習を行う。	40分
9	【不冠詞類、疑問詞】	不定冠詞類の意味と形、疑問詞の意味と形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定冠詞類、疑問詞について理解し、不定冠詞類を変化させることができ、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 2 2 ～ 2 3 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	不定冠詞類の種類と変化、疑問詞を暗記する。 教科書 2 4 ページの練習問題 3, 4 を行う。 発音練習を行う。	40分
10	【前置詞の格支配】	前置詞の意味と格支配について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞の格支配について理解し、正しく用いることができる。	
	事前学修	教科書 2 6 ～ 2 7 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	前置詞の発音と意味を復習し、暗記する。 教科書 2 9 ページの練習問題 1 を行う。 発音練習を行う。	40分
11	【前置詞と熟語、前置詞と定冠詞の融合形】	特定の前置詞と結びつく動詞、前置詞と定冠詞の融合形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特定の前置詞と結びつく動詞、前置詞と定冠詞の融合形について理解し、正しく用いることができる。	
	事前学修	教科書 2 8 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 2 9 ページの練習問題 2, 3 を行う。 発音練習を行う。	40分
12	【並列接続詞、定形第 1 位、命令文】	並列接続詞、定形第 1 位、命令形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、並列接続詞、定形第 1 位、命令形について理解し、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 3 0 ～ 3 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	並列接続詞、命令形を暗記する。 教科書 3 2 ページの練習問題 1, 3 を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【副文】	従属接続詞と副文、間接疑問文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、従属接続詞と副文、間接疑問文について理解し、ドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 3 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	従属接続詞を暗記する。 教科書 3 2 ページの練習問題 2，チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分
14	【esの用法】	非人称のesを使った表現、時刻の表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非人称のesを使った表現について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。時刻の表現ができる。	
	事前学修	教科書 3 4 ページ「時刻」、5 3 ページ「esの用法」を読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	時刻の表現の練習を行い、暗記する。 授業内に指示された課題を行う。	90分
15	【振り返り】	第14回の課題の解説および前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第 1 回～第 1 4 回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	第14回の課題で理解が不十分な箇所を確認しておく。	30分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
木曜日 1 限真道担当のドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ドイツ語の発音、語形変化、ドイツ語文の作成、会話も交えたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で小テストの成果を中心にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritt für Schritt	今井田 亜弓	三修社	2021	教科書	必携
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道 杉	三修社	2013	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験をもとに、実践で必要とされる文法の応用形式を授業で扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		授業の進め方、学期末の到達目標についての説明、検定試験の説明、単位認定についての説明。	
	この回の到達目標	今学期の到達目標と授業の進め方、単位認定について説明ができる。		
	事前学修	シラバスの内容を確認する。		30分
	事後学修	教材準備		30分
2	Lektion 0 挨拶をする		アルファベット及び基本的なドイツ語の発音の仕組みについての説明・実践	
	この回の到達目標	アルファベット及び基本的なドイツ語の発音の仕組みについての説明・実践ができる。		
	事前学修	アルファベット ドイツ語の発音予習		30分
	事後学修	アルファベット ドイツ語の発音復習		30分
3	Lektion 1-1 動詞の人称変化		小テスト1 人称代名詞、動詞の現在人称変化、	
	この回の到達目標	規則的に変化する動詞についての説明・応用ができる。		
	事前学修	Lektion1-1解答・答え合わせ・音読練習 小テスト1試験準備		60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習		30分
4	Lektion 1-2 文を作る		小テスト2 基本的な平叙文・疑問文それに対する返答についての説明・応用	
	この回の到達目標	基本的な平叙文・疑問文それに対する返答についての説明・応用ができる。		
	事前学修	Lektion1-2解答・答え合わせ・音読練習 小テスト2試験準備		60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習		30分
5	Lektion 2-1 名詞の性と格（1格/4格）		小テスト3 名詞の性と格（1格/4格） haben・4格支配の動詞についての説明・応用	
	この回の到達目標	名詞の性と格（1格/4格） haben・4格支配の動詞についての説明・応用ができる。		
	事前学修	Lektion2-1解答・答え合わせ・音読練習 小テスト3試験準備		60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習		30分
6	Lektion 2-2 名詞の複数形		小テスト4 名詞の複数形についての説明・応用	
	この回の到達目標	名詞の複数形についての説明・応用ができる。		
	事前学修	Lektion2-2解答・答え合わせ・音読練習 小テスト4試験準備		60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3-1 名詞の格(2格/3格)・人称代名詞の格変化	小テスト5 名詞の格(2格/3格)・冠詞類・人称代名詞の格変化についての説明・応用	
	この回の到達目標	名詞の格(2格/3格)・冠詞類・人称代名詞の格変化についての説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion3-1解答・答え合わせ・音読練習 小テスト5試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
8	Lektion 3-2 非人称のes	小テスト6 非人称の3esについて説明・応用	
	この回の到達目標	非人称のesについて説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion3-2解答・答え合わせ・音読練習 小テスト6試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
9	Lektion 4-1 不規則動詞の現在人称変化	小テスト7 不規則動詞の現在人称変化について説明・応用	
	この回の到達目標	不規則動詞の現在人称変化 について説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion4-1解答・答え合わせ・音読練習 小テスト7試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
10	Lektion 4-2 命令形	小テスト8 命令形	
	この回の到達目標	命令形について説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion4-2解答・答え合わせ・音読練習 小テスト8試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
11	Lektion 5 冠詞類	小テスト9 冠詞類の説明・応用	
	この回の到達目標	冠詞類について説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion5 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト9試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
12	Lektion 6-1 前置詞	小テスト10 前置詞について説明・応用	
	この回の到達目標	前置詞について説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion6-1 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト10試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 6-2 複合動詞	小テスト11 複合動詞について説明・応用	
	この回の到達目標	複合動詞について説明・応用ができる	
	事前学修	Lektion6-2 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト11試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
14	期末試験、まとめ	授業内筆記試験	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	理解不足だった課の復習	60分
15	まとめ、振り返り	筆記試験解説 今学期の学修内容を振り返り、今後の学修計画を立てる。	
	この回の到達目標	今学期を振り返り、今後に必要な学修計画について説明できる。	
	事前学修	今までの学修内容を概観、教科書の後半に目を通して今後の学修計画を練る。	30分
	事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標1、2、3が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標1、2、3、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において1、2、3、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、あるいはポータルシステム等を利用して行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 【改訂版】	荻原耕平山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
遠隔授業であればメール（suzuki.mitsuru11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【ドイツ語の全体像】	前期ガイダンス 文字（および発音）	
	この回の到達目標	到達目標①②③の準備段階であり、文字（綴り）と発音（発音記号）との関係性を理解できる	
	事前学修	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める	30分
	事後学修	文字と発音の復習	30分
2	【文字と発音】	ドイツ語の発音 前回授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、解説・練習をする。単語だけでなく、短い文も読むことができる	
	事前学修	CD・ネット等でドイツ語の発音を聞いてみる	10分
	事後学修	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記	50分
3	【動詞の現在人称変化】	1 格の人称代名詞 動詞の人称変化 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、まず動詞の現在人称変化を学ぶが、その前提として1 格の人称代名詞も使えるようになる	
	事前学修	授業1 回目～2 回目の復習	15分
	事後学修	3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
4	【重要な不規則変化動詞と語順】	sein と haben ドイツ語の語順 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③関連し、sein と habenの変化を覚え、動詞の位置を理解できる	
	事前学修	授業1 回目～3 回目の復習	15分
	事後学修	4 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
5	【名詞の変化概要】	名詞の性と格 定冠詞と不定冠詞の変化 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、名詞にグループ分けがあることを理解し、定冠詞・不定冠詞の変化を表にすることができる	
	事前学修	授業1 回目～4 回目の復習	15分
	事後学修	5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
6	【名詞の複数形】	複数形 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前回学習した名詞変化を発展させて、複数形についても変化を表にすることができる	
	事前学修	授業1 回目～5 回目の復習	15分
	事後学修	6 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【定冠詞類】		定冠詞類 前回までの授業の復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞類の変化ができるようになる	
	事前学修	授業 1 回目～6 回目の復習	15分
	事後学修	7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
8	【不定冠詞類】		不定冠詞類 前回までの授業の復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、不定冠詞類の変化ができるようになる	
	事前学修	授業 1 回目～7 回目の復習	15分
	事後学修	8 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
9	【格変化】		人称代名詞の格変化 3 人称の人称代名詞 前回までの授業の復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、人称代名詞の変化を表から読み取ることができる	
	事前学修	授業 1 回目～8 回目の復習	15分
	事後学修	9 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
10	【3 格と 4 格】		3 格と 4 格 非人称の es 前回までの授業の復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、格変化の基礎的な意味が理解できる	
	事前学修	授業 1 回目～9 回目の復習	15分
	事後学修	1 0 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
11	【不規則変化動詞の調べ方】		動詞の現在人称変化（不規則変化） 前回までの授業の復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、不規則変化動詞の現在人称変化を調べることができるようになる	
	事前学修	授業 1 回目～1 0 回目の復習	15分
	事後学修	1 1 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
12	【不規則変化動詞を覚える】		重要な不規則変化動詞 命令形 前回までの授業の復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、いくつかの不規則変化動詞の現在人称変化ができる。命令形・命令法について概略を理解できる	
	事前学修	授業 1 回目～1 1 回目の復習	15分
	事後学修	1 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【前置詞】 【3基本形】	前置詞 3基本形入門 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前置詞と格変化について理解できる。単純な3基本形を作ることができる	
	事前学修	授業1回目～12回目の復習	15分
	事後学修	13回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
14	【総合復習】	重要事項の復習	
	この回の到達目標	重要事項を確認し、苦手事項を少なくすることができる	
	事前学修	授業1回目～13回目の復習	45分
	事後学修	自分の苦手な事項の復習	15分
15	【前回までの学習事項の補足】	前回までの授業の補足など	
	この回の到達目標	教科書で省略されている事項やあまり触れなかった事項で、今後の学習に関連すると思われる事項を理解できる	
	事前学修	授業1回目～14回目の復習	15分
	事後学修	授業で学習した単語・例文の復習・暗記	45分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
C Dを用いた演習形式。教科書と独和辞典を常時使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して、返却。授業内試験の解説・講評は、後日、ポータルシステムにて配信。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
しっかり身につくドイツ語	橋本政義	三修社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、授業講堂にて、または、miura.mikiko11.nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】【動詞の変化とは】		ガイダンス（授業の進め方、独和辞典、発音の概要について説明を行う）。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 主語と動詞の現在人称変化を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連して、動詞の現在人称変化について理解し、変化表を作ることができ、アルファベットを発音することができる。	
	事前学修	シラバスを確認して、講義の全体を概観し、教科書第1課「動詞の現在人称変化（1）」の10ページを読んで準備する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を復習し、アルファベットと発音の原則にのっている単語を音読しておさらいする。10ページの現在人称変化表にある「主語と動詞の変化語尾」を暗記する。	30分
2	【定動詞の位置】		平叙文と疑問文における動詞の定位置について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語の大きな特徴である「定動詞の位置」について理解し、説明することができる。規則に則って文を作り、正しく発音することができる。	
	事前学修	12～13ページの「定動詞の位置」を読んで、準備する。	30分
	事後学修	動詞の位置を確認しながら、教科書の例文を音読して正しい発音を身につけ、書いて練習する。	30分
3	【be、haveに相当する動詞】		ドイツ語でも重要な動詞であるseinとhabenの変化と使い方について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、動詞seinとhabenの変化を理解し、正しく発音することができ、簡単な文を作ることができる。	
	事前学修	13ページにある変化表を読み、7の問題を解いて、準備する。	30分
	事後学修	ノートを確認して、間違った問題を解き直し、例文を含め、すべての文について、動詞の位置を確認しながら音読する。	30分
4	【名詞の性と格とは】【定冠詞とは】		名詞には男・女・中性の区別があり、文中での働きによって1・2・3・4格があり、定冠詞と不定冠詞の意味によって使い分けることを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、名詞の性と格、定冠詞と不定冠詞の意味の違いを理解し、それらを用いた文の構造を説明して翻訳することができる。	
	事前学修	第2課15ページの「名詞の性」、「格」、「定冠詞と名詞の変化」について読み、準備する。	25分
	事後学修	「名詞の格」を確認しながら、15ページの例文を書いて練習する。「定冠詞と名詞の格変化」の表を音読して、正しい発音を身につけ、書いて暗記する。	35分
5	【不定冠詞と名詞の格変化】【複数形】		「定冠詞」と「不定冠詞」の違いを知り、「名詞の複数形」を調べて、それが格変化がすることについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、不定冠詞の変化と名詞の複数形について理解し、文の中で複数形を指摘し、適切に辞書を引くことができる。	
	事前学修	16ページの説明を読み、不定冠詞の変化表を見て、定冠詞との変化語尾の違いを考えて、準備する。	25分
	事後学修	不定冠詞の格変化が正しく書けたかどうか、ノートを確認する。17ページにある、複数形に関する二つの表に出ている単語をていねいに音読し、単数形と複数形の違いを確認し、書いて練習する。	35分
6	【男性弱変化名詞とは】【疑問代名詞】		特殊な格変化をする「男性弱変化名詞」と人・物を尋ねる「疑問代名詞」について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、男性弱変化名詞の文中での数と格を把握することができる。コミュニケーションの基礎を形成する疑問詞のうち、人や物がどういう状態であるかを知るための質問の受け答えができる。	
	事前学修	19ページの例文を読み、問題を解いて準備する。	25分
	事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直す。教科書の文を参考にして、自己紹介する文を3文作る。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【不規則変化動詞】	現在形でも主語によって不規則に変化していく動詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不規則に変化する動詞について理解し、変化表を作ることができる。	
	事前学修	第3課22～24ページにある5つの変化表を読んで、準備する。	25分
	事後学修	自分で作成した6個の変化表を加え、主な不規則動詞の変化について、どういう点が不規則なのかをおさらいする。22～24にある例文を音読して、正しい発音を身につける。	35分
8	【分離動詞と非分離動詞】	分離動詞と非分離動詞という2種類の動詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、分離動詞と非分離動詞を正しく辞書で調べて、語彙を増やし、翻訳することができる。	
	事前学修	24～25ページの問題を解いて準備する。	30分
	事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直し、例文と問題の文を音読しておさらいする。	30分
9	【人称代名詞】	人称代名詞の格変化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平叙文・疑問文に加えて、副文における動詞の位置について理解し、説明することができる。	
	事前学修	第4課28ページの変化表を読み、29ページの問題を解いて準備する。	30分
	事後学修	ノートを確認して、間違えた箇所の問題を解き直し、「人称代名詞の3格と4格の形」を書いて暗記する。	30分
10	【前置詞】	前置詞の意味と、その後ろに来る格について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前置詞の意味と格支配について理解し、人称代名詞や冠詞を伴った名詞をその格にすることができる。	
	事前学修	29～30ページを読み、問題を解いて準備する。	30分
	事後学修	ノートを確認し、間違えた箇所の問題を解き直し、前置詞を暗記する。	30分
11	【定冠詞類とは】	定冠詞に似た語尾変化をする、定冠詞のなかまについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、定冠詞類と呼ばれるさまざまな冠詞の意味を把握し、適切な使い方が理解できる。	
	事前学修	第5課33ページを読み、第2課の定冠詞を復習してその違いを把握し、準備する。	30分
	事後学修	33～34頁にある定冠詞類の変化表と例文を音読し、正しい発音を身につける。	30分
12	【不定冠詞類とは】	不定冠詞と全く同じ語尾変化をする、定冠詞のなかまについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、不定冠詞類と呼ばれるさまざまな冠詞の意味を把握し、適切な使い方が理解できる。	
	事前学修	34ページを読み、第2課の不定冠詞を復習し、語尾変化が同じであることを確認して、準備する。	30分
	事後学修	34ページの変化表と例文を音読し、正しい発音を身につける。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【話法の助動詞とは】	話法の助動詞を使った構文について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞構文について理解し、翻訳することができる。	
	事前学修	第6課37～38ページにある変化表と例文を読んで準備する。	35分
	事後学修	助動詞構文が理解できたかどうかを確認しながら、例文を音読し、37ページの変化表を暗記する。	25分
14	【未来形とは】	話法の助動詞構文に準じた「未来形」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、werdenを話法の助動詞として使った文について理解し、適切に翻訳することができる。	
	事前学修	第3課24ページにある「werdenの現在人称変化」を復習し、40ページを読んで準備する。	35分
	事後学修	37ページの例文を音読し、未来形のさまざまなニュアンスが使い分けられるか、確認する。	25分
15	【振り返り】【授業内試験】	前学期で学んだことを振り返り、身についたかどうかを試験で確認する。その後、講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筆記試験により、全般的な到達度を判断する。	
	事前学修	教科書、ノート、配布資料を使って、全範囲にわたって復習し、不明な個所は理解する。	120分
	事後学修	試験で正解が出せなかったところを、教科書とノートで検討し、確認する。	20分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	森田 悟	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
学部の規定による

【授業方法】
講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナードやさしいドイツ語文法	萩原耕平、山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時、ただし、できる限り事前に申し出ること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスとドイツ語		ガイダンス、ドイツ語学習の意味と広がりを考える	
	この回の到達目標	①②③に関連して到達目標への学習計画を立てることができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
2	綴り字と発音		発音、綴り字等	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の綴り字と発音を説明することができる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
3	名詞の性と格		名詞の性と格	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の名詞と格について説明することができる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
4	名詞の性と格		名詞の性と格	
	この回の到達目標	①②③に関連してドイツ語の名詞と格について説明できる		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
5	定冠詞、不定冠詞		定冠詞、不定冠詞	
	この回の到達目標	①②③に関連して定冠詞、不定冠詞について説明することができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
6	定冠詞、不定冠詞		定冠詞、不定冠詞	
	この回の到達目標	①②③に関連して定冠詞、不定冠詞について説明することができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	人称代名詞		人称代名詞	
	この回の到達目標	①②③に関連して人称代名詞について説明することができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
8	人称代名詞		人称代名詞	
	この回の到達目標	①②③に関連して人称代名詞について説明することができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
9	前置詞、命令形		前置詞、命令形	
	この回の到達目標	①②③に関連して前置詞、命令形について説明することができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
10	前置詞、命令形		前置詞、命令形	
	この回の到達目標	①②③に関連して前置詞、命令形について説明することができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
11	不規則動詞		不規則動詞	
	この回の到達目標	①②③に関連して不規則動詞について説明することができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
12	不規則動詞		不規則動詞	
	この回の到達目標	①②③に関連して不規則動詞について説明することができる。		
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	応用練習		応用練習
	この回の到達目標	①②③に関連して応用練習について説明することができる。	
	事前学修	新しく学ぶ単語等調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
14	授業内試験及びまとめ、振り返り		授業内試験及びまとめ、振り返り
	この回の到達目標	①②③に関連してこれまでの学修事項を確認し評価することができる。	
	事前学修	試験準備をすること	30分
	事後学修	授業内試験の内容について再度学修し検討すること	30分
15	これまでの学習の内容の確認と補充		これまでの学習の内容の確認と補充
	この回の到達目標	①②③に関連してこれまで学修してドイツ語の理解を補足し学修事項を説明することができる。	
	事前学修	前期で学んだ事柄を振り返り基礎知識を整理する	30分
	事後学修	前期で学んだ事項をより確実なものにすること	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現ABを同時履修すること

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」〔改訂版〕	河田一郎他著	三修社	2021	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等一冊		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考	教科書「気分はドイツ」は改訂版を必ず購入すること。電子辞書は使用不可。				

【オフィスアワー】
月曜2限、授業後の教室、もしくは、9号館の共有スペース(事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp)にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
	事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
	事後学修	教科書についているCDを聞いて、何度も発音し、完全に覚える。	30分
2	発音の3原則	アルファベットを復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
	事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら発音の規則を確認し、何度も発音し、ノートに書き留め、覚える。主語となる人称代名詞を見ておく。	30分
3	注意すべき母音と子音の発音 主語となる人称代名詞	基本的な母音の発音と注意すべき母音、および注意すべき子音の発音を取り上げ、解説する。主語となる代名詞を英語と比較しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、母音の長短の原則とローマ字式に読める母音と読めない母音、さらに子音の発音規則を覚えて、正しく発音することができる。主語となる代名詞を間違いなく言い、書くことができる。	
	事前学修	CDを聞きながら母音の発音の規則を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら母音と子音の発音の規則を確認し、さらに主語となる代名詞を何度も発音し、ノートに書き留め、完全に覚える。数字を覚えて、その際、発音の規則を振り返ってみる。	30分
4	動詞の基本的な変化	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、lernen, trinken等の動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
	事前学修	主語と動詞の変化の関係を調べておく。辞書で動詞を引いてみる。	30分
	事後学修	lernen, trinken等の動詞の変化をテキストを見ずに言い、書けるようにしておく。練習問題の答えを教科書、あるいはノートに書いておく。辞書を引いて文の意味を調べておく。	30分
5	sein habenの変化 定形2位の原則	重要不規則動詞sein habenの変化と意味を述べ、助動詞としてもつかわれることを先取りして説明する。定形が2位に置かれるドイツ文法の大原則について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要不規則動詞sein habenを難なく使うことができる。1課の動詞の変化の練習問題を難なく解くことができる。	
	事前学修	重要不規則動詞sein habenを英語のbeやhaveと比較してみる。	30分
	事後学修	規則的な変化をする動詞や重要不規則動詞sein habenの変化を発音し、ノートに書き、覚える。基本例文を暗記しておく。	30分
6	動詞の変化（1）のまとめ 名詞の性と数と格	基本的な重要動詞の変化をまとめ、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要基本動詞の変化を説明できるとともに、難なく発音し、書くことができる。ドイツ語の名詞の大きな特徴を挙げることができる。	
	事前学修	教科書を読み、ドイツ語名詞の特徴を英語と比較して考えておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら、練習問題の文を覚えるまで何度も発音し、書いておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	定冠詞、不定冠詞と格表示機能	定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
	事前学修	小テストに備えて、定冠詞と不定冠詞の格変化を何度も口で言って、何度もノートに書いておく。	30分
	事後学修	格の用法に注意しながら、CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、暗記する。	30分
8	2格の位置	小テストを実施する。 学者が間違いやすい、2格を取り上げ、文構造を説明する。	初
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、2格名詞を含んだ平易な文章を作ることができる。	
	事前学修	2格名詞に注意して、文章を訳し、実際に書いてみる。疑問代名詞の格変化は、男性名詞の定冠詞の格変化のヴァリエーションであることを確認しておく。	30分
	事後学修	2格の用法に注意しながら、CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造を暗記する。	30分
9	母音交替動詞の変化	まず、ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを解説し、ここでは母音交替が起こる動詞の「人称変化」を取り上げる。 ドイツ語における他動詞と自動詞の区別を辞書を使って説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、どの主語のところで、動詞のどの部分が、どのように換わるかが分かったうえで、人称変化できる。	
	事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら、交替する部分を目で確認するだけでなく、聞いて、発音してみて、語形変化を覚えるまでノートに書く。	30分
10	人称代名詞3格と4格 3人称の人称代名詞の用法	人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて説明できる。	
	事前学修	練習問題の答えを、教科書、もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	人称代名詞の1格、3格、4格を覚えるまで発音し、ノートに書く。	30分
11	定冠詞類と不定冠詞類	ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを改めて説明し、ここでは定冠詞と不定冠詞の「格変化」のヴァリエーションであることを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の格変化を定冠詞と不定冠詞の格変化に関連付けて活用できる。	
	事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	定冠詞類、不定冠詞類（所有冠詞）を性に応じて、難なく格変化できるように発音し、ノートに書く。	30分
12	疑問代名詞、疑問副詞	疑問代名詞wer, was、疑問副詞を説明する。定形の位置についても指摘する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定冠詞類と不定冠詞類、そして疑問詞を含んだ平易な文章を訳し、作成することができる。	
	事前学修	疑問代名詞の格変化と男性、中性の定冠詞の格変化とを比較し、共通する部分を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、練習問題を何度も発音し、覚えるまでノートに書く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前置詞（１）と格支配	前置詞の種類は4種類あるが、前期では2格、3格、4格と結びつく前置詞について取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「が・の・に・を」の4つの格を補うための品詞、前置詞を用いることで、表現の幅を広げることができる。	
	事前学修	前置詞の意味だけでなく、どの前置詞が何格と結びつくかをしっかりと覚えておく。	30分
	事後学修	試験に備えて、今までの授業内容を総復習し、前期文法を整理しておく。	150分
14	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法問題を解き、平易な文章を訳し、作文することができる。	
	事前学修	基本文法、基本語彙を覚え、基本例文の音読、暗唱し、試験に備える。	150分
	事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、後期文法へ進むことができる。	
	事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の文法授業のために反省点を教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜4時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
水曜5時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」を同時履修すること。抽選の際には、佐藤先生の水・5の授業にウェブ登録すること。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。 対面授業を予定しています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール・三訂版」	上野・木田	白水社	2020	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等一冊		三修社 同学社等	2016	その他	必携
備考	電子辞書は不可				

【オフィスアワー】
月曜4限、授業後の教室、もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス ドイツ語のアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
	事前学修	教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
	事後学修	教科書についているCDを聞いて、何度も発音し、完全に覚える。	30分
2	発音の3原則	アルファベットを復習したのち、単母音、アクセント、短母音、長母音の原則と実際の発音を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、発音の3つの原則を覚え、それに従って実際にドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
	事前学修	ドイツ語の発音の3つの原則をよく読み、頭に入れておく。その上でCDを聞きながら発音の規則を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら発音の規則を確認し、何度も発音し、ノートに書き留め、覚える。主語となる人称代名詞を見ておく。	30分
3	注意すべき母音と子音の発音 主語となる人称代名詞	基本的な母音の発音と注意すべき母音、および注意すべき子音の発音を取り上げ、解説する。主語となる代名詞を英語と比較しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、母音の長短の原則とローマ字式に読める母音と読めない母音、さらに子音の発音規則を覚えて、正しく発音することができる。主語となる代名詞を間違いなく言い、書くことができる。	
	事前学修	CDを聞きながら母音の発音の規則を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞きながら母音と子音の発音の規則を確認し、さらに主語となる代名詞を何度も発音し、ノートに書き留め、完全に覚える。数字を覚えて、その際、発音の規則を振り返ってみる。	30分
4	動詞の基本的な変化 定形2位の法則 seinの変化	1課。ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称、定形といった文法用語について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、wohnen, lernen, trinken等の動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。定形の位置を把握できる。英語のbeにあたるseinを完全に覚え、言い、書くことができる。	
	事前学修	主語と動詞の変化の関係を調べておく。辞書で動詞を引いてみる。	30分
	事後学修	wohnen, lernen, trinkenそしてsein等の動詞の変化をテキストを見ずに言い、書けるようにしておく。練習問題の答えを教科書、あるいはノートに書いておく。辞書を引いて文の意味を調べておく。	30分
5	名詞の性と数と格 定冠詞・不定冠詞 habenの変化	1課と2課。基本的な重要動詞の変化を復習し、その後、ドイツ語の名詞の性・数・格及び定冠詞・不定冠詞の特徴について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、重要基本動詞の変化を説明できるとともに、難なく発音し、書くことができる。ドイツ語の名詞の大きな特徴を挙げることができる。定冠詞と不定冠詞の違いを把握できる。また、重要不規則動詞sein habenを難なく使うことができる。1課の動詞の変化の練習問題を難なく解くことができる。	
	事前学修	重要不規則動詞sein habenを英語のbeやhaveと比較してみる。教科書を読み、ドイツ語名詞と冠詞の特徴を英語と比較して考えておく。	30分
	事後学修	規則的な変化をする動詞や重要不規則動詞sein habenの変化を発音し、ノートに書き、覚える。基本例文を暗記しておく。小テストに備えて、定冠詞と不定冠詞の格変化を何度も口で言って、何度もノートに書いておく。	30分
6	小テスト 動詞の変化（母音交替動詞）	小テストを実施する。 2課と3課。まず、ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを解説し、ここでは母音交替が起こる動詞の「人称変化」を取り上げる。 命令形の作り方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、どの主語のところで、動詞のどの部分が、どのように換わるかが分かったうえで、人称変化できる。また、命令文を作ることができる。	
	事前学修	規則動詞の変化と比較し、どこが不規則になり、どこが規則になるかを調べておく。 命令形は3タイプあることを調べておく	30分
	事後学修	CDを聞きながら、練習問題の文を覚えるまで何度も発音し、書いておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	定冠詞類・不定冠詞類	3課と4課。定冠詞と不定冠詞を復習し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞類、不定冠詞類の意味と文の中での役割を説明することができる。	
	事前学修	まず、定冠詞、不定冠詞の格変化を確認し、冠詞類の格語尾と比較し、共通する部分と異なる部分を抜き出しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	格の用法に注意しながら、CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、暗記する。	30分
8	定冠詞類・不定冠詞類	4課。ドイツ語の文法には1)「人称変化」と2)「格変化」の2本の大きな柱があることを改めて説明し、ここでは定冠詞と不定冠詞の「格変化」のヴァリエーションであることを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞類、不定冠詞類の意味と文の中での役割を理解して、使うことができる。	
	事前学修	練習問題の答えを、教科書、もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	定冠詞類、不定冠詞類（所有冠詞）を性に応じて、難なく格変化できるように発音し、ノートに書く。2格の用法に注意しながら、CDを聞き文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造を暗記する。	30分
9	複数形の5タイプ 人称代名詞3格と4格 3人称の人称代名詞の用法	4課と5課。ドイツ語の名詞の複数形5タイプの作り方を説明する。 人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、複数形を作ることができる。3人称の人称代名詞の用法について英語との違いを把握できる。	
	事前学修	英語の人称代名詞との違いを調べておく。疑問代名詞の格変化は、男性名詞の定冠詞の格変化のヴァリエーションであることを確認しておく。	30分
	事後学修	人称代名詞の1格、3格、4格を覚えるまで発音し、ノートに書く。	30分
10	小テスト ドイツ語検定試験（独検）対策	人称代名詞の1格、3格、4格の小テストを実施する。 独検5級（入門レベル）の過去問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、人称代名詞を難なく変化させることができる。 到達目標①②③に関連して、いままで習ってきたドイツ語の文法、表現を再確認、覚えることができる。	
	事前学修	教科書を復習しておく。検定対策の参考書を2度読んでみる。	30分
	事後学修	CDを聞いて、過去問を覚えるまで何度もやり直す。	30分
11	ドイツ語検定試験（独検）対策	ドイツ語検定試験（独検）対策。問題の意図を解説する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、いままで習ってきたドイツ語の文法、表現を再確認、覚えることができる	
	事前学修	教科書を復習しておく。検定対策の参考書を2度読んでみる。	30分
	事後学修	CDを聞いて、過去問を覚えるまで何度もやり直す。	30分
12	前置詞 （2格、3格、4格と結びつく前置詞）	前置詞の格支配と種類について、英語と比較しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前置詞を意味と用法を理解して、使い、表現の幅を広げることができる。	
	事前学修	名詞、代名詞の格変化を確認しておく。	30分
	事後学修	前置詞の意味だけでなく、何格支配かも覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前期の総復習	基本単語、基本文法、基本表現を再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法を手掛かりにして、平易な文章を訳し、作文することができる。	
	事前学修	基本単語、人称変化、格変化をしっかりと覚えておく。	30分
	事後学修	試験に備えて、今までの授業内容を総復習し、前期文法を整理しておく。	150分
14	授業内試験／解説	60分間の筆記試験を実施する。参照不可。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本文法問題を解き、平易な文章を訳し、作文することができる。	
	事前学修	基本文法、基本語彙を覚え、基本例文の音読、暗唱し、試験に備える。	150分
	事後学修	試験終了後、自分の答案を振り返り、分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを書き留めておく。	30分
15	解説／振り返り	答案を見て、解説を行う。間違いの傾向を指摘し、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、後期文法へ進むことができる。	
	事前学修	試験において分からなかったところ、間違ったところ、あやふやなところを抜き出し、自ら修正しておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の文法授業のために反省点を教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aと併せて、ドイツ語基礎表現Aを履修すること（または履修済み）が望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて学習した内容の定着を深めていきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ[改訂版]』（※必ず[改訂版]の方をご用意ください。）	河田一郎、渡辺徳夫、黒瀬志保	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15～12:45 詳細は授業内で説明します。(atomori.mine11@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】とアルファベット	授業の進め方、評価方法、独和辞典の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。ドイツ語のアルファベットについて。	
	この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独和辞典などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。ドイツ語のアルファベット理解し、発音することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	授業で紹介された独和辞典をWEBサイトなどで調べてみる。授業で確認したアルファベットを復習する。	30分
2	【Lektion 0】発音	ドイツ語の発音について	
	この回の到達目標	ドイツ語の基礎的な発音を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の7頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で確認した発音を復習する。	30分
3	【Lektion 1】動詞	人称代名詞と動詞の現在人称変化(規則動詞)、重要動詞seinとhaben	
	この回の到達目標	ドイツ語の人称代名詞と動詞の現在人称変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の10頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ動詞の現在人称変化を復習する。	30分
4	【Lektion 1】語順	平叙文、疑問文での語順	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ドイツ語の文章構造を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の11頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ語順のパターンを復習する。	30分
5	【Lektion 2】冠詞と名詞	名詞の性、冠詞の格変化	
	この回の到達目標	名詞の性別と冠詞の格変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の13頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ名詞の性別と冠詞の格変化を復習する。	30分
6	【Lektion 2】名詞の複数形	名詞の複数形の5つの型	
	この回の到達目標	名詞の複数形の5つの型を理解し、独和辞典で確認することができる。	
	事前学修	教科書の14頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ複数形の5つの型について復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 3】不規則動詞	不規則動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	規則動詞との違いを理解し、不規則動詞の現在人称変化を適用することができる。	
	事前学修	教科書の17頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ不規則動詞の現在人称変化を復習する。	30分
8	【Lektion 4】人称代名詞	人称代名詞の3格と4格	
	この回の到達目標	人称代名詞の形を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の21頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ人称代名詞を復習する。	30分
9	【Lektion 4】冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類	
	この回の到達目標	定冠詞類、不定冠詞類の種類と格変化を確認し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の22頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ定冠詞類、不定冠詞類を復習する。	30分
10	【Lektion 5】前置詞	前置詞の種類と格支配	
	この回の到達目標	前置詞の種類と格支配を理解し、使用することができる	
	事前学修	教科書の26頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ前置詞の格支配を復習する。	30分
11	【Lektion 6】定形の位置	定形が第2位に置かれる場合とそうでない場合	
	この回の到達目標	定形が第2位に置かれる場合とそうでない場合を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の30-31頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ定形の位置を復習する。	30分
12	【Lektion 6】時刻	数詞と時刻の表現	
	この回の到達目標	数詞と時刻の表現を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の11, 18頁の「数詞」を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ数詞と時刻の表現を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 7】 話法の助動詞	助動詞の種類と語順	
	この回の到達目標	話法の助動詞の種類、現在人称変化、語順を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の35頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ話法の助動詞の現在人称変化と語順を復習する。	30分
14	【前期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
	この回の到達目標	試験を通じて前期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
	事前学修	第2回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
	事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	【前期の総括・振り返り】	前期授業のまとめ	
	この回の到達目標	前期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
	事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
	事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
文法事項を説明し、理解できたかどうかを練習問題で確認します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	文法事項を説明し、理解できたかどうかを練習問題で確認します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業時に答え合わせし、解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子	朝日出版社	2001年		必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ドイツについて		導入
	この回の到達目標	ドイツの歴史について知る	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
2	発音規則		第1課 発音
	この回の到達目標	発音規則を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
3	基数		第2課 数詞
	この回の到達目標	ドイツ語で0～100まで言えるようにする	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
4	動詞の変化		第3課 動詞の現在人称変化
	この回の到達目標	主語と動詞の関係を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
5	不規則動詞		第4課 強変化動詞
	この回の到達目標	強変化動詞のパターンに慣れる	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
6	名詞の性・数・格		第5課 名詞の格変化
	この回の到達目標	名詞の性・数・格のシステムを把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	格変化の発展 1	第 6 課 冠詞類	
	この回の到達目標	冠詞類の使い方に慣れる	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
8	格変化の発展 2	第 7 課 人称代名詞	
	この回の到達目標	代名詞の性・数・格を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
9	人称変化の発展	第 8 課 話法の助動詞	
	この回の到達目標	助動詞の使い方に慣れる	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
10	前置詞の用法	第 9 課 前置詞	
	この回の到達目標	前置詞の格支配に慣れる	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
11	動詞の発展	第 1 0 課 複合動詞	
	この回の到達目標	分離・非分離動詞を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
12	2 人称の違い	第 1 0 課 命令形	
	この回の到達目標	命令形の作り方に慣れる	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	1 ～ 1 0 課		前期のまとめ
	この回の到達目標	前期に勉強したことを復習する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
14	筆記試験及びまとめ		前期の力だめし
	この回の到達目標	前期の学習事項を理解できたかどうかを確認する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
15	解説		前期の総括
	この回の到達目標	試験の答え合わせと解説	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法学習、問題演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂・ドイツ文法の森（CD付）	ローデリヒ・ガート ゲ	第三書房	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスパワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口申し出て，声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義計画 文字と発音	前期の学習を展望する。 ドイツ語の文字と発音にふれる。	
	この回の到達目標	授業と教科書の趣旨を知る。 ドイツ語特有の発音と綴り字を理解する。	
	事前学修	ドイツやドイツ語について、図書館や情報機器を利用して調べてみる。	30分
	事後学修	教科書添付のCDを聴いて、口頭練習をする。 発音と綴り字の要点を確認する。	30分
2	動詞の現在人称変化 定動詞の位置	人称変化の仕組みを学ぶ。 定動詞の位置に着目する	
	この回の到達目標	規則動詞の現在人称変化を確かなものとする。 定動詞の位置を知る。	
	事前学修	教科書の説明を読み、英語の動詞との違いを知る。	30分
	事後学修	現在人称変化、定動詞の位置は、これからの学習の基本としてとらえ、習得を確かめる。	30分
3	名詞と定冠詞	名詞の性と格変化について学ぶ。 文の中で冠詞や名詞がどのように使われているかを知る。	
	この回の到達目標	練習を通じて定冠詞の変化を定着させる。	
	事前学修	教科書の説明を読み、英語の冠詞や名詞の扱い方と比較してみる。	30分
	事後学修	定冠詞の変化を確実なものとする。	30分
4	最も重要な三つの動詞	sein, haben, werdenの人称変化を知る。 例文と練習問題によってその用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	sein, haben, werdenの人称変化を読み取り、文の中で用いる。	
	事前学修	第1課で学んだ規則動詞の現在人称変化を復習する。	30分
	事後学修	例文や練習問題によって、三つの動詞の人称変化を確かめる。	30分
5	不規則動詞の変化 命令法	規則動詞の人称変化を復習する。 不規則動詞の幹母音の変化を学ぶ。 三つの形式の命令文を作る。	
	この回の到達目標	不規則動詞を人称変化させる。 三つの形式の命令文を使い分ける。	
	事前学修	第1課で学んだ規則動詞の現在人称変化を復習する。	30分
	事後学修	練習問題や代表例に用いられた不規則動詞の人称変化を確認する。	30分
6	不定冠詞と冠詞類	不定冠詞を格変化させる。 定冠詞、不定冠詞の応用として冠詞類を学ぶ。	
	この回の到達目標	冠詞、冠詞類の格変化を確かなものとする。	
	事前学修	第2課で学んだ名詞と定冠詞を復習する。	30分
	事後学修	定冠詞類、不定冠詞類に属する語をまとめてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	名詞の複数形 男性弱変化名詞		複数形の五つの型を知る。 特殊な格変化をする男性名詞を学ぶ。
	この回の到達目標	複数形、男性弱変化名詞を学び、格変化をさらに確かなものとする。	
	事前学修	冠詞の格変化の復習をする。 英語の複数形を振り返ってみる。	30分
	事後学修	例にあがっている名詞の複数形を覚える。 男性弱変化名詞の格変化の仕方を確かめる。	30分
8	人称代名詞 疑問詞		人称代名詞の格変化を知る。 人称代名詞、疑問詞の使い方を学ぶ。 格変化、指示関係に注意しながら文章練習をする。
	この回の到達目標	人称代名詞、疑問詞を格変化をさせる。 人称代名詞の使い方を文章練習で理解する。	
	事前学修	動詞の人称変化で用いた1格の人称代名詞を確認する。	30分
	事後学修	特に3人称の人称代名詞の使い方をまとめてみる。	30分
9	前置詞		前置詞の格支配について学ぶ。 主な前置詞の用例を読む。
	この回の到達目標	格支配に配慮しながら前置詞を用いる。	
	事前学修	冠詞、名詞、代名詞の格変化を復習する。	30分
	事後学修	具体的な用例を読み直し、前置詞の格支配も確認する。	30分
10	接続詞 分離動詞		接続詞の三つの種類を学ぶ。 接続詞を用いた文の動詞の位置に注意して読解練習をする。 分離動詞の使い方を学ぶ。
	この回の到達目標	接続詞の種類によって語順を使い分ける。 分離動詞を用いた文を読み取る。	
	事前学修	動詞の位置に関して今まで学んだことを復習する。	30分
	事後学修	接続詞を用いた例文、練習問題を、語順に注意しながら読み直す。 分離動詞、非分離動詞の基礎動詞、前綴りの扱い方を確認する。	30分
11	動詞の三基本形 過去人称変化		動詞の三基本形の種類を知る。 辞書や不規則動詞変化表で動詞の三基本形を調べる。 過去形を用いた文を読む。
	この回の到達目標	主な動詞の三基本形を作る。 文の現在と過去の時制を動詞から読み取る。	
	事前学修	英語の動詞の三基本形を振り返る。 第1課で学んだ動詞の現在人称変化を復習する。	30分
	事後学修	規則動詞の三基本形を確実に身につける。 取り上げられている不規則動詞の三基本形を確認する。 例文、練習問題を読み直し、動詞の時制に着目する。	30分
12	現在完了 過去完了		seinとhabenの人称変化を確認する。 現在完了、過去完了の文の作り方を学ぶ。
	この回の到達目標	完了形の文を作る。 完了の助動詞seinとhabenを使い分ける。	
	事前学修	過去分詞の作り方を確認する。 habenとseinの人称変化を復習する。	30分
	事後学修	語順や用法について英語との違いを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	話法の助動詞 未来	話法の助動詞を用いた文を作る。 各助動詞の用法を例文で理解する。	
	この回の 到達目標	話法の助動詞を人称変化させる。 話法の助動詞を用いた文を作る。	
	事前学修	ドイツ語と英語の助動詞を対応させてみる。	30分
	事後学修	話法の助動詞の人称変化を復習する。 例文を読み直し、助動詞、本動詞の位置も確認する。	30分
14	形容詞の格変化・名詞化	冠詞の格変化を復習する。 形容詞の格変化の仕組みを学ぶ。 形容詞を名詞の形にする。	
	この回の 到達目標	形容詞の格変化の仕組みを理解する。	
	事前学修	第2課、第5課で学んだ定冠詞、不定冠詞と名詞の格変化を復習する。	30分
	事後学修	形容詞の格変化の基本的な仕組みを確認する。	30分
15	会話表現(88, 56頁) 数字(86, 87頁)	基本的会話表現を学ぶ。 基数、序数を学ぶ。	
	この回の 到達目標	日常的によく使う挨拶表現や数字になじむ。	
	事前学修	形容詞の格変化を復習する。	30分
	事後学修	CDを聴き、場面を想定しながら、口頭練習をする。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(第一部金曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則、ドイツ語基礎文法Bと通年でこの授業を履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施した試験については、授業内で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読や問題による練習(独検過去問)などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語の時間<話すための文法>(web練習問題付)	清野智昭	朝日出版社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義、文字と発音(前半)		今後の学習についての概要を説明する。アルファベートを練習する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)	30分
	事後学修	第2回の授業までにテキストを準備すること。授業で習った発音練習をすること。(30分)	30分
2	文字と発音(後半)		アルファベットを復習したのち、単語やあいさつ文を使って実際の発音を説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
	事前学修	テキストを準備して授業に来ること。前回の授業で習った発音をすること。	30分
	事後学修	音声教材を利用し、発音練習を行うこと。	30分
3	第1課 動詞の現在人称変化と語順		ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の授業の復習を十分にしておくこと。第1課の内容について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第1課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	第1課 動詞の現在人称変化と語順、第2課(前半) 名詞の性と格変化(あわせて15ページの3番と23ページの4番も扱う)		前回の復習の後、関連した練習問題を解く。名詞の性と格変化について、概要を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	発音練習と、第1課の文法事項をあらためて復習しておくこと。予習する場合には、授業内容を参照し、学習する場所を間違えないこと。	30分
	事後学修	定冠詞・不定冠詞の格変化の表を覚えてくること。指示された宿題をしておくこと。	30分
5	第2課(前半) 名詞の性と格変化(あわせて15ページの2番と3番、23ページの4番も扱う)、第2課後半 重要な動詞		前回の復習の後、重要な動詞の現在人称変化について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。重要な動詞の現在人称変化を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	名詞の格変化について、十分に復習しておくこと。予習する場合には、授業内容を参照し、学習する場所を間違えないこと。	30分
	事後学修	重要な動詞の人称変化を覚えてくること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	第3課 不規則動詞の現在人称変化		現在人称変化の不規則な動詞について解説し、関連する練習問題を解く。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞について特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第1課の学習内容をあらためて復習しておくこと。新たに学習する不規則動詞の人称変化についても、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第1課、第2課でも動詞に関することを学習しているので、第3課の内容とごちゃごちゃにならないよう、注意深く復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第10課(後半) 命令形	前回の復習の後、命令形について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形の法則と注意すべき点を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習内容を復習しておくこと。今回の授業の学習内容も、あらかじめ少し目を通しておくことが望ましい(今回はテキストの後半部分の第10課の一部を扱うため、予習する場合には気をつけること)。	30分
	事後学修	命令形について、よく復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
8	第4課(前半) 前置詞	2格、3格、4格と結びつく前置詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	定冠詞・不定冠詞の格変化について、復習しておくこと。前置詞について、あらかじめ、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
9	第4課(後半) 副文	副文について解説する。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副文の特徴を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第1課で学習したドイツ語の語順について、復習しておくこと。	30分
	事後学修	副文は、英語とは語順が異なるため、十分に時間をかけて復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
10	第5課(前半) 人称代名詞	人称代名詞について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の一覧表を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	新たに学習する人称代名詞について、少し目を通しておくことが望ましい。	30分
	事後学修	人称代名詞について、十分に復習すること(表を覚えること)。指示された宿題をしておくこと。	30分
11	独検(5級) 模試の実施と解説	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
12	第5課(後半) 再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞や再帰動詞の特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第5課前半の学習事項が基礎となるので、復習してから授業にのぞむこと。	30分
	事後学修	再帰動詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第6課 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類・不定冠詞類について解説を行う。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定冠詞類と不定冠詞類の表の特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	すでに学習した定冠詞・不定冠詞の知識が基礎となるので、よく復習して授業に来ること。第6課の内容も、前もって少し目を通しておくのが望ましい。	30分
	事後学修	定冠詞類・不定冠詞類について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
14	理解度の確認と前期のまとめ	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。学習が十分ではない点を把握し、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A(第二部火曜1時限)	担当者	佐藤 英	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること。・この授業は原則としてドイツ語基礎文法Bと通年で履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	例文の音読、独検過去問を含む練習問題など。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法(改訂版)	荻野耕平ほか	白水社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義とアルファベット	ドイツ語の発音の基本となるアルファベット30文字を取り上げ、特にドイツ語特有のものを実際に発音しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語のアルファベットを発音することができる。特に8個の母音について正しく言うことができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書についているCDを聞いて、実際に発音してみる。	30分
	事後学修	第2回の授業までに教科書を準備し、今後、どのような学習をすることになるか、ひととおり、目を通すこと。	30分
2	第1課 ドイツ語の発音	アルファベットを復習したのち、単語やあいさつ文を使って実際の発音を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ドイツ語の単語を正確に読むことができる。	
	事前学修	教科書を準備して授業に参加すること。教科書を読んでくること。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習する。	30分
3	第2課 代名詞と動詞の現在人称変化	ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
	事前学修	第2課の内容について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第2課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
4	第2課 代名詞と動詞の現在人称変化	前回到引き続き、ドイツ語の動詞は主語によって変化することを説明する。また動詞の不定形と定形、親称と敬称といった文法用語について解説を行う。関連した練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の基本的な変化の規則性を把握し、正しく発音し、書くことができる。	
	事前学修	前回の授業の復習を十分に行っておくこと。	30分
	事後学修	第2課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
5	第3課 名詞の性と格	ドイツ語の名詞の性・数・格に関しする特徴について解説する。定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
	事前学修	第3課の学習事項について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第3課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。	30分
6	第3課 名詞の性と格/第4課 定冠詞類と不定冠詞類	引き続き、定冠詞と不定冠詞の用法を説明し、冠詞の格表示機能と名詞の4つの格の用法を解説する。あわせて、定冠詞類と不定冠詞類について、概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、定冠詞、不定冠詞の区別と文の中での役割を説明することができる。	
	事前学修	前回の学習事項を十分に復習し、第4課の内容について少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第4課の内容は第3課の延長上にある。第3課と第4課の復習を十分にすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第4課 定冠詞類と不定冠詞類/第5課 人称代名詞	引き続き、定冠詞類と不定冠詞類について説明する。人称代名詞の1格はすでに学んだが、ここでは3格と4格を取り上げ、さらに、3人称の人称代名詞の用法について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の3格と4格を言うことができる。3人称人称代名詞の用法を名詞の性と数に関連付けて説明できる。	
	事前学修	前回の学習事項を十分に復習し、第5課の内容について少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第3課と第4課の内容について、きちんと覚えること。第5課の内容についても、概要を理解できるようにしておくこと。	30分
8	第5課 人称代名詞	人称代名詞の一覧表を復習し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞の一覧表を書くことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第5課の学習内容について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第5課の人称代名詞の一覧表をすべて覚えること。期末テストに備えて、第1課から第4課の学習内容についても、復習すること。	30分
9	第6課 不規則動詞、命令形	現在人称変化の不規則な動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不規則動詞について特徴を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第6課の不規則動詞について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	不規則動詞について、練習問題等も活用しながら、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第5課の学習内容についても、復習すること。	30分
10	第6課 不規則動詞、命令形	前回の復習の後、命令形について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形の法則と注意すべき点を言うことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項について、十分に復習しておくこと。	30分
	事後学修	命令形について、練習問題等を活用し、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第5課の学習内容についても、復習すること。	30分
11	独検5級 模試の実施(筆記試験を中心に)	独検5級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
	事前学修	第6課までの学習内容を復習しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
12	第7課 前置詞	2格、3格、4格と結びつく前置詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第7課の学習事項について、少し目を通しておくこと。第3～5課の内容も関係してくるので、よく復習	30分
	事後学修	期末テストに備えて、第1課から第6課の学習内容についても、復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第7課 前置詞/第8課 分離動詞、接続詞	前回の復習の後、3・4格支配の前置詞について解説する。関連する練習問題を解くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、重要な前置詞の意味と機能を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を十分に復習しておくこと。第8課の分離動詞について、少し目を通しておくこと。動詞の人称変化の知識が求められるので、あらためて復習しておくこと。	30分
	事後学修	期末テストに備えて、第1課から第6課の学習内容についても、復習すること。	30分
14	理解度の確認と前期の学習内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	前期の復習	前期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の学習事項を活用し、ドイツ語の基本的な文を読むことができる。学習が十分ではない点を把握し、今後の学習計画を立てることができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
基礎文法を学びます。わかりやすい説明を心がけ、一方的な講義ではなく履修者のみなさんとコミュニケーションを取りながら、疑問点を積み残すことのないように進めます。練習問題や会話練習を通して、理解度が高まるようにします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークを通して問題発見をしたり、協働学習することにより既習の文法を定着させるアクティブ・ラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
シュリット・フュア・シュリット（三訂版）	今井田亜弓・前田織 絵	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後に行いますが、時間がかかる場合は事前にメールで連絡をください。ogasawara.fujiko@nihon-un.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実践で必要となる重要な表現や文法は追加して扱います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業内容および進め方、評価の付け方等の説明、導入授業	
	この回の到達目標	授業の具体的な目標を理解する	
	事前学修	シラバスに目を通してくる	30分
	事後学修	教材の準備および授業の復習	30分
2	アルファベート	ドイツ語の発音の規則を学ぶ	
	この回の到達目標	ドイツ語の発音の規則を学び、発音してみる	
	事前学修	発音の項目を予習	30分
	事後学修	発音の復習、インターネットサイトでドイツ語を聴いてみる	30分
3	Lektion 1	人称代名詞、動詞の現在人称変化	
	この回の到達目標	発音に慣れ、さらにドイツ語の基本を学ぶ	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	Lektion 2	名詞の性	
	この回の到達目標	名詞の性と冠詞を使い分ける	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	Lektion 2	nein, ja, dochの違いを理解する、名詞の格変化を学ぶ	
	この回の到達目標	決定疑問文の答え方と名詞の格変化を理解して使えるようにする	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習、Lektion 1と2の復習	60分
6	Lektion 3	人称代名詞	
	この回の到達目標	人称代名詞の変化も理解し覚える	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 3	非人称のesを用いた表現、語順	
	この回の到達目標	非人称のesを用いた表現等を使えるようになる	
	事前学修	該当箇所を読んてくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	Lektion 4	不規則動詞の現在人称形・命令形	
	この回の到達目標	不規則動詞に慣れる	
	事前学修	該当箇所を読んてくる	30分
	事後学修	授業の復習、Lektion 3、4の復習	60分
9	Lektion 4	否定表現	
	この回の到達目標	様々な否定表現を理解し、使えるようにする	
	事前学修	該当箇所を読んてくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
10	Lektion 5	不定冠詞類、否定冠詞	
	この回の到達目標	冠詞類の格変化を理解する	
	事前学修	該当箇所を読んてくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	Lektion 5	不定冠詞類・否定冠詞	
	この回の到達目標	冠詞類の格変化ができるようにする	
	事前学修	該当箇所を読んてくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	Lektion 6	前置詞・分離動詞	
	この回の到達目標	前置詞・分離動詞が理解できるようになる	
	事前学修	該当箇所を読んてくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 6	前置詞・分離動詞	
	この回の到達目標	前置詞・分離動詞が使えるようになる	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	30分
	事後学修	授業の復習	30分
14	前期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	前期の復習を行い、応用できるようにする	
	事前学修	該当箇所を読んでくる	60分
	事後学修	授業の復習	60分
15	前期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	特にLektion 5, 6の確認	
	事前学修	今学期を振り返り、後期の計画を立てる	30分
	事後学修	授業の振り返り	60分

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	相馬 大樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
一年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に履修すること。

【授業方法】
教科書をもとに、文法事項の説明をしたうえで、練習問題を解きながら授業を進める。授業内で実施した試験や課題に関しては、授業内で解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次回授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リヒトホーフ ー初級ドイツ語文法ー	松鶴功記他	朝日出版	2020	教科書	必携
「アクセス独和辞典」、「アポロン独和辞典」等		三修社、同学社等		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
オンライン授業の予定なので、質問等がある場合はメールで問い合わせること。（d-souma-5r9@sophia.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、アルファベート、発音 ①	授業についての説明と、ドイツ語のアルファベートを一通り確認し、発音を練習する。	
	この回の到達目標	ドイツ語のアルファベートを発音することができる。	
	事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	授業で習った発音を復習し、覚える。	30分
2	発音②	前回の知識を前提に、あいさつや数詞、曜日などの発音を確認する。	
	この回の到達目標	ドイツ語の発音規則を覚え、単語を正確に発音できるようにする。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	教科書に付いているQRコードを活用し、発声練習をしておくこと。	30分
3	第一課 人称代名詞と動詞の現在人称変化	ドイツ語の人称代名詞の種類を覚え、動詞の現在人称変化について説明する。	
	この回の到達目標	ドイツ語の人称代名詞と動詞の現在人称変化を、正確に使用できるようになる。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	第一課（後半）語順 第二課（前半）名詞の性と格、定冠詞	教科書の例文をもとに、ドイツ語の基本的な語順を説明する。第二課では、名詞の性と格について解説する。	
	この回の到達目標	ドイツ語の基本的な語順と、名詞の性と格を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
5	第二課（後半）不定冠詞と複数形	不定冠詞の変化と複数形について学ぶ。	
	この回の到達目標	定冠詞、不定冠詞の変化、用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	第三課 動詞の現在人称変化(2)、命令形	現在人称変化の不規則な動詞について学ぶ。命令形の場合の動詞の変化を解説する。	
	この回の到達目標	不規則変化動詞の特徴を理解し、命令形の用法を覚える。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第四課（前半）定冠詞類の変化	定冠詞類の変化と用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	定冠詞類の種類を覚え、変化と用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
8	第四課（後半）不定冠詞類の変化、否定の表現	不定冠詞類（所有冠詞、否定冠詞）の変化と用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	不定冠詞類の変化と用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
9	第五課（前半）人称代名詞と前置詞	人称代名詞の3、4格と、前置詞の格支配について学ぶ。	
	この回の到達目標	人称代名詞の3、4格を覚え、前置詞の格支配について理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
10	第五課（後半）人称代名詞と前置詞	前回の復習をした後、3・4格支配の前置詞の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	3・4格支配の前置詞の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
11	第六課（前半）話法の助動詞と未来形	話法の助動詞の種類と用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	話法の助動詞の人称変化、語順を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
12	第六課（後半）話法の助動詞と未来形	話法の助動詞の用法を復習し、未来系（werden）の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	話法の助動詞の用法を定着させ、未来形の用法も理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第七課（前半）分離動詞、非分離動詞	分離動詞の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	分離動詞、非分離動詞の特徴を理解する。非分離動詞の特徴を確認する。	
	事前学修	前回の復習をしておくこと。	30分
	事後学修	試験の準備。	120分
14	前期の確認	前期の授業内容が理解できているか確認するため、授業内テストを実施する。	
	この回の到達目標	前期の授業で得た知識を活かして、練習問題を解く。	
	事前学修	前期の文法事項を総ざらいし、試験に備える。	120分
	事後学修	試験でわからなかった箇所を復習しておく。	30分
15	前期のまとめ，振り返り	前回のテストの解説と、前期の総復習。	
	この回の到達目標	前期で扱った文法事項をまとめ、後期へとつなぐ足がかりとする。	
	事前学修	試験で自信がなかった箇所を、確認しておく。	30分
	事後学修	前期の授業内容を繰り返し復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bを同時履修すること

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。 対面授業を予定しています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「気分はドイツ」〔改訂版〕	河田一郎他著	三修社	2021	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等一冊		三修社 同学社等	2017	その他	必携
備考	教科書「気分はドイツ」は改訂版を必ず購入すること。電子辞書は使用不可。				

【オフィスアワー】
月曜2限授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp)にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	前期文法の総復習 3・4格支配の前置詞		前期文法の総復習をしながら、後期文法では前期文法が少し装い替えて繰り返し出てくるにすぎないことを説明し、少し先取りして後期文法の解説を簡単に行う。その後、3・4格支配の前置詞の用法の説明を行う。	
	この回の到達目標	英語のにはない3・4格支配の前置詞9個を覚えてうえで、3格支配か4格支配かの使い分けができる。		
	事前学修	冠詞類の格変化(3格形、4格形)を確認しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
2	前置詞を伴う熟語 融合形	前置詞の	前置詞と冠詞とが融合して、縮合形をつくることを取り上げ、どういう場合に融合し、どうい うばあい融合しないかを解説する。また、前置詞を伴う熟語を学ぶ。あわせて、熟語の辞書の表 記も説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツ語の熟語を知ること、少し詳しい文献の解釈、やや複雑なドイツ文の作成の下地を作ること ができる。		
	事前学修	参考書を調べて、どのような動詞がどのような前置詞と結びついて熟語になるか拾い出して、教科書もしくはノート に書き留めておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
3	話法の助動詞		話法とは何か説明し、人称変化は単数で特殊な変化をすることを述べ、話法の助動詞構文を観 察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、この助動詞の持つ意味のニュアンスを十分に把握したうえで、表現や理解の幅を広げることができ る。		
	事前学修	wissen型の人称変化を復習し、英語との文構造を比較する。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
4	動詞の三基本形 変化	過去人称	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。また、過 去の人称変化についても述べる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、過去形を使うことができる。		
	事前学修	現在人称変化と過去人称変化とを比較し、共通する部分と異なる部分を教科書、もしくはノートに書き留めておく。 練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
5	完了形		完了の助動詞は、多くはhabenを使うが、どういう場合にseinを使うかを解説を行う。そして、文 構造を観察する。過去形が「物語」「報告」の文体であるのに対し、現在完了形は、日常の口語 表現であることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、現在完了形と過去形を使うことができる。		
	事前学修	habenと seinの人称変化、過去分詞の作り方を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いてお く。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
6	分離動詞		前つづりと基礎動詞から成り立っている動詞を複合動詞というが、ここでは分離動詞を取り上げ て、英語の配列と比べながら解説を行う。また、分離動詞の文構造は、ドイツ語の特徴を成す枠 構造を知るうえで重要であることにも言及する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞には、分離動詞と非分離動詞があるが、混同しないで見分けることができる。到達 目標①に関連して、複合動詞を発音する際、正しくアクセントを置くことができる ドイツ語の構文の特徴である枠構造と 結びつけて考えることができる。		
	事前学修	分離動詞の文章を見て、辞書を調べて、その意味を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いて おく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。話法の助動詞の構文と完了形の構文と類似するところを確認し ておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	形容詞の用法 付加語的 用法	ドイツ語の名詞には、常に性、数、格を明示しようとする言語的本能があり、形容詞が変化する のはそのためであることを説明し、ここでは主に付加語用法を取り上げ、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、文の中での名詞の役目を意識し、語尾を間違わないでつけることができる。	
	事前学修	強変化の語尾、弱変化の語尾、混合変化の語尾は何に由来するか考えてみる。辞書を引く練習をしておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
8	esの用法	非人称のesの用法を英語と比較して、説明する。天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、天候の用法、es gibtの表現を使って、会話の幅を広げることができる。	
	事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
9	再帰動詞 詞	再帰代名	主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加わえら れる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、例えば、setzen「～を座らせる」という他動詞を、再帰代名詞を使って、「座る」という自動詞 的な意味にすることができる。	
	事前学修	人称代名詞の3格と4格を確認しておく。	
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。辞書を引いて、再帰動詞の意味を調べておく。	
10	受動態	今までの文章は主語が他のものに動作を加えることを述べたものであるが、ここでは主語が動作 を受ける関係の文章を取り上げ、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、受動態は「何が行われる」という出来事に重点を置いて表現する言い方で、能動態の性質と区別し て表現することができる。	
	事前学修	werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
11	分詞	zu不定詞	分詞の定義と種類を説明し、その後、zu不定詞句を英語および日本語の配列と比較して述べる。
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、現在分詞、過去分詞の用法、zu不定詞の名詞的用法、付加語的用法、副詞的用法を区別して訳すこ とができる。	
	事前学修	現在分詞、過去分詞の作り方、付加語の語尾変化を復習し、zu不定詞の構文を観察しておく。	
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。zu不定詞の構文が日本語の配列と似ていることを確認する。	
12	副文	関係文	まず副文の定義と種類を述べ、その後、関係文の文構造を解説する。
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、関係文中の格の役割を理解し、関係代名詞を入れることができる。	
	事前学修	関係代名詞の格変化と定冠詞の格変化を比較し、異なるところをチェックしておく。練習問題の答 えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。ドイツ語の定形の位置が3種類あることを改めて確認してお く。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接続法	接続法の定義を述べる。ここまで習ってきた文章は、事実をありのまま述べる「直接（説）法」という話法で、この回では接続法という形を説明する。ここでは、特に露骨な言い方を避け、遠慮深い、慎重な、控えめな表現である外交話法や人の意見を引用者の立場で取り次ぐ、間接話法について取り上げ、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、外交話法を使って自分の希望を伝えることができる。また、ドイツ語の報道文の中で、動詞の形を目印に誰が発言したかをはっきりと判別して、訳すことができる。	
	事前学修	接続法Ⅰ式、Ⅱ式の定型を現在人称変化過去人称変化と比較し、共通する部分と異なる部分を教科書に書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	10分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。実際に簡単なメールニュースを探して、報道文を訳してみる。試験に備えて、後期文法の総復習をする。	110分
14	授業内試験／解説	60分の筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法の問題に解答できるとともに、平易なドイツ文を話し、訳すことができるようになる。	
	事前学修	後期で習った文法事項を確認し、音読し、ノートに書き、基本例文を暗唱する。	110分
	事後学修	試験を振り返り、分からなかったところ、間違えたところ、あやふやなところを書き留め、正しい解答を調べておく。	10分
15	解説／振り返り	授業内試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、中級へ進むことができる。	
	事前学修	自分の答案を振り返り、試験で間違ったところ、あやふやなところ、わからなかったところを自分で調べておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、誤りを確認し、ドイツ語の基本文法を頭の中で整理し、自ら体系づけてみる。	90分

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜4時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
水曜5時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」を同時履修すること。抽選の際には、佐藤先生の水・5の授業にウェブ登録すること。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、ドイツ語及びドイツ語圏への理解を深めます。 対面式の授業を予定しています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール・三訂版」	上野・本田	白水社	2020	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社等	2016	その他	必携
備考	電子辞書は不可。				

【オフィスアワー】
授業後の教室、もしくは、9号館1階共有スペース（事前に電子メールで連絡のこと。watanabe.tokuo@nihon-u.ac.jp）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期文法の総復習	前期文法の総復習をしながら、後期文法では前期文法が少し装い替えて繰り返し出てくるにすぎないことを説明し、少し先取りして後期文法の解説を簡単に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期の基本ドイツ文法のアウトラインを把握することができる。。	
	事前学修	前期の文法項目を読み、確認しておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
2	前置詞と格支配の復習 3/4支配の前置詞	「～が・の・に・を」以外の関係、例えば、「～と」「～で」「～から」「～のために」等を表すときに使うドイツ語の前置詞を再度取り上げ、格支配について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツ語の前置詞を知ること、より詳しい、複雑なドイツ文を作ることができ、表現の幅を広げることができる。	
	事前学修	英語の前置詞は何格を支配しているか考えてみる。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。 練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。 3/4支配の前置詞について小テストのために覚える	30分
3	3/4支配の前置詞の小テスト 前置詞を伴う熟語 前置詞の融合形	前置詞と冠詞とが融合して、縮合形をつくることを取り上げ、どういう場合に融合し、どういふばあい融合しないかを解説する。また、前置詞を伴う熟語を学ぶ。あわせて、熟語の辞書の表記も説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、英語のにはない3・4格支配の前置詞9個を覚えたいうえで、3格支配か4格支配かの使い分けができる。それによって、ドイツ語の熟語を使ったり、少し詳しい文献の解釈、やや複雑なドイツ文の作成の下地を作ることができる。	
	事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。参考書を調べて、どのような動詞がどのような前置詞と結びついて熟語になるか拾い出して、教科書もしくはノートに書き留めておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
4	形容詞の用法 付加語的用法	ドイツ語の名詞には、常に性、数、格を明示しようとする言語的本能があり、形容詞が変化するのはそのためであることを説明し、ここでは主に付加語用法を取り上げ、解説を行う	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文の中での名詞の役目を意識し、語尾を間違わないでつけることができる。	
	事前学修	練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。強変化の語尾、弱変化の語尾、混合変化の語尾は何に由来するか考えてみる。辞書を引く練習をしておく	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。 辞書を引いて、再帰動詞の意味を調べておく。	30分
5	話法の助動詞	話法とは何か説明し、人称変化は単数で特殊な変化をすることを述べ、話法の助動詞構文を観察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、この助動詞の持つ意味のニュアンスを十分に把握したうえで、表現や理解の幅を広げることができる。	
	事前学修	wissen型の人称変化を復習し、英語との文構造を比較する。1人称単数と3人称単数の人称変化形を確認しておく。分離動詞の文章を見て、辞書を調べて、その意味を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。	30分
6	分離動詞 副文	前つづりと基礎動詞から成り立っている動詞を複合動詞というが、ここでは分離動詞を取り上げて、英語の配列と比べながら解説を行う。また、分離動詞と副文の文構造は、ドイツ語の特徴を成す枠構造を知るうえで重要であることに言及する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞には、分離動詞と非分離動詞があるが、混同しないで見分けることができる。到達目標①②③に関連して、定形の位置に注目して、主文と副文とを見分けることができ、理解の幅を広げることができる。	
	事前学修	辞書で引く時には、前つづりを付けて引いてみる。	30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。 ドイツ語の定形の位置が3種類あることを改めて確認しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	再帰動詞 再帰代名詞		主語の動作が、主語以外のものに加えられる場合ではなく、主語の動作が、自分自身に加えられる場合に使われる再帰動詞について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、例えば、setzen「～を座らせる」という他動詞を、再帰代名詞を使って、「座る」という自動詞的な意味にすることができる。		
	事前学修	人称代名詞の3格と4格を確認しておく。 練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。 話法の助動詞の構文と完了形の構文と類似するところを確認しておく。		30分
8	動詞の三基本形 過去人称変化		動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。また、過去の人称変化についても述べる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、過去形を使うことができる。		
	事前学修	現在人称変化と過去人称変化とを比較し、共通する部分と異なる部分を教科書、もしくはノートに書き留めておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
9	完了形		完了の助動詞は、多くはhabenを使うが、どういう場合にseinを使うかを解説を行う。そして、文構造を観察する。過去形が「物語」「報告」の文体であるのに対し、現在完了形は、日常の口語表現であることを説明する。まず副文の定義と種類を述べ、その後、関係文の文構造を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、過ぎ去った過去の事柄を述べるのに、現在完了形と過去形を使い、表現の幅を広げることができる。		
	事前学修	habenと seinの人称変化、過去分詞の作り方を確認しておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
10	受動態		今までの文章は主語が他のものに動作を加えることを述べたものであるが、ここでは主語が動作を受ける関係の文章を取り上げ、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、受動態は「何が行われる」という出来事に重点を置いて表現する言い方で、能動態の性質と区別して表現することができる。		
	事前学修	werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分
11	分詞 zu不定詞 esの用法		分詞の定義と種類を説明し、その後zu不定詞句を英語および日本語の配列と比較して述べる。非人称のesの用法を英語と比較して、説明する。天候・自然現象、人間の感情、感覚、生理現象を表す非人称動詞について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、現在分詞、過去分詞の用法、zu不定詞の名詞的用法、付加語的用法、副詞的用法を区別して訳すことができる。到達目標②に関連して、天候の用法、es gibtの表現を使って、会話の幅を広げることができる。		
	事前学修	現在分詞、過去分詞の作り方、付加語の語尾変化を復習し、zu不定詞の構文を観察しておく。英語のitの用法を調べておく。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。zu不定詞の構文が日本語の配列と似ていることを確認する。		30分
12	ドイツ語検定試験（独検）対策		独検4級（初級レベル）の過去問題を解きながら、問題の意図を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、検定の問題を通して今まで習ってきたドイツ語の文法、表現を再確認し、覚えることができる。		
	事前学修	教科書を復習しておく。検定対策の参考書を2度熟読してみる。		30分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接続法	接続法の定義を述べる。ここまで習ってきた文章は、事実をありのまま述べる「直接（説）法」という話法で、この回では接続法という形を説明する。ここでは、特に露骨な言い方を避け、遠慮深い、慎重な、控えめな表現である外交話法や人の意見を引用者の立場で取り次ぐ、間接話法について取り上げ、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、外交話法を使って自分の希望を伝えることができる。また、ドイツ語の報道文の中で、動詞の形を目印に誰が発言したかをはっきりと判別して、訳すことができる。	
	事前学修	接続法Ⅰ式、Ⅱ式の定型を現在人称変化過去人称変化と比較し、共通する部分と異なる部分を教科書に書き留めておく。練習問題の答えを教科書もしくはノートに書いておく。	10分
	事後学修	CDを聞いて、何度も文例を発音し、書き、覚えこむ。実際に簡単なメールニュースを探して、報道文を訳してみる。試験に備えて、後期文法の総復習をする。	150分
14	授業内試験／解説	60分の筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法の問題に解答できるとともに、平易なドイツ文を話し、訳すことができるようになる。	
	事前学修	後期で習った文法事項を確認し、音読し、ノートに書き、基本例文を暗唱する。	150分
	事後学修	試験を振り返り、分からなかったところ、間違えたところ、あやふやなところを書き留め、正しい解答を調べておく。	10分
15	解説／振り返り	授業内試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本ドイツ文法のアウトラインを把握し、中級へ進むことができる。	
	事前学修	自分の答案を振り返り、試験で間違ったところ、あやふやなところ、わからなかったところを自分で調べておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、誤りを確認し、ドイツ語の基本文法を頭の中で整理し、自ら体系づけてみる。	90分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。

【授業方法】
講義により文法説明・学生による発表をふくむ問題練習。視聴覚教材によって、眼と耳でドイツとドイツ語の世界に親しむ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等	適宜、和訳・独訳のレポートを提出してもらいます。											
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中か講義後にフィードバック

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ブロムナード やさしいドイツ文法』	荻原耕平他	白水社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義時間前後、講堂にて。授業時間：金曜２・３限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習授業	前期リハビリ授業。わたしたちは何をまなんできたか？復習と後期への展望。	
	この回の到達目標	前期学習の文法事項でまだ不十分なものや、忘れてしまった事項などを思いだしてもらおう。	
	事前学修	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。（30分）	30分
	事後学修	復習/ノート整理。学期末にノート提出あり。（30分）	30分
2	Lektion9 助動詞	助動詞の変化形および意味と例文。	
	この回の到達目標	助動詞の運用	
	事前学修	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。（30分）	30分
	事後学修	復習/ノート整理。学期末にノート提出あり。（30分）	30分
3	動詞の三基本形	Lektion10 動詞の三基本形 不定詞・過去基本形・過去分詞 不規則動詞変化表の使いかた。	
	この回の到達目標	主に動詞の過去形(文書表現に多用される)の作り方。運用。訳し方など。	
	事前学修	前回の復習（30分）	30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
4	不規則動詞の過去形	Lektion10 不規則動詞の例文になれる。	
	この回の到達目標	不規則動詞の過去形が使われている文章の訳し方。	
	事前学修	前回の復習（30分）	30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
5	現在完了形	Lektion11 英語の現在完了形とは少々意味あいがことなるドイツ語の現在完了形について。	
	この回の到達目標	同上、英語の現在完了形とは少々意味あいがことなるドイツ語の現在完了形について理解する。	
	事前学修	前回の復習（30分）	30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分
6	受動態	Lektion11 受動文の作り方。構文	
	この回の到達目標	簡単な受動文を作れること。	
	事前学修	前回の復習（30分）	30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	形容詞の比較・最上級の用法1		Lektion12 形容詞 比較級・最上級をつかった文例を読む。	
	この回の到達目標	語尾によって比較・最上級を見わける。		
	事前学修	前回の復習（30分）		30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）		30分
8	形容詞の用法2		Lektion12 形容詞の付加語的用法	
	この回の到達目標	形容詞のつく例文和訳。		
	事前学修	前回の復習（30分）		30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）		30分
9	さまざまな文例①		Lektion13 再帰代名詞・zu 不定詞のの用法	
	この回の到達目標	再帰代名詞・zu 不定詞をつかった例文和訳。		
	事前学修	前回の復習（30分）		30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）		30分
10	関係代名詞1		Lektion14 関係文(1)	
	この回の到達目標	関係題名にも格変化あります。		
	事前学修	前回の復習（30分）		30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）		30分
11	関係代名詞2		Lektion 14 関係文(2)やや複雑な例文にもとりくもう。	
	この回の到達目標	関係代名詞の訳読(初級)		
	事前学修	前回の復習（30分）		30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）		30分
12	復習講義1		後期内容の復習と応用練習(1) 習熟練習	
	この回の到達目標	未理解の項目を自己診断できるようにしておこう。		
	事前学修	前回の復習（30分）		30分
	事後学修	復習/ノート整理。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	復習講義2	後期内容の復習と応用練習(2) 習熟練習	
	この回の到達目標	未理解の項目を自己診断できるようにしておこう。	
	事前学修	前回の復習 (30分)	30分
	事後学修	復習/ノート整理。 (30分)	30分
14	復習講義および接続法	後期内容の復習と応用練習(3) 模擬問題練習(予定) 接続法の解説(試験範囲には入りません)	
	この回の到達目標	最終的復習・模擬試験	
	事前学修	復習 (30分)	30分
	事後学修	試験準備学習のこと。 (30分)	30分
15	後期試験 まとめ	後期試験 筆記。初見実力問題もありますから、独和辞書使用可。	
	この回の到達目標	初級ドイツ語の読解力。	
	事前学修	試験準備学習のこと。 (30分)	60分
	事後学修	試験結果の反省。 (30分)	10分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現Bも併せて履修すること。予習復習を怠ることなく授業への積極的な参加が求められる。ドイツ語検定4級を受験を推奨。

【授業方法】
ドイツ語基礎文法Aの続きの文法を学習する。身近な基本表現を多く使い、練習を積み重ねながら着実に文法を身につけられるように演習形式を主に授業を進める。確実に習得すべき事項に関しては確認の小テストを実施する。独和辞書は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・課題は返却する。次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
たいむりい	森田悟	朝日出版社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Nuメールアドレス

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	数字	20以上の数字、時刻の表現について学習，練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字と時間を表現できる。	
	事前学修	単語と数字の発音を復習しておくこと。	30分
	事後学修	数字、時刻の表現を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。	30分
2	6課 接続詞について	接続詞について学習する。接続詞の種類と文の構造について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続詞の種類と文の構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P24 I / II	
	事前学修	前置詞を復習しておくこと。	30分
	事後学修	接続詞を覚えること。副文の作り方を復習する。	30分
3	話法の助動詞、未来形	7課 話法の助動詞、未来形について学習する。助動詞構文について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞の変化、助動詞構文の文型について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P28 II	
	事前学修	練習問題P28 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
	事後学修	助動詞の人称変化と意味と助動詞構文の構造を確実に覚える。	30分
4	複合動詞について	分離する動詞と分離しない動詞について学習する。ドイツ語の枠構造について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の枠構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P28 I	
	事前学修	練習問題 P28 I 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
	事後学修	分離動詞を使った文の構造（助動詞構文と同じ）を確実に覚える。	30分
5	再帰表現	9課 再帰表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主語と目的語が同じものを表わす再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P36 I	
	事前学修	人称代名詞の変化を確認しておくこと。	30分
	事後学修	再帰表現を復習し、重要再帰動詞を確実に覚える。zu不定詞の用法について復習する。	30分
6	1回から6回目までの練習	疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞の練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞について復習し、それに対応する問題を解答できる。	
	事前学修	練習プリントを予習してくる。	30分
	事後学修	問題を解き直す。重要単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間試験・語順について	中間テスト・語順の復習 ドイツ語の枠構造を確認し、練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定動詞の位置、枠構造、否定文におけるnichtの位置を確認し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの練習問題を総復習する。	30分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	30分
8	zu 不定詞	8課 zu 不定詞の作り方と用法と形容詞の比較表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu 不定詞句と形容詞の比較表現について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P32 I、P36 II	
	事前学修	練習問題P32 I、P36 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
	事後学修	zu不定詞の用法、形容詞の比較表現について復習する。	30分
9	形容詞	8課 形容詞の付加語的用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題 P32 II	
	事前学修	定冠詞の変化を復習しておくこと。練習問題 P32 II 辞書を使用し予習しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞の変化を復習する。	30分
10	過去形	10課 動詞の三基本形と過去形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の三基本形と過去形の人称変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
	事前学修	動詞の現在人称変化を復習しておくこと。	30分
	事後学修	動詞の三基本形と過去形の人称変化を確実に覚える。動詞の三基本形の小テストを実施する。	30分
11	現在完了形	11課 現在完了形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形について理解し、それに対応する問題を解答できる。	
	事前学修	動詞の過去分詞を復習しておくこと。	30分
	事後学修	現在完了形の文を復習する。	30分
12	受動態	受動態について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、能動態と受動態の関係を理解し、受動態の文を作ることができる。	
	事前学修	動詞の三基本形を復習しておくこと。	30分
	事後学修	受動態の文を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	関係代名詞	12課 関係代名詞と関係文について学習する。接続法の作り方、使い方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名詞を修飾する関係文について理解し、受動態の文を作ることができる。	
	事前学修	定冠詞の変化を確認しておくこと。	30分
	事後学修	関係代名詞と関係文のつくり方を復習する。	30分
14	重要表現の復習	練習プリントで、受動態、関係文について復習し、それに対応する問題を解答できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文について確認し、それに対応する問題を解答できる。	
	事前学修	後期学習した文法事項を復習してくること。	40分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。重要単語と重要表現を覚える。	40分
15	授業内試験と振り返り	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文について確認し、説明することができる。	
	事前学修	過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文の総復習をすること。	50分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	10分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標①、②、③が身についているかを、各課におけるレポートにより評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	3	3	4								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	33	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ドイツ語なんて怖くない』	西村祐子・Rudolf Petrik	同学社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業講堂　土曜日10:30～12:20　月曜日17:50～19:40　kawajiri.tatsuaki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 前期の復習	前期に学修した重要文法事項について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の人称変化、名詞の格変化について理解し、説明できる。	
	事前学修	前期範囲の文法事項を整理しておくこと	30分
	事後学修	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。	30分
2	第8課 話法の助動詞、命令法について	話法の助動詞の人称変化と様々な意味について学修する。命令形は相手に応じて3種類の使い分けがあることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主語に応じて話法の助動詞を適切に人称変化させることができる。	
	事前学修	不定詞と定動詞の違いをもう一度確認すること。	30分
	事後学修	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。	30分
3	第8課 練習問題	助動詞構文は枠構造になることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意の不定詞句から3種類の命令文を作ることができる。	
	事前学修	教科書53ページを予習しておくこと。Aの問題は完全な文章で答えること。	30分
	事後学修	課題に出された文章を命令法に書き換えてくること。	30分
4	第9課 形容詞の用法 小テスト(2)	名詞を修飾する場合、形容詞には述語的、付加語的という2つの用法があることを学修する。形	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、付加語形容詞に適切な語尾を付けることができる。	
	事前学修	教科書55～56ページの表と定冠詞類の表を比べてみること。	30分
	事後学修	よく使われる形容詞を反対語とペアで覚えること。	30分
5	第9課 複合動詞について 練習問題	分離動詞は一種の枠構造を形作ることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、分離動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
	事前学修	教科書59ページを予習しておくこと。Bの問題は出来ればドイツ語で答えてみること。	30分
	事後学修	よく出てくる分離動詞前つづりの意味に習熟すること。	30分
6	第10課 再帰動詞・再帰代名詞、zu不定詞（句）について	「再帰」とは何かを学修する。zu不定詞（句）の作り方と用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「再帰」の意味を理解し、適切な再帰代名詞を選ぶことができる。	
	事前学修	人称代名詞を復習しておくこと	30分
	事後学修	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第10課 練習問題	3人称だけは再帰代名詞がsichになることに注意して問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰動詞を用いて、平叙文・疑問文・命令文を作ることができる。	
	事前学修	教科書65ページを予習しておくこと。再帰動詞の問題は主語の人称をいろいろ変えてみること。	30分
	事後学修	教科書60ページの再帰動詞を使って文章を作ってみること。	30分
8	第11課 形容詞と副詞の比較級、序数について	比較の様々な用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、身近なことに關して比較の文章を作ることができる。	
	事前学修	教科書55～56ページの形容詞の用法について復習しておくこと	30分
	事後学修	よく出てくる形容詞の比較級と最上級を覚えること。	30分
9	第11課 練習問題	比較級・最上級が付加語的に使われた場合の語尾変化に注意して問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、序数を用いて日付を言うことができる。	
	事前学修	教科書69ページを予習しておくこと。序数を用いて自分の生年月日を言えるようにしておくこと。	30分
	事後学修	比較の種々の用法を整理しておくこと。	30分
10	第12課 動詞の3基本形および過去人称変化	3基本形とは何かについて学修する。過去人称変化と過去形の用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合動詞も含め、あらゆる動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	現在人称変化を復習しておくこと	30分
	事後学修	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。	30分
11	第12課 練習問題	3基本形の作り方を復習しつつ問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形の文章を読み、かつ作ることができる。	
	事前学修	教科書73ページを予習しておくこと。過去形の動詞はすべて不定詞と過去分詞を出しておくこと。	30分
	事後学修	規則動詞の3基本形のパターンを完全に覚えておくこと。	30分
12	第13課 完了形の作り方とその用法	完了形も枠構造になることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2種類の助動詞を適切に選ぶことができる。	
	事前学修	habenおよびseinの現在人称変化を復習しておくこと	30分
	事後学修	課題に出された文章を現在完了形に書き換えてくること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第13課 分詞について	分詞は動詞から作られた形容詞で名詞を修飾できることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分詞を使った表現を理解し、簡単な表現を作ることができる。	
	事前学修	形容詞の語尾変化を確認しておくこと。	30分
	事後学修	現在分詞と過去分詞の違いを理解しておくこと。	30分
14	第13課 練習問題	過去形との違いを確認しつつ問題を解いていく	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日常多用され、英語と異なる現在完了の用法に習熟し、それを運用できる。	
	事前学修	教科書79ページを予習しておくこと。過去分詞はすべて不定詞・過去基本形も出しておくこと。	30分
	事後学修	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。	30分
15	接続法	接続法の作り方と用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日常よく使われる接続法の言い回しを理解し、使うことができる。	
	事前学修	動詞の人称変化、過去基本形の作り方を特に整理しておくこと。	30分
	事後学修	直説法との違いを整理しておくこと。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現も履修すること。

【授業方法】
授業ではドイツ文法以外に、役に立つドイツ関連情報を多数紹介する。リラックスした学習環境を整えるため、クラシック音楽を聞く時間を設け解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語ルネサンス（第3版）	本郷、佐藤ほか	三修社	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜10:30～ 授業終了後、時間を設ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[分離動詞について]	分離動詞について学ぶ、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、3基本形について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	[現在完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	[現在完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[zu不定詞について]	不定詞について学び、和訳することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験、振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Aを履修済みであること。

【授業方法】
教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を課題とします。課題の中に小テストの要素が入る場合もあります。 課題の解説は次の授業で行います。発音の説明と練習も適宜行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験に代 わる課題により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけて いるかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評 価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ [改訂版]	河田一郎 他	三修社	2021年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kurose.shiholl@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【話法の助動詞（現在人称変化と文構造）】	授業の進め方と注意事項を説明する。 話法の助動詞の現在人称変化と文構造について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の現在人称変化と文構造について理解し、話法の助動詞を正しく変化させてドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 ドイツ語基礎文法Aの学習内容を復習しておく。 教科書35ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 教科書37ページの練習問題1を行う。 発音練習を行う。	30分
2	【話法の助動詞（用法）】	話法の助動詞の用法、副文中の話法の助動詞について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、話法の助動詞の用法、副文中の話法の助動詞について理解し、ドイツ語文中で認識でき、またドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書35～36ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	話法の助動詞の現在人称変化を暗記する。 教科書37ページの練習問題2，3を行う。 発音練習を行う。	40分
3	【分離動詞】	分離動詞のしくみについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞のしくみについて理解し、ドイツ語文中で認識でき、またドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書39ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書41ページの練習問題1，3の2.を行う。 発音練習を行う。	40分
4	【zu不定詞】	zu不定詞の形式と用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、zu不定詞の形式と用法について理解し、zu不定詞を使ったドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書40ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書41ページの練習問題2，3の1.，チャレンジ問題を行う。 発音練習を行う。	40分
5	【動詞の3基本形】	動詞の3基本形について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の3基本形について理解し、変化させたり、調べることができる。	
	事前学修	教科書42～43ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書44ページの練習問題1を行う。 発音練習を行う。	30分
6	【過去人称変化】 【序数】	過去人称変化について学習する。 また、序数について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去人称変化について理解し、過去形のドイツ語文を作ることができる。序数について理解し、序数を用いた表現ができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書43ページ、50ページ「序数」を読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	過去人称変化を暗記する。 教科書44ページの練習問題2，3を行う。 発音練習を行う。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【現在完了形】		現在完了形について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形について理解し、現在完了形のドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 4 5 ～ 4 6 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 4 7 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	60分
8	【再帰動詞】		再帰代名詞と再帰動詞について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、再帰動詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 1 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	再帰代名詞を暗記する。 教科書 5 4 ページの練習問題 1, 2 の1., 2., 3 の1.を行う。 発音練習を行う。	40分
9	【受動】		動作受動、状態受動について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作受動、状態受動について理解し、受動態のドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 2 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 4 ページの練習問題 2 の3. ～6., 3 の2.を行う。 発音練習を行う。	40分
10	【形容詞の変化】		形容詞の 3 つの用法、付加語的用法の変化を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の 3 つの用法、付加語的用法の変化について理解し、形容詞を正しく変化させてドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 5 5 ～ 5 6 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 8 ページの練習問題 1, 3 を行う。 発音練習を行う。	40分
11	【形容詞の比較変化】		形容詞の比較変化、原級・比較級・最上級の用法について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞の比較変化、原級・比較級・最上級の用法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 5 7 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 5 8 ページの練習問題 2 を行う。 発音練習を行う。	40分
12	【関係代名詞】		定関係代名詞、不定関係代名詞について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定関係代名詞、不定関係代名詞について理解し、関係代名詞を使ったドイツ語文を作ることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 6 0 ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書 6 1 ページの練習問題を行う。 発音練習を行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【直説法と接続法、接続法第1式】	直説法と接続法、接続法第1式の形、要求話法、間接話法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、直説法と接続法、接続法第1式の形、要求話法、間接話法について理解し、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書64～65ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書67ページの練習問題2を行う。 発音練習を行う。	40分
14	【接続法第2式】	接続法第2式の形、非現実話法、接続法の過去について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法第2式の形、非現実話法、接続法の過去について理解し、ドイツ語文中でも認識でき、接続法第2式を使ったドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書65～66ページを読む。わからない単語の意味を調べる。	20分
	事後学修	教科書67ページの練習問題1，3を行う。 授業内に指示された課題を行う。	100分
15	【振り返り】	第14回の課題の解説および後期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第1回～第14回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	第14回の課題で理解が不十分な箇所を確認しておく。	30分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
木曜日 1 限真道担当のドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。

【授業方法】
文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ドイツ語の発音、語形変化、ドイツ語文の作成、会話も交えたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で小テストの成果を中心にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritt für Schritt	今井田 亜弓	三修社	2021	教科書	必携
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道 杉	三修社	2013	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容	実務経験をもとに、実践で必要とされる文法の応用形式を授業で扱います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、学期末の到達目標についての説明、検定試験の説明、単位認定についての説明。	
	この回の到達目標	今学期の到達目標と授業の進め方、単位認定について説明ができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認する。	30分
	事後学修	教材準備	30分
2	Lektion 7 話法の助動詞・副文	話法の助動詞・副文についての説明・実践	
	この回の到達目標	話法の助動詞・副文についての説明・実践ができる。	
	事前学修	Lektion7解答・答え合わせ・音読練習	60分
	事後学修	アルファベート ドイツ語の発音復習	30分
3	Lektion 8 動詞の三基本形・完了形	小テスト1 動詞の三基本形・完了形についての説明・応用	
	この回の到達目標	動詞の三基本形・完了形についての説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion8 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト1試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
4	Lektion 9 zu 不定詞句・再帰代名詞と再帰動詞	小テスト2 zu不定詞句・についての説明・応用	
	この回の到達目標	zu不定詞句・再帰代名詞と再帰動詞についての説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion9 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト2試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
5	Lektion 10 形容詞の格変化と比較表現	小テスト3 形容詞の格変化と比較表現について説明・応用	
	この回の到達目標	形容詞の格変化と比較表現について説明・応用	
	事前学修	Lektion10 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト3試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
6	Lektion 11 関係代名詞・指示代名詞	小テスト4 関係代名詞・指示代名詞について説明・応用	
	この回の到達目標	関係代名詞・指示代名詞について説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion10 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト4試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Lektion 12-1 受動態		小テスト5 受動態について説明・応用
	この回の到達目標	受動態について説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion12-1 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト5試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
8	Lektion 12-2 接続法		小テスト6 接続法について説明・応用
	この回の到達目標	接続法について説明・応用ができる。	
	事前学修	Lektion12-2 解答・答え合わせ・音読練習 小テスト6試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
9	独検対策1		独検4級トライアル・解説
	この回の到達目標	独検4級レベルの文法について応用できる	
	事前学修	独検4級トライアル	60分
	事後学修	演習問題復習	30分
10	独検対策2		独検3級トライアル・解説
	この回の到達目標	独検3級レベルの文法について応用できる	
	事前学修	演習問題復習	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
11	独検解説		独検解説を聞いて自分の到達度を確認する
	この回の到達目標	独検解説を通じて文法の到達度を確認して今後の目標を明確にすることができる	
	事前学修	独検解答	60分
	事後学修	独検復習	30分
12	文法復習1		小テスト10 動詞の変化（話法の助動詞・過去形・完了形・受動態）について応用
	この回の到達目標	動詞の変化（話法の助動詞・過去形・完了形・受動態）について応用ができる。	
	事前学修	動詞を中心に総復習 小テスト10試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法復習 2	小テスト 1 1 形容詞（格変化・比較表現）について応用	
	この回の到達目標	形容詞について説明・応用ができる	
	事前学修	形容詞を中心に総復習 小テスト11試験準備	60分
	事後学修	教科書復習・語彙練習	30分
14	期末試験、まとめ	授業内筆記試験	
	この回の到達目標	今まで学習した内容が応用できる	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	理解不足だった課の復習	60分
15	まとめ、振り返り	筆記試験解説 今学期の学修内容を振り返り、今後の学修計画を立てる。	
	この回の到達目標	今学期を振り返り、今後に必要な学修計画について説明できる。	
	事前学修	今までの学修内容を概観、教科書の後半に目を通して今後の学修計画を練る。	30分
	事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標1、2、3が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標1、2、3、が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において1、2、3、が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説、あるいはポータルシステム等を利用して行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法 【改訂版】	荻原耕平山崎泰孝	白水社	2019	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
遠隔授業ではメール（suzuki.mitsuru11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 【前期学習事項の確認】		ガイダンス 前期学習事項の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、前期学習事項における弱点をみつけ、基礎力を向上できる		
	事前学修	夏休み前の学習事項を見直しておく		45分
	事後学修	発音（単語の読み方）、定冠詞・不定冠詞、sein / haben の変化などを覚えなおす		15分
2	【分離動詞・非分離動詞】 【副文】		従属接続詞 分離動詞・非分離動詞 前期学習事項と前回授業の要点の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、副文の構造・分離動詞の使用例を覚え、使えるようになる		
	事前学修	前回の学習事項の復習		15分
	事後学修	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
3	【話法の助動詞】		話法の助動詞 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、話法の助動詞を使った文の構造を理解するとともに、いくつかの話法の助動詞の変化ができるようになる		
	事前学修	授業2回目の復習		15分
	事後学修	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
4	【未来推量の助動詞】		未来推量の助動詞 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、話法の助動詞と未来推量の助動詞を使った文の相違を理解する。未来推量の助動詞の人称変化ができるようになる		
	事前学修	授業2回目～3回目の復習		15分
	事後学修	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
5	【3基本形】		3基本形（夏休み前の続き） 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、3基本形が作れるようになる		
	事前学修	授業2回目～4回目の復習		15分
	事後学修	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
6	【過去形】		過去形 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、過去形の用例が理解できる		
	事前学修	授業2回目～5回目の復習		15分
	事後学修	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【現在完了形】		現在完了形 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現在完了形の構文を理解し、単純な現在完了形の文を作ることができる		
	事前学修	授業2回目～6回目の復習		15分
	事後学修	7回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
8	【受動】		受動文 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、受動文・受動態の構造を知り、単純な受動文を作ることができる		
	事前学修	授業2回目～7回目の復習		15分
	事後学修	8回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
9	【形容詞】		形容詞の変化 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、形容詞の変化等を理解できる		
	事前学修	授業2回目～8回目の復習		15分
	事後学修	9回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
10	【比較表現】		比較表現 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、基礎的な比較表現が理解できるようになる		
	事前学修	授業2回目～9回目の復習		15分
	事後学修	10回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
11	【再帰】		再帰表現 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、基礎的な再帰表現を理解し、使えるようになる		
	事前学修	授業2回目～10回目の復習		15分
	事後学修	11回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分
12	【zu 不定詞】		zu 不定詞 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、英語の to 不定詞との類似と相違を理解し、使えるようになる		
	事前学修	授業2回目～11回目の復習		15分
	事後学修	12回目の授業で学習した単語・例文の暗記		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【関係代名詞】	関係代名詞 前回までの授業の復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、関係代名詞を使って文を作ることができる	
	事前学修	授業2回目～12課回目の復習	15分
	事後学修	13回目の授業で学習した単語・例文の暗記	45分
14	【総合復習】	重要事項の復習	
	この回の到達目標	重要事項を確認し、基礎力の向上ができる	
	事前学修	授業1回目～13回目の復習	45分
	事後学修	自分の苦手な事項の復習	15分
15	【接続法】	接続法	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、接続法の概略が理解できる	
	事前学修	これまでの学習事項の総復習	30分
	事後学修	興味をわいた参考事項についての自主学習	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
CDを用いた演習方式。教科書と独和辞典を常時使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト等は添削して返却。授業内実施試験の解説・講評は、後日ポータルサイトシステムにて配信。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
しっかり身につくドイツ語	橋本政義	三修社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、授業講堂にて、または、miura.mikiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【形容詞の格変化】	ガイドンス（授業の進め方等について）により、受講生は、授業の準備をスムーズに行うことができる。 形容詞が付加語的に使用される場合の格変化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞が名詞とともに使われる場合の語尾変化について理解し、適切に翻訳することができる。	
	事前学修	シラバスと第7課の41～43ページにある変化表を見て、定冠詞類と不定冠詞類の格変化を復習して準備する。	30分
	事後学修	41～44にある文を音読し、おさらいする。	30分
2	【形容詞の比較変化】	形容詞の比較級と最上級について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、形容詞の比較級と最上級の作り方と使い方について理解し、どういう構文であるか、説明することができる。	
	事前学修	45ページを読んで準備する。	30分
	事後学修	45～46ページの文を音読して、おさらいする。	30分
3	【zu不定詞】【副文とは】	zu不定詞の作り方と使い方、および、「副文」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、より詳しい文を作り、コミュニケーションを豊かなものにすることができることを理解する。	
	事前学修	第8課49ページの説明と50ページにある表の「従属の接続詞」を読んで準備する。	30分
	事後学修	49～51ページの文を書いて、おさらいする。	30分
4	【再帰動詞とは】	分離動詞を用いた構文について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞を用いた文を理解し、分離動詞を辞書で引いて調べて使うことができる。	
	事前学修	51ページを読んで準備する。	30分
	事後学修	51ページの文を音読し、書いておさらいする。	30分
5	【動詞の3基本形】	動詞の3基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）の作り方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、規則変化か不規則変化かどちらであるかを判断し、過去基本形と過去分詞を作り、正しく発音することができる。	
	事前学修	第9課53ページを読んで準備する。	25分
	事後学修	53～54ページにある3基本形を書いて、暗記する。	35分
6	【過去人称変化】	過去形の人称変化について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形の文を理解し、翻訳することができる、正しく発音することができる。	
	事前学修	56ページを表を読んで準備する。	25分
	事後学修	56ページの表にある「過去人称変化の語尾」を暗記し、56ページの文を音読する。	35分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【現在完了形】		再帰代名詞を伴った再帰動詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形の構造を理解し、辞書を引いて調べて翻訳することができ、日常のコミュニケーションに大きな役割を果たす現在完了形の文を作ることができる。		
	事前学修	第10課58～59ページを読んで準備する。		30分
	事後学修	58～59ページにある文を音読しながら、現在完了形の構造をおさらいする。		30分
8	【非人称動詞とは】		esを用いた非人称表現について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、esを用いた熟語の意味と辞書での調べ方を理解して、翻訳することができる。		
	事前学修	61ページを読んで準備する。		30分
	事後学修	61ページの文を音読して、意味を確認する。		30分
9	【定関係代名詞とは】		定関係代名詞とそれを使った関係文の構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、先行詞と定関係代名詞の関係を理解し、関係文中の関係代名詞が何格であるかを適切に説明できる。		
	事前学修	第11課63ページを読み、定冠詞の格変化を復習して準備する。		30分
	事後学修	63ページにある文で定関係代名詞の格について確認し、57ページの格変化表を暗記する。		30分
10	【不定関係代名詞とは】		不定関係代名詞について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、不定関係代名詞を使った文を理解し、適切に翻訳することができる。		
	事前学修	64ページを読んで準備する。		30分
	事後学修	64ページの文を音読し、翻訳を確認しておさらいする。		30分
11	【受動態とは】		受動の構文について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、受動の助動詞と過去分詞で作られる受動態について、その基本形態を理解し、説明することができる。		
	事前学修	第12課67ページを読んでくる。		30分
	事後学修	配布プリントで、受動の助動詞の時制を復習する。		30分
12	【動作受動と状態受動】		受動態の種類について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本的な受動態のほかの受動形態を理解して、翻訳することができる。		
	事前学修	68ページを読んで準備する。		30分
	事後学修	68ページの文で、さまざまな受動態の構造を確認しておさらいする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【接続法とは】 【接続法の形態】	接続法第1式と第2式の作り方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、動詞を接続法にする方法を理解し、実際に作ることができる。	
	事前学修	第13課70～71ページを読んで準備する。	35分
	事後学修	71ページの表を音読して、接続法第1式と第2式の変化をおさらいする。	25分
14	【接続法の用法】	接続法の用法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の用法を理解し、適切な翻訳ができる。	
	事前学修	71～73ページを読んで準備する。	25分
	事後学修	72～73ページの例文を音読して、接続法の形と意味を確認する。	35分
15	【振り返り】 【授業内試験】	後学期学習内容の振り返り、授業内試験と講評。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後学期に学習したことがどの程度身についたかを判断することができる。	
	事前学修	教科書、ノート、配布資料に目を通し、後学期で学修したこと全般について、理解していないことがないかどうか検討する。	120分
	事後学修	試験で正解できなかった箇所について、教科書等を参考にして、再検討する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	森田 悟	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
学部の規定による。

【授業方法】
講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナードやさしいドイツ語文法	萩原耕平、山崎泰孝	白水社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後（火曜21：10～）ただし、できる限り事前に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期学習事項nの確認とガイダンス	後半の学習のためのガイダンス、前半の確認	
	この回の到達目標	①②③に関連して前期に学んだ中から是非とも復習したい項目について再度確認できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
2	前期学習事項の 中から特に重要な事項を復習	前半の学習の確認	
	この回の到達目標	①②③に関連して前期の学習事項の中からとk無に重要なことを説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
3	分離動詞、接続詞	分離動詞、接続詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して分離動詞・接続詞について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
4	動詞の3基本形	動詞の3基本形、過去について学修する	
	この回の到達目標	①②まるさんn胃関連して動詞の3基本形について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
5	現在完了・受動	現在完了・受動について学修する	
	この回の到達目標	ドイツ語の現在完了・受動について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
6	現在完了・受動	現在完了、受動について学修する	
	この回の到達目標	ドイツ語の現在完了・受動について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	現在完了・受動		現在完了、受動について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して現在完了・受動について説明できる		
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
8	形容詞・比較		形容詞、比較について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して形容詞・比較について説明できる		
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
9	形容詞・比較		形容詞、比較について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して現在完了・受動について説明できる		
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
10	再帰動詞・zu不定詞		再帰代名詞・zu不定詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して、再帰動詞・zu不定詞について説明できる		
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
11	再帰動詞・zu不定詞		再帰代名詞、zu不定詞について学修する	
	この回の到達目標	①②③に関連して再帰動詞・zu不定詞について説明できる		
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分
12	関係代名詞		関係代名詞について学修する	
	この回の到達目標	関係代名詞について説明できる		
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと		30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	接続法		接続法について学修する
	この回の到達目標	接続法について説明できる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
14	授業内試験		授業内試験及びまとめ、振り返り
	この回の到達目標	試験によって確認ができさらなる学習の計画。目標ができる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分
15	これまでの学習を振り替え帰り		これまでの学習の確認と補充を行い重要事項を学修できる
	この回の到達目標	ドイツ語の次のステップに行くことができる	
	事前学修	新しい単語等を調べておくこと	30分
	事後学修	年間数回確認テストをするので復習しておくこと	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法Bと併せて、ドイツ語基礎表現Bを履修すること（または履修済み）が望ましい。

【授業方法】
教科書に沿って解説し、その後、練習問題を通じて学習した内容の定着を深めていきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『気分はドイツ[改訂版]』（※必ず[改訂版]の方をご用意ください。）	河田一郎、渡辺徳夫、黒瀬志保	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15～12:45 詳細は授業内で説明します。(atomori.mine11@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】と独検について	授業の進め方、評価方法の説明などを行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。また独検についての概要説明と、過去問題を確認する。	
	この回の到達目標	この授業を受けるために必要な教材、独検などの情報を確認し、次週からの授業準備をすることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	授業で紹介された独検関連の参考書についてWEBサイトなどで調べてみる。	30分
2	【前期の復習】	Lektion1～Lektion7までの復習	
	この回の到達目標	前期で学習した文法事項を再確認し、使用することができる。	
	事前学修	Lektion1～Lektion7までの文法事項を読んでおく。	30分
	事後学修	理解が不十分であると思われた前期の文法事項を復習する。	30分
3	【Lektion 8】分離動詞	分離動詞の使い方	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、分離動詞の使い方を理解し、適用することができる。	
	事前学修	教科書の39頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ分離動詞を復習する。	30分
4	【Lektion 8】zu不定詞	zu不定詞の用法	
	この回の到達目標	zu不定詞の基本的な使い方や熟語表現を理解し、使用することができる	
	事前学修	教科書の40頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだzu不定詞の様々な用法を復習する。	30分
5	【Lektion 9】動詞の3基本形	動詞の3基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）	
	この回の到達目標	動詞の3基本形を理解し、不規則なものに関しては独和辞典を使って3基本形を確認し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の42頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ3基本形を復習する。	30分
6	【Lektion 9】過去形	過去人称変化	
	この回の到達目標	過去形の文章構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の43頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ過去形の文章を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 10】現在完了形	現在完了形の文章の作り方（完了の助動詞と過去分詞、語順）	
	この回の到達目標	現在完了形の文章構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の45-46頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ現在完了形の文章を復習する。	30分
8	【Lektion 11】再帰動詞	再帰代名詞の種類と再帰動詞	
	この回の到達目標	再帰代名詞・再帰動詞の使い方や辞書での調べ方を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の51頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ再帰動詞の熟語的表現を復習する。	30分
9	【Lektion 11】受動	動作受動と状態受動	
	この回の到達目標	受動の文章の種類、構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の52頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ動作受動と状態受動を復習する。	30分
10	【Lektion 12】形容詞	形容詞の用法	
	この回の到達目標	形容詞の格変化を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の55-56頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ形容詞の用法を復習する。	30分
11	【Lektion 12】比較	形容詞の原級、比較級、最上級の用法	
	この回の到達目標	形容詞の比較級、最上級の形を確認し、形容詞の原級、比較級、最上級の様々な用法を使用することができる。	
	事前学修	教科書の57頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ形容詞の原級、比較級、最上級の用法を復習する。	30分
12	【Lektion 13】関係代名詞	関係代名詞の格と文章構造	
	この回の到達目標	関係代名詞を使った文章の構造を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の60頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ関係代名詞を復習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 14】接続法	接続法第1式、接続法第2式	
	この回の到達目標	接続法の用法を理解し、使用することができる。	
	事前学修	教科書の64-66頁を読んでおく。	30分
	事後学修	授業で学んだ接続法の用法を復習する。	30分
14	【後期の確認】	授業内試験及び重要箇所の振り返り	
	この回の到達目標	試験を通じて後期で学んだ文法事項の習得状況を確認する。またその後の振り返りで、習得できていなかった部分を補い、適用することができる。	
	事前学修	第3回～第13回の学習内容を復習しておく。	45分
	事後学修	授業内試験でできなかった箇所を復習する。	15分
15	【後期の総括・振り返り】	後期授業のまとめ	
	この回の到達目標	後期で学んだ文法事項を整理し、的確に使用することができる。	
	事前学修	第2回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。	30分
	事後学修	授業内で質疑応答したことを復習する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
文法事項を説明し、理解できたかどうか練習問題で確認する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	文法事項を説明し、理解できたかどうか練習問題で確認する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業で答え合わせし、解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子	朝日出版社	2001年		必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立ち入り禁止のため、本館1階教務課窓土まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜4・5限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	1 ～ 1 0 課		前期の復習
	この回の到達目標	動詞の人称変化と名詞の格変化を再度確認する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
2	形容詞の用法		第 1 1 課 形容詞の格変化
	この回の到達目標	形容詞の格変化のシステムを把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
3	3 要形		第 1 2 課 動詞の 3 要形
	この回の到達目標	3 要形の作り方を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
4	過去時制		第 1 2 課 動詞の過去人称変化
	この回の到達目標	動詞の過去人称変化を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
5	完了時制		第 1 3 課 現在完了
	この回の到達目標	haben 支配と sein 支配の動詞	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
6	3 種類の接続詞		第 1 4 課 接続詞
	この回の到達目標	接続詞の違いを把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	関係文	第 1 5 課 関係代名詞	
	この回の到達目標	関係代名詞の規定の仕方を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
8	zu不定詞の用法	第 1 6 課 zu不定詞	
	この回の到達目標	zu不定詞の使い方を知る	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
9	再帰動詞	第 1 7 課 再帰代名詞	
	この回の到達目標	熟語表現を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
10	受動態	第 1 8 課 受動	
	この回の到達目標	受動態の作り方を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
11	比較級・最上級	第 1 9 課 形容詞の比較表現	
	この回の到達目標	比較級・最上級の使い方を知る	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
12	非現実話法	第 2 0 課 接続法第 2 式	
	この回の到達目標	接続法の時制を把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	間接話法		第20課 接続法第1式
	この回の到達目標	直接話法から間接話法への書き換えを把握する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
14	筆記試験及びまとめ		後期のまとめ
	この回の到達目標	後期の学習事項を理解できたかどうかを確認する	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分
15	解説		後期の総括
	この回の到達目標	筆記試験を振り返り、答え合わせと解説をする	
	事前学修	教科書を事前に一読する	30分
	事後学修	課題となった練習問題を必ずやってくる	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
多めの問題演習、読解訓練が求められます。

【授業方法】
文法学習、問題演習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文法学習、問題演習をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂・ドイツ文法の森（CD付）	ローデリヒ・ガート ゲ	第三書房	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口にし出て，声をかけてもらってください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講義計画 前期の復習		後期の学習を展望する。 前期学んだ文法と発音を復習する。
	この回の到達目標	後期の学習の見通しを得る。 前期で学んだ文法と発音を概観し、重要事項を確認する。	
	事前学修	前期で学んだ語形変化を、人称変化と格変化に分けて復習する。 前期で学んだ語順をまとめる。	30分
	事後学修	文法、発音の重要項目を確認する。 CDを用いて口頭練習をする。	30分
2	zu不定詞 manの用法		zu不定詞の用法を例文で学ぶ。 分離動詞のzu不定詞を作る。 zu不定詞に他の文成分が加わり、句となった場合の語順に着目する。
	この回の到達目標	zu不定詞の入った文を読み取る。 manの使い方を知る。	
	事前学修	英語のto不定詞の用法を振り返る。	30分
	事後学修	zu不定詞句内の語順、分離動詞のzu不定詞などを確認する。 manを用いた例文を読み直してみる。	30分
3	形容詞・副詞の比較変化		形容詞・副詞の比較変化を練習する。 比較表現を用いた文を読む。
	この回の到達目標	代表的な比較表現を読み取る。	
	事前学修	英語の形容詞と副詞の比較表現を振り返る。	30分
	事後学修	例文、練習問題を読み直し、比較表現を確認する。	30分
4	再帰動詞 非人称動詞		人称代名詞を復習する。 再帰代名詞の3格と4格を学ぶ。 再帰代名詞、再帰動詞の使い方を例文で理解する。 様々な非人称表現を読む。
	この回の到達目標	再帰表現を読み取る。 再帰動詞を辞書で調べる。 主な非人称表現を理解する。	
	事前学修	人称代名詞を復習する。 英語の非人称表現を振り返る。	30分
	事後学修	再帰代名詞を確認し、再帰動詞の使い方を熟語表現としてまとめる。 es gibt + 4格など、日常的に用いられる非人称表現を確認する。	30分
5	受動文		過去分詞の作り方、werdenとseinの人称変化を確認する。 受動文の作り方を学ぶ。 werdenの三つの用法をまとめる。
	この回の到達目標	状態受動を含めて受動文を作ることができる。	
	事前学修	werdenとseinの人称変化を復習する。	30分
	事後学修	例文を読み直し、時制による表現形式の違いなども確かめる。	30分
6	分詞 定関係代名詞		現在分詞、過去分詞の用法を学ぶ。 定関係代名詞の基本的な使い方を学ぶ。 定関係代名詞の格変化、動詞の位置を学ぶ。
	この回の到達目標	分詞の主な用法を理解する。 定関係代名詞を用いた文を読み解く。	
	事前学修	動詞の三基本形を復習する。 現在分詞、過去分詞の作り方を確認する。 定冠詞の格変化を復習する。	30分
	事後学修	例文によって、分詞の用法を確認する。 定関係代名詞を用いた文を読み直し、定関係代名詞と先行詞の性、数、格と、動詞の位置などを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	指示代名詞 不定関係代名詞 関係副詞	指示代名詞を用いた文を読む。 不定関係代名詞を用いた文を読む。 不定関係代名詞の格変化、動詞の位置を学ぶ。 関係副詞を用いた文を読む。	
	この回の到達目標	指示代名詞、不定関係代名詞、関係副詞を用いた文を読み取る。	
	事前学修	定関係代名詞の使い方を復習する。	30分
	事後学修	例文を読み直し、指示代名詞、不定関係代名詞、関係副詞の用法を確認する。	30分
8	関係代名詞の練習 接続法の人称変化 要求話法	関係代名詞の練習問題を解く。 接続法の人称変化を学ぶ。 要求話法の文を読む。	
	この回の到達目標	関係代名詞を含んだ文になじむ。 接続法Ⅰ式、Ⅱ式を作る。 要求話法を読み取る。	
	事前学修	関係代名詞の用法を復習する。 英語の仮定法を振り返る。	30分
	事後学修	接続法の人称変化を確認する。 要求話法を用いた文を読み直す。	30分
9	間接話法 非現実話法	間接話法の使い方を学ぶ。 非現実話法を用いた文を読む。	
	この回の到達目標	間接話法、非現実話法を読み取る。	
	事前学修	接続法の人称変化の復習をする。	30分
	事後学修	間接話法、非現実話法の例文を読み直し、用いられた接続法を確認する。	30分
10	接続法問題演習(84頁) 読解練習(1)(18, 22頁) 語彙のまとめ(1)(30頁)	読解と作文によって接続法の練習をする。 文法の復習をしながら読解練習をする。 ドイツ語の語構成を学び語彙を増やす。	
	この回の到達目標	接続法を読み解く。 接続法を用いて文を作る。 命令形を復習する。	
	事前学修	接続法の用法を復習する。	30分
	事後学修	問題文を読み直してみる。 CDを聴きながら語彙を確認する。	30分
11	読解練習(2)(70, 78頁) 語彙のまとめ(2)(74頁)	再帰動詞の復習をする。 不定関係代名詞の復習をする。 分詞の名詞化を学ぶ。	
	この回の到達目標	文学作品などからの引用文を読みながら文法の復習をする。	
	事前学修	問題文の前に書かれている文法事項に目を通しておく。	30分
	事後学修	問題文を読み直してみる。 CDを聴きながら語彙を確認する。	30分
12	読解練習(3)(63, 93頁) 語彙のまとめ(3)(87頁)	形容詞の格変化の復習をする。 歌詞や書簡文などを読む。 項目別に語彙をまとめる。	
	この回の到達目標	歌詞や書簡文などを読みながら、文法の理解を確かめる。	
	事前学修	形容詞の格変化の復習をする。	30分
	事後学修	問題文を読み直してみる。 CDを聴きながら語彙を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	読解練習 (4) (66, 91, 93頁) 語彙のまとめ (4) (90頁)		話法の助動詞の復習をする。 zu不定詞の復習をする。 詩や名句集を読む。 項目別に語彙をまとめる。
	この回の到達目標	詩や名句集を読みながら、文法の理解を確かめる。	
	事前学修	話法の助動詞の復習をする。 zu不定詞の復習をする。	30分
	事後学修	問題文を読み直してみる。 CDを聴きながら語彙を確認する。	30分
14	読解練習 (5) (93～96頁) 語彙のまとめ (5) (90頁)		完了時制の復習をする。 名句集を読む。 項目別に語彙をまとめる。
	この回の到達目標	名句集を読みながら、文法の理解を確かめる。	
	事前学修	完了時制の復習をする。	30分
	事後学修	問題文を読み直す。 CDを聴きながら語彙を確認する。	30分
15	読解練習 (6) (95, 97頁) 語彙のまとめ (6) (89頁)		名句集を読む。 項目別に語彙をまとめる。 これからの学習を考える。
	この回の到達目標	名句集を読みながら、文法の理解を確かめる。 今後のドイツ語学習を考える。	
	事前学修	後期の学習を振り返ってみる。	30分
	事後学修	問題文を読み直す。 CDを聴きながら語彙を確認する。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(第一部金曜2時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること(私以外の先生の授業でもよい)。・原則、ドイツ語基礎文法Aと通年でこの授業を履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施した試験については、授業内で講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読や問題練習(独検過去問を含む)などを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語の時間<話すための文法>(web練習問題付)	清野智昭	朝日出版社	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を復習する。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	第7課①② zu不定詞	zu不定詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、zu不定詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前期に学習した動詞の人称変化の知識が必要になるため、よく復習しておくこと。	30分
	事後学修	英語とは発想が異なるので、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
3	第7課② 分離動詞	分離動詞について解説する。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、分離動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前期に学習した動詞の現在人称変化について、もう一度確かめてから授業にのぞむこと。	30分
	事後学修	分離動詞は英語に無い発想なので、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	第7課③ 話法の助動詞	話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、話法の助動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前期に学習した動詞の現在人称変化について、もう一度確かめてから授業にのぞむこと。英語の助動詞がどうだったか、思い出しておくこと。	30分
	事後学修	助動詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
5	第8課① 三基本形、過去形	三基本形と過去形について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、動詞の三基本形と過去形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	新たに学ぶ第8課の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。	30分
	事後学修	三基本形と過去形について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	第8課② 現在完了形	現在完了形について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、現在完了形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	三基本形について、よく復習してから授業にのぞむこと。また、第2課で学習したhabenとseinの現在人称変化も、この授業が始まる前までに、絶対に覚えておくこと。	30分
	事後学修	現在完了形について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第8課③ 受動態	受動態について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、受動態の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第2課で学習したwerdenの現在人称変化を、この授業が始まる前までに、絶対に覚えておくこと。過去分詞についての知識を整理しておくこと。	30分
	事後学修	受動態について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
8	第9課(前半) 形容詞の格変化	形容詞の格変化について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、形容詞の格変化の要点を説明することができる。関連する練習問題やドイツ語の文章を分析することができる。	
	事前学修	定冠詞(類)・不定冠詞(類)の格変化について、十分に復習してから授業に来ること。新たな学習事項について、少し目を通しておくことが望ましい。	30分
	事後学修	形容詞の表を見て格変化ができるように、ルールをよく復習しておくこと。	30分
9	第9課(後半) 比較級と最上級	比較級と最上級について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、比較級と最上級の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回学習した形容詞の格変化語尾について、復習しておくこと。新たな学習事項について、少し目を通しておくことが望ましい。	30分
	事後学修	比較級と最上級について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
10	独検の問題に挑戦	独検の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
	事前学修	配布する筆記試験の問題を自宅で解いてから授業に来ること。授業では筆記の解説とリスニングの問題を扱う予定である。	30分
	事後学修	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出て正解となるよう、繰り返し解いてみること。	30分
11	第10課(前半) 関係代名詞	関係代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、関係代名詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	定冠詞の格変化を十分に復習してから授業にのぞむこと。新たに学ぶ関係代名詞について、少し目を通しておくことが望ましい。	30分
	事後学修	関係代名詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分
12	第11課 接続法	接続法について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、接続法の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	過去形の作り方、過去形の人称変化について、復習しておくこと。新たに学ぶ接続法について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	接続法について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	これまでの学習内容の復習	後期の学習事項について、あらためて要点を説明する。	
	この回の到達目標	後期の学習事項について、理解が十分ではない個所を認識し、その解決法を見つけることができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	これまでの学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。(20分)	20分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(40分)	40分
14	理解度の確認と後期のまとめ	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	前期・後期の復習、今後の学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。今後のドイツ語の学習について、よく考え、計画を立てること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B(第二部火曜1時限)	担当者	佐藤 英	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること。・この授業は原則としてドイツ語基礎文法Aと通年で履修すること。

【授業方法】
文法事項の説明、問題練習、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	例文の音読、独検過去問を含む問題練習。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
プロムナード やさしいドイツ語文法(改訂版)	荻野耕平ほか	白水社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を復習する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
2	第8課 分離動詞、接続詞	分離動詞と接続詞について解説する。関連する練習問題を解くことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、分離動詞と接続詞に関する要点を説明できる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第8課の分離動詞について、十分に復習しておくこと。接続詞について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第8課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第7課の学習内容についても、復習すること。	30分
3	第9課 話法の助動詞	話法の助動詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、話法の助動詞の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第9課の学習事項について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	助動詞の変化表とそれぞれの機能について、十分に復習すること。	30分
4	第10課 動詞の3基本形	動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明し、規則動詞と不規則動詞と分けて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の過去形と完了形の作り方を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第10課の動詞の3基本形について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動詞の3基本形について、十分に復習すること。	30分
5	第10課 過去形	前回の復習として、あらためて動詞の過去形、過去分詞の作り方を説明する。過去の人称変化についても述べる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動詞の過去形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回の学習事項を復習しておくこと。第10課の過去形について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第10課の学習内容について、十分に復習すること。	30分
6	第11課 現在完了形	過去分詞の作り方を改めて説明した後、現在完了形によるセンテンスの作り方を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在完了形の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第10課の動詞の3基本形について復習しておくこと。第11課の現在完了形について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	現在完了形について、十分に復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第11課 現在完了形、受動文	前回に引き続き、現在完了形の説明を行う。あわせて、受動文について、センテンスの作り方を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動文の要点を説明することができる。関連する練習問題を解くことができる。	
	事前学修	第10課の現在完了形について復習しておくこと。第11課の受動文について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第11課の学習内容について、十分に復習すること。	30分
8	独検4級 模試の実施(筆記試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
	事前学修	第9課までの学習内容を復習しておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
9	独検4級 模試の解説(リスニング試験を中心に)	独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明できる。	
	事前学修	第9課までの学習内容を復習しておくこと。CDを聞いて、ドイツ人の発音にも慣れておくこと。	30分
	事後学修	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。	30分
10	第12課 形容詞、比較表現	形容詞の格変化や比較表現について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、形容詞の格変化や比較表現について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	前期で学習した第3課と第4課の復習をしておくこと。第12課の形容詞について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞の格変化について、一覧表の使い方がわかるようにしておくこと。	30分
11	第13課 再帰代名詞、zu不定詞	再帰代名詞、zu不定詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、再帰代名詞やzu不定詞について概要を説明することができる。	
	事前学修	第13課の学習内容について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	第13課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第12課の学習内容についても、復習すること。	30分
12	第14課 関係代名詞	関係代名詞について解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、関係代名詞について概要を説明することができる。	
	事前学修	第14課の関係代名詞について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	関係代名詞について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第13課の学習内容についても、復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第14課 接続法		接続法について解説し、関連する練習問題を解く。
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、接続法について概要を説明することができる。	
	事前学修	第14課の接続詞について、少し目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テストに備えて、後期の学習内容を復習すること。	30分
14	理解度の確認と後期学習内容の振り返り		後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	後期の復習と今後のドイツ語学習について		後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。	30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習計画についてよく考えること。	30分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	小笠原 藤子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
基礎文法を学びます。わかりやすい説明を心がけ、一方的な講義ではなく履修者のみなさんとコミュニケーションを取りながら、疑問点を積み残すことのないように進めます。練習問題や会話練習を通して、理解度が高まるようにします。2課ごとに確認のため小テストを行う予定。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアワークやグループワークを通して問題発見をしたり、協働学習することにより既習の文法を定着させるアクティブ・ラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業内で行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
シュリット・フュア・シュリット（三訂版）	今井田亜弓・前田織 絵	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業前後に行いますが、時間がかかるときは事前に連絡をください。ogasawara.fujiko@nihon-un.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		実践で必要となる重要な表現や文法は追加して扱います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業内容および進め方、評価方法の説明、前期の復習	
	この回の到達目標	授業の進め方について理解する	
	事前学修	シラバスに目を通してくる、前期の学習内容を確認してくる	30分
	事後学修	前期の学習内容を復習してくる	60分
2	前期の復習、Lektion 7	話法の助動詞・副文	
	この回の到達目標	話法の助動詞・副文を理解する。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
3	Lektion 7	話法の助動詞・副文	
	この回の到達目標	話法の助動詞・副文を使えるようにする。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
4	Lektion 8	動詞の三基本形・過去形・完了形	
	この回の到達目標	動詞の三基本形を理解する。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
5	Lektion 8	動詞の三基本形・過去形・完了形	
	この回の到達目標	動詞の三基本形を使えるようにする。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 7と8をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
6	Lektion 9	zu 不定詞句・再帰代名詞と再帰動詞	
	この回の到達目標	zu 不定詞句・再帰代名詞と再帰動詞を理解する。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lektion 9	zu 不定詞句・再帰代名詞と再帰動詞	
	この回の到達目標	zu 不定詞句・再帰代名詞と再帰動詞を使えるようにする。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
8	Lektion 10	形容詞の格変化と比較表現	
	この回の到達目標	形容詞の格変化と比較表現を理解する。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
9	Lektion 10	形容詞の格変化と比較表現	
	この回の到達目標	形容詞の格変化と比較表現を使えるようにする。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 9と10をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
10	Lektion 11	関係代名詞・指示代名詞	
	この回の到達目標	関係代名詞・指示代名詞を理解する。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
11	Lektion 11	関係代名詞・指示代名詞	
	この回の到達目標	関係代名詞・指示代名詞を使えるようにする。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分
12	Lektion 12	受動態・接続法	
	この回の到達目標	受動態・接続法を理解する。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。	30分
	事後学修	授業の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Lektion 12	受動態・接続法	
	この回の到達目標	受動態・接続法を使えるようにする。	
	事前学修	該当ページを読んでくる。Lektion 11と12をよく復習してくる。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
14	後期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	後期の文法項目を復習し応用できる。	
	事前学修	よく復習し、特にわからなかったことをまとめておく。	60分
	事後学修	授業の復習	30分
15	後期まとめ・振り返り	今までの復習および応用	
	この回の到達目標	後期の文法項目を復習し応用できる。	
	事前学修	後期の学習内容を振り返る。	60分
	事後学修	今後の学習計画を立てる。	60分

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	相馬 大樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
ドイツ語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語文献を自律的に読み、表現が出来るための基礎となる文法の習得が目的です。

【履修条件】
一年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に履修すること。原則、「ドイツ語基礎文法A」と通年で履修すること。

【授業方法】
教科書をもとに、文法事項の説明をしたうえで、練習問題を解きながら授業を進める。授業内で実施した試験や課題に関しては、授業内で解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	ドイツ語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次回授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リヒトホーフ ー初級ドイツ語文法ー	松鶴功記他	朝日出版	2020	教科書	必携
「アクセス独和辞典」、「アポロン独和辞典」等		三修社、同学社等		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
オンライン授業の予定なので、質問等がある場合はメールで問い合わせること。(d-souma-5r9@sophia.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習	前期に学んだ文法事項を総復習する。	
	この回の到達目標	前期の文法事項を思い出し、さらなる定着を図る。	
	事前学修	前期に扱った教科書の該当箇所を見直しておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
2	第七課（後半）接続詞	並列の接続詞と従属の接続詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	並列の接続詞の用法と、従属の接続詞の用法（特に語順）を理解する。主文と副文の関係を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
3	第八課 動詞の三基本形と過去形の用法	動詞の三基本形と過去形の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	動詞の三基本形を覚え、過去形の語尾変化と用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
4	第九課（前半）完了形	現在完了形、過去完了形の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	完了形の用法（語順）を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
5	第九課（後半）受動形	各種の受動態の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	他動詞の受動、自動詞の受動、状態受動の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
6	第十課（前半）形容詞の格変化	形容詞の格変化と用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	形容詞の格変化（強変化、弱変化、混合変化）を覚える。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第十課（後半）形容詞と副詞の比較表現	比較級、最上級の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	前回学んだ形容詞の知識をもとに、比較級、最上級の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
8	第十一課（前半）再帰代名詞・再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	再帰代名詞と再帰動詞の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
9	第十一課（後半）zu不定詩の用法	zu不定詞の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	zu不定詞句の各種用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
10	第十二課（前半）定関係代名詞	定関係代名詞の用法を学ぶ。	
	この回の到達目標	定関係代名詞の格変化と、用法について理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
11	第十二課（後半）指示代名詞・不定関係代名詞werとwas	前回の知識をもとに、指示代名詞と不定関係代名詞の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	指示代名詞と不定関係代名詞の用法について理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分
12	第十三課 接続法	接続法の場合の動詞の人称変化と、接続法の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	接続法1式（要求話法、間接話法）および、接続法2式（非現実話法、外交的表現）の用法を理解する。	
	事前学修	前回の復習をしておく。	30分
	事後学修	授業内容を復習し、定着させること。指示された宿題をしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	後期の内容を振り返る	後期に扱った文法事項を総復習する。	
	この回の到達目標	後期の学習内容を振り返り、改めて文法事項を整理する。	
	事前学修	後期に学んだ内容を自分なりに振り返る。	20分
	事後学修	テストに向けて、文法事項をしっかりと復習する。	40分
14	後期テスト、振り返り	後期の授業内容が理解できているか確認するため、授業内テストを実施する。	
	この回の到達目標	前期の授業で得た知識を活かして、練習問題を解く。	
	事前学修	前期の文法事項を総ざらいし、試験に備える。	30分
	事後学修	試験でわからなかった箇所を復習しておく。	30分
15	後期のまとめ、フィードバック	後期のテストの解説と、後期の総復習。	
	この回の到達目標	後期に学んだ文法事項をまとめ、今後の学習へとつなげていく。	
	事前学修	試験で自信がなかった箇所を、確認しておく。	30分
	事後学修	後期の授業内容を繰り返し復習する。	30分

科目名	ドイツ語演習C	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修済みであること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、授業中に講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、訳文の作成、文の構造把握。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グリム童話で学ぶドイツ語	シュテファン・ヴント、本橋右京	郁文堂	2002年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義。必ず参加すること。	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。講義に際して必要になる基本的な文法事項について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語文法の基礎を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。「ドイツ語初級文法」で使用したテキストを一通り読んでおくこと。	30分
	事後学修	第2回の授業までに、テキストを準備し、第1課の予習をしておくこと。	30分
2	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft①	6ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストを準備し、第1課の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft②	6ページ後半から8ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft③	8ページの残り全部を、文の構造を把握しながら精読する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft④	10ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑤	10ページ後半から12ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑥	12ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
8	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑦	14ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
9	テキスト読解・Der gestiefelte Kater①	18ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
10	テキスト読解・Der gestiefelte Kater②	18ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
11	テキスト読解・Der gestiefelte Kater③	20ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
12	テキスト読解・Der gestiefelte Kater④	20ページ後半と22ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑤	22ページ後半から24ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。	30分
14	理解度の確認と前期の学習の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に読んだ作品についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	テキスト全体を通読し、前期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
	事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	前期の復習	前期に読んだ部分を改めて読み直し、理解が十分ではないところを改めて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前期に学習した内容をあらためて振り返り、どのような知見を得たか説明できる。	
	事前学修	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。	30分
	事後学修	前期の学習内容に目を通すこと。	30分

科目名	ドイツ語演習C(第一部月曜3時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法が習得済みであること

【授業方法】
「文学/思想」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。 対面授業を予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「ウィーン」	清水健次	朝日出版社	2013	教科書	必携
独和辞典　〔電子辞書は不可〕				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜3限、授業後の教室、もしくは、9号館共有スペース（事前に電子メールwatanabe.tokuo@nihon-u.ac.jpで連絡すること）にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	文学系演習の学修	本科目の趣旨、授業法について説明する。 ドイツ語を学びながら、世界の歴史の主流をも担ったウィーンの文化に親しむことの意味について述べる。	
	この回の到達目標	動詞の変化、位置に注意しながら、1課のテキストを正しく解釈することができる。（到達目標①）	
	事前学修	上記の文法事項を復習、予習しておく。テキストの音読。	30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
2	オーストリアの地理、歴史をテキスト解釈に生かす	オーストリアの基本情報を読んで、テキスト解釈を行う	
	この回の到達目標	文法知識を使って、平易なテキストを速くかつ正しく解釈することができる。（到達目標①）	
	事前学修	4頁5頁のオーストリアについての基本情報を確認しておく。	30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
3	平易な文章を速く、正確に、辞書なしで把握する	オーストリアの州と首都ウィーンの区等の地誌情報を頭に入れ、2課の平易なテキストを速くかつ正しく解釈する。	
	この回の到達目標	文法知識とウィーン市街地の地図を参照して、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	8頁9頁のオーストリアについての基本情報を確認しておく。 冠詞の変化、複数形のタイプを確認しておく。	30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
4	ウィーンの劇場文化について知る文章を正確に読み取る	ウィーンはヨーロッパの文化都市の一つであることを頭に入れ、3課の平易なテキストを速くかつ正しく解釈する。	
	この回の到達目標	基本的な文法知識とウィーンの地誌情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	12頁13頁のウィーンの劇場文化についての基本情報を確認しておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
5	ウィーンのカフェ文化について知る文章を正確に読み取る	ウィーンのカフェ文化について頭に入れ、4課の平易なテキストを速くかつ正しく解釈する。	
	この回の到達目標	基本的な文法知識とウィーンの文化情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	16頁17頁のウィーンのカフェ、トルテ文化についての基本情報を確認しておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分
6	ウィーンの音楽文化について知る文章を正確に読み取る	音楽の都ウィーンの文化について頭に入れ、5課の平易なテキストを速くかつ正しく解釈する。	
	この回の到達目標	基本的な文法知識とウィーンの音楽文化情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	20頁21頁のウィーンの少年合唱団、ウィーン・フィルについての基本情報を確認しておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ウィーン大学について知る 文章を正確に読み取る		ドイツ語圏最古の大学ウィーン大学についてのプロフィールを読み、6課の平易なテキストを速くかつ正しく解釈する	
	この回の到達目標	基本的な文法知識とウィーン大学についての基本情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	24頁25頁のウィーン大学についての基本情報を確認しておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。		30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。		30分
8	ウィーン美術館について知る 文章を正確に読み取る		芸術の都ウィーン美術についての基本知識について頭に入れ、7課のテキスト（前半）を速くかつ正しく解釈する	
	この回の到達目標	基本的な文法知識とウィーン美術館、博物館についての基本情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	28頁29頁のウィーン美術館、博物館についての基本情報を確認しておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。		30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。		30分
9	ウィーンが舞台となった映画について知る 文章を正確に読み取る		芸術の都ウィーン映画についての基本知識について頭に入れ、7課のテキスト（後半）を速くかつ正しく解釈する。	
	この回の到達目標	基本的な文法知識と映画の舞台についての基本情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	映画「第三の男」の舞台と筋を調べておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。		30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。		30分
10	ウィーンの森について知る 文章を正確に読み取る		ウィーンの森についての基本知識について頭に入れ、8課のテキストを速くかつ正しく解釈する。	
	この回の到達目標	基本的な文法知識とウィーンの森についての基本情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	32頁33頁のウィーンの森についての基本情報を確認しておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。		30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。		30分
11	シェーンブルン宮殿について知る 文章を正確に読み取る		シェーンブルン宮殿についての基本知識について頭に入れ、9課のテキスト（前半）を速くかつ正しく解釈する。	
	この回の到達目標	基本的な文法知識とシェーンブルン宮殿についての基本情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	36頁37頁のシェーンブルン宮殿についての基本情報を確認しておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。		30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。		30分
12	市立公園について知る 文章を正確に読み取る		ヨハン・シュトラウス1世、2世についての基本知識について頭に入れ、9課のテキスト（後半）を速くかつ正しく解釈する。	
	この回の到達目標	基本的な文法知識とシェーンブルン宮殿の建築様式の情報を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）		
	事前学修	ヨハン・シュトラウスの1世、2世の作品と親子関係について調べておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。		30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	観光都市ウィーンについて名所をグループで調べてみる	自分がもしウィーンを訪れると仮定し、いままでテキストに出てきた文化施設、名跡の中で行きたいところをまとめ、その理由について挙げてみる。それによって、9課までのテキストを深く解釈する。	
	この回の到達目標	グループワークを通じて、各人が意見を述べ、文化都市ウィーンのアウトラインを把握することができる。（到達目標①②）	
	事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。グループでまとめた内容を吟味し、試験に備える。	150分
14	授業内試験／解説	筆記試験60分。問題の形式は、独文和訳で、応用問題。終了後、試験の意図と訳し方の要点を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、独文和訳の問題に厳密な訳を付けることができる。	
	事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	150分
	事後学修	音読し、文法に従ってノートに和訳しておく。自分の解答を振り返り、間違ったと思われるところを確認しておく。	30分
15	解説／フィードバック	採点後に、解説を行う。また、レポートを回収する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、課題に適切に答えるレポートを書くことができる。	
	事前学修	答案を振り返ってみて、間違ったところ、分からなかったところ、あやふやなところをノートに書き留めておく。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、後期の授業に備えて、教科書もしくはノートに反省点を書き留めておく。	30分

科目名	ドイツ語演習C(第二部水曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基本文法の知識を前提としている。

【授業方法】
短編なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フォン・ブラウン物語』	飯吉光夫編	朝日出版社	1996年	教科書	必携
『気分はドイツ〔改訂版〕』	河田一郎著	三修社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
①水曜 3 限授業終了後の教室 ②9号館1階共有スペース（事前に電子メールで申し込むこと）のいずれか. オンラインの場合には、ZOOMで対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 授業の進め方 テキストの読み方	初級文法が終わった時点で内容のあるものを一冊読み上げることの意義について述べる。ロ ケットの父、ヴェルンヘル・フォン・ブラウンの功績について簡単に説明する。第1章 の第1段落だけ取り上げる。	
	この回の到達目標	史上初めて人類が月に立つことに貢献したフォン・ブラウンの業績を簡単に紹介できる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
2	アポロ11号の月面着陸	第1章 アポロ11号 テキストの文体である「歴史的現在」の訳し方について説明する。この	
	この回の到達目標	アポロ11号の月面着陸とフォン・ブラウンとの関係を類推できる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。2格の用法について調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
3	人類月に立つ	第1章 アポロ11号 テキストの文体である「歴史的現在」の効果について説明する。この	
	この回の到達目標	月世界の情景と世界中の人たちの感激を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
4	少年の月と星への夢	第2章 1960年代のアメリカから1920年代のドイツへ。 伝記小説の構成について説明する。この	
	この回の到達目標	主人公の少年の月への情熱を読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
5	ロケット花火の実験	第2章を読んでいく。	
	この回の到達目標	主人公の少年が、ロケット花火の実験をなぜ行ったのか、その理由を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
6	宇宙空間とロケット工学	第2章を読んでいく。 宇宙空間へ行くのためには、なぜ飛行機ではなく、ロケットなのかを説明する。宇	
	この回の到達目標	主人公の少年が、ロケット工学の専門書に取り組もうとする意欲を読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	寄宿舎での生活		第2章を読んでいく。 チス台頭前のドイツの時代背景に触れる。ナ
	この回の到達目標	主人公の少年の、望遠鏡を与えられたときの感激を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
8	映画『月世界の女性』		第2章 映画『月世界の女性』（1920年）の解説を行う。あわせて当時の宇宙への知識についても触れる。 映画(DVD)を鑑賞しながら、テキストをともに読んでいく。
	この回の到達目標	映画のあらすじと主人公の行動とを結びつけ、その関係を発表することができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
9	世界のロケット研究事情		第3章を読んでいく。
	この回の到達目標	各国の宇宙工学の状況を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
10	世界恐慌とロケット開発		第3章を読んでいく。 第1次世界大戦後の世界恐慌について簡単に説明する。
	この回の到達目標	世界恐慌とロケット開発との関係を読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	世界恐慌とロケット開発との関係を読み取ることができる。（到達目標①②）	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
11	自動車王フォードとナチス		第3章を読んでいく。
	この回の到達目標	アメリカの自動車王フォードとナチスがどのようにロケット開発にかかわってくるかについて推測しながらテキストを読み込み、意見を述べることができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
12	宇宙旅行協会とオーベルト教授		第3章を読んでいく。ベルリンの宇宙旅行協会について触れる。
	この回の到達目標	宇宙旅行協会でのロケット研究とオーベルト教授との共同開発の内容を理解したうえで、テキストを読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	宇宙への情熱	第3章を読んでいく。第4章の文法解説。	
	この回の到達目標	主人公の少年の、変わらぬ月への情熱を文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。関係文とzu不定詞についての文法事項を調べておく	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	150分
14	試験/解説	独文和訳形式。辞書参照可。文法解説。	
	この回の到達目標	第3章までの内容を踏まえて、第4章の文章を正確に理解し、翻訳することができる。（到達目標①②）	
	事前学修	第3章までの内容を踏まえて、第4章の文章を正確に理解し、翻訳することができる。（到達目標①②）	150分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
15	解説／振り返り	誤訳のところがあれば、文法的に正しく訳しなおす。その後、テキスト内容を振り返ってみる。	
	この回の到達目標	正しい文法知識に基づいて、テキストを正しく翻訳することができる。テキストを通して、主人公のロケットへの情熱について接してみて、どう感じたか意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	自分の訳した部分を振り返り、誤ったところを辞書と教科書を参照して、修正する。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返る。第5章を先取りして、調べておく。	30分

科目名	ドイツ語演習C	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現AB及びドイツ語基礎文法ABを履修していること。

【授業方法】		
参加型の授業です。ペア・ワークやグループ・ワークをしながら会話・読解・作文のトレーニングをしてゆきます。フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回ペア・ワークやグループ・ワークを用いた自律学修です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回提出する作文の添削と授業中のコメント

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業初回到説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定の国際ライセンスの知識と技能を用いて、A2レベルの読解力と作文力の効果的な養成を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能についての説明	
	この回の到達目標	学期末に到達するレベルについて説明することができる。	
	事前学修	シラバス確認	30分
	事後学修	文法復習	30分
2	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1	語学の学習歴について、自分のプロフィールについてテキストを読み理解する	
	この回の到達目標	言語学習について、学習理由についてのテキストを理解することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1練習問題・語彙習得	60分
3	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2	語学の学習歴について、自分のプロフィールについてテキストを書いて、意見交換をする。	
	この回の到達目標	言語学習について、学習理由についてのテキストを書いて、ペアで意見交換することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2練習問題・語彙習得	60分
4	Einheit 2 Familienalbum 1	ドイツ語の家族史についてのテキストを読んで理解する。	
	この回の到達目標	ドイツ語の家族史についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 2 Familienalbum 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 2 Familienalbum 1 練習問題・語彙習得	60分
5	Einheit 2 Familienalbum 2	ドイツ語の家族史についてのテキストを書いて意見交換する。	
	この回の到達目標	ドイツ語の家族史についてのテキストを書いて、ペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 2 Familienalbum 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 2 Familienalbum 2 練習問題・語彙習得	60分
6	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1	旅と移動手段についてのテキストを読んで理解する。	
	この回の到達目標	旅と移動手段についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1 練習問題・語彙習得	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2	旅と移動手段についてのテキストを書いて意見交換する。	
	この回の到達目標	旅と移動手段についてのテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2 練習問題・語彙習得	60分
8	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1	余暇活動についてのテキストを読んで理解する。	
	この回の到達目標	旅と移動手段についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1 練習問題・語彙習得	60分
9	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2	余暇活動についてのテキストを書いて、意見交換する	
	この回の到達目標	余暇活動についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2 練習問題・語彙習得	60分
10	Einheit 5 Medien 1	メディアについてテキストを理解する。	
	この回の到達目標	メディアについてテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 5 Medien 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 5 Medien 1 練習問題・語彙習得	60分
11	Einheit 5 Medien 2	メディアについてテキストを書いて、意見交換する。	
	この回の到達目標	メディアについてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 5 Medien 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 5 Medien 2 練習問題・語彙習得	60分
12	Einheit 6 Ausgehen 1	外出についてテキストを理解する。	
	この回の到達目標	外出についてテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 6 Ausgehen 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 6 Ausgehen 1 練習問題・語彙習得	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Einheit 6 Ausgehen 2	外出についてテキストを書いて、意見交換する。	
	この回の到達目標	外出についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 6 Ausgehen 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 6 Ausgehen 2 練習問題・語彙習得	60分
14	期末試験、まとめ	これまで学修した内容全般から期末試験を行う	
	この回の到達目標	今まで学んだ内容について、自律的にドイツ語のテキストを翻訳し、それについて自分の意見をドイツ語で書くことができる。【到達目標①②】	
	事前学修	試験準備	120分
	事後学修	できなかった箇所を復習する。	60分
15	期末試験講評、振り返り	期末試験の講評をして、その上で今後の目標について話す。	
	この回の到達目標	今後のドイツ語学修について、目標を立てることができる。	
	事前学修	試験の振り返り	30分
	事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語演習C	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
C Dを用いた演習方式。教科書、独和辞典、前もって配布する予習用プリントを常時使用。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ワーク： 第5回にルクセンブルク公用語に関する文献、第11回にゲーテの作品の一部を読み、内容についてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
アクティブ・ラーニングの講評は次回に行い、授業内試験のフィードバック解説と講評は、後日ポータルサイトを通して配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語、次のステップへ！	伊藤、シンチンガー、木村	同学社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、授業講堂にて、あるいは、miura.mikiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【ドイツの学生と知り合う】	ガイダンス（授業の進め方等の説明）。前置詞の復習をして、さらに進んだ使い方について学修する。ドイツの周辺諸国とEUの外観について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文章を読んで理解し、登場人物と内容について説明することができ、ドイツ語の質問に対してはドイツ語の文で意見を述べることができる。	
	事前学修	シラバス、および、第1課2頁「パートナー」と4頁を読んで準備する。	35分
	事後学修	読んだ文章を復習し、ドイツ語の質問にドイツ語で答える練習をする。	25分
2	【ドイツと周辺諸国】	ドイツの国家形態と「中欧」における位置、EUとの関係を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ連邦共和国の成立過程と周辺諸国について理解し、説明することができる。	
	事前学修	3頁を読んで準備する。	35分
	事後学修	3頁に出てく周辺諸国の国名を正しく発音できるか確認し、ドイツとヨーロッパの地図で国々の位置関係を把握する。	25分
3	【前置詞を使った文、再帰動詞を使った文】	前置詞の格支配と再帰動詞を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、前置詞と再帰動詞について理解し、それらが用いられた文章を正しく解釈できる。	
	事前学修	5頁の問題を解いて準備する。	40分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、前置詞を使った問題文を書いて練習する。	20分
4	【ドイツ旅行への提案】	分離動詞と非分離動詞、および、その三基本形を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞と非分離動詞を用いた文章の解釈ができ、読んだ文章の内容が合っているかどうか、判断して意見を述べることができる。	
	事前学修	第2課「旅行計画」の6頁と8頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	6頁でマルクスが提案していることをまとめる。	20分
5	【オーストリアとスイス】	オーストリアとスイスについて、使用言語と通貨、首都について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オーストリアとスイスの特徴を述べ、読んだ文章の内容が合っているかどうか、判断して意見を述べることができる。	
	事前学修	7頁を読んで準備する。	30分
	事後学修	7頁をおさらいし、確認問題を正しい文に書き直す。	30分
6	【分離動詞を使った文、非分離動詞を使った文】	さまざまな分離動詞と非分離動詞の意味と使い方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、分離動詞と非分離動詞を区別し、意味の上から適切な動詞を正しく使って、文を作ることができる。	
	事前学修	9頁の問題を解いて準備する。	40分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【フランクフルト到着】	命令形を学修し、通関時に用いる表現やドイツの代表的な料理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、命令形について理解し、それを用いた文を解釈して、内容が合っているかどうかの判断ができる。	
	事前学修	第3課「ドイツ到着」の10頁と12頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	内容を問う質問に対して、答えをドイツ語で書いて、確認する。	20分
8	【ザクセンハウゼン】	フランクフルトの名物料理とその地区の歴史を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ザクセンハウゼン地区の歴史と特徴を説明することができる。	
	事前学修	11頁を読んで準備する。	30分
	事後学修	11頁の確認問題で、ドイツ語の質問にドイツ語の文で答えが書けるように練習する。	30分
9	【命令形を使った文、従属接続詞を使った文】	命令形の文を作ることと、従属接続詞を使って文を作る学修をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、従属の接続詞を用いて、文の前半と後半を正しく繋いで、コミュニケーションを成立させることができる。	
	事前学修	13頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。従属接続詞を用いて1文にしたものを、全文正しく書く練習する。	25分
10	【フランクフルト見物】	形容詞の付加語的用法と、フランクフルトの名所について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、形容詞を用いた文を解釈し、内容について、ドイツ語の質問に答えることができる。フランクフルトの見どころについて、説明することができる。	
	事前学修	第4課「フランクフルト・アム・マイン」の14頁と16頁を読んで準備する。	35分
	事後学修	14頁であげられている名所をリストにまとめる。	25分
11	【ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ】	ドイツの文豪ゲーテの生涯と作品について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲーテとその作品について説明し、その作品について意見を述べることができる。	
	事前学修	15頁を読んで準備する。	30分
	事後学修	ゲーテの生涯を簡単にまとめる。	30分
12	【付加語形容詞を多用した文】	形容詞を文中で正しい形に変化させることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、形容詞を正しい形にすることを理解し、ドイツを代表する音楽家、ヨーハン・ゼバスティアン・バッハとライプツィヒについて説明できる。	
	事前学修	17頁の問題を解いて準備する。	40分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直し、ライプツィヒについてまとめる。	20分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【ミュンヘンへ】 【バイエルン】	話法の助動詞、ミュンヘンとバイエルンについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、バイエルンについて説明することができ、使役の助動詞lassenを含む話法の助動詞を使った文を理解することができる。	
	事前学修	第5課「ミュンヘンへ」の18～20頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	18頁にあるマルクスの家族構成と、19頁にあるバイエルンの簡単な歴史をまとめる。	20分
14	【時刻の表現】	時刻の表現を用いて、コミュニケーションを取ることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、時刻の表現を用いて、ドイツ語の質問に答えることができる。	
	事前学修	21頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	パートナーを見つけて、21頁にある会話の練習をする。	25分
15	【振り返り】 【授業内試験】	前学期学修内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どの程度理解したかを授業内試験で判断する。	
	事前学修	前学期で学習したことを復習し、理解していない箇所があるかどうか確認する。	180分
	事後学修	試験で正答できなかった箇所を、教科書やノートで確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習D	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を習得していること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、訳文作成、文の構造把握、文化的背景の理解。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グリム童話で学ぶドイツ語	シュテファン・ヴント、本橋右京	郁文堂	2002年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑥		後期の授業方針を説明する。24ページの後半部分を精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	前期で読んだ部分をあらためて通読し、夏休み後の授業に備える。24ページの後半を読むこと。後期からの参加者は、後期の初回の授業に必ず参加すること。		30分
	事後学修	授業で指示された部分の予習をすること。		30分
2	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑦		26ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をすること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
3	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑧		26ページ後半と28ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をすること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
4	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑨		28ページ後半と30ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をすること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
5	ガイダンス、テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑩		30ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をすること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
6	テキスト読解・Haensel und Gretel①		34ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をすること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	テキスト読解・Haensel und Gretel ②		34ページ後半と35ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
8	テキスト読解・Haensel und Gretel ③		36ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
9	テキスト読解・Haensel und Gretel ④		36ページ後半と38ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
10	テキスト読解・Haensel und Gretel ⑤		38ページ後半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
11	テキスト読解・Haensel und Gretel ⑥		40～41ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分
12	テキスト読解・Haensel und Gretel ⑦		42ページ前半を、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト読解・Haensel und Gretel ⑧	42ページ後半と44ページを、文の構造を把握しながら精読する。必要に応じて、文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。	30分
14	理解度の確認と後期の学習内容の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期に読んだ作品についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	テキスト全体を通読し、後期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
	事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	後期の復習と今後のドイツ語学習について	後期に学習したテキストの内容について復習する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期に学習した内容をあらためて振り返り、どのような知見を得たか説明できる。	
	事前学修	後期の学習内容を復習してくること。	30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習についてよく考えること。	30分

科目名	ドイツ語演習D(第一部月曜3時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
①必ず予習をしてくること。②必ず独和辞典を持ってくること。

【授業方法】		
文法・構文分析をまず行い、そのあと辞書を丹念に引き、一語一語丁寧に文を解釈する。前期は、ゆっくり進むが、後期にはテンポよく読み進めていく予定でいる。 対面授業を予定している。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。				2					2		2
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。				2					2		2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ウィーン』	清水健次	朝日出版社	2013年	教科書	必携
独和辞典〔電子辞書不可〕				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
①月曜 4 限，授業後の教室②9号館共有スペース（必ず事前に電子メールで連絡すること）のいずれか。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期の復習		前期で行った内容の復習を行う。 ドイツ語を学びながら、ウィーン文化について学ぶことの面白さについて述べる。
	この回の到達目標	後期の1回目の部分（10課）を正しく解釈することができる。（到達目標①）	
	事前学修	40頁41頁のドナウ川についての情報について読んでおく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
2	ドイツ地誌の情報をもとに文章を正確に読み取る。		「旧ドーナウ」についての情報を参考にして、10課のテキストを正確に読む。
	この回の到達目標	ドイツ地誌の情報と文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
3	ベートーベンについての情報をもとに文章を正確に読み取る。		ベートーベンについての情報を参考にして、11課のテキスト（前半）を正確に読む。
	この回の到達目標	ベートーベンの情報と文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	44頁45頁のベートーベンとホイリゲについての情報について読んでおく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
4	ハイリゲンシュタットとホイリゲについての情報をもとに文章を正確に読み取る。		ベートーベンゆかりの地とホイリゲについての情報を参考にして、11課のテキスト（後半）を正確に読む。
	この回の到達目標	ホイリゲについての情報と文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
5	メルク修道院、ヴァッハウ渓谷についての情報をもとに文章を正確に読み取る		ドナウ川下りについての情報を参考にして、12課のテキスト（前半）を正確に読む。
	この回の到達目標	ドイツ地誌と文法知識とを関連付けて、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	48頁49頁のドナウ川についての情報について読んでおく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
6	文章を正確に読み取り、想像力を働かせ、「美しく青きドナウ」をイメージする。		ドナウ川下りについての情報を参考にして、12課のテキスト（後半）を正確に読む。
	この回の到達目標	ドイツ地誌と文法知識とを関連付けて、文章を的確に読み取ることができる。さらに、そこから「美しく青きドナウ」をイメージすることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	「美しく青きドナウ」について調べてみる。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ベルヴェデーレ宮殿についての情報をもとに、文章を正確に読み取る。	ベルヴェデーレ宮殿についての情報を参考にして、13課のテキスト（前半）を正確に読む。	
	この回の到達目標	ベルヴェデーレ宮殿についての情報と文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	52頁53頁のベルヴェデーレ宮殿と中央墓地についての情報について読んでおく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
8	中央墓地についての情報をもとに、文章を正確に読み取る	中央墓地についての情報を参考にして、13課のテキスト（後半）を正確に読む。	
	この回の到達目標	中央墓地についての情報と文法知識を使って、文章を的確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	ベルヴェデーレ宮殿のクリムトの絵について、中央墓地に眠っている音楽家について調べておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
9	チロル地方についての情報をもとに、文章を正確に読み取る	チロルについての情報を参考にして、14課のテキスト（前半）を正確に読む。	
	この回の到達目標	チロルについての情報を使って、14課のテキスト（前半）を正確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	56頁57頁のチロル地方についての情報について読んでおく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
10	チロル地方についての情報をもとに、文章を正確に読み取る	チロルについての情報を参考にして、14テキスト（後半）を正確に読む	
	この回の到達目標	チロル地方についての情報を使って、文章を正確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
11	国立オペラ座についての情報をもとに、文章を正確に読む	ウィーン国立オペラ座についての情報を参考にして、15課のテキスト（前半）を正確に読む	
	この回の到達目標	ウィーン国立オペラ座についての情報を使って、文章を正確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	60頁61頁のウィーン国立オペラ座についての情報について読んでおく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分
12	国立オペラ座についての情報をもとに、文章を正確に読む	ウィーン国立オペラ座についての情報を参考にして、15課のテキスト（後半）を正確に読む	
	この回の到達目標	ウィーン国立オペラ座についての情報を使って、文章を正確に読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	ヨハン・シュトラウスのオペレッタ「こうもり」について調べておく。 辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	音読し、文法に従って、厳密にノートに和訳しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ウィーンで活躍した音楽家についてさぐる	テキストで紹介された音楽家のゆかりの地について調べてみる。グループワークを通じて、ウィーンで活躍した作曲家たちの素顔をさぐってみる。	
	この回の到達目標	テキストの読解を出発点として、作曲家の素顔について説明することができる。（到達目標①②） テキストの解釈を通じて、この作品のテーマについて各自、自分の意見を述べることができる。 テキストの解釈を通じて、この作品のテーマについて各自、自分の意見を述べることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	解説を参考にしながら、辞書と文法書を駆使して、文構造を観察する。	30分
	事後学修	グループで得た意見を持ち帰り、その内容を吟味し、このテキストのテーマ（特に音楽）について自分の見解をノートにまとめ、試験に備える。	150分
14	授業内試験／解説	筆記試験60分。問題の形式は、独文和訳で、応用問題。終了後、試験の意図と訳し方の要点を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、独文和訳の問題に厳密な訳を付けることができる。	
	事前学修	本試験に備えて、辞書を引く練習をし、文法事項を確認する。	150分
	事後学修	自分の答案を振り返り、誤りに気付いた部分を確認しておく。	30分
15	解説／フィードバック	採点後に、解説を行う。また、レポートを回収する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、課題に適切に答えるレポートを書くことができる。	
	事前学修	答案を振り返ってみて、間違ったところ、分からなかったところ、あやふやなところをノートに書き留めておく。	60分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、その後、芥川龍之介の原文を読み、翻訳と原文との差を見て、印象をまとめる。	60分

科目名	ドイツ語演習D(第二部水曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
基本文法の知識を前提としている。

【授業方法】
短編なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含めたアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③	「文学/思想」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。				2					2		2
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。				2					2		2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題、試験問題の解説を次の授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『フォン・ブラウン物語』	飯吉光夫編	朝日出版社	1996年	教科書	必携
『気分はドイツ〔改訂版〕』	河田一郎他著	三修社	2021年	教科書	必携
「アクセス独和辞典」「アポロン独和辞典」等		三修社 同学社	2018年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
①水曜 3 限，授業終了後の教室 ②9号館1階共有スペース（事前に電子メールで申し込むこと）のいずれか。オンラインの場合には、ZOOMで対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスの進め方 後期授業 第4章の復習	第4章までの内容を振り返る。第5章を読んでいく。	
	この回の到達目標	ナチスから資金援助を受けることになった経緯を文章から読み取ることができる。この時の主人公の心の葛藤についてテキストから解釈し、意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。 アポロ11号について調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
2	ドルンベルガーとベルリンのロケット研究所	第5章を読んでいく。クンメルスドルフの地理的位置について説明する。	
	この回の到達目標	この時の主人公の心境についてテキストから解釈し、意見を交わすことができる（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
3	ロケットの宇宙旅行から兵器への転用	第5章を読んでいく。クンメルスドルフのロケット研究所での実験	
	この回の到達目標	テキストを読んで、クンメルスドルフのロケット研究所での実験の失敗から主人公の心境を読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
4	ヒトラーの独裁政治の始まりとロケット開発	第6章を読んでいく。	
	この回の到達目標	陸軍兵器局とロケット開発との関係をテキストから読み取ることができる。その理由について意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。ヒトラーの独裁政権がいつ始まったか調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
5	ロケット基地の建設	第6章を読んでいく。パーネミュンデの地理的な位置について説明する。	
	この回の到達目標	ロケット基地をなぜパーネミュンデに移したかその理由をテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
6	大陸弾道ロケットの設計	第6章を読んでいく。当時のドイツの戦況について説明する。	
	この回の到達目標	ヒトラーから命令を受けた時の主人公の心境をテキストとの行間から解釈することができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	イギリス情報部の活動		第7章を読んでいく。
	この回の到達目標	多くの失敗を経て、A4ロケットの成功に至る経緯を理解したうえで、主人公の相反する心境を行間から解釈することができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
8	オスロレポート		第7章を読んでいく。
	この回の到達目標	バルト海沿岸のロケット基地のドキュメンタリー映像を見ながら、テキストを読み、この基地の地理的な特徴を挙げることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
9	バルト海沿岸の空中写真解説		第7章を読んでいく。バルト海沿岸の地理的な位置を示す。
	この回の到達目標	バルト海沿岸のロケット基地のドキュメンタリー映像を見ながら、テキストを読み、この基地の地理的な特徴を挙げることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
10	ペーネミュンデへの爆撃と終戦		第7章を読んでいく
	この回の到達目標	終戦直後の主人公と技術者の行動についてテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
11	自由の天地へ		第8章を読んでいく。
	この回の到達目標	主人公がなぜアメリカへ行く決心をしたか文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
12	再び宇宙計画に向う		第8章を読んでいく。米ソの宇宙開発競争について解説する。
	この回の到達目標	主人公のアメリカでの生活とソ連との宇宙開発競争について文章から読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	少年のころの夢の実現へ	第8章を読んでいく。読んだ後に、このテキストの構造が円環形式になっていることを説明する。	
	この回の到達目標	主人公が人類初の月への着陸という夢を達成した経緯をテキストから読み取ることができる。（到達目標①②）	
	事前学修	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	試験に備えて、後期の授業で学んだところを復習し、文法的に解釈し、ノートに記した訳を読んでおく。	150分
14	試験/解説	独文和訳形式。辞書参照可。文法解説。	
	この回の到達目標	第8章までの内容を踏まえ、テキスト全体の内容を正確に理解したうえで、翻訳することができる。（到達目標①②）	
	事前学修	試験に備えて、後期の授業で学んだところを復習し、文法的に解釈し、ノートに記した訳を読んでおく。	150分
	事後学修	授業で学んだところを読み、文法的に解釈し、必ずノートに決定訳を記しておく。	30分
15	解説/振り返り	誤訳のところがあれば、文法的に正しく訳しなおす。その後、テキスト内容を振り返ってみる。	
	この回の到達目標	正しい文法知識に基づいて、テキストを正しく翻訳することができる。このテキストを通して、主人公の生涯をかけた研究、強い意志、たゆみない努力に接してみて、何を感じたか意見を交わすことができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	自分の訳した部分を振り返り、誤ったところを辞書と教科書を参照して、修正する。	30分
	事後学修	本科目の学修を振り返る。宇宙への挑戦者の伝記を読んで、どう感じたかを考えてみる。	30分

科目名	ドイツ語演習D	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現AB及びドイツ語基礎文法ABを履修していること。

【授業方法】		
参加型の授業です。ペア・ワークやグループ・ワークをしながら会話・読解・作文のトレーニングをしてゆきます。フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回ペア・ワークやグループ・ワークを用いた自律学修です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回提出する作文の添削と授業中のコメント

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業初回到説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力試験試験官
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語検定の国際ライセンスの知識と技能を用いて、A2レベルの読解力と作文力の効果的な養成を行います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 到達するレベルについての具体的な技能についての説明	
	この回の到達目標	学期末に到達するレベルについて説明することができる。	
	事前学修	シラバス確認	30分
	事後学修	文法復習	30分
2	Einheit 7 Zu Hause 1	住環境について、自分のプロフィールについてテキストを読み理解する	
	この回の到達目標	住環境について、学習理由についてのテキストを理解することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 7 Zu Hause 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 7 Zu Hause 1 練習問題・語彙習得	60分
3	Einheit 7 Zu Hause 2	住環境について、自分のプロフィールについてテキストを書いて、意見交換をする。	
	この回の到達目標	住環境について、学習理由についてのテキストを書いて、ペアで意見交換することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 7 Zu Hause 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 7 Zu Hause 2 練習問題・語彙習得	60分
4	Einheit 8 Kultur erleben 1	文化についてのテキストを読んで理解する。	
	この回の到達目標	文化についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 8 Kultur erleben 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 8 Kultur erleben 1 練習問題・語彙習得	60分
5	Einheit 8 Kultur erleben 2	文化についてのテキストを書いて意見交換する。	
	この回の到達目標	文化についてのテキストを書いて、ペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 8 Kultur erleben 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 8 Kultur erleben 2 練習問題・語彙習得	60分
6	Einheit 9 Arbeitswelten 1	仕事についてのテキストを読んで理解する。	
	この回の到達目標	仕事についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。 【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 9 Arbeitswelten 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 9 Arbeitswelten 1 練習問題・語彙習得	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Einheit 9 Arbeitswelten 2	仕事についてのテキストを書いて意見交換する。	
	この回の到達目標	仕事についてのテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 9 Arbeitswelten 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 9 Arbeitswelten 2 練習問題・語彙習得	60分
8	Einheit 10 Feste und Geschenke 1	祝祭についてのテキストを読んで理解する。	
	この回の到達目標	祝祭についてのテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 10 Feste und Geschenke 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 10 Feste und Geschenke 1 練習問題・語彙習得	60分
9	Einheit 10 Feste und Geschenke 2	祝祭についてのテキストを書いて、意見交換する	
	この回の到達目標	祝祭についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 10 Feste und Geschenke 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 10 Feste und Geschenke 2 練習問題・語彙習得	60分
10	Einheit 11 Mit allen Sinnen 1	感情についてテキストを理解する。	
	この回の到達目標	感情についてテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 11 Mit allen Sinnen 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 11 Mit allen Sinnen 1 練習問題・語彙習得	60分
11	Einheit 11 Mit allen Sinnen 2	感情についてテキストを書いて、意見交換する。	
	この回の到達目標	感情についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 11 Mit allen Sinnen 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 11 Mit allen Sinnen 2 練習問題・語彙習得	60分
12	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 1	発明についてテキストを理解する。	
	この回の到達目標	発明についてテキストを読んで理解し、文法説明することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 1 長文読解翻訳	60分
	事後学修	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 1 練習問題・語彙習得	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 2	発明についてテキストを書いて、意見交換する。	
	この回の到達目標	発明についてテキストを書いてペアのパートナーの作文を添削し意見交換することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 2 作文	60分
	事後学修	Einheit 12 Erfindungen und Erfinder 2 練習問題・語彙習得	60分
14	期末試験、まとめ	これまで学修した内容全般から期末試験を行う	
	この回の到達目標	今まで学んだ内容について、自律的にドイツ語のテキストを翻訳し、それについて自分の意見をドイツ語で書くことができる。【到達目標①②】	
	事前学修	試験準備	120分
	事後学修	できなかった箇所を復習する。	60分
15	期末試験講評、振り返り	期末試験の講評をして、その上で今後の目標について話す。	
	この回の到達目標	今後のドイツ語学修について、目標を立てることができる。	
	事前学修	試験の振り返り	30分
	事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語演習D	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
C Dを用いた演習方式。予習用のプリントを前もって配布する。教科書と独和辞典を常時使用。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク： 第5回で、デパートの売り場について尋ねる文と答えの文をドイツ語で作り、第12回では、ドイツ語の短い詩を読み、内容についてディスカッションする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
アクティブ・ラーニングについての講評は次回に行い、授業内試験のフィードバック解説・講評は、後日、ポータルシステムにより配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語、次のステップへ！	伊藤、シンチンガー、木村	同学社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、授業講堂にて、または、miura.mikiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ピナコテーク】		ガイダンス（授業の進め方等の説明）。受動態、および、ミュンヘンの美術館と代表的な画が について学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、ミュンヘンの美術館とルネサンス期に活躍したドイツの画家たちについて理解する。	
	事前学修	シラバスと第6課「ミュンヘンと美術館」の22～24頁を読んで準備する。	45分
	事後学修	3つあるピナコテークについて、それぞれの特徴をまとめる。	15分
2	【受動態の時制】 【形容詞の名詞化】		受動態の時制と形容詞の名詞化を学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、受動態の時制と形容詞の名詞化について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。	
	事前学修	25頁の問題を解いて準備する。	40分
	事後学修	時制と熟語的表現sich lassenに注目し、間違えた箇所の問題を解き直す。	20分
3	【ひとり旅】 【ユースホステルで知り合う】		関係代名詞、および、ヨーロッパの若者の旅行スタイルを学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、関係代名詞について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。ユースホステルについて説明できる。	
	事前学修	第7課「山へ」の26頁、27頁後半～28頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	26頁で使われている関係代名詞の性と格を確認する。	20分
4	【ザルツブルクとザルツカンマーグート】		モーツアルトの生地ザルツブルクで毎年行われる文化的イベントとその周辺地方について学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ザルツブルクの文化的イベントについて理解し、自分の意見を述べることができる。ザルツカンマーグートの特徴について説明できる。	
	事前学修	27頁の前半を読んで準備する。（30分）	30分
	事後学修	ザルツブルクの主なイベントをまとめ、27～28頁に出てきた地名を地図で確認する。。	30分
5	【めざす階を見つける】		資料であるデパートの案内表示を読みこむことと、そこで得た情報を実際に使用することを学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連し、デパートの売り場案内表示を理解し、ドイツ語で案内することができる。ドイツの建物の構造について説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	29頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	パートナーを見つけて、29頁の会話を練習をする。	25分
6	【第2次大戦後のドイツとベルリンの壁】		ベルリンの壁ができるまでのドイツ史と現在のベルリンの見どころとの関連を学修する。
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、第2次大戦後のドイツ分断の歴史について理解し、説明することができ、自分の意見を述べる ことができる。	
	事前学修	第8課「ベルリン、分断都市？」の30～32頁を読んで準備する。	45分
	事後学修	ベルリンの壁に関する名所旧跡をリストアップし、ベルリンの壁はだれがいつ何のために構築したかをまとめる。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【形容詞の比較変化】	形容詞の比較変化を用いた文の学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、形容詞の比較変化について理解し、熟語的表現も含め、それらを用いた文章の解釈ができる。	
	事前学修	33頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。	25分
8	【ベルリンの大学】	ベルリン分断と大学の関係と、再統一について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ベルリンに新旧二つの大学がある理由とドイツ再統一の過程について説明することができる。	
	事前学修	第9課「ベルリンの大学」の34～35頁を読んで準備する。	45分
	事後学修	ベルリンの壁開放の過程をまとめる。	15分
9	【文の書き換え】	文の時制（現在形から現在完了形へ）や態（能動態から受動態へ）を変えることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文を書き換えることを理解し、時制や態を変えることができる。	
	事前学修	37頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	間違えた箇所の問題を解き直す。生年月日と生まれた地について、パートナーと会話練習をする。	25分
10	【ドレーズデンと第2次大戦】	爆撃によるドレーズデン破壊と戦後復興の過程、現在の見どころとの関連を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、定動詞の位置について理解し、文中の定動詞を指摘することができる。ドレーズデンが第2次大戦後にたどった道について説明できる。	
	事前学修	第10課「ドレーズデンへの旅」の38頁を読んで準備する。	40分
	事後学修	ドレーズデン周辺の見どころをまとめる。	20分
11	【ケストナーとナチス時代】	ナチス時代に行われた迫害について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ナチス時代の焚書やユダヤ教会堂破壊について理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	39頁を読んで準備する。	35分
	事後学修	エーリヒ・ケストナーの生涯についてまとめる。	25分
12	【動詞の位置の総まとめ】	ドイツ語の文では動詞の位置が決まっていて、動詞中心での言語であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、与えられた語を正しい語順に並べ、さまざまな構造を持つ文を作ることができる。	
	事前学修	41頁の問題を解いて準備する。	35分
	事後学修	ハインリヒ・ハイネの詩の内容を理解して音読し、ハイネについて調べる。	25分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【接続法の形と用法】【将来への希望】	接続法とは何か、その作り方と用法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、接続法第2式について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。	
	事前学修	第11課「別れの前に」の42～44頁を読んで準備する。	35分
	事後学修	42頁で使われている接続法第2式をピックアップし、正しく書けるように練習する。	25分
14	【接続法を使って作文】	接続法第2式・非現実のニュアンスを持つ表現を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、接続法第2式を使って、非現実話法を表現する文を作ることができる。	
	事前学修	45頁の問題を解いて準備する。	40分
	事後学修	接続法第2式が正しく発音できるように注意して、45ページの文を音読する。	20分
15	【振り返り】【授業内試験】	後期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後学期の学習がどの程度身についているかを判断する。	
	事前学修	後学期に学修したことを総復習し、理解していない箇所がないか確認する。。	180分
	事後学修	試験で正答できなかった箇所を、教科書やノートで確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
ドイツの社会に関するテキストにより、発表・意見交換を演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00~14:30に、事前に以下のアドレスでアポイントを取った上受け付ける。kawashima.masayuki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	ドイツ語の基礎を復習し、ドイツと言えれば何を連想するか考えておくこと。	30分
	事後学修	授業で触れた事柄をまとめ、よく理解ができなかった箇所があれば次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
2	テキスト朗読の基礎	単語・文の発音について振り返る	
	この回の到達目標	テキストを朗読できる。	
	事前学修	テキストvi頁からx頁に目を通し、xi頁の発音を確認をしておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。	30分
3	ドイツへの旅	テキスト8頁の音読、翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	規則動詞の現在人称変化を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキストxii頁から6頁に目を通し、よく理解ができなかった箇所があれば次回の授業で質問できるようにし、発音を録音教材で確認し、テキスト8頁を訳出しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	フランクフルトに到着	テキスト15頁の音読、翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	名詞と冠詞の構造と用法を完全に理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳することができる。	
	事前学修	テキスト9頁から13頁に目を通し、テキスト14頁の設問に答え、テキスト15頁を訳出しておくこと。また発音を録音教材で確認しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	ゲーテハウス	テキスト21頁の音読、翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	不規則動詞の構造と命令形の用法を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト20頁の設問に回答し、21頁を訳出しておくこと。必要な場合はテキスト16頁から19頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	ショッピング	テキスト27頁の音読、翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	冠詞類と人称代名詞の用法を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト26頁の設問に回答し、27頁を訳出しておくこと。必要な場合はテキスト22頁から25頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	博物館へゆくか、あるいは動物園へゆくか。(1)	テキスト36頁の音読と文法説明	
	この回の到達目標	前置詞の用法と格変化を理解し、テキストの構造を理解できる。	
	事前学修	テキスト35頁の設問に回答しておくこと。必要な場合はテキスト28頁から34頁に目を通すこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	博物館へゆくか、あるいは動物園へゆくか。(2)	テキスト36頁の翻訳	
	この回の到達目標	副文と接続詞の構造と用法を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト36頁を訳出しておくこと。必要な場合はテキスト28頁から34頁に目を通すこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	ドイツと日本の学校	テキスト41頁の音読、翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	話法の助動詞の用法を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト40頁の設問に回答し、41頁を訳出しておくこと。必要な場合はテキスト37頁から39頁に目を通すこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	日本とドイツの食文化(1)	テキスト48頁の音読、文法説明	
	この回の到達目標	複合動詞の用法を理解し、テキストの構造を理解できる。	
	事前学修	テキスト47頁の設問に回答しておくこと。必要な場合はテキスト42頁から46頁に目を通すこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	日本とドイツの食文化(2)	テキスト48頁の翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の用法を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト48頁を訳出しておくこと。必要な場合は42頁から46頁に目を通すこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	ドイツ歌曲とjポップ(1)	形容詞の構造の確認	
	この回の到達目標	形容詞の用法を理解し、テキストの構造を理解できる。	
	事前学修	テキスト49頁から55頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	映像教材によるドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴	
	この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想にまとめることができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
	事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
14	振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認できる。	
	事前学修	もう一度全体を見直して、不確実なところがあればしっかりと記憶すること。	30分
	事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を再確認すること。	30分
15	到達度の確認と動詞の3基本形	授業内試験の解答と動詞の3基本形について	
	この回の到達目標	到達度を確認し、今後の対策を検討することができる。動詞の3基本形の構造を理解できる。	
	事前学修	テキスト57頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	不備が確認できた場合は、それを補うこと。理解した動詞の3基本形の実例を記憶すること。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得してあること

【授業方法】
「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	購読はペアワークを行い、相互に文法説明ができるようにします。またプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。 【成績評価の方	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		政治経済関連の翻訳通訳経験をもとに、テキストへのアプローチの方法を実践的に扱います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマの概要についての説明	
	この回の到達目標	授業の到達目標を明確に説明することができる。	
	事前学修	シラバスで授業の内容を確認・文法及び語彙復習 ヨーロッパを中心とした時事問題を確認しておく	30分
	事後学修	教材の準備・文法復習	30分
2	時事問題テキスト1 「メディア1」	テキスト1前半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト1前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
	事前学修	時事問題テキスト1 「メディア」 前半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト1 「メディア」 訳語及び文法事項まとめ テキストの背景について調べる	30分
3	時事問題テキスト1 「メディア2」	テキスト1後半の翻訳、文法解釈及び背景の解説	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト1後半部部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	時事問題テキスト1 「メディア」 後半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト1 「メディア」 訳語及び文法事項まとめ	30分
4	時事問題テキスト1 プレゼンテーション	テキスト1の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	プレゼンテーション準備	60分
	事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
5	時事問題テキスト2 「政治・EU」1	テキスト2前半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト2前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
	事前学修	時事問題テキスト2 「政治・EU」 前半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト2 「政治-EU」前半の訳語及び文法事項まとめ	30分
6	時事問題テキスト2 「政治・EU」2	テキスト2後半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト2前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	時事問題テキスト2 「政治・EU」後半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト2 「政治・EU」 訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	時事問題テキスト2 プレゼンテーション	テキスト2の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	プレゼンテーション準備	60分
	事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
8	時事問題テキスト3「環境問題」1	テキスト3前半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト3前半部を正しく発音し、翻訳することができる。文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
	事前学修	時事問題テキスト3「環境問題」前半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト3「環境問題」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
9	時事問題テキスト3「環境問題」2	テキスト3後半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト3後半部を正しく発音し、翻訳することができる。文章の文法解釈ができる。テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	時事問題テキスト3「環境問題」後半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト3「環境問題」後半訳語及び文法事項まとめ	30分
10	時事問題テキスト3 プレゼンテーション	テキスト3の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	プレゼンテーション準備	60分
	事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
11	時事問題テキスト4「教育・キャリア」1	テキスト4前半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト4前半部を正しく発音し、翻訳することができる。文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
	事前学修	時事問題テキスト4「大学・キャリア」前半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト4「キャリア」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
12	時事問題テキスト4「教育・キャリア」2	テキスト4後半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト4前半部を正しく発音し、翻訳することができる。文章の文法解釈ができる。テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	時事問題テキスト4「教育・キャリア」後半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト4「教育・キャリア」後半訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	時事問題テキスト4 プレゼンテーション	テキスト4の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	プレゼンテーション準備	60分
	事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
14	期末試験・まとめ	今学期に学修した内容全般から出題する期末試験	
	この回の到達目標	自律的にドイツ語の時事問題テキストを文法解説して翻訳することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	試験準備	120分
	事後学修	試験でわからなかったところの振り返り	30分
15	試験解説・振り返り	試験の解説及び今学期の振り返り	
	この回の到達目標	今学期の到達度を確認して、今後のドイツ語学修の目標をたてる	
	事前学修	今後のドイツ語学修について計画を立てる	30分
	事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A，Bを履修済み、あるいは初級文法の知識を必要とする。

【授業方法】
教科書に沿って、テキスト読解、文法説明、練習問題、発音練習を行う。テキストで扱われているテーマに関することを調べ、発表し、意見交換を行う場も設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表、グループ・ワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験に代わる課題により評価する。	50	10									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	8	8		4							20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	8		8	4							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		66	18	8	8							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語、次のステップへ！	伊藤真 他	同学社	2019年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kurose.shiholl@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【復習】発音とつづりの読み方のポイント	授業の進め方と注意事項を説明する。 発音とつづりの読み方のポイントを復習し、発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ語学習の基礎である発音とつづりの読み方のポイントを理解し、発音ができ、聞き分けることもできる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 これまでに学習したドイツ語を復習しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 発音練習を行う。	30分
2	【Lektion 1】テキスト読解 (Die Partner / Deutschland und die Nachbarländer)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 2 ～ 3 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
3	【Lektion 1】文法の復習（前置詞）	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、再帰代名詞について復習する。 第 2 回で読んだテキストの内容についての質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、再帰代名詞について理解し、正しく用いることができる。テキストの内容について説明できる。	
	事前学修	教科書 4 ページを読み、教科書 5 ページの問題を解く。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
4	【Lektion 2】テキスト読解 (Der Reiseplan / Österreich und die Schweiz)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 6 ～ 7 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行い、確認問題に答える。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
5	【Lektion 2】文法の復習（分離動詞、非分離動詞）	分離動詞、非分離動詞について復習する。 第 4 回で読んだテキストの内容についての質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、分離動詞、非分離動詞について理解し、正しく用いることができる。テキストの内容を理解できる。	
	事前学修	教科書 8 ページを読み、教科書 9 ページの問題を解く。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
6	【Lektion 3】テキスト読解 (Die Ankunft / Sachsenhausen)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 10 ～ 11 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行い、確認問題に答える。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【Lektion 3】文法の復習（命令形、不定代名詞man）		命令形、不定代名詞man、従属接続詞、主文と副文について復習する。第6回で読んだテキストの内容についての質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、命令形、不定代名詞man、従属接続詞、主文と副文について理解し、正しく用いることができる。テキストの内容について説明できる。		
	事前学修	教科書12ページを読み、教科書13ページの問題を解く。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
8	【Lektion 4】テキスト読解（Fraunkfurt / Johann Wolfgang von Goethe）		発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書14～15ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
9	【Lektion 4】文法の復習（形容詞の変化、形容詞の名詞化）		形容詞の変化、形容詞の名詞化について復習する。第8回で読んだテキストの内容についての質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞の変化、形容詞の名詞化について理解し、正しく用いることができる。テキストの内容について説明できる。		
	事前学修	教科書15～16ページの文法説明を読み、教科書17ページの問題を解く。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
10	【Lektion 5】テキスト読解（Nach München / München und Bayern）		発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。		
	事前学修	教科書18～19ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
11	【Lektion 5】文法の復習（話法の助動詞）		話法の助動詞、時刻の表現について復習する。第10回で読んだテキストの内容についての質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞、時刻の表現について理解し、正しく用いることができる。テキストの内容について説明できる。		
	事前学修	教科書20ページを読み、教科書21ページの問題を解く。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分
12	【Lektion 6】テキスト読解（München und die Pinakotheken）・文法の復習（受動態）		発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。受動態について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。受動態について理解し、ドイツ語文中で認識できる。		
	事前学修	教科書22ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。教科書20ページのIを読む。音声聞いて発音練習を行う。		60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 6】テキスト読解（Dürer und Cranach）・文法の復習（状態受動、sich+lassen+不定詞）	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。状態受動、sich+lassen+不定詞について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。状態受動、sich+lassen+不定詞について理解し、ドイツ語文中で認識できる。	
	事前学修	教科書 23 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。教科書 20 ページのⅡ・Ⅲを読む。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
14	【Lektion 6】文法の復習（受動態、状態受動、sich+lassen+不定詞）	受動態、状態受動、sich+lassen+不定詞について復習する。第 12・13 回で読んだテキストの内容についての質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、話法の助動詞、時刻の表現について理解し、正しく用いることができる。テキストの内容を理解できる。	
	事前学修	教科書 25 ページの問題を解く。音声を聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。授業内に指示された課題を行う。	90分
15	【振り返り】	第14回の課題の解説および前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、第 1 回～第 14 回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	第14回の課題で理解が不十分な箇所を確認しておく。	30分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修済みであること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、授業中に講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、訳文の作成、文の構造把握等。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「壁」を壊す メルケル独首相スピーチ	村瀬民子	白水社	2021年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義。必ず参加すること。	本科目の趣旨や授業の進め方等について説明する。講義に際して必要になる基本的な文法事項について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。「ドイツ語初級文法」で使用したテキストを一通り読んでおくこと。	30分
	事後学修	第2回の授業までに、テキストを準備し、指示された箇所を読んでくること。	30分
2	初級文法の復習	文法事項について説明する。関連する文法問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	テキストを準備し、「初級文法の復習」を読んでくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	テキスト読解・東ドイツを思い出しながら①	12ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	テキスト読解・東ドイツを思い出しながら②	10ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	テキスト読解・「壁」の向こう側には西ベルリンがあった①	16ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	テキスト読解・「壁」の向こう側には西ベルリンがあった②	14ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	テキスト読解・そのとき「壁」が開いた①		20ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
8	テキスト読解・そのとき「壁」が開いた②		18ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
9	テキスト読解・欧州の和解と平和①		24ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
10	テキスト読解・欧州の和解と平和②		22ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
11	テキスト読解・戦後の経済復興①		28ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
12	テキスト読解・戦後の経済復興②		26ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト読解・未来への課題①	32ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくる。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。	30分
14	理解度の確認と前期の学習の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、前期に読んだ内容についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	テキスト全体を通読し、前期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
	事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	テキスト読解・未来への課題②、前期の復習	30ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された箇所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。前期の総括を行い、テキストの内容やドイツの社会事情の理解を深めることができる。	
	事前学修	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。	30分
	事後学修	前期の学習内容に目を通すこと。	30分

科目名	ドイツ語演習G	担当者	鈴木 満	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の基礎をひととおり学習していることが前提ですが、受講資格は設けていません。

【授業方法】		
ドイツ語に関してはアウトプットの前にインプットが必要です。授業中にドイツ語についての説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。 そしてアウトプットして、課題提出があります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	まず、自分で調べる姿勢が大切です。課題を送信し、添削を行い、質問を受けます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に/どの程度(頻度)おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ドイツ文の読み間違い等を指摘する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
メルケル首相のテレビ演説	荻野蔵平	同学社	2021	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
遠隔授業ではメール（suzuki.mitsuru11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマについての説明	
	この回の到達目標	授業の到達目標を理解し、テキストのテーマを理解できる	
	事前学修	ドイツ語の基礎文法の復習をしておく。	40分
	事後学修	1回目授業の要点をレポートにまとめる。	20分
2	【テキスト1前半】	テキスト1の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト1前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。単語の発音において向上できる	
	事前学修	テキスト1前半の単語調べ	30分
	事後学修	2回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
3	【テキスト1後半】	テキスト1の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト1後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。名詞の性において向上できる	
	事前学修	テキスト1後半の単語調べ	30分
	事後学修	3回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
4	【テキスト1の練習問題解説】	テキスト1の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト1の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。名詞の格変化において向上できる	
	事前学修	テキスト1の練習問題を見直す	30分
	事後学修	4回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
5	【テキスト2前半】	テキスト1の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト2前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。動詞の現在人称変化において向上できる	
	事前学修	テキスト2前半の単語調べ	30分
	事後学修	5回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
6	【テキスト2後半】	テキスト2の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト2後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。助動詞の変化において向上できる	
	事前学修	テキスト2後半の単語調べ	30分
	事後学修	6回目授業の要点をレポートにまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【テキスト2の練習問題解説】	テキスト1の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト1の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。簡単な質問に対する応答において向上できる	
	事前学修	テキスト1の練習問題を見直す	30分
	事後学修	7回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
8	【テキスト3前半】	テキスト2の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト3前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。単語のアクセントにおいて向上できる	
	事前学修	テキスト3前半の単語調べ	30分
	事後学修	8回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
9	【テキスト3後半】	テキスト3の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト3後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。冠詞の格変化において向上できる	
	事前学修	テキスト3後半の単語調べ	30分
	事後学修	9回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
10	【テキスト3の練習問題解説】	テキスト3の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト3の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。möchte の現在人称変化において向上できる	
	事前学修	テキスト1の練習問題を見直す	30分
	事後学修	10回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
11	【テキスト4前半】	テキスト4の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト4前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。zu 不定詞の用法において向上できる	
	事前学修	テキスト4前半の単語調べ	30分
	事後学修	11回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
12	【テキスト4後半】	テキスト1の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト4後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。単語のアクセントの位置の示し方において向上できる	
	事前学修	テキスト4後半の単語調べ	30分
	事後学修	12回目授業の要点をレポートにまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【テキスト4の練習問題解説】	テキスト4の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト4の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。冠詞と名詞の変化の関連性の理解において向上できる	
	事前学修	テキスト4の練習問題を見直す	30分
	事後学修	1 3 回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
14	【テキスト5】	テキスト5の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト5の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。3 基本形の形態について理解できる	
	事前学修	テキスト5の単語調べ	30分
	事後学修	1 4 回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
15	【テキスト5の練習問題解説】	テキスト5の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト5の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。es gibt という表現について理解し、応用できる	
	事前学修	テキスト5の練習問題を見直す	30分
	事後学修	1 5 回目授業の要点をレポートにまとめる	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の初級文法を修得していること

【授業方法】
ドイツの社会に関するテキストにより、設問の解答・発表・意見交換等を演習方式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00~14:30に、事前に以下のアドレスでアポイントを取った上受け付ける。kawashima.masayuki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	講義計画、成績評価の方法などの説明と前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	前期の成果の確認が十分に行われたか認識することができる。	
	事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業であやふやだったり覚えていなかった点があれば、再確認して記憶しておくこと。	30分
2	ドイツの歌曲とJ-Pop (2)	テキスト56頁の音読、翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	形容詞の用法を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト55頁の設問に回答し、56頁を訳出しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	歴史 (2)	テキスト63頁の音読、文法説明	
	この回の到達目標	動詞の過去形の構造を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト60頁から61頁に目を通し、63頁を音読しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	歴史 (3)	テキスト63頁の翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	過去時制の構造と用法を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、テキスト63頁を訳出しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	日本人とドイツ (1)	テキスト68頁の音読、文法説明	
	この回の到達目標	未来時制の用法を理解し、それに基づいてテキストを理解できる。	
	事前学修	テキスト67頁の設問に回答し、68頁を音読しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	日本人とドイツ (2)	テキスト68頁の翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	完了時制の構造と用法について理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト68頁を訳出しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	環境(1)	テキスト75頁の音読、文法説明	
	この回の到達目標	関係文の構造を理解し、それに基づいてテキストを理解できる。	
	事前学修	テキスト69頁から74頁に目を通し、75頁を音読しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	環境(2)	テキスト75頁の翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	受動態の構造を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト74頁の設問に回答し、75頁を翻訳しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	平和(1)	テキスト81頁の音読、文法説明	
	この回の到達目標	接続法の構造を理解し、それに基づいてテキストを理解できる。	
	事前学修	テキストテキスト76頁から79頁に目を通し、81頁を音読しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	平和(2)	テキスト81頁の翻訳、文法説明	
	この回の到達目標	接続法の用法を理解し、その理解に基づいてテキストを翻訳できる。	
	事前学修	テキスト81頁を訳出しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと	30分
11	文法の再確認	テキスト全体について重要な事項の再確認	
	この回の到達目標	テキスト全体を、これまで獲得した知識により理解でき、これに対する自分の意見を発表できる。	
	事前学修	テキスト全体を振り返り、よく理解できていない箇所があれば、質問できるように準備すること。	30分
	事後学修	授業前に分からなかったりあいまいだった箇所が、分かるようになったか確認すること。	30分
12	国際連合とハーグ平和会議	国際連合とハーグ平和会議について	
	この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(1)を、これまでに獲得した知識に基づいて翻訳できる。	
	事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目まで訳出しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際連合とクーデンホーフ・カレルギー	クーデンホーフ・カレルギーの思想について	
	この回の到達目標	国際連合について書かれた付録の長文(2)を翻訳し、内容について自分の意見を発表できる。	
	事前学修	テキスト82頁 Anhang 本文21行目から最後まで訳出しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。	30分
14	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
	この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想をまとめることができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
	事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
15	振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認できる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
	事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだったりした点を再確認すること。	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得してあること

【授業方法】
「社会/歴史」に関わる文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	購読はペアワークを行い、相互に文法説明ができるようにします。またプレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10		10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	10		10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	プリントを使用します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳・通訳
実務経験に基づく実践的教育の内容		政治経済関連の翻訳通訳経験をもとに、テキストへのアプローチの方法を実践的に扱います。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマの概要についての説明	
	この回の到達目標	授業の到達目標を明確に説明することができる。	
	事前学修	シラバスで授業の内容を確認・文法及び語彙復習 ヨーロッパを中心とした時事問題を確認しておく	30分
	事後学修	教材の準備・文法復習	30分
2	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」	テキスト5前半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト5前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
	事前学修	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 前半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 訳語及び文法事項まとめ テキストの背景について調べる	30分
3	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 2	テキスト5後半の翻訳、文法解釈及び背景の解説	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト5後半部部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 後半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト5 「文化・スポーツ」 訳語及び文法事項まとめ	30分
4	時事問題テキスト5 プレゼンテーション	テキスト5 の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	プレゼンテーション準備	60分
	事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
5	時事問題テキスト6 「歴史」 1	テキスト6 前半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト6 前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
	事前学修	時事問題テキスト6 「歴史」 前半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト6 「歴史」 前半の訳語及び文法事項まとめ	30分
6	時事問題テキスト6 「歴史」 2	テキスト6 後半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト6 前半部を正しく発音し、翻訳することができる。 文章の文法解釈ができる。 テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	時事問題テキスト6 「歴史」 後半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト6 「歴史」 訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	時事問題テキスト6 プレゼンテーション	テキスト6の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	プレゼンテーション準備	60分
	事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
8	時事問題テキスト7「ジェンダー・差別」1	テキスト7前半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト7前半部を正しく発音し、翻訳することができる。文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
	事前学修	時事問題テキスト7「ジェンダー・差別」前半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト7「ジェンダー・差別」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
9	時事問題テキスト7「ジェンダー・差別」2	テキスト7後半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト7後半部を正しく発音し、翻訳することができる。文章の文法解釈ができる。テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	時事問題テキスト7「ジェンダー・差別」後半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト7「ジェンダー・差別」後半訳語及び文法事項まとめ	30分
10	時事問題テキスト7 プレゼンテーション	テキスト7の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	プレゼンテーション準備	60分
	事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
11	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」1	テキスト8前半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト8前半部を正しく発音し、翻訳することができる。文章の文法解釈ができる。【到達目標①】	
	事前学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」前半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」前半訳語及び文法事項まとめ	30分
12	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」2	テキスト8後半の音読、翻訳、文法解釈	
	この回の到達目標	ドイツ語のテキスト8前半部を正しく発音し、翻訳することができる。文章の文法解釈ができる。テキストの背景について解説することができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」後半翻訳	60分
	事後学修	時事問題テキスト8「宗教・祝祭」後半訳語及び文法事項まとめ	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	時事問題テキスト8 プレゼンテーション	テキスト8の背景や関連事項についてプレゼンを行う。	
	この回の到達目標	扱ったテキストについてプレゼンテーション形式で解説をすることができる。【到達目標①-④】	
	事前学修	プレゼンテーション準備	60分
	事後学修	プレゼンテーション・ワークシートまとめ	30分
14	期末試験・まとめ	今学期に学修した内容全般から出題する期末試験	
	この回の到達目標	自律的にドイツ語の時事問題テキストを文法解説して翻訳することができる。【到達目標①②】	
	事前学修	試験準備	120分
	事後学修	試験でわからなかったところの振り返り	30分
15	試験解説・振り返り	試験の解説及び今学期の振り返り	
	この回の到達目標	今学期の到達度を確認して、今後のドイツ語学修の目標をたてる	
	事前学修	今後のドイツ語学修について計画を立てる	30分
	事後学修	自己評価	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法A，Bを履修済み、あるいは初級文法の知識を必要とする。

【授業方法】		
教科書に沿って、テキスト読解、文法説明、練習問題、発音練習を行う。テキストで扱われているテーマに関することを調べ、発表し、意見交換を行う場も設ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験に代わる課題により評価する。	50	10									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明④の応答に関わる能力が身についているかを評価する。	8	8		4							20
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	8		8	4							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		66	18	8	8							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の授業で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語、次のステップへ！	伊藤真 他	同学社	2019年	教科書	必携
独和辞典				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
kurose.shiholl@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【Lektion 7】文法の復習（関係代名詞）	授業の進め方と注意事項を説明する。 関係代名詞（定関係代名詞）について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定関係代名詞について理解し、ドイツ語文中で認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 教科書 2 7 ページ「文法の復習」を読む。音声を開いて発音練習を行う。	30分
	事後学修	ガイダンスのおさらいをする。 関係代名詞について復習し、発音練習を行う。	30分
2	【Lektion 7】テキスト読解 (Ausflug in die Berge / Salzburg und Salzkammergut)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 2 6 ～ 2 7 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声を開いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
3	【Lektion 7】文法の復習（関係代名詞、指示代名詞）	関係代名詞（定関係代名詞、不定関係代名詞）、指示代名詞について学習する。 デパートの案内板の内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、関係代名詞、指示代名詞について理解し、正しく用いることができる。デパートの案内板に書かれている内容が理解できる。	
	事前学修	教科書 2 8 ページを読み、教科書 2 9 ページの問題を解く。音声を開いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
4	【Lektion 8】テキスト読解 (Berlin, eine geteilte Stadt?)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 3 0 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声を開いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
5	【Lektion 8】テキスト読解 (Berlin und die Mauer 1)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 3 1 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声を開いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
6	【Lektion 8】文法の復習（形容詞の比較変化）	形容詞の比較変化について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、形容詞の比較変化について理解し、正しく用いることができ、ドイツ語文中でも認識できる。	
	事前学修	教科書 3 2 ページを読み、教科書 3 3 ページの問題を解く。音声を開いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【Lektion 9】テキスト読解 (Zwei Universitäten in Berlin)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 3 4 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
8	【Lektion 9】テキスト読解 (Berlin und die Mauer 2)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 3 5 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
9	【Lektion 9】文法の復習 (数詞)	数詞 (基数、序数)、現在完了形、受動文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、数詞 (基数、序数)、現在完了形、受動文について理解し、正しく用いることができる。	
	事前学修	教科書 3 6 ページを読み、教科書 3 7 ページの問題を解く。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
10	【Lektion 10】テキスト読解 (Ausflug nach Dresden)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 3 8 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
11	【Lektion 10】テキスト読解 (Die Perle an der Elbe)	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 3 9 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
12	【Lektion 10】文法の復習 (定動詞の位置)	定動詞の位置について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、定動詞の位置について理解し、正しくドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 4 0 ページを読み、教科書 4 1 ページの問題を解く。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Lektion 11】テキスト読解（vor dem Abschied）	発音と文法を確認しながら、テキスト読解を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テキストを正しく発音でき、文の構造もわかる。内容を理解して説明することができる。	
	事前学修	教科書 4 2 ページのテキストを和訳し、指示された課題を行う。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。	30分
14	【Lektion 11】文法の復習（接続法）	接続法の形式、用法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、接続法の形式、用法について理解し、正しくドイツ語文を作ることができる。	
	事前学修	教科書 4 3 ～ 4 4 ページを読み、教科書 4 5 ページの問題を解く。音声聞いて発音練習を行う。	60分
	事後学修	事前学修でわからなかった箇所を確認し、復習する。発音練習を行う。 授業内に指示された課題を行う。	90分
15	【振り返り】	第14回の課題の解説および前期学習内容の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、第 1 回～第 1 4 回の学習内容を理解し、運用できる。	
	事前学修	第14回の課題で理解が不十分な箇所を確認しておく。	30分
	事後学修	これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修済みであること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。

【授業方法】
ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、授業中に講評を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	音読、訳文の作成、文の構造把握等。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。					2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。					2		2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「壁」を壊す メルケル独首相スピーチ	村瀬民子	白水社	2021年	教科書	必携
備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				

【オフィスアワー】
・授業期間中の水曜日の昼休みとする。・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義。必ず参加すること。	前期の復習をする。講読に際して必要になる文法事項について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法の基礎を確認し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。前期の内容を思い出し、後期の学習を進めていくための準備ができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。前期の学習内容を一通り読んでくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
2	テキスト読解・グローバルに行動する①	36ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
3	テキスト読解・グローバルに行動する②	34ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
4	テキスト読解・AIの可能性①	40ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
5	テキスト読解・AIの可能性②	38ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分
6	テキスト読解・ゆっくり考え、正しい選択をしよう①	44ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	テキスト読解・ゆっくり考え、正しい選択をしよう②		42ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
8	テキスト読解・心の中にある「壁」①		48ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
9	テキスト読解・心の中にある「壁」②		46ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
10	テキスト読解・「壁」の向こう側にあるもの①		52ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
11	テキスト読解・「壁」の向こう側にあるもの②		50ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分
12	テキスト読解・終わりにくして始まりはない①		56ページの「文法の確認」を基に、中級文法の復習をする。関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ語文法を把握し、容易なセンテンスを読んでいくための基礎固めをすることができる。		
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。		30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト読解・終わりなくして始まりはない②	54ページを、文の構造を把握しながら精読する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業で指示された部分の予習をしてくること。	30分
	事後学修	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。	30分
14	理解度の確認と後期の学習の振り返り	筆記試験を実施し、半期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期に読んだ内容についての筆記試験に解答できる。	
	事前学修	テキスト全体を通読し、後期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。	30分
	事後学修	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。	30分
15	後期の復習	前期・後期に読んだテキストの内容を確認し、1年間に学習したことを総括とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、指示された個所を読み、文法的にも内容的にも十分に理解し、説明することができる。前期の総括を行い、テキストの内容やドイツの社会事情の理解を深めることができる。	
	事前学修	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。	30分
	事後学修	前期・後期の学習内容に目を通すこと。	30分

科目名	ドイツ語演習H	担当者	鈴木 満	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
ドイツ語の応用として、人文・社会系に関わるドイツ語語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる。

【履修条件】
ドイツ語の基礎をひととおり学習していることが前提ですが、受講資格は設けていません。

【授業方法】		
ドイツ語に関してはアウトプットの前にインプットが必要です。授業中にドイツ語についての説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。 そしてアウトプットして、課題提出があります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	まず、自分で調べる姿勢が大切です。課題を送信し、添削を行い、質問を受けます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるドイツ語文献を理解し、意見を述べることができる。						2		2		2		
③	「社会/歴史」に関わる他者の意見を傾聴し、意見を述べることができる（対話力）。						2		2		2		
④	自分の意見に対する質問に、適切に応答することができる。						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に/どの程度(頻度)おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ドイツ文の読み間違い等を指摘する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
メルケル首相のテレビ演説	荻野蔵平	同学社	2021	教科書	必携
独和辞典				その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
遠隔授業ではメール（suzuki.mitsuru11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【導入講義】	授業の進め方、評価方法についての説明 授業で扱うテーマについての説明	
	この回の到達目標	授業の到達目標を理解し、テキストのテーマを理解できる。ドイツ語の文法について全体的なイメージを持つことができる	
	事前学修	ドイツ語の基礎文法を確実なものとし、いわゆる中級レベルの文法書・解説書にも軽く目を通す	40分
	事後学修	1回目授業の要点をレポートにまとめる	20分
2	【テキスト 6 前半】	テキスト 6 の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト 6 前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。ドイツ単語の発音表記において理解が深まる	
	事前学修	テキスト 6 前半の単語調べ	30分
	事後学修	2回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
3	【テキスト 6 後半】	テキスト 6 の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト 6 後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。名詞の例外的な格変化を自ら調べることができる	
	事前学修	テキスト 6 後半の単語調べ	30分
	事後学修	3回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
4	【テキスト 6 の練習問題解説】	テキスト 6 の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト 6 の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。強変化動詞の 3 基本形を調べることができる	
	事前学修	テキスト 6 の練習問題を見直す	30分
	事後学修	4回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
5	【テキスト 7 前半】	テキスト 7 の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト 7 前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。話法の助動詞を含む質問文に答えることができる	
	事前学修	テキスト 7 前半の単語調べ	30分
	事後学修	5回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
6	【テキスト 7 後半】	テキスト 7 の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト 7 後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。例外的な単語の発音にも、ある程度規則性のあることを理解できる	
	事前学修	テキスト 7 後半の単語調べ	30分
	事後学修	6回目授業の要点をレポートにまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【テキスト7の練習問題解説】	テキスト7の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト7の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。否定文の作り方のバリエーションを増やすことができる	
	事前学修	テキスト7の練習問題を見直す	30分
	事後学修	7回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
8	【テキスト8前半】	テキスト8の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト8前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。副文の基本が使えるようになる	
	事前学修	テキスト8前半の単語調べ	30分
	事後学修	8回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
9	【テキスト8後半】	テキスト8の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト8後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。自分の意見ではなく、他の意見を引用して答えることができる	
	事前学修	テキスト8後半の単語調べ	30分
	事後学修	9回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
10	【テキスト8の練習問題解説】	テキスト8の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト8の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。分離動詞の発音についての注意点が理解できる	
	事前学修	テキスト8の練習問題を見直す	30分
	事後学修	10回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
11	【テキスト9前半】	テキスト9の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト9前半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。合成語の知識において向上できる	
	事前学修	テキスト9前半の単語調べ	30分
	事後学修	11回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
12	【テキスト9後半】	テキスト9の後半の理解	
	この回の到達目標	テキスト9後半の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。形容詞の比較級において向上できる	
	事前学修	テキスト9後半の単語調べ	30分
	事後学修	12回目授業の要点をレポートにまとめる	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【テキスト9の練習問題解説】	テキスト9の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト9の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。非分離動詞の発音についての注意点が理解できる	
	事前学修	テキスト9の練習問題を見直す	30分
	事後学修	13回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
14	【テキスト10】	テキスト10の前半の理解	
	この回の到達目標	テキスト10の発音ができ、文法を理解し、翻訳をすることにより、到達目標①②③④に近づく。外来語の名詞の変化を調べることができる	
	事前学修	テキスト10の単語調べ	30分
	事後学修	14回目授業の要点をレポートにまとめる	30分
15	【テキスト10の練習問題解説】	テキスト10の発音・語句・文法事項の確認	
	この回の到達目標	テキスト10の練習問題によって到達目標①②③④に近づく。ある程度決まったパターンの接続法が理解できるようになる	
	事前学修	テキスト10の練習問題を見直す	30分
	事後学修	15回目授業の要点をレポートにまとめる	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠA	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる									3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる									3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業でライティングを添削して、講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München neu	Sekiguch Ichiro	Hakusuisha	2008	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツ語の読み書き	簡単な履歴書を書く（何歳ですか？ 何の資格をいつとりましたか？）	
	この回の到達目標	簡単な履歴書を書けるようになる	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	ドイツ語の読み書き	自己紹介とビジネスパートナーの紹介	
	この回の到達目標	紹介ができるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	ドイツ語の読み書き	スケジュール（時間）の書き方	
	この回の到達目標	スケジュールをめぐる定型句を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	ドイツ語の読み書き	スケジュールの（日にち）の報告	
	この回の到達目標	スケジュールをめぐる定型句を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	ドイツ語の読み書き	電話のかけ方I	
	この回の到達目標	電話の定型句を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	ドイツ語の読み書き	電話のかけ方II（断りの電話）	
	この回の到達目標	断りの電話をかけられるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドイツ語の読み書き	ここまでの復習	
	この回の到達目標	電話の会話からメモを取れるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くI（基本） 動詞の現在完了と過去形の使い分け	
	この回の到達目標	過去形を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
	この回の到達目標	過去形を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くII（具体的なビジネスメール） 分離動詞と非分離動詞	
	この回の到達目標	分離動詞を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	ドイツ語の読み書き	Eメールを書くIII 代名詞の使い方	
	この回の到達目標	代名詞を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	ドイツ語の読み書き	Eメールの書き方IV 再帰動詞の使い方	
	この回の到達目標	再帰動詞を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ドイツ語の読み書き		ここまでの復習I
	この回の到達目標	自由な文章作成	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	ドイツ語の読み書き		ここまでの復習II
	この回の到達目標	自由な文章作成	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	ドイツ語の読み書き		まとめ・テスト
	この回の到達目標	自由な文章作成	
	事前学修	ここまで学んだことの復習（20分）	20分
	事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
Basic knowledge of spelling, pronunciation, simple grammar, basic vocabulary for daily conversation. We will start by reviewing basic skills before we move on to the next level.

【授業方法】
Using parts of German textbooks with various forms of text samples and exercises for gradually building reading and composition skills. This class will be taught on zoom and via google classroom

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	バリエーション豊富な文章に触れて実践的な作文トレーニングをする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる									3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる									3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
questions and answers about exercises during class, short presentations of solved exercises, corrections and feedback via google classroom.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	pdf files and copies will be provided				

【オフィスアワー】
during class incl zoom chat and via google classroom and email

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Hallo !	Introduce yourself with name, origin, languages, hobbies and interests	
	この回の到達目標	learn to write a short text for your profile and about another person review basic grammar for verb conjugation etc.	
	事前学修	review vocabulary for countries, languages, hobbies join google classroom, follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	review any new vocabulary, complete and submit assignment that was started in class	30分
2	Hallo! 2 work and family	complete rest of self introductions student life, job, career	
	この回の到達目標	learn to write a short biography of yourself and another person	
	事前学修	review vocabulary for professions, subjects in university, family status follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete a short biography and submit	30分
3	German speaking countries data	Data and statistics about Germany and other countries numbers	
	この回の到達目標	Learn to information about countries, write descriptions review numbers	
	事前学修	review numbers 1-10000	25分
	事後学修	write a text about Japan and submit	35分
4	In the city	Meeting a friend in the city, making plans for cultural activities Talk about favorite artists etc	
	この回の到達目標	daily conversation for meeting a friend, express your interests and preferences about museums, books etc	
	事前学修	prepare a list of your favorite singers, actors, painters, authors, museums and exhibitions	30分
	事後学修	write an email about your activities , submit	30分
5	German cities	Frankfurt and Hamburg	
	この回の到達目標	understand a description of a city, and write one yourself	
	事前学修	prepare for reading a text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete text about a city, submit	30分
6	German cities 2 Time and schedules	presentations of city descriptions time schedules and activities opening hours	
	この回の到達目標	present your written work in class review time, hours, and durations	
	事前学修	review the clock	30分
	事後学修	review exercises done in class	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	From morning to evening	describe activities and plans	
	この回の到達目標	learn to form sentences using time and place	
	事前学修	prepare to read a text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	review vocabulary, time, days, months etc	30分
8	Events, ads restaurants	Choose an ad for your activities	
	この回の到達目標	learn to read newspaper ads for events read and describe restaurant guide adjective declination	
	事前学修	choose a restaurant you want to recommend	35分
	事後学修	complete restaurant description, submit	25分
9	Specialties	sweets in Germany, Austria and Switzerland	
	この回の到達目標	read a text about food and its history	
	事前学修	prepare for reading a text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete exercises	30分
10	Yesterday and today	What people did yesterday	
	この回の到達目標	learn to form sentences using present perfect	
	事前学修	review any grammar you learned about perfect tense, view grammar tables for verbs	30分
	事後学修	complete exercises	30分
11	Yesterday and today 2	Describe activities in the office	
	この回の到達目標	learn to use perfect tense past tense of to be	
	事前学修	review grammar for present perfect and past tense of to be	30分
	事後学修	complete exercises, submit	30分
12	Daily schedules	What people did all day	
	この回の到達目標	understand a descriptive text in present perfect, transform sentences from present to present perfect	
	事前学修	prepare to read text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete exercises	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Last week Study in Germany		An Email A text about universities
	この回の到達目標	compose an email using present perfect, read a text and summarize	
	事前学修	prepare to read text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete exercises, submit composition	30分
14	Student life		A text about German students
	この回の到達目標	reading comprehension , vocabulary , reproduce information in the text	
	事前学修	prepare to read text follow announcements about files in google drive	30分
	事後学修	complete exercises, review vocabulary	30分
15	Test		Test, Text composition
	この回の到達目標	check your new skills	
	事前学修	review , prepare for test	45分
	事後学修	review what you forgot	15分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠB	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において必要となる基本的事柄に対処できるために、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、文書による意思疎通の能力を養成します

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の中で読み書きの練習をしてもらう	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München neu	Sekiguchi Ichiro	Hakusuisha	2008	参考書	推奨
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツ語の読み書き	ビジネスニュースを読む	
	この回の到達目標	ビジネス用語を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	ドイツ語の読み書き	パーセントや何分の一などの言い方	
	この回の到達目標	パーセントや何分の一などの言い方	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	ドイツ語の読み書き	ミーティングで丁寧表現を使う 話法の助動詞	
	この回の到達目標	丁寧表現・話法の助動詞を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
	この回の到達目標	丁寧表現・話法の助動詞を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	ドイツ語の読み書き	ホテルバーで お客様との会話、注文の仕方	
	この回の到達目標	ビジネス会話を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
	この回の到達目標	ビジネス会話を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドイツ語の読み書き	ピクトグラムと話法の助動詞	
	この回の到達目標	ピクトグラムと話法の助動詞を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	ドイツ語の読み書き	世界の国の名前 国民を意味する言葉の単数と複数	
	この回の到達目標	世界の国の名前・国民を意味する言葉の単数と複数を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	ドイツ語の読み書き	ドイツの簡単な地理 州と州都など 前置詞の3格と4格の使い分け	
	この回の到達目標	前置詞の3格と4格の使い分けを理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	ドイツ語の読み書き	前置詞の3格と4格の使い分けの復習	
	この回の到達目標	前置詞の3格と4格の使い分けを理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	ドイツ語の読み書き	道案内の仕方	
	この回の到達目標	道案内の仕方	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	ドイツ語の読み書き	前回の復習	
	この回の到達目標	道案内の仕方	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ドイツ語の読み書き		ここまでの復習
	この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	ドイツ語の読み書き		ここまでの復習
	この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	ドイツ語の読み書き		まとめ・テストと反省会
	この回の到達目標	自由なライティングができるようになる	
	事前学修	16回からの内容の復習（20分）	20分
	事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅠB	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において必要となる基本的事柄に対処できるように、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、文書による意思疎通の能力を養成します

【履修条件】
basic knowledge of German level A1.1

【授業方法】		
using copies and files with exercises for reading, written exercises and text composition exercises will be done during class and as homework to be submitted to google classroom This class may be conducted via zoom or in the classroom, depending on future announcements		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	バリエーション豊富な文章に触れて実践的な作文トレーニングをする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる									3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる									3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
during class, via google classroom and email	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	copies and files will be provided				

【オフィスアワー】	
during class, by email	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Yesterday and today Study	describe intentions and past education	
	この回の到達目標	review present perfect, composition skills	
	事前学修	review vocabulary to describe study follow announcements in google classroom about files in Drive	30分
	事後学修	complete exercise, submit	30分
2	Out and about	Text about vehicles and public transport	
	この回の到達目標	learn transport vocabulary, describe how you move	
	事前学修	view text and vocabulary	30分
	事後学修	learn vocabulary	30分
3	Trains and buses, commuting	How do you go to work? Descriptions	
	この回の到達目標	Form sentences using "by car" etc, learn transport vocabulary	
	事前学修	prepare vocabulary list , text follow announcements in google classroom about drive	30分
	事後学修	review vocabulary, complete exercises	30分
4	The seasons, vacation	seasons, months, describe travel plans	
	この回の到達目標	vocabulary for seasons, months, weather	
	事前学修	view vocabulary	30分
	事後学修	complete exercises	30分
5	Resorts, travel	Descriptions of holiday destinations , plans	
	この回の到達目標	vocabulary, grammar for traveling, verb to want	
	事前学修	preview vocabulary, grammar	30分
	事後学修	complete exercises	30分
6	A postcard	Read a postcard	
	この回の到達目標	apply travel vocabulary, reading comprehension	
	事前学修	prepare to read text follow announcements in google classroom about drive	30分
	事後学修	complete exercises	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	Travel		exercises for grammar and vocabulary for traveling
	この回の到達目標	learn to form sentences using want and directions	
	事前学修	review vocabulary	30分
	事後学修	complete exercises	30分
8	luggage		daily necessities , what to pack into your suitcase
	この回の到達目標	vocabulary for luggage, clothes, gadgets etc	
	事前学修	preview vocabulary, present perfect	30分
	事後学修	complete exercises	30分
9	Clothes, colors		descriptions of clothes
	この回の到達目標	adjective declination Nominativ, Akkusativ	
	事前学修	preview vocabulary and grammar	30分
	事後学修	complete exercises	30分
10	Shopping		Buying clothes
	この回の到達目標	verb to must which and this declination	
	事前学修	preview grammar	30分
	事後学修	learn grammar	30分
11	Daily needs Shopping 2		Data about internet shopping
	この回の到達目標	vocabulary for shopping 2	
	事前学修	preview text	30分
	事後学修	complete exercises	30分
12	Work		activities in the office
	この回の到達目標	office vocabulary	
	事前学修	preview vocabulary	30分
	事後学修	review present perfect, complete exercises	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Punctuality		Text about being on time or not, customs postpone an appointment
	この回の到達目標	learn about German etiquette write business email	
	事前学修	prepare to read text	30分
	事後学修	write email, submit	30分
14	Work, Office		Make an appointment
	この回の到達目標	verbs for office work, usage	
	事前学修	preview vocabulary	30分
	事後学修	complete email exercise, submit	30分
15	Test		Test, Text composition
	この回の到達目標	check your level	
	事前学修	prepare for test	60分
	事後学修	review your work	15分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I A	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定5級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定5級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音、基本文法を確認しながら、テキストを講読し、確認のための小テストを適宜行う演習方式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00~14:30に、事前に以下のアドレスでアポイントを取った上受け付ける。kawashima.masayuki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	ドイツと言え何を連想するか考えておくこと。	30分
	事後学修	授業で触れた事柄をまとめておくこと。	30分
2	発音	ドイツ語のアルファベットと母音と子音の発音の仕方	
	この回の到達目標	アルファベットを覚え、母音と子音の発音の仕方を理解できる。	
	事前学修	テキストのvi頁からxii頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	授業で扱った発音を録音教材によって確認し、発音練習をすること。	30分
3	単語	単語の発音の仕方	
	この回の到達目標	単語の発音の仕方を理解できる。	
	事前学修	テキストのxi頁の単語を書き出し、カタカナで発音を書いておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	規則動詞	規則動詞の現在人称変化の構造	
	この回の到達目標	動詞の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキストの1頁から5頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	冠詞と名詞	冠詞と名詞の構造	
	この回の到達目標	名詞と冠詞の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキストの7頁の設問に回答し、9頁から11頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	名詞の複数形	名詞の複数形の構造	
	この回の到達目標	名詞の複数の構造を理解できる。	
	事前学修	テキストの12頁から13頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不規則動詞	不規則動詞の構造	
	この回の到達目標	不規則動詞の形態と命令形の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト14頁の設問に回答し、16頁から17頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	命令形	命令形の作り方	
	この回の到達目標	命令形の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト18頁から19頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類の用法	
	この回の到達目標	定冠詞類と不定冠詞類の用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト20頁の設問に回答し、22頁から25頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	前置詞	前置詞の用法と格支配	
	この回の到達目標	前置詞の用法と格支配を理解できる。	
	事前学修	テキスト26頁の設問に回答し、28頁から32頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	副文	接続詞と副文の作り方	
	この回の到達目標	接続詞と副文の形態と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト32頁から34頁まで目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	話法の助動詞	話法の助動詞の用法	
	この回の到達目標	話法の助動詞の用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト35頁の設問に回答し、37頁から39頁までに目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	映像教材によるドイツの文化	ドイツの文化を扱った映像教材の視聴	
	この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想にまとめることができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
	事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
14	振り返り	授業内試験および前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認し、弱点を認識し、克服への道筋を理解することができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
	事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を再確認すること。	30分
15	到達度の確認と動詞の3基本形	授業内試験の解答と動詞の3基本形について	
	この回の到達目標	到達度を確認し、今後の対策を検討することができる。動詞の3基本形の構造を理解できる。	
	事前学修	テキスト57頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	不備が確認できた場合は、それを補うこと。理解した動詞の3基本形の実例を記憶すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I A	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定5級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定5級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ [改訂版]	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
別枠で、時間を設ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[ガイダンス] [検定試験に合格する勉強法について]	授業の進め方、ドイツ語検定試験の概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語検定の内容を理解し、合格に向けての学習方法を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておくこと。	80分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。	80分
2	[ドイツ語の発音について]	ドイツ語の基本的な発音、特有な発音について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の発音がどのようなものかについて理解し、実際に発音ができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ドイツ語の動詞について]	動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の動詞がどのように変化するかについて理解し、さまざまな動詞を変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[不規則変化動詞について]	不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の不規則な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[seinとhabenについて]	seinとhabenについて学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語のseinとhabenについて理解し、人称変化させることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[名詞と冠詞について]	名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞と冠詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	[名詞の複数形について]	ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の名詞の複数形について理解し、3格の変化について説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
8	[特殊な動詞の変化について]	特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の特殊な変化をする動詞について理解し、変化させることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
9	[冠詞類について]	ドイツ語の冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の冠詞類の変化について理解し、定冠詞類と不定冠詞類の違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
10	[人称代名詞について]	ドイツ語の人称代名詞の特徴を学び、変化させることができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の人称代名詞について理解し、名詞を代名詞に置き換えることができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
11	[前置詞について]	ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の前置詞について理解し、英語との違いを説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。		80分
12	[3・4格支配の前置詞について]	3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3・4格支配の前置詞について理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。		80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[接続詞について]	ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続詞について理解し、違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験，振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業内容を確認し、後期に備えること。	80分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠB	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定4級対策、3級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定4級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音、基本文法を確認しながら、テキストを講読し、確認のための小テストを適宜行う演習方式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキストの練習問題の解答を発表させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann	朝日出版社	2018年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日13:00~14:30に、事前に以下のアドレスでアポイントを取った上受け付ける。kawashima.masayuki11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	前期の成果を確認できる。	
	事前学修	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業によってあぶりだされたドイツ語の文法・語彙に対するあやふやな点を再確認してしっかり記憶すること。	30分
2	非分離動詞	非分離動詞の構造と用法	
	この回の到達目標	非分離動詞の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト42頁から44頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
3	再帰動詞 非人称動詞	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法	
	この回の到達目標	再帰動詞と非人称動詞の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト44頁から46頁に目を通し、47頁の設問に回答しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
4	形容詞	形容詞の構造と用法	
	この回の到達目標	形容詞の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト49頁から52頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
5	比較級・最上級	形容詞の比較用法の構造と用法	
	この回の到達目標	比較級・最上級の構造について理解できる。	
	事前学修	テキスト53頁から54頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
6	過去形	過去形の形態と用法	
	この回の到達目標	過去形の形態と用法について理解できる。	
	事前学修	テキスト55頁の設問に回答し、テキスト57頁から61頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	複合時制	未来形と完了形の構造と用法	
	この回の到達目標	未来形、完了形の構造と用法について理解できる。	
	事前学修	テキスト62頁の設問に回答し、64頁から66頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
8	定関係代名詞	定関係代名詞の形態と用法	
	この回の到達目標	定関係代名詞と関係文の形態を理解できる。	
	事前学修	テキスト67頁の設問に回答し、テキスト69頁から70頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
9	不定関係代名詞	不定関係代名詞の形態と用法	
	この回の到達目標	不定関係代名詞の形態と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト70頁から72頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
10	受動態	受動態の構造と用法	
	この回の到達目標	受動態の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト71頁から73頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
11	分詞	現在分詞と過去分詞の構造と用法	
	この回の到達目標	分詞の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト72頁から73頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分
12	接続法	接続法の構造と用法	
	この回の到達目標	接続詞の構造と用法を理解できる。	
	事前学修	テキスト74頁の設問に回答し、テキスト76頁から79頁に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	映像教材によるドイツの社会	ドイツの社会を扱った映像教材の視聴	
	この回の到達目標	映像教材の意味を把握し、感想にまとめることができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。	30分
	事後学修	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。	30分
14	振り返り	授業内試験及び後期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	これまでの学習の成果を確認することができる。	
	事前学修	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。	30分
	事後学修	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を再確認すること。	30分
15	到達度の確認と解説	授業内試験の解説及び総復習	
	この回の到達目標	到達度を確認し、今後の学修に対する道筋をつけることができる。	
	事前学修	授業内試験で浮かび上がった修得不十分な点を明確にしておくこと。	30分
	事後学修	これまでに浮かび上がった不十分な点を再確認すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策 I B	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定4級対策、3級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定4級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修すること。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。出席管理システムを利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システムにより、アンケート等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								1	1		
②	基本的なドイツ語を理解し、ほとんどの身近な場面で対応できる								1	1		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								1	1		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
気分はドイツ [改訂版]	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
別枠で、時間を設ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	[話法の助動詞について]	話法の助動詞について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、助動詞について理解し、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前期の内容を確認しておくこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
2	[話法の助動詞の用法について]	話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、副文における助動詞の位置を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
3	[ヒアリング練習]	ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヒアリングのポイントを理解する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
4	[形容詞について]	ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の変化表の見方を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
5	[形容詞の比較・副詞的用法について]	比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞の比較・副詞的用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
6	[分離動詞について]	分離動詞について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分離動詞について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	[動詞の3基本形について]	動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、3基本形について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
8	[過去形の変化について]	過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、規則・不規則変化動詞の3基本形を作ることができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
9	[現在完了形について]	ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、完了形の作り方について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
10	[完了形の用法について]	完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツ語の完了形について、英語との違いを説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
11	[関係代名詞について]	関係代名詞について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、関係代名詞について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
12	[受動態について]	受動態について学び、作文することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受動態について理解し、構成を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	[zu不定詞について]	不定詞について学び、和訳することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不定詞について理解し、用法を説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
14	[接続法について]	接続法について学び、用法を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、接続法について理解し、用法について説明することができる。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。	80分
15	[授業内試験、振り返り]	授業内試験及び講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期・後期で学んだことを復習する。	
	事前学修	前回の授業で示された課題を行うこと。	80分
	事後学修	心静かに、一年の学習を振り返ること。	80分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修済みであること。ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法	在間進ほか	三修社	2014	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15-13:00 研究室（本館7階1706研究室） sato.suguru@nihon-u.ac.jp 事前に必ずメールで連絡すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスと基本単語の確認		授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。基本単語を確認する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。		
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。教科書の目次をよく読み、いた年會に学習することが何か、イメージを得ておくこと。		30分
	事後学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。		30分
2	独検4級 模擬試験(筆記とリスニング)		独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の問題を解くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。		
	事前学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。		30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使⽤した教科書で確認しておくこと。		30分
3	前回の模擬試験の解説		前回、解いた問題を詳細に検討し、今後の学習のための指針とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の解説を聞くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。		
	事前学修	長文問題のわからない単語を調べておくこと。		30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使⽤した教科書で確認しておくこと。		30分
4	第1章 発音、第2章 動詞と文		発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ教科書をよく読んでくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
5	第3章 格変化(単数形)、第4章 複数形		格変化と複数形のルールについて、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
6	対策学習編1(3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞)		3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第5章 冠詞類	冠詞類について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、冠詞類について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	対策学習編2(不規則変化動詞、複合的な疑問詞)	不規則変化動詞、複合的な疑問詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、複合的な疑問詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	第6章 前置詞	前置詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	第7章 人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、人称代名詞と再帰代名詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	第8章 話法の助動詞、未来形	話法の助動詞と未来形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞と未来形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	対策学習編3(分離動詞、命令形)	分離動詞と命令形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、分離動詞と命令形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	準備編(三基本形)、第9章 過去形、第10章 現在完了形	動詞の三基本形、過去形、現在完了形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形、過去形、現在完了形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
14	理解度の確認と前期内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	前期の復習	あらためて前期の学習事項を振り返り、夏休みに勉強することを確認する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点とその対策を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。 時事的な問題に対応できるように、インターネットのドイツ語ニュースを通して、世界のアクチュアルな出来事について多く読んでみたいと考えています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる。								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける。								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)		10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検対策4級・3級問題集 4訂版	恒吉良隆	白水社	2017	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進	第三書房	2010	参考書	推奨
「アクセス独和辞典」等（電子辞書不可）		三修社 他		その他	必携
備考	インターネットのドイツ語ニュースを読む場合には、私の方でテキストを用意します。				

【オフィスアワー】
授業後の教室 もしくは 9号館1階共有スペースにて。オンラインの場合には、ZOOMで対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスと基本単語の確認		授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。基本単語を確認する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。		
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。事前にシラバスを確認しておくこと。教科書の目次をよく読み、一年間に学習することが何か、イメージを得ておくこと。		30分
	事後学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。		30分
2	独検4級 模擬試験		独検4級の問題を解くことで、現在の弱点と、3級合格に向けて今後の課題を認識する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の問題を解くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。		
	事前学修	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。		30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。		30分
3	前回の模擬試験の解説		前回、解いた問題を詳細に検討し、今後の学習のための指針とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検4級の解説を聞くことで、文法や語彙のどこに学習漏れがあるかを把握し、どこを重点的に学習してゆくべきかを説明することができる。		
	事前学修	長文問題のわからない単語を調べておくこと。		30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。		30分
4	発音、動詞と文		発音法則と動詞の現在人称変化、動詞の位置について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ教科書をよく読んでくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
5	格変化(単数形)、複数形		格変化と複数形のルールについて、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、格変化と複数形のルールについて説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
6	3人称の人称代名詞 疑問代名詞、疑問副詞		3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	冠詞類		冠詞類について、法則を解説し、関連する練習問題を解く	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、冠詞類について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
8	不規則変化動詞 複合的な疑問詞		不規則変化動詞、複合的な疑問詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、不規則変化動詞、複合的な疑問詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
9	前置詞		前置詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、前置詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
10	人称代名詞と再帰代名詞		人称代名詞と再帰代名詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、人称代名詞と再帰代名詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
11	話法の助動詞 未来形		話法の助動詞と未来形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、話法の助動詞と未来形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
12	分離動詞 命令形		分離動詞と命令形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連して、分離動詞と命令形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	動詞の三基本形 過去形 現在完了形	動詞の三基本形、過去形、現在完了形について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標達成目標①～④に関連して、動詞の三基本形、過去形、現在完了形について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	120分
14	理解度の確認 前期内容の振り返り	前期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	120分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
15	前期の復習	あらためて前期の学習事項を振り返り、夏休みに勉強することを確認する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、前期の学習事項について復習し、弱点とその対策を説明することができる。	
	事前学修	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策、2級受験のための導入

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
「ドイツ語基礎文法」を履修済みであること。ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法	在間進ほか	三修社	2014	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進ほか	第三書房	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15-12:55 研究室（本館7階1706研究室） sato.suguru@nihon-u.ac.jp 事前に必ずメールで連絡すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、前期の復習		授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、3級合格のために何を学習すべきか、最終的な到達目標を説明することができる。		
	事前学修	前期の学習事項を復習しておくこと。		30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。		30分
2	第10章 現在完了形、第11章 受動文		あらためて現在完了形について解説する。また、受動文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在完了形と受動文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
3	第12章 接続詞、副文		接続詞、副文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、接続詞、副文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
4	第16章 zu不定詞		zu不定詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、zu不定詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
5	第13章 接続法		接続法について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、接続法について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分
6	第14章 比較変化、第17章 形容詞の格変化		比較表現と形容詞の格変化について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、比較表現と形容詞の格変化について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。		
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。		30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第15章 関係文	関係文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、関係文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	独検3級対策 文法問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に文法問題について解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	独検3級対策 リスニング問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主にリスニング問題について解説する。	
	この回の到達目標	達成目標④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	独検3級 模擬試験(筆記)	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	独検3級 模擬試験(リスニング)	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	これまでの学習事項についてよく復習し、指示された問題を解いてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	後期の復習	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。2級対策のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくる。また、各自で答え合わせをしておくこと。	30分
	事後学修	できなかったところを中心に、よく復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発展学習・ドイツ語圏の文化についての見識を深める	これまでに学んだドイツ語の文法知識を生かし、ドイツ語の文章を読み、ドイツ語圏の文化について理解を深める。2級対策のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の文化について理解を深め、興味関心のある部分について説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	30分
14	理解度の確認と後期内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握して今後何をすべきか説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	後期の復習と今後のドイツ語学習について	後期の学習内容を振り返り、ここで身に着けたドイツ語の知識をどう生かしてゆくかについて考える。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、今後の学習について展望を得て説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定3級対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定3級に合格するために、過去に出題された問題や文法に関する解説を通じて、ドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定4級以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】		
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。 時事的な問題に対応できるように、インターネットのドイツ語ニュースを通して、世界のアクチュアルな出来事について多く読んでみたいと考えています。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる。								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								2	2		
③	短いドイツ語の文章が書ける。								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる。								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)		10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
独検対策4級・3級問題集 4訂版	恒吉良隆	白水社	2017	教科書	必携
新・独検合格 単語+熟語1800	在間進	第三書房	2010	参考書	推奨
「アクセス独和辞典」等（電子辞書不可）		三修社 他		その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後の教室 もしくは 9号館1階共有スペースにて。オンラインの場合には、ZOOMで対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、前期の復習	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	授業のコンセプトについて説明する。前期は独検4級相当の知識の確認をし、3級合格のための足場とすることを説明する。前期に学習する文法事項のポイントを解説する。	
	事前学修	前期の学習事項を復習しておくこと。	30分
	事後学修	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。	30分
2	現在完了形 受動文	あらためて現在完了形について解説する。また、受動文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、現在完了形と受動文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
3	接続詞 副文 zu不定詞	接続詞、副文、zu不定詞について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、接続詞、副文、zu不定詞について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
4	接続法	接続法について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、接続法について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
5	形容詞の格変化 比較表現	形容詞の格変化と比較表現について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、形容詞の格変化と比較表現について概要を説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
6	関係文	関係文について、法則を解説し、関連する練習問題を解く。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、関係文について説明することができる。また、関連する問題を解くことができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	独検3級対策 文法問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に文法問題について解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
8	独検3級対策 読解問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主に読解問題について解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
9	独検3級対策 リスニング問題を中心に	過去に出題された独検の問題を使用し、主にリスニング問題について解説する。	
	この回の到達目標	達成目標④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
10	独検3級 模擬試験 筆記とリスニング	過去に出題された独検の問題を解くことで弱点の把握し、今後の対策を講じる。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じて弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。指示された範囲の単語と熟語をきちんと覚えてくること。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
11	独検 解説	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。2級対策のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、独検の問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点を把握し、その克服のための指針を説明することができる	
	事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくること。また、各自で答え合わせをしておくこと。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分
12	後期の復習	後期に学習した文法事項を復習し、さらなる知識の定着をうながす。独検2級受験のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①④に関連して、文法問題を通じ、ドイツ語の運用能力における弱点の把握し、その克服のための指針を説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
	事後学修	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発展学習・ドイツ語圏の文化についての見識を深める	これまでに学んだドイツ語の文法知識を生かし、ドイツ語の文章を読み、ドイツ語圏の文化について理解を深める。2級対策のための導入とする。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、ドイツ語圏の文化について理解を深め、興味関心のある部分について説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。	30分
	事後学修	理解が十分でないところを重点的に復習すること。	150分
14	理解度の確認 後期内容の振り返り	後期の学習事項が身についているか、テストを実施する。また、この内容を踏まえて、学習のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、後期の学習事項について復習し、弱点を把握し、その対策を説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	150分
	事後学修	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。	30分
15	後期の振り返り	あらためて後期の学習事項を振り返り、来年度に勉強することを確認する。	
	この回の到達目標	達成目標①～④に関連して、今後の学習について展望を得て説明することができる。	
	事前学修	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。	30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特にありません。初習者も歓迎します。

【授業方法】
独検 2 級レベルの時事的テキストを読み、文法知識を確認しながら長文読解力をつけます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	独検 2 級レベルの時事的テキストを読み、文法知識を確認しながら長文読解力をつけます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習でテキストを日本語に訳し、それを発表してもらい、問題点を抽出して解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
時事ドイツ語2021年度版	ラープ・石井	朝日出版社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 3・4 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場での知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第1 課分断ドイツから再統一まで①		1. ドイツ分断への道	
	この回の到達目標	S. 2～S. 4		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
2	第1 課分断ドイツから再統一まで②		2. 分断からベルリンの壁建設まで	
	この回の到達目標	S. 5～S. 7		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
3	第1 課分断ドイツから再統一まで③		3. 壁崩壊から再統一まで	
	この回の到達目標	S. 8 ～S. 9		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
4	第1 課分断ドイツから再統一まで④		4. ドイツは共に繁栄する	
	この回の到達目標	S. 10 ～S. 12		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
5	第2 課①		ベートーヴェン生誕250年（前半）	
	この回の到達目標	S. 14		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
6	第2 課②		ベートーヴェン生誕250年（後半）	
	この回の到達目標	S. 15 ～S. 16		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3課①		ドイツ人の姓（前半）	
	この回の到達目標	S. 18		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
8	第3課②		ドイツ人の姓（後半）	
	この回の到達目標	S. 19 ～S. 20		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
9	第4課①		進む教会離れ（前半）	
	この回の到達目標	S. 22		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
10	第4課②		進む教会離れ（後半）	
	この回の到達目標	S. 23 ～S. 24		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
11	第5課①		ドイツ語は危ういか？（前半）	
	この回の到達目標	S. ～S.		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
12	第5課②		ドイツ語は危ういか？（後半）	
	この回の到達目標	S. ～S.		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第6課		スケボーはスポーツか楽しみか
	この回の到達目標	S. 30 ～S. 32	
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する	30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する	30分
14	総合力		前期の力だめし
	この回の到達目標	学習の成果を確認する	
	事前学修	前期の復習	30分
	事後学修	自己採点し、不明箇所をピックアップする	30分
15	答え合わせと解説		前期のおさらい
	この回の到達目標	前期の学習をおさらいする	
	事前学修	自己採点し、不明箇所をピックアップする	30分
	事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定2級準1級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定2級、準1級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定3級、CEFRA2以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内のアクティブラーニングにおいて随時フィードバックを行う。試験後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材はガイダンスで説明します。				

【オフィスアワー】
授業後及び火曜日昼休み（４号館４２４研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官(A1-C2)
実務経験に基づく実践的教育の内容		CEFR対応の試験官としての実務経験を試験対策に生かした授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	試験までのスケジュール及び授業の進め方についてのガイダンス	
	この回の到達目標	今学期の受験レベルを決定し、そこまでのスケジュールを把握し、現在の自分の到達度を測ることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	教科書長文読解、語彙練習	60分
	事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
2	独検演習 1 -1	発音・中級文法・慣用句トレーニング 1	
	この回の到達目標	演習問題文法法則について説明ができる。ターゲットの語彙を用いて作文ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	過去問演習の課題を解く，語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習・文法復習	30分
3	独検演習1- 2	長文読解（文法解釈） 1	
	この回の到達目標	まとまった内容のドイツ語を文法解釈して翻訳できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	演習問題の独文解釈及び翻訳	60分
	事後学修	語彙練習 聞き取りの予習	30分
4	独検演習1- 3	様々な場面の聞き取り 2	
	この回の到達目標	まとまったテーマのドイツ語を聞き取り、内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取りの予習及び語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
5	Zertifikat演習 1-1	Lesen （読解）	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の長文を速読/精読した内容について説明ができる。（関連SB0s①）	
	事前学修	テキストの文法解釈・語彙練習・翻訳	60分
	事後学修	語彙練習	30分
6	Zertifikat演習 1-2	Hören（聞き取り）	
	この回の到達目標	日常的な場面におけるテーマについて聞き取った内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取り練習・語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Zertifikat 演習1-3	Schreiben （作文）	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	課題の作文作成、語彙練習	60分
	事後学修	作文の修正、語彙練習	30分
8	Zertifikat演習1-4	Sprechen（会話） 1	
	この回の到達目標	テーマについて、パートナーとドイツ語で会話をすることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	会話のテーマに合わせてメモを作成、語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
9	独検演習2-1	発音・中級文法・慣用句トレーニング 2	
	この回の到達目標	演習問題文法法則について説明ができる。ターゲットの語彙を用いて作文ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	過去問演習の課題を解く 語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習・文法復習	30分
10	独検演習2-2	長文読解（文法解釈） 2	
	この回の到達目標	まとまった内容のドイツ語を文法解釈して翻訳できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	演習問題の独文解釈及び翻訳	60分
	事後学修	語彙練習 聞き取りの予習	30分
11	独検演習2-3	様々な場面の聞き取り 2	
	この回の到達目標	まとまったテーマのドイツ語を聞き取り、内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取りの予習及び語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
12	Zertifikat実践 1	Lesen und Hören	
	この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s①②④）	
	事前学修	教科書長文読解、聞き取り練習	90分
	事後学修	実践演習の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Zertifikat実践2	Schreiben	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	作文の準備、語彙練習	90分
	事後学修	作文の修正 語彙練習	30分
14	Zertifikat実践3	会話試験	
	この回の到達目標	今まで学習した内容を試験のフォーマットに合わせて会話することができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	会話準備	60分
	事後学修	試験の見直し	30分
15	講評（フィードバック）	実践演習の講評	
	この回の到達目標	これまでの会話で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s①）	
	事前学修	総復習	90分
	事後学修	後期授業に向けての計画	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
特にありませんが、初級文法を既習済みであることを前提に授業を進めます。

【授業方法】
独検2級レベルの時事的なテキストを読み、文法を確認しながら長文読解力をつけます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	独検2級レベルの時事的なテキストを読み、文法を確認しながら長文読解力をつけます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習でテキストを日本語に訳し、それを発表してもらい、問題点を抽出して解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
時事ドイツ語2021年度版	ラープ・石井	朝日出版社	2021年	教科書	必携
備考	初回授業の時に教材プリントを配布します。必ず出席して下さい。				

【オフィスアワー】
金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 3・4 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ドイツ語通訳・翻訳者
実務経験に基づく実践的教育の内容		ドイツ語が使われる現場の知識と経験を伝える	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第6課①		スケボーはスポーツか楽しみか（前半）	
	この回の到達目標	S. 30		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
2	第6課②		スケボーはスポーツか楽しみか（後半）	
	この回の到達目標	S. 31 ～S. 32		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
3	第7課①		食文化の流行（前半）	
	この回の到達目標	S. 34		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
4	第7課②		食文化の流行（後半）	
	この回の到達目標	S. 35 ～S. 36		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
5	第8課①		ミニマリズム（前半）	
	この回の到達目標	S. 38		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
6	第8課②		ミニマリズム（後半）	
	この回の到達目標	S. 39 ～S. 40		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第9課①		ほらふき男爵生誕300年（前半）	
	この回の到達目標	S. 42		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
8	第9課②		ほらふき男爵生誕300年（後半）	
	この回の到達目標	S. 43 ～S. 44		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
9	第10課①		「リンデンシュトラッセ」最終回（前半）	
	この回の到達目標	S. 46		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
10	第10課②		「リンデンシュトラッセ」最終回（後半）	
	この回の到達目標	S. 47 ～S. 48		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
11	第11課①		ドイツのコロナ禍	
	この回の到達目標	S. 50 ～S. 51		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分
12	第11課②		1. ドイツ初感染から半年まで	
	この回の到達目標	S. 52 ～S. 53		
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する		30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第11課③		2. コロナから得たドイツ人の教訓
	この回の到達目標	S. 54 ～S. 56	
	事前学修	教科書を事前に和訳し、不明点を把握する	30分
	事後学修	不明点がクリアになったか確認する	30分
14	総合力		後期の力だめし
	この回の到達目標	学習の成果を確認する	
	事前学修	後期の復習	30分
	事後学修	自己採点し、不明箇所をピックアップする	30分
15	答え合わせと解説		後期のおさらい
	この回の到達目標	後期の学習をおさらいする	
	事前学修	自己採点し、不明箇所をピックアップする	30分
	事後学修	間違った箇所を確認し、クリアにする	30分

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
ドイツ語検定 2 級準 1 級, CEFRB1対策

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ドイツ語検定 2 級、準 1 級、CEFR B1に合格するために必要なドイツ語能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語検定 3 級、CEFRA2以上を取得していることが望ましい。

【授業方法】
ドイツ語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をします。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語の文法と語彙の十分な知識を元にドイツ語圏における社会生活に対応することができる									3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる									3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のドイツ語が書ける									3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(独語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内のアクティブラーニングにおいて随時フィードバックを行う。試験後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材はガイダンスで説明します。				

【オフィスアワー】
授業後及び火曜日昼休み（4号館424研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官(A1-C2)
実務経験に基づく実践的教育の内容		CEFR対応の試験官としての実務経験を試験対策に生かした授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	試験までのスケジュール及び授業の進め方についてのガイダンス	
	この回の到達目標	今学期の受験レベルを決定し、そこまでのスケジュールを把握し、現在の自分の到達度を測ることができる。（関連SB0s①②③④）	
	事前学修	教科書長文読解、語彙練習	60分
	事後学修	教科書の内容を復習する。	30分
2	独検演習 3-1	発音・中級文法・慣用句トレーニング3	
	この回の到達目標	演習問題文法法則について説明ができる。ターゲットの語彙を用いて作文ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	過去問演習の課題を解く，語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習・文法復習	30分
3	独検演習 3-2	長文読解（文法解釈）3	
	この回の到達目標	まとまった内容のドイツ語を文法解釈して翻訳できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	演習問題の独文解釈及び翻訳	60分
	事後学修	語彙練習 聞き取りの予習	30分
4	独検演習3- 3	様々な場面の聞き取り3	
	この回の到達目標	まとまったテーマのドイツ語を聞き取り、内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取りの予習及び語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
5	Zertifikat演習2-1	Lesen （読解）	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の長文を速読/精読した内容について説明ができる。（関連SB0s①）	
	事前学修	テキストの文法解釈・語彙練習・翻訳	60分
	事後学修	語彙練習	30分
6	Zertifikat演習2-2	Hören（聞き取り）	
	この回の到達目標	日常的な場面におけるテーマについて聞き取った内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取り練習・語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Zertifikat 演習2-3	Schreiben （作文）	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	課題の作文作成、語彙練習	60分
	事後学修	作文の修正、語彙練習	30分
8	Zertifikat演習2-4	Sprechen（会話）2	
	この回の到達目標	テーマについて、パートナーとドイツ語で会話をすることができる。ドイツ語で短いプレゼンテーションをすることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	会話のテーマに合わせてメモを作成、語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
9	独検演習 4-1	発音・中級文法・慣用句トレーニング 4	
	この回の到達目標	演習問題文法規則について説明ができる。ターゲットの語彙を用いて作文ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	過去問演習の課題を解く 語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習・文法復習	30分
10	独検演習4-2	長文読解（文法解釈） 4	
	この回の到達目標	まとまった内容のドイツ語を文法解釈して翻訳できる。（関連SB0s③）	
	事前学修	演習問題の独文解釈及び翻訳	60分
	事後学修	語彙練習 聞き取りの予習	30分
11	独検演習4-3	様々な場面の聞き取り 4	
	この回の到達目標	まとまったテーマのドイツ語を聞き取り、内容を伝えることができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	聞き取りの予習及び語彙練習	60分
	事後学修	語彙練習	30分
12	Zertifikat実践2-1	Lesen und Hören	
	この回の到達目標	テーマについて、長文を翻訳し、それについての文章を聞き取った内容をドイツ語で伝えることができる。（関連SB0s①②④）	
	事前学修	教科書長文読解、聞き取り練習	90分
	事後学修	実践演習の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Zertifikat実践2-2	Schreiben	
	この回の到達目標	テーマについて、課題の文法を用いて作文ができ、またドイツ語で意見交換ができる。（関連SB0s①③）	
	事前学修	作文の準備、語彙練習	90分
	事後学修	作文の修正 語彙練習	30分
14	Zertifikat実践2-3	会話試験	
	この回の到達目標	今まで学習した内容を試験のフォーマットに合わせて会話することができる。（関連SB0s④）	
	事前学修	会話準備	60分
	事後学修	試験の見直し	30分
15	講評（フィードバック）	実践演習の講評	
	この回の到達目標	これまでの会話で学習した内容を試験のフォーマットに合わせて回答することができる。（関連SB0s①）	
	事前学修	総復習	90分
	事後学修	後期授業に向けての計画	30分

科目名	国際研修(独) I A	担当者	真道 杉	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できるドイツ語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力と国際的に通用するコミュニケーション力を身につけるために、それを達成し得るドイツ語の運用能力と見識を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法AB及びドイツ語基礎表現ABが履修済みであることが望ましい。ウィーン夏期語学研修を受講する学生さんはできるだけこの授業を履修すること。

【授業方法】
自己発信型のコミュニケーションができるために、会話のドリル練習に加えペア・ワーク、グループ・ワークを通じて、自由な会話をたくさん取り入れます。積極的に参加してください。小テストを定期的に行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、自己発信型のアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてドイツ語の文章が書ける								1	1		1
③	ドイツ語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する。	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題ごとに授業内にフィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	留学指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の留学に必要な言語文化を実践的に教えます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	短期・長期留学に向けた基本的な心得 語学レベルの到達目標を明らかにする	
	この回の到達目標	留学までに何ができるようになっていなければならないか、留学先で何を学んでくるのか目標を明らかにして説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、これまで学んだ文法・語彙を復習しておく。	60分
	事後学修	次週に向けて教材の予習をして単語を覚える。	30分
2	Kontaktel	挨拶・自己紹介をする中で、シチュエーションに応じた敬語の使い方、場に応じた質問の仕方を学ぶ。	
	この回の到達目標	相手に合わせて挨拶をして、自己紹介ができる。相手のプロフィールを臨機応変に聞き出すことができる。	
	事前学修	挨拶・自己紹介ができるようにしておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
3	Kontakte 2	他己紹介、相手の連絡先を聞き出せるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。 ドイツ語圏のメディア事情について解説	
	この回の到達目標	他己紹介ができるようになる。相手の連絡先を聞き出し、自分の連絡先を伝えることができる	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
4	Studium und Sprachen	専攻分野、履修科目、言語について情報交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	自分の専攻分野や履修している科目について話すことができ、相手から同じテーマについて聞き出すことができる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
5	Hobbys	好きなこと嫌いなことについて意見交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	好きなこと嫌いなことについて意見交換ができるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
6	Essen und Trinken	好物や外国料理、1日の食事、料理について意見交換ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	好物や外国料理、1日の食事、料理について意見交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Familie und Berufe	家族や友人の職業、性格、容姿、年齢などについて情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	家族や友人の職業、性格、容姿、年齢などについて情報交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
8	Gegenstände	所持品・品物について意見交換し、買い物ができるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	所持品・品物について意見交換し、買い物ができるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
9	Wohnen	住宅、部屋、家具の位置、家賃と広さについて意見交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	住宅、部屋、家具の位置、家賃と広さについて意見交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
10	Uhrzeit und Datum	時刻、時間、1日の生活、日付、予定について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	時刻、時間、1日の生活、日付、予定について情報交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
11	Nach dem Wochenende	週末あった出来事、過去に起こった出来事について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	週末あった出来事、過去に起こった出来事について情報交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分
12	Stadt und Universität	街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活について情報交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Vor den Ferien	休暇の計画（活動、場所、期間、同伴者）について情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	休暇の計画（活動、場所、期間、同伴者）について情報交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。	30分
	事後学修	学習した内容の復習と新出単語を覚えてくる。 プレゼンテーションの準備	30分
14	Was kann man in Wien machen?	ウィーンへ行って何をしたいのか、何ができるのか、情報交換できるよう、ペア・グループワークをしながら実践トレーニングをする。	
	この回の到達目標	ウィーンへ行って何をしたいのか、何ができるのか、情報交換できるようになる。	
	事前学修	授業内で使うフレーズを教科書を見ながら予習しておく。ウィーンの街について調べてくる。	60分
	事後学修	プレゼンテーションの準備	60分
15	プレゼンテーション	留学へ行った先で何をしたいのか、ドイツ語と日本語でプレゼンテーションをする。	
	この回の到達目標	留学先の情報と自分の計画をプレゼンテーションできる。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備	60分
	事後学修	授業中に新たに学んだことをまとめる。	30分

科目名	国際研修(独) I B	担当者	真道 杉	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できるドイツ語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力と円滑なコミュニケーション力を身につけるために、それを達成しうるドイツ語の運用能力と見識を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎文法を習得していることが望ましい

【授業方法】
海外語学研修の授業と日常生活を想定し、ドイツ語会話と作文、及び現地の地誌・文化・社会情勢を踏まえてコミュニケーションができるよう、実践的なトレーニングをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワーク、グループワークを含むアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語圏の生活及び語学研修に聞き取り・会話において十分に対応ができる								1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてドイツ語の文章が書ける								1	1		1
③	ドイツ語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回の授業で指示します。				

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み研究室（４号館４２４研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	留学指導
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の留学に必要な言語文化を実践的に教えます。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	検定試験や留学試験の目標を明確にして、必要とされるスキルについて解説	
	この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、今後の目標のために必要とされるスキルについて説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。	30分
	事後学修	12月の独検、年明けのÖSD受験に向けて、単語と熟語の勉強を始めること。	30分
2	テキスト1 読解	ドイツ語のテキスト1を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
	この回の到達目標	達成目標③に関連して、ドイツ語のテキスト1を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットを翻訳・要約することができる。	
	事前学修	テキスト1を翻訳してくる。	60分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
3	テキスト1 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
	事前学修	テキスト1について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
4	テキスト1 論説文	テキスト1に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
	この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト1に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
	事前学修	テキスト1に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
5	テキスト1 プレゼンテーション	テキスト1についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト1についてプレゼンテーションができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
	事後学修	新出表現をまとめておく。	30分
6	テキスト2 読解	ドイツ語のテキスト2を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
	この回の到達目標	達成目標③に関連して、ドイツ語のテキスト2を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットを翻訳・要約することができる。	
	事前学修	テキスト2を翻訳してくる。	30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト2 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
	事前学修	テキスト2について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
8	テキスト2 論説文	テキスト2に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
	この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト2に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
	事前学修	テキスト2に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
9	テキスト2 プレゼンテーション	テキスト2についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト2についてプレゼンテーションができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
	事後学修	新出表現をまとめておく。	30分
10	テキスト3 読解	ドイツ語のテキスト3を読んでそこに書かれている意見のメリット・デメリットをドイツ語で表現できるための、読解。	
	この回の到達目標	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
	事前学修	テキスト3を翻訳してくる。	30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
11	テキスト3 ディスカッション	前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるように、ペア・グループワークを用いて実践的にトレーニングする。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、前回用いたテキストについて、ドイツ語で自分の意見を表現できるようになる。	
	事前学修	テキスト3について、自分が考えるメリット・デメリット、反対意見に対する反論をドイツ語でまとめておく。	30分
	事後学修	新出単語をまとめて小テストの準備をする。	30分
12	独検の解説	受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を考える。	
	この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、受験した独検の問題を使用し、弱点の克服と今後の対策を指摘することができる。	
	事前学修	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくる。また、各自で答え合わせをしておくこと。	30分
	事後学修	できなかったところを中心に、よく復習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト3 論説文	テキスト3に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文する。	
	この回の到達目標	達成目標②に関連して、テキスト3に対して、自分の意見をドイツ語でまとめて作文できるようになる。	
	事前学修	テキスト3に関する作文のためにドイツ語表現をまとめておく。	30分
	事後学修	プレゼンテーションの準備	30分
14	テキスト3 プレゼンテーション	テキスト3についてテーマの説明、自分の体験、日本における状況、メリット・デメリットそして自分の意見をまとめたプレゼンテーション。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連して、テキスト3についてプレゼンテーションができる。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備	30分
	事後学修	出来なかったところをよく復習すること。	30分
15	試験・まとめ	授業内で学んだこと全般を対象に試験を実施する	
	この回の到達目標	達成目標①～③に関連して、これまでの知識の定着と、今後の学習について展望を示すことができる。	
	事前学修	後期の学習事項について、時間をかけて復習すること。	30分
	事後学修	今後のドイツ語の学習について、よく考えること。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初学者であること。

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声を出して復習する。必要に応じてDVDを見たり、CDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ドイツ語会話	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
その場で直接行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
その場で直接行う

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	会話	なんじですか？いくつですか？	
	この回の到達目標	所有代名詞を理解する	
	事前学修	教科書を買う、事前にシラバスを理解する	20分
	事後学修	復習で配布したプリントで復習	40分
2	会話	だれですか？何ですか？	
	この回の到達目標	所有代名詞を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
	事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
3	会話	どういうふうですか？	
	この回の到達目標	形容詞の使い方	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
	事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
4	会話	何が好きですか？	
	この回の到達目標	自分の趣味について話す	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
	事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
5	会話	これは・あなたは 何とといいますか？これをもっていますか？	
	この回の到達目標	紹介ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
	事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
6	会話	ごきげんいかがですか？何を持っていますか？	
	この回の到達目標	3格と四格を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
	事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	会話		どこの出身ですか？これはどこから来ましたか？どうしてわかるんですか？
	この回の到達目標	自分の由来を語ることができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習	20分
	事後学修	授業で配布したプリントを復習	40分
8	会話		誰のものですか？ 誰のためですか？ どこにありますか？ （二格、三格、四格をとる前置詞）
	この回の到達目標	二格、三格、四格をとる前置詞を理解する	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
9	会話		何をしますか？ これは何をやるものですか？ どこへ行きますか？
	この回の到達目標	これからの予定を伝える	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
10	会話		なぜそこにいますか？ なぜそこへ行きますか？
	この回の到達目標	理由を伝えられるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
11	会話		これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる
	この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
12	会話		復習
	この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	会話		復習
	この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
14	会話		復習
	この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分
15	会話		復習・まとめ
	この回の到達目標	これまでの学習を組み合わせる自然に話せるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布したプリントで復習（40分）	40分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】		
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises Until further notice the course will be taught on Zoom, assignments via google classroom. For a missed class due to illness etc., recordings will be made available on request.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアで会話練習、リスニング練習、作文練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる										1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる										1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class, in google classroom comments and evaluation, and by email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。inquiries may be sent by email and via google classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	Guten Tag		1. Introducing yourself and others (picture story)	
	この回の到達目標	Alphabet, phonics, pronunciation exercises learn to introduce yourself		
	事前学修	Read page 9-11 (30分)		30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)		30分
2	Greetings		2. greetings	
	この回の到達目標	learn to introduce yourself 2		
	事前学修	Read page 12, 13 (30分)		30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)		30分
3	I am...		3. self introduction, "Where do you come from?"	
	この回の到達目標	learn about countries and related languages		
	事前学修	Read page 14, 15 (30分)		30分
	事後学修	Workbook section C (30分)		30分
4	Countries		4. countries and languages	
	この回の到達目標	learn to give personal information		
	事前学修	Read page 16, 17 (30分)		30分
	事後学修	Workbook section C (30分)		30分
5	alphabet, data		5. the alphabet, telephone call, business cards	
	この回の到達目標	talk on the phone, read addresses		
	事前学修	Read page 16, 17 (30分)		30分
	事後学修	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)		30分
6	Family		6. family and friends (picture story)	
	この回の到達目標	talk about your family		
	事前学修	Read p. 22, 23 (30分)		30分
	事後学修	Vocabulary (30分)		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	introducing people	7. "How are you?" family relations	
	この回の到達目標	learn to introduce others	
	事前学修	Read p. 24, 25 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	relatives	8. introducing family members	
	この回の到達目標	learn to talk about your friends	
	事前学修	Read page 26 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary, workbook section C (30分)	30分
9	numbers, personal data	9. get registered	
	この回の到達目標	learn counting, giving your personal data	
	事前学修	Read page 27 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C, verb conjugation (30分)	30分
10	geography, family	10. map of Germany, a text about a family	
	この回の到達目標	learn city names, directions, read a simple text	
	事前学修	Read page 28, 29 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers 1-20, vocabulary, workbook D (30分)	30分
11	Food and drink	11. picture story about shopping	
	この回の到達目標	learn words for shopping at the supermarket	
	事前学修	Read page 34, 35 (30分)	30分
	事後学修	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)	30分
12	Food 2	12. Food items, supermarket	
	この回の到達目標	conversation for shopping and restaurants	
	事前学修	Read page 36, 37 (30分)	30分
	事後学修	Food vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	shopping		13. food vocabulary, prices, shopping conversation
	この回の到達目標	learn to hear and say prices, grocery shopping	
	事前学修	Read p. 38.39 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
14	meals and restaurants		14. conversations at the table, recipe
	この回の到達目標	learn names of dishes, understand a recipe	
	事前学修	Review food vocabulary , see page 44 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers 20-100 (30分)	30分
15	test、振り返り		test (written), review, 解説
	この回の到達目標	review, check your level	
	事前学修	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)	30分
	事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】		
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises Until further notice the course will be taught on Zoom, assignments via google classroom. For a missed class due to illness etc., recordings will be made available on request.		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアで会話練習、リスニング練習、作文練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる										1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる										1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class, in google classroom comments and evaluation, and by email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。inquiries may be sent by email and via google classroom

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Guten Tag		1. Introducing yourself and others (picture story)
	この回の到達目標	Alphabet, phonics, pronunciation exercises learn to introduce yourself	
	事前学修	Read page 9-11 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	Greetings		2. greetings
	この回の到達目標	learn to introduce yourself 2	
	事前学修	Read page 12, 13 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
3	I am...		3. self introduction, "Where do you come from?"
	この回の到達目標	learn about countries and related languages	
	事前学修	Read page 14, 15 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C (30分)	30分
4	Countries		4. countries and languages
	この回の到達目標	learn to give personal information	
	事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C (30分)	30分
5	alphabet, data		5. the alphabet, telephone call, business cards
	この回の到達目標	talk on the phone, read addresses	
	事前学修	Read page 16, 17 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)	30分
6	Family		6. family and friends (picture story)
	この回の到達目標	talk about your family	
	事前学修	Read p. 22, 23 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	introducing people		7. "How are you?" family relations
	この回の到達目標	learn to introduce others	
	事前学修	Read p. 24, 25 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	relatives		8. introducing family members
	この回の到達目標	learn to talk about your friends	
	事前学修	Read page 26 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary, workbook section C (30分)	30分
9	numbers, personal data		9. get registered
	この回の到達目標	learn counting, giving your personal data	
	事前学修	Read page 27 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section C, verb conjugation (30分)	30分
10	geography, family		10. map of Germany, a text about a family
	この回の到達目標	learn city names, directions, read a simple text	
	事前学修	Read page 28, 29 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers 1-20, vocabulary, workbook D (30分)	30分
11	Food and drink		11. picture story about shopping
	この回の到達目標	learn words for shopping at the supermarket	
	事前学修	Read page 34, 35 (30分)	30分
	事後学修	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)	30分
12	Food 2		12. Food items, supermarket
	この回の到達目標	conversation for shopping and restaurants	
	事前学修	Read page 36, 37 (30分)	30分
	事後学修	Food vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	shopping		13. food vocabulary, prices, shopping conversation
	この回の到達目標	learn to hear and say prices, grocery shopping	
	事前学修	Read p. 38.39 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
14	meals and restaurants		14. conversations at the table, recipe
	この回の到達目標	learn names of dishes, understand a recipe	
	事前学修	Review food vocabulary , see page 44 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers 20-100 (30分)	30分
15	test、振り返り		test (written), review, 解説
	この回の到達目標	review, check your level	
	事前学修	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)	30分
	事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Momente A1.1	Sandra Evans	Hueber	2020年		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-16:10

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	Lektion 1 挨拶とアルファベット	
	この回の到達目標	挨拶ができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト9-10頁	30分
2	自己紹介	Lektion 1 出身地、国	
	この回の到達目標	正しい発音で会話ができる。	
	事前学修	テキスト9-10頁	30分
	事後学修	テキスト10-12頁	30分
3	自己紹介	Lektion 2 居住地、職業	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化について理解する。	
	事前学修	テキスト13-14頁	30分
	事後学修	テキスト15-16頁	30分
4	自己紹介	Lektion 2 数字	
	この回の到達目標	仕事について会話ができる。100までの数字。	
	事前学修	テキスト15-16頁	30分
	事後学修	テキスト17-18頁	30分
5	自己紹介	Lektion 3 家族	
	この回の到達目標	家族について話すことができる。所有冠詞。	
	事前学修	テキスト17-18頁	30分
	事後学修	テキスト19-20頁	30分
6	自己紹介	Lektion 3 言語	
	この回の到達目標	疑問文。自分について会話ができる。	
	事前学修	テキスト19-26頁	30分
	事後学修	テキスト27-28頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	物	Lektion 4 家具	
	この回の到達目標	名詞の性と定冠詞、 人称代名詞について理解する。	
	事前学修	テキスト27-28頁	30分
	事後学修	テキスト29-30頁	30分
8	買い物	Lektion 4 値段	
	この回の到達目標	買い物ができる。	
	事前学修	テキスト29-30頁	30分
	事後学修	テキスト31-32頁	30分
9	物	Lektion 5 日用品	
	この回の到達目標	不定冠詞について理解する。	
	事前学修	テキスト31-32頁	30分
	事後学修	テキスト33-34頁	30分
10	物	Lektion 5 物、色、素材	
	この回の到達目標	物について話すことができる。	
	事前学修	テキスト33-34頁	30分
	事後学修	テキスト35-36頁	30分
11	仕事場	Lektion 6 オフィス	
	この回の到達目標	複数形について理解する。目的語を正しく使う。	
	事前学修	テキスト35-36頁	30分
	事後学修	テキスト37-38頁	30分
12	仕事場	Lektion 6 電話	
	この回の到達目標	電話で話すことができる。	
	事前学修	テキスト37-38頁	30分
	事後学修	テキスト39-44頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ	復習	
	この回の到達目標	単語と文法を知る。	
	事前学修	テキスト39-44頁	30分
	事後学修	復習	30分
14	テスト予備、振り返り	振り返り	
	この回の到達目標	まとめ	
	事前学修	テスト予備	120分
	事後学修	テスト勉強	120分
15	テスト、まとめ	まとめ	
	この回の到達目標	理解度の確認	
	事前学修	テスト勉強	120分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	G. シュミット	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
授業の方法はアクティブラーニング (handlungsorientiertes Lernen, action-oriented learning)に向かう：例えばタスクで(task based, aufgabenorientiert)、プロジェクトで(project based, projektorientiert)な方法などオンライン授業を行う。オンライン授業もインタラクティブな授業で説明、練習、見る、話す、聞く、読む、書く、ペアワーク、グループワーク、プレゼンと小発表など行う。目的言語はドイツ語ですが、説明の言語はドイツ語、英語と日本語です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小発表は2回、プレゼンは1～2回、発言は毎回、ペアワークやグループワークはほとんど毎回。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)		0										
小テスト等		0										
レポート等	毎回授業の日記(learning diary, Lerntagebuch)を書く。	30										30
討論・発表等	プレゼン、個人的小発表、グループ発表	30										30
授業への参画度	授業の課題について発言、ペアワーク、グループワークなど評価する。レポート。	30										30
その他(授業の日記)	自己評価(self-evaluation)、他人評価(peer-evaluation)	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		100										100

【課題に対するフィードバックの方法】
タスク後に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語会話ハンドブック	谷澤優子、ガブリエラ・シュミット	百水社	2015	参考書	任意
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道杉, 小笠原藤子, 鈴木伸一	三修社	2013	参考書	任意
Keine Panik	Angelika Rathke			その他	任意
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
メールで予約する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	異文化コミュニケーション
実務経験に基づく実践的教育の内容		外海会社で異文化コミュニケーションのトレーニング。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	初めに Einfuehrung. Guten Tag		Guten Tag 初めまして。授業の方法を説明する。毎回一つのテーマを巡ってここまで学んだ表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろんな場面・シチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	場面から初めましてのドイツ語コミュニケーション。ドイツと日本とほかの国の場面を比較する。	
	事前学修	初めましてのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分
2	Begrueßung: 挨拶とName・名前・人間関係		ここまで学んだBegrueßung: 挨拶の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろんなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	挨拶・BegrueßungとName・名前・人間関係の場面からドイツ語コミュニケーション。ドイツと日本とほかの国の場面を比較する。	
	事前学修	Begrueßung: 挨拶Name・名前・人間関係のシチュエーションを考えて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分
3	Herkunft-Wohnort・出身・住む所		ここまで学んだHerkunft-Wohnort・出身・住む所の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろんなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	Herkunft-Wohnort・出身・住む所の場面からドイツ語コミュニケーション。ドイツと日本とほかの国の場面を比較する。	
	事前学修	Herkunft-Wohnort・出身・住む所のシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	20分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。自己紹介の発表を準備すること	40分
4	sich vorstellen・自己紹介		ここまで学んだ自己紹介の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろんなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	この授業には自己紹介の小発表をしましょう。	
	事前学修	自己紹介の発表を準備すること。ノートをとって。	40分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	20分
5	gern/nicht gern・好き/嫌い		ここまで学んだgern/nicht gern・好き/嫌いの表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろんなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	gern/nicht gern・好き/嫌いはドイツ語で大事なコミュニケーションのパターンです。いろんな表現があります。意味と使い方を説明して練習します。	
	事前学修	gern/nicht gern・好き/嫌いのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分
6	Freizeit/Hobby・暇・趣味		ここまで学んだFreizeit/Hobby・暇・趣味の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろんなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	Freizeit/Hobby・暇・趣味の話し方、表現を調べましょう。	
	事前学修	Freizeit/Hobby・暇・趣味のシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	Arbeit, Beruf・仕事, 職業		ここまで学んだArbeit, Beruf・仕事, 職業の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出す。	
	この回の到達目標	Arbeit, Beruf・仕事, 職業の話し方。学校の勉強も仕事ですよ。		
	事前学修	Arbeit, Beruf・仕事, 職業のシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		30分
8	Familie・家族		ここまで学んだFamilie・家族の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出す。	
	この回の到達目標	Familie・家族の話し方、表現		
	事前学修	Familie・家族のシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		30分
9	jemand vorstellen・他人を紹介する		ここまで学んだvorstellen・紹介するの表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出す。	
	この回の到達目標	今回は自己紹介ではない他人を紹介することインタラクティブな練習しましょう。最初はペアワークで練習してそれからグループワークでグループ発表を準備しましょう。		
	事前学修	vorstellen・紹介するのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		20分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。グループで作ったファンタジー家族とグループ発表を準備する。		40分
10	Meine Familie・和が家族		Meine Familie・和が家族・グループ発表を行う。グループで作ったファンタジー家族を紹介すること。インタラクティブな発表です。	
	この回の到達目標	知らない家族の紹介を理解で来るようになる。知らない人と知らないパターンを理解できるようになる。		
	事前学修	グループで作ったファンタジー家族を準備する。		40分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		20分
11	Entschuldigen・謝罪		ここまで学んだEntschuldigen・謝罪の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出す。	
	この回の到達目標	Entschuldigen・謝罪の意味と使い方		
	事前学修	Entschuldigen・謝罪のシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		30分
12	Bitten・頼む		ここまで学んだbitten・頼むの表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出す。	
	この回の到達目標	Bitten・頼むの意味と使い方		
	事前学修	Bitten・頼むのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	Fragen, entscheiden / 尋ねる, 決める		ここまで学んだFragen, entscheiden / 尋ねる, 決めるの表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出す。	
	この回の到達目標	Fragen, entscheiden / 尋ねる, 決めるのコンテキストは言語的なことではない、異文化のアспектもある。		
	事前学修	Fragen, entscheiden / 尋ねる, 決めるのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		30分
14	Situation・場面		ここまで学んだSituation・場面の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出す。	
	この回の到達目標	Situation・場面についてコミュニケーションが変わります。いろいろなタスクから一つを選んで完成すること。発表やレポート、個人的やペアやグループワーク：(1) 自己紹介, (2) 他人を紹介, (3) 初めましての会話をする, (4) 今学期以内のテーマを選んで（自由）。		
	事前学修	Situation・場面のシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		20分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。まとめを準備する。タスクを準備する。		40分
15	Auf Wiedersehen・お別れ		ここまで表現を復習してもう。発表。自己評価・前期のまとめる。	
	この回の到達目標	前期のまとめ。ここまで表現を復習してもう。発表をする、自己評価。		
	事前学修	自己評価を準備すること。		40分
	事後学修	自己評価を完成して提出すること。		20分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ごく基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A1

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実践的なコミュニケーション練習、聞き取り練習、ペア学習及び教員との自発的な会話練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme	Cornelsen	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Deutsch lernen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Mehrsprachigkeit	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Rekorde	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Familienalbum	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Geburtstag	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Einladungen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Eine Reise	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Reisepläne	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Hobbys	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Im Verein	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Medien	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Einkaufen im Internet	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Ausgehen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Video	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠB	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語の初学者であること。

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声を出して復習する。必要に応じてDVDを見たり、CDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の中でドイツ語会話を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	教科書	必携
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後の15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業の後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ドイツ語会話		何をしたいんですか？ 何をしなくちゃいけませんか？	
	この回の到達目標	自分の希望を伝えられるようになる		
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）		20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）		40分
2	ドイツ語会話		…してもいいですか？ それはできますか？	
	この回の到達目標	許可を得る表現を使えるようになる		
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）		20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）		40分
3	ドイツ語会話		…してはいけません …するように言われています	
	この回の到達目標	禁止形を使えるようになる		
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）		20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）		40分
4	ドイツ語会話		どうして…してはいませんか？	
	この回の到達目標	理由を説明できる		
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）		20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）		40分
5	ドイツ語会話		手を貸してくれますか？ …してもいいですか？ どうしたらいいですか？	
	この回の到達目標	助動詞を使えるようになる		
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）		20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）		40分
6	ドイツ語会話		どれが好きですか？	
	この回の到達目標	比較級を使えるようになる		
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）		20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）		40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドイツ語会話	…が一番好きです。	
	この回の到達目標	最上級を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	ドイツ語会話	いつ来ますか？	
	この回の到達目標	未来形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	ドイツ語会話	命令形の練習	
	この回の到達目標	丁寧な命令形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	ドイツ語会話	何をするつもりですか？	
	この回の到達目標	話法の助動詞で計画を伝えられるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	ドイツ語会話	復習	
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	ドイツ語会話	復習	
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ドイツ語会話		復習
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	ドイツ語会話		復習
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	ドイツ語会話		復習・まとめ
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】		
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises, google classroom assignments may possibly continue on zoom, see notifications		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアで会話練習、リスニング練習、作文練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class, via google classroom comments and evaluation and by email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。by email

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Housing	16. My apartment (picture story)	
	この回の到達目標	learn to describe homes	
	事前学修	Read p 46, 47 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	Apartment	17. rooms, houses, adjectives	
	この回の到達目標	learn to buy furniture	
	事前学修	Read p 48, 49 (30分)	30分
	事後学修	Learn adjectives and pronouns (30分)	30分
3	furniture	18. furniture, household gadgets	
	この回の到達目標	learn to read ads, rent an apartment, learn three digit numbers	
	事前学修	Read p 50, 51 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
4	Rent an apartment	19. numbers to 100- 1 million, real estate market	
	この回の到達目標	learn to describe your home	
	事前学修	Read page 52, 53 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers, workbook D, E (30分)	30分
5	your apartment	20. describe your apartment	
	この回の到達目標	learn to describe your day	
	事前学修	Read p 56 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)	30分
6	Talk about your day	21. My day (picture story)	
	この回の到達目標	learn to say times in German	
	事前学修	Read page 58, 59 (30分)	30分
	事後学修	Learn new verbs (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Time	22. the clock	
	この回の到達目標	learn to talk about times of the day and activities	
	事前学修	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	Spending time	23. daily activities, times of day	
	この回の到達目標	learn to describe free time activities, inviting a friend	
	事前学修	Review the clock , verbs, read p 62 (30分)	30分
	事後学修	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)	30分
9	Free time	24. times of the day	
	この回の到達目標	describe daily activities, compose sentences that include time	
	事前学修	Read p 63 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
10	Sightseeing	25. City tour in Berlin	
	この回の到達目標	listen to answering machines, learn business hours, read city tourism pamphlet	
	事前学修	Read p. 64,65 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary , workbook E (30分)	30分
11	Leisure	26. excursions, hiking	
	この回の到達目標	listen and understand picture story	
	事前学修	Read p 70,71 (30分)	30分
	事後学修	Workbook A (30分)	30分
12	Weather	27. weather reports	
	この回の到達目標	understand weather reports	
	事前学修	Read p 72 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	small talk, interests		conversations about food, hobbies
	この回の到達目標	learn to ask and answer questions during meals and in restaurants read a profile	
	事前学修	Read p 73, 74, 75 (30分)	30分
	事後学修	workbook C (30分)	30分
14	seasons and travel		29. traveling and leisure facilities in Germany, wintersports
	この回の到達目標	learn the seasons and related leisure activities read a travel pamphlet	
	事前学修	Read page 76, 77 (30分)	30分
	事後学修	write essay about a country (30分)	30分
15	Test、振り返り		テスト(written), review, 解説
	この回の到達目標	review what you learned	
	事前学修	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)	30分
	事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
interest in developing communication skills in German, incl. listening

【授業方法】		
二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises, google classroom assignments may possibly continue on zoom, see notifications		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ペアで会話練習、リスニング練習、作文練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
during class, via google classroom comments and evaluation and by email

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch	Hueber	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。by email

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Housing	16. My apartment (picture story)	
	この回の到達目標	learn to describe homes	
	事前学修	Read p 46, 47 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
2	Apartment	17. rooms, houses, adjectives	
	この回の到達目標	learn to buy furniture	
	事前学修	Read p 48, 49 (30分)	30分
	事後学修	Learn adjectives and pronouns (30分)	30分
3	furniture	18. furniture, household gadgets	
	この回の到達目標	learn to read ads, rent an apartment, learn three digit numbers	
	事前学修	Read p 50, 51 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
4	Rent an apartment	19. numbers to 100- 1 million, real estate market	
	この回の到達目標	learn to describe your home	
	事前学修	Read page 52, 53 (30分)	30分
	事後学修	Learn numbers, workbook D, E (30分)	30分
5	your apartment	20. describe your apartment	
	この回の到達目標	learn to describe your day	
	事前学修	Read p 56 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)	30分
6	Talk about your day	21. My day (picture story)	
	この回の到達目標	learn to say times in German	
	事前学修	Read page 58, 59 (30分)	30分
	事後学修	Learn new verbs (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Time	22. the clock	
	この回の到達目標	learn to talk about times of the day and activities	
	事前学修	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)	30分
	事後学修	Workbook section A, B (30分)	30分
8	Spending time	23. daily activities, times of day	
	この回の到達目標	learn to describe free time activities, inviting a friend	
	事前学修	Review the clock , verbs, read p 62 (30分)	30分
	事後学修	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)	30分
9	Free time	24. times of the day	
	この回の到達目標	describe daily activities, compose sentences that include time	
	事前学修	Read p 63 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary (30分)	30分
10	Sightseeing	25. City tour in Berlin	
	この回の到達目標	listen to answering machines, learn business hours, read city tourism pamphlet	
	事前学修	Read p. 64,65 (30分)	30分
	事後学修	Learn vocabulary , workbook E (30分)	30分
11	Leisure	26. excursions, hiking	
	この回の到達目標	listen and understand picture story	
	事前学修	Read p 70,71 (30分)	30分
	事後学修	Workbook A (30分)	30分
12	Weather	27. weather reports	
	この回の到達目標	understand weather reports	
	事前学修	Read p 72 (30分)	30分
	事後学修	Vocabulary (30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	small talk, interests		conversations about food, hobbies
	この回の到達目標	learn to ask and answer questions during meals and in restaurants read a profile	
	事前学修	Read p 73, 74, 75 (30分)	30分
	事後学修	workbook C (30分)	30分
14	seasons and travel		29. traveling and leisure facilities in Germany, wintersports
	この回の到達目標	learn the seasons and related leisure activities read a travel pamphlet	
	事前学修	Read page 76, 77 (30分)	30分
	事後学修	write essay about a country (30分)	30分
15	Test、振り返り		テスト(written), review, 解説
	この回の到達目標	review what you learned	
	事前学修	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)	30分
	事後学修	Grammar review (30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)															
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。											1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。												1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。												1		
④															
⑤															
⑥															
⑦															
⑧															
⑨															
⑩															

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Momente A1.1	Sandra Evans	Hueber	2020年		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	余暇	Lektion 7 趣味	
	この回の到達目標	できることについて話せる。	
	事前学修	テキスト45-46	60分
	事後学修	テキスト47-48頁	30分
2	余暇	Lektion 7 暇の時間	
	この回の到達目標	好きなことについて話せる。	
	事前学修	テキスト47-48頁	30分
	事後学修	テキスト49-50 頁	30分
3	日常	Lektion 8 予定	
	この回の到達目標	時間と曜日を知る。	
	事前学修	テキスト49-50頁	30分
	事後学修	テキスト51-52頁	30分
4	日常	Lektion 8 スケジュール	
	この回の到達目標	予約や待ち合わせができる。	
	事前学修	テキスト51-52頁	30分
	事後学修	テキスト53-54 頁	30分
5	食事	Lektion 9 食材	
	この回の到達目標	好きな物について話せる。	
	事前学修	テキスト53-54頁	30分
	事後学修	テキスト55-56 頁	30分
6	食事	Lektion 9 レストラン	
	この回の到達目標	レストランで注文ができる。	
	事前学修	テキスト55-56頁	30分
	事後学修	テキスト63-64 頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	交通	Lektion 10 交通	
	この回の到達目標	分離動詞を知る。	
	事前学修	テキスト63-64 頁	30分
	事後学修	テキスト65-66頁	30分
8	交通	Lektion 10 旅行	
	この回の到達目標	交通の情報がわかる。	
	事前学修	テキスト65-66 頁	30分
	事後学修	テキスト67-68 頁	30分
9	過去	Lektion 11 日常	
	この回の到達目標	過去のことについて話せる。	
	事前学修	テキスト67-68 頁	30分
	事後学修	テキスト69-70頁	30分
10	過去	Lektion 11 日程	
	この回の到達目標	過去のことについて話せる。	
	事前学修	テキスト69-70 頁	30分
	事後学修	テキスト71-72 頁	30分
11	過去	Lektion 12 祭り、行事	
	この回の到達目標	過去のことについて話せる。	
	事前学修	テキスト71-72 頁	30分
	事後学修	テキスト73-74 頁	30分
12	過去	Lektion 12 イベント	
	この回の到達目標	過去のことについて話せる。	
	事前学修	テキスト73-74 頁	30分
	事後学修	テキスト75-80頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ	復習	
	この回の到達目標	単語と文法を知る。	
	事前学修	テキスト75-80 頁	30分
	事後学修	復習	30分
14	テスト予備、振り返り	振り返り	
	この回の到達目標	まとめ	
	事前学修	テスト予備	120分
	事後学修	テスト勉強	120分
15	テスト、まとめ	まとめ	
	この回の到達目標	理解度の確認	
	事前学修	テスト勉強	120分
	事後学修	振り返り	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	G. シュミット	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
授業の方法はアクティブラーニング (handlungsorientiertes Lernen, action-oriented learning)に向かう：例えばタスクで(task based, aufgabenorientiert)、プロジェクトで(project based, projektorientiert)な方法などオンライン授業を行う。オンライン授業もインタラクティブな授業で説明、練習、見る、話す、聞く、読む、書く、ペアワーク、グループワーク、プレゼンと小発表など行う。目的言語はドイツ語ですが、説明の言語はドイツ語、英語と日本語です。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小発表は2回、プレゼンは1～2回、グループ発表1回、発言は毎回、ペアワークやグループワークはほとんど毎回。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。										1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。											1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。											1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)		0										
小テスト等		0										
レポート等	毎回授業の日記(learning diary, Lerntagebuch)を書く。	30										30
討論・発表等	プレゼン、個人的小発表、グループ発表	30										30
授業への参画度	授業の課題について発言、ペアワーク、グループワークなど評価する。レポート。	30										30
その他(授業の日記)	自己評価(self-evaluation)、他人評価(peer-evaluation)	10										10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		100										100

【課題に対するフィードバックの方法】
タスク後に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ドイツ語会話ハンドブック	谷澤優子、ガブリエラ・シュミット	百水社	2015	参考書	任意
場面で学ぶドイツ語基本単語	真道杉, 小笠原藤子, 鈴木伸一	三修社	2013	参考書	任意
Keine Panik	Angelika Rathke			その他	任意
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
授業後又は事前にメールでアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	異文化コミュニケーション
実務経験に基づく実践的教育の内容		外海会社で異文化コミュニケーションのトレーニング。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	Lange nicht gesehen・久しぶり		Lange nicht gesehen・久しぶり。後期授業の方法を説明する。
	この回の到達目標	Lange nicht gesehen・久しぶりの場面からドイツ語コミュニケーション。 Was heisst Sommer fuer dich? 個人的な意味を調べる・伝えること。 ドイツと日本とほかの国の場面を比較する。	
	事前学修	Lange nicht gesehen・久しぶりのシチュエーションを考えて何の表現が必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分
2	Wann・いつ		ここまで学んだWann・いつの表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	Wann・いつ、Zeit・時間についての場面からドイツ語コミュニケーション。ドイツと日本とほかの国の場面を比較する。	
	事前学修	Wann・いつのシチュエーションを考えて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分
3	Wo・どこ		ここまで学んだWo・どこ表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	Wo・どこ、Ort・所の場面からドイツ語コミュニケーション。ドイツと日本とほかの国の場面を比較する。	
	事前学修	Wo・どここのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分
4	Was・何		ここまで学んだWas・何の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	Was・何の場面からドイツ語コミュニケーション。ドイツと日本とほかの国の場面を比較する。	
	事前学修	Was・何このシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分
5	Wie・どう		ここまで学んだWie・どう：スプーンで、電車でなどの表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	Wie・どう：スプーンで、電車でなどはドイツ語でいろな前置詞を使います。いろな表現があります。意味と使い方を説明して練習します。ツールと道具	
	事前学修	Wie・どうのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分
6	wer・誰		ここまで学んだwer・誰の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。
	この回の到達目標	wer・誰の表現と話し方、表現を調べましょう。	
	事前学修	wer・誰のシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。	30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	家族についてタスクはグループワークで		今回の授業はグループワークで行う。タスクのテーマはgemeinsam etwas planen 一緒に予定を考える。	
	この回の到達目標	タスクのテーマはgemeinsam etwas planen 一緒に予定を考えてグループワークで行う。		
	事前学修	タスクのテーマはgemeinsam etwas planen 一緒に予定のシチュエーションを考えて何の表現を必要ですか。グループワークの準備するためにノートを取る。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。発表を準備すること。		30分
8	タスクについてグループ発表		タスクのテーマはgemeinsam etwas planen 一緒に予定でグループ発表を行う。	
	この回の到達目標	タスクのテーマはgemeinsam etwas planen 一緒に予定でグループ発表を行う。		
	事前学修	タスクのテーマはgemeinsam etwas planen 一緒に予定でグループ発表を準備すること。自己評価、他人評価		40分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。Sprachen lernen ・言語を習う、学ぶについて考えて表現を調べて。		20分
9	Sprachen lernen ・言語を習う、学ぶ		今回のテーマはSprachen lernen ・言語を習う、学ぶ。ディスカッション	
	この回の到達目標	Sprachen lernen ・言語を習う、学ぶについてインタラクティブディスカッションを行う。		
	事前学修	Sprachen lernen ・言語を習う、学ぶについて考えて表現を調べて。ノートをとって。		20分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。Sprachen lernenについて感想のレポートを完成する。		40分
10	Zuhause ・お家で		Zuhause ・お家での表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。	
	この回の到達目標	Zuhause ・お家での表現と話し方、表現について。		
	事前学修	Zuhause ・お家でのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		30分
11	Schulweg ・通学		ここまで学んだSchulweg ・通学の表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。	
	この回の到達目標	Schulweg ・通学の表現と話し方、表現について。		
	事前学修	Schulweg ・通学のシチュエーションを考えて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		30分
12	Begegnung ・出会い		ここまで学んだBegegnung ・出会いの表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。	
	この回の到達目標	のBegegnung ・出会いにつじて意味と使い方		
	事前学修	Begegnung ・出会いのシチュエーションを考えて何の表現を必要ですか。ノートをとって。		30分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Am Telefon・電話で	ここまで学んだAm Telefon・電話での表現を復習しながらもう一つの段階上に上ること。コミュニケーションのパターンはいろなシチュエーションで意味と使い方をきめることである、シチュエーションを分別にすれば異文化コミュニケーションを出る。	
	この回の到達目標	Am Telefon・電話での表現について意味と使い方	
	事前学修	Am Telefon・電話でのシチュエーションをかんがえて何の表現を必要ですか。ノートをとって。タスクを選んで	20分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。選んだタスクを準備する。	40分
14	Situation・場面のプレゼン	今回は選んだSituation・場面のプレゼン・小発表を見せる。	
	この回の到達目標	今回は選んだSituation・場面のプレゼン・小発表を見せる。発表やレポート、個人的やペアやグループワーク：(1) 場面の会話、(2) プレゼン、(3) 小発表、(4) 今学期以内のテーマを選んで（自由）。	
	事前学修	復習した選んだテーマを準備する。ノートをとって。	40分
	事後学修	授業の日記を書く。授業の内容を復習して。まとめを準備する。タスクを準備する。	20分
15	Danke schoen und Auf Wiedersehen・お疲れ様でした。さようなら。	ここまで表現を復習してもう。発表。自己評価・前期のまとめる。	
	この回の到達目標	前期のまとめ。ここまで表現を復習してもう。発表をする、自己評価。	
	事前学修	自己評価を準備すること。	40分
	事後学修	自己評価を完成して提出すること。	20分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、基本的なドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A 1

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実践的なコミュニケーション練習、聞き取り練習、ペア学習及び教員との自発的な会話練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる。									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる。									1		
③	基本的な事柄について、ドイツ語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる。									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme	Cornelsen	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Rund ums Essen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Ausgehen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Stadtleben	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Wohnungssuche	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Was machen Sie, wennn...?	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Europa	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Weimar	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Damals	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Arbeit	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Berufswunsch	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Feste	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Geschenke	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	wiederholung復習	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Party	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡA	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDを見たりCDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でドイツ語会話を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツ語会話	何時でしたか？ 何をしましたか？	
	この回の到達目標	時間を伝えることができるようになる	
	事前学修	教科書を買う，事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
2	ドイツ語会話	誰でしたか？ 何でしたか？（所有代名詞）	
	この回の到達目標	所有代名詞を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
3	ドイツ語会話	どういうふうでしたか？	
	この回の到達目標	形容詞を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
4	ドイツ語会話	話法助動詞の過去形	
	この回の到達目標	話法助動詞の過去形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
5	ドイツ語会話	話法助動詞の過去形II	
	この回の到達目標	話法助動詞の過去形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
6	ドイツ語会話	どこへ行きましたか？ どこにいましたか？ （三格と四格の練習）	
	この回の到達目標	方向と場所を伝えることができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドイツ語会話	どうしてそれがわかりましたか？	
	この回の到達目標	理由を説明できる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	ドイツ語会話	何に興味がありましたか？ （再帰動詞をつかう）	
	この回の到達目標	再帰動詞を使える	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	ドイツ語会話	なぜそうしましたか？	
	この回の到達目標	理由を説明できる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	ドイツ語会話	ここまでの復習	
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	ドイツ語会話	復習	
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	ドイツ語会話	復習	
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ドイツ語会話		復習
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	ドイツ語会話		復習
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	ドイツ語会話		まとめ・テスト
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	ここまで学んだことの復習（30分）	20分
	事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】		
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Netzwerk neu A1.1	Stefanie Dengler	Klett	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	Lektion 1 挨拶とアルファベット	
	この回の到達目標	挨拶ができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	テキスト6～9頁	30分
2	自己紹介	Lektion 1 出身地、居住地、数字、連絡先	
	この回の到達目標	正しい発音で会話ができる。	
	事前学修	テキスト6～9頁	30分
	事後学修	テキスト10～11頁	30分
3	自己紹介	Lektion 1 国、言語、3人称	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化について理解する。	
	事前学修	テキスト6～11頁	30分
	事後学修	テキスト12～13頁	30分
4	自己紹介	Lektion 1 DVD	
	この回の到達目標	DVDの会話を理解して、インターアクティブで話すことができる。	
	事前学修	テキスト6～13頁	30分
	事後学修	テキスト14頁	30分
5	自己紹介	Lektion 2 趣味、待ち合わせ	
	この回の到達目標	不規則動詞の現在人称変化について理解する。	
	事前学修	テキスト6～15頁	30分
	事後学修	テキスト16～19頁	30分
6	自己紹介	Lektion 2 職業、名詞の性と冠詞、複数形 be動詞	
	この回の到達目標	仕事について話せる。	
	事前学修	テキスト9～16頁	30分
	事後学修	テキスト17～19頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自己紹介	Lektion 2 DVD	
	この回の到達目標	DVDの会話を理解して、インターアクティブで話すことができる。	
	事前学修	テキスト16～19頁	30分
	事後学修	テキスト20～24頁	30分
8	町にて	Lektion 3 町にある場所、建物、名詞の性と冠詞	
	この回の到達目標	単語を知る、定冠詞と不定冠詞を正しく使う。	
	事前学修	テキスト24～25頁	30分
	事後学修	テキスト26～29頁	30分
9	町にて	Lektion 3 交通、案内	
	この回の到達目標	道を尋ねることができる。	
	事前学修	テキスト26～29頁	30分
	事後学修	テキスト30～31頁	30分
10	ハンブルクにて	Lektion 3 イベント、季節	
	この回の到達目標	ドイツの文化を知る。	
	事前学修	テキスト26～32頁	30分
	事後学修	テキスト32～33頁 復習	30分
11	ミュンヘンにて	Lektion 3 DVD 観光	
	この回の到達目標	会話を理解することができる。	
	事前学修	テキスト34頁	30分
	事後学修	テキスト24～35頁	30分
12	食事	Lektion 4 買い物	
	この回の到達目標	買い物で使う単語を知る。 4 格目的語を正しく使う。	
	事前学修	テキスト26～35頁	30分
	事後学修	テキスト42～45頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	食事		Lektion 4 BBQ、招待
	この回の到達目標	食事について話せる。	
	事前学修	テキスト42~45頁	30分
	事後学修	テキスト42~46頁	30分
14	テスト予備、振り返り		振り返り
	この回の到達目標	まとめ	
	事前学修	テスト予備	120分
	事後学修	テスト勉強	120分
15	テスト、まとめ		まとめ
	この回の到達目標	理解度の確認	
	事前学修	テスト勉強	120分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡB	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。A1レベルの口述試が合格できるレベル。

【履修条件】
ドイツ語基礎表現を履修した者

【授業方法】
全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDを見たりCDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でドイツ語会話を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で講評する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Hallo, München! neu	Ichiro Sekiguchi	白水社	2008	参考書	任意
備考	特になし				

【オフィスアワー】
授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。授業時間：木曜2限、土曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ドイツ語会話	動詞の受け身 彼に何をされましたか？ (I)	
	この回の到達目標	受身形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
2	ドイツ語会話	動詞の受け身 (II)	
	この回の到達目標	受身形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
3	ドイツ語会話	彼は何をしましたか？ 彼女は元気でしたか？ (I)	
	この回の到達目標	第三者について伝えられるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
4	ドイツ語会話	彼は何をしましたか？ 彼女は元気でしたか？ (II)	
	この回の到達目標	第三者について伝えられるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
5	ドイツ語会話	状態の受け身 (I)	
	この回の到達目標	受け身形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分
6	ドイツ語会話	状態の受け身 (II)	
	この回の到達目標	受け身形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習 (20分)	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習 (40分)	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドイツ語会話	動詞の未来形（I）	
	この回の到達目標	動詞の未来形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
8	ドイツ語会話	動詞の未来形（II）	
	この回の到達目標	動詞の未来形を使えるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
9	ドイツ語会話	自分の過去と未来を語る（I）	
	この回の到達目標	自分の過去と未来を語ることができるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
10	ドイツ語会話	自分の過去と未来を語る（II）	
	この回の到達目標	自分の過去と未来を語ることができるようになる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
11	ドイツ語会話	ここまでの復習	
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
12	ドイツ語会話	復習	
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ドイツ語会話		復習
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
14	ドイツ語会話		復習
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	前回授業で配布したプリントを予習（20分）	20分
	事後学修	授業で配布するプリントを復習（40分）	40分
15	ドイツ語会話		まとめ・テスト
	この回の到達目標	自由な会話ができる	
	事前学修	16回からの内容の復習	20分
	事後学修	テストでわからなかった点の復習（40分）	40分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡB	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄についてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。A1レベルの口述試が合格できるレベル。

【履修条件】
特になし。授業への積極的参加が重要です。

【授業方法】		
アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる。									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる。									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Netzwerk neu A1.1	Stefanie Dengler	Klett	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了時土曜日9:00-14:30

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	Lektion 1-4 復習	
	この回の到達目標	前期の内容を思い出す。	
	事前学修	前期範囲の復習を行っておくこと	30分
	事後学修	テキスト42～44頁	30分
2	食事	Lektion 4 食生活、好きなもの	
	この回の到達目標	食事について話せる。 4 格目的語を正しく使う。	
	事前学修	テキスト42～46頁	30分
	事後学修	テキスト47～49頁	30分
3	食事	Lektion 4 DVD	
	この回の到達目標	会話が分かる。	
	事前学修	テキスト40～49頁	30分
	事後学修	テキスト50頁	30分
4	日常生活	Lektion 5 時刻、予定	
	この回の到達目標	予定について話せる。	
	事前学修	テキスト40～51頁	30分
	事後学修	テキスト52～54頁	30分
5	日常生活	Lektion 5 家族	
	この回の到達目標	日常生活について話せる。 所有冠詞を正しく使う。	
	事前学修	テキスト52～54頁	30分
	事後学修	テキスト55～56頁	30分
6	日常生活	Lektion 5 待ち合わせ、予約、助動詞	
	この回の到達目標	メールを書くことができる。 電話で連絡することができる。	
	事前学修	テキスト52～56頁	30分
	事後学修	テキスト57～59頁	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	日常生活		Lektion 5 DVD
	この回の到達目標	会話が理解できる。	
	事前学修	テキスト52～59頁	30分
	事後学修	テキスト60頁	30分
8	暇		Lektion 6 祝い事、日付け
	この回の到達目標	友達を招待することができる。	
	事前学修	テキスト52～61頁	30分
	事後学修	テキスト62～65頁	30分
9	暇		Lektion 6 レストラン、メニュー
	この回の到達目標	レストランで注文することができる。 人称代名詞を正しく使う。	
	事前学修	テキスト62～65頁	30分
	事後学修	テキスト66～67頁	30分
10	暇		Lektion 6 外出、遊び
	この回の到達目標	ドイツ語圏の文化を知る。	
	事前学修	テキスト66～67頁	30分
	事後学修	テキスト68～69頁	30分
11	暇		Lektion 6 DVD
	この回の到達目標	会話が理解できる。	
	事前学修	テキスト62～69頁	30分
	事後学修	テキスト70頁	30分
12	仕事場		Lektion 7 インタンシブ
	この回の到達目標	仕事の内容について話せる。 接続詞を使うことができる。	
	事前学修	プリント	30分
	事後学修	プリント	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	仕事場		Lektion 7 オフィス、用事
	この回の到達目標	用事について話せる。 前置詞を正しく使うことができる。	
	事前学修	プリント	30分
	事後学修	プリント	30分
14	テスト予備、振り返り		振り返り
	この回の到達目標	まとめ	
	事前学修	テスト予備	120分
	事後学修	テスト勉強	120分
15	テスト、まとめ		まとめ
	この回の到達目標	理解度の確認	
	事前学修	テスト勉強	120分
	事後学修	振り返り	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅢA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
基礎的なドイツ語コミュニケーションの習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面においてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の会話、その他コミュニケーションの練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる。								3	3		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる。								3	3		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme	Cornelsen	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Deutsch lernen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Mehrsprachigkeit	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Rekorde	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Familienalbum	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Geburtstag	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Einladungen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Eine Reise	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Reisepläne	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Hobbys	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Im Verein	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Medien	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Einkaufen im Internet	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Ausgehen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Video	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅢB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常的・社会的場面における平易であるがスムーズなドイツ語コミュニケーションの習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面においてドイツ語で意思疎通をすることができるために、ドイツ語表現を自律的に使用できる能力を習得する。CEFRA2の口述試験に合格できるレベル。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の会話、その他コミュニケーションの練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる。								4	4		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる。								4	4		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme	Cornelsen	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Rund ums Essen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Ausgehen	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Stadtleben	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Wohnungssuche	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Was machen Sie, wennn...?	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Europa	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Weimar	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Damals	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Arbeit	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Berufswunsch	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Feste	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Geschenke	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	wiederholung復習	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Party	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅡA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、ドイツ語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Übersetzungen, eigene Sätze und Texte erstellen

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	翻訳・作文・書き換えなどの実践練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写を書いたり、文書で伝えることができる								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Lernplatz Deutsch, ISBN978-4-8102-0746-0	Tomoaki Seino	Dogakusha	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion1 挨拶とABC	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion2 動詞の現在人称	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion3 動詞の現在人称2とhaben, sein	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion3 動詞の現在人称とhaben, sein	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion4 名詞1と4かく、複数形	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion4 名詞1と4かく、複数形	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion5 特別な動詞、3かく	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion5 特別な動詞、3かく	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion6 前置詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion6 前置詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion7 人称代名詞、再起動詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion7 人称代名詞、再起動詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Wiederholung	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振返り	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test überarbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Deutsche Spiele	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅡB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるドイツ語の書き言葉の習得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄に対処できるように、ネイティブの教員による実践的な書き言葉のトレーニングを通して、A2レベルの試験に合格する文書による意思疎通の能力を習得します。

【履修条件】
Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2

【授業方法】
Übersetzungen, eigene Sätze und Texte erstellen

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	翻訳・作文・書き換えなどの実践練習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写をスムーズに書いたり、文書で伝えることができる								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において到達目標①、②、③が身についているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Vor oder nach dem Unterricht 授業の前か後

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Lernplatz Deutsch, ISBN978-4-8102-0746-0	Tomoaki Seino	Dogakusha	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の後、教室にて授業時間：月曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion8 分離動詞、副文	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
2	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion8 分離動詞、副文	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
3	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion9 助動詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
4	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion9 助動詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
5	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion10 形容詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
6	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion10形容詞	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion11現在完了形	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
8	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion11 現在完了形	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
9	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion12 weil...wenn...	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
10	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Lektion12 weil... wenn	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
11	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Wiederholung	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
12	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Test及びまとめ、振り返り	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	Video	
	事前学修	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)	30分
	事後学修	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)	30分
14	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	A la carte	
	事前学修	Üben (30 Minuten)	30分
	事後学修	Test nacharbeiten (30 Minuten)	30分
15	Deutsch	Deutsch lernen	
	この回の到達目標	A la carte	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語基礎文法Aを同時履修すること

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語	山下利枝 他	三修社	2018	教科書	必携
ケータイ万能フランス語文法	久松健一	駿河台出版社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の目的・内容、進め方、教科書、参考書の紹介、テストの実施方法、成績評価方法について説明。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の指針を理解し、それに基づいて今後の学習計画を立てられる。	
	事前学修	教科書に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
2	形容詞	主語＋動詞＋形容詞の構文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、形容詞を含む簡単な例文を聞き取り、暗唱できる。	
	事前学修	1課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	形容詞の位置	名詞＋形容詞、形容詞＋名詞の構文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、フランス語特有の形容詞の位置について理解し、それを用いた例文を聞き取り暗唱できる。	
	事前学修	2課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	形容詞と副詞	主語＋動詞＋形容詞、主語＋動詞＋副詞の構文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、形容詞、副詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	3課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	時の副詞	～mentを使った副詞、時の副詞の意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、～mentを使った副詞、時の副詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	4課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	定冠詞と不定冠詞	le, la, les, un, uneなどの定冠詞、不定冠詞の意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、le, la, les, un, uneなどの定冠詞、不定冠詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	5課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	部分冠詞	du, de laの意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞du, de laを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	6課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	小テスト、ここまでのまとめ	中間小テスト、これまでのまとめ。	
	この回の到達目標	7回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
	事前学修	7回目までの音で覚えたフレーズを書けるようにする。	30分
	事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分
9	指示形容詞と指示代名詞	ce, cette, celui-ci, celle-ciなどの指示形容詞、指示代名詞意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞、指示代名詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	7課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	所有形容詞と所有代名詞	son, sa, ses, le sien, la sienneなどの所有形容詞、所有代名詞の意味・用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、son, sa, ses, le sien, la sienneなどの所有形容詞、所有代名詞の意味・用法を理解して暗唱できる。	
	事前学修	8課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	場所を表す前置詞	à, au, enなどの場所を表す前置詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、à, au, enなどの場所を表す前置詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	9課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	場所、時の前置詞	de, à, versなどの時・場所の前置詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、de, à, versなどの時・場所の前置詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。を理解し例文を暗唱できる。	
	事前学修	10課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	直接補語代名詞	直接補語代名詞le, la, lesの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、直接補語代名詞le, la, lesを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	11課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	間接補語代名詞	間接補語代名詞lui, leurの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、間接補語代名詞lui, leurを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	12課のわからない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	期末テスト、まとめ。	これまで音で覚えたフレーズをフランス語で書けるか、動詞の活用ができるかの確認。	
	この回の到達目標	14回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
	事前学修	14回目までに音で覚えたフレーズのフランス語の綴りの確認。	30分
	事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者が発音したり、課題に解答するアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験については、ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ショコラティエヌ！	サガズ・ミシエル他	第三書房	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問、留学等について、授業の前後およびメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）による相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	1. 授業の説明 2. Initiation(p.9)	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、自己紹介の基本を修得して、自己紹介ができる	
	事前学修	p. 6, 7の登場人物たちの紹介のページを見て、登場人物たちの名前や国籍を把握する。それらの国や都市がどこになるのか、地図上で調べる。	30分
	事後学修	学修した内容をダウンロードした音声によって確認し、小テストの準備をする	30分
2	私は日本人です（1）	1. 動詞 êtreの活用 2. フランス語のアルファベ(1) 3. 国籍名	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、自分のことを言う練習をしておく。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
3	私は日本人です（2）	1. 形容詞 2. フランス語のアルファベ（2） 3. 専門を答える	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、名前、居住地、出身、身分、専攻を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、自分のことを言う練習をしておく。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
4	私の母はパリに住んでいます（1）	1. -er動詞の活用 2. 名詞 3. 前置詞（1）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の家族に関して、名前、居住地、身分、話せる言語を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、家族のことを言う練習をしておく。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
5	私の母はパリに住んでいます（2）	1. 前置詞（2） 2. 所有形容詞（1） 3. 否定文	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自分の家族に関して、名前、居住地、身分、話せる言語を聞かれて正確に聞き取り、その質問にフランス語で答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、家族のことを言う練習をしておく。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
6	私はスマートフォンを持っています（1）	1. 不定冠詞 2. 動詞 avoirの活用	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、場所の表現を覚え、場所に関するやり取りを聞き取って答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、場所に関する語彙の発音を確認する。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	私はスマートフォンを持っています（2）	1. 定冠詞 2. 所有形容詞（2） 3. 指示形容詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、場所の表現を覚え、場所に関するやり取りを聞き取って答えることができる。	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、場所に関する語彙の発音を確認する。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
8	私はスマートフォンを持っています（3）	前期中間試験 1. 動詞 avoirを使った表現 2. Il y a	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験に解答できる。所有に関するやり取りを聞き取って答えることができる。	
	事前学修	前期中間試験の準備をする	180分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
9	私はポップスが大好きです（1）	中間試験の解説 1. 動詞 faire の活用 2. 疑問形容詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験の解説を聞いて、自分の間違ったところが理解できる。日常的な自分の活動について、質問を聞き取って答えることができる。	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、曜日と日常的な活動の表現に関して発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
10	私はポップスが大好きです（2）	1. 疑問文の作り方 2. 前置詞de, à + 定冠詞の縮約形	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、数字（1～99）を覚え、金額を言うことができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、数字（1～99）の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
11	私はそこに行きたいです（1）	1. 複合過去の活用 2. 動詞 allerの活用	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去に行ったことに関して聞き取り、答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、ショッピングと服に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
12	私はそこに行きたいです（2）	1. 中性代名詞 y 2. 動詞 venirの活用 3. 不規則な形容詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、avoirを使った様々な表現を覚えて、関連する質問に答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、からだと飲み物に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	私は映画を見に行きました（１）	1. être を用いる複合過去 2. 部分冠詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を用いた質問をし、さらに答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、様々な活動に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
14	私は映画を見に行きました（２）	1. 中性代名詞 en 2. 量の表現 3. 動詞 prendre の活用	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、食べ物に関するやりとりで質問し、さらに答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、時の表現と頻度に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
15	前期の総括	前期末試験とまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、期末試験に解答できる	
	事前学修	前期末試験の準備をする	180分
	事後学修	ポータルで公表された解答を確認して、前期の復習を行う	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ぜんぶ話して！(改訂版)	レナ・ジュンタ、清岡智比古	白水社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。	
	この回の到達目標	到達目標①の準備を行う。	
	事前学修	アルファベットの音声を聞く。	30分
	事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分
2	日常生活で用いる基礎表現	国籍や職業をたずね、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 課前半の単語を覚える。	30分
3	日常生活で用いる基礎表現	出身や学部をたずね、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 課後半の単語を覚える。	30分
4	日常生活で用いる基礎表現	規則動詞を肯定・否定で使う。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	2 課前半の予習。	30分
	事後学修	2 課前半の単語を覚える。	30分
5	日常生活で用いる基礎表現	否定疑問形でたずね、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	2 課後半の予習。	30分
	事後学修	2 課後半の単語を覚える。	30分
6	日常生活で用いる基礎表現	「～が好き？」とたずね、それにニュアンスをつけて答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	3 課前半の予習。	30分
	事後学修	3 課前半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日常生活で用いる基礎表現	形容詞を使ってコメントする。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	3 課後半の予習。	30分
	事後学修	3 課後半の単語を覚える。	30分
8	日常生活で用いる基礎表現	「どこで」「だれと」をたずね、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	4 課前半の予習。	30分
	事後学修	4 課前半の単語を覚える。	30分
9	日常生活で用いる基礎表現	質問の答えを展開させる。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	4 課後半の予習。	30分
	事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
10	日常生活で用いる基礎表現	「～を持っている/持っていない」を表現する。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	5 課前半の予習。	30分
	事後学修	5 課前半の単語を覚える。	30分
11	日常生活で用いる基礎表現	年齢や学年をたずね、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	5 課後半の予習。	30分
	事後学修	5 課後半の単語を覚える。	30分
12	日常生活で用いる基礎表現	家族の名前や身分・職業をたずね、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	6 課前半の予習。	30分
	事後学修	6 課前半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日常生活で用いる基礎表現	人について好き/きらいを言い、その人がどんな風か言う。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	6 課後半の予習。	30分
	事後学修	6 課後半の単語を覚える。	30分
14	日常生活で用いる基礎表現	さまざまな活動について話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	7 課の予習。	30分
	事後学修	7 課の単語を覚える。	30分
15	前期のまとめ、振り返り	課題の解説。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
	事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基礎的な文法をまとめながら、音読や和訳、書き取り、会話の練習をします。DVD教材でフランスの文化について学ぶ機会も作ります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は添削して返却し、次の授業時に解答をアップします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パスカル・オ・ジャポン（CD付）	藤田祐二	白水社	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合はクラスルームを利用してください。レポートのコメント欄が使いやすいと思います。メールでの問い合わせ先： negishi.tomoo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	フランス語と英語の違いについて	オリエンテーション フランス語に親しむ（1）：フランス語表現、アルファベ	
	この回の到達目標	フランス語と英語の違いを知り、発音に慣れる。	
	事前学修	クラスルームの使い方を確認しておいてください。	30分
	事後学修	0課の発音練習をしておきましょう。	30分
2	フランス語特有の綴り字の読み方について	フランス語に親しむ（2）：綴り字の読み方	
	この回の到達目標	フランス語の綴り字の読み方を覚える。	
	事前学修	p. 12, 13にあらかじめ目を通しておいてください。	30分
	事後学修	綴り字の発音の規則を覚えましょう。	30分
3	主語人称代名詞と動詞の活用	国籍を言う（1）：主語人称代名詞・動詞êtreの現在形	
	この回の到達目標	自分の国籍をフランス語で言い、動詞の活用に慣れる①②③④	
	事前学修	1 課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	êtreの活用を覚えましょう。	30分
4	第1群動詞の活用	国籍を言う（2）：国籍を表す形容詞・動詞parlerの現在形	
	この回の到達目標	自分の国籍をフランス語で言い、動詞の活用に慣れる①②③④	
	事前学修	自分の国籍を言う練習をしておいてください。	30分
	事後学修	1 課本文を和訳してみましょう。	30分
5	自己紹介	名前・職業を言う（1）：職業を表す名詞	
	この回の到達目標	フランス語で自己紹介をできるようになる①②③④	
	事前学修	職業を表す名詞の男性形、女性形の違いを確認しておいてください。	30分
	事後学修	自己紹介の練習をしましょう。	30分
6	形容詞の変化	名前・職業を言う（2）：形容詞の性・数の一致	
	この回の到達目標	形容詞の変化を覚えて会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	2課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	2課本文を和訳してみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不定冠詞と指示代名詞	持ち物を尋ねる：不定冠詞・指示代名詞・形容詞の位置・動詞avoirの現在形	
	この回の到達目標	不定冠詞の変化を覚え、指示代名詞を使って簡単な応答を出来るようになる①②③④	
	事前学修	3課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	3課本文を和訳してみましょう。	30分
8	定冠詞の変化と疑問文の作り方	趣味を語る：定冠詞・疑問文・疑問形容詞	
	この回の到達目標	定冠詞の使い方と変化を覚え、疑問文を使って簡単な会話を出来るようになる①②③④	
	事前学修	4課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	4課本文を和訳してみましょう。	30分
9	否定文	誰か尋ねる(1)：否定文	
	この回の到達目標	否定文の作り方を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	5課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	否定文を作ってみましょう。	30分
10	疑問代名詞	誰か尋ねる(2)：疑問代名詞	
	この回の到達目標	疑問代名詞を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	p. 21 文法2の例文に出てくる単語の意味を調べておいてください。	30分
	事後学修	5課本文を和訳してみましょう。	30分
11	前置詞と定冠詞の縮約	したいことを尋ねる(1)：前置詞と定冠詞の縮約・指示形容詞・否定疑問文の応答	
	この回の到達目標	前置詞と定冠詞の縮約法を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	定冠詞の復習をしておいてください。	30分
	事後学修	前置詞と定冠詞の縮約法を覚えましょう。	30分
12	不規則動詞vouloirとpouvoir	したいことを尋ねる(2)：動詞vouloirとpouvoir	
	この回の到達目標	vouloirとpouvoirの活用を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	6課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	6課本文を和訳してみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人称代名詞の強勢形	住んでいる所を言う(1)：人称代名詞の強勢形	
	この回の到達目標	強勢形の使い方を学び、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	p. 25 練習問題2で使われている単語の意味を調べておいてください。	30分
	事後学修	強勢形を使った文を作ってみましょう。	30分
14	所有形容詞	住んでいる所を言う(2)：所有形容詞・動詞connaître	
	この回の到達目標	所有形容詞の使い方を学び、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	7課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	7課本文を和訳してみましょう。	30分
15	まとめとテスト	前期のまとめ・期末テスト	
	この回の到達目標	前期に学んだことを身に付け、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	藤井 陽子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎表現Bと続けて履修することが望ましい。

【授業方法】
発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがってCD・DVD等を利用しながら授業を進める。 学修内容を確認する練習問題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音・会話練習をグループワークで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムやClassroomを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『きみと話したい！フランス語』	大久保政憲	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール（fujii.yokoll@nihon-u.ac.jp）またはClassroomから受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス アルファベ		授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業準備をスムーズに行うことができる。 アルファベの発音を学ぶ。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、アルファベに含まれるフランス語の基本的な音を聞き取り、発音できるようになる。		
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を整理する。 フランス語のアルファベの読みを暗記する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
2	フランス語の文字と発音		フランス語の発音の規則を学ぶ。それによって受講生は基本的な母音と子音の発音が理解できるようになる。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、フランス語のつづり字と発音の関係が理解できるようになる。		
	事前学修	教科書5～6ページの発音の規則に目を通しておく。		30分
	事後学修	発音規則を確認しながら単語の読みを復習する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
3	1課 あいさつ		日常会話で用いられる挨拶の表現を学ぶ。それによって受講生は周囲の人にフランス語で挨拶できるようになる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、フランスの挨拶を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	1課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
4	1課 自己紹介		être動詞を用いた国籍や職業を示す表現を学ぶ。それによって受講生は自分や周囲の人の国籍や職業を説明できるようになる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、国籍や職業を示す表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
5	2課 名詞と冠詞		名詞と冠詞の用法を学ぶ。それによって受講生は様々な単語をフランス語で言えるようになる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、簡単な単語を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	2課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
6	2課 提示表現		さまざまな提示表現を学ぶ。それによって受講生は周囲のものを指し示すことができるようになる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して、提示表現を含む文を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	3課 動詞avoir		動詞avoirの活用と用法を学ぶ。それによって受講生はavoirを用いた表現を習得することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、avoirを含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	3課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
8	3課 疑問文と否定文		疑問文・否定文の作り方を学ぶ。それによって受講生は質問をしたり答えたりできるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、質問を聞き取って理解し、答えたり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
9	4課 第1群規則動詞の活用		第1群規則動詞（er動詞）の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は様々な動作を表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、er動詞を含む表現を正しく聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	4課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
10	4課 形容詞		形容詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は、色や性質などを説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、形容詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
11	5課 部分冠詞		部分冠詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は冠詞の使い分けを正しく理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、部分冠詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	5課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
12	5課 中性代名詞 en		中性代名詞 en の用法を学ぶ。それによって受講生は中性代名詞を含む日常表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中性代名詞 en を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	6課 動詞 aller, venir	動詞 aller, venir について学ぶ。それによって受講生は自分が行きたいところや出身地などを表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、aller, venir を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	6課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
14	6課 疑問副詞	疑問副詞の意味と用法を学ぶ。それによって受講生は場所や時などを尋ねられるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問副詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
	事後学修	前期の授業内容を整理し、全体を復習する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を正しく理解し、習得できているか確認する。	
	事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	60分
	事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、授業時に、解説し返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『やさしいサリュ（改訂版）』	田辺保子等	駿河台出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション，導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方、フランス語の挨拶	
	この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。アルファベ、綴り字の読み方を正確に発音できる。フランス語の挨拶ができる(達成目標①②③④に関連する)	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第一課：国籍、職業、名前を言う。名詞の性と数。	第一課：国籍、職業、名前を言う。名詞の性と数。	
	この回の到達目標	国籍、職業、名前をフランス語で聞いて理解し、自ら言うことができる。名詞の性と数について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第一課：国籍、職業、名前を言う。être、リエゾン・アンシェヌマン	第一課：国籍、職業、名前を言う。être、リエゾン・アンシェヌマン	
	この回の到達目標	国籍、職業、名前をフランス語で聞いて理解し、自ら言うことができる。être、リエゾン・アンシェヌマンについて、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier。	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier。	
	この回の到達目標	フランス語表現「住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「er型規則動詞、否定。habiter, parler, étudier」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。定冠詞、数（1～10）。都市、言語、学科。	第二課：住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）。定冠詞、数（1～10）。都市、言語、学科。	
	この回の到達目標	フランス語表現「住んでいるところ・言語・学科を言う、たずねる（どこ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞、数（1～10）、都市、言語、学科」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。不定冠詞。avoir, aimer	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。不定冠詞。avoir, aimer。	
	この回の到達目標	フランス語表現「家族・年齢を言う、好みを言う」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「不定冠詞。avoir, aimer」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。否定文中のde、数（１１～２０）。家族、趣味。		第三課：家族・年齢を言う、好みを言う。否定文中のde、数（１１～２０）。家族、趣味。
	この回の到達目標	フランス語表現「家族・年齢を言う、好みを言う」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「否定文中のde、数（１１～２０）、家族、趣味」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
8	第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。部分冠詞、il y a。		第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。部分冠詞、il y a。
	この回の到達目標	フランス語表現「食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「部分冠詞、il y a」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物。		第四課：食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）。qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物。
	この回の到達目標	フランス語表現「食べる、飲む。たずねる（何、いくつ）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「qu'est-ce que, combien. manger, boire, prendre. 食べ物、飲み物」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞。		第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞。
	この回の到達目標	フランス語表現「人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「形容詞の性・数・位置、所有形容詞、指示代名詞」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。数（２０～６０）。qui, comment. 形状、性質、性格。		第五課：人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）。数（２０～６０）。qui, comment. 形状、性質、性格。
	この回の到達目標	フランス語表現「人・物を描写する、たずねる（誰、どのような）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「数（２０～６０）、qui, comment. 形状、性質、性格」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	第六課：行く、来る。定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形。		第六課：行く、来る。定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形。
	この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞の縮約（à）、疑問文三型、人称代名詞強勢形」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第六課：行く、来る。数（60～100）、aller, venir	第六課：行く、来る。数（60～100）、aller, venir。	
	この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「数（60～100）、aller, venir」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
14	第六課：行く、来る。国名、行き先。	第六課：行く、来る。国名、行き先。	
	この回の到達目標	フランス語表現「行く、来る」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「国名、行き先」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	第六課：行く、来る。様々な場所 前期の振り返り	第六課：行く、来る。様々な場所 前期の振り返り	
	この回の到達目標	前期に学修した文法事項を理解し、説明することができる。また同様に、フランス語表現「行く、来る」、前期学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的なフランス語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
発音と会話練習を中心に、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でグループワークで発音と会話を練習する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、及び導入講義。アルファベ、綴り字の読み方、フランス語での基本な挨拶。	
	この回の到達目標	ガイダンス、及び導入講義。アルファベ、綴り字の読み方、フランス語での基本な挨拶。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	自己紹介 1	自己紹介 1 名前、国籍、年齢を言う・尋ねる。名前の綴りを言う。数字（0～10）	
	この回の到達目標	自己紹介 1 名前、国籍、年齢を言う・尋ねる。名前の綴りを言う。数字（0～10）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	自己紹介 2	自己紹介 2 名前、国籍、年齢を言う・尋ねる。職業を言う。être, avoirの動詞。数字（10～20）	
	この回の到達目標	自己紹介 2 名前、国籍、年齢を言う・尋ねる。職業を言う。être, avoirの動詞。数字（10～20）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	国と言語 1	国と言語 1 住んでいる所と話せる言語を言う・尋ねる。-er型規則動詞。定冠詞。	
	この回の到達目標	国と言語 1 住んでいる所と話せる言語を言う・尋ねる。-er型規則動詞。定冠詞。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	国と言語 2	国と言語 2 住んでいる所と話せる言語を言う・尋ねる。動詞の肯定・否定。数字（30～60）	
	この回の到達目標	国と言語 2 住んでいる所と話せる言語を言う・尋ねる。動詞の肯定・否定。数字（30～60）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	家族と趣味 1	家族と趣味 1 家族について話す、好みを言う。不定冠詞、否定文中のde、Aimerの動詞。	
	この回の到達目標	家族と趣味 1 家族について話す、好みを言う。不定冠詞、否定文中のde、Aimerの動詞。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	家族と趣味 2		家族と趣味 2 家族の名前や職業を言う・尋ねる。所有形容詞。数字（60～100） ここまでの復習	
	この回の到達目標	家族と趣味 2 家族の名前や職業を言う・尋ねる。所有形容詞。数字（60～100） ここまでの復習		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
8	前期中間試験 食べる・飲む 1		前期中間試験の実施 食べる・飲む 1 食べ物と飲み物を言う・尋ねる。部分冠詞。manger, boireの動詞。	
	この回の到達目標	前期中間試験の実施 食べる・飲む 1 食べ物と飲み物を言う・尋ねる。部分冠詞。manger, boireの動詞。		
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
9	前期中間試験解説 食べる・飲む 2		前期中間試験の返却と解説 食べる・飲む 2 何、いくつ、il y a	
	この回の到達目標	前期中間試験の返却と解説 食べる・飲む 2 何、いくつ、il y a		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
10	人・物を描写する 1		人・物を描写する 1 誰、どんな人。形容詞の性・数・位置。指示代名詞。	
	この回の到達目標	人・物を描写する 1 誰、どんな人。形容詞の性・数・位置。指示代名詞。		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
11	人・物を描写する 2		人・物を描写する 2 形状、性質、性格。疑問文。人称代名詞強勢形	
	この回の到達目標	人・物を描写する 2 形状、性質、性格。疑問文。人称代名詞強勢形		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
12	お出掛け 1		お出掛け 1 行く、来る。定冠詞の縮約。どこで、だれと。	
	この回の到達目標	お出掛け 1 行く、来る。定冠詞の縮約。どこで、だれと。		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	お出掛け 2	お出掛け 2 誘う、pouvoir, vouloirの動詞。 ここまでの復習	
	この回の到達目標	お出掛け 2 誘う、pouvoir, vouloirの動詞。 ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	前期期末試験 お出掛け 3	前期期末試験の実施 お出掛け 3 お出掛け、ヴァカンスのプログラムを作る。	
	この回の到達目標	前期期末試験の実施 お出掛け 3 お出掛け、ヴァカンスのプログラムを作る。	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	前期期末試験解説、振り返り	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	この回の到達目標	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
簡単なフレーズを繰り返し聞いて発音しながら、文法的解説を適宜加えていく。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のペアワークやグループワークを含めたアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
口が覚えるフランス語	山下利枝 他	三修社出版	2018	教科書	必携
ケータイ万能フランス語文法	久松健一	駿河台出版社	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	後期ガイダンス、簡単なフランス語の音声に触れる。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、簡単なフランス語の文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	教科書の13課以降に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
2	強勢形代名詞	moi, toiなどの強勢形代名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、moi, toiなどの強勢形代名詞を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	13課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	中性代名詞 en	中性代名詞の種類、enの文法的用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、中性代名詞の種類、文法的用法を理解し、その中のenを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	14課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	中性代名詞 y	中性代名詞 yの文法的用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、中性代名詞の種類、文法的用法を理解し、その中のyを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	15課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	代名詞の位置	le, la, les, en, y, leur, luiなどの直接代名詞、間接代名詞、中性代名詞の語順・位置。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、le, la, les, en, y, leur, luiなどの直接代名詞、間接代名詞、中性代名詞のを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	16課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	単純関係代名詞	単純関係代名詞qui, que, dont, oùの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、単純関係代名詞qui, que, dont, oùを用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	17課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	複合関係代名詞	複合関係代名詞lequel, laquelle, auquel, duquelとその複数形。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、複合関係代名詞lequel, laquelle, auquel, duquelとその複数形を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	18課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	小テスト、ここまでのまとめ	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	7回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
	事前学修	前回までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った箇所の見直し、復習。	30分
9	疑問形と否定形	簡単な構文の疑問形est-ce queなどと否定形ne pas, non plusなどの表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、疑問形と否定形を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	19課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	様々な疑問表現	où, quand, comment, combien, pourquoiなどの様々な疑問表現を用いた疑問文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、様々な疑問表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	20課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	様々な否定表現	ne pas, ne plus, ne que, ne ni, ne plusなどの様々な否定表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、ne pas, ne plus, ne que, ne ni, ne plusなどの様々な否定表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	21課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	時間の表現	il y a, depuis, pour, pendantなどの時間・時間継続を表す表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、il y a, depuis, pour, pendantなどの時間・時間継続の表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	22課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	比較表現	moins, plusなどの比較表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、moins, plusなどの比較表現を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	23課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	間接話法	Il dit que, il dit de, il m'explique queなどの間接話法の構文を学ぶ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il dit que, il dit de, il m'explique queなどの間接話法の構文を用いた例文を文法的理解に基づいて暗唱できる。	
	事前学修	24課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	期末テスト、まとめ	期末テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	14回目までの音で覚えたフレーズをフランス語で書くことができ、例文の中で動詞の簡単な応用ができる。	
	事前学修	9回目からの授業の復習。	30分
	事後学修	答案の間違った箇所を見直し・復習。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
フランス語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者が発音し、課題に解答するアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験については、ポータルで解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ショコラティエヌ！	サガズ・ミシエル他	第三書房	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問、留学相談等について、授業の前後あるいメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）による相談を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	たくさんの子供がいました（１）	1. 半過去（１） 2. 動詞 attendre の活用	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去の状況について質問し、答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、量に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
2	たくさんの子供がいました（２）	1. 半過去（２） 2. 時の表現 3. 動詞 connaître の活用	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、過去の状況について質問し、答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、食品に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
3	テニスをするでしょう（１）	1. 助動詞 vouloirの活用（第6課） 2. 近接過去	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今までに学んだ時制を組み合わせる質問し、答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、食事とニュアンスに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
4	テニスをするでしょう（２）	1. 近接未来 2. 単純未来（１） 3. 時の表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未来の計画について質問し、答えることができる（１）	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、食事とニュアンスに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
5	テニスをするでしょう（３）	1. 単純未来（２） 2. 時の表現（２）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、未来の計画について質問し、答えることができる（２）	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、評価に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
6	どのくらい時間がかかりますか（１）	1. 比較級 2. 条件法（丁寧な言い方） 3. Il faut	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、交通機関について質問し、答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声を聞きながら、交通機関に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声を聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	どのくらい時間がかかりますか (2)	1. 最上級 2. 空間に関する表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、空間に関するやり取りで質問し、答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、位置に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。中間試験の準備をする	30分
8	何時ですか (1)	後期中間試験 1. 時間に関する表現 2. 代名動詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中間試験に回答することができる。友人を誘うやり取りで質問し、答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、時間に関する語彙の発音の確認を行う (1)。宿題を行う	180分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。中間試験の準備をする	30分
9	何時ですか (2)	前期中間テストの解説 1. 命令法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日常生活の行動を時間を入れて質問し、答えることができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、時間に関する語彙の発音の確認を行う (2)。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
10	おごってくれるの? (1)	1. 人称代名詞 (1)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、活動を提案し、誘いを受ける (断る) ことができる (1)	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、提案に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
11	おごってくれるの? (2)	1. 人称代名詞 (2) 2. 天候表現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、活動を提案し、誘いを受ける (断る) ことができる (1)	
	事前学修	天候表現に関して、発音を確認しておく。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
12	面白そう (1)	1. 疑問代名詞 (11課) (1) 2. 関係代名詞 qui と que	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人物を描写することができる	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、サプライズに関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	面白そう（2）	1. 疑問代名詞（11課）（2） 2. その他の関係代名詞	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、印章や気持ちを言うことができる（1）	
	事前学修	ダウンロードした音声聞きながら、様子に関する語彙の発音の確認を行う。宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。小テストの準備をする	30分
14	面白そう（3）	1. 強調構文 2. ジェロンディフ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、印象や気持ちを言うことができる（2）	
	事前学修	宿題を行う	30分
	事後学修	ダウンロードした音声聞き、文を口に出して発音し、ノートに書いて、文構造、基本対話のフレーズを暗記する。期末試験の準備をする	30分
15	後期の総括	後期末試験とまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期末試験に解答することができる	
	事前学修	後期末試験の準備をする	180分
	事後学修	ポータルで公表された正解を確認し、後期の復習を行う	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ぜんぶ話して！(改訂版)	レナ・ジュンタ，清岡智比古	白水社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日常生活で用いる基礎表現	食事について話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	8 課前半の予習。	30分
	事後学修	8 課前半の単語を覚える。	30分
2	日常生活で用いる基礎表現	頻度を表現する。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	8 課後半の予習。	30分
	事後学修	8 課後半の単語を覚える。	30分
3	日常生活で用いる基礎表現	よく行く場所について話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	9 課前半の予習。	30分
	事後学修	9 課前半の単語を覚える。	30分
4	日常生活で用いる基礎表現	移動手段について話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	9 課後半の予習。	30分
	事後学修	9 課後半の単語を覚える。	30分
5	日常生活で用いる基礎表現	習慣についてたずね、代名詞を使って答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 0 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 0 課前半の単語を覚える。	30分
6	日常生活で用いる基礎表現	代名動詞を使って習慣について話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 0 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 0 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日常生活で用いる基礎表現	生活時間についてたずね、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 1 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 1 課前半の単語を覚える。	30分
8	日常生活で用いる基礎表現	計画についてたずね、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 1 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 1 課後半の単語を覚える。	30分
9	日常生活で用いる基礎表現	行きたい場所についてたずね、その土地の天候について話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 2 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 2 課前半の単語を覚える。	30分
10	日常生活で用いる基礎表現	アドバイスを求める/与える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分
11	日常生活で用いる基礎表現	過去の出来事について質問し、それに答える。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 3 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 3 課前半の単語を覚える。	30分
12	日常生活で用いる基礎表現	過去の表現を使って、一日の出来事・週末・ヴァカンスについて話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 3 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 3 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日常生活で用いる基礎表現	代名詞を使って、過去の事柄を話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 4 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 4 課前半の単語を覚える。	30分
14	日常生活で用いる基礎表現	話を組み立てて、一日の行動を話す。	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 4 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 4 課後半の単語を覚える。	30分
15	後期のまとめ、振り返り	課題の解説	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
	事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基礎的な文法をまとめながら、音読や和訳、書き取り、会話の練習をします。DVD教材でフランスの文化について学ぶ機会も作ります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は添削して返却し、次の授業時に解答をアップします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
パスカル・オ・ジャポン（CD付）	藤田祐二	白水社	2006年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合はクラスルームを利用してください。レポートのコメント欄が使いやすいと思います。メールでの問い合わせ先： negishi.tomoo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習	ガイダンス 前期末テストの解説を通して、前期の文法事項を復習	
	この回の到達目標	前期に学んだことを復習し、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	前期に学んだ文法事項を整理しておきましょう。	30分
	事後学修	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。	30分
2	物についての疑問代名詞	何をしているか尋ねる：疑問代名詞・場所を表す前置詞・動詞faire	
	この回の到達目標	疑問代名詞の使い方を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	8課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	8課本文を和訳してみましょう。	30分
3	冠詞の変形	家族を語る(1)：否定文における冠詞の変形	
	この回の到達目標	否定文で変化する冠詞を使って会話出来るようになる①②③④	
	事前学修	p. 31 練習問題1に使われている単語を調べておいてください。	30分
	事後学修	冠詞が変化する否定文を作ってみましょう。	30分
4	特殊な女性形容詞	家族を語る(2)：女性形容詞の特殊な形	
	この回の到達目標	特殊な女性形容詞を使って会話出来るようになる①②③④	
	事前学修	9課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	9課本文を和訳してみましょう。	30分
5	数字	年齢を言う(1)：数字（1～30）	
	この回の到達目標	数字を覚えて、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	数字の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	1～30の数字を覚えましょう。	30分
6	疑問副詞	年齢を言う(2)：疑問副詞	
	この回の到達目標	疑問副詞を覚えて、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	10課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	10課本文を和訳してみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	時刻の表現	時刻を言う：時刻の言い方・時の前置詞・動詞finirとpartir	
	この回の到達目標	時刻の表現を覚えて、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	11課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	11課本文を和訳してみましょう。	30分
8	人称代名詞と指示代名詞	紹介する：補語人称代名詞・指示代名詞・動詞attendre	
	この回の到達目標	人称代名詞と指示代名詞を覚え、会話で使えるようになる①②③④	
	事前学修	12課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	12課本文を和訳してみましょう。	30分
9	代名動詞と近接未来・過去	日常生活の表現：代名動詞・近接未来と近接過去・動詞allerとvenir	
	この回の到達目標	代名動詞や近接未来・過去を使った会話ができるようになる①②③④	
	事前学修	13課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	13課本文を和訳してみましょう。	30分
10	部分冠詞と中性代名詞en	量を表す：部分冠詞・中性代名詞 en・動詞boire	
	この回の到達目標	部分冠詞を使う名詞や、中性代名詞enを使った会話ができるようになる①②③④	
	事前学修	14課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	14課本文を和訳してみましょう。	30分
11	命令形、中性代名詞y	天候を言う：命令形・中性代名詞 y・天候の表現・動詞voir	
	この回の到達目標	命令形や中性代名詞yを使った会話ができるようになる①②③④	
	事前学修	15課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	15課本文を和訳してみましょう。	30分
12	比較級と指示代名詞	比較する：比較級・指示代名詞	
	この回の到達目標	比較表現や指示代名詞を使った会話ができるようになる①②③④	
	事前学修	16課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	16課本文を和訳してみましょう。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	複合過去形	過去のことを語る：複合過去形	
	この回の到達目標	過去形を使った会話ができるようになる①②③④	
	事前学修	17課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	17課本文を和訳してみましょう。	30分
14	単純未来形	未来のことを語る：単純未来形	
	この回の到達目標	未来形を使った会話ができるようになる①②③④	
	事前学修	18課本文の発音練習をしておいてください。	30分
	事後学修	18課本文を和訳してみましょう。	30分
15	後期のまとめとテスト	後期のまとめ・期末テスト	
	この回の到達目標	後期で学んだ事項を使って、会話ができるようになる①②③④	
	事前学修	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	藤井 陽子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎表現Aより引き続き履修することが望ましい。

【授業方法】
発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがってCD・DVD等を利用しながら授業を進める。 学修内容を確認する練習問題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音・会話練習をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムやClassroomを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『きみと話したい！フランス語』	大久保政憲	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール（fujii.yokoll@nihon-u.ac.jp）またはClassroomから受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	6課までの復習 7課 時刻表現	1～6課の復習をする。7課の時刻表現を学ぶ。それによって受講生は時刻表現の特徴を理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時刻を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	7課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
2	7課 非人称構文	さまざまな非人称構文を学ぶ。それによって受講生は時刻や天候を表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、非人称構文を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
3	8課 近接未来・近接過去	近接未来や近接過去の表現を学ぶ。それによって受講生は未来の予定や、最近したことについて説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、近接未来・近接過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	8課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
4	8課 中性代名詞 y	中性代名詞 y の用法を学ぶ。それによって受講生は中性代名詞を正しく理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中性代名詞 y を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
5	9課 比較級・最上級	比較級・最上級表現を学ぶ。それによって受講生は2つ以上のものを比べる表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比較級・最上級を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	9課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
6	9課 指示代名詞	指示代名詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は指示代名詞を用いた比較表現などを理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、指示代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	10課 目的語人称代名詞		目的語人称代名詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生は目的語人称代名詞を含む表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、目的語人称代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	10課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
8	10課 疑問代名詞		疑問代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は人を尋ねる表現を習得することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、疑問代名詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
9	11課 代名動詞		代名動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は日常生活について説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代名動詞を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	11課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
10	11課 命令形		命令形の形と用法を学ぶ。それによって受講生は他人に命令したりお願いをしたりできるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、命令形を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
11	12課 複合過去（1）		助動詞 avoir を用いた複合過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	12課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。		30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
12	12課 複合過去（2）		助動詞 être を用いた複合過去の用法を学ぶ。それによって受講生は適切な過去表現ができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複合過去を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。		30分
	事後学修	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	13課 単純未来（１）		基本動詞の単純未来の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は将来のことが説明できるようになる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、単純未来を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	13課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す。	30分
	事後学修	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
14	13課 単純未来（２）		不規則動詞の単純未来の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は将来のことが説明できるようになる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、単純未来を含む表現を聞き取って理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する。	30分
	事後学修	これまでの授業内容を整理し、全体を復習する。音声ファイルを活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
15	授業内試験およびフィードバック		授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容を正しく理解し、習得できているか確認する。	
	事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	60分
	事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、授業時に、返却・解説する。少なくともポータルで解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『やさしいサリュ（改訂版）』	田辺保子等	駿河台出版社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。	授業の説明、第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。	
	この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。	
	この回の到達目標	フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「ir型規則動詞、quel, quand, finir, faire。」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。faireの慣用表現、家事。	第七課：時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）。faireの慣用表現、家事。	
	この回の到達目標	フランス語表現「時刻、たずねる（何時、何時に、いつ）（何をする）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「faireの慣用表現、家事」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。近接未来、近接過去	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。近接未来、近接過去	
	この回の到達目標	フランス語表現「近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「近接未来、近接過去」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分	第八課：近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという。pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分	
	この回の到達目標	フランス語表現「近い未来・近い過去をいう、したいこと・できることをいう、たずねる（なぜ）、痛いという」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「pourquoi, vouloir, pouvoir, avoir mal à, 乗り物、旅行、身体の部分」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。代名動詞、指示形容詞。	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。代名動詞、指示形容詞。	
	この回の到達目標	フランス語表現「日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「代名動詞、指示形容詞」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。非人称 (il fait)、se lever、時の表現。		第九課：日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう。非人称 (il fait)、se lever、時の表現。
	この回の到達目標	フランス語表現「日常の行動をいう、午前・午後・週などをいう、天候をいう」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「非人称 (il fait)、se lever、時の表現」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、後期中間試験の準備をする。	30分
8	第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。定冠詞の縮約 (de)。		第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。定冠詞の縮約 (de)。
	この回の到達目標	フランス語表現「場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「定冠詞の縮約 (de)」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
9	第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。命令形、前置詞 (場所)、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所。		第十課：場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現。命令形、前置詞 (場所)、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所。
	この回の到達目標	フランス語表現「場所をいう、道順をいう、命令・義務の表現」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「命令形、前置詞 (場所)、非人称 (il faut)、序数、devoir、場所」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
10	第十一課：過去のことを語る (1)、否定表現 (1)。複合過去 (avoir)、様々な否定表現 (1)。		第十一課：過去のことを語る (1)、否定表現 (1)。複合過去 (avoir)、様々な否定表現 (1)。
	この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る (1)、否定表現 (1)」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「複合過去 (avoir)、様々な否定表現 (1)」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
11	第十一課：過去のことを語る (1)、否定表現 (1)。中性代名詞 (en)、趣味、通信。		第十一課：過去のことを語る (1)、否定表現 (1)。中性代名詞 (en)、趣味、通信。
	この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る (1)、否定表現 (1)」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「中性代名詞 (en)、趣味、通信」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
12	第十二課：過去のことを語る (2)、否定表現 (2)。複合過去 (être)、様々な否定表現 (2)		第十二課：過去のことを語る (2)、否定表現 (2)。複合過去 (être)、様々な否定表現 (2)
	この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る (2)、否定表現 (2)」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「複合過去 (être)、様々な否定表現 (2)」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③④に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。中性代名詞（y）。	第十二課：過去のことを語る（２）、否定表現（２）。中性代名詞（y）。	
	この回の到達目標	フランス語表現「過去のことを語る（２）、否定表現（２）」を、聞いて理解し、自ら言うことができる。「中性代名詞（y）」について、理解し、説明することができる。また、これらの項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
14	第七課から第九課の振り返り。	第七課から第九課の振り返り。	
	この回の到達目標	第七課から第九課に学修した事項を理解し、説明することができる。またこの範囲で学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	第十課から第十二課の振り返り。	第十課から第十二課の振り返り。	
	この回の到達目標	第十課から第十二課に学修した事項を理解し、説明することができる。また同様にこの範囲で学修したフランス語表現を聞いて理解し、発音することができる（達成目標①②③④に関連する）。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめおく。	30分
	事後学修	後期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語を使ってA1-1レベルの読み、聞き、話し、書くことができるようになるために、基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話することでフランス語の音声的基盤を修得します。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
発音と会話練習を中心に、作文、文章の読解、聞き取りを学ぶ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業でグループワークで発音と会話を練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材を用いた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句を用いて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 時刻 1	ガイダンス、授業の説明、前期の復習。 時刻 1 時刻を言う・尋ねる	
	この回の到達目標	ガイダンス、授業の説明、前期の復習。 時刻 1 時刻を言う・尋ねる	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	時刻 2	時刻 2 移動手段	
	この回の到達目標	時刻 2 移動手段	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	日常生活 1	日常生活 1 日常生活のスケジュール、代名動詞。近い未来、近い過去	
	この回の到達目標	日常生活 1 日常生活のスケジュール、代名動詞。近い未来、近い過去	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	日常生活 2	日常生活 2 習慣について尋ねる、頻度を表現する。	
	この回の到達目標	日常生活 2 習慣について尋ねる、頻度を表現する。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	行きたい場所 1	行きたい場所 1 したいこと・できることを言う・尋ねる。vouloir, pouvoirの動詞。誰かと会う約束をする、命令・義務の表現。	
	この回の到達目標	行きたい場所 1 したいこと・できることを言う・尋ねる。vouloir, pouvoirの動詞。誰かと会う約束をする、命令・義務の表現。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	行きたい場所 2	行きたい場所 2 場所、道順を言う・尋ねる。命令・義務の表現。前置詞（場所）	
	この回の到達目標	行きたい場所 2 場所、道順を言う・尋ねる。命令・義務の表現。前置詞（場所）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行きたい場所 3	行きたい場所 3 行きたい場所の天候について話す。 ここまでの復習	
	この回の到達目標	行きたい場所 3 行きたい場所の天候について話す。 ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	後期中間試験 過去 1	後期中間試験の実施 過去 1 過去のことを語る。 複合過去(avoir)、否定表現	
	この回の到達目標	後期中間試験の実施 過去 1 過去のことを語る。 複合過去(avoir)、否定表現	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、後期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	後期中間試験解説 過去 2	前期中間試験の返却と解説 過去 2 過去の出来事について質問し、それに答える。複合過去(être)。	
	この回の到達目標	前期中間試験の返却と解説 過去 2 過去の出来事について質問し、それに答える。複合過去(être)。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	過去 3	過去 3 過去形を使って、一日の出来事・週末・休みについて話す。	
	この回の到達目標	過去 3 過去形を使って、一日の出来事・週末・休みについて話す。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	未来 1	未来 1 未来のことを語る。未来形、否定表現	
	この回の到達目標	未来 1 未来のことを語る。未来形、否定表現	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	未来 2	未来 2 話を組み立てて、一日の行動を話す。アドヴァイスを求める/与える。	
	この回の到達目標	未来 2 話を組み立てて、一日の行動を話す。アドヴァイスを求める/与える。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	過去と未来1 ここまでの復習	過去と未来1 過去と未来を使って、フランス語で話そう。 ここまでの復習	
	この回の到達目標	過去と未来1 過去と未来を使って、フランス語で話そう。 ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	後期期末試験 過去と未来2	後期期末試験の実施 過去と未来2 過去と未来を使って、フランス語で話そう。	
	この回の到達目標	後期期末試験の実施 過去と未来2 過去と未来を使って、フランス語で話そう。	
	事前学修	後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。 今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
15	後期期末試験解説、振り返り	後期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	この回の到達目標	後期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。 前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味をもっていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話・反復してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験答案返却時に解説。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語ブルー 1 トリコロール 文法編	高橋信良 他	朝日出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 フランス語の特徴を理解し、音とつづりを一致させることができる。	
	事前学修	指定教材とポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。	30分
	事後学修	指定教材フランス語ブルー1に目を通しておいてください。	30分
2	Leçon0: フランス語の綴り・発音	フランス語の音声・綴りに馴染む。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 発音、綴りを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	0課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
3	Leçon1: 主語人称代名詞	Leçon1: 主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマン。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマンを理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	1課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
4	Leçon2: 動詞avoir	動詞avoir, 不定冠詞、エリズィオン。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞avoir, 不定冠詞、エリズィオンを理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
5	Leçon3: 形容詞	C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
6	Leçon4: 第一群規則動詞	第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Leçon 5: 動詞aller, venir	動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
8	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
	事前学修	0, 1, 2, 3, 4, 5課の復習。	30分
	事後学修	答案で間違えた事項の復習。	30分
9	Leçon 6: 動詞faire	動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
10	Leçon 7: 第二群規則動詞	第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
11	Leçon 8: 直接法複合過去	直接法複合過去、補語人称代名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直接法複合過去、補語人称代名詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
12	Leçon9: 語幹の特殊変化 préférer	語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Leçon 10: 動詞pouvoir, vouloir	動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
14	Leçon11: 比較級、最上級	形容詞の比較級、最上級の作り方。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、比較級、最上級を理解し練習問題を解ける。	
	事前学修	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
15	期末テスト、採点、解説、まとめ。	期末テスト、採点、解説、まとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの文法事項を理解し、練習問題を解ける。	
	事前学修	後半6, 7, 8, 9, 10, 11課の復習。	30分
	事後学修	採点で間違えた事項の復習。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	第三書房	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問や留学相談を授業の前後あるいはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）により受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の説明およびフランス語の挨拶と綴り字の読み方（1）	
	この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. フランス語の挨拶(1)の部分の挨拶ができる 3. 発音と綴り字の読み方(1)の部分を正確に発音できる(達成目標①③に関連する)	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	授業で学んだ事項（フランス語の挨拶と綴り字の読み方）を復習し、小テストの準備をする。	30分
2	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(2) 2. 発音と綴り字の読み方(2) 2. フランス語の名詞/不定冠詞（第1課）（達成目標①②③に関連する）	
	この回の到達目標	フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる（達成目標①②③に関連する）	30分
	事後学修	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と名詞の性数および不定冠詞を整理して、小テストの準備をする	30分
3	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(3) 2. 発音と綴り字の読み方(3) 3. 形容詞(第1課)	
	この回の到達目標	1. フランス語の挨拶(3) 2. 発音と綴り字の読み方(3) 3. 形容詞(第1課)	
	事前学修	1. フランス語の挨拶(3)の部分の挨拶ができる 2. 発音と綴り字の読み方(3)の部分を正確に発音できる 3. 形容詞(第1課)を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	30分
	事後学修	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と形容詞の変化、être動詞を整理して、小テストの準備をする	30分
4	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(4) 2. 発音と綴り字の読み方(4) 3. 主語となる代名詞と動詞 être/提示の表現	
	この回の到達目標	1. フランス語の挨拶(4)の部分の挨拶ができる 2. 発音と綴り字の読み方(4)の部分を正確に発音できる 3. 主語の特徴を理解し、être 動詞を正確に活用できる④提示の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	フランス語の主語を英語の主語と比較して考察する。さらに英語のbe動詞と être動詞の活用を比較する	30分
	事後学修	フランス語の主語とêtre動詞の活用および提示の表現を復習して、小テストに備える	30分
5	文法、訳、文化	1. 発音と綴り字の読み方(5) 2. 第1課の本文/文化面 3. 定冠詞/動詞 avoir（第2課）	
	この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(5)の部分を正確に発音できる 2. 第1課の本文を訳すことができる 3. 文化面の内容を理解し、説明できる 4. 定冠詞を理解し、運用できる 5. 動詞 avoir（第2課）を活用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	第1課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる。英語とフランス語の定冠詞の違いについて確認する。英語のhave動詞とavoir動詞の活用の差について確認する。	30分
	事後学修	第1課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。定冠詞とavoirの活用を復習して、小テストの準備をする。	30分
6	文法、訳、文化	1. voici・voilà/形容詞の位置（第2課） 2. 数詞 3. 第2課の本文/文化面	
	この回の到達目標	1. voici・voilàを運用できる 2. 形容詞の位置（第2課）を覚え、運用できる 3. 数詞を30までいうことができる 4. 第2課の本文を訳すことができる 5. 文化面の内容を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	教科書を見て、英語とフランス語における形容詞の位置の違いを確認する。第2課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる	30分
	事後学修	第2課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。今回の授業で学んだ文法事項を覚え、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文法、訳、文化	1. 第一群規則動詞/疑問文の作り方（第3課） 2. 曜日と月(1)（第3課） 3. 第3課の文化面	
	この回の到達目標	1. 第一群規則動詞を運用できる2. 疑問文（第3課）を作ることができる2. 曜日と月(1)（第3課）を開き取りできる 3. 第3課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	教科書を見て、フランス語の第一群規則動詞とは何か確認する。3種の疑問文について、それぞれどのように異なるのか確認する。第3課の文化面の質問を調べてくる	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
8	文法、訳、文化	1. 疑問形容詞（第3課） 2. 第3課の本文 3. 曜日と月(2)（第3課）	
	この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 第3課の本文を訳すことができる 3. 曜日と月(2)（第3課）の開き取りができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	第3課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。フランス語疑問形容詞を英語whatと比較して、その特徴を確認する	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
9	文法、訳、文化	前期中間試験（第1回～7回までの内容） 1. 動詞 faireの活用（第4課） 2. 所有形容詞	
	この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 第3課の本文を訳すことができる 3. 曜日と月(2)（第3課）の開き取りができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	今までの文法等の事項を復習して、前期中間試験の準備をする	180分
	事後学修	授業で学んだ文法項目等を復習して、小テストの準備をする。	30分
10	文法、訳、文化	中間試験テストの解説 1. 所有形容詞(2)と時間表現（第4課） 2. 第4課の文化面	
	この回の到達目標	1. 中間試験テストの解説を聞いて、間違った部分を理解できる 2. 時間表現（第4課）を正しく運用できる 3. 第4課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	前回に学んだ所有形容詞の復習をする。文化面の質問について調べる	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
11	文法、訳、文化	1. 第4課の本文 2. Il y a...（第5課） 3. 中性代名詞 y	
	この回の到達目標	1. 第4課の本文を訳すことができる 2. Il y a...（第5課）を理解し、運用できる 3. 中性代名詞yを理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	第4課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする	30分
12	文法、訳、文化	1. 指示形容詞（第5課） 2. 位置を示す表現（第5課） 3. 第5課の文化面	
	この回の到達目標	1. 指示形容詞（第5課）を理解し、運用できる 2. 位置を示す表現（第5課）を理解し、運用できる 3. 第5課の文化面（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	フランス語の指示形容詞は、英語では何に相当するか調べる。位置を示す表現の綴り字の読み方を確認する。第5課の文化面の質問について調べてくる	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	文法、訳、文化		1. 疑問詞quiとque（1）（第5課） 2. 中性代名詞 y 3. 第5課の本文	
	この回の到達目標	1. 疑問詞quiとque（1）（第5課）を理解し、運用できる 2. 中性代名詞 y を理解し、運用できる 3. 第5課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	第5課の本文の意味を調べてくる		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする		30分
14	文法、訳、文化		1. 疑問詞quiとque（2）（第5課） 2. 前期文法項目の再確認	
	この回の到達目標	1. 疑問詞quiとque（2）（第5課）を理解し、運用できる 2. 前期文法項目を再確認する中で、それを改めて理解し、運用できるようにする（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前期後半に学んだ文法事項の内容を再確認しておく		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、期末試験の準備をする		30分
15	文法、訳、文化		前期期末試験（第9回～第14回までの内容）とまとめ	
	この回の到達目標	前期後半に学んだ文法、訳について理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前期期末試験の準備をする。		180分
	事後学修	ポータルで公表された前期期末試験の前期末試験解答を確認して、前期の振り返りをする		30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	岡本 健	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヴワラ！	伊勢晃、谷口千賀子	早美出版社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	フランス語の学習の仕方を中心に話す。		
	この回の到達目標	到達目標①に関しての準備を行う。		
	事前学修	アルファベットの音声をCDで聞く。	30分	
	事後学修	アルファベットの音を覚える。	30分	
2	動詞に関する基礎項目	もっとも一般的な動詞活用の説明		
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。		
	事前学修	1 課前半の予習。	30分	
	事後学修	1 課前半の単語を覚える。	30分	
3	動詞に関する基礎項目	動詞活用の練習と作文		
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。		
	事前学修	1 課後半の予習。	30分	
	事後学修	1 課後半の単語を覚える。	30分	
4	疑問文に関する基礎項目	疑問文の3つの形を学ぶ		
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する		
	事前学修	2 課の予習。	30分	
	事後学修	2 課の単語を覚える。	30分	
5	名詞に関する基礎項目	名詞の説明と練習		
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。		
	事前学修	3 課前半の予習。	30分	
	事後学修	3 課前半の単語を覚える。	30分	
6	名詞に関する基礎項目	名詞の性と数にしたがって変化する3つの冠詞を学ぶ		
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。		
	事前学修	3課後半の予習。	30分	
	事後学修	3課後半の単語を覚える。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	avoirに関する基礎項目	avoir(have)の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	4 課前半の予習。	30分
	事後学修	4 課前半の単語を覚える。	30分
8	êtreに関する基礎項目	êtreの説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	4 課後半の予習。	30分
	事後学修	4 課後半の単語を覚える。	30分
9	形容詞に関する基礎項目	形容詞のの説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	5 課の予習。	30分
	事後学修	5 課の単語を覚える。	30分
10	比較級・最上級に関する基礎項目	比較級と最上級の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	6 課の予習。	30分
	事後学修	6 課の単語を覚える。	30分
11	allerに関する基礎項目	aller(go)の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	7 課前半の予習。	30分
	事後学修	7 課前半の単語を覚える。	30分
12	venirに関する基礎項目	venir(come)の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	7 課後半の予習。	30分
	事後学修	7 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	未来と過去の表現に関する基礎項目	近接未来と近接過去の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関し到達目標で①②③④を達成する。	
	事前学修	8 課前半の予習。	30分
	事後学修	8 課前半の単語を覚える。	30分
14	命令形に関する基礎項目	命令形の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	8 課後半の予習。	30分
	事後学修	8 課後半の単語を覚える。	30分
15	前期のまとめ、振り返り	課題の解説	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
	事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、授業時に、返却、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション、及び導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方（１）、フランス語の挨拶	
	この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. アルファベ、綴り字の読み方（１）を正確に発音できる、3、フランス語の挨拶ができる(達成目標①③に関連する)	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第一課：名詞の性、名詞の数、主語の代名詞。	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞	
	この回の到達目標	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第一課：動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	
	この回の到達目標	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第二課：er動詞の直説法現在形、冠詞	er動詞の直説法現在形、冠詞	
	この回の到達目標	er動詞の直説法現在形、冠詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第二課：形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	
	この回の到達目標	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第三課：avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	
	この回の到達目標	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第三課：代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現		代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	
	この回の到達目標	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
8	第四課：所有形容詞		第四課：所有形容詞	
	この回の到達目標	所有形容詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストの準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
9	第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現		第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	
	この回の到達目標	不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
10	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用		第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	
	この回の到達目標	部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
11	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、on		第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞on	
	この回の到達目標	指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞onについて、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
12	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用		第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	
	この回の到達目標	疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現		第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	
	この回の到達目標	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
14	第七課：形容詞（２）		第七課：形容詞（２）	
	この回の到達目標	形容詞（２）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
15	第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞＋a＋不定詞		第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞＋a＋不定詞	
	この回の到達目標	savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞＋a＋不定詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。		30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、授業時に、返却、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション、及び導入講義	授業の説明、アルファベ、綴り字の読み方（１）、フランス語の挨拶		
	この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. アルファベ、綴り字の読み方（１）を正確に発音できる、3、フランス語の挨拶ができる(達成目標①③に関連する)		
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。		30分
2	第一課：名詞の性、名詞の数、主語の代名詞。	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞		
	この回の到達目標	名詞の性、名詞の数、主語の代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
3	第一課：動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）		
	この回の到達目標	動詞êtreの直説法現在、否定形、綴り字の読み方（２）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
4	第二課：er動詞の直説法現在形、冠詞	er動詞の直説法現在形、冠詞		
	この回の到達目標	er動詞の直説法現在形、冠詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
5	第二課：形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現		
	この回の到達目標	形容詞（１）、綴りの読み方（３）、提示表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
6	第三課：avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文		
	この回の到達目標	avoirの直説法現在形、否定のde、疑問文について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第三課：代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現		代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現	
	この回の到達目標	代名詞の強勢形、疑問形容詞、綴りの読み方（４）、avoirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、前期中間試験の準備をする。		30分
8	第四課：所有形容詞		第四課：所有形容詞	
	この回の到達目標	所有形容詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストの準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
9	第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現		第四課：不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現	
	この回の到達目標	不規則動詞aller, venir, vouloir、国名につく前置詞、綴りの読み方（５）、vouloirの表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	試験で間違った箇所をよく見直し、今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
10	第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用		第五課：部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用	
	この回の到達目標	部分冠詞、近い未来、近い過去、pouvoir, prendre, attendreの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
11	第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、on		第五課：指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞on	
	この回の到達目標	指示形容詞、疑問代名詞、pouvoirの表現、代名詞onについて、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
12	第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用		第六課：疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用	
	この回の到達目標	疑問副詞、前置詞à, deの定冠詞の縮約、devoirの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現	
	この回の到達目標	第六課：命令形、ir動詞の直説法現在形、命令の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
14	第七課：形容詞(2)	第七課：形容詞(2)	
	この回の到達目標	形容詞(2)について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	第七課：savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞	
	この回の到達目標	savoir, voir, mettreの活用、数量表現、名詞+a+不定詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎文法Bと続けて履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書の内容に従って文法事項を説明し、CD等で発音を確認しながら授業を進める。 学修内容を確認する練習問題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や確認問題をグループワークで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムやClassroomを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マ・グラメール（三訂版・CD付）	小野ゆり子・村松マリ＝エマニュエル	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）またはClassroomから受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 第1課 アルファベ	授業の進め方や課題への取り組み方などについて説明する。それによって受講生は今後の授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。 アルファベの発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、アルファベに含まれるフランス語の基本的な発音ができるようになる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する。 ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を整理し、アルファベの読みを暗記する。課題を提出する。	30分
2	第1課 つづり字の読み方	フランス語の発音規則を学ぶ。それによって受講生は基礎的な母音と子音の発音が理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、基礎的な母音と子音の発音ができるようになる。	
	事前学修	教科書7～9ページの内容に目を通しておく。CD等で単語の発音を確認する。	30分
	事後学修	CD等を活用し、発音練習をする。課題を提出する。	30分
3	第1課 フランス語の読み方の規則	フランス語の発音の規則や特徴的な語群の読み方を学ぶ。それによって受講生は基本的な語群の読みができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、フランス語に特有のつづり字と発音の関係を理解し、発音できるようになる。	
	事前学修	教科書9～10ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。	30分
	事後学修	CD等を活用し、教科書の単語の読みを練習する。課題を提出する。	30分
4	第2課 名詞と冠詞	男性名詞と女性名詞、名詞につく冠詞の用法を学ぶ。それによって受講生は名詞および冠詞の特徴を理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、名詞と冠詞についての文法規則を理解し、説明できるようになる。単語の発音ができるようになる。	
	事前学修	教科書12ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
5	第2課の復習 第3課 être動詞	1課の内容を復習し、名詞と冠詞の用法を確認する。また、être動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生はêtre動詞を用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、être動詞を使った文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書14ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。	30分
	事後学修	être動詞の活用を暗記し、CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
6	第3課 動詞 avoir 第4課 第1群規則動詞	動詞avoir・第1群規則動詞の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は自分の持ち物や周囲のものについてフランス語で表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、avoirや第1群規則動詞を含む文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書14～16ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。	30分
	事後学修	動詞の活用を暗記し、CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第4課 第2群規則動詞・形容詞		第2群規則動詞および形容詞の用法について学ぶ。それによって受講生はこれらの文法事項を用いた表現を理解することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第2群規則動詞や形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書16ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	授業内容を整理し、CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
8	Civilisation フランスについて 第5課 基本文型・否定形		フランスについての知識を整理し、フランス語の基本文型と否定文の作り方を学ぶ。それによって受講生はフランスの地理や文化の一端に触れたり、否定文を作れたりするようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、さまざまな文型の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書18～20ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	基本文型と否定文の作り方を暗記し、CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
9	第6課 疑問文・応答文、所有形容詞		疑問文と応答文の作り方と所有形容詞を学ぶ。それによって受講生は他者に質問をしたり、誰のものか言えるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問文・所有形容詞の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書22ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	授業内容を整理し、所有形容詞を暗記する。CD等で発音を練習する。課題を提出する。		30分
10	第6課 所有形容詞の復習 第7課 指示形容詞		所有形容詞の復習および指示形容詞の形と用法を学ぶ。それによって受講生はこれらの形容詞を用いた表現が理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有形容詞や指示形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書22～24ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	授業内容を整理し、所有形容詞・指示形容詞の形と用法を発音とともに暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
11	第7課 特殊な女性形・複数形を持つ形容詞・名詞		特殊な女性形・複数形を持つ形容詞や名詞を学ぶ。それによって受講生はこれらの特殊な形容詞や名詞を用いた表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特殊な女性形・複数形を持つ形容詞や名詞が含まれる文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書24ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	授業内容を整理し、特殊な女性形を持つ形容詞や名詞の形を暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
12	第8課 aller, venirの活用 近接未来と近接過去 冠詞の縮約		aller, venirの活用と用法および冠詞の縮約を学ぶ。それによって受講生は近い未来や過去の表現を理解したり、行き来を表す文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、aller, venir が含まれる文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書26ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	授業内容を整理し、動詞の活用と冠詞の縮約の規則を暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Civilisation フランコフォニー 第9課 疑問代名詞	フランス語圏に関する知識と疑問代名詞を学ぶ。それによって受講生はフランス語が世界中で用いられることを知り、疑問代名詞を用いた質問が理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問代名詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書28～30ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、フランコフォニーについての知識をまとめ、疑問代名詞の意味と用法を暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
14	第9課 疑問副詞 第1～9課のまとめ	疑問副詞を学ぶ。それによって受講生は疑問詞を用いた表現を正しく理解し、説明できるようになる。第9課までの文法知識を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書30ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。	30分
	事後学修	授業内容を整理し、疑問点を確認する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
	事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	60分
	事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	第三書房	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問や留学相談を授業の前後あるいはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）により受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の説明およびフランス語の挨拶と綴り字の読み方（1）	
	この回の到達目標	1. 授業の説明を把握し、理解できる 2. フランス語の挨拶(1)の部分の挨拶ができる 3. 発音と綴り字の読み方(1)の部分を正確に発音できる(達成目標①③に関連する)	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	授業で学んだ事項（フランス語の挨拶と綴り字の読み方）を復習し、小テストの準備をする。	30分
2	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(2) 2. 発音と綴り字の読み方(2) 2. フランス語の名詞/不定冠詞（第1課）（達成目標①②③に関連する）	
	この回の到達目標	フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	フランス語の名詞の特徴を理解し、不定冠詞・定冠詞を運用できる（達成目標①②③に関連する）	30分
	事後学修	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と名詞の性数および不定冠詞を整理して、小テストの準備をする	30分
3	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(3) 2. 発音と綴り字の読み方(3) 3. 形容詞(第1課)	
	この回の到達目標	1. フランス語の挨拶(3) 2. 発音と綴り字の読み方(3) 3. 形容詞(第1課)	
	事前学修	1. フランス語の挨拶(3)の部分の挨拶ができる 2. 発音と綴り字の読み方(3)の部分を正確に発音できる 3. 形容詞(第1課)を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	30分
	事後学修	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と形容詞の変化、être動詞を整理して、小テストの準備をする	30分
4	挨拶、発音、文法	1. フランス語の挨拶(4) 2. 発音と綴り字の読み方(4) 3. 主語となる代名詞と動詞 être/提示の表現	
	この回の到達目標	1. フランス語の挨拶(4)の部分の挨拶ができる 2. 発音と綴り字の読み方(4)の部分を正確に発音できる 3. 主語の特徴を理解し、être 動詞を正確に活用できる④提示の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	フランス語の主語を英語の主語と比較して考察する。さらに英語のbe動詞と être動詞の活用を比較する	30分
	事後学修	フランス語の主語とêtre動詞の活用および提示の表現を復習して、小テストに備える	30分
5	文法、訳、文化	1. 発音と綴り字の読み方(5) 2. 第1課の本文/文化面 3. 定冠詞/動詞 avoir（第2課）	
	この回の到達目標	1. 発音と綴り字の読み方(5)の部分を正確に発音できる 2. 第1課の本文を訳すことができる 3. 文化面の内容を理解し、説明できる 4. 定冠詞を理解し、運用できる 5. 動詞 avoir（第2課）を活用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	第1課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる。英語とフランス語の定冠詞の違いについて確認する。英語のhave動詞とavoir動詞の活用の差について確認する。	30分
	事後学修	第1課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。定冠詞とavoirの活用を復習して、小テストの準備をする。	30分
6	文法、訳、文化	1. voici・voilà/形容詞の位置（第2課） 2. 数詞 3. 第2課の本文/文化面	
	この回の到達目標	1. voici・voilàを運用できる 2. 形容詞の位置（第2課）を覚え、運用できる 3. 数詞を30までいうことができる 4. 第2課の本文を訳すことができる 5. 文化面の内容を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	教科書を見て、英語とフランス語における形容詞の位置の違いを確認する。第2課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる	30分
	事後学修	第2課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。今回の授業で学んだ文法事項を覚え、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文法、訳、文化	1. 第一群規則動詞/疑問文の作り方（第3課） 2. 曜日と月(1)（第3課） 3. 第3課の文化面	
	この回の到達目標	1. 第一群規則動詞を運用できる2. 疑問文（第3課）を作ることができる2. 曜日と月(1)（第3課）を開き取りできる 3. 第3課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	教科書を見て、フランス語の第一群規則動詞とは何か確認する。3種の疑問文について、それぞれどのように異なるのか確認する。第3課の文化面の質問を調べてくる	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
8	文法、訳、文化	1. 疑問形容詞（第3課） 2. 第3課の本文 3. 曜日と月(2)（第3課）	
	この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 第3課の本文を訳すことができる 3. 曜日と月(2)（第3課）の開き取りができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	第3課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。フランス語疑問形容詞を英語whatと比較して、その特徴を確認する	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
9	文法、訳、文化	前期中間試験（第1回～7回までの内容） 1. 動詞 faireの活用（第4課） 2. 所有形容詞	
	この回の到達目標	1. 疑問形容詞（第3課）を理解し、運用できる 2. 第3課の本文を訳すことができる 3. 曜日と月(2)（第3課）の開き取りができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	今までの文法等の事項を復習して、前期中間試験の準備をする	180分
	事後学修	授業で学んだ文法項目等を復習して、小テストの準備をする。	30分
10	文法、訳、文化	中間試験テストの解説 1. 所有形容詞(2)と時間表現（第4課） 2. 第4課の文化面	
	この回の到達目標	1. 中間試験テストの解説を聞いて、間違った部分を理解できる 2. 時間表現（第4課）を正しく運用できる 3. 第4課の文化面を理解し、説明できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	前回に学んだ所有形容詞の復習をする。文化面の質問について調べる	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
11	文法、訳、文化	1. 第4課の本文 2. Il y a...（第5課） 3. 中性代名詞 y	
	この回の到達目標	1. 第4課の本文を訳すことができる 2. Il y a...（第5課）を理解し、運用できる 3. 中性代名詞yを理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	第4課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする	30分
12	文法、訳、文化	1. 指示形容詞（第5課） 2. 位置を示す表現（第5課） 3. 第5課の文化面	
	この回の到達目標	1. 指示形容詞（第5課）を理解し、運用できる 2. 位置を示す表現（第5課）を理解し、運用できる 3. 第5課の文化面（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	フランス語の指示形容詞は、英語では何に相当するか調べる。位置を示す表現の綴り字の読み方を確認する。第5課の文化面の質問について調べてくる	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	文法、訳、文化		1. 疑問詞quiとque（1）（第5課） 2. 中性代名詞 y 3. 第5課の本文	
	この回の到達目標	1. 疑問詞quiとque（1）（第5課）を理解し、運用できる 2. 中性代名詞 y を理解し、運用できる 3. 第5課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	第5課の本文の意味を調べてくる		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする		30分
14	文法、訳、文化		1. 疑問詞quiとque（2）（第5課） 2. 前期文法項目の再確認	
	この回の到達目標	1. 疑問詞quiとque（2）（第5課）を理解し、運用できる 2. 前期文法項目を再確認する中で、それを改めて理解し、運用できるようにする（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前期後半に学んだ文法事項の内容を再確認しておく		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、期末試験の準備をする		30分
15	文法、訳、文化		前期期末試験（第9回～第14回までの内容）とまとめ	
	この回の到達目標	前期後半に学んだ文法、訳について理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前期末試験の準備をする。		180分
	事後学修	ポータルで公表された前期末試験の前期末試験解答を確認して、前期の振り返りをする		30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、発音・作文・読解・翻訳を練習します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で、文法の練習問題を通じてグループワークで発音と会話を練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、及び導入講義。アルファベ、綴り字の読み方、フランス語での基本的な挨拶、自己紹介。	
	この回の到達目標	ガイダンス、及び導入講義。アルファベ、綴り字の読み方、フランス語での基本的な挨拶、自己紹介。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	自己紹介	自己紹介 名詞の性・数、定冠詞・不定冠詞、形容詞。	
	この回の到達目標	自己紹介 名詞の性・数、定冠詞・不定冠詞、形容詞。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	êtreの動詞	êtreの動詞の直説法現在形、否定形。主語人称代名詞。疑問文。	
	この回の到達目標	êtreの動詞の直説法現在形、否定形。主語人称代名詞。疑問文。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	er動詞	er動詞の直説法現在形、代名動詞。	
	この回の到達目標	er動詞の直説法現在形、代名動詞。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	行く・来るの動詞	行く・来るの動詞。部分冠詞。	
	この回の到達目標	行く・来るの動詞。部分冠詞。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	提示表現形容詞	提示表現形容詞、人・物を描写する。	
	この回の到達目標	提示表現形容詞、人・物を描写する。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	所有形容詞	所有形容詞、人・物を描写する。	
	この回の到達目標	所有形容詞、人・物を描写する。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	前期中間試験 avoirの動詞	前期中間試験の実施 avoirの直説法現在形、否定形、否定のde、疑問文。持つもの、感覚。	
	この回の到達目標	前期中間試験の実施 avoirの直説法現在形、否定形、否定のde、疑問文。持つもの、感覚。	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	前期中間試験解説 疑問文	前期中間試験の返却と解説 疑問文。何・誰を尋ねる、それに答える。	
	この回の到達目標	前期中間試験の返却と解説 疑問文。何・誰を尋ねる、それに答える。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	場所の前置詞	場所の前置詞、Il y a。	
	この回の到達目標	場所の前置詞、Il y a。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	aimer動詞 vouloir, pouvoirの動詞。	aimer動詞の直説法現在形、否定形、疑問文。vouloir, pouvoirの動詞。	
	この回の到達目標	aimer動詞の直説法現在形、否定形、疑問文。vouloir, pouvoirの動詞。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	ir動詞 近い未来、近い過去	ir動詞の直説法現在形、近い未来、近い過去。部分冠詞。	
	この回の到達目標	ir動詞の直説法現在形、近い未来、近い過去。部分冠詞。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	形容詞の比較級、最上級の作り方。	形容詞の比較級、最上級の作り方。 ここまでの復習	
	この回の到達目標	形容詞の比較級、最上級の作り方。 ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	前期期末試験 形容詞の比較級、最上級の作り方。	前期期末試験の実施 形容詞の比較級、最上級の作り方。	
	この回の到達目標	前期期末試験の実施 形容詞の比較級、最上級の作り方。	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。 今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
15	前期期末試験解説、振り返り	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	この回の到達目標	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	下田 隆之	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面による演習形式。文法事項についての説明を聞いてから、発音と簡単な会話練習をして、練習問題に取り組みます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語のごく基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に答えます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ラ・フォーレ 新訂版 ーフランス語基礎文法ー	森繁	朝日出版社	最新	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に教室で質問・相談に答えます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション／フランス語第一歩	授業の説明、簡単なあいさつとアルファベの練習。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	フランス語を学ぶ理由と目標について考える。	30分
	事後学修	あいさつとアルファベを覚える。	30分
2	アルファベと綴り字記号／句読記号／数 1 ～20	アルファベ（ABC）と綴り字記号・句読記号・数 1 ～20について学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	あいさつとアルファベを繰り返し覚える。身の回りにあるフランス語を発見する。	30分
	事後学修	教科書 leçon 1 復習	30分
3	綴り字の読み方	綴り字の読み方を学び、さまざまな単語を読んでみる。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	アルファベとあいさつ、数 1 ～20を暗記しておく。	30分
	事後学修	綴り字の読み方の復習。身の回りにあるフランス語を読んでみる。	30分
4	名詞の性と数／冠詞／提示表現 I	名詞の性と数・冠詞・提示表現を学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 2 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 2 復習	30分
5	主語人称代名詞／動詞 être と avoir の直説法現在／提示表現 II	主語人称代名詞・動詞 être と avoir の直説法現在・提示表現 II について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 3 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 3 復習	30分
6	形容詞の性数一致／否定形の作り方	形容詞の性数一致・否定形の作り方を学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 4 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 4 復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第1群規則動詞／疑問文と答え方	第1群規則動詞・疑問文と答え方について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 5 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 5 復習	30分
8	第1群規則動詞の例外／avoirの成句／その他の否定表現①／数21～100	第1群規則動詞の例外・avoirの成句・その他の否定表現①・数21～100について学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 supplément 1 予習	30分
	事後学修	教科書 supplément 1 復習	30分
9	指示形容詞／所有形容詞／第2群規則動詞	指示形容詞・所有形容詞・第2群規則動詞について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 6 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 6 復習	30分
10	疑問形容詞／付加形容詞の位置／形容詞の女性形の例外／名詞・形容詞の複数形の例外	疑問形容詞・付加形容詞の位置・形容詞の女性形の例外・名詞と形容詞の複数形の例外について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 7 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 7 復習	30分
11	ここまでのまとめ	教科書 leçon 1 ～ leçon 7 の内容のまとめ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 1 ～ leçon 7 の内容の復習。	30分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分
12	aller, venir の活用と近接未来・近接過去／à, de と定冠詞の縮約／中性代名詞 y	aller, venir の活用と近接未来および近接過去・à, de と定冠詞の縮約・中性代名詞 yについて学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 8 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 8 復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	疑問代名詞 I／疑問副詞	疑問代名詞 I・疑問副詞について学び、練習問題を解く	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 9 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 9 復習	30分
14	期末試験とまとめ	期末試験	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 1 ～ leçon 9 の内容の復習。	90分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分
15	期末試験解説と振り返り	期末試験を返却し、解説する。今期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 1 ～ leçon 9 の内容の復習。	30分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味をもっていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、繰り返し発話してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点答案返却の後で解説・質問受付をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語ブルー 2 トリコロール 文法編	高橋信良 他	朝日出版	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、授業の方針・進め方を理解することができる。	
	事前学修	前期教科書のフランス語ブルー1の復習をして、指定教材フランス語ブルー2とポケット版ではない学習辞書を用意してください。(30分)	30分
	事後学修	指定教材フランス語ブルー2に目を通しておいてください。(30分)	30分
2	Leçon1:動詞connaître, savoir、	動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que, dont, où、中性代名詞 en, y, leの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que, dont, où、中性代名詞 en, y, leを理解し練習問題を解けることができる。	
	事前学修	1課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
3	Leçon2:動詞mettreとprendre	動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
4	Leçon3:動詞devoirとrendre	動詞devoirとrendre、非人称代名詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞devoirとrendre、非人称代名詞を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
5	Leçon4:動詞direとécrire	動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフの用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
6	Leçon5:動詞croireとvoir	動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Leçon 6:直説法大過去	直説法大過去、補語人称代名詞の語順。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直説法大過去、補語人称代名詞の語順を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
8	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、これまでの範囲の文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	1, 2, 3, 4, 5, 6課の復習。	30分
	事後学修	答案で間違えた事項の復習。	30分
9	Leçon 7:直説法単純未来	直説法単純未来、直説法前未来の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、直説法単純未来、直説法前未来を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
10	Leçon 8:関係代名詞lequel	関係代名詞lequel、接続詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、関係代名詞lequel、接続詞を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
11	Leçon 9:条件法	条件法現在、条件法過去の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、条件法現在、条件法過去を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
12	Leçon10:間接話法	間接話法、感嘆文の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、間接話法、感嘆文を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Leçon 11:接続法現在	接続法現在の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 接続法現在を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
14	Leçon12:接続法過去	接続法過去の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 接続法過去を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	12課の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。	30分
15	期末テスト、採点、解説、まとめ。	期末テスト、採点、解説、まとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③の行動の前提として、 発音、綴りを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	後半7, 8, 9, 10, 11, 12課の復習。	30分
	事後学修	採点で間違えた事項の復習。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	第三書房	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問や留学相談を、授業の前後またはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	文法、訳、文化		1. 動詞 aller/近接未来（第6課） 2. Bilan1-1(4,5,6)/Bilan1-2(5,6)の答え合わせ（pp. 34-37）	
	この回の到達目標	1. 動詞 aller/近接未来（第6課）を理解し、運用できる 2. Bilan1-1(4,5,6)/Bilan1-2(5,6)に解答できる（pp. 34-37）（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	15回目に課した課題に解答する。後期から受講する場合は、今週に渡した課題に解答して2週間後に持参すること		120分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
2	文法、訳、文化		1. 動詞 venir/近接過去（第6課） 2. 疑問副詞（第6課） 3. 第6課の文化面	
	この回の到達目標	1. 動詞 venir/近接過去（第6課）を理解し、運用できる 2. 疑問副詞（第6課）の意味を把握し、聞き取りできる 3. 第6課の文化面の内容を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	動詞venirの活用表を見て、活用の特徴と読み方を確認する。フランス語の疑問副詞の綴り字の読み方を確認する。第6課の文化面の質問について調べてくる		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
3	文法、訳、文化		1. 前置詞 à, deと定冠詞の縮約 2. 第6課の本文	
	この回の到達目標	1. 前置詞 à, deと定冠詞の縮約 を理解し、運用できる 2. 第6課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前置詞 à, deの意味を辞書で調べておく。定冠詞の復習をしておく。第6課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
4	文法、訳、文化		1. 部分冠詞/動詞 pouvoir（第7課） 2. 数詞(1)（第7課） 3. 第7課の文化面	
	この回の到達目標	1. 部分冠詞とは何か理解し、運用できる 2. 動詞 pouvoir（第7課）を理解し、運用できる 3. 数詞(1)（第7課）の聞き取りができる 4. 第7課の文化面の内容を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	フランス語の部分冠詞とは何か、確認しておく。動詞pouvoirの活用の読み方を確認する。第7課の文化面の質問について調べておく		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
5	文法、訳、文化		1. 比較級・最上級/動詞 vouloir（第7課） 2. 数詞(2)（第7課） 3. 第7課の本文	
	この回の到達目標	1. 比較級・最上級を理解し、運用できる 2. 動詞 vouloir（第7課）を理解し、運用できる 3. 数詞(2)（第7課）を聞き取ることができる 4. 第7課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	動詞vouloirの活用の読み方を確認する。前回到学んだ数詞の復習をする。第7課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
6	文法、訳、文化		1. 目的補語人称代名詞（水）（1）（第8課） 2. 天気に関する表現（第8課） 3. 第8課の文化面	
	この回の到達目標	1. 目的補語人称代名詞（1）（第8課）を理解し、運用できる 2. 天気に関する表現（第8課）を聞き取ることができる 3. 第8課の文化面を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	目的補語人称代名詞とは何か、英語の知識を利用して調べておく。動詞faireの復習をしておく。第8課の文化面の質問について調べておく		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文法、訳、文化		1. 目的補語主語人称代名詞（２）（第８課） 2. 複合過去（１）（第８課） 3. 第８課の本文	
	この回の到達目標	1. 目的補語主語人称代名詞（２）（第８課）を理解し、運用できる 2. 複合過去（１）（第８課）を理解し、運用できる 3. 第８課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前回学んだ目的補語人称代名詞の復習をする。第８課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する		30分
8	文法、訳、文化		後期中間試験（第16回～22回までの内容） 1. 複合過去（２）（第８課） 2. 否定文の表現	
	この回の到達目標	1. 後期中間試験（第15回～22回までの内容）を理解し、正解できる 2. 複合過去（２）（第８課）を理解し、運用できる 3. 否定文の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	後期中間試験の準備をする		180分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする		30分
9	文法、訳、文化		後記中間テストの解説 1. 代名動詞（直説法現在）（１）（第９課） 2. 関係代名詞 quiとque（第10課）	
	この回の到達目標	1. 後記中間テストの解説 を聞き、自分の不正解の部分を理解できる 2. 代名動詞（直説法現在（第９課））を理解し、運用できる 2. 関係代名詞 quiとque（第10課）の用法を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
10	文法、訳、文化		1. 代名動詞（２）/命令法（第９課） 2. 第10課の文化面	
	この回の到達目標	1. 代名動詞（２）を理解し、運用できる 2. 命令法（第９課）を理解し、運用できる 3. 第10課の文化面を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前回学んだ代名動詞の代名詞部分と複合過去（直説法）の êtreを助動詞にとるかたちを復習しておく。第10課の文化面の質問を調べておく		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
11	文法、訳、文化		1. ジェロンディフ（第９課） 2. 半過去（直説法）（第10課） 3. 第10課の本文	
	この回の到達目標	1. ジェロンディフ（第９課）を理解し、運用できる 2. 半過去（直説法）（第10課）を理解し、運用できる 3. 第10課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	avoir, faire, aller, venir, finir, vouloir, pouvoirの直説法現在形（主語がnous）の場合の活用を確認しておく。第10課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
12	文法、訳、文化		1. 単純未来（直説法）（第11課） 2. 第11課の文化面	
	この回の到達目標	1. 単純未来（直説法）（第11課）を理解し、運用することができる 2. 第11課の文化面を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	単純未来（直説法）が表す意味について確認しておく。avoirの直説法現在形の活用を確認しておく。第11課の文化面の質問について調べる		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法、訳、文化	1. 条件法現在（第11課） 2. 非人称表現 Il y a(第12課) 3. 第11課の本文	
	この回の到達目標	1. 条件法現在（第11課）を理解し、運用できる2. 非人称表現 Il y a(第12課）を理解し、運用できる 3. 第11課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	半過去形（直説法）と単純未来形（直説法）の語幹と語尾を確認して覚えておく。第11課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認しておく	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
14	文法、訳、文化	1. 接続法現在（第12課） 2. 第12課の文化面	
	この回の到達目標	1. 接続法現在（第12課）を理解し、運用できる 2. 第12課の文化面を理解し、言語運用に役立てることができる(達成目標①②③に関連する)	
	事前学修	今までに学んだ動詞の直説法現在の活用を確認する。第12課の文化面の質問について調べておく	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
15	文法、訳、文化	後期期末試験（第24回～29回までの内容）とまとめ。	
	この回の到達目標	後期期末試験（第24回～29回までの内容）に正解することができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	後期末試験の準備をする	180分
	事後学修	ポータルで公表された後期末試験の前期末試験解答を確認して、後期の振り返りをする	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	岡本 健	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
とくにない。

【授業方法】
演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ヴワラ！	伊勢晃、谷口千賀子	早美出版社		教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	過去の表現に関する基礎項目	avoirを用いた複合過去の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	9 課の予習。	30分
	事後学修	9 課の単語を覚える。	30分
2	過去の表現に関する基礎項目	êtreを用いた複合過去の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 0 課の予習。	30分
	事後学修	1 0 課の単語を覚える。	30分
3	目的語に関する基礎項目	直接目的と間接目的の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 1 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 1 課前半の単語を覚える。	30分
4	強勢形に関する基礎項目	強勢形の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分
5	代名動詞に関する基礎項目	代名動詞（現在）の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 2 課前半の予習。	30分
	事後学修	1 2 課前半の単語を覚える。	30分
6	代名動詞に関する基礎項目	代名動詞（過去）の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 2 課後半の予習。	30分
	事後学修	1 2 課後半の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	過去の表現に関する基礎項目	半過去の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 3 課の予習。	30分
	事後学修	1 3 課の単語を覚える。	30分
8	疑問詞に関する基礎項目	疑問詞を用いた文章を作り、それに応える	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 4 課の予習。	30分
	事後学修	1 4 課の単語を覚える。	30分
9	関係代名詞に関する基礎項目	関係代名詞の説明との練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 5 課の予習。	30分
	事後学修	1 5 課の単語を覚える。	30分
10	中性代名詞に関する基礎項目	中性代名詞の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 6 課の予習。	30分
	事後学修	1 6 課の単語を覚える。	30分
11	未来形に関する基礎項目	単純未来の作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 7 課の予習。	30分
	事後学修	1 7 課の単語を覚える。	30分
12	ジェロンディフに関する基礎項目	ジェロンディフの作り方の説明と練習	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	1 8 課の予習。	30分
	事後学修	1 8 課の単語を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	条件法に関する基礎項目	条件法の作り方の説明	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	19課の予習。	30分
	事後学修	19課の単語を覚える。	30分
14	接続法に関する基礎項目	接続法の作り方の説明	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	20課の予習。	30分
	事後学修	20課の単語を覚える。	30分
15	後期のまとめ、振り返り	課題の解説	
	この回の到達目標	本項目の内容に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	事前に配布されたプリントの予習。	30分
	事後学修	プリントの単語を覚える。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、授業時に、返却、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	後期オリエンテーション 第八課：目的補語人称代名詞		授業の説明、目的補語人称代名詞	
	この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。目的補語人称代名詞について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。		30分
2	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。		第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	
	この回の到達目標	非人称構文、connaître, faire, écrireの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
3	第九課：代名動詞		第九課：代名動詞	
	この回の到達目標	代名動詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
4	第九課：よく使う代名動詞、日常の活動の表現		よく使う代名動詞、日常の活動の表現	
	この回の到達目標	よく使う代名動詞、日常の活動の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
5	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級		第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	
	この回の到達目標	直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
6	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞		第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	
	この回の到達目標	特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去		第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	
	この回の到達目標	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
8	第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞		第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	
	この回の到達目標	代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストの準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
9	第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、		第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	
	この回の到達目標	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
10	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現		第十二課：直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現	
	この回の到達目標	直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
11	第十三課：関係代名詞		第十三課：関係代名詞	
	この回の到達目標	関係代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
12	第十三課：強調構文、時の表現		第十三課：強調構文、時の表現	
	この回の到達目標	強調構文、時の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	
	この回の到達目標	条件法現在形、条件法過去形について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
14	第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	
	この回の到達目標	条件法の用法、時の表現（前置詞など）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	
	この回の到達目標	現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法学修を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる								1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、授業時に、返却、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヴァズィ！（改訂版）』	田辺保子、西部由里子	駿河台出版社	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：20～13：00（本館 1910研究室） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期オリエンテーション 第八課：目的補語人称代名詞	授業の説明、目的補語人称代名詞	
	この回の到達目標	授業の説明を把握し、理解できる。目的補語人称代名詞について、理解し、説明することができる。また、この文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	フランスの人口、面積、緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項の復習をして、小テストの準備をする。	30分
2	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	第八課：非人称構文、connaître, faire, écrireの活用。	
	この回の到達目標	非人称構文、connaître, faire, écrireの活用について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
3	第九課：代名動詞	第九課：代名動詞	
	この回の到達目標	代名動詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
4	第九課：よく使う代名動詞、日常の活動の表現	よく使う代名動詞、日常の活動の表現	
	この回の到達目標	よく使う代名動詞、日常の活動の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
5	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	第十課：直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級	
	この回の到達目標	直説法単純未来、形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
6	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	第十課：特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	
	この回の到達目標	特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去		第十一課：直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去	
	この回の到達目標	直説法複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
8	第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞		第十一課：代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞	
	この回の到達目標	代名動詞の複合過去、中性代名詞en、よく使う接続詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストの準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
9	第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、		第十二課：直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去、	
	この回の到達目標	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
10	第十二課：直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現		第十二課：直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現	
	この回の到達目標	直説法大過去、中性代名詞y、le、さまざまな否定表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
11	第十三課：関係代名詞		第十三課：関係代名詞	
	この回の到達目標	関係代名詞について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分
12	第十三課：強調構文、時の表現		第十三課：強調構文、時の表現	
	この回の到達目標	強調構文、時の表現について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。		
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して(仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど)、整理して、疑問点をまとめておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	第十四課：条件法現在形、条件法過去形	
	この回の到達目標	条件法現在形、条件法過去形について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
14	第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	第十四課：条件法の用法、時の表現（前置詞など）	
	この回の到達目標	条件法の用法、時の表現（前置詞など）について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだ事項をよく理解し、さらに覚え、小テストの準備をする。	30分
15	第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	第十五課：現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致	
	この回の到達目標	現在分詞、ジェロンディフ、受動態、過去分詞の一致について、理解し、説明することができる。また、それら文法項目を利用したフランス語を発音し、日本語訳することができる(達成目標①②③に関連する)。	
	事前学修	小テストのための準備をするとともに、この授業で進む箇所を予習して（仏語を写す、CDを聞く、発音する、問題を解くなど）、整理して、疑問点をまとめておく。	30分
	事後学修	今回の箇所を含めて前期全体の学修を振り返る。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	藤井 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし。フランス語基礎文法Aから引き続き履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書の内容に従って文法事項を説明し、CD等で発音を確認しながら授業を進める。 学修内容を確認する練習問題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発音練習や確認問題をグループワークで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルシステムやClassroomを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マ・グラメール（三訂版・CD付）	小野ゆり子・村松マリ＝エマニュエル	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）またはClassroomから受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第1～9課のまとめ 第10課 疑問形容詞		第1～9課で学んだ文法事項を復習する。また、疑問形容詞の用法を学ぶ。それによって受講生はこれまでの学修内容を復習し、疑問形容詞を用いた文が理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第9課までの学修内容を復習する。また、疑問形容詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	第1～9課の内容を見直し、不明な点について質問を準備する。 教科書32ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	疑問形容詞を用いた文の用法を確認し、CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
2	第10課 比較級・最上級		形容詞・副詞の比較級と最上級の作り方を学ぶ。それによって受講生は2つ以上のものを比べる表現や最上級表現を理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較級・最上級を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書32ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	比較級・最上級の作り方を確認し、CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
3	第11課 命令法 非人称構文		命令形および非人称構文を学ぶ。それによって受講生は他者に指示をしたり、天候や時間などを示す表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、命令形や非人称構文を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書34ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	命令文の作り方を確認し、非人称構文を暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
4	第12課 過去分詞 複合過去		過去分詞および過去の行為や出来事を表現する複合過去について学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去分詞の作り方や複合過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書36ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	過去分詞の作り方を暗記し、複合過去の文の構造を確認する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
5	第12課 複合過去 Civilisation フランスの歴史		過去の行為や出来事を表現する複合過去について学ぶ。それによって受講生は過去の出来事を表現することができるようになる。また、フランス史の大まかな流れを学ぶことでフランスに関する知識を深めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、複合過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書36～39ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	複合過去の形と用法を復習する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
6	第13課 人称代名詞の目的補語形 強勢形		人称代名詞の目的補語形と強勢形を学ぶ。それによって受講生はこれらの人称代名詞を用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、目的語人称代名詞や強勢形を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書40ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	人称代名詞の目的補語形と強勢形を暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第14課 複合過去と目的補語人称代名詞 過去分詞の一致		目的補語人称代名詞を含む複合過去の文を学ぶ。それによって受講生はこれらの文法事項を用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、目的補語人称代名詞を含む複合過去の文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書42ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	目的補語人称代名詞を含む複合過去の文の語順をよく確認し、暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
8	第15課 関係代名詞 強調構文		基本的な4種類の関係代名詞の用法および強調構文の作り方を学ぶ。それによって受講生は関係代名詞や強調構文を用いた文を理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、関係代名詞や強調構文を用いた表現の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書44ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	関係代名詞の使い分けを復習し、強調構文の語順を暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
9	第16課 代名動詞		代名動詞の用法を学ぶ。それによって受講生は代名動詞を用いて日常生活を描写することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代名動詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書46ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	代名動詞の活用と語順を確認し、例文を暗記する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
10	第17課 単純未来 中性代名詞		単純未来の活用と用法、3種類の中性代名詞の用法を学ぶ。それによって受講生は将来のことや未来の予定を表現したり、正しい中性代名詞を選択し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単純未来や中性代名詞を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書48ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	単純未来の活用を暗記し、中性代名詞の用法を覚える。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
11	第18課 半過去		半過去の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は半過去と複合過去の違いを理解し、使い分けられるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、半過去を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書52ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	半過去の用法と活用を覚える。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分
12	第19課 受動態 ジェロンドィフ		受動態およびジェロンドィフの用法を学ぶ。それによって受講生は受動態やジェロンドィフを用いた文を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受動態やジェロンドィフを用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。		
	事前学修	教科書54ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。		30分
	事後学修	受動態やジェロンドィフの形を覚える。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第20課 条件法現在	条件法現在の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は事実に反する仮定を用いた表現や、語調緩和表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、条件法現在を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書56ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。	30分
	事後学修	条件法の活用を暗記し、用法を確認する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
14	第21課 接続法現在	接続法現在の活用と用法を学ぶ。それによって受講生は願望や推測などを示す表現を理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続法現在を用いた文の意味を理解し、話したり書いたりできるようになる。	
	事前学修	教科書58ページの内容に目を通しておく。CD等で発音を確認する。	30分
	事後学修	接続法の活用を暗記し、用法を確認する。CD等を活用して発音練習する。課題を提出する。	30分
15	授業内試験およびフィードバック	授業内試験およびフィードバックを行う。それによって受講生は自分の達成度を知ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業で学んだことを正しく理解し、習得できているか確認する。	
	事前学修	試験範囲を確認し、これまでの授業内容を復習する。	60分
	事後学修	フィードバックの内容を確認し、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文法の説明をした上で、練習問題を解きながら授業を進めてゆきます。練習問題を解きながら発音練習、作文、翻訳作業をします。また、文法修得を通じて、フランス語及びフランス語圏への理解を深めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回文法項目説明の後に、練習問題や発音練習を通じて参加者主体のアクティブラーニングを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストおよび中間試験は授業内で解説。期末試験に関しては、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アレグレス』	江島泰子	第三書房	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
フランス語学習に関する質問や留学相談を、授業の前後またはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	文法、訳、文化	1. 動詞 aller/近接未来（第6課） 2. Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(5, 6)の答え合わせ（pp. 34-37）		
	この回の到達目標	1. 動詞 aller/近接未来（第6課）を理解し、運用できる 2. Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(5, 6)に解答できる（pp. 34-37）（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	15回目に課した課題に解答する。後期から受講する場合は、今週に渡した課題に解答して2週間後に持参すること		120分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
2	文法、訳、文化	1. 動詞 venir/近接過去（第6課） 2. 疑問副詞（第6課） 3. 第6課の文化面		
	この回の到達目標	1. 動詞 venir/近接過去（第6課）を理解し、運用できる 2. 疑問副詞（第6課）の意味を把握し、聞き取りできる 3. 第6課の文化面の内容を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	動詞venirの活用表を見て、活用の特徴と読み方を確認する。フランス語の疑問副詞の綴り字の読み方を確認する。第6課の文化面の質問について調べてくる		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
3	文法、訳、文化	1. 前置詞 à, deと定冠詞の縮約 2. 第6課の本文		
	この回の到達目標	1. 前置詞 à, deと定冠詞の縮約 を理解し、運用できる 2. 第6課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前置詞 à, deの意味を辞書で調べておく。定冠詞の復習をしておく。第6課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
4	文法、訳、文化	1. 部分冠詞/動詞 pouvoir（第7課） 2. 数詞(1)（第7課） 3. 第7課の文化面		
	この回の到達目標	1. 部分冠詞とは何か理解し、運用できる 2. 動詞 pouvoir（第7課）を理解し、運用できる 3. 数詞(1)（第7課）の聞き取りができる 4. 第7課の文化面の内容を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	フランス語の部分冠詞とは何か、確認しておく。動詞pouvoirの活用の読み方を確認する。第7課の文化面の質問について調べておく		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
5	文法、訳、文化	1. 比較級・最上級/動詞 vouloir（第7課） 2. 数詞(2)（第7課） 3. 第7課の本文		
	この回の到達目標	1. 比較級・最上級を理解し、運用できる 2. 動詞 vouloir（第7課）を理解し、運用できる 3. 数詞(2)（第7課）を聞き取ることができる 4. 第7課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	動詞vouloirの活用の読み方を確認する。前回到学んだ数詞の復習をする。第7課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
6	文法、訳、文化	1. 目的補語人称代名詞（水）（1）（第8課） 2. 天気に関する表現（第8課） 3. 第8課の文化面		
	この回の到達目標	1. 目的補語人称代名詞（1）（第8課）を理解し、運用できる 2. 天気に関する表現（第8課）を聞き取ることができる 3. 第8課の文化面を理解し、言語運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	目的補語人称代名詞とは何か、英語の知識を利用して調べておく。動詞faireの復習をしておく。第8課の文化面の質問について調べておく		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文法、訳、文化		1. 目的補語主語人称代名詞（２）（第８課） 2. 複合過去（１）（第８課） 3. 第８課の本文	
	この回の到達目標	1. 目的補語主語人称代名詞（２）（第８課）を理解し、運用できる 2. 複合過去（１）（第８課）を理解し、運用できる 3. 第８課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前回学んだ目的補語人称代名詞の復習をする。第８課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する		30分
8	文法、訳、文化		後期中間試験（第16回～22回までの内容） 1. 複合過去（２）（第８課） 2. 否定文の表現	
	この回の到達目標	1. 後期中間試験（第15回～22回までの内容）を理解し、正解できる 2. 複合過去（２）（第８課）を理解し、運用できる 3. 否定文の表現を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	後期中間試験の準備をする		180分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする		30分
9	文法、訳、文化		後記中間テストの解説 1. 代名動詞（直説法現在）（１）（第９課） 2. 関係代名詞 quiとque（第10課）	
	この回の到達目標	1. 後記中間テストの解説 を聞き、自分の不正解の部分を理解できる 2. 代名動詞（直説法現在（第９課））を理解し、運用できる 2. 関係代名詞 quiとque（第10課）の用法を理解し、運用できる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
10	文法、訳、文化		1. 代名動詞（２）/命令法（第９課） 2. 第10課の文化面	
	この回の到達目標	1. 代名動詞（２）を理解し、運用できる 2. 命令法（第９課）を理解し、運用できる 3. 第10課の文化面を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	前回学んだ代名動詞の代名詞部分と複合過去（直説法）の êtreを助動詞にとるかたちを復習しておく。第10課の文化面の質問を調べておく		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
11	文法、訳、文化		1. ジェロンディフ（第９課） 2. 半過去（直説法）（第10課） 3. 第10課の本文	
	この回の到達目標	1. ジェロンディフ（第９課）を理解し、運用できる 2. 半過去（直説法）（第10課）を理解し、運用できる 3. 第10課の本文を訳すことができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	avoir, faire, aller, venir, finir, vouloir, pouvoirの直説法現在形（主語がnous）の場合の活用を確認しておく。第10課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分
12	文法、訳、文化		1. 単純未来（直説法）（第11課） 2. 第11課の文化面	
	この回の到達目標	1. 単純未来（直説法）（第11課）を理解し、運用することができる 2. 第11課の文化面を理解し、言語の運用に役立てることができる（達成目標①②③に関連する）		
	事前学修	単純未来（直説法）が表す意味について確認しておく。avoirの直説法現在形の活用を確認しておく。第11課の文化面の質問について調べる		30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文法、訳、文化	1. 条件法現在（第11課） 2. 非人称表現 Il y a(第12課) 3. 第11課の本文	
	この回の到達目標	1. 条件法現在（第11課）を理解し、運用できる2. 非人称表現 Il y a(第12課）を理解し、運用できる 3. 第11課の本文を訳することができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	半過去形（直説法）と単純未来形（直説法）の語幹と語尾を確認して覚えておく。第11課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認しておく	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする	30分
14	文法、訳、文化	1. 接続法現在（第12課） 2. 第12課の文化面	
	この回の到達目標	1. 接続法現在（第12課）を理解し、運用できる 2. 第12課の文化面を理解し、言語運用に役立てることができる(達成目標①②③に関連する)	
	事前学修	今までに学んだ動詞の直説法現在の活用を確認する。第12課の文化面の質問について調べておく	30分
	事後学修	授業で学んだ文法事項等を復習する	30分
15	文法、訳、文化	後期期末試験（第24回～29回までの内容）とまとめ。	
	この回の到達目標	後期期末試験（第24回～29回までの内容）に正解することができる（達成目標①②③に関連する）	
	事前学修	後期末試験の準備をする	180分
	事後学修	ポータルで公表された後期末試験の前期末試験解答を確認して、後期の振り返りをする	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
フランス語・フランス文化に興味を持っていること。

【授業方法】
文法説明と同時に、発音・作文・読解・翻訳を練習します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で、文法の練習問題を通じてグループワークで発音と会話を練習する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、及び導入講義。前期の復習。	
	この回の到達目標	ガイダンス、及び導入講義。前期の復習。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	比較級、最上級	形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級 特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	
	この回の到達目標	形容詞・副詞の比較級、形容詞・副詞の最上級 特殊な優等比較級・優等最上級、指示代名詞	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	非人称構文	非人称構文、非人称代名詞の用法	
	この回の到達目標	非人称構文、非人称代名詞の用法	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	現在分詞、ジェロンディフ 中性代名詞	現在分詞、ジェロンディフの用法 中性代名詞 en, y, leの用法	
	この回の到達目標	現在分詞、ジェロンディフの用法 中性代名詞 en, y, leの用法	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	直説法複合過去(avoir)	直説法複合過去(avoir)	
	この回の到達目標	直説法複合過去(avoir)	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	直説法複合過去(être)	直説法複合過去(être) 過去分詞の一致	
	この回の到達目標	直説法複合過去(être) 過去分詞の一致	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	代名動詞の複合過去		代名動詞の複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去 ここまでの復習	
	この回の到達目標	代名動詞の複合過去、目的補語人称代名詞を含む複合過去 ここまでの復習		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
8	後期中間試験 直説法単純未来、直説法前未来		後期中間試験の実施 直説法単純未来、直説法前未来の用法	
	この回の到達目標	後期中間試験の実施 直説法単純未来、直説法前未来の用法		
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、後期中間試験の準備をする。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
9	後期中間試験解説 直説法半過去		後期中間試験の返却と解説 直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去	
	この回の到達目標	後期中間試験の返却と解説 直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
10	直説法大過去 受動態		直説法大過去、受動態	
	この回の到達目標	直説法大過去、受動態		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
11	関係代名詞 間接話法		関係代名詞、間接話法	
	この回の到達目標	関係代名詞、間接話法		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
12	条件法		条件法現在、条件法過去の用法	
	この回の到達目標	条件法現在、条件法過去の用法		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	接続法	接続法現在、接続法過去の用法 ここまでの復習	
	この回の到達目標	接続法現在、接続法過去の用法 ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	後期期末試験 接続法	後期期末試験の実施 接続法現在、接続法過去の用法	
	この回の到達目標	後期期末試験の実施 接続法現在、接続法過去の用法	
	事前学修	後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。 今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
15	後期期末試験解説、振り返り	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り	
	この回の到達目標	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	下田 隆之	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
フランス語基礎文法の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語文献を自律的に読み、フランス語で表現ができるようになるために、基礎となる文法を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面による演習形式。文法事項についての説明を聞いてから、発音と簡単な会話練習をして、練習問題に取り組みます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の初歩的な初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易なフランス語の文章を書き翻訳をすることができる						1		1	1		
③	フランス語の基本的な語彙が習得されその発音が正確にできる								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
次の週の授業時に答えます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ラ・フォーレ 新訂版 -フランス語基礎文法-	森繁	朝日出版社	最新	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に教室で質問・相談に答えます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	比較級と最上級／強勢形	比較級と最上級・強勢形について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon10 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon10 復習	30分
2	命令法／非人称構文／中性代名詞 en	命令法・非人称構文・中性代名詞 en について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon11 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon11 復習	30分
3	目的語人称代名詞	目的語人称代名詞について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon12 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon12 復習	30分
4	直説法複合過去	直説法複合過去について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon13 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon13 復習	30分
5	代名動詞	代名動詞について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon14 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon14 復習	30分
6	関係代名詞 I／指示代名詞	関係代名詞 I・指示代名詞について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon15 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon15 復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書 leçon 10～ leçon 15 まとめ	教科書 leçon 10～ leçon 15 まとめ	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 10～ leçon 15 復習	30分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分
8	直説法半過去	直説法半過去について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 16 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 16 復習	30分
9	受動態／現在分詞とジェロンディフ	受動態・現在分詞とジェロンディフについて学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 17 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 17 復習	30分
10	直説法単純未来／中性代名詞 le	直説法単純未来・中性代名詞 le について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 18 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 18 復習	30分
11	条件法現在	条件法現在について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 19 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 19 復習	30分
12	接続法現在	接続法現在について学び、練習問題を解く。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 20 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 20 復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ここまでのまとめ	教科書 leçon 16 ～ leçon 20 のまとめ	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 16 ～ leçon 20 の復習	30分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分
14	期末試験とまとめ	期末試験	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 10 ～ leçon 20 の復習	90分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分
15	期末試験解説と振り返り	期末試験を返却し、解説する。今期の授業内容を振り返る。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 10 ～ leçon 20 の復習	30分
	事後学修	上記の範囲でまだ身に付いていない部分をさらに復習する。	30分

科目名	フランス語演習C	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生とのディスカッションを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法ABをすでに修得していること。

【授業方法】
1) 読解に必要な文法知識を復習する。2) 内容について解説する 3) 訳してきた内容を担当者が発表する 4) 文法や構文理解の点から検討を加える 5) 内容に関して、全員あるいはグループで意見交換する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	10									50
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	授業中に質問や意見交換を行い、①の理解に関わる能力②に関しては、自分の意見表明と他者の意見を聞く態度が身についているかを、討論後に提出するレポートによって評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験に関しては授業内で、期末試験に関してはポータルシステムを通じてフィードバックを行う。その他については原則として授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に、適宜プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問、留学相談等を授業の前後あるいはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	①授業の説明 ②フランス語辞書の使い方 ③綴り字の読み方	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、授業の進行方法について、また取り扱うテキストに関して理解し、どのように取り組んだらよいか説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、内容を確認する。ヴィクトル・ユゴー、ジャン・ジョレスについて調べておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	ジャン・ジョレスを読む（1）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	ジャン・ジョレスを読む（2）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
4	ジャン・ジョレスを読む（3）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	ジャン・ジョレスを読む（4）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
6	ジャン・ジョレスを読む（5）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジャン・ジョレスを読む（6）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	前半の内容の総復習をして、次週の中間テストの準備をする。	120分
8	前期中間試験 ヴィクトル・ユゴーを読む（1）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②を達成していることを、前期の前半で扱った内容（文法事項、翻訳、内容理解）について示すことができる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	ヴィクトル・ユゴーを読む（2）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
10	ヴィクトル・ユゴーを読む（3）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
11	ヴィクトル・ユゴーを読む（4）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
12	ヴィクトル・ユゴーを読む（5）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヴィクトル・ユゴーを読む（6）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
14	ヴィクトル・ユゴーを読む（7）	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	後半の授業の総復習をして、期末試験の準備をする。	120分
15	前期末試験、振り返り	前期末試験とまとめを行う	
	この回の到達目標	到達目標①②を達成していることを、前期の後半で扱った内容（文法事項、翻訳、内容理解）について示すことができる。	
	事前学修	期末試験の準備をする。	60分
	事後学修	前期の文法事項や語彙、扱ったテキスト内容についての整理をする。	30分

科目名	フランス語演習D	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「文学/思想」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生とのディスカッションを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法ABをすでに修得していること。

【授業方法】
1) 読解に必要な文法知識を復習する。2) 内容について解説する 3) 訳してきた内容を担当者が発表する 4) 文法や構文理解の点から検討を加える 5) 内容に関して、全員あるいはグループで意見交換する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワークを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	10									50
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等	授業中に質問や意見交換を行い、①の理解に関わる能力②に関しては、自分の意見表明と他者の意見を聞く態度が身についているかを、討論後に提出するレポートによって評価する。	10	10									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		65	35									100

【課題に対するフィードバックの方法】
中間試験に関しては授業内で、期末試験に関してはポータルシステムを通じてフィードバックを行う。その他については原則として授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に、適宜プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
授業に関する質問、留学相談等を授業の前後あるいはメール（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	①授業の説明 ②フランス語辞書の使い方 ③綴り字の読み方	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、授業の進行方法について、また取り扱うテキストに関して理解し、どのように取り組んだらよいか説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、内容を確認する。ロベール・バダンテール、ジョルジュ・クレマンソーについて調べておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	ロベール・バダンテールを読む (1)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	ロベール・バダンテールを読む (2)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
4	ロベール・バダンテールを読む (3)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	ロベール・バダンテールを読む (4)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
6	ロベール・バダンテールを読む (5)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ロベール・バダンテールを読む (6)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	前半の内容の総復習をして、次週の中間テストの準備をする。	120分
8	後期中間試験 ロベール・バダンテールを読む (7)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②を達成していることを、前期の前半で扱った内容（文法事項、翻訳、内容理解）について示すことができる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
9	ロベール・バダンテールを読む (8)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
10	ジョルジュ・クレマンソーを読む (1)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
11	ジョルジュ・クレマンソーを読む (2)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
12	ジョルジュ・クレマンソーを読む (3)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジョルジュ・クレマンソーを読む (4)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
14	ジョルジュ・クレマンソーを読む (5)	①綴り字の読み方 ②文法事項の確認 ③テキストの翻訳 ④内容に関する意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明できる。到達目標②に関して、これまで読んだ箇所について意見を交換し議論できる。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	後半の授業の総復習をして、期末試験の準備をする。	120分
15	後期末試験、振り返り	前期末試験とまとめを行う	
	この回の到達目標	到達目標①②を達成していることを、前期の後半で扱った内容（文法事項、翻訳、内容理解）について示すことができる。	
	事前学修	期末試験の準備をする。	60分
	事後学修	後期の文法事項や語彙、扱ったテキスト内容についての整理をする。	30分

科目名	フランス語演習E	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
フランス語の応用として、芸術・文化に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法を習得していること

【授業方法】
「芸術/文化」に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを 評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解 ②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		75	25									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳が喜ぶフランス語	山下 利枝	三修社	2013年	参考書	任意
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、教科書紹介、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。	
	この回の到達目標	授業の進め方を理解し、リスニングからフランス語に触れることでテキストに多角的アプローチができる。	
	事前学修	シラバスを読んで授業の進め方について理解する。	30分
	事後学修	配布資料の範囲を確認しておく。	30分
2	1. Qui suis-je? 1	être動詞の現在、半過去の復習し、活用できる。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として être動詞の現在、半過去の復習し、活用できる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
3	1. Qui suis-je? 2	自己紹介のフランス語。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、 フランス・アルザス地方の歴史・文化についてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
4	2. Mon appartement au Japon 1	er動詞の受身形。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、第一群規則動詞の現在形・受け身を復習し、活用できる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
5	2. Mon appartement au Japon 2	ils trouvent que, j'ai l'impressions deなどの表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日仏住居環境の違いについてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
6	3. Qu'est-ce qui me plaît au Japon? 1	on, vousの使い方。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、on, vousのフランス語特有の使い方の理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	3. Qu'est-ce qui me plait au Japon? 2	日仏の対人関係の違い。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために 日仏の対人関係の違いについてのテキストをフランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
8	まとめと小テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。	
	この回の到達目標	日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	これまでの配布資料の単語を復習する。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分
9	4. Le métro de Tokyo 1	フランス語の様々な熟語表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、 Grâce à, même siなどの表現を理解してテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
10	4. Le métro de Tokyo 2	日仏地下鉄事情について。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日仏の交通網の違いについての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
11	5. Les prénoms 1	動詞の未来形の活用と用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、動詞の未来形の活用と用法の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
12	5. Les prénoms 2	フランスの名前について。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、フランスのファーストネームの文化的背景についての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	6. La Dernière Classe 1	歴史的叙述の時制。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、半過去、未来形の混在する歴史的叙述への理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
14	6. La Dernière Classe 2	アルザス地方の歴史的背景。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、アルザスのドイツとの関係について歴史的な理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
15	まとめと期末テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。	
	この回の到達目標	日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	これまでの配布資料の単語を復習する。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分

科目名	フランス語演習F	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
フランス語の応用として、芸術・文化に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人に必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけるために、そうした理解を他者に発信し応答できるようになる能力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法を習得していること

【授業方法】
「芸術/文化」に関わるフランス語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表・意見交換・グループワーク

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見表明に関わる能力が身についているかを 評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解 ②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		75	25									100

【課題に対するフィードバックの方法】
テストの答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳が喜ぶフランス語	山下 利枝	三修社	2013	参考書	任意
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606 ishibashi.masataka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、教科書紹介、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。	
	この回の到達目標	授業の進め方を理解し、リスニングからフランス語に触れることでテキストに多角的アプローチができる。	
	事前学修	指定教科書に目を通しておく。	30分
	事後学修	指定教科書のシラバスの範囲を確認しておく。	30分
2	7. Etudier le français 1	非人称構文。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、非人称構文における主語を文脈判断で理解してフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
3	7. Etudier le français 2	フランス語の文化的地位。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、日本におけるフランス語の地位に対する理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
4	8. Tu et vous 1	Il est +形容詞+de+不定法	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、Il est +形容詞+de+不定法などの構文理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
5	8. Tu et vous 2	フランスにおける二人称の使い方。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、フランスにおける二人称・敬語についての理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
6	9. Les plats alsaciens 1	時制の混在。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、現在、半過去の混在するテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	9. Les plats alsaciens 2	アルザス料理について。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、アルザス料理に対するドイツの影響の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
8	まとめと小テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。	
	この回の到達目標	日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	7課から9課までの単語を復習する。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分
9	10. L'hiver froid 1	大過去の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、大過去の用法の理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
10	10. L'hiver froid 2	過去時制の混在。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、複合過去、半過去、大過去の混在する文章の時系列理解に基づいてフランス語のテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
11	11. La fête 1	pourtant, doncなどの接続語。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、pourtant, doncなどの接続語の使い方を理解した上でテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
12	11. La fête 2	日仏の祭りについて。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、祭りの日仏の在り方についての比較的知識を学びながらテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	12. La pétanque 1	主語+permettre+de+不定法の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動の前提として、主語+permettre+de+不定法の用法の理解に基づいてテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
14	12. La pétanque 2	ペタンクについて。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②の行動のために、ペタンクというスポーツについての知識を得ることでテキストを読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	配布資料の知らない単語を辞書で調べておく。	30分
	事後学修	音声で学んだテキストを文章で確認。	30分
15	まとめと期末テスト	これまで学んだテキストについての理解度を問い、解説とまとめをする。	
	この回の到達目標	日仏比較文化論をフランス語で聞いて、フランス語で読み、意見を言うことができる。	
	事前学修	これまでの単語を復習する。	30分
	事後学修	試験で間違った箇所を復習する。	30分

科目名	フランス語演習G	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
一年時（初年度）に、基礎文法、基礎表現、資格試験対策I、コミュニケーションIのうちから、少なくとも4単位を取得していること。あるいは以上と同等以上の既習者であること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	読んだテキストについて主体的に考え文章化する。それに対して生産的な質問を考え文章化する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。							2		2		2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は、採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語で読む哲学22選 ― モンテーニュからデリダまで ―	武田裕紀他編	朝日出版社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義	二年目以上の授業では、初学者用にリライトされた簡単なテキストを読むのが普通かもしれませんが、ここではあえてフランスの著名な哲学者のテキストを読みます。教科書は、フランス哲学のアンソロジーです。20人の哲学者からの22の抜粋、16世紀から現代までと多岐にわたっています。内容的には法学部の皆さんが挑戦するのに相応しいものです。哲学は難しいとの印象を持つ方も多いかもしれませんが、噛み砕いて考えると、アイデア自体はいたってシンプルです。背景も紹介しますので、フランスの歴史とともに哲学の歴史を知ることにもなります。内容としても文章としても読むのに相応しいテキストで勉強します。音源も注もついていますので、勉強しやすいです。初めは一部を読み、少しずつ量を多くしてゆくように、徐々にレベルアップしていきます。初年度にやり残した文法項目や忘れていそうなものも補足します。こちらで日本語訳も配布します。	
	この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	ボーボワール『第二の性』（1）：フェミニズム	ボーボワール『第二の性』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	ボーボワール『第二の性』（2）：女とは何か	ボーボワール『第二の性』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。	30分
4	ディドロ『1763年のサロン』（1）：画家	ディドロ『1763年のサロン』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	ディドロ『1763年のサロン』（2）：色彩画家	ディドロ『1763年のサロン』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。	30分
6	コンディヤック『人間認識起源論』（1）：モリスヌクス氏問題	コンディヤック『人間認識起源論』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	コンディヤック『人間認識起源論』（2）：分析		コンディヤック『人間認識起源論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
8	ルソー『社会契約論』（1）：社会契約		ルソー『社会契約論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
9	ルソー『社会契約論』（2）：一般意志		ルソー『社会契約論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
10	コンドルセ『女性の市民権の承認について』（1）：自然権		コンドルセ『女性の市民権の承認について』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
11	コンドルセ『女性の市民権の承認について』（2）：市民権		コンドルセ『女性の市民権の承認について』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。		90分
12	コント『実証的精神論』（1）：神学的段階、形而上学的段階		コント『実証的精神論』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。生産的な質問を考える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	コント『実証的精神論』（２）：実証的段階		コント『実証的精神論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
14	クルノー『認識の根拠と哲学的批判の特徴に関する試論』（１）：偶然		クルノー『認識の根拠と哲学的批判の特徴に関する試論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
15	クルノー『認識の根拠と哲学的批判の特徴に関する試論』（２）：確率		クルノー『認識の根拠と哲学的批判の特徴に関する試論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。		120分

科目名	フランス語演習G	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
既習者であること。正確には、一年時（初年度）に、基礎文法、基礎表現、資格試験対策I、コミュニケーションIのうちから、少なくとも4単位を取得していること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	読んだテキストについて主体的に考える。それに対して生産的な質問を考案する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は、採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語で読む哲学22選 ― モンテーニュからデリダまで ―	武田裕紀他編	朝日出版社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義	二年目以上の授業では、初学者用にリライトされた簡単なテキストを読むのが普通かもしれませんが、ここではあえてフランスの著名な哲学者のテキストを読みます。教科書は、フランス哲学のアンソロジーです。20人の哲学者からの22の抜粋、16世紀から現代までと多岐にわたっています。内容的には法学部の皆さんが挑戦するのに相応しいものです。哲学は難しいとの印象を持つ方も多いかもしれませんが、噛み砕いて考えると、アイデア自体はいたってシンプルです。背景も紹介しますので、フランスの歴史とともに哲学の歴史を知ることにもなります。内容としても文章としても読むのに相応しいテキストで勉強します。音源も注もついていますので、勉強しやすいです。初めは一部を読み、少しずつ量を多くしてゆくように、徐々にレベルアップしていきます。初年度にやり残した文法項目や忘れていそうなものも補足します。こちらで日本語訳も配布します。	
	この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	ボーボワール『第二の性』（1）：フェミニズム	ボーボワール『第二の性』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	ボーボワール『第二の性』（2）：女とは何か	ボーボワール『第二の性』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。	30分
4	ディドロ『1763年のサロン』（1）：画家	ディドロ『1763年のサロン』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	ディドロ『1763年のサロン』（2）：色彩画家	ディドロ『1763年のサロン』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。	30分
6	コンディヤック『人間認識起源論』（1）：モリスヌクス氏問題	コンディヤック『人間認識起源論』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	コンディヤック『人間認識起源論』（2）：分析		コンディヤック『人間認識起源論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
8	ルソー『社会契約論』（1）		ルソー『社会契約論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
9	ルソー『社会契約論』（2）		ルソー『社会契約論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
10	コンドルセ『女性の市民権の承認について』（1）：自然権		コンドルセ『女性の市民権の承認について』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
11	コンドルセ『女性の市民権の承認について』（2）：市民権		コンドルセ『女性の市民権の承認について』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。		90分
12	コント『実証的精神論』（1）：神学的段階、形而上学的段階		コント『実証的精神論』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。生産的な質問を考える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	コント『実証的精神論』（２）：実証的段階		コント『実証的精神論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
14	クルノー『認識の根拠と哲学的批判の特徴に関する試論』（１）：偶然		クルノー『認識の根拠と哲学的批判の特徴に関する試論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
15	クルノー『認識の根拠と哲学的批判の特徴に関する試論』（２）：確率		クルノー『認識の根拠と哲学的批判の特徴に関する試論』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。		120分

科目名	フランス語演習H	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
基礎文法、基礎表現、資格試験対策I、コミュニケーションIのうちから、少なくとも4単位を取得していること。あるいはそれと同等以上の力を有する既習者であること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	読んだテキストについて主体的に考え文章化する。それに対して生産的な質問を考え文章化する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。							2		2		2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は、採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語で読む哲学22選 ― モンテーニュからデリダまで ―	武田裕紀他編	朝日出版社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義	二年目以上の授業では、初学者用にリライトされた簡単なテキストを読むのが普通かもしれませんが、ここではあえてフランスの著名な哲学者のテキストを読みます。教科書は、フランス哲学のアンソロジーです。20人の哲学者からの22の抜粋、16世紀から現代までと多岐にわたっています。内容的には法学部の皆さんが挑戦するのに相応しいものです。哲学は難しいとの印象を持つ方も多いかもしれませんが、噛み砕いて考えると、アイデア自体はいたってシンプルです。背景も紹介しますので、フランスの歴史とともに哲学の歴史を知ることにもなります。内容としても文章としても読むのに相応しいテキストで勉強します。音源も注もついていますので、勉強しやすいです。初めは一部を読み、少しずつ量を多くしてゆくように、徐々にレベルアップしていきます。初年度にやり残した文法項目や忘れていそうなものも補足します。こちらで日本語訳も配布します。	
	この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』（1）：数えられる時間	ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』（2）：持続	ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。	30分
4	ポアンカレ『科学と仮説』：直観	ポアンカレ『科学と仮説』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	ポアンカレ『科学の価値』：直観	ポアンカレ『科学の価値』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。	30分
6	メルロー＝ポンティ『知覚の優位性とその哲学的帰結』（1）：伝統的知覚理論	メルロー＝ポンティ『知覚の優位性とその哲学的帰結』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	メルロ＝ポンティ『知覚の優位性とその哲学的帰結』（２）：現象学的知覚		メルロ＝ポンティ『知覚の優位性とその哲学的帰結』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
8	ドゥルーズ『哲学とは何か』（１）：マーケティングなどのコンセプト		ドゥルーズ『哲学とは何か』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
9	ドゥルーズ『哲学とは何か』（２）：哲学の概念		ドゥルーズ『哲学とは何か』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
10	フーコー『言葉と物』（１）：近代		フーコー『言葉と物』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
11	フーコー『言葉と物』（２）：人間の死		フーコー『言葉と物』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。		90分
12	デリダ『哲学の余白』（１）：現在		デリダ『哲学の余白』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。生産的な質問を考える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	デリダ『哲学の余白』（２）：差延		デリダ『哲学の余白』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
14	デカルト『方法序説』（１）：方法的懐疑		デカルト『方法序説』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
15	デカルト『方法序説』（２）：我思う、ゆえに我あり		デカルト『方法序説』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。		120分

科目名	フランス語演習H	担当者	吉澤 保	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
フランス語学修の応用として、人文・社会科学の「社会/歴史」に関わるフランス語文献について、音読、構文理解、翻訳、内容分析、批判を学修する。更に、以上に基づき、教員及び他の学生との批判的かつ生産的な議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
基礎文法、基礎表現等で修得したフランス語基礎力を、異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養へ発展させるために、フランス語文献を正確に読解し、その読解を通じて自分の意見を確立し、また、これに基づき議論する能力を修得する。

【履修条件】
既習者であること。正確には、一年時（初年度）に、基礎文法、基礎表現、資格試験対策I、コミュニケーションIのうちから、少なくとも4単位を取得していること。

【授業方法】
人文・社会科学の「社会/歴史」に関わる文献を用い、演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	読んだテキストについて主体的に考える。それに対して生産的な質問を考案する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わるフランス語文献を理解し、意見を述べることができる。							2		2		2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解、②の意見表明に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は、採点后、返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フランス語で読む哲学22選 ― モンテーニュからデリダまで ―	武田裕紀他編	朝日出版社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義	二年目以上の授業では、初学者用にリライトされた簡単なテキストを読むのが普通かもしれませんが、ここではあえてフランスの著名な哲学者のテキストを読みます。教科書は、フランス哲学のアンソロジーです。20人の哲学者からの22の抜粋、16世紀から現代までと多岐にわたっています。内容的には法学部の皆さんが挑戦するのに相応しいものです。哲学は難しいとの印象を持つ方も多いかもしれませんが、噛み砕いて考えると、アイデア自体はいたってシンプルです。背景も紹介しますので、フランスの歴史とともに哲学の歴史を知ることにもなります。内容としても文章としても読むのに相応しいテキストで勉強します。音源も注もついていますので、勉強しやすいです。初めは一部を読み、少しずつ量を多くしてゆくように、徐々にレベルアップしていきます。初年度にやり残した文法項目や忘れていそうなものも補足します。こちらで日本語訳も配布します。	
	この回の到達目標	授業の進め方、テキスト、背景など授業をうけて理解した事項を説明できる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	シラバスを読み、初級フランス語の復習を行い、フランス（語圏）について知っていることを整理しておく。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
2	ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』（1）：数えられる時間	ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
3	ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』（2）：持続	ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。	30分
4	ポアンカレ『科学と仮説』：直観	ポアンカレ『科学と仮説』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。	30分
5	ポアンカレ『科学の価値』：直観	ポアンカレ『科学の価値』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この2回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。	30分
6	メルロー＝ポンティ『知覚の優位性とその哲学的帰結』（1）：伝統的知覚理論	メルロー＝ポンティ『知覚の優位性とその哲学的帰結』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。	
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。	30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	メルロ＝ポンティ『知覚の優位性とその哲学的帰結』（２）：現象学的知覚		メルロ＝ポンティ『知覚の優位性とその哲学的帰結』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
8	ドゥルーズ『哲学とは何か』（１）：マーケティングなどのコンセプト		ドゥルーズ『哲学とは何か』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
9	ドゥルーズ『哲学とは何か』（２）：哲学の概念		ドゥルーズ『哲学とは何か』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
10	フーコー『言葉と物』（１）：近代		フーコー『言葉と物』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
11	フーコー『言葉と物』（２）：人間の死		フーコー『言葉と物』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。		90分
12	デリダ『哲学の余白』（１）：現在		デリダ『哲学の余白』について、まず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。音読は繰り返し練習してもらう。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。生産的な質問を考える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	デリダ『哲学の余白』（２）：差延		デリダ『哲学の余白』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。		30分
14	デカルト『方法序説』（１）：方法的懐疑		デカルト『方法序説』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この箇所の音読・翻訳ができ、使われた文法・内容を説明でき、またこの箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標①②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。		30分
15	デカルト『方法序説』（２）：我思う、ゆえに我あり		デカルト『方法序説』についてまず担当学生に、音読、翻訳、文法説明、内容説明をやってもらい、その後、教員が、それに訂正、補足等を加えながら、もう一度詳細に行う。	
	この回の到達目標	この前期既読箇所について自分の考えを述べることができる（到達目標②に関連）。		
	事前学修	指定された箇所について、文法事項をふまえ、翻訳し、音読する。期末試験でできなかった箇所を調べる。		30分
	事後学修	指定された箇所の単語の意味を調べ、文法事項を確認する。この２回で読んだテキストについて生産的な質問を考える。これまで読んだ箇所について自分の意見をまとめて書く。		120分

科目名	リーディング・ライティング(仏)ⅠA	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるフランス語の書き言葉（フランス語検定4級、3級レベル）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、基礎文法、基礎表現等で修得した基礎的なフランス語力を向上させるために、日常生活において直接必要となる事柄をフランス語で書きとり、また文書で伝える能力を中心としたフランス語力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法、 基礎表現を履修した者

【授業方法】
日常生活で必要なフランス語の書き言葉を実践的な書き言葉の練習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業グループワークで問題練習をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書き、文書で伝えることができる。								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる。								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、簡単な履歴書を書く（何歳ですか？ 何の資格をいつとりましたか？） 自己紹介と他人の紹介	
	この回の到達目標	ガイダンス、簡単な履歴書を書く（何歳ですか？ 何の資格をいつとりましたか？） 自己紹介と他人の紹介	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
2	ペンフレンドからの手紙1	ペンフレンドからの手紙1 ペンフレンドからの手紙を読み、理解する。	
	この回の到達目標	ペンフレンドからの手紙1 ペンフレンドからの手紙を読み、理解する。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
3	ペンフレンドからの手紙2	ペンフレンドからの手紙2 返事手紙を書く。	
	この回の到達目標	ペンフレンドからの手紙2 返事手紙を書く。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
4	スケジュールの書き方1	スケジュールの書き方1（時間）	
	この回の到達目標	スケジュールの書き方1（時間）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
5	スケジュールの書き方2	スケジュールの書き方2（日にち）	
	この回の到達目標	スケジュールの書き方2（日にち）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
6	日常生活1	日常生活1（自分・他人の日常生活を語る）	
	この回の到達目標	日常生活1（自分・他人の日常生活を語る）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日常生活 2	日常生活 2 （自分・他人の日常生活を語る） ここまでの復習	
	この回の到達目標	日常生活 2 （自分・他人の日常生活を語る） ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。 これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。	30分
8	前期中間試験 フランスへ旅行 1	前期中間試験の実施 フランスへ旅行 1 フランスの簡単な地理 世界の国の名前	
	この回の到達目標	前期中間試験の実施 フランスへ旅行 1 フランスの簡単な地理 世界の国の名前	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、前期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
9	前期中間試験解説 フランスへ旅行 2	前期中間試験解説 フランスへ旅行 2 レストランのメニューを読む	
	この回の到達目標	前期中間試験解説 フランスへ旅行 2 レストランのメニューを読む	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
10	フランスへ旅行 3	フランスへ旅行 3 旅行のプログラムをつくる	
	この回の到達目標	フランスへ旅行 3 旅行のプログラムをつくる	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
11	はがきの書き方 1	はがきの書き方 1 （基本）	
	この回の到達目標	はがきの書き方 1 （基本）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
12	はがきの書き方 2	はがきの書き方 2 （現在形と過去形）	
	この回の到達目標	はがきの書き方 2 （現在形と過去形）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	はがきの書き方3	はがきの書き方3 （人・物を描写する） ここまでの復習	
	この回の到達目標	はがきの書き方3 （人・物を描写する） ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。 前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
14	前期期末試験、まとめ	前期期末試験の実施	
	この回の到達目標	前期期末試験の実施	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	前期期末試験解説、振り返り	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	この回の到達目標	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	リーディング・ライティング(仏)ⅠB	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となるフランス語の書き言葉（フランス語検定4級、3級レベル）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、基礎文法、基礎表現等で修得した基礎的なフランス語力を向上させるために、日常生活において直接必要となる事柄をフランス語で書きとり、また文書で伝える能力を中心としたフランス語力を修得する。

【履修条件】
フランス語基礎文法、 基礎表現を履修した者。

【授業方法】
日常生活で必要なフランス語の書き言葉を実践的な書き言葉の練習をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業グループワークで問題練習をします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて、日常的な事柄について自律的に書き、文書で伝えることができる。								3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる。								3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける。								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案解説とそれに対する質問受付時間を授業内で確保する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、履歴書を書く、自己紹介とビジネスパートナーの紹介	
	この回の到達目標	ガイダンス、履歴書を書く、自己紹介とビジネスパートナーの紹介	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
2	メールを書く 1	メールを書く 1（基本）	
	この回の到達目標	メールを書く 1（基本）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
3	メールを書く 2	メールを書く 2（具体的なビジネスメール・ビジネス手紙）	
	この回の到達目標	メールを書く 2（具体的なビジネスメール・ビジネス手紙）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
4	観光 1	観光 1 フランスの観光地、地図を読む、情報を聞く・教える	
	この回の到達目標	観光 1 フランスの観光地、地図を読む、情報を聞く・教える	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
5	観光 2	観光 2 道を聞く・教える	
	この回の到達目標	観光 2 道を聞く・教える	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
6	観光 3	観光 3 交通機関	
	この回の到達目標	観光 3 交通機関	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	電話のかけ方	電話のかけ方 ここまでの復習	
	この回の到達目標	電話のかけ方 ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
8	後期中間試験 日常生活 1	後期中間試験の実施 日常生活 1 天気について話す、天気情報を教える。	
	この回の到達目標	後期中間試験の実施 日常生活 1 天気について話す、天気情報を教える。	
	事前学修	これまでの授業内容を整理して、復習して、後期中間試験の準備をする。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
9	後期中間試験解説 日常生活 2	後期中間試験の返却と解説 日常生活 2 フランスの祝日、お祝いする。	
	この回の到達目標	後期中間試験の返却と解説 日常生活 2 フランスの祝日、お祝いする。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
10	レシピ 1	レシピ 1 フランス料理のレシピを読み、理解する。	
	この回の到達目標	レシピ 1 フランス料理のレシピを読み、理解する。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
11	レシピ 2	レシピ 2 料理のレシピを書く。	
	この回の到達目標	レシピ 2 料理のレシピを書く。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分
12	好きな本・映画について書く 1	好きな本・映画について書く 1	
	この回の到達目標	好きな本・映画について書く 1	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	好きな本・映画について書く 2	好きな本・映画について書く 2 ここまでの復習	
	この回の到達目標	好きな本・映画について書く 2 ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚える。 後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
14	後期期末試験、まとめ	後期期末試験の実施	
	この回の到達目標	後期期末試験の実施	
	事前学修	後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	後期期末試験解説、振り返り	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り	
	この回の到達目標	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験5級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考	使用しません。必要資料は授業の時に配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。	
	事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。	30分
	事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。	30分
2	自己紹介	La présentation, la description. 自己紹介・自分の描写に必要なフランス語の動詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、自己紹介に必要なフランス語を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布プリントのわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
3	être動詞	La description 2, le verbe "être".	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、動詞êtreの用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布プリントのわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
4	疑問文	L'interrogation simple, les verbes en "er"	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、疑問文の作り方を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	5, 6課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
5	第一群規則動詞	Les verbes en "er"	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、第一群規則動詞の活用を様々な動詞で応用でき、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	7, 8課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
6	代名動詞	Les verbes pronominaux en "er", le nom et l'article.	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、代名動詞を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	9, 10課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	単数形・複数形	Singulier et pluriel des noms, l'article défini/indéfini。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、名詞と冠詞の単数・複数を一致させ、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	11, 12課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	中間テスト、採点、解説・まとめ。	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
	事前学修	1課から12課までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	定冠詞の縮約形	前置詞と定冠詞の縮約、les possessifs. 所有形容詞と名詞の一致。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、定冠詞の縮約、所有形容詞と名詞の一致の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	13, 14課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	指示形容詞	les démonstratifs, la possession。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞と名詞の一致を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	15, 16課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	身体的特徴、否定表現	les caractéristiques physiques, les sensations négatives。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、身体描写の語彙、否定表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	17, 18課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	avoir	le verbe "avoir", la négation. avoir。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、動詞avoirとその否定形の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	19, 20課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国と場所の前置詞	前置詞en, à, dans の違い。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、場所の前置詞en, à, dans の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	21, 22課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	非人称構文	前置詞 “dans”, “sur”, “sous”, 非人称構文“il y a”. 様々な前置詞の用法を理解し文を作れる。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、非人称構文、場所の前置詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	23, 24課のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	期末テスト、採点、解説とまとめ。	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	8回目以降の復習。	30分
	事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
今年度中に仏検を受験することが望ましい。

【授業方法】
過去の問題や予想問題を解きながら、解説を加えます。 毎回、課題の提出を求めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は添削して返却します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 完全予想 仏検4級 改訂 CD付	富田正二	駿河台出版社	2008年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合はクラスルームを利用してください。レポートのコメント欄が使いやすいと思います。メールでの問い合わせ先： negishi.tomoo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 規則動詞の活用	オリエンテーション 直説法現在形（１）規則動詞の活用	
	この回の到達目標	今までに学んだ事項を復習し、確認する。 規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
	事前学修	今までに習った文法事項の範囲や使用したテキスト名を確認するので、あらかじめ調べてメモしておいてください	30分
	事後学修	規則動詞の現在形の活用を覚えましょう	30分
2	不規則動詞の活用（１）	直説法現在形（２）不規則動詞の活用（avoir, être, aller, venir, pouvoir, vouloir, devoir）	
	この回の到達目標	不規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
	事前学修	p. 54, p. 55に目を通しておいてください	30分
	事後学修	不規則動詞の現在形の活用を覚えましょう	30分
3	不規則動詞の活用（２）	直説法現在形（３）不規則動詞の活用（partirからattendreまで）	
	この回の到達目標	不規則動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
	事前学修	p. 56, p. 57に目を通しておいてください	30分
	事後学修	不規則動詞の現在形の活用を覚えましょう	30分
4	代名動詞の直説法現在形	代名動詞の直説法現在形の活用	
	この回の到達目標	代名動詞の直説法現在形の発音や綴りを覚える②④	
	事前学修	p. 58, p. 59に目を通しておいてください	30分
	事後学修	代名動詞の現在形の活用を覚えましょう	30分
5	命令法	命令法	
	この回の到達目標	命令形の変化を覚え、使えるようになる②④	
	事前学修	p. 60, p. 61に目を通しておいてください	30分
	事後学修	命令形を作る練習をしましょう	30分
6	非人称動詞	非人称動詞	
	この回の到達目標	非人称動詞の活用を覚え、使えるようになる②④	
	事前学修	p. 62に目を通しておいてください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	直説法複合過去形	直説法複合過去形	
	この回の到達目標	直説法複合過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
	事前学修	p. 64に目を通しておいってください	30分
	事後学修	複合過去の文を作る練習をしましょう	30分
8	代名動詞の複合過去形	代名動詞の複合過去形	
	この回の到達目標	代名動詞の複合過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
	事前学修	p. 65に目を通しておいってください	30分
	事後学修	代名動詞の複合過去の文を作る練習をしましょう	30分
9	直説法単純未来形	直説法単純未来形	
	この回の到達目標	直説法単純未来形の活用を覚え、使えるようになる②④	
	事前学修	p. 68に目を通しておいってください	30分
	事後学修	単純未来の活用を覚えましょう	30分
10	仏検過去問題（5級）	仏検過去問題（5級）	
	この回の到達目標	仏検過去問題（5級）を通して、試験に慣れる①③④	
	事前学修	基礎文法を復習しておきましょう	30分
	事後学修	間違えたところを確認して、復習しましょう	30分
11	仏検過去問題（4級）	仏検過去問題（4級）	
	この回の到達目標	仏検過去問題（4級）を通して、試験に慣れる①③④	
	事前学修	基礎文法を復習しておきましょう	30分
	事後学修	間違えたところを確認して、復習しましょう	30分
12	直説法半過去形	直説法半過去形	
	この回の到達目標	直説法半過去形の活用を覚え、使えるようになる②④	
	事前学修	p. 70に目を通しておいってください	30分
	事後学修	半過去の活用を覚えましょう	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジェロンディフ	ジェロンディフ	
	この回の到達目標	ジェロンディフの変化を覚え、使えるようになる②④	
	事前学修	p. 72に目を通しておいってください	30分
	事後学修	ジェロンディフを使った文を作ってみましょう	30分
14	動詞の活用	動詞の活用	動詞の活用
	この回の到達目標	動詞の時制の違いを理解する①②③④	
	事前学修	前期に学んだ時制の特徴をまとめておきましょう	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
15	まとめとテスト	前期のまとめ・期末テスト	
	この回の到達目標	前期に学んだことを確認し、身に付ける①②③④	
	事前学修	動詞の活用をしっかりと覚えましょう	30分
	事後学修	わからなかった事項があれば、教科書で確認しておきましょう	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
エスカパード！フランス語への旅（改訂三版）	ジャニック・マー ニユ、東辰之介、林 ゆき、鈴木雅生、田 口亜紀	駿河台出版社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、第0課		授業の進め方等のガイダンスを行った後、1)「フランス語のアルファベ(第0課)」、2)「フランス語のリズムを感じる練習(第0課)」などについて、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、1)「フランス語のアルファベ(第0課)」、2)「フランス語のリズムを感じる練習(第0課)」で学習した綴り字を読み発音することができ、また、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
2	第一課：ディアログ、発音、表現、語彙、数詞		ディアログ、発音、表現、語彙、数詞について、重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第一課：ディアログ、発音、表現、語彙、数詞で、学習した発音をすることができ、問題を解くことができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。		30分
3	第一課：主語人称代名詞と不規則動詞êtreとavoirの直説法現在の活用、名詞と形容詞の性と数、疑問文		第一課：主語人称代名詞と不規則動詞êtreとavoirの直説法現在の活用、名詞と形容詞の性と数、疑問文について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、主語人称代名詞と不規則動詞êtreとavoirの直説法現在の活用、名詞と形容詞の性と数、疑問文について、学習したものを発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
4	第二課：表現(好みを言う)、語彙(飲み物、趣味)文法(第一群規則動詞(er動詞)の直説法現在の活用)		表現(好みを言う)、語彙(飲み物、趣味)文法(第一群規則動詞(er動詞)の直説法現在の活用)について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、表現(好みを言う)、語彙(飲み物、趣味)文法(第一群規則動詞(er動詞)の直説法現在の活用)について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
5	第二課：文法(否定文、不定冠詞と定冠詞)		第二課：文法(否定文、不定冠詞と定冠詞)について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第二課：文法(否定文、不定冠詞と定冠詞)について、発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは再度問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
6	第三課：表現(日常生活について語る)、文法(不規則動詞faire, aller, venirの直説法現在の活用、前置詞à, de+定冠詞le, lesの縮約)		第三課：表現(日常生活について語る)、文法(不規則動詞faire, aller, venirの直説法現在の活用、前置詞à, de+定冠詞le, lesの縮約)について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第三課：表現(日常生活について語る)、文法(不規則動詞faire, aller, venirの直説法現在の活用、前置詞à, de+定冠詞le, lesの縮約)について、発音をすることができ、その問題に解答することができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級(筆記、聴解)の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して(あるいは問題を解いてみて)、小テストの準備をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第三課：語彙（日常使う物、曜日）、文法（所有形容詞、指示形容詞）		第三課：語彙（日常使う物、曜日）、文法（所有形容詞、指示形容詞）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第三課：語彙（日常使う物、曜日）、文法（所有形容詞、指示形容詞）について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
8	第四課：表現（道順を説明する）、文法（不規則動詞prendre, voir, pouvoir, vouloirの直説法現在の活用、命令法）		第四課：表現（道順を説明する）、文法（不規則動詞prendre, voir, pouvoir, vouloirの直説法現在の活用、命令法）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第四課：表現（道順を説明する）、文法（不規則動詞prendre, voir, pouvoir, vouloirの直説法現在の活用、命令法）について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
9	第四課：語彙（建物など）、文法（補語人称代名詞と人称代名詞強勢形、序数詞）		第四課：語彙（建物など）、文法（補語人称代名詞と人称代名詞強勢形、序数詞）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第四課：語彙（建物など）、文法（補語人称代名詞と人称代名詞強勢形、序数詞）について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
10	第五課：表現（食事や料理について語る）、文法（第二群規則動詞と不規則動詞sortir, mettre, boireの活用）		第五課：表現（食事や料理について語る）、文法（第二群規則動詞と不規則動詞sortir, mettre, boireの活用）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第五課：表現（食事や料理について語る）、文法（第二群規則動詞と不規則動詞sortir, mettre, boireの活用）について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
11	第五課：語彙（料理、食品など）、文法（近接過去、部分冠詞）		第五課：語彙（料理、食品など）、文法（近接過去、部分冠詞）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第五課：語彙（料理、食品など）、文法（近接過去、部分冠詞）について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
12	第六課：表現（天候、時間）、文法（不規則動詞savoir, devoirの直説法現在の活用、近接未来）		第六課：表現（天候、時間）、文法（不規則動詞savoir, devoirの直説法現在の活用、近接未来）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第六課：表現（天候、時間）、文法（不規則動詞savoir, devoirの直説法現在の活用、近接未来）「動詞 vouloir（第11課）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第六課：語彙（季節、衣類）、文法（代名動詞、不定形容詞tout）		第六課：語彙（季節、衣類）、文法（代名動詞、不定形容詞tout）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第六課：語彙（季節、衣類）、文法（代名動詞、不定形容詞tout）について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
14	第七課：文法（第二群規則動詞）、表現（過去を語る）		第七課：文法（第二群規則動詞）、表現（過去を語る）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第七課：文法（第二群規則動詞）、表現（過去を語る）について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	4級の内容を把握し、11月の試験に向けてどのように勉強するか計画をたてること。		30分
15	第七課：文法（直説法複合過去I）、表現（詩をつくる）		第七課：文法（直説法複合過去I）、表現（詩をつくる）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第七課：文法（直説法複合過去I）、表現（詩をつくる）について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめること（あるいは再度問題を解いてみる）。単語練習ノートを行って、後期第1回目に提出すること。		30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	下田 隆之	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
対面での演習方式。文法・語彙を整理したのち、発音と簡単な会話の練習を行い、練習問題に取り組みます。フランス語検定対策に特化した教科書を用い、文法事項とともに語彙や表現を学びながら、問題の出題形式にも慣れていきます。今期終了時には5級の内容を全て終える予定ですが、フランス語を初めて学習する受講生でも十分についていけるよう配慮します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介を口頭で行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミニマルフランス語文法	倉方健作	朝日出版社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後、教室にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスとフランス語導入	授業の進め方と学習のやり方について説明する。簡単なあいさつとアルファベ（ABC）の発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②を達成する。	
	事前学修	フランス語に関して自分の目標を設定する。教科書に軽く目を通す。	30分
	事後学修	あいさつとアルファベの発音を身につける。	30分
2	綴り字の読み方と発音の基礎 数1～20	アルファベの復習をし、綴り字の読み方と発音の基礎について学ぶ。数1～20までを身につける。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 0 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 0 復習 数1～20を暗記する	30分
3	名詞の性と数／冠詞／指示代名詞 ce	名詞の性と数・冠詞・指示代名詞 ce について学び、練習問題を行う。 数1～20を復習する。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 1 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 1 復習	30分
4	主語人称代名詞／動詞 être 数21～31／12ヶ月	主語人称代名詞／動詞 être について学び、練習問題を行う。 数21～31／12ヶ月を学ぶ	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 2 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 2 復習 動詞 être の活用を暗記する	30分
5	動詞 avoir ／否定文／疑問文 100までの数	動詞 avoir ・否定文・疑問文について学び、練習問題を行う。 100までの数を学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 3 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 3 復習	30分
6	形容詞／指示形容詞 国名とその形容詞／言語名／色	形容詞・指示形容詞について学び、練習問題を行う。 国名とその形容詞・言語名・色を学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 4 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 4 復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第1群規則動詞／第2群規則動詞 序数詞	第1群規則動詞・第2群規則動詞について学び、練習問題を行う。 序数詞について学ぶ。	
	この回の 到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 5 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 6 復習	30分
8	代名動詞／疑問代名詞 曜日	代名動詞・疑問代名詞について学び、練習問題を行う。 曜日について学ぶ。	
	この回の 到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 6 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 6 復習	30分
9	第1回～第8回のまとめ	第1回～第8回の授業の内容のまとめをする。	
	この回の 到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 0 ～ leçon 6 復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分
10	動詞 aller, venir ／近接過去・近 接未来／命令法 乗り物と前置詞	動詞 aller, venir・近接過去と近接未来・命令法について学び、練習問題を行う。 乗り物と前置詞について学ぶ。	
	この回の 到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 7 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 7 復習	30分
11	疑問副詞／疑問形容詞 方角／位置関係	疑問副詞・疑問形容詞について学び、練習問題を行う。 方角・位置関係について学ぶ。	
	この回の 到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 8 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 8 復習	30分
12	非人称構文／強勢形人称代名詞 天候／季節	非人称構文・強勢形人称代名詞について学び、練習問題を行う。 天候・季節について学ぶ。	
	この回の 到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 9 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 9 復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第10回～第12回のまとめ	第10回～第12回の授業のまとめをする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 7 ～ leçon 9 復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分
14	第1回～第13回のまとめ	第1回～第13回のまとめとして、フランス語検定の模擬試験を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 0 ～ leçon 9 復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分
15	まとめと振り返り	試験と試験問題の解説。今期の学習内容を整理する。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 0 ～ leçon 9 復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験5級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を繰り返し聞いてから、発話を反復してもらいます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の答案返却の際に解説・質問の時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考	使用しません。授業内で必要資料を配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業方針を理解し、積極的にフランス語に取り組むことができる。	
	事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください	30分
	事後学修	授業で聞いたフランス語の音声の綴りを書けるようにしてください。	30分
2	疑問文	"Qui est-ce" et "Qu'est-ce que c'est?", "C'est" et "Il est"の用法の違い。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"Qui est-ce" et "Qu'est-ce que c'est?", "C'est" et "Il est"の用法の違いについて理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
3	これは～です。	"C'est" + adjectif, les nombres. 数字の数え方を理解し、綴りをかける。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"C'est" + adjectif, les nombres. 数字の数え方を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
4	非人称構文・時間	"Il est" + heures, le tempsの時間表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、"Il est" + heures, le tempsの時間表現・用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
5	部分冠詞	部分冠詞du, de laと数の概念。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞と数の概念を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
6	比較級、最上級	La comparaison et le superlatif。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、比較級・最上級の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第二群規則動詞	第二群規則動詞-ir。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、第二群規則動詞-irの用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
8	中間テスト、採点、解説とまとめ。	中間小テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	-re動詞、不規則動詞	Les verbes en “-re”, les cas particuliers de verbes.	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、-re動詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
10	指示語、所有詞	Les démonstratifs, la possession.	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示詞、所有詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
11	基本的な不規則動詞	Le verbes “faire”, “aller”。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、不規則動詞faire, allerの用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
12	近接未来、複合過去	Le futur proche, le passé composé avec “avoir”。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、近接未来、複合過去の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	複合過去の助動詞	Le passé composé avec "avoir" et "être".	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、複合過去の助動詞être, avoirの区分について理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
14	半過去、単純未来	L'imparfait, le future simple.	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、半過去、単純未来の時制を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。	30分
15	期末テスト、採点、解説とまとめ。	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
今年度中に仏検を受験することが望ましい。

【授業方法】
過去の問題や予想問題を解きながら、解説を加えます。 毎回、課題の提出を求めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は添削して返却します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 完全予想 仏検 4 級 改訂 CD付	富田正二	駿河台出版社	2008年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
質問・相談がある場合はクラスルームを利用してください。レポートのコメント欄が使いやすいと思います。メールでの問い合わせ先： negishi.tomoo11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、前期の復習	ガイダンス 前期の復習	
	この回の到達目標	前期末のテストを振り返り、学んだことを確認する	
	事前学修	前期に学んだことに目を通しておきましょう	30分
	事後学修	忘れていた事項があれば、改めて覚えるようにしてください	30分
2	強勢形人称代名詞	強勢形人称代名詞	
	この回の到達目標	強勢形人称代名詞の変化と使い方を覚える③④	
	事前学修	p. 14に目を通しておいてください	30分
	事後学修	強勢形の変化を覚えましょう	30分
3	目的語人称代名詞(1)	目的語人称代名詞（肯定命令文以外）	
	この回の到達目標	目的語人称代名詞の変化と使い方を覚える③④	
	事前学修	p. 16, p. 17に目を通しておいてください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
4	目的語人称代名詞(2)	目的語人称代名詞（肯定命令文の場合）	
	この回の到達目標	目的語人称代名詞の変化と使い方を覚える③④	
	事前学修	p. 17, p. 18に目を通しておいてください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
5	再帰代名詞	再帰代名詞	
	この回の到達目標	再帰代名詞の変化と使い方を覚える③④	
	事前学修	p. 20に目を通しておいてください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
6	中性代名詞	中性代名詞	
	この回の到達目標	中性代名詞の変化と使い方を覚える③④	
	事前学修	p. 22, p. 23に目を通しておいてください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	指示代名詞	指示代名詞	
	この回の到達目標	指示代名詞の変化と使い方を覚える③④	
	事前学修	p. 25に目を通しておいってください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
8	仏検過去問題（5級）	仏検過去問題（5級）	
	この回の到達目標	仏検過去問題（5級）を通して、試験に慣れる①②③④	
	事前学修	基礎文法を復習しておきましょう	30分
	事後学修	間違えたところを確認して、覚えるようにしてください	30分
9	仏検過去問題（4級）	仏検過去問題（4級）	
	この回の到達目標	仏検過去問題（4級）を通して、試験に慣れる①②③④	
	事前学修	基礎文法を復習しておきましょう	30分
	事後学修	間違えたところを確認して、覚えるようにしてください	30分
10	否定文	否定文	
	この回の到達目標	否定文の作り方を覚え、使えるようになる③④	
	事前学修	p. 78, p. 79に目を通しておいってください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
11	不定詞や節を従える動詞	不定詞や節を従える動詞	
	この回の到達目標	不定詞や節を従える動詞を覚え、使えるようになる③④	
	事前学修	p. 80, p. 81に目を通しておいってください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
12	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順	
	この回の到達目標	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順を覚え、使えるようになる③④	
	事前学修	p. 82, p. 83に目を通しておいってください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	複合時制と受動態	複合時制と受動態	
	この回の到達目標	複合時制と受動態の語順を確認し、使えるようになる③④	
	事前学修	p. 84, p. 85に目を通しておいってください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
14	関係代名詞と強調構文	関係代名詞と強調構文	
	この回の到達目標	関係代名詞と強調構文の語順を確認し、使えるようになる③④	
	事前学修	p. 86に目を通しておいってください	30分
	事後学修	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください	30分
15	まとめとテスト	後期のまとめ・期末テスト	
	この回の到達目標	後期に学んだことを復習し、自分で使えるようになる①②③④	
	事前学修	今までに勉強したことを、しっかり復習しておきましょう	30分
	事後学修	わわからなかった事項があれば、教科書で確認しておきましょう	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブラーニングである。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験は、採点后、授業内で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
エスカパード！フランス語への旅（改訂三版）	ジャニック・マーニユ、東 辰之介 著、林ゆき、鈴木雅生、田口亜紀	駿河台出版社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	後期ガイダンス、第7課：表現（人や事物を比較する）		授業の進め方等のガイダンスを行った後、第7課：表現（人や事物を比較する）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第7課：表現（人や事物を比較する）で学習した綴り字を読み発音することができ、また、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
2	第7課：表現（時の表現）、文法（形容詞・副詞の比較級と最上級）		第7課：表現（時の表現）、文法（形容詞・副詞の比較級と最上級）について、重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第7課：表現（時の表現）、文法（形容詞・副詞の比較級と最上級）で、学習した発音をすることができ、問題を解くことができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
3	第7課：語彙（形容詞、色の形容詞）、文法（過去分詞、直説法複合過去）		第7課：語彙（形容詞、色の形容詞）、文法（過去分詞、直説法複合過去）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第7課：語彙（形容詞、色の形容詞）、文法（過去分詞、直説法複合過去）について、学習したものを発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
4	第8課：表現（体の調子について語る、avoirを使った体調を表す表現）、文法（代名動詞の複合過去）		第8課：表現（体の調子について語る、avoirを使った体調を表す表現）、文法（代名動詞の複合過去）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第8課：表現（体の調子について語る、avoirを使った体調を表す表現）、文法（代名動詞の複合過去）について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
5	第8課：語彙（体の各部）、文法（中性代名詞、非人称動詞falloir）		第8課：語彙（体の各部）、文法（中性代名詞、非人称動詞falloir）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第8課：語彙（体の各部）、文法（中性代名詞、非人称動詞falloir）について、発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
6	第9課：表現（疑問の表現のまとめ）、文法（受動態）		第9課：表現（疑問の表現のまとめ）、文法（受動態）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第9課：表現（疑問の表現のまとめ）、文法（受動態）について、発音することができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第9課：語彙（観光、場所の前置詞à, en, dans, chez）、文法（現在分詞とジェロンディフ、疑問形容詞、感嘆形容詞、感嘆形容詞）		第9課：語彙（観光、場所の前置詞à, en, dans, chez）、文法（現在分詞とジェロンディフ、疑問形容詞、感嘆形容詞）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第9課：語彙（観光、場所の前置詞à, en, dans, chez）、文法（現在分詞とジェロンディフ、疑問形容詞、感嘆形容詞）について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問4級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		120分
8	第10課：表現（買い物）、文法（直説法半過去）		第10課：表現（買い物）、文法（直説法半過去）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第10課：表現（買い物）、文法（直説法半過去）について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		120分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
9	第10課：語彙（プレゼント）、文法（直説法大過去）		第10課：語彙（プレゼント）、文法（直説法大過去）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第10課：語彙（プレゼント）、文法（直説法大過去）について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
10	第11課：表現（誘う、受け入れるなど）、文法（直説法単純未来）		第11課：表現（誘う、受け入れるなど）、文法（直説法単純未来）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第11課：表現（誘う、受け入れるなど）、文法（直説法単純未来）について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
11	第11課：表現（感謝された時の受け答えなど）、文法（条件法現在）		第11課：表現（感謝された時の受け答えなど）、文法（条件法現在）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第11課：表現（感謝された時の受け答えなど）、文法（条件法現在）について、学習した発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
12	第12課：表現（意見を尋ねるなど）、文法（接続法現在）		第12課：表現（意見を尋ねるなど）、文法（接続法現在）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第12課：表現（意見を尋ねるなど）、文法（接続法現在）について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第12課：表現（手紙のいくつかの表現など）、文法（接続法の用法）		第12課：表現（手紙のいくつかの表現など）、文法（接続法の用法）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第12課：表現（手紙のいくつかの表現など）、文法（接続法の用法）について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
14	第13課：文法（直説法単純未来、前未来）、表現（未来の予言を言う）		第13課：文法（直説法単純未来、前未来）、表現（未来の予言を言う）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第13課：文法（直説法単純未来、前未来）、表現（未来の予言を言う）について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートに整理して（あるいは再度問題を解いてみて）、小テストの準備をすること。		30分
15	第13課：文法（比較級、最上級）、表現（パリの建造物）		第13課：文法（比較級、最上級）、表現（パリの建造物）について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、綴り字の読み方、発音の練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、第13課：文法（比較級、最上級）、表現（パリの建造物）について、発音をすることができ、その問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめること（あるいは再度問題を解いてみる）。単語練習ノートを行って、後期第1回目に提出すること。		30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	下田 隆之	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 5 級、4 級に合格するための、基礎的フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えながら、フランス語の総合的な基礎力を修得するために、フランス語検定 5 級、4 級合格に向けた、基礎的なフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
対面での演習方式。文法・語彙を整理したのち、発音と簡単な会話の練習を行い、練習問題に取り組みます。フランス語検定対策に特化した教科書を用い、文法事項とともに語彙や表現を学びながら、問題の出題形式にも慣れていきます。11月のフランス語検定の時点で4級の内容を全て終える予定ですが、フランス語を初めて学習する受講生でも十分についていけるよう配慮します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現を聞き取ることができる（聞く能力）。								1	1		
②	身近な場面における会話を行うことができる（話す能力）。								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読むことができる（読む能力）。								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書き取ることができる（書く能力）。								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において、①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(検定試験)	実際の検定試験において、①、②、③、④が達成できているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業時に行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミニマルフランス語文法	倉方健作	朝日出版社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後、教室にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	5級の内容の復習	フランス語検定5級の内容を模擬試験形式で再び整理する。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 0 ～ leçon 9 の内容の復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分
2	目的語人称代名詞／中性代名詞 avoir を使った表現	目的語人称代名詞・中性代名詞を学び、練習問題を行う。 avoir を使った表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 10 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 10 復習	30分
3	直説法複合過去／過去分詞の性数一致 100より多い数／過去の時点を表す表現	直説法複合過去・過去分詞の性数一致について学び、練習問題を行う。 100より多い数・過去の時点を表す表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 11 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 11 復習	30分
4	直説法半過去／直説法大過去／節を導く que と時制の対応 頻度	直説法半過去・直説法大過去・節を導く que と時制の対応について学び、練習問題を行う。 頻度について学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 12 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 12 復習	30分
5	第2回～第4回のまとめ	第2回～第4回の授業のまとめをする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 10 ～ leçon 12 予習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分
6	直説法単純未来／直説法前未来 未来の時点を表す表現	直説法単純未来・直説法前未来について学び、練習問題を行う。 未来の時点を表す表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 13 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 13 復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	関係代名詞と関係副詞／指示代名詞＋関係節 食事	関係代名詞と関係副詞・指示代名詞＋関係節について学び、練習問題を行う。 食事について学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 14 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 14 復習	30分
8	比較級／最上級／所有代名詞 特殊な比較級	比較級・最上級・所有代名詞について学び、練習問題を行う。 特殊な比較級について学ぶ。 *ここまでで4級の出題範囲は終了。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 15 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 15 復習	30分
9	4級試験対策	フランス語検定4級の模擬試験を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	第1回～第8回の授業内容の復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分
10	第6回～第8回のまとめ	第6回～第8回の授業内容のまとめをする。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	第6回～第8回の授業内容の復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分
11	受動態／強調構文／疑問代名詞 lequel 有音の h	受動態・強調構文・疑問代名詞 lequel について学び、練習問題を行う。 有音の h について学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 16 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 16 復習	30分
12	現在分詞／ジェロンディフ 食事	現在分詞・ジェロンディフについて学び、練習問題を行う。 食事について学ぶ。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 17 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 17 復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	条件法現在／接続法現在	条件法現在・接続法現在について学び、練習問題を行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 18 予習	30分
	事後学修	教科書 leçon 18 復習	30分
14	第11回～第13回まとめ	第11回～第13回の授業内容のまとめを行う。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 16 ～ leçon 18 復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分
15	期末試験と振り返り	試験と試験問題の解説。今期の学習内容を整理する。	
	この回の到達目標	本項目に関して到達目標①②③④を達成する。	
	事前学修	教科書 leçon 10 ～ leçon 18 復習	30分
	事後学修	上記の範囲で身に付いていない部分をさらに復習する	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅡA	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
「実用フランス語技能検定試験」4級・3級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成するために、仏検4級・3級に合格するフランス語力を修得します。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現AB、資格試験対策IAB、コミュニケーションIABから少なくとも4単位を取得していること。あるいは以上と同等の既習者であること。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブ・ラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる								2	2		
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる								2	2		
③	短いフランス語の文章が書ける								2	2		
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
仏検3級スピード合格（新訂版）	富田正二、石上亜紀子	三修社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、定型表現（あいさつ、お礼をいう、謝る、賛成する、依頼するなど）		この授業の進め方等のガイダンスを行った後、「定型表現（あいさつ、お礼をいう、謝る、賛成する、依頼するなど）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「定型表現（あいさつ、お礼をいう、謝る、賛成する、依頼するなど）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
2	定型表現（判断や評価をあらわす、体調について話すなど）		「定型表現（判断や評価をあらわす、体調について話すなど）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「定型表現（あいさつ、お礼をいう、謝る、賛成する、依頼するなど）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
3	定型表現（道案内、交通機関を利用する、電話する、など）		「定型表現（道案内、交通機関を利用する、電話する、など）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「定型表現（道案内、交通機関を利用する、電話する、など）」についての問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
4	定型表現（日常的な話題）、動詞の活用（直説法規則動詞現在など）		「定型表現（日常的な話題）、動詞の活用（直説法規則動詞現在など）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「定型表現（日常的な話題）、動詞の活用（直説法現在など）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
5	動詞の活用（直説法現在不規則動詞など、代名動詞の直説法現在形）		「動詞の活用（直説法現在不規則動詞など、代名動詞の直説法現在形）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞の活用（直説法現在不規則動詞など、代名動詞の直説法現在形）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
6	動詞の活用（命令形、直説法複合過去形、半過去形、大過去形）		「動詞の活用（命令形、直説法複合過去形、半過去形、大過去形）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞の活用（命令形、直説法複合過去形、半過去形、大過去形）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	動詞の活用（直説法単純未来、条件法現在形とジェロンディフ、接続法現在形）		「動詞の活用（直説法単純未来、条件法現在形とジェロンディフ、接続法現在形）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「動詞の活用（直説法単純未来、条件法現在形とジェロンディフ、接続法現在形）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
8	代名詞（強勢形人称代名詞、指示代名詞、目的語人称代名詞）		「代名詞（強勢形人称代名詞、指示代名詞、目的語人称代名詞）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「代名詞（強勢形人称代名詞、指示代名詞、目的語人称代名詞）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
9	代名詞（再帰代名詞、所有代名詞、中性代名詞）		「代名詞（再帰代名詞、所有代名詞、中性代名詞）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「代名詞（再帰代名詞、所有代名詞、中性代名詞）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
10	代名詞（関係代名詞、疑問代名詞、不定代名詞）		「代名詞（関係代名詞、疑問代名詞、不定代名詞）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「代名詞（関係代名詞、疑問代名詞、不定代名詞）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
11	前置詞（場所・位置・方向など、時）		「前置詞（場所・位置・方向など、時）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「前置詞（場所・位置・方向など、時）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
12	前置詞（時、そのほか）		「前置詞（時、そのほか）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「前置詞（時、そのほか）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	前置詞（形容詞・副詞の補語を導く、動詞の補語を導く）		「前置詞（形容詞・副詞の補語を導く、動詞の補語を導く）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「前置詞（形容詞・副詞の補語を導く、動詞の補語を導く）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
14	単語配列（否定文、目的語人称代名詞・中性代名詞の語順）		「単語配列（否定文、目的語人称代名詞・中性代名詞の語順）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「単語配列（否定文、目的語人称代名詞・中性代名詞の語順）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
15	単語配列（不定詞や節を従える動詞） 前期振り返り		「単語配列（不定詞や節を従える動詞）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。前期勉強した箇所を整理・総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「単語配列（不定詞や節を従える動詞）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。前期学修したことを整理・総括することができる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくこと。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ箇所をノートにまとめて、再度問題を解き直すこと。前期全体の振り返りをノートにまとめること。		30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅡB	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
「実用フランス語技能検定試験」４級・３級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成するために、仏検４級・３級に合格するフランス語力を修得します。

【履修条件】
フランス語基礎文法AB、基礎表現AB、資格試験対策IAB、コミュニケーションIABから少なくとも４単位を取得していること。あるいは以上と同等の既習者であること。

【授業方法】
語学の演習形式の授業を行う。フランス語検定の筆記試験及び聞き取り試験の問題を解きながら検定試験対策をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業が参加者主体のアクティブ・ラーニングである。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								2	2		
②	基本的なフランス語を理解し、ほとんどのほとんどの身近な場面で対応できる								2	2		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								2	2		
④	短い内容の文章を聞き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題は、採点后、授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
仏検3級スピード合格（新訂版）	富田正二、石上亜紀子	三修社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 1910研究室（本館9階） yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、単語配列（関係代名詞と強調構文、比較の構文）		この授業の進め方等のガイダンスを行った後、「単語配列（関係代名詞と強調構文、比較の構文）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「単語配列（関係代名詞と強調構文、比較の構文）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
2	単語配列（直接話法と間接話法、慣用句）		「単語配列（直接話法と間接話法、慣用句）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「単語配列（直接話法と間接話法、慣用句）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
3	単語配列（慣用句2）		「単語配列（慣用句2）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「単語配列（慣用句2）」についての問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
4	応答文（社交、予定や計画について話す）		「応答文（社交、予定や計画について話す）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「応答文（社交、予定や計画について話す）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
5	応答文（意向や好みをたずねる、食事をするなど）		「応答文（意向や好みをたずねる、食事をするなど）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「応答文（意向や好みをたずねる、食事をするなど）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
6	応答文（実用情報をもとめる、依頼するなど）		「応答文（実用情報をもとめる、依頼するなど）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「応答文（実用情報をもとめる、依頼するなど）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	応答文（人やものを評価する、人の 消息や間柄を話題にするなど）		「応答文（人やものを評価する、人の消息や間柄を話題にするなど）」について、語彙、文法等 の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「応答文（人やものを評価する、人の消息や間柄を話題にするなど）」について、発音 をすることができ、問題に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級 （筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事 務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
8	応答文（日常のことを話す、電話で 話す）		「応答文（日常のことを話す、電話で話す）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説 し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「応答文（日常のことを話す、電話で話す）」について、発音をすることができ、問題 に解答できる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級 （筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事 務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
9	語彙（時、方位、行事、人）		「語彙（時、方位、行事など）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を 繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「語彙（時、方位、行事など）」について、発音をすることができ、問題に解答でき る。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級 （筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事 務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
10	語彙（身につけるもの、住まい）		「語彙（身につけるもの、住まい）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練 習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「語彙（身につけるもの、住まい）」について、発音をすることができ、問題に解答で きる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級 （筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事 務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
11	語彙（食事、街にあるものなど）		「語彙（食事、街にあるものなど）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練 習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「語彙（食事、街にあるものなど）」について、発音をすることができ、問題に解答で きる。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級 （筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事 務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
12	語彙（交通、様々な形容詞）		「語彙（交通、様々な形容詞）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を 繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「語彙（交通、様々な形容詞）」について、発音をすることができ、問題に解答でき る。		
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問4級ないし3級 （筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事 務局が公開している過去問4級ないし3級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	仏検対策 3 級長文	「仏検対策 3 級長文」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「仏検対策 3 級長文」について、発音をすることができ、問題に解答できる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問 4 級ないし 3 級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問 4 級ないし 3 級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
14	仏検対策 3 級会話文	「仏検対策 3 級会話文」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「仏検対策 3 級会話文」について、発音をすることができ、問題に解答できる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問 4 級ないし 3 級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて（あるいは再度問題を解き直して）、小テストの準備をすること。仏検事務局が公開している過去問 4 級ないし 3 級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
15	聞き取り（書き取りなど） 前期振り返り	「聞き取り（書き取りなど）」について、語彙、文法等の重要ポイントを解説し、発音練習を繰り返し、やってもらった問題の解答、解説を行う。前期勉強した箇所を整理・総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関して、「聞き取り（書き取りなど）」について、発音をすることができ、問題に解答できる。前期学修したことを整理・総括することができる。	
	事前学修	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。仏検事務局が公開している過去問 4 級ないし 3 級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。	30分
	事後学修	授業で学んだ文法項目をノートにまとめて、再度問題を解き直すこと。後期全体の振り返りをノートにまとめること。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅢA	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定3級、準2級（DELTA・A1、A2）に合格するための、フランス語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えつつ、資格試験対策II等で修得したフランス語力を更に向上させるために、フランス語検定3級、準2級（DELTA・A1、A2）合格に向けたフランス語の4技能を身につける。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験3級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身につけながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法・語彙の十分な知識を元に、フランス語圏における社会生活に対応することができる。								3	3		
②	長い文章の主旨を聞き、内容についての質問に答えることができる。								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のフランス語が書ける。								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考	使用しません。必要資料は授業内で配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。	
	事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。	30分
	事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。	30分
2	à+定冠詞、de+定冠詞	à la, au, aux, dela, du, desなどの前置詞＋定冠詞の形。。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、à＋定冠詞、de＋定冠詞の様々な形を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
3	所有形容詞	Mon, ton, sonなどの所有形容詞の単・複・男女のパターン。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、所有形容詞の単・複・男女の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
4	指示形容詞	ce, cette, cesの指示形容詞	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、指示形容詞の用法を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
5	avoir＋名詞	J'ai une voitureなど、所有を表すavoir＋名詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、J'ai une voitureなど、所有を表すavoir＋名詞を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
6	身体的特徴、年齢	Ma fille a les yeux noirs, Mon fils a trois ansなど年齢・身体的特徴の表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、年齢・身体的特徴の表現を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	快・不快の表現	Il a mal à la tête, Ils ont faimなどの快・不快表現	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il a mal à la tête, Ils ont faimなどの快・不快表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	中間テスト	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	avoirの否定形	J'ai→Je n'ai pas, Nous avons→Nous n'avons pasなど、avoirの否定形における音・綴りの変化。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、J'ai→Je n'ai pas, Nous avons→Nous n'avons pasなど、avoirの否定形における音・綴りの変化を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	avoirの否定形における定冠詞、不定冠詞	Je n'ai pas la télévision, Je n'ai pas de chatなど、所有のavoirの否定形における定冠詞、不定冠詞	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、定冠詞、不定冠詞と名詞の一致を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	位置を表す前置詞	Il est de Paris, Il est à Paris, Il est près de Parisなどの前置詞による位置の表現の違い。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、前置詞による位置の表現の違いを理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	国別の前置詞	En France, à Paris, Au Japon, à Tokyoなど、国による前置詞の違い。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、国による前置詞の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	空間配置の前置詞	Dans la voiture, sur la voiture, sous la voitureなどの空間における位置の前置詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、空間における位置の前置詞の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	非人称構文il y a	非人称構文“il y a”の肯定形、否定形、疑問形の作り方。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、非人称構文“il y a”の肯定形、否定形、疑問形の作り方を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	期末テスト及び解説とまとめ	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	フランス語資格試験対策ⅢB	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A 1、A 2）に合格するための、フランス語の 4 技能（読む、聞く、話す、書く）を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
異文化理解とそれに基づく真の対話とを可能にする教養を目標として見据えつつ、資格試験対策II等で修得したフランス語力を更に向上させるために、フランス語検定 3 級、準 2 級（DEL F ・ A 1、A 2）合格に向けたフランス語の 4 技能を身につける。

【履修条件】
実用フランス語技能検定試験3級、4級を受けること。

【授業方法】
音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	フランス語を聞いて、発話を繰り返してもらいます。練習問題などで質問がある時も積極的な発言を期待します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語の文法・語彙の十分な知識を元に、フランス語圏における社会生活に対応することができる。									3	3		
②	長い文章の主旨を聞き、内容についての質問に答えることができる。									3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容のフランス語が書ける。									3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(仏語検定 試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案返却時に解説と質問時間を設けます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Grammaire progressive du Français	Maïa Grégoire	CLE International	2014	参考書	任意
備考	使用しません。必要資料は授業内で配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス:授業の方針、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、授業の進め方を理解し、事前・事後学修を継続することができる。	
	事前学修	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください。	30分
	事後学修	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。	30分
2	識別の疑問文	Qui est-ce? Qu'est-ce que c'estなどの疑問文とその答え方。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Qui est-ce? Qu'est-ce que c'estなどの疑問文とその答え方を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
3	c'estとil estの違い	C'est un homme. Il est grand. C'est un sac. Il est grandなどに見られるc'estとil estの違い。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、c'estとil estの違いを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
4	c'est＋形容詞による感想	C'est beau, c'est cherなどのc'est＋形容詞による感想表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、c'est＋形容詞による感想表現の用法を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
5	数字を用いた表現	数、助数詞、日付などの表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、数、助数詞、日付などの表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
6	Il est＋時間の表現	Il est cinq heuresなどのIl est＋時間の表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il est＋時間の表現を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	非人称構文を用いた気候表現	Il fait froid en hiver, il fait beau en juilletなどの非人称構文を用いた気候表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、Il fait froid en hiver, il fait beau en juilletなどの非人称構文を用いた気候表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
8	中間テスト	中間小テスト、採点、解説・まとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまでの範囲の文法事項についての練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分
9	部分冠詞	Je mange de la salade, du poisson et des fruitsなどの部分冠詞の用法。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、部分冠詞の用法を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
10	不可算名詞の数え方	Un kilo de, beaucoup de, pas deなどの不可算名詞に用いる数量表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、不可算名詞に用いる数量表現を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
11	比較表現	plus grand que, moins grand que, aussi grand queなどの比較表現。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、plus grand que, moins grand que, aussi grand queなどの比較表現を理解し、練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
12	最上級、量の比較	plus de, moins de, autant deなどの量の比較表現と最上級の作り方。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、量の比較表現と最上級の作り方を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ir動詞	Je grandis, vous grandissezなど、-ir動詞の単数・複数二つの語尾。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、-ir動詞の活用語尾の違いを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
14	様々な主要不規則動詞	partir, écrire, savoir, connaître, boireなどの頻出不規則動詞。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、partir, écrire, savoir, connaître, boireなどの頻出不規則動詞の共通パターンを理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	配布資料のわからない単語を辞書で調べてくること。	30分
	事後学修	音声から学んだフレーズ、文法事項を参考書等で確認すること。	30分
15	期末テスト及び解説とまとめ	前期末テスト、採点、解説とまとめ。	
	この回の到達目標	達成されるべき①②③④の行動のために、これまで学んできた文法事項を理解し練習問題を解くことができる。	
	事前学修	前回までの復習。	30分
	事後学修	答案の間違った項目を見直し。	30分

科目名	国際研修(仏) I A	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できるフランス語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力を身につけるために、国際的に通用するコミュニケーション力を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】		
このクラスはビデオ付きのフランスの教材を使用する。ナントに住む2家族の物語を見ながら学習を進めていく。各課はビデオを見て理解してみて、次にフランス語で書かれた資料を読み解きながらフランス語を勉強して、そして書いたり、話したり内容を深め、最後に文化的側面をビデオを使って学習する。初級文法の基本項目を復習しながら、読む、聞く、話す、書くという総合的な力をつけていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語圏の生活及び語学研修に対応した聞き取り・会話ができる										1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてフランス語の文章が書ける										1	1		1
③	フランス語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる										1	1		1
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業で行われるかポータルサイト	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	TOTEM 1のプリント配布				

【オフィスアワー】	
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業のオリエンテーション、及び導入講義	本講義の目的と概要について説明する。	
	この回の到達目標	授業計画を知ること。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること。	30分
2	名前を言う、挨拶、イントネーション	Leçon 1 Bienvenue !	
	この回の到達目標	名前を言う、挨拶、イントネーション	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
3	名前を言う、挨拶、イントネーション	Leçon 1 Bienvenue !	
	この回の到達目標	名前を言う、挨拶、イントネーション	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
4	フランス語を読む	Leçon 2 Les mots à lire アルファベット、スペリング	
	この回の到達目標	資料の理解力を深める。	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
5	買い物する時の挨拶	Leçon 3 Les mots à écouter	
	この回の到達目標	買い物する時の挨拶	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
6	買い物する時の挨拶	Leçon 3 Les mots à écouter	
	この回の到達目標	買い物する時の挨拶	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	フランス文化を考える	Leçon 4 Culture: Saluer, la France フランス人のジェスチャー、フランスのシンボル	
	この回の到達目標	フランス文化を考える	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
8	フランス文化を考える	Leçon 4 Culture: Saluer, la France フランス人のジェスチャー、フランスのシンボル	
	この回の到達目標	フランス文化を考える	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
9	テスト、振り返り	Préparation au DELF 試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
	この回の到達目標	Leçons 1~4が身についているか確認する	
	事前学修	Leçons 1~4の復習	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
10	自己紹介	Leçon 5 Moi, je suis... 年齢・職業を言う、家族について話す	
	この回の到達目標	年齢・職業を言う、家族について話す	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
11	自己紹介	Leçon 5 Moi, je suis... 年齢・職業を言う、家族について話す	
	この回の到達目標	年齢・職業を言う、家族について話す	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
12	自己紹介	Leçon 6 Mes amis et moi 日付を言う、話す言語・出身地・住んでいる場所を言う	
	この回の到達目標	日付を言う、話す言語・出身地・住んでいる場所を言う	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	自己紹介		Leçon 6 Mes amis et moi 日付を言う、話す言語・出身地・住んでいる場所を言う
	この回の到達目標	日付を言う、話す言語・出身地・住んでいる場所を言う	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
14	試験、振り返り		到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
	事前学修	試験のための復習	60分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	フィードバック		まとめ、振り返り
	この回の到達目標	まとめ、振り返り	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	国際研修(仏) I B	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できるフランス語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に必要な語学力を身につけるために、国際的に通用するコミュニケーション力を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
このクラスはビデオ付きのフランスの教材を使用する。ナントに住む2家族の物語を見ながら学習を進めていく。各課はビデオを見て理解してみ、次にフランス語で書かれた資料を読み解きながらフランス語を勉強して、そして書いたり、話したり内容を深め、最後に文化的側面をビデオを使って学習する。初級文法の基本項目を復習しながら、読む、聞く、話す、書くという総合的な力をつけていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語圏の生活及び語学研修に聞き取り・会話において十分に対応ができる										1	1	1	
②	語学研修の内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについてフランス語の文章が書ける										1	1		1
③	フランス語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる										1	1		1
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業で行われるかポータルサイト	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	TOTEM 1のプリント配布				

【オフィスアワー】	
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Leçons 1～6の復讐	前期のレッスンの練習問題	
	この回の到達目標	前期のレッスンの復習	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること。	30分
2	連絡先を聞く	Leçon 7 Toi 電話番号、メールアドレスを聞く	
	この回の到達目標	連絡先を聞く	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
3	連絡先を聞く	Leçon 7 Toi 電話番号、メールアドレスを聞く	
	この回の到達目標	連絡先を聞く	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
4	フランス文化を考える	Leçon 8 Culture Faire connaissance, habiter à Nantes 住まいについて話す	
	この回の到達目標	住まいについて話す	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
5	レストランでの注文	Leçon 9 Et pour vous ? レストランで注文する	
	この回の到達目標	レストランで注文する	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
6	レストランでの注文	Leçon 9 Et pour vous ? レストランで注文する	
	この回の到達目標	レストランで注文する	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テスト、振り返り	Préparation au DELF 試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
	この回の到達目標	Leçons 7-9が身につけているか確認する	
	事前学修	Leçons 7~9 の復習	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
8	自分の住んでいる町について説明する	Leçon 10 À Paris 自分の住んでいる町について説明する	
	この回の到達目標	自分の住んでいる町について説明する	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
9	時刻を言う、誘う	Leçon 11 Métro Odéon 時刻を言う、誘う	
	この回の到達目標	時刻を言う、誘う	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
10	時刻を言う、誘う	Leçon 11 Métro Odéon 時刻を言う、誘う	
	この回の到達目標	時刻を言う、誘う	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
11	フランス文化を考える	Leçon 12 Culture Au restaurant, Bienvenue à Paris レストランでの週間、パリの紹介	
	この回の到達目標	フランス文化を考える	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
12	洋服屋さんで買い物する	Leçon 13 Ça vous plaît ? 洋服屋さんで買い物する	
	この回の到達目標	洋服屋さんで買い物する	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	洋服屋さんで買い物する	Leçon 13 Ça vous plaît ? 洋服屋さんで買い物する	
	この回の到達目標	洋服屋さんで買い物する	
	事前学修	配布されたプリントの分からない単語の意味を調べておく。	30分
	事後学修	ポータルの音声聞いて、授業で習った本文を繰り返し声を出して覚えること。	60分
14	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。	
	事前学修	試験のための復習	60分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	フィードバック	まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	まとめ、振り返り	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	フランス語の基礎	Initiation	
	この回の到達目標	フランス語の基礎を理解する	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	挨拶	Leçon 1	
	この回の到達目標	簡単な挨拶する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	挨拶	Leçon 1	
	この回の到達目標	名前を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	数字	Leçon 1/2	
	この回の到達目標	10まで数える	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	自己紹介	Leçon 2	
	この回の到達目標	名前を言う、30まで数える	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	自己紹介	Leçon 2	
	この回の到達目標	職業、国籍を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	家族		Leçon 3
	この回の到達目標	人を描写する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	家族		Leçon 3
	この回の到達目標	家族を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	大学		Leçon 3/4
	この回の到達目標	自分の大学を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	大学		Leçon 4
	この回の到達目標	キャンパスをの構成を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	大学		Leçon 4
	この回の到達目標	大学の付近を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	自己紹介		Leçon 5
	この回の到達目標	話せる言語、専攻を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自己紹介	Leçon 5	
	この回の到達目標	趣味を紹介する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	前期のクラスの内容（振り返り）	まとめ	
	この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	前期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
	事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
フランス語の初心者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義	授業の進め方、概要を説明する。	
	この回の到達目標	一年間の授業内容を把握する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	レッスン0-1	フランス語の基礎	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、フランス語の基礎を理解する。	
	事前学修	レッスン0の予習	30分
	事後学修	レッスン0の復習	30分
3	レッスン0-2	フランス語の基礎	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、フランス語の基礎を理解する。	
	事前学修	レッスン0の予習	30分
	事後学修	レッスン0の復習	30分
4	レッスン1-1	自己紹介をする	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、自己紹介をすることができる。	
	事前学修	レッスン1の予習	30分
	事後学修	レッスン1の復習	30分
5	レッスン1-2	自己紹介をする	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、自己紹介をすることができる。	
	事前学修	レッスン1の予習	30分
	事後学修	レッスン1の復習	30分
6	まとめ	レッスン0と1の復習	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン0と1で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン0と1の見直し	30分
	事後学修	レッスン0と1の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	レッスン2-1	今住んでいるところや出身地について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
	事前学修	レッスン2の予習	30分
	事後学修	レッスン2の復習	30分
8	レッスン2-2	今住んでいるところや出身地について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、今住んでいるところや出身地について話すことができる。	
	事前学修	レッスン2の予習	30分
	事後学修	レッスン2の復習	30分
9	レッスン3-1	交通手段について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、交通手段について話すことができる。	
	事前学修	レッスン3の予習	30分
	事後学修	レッスン3の復習	30分
10	レッスン3-2	交通手段について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、交通手段について話すことができる。	
	事前学修	レッスン3の予習	30分
	事後学修	レッスン3の復習	30分
11	まとめ	レッスン2と3の復習	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン2と3で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン2と3の見直し	30分
	事後学修	レッスン2と3の復習	30分
12	レッスン4-1	アルバイトについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン4の予習	30分
	事後学修	レッスン4の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レッスン4-2	アルバイトについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、アルバイトについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン4の予習	30分
	事後学修	レッスン4の復習	30分
14	まとめ	レッスン4の復習	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン4で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン4の予習	30分
	事後学修	レッスン4の復習	30分
15	前期のまとめ	前期学習内容の総復習	
	この回の到達目標	前期学習内容を総復習する。	
	事前学修	前期終了したテキストの総復習	30分
	事後学修	前期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	テーマ別の基礎表現		授業のオリエンテーション。フランス語での基本な挨拶など（前半）。	
	この回の到達目標	授業のイメージを理解。		
	事前学修	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
2	テーマ別の基礎表現		数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。	
	この回の到達目標	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
3	テーマ別の基礎表現		国籍を言う（代名詞と名詞）	
	この回の到達目標	国籍を言う（代名詞と名詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
4	テーマ別の基礎表現		名前、職業を言う（名詞、形容詞）	
	この回の到達目標	名前、職業を言う（名詞、形容詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
5	テーマ別の基礎表現		発音と綴り字記号の読み方	
	この回の到達目標	発音と綴り字記号の読み方		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
6	テーマ別の基礎表現		持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）	
	この回の到達目標	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマ別の基礎表現	趣味を語る（疑問文）	
	この回の到達目標	趣味を語る（疑問文）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
8	テーマ別の基礎表現	好き嫌いを語る（疑問文）	
	この回の到達目標	好き嫌いを語る（疑問文）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
9	テーマ別の基礎表現	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
	この回の到達目標	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
10	テーマ別の基礎表現	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
	この回の到達目標	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
11	テーマ別の基礎表現	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
	この回の到達目標	住んでいるところを言う（所有形容詞）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
12	テーマ別の基礎表現	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
	この回の到達目標	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ別の基礎表現	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
	この回の到達目標	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	テーマ別の基礎表現	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
	この回の到達目標	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	テーマ別の基礎表現	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
	この回の到達目標	家族を語る（所有形容詞、否定文）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I A(木曜3時限)	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
コミュニケーションパターンと文法事項を学習、基本事項の反復トレーニング、会話を聞いて、会話の内容確認と会話のロールプレイ、応用練習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FLASH ! Troisième édition revue et augmentée	Emmanuel ANTIER, Junko MIKAMI, Michel SAGAZ	SURUGADAI Shuppansha	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	フランス紹介、フランス語・フランスについてのクイズ	授業のオリエンテーション	
	この回の到達目標	フランス語に触れること。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	教科書を手に入れて、教科書をめくって観察すること。	30分
2	自己紹介	Leçon 0 挨拶する、名前を尋ねる・言う、名前の綴りを言う	
	この回の到達目標	挨拶する、名前を尋ねる・言う、名前の綴りを言う	
	事前学修	テキストの8. 9ページを読んでおく。	10分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
3	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
	この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
4	自己紹介	Leçon 1 職業・身分を言う・国籍を言う	
	この回の到達目標	職業・身分を言う・国籍を言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
5	自己紹介	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
	この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
6	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
	この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自分の生活について話す	Leçon 2 話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
	この回の到達目標	話せる言語を言う、住んでいる所を尋ねる・言う、数字（0-19）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
8	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
9	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
10	自分の生活について話す	Leçon 3 家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	この回の到達目標	家族について話す、年齢を尋ねる・言う、数字（20-100）	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
11	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
12	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自分の生活について話す	Leçon 4 好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	好みを言う、理由を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
14	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	事前学修	試験のための復習	60分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	フィードバック	まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	まとめ、振り返り	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠA	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通できるようになるために、身近な挨拶や自分の周りの事柄についての語彙と表現を修得する

【履修条件】
コミュニケーションの好きなフランス語の初心者向きの授業です。

【授業方法】
毎週グループでフランス語で会話練習、発音練習、発表を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ロールプレー。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、導入講義		ガイダンス、及び導入講義。フランス紹介、 フランス語・フランスについてのクイズ、 フランス語での基本な挨拶。	
	この回の到達目標	ガイダンス、及び導入講義。フランス紹介、 フランス語・フランスについてのクイズ、 フランス語での基本な挨拶。		
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
2	自己紹介 1		自己紹介 1： アルファベ、発音と綴り字記号の読み方。発音と綴り字記号の読み方。名前を言う・尋ねる、名前の綴りを言う。数字（0-10）	
	この回の到達目標	自己紹介 1： アルファベ、発音と綴り字記号の読み方。発音と綴り字記号の読み方。名前を言う・尋ねる、名前の綴りを言う。数字（0-10）		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
3	自己紹介 2		自己紹介 2： 年齢、職業、国籍を言う・尋ねる、数字（10-20）	
	この回の到達目標	自己紹介 2： 年齢、職業、国籍を言う・尋ねる、数字（10-20）		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
4	話せる言語、住んでいる所を言う・尋ねる 1		話せる言語、住んでいる所を言う・尋ねる 1： er動詞	
	この回の到達目標	話せる言語、住んでいる所を言う・尋ねる 1： er動詞		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
5	話せる言語、住んでいる所を言う・尋ねる 2		話せる言語、住んでいる所を言う・尋ねる 2： allerの動詞	
	この回の到達目標	話せる言語、住んでいる所を言う・尋ねる 2： allerの動詞		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分
6	持ち物		持ち物を言う・尋ねる、数字（20-60）	
	この回の到達目標	持ち物を言う・尋ねる、数字（20-60）		
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。		30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	趣味について話す	趣味を言う・尋ねる、好き嫌いを語る。	
	この回の到達目標	趣味を言う・尋ねる、好き嫌いを語る。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	家族について話す	家族について話す、数字（60-100）	
	この回の到達目標	家族について話す、数字（60-100）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	自分のこと・家族のことを語る	自分のこと・家族のことを語る（補語人称代名詞）	
	この回の到達目標	自分のこと・家族のことを語る（補語人称代名詞）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	だれか尋ねる	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
	この回の到達目標	だれか尋ねる（疑問代名詞）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	お出掛け1	お出掛け1：食べ物と飲み物	
	この回の到達目標	お出掛け1：食べ物と飲み物	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	お出掛け2	お出掛け2：だれかを誘う、したいことを尋ねる（疑問代名詞）	
	この回の到達目標	お出掛け2：だれかを誘う、したいことを尋ねる（疑問代名詞）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	日常生活について話す		日常生活について話す ここまでの復習
	この回の到達目標	日常生活について話す ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	前期期末試験、まとめ		前期期末試験の実施
	この回の到達目標	前期期末試験の実施	
	事前学修	前期の授業内容を整理して、復習して、前期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	前期期末試験解説、振り返り		前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り
	この回の到達目標	前期期末試験の返却と解説 前期の振り返り	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅠB	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
授業への参加を重視します。毎週宿題を出します。

【授業方法】
教科書に沿って授業を進めます。 ペアーの会話が多いです。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜４・５限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期に習ったこと	前学期の復習	
	この回の到達目標	前期に習ったことを復習する	
	事前学修	前期に学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	日常生活	Leçon 6	
	この回の到達目標	一日のスケジュールを説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	日常生活	Leçon 6	
	この回の到達目標	平日、週末のスケジュールを説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	観光、休み	Leçon 6/7	
	この回の到達目標	休みの予定を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	観光、休み	Leçon 7	
	この回の到達目標	時刻を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	観光、休み	Leçon 7	
	この回の到達目標	日や季節を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	天気	Leçon 8	
	この回の到達目標	天気を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	家	Leçon 8	
	この回の到達目標	自分が住んでいる家を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	食べ物	Leçon 8/9	
	この回の到達目標	食べ物の容量を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	食べ物	Leçon 9	
	この回の到達目標	レシピを言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	レストランやカフェ	Leçon 9	
	この回の到達目標	禁じる、許可をあげる	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	服	Leçon 10	
	この回の到達目標	服を描写する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	服	Leçon 10	
	この回の到達目標	お店で服を買う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	後期のクラスの内容（振り返り）	まとめ	
	この回の到達目標	後期のクラスの内容を復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	後期のクラスの内容	期末試験及び解説　まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	後期のクラスの内容を復習する	
	事前学修	試験のための復習する。（30分）	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
フランス語の初心者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身についているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	レッスン5-1	ペットなどについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
	事前学修	前期の総復習とレッスン5の予習	30分
	事後学修	前期終了した学習内容の確認とレッスン5の復習	30分
2	レッスン5-2	ペットなどについて話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ペットなどについて話すことができる。	
	事前学修	レッスン5の予習	30分
	事後学修	レッスン5の復習	30分
3	レッスン6-1	科目・先生について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、科目・先生について話すことができる。	
	事前学修	レッスン6の予習	30分
	事後学修	レッスン6の復習	30分
4	レッスン6-2	科目・先生について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、科目・先生について話すことができる。	
	事前学修	レッスン6の予習	30分
	事後学修	レッスン6の復習	30分
5	まとめ	レッスン5と6の復習	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン5と6で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン5と6の予習	30分
	事後学修	レッスン5と6の復習	30分
6	レッスン7-1	食べ物について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、食べ物について話すことができる。	
	事前学修	レッスン7の予習	30分
	事後学修	レッスン7の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	レッスン7-2		食べ物について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、食べ物について話すことができる。	
	事前学修	レッスン7の予習	30分
	事後学修	レッスン7の復習	30分
8	レッスン8-1		家事について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家事について話すことができる。	
	事前学修	レッスン8の予習	30分
	事後学修	レッスン8の復習	30分
9	レッスン8-2		家事について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家事について話すことができる。	
	事前学修	レッスン8の予習	30分
	事後学修	レッスン8の復習	30分
10	まとめ		レッスン7と8の復習
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン7と8で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン7と8の予習	30分
	事後学修	レッスン7と8の復習	30分
11	レッスン9-1		家族について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家族について話すことができる。	
	事前学修	レッスン9の予習	30分
	事後学修	レッスン9の復習	30分
12	レッスン9-2		家族について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、家族について話すことができる。	
	事前学修	レッスン9の予習	30分
	事後学修	レッスン9の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	レッスン10-1		クラブ活動について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
	事前学修	レッスン10の予習	30分
	事後学修	レッスン10の復習	30分
14	レッスン10-2		クラブ活動について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、クラブ活動について話すことができる。	
	事前学修	レッスン10の予習	30分
	事後学修	レッスン10の復習	30分
15	まとめ		レッスン9と10の復習
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン9と10で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン9と10の見直し	30分
	事後学修	後期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン) ISBN 978-4-560-06083-4		白水社	2018		必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	テーマ別の基礎表現	後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。		
	この回の到達目標	簡単な復習		
	事前学修	一学期全体の範囲で今まで習得した会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
2	テーマ別の基礎表現	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）		
	この回の到達目標	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
3	テーマ別の基礎表現	年齢を言う（数字、疑問副詞）		
	この回の到達目標	年齢を言う（数字、疑問副詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
4	テーマ別の基礎表現	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）		
	この回の到達目標	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
5	テーマ別の基礎表現	人を紹介する1（補語人称代名詞）		
	この回の到達目標	人を紹介する1（補語人称代名詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
6	テーマ別の基礎表現	人を紹介する2（補語人称代名詞）		
	この回の到達目標	人を紹介する2（補語人称代名詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現1（代名動詞）		
	この回の到達目標	日常生活の表現1（代名動詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分	
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分	
8	テーマ別の基礎表現	日常生活の表現2（近接未来）		
	この回の到達目標	日常生活の表現2（近接未来）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分	
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分	
9	テーマ別の基礎表現	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）		
	この回の到達目標	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分	
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分	
10	テーマ別の基礎表現	天候を言う（中世代名詞2、命令形）		
	この回の到達目標	天候を言う（中世代名詞2、命令形）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分	
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分	
11	テーマ別の基礎表現	比較する（比較級、最上級）		
	この回の到達目標	比較する（比較級、最上級）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分	
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分	
12	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る1（複合過去形）		
	この回の到達目標	過去のことを語る1（複合過去形）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分	
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ別の基礎表現	過去のことを語る2（複合過去形）	
	この回の到達目標	過去のことを語る2（複合過去形）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る1（単純未来形）	
	この回の到達目標	未来のことを語る1（単純未来形）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	テーマ別の基礎表現	未来のことを語る2（単純未来形）	
	この回の到達目標	未来のことを語る2（単純未来形）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B(木曜3時限)	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。

【授業方法】
コミュニケーションパターンと文法事項を学習、基本事項の反復トレーニング、会話を聞いて、会話の内容確認と会話のロールプレイ、応用練習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話することができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	到達目標①、②、③が身につけているかを、小テストにより評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で行われるかポータルサイト

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
FLASH ! Troisième édition revue et augmentée	Emmanuel ANTIER, Junko MIKAMI, Michel SAGAZ	SURUGADAI Shuppansha	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中やその前後、学生からの質問に対応します。授業時間：木曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Leçon 0-4の復習	前期のレッスンの練習問題	
	この回の到達目標	前期のレッスンの復習	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
2	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べておく	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
3	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
4	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	Leçon 5 物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	物について尋ねる・説明する、位置や場所を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
5	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
6	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	Leçon 6 容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	この回の到達目標	容姿や服装を尋ねる・説明する、持ち主を言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
8	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
	この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
9	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
	この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
10	移動について説明する、交通手段を言う	Leçon 7 移動について説明する、交通手段を言う	
	この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
11	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
12	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト(http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9)でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	Leçon 8 天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	天候について話す、時刻を尋ねる・言う	
	事前学修	レッスンの単語を調べて発音すること	30分
	事後学修	ウェブサイト (http://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-01132-9) でオーディオを聞いて、繰り返して覚えること。	60分
14	試験、振り返り	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	
	事前学修	試験のための復習	60分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
15	フィードバック	まとめ、振り返り	
	この回の到達目標	まとめ、振り返り	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと	60分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと	60分

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	C. ルペルティエ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
フランス語で意思疎通をすることができるようになるため

【履修条件】
コミュニケーションの好きなフランス語の初心者向きの授業です。

【授業方法】
毎週グループでフランス語で会話練習、発音練習、発表を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ロールプレー。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、フランス語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	10								50
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
4号館 455研究室 (lepeltier.camille@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス、簡単な復習。	
	この回の到達目標	ガイダンス、簡単な復習。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
2	時刻	時刻 数字、前置詞	
	この回の到達目標	時刻 数字、前置詞	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
3	一日のスケジュール	一日のスケジュールを説明する。家事について話す。代名動詞、近接未来。	
	この回の到達目標	一日のスケジュールを説明する。家事について話す。代名動詞、近接未来。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
4	自分が住んでいる家を説明する	自分が住んでいる家を説明する。物の位置を尋ねる・言う	
	この回の到達目標	自分が住んでいる家を説明する。物の位置を尋ねる・言う	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
5	移動について説明する	移動について説明する、交通手段を言う。 天気と言う、季節。	
	この回の到達目標	移動について説明する、交通手段を言う。 天気と言う、季節。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
6	週末の予定を説明する	週末の予定を説明する。近接未来。	
	この回の到達目標	週末の予定を説明する。近接未来。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	お店で服を買う	お店で服を買う。服装を尋ねる・説明する。服を描写する。	
	この回の到達目標	お店で服を買う。服装を尋ねる・説明する。服を描写する。	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
8	食べ物の容量、レシピ	食べ物の容量を言う、レシピを説明する。禁じる、許可をあげる	
	この回の到達目標	食べ物の容量を言う、レシピを説明する。禁じる、許可をあげる	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
9	比較	比較する（比較級、最上級）	
	この回の到達目標	比較する（比較級、最上級）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
10	過去のことを語る 1	過去のことを語る 1（複合過去形）	
	この回の到達目標	過去のことを語る 1（複合過去形）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
11	過去のことを語る 2	過去のことを語る 2 一日の出来事・週末・休みについて話す。（複合過去形）	
	この回の到達目標	過去のことを語る 2 一日の出来事・週末・休みについて話す。（複合過去形）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
12	未来のことを語る 1	未来のことを語る 1（単純未来形）	
	この回の到達目標	未来のことを語る 1（単純未来形）	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	未来のことを語る 2	未来のことを語る 2 休みの予定を説明する。（単純未来形） ここまでの復習	
	この回の到達目標	未来のことを語る 2 休みの予定を説明する。（単純未来形） ここまでの復習	
	事前学修	前回の授業で学んだことを復習し、分からない単語を辞書で調べ、練習問題を可能な限りやっておく。	30分
	事後学修	今回の授業で学んだことをよく理解して、さらに覚え、発音を練習する。	30分
14	後期期末試験、まとめ	後期期末試験の実施	
	この回の到達目標	後期期末試験の実施	
	事前学修	後期の授業内容を整理して、復習して、後期期末試験の準備をする。	30分
	事後学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
15	後期期末試験解説、振り返り	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り	
	この回の到達目標	後期期末試験の返却と解説 後期の振り返り	
	事前学修	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。	30分
	事後学修	試験の間違いをよく見直して、正答できなかった部分の復習をする。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡA	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
授業への参加を重視します。

【授業方法】
ゆっくりした進度の教科書を用い、これに沿って授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2			
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる											2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる											2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Totem 1 (livre de l'élève)	Marie-José Lopes	Hachette	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	その年の授業	授業方法の説明	
	この回の到達目標	授業方法の説明の理解	
	事前学修	シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	フランスのレストラン	Leçon 9 : Et pour vous ?	
	この回の到達目標	レストランで注文する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	フランスのレストラン	Leçon 9 : Et pour vous ?	
	この回の到達目標	レストランで注文する（続き）	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	パリの観光	Leçon 10 : À Paris	
	この回の到達目標	道を案内出来る	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	天気の説明	Leçon 10 : À Paris	
	この回の到達目標	天気予報を理解する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	美術館、映画、レストランに行く	Leçon 11 Métro Odéon	
	この回の到達目標	約束をとれる	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	美術館、映画、レストランに行く	Leçon 11 Métro Odéon	
	この回の到達目標	約束をとれる(続き)	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
8	洋服	Leçon 13 : Ça vous plait ?	
	この回の到達目標	服を描写する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
9	洋服	Leçon 13 : Ça vous plait ?	
	この回の到達目標	買い物出来る	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
10	料理	Leçon 14 : Qu'est-ce qu'on mange ?	
	この回の到達目標	レシピの材料の容量を言う	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
11	料理	Leçon 14 : Qu'est-ce qu'on mange ?	
	この回の到達目標	レシピを説明できる	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
12	食べ物	Leçon 15 : Au marché	
	この回の到達目標	市場で買い物出来る	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	食べ物	Leçon 15 : Au marché	
	この回の到達目標	市場で買い物出来る（続き）	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
14	前期の授業（振り返り）	まとめ	
	この回の到達目標	前期の授業の内容を復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
15	前期の授業（振り返り）	まとめ	
	この回の到達目標	前期の授業の内容を復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡA	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
フランス語学習2年目以降の学生または既習者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、及び導入講義	授業の進め方、概要を説明する。	
	この回の到達目標	一年間の授業内容を把握する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認する。	30分
2	レッスン0-10	レッスン0-10のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、テキストのレッスン0-10で学んだ内容を確認する。	
	事前学修	レッスン0-10を読んでおく	30分
	事後学修	レッスン0-10を復習しておく	30分
3	レッスン11-1	習慣について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、習慣について話すことができる。	
	事前学修	レッスン11の予習	30分
	事後学修	レッスン11の復習	30分
4	レッスン11-2	習慣について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、習慣について話すことができる。	
	事前学修	レッスン11の予習	30分
	事後学修	レッスン11の復習	30分
5	レッスン12-1	週末の過ごし方について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、週末の過ごし方について話すことができる。	
	事前学修	レッスン12の予習	30分
	事後学修	レッスン12の予習	30分
6	レッスン12-2	週末の過ごし方について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、週末の過ごし方について話すことができる。	
	事前学修	レッスン12の予習	30分
	事後学修	レッスン12の予習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	まとめ	レッスン11と12の復習	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン11と12で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン11と12の見直し	30分
	事後学修	レッスン11と12の復習	30分
8	レッスン13-1	時間について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、時間について話すことができる。	
	事前学修	レッスン13の予習	30分
	事後学修	レッスン13の復習	30分
9	レッスン13-2	時間について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、時間について話すことができる。	
	事前学修	レッスン13の予習	30分
	事後学修	レッスン13の復習	30分
10	レッスン14-1	休暇中の活動について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、休暇中の活動について話すことができる。	
	事前学修	レッスン14の予習	30分
	事後学修	レッスン14の復習	30分
11	レッスン14-2	休暇中の活動について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、休暇中の活動について話すことができる。	
	事前学修	レッスン14の予習	30分
	事後学修	レッスン14の復習	30分
12	まとめ	レッスン13と14の復習	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン13と14で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン13と14の見直し	30分
	事後学修	レッスン13と14の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	レッスン15-1		経験について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、経験について話すことができる。	
	事前学修	レッスン15の予習	30分
	事後学修	レッスン15の復習	30分
14	レッスン15-2		経験について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、経験について話すことができる。	
	事前学修	レッスン15の予習	30分
	事後学修	レッスン15の復習	30分
15	まとめ		レッスン15の復習
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン15で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン15の見直し	30分
	事後学修	レッスン15の復習	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡA	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】
授業での活動的な参加は求められている(出席だけでは参加になりません) 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	フランス語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる										2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書不使用、プリント教材使用（毎週送信・配信）				

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマ別の基礎表現	授業のオリオンテーション。挨拶の表現	
	この回の到達目標	授業のイメージを理解。	
	事前学修	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	テーマ別の基礎表現	自分・他者を紹介する1（男女区別、動詞の活用）	
	この回の到達目標	（男女区別、動詞の活用）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	テーマ別の基礎表現	自分・他者を紹介する2（男女区別、動詞の活用）	
	この回の到達目標	（男女区別、動詞の活用）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	テーマ別の基礎表現	自分について語る1（冠詞、形容詞、好き嫌い）	
	この回の到達目標	（冠詞、形容詞、好き嫌い）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	テーマ別の基礎表現	他人について語る2（冠詞、形容詞、好き嫌い）	
	この回の到達目標	（冠詞、形容詞、好き嫌い）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	テーマ別の基礎表現	趣味について語る	
	この回の到達目標	（冠詞と名詞と形容詞の関係）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	テーマ別の基礎表現		行き先を説明する、道を尋ねる（疑問文）	
	この回の到達目標	（疑問文）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
8	テーマ別の基礎表現		友達を訪ねる、友達を誘う（助動詞、複合動詞）	
	この回の到達目標	（助動詞、複合動詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
9	テーマ別の基礎表現		原因と結果の表現	
	この回の到達目標	（関連詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
10	テーマ別の基礎表現		要約する（所有形容詞、動詞の過去形）	
	この回の到達目標	（所有形容詞、動詞の過去形）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
11	テーマ別の基礎表現		店で買い物する（部分冠詞、分量表現）	
	この回の到達目標	（部分冠詞、分量表現）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
12	テーマ別の基礎表現		何をしているか尋ねる（疑問代名詞）	
	この回の到達目標	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ別の基礎表現	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
	この回の到達目標	行きたい場所を尋ねる（助動詞）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	テーマ別の基礎表現	スケジュールを立てる	
	この回の到達目標	（近接未来形）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	テーマ別の基礎表現	（課題提出：プリントを参照）動詞の活用のもとめ（現在形、過去形など）	
	この回の到達目標	動詞の活用のもとめ（現在形、過去形など）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡB	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
授業への参加を重視します。

【授業方法】
ゆっくりした進度の教科書を用い、これに沿って授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Totem 1 (livre de l'élève)	Marie-José Lopes	Hachette	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。授業時間：金曜 4・5 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前学期の授業の内容	前学期の復習	
	この回の到達目標	前学期の復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
2	映画	Leçon 17 : Et une comédie ?	
	この回の到達目標	自分の好みを表現する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
3	映画	Leçon 17 : Et une comédie ?	
	この回の到達目標	未来の話をする	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
4	有名人	Leçon 18 : Personnalités	
	この回の到達目標	人を描写する（見かけ/正確）	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
5	有名人	Leçon 18 : Personnalités	
	この回の到達目標	人を描写する（見かけ/正確）（続き）	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
6	文学	Leçon 19 : Le livre du jour	
	この回の到達目標	過去の話をする	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文学	Leçon 19 : Le livre du jour	
	この回の到達目標	過去の話をする（続き）	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
8	フランスの大学	Leçon 21 : Le lycée, c'est fini !	
	この回の到達目標	専攻を説明する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
9	フランスの大学	Leçon 21 : Le lycée, c'est fini !	
	この回の到達目標	驚きを表現する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
10	観光	Leçon 22 : les vacances	
	この回の到達目標	思い出を語る	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
11	観光	Leçon 22 : les vacances	
	この回の到達目標	頻度を表現する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）	30分
12	留学	Leçon 23 : Erasmus	
	この回の到達目標	相談する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分
	事後学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	留学		Leçon 23 : Erasmus
	この回の到達目標	必要さを表現する	
	事前学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
	事後学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
14	後期の授業(振り返り)		まとめ
	この回の到達目標	後期の授業を復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分
15	後期の授業(振り返り)		まとめ
	この回の到達目標	後期の授業を復習する	
	事前学修	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)	30分
	事後学修	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡB	担当者	Ch. パジェス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
フランス語学習 2 年目以降の学生または既習者向きクラスです。積極的な授業への参加、学生数30人まで。

【授業方法】
発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)	Vannieuwenhuyse	ALMA	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業内に対応する授業時間：水曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期のまとめ	前期学習内容の総復習	
	この回の到達目標	前期学習内容を総復習する。	
	事前学修	前期終了したテキストの総復習	30分
	事後学修	前期終了した学習内容を確認する。	30分
2	レッスン16-1	地理について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地理について話すことができる。	
	事前学修	レッスン16の予習	30分
	事後学修	レッスン16の復習	30分
3	レッスン16-2	地理について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、地理について話すことができる。	
	事前学修	レッスン16の予習	30分
	事後学修	レッスン16の復習	30分
4	レッスン17-1	天候について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、天候について話すことができる。	
	事前学修	レッスン17の予習	30分
	事後学修	レッスン17の復習	30分
5	レッスン17-2	天候について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、天候について話すことができる。	
	事前学修	レッスン17の予習	30分
	事後学修	レッスン17の復習	30分
6	レッスン18-1	過去について話す	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、過去について話すことができる。	
	事前学修	レッスン18の予習	30分
	事後学修	レッスン18の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	レッスン18-2		過去について話す
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、過去について話すことができる。	
	事前学修	レッスン18の予習	30分
	事後学修	レッスン18の復習	30分
8	まとめ		レッスン16-18の復習
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レッスン16-18で学んだことを用いながら会話することができる。	
	事前学修	レッスン16-18の予習	30分
	事後学修	レッスン16-18の復習	30分
9	アクティビテ1-1		道を尋ねる
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、道を尋ねることができる。	
	事前学修	アクティビテ1の予習	30分
	事後学修	アクティビテ1の復習	30分
10	アクティビテ1-2		道を尋ねる
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、道を尋ねることができる。	
	事前学修	アクティビテ1の予習	30分
	事後学修	アクティビテ1の復習	30分
11	アクティビテ2-1		レストランで注文する
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レストランで注文することができる。	
	事前学修	アクティビテ2の予習	30分
	事後学修	アクティビテ2の復習	30分
12	アクティビテ2-2		レストランで注文する
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レストランで注文することができる。	
	事前学修	アクティビテ2の予習	30分
	事後学修	アクティビテ2の復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティビテ3-1	買い物をする	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、買い物をするができる。	
	事前学修	アクティビテ3の予習	30分
	事後学修	アクティビテ3の復習	30分
14	アクティビテ3-2	買い物をする	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、買い物をするができる。	
	事前学修	アクティビテ3の予習	30分
	事後学修	アクティビテ3の復習	30分
15	まとめ	後期学習内容の総復習	
	この回の到達目標	後期学習内容を総復習する。	
	事前学修	後期終了したテキストの総復習	30分
	事後学修	前期および後期終了した学習内容を確認する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡB	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的なフランス語コミュニケーションの習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄についてフランス語で意思疎通をすることができる。CEFRA1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。

【授業方法】		
授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週グループで会話の作成・発表を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる										2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書不使用。プリント教材使用（毎週送信・配信）				

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜１・２限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマ別の基礎表現	後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。	
	この回の到達目標	簡単な復習	
	事前学修	一学期全体の範囲で今まで習得した会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
2	テーマ別の基礎表現	尋ねた場所について語る（過去形）	
	この回の到達目標	（過去形）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
3	テーマ別の基礎表現	出来たことについて語る（過去形）	
	この回の到達目標	（過去形）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
4	テーマ別の基礎表現	レストラン等で注文をする（欲する表現、代名動詞）	
	この回の到達目標	（欲する表現、代名動詞）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
5	テーマ別の基礎表現	交通機関の使い方（直接目的補語、時間の言い方）	
	この回の到達目標	（直接目的補語、時間の言い方）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
6	テーマ別の基礎表現	レジャーとスポーツ1（趣味）	
	この回の到達目標	（名詞と形容詞の関係）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	テーマ別の基礎表現	レジャーとスポーツ2（趣味）		
	この回の到達目標	（名詞と形容詞の関係）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
8	テーマ別の基礎表現	久々の再会1（半過去形、単純未来形）		
	この回の到達目標	（半過去形、単純未来形）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
9	テーマ別の基礎表現	久々の再会2（半過去形、単純未来形）		
	この回の到達目標	（半過去形、単純未来形）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
10	テーマ別の基礎表現	将来について語る（未来系、条件法など）		
	この回の到達目標	（未来系、条件法など）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
11	テーマ別の基礎表現	時刻の表現（数字）		
	この回の到達目標	（数字・数え方）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分
12	テーマ別の基礎表現	フランスと日本の生活を比較する1（比較、最上級）		
	この回の到達目標	（比較、最上級）		
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。		30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマ別の基礎表現	フランスと日本の生活を比較する2（比較、最上級）	
	この回の到達目標	（比較、最上級）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
14	テーマ別の基礎表現	（課題提出：プリントを参照）動詞の活用まとめ（現在形、過去形など）	
	この回の到達目標	（現在形、過去形、未来形）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分
15	テーマ別の基礎表現	テストの準備と実行（会話作成）	
	この回の到達目標	（会話作成）	
	事前学修	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。	30分
	事後学修	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項説明・発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめよう楽々中国語』	小林和代・韓軍	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国語の標準語はどのような言語か	中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	中国語の標準語はどのような言語か大まかに説明できる。四声のイメージを説明できる。単母音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキスト6・7ページを一読しておく。	20分
	事後学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。	40分
2	中国語の発音	子音の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	子音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。テキスト8～10ページを一読しておく。	15分
	事後学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。	45分
3	中国語の発音	複合母音・鼻母音の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	複合母音・鼻母音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。テキスト11～14ページを一読しておく。	15分
	事後学修	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。	45分
4	数字	第3課前半 数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を練習する。	
	この回の到達目標	1から10までの数字を言える。月日・曜日を尋ねることができる。またその質問に答えられる。	
	事前学修	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。17・18ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き17・18ページの発音練習をする。	15分
	事後学修	18ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分
5	時刻・時間	第3課前半小テスト 第3課後半 時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を練習する。	
	この回の到達目標	時刻・時間の長さを尋ねることができる。またその質問に答えられる。	
	事前学修	19ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き19ページの発音練習をする。18ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
	事後学修	19ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分
6	人称代名詞・姓名	第3課後半小テスト 第4課前半 人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を練習する。	
	この回の到達目標	人称代名詞を言える。姓名を尋ねられる。自分の姓名を中国語で言える。	
	事前学修	21・22ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き21・22ページの発音練習をする。19ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
	事後学修	22ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	動詞〈是〉・構造助詞〈的〉	第4課前半小テスト 第4課後半 動詞〈是〉、構造助詞〈的〉のはたらきとその前後の語順を学習する。	
	この回の到達目標	動詞〈是〉の文の基本語順と訳し方を説明できる。構造助詞〈的〉のはたらきが必要となる場合を説明できる。	
	事前学修	23ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き23ページの発音練習をする。22ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
	事後学修	〈是〉のはたらきと語順、〈的〉のはたらきと語順を説明できるようにする。23ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
8	動詞述語文の基本語順・疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置	第4課後半小テスト 第5課前半 動詞述語文の基本語順、疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置と意味。	
	この回の到達目標	動詞述語文の基本語順を説明できる。疑問詞〈誰〉〈什么〉の意味と位置を説明できる。	
	事前学修	27・28ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き27・28ページの発音練習をする。23ページの聞き取りができるように復習しておく。	15分
	事後学修	28ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞述語文の基本語順を何も見ないで説明できるようにする。疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置を何も見ないで説明できるようにする。	45分
9	指示代詞〈這〉〈那〉、疑問の〈嗎〉	第5課前半・第3課前半小テスト 第5課後半 〈這〉〈那〉の使い方、〈嗎〉はどのような疑問文で使えるか。	
	この回の到達目標	〈這〉〈那〉の意味と位置を説明できる。〈嗎〉がどのような疑問文で使えるか説明できる。	
	事前学修	29ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き29ページの発音練習をする。18・28ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	29ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	30分
10	量詞と動詞〈有〉	第5課後半・第3課後半小テスト 第6課前半 六種の量詞と名詞の関係を覚える。動詞〈有〉の使い方を練習する。	
	この回の到達目標	六種の量詞と名詞の関係を説明できる。動詞〈有〉の文の基本語順と訳し方を説明できる。	
	事前学修	31・32ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き31・32ページの発音練習をする。19・29ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	32ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。六種の量詞と名詞の関係を何も見ないで説明できるように練習する。	30分
11	省略疑問文と反復疑問文	第6課前半・第4課前半小テスト 第6課後半 省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か。	
	この回の到達目標	省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できる。	
	事前学修	33ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き33ページの発音練習をする。22・32ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	33ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。	30分
12	場所を表す指示代名と動詞〈在〉	第6課後半・第4課後半小テスト 第7課前半 場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方。	
	この回の到達目標	場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方を説明できる。	
	事前学修	37・38ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き37・38ページの発音練習をする。23・33ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	38ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。場所を表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。動詞〈在〉の語順を説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	選択疑問文とモノ・コトを表す指示代名詞	第7 課前半・第5 課前半小テスト 第7 課後半 選択疑問文とはどのような疑問文か。モノ・コトを表す指示代名詞。	
	この回の到達目標	選択疑問文とはどのような疑問文か説明できる。モノ・コトを表す指示代名詞を言える。	
	事前学修	39ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き39ページの発音練習をする。28・38ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	39ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。モノ・コトを表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。選択疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。	30分
14	総復習	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。 7課までの単語を復習する。	
	この回の到達目標	3課から7課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。3課から7課の単語が聞き取れる。	
	事前学修	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題を解いておく。3課から7課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。	15分
15	期末試験及び前期学習内容の振り返り	授業内試験及び前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	第1課から第7課までの単語が聞き取れる。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第1課から第7課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第7課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	白石 裕一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って進めていく。毎回単語テストを行う。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する							1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点をして、授業中に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ実践中国語	王学群・高麗貞	白帝社	2012	教科書	必携
中日辞典 第3版		小学館	2016	その他	推奨
講談社 中日辞典 第三版		講談社	2010	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：金曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	発音練習	発音練習（1）単母音、声調	
	この回の到達目標	中国語の発音のあらましを理解する。声調をマスターする。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと	30分
	事後学修	発音の復習をすること。	30分
2	発音練習	発音練習（2）単母音、複母音、子音、有気音、無気音	
	この回の到達目標	単母音をマスターする。複母音、子音、有気音、無気音の練習をする。	
	事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
	事後学修	発音の復習をすること。	30分
3	発音練習	発音練習（3）そり舌音、鼻母音	
	この回の到達目標	複母音、子音、有気音、無気音をマスターする。そり舌音、鼻母音の練習をする。	
	事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
	事後学修	発音の復習をすること。	30分
4	基本的な語順	第1課：本文の翻訳、①人称代詞、②動詞述語文。発音練習（4）注意すべき発音	
	この回の到達目標	そり舌音、鼻母音をマスターする。中国語の基本的な語順を理解する。	
	事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
	事後学修	発音の復習をすること。	30分
5	疑問と否定	第1課：③疑問を表す“ma”、④否定を表す“不”、練習問題。発音練習（5）声調の確認	
	この回の到達目標	疑問表現と否定表現を理解する。	
	事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
	事後学修	発音の復習をすること。	30分
6	発音の確認	これまで練習してきた発音の確認	
	この回の到達目標	20くらいの単語をすらすら発音できるようにする。	
	事前学修	苦手な発音を確認しておくこと。	30分
	事後学修	発音の復習をすること	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	代詞と“是”構文	第2課：本文の翻訳、①指示代詞（1）、②判断を表す“是”	
	この回の到達目標	代詞のあらましと“是”構文を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
8	構造助詞“的”と疑問詞疑問文	第2課：③連体修飾の“的”、④疑問詞疑問文、練習問題	
	この回の到達目標	構造助詞“的”と疑問詞疑問文を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
9	数詞と助数詞	第3課：本文の翻訳、①数詞・曜日・年月日、②時刻	
	この回の到達目標	数詞と助数詞を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
10	名詞述語文と省略疑問文	第3課：③名詞述語文、④省略疑問文の“ne”、練習問題	
	この回の到達目標	名詞述語文と省略疑問文を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
11	指示代詞と存在文	第4課：本文の翻訳、①指示代詞（2）、②存在文	
	この回の到達目標	指示代詞と存在文を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
12	形容詞述語文と前置詞	第4課：③形容詞述語文、④前置詞の“離”、練習問題	
	この回の到達目標	形容詞述語文と前置詞を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	動詞“有”と反復疑問文	第5課：本文の翻訳、①所有を表す“有”、②反復疑問文	
	この回の到達目標	動詞“有”と反復疑問文を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
14	構造助詞“的”の省略と家族を表す名詞	第5課：③“的”の省略、家族の言い方、練習問題	
	この回の到達目標	構造助詞“的”の省略を理解し、家族を表す名詞を覚える。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
15	まとめ	これまで学習してきた内容のまとめ	
	この回の到達目標	中国語の発音と基本的な表現のための文法を確認する。	
	事前学修	これまで学習してきた内容をすべて復習しておくこと。	30分
	事後学修	きちんと理解していないところは再度復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。発音の訓練を行い、会話練習や書き取りを行う。問題集がついているので、必ず事前にやっておくこと。 フィードバックは授業内で解説を行う。筆記試験については採点して解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなどを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(最新2訂版) 中国語はじめの一步	竹島全吾 伊景春 竹島毅	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国語について	1、ガイダンス 「授業の概要や到達目標について説明」 2、中国の概況 3、中国語の発音：短母音、声調	
	この回の到達目標	シラバスの概要を確認し、理解する。 中国語の発音：短母音、声調	
	事前学修	シラバスを確認し、授業計画を立てる。	30分
	事後学修	短母音、声調の復習	30分
2	中国語の発音	発音：子音、複合母音	
	この回の到達目標	発音：子音、複合母音の発音ができる。	
	事前学修	子音、複合母音の予習	30分
	事後学修	子音、複合母音の復習	30分
3	中国語の発音	発音：鼻母音、発音のトレーニング	
	この回の到達目標	鼻母音の発音ができる。	
	事前学修	鼻母音の予習	30分
	事後学修	発音の総復習	30分
4	第1課	第1課 「あなたは中国人ですか。」本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. “是” の文	
	この回の到達目標	第1課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
5	第1課	第1課 「あなたは中国人ですか。」 本文、トレーニング	
	この回の到達目標	第1課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておくこと	30分
	事後学修	第1課の総復習	30分
6	第2課	第2課 「これはなんですか。」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 (1) 2. 疑問詞疑問文 3. “的” の用法 4. 副詞	
	この回の到達目標	第2課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2課	第2課 「これはなんですか。」 本文、トレーニング、	
	この回の到達目標	第2課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第2課の総復習	30分
8	第3課	第3課 「あなたはどこに行きますか。」本文訳 ポイント 1. 動詞の文 2. 「所有」を表わす“有” 3. 省略疑問の“呢”	
	この回の到達目標	第3課の文法や発音の習得ができる	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
9	第3課	第3課 「あなたはどこに行きますか。」 本文、トレーニング	
	この回の到達目標	第3課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第3課の総復習	30分
10	第4課	第4課 「このバックはいくらですか」本文訳 ポイント 1. 量詞 2. 指示代名詞 (2) 3. 形容詞の文 4. “几” と“多少”	
	この回の到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
11	第4課	第4課 「このバックはいくらですか。」 本文、トレーニング	
	この回の到達目標	第4課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第4課の総復習	30分
12	第5課	第5課 「あなたは夜用事がありますか。」本文訳 ポイント 1. 数字 2. 日付・時刻を表す語 3. 「動作の時点」を言う表現	
	この回の到達目標	第5課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課	第5課 「あなたは夜用事がありますか。」 本文、トレーニング	
	この回の到達目標	第5課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で、発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第5課の総復習	30分
14	中間のまとめ	第1課～5課のまとめ。（前期末授業内筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内の復習で、問題点を解説し、正しく理解できる。	
	事前学修	第1課～5課の復習、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解を深める。	30分
15	前期のまとめ	①フィードバック、質疑応答（試験問題について解説する。 ②会話テストを行う。または書き取りをやる。	
	この回の到達目標	フィードバック、質疑応答によって理解を深める。	
	事前学修	前期学習内容を総復習し、問題点を確認する。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	教科書を購入しないかわりに「中国語検定過去問WEB(2500円)」への加入が必須です。詳細は授業開始後にアナウンスします。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。月 6 ・ 火 6 1033講堂（予定）。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・中国語の四声・目的語の位置		授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。プリントにて中国語入門知識と四声などを学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、動詞述語文における目的語の位置を理解して四声を正しく発音できる。	
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、ネットなどにて中国語という言葉について簡単に調べておく。	30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期01）などを持ちいて四声・目的語の位置、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする。	30分
2	有気/無気音・正否疑問文		プリントを使用し、有気/無気音の発音と正否疑問文と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前01)
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、有気/無気音・正否疑問文といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
	事前学修	小テスト(前01)課題などを持ちいて四声の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期02）などを持ちいて、今回学んだ有気/無気音・正否疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
3	-n/-ng・轻声・“請”の用法		プリントを使用し、-n・-ng・轻声の発音・“請”と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前02)
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・轻声・正否疑問文について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
	事前学修	小テスト(前02)課題などを持ちいて単母音・有気/無気音の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期03）などを持ちいて、今回学んだ-n/-ng・轻声・“請”、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
4	基本母音の発音・反復疑問文		プリントを使用し、基本母音の発音・反復疑問文と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前03)
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と基本母音の発音・反復疑問文について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
	事前学修	小テスト(前03)課題などを持ちいて-n/-ng・轻声の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期04）などを持ちいて、今回学んだ基本母音の発音・反復疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
5	“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置		プリントを使用し、“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前04)
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
	事前学修	小テスト(前04)課題などを持ちいて基本母音の発音・反復疑問文を身につけ授業にのぞむ。	30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期05）などを持ちいて、今回学んだ“-ian”の発音・「時を表わす語」の位置、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分
6	ソリ舌音と“是”の用法		プリントを使用し、ソリ舌音の発音と“是”の用法と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前05)
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現とソリ舌音と“是”の用法などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。	
	事前学修	小テスト(前05)課題などを持ちいて“-ian”の発音を身につけ授業にのぞむ。	30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期06）などを持ちいて、今回学んだソリ舌音と“是”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	選択疑問文・舌歯音		プリントを使用し、選択疑問文・舌歯音と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前06)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と選択疑問文・舌歯音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(前06)課題などをもちいて、ソリ舌音の発音と“是”の用法を身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期07）などをもちいて、今回学んだ選択疑問文・舌歯音、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
8	“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5		プリントを使用し、“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前07)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(前07)課題などをもちいて、選択疑問文・舌歯音を身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期08）などをもちいて、今回学んだ“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型・1～5の数、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
9	“y-” “w-” を用いた複母音の綴りと発音		プリントを使用し、“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前08)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(前08)課題などをもちいて、“y-” “w-” の用法・動詞の重ね型、1～5の数を身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期09）などをもちいて、今回学んだ“y-” “w-” を冠す複母音の綴りと発音、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
10	“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10		プリントを使用し、“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前09)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数の発音などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(前09)課題などをもちいて、“y-” “w-” を冠す複母音・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期10）などをもちいて、今回学んだ“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
11	“児化”		プリントを使用し、“児化”とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前10)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“児化”の用法について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(前10)課題などをもちいて、“-iu” “-ui” “-un” の綴りと発音・1～10の数について身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期11）などをもちいて、今回学んだ“児化”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
12	年月日・曜日の言い方		プリントを使用し、年月日・曜日の言い方と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(前11)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と年月日・曜日の言い方について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(前11)課題などをもちいて、“児化”の用法を身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期12）などをもちいて、今回学んだ年月日・曜日の言い方の復習と短文音読の反復練習をする。過去問WEBで事前に指示された回の準4級問題に「練習モード」で取り組む。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	前期総復習とまとめ		前期総復習として、プリンとなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(前12)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、発音・語彙・文法について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(前12)課題などを持ち、年月日・曜日の言い方を身につけ、これまでの前期の小テストを復習し、前期学修範囲の疑問点を明らかにして授業にのぞむ。		60分
	事後学修	前期筆記試験の範囲や口頭試験課題文をプリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち復習する。過去問WEBで事前に指示された回の準4級問題に「練習モード」で取り組む。		120分
14	筆記試験とまとめ		前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学んだ発音、語彙、文法などを応用することができる。		
	事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。		120分
	事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習する。		120分
15	口頭試験とまとめ		前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる。		
	事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。		120分
	事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。過去問WEBで最新の準4級問題に「本番モード」で取り組んで採点まで行う。		120分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて解説を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2016 2・1 版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
helebuwei128@sina.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 中国語とは	年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など	
	この回の到達目標	中国語の概略を理解することと発音記号を理解する	
	事前学修	教科書とシラバスに目を通してください	30分
	事後学修	授業の内容を復習する	30分
2	中国語の発音	発音について学ぶ 音節と声調 および 単母音韻母	
	この回の到達目標	とくに、声調を理解し覚えること	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単母音を発音練習する 教科書の練習問題を復習する	30分
3	中国語の発音	複合母音 韻尾 nとng	
	この回の到達目標	韻母を読める、書ける	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	母音の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	30分
4	中国語の発音	声母 有気音と無気音 そり舌音	
	この回の到達目標	声母を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	声母の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	30分
5	ピンイン表記法	軽声、儿化韻 変調	
	この回の到達目標	発音をはっきりと聞き分けられ また正しく発音できるように	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	発音まとめの復習	30分
6	発音到達度テスト まとめ	発音リスニングテスト	
	この回の到達目標	発音上達するように	
	事前学修	声母、韻母の復習	30分
	事後学修	テスト問題の見直し	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第一課 自己紹介	人称代詞、 姓名の尋ね方、こたえ方 よく使われるあいさつ言葉	
	この回の到達目標	名詞述語文の文型を理解する	
	事前学修	会話文を読む	30分
	事後学修	単語と本文を覚えましょう	30分
8	第二課 お誕生日	月日の言い方、聞き方 年齢の言い方、聞き方 数の数え方	
	この回の到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語と本文を覚えましょう	30分
9	第三課 電話をかける	電話番号の聞き方、言い方 「有」と「没有」	
	この回の到達目標	名詞述語文の文型を学ぶ	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語、本文を覚える	30分
10	第四課 お住まい	形容詞述語文のたずね方、こたえ方 動詞の「在」と介詞の「在」	
	この回の到達目標	形容詞述語文の文型を学ぶ	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語、本文を覚える	30分
11	第五課 買い物	他動詞 「想」の使い方 「的」の名詞化用法	
	この回の到達目標	買い物の会話を話せるように	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語、本文を覚える	30分
12	第六課 食事をする	省略疑問文と疑問代詞 助動詞の「会」	
	この回の到達目標	食事について会話をできるように	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語、本文を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第一課から第六課 単語テスト まとめ		学んだ単語を漢字を書ける、読める
	この回の 到達目標	単語を暗記	
	事前学修	単語の復習	30分
	事後学修	テストの見直し	30分
14	本文と文法の復習		リスニングを作文の練習
	この回の 到達目標	第六課までの本文を暗唱	
	事前学修	毎回の練習問題を復習	30分
	事後学修	本文を暗唱	30分
15	前期テスト まとめ		まとめ・試験
	この回の 到達目標	前期の学習成果を試験で発揮する	
	事前学修	教科書の内容を復習	30分
	事後学修	前期の総復習	30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	劉 秋佳	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
3 分の 2 以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること、出席状況、授業での態度が悪いと成績の評価ができなくなる。

【授業方法】		
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。 フィードバックは授業内において行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	2000. 3. 31	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		飛鳥文化出版－国際関係と国際文化交流／気功波動の健康法－生命力の高次元への修業 LINEとWechatの交流コラムを通じて関連情報を共有して紹介する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第1回導 入 導入講義		中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国の歴史文化と現代社会	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	本授業のシラバスを事前に読んでください		30分
	事後学修	中国について、基本状況と中国語の特徴をまとめて、レポートを提出します		30分
2	第2回(発音一)		韻母と声母：単母音、声母(子音)、四声、(授業用語)	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習 しましょう		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
3	第3回 (発音二)		複母音と鼻母音(声調符号の付け方)、	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習 しましょう		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
4	第4回 (発音三)		特殊発音、声調の変化 (授業用語)	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	発音練習予定部分を学習してください		30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい		30分
5	第 5 回 発音部分の小テスト		発音の総合練習とテスト	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の練習と配った練習問題を復習してください		30分
	事後学修	練習とテストのできないところを確認して、できるまでに練習してください		30分
6	第 6 回 第1課北京的天气？		北京の天？(挨拶と授業養護) 天気会話表現と挨拶授業用語を習得する 述語分類、形容詞述語文、疑問詞文、肯定否定疑問詞文を理解する	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第7回 第2課你是香港人？		貴方は香港の方ですか？ 指示代名詞、人称代名詞、選択疑問文などを学習する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
8	第8回 第3課你吃早了？		君は朝ごはんを食べましたか？（君は朝食しましたか？） 動詞述語文と時態助詞などを勉強します。	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
9	第9回 応用練習と文化事情		会話の応用練習：グループで会話練習を確認させて評価します 宿題： 文化事情：配ったプリントの記事を読んで、感想と見解を書いて提出下さい	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
10	第10回 第4課 你身体好？		君は元気ですか？ 主述述語文、近接未来の表現、疑問詞’多’＋形容詞の表現などを習う	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
11	第11回 第5課你家有几口人？		貴方は何人家族ですか？ 家族の聞き方、動詞’有’、疑問詞’幾’などを勉強する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
12	第12回 会話の応用練習		会話の応用練習： グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第13回 第6課有人滑雪？		第 6 課スキーをする人がいますか？ 存現文、感嘆文、A或B等を学習する	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
14	第14回 総復習 前期総復習		前期の学習要点を復習問題にまとめて、総合練習して確認します	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。		30分
	事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください		30分
15	第15回 授業内テスト まとめ		テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を確認する	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の指定範囲の復習練習問題を完成して復習しなさい		30分
	事後学修	ミスした所とできない部分を確認して、今度間違いないように注意します。		30分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	汪 鴻祥	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者 3 0 名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】							
書 名			著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎 重版 2021年3月2刷発行			汪鴻祥 主編	白帝社	2021年 度	教科書	必携

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業計画の説明等	
	この回の到達目標	この授業の計画と内容を理解する	
	事前学修	テキスト6－7ページ（中国の基本データと中国の基本知識）と発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
2	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	中国語発音を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
3	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	中国語発音を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
4	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	中国語発音を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
5	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	中国語発音を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
6	会話編	第1課：「初次面」 会話と練習	
	この回の到達目標	第1課：「初次面」を習得する	
	事前学修	第1課：「初次面」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	会話編	第2課：「迎新生」 会話と練習	
	この回の到達目標	第2課：「迎新生」を習得する	
	事前学修	第2課：「迎新生」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
8	会話編	第3課：「我的一家」 会話と練習	
	この回の到達目標	第3課：「我的一家」を習得する	
	事前学修	第3課：「我的一家」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
9	会話編	第4課：「生日快」 会話と練習	
	この回の到達目標	第4課：「生日快」	
	事前学修	第4課：「生日快」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
10	会話編	第5課：「漫学」 会話と練習	
	この回の到達目標	第5課：「漫学」を習得する	
	事前学修	第5課：「漫学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
11	会話編	第6課：「参校园」 会話と練習	
	この回の到達目標	第6課：「参校园」を習得する	
	事前学修	第6課：「参校园」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
12	会話編	第7課：「趣好」 会話と練習	
	この回の到達目標	第7課：「趣好」を習得する	
	事前学修	第7課：「趣好」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	会話編		第8課：「学」 会話と練習
	この回の到達目標	第8課：「学」を習得する	
	事前学修	第8課：「学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
14	復習		期末総合復習
	この回の到達目標	前期で学んだ中国語を復習し理解する	
	事前学修	総合復習の準備	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
15	期末総括と授業内試験		期末総括試験及びまとめ、振り返り
	この回の到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う	
	事前学修	試験の準備	120分
	事後学修	前期授業内容の復習	120分

科目名	中国語基礎表現A	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は基本的にはオンデマンド型式で行う。授業動画を視聴して中国語を学習し、期限までにgoogleクラスルームにおいて出題される課題を提出すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	日常生活で目にしたり耳にした中国語をノートにまとめ発表する。 授業で学んだ表現を駆使して教師と中国語で簡単な会話をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいたごく単純な文章を理解する					1			1	1		
③	ごく身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人についてごく簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールやzoomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『音読から始める中国語 アイテム15』	鄭高咏	朝日出版社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
後日、googleクラスルームにメールアドレス等をお伝えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／中国語概説	授業の内容や課題の提出の仕方、また成績評価の方法等について説明する。また、これから学ぶ「中国語」という言語の特徴について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、授業の進め方や課題の提出方法等について理解することができる。また、「中国語」という言語の特質について説明することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んで注意事項を確認しておくこと。	30分
	事後学修	「普通話」、「簡体字」、「ピンイン表記」についてそれぞれの内容を確認しておくこと。教科書はできるだけ早く準備しておくこと。辞書は特に必要ないが、個人的に用意したい場合は相談すること。	30分
2	発音のトレーニング①「声調と母音（韻母）」	「声調（四声）」の取り方について学ぶ。 「単母音」の発音方法について学ぶ。 「複母音」の発音方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「声調（四声）」について、声調符号に従ってそれぞれ正しくコントロールできる。また、「単母音」と「複母音」について、それぞれの口の使い方を理解しながら正しい音声を発することができる。	
	事前学修	口の使い方を自分で確認するために、鏡を用意しておくこと。また、パソコンやスマートフォンで簡体字入力ができるようにしておくこと。	30分
	事後学修	「声調」、「単母音」、「複母音」について、授業で配布した教材や教科書の付属CDの音声を参考にしながら、繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
3	発音のトレーニング②「子音（声母）」	「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」の発音方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、息、唇、舌、歯、顎の使い方に注意しながら、発音表記に従ってそれぞれ正しく発音できる。	
	事前学修	前回の「声調」、「単母音」、「複母音」の発音方法について、よく復習をしておくこと。	30分
	事後学修	「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」について、授業で配布した教材や教科書の付属CDの音声を参考にしながら、繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
4	発音のトレーニング③（「鼻母音」とその他の発音の注意点）	「鼻母音」の発音方法について学ぶ。また、「轻声」や「変調」についても補足説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「n」と「ng」及び母音の音声の相違を識別して正しく発音できる。	
	事前学修	前回の「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」の発音方法についてよく復習しておくこと。	30分
	事後学修	「n」と「ng」の違いに留意して、授業で配布した教材や教科書の付属CDの音声を参考にしながら繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
5	第1課① 初対面	「叫」や「姓」を用いて、名前を伝える。	
	この回の到達目標	到達目標②の達成のため、自分の名前を簡体字で書くことができる。 到達目標①③④の達成のため、名前を言ったり、尋ねたりできる。	
	事前学修	自分の名前の簡体字及びピンインを辞書やインターネットで予め調べておくこと。	30分
	事後学修	動詞の「姓」と「叫」について、要点をノートに整理すること。また、第1課の教科書の本文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
6	第1課② 初対面	「是」を用いて身分や所属を伝える。	
	この回の到達目標	到達目標②の達成のため、動詞「是」を用いて自分の国籍や身分を書くことができる。 到達目標①③④の達成のため、動詞「是」を用いて自分の国籍や身分を伝えることができる。	
	事前学修	「日本大学法学部」のピンイン表記を調べておく。	30分
	事後学修	第1課の本文とダイアローグを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2課 楽しい	形容詞述語文で気持ちを伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、形容詞述語文を用いて、人柄や容姿、味などの感想を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	自分の好きな食べ物と飲み物を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第2課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。	30分
8	第3課 週末	いつ、何をするのかを伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「いつ食べるのか」、「いつ行くのか」などを伝えたり尋ねたりできる。到達目標①③④の達成のため、中国語で曜日を正しく伝えたり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	自分の1週間のスケジュールを確認しておく。	30分
	事後学修	第3課の本文とダイアログを暗唱して、自己紹介の表現を再現できるようにしておく。	30分
9	第4課 誕生日	日付を伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、数字を用いて家族の構成人数を伝えたり尋ねたりできる。また、数字について、自身の電話番号やパスポート番号を正確に伝えることができる。	
	事前学修	自分の生年月日、電話番号の数字のピンイン表記を調べておく。	30分
	事後学修	第4課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。	30分
10	第5課 兄弟姉妹①	自分の家族構成を伝えよう。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「有」を用いて自分の家族構成について伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	自分の家族構成を整理しておく。	30分
	事後学修	第5課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。	30分
11	第5課 兄弟姉妹②	どこで、何をするのかを伝える。 予定を伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、動詞の「在」を用いて動作を「どこで」するのかを伝えたり尋ねたりできる。到達目標①③④の達成のため、「打算」を用いて、自分の伝えることができる。	
	事前学修	放課後に行きたい場所を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第5課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。	30分
12	第5課 兄弟姉妹③	どこに何をしに行くのかを伝える。	
	この回の到達目標	到達目標②と③の達成のため、連動文を用いてどこへ何をしに行くのかを伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	自分の行きたい駅名を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第5課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第6課 旅行①	物をどれくらい持っているのかを伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、適切な名量詞を用いて自分の持ち物の数について伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	身の周りの持ち物の数を数えておく。	30分
	事後学修	第6課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。	30分
14	第6課 旅行②	自分が食べたいもの、行きたい国などの願望を伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、助動詞の「想」を用いて、願望を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	自分が食べたいもの、行きたい国名を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第6課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。	30分
15	前期の総復習と授業内試験	前期で学習した内容を総復習し、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標である①②③④について、授業内試験を通してそれらの能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	前期で学習した内容について、授業内で配布した資料や教科書を用いて振り返っておくこと。	30分
	事後学修	前期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項説明・発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめよう楽々中国語』	小林和代・韓軍	白水社	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
1	総復習		四声・単母音・鼻母音・子音・声調の変化、5課までの発音とポイントの確認をする。	
	この回の到達目標	四声のイメージを説明できる。単母音・鼻母音・子音を正確に発音できる。5課までのポイントの基本語順を説明できる。5課までの単語が聞き取れる。		
	事前学修	CDを聞き四声・単母音・子音及び第3課から第5課までの本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第3課から第5課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。		30分
	事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントを説明できるようにする。		30分
2	総復習		第6・7課の発音とポイントの確認をする。第6・7課の単語が聞き取れるように復習する。	
	この回の到達目標	第6・7課のポイントの基本語順を説明できる。第6・7課の単語を正確に発音できまた聞き取れる。		
	事前学修	CDを聞き第6・7課の本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第6・7課のポイントの内容を説明できるように復習しておく。		30分
	事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントを説明できるようにする。		30分
3	形容詞述語文、前置詞		第8課前半 形容詞述語文の基本語順と前置詞〈离〉〈从～到〉を練習する。	
	この回の到達目標	形容詞述語文の基本語順を説明できる。前置詞〈离〉と〈从～到〉の位置と意味を説明できる。41・42ページの単語が聞き取れる。		
	事前学修	41・42ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き41・42ページの発音練習をする。		15分
	事後学修	42ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。形容詞述語文の基本語順、前置詞〈离〉〈从～到〉について何も見ないで説明できるように練習する。		45分
4	動詞〈喜歡〉、連動文		第8課前半小テスト 第8課後半 動詞〈喜歡〉とその目的語の性質を習う。連動文の語順と訳し方。	
	この回の到達目標	動詞〈喜歡〉とその目的語の特徴説明できる。連動文の語順と訳し方について説明できる。43ページの単語が聞き取れる。		
	事前学修	43ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き43ページの発音練習をする。42ページの聞き取りができるように復習しておく。		15分
	事後学修	43ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞〈喜歡〉とその目的語の性質と連動文について何も見ないで説明できるように練習する。		45分
5	手段・方法、値段の尋ね方		第8課後半小テスト 第9課前半 手段・方法の尋ね方、値段の尋ね方を練習する。	
	この回の到達目標	手段・方法を尋ねられまた答えられる。値段を尋ねられまた答えられる。47・48ページの単語が聞き取れる。		
	事前学修	47・48ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き47・48ページの発音練習をする。43ページの聞き取りができるように復習しておく。		15分
	事後学修	47・48ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		45分
6	比較文		第9課前半・第8課前半小テスト 第9課後半 比較文の二種類の語順を練習する。	
	この回の到達目標	比較文の二種類の語順と訳し方を説明できる。49ページの単語が聞き取れる。		
	事前学修	49ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き49ページの発音練習をする。42・48ページの聞き取りができるように復習しておく。		30分
	事後学修	49ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。比較文の語順について何も見ないで説明できるように練習する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	完了態、助動詞	第9課後半・第8課後半小テスト 第10課前半 完了の〈了〉と助動詞〈想〉を練習する。	
	この回の到達目標	完了の〈了〉の位置と訳し方を説明できる。助動詞〈想〉の位置と訳し方を説明できる。51・52ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	51・52ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き51・52ページの発音練習をする。43・49ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	52ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。完了の〈了〉と助動詞〈想〉の位置について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
8	変化態、前置詞	第10課前半・第9課前半小テスト 第10課後半 変化の〈了〉と前置詞〈在〉を練習する。	
	この回の到達目標	変化の〈了〉と限定できるのはどのような場合かを説明できる。前置詞〈在〉の訳し方と動詞の〈在〉との違いを説明できる。53ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	53ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き53ページの発音練習をする。48・52ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	53ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。変化の〈了〉と前置詞〈在〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
9	助動詞〈会〉と〈能〉	第10課後半・第9課後半小テスト 第11課前半 助動詞〈会〉と〈能〉を練習する。	
	この回の到達目標	助動詞〈会〉と〈能〉の使い分けを説明できる。57・58ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	57・58ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き57・58ページの発音練習をする。49・53ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	57・58ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。助動詞〈会〉と〈能〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
10	助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉	第11課前半・第10課前半小テスト 第11課後半 助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉を練習する。	
	この回の到達目標	助動詞〈可以〉の位置と意味を説明できる。前置詞〈給〉の位置と意味を説明できる。58ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	59ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き59ページの発音練習をする。52・58ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	59ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
11	進行形と禁止	第11課後半・第10課後半小テスト 第12課前半 進行形と禁止の言い方を練習する。	
	この回の到達目標	進行形と禁止に用いる単語とそれぞれの位置を説明できる。61・62ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	61・62ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き61・62ページの発音練習をする。53・59ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	61・62ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。進行形と禁止の言い方について何も見ないで説明できるように練習する。	30分
12	経験と〈是～的〉構文	第12課前半・第11課前半小テスト 第12課後半 経験の〈過〉と〈是～的〉構文を練習する。	
	この回の到達目標	経験に用いる単語とその位置を説明できる。〈是～的〉構文とはどのような文かを説明できる。63ページの単語が聞き取れる。	
	事前学修	63ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き63ページの発音練習をする。58・62ページの聞き取りができるように復習しておく。	30分
	事後学修	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。経験の〈過〉と〈是～的〉構文について何も見ないで説明できるように練習する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	復習		第12課後半・第11課後半小テスト 第8課から第10課の復習 44・46・50・54・56ページの解答合わせと誤答の分析をする。
	この回の到達目標	第8課から第10課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。第8課から第10課までの単語が聞き取れる。	
	事前学修	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。59・63ページの聞き取りができるように復習しておく。44・46・50・54・56ページの練習問題を解いておく。	45分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。41ページから56ページの単語を聞き取れるように復習する。	15分
14	復習		第11課・12課の復習 60・64・66ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。
	この回の到達目標	第11課・12課のポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。第11課・12課の単語が聞き取れる。	
	事前学修	60・64・66ページの練習問題を解いておく。	45分
	事後学修	間違えた個所の問題を解き直す。57ページから66ページの単語を聞き取れるように復習する。	15分
15	期末試験と後期学習内容の振り返り		授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	この回の到達目標	第8課から第12課までの単語が聞き取れる。 第8課から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第8課から第12課までの単語が聞き取れるように復習する。 第8課から第12課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	白石 裕一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って進めていく。毎回単語テストを行う。 フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	5	5	5	5							20
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身についているかを確認する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点をして、授業中に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学ぶ実践中国語	王学群・高麗貞	白帝社	2012	教科書	必携
中日辞典 第3版		小学館	2016	その他	推奨
講談社 中日辞典 第三版		講談社	2010	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：金曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	連動文と進行表現	第6課：本文の翻訳、①連動文、②進行を表す“正在、在、ne”	
	この回の到達目標	連動文と進行表現を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
2	前置詞“在”と助動詞“想”	第6課：③前置詞の“在”、④助動詞の“想”、練習問題	
	この回の到達目標	前置詞“在”と助動詞“想”を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
3	アスペクト助詞“了”と動詞の重ね型	第7課：本文の翻訳、① “了”の用法（1）、②動詞の重ね型	
	この回の到達目標	アスペクト助詞“了”と動詞の重ね型を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
4	選択疑問文と起点・着点を表す前置詞	第7課：③選択疑問文、④前置詞“cong／dao”、練習問題	
	この回の到達目標	選択疑問文と起点・着点を表す前置詞を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
5	語気詞“了”と可能を表す助動詞	第8課：本文の翻訳、① “了”の用法（2）、②可能を表す“能”と“会”	
	この回の到達目標	語気詞“了”と可能を表す助動詞を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
6	アスペクト助詞“過”と前詞“gen/he”	第8課：③経験を表す“過”、④gen／he…yiqi／yikuair、練習問題	
	この回の到達目標	アスペクト助詞“過”と前詞“gen/he”を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	比較文と様態補語		第9課：本文の翻訳、① “比”の比較文、② “V得＋補語”の構文	
	この回の到達目標	比較文と様態補語を理解する。		
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。		30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。		30分
8	主述述語文と少量表現		第9課：③主述述語文、④ “有点兒”と“一点兒”、練習問題	
	この回の到達目標	主述述語文と少量表現を理解する。		
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。		30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。		30分
9	強調構文と二重目的語文		第10課：本文の翻訳、① “是…的”構文、②二重目的語を持つ動詞	
	この回の到達目標	強調構文と二重目的語文を理解する。		
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。		30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。		30分
10	連体修飾語と前置詞“給”		第10課：③限定語となる動詞と形容詞、④前置詞の“給”、練習問題	
	この回の到達目標	連体修飾語と前置詞“給”を理解する。		
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。		30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。		30分
11	方位詞と持続を表す“着”		第11課：本文の翻訳、①方位詞、②継続を表す“着”	
	この回の到達目標	方位詞と持続を表す“着”を理解する。		
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。		30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。		30分
12	概数表現と可能を表す助動詞		第11課：③概数表現、④可能を表す“可以”、練習問題	
	この回の到達目標	概数表現と可能を表す助動詞を理解する。		
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。		30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	方向補語とアスペクト助詞“着”	第12課：本文の翻訳、①趨向補語、②付帯状況と方式を表す“着”	
	この回の到達目標	方向補語とアスペクト助詞“着”を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
14	禁止表現と“疑問詞＋都／也…”の表現	第12課：③禁止を表す“別／不要…（了）”、④“疑問詞＋都／也…”、練習問題	
	この回の到達目標	禁止表現と“疑問詞＋都／也…”の表現を理解する。	
	事前学修	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。	30分
	事後学修	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。	30分
15	まとめ	これまで学習してきたことのまとめ	
	この回の到達目標	基本的な表現のための、中国語文法の全体像を確認する。	
	事前学修	これまで学んできたことを復習しておくこと。	30分
	事後学修	よく理解していないところを再度復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。発音の訓練を行い、会話や書き取りを行う。問題集がついているので、必ず事前にやっておくこと。 フィードバックは授業内で行う。筆記試験については採点して、解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(最新2訂版) 中国語はじめの一步	竹島全吾 伊景春 竹島毅	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第6課	ガイダンス 「授業の概要や到達目標について説明」 第6課 「あなたは食事をしましたか。」本文訳 ポイント 1. 「完了」を表わす“了” 2. 「所在」を表わす“在” 3. 助動詞“想”	
	この回の到達目標	第6課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
2	第6課	第6課 「あなたは食事をしましたか。」 本文、トレーニング 練習問題	
	この回の到達目標	第6課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第6課の総復習	30分
3	第7課	第7課 「あなたの家族は何人ですか。」本文訳 ポイント 1. 介詞“在”，” 离” 2. 「存在」を表わす“有” 3. 反復疑問文	
	この回の到達目標	第7課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
4	第7課	第7課 「あなたの家族は何人ですか。」 本文、トレーニング 練習問題	
	この回の到達目標	第7課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第7課の総復習	30分
5	第8課	第8課 あなたは何時からアルバイトを始めますか。本文訳 ポイント 1. 「時間量」を表わす語 2. 助動詞“得” 3. 介詞（2）“从”	
	この回の到達目標	第8課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
6	第8課	第8課 「あなたは何時からアルバイトを始めますか。」 本文、トレーニング 練習問題	
	この回の到達目標	第8課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第8課の総復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第9課		第9課 「あなたはアメリカに行ったことがありますか。」本文訳 ポイント 1. 「過去の経験」を表わす“過” 2. “是～的”の文 3. 介詞 (3) “跟”, “給”
	この回の到達目標	第9課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
8	第9課		第9課 「あなたはアメリカに行ったことがありますか。」 本文、トレーニング 練習問題 第6課～9課のまとめ（授業内筆記試験）
	この回の到達目標	第9課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第9課の総復習	30分
9	第10課		第10課 「あなたは歌を歌えますか。」本文訳 ポイント 1. 助動詞“能”, “会” 2. 「動作の様態」を言う表現 3. 動詞の重ね型
	この回の到達目標	第10課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
10	第10課		第10課 「あなたは歌を歌えますか。」 本文、トレーニング 練習問題
	この回の到達目標	第10課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第10課の総復習	30分
11	第11課		第11課 「あなたは何をしているのですか。」本文訳 ポイント 1. 「動詞の進行」を表わす“在～呢” 2. 「～しに来る・～しに行く」の表 し方3. “是” 4. 目的語を文頭に出す表現
	この回の到達目標	第11課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
12	第11課		第11課 あなたは何をしているのですか。 本文、トレーニング 練習問題
	この回の到達目標	第11課の練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。 朗読や発音の訓練で発音ができる。	
	事前学修	練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	第11課の総復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課	第12課 「楽しい旅行を！」本文訳 ポイント 1. 「比較」の表現 2. “的” の用法 (2) 3. 2つの目的語をとる動詞 4. 目的語が主述句の時 練習問題	
	この回の到達目標	第12課の文法や発音の習得ができる。練習問題をやることで、文法の使い方がわかる。	
	事前学修	文法の予習と練習問題を事前にやっておく。	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
14	中間のまとめ	第7課～12課のまとめ（後期末授業内筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点を確認し、正しく理解できる。	
	事前学修	第6課～12課の復習 問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解する。	30分
15	後期のまとめ	①フィードバック、質疑応答（試験問題について解説） ②会話テストか書き取りを行う。	
	この回の到達目標	フィードバック、質疑応答によって理解を深める。	
	事前学修	後期学習した内容を確認し、問題点を確認する。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語基礎表現Aの内容が身についており、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語の基本的な挨拶や身の回りのことを題材にした会話、作文、文章の読解、聞き取りを学びます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業やGoogleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	教科書を購入しないかわりに「中国語検定過去問WEB(2500円)」への加入が必須です。詳細は授業開始後にアナウンスします。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。月 6 ・ 火 6 1033講堂（予定）。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・前期の確認		授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。前期学修内容の確認と復習を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる。		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、後期の内容を確認するとともに復習しておく。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet(後期01) などを持ちいて前期学修内容の復習と音読の反復練習をする。		30分
2	順と量の応用・連動文A		プリントを使用し、順と量の応用・連動文、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後01)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、順・量の応用、連動文と、いくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(後01)課題などを持ちいて順と量の概念について理解を深め授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期02）などを持ちいて、今回学んだ順と量の応用、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
3	時刻と時間の言い方・動作量		プリントを使用し、時刻と時間の言い方・動作量の位置、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後02)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と時刻・時間の言い方、動作量の位置について理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(後02)課題などを持ちいて、順と量の概念・連動文を身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期03）などを持ちいて、今回学んだ時刻と時間の言い方、動作量の位置、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
4	時刻と時間の応用・連動文B		プリントを使用し、時刻と時間の応用と連動文B、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後03)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と時刻と時間の応用、連動文Bについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(後03)課題などを持ちいて、時刻と時間の言い方、動作量の位置について身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期04）などを持ちいて、今回学んだ時刻と時間の応用、連動文B、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
5	100以上の数え方・“想”		プリントを使用し、100以上の数え方・“想”の用法と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後04)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、100以上の数え方・“想”の用法などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(後04)課題などを持ちいて時刻と時間の応用、連動文Bについて身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期05）などを持ちいて、今回学んだ100以上の数え方、“想”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分
6	100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞		プリントを使用し、100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞と、それらを持ちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後05)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と100以上の数の応用・“在”の用法・方位詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(後05)課題などを持ちいて100以上の数え方、“想”の用法を身につけ授業にのぞむ。		30分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期06）などを持ちいて、今回学んだ100以上の数の応用、“在”の用法、方位詞、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	金額の言い方・介詞・助動詞		プリントを使用し、金額の言い方・介詞・助動詞と、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後06) ※検定試験前々週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と金額の言い方、介詞、助動詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(後06)課題などをもちい、100以上の数の応用・“在”・方位詞について身につけ、過去問WEBでまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分	
	事後学修	配付プリントとQuizlet(後期07)などで、金額の言い方の復習と音読の反復練習をする。過去問WEBにてまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分	
8	量詞の種類と用法・動態助詞		プリントを使用し、量詞の種類と用法・動態助詞、それらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学びます。 ●小テスト(後07) ※検定試験前週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と量詞の種類と用法・動態助詞などについて理解し、学習済みの短文を正しく発音できる。		
	事前学修	小テスト(後07)課題などをもちいて、金額の言い方・介詞・助動詞を身につけ、過去問WEBにてまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み、採点までして授業にのぞむ。	90分	
	事後学修	学習した量詞の種類と用法・動態助詞、挨拶語慣用表現の復習及び短文音読の反復練習をする。過去問WEBでまだ自分がやっていない任意の回の準4級問題に「本番モード」で取り組み採点までしておく。	90分	
9	検定準4級受験を振り返る		受験した検定試験の準4級問題について解答と解説を行います。 ●小テスト(後08)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、自ら受験した検定試験の結果を分析し、正しい解答について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後08)は特に準備の必要はないが、受験した検定試験試験問題において、自分が選んだ回答が全問書きこまれているか確認しておく。	30分	
	事後学修	検定試験の解答と解説について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分	
10	4級筆記問題		4級レベルの筆記問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後09)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、4級レベルの筆記問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後09)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級筆記問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	30分	
	事後学修	学修した4級レベルの筆記問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分	
11	4級聴解問題		4級レベルの聴解問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後10)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環とし、4級レベルの聴解問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後10)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級聴解問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。	60分	
	事後学修	学修した4級レベルの聴解問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。	30分	
12	後期の復習		後期の学修を全体的に復習し疑問点を解決できるよう学修します。 ●小テスト(後11)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を復習し、疑問点を解決することができる。		
	事前学修	小テスト(後11)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分	
	事後学修	後期口頭試験課題文やこれまでの小テストなどをもちいて、後期学修内容の復習と短文音読の反復練習をする。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	映像教材		前後期総復習として、中国語による映像教材を鑑賞します。 ●小テスト(後12)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語圏で作成された映像教材を視聴し内容を理解できる。		
	事前学修	小テスト(後12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の4級問題を「本番モード」で取り組んで採点まで行い授業にのぞむ。		120分
	事後学修	後期口頭試験課題文について、プリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などを持ち復習する。		60分
14	口頭試験対策と練習		後期総復習として、プリントなどを持ち口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(後13)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文を正しい発音で暗唱できる。		
	事前学修	小テスト(後13)は特に準備の必要はないが、後期の学修内容を確認し、後期口頭試験課題文暗唱にむけての練習を重ねつつ、語彙・文法・訳・発音などの疑問点を明らかにして授業にのぞむ。		60分
	事後学修	授業でアドバイスのあった個所について復習、後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ちいて、念入りに練習し正しい発音で暗唱、翻訳できるよう正確に覚える。		120分
15	口頭試験とまとめ		後期口頭試験を実施し、まとめの講評と解説を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し、提示された日本語をその場で正しい発音で中国語に翻訳することができる。		
	事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。		120分
	事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。過去問WEBで指示された回の4級問題に「本番モード」で取り組んで採点まで行う。		120分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2016 2・1 改訂版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
helebuwei128@sina.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第七課 アルバイト	動詞の重ね型 二重目的語をとる動詞	
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	本文を暗唱	30分
2	第八課 外国語を学ぶ	経験態 経験態のたずね方、こたえ方 数量補語	
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	本文を暗唱	30分
3	第九課 病院に行く	助動詞「能」および「能」と「会」の違い 程度副詞「有点儿」および「有点儿」と「一点儿」の違い	
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語、本文を覚える	30分
4	第十課 図書館で	進行態「在」「正在」	
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語、本文を覚える	30分
5	第十一課 手紙を書く	比較表現「比」「AはBより～だ」	
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語、本文を覚える	30分
6	第十二課 旅行に行く	完了態 完了態のたずね方、こたえ方	
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語、本文を覚える	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキストの終わりに	中国語の勉強について話そう	
	この回の到達目標	中国語に対して興味を持続できるように	
	事前学修	感想文を書く	30分
	事後学修	感想文を中国語に訳す	30分
8	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
	この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
	事前学修	準四級の挨拶文を読む	30分
	事後学修	準四級単語を覚える	30分
9	中国語検定試験の勉強	準四級リスニング	
	この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
	事前学修	準四級の挨拶文を読む	30分
	事後学修	準四級単語を覚える	30分
10	中国語検定試験の勉強	準四級筆記問題ドリル	
	この回の到達目標	文法事項の確認	
	事前学修	文法の復習	30分
	事後学修	ドリル問題の復習	30分
11	中国語検定試験の仮試験 まとめ	模擬試験問題で合格力を確認する	
	この回の到達目標	単語や文法などを復習	
	事前学修	単語、文法の復習	30分
	事後学修	ドリル問題の復習	30分
12	中国語会話の練習	初対面で、生活について、学習について、家族についてなど	
	この回の到達目標	中国語でいろいろなことを話そう、興味深く学べるように	
	事前学修	会話のテーマに関連単語、表現を復習	30分
	事後学修	会話文を繰り返す暗唱	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総復習 1		リスニング
	この回の到達目標	リスニングの聴く力をつける	
	事前学修	あいさつ語の復習	30分
	事後学修	問題を繰り返し復習	30分
14	総復習 2		文法のまとめ
	この回の到達目標	試験のための総復習	
	事前学修	文法項目を復習	30分
	事後学修	文章を書きながら覚えましょう	30分
15	試験 まとめ		まとめ・後期試験
	この回の到達目標	後期の学習の成果を試験で発揮する	
	事前学修	テスト勉強	60分
	事後学修	後期の総復習	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	劉 秋佳	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
3 分の 2 以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること. 授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。

【授業方法】
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A, B、C 三つのレベルで評価します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10分間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	平成30年度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LIINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化出版－国際関係と国際文化交流。東方知恵の氣功修行と生命科学の研究。
実務経験に基づく実践的教育の内容		LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、国際時事と中国の最新事情を紹介する。 LINE:08032718681／Wechat::koku811

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国の文化事情	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出す	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
	事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	第7課 你老家在那儿？	実家はどこにありますか？ 疑問詞場所を聞き方と方向補語を学習す 場所を聞く、どこですか・どこにありますか	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	第8課 你几点起床？	何時に起きますか？ 時刻の言い方を習う	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	第9課 中国正在流行什么？	中国いま流行っていますのが何ですか？ ～しているの進行形を学習する	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	第10課 你会包子？	君は餃子を作ることが出来ますか？ 助動詞～出来るなどの使い方を理解する ～が出来る 餃子を作る	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	応用練習		会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
8	第11課 中国比日本大多少？		中国は日本よりどのぐらい大きいですか？ 比較表現を習う
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
9	第12課 北京烤多少？		北京ダックはおいくらですか？ 買い物の表現を習得する
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
10	応用練習		会話応答練習と作文練習
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
11	第13課 中国人喜什么运？		中国人はどんなスポーツが好きですか？ どんな、好きなどの動詞、接続詞の使い方を学習する 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
12	第14課 怎做才会不失礼？		どうやって失礼なことをならないですか。 使役補表現を習う 中国の習慣とマナを知る
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第15課 真会被款？	本当に罰金されますか 受身表現を習う	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	総復習	復習と総合練習	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	授業内テスト まとめ	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語 4 技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者40名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る					1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する					1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする					1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する					1			1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎	汪鴻祥 主編	白帝社	2020年 度3月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜1・2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	復習と説明	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 後期授業計画の説明 夏休みの報告	
	この回の到達目標	前期授業の復習と後期授業の説明を行う 夏休みの報告を行う	
	事前学修	夏休み報告発表の準備	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
2	会話編	第8課：「学」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第8課：「学」を習得する	
	事前学修	第8課：「学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
3	会話編	第9課：「广交朋友」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第9課：「广交朋友」	
	事前学修	第9課：「广交朋友」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
4	会話編	第10課：「周末活」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第10課：「周末活」を習得する	
	事前学修	第10課：「周末活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
5	会話編	第11課：「超市物」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第11課：「超市物」を習得する	
	事前学修	第11課：「超市物」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
6	会話編	第12課：「季化」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第12課：「季化」	
	事前学修	第12課：「季化」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	会話編		第13課：「上学交通」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第13課：「上学交通」を習得する	
	事前学修	第13課：「上学交通」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
8	会話編		第14課：「外活」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第14課：「外活」	
	事前学修	第14課：「外活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
9	会話編		第15課：「暑假旅游」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第15課：「暑假旅游」	
	事前学修	第15課：「暑假旅游」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
10	会話編		第16課：「校活」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第16課：「校活」を習得する	
	事前学修	第16課：「校活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
11	会話編		第17課：「出国留学」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第17課：「出国留学」を習得する	
	事前学修	第17課：「出国留学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
12	会話編		第18課：「健康食」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第18課：「健康食」を習得する	
	事前学修	第18課：「健康食」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	発表		期末発表会
	この回の到達目標	レポートを提出し、発表を行う	
	事前学修	期末発表会の準備	120分
	事後学修	発表会内容の復習（30分）	120分
14	復習		期末総合復習 第8課～18課
	この回の到達目標	期末総合復習を行う	
	事前学修	期末総合復習	120分
	事後学修	授業内容の復習	120分
15	総括と試験		期末試験及び振り返り、まとめ
	この回の到達目標	後期の総括と授業内期末試験を行う	
	事前学修	期末試験の準備	120分
	事後学修	後期授業内容の復習（30分）	60分

科目名	中国語基礎表現B	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○			○	○		

【授業の概要】
基本的な中国語4技能の習得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語を使って入門レベルの読み、聞き取り、話し、書くことができるようになることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は基本的にはオンデマンド型式で行う。授業動画を視聴して中国語を学習し、期限までにgoogleクラスルームにおいて出題される課題を提出すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	日常生活で目にしたり耳にした中国語をノートにまとめ発表する。 授業で学んだ表現を駆使して教師と中国語で簡単な会話をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ゆっくりとしたテンポで基本的な表現を聞き取る							1			1	1		
②	日常的な題材をもちいた単純な文章を理解する							1			1	1		
③	身近な話題について簡単なやり取りをする							1			1	1		
④	自分や身近な人について簡単な語句をもちいて表現する							1			1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールやzoomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『音読から始める中国語 アイテム15』	鄭高咏	朝日出版社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
後日、googleクラスルームにメールアドレス等をお伝えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／発音の復習	授業の内容や課題の提出の仕方、また成績評価の方法等について説明する。授業の内容や課題の提出の仕方、また成績評価の方法等について説明する。 発音の復習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、授業の進め方や課題の提出方法等について理解することができる。 到達目標①の達成のため、母音（韻母）や子音（声母）を正しく発音することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んで注意事項を確認しておくこと。	30分
	事後学修	Bのみ受講する学生はできるだけ早く教科書を準備しておくこと。	30分
2	第7課 病院①	「有点儿」と「一点儿」の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「有点儿」と「一点儿」を用いて病状をを説明できる。	
	事前学修	頭痛や腹痛など基本的な病状の単語を調べておく。	30分
	事後学修	第7課の本文とダイアローグを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
3	第7課 病院②	二つの「了」の使い方。 前置詞の「」の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、二つの「了」を用いて動作の完了や新しい状況の変化を伝えることができる。 到達目標①③④の達成のため、前置詞の「」を用いて電話を掛けたりメールを出したりする相手を伝えることができる。	
	事前学修	年齢、曜日、季節に関する単語を調べておく。	30分
	事後学修	第7課の本文とダイアローグを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
4	第8課 休暇①	「是～的」構文の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「是～的」の構文を用いて、自分の買ったものについて、具体的にどこで、いつ買ったのかを伝えることができる。	
	事前学修	最近、自身が買ったモノや行った場所を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第8課の本文とダイアローグを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
5	第8課 休暇②	「」の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、助詞の「」を用いて、渡航歴や学習歴などの過去の経験や体験を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	自身が行ったことのある地名を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第8課の本文とダイアローグを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
6	第8課 休暇③	動詞の「在」の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、動詞の「在」を用いて、待ち合わせの約束を取ることができる。	
	事前学修	渋谷や新宿など、自身がよく利用する駅名などを中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第8課の本文とダイアローグを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第9課 カラオケ①	可能を表す助動詞の「会」、「能」、「可以」の使い方。 程度補語の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「デキル」ことを伝えたり尋ねたりできる。また、相手に許可を取れるようになる。 到達目標①③④の達成のため、程度補語を用いて自分の歌やスポーツのレベルを伝えることができる。	
	事前学修	自分の得意・不得意なスポーツ名を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第9課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
8	第9課 カラオケ②	時刻の伝え方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、時刻を正しく伝えたり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	1～99までの数字の言い方を復習しておく。	30分
	事後学修	第9課の本文とダイアログを暗唱して、自己紹介の表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
9	第10課 ドラッグストア①	存現文の使い方。 前置詞の「离」の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、存現文を用いて天気の様子を伝えることができる。 到達目標①③④の達成のため、前置詞の「离」を用いて、自宅から学校や駅、バイト先までの距離を伝えることができる。	
	事前学修	雨、雪、風など天気に関する語句の中国語を調べておく。	30分
	事後学修	第10課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
10	第10課 ドラッグストア②	二重目的語文の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「送」を用いた二重目的語文を用いて、誰かに何かをプレゼントすることを伝えることができる。	
	事前学修	大切な人に贈りたいプレゼントを中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第10課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
11	第11課 中華料理	動量詞の使い方。 前置詞の「从」の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、「どこから」目的地へ行くのかを伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	日頃よく利用する駅名を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第11課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
12	第12課 テスト勉強①	副詞の「在」の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、今まに行っている動作を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	勉強する、本を読む、音楽を聴くなどの日常よく行われる動作を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	第12課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 テスト勉強②	時量補語の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、時量補語を用いて、学習時間や睡眠時間、バイト時間などを伝えることができる。	
	事前学修	1～99までの数字の言い方を復習しておく。	30分
	事後学修	第12課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
14	第12課 テスト勉強③	結果補語の使い方。 「就要～了」の使い方。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の達成のため、結果補語を用いて食事や仕事、勉強などをやり終えたことをはっきりと伝えることができる。また、「就要～了」を用いて、自身の近未来の予定を伝えることができる。	
	事前学修	1週間の自身の主な予定を中国語で簡単に言えるようにしておく。	30分
	事後学修	第12課の本文とダイアログを暗唱して会話表現を再現できるようにしておく。 練習問題を解いて学習内容を定着しておくこと。	30分
15	後期の総復習と授業内試験	後期で学習した内容を総復習し、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標である①②③④について、授業内試験を通してそれらの能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	後期で学習した内容について、授業内で配布した資料や教科書を用いて振り返っておくこと。	30分
	事後学修	後期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
中国語文法の説明を行った上で、練習問題を解きながら授業を進め、発音練習、作文練習、翻訳作業を行う。また文法学習を通じて中国語および中国語圏への理解を深める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発中国語	本間直人、栗原千里、王熙萍	白帝社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業説明及び初歩的発音練習	授業展開方法に関して詳しく紹介し、中国語発音の初歩的練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国語の初歩的発音を習得することができる。	
	事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った初歩的発音を復習すること。	30分
2	基礎発音練習(中国語母音)	中国語母音(韻母)の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語母音(韻母)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
	事前学修	中国語母音(韻母)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	習った中国語母音(韻母)の発音を自身で発音練習すること。	30分
3	基礎発音練習(中国語子音)	中国語子音(声母)の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語子音(声母)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
	事前学修	中国語子音(声母)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	習った中国語子音(声母)の発音を自身で発音練習すること。	30分
4	基礎発音練習(中国語声調)	中国語声調(四声)の発音練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③到達達成の為、中国語声調(四声)の発音を初歩的に習得することが出来る。	
	事前学修	中国語声調(四声)に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	習った中国語声調(四声)を自身で発音練習すること。	30分
5	教科書第一課(人称代名詞等)	人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第一課人称代名詞、名前の聞き方と答え方の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	人称代名詞、名前の聞き方と答え方の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	教科書第二課(動詞述語文等)	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第二課動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第三課(形容詞述語文等)	形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第三課形容詞述語文、疑問詞「誰」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞述語文、疑問詞「誰」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第四課(的)	所有等を表す「的」の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、所有等を表す「的」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第四課所有等を表す「的」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	所有等を表す「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	教科書第五課(数字、量詞)	数字、量詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、数字、量詞について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第五課数字、量詞の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	数字、量詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	教科書第五課(量詞、序数)	量詞、序数について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、量詞、序数について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第五課量詞、序数の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	量詞、序数の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	教科書第六課(了、想)	完了の「了」、助動詞「想」について学ぶ。	
	この回の到達目標	事前に第六課完了の「了」、助動詞「想」の部分に目を通しておくこと。	
	事前学修	到達目標①②到達達成の為、完了の「了」、助動詞「想」について学ぶことが出来る。	30分
	事後学修	完了の「了」、助動詞「想」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	教科書第六課(多少、幾等)	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第六課疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書第七課(時を表す語)	時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第七課時を表す語(年月日曜日時刻)の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	時を表す語(年月日曜日時刻)の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	教科書第七課(時を表す語が述語となる文)	時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第七課時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	時を表す語(年月日曜日時刻)が述語となる文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・発音練習・和訳練習・中訳練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『好きです♥中国語 文法編』	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	中国語とはどのような言語か。中国語の発音		中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。
	この回の到達目標	中国語の標準語とはどのような言語かを大まかに説明できる。 四声のそれぞれのイメージを説明できる。 単母音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキストのはじめに・7ページを一読しておく。	20分
	事後学修	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。	40分
2	中国語の発音		子音の発音練習を行う。
	この回の到達目標	子音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	テキスト8ページ子音を一読し、CDを聞いておく。	15分
	事後学修	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。	45分
3	中国語の発音		複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。
	この回の到達目標	複母音・鼻母音の発音の仕方を説明できる。	
	事前学修	テキスト8ページ複母音・鼻母音を一読し、CDを聞いておく。	15分
	事後学修	CDを使い子音・複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。	45分
4	人称代名詞、動詞、副詞		第1課 人称代名詞、動詞〈是〉、副詞〈也〉〈都〉を練習する。
	この回の到達目標	人称代名詞が言える。動詞〈是〉を含む文の語順を説明できる。副詞〈也〉〈都〉の意味と文中の位置を説明できる。	
	事前学修	12～14ページを一読しCDを聞いておく。	15分
	事後学修	12～14ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	45分
5	指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語、疑問詞疑問文		15～17ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第2課 指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語を作る〈的〉、疑問詞疑問文、数字の練習をする。
	この回の到達目標	指示代名詞の使い方を説明できる。動詞述語文の基本語順を説明できる。連体修飾語と〈的〉の位置を説明できる。疑問詞の文中の位置を説明できる。10までの数字を言える。	
	事前学修	15～17ページのドリルを解いておく。18～20ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	18～20ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
6	形容詞述語文、年月日・曜日、時刻		第1課小テスト 21～23ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第3課 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方の練習をする。
	この回の到達目標	形容詞述語文の基本語順を説明できる。年月日・曜日、時刻を言える。	
	事前学修	12～17ページの単語と語順について復習しておく。21～23ページのドリルを解いておく。24～26ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	24～26ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文	第2課小テスト 27～29ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第4課 指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文の練習をする。	
	この回の到達目標	場所を表す指示代名詞が言える。所有の〈有〉と存在の〈有〉の文のそれぞれの基本語順を説明できる。副詞〈有点儿〉の位置を説明できる。短縮疑問文について説明できる。	
	事前学修	18～23ページの単語と語順について復習しておく。27～29ページのドリルを解いておく。30～32ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	30～32ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
8	選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉	第3課小テスト 33～34ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第5課 選択疑問文、完了の〈了〉、反復疑問文、動詞〈喜歡〉の練習をする。	
	この回の到達目標	選択疑問文について説明できる。完了の〈了〉の位置と否定文について説明できる。反復疑問文について説明できる。動詞〈喜歡〉の特徴を説明できる。	
	事前学修	24～29ページの単語と語順について復習しておく。33～35ページのドリルを解いておく。36～38ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	36～38ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
9	所在の〈在〉、介詞、変化の〈了〉、年齢・金額の言い方	第4課小テスト 39～41ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第6課 所在の〈在〉、介詞〈在〉〈給〉、変化の〈了〉、年齢の言い方、金額の言い方の練習をする。	
	この回の到達目標	所在の〈在〉の基本語順を説明できる。介詞の基本語順を説明できる。変化の〈了〉と限定できる場合を説明できる。年齢を質問でまた答えられる。金額を質問でまた答えられる。	
	事前学修	30～35ページの単語と語順について復習しておく。39～41ページのドリルを解いておく。42～44ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	42～44ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
10	疑問詞、助動詞、連動文	第5課小テスト 45～47ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第7課 疑問詞〈几〉〈多少〉〈怎么〉、助動詞〈想〉、連動文の練習をする。	
	この回の到達目標	疑問詞〈几〉〈多少〉〈怎么〉を聞き取れる。助動詞〈想〉の位置を説明できる。連動文の基本語順を説明できる	
	事前学修	36～41ページの単語と語順について復習しておく。45～47ページのドリルを解いておく。48～50ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	48～50ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
11	助動詞、主述述語文、進行形	第6課小テスト 51～53ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第8課 助動詞〈会〉〈能〉、主述述語文、進行形の練習をする。	
	この回の到達目標	助動詞〈会〉〈能〉の使い分けを説明できる。主述述語文の基本語順を説明できる。進行形を作る要素と語順を説明できる。	
	事前学修	51～53ページのドリルを解いておく。54～56ページを一読しCDを聞いておく。42～47ページの単語と語順について復習しておく。	20分
	事後学修	54～56ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
12	助動詞〈会〉、依頼、〈是～的〉構文、動詞+〈一下〉	第7課小テスト 57～59ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第9課 可能性を表す助動詞〈会〉、依頼の〈請〉、〈是～的〉構文、動詞+〈一下〉の練習をする。	
	この回の到達目標	可能性を表す助動詞〈会〉の後に表れる動詞の特徴を説明できる。依頼の文の語順を説明できる。〈是～的〉構文について説明できる。〈一下〉の位置を説明できる。	
	事前学修	57～59ページのドリルを解いておく。60～62ページを一読しCDを聞いておく。48～53ページの単語と語順について復習しておく。	20分
	事後学修	60～62ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総復習		63～65ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第1課から第4課までの単語を復習し、ポイントとそれに関連する語順。
	この回の到達目標	第1課から第4課までの単語を聞き取れる。第1課から第4課までの文法ポイントとそれに関連する語順を説明できる。	
	事前学修	63～65ページのドリルを解いておく。66～68ページを一読しCDを聞いておく。第1課～第4課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	40分
	事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	20分
14	総復習		第5課から第9課までの単語、文法ポイントとそれに関連する語順を復習する。
	この回の到達目標	第5課から第9課までの単語が聞き取れる。 第5課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第5課～第9課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	20分
	事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	40分
15	期末試験と前期学習内容の振り返り		授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	この回の到達目標	第1課から第9課までの単語が聞き取れる。 第1課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第1課から第9課までの単語が聞き取れるように復習する。 第1課から第9課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	福木 滋久	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語圏の言語・文化に興味をもち、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語文法の基礎を学び、それを用いた会話を身に付けるための練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 1 CD・DVD付	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2004年	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	授業では教科書の会話部分を中心に学修します。またGoogleclassroomなどにおいて補助教材を発信します。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。月 6 ・火 6 1033講堂（予定）。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・中国語の四声		授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／教科書・参考書の紹介／「Quizlet」について／参考プリント「C1A競技部～」について／成績評価方法について／中国語入門知識と四声を学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、これから学ぶ中国語の性質、簡体字、ピンインの概略について説明でき、四声を正しく発音できる	
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、できれば教科書を購入し、第1課に目を通すとともにCD・DVDも視聴しておく	60分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期01）およびC1A競技部_01-04課(発音篇)などをもちいて四声・挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
2	母音・3声の変調・軽声		母音・3声の変調・軽声の発音とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、母音・3声の変調・軽声といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期01）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、四声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期02）およびC1A競技部_01-04課(発音篇)などをもちいて、今回学んだ母音・3声の変調・軽声、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
3	-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）など		-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）などの発音とそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期02）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、母音・3声の変調・軽声の発音を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期03）およびC1A競技部_01-04課(発音篇)などをもちいて、今回学んだ-n/-ng・-ian・子音（唇音/舌尖音）、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
4	舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/w		主にプリントを使用し舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wとそれらをもちいた短文、挨拶語慣用表現などを学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期03）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて-n/-ng・-ian・erの発音を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期04）およびC1A競技部_01-04課(発音篇)などをもちいて、今回学んだ舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/w、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
5	発音と綴りのまとめ		主にプリントを使用し、発音と綴りをまとめ、短文、挨拶語慣用表現などを学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、中国語の発音と綴りについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期04）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて舌根音・舌歯音・舌面音・捲舌音・er・y/wを身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期05）およびC1A競技部_01-04課(発音篇)などをもちいて、今回学んだ発音の全般、挨拶語慣用表現の復習と音読の反復練習をする	30分
6	“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文		教科書ユニット2-第5課にて“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などを学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期05）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて中国語の発音と綴りを身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期06）およびC1A競技部_05課などをもちいて、今回学んだ“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	反復疑問文・形容詞述語文	ユニット2-第6課にて反復疑問文・形容詞述語文などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と反復疑問文・形容詞述語文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期06）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“是”の用法・正否疑問文と疑問詞疑問文を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期07）およびC1A競技部_06課などをもちいて、今回学んだ反復疑問文・形容詞述語文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
8	“呢”疑問文・“的”の用法	ユニット2-第7課にて“呢”疑問文・“的”の用法を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“呢”疑問文・“的”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期07）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、反復疑問文・形容詞述語文を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期08）およびC1A競技部_07課などをもちいて、今回学んだ“呢”疑問文・“的”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
9	選択疑問文・数を問う疑問詞	ユニット2-第8課にて選択疑問文・数を問う疑問詞などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と選択疑問文・数を問う疑問詞などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期08）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期09）およびC1A競技部_08課などをもちいて、今回学んだ選択疑問文・数を問う疑問詞、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
10	文末付加型疑問文・“吧”の用法	ユニット2-第9課にて文末付加型疑問文・“吧”の用法を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、文末付加型疑問文・“吧”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期09）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、“呢”疑問文・“的”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期10）およびC1A競技部_09課などをもちいて、今回学んだ文末付加型疑問文・“吧”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（次回は第11課）	30分
11	所有の“有”の用法	ユニット3-第11課にて所有の“有”の用法などを学修する（第10課は「講読文の課」につき授業では解説しない）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、所有の“有”の用法といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期10）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、文末付加型疑問文・“吧”の用法を身につけ授業にのぞむ（次回は第11課）	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期11）およびC1A競技部_11課などなどをもちいて、今回学んだ所有の“有”、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
12	ユニット2のまとめと復習	ユニット2-第5課～第9課と第11課の復習を通して身に付けるべき文法・単語・短文を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、文法・単語・短文を復習し、学修済みの文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（前期11）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、所有の“有”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（前期12）などをもちいて、文法・単語・短文を復習し短文音読の反復練習をする。また10課の講読文を訳してみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	試験対策		前期総復習として、テキスト・プリンなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を通して前期の内容を学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、前期に学んだ発音・語彙・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	Quizlet（前期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、前期の学修内容を復習しつつ、前期学修範囲と10課講読文について疑問点を明らかにして授業にのぞむ		60分
	事後学修	前期口頭試験課題文をテキストやプリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などを持ち復習し短文音読の反復練習をする		120分
14	筆記試験とまとめ		前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、前期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる		
	事前学修	Quizlet（前期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ		120分
	事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習と短文音読の反復練習をする		120分
15	口頭試験とまとめ		前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる		
	事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ		120分
	事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく		30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音練習と基本的な文法の修得に力を入れる。また、最新の中国事情についても紹介する。1課終了ごとに小テストを実施し、次の授業までに返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	栗原千里・王熙萍・本間直人	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールおよびグーグルクラスルームにて随時対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【発音練習】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 発音練習	
	この回の到達目標	授業の進め方について理解する。また、到達目標①②③に関連して、中国語の正確な発音を身につける。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
2	【発音練習】【人称代名詞などについて】	発音練習、第1課 人称代名詞、“是”の文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語の正確な発音を身につける。また、人称代名詞などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
3	【名前の聞き方と答え方、場所を表す指示代名詞などについて】	第1課 名前の聞き方と答え方について、第2課 場所を表す指示代名詞などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名前の聞き方と答え方について、また、場所を表す指示代名詞などについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
4	【疑問詞、省略疑問文などについて】	第2課 疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	【副詞“都……”について】	第3課 副詞“都……”について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、副詞“都……”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	【形容詞述語文について】	第3課 形容詞述語文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞述語文について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【指示代名詞、“的”の用法について】	第4課 指示代名詞、“的”の用法について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞、“的”の用法について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）	30分
8	【所有などを表す“有”、副詞“也”について】	第4課 所有などを表す“有”、副詞“也”について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所有などを表す“有”、副詞“也”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）	30分
9	【数字、量詞について】	第5課 数字、量詞について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、数字、量詞について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	【序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について】	第5課 序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	【完了の“了”、助動詞“想”について】	第6課 完了の“了”、助動詞“想”について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完了の“了”、助動詞“想”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	【存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて】	第6課 存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について】	第7課 時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	【時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について】	第7課 時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期に学習した内容について理解する。	
	事前学修	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布した資料も見直しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	吉富 透	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語の発音・意味・書体が日本語と全く違う外国語であると認識している者が望ましい。

【授業方法】
オンデマンド形式で行う。テキストに従い、課題はクラスルームに提出すること。フィードバックはクラスルームにおいて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本文型を用いた応用作文練習を適宜行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内/Google Classroom内にて行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・朱芸 共著	郁文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
次のメールで受け付けます。 yoshitomi.torull@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 中国語とは。	現代中国語と漢文・日本漢字との意味や字形・発音の違いを説明する。これにより受講生が日本語漢字で簡単に習得できるという安易な発想をさせない。また授業計画・成績評価等の説明により、中国語学習に対する意識を高めることができる。	
	この回の到達目標	現代中国語と日本漢字の字形と意味に違いがあることを理解する。 日本語漢字音と現代中国語の発音との大きな違いがあることも理解する。	
	事前学修	まえがきと発音篇の説明を読み、声調とはどういうものであるのかCDを試しに聞いておく。	30分
	事後学修	CDを聞いて声調練習をしてみる。	30分
2	発音練習 1 中国語の声調・単母音・複合母音	4つある声調と単母音・複合母音の発音を説明し、実際に発音練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して4つの声調と単母音・複合母音が正しく発音できる。	
	事前学修	CDを聞いて単母音・複合母音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
	事後学修	CDを聞いて復習し、さらにピンイン表記を書いて覚える。	30分
3	発音練習 2 中国語の鼻母音・子音とその組み合わせ	日本語でも使い分けている鼻母音と子音の発音の仕方を説明し、実際に発音練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、鼻母音と子音の発音ができる。	
	事前学修	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
	事後学修	CDを聞いて発音の復習をし、実際の発音とピンイン表記e, iの違いを確認し覚える。 ピンインを書いて覚える。	30分
4	発音練習 3 ピンイン表記の音声変化・声調の変化	見た目のローマ字（ピンイン）通り読めない綴りと“一”“不”の声調変化パターンを説明し、実際に発音練習をする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、間違えやすいローマ字（ピンイン）の組み合わせを正しく発音できる。	
	事前学修	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。	30分
	事後学修	ある母音で始まるピンイン表記が変化することを書いて確認し発音してみる。 声調の変化がある第三声と“不”“一”の変化を確認し、書いて覚える。	30分
5	発音の総復習	数字を用いた年月日曜日、時刻の尋ね方と答え方を説明し、中国語で実際に受け答えができるように発音練習と併せて練習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、年月日曜日・時刻について答えることができる。	
	事前学修	日本語と表記が違うものをピックアップし、先に単語を覚える。 CDを聞いてピンインを見ながら発音練習してみる。	30分
	事後学修	日本語表記と違う単語を再確認する。 ピンイン表記を再確認し、CDを聞いて発音してみる。	30分
6	第1課 名前の聞き方と答え方・動詞述語文（1）・ドリル問題	中国語で名前の言い方、尋ね方を説明し、実際に答えられるよう練習する。 基本文型「AはBです」の肯定・否定・疑問の形を説明し表現できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の名前や「AはBです」の基本文型を用いて中国語で正しく答えることができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 自分の名前の簡体字・ピンインを中国語辞書で調べる。	30分
	事後学修	自分の名前の簡体字とピンイン表記を再確認する。 「AはBです」の肯定文・否定文・疑問文を再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2課 疑問詞疑問文・名詞の修飾の仕方・ 副詞「も」の用法・ドリル問題	指示代名詞と疑問詞「なに」「だれ」を用いた「Aは（も）Bです」の文型に、名詞を修飾する助詞の用法を説明し、第1課の基本文型を応用発展させた表現ができるように練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞を用いた「AはだれのBです」を中国語で正しく答えることができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
	事後学修	人称代名詞・指示代名詞を確認する。 第1課と第2課の疑問文の違いを確認する。 名詞を修飾する場合の「の」に相当する“的”が不要なケースを再確認する。	30分
8	第3課 場所代名詞・形容詞述語文・疑問詞 「どうですか」・ドリル問題	述語が形容詞の基本文型の肯定文・否定文・疑問文を説明し、表現ができるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞述語文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 形容詞述語文に“是”が用いられてないことを確認しておく。	30分
	事後学修	場所代名詞をしっかり覚える。 形容詞述語文の肯定文・否定文・疑問文の特徴を再確認する。特に副詞との組み合わせに注意。	30分
9	第4課 動詞述語文（2）・時点を表す語句 の位置・省略疑問文・ドリル問題	述語が動詞の基本文型の肯定文・否定文・疑問文を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、SVO文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 時点の語句（時間詞）は16－17頁参照。	30分
	事後学修	動詞述語文と時間を組み合わせた文に慣れるよう書いて覚える。	30分
10	第5課 所在の表現・方位詞の用法・前置詞 “離”を用いた表現・ドリル問題	「AはBにある/いる」の肯定文・否定文・疑問文の文型と前置詞「から」の文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、所在と前置詞構文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
	事後学修	英語の前置詞句と違うことを再確認する。 日本人の言語習慣上忘れやすい「中」を再確認し、日中言語の相違を再考する。	30分
11	第6課 所有の表現・量詞＋名詞の組み合わせ・二種類の数の尋ね方・ドリル問題	日本語の助数詞に当たる量詞と名詞の組み合わせと「AはBを持っている/がある」の肯定文・否定文・疑問文の文型を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語式モノの数え方と所有文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 今までの否定文と違うことに着目しておく。	30分
	事後学修	量詞と名詞の組み合わせは一定なので、単語で覚えるよりもセットで確認する。 所有の否定文に用いられる“没”を再確認する。	30分
12	第7課 存在を表現する“有”の文・各種年齢の尋ね方・ドリル問題	「AにBがいる/ある」の肯定文・否定文・疑問文と年齢表現・親族の名称を説明し、簡単な家族紹介ができるよう練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課の存在表現文との違いを理解し家族紹介を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課“在”と第6課“有”の違いを確認しておく。	30分
	事後学修	短文を自分の家族構成に沿って表現できるようにする。 第5課から第7課までの“在”と“有”、場所を表す語句がどのように並び替えされるのか再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第8課 前置詞“在”を用いた表現・連動文（1）・ドリル問題	前置詞“在”を用いた動詞文の構造を説明した後、これと同じ構造の連動文も併せて説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課の前置詞文との違いを理解し中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語の前置詞句と違うことを確認しておく。	30分
	事後学修	4つの「で」に相当する前置詞を使い分けできるよう再確認する。 場所表現が置かれる位置を確認し、中国語の基本動詞述語文の構成を再確認する。	30分
14	第9課 動作の完了表現・前置詞“跟”を用いた表現・ドリル問題	動作の完了文型と前置詞“跟”を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第5課と第8課の前置詞文との同異を再理解し、かつある動作が終了したことを中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課の前置詞句を確認しておく。	30分
	事後学修	動作の完了を表現する“了”の位置と否定文・疑問文を再確認する。 述語が形容詞の場合の前置詞句を再確認する。	30分
15	前期の総合復習	授業内試験を実施し、最後に解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中国語の漢字（簡体字）と発音表記ピンインで正しく表現することができる。	
	事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種否定文の違いを整理して覚えること。	60分
	事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと数と量詞を用いた肯定文を再確認する。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義と添削により指導を行い、繰り返しのトレーニングを中心に、教科書の内容に沿って授業を進めていく。携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができる。毎回出欠を確認する。フィードバックは授業内において行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に簡単な自己紹介を書き、授業内で発表してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。								1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。								1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。										1	1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳から学ぶ中国語	矢野光治 他	株式会社 天天	初版発	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜2・3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 中国語について	中国の文化や中国語について簡単に紹介する。また、本講義の授業計画・内容などについての説明する。	
	この回の到達目標	中国の文化や中国語についてある程度の理解ができる。	
	事前学修	講義に関する要望などを考えておく。	30分
	事後学修	中国語に関する基本知識を調べておく。	30分
2	中国語の発音 1	単母音、四声（声調）の学習	
	この回の到達目標	単母音と四声の発音を覚える。	
	事前学修	テキストの用意。ひと通り目を通しておく。	30分
	事後学修	既習した単母音、四声を復習する。	30分
3	中国語の発音 2	複合母音と子音の学習	
	この回の到達目標	複合母音と子音の発音を覚える。	
	事前学修	教科書の音声ファイルを聴きながら複合母音、子音を予習する。	30分
	事後学修	既習した複合母音、子音を復習する。（30分）	30分
4	中国語の発音 3	鼻母音の学習 総合復習	
	この回の到達目標	鼻母音の発音を覚える。	
	事前学修	教科書の音声ファイルを聴きながら鼻母音を予習する。	30分
	事後学修	既習した発音と声調を復習してまとめる。	30分
5	第1課	人称代名詞 動詞“是”の使い方 疑問詞疑問文	
	この回の到達目標	人称代名詞、動詞“是”、疑問詞疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第1課の内容を練習して覚える。	30分
6	第1課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第1課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2課	場所代名詞 形容詞文 反復疑問文	
	この回の到達目標	場所代名詞、形容詞文、反復疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第2課の内容を練習して覚える。	30分
8	第2課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第2課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。（30分）	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）	30分
9	第3課	指示代名詞 動詞“有”の文	
	この回の到達目標	指示代名詞、動詞“有”の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第3課の内容を練習して覚える。（30分）	30分
10	第3課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第3課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
11	第4課	動詞“在”の文 因果関係の表現	
	この回の到達目標	動詞“在”及び因果関係の表現の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第4課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第4課の内容を練習して覚える。	30分
12	第4課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第4課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課	動詞文 時刻・日・曜日	
	この回の到達目標	動詞文、時刻・日・曜日の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聴きながら、第5課の内容を練習して覚える。	30分
14	第5課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第5課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
15	到達度のチェック 振り返り	期末テスト、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、到達度のチェックをする。	
	事前学修	前期に既習した内容を復習して覚える。	30分
	事後学修	前期の学習について総括する。	30分

科目名	中国語基礎文法A	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は基本的にはオンデマンド型式で行う。授業動画を視聴して中国語を学習し、期限までにgoogleクラスルームにおいて出題される課題を提出すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語のごく初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いてごく平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語のごく基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身についているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールやzoomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	本間直人・栗原千里	白帝社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
後日、googleクラスルームにメールアドレス等をお伝えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／中国語概説	授業の内容や課題の提出の仕方、また成績評価の方法等について説明する。また、これから学ぶ「中国語」という言語の特徴について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の達成のため、授業の進め方や課題の提出方法等について理解することができる。また、「中国語」という言語の特質について説明することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んで注意事項を確認しておくこと。	30分
	事後学修	教科書をできるだけ早く準備しておくこと。辞書は特に必要ないが、個人的に用意したい場合は相談してください。	30分
2	発音のトレーニング①「声調と母音（韻母）」	「声調（四声）」の取り方について学ぶ。 「単母音」の発音方法について学ぶ。 「複母音」の発音方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③の達成のため、「声調（四声）」について、声調符号に従ってそれぞれ正しくコントロールできる。また、「単母音」と「複母音」について、それぞれの口の使い方を理解しながら正しい音声を発することができる。	
	事前学修	口の使い方を自分で確認するために、鏡を用意しておくこと。また、パソコンやスマートフォンで簡体字入力ができるようにしておくこと。	30分
	事後学修	「声調」、「単母音」、「複母音」について、授業で配布した教材や教科書の付属CDの音声を参考にしながら、繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
3	発音のトレーニング②「子音（声母）」	「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」の発音方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③の達成のため、息、唇、舌、歯、顎の使い方に注意しながら、発音表記に従ってそれぞれ正しく発音できる。	
	事前学修	前回の「声調」、「単母音」、「複母音」の発音方法について、よく復習をしておくこと。	30分
	事後学修	「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」について、授業で配布した教材や教科書の付属CDの音声を参考にしながら、繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
4	発音のトレーニング③（「鼻母音」とその他の発音の注意点）	「鼻母音」の発音方法について学ぶ。また、「軽声」や「変調」についても補足説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③の達成のため、「n」と「ng」及び母音の音声の相違を識別して正しく発音できる。	
	事前学修	前回の「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」の発音方法についてよく復習しておくこと。	30分
	事後学修	「n」と「ng」の違いに留意して、授業で配布した教材や教科書の付属CDの音声を参考にしながら繰り返し声に出してトレーニングすること。	30分
5	自己紹介①国籍、出身を伝えよう。「你是中国人？」（第1課）	人称代名詞を学ぶ。 動詞「是」の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞「是」を用いた文の語順の特徴について説明することができる。 到達目標②の達成のため、動詞「是」を用いて自分の国籍や身分を書くことができる。 到達目標③の達成のため、出身を言ったり尋ねたりできる。	
	事前学修	教科書の第1課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウイング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	人称代名詞と動詞の「是」について、要点をノートに整理すること。また、第1課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
6	自己紹介②名前を伝えよう。「你是中国人？」（第1課）	名前の聞き方と答え方を学ぶ。 動詞の「姓」と「叫」の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、名前の言い方について中国語と日本語の相違点について対照的に説明できる。 到達目標②の達成のため、自分の名前を簡体字で書くことができる。 到達目標③の達成のため、名前を言ったり、尋ねたりできる。	
	事前学修	自分の名前の簡体字及びピンインを辞書やインターネットで予め調べておくこと。	30分
	事後学修	動詞の「姓」と「叫」について、要点をノートに整理すること。また、第1課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	何を食べるのか、どこへ行くのかを伝えよう。 「你去哪儿？」（第2課）	場所を表す指示代名詞を学ぶ。 動詞述語文について学ぶ。 疑問詞の「哪儿」と「什么」の用法と意味について学ぶ。 省略疑問文の「呢？」の使い方について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞述語文における中国語と日本語の語順の相違点を対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、「何を食べるのか」、「どこへ行くのか」を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第2課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	動詞述語文と疑問詞の「哪儿」と「什么」について、要点をノートに整理すること。また、第2課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
8	人柄や容姿、味などの感想を伝えよう。 「法？」（第3課）	疑問詞の「」の用法と意味を学ぶ。 副詞の「都」の用法と意味を学ぶ。 形容詞述語文の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、中国語の形容詞述語文の文法的な注意点について説明できる。 到達目標②と③の達成のため、形容詞述語文を用いて、人柄や容姿、味などの感想を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第3課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞述語文と疑問詞の「」について、要点をノートに整理すること。また、第3課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
9	人や物を指し示して紹介しよう。 「是你的笔本？」（第4課）	指示代名詞について学ぶ。 助詞の「的」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、助詞の「的」について中国語における修飾関係の基本的な特徴について説明できる。 到達目標②と③の達成のため、指示代名詞を用いて、人や物を指し示して紹介できる。	
	事前学修	第4課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	指示代名詞と助詞の「的」について、要点をノートに整理すること。また、第4課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
10	自分の持ち物について伝えよう。 「是你的笔本？」（第4課）	動詞の「有」の用法と意味について学ぶ。 副詞の「也」よ用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞の「有」について語順の型式を説明できる。 到達目標②と③の達成のため、自分の身の周りの持ち物について伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第4課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	動詞の「有」と副詞の「也」について、要点をノートに整理すること。また、第4課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
11	自分の家族を紹介しよう。 「你家有几口人？」（第5課）	中国語の数字について学ぶ。 疑問詞の「几」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、疑問詞の「几」について中国語の疑問詞疑問文の語順の特徴を対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、数字を用いて家族の構成人数を伝えたり尋ねたりできる。また、数字について、自身の電話番号やパスポート番号を正確に伝えることができる。	
	事前学修	第5課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	数字と疑問詞の「几」について、要点をノートに整理すること。また、第5課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
12	持ち物の数を伝えよう。 「你家有几口人？」（第5課）	名量詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、名量詞について中国語と日本語の語順の相違について対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、自分の持ち物の数について伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第5課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	名量詞について、要点をノートに整理すること。また、第5課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	動作が完了したことを伝えよう。 「你吃了？」（第6課）	助詞の「了」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、助詞の「了」について、用法と意味と語順を説明できる。 到達目標②と③の達成のため、助詞の「了」を用いて、動作の完了を伝えたり尋ねたりできる。また、完了の否定形も適切に表現することができる。	
	事前学修	第6課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	助詞の「了」について、要点をノートに整理すること。また、第6課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
14	自分の願望を伝えよう。 「你吃了？」（第6課）	助動詞の「想」の用法と意味について学ぶ。 「多少」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「多少」について用法と意味について説明できる。 到達目標②と③の達成のため、助動詞の「想」を用いて、自分の将来になりたい職業について伝えたり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	第6課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	「想」と「多少」の用法と意味について、要点をノートに整理すること。また、第6課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
15	前期の総復習と授業内試験	前期で学習した内容を総復習し、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標である①と②について、授業内試験を通してそれらの能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	前期で学習した内容について、授業内で配布した資料や教科書を用いて振り返っておくこと。	30分
	事後学修	前期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
中国語文法の説明を行った上で、練習問題を解きながら授業を進め、発音練習、作文練習、翻訳作業を行う。また文法学習を通じて中国語および中国語圏への理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
出発中国語	本間直人、栗原千里、王熙萍	白帝社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	教科書第八課(動作回数、継続時間等)	動作回数と継続時間、時間の長さの表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動作回数と継続時間、時間の長さの表現について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第八課動作回数と継続時間、時間の長さの表現の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動作回数と継続時間、時間の長さの表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	教科書第八課(離合詞、従、在)	離合詞、介詞「従」「在」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、離合詞、介詞「従」「在」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第八課離合詞、介詞「従」「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	離合詞、介詞「従」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	教科書第九課(過、会、能、可以)	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に教科書第九課経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	教科書第九課(反復疑問文、選択疑問文)	反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第九課反復疑問文、選択疑問文「還是」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	反復疑問文、選択疑問文「還是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	教科書第十課(方位詞、有、在)	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十課方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	教科書第十課(給、喜歡)	介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十課介詞「給」、動詞「喜歡」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	介詞「給」、動詞「喜歡」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第十一課(様態補語、動詞重ね型)	様態補語(程度補語)、動詞の重ね型について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、様態補語(程度補語)、動詞の重ね型について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十一課様態補語(程度補語)、動詞の重ね型の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	様態補語(程度補語)、動詞の重ね型の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第十二課(離、連動文)	介詞「離」、連動文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、介詞「離」、連動文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課介詞「離」、連動文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	介詞「離」、連動文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	教科書第十二課(在)	動作進行の「在」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、動作進行の「在」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課動作進行の「在」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動作進行の「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	教科書第十二課(別、的)	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	教科書第十三課(是～的)	「是～的」構文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「是～的」構文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十三課「是～的」構文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「是～的」構文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	教科書第十三課(比較表現)	比較表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、比較表現について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十三課比較表現の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	比較表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書第十四課(二重目的語)	二重目的語を取る動詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、二重目的語を取る動詞について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十四課二重目的語を取る動詞の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	二重目的語を取る動詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第十四課(譲)	使役の「譲」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、使役の「譲」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十四課使役の「譲」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	使役の「譲」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。

【授業方法】
学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	重要事項の説明・発音練習・和訳練習・中訳練習の時はペアワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『好きです♥中国語 文法編』	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐	朝日出版社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） shinoda.hanyu2019@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	基本の復習		総復習 四声・単母音・子音・声調の変化、第1課から第9課までのポイントの例文の発音とポイントの内容確認をする。	
	この回の到達目標	四声のイメージを説明できる。単母音・子音の発音の仕方を説明できる。第三声の声調変化の原則について説明できる。動詞述語文・形容詞述語文の基本語順を説明できる。修飾語の位置を説明できる。第1課から第9課までの文法ポイントの内容を説明できる。		
	事前学修	CDを聞き四声・単母音・子音および第1課から第9課までのポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第1課から第9課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。		45分
	事後学修	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れている単語を覚えなおす。説明できなかったポイントを説明できるようにする。		15分
2	禁止、介詞、経験、原因・理由を訪ねる〈怎么〉		第10課 禁止表現、介詞〈从〉、経験の〈過〉、原因・理由を訪ねる〈怎么〉の練習をする。	
	この回の到達目標	禁止の表現が中国語で言える。〈从〉の正確な発音ができその語順を説明できる。〈過〉の位置と意味を説明できる。〈怎么〉の位置と意味を説明できる。		
	事前学修	66～68ページを一読しCDを聞いておく。		15分
	事後学修	66～68ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		45分
3	介詞、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞		69～77ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第11課 介詞〈对〉〈离〉、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞の練習をする。	
	この回の到達目標	介詞〈对〉〈离〉の位置と意味を説明できる。動詞の重ね型の基本的意味と訳し方を説明できる。目的語を二つとる動詞の基本語順を説明できる。		
	事前学修	69～70ページのドリルを解いておく。72～74ページを一読しCDを聞いておく。		20分
	事後学修	72・73ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		40分
4	比較文、助動詞、程度・数量の尋ね方、助動詞		第10課小テスト 75～76ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第12課 比較文、助動詞〈可以〉、程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉の練習をする。	
	この回の到達目標	二種類の比較文の基本語順を説明できる。助動詞〈可以〉の用法を説明できる。程度・数量の尋ね方を中国語で言える。助動詞〈要〉の位置と意味を説明できる。		
	事前学修	75～76ページのドリルを解いておく。78～80ページを一読しCDを聞いておく。		20分
	事後学修	78～80ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		40分
5	使役文、接続詞、「もうすぐ～する」の言い方、介詞		81～82ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第13課 使役文、接続詞〈因为〉〈所以〉、「もうすぐ～する」の言い方、介詞〈往〉の練習をする。	
	この回の到達目標	使役文の基本語順を説明できる。接続詞〈因为〉と〈所以〉の使い方を説明できる。「もうすぐ～する」を中国語で言える。介詞〈往〉の位置と意味を説明できる。		
	事前学修	81～82ページのドリルを解いておく。84～86ページを一読しCDを聞いておく。		20分
	事後学修	84～86ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。		40分
6	結果補語、接続詞、様態補語、〈是不是〉		87～88ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第14課 結果補語、接続詞〈虽然～但是〉、様態補語、〈是不是〉を使った疑問文の練習をする。	
	この回の到達目標	結果補語四つ以上言える。接続詞〈虽然～但是〉の意味を説明できる。様態補語とは何かを説明できる。様態補語の基本語順を二種類説明できる。〈是不是〉を使った疑問文を訳せる。		
	事前学修	87～88ページのドリルを解いておく。90～92ページを一読しCDを聞いておく。		20分
	事後学修	90～92ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）		40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	持続、可能性、否定疑問、副詞	93～94ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第15課 持続の〈着〉、可能性の〈可能〉、否定疑問の〈不是～嗎？〉、副詞〈就〉の練習をする。	
	この回の到達目標	持続の〈着〉の用法を説明できる。〈可能〉の意味を説明できる。〈不是～嗎？〉の文を訳せる。副詞〈就〉の位置と意味を説明できる。	
	事前学修	93～94ページのドリルを解いておく。96～98ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	96～98ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
8	方向補語、存現文、仮定、介詞	99～100ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第16課 方向補語、存現文、仮定の〈如果～就〉、介詞〈為〉〈為了〉の練習をする。	
	この回の到達目標	方向補語の種類と意味用法について説明できる。存現文の目的語の性質と語順を性質を説明できる。仮定の〈如果～就〉、介詞〈為〉〈為了〉の訳し方を説明できる。	
	事前学修	99～100ページのドリルを解いておく。102～104ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	102～104ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
9	処置文、〈越～越〉、副詞、除外・補充の表現	105～106ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第17課 処置文〈把〉、〈越～越〉、副詞〈才〉除外・補充の〈除了～以外〉の練習をする。	
	この回の到達目標	処置文とはどのような文か説明できる。処置文の基本語順を説明できる。〈越～越〉を訳せる。副詞〈才〉の位置と意味を説明できる。除外・補充の〈除了～以外〉の位置と意味を説明できる。	
	事前学修	105～106ページのドリルを解いておく。108～110ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	108～109ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
10	〈又～又～〉、可能補語、仮定、動詞〈祝〉	111～112ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第18課 〈又～又～〉、可能補語、仮定の〈即使～也〉、動詞〈祝〉の練習をする。	
	この回の到達目標	〈又～又～〉の使い方を説明できる。可能補語について説明できる。仮定の〈即使～也〉の位置と意味を説明できる。動詞〈祝〉の位置と意味を説明できる。	
	事前学修	111～112ページのドリルを解いておく。114～116ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	114～116ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
11	受身文、〈一边～一边〉〈先～然后/再〉、〈像/跟～一樣〉	117～118ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第19課 受身文、〈一边～一边〉〈先～然后/再〉、〈像/跟～一樣〉の練習をする。	
	この回の到達目標	受身文の基本語順を説明できる。〈一边～一边〉の位置と意味を説明できる。〈先～然后/再〉の位置と意味を説明できる。〈像/跟～一樣〉の位置と意味を説明できる。	
	事前学修	117～118ページのドリルを解いておく。120～121ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	120～121ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分
12	〈不但～而且〉、動詞〈帮〉、評価を導く〈着〉、動詞〈打算〉	123～124ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第20課 〈不但～而且〉、動詞〈帮〉、評価を導く〈着〉、動詞〈打算〉の練習をする。	
	この回の到達目標	〈不但～而且〉の位置と意味を説明できる。動詞〈帮〉の位置と意味を説明できる。評価を導く〈着〉の位置と意味を説明できる。動詞〈打算〉の位置と意味を説明できる。	
	事前学修	123～124ページのドリルを解いておく。126～128ページを一読しCDを聞いておく。	20分
	事後学修	126～128ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総復習		128～129ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第10課から第14課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を復習する。
	この回の到達目標	第10課から第14課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	128～129ページのドリルを解いておく。120～124ページの単語と語順について復習しておく。	20分
	事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	40分
14	総復習		第15課から第20課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を復習する。
	この回の到達目標	第15課から第20課までの単語・ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる	
	事前学修	第15課～第20課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。	40分
	事後学修	忘れている単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。	20分
15	期末試験及び後期学習内容の振り返り		授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	この回の到達目標	第10課から第20課までの単語が聞き取れる。 第10課から第20課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できる。	
	事前学修	第10課から第20課までの単語が聞き取れるように復習する。 第10課から第20課までのポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるように復習する。	45分
	事後学修	間違いを確認し正確な内容を覚え直す。	15分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	福木 滋久	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語基礎文法Aの内容が身についており、担当者の指示に従って積極的に学修できること。

【授業方法】
中国語文法の基礎を学び、それを用いた会話を身に付けるための練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 1 CD・DVD付	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2004	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016	その他	任意
備考	教科書は会話部分をメインとして学修し、Googleclassroomなどにおいて補助教材を発信します。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。月 6 ・火 6 1033講堂（予定）。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・前期の確認	授業の目的・内容・レベル、進め方の確認／教科書・参考書の紹介／「Quizlet」について／成績評価方法について／前期学修内容の確認と復習を中心に学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、前期学修済みの内容について、説明でき、また正しく発音したり日本語訳したりできる	
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、前期の内容を確認するとともに、教科書の第1課から第11課までを復習しておく	60分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期01）などを持ちいて前期学修内容の復習と音読の反復練習をする	30分
2	存在の“有”・順と量の概念	ユニット3-第12課にて存在の“有”・順と量の概念などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、存在の“有”・順と量の概念といくつかの挨拶語慣用表現について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（後期01）課題や教科書添付のCD・DVDなどを持ちいて、前期学修部分の苦手を克服し授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期02）およびC1A競技部_12課などなどを持ちいて、今回学んだ存在の“有”・順と量の概念、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
3	“在”の用法	ユニット3-第13課にて“在”の用法などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“在”の用法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（後期02）課題や教科書添付のCD・DVDなどを持ちいて、存在の“有”・順と量の概念を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期03）およびC1A競技部_13課などなどを持ちいて、今回学んだ“在”の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
4	“是”を省略できる文	ユニット3-第14課にて“是”を省略できる文などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と“是”を省略できる文について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（後期03）課題や教科書添付のCD・DVDなどを持ちいて、“在”の用法を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期04）およびC1A競技部_14課などなどを持ちいて、今回学んだ“是”を省略できる文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする	30分
5	“会”“能”“想”の用法	ユニット3-第15課にて“会”“能”“想”の用法などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、助動詞“会”“能”“想”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（後期04）課題や教科書添付のCD・DVDなどを持ちいて、“是”を省略できる文を身につけ授業にのぞむ	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期05）およびC1A競技部_15課などなどを持ちいて、今回学んだ助動詞の用法、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（次回は17課）	30分
6	曜日・時刻の言い方	ユニット4-第17課にて曜日・時刻の言い方などを学修する（第16課は「講読文の課」につき授業では学修しない）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と曜日・時刻の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる	
	事前学修	Quizlet（後期05）課題や教科書添付のCD・DVDなどを持ちいて、“会”“能”“想”の用法を身につけ授業にのぞむ（第16課は学修せず第17課に進む）	30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期06）およびC1A競技部_17課などなどを持ちいて、今回学んだ曜日・時刻の言い方の復習と短文音読の反復練習をする	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	介詞・“要”の用法		ユニット4-第18課にて介詞・“要”の用法などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と介詞・“要”の用法などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	Quizlet（後期06）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期07）およびC1A競技部_18課などなどをもちいて、今回学んだ介詞・“要”の用法の復習と音読の反復練習をする		30分
8	比較表現		ユニット4-第19課にて比較表現などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と比較表現などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	Quizlet（後期07）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、介詞・“要”の用法を身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期08）およびC1A競技部_19課などなどをもちいて、今回学んだ比較表現、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする		30分
9	金額・月日の言い方		ユニット4-第20課にて金額・月日の言い方などを学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と金額・月日の言い方などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	Quizlet（後期08）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、曜日・時刻の言い方を身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期09）およびC1A競技部_20課などなどをもちいて、今回学んだ金額・月日の言い方、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする		30分
10	介詞“給”の用法・連動文		ユニット4-第21課にて介詞“”の用法・連動文などを学修する（第22課は「講読文の課につき授業では学修しない）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、いくつかの挨拶語慣用表現と介詞“給”の用法・連動文などについて理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	Quizlet（後期09）課題や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、金額・月日の言い方を身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期10）およびC1A競技部_21課などなどをもちいて、今回学んだ介詞“給”の用法・連動文、挨拶語慣用表現の復習と短文音読の反復練習をする（第22課は学修しない）		30分
11	ユニット3のまとめと復習		ユニット3-第12課～第15課のまとめと復習を中心に学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、ユニット3で学修したいくつかの挨拶語慣用表現と単語や文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	Quizlet（後期10）課題などをもちいて、介詞“給”の用法・連動文を身につけ授業にのぞむ（第22課は学修しない）		30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期11）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、今回確認したいくつかの挨拶語慣用表現・単語や文法の復習と短文音読の反復練習をする。また16課の講読文を訳してみる。		30分
12	ユニット4のまとめと復習		ユニット4-第17課～第21課のまとめと復習を中心に学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、ユニット4で学修したいくつかの挨拶語慣用表現と単語や文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	Quizlet（後期11）課題などをもちいて、ユニット3の内容を身につけ授業にのぞむ		30分
	事後学修	教科書とQuizlet（後期12）や教科書添付のCD・DVDなどをもちいて、今回確認したいくつかの挨拶語慣用表現・単語や文法の復習と短文音読の反復練習をする。また22課の講読文を訳してみる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	課題文の練習		後期総復習として、テキスト・プリントなどを持ち、筆記試験・口頭試験の対策を通して後期の内容を全般的に学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、後期に学んだ発音・単語・文法について理解し、学修済みの短文を正しく発音できる		
	事前学修	Quizlet（後期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、ユニット4の内容を身につけ授業にのぞむ。また16課・22課の講読文について質問があれば整理しておく。		60分
	事後学修	後期口頭試験課題文をテキストやプリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などを持ち復習する		120分
14	筆記試験とまとめ		後期筆記試験を実施し、試験後後期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、後期に学修した発音、語彙、文法などを応用することができる		
	事前学修	Quizlet（後期口頭試験課題）や教科書、添付のCD・DVDなどを持ち、後期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ		120分
	事後学修	試験で問題とされた箇所について、教科書やプリントを確認し、復習する		120分
15	口頭試験とまとめ		後期筆記試験の講評を行った後、後期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる		
	事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ		120分
	事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく		30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
発音練習と基本的な文法の修得に力を入れる。また、最新の中国事情についても紹介する。1課終了ごとに小テストを実施し、次の授業までに返却を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	栗原千里・王熙萍・本間直人	白帝社	2006	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールおよびグーグルクラスルームにて随時対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 第8課 時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について学習する。	
	この回の到達目標	授業の進め方について理解する。また、到達目標①②③に関連して、時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	【離合詞、介詞“从”“在”について】	第8課 離合詞、介詞“从”“在”について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離合詞、介詞“从”“在”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
3	【助動詞“会、能、可以”について】	第9課 助動詞“会、能、可以”について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、助動詞“会、能、可以”について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
4	【反復疑問文、選択疑問文について】	第9課 反復疑問文、選択疑問文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、反復疑問文、選択疑問文について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
5	【方位を表す言い方、存在を表す言い方について】	第10課 方位を表す言い方、存在を表す言い方について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、方位を表す言い方、存在を表す言い方について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	【動作の対象や受益者を導く表現について】	第10課 動作の対象や受益者を導く表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作の対象や受益者を導く表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【程度補語、動詞の重ね型について】	第11課 程度補語、動詞の重ね型について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、程度補語、動詞の重ね型について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
8	【介詞“离”、連動文について】	第11課 介詞“离”、連動文について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、介詞“离”、連動文について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
9	【動作進行の“在”、“的”の用法について】	第12課 動作進行の“在”、“的”の用法について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作進行の“在”、“的”の用法について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	【禁止表現について】	第12課 禁止表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、禁止表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分
11	【過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について】	第13課 過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	【“没有”の比較表現、類似を表す表現について】	第13課 “没有”の比較表現、類似を表す表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、“没有”の比較表現、類似を表す表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【二重目的語をとる動詞、使役表現について】	第14課 二重目的語をとる動詞、使役表現について学習する。 小テスト	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重目的語をとる動詞、使役表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	【“跟……一起”を用いた表現について】	第14課 “跟……一起”を用いた表現について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、“跟……一起”を用いた表現について理解する。	
	事前学修	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期に学習した内容について理解する。	
	事前学修	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布した資料も見直しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	吉富 透	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語が日本語で通じるなどと安易に考えていない積極的な者が望ましい。

【授業方法】
オンデマンド形式で行う。テキストに従い、課題はクラスルームに提出すること。フィードバックはクラスルームにおいて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本文を応用した作文練習。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内／Google Classroom にて行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・主芸 共著	郁文堂	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
次のメールで質問を受け付けます。 yoshitomi.toru11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第10課 文法ポイント：願望表現・選択疑問文・提案文・ドリル問題確認	願望を表す助動詞文と提案文・選択疑問文の文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、願望表現と提案文を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。	30分
	事後学修	助動詞文の肯定文・否定文・二種類の疑問文を確認する。 選択疑問文と提案文の構文を確認する。	30分
2	第11課 文法ポイント：比較表現・「～するのが好きだ」の表現・副詞“越”の用法・ドリル確認	前置詞“比”を用いた比較表現と間違えやすい「～が好きだ」の表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、形容詞を述語にとる比較表現と「AすればするほどBだ」・「～をするのが好きだ」の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課・第8課の形容詞が述語になる時の前置詞句との違いに着目しておく。	30分
	事後学修	第5課・第8課・第11課の前置詞句の違いを再確認する。特に比較文の否定文に気を付ける。 日本人が間違えやすい“好”の意味を再確認し、中国語の「好き」「嫌い」を正しく覚える。	30分
3	第12課 文法ポイント：過去の経験表現・助動詞“打算”・状況の変化表現・ドリル確認	過去における経験の有無（したことがある/ない）と予定を表す助動詞文・状況の変化表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の経験表現と強調助動詞文・ある状況の変化表現の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課の“了”を用いた文と比較してみる。	30分
	事後学修	第9課“了”を用いた文との違いを再確認する。 第10課の助動詞と合わせて否定文の表現を再確認する。	30分
4	第13課 文法ポイント：動作の進行表現・連動文（2）・推量と確認の表現・ドリル確認	動作の進行表現と「～しに行く/来る」の連動文と推量・確認表現を説明し、表現できるよう反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、動作の進行表現と「～しに行く/来る」の連動文・推量確認表現の文構造を理解し、中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課・第12課の時制文と文構成を比較してみる。 第8課の連動文を再確認しておく。	30分
	事後学修	3つの時制文を整理し再確認する。 第8課の連動文との違いを整理し再確認する。	30分
5	第14課 3つの「できる」の表現・動詞の重ね型・依頼の表現（1）・ドリル確認	3つの「できる」の表現の使い分けと動詞の重ね型を用いた依頼表現を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、三種類の助動詞の使い分けと動詞の重ね型の文構造を理解し、「できる」と依頼文を中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 助動詞使用法の違いを読んでおく。	30分
	事後学修	三種類の助動詞の使用法と否定文のニュアンスの違いを再確認する。 命令形と依頼文の違いを再確認する。	30分
6	第15課 強調表現（1）・お金の言い方・ドリル確認	過去の強調表現（1）と中国式お金の言い方を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去における時間・場所・方法手段を強調した文とお金の言い方を理解し、過去の強調文と買い物に関して中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5（時点）・8（場所・前置詞）・9（了）課の内容を再確認しておく。	30分
	事後学修	第5課と第9課の語順を再確認し、強調文の構成文字の位置を再確認する。 数に慣れるようCDを聞いて発音し再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	既習事項の確認		動作の完了・過去における経験の有無・動作の進行の時制表現と前置詞文・助動詞文を再確認する。これにより中国語検定試験準4級・4級受験者への事前確認となる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種時制表現・各種助動詞・各種前置詞の文構造を再確認し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 時制文を覚える。特に助動詞文も含めて各種否定文の違いを整理して覚えること。		30分
	事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時点・場所・数量表現を再確認する。		30分
8	第16課 文法ポイント：依頼表現（2）・結果補語の表現・前置詞“用”を用いた文・ドリル確認		新たな依頼表現文と結果補語構造とその表現・前置詞“用”を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、依頼表現と結果補語の文構造と既習文法との違いを理解し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9の動作の完了・15課の前置詞文を確認しておく。		30分
	事後学修	結果補語の有無による肯定文と否定文の違いを整理し再確認する。 前置詞文の否定文が第5・9課と違うことを再確認する。		30分
9	第17課 文法ポイント：方向補語の表現・前置詞“給”“従”を用いた表現・ドリル確認		「行く/来る」を用いた方向補語・前置詞“給”“従”を用いた文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、方向補語と前置詞文の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課の前置詞文と各課の動詞が述語になる前置詞文を確認しておく。 方向補語の説明文を読んでおく。		30分
	事後学修	各種前置詞の用法を整理し再確認する。 方向補語のニュアンスを再確認する。		30分
10	第18課 文法ポイント：可能補語の表現・「それから」の表現・ドリル問題		第16課結果補語と第18課方向補語を応用発展させた可能補語と接続詞「それから」を用いた文構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、可能補語と接続詞を用いた文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第12課の助動詞を確認しておく。		30分
	事後学修	第16課の結果補語からの応用形であることを整理し再確認する。 第12課「できる」表現との違いを整理し再確認する。		30分
11	第19課 文法ポイント：様態補語の表現・時間量の表現と“了”・ドリル確認		ある動作の様子や状態の表現と動作の時間量と“了”の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、様態補語と動作の時間量と動作の完了表現の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第3課形容詞文と第9課の“了”を用いた文を再確認しておく。		30分
	事後学修	様態補語の肯定文は日本語表現の語順と同じであり、否定文疑問文は第3課と同じ表現であることを再確認する。 時間量の表現がある場合の“了”の位置を再確認する。		30分
12	第20課 文法ポイント：二重目的語を要する動詞・助動詞を用いた「しなければならない」の表現・ドリル確認		二重目的語を要する動詞と助動詞を用いた「しなければならない」の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、二重目的語を必要とする動詞と助動詞を用いた「しなければならない」の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。		
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語と同じ文構造であることと、助動詞の説明文を読んでおく。		30分
	事後学修	助動詞の否定文を再確認し、併せて既習の各種助動詞を整理して覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第21課 文法ポイント：使役表現・副詞を用いた各種強調表現（2）・ドリル確認	使役文と副詞を用いた各種強調表現の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、使役文と強調表現の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第16課の依頼文の文法構成を確認しておく。	30分
	事後学修	使役文の文構成を整理し、日本語の翻訳の仕方を再確認する。 各種程度副詞と併せて整理し再確認する。	30分
14	第22課 文法ポイント：受身表現・近接未来表現・伝聞表現・ドリル確認	受身文と近い将来に起こり得ることの表現及び伝聞表現の文法構造を説明し、表現できるように反復練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受身文と未来・伝聞の文法構造を理解し中国語で正しく表現することができる。	
	事前学修	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第21課の使役文の文構成を確認しておく。	30分
	事後学修	使役文と受身文の違いを整理し再確認する。 近接未来表現にも“了”が用いられるが、第9・12課の“了”と区分できるよう整理し再確認する。	30分
15	授業内試験 一年間の基礎中国語文法総復習	一年間の基礎中国語文法習得度を確認するために試験を行う。終了後解説をし再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文法構造とピンインを総合的に再確認し理解する。	
	事前学修	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種補語表現と否定文の違いを整理して覚えること。	60分
	事後学修	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時間量を用いた肯定文・各種補語表現を再確認する。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
中国語基礎文法Aを修了した学生を対象とする。

【授業方法】
講義と添削により指導を行い、繰り返しのトレーニングを中心に、教科書の内容に沿って授業を進めていく。携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができる。毎回出欠を確認する。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
耳から学ぶ中国語	矢野光治 他	株式会社 天天	初版発	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜２・３・４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第6課	動詞の時態① 選択疑問文	
	この回の到達目標	動詞の時態、選択疑問文の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第6課の内容を練習して覚える。	30分
2	第6課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第6課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
3	第7課	助動詞 “想” “打算” 動詞の時態②	
	この回の到達目標	助動詞 “想” “打算” の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第7課の内容を練習して覚える。	30分
4	第7課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第7課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
5	第8課	“是～的” の文 “又～又～” の文	
	この回の到達目標	“是～的”、“又～又～” の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第8課の内容を練習して覚える。	30分
6	第8課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第8課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第9課	第9課 時量補語 助動詞 “要”	
	この回の到達目標	時量補語、助動詞 “要” の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第9課の内容を練習して覚える。	30分
8	第9課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第9課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
9	第10課	助動詞 “会” “能” “喜” 接続詞 “不但～而且～”、“除了～以外，～”	
	この回の到達目標	助動詞 “会” “能” “喜” の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第10課の内容を練習して覚える。	30分
10	第10課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第10課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
11	第11課	様態補語・動量補語 受け身 “把”の文	
	この回の到達目標	様態補語・動量補語、受け身の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第11課の内容を練習して覚える。	30分
12	第11課のトレーニング	練習問題を解いて発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第11課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第12課		二重目的語 名量詞
	この回の到達目標	二重目的語、名量詞の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
	事後学修	教科書の音声ファイルを聞きながら、第12課の内容を練習して覚える。	30分
14	第12課のトレーニング		練習問題を解いて発表する。
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、第12課で習った表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	練習問題を予習する。	30分
	事後学修	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。	30分
15	到達度のチェック 振り返り		期末テスト、振り返り
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、到達度のチェックをする。	
	事前学修	後期に既習した内容を復習して覚える。	30分
	事後学修	後期の学習について総括する。	30分

科目名	中国語基礎文法B	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○		○	○		

【授業の概要】
中国語基礎文法の修得

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語文献を自律的に読んで表現ができるようになるため、基礎文法知識を修得できる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は基本的にはオンデマンド型式で行う。授業動画を視聴して中国語を学習し、期限までにgoogleクラスルームにおいて出題される課題を提出すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の初歩的初級文法について説明することができる。						1		1	1		
②	基礎的な文法法則を用いて平易な中国語の文章を書き翻訳をすることができる。						1		1	1		
③	中国語の基本的語彙が修得されその発音が正確にできる。								1	1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	10								60
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する。	8	8	4								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	7	7	6								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールやzoomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『出発 中国語』	本間直人・栗原千里	白帝社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
後日、googleクラスルームにメールアドレス等をお伝えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス／発音の復習	授業の内容や課題の提出の仕方、また成績評価の方法等について説明する。 発音の復習をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の達成のため、授業の進め方や課題の提出方法等について理解することができる。 到達目標③の達成のため、母音（韻母）や子音（声母）を正しく発音することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んで注意事項を確認しておくこと。	30分
	事後学修	教科書をできるだけ早く準備しておくこと。辞書は特に必要ないが、個人的に用意したい場合は相談してください。	30分
2	時刻と曜日を伝えよう① 「你什么候回上海？」（第7課）	月・日・曜日の言い方を学ぶ。 時刻の言い方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②と③の達成のため、中国語で月・日・曜日・時刻を正しく伝えたり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	第7課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	月・日・曜日・時刻について、要点をノートに整理すること。また、第7課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
3	時刻と曜日を伝えよう② 「你什么候回上海？」（第7課）	時を表す語句の位置（語順）について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、時を表す語句の位置について中国語と日本語における語順の共通点を対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、動作を「いつ」するのかを伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第7課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	時を表す語句の位置（語順）について、要点をノートに整理すること。また、第7課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
4	動作を行う場所や起点を伝えよう 「你在哪儿打工？」（第8課）	前置詞の「在」について学ぶ。 前置詞の「从」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、前置詞の「在」と「从」について、修飾語の位置に着目しながら中国語と日本語における語順の共通点を対照的に説明できる。 到達目標②と③の達成のため、動作を「どこで」もしくは「どこから」するのかを伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第8課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞の「在」と「从」について、要点をノートに整理すること。また、第8課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
5	動作をどれくらいの時間もしくは何回行うのかを伝えよう 「你在哪儿打工？」（第8課）	動作・行為の回数と継続時間の語順について学ぶ。 離合詞の基本的な特質について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動作・行為の回数と継続時間を表す語句について、中国語と日本語における語順の相違点を対照的に説明できる。また、離合詞の文法的な特質について具体的な単語を用いて説明できる。 到達目標②と③の達成のため、動作を「どれくらい」もしくは「何回」するのかを伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第8課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	動作・行為の回数と継続時間及び離合詞について、要点をノートに整理すること。また、第8課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
6	自分の過去の経験を伝えよう 「我没看中国影。」（第9課）	助詞の「」の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②と③の達成のため、助詞の「」を用いて、渡航歴や学習歴などの過去の経験や体験を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第9課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	助詞の「」について、要点をノートに整理すること。また、第9課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自分の「デキル」ことを伝えよう 「我没看中国影。」（第9課）	可能を表す助動詞の「会」、「能」、「可以」について学ぶ。 反復疑問文の型式について学ぶ。 「是」を用いた選択疑問文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、可能を表す助動詞の「会」、「能」、「可以」の用法の共通点や相違点を説明できる。 到達目標②と③の達成のため、「デキル」ことを伝えたり尋ねたりできる。また、相手に許可を取れるようになる。	
	事前学修	第9課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	可能を表す助動詞の「会」、「能」、「可以」について、要点をノートに整理すること。また、第9課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
8	位置を伝えよう。 「我老家在上海西。」（第10課）	動詞の「在」の用法と意味について学ぶ。 方位詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞の「在」と動詞の「有」の意味の違いについて説明できる。 到達目標②と③の達成のため、動詞の「在」と方位詞を用いて、人や物の位置を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第10課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	動詞の「在」と方位詞について、要点をノートに整理すること。また、第10課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
9	自分の好きなものを伝えよう。 「我老家在上海西。」（第10課）	前置詞の「給」の用法と意味を学ぶ。 動詞の「喜」の用法と意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、前置詞の「給」について、中国語における修飾語の基本的な語順について説明できる。 到達目標②と③の達成のため、動詞の「喜」を用いて、自分の好きなものを紹介できる。	
	事前学修	自分の好きなスポーツ、食べ物、飲み物の単語を辞書で調べておくこと。	30分
	事後学修	前置詞の「給」について、要点をノートに整理すること。また、第10課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
10	どこに何をしに行くのかを伝えよう 「中国菜做得真不。」（第11課）	前置詞の「离」の用法と意味を学ぶ。 連動文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、動詞の「离」について「从」との意味の違いを説明できる。 到達目標②と③の達成のため、連動文を用いてどこへ何をしに行くのかを伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第11課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞の「离」と連動文について、要点をノートに整理すること。また、第11課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
11	自分の動作のレベルを伝えよう 「中国菜做得真不。」（第11課）	程度補語について学ぶ。 動詞の重ね型について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、中国語の補語の基本的な役割と語順について説明できる。 到達目標②と③の達成のため、程度補語を用いて自分の動作のレベルを伝えることができる。	
	事前学修	第11課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	程度補語と動詞の重ね型について、要点をノートに整理すること。また、第11課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
12	今していることを伝えよう。 「你在干什么呢？」（第12課）	副詞の「在」の用法と意味について学ぶ。 助詞の「的」の用法と意味について学ぶ。 副詞の「」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、副詞の「在」について進行の意味を説明できる。 到達目標②と③の達成のため、副詞の「在」を用いて今まきに行っている動作を伝えたり尋ねたりできる。	
	事前学修	第12課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	副詞の「在」と副詞の「」について、要点をノートに整理すること。また、第12課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	行った動作について、時間や場所、方法を強調して伝えよう 「你是什么候去的？」（第13課）		「是～的」の構文について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、「是～的」の構文について、どのような状況下で何故それを用いるのかを論理的に説明できる。到達目標②と③の達成のため、「是～的」の構文を用いて、自分の買ったものについて、具体的にどこで、いつ買ったのかを伝えることができる。	
	事前学修	第13課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	「是～的」の構文について、要点をノートに整理すること。また、第13課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
14	比べて伝えよう。 「你是什么候去的？」（第13課）		前置詞の「比」の用法と意味について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①の達成のため、前置詞の「比」について用法と意味について説明できる。到達目標②と③の達成のため、前置詞の「比」を用いて、気温や値段などを比較しながら伝えたり尋ねたりすることができる。	
	事前学修	第13課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞の「比」の用法と意味について、要点をノートに整理すること。また、第13課の教科書の例文はすべて暗唱すること。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
15	後期の総復習と授業内試験		後期で学習した内容を総復習し、授業内試験を行う。
	この回の到達目標	到達目標である①と②と③について、授業内試験を通してそれらの能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	後期で学習した内容について、授業内で配布した資料や教科書を用いて振り返っておくこと。	30分
	事後学修	後期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語演習C	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を1年以上学習した学生。

【授業方法】		
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文発表や会話を聞き、訂正やアドバイスをする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲举、于曉飛、劉 渴冰	同学社	2020年3 月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスパワー】
水曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
	この回の到達目標	授業の進み方と学習方法を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
	事後学修	CDを聞き、中国語の発音を耳にする。	60分
2	発音の復習と基本単語	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
	この回の到達目標	発音を復習し、基本単語を整理する。	
	事前学修	CDを聞く、発音を練習すること。	60分
	事後学修	勉強した発音を、CDを聞きながら覚えること。	60分
3	声調変化と挨拶練習	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
	この回の到達目標	声調変化を理解し、簡単な挨拶をできるようにする。	
	事前学修	CDを聞く、勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習。	60分
	事後学修	発音を練習する：CDを聞く。聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	自己紹介	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。	
	この回の到達目標	自己紹介をし、クラスメイトの名前を中国語で覚える。	
	事前学修	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。	60分
	事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習。	60分
5	氏名表現と「是」の用法	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いる。	
	この回の到達目標	氏名表現と「是」の用法を理解する。	
	事前学修	第2課の単語を暗記する；CDをについて本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	疑問文の作り方	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
	この回の到達目標	疑問文の作り方を理解し、それに対する回答をできるようにする。	
	事前学修	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	年月日曜日の表現	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日	
	この回の到達目標	年月日曜日の表現ができるようにする。	
	事前学修	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	時刻の表現	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。	
	この回の到達目標	時刻を言えるようにする。	
	事前学修	CDを聞き、第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	家族親族の紹介	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称	
	この回の到達目標	各自の家族親族を紹介できるようにする。	
	事前学修	第6課の単語と会話文をCDを聞き、発音練習を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する。	60分
10	年齢の表現	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。	
	この回の到達目標	年齢を言えるようにする。	
	事前学修	CDを聞き、第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	場所方位の表現	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
	この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞の用法を理解する。	
	事前学修	CDを聞き、第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	希望願望の表現	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現	
	この回の到達目標	願望や希望の表現を理解し、簡単な文を表現できるようにする。	
	事前学修	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	職業の表現		会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：職業についての表現
	この回の到達目標	職業の表現を理解し、簡単な応用をできるようにする。	
	事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	学習の応用		発表テスト 口頭発表 講評
	この回の到達目標	学習したことを用いて作文できるか確かめる。	
	事前学修	第2課～第10課までの内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習。	60分
15	中国語ヒヤリング		中国の映画を鑑賞
	この回の到達目標	映画鑑賞を通じて、中国語表現の理解力を把握する。	
	事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	中国語演習C	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。

【授業方法】
「言語/哲学」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	10									40
小テスト等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
《新版》中国語さらなる一歩	尹景春、竹島毅	白水社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業説明及文法紹介	授業展開方法に関して詳しく紹介し、多少専門的な中国語文法の紹介を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に多少専門的な中国語文法知識を習得することができる。	
	事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った文法知識を自分なりに整理すること。	30分
2	教科書第一課(可以、要)	助動詞「可以」「要」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、助動詞「可以」「要」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	第一課助動詞「可以」「要」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	助動詞「可以」「要」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	教科書第一課(主述述語文)	主述述語文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、主述述語文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第1課主述述語文部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	主述述語文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	教科書第二課(因為)	原因や理由を表す「因為」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、原因や理由を表す「因為」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第2課原因や理由を表す「因為」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	原因や理由を表す「因為」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	教科書第二課(可是)	逆説を表す「可是」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、逆説を表す「可是」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第2課逆接を表す「可是」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	逆接を表す「可是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	教科書第三課(連動文等)	連動文、「是～的」の文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、連動文、「是～的」の文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第3課連動文、「是～的」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	連動文、「是～的」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第三課(怎麼)	疑問詞「怎麼」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞「怎麼」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第3課疑問詞「怎麼」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞「怎麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第四課(了)	「了」の三つの用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「了」の三つの用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第4課「了」の三つの用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「了」の三つの用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	第四課(就)	副詞「就」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「就」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第4課副詞「就」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	副詞「就」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	第五課(結果補語、有点兒)	結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第5課結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	第五課(要是)	仮定を表す「要是」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、仮定を表す「要是」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第5課仮定を表す「要是」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	仮定を表す「要是」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	第六課(存現文)	存現文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、存現文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第6課存現文部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第六課(主語がフレーズである時)	主語がフレーズである時について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、主語がフレーズである時について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第6課主語がフレーズの時の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	主語がフレーズの時の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第六課(又～又～等)	「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第6課「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「又～又～」、「一辺児～一辺児～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語演習C	担当者	吉富 透	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び初級中国語基礎文法を習得済みの方が望ましい。

【授業方法】
オンデマンド形式で行う。テキストに従い、課題はクラスルームに提出すること。フィードバックはクラスルームにおいて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業において、発音・修正の時間を設ける。 文型確認のため、応用的作文練習と指導解説を適宜行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルームにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語つぎへの一步	竹島毅・尹景春	白水社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
次のメールで受け付けます。 yoshitomi.torull@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 初級中国語基礎単語と文型の確認	初級中国語の習得度を教科書の「復習」を用いて確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 一年目の中国語で習った単語や文法事項を確認し、未習単語や文法事項を覚える。	
	事前学修	教科書冒頭の「復習」にある単語と基礎文型4番までを、一年目の教科書から確認しておく。	30分
	事後学修	一年目の教科書になかった・忘れた単語や文型を覚える。	30分
2	「復習」	教科書の「復習」を用いて既習事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。	
	事前学修	教科書8ページ5番から8番までの内容に関して、一年目の中国語テキストから再確認する。	30分
	事後学修	忘れていた基本文型を再整理する。	30分
3	第1課 3種類の助動詞表現 主述述語文構造 目的語が主述句の文構造 本文読解	「復習」で確認した助動詞の別の用例と否定表現を間違えない。 二重主語の構造と目的語句にSV0を用いる文構造を正しく理解し表現できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 助動詞の正しい否定表現ができる。 複雑な文構造を正しく読解でき、なおかつ表現できる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の助動詞を再確認する。	30分
	事後学修	「復習」以外の助動詞の用法を再整理する。 資料にある文法構造を見て再確認する。	30分
4	第1課 トレーニング問題 ヒアリング問題	第1課の本文・文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
5	第2課 1:名詞の修飾表現 2:原因理由を表す接続詞 3:文末助詞の各種表現 本文読解	名詞を修飾する時“的”の有無ルール 原因や理由の問い方と答え方 文末助詞の6種類の表現	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 「なぜ」「なぜならば」の受け答えができる。 多様な意味がある文末助詞表現の使い分けが正しくできる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の名詞を修飾する“的”を再確認する。	30分
	事後学修	一文字形容詞＋名詞の修飾表現を再確認する。 原因・理由の尋ね方と答え方に用いる疑問詞と接続詞を確認する。 文末助詞の多様な表現を確認する。	30分
6	第2課 トレーニング問題 ヒアリング問題	第2課の本文・文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	前回の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第3課 1:連動文表現 2:強調表現 3:方法の問い方 本文読解		同一主語に対して二つ以上の動詞が行われる順番に連用される文の表現 いつ・どこで・どのようにしたのかを強調説明した表現。 疑問詞“怎么”の二つの疑問表現。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 動作が行われる順番を意識して連動文を作れる。 すでに行われた事柄を強調説明できる。 疑問詞“怎么”を用いた疑問表現ができる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の基本動詞文の構成と「復習」の4番を再確認する。	30分
	事後学修	連動文における日本語訳の使い分けを再確認する。 主語＋時間＋前置詞＋名詞＋動詞＋目的語の語順を再確認する。	30分
8	第3課 トレーニング問題 ヒアリング問題		第3課の本文・文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	主語＋時間＋否定詞＋助動詞＋前置詞＋名詞＋動詞＋目的語の語順を再確認する。 ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
9	第4課 1:多様な意味がある“了”表現 2:多様な意味がある“就”表現 本文読解		“了”の3つの用法（完了・変化・語気） 副詞“就”の用法
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 “了”と“就”の多様な意味・用法を理解しそれぞれ表現できる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の“了”を再確認する。	30分
	事後学修	間違えやすい“了（～した）”の位置と他の用例表現を再確認し、全てが「～した」ではないことを確認する。	30分
10	第4課 トレーニング問題 ヒアリング問題		第4課の本文理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
11	第5課 1:様子や状態の補語表現 2:予測表現 3:仮定表現 本文読解		動作や行為の行われ方がどのような状態・様子であるのかを説明する表現。 可能性の予測表現。 仮定「もしも～ならば」の表現。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 様態補語の文構造を理解し表現できる。 可能性の予測と仮定の表現ができる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 初級中国語教科書の形容詞文を再確認する。	30分
	事後学修	初級中国語で習った単語の意味と使用法の違いを再確認する。	30分
12	第5課 トレーニング問題 ヒアリング問題		第5課の本文と文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第6課 1:動作の結果表現 2:様々な「少し」表現 本文読解	動作の結果、ある状態になる表現。 感覚的・数量的な「少し」の中国語における表現の違い。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 動詞＋結果補語の構成を正しく理解し表現できる。 「少し」の表現を中国語で使い分けることができる。	
	事前学修	単語の意味を調べ、音声ファイルを聞き例文を読み、耳を慣らす。 この教科書の第4課1番（1）を再確認する。	30分
	事後学修	「動詞＋結果補語」の構成を新しい単語のようして覚える。ここで覚えないと第10課・第12課の理解が難しくなる。	30分
14	第6課 トレーニング問題 ヒアリング問題	第6課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
15	前期の総復習	前期習得度を確認する試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	ヒアリング問題の解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分

科目名	中国語演習C	担当者	中元 雅昭	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人(又は同等以上の中国語語学力を有する人)。

【授業方法】
授業は基本的にはオンデマンド型式で行う。授業動画を視聴して中国語を学習し、期限までにgoogleクラスルームにおいて出題される課題を提出すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で扱うテーマに即して、中国語で書かれたインターネットサイトで情報を集める。また、自分自身の身の周りの事柄について、中国語で記述する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールやzoomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ことばと文化 一挙両得 中級中国語』	陳淑梅／陸薇	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
後日、googleクラスルームにメールアドレス等をお伝えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び中国語の発音の復習	本授業の進め方と成績評価の方法について説明する。また、中国語の基本的な発音方法について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、本授業の展開を理解した上で、中国語の基本的な母音（韻母）、子音（声母）、声調の仕組みを学び、正確に発音することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。また、これまでに使用した教科書等で中国語の基本的な発音方法を復習しておくこと。	30分
	事後学修	中国語の母音（韻母）と子音（声母）について、授業で配布された資料を用いて、それぞれの口の使い方に注意しながら繰り返し声に出して練習しておくこと。	30分
2	中国と日本における「大学生活」について①〔第1課〕	中国と日本の「大学生活」の相違点について理解する。 補語の「在」の用法と意味について学ぶ。 中国語の連動文の語順について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、補語の「在」を用いて、自分がどこに住んでいるのかを伝えられるようになる。また、連動文を用いて、どのように通学や出勤をしているのかを伝えたり尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第1課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ補語の「在」と連動文について、要点をノートに整理する。また、第1課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
3	中国と日本における「大学生活」について②〔第1課〕	中国と日本の「大学生活」の共通点について理解する。 接続詞の「除了A, 以外B」の用法と意味について学ぶ。 接続詞の「不A, 是B」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、条件関係を表す複文「除了A, 以外B」を用いて、大学生活において勉強以外でどのようなことに取り組んでいるのか、もしくは、中国語以外でどのような科目を学んでいるのかなどを伝えたり尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第1課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ「除了A, 以外B」、「不A, 是B」について、要点をノートに整理する。また、第1課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
4	中国と日本における「授業の時間割り」について①〔第2課〕	中国と日本の「授業の時間割」の相違点について理解する。 前置詞の「比」の用法と意味について学ぶ。 前置詞の「从」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、前置詞の「比」を用いて、日本と中国を比較して、経済や地理的な差をそれぞれ伝えたり尋ねたりできるようになる。また、前置詞の「从」を用いて、一日の簡単な時間的スケジュールを伝えたり尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第2課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ前置詞の「比」と前置詞の「从」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第2課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
5	中国と日本における「授業の時間割り」について②〔第2課〕	中国と日本の「授業の時間割」の共通点について理解する。 接続詞の「因A, 所以B」の用法と意味について学ぶ。 助詞の「了」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、接続詞の「因A, 所以B」を用いて、中国語を学ぶ理由を伝えたり尋ねたりできるようになる。また、助詞の「了」を用いて、昨日おこなった活動を伝えたり尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第2課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ接続詞の「因A, 所以B」と助詞の「了」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第2課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	中国と日本における「朝食」について①〔第3課〕	中国と日本の「朝食」の相違点について理解する。 接続詞の「不但A, 而且B」の用法と意味について学ぶ。 方向補語の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、累加関係を表す接続詞の「不但A, 而且B」を用いて、自分の好きなスポーツや食べ物を複数伝えたり尋ねたりできるようになる。また、方向補語を用いて、ヒトやモノの移動を伝えたり尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第3課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ接続詞の「不但A, 而且B」と方向補語の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第3課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
7	中国と日本における「朝食」について②〔第3課〕	中国と日本の「朝食」の共通点について理解する。 助詞の「了」の用法と意味について学ぶ。 動詞の「喜」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、事態の変化を表す助詞の「了」を用いて、年齢や、季節、気温など自分の身の周りに起った日常的な変化を伝えたり尋ねたりできるようになる。また、動詞の「喜」を用いて趣味を伝えたり尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第3課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ助詞の「了」と動詞の「喜」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第3課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
8	中国と日本における「喫茶」について①〔第4課〕	中国と日本の「喫茶」の相違点について理解する。 副詞の「特」の用法と意味について学ぶ。 動詞の「以」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、副詞の「特」を用いて、自分の好きな物事の中から最も好きな物事を伝えたり尋ねたりできるようになる。また、動詞の「以」を用いて、新たな知見に基づいて、これまで自分の抱いていた誤った認識を伝えることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第4課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ副詞の「特」と動詞の「以」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第4課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
9	中国と日本における「喫茶」について②〔第4課〕	中国と日本の「喫茶」の共通点について理解する。 前置詞の「随着」の用法と意味について学ぶ。 動詞の「有」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、前置詞の「随着」を用いて、自分の身の周りの生活の変化について伝えたり尋ねたりできるようになる。また、動詞の「有」を用いて、「～する時間がある／ない」という表現で自分の予定を伝えることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第4課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ前置詞の「随着」と動詞の「有」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第4課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
10	中国と日本における「食」について〔第5課〕	中国と日本の「食」の共通点と相違点について理解する。 接続詞の「而且」の用法と意味について学ぶ。 「越来越～」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、接続詞の「而且」を用いて、自分の身の周りの物事の性質について複数伝えたり尋ねたりできるようになる。また、「越来越～」の構文を用いて、近年、時間の推移とともに程度が高まってきた社会の物事について伝えることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第5課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ接続詞の「而且」と動詞の「有」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第5課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	中国と日本における「生活習慣」について①〔第6課〕	中国と日本の「生活習慣」の共通点について理解する。 「～都…」の用法と意味について学ぶ。 前置詞の「把」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、接続詞の「～都…」を用いて、極端な例を挙げながら意味を強調して相手に伝えたり尋ねたりできるようになる。また、前置詞の「把」を用いて、レストランで店員に注文をすることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第6課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ「～都…」と前置詞の「把」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第6課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
12	中国と日本における「生活習慣」について②〔第6課〕	中国と日本の「生活習慣」の相違点について理解する。 助詞の「着」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、助詞の「着」を用いて、自分の動作についてその方式や手段について伝えたり相手に尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第6課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ助詞の「着」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第6課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
13	中国と日本における「交通」について①〔第7課〕	中国と日本の「交通」の共通点について理解する。 複文の「不是A, 而是B」の用法と意味について学ぶ。 助動詞の「要」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、助動詞の「要」を用いて、日本の日常生活において義務的な物事を伝えることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第7課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ助動詞の「要」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第7課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
14	中国と日本における「交通」について②〔第7課〕	中国と日本の「交通」の相違点について理解する。 比較文の「比～得多」の用法と意味について学ぶ。 「一～一…」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、比較文の「比～得多」を用いて、比べた差の程度を強調することができるようになる。また、「一～一…」の構文を用いて2つ同時に行う動作を伝えることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第7課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ比較文の「比～得多」と「一～一…」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第7課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
15	前期の総復習と授業内試験	前期で学習した内容を総復習し、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標である①と②について、授業内試験を通してそれらの能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	前期で学習した内容について、授業内で配布した資料や教科書を用いて振り返っておくこと。	30分
	事後学修	前期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語演習D	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を1年以上学習した学生。

【授業方法】		
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文発表や会話を聞き、訂正やアドバイスをする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲举、于曉飛、劉 渴冰	同学社	2020年3 月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国語ヒヤリング	中国の映画を鑑賞	
	この回の到達目標	映画鑑賞を通じて、中国語表現の理解力を把握する。	
	事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分
2	自己紹介と授業説明	自己紹介をする 授業の進み方と注意事項を説明	
	この回の到達目標	各自の自己紹介をし、授業の進み方と注意事項をする。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。 自己紹介の準備	60分
	事後学修	CDを聞き、中国語の発音を復習	60分
3	全般復習（第1課～第10課	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習	
	この回の到達目標	第1課～第10課までの会話を復習し、会話できることを確認する。	
	事前学修	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。	60分
	事後学修	CDを聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。	60分
4	評価の表現	第11課の会話文を解釈する ポイント：評価についての表現	
	この回の到達目標	評価の表現ができるようにする。	
	事前学修	CDを聞く、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
5	買い物表現	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：買い物するときの表現	
	この回の到達目標	挨拶言葉と自己紹介を通して発音が正しくできるようにする。買物の表現をできるようにする。	
	事前学修	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分
6	動態助詞	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的	
	この回の到達目標	動作の時間、場所、方式、行為者等の表現（是・・・的）を理解し、使用できるようにする。	
	事前学修	第13課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	CDを聞き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	好みについての表現		会話小テスト 第14課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む	
	この回の到達目標	「～をするのが好きである；～することを好む」の表現をできるようにする。		
	事前学修	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。		60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。		60分
8	「～したことがある」表現と時間補語		会話小テスト 第15課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語	
	この回の到達目標	「～したことがある」表現と時間補語の用法を理解し、会話できるようにする。		
	事前学修	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分
9	比較表現		筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：比較表現	
	この回の到達目標	比較表現をできるようにする。		
	事前学修	CDを聞き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分
10	動作の進行中と持続表現		会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現	
	この回の到達目標	動作の進行中と持続表現をできるようにする。		
	事前学修	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分
11	可能の表現		会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：可能を表す表現	
	この回の到達目標	可能を表す表現をできるようにする。		
	事前学修	CDを聞き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分
12	単純方位詞とその関連表現		筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
	この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現を理解し、会話文の理解と表現ができるようにする。		
	事前学修	CDを聞き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。		60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	能力の表現	会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現	
	この回の到達目標	能力についての表現ができるようにする。	
	事前学修	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	口頭発表、会話小テスト、期末テスト、講評	会話小テスト 期末テスト 口頭発表 講評	
	この回の到達目標	口頭発表、会話小テスト、期末テストにおいて、勉強した表現を使うことができる。	
	事前学修	勉強した表現を使って、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
	事後学修	第11課～20課までの重要表現を暗記し、暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。	60分
15	復習と筆記テスト	これまでの復習 筆記テスト	
	この回の到達目標	勉強したことを理解し、上手く解答できる	
	事前学修	テスト範囲で復習	60分
	事後学修	全般復習	60分

科目名	中国語演習D	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。

【授業方法】
「言語/哲学」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、授業内試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
《新版》中国語さらなる一歩	尹景春、竹島毅	白水社	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第七課(着)		状態の持続を表す「着」について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、状態の持続を表す「着」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第7課状態の持続を表す「着」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	状態の持続を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	第七課(再、部分否定)		副詞「再」、部分否定について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、副詞「再」、部分否定について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第7課副詞「再」、部分否定の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	副詞「再」、部分否定の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	第八課(方向補語、譲)		方向補語、使役を表す「譲」について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、方向補語、使役の「譲」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第8課方向補語、使役を表す「譲」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	方向補語、使役を表す「譲」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	第八課(疑問詞不定用法)		疑問詞の不定用法について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞の不定用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第8課疑問詞の不定用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞の不定用法の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	第九課(可能補語)		可能補語について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、可能補語について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第9課可能補語部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	第九課(強調表現)		強調表現について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、強調表現について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第9課強調表現部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	強調表現の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第十課(為了、会)	目的を表す「為了」、推測を表す「会」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、目的を表す「為了」、推測を表す「会」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第10課目的を表す「為了」、推測を表す「会」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	目的を表す「為了」、推測を表す「会」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	第十課(～了～了)	「～了～了」の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「～了～了」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第10課「～了～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「～了～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	第十一課(到、在)	結果補語「～到～」 「～在～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～到～」、「～在～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第11課結果補語「～到～」 「～在～」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	結果補語「～到～」 「～在～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	第十一課(給)	結果補語「～給～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、結果補語「～給～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第11課結果補語「～給～」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	結果補語「～給～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	第十一課(被)	受け身を表す「被」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、受け身を表す「被」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第11課受け身を表す「被」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	受け身を表す「被」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	第十二課(快～了)	「快～了」の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「快～了」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第12課「快～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「快～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第十二課(快要～了)	「快要～了」の用法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「快要～了」の用法について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第12課「快要～了」の用法の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「快要～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第十二課(把)	介詞「把」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、介詞「把」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第12課介詞「把」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	介詞「把」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	後期中に学習した内容を事前に整理して頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語演習D	担当者	吉富 透	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び初級中国語基礎法を習得済みのが望ましい。

【授業方法】
オンデマンド形式で行う。テキストに従い、課題はクラスルームに提出すること。フィードバックはクラスルームにおいて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業において、発音や修正の時間を適宜設ける。 文型確認のため、作文練習と指導解説を適宜行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2					2		2
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルームにて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語つぎへの一步	竹島毅・尹景春共著	白水社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
次のメールで受け付けます。 yoshitomi.torull@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 第7課 1:存在・出現・消失の表現 2:主語が動詞フレーズの構造 3:二つの“了”と時間量表現	ある場所に何か／誰かが「存在している」「出現した」「消えた」の文構造。 主語が動詞＋目的語からなる文構造。 時間量がある場合の一つの“了”と二つ“了”がある場合の表現の違い。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 初級中国語で習った“有”の文構造から存現文が理解できる。 主語が動詞＋目的語から構成されている文の理解。 “了”＋時間量＋“了”の表現が理解できる。	
	事前学修	初級中国語で習った“有”と“了”の文構造を確認しておくこと。	30分
	事後学修	初級中国語で習得した文構造の応用形であることを再確認する。	30分
2	第7課 トレーニング ヒアリング	第7課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
3	第8課 1:状態の持続表現 2:多様な“再”表現 3:疑問詞の不定用法	ある動作をしたあとの状態が持続している表現。 副詞と接続詞の用法。 疑問詞に“”が付いた時の表現の違い。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 動作の進行表現「している」と持続表現「している」の違いが理解できる。 文脈から副詞と接続詞の違いが理解できる。 疑問詞疑問文の“”がある場合の表現の違いが理解できる。	
	事前学修	初級中国語で習得した動作の進行表現を確認する。 各種疑問詞を確認し、疑問詞疑問文では“”を省略していたことを再確認する。	30分
	事後学修	日本語の「している」で理解するのではなく、動作の有無を再確認する。 疑問詞の不定用法の肯定文の使い方も再確認する。	30分
4	第8課 トレーニング ヒアリング	第8課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
5	第9課 1:方向補語の表現 2:使役表現	動作の向かう方向性を表す“去”と“来”を用いた表現。 使役文の構造理解と日本語表現。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 動詞に方向性を表す“去”“来”を組み合わせた表現と目的語の位置が理解できる。 使役文の中国語文構造だけでなく、相手に合わせた日本語表現が理解できる。	
	事前学修	初級中国語で習得した動詞の重ね型表現と前置詞を用いた文構造を確認する。	30分
	事後学修	様々な動詞と“去”“来”を組み合わせた表現を再確認する。 前置詞文の応用文構造であることを再確認する。	30分
6	第9課 トレーニング ヒアリング	第9課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	前半習得事項の確認		第7課から第9課までの本文と文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	第7課から第9課までの内容を再確認する。	30分
	事後学修	解答を見て、各種補語と肯定・否定文の確認をする。	30分
8	第10課 1:可能補語の表現 2:強調表現（2）		結果補語と方向補語を用いた可能表現。 副詞“也”“都”を用いた強調表現。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 結果補語と可能補語を用いたより具体的な「できる・できない」の表現を理解する。 副詞を用いた強調表現を理解する。	
	事前学修	第6課の結果補語と第9課の方向補語の表現を確認する。	30分
	事後学修	“能”を用いない可能補語の組み合わせを再確認する。	30分
9	第10課 トレーニング ヒアリング		第10課の本文と文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
10	第11課 1:結果補語の表現（2） 2:受身表現		前置詞を用いた結果補語の表現。 受身文の文構造とその表現。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 前置詞を用いた結果補語と受身の表現ができる。	
	事前学修	初級中国語で習得した各種前置詞を確認する。 第9課の使役表現の文構造を確認する。	30分
	事後学修	動詞＋前置詞＋名詞の結果補語構造を再確認する。 使役文と受身文の文構造の違いを再確認する。	30分
11	第11課 トレーニング ヒアリング		第11課の本文と文法の理解度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
12	第12課 1:近接未来の表現 2:目的語を動詞の前に持ってくる文構造とその表現		「もうすぐ・まもなく～だ」の表現。 前置詞“把”を用いて目的語を動詞の前に移動させた表現に付随するルール説明。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文構造を正しく理解し表現できる。 実現するまで時間がさほどかからない場合の表現ができる。 日本語の語順のように中国語を組み立てる時の特殊ルールが理解できる。	
	事前学修	習得事項の前置詞文構造・動詞の重ね型・結果補語・方向補語を再確認する。	30分
	事後学修	このテキストで習得した補語表現が前置詞“把”構文で活用されることを再確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 トレーニング ヒアリング	第12課の本文と文法の理解度を確認する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、正しい読解・作文とそれを用いたヒアリング問題にも答えられる。	
	事前学修	先週の説明を再確認する。 音声ファイルを何度も聞き耳を慣らす。	30分
	事後学修	解答から肯定・否定の表現を確認する。	30分
14	長文読解	習得した文法事項を確認するため、中国語の長文を読解する。	
	この回の 到達目標	中国語の長文を正しく理解し日本語に翻訳できる。	
	事前学修	単語の意味を事前に調べて確認する。	30分
	事後学修	読解を通じて中国文化の一端を理解する。	30分
15	後期習得事項の確認	授業内試験を実施し、最後に解説を加える。	
	この回の 到達目標	各種補語表現と副詞の用い方を正しく表現できる。	
	事前学修	前期で習った結果補語を含め、各種補語表現を再確認する。 副詞と助詞の用い方を再確認する。	30分
	事後学修	解答を見て確認し、基本から応用発展の形式を整理し理解する。	30分

科目名	中国語演習D	担当者	中元 雅昭	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人(又は同等以上の中国語語学力を有する人)。

【授業方法】
授業は基本的にはオンデマンド型式で行う。授業動画を視聴して中国語を学習し、期限までにgoogleクラスルームにおいて出題される課題を提出すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で扱うテーマに即して、中国語で書かれたインターネットサイトで情報を集める。また、自分自身の身の周りの事柄について、中国語で記述する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。						2					2		2
②	「文学/思想」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。						2					2		2
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールやzoomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ことばと文化 一挙両得 中級中国語』	陳淑梅／陸薇	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
後日、googleクラスルームにメールアドレス等をお伝えします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び中国語の発音の復習	本授業の進め方と成績評価の方法について説明する。また、改めて中国語の基本的な発音方法について復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、本授業の展開を理解した上で、中国語の基本的な母音（韻母）、子音（声母）、声調の仕組みを学び、正確に発音することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと。また、これまでに使用した教科書等で中国語の基本的な発音方法を復習しておくこと。	30分
	事後学修	中国語の母音（韻母）と子音（声母）について、授業で配布された資料を用いて、それぞれの口の使い方に注意しながら繰り返し声に出して練習しておくこと。	30分
2	中国と日本における「学園祭」について①〔第8課〕	中国と日本の「学園祭」の相違点について理解する。 「是～的」の構文の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、「是～的」の構文を用いて、すでに起きた行動について、時間、場所、方法などをはっきりと強調して伝えたり尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第8課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。さらに、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ「是～的」構文について、要点をノートに整理する。また、第8課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。また、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
3	中国と日本における「学園祭」について②〔第8課〕	中国と日本の「学園祭」の共通点について理解する。 「在～下」の構文について学ぶ。 「只不」の構文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、状況や条件を導く「在～下」の構文を用いて、勉強やスポーツ、アルバイトなどをどのような状況の下で行っているのかを伝えたり尋ねたりできるようになる。自身の学園祭の体験を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第8課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ「在～下」と「只不」の構文について、要点をノートに整理する。また、第8課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
4	中国と日本における「体育」について①〔第9課〕	中国と日本の「体育」の相違点について理解する。 受動態の表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、受動態の表現を用いて、中国で事故や事件に遭遇した際、被害を的確に伝えることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第9課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ受動態の表現について、要点をノートに整理する。また、第9課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
5	中国と日本における「体育」について②〔第9課〕	中国と日本の「体育」の共通点について理解する。 助動詞の「会」の用法と意味について学ぶ。 助動詞の「可以」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、助動詞の「会」や「可以」を用いて、どのようなスポーツができるのかを伝えたり尋ねたりできるようになる。自身の体育の体験を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第9課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ助動詞の「会」や「可以」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第9課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
6	中国と日本における「歌舞伎と京劇」について①〔第10課〕	中国と日本の「歌舞伎と京劇」の相違点について理解する。 比較表現の「不像～那」の用法と意味について学ぶ。 動詞の「叫」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、比較表現の「不像～那」を用いて、天気や値段について状況を比較して説明することができるようになる。また、動詞の「叫」を用いて、身の周りの物事の名称を紹介できるようになる。	
	事前学修	教科書の第10課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ比較表現の「不像～那」と動詞の「叫」について、要点をノートに整理する。また、第10課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中国と日本における「歌舞伎と京劇」について②〔第10課〕	中国と日本の「歌舞伎と京劇」の共通点について理解する。 可能補語について学ぶ。 条件関係を表す複文「即使～也…」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、可能補語を用いて、自身の予定についてそれができるのか否かを伝えたり尋ねたりできるようになる。歌舞伎の基本的な特徴について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第10課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ可能補語と「即使～也…」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第10課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
8	中国と日本における「方言」について①〔第11課〕	中国と日本の「方言」の相違点について理解する。 「好像～似的」の用法と意味について学ぶ。 「只要～就」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、「好像～似的」を用いて、自分の身の周りの状況をそれと類似した事象で喩えてわかりやすく相手に伝えたり尋ねたりできるようになる。	
	事前学修	教科書の第11課本文の前半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ「好像～似的」と「只要～就」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第11課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
9	中国と日本における「方言」について②〔第11課〕	中国と日本の「方言」の共通点について理解する。 接続詞の「然～但是…」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、接続詞の「然～但是…」を用いて、自身の考えを逆説的に強調して説明することができるようになる。自身の方言について簡単に紹介することができるようになる。	
	事前学修	教科書の第11課本文の後半部分について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ接続詞の「然～但是…」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第11課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
10	中国と日本における「食卓でのマナー」について①〔第12課〕	中国と日本における「食卓の習慣」の相違点について理解する。 複文「先～再…」の構文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、複文「先～再…」の構文を用いて、自身の行動を順序立てて説明することができるようになる。	
	事前学修	教科書の第12課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ複文「先～再…」について、要点をノートに整理する。また、第12課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
11	中国と日本における「食卓での習慣」について②〔第12課〕	中国と日本における「食態の習慣」の共通点について理解する。 動量詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、動量詞を用いて、旅行などの自身の経験についてこれまで何回それを行ってきたのかを具体的に説明することができる。日本のテーブルマナーについて簡単に説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の第12課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ動量詞について、要点をノートに整理する。また、第12課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	中国と日本における「年越し」について〔第13課〕	中国と日本の「年越し」の共通点と相違点について理解する。 「据」の用法と意味について学ぶ。 「一～就」の用法と意味について学ぶ。 「哪怕～也…」の用法と意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、中国と日本の「年越し」について簡単に説明することができる。自身の年越しの習慣について簡単に紹介することができる。	
	事前学修	教科書の第13課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ助詞の「着」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第13課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
13	中国と日本における「若者の結婚」について①〔第14課〕	中国と日本の「若者の結婚」の共通点について理解する。 「有」の連動文について学ぶ。 「」などの前置詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、「有」を用いて、自身のスケジュールにどのような予定があるのかを具体的に伝えることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第14課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ「有」と「」の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第7課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
14	中国と日本における「若者の結婚」について②〔第14課〕	中国と日本の「若者の結婚」の相違点について理解する。 「更」を用いた比較文について学ぶ。 「婚」などの離合詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①と②の達成のため、副詞の「更」を用いて、比べた差の程度を強調して伝えることができるようになる。また、離合詞をの基本的な用法を理解し、正しく使用できるようになる。自身の結婚観について、意見を簡単に述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書の第14課本文について、まず、付属のCDの音声を1回聞くこと。その後、自分で本文を10回以上音読し、さらにCDを聞きながらの音読（シャドーウィング）を10回以上行うこと。また、新出単語について、それぞれ辞書を引いて基本的な意味と用例を確認しておくこと。	30分
	事後学修	授業で学んだ副詞の「更」と離合詞の用法と意味について、要点をノートに整理する。また、第14課の教科書の例文について、日本語から中国語に瞬時に訳せるようにしておく。さらに、授業で配布された資料を参照しながら練習問題を解いて自分の理解度を確かめること。	30分
15	後期の総復習と授業内試験		後期で学習した内容を総復習し、授業内試験を行う。
	この回の到達目標	到達目標である①と②について、授業内試験を通してそれらの能力が身に付いているかどうかを確認する。	
	事前学修	後期で学習した内容について、授業内で配布した資料や教科書を用いて振り返っておくこと。	30分
	事後学修	後期で学習した内容について、図書館にある参考書等を用いて、さらに詳しく調べておくこと。	30分

科目名	中国語演習E	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎を身につけており、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
「芸術/文化」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー（以下R P）を提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 2 (CD・DVD付)	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2006年	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	芸術/文化に関するプリントと教科書を使用し、Googleclassroom等にて補助教材を提供します。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。月 6 ・ 火 6 1033講堂（予定）。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・基礎復習 a		授業の目的・内容、進め方の確認。成績評価方法について。中国の文化・芸術に関する情報の学修とともに基礎の復習 a として中国語の再初歩レベルの確認と復習を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、シラバスや基礎復習 a の内容について確認し、復習した言葉や文章、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、授業内容を理解しておく。教科書を購入し「はじめに」「目次」「登場人物」部分等に目を通しておく。		30分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基礎復習 a の文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		30分
2	中国の芸術/文化・基礎復習 b		中国語の基礎の復習 b として前回よりも少し掘り下げた部分について復習し、中国の文化・芸術に関する情報についても学修します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、授業内容や基礎復習 b について理解し、学修した言葉や文章、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付された今回の授業用プリントに目をとめておく。教科書のはじめの部分はまだ見ていない者は読んでおく。教科書を入手できていない者は入手に向けて最大限の努力をする。		30分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基礎復習 b の文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		30分
3	中国雑技鑑賞に誘う		事前配付プリントと教科書で第 1 課を学修し「了」の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した「了」を用いた文章・言葉等、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第 1 課に目を通しておく。教科書を入手できていない者は授業までに入手できるよう行動する。		30分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（「了」を用いた文章や言葉等、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
4	劇場の前で		事前配付プリントと教科書で第 2 課を学修し現在進行表現の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した現在進行表現等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第 2 課に目を通しておく。教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（進行表現等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
5	雑技を鑑賞する		事前配付プリントと教科書で第 3 課を学修し 2 種類の「了」の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した 2 種類の「了」等を用いた文章・言葉、解説された文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第 3 課に目を通しておく。まだ教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（2 種類の「了」等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
6	雑技を終えて		事前配付プリントと教科書で第 4 課を学修し経験表現等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した経験表現等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第 4 課に目を通しておく。まだ教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（経験表現等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「雑技を観る」講読文		事前配付プリントと教科書で第5課を学修しユニット1を復習するとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、ユニット1の授業内容を理解し、第1課～第4課で学修した文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書第5課に目を通し、DVD第1～4課を再視聴しておく。いまだに教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット1の文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
8	北海公園の湖畔		事前配付プリントと教科書で第6課を学修し基本的な存現文の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した基本的な存現文等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第6課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基本的な存現文等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
9	太極拳と回廊の絵		事前配付プリントと教科書で第7課を学修し発展的存現文の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した発展的存現文等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第7課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（発展的な存現文等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
10	舟遊びに誘う		事前配付プリントと教科書で第8課を学修し結果補語等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した結果補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第8課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（結果補語等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
11	景山に登る		事前配付プリントと教科書で第9課を学修し数量補語・程度補語の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した数量補語・程度補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第9課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（数量・程度補語等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
12	「北海・景山散策」講読文		事前配付プリントと教科書で第10課を学修しユニット2を復習するとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、ユニット2の授業内容を理解し、第6課～第9課で学修した文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書第10課に目を通し、DVD第6～9課を再視聴しておく。教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット2の文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	前期の復習		前期の復習として、プリント・教科書などを持ち、第1課～第10課までの学修内容を振り返ります。
	この回の到達目標	達目標①②に関連する能力修得の一環として、前期の学修内容について疑問点を整理し、学修済みの語彙・文法事項、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。	
	事前学修	これまで配付されたプリントと教科書ユニット1・2を復習し、DVD第1～9課を再視聴しておく。	120分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット1・2の文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	120分
14	期末試験準備		前期の総復習として、担当者の解説を参考に期末試験の準備を行うとともに疑問点を解決しておきます。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、前期の学修内容について疑問点を解決し、学修済みの語彙・文法事項、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。	
	事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、疑問点を整理して授業にのぞむ。	120分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（前期に学んだ文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	120分
15	期末試験とまとめ		前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、フィードバックとしてまとめと解説を行います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を身につけ自ら応用したり解説したりすることができる。	
	事前学修	前期学修部分を再び総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	180分
	事後学修	R P等を通して試験を振り返り、疑問点があれば質問、身につけていない部分については復習し改善しておく。	20分

科目名	中国語演習F	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語の基礎を身につけており、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
「芸術/文化」に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等の演習形態で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー（以下R P）を提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「芸術/文化」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。				2			2		2		
②	「芸術/文化」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。				2			2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度(頻度)行ったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
理香と王麗 話す中国語 2 (CD・DVD付)	董燕・遠藤光暁	朝日出版社	2006年	教科書	必携
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	芸術/文化に関するプリントと教科書を使用し、Googleclassroom等にて補助教材を提供します。				

【オフィスアワー】
Googleclassroomやメールにより適宜相談を受け付け、対面でも対応します。月 6 ・火 6 1033講堂（予定）。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・基礎復習 c		授業の目的・内容、進め方の確認。成績評価方法について。中国の文化・芸術に関する情報の学修とともに基礎の復習 c として中国語の基礎の確認と復習を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、シラバスや基礎復習 c の内容について確認し、復習した言葉や文章、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、授業内容を理解しておく。教科書を購入し「はじめに」「目次」「登場人物」「第1課～第10課」部分等に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基礎復習 c を用いた文章や言葉、解説された中国の文化・芸術）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
2	中国の芸術/文化・基礎復習 d		中国語の基礎の復習 b として前回よりも少し掘り下げた部分について復習し、中国の文化・芸術に関する情報についても学修します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、授業内容や基礎復習 d について理解し、学修した言葉や文章、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付された今回の授業用プリントに目をとおしておく。初回に指示した教科書の部分をまだ見ていない者は読んでおく。教科書を入手できていない者は入手に向けて最大限の努力をする。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（基礎復習 d を用いた文章や言葉、解説された中国の文化・芸術）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
3	訪問と挨拶		事前配付プリントと教科書で第11課を学修し方向補語等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した方向補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第11課に目を通しておく。まだ教科書を入手できていない者は授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（方向補語等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
4	餃子を包む		事前配付プリントと教科書で第12課を学修し処置式等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した処置式等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第12課に目を通しておく。いまだに教科書を入手できていない者は授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（処置式等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
5	餃子を茹でる		事前配付プリントと教科書で第13課を学修し可能補語等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した可能補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第13課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（可能補語等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
6	皆で乾杯		事前配付プリントと教科書で第14課を学修し「祝～」等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した「祝～」等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第14課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（「祝～」等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「先生宅訪問」講読文		事前配付プリントと教科書で第15課を学修しユニット3を復習するとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、ユニット3の授業内容を理解し、第11課～第14課で学修した文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書第15課に目を通し、DVD第11～14課を再視聴しておく。教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット3の文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
8	野外写生に誘う		事前配付プリントと教科書で第16課を学修し使役文等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した使役文等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第16課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（使役文等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
9	北京の円明園		事前配付プリントと教科書で第17課を学修し受身表現等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した受身文等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第17課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（受身文等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
10	円明園の大水法		事前配付プリントと教科書で第18課を学修し同一疑問詞呼応表現等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した同一疑問詞呼応表現等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第18課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（同一疑問詞呼応表現等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
11	絵画の批評		事前配付プリントと教科書で第19課を学修し様態補語等の使い方を学ぶとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、本日の授業内容を理解し、学修した様態補語等を用いた文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書・DVDの第19課に目を通しておく。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（様態補語等を用いた文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分
12	「円明園でスケッチ」講読文		事前配付プリントと教科書で第20課を学修しユニット4を復習するとともに、中国の文化・芸術情報について理解を深めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、ユニット4の授業内容を理解し、第16課～第19課で学修した文章・言葉、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。		
	事前学修	事前に配付されたプリントと教科書第20課に目を通し、DVD第15～19課を再視聴しておく。教科書を入手できていない者は担当者に報告するとともに授業までに入手できるよう行動する。		60分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット4の文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	後期の復習	後期の復習として、プリント・教科書などをもちい、第11課～第20課までの学修内容を振り返ります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容について疑問点を整理し、学修済みの語彙・文法事項、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。	
	事前学修	これまで配付されたプリントと教科書ユニット3・4を復習し、DVD第11～19課を再視聴しておく。	120分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（ユニット3・4の文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	120分
14	期末試験準備	後期の総復習として、担当者の解説を参考に期末試験の準備を行うとともに疑問点を解決しておきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容について疑問点を解決し、学修済みの語彙・文法事項、解説された中国の文化・芸術に関する情報について身につけ説明することができる。	
	事前学修	後期学修部分を全体的に総復習し、疑問点を整理して授業にのぞむ。	120分
	事後学修	R P等を通して、受講における学修内容（前期に学んだ文章や言葉、解説された文化・芸術情報）について身につけ説明できるようになっているか確認し、疑問点があれば質問する。	120分
15	期末試験とまとめ	後期試験を実施し、フィードバックとしてまとめと解説を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を身につけ自ら応用したり解説したりすることができる。	
	事前学修	後期学修部分を再び総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	120分
	事後学修	R P等を通して試験を振り返り、疑問点があれば質問、身につけていない部分については復習し改善しておく。	20分

科目名	中国語演習G	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
1年以上の中国語学習歴があること。

【授業方法】
本文の精読と資料を用いた演習。また、テキストの内容について、現代中国が克服すべき問題を中心に、それぞれの意見を発表してもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『時事中国語の教科書 ―2020年度版―』	三瀧正道・陳祖蓓・古屋順子	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールおよびグーグルクラスルームにて随時対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【基本単語と基本文型の復習①（文法問題中心）】	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 基本単語と基本文型の復習①（文法問題中心）	
	この回の到達目標	授業の進め方などについて理解する。また、到達目標①②に関連して、中国語の基本単語と基本文型について理解する。	
	事前学修	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
2	【基本単語と基本文型の復習②（聞き取り問題中心）】	基本単語と基本文型の復習②（聞き取り問題中心）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、聞き取り問題を中心に、中国語の基本単語と基本文型について理解する。	
	事前学修	前回の授業で配布された資料の問題を解いておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
3	【前駐日大使、程永華氏の言葉を読み解く】	講読 第1課 程永華大使より日本の若者へ贈る言葉 問題演習（結果補語、方向補語など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前駐日大使の程永華氏が日本の若者に語りかけた言葉を理解する。また、結果補語、方向補語などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
4	【前駐日大使、程永華氏の言葉と日中関係】	講読 第1課 程永華大使より日本の若者へ贈る言葉 問題演習（可能性の用法など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回は引き続き、前駐日大使の程永華氏が日本の若者に語りかけた言葉を理解する。さらに、2017年以来、中国が日中関係改善に取り組んだ理由について理解する。また、可能性の用法などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
5	【中国の食文化（北京ダック）】	講読 第2課 二大「国民的料理」は今 問題演習（可能補語など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の食文化について理解する。特に、全聚徳の北京ダックが売れなくなった理由について理解する。また、可能補語などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
6	【中国の食文化（家庭料理）】	講読 第2課 二大「国民的料理」は今 問題演習（状態補語など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の食文化について理解する。特に、その家庭料理について理解する。また、状態補語などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【中国の学校におけるAI事情（スマート制服）】		講読 第3課 AIが学校にやってきた 問題演習（並列表現など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の学校におけるAI事情について理解する。特にチップが入っている「スマート制服」について理解する。また、並列表現などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
8	【中国の学校におけるAI事情（電子宿題）】		講読 第3課 AIが学校にやってきた 問題演習（複文など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の学校におけるAI事情について理解する。特に「電子宿題」について理解する。また、複文について理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
9	【中国の労働環境は今】		講読 第4課 仕事に生きるか、人として生きるか 問題演習（兼語文など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の労働環境について理解する。また、兼語文などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
10	【中国の労働環境の変化とその背景にあるもの】		講読 第4課 仕事に生きるか、人として生きるか 問題演習（主述述語文など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の労働環境の変化とその背景にあるものについて理解する。また、主述述語文などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
11	【中国の宅配事情は今】		講読 第5課 宅配便で中国人の暮らしが一変 問題演習（処置式文など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現在の中国の宅配事情について理解する。また、処置式文などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
12	【中国の宅配事情、その課題】		講読 第5課 宅配便で中国人の暮らしが一変 問題演習（アスペクトなど）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国の宅配事情、その現状と課題について理解する。また、アスペクトなどについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【現代中国の家庭問題】	講読 第6課 仮面家族がなぜ人気？ 問題演習（状況語など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の家庭問題について理解する。また、状況語などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	【現代中国の家庭問題、その背景にあるもの】	講読 第6課 仮面家族がなぜ人気？ 問題演習（使役文など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代中国の家庭問題と、その背景にあるものについて理解する。また、使役文などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	前到達目標①②に関連して、期に学習した内容について理解する。	
	事前学修	テキストの本文を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布した資料も見直しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語演習G	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人（または同等以上の中国語語学力を有する人）

【授業方法】
テキストに沿って、文型を中心に語彙や表現を増やしながら、読解と作文の力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。							2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。							2		2		2		
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から学ぶ中国語	劉力	株式会社 天天	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付け、つぎの授業内で答える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本講義の授業計画や内容についての説明	
	この回の到達目標	本講義の授業計画や内容について理解してもらう。	
	事前学修	講義に対する要望などを考えておく。	30分
	事後学修	1年目に習った単語や表現を復習する。	30分
2	既習した内容の復習	1年目に習った初級文法や表現を復習する。	
	この回の到達目標	これまでに助動詞、前置詞、動詞、形容詞などを復習して覚える。	
	事前学修	教科書の用意	30分
	事後学修	これらの言葉や表現を用いて作文してみる。	30分
3	第1課	「了」の文型（1）の使い方	
	この回の到達目標	「了」の文型（1）の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第1課の単語と文型を復習して覚える。	30分
4	第2課	「了」の文型（2）の使い方	
	この回の到達目標	「了」の文型（2）の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第2課の単語と文型を復習して覚える。	30分
5	第3課	「了」の文型（3）の使い方	
	この回の到達目標	「了」の文型（3）の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第3課の単語と文型を復習して覚える。	30分
6	総合復習 第1課～第3課	単語小テスト（第1課～第3課） 第1課～第3課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。	
	この回の到達目標	第1課～第3課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
	事前学修	第1課～第3課で習った文型を復習する。	30分
	事後学修	第1課～第3課で習った文型の使い方をまとめてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第4課	「是～的」の構文	
	この回の到達目標	「是～的」の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第4課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第4課の単語と文型を復習して覚える。	30分
8	第5課	方向補語の構文	
	この回の到達目標	方向補語の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第5課の単語と文型を復習して覚える。	30分
9	第6課	数量補語の構文	
	この回の到達目標	数量補語の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第6課の単語と文型を復習して覚える。	30分
10	総合復習	第4課～第6課	単語小テスト（第4課～第6課） 第4課～第6課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
	この回の到達目標	第4課～第6課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
	事前学修	第4課～第6課で習った文型を復習する。	30分
	事後学修	第4課～第6課で習った文型の使い方をまとめてみる。	30分
11	第7課	結果補語の構文	
	この回の到達目標	結果補語の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第7課の単語と文型を復習して覚える。	30分
12	第8課	様態補語の構文	
	この回の到達目標	様態補語の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第8課の単語と文型を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第9課	助動詞「会」「能」「可以」の使い方	
	この回の到達目標	助動詞「会」「能」「可以」の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第9課の単語と文型を復習して覚える。	30分
14	総合復習	第7課～第9課	単語小テスト（第7課～第9課） 第7課～第9課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
	この回の到達目標	第7課～第9課で習った文型を用いて文を作ることができる。	
	事前学修	第7課～第9課で習った文型を復習する。	30分
	事後学修	第7課～第9課で習った文型の使い方をまとめてみる。	30分
15	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
	この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
	事前学修	前期に習った言葉や文型をじっくり復習して覚える。	30分
	事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	中国語演習H	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
1年以上の中国語学習歴があること。

【授業方法】
本文の精読と資料を用いた演習。また、テキストの内容について、現代中国が克服すべき問題を中心に、それぞれの意見を発表してもらう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『時事中国語の教科書 ―2020年度版―』	三瀧正道・陳祖蓓・古屋順子	朝日出版社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メールおよびグーグルクラスルームにて随時対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 翻訳。中国語中国文化に関する学会での活動（研究発表、司会、学会誌の編集委員など）。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国語中国文化に関する学会での研究発表、司会、学会誌編集活動などで得られた最新の中国事情についての知見を、授業の中で紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】【呼び名に見る人間関係と社会の変化（若い女性の呼び方）】		ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 講読 第7課 呼び名に見る人間関係と社会の変化 問題演習（複文など）、意見交換	
	この回の到達目標	授業の進め方などについて理解する。到達目標①②に関連して、呼び名に見る人間関係と中国社会の変化を若い女性の呼び方を通して理解する。また、複文などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
2	【呼び名に見る人間関係と社会の変化（夫婦間の呼び方の変化）】		講読 第7課 呼び名に見る人間関係と社会の変化 問題演習（逆接の接続詞など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、呼び名に見る人間関係と中国社会の変化を夫婦間の呼び方の変化を通して理解する。また、逆接の接続詞などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
3	【プーアル茶からコーヒー豆へ、新しい特産品づくり】		講読 第8課 茶馬古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ 問題演習（説明口調の表現など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プーアル茶の故郷で知られる中国雲南省普洱市思茅区の農民が新たな発展の道としてコーヒーへの転作を開始したことを理解する。また、説明口調の表現などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
4	【新しい特産品づくり、その経緯について】		講読 第8課 茶馬古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ 問題演習（動作の持続や進行を表す表現など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国雲南省普洱市思茅区の農民が新たな発展の道としてコーヒーへの転作を開始した、その経緯について理解する。また、動作の持続や進行を表す表現などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
5	【中国のATMが総撤退へ】		講読 第9課 都市こぼれ話 問題演習（進行形など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スマホ決済が急速に普及し、ATMが総撤退しつつある中国の現状について理解する。また、進行形などについて理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分
6	【ネットでのオープンキッチンへ】		講読 第9課 都市こぼれ話 問題演習（過去の経験を表す表現など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、出前店の衛生状況がオンラインで見られる中国の現状について理解する。また、過去の経験を表す表現について理解する。		
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。		30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【中国企業による日本の中小企業の買収例について】		講読 第10課 中国マネーが日本の中小企業を救う 問題演習（受身文など）、意見交換
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国企業による日本の中小企業の買収例について理解する。また、受身文などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
8	【中国企業による日本の中小企業の買収例、その背景について】		講読 第10課 中国マネーが日本の中小企業を救う 問題演習（存現文など）、意見交換
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国企業による日本の中小企業の買収例、その背景について理解する。また、存現文などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
9	【北京を悩ませるヤナギの綿毛、その歴史的経緯について】		講読 第11課 北京を悩ませるヤナギの綿毛 問題演習（状態補語など）、意見交換
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北京を悩ませるヤナギの綿毛について、その歴史的背景について理解する。また、状態補語などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
10	【北京を悩ませるヤナギの綿毛、その現状と課題について】		講読 第11課 北京を悩ませるヤナギの綿毛 問題演習（複文など）、意見交換
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、北京を悩ませるヤナギの綿毛、その現状と課題について理解する。また、複文などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
11	【健康志向と体型、中国の事情】		講読 第12課 中国、総フィットネス時代へ 問題演習（仮定表現など）、意見交換
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、健康志向と体型について、中国人の意識の変化について理解する。また、仮定表現などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
12	【中国のフィットネス事情、過去・現在・未来】		講読 第12課 中国、総フィットネス時代へ 問題演習（将然相など）、意見交換
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中国のフィットネス事情について、その現状と課題について理解する。また、将然相などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【ネットを通した近代化——内モンゴルの例】	講読 第13課 内モンゴルのネットアイドル 問題演習（二者択一の表現など）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ネットを通した近代化について、内モンゴルの例を理解する。また、二者択一の表現などについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
14	【内モンゴルのネットアイドルの活動について】	講読 第13課 内モンゴルのネットアイドル 問題演習（2つの動詞をつなぐ“来”の働きなど）、意見交換	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内モンゴルのネットアイドルの活動の具体例と、少数民族の今後の課題などについて理解する。また、2つの動詞をつなぐ“来”の働きなどについて理解する。	
	事前学修	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分
15	【授業内テスト及びまとめ、振り返り】	授業内テスト及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後期に学習した内容について理解する。	
	事前学修	テキストの本文を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布した資料も見直しておくこと。	30分
	事後学修	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。	30分

科目名	中国語演習H	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
中国語の応用として、人文・社会系に関わる中国語文献を用い、発表・意見交換等のアクティブ・ラーニングをおこなう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際人必須の多様な価値観や世界観を理解できる幅広い視野と教養を身につけ、そのような理解を他者に発信応答できるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人（または同等以上の中国語語学力を有する人）

【授業方法】
テキストに沿って、文型を中心に語彙や表現を増やししながら、読解と作文の力を養成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、その理解を説明することができる。					2		2		2		
②	「社会/歴史」に関わる中国語文献を理解し、意見を述べることができる。					2		2		2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	10									40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表・質問への応答が適切にできたかを基準に、①の理解②の意見に関わる能力が身についているかを評価する。	15	15									30
授業への参画度	授業中に質問や意見交換を適切に／どの程度（頻度）おこなったかを基準に、①の理解③の対話④の応答に関わる能力および態度が身についているかを評価する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
文型から学ぶ中国語	劉力	株式会社 天天	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付け、授業内で答える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第10課	可能補語の構文	
	この回の到達目標	可能補語の構文を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第10課の単語と文型を復習して覚える。	30分
2	第11課	「把」の使い方	
	この回の到達目標	「把」の使い方を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第11課の単語と文型を復習して覚える。	30分
3	総合復習	第10課と第11課	第10課と第11課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
	この回の到達目標	第10課と第11課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
	事前学修	第10課と第11課で習った文型や表現を復習する。	30分
	事後学修	第10課と第11課で習った文型をまとめてみる。	30分
4	第12課	受け身の構文	
	この回の到達目標	受け身の構文を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第12課の単語と文型を復習して覚える。	30分
5	第13課	使役の表現	
	この回の到達目標	使役の表現の使い方を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第13課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第13課の単語と文型を復習して覚える。	30分
6	総合復習	第12課と第13課	単語テスト（第10課～第13課） 第12課と第13課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。
	この回の到達目標	第12課と第13課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
	事前学修	第12課と第13課で習った文型や表現を復習する。	30分
	事後学修	第12課と第13課で習った文型をまとめてみる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第14課	「是」を使う文のいろいろ	
	この回の到達目標	「是」の文に関する使い方を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第14課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第14課の単語と文型を復習して覚える。	30分
8	第15課	比較の文型（1）	
	この回の到達目標	比較の文型（1）の使い方を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第15課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第15課の単語と文型を復習して覚える。	30分
9	総合復習 第14課と第15課	第14課と第15課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。	
	この回の到達目標	第14課と第15課で習った文型や表現を用いて文を作ることができる。	
	事前学修	第14課と第15課で習った文型や表現を復習する。	30分
	事後学修	第14課と第15課で習った文型をまとめてみる。	30分
10	第16課	比較の文型（2）	
	この回の到達目標	比較の文型（2）の使い方を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第16課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第16課の単語と文型を復習して覚える。	30分
11	第17課	比較の文型（3）	
	この回の到達目標	比較の文型（3）の使い方を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第17課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第17課の単語と文型を復習して覚える。	30分
12	第18課	推測の文型	
	この回の到達目標	推測の文型の使い方を理解し、活用することができる。	
	事前学修	第18課の単語を予習する。	30分
	事後学修	第18課の単語と文型を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	総合復習 第16課～第18課	単語テスト（第14課～第18課） 第16課～第18課の文型を用いて、作文のトレーニングをする。	
	この回の到達目標	第16課～第18課で習った文型や表現を用いて、文を作ることができる。	
	事前学修	第16課～第18課で習った文型や表現を復習する。	30分
	事後学修	第16課と第18課で習った文型をまとめてみる。	30分
14	期末復習	後期に習った言葉や文型の復習をする。	
	この回の到達目標	後期に習った言葉や文型を覚える。	
	事前学修	既習した文型を用いて文を作る練習をする。	30分
	事後学修	ここまでで習った言葉と文型をまとめてみる。	30分
15	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
	この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
	事前学修	後期に習った言葉や文型をじっくり復習して覚える。	30分
	事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅠA	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の習得 (A2-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、中国語で書きとり、また文書で伝えることができるようになる。練習問題が豊富なため、中国語で文章を書く力が向上できる。

【履修条件】
既に一年以上の中国語学習経験を有する人 (または同等以上の中国語語学力を有する人)

【授業方法】
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。練習問題を解いて、文章表現に力を入れる。書き取りや会話練習も行う。練習問題必ず事前にやっておくこと。 フィードバックは授業内で行う。試験問題については採点して、解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	限られた表現の中で個人の事柄について書いたり、文書で伝えることができる										3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる										3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて一貫性のある文章が書ける										3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や試験問題など、採点し、解説する。火曜日　2時限～4時限

【教科書・参考書等】					
書　　名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版「中国語さらなる一歩」	竹島金吾監修 伊景春・竹島毅著	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜2～4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	シラバスの概要	ガイダンス 授業の概要や到達目標について説明する。	
	この回の到達目標	シラバスの概要が確認できる。	
	事前学修	シラバスの確認	30分
	事後学修	シラバスの概要を理解する。	30分
2	第1課中国に行こう	第1課の文法と本文訳 1. 助動詞“着”“要” 2. 主述述語文 3. 目的語が主述句のとき	
	この回の到達目標	第1課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
3	第1課中国に行こう	第1課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
4	第2課ウーロン茶を飲もう	第2課の文法と本文訳 1. 「原因・理由」を表わす“因” 2 「逆接」を表わす“可是” 3. 文末の助詞“吧”“呢”	
	この回の到達目標	第2課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
5	第2課ウーロン茶を飲もう	第2課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
6	第3課友だちをつくろう	第3課の文法と本文訳 1. 連動文 2. “是～的”の文 3. 疑問詞“怎么”	
	この回の到達目標	第3課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第3課友だちをつくろう	第3課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
8	第4課長城に登ろう	第4課の文法と本文訳 1.“了”の三つの用法 2. 副詞“就”	
	この回の到達目標	第4課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
9	第4課長城に登ろう	第4課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
10	第5課漢字を覚えよう	第5課の文法と本文訳 1. 結果補語 (1) 2. 副詞“有点儿” 3. 「仮定」を表わす“要是”	
	この回の到達目標	第5課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
11	第5課漢字を覚えよう	第5課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
12	第6課街を歩こう	第6課の文法と本文訳 1. 存原文 2. 主語がフレーズするとき 3.“又～又” “一儿～一儿”の用法	
	この回の到達目標	第6課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第6課街を歩こう	第6課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
14	中間のまとめ	第1課～6課のまとめ（前期末授業内筆記試験）試験問題を採点して、次週解説する。	
	この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
	事前学修	第1課～6課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解する。	30分
15	前期のまとめ	フィードバック・質疑応答 試験問題を採点して解説する。	
	この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって理解を深める。	
	事前学修	前期学習内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	学習内容を再確認し、理解を深める。	30分

科目名	リーディング・ライティング(中) I B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について、中国語で書きとり、また文書で伝えることができるようになること。練習問題が豊富なため、中国語で文章を書く力が向上できる。

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人（または同等以上の中国語語学力を有する人）

【授業方法】		
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。練習問題を解いて、文章表現に力を入れる。書き取りや会話練習も行う。練習問題を必ず事前にやっておくこと、フィードバックは授業内で解説する。試験問題については採点し、解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習した表現を用いて日常的な事柄について自律的に書いたり、文書で伝えることができる									3	3		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を書くことができる									3	3		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて筋の通ったまとまった文章が書ける									3	3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や試験問題を採点して、解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版「中国語さらなる一步」	竹島金吾監修 伊景春・竹島毅著	白水社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスの概要	ガイダンス 授業の概要や到達目標について説明する。	
	この回の到達目標	シラバスの概要が確認できる。	
	事前学修	シラバスの確認	30分
	事後学修	シラバスの概要を理解する。	30分
2	第7課中国映画を見よう	第7課の文法と本文訳 1. 「状態の持続」を表わす“着” 2. 副詞“再” 3. 部分否定	
	この回の到達目標	第7課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
3	第7課中国映画を見よう	第7課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
4	第8課シルクを買おう	第8課の文法と本文訳 1. 方向補語 2. 「使役」を表わす“” 3. 疑問詞の不定用法	
	この回の到達目標	第8課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
5	第8課シルクを買おう	第8課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
6	第9課中華を食べよう	第9課の文法と本文訳 1. 可能補語 2. 強調表現	
	この回の到達目標	第9課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第9課中華を食べよう	第9課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
8	第10課太極拳を習おう	第10課の文法と本文訳 1. 「目的」を表わす“了” 2. 「推測」を表わす“会” 3. “～了～了”の用法	
	この回の到達目標	第10課の文法や発音ができる。	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
9	第10課太極拳を習おう	第10課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	学習内容の理解を深める。	30分
10	第11課水滸伝を楽しもう	第11課の文法と本文訳 1. 結果補語 2. 「受け身」を表わす“被”	
	この回の到達目標	の文法と本文訳	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分
11	第11課水滸伝を楽しもう	第11課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	練習問題の予習	30分
12	第12課春節を過ごそう	第12課の文法と本文訳 1. “快～了”の用法 2. 介詞“把”	
	この回の到達目標	第12課の文法と本文訳	
	事前学修	文法の予習と単語の暗記	30分
	事後学修	学習内容を理解する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課春節を過ごそう	第12課の練習問題	
	この回の到達目標	練習問題を解くことができる。	
	事前学修	練習問題の予習	30分
	事後学修	練習問題の予習	30分
14	中間のまとめ	第7課～12課のまとめ（後期授業内筆記試験）試験問題を採点して、次週解説する。	
	この回の到達目標	これまでの学習で問題点が確認できる。	
	事前学修	第6課～12課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解する。	30分
15	後期授業のまとめ	フィードバック・質疑応答 試験問題について、解説する。	
	この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって理解を深める。	
	事前学修	後期学習内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	学習内容を再確認し、理解を深める。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅠA	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
はじめて中国語を学修する者を対象とした中国語検定準4級対策と4級へのステップアップに向けた語学授業。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
“0(ゼロ)”から中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
オンデマンド（動画配信）型式で授業を展開します。googleクラスルーム上で掲示される課題を各期日までに提出すること。 準４級の試験問題を分野別に分析してそれぞれの要点を細かく整理し、出題形式に沿って問題を解いてもらう。自らの弱点を克服してたくさん の問題を実践的に解いていくことによって、本番の試験での対応力を着実に養う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者それぞれが過去問の正答率を割り出し、自身の中国語の能力を客観的に見つけて問題点を自ら分析する。記述式の問題に対応するために作文の書写画像を提出してもらい、簡体字が正確に書けているかどうかを個別指導する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	初歩的で日常的な簡単な表現が理解できる										1	1		
②	挨拶や自己紹介、他己紹介ができる										1	1		
③	簡単で短い日常的な文章を読むことができる										1	1		
④	基礎的な単語や数字を書き取ることができる										1	1		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールやzoomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
後日、googleクラスルーム上に連絡方法等を伝える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 中国語検定試験準4級についての概説	授業の内容と範囲、成績評価の方法の説明する。また、日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験準4級について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、本講座の展開や成績評価の方法を理解し、中国語検定試験準4級の出題範囲や形式を理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを熟読しておくこと。また、日本中国語検定協会のホームページを閲覧して試験情報を収集しておくこと。	30分
	事後学修	自らが受験しようとする試験日を予定し、それに基づいた学習計画を立てること。	30分
2	発音の基礎学習	「声調（四声）」、「単母音」、「複母音」、「有気音」、「無気音」、「そり舌音」、「摩擦音」、「鼻母音」の発音方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、ピンイン表記を見てそれぞれの音を正確に発音したり聞き取ることができる。	
	事前学修	中国語の基本的な特質について理解を深めておくこと。	30分
	事後学修	それぞれの発音における口の使い方に注意しながら、実際に声に出して繰り返し発声のトレーニングをすること。	30分
3	出題項目別 準四級試験対策1	単語トレーニング1（代名詞） 発音問題対策1（第1声と第3声） 筆記問題対策1（名前と年齢）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な代名詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、名前と年齢を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	前回の発音について復習しておくこと。	30分
	事後学修	代名詞を暗記すること。 名前と年齢の言い方をノートに整理しておくこと。	30分
4	出題項目別 準四級試験対策2	単語トレーニング2（数詞） 発音問題対策2（第2声と第4声） 筆記問題対策2（「的」の用法）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な数詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、「的」を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（第1声と第3声）について復習しておくこと。また（名前と年齢）についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	数詞を暗記すること。 「的」の用法をノートに整理しておくこと。	30分
5	出題項目別 準四級試験対策3	単語トレーニング3（量詞） 発音問題対策3（軽声と2音節の声調の聞き分け） 筆記問題対策3（疑問詞①）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な量詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、疑問詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（第2声と第4声）について復習しておくこと。また、「（「的」の用法）」についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	量詞を暗記すること。 疑問詞のそれぞれの用法と意味をノートに整理しておくこと。	30分
6	出題項目別 準四級試験対策4	単語トレーニング4（方位詞） 発音問題対策4（有気音と無気音①） 筆記問題対策4（疑問詞②）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な方位詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、疑問詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（軽声と2音節の声調の聞き分け）について復習しておくこと。また、疑問詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	方位詞を暗記すること。 疑問詞のそれぞれの用法と意味をノートに整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	出題項目別 準四級試験対策 5	単語トレーニング 5（名詞） 発音問題対策 5（有気音と無気音②） 筆記問題対策 5（前置詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な名詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、前置詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（有気音と無気音）について復習しておくこと。また、疑問詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	名詞を暗記すること。 前置詞をノートに整理しておくこと。	30分
8	出題項目別 準四級試験対策 6	単語トレーニング 6（動詞） 発音問題対策 6（声調と有気音・無気音の組み合わせ） 筆記問題対策 6（時間詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な動詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、時間詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（有気音と無気音）について復習しておくこと。また、前置詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	動詞を暗記すること。 時間詞をノートに整理しておくこと。	30分
9	出題項目別 準四級試験対策 7	単語トレーニング 7（助動詞） 発音問題対策 7（「n」 と 「ng」 ①） 筆記問題対策 7（助動詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な助動詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、助動詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（声調と有気音と無気音の組み合わせ）について復習しておくこと。また、時間詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	助動詞を暗記すること。 助動詞のそれぞれの用法と意味についてノートに整理しておくこと。	30分
10	出題項目別 準四級試験対策 8	単語トレーニング 8（形容詞） 発音問題対策 8（「n」 と 「ng」 ②） 筆記問題対策 8（副詞①）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な形容詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、語順に注意しながら副詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（「n」 と 「ng」 ）について復習しておくこと。また、助動詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞を暗記すること。 副詞のそれぞれの用法と意味についてノートに整理しておくこと。	30分
11	出題項目別 準四級試験対策 9	単語トレーニング 9（副詞） 発音問題対策 9（3つの「i」 の識別） 筆記問題対策 9（副詞②）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な副詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、語順に注意しながら副詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（「n」 と 「ng」 ）について復習しておくこと。また、副詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	副詞を暗記すること。 副詞のそれぞれの意味と用法についてノートに整理しておくこと。	30分
12	出題項目別 準四級試験対策10	単語トレーニング 10（前置詞） 発音問題対策 10（「zu」、「cu」、「su」、「zi」、「ci」、「si」） 筆記問題対策 10（名量詞）	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な前置詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、語順に注意しながら名量詞を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	（3つの「i」 の識別）について復習しておくこと。また、副詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞を暗記すること。 名量詞のそれぞれの意味と用法についてノートに整理しておくこと。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	出題項目別 準四級試験対策11	単語トレーニング 1 1 (接続詞) 発音問題対策 1 1 (「iou」、「uei」、「uen」) 筆記問題対策 1 1 (動詞の「有」)	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な接続詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、動詞の「有」を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	(「zu」、「cu」、「su」、「zi」、「ci」、「si」)について復習しておくこと。また、名量詞の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	接続詞を暗記すること。 動詞の「有」の意味と用法についてノートに整理しておくこと。	30分
14	出題項目別 準四級試験対策12	単語トレーニング 1 2 (助詞) 発音問題対策 1 2 (「ü(yu)」の識別) 筆記問題対策 1 2 (動詞の「在」)	
	この回の到達目標	到達目標①②の達成のため、初歩的な助詞を正確に発音することができる。 到達目標③④の達成のため、動詞の「在」を用いた文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	(「iou」、「uei」、「uen」)について復習しておくこと。また、動詞の「有」の用法についても復習しておくこと。	30分
	事後学修	助詞を暗記すること。 動詞の「在」の意味と用法についてノートに整理しておくこと。	30分
15	前期の総復習及び期末課題	前期に学習した内容の総復習と確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④が達成できたかどうか、確認テストを通して準4級で求められる語彙、文法、作文の能力の6割を目指す。	
	事前学修	前期に学習した発音、語彙、文法、作文の要点をそれぞれ整理しておくこと。	30分
	事後学修	試験結果を客観的に分析し、発音、語彙、文法、作文のどの項目を重点的に学習をしなければならないか、今後の学習計画を立て直すこと。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅠB	担当者	中元 雅昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語学修初心者が中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語学修初心者が中国語検定準4級に合格し4級にステップアップできる中国語能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
オンデマンド（動画配信）型式で授業を展開します。googleクラスルーム上で掲示される課題を各期日までに提出すること。 準４級の試験問題を分野別に分析してそれぞれの要点を細かく整理し、出題形式に沿って問題を解いてもらう。自らの弱点を克服してたくさん の問題を実践的に解いていくことによって、本番の試験での対応力を着実に養う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者それぞれが過去問の正答率を割り出し、自身の中国語の能力を客観的に見つけて問題点を自ら分析する。記述式の問題に対応するために作文の書写画像を提出してもらい、簡体字が正確に書けているかどうかを個別指導する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語の基礎文法の元に、日常生活で使う表現が理解できる								1	1		
②	身近な場面における会話ができる								1	1		
③	簡単な内容の手紙や短い文章を読んで理解できる								1	1		
④	比較的簡単な文章の内容を聞いて、質問の内容に答えたり重要な単語や数字を書きとることができる								1	1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールやzoomで対応します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
後日、googleクラスルーム上に連絡方法等を伝える。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 中国語検定試験準4級についての概説	授業の内容と範囲、成績評価の方法の説明する。また、日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験準4級について改めて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、本講座の展開や成績評価の方法を理解し、中国語検定試験準4級の出題範囲や形式を理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを熟読しておくこと。また、日本中国語検定協会のホームページを閲覧して試験情報を収集しておくこと。	30分
	事後学修	自らが受験しようとする試験日を予定し、それに基づいた学習計画を立てること。	30分
2	出題項目別 準四級試験対策B 1	発音問題対策 1（「l」 と 「r」、 「uo」 と 「ou」 ） 筆記問題対策 1（連動文）	
	この回の到達目標	到達目標③④の達成のため、連動文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	発音について、声調、母音、子音について総復習しておくこと。	30分
	事後学修	連動文の組み立て方をノートに整理しておくこと。	30分
3	出題項目別 準四級試験対策B 2	発音問題対策 1（「h」 と 「f」、 「e」 と 「u」 ） 筆記問題対策 1（形容詞述語文）	
	この回の到達目標	到達目標③④の達成のため、形容詞述語文を適切に読み書きすることができる。	
	事前学修	「l」 と 「r」、 「uo」 と 「ou」 の発音の識別を復習しておくこと。	30分
	事後学修	形容詞述語文のルールをノートに整理しておくこと。	30分
4	模擬試験①（リスニング問題）	発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で5割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験①（リスニング問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験①（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
5	模擬試験①（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で5割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験①（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験①（筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
6	模擬試験②（リスニング問題）	発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で5割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験②（リスニング問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験②（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	模擬試験②（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で5割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験②（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験②（筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
8	模擬試験③（リスニング問題）	発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で6割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験③（リスニング問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験③（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
9	模擬試験③（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で6割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験③（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験③筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
10	模擬試験④（リスニング問題）	発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で7割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験④（リスニング問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験④（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
11	模擬試験④（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で7割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験④（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験④筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
12	模擬試験⑤（リスニング問題）	発音（単音節／二音節）の聞き分け 単語や連語の聞き取り 日常挨拶文の聞き取り	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で8割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験⑤（リスニング問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験⑤（リスニング問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	模擬試験⑤（筆記問題）	単語のピンイン表記 文法の空欄補充問題と並び替え 日文中訳の記述	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の達成のため、それぞれの問題で8割以上の正答率を目指す。	
	事前学修	前期で学習した単語について声を出して覚え、模擬試験⑤（筆記問題）に対応できるようにしておく。	30分
	事後学修	模擬試験⑤筆記問題）出題でされた語句をノートにまとめ、間違えた問題に関してはもう一度復習しておく。	30分
14	その他の重要単語のまとめ	日中の主要な地名や教室用語、IT用語などの頻出単語を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③④の達成のため、中国語検定試験準4級もしくは4級に頻出の固有名詞を中国語で書くことができる。	
	事前学修	辞書を用いて主要な都市名や観光名所を中国語で調べておく。	30分
	事後学修	中国語検定試験準4級における単語のピンイン表記や日中翻訳の記述に対応できるようにしておく。	30分
15	後期の総復習及び期末課題	後期に学習した内容の総復習と確認テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④が達成できたかどうか、確認テストを通して準4級で求められる語彙、文法、作文の能力の8割を目指す。	
	事前学修	後期に学習した発音、語彙、文法、作文の要点をそれぞれ整理しておくこと。	30分
	事後学修	試験結果を客観的に分析し、発音、語彙、文法、作文のどの項目を重点的に学習をしなければならないか、今後の学習計画を立て直すこと。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅡA	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定4級対策を通じて、初級～中級レベルの中国語運用能力を身につける語学授業

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定4級受験可能レベル～4級合格レベルの中国語運用能力を身につけることが目的です。

【履修条件】
中国語検定「準4級合格レベル」であること。中国語検定4級の難易度を理解し、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】		
実際に4級レベルの文法や語彙を学びつつ4級の問題に取り組みます。事前・事後学習として講読練習、聴解練習や発音練習をかかさず行ってもらい、定期的にリアクションペーパーや音声課題を提出してもらいます。担当者は次回以降必要に応じてそれらの回答内容にコメント・解説を加え、問題提議などを行います。検定試験対策を一方法とした総合的学修を通じて中国語初級～中級の語学力を涵養します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国語の基礎文法の元に、簡単な文章や会話が理解できる								2	2		
②	基本的な中国語を理解し、ほとんどのほとんどの身近な場面で対応できる								2	2		
③	簡単な内容の文章やコラムや記事を読むことができる								2	2		
④	短い内容の文章を開き、簡単な質問に答えて、重要な単語や数字を書き取ることができる								2	2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業やGoogleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
授業終了後、あるいはGoogleclassroomやメールでも対応します。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・準4級レベルの確認・復習a（動/形容詞述語文・疑問/否定文等）	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。準4級レベルの基礎の確認と復習を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、準4級レベル（復習a）の言葉や文章について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、過年度の配付資料を確認するとともに授業内容やレベル、小テストの分量などを理解しておく。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期01）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習a）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
2	復習b（疑問詞・量詞・副詞・“的”・時を表わす語・“有意思”など）	復習aの文法事項の定着度を確認し、疑問詞・量詞・副詞・“的”・時を表わす語・“有意思”など、準4級レベルの文法事項（復習b）について復習します。 ●小テスト（前01）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、準4級レベルの文法事項をもちいた言葉や文章（復習b）について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（前01）課題などをもちい、準4級レベル（復習a）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期02）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習b）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
3	復習c（連動文AB・“要”・方位詞・動作量・二重目的語・部分否定など）	復習bの文法事項の定着度を確認し、連動文AB・“要”・方位詞・動作量・二重目的語・部分否定など、準4級レベルの文法事項（復習c）について復習します。 ●小テスト（前02）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、準4級レベルの文法事項をもちいた言葉や文章（復習c）について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（前02）課題などをもちい、準4級レベル（復習b）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期03）などをもちいて、今回復習した準4級レベルの内容（復習c）について、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
4	介詞の用法（初級編）	プリントを使用して、介詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前03）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、介詞の用法（初級編）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（前03）課題などをもちいて、復習cの短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期04）などをもちいて、今回学修した介詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
5	副詞の用法（初級編）	プリントを使用して、副詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前04）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、副詞の用法（初級編）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（前04）課題などをもちいて、介詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期05）などをもちいて、今回学修した副詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
6	疑問詞の用法（初級編）	プリントを使用して、疑問詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（前05）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、疑問詞の用法（初級編）について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（前05）課題などをもちいて、副詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期06）などをもちいて、今回学修した疑問詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	能願動詞の用法（初級編）		プリントを使用して、能願動詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前06) ※検定試験前々週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、能願動詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前06)課題などを持ちい、疑問詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期07）などで、今回学修した能願動詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
8	動態助詞の用法（初級編）		プリントを使用して、動態助詞の用法（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前07) ※検定試験前週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動態助詞の用法（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前07)課題などを持ちいて、能願動詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期08）などで、今回学修した動態助詞の用法（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
9	離合詞・数量補語の用法		プリントを使用して、離合詞・数量補語の用法と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前08)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、離合詞・数量補語の用法について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前08)課題などを持ちいて、動態助詞の用法（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期09）などを持ちいて、今回学修した離合詞・数量補語の用法について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
10	結果補語の用法		プリントを使用して、結果補語の用法と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前09)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、結果補語の用法について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前09)課題などを持ちいて、離合詞・数量補語の用法の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期10）などを持ちいて、今回学修した結果補語の用法について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
11	動態助詞の用法（中級編）		プリントを使用して、動態助詞の用法（中級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前10)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、動態助詞の用法（中級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(前10)課題などを持ちいて、結果補語の用法の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（前期11）などを持ちいて、今回学修した動態助詞の用法（中級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
12	前期の復習		前期の小テストで覚えた単語・短文を復習し、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(前11)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期の学修内容を復習し、既習短文や長文について日中相互翻訳ができる。		
	事前学修	小テスト(前11)課題などを持ちいて、動態助詞の用法（中級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	過去問WEBにて最新回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	前期試験対策		前期総復習の一環として、プリントなどをもちい、筆記試験・口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(前12)
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修した語彙・文法について理解し、学修済みの語彙・文法事項を用いた文の日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト(前12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の4級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。	120分
	事後学修	前期筆記試験の範囲や口頭試験課題文を、プリント、Quizlet（前期口頭試験課題）などをもちい復習する。	120分
14	筆記試験とまとめ		前期筆記試験を実施し、試験後前期学修のまとめ及び試験におけるポイントの解説を行います。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期に学修済みの語彙・文法事項を用いた文の日中相互翻訳、および応用ができる。	
	事前学修	前期学修部分を全体的に総復習し、受験準備をして試験にのぞむ。	180分
	事後学修	試験で問題とされた個所について、教科書やプリントを確認し、復習する。	20分
15	口頭試験とまとめ		前期筆記試験の講評を行った後、前期口頭試験を実施し、まとめの解説を行います。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、前期口頭試験課題文の内容を理解し正しく聞き取れ発音することができる。	
	事前学修	前期口頭試験課題文をQuizlet（前期口頭試験課題）などをもちい、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。	180分
	事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。	10分

科目名	中国語資格試験対策ⅡB	担当者	福木 滋久	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
前期中国語資格試験対策ⅡAとセットとなる後期科目。すでに中国語の基礎を習得した者を対象とする初級卒業レベルの語学演習。中国語検定4級取得を希望する学生向けの指導を行い、受講者には必ず年内に検定試験（原則として4級以上）を受検してもらう。毎回の小テストはハードである。前年度のネットワークドライブを参照し、内容をあらかじめ確認、よく考えてから受講を決めてほしい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
検定合格を一目標に定めつつ、学習を通して、話す・聴く・読む・書くといった総合的中国語運用能力の養成を目的とする。中国語検定の4級は、聴解と講読筆記に対して共に一定レベル以上の能力が求められる。中国語の履修が週1～2コマ程度の本学部生にとって、中検4級合格は決して容易ではない。語彙を増やし、聴解・読解の訓練を繰り返し行つて、11月末までに検定4級合格レベルに到達できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5・6。

【履修条件】
中国語検定「準4級合格レベル」であること。中国語検定4級の難易度を理解し、担当者の指示に従って積極的に学習できること。

【授業方法】
実際に4級レベルの文法や語彙を学びつつ4級の問題に取り組みます。事前・事後学習として講読練習、聴解練習や発音練習をかかさず行ってもらい、定期的にリアクションペーパーや音声課題を提出してもらいます。担当者は次回以降必要に応じてそれらの回答内容にコメント・解説を加え、問題提議などを行います。検定試験対策を一方法とした総合的学修を通じて中国語初級～中級の語学力を涵養します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを提出する機会を設け、事前学修・事後学修のきっかけをつくるとともに、対話的要素を取り入れかつ能動的学修を促していきます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力					
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	中国語の文法と語彙の十分な知識を元に社会生活で出会う文章が理解できる						2	2
②	やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる						2	2
③	短い中国語の文章が書ける						2	2
④	具体的・抽象的なテーマについて聞き取り、内容について答えることができる						2	2
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業やGoogleclassroomなどにおいて適宜フィードバックをおこないます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中日辞典 第3版	北京商務印書館編	小学館	2016年	その他	任意
備考	プリントを使用し、インターネットサイト「Quizlet」にて補助教材を提供します。「中国語検定過去問WEB(有料)」への加入が必須です。				

【オフィスアワー】
授業終了後、あるいはGoogleclassroomやメールでも対応します。s-fukugi.2021@ceres.dti.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・前期学修内容の確認・ 様態補語・程度補語	授業の目的・内容、進め方の確認。検定試験の紹介、小テストの実施方法、「Quizlet」・「中国語検定過去問WEB」について。成績評価方法について。様態補語・程度補語の用法を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、授業内容を理解し、様態補語・程度補語について理解し、それをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	シラバスを熟読のうえ、学生教員共有（Y）ドライブの担当者のフォルダーを参照し、前期の内容を確認するとともに授業レベルを理解しておく。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期01）などをもちいて、今回学修した様態補語・程度補語について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
2	存現文・方向補語（初級編）	プリントを使用して、存現文・方向補語（初級編）と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後01）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、存現文・方向補語（初級編）について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後01）課題などをもちいて、様態補語・程度補語の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期02）などをもちいて、今回学修した存現文・方向補語（初級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
3	方向補語（中級編）・比較表現	プリントを使用して、方向補語（中級編）・比較表現と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後02）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、方向補語（中級編）・比較表現について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後02）課題などをもちいて、存現文・方向補語（初級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期03）などをもちいて、今回学修した方向補語（中級編）・比較表現について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
4	処置式・“是～的”の構文	プリントを使用して、処置式・“是～的”の構文と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後03）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、処置式・“是～的”の構文について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後03）課題などをもちいて、方向補語（中級編）・比較表現の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期04）などをもちいて、今回学修した処置式・“是～的”の構文について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
5	可能補語	プリントを使用して、可能補語と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後04）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、可能補語について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後04）課題などをもちいて、処置式・“是～的”の構文の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期05）などをもちいて、今回学修した可能補語について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分
6	使役表現・受身表現	プリントを使用して、使役表現・受身表現と、それらをもちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト（後05）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、使役表現・受身表現について理解し、それらをもちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。	
	事前学修	小テスト（後05）課題などをもちいて、可能補語の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。	60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期06）などをもちいて、今回学修した使役表現・受身表現について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	副詞（中級編）・疑問詞（中級編1）		プリントを使用して、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後06) ※検定試験前々週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(後06)課題などを持ちい、使役表現・受身表現の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期07）などで、今回学修した副詞（中級編）・疑問詞（中級編）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
8	能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）		プリントを使用して、能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）と、それらを持ちいた短文を学び、長文読解や短文・長文聴解の練習を行います。 ●小テスト(後07) ※検定試験前週	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）について理解し、それを持ちいた文について日中相互翻訳・聞き取り・発音ができる。		
	事前学修	小テスト(後07)課題などを持ちいて、副詞（中級編）・疑問詞（中級編）の短文と、指示された4級過去問題短文聴解例文を覚え、小テストに合格できるよう準備して授業にのぞむ。		60分
	事後学修	配付プリントとQuizlet（後期08）などで、今回学修した能願動詞（中級編）・疑問詞（中級編2）について復習し、繰り返し発音したり書いたりすることで、指定された短文を覚える。		60分
9	検定4級受験を振り返る		受験した検定試験の4級問題について解答と解説を行います。 ●小テスト(後08)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、自ら受験した検定試験の結果を分析し、正しい解答について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後08)は特に準備の必要はないが、受験した検定試験試験問題において、自分が選んだ回答が全問書きこまれているか確認しておく。		60分
	事後学修	検定試験の解答と解説について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。		60分
10	3級筆記問題		3級レベルの筆記問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後09)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、3級レベルの筆記問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後09)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級筆記問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。		30分
	事後学修	学修した3級レベルの筆記問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。		30分
11	3級聴解問題		3級レベルの聴解問題について傾向や内容を学修します。 ●小テスト(後10)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環とし、3級レベルの聴解問題について傾向や内容を知り、解説済みの部分について理解することができる。		
	事前学修	小テスト(後10)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級聴解問題部分に「練習モード」で取り組んで授業にのぞむ。		60分
	事後学修	学修した3級レベルの聴解問題について振り返り、自らの苦手部分を克服できるよう復習する。		30分
12	後期の復習		後期の学修を全体的に復習し疑問点を解決できるよう学修します。 ●小テスト(後11)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期の学修内容を復習し、疑問点を解決することができる。		
	事前学修	小テスト(後11)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて最新回の3級問題に「本番モード」で取り組み採点までして授業にのぞむ。		120分
	事後学修	後期口頭試験課題文やこれまでの小テストなどを持ちいて、後期学修内容の復習と短文音読の反復練習をする。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	映像教材		前後期総復習として、中国語による映像教材を鑑賞します。 ●小テスト(後12)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、中国語圏で作成された映像教材を視聴し内容を理解できる。		
	事前学修	小テスト(後12)は特に準備の必要はないが、過去問WEBにて2番目に新しい回の3級問題を「本番モード」で取り組んで採点まで行い授業にのぞむ。		120分
	事後学修	後期口頭試験課題文について、プリント、Quizlet（後期口頭試験課題）などを持ち復習する。		60分
14	口頭試験対策と練習		後期総復習として、プリントなどを持ち口頭試験の対策をおこないます。 ●小テスト(後13)	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文を正しい発音で暗唱できる。		
	事前学修	小テスト(後13)は特に準備の必要はないが、後期の学修内容を確認し、後期口頭試験課題文暗唱にむけての練習を重ねつつ、語彙・文法・訳・発音などの疑問点を明らかにして授業にのぞむ。		60分
	事後学修	授業でアドバイスのあった個所について復習、後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ちいて、念入りに練習し正しい発音で暗唱、翻訳できるよう正確に覚える。		120分
15	口頭試験とまとめ		後期口頭試験を実施し、まとめの講評と解説を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連する能力修得の一環として、後期口頭試験課題文の内容を理解し、提示された日本語をその場で正しい発音で中国語に翻訳することができる。		
	事前学修	後期口頭試験課題文をQuizlet（後期口頭試験課題）などを持ち、繰り返し練習し受験準備をして試験にのぞむ。		120分
	事後学修	口頭試験を振り返り、反省点があればその部分について練習し改善しておく。		10分

科目名	中国語資格試験対策ⅢA	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級受験を目指すため、必要な文法知識、語彙数、聞取能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。辞書必携(電子辞書可)。

【授業方法】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級の筆記試験および聞取試験の問題を解きながら検定試験対策を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語文法と語彙の十分な知識を元に中国語圏における社会生活に対応することができる。								3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。								3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容の中国語が書くことができる。								3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。								3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身についているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日中・中日辞書(電子辞書可)	不問	不問	不問	その他	必携
備考	教科書は使用しないが、辞書必携(電子辞書可)。				

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業説明及び文法説明	授業展開方法に関して詳しく説明し、中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級過去問に対する初歩的練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④到達達成の為の授業展開方法を理解し、更に中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級試験問題の出題状況に対して初歩的に理解することが出来る。	
	事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	学習した文法内容をしっかりと復習すること。	30分
2	第八十一回中国語検定試験過去問	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
	事後学修	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
3	第八十一回中国語検定試験過去問	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
4	第八十二回中国語検定試験過去問	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
	事後学修	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
5	第八十二回中国語検定試験過去問	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
6	第八十三回中国語検定試験過去問	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
	事後学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	第八十三回中国語検定試験過去問	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。		
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第八十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
8	第八十四回中国語検定試験過去問	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。		
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
	事後学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
9	第八十四回中国語検定試験過去問	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。		
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第八十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
10	第八十五回中国語検定試験過去問	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。		
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
	事後学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
11	第八十五回中国語検定試験過去問	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。		
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第八十五回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
12	第八十六回中国語検定試験過去問	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。		
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
	事後学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	八十六回中国語検定試験過去問	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第八十六回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
14	第八十七回中国語検定試験過去問	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
	事後学修	第八十七回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
15	前期復習及び授業内試験	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④が到達達成出来たか否か、総復習、授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	中国語資格試験対策ⅢB	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級合格を目指すため、必要な文法知識、語彙数、聞取能力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。辞書(電子辞書可)必携。中国語検定試験(日本中国語検定協会)受験必須。

【授業方法】
中国語検定試験(日本中国語検定協会)三級の筆記試験および聞取試験の問題を解きながら検定試験対策を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語文法と語彙の十分な知識を元に中国語圏における社会生活に対応することができる。									3	3		
②	長い文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。									3	3		
③	日常的な社会生活をテーマにしたまとまった内容の中国語が書くことができる。									3	3		
④	具体的・抽象的なテーマについて少し長めの文章や会話を聞き取り、内容について答えることができる。									3	3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、④が身につけているかを、授業内試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、④が身につけているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(中国語検 定試験)	実際の検定試験において①、②、③、④が達成できているかを評価する	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日中・中日辞書(電子辞書可)	不問	不問	不問	その他	必携
備考	教科書は使用しないが、辞書(電子辞書可)必携。				

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	第八十八回中国語検定試験過去問		第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
2	第八十八回中国語検定試験過去問		第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第八十八回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
3	第八十九回中国語検定試験過去問		第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
4	第八十九回中国語検定試験過去問		第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第八十九回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
5	第九十回中国語検定試験過去問		第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
6	第九十回中国語検定試験過去問		第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第九十回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第九十一回中国語検定試験過去問		第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
8	第九十一回中国語検定試験過去問		第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第九十一回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
9	第九十二回中国語検定試験過去問		第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分	
	事後学修	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
10	第九十二回中国語検定試験過去問		第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第九十二回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
11	第百四回中国語検定試験(令和三年十一月二十八日実施)過去問		第百四回中国語検定試験(令和三年十一月二十八日実施)過去問に対する解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④到達達成の為、聞取能力、作文能力、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	第百四回中国語検定試験(令和三年十一月二十八日実施)過去問を再度見直し、その解説に備える。	30分	
	事後学修	第百四回中国語検定試験(令和三年十一月二十八日実施)過去問で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	
12	第九十三回中国語検定試験過去問		第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。		
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分	
	事後学修	第九十三回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第九十四回中国語検定試験過去問	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標①③到達達成の為、聞取能力、作文能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)に備える。	30分
	事後学修	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋、作文)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
14	第九十四回中国語検定試験過去問	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に対する回答及び解説。	
	この回の到達目標	到達目標②④到達達成の為、文法能力、解釈能力を高めることが出来る。	
	事前学修	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)に備える。	30分
	事後学修	第九十四回中国語検定試験過去問(聞取、並替、読解)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。	30分
15	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	国際研修(中) I A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に対応できる中国語コミュニケーション力の養成。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修参加を目指すため、必要な語学力と国際的に通用するコミュニケーション力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。海外語学研修(台湾)参加を想定した内容の授業ではあるが、実際に海外語学研修(台湾)参加にするか否かについては自由。

【授業方法】
海外語学研修現地授業と現地日常生活を想定し、中国語会話と作文、および現地地誌・文化・社会情勢を踏まえてのコミュニケーションができるよう実践的トレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語圏の生活および語学研修に対応した聞取・会話ができる。								1	1	1	
②	語学研修内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて中国語の文章を書くことができる。								1	1		1
③	中国語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる。								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③、が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、柴森、小澤直人	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメント頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業説明及び中国諸事情紹介	授業展開方法に関して詳しく紹介し、又中国諸事情に関して色々紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③到達達成の為、授業展開方法を理解し、更に中国諸事情を初歩的に理解することが出来る。	
	事前学修	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。又習った中国諸事情の知識を自分なりに整理しておくこと。	30分
2	教科書第一課(対、的)	前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第一課前置詞「対」、名詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	前置詞「対」、名詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	教科書第一課(有的～有的～等)	「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第一課「有的～有的～」、「既～又～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「有的～有的～」、「既～又～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	教科書第二課(毎～都～等)	「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第二課「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「毎～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	教科書第二課(比較用法等)	比較用法、「連～也～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、比較用法、「連～也～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第二課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	事前に第二課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
6	教科書第三課(疑問詞呼応表現等)	教科書第三課(疑問詞呼応表現等)	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞呼応表現、「除了～以外～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第三課疑問詞呼応表現、「除了～以外～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞呼応表現、「除了～以外～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第三課(即使～也～等)	「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第三課「即使～也～」、「一点兒也～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「即使～也～」、「一点兒也～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第四課(着)	持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第四課持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
9	教科書第四課(複合方向補語等)	複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第四課複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	第五課(結果補語、存現文)	結果補語、存現文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、結果補語、存現文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第五課結果補語、存現文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	結果補語、存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	教科書第五課(因為～所以～等)	「因為～所以～」、「什麼的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「因為～所以～」、「一邊兒～一邊兒～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第五課「因為～所以～」、「一邊兒～一邊兒～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「因為～所以～」、「一邊兒～一邊兒～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	教科書第六課(可能補語等)	可能補語、「什麼的」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、可能補語、「什麼的」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第六課可能補語、「什麼的」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	可能補語、「什麼的」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第六課(只要～就～)	「只要～就～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「只要～就～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第六課「只要～就～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「只要～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第六課(一～就～)	「一～就～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「一～就～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第六課「一～就～」部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「一～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	前期復習及び授業内試験	前期復習及び授業内試験	
	この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	国際研修(中) I B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○	○	○

【授業の概要】
海外語学研修に十分に対応できる中国語コミュニケーション力の養成

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
海外語学研修に参加するため、必要な語学力と円滑なコミュニケーション力を修得することができる。

【履修条件】
一年間以上の中国語学習歴を有する人(又はそれと同等以上の中国語語学力を有する人)。海外語学研修(台湾)参加を想定した内容の授業ではあるが、実際に海外語学研修(台湾)参加にするか否かについては自由。

【授業方法】
海外語学研修現地授業と現地日常生活を想定し、中国語会話と作文、および現地地誌・文化・社会情勢を踏まえてのコミュニケーションができるよう実践的トレーニングを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業で発声を伴う発音練習等を盛んに行うアクティブラーニングです。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語圏の生活及語学研修に対応した聞取・会話が十分できる。								1	1	1	
②	語学研修内容に即して、自分の身の回りのことや社会のテーマについて中国語の文章が書くことができる。								1	1		1
③	中国語圏の文化や社会に関する文章を自律的に読むことができる。								1	1		1
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	20	10	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
グーグルクラスルーム等で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
2冊めの中国語《講読クラス》	劉穎、柴森、小澤直人	白水社	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
随時メール(kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp)や限定コメントを頂ければと思います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	教科書第七課(是～的、様態補語)	「是～的」、様態補語について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「是～的」、様態補語について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第七課「是～的」、様態補語の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「是～的」、様態補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
2	教科書第七課(不知道～才好等)	「不知道～才好」、「好像～一樣」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不知道～才好」、「好像～一樣」について	
	事前学修	事前に第七課「不知道～才好」、「好像～一樣」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「不知道～才好」、「好像～一樣」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
3	教科書第八課(疑問詞不定用法、可能補語)	疑問詞不定用法、可能補語について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、疑問詞不定用法、可能補語について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第八課疑問詞不定用法、可能補語の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	疑問詞不定用法、可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
4	教科書第八課(無論～都～等)	「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第八課「無論～都～」、「要是～的話，就～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「無論～都～」、「要是～的話，就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
5	教科書第九課(給等)	動詞の後の「給」、受身文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動詞の後の「給」、受身文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	到達目標①②到達達成の為、動詞の後の「給」、受身文について学ぶことが出来る。	30分
	事後学修	動詞の後の「給」、受身文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
6	教科書第九課(不是～就是～等)	「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	到達目標①②到達達成の為、「不是～就是～」「再也沒～過」について学ぶことが出来る。	30分
	事後学修	「不是～就是～」「再也沒～過」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教科書第十課(動量補語、離合詞)	動量補語、離合詞について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②到達達成の為、動量補語、離合詞について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十課動量補語、離合詞の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	動量補語、離合詞の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
8	教科書第十課(雖然～但是～等)	「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	30分
	事後学修	到達目標②③到達達成の為、「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶことが出来る。	30分
9	教科書第十一課(有)	後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十一課後置修飾語を伴う「有」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	後置修飾語を伴う「有」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
10	教科書第十一課(讓)	使役の「讓」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、使役の「讓」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十一課使役の「讓」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	使役の「讓」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
11	教科書第十一課(就、都)	教科書第十一課(就、都)	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、副詞「就」、副詞「都」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十一課副詞「就」、副詞「都」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	副詞「就」、副詞「都」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
12	教科書第十二課(把)	「把」の文について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「把」の文について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課「把」の文の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「把」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書第十二課(対～來說)	「対～來說」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「対～來說」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課「対～來說」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「対～來說」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
14	第十二課(只有～才～)	「只有～才～」について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③到達達成の為、「只有～才～」について学ぶことが出来る。	
	事前学修	事前に第十二課「只有～才～」の部分に目を通しておくこと。	30分
	事後学修	「只有～才～」の用法に関して読んで書いて練習すること。	30分
15	後期復習及び授業内試験	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③が到達達成出来たか否か、総復習及び授業内試験を通して確認することが出来る。	
	事前学修	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。	30分
	事後学修	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	于 曉飛	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
勉強したことがある或いは相当レベルをもっている学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国を知ろう	斎藤道彦 、陳栄生等	神保出版	2011年5月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜16：10～ 授業終了後の講堂にてメールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
	この回の到達目標	授業の進み方について理解できる	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
	事後学修	音声聞き、中国語の発音を耳にする	60分
2	発音	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
	この回の到達目標	中国語の発音を覚える	
	事前学修	発音を練習すること。（30分）	60分
	事後学修	勉強した発音を、自己発音でき、書けるように練習)	60分
3	発音と挨拶表現	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
	この回の到達目標	挨拶言葉と自己紹介できる	
	事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習	60分
	事後学修	発音を練習する：聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	北京的夏天？	形容詞述語文と四つの疑問文の作り方について説明	
	この回の到達目標	形容詞述語文と四つの疑問文の作り方について理解し、話せることができる	
	事前学修	新しい語彙を覚え、読める書ける練習	60分
	事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習	60分
5	実験演習	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：形容詞述語文についての表現と是を用いた文。	
	この回の到達目標	形容詞述語文の応用会話でき、“是”の構文について理解できる	
	事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習問題を回答する。	60分
	事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	你是香港人	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
	この回の到達目標	疑問文の作り方：四つの疑問文を作ることができる	
	事前学修	会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	実験演習	これまでの復習 筆記小テスト ポイントの表現について応用する	
	この回の到達目標	“是”を用いた文の表現について理解でき、応用することができる	
	事前学修	第3課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	你吃早了	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：動詞述語文表現と助数詞；会話練習と発音矯正する。	
	この回の到達目標	動詞述語文表現と助数詞について理解し、応用することができる	
	事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	実験演習	筆記小テスト ポイントの構文を使って、応用会話する	
	この回の到達目標	勉強したことを使って、自分のことに基づいて説明することができる	
	事前学修	単語と会話文をを繰り返して発音練習を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること	60分
10	你身体好	会話小テスト 会話文について解釈 ポイント：主述述語文と状態補語。	
	この回の到達目標	ポイントについての説明理解し、また応用することができる	
	事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	実験演習	筆記小テスト 会話文を解釈 ポイント：主述述語文と状態補語の表現について練習する	
	この回の到達目標	主述述語文と状態補語の表現について理解できる	
	事前学修	単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	你家有几口人	会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：所有を表す動詞と因果関係を表す表現	
	この回の到達目標	複文の接続詞の言い方について理解し、家族についての説明することができる。	
	事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：家族について中国語で説明することの準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	実験演習	会話小テスト 会話文を解釈 ポイントについての表現	
	この回の到達目標	家族について中国語で上手に説明することができる	
	事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）	60分
14	有人滑雪	発表テスト ポイントについて説明 存現文の表現	
	この回の到達目標	様々な現象について存現、焼失の表現を理解し、自然現象について説明することができる	
	事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習（30分）	60分
15	復習と期末筆記テスト	全般復習とテスト範囲を指示する	
	この回の到達目標	試験問題に上手く回答できる	
	事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
	事後学修	感想文を書く	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
なし

【授業方法】
基本的には2週間1課の進度で授業を進めていく。本文を朗読、翻訳する。会話の訓練を行い、書き取りとリスニングを行う。フィードバックは授業内において行い、テストは採点して、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して、学生に解かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題や試験などを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
I 冊目の中国語一会話クラス	劉 喜多山幸子 松田かの子	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	中国語について		1、ガイダンス「授業の概要や到達目標について説明」 2、中国の概況 3、中国語の発音：単母音と声調
	この回の到達目標	シラバスの概要を確認し、理解する。 中国語の発音：単母音と声調	
	事前学修	シラバスをを確認し、授業計画を立てる。	30分
	事後学修	単母音と声調の復習	30分
2	中国語の発音		発音：子音と複母音
	この回の到達目標	子音と複母音の発音ができる。	
	事前学修	子音と複母音の予習	30分
	事後学修	子音と複母音の復習	30分
3	中国語の発音		発音：鼻母音と発音のトレーニング
	この回の到達目標	鼻母音と発音ができる。	
	事前学修	鼻母音の予習	30分
	事後学修	発音の総復習	30分
4	第1課		第1課 「楊麗さんですか。」本文訳 ポイント 1. 人称代名詞 2. 動詞“是” 3. 否定を表す“不” 4. 疑問を表す“嗎”
	この回の到達目標	第1課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
5	第1課		第1課 「楊麗さんですか。」 トレーニング、リスニング
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第1課の総復習	30分
6	第2課		第2課 「荷物は多いですか。」本文訳 ポイント 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文 3. 疑問詞“怎么样” 4. “的”
	この回の到達目標	第2課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第2課		第2課 「荷物は多いですか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第2課の総復習		30分
8	第3課		第3課 「明日はどこへ行きますか。」本文訳 ポイント 1. 場所代名詞 2. 動詞述語文 3. 疑問詞疑問文 4. 省略疑問文“呢” 5. 時を表すことばの位置	
	この回の到達目標	第3課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
9	第3課		第3課 「明日はどこへ行きますか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第3課の総復習		30分
10	第4課		第4課 「ケーキを食べたいですか。」本文訳 ポイント 1. 助動詞“想” 2. 選択疑問文 3. 副詞“也” 4. 動詞の重ね型 5. 語気助詞“吧”	
	この回の到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
11	第4課		第4課 ケーキを食べたいですか。 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第4課の総復習		30分
12	第5課		第5課 「これはいくらですか。」本文訳 ポイント 1. 数詞 2. 量詞の使い方 3. 反復疑問文	
	この回の到達目標	第4課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課	第5課 「これはいくらですか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第5課の総復習	30分
14	中間のまとめ	第1課～5課のまとめ（後期授業内筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
	事前学修	第1課～5課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解する。	30分
15	前期のまとめ	①フィードバック・質疑応答（試験問題について解説） ②会話テストか書き取りを行う。	
	この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。	
	事前学修	前期学習内容を総復習し、問題点を確認する。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者30名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】							
書名			著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎 重版 2021年3月2刷発行			汪鴻祥 主編	白帝社	2021年度	教科書	必携

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1 ・ 2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業計画の説明等	
	この回の到達目標	この授業の計画と内容を理解する	
	事前学修	テキスト８－９ページ（中国の基本データと中国の基本知識）と発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
2	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音１を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
3	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音２を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
4	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音３を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
5	発音編	発音と練習	
	この回の到達目標	発音４を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
6	会話編	第１課：「初次面」 会話と練習	
	この回の到達目標	発音５を習得する	
	事前学修	発音編の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	会話編	第2課：「迎新生」 会話と練習	
	この回の到達目標	第1課：「初次面」を習得する	
	事前学修	第1課：「初次面」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
8	会話編	第3課：「我的一家」 会話と練習	
	この回の到達目標	第2課：「迎新生」を習得する	
	事前学修	第2課：「迎新生」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
9	会話編	第4課：「生日快」 会話と練習	
	この回の到達目標	第3課：「我的一家」を習得する	
	事前学修	第3課：「我的一家」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
10	会話編	第5課：「漫学」 会話と練習	
	この回の到達目標	第4課：「生日快」を習得する	
	事前学修	第4課：「生日快」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
11	会話編	第6課：「参校园」 会話と練習	
	この回の到達目標	第5課：「漫学」を習得する	
	事前学修	第5課：「漫学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
12	会話編	第7課：「趣好」 会話と練習	
	この回の到達目標	第6課：「参校园」を習得する	
	事前学修	第6課：「参校园」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	会話編		第8課：「学」 会話と練習
	この回の到達目標	第7課：「趣好」を習得する	
	事前学修	第7課：「学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
14	復習		期末総合復習
	この回の到達目標	前期で学んだ中国語を復習し理解する	
	事前学修	総合復習の準備	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
15	期末総括と授業内試験		前期授業の総括と期末授業内試験
	この回の到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う	
	事前学修	試験の準備	120分
	事後学修	前期授業内容の復習	120分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国語を学ぼう	竹島 毅	白水社	2010. 12. 10 第2版		
備考					

【オフィスアワー】
helebuwei128@sina.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 中国語とは	年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など	
	この回の到達目標	中国語の概略を理解することと発音記号を理解する	
	事前学修	教科書とシラバスに目を通してください	30分
	事後学修	授業の内容を復習する	30分
2	中国語の発音	発音について学ぶ 音節と声調 および 単母音韻母	
	この回の到達目標	とくに、声調を理解し覚えること	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単母音を発音練習する 教科書の練習問題を復習する	30分
3	中国語の発音	複合母音 韻尾 nとng	
	この回の到達目標	韻母を読める、書ける	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	母音の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	30分
4	中国語の発音	声母 有気音と無気音 そり舌音	
	この回の到達目標	声母を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	声母の発音を練習する 教科書の練習問題を復習する	30分
5	ピンイン表記法	軽声、儿化韻 変調	
	この回の到達目標	発音をはっきりと聞き分けられ また正しく発音できるように	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	発音まとめの復習	30分
6	発音到達度テスト まとめ	発音リスニングテスト	
	この回の到達目標	発音上達するように	
	事前学修	声母、韻母の復習	30分
	事後学修	テスト問題の見直し	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第一課		人称代名詞、 助詞「是」の文 「」の疑問文
	この回の到達目標	名詞述語文の文型を理解する	
	事前学修	会話文を読む	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
8	第二課		指示代名詞 疑問詞疑問文 「的」 副詞「也」「都」
	この回の到達目標	疑問文の文型を理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
9	第三課		動詞述語文 「所有」を表わす「有」 指示代詞（2） 省略疑問の「呢」
	この回の到達目標	動詞述語文を学ぶ	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
10	第四課		形容詞述語文 量詞 数字
	この回の到達目標	形容詞述語文の文型を学ぶ	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
11	第五課		時を表わす語 時間量を表わす語 反復疑問文 介詞（1）
	この回の到達目標	時間を表わす語を使って会話ができる	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
12	第六課		「完了」を表わす「了」 「所在」を表わす「在」 介詞（2）「离」
	この回の到達目標	曜日、時刻を表現するように会話を作る	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第七課	連動文 助動詞 文末の助詞「吧」	
	この回の到達目標	連動式文を理解する	
	事前学修	単語の復習	30分
	事後学修	単語、会話文、講読文を復習	30分
14	復習	第七課までの復習	
	この回の到達目標	テスト勉強	
	事前学修	毎回の練習問題を復習	30分
	事後学修	学んだ内容をまとめて復習	30分
15	前期テスト まとめ	まとめ・試験	
	この回の到達目標	前期の学習の成果を試験で発揮する	
	事前学修	教科書の内容を復習	60分
	事後学修	前期の総復習	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文学教員、1984年北京語言大学中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究、文学博士。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第一課①回目。授業概要。第一課概要。本文練習。挨拶・会話練習。会話入門。簡単な挨拶語を使って会話する。標準的な中国語の基本発音1。	授業概要。第一課「問候」。①第一課概要。②挨拶・会話練習。③会話入門。中国語の語順、語調。文章の切り取り(句切)、ピークストレス(標峰重音)。標準的な中国語の発音法。④単語表、本文を読む。本文を訳す。本文と日本語訳を書く。簡単な挨拶語を使って会話する。⑤標準的な中国語の基本発音1。音節・四声・軽声・単韻母。	
	この回の到達目標	中国語及び中国言語文化、異文化を理解する。簡単な挨拶語を使って会話する。	
	事前学修	筆記と書き取り練習用ノート(1)を用意する。シラバスに目を通しておく。	30分
	事後学修	復習。第一課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
2	第一課②回目。復習。疑問文(1)と答えかた。人称代名詞。二つの語気助詞と比較。文の種類。会話練習。標準的な中国語の基本発音1-2。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-2。声母、複韻母。音節・変調発音訓練。③人称代名詞。二つの語気助詞と比較。疑問文(1)と答えかた。文の種類。④会話1。(1)-(3)。⑤標準的な中国語の基本発音1-2テスト。本文と会話1.の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	人称代名詞、二つの語気助詞を把握する。標準的な中国語の基本発音1-2要領を把握する。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第一課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話1。(1)-(3)を声出して読む。第一課会話1。(1)-(3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要領をチェック。	30分
3	第一課③回目。復習。四声と軽声の比較、音の識別、音節・変調発音訓練、標準的な中国語の基本発音1-3。常用単語と発音練習。会話練習。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-3。鼻韻母。四声と軽声の比較練習。音の識別、音節・変調発音訓練。③親族。常用単語と発音練習。④会話2。(4)-(6)。⑤標準的な中国語の基本発音1-3テスト。会話2.の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	四声と軽声、音節の識別、変調、標準的な中国語の基本発音1-3を把握する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第一課会話1。(1)-(3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話2。(4)-(6)を声出して読む。第一課会話2。(4)-(6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要領をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』。	30分
4	第一課④回目。復習。第一課①-④回標準的な中国語の基本発音1-4。朗読練習。会話練習。第一課①-④回授業要点をチェック。疑問文(1)を使って簡単会話する。	第一課 ①復習問題。②標準的な中国語の基本発音1-4。アル化韻。ローマ字綴り規則。音節表。音の識別、軽音と重音、軽重音の変化、標峰重音、句切と文単位。③朗読練習。会話練習・語調。④第一課①-④回授業要点をチェック。⑤標準的な中国語の基本発音1-4テスト。単語と会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	第一課①-④回標準的な中国語の基本発音1-4要領を把握する。第一課①-④回授業要点を把握する。簡単な挨拶語を使って会話する。疑問文(1)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第一課会話2。(4)-(6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。第一課常用単語と会話を声出して読む。常用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』。	30分
5	第二課①回目。復習。第二課概要。名詞述語文。「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。序数と数量。疑問文(1)-(3)。二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。本文練習。本文について会話練習。中国語で自己紹介。	第一課復習問題。第二課「我是学生」。①第二課概要。②名詞述語文。「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。「副詞」。序数と数量。③単語表、本文を読む。本文を訳す。④疑問文(1)-(3)。二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。⑤本文について会話練習。中国語で自己紹介。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』成績表を提出。	
	この回の到達目標	中国語で自己紹介する。名詞述語文の構文を把握する。指示代名詞、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞を把握する。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第一課会話1。(1)-(3)、会話2。(4)-(6)を声出して読む。第一課の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第一課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。中国語で自己紹介を練習する。	30分
6	第二課②回目。復習。数の数え方(1)-(3)。疑問文(1)-(3)の語調。会話練習(1)-(4)。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。	第二課 ①復習問題。②強勢と弱勢。強勢と弱勢の変化。四声練習。音の識別。③数の数え方(1)-(3)。④疑問文(1)-(3)の語調。会話練習(1)-(4)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	数の数え方(1)-(3)を把握する。疑問文(1)-(3)の語調を把握する。六つの疑問詞を使って簡単会話する。疑問文(1)-(3)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第二課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。疑問文(1)-(3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話練習(1)-(4)を声出して読む。会話練習(1)-(4)と日本語訳を書く。数の数え方(1)-(3)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)第二課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第二課③回目。復習。品詞一覧。名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文。置換え会話(1) - (3)。会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。②品詞一覧。③名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文。④置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。⑤会話1. の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	名前の聞き方と自己紹介の3種類の構文を把握する。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第二課疑問文(1) - (3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。数の数え方(1) - (3)を声出して読む。会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第二課』。	30分
8	第二課④回目。復習。置換え会話(4) - (6)。会話練習。第二課①-④回授業要点をチェック。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。③第二課①-④回授業要点をチェック。④会話2. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	第二課①-④回授業要点をチェック。疑問文(1) - (3)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第二課数の数え方(1) - (3)、会話1. (1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第二課』。	30分
9	第三課①回目。復習。第三課概要。形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞。補語の種類。疑問文(4)。本文練習。本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課復習問題。第三課「我的父母」。①第三課概要。②形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞。補語の種類。疑問文(4)。③単語表、本文を読む。本文を訳す。④本文について会話練習。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第二課』成績表を提出する。	
	この回の到達目標	名詞述語文・形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文の構文を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
	事前学修	第二課会話2. (4) - (6)を声出して読む。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第二課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
10	第三課②回目。復習。3つの「de」助詞「的」「地」「得」。「得」つくる補語と他の補語。量詞の種類と常用名量詞と動量詞。会話練習。疑問文(1) - (4)を使って会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第三課 ①復習問題。②三つの「de」助詞「的」「地」「得」。「得」つくる補語と他の補語。③量詞の分類と常用名量詞と動量詞。④会話練習(1) - (4)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	3つの「de」助詞「的」「地」「得」の使い方を把握する。「得」つくる補語と他の補語を把握する。量詞の分類と常用名量詞と動量詞を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
	事前学修	第三課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。常用名量詞と動量詞。疑問文(4)。三つの「de」。程度補語・可能補語と結果補語・方向補語・数量補語。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』。	30分
11	第三課③回目。復習。数量練習。四声練習。音の識別。形容詞述語と形容詞修飾語。程度副詞表す程度。置換え会話(1) - (3)。会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第三課 ①復習問題。②数量練習。③四声練習。音の識別。形容詞述語と形容詞修飾語。程度副詞表す程度。④置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。⑤会話1. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	常用名量詞・動量詞の使い方を把握する。形容詞述語と形容詞修飾語を把握する。程度副詞表す程度を把握する。疑問文(1) - (4) を使って簡単会話する。	
	事前学修	第三課会話練習(1) - (4)を声出して読む。数量詞、三つの「de」、程度補語と可能補語、疑問文(1) - (4)をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	第三課④回目。年齢段別の聞き方。置換え会話(4) - (6)。会話練習。第三課①-④回授業要点をチェック。	第三課 ①復習問題。②年齢段別の聞き方。③置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。④第三課①-④回授業要点をチェック。⑤会話2. の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
	この回の到達目標	年齢段別の聞き方。第三課①-④回授業要点を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第三課会話1. (1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』。	30分
13	第一課～第三課復習。中国語作文を完成する。	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習。③中国語作文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。④宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』成績表を提出する。	
	この回の到達目標	第一課～第三課要点を把握する。中国語作文を完成する。	
	事前学修	第三課会話2. (4) - (6)を声出して読む。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第三課』完成し、成績表のコピーを用意する。	30分
	事後学修	第一課～第三課復習。要点をチェック。	30分
14	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	
	この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	第一課～第三課復習。	30分
	事後学修	中国語作文を声出して読む。	30分
15	中国語作文口頭発表会(口頭試験)。	中国語作文口頭発表会(口頭試験)。中国語作文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を提出。	
	この回の到達目標	中国語作文口頭発表会(口頭試験)及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	中国語作文を声出して読む。	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
3分の2以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること、出席状況、授業での態度が悪いと成績の評価ができなくなる。

【授業方法】		
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。 フィードバックは授業内において行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10文間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	2000. 3. 31	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		飛鳥文化出版－国際関係と国際文化交流／気功波動の健康法－生命力の高次元への修業 LINEとWechatの交流コラムを通じて関連情報を共有して紹介する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第1回導 入 導入講義		中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国の歴史文化と現代社会
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	本授業のシラバスを事前に読んでください	30分
	事後学修	中国について、基本状況と中国語の特徴をまとめて、レポートを提出します	30分
2	第2回(発音一)		韻母と声母：単母音、声母(子音)、四声、(授業用語)
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習しましょう	30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
3	第3回 (発音二)		複母音と鼻母音(声調符号の付け方)、
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	スマートフォンやパソコンを用いてネット上の中国語学習サイトのピンインの子音と母音発音を聞き繰り返して練習しましょう	30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
4	第4回 (発音三)		特殊発音、声調の変化 (授業用語)
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	発音練習予定部分を学習してください	30分
	事後学修	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい	30分
5	第5回 発音部分の小テスト		発音の総合練習とテスト
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	教科書の練習と配った練習問題を復習してください	30分
	事後学修	練習とテストのできないところを確認して、できるまでに練習してください	30分
6	第6回 第1課北京的天气？		北京の天？(挨拶と授業養護) 天気会話表現と挨拶授業用語を習得する 述語分類、形容詞述語文、疑問詞文、肯定否定疑問詞文を理解する
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、	
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第7回 第2課你是香港人？		貴方は香港の方ですか？ 指示代名詞、人称代名詞、選択疑問文などを学習する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
8	第8回 第3課你吃早了？		君は朝ごはんを食べましたか？（君は朝食しましたか？） 動詞述語文と時態助詞などを勉強します。	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
9	第9回 応用練習と文化事情		会話の応用練習：グループで会話練習を確認させて評価します 宿題： 文化事情：配ったプリントの記事を読んで、感想と見解を書いて提出下さい	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
10	第10回 第4課 你身体好？		君は元気ですか？ 主述述語文、近接未来の表現、疑問詞’多’＋形容詞の表現などを習う	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
11	第11回 第5課你家有几口人？		貴方は何人家族ですか？ 家族の聞き方、動詞’有’、疑問詞’幾’などを勉強する	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
12	第12回 会話の応用練習		会話の応用練習： グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第13回 第6課有人滑雪？		第6課スキーをする人がいますか？ 存現文、感嘆文、A或B等を学習する	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください		30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい		30分
14	第14回 総復習 前期総復習		前期の学習要点を復習問題にまとめて、総合練習して確認します	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。		30分
	事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください		30分
15	第15回 授業内テスト まとめ		テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を確認する	
	この回の 到達目標	A-1 A-2 A-6を出来るように学習します。 1, 2, 3を出来るように勉強します、		
	事前学修	教科書の指定範囲の復習練習問題を完成して復習しなさい		30分
	事後学修	ミスした所とできない部分を確認して、今度間違いないように注意します。		30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	劉 力	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	各課の文法のポイントの例文と本文を日本語に正確に訳しているかどうかを授業内で確認します。各課の練習問題の答え合わせを授業内でします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の回答はポータルシステムで公開する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本から学ぶ中国語	劉力	株式会社天々	2020年		必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：月曜３・４・５限 qqky376n@tuba.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス及び導入講義	
	この回の到達目標	授業内容を理解する	
	事前学修	シラバスを読むこと	30分
	事後学修	教科書を用意すること	30分
2	教科書P2～P9の内容	発音:音節のしく・声調・声調の変化・母音・子音・アル化音み	
	この回の到達目標	中国語の表音文字のローマ字を正確に発音できる	
	事前学修	発音の予習	30分
	事後学修	発音の復習	30分
3	教科書P10～P13の内容	第1課 親友 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
	この回の到達目標	第1課親友 語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第1課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第1課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
4	教科書P14～P15の内容	第1課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする	
	この回の到達目標	第1課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第1課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第1課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
5	教科書P16～P19の内容	第2課 桜・桃の花・黄梅 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
	この回の到達目標	第2課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第2課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第2課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること	30分
6	教科書P20～P21の内容	第2課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
	この回の到達目標	第2課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第2課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第2課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	教科書P22～P25の内容		第3課 彼女は一人で日本にいる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
	この回の到達目標	第3課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第3課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第3課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
8	教科書P26～P27の内容		第3課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。
	この回の到達目標	第3課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第3課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第3課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
9	教科書P28～P31の内容		第4課 私は教室で昼ごはんを食べる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
	この回の到達目標	第4課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第4課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第4課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
10	教科書P32～P33の内容		第4課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする
	この回の到達目標	第4課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第4課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第4課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
11	教科書P34～P35の内容		第5課 彼女は北京の観光案内を見ている 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
	この回の到達目標	第5課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第5課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第5課 彼女は北京の観光案内を見ている 語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
12	教科書P36～P39の内容		第5課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする
	この回の到達目標	第5課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第5課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	教科書P40～P43の内容		第6課私は一度北海道へ行った 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
	この回の到達目標	第6課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第6課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第6課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
14	教科書P44～P47の内容		第6課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする
	この回の到達目標	第6課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第6課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第6課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
15	教科書P10～P47の内容		試験 第1課～第6課の指定範囲
	この回の到達目標	第1課～第6課の内容を把握する	
	事前学修	第1課～第6課の指定範囲	30分
	事後学修	第1課～第6課の復習	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	周 聖來	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーションの習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語や中華文化に興味を持つ者を対象とします。教科書必携で、3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
教科書に沿って、中国語を発音させ、正しい発音に矯正の上、楽しく中国語会話の練習を行います。 小テストや口頭発表などを合わせて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	テキストを中心に発音(ピンイン)による中国語表記とを繰り返し練習し，基本的な文の構造を学習する． 学んだことを演習形式で実践する．

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」	陳洲举、于曉飛、劉 渴氷	同学社	2020年4 月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
質問、相談は授業終わる10分前のところ、或はメールによる相談：alexshuo@outlook.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明 成績評価の方法	
	この回の到達目標	授業の進み方、学習方法と成績評価を理解する。	
	事前学修	シラバスを読むこと	60分
	事後学修	教科書を用意すること	60分
2	発音編①	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。	
	この回の到達目標	中国語の発音を覚える	
	事前学修	MP3音声聞く、発音を練習すること。	60分
	事後学修	勉強した発音を、音声を聞きながら覚えること。	60分
3	発音編②	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習	
	この回の到達目標	声調変化を理解し、簡単な挨拶をできるようにする。	
	事前学修	MP3音声聞く、勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習。	60分
	事後学修	発音を練習する：MP3音声聞く。聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	第1課 あいさつ	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。	
	この回の到達目標	自己紹介をし、クラスメイトの名前を中国語で覚える。	
	事前学修	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。	60分
	事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習。	60分
5	第2課 名前	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いる。	
	この回の到達目標	氏名表現と「是」の用法を理解する。	
	事前学修	第2課の単語を暗記する；MP3音声について本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	MP3音声聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	第3課 身分	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習	
	この回の到達目標	疑問文の作り方を理解し、それに対する回答をできるようにする。	
	事前学修	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第4課 日にち	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日	
	この回の到達目標	年月日曜日の表現ができるようにする。	
	事前学修	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	第5課 時刻	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。	
	この回の到達目標	時刻を言えるようにする。	
	事前学修	MP3音声聞き、第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみる。	60分
9	第6課 家庭	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称	
	この回の到達目標	各自の家族親族を紹介できるようにする。	
	事前学修	第6課の単語と会話文をMP3音声聞き、発音練習を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する。	60分
10	第7課 年齢	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。	
	この回の到達目標	年齢を言えるようにする。	
	事前学修	MP3音声聞き、第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	第8課 方位	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現	
	この回の到達目標	方位、位置、場所を示し単純方位詞の用法を理解する。	
	事前学修	MP3音声聞き、第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	第9課 評価	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：評価についての表現	
	この回の到達目標	評価の表現ができるようにする。	
	事前学修	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第10課 行為（未然）	会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現	
	この回の到達目標	願望や希望の表現を理解し、簡単な文を表現できるようにする。	
	事前学修	MP3音声を聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	復習及び口頭試験	期末試験の復習 口頭発表	
	この回の到達目標	口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、口頭発表の準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習。	60分
15	前期授業の総括・期末試験	期末総括筆記試験	
	この回の到達目標	前期授業を総括し、授業内試験を行う。	
	事前学修	試験の準備。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	于 曉飛	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
勉強したことがある或いは相当レベルをもっている学生。

【授業方法】
中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期末に口頭発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国を知ろう	斎藤道彦、陳栄生等	神保出版	2011年5月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜16：10～ 授業終了後の講堂にてメールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと導入講義、自己紹介	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明	
	この回の到達目標	授業の進み方について理解できる	
	事前学修	シラバスを読み、授業の全体を把握する。	60分
	事後学修	前期勉強したことを復習と自己紹介の準備	60分
2	你老家在哪儿(1)	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：動詞“在”と“有”の使い方；介詞の区別状況語が強調される構造。	
	この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、介詞の使い方応用できる	
	事前学修	自己紹介できるよう発音を練習すること。	60分
	事後学修	新しい語彙を覚え自己発音でき、書けるように練習)	60分
3	你老家在哪儿(2)	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：状況語が強調される構造。	
	この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、特に“是・・・的”の表現を身に付けることができる。	
	事前学修	勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習	60分
	事後学修	発音を練習する：聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。	60分
4	几点起床	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：時点を表す言葉と時間の長さを表す言葉の語順	
	この回の到達目標	ポイントについての説明を理解し、応用練習もできる。	
	事前学修	新しい語彙を覚え、読める書ける練習	60分
	事後学修	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習	60分
5	中国正流行什么	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：動作の進行、持続を表す	
	この回の到達目標	ポイントの説明を理解し、応用会話でき、応用練習もできる。	
	事前学修	第2課の単語を暗記する；本文の会話を練習問題を回答する。	60分
	事後学修	会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	你会包子	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：可能を表す助動詞“会”、“能”、“可以”	
	この回の到達目標	ポイントの説明を理解し、応用練習もできる	
	事前学修	会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	中国比日本大多少		これまでの復習 筆記小テスト ポイントの表現について応用する
	この回の到達目標	“是”を用いた文の表現について理解でき、応用することができる	
	事前学修	第3課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	総合演習		会話小テスト 今まで勉強したことを使って、自分のことに基づいて発表 会話練習と発音矯正する。
	この回の到達目標	今まで勉強したことを使って、自分のことに基づいて話せることにする。	
	事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。	60分
9	中国比日本大多少		筆記小テスト ポイント：比較表現の構文を使って、会話練習する
	この回の到達目標	比較表現を身に付け、自分のことに基づいて説明することができる	
	事前学修	単語と会話文をを繰り返して発音練習を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること	60分
10	北京烤多少		会話小テスト 会話文について解釈 ポイント：把を用いた文と可能補語
	この回の到達目標	ポイントについての説明理解し、応用練習もできる	
	事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	中国人喜什么运		筆記小テスト 会話文を解釈 ポイント：複文の接続詞と行為、状態の関連する対象を表す表現
	この回の到達目標	ポイントの説明について理解し、応用練習できるようにする	
	事前学修	単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	怎做才不失礼		会話小テスト 会話文を解釈 ポイント：使役表現について
	この回の到達目標	使役文の表現について理解し、応用でき、説明することができる	
	事前学修	単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：家族について中国語で説明することの準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	真会被款	発表テスト ポイントについて説明 受け身文と可能補語	
	この回の到達目標	使役文の表現について理解し、応用でき、説明することができる	
	事前学修	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	総合復習	今まで勉強したことを全般復習する	
	この回の到達目標	勉強したことを理解し、回答できるようにする	
	事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習	60分
15	これまでの復習 期末筆記テスト	これまでの復習 筆記テスト	
	この回の到達目標	試験問題に上手く回答できる	
	事前学修	ネットで中国について調べる。	60分
	事後学修	感想文を書く	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
なし

【授業方法】
基本的には2週間1課の進度で進めていく。文法を学習し、本文を翻訳する。発音の訓練を行い、会話を練習する。書きとりやリスニングも行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やテストなどを採点し、解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
I 冊目の中国語一会話クラス	劉 喜多山幸子松田 かの子	白水社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業の前・後、当該教室にて授業時間：火曜２～４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	シラバスの概要 第6課	シラバスの概要を説明する。 第6課「電子辞書を持っていますか。」本文訳 ポイント 1. 動詞“有” 2. 動詞“在” 3. 前置詞“离”	
	この回の到達目標	シラバスの概要が確認できる。 第6課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
2	第6課	第6課 「電子辞書を持っていますか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第6課の総復習	30分
3	第7課	第7課 「京劇のチケットを買いました。」本文訳 ポイント 1. 連動文 2. “什么” +名詞 3. 完了の“了” 4. 疑問詞“怎么”	
	この回の到達目標	第7課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
4	第7課	第7課 「京劇のチケットを買いました。」 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第7課の総復習	30分
5	第8課	第8課 「ファーストフード店がありますか。」本文訳 ポイント 1. 変化を表わす“了” 2. 動詞“有” 3. 前置詞“在”	
	この回の到達目標	第8課の文法や発音の習得ができる。	
	事前学修	文法の予習	30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記	30分
6	第8課	第8課 ファーストフード店がありますか。 トレーニング、リスニング	
	この回の到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習	30分
	事後学修	第8課の総復習	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第9課		第9課 「中国の歌が歌えますか。」本文訳 ポイント 1. 助動詞“可以” “会” “能” 2. 動詞“喜歡” 3. 前置詞“給”	
	この回の 到達目標	第9課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
8	第9課 中間のまとめ		第9課 「中国の歌が歌えますか。」 トレーニング、リスニング 第6課～9課のまとめ（授業内中間筆記試験）	
	この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第9課の総復習		30分
9	第10課		第10課 「長城に行ったことがありますか。」本文訳 ポイント 1. 時刻の言い方 2. 経験を表わす“過” 3. 動作の回数を表わす言い方 4. 方向補語	
	この回の 到達目標	第10課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
10	第10課		第10課 「長城に行ったことがありますか。」 トレーニング、リスニング	
	この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第10課の総復習		30分
11	第11課		第11課 「お腹をこわしました。」本文訳 ポイント 1. 主述述語文 2. “有点儿” 3. “是～的” 4. 比較の表現	
	この回の 到達目標	第11課の文法や発音の習得ができる。		
	事前学修	文法の予習		30分
	事後学修	文法の復習と単語の暗記		30分
12	第11課		第11課 「お腹をこわしました。」本文訳 トレーニング、リスニング	
	この回の 到達目標	会話力とリスニング力が向上できる。		
	事前学修	トレーニング、リスニングの予習		30分
	事後学修	第11課の総復習		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課	第12課 「どのくらいの時間がかかりますか。」本文訳 ポイント 1. 結果補語 2. “从～到…” 3. 二つの目的語をもつ動詞 トレーニング・リスニング	
	この回の到達目標	第12課の文法や発音の習得ができる。 会話力とリスニング力が向上できる。	
	事前学修	文法とトレーニングリスニングの予習	30分
	事後学修	第12課の総復習	30分
14	中間のまとめ	第6課～12課のまとめ（授業内期末筆記試験）	
	この回の到達目標	これまでの学習内容の復習で、問題点が確認できる。	
	事前学修	第6課～12課の復習をし、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	問題点を確認し、理解する。	30分
15	後期のまとめ	①フィードバック・質疑応答（試験問題について解説する） ②会話テストか書き取りを行う。	
	この回の到達目標	フィードバック・質疑応答によって、理解を深める。	
	事前学修	後期学習の内容を確認し、問題点をノートにまとめておく。	30分
	事後学修	フィードバックを踏まえ、今後の学習計画を立てる。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。履修者40名に限定します。

【授業方法】
指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの添削

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
大学生会話 中国語基礎	汪鴻祥 主編	白帝社	2021年度3月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業中に質問を受け付ける。授業時間：火曜 1・2 限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	復習と説明	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 後期授業計画の説明 夏休みの報告	
	この回の到達目標	前期授業の復習と後期授業の説明を行う 夏休みの報告を行う	
	事前学修	夏休み報告発表の準備	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
2	会話編	第8課：「学」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第8課：「学」を習得する	
	事前学修	第8課：「学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
3	会話編	第9課：「广交朋友」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第9課：「广交朋友」	
	事前学修	第9課：「广交朋友」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
4	会話編	第10課：「周末活」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第10課：「周末活」を習得する	
	事前学修	第10課：「周末活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
5	会話編	第11課：「超市物」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第11課：「超市物」を習得する	
	事前学修	第11課：「超市物」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
6	会話編	第12課：「季化」 文法、会話、練習	
	この回の到達目標	第12課：「季化」	
	事前学修	第12課：「季化」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	会話編		第13課：「上学交通」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第13課：「上学交通」を習得する	
	事前学修	第13課：「上学交通」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
8	会話編		第14課：「外活」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第14課：「外活」	
	事前学修	第14課：「外活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
9	会話編		第15課：「暑假旅游」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第15課：「暑假旅游」	
	事前学修	第15課：「暑假旅游」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
10	会話編		第16課：「校活」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第16課：「校活」を習得する	
	事前学修	第16課：「校活」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
11	会話編		第17課：「出国留学」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第17課：「出国留学」を習得する	
	事前学修	第17課：「出国留学」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分
12	会話編		第18課：「健康食」 文法、会話、練習
	この回の到達目標	第18課：「健康食」を習得する	
	事前学修	第18課：「健康食」の予習	60分
	事後学修	授業内容の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	発表		期末発表会
	この回の到達目標	レポートを提出し、発表を行う	
	事前学修	期末発表会の準備	120分
	事後学修	発表会内容の復習（30分）	120分
14	復習		期末総合復習 第8課～18課
	この回の到達目標	期末総合復習を行う	
	事前学修	期末総合復習	120分
	事後学修	授業内容の復習	120分
15	総括と試験		期末試験及び振り返り、まとめ
	この回の到達目標	後期の総括と授業内期末試験を行う	
	事前学修	期末試験の準備	120分
	事後学修	後期授業内容の復習（30分）	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-1)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司	駿河台出版	2016 2・1 改訂版	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
helebuwei128@sina.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第八課		「経験」を表わす「 介詞（3） 「存在」を表わす「有」
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
2	第九課		「動作の進行」を表わす「在」と「呢」 主述述語文 助動詞（2）「会」
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
3	第十課		様態補語 助動詞（3）「能」「可以」 動詞の重ね型
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
4	第十一課		「比較」を表わす「比」 副詞「有点儿」
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
5	第十二課		名詞述語文 「変化」を表わす「了」 「是～的」の文 二つ目的語をとる動詞
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
6	第十三課		結果補語 存現文 「近い未来」を表わす「快～了」
	この回の到達目標	文法点を理解する 単語と本文覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第十四課		方法補語 「使役」を表わす「」
	この回の到達目標	中国語に対して興味を持続できるように	
	事前学修	感想文を書く	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
8	第十五課		可能補語 「受け身」を表わす「被」 「把」の文
	この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
	事前学修	準四級の挨拶文を読む	30分
	事後学修	単語を覚える、会話文を暗唱、講読文を読む	30分
9	中国語検定試験の勉強		四級リスニング
	この回の到達目標	リスニング問題で耳を鍛える	
	事前学修	準四級の挨拶文を読む	30分
	事後学修	準四級単語を覚える	30分
10	中国語検定試験の勉強		四級筆記問題ドリル
	この回の到達目標	文法事項の確認	
	事前学修	文法の復習	30分
	事後学修	ドリル問題の復習	30分
11	中国語検定試験の仮試験 まとめ		模擬試験問題で合格力を確認する
	この回の到達目標	単語や文法などを復習	
	事前学修	単語、文法の復習	30分
	事後学修	ドリル問題の復習	30分
12	中国語会話の練習		初対面で、生活について、学習について、家族についてなど
	この回の到達目標	中国語でいろいろなことを話そう、興味深く学べるように	
	事前学修	会話のテーマに関連単語、表現を復習	30分
	事後学修	会話文を繰り返す暗唱	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	総復習 1		リスニング
	この回の到達目標	リスニングの聴く力をつける	
	事前学修	あいさつ語の復習	30分
	事後学修	問題を繰り返し復習	30分
14	総復習 2		文法のまとめ
	この回の到達目標	試験のための総復習	
	事前学修	文法項目を復習	30分
	事後学修	文章を書きながら覚えましょう	30分
15	試験 まとめ		まとめ・後期試験
	この回の到達目標	後期の学習の成果を試験で発揮する	
	事前学修	テスト勉強	60分
	事後学修	後期の総復習	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（I）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（I）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力							
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力							
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力							
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる										1			
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる											1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる											1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加算点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜2限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文学教員、1984年北京語言大学中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究、文学博士。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第四課①回目。前期復習問題。第四課概要。本文練習。「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。本文について会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	前期復習問題。第四課「我家有五口人」。①第四課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。④本文について会話練習。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
	この回の到達目標	「有」構文、存現文(1)、不定数の使い方を把握する。疑問文(1) - (4)を使って簡単会話する。	
	事前学修	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。	30分
	事後学修	復習。第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
2	第四課②回目。復習。中国の通貨—人民元。番号と金額。疑問文(5) - (6)。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	第四課 ①復習問題。②中国の通貨—人民元。番号と金額。③四声練習。音の識別。疑問文(5) - (6)。④会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	番号と金額、疑問文(5) - (6)を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第四課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
3	第四課③回目。復習。第四課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第四課 ①復習問題。第四課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	第四課①-③回授業要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第四課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く（簡体字、ピンイン、日本語訳）。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』。	30分
4	第五課①回目。復習。本文練習。自動詞と他動詞。目的語・二重目的語。二つの「了」。連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文をチェック。本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第四課復習問題。第五課「今天休息」。①第五課概要。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③自動詞と他動詞。目的語・二重目的語。二つの「了」。連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文をチェック。④本文について会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』成績表コピーを提出する。	
	この回の到達目標	自動詞と他動詞、目的語・二重目的語、二つの「了」、連動文・兼語文、使役・受身文を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第四課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。第五課の単語表を声出して読む。第五課の単語表と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』を完成し、成績表コピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要領をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。	30分
5	第五課②回目。復習。方向補語・数量補語。曜日・週と年・月・日。会話練習。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。②曜日・週と年・月・日。③方向補語・数量補語。④四声練習。音の識別。会話練習(1) - (4)。置換え会話(1) - (3)。⑤本文の聞き取り・書き取りテスト。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
	この回の到達目標	方向補語・数量補語、曜日・週と年・月・日を把握する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第五課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要領をチェック。	30分
	事後学修	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12		第七課 ①復習問題。第七課①-③回授業要点をチェック。②句切・標峰重音を注意しながら朗読短文1、2を練習。③置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。会話2. (4) - (6)。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	第七課①-③回授業要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら朗読短文を練習する。疑問文(1) - (6)を使って簡単会話する。	
	事前学修	第七課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1、2。短文を書く(簡体字、ピンイン、日本語訳)。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第七課』。	30分
13		第四課～第七課復習。要点をチェック。第四課～第七課朗読短文復習。(口頭試験の朗読短文を選択)。	
	この回の到達目標	第七課①復習問題。②第四課～第七課復習。③第四課～第七課朗読短文復習。(口頭試験の朗読短文を選択)。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第七課』成績表コピーを提出する。	
	事前学修	第四課～第七課復習。第四課～第七課朗読短文復習。	
	事後学修	第七課会話1. (1) - (3)、会話2. (4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集 (I) 第七課』を完成し、成績表コピーを用意する。	30分
14		第四課～第七課復習。第四課～第七課朗読短文復習。要点をチェック。	30分
	この回の到達目標	(授業内)テスト(リスニング、筆記)。	
	事前学修	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。	
	事後学修	朗読短文を書いて(簡体字、ピンイン、日本語訳)、声出して読む。	30分
15		中国語朗読短文発表会(口頭試験)。	
	この回の到達目標	中国語朗読短文発表会(口頭試験)。朗読短文(簡体字、ピンイン、日本語訳)を提出。	
	事前学修	中国語朗読短文発表会(口頭試験)及びまとめ、振り返り。	
	事後学修	朗読短文を声出して読む。	30分
		これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
3分の2以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること. 授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。

【授業方法】
発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問にの答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	スマートフォンの翻訳アプリを使い、毎回授業終わる前10分間を用意して、質問と中国語の自由表現の時間にします。自分のことと興味が持つこと中国語で話して練習します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メール提出：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681／Wechat::koku811

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国語を知ろう』	斉藤 道彦等共著	神保社	平成30年度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問、相談は授業終わる10分前のところ。メール相談：ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp／LINE:08032718681

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 飛鳥文化出版－国際関係と国際文化交流。東方知恵の氣功修行と生命科学の研究。
実務経験に基づく実践的教育の内容		LINEとWechat国際交流コラムを通じて学生に関連記事を共有して、国際時事と中国の最新事情を紹介する。 LINE:08032718681／Wechat::koku811

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	中国の文化事情	中国伝統文化、最新時事、裏事情の紹介 関連記事のプリント資料を配る 写真と動画をみる 感想文を書いて提出す	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
	事後学修	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間30時間（※講義1回あたりに必要な時間）	30分
2	第7課 你老家在那儿？	実家はどこにありますか？ 疑問詞場所を聞き方と方向補語を学習す 場所を聞く、どこですか・どこにありますか	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
3	第8課 你几点起床？	何時に起きますか？ 時刻の言い方を習う	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
4	応用練習	グループで会話練習を確認させて評価します	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
5	第9課 中国正在流行什么？	中国いま流行っていますのが何ですか？ ～しているの進行形を学習する	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
6	第10課 你会包子？	君は餃子を作ることが出来ますか？ 助動詞～出来るなどの使い方を理解する ～が出来る 餃子を作る	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	応用練習		会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい	30分
8	第11課 中国比日本大多少？		中国は日本よりどのぐらい大きいですか？ 比較表現を習う
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
9	第12課 北京烤多少？		北京ダックはおいいくらですか？ 買い物の表現を習得する
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
10	応用練習		会話応答練習と作文練習
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます	30分
	事後学修	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 作文： 先生から訂正されたところを確認して理解しなさい	30分
11	第13課 中国人喜什么运？		中国人はどんなスポーツが好きですか？ どんな、好きなどの動詞、接続詞の使い方を学習する 宿題：文化事情のレポートを書く 配ったプリントの記事を読んで、感想と見解をレポート書いて提出下さい
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
12	第14課 怎做才会不失礼？		どうやって失礼なことをならないですか。 使役補表現を習う 中国の習慣とマナを知る
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第15課 真会被款？	本当に罰金されますか 受身表現を習う	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい	30分
	事後学修	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい	30分
14	総復習	復習と総合練習	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください	30分
15	授業内テスト まとめ	テスト要領：発音、語彙、文法、会話表現、翻訳の学習能力を	
	この回の到達目標	A-2 A-5 A-6 ①、②、③、④をできるように学習します。	
	事前学修	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。	30分
	事後学修	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	劉 力	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	各課の文法のポイントの例文と本文を日本語に正確に訳しているかどうかを授業内で確認します。各課の練習問題の答え合わせを授業内でします。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験問題の回答はポータルシステムで公開する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本から学ぶ中国語	劉力	株式会社天々	2020年		必携
備考					

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：月曜３・４・５限 qqky376n@tuba.ocn.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第7課P47～50	第7課 私たちはもう20になった 語句、ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
	この回の到達目標	第7課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第7課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第7課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	30分
2	第7課P50～P52の内容	第7課の本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
	この回の到達目標	第7課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第7課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第7課本文・ポイントの例文の意味・漢字・ポイントを覚える。	30分
3	第8課P53～P56の内容	第8課 私は今中国語の勉強が非常に好きです。 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
	この回の到達目標	第8課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第8課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第8課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	30分
4	第8課P56～P15の内容	第8課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
	この回の到達目標	第8課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第1課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第8課本文・ポイントの例文の意味・漢字・ポイントを覚える。	30分
5	第9課P59～P62の内容	第9課 桃は母が実家から送ってきたものです 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。	
	この回の到達目標	第9課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第2課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第9課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習する。	30分
6	第9課P63～P64の内容	第9課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。	
	この回の到達目標	第9課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第9課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第9課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第10課P65～P68の内容		第3課 彼女は一人で日本にいる 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
	この回の到達目標	第10課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第10課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第10課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
8	第10課P68～P70の内容		第10課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする。
	この回の到達目標	第10課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第10課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第10課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
9	第11課P71～P73の内容		第11課 小石川後樂園 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
	この回の到達目標	第11課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第11課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第11課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
10	第11課P74～P76の内容		第11課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする
	この回の到達目標	第11課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第11課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える	30分
11	第12課P77～P79の内容		第12課 外は雪が降っている 語句・ポイントの例文の発音を練習し、その理解度を確認する。
	この回の到達目標	第12課の語句・ポイントの例文を流暢に発音することができ、中国語を正確に日本語に訳せる。	
	事前学修	音声ファイルを聞いて第12課の語句・ポイントの例文の発音を練習し、中国語を日本語に訳す。	30分
	事後学修	第12課の語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
12	第12課P80～P81の内容		第12課本文の発音を練習し、本文の理解度を確認し、練習問題の答え合わせをする
	この回の到達目標	第12課本文を流暢に発音することができ、正確に日本語に訳せる。また練習問題を通じて中国語の語彙と文法を理解することができる。	
	事前学修	第12課の本文を日本語に訳し、発音練習をする。練習問題を予習する。	30分
	事後学修	第12課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第7課～第9課の試験	第7課～第9課の試験	
	この回の到達目標	第7課～第9課の内容を覚える。	
	事前学修	繰り返して第7課～第9課語句、例文、本文の漢字と意味を覚える。	30分
	事後学修	第7課～第9課語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
14	第10課～第12課の試験	第10課～第12課の試験	
	この回の到達目標	第10課～第12課の内容を覚える。	
	事前学修	繰り返して第10課～第12課語句、例文、本文の漢字と意味を覚える	30分
	事後学修	第7課～第9課語句・ポイントの例文を見なくても書けるように練習すること。	30分
15	ビデオの鑑賞	ビデオの鑑賞後、教員に中国語に関する質問をする。	
	この回の到達目標	習った内容を理解し、覚える。	
	事前学修	習った中国語はきちんと理解できているかどうかを確認する。	30分
	事後学修	習った中国語はきちんと復習する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	周 聖來	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
基礎的な中国語コミュニケーション能力の習得（A1-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身近な挨拶や自分の周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語や中華文化に興味を持つ者を対象とします。教科書必携で、3分の2以上の出席は必要。

【授業方法】
教科書に沿って、中国語を発音させ、正しい発音に矯正の上、楽しく中国語会話の練習を行います。 小テストや口頭発表などを合わせて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中にグループで会話練習する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて決まった言い回しを用いて話すことができる									1		
②	日常的でごく身近なテーマについて、ゆっくりと話していることを理解することができる									1		
③	基本的な事柄について、中国語圏の文化に即した適切なリアクションを交えインターアクティブな会話ができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
半声が導入された「中国語耳留学」	陳洲举、于曉飛、劉 渴氷	同学社	2020年4 月	教科書	必携
備考	授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
質問、相談は授業終わる10分前のところ、或はメールによる相談：alexshuo@outlook.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	自己紹介とガイダンス・導入講義	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明 成績評価の方法	
	この回の到達目標	各自の自己紹介をし、授業の進み方、学習方法と成績評価を理解する。	
	事前学修	シラバスを読むことと自己紹介の準備	60分
	事後学修	前期勉強したことを復習	60分
2	全般復習（第1課～第10課）	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習	
	この回の到達目標	第1課～第10課までの会話を復習し、会話できることを確認する。	
	事前学修	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。	60分
	事後学修	MP3音声聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。	60分
3	第11課 職業	第11課の会話文を解釈する ポイント：職業についての表現	
	この回の到達目標	職業の表現を理解し、簡単な応用をできるようにする。	
	事前学修	MP3音声聞き、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	MP3音声聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
4	第12課 行為（已然）	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的	
	この回の到達目標	動作の時間、場所、方式、行為者等の表現（是・・・的）を理解し、使用できるようにする。	
	事前学修	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分
5	第13課 買い物	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：買い物するときの表現動態	
	この回の到達目標	買物の表現をできるようにする。	
	事前学修	第13課の単語を暗記する；MP3音声について本文の会話を練習する。	60分
	事後学修	MP3音声聞き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。	60分
6	第14課 行為（体験）	会話小テスト 第14課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語	
	この回の到達目標	「～したことがある」表現と時間補語の用法を理解し、会話できるようにする。	
	事前学修	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	第15課 趣味	会話小テスト 第15課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む	
	この回の到達目標	「～をするのが好きである；～することを好む」の表現をできるようにする。	
	事前学修	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
8	第16課 行為（進行）	筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現	
	この回の到達目標	動作の進行中と持続表現をできるようにする。	
	事前学修	MP3音声聞き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
9	第17課 比較	会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：比較表現	
	この回の到達目標	比較表現をできるようにする。	
	事前学修	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
10	第18課 行為（結果）	会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：動作の結果	
	この回の到達目標	動作の結果を表現できるようにする。	
	事前学修	MP3音声聞き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
11	第19課 可能	筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：可能を表す表現	
	この回の到達目標	可能を表す表現をできるようにする。	
	事前学修	MP3音声聞き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
12	第20課 能力	会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現	
	この回の到達目標	能力についての表現ができるようにする。	
	事前学修	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第21課 禁止	会話小テスト 第21課の会話文を解釈 ポイント：禁止についての表現	
	この回の到達目標	禁止の表現を理解し、簡単な応用をできるようにする。	
	事前学修	MP3音声聞き、第21課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。	60分
	事後学修	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。	60分
14	復習及び口頭試験	期末試験の復習 口頭発表	
	この回の到達目標	口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	今まで勉強した内容をまとめ、口頭発表の準備を行う。	60分
	事後学修	全般復習。	60分
15	後期授業の総括・期末試験	期末総括筆記試験	
	この回の到達目標	後期授業を総括し、授業内試験を行う。	
	事前学修	試験の準備。	60分
	事後学修	感想文を書く。	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人（または同等以上の中国語語学力を有する人）

【授業方法】
テキストに沿って、ヒアリングと会話に慣れるトレーニングを中心にして授業を進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 中国語さらなる一歩	尹景春他	白水社	2020年3月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜２・３・４限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本講義の授業計画・内容についての説明	
	この回の到達目標	本講義の授業計画・内容について理解してもらう。	
	事前学修	講義に関する要望などを考えておく。	30分
	事後学修	1年目に習った中国語の単語を復習する。	30分
2	既習した内容の復習	中国語の発音を復習する。	
	この回の到達目標	正しい発音を身につける。	
	事前学修	テキストの用意。ひと通り目を通しておく。	30分
	事後学修	大きな声で発音の練習をする。	30分
3	既習した基礎文法の復習	中国語の基本的表現や構文を復習する。	
	この回の到達目標	これまでに習った文法や表現を復習して覚える。	
	事前学修	1年目に習った内容を復習する。	30分
	事後学修	既習した前置詞、疑問詞、助動詞などを復習する。	30分
4	第1課 中国に行こう	主述述語文 助動詞「可以」「要」	
	この回の到達目標	主述述語文、助動詞「可以」「要」の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第1課の単語を予習する。	30分
	事後学修	形容詞文の構文を復習して覚える。	30分
5	第1課のトレーニング	第1課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第1課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第1課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
6	第2課 ウーロン茶を飲もう	「原因・理由」を表わす「因」	
	この回の到達目標	「原因・理由」を表わす「因」の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第2課の単語を予習する。	30分
	事後学修	本文を復習して、因果関係の表現を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2課のトレーニング	第2課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第2課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第2課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
8	第3課 友だちをつくろう	連動文の構文	
	この回の到達目標	連動文の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第3課の単語を予習する。	30分
	事後学修	本文を復習して、連動文の構文を覚える。	30分
9	第3課のトレーニング	第3課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第3課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第3課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
10	第4課 長城に登ろう	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の使い方	
	この回の到達目標	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第4課の単語を予習する。（30分）	30分
	事後学修	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の違いをまとめてみる。	30分
11	第4課のトレーニング	第4課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第4課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第4課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
12	第5課 漢字を覚えよう	結果補語	
	この回の到達目標	結果補語の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第5課の単語を予習する。	30分
	事後学修	結果補語の構文を復習して覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5課のトレーニング	トレーニング5の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第5課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第5課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
14	総合復習	前期に習った言葉や表現を復習する。	
	この回の到達目標	既習した言葉や表現を復習して覚える。	
	事前学修	これまでに習ったことを復習する。	30分
	事後学修	これまでに習った語彙と表現を覚える。	30分
15	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
	この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
	事前学修	前期に習った言葉や表現をじっくり復習して覚える。	30分
	事後学修	中国語の勉強について総括する。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級、2級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文学教師員、1984年北京語言大学中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究、文学博士。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第一課①回目。授業概要。単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課概要。本文練習。助動詞。ちょっとした表現。自己紹介。会話練習。	授業概要。単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課「紹介」。①第一課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文(一)を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③助動詞。ちょっとした表現。④自分の名前を本文に入り替え、お互いに自己紹介。会話練習。	
	この回の到達目標	授業概要。単会話～日常会話を目標とすること。今までの復習。第一課概要。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。助動詞、ちょっとした表現を把握する。お互いに自己紹介。会話練習。	
	事前学修	筆記と書き取り練習用ノート（1）を用意する。シラバスに目を通しておく。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第一課本文（一）と自己紹介を声出して読む。本文の要点をチェック。	30分
2	第一課②回目。復習。本文練習。要点をチェック。「是……的」構文。能願動詞。動詞・形容詞の重ね型。ちょっとした表現を比較。副詞用法比較。三つの「de」復習。六種類の疑問詞復習。六種類の疑問文復習。	第一課 ①復習問題。②句切・標峰重音を注意しながら本文（二）を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③「是……的」構文。能願動詞。動詞・形容詞の重ね型。ちょっとした表現を比較。副詞用法比較。文の種類復習。三つの「de」復習。六種類の疑問詞復習。六種類の疑問文復習。本文について会話練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	「是……的」構文、形容詞の重ね型、動詞の重ね型、ちょっとした表現、六種類の疑問詞などを把握する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第一課本文（一）と自己紹介を声出して読む。本文の要点をチェック。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら本文（二）を声出して読む。本文（二）と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。	30分
3	第一課③回目。復習。能願動詞の分類。置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第一課 ①復習問題。能願動詞の分類。補語復習。②置換え会話(1) - (3)。会話1. (1) - (3)。③練習問題1、2。語順と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	能願動詞の分類とそれぞれの使い方を把握する。語順と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第一課本文（二）を声出して読む。要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音要領をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。	30分
4	第一課④回目。復習。第一課①-④回授業要点をチェック。置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。練習問題3、4。聴力と作文練習。	第一課 ①復習問題。第一課①-④回授業要点をチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話2. (4) - (6)。③練習問題3、4。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	第一課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第一課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題3、4を完成。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音要領をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3、4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。	30分
5	第二課①回目。復習。第二課概要。本文練習。要点をチェック。語気助詞用法比較。単文と複文。接続詞。本文について会話練習。	第一課復習問題。第二課「吃飯」。①第二課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。要点をチェック。③語気助詞用法比較。単文と複文。接続詞。連動文復習。補語復習。④本文について会話練習。『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』成績表コピーを提出する。	
	この回の到達目標	接続詞、語気助詞用法を把握する。単文と複文を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
	事前学修	第一課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。	30分
6	第二課②回目。復習。本文練習。動詞のアスペクト。補語復習。助詞復習。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第二課 ①復習問題。②動詞のアスペクト。補語復習。助詞復習。③句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を朗読。要点をチェック。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	動詞のアスペクトを把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第二課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第二課③回目。復習。動詞のアスペクトをチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。動詞のアスペクトをチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	動詞のアスペクトを把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第二課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ) 第二課』。	30分
8	第二課④回目。復習。第二課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課 ①復習問題。第二課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	第二課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第二課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ) 第二課』。	30分
9	第三課①回目。復習。第三課概要。本文練習。要点をチェック。比較文の分類。本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。	第二課復習問題。第三課「朋友」。①第三課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③比較文の分類。④本文について会話練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ) 第二課』成績表コピーを提出する。	
	この回の到達目標	比較文を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
	事前学修	第二課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅰ) 第二課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ) 第三課』。	30分
10	第三課②回目。復習。本文練習。四種類比較方式用法をチェック。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第三課 ①復習問題。②本文を読む。四種類比較方式用法をチェック。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
	この回の到達目標	四種類比較方式用法を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ) 第三課』。	30分
11	第三課③回目。復習。四種類比較方式用法をチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第三課 ①復習問題。四種類比較方式用法をチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
	この回の到達目標	四種類比較方式用法を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第三課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ) 第三課』。	30分
12	第三課④回目。復習。第三課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第三課①復習問題。第三課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	第三課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第三課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ) 第三課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13		復習。第一課～第三課復習、要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文朗読。	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習、要点をチェック。③句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第三課』成績表コピーを提出する。
	この回の到達目標	第一課～第三課要点を把握する。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を朗読する。	
	事前学修	第三課会話2.(4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
	事後学修	第一課～第三課復習、要点をチェック。第一課～第三課本文を書く（簡体字、ピンイン、日本語訳）。句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
14		(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。
	この回の到達目標	(授業内)テスト（リスニング、筆記）及びまとめ、振返り。	
	事前学修	第一課～第三課復習、要点をチェック。	30分
	事後学修	句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
15		中国語朗読発表会（口頭試験）。	中国語朗読発表会（口頭試験）。第一課～第三課本文（簡体字、ピンイン、日本語訳）を提出。
	この回の到達目標	中国語朗読発表会（口頭試験）。及びまとめ、振返り。	
	事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第一課～第三課本文を声出して読む。	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力の習得 (A1-2)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
既に一年間以上の中国語学習経験を有する人

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	16	15	15								46
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③が身につけているかを確認する	9	9	9								27
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	9	9	9								27
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		34	33	33								100

【課題に対するフィードバックの方法】
helebuwei128@sina.com

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
二年生のコミュニケーション中国語	塚本慶一	白水社	2017. 9. 30	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
helebuwei128@sina.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など	
	この回の到達目標	講義計画、成績評価の方法、授業方法を理解する	
	事前学修	教科書とシラバスに目を通してください	30分
	事後学修	一年間学んだ基本的な単語と表現を復習する	30分
2	発音の総復習	発音のまとめ	
	この回の到達目標	ピンインを用い、発音を集中的に復習	
	事前学修	母音、子音を復習	30分
	事後学修	発音の練習	30分
3	挨拶語のまとめ	知って便利な言葉を覚える	
	この回の到達目標	よく使え挨拶語を話せる	
	事前学修	一年間学んだ挨拶語を練習する	30分
	事後学修	学んだ言葉を復習	30分
4	第一課	連動文 「因～所以」 動詞句主語 数+「多」	
	この回の到達目標	文法ポイントを理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
5	第一課	第一課の小テスト	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
6	第二課	疑問詞「怎么」 動詞+了+動詞 「就～了」 反復疑問文	
	この回の到達目標	文法ポイントを理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第二課	第二課小テスト	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
8	第三課	動詞＋一点儿 比較の表現	
	この回の到達目標	文法ポイントを理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
9	第三課	第三課小テスト	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
10	第四課	名詞修飾語 副詞「別」 結果補語	
	この回の到達目標	文法ポイントを理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
11	第四課	第四課小テスト	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
12	第五課	様態補語 二つの「了」	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第五課		第五課小テスト
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
14	テスト勉強		前期学んだ内容をすべて復習する
	この回の到達目標	第五課までの単語と本文暗記する	
	事前学修	教科書の内容を復習する	30分
	事後学修	練習問題を復習	30分
15	まとめ・前期テスト		まとめ・前期期末試験
	この回の到達目標	前期学んだ内容を復習する	
	事前学修	前期学んだ内容を復習する	30分
	事後学修	テスト問題を復習する	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	徐 前	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
既に1年間以上の中国語学習経験を有する人（または同等以上の中国語語学力を有する人）

【授業方法】
テキストに沿って、ヒアリングと会話に慣れるトレーニングを中心にして授業を進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 中国語さらなる一歩	尹景春他	白水社	2020年3月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。授業時間：木曜2・3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第6課 街を歩こう	存現文の使い方	
	この回の到達目標	存現文の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第6課の単語を予習する。	30分
	事後学修	存現文の構文を復習して覚える。	30分
2	第6課のトレーニング	第6課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第6課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第6課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
3	第7課 中国映画を見よう	状態持続の表現	
	この回の到達目標	状態持続の表現を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第7課の単語を予習する。	30分
	事後学修	持続状態の表現を用いて作文する。	30分
4	第7課のトレーニング	第7課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第7課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第7課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
5	第8課 シルクを買おう	方向補語の構文	
	この回の到達目標	方向補語の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第8課の単語を予習する。	30分
	事後学修	方向補語の構文を復習して覚える。	30分
6	第8課のトレーニング	第8課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第8課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第8課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第9課 中華を食べよう	可能補語の構文	
	この回の到達目標	可能補語の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第9課の単語を予習する。	30分
	事後学修	可能補語の構文を復習して覚える。	30分
8	第9課のトレーニング	第9課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第9課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第9課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
9	第10課 太極拳を習おう	「了」などの表現	
	この回の到達目標	「了」などの表現を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第10課の単語を予習する。	30分
	事後学修	「了」を用いて作文する。	30分
10	第10課のトレーニング	第10課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第10課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第10課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
11	第11課 「水」を楽しもう	結果補語（2）の構文	
	この回の到達目標	結果補語（2）の構文を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第11課の単語を予習する。	30分
	事後学修	結果補語の構文を復習して覚える。	30分
12	第11課のトレーニング	第11課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第11課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第11課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第12課 春節を過ごそう	前置詞「把」の使い方	
	この回の到達目標	前置詞「把」の使い方を理解し、説明することができる。	
	事前学修	第12課の単語を予習する。	30分
	事後学修	中国の春節について調べる。	30分
14	第12課のトレーニング	第12課の練習問題を解く。	
	この回の到達目標	第12課で習った言葉や表現を用いて活用することができる。	
	事前学修	前回の授業で習った会話文を朗読する。	30分
	事後学修	第12課の本文の内容に基づく会話の練習をする。	30分
15	到達度のチェック	期末テスト、振り返り	
	この回の到達目標	到達度のチェックをする。	
	事前学修	既習した言葉や表現をじっくり復習して覚える。	30分
	事後学修	中国語の勉強についての感想をまとめる。	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFR A1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	HSK漢語検定受験指導：前期⑦～⑪回目、後期③～⑥回目『HSK漢語検定1級、2級過去問題』を使って、聴力、読解、作文などの練習をし、受験指導を行う。 電子教材『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』を宿題として使い、学生が学んだ基本的な知識を統合できるようにする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる										2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる										2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身についているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
出席状況や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)』成績(50%)、前後期末テスト成績(50%)によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。				

【オフィスアワー】
本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	1971年より中国言語文学教員、1984年北京語言大学中国言語文化専任、2001年本学非常勤。
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国言語文化基礎教育。中国言語学基礎理論研究、文学博士。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第四課①回目。復習。第四課概要。本文練習。要点をチェック。常用介詞の分類。本文について会話練習。	前期復習問題。第四課「聊天」。①第四課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③常用介詞の分類。④本文について会話練習。	
	この回の到達目標	常用介詞の分類と用法をチェック。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
	事前学修	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
2	第四課②回目。復習。本文練習。常用副詞の分類。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第四課 ①復習問題。②本文を読む。常用介詞の分類をチェック。常用副詞の分類。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	常用介詞・副詞の分類と用法をチェック。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
3	第四課③回目。復習。常用介詞・副詞の分類とチェック。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	第四課 ①復習問題。常用介詞・副詞の分類とチェック。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	常用介詞・副詞の分類と用法を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
4	第四課④回目。復習。第四課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	第四課①復習問題。第四課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力練習。	
	この回の到達目標	第四課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第四課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。	30分
5	第五課①回目。復習。第五課概要。本文練習。要点をチェック。特殊動詞述語文。「是……的」構文(1)、(2)。存現文の分類。本文について会話練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第四課復習問題。第五課「客人」。①第五課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③特殊動詞述語文。「是……的」構文(1)、(2)。存現文の分類。④本文について会話練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』成績表コピーを提出する。	
	この回の到達目標	「是……的」構文(1)、(2)と存現文の分類を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
	事前学修	第四課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第五課の単語表を声出して読む。第五課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。	30分
6	第五課②回目。復習。本文練習。特殊動詞述語文。「把」構文。使役文と兼語文。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	第五課 ①復習問題。②本文を読む。特殊動詞述語文。「把」構文。使役文と兼語文。本文について会話練習。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。『HSK漢語検定1、2級過去問題』を使って聴力、読解、作文練習。	
	この回の到達目標	「把」構文、使役文と兼語文を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第五課③回目。復習。特殊動詞述語文。「被」構文と受身文。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。	第五課 ①復習問題。「被」構文と受身文。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	「被」構文と受身文を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第五課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第五課』。	30分
8	第五課④回目。復習。第五課①-④回授業要点をチェック。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第五課 ①復習問題。第五課①-④回授業要点をチェック。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	第五課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第五課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第五課』。	30分
9	第六課①回目。復習。第六課概要。本文練習。要点をチェック。常用複文1-6。本文について会話練習。	第五課復習問題。第六課「旅行」。①第六課概要。②単語表、句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読、日本語に訳す。本文の要点をチェック。③常用複文の分類。常用複文1-6。④本文について会話練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第五課』成績表コピーを提出する。	
	この回の到達目標	常用複文1-6を把握する。句切・標峰重音を注意しながら本文を朗読する。本文について六種類の疑問文を使って会話練習する。	
	事前学修	第五課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。第六課の単語表を声出して読む。第六課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第五課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』。	30分
10	第六課②回目。復習。本文練習。常用複文7-13。本文について会話練習。置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。	第六課 ①復習問題。②本文を読む。常用複文7-13。③置換え会話(1) - (3)。練習問題1、2。語順と作文練習。④本文の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	常用複文7-13を把握する。語順と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	句切・標峰重音を注意しながら第六課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題1、2を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら第四課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題1、2を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』。	30分
11	第六課③回目。復習。句読点と文章記号。置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。練習問題3。聴力と作文練習。	第六課 ①復習問題。句読点と文章記号。②置換え会話(4) - (6)。会話1. (1) - (3)。③練習問題3。聴力と作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	句読点と文章記号を把握する。聴力と作文練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第六課本文を声出して読む。本文の要点をチェック。練習問題3を完成。	30分
	事後学修	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話1. (1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題3を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第五課』。	30分
12	第六課④回目。復習。第六課①-④回授業要点をチェック。中国の行政区。会話2. (4) - (6)。練習問題4。作文練習。	第六課 ①復習問題。第六課①-④回授業要点をチェック。中国の行政区。②会話2. (4) - (6)。③練習問題4。作文練習。④会話の聞き取り・書き取りテスト。	
	この回の到達目標	第六課①-④回授業要点を把握する。聴力と作文を練習する。六種類の疑問文を使って会話する。	
	事前学修	第六課会話1. (1) - (3)を声出して読む。会話文の要点をチェック。練習問題4を完成。	30分
	事後学修	復習。句切・標峰重音を注意しながら会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話2. (4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら完成した練習問題4を朗読する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第六課』。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第一課～第六課復習、要点をチェック。第一課～第六課復習問題を完成する。中国語作文を完成する。	復習問題。①第一課～第六課復習、要点をチェック。②第一課～第六課復習問題を完成する。③中国語作文（簡体字、ピンイン、日本語訳）を完成する。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』成績表コピーを提出する。	
	この回の到達目標	第一課～第六課復習、要点を把握する。第一課～第六課復習問題を完成する。中国語作文を完成する。	
	事前学修	第六課会話2. (4) - (6)を声出して読む。会話文の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』完成し、成績表コピーを用意する。	30分
	事後学修	第一課～第六課復習、要点をチェック。句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
14	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。	
	この回の到達目標	(授業内)テスト（リスニング、筆記）及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	第一課～第六課復習、要点をチェック。	30分
	事後学修	句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
15	中国語作文発表会（口頭試験）。	中国語作文発表会（口頭試験）。中国語作文（簡体字、ピンイン、日本語訳）を提出。	
	この回の到達目標	中国語作文発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。	
	事前学修	句切・標峰重音を注意しながら中国語作文を声出して読む。	30分
	事後学修	これまでの復習を行っておくこと。（30分）	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	何 秋平	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A1-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分や身近な周りの事柄について中国語で意思疎通をすることができる。 CEFRA1の口述試験に合格するレベルを達成する。

【履修条件】
既に一年間以上の中国語学習経験を有する人

【授業方法】
平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内容に即した題材の課題を課して学生に解かせる	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中国語で身近なテーマについて自律的に文章を作って話すことができる									2		
②	日常的でごく身近なテーマについて話していることを理解することができる									2		
③	日常生活に即したテーマについて、その場に応じた対応をしながらインターアクティブな会話ができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	16	15	15								46
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、④が身につけているかを確認する	9	9	9								27
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	9	9	9								27
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		34	33	33								100

【課題に対するフィードバックの方法】
helebuwei128@sina.com

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
二年生のコミュニケーション中国語	塚本慶一	白水社	2017. 9. 30	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
helebuwei128@sina.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第六課		助詞「」 動詞「」 主述述語文
	この回の到達目標	文法のポイントを理解する	
	事前学修	教科書に目を通してください	30分
	事後学修	学んだ内容を復習する	30分
2	第六課		第六課小テスト
	この回の到達目標	学んだ単語と本文を覚える	
	事前学修	学んだ内容を復習する	30分
	事後学修	テスト問題を見直し	30分
3	第七課		動詞「听」 「可～了」 動詞「打算」
	この回の到達目標	文法のポイントを理解する	
	事前学修	教科書に目を通してください	30分
	事後学修	学んだ内容を復習する	30分
4	第八課		方法補語 使訳文 兼語
	この回の到達目標	文法ポイントを理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
5	第八課		第八課の小テスト
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
6	第九課		「如果～的，就～」 前置詞「把」 方向補語「到」
	この回の到達目標	文法ポイントを理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第九課	第九課小テスト	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
8	第十課	「有一點儿」 「一～就」 「一点儿～也」	
	この回の到達目標	文法ポイントを理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
9	第十課	第十課小テスト	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
10	第十一課	助動詞「用」 進行態 「就是」	
	この回の到達目標	文法ポイントを理解する	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
11	第十一課	第十一課小テスト	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
12	第十二課	「就要～了」 変化を表わす「了」 可能補語	
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	第十二課		第十二課小テスト
	この回の到達目標	学んだ単語、会話文を覚える	
	事前学修	教科書の内容を簡単に見ておいてください	30分
	事後学修	教科書の内容を復習する	30分
14	テスト勉強		前期学んだ内容をすべて復習する
	この回の到達目標	第五課までの単語と本文暗記する	
	事前学修	教科書の内容を復習する	30分
	事後学修	練習問題を復習	30分
15	まとめ・後期テスト		まとめ・後期期末試験
	この回の到達目標	後期学んだ内容を復習する	
	事前学修	後期学んだ内容を復習する	30分
	事後学修	テスト問題を復習する	30分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅢA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
初級レベルの中国語コミュニケーション能力を習得（A2-1）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的な様々な場面において中国語で意思疎通をすることができる

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的な様々な場面において自律的に文章を作って話すことができる								3	3		
②	日常的な場面において遭遇する会話を理解することができる								3	3		
③	日常生活の様々な場面において適切な対応をしながらインターアクティブな会話ができる								3	3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス 講義の進め方と教材の説明；発音チェック；自己紹介と挨拶	
	この回の到達目標	講義の進め方と教材を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を把握する；簡単な中国語で自己紹介の準備。	60分
	事後学修	ガイダンスのおさらい。この授業は、目的と目標を達するため、週三時間以上かけて、復習と練習をすることが必要。	60分
2	「動詞+在」	ポイントについて説明：動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・ 本文を解釈と朗読練習 文型/朗読/質疑応答/リスニングなど。	
	この回の到達目標	動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・を理解し、使用できるようにする。	
	事前学修	第1課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	ドリルと小テストも問題解いてくる；本文の粗筋をまとめ暗唱し、暗記した文章を紙に書きとる；ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
3	日中文化の相違点	①日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること ②本文2の質問について応答 ③ドリルの問題を解明する ④ 会話練習	
	この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、中国語で表現できるようにする。	
	事前学修	第1課内容の粗筋を暗唱できること。；本文1を参考に本文2について回答できる；ドリルの問題を解答。	60分
	事後学修	本文の粗筋をまとめ暗唱する。暗記した文章を紙に書きとる。ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
4	比較表見	第2課のポイントの説明：比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了” 本文の解釈と朗読練習	
	この回の到達目標	比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了”を使用できるようにする。	
	事前学修	第2課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	本文の朗読と粗筋を暗唱すること； 本文2の質問について応答；ドリルの問題を解明する。	60分
5	復習と練習	事前学習の内容について、練習と解明	
	この回の到達目標	ここまでの復習と練習をする。	
	事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
	事後学修	文章を音読し暗唱する；暗記した文章を紙に書きとる；暗唱した内容を中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
6	累加関係を表す複文	ポイント：累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現。	
	この回の到達目標	累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現を理解し、作文できるようにする。	
	事前学修	第3課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3課の全般的応用練習		第3課の内容について、全般的応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える：ドリルのチェック。	
	この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、本文の朗読し、作文できるようにする。		
	事前学修	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。		60分
	事後学修	文章を音読し暗唱する、暗記した文章を紙に書きとる。本文の内容について中国語のできる友人たちと会話してみる。		60分
8	前置詞の用法		ポイント：同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べること；前置詞。	
	この回の到達目標	同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べることができるようにする。		
	事前学修	第4課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。		60分
9	第4課の全般的応用練習		第4課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
	この回の到達目標	前置詞の使用法を理解し、作文できるようにする。		
	事前学修	ポイントの表現に基づき、文を作り暗記する。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。		60分
	事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。		60分
10	接続詞と時間推移表現		ポイント：～を主とする；接続詞：意味を更に一つ付加加える表現；程度が時間の推移とともに高まることを表す表現。	
	この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、作文できるようにする。		
	事前学修	第5課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。		60分
	事後学修	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。		60分
11	第5課の全般的応用練習		第5課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
	この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、応用作文できるようにする。		
	事前学修	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。		60分
	事後学修	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。日中文化について作文：テーマ自由（200字）		60分
12	強調する表現		ポイントの説明：～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現；アスペクス❖着る❖；本文の解釈；作文を提出	
	この回の到達目標	～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現を理解し、作文できるようにする。		
	事前学修	第6課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。		60分
	事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	強調構文と比較表現	ポイントについて説明：前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・する；本文の解釈と朗読訓練	
	この回の到達目標	前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・するの表現方法を理解し、作文できるようにする。	
	事前学修	第7課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
	事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
14	復習と期末テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
	この回の到達目標	全般の復習、期末の筆記テストを実施する。	
	事前学修	全面復習： テスト範囲：1課～7課までのポイントの例文 2小テストの問題3，4	60分
	事後学修	今まで勉強したことを復習練習すること。	60分
15	中国語ヒアリング	中国人の生活に反映されている映画を鑑賞	
	この回の到達目標	中国人の生活の会話をどのくらい聞き取ることができるかの能力を判定する。	
	事前学修	中国社会と中国人の生活について、ネットで調べる。	60分
	事後学修	感想文を書く。夏休み宿題：暑假里的一件事（	60分

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅢB	担当者	于 曉飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常的・社会的場面における平易であるがスムーズな中国語コミュニケーションの習得（A2

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常的・社会的場面において基礎的な語彙を用いて中国語で意思疎通をすることができる。CEFRA2の口述試験に合格できるレベル。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日常的、社会的な場面において平易な語彙を用いてスムーズに話すことができる								4	4		
②	日常的、社会的な場面において遭遇する平易な言葉を用いた会話を理解することができる								4	4		
③	日常的、社会的な場面において平易な表現を用いて、適切な対応をしながら普通のテンポでインターアクティブな会話ができる								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する	10	15	15								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
作文や、口頭発表の際に直接指示する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受けメールによる質問受け研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	夏休み宿題	夏休み宿題の口頭発表 講評	
	この回の到達目標	夏休みの宿題を口頭発表できる	
	事前学修	夏休みの作文を完成、発表の準備する。	60分
	事後学修	修正した作文を暗記し、中国語出来る友人に話してみる。	60分
2	断定の口調を強める表現	第8課のポイントについて説明と実際に応用： 断定の口調を強める表現：是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不 本文の解釈と朗読練習。	
	この回の到達目標	本文の解釈とうまく朗読できる	
	事前学修	第8課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	第8課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；日中文化の相違点について友人たちと会話してみること。	60分
3	ドリルのチェック	第8課の内容について話す；ドリルのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答　③ドリルと小テストの問題を解明する。	
	この回の到達目標	本文2の質問についての応答とドリルと小テストの問題を解明できる。	
	事前学修	第8課内容の粗筋を暗記して、授業での発表の準備を行う；本文2の質問について応答。 本文に関連した題材で中国語作文を行う。自作した作文を提出する準備。	60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
4	ポイントを説明	ポイントを説明： ～であり、～でもある：是～也是・・・；受け身文：被　；可能性を推測、判断することを表す：会	
	この回の到達目標	本文の翻訳とうまく読むことができる	
	事前学修	第9課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	第9課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
5	会話練習と朗読の訓練	第9課の本文の熟読；粗筋について話しすること；本文2の質問について応答；ドリル小テストのチェック； 会話練習と朗読の訓練。	
	この回の到達目標	粗筋について話しすることができる	
	事前学修	第9課内容の粗筋を暗記して、授業で発表するの準備を行う；本文2の質問について応答；小テストを完成。	60分
	事後学修	全般的に復習、勉強した知識をすべて自分のものになることは重要である。 作文：テーマ自由（200字）	60分
6	ポイントについて解説	ポイントについて解説： ①～ほど・・・ではない：不像～那・・・；条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈と朗読	
	この回の到達目標	本文の解釈と正しく発音で読める	
	事前学修	第10課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。作文を提出準備	60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ドリルと小テストチェック		第10課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答；作文の問題点について説明。	
	この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱できる		
	事前学修	第10課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。		60分
	事後学修	修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。		60分
8	ポイントについて説明		①ポイントについて説明： まるで～ようだ；好像～似的；ある条件が満たされさえすれば、結果は容易に実現すること；只要～就・・・； 逆接関係を表す。②本文の解説。	
	この回の到達目標	文の解説と関連接続語の応用ができる		
	事前学修	第11課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。		60分
9	ドリルと小テストチェック		第11課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
	この回の到達目標	本文2の質問について応答でき、日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる		
	事前学修	第11課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。		60分
	事後学修	第11課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。		60分
10	ポイントについて説明		ポイントについて説明： まず～して、それから・・・する；動詞+回数；～ごとに・・・、～たびに・・・ 本文の解釈と朗読練習	
	この回の到達目標	本文の解釈と正しく朗読できる		
	事前学修	第12課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。		60分
11	ドリルと小テストチェック		第12課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
	この回の到達目標	本文の朗読；粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答できる。		
	事前学修	第12課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。		60分
	事後学修	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。		60分
12	ポイントについて説明		ポイントについて説明： 聞くとところによると、～そうだ；～するとすぐに・・・する、～するや否や・・・する；条件関係を表す。 本文を解釈と朗読	
	この回の到達目標	本文を解釈と粗筋をはなせる		
	事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ドリルと小テストチェック		第13課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。
	この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる	
	事前学修	第13課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。）	60分
	事後学修	第12課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。(30分)	60分
14	ポイントについて説明		ポイントについて説明； 連動文。～するのがある/いる；～にとっては；程度が高まることを表す；更 本文の解釈と朗読練習；
	この回の到達目標	口頭で本文の内容について話せる。	
	事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	期末テスト範囲の復習をする；ポイントの例文と小テスト3、4の問題	60分
15	これまでの復習 期末筆記テスト		これまでの復習 期末テスト（筆記）
	この回の到達目標	試験問題の回答ができる	
	事前学修	テスト範囲の復習をする	60分
	事後学修	全ての知識を身に付け、読める、書ける、話せること！	60分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅡA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の修得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について中国語で書き取り、また文書で伝えることができるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写を書いたり、文書で伝えることができる。										4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる。										4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける。										4	4		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③が身につけているかを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンス 講義の進め方と教材の説明；発音チェック；自己紹介と挨拶	
	この回の到達目標	講義の進め方と教材を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、講義の全体を把握する；簡単な中国語で自己紹介の準備。	60分
	事後学修	ガイダンスのおさらい。この授業は、目的と目標を達するため、週三時間以上かけて、復習と練習をすることが必要。	60分
2	「動詞+在」	ポイントについて説明：動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・ 本文を解釈と朗読練習 文型/朗読/質疑応答/リスニングなど。	
	この回の到達目標	動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・を理解し、使用できるようにする。	
	事前学修	第1課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	ドリルと小テストも問題解いてくる；本文の粗筋をまとめ暗唱し、暗記した文章を紙に書きとる；ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
3	日中文化の相違点	①日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること ②本文2の質問について応答 ③ドリルの問題を解明する ④ 会話練習	
	この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、中国語で表現できるようにする。	
	事前学修	第1課内容の粗筋を暗唱できること。；本文1を参考に本文2について回答できる；ドリルの問題を解答。	60分
	事後学修	本文の粗筋をまとめ暗唱する。暗記した文章を紙に書きとる。ポイントの文型に基づき、文を作る。	60分
4	比較表見	第2課のポイントの説明：比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了” 本文の解釈と朗読練習	
	この回の到達目標	比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了”を使用できるようにする。	
	事前学修	第2課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	本文の朗読と粗筋を暗唱すること； 本文2の質問について応答；ドリルの問題を解明する。	60分
5	復習と練習	事前学習の内容について、練習と解明	
	この回の到達目標	ここまでの復習と練習をする。	
	事前学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。	60分
	事後学修	文章を音読し暗唱する；暗記した文章を紙に書きとる；暗唱した内容を中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
6	累加関係を表す複文	ポイント：累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現。	
	この回の到達目標	累加関係を表す複文“不但～，而且～”；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く“了”は事態の変化や新事態の発生を表す表現を理解し、作文できるようにする。	
	事前学修	第3課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3課の全般的応用練習		第3課の内容について、全般的応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える：ドリルのチェック。	
	この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し、本文の朗読し、作文できるようにする。		
	事前学修	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。		60分
	事後学修	文章を音読し暗唱する、暗記した文章を紙に書きとる。本文の内容について中国語のできる友人たちと会話してみる。		60分
8	前置詞の用法		ポイント：同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べること；前置詞。	
	この回の到達目標	同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べることができるようにする。		
	事前学修	第4課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。		60分
9	第4課の全般的応用練習		第4課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
	この回の到達目標	前置詞の使用法を理解し、作文できるようにする。		
	事前学修	ポイントの表現に基づき、文を作り暗記する。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。		60分
	事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。		60分
10	接続詞と時間推移表現		ポイント：～を主とする；接続詞：意味を更に一つ付加加える表現；程度が時間の推移とともに高まることを表す表現。	
	この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、作文できるようにする。		
	事前学修	第5課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。		60分
	事後学修	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。		60分
11	第5課の全般的応用練習		第5課の内容について、全般的に応用練習：日中文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文2の質問に答える；ドリルのチェック。	
	この回の到達目標	接続詞の用法を理解し、応用作文できるようにする。		
	事前学修	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文2の質問に回答でき、ドリル問題を解答。		60分
	事後学修	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。日中文化について作文：テーマ自由（200字）		60分
12	強調する表現		ポイントの説明：～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現；アスペクス 着る ；本文の解釈；作文を提出	
	この回の到達目標	～までも、～さえも・・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現を理解し、作文できるようにする。		
	事前学修	第6課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。		60分
	事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	強調構文と比較表現	ポイントについて説明：前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・する；本文の解釈と朗読訓練	
	この回の到達目標	前半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・・するの表現方法を理解し、作文できるようにする。	
	事前学修	第7課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文1を日本語に訳してみる。	60分
	事後学修	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟読でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。	60分
14	復習と期末テスト	これまでの復習 期末テスト（筆記）	
	この回の到達目標	全般の復習、期末の筆記テストを実施する。	
	事前学修	全面復習： テスト範囲：1課～7課までのポイントの例文 2小テストの問題3，4	60分
	事後学修	今まで勉強したことを復習練習すること。	60分
15	中国語ヒアリング	中国人の生活に反映されている映画を鑑賞	
	この回の到達目標	中国人の生活の会話をどのくらい聞き取ることができるかの能力を判定する。	
	事前学修	中国社会と中国人の生活について、ネットで調べる。	60分
	事後学修	感想文を書く。夏休み宿題：暑假里的一件事（	60分

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅡB	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
					○	○		

【授業の概要】
日常生活において直接必要となる中国語の書き言葉の修得（A2-2）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活において直接必要となる事柄について中国語で書き取り、また文書で伝えることができるようになるため、相応の語学能力を修得することができる。

【履修条件】
中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。

【授業方法】
毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。 提出された作文は返却する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個人的な細かい情報の要求、個人の体験や物事の描写をスムーズに書いたり、文書で伝えることができる。								4	4		
②	日常的に必要な分野におけるメールや手紙を自律的に書くことができる。								4	4		
③	平易な語句と基本的な接続詞を用いて時系列、因果関係が明確な文章が書ける。								4	4		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20								60

【課題に対するフィードバックの方法】
会話発表を聞き、訂正やアドバイスをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ことばと文化「一挙兩得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや薇	朝日出版社	2017年1月25日	教科書	必携
備考	参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	夏休み宿題を発表	夏休み宿題の口頭発表 講評	
	この回の到達目標	作文を口頭発表できること。	
	事前学修	夏休みの作文を完成、発表の準備する。	60分
	事後学修	修正した作文を暗記し、中国語出来る友人に話してみる。	60分
2	断定の口調を強める表現	第8課のポイントについて説明と実際に応用： 断定の口調を強める表現：是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不 本文の解釈と朗読練習。	
	この回の到達目標	「是・・・的　；～もとで：在・・・下　；ただ～にすぎない：只不　」について理解し、本文の解釈できる。	
	事前学修	第8課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	第8課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；日中文化の相違点について友人たちと会話してみること。	60分
3	応用練習	第8課の内容について話す；ドリルのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答　③ドリルと小テストの問題を解明する。	
	この回の到達目標	本文の粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答とドリルの問題を解明することができる。	
	事前学修	第8課内容の粗筋を暗記して、授業での発表の準備を行う；本文2の質問について応答。 本文に関連した題材で中国語作文を行う。自作した作文を提出する準備。	60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。	60分
4	ポイントを説明	ポイントを説明： ～であり、～でもある：是～也是・・・；受け身文：被　；可能性を推測、判断することを表す：会	
	この回の到達目標	本文の翻訳とうまく読むことができる	
	事前学修	第9課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。	60分
	事後学修	第9課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。	60分
5	会話練習と朗読の訓練	第9課の本文の熟読；粗筋について話しすること；本文2の質問について応答；ドリル小テストのチェック； 会話練習と朗読の訓練。	
	この回の到達目標	本文の熟読、粗筋について話しすることがうまくできる	
	事前学修	第9課内容の粗筋を暗記して、授業で発表するの準備を行う；本文2の質問について応答；小テストを完成。	60分
	事後学修	全般的に復習、勉強した知識をすべて自分のものになることは重要である。 作文：テーマ自由（200字）	60分
6	条件関係を表す複文	ポイントについて解説： ①～ほど・・・ではない：不像～那・・・；条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈と朗読	
	この回の到達目標	条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈でき、朗読も正しく表現できるようにする。	
	事前学修	第10課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。作文を提出準備	60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ドリルと小テストチェック		第10課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答；作文の問題点について説明。	
	この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱できる		
	事前学修	第10課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。		60分
	事後学修	修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。		60分
8	逆接関係を表す		①ポイントについて説明： まるで～ようだ；好像～似的；ある条件が満たされさえすれば、結果は容易に実現すること；只要～就・・・； 逆接関係を表す。②本文の解説。	
	この回の到達目標	文の解説と関連接続語の応用ができる		
	事前学修	第11課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。		60分
9	応用練習		第11課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
	この回の到達目標	文2の質問について応答でき、日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱することができる		
	事前学修	第11課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。		60分
	事後学修	第11課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。		60分
10	本文の解釈と朗読練習		ポイントについて説明： まず～して、それから・・・する；動詞+回数；～ごとに・・・、～たびに・・・ 本文の解釈と朗読練習	
	この回の到達目標	本文の解釈と正しく朗読できる		
	事前学修	第12課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。		60分
11	応用練習		第12課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
	この回の到達目標	日本文の朗読；粗筋を暗唱することができ、本文2の質問について応答できる。		
	事前学修	第12課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。		60分
	事後学修	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。		60分
12	条件関係を表す。		ポイントについて説明： 聞くとところによると、～そうだ；～するとすぐに・・・する、～するや否や・・・する；条件関係を表す。 本文を解釈と朗読	
	この回の到達目標	本文を解釈と粗筋をはなせる		
	事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	応用練習		第13課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。	
	この回の到達目標	日中文化の相違点を理解し本文の粗筋を暗唱することができる。		
	事前学修	第13課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。		60分
	事後学修	第12課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。		60分
14	ポイントについて説明		ポイントについて説明： 連動文 ～するのがある/いる；～にとっては；程度が高まることを表す；更 本文の解釈と朗読練習；	
	この回の到達目標	本文の粗筋を暗唱することができる。		
	事前学修	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。		60分
	事後学修	期末テスト範囲の復習をする：ポイントの例文と小テスト3、4の問題		60分
15	これまでの復習 期末筆記テスト		これまでの復習 期末テスト（筆記）	
	この回の到達目標	ポイントの練習問題を理解し、試験問題を回答できる。		
	事前学修	テスト範囲の復習をする		60分
	事後学修	全ての知識を身に付け、読める、書ける、話せること！		60分

科目名	日本語 I	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○	○		

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
説明と実践を繰り返す。また、毎時間漢字のテストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを、自ら明確に伝えることができる。								1	1		
③	レポートでよく用いられる漢字を修得することができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内、もしくはポータルにて講評する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	説明用・練習用のプリントを配布する。参考書は講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	4年間の学修計画を立てておくこと。	50分
2	講義の受け方	講義はどのような姿勢で受けるのか、また講義メモはどのように取るのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、講義の受け方や講義メモの取り方を理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	40分
3	教科書の読み方	講義で指定された教科書をどのように読み取るのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、教科書の情報を正確に読み取ることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	40分
4	レポートの言葉遣いについて	話し言葉と書き言葉の違いを理解し、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レポートは適切な漢字と書き言葉を使って書くことを理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	分かりやすい文章について	読みやすい文章を書く上で必要な注意点を考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読みやすい文書とはどのようなものか気づくことができる。レポートで用いる漢字を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	分かりやすい文章の書き方	文章の構成とはどのようなものかを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文章の構成がいかに重要であるか理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	引用の方法		自分の考えと他人の考えをどのように区別するのかを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、引用の方法を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		30分
8	筋の通った文章について		パラグラフとは何かを考える。またレポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、筋の通った文章はいかに読みやすいかを理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
9	インターネットを使った情報収集について		インターネットを使った情報収集の注意点を考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットを使った情報収集の注意点を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
10	図解から情報を読み取る方法		グラフや図表から、どのように情報を読み取るのかを考える。また、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グラフや図表から適切に情報を読み取ることができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
11	文章の種類について		文章の種類とその違いを理解する。また、レポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文章の種類とその違いに気づくことで、レポートとの違いを理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
12	記録文と説明文の違いについて		記録文と説明文の違いを理解する。またレポートで使う漢字を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、記録文と説明文との違いに気づくことで、レポートとの違いを更に理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	自分の考えの伝え方		自分の考えはどのように伝えるべきか、その注意点を考える。また、レポートで使用する漢字を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の考えを適切に伝えるための注意点を理解することができる。また、レポートで用いる漢字を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。またこれまでの漢字のテスト不正解を確認しておく。	50分
14	授業内試験と解説		これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	振り返り		講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要なかを理解することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語 I	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○	○		

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
オンデマンド授業。動画配信、および課題配信。 毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。漢字はテキストの内容に沿って、毎回漢字テストを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。 毎回「小テスト」「問題演習」「フィードバック」のサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを、自ら明確に伝えることができる。								1	1		
③	レポートでよく用いられる漢字を修得することができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語学習のためのよく使う順 漢字2200	徳弘康代	三省堂	2014	教科書	必携
備考	その他、問題演習に必要な教材はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
各自、事前にアポイントメントをとること。メールで 対応します。tanaka.takuro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の形式を理解し、日本語学習の方法について学ぶ。方法論を実践できる	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
	事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	論説文の読解1	漢字テスト No. 1～No. 50 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、段落の構成と内容把握の概略を理解することができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 1～No. 50） 論説文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	論説文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	20分
3	小説の読解1	漢字テスト No. 51～No. 100 小説読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、心情描写の表現と小説独特の書体を理解し、使い分けることができる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 51～No. 100） 小説1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 1～No. 50）の間違った箇所を確認する 小説1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
4	論説文の読解2	漢字テスト No. 101～No. 150 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抽象的な文章の読解と、具体例から内容を把握できる 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 101～No. 150） 論説文2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 51～No. 100）の間違った箇所を確認する 論説文2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
5	小説の読解2	漢字テスト No. 151～No. 200 小説読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、具体的な記述によって心情を描く文章の読解方法を理解すること 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 151～No. 200） 小説2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 101～No. 150）の間違った箇所を確認する 小説2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
6	論説文の読解3	漢字テスト No. 201～No. 250 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内容把握と記述による表現方法の関連を理解すること 到達目標③に関連して、大学での学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 201～No. 250） 論説文3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 151～No. 200）の間違った箇所を確認する 論説文3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小説の読解3	漢字テスト No. 251～No. 300 小説読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、擬音語、擬態語、副詞による場面描写の読み解き方を理解することかゝてゝきる 到達目標③に関連して、大学でゝの学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことかゝてゝきる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 251～No. 300） 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 201～No. 250）の間違えた箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
8	論説文の読解4	漢字テスト No. 301～No. 350 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一般論と具体例、抽象概念と具体例かゝ入り乱れる文章を読み解くことかゝてゝきる 到達目標③に関連して、大学でゝの学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことかゝてゝきる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 251～No. 300） 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 201～No. 250）の間違えた箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
9	随想の読解1	漢字テスト No. 351～No. 400 随想読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「事実」と「意見」の区別を、記述の特徴から理解することかゝてゝきる 到達目標③に関連して、大学でゝの学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことかゝてゝきる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 351～No. 400） 随想1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 301～No. 350）の間違えた箇所を確認する 随想1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
10	論説文の読解5	漢字テスト No. 401～No. 450 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比喩の種類、およびゝ比喩による説明の特徴を理解することかゝてゝきる 到達目標③に関連して、大学でゝの学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことかゝてゝきる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 401～No. 450） 論説文5の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 351～No. 400）の間違えた箇所を確認する 論説文5を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
11	随想の読解2	漢字テスト No. 451～No. 500 随想読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、導入―背景―本論―結論の流れと段落構成を理解することかゝてゝきる 到達目標③に関連して、大学でゝの学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことかゝてゝきる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 451～No. 500） 随想2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 401～No. 450）の間違えた箇所を確認する 随想2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
12	論説文の読解6	漢字テスト No. 501～No. 550 論説文読解（問題演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論理接続詞による内容のつながゝりと文章構造のしくみを理解することかゝてゝきる 到達目標③に関連して、大学でゝの学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことかゝてゝきる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 501～No. 550） 論説文6の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 451～No. 500）の間違えた箇所を確認する 論説文6を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	小説の読解4		漢字テスト No. 551～No. 600 小説読解（問題演習）
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時間の流れと登場人物の心情のうつりかわりを把握することかゝてゝきる 到達目標③に関連して、大学でゝの学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことかゝてゝきる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 551～No. 600） 小説4の教材を読み、設問を解しておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 501～No. 550）の間違った箇所を確認する 小説4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
14	随想の読解3		漢字テスト No. 601～No. 650
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、暗喩による表現、およびゝ比喩を具体論に落とし込むための読解方法を理解することかゝてゝきる 到達目標③に関連して、大学でゝの学術活動に必要な漢字と熟語を正しく使うことかゝてゝきる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 601～No. 650） 随想3の教材を読み、設問を解しておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 551～No. 600）の間違った箇所を確認する 随想3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
15	期末試験、振り返り		期末試験、および解答と解説
	この回の到達目標	14回の授業を通して理解した読解能力を確認する	
	事前学修	到達目標①②③に関連して、読解問題の設問解答をすべて復習し、期末試験に備える	120分
	事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅱ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		○

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
説明と実践を繰り返す。また、毎時間漢字のテストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1					
②	自分の考えを明確に伝えることができる。また自分の日本語能力を確認することができる。									1		1
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標②について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	説明用・練習用のプリントを配布する。参考書は講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	50分
2	課題図書を読む	短い文章を読んで、内容をまとめる。	
	この回の到達目標	到達科目①に関連して、短い課題図書の内容を理解し、まとめることができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
3	インタビュー調査	インタビューを開き取る。	
	この回の到達目標	到達科目①に関連して、インタビューを正確に聞き取ることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
4	プレゼンテーションの準備	課題図書の本文とインタビューの内容をもとに、レジュメを作成する方法を理解する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、短時間のプレゼンをするためのレジュメを作成することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
5	テキストを読む	専門分野のテキストを読んで、内容をまとめる。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、テキストの内容を適切にまとめることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
6	プレゼンテーションの準備	レジュメを作成するために、プレゼンテーションの仕方や手順を考える。	
	この回の到達目標	到達科目②に関連して、プレゼンテーションの仕方や手順を理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	プレゼンテーションの読み原稿を書く	レジュメに合わせた読み原稿を作成する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、レジュメに合わせた読み原稿を作成することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
8	スピーチを聞く	スピーチのチラシから、キーワードを知る。	
	この回の到達目標	到達科目①に関連して、スピーチのキーワードを知ることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
9	スピーチを聞く	スピーチを聞いてメモを取り、内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチを聞いてメモを取ったり、内容を理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
10	スピーチを聞く	スピーチの内容を聞いて、質問を考える。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチの内容に基づいて質問内容を考えることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
11	質疑応答	スピーカーとして質問に答えたり、質問者として質問する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーカーとして質問に答えたり、質問者として質問することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
12	スピーチを書く	スピーチのアウトラインを作成する	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチのアウトラインを作成することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	スピーチを書く	スピーチを作成する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、スピーチを作成することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	配布したプリントを見て、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達科目①②に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要かを理解することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅱ	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		○

【授業の概要】
これまで修得した日本語能力をより向上させるため、自分の考えを明確に伝える日本語力を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で積極的にコミュニケーションを行うために、自らの考えを明確に伝えたり、相手の考えを正確に理解できる日本語能力を身につける。

【履修条件】
前期「日本語1」からの継続授業。

【授業方法】
毎回、課題となる設問を予習として解いてくること。授業では、文章の内容を理解する確認を行い、設問を解くことによって内容の理解度を確認する。漢字はテキストの内容に沿って、毎回漢字テストを行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	前期授業（日本語1）と同様。毎回、「小テスト」「問題演習」「フィードバック」のサイクルを繰り返す。間違えた箇所の理解を深めるため、内容についてのディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	日本語母語話者の会話や教科書等の日本語文章の内容を、正確に理解することができる。				1	1	1						
②	自分の考えを明確に伝えることができる。また自分の日本語能力を確認することができる。									1			1
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、各能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標②について、日本語の語彙力や理解力が向上しているかを評価する。	20										20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	30									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で、答案に対する添削講評、およびディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本語学習のためのよく使う順 漢字2200	徳弘康代	三省堂	2014	教科書	必携
備考	その他、問題演習に必要な教材はコピーを配布する				

【オフィスアワー】
各自、事前にアポイントメントをとること。メールで対応します。tanaka.takuro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業の形式を理解し、日本語学習の方法について学ぶ。方法論を実践できる	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
	事後学修	読解の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	論説文の読解1	漢字テスト No. 651～No. 700 論説文(1)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、イメージ的な抽象表現から主張の具体例を導くことができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 651～No. 700) 論説文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	論説文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	20分
3	小説の読解1	漢字テスト No. 701～No. 750 小説(1)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、小説の場面展開と段落構成の関係を理解することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 701～No. 750) 小説1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 651～No. 700) の間違えた箇所を確認する 小説1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
4	論説文の読解2	漢字テスト No. 751～No. 800 論説文(2)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論説文に頻出する用語の確認と使用例を理解し、実際に使うことができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 751～No. 800) 論説文2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 701～No. 750) の間違えた箇所を確認する 論説文2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
5	小説の読解2	漢字テスト No. 801～No. 850 小説(2)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、文語文、擬古文の読解方法を理解することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 801～No. 850) 小説2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 751～No. 800) の間違えた箇所を確認する 小説2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
6	随想の読解1	漢字テスト No. 851～No. 900 随想(1)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、記述者の視点の違いによる描写の差異を理解し、異なった立場に立ち意見を述べるができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 851～No. 900) 随想1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 801～No. 850) の間違えた箇所を確認する 随想1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小説の読解3	漢字テスト No. 901～No. 950 小説(3)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、主語・目的語が明示されていない行為文から場面の展開を理解することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 901～No. 950) 小説3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 851～No. 900) の間違えた箇所を確認する 小説3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
8	論説文の読解3	漢字テスト No. 951～No. 1000 論説文(3)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、哲学的文章の読解練習を行い、抽象的概念や一般論を扱った文章を書くことができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 951～No. 1000) 論説文3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 901～No. 950) の間違えた箇所を確認する 論説文3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
9	随想の読解2	漢字テストNo. 1001～No. 1050 随想(2)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、通常とは異なる意味で使われている語句の意味を、文脈から理解することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 1001～No. 1050) 随想2の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 951～No. 1000) の間違えた箇所を確認する 随想2を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
10	論説文の読解4	漢字テスト No. 1051～No. 1100 論説文(4)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、異なる時代、異なる文化的背景に基づく論説を読み解き、実体験に頼ることなく意見の根拠を述べることができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 1051～No. 1100) 論説文4の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 1001～No. 1050) の間違えた箇所を確認する 論説文4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
11	随想の読解3	漢字テストNo. 1101～No. 1150 随想(3)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国人から見た日本文化論を読み解き、実際に書くことができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 1101～No. 1150) 随想3の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 1051～No. 1100) の間違えた箇所を確認する 随想3を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
12	評論文の読解1	漢字テストNo. 1151～No. 1200 評論文(1)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、事実と意見のつながりと根拠の揃え方を理解し、実践することができる	
	事前学修	漢字テストの予習 (No. 1151～No. 1200) 評論文1の教材を読み、設問を解いておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト (No. 1101～No. 1150) の間違えた箇所を確認する 評論文1を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	随想の読解4	漢字テストNo. 1201～No. 1250 随想(4)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「個別事象の描写」と「一般論の展開」を区別することができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 1201～No. 1250） 随想4の教材を読み、設問を解しておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 1151～No. 1200）の間違った箇所を確認する 随想4を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
14	随想の読解5	漢字テスト No. 1251～No. 1300 随想(5)の読解演習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、複数のトピックが入り乱れる文章の主張文を整理することができる	
	事前学修	漢字テストの予習（No. 1251～No. 1300） 随想5の教材を読み、設問を解しておくこと	45分
	事後学修	返却された漢字テスト（No. 1201～No. 1250）の間違った箇所を確認する 随想5を復習し、理解不足だった箇所をおさえておくこと	30分
15	期末試験、および解答と解説	期末試験、および解答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、14回の授業を通して身につけた能力を通して、日本語を用いた言論活動を円滑に行うことができる。	
	事前学修	今までの漢字テスト、読解問題の設問解答をすべて復習し、期末試験に備える	120分
	事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	60分

科目名	日本語Ⅲ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○		○	○	

【授業の概要】
大学での学修成果を上げるのに必要な日本語能力の向上を目指し、大学での学修を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学での学修成果を上げるために、これまで以上の読む・書く・聞くといった日本語能力の向上と、教科書を読みながら大学での学び方を理解する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書を音読し、毎時間漢字のテストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	講義の説明や教科書や参考文献の内容を正確に理解した上で、何が議論になっているのかを把握することができる。				1	1		1				
②	テーマに応じて自分の意見を明確に伝えたり、簡潔に書いたりすることができる。									1	1	
③	教科書で使用されているレベルの語彙力を身につけることができる。				1							
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上して いるかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治他	ひつじ書房	2005年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、 noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。		
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。		20分
	事後学修	4年間の学修計画を立てておくこと。		40分
2	(教科書) 「大学の魅力」	大学はどのような場所なのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学は学問をする場所であり、学問は創造的な問いかけをすることだと理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。		20分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
3	(教科書) 「大学の魅力」	大学の魅力を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学の最終目標が知的可能性の探求であることを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
4	(教科書) 習・研究	高校との違いを踏まえ、自分の目標に合わせて、何をどのように学修するのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の目標に合わせて、何をどのように学修するのかを決めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
5	(教科書) 習・研究	学修・研究をいかにするのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、学修・研究を成功させるためのスタディースキルを修得することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
6	(教科書) 「大学の学習・研究の実際」	自分の目標に合わせた履修計画を立て、学修計画の重要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自分の目標に合わせた学修計画の重要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	(教科書)「大学の学習・研究の実 際」		自主学習の必要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、自主学習の必要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
8	(教科書)「ノートの取り方」		大学ではなぜノートを取るのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、大学ではノートを取り、まとめて、保管し、上手に利用することが学生の責任であることを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
9	(教科書)「ノートの取り方」		よい講義ノートとはどのようなノートなのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、講義ノートは講義後、それを基に内容を復元できるものと理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
10	(教科書)「大学生のための読解」		関連知識の必要性和整理の重要性を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、読解力を向上させるために日頃から様々な知識を蓄えてくことを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
11	(教科書)「大学生のための読解」		読む習慣を身につける必要性を理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、目的によって読解の方法が異なることと、読む習慣がいかに重要かを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
12	(教科書)「情報収集」		どのような目的でどのような情報を探しているのかはつきりさせる必要があることを理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の 到達目標	到達目標①③に関連して、情報を収集する際には目的を明確にすれば効率がよいことを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(教科書) 「情報収集」	収取した情報は、規格化、再利用、情報源の明記を心掛けて整理しておくことを理解する。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、収集した情報を整理する重要性を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習しておく。	50分
14	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分
15	振り返り	講義内容を概観し、今後どのような学修が必要か、またどの程度の日本語能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義内容をもとに、今後の日本語学修がいかに必要かを理解することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅳ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○		○	○	

【授業の概要】
大学での学修成果を上げるのに必要な日本語能力の向上を目指し、大学での学修を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学での学修成果を上げるために、これまで以上の読む・書く・聞くといった日本語能力の向上と、教科書を読みながら大学での学び方を理解する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書を音読し、毎時間漢字のテストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	講義の説明や教科書や参考文献の内容を正確に理解した上で、何が議論になっているのか明確に把握することができる。				2	2		2			
②	テーマに応じて自分の意見を明確に伝えたり、簡潔に書いたりすることができる。									2	2
③	教科書で使用されているレベルの語彙力を身につけることができる。				2						
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標③について、日本語の語彙力や理解力が向上して いるかを評価する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治他	ひつじ書房	2005年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、 noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学生として今後どの程度の日本語能力が必要か理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	(教科書) 「インターネット」	大学生活をサポートするインターネット利用で心得るべきことを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、インターネットの利用規定の内容を理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
3	(教科書) 「インターネット」	コミュニケーションツールとしての電子メールのマナーを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ネチケットについて調査をし、深く理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
4	(教科書) 「テーマの選び方」	レポートのテーマを考える時、重要なことは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、レポートのテーマを考える時、重要なことは何かを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	20分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
5	(教科書) 「テーマの選び方」	トピックを決める作業手順や、プロポーザルの内容をどのように作成するのかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、トピックを決める作業手順や、プロポーザルの内容をどのように作成するのかを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	20分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
6	(教科書) 「情報の整理」	一次資料と二次資料の違いを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、二次資料は理解を深めるのに必要な資料だが、それをまとめたり発表に使えないことを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	(教科書) 「情報の整理」		『あしながおじさん』を例に、質的な情報をどのように整理するかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、一次資料を使用して、どのようなことでも新しい知見を引き出すことができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
8	(教科書) 「書くことの重要性」		「読む」ことと「書く」ことの関連性を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、研究における「書く」ことの重要性を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
9	(教科書) 「書くことの重要性」		「書く」ことの意味を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、上手な文章の書き方の基本について考えることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
10	(教科書) 「レポートや論文を書く」		レポートとは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、レポートを書く際の重要なポイントを理解することができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
11	(教科書) 「レポートや論文を書く」		良いレポートの書き方を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、引用と剽窃の区別ができたり、説得力のあるレポートとはどのようなものを理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分
12	(教科書) 「プレゼンテーション」		効果的なプレゼンテーションとは何かを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、準備を始める前から問題意識を持つ必要性を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(教科書) 「テストの準備と受け方」	大学のテストがいかに重要か、またその種類や内容を考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大学のテストの重要性やその種類と内容を理解できる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。漢字のテストのための予習をしておく。	50分
14	(教科書) 「テストの準備と受け方」	テストの準備と受験について、どのような点に注意すべきかを考える。教科書で用いられている語彙を覚える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、テスト時間割の確認と学修計画の作成ができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を深めることができる。また一般によく用いられている語彙を修得することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	解答に対する自己評価と解説した内容を確認する。	30分

科目名	日本語Ⅴ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活に必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書に従って進める。また、各テーマごとに復習テストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標①②について、それぞれ理解したことを踏まえて 実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳	名古屋大学日本語研究会GK7	東京書籍	2009年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）では、月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）対応する。メールの場合は、noguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、将来に向けて今後どの程度の日本語能力が必要か考えることができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	(教科書) 「はじめに」	日本語能力のトレーニングを始めるにあたり、日本語の適切さがどのように決まるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、あいまいな文や言葉の誤変換を通して、適切な日本語とはどのように決まるのかを理解することができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
3	(教科書) 「敬語の種類と使い分け」	敬語の種類（時に尊敬語・謙譲語）と使い分けについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敬語の種類と使い分けについて理解を深めることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
4	(教科書) 「敬語の種類と使い分け」	尊敬語と謙譲語を使う場面を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、敬語の使い方に注意しながら実際に近い場面で適切な敬語を使うことができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
5	(教科書) 「注意すべき敬語」	尊敬語・謙譲語の混同、二重敬語・マニュアル敬語といった日常よく耳にする表現の間違いを気づくようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日常よく間違える敬語を理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
6	(教科書) 「注意すべき敬語」	間違った敬語を適切な敬語に書き換えるには、どのような点に注意すべきかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、間違った敬語を適切な敬語に書き改めることができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	(教科書) 「配慮を示す言葉」		円滑な人間関係を確立したり、維持するための言語行動の考え方を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敢えて敬語を使わないことが相手との円滑な人間関係を維持するために必要な場合があることを理解することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		30分
8	(教科書) 「配慮を示す言葉」		円滑な人間関係を確立したり、維持するため、敬語だけにとどまらない適切な配慮表現とは何かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、忌み言葉やほのめかしの表現を身につけることができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		30分
9	(教科書) 「ら抜きことば・レタス言葉・さ入れ言葉」		ら抜き言葉、レタス言葉を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ら抜き言葉、レタス言葉は間違いだと理解することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		30分
10	(教科書) 「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」		さ入れ言葉を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、さ入れ言葉は間違いだと理解することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		30分
11	(教科書) 「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」		長い文、あるいは構造が複雑な文の主語・述語が対応しているか判別する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、長い文、あるいは構造が複雑な文の主語・述語がきちんと対応しているか判別することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		50分
12	(教科書) 「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」		文が複数の意味を持つあいまいな文は不適切な文であると理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文が複数の意味を持つあいまいな文は不適切な文であると理解することができる。		
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。		30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。		50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(教科書) 「接続詞・接続語と文章」	接続語・指示語の用法を整理して、文の論理関係や文章の展開について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、接続語・指示語の用法を整理して、文の論理関係や文章の展開について理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	(教科書) 「接続詞・接続語と文章」	連接関係を理解して、文章を読んで筆者の意見を正確に把握したり、自分の意見をより効果的に伝える文章を書くための基礎知識を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連接関係を理解して、文章を読んで筆者の意見を正確に把握したり、自分の意見をより効果的に伝える文章を書くための基礎知識を身につけることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を更に深めることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	150分
	事後学修	今後の日本語学修に必要なスキルは何かを確認する。	30分

科目名	日本語Ⅴ	担当者	田中 拓郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活で必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オンデマンド授業。動画配信、および課題配信。 授業は演習形式で行う。実際に作文を書く課題をもとに、その内容についてディスカッションする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	Google Classroomを使用して、アクティブ・ラーニングを実施する。 作文、小論文の演習を行う。答案はすべて添削のうえ返却し、良い点と改良すべき点を授業で説明する。答案作成（アウトプット）とフィードバック（インプット）の両面から、作文能力の向上をはかる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標①②について、それぞれ理解したことを踏まえて 実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各演習問題で作成した答案に直接添削を行う。直すべき点のポイントと改良の方法を、授業で説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。問題演習に必要な教材はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
各自、事前にアポイントメントをとること。メールで対応します。tanaka.takuro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の基本的な流れを説明し、日本語の作文力を高めるための学習方法について学ぶ	
	この回の到達目標	日本語の作文の勉強方法について理解し、実践することができる	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の流れと構成を理解する	20分
	事後学修	日本語作文の基本についておさらいし、教科書、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	日本語で作文を書く際の注意点	作文の種類と、段落構成の概要について。課題作文1「ことばと学習」のアウトライン作り	
	この回の到達目標	日本語文章の「型」について理解し、実際に執筆することができる	
	事前学修	「問題提起」「意見提示」の構成と、表現および語彙について確認する	20分
	事後学修	課題作文1「ことばと学習」の作文を完成させる	60分
3	作文の文体	書き言葉の表現、語彙を学習する。原稿用紙の使い方を確認する。課題作文2「日本での体験」のアウトライン作り	
	この回の到達目標	話し言葉や流行語を使わず、フォーマルな表現で作文を書くことができる	
	事前学修	課題作文1「ことばと学習」の確認と提出 常体（「～だ」「～である」）表現の予習と確認	30分
	事後学修	文体の違いを確認する。課題作文2「日本での体験」の作文を完成させる	90分
4	メモの取り方	課題のポイントを考え、アイデアメモをつくる方法を学ぶ。課題作文3「ごみの分別」のアウトライン作り。課題作文1「ことばと学習」のフィードバック	
	この回の到達目標	課題に即したアウトラインのメモを作ることができる	
	事前学修	配布教材でアウトラインの役割について理解する。課題作文2「日本での体験」の確認と提出	30分
	事後学修	メモのとりかたの復習。課題作文3「ごみの分別」の作文を完成させる	90分
5	「問題提起」の書き方	書き始めの段落（問題提起）の内容と表現を学ぶ。課題作文4「察しの文化」のアウトライン作り。課題作文2「日本での体験」のフィードバック	
	この回の到達目標	小論文の第一段落を適切に書くことができる	
	事前学修	段落の役割について確認する。課題作文3「ごみの分別」の確認と提出	30分
	事後学修	問題提起の表現、内容について確認する。課題作文4「察しの文化」の作文を完成させる	90分
6	「意見提示」の書き方	第二部に相当する「意見提示」の内容と表現を学ぶ。課題作文5「遺伝子治療の賛否」のアウトライン作り。課題作文3「ごみの分別」のフィードバック	
	この回の到達目標	論理接続詞の使い、意見を提示する表現を適切に書くことができる	
	事前学修	接続詞の使い方と意味について確認する。課題作文4「察しの文化」の確認と提出	30分
	事後学修	意見提示の表現について確認する。課題作文5「遺伝子治療の賛否」の作文を完成させる	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「展開」の書き方	根拠をもとに自分の意見を幅広く展開する表現について学ぶ。課題作文6「手間と無駄の功罪」のアウトライン作り。課題作文4「察しの文化」のフィードバック	
	この回の到達目標	根拠を、単なる羅列ではなく、文章として展開する書き方ができる	
	事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文5「遺伝子治療の賛否」の確認と提出	30分
	事後学修	「展開」の表現について確認しておく。課題作文6「手間と無駄の功罪」の作文を完成させる	90分
8	「結論」の書き方	文章全体をまとめ、結論にむけて文章を整える方法を学ぶ。課題作文7「知的生産の技術」のアウトライン作り。課題作文5「遺伝子治療の賛否」のフィードバック	
	この回の到達目標	各段落の役割が明確な文章を完成させることができる	
	事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文6「手間と無駄の功罪」の確認と提出	30分
	事後学修	「結論」の表現について確認しておく。課題作文7「知的生産の技術」の作文を完成させる	90分
9	グラフ、表、資料の読み取り方	提示された資料をもとに主張を展開するための方法を学ぶ。課題作文8「歴史とは何か」のアウトライン作り。課題作文6「手間と無駄の功罪」のフィードバック	
	この回の到達目標	様々な資料を根拠として主張を展開することができる	
	事前学修	配布された資料を読み、課題の問題を解いておく。課題作文7「知的生産の技術」の確認と提出	30分
	事後学修	資料をもとにした主張の展開方法を確認する。課題作文8「歴史とは何か」の作文を完成させる	90分
10	異なる意見を比べる	様々な立場の意見を取り入れ、比較して判断する文章の書き方を学ぶ。課題作文9「動物愛護の賛否」のアウトライン作り。課題作文7「知的生産の技術」のフィードバック	
	この回の到達目標	様々な意見を客観的に読み取り、比較することができる	
	事前学修	配布された課題文をあらかじめ読んでおく。課題作文8「歴史とは何か」の確認と提出	30分
	事後学修	意見の比較の方法を確認する。課題作文9「動物愛護の賛否」の作文を完成させる	90分
11	反論の方法	他人の主張に対して、効果的に反論をする方法を学ぶ。課題作文10「選挙制度」のアウトライン作り。課題作文8「歴史とは何か」のフィードバック	
	この回の到達目標	主張に対する反論する方法を理解し、実践することができる	
	事前学修	課題文を読み、展開されている主張をまとめておく。課題作文9「動物愛護の賛否」の確認と提出	30分
	事後学修	反論の方法について確認する。課題作文10「選挙制度」の作文を完成させる	90分
12	データや資料の活用	ひとつのデータから複数の主張を導き、データの適切な運用について学ぶ。課題作文11「食料自給率」のアウトライン作り。課題作文9「動物愛護の賛否」のフィードバック	
	この回の到達目標	特定のデータや資料から双方向の議論を展開できる。	
	事前学修	配布された資料を読み、データから読み取れることをまとめておく。課題作文10「選挙制度」の確認と提出	30分
	事後学修	データの活用方法について確認する。課題作文11「食料自給率」の作文を完成させる	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	具体例と一般論の区別	個別事象と一般論を区別し、それらを混同した議論に反論する。期末課題の説明とアウトラインの作成。課題作文10「選挙制度」を完成させる	
	この回の到達目標	具体例と一般論を混同した議論を指摘できる	
	事前学修	課題文を読み、反論すべき問題点を確認しておく。課題作文11「食料自給率」の確認と提出	30分
	事後学修	具体例と一般論の区別について確認する。期末課題の答案作成（期限は2週間）	90分
14	作文に必要な事項についてのまとめ	期末課題を執筆するために必要な内容を総復習する。課題作文11「食料自給率」のフィードバック	
	この回の到達目標	日本語作文に必要な事項を理解し、自分の書いた小論文を客観的にチェックすることができる	
	事前学修	配布されたチェックリストを確認し、いままで演習で行った自分の作文を自己採点しておく	60分
	事後学修	チェックリストの内容を確認する。期末課題の答案作成（期限は2週間）	120分
15	期末課題の提出とフィードバック	期末課題についての説明とフィードバック	
	この回の到達目標	学期間に学んだことを活かして日本語作文を執筆できる	
	事前学修	期末課題答案の確認と提出	30分
	事後学修	期末試験で問われた問題と、それを解くための思考の筋道をよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅵ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活に必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。

【授業方法】
毎時間教科書に従って進める。また、各テーマごとに復習テストを実施する。なお出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出課題等に対し、解説と講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標①②について、それぞれ理解したことを踏まえて 実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内、もしくはポータルにて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳	名古屋大学日本語研究会GK7	東京書籍	2009年	教科書	必携
備考	必要により、参考文献を授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
研究室（9号館9307研究室）の場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	これまで修得した日本語能力を確認し、今後どの程度の能力が必要かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、将来に向けて今後どの程度の日本語能力が必要か考えることができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	20分
	事後学修	今後の学修計画を立てておくこと。	40分
2	(教科書) 「類義語・対義語」	細かな意味や微妙な意味合いの違いをつかみ、語感を鍛える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、細かな意味や微妙な意味合いの違いを理解し、語感を鍛えることができる。	
	事前学修	これまで修得した日本語について復習する。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
3	(教科書) 「類義語・対義語」	和語、漢語、カタカナ語という語種の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、和語・漢語・カタカナ語という語種の違いを理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
4	(教科書) 「文体、話し言葉・書き言葉」	言語運用の適切さを決定づける条件によって、「文体」を使い分ける必要性と、その使い分けのポイントを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、言語運用の適切さを決定づける条件によって、「文体」を使い分ける必要性と、その使い分けのポイントをより深く理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分
5	(教科書) 「文体、話し言葉・書き言葉」	「書き言葉的」文体での留意点を押さえ、これを考慮した言葉の知識の応用を目指す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「書き言葉的」文体での留意点を押さえ、これを考慮した言葉の知識の応用ができるようになる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分
6	(教科書) 「コロケーション」	慣用的な言葉のつながりについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、慣用的な言葉のつながりについて理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	(教科書) 「コロケーション」	間違いやすいコロケーションとは何かを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、間違いやすいコロケーションを理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
8	(教科書) 「部首・音訓・熟語」	漢字についての基本事項について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、漢字について、部首・音訓に関する基本事項を理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
9	(教科書) 「部首・音訓・熟語」	熟語の読み方、構成について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、熟語の読み方とその構成について理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
10	(教科書) 「仮名遣い・送り仮名」	現代仮名遣いの適切な使い方について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代仮名遣いの適切な使い方について深く理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
11	(教科書) 「仮名遣い・送り仮名」	送り仮名の付け方について、注意すべき点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、送り仮名の付け方について深く理解することができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	30分
12	(教科書) 「総合問題」	報告書の下書きを読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、報告書の下書きにおける不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で理解できなかった点がないかを確認する。	50分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(教科書) 「総合問題」	手紙文を読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、手紙文における不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
14	(教科書) 「総合問題」	小論文を読んで、これまでの学修に対する理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小論文における不適切な表現はどれかを判断し、書き直すことができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習しておく。	30分
	事後学修	教科書の内容で、理解できなかった点がないかを確認する。	50分
15	授業内試験と解説	これまでの講義内容に対する理解度を確認する筆記試験を受ける。また、試験についての解説を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義内容をまとめ、日本語についての理解を更に深めることができる。	
	事前学修	後期授業内容を復習する。(40分)	150分
	事後学修	試験で間違った問題を再度復習する。(30分)	30分

科目名	日本語VI	担当者	田中 拓郎	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○		

【授業の概要】
日本社会におけるコミュニケーション能力を更に向上させるのに必要な日本語を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会で円滑なコミュニケーションを実践するために、日常生活に必要な、かつ適切な日本語能力を修得する。

【履修条件】
前期授業（日本語V）を履修していることが望ましい。

【授業方法】
演習方式。実際に論文を書くプロセスを演習によって敷衍し、大学生活におけるレポートや学術論文の書き方を段階ごとに実践する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、課題となる設問を予習として解いてくこと。授業では、提出された課題をもとに良い点と改良点をディスカッションする。期末には実際に論文を書き、理解の定着をはかり確認を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の適切さは、相手・媒体・場面・目的といった要因が左右する、運用場面の複合的な条件によって決まるということが理解できる。				2					2		
②	日本語は、敬語・文法・語彙・表記・言葉の意味・漢字といった言葉の諸側面の知識が関連し、連動して使い分けられていることを理解できる。							2	2			
③	到達目標①②を踏まえ、実際に近い使用場面の中でこれまでの学修を実践することができる。				2			2	2	2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、各能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	50	30									80
小テスト等	到達目標①②について、それぞれ理解したことを踏まえて 実践できているか、復習プリントを使って確認する。			20								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	30	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題で提出された答案にはすべて個別に添削講評を行う。全員の答案を授業内で比較し、ディスカッションを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。問題演習に必要な教材はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
各自、事前にアポイントメントをとること。メールで対応します。tanaka.takuro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。授業内で取り扱う課題への導入として、文章読解の基本的な方法と、設問の解き方について説明する	
	この回の到達目標	授業の流れを理解し、レポート・論文を執筆するための勉強法を理解することができる	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の進み方を理解しておく	30分
	事後学修	レポート、論文の基本についておさらいし、配布素材に目を通しておくこと	30分
2	論文の概略	論文の構成、作り方、まとめ方、種類について理解する。課題1「段落の内容を絞る」の解説	
	この回の到達目標	「論文」に必要な条件を理解し、作文と論文を区別して書くことができる	
	事前学修	課題1「段落の内容を絞る」の答案作成	40分
	事後学修	論文の概略について復習し、授業の内容を確認する。課題1の復習	45分
3	テーマの見つけ方	データや資料をもとにテーマを見つける方法について学ぶ。課題2「文の長さ」の解説	
	この回の到達目標	適切なテーマと不適切なテーマの違いについてし、適切なテーマの設定ができる	
	事前学修	課題2「文の長さ」の答案作成	40分
	事後学修	テーマの見つけ方について復習し、授業の内容を確認する。課題2の復習	45分
4	データの種類	テーマの基本となるデータ、資料の見分け方を種類について学ぶ。課題3「読み違いの表現」の解説	
	この回の到達目標	論文に必要なデータの種類を理解し、立論に必要なデータを収集できる	
	事前学修	課題3「読み違いの表現」の答案作成	40分
	事後学修	データの種類について復習し、授業の内容を確認する。課題3の復習	45分
5	計量的データの利用方法	事柄データ、数量データ、文章データの種類を理解し、データ解釈の演習を行う。課題4「否定文と肯定文」の解説	
	この回の到達目標	データを正しく読み取り、問題を汲み取ることができる	
	事前学修	課題4「否定文と肯定文」の答案作成	40分
	事後学修	データの種類ごとに解釈の方法を確認する。課題4の復習	45分
6	図表に関する表現	図表、数、資料、調査、実験を引用する際の表現と形式を学ぶ。課題5「受動態と能動態」の解説	
	この回の到達目標	論文に図表を適切な表現と形式で引用することができる	
	事前学修	課題5「受動態と能動態」の答案作成	40分
	事後学修	図表について復習し、授業の内容を確認する。課題5の復習	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	資料に関する表現	古語や外国語の資料の提示のしかた、調査の概要や実験の概要を示す表現と形式を学ぶ。課題6「直訳調、漢語調の表現」の解説	
	この回の到達目標	論文に資料を適切な表現と形式で引用することができる	
	事前学修	課題6「直訳調、漢語調の表現」の答案作成	40分
	事後学修	資料の種類と引用方法について復習し、授業の内容を確認する。課題6の復習	45分
8	本論の構成	「問い」「仮説」「予測」「検証」の内容について理解し、本論で書くべき内容を理解する。課題7「漢字熟語の動詞」の解説	
	この回の到達目標	論文の本体となる内容の構成について理解し、適切な段落を構成することができる	
	事前学修	課題7「漢字熟語の動詞」の答案作成	40分
	事後学修	本論の役割と構成について復習し、授業の内容を確認する。課題7の復習	45分
9	問題提起の表現	「データの提示」「疑問点の指摘」「目的の表示」「問題解決の方法」の内容と表現について学ぶ。課題8「漢字とひらがなの使い分け」の解説	
	この回の到達目標	問題提起の表現と内容について理解し、適切な問題設定ができる	
	事前学修	課題8「漢字とひらがなの使い分け」の答案作成	40分
	事後学修	問題提起の内容と表現について復習し、授業の内容を確認する。課題8の復習	45分
10	検証の表現	「予測（インプリケーション）」から資料や実験による「検証」につなげる内容と表現について学ぶ。課題9「主語と述語の距離」の解説	
	この回の到達目標	検証の節の役割と表現について理解し、客観的な検証を実践できる	
	事前学修	課題9「主語と述語の距離」の答案作成	40分
	事後学修	検証の方法と役割について復習し、授業の内容を確認する。課題9の復習	45分
11	結論の表現	結びの役割、全体のまとめ、評価、展望提示の内容と表現についてそれぞれ学ぶ。課題10「修飾語と被修飾語の呼応」の解説	
	この回の到達目標	結論の段落の構成と表現を理解し、適切な結論を書くことができる	
	事前学修	課題10「修飾語と被修飾語の呼応」の答案作成	40分
	事後学修	結論の書き方と内容について復習し、授業の内容を確認する。課題10の復習	45分
12	展開の技術	「例を挙げる」「対比する」「類似点を挙げる」「相違点を指摘する」「注目させる」「推論を示す」の表現の演習を行う。課題11「誤解を招く多義語」の解説	
	この回の到達目標	議論を展開し、持論を補強する表現を身につけることができる	
	事前学修	課題11「誤解を招く多義語」の答案作成	40分
	事後学修	展開の表現について復習し、授業の内容を確認する。課題11の復習	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	論文の体裁を整える		表題、要旨、キーワード、目次、付記、注、参考文献、付録の書体と内容について学ぶ。課題12「接続詞の注意点」の解説
	この回の到達目標	論文に必要な要素を理解し、適切な書体に仕上げることができる	
	事前学修	課題12「接続詞の注意点」の答案作成	40分
	事後学修	論文の体裁を整えるための要素について復習し、授業の内容を確認する。課題12の復習	45分
14	論文の最終チェック		チェックリストをもとに、自分の書いた論文を最終確認するための方法について学ぶ。課題13「間違いやすい助詞」の解説
	この回の到達目標	論文を推敲し、ミスのない論文を仕上げることができる	
	事前学修	課題13「間違いやすい助詞」の答案作成	40分
	事後学修	論文の最終チェックについて復習し、授業の内容を確認する。課題13の復習	45分
15	最終課題の提出、および解答と解説		最終レポートの提出、および解答と解説を行い、フィードバックを行う
	この回の到達目標	自力でレポート・論文を完成させることができる	
	事前学修	今までの演習、授業内容をすべて復習し、期末試験に備える	120分
	事後学修	最終レポートのフィードバックをよく復習しておくこと	30分

科目名	日本語Ⅶ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
履修生に課題を出し、添削の上で教場にて返却する。遅刻・欠席・課題の未提出は厳しく取り、原則として認めない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。					3							
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。							3					
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。								3				3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関連して、小単元終了時に実施する小テストにより日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	15	15									30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。			30	30							60
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができる。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編	アカデミックジャパニーズ研究会	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み中、本館1614研究室にて（事前にmiyazawa.takayoshi@nihon-u.ac.jpまで必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス。日本語について。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自己紹介を行うことができる。	
	事前学修	日本語についてのこれまでの知識を復習しておくこと。	120分
	事後学修	日本語の特徴について調べておくこと。講義内容の復習をしておくこと。	120分
2	テーマに沿った文章を読む1	第1課「言葉の役割」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第1課「言葉の役割」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第1課「言葉の役割」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
3	テーマに沿った文章を読む2	第2課「イルカと超音波」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第2課「イルカと超音波」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第2課「イルカと超音波」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
4	テーマに沿った文章を読む3	第3課「地図の分類」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第3課「地図の分類」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第3課「地図の分類」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
5	テーマに沿った文章を読む4	第4課「睡眠時間」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第4課「睡眠時間」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第4課「睡眠時間」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
6	テーマに沿った文章を読む5	第5課「日時計」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第5課「日時計」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第5課「日時計」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマに沿った文章を読む 6	第 6 課「研究者の二つのタイプ」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 6 課「研究者の二つのタイプ」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第 6 課「研究者の二つのタイプ」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
8	テーマに沿った文章を読む 7	第 7 課「地球温暖化」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 7 課「地球温暖化」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第 7 課「地球温暖化」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
9	テーマに沿った文章を読む 8	第 8 課「風呂場の戸」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 8 課「風呂場の戸」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第 8 課「風呂場の戸」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
10	テーマに沿った文章を読む 9	第 9 課「手で数を表す」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 9 課「手で数を表す」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第 9 課「手で数を表す」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
11	テーマに沿った文章を読む 1 0	第 1 0 課「文明はどのように伝わったか 1」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 1 0 課「文明はどのように伝わったか 1」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第 1 0 課「文明はどのように伝わったか 1」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
12	テーマに沿った文章を読む 1 1	第 1 1 課「文明はどのように伝わったか 2」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 1 1 課「文明はどのように伝わったか 2」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第 1 1 課「文明はどのように伝わったか 2」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマに沿った文章を読む 1 2	第 1 2 課「カラスの自動車利用行動」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 1 2 課「カラスの自動車利用行動」を事前に読んでくること。	120分
	事後学修	第 1 2 課「カラスの自動車利用行動」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
14	テーマに沿った文章を読む 1 3	第 1 3 課「台湾南部の客家社会についての一考察」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 1 3 課「台湾南部の客家社会についての一考察」を事前に読んでくること。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
	事後学修	第 1 3 課「台湾南部の客家社会についての一考察」について、講義内容の復習をしておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
15	アカデミック・ライティングについて	アカデミック・ライティングについて。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、半期のまとめとしての課題文を書くことができる。	
	事前学修	半期の内容の復習をしておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。	120分
	事後学修	アカデミック・ライティングについて調べておくこと。半期の内容を振り返り、確認すること。	120分

科目名	日本語Ⅶ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。なお、日本語ⅠからⅦのうち、少なくとも3つ以上を履修した上での受講が望ましい。

【授業方法】
日本の内外で問題となっている事項に関する新聞コラムを精読する。新聞コラムをもととした読解問題をプリント教材として配付し、実践演習と解説を繰り返す。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出。添削指導を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者の書いた日本語文に関して、講評文を作成してもらい全員の意見交換を行い、より良い日本語文が書けるようになることを目指す。また、講義担当者からの添削を繰り返すことで日本語能力の向上を目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。					3							
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。							3					
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。								3				3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関連して、毎回の授業ごとに実施する理解度チェックテストにより、日本語の読解と表現を身に付けることができているかどうかを評価する。	20	10	10	10							50
レポート等	単元終了ごとに小テスト形式のレポート作成を課題として課す。このレポートが、到達目標の①②③④に関連して、日本語表現上の問題点がなく適切な日本語で書き記されているかどうかを判断基準として、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかどうかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	到達目標③④に関連して、他者の書いた日本語文を正確に理解・把握し、自分の意見を適切に説明することができるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削して返却。または講義中の解説でおこなう。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアボをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと日本語による短文作成	〔1〕講義概要と成績評価に関する説明。〔2〕日本に来て感じたことに関する課題文章の完成と提出。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内での教員の説明を正しく理解し、自分の疑問・意見を適切に表明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。	30分
2	日本人は働きバチか？	「日本人は働きバチか？」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。働きバチの実態に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「日本人は働きバチか？」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
3	働くことの意味	「日本人は働きバチか？」に関するコラムの解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。前回の授業内容を確認しておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「日本人は働きバチか？」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
4	慌ただしい毎日	2回・3回授業の確認小テスト 「エスカレーターを歩く人」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「エスカレーターを歩く人」に関して、図書館やネットで調べておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「エスカレーターを歩く人」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
5	急ぐことの代償	「エスカレーターを歩く人」に関するコラムの解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。日本人の気ぜわしい性格に関してどのような意見があるか、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「エスカレーターを歩く人」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
6	go toトラベル	4回・5回授業の確認小テスト 「コロナ禍」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「コロナ禍」に関して、図書館やネットで調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「コロナ禍」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	日本政府が相手にするところ		「コロナ禍」に関するコラムの解説②。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「コロナ禍」に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「コロナ禍」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
8	最も効率のよい接種とは		6回・7回授業の確認小テスト 「ワクチン接種の順番」に関するコラムの解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。コロナワクチンに関して、ネットで調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ワクチン接種の順番」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
9	命の選択		「ワクチン接種の順番」に関するコラムの解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。各自が「ワクチン接種の順番」で問題とされている事項をまとめておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ワクチン接種の順番」に関する発展問題の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
10	便利さの中に生きる現代人		8回・9回授業の確認小テスト 「電気の来ない闇の中で」に関する社説の解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「電気の来ない闇の中で」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「電気の来ない闇の中で」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
11	電気のない生活		「電気の来ない闇の中で」に関する社説の解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。東日本大震災に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「電気の来ない闇の中で」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
12	時短営業		10回・11回授業の確認小テスト 「時短営業」に関する社説の解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。時短営業に関して図書館やネットで調べておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「時短営業」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	コンビニの売り上げ		「時短営業」に関する社説の解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「時短営業」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
14	適切な日本語による表現		12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。	60分
15	半年の学びの整理と確認		半年の学びを振り返り、日本語表現の特質に関して理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい日本語を使用し、時と場に応じて適切な日本語表現で自らの考えを他者に伝えられるようになることを目標とする。	
	事前学修	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標が達成できているかどうかを確認する。	120分
	事後学修	他の受講者たちの質問を参考にして、各自の理解の至らなかった点を復習する。	30分

科目名	日本語Ⅷ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。なお、日本語ⅠからⅦのうち、少なくとも3つ以上を履修した上での受講が望ましい。

【授業方法】
日本の内外で問題となっている事項に関する新聞コラムを精読する。新聞コラムをもととした読解問題をプリント教材として配付し、実践演習と解説を繰り返す。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出。添削指導を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者の書いた日本語文に関して、講評文を作成してもらい全員の意見交換を行い、より良い日本語文が書けるようになることを目指す。また、講義担当者からの添削を繰り返すことで日本語能力の向上を目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				3							
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。						3					
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。							3				3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。									3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関連して、毎回の授業ごとに実施する理解度チェックテストにより、日本語の読解と表現を身に付けることができているかどうかを評価する。	20	10	10	10							50
レポート等	単元終了ごとに小テスト形式のレポート作成を課題として課す。このレポートが、到達目標の①②③④に関連して、日本語表現上の問題点がなく適切な日本語で書き記されているかどうかを判断基準として、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかどうかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	到達目標③④に関連して、他者の書いた日本語文を正確に理解・把握し、自分の意見を適切に説明することができるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削して返却。または講義中の解説でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと日本語による出身国の紹介	〔1〕講義概要と成績評価に関する説明。〔2〕日本と祖国との違いに関する課題文章の完成と提出。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内での教員の説明を正しく理解し、自分の疑問・意見を適切に表明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。	30分
2	日本におけるしつけの問題	「平尾誠二さんの叱り方」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「怒る」と「叱る」の違いに関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「平尾誠二さんの叱り方」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
3	人を生かす叱り方とは	「平尾誠二さんの叱り方」に関するコラムの解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。効果的な「叱り方」に関して各自で考えておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「平尾誠二さんの叱り方」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
4	日本独特の食文化	2回・3回授業の確認小テスト 「納豆」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「納豆」に関して、図書館やネットで調べておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「納豆」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
5	発酵食品	「納豆」に関するコラムの解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「日配食品」にどのようなものがあるか、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「納豆」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
6	日本の地震対策	4回・5回授業の確認小テスト 「東日本大震災」に関するコラムの解説①。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「東日本大震災」に関して、図書館やネットで調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東日本大震災」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	地震に対する各自の考え		「東日本大震災」に関するコラムの解説②。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「関東大震災」に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東日本大震災」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
8	世界史の中の「喫茶店」		6回・7回授業の確認小テスト 「喫茶店」に関するコラムの解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。喫茶店の成り立ちに関して、図書館やネットで調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「喫茶店」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
9	真の安らぎとは		「喫茶店」に関するコラムの解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。各自が「喫茶店」に臨むことをまとめておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「喫茶店」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
10	便利さの中に生きる現代人		8回・9回授業の確認小テスト 「ブラックアウト」に関する社説の解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「ブラックアウト」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ブラックアウト」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
11	電気がない生活		「ブラックアウト」に関する社説の解説②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。寺田寅彦に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ブラックアウト」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
12	真の教養とは		10回・11回授業の確認小テスト 「休養と教養」に関する社説の解説①
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「休養」「教養」という言葉に関して図書館やネットで調べておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「休養と教養」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	教養を身に付けるために		「休養と教養」に関する社説の解読②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「休養と教養」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
14	適切な日本語による表現		12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。	60分
15	半年の学びの整理と確認		半年の学びを振り返り、日本語表現の特質に関して理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい日本語を使用し、時と場に応じて適切な日本語表現で自らの考えを他者に伝えられるようになることを目標とする。	
	事前学修	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標が達成できているかどうかを確認する。	120分
	事後学修	他の受講者たちの質問を参考にして、各自の理解の至らなかった点を復習する。	30分

科目名	日本語Ⅷ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○		○		○

【授業の概要】
日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語での文章表現を行うために、必要となる文章力（語彙、文法知識、表現力、筆記の習慣等）を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
履修生に課題を出し、添削の上で教場にて返却する。遅刻・欠席・課題の未提出は厳しく取り、原則として認めない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題文について、添削の上で返却する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。					3							
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や出身国の文化について説明できるようになる。							3					
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。								3				3
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語で書かれた文章を調査し、そこにある問題を発見し解決に結びつくような思考を説明することができる。										3		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関連して、小単元終了時に実施する小テストにより日本語の読解と表現を身に付けることができているかを評価する。	15	15									30
レポート等	到達目標の①②③に関連して、レポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかを評価する。			30	30							60
討論・発表等	到達目標③④に関連して、授業内で行うグループワークにおいて相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができる。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削の上で返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編	アカデミックジャパニーズ研究会	アルク	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み中、本館1614研究室にて（事前にmiyazawa.takayoshi@nihon-u.ac.jpまで必ずアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入講義	ガイダンス。日本語について。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自己紹介を行うことができる。	
	事前学修	日本語についてのこれまでの知識を復習しておくこと。	120分
	事後学修	日本語について書かれた書籍を図書館で調べておくこと。講義内容の復習をしておくこと。	120分
2	テーマに沿った文章を読む1	第1課「作文の基本（1）」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第1課「作文の基本（1）」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第1課「作文の基本（1）」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
3	テーマに沿った文章を読む2	第2課「作文の基本（2）」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第2課「作文の基本（2）」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第2課「作文の基本（2）」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
4	テーマに沿った文章を読む3	第3課「課題の提示」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第3課「課題の提示」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第3課「課題の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
5	テーマに沿った文章を読む4	第4課「目的の提示」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第4課「目的の提示」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第4課「目的の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
6	テーマに沿った文章を読む5	第5課「定義と分類」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第5課「定義と分類」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第5課「定義と分類」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマに沿った文章を読む 6	第 6 課「図表の提示」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 6 課「図表の提示」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第 6 課「図表の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
8	テーマに沿った文章を読む 7	第 7 課「変化の形容」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 7 課「変化の形容」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第 7 課「変化の形容」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
9	テーマに沿った文章を読む 8	第 8 課「対比と比較」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 8 課「対比と比較」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第 8 課「対比と比較」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
10	テーマに沿った文章を読む 9	第 9 課「原因の考察」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 9 課「原因の考察」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第 9 課「原因の考察」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
11	テーマに沿った文章を読む 1 0	第 1 0 課「列挙」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 1 0 課「列挙」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第 1 0 課「列挙」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
12	テーマに沿った文章を読む 1 1	第 1 1 課「引用」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 1 1 課「引用」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第 1 1 課「引用」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テーマに沿った文章を読む 1 2	第 1 2 課「同意と反論」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 1 2 課「同意と反論」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	第 1 2 課「同意と反論」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
14	テーマに沿った文章を読む 1 3	第 1 3 課「帰結」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テキストを読解し、課題文を書くことができる。	
	事前学修	テキスト第 1 3 課「帰結」を読んでおくこと。最終課題の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	第 1 3 課「帰結」について、講義内容の復習をしておくこと。	120分
15	アカデミック・ライティングについて	アカデミック・ライティングと文章一般について。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、半期のまとめとしての課題文を書くことができる。	
	事前学修	最終課題の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	アカデミック・ライティングと文章一般について、講義内容を復習しておくこと。一年の講義内容を確認すること。	120分

科目名	日本語Ⅹ	担当者	小野 美典	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
担当者が用意したプリント資料に沿って授業を進める。授業は、（１）問題をその場で解く時間、（２）解説の時間、（３）全員で討議する時間の三つの部分に分ける。資料には、様々な書籍から、昨今問題となっている事項を取り出して扱う。最新の日本語が適切に読めて正しい日本語表現ができるようになることを目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に日本語の文章作成、日本語に対する質問）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 6, 8

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。なお、日本語ⅠからⅦのうち、少なくとも３つ以上を履修した上での受講が望ましい。

【授業方法】
日本の内外で問題となっている事項に関する新聞の社説を精読する。最新の新聞の社説をもととした読解問題をプリント教材として配付し、実践演習と解説を繰り返す。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出。添削指導を行う。従って、場合によっては喫緊の問題を扱った社説を取り上げるなど、教材に関しては臨機応変な対応をとるので、その点を了解して受講して欲しい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者の書いた日本語文に関して、講評文を作成してもらい全員の意見交換を行い、より良い日本語文が書けるようになることを目指す。また、講義担当者からの添削を繰り返すことで日本語能力の向上を目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				4					4		
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や自国の文化について説明できるようになる。									4		
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。											4
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語の文章を読解し、そこにある問題を発見して解決に結びく説明をすることができる。				4							4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関連して、毎回の授業ごとに実施する理解度チェックテストにより、日本語の読解と表現を身に付けることができているかどうかを評価する。	20	10	10	10							50
レポート等	単元終了ごとに小テスト形式のレポート作成を課題として課す。このレポートが、到達目標の①②③④に関連して、日本語表現上の問題点がなく適切な日本語で書き記されているかどうかを判断基準として、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかどうかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	到達目標③④に関連して、他者の書いた日本語文を正確に理解・把握し、自分の意見を適切に説明することができるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削して返却。または講義中の解説でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアボをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、導入講義		〔1〕講義概要と成績評価に関する説明。〔2〕比較的短い課題文の完成と提出。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内での教員の説明を正しく理解し、自分の疑問・意見を適切に表明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。	30分
2	日本における自殺の問題		「自殺者の増加」に関する社説の解説①。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。日本における若年層の自殺者の増加に関して、図書館やネットで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「自殺者の増加」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
3	日本社会の今後の対応		「自殺者の増加」に関する社説の解説②。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。日本のみならず世界における自殺者数の推移に関して調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「自殺者の増加」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
4	津波		2回・3回授業の確認小テスト 「津波てんでんこ」に関する社説の解説①。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「津波てんでんこ」に関して、図書館やネットで調べておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「津波てんでんこ」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
5	子供たちの死		「津波てんでんこ」に関する社説の解説②。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。東日本大震災における津波の襲来に対して、人々のとった行動に関して調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「津波てんでんこ」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
6	外国人観光客依存		4回・5回授業の確認小テスト 「観光の街からの脱却」に関する社説の解説①。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。日本を訪問する外国人観光客の動向に関して調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「観光の街からの脱却」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	新しい観光資源の開拓	「観光の街からの脱却」に関する社説の解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。観光都市からの脱却を模索している年に関して調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「観光の街からの脱却」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
8	開催か中止か	6回・7回授業の確認小テスト 「東京オリンピック」に関する社説の解説①	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。東京オリンピック（2020）の延期決定の経緯に関して調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東京オリンピック」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
9	オリンピックそのものについて	「東京オリンピック」に関する社説の解説②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。各自がオリンピックの抱える問題点に関して調査しまとめておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東京オリンピック」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
10	環境破壊	8回・9回授業の確認小テスト 「地球規模での気候変動」に関する社説の解説①	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「地球規模での気候変動」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「地球規模での気候変動」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
11	未来に向けて	「地球規模での気候変動」に関する社説の解説②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。地球環境を守るためにどのようなことができるか、ネットなどで調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「地球規模での気候変動」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
12	異文化同士の衝突	10回・11回授業の確認小テスト 「異文化理解」に関する社説の解説①	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。自身が日本に来て最も興味を持った「異文化」について簡単に説明できるようにまとめておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「異文化理解」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	お互いの理解のために	「異文化理解」に関する社説の解読②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。また、異文化を理解するために何に注意すべきかに関して、まとめておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「異文化理解」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
14	適切な日本語による表現	12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。	60分
15	半年の学びの整理と確認	半年の学びを振り返り、日本語表現の特質に関して理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい日本語を使用し、時と場に応じて適切な日本語表現で自らの考えを他者に伝えられるようになることを目標とする。	
	事前学修	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標が達成できているかどうかを確認する。	120分
	事後学修	他の受講者たちの質問を参考にして、各自の理解の至らなかった点を復習する。	30分

科目名	日本語Ⅸ	担当者	小野 美典	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		○

【授業の概要】
担当者が用意したプリント資料に沿って授業を進める。授業は、（１）問題をその場で解く時間、（２）解説の時間、（３）全員で討議する時間の三つの部分に分ける。資料には、様々な書籍から、昨今問題となっている事項を取り出して扱う。最新の日本語が適切に読めて正しい日本語表現ができるようになることを目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に日本語の文章作成、日本語に対する質問）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 6, 8

【履修条件】
国語辞典を持参すること（電子辞書可）。なお、日本語ⅠからⅦのうち、少なくとも３つ以上を履修した上での受講が望ましい。

【授業方法】
日本の内外で問題となっている事項に関する新聞の社説を精読する。最新の新聞の社説をもととした読解問題をプリント教材として配付し、実践演習と解説を繰り返す。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出。添削指導を行う。従って、場合によっては喫緊の問題を扱った社説を取り上げるなど、教材に関しては臨機応変な対応をとるので、その点を了解して受講して欲しい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者の書いた日本語文に関して、講評文を作成してもらい全員の意見交換を行い、より良い日本語文が書けるようになることを目指す。また、講義担当者からの添削を繰り返すことで日本語能力の向上を目指す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本語の文章を厳密に読解して筆者の言わんとするところを正確に把握し、それに対する自分の態度を説明できるようになる。				4					4		
②	日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正確な日本語で日本や自国の文化について説明できるようになる。									4		
③	課題に対して客観的・論理的なアプローチを行うことで、日本語を用いる中で論理的・批判的な思考と表現ができるようになる。											4
④	幅広い知識と教養を身につけることで、日本語の文章を読解し、そこにある問題を発見して解決に結びく説明をすることができる。				4							4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関連して、毎回の授業ごとに実施する理解度チェックテストにより、日本語の読解と表現を身に付けることができているかどうかを評価する。	20	10	10	10							50
レポート等	単元終了ごとに小テスト形式のレポート作成を課題として課す。このレポートが、到達目標の①②③④に関連して、日本語表現上の問題点がなく適切な日本語で書き記されているかどうかを判断基準として、日本語での論理的な文章力・批判的な表現力が身についているかどうかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	到達目標③④に関連して、他者の書いた日本語文を正確に理解・把握し、自分の意見を適切に説明することができるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
添削して返却。または講義中の解説でおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、導入講義		〔1〕講義概要と成績評価に関する説明。〔2〕比較的短い課題文の完成と提出。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内での教員の説明を正しく理解し、自分の疑問・意見を適切に表明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。	30分
	事後学修	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。	30分
2	危険回避の方法		「登山事故」に関する社説の解説①。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「登山事故」の中に書かれている事故に関して、ネットで概要を調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「登山事故」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
3	登山事故の教訓		「登山事故」に関する社説の解説②。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「登山事故」の中に記された事故がなぜ生じたのかに関して、各自で考えておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「登山事故」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
4	若者と読書		2回・3回授業の確認小テスト 「若者と読書」に関する社説の解説①。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。日本人大学生の読書に関してネット上のデータを集めて各自で分析しておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「若者と読書」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
5	世界の若者と読書		「若者と読書」に関する社説の解説②。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。各自の出身国における読書の実態調査のデータがあればそれに関して調べておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「若者と読書」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
6	あおり運転		4回・5回授業の確認小テスト 「あおり運転」に関する社説の解説①。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。近年日本で問題となっている「あおり運転」に関して、ネットなどで調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「あおり運転」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	オンライン脱抑止効果		「あおり運転」に関する社説の解説②。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。		
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。オンライン脱抑止効果に関して調べておく。		30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「あおり運転」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。		60分
8	監視社会		6回・7回授業の確認小テスト 「監視資本主義」に関する社説の解説①	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。		
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「監視資本主義」に関して調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。		30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「監視資本主義」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。		60分
9	個人情報の売買		「監視資本主義」に関する社説の解説②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。		
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。個人情報が商売となっている事例に関して調べておく。		30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「監視資本主義」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。		60分
10	理想的な「死」とは		8回・9回授業の確認小テスト 「ピンピンコロリ」に関する社説の解説①	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。		
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「ピンピンコロリ」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。		30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ピンピンコロリ」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。		60分
11	未来に向けて		「ピンピンコロリ」に関する社説の解説②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。		
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。ピンピンコロリで「死」を迎えるために、どのような方法があるのか、ネットなどで調べておく。		30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ピンピンコロリ」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。		60分
12	日本の消費税		10回・11回授業の確認小テスト 「古代インドの政策コンペ」に関する社説の解説①	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。		
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。古代インドの政策コンペに関して簡単に説明できるようにまとめておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。		30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「古代インドの政策コンペ」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	消費税について		「古代インドの政策コンペ」に関する社説の解読②
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事前配付の課題プリントの日本語を正しく理解し、問いに適切に答えることができるようになることを目標とする。また、到達目標③④に関連して、授業内での討論において相手の意見を正確に理解し、自分の意見を適切に説明することができるようになることを目標とする。	
	事前学修	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。また、「古代インドの政策コンペ」の内容を踏まえて、日本の消費税に関して各自の意見をまとめておく。	30分
	事後学修	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「古代インドの政策コンペ」に関する発展学習の日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。	60分
14	適切な日本語による表現		12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、小テストでの到達度確認において日本語の読解と表現を適切に使って問いに答えることができるようになることを目標とする。	
	事前学修	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。	30分
	事後学修	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。	60分
15	半年の学びの整理と確認		半年の学びを振り返り、日本語表現の特質に関して理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標の①②③④に関連して、正しい日本語を使用し、時と場に応じて適切な日本語表現で自らの考えを他者に伝えられるようになることを目標とする。	
	事前学修	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標が達成できているかどうかを確認する。	120分
	事後学修	他の受講者たちの質問を参考にして、各自の理解の至らなかった点を復習する。	30分

科目名	スペイン語ⅠA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級スペイン語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なスペイン語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en viñetas	Noritaka Fukushima	朝日出版	2014年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	挨拶 名前を言う	オリエンテーション・参考文献の紹介 挨拶表現、アルファベット	
	この回の 到達目標	授業で学んだ表現、アルファベットを覚える。	
	事前学修	スペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄について文章にできるよう、考えておく。	10分
	事後学修	復習。授業で学んだ表現、アルファベットを覚える。	60分
2	発音	スペイン語の発音	
	この回の 到達目標	スペイン語を正しい発音で読むことができる。	
	事前学修	第一回目の授業で配られた用紙にスペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄などについて記入する。	30分
	事後学修	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。	30分
3	名詞、冠詞、形容詞	Lección 1	
	この回の 到達目標	スペイン語の名詞の用法を理解する。 簡単な挨拶ができるようになる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。 Lección 1の会話の復習	30分
4	名詞、冠詞、形容詞	Lección 1	
	この回の 到達目標	冠詞と形容詞の使い方を習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
5	主語の代名詞 動詞ser, estar, 文の種類, 挨拶	Lección 2	
		Lección 2	
		Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
		この回の到達目標 人称代名詞とserの活用と用法を習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 2の会話の復習	30分
6	主語の代名詞 動詞ser, estar, 文の種類, 挨拶	Unidad 2	
		この回の到達目標 estarの活用と用法を習得する。	
		事前学修	新出単語調べ 30分
		事後学修	Lección 2の会話の復習 30分
7	復習		中間試験
	この回の到達目標	Lección2までに学習したことを定着させる。	
		事前学修	Lección 1-2復習 120分
		事後学修	できなかったものを復習する。 30分
8	規則動詞、指示詞、国・国民・言語		中間試験 FB Lección 3
	この回の到達目標	規則動詞の活用と用法を習得する。	
		事前学修	新出単語調べ 30分
		事後学修	復習と定着 30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
9	規則動詞、指示詞、国・国民・言語	Lección 3	
	この回の到達目標	指示詞、国・国民・言語について学び、理解する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 3の会話の復習	60分
10	不規則動詞、tener, irの用法、前置詞	Lección 4	
	この回の到達目標	tener, ir, venirの活用と用法を習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	規則動詞の活用を覚える	30分
11	不規則動詞、tener, irの用法、前置詞	Lección 4	
	この回の到達目標	hacer, decir, dar, saber, conocerの活用と用法を習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección 4の会話の復習	30分
12	不規則動詞、tener, irの用法、前置詞	Lección 4	
	この回の到達目標	前置詞の用法を習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	この課で学習した動詞を復習する。	60分
13	総復習	Lección 1～4	
	この回の到達目標	前期に学習した表現を使い、簡単な自己紹介文を書けるようになる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	総復習	120分
14	まとめ	期末試験 振り返り	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
15	まとめと復習	期末テストフィードバック	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
	事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	スペイン語 I B	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級スペイン語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なスペイン語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en viñetas	Noritaka Fukushima	朝日出版	2014年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	querer, poder, jugarの現在形、母音変化動詞、食べ物、飲み物	春学期 復習 Lección 5	
	この回の到達目標	querer, poder, jugarの活用と用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección5 会話の復習	30分
2	母音変化動詞、食べ物、飲み物	Lección 5	
	この回の到達目標	身の回りのものの所在、体調や気分を述べることができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección5 会話の復習	30分
3	目的語の代名詞、gustar, 基数詞、通貨	Lección 6	
	この回の到達目標	直接目的語の代名詞の用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	60分
4	目的語の代名詞、gustar, 基数詞、通貨	Lección 6	
	この回の到達目標	間接目的語の代名詞の用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	30分
5	目的語の代名詞、gustar, 基数詞、通貨	Lección 6	
	この回の到達目標	gustarの用法の習得,	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	30分
6	目的語の代名詞、gustar, 基数詞、通貨	Lección 6	
	この回の到達目標	基数詞、通貨	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección6 会話の復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Lección 5~6 復習	中間テスト	
	この回の到達目標	Lección 5~6の学習項目の定着	
	事前学修	Lección 6までの復習	120分
	事後学修	中間テストでできなかったものを復習する	30分
8	比較級、最上級、所有詞、存在文hay	Lección 7	
	この回の到達目標	比較級の用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	30分
9	比較級、最上級、所有詞、存在文hay	Lección 7	
	この回の到達目標	最上級の用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	60分
10	比較級、最上級、所有詞、存在文hay	Lección 7	
	この回の到達目標	所有詞の用法の習得	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	復習と定着	30分
11	比較級、最上級、所有詞、存在文hay	Lección 7	
	この回の到達目標	hayとestarの用法の違いを習得する。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Lección6 会話の復習	30分
12	スペインの文化	スペイン語圏の映画の紹介	
	この回の到達目標	映画を通じてスペイン語圏の文化や社会情勢について学ぶ。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	興味のある映画をピックアップしておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ	総復習	
	この回の到達目標	既習事項を復習し、分からないことがあれば、確認し、定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	総復習	120分
14	まとめ	期末試験 振り返り	
	この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
15	まとめと復習	試験のフィードバック	
	この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
	事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。（30分）	30分

科目名	スペイン語ⅡA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのスペイン語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったスペイン語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	毎日の生活時間について話す	オリエンテーション・参考文献の紹介 スペイン語I レベルの復習 Unidad 9 再帰動詞	
	この回の到達目標	再帰動詞と再帰ではない動詞の区別ができるようになる。	
	事前学修	スペイン語Iの復習またはそれに相当するレベルのスペイン語の学習	60分
	事後学修	再起動詞の活用を覚える	30分
2	誘う・断る	Unidad 9 再帰動詞のその他の用法 義務表現	
	この回の到達目標	友達を誘ったり、誘いを断ったりできる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 51 5	30分
3	毎日の生活時間について書く	Unidad 9	
	この回の到達目標	再帰動詞を使って質疑応答ができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 54 4, 5	30分
4	好きなことについて話す	Unidad 10 前置詞格人称代名詞 gustar	
	この回の到達目標	gustarの使い方がわかる	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 55 ちょこ練 2	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
5	興味があることを話す 体の痛いところを言う	Unidad 10 gustar 型の動詞 interesar, parecer, doler	
		Unidad 2 人称代名詞 動詞ser	
	この回の到達目標	gustar型の動詞を使って、興味や体の痛い場所について話せる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 57 5	30分
6	友達と体調について話す	Unidad 10	
	この回の到達目標	体調が悪い友達にアドバイスができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Unidad 9, 10の復習	60分
7	試着する	中間試験 Unidad 11 比較、最上級	
	この回の到達目標	比較級、最上級を使い、意見が言える。	
	事前学修	Unidad 9-10 復習	120分
	事後学修	p. 63 1	30分
8	友達について知る メキシコの都市 メキシコの行事	中間試験 FB Unidad 11 不定語 否定語	
	この回の到達目標	友達とスペインやラテンアメリカのことについて話す	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 63 6	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
9	メキシコの都市	Unidad 11 感嘆文	
	この回の到達目標	感動を伝えることができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 66 6	30分
10	点過去	Unidad 12 点過去 規則動詞	
	この回の到達目標	規則動詞の点過去の活用を覚える。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	規則動詞の点過去の活用を覚える	30分
11	昨日の出来事	Unidad 12 点過去 不規則動詞	
	この回の到達目標	昨日したことが話せる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 69 5	30分
12	歴史	Unidad 12 数字 100-2000	
	この回の到達目標	歴史的出来事について簡単に述べることができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 72 5	60分
13	旅行	Unidad 12 総復習	
	この回の到達目標	今まで行った旅行について述べるができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	総復習	120分
14	まとめ	期末試験 振り返り	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
15	まとめと復習	期末テストフィードバック	
	この回の到達目標	前学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	試験でできなかったことを確認しておく	30分
	事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える	30分

科目名	スペイン語ⅡB	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
スペイン語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのスペイン語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストを中心に進めます。辞書必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	スペイン語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったスペイン語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の返却後に講評、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Español en imágenes	Eugenio del Prado他	朝日出版	2019年	教科書	必携
プログレッシブ スペイン語辞典 (第2版)	鼓直他	小学館	2016	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後、講堂にて。授業時間：水曜3・4限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	過去の習慣	点過去の復習 Unidad 13 線過去	
	この回の到達目標	子供の頃のことについて述べるができる	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	線過去の活用を覚える	30分
2	過去の出来事について述べる	Unidad 13 点過去と線過去	
	この回の到達目標	点過去と線過去を使い分けることができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 75 2	30分
3	ペルー、ボリビアの街	Unidad 13 直接話法・間接話法 数字10. 000 助数	
	この回の到達目標	直接話法の文（現在形、過去形）を間接話法に書き換えることができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 75 5	30分
4	経験	Unidad 14 過去分詞 現在完了	
	この回の到達目標	自分の経験について述べるができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
5	過去の経験	Unidad 14 過去完了	
	この回の到達目標	過去のある時点よりも前に完了したこと、過去のある時点までの経験を述べるができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 81 5	30分
6	レストラン	Unidad 14 完了形のまとめ	
	この回の到達目標	レストランで注文、会計ができる	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	Unidad 13-14 復習	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	チリ、アルゼンチンの町		中間テスト Unidad 15 現在分詞 現在進行形
	この回の到達目標	今していることについて述べることができる。	
	事前学修	Unidad 14までの復習	120分
	事後学修	新しい動詞の活用を覚える	30分
8	家族の写真		Unidad 15 現在分詞のその他の用法
	この回の到達目標	写真を見せながら家族について述べるができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 87 5	30分
9	スペイン語圏のクリスマス		Unidad 15 関係代名詞 関係副詞
	この回の到達目標	スペイン語でクリスマスの歌を歌うことができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 90 4, 5, 6	60分
10	将来		Unidad 16 未来形
	この回の到達目標	将来について述べるができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	新しい動詞の活用を覚える。	30分
11	占い		Unidad 16 過去未来
	この回の到達目標	過去未来形を使った様々な表現が使える。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 93 5	30分
12	50年後の世界		Unidad 16 未来形、過去未来形のまとめ
	この回の到達目標	未来の世の中について述べるができる。	
	事前学修	新出単語調べ	30分
	事後学修	p. 96 3, 4	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まとめ	総復習	
	この回の到達目標	既習事項を復習し、分からないことがあれば、確認し、定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	総復習	120分
14	まとめ	期末試験 振り返り	
	この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	総復習	120分
	事後学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
15	まとめと復習	試験のフィードバック	
	この回の到達目標	後学期に学習し、習得したことを確認し、できなかったことを復習し知識を定着させる。	
	事前学修	試験でできなかった箇所を確認しておく	30分
	事後学修	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。（30分）	30分

科目名	韓国語ⅠA	担当者	鄭 長勲	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級韓国語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易な韓国語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 初級	李昌圭	朝日出版社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～、金曜14：30～ 授業終了後の講堂にて chiyon.jiyanfun11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	韓国語と「ハングル」文字	韓国語の特徴と「ハングル」文字の仕組みを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、韓国語全般について理解する。	
	事前学修	1課の韓国語と文字を読む。	30分
	事後学修	復習。	30分
2	基本母音	基本母音字と発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本母音字を覚える	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
3	基本子音	基本子音字と発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本子音字と発音を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
4	合成子音と合成母音	合成子音字と合成母音字の発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、合成子音字と合成母音字の発音を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
5	終声子音	終声に使われる子音の発音を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、終声に使われる子音の発音を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
6	連音化	連音化を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、連音化を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人称代名詞と自己紹介	第10課 私は学生です。 ・人称代名詞と自己紹介の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人称代名詞と自己紹介の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。(30分)	30分
8	指示代名詞と体言の否定表現	第11課 これは何ですか。 ・指示代名詞と体言の否定表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指示代名詞と体言の否定表現を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	家族名称	第12課 この人は誰ですか。 ・家族名称を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家族名称を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	ここまでの振り返り	第13課 復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、10課から12課までの内容を復習する。	
	事前学修	読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
11	位置関係の語と存在の表現	第14課 教室に何がありますか。 ・位置関係の語と存在の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、位置関係の語と存在の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	丁寧形表現	第15課 何をしますか。 ・丁寧形表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、丁寧形表現を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	時間関係の語と尊敬形表現	第16課どこへ行かれますか。 ・時間関係の語と尊敬形表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時間関係の語と尊敬形表現を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	ここまでの振り返り	第17課復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、14課から16課までの内容を復習する。	
	事前学修	読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
15	期末試験、振り返り	期末試験及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
	事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
	事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語 I B	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。ハングル検定5級対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級韓国語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
韓国語の文字が読めること。

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易な韓国語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 初級	李昌圭	朝日出版社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜14：30～、金曜14：30～ 授業終了後の講堂にて chiyon.jiyanfun11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
2	5級検定対策	ハングル検定対策出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
3	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
4	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
5	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
6	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	5級検定対策	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
8	過去形	第18課 昨日何をしましたか。 ・過去形表現と連結語尾を練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去形表現と連結語尾を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	漢数字	第19課 試験はいつですか。 ・漢数字と年月日の言い方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、漢数字と年月日の言い方を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	固有数字	第20課 いま何時ですか。 ・固有数字と時刻の言い方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、固有数字と時刻の言い方を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	ここまでの振り返り	21課 復習	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、18課から20課までの内容を復習する。	
	事前学修	読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
12	打ち解けた丁寧形	第22課 いくらですか。 ・丁寧、尊敬形と数量表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、打ち解けた丁寧・尊敬形と数量表現を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	提案と希望表現		第23課 何を食べましょうか。 ・提案、勧誘の表現と希望、願望の表現を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、提案、勧誘の表現と希望、願望の表現を覚える。	
	事前学修	説明を読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	ここまでの振り返り		第24課 復習
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、22課と23課の内容を復習する。	
	事前学修	読んでCDを聞く。	30分
	事後学修	CDを聞き、訳を覚える。	30分
15	期末試験、振り返り		期末試験及びまとめ、振り返り
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
	事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
	事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語ⅡA	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルの韓国語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
20時間以上の学習を終えた人

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる									2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまった韓国語の文章を表現することができる									2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 中級	李昌圭	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜16：10～ 授業終了後の講堂にて chiyon.jiyanfun11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	理由・原因の表現	1課 理由、原因の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、理由、原因の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
2	否定の表現	1課 否定の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、否定の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
3	決定・約束の表現	1課 決定、約束の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、決定、約束の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
4	仮定・条件の表現	2課 仮定、条件の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、仮定、条件の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
5	連体形	2課 連体形の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連体形の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
6	確認・状況説明の表現	3課 確認、状況説明の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、確認、状況説明の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	根拠・約束の表現	3課 根拠、約束の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、根拠、約束の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
8	前提・前置きの表現	5課 前提、前置きの表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前提、前置きの表現を覚える	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	禁止の表現	5課 禁止の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、禁止の表現を覚える	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	意図・同時進行の表現	6課 意図、同時進行の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意図、同時進行の表現を覚える	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	可能形	6課 可能の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、可能の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	推測の表現	7課 推測の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、推測の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	感嘆形		7課 感嘆の表現を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、感嘆の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	伝聞・間接表現		7課 伝聞の表現を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、伝聞の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	期末試験		期末試験及びまとめ、振り返り
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
	事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
	事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	韓国語ⅡB	担当者	鄭 長勲	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
韓国語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。ハングル検定4級レベル対策。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルの韓国語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
30時間以上の学習を終えた人

【授業方法】
授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	韓国語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまった韓国語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
韓国語へ旅しよう 中級	李昌圭	朝日出版社	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜16：10～ 授業終了後の講堂にて chiyon.jiyanfun11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚える。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
2	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
3	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
4	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
5	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
6	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	4級検定対策	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。	
	事前学修	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。	30分
	事後学修	問題で理解度を確認する。	30分
8	能力・経験の表現	9課 能力の有無と経験の有無の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、能力の有無と経験の有無の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
9	中断・転換の表現	9課 中断、転換の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、中断、転換の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
10	当然・制限の表現	10課 当然、必要と禁止、制限の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当然、必要と禁止、制限の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
11	許容の表現	10課 許容、許可の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、許容、許可の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
12	資格の表現	11課 資格の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、資格の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	例示の表現	11課 例示の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、例示の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
14	待遇表現	11課 待遇表現の表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、待遇表現の表現を覚える。	
	事前学修	説明と例文を読み、CDを聞く。	30分
	事後学修	練習問題で理解度を確認する。	30分
15	期末試験、振り返り	期末試験及びまとめ、振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、定着度をテストし、不足点を補う。	
	事前学修	出題範囲の内容を覚える。	30分
	事後学修	試験問題の誤答を確認する。	30分

科目名	ロシア語ⅠA	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級ロシア語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
外国語、外国の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもてること。

【授業方法】
教科書に沿ってロシア語の文字からゆっくりと覚えていきます。基本となる文法の構造を知りながら、初級ロシア語の基礎を着実に身につけるためのトレーニングをします。また、ロシアを知るための映像を見たり、ミニレクチャーも行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロシア文化について関心のあるテーマを選び、短い発表を行いましょう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なロシア語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日の文法のポイントを小レポートとしてまとめて提出したものを翌週に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
備考	辞書については教場で紹介・説明予定。				

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義： ロシア語とはどんな言語か	ロシア語の歴史や特徴、現在ロシア語が使える国々について解説する。	
	この回の到達目標	ロシア語に使われているキリル文字の由来について知る。	
	事前学修	教科書を購入し、シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 8-10（ロシアについての基礎知識）を読む。	30分
2	アルファベットについて知る	アルファベットの名称と書き方	
	この回の到達目標	ロシア語のアルファベットの名称を覚え、書けるようになる。	
	事前学修	教科書p. 11を見ながら音源2を3回聞く。	30分
	事後学修	アルファベットをすべて覚える。	30分
3	文字と発音（母音）	10の母音の発音をマスターする	
	この回の到達目標	10の母音をすべてマスターし、正しく発音できるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 12-13に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	母音の発音が正確にできるか確認しつつ宿題のプリントで練習する。	30分
4	文字と子音の発音	22の子音の発音をマスターする。	
	この回の到達目標	子音の音価を覚え、常に正確な発音ができるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 14-17に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	母音・子音すべての音を正確に発音できるか確認しつつ宿題のプリントを解きながら練習する。	60分
5	A=Bの構文とイントネーション	「これは〇〇です」「これは〇〇ですか？」の構文とイントネーション。	
	この回の到達目標	A=Bです、A=Bですか？というもっとも基本的な構文の文法を学び、平叙文と疑問文の正確なイントネーションを身につける。	
	事前学修	教科書pp. 18-19に目を通し、音源を聞きながら本文の発音を反復してみる。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある作文に取り組む。	30分
6	人称代名詞	人称代名詞6つ、「〇〇は～ではない」の構文、基本的な挨拶（こんにちは、はじめまして、おはようございます、こんばんは）の言い方。	
	この回の到達目標	人称代名詞6つの区別と正しい発音を覚える。基本の否定文の構造とイントネーションを学ぶ。日常的に使う挨拶の表現を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 22-23に目を通し、音源を聴きながら本文の発音と繰り返し、1課で学んだ肯定文との違いを考えてみる。	30分
	事後学修	教科書pp. 26-27の練習問題を解き、新しく出てきた単語を覚える（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	所有代名詞	所有代名詞、指示代名詞の種類と使い方	
	この回の到達目標	所有代名詞（私の、あなたの）と指示代名詞（この）の種類を覚え、名詞とともに正しい形で使えるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 28-29に目を通し、音源を少なくとも3回聞いておく。	40分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	60分
8	形容詞	名詞の性、形容詞の使い方	
	この回の到達目標	名詞の性の見分け方を覚え、名詞に形容詞をつける場合に、性に応じて3種類の語尾変化を正確に行うことができるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 32-35に目を通しておく。	40分
	事後学修	教科書pp. 36-37の練習問題を解き（宿題）、pp. 38-39の単語を書いて覚える。	60分
9	動詞の変化	動詞の現在形、第1変化のかたち	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化のうち、もっとも多い第1変化のかたちを習得する。	
	事前学修	教科書pp. 40-41に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある動詞をすべて正確に現在人称変化させる。	40分
10	動詞の第2変化、名詞の複数形	動詞の現在形、第2変化のかたち。名詞の複数形の作り方。	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化の第2変化のかたちをマスターし、第1変化と正確に区別できるようにする。さらに、名詞の複数形の作り方の規則を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 44-45に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 48-49の練習問題を解く（宿題）。	40分
11	名詞の格変化：前置格	名詞の格変化と前置詞 в, н а, о。- с я 動詞の現在人称変化の仕方。	
	この回の到達目標	名詞の格の概念について知り、前置格の用法と格変化の仕方を覚える。また、よく使われる- с я 動詞の現在形の変形もマスターする。	
	事前学修	教科書pp. 50-51に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解き、前置格の格変化をしっかりと復習する。	40分
12	所有の表現、命令形	「私は○○を持っています」の構文。動詞の命令形の作り方。	
	この回の到達目標	「私は○○を持っています」の特殊な文法を理解し、さまざまな表現が言えるようになる。さらに、依頼の際によく用いる動詞の丁寧な命令形の作り方を身につける。	
	事前学修	教科書pp. 54-55に目を通すとともに、動詞の第1変化、第2変化を復習しておく。	40分
	事後学修	教科書pp. 58-59の練習問題を正確に解く（宿題）。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	名詞の対格		名詞の格変化、対格とは何か。
	この回の到達目標	動詞の直接目的語となる対格の用法と変化の仕方についてマスターする。	
	事前学修	教科書pp. 60-61に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	動詞писатьの現在人称変化を暗記する。	30分
14	これまでのまとめと復習		これまでに学習した文法事項の総復習と応用。
	この回の到達目標	既習の文法を整理し、忘れているところ、理解不足の点を補強して基礎文法の土台を確実なものにする。	
	事前学修	教科書1-9課までを復習してくること。	60分
	事後学修	授業中に配布したプリントの練習問題をすべて確実に解けるよう復習する。	60分
15	理解度の確認と解説		試験とその後の解説、間違った箇所の復習。
	この回の到達目標	基本の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
	事前学修	既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	120分
	事後学修	試験の解答の見返し、教科書と照らし合わせての復習。	60分

科目名	ロシア語ⅠB	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の文字の読み書きと発音を覚え、基礎的な文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級ロシア語を身に付けるために、A1レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
外国語、外国の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもてること。

【授業方法】
教科書に沿ってロシア語の文字からゆっくりと覚えていきます。基本となる文法の構造を知りながら、初級ロシア語の基礎を着実に身につけるためのトレーニングをします。また、ロシアを知るための映像を見たり、レクチャーも行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロシア文化について関心のあるテーマを選び、短い発表を行いましょう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級文法について説明及び活用することができる									1		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、平易なロシア語の文章を表現することができる									1		
③	ゆっくりとしたテンポでごく基本的な表現を聞き取ることができる									1		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日の文法のポイントを小レポートとしてまとめてもらい、次回に添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
備考	辞書については教場で紹介・説明予定。				

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	運動の動詞		動詞идтиを用いた「○○へ行く」の構文と行き先の表現。
	この回の到達目標	運動の動詞идтиを用いた「○○へ行く」という構文の作り方と、前置詞в、наとともに行き先を示す対格の用法を習得する。また、動詞хотетьを用いた「～したい」という表現も身につける。	
	事前学修	教科書pp. 64-65に目を通し、動詞идтиとхотетьの現在人称変化を暗記する。	40分
	事後学修	教科書pp. 68-69の練習問題を解き、pp. 70-71の「単語力アップ」の単語を暗記する。	80分
2	動詞の時制：過去形		動詞の過去形の作り方。「勉強する」を意味する動詞。
	この回の到達目標	動詞の過去時制の作り方を覚える。また「勉強する」を意味する3つの動詞、учиться, заниматься, изучатьの使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選べるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 80-81に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 84-85の練習問題を解く（宿題）。	40分
3	動詞の時制：未来形		動詞の未来形の作り方。動詞болеть「痛い」の用法。
	この回の到達目標	動詞の未来形の作り方を覚える。「○○が痛い」という構文を理解し、体のいろいろな部位を示す語とともに表現できるようになる。よく使う不規則動詞の変化も学ぶ。	
	事前学修	教科書pp. 86-87に目を通し、動詞пить（飲む）、есть（食べる）、петь（歌う）、танцевать（踊る）の現在変化を暗記する。	40分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を解く。	40分
4	名詞の格変化：生格		生格の用法：所有、否定生格。交通手段の表現。
	この回の到達目標	名詞の生格の用法：1) 所有や所属、2) 否定生格を理解し、格変化の仕方を覚える。また、交通手段を示す「на + 前置格」を使った作文ができるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 90-91に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 94-95の練習問題を解く（宿題）。	40分
5	単語力・表現力アップ		時を表すさまざまな表現。
	この回の到達目標	一週間の曜日、12カ月、朝・昼・晩・夜、四季、今年・去年・来年など、時を表す表現を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 96-97にじっくりと目を通し、音源を少なくとも2回は聞いてくる。	60分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解いてくる。	40分
6	名詞の格変化：与格		名詞の与格の用法と作り方。代名詞の与格。
	この回の到達目標	名詞の与格の用法と格変化の仕方を学ぶ。また、人称代名詞の与格も覚え、можноとともに「～でもいい」という許可の表現ができるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 98-99に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	すでに出てきた前置格・対格・生格・与格を整理する。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	名詞の格変化：造格	名詞の造格の用法と作り方。必要の表現。	
	この回の到達目標	名詞の造格の用法（手段、～と共に、～なしで）と格変化の仕方を学ぶ。無人称述語 нужно を用いた「～しなければならぬ」という必要を示す構文も覚える。	
	事前学修	教科書pp. 102-105に目を通しておく。	30分
	事後学修	教科書pp. 106-107の練習問題を解く（宿題）。	40分
8	形容詞の格変化 活動名詞の対格	形容詞の格変化のルールと変化の仕方。活動名詞（人間と動物を表す語）の対格の変化。	
	この回の到達目標	形容詞の格変化のルールを理解し、変化の仕方を覚え、名詞とともに正確なフレーズを作ることができるようになる。また、人間と動物を表す活動名詞の対格の変化形を覚え、作文できるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 108-109に目を通し、さらにp. 110の格変化表を暗記する。	40分
	事後学修	宿題のプリントにある練習問題を正確に解く。	40分
9	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体と不完了体の意味と用法。「似ている」の構文。	
	この回の到達目標	動詞の完了体と不完了体の区別の仕方と使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選択できるようになる。「似ている」を示す形容詞 похож の使い方を覚える。	
	事前学修	教科書pp. 112-113に目を通し、p. 114にある新しい動詞7つの不定形と意味を暗記する。	40分
	事後学修	教科書pp. 116-117の練習問題を解く（宿題）。	30分
10	単語力・表現力アップ	数詞の発音。さまざまな前置詞の用法。	
	この回の到達目標	数詞（0～2000）の正しい発音と合成数詞の作り方を習得する。さまざまな前置詞の格支配を知り、さらに豊かな表現ができる力をつける。	
	事前学修	教科書pp. 118-119に目を通し、音源を聞いておく。	30分
	事後学修	数詞1～100までを暗記する。	40分
11	完了体動詞の未来時制	完了体動詞の未来形の作り方と意味。無人称述語 нельзя の構文。	
	この回の到達目標	完了体動詞の現在形は未来時制となることを理解する。無人称文の述語 нельзя を用いて「～してはいけない」という禁止の表現ができるようになる。	
	事前学修	教科書pp. 120-121に目を通した上で、p. 122の動詞 помочь の変化を覚えておく。	30分
	事後学修	教科書p. 123にある例文をすべて暗記する。	30分
12	仮定法	仮定法の作り方。「気に入る」の表現。	
	この回の到達目標	仮定法の助詞 бы の用法と、仮定法の構文の作り方を覚える。「気に入る」を意味する動詞 нравиться の用法を理解する。	
	事前学修	教科書pp. 124-125に目を通し、p. 126の「述語の造格」の解説をしっかりと読んでおく。	30分
	事後学修	教科書pp. 128-129の練習問題を解く（宿題）。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	アクティブ・ラーニング		ロシア文化について関心のあるテーマを選び短い発表を行う。
	この回の到達目標	ロシアについて関心のあるテーマを選び、メディアや出版物などから興味のある情報を得てまとめ、プレゼンするスキルを養う。また、他の人の発表を聞き、疑問点や思ったことを発言する経験をもつ。	
	事前学修	情報収集、レジュメや原稿の準備を各自行う。	120分
	事後学修	他の人たちからの質問やコメントを糧に、さらに思考を深めていく。	30分
14	これまでのまとめと復習		後期で学習したことの総復習。
	この回の到達目標	既習の文法を整理し、忘れているところ、理解不足の点を補強して基礎文法の土台を確実なものにする。	
	事前学修	教科書10-20課を中心に総復習をしてくる。	120分
	事後学修	授業中に配布したプリントの練習問題をすべて確実に解けるよう復習する。	120分
15	理解度の確認と解説		試験とその後の解説、間違った箇所の復習。
	この回の到達目標	基本の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
	事前学修	既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	120分
	事後学修	試験の解答の見返し、教科書と照らし合わせての復習。	60分

科目名	ロシア語ⅡA	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのロシア語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
ロシア語入門レベルの知識を有していること

【授業方法】		
まず初めに発音の規則から初級文法の復習をひと通り行い、同時に辞書の引き方を身につける。その後、簡単な読み物の講読を通して、習得した文法の基礎を使いこなすスキルを磨く。さらに、中級の文法を学び、最終的にはネットや新聞などの記事を読む技術とコツを身につけていく。また、より深い文化や歴史を理解するために、映像や音楽、絵画、文学、料理など履修者の関心に合わせて文化的なことも毎回紹介していく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロシアの文化や歴史、政治、スポーツなど関心のあるテーマを選びプレゼンを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったロシア語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身についているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日に使用したプリントを提出してもらい、添削して次回の授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
プログレッシブロシア語辞典	中澤英彦	小学館	2014年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと発音復習	授業の進め方についてガイダンス、各履修者の希望とレベルをチェック。	
	この回の到達目標	ロシア語のアルファベットの発音を復習し再確認する。	
	事前学修	初級の教科書のCDを聞きながら、アルファベットの発音を復習しておく。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントでさらに発音の復習。	30分
2	基本の構文	「A=Bです」「A=Bではありません」、挨拶の表現。	
	この回の到達目標	基本の肯定文と否定文の構文をおさらいし作文できるようになる。また、基本の挨拶：「こんにちは」「おはようございます」「こんばんは」「さようなら」なども覚える。	
	事前学修	初級の教科書1課2課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
3	動詞の現在変化	動詞の第1変化、第2変化。人称代名詞。	
	この回の到達目標	動詞の現在人称変化を第1変化、第2変化ともに確実にできるようになる。6つの人称代名詞を主語にして現在形の簡単な文章が言えるようになる。	
	事前学修	初級の教科書5課6課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
4	名詞の性、複数形	名詞の性の区別と複数形の作り方。	
	この回の到達目標	名詞の性の見分け方を覚える。複数形の作り方、不規則な複数形をもつ名詞で使用頻度が高いものを覚える。	
	事前学修	初級の教科書4課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
5	所有代名詞、指示代名詞	所有代名詞の種類と指示代名詞の使用法。	
	この回の到達目標	人称代名詞ごとの所有代名詞を覚え、名詞の性・数に合わせて適切な所有代名詞を選べるようになる。指示代名詞も同様に、名詞の性・数に合わせて4つの中から適切なものを正確に選べるようにする。	
	事前学修	初級の教科書3課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
6	形容詞	形容詞主格の語尾変化。	
	この回の到達目標	名詞の性・数に合わせて形容詞の語尾が4種類に変化することを理解し、常に適切な変化ができるようにする。	
	事前学修	初級の教科書4課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	名詞の格変化：前置格		名詞の前置格の用法と変化の仕方。場所の表現。	
	この回の到達目標	名詞の前置格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。前置格を用いた場所の表現ができるようになる。		
	事前学修	初級の教科書7課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
8	名詞の格変化：対格		名詞の対格の用法と変化の仕方。	
	この回の到達目標	名詞の対格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。対格を目的語とする主語＋動詞・目的語の構文を言えるようになる。		
	事前学修	初級の教科書9課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
9	名詞の格変化：生格		名詞の生格の用法と変化の仕方。所有・所属の表現。	
	この回の到達目標	名詞の生格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。また、否定生格の意味を理解し、非存在の意味をもつ文章を言えるようになる。		
	事前学修	初級の教科書14課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
10	名詞の格変化：与格		名詞の与格の用法と変化の仕方。無人称文。	
	この回の到達目標	名詞の与格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。また、人称代名詞の格変化を学ぶとともに、無人称文の意味と用法を理解する。		
	事前学修	初級の教科書15課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
11	名詞の格変化：造格		名詞の造格の用法と変化の仕方。	
	この回の到達目標	名詞の造格の用法を覚え、格変化の仕方に沿って正確な文章を完成する。		
	事前学修	初級の教科書16課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分
12	動詞の時制・過去形		動詞の過去時制を用いた作文。	
	この回の到達目標	主語の性・数に応じて動詞を正確に過去時制にし、名詞の格変化と合わせて作文できるようになる。		
	事前学修	初級の教科書11課を読んでくる。		30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	動詞の時制・未来形	動詞の未来時制を用いた作文。	
	この回の到達目標	主語の人称に応じて動詞を正確に未来時制にし、名詞の格変化と合わせて作文できるようになる。	
	事前学修	初級の教科書13課を読んできろ。	30分
	事後学修	授業で使ったプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
14	所有の表現	ゞ＋生格を用いた所有の表現。	
	この回の到達目標	前置詞ゞを用いた所有の表現における主語と、生格で示される所有者の機能を正しく把握し、作文できるようになる。また、「もっていない」を示す否定生格も正確に表現できるようにする。	
	事前学修	初級の教科書8課を読んできろ。	30分
	事後学修	授業で使ったプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
15	理解度の確認と解説	試験とその後の解説、間違った箇所の復習。	
	この回の到達目標	既習の文法事項について試験問題を正確に解けること。その後の解説によって、理解が至らぬ箇所を自覚し、より確実な理解を得ること。	
	事前学修	授業中に使ったプリントと初級の教科書を使って、既習の文法事項、単語、構文の復習と暗記。	60分
	事後学修	試験の解答の見返しと復習。	30分

科目名	ロシア語ⅡB	担当者	高柳 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	外国語科目	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
						○		

【授業の概要】
ロシア語の初級～中級レベルの文法、表現、文化を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
初級～中級レベルのロシア語を身に付けるために、A2レベルの読み、聞き、話す能力を修得する。

【履修条件】
ロシア語、ロシア語圏の文化、歴史、思想、芸術など、何かに関心をもっていること。

【授業方法】		
前期に引き続き、基本の文法の復習を行いながら、同時に講読、会話、リスニングのトレーニングを強化し、習得した文法の基礎を使いこなすスキルを磨く。さらに、中級の文法を学び、最終的にはネットや新聞などの記事を読む技術とコツを身につけていく。また、より深い文化や歴史を理解するために、映像や音楽、絵画、文学、料理など履修者の関心に合わせて文化的なことも毎回紹介していく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロシアの文化や歴史、社会などから関心のあるテーマを選んで調査したことをプレゼンする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ロシア語の初級～中級レベルの文法について説明及び活用することができる										2		
②	基礎的な語彙・文法を用いて、少しまとまったロシア語の文章を表現することができる										2		
③	基礎的な表現を使って、コミュニケーションができる										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①、②、③が身につけているかを、筆記試験により評価する。	15	15	10								40
小テスト等	授業の進度に合わせ、到達目標①、②、③、が身につけているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業の課題において①、②、③、が身につけているかを評価する	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業内でその日に使用したプリントを提出してもらい、添削して次回の授業時に返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューエクスプレスプラス・ロシア語	黒田龍之助	白水社	2019年	教科書	必携
プログレッシブロシア語辞典	中澤英彦	小学館	2014年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（12：30～16：30、但し休暇を除く）又はメール takayanagi2525@gmail.com（いつでも可）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の動詞	動詞идтиを用いた「〇〇へ行く」の構文と行き先の表現。	
	この回の到達目標	運動の動詞идтиを用いた「〇〇へ行く」という構文の作り方と、前置詞в、наとともに行き先を示す対格の用法を習得する。また、動詞хотетьを用いた「～したい」という表現も身につける。	
	事前学修	初級の教科書10課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
2	主語のない構文：不定人称文	不定人称文、受身の表現。	
	この回の到達目標	名前を名乗ったり、「～されている」という表現を作る不定人称文という構文を知り、言えるようになる。	
	事前学修	指示した動詞の現在変化を言えるようにしておく。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
3	主語のない文章：無人称文	無人称文。気候、許可、禁止、義務、可能の表現。	
	この回の到達目標	主語をとらない無人称文はどんなときに、どのように使うのかを正しく把握し、正確に言えるようになる。	
	事前学修	人称代名詞の格変化を復習してくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
4	講読：簡単な読み物	読み物「私の家族」「日本について」の講読。	
	この回の到達目標	基本の文法事項を使って、教科書の読み物を正確に読みとき、美しい日本語に訳すことができるようになる。	
	事前学修	初級の教科書p. 140、p. 142の読み物を辞書を丁寧に読み日本語に訳す。その際、名詞の格や動詞の時制と体に留意することを常に意識する。	40分
	事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
5	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体と不完了体の意味と用法。	
	この回の到達目標	動詞の完了体と不完了体の区別の仕方と使い分け方を理解し、正確に適切な動詞を選択できるようになる。体の機能を理解した上で正確な作文ができる。	
	事前学修	初級の教科書18課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
6	数詞の決まり	個数詞と順序数詞の用法。	
	この回の到達目標	数詞をめぐる文法を学び、数詞と名詞の結合を正確にできるようにする。文の中に数詞を用いた表現を入れ、より豊かな表現ができるようになる。	
	事前学修	初級の教科書p. 118を復習し、1～1000までの数詞の発音をチェックする。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	関係代名詞		関係代名詞 к о т о р ы й の用法。
	この回の到達目標	関係代名詞 к о т о р ы й の機能と変化の仕方を覚える。二つの文章を関係代名詞を用いてひとつにすることができるようになる。関係代名詞を用いた文を正確に和訳できるようにする。	
	事前学修	事前に配布したプリントを辞書を引きながら露文和訳してくる。	40分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
8	講読：短編		短い物語の講読と露文和訳。
	この回の到達目標	数詞や関係代名詞が含まれた文章を、基本の文法事項の知識と辞書を使って美しい日本語に訳すことができるようになる。	
	事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら和訳してくる。	40分
	事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
9	仮定法		仮定法の意味と作り方。
	この回の到達目標	仮定法の助詞 б ы の用法と、仮定法の構文の作り方を覚える。仮定法の文章を正しく和訳できるスキルを身につける。	
	事前学修	初級の教科書20課を読んでくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題の練習問題を解く。	30分
10	形動詞：能動形動詞		能動形動詞現在・過去の機能と用法。
	この回の到達目標	能動形動詞現在・過去の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
	事前学修	関係代名詞について復習をしてくる。	30分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	60分
11	形動詞：受動形動詞		受動形動詞現在・過去の機能と用法。
	この回の到達目標	受動形動詞現在・過去の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
	事前学修	配布したテキストを辞書を引きながら訳してくる。	60分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	30分
12	講読：インターネットの記事		インターネット上のニュース記事を読む。
	この回の到達目標	形動詞が用いられたジャーナリズムの文章を、辞書を引きながら読み解く。実際のテキストで用いられている生きたロシア語に触れ、これまでの文法がどのように使用されているかを把握する。	
	事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら訳す。	60分
	事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	講読：社会批評	社会批評の記事を読む。	
	この回の到達目標	比喩や風刺などが含まれた実際の社会批評を辞書を引きながら読み解く。	
	事前学修	事前に配布したテキストを辞書を引きながら訳す。	60分
	事後学修	間違えた箇所を訂正し、正しい訳を仕上げること。	30分
14	副動詞	副動詞：完了体・不完了体の機能と用法	
	この回の到達目標	完了体副動詞・不完了体副動詞の機能を知り、文中での見分け方、元となる動詞の探し方から意味の決定までのスキルを身につける。	
	事前学修	配布したテキストを辞書を引きながら訳してくる。	60分
	事後学修	授業で使用したプリントの復習と課題のテキストを訳す。	30分
15	理解度の確認と解説	初見のテキストの訳出、解説と復習。	
	この回の到達目標	辞書を引きながら初見のテキストを正確、迅速に和訳することのできる集中力と基本文法の応用力を磨く。	
	事前学修	既習の文法事項の総復習をしてくる。	60分
	事後学修	自身の読解力の評価を行い、苦手な文法事項を知ってさらなる強化を。	40分

IV群

体育实技科目

IV群

体育实技科目

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	岩本 良裕	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：iwamoto.yoshihiro11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回	必修選択		体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることであったかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：gorai.chihoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回（8週）はオンライン形式の授業等を行い、他の7回（7週）は対面形式の授業を実施する。隔週でオンライン授業と対面授業を行う。対面授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。問題発見・課題設定および解決を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	15	10	10								35
レポート等	到達目標①～③が達成できているかについて、実施した各種身体運動やグループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①～③が達成できているかについて、グループワークにおいて自身の考えを示すことができているかをグループワーク課題及び振り返りシートを用いて評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	到達目標②、③が達成できているかについて、対面授業において、問題発見、課題解決などの取り組みの積極性を受講態度や振り返りシートを用いて評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題及びレポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
対面：授業時に受け付ける。オンライン：Zoom等によって行う。 ※事前に連絡をすること (E-mail: satou.hideaki@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康について ※オンライン授業	〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。 各課題について振り返る。	20分
2	体力の把握 ※対面授業	・体力測定によって自身の体力について考える ・ペアで行う軽運動	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	体力測定項目を確認する。	10分
	事後学修	体力測定の結果から自己評価を行う。 振り返りシートを作成する。	20分
3	柔軟性のエクササイズ ※オンライン授業	運動課題：ダイナミックストレッチについて 研究課題：コミュニケーション等	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題について振り返る。	30分
4	コンディショニング① ※対面授業	ツールコンディショニングについて	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	コンディショニングについて事前に調べる。	30分
	事後学修	ツールコンディショニングについて振り返り、自分に合ったコンディショニングを考える。 振り返りシートを作成する。	30分
5	自体重トレーニング ※オンライン授業	・運動課題：自体重トレーニングの理解とその実践 ・研究課題：運動強度を知る	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
6	平衡性(バランス)を高めるエクササイズ ※対面授業	・平衡性を必要とする用具を用いた運動 ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践 ※屋外多目的コートで実施予定	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	体力要素の一つである「平衡性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施した運動内容やコミュニケーション方法(伝え方等)について考え、振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	コンディショニング② ※オンライン授業	運動課題：ヨガの理解とその実践 研究課題：マインドフルネスについて		
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。		30分
8	身体感覚を考える ※対面授業	・マット運動(回転運動) ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、当該授業回の内容を踏まえて体力の必要性について説明することができる。		
	事前学修	既習の回転運動について、動作のコツを調べる。自宅で可能な範囲で行う。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考え、振り返りシートを作成する。		30分
9	インターバルトレーニング ※オンライン授業	・運動課題：高強度短時間間欠のトレーニング(タバタ式トレーニング)の理解とその実践 ・研究課題：スポーツの見方について		
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。		30分
10	ロープスポーツ ※対面授業	・ダブルダッチ ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践 ※屋外多目的コートで実施予定		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、動作やコツなど動画視聴や関連資料を調べて準備する。 事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考え、振り返りシートを作成する。		30分
11	コンディショニング③ ※オンライン授業	運動課題：リンパマッサージの理解とその実践 研究課題：体温と健康について		
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。		30分
12	ネットスポーツ① ※対面授業	・ソフトバレーボール ※屋外多目的コートで実施予定		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。 事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。 振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	調整力を高めるエクササイズ ※オンライン授業	運動課題：コーディネーショントレーニング 研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
14	ネットスポーツ② ※対面授業	・インディアカ ※屋外多目的コートで実施予定	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。 事前学習シートを作成する。	20分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。 振り返りシートを作成する。	30分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か ※オンライン授業	・振り返りシートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツの実施がもたらすの恩恵について理解を深める。 課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技 I A【オンライン】	担当者	塩嶋 理恵	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回	必修選択		体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						1			1	1	1	1	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：shiojima.riel1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回（8週）はオンライン方式の実技授業等を行い，残り7回（7週）は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：shiojima.riel1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	運動と健康 ※オンラインにて実施	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：運動と健康		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		20分
2	卓球①	卓球（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
3	柔軟性を高める運動 ※オンラインにて実施	〔課題〕 運動課題：ストレッチングの実践 研究課題：運動強度について理解する		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる		30分
4	卓球②	卓球（シングルス）② ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができ、試合・審判を学生間で組むことができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
5	体幹トレーニング ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
6	卓球③	卓球（ダブルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	修 実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	身体の歪み修正運動 ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	卓球④	卓球（ダブルス）② ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができ、試合・審判を学生間で組むことができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
9	自重を用いたトレーニング ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	ボールスポーツ①	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える ※屋外多目的コートで実施予定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
11	インターバルトレーニング ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	ボールスポーツ②	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える ※屋外多目的コートで実施予定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：HIIT (High Intensity Interval Training) の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	リラックスヨガ	・当該スポーツの特徴と運動効果の理解、技術の習得 ・当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術・身体運動の効果をしることができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
15	体育・スポーツのまとめ ※オンラインにて実施	・振り返りシートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	白土 男女幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回（8週）はオンライン方式の実技授業等を行い、残り7回（7週）は対面式の実技授業を実施する。履修者を2グループに分け、隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
対面授業時またはClassroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：shirato.minayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康について ※全員オンラインにて実施	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：運動と健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握 ※対面授業の内容	・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
3	ストレッチング ※オンデマンドの内容	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：ライフスキルについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
4	軽運動とストレッチの実践 ※対面授業の内容	・様々なストレッチングの実践 ・軽運動の実践	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。	30分
5	自重トレーニングの実践 ※オンデマンドの内容	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動強度について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
6	自重トレーニングの実践 ※対面授業の内容	・自らの体重を負荷として筋力トレーニングを実践	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ヨガの実践 ※オンデマンドの内容		・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：メンタルヘルスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
8	ヨガの実践 ※対面授業の内容		・太陽礼拝を中心に実践	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。		30分
9	TABATA式トレーニングの実践 ※オンデマンドの内容		・運動課題：TABATA式トレーニングの実践の実践 ・研究課題：スポーツの見方について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
10	マシントレーニングの実践 ※対面授業の内容		・有酸素および筋力トレーニングのマシンの基本的な使用方法と実践	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。		30分
11	コンディショニングの実践 ※オンデマンドの内容		・運動課題：リンパマッサージの実践 ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
12	簡易的な有酸素運動の実践 ※対面授業の内容		・エアロビクスダンスの要素を加えた有酸素運動の実践	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニングの 実践 ※オンデマンドの内容	・運動課題：高強度インターバルトレーニング（HIIT）の実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	高強度インターバルトレーニングの 実践 ※対面授業の内容	・高強度インターバルの実践	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	実施する運動についての関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施した運動についての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。	30分
15	まとめ ※オンデマンドの内容	・自己評価、全授業の感想 ・各課題についての講評	
	この回の 到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	今後の運動計画について立案する。	60分

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	鈴木 功士	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.koshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回	必修選択		体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.yumil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
隔週でオンライン方式と対面方式を行う。全授業回（15週）のうち8回（週）をオンライン方式の実技授業を行い、7回（週）は対面式の実技授業を実施する。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内における実技実践の取り組みやグループワークにおいて課題を理解し実践しているかの行動を基準に、理解と実践の融合の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワークなどを通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定及び解決方を閉めることができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
対面：授業記録シート、オンライン：課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.yumil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	運動と健康 【オンライン】		〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：運動と健康・体力とは	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		20分
2	体力の把握 身体調整系エクササイズ①		・簡易的な体力測定 ・音楽を使った動的ストレッチング	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。自らの身体づくりへの見通しを立てることができる。		
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。		20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。		30分
3	身体調整系エクササイズ② 【オンライン】		・運動課題：ストレッチング（ダイナミックストレッチング） ・研究課題：コミュニケーションとライフスキル	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進、特に「ストレッチング」について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
4	身体調整系エクササイズ③		・エアロビックダンス（低強度：リニア展開） ・自重トレーニング ・ストレッチング	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、エアロビックダンスの特徴を理解し自分の目的に応じた強度プログラムを選択することができる。またそれを当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	自分の課題となる部位の自重トレーニングを1種目調べ、ポイントを説明できるようにしておく。		30分
	事後学修	実施したエクササイズに関する振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
5	トレーニング① 【オンライン】		・運動課題：自重トレーニング ・研究課題：運動強度について	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
6	ロープスポーツ		・ジャンプロープを使ったゲーム ・ダブルダッチ	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、ダブルダッチや「跳躍」そのものが体力の維持増進と健康へどのように寄与するかを、当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	ジャンプのタイミングや回す技術に着目地、「ダブルダッチ」の動画を視聴しておく。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	トレーニング②	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	ボールゲーム①	・ソフトバレーボール（基本的技能練習とミニゲーム） ・ダイナミックストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	「ソフトバレーボール」に関するルールや基本的技術を動画や関連資料で調べておく。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分
9	トレーニング③ 【オンライン】	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	ボールゲーム②	・ソフトバレーボール（ゲーム） ・グループワーク（ゲーム運営）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	ソフトバレーボールのゲーム運営ができるようにルール詳細と審判について調べておく 事前学習シートの作成	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分
11	コンディショニング 【オンライン】	・運動課題：リンパマッサージの実践 ・研究課題：体温と健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	ツールコンディショニング	・フォームローラー（ストレッチ用ボール）を用いたエクササイズ ・ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について特に「ツールを利用したエクササイズ」の特徴と効果を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	フォームローラー（ストレッチ用ボール）を使った「ベーシック7」を調べておく。事前学習シートの作成。	30分
	事後学修	実施したエクササイズについての振り返りを行い、タオルなどの代用品で再度実践する。 授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	心身の調和		・運動課題：ヨガ ・研究課題：マインドフルネス	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
14	ヨガ		・「ヨガ」の実践（ポーズのポイントと、動作確認） ・マインドフルネス	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について、特に「ヨガ」の特徴と身体への効果を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	自分の目的に応じたポーズを調べ、ポイントを説明できるようにしておく。事前学習シートの作成。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
15	まとめ 【オンライン】		・ライブ授業によるグループワーク（自己評価と学習内容の整理・実生活へ生かすための方法共有） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「学習したことを実際の生活に生かすための方法や、運動へのモチベーションを高める方法」について自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。		60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。		90分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	高田 佑輔	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、動きやすいジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。オンライン形式の受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】		
ハイブリッド形式。 全授業回のうち7回（7週）は対面形式の授業を行い、他の8回（8週）はオンライン形式の授業等を実施する。隔週で対面授業とオンライン授業を行う。対面授業では2号館体育場、または屋外多目的コートを使用するが、天候によって授業の場所を変更する場合もある。対面授業では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。オンライン授業では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。なお、新型コロナウイルス感染状況に伴い、全てオンデマンド形式に変更になることもある。その場合の授業計画や評価方法はGoogle Classroomに提示する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実技形式のため、学生自身の考えを求めることもある。チーム内でディスカッションを行い、発表する時間も設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。		10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。		10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。			20	20								40
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回でこれまでの授業の 振り返りや体力測定データの解説をします。さらに課題レポートを中心に総合的な講評をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましいです。E-mail：takata.yusuke★nihon-u.ac.jp（★を@に変更して使用してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本バスケットボール協会公認C級コーチ，日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，スポーツの指導を行う。
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動やスポーツが心身に与える影響を伝え，生涯スポーツの一助になる授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	全体のガイダンスと軽運動		この授業は「ハイブリッド形式（対面形式とオンデマンド形式を隔週で実施）」です。 第1回の授業は「オンデマンド形式」です。 授業の目的、内容、評価方法やルールなどを説明します。 来週からの実技の準備として軽運動を行います。 ※大学で授業は行いませんので注意してください。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業における体育やスポーツの意義について説明できる。 ガイダンスの内容を理解する。		
	事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 大学における体育スポーツの授業について、自分なりの考えをまとめておく。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する。		30分
2	軽運動と体力・体組成測定		対面形式です。 「ハイブリッド形式」のこの授業のガイダンスを行います。 体力測定では、体重、体組成、反復横跳び、立ち幅跳びなどを実施します。 ※2号館地下202で実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力レベルの確認をする。 一年間の目標を設定する。		
	事前学修	体力測定の方法を調べておく。 体力とは何を指すのか考えておく。		30分
	事後学修	体力測定の結果を踏まえて、今後の目標を立てる。		30分
3	柔軟性のトレーニング		オンデマンド形式です。 (運動課題) ストレッチング（ダイナミックストレッチング） (研究課題) コミュニケーションとライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチングを説明し実践できる。		
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。		30分
4	敏捷性のトレーニング		対面形式です。 ラダーなどを用いて、屋外でもできるトレーニングを学習します。 ※屋外多目的コートで実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特に敏捷性のトレーニングを説明し実践できる。		
	事前学修	敏捷性のトレーニングとして挙げられるSAQトレーニングとは何かを説明できるようにしておく。		30分
	事後学修	主に敏捷性のトレーニングを実施し理解を深め、今回実施したトレーニングを説明できるようにする。		30分
5	自重トレーニング		オンデマンド形式です。 (運動課題) 自重トレーニングの理解とその実践 (研究課題) 運動強度を知る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自重トレーニングを説明し実践できる。		
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。		30分
6	スポーツ鬼ごっこ		対面形式です。 スポーツ鬼ごっこを通じてコミュニケーションを図ります。 ※屋外多目的コートで実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。		
	事前学修	スポーツ鬼ごっこの基本的なルールと動き方を調べておく。		30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	高強度のトレーニング（HIIT）	オンデマンド形式です。 （運動課題）HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 （研究課題）栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、HIITを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
8	ダブルダッチ	対面形式です。 2本のなわとびを使用したダブルダッチを行います。 初めて行う人も多いと思うので、1本のなわとびから始めます。 ※屋外多目的コートで実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	ダブルダッチの動画を視聴し、ジャンプのタイミングをイメージしておく。 縄を回すことを想定し、どのように回せばよいかを考えておく。	30分
	事後学修	反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じグループになった人の名前や特徴を覚える。	30分
9	インターバルトレーニング	オンデマンド形式です。 （運動課題）タバタ式トレーニングの実践 （研究課題）スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、タバタ式トレーニングを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
10	ドッジボール	対面形式です。 ドッジボールを行います。 オーソドックスなルールだけではなく様々なルールを適用するので、ルールを理解することが求められます。 ※屋外多目的コートで実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	当該クラスで行うドッジボールのルールを1つ考えておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
11	調整力のトレーニング	オンデマンド形式です。 （運動課題）コーディネーショントレーニングの実践 （研究課題）栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コーディネーショントレーニングを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
12	ソフトバレーボール	対面形式です。 ソフトバレーボールを行います。 バレーボール経験者は未経験者のサポートにも協力してください。 ※屋外多目的コートで実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	ソフトバレーボールの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コンディショニング	オンデマンド形式です。 (運動課題) リンパマッサージの実践 (研究課題) 体温と健康	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リンパマッサージを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
14	インディアカ	対面形式です。 ニュースポーツの一つであるインディアカを行います。 ※屋外多目的コートで実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけでなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	インディアカのルールを調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
15	前期のまとめと振り返り	オンデマンド形式です。 前期の振り返りを実施し、総括します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
	事前学修	前期の振り返り、反省や改善点などをまとめる。	60分
	事後学修	課題レポートを作成する。 発表して浮き彫りになった課題を後期に解決できるようにする。 夏季休業中も運動やスポーツを継続するように努める。	60分

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	田中 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：tanaka.masakoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回（8週）はオンライン方式の実技授業等を行い、残り7回（7週）は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9310研究室） tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	開講にあたって/ 体力及び健康について *オンラインにて実施		①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について理解し、説明できる。		
	事前学修	スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について、自分なりの考えをまとめておく。		30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。		30分
2	軽運動 *オンラインにて実施		運動課題：軽運動 研究課題：体力とは 適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について理解し、説明できる。		
	事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。		30分
	事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。		30分
3	フィットネスチェック		フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を理解し、説明できる。		
	事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち。		30分
	事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。		30分
4	柔軟性 *オンラインにて実施		運動課題：ストレッチング 研究課題：コミュニケーション、ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチングの効果について理解し、説明できる。		
	事前学修	体力要素の1つである柔軟性：ストレッチングの効果調べる。		30分
	事後学修	柔軟性：ストレッチングの効果を実施し理解を深める。		30分
5	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る		筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成について理解し、説明できる。		
	事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。		30分
	事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。		30分
6	自重トレーニング *オンラインにて実施		運動課題：自重トレーニング 研究課題：運動強度を知る	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	平衡性：バランスを高める	平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平衡性：バランスを高める運動を理解し、説明できる。	
	事前学修	「竹馬」の乗り方について調べる。	30分
	事後学修	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	ヨガ *オンラインにて実施	運動課題：ヨガ 研究課題：メンタルヘルス（マインドフルネス）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
9	ロープスポーツ：個人、チーム技術	大縄跳び・ダブルダッチを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。 グループにおける仲間とお互いの良い点や課題、前回からの改善出来た点などを共有する。	30分
10	タバタ式トレーニング *オンラインにて実施	運動課題：タバタ式トレーニング 研究課題：スポーツの観かた	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
11	球技:フットサル(基本の戦術)	個人戦術、チーム戦術について実践形式でおこない技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、個人戦術、チーム戦術について理解し、説明できる。	
	事前学修	試合における個人戦術、チーム戦術について調べる。	30分
	事後学修	個人戦術、チーム戦術について分析を行う。	30分
12	コンディショニング *オンラインにて実施	運動課題：コンディショニング 研究課題：体温と健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	球技:フットサル(実践形式)		実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。＊屋外多目的施設で実施
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションの取り方について理解し、説明できる。	
	事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	戦略・戦術に関するコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
14	HIITトレーニング ＊オンラインにて実施		運動課題：HIITトレーニング 研究課題：栄養について
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、適切な負荷の設定について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
15	まとめ/ 振り返り		フィットネスチェック、授業の振り返り
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返りを行い、理解し、説明できる。	
	事前学修	半期の振り返りを行う。	30分
	事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：fujii.hiromu11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：yamada.miekol1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備(服装、通信環境等)があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回(8週)はオンライン方式の実技授業等を行い、残り7回(7週)は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。木曜3限は偶数授業回が対面で奇数回がオンライン、木曜4限は第1回を除く奇数授業回が対面で偶数授業回がオンラインで行う。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	自身の体力測定結果を受けて、実践した各種身体運動から、グループワークの中で自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見や課題設定および解決を行う。また、リーダーシップ、コミュニケーションを取り、レクリエーションスポーツを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。						1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。						1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。						1			1	1	1	1	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず、必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
classroom及びメールにて相談等を受け付ける。yamada.miekoll@nihon-u.ac.jp 授業期間木曜日のみ13:00から18:00 2号館地下（体育教員室，体育場）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	AHA TC IEMA BLS Faculty, 国際救命救急協会理事, イグザミナー
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動時に起きてしまう体調不良や怪我の対応、救急処置も合わせて学生に指導していく。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 運動と健康	・オンライン授業 〔ガイダンス〕 ・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと	20分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・対面授業 ・簡易的な体力測定と体力について（2号館地下202）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	30分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・オンライン授業 ・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	グループワーク 1	・対面授業 ・体幹エクササイズの実践とドッジビーorドッジボール（多目的コート）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。 ドッジビー（ボール）で採用したいルールを考えてくる。	45分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・オンライン授業 ・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 2	・対面授業 ・アルティメット（多目的コート）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	「フライングディスク」の特性や「アルティメット」のルールを事前に調べる。 メンバーとどのようにパスをしていくと良いのか考えてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・オンライン授業 ・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	グループワーク 3	・対面授業 ・タバタ式トレーニングの実践とハンドボール（多目的コート）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。 「ハンドボール」の特性やルールを調べてくる。 「アルティメット」の時を活かしてメンバーとボールをどのようにパスして点数を取るのか、戦術を考えてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・オンライン授業 ・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 4	・対面授業 ・インディアカ（多目的コート）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	「インディアカ」の特性とルールを調べてくる。 メンバーと協力してつなぐためには何をすることが大切なのかを考えてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分
11	心身の調和	・オンライン授業 ・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	グループワーク 5	・対面授業 ・コーディネーショントレーニングと卓球（2号館地下202）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。 卓球のストロークについて調べてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・オンライン授業 ・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について”	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 6	・対面授業 ・卓球（2号館地下202）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	卓球「ダブルス」の動きとルールについて調べてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	”・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評”	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	60分

科目名	体育実技ⅠA	担当者	鈴木 功士	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】		
全授業回のうち8回（8週）はオンライン方式の実技授業等を行い，残り7回（7週）は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.koshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	運動と健康について ※オンラインにて実施	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		20分
2	軽運動 ストレッチング	・軽運動の実践 ・軽運動を通じて他者とコミュニケーションをとる		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	学校の運動施設について事前に確認する。		10分
	事後学修	実施した軽運動についての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		20分
3	体幹のトレーニング ※オンラインにて実施	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
4	トレーニング・エクササイズ	エクササイズボールやバランスボール等を使用したトレーニングエクササイズを実践する		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	実施するトレーニング・エクササイズについて関連資料を調べて準備する。		20分
	事後学修	実施したトレーニング・エクササイズについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成す		30分
5	心身の調和 ※オンラインにて実施	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
6	ヨガ	ヨガの実践		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	調整力を高める運動 ※オンラインにて実施	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	道具を使ったトレーニング・エクササイズ	縄跳び、ラケット、ディスク、ダーツ等を使ったコーディネーショントレーニング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
9	自重を用いたトレーニング ※オンラインにて実施	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	有酸素トレーニングの実施	エアロバイク、ランニング、ウォーキング等の有酸素トレーニングの実施	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
11	インターバルトレーニング ※オンラインにて実施	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	トレーニングプログラムの作成および実践①	自身の生活習慣等から課題をみつけ、その課題解決のためのトレーニングプログラムを作成し実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	トレーニングプログラムの作成および実践② ※オンラインにて実施	自身の生活習慣等から課題をみつけ、その課題解決のためのトレーニングプログラムを作成し実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
14	トレーニングプログラムの作成および実践③	自身の生活習慣等から課題をみつけ、その課題解決のためのトレーニングプログラムを作成し実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・振り返りシートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	朴 鍾熾	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回	必修選択		体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：Jonghyuk.Park@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠA【オンライン】	担当者	平野 加奈子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZOOMを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					1			1	1	1	1	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					1			1	1	1	1	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					1			1	1	1	1	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：hirano.kanako@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：ライフスキル	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握	・ライブ授業 ・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。を立てることができる。	
	事前学修	行動体力と防衛体力について調べる。体力測定の測定項目を確認する。	20分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
3	柔軟性を高める運動	・運動課題：ストレッチングの実践 ・研究課題：運動強度について理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	体幹のトレーニング	・運動課題：体幹エクササイズの実践 ・研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第3～5回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自重を用いたトレーニング	・運動課題：自重トレーニングの実践 ・研究課題：運動と免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	インターバルトレーニング	・運動課題：タバタ式トレーニングの実践 ・研究課題：栄養について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：マインドフルネスについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	調整力を高める運動	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：体温と健康について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	高強度インターバルトレーニング	・運動課題：HIIT（High Intensity Interval Training）の実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	運動・スポーツに必要なことは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	前学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	岩本 良裕	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：iwamoto.yoshihiro11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	運動の心理的な効果		ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。		10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。		20分
2	柔軟性の運動		・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
3	フィットネスダンス 1		・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
4	フィットネスダンス 2		・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践		・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
6	グループワーク 1		・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	第 2 ～ 5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。		45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。		45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	牛来 千穂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：gorai.chihoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	筋力の評価		・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
8	有酸素運動の実践 1		・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践		・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
10	グループワーク 2		・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	第 7～9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。		45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。		45分
11	心身の調和		・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
12	有酸素運動の実践 2		・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回（8週）はオンライン形式の授業等を行い、他の7回（7週）は対面形式の授業を実施する。隔週でオンライン授業と対面授業を行う。対面授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	15	10	10								35
レポート等	到達目標①～③が達成できているかについて、実施した各種身体運動やグループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	到達目標①～③が達成できているかについて、グループワークにおいて自身の考えを示すことができているかをグループワーク課題及び振り返りシートを用いて評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	到達目標②、③が達成できているかについて、対面授業において、問題発見、課題解決などの取り組みの積極性を受講態度や振り返りシートを用いて評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題及びレポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
対面：授業時に受け付ける。オンライン：Zoom等によって行う。 ※事前に連絡をすること (E-mail: satou.hideaki@nihon-u.ac.jp)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動・スポーツの心理的効果について ※オンライン授業	〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：運動・スポーツの心理的効果を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。 各課題について振り返る。	20分
2	ストレッチについて ※対面授業	・ストレッチ運動の理解と実践 ・ペアで行う軽運動	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	静的ストレッチについて事前に調べてくる。	10分
	事後学修	ストレッチ運動について振り返り、コンディションに応じた適切なストレッチ運動を考える。 振り返りシートを作成する。	20分
3	体幹のエクササイズ ※オンライン授業	運動課題：体幹トレーニングの実践 研究課題：救急処置について	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題について振り返る。	30分
4	ディスクスポーツ① ※対面授業	・フライングディスクを使った運動の実践 ・問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングの実践	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	フライングディスクの扱い方（リリース、キャッチ等）について事前に調べてくる。 事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施した運動内容やコミュニケーション方法(伝え方等)について考え、振り返りシートを作成する。	30分
5	インターバルトレーニング ※オンライン授業	・運動課題：HIITの実践 ・研究課題：ダイエットの弊害について	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
6	ディスクスポーツ② ※対面授業	・アルティメットの実践 ・グループワーク ※屋外多目的コートで実施予定	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、動画の視聴や関連資料を用いてルールや動作などを調べてくる。 事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考え、振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	コンディショニング ※オンライン授業	運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
8	ネットスポーツ ※対面授業	・ミニバドミントンの実践 ・グループワーク	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、動画の視聴や関連資料を用いてルールや動作などを調べてくる。 事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施した運動・スポーツや、コミュニケーション方法(伝え方等)について考え、振り返りシートを作成する。	30分
9	ウォーキング ※オンライン授業	・運動課題：健康な歩き方の理解とその実践 ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
10	ラケットスポーツ① ※対面授業	・卓球（ダブルス、グループゲーム） ※体育場で実施	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについて、動画視聴や関連資料を用いてルールや動作、コツなどを調べてくる。 事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツの振り返りを行い、課題の設定及び方策を挙げる。 振り返りシートを作成する。	30分
11	ランニング ※オンライン授業	運動課題：健康維持のための走り方の理解とその実践 研究課題：エンデュランススポーツの楽しみ方	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
12	ラケットスポーツ② ※対面授業	・卓球（ダブルス、トーナメント） ※体育場で実施	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	前回の対面授業時の振り返りを確認する。 事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	設定した課題及び方策についての振り返りを行う。 振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ボクササイズ ※オンライン授業	運動課題：ボクササイズの動作の理解とその実践 研究課題：運動と免疫力について	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、体力の維持増進等について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
14	ラケットスポーツ③ ※対面授業	・卓球（ダブルス、チーム戦） ※体育場で実施	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	前回の対面授業時の振り返りを確認する。 事前学習シートを作成する。	20分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。 振り返りシートを作成する。	30分
15	運動・スポーツへの参加について ※オンライン授業	・振り返りシートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツの実施によって得られる恩恵について考える。また運動・スポーツに参加するために必要な情報等について調べる。 課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回（8週）はオンライン方式の実技授業等を行い，残り7回（7週）は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：shiojima.riel1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果 ※オンラインにて実施	〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	トレーニング 1	・器具トレーニングの使用方法を理解し、体力向上を目標とする。 ※トレーニングルームにて実施予定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて器具の使用方法・安全について説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
3	柔軟性の運動 ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる	30分
4	トレーニング 2	・器具トレーニングの使用方法を理解し、体力向上を目標とする。 ※トレーニングルームにて実施予定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて器具の使用方法・安全について説明することができる。 各自の体力に合わせた運動強度を設定する。	
	事前学修	実施するスポーツについての動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
5	フィットネスダンス 1 ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	トレーニング 3	・器具トレーニングの使用方法を理解し、体力向上を目標とする。 ※トレーニングルームにて実施予定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。 各自の体力に合わせた運動強度を設定・目標を決定する。	
	事前学修	実施するスポーツについての動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	フィットネスダンス 2 ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
8	ボールスポーツ	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える ※屋外多目的コートで実施予定		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
9	有酸素運動の実践 1 ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
10	バドミントン①	バドミントン（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
11	有酸素運動の実践 2 ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
12	バドミントン②	バドミントン（ダブルス） 1 ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践3 ※オンラインにて実施	〔課題〕 ・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	バドミントン③	バドミントン（ダブルス）2 ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術・身体運動の効果をしることができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
15	体育・スポーツのまとめ ※オンラインにて実施	・振り返りシートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	塩嶋 理恵	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることであったかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：shiojima.riel1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	白土 男女幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】		
全授業回のうち8回（8週）はオンライン方式の実技授業等を行い，残り7回（7週）は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
対面授業時またはClassroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：shirato.minayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動と健康について ※全員オンラインにて実施	〔ガイダンス〕・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、研究課題：運動と健康	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	20分
2	体力の把握 ※対面授業の内容	・運動課題：簡易的な体力測定 ・研究課題：体力について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
3	体幹エクササイズ ※オンデマンドの内容	・運動課題：スタビライゼーショントレーニングの実践 ・研究課題：救急処置法	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
4	ディスクスポーツ1 ※対面授業の内容	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える ※屋外多目的コートで実施予定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。	30分
5	コーディネーショントレーニング ※オンデマンドの内容	・運動課題：身体調整力トレーニングの実践 ・研究課題：ダイエットの弊害	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
6	ディスクスポーツ2 ※対面授業の内容	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える ※屋外多目的コートで実施予定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ヨガの実践 ※オンデマンドの内容		・運動課題：ヨガの実践 ・研究課題：睡眠と健康について	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
8	ディスクスポーツ3 ※対面授業の内容		・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える ※屋外多目的コートで実施予定	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。		30分
9	ウォーキングの実践 ※オンデマンドの内容		・運動課題：ウォーキングの実践 ・研究課題：疲労について	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
10	卓球1 ※対面授業の内容		・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。		30分
11	ランニングの実践 ※オンデマンドの内容		・運動課題：ランニングの実践 ・研究課題：アウトドア・エンデュランススポーツについて	
	この回の 到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
12	卓球2 ※対面授業の内容		・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ボクササイズの実践 ※オンデマンドの内容	・運動課題：ボクササイズの実践 ・研究課題：免疫について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
14	卓球3 ※対面授業の内容	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。省察ノートを作成する。	30分
15	まとめ ※オンデマンドの内容	・自己評価、全授業の感想 ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	これまでの内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	今後の運動計画について立案する。	60分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	鈴木 功士	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.koshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
隔週でオンライン方式と対面方式を行う。全授業回（15週）のうち8回（週）をオンライン方式の実技授業を行い、7回（週）は対面式の実技授業を実施する。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内における実技実践の取り組みやグループワークにおいて課題を理解し実践しているかの行動を基準に、理解と実践の融合の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワークなどを通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定及び解決方を閉めることができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
対面：授業記録シート、オンライン：課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.yumil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動・スポーツの心理的効果 【オンライン】	〔ガイダンス〕授業の目的・方法・評価方法・受講上の注意・授業計画の説明 運動課題：軽運動、 研究課題：運動・スポーツの心理的効果を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。 運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
2	身体調整系エクササイズ①	・エアロビックダンス（中強度：コンビネーション展開） ・背骨の調律エクササイズ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。自らの身体づくりへの見通しを立てることができる。	
	事前学修	エアロビックダンスの動画を視聴し基本ステップを実践しておく。	30分
	事後学修	実施したエクササイズに関する振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分
3	トレーニング①（体幹） 【オンライン】	・運動課題：体幹エクササイズ（スタビライゼーショントレーニング） ・研究課題：救急処置	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進、健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	ディスクスポーツ①	・フライングディスクのキャッチ&スロー ・実施種目に対応した適切なウォームアップとは？	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、フライングディスクの特性を理解し基本的な技能を身につけることができる。またそれを当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	「フライングディスク」を使った競技に関するルールや基本的技術を動画や関連資料で調べておく。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツに関する振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分
5	トレーニング②（調整力） 【オンライン】	・運動課題：コーディネーショントレーニング ・研究課題：ダイエットの弊害	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	ディスクスポーツ②	・ミニディスクゴルフ（グループ戦） ・グループワーク	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	ディスクゴルフに関する動画の視聴や関連資料を調べ、ルールやスローの基本技能を事前学習シートにまとめておく	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	心身の調和 【オンライン】	・運動課題：ヨガ（目的に応じたヨガの選択と実践）。 ・研究課題：睡眠が健康に与える影響・睡眠の質を向上させる習慣	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べておく。 自分の「睡眠」に関する課題や改善したい点があれば書き出しておく。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめ、実践してみる（変化があれば報告する）。	30分
8	ボールゲーム①	・卓球（基本的技能練習とミニゲーム）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	「卓球（ダブルスのゲーム）」に関するルールや基本的技術を動画や関連資料で調べておく。事前学習シートを作成する。	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分
9	有酸素運動① 【オンライン】	・運動課題：ウォーキングの実践 ・研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	ボールゲーム②	・卓球（ダブルスでのゲーム） ・グループワーク（ゲーム運営）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、・当該スポーツの特徴、ルール、基本的な技術を説明することができる。	
	事前学修	卓球のダブルスでのゲーム運営ができるようにルール詳細と審判について調べておく 事前学習シートの作成	30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分
11	有酸素運動② 【オンライン】	・運動課題：ランニングの実践（フォーム・実践） ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	ツールコンディショニング ①	・フォームローラー（ストレッチ用ボール）を使ったファンクショナルローラーピラティス ・ストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について特に「ツールを利用したエクササイズ」の特徴と効果を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	フォームローラー（ストレッチ用ボール）を使った「ベーシック7」を調べておく。事前学習シートの作成。	30分
	事後学修	実施したエクササイズについての振り返りを行い、タオルなどの代用品で再度実践する。 授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	有酸素運動③ 【オンライン】		・運動課題：ボクササイズ ・研究課題：運動と免疫	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。		30分
14	ツールコンディショニング②		・「バランスボール」を用いた体幹トレーニングとストレッチング	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について、特に「バランスボール」の特徴と身体への効果を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	自分の目的に応じたポーズを調べ、ポイントを説明できるようにしておく。事前学習シートの作成。		30分
	事後学修	実施したエクササイズについての振り返りを行い、授業記録シートに学習内容と感想をまとめる。		30分
15	まとめ 【オンライン】		・ライブ授業によるグループワーク（自己評価と学習内容の整理・実生活へ生かすための方法共有） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「学習したことを実際の生活に生かすための方法や、運動へのモチベーションを高める方法」について自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。		40分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。		90分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	鈴木 由美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.yumil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	高田 佑輔	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
室内用運動靴、動きやすいジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。オンライン形式の受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】		
ハイブリッド形式。 全授業回のうち7回（7週）は対面形式の授業を行い、他の8回（8週）はオンライン形式の授業等を実施する。隔週で対面授業とオンライン授業を行う。対面授業では2号館体育場、または屋外多目的コートを使用するが、天候によって授業の場所を変更する場合もある。対面授業では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。オンライン授業では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。なお、新型コロナウイルス感染状況に伴い、全てオンデマンド形式に変更になることもある。その場合の授業計画や評価方法はGoogle Classroomに提示する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実技形式のため、学生自身の考えを求めることもある。チーム内でディスカッションを行い、発表する時間も設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。		10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。		10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。			20	20								40
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回で一年間の授業を振り返り、総合的な講評をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しません				

【オフィスアワー】
授業の前後に対応します。事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましいです。E-mail：takata.yusuke★nihon-u.ac.jp（★を@に変更して使用してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本バスケットボール協会公認C級コーチ，日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，スポーツの指導を行う。
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動やスポーツが心身に与える影響を伝え，生涯スポーツの一助になる授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	運動と健康		この授業は「ハイブリッド形式（対面形式とオンデマンド形式を隔週で実施）」です。 第1回の授業は「オンデマンド形式」です。 授業の目的、内容、評価方法やルールなどを説明します。 (運動課題) 軽運動 (研究課題) 運動と健康 ※大学で授業は行いませんので注意してください。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業における体育やスポーツの意義について説明できる。 ガイダンスの内容を理解する。	
	事前学修	シラバスをよく読み、質問をまとめておく。 大学における体育スポーツの授業について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容を理解し、授業に必要なものを準備する。	30分
2	軽運動と体力・体組成測定		対面形式です。 「ハイブリッド形式」のこの授業のガイダンスを行います。 体力測定では、体重、体組成、反復横跳び、立ち幅跳びなどを実施し、前期との変化を考察します。 ※2号館地下202で実施します。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自身の体力レベルの確認をする。 後期の目標を改めて設定する。	
	事前学修	体力測定の方法を調べておく。 体力とは何を指すのか考えておく。	30分
	事後学修	体力測定の結果を踏まえて、今後の目標を立てる。	30分
3	体幹トレーニング		オンデマンド形式です。 (運動課題) スタビライゼーショントレーニングの実践 (研究課題) 救急処置
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、体幹トレーニングを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
4	アルティメット		対面形式です。 アルティメットを行います。 ※屋外多目的コートで実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	アルティメットの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
5	ヨガ		オンデマンド形式です。 (運動課題) ヨガの基本的ポーズの実践 (研究課題) メンタルヘルス
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨガを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
6	フットサル		対面形式です。 フットサルを行います。 フットサルやサッカー経験者は未経験者のサポートにも協力してください。 ※屋外多目的コートで実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	フットサルの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	疲労とマッサージ		オンデマンド形式です。 (運動課題) セルフマッサージの実践 (研究課題) 身体的および精神的疲労と身体活動の効果
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セルフマッサージを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
8	ドッジボール		対面形式です。 ドッジボールを行います。 オーソドックスなルールだけではなく様々なルールを適用するので、ルールを理解することが求められます。 ※屋外多目的コートで実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、スポーツの実践を通じて自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。	
	事前学修	前期に実施した際の反省点をまとめておく。 今回の目標を立てる。 実施したいルールを考えておく。	30分
	事後学修	反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じグループになった人の名前や特徴を覚える。	30分
9	ウォーキング		オンデマンド形式です。 (運動課題) ウォーキングの実践 (研究課題) 睡眠の質
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ウォーキングを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
10	卓球①		対面形式です。 卓球（シングルス）を行います。 ※2号館地下202で実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	フットサルの基本的なルールと動き方を調べておく。	30分
	事後学修	個人の反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回対戦した人の名前や特徴を覚える。	30分
11	ランニング		オンデマンド形式です。 (運動課題) ランニングの実践 (研究課題) エンデュランススポーツ
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ランニングを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
12	卓球②		対面形式です。 卓球（ダブルス）を行います。 ※2号館地下202で実施します。
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	卓球（ダブルス）の基本的なルールと動き方を調べておく。 特に打つ順番やサービスのエリアを把握しておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ボクササイズ	オンデマンド形式です。 (運動課題) ボクササイズの実践 (研究課題) ダイエットの弊害	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ボクササイズを説明し実践できる。	
	事前学修	運動課題及び研究課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	各課題についての振り返りを行い、理解を深める。	30分
14	フロアカーリング	対面形式です。 フロアカーリングを行います。 ※2号館地下202で実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、自分の意見を出し、チームとして同じ目標に向かえるようにする。 自分のことだけではなく他人の動きにも目を配り、チームとして機能できるようにする。	
	事前学修	カーリングのルールや戦術を調べておく。	30分
	事後学修	個人およびチームの反省点を挙げ、改善点をまとめる。 今回同じチームになった人の名前や特徴を覚える。	30分
15	一年間のまとめと振り返り	オンデマンド形式です。 一年間の振り返りを実施し、総括します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自身の達成度合いを評価する。	
	事前学修	一年間の振り返り、反省や改善点などをまとめる。	60分
	事後学修	課題レポートを作成する。 今後も運動やスポーツを継続するように努める。	60分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	田中 雅子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：tanaka.masakoll@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回（8週）はオンライン方式の実技授業等を行い、残り7回（7週）は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわるスポーツ・身体運動について理解しているかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み：12:10～13:00メールにて事前に予約をすることtanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/ 体力及び健康について ※オンラインにて実施	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について理解し、説明できる。	
	事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	軽運動 ※オンラインにて実施	運動課題：軽運動 研究課題：運動・スポーツの心理的効果を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
3	自重トレーニングを知る	スタビラゼーショントレーニングを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタビラゼーショントレーニングの効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	等張性筋収縮について調べる。	30分
	事後学修	体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
4	体幹エクササイズ ※オンラインにて実施	運動課題：体幹エクササイズ 研究課題：救急処置	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、体幹エクササイズの効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
5	球技:卓球（シングルス）	ラケットの使い方、基本動作について実践形式における技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラケットの使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
	事前学修	卓球のルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球における体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
6	コーディネーショントレーニング ※オンラインにて実施	運動課題：コーディネーショントレーニング 研究課題：ダイエットの弊害	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コーディネーショントレーニングの効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	球技:卓球（ダブルス）	ダブルス形式における戦略戦術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ダブルス形式における戦略戦術について理解し、説明できる。	
	事前学修	ダブルスにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ダブルス形式の戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
8	ヨガ ※オンラインにて実施	運動課題：ヨガ 研究課題：睡眠のメカニズム	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨガの効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
9	球技:卓球（ダブルス）	ダブルス形式におけるチームワークにおける戦略戦術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ダブルス形式におけるチームワークにおける戦略戦術について理解し、説明できる。	
	事前学修	ダブルスにおけるチームワークにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ダブルス形式のチームワークにおける戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
10	ウォーキング ※オンラインにて実施	運動課題：ウォーキングの実践 研究課題：疲労について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ウォーキングの効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
11	球技:ユニバーサルホッケー（基本動作）	スティックの使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、スティックの使い方、基本動作について理解し、説明できる。	
	事前学修	ユニバーサルホッケーのルールについて調べる。	30分
	事後学修	ユニバーサルホッケーにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	ランニング ※オンラインにて実施	運動課題：ランニングの実践 研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ランニングの効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	球技:ユニバーサルホッケー(実践形式)	実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、実践形式におけるチームにおけるコミュニケーションについて理解し、説明できる。	
	事前学修	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	戦略戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
14	ボクササイズ ※オンラインにて実施	運動課題：ボクササイズ 研究課題：運動と免疫	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ボクササイズの効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。	30分
15	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返りを行い、理解し、説明できる。	
	事前学修	半期の振り返りを行う。	30分
	事後学修	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	藤井 洋武	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：fujii.hiromu11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7～9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	山田 美絵子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：yamada.miekol1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備(服装、通信環境等)があること。

【授業方法】
全授業回のうち8回(8週)はオンライン方式の実技授業等を行い、残り7回(7週)は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。木曜3限は偶数授業回が対面で奇数回がオンライン、木曜4限は第1回を除く奇数授業回が対面で偶数授業回がオンラインで行う。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	自身の体力測定結果を受けて、実践した各種身体運動から、グループワークの中で自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見や課題設定および解決を行う。また、リーダーシップ、コミュニケーションを取り、レクリエーションスポーツを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。				2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。				2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。				2			2	2	2	2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び各課題の振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず、必要に応じてプリントを配布する。				

【オフィスアワー】
classroom及びメールにて相談等を受け付ける。yamada.miekoll@nihon-u.ac.jp 授業期間木曜日のみ13:00から18:00 2号館地下(体育教員室, 体育場)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	AHA TC IEMA BLS Faculty, 国際救命救急協会理事, イグザミナー
実務経験に基づく実践的教育の内容		運動時に起きてしまう体調不良や怪我の対応、救急処置も合わせて学生に指導していく。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	・オンライン授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果”	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	30分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	30分
2	グループワーク 1	・対面授業 ・体づくり運動 ボール（多目的コート）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	調整力について調べてくる。 メンバーと協力して上達するためにはどうしたらよいのか考えてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分
3	心身の調和	・オンライン授業 ・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	グループワーク 2	・対面授業 ・柔軟性トレーニングと変形野球（多目的コート）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	柔軟性をつける方法を調べる。 チームメンバーと協力してアウトを取るには何をしたら良いのか考えてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分
5	フィットネスダンス 1	・オンライン授業 ・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 3	・対面授業 ・体づくり運動 色々な縄跳びの跳び方（多目的コート）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	「縄跳び」の特性やみんなで跳ぶためのルールを考えてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	フィットネスダンス 2		・オンライン授業 ・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスとツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
8	グループワーク 4		・対面授業 ・筋力の評価とユニホッケー（2号館地下202）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。 「ユニホッケー」の特性やルールを調べてくる。 前学期の「アルティメット」の時を活かしてメンバーとボールをどのようにパスして点数を取るのか、戦術を考えてくる。		45分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
9	有酸素運動の実践 1		・オンライン授業 ・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
10	グループワーク 5		・対面授業 ・マシントレーニングとフロアカーリング（2号館地下202）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	「マシントレーニング」のメニューを計画してくる。 「フロアカーリング」の特性とルールを調べてくる。		45分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分
11	有酸素運動の実践 2		・オンライン授業 ・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
12	グループワーク 6		・対面授業 ・マシントレーニングとフロアカーリング（2号館地下202）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。		
	事前学修	「マシントレーニング」のメニューを計画してくる。 メンバーと協力して試合で優位に立つためのフロアカーリングの戦術について調べてくる。		45分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・オンライン授業 ・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 7	・対面授業 ・バウンドテニス（2号館地下202）	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。 到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	「バウンドテニス」の動きとルールについて調べてくる。	30分
	事後学修	運動実施後に感想とグループワークの内容をまとめる。	30分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	60分

科目名	体育実技ⅠB	担当者	鈴木 功士	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
対面授業回は、運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。オンライン授業回は、安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。

【授業方法】		
全授業回のうち8回（8週）はオンライン方式の実技授業等を行い，残り7回（7週）は対面式の実技授業を実施する。隔週でオンライン方式と対面式を行う。対面式実技授業は2号館体育場及びトレーニングルームを使用する。対面授業回では各回で実施する運動・スポーツ活動についての事前学習を前提として授業を進める。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。オンライン授業回では、オンデマンドで実技課題及び関連する理論についての課題提示を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることでできたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	10	10								30
小テスト等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	10	10	10								30
レポート等	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決策を示すことができるかを評価する。		20	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートへの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：suzuki.koshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	運動の心理的な効果 ※オンラインにて実施	〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。		10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。		20分
2	グループでの軽運動	グループでの軽運動を実践		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	体力測定の測定項目を確認する。		10分
	事後学修	体力測定の結果から体力評価を行う。		20分
3	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		30分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
4	ボールスポーツ①（ネット系）	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
5	身体の歪み修正運動	・運動課題：身体の歪み修正運動 ・研究課題：スポーツ文化について		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
6	ボールスポーツ②（ゴール系）	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	コンディショニング	・運動課題：コンディショニングについて ・研究課題：疲労について		
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
8	卓球①	卓球 ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
9	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
10	卓球②	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分
11	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ		
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。		
	事前学修	各課題について事前に調べる。		20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。		30分
12	ミニバドミントン①	・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。		
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	ミニバドミントン②	・当該スポーツの特徴とルール理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツにおいて必要な技術およびルールについて説明することができる。	
	事前学修	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。	20分
	事後学修	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。	30分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・振り返りシートの作成 ・講評	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、体育およびスポーツ実践によって得られる様々な恩恵について説明することができる。	
	事前学修	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。	60分
	事後学修	運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。課題レポートを作成する。	60分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	朴 鍾熾	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：Jonghyuk.Park@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技 I B【オンライン】	担当者	平野 加奈子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
適切な身体活動（運動やスポーツ）は、心身の健康や活力の源など我々に多くの恩恵をもたらす。しかしながら、その恩恵を十分に享受するためには、我々自身が身体活動の価値を理解し、実践していかなければならない。どのような社会状況においても、心身ともに充実した学生生活や豊かな人生を送れるかは、健康であることが不可欠である。この授業では、心理的・身体的・社会的恩恵を享受する態度を涵養するため、様々な身体活動の実践や関連する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
体育での身体運動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。1)自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。2)生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康をはかる。3)実社会において活動する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【履修条件】
安全に運動を実施できる環境にあること。受講に必要な準備（服装、通信環境等）があること。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】		
すべての授業回（全15回）をオンラインで実施する。運動の実践として「運動課題」、運動及び健康に関するトピックとして「研究課題」をそれぞれオンデマンド教材（ビデオ等）として配信して、各課題の実施及びリアクションペーパー等を提出する。また、全15回の中で数回はZoomを用いたライブ授業を実施する予定である。運動課題では、授業開始・終了時に傷害予防のためウォーミングアップとクーリングダウンを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決を行う。（ライブ授業実施時）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	体力及び健康の維持増進に関わる基本的な概念について論理的に説明できる。					2			2	2	2	2	
②	健医・フィットネスチェックを踏まえながら、体力及び健康の保持増進に向けた、自らの取り組みや達成目標について説明することができる。					2			2	2	2	2	
③	スポーツ・身体運動について、自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。					2			2	2	2	2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③が達成できているかについて、各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等を理解しているかを評価する。	20	20	30								70
討論・発表等	到達目標①②③が達成できているかについて、授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることであったかを基準に、深化の度合いを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度	実施した各種身体運動から、グループワーク等を通じて自己の身体感覚を言語化して他者に伝えたり、問題発見・課題設定および解決方策を示すことができるかを評価する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題のリアクションペーパー及び、課題レポートについて、ライブ授業回時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
				教科書	
				その他	
備考					

【オフィスアワー】
Classroom及びメールにて相談等を受け付ける。メールアドレス：hirano.kanako@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	運動の心理的な効果	ライブ授業 〔ガイダンス〕授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。 〔課題〕運動課題：軽運動、体力測定 研究課題：心理的な効果	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。体力測定の測定項目を確認する。	10分
	事後学修	ガイダンスの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。体力測定の結果から体力評価を行う。	20分
2	柔軟性の運動	・運動課題：ストレッチング ・研究課題：エアロビックダンスとフィットネスダンスの相違について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
3	フィットネスダンス 1	・運動課題：課題曲を使ったフィットネスダンス ・研究課題：ステップの規則性について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
4	フィットネスダンス 2	・運動課題：コンビネーションのパターン ・研究課題：フィットネスダンスのツールについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
5	柔軟性を高める運動のプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：運動不足と認知機能について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。く。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
6	グループワーク 1	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 1（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 2～5 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	筋力の評価	・運動課題：下肢筋力の評価と強化 ・研究課題：ストレスと健康被害について	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
8	有酸素運動の実践 1	・運動課題：ウォーキングの理解と実践 ・研究課題：運動とトラウマについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
9	自重筋力トレーニングのプログラムの作成と実践	・運動課題：各自でストレッチングのプログラムの作成及び実践 ・研究課題：トレーニングの基礎知識	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
10	グループワーク 2	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 2（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 7 ～ 9 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
11	心身の調和	・運動課題：目的に応じたヨガの選択と実践 ・研究課題：睡眠のメカニズムについて	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
12	有酸素運動の実践 2	・運動課題：ランニングの理解と実践 ・研究課題：アウトドアスポーツとエンデュランススポーツ	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有酸素運動の実践 3	・運動課題：ボクササイズの理解と実践 ・研究課題：スポーツの見方	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、体力の維持増進と健康について当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	各課題について事前に調べる。	20分
	事後学修	運動課題実施後に感想をまとめる。 研究課題の内容をまとめる。	30分
14	グループワーク 3	・ライブ授業 ・ここまでの課題の振り返り等 ・スポーツに関する諸問題 3（グループワーク）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	第 1 1 ～ 1 3 回授業回の内容を振り返り、まとめる。課題について事前に調べる。	45分
	事後学修	グループワークの内容をまとめる。	45分
15	体育・スポーツの恩恵とは何か	・ライブ授業によるグループワーク（自己評価、感想のまとめ） ・各課題についての講評	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自身の考えを論理的にまとめて、他者に伝えることができる。	
	事前学修	後学期の内容を振り返り、まとめる。	60分
	事後学修	グループワークでの取り組みについてまとめる。 全授業内容を振り返りまとめる。	90分

科目名	体育実技ⅠC(サッカー)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初級者から上級者まで誰でも可。サッカーに適した服装とシューズを用意すること。スニーカー不可。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続で実施する授業である。日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。授業は様々な課題設定及びコートの大きさ、条件からサッカーにおける技術・戦術を学び、ゲームの中で確認できるように展開する。授業計画は天候や講義の進捗状況によって適宜変更する。雨天時には体育館等屋内における実技に変更する場合がある。毎授業の振り返りとしてGoogle classroomを使用して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各グループにおいて、サッカーにおけるポジション、フォーメーション、戦術等についての課題を与え、それに基づいたグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートおよびリアクションペーパーにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日及び金曜日の対面授業時，大宮体育館教員控え室にて行う。また，下記メールアドレスへの連絡を通して随時行う。（長期休暇を除く） sakamoto.shuji11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本サッカー協会公認指導者ライセンス保有、日本サッカー協会公認サッカー審判員ライセンス保有
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本体育協会公認である日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。実践の中でサッカーの楽しさを追求する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス【サッカーとは】		【サッカー】の講義が学生に及ぼす影響を理解し、運動することの重要性について学修する。また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、【サッカー】の講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。		30分
2	体力測定【自分を知る】		【サッカー】の講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ることによって今後の運動への意識を高める。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、サッカーで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り整理する。自分の体力の現状を把握し、翌週からの実技に備え運動に取り組む。		30分
3	コミュニケーション（声・アイコンタクト）		様々なアイスブレイクを用い、サッカーに必要とされる声、アイコンタクトを使ったコミュニケーションについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるコミュニケーション（声・アイコンタクト）について理解し、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、サッカーの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。		30分
4	コミュニケーション（ボディランゲージ・協力） コミュニケーションを用いたゲーム形式		様々なアイスブレイクを用い、サッカーに必要とされるボディランゲージ、グループワークを通してコミュニケーションについて学修する。コミュニケーションを用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるコミュニケーション（ボディランゲージ）について理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。コミュニケーションを用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、サッカーの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。		30分
5	基礎技術（ボールフィーリング：個人）		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、個人でのボールを使った身体活動（リフティング）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、【サッカー】で必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、個人でのボールフィーリングを実践し楽しむことができる。また、ボールフィーリングのプレースキル向上の関連性について説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、サッカー専門用語について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。		30分
6	基礎技術（ボールフィーリング：グループ） 基礎技術（ボールフィーリング）を用いたゲーム形式		様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、グループでのボールを使った身体活動（サッカーテニス）を通してボールタッチを学修する。基礎技術を用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとボールフィーリングの関連性について説明することができる。基礎技術（ボールフィーリング）を用い仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	基礎技術（ドリブル）		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるドリブルのボールタッチ（インサイド・アウトサイド・足のラウ）の相違点を理解し、様々な課題から学修する。ドリブルのフェイントとターンについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるドリブルでのボールタッチとサッカーのボールタッチの相違点を理解し説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。		30分
8	基礎技術（ドリブル）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式		基礎技術（ドリブル）を発展させ、スモールサイド（ラインゴール）を用いてサッカーのミニゲーム（35m×20m）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる基礎技術（ドリブル）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。		30分
9	基礎技術（パス&コントロール）		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるパスを学修し、キックの相違点を理解し、様々な課題から学修する。ロンド（3対1）を用いて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされるパスの強弱の使い分け、パスの分類、キックの相違点を理解し説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。		30分
10	基礎技術（パス&コントロール）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式		基礎技術（パス&コントロール）を発展させ、スモールサイド（コーンゴールゲーム）を用いてフットサルのミニゲーム（40m×35m）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。		30分
11	応用技術（パス）		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。基礎技術（パス）の発展として、ボールキープ、突破といった応用技術（パス）についてロンド（4対2）、2対1の突破を用いて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーで必要とされる基礎技術（パス）とボールキープ、突破で用いられる応用技術（パス）の相違点を理解し説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。		30分
12	応用技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式		応用技術（パス）を用い、スモールサイド（4ゴールゲーム）を用いてミニゲーム（40m×35m）を行い、基礎技術と応用技術との相違点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる応用技術（パス）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。ゲームの特徴から用いられる技術の違いを説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。到達目標②に関連してサッカーのルールについてA4で分類・整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	応用技術（シュート/ドロップキック・パントキック）・GK		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。サッカーで必要とされるシュートを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（シュート）を学修し、様々な場面におけるシュートの相違点（ドロップキック・パントキック）について説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（シュート）の方法を分類し相違点について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。		30分
14	応用技術（シュート）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式		応用技術（ドリブル・パス・シュート）を用い、ハーフコートサイズ（68m×52.5m）でゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。先週のスモールサイドゲームと比較し、用いられる応用技術の相違点について説明することができる。サッカーで必要とされる応用技術（シュート）を用い仲間と協働してサッカーのミニゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、ゲーム中に想定されるファウルについて整理する。また、相互的にファウルを回避する方法を検討しておく。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。ゲームで想定されるファウルについて分類・整理する。		30分
15	リーグ戦形式のゲーム運営に向けたチームビルディング 仮チーム編成による練習		リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてチームビルディングの方法を学修する。仮チーム編成による練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーにおいてチームビルディングがプレーに及ぼす影響を理解し、チームメイトと協働して検討することができる。サッカーで行われる基本的なリーグ戦の方法を理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、チームビルディングとは何かを調べて整理し、講義中に他の学生とディスカッションできるようにしておく。サッカーのウォーミングアップ・練習メニューを調べ、オリジナルメニューを考案する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、チームビルディングについてのディスカッションの内容を整理しておく。		30分
16	リーグ戦形式のゲーム運営に向けた審判法 仮チーム編成による練習試合		リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてサッカーの審判法を学修する。リーグ戦形式で仮チーム編成による練習試合を行う。仲間と協働してフルコートサイズ（105m×68m）のゲームを楽しむことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サッカーにおけるルールの重要性を理解するとともに審判法を理解し正しく説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、サッカー専門用語について学修し、ゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について調べ、行えるように準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、サッカーのルールに関する専門用語やゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について整理する。		30分
17	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目		新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達する練習メニューをチームごとに考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、チームの目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を設定し、課題解決に向けた解決方を議論し、仲間と協働して楽しむことができる。		
	事前学修	サッカーで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。サッカーで用いられるウォーミングアップについて調べ、オリジナルメニューを考案し発表できる準備をする。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。		30分
18	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目		新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達する練習メニューをチームごとに考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主体的にリーグ戦を運営するために、チームビルディングを通じ実行力を向上させる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	サッカーで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。サッカーで用いられるウォーミングアップについて調べ、発表できる準備をする。		30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目		前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。		
	事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。		30分
	事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。		30分
20	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目		前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（ルールの理解や特徴の把握）を通じ、思考力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。		30分
	事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。		30分
21	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目		新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめる目標をディスカッションし考案する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。授業内におけるディスカッションの役割を理解し、積極的な発言、討論を行うことができる。		
	事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールの設定をディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。		30分
22	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目		新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめる目標をディスカッションし考案する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（攻撃方法）を通じ、創造力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールについてディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。		30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。		30分
23	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目		前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を再設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。		
	事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、映像と自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。		30分
24	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目		前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（守備方法）を通じ、発見力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。		30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	第3回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、再構築することができる。自身の目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。	
	事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
	事後学修	チームを組んだ仲間とポジションに関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
26	第3回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析を通じて、フットサルの試合展開に応じ、状況把握能力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
	事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。	30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
27	第3回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、傾聴力を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
	事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
	事後学修	チームを組んだ仲間とフォーメーションによる戦術の相違点に関する意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
28	第3回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。先週までの結果よりチームごとにミーティングを行い、目標を再考する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、発信力や規律性を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
	事前学修	サッカーのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。	30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。	30分
29	トーナメント戦形式によるゲーム	前週までの結果より、トーナメント戦形式によるゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、トーナメント戦の実施やゲーム分析を通じ、柔軟性を向上させることができる。仲間と協働してサッカーのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。	
	事前学修	サッカーで行われる基本的なトーナメント戦形式の方法を確認しておく。	30分
	事後学修	リーグ戦形式とトーナメント戦形式のゲームの特徴の相違点についてまとめる。	30分
30	サッカーのルールに関する理解度の確認及び解説 まとめ・講評	サッカーのルールに関する理解度を確認し解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。	
	事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。	30分
	事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育実技 I C(フットサル)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	後期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初級者から上級者まで誰でも可。フットサルに適した服装とフットサル用のシューズを用意すること。

【授業方法】		
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して後期2時限連続で実施する授業である。日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、フットサルの基本的な基礎技術の習得と実践的なフットサルの戦術についての考え方を講義する。授業は様々な課題設定及びコートの大ささ、条件からフットサルにおける技術・戦術を学び、ゲームの中で確認できるように展開する。授業計画は天候や講義の進捗状況によって適宜変更する。雨天時には体育館等屋内における実技に変更する場合がある。毎授業の振り返りとしてGoogle classroomを使用して行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各グループにおいて、フットサルにおけるポジション、フォーメーション、戦術等についての課題を与え、それに基づいたグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートおよびリアクションペーパーにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日及び金曜日の対面授業時，大宮体育館教員控え室にて行う。また，下記メールアドレスへの連絡を通して随時行う。（長期休暇を除く） sakamoto.shuji11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 日本サッカー協会公認指導者ライセンス保有、日本サッカー協会公認サッカー審判員ライセンス保有
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本体育協会公認である日本サッカー協会公認指導者ライセンスを保有し、各年代で指導者経験のある教員が、その経験を活かして、サッカーの基本的な基礎技術の習得と実践的なサッカーの戦術についての考え方を講義する。実践の中でサッカーの楽しさを追求する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス【フットサルとは】		【フットサル】の講義が学生に及ぼす影響を理解し、運動することの重要性について学修する。また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、【フットサル】の講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。		30分
2	体力測定【自分を知る】		【フットサル】の講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ることによって今後の運動への意識を高める。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、フットサルで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り整理する。自分の体力の現状を把握し、翌週からの実技に備え運動に取り組む。		30分
3	コミュニケーション（声・アイコンタクト）		様々なアイスブレイクを用い、フットサルに必要とされる声、アイコンタクトを使ったコミュニケーションについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるコミュニケーション（声・アイコンタクト）について理解し、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、フットサルの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。		30分
4	コミュニケーション（ボディランゲージ・協力） コミュニケーションを用いたゲーム形式		様々なアイスブレイクを用い、フットサルに必要とされるボディランゲージ、グループワークを通してコミュニケーションについて学修する。コミュニケーションを用いてフットサルのミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるコミュニケーション（ボディランゲージ）について理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができる。コミュニケーションを用い仲間と協働してフットサルゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術、フットサルの専門用語を学修しコミュニケーションについて調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、コミュニケーションの方法や種類を分類し整理する。		30分
5	基礎技術（ボールフィーリング：個人）		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、個人でのボールを使った身体活動（リフティング）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、個人でのボールフィーリングを実践し楽しむことができる。また、ボールフィーリングのプレースキル向上の関連性について説明することができる。用具の特性からフットサルとサッカーの相違点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。		30分
6	基礎技術（ボールフィーリング：グループ） 基礎技術（ボールフィーリング）を用いたゲーム形式		様々な基礎技術（ボールフィーリング）を用い、自己の身体感覚を認知するとともに、グループでのボールを使った身体活動（サッカーデニス）を通しボールタッチを学修する。基礎技術を用いてフットサルのゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる身体感覚をボールフィーリングを通して理解し、グループワークを通し実践する。また、プレーとボールフィーリングの関連性について説明することができる。基礎技術（ボールフィーリング）を用い仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、基礎技術（ボールフィーリング）の種類、フットサル専門用語について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、基礎技術（ボールフィーリング）について整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	基礎技術（ドリブル）		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるドリブルのボールタッチ（インサイド・アウトサイド・足のラウ）の相違点を理解し、様々な課題から学修する。ドリブルのフェイントとターンについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるドリブルでのボールタッチとサッカーのボールタッチの相違点を理解し説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。		30分
8	基礎技術（ドリブル）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式		基礎技術（ドリブル）を発展させ、スモールサイド（ラインゴール）を用いてフットサルのミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（ドリブル）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（ドリブル）の種類、ボールタッチについて調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、ドリブルの方法やボールタッチの種類を分類し整理する。		30分
9	基礎技術（パス&コントロール）		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるパスを学修し、キックの相違点を理解し、様々な課題から学修する。ロンド（3対1）を用いて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされるパスの強弱の使い分け、パスの分類、キックの相違点を理解し説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。		30分
10	基礎技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式		基礎技術（パス）を発展させ、スモールサイド（コーンゴールゲーム）を用いてフットサルのミニゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術（パス）の種類、キックの方法について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、パスの方法やキックの種類を分類し整理する。		30分
11	応用技術（パス）		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。基礎技術（パス）の発展として、ボールキープ、突破といった応用技術（パス）についてロンド（4対2）、2対1の突破を用いて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（パス）とボールキープ、突破で用いられる応用技術（パス）の相違点を理解し説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、基礎技術と応用技術の相違点について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。		30分
12	応用技術（パス）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式		応用技術（パス）を用い、スモールサイドゲーム（4ゴールゲーム）を行い、基礎技術と応用技術との相違点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる応用技術（パス）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（パス）の相違点について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるパスの方法を分類し整理する。到達目標②に関連してフットサルのルールについてA4で分類・整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	応用技術（シュート/ドロップキック・パントキック）・GK		様々なストレッチやアイスブレイクを用いウォーミングアップの方法を学修する。フットサルで必要とされるシュートを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルで必要とされる基礎技術（シュート）を学修し、様々な場面におけるシュートの相違点（ドロップキック・パントキック）について説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、応用技術（シュート）の方法を分類し相違点について調べて準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。		30分
14	応用技術（シュート）を用いたスモールサイドゲーム・ゲーム形式		応用技術（ドリブル・パス・シュート）を用い、スモールサイドゲーム（背中合わせゴール）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、先週のスモールサイドゲームと比較し、用いられる応用技術の相違点について説明することができる。フットサルで必要とされる応用技術（シュート）を用い仲間と協働してフットサルのミニゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、ゲーム中に想定されるファウルについて整理する。また、相互的にファウルを回避する方法を検討しておく。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、場面ごとに用いられるシュートの方法を分類し整理する。ゲームで想定されるファウルについて分類・整理する。		30分
15	リーグ戦形式のゲーム運営に向けたチームビルディング 仮チーム編成による練習		リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてチームビルディングの方法を学修する。仮チーム編成による練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルにおいてチームビルディングがプレーに及ぼす影響を理解し、チームメイトと協働して検討することができる。フットサルのルールを理解し、サッカーとの相違点を説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、チームビルディングとは何かを調べて整理し、講義中に他の学生とディスカッションできるようにしておく。フットサルの練習メニューを調べ、オリジナルメニューを考案する。フットサルのルールを調べ、サッカーとの相違点を比較し、発表できる準備をしておく。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、チームビルディングについてのディスカッションの内容を整理しておく。		30分
16	リーグ戦形式のゲーム運営に向けた審判法 仮チーム編成による練習試合		リーグ戦形式のゲームを主体的に運営していくための準備段階としてフットサルの審判法を学修する。リーグ戦形式で仮チーム編成による練習試合を行う。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フットサルにおけるルールの重要性を理解するとともに審判法を理解し正しく説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、フットサル専門用語について学修し、ゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について調べ、行えるように準備する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、フットサルのルールに関する専門用語やゲーム中における審判法（主審のシグナル・副審のシグナル）について整理する。		30分
17	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目		新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達をする練習メニューを考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、チームの目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を設定し、課題解決に向けた解決方を議論し、仲間と協働して楽しむことができる。		
	事前学修	フットサルで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。フットサルで用いられるウォーミングアップについて調べ、オリジナルメニューを考案し発表できる準備をする。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。		30分
18	第1回リーグ戦形式によるゲーム 1週目		新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週のチームビルディングを活用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初心者から上級者までが上達をする練習メニューを考案する。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主体的にリーグ戦を運営するために、チームビルディングを通じ実行力を向上させる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。		
	事前学修	フットサルで行われる基本的なリーグ戦形式の方法を確認し、主体的にリーグ戦を運営できるように準備しておく。フットサルで用いられるウォーミングアップについて調べ、発表できる準備をする。		30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
	事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
	事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
20	第1回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（ルールを理解や特徴の把握）を通じ、思考力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
	事前学修	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考えてまとめておく。	30分
	事後学修	ゲームの様々な楽しみ方を仲間と確認する。	30分
21	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめるルール（時間・人数・制限・得点等）をディスカッションし考案する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方策を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。授業内におけるディスカッションの役割を理解し、積極的な発言、討論を行うことができる。	
	事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールの設定をディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
22	第2回リーグ戦形式によるゲーム 1週目	新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。前週までのチームビルディングを発展させ、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。初級者から上級者までが楽しめるルールを用いリーグ戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（攻撃方法）を通じ、創造力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
	事前学修	前リーグ戦で気づいたことをまとめ、ルールについてディスカッションできるように準備する。これまでに「うまくできたこと」と「うまくできなかったこと」の自己分析を行い、整理してまとめておく。	30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分
23	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。ビデオ分析等を行い、チーム、個人の課題の抽出を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、前週で設定したチーム目標を達成するために、個人目標及び課題を再設定し、チームにおける役割を理解し説明することができる。	
	事前学修	ビデオ等の映像と自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。	30分
24	第2回リーグ戦形式によるゲーム 2週目	前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析（守備方法）を通じ、発見力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。	
	事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、自身の動きを比較し、その相違点から課題を抽出する。	30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	第3回リーグ戦形式によるゲーム 1 週目 ソサイチによるゲームの導入		新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルのゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、新規チームのチームワーク向上に努め、再構築することができる。自身の目標（戦術・ポジション・フォーメーション）を再設定し、課題解決に向けた解決方を議論し、チームメイトと協働して楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。		
	事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間とポジションに関する意見の交換を通じて課題などを共有する。		30分
26	第3回リーグ戦形式によるゲーム 1 週目 ソサイチによるゲームの導入		新規チーム編成によるリーグ戦形式でゲームを行う。これまでのチームビルディングを応用し、ウォーミングアップからゲームのミーティングまでを各チームごとに行う。審判法を用い主体的にリーグ戦を運営する。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルのゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゲーム分析を通じて、フットサルの試合展開に応じ、状況把握能力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。		
	事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、ポジションとフォーメーションの関連性を調べてくる。		30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。		30分
27	第3回リーグ戦形式によるゲーム 2 週目 ソサイチによるゲームの導入		前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルのゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、傾聴力を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。		
	事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間とフォーメーションによる戦術の相違点に関する意見の交換を通じて課題などを共有する。		30分
28	第3回リーグ戦形式によるゲーム 2 週目 ソサイチによるゲームの導入		前週からの結果を引き継ぎリーグ戦形式でゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルのゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、リーグ戦の実施やゲーム分析を通じ、発信力や規律性を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。		
	事前学修	フットサルのゲーム動画を視聴し、フォーメーションによる戦術の相違点についてまとめる。		30分
	事後学修	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。		30分
29	トーナメント戦形式によるゲーム ソサイチによるゲームの導入		前週までの結果より、トーナメント戦形式によるゲームを行う。 コートサイズを広げたソサイチを用いてフットサルのゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、トーナメント戦の実施やゲーム分析を通じ、柔軟性を向上させることができる。仲間と協働してフットサルのゲームを楽しむことができる。コートサイズを変更することから生じるプレーの変化について理解し説明することができる。		
	事前学修	フットサルで行われる基本的なトーナメント戦形式の方法を確認しておく。		30分
	事後学修	リーグ戦形式とトーナメント戦形式のゲームの特徴の相違点についてまとめる。		30分
30	フットサルのルールに関する理解度の確認及び解説 まとめ・講評		フットサルのルールに関する理解度を確認し解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。		
	事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。		30分
	事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。		30分

科目名	体育実技ⅠC(ゴルフ初級)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
通常の筋力があれば問題ないとする。誰でも受講可とする。

【授業方法】		
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して後期２時限連続で実施する授業である。 授業計画は天候や講義の進捗状況によって適宜変更する。雨天時には体育館等屋内における実技に変更する場合がある。 毎授業の振り返りとしてGoogle classroomを使用して行う。 クラブ等は学部で準備してあるものを貸与する。スポーツシューズ、運動着、ゴルフ手袋は各自で準備する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	動画の撮影を用い、スイングの課題点、修正点を抽出し、課題解決に向けたディスカッションを行う。 コースを工夫して設営し、主体的にゴルフのラウンドが行えるようにグループワークやディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートおよびリアクションペーパーにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。配布資料「ゴルフ指導者教本」を初回授業時に配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日及び金曜日の対面授業時、大宮体育館教員控え室にて行う。また、下記メールアドレスへの連絡を通して随時行う。（長期休暇を除く） sakamoto.shuji11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス【ゴルフ】とは		ゴルフの運動特性と安全管理について概説する。運動が学生に及ぼす影響を理解し、その重要性について学修する。 また、授業の到達目標、テーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法等の説明を行う。 それにより学生は授業の計画を立て、翌週からの準備をスムーズに行うようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④を理解し、ゴルフの運動特性と安全管理について説明することができる。また、講義がどのような形態で授業が行われるか、講義の到達目標がどのようなものであるかを説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。翌週からの実技に備え用具の準備を行う。		30分
2	体力測定【自分を知る】		ゴルフの講義を進めていく上で必要となる体力について学修する。自分の体力について知ること で今後の運動への意識を高める。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、体力測定の結果より健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立することを理解し、体力について学修し、説明することができる。また、ゴルフで必要とされる体力について自らの達成課題を抽出することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、ゴルフで必要とされる体力について調べ整理し、自分の体力を比較・検討できるように準備する。		30分
	事後学修	自分の体力の現状を把握し、結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。		30分
3	コミュニケーション【声・アイコンタクト・ボディランゲージ・協力】		様々なアイスブレイクを用い、身体活動、仲間との協働の楽しさを知るとともに、今後のグループワークへつながるコミュニケーション能力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、スポーツで必要とされるコミュニケーションについて理解し、グループワークを通し実践することができる。また、プレーとコミュニケーションの関連性について説明することができ、マナーやルールについての理解を深めることができる。		
	事前学修	ゴルフに必要な用具の準備をしておく。 配布資料p2-p4を読んでゴルフとはどのようなスポーツか調べておく。また、p63-68を読んでゴルフの用具について整理しておく。		30分
	事後学修	ゴルフの運動特性と健康スポーツとしてのゴルフの位置づけについて理解を深める。		30分
4	ゴルフの【安全管理】について ゴルフの基礎理論と実践【グリップ・アドレス・スイング】		ゴルフの授業への準備と安全管理のための方策を学習する。ゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を学修し、ショートアイアン（ピッチング）、バードボールを使用して打撃練習を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの安全管理の重要性について理解し、その動作特性やルール、マナーを説明することができる。また、ゴルフに必要なスキル（クローズドスキル）とその他スポーツのスキル（オープンスキル）の違いを説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。		
	事前学修	ゴルフに必要な用具の準備と安全管理のための方策を確認しておく。 配布資料p2-p4を読んでゴルフとはどのようなスポーツか調べておく。また、p63-68を読んでゴルフの用具について整理しておく。		30分
	事後学修	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する。配布資料を読み、安全管理の方策を分類し、マナーやルールを整理する。		30分
5	ゴルフの基礎理論と実践【スクエアスタンスを意識したスイング】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてスクエアスタンスを意識したアプローチショットを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スクエアのスイングとはどのようなものかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。		30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
6	ゴルフの基礎理論と実践【重心移動を意識したスイング】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いて重心移動を意識したアプローチショットを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スイング中の重心移動がどのように行われているかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。		30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ゴルフの基礎理論と実践【グリップを意識したスイング】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてグリップ（スクエア・ストロング・ウィーク）を意識したアプローチショットを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。グリップの違いによってボール軌道がどのように変化するかを理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。動画の映像から客観的視点で自身のスイングを改善することができる。また他者との相違点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。		30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
8	ゴルフの基礎理論と実践【スタンスとボール位置を意識したスイング・ハーフスイングとフルスイングの違い】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いてスタンスとボール位置を意識したフルスイングによるアプローチショットを学修する。動画によるスイングチェックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。スタンスとボール位置の変化によるボール軌道の関係性を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。動画の映像からハーフスイングとフルスイングの違いを理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。		30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
9	ゴルフの基礎理論と実践【テイクバックを意識したスイング・スイングクロックによるアプローチ】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。スイングクロック（①5:00-7:00②3:00-9:00③1:00-11:00）を用いたアプローチを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。テイクバックの大きさと飛距離の関係性を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。		30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
10	ゴルフの基礎理論と実践【的入れゲームによるミニテスト①】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボールを使用して打撃練習を実践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。様々な距離の的を狙ったアプローチショットを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。これまでのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を用い、スイングによるボール軌道の距離の変化を理解し、説明することができる。飛距離の異なるアプローチショットを打ち分けることができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。		30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
11	ゴルフの【ルール・エチケット・マナー】について		ラウンドする際のゴルフのルール・エチケット・マナーについて学修する。プレー当日の手順・コースでの心得を確認しラウンドに向けた準備を行う。ウォーミングアップで、ゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、バードボール・ピッチングを使用してスイングクロックによるアプローチ練習を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフのルール・マナー・エチケットを理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p60-p62, p69-p71を読んでゴルフの基本的なルールやマナーをスイングの基礎を整理しておく。		30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。ラウンド中のルール・マナー・エチケットをまとめ整理する。		30分
12	体育館にてミニコースを設営してのラウンド		体育館にてミニコース（6ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてラウンドを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラウンド設営の方法を理解し、積極的に設営に携わることができる。ゴルフのルール・マナー・エチケットを理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。注意深く観察しコースの特徴を捉え、スイングを変化させ使い分けることができる。		
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p60-p62, p69-p71を読んでゴルフの基本的なルールやマナーを整理しておく。		30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。ラウンド中のルール・マナー・エチケットをまとめ整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ゴルフの基礎理論と実践【穴あきボールを使用したスイング】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球のスイングへの導入として穴あきボールを使用して打撃練習を实践する。ショートアイアン（ピッチング）を用いたアプローチショットを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。バードボールと穴あきボールの打感や軌道の変化について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
14	ゴルフの基礎理論と実践【穴あきボールを使用したスイング・7番アイアン導入】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、穴あきボールを使用して打撃練習を实践する。7番アイアンを用いてアプローチショットを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。ピッチングと7番アイアンのアドレスの違い（グリップ・スタンス・ボール位置）について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
15	ゴルフの基礎理論と実践【本球を使用したスイング・グリーン回りを意識したアプローチ】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、グリーン回りを意識したアプローチショットを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。バードボール及び穴あきボールと本球の打感や軌道の変化について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p51-p54を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 再度ゴルフの安全管理のための方策を確認しておく。	30分
16	ゴルフの基礎理論と実践【本球を使用したスイング・スイングクロック・ゴルフゲージを使用した7番アイアンの打撃練習】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、スイングクロックによるアプローチを学修する。本球・ゴルフゲージを使用して7番アイアンのスイングを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、短距離（10y-30y）から中距離（40y-60y）の打ち分けを理解し、実践することができる。ピッチングと7番の違いが明確に説明できる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 再度ゴルフの安全管理のための方策を確認しておく。	30分
17	ゴルフの基礎理論と実践【本球を使用したスイング・ハーフスイングとフルスイングの違い】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ショートアイアン（ピッチング）を用い、ハーフスイングとフルスイングの打ち分けを学修する。動画によるスイングチェックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、中距離（40y-60y）から長距離（80y-100y）の打ち分けを理解し、実践することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
18	ゴルフの基礎理論と実践【本球を使用したスイング・7番アイアン・ドライバー導入】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・7番アイアンを用い、ハーフスイングとフルスイングの打ち分けを学修する。ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。動画によるスイングチェックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、正しいグリップ、アドレス、スイングを説明することができる。本球を使用し、スイングクロックを用い、短距離（10y-30y）から中距離（40y-60y）の打ち分けを理解し、実践することができる。7番アイアンを用い、ストレートに飛ばすスイング動作を理解し、説明することができる。ドライバーとショートアイアンの相違点を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
19	ゴルフの基礎理論と実践【的入れゲームによるミニテスト②】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認する。本球・7ショートアイアン（ピッチング）・7番アイアンを用い、様々な距離の的を狙ったアプローチショットを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、適切な距離でのクラブ選択を理論的に説明し、実践することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 前回動画でチェックした修正ポイントを確認する。	30分
20	ゴルフの基礎理論と実践【本球を使用したスイング・ヘッドスピードを意識したドライバー】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、ドライバーとショートアイアンの相違点を理解し、理論的に説明することができる。ヘッドスピードを上げるためにどのようなスイングが必要となるか理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	配布資料p27を読んでヘッドスピードについて整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
21	ゴルフの基礎理論と実践【本球を使用したスイング・インパクトを意識したドライバー】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、本球・ゴルフゲージを使用してドライバーのスイングを学修する。インパクト時のフェース面、両肘、手首の意識について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、インパクト時の正しいフェース面、姿勢（両肘・手首）について理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
22	ゴルフの基礎理論と実践【ケイマンボールを使用したを使用したスイング・ドライバー】		前週までのゴルフの基礎（グリップ・アドレス・スイング）を確認し、ケイマンボールを使用してドライバーのスイングを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフの基礎を理解し、ドライバーの正しいスイングについて説明することができる。ドライバーを用い、ストレートに飛ばすスイング動作を理解し、説明することができる。打撃練習を通してスイングを工夫し、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」の気づきを楽しむことができる。	
	事前学修	前回授業の内容を確認し、ドライバーの基本技術を習得しておく。 配布資料p13-p18を読んでスイングの基礎を整理しておく。	30分
	事後学修	配布資料を読み、基礎技術や専門用語を整理する。 授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
23	グラウンドにてコースを設営しての練習ラウンド		グラウンドにてコース（9ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてストロークプレーにてラウンドを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なルール、スコアの付け方を学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフラウンドにおける基本的なルール、マナー、スコアの付け方を理解し、正しいラウンド方法を説明することができる。	
	事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。	30分
	事後学修	配布資料p9-p10を読んで競技の種類とプレー方法を整理しておく。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
24	グラウンドにてコースを設営しての公式戦ラウンド		グラウンドにてコース（9ホール）を設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いてラウンドを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略について学修する。次回のゴルフコース設営に向けたコースを考案しながらラウンドを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラウンドする仲間とともに協働して、マナーやエチケットの向上を心がけ、ラウンドを楽しむことができる。ストロークプレーとマッチプレーの相違点を理解し、説明することができる。練習ラウンドにて分析したコース概要をもとに、戦略を立てることができる。		
	事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。		30分
	事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに9ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。		30分
25	グラウンドにて主体的にコースを設営しての練習ラウンド（9ホール）		グラウンドにてコース（9ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにディスカッションを行い、ゴルフコース設営について学修する。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフコース設営に関するディスカッションに積極的に参加し、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。レポートにて9ホール構成のゴルフコースを考案する。		30分
	事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
26	グラウンドにて主体的にコースを設営しての公式戦ラウンド（9ホール）		グラウンドにてコース（9ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにディスカッションを行い、ゴルフコース設営について学修する。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。		
	事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。		30分
	事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。		30分
27	グラウンドにて主体的にコースを設営しての練習ラウンド（18ホール）		グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。他グループとゴルフコース設営のディスカッションを行い協働してコースを設営する。グループごとに練習ラウンドを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、18ホールの種別を理解し、バランスの取れたゴルフコースの設営について説明することができる。他者と協働して積極的にゴルフコース設営に参加することができる。		
	事前学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について整理しておく。グループごとに18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。		30分
	事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
28	グラウンドにて主体的にコースを設営しての公式戦ラウンド（18ホール）		グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。グループごとにゴルフコース設営のディスカッションを行う。ゴルフラウンドにおける基本的なホールのまわり方、コース戦略、安全管理の方策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。		
	事前学修	ラウンド中のルール・マナー・エチケットを再度まとめ確認しておく。		30分
	事後学修	配布資料p5-p8を読んでゴルフコースの構成について再度整理しておく。18ホール構成のゴルフコースを考案しレポートにまとめる。		30分
29	グラウンドにてコースを設営しての公式戦ラウンド（18ホール）ハンディキャップ方式		前回の結果をもとにハンディキャップ方式でストロークプレーにてラウンドを行う。グラウンドにてコース（18ホール）を主体的に設営して、バードボール・ショートアイアン（ピッチング）を用いたラウンドを行う準備をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ハンディキャップ方式のストロークプレーについて理解し、説明することができる。ゴルフに必要とされるマナー・エチケットに配慮しながら、他者と協働してスムーズなラウンドの進行に取り組み、ラウンドを楽しむことができることができる。		
	事前学修	配布資料p10-p11を読んでハンディキャップについて整理しておく。		30分
	事後学修	ラウンドを振り返り、「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
30	ゴルフのルールに関する理解度の確認及び解説 まとめ・講評		ゴルフのルールに関する理解度を確認し、解説を行う。また、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、授業を振り返り、各自の目標達成度を確認する。 到達目標③に関連して、スポーツが及ぼす様々な影響について考え、理解を深める。	
	事前学修	スポーツが自身に与える影響や行うことの意義についてまとめ、各自の意見を準備する。	30分
	事後学修	スポーツ実技が自らに与えた影響についてまとめる。	30分

科目名	体育実技ⅠC(コンバインドスポーツ)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
屋外・屋内運動靴（紐靴が望ましい）、運動着（トレーニングウェア等）、タオル、その他運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、2時限連続の実技形式により行う。特定のスポーツ種目ではなく、様々なスポーツ種目を実施するため、各回ごとの事前学習シートの作成が重要となる。授業開始時と終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールグダウンを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
授業実施日 9：00～13：00 メールアドレス：satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習（実技及び講義）
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	体育・スポーツの意義と価値		ガイダンス ・授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画についての説明 ・事前学習及び事後学習についての説明 体育実技と健康について（講義形式）	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる。また、到達目標③に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる。		
	事前学修	シラバスを熟読し、内容を確認する。体育・スポーツについての考えをまとめる。		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の計画を確認する。		30分
2	体力及び身体運動への理解		・ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する ・フィットネス測定の方法と評価について理解する	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる。また、到達目標④に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる。		
	事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる		30分
	事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。		30分
3	ソフトバレーボール①		ソフトバレーボール① ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
4	ソフトバレーボール②		ソフトバレーボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
5	インディアカ①		インディアカ① ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
6	インディアカ②		インディアカ② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バドミントン①		バドミントン（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	ペアを組んだ相手と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
8	バドミントン②		バドミントン（ダブルス） ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・ダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
9	ターゲットバードゴルフ①		ターゲットバードゴルフ① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	振り返り、課題の設定を行う。		30分
10	ターゲットバードゴルフ②		ターゲットバードゴルフ② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・マナーや課題への挑戦についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
11	チェックボール①		チェックボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
12	チェックボール②		チェックボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ミニテニス①		ミニテニス（シングルス） ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
14	ミニテニス②		ミニテニス（ダブルス） ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・ダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
15	卓球①		卓球（シングルス①） ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	振り返り、課題の設定を行う。		30分
16	卓球②		卓球（シングルス②） ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)		30分
17	卓球③		卓球（ダブルス） ・ルールの理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	ペアを組んだ相手と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
18	卓球④		卓球（チーム戦） ・意見の交換を通じてリーダーシップや協働への理解。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。		30分
	事後学修	チームメンバーと達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	ユニバーサルホッケー①		ユニバーサルホッケー① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
20	ユニバーサルホッケー②		ユニバーサルホッケー② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
21	ディスクスポーツ①		アルティメット ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
22	ディスクスポーツ②		ゴールディスク ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得 ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
23	ティーボール①		ティーボール① ・当該スポーツの特徴とルールを理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
24	ティーボール②		ティーボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	キンボール①		キンボール① ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。		30分
26	キンボール②		キンボール② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。 ・チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
27	フェンシング①		フェンシング① ・当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	振り返り、課題の設定を行う。		30分
28	フェンシング②		フェンシング② ・ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術、ルールについて説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	前回の課題を確認し、具体的な解決方策を設定する。		30分
	事後学修	自らが設定した課題及びその解決方策の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。		30分
29	ユニバーサルスポーツを考える		新スポーツ種目の提案 ・既存のスポーツの実施方法を工夫することや、新たなスポーツ種目を設定し実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツとは何かを説明することができる。		
	事前学修	様々なスポーツ種目を概観し、誰でも楽しめるスポーツ（ルールや実施方法等）について考え事前学習シートを作成する。		30分
	事後学修	実施したスポーツについての意見交換を行い、その意見をまとめる。		30分
30	スポーツの価値について考える		文化としてのスポーツ ・スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 ・授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツの価値とは何か、自身の経験と学びに基づいた考えを示すことができる。		
	事前学修	スポーツとは何かについて、自らの経験や学びを踏まえて考えをまとめる。		30分
	事後学修	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。課題レポートを作成する。		30分

科目名	体育実技ⅠC(卓球)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期2時限 連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
卓球経験の有無不問。運動靴、運動着、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をすること。用具の貸し出しはあるが、個人で準備しても構わない。体力の維持増進のために、各自で30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施する。

【授業方法】
大宮キャンパスの運動・スポーツ施設で、2時限連続の実技形式により行う。卓球の知識（ルール、マナー等）・技術・戦術の習得・実践（ゲーム等）・運営が中心となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	卓球に関する知識（ルール、マナー等）や実践（練習、ゲーム）について、グループワークや発表等を行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験、技術試験、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	なし				

【オフィスアワー】
授業実施日 9：00～13：00 研究室にて メールアドレス：satou.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、スポーツ指導の講習（実技及び講義）
実務経験に基づく実践的教育の内容		適切な運動・スポーツ活動 運動・スポーツ活動によって得られる様々な経験、期待される恩恵について教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	体育・スポーツの意義と価値		1. ガイダンス内容（授業目的、到達目標、評価方法、授業計画）について理解する 2. 体育・スポーツの意義と価値について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、ガイダンス内容を理解し、以後の取り組みについて準備できる 2. 到達目標③に関連して、体育・スポーツの意義と価値について説明できる		
	事前学修	1. シラバスを熟読し、内容を確認する 2. 体育・スポーツについての考えをまとめる		30分
	事後学修	ガイダンスの内容を振り返り、以降の計画を確認する。		30分
2	体力及び身体運動への理解		1. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義と方法を理解する 2. フィットネス測定の方法と評価について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標④に関連して、運動前後のウォーミングアップとクーリングダウンの意義とその方法を説明できる 2. 到達目標④に関連して、フィットネス測定の方法と評価について説明できる		
	事前学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義について調べてくる。 フィットネス測定の種目について調べてくる		30分
	事後学修	ウォーミングアップ、クーリングダウンの意義についてまとめ、理解を深める。また、フィットネス測定の結果を踏まえて、自己の体力を向上させる課題を抽出する。		30分
3	卓球の特性と安全管理（講義）		1. 卓球の特性（歴史、技術、ルール、倫理、用具等）を理解する 2. 卓球を安全に実施する上での安全管理について理解する	
	この回の到達目標	1. 到達目標②に関連して、卓球の特性（歴史、技術、倫理、用具等）を説明できる 2. 到達目標②に関連して、卓球を安全に実施する上での安全管理について説明できる		
	事前学修	卓球の特性について関連する資料を調べてくる 卓球で発生した事故等について調べてくる		30分
	事後学修	講義の内容をまとめ、卓球の特性と実施する際の安全面の確保について理解を深める		30分
4	基本的な動作と技術の習得〔1〕 フォアハンド、バックハンド		1. フォアハンド、バックハンド基本的な動作と技術の習得 2. 練習の効果について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、フォアハンド及びバックハンドの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標①に関連して、動作と技術習得の練習方法を工夫できる。		
	事前学修	フォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分
5	基本的な動作と技術の習得〔2〕 フォアハンド、バックハンドのラリー		フォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	フォアハンド、バックハンドの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。		30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す		30分
6	基本的な動作と技術の習得〔3〕 カットのフォアハンド、バックハンド		1. カットのフォアハンド、バックハンドの基本的な動作と技術の習得 2. 動作と記憶過程（認知構造）について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、動作と技術を習得する際の認知構造について説明することができる。		
	事前学修	カットの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	基本的な動作と技術の習得〔4〕 カットのラリー		カットのフォアハンド、バックハンドのラリーについて基本的な動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について説明できる。また、到達目標④に関連して、当該スポーツの基本的な動作と技術について自己分析ができ、課題を抽出できる。		
	事前学修	カットの動作及び技術を振り返り、ラリーを行うための準備をする。動画を視聴してくる。		30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す		30分
8	基本的な動作と技術の習得〔5〕 サーブ、レシーブ、スマッシュ		1. サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術の練習 2. 練習曲線を用いて、動作と技術の習得について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。また到達目標④に関連して、練習曲線を用いて、動作と技術を習得する際の特徴について示し、自分に当てはめて説明することができる。		
	事前学修	サーブ、レシーブ、スマッシュの基本的な動作と技術について関連する資料を調べる。動画を視聴し、動作を確認する。		30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分
9	基本的な動作と技術の確認 技能試験		1. 簡易ゲームにより、習得した動作や技術の確認 2. 振り返りと課題の抽出	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。		
	事前学修	基本動作と技術を振り返り、技能試験に向けた練習を行う。		30分
	事後学修	技能試験の結果を踏まえ、技術習得状況を確認し課題を抽出する。また課題解決に向けた方法をまとめる。		30分
10	審判技術を学ぶ		1. ルールと審判法の説明 簡易ゲームにより、審判技術とルールを理解する 2. 練習効果を高める方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ルールと審判法について説明できる。		
	事前学修	ルールブックを熟読し、使用する用語をまとめる。		30分
	事後学修	審判法、特にジェスチャーと審判用語をまとめ、理解を深める。		30分
11	状況に応じた技術の選択〔1〕 サーブコースの選択		1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択に説明する。 2. スポーツコーチングについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。		
	事前学修	シングルのサーブについて配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。		30分
	事後学修	指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。		30分
12	状況に応じた技術の選択〔2〕 回転サーブ		1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。		
	事前学修	ナックル、下回転について配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。		30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	状況に応じた技術の選択〔3〕 ショート	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
14	状況に応じた技術の選択〔4〕 ツッツキ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
15	状況に応じた技術の選択〔5〕 スマッシュ	1. 様々なゲーム状況に応じた技術の選択の練習 2. 簡易ゲームの実施（シングルス11点1セット）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゲーム状況を理解し、適切な動作を選択しその理由を説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読み動作のイメージを確認する。動画を視聴し、ラケットの使い方を確認する。	30分
	事後学修	基本的な動作と技術の習得過程の振り返りを行い、自己の課題を抽出し解決策を示す。	30分
16	ゲームの実践と審判〔1〕 シングルス総当たり（前半戦）	1. シングルス総当たり（前半戦） 2. スポーツマンシップとは何かを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。	
	事前学修	スポーツマンシップについて調べる。スポーツ活動現場においてどのように適応されるべきなのか自分の考えをまとめ、授業時の発表準備をする。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分
17	ゲームの実践と審判〔2〕 シングルス総当たり（後半戦）	シングルス総当たり（後半戦）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
	事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
18	ゲームの実践と審判〔3〕 シングルストーナメント（前半戦）	1. シングルストーナメント（前半戦） 2. フェアプレイとは何かを理解する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決策を示すことができる。	
	事前学修	フェアプレイについて調べる。その際、他のスポーツ種目の事例について確認し、授業時の発表準備をする。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、後半戦に備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゲームの実践と審判〔4〕 シングルストーナメント（後半戦）	シングルストーナメント（後半戦）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	前半戦の課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
20	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔1〕 サーブとレシーブ	ダブルスの基本動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
	事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
	事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
21	ダブルスの基本的な動作と技術の習得〔2〕 打球コースの選択	ダブルスの基本動作と技術の習得	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、基本的な動作と技術について説明できる。	
	事前学修	ダブルスの基本動作、技術について配布資料を読み確認する。動画を視聴し、動作を確認する。	30分
	事後学修	ペアの学生とお互いの技術について意見を出し合い、共有する。また、指摘された点を振り返り、正しい動作を確認し次回に向けた課題を抽出する。	30分
22	ゲームの実践と審判〔5〕 ダブルス総当たり	ダブルス総当たり	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	試合方法、ルールを確認する。	30分
	事後学修	ペアの学生と振り返りを行い、お互いの課題を抽出する、また、課題解決に方策をまとめる。	30分
23	ゲームの実践と審判〔6〕 ダブルストーナメント	ダブルストーナメント	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	総当たりの課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、総当たりで課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
24	試合運営〔1〕 シングルスリーグ戦（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	試合運営〔2〕 シングルストーナメント（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
26	試合運営〔3〕 ダブルスリーグ戦（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	試合運営に関わるルール、マナーを確認する。	30分
	事後学修	ゲームの振り返りを行い、トーナメントに備え課題を抽出し、その解決方をまとめる。	30分
27	試合運営〔4〕 ダブルストーナメント（技能レベル別）	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	リーグ戦の課題を再度確認する。	30分
	事後学修	結果を踏まえ、前半戦の課題としてあげた内容の達成について振り返る。	30分
28	試合運営〔5〕 チーム戦	1. 試合を実施する際の準備や安全管理について理解する 2. 試合方法の選定とその運用について実践する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゲーム実施にあたり学修したルール及びマナーを適用することができる。また、到達目標④に関連して、振り返りを行い、課題とその解決方を示すことができる。	
	事前学修	チーム戦の試合方法、チーム内での試合順番等について確認する。	30分
	事後学修	チームメンバーと振り返りを行う。	30分
29	レクリエーションとしての卓球を学ぶ	ゲーム方法を工夫し、性別・年齢・体力・技能を考慮したルールの提案と実施	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、既存のルールを工夫しレクリエーションとしての卓球の価値を示すことができる。	
	事前学修	レクリエーションとしての卓球について調べる。また、卓球を普及させる方策を考えまとめる。	30分
	事後学修	卓球を普及させる方策について課題レポートを作成する。	60分
30	スポーツの意義と価値について考える	1. スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 2. 授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツ活動がもたらす様々な恩恵について具体例を挙げ説明することができる。	
	事前学修	スポーツの文化としての役割について自分の考えをまとめる	30分
	事後学修	全体を通した振り返りを行い、生涯スポーツとしての当該スポーツの位置付けを確認する。	30分

科目名	体育実技 I C(ソフトボール)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
この科目は、大宮キャンパス（グラウンド）の施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題リポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室(9号館 3階 9310号) メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ガイダンス内容を理解する。スポーツ習慣化と体力及び健康について説明できる。	
	事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
	事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
	事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する。	
	事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体越こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
	事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
	事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
	事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	キャッチボールの基礎練習	キャッチボールの基礎技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボールの基礎技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	キャッチボールの基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	キャッチボール練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
6	キャッチボール応用練習	実践形式においてキャッチボール応用技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャッチボール応用技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	キャッチボール応用技術の練習を調べる。	30分
	事後学修	キャッチボール応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	バッティング基礎練習	バッティング基礎技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バッティング基礎技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	バッティング応用練習	実践形式においてバッティング応用技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バッティング応用技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	バッティング応用練習を調べる。	30分
	事後学修	バッティング応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
9	走塁の基礎練習	走塁基礎技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、走塁基礎技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
10	走塁の応用練習	実践形式において走塁の応用技術を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、走塁の応用技術について、理解し説明することができる。	
	事前学修	走塁の応用練習を調べる。	30分
	事後学修	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
11	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラムを作成を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングについて、理解し説明することができる。	
	事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
	事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	実践におけるオールラウンドな体力の向上	実践において体力向上を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践におけるオールラウンドな体力の向上について、理解し説明することができる。	
	事前学修	実践に必要な体力を調べる。	30分
	事後学修	実践におけるオールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて、理解し説明することができる。	
	事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
14	実践における筋力とパワーの向上	実践において筋力とパワーの向上を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践において筋力とパワーの向上について、理解し説明することができる。	
	事前学修	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。	30分
	事後学修	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。	30分
15	実践形式：リーグ戦A	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術、理解し説明することができる。	
	事前学修	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
16	実践形式：リーグ戦A	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術、理解し説明することができる。	
	事前学修	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
17	実践形式：リーグ戦B	対戦チームの強み弱みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みを理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分
18	実践形式：リーグ戦B	対戦チームの強み弱みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みを理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	実践形式：リーグ戦C	守備について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、守備について実践形式を理解し、説明することができる。	
	事前学修	守備練習について調べる。	30分
	事後学修	守備を振り返り理解を深める。	30分
20	実践形式：リーグ戦C	守備について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、守備について実践形式を理解し、説明することができる。	
	事前学修	守備練習について調べる。	30分
	事後学修	守備を振り返り理解を深める。	30分
21	実践形式：リーグ戦D	対戦チームの守備について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの守備について、理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームの守備を分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。	30分
22	実践形式：リーグ戦D	対戦チームの守備について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの守備について、理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームの守備を分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。	30分
23	実践形式：リーグ戦E	ポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ポジションの適正能力について調べる。	30分
	事後学修	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。	30分
24	実践形式：リーグ戦E	ポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ポジションの適正能力について調べる。	30分
	事後学修	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	実践形式：リーグ戦F	対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、対戦チームのポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。	30分
	事後学修	対戦チームのポジションの適正能力について調べ次回の戦略に役立てる。	30分
26	実践形式：リーグ戦F	対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、対戦チームのポジションの適正能力について、理解し説明することができる。	
	事前学修	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。	30分
	事後学修	対戦チームのポジションの適正能力について調べ次回の戦略に役立てる。	30分
27	実践形式：リーグ戦G	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、チームのコミュニケーションの取り方について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
28	実践形式：リーグ戦G	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、チームのコミュニケーションの取り方について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
29	実践形式：リーグ戦H ゲームの運営法	ゲームの運営法を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゲームの運営法について、理解し説明することができる。	
	事前学修	ゲームの運営法について調べる。	30分
	事後学修	ゲームの運営法を振り返り理解を深める。	30分
30	まとめ/ 振り返り	フィtnesチェック、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、フィtnesチェック、授業の振り返りを行い、理解し説明することができる。	
	事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
	事後学修	授業の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技 I C(多種目スポーツ)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
この科目は、大宮キャンパスの施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。

【授業方法】
授業開始時に出席・実施内容の説明をおこなう。開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。実施した身体運動について考え、グループ討論したりする時間を設ける。課題レポートの提出を課すことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	実施した身体運動から、自己の身体感覚とそれを言語化して他者につたえる。Think-Pair-Shareを実施し、問題発見・課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートをもとに講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリントの配布				

【オフィスアワー】
金曜日の昼休み 研究室 (9号館 3階 9310号) メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本スポーツ協会公認コーチ資格、競技団体の指導者養成に携わっている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身体運動を通じて、スポーツライフを実現する資質・能力や人間性・社会性を教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	開講にあたって/ 体力及び健康について	①スポーツの習慣化や体力及び健康とはどういうことか ②授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、スポーツ習慣化と体力及び健康について、理解し説明できる。	
	事前学修	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。	30分
	事後学修	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。	30分
2	ストレッチ体操	適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ストレッチ体操、柔軟性の意義について説明できる。	
	事前学修	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。	30分
	事後学修	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。	30分
3	フィットネスチェック	フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、フィットネスチェックを行い、自己体力レベルを把握し体力を向上する方法について説明できる。	
	事前学修	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体越こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち	30分
	事後学修	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。	30分
4	敏捷性：アジリティトレーニングを知る	ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果について説明できる。	
	事前学修	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。	30分
	事後学修	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
5	平衡性：バランスを高める	平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、バランスを高めるために必要なトレーニング方法について説明できる。	
	事前学修	竹馬の乗り方について調べる。	30分
	事後学修	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。	30分
6	キャッチボール練習：ティーボール①	実践形式においてキャッチボール技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてキャッチボール技術について説明できる。	
	事前学修	キャッチボール技術の練習を調べる。	30分
	事後学修	キャッチボール技術の練習を実施し理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	バッティング基礎練習：ティーボール②	実践形式においてバッティング基礎技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてバッティング基礎技術について説明できる。	
	事前学修	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
8	バッティング応用練習：ティーボール③	実践形式においてティーボール技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、実践形式においてティーボール技術について説明できる。	
	事前学修	ティーボールのルールを調べる。	30分
	事後学修	ティーボール技術の練習を実施し理解を深める。	30分
9	走塁の基礎練習：ティーボール④	走塁基礎技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、走塁基礎技術について説明できる。	
	事前学修	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。	30分
	事後学修	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。	30分
10	走塁の応用練習：ティーボール⑤	実践形式において走塁の応用技術を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式において走塁の応用技術について説明できる。	
	事前学修	走塁の応用練習を調べる。	30分
	事後学修	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。	30分
11	オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る	筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラムを作成を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングについて説明できる。	
	事前学修	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。	30分
	事後学修	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。	30分
12	オールラウンドな体力の向上	オールラウンドな体力向上を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、オールラウンドな体力の向上について説明できる。	
	事前学修	オールラウンドな体力の向上について調べる。	30分
	事後学修	オールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニング	難易度に応じた運動様式の分類を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、筋力とパワーの向上：プライオメトリックトレーニングについて説明できる。	
	事前学修	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。	30分
	事後学修	授業内容を振り返り、プライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。	30分
14	実践における筋力とパワーの向上	実践において筋力とパワーの向上を体得する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、実践における筋力とパワーの向上について説明できる。	
	事前学修	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。	30分
	事後学修	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。	30分
15	実践形式：バスケットボール①	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術について説明できる。	
	事前学修	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
16	実践形式：バスケットボール①	ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームにおける戦略や戦術について説明できる。	
	事前学修	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。	30分
	事後学修	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。	30分
17	実践形式：バスケットボール②	対戦チームの強み弱みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みについて説明できる。	
	事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分
18	実践形式：バスケットボール②	対戦チームの強み弱みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、対戦チームの強み弱みについて説明できる。	
	事前学修	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。	30分
	事後学修	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	実践形式：卓球 シングルス	卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	卓球（シングルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
20	実践形式：卓球 シングルス	卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	卓球（シングルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
21	実践形式：卓球 ダブルス	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
22	実践形式：卓球 ダブルス	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
23	実践形式：バドミントン シングルス	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
24	実践形式：バドミントン シングルス	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：シングルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	実践形式：バドミントン ダブルス	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
26	実践形式：バドミントン ダブルス	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術について、説明できる。	
	事前学修	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。	30分
	事後学修	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。	30分
27	実践形式における課題練習：フットサル	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームでのコミュニケーションについて、理解し説明できる。	
	事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
28	実践形式における課題練習：フットサル	実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践形式におけるチームでのコミュニケーションについて、理解し説明できる。	
	事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
29	ゲームにおける運営：フットサル	ゲームにおける運営を積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゲームにおける運営について、理解し説明できる。	
	事前学修	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。	30分
	事後学修	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。	30分
30	まとめ/ 振り返り	フィットネスチェック、授業の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、フィットネスチェック、授業の振り返り、理解し説明できる。	
	事前学修	授業の振り返りを行う。	30分
	事後学修	授業の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バレーボール)	担当者	中島 大貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること（体調を整えておくこと、運動ができる服装を用意すること等）。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
全ての授業回を対面にて実施する。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。毎回課題を設定し練習を行った後に試合を行い、実践において課題の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の後半では試合を行う。その際、チームメイトとコミュニケーションを取り、学生が主体となって試合に勝利するための課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる ことができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	20	20								50
小テスト等	各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識 チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等 を理解しているかを評価する。また、実技テストを実施 し、実際に理論等を体得できているかを評価する。	10	20	20								50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリント等を配布する。				

【オフィスアワー】
授業の前後で対応する。また、メールでの質問なども随時受け付ける。メールアドレス：nakashima.daiki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 導入講義	授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の 到達目標	体力の維持増進と健康について、当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	15分
	事後学修	オリエンテーションの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	15分
2	バレーボールのルール	バレーボールのルールを学び、試合を実施する。	
	この回の 到達目標	バレーボールのルールについて説明することができ、ルール通りに試合を行うことができる。	
	事前学修	インターネット等でバレーボールの試合を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
3	パス①	アンダーハンドパスおよびオーバーハンドパスを習得する。	
	この回の 到達目標	ボールを扱うことに慣れ、基本的なフォームを体得できる。	
	事前学修	インターネット等でパスに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
4	パス②	アンダーハンドパスおよびオーバーハンドパスを中心とした試合を実施する。	
	この回の 到達目標	試合において、ボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でパスに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
5	パス③	アンダーハンドパスおよびオーバーハンドパスを習得する。	
	この回の 到達目標	狙った相手にボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でパスに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
6	パス④	アンダーハンドパスおよびオーバーハンドパスを中心とした試合を実施する。	
	この回の 到達目標	試合において、狙った選手にボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でパスに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	サーブ①	サーブを習得する。	
	この回の到達目標	基本的なフォームを習得し、相手コートにサーブを入れることができる。	
	事前学修	インターネット等でサーブに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
8	サーブ②	サーブから始まる試合を実施する。	
	この回の到達目標	試合において、相手コートに正確にサーブを入れることができる。	
	事前学修	インターネット等でサーブに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
9	スパイク①	スパイクを習得する。	
	この回の到達目標	基本的なフォームを習得し、スパイクを打つことができる。	
	事前学修	インターネット等でスパイクに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
10	スパイク②	スパイクを中心とした試合を実施する。	
	この回の到達目標	試合において、スパイクを決めることができる。	
	事前学修	インターネット等でスパイクに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
11	トスとブロック①	トスおよびブロックを習得する。	
	この回の到達目標	アタッカーに正確にトスすることができ、スパイクをブロックすることができる。	
	事前学修	インターネット等でトスとブロックに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
12	トスとブロック②	トスとブロックを中心とした試合を実施する。	
	この回の到達目標	試合において、アタッカーに正確にトスすることができ、スパイクをブロックすることができる。	
	事前学修	インターネット等でトスとブロックに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦術とゲームプラン①	ポジションの役割の理解する。	
	この回の到達目標	ポジションごとの役割を理解できる。	
	事前学修	インターネット等でポジション（特にセッター）に関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
14	戦術とゲームプラン②	ポジションを決めて試合を実施する。	
	この回の到達目標	ポジションごとの役割を理解して、試合を実施することができる。	
	事前学修	インターネット等でポジション（特にセッター）に関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
15	戦術とゲームプラン③	サーブレシーブからのアタックの動きを理解する。	
	この回の到達目標	サーブレシーブからのアタックをすることができる。	
	事前学修	インターネット等でサーブレシーブからのアタックに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
16	戦術とゲームプラン④	サーブレシーブからのアタックを中心とした試合を実施する。	
	この回の到達目標	試合において、サーブレシーブからのアタックをすることができる。	
	事前学修	インターネット等でサーブレシーブからのアタックに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
17	チーム別練習①	チームごとに課題を設定し、練習に取り組む。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、課題設定・解決ができること。	
	事前学修	これまでの授業で学んだことを振り返り、技術・戦術について考える。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
18	ゲーム①	チームごとに戦術を考え、試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、課題設定・解決ができること。	
	事前学修	これまでの授業で学んだことを振り返り、技術・戦術について考える。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	チーム別練習②	チームごとに課題を設定し、練習に取り組む。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、課題設定・解決ができること。	
	事前学修	これまでの授業で学んだことを振り返り、技術・戦術について考える。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
20	ゲーム②	チームごとに戦術を考え、試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、課題設定・解決ができること。	
	事前学修	これまでの授業で学んだことを振り返り、技術・戦術について考える。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
21	リーグ戦①	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
22	リーグ戦②	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
23	リーグ戦③	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
24	リーグ戦④	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	リーグ戦⑤	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
26	リーグ戦⑥	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
27	リーグ戦⑦	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
28	リーグ戦⑧	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
29	リーグ戦⑨	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
30	リーグ戦⑩	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	全授業回の振り返りを行う。	15分

科目名	体育実技ⅠC(バレーボール)	担当者	中島 大貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
運動・スポーツ活動に必要な準備をすること（体調を整えておくこと、運動ができる服装を用意すること等）。体力の有無は特に問わないが、積極的に受講できること。

【授業方法】
全ての授業回を対面にて実施する。授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。毎回課題を設定し練習を行った後に試合を行い、実践において課題の達成度を確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の後半では試合を行う。その際、チームメイトとコミュニケーションを取り、学生が主体となって試合に勝利するための課題設定および解決を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる ことができたかを基準に、深化の度合いを評価する。	10	20	20								50
小テスト等	各回の課題を実施し、提出されたコメント及び関連知識 チェックを通じて身体運動及び運動や健康に関する理論等 を理解しているかを評価する。また、実技テストを実施 し、実際に理論等を体得できているかを評価する。	10	20	20								50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じてプリント等を配布する。				

【オフィスアワー】
授業の前後で対応する。また、メールでの質問なども随時受け付ける。メールアドレス：nakashima.daiki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 導入講義	授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等を行う。	
	この回の 到達目標	体力の維持増進と健康について、当該授業回の内容を踏まえて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	15分
	事後学修	オリエンテーションの内容をまとめ、以降の受講計画を確認する。	15分
2	バレーボールのルール	バレーボールのルールを学び、試合を実施する。	
	この回の 到達目標	バレーボールのルールについて説明することができ、ルール通りに試合を行うことができる。	
	事前学修	インターネット等でバレーボールの試合を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
3	パス①	アンダーハンドパスおよびオーバーハンドパスを習得する。	
	この回の 到達目標	ボールを扱うことに慣れ、基本的なフォームを体得できる。	
	事前学修	インターネット等でパスに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
4	パス②	アンダーハンドパスおよびオーバーハンドパスを中心とした試合を実施する。	
	この回の 到達目標	試合において、ボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でパスに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
5	パス③	アンダーハンドパスおよびオーバーハンドパスを習得する。	
	この回の 到達目標	狙った相手にボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でパスに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
6	パス④	アンダーハンドパスおよびオーバーハンドパスを中心とした試合を実施する。	
	この回の 到達目標	試合において、狙った選手にボールを繋ぐことができる。	
	事前学修	インターネット等でパスに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	サーブ①	サーブを習得する。	
	この回の到達目標	基本的なフォームを習得し、相手コートにサーブを入れることができる。	
	事前学修	インターネット等でサーブに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
8	サーブ②	サーブから始まる試合を実施する。	
	この回の到達目標	試合において、相手コートに正確にサーブを入れることができる。	
	事前学修	インターネット等でサーブに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
9	スパイク①	スパイクを習得する。	
	この回の到達目標	基本的なフォームを習得し、スパイクを打つことができる。	
	事前学修	インターネット等でスパイクに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
10	スパイク②	スパイクを中心とした試合を実施する。	
	この回の到達目標	試合において、スパイクを決めることができる。	
	事前学修	インターネット等でスパイクに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
11	トスとブロック①	トスおよびブロックを習得する。	
	この回の到達目標	アタッカーに正確にトスすることができ、スパイクをブロックすることができる。	
	事前学修	インターネット等でトスとブロックに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
12	トスとブロック②	トスとブロックを中心とした試合を実施する。	
	この回の到達目標	試合において、アタッカーに正確にトスすることができ、スパイクをブロックすることができる。	
	事前学修	インターネット等でトスとブロックに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦術とゲームプラン①	ポジションの役割の理解する。	
	この回の到達目標	ポジションごとの役割を理解できる。	
	事前学修	インターネット等でポジション（特にセッター）に関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
14	戦術とゲームプラン②	ポジションを決めて試合を実施する。	
	この回の到達目標	ポジションごとの役割を理解して、試合を実施することができる。	
	事前学修	インターネット等でポジション（特にセッター）に関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
15	戦術とゲームプラン③	サーブレシーブからのアタックの動きを理解する。	
	この回の到達目標	サーブレシーブからのアタックをすることができる。	
	事前学修	インターネット等でサーブレシーブからのアタックに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
16	戦術とゲームプラン④	サーブレシーブからのアタックを中心とした試合を実施する。	
	この回の到達目標	試合において、サーブレシーブからのアタックをすることができる。	
	事前学修	インターネット等でサーブレシーブからのアタックに関する動画を視聴する。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
17	チーム別練習①	チームごとに課題を設定し、練習に取り組む。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、課題設定・解決ができること。	
	事前学修	これまでの授業で学んだことを振り返り、技術・戦術について考える。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
18	ゲーム①	チームごとに戦術を考え、試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、課題設定・解決ができること。	
	事前学修	これまでの授業で学んだことを振り返り、技術・戦術について考える。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	チーム別練習②	チームごとに課題を設定し、練習に取り組む。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、課題設定・解決ができること。	
	事前学修	これまでの授業で学んだことを振り返り、技術・戦術について考える。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
20	ゲーム②	チームごとに戦術を考え、試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、課題設定・解決ができること。	
	事前学修	これまでの授業で学んだことを振り返り、技術・戦術について考える。	15分
	事後学修	授業内容についての振り返りを行う。	15分
21	リーグ戦①	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
22	リーグ戦②	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
23	リーグ戦③	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
24	リーグ戦④	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	リーグ戦⑤	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
26	リーグ戦⑥	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
27	リーグ戦⑦	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
28	リーグ戦⑧	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
29	リーグ戦⑨	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	試合内容を振り返り、改善点を考える。	15分
30	リーグ戦⑩	試合を実施する。	
	この回の到達目標	チームメイトとコミュニケーションを取り、戦術を考え、試合においてそれを体現することができる。	
	事前学修	試合に向けて、戦術を考える。	15分
	事後学修	全授業回の振り返りを行う。	15分

科目名	体育実技ⅠC(テニス中級)	担当者	朴 美香	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
テニス中級者、上級者を対象とする。テニスに相応しい服装とシューズで受講する。補給用の水分、汗拭き用タオルを用意する（必要に応じてサングラスや帽子を用意する）。

【授業方法】		
・大宮キャンパスのスポーツ施設において2時限連続の実技形式によって行う。雨天時も体育館を使用して基礎技術の練習や、テニスに関連したトレーニングなどを行う。ラリーやサーブなどの技術達成度を評価する技術テスト、ゲームの進め方を含むルールや基礎技術に関する理解度を確認する小テストを行う場合もある。 ・毎回行うドリルとしては、ショートラリー、ロングラリー、フィードによるドリル、サーブドリル、ドリルゲームなどを予定しているが、週ごとに実施されるテーマに応じて組み合わせは異なる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テニス技術の向上を目的としてサーブなどをスマートフォンで撮影し、映像を基に改善点などについてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③についてドリルの実践及びグループワークにおいてコミュニケーション、リーダーシップや協働力が発揮できるかにつて評価する。	10	10	10	10							40
その他(筆記試験、 技術の試験)	①②について必要な知識や技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。	20	20									40
その他(事前学習 及び、授業準備)	①②③④についてスポーツする上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で行う筆記試験や実技テストの結果を解説することによって行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日17:00～17：30 授業施設で対応する。 park.mihyang@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	プロのプレイヤーであったこと、コーチとして選手から学生まで指導した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		さまざまなレベルの学生の技術指導とともにマナーについての確なアドバイスができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：授業の進め方	授業の進め方、受講時の注意点、授業計画の説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、授業の計画と内容、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業からの適正な準備と受講ができるようになる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認するとともに大宮校舎までの交通手段と時間、授業に必要なものについて準備をする。	30分
	事後学修	実技授業を受講するために必要なものを準備する。	30分
2	テニス運動の特性と安全管理など	テニスの運動特性と実技授業を安全に行うための規則とマナー、授業運営への協力、ウォーミングアップを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、テニスコートにおける外傷・障害の原因について理解し、授業運営へ協力を自覚できる。	
	事前学修	テニスの運動特性とウォーミングアップについて調べる。	30分
	事後学修	コートサーフェスの特徴とボールの特性についてまとめる。	30分
3	基礎技術の確認	準備運動としてステップドリルやコーデイネーションドリルなど行い、グラウンドストローク、ボレー、サーブ動作とグリップについて確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラリーのドリルをとおして技術の確認や体力のレベルなどの把握ができるとともにグリップについて学修することができる。	
	事前学修	基礎技術とグリップの種類について確認する。	30分
	事後学修	グラウンドストローク、ボレー、サーブに用いるグリップについて理解を深める。	30分
4	フォアハンドストロークのトップスピンド打法	グラウンドストロークにおけるトップスピンのメリットについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トップスピンド打法に関連して下半身の使い方やラケットワークが習得できる。	
	事前学修	ボールの回転とラケットワークについて調べる。	30分
	事後学修	フォアハンドストロークのトップスピンド打法についてまとめる。	30分
5	バックハンドストロークのトップスピンド打法	片手打ちと両手打ちとの相違点について理解し、グリップ、打球姿勢、ラケットワークを修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バックハンドのトップスピンド打法が習得できる。	
	事前学修	バックハンドに用いるグリップとバックスイングについて確認する。（両手打ちと片手打ち）	30分
	事後学修	授業で行ったドリルと技術の要点をまとめる。	30分
6	基礎技術の局面構造（１）準備局面（構え姿勢からバックスイングまで）	準備の局面、主要局面、終末局面の中の準備局面にスポットを当て、その役割と重要な要素について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正しい構えの姿勢、肩をローテーションしたバックスイングを習得できる。	
	事前学修	バランスの取れた構え姿勢やスプリットステップについて調べる。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルや観察されたことについて整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	基礎技術の局面構造（２） 主要局面（フォワードスイングからインパクトまで）、終末局面（インパクトからフォロースルーまで）		主要局面と終末局面の役割とその重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、適切な打点と打球方向へのスイングが習得できる。		
	事前学修	グラウンドストロークのイメージトレーニングをしておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルや観察されたことについて整理する。		30分
8	フットワーク（浅いボールと深いボール）		浅いボールと深いボールに対して正しいステップについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サイドステップやクロスステップを修得することにより、適切な打点で打つことができる。		
	事前学修	動画などを参考に、ステップについて調べておく。		30分
	事後学修	サイドステップをストロークラリーに活用できるように練習しておく。		30分
9	フットワーク（ワイドのボール）		ランニングステップとともにクロスステップを活用することにより、適切な打点で打つことを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、遠いボールに対して返球できるフットワークが習得できる。		
	事前学修	試合の動画を視聴し、フットワークを学修しておく。		30分
	事後学修	練習したドリルの中で「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」について整理する。		30分
10	クロスコート・ラリー		シングルスゲームで使うダウン・ザ・ライン、クロス、逆クロス of ストローク中で、ゲームにおけるセオリー「クロスコート・ラリー」を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連続してクロスコート・ラリーができるようになる。（フォアハンドストロークとバックハンドストローク）		
	事前学修	前回行ったボールコントロールの要素について確認しておく。		30分
	事後学修	クロスコート・ラリーを行った後、達成度や改善点についてまとめる。		30分
11	クロスコート・ラリーとドリルゲーム		「クロスコート・ラリー」を活かしたゲームを行い、「コースによるポジショニング、リカバリー、ストロークの安定」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「クロスコート・ラリー」を活かしたゲームができる。		
	事前学修	タイブレークシステムについて調べておく。		30分
	事後学修	ゲームを振り返り要点をまとめる。		30分
12	グラウンドストロークラリー達成度の確認		ラリー（往復10回）を行い、達成度の確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、安定したラリーができる。（フォアとバック）		
	事前学修	前回行ったドリルのイメージトレーニングを行う。		30分
	事後学修	行ったラリーを振り返り良かったところと、改善点についてまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ラリーとゲームドリル（シングルス）		コートの手面を利用してラリーを行うことによりダウン・ザ・ラインのコントロール能力を高める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームを行うことにより、対戦相手のボールスピードやリズムに合わせたストロークの重要性が分かる。		
	事前学修	シングルスゲームの進め方や判定とコール仕方について確認しておく。		30分
	事後学修	ゲームで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」について整理しておく。		30分
14	サーブにおける基礎技術の確認		グリップ、リズム、インパクトの位置、ラケットワークなどを確認し、サーブの確率を高める。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、リズムよく打てるトスの高さや位置を確認し、安定した打点でサーブを打つことができる。		
	事前学修	事前に投球動作を行い、肩の動きを柔らかくしておく。		30分
	事後学修	投球動作とサーブ動作の類似点についてまとめる。		30分
15	サーブのリターン		サーブされる方向や球質を予測・判断し、スプリットステップとともに動き出す足について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スプリットステップを習得することにより適切な打点でリターンができる。		
	事前学修	レシーバーの構え姿勢、ポジションなどについて確認する。		30分
	事後学修	サーブされた方向に対する動き出す足と上半身の動き、ラケットの位置などについてまとめる。		30分
16	ゲームドリル（シングルスゲーム）		ゲームを通してサーブからラリーへ移行するフットワークやリズム、サーブのリターンからラリーへ移るフットワークとリズムを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲームの状況を認識できる（サーブ、リターン、両方ベースラインでラリー、ネットプレー）		
	事前学修	セルフジャッジ方法について調べておく。		30分
	事後学修	ゲームを振り返り要点をまとめる。		30分
17	ボレーの基礎（打球姿勢、グリップとラケットワーク）		ボレーの特徴を理解し、打球姿勢、打点に合わせたラケットワークを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ボレーの基礎技術とともに打球姿勢とラケットワークが修得できる。		
	事前学修	ボレーの技術（グリップ、基本打法、）グラウンドストロークとの相違点について調べておく。		30分
	事後学修	行ったドリルや「うまくできたところ、うまくできなかったところ」について整理しておく。		30分
18	ボレーの基礎（打点とフットワーク）		体に近いボールと遠いボールの打ち方とステップ、重心のコントロールなどのテクニックを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、打点に合わせたフットワークが修得できることにより、ボールコントロールの精度を高めることができる。		
	事前学修	ボレーのフットワークについて調べておく。		30分
	事後学修	行ったドリルと「うまくできたところ、うまくできなかったところ」を整理しておく。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	ボレー対グラウンドストロークラリー、そしてドリルゲーム		ボレー対グラウンドストロークラリーを行い、ボレーで打たれたボールをグラウンドストロークで返球するためのテクニックについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ボレーの特徴をよく理解しラケットワーク（バックスイングやフォロースルーの長さ）のコントロールができる。	
	事前学修	ボレーの構え姿勢からスプリットステップ、動き始める足などを確認する。	30分
	事後学修	行ったドリルと「うまくできたところ」、「うまくできなかったところ」を整理しておく。	30分
20	ダブルスゲーム		ダブルスゲームを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的なダブルスゲーム（雁行陣）ができる。	
	事前学修	ダブルスゲームの進め方やルールについて確認しておく。	30分
	事後学修	ゲームを振り返り、サーブやリターンの確率、ラリーの安定性についてまとめる。	30分
21	ダブルスゲーム（雁行陣）		前衛と後衛の役割を確認し、前衛のポジショニングやサーブのコースに合わせたボーチの動きについて学習する。
	この回の到達目標	前衛の役割と後衛の役割について説明ができる。	
	事前学修	ダブルス試合の動画を視聴して選手の動きについて学修しておく。	30分
	事後学修	授業を振り返り、要点についてまとめる。	30分
22	ダブルスゲーム（前衛の役割：ロブ処理とスマッシュ）		ハイボレーでのロブ処理とスマッシュ技術の練習を行い、ドリルゲームを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロブに対するショットの判断とスマッシュが打てる。	
	事前学修	スマッシュの基本打法について調べておく。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。	30分
23	スライス打法		スライス打法を修得することにより、アプローチショットや、ドロップショット、ロブ、リターンなどの精度が高まることを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、スライス打法が習得できる。	
	事前学修	スライス打法について調べておく。	30分
	事後学修	行ったドリルと「うまくできたところ」、「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
24	アプローチショット		ネットにつく方法としての「アプローチショット」について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、アプローチショットの技術を学修することにより、浅いボールに対してショットの選択の幅が広がる。	
	事前学修	アプローチショットについて調べる。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ダブルスゲームの戦略（リターンしてネットプレー）		セカンドサーブをリターンし、ネットプレーで得点を狙う戦略について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブのリターンからネットについて平行陣プレーができる。		
	事前学修	ネットプレーの利点について調べておく。		30分
	事後学修	ゲームの感想と改善点をまとめる。		30分
26	ダブルスゲームの戦略（ネット平行陣対ベースライン平行陣）		ネット平行陣対ベースライン平行陣の練習を通してショットの選択やコース、ポジショニングなどについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平行陣プレーを体験することによりゲーム戦略について修得できる。		
	事前学修	ダブルスゲームの動画を視聴し、平行陣プレーを学修しておく。		30分
	事後学修	ゲームの感想と改善点をまとめる。		30分
27	ダブルスゲーム（パッシングショットとロブ）、		ドリルゲームを通して、平行陣プレイヤーに対する戦術の一つである「パッシングショット」と「ロブ」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、状況に応じて適切なショットが打てるかどうかの判断能力が修得できる。		
	事前学修	動画を視聴し、平行陣について理解を深めておく。		30分
	事後学修	ゲームの感想と改善点をまとめる。		30分
28	シングルスおよびダブルスゲーム		ゲームの運営、さまざまな技術レベルの人とテニスの楽しみ方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、スポーツの競い方に活用されるハンディキャップ方式の意義を理解する。これにより適正な競い合いと高い動機づけを実現する。		
	事前学修	基本的なリーグ戦の方法を確認する。審判のコールの仕方を確認しておく。		30分
	事後学修	試合における得意な技術と苦手な技術を確認し、改善点についてまとめる。		30分
29	ダブルスゲームの運営		さまざまな技術レベルの人とテニスを楽しむ。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、修得したさまざまな技術とポジショニングをペアと共有する能力を修得できる。		
	事前学修	平行陣と雁行陣について理解を深めておく。サーブの種類とリターンのポジショニングについて調べておく。		30分
	事後学修	試合における得意な技術と苦手な技術を確認し、改善点についてまとめる。		30分
30	振り返り		継続的にテニスを楽しむための技術の修得以外に仲間の存在の重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テニスを実践することによって「健康の維持・増進、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション能力、リーダーシップ・協働性」などを身につける。		
	事前学修	健康スポーツとしてのテニス活動によって得られる恩恵を再考する。		30分
	事後学修	運動に対する自信、努力や練習をすればできるようになるという自信、仲間から受け入れられているという自信などの運動有能感について考えておく。		30分

科目名	体育実技ⅠC(テニス初級)	担当者	朴 美香	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初級者を対象とする。テニスに相応しい服装とシューズで受講する。補給用の水分、汗拭き用タオルを用意する（必要に応じてサングラスや帽子を用意する）。

【授業方法】		
・大宮キャンパスのスポーツ施設において2時限連続の実技形式によって行う。雨天時も体育館を使用して基礎技術の練習や、テニスに関連したトレーニングなどを行う。ラリーやサーブなどの技術達成度を評価する技術テスト、ゲームの進め方を含むルールや基礎技術に関する理解度を確認する小テストを行う場合もある。 ・毎回行うドリルとしては、ショートラリー、ロングラリー、フィードによるドリル、サーブドリル、ドリルゲームなどを予定しているが、週ごとに実施されるテーマに応じて組み合わせは異なる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テニス技術の向上を目的としてサーブなどをスマートフォンで撮影し、映像を基に改善点などについてディスカッションする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる				2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる				2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる				2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。							2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③についてドリルの実践及びグループワークにおいてコミュニケーション、リーダーシップや協働力が発揮できるかにつて評価する。	10	10	10	10							40
その他(筆記試験、 技術の試験)	①②について必要な知識や技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。	20	20									40
その他(事前学習 及び、授業準備)	①②③④についてスポーツする上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で行う筆記試験や実技テストの結果を解説することによって行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
金曜日17:00～17：30 授業施設で対応する。 park.mihyang@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	プロのプレイヤーであったこと、コーチとして選手から学生まで指導した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		さまざまなレベルの学生の技術指導とともにマナーについての的確なアドバイスができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス： 授業の進め方 導入講義	授業の進め方、受講時の注意点、授業計画の説明を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、授業の計画と内容、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業からの適正な準備と受講ができるようになる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認するとともに大宮校舎までの交通手段と時間、授業に必要なものを準備をする。	30分
	事後学修	実技授業を受講するために必要なものを準備する。	30分
2	テニス運動の特性と安全管理など	テニスの運動特性と実技授業を安全に行うための規則とマナー、授業運営への協力、ウォーミングアップを学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関連して、テニスコートにおける外傷・障害の原因について理解し、授業運営へ協力を自覚できる。	
	事前学修	テニスの運動特性とウォーミングアップについて調べておく。	30分
	事後学修	コートサーフェスの特徴とボールの特性についてまとめておく。	30分
3	セルフテニス	ボールつきを行い、適切な打球位置（打点）でラケット面を保つことを学修する。また、下肢の使い方や上肢をリラックスすることなどについて学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、コンチネンタルグリップまたはイースタングリップを握り、ラケット面を交互に使ってボールつきができる。	
	事前学修	イースタングリップとコンチネンタルグリップについて調べる。	30分
	事後学修	練習したドリルと「できたところ」、「できなかったところ」についてまとめておく。	30分
4	ボールタッチとラケット面のコントロール	短い距離でラリーを行い、相手とのリズム、間の取り方、相手打球の見極め（弾道、距離、バウンド、位置等）、最適な打点と面づくり、ボールタッチなどを学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、ラリーができる。10回（往復）	
	事前学修	グリップの握り方を確認するとともにコートの名称を調べておく。	30分
	事後学修	練習したドリルと体験した感想をまとめておく。	30分
5	グラウンドストロークの基本：「打球姿勢」、「適切な打点でインパクト」	手で送球されたボールを打つ練習を行い、「打球姿勢」と「適切な打点でインパクト」「インパクト時のラケット面を保つこと」「重心のコントロール」などを習得する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、打球姿勢（ボールに対して横向き）をとることにより、一定の打点でインパクトができる。	
	事前学修	打球姿勢について調べる。	30分
	事後学修	行ったドリルと「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。	30分
6	グラウンドストロークの基本：サイドステップとスクエアスタンス	打点をつかむためのフットワークとしてサイドステップを修得する。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関連して、サイドステップからスクエアスタンスまでの動作がスムーズにできる。	
	事前学修	スタンスの種類とフットワークについて調べる。	30分
	事後学修	行ったドリルに対して自分が感じたことを含め総合的にまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グラウンドストロークの基本：ランニングステップとオープンスタンス		打点をつかむためのフットワークとしてランニングステップを修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ランニングステップからオープンスタンスまでの動作がスムーズにできる。		
	事前学修	スタンスの種類とフットワークについて調べる。		30分
	事後学修	行ったドリルに対して自分が感じたことを含めて総合的にまとめる。		30分
8	返球までの準備動作（グリップチェンジとバックスイング）		フォアハンドストロークからバックハンドストロークへ移行する際のグリップチェンジや、バックスイングまでの一連の動作について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、グリップチェンジからバックスイングまでの動作がスムーズにできる。		
	事前学修	グリップの種類とバックスイングについて理解を深めておく。		30分
	事後学修	行ったドリルに対して自分が感じたことを含め総合的にまとめる。		30分
9	ショートラリーとミニゲーム		ラリーを通して方向の判断、準備動作を再確認する。また、ミニゲームをとおして相手打球の見極め、適切な打点と面づくり、ボールタッチの感覚などを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サービスコートを使ってショートラリーとミニゲームを体験することができる。		
	事前学修	相手のボールを受けるための構え姿勢について調べておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルとラリーとゲームの体験についてまとめておく。		30分
10	ボレーの基本（１）打球姿勢と打点		ボレー技術の特徴、打球姿勢とラケットワークについて学修する。（フォアとバック） 到達目標：ラケットワークを修得することで送球された方向へボールを返球することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、打球姿勢とラケットワークを修得することで送球された方向へボールを返球することができる。		
	事前学修	ボレーの基本打法について調べておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルと自分が感じたことを含め総合的にまとめる。		30分
11	ボレーの基本（２）打点に合わせたステップ（体に近いボールと遠いボール）		体に近いボールと遠いボールの打点に合わせたステップとラケットワークについて学修する。	
	この回の到達目標	ボールの方向の判断とともに、体に近いボールと遠いボールの打点に合わせたフットワークが習得できる。		
	事前学修	動画を視聴し、スプリットステップから動き出す足について学修する。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルと自分が感じたことを含め総合的にまとめる。		30分
12	ボレーの基本（３）打点に合わせたステップ（高いボールと低いボール）		高さによってラケット操作を変える基本技術について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、頭の位置（ハイ・ボレー）と膝の高さより低いボール（ロー・ボレー、ハーフ・ボレー）に合わせたラケットワークが習得できる。		
	事前学修	動画を視聴し、「ハイ・ボレー」、「ロー・ボレー」、「ハーフ・ボレー」について理解を深める。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルと自分が感じたことを含め総合的にまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ボレー対グラウンドストロークラリー、そしてドリルゲーム	ボレー対グラウンドストロークラリーを通してバックスイングの大きさやラケットワーク、ラリーのリズムについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ボレーで打たれたボールをグラウンドストロークで返球するための知識とテクニックが身につく。	
	事前学修	構え姿勢からスプリットステップ、動き始める足などを確認し、練習しておく。	30分
	事後学修	行ったドリルと「うまくできたところ」、「うまくできなかったところ」を整理しておく。	30分
14	サーブの基本（グリップとインパクト）	コンチネンタルグリップでインパクトができる腕の運動（プロネーション）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コンチネンタルグリップを用いて前腕と手を内側に回す運動を行うことによって正確なインパクトができる。	
	事前学修	投球動作とサーブ動作の類似点について調べておく。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。	30分
15	サーブの基本（ラケットワーク）	フォワードスイングからインパクトへスムーズなスイングをするために「トスの位置」と「肩の動き」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、タイミングやリズムの良いインパクトをするためのフォワードスイングの重要性について学修できる。	
	事前学修	キャッチボールなどを行い、肩の動きを滑らかにしておく。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。	30分
16	サーブの基本（トスとバックスイングのコーディネーション）	最適なサーブに必要なトスとバックスイングのコーディネーションについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、トスとバックスイングがスムーズに取れるような上肢の動きについて学修できる。	
	事前学修	キャッチボールなどを行い、肩の動きを滑らかにしておく。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。	30分
17	フォアハンドストロークのトップスピンド打法	グラウンドストロークにおけるトップスピンのメリットについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、トップスピン打法における下半身の使い方やラケットワークが修得できる。	
	事前学修	トップスピンの打球方法とラケットワークについて調べておく。	30分
	事後学修	フォアハンドのトップスピン打法についてまとめる。	30分
18	バックハンドストロークの基本（片手打ち）	バックハンドストロークの基本打法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、片手打ちのバックハンドストロークの打法（グリップ、打球姿勢、スタンス、ラケットワーク）が習得できる。	
	事前学修	動画を視聴し、バックハンドストロークについて理解を深める。	30分
	事後学修	授業で行ったドリルと技術の要点についてまとめる。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	バックハンドストロークの基本（両手打ち）		片手打ちと両手打ちとの相違点について理解し、両手打ちのバックハンドストロークについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、両手打ちバックハンドストロークの打法（グリップ、打球姿勢、スタンス、ラケットワーク）が習得できる。		
	事前学修	体幹の捻り動作を滑らかに動かすために体幹部や肩のストレッチをしておく。 動画を視聴し、両手打ちバックハンドストロークについて理解を深める。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルと技術の要点についてまとめる。		30分
20	ストレートラリーとシングルスゲーム		コートの半面を利用してラリーを行うことによりダウン・ザ・ラインのコントロール能力を高める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、安定したラリーのために、相手のボールスピードやリズムに合わせたストロークの重要性が分かる。		
	事前学修	タイブレークスコア方式について調べておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。		30分
21	クロスコート・ラリー、ドリルゲーム		クロスコートへ連続ラリーのできる技術としてラケットワークやフットワークについて学修し、「クロスコート・ラリー」を活かしたゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連続してクロスラリーができるようになる。（フォアハンドストロークとバックハンドストローク）		
	事前学修	トップスピン打法について再確認し、スイングのイメージトレーニングをしておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。		30分
22	逆クロスコート・ラリー、ドリルゲーム		クロスコートへ連続ラリーのできる技術としてラケットワークやフットワークについて学修し、「逆クロスコート・ラリー」を活かしたゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連続して逆クロスコート・ラリーができるようになる。（フォアハンドストロークとバックハンドストローク）		
	事前学修	トップスピン打法を確認しスイングのイメージトレーニングをしておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。		30分
23	グラウンドストロークラリーの達成度の確認		クロスコート・ラリー、（往復10回）を行い、達成度の確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、深いグラウンドストロークラリーができる。		
	事前学修	前回行ったドリルのイメージトレーニングを行う。		30分
	事後学修	行ったラリーを振り返り、「良かったところ」と「改善点」についてまとめる。		30分
24	サーブのリターン、ドリルゲーム		サーブのリターンの仕方（方向を予測・判断し、スプリットステップとともに動き出す足、バックスイングなど）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相手のサーブの種類と方向を予測し、適切な打点でリターンができる。		
	事前学修	試合の動画を視聴し、ファーストサーブ時のリターンの仕方とセカンドサーブ時のリターン仕方について理解を深める。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ダブルスゲーム		ダブルスゲームを通してゲームの進め方やルールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、基本的なダブルスゲーム（雁行陣）ができる。		
	事前学修	ダブルスゲームの進め方（トス、判定とコール、得点の数え方など）について調べる。		30分
	事後学修	ゲームを振り返り、サーブやリターンの確率、ラリーの安定性についてまとめる。		30分
26	ダブルスゲーム（雁行陣）		前衛と後衛の役割を確認し、前衛のポジショニングやサーブのコースに合わせたボーチの動きについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前衛の役割と後衛の役割について説明ができる。ゲームを振り返り、サーブやリターンの確率、ラリーの安定性についてまとめる。		
	事前学修	ダブルス試合の動画を視聴し、それぞれの選手の動きについて学修しておく。		30分
	事後学修	授業を振り返り、要点についてまとめる。		30分
27	ダブルスゲーム		ゲームの運営、さまざまな技術レベルの人とテニスを楽しむ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、修得したさまざまな技術とポジショニングをペアと共有する能力が修得できる。		
	事前学修	試合動画などを視聴し、雁行陣について理解を深めておく。		30分
	事後学修	試合における得意な技術と苦手な技術を確認し、改善点についてまとめておく。		30分
28	シングルスおよびダブルスゲーム		ゲームの運営、さまざまな技術レベルの人とテニスを楽しむ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、スポーツの競い方に活用されるハンディキャップ方式の意義を理解する。これにより適正な競い合いと高い動機づけを実現する。		
	事前学修	基本的なリーグ戦の方法を確認する。審判のコールの仕方を確認しておく。		30分
	事後学修	試合における得意な技術と苦手な技術を確認し、改善点についてまとめる。		30分
29	サーブにおける基礎技術の確認		サーブの基礎技術（グリップ、リズム、インパクトの位置、安定したラケットワーク）を確認し修正することにより、サーブの確率を高める。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、リズムよく打てるトスの高さや位置を確認し、安定した打点でサーブを打つことができる。		
	事前学修	事前に、肩の部位をストレッチし動きを柔らかくしておく。		30分
	事後学修	授業で行ったドリルで「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」についてまとめる。		30分
30	振り返り		継続的にテニスを楽しむための技術の修得以外に仲間の存在の重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テニスを実践することによって「健康の維持・増進、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション能力、リーダーシップ・協働性」などを身につける。		
	事前学修	健康スポーツとしてのテニス活動によって得られる恩恵を再考する。		30分
	事後学修	運動に対する自信、努力や練習をすればできるようになるという自信、仲間から受け入れられているという自信などの運動有能感について考えておく。		30分

科目名	体育実技ⅠC(バスケットボール)	担当者	松本 真	部別	第一部	期間	前期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパスー体育館を使用して前期2時限連続または後期2時限連続で実施する授業である。基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	与えられた課題をチームに反映するために、ゲーム前にその都度話し合いを行う。また、その際に、知識として足りないと感じたら、教員が手助けをする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる		2			2	2		
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる		2			2	2	2	2
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる		2			2	2	2	2
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。					2			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業（木曜1限）終了後に対応する。 メールアドレス：matsumoto.shin11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	埼玉大学教育学部における、実技（バスケットボール）授業
実務経験に基づく実践的教育の内容		バスケットボールの技能レベルが多様に存在する中で、それぞれのレベルに対応する指導・アドバイスができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス バスケットボールとは。	履修受付・オリエンテーション授業。	
	この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認 1	
	事前学修	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）	30分
	事後学修	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）	30分
2	バスケットボールの試しのゲーム	班分けと試しのゲーム。	
	この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認2	
	事前学修	高校までに習得したバスケットボールに対する知識を確認する。（30分）	30分
	事後学修	班員の確認。自分の身体の状況を確認する。（30分）	30分
3	バスケットボールの基本戦術	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	これまで習得したバスケットボールの知識、技能の確認3	
	事前学修	バスケットボールのルールを確認する。（30分）	30分
	事後学修	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）	30分
4	バスケットボールの基本戦術1	「側線のボール運び」とパス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得1	
	事前学修	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）	30分
	事後学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。（30分）	30分
5	バスケットボールの基本戦術2	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得2	
	事前学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）	30分
	事後学修	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）	30分
6	バスケットボールの基本戦術3	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的な戦術を習得3	
	事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の予習する。（30分）	30分
	事後学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バスケットボールの応用戦術1		「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得1		
	事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）		30分
	事後学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）		30分
8	バスケットボールの応用戦術2		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得2		
	事前学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）		30分
	事後学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）		30分
9	バスケットボールの個人技1		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認1		
	事前学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）		30分
	事後学修	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）		30分
10	バスケットボールの個人技2		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認2		
	事前学修	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）		30分
	事後学修	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）		30分
11	バスケットボールの個人技3		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認3		
	事前学修	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）		30分
	事後学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）		30分
12	バスケットボールの個人技4		部分戦術を習得する。特に、2対2のパス＆ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認4		
	事前学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）		30分
	事後学修	2対2のパス＆ランについて復習確認する。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	バスケットボールの部分戦術1		部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得1		
	事前学修	2対2のパス&ランの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ピック&ロールの復習確認をする。（30分）		30分
14	バスケットボールの部分戦術2		部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得2		
	事前学修	ピック&ロールの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	3対3のポストパターンの復習確認する。（30分）		30分
15	バスケットボールの部分戦術3		部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得3		
	事前学修	3対3のポストパターンの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。（30分）		30分
16	バスケットボールの部分戦術4		部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得4		
	事前学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。（30分）		30分
17	バスケットボールの部分戦術5		ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得5		
	事前学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ヘルプサイドの飛び込みのタイミングを復習確認する。		30分
18	バスケットボールの部分戦術6		バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	攻撃を円滑にするためのエントリーについての理解		
	事前学修	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	エントリーの重要性の復習確認をする。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	バスケットボールのディフェンス1	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的なディフェンスの習得	
	事前学修	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）	30分
	事後学修	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）	30分
20	バスケットボールのディフェンス2	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得1	
	事前学修	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）	30分
	事後学修	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）	30分
21	バスケットボールのディフェンス3	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得2	
	事前学修	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）	30分
	事後学修	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）	30分
22	バスケットボールのディフェンス4	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	速攻のディフェンスについての知識を理解する	
	事前学修	ゲーム全体の流れの知識を確認（30分）	30分
	事後学修	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）	30分
23	バスケットボールのディフェンス5	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	オールコートで、効率的にディフェンスをするための知識の理解	
	事前学修	オールコートディフェンスのについての知識の確認	30分
	事後学修	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）	30分
24	バスケットボールのゲームコントロール1	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る1	
	事前学修	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）	30分
	事後学修	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	バスケットボールのゲームコントロール2	バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る2	
	事前学修	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）	30分
	事後学修	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）	30分
26	ゲームの中で復讐1	これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する1	
	事前学修	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）	30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
27	ゲームの中で復讐2	前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する2	
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
28	ゲームの中で復讐3	前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する3	
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
29	ゲームの中で復讐4	前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する4	
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
30	ゲームの中で復讐5	まとめ・講評	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する5	
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
	事後学修	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。（30分）	30分

科目名	体育実技ⅠC(バスケットボール)	担当者	松本 真	部別	第一部	期間	後期2時限連続	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。

【授業方法】
この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続または後期2時限連続で実施する授業である。基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	与えられた課題をチームに反映するために、ゲーム前にその都度話し合いを行う。また、その際に、知識として足りないと感じたら、教員が手助けをする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
その他(筆記・技能試験)	到達目標①②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	40	30									70
その他(事前学習及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	5	5	5	5							20
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	15	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業（木曜1限）終了後に対応する。メールアドレス：matsumoto.shin11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	埼玉大学教育学部における、実技（バスケットボール）授業。
実務経験に基づく実践的教育の内容		バスケットボールの技能レベルが多様に存在する中で、それぞれのレベルに対応する指導・アドバイスができる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス バasketボールとは。	履修受付・オリエンテーション授業。	
	この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認 1	
	事前学修	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）	30分
	事後学修	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）	30分
2	Basketボールの試しのゲーム	班分けと試しのゲーム。	
	この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認2	
	事前学修	高校までに習得したBasketボールに対する知識を確認する。（30分）	30分
	事後学修	班員の確認。自分の身体の状態を確認する。（30分）	30分
3	Basketボールの基本戦術	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	これまで習得したBasketボールの知識、技能の確認3	
	事前学修	Basketボールのルールを確認する。（30分）	30分
	事後学修	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）	30分
4	Basketボールの基本戦術1	「側線のボール運び」とパス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得1	
	事前学修	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）	30分
	事後学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。（30分）	30分
5	Basketボールの基本戦術2	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得2	
	事前学修	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）	30分
	事後学修	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）	30分
6	Basketボールの基本戦術3	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	Basketボールの基本的な戦術を習得3	
	事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の予習する。（30分）	30分
	事後学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バスケットボールの応用戦術1		「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得1		
	事前学修	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）		30分
	事後学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）		30分
8	バスケットボールの応用戦術2		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの応用的な戦術を理解、習得2		
	事前学修	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）		30分
	事後学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）		30分
9	バスケットボールの個人技1		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認1		
	事前学修	ドリブルについて復習確認する。（30分）		30分
	事後学修	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）		30分
10	バスケットボールの個人技2		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認2		
	事前学修	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）		30分
	事後学修	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）		30分
11	バスケットボールの個人技3		戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認3		
	事前学修	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）		30分
	事後学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）		30分
12	バスケットボールの個人技4		部分戦術を習得する。特に、2対2のパス＆ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	個人技の基本を確認4		
	事前学修	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）		30分
	事後学修	2対2のパス＆ランについて復習確認する。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	バスケットボールの部分戦術1		部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得1		
	事前学修	2対2のパス&ランの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ピック&ロールの復習確認をする。（30分）		30分
14	バスケットボールの部分戦術2		部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得2		
	事前学修	ピック&ロールの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	3対3のポストパターンの復習確認する。（30分）		30分
15	バスケットボールの部分戦術3		部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得3		
	事前学修	3対3のポストパターンの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。（30分）		30分
16	バスケットボールの部分戦術4		部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得4		
	事前学修	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。（30分）		30分
17	バスケットボールの部分戦術5		ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。	
	この回の到達目標	バスケットボールの全体戦術の中の部分戦術の理解・習得5		
	事前学修	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。（30分）		30分
	事後学修	ヘルプサイドの飛び込みのタイミングを復習確認する。		30分
18	バスケットボールの部分戦術6		バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	攻撃を円滑にするためのエントリーについての理解		
	事前学修	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの確認をする。（30分）		30分
	事後学修	エントリーの重要性の復習確認をする。（30分）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	バスケットボールのディフェンス1	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	バスケットボールの基本的なディフェンスの習得	
	事前学修	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）	30分
	事後学修	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）	30分
20	バスケットボールのディフェンス2	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得1	
	事前学修	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）	30分
	事後学修	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）	30分
21	バスケットボールのディフェンス3	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゾーンディフェンスについて知識を習得2	
	事前学修	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）	30分
	事後学修	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）	30分
22	バスケットボールのディフェンス4	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	速攻のディフェンスについての知識を理解する	
	事前学修	ゲーム全体の流れの知識を確認（30分）	30分
	事後学修	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）	30分
23	バスケットボールのディフェンス5	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	オールコートで、効率的にディフェンスをするための知識の理解	
	事前学修	オールコートディフェンスのについての知識の確認	30分
	事後学修	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）	30分
24	バスケットボールのゲームコントロール1	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る1	
	事前学修	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）	30分
	事後学修	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	バスケットボールのゲームコントロール2	バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。	
	この回の到達目標	ゲームに勝つためのゲーム全体の流れを知る2	
	事前学修	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）	30分
	事後学修	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）	30分
26	ゲームの中で復讐1	これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する1	
	事前学修	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）	30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
27	ゲームの中で復讐2	前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する2	
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
28	ゲームの中で復讐3	前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する3	
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
29	ゲームの中で復讐4	前回の課題が是正されるように、各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する4	
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
	事後学修	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）	30分
30	ゲームの中で復讐5	まとめ・講評	
	この回の到達目標	リーグ戦形式にして、同じ相手と何度も対戦し、それに伴って対応することを習得する5	
	事前学修	前回の課題を確認する。（30分）	30分
	事後学修	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。（30分）	30分

科目名	体育実技ⅠC(ゴルフ)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
ゴルフ初心者・初級者を対象とする。ゴルフ（運動）に相応しい服装，およびゴルフ手袋と屋外シューズを準備する。適宜に補給用の水分，汗拭き用のタオルを準備する。

【授業方法】		
大宮キャンパスのスポーツ施設で2時限連続の実技形式により行う。授業は、ゴルフショットの基本的な技術を習得するための反復練習と、バードゴルフを利用したラウンドが中心である。雨天時においても体育館でドリルを用いたショット技術の反復練習を行う。さらに、ゴルフの歴史、運動特性、クラブ各部分とコース各所の名称、ルールとマナー、アドレス、グリップ、スイング、安全管理などを解説した資料集を配布し、その理解度を評価するために小テスト（筆記試験）を行う。これを全授業の中で2回行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゴルフスキル向上のための実技練習に関連して、ショット動作にみられる自己と他者の動作の問題点について、実際のショット動作を撮影・観察し、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理するという課題を与える。翌週の授業内で、その情報に基づいたグループディスカッションを行って、達成すべき個々の目標を明確にする。これを全授業の中で3回行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験により評価する。		30									30
レポート等	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(技能試験)	到達目標①について、必要な技術が身についているかを、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	20										20
その他(事前学習 及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題達成に関するフィードバックは、授業内で行う筆記試験とその評価・解説，および技能試験によるパフォーマンス評価により実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（資料集を配布する）				

【オフィスアワー】
水曜日17：00～17：30，授業施設にて メールアドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス及び導入講義	授業の目的と方法、半期授業の組み立て、評価方法、受講時の注意・履修条件などについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のテーマやスケジュール、評価される要素、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業から適正な準備と受講ができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認する。	30分
	事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	30分
2	ゴルフの運動特性と危険性	ゴルフの運動特性とスポーツ実践により期待される恩恵および授業における安全管理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ゴルフを継続的に行うことで得られる恩恵とゴルフによる健康行動の利点について理解する。また、ゴルフ実施に伴う危険性について熟知して怪我の発生を予防できる。	
	事前学修	ゴルフおよびバードゴルフにおける基本的な技術の名称を確認する。	30分
	事後学修	ゴルフの運動特性と健康スポーツとしてのゴルフの位置づけについて理解を深める。	30分
3	ゴルフ授業の要点と授業運営 体力測定	ゴルフおよびバードゴルフの実技授業を安全に行うための約束と授業運営への協力の意義を理解する。ゴルフスポーツの歴史、クラブの種類と名称、アドレスとスイングに関する基本的な名称について理解する。ゴルフレッスン記録票を用いてアイズブレイクを行う。身体機能を評価するための体力測定を4項目について行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ゴルフの歴史、ゴルフを行うときの基本的な名称とゴルフ種目の多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。また、安全管理の方法と意識を再確認する。アイズブレイクにより自己理解と他者理解を深める。身体機能発達のピークに当たる時期の身体機能レベルを知り、その後の生活機能の変化を推測できるようになる。	
	事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。体力測定を行うための簡単なコンディショニング（食事や睡眠を含む）を行う。	30分
	事後学修	ゴルフで使うクラブの種類と名称、およびボールの特性について認識する。	30分
4	アドレスの作り方(1)	ゴルフクラブの特性を資料を用いて理解する。レッスンドリルに基づき、アドレスによる基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方、素振りによるハーフスイングについて調整する。室内用ボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アイアンクラブの特性を知り、基本的なスタンスとグリップを調整できる。	
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、ゴルフクラブの特性とスイングの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
5	アドレスの作り方(2)	レッスンドリルに基づきアドレスにおけるルーティン動作、グリップのつくり方に注目して、室内用ボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。また、注視点と頭の位置、アドレスでの両腕の形状とクラブの角度について調整する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スタンスとグリップの調整を行い、続く注視点や頭の位置、両腕の形状などのスイング準備に係る主要な調整ポイントを意識できる。	
	事前学修	配布資料を見て、アドレスの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	ショートアイアンの打撃練習(1)	室内用ボールを使ったハーフスイングによる打撃練習を行う。レッスンドリルに基づきスイング運動の中心的な課題である肩の回転運動について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テイクバックの大きさとボール飛距離の関係性を理解するとともに、それに関係する回転運動という大きな運動の調整の必要性を理解する。	
	事前学修	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ショートアイアンの打撃練習(2)		室内用ボールを使ったハーフスイングによる打撃（体育館で行う）練習を行う。レッスンドリルに基づきスイング運動の中心的な課題である肩の回転運動について実践する。 実施した運動の負荷強度と健康運動としての位置づけを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、振り幅を調整したハーフスイングの動作と正しい肩の回転運動を身につける。その際に、動画によるフィードバック情報が運動学習を促進することを学修する。 ウォーミングアップとして行うエクササイズ運動の運動強度をカルボーネン法により求める。		
	事前学修	配布資料を見て、肩の回転運動に関係するスイングの重要ポイントを確認する。 脈拍の捉え方を実践して確認しておく。		30分
	事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。 カルボーネン法により運動強度の正誤を確認する。		30分
8	ショートアイアンの打撃練習(3)		実際のボールを使ったアプローチショットを練習する。テイクバックの大きさによる飛距離の調整を行う。スイング運動の中心的な課題である肩の回転運動について実践する。 実施した運動の負荷強度と健康運動としての位置づけを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テイクバック（振り幅）の大きさと飛距離の関係、および肩の回転運動を身体知として理解する。 ウォーミングアップとして行うエクササイズ運動の運動強度をカルボーネン法により求める。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 脈拍の捉え方を実践して確認しておく。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 カルボーネン法により運動強度の正誤を確認する。		30分
9	ショートアイアンの打撃練習(4)		室内用ボールを使ったアプローチショット（体育館で行う）を練習する。的入れゲームを行う。レッスンドリルに基づきスイング運動の中心的な課題であるスイングにおける並進運動（重心移動）について実践する。ピアサポートによりスタンス、グリップ、スイングのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スイングにおける正しい前後の並進運動（重心移動）を身につける。ピアサポートを通して他者の動作調整の改善点を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
10	ショートアイアンの打撃練習(5)		実際のボールを使ったアプローチショットを練習する。スイング運動の中心的な課題であるスイングにおける並進運動（重心移動）について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、それぞれの改善点に対応させて独自のイメージによる練習を行う。また、その際に正しい名称と調整ポイントで説明ができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。クラブ各部分の名称と動作調整のポイントについて理解する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
11	ショット動作の評価(1)		ショートアイアンによるアドレスとスイング動作を各自のスマホで動画撮影する。その際に4名のグループワークおよびゴルフレッスン記録票を用いて他者評価を行う。他者評価と自己評価の内容、およびそこから導いた自己理解をメモする。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察に基づいたグループディスカッションから、スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。 省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。		30分
12	バードゴルフの練習、およびルールとマナー		バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショットを練習する。バードゴルフの基本的なルールとマナーについて学び、ラウンドのための準備をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バードゴルフの主要なマナーとルールを理解する。運動学習が進み、固定化してきたショートアイアンのスイングスキルをバードゴルフによるラウンドに応用することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 バードゴルフの特性を資料に基づき確認しておく。		30分
	事後学修	自分のスイング動作の動画と入力したゴルフレッスン記録票を、指定されたWebドライブにアップする		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	様々なアイアンによる打撃練習(1)		室内用ボールを使ってショートアイアンにミドルアイアンによる打撃練習（体育館で行う）を加える。レッスンドリルに基づきスイング運動における両腕のひねり回転について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長さの異なるクラブに対して、アドレス、スイングの調整法を身につける。スイング動作における両腕のひねり回転とたたみ方を理解して、これまで習得してきた回転運動と並進運動に加えていく。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
14	様々なアイアンによる打撃練習(2)		ゴルフボールを使ったアプローチショット（グラウンドで行う）を練習する。バードゴルフのコースおよびルールを確認し、バードゴルフのアプローチショットを様々なアイアンで実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実践的なアプローチショットを身につける。そのとき、スイングの回転運動と並進運動がスムーズに行われ、ボールの軌道を上げて距離調整を行うことができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業でチェックした修正ポイントを確認する。		30分
15	様々なアイアンによる打撃練習(3)		室内用ボールを使ってショートアイアンにミドルアイアンによる打撃練習（体育館で行う）を実践する。レッスンドリルに基づきスイング運動における前方の腕の伸展運動（ヒンジング）について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スイングにおける前方の腕（肘）の伸展運動とテイクバックによる手首（コック）の使い方を学ぶ。ピアサポートを通して他者の動作調整の改善点を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
16	ゴルフのルールとマナー練習ラウンド(1)		バードゴルフ4ホールのラウンド練習をする。ラウンドの仕方とコース戦略を設定する。また、ゴルフの本コースデビューを見据えて、資料に基づきクラブハウスとプレーにおけるルールとマナーについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バードゴルフの実践、および資料に基づきコースをまわる際の安全管理とルール・マナーを体現する。実際のゴルフラウンドをスムーズに安全に行うために協力することができる。ゴルフラウンドにおける基本的なルール、マナー、スコアについて理解し実践することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。配布資料を見て、コースラウンドの方法と安全管理を確認する。		30分
17	ルールとマナーに関するチェック		ゴルフの発生・成立の経緯、ラウンドにおけるルールとマナー、安全管理に関する小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、スポーツのルールとマナーの意義について正しく理解するとともに、ゴルフにおいて3・4名でラウンドする際の協力と支援の重要性を認識する。そして、スコアを記録しながら、多様な人にとって適正なゴルフプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。		
	事前学修	小テストのために提供された資料を中心に様々な資料を収集して、ゴルフの歴史や安全管理、ルール・マナーについて理解を深めておく。		30分
	事後学修	授業でフィードバックされた小テストの結果を踏まえて、今後の授業でラウンドする際のルールやマナーについての修正ポイントを確認する。		30分
18	パッティング練習ラウンド(2)		体育館の人工芝上でパッティングのスタンスとスイングを練習し、パッティングゲーム（3名同時パッティング、5名連続パッティングなど）を試みる。さらにバードゴルフ4ホールのラウンド練習を行い、スコアの記録と確認の方法を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、パッティングによるボールの軌道と距離調整を精緻化する。また、ラウンドにおけるマナーとスコア記録の方法を身につける。		
	事前学修	ゴルフ競技会の方法と運営について、配布資料をもとに理解する。		30分
	事後学修	スコアから読み取れる技術獲得度と修正ポイントを認識する。アプローチショットの問題点を把握する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	様々なアイアンによる打撃練習(4)		室内用ボールを使って様々なアイアンにウッド（ドライバー）を加えて打撃練習（体育館で行う）を実践する。レッスンドリルに基づきスイング運動におけるスイングクロックとスイングプレーンの調整について実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々なクラブを使ったときのスイングクロック（振り幅）とスイングプレーン（スイング軌道の角度）の調整とその意義について学ぶ。ピアサポートを通して他者の動作調整の改善点を説明することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
20	練習ラウンド（3）		ショートアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコースでバードゴルフ4ホール+実際のゴルフボールを使用した5ホール（パッティングあり）、合計9ホールのうちの前半4ホールを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
21	ショット動作の評価(2)		アイアンによるスイング動作を各自のスマホで動画撮影する。その際に4名のグループワークおよびゴルフレッスン記録票を用いて他者評価を行う。他者評価と自己評価の内容、およびそこから導いた自己理解をメモする。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察に基づいたグループディスカッションから、スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回のショット動作の評価でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。ショット動作についてメモした内容をレッスン記録票のファイルに入力し、指定されたWebドライブにアップする。省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。		30分
22	練習ラウンド（4）		ショートアイアンのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。グラウンドコース9ホールの後半5ホールを行い、ストロークプレーによるスコアを記録する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを自ら楽しむこと、スコアや安全管理に関して仲間との協力と相互サポートができ、スポーツにおける協調の楽しみ方とスキルアップを実現する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。省察・整理に基づいた達成すべき個々の目標をあげておく。		30分
23	スイング動作のチェック 第1回ゴルフトーナメント（前半）		アイアンおよびドライバーのスイングを自らのチェックポイントにしたがい練習する。ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコースで開催する（前半4ホール）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スイングの動作調整を高める。これまでのレッスンドリルで取り上げてこなかった点について理解し、自分の問題点と照らして改善の方法を自ら導くことができる。ラウンドによりゴルフゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込む。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
24	第1回ゴルフトーナメント（後半）		ストロークプレーによるラウンドをグラウンドコースで開催する（後半5ホール）。最終的なスコアを記録し、ルールやマナーに関する疑問点を解決する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ラウンドによりゴルフゲームを楽しみ、仲間との協力と相互サポートによるスキルアップを実現する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	パッティング 第2回ゴルフトーナメント（前半）		体育館の人工芝上でパッティングのスタンスとスイングを練習する。ストレークプレーによるラウンドをグラウンドコースで開催する（前半4ホール）。前回授業のスコアを参考にハンディキャップを設定して、ハンディキャップ方式による9ホールストロークプレーとなる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、長いウッドのスイングをスキルアップさせる。さらにラウンドにより様々なゴルフゲームの仕方を学び、仲間との協力とともにスキル向上を促進することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 スポーツにおけるハンディキャップの意義を理解する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
26	第2回ゴルフトーナメント（後半）		ストロークプレーによるラウンド（ハンディキャップ）をグラウンドコースで開催する（後半5ホール）。様々なゴルフゲームを楽しむ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを楽しみ、ゴルフの継続的な実施によって期待される心身への恩恵と健康行動に対する価値を実感する。		
	事前学修	配布資料を確認し、前回の授業でチェックされたポイントについて自分の課題を推測する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 配布資料を見て、ゴルフの運動特性、および用具やスイング運動に関する要点を確認する。		30分
27	運動特性とスイング運動に関するチェック		ゴルフの運動特性、学修の要点、ゴルフ用具の名称と機能、スイング運動の要点に関する小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ゴルフの運動特性と適正な学修方略について正しく理解するとともに、用具の名称と機能に対して正しい身体の使い方を導き出すといった手続き的な知識を高める。そういった側面におけるスポーツの楽しさを理解して、自らのゴルフスキルの向上を実感する。		
	事前学修	小テストのために提供された資料を中心に様々な資料を収集して、ゴルフの運動特性や用具、スイング動作に関する知識を深めておく。		30分
	事後学修	授業でフィードバックされた小テストの結果を踏まえて、ゴルフスキルあるいはスポーツスキルを高めて、より楽しく継続的に行うための方法について確認する。		30分
28	第3回ゴルフトーナメント		ストレークプレーによるラウンドをグラウンドコース9ホールで開催する。ゴルフを楽しみ、仲間との協力と協調を積極的に行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な方式によるゴルフゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。		
	事前学修	ゴルフゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。		30分
	事後学修	ゴルフゲームの様々な楽しみ方を確認する。		30分
29	ショット動作の評価(3)		アイアンによるスイング動作を各自のスマホで動画撮影する。その際に4名のグループワークおよびゴルフレッスン記録票を用いて他者評価を行う。他者評価と自己評価の内容、およびそこから導いた自己理解をメモする。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、様々なクラブの機能に対応した正確なボール軌道を可能とするスキル向上の達成度を自ら評価できる。自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察をもとにスイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回のショット動作の評価でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。自らの技術的なスキルアップを主観的に評価する。		30分
	事後学修	ショット動作についてメモした内容をレッスン記録票のファイルに入力して完成させ、指定されたWebドライブにアップすることで学修のプロセスを提出する。		30分
30	授業の振り返り		スポーツ実践およびゴルフ実践による授業について学びの観点から振り返り、その身体的、心理的、社会的側面における恩恵についてレポートを作成する。継続的にゴルフを行うことによる健康行動への影響、またゴルフを行うことの注意点や悪影響についても考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ゴルフ運動の身体面への影響に限らず、ゴルフを行うことによる社会的側面、心理的側面に関する影響を推測することができる。スポーツの仕方による健康行動への影響についても適正に判断することができる。		
	事前学修	これまでの授業で起こった出来事と自分の変化との関連を振り返り、ゴルフあるいはスポーツへの継続的な参加が及ぼす影響を推測してみる。		30分
	事後学修	ゴルフの健康スポーツとしての可能性と適正なスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。		30分

科目名	体育実技ⅠC(テニス初級)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
テニス初心者・初級者を対象とする。テニス（運動）に相応しい服装，および屋外シューズを準備する。適宜に補給用の水分，汗拭き用のタオルを準備する。

【授業方法】		
大宮キャンパスのスポーツ施設で2時限連続の実技形式により行う。授業は、テニスショットの基本的な技術を習得するための反復練習と、ダブルスのゲームが中心である。雨天時においても体育館でショット技術の反復練習やドリルによる練習を行う。ショットスキルの向上効果は、数回の授業内で行う各種ショットのレイティングテストによって評価する。さらに、テニスの歴史、運動特性、ラケットの構造とコート各所の名称、ルールとマナー、各種のショット技術、安全管理などを解説した資料集を配布し、その理解度を評価するために小テスト（筆記試験）を行う（全授業の中で2回実施）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テニススキル向上のための実技練習に関連して、ショット動作にみられる自己と他者の動作の問題点について、実際のショット動作を撮影・観察し、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理するという課題を与える。その情報に基づいたグループディスカッションを行って、達成すべき個々の目標を明確にする。これを全授業の中で3回行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる					2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる					2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる					2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②について、必要な知識及び技術が身についているかを、筆記試験により評価する。		30									30
レポート等	到達目標③について、「期待される恩恵」及び「健康行動」を関係づけて説明できるかをレポートにより評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(技能試験)	到達目標①について、必要な技術が身についているかを、技能試験により評価する。 ※当該運動・スポーツ種目の経験の有無に応じて評価基準を設ける。	20										20
その他(事前学習 及び振り返りシート)	到達目標①②③④について、当該運動・スポーツを実習する上での事前学習・準備・運営・振り返りが実践できているかを各種シートにより評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題達成に関するフィードバックは、授業内で行う筆記試験とその評価・解説，および技能試験によるパフォーマンス評価により実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（資料集を配布する）				

【オフィスアワー】
水曜日17：00～17：30，授業施設にて メールアドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス及び導入講義	授業の目的と方法、半期授業の組み立て、評価方法、受講時の注意・履修条件などについて理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のテーマやスケジュール、評価される要素、授業環境と交通手段などを理解し、次回授業から適正な準備と受講ができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認する。	30分
	事後学修	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。	30分
2	テニスの運動特性と危険性	テニスの運動特性とスポーツ実践により期待される恩恵および授業における安全管理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、テニスを継続的に行うことで得られる恩恵とテニスによる健康行動の利点について理解する。また、テニス実施に伴う危険性について熟知して怪我の発生を予防できる。	
	事前学修	テニスにおける基本的なショット技術の名称を確認する。	30分
	事後学修	テニスの運動特性と健康スポーツとしてのテニスの位置づけについて理解を深める。	30分
3	テニス授業の要点と授業運営 体力測定	テニスの実技授業を安全に行うための約束事と授業運営への協力の意義を理解する。テニスポーツの歴史、ラケットとコートの種類と名称、構えとショットスイングに関する基本的な名称について理解する。テニスレッスン記録票を用いてアイズブレイクを行う。身体機能を評価するための体力測定を4項目について行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、テニスの歴史、テニスを行うときの基本的な名称とテニスゲームの多様性を理解し、授業運営への協力を自覚できる。安全管理の方法と意識を再確認する。アイズブレイクにより自己理解と他者理解を深める。身体機能発達のピークに当たる時期の身体機能レベルを知り、その後の生活機能の変化を推測できるようになる。	
	事前学修	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。体力測定を行うための簡単なコンディショニング（食事や睡眠を含む）を行う。	30分
	事後学修	テニスで使うラケット各部の名称、およびボールの特性について認識する。	30分
4	テニスの構えとグリップの種類	テニスラケットとボールの特性を資料を用いて理解する。レッスンドリルに基づき、レディポジションにおける基本的な姿勢、グリップのつくり方、素振りによるラケットの軌道について調整する。柔らかいボールを使ったボール遊びとショートラリーを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラケットとボールの特性を知り、基本的なレディポジションとグリップを調整できる。	
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、ラケットとボールの特性とレディポジションの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
5	フォアハンドストロークの習得(1)	ラケットとボールの特性を理解し、柔らかいボールを使った遊びからキャッチボール、ワンバウンドのラリー、およびフォアハンドのグリップによるスイングを練習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ラケットとボールの特性を知り、基本的な構えとグリップをフォアハンドストロークに合わせて調整できる。	
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、フォアハンドのスイングの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分
6	フォアハンドストロークの習得(2)	柔らかいボールを使って、ワンバウンドのボールのキャッチ。飛来してワンバウンドするボールの見え方とフォアハンドストロークの構えおよび打点の調整について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、構えとグリップの調整を行い、続く注視点や上半身の回転、テイクバックでの腕の位置、重心移動など、フォアハンドストロークに関係する主要な調整ポイントを意識できる。	
	事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	フォアハンドストロークの習得(3) 運動の強度の算出		ストロークの準備（ステップ：左右・前後の動き、構え、バウンドとボール軌跡と打点の予測）、基本的なストロークフォームを意識し、ボール軌道の知覚と予測の重要性、および初心者の課題について学修する。カルボーネン法により準備運動で行うエクササイズの運動強度を求める。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、早いテイクバックとそれに対応したステップ、ボール軌道の予測と前後の移動による打点の調整について試行錯誤し、それに関係する重心移動や回転運動という大きな運動の調整の必要性を理解する。実施した運動の負荷強度と健康運動としての位置づけを理解する。		
	事前学修	修 配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。 脈拍の捉え方を実践して確認しておく。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 カルボーネン法により運動強度の正誤を確認する。		30分
8	フォアハンドストロークの習得(4)		柔らかいボールを使ってサービスコートのストロークラリーを行う。その際に、動画によるストロークのワンポイントフィードバックを行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、狭いサービスコートを利用して、コンパクトなフォアハンドストロークの動作調整を体験する。その際に、ボールの軌道と回転をコントロールするためのラケットスイングを安定させるための方法を身につける。		
	事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
9	フォアハンドストロークの習得(5)		サービスコートのストロークによるシングルスゲームを行う。フォアハンドストロークの修正ポイントを自己チェックや回転、チェックシートに整理する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ショートラリーを利用することで、早いテイクバックや予測的な前後移動と正確なストロークの関係性を身体知として認識する。		
	事前学修	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
10	フォアハンドストロークの習得(6) ダブルスゲームの実践		サービスコートのストロークラリー20回以上をパフォーマンス目標とする。ダブルスゲームのルールとゲームの審判法を学び、サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。フォアハンドストロークのチェックポイントを明確化して、改善のための目標設定を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ショートゲームの実践により、早いテイクバックと上半身の回転を意識するストロークと安定したショットの関係を精緻化する。動作調整の改善点を自ら説明することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。フォアハンドストロークの動作調整のポイントについて確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
11	ショット動作の評価(1)		フォアハンドのグランドストロークによるアドレスとショット動作を各自のスマホで動画撮影する。その際に4名のグループワークおよびゴルフレッスン記録票を用いて他者評価を行う。他者評価と自己評価の内容、およびそこから導いた自己理解をメモする。	
	この回の 到達目標	到達目標①④に関連して、自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察に基づいたグループディスカッションから、スイング動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。 省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。		30分
12	バックハンドストロークの習得(1) ダブルスゲームの実践		バックハンドストロークのダブルハンドグリップ、構え、打点を理解し、基本的なスイングの準備（ステップ：左右の動き、スタンス、構え、打点の予測）を実践する。基本的なスイングフォームについて、フォアハンドとの違いを認識する。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、それぞれの改善点に対応させて独自のイメージによる練習を行う。また、その際に正しい名称を用いて調整ポイントを説明ができる。		
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、バックハンドのスイングの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームのマナーと審判法を再確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	バックハンドストロークの習得(2) ダブルスゲームの実践		サービスコートのストロークラリーにおいて動画によるストローク動作のワンポイントフィードバックを行う。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、運動学習が進み、固定化してきたフォアハンドにバックハンドを加えることで、ストローク動作の各調整の幅を広げることができる。すなわち、グランドストロークスキルのスキーマを形成する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 テニスのダブルスゲームのコートカバーについて確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
14	バックハンドストロークの習得(3) ダブルスゲームの実践		サービスコートのストロークラリーを行いながら、バックハンドストロークの修正ポイントをチェックする。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バックハンドストロークのステップ、テイクバック、上半身の回転、打点などの準備動作の調整を身につける。また、テニスの主要なルールとマナーを理解する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
15	バックハンドストロークの習得(4) ダブルスゲームの実践		サービスコートのショートラリーから始める。ベースラインからのフォアとバックのストロークラリー10回以上をパフォーマンス目標として練習する。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲームを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストロークのショートラリーでボール軌道を安定させる調整を行うことができる。また、テニスのゲーム運営を見据えてルールとマナーを身につける。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
16	ストロークの習熟度チェック ダブルスゲームの実践		フォアハンドおよびバックハンドストロークのテニスレイティングテスト（ハンディキャップHCの設定基準となる）を行う。 シングルスとダブルスのゲーム運営およびルールとマナーの適用を実践する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フォアハンドとバックハンドのストロークで、ボールを正確に相手コートの深い位置に打ち返せる。それを可能にした運動学習による調整動作の変容を説明することができる。配布した資料に基づきゲーム運営、安全管理、ルール・マナーを体現する。実際のテニスゲームをスムーズに安全に行うために協力することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。配布資料を見て、ゲーム運営、ルールとマナー、安全管理などについて確認する。		30分
17	ルールとマナーに関するチェック		テニスの発生・成立の経緯、ゲームにおけるルールとマナー、安全管理に関する小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、スポーツのルールとマナーの意義について正しく理解するとともに、テニスにおいてゲームを行う際の協力と支援の重要性を認識する。そして、ゲームカウントを記録しながら、多様な人にとって適正なテニスプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。		
	事前学修	小テストのために提供された資料を中心に様々な資料を収集して、テニスの歴史や安全管理、ルール・マナーについて理解を深めておく。		30分
	事後学修	授業でフィードバックされた小テストの結果を踏まえて、今後の授業でゲームを行う際のルールやマナーについての修正ポイントを確認する。		30分
18	サービスの習得(1) ダブルスゲームの運営と実践		オーバーヘッドサーブの準備（グリップの握り方、構え、スイング軌道、打点）を身につける。 ラケットを担いだ小さなスイングによる打点と打球方向のコントロールを理解する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。そして、テニススキルの向上とプレーの楽しさを実感する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実際のテニスゲームをスムーズに安全に行うために協力することができる。カウント、ゲーム、セットを指示しながら、ゲームをコントロールすることができ、他者に助言することができる。そして、多様な人にとって適正なテニスプレーは楽しいこと、心理的な恩恵があることを理解する。		
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、サーブの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームの戦略と意図を確認する。		30分
	事後学修	アプローチショットの問題点を把握する。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	サービスの習得(2) ダブルスゲームの実践		オーバーヘッドサーブの準備（グリップ、構えとスタンス、スイング軌道）に続く大きなスイングによるフラットなボールコンタクトを実現する。クローズドスキルであるサーブの繰り返し練習による学習効果を理解する。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サーブの正確性を高めるために求められる基本的な動作調整ポイントを理解する。ゲームを行う際の安全管理とルール・マナーを体現することができる。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
20	サービスの習得(3) ダブルスゲームの実践		オーバーヘッドサーブの様々なグリップと球種の違いを実践する。サーブの正確性を高めるポイントについて、動画によるワンポイントフィードバックを行う。 ダブルスゲームの実践と運営を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スムーズなサーブ動作を実現して、正確性を高めるための動作調整を自ら行うことができる。ゲームを行う際のペアによる協力と支援の重要性を理解する。		
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
21	ショット動作の評価(2)		バックハンドのグランドストロークによるショット動作を各自のスマホで動画撮影する。その際にグループワークおよびゴルフレッスン記録票を用いて他者評価を行う。他者評価と自己評価の内容、およびそこから導いた自己理解をメモする。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察に基づいたグループディスカッションから、ショット動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。		
	事前学修	前回のショット動作の評価でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。		30分
	事後学修	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。ショット動作についてメモした内容をレッスン記録票のファイルに入力し、指定されたWebドライブにアップする。 省察・整理した内容に基づき達成すべき個々の目標を選択する。		30分
22	サービスの習熟度チェック ドリル練習(1) ダブルスゲームの実践		テニスレイティングテストでサービスの正確性を評価する。この評価に基づきハンディキャップ（HP）を決定する。 ドリルでは、左右のグランドストローク、左右のボレーを連続して正確に行う。 ダブルスゲームのトーナメント戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サービスによるボール軌道の正確性をつくるスキルの精緻化を進める。ダブルスゲームの基本的陣形とポジションとフォーメーションを理解する。一つひとつの技術を連続して目標を達成することの楽しさを実感する。また、ゲームにおけるマナー、ジャッジ、カウントの指示と助言の方法を身につける。		
	事前学修	前回の授業で紹介されたゲームにおける代表的な技術の流れを確認する。		30分
	事後学修	ドリル練習で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理して記録する。		30分
23	ボレーの習得(1) ドリル練習(2) ダブルスゲームの実践		構えとボールへの反応動作（ステップと上半身の回転）、ボレーを打つ位置、フォアボレーのグリップ、打点の高さによるラケットの角度調整を理解し、基本的なグランドストロークとの違いを認識する。ドリルでは、左右のグランドストローク、ローボレー、ハイボレー、スマッシュと連続的に行う。 ダブルスゲームのトーナメント戦を運営する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ボレーの基本的な動き方と動作調整のポイントを理解する。さらにゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。ダブルスゲームのポジションと打球に対する動き、コートカバーの意義を理解する。		
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、ボレーの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームにおけるボレーの意義を確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。		30分
24	ボレーの習得(2) ドリル練習(3) ダブルスゲームの実践		バックボレーのグリップ、打点の高さによるラケットの角度調整を身につける。ボレーの基本的なステップとラケット操作を実践する。練習ではボレーで相手コートの深い位置を目標とする。ドリルでは、コートカバーを中心とした打球によるポジションの変化に対応する。 ダブルスゲームのリーグ戦の運営を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相手コートの深い位置にボレーによりボールを打ち返すことができる。そのときに、素早い上半身の回転によるテイクバックと大きなラケットスイングを行わないことを実践できる。習得した様々な技術を、相手選手や打球の違いに合わせて選択して打ち返し、さらにポジションをペアと協調して変えることができる。自らのスキルアップを実感する。		
	事前学修	前回の授業で紹介されたドリル練習におけるポジションの変化を確認する。		30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 ポジショニングとコートカバーの必要性和方法を確認し、ゲームのどの場面で発揮するか考える。		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	ボレーの習得(3) ダブルスゲームの実践		ボレーはラリー20回以上がパフォーマンス目標となる。動画によるボレー動作のチェックを行う。 ダブルスゲームのリーグ戦の運営を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連続してボレーを行うことで動作調整を固定化する。ボレーを行うことで攻撃の幅が広がること、陣形とポジショニングに関してペアとの協力が重要となることを理解する。そのコミュニケーションと協力を楽しむことができる。	
	事前学修	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 テニスのダブルスゲームにおける戦略としてのボレーの意図を確認する。	30分
26	ロブとスマッシュの習得 ダブルスゲームのトーナメント		スマッシュのステップ、構え、さらに打点位置、スイングを調整する。ロブのボール軌道と狙う地点を認識する。 ダブルスゲームの最終トーナメント戦を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロブとスマッシュの戦略的な意味を理解し、時間的・空間的な調整を試みる。特にラケットのスイング開始時点と打点の位置の調整を試みる。ゲームを楽しみながら、仲間との協力とともにスキル向上を促進させる。動作改善のために達成すべき個々の目標を修正して絞り込む。	
	事前学修	すでに配布されている資料を見て、ロブとスマッシュの重要ポイントを確認する。	30分
	事後学修	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。 配布資料を見て、テニスの運動特性、およびラケットやコート、ショット運動に関する要点を確認する。	30分
27	運動特性とショット運動に関するチェック		テニスの運動特性、学修の要点、ラケットとコートの名称と機能、ショット運動の要点に関する小テストを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、テニスの運動特性と適正な学修方略について正しく理解するとともに、ラケットとコートの名称と機能に対して正しい身体の使い方を導き出すといった手続き的な知識を高める。そういった側面におけるスポーツの楽しさを理解して、自らのテニススキルの向上を実感する。	
	事前学修	小テストのために提供された資料を中心に様々な資料を収集して、テニスの運動特性や用具、ショット動作に関する知識を深めておく。	30分
	事後学修	授業でフィードバックされた小テストの結果を踏まえて、テニススキルあるいはスポーツスキルを高めて、より楽しく継続的に行うための方法について確認する。	30分
28	HCによるダブルスゲームリーグ戦		ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦）を運営する。様々なテニススキルレベルの人とテニスを楽しむ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、様々な方式によるテニスゲームを再考し、自らの学びと取り組みを振り返り、それにより達成したものを整理する。	
	事前学修	テニスゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。	30分
	事後学修	テニスゲームの様々な楽しみ方を確認する。	30分
29	ショット動作の評価(3)		サービスによるショット動作を各自のスマホで動画撮影する。その際に4名のグループワークおよびゴルフレッスン記録票を用いて他者評価を行う。他者評価と自己評価の内容、およびそこから導いた自己理解をメモする。
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、様々なショットにおける正確なボール軌道を可能とするスキル向上の達成度を自ら評価できる。自己と他者の動作の問題点について、時間的・空間的・力の調整の観点から省察・整理することができる。省察をもとにショット動作改善のために達成すべき個々の目標を明確にすることができる。	
	事前学修	前回のショット動作の評価でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。自らの技術的なスキルアップを主観的に評価する。	30分
	事後学修	ショット動作についてメモした内容をレッスン記録票のファイルに入力して完成させ、指定されたWebドライブにアップすることで学修のプロセスを提出する。	30分
30	授業の振り返り		スポーツ実践およびテニス実践による授業について学びの観点から振り返り、その身体的、心理的、社会的側面における恩恵についてレポートを作成する。継続的にテニスを行うことによる健康行動への影響、またテニスを行うことの注意点や悪影響についても考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テニス運動の身体面への影響に限らず、テニスを行うことによる社会的側面、心理的側面に関する影響を推測することができる。スポーツの仕方による健康行動への影響についても適正に判断することができる。	
	事前学修	これまでの授業で起こった出来事と自分の変化との関連を振り返り、テニスあるいはスポーツへの継続的な参加が及ぼす影響を推測してみる。	30分
	事後学修	テニスの健康スポーツとしての可能性と適正なスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。	30分

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	山本 真帆	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初心者でも積極的に受講してもらいたい

【授業方法】
対面による実技形式で実施

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義内テストおよび実技テストによりバドミントンの基礎的知識が身についているかを確認する。	20	20	10	10							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に積極的に参加しているかを基準に、リーダーシップ、協調性、自己管理能力等が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
採点後返却及び解説を実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】	
maho.yamamoto@jpnnsport.go.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 バドミントンとは	授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それにより受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	授業の流れについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、バドミントンとは何かを調べ、講義内容と比較できるように準備する。 体調管理をしっかりし、健やかに授業に臨めるよう準備する。	15分
	事後学修	自分の学習内容と講義内容との違いを確認し、検討する。	15分
2	【基礎】 ルールの理解	バドミントンのルールや歴史を理解する。	
	この回の到達目標	バドミントンのルールや歴史について理解する。	
	事前学修	バドミントンのルールについて調べる。	15分
	事後学修	学んだルールを実践に活かせるように復習する。	15分
3	【基本技術】 グリップの握り方・ラケットの振り方	グリップの握り方、ラケットの振り方を説明し、実践する。	
	この回の到達目標	ラケットを正しい握り方で握ることができ、ラケットを振ることができる。	
	事前学修	2種類の握り方について学ぶ。	15分
	事後学修	覚えたグリップの握り方を復習する。	15分
4	【基本技術】 シャトルを打つ	天井や壁、床、天井に向かってシャトルを打つことでシャトルを打つ感覚や打ち方を覚える。	
	この回の到達目標	ラケットがどの方向を向いていてもシャトルを当てることができる。 意図した方向にシャトルを打つことができる。	
	事前学修	シャトルを打つ方法を学ぶ。	15分
	事後学修	様々な方向に打つときの打ち方を素振りを通して復習する。	15分
5	【基本技術】 サービス	サービスラインを理解し、ライン内にシャトルを打つ。	
	この回の到達目標	サービスをミスなく打てるようになる。	
	事前学修	サービスラインについて学ぶ。	15分
	事後学修	サービスを打つ強さや方向を復習する。	15分
6	【基本技術】 ストローク①（ドライブショット）	ドライブショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドライブショットが打てるようになる。	
	事前学修	ドライブショットについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【基本技術】ストローク①（ドライブショット）	ドライブショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドライブショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ドライブショットの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
8	【基本技術】ストローク②（ハイクリアーショット）	ハイクリアーショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ハイクリアーショットが打てるようになる。	
	事前学修	ハイクリアーショットについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
9	【基本技術】ストローク②（ハイクリアーショット）	ハイクリアーショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ハイクリアーショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ハイクリアーショットの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
10	【基本技術】ストローク③（ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブ）	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブが打てるようになる。	
	事前学修	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
11	【基本技術】ストローク③（ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブ）	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
12	【基本技術】ストローク④（スマッシュショット）	スマッシュショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	スマッシュショットが打てるようになる。	
	事前学修	スマッシュショットについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【基本技術】ストローク④（スマッシュショット）	スマッシュショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	スマッシュショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	スマッシュショットの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
14	【基本技術】ストローク⑤（ヘアピンショット）	ヘアピンショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ヘアピンショットが打てるようになる。	
	事前学修	ヘアピンショットについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
15	【基本技術】ストローク⑤（ヘアピンショット）	ヘアピンショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ヘアピンショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ヘアピンショットの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
16	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いてラリーを続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークについて復習する。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
17	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いてラリーを50回以上続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークを用いてどうすればラリーが続けられるか考える。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
18	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いて相手を揺さぶるようにラリーを続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークを用いてどうすれば相手を揺さぶることができるか考える。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	【技術の展開】ダブルスのフォーメーション	ダブルスの試合中の2人の動きや、ゲーム進行のルールを覚える。	
	この回の到達目標	ダブルスのルールを理解する。	
	事前学修	ダブルスのルールについて学ぶ。	15分
	事後学修	ルールについて復習する。	15分
20	【技術の展開】ダブルスのフォーメーション	ダブルスの試合中の2人の動きや、ゲーム進行のルールを覚える。	
	この回の到達目標	ダブルスのルールを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	ダブルスのルールについて復習する。	15分
	事後学修	ダブルスのルールを人に説明する。	15分
21	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力して試合をする楽しさを学ぶ。	
	この回の到達目標	学んだルールを生かして試合を実践する。 ゲームの楽しさを学ぶ。	
	事前学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	15分
	事後学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	15分
22	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力してコートを支配する。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 2人で協力してポイントを取る喜びを学ぶ。	
	事前学修	試合でポイントを取るためにはどうすればいいか学ぶ。	15分
	事後学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	15分
23	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力して相手を崩す。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 2人で協力して相手のフォーメーションを崩す。	
	事前学修	相手のフォーメーションを崩す方法について学ぶ。	15分
	事後学修	相手のフォーメーションを崩す方法について復習する。	15分
24	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 問題点を修正しながら戦略を立てる。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 自分たちの問題点を考え、修正しながらゲームの戦略を立てることができる。	
	事前学修	自分のチームの問題点について考え、戦略を立てる。	15分
	事後学修	戦略が成功していたかを振り返る。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	【技術の展開】シングルスフットワーク	シングルスルールを学ぶ。	
	この回の到達目標	シングルスルールを理解する。	
	事前学修	シングルスルールについて学ぶ。	15分
	事後学修	シングルスルールについて復習する。	15分
26	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 シャトルの打ち分けを学ぶ。	
	この回の到達目標	相手を揺さぶるためにシャトルを打ち分ける。	
	事前学修	広いコートでのシャトルの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	広いコートでのシャトルの打ち分けについて復習する。	15分
27	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 シャトルを打ち分ける。	
	この回の到達目標	状況に応じて必要なショットを打つことができる。	
	事前学修	状況に応じて打つショットを学ぶ。	15分
	事後学修	実践したことを復習する。	15分
28	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 相手を揺さぶる。	
	この回の到達目標	シャトルを打ち分け相手を揺さぶり、崩すことができる。	
	事前学修	コート上で相手を崩す方法について学ぶ。	15分
	事後学修	実践したことを復習する。	15分
29	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 軽快なフットワークで様々なショットを繰り出す。	
	この回の到達目標	コートを縦横無尽に支配することができる。	
	事前学修	コートを支配する方法について学ぶ。	15分
	事後学修	実践したことを復習する。	15分
30	【実践】講義内容テストおよび実技テスト まとめ	講義内容に関するテストおよび実技テストを実施する。	
	この回の到達目標	ルールやストロークの小テスト及び実技テストを実施。	
	事前学修	これまで学んだことについて復習する。	15分
	事後学修	小テスト、実技について復習する。	15分

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	山本 真帆	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×30回		必修選択	体育実技	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	

【授業の概要】
当該スポーツ種目の運動特性、ルール、マナー、安全管理を理解したうえで、主に基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そして実践の試合形式のゲームを楽しむように展開する。課題練習や試合（ゲーム）実践・運営を通して、スポーツ活動によって得られる様々な経験や期待される身体的・心理的・社会的な恩恵とその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生涯にわたる適正な運動・スポーツ活動の身体的・精神的基盤づくり、健康の保持増進、人間・人間関係の形成及び社会性の向上のために、運動・スポーツに必要とされる技術・ルール・マナー（フェアプレイ）・スポーツマンシップ・安全管理を習得し、その習得プロセスを通じて、①運動・スポーツの意義と価値を理解する、②生涯を通じて心身の健康保持増進に必要な知識・技能を習得し、それを実践できる態度を修得する、③社会生活で必要とされる自己管理能力・リーダーシップ力・コミュニケーション能力・判断力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
初心者でも積極的に受講してもらいたい

【授業方法】		
対面による実技形式で実施		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	当該運動・スポーツ種目に必要な技術の習得（技能）及び、状況に応じた技術の選択ができる						2			2	2			
②	当該運動・スポーツ種目の特性や知識（ルール、マナー、安全管理）を習得し説明することができる						2			2	2	2	2	
③	当該運動・スポーツ種目の実習で期待される恩恵と健康行動について関係づけて説明することができる						2			2	2	2	2	
④	自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成度について明確に説明することができる。									2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義内テストおよび実技テストによりバドミントンの基礎的知識が身についているかを確認する。	20	20	10	10							60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に積極的に参加しているかを基準に、リーダーシップ、協調性、自己管理能力等が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
採点後返却及び解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
maho.yamamoto@jpnsport.go.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 バドミントンとは	授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それにより受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	授業の流れについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、バドミントンとは何かを調べ、講義内容と比較できるように準備する。 体調管理をしっかりし、健やかに授業に臨めるよう準備する。	15分
	事後学修	自分の学習内容と講義内容との違いを確認し、検討する。	15分
2	【基礎】 ルールの理解	バドミントンのルールや歴史を理解する。	
	この回の到達目標	バドミントンのルールや歴史について理解する。	
	事前学修	バドミントンのルールについて調べる。	15分
	事後学修	学んだルールを実践に活かせるように復習する。	15分
3	【基本技術】 グリップの握り方・ラケットの振り方	グリップの握り方、ラケットの振り方を説明し、実践する。	
	この回の到達目標	ラケットを正しい握り方で握ることができ、ラケットを振ることができる。	
	事前学修	2種類の握り方について学ぶ。	15分
	事後学修	覚えたグリップの握り方を復習する。	15分
4	【基本技術】 シャトルを打つ	天井や壁、床、天井に向かってシャトルを打つことでシャトルを打つ感覚や打ち方を覚える。	
	この回の到達目標	ラケットがどの方向を向いていてもシャトルを当てることができる。 意図した方向にシャトルを打つことができる。	
	事前学修	シャトルを打つ方法を学ぶ。	15分
	事後学修	様々な方向に打つときの打ち方を素振りを通して復習する。	15分
5	【基本技術】 サービス	サービスラインを理解し、ライン内にシャトルを打つ。	
	この回の到達目標	サービスをミスなく打てるようになる。	
	事前学修	サービスラインについて学ぶ。	15分
	事後学修	サービスを打つ強さや方向を復習する。	15分
6	【基本技術】 ストローク①（ドライブショット）	ドライブショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドライブショットが打てるようになる。	
	事前学修	ドライブショットについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【基本技術】ストローク①（ドライブショット）	ドライブショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドライブショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ドライブショットの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
8	【基本技術】ストローク②（ハイクリアーショット）	ハイクリアーショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ハイクリアーショットが打てるようになる。	
	事前学修	ハイクリアーショットについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
9	【基本技術】ストローク②（ハイクリアーショット）	ハイクリアーショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ハイクリアーショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ハイクリアーショットの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
10	【基本技術】ストローク③（ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブ）	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブが打てるようになる。	
	事前学修	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
11	【基本技術】ストローク③（ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブ）	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ドロップ&レシーブ、プッシュ&レシーブの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
12	【基本技術】ストローク④（スマッシュショット）	スマッシュショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	スマッシュショットが打てるようになる。	
	事前学修	スマッシュショットについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【基本技術】ストローク④（スマッシュショット）	スマッシュショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	スマッシュショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	スマッシュショットの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
14	【基本技術】ストローク⑤（ヘアピンショット）	ヘアピンショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ヘアピンショットが打てるようになる。	
	事前学修	ヘアピンショットについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
15	【基本技術】ストローク⑤（ヘアピンショット）	ヘアピンショットについて学び、実践する。	
	この回の到達目標	ヘアピンショットで打ち分けができるようになる。	
	事前学修	ヘアピンショットの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
16	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いてラリーを続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークについて復習する。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
17	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いてラリーを50回以上続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークを用いてどうすればラリーが続けられるか考える。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分
18	【技術の展開】様々なストロークを用いたラリー	これまで学んだストロークを用いて、他者と打ち合う	
	この回の到達目標	これまで学んだストロークを用いて相手を揺さぶるようにラリーを続ける。	
	事前学修	これまで学んだストロークを用いてどうすれば相手を揺さぶることができるか考える。	15分
	事後学修	打ち方を復習する。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	【技術の展開】ダブルスのフォーメーション	ダブルスの試合中の2人の動きや、ゲーム進行のルールを覚える。	
	この回の到達目標	ダブルスのルールを理解する。	
	事前学修	ダブルスのルールについて学ぶ。	15分
	事後学修	ルールについて復習する。	15分
20	【技術の展開】ダブルスのフォーメーション	ダブルスの試合中の2人の動きや、ゲーム進行のルールを覚える。	
	この回の到達目標	ダブルスのルールを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	ダブルスのルールについて復習する。	15分
	事後学修	ダブルスのルールを人に説明する。	15分
21	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力して試合をする楽しさを学ぶ。	
	この回の到達目標	学んだルールを生かして試合を実践する。 ゲームの楽しさを学ぶ。	
	事前学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	15分
	事後学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	15分
22	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力してコートを支配する。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 2人で協力してポイントを取る喜びを学ぶ。	
	事前学修	試合でポイントを取るためにはどうすればいいか学ぶ。	15分
	事後学修	動画サイトなどを利用して実際の試合の映像を1試合分見る。	15分
23	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 2人で協力して相手を崩す。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 2人で協力して相手のフォーメーションを崩す。	
	事前学修	相手のフォーメーションを崩す方法について学ぶ。	15分
	事後学修	相手のフォーメーションを崩す方法について復習する。	15分
24	【実践】試合形式で技術の復習	ダブルスの実践をする。 問題点を修正しながら戦略を立てる。	
	この回の到達目標	試合を滞りなく進行する。 自分たちの問題点を考え、修正しながらゲームの戦略を立てることができる。	
	事前学修	自分のチームの問題点について考え、戦略を立てる。	15分
	事後学修	戦略が成功していたかを振り返る。	15分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	【技術の展開】シングルスフットワーク	シングルスルールを学ぶ。	
	この回の到達目標	シングルスルールを理解する。	
	事前学修	シングルスルールについて学ぶ。	15分
	事後学修	シングルスルールについて復習する。	15分
26	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 シャトルの打ち分けを学ぶ。	
	この回の到達目標	相手を揺さぶるためにシャトルを打ち分ける。	
	事前学修	広いコートでのシャトルの打ち分けについて学ぶ。	15分
	事後学修	広いコートでのシャトルの打ち分けについて復習する。	15分
27	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 シャトルを打ち分ける。	
	この回の到達目標	状況に応じて必要なショットを打つことができる。	
	事前学修	状況に応じて打つショットを学ぶ。	15分
	事後学修	実践したことを復習する。	15分
28	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 相手を揺さぶる。	
	この回の到達目標	シャトルを打ち分け相手を揺さぶり、崩すことができる。	
	事前学修	コート上で相手を崩す方法について学ぶ。	15分
	事後学修	実践したことを復習する。	15分
29	【実践】試合形式で技術の復習	シングルス実践をする。 軽快なフットワークで様々なショットを繰り出す。	
	この回の到達目標	コートを縦横無尽に支配することができる。	
	事前学修	コートを支配する方法について学ぶ。	15分
	事後学修	実践したことを復習する。	15分
30	【実践】講義内容テストおよび実技テスト まとめ	講義内容に関するテストおよび実技テストを実施する。	
	この回の到達目標	ルールやストロークの小テスト及び実技テストを実施。	
	事前学修	これまで学んだことについて復習する。	15分
	事後学修	小テスト、実技について復習する。	15分

V ~ VII群

専門科目

専門基幹・専門展開・専門演習関連

V
VII群
専門科目

科目名	アメリカ経済論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義においてはミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学等の手法を用い、主に政治と経済政策に焦点を当てる形でアメリカ経済について学修する。最終的に、他国との関係や時事問題を理解する力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ経済について包括的に研究するために必要な世界の経済・社会システムについて説明する力及び日本を含む世界とアメリカに係する経済的問題及び解決策を提示そして相手に伝えることができる力（コミュニケーション能力）を習得するために、アメリカ経済の歩んできた道に関する考えを経済学及び政治学の考えを理解する。

【履修条件】
特にないが、政治学及び経済学の基礎的知識を有することが望ましい。

【授業方法】		
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、グループでのディスカッション及びリアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アメリカの経済及び政治システムにおける主要な概念や理論を識別できる。						2						
②	アメリカの経済及び政治に関する出来事についての専門用語を理解できる。						2						
③	アメリカの経済及び政治に関連する出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						2		2				
④	アメリカ経済論に関する他者の評価や意見を尊重することができる。								2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	30								70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②③に関わる基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④についての能力が身についているかを、グループディスカッション及びグループ発表により評価する。			5	10							15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アメリカ経済の歩み』	榊原胖夫・加藤一誠	文真堂	2011		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	アメリカ経済論を学ぶ意味：アメリカ経済論の枠組みと授業概要について	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識をを示しながら、アメリカ経済論を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、アメリカ経済論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバス及び教科書の第1章を熟読し、アメリカ経済論を学ぶためのフレームワークを理解すること。	90分
	事後学修	講義資料を確認し、アメリカ経済を学ぶための視点をまとめること。また、それぞれの項目ごとにアメリカの特徴もまとめること。	150分
2	戦後の好況とアメリカの「ルール」：第一次世界大戦後のアメリカにおける好況について	第一次世界大戦の背景とアメリカ経済に与えた影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次世界大戦がどのようにアメリカ経済の好況を促したかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章を熟読しておくこと。特に、第一次世界大戦の基本的内容とアメリカ経済に与えた影響について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、第一次世界大戦後のアメリカ経済の好況及び減速の理由をそれぞれまとめること。	120分
3	大不況とニューディール政策1：大不況発生とその原因	戦間期における大不況発生とその原因について、株式ブームの崩壊を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、大恐慌発生の原因と大恐慌がいかに世界的な問題であったかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような経緯で大不況が発生したかについて理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、大不況が発生した原因についてまとめること。また、次回使用するケインズの有効需要の原理についてもまとめておくこと。	120分
4	大不況とニューディール政策2：大不況への処方箋とケインズ	ニューディール政策及びケインズの有効需要の原則に関して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ニューディール政策の内容及び効果と有効需要の原則を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、大不況への処方箋として登場したニューディール政策について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ニューディール政策の内容とその効果についてまとめておくこと。また、ケインズの考え方に關しても再度理解を深めること。	120分
5	第二次世界大戦とアメリカ経済における「供給」側の変化	第二次世界大戦の背景とアメリカ経済、特に「供給」システムに与えた影響を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第二次世界大戦がアメリカ経済に与えた影響及び持続可能な成長システムについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、第二次世界大戦が企業及び生産システムに与えた影響について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、第二次世界大戦時の「供給」システムについて理解を深めること。また、このシステムが経済成長とどのように関わっているかもまとめること。	120分
6	ゆたかな社会の確立へ向けて1：アイゼンハワー政権が目指した「安定」	アイゼンハワー政権が行った主要な政策と「安定化」について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アイゼンハワー政権が行った政策の内容及びその効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、アイゼンハワー政権時の政策について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、人口増加及び朝鮮戦争が経済成長に与えた影響及びアイゼンハワー政権についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゆたかな社会の確立へ向けて2：戦後の成長及びその成長がもたらした変化	戦後経済の成長と、その結果としてアメリカ経済に発生した社会的変化について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アメリカ経済の急速な成長と社会的変化について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、戦後の成長がアメリカ経済「全体」に与えた影響について、その意味を理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、戦後経済成長がアメリカに与えた影響及び解決策について、項目ごとにまとめること。	120分
8	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済1：ケネディとジョンソン	ケネディ政権及びジョンソン政権の政策について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、両政権の政策及びニューフロンティアの概念について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ニューフロンティアの考え方について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ケネディ及びジョンソン政権におけるそれぞれの政策についてまとめること。	120分
9	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済2：国際的な相互依存体制の枠組みについて	国際的為替・貿易システム及びアメリカ経済の問題であったスタグフレーションと貿易赤字について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当時のアメリカ経済の問題点及びニクソン政権の政策を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、スタグフレーションと貿易赤字について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ニクソンショック、スタグフレーション、財政赤字など重要なキーワードについてまとめること。	120分
10	アメリカ経済と「規制」撤廃1：カーター政権と規制撤廃	アメリカ経済の主要な問題の1つであった規制とカーター政権の政策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、カーター政権の主要な政策における規制撤廃の意味について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、カーター政権が行なった政策について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、規制が撤廃されることによりアメリカ経済がどのような状況になったかについてまとめること。	120分
11	アメリカ経済と「規制」撤廃2：レーガノミクスからブッシュ（パパ）政権まで	レーガン大統領及びブッシュ（パパ）政権の主要な政策について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、両大統領の政権時における主要な政策について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、レーガノミクスの内容について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、レーガノミクスが問題視した点とのレーガノミクスの効果についてまとめること。	120分
12	繁栄が続いた1990年代のアメリカ経済：クリントン政権の活躍	アメリカ経済の救世主と言われたクリントン政権の主要な政策に関して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、クリントン政権がどのようにアメリカ経済を救ったのかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、クリントン政権が行なった政策等の内容について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、クリントン政権がどのように財政赤字解消等を達成したのかについてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	21世紀のアメリカ経済：ブッシュ政権およびオバマ政権の政策		ブッシュ政権とオバマ政権時の政策を比較し、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関するグループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、両政権における政策を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグループとしての意見を発表できる。		
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ブッシュ政権及びオバマ政権が行なった政策等の内容について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。		180分
	事後学修	講義資料を確認し、それぞれの政権の政策がどのように連鎖しているかについてまとめること。		60分
14	現代のアメリカ経済とトランプ大統領：大統領選挙、中間選挙、そして経済政策		ブッシュ政権とトランプ政権の政策を比較し、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関するグループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、両政権における政策を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグループとしての意見を発表できる。		
	事前学修	事前に配布する資料を熟読すること。特に、直近の大統領選挙及び中間選挙の結果と投票者の特徴について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。		180分
	事後学修	講義資料を確認し、トランプ政権がこれまで行なってきた政策について、政策ごとに経済学的な意味をまとめること。		60分
15	アメリカ経済論のまとめ及び試験の説明		アメリカ経済論の内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ経済論における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。		
	事前学修	これまでの講義資料を確認し、重要と思われるポイントを確認してくる。特に政治及び経済的な要素について確認すること。		90分
	事後学修	これまでの講義資料を確認し、試験の準備を進めること。		150分

科目名	アメリカ政治論	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
アメリカ政治の実像をより深く理解するため、アメリカ政治史の流れをふまえ、大統領制、連邦議会といった政治的アクターの存在とその役割について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ社会の価値観を知るため、文化的背景をほりさげるとともに、歴史的・制度的なアプローチをし、アメリカ政治に関する知識の修得をめざす。くわえて、アメリカ政治の特色をめぐって、ディスカッションをおこなうときに、相手の意見を尊重しつつ、みずからの意見を表明できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
授業の形態は、講義形式を基本とするが、折りにふれ、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象がおきたときにはその問題についても議論をするため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の形態は、あくまでも、講義形式を基本とするが、機会をみつけては、時事的な事象について、ディスカッションの要素をとり入れる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	建国の理念やアメリカ合衆国憲法の意義を説明することができる。【知識】						2						
②	アメリカ政治の特徴を理解し、論理的に説明することができる。【知識】						2						
③	アメリカ政治史上の事象をふまえて、現代アメリカがかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】						2		2				
④	アメリカ政治の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】								2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	15	30	40	5							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に表明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『アメリカ政治』〔第3版〕	久保文明・砂田一郎・松岡泰・森脇俊雅	有斐閣	2017	教科書	必携
『アメリカ政治史』	久保文明	有斐閣	2018	参考書	推奨
『現代アメリカ』	渡辺靖編	有斐閣	2010	参考書	推奨
備考	教科書は毎時間使用するので、かならず事前に購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
火曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	アメリカという国	われわれは、アメリカという国を理解しているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、移民という視点から、アメリカという国の特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカという国の実態を把握することができる。	
	事前学修	教科書15頁の下から4行目～19頁を精読し、アメリカを考えるうえで必要な基礎的知識をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
2	アメリカの政治的特質	アメリカの建国と憲法制定にいたる流れを学修する。くわえて、アメリカ合衆国憲法の有する意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の流れをふまえ、アメリカの政治的特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書3頁～15頁の下から5行目を精読し、アメリカの政治制度の基本的な特質をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
3	アメリカのもつ4つの顔	政治大国、経済大国、軍事大国、文化大国という4つの側面から、アメリカをとらえる。くわえて、アメリカのヘゲモニー（覇権）の低下が意味するものについても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治大国・経済大国・軍事大国・文化大国という観点からアメリカを説明することができる。	
	事前学修	教科書の第2章を精読し、政治大国・経済大国・軍事大国・文化大国というアメリカのもつ4つの顔をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
4	大統領選挙と中間選挙	今年が大統領選挙の年であることを意識しつつ、アメリカの選挙の特徴を学修する。くわえて、大統領選挙や上下両院の選挙の現状と課題についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、アメリカの大統領選挙と中間選挙の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第3章を精読し、アメリカの大統領選挙と中間選挙のしくみをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
5	政党と利益集団	二大政党制という、アメリカの政党制の特質をみとうえて、共和党、民主党のおのおのが、利益集団とどのような結びつきをもっているのかについて、政治活動委員会（PAC）という視点から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、共和党と民主党の政策のちがいと両党と利益集団とのかかわりを的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第4章を精読し、アメリカの二大政党制と利益集団の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
6	メディアのはたす役割	アメリカにおいて、メディアのはたす役割はきわめて大きいとされる。ウォーターゲート事件を例にとって、アメリカ政治におけるメディアの位置づけについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、アメリカ政治において、メディアのはたす役割の大きさを的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第5章を精読し、アメリカ政治において、メディアのはたす役割をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	大統領制	大統領の権限を概観するとともに、リーダーシップという観点から、第二次大戦後の各大統領の政策決定スタイルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点もふまえ、大統領制の特色を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第6章を精読し、アメリカの大統領制についての基本的知識をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
8	連邦議会	大統領との緊張関係をみるだけでなく、「シニオリティ・ルール」「フィリバスター」といったアメリカ連邦議会の有する特質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、連邦議会の有する権限とその役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第7章を精読し、アメリカの連邦議会の有する特質をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
9	裁判所の政治的役割	日本の政治と異なり、アメリカの政治では、裁判所が積極的な役割をはたしている。そこで、「ロー対ウェード事件判決」などにふれながら、アメリカ政治における連邦最高裁判所の位置づけについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、司法部のはたす役割の大きさを的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第8章を精読し、アメリカ政治において、司法のはたす役割をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
10	地方自治	中央・地方関係を視野に入れつつ、連邦制をとるアメリカの地方自治のしくみがどのようなものになっているのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中央・地方関係という視点をふまえ、アメリカの地方自治の有する特色を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第9章を精読しアメリカの地方自治の有する特質をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
11	保守vsリベラルという構図	アメリカ政治を観察するうえで必要不可欠とされる、保守vsリベラルという構図に注目しつつ、現在のアメリカにおいて、イデオロギーをめぐる分裂がどこまで深まっているのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、保守vsリベラルというイデオロギー対立の構図を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第10章を精読し、アメリカ政治をみるうえで重要な保守vsリベラルという用語の基本的知識をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
12	宗教と政治	アメリカの政治をみていくうえで、宗教右派の存在を無視することはできない。選挙での宗教右派のはたす役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、アメリカ政治における宗教のもつ影響力の大きさを説明することができる。	
	事前学修	教科書の第11章を精読し、アメリカ政治における宗教の意味をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マイノリティと政治	近年のアメリカの選挙では、マイノリティの票の動向が選挙結果を左右するともいわれる。そこで、アメリカ政治においてマイノリティがはたしている役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、近年、マイノリティの存在がクローズアップされている現状を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書の第12章を精読し、アメリカ政治におけるマイノリティの位置づけをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
14	アメリカ外交の基調	アメリカ外交の基調とされる孤立主義の系譜をたどる。そして、混迷の度合いをまず、現在のアメリカ外交の特徴についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカ政治史の観点をふまえ、アメリカ外交の基調である孤立主義の流れを説明することができる。	
	事前学修	教科書279頁～289頁の上から3行目を精読し、アメリカ外交の基調をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
15	アメリカと日本	第二次大戦後の日米関係の動向について、政治・経済・文化といった側面から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治・経済・文化というアプローチから、第二次大戦後の日米関係の流れを説明することができる。	
	事前学修	教科書289頁の上から4行目～294頁の上から7行目を精読し、第二次大戦後の日米関係の流れをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分

科目名	イノベーションと知的財産 I	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
イノベーションは、エネルギー・環境等地球的・社会的課題の解決，グローバル化した経済環境における企業競争力向上等経済社会の発展等に重要な役割を果たす。本授業では、イノベーションに関する基本的な知識，イノベーションと知的財産の関わり，企業競争力への影響，イノベーションを促進するための政策等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業等における創造的な活動を推進する上での問題点や課題を発見し，解決策を考える力を養成することを目的とする。より具体的には，イノベーションに関する基本的な知識を習得するとともに，イノベーションと知的財産との関わり，イノベーションと企業の競争力との関わり，イノベーション創出を目指した政策等に関する理解を深めることにより，企業等においてイノベーション創出に向けた活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
創造的な活動に関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布するプリントに基づき講義を行う。また，レポートの提出（授業内または課外学修）を複数回求める。出席管理システム（レスポん）を利用して出欠確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により，適宜アンケート，小テスト等を行いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	イノベーションに関する基本的な概念を説明することができる。				3	3						
②	イノベーションの事例について、その成功・失敗要因を指摘することができる。							3	3			
③	イノベーションの事例における知的財産の活用方法を指摘することができる。							3	3			
④	イノベーションにおいて知的財産が多様に活用されていることについて説明することができる。					3						
⑤	イノベーションが企業の競争力に及ぼす影響について説明することができる。					3						
⑥	イノベーション創出を促進するための政策を列挙し、それぞれの意義を説明することができる。					3						
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テスト等により，到達目標①④⑤⑥に関する知識と理解が身についているかを確認する。	10			15	15	10					50
レポート等	レポート等により，到達目標②③に関する調査，分析ができているかを評価する。		25	25								50
討論・発表等												
授業への参画度	出席回数が2/3に満たない者は採点の対象とはしない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	25	25	15	15	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート及び授業内テストの結果については，内容をとりまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日13：30～14：30，事前に予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省においてイノベーション関連分野の政策立案・推進に携わった。
実務経験に基づく実践的教育の内容		イノベーションの場で起こっている問題点や課題を事例を通じて授業に反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【イントロダクション，導入講義】	本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について学修する。また，イノベーションの例を通じて，本授業におけるイノベーションについての共通理解を形成する。	
	この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また，授業到達目標①のうち，多くのイノベーションに共通する特徴について説明することができるようになる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。	120分
	事後学修	配布したプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。多くのイノベーションに共通する特徴について自分なりの説明をまとめる。	120分
2	【イノベーションについて1 イノベーションに関する基本的な知識】	イノベーションの定義，イノベーションの普及，イノベーション・マネジメント等イノベーションに関する基本的な知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，イノベーションの定義，イノベーションの普及，イノベーション・マネジメント等イノベーションに関する基本的な知識について理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	イノベーションとは何かについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布したプリントを再読し，イノベーションに関する基本的な知識について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	【イノベーションについて2 イノベーションの普及】	新しい製品・サービスが社会に受け入れられ，普及していく過程がイノベーション実現のために重要であることについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，イノベーションに普及について理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	新しい製品・サービスが社会に提供される場合に起こると想定されることについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，イノベーションの普及について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	【イノベーションについて3 イノベーション・マネジメント】	イノベーション・マネジメントの重要性，マネジメントの視点等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，イノベーション・マネジメントについて理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	イノベーションを創出するためにはどのような取組が必要かについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，イノベーション・マネジメントについて自分なりの説明をまとめる。	120分
5	【イノベーションについて4 イノベーションの事例研究1】	イノベーションの事例を取り上げ，イノベーションが実現した経緯，成功の要因等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③について，事例としたイノベーションが実現した経緯，成功の要因，知財活用状況等を指摘することができる。	
	事前学修	自分が関心を持ったイノベーションの例をあげ，どのような点がイノベティヴであるかについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，取り上げた事例が実現した要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	【イノベーションについて5 イノベーションの事例研究2】	別のイノベーションの事例を取り上げ，イノベーションが実現した経緯，成功の要因等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③について，事例としたイノベーションが実現した経緯，成功の要因，知財活用状況等を指摘することができる。	
	事前学修	イノベーションを創出するために必要な要件は何かについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，取り上げた事例が実現した要因について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	【イノベーションにおける知財の活用 1 知財の重要性】	イノベーションにおいて知財が重要な役割を果たしていることについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標④のうち、イノベーションにおいて知的財産が果たしている役割について理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	知的財産に関する基本的事項を事前学修する。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーションにおいて知的財産が果たしている役割について自分なりの説明をまとめる。		120分
8	【イノベーションにおける知財の活用 2 様々な知財の活用】	イノベーションの過程において、知的財産が様々な形で活用されていることについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標④のうち、知的財産の様々な活用方法について理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	知的財産を知的財産権として確保することとノウハウとして秘匿することとのメリット、デメリットについて自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、知的財産が多様に活用されていることについて自分なりの説明をまとめる。		120分
9	【イノベーションにおける知財の活用 3 知財ミックス】	イノベーションにおいて、特許権、意匠権、商標権等複数の知的財産権が組み合わせられ活用されていることについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標④のうち、知財ミックスについて理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	複数の知的財産権が活用されている事例を見つけ、その概要を調べる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、複数の知的財産権を活用する意義について自分なりの説明をまとめる。		120分
10	【イノベーションと企業の競争力 1 企業の競争優位性とイノベーション】	イノベーションが市場における企業の競争優位性に影響を及ぼすことについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標⑤のうち、イノベーションが企業の競争力に影響を及ぼすことについて理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	新しい製品・サービスの出現が企業の競争力に影響を与えた事例を見つけ、その概要を調べる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーションが企業の競争優位性に影響を及ぼすことについて自分なりの説明をまとめる。		120分
11	【イノベーションと企業の競争力 2 破壊的イノベーション】	企業の競争力に多大な影響を及ぼすタイプのイノベーションの一つである破壊的イノベーションについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標⑤のうち、破壊的イノベーションについて理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	一つのイノベーションをきっかけに企業の競争優位性が大きく変化した例を見つけ、その概要を調べる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、破壊的イノベーションについて自分なりの説明をまとめる。		120分
12	【イノベーションと企業の競争力 3 オープン・イノベーション】	競争力のある製品・サービスを短期間に開発・上市する方法として取組が進んでいるオープンイノベーションについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標⑤のうち、オープン・イノベーションについて理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	複数の企業が協働してイノベーションを実現した例を見つけ、その概要を調べる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、オープン・イノベーションについて自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【イノベーション政策 1 イノベーション政策とは】		イノベーションを促進するための政策（イノベーション政策）がオープン・イノベーションへの対応を軸に推進されていることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥のうち、イノベーション政策とは何か、イノベーション政策の必要性等について理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	わが国のイノベーション政策に関する報告書を事前に学修する。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーション政策が実施される理由について自分なりの説明をまとめる。		120分
14	【イノベーション政策 2 わが国のイノベーション政策】		科学技術イノベーション政策を中心に、わが国におけるイノベーション政策の現況について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥のうち、わが国におけるイノベーション政策の現況について理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	国が異なればそのイノベーション政策も異なることになる理由について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、わが国のイノベーション政策の現況について自分なりの説明をまとめる。		120分
15	【授業のまとめ】		本授業で学修した事項に関する振り返りとまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥について、到達目標の達成状況を確認し、さらなる学修への課題を把握する。		
	事前学修	初回からの配布プリントを再読し、イノベーションと知的財産について学修したことを再確認する。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、到達目標の達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。		120分

科目名	イノベーションと知的財産Ⅱ	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
イノベーションは、エネルギー・環境等地球的・社会的課題の解決、グローバル化した経済環境における企業競争力向上等経済社会の発展等に重要な役割を果たす。本授業では、イノベーションに関する基本的な知識、イノベーション創出に向けた知財マネジメントに関する取組、イノベーション・マネジメントに関する取組、イノベーションを担う人材等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業等における創造的な活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を養成することを目的とする。より具体的には、イノベーションに関する基本的な知識を習得するとともに、イノベーションと知的財産との関わり、イノベーションと企業の競争力との関わり、イノベーション創出を目指した政策等に関する理解を深めることにより、企業等においてイノベーション創出に向けた活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
イノベーションと知的財産Ⅰを履修していることが望ましい。創造的な活動に関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布するプリントに基づき講義を行う。また、レポートの提出（授業内または課外学修）を複数回求める。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケート、小テスト等を行いながら、理解定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	イノベーションに関する基本的な概念を説明することができる。				3	3						
②	イノベーションにおける知的財産の活用方法について説明することができる。					3						
③	イノベーションの事例について、知的財産の活用方法及びそれが成功に結び付いた要因を指摘することができる。							3	3			
④	イノベーション・マネジメント上の留意すべき点について説明することができる。					3						
⑤	イノベーションの事例について、イノベーション・マネジメント上の工夫を指摘することができる。							3	3			
⑥	イノベーション人材に求められる資質について説明することができる。					3						
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テスト等により，到達目標①②④⑥に関する知識と理解が身についているかを確認する。	10	15		15		10					50
レポート等	レポート等により，到達目標③⑤に関する調査，分析ができているかを評価する。			25		25						50
討論・発表等												
授業への参画度	出席回数が2/3に満たない者は採点の対象とはしない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	25	15	25	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート及び小テスト等の結果については，内容を取りまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日13：30～14：30，事前に予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省においてイノベーション関連分野の政策立案・推進に携わった。
実務経験に基づく実践的教育の内容		イノベーションの場で起こっている問題点や課題を事例を通じて授業に反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【イントロダクション，導入講義】	【イントロダクション】 本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について学修する。また，イノベーションに関する基本的な知識を学修する。	
	この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また，到達目標①のイノベーションに関する基本的な知識を説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。	120分
	事後学修	配布したプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。イノベーションに関する基本的な知識について自分なりの説明をまとめる。	120分
2	【イノベーションと知財マネジメント1 イノベーションと知的財産】	知財マネジメントがイノベーションに及ぼす影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち，知財マネジメントの巧拙がイノベーション創出に及ぼす影響について理解を深め，説明することができるようになる。	
	事前学修	イノベーションと知的財産の関係について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，知財マネジメントの巧拙がイノベーション創出に及ぼす影響について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	【イノベーションと知財マネジメント2 知的財産の価値】	知的財産権の価値は，それを実施しようとする企業の状況，市場環境等に依存して定まることについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち，知的財産の価値が実施する企業や市場環境によって定まることについて理解を深め，説明できるようになる。	
	事前学修	知的財産の価値は何により測ればよいのかについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，知的財産権の価値が，それが活用される状況に依存して定まることについて自分なりの説明をまとめる。	120分
4	【イノベーションと知財マネジメント3 知財マネジメントの実際】	【イノベーションと知財マネジメント3 知的財産の活用状況】 企業等におけるイノベーション創出に向けた知的財産の活用状況について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち，イノベーション創出の過程で知的財産が多様に活用されている状況について理解を深め，説明できるようになる。	
	事前学修	企業等における特許の活用状況を調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，知的財産の活用状況について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	【イノベーションと知財マネジメント4 知財部門の新たな役割】	イノベーション創出に向けて，企業の知財マネジメントの主体となる知財部門が果たすべき役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち，知財マネジメントの実施主体である知財部門が果たすべき役割について理解を深め，説明できるようになる。到達目標③のうち，事例としたイノベーションにおける知財活用方法及びそれが成功に結び付いた要因を指摘することができるようになる。	
	事前学修	知的財産の多様な活用を行うために必要な条件とは何かについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，これからの知財部門の果たすべき役割について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	【イノベーションと知財マネジメント5 イノベーションの収益化】	企業におけるイノベーションの収益化に向けた知的財産に関する取組について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち，知財マネジメントを通じてイノベーションの収益化を目指す企業の取組について理解を深め，説明できるようになる。到達目標③のうち，事例としたイノベーションにおける知財活用方法及びそれが成功に結び付いた要因を指摘することができるようになる。	
	事前学修	企業がイノベーションからの収益を拡大するために，知的財産に関して工夫すべき点について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，イノベーションの収益化の工夫について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【イノベーション・マネジメント 1 研究・技術開発のマネジメント】		研究・技術開発段階のマネジメントの重要性、マネジメントを的確に行うための方策について学修する。
	この回の到達目標	到達目標④のうち、研究・技術開発段階のマネジメントの重要性及びマネジメント上の留意点について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	新しい製品・サービスにつながる技術を開発する際に重要なことについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、研究・技術開発段階のマネジメントの重要性について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	【イノベーション・マネジメント 2 製品開発のマネジメント】		製品開発段階のマネジメントの重要性、マネジメントを的確に行うための方策について学修する。
	この回の到達目標	到達目標④のうち、製品開発段階のマネジメントの重要性及びマネジメント上の留意点について理解を深め、説明できるようになる。到達目標⑤のうち、事例とした製品開発段階のマネジメント上の工夫を指摘することができるようになる。	
	事前学修	製品・サービスが市場で受け入れられるために必要な要件について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、製品開発段階のマネジメントの重要性について自分なりの説明をまとめる。	120分
9	【イノベーション・マネジメント 3 事業化段階のマネジメント】		事業化段階において市場の獲得と収益の確保を実現するためのビジネスモデル構築が重要であることについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標④のうち、事業化段階におけるビジネスモデル構築の重要性及びマネジメント上の留意点について理解を深め、説明できるようになる。到達目標⑤のうち、事例とした事業化段階のマネジメント上の工夫を指摘することができるようになる。	
	事前学修	最近ヒットした新しい製品・サービスを見つけ、市場の獲得や収益の確保のための工夫を調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、ビジネスモデルについて自分なりの説明をまとめる。	120分
10	【イノベーション・マネジメント 4 ユーザー・イノベーション】		イノベーション・マネジメントにおいてユーザーの役割が重要であることについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標④のうち、イノベーションにおけるユーザーの役割について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	製品・サービスのユーザーがイノベーションに関与した事例を見つけ、その概要を調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーションにおけるユーザーの役割について自分なりの説明をまとめる。	120分
11	【イノベーション・マネジメント 5 リバー・イノベーション】		イノベーション・マネジメントにおいて製品・サービスと市場環境との適合性が重要であることについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標④のうち、市場環境に適合した製品開発の重要性について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	発展途上国で生まれ、先進国でもヒットした製品を見つけ、その概要を調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、市場環境に適合した製品開発の重要性について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	【イノベーション・マネジメント 6 デザインドリブン・イノベーション】		イノベーション・マネジメントにおいてデザイン発想が重要であることについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標④のうち、イノベーションにおけるデザインの重要性について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	デザインという言葉の意味を調べる。また、デザインが決め手になって成功した製品・サービスを見つけ、その概要を調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーション・マネジメントにおけるデザインの意義について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【イノベーション・マネジメント7 経営デザインシート】	イノベーション創出に向けて、企業の経営デザインを推進する政府の取組について学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標④のうち、イノベーション創出に向けた経営デザインへの取組の重要性について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	経営デザインに関する政府の報告書を事前に学修する。	120分
	事後学修	経営デザインについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	【イノベーションの担い手】	イノベーションの担い手であるアントレプレナー、ベンチャー・ビジネス、ベンチャー・キャピタル等について、イノベーションにおいてそれぞれが果たす役割、現況等について学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標⑥について、アントレプレナーシップ、ベンチャー・ビジネス、ベンチャー・キャピタルについて理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	アントレプレナーに求められる資質について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、イノベーションにおけるベンチャービジネスとベンチャーキャピタルの役割について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	【授業のまとめ】	本授業で学修した事項に関する振り返りまとめを行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①～⑥について、到達目標の達成状況を把握し、さらなる学修への課題を把握する。	
	事前学修	初回から配布されたプリントを再読し、イノベーションと知的財産について学修したことを再確認する。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、到達目標の達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。	120分

科目名	異文化メディア	担当者	小林 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
人種や民族、国籍などの異なる者同士、あるいは障害者ともに暮らすという状況は、ごく当たり前の日常となっている。だが、そこには少数者が、多数者から、何かが「異なる」という理由でしばしば差別され、時として激しい暴力が行使されるという現実が存在している。なぜ、そうしたことが起きるのか、それらがメディアでどう取り上げられているのかを取り上げる。本授業では、他者という観点から、この問いに向きあい、多様性を認め合う寛容な社会について考えていく。なお、講義資料を毎回提示する予定。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業の目的は、①国家や国民、民族、人種が決して自明のものではなく、社会的に構築されたものであること、②そこに構造化された政治性が差別を生みだし、そのことが、国民国家を成立させる重要な資源になっていたこと、③国民国家が、近代の産物として発明され、<かたち>を帯びていく過程で、メディアが、どのような役割を果たしたのかを理解することにある。本授業の到達目標は、他者理解のために自己を開くことにある。

【履修条件】
メディア、異文化理解は誰にとっても重要なことであるので」誰にでも門戸は開かれている。

【授業方法】
基本的には講義である。時に映像を見たり、資料を見ながら一緒に考えていくことにする。気楽に話し合います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	資料を参照した上での対話	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアが世界をどのように表象しているのか				3	3	3	3				
②	他者に対する理解の場を開く				3	3	3	3				
③	自分のことを理解する				3	3	3	3				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験で成績をつける	80										80
小テスト等	授業内リアクションペーパーは実施し成績の参考にする	10										10
レポート等												
討論・発表等	思ったことを自由に言って欲しい		5	5								10
授業への参画度	もちろん参加度が高いことを期待する											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		90	5	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中に質問をどしどしして欲しい

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考					

【オフィスアワー】
自由

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	イントロダクション	
	この回の到達目標	授業の目的を知る	
	事前学修	特にないが異文化とメディアに関する文献を自分なりに用意して欲しい	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
2	文化と異文化という概念	文化と異文化という概念に関する社会学的理解を解説する	
	この回の到達目標	文化と異文化という概念を理解する	
	事前学修	あなたが考える文化や異文化がどのようなものか自力で考える	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
3	他者とコミュニケーション	コミュニケーションとは一体なんであるのか学術的な解説をこなう	
	この回の到達目標	他者とコミュニケーションという概念を理解する	
	事前学修	あなたが考えるコミュニケーションがどのようなものか自力で考える	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
4	映画から異文化に接する	障害者の映画「むかしMattoの町があった」を見て考える	
	この回の到達目標	映画の内容を理解し、そこにある他者について考える	
	事前学修	前回授業で渡された資料をよく読み込んでくる	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
5	スポーツメディアに現れる他者性	オリンピック映画のプロパガンダ性とそこに現れる他者性の可能性を考察する	
	この回の到達目標	メディアの特質について理解する	
	事前学修	ベルリンオリンピックについて調べておく	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
6	国家、国民を理解する	メディアが、どのように「国民」を創出していったのかについて、アンダーソン「想像の共同体」の議論の有効性と限界に注意を払いながら考える。	
	この回の到達目標	民族＝国民という図式に注意を払いながら、国民で構成された国家の形成プロセスについて説明する。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	異文化を理解するための理論	異文化理解をするための方法論や概念を解説する。	
	この回の到達目標	異文化を理解するためのいくつかの理論を紹介する。その上で多文化共生とはなんであるのかについて考える。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
8	日本人の境界	国家や国民という概念の揺らぎに関して解説する。	
	この回の到達目標	日本人というカテゴリーが、どのように恣意的に形成されていったのかについて、台湾と朝鮮、さらに沖縄とアイヌに焦点をあてて説明する。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
9	エスニック・メディアについて1	民族や人種、あるいは階級といった概念を理解し、それらがメディアによっていかに表象されるのかを考える。	
	この回の到達目標	エスニック・メディア論：当該分野における研究蓄積について紹介し、現代社会で人種的・民族的少数者が立ち上げているメディアの有効性と限界について論じる。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
10	エスニック・メディアについて2	民族や人種、あるいは階級といった概念を理解し、それらがメディアによっていかに表象されるのかを考える。	
	この回の到達目標	エスニック・メディア論：当該分野における研究蓄積について紹介し、現代社会で人種的・民族的少数者が立ち上げているメディアの有効性と限界について論じる。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
11	東アジアの文化を理解する	自国と隣接する国々の考えを理解する。	
	この回の到達目標	中国や韓国の文化について考察し、自国の文化との違いについて考察する。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
12	スポーツにおける異文化	国際化していると思われるスポーツの中にある自国中心主義を明らかにする。	
	この回の到達目標	日本の相撲を取り上げ、その中にある日本人の異文化に対する理解のありようについて考察する	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	自己を相対化し、自己を理解する		自己を理解するためには他者との関係性が重要である。そのための具体的な事例を取り上げる。
	この回の到達目標	自国の文化に内閉していないのかについて考えてみる	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
14	他者を理解する 1		読書とはなんであるのか他者性との関わりから解説する。
	この回の到達目標	メディアに表象される他者とはなんであるのかについて考察する。特に読書とはなんであるのかについて扱う。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分
15	他者を理解する 2		メディアが他者性をもたらす可能性に関して考察する。
	この回の到達目標	メディアに表象される他者とはなんであるのかについて考察する。その受容における振り返りとしての自己理解への開かれを考える。	
	事前学修	授業時に提示する資料課題を行ってから授業にのぞむこと	60分
	事後学修	授業内容を振り返る	60分

科目名	インベスター・リレーションズⅠ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
狭い意味でのインベスターリレーションズ（IR）活動とは、企業が投資家に対し、投資の判断に必要な企業情報を提供する活動を指すが、この授業ではIRを広く捉えて、コーポレートファイナンスを扱う。コーポレートファイナンスとは、投資家（資本市場）との関わりの中で、企業の投資政策、財務政策、ペイアウト政策という3つの意思決定を、経済学的な視点から解明する学問である。この授業では、これらの意思決定のうち、企業価値を最大化するための投資政策、および財務政策の基礎について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバルな視点をもったビジネスパーソンとして活躍するためには、コーポレートファイナンスの知識を理解することが必須となりつつある。この授業では、企業の投資政策、及び財務政策の基礎を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 （ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	投資家（資本市場）とコーポレートファイナンスの意思決定との関わりを理解し、説明することができる。		3	3	3	3			
②	企業価値を最大化するために、企業はどのような投資政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。		3	3	3	3			
③	資本構成（負債と株主資本の内訳）と企業価値の関係を理解し、説明することができる。		3	3	3	3			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験によって、達成目標①②③に関する内容を理解しているかを確認する。	27	27	26								80
小テスト等												
レポート等	リアクションペーパーによって、達成目標①②③に関する疑問点と内容の理解を確認する。	7	7	6								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		34	34	32								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベーシックプラス ファイナンス』	井上光太郎/高橋大志/池田直史	中央経済社	2020	教科書	必携
『コーポレートファイナンス 入門編 第2版』	ジョナサン・バーク/ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『コーポレートファイナンス 応用編 第2版』	ジョナサン・バーク/ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『企業金融の経済理論 改訂版』	辻幸民	創成社	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	コーポレートファイナンスの学問上の位置づけやその対象について学修する。また、授業計画や評価方法を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：コーポレートファイナンスと資産価格理論（アセットプライシング）や証券投資論（インベストメント）との関連を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書や参考書を読んで、コーポレートファイナンスの学問上の位置づけとその対象について整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレートファイナンスの学問上の位置づけとその対象について復習し、説明できるようにする。コーポレートファイナンスを学修することで自分にとってどのようなメリットがあるかを考える。	120分
2	企業活動の基本と企業の目標	企業活動の基本を押さえた上で、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：企業活動の基本を押さえた上で、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化であることを理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、コーポレートファイナンスが対象とする企業活動は何か、また、その活動をするときの企業の目標は何かを検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレートファイナンスにおける企業の目標が企業価値最大化である理由を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
3	キャッシュフローの現在価値	将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、将来のキャッシュフローを現在の価値に直す方法を復習し、自分で計算できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
4	評価の基本 原理：期待収益率と要求収益率	期待収益率と要求収益率の概念を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：期待収益率と要求収益率の概念を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、期待収益率と要求収益率の概念を確認し、両者が異なるものであることを認識する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、期待収益率と要求収益率の概念を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
5	評価の基本 原理：資本市場の均衡	資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムを検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムについて復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
6	評価の基本 原理：価格と現在価値の関係	資本市場の均衡において、金融資産価格と現在価値が一致することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：資本市場の均衡において、金融資産価格と現在価値が一致するメカニズムを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、資本市場の均衡において、金融資産価格と現在価値が一致するメカニズムを検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、資本市場の均衡において、期待収益率と要求収益率が一致するメカニズムについて復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	システマティックリスクと固有リスク		分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システマティックリスク）があることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：分散投資のリスク低減効果を押さえた上で、分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システマティックリスク）があることを理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、分散投資のリスク低減効果が生じる理由を検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、分散投資によって消すことのできるリスク（固有リスク）と消すことができないリスク（システマティックリスク）がある理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
8	資本資産評価モデル（CAPM）		投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、システマティックリスクの指標がベータで測れる理由を検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、投資家の要求収益率（資本コスト）を決定する理論である資本資産評価モデルを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
9	投資政策：NPV法		NPVの計算方法を押さえた上で、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：NPVの計算方法を押さえた上で、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法であることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、NPVの計算方法を確認する。また、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法である理由について検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、NPVの計算方法を復習し、自分で計算できるようにする。また、企業価値を最大にする投資の意思決定はNPV法である理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
10	投資政策：IRR法		IRRの計算方法を押さえた上で、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）があることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：IRRの計算方法を押さえた上で、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）があることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、IRRの計算方法を確認する。また、IRR法による意思決定が機能しないとき（NPV法と一致しないとき）はどのようなときかを検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、IRRの計算方法を復習し、自分で表計算ソフト等を使って計算できるようにする。また、IRR法による意思決定が機能するとき（NPV法と一致するとき）とそうでないとき（NPV法と一致しないとき）がある理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
11	投資政策：その他の投資意思決定手法		回収期間の計算方法を押さえた上で、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しないことを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：回収期間の計算方法を押さえた上で、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しないことを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、回収期間の計算方法を確認する。また、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しない理由を検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、回収期間の計算方法を復習する。また、回収期間法による意思決定が企業価値最大化とは合致しない理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
12	財務政策：資本構成とMM命題		資本構成とは何か、またMM命題の概略を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：資本構成とは何か、またMM命題の概略を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、資本構成とは何か、またMM命題の概略を確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、MM命題の概略を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	財務政策：MMの第1命題	完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、資本構成は企業価値に影響を与えないこと（MMの第1命題）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、資本構成は企業価値に影響を与えないこと（MMの第1命題）を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、完全資本市場の仮定とは何かを確認する。また、MMの第1命題とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、MMの第1命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
14	財務政策：MMの第2命題	MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇すること（MMの第2命題）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇すること（MMの第2命題）を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、MMの第1命題が成立するならば、負債を利用するほど株式資本コストが上昇する理由を検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、MMの第2命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
15	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
	事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
	事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	インベスター・リレーションズⅡ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
狭い意味でのインベスターリレーションズ（IR）活動とは、企業が投資家に対し、投資の判断に必要な企業情報を提供する活動を指すが、この授業ではIRを広く捉えて、コーポレートファイナンスを扱う。コーポレートファイナンスとは、投資家（資本市場）との関わりの中で、企業の投資政策、財務政策、ペイアウト政策という3つの意思決定を、経済学的な視点から解明する学問である。この授業では、企業価値を最大化するための財務政策とペイアウト政策について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバルな視点をもったビジネスパーソンとして活躍するためには、コーポレートファイナンスの知識を理解することが必須となりつつある。この授業では、企業の財務政策とペイアウト政策を理解する。

【履修条件】
インベスター・リレーションズⅠの履修を前提とする。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 （ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある）

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	投資家（資本市場）とコーポレートファイナンスの意思決定との関わりを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
②	企業価値を最大化するために、企業はどのような財務政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
③	企業価値を最大化するために、企業はどのようなペイアウト政策を行えばよいかを理解し、説明することができる。				3	3	3	3				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験によって、達成目標①②③に関する内容を理解しているかを確認する。	26	27	27								80
小テスト等												
レポート等	リアクションペーパーによって、達成目標①②③に関する疑問点と内容の理解を確認する。	6	7	7								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		32	34	34								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ベーシックプラス ファイナンス』	井上光太郎/高橋大志/池田直史	中央経済社	2020	教科書	必携
『コーポレートファイナンス 入門編 第2版』	ジョナサン・バーク/ ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『コーポレートファイナンス 応用編 第2版』	ジョナサン・バーク/ ピーター・ディマーズ	丸善出版	2014	参考書	任意
『企業金融の経済理論 改訂版』	辻幸民	創成社	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション及び導入講義		前期の復習と後期に扱う内容の関連付けを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：前期の内容と後期に扱う内容を関係づける。		
	事前学修	シラバスを改めて確認するとともに、教科書や参考書を読んで、前期に扱った内容とこれから学ぶ内容について整理する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、前期の内容と後期に扱う内容について復習し、関係づけられるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
2	財務政策：法人税の導入		完全資本市場の仮定を緩めて、法人税を導入した世界を考えると、負債を利用すればするほど企業価値が上昇すること（修正MM命題）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、法人税を導入した世界を考えると、負債を利用すればするほど企業価値が上昇すること（修正MM命題）を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、負債利用には節税効果があることを確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、負債利用の節税効果を押さえた上で、修正MM命題が成立するメカニズムを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
3	財務政策：節税効果と加重平均資本コスト		加重平均資本コストに負債利用による節税効果をどのように考慮に入れるかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：加重平均資本コストに負債利用による節税効果をどのように考慮に入れるかを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、法人税が存在する場合での加重平均資本コストの定義を確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、加重平均資本コストに負債利用による節税効果をどのように考慮に入れるかを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
4	財務政策：財務的困難のコストの導入		完全資本市場の仮定を緩めて、法人税と財務的困難のコストを導入した世界を考えると、企業価値を最大にするような資本構成が存在することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、法人税と財務的困難のコストを導入した世界を考えると、企業価値を最大にするような資本構成が存在することを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、財務的困難のコストとは何かを確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法人税と財務的困難のコストを導入した世界では、企業価値を最大にするような資本構成が存在する理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
5	財務政策：負債のエージェンシーコスト		完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生することを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、事後情報の非対称性とは何かを確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、負債のエージェンシーコストという追加的なコストが発生する理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
6	財務政策：リスクを高める資産代替		完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、リスクを高める資産代替に起因する負債のエージェンシーコストが発生することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、リスクを高める資産代替に起因する負債のエージェンシーコストが発生することを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、リスクを高める資産代替とは何かを確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、リスクを高める資産代替に起因する負債のエージェンシーコストが発生する理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	財務政策：デットオーバーハング		完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、デットオーバーハングに起因する負債のエージェンシーコストが発生することを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界を考えると、デットオーバーハングに起因する負債のエージェンシーコストが発生することを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、デットオーバーハングとは何かを確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、デットオーバーハングに起因する負債のエージェンシーコストが発生する理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
8	財務政策：ペッキング・オーダー理論		完全資本市場の仮定を緩めて、事前情報の非対称性を導入した世界を考えると、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測されること（ペッキング・オーダー理論）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事前情報の非対称性を導入した世界を考えると、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測される理由を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、事前情報の非対称性とは何かを確認する。また、ペッキング・オーダー理論の予測とは何かを確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事前情報の非対称性を導入した世界では、企業は内部資金、負債、株式の順で資金調達を行うと予測される理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
9	ペイアウト政策：ペイアウト政策とMM命題		ペイアウト政策とは何か、またペイアウト政策に関するMM命題の概略を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：ペイアウト政策とは何か、またペイアウト政策に関するMM命題の概略を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、ペイアウト政策とは何か、またペイアウト政策に関するMM命題の概略を確認する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ペイアウト政策に関するMM命題の概略を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
10	ペイアウト政策：MM命題の例証		ペイアウト政策に関するMM命題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場では、投資政策があらかじめ決定されているならば、ペイアウト政策は企業価値に影響を与えないことを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、ペイアウト政策が企業価値に及ぼす影響について検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、完全資本市場では、ペイアウト政策は企業価値に影響を与えない理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。。		120分
11	ペイアウト政策：シグナリング仮説		完全資本市場の仮定を緩めて、税金や事前情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、税金や事前情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、完全資本市場の仮定とペイアウト政策の関係について検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、税金や事前情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与える理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分
12	ペイアウト政策：エージェンシー問題		完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連：完全資本市場の仮定を緩めて、事後情報の非対称性を導入した世界では、エージェンシー問題の存在から、ペイアウト政策が企業価値に影響を与えることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書や参考書を読んで、エージェンシー問題とペイアウト政策の関係について検討する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事後情報の非対称性を導入した世界では、ペイアウト政策が企業価値に影響を与える理由について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスとは何か、また、コーポレートガバナンスにおける近年の話題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連：コーポレートガバナンスとは何か、また、コーポレートガバナンスにおける近年の話題について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書と参考書を読むことに加えて、最近の新聞記事を読んで、コーポレートガバナンスとは何か、また、コーポレートガバナンスにおける近年の話題について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレートガバナンスとは何か、また、コーポレートガバナンスにおける近年の話題について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
14	総括	インベスター・リレーションズⅠの内容を含め、いままでの授業で扱った内容を体系立てて整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③関連：いままでの授業で扱った内容を体系立てて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書、講義ノートを見返して、今まで扱った内容を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、授業で扱った内容を体系立てて説明できるようにする。すべての講義資料について、復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
15	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
	事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
	事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	運輸政策	担当者	小野 芳計	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
運輸政策について、まず概論、基礎を学修し、その後各運輸分野についてその現状、課題及び政策効果などについて学修する。運輸政策についての理解を深めるとともに、他の政策分野への展開が図れるよう学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活に関連する運輸政策について、各運輸分野の現状、課題及び政策効果などを学修し、運輸政策についての理解を深めることを目的とする。外国の運輸政策についても触れる。運輸政策の概念、基本的構造等を習得して、その基礎にある理論を履修するとともに、他の政策分野への展開が図れるよう学修する。

【履修条件】
2年次以降生を対象とする。

【授業方法】
講義形式、スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	効率的な運輸・交通体系を形成するために運輸政策が必要とされていることを理解し、説明することができる。[知識]				4		4	4	4			
②	他分野の政策とは異なる運輸政策の基本的構造と政策の内容を理解し、説明することができる。[知識]				4		4	4	4			
③	運輸政策のそれぞれの施策がどのように機能し、課題や問題点を解決するのに適用されるかを調べることができる。[技能]				4		4	4	4			
④	運輸政策のそれぞれの施策の実際上の運用を理解し、与えられた課題に対して適切に適用することができる。[技能]				4		4	4	4			
⑤	運輸政策のそれぞれの施策の解釈・運用に関する議論に積極的に参加し、自己の意見を述べる事ができる。[態度・習慣]				4		4	4	4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、文字数、書式等の要件を満たし、課題に適切に応える内容になっているかを基準に、到達目標①②に関する基礎知識が身についているか、到達目標③④に関わる調査・説明ができるようになっているかを評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標⑤に関わる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解説・講評を、後日、ポータルシステム等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	スライドを使用するので教科書は使用しない。参考書は講義中に適宜紹介				

【オフィスアワー】
金曜日 16:10～16:20 授業講堂にて （メールアドレス：onoyoshi@a08.itscom.net）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	約30年間 運輸省、国土交通省勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		運輸政策の立案・執行に携わっており、実務経験に基づき、運輸各分野の現状、課題及び政策効果などを講義することが可能である。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	運輸概論Ⅰー目的・概要		運輸政策の目的・概要について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、運輸政策がどのような政策か、またどのような目的で実施されているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各回ごとに事前に示す講義資料（運輸概論Ⅰ）を読み、講義の全体を概観する。		120分
	事後学修	講義終了後、運輸概論Ⅰについてノートを整理・復習して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	運輸概論Ⅱー意義・沿革・機構		運輸政策の意義・沿革、運輸政策を実施している機構の変遷などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、運輸政策はどのような意義があるのか、またその沿革、実施している機構の変遷などについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（運輸概論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、運輸概論Ⅱについてノートを整理し復習をしておくこと		120分
3	運輸政策の基礎		全般的な運輸政策の課題と展望、政策の判断基準などについて運輸政策の基礎として学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、全般的な運輸政策の課題は何なのか、またその展望はどうなっているのか、政策の判断基準は何かなどについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（運輸政策の基礎）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、運輸政策の基礎についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
4	鉄道政策Ⅰー概論		鉄道の整備、整備に対する助成、サービスの充実、安全確保と技術開発などの鉄道政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、鉄道の整備、整備に対する助成、サービスの充実、安全確保と技術開発などの鉄道政策はどのようなになっているのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（鉄道政策Ⅰ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、鉄道政策Ⅰについてノートを整理し復習をしておくこと		120分
5	鉄道政策Ⅱー国鉄改革		我が国鉄道政策史、鉄道法制史の概観、国鉄改革法等について学修し、国鉄改革の実態を明らかにする。この際、一般的な法令の制定手続きについても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、国鉄改革がどのようにして行われ、その成果がどうなっているのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（鉄道政策Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、鉄道政策Ⅱについてノートを整理し復習をしておくこと		120分
6	自動車交通政策		旅客輸送の活性化、貨物輸送の効率化、安全対策・環境対策などの自動車交通政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、旅客輸送の活性化、貨物輸送の効率化、安全対策・環境対策などの自動車交通政策がどのように行われているのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（自動車交通政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、自動車交通政策についてノートを整理し復習をしておくこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	海運政策		外航海運、国内旅客船、内航海運、港湾運送の現状と課題を学修し、それらに対する海運政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、外航海運、国内旅客船、内航海運、港湾運送の現状と課題に対する海運政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（海運政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、海運政策についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
8	船舶関係政策		船舶の登録、造船業及び舶用工業の現状と課題、船舶の技術開発等について学修し、それらに対する船舶関係政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、船舶の登録、造船業及び舶用工業の現状と課題、船舶の技術開発等に対する船舶関係政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（船舶関係政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、船舶関係政策についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
9	船員政策		船員の労使関係と雇用の安定、船員の労働基準、船員の教育、船員の資格制度等について学修し、それらに対する船員政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、船員の労使関係と雇用の安定、船員の労働基準、船員の教育、船員の資格制度等に対する船員政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（船員政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、船員政策についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
10	港湾政策		港湾の管理、港湾の整備、国土保全と災害対策などの港湾政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、港湾の管理、港湾の整備、国土保全と災害対策などの港湾政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（港湾政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、港湾政策についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
11	航空政策		航空行政、航空事業行政、国際航空、空港整備、空港周辺環境対策、航空機安全対策などの航空政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、航空行政、航空事業行政、国際航空、空港整備、空港周辺環境対策、航空機安全対策などの航空政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（航空政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、航空政策についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
12	海上保安政策		海上保安行政、海上警備・海難救助、海上交通の安全確保、海洋科学、国際活動に関する業務などの海上保安政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、海上保安行政、海上警備・海難救助、海上交通の安全確保、海洋科学、国際活動に関する業務などの海上保安政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（海上保安政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、海上保安政策についてノートを整理し復習をしておくこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	気象行政		気象業務、気象、地震・津波・火山、気候及び海洋の観測・監視・予測などに関する気象行政について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、気象業務、気象、地震・津波・火山、気候及び海洋の観測・監視・予測などに関する気象行政がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（気象行政）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、気象行政についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
14	貨物流通政策・国際運輸政策		貨物流通行政、貨物流通施設行政、複合貨物流通行政などの貨物流通政策について学修する。また、国際運輸の現状と課題、国際的課題に対応した運輸行政の展開、国際協力の推進などに関する国際運輸政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、貨物流通行政、貨物流通施設行政、複合貨物流通行政などの貨物流通政策が、また、国際運輸の現状と課題、国際的課題に対応した運輸行政の展開、国際協力の推進などに関する国際運輸政策がどのように行われているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（貨物流通政策・国際運輸政策）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、貨物流通政策・国際運輸政策についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
15	地球環境問題		地球温暖化の現状と将来予測、取組の必要性、地球温暖化の緩和に向けた課題、国土交通行政の方向などの地球環境問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地球温暖化の現状と将来予測、取組の必要性、地球温暖化の緩和に向けた課題、国土交通行政の方向などの地球環境問題がどのようになっているのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（地球環境問題）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと また、初回からの講義資料とノートを見直し、運輸政策全体を考察する。		120分
	事後学修	講義終了後、地球環境問題についてノートを整理し復習をしておくこと また、初回からの講義資料とノートを見直し、レポート作成に向けて準備する。		120分

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】 映像、音声を組み合わせてメッセージが伝達される放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間においても大きな位置を占めてきた。他方、近年のインターネットやデジタル機器の普及は、従来型の放送ジャーナリズムのあり方に大きな変更を迫っている。放送局での報道番組のディレクターとしての経験を活かしつつ、変容期の放送ジャーナリズムについて多角的に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) メディアやジャーナリズムの現代社会における必要性や価値を認識するために、放送ジャーナリズムに関する基礎知識を習得し、それを踏まえて現状における問題点や今後に向けた課題等を認識する。
--

【履修条件】 特になし

【授業方法】 講義形式。 授業内レポートは、講評を次週以降の授業で行う。またはポータルシステムで講評を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する動画（テレビ番組等）をクラスで視聴し、その内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送業界・体制の基本的特徴を説明することができる					3						
②	映像ジャーナリズムのメディア特性や影響力の特徴について述べるができる				3							
③	NHK、民放それぞれの放送事業の特徴や問題について理解し、説明することができる					3						
④	映像コンテンツの制作過程について理解し、その内容について批判的に解釈できる						3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④についての各能力が身についているかを、 授業内試験により評価する。		20	25	25							70
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に 答える内容になっているかを基準に、到達目標①③にかかわる論 点を説明できるようになっているかどうかを評価する。	10		10								20
討論・発表等	授業内の質疑応答において自分の意見を述べる事ができたかについ て、到達目標①②に関わる事例についての説明能力が身についてい るかを評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	35	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験についての解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新 放送論	島崎哲彦・米倉律編著	学文社	2018	教科書	推奨
図説 日本のメディア（新版）	藤竹暁・竹下俊郎	NHK出版	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の 実務経験の有無	有	実務経験の内容 放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題・などについて実践的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	放送メディアを取り巻く現況と課題	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像ジャーナリズムを取り巻く現状や課題の概況について述べることができる	
	事前学修	シラバスに目を通し、入手した教科書にも目を通しておく	120分
	事後学修	イントロダクションの内容について、実際のテレビ番組を視聴するなどして確認すること	120分
2	映像メディアの特性	放送メディアのメディア特性。時間メディアとしての放送、情報伝達の総合性	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像メディアのメディア特性について、その特徴や問題点などを説明することができる。	
	事前学修	メディア論の基本的な考え方、知識について教科書（第Ⅰ章）、参考書などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料などを読み直し、知識を定着させる。	120分
3	放送の制作現場	放送局の主な職種と番組の企画・制作	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の制作過程について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえテレビのニュース番組を分析的に視聴する	120分
4	放送の公共性とは何か	放送の公共性はどのような論理構造になっているのか、公共性ゆえの法的規制とはどのようなものか	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、放送がなぜ公共性を持っているのか、その背景や法理などについて説明することができる。	
	事前学修	放送法や放送の公共性について教科書（第Ⅲ章、第Ⅳ章）、参考書等で予習する	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料を使って復習する。	120分
5	放送体制①	公共放送の組織構造、財源	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送の基本的特徴、日本の公共放送NHKの組織や財源の仕組みなどについて述べるができる。	
	事前学修	公共放送について、教科書（第Ⅷ章）、参考書、資料などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	120分
6	放送体制②	公共放送によるジャーナリズムの特徴と課題	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送NHKの放送事業の特徴、ジャーナリズム上の課題などについて説明することができる。	
	事前学修	公共放送について教科書（第Ⅷ章）、参考書、資料などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	放送体制③	民放のネットワークとビジネスモデル	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放のネットワークや組織、収益構造の特徴や問題点などについて述べることができる。	
	事前学修	民放の特徴、問題について、教科書（第Ⅲ章）、参考書等で調べておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	120分
8	放送体制④	民放によるジャーナリズムの特徴と課題	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放が展開するジャーナリズム活動の特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	民放の特徴、問題点について、教科書（第Ⅲ章）、参考書などで調べておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する	120分
9	放送体制⑤	テレビジャーナリズムの変容（小括と小レポートの実施）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、メディア環境の変容に伴って放送ジャーナリズムの変容の諸相を述べることができる。	
	事前学修	第4回～8回までの授業内容を教科書、ノート、資料などを用いて復習しておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	120分
10	現代の放送と倫理	幾つかの事例から	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、現代の放送番組と放送倫理の関係に関して具体的な問題の諸相やその背景について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	120分
11	テレビ視聴行動①	テレビ視聴行動の形成と変容	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、テレビ視聴行動がどのように形成され、テレビ大衆化時代にどのように発展したのか、またその後どのように変容したのかについて述べることができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅰ、Ⅱ章）、参考資料などを読んでおく。	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料、教科書などを用いて復習する。	120分
12	テレビ視聴行動②	テレビ視聴の個人化、細分化	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現代人のテレビ視聴行動の変化とそれがもたらした課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅰ、Ⅱ章）、関連資料などに目を通しておく。	120分
	事後学修	授業ノートと教科書による振り返り	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	放送とジェンダー①	番組の中のジェンダー	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の出演者に関するジェンダー論的特徴について説明することができる。	
	事前学修	ジェンダーとは何か、日本社会のジェンダー論的特徴などについて関連資料を読んでおく	120分
	事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	120分
14	放送とジェンダー②	放送業界におけるジェンダー	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送業界の現状とそのジェンダー論的背景や問題点について述べることができる。	
	事前学修	日本のメディア産業におけるジェンダー論的な問題点について関連資料などを読んでおく	120分
	事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	120分
15	授業総括とまとめ	授業全体の総括と授業内試験（レポート）の実施	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、映像ジャーナリズムをめぐる主要な論点や問題点などについて説明することができる。	
	事前学修	授業総括したうえで、授業内容を復習しておく。	120分
	事後学修	授業ノート、教科書による振り返り	120分

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
映像、音声を組み合わせてメッセージが伝達される放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間においても大きな位置を占めてきた。他方、近年のインターネットやデジタル機器の普及は、従来型の放送ジャーナリズムのあり方に大きな変更を迫っている。放送局での報道番組のディレクターとしての経験を活かしつつ、変容期の放送ジャーナリズムについて多角的に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
メディアやジャーナリズムの現代社会における必要性や価値を認識するために、放送ジャーナリズムに関する基礎知識を習得し、それを踏まえて現状における問題点や今後に向けた課題等を認識する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。 授業内レポートは、講評を次週以降の授業で行う。またはポータルシステムで講評を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する動画（テレビ番組等）をクラスで視聴し、その内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送業界・体制の基本的特徴を説明することができる						3						
②	映像ジャーナリズムのメディア特性や影響力の特徴について述べる事ができる					3							
③	NHK、民放それぞれの放送事業の特徴や問題について理解し、説明することができる						3						
④	映像コンテンツの制作過程について理解し、その内容について批判的に解釈できる							3					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④についての各能力が身についているかを、 授業内試験により評価する。		20	25	25							70
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に 答える内容になっているかを基準に、到達目標①③にかかわる論点を説明 できるようになっているかどうかを評価する。	10		10								20
討論・発表等	授業内の質疑応答において自分の意見を述べる事ができたかについて、 到達目標①②に関わる事例についての説明能力が身についているかを評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	35	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験についての解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新 放送論	島崎哲彦・米倉律編著	学文社	2018	教科書	推奨
図説 日本のメディア（新版）	藤竹暁・竹下俊郎	NHK出版	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の 実務経験の有無	有	実務経験の内容 放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題・などについて実践的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	放送メディアを取り巻く現況と課題	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像ジャーナリズムを取り巻く現状や課題の概況について述べることができる	
	事前学修	シラバスに目を通し、入手した教科書にも目を通しておく	120分
	事後学修	イントロダクションの内容について、実際のテレビ番組を視聴するなどして確認すること	120分
2	映像メディアの特性	放送メディアのメディア特性。時間メディアとしての放送、情報伝達の総合性	
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、放送を中心とした映像メディアのメディア特性について、その特徴や問題点などを説明することができる。	
	事前学修	メディア論の基本的な考え方、知識について教科書（第Ⅰ章）、参考書などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料などを読み直し、知識を定着させる。	120分
3	放送の制作現場	放送局の主な職種と番組の企画・制作	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の制作過程について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえテレビのニュース番組を分析的に視聴する	120分
4	放送の公共性とは何か	放送の公共性はどのような論理構造になっているのか、公共性ゆえの法的規制とはどのようなものか	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、放送がなぜ公共性を持っているのか、その背景や法理などについて説明することができる。	
	事前学修	放送法や放送の公共性について教科書（第Ⅲ章、第Ⅳ章）、参考書等で予習する	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料を使って復習する。	120分
5	放送体制①	公共放送の組織構造、財源	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送の基本的特徴、日本の公共放送NHKの組織や財源の仕組みなどについて述べるができる。	
	事前学修	公共放送について、教科書（第Ⅷ章）、参考書、資料などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	120分
6	放送体制②	公共放送によるジャーナリズムの特徴と課題	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、公共放送NHKの放送事業の特徴、ジャーナリズム上の課題などについて説明することができる。	
	事前学修	公共放送について教科書（第Ⅷ章）、参考書、資料などで予習する。	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	放送体制③	民放のネットワークとビジネスモデル	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放のネットワークや組織、収益構造の特徴や問題点などについて述べることができる。	
	事前学修	民放の特徴、問題について、教科書（第Ⅲ章）、参考書等で調べておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。	120分
8	放送体制④	民放によるジャーナリズムの特徴と課題	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、民放が展開するジャーナリズム活動の特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	民放の特徴、問題点について、教科書（第Ⅲ章）、参考書などで調べておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する	120分
9	放送体制⑤	テレビジャーナリズムの変容（小括と小レポートの実施）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、メディア環境の変容に伴って放送ジャーナリズムの変容の諸相を述べることができる。	
	事前学修	第4回～8回までの授業内容を教科書、ノート、資料などを用いて復習しておく	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	120分
10	現代の放送と倫理	幾つかの事例から	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、現代の放送番組と放送倫理の関係に関して具体的な問題の諸相やその背景について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料による振り返り	120分
11	テレビ視聴行動①	テレビ視聴行動の形成と変容	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、テレビ視聴行動がどのように形成され、テレビ大衆化時代にどのように発展したのか、またその後どのように変容したのかについて述べることができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅰ、Ⅱ章）、参考資料などを読んでおく。	120分
	事後学修	授業ノートと配布資料、教科書などを用いて復習する。	120分
12	テレビ視聴行動②	テレビ視聴の個人化、細分化	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現代人のテレビ視聴行動の変化とそれがもたらした課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅰ、Ⅱ章）、関連資料などに目を通しておく。	120分
	事後学修	授業ノートと教科書による振り返り	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	放送とジェンダー①	番組の中のジェンダー	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送番組の出演者に関するジェンダー論的特徴について説明することができる。	
	事前学修	ジェンダーとは何か、日本社会のジェンダー論的特徴などについて関連資料を読んでおく	120分
	事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	120分
14	放送とジェンダー②	放送業界におけるジェンダー	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、放送業界の現状とそのジェンダー論的背景や問題点について述べることができる。	
	事前学修	日本のメディア産業におけるジェンダー論的な問題点について関連資料などを読んでおく	120分
	事後学修	授業ノート、配布資料などを用いて復習する	120分
15	授業総括とまとめ	授業全体の総括と授業内試験（レポート）の実施	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、映像ジャーナリズムをめぐる主要な論点や問題点などについて説明することができる。	
	事前学修	授業総括したうえで、授業内容を復習しておく。	120分
	事後学修	授業ノート、教科書による振り返り	120分

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅡ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間において大きな位置を占めているが、近年の「放送と通信の融合」の進展は、これまでの映像ジャーナリズム、テレビジャーナリズムのあり方に大きな変化を迫っている。そうした変化の諸相について、災害報道、海外の動向、放送と市民の関係性、アーカイブなどを中心に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
過渡期・変容期にある放送についての基本的知識を発展させるために、放送をめぐるいくつかの主要な論点・テーマについて分析し、問題点を論じたり、考えたりする能力を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式。授業内レポートは講評を次週以降の授業で行う。またはポータルシステムで講評を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する動画（テレビ番組等）を全員で視聴したあと、内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	放送業界・体制の基本的特徴や問題点などについて述べることができる。					3						
②	放送業界の歴史的発展過程や主要番組ジャンルの形成過程について説明することができる。				3							
③	戦争記憶・歴史認識と放送の関係に関する問題点について批判的に説明することができる。						3					
④	放送と市民の関係性をめぐる現状と課題について述べることができる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達①②③④についての各能力が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20	15							75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式などの要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②④に関わる論点を説明できるようになっているかを評価する。		5		5							10
討論・発表等	授業内の質疑応答において自分の意見を述べる事ができたかについて、到達目標②③④に関わる事例についての説明能力が身についているかを評価する。		5	5	5							15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験についての解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新 放送論	島崎哲彦・米倉律編著	学文社	2018		推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題などについて実践的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	変容期の放送業界をめぐる概況	
	この回の到達目標	変容期の放送業界をめぐる概況と主要な論点を挙げて説明できる。	
	事前学修	教科書、参考書の内容について目を通しておく	120分
	事後学修	資料、ノートを用いて振り返り	120分
2	災害報道①	マス・メディアによる緊急報道の限界	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、マス・メディア、特にテレビによる緊急報道の現状や問題点などについて述べることができる	
	事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	120分
	事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	120分
3	災害報道②	メディア間連携の可能性と課題、復興報道をめぐる諸課題	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、メディア間連携の可能性と課題、復興報道の方向性や課題について説明することができる	
	事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	120分
	事後学修	講義内容を整理してまとめておく	120分
4	災害報道③	被災地、被災者にどう寄り添うか（授業内小レポートの実施）	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、災害、復興に関する報道の可能性や課題について説明することができる	
	事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	120分
	事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	120分
5	放送ジャーナリズムの起源	戦前のラジオ放送から戦後のテレビ放送の始まり	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、放送ジャーナリズムの成立過程と発展の諸相について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅱ章、Ⅴ章）を読んでおく	120分
	事後学修	配布資料、ノートを用いて復習する	120分
6	ドキュメンタリー研究①	テレビドキュメンタリーの誕生とその社会的機能	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、テレビドキュメンタリーの成立過程と発展過程について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅴ章）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ドキュメンタリー研究②	テレビドキュメンタリーの展開と現状（授業内小レポートの実施）	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、テレビドキュメンタリーの70年代以降の歴史的展開と現状の課題等について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅴ章）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分
8	テレビドラマ研究①	テレビドラマの誕生と発展	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、テレビドラマの誕生とその後の歴史的展開について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分
9	テレビドラマ研究②	ホームドラマの生成と社会的機能	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ホームドラマにおける家族の表象と日本社会における家族史との関係を述べることができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく	120分
	事後学修	講義内容を整理してまとめておく	120分
10	放送と集合的記憶①	戦争記憶の継承とテレビ	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テレビが戦争をどのように表象してきたか、その特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	関連の情報を収集して整理しておく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分
11	放送と集合的記憶②	「被害」と「加害」の表象	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テレビが戦争をどのように表象してきたか、その特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	関連の情報を収集して整理しておく。	120分
	事後学修	講義内容をノート・配布資料を用いて復習する。	120分
12	放送と集合的記憶③	「加害」の後景化と「継承」をめぐるポリティクス（小レポート課題提示）	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テレビが戦争をどのように表象してきたか、その特徴や問題点について説明することができる。	
	事前学修	関連の情報を収集して整理しておく。	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	放送と市民①	パブリック・アクセス～韓国の事例～	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、韓国におけるパブリック・アクセスの展開について説明することができる。	
	事前学修	関連の情報を収集し、整理しておく	120分
	事後学修	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する	120分
14	放送と市民②	パブリック・アクセス～日本の事例～	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、日本におけるパブリック・アクセスの現状と課題について述べることができる。	
	事前学修	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容について、ノート、配布資料を用いて復習する	120分
15	総括	講義全体の総括と授業内小レポートの実施	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義全体の概要を踏まえて主要な論点について説明することができる。	
	事前学修	講義ノートを復習して内容をまとめておく	120分
	事後学修	講義内容を整理して総括する	120分

科目名	会計学Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかにして作成されるかを学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察する力を身につける。

【履修条件】
会計学Ⅱとあわせて履修することが望ましい。また、簿記論Ⅰ・Ⅱ／簿記原理Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておく と、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も行うので、受講の際は電卓を用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標についての総合的な理解が身についているかを、 毎回の授業課題（小テスト）によって評価する。	25	25	20	15	15						100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で全体講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財務会計入門〔第5版〕	田中建二	中央経済社	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00　本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること）　Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	複式簿記の仕組み、会計とは何か	複式簿記の仕組みを把握し、会計とは何かを学ぶ	
	この回の到達目標	簿記の仕組みを理解し、会計の役割を学ぶ	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、簿記一巡の手続きを確認しておく。	120分
	事後学修	会計の目的について理解し、複式簿記の仕組みを理解する。	120分
2	会計制度と会計基準	わが国における会計制度の展開と、会計基準の成り立ちを学ぶ	
	この回の到達目標	わが国における会計制度がどのように展開し、今日の会計基準がいかにして成り立ったかを理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	会計基準の必要性を理解し、わが国における会計制度の展開を説明できるようにする。	120分
3	財務諸表の種類、貸借対照表	財務諸表の構成と貸借対照表の機能を学ぶ	
	この回の到達目標	わが国における財務諸表としてどのような書類が存在するかを把握し、貸借対照表の構成と機能を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	貸借対照表の基本的構造を理解し、その様式と役割を把握する。	120分
4	損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の構成とそれぞれの機能を学ぶ	
	この回の到達目標	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の各書類がどのような情報を提供するかを理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の基本的構造を理解し、それらの様式と役割を把握する。	120分
5	棚卸資産の意義と範囲、取得原価、売上原価の計算	棚卸資産の意義と具体的範囲、会計上の論点を学ぶ	
	この回の到達目標	棚卸資産の会計上の取扱いを理解し、売上原価の計算に関する会計基準の規定や考え方を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	棚卸資産の意義や範囲を把握し、その会計処理上のポイントを理解する。また、売上原価の計算に関する各種論点を理解する。	120分
6	棚卸資産の期末評価	棚卸資産の期末評価の方法と基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	棚卸資産の期末評価に関する会計基準の考え方を理解し、期末評価方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	正味売却価額を用いた期末評価を行う根拠を理解し、実際の期末評価ができるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	有形固定資産の種類と取得原価の計算、減価償却	有形固定資産の種類や取得原価、減価償却費の計算方法を学ぶ	
	この回の到達目標	設備投資の基本的考え方を理解し、各種有形固定資産の取得原価や減価償却費の計算方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	設備投資による有形固定資産の取得をはじめ、有形固定資産会計にまつわる諸論点を理解するとともに、取得原価や減価償却費の計算方法を把握する。	120分
8	有形固定資産の減価償却、改良費と修繕費	減価償却の基本的考え方や実施する目的、効果を学び有形固定資産取得後の支出の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	減価償却の理論的根拠とその目的を理解し、有形固定資産取得後の支出の会計処理を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	減価償却に関する理論上の論点を理解し、取得後に生じた改良費や修繕費の会計処理方法を身につける。	120分
9	リース取引	リース取引の基本的考え方と借手の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	リース取引の全体像を把握し、会計基準におけるリース取引の借手の会計処理規定を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	リース取引の態様や割引計算の基本的考え方を理解し、現在価値の計算方法を身につける。	120分
10	減損会計	固定資産の減損処理の必要性和減損会計の手続き一巡を学ぶ	
	この回の到達目標	減損会計の基本的考え方を理解し、回収可能価額を用いた減損処理の方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	減損会計一巡の手続き（特に回収可能価額の算定における使用価値計算方法）を理解する。	120分
11	無形固定資産と繰延資産	無形固定資産および繰延資産の会計処理の基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	無形固定資産の種類およびそれらの会計処理を把握するとともに、繰延資産の会計処理における考え方を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	無形固定資産の会計処理方法を身につけ、繰延資産会計における理論的根拠を理解する。	120分
12	ソフトウェアと研究開発費	ソフトウェアの会計処理方法と研究開発費の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	ソフトウェアの制作目的別の会計処理を把握し、研究開発費の会計処理の理論的根拠を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	市場販売目的のソフトウェアの償却方法を身につけ、研究開発費の発生時費用処理の根拠を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	金融資産と当座資産	金融資産の全体像とともに当座資産の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	金融資産と事業用資産の違いを把握し、当座資産の期末評価方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	金融資産の定義を理解し、貸倒見積高の算定方法を身につける。	120分
14	有価証券	有価証券の保有目的別の処理とその理論的根拠を学ぶ	
	この回の到達目標	有価証券の各種保有目的における処理を把握し、時価評価差額の取扱いに関する基本的考え方を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	有価証券の保有目的別処理を把握し、売買目的有価証券とその他有価証券の時価評価差額の取扱いの違いについての理論的根拠を理解する。	120分
15	前期総括	会計制度の基本的論点と資産会計における学修内容を総括する	
	この回の到達目標	財務会計の基本的論点から、資産会計における各種論点の内容までを理解する。	
	事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	会計学Ⅰ	担当者	松田 真由美	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかにして作成されるかを学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察する力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①から③についての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④および⑤についての総合的な理解が身についているかを、授業内で与える課題への取組度合いで評価する。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については解説・講評を後う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンパクト財務会計	小栗崇資	中央経済社	2016	参考書	推奨
ケースでまなぶ財務会計	永野則雄	白桃書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間（講義室または講師室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：会計学とは	会計学について、授業の内容・スケジュール・成績評価・参考文献について紹介を行う。	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、会計学とはどのようなものであるのか、また授業の進め方などが理解できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、企業の業績などの新聞記事などに目を通し、企業がどのような活動をしているのか関心をもちながら準備する。	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、会計学および授業について検討する。	135分
2	企業会計とは	企業会計とは 財務会計と管理会計の役割	
	この回の到達目標	①、②に関連して、財務会計がどのような役割を果たしているのか、管理会計の違いとは何かについて、理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて財務会計とは何かを検討する。	135分
3	会計を取り巻く法制度	財務会計とそれを取り巻く法律（会社法・金融商品取引法） その情報開示	
	この回の到達目標	①、②、④に関連して、財務会計と法律（会社法と金融商品取引法）の関係や情報開示について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて法律と情報開示について検討する。	135分
4	国際会計基準	国際会計基準・国際財務報告基準の成り立ちと役割 その影響 日本の基準との関係性	
	この回の到達目標	①、②、④に関連して、国際会計基準・国際財務報告基準の成り立ちと役割やその影響について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて国際会計基準と日本の会計基準との関係について検討する。	135分
5	企業の開示情報	企業の財務情報とは 貸借対照表と損益計算書とは その役割と構成	
	この回の到達目標	①、⑤に関連して、企業が開示する情報の中心となる、貸借対照表と損益計算書の構成およびその役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて企業の貸借対照表、損益計算書の役割について検討する。	135分
6	貸借対照表	財産法と損益法とは 貸借対照表の表記方法	
	この回の到達目標	②、③、④に関連して、利益の計算とはどのように行われているのか、貸借対照表はどのように表記されているのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じてどのように利益が計算されるのかを検討する。	135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	資産負債の区分と評価法		資産・負債の表記の区分（流動・固定） 評価法について	
	この回の到達目標	①、②、③に関連し、貸借対照表の数字は過去・現在・未来の評価を基準に構成され、また資産・負債はどのように区分されているのか、理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて評価方法が財務情報へ影響を与えることを検討する。		135分
8	流動資産		流動資産の区分 当座資産 現金・掛取引・手形取引	
	この回の到達目標	①、②に関連して、流動資産の区分や現金、売掛金、受取手形がどのようなものかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、取引や目的によって貸借対照表における表示が異なることを検討する。		135分
9	棚卸資産		棚卸資産とは何か 棚卸資産と売上原価、そして利益との関係	
	この回の到達目標	①、③に関連して、棚卸資産とは何か、それが貸借対照表や損益計算書へどのような影響を与えるのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて棚卸資産と売上原価の関係について検討する。		135分
10	棚卸資産		棚卸資産の評価方法 在庫管理とは	
	この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、棚卸資産はどのように評価されるのか、その評価の差異による影響、在庫管理の分析について理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて棚卸資産の意味や棚卸資産が企業へ与える影響について検討する。		135分
11	有形固定資産		有形固定資産と何か 償却資産と非償却資産 建物はなぜ一括で費用にならないのか 減価償却とは	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、有形固定資産とは何か、そしてその評価方法や減価償却が何かを理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、有形固定資産と減価償却について検討する。		135分
12	無形固定資産		無形固定資産とは何か 償却方法	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、無形固定資産とは何か、その償却方法、有形固定資産との違いについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて無形固定資産と有形固定資産の違いについて検討する。		135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	負債	負債とは何か 法的債務ではない負債とは 借入金や社債 社債の消却	
	この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、企業の負債とは何か、また社債を発行する意味やその償還・消却について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて負債とは何か、そして社債の意味について検討する。	135分
14	引当金	引当金とは何か その設定方法 任意の引当金	
	この回の到達目標	③、④、⑤に関連して、引当金とは何か、また引当金を設定することが与える影響について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて活動が引当金へ与える影響とともに、引当金自体が企業へ与える影響について検討する。	135分
15	総括	会計基準や資産・負債について テスト 解説	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、前期の内容の理解度を確認する。	
	事前学修	配布資料やノートに目を通し、会計基準や貸借対照表の資産・負債について復習する。	120分
	事後学修	内容を復習し、総括する。	60分

科目名	会計学Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかんして作成されるかを学ぶ。また、実際の企業の財務諸表を用いた企業の経営分析も行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察し、評価する力を身につける。

【履修条件】
会計学Ⅰとあわせて履修することが望ましい。また、簿記論Ⅰ・Ⅱ／簿記原理Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も行うので、受講の際は電卓を用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察・評価することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標についての総合的な理解が身についているかを、 毎回の授業課題（小テスト）によって評価する。	25	25	20	15	15						100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で全体講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財務会計入門〔第5版〕	田中建二	中央経済社	2018	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00　本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る）　Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	会計学Ⅰの学修内容の確認および会計学Ⅱの全体像の確認	会計学Ⅰで学修した会計の基本と資産会計の論点を復習しつつ、会計学Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
	この回の到達目標	会計学Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、前期の学修内容を確認しておく。	120分
	事後学修	会計の目的や資産会計における各論の内容を理解する。	120分
2	負債概念、流動負債	負債の概念を理解し、流動負債の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	財務会計の基礎概念としての資産および負債の定義を理解し、流動負債の会計処理を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	負債の概念を理解し、純資産との違いを理解する。流動資産の会計処理を身につける。	120分
3	固定負債、引当金	固定負債の会計処理および引当金の論点を学ぶ	
	この回の到達目標	社債の会計処理を身につけ、引当金会計における基本的考え方を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	社債の期末評価の方法を身につけるとともに、引当金計上の要件を把握する。	120分
4	退職給付	退職給付の基本的考え方と退職給付引当金の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	退職給付の支給方式の違いを把握し、退職給付引当金の会計処理方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	退職給付会計における基本的論点を理解し、退職給付引当金に関する一連の会計処理を身につける。	120分
5	純資産の部、資本と利益の区分	純資産の部の構成と資本と利益の区分に関する会計理論上の考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	純資産の部の基本的構成を把握し、資本と利益の区分を要する理論的根拠を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	純資産の部における株主資本とそれ以外の構成内容を把握し、資本と利益の区分に関する2つの考え方を理解する。	120分
6	払込資本と留保利益の会計	払込資本および留保利益に関する会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	払込資本に関する一連の会計処理を理解し、剰余金の配当の会計処理を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	払込資本の会計処理を理解し、剰余金分配時の分配可能額の算定方法を身につける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	収益の認識基準（現金主義、発生主義、実現主義）	収益認識に関する各種基準を学ぶ	
	この回の到達目標	現金主義、発生主義、実現主義の各基準の考え方を理解し、それぞれの基準による認識時点の違いを把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	収益認識に関する伝統的な議論の展開を理解し、現金主義、発生主義、実現主義による収益認識の方法を身につける。	120分
8	工事契約、新たな収益認識、費用収益対応の原則	工事契約における収益認識基準と、新たな会計基準による収益認識、費用収益対応の原則を学ぶ	
	この回の到達目標	工事契約における収益認識基準と新たな会計基準における収益認識の方法を把握し、費用収益対応の原則を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	工事完成基準と工事進行基準による収益認識、新基準に基づく5ステップを通じた収益認識の方法を身につける。	120分
9	連結財務諸表の意義と連結財務諸表の構成	連結財務諸表の意義、連結の範囲、連結貸借対照表の作成方法を学ぶ	
	この回の到達目標	連結財務諸表の意義と構成を理解し、連結貸借対照表の作成方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	連結財務諸表の意義・構成を把握し、連結貸借対照表作成のための資本連結手続きを身につける。	120分
10	連結損益計算書の作成	連結損益計算書の作成方法を学ぶ	
	この回の到達目標	連結損益計算書の作成方法と、連結会社間取引より生じた未実現利益の消去方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	連結損益計算書の作成方法を把握し、内部取引・未実現利益の消去方法を把握する。	120分
11	財務諸表分析の基礎、流動性の分析	財務諸表情報を用いた企業経営の分析の仕方と、流動性分析の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	財務諸表分析の意義を理解し、流動性分析のための指標の計算方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、流動性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
12	安全性分析	安全性分析の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	安全性分析のための指標の計算方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、安全性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	効率性分析	効率性分析の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	効率性分析のための指標の計算方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、効率性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
14	収益性分析	収益性分析の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	収益性分析のための指標の計算方法を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	実際の企業の財務諸表を用いて、収益性分析のための各指標を計算できるようにする。	120分
15	後期総括	負債会計から財務諸表分析までの学修内容を総括する	
	この回の到達目標	負債会計、純資産会計および損益会計の各種論点と、財務諸表分析の各方法を理解する。	
	事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	会計学Ⅱ	担当者	松田 真由美	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修する。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には、会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しており、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、財務諸表がいかんして作成されるかを学ぶ。また、実際の企業の財務諸表を用いた企業の経営分析も行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深め、会計基準が企業経営に及ぼす影響を理解する。会計にまつわる論理的思考力や会計制度の課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を省察し、評価する力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務諸表の作成ルールである会計基準の役割を理解し、説明できる。				2	2						
②	会計基準の基本的考え方を理解し、論理的に考察することができる。					2	2					
③	会計基準が企業経営に及ぼす影響を知り、会計制度の課題を発見できる。					2		2				
④	会計制度の課題に挑戦し、その解決策や妥結案を見出すことができる。				2				2			
⑤	会計情報を通じて、企業経営を省察・評価することができる。				2							2
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①から③についての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標④および⑤についての総合的な理解が身についているかを、授業内で与える課題への取組具合で評価する。				15	15						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については、解説・講評を後う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンパクト財務会計	小栗崇資	中央経済社	2016	参考書	推奨
ケースでまなぶ財務会計	永野則雄	白桃書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業の前後の休み時間（講義室または講師室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス：会計学とは		会計学について、授業の内容・スケジュール・成績評価・参考文献について紹介を行う。	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、資産、負債とは何か、そしてさまざまな会計のルールが存在することや授業の進め方が理解できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、企業の業績などの新聞記事などに目を通し、企業がどのような活動をしているのか関心を持ちながら準備する。		105分
	事後学修	講義での配布資料やノートの復習を通じて、会計学および授業について検討する。		135分
2	純資産		純資産とは何か その構成 内部留保とは 自己株式とは	
	この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連し、純資産はどのようなものによって構成されているのか、また蓄積とされる内部留保は何をさすのか、そして自己株式を保有することがどのような効果をもたらすのか、について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、純資産の内容やそれに影響を与える自己株式などについて検討する。		135分
3	収益と費用		収益と費用の認識方法 特殊な取引 当期純利益と包括利益	
	この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、収益と費用の認識基準、特殊な取引への対応や国際財務報告基準の包括利益とはいかなるものであるのか、について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、収益と費用の認識や、包括利益の意味について検討する。		135分
4	金融商品		株式 債券 オプション	
	この回の到達目標	①、③、⑤に関連して、株式の保有目的によって異なる評価、債券の評価およびオプションなど金融派生商品について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、株式の評価の違いなどについて検討する。		135分
5	連結会計		日本における連結会計の変遷 連結範囲 ルノー・日産・三菱自動車の関係	
	この回の到達目標	①、②、③、④に関連して、国際会計基準と連結会計が企業にもたらした影響、連結はどこまで対象となっているのか、子会社と関連会社の違いなどについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、連結範囲や連結はずしなどを検討する。		135分
6	連結会計		連結貸借対照表・損益計算書について その作成手続きと考え方	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、連結は貸借対照表と損益計算書にはどのような反映されるのか、子会社と関連会社では計算上どのような違いが生まれてくるのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習について、連結の手続きについて検討する。		135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	リース会計		リースとは リースの種類 借りた資産でも所有資産扱い リースの会計処理	
	この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、リースとは何か、その会計処理がもたらす影響について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、借りて使うのか、購入して使うのか、リース会計の意味について検討を行う。		135分
8	減損会計		土地再評価法とは 減損会計とは その会計処理方法	
	この回の到達目標	①、③、④に関連して、減損会計とは何か、そしてその影響とはいかなるものであるのか、について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、減損会計の導入がもたらして影響を検討する。		135分
9	退職給付会計		企業年金とは 退職給付会計とは それがもたらす企業や従業員への影響	
	この回の到達目標	②、③、⑤に関連して、企業年金の変遷や、退職給付と退職給与の違い、退職給付会計がもたらした影響について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業年金が置かれている状況やその会計について検討する。		135分
10	企業結合会計		企業結合会計とは 対等合併と買収とは その会計的考え	
	この回の到達目標	①、②、③、⑤に関連して、企業結合とは何か、買収と対等合併の違い、それに基づく会計基準について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業を買収することとはどういうことなのか、またその会計的な考えについて検討する。		135分
11	企業結合会計		企業買収とのれん のれんの会計処理	
	この回の到達目標	②、③、④に関連して、のれんはどのように生まれるのか、そしてのれんの評価がもたらす影響、東芝とのれん問題について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業買収とのれんについて検討する。		135分
12	資産除去債務		資産除去債務とは 原発と資産除去債務 資産除去債務の会計処理方法	
	この回の到達目標	①、③に関連して、資産除去債務とは、引当金から資産除去債務へ、原発へ資産除去債務を適用することについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む		105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、資産除去債務の意味を検討する。		135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	税効果会計		税効果会計とは 企業に課せられる税金 損失と繰延税金資産
	この回の到達目標	①、③に関連して、税効果会計とは何なのか、企業の業績予測、そして損失がもたらす影響などを理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、企業の税金について検討する。	135分
14	キャッシュフロー計算書		キャッシュフロー計算書とは その見方
	この回の到達目標	①、②、⑤に関連して、なぜキャッシュフロー計算書が必要なのか、キャッシュフロー計算書の構成について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したプリントに目を通す 会計に関する新聞記事を読む	105分
	事後学修	授業での配布資料やノートの復習を通じて、キャッシュフロー計算書について、どのような構成になっているのかなど検討する。	135分
15	総括		純資産・さまざまな会計ルールについて 試験 解説
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、後期の内容全体の理解度を確認する。	
	事前学修	配布資料やノートに目を通し、純資産やさまざまな会計のルールについての復習を行う。	120分
	事後学修	後期の内容を復習する。	120分

科目名	外国ジャーナリズム史B	担当者	張 新慧	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、グローバルな視座から近代社会におけるジャーナリズムの発展過程を学修する。「外国ジャーナリズム史」の講義は、ケーススタディとして東アジア地域の発展過程を扱うものと、欧米地域の発展過程を扱うものの二つの講座が併行して開講されるため、各自の学修の目的に応じて適した方を履修すること。なお、どちらを選択した場合でも、新聞学科のDPに対する学修の目標は同一のものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近代社会におけるジャーナリズムの成り立ちとしくみに関する知識を修得するために、外国におけるジャーナリズムの発展過程を時系列的に位置づけ、歴史的事象を解釈することでジャーナリズムの普遍性を見出すとともに、多様な社会の独自性の価値を認める視座を涵養する。また、より専門的な学知にアプローチするために、メディア史料を正しく読み解くことのできる能力を身につけることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回ではPPTを使い、配布資料を参考しつつ講義を進める。これと同時に授業内容と関連する学者の研究成果、映像や新聞記事を活用する。授業内発表やレポートに対する講評と解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回講義の最後にリアクションペーパーを提出し、次回の講義内で解説と応答を行う。また、期末に履修生全員で話し合い（プレゼンテーション）、お互いに感想や知見を共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズムの発達と歴史的出来事の関わりを解釈することができる。				3							
②	ジャーナリズムが近代社会の形成過程において、いかなる役割を果たしてきたのかを説明することができる。					3						
③	歴史的出来事の原因と結果を考え、論理的に説明することができる。						3					
④	歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④に関わる知識が身につく、独創的な思考を展開できているかを評価する。	12	12	12	12							48
討論・発表等	プレゼンテーションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③に関わる能力が身についているかを評価する。			20								20
授業への参画度	授業内のリアクションペーパーの内容によって、到達目標①②③④に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	3	3	3	3							12
その他(感想文)	授業内で視聴する2回のビデオに対する感想文を提出し、感想文の内容によって、到達目標①②③④に関する知識が、身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	40	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内及びポータルシステムを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)	山本 賢二	学生教員共有フォルダに掲載	2019	その他	必携
『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』〔第2版〕	大井 眞二、田村紀雄、鈴木 雄雅	世界思想社	2018	参考書	推奨
『ジャーナリズム・スタディーズのフィールド』	大井 眞二	学文社	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12：00～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）研究室とメールアドレスは追ってお知らせする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	本講義についての説明、ジャーナリズム研究概説、中国研究概説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業の内容や進め方を理解し、中国について学ぶことの意味を把握し、今後、能動的な学修を進めていく方法を身につけることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、参考文献に目を通し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、他の履修科目との関係を考える上で、自分の学習計画を作成する。	120分
2	中国のマス・メディア構造	中国のマス・メディア、ジャーナリズムについての基本的構造についての知識を得る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、今の中国のマス・メディア、ジャーナリズムについての基本的構造について述べるができる。	
	事前学修	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
3	現代中国ジャーナリズムの原点を探るⅠ	マルクス、エンゲルスのジャーナリズム観を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、マルクス、エンゲルスはメディア（新聞）、ジャーナリズムについてどのように考え、何を主張したかについて説明し、彼らの主張が中国のジャーナリズムの発展とどのような繋がりがあるかについて述べるができる。	
	事前学修	石川康宏、内田 樹（著）『若者よ、マルクスを読もう 20歳代の模索と情熱』（2013年、角川ソフィア文庫）に目を通す。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
4	現代中国ジャーナリズムの原点を探るⅡ	レーニンのプレス思想を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、レーニンはプレス（新聞）の自由や党の機関紙について、どのように考えていたか、このような考え方は変化があったかについて説明し、レーニンの主張が中国のジャーナリズムの発展とどのような繋がりがあるかについて述べるができる。	
	事前学修	時代背景を理解するために、ロシア革命に関する高校レベルの知識を振り返っておく。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
5	ビデオ視聴及び議論	NHKドキュメンタリーを視聴し、番組が伝えるロシアのメディア環境を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ドキュメンタリーに反映されるロシアのマス・メディア構造や状況について記述することができる。	
	事前学修	時代背景を理解するために、ロシア連邦に関する高校レベルの知識を振り返っておく。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。	120分
6	近代中国ジャーナリズムの概況Ⅰ	報道（新聞）関連の法律の制定とその内容を中心に近代中国のジャーナリズムの発展状況を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、近代中国の歴史上の出来事を振り返り、清王朝末期におけるジャーナリズムの発展状況について説明することができる。	
	事前学修	時代背景を理解するために、清王朝期までの中国の歴史に関する高校レベルの知識を振り返っておく。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	近代中国ジャーナリズムの概況Ⅱ		報道（新聞）関連の法律の制定とその内容を中心に近代中国のジャーナリズムの発展状況を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、北洋政府時期の報道法律と南京国民政府の報道法律の内容について説明することができる。		
	事前学修	時代背景を理解するために、清王朝末期から南京国民政府時期までの中国の歴史に関する高校レベルの知識を振り返っておく。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
8	中国共産党のマスコミ事業の形成とその特徴Ⅰ		新民主主義革命の第一段階における中国共産党のマスコミ政策の状況に関する知識を得る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、中国共産党の出版物の出現とその宣伝制度の構築について説明することができる。		
	事前学修	新民主主義革命の第一段階における中国の歴史に関する基礎知識を調べておく。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
9	中国共産党のマスコミ事業の形成とその特徴Ⅱ		新民主主義革命の第二段階における中国共産党のマスコミ事業の状況に関する知識を得る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、中国共産党の革命根拠地のマスコミのシステムの構造と特徴について説明することができる。		
	事前学修	新民主主義革命の第二段階における中国の歴史に関する基礎知識を調べておく。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
10	中国共産党のマスコミ事業の確立とその特徴		中国共産党の党機関紙の改造運動を通じての中国共産党のマスコミ政策の確立の背景を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、党の機関紙改造運動は、どのようにスタートして展開していたのか、そして指導道具論はどのように定められたかについて説明することができる。		
	事前学修	新民主主義革命段階における中国共産党の重要な出来事について調べておく。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
11	ビデオ視聴及び議論		NHKドキュメンタリーを視聴し、戦時の言論環境について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、戦時の言論環境について記述することができる。		
	事前学修	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。		120分
12	現代中国の政治指導者の「新聞思想」Ⅰ		中華人民共和国の建国の父である毛沢東の新聞思想を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、毛沢東はマス・メディアやジャーナリズムについてどのように考え、実践したかについて説明することができる。		
	事前学修	毛沢東の生涯について調べておく。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現代中国の政治指導者の「新聞思想」Ⅱ	マス・メディアを巡る毛沢東の主な実践活動と発言を検証し、「『晋綏日報』の編集者に対する談話」が発表された背景を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、毛沢東の認識や発言は、近現代中国ジャーナリズムの発展に対してどのような意義を持つかに ついて説明することができる。	
	事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
14	現代中国の政治指導者の「新聞思想」Ⅲ	鄧小平、江沢民、胡錦濤と習近平の新聞思想を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、上記の4代の中国最高政治指導者の新聞思想の特徴について説明することができる。	
	事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
15	期末発表	これまでの授業で扱ったトピックやその中で考えたことを纏め、履修生全員で話し合う（プレゼンテーション）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、自主学習や調査で分かったことを議論することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を整理し、学んだ知識や考えたことを纏めておく。プレゼンテーション内容を準備する。	120分
	事後学修	中国のジャーナリズム・メディアの事情に関する知識を再確認する。	120分

科目名	外国法A(アジア) I	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アジア諸国を見れば、大陸法系、英米法系、宗教法型、慣習法型、ハイブリッド型等の法体系が存在する。その他にも、社会主義法系国家が比較的に多いことが東アジア法の特色である。とりわけ、中華人民共和国法は独自の社会主義法体系を有するが、国際的には、香港、マカオ、多数の少数民族自治区等を通じて複合的な法体系を有している。本講義においては、中華人民共和国法について、その法体系の特徴、公法及び私法に亘って講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
隣接科目の履修のために必要となる中華人民共和国法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる中華人民共和国に関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される社会主義法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
担当者が作成したプリントに基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における中華人民共和国法の位置づけについて説明することができる。				2	2				2		
②	中華人民共和国法と日本法との異同について説明することができる。				2	2				2		
③	中華人民共和国法が準拠法になった際に、同国法を調査し、適用することを説明することができる。				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	成績評価は、配布資料を踏まえたレポートの提出によって 行います。											
小テスト等												
レポート等	中華人民共和国法に関する総合的な知識を駆使し、多角的 な視点から、同国法について理解を深めているかを確認す る。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施直後の授業において、また、レポートについては、最終授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし	なし	なし	なし		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）教場にて行う。メールアドレス jo.zuisei11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	講義の進め方、配布資料、期末レポート等についてガイダンスする。	
	この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
2	中国法の歴史	中国法の歴史（古代から現代に至るまでの中国法の変遷）について解説する。	
	この回の到達目標	中国法の歴史を説明できること。	
	事前学修	中国法の歴史のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中国法の歴史のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
3	現代中国法の体系	現代中国法の体系（中華人民共和国法、香港法、マカオ法、台湾法、少数民族自治区法）について解説する。	
	この回の到達目標	現代中国法の体系を説明できること。	
	事前学修	現代中国法の体系のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	現代中国法の体系のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
4	中華人民共和国司法制度	中華人民共和国司法制度（裁判所制度、法曹制度等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国司法制度を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国司法制度のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国司法制度のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
5	中華人民共和国実定法の種類	中華人民共和国実定法の種類（公法、刑事法、私法、司法解釈等）について総説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国実定法の種類を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国実定法の種類のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国実定法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
6	中華人民共和国憲法	中華人民共和国憲法（1954年憲法、1975年憲法、1978年憲法、1982年憲法及び修正）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国憲法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国憲法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国憲法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中華人民共和国行政法	中華人民共和国行政法（行政組織、法治行政原則、行政法の種類等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国行政法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国行政法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国行政法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
8	中華人民共和国行政訴訟法	中華人民共和国行政訴訟法（行政救済制度の目的、対象、範囲及び整備）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国行政訴訟法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国行政訴訟法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国行政訴訟法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
9	中華人民共和国刑法	中華人民共和国刑法（基本原則、適用範囲、刑罰の種類）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国刑法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国刑法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国刑法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
10	中華人民共和国刑事訴訟法	中華人民共和国刑事訴訟法（基本原則、取調べ手続、公判手続、上訴手続き等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国刑事訴訟法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国刑事訴訟法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国刑事訴訟法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
11	中華人民共和国民法典（総則）	中華人民共和国民法典（総則）（私法における位置付け、私法基本原則等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典（総則）を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国民法典（総則）のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国民法典（総則）のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
12	中華人民共和国民法典（2）物権	中華人民共和国民法典（2）物権（基本原則、所有権、区分所有、共有等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典（物権）を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国民法典（物権）のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国民法典（物権）のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中華人民共和国民法典（３）契約	中華人民共和国民法典（契約）（合同法の基本原則、経済法との関係、有名契約、無名契約等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典（契約）を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国民法典（契約）のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国民法典（契約）プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
14	中華人民共和国民法典（４）権利侵害責任	中華人民共和国民法典（権利侵害責任）（侵権責任法の基本原則、一般不法行為、特殊不法行為等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典（権利侵害責任法）を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国民法典（権利侵害責任法）のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国民法典（権利侵害責任法）のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
15	前期のまとめ	前期のまとめ	
	この回の到達目標	前期の学習内容を説明できること。	
	事前学修	前期のプリントをすべて通読すること。（2時間）	120分
	事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

科目名	外国法A(アジア)Ⅱ	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
アジア諸国を見れば、大陸法系、英米法系、宗教法型、慣習法型、ハイブリッド型等の法体系が存在する。その他にも、社会主義法系国家が比較的に多いことが東アジア法の特色である。とりわけ、中華人民共和国法は独自の社会主義法体系を有するが、国際的には、香港、マカオ、多数の少数民族自治区等を通じて複合的な法体系を有している。本講義においては、中華人民共和国法について、その法体系の特徴、公法及び私法に亘って講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
隣接科目の履修のために必要となる中華人民共和国法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる中華人民共和国に関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される社会主義法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
担当者が作成したプリントに基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における中華人民共和国法の位置づけについて説明することができる。					2					2		
②	中華人民共和国法と日本法との異同について説明することができる。					2					2		
③	中華人民共和国法が準拠法となった際に、同国法を調査し、適用することを説明することができる。					2					2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	成績評価は、配布資料を踏まえたレポートの提出によって行います。中華人民共和国法に関する総合的な知識を駆使し、多角な視点から、同国法について理解を深めているかを確認する。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては、実施直後の授業において、また、レポートについては、最終授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし	なし	なし	なし		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）教場にて行う。メールアドレス jo.zuisei11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	ガイダンス及び中華人民共和国民法典（５）婚姻（基本原則、婚姻の成立、身分的効力、財産的効力、離婚の方法等）について解説する。	
	この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（２時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国民法典（婚姻）のプリント及びノートを復習する。（２時間）	120分
2	中華人民共和国民法典（６）親子関係	中華人民共和国民法典（６）親子関係（基本原則、実親子関係、養子縁組の成立及び効力、離縁等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典（親子関係）を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国民法典（親子関係）のプリントを読むこと。（２時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国民法典（親子関係）のプリント及びノートを復習する。（２時間）	120分
3	中華人民共和国民法典（７）相続	中華人民共和国民法典（相続）（基本原則、法定相続、遺言相続等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国民法典（相続）を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国民法典（相続）のプリントを読むこと。（２時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国民法典（相続）のプリント及びノートを復習する。（２時間）	120分
4	中華人民共和國会社法	中華人民共和國会社法（公司法の変遷、会社の形態、企業法務の課題）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和國会社法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和國会社法のプリントを読むこと。（２時間）	120分
	事後学修	中華人民共和國会社法プリント及びノートを復習する。（２時間）	120分
5	中華人民共和國有価証券法	中華人民共和國有価証券法（有価証券市場、有価証券の種類、株式投資の現状）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和國有価証券法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和國有価証券法のプリントを読むこと。（２時間）	120分
	事後学修	中華人民共和國有価証券法プリント及びノートを復習する。（２時間）	120分
6	中華人民共和國民事訴訟法	中華人民共和國民事訴訟法（紛争解決機関及び方法、調停主義、改正法の内容等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和國民事訴訟法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和國民事訴訟法のプリントを読むこと。（２時間）	120分
	事後学修	中華人民共和國民事訴訟法のプリント及びノートを復習する。（２時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中華人民共和国破産法	中華人民共和国破産法（破産制度、手続、債権者の権利、民事再生制度等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国破産法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国破産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国破産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
8	中華人民共和国仲裁法	中華人民共和国仲裁法（民事訴訟との関係、手続、涉外仲裁の課題等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国仲裁法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国仲裁法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国仲裁法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
9	中華人民共和国知的財産権法	中華人民共和国知的財産権法（知的財産権の種類、管轄官庁、権利行使等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国知的財産権法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国知的財産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国知的財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
10	中華人民共和国労働法	中華人民共和国労働法（基本理念、労働立法の種類、労働契約、労働基準等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国労働法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国労働法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国労働法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
11	中華人民共和国経済法	中華人民共和国経済法（範囲、独占禁止法、不正競争法、企業所得税法等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国経済法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国経済法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国経済法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
12	中華人民共和国国際私法	中華人民共和国国際私法（涉外民事関係法律適用法、最高人民法院司法解释、条約、区際私法等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国国際私法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国国際私法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国国際私法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中華人民共和国における国際公法	中華人民共和国における国際公法（国際条約、二国間条約、国際慣習法、国籍法）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国における国際公法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国における国際公法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国における国際公法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
14	中華人民共和国における国際経済法	中華人民共和国における国際経済法（WTOの加盟及び課題、対外貿易の規制等）について解説する。	
	この回の到達目標	中華人民共和国における国際経済法を説明できること。	
	事前学修	中華人民共和国における国際経済法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華人民共和国における国際経済法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
15	後期のまとめ	後期のまとめ	
	この回の到達目標	後期の学習内容を説明できること。	
	事前学修	後期のプリントをすべて通読すること。（2時間）	120分
	事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

科目名	外国法A(EU) I	担当者	庄司 克宏	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から知識を修得することを目的とする。第1にEU法令が誰により、どのように立法されるのか、第2にEU行政は誰により、どのように行われるのか、第3にEUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて、理解すること。また、第4にEU法秩序がいかなる原則に基づき成立しているのかを、EU司法裁判所の判例法から理解すること。そしてこれらを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず手元に用意すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回手元に用意すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	EUが超国家的な法秩序を構成するとはどのような意味なのか、また、なぜEUレベルで憲法が必要とされるのかをについて理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
②	EU法令が誰により、どのように定められるのか、EU行政は誰により、どのように行われるのか、また、EUにおける司法権は誰により、どのようになされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
③	EU基本条約の諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				2	2				2		
④	EU基本条約の諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、毎回の授業内容に関する小テスト(教科書2冊、ハンドアウト、ノート参照可)により評価する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説・講評を、毎週、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法基礎篇	庄司克宏	岩波書店	2013年	教科書	必携
はじめてのEU法	庄司克宏	有斐閣	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール shoji.katsuhiro11@nihon-u.ac.jp により、授業内容に関する質問や相談を受け付ける（★授業内容以外の質問や相談には回答しない）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	EU法入門第1回		EU法入門（１）EU法を支える原則は何か（一） ヨーロッパ統合とEU法、個人が裁判所でEU法を使えるということ
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ヨーロッパ統合とEU法、および、EU法と個人の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法』第1～2回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	EU法入門第2回		EU法入門（２）EU法を支える原則は何か（二） EU法と国家主権の調整
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ヨーロッパ統合とにおけるEU法と国家主権の調整について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	EU法入門第3回		EU法入門（３）トランスナショナルな法空間の構築（一） トランスナショナルな法空間、物・人・サービス・資本の自由移動
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間としての物・人・サービス・資本の自由移動について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法』第4～5回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	EU法入門第4回		EU法入門（４）トランスナショナルな法空間の構築（二） トランスナショナルな自由競争、単一通貨ユーロの仕組み
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間における競争法と単一通貨について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法』第6～7回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	EU法入門第5回		EU法入門（５）トランスナショナルな課題とEU法 EU市民権と外国人、物の自由移動と契約法、人の自由移動と刑事司法協力、域内市場と環境保護
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法に基づくトランスナショナルな法空間において、どのような問題が生じ、いかにして解決されているかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法』第8～11回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	EU基本条約と権限類型		EU法制度の発展（一） EU法制度とその発展を、EU基本条約と権限類型に関連づけてそれぞれ説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法制度とその発展について、EU基本条約と権限類型に関連づけて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』序章、第1～2章、第5章、『はじめてのEU法』第12回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	EU法の法源とEU諸機関	EU法制度の発展（二） EU法制度とその発展を、EU法の法源とEU諸機関の発展に関連づけてそれぞれ説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法制度とその発展について、EU法の法源とEU諸機関の発展に関連づけて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』序章、第1～2章、第5章、『はじめてのEU法』第12回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	EU立法手続	EU立法（一） 通常立法手続および特別立法手続、立法手続における諸機関の役割、補完性手続による国内議会の監視について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU立法手続、EU諸機関および国内議会の役割について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章1～3節、6節、『はじめてのEU法』第13回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	EU法秩序と「民主主義の赤字」	EU立法（二） EU法秩序における「民主主義の赤字」という問題についても触れる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、「民主主義の赤字」という問題がなぜ生じ、どのように解決されるべきかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章1～3節、6節、『はじめてのEU法』第13回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	EU行政	EU行政 コミッションによる委任立法、EU立法の実施におけるコミトロジーおよび補助機関についてメローニ原則を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUにおいて行政がどのように行われるのかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章4節、『はじめてのEU法』第14回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	EU裁判所組織と訴訟類型	EU司法（一） 裁判所組織と訴訟の類型を概観した後、先決付託手続と国内裁判所との関係に焦点を当てる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	先決付託手続	EU司法（二） 裁判所組織と訴訟の類型を概観した後、先決付託手続と国内裁判所との関係に焦点を当てる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	取消訴訟と違法性の抗弁	EU司法（三） 取消訴訟（先決付託手続きとの関係を含む）および違法性の抗弁、ならびに義務不履行訴訟を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	義務不履行訴訟	EU司法（四） 取消訴訟（先決付託手続きとの関係を含む）および違法性の抗弁、ならびに義務不履行訴訟を中心に解説する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	総括と質疑	総括と質疑	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法』および『新EU法基礎篇』の学習部分を再読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法A(EU)Ⅱ	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から知識を修得することを目的とする。第1にEU法令が誰により、どのように立法されるのか、第2にEU行政は誰により、どのように行われるのか、第3にEUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて、理解すること。また、第4にEU法秩序がいかなる原則に基づき成立しているのかを、EU司法裁判所の判例法から理解すること。そしてこれらを説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	EUが超国家的な法秩序を構成するとはどのような意味なのか、また、なぜEUレベルで憲法が必要とされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2	2				2		
②	EU法令が誰により、どのように定められるのか、EU行政は誰により、どのように行われるのか、また、EUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2	2				2		
③	EU基本条約の諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】					2	2				2		
④	EU基本条約の諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べるができる。【態度・習慣】					2	2				2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、毎回の授業内容に関する小テスト(教科書2冊、ハンドアウト、ノート参照可)により評価する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説・講評を、毎週、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法基礎篇	庄司克宏	岩波書店	2013年	教科書	必携
はじめてのEU法	庄司克宏	有斐閣	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール shoji.katsuhirou11@nihon-u.ac.jp により、授業内容に関する質問や相談を受け付ける（★授業内容以外の質問や相談には回答しない）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	EU法の直接効果		EU法の直接効果と優越性（一） EU法秩序を確立した判例法として、直接効果に関するVan Gend en Loos判決を紹介し、EU法の直接効果の定義および要件について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、直接効果に関するVan Gend en Loos判決について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法』第2回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	EU法の優越性		EU法の直接効果と優越性（二） EU法秩序を確立した判例法として、EU法の国内法に対する優越性に関するCosta v ENEL判決について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法の国内法に対する優越性に関するCosta v ENEL判決について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	EU指令と直接効果		EU法の直接効果と優越性（三） EU法の直接効果に関し、「指令」に焦点を当てて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの「指令」の直接効果について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法』第2回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	EU指令とその他の効果		EU法の直接効果と優越性（四） 「指令」の直接効果以外の効果として、国内裁判所の適合解釈義務、および、抵触国内法の適用排除義務について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、「指令」における国内裁判所の適合解釈義務、および、抵触国内法の適用排除義務について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	EU法違反と国家賠償責任		EU法の直接効果と優越性（五） EU法違反に対する加盟国の損害賠償責任について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法違反に対する加盟国の損害賠償責任について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	EU法の優越性と国民的一体性条項		EU法の直接効果と優越性（六） とくに「指令」の直接効果以外の効果（国内裁判所の適合解釈義務、抵触国内法の適用排除義務、加盟国の損害賠償責任）について解説する。また、EU法の優越性の範囲と国民的一体性条項について解説する。その際、立憲的多元主義についても触れる。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	加盟国の手続的自律性の根拠と定義		EU法上の権利に対する国内的救済—加盟国の手続的自律性（一） 直接効果を有し、かつ国内法に優越するEU法規定に基づく権利が私人に付与されたとしても、その侵害に対する救済は国内裁判所において国内法に依拠して行われる。それは加盟国の手続的自律性と呼ばれる。その根拠および定義について理論的に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、加盟国の手続的自律性の根拠および定義について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第8章を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
8	加盟国の手続的自律性の要件		EU法上の権利に対する国内的救済—加盟国の手続的自律性（二） 加盟国の手続的自律性の要件としての同等性および実効性に焦点を当てる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、加盟国の手続的自律性の要件としての同等性および実効性について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第8章を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
9	EU法の下における基本的人権の保護と判例法		EU法の下における基本的人権の保護（一） EU司法裁判所が基本権保護に関する判例法をどのように形成してきたのかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所が基本権保護に関する判例法をどのように形成してきたのかについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
10	EU司法裁判所と基本権審査の範囲		EU法の下における基本的人権の保護（二） EU司法裁判所の基本権に関する審査権の範囲はどこまで及ぶのかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の基本権に関する審査権の範囲について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
11	EU基本権憲章と欧州人権条約		EU法の下における基本的人権の保護（三） EU司法裁判所の判例法におけるEU基本権憲章および欧州人権条約の位置づけについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の判例法におけるEU基本権憲章および欧州人権条約の位置づけについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
12	EUの欧州人権条約加入		EU法の下における基本的人権の保護（四） EUの欧州人権条約加入問題の現状と課題について、EU司法裁判所の判例法を中心に検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU司法裁判所の判例法を踏まえてEUの欧州人権条約加入問題の現状と課題について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	イギリスのEU離脱		EU脱退手続と権利停止手続（一） Brexit（イギリスのEU離脱）
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、イギリスのEU離脱問題とその結果について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第10章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
14	加盟国による「法の支配」原則違反		EU脱退手続と権利停止手続（二） ポーランド・ハンガリーの「法の支配」違反問題
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ポーランド・ハンガリーの「法の支配」違反問題について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法基礎篇』第10章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
15	総括と質疑		総括と質疑
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまで学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『はじめてのEU法』および『新EU法基礎篇』の学習部分を再読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。	120分

科目名	外国法A(英米) I	担当者	C.スチュードベーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ憲法の出発点であり、その基礎となっている「連邦と州の関係」に焦点を当て、連邦の管轄の限界について検討する。 次いで、「違憲立法審査権」「連邦制度（連邦と州の規制権の関係）」「判例法主義」「デュー・プロセス」「基本的人権」について判例をベースに正確な理解を目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)								
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-5 挑戦力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-6 コミュニケーション力					
	A-4	問題発見・解決力	A-7 リーダーシップ・協働力					
			A-8 省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景、(2) アメリカ連邦制度における連邦の権限、及び(3) アメリカ連邦制度における州の権限を理解し日本の法制度と比較しつつアメリカの最高裁の重要判例をとおして説明できるようになる。		2	2				2
②	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡、(2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡、及び(3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡を認識し説明できるようになる。		2	2				2
③	英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解し日本語で説明できるようになる。		2	2				2
④								
⑤								
⑥								
⑦								
⑧								
⑨								
⑩								

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期中に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知 (共訳)	国際書院	1998	その他	推奨
『アメリカ法判例百選』	樋口範雄編	有斐閣	2012	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米法・アメリカ合衆国概要	(1) アメリカ合衆国 (The United States of America) の概要 (人口、人種構成、使用言語、法律問題、政治問 題、経済問題、等) ; (2) 英米法 (Common Law) と大陸法 (Civil Law) の比較	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の概要について理解し説明できるようになる。	
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の法制度にみられるそれぞれの特徴の相違が現代の私たちの生活に与える影響について考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	アメリカ合衆国の連邦制度	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景 ; (2) アメリカ連邦制度における連邦の権限 ; (3) アメリカ連邦制度における州の権限	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカの連邦政府の特徴について理解し説明できるようになる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	アメリカの法と裁判制度	(1) アメリカ法の法源 (コモンロー、エクイティー、制定法、リステイトメント) ; (2) アメリカ法の分類 (連邦 法と州法、公法と私法、民法と商法、手続法と実体法) ; (3) アメリカ裁判制度概観	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカにおけるコモンローとエクイティーの二重構造と妥当なアメリカ法の分類方法及びアメリカの裁判制度について理解し説明できるようになる	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	アメリカ合衆国憲法と三権分立 (Separation of Powers)	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡 ; (2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡 (3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカ政府における三権分立の特徴を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条～3条を読み、違憲立法審査権を定める条文の有無を確認しておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	連邦司法府の連邦議会に対する違憲立法審査権	(1) 連邦司法府の違憲立法審査権とその根拠 ; (2) 判例研究 : Marbury v. Madison	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し判例の法的争点と法理について理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Marbury v. Madison) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	連邦司法府の州議会または州最高裁判決に対する違憲立法審査権	(1) 判例研究 : Fletcher v. Peck ; (2) 判例研究 : Martin v. Hunter' s Lessee	
	この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Fletcher v. Peck; Martin v. Hunter' s Lessee) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「必要かつ適当条項」に基づく連邦議会の立法権	(1) 合衆国憲法1条8節18項(「必要かつ適当条項」); (2) 判例研究: McCulloch v. Maryland	
	この回の到達目標	上記条文と判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(McCulloch v. Maryland)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権I	(1) 合衆国憲法1条8節3項(「州際通商条項」); (2) 合衆国憲法修正10条(「留保条項」)との関係; (3) 判例研究: Gibbons v. Ogden	
	この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Gibbons v. Ogden)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権II	(1) 判例研究: Wickard v. Filburn; (2) 判例研究: Cooley v. Board of Wrdens; (3) 判例研究: Southern Pacific Co. v. Arizona	
	この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Wickard v. Filburn; Cooley v. Board of Wrdens; Southern Pacific Co. v. Arizona)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権III	(1) 判例研究: Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority; (2) 「州際通商条項」に関する判例の流れとまとめ	
	この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	判例法主義I	(1) イギリスの先例拘束性; (2) 判例研究: London Tramways Co. v. London County Council; (3) Practice Statement [1966]による修正	
	この回の到達目標	上記のイギリスの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(London Tramways Co. v. London County Council)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。また、配布資料(Practice Statement [1966])を読み、イギリスの判例法主義についてまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	判例法主義II	(1) アメリカの先例拘束性; (2) 判例研究: Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey	
	この回の到達目標	上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	連邦裁判所で適用される州法	(1) 「エリー法理」の確立；(2) 判例研究：Swift v. Tyson (3) 判例研究：Erie Railroad Co. v. Tompkins	
	この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Swift v. Tyson; Erie Railroad Co. v. Tompkins）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明できるようになる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ憲法の出発点であり、その基礎となっている「連邦と州の関係」に焦点を当て、連邦の管轄の限界について検討する。 次いで、「違憲立法審査権」「連邦制度（連邦と州の規制権の関係）」「判例法主義」「デュー・プロセス」「基本的人権」について判例をベースに正確な理解を目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景、(2) アメリカ連邦制度における連邦の権限、及び(3) アメリカ連邦制度における州の権限を理解し日本の法制度と比較しつつアメリカの最高裁の重要判例をとおして説明できるようになる。						2	2				2		
②	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡、(2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡、及び(3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡を認識し説明できるようになる。						2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文(英文)で理解し日本語で説明できるようになる。						2	2				2		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期中に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知 (共訳)	国際書院	1998	その他	推奨
『アメリカ法判例百選』	樋口範雄編	有斐閣	2012	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米法・アメリカ合衆国概要	(1) アメリカ合衆国 (The United States of America) の概要 (人口、人種構成、使用言語、法律問題、政治問題、経済問題、等) ; (2) 英米法 (Common Law) と大陸法 (Civil Law) の比較	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の概要について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の法制度にみられるそれぞれの特徴の相違が現代の私たちの生活に与える影響について考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	アメリカ合衆国の連邦制度	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景 ; (2) アメリカ連邦制度における連邦の権限 ; (3) アメリカ連邦制度における州の権限	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカの連邦政府の特徴について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	アメリカの法と裁判制度	(1) アメリカ法の法源 (コモンロー、エクイティー、制定法、リステイメント) ; (2) アメリカ法の分類 (連邦法と州法、公法と私法、民法と商法、手続法と実体法) ; (3) アメリカ裁判制度概観	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカにおけるコモンローとエクイティーの二重構造と妥当なアメリカ法の分類方法及びアメリカの裁判制度について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	アメリカ合衆国憲法と三権分立 (Separation of Powers)	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡 ; (2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡 (3) 司法府と立法府の間にみる抑制と均衡	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ政府における三権分立の特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条～3条を読み、違憲立法審査権を定める条文の有無を確認しておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	連邦司法府の連邦議会に対する違憲立法審査権	(1) 連邦司法府の違憲立法審査権とその根拠 ; (2) 判例研究 : Marbury v. Madison	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し判例の法的争点と法理について理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Marbury v. Madison) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	連邦司法府の州議会または州最高裁判決に対する違憲立法審査権	(1) 判例研究 : Fletcher v. Peck ; (2) 判例研究 : Martin v. Hunter' s Lessee	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Fletcher v. Peck; Martin v. Hunter' s Lessee) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「必要かつ適当条項」に基づく連邦議会の立法権	(1) 合衆国憲法1条8節18項(「必要かつ適当条項」); (2) 判例研究: McCulloch v. Maryland	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記条文と判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(McCulloch v. Maryland)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権I	(1) 合衆国憲法1条8節3項(「州際通商条項」); (2) 合衆国憲法修正10条(「留保条項」)との関係; (3) 判例研究: Gibbons v. Ogden	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Gibbons v. Ogden)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権II	(1) 判例研究: Wickard v. Filburn; (2) 判例研究: Cooley v. Board of Wrdens; (3) 判例研究: Southern Pacific Co. v. Arizona	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Wickard v. Filburn; Cooley v. Board of Wrdens; Southern Pacific Co. v. Arizona)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権III	(1) 判例研究: Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority; (2) 「州際通商条項」に関する判例の流れとまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	判例法主義I	(1) イギリスの先例拘束性; (2) 判例研究: London Tramways Co. v. London County Council; (3) Practice Statement [1966]による修正	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のイギリスの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(London Tramways Co. v. London County Council)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。また、配布資料(Practice Statement [1966])を読み、イギリスの判例法主義についてまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	判例法主義II	(1) アメリカの先例拘束性; (2) 判例研究: Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例(Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey)を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	連邦裁判所で適用される州法	(1) 「エリー法理」の確立；(2) 判例研究：Swift v. Tyson (3) 判例研究：Erie Railroad Co. v. Tompkins	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Swift v. Tyson; Erie Railroad Co. v. Tompkins）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ憲法の出発点であり、その基礎となっている「連邦と州の関係」に焦点を当て、連邦の管轄の限界について検討する。 次いで、「違憲立法審査権」「連邦制度（連邦と州の規制権の関係）」「判例法主義」「デュー・プロセス」「基本的人権」について判例をベースに正確な理解を目指す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景、(2) アメリカ連邦制度における連邦の権限、及び(3) アメリカ連邦制度における州の権限を理解し日本の法制度と比較しつつアメリカの最高裁の重要判例をとおして説明できるようになる。				2	2				2		
②	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡、(2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡、及び(3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡を認識し説明できるようになる。				2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文(英文)で理解し日本語で説明できるようになる。				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期中に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知(共訳)	国際書院	1998	その他	推奨
『アメリカ法判例百選』	樋口範雄編	有斐閣	2012	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米法・アメリカ合衆国概要	(1) アメリカ合衆国 (The United States of America) の概要 (人口、人種構成、使用言語、法律問題、政治問 題、経済問題、等) ; (2) 英米法 (Common Law) と大陸法 (Civil Law) の比較	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の概要について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の法制度にみられるそれぞれの特徴の相違が現代の私たちの生活に与える影響について考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
2	アメリカ合衆国の連邦制度	(1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景 ; (2) アメリカ連邦制度における連邦の権限 ; (3) アメリカ連邦制度における州の権限	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカの連邦政府の特徴について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
3	アメリカの法と裁判制度	(1) アメリカ法の法源 (コモンロー、エクイティー、制定法、リステイトメント) ; (2) アメリカ法の分類 (連邦 法と州法、公法と私法、民法と商法、手続法と実体法) ; (3) アメリカ裁判制度概観	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカにおけるコモンローとエクイティーの二重構造と妥当なアメリカ法の分類方法及びアメリカの裁判制度について理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
4	アメリカ合衆国憲法と三権分立 (Separation of Powers)	(1) 立法府と行政府の間にみる抑制と均衡 ; (2) 行政府と司法府の間にみる抑制と均衡 (3) 司法府と立法府の間 にみる抑制と均衡	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ政府における三権分立の特徴を理解し説明できる。	
	事前学修	アメリカ合衆国憲法1条～3条を読み、違憲立法審査権を定める条文の有無を確認しておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
5	連邦司法府の連邦議会に対する違憲立法審査権	(1) 連邦司法府の違憲立法審査権とその根拠 ; (2) 判例研究 : Marbury v. Madison	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し判例の法的争点と法理について理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Marbury v. Madison) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
6	連邦司法府の州議会または州最高裁判決に対する違憲立法審査権	(1) 判例研究 : Fletcher v. Peck ; (2) 判例研究 : Martin v. Hunter' s Lessee	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Fletcher v. Peck; Martin v. Hunter' s Lessee) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「必要かつ適当条項」に基づく連邦議会の立法権		(1) 合衆国憲法1条8節18項（「必要かつ適当条項」）；(2) 判例研究：McCulloch v. Maryland	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記条文と判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前前回の授業で配布された判例（McCulloch v. Maryland）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
8	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権I		(1) 合衆国憲法1条8節3項（「州際通商条項」）；(2) 合衆国憲法修正10条（「留保条項」）との関係；(3) 判例研究：Gibbons v. Ogden	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Gibbons v. Ogden）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
9	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権II		(1) 判例研究：Wickard v. Filburn；(2) 判例研究：Cooley v. Board of Wrdens；(3) 判例研究：Southern Pacific Co. v. Arizona	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Wickard v. Filburn；Cooley v. Board of Wrdens；Southern Pacific Co. v. Arizona）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
10	「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権III		(1) 判例研究：Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority；(2) 「州際通商条項」に関する判例の流れとまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
11	判例法主義I		(1) イギリスの先例拘束性；(2) 判例研究：London Tramways Co. v. London County Council；(3) Practice Statement [1966] による修正	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のイギリスの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（London Tramways Co. v. London County Council）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。また、配布資料（Practice Statement [1966]）を読み、イギリスの判例法主義についてまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
12	判例法主義II		(1) アメリカの先例拘束性；(2) 判例研究：Flood v. Kuhn；Roe v. Wade；Planned Parenthood v. Casey	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明できる。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Flood v. Kuhn；Roe v. Wade；Planned Parenthood v. Casey）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	連邦裁判所で適用される州法	(1) 「エリー法理」の確立；(2) 判例研究：Swift v. Tyson (3) 判例研究：Erie Railroad Co. v. Tompkins	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Swift v. Tyson; Erie Railroad Co. v. Tompkins）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	C.スチュードベーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカの司法制度を学修し、主に人権問題について考察する。「平等条項」及び「デュー・プロセス」を手掛かりに、人種差別、性と婚姻の自由等を検証する。また、表現の自由、信教の自由等についても検証する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アメリカの連邦と州の司法府の二重構造における相関関係について管轄権の見解から理解し説明できるようになる。					2	2				2		
②	基本的人権に関する最高裁の判例から法的争点と法理を認識し抽出できる能力を身につける。					2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解し日本語で説明できるようになる。					2	2				2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知 (共訳)	国際書院	1998	その他	任意
『アメリカ法判例百選』	樋口範雄編	有斐閣	2012	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	連邦と州の裁判制度 I		(1) 連邦の裁判制度 (2) 州の裁判制度 (3) 裁判所の選択	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の連邦裁判所と州裁判所の管轄権の概要について原文での専門用語を理解し説明できるようになる。		
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の裁判制度にみられるそれぞれの特徴について法学部の図書館の書籍及びデータベースを使用して調べその相違点について自分なりの考えをまとめておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
2	連邦と州の物的管轄権		(1) 連邦裁判所の物的管轄権 (2) 州裁判所の物的管轄権 (3) 競合的物的管轄権	
	この回の到達目標	事案問題を使用し、連邦と州のいずれの裁判所に訴訟を提起すべきかを学修しその判断要素を整理し説明する。		
	事前学修	合衆国憲法 3 条を読み、連邦司法府の物的管轄権の範囲を考察し整理する。わからない英米法の法律専門用語を『英米法 辞典』等で調べておく		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
3	人的管轄権の拡張と縮小		(1) 判例研究：Pennoyer v. Neff (2) 判例研究：International Shoe Co. v. Washington (3) 判例研究：Shaffer v. Heitner (4) 判例研究：Daimler AG v. Bauman	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、アメリカの裁判所の人的管轄権の拡張と最近の縮小の動向について考察し判例の流れをとらえて説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Pennoyer v. Neff; International Shoe Co. v. Washington; Shaffer v. Heitner; Daimler AG v. Bauman) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
4	州と州の関係		(1) 他州判決の承認と執行 (2) 判例研究：Sherrer v. Sherrer (3) 判例研究：Williams v. North Carolina	
	この回の到達目標	アメリカの州裁判所の判決が他の州で承認・執行される要件を判例をとおして整理して説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Sherrer v. Sherrer; Williams v. North Carolina) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
5	裁判所における実体準拠法の選択基準		(1) 契約法の準拠法の選択基準 (2) 不法行為法の準拠法の選択基準 (3) 判例研究：Babcock v. Jackson	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し判例をとおしてその法的争点と法理について理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Babcock v. Jackson) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
6	陪審制度I		(1) 連邦と州の刑事および民事陪審制度の相関関係 (2) 民事陪審制度におけるコモンローとエクイティの救済 (3) 判例研究：Curtis v. Loether	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、連邦と州における民事事件・刑事事件の陪審審理の相違点を理解し説明する。		
	事前学修	合衆国憲法修正 6 条および 7 条を読み、連邦が刑事事件または民事事件で保障する陪審制度を学習しまとめておく。前回の授業で配布された判例 (Curtis v. Loether) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	陪審制度II		(1) 判例研究：Apodaca v. Oregon (2) 判例研究：J.E.B. v. Alabama ex rel. TB (3) 判例研究：Williams v. Florida	
	この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Apodaca v. Oregon; J.E.B. v. Alabama ex rel. TB; Williams v. Florida）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
8	基本的人権 I		(1) 合衆国憲法修正第1条（信教の自由） (2) 判例研究：Lemon v. Kurtzman (3) 判例研究：Wisconsin v. Yoder	
	この回の到達目標	上記の政教分離・信教の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Lemon v. Kurtzman; Wisconsin v. Yoder）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
9	基本的人権 II		(1) 合衆国憲法修正第1条（言論・出版の自由） (2) 判例研究：Schenck v. United States (3) 判例研究：New York Times Co. v. United States	
	この回の到達目標	上記の言論・出版の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Schenck v. United States; New York Times Co. v. United States）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
10	基本的人権 III		(1) 判例研究：Miller v. California (2) 判例研究：New York Times Co. v. Sullivan (3) 判例研究：Texas v. Johnson	
	この回の到達目標	上記の表現の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Miller v. California; New York Times Co. v. Sullivan; Texas v. Johnson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
11	基本的人権 IV		(1) 合衆国憲法修正第14条（平等権） (1) 判例研究：Dred Scott Case (2) 判例研究：Plessy v. Ferguson (3) 判例研究：Brown v. Board of Education, (4) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
	この回の到達目標	上記の人種差別に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Dred Scott Case; Plessy v. Ferguson; Brown v. Board of Education of Topeka; Moose Lodge No. 107 v. Irvis; ）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
12	基本的人権 V		テーマ：平等権II (1) 判例研究：Shelley v. Kraemer (2) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
	この回の到達目標	上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Shelley v. Kraemer; Moose Lodge No. 107 v. Irvis）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基本的人権 VI	(1) 判例研究：Regents of the University of California v. Bakke (2) 判例研究：Phillips v. Martin Marietta Corp. (3) 判例研究：Missouri v. Jenkins；(4) Gratz v. Bollinger；(5) Grutter v. Bollinger	
	この回の到達目標	上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Regents of the University of California v. Bakke；Phillips v. Martin Marietta Corp.；Missouri v. Jenkins；Gratz v. Bollinger；Grutter v. Bollinger）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律 専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明する。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカの司法制度を学修し、主に人権問題について考察する。「平等条項」及び「デュー・プロセス」を手掛かりに、人種差別、性と婚姻の自由等を検証する。また、表現の自由、信教の自由等についても検証する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アメリカの連邦と州の司法府の二重構造における相関関係について管轄権の見解から理解し説明できるようになる。				2	2				2		
②	基本的人権に関する最高裁の判例から法的争点と法理を認識し抽出できる能力を身につける。				2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解し日本語で説明できるようになる。				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知(共訳)	国際書院	1998	その他	任意
『アメリカ法判例百選』	樋口範雄編	有斐閣	2012	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	連邦と州の裁判制度 I		(1) 連邦の裁判制度 (2) 州の裁判制度 (3) 裁判所の選択	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の連邦裁判所と州裁判所の管轄権の概要について原文での専門用語を理解し説明できるようになる。		
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の裁判制度にみられるそれぞれの特徴について法学部の図書館の書籍及びデータベースを使用して調べその相違点について自分なりの考えをまとめておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
2	連邦と州の物的管轄権		(1) 連邦裁判所の物的管轄権 (2) 州裁判所の物的管轄権 (3) 競合的物的管轄権	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事案問題を使用し、連邦と州のいずれの裁判所に訴訟を提起すべきかを学修しその判断要素を整理し説明する。		
	事前学修	合衆国憲法3条を読み、連邦司法府の物的管轄権の範囲を考察し整理する。わからない英米法の法律専門用語を『英米法 辞典』等で調べておく		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
3	人的管轄権の拡張と縮小		(1) 判例研究：Pennoyer v. Neff (2) 判例研究：International Shoe Co. v. Washington (3) 判例研究：Shaffer v. Heitner (4) 判例研究：Daimler AG v. Bauman	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、アメリカの裁判所の人的管轄権の拡張と最近の縮小の動向について考察し判例の流れをとらえて説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Pennoyer v. Neff; International Shoe Co. v. Washington; Shaffer v. Heitner; Daimler AG v. Bauman) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
4	州と州の関係		(1) 他州判決の承認と執行 (2) 判例研究：Sherrer v. Sherrer (3) 判例研究：Williams v. North Carolina	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの州裁判所の判決が他の州で承認・執行される要件を判例をとおして整理して説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Sherrer v. Sherrer; Williams v. North Carolina) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
5	裁判所における実体準拠法の選択基準		(1) 契約法の準拠法の選択基準 (2) 不法行為法の準拠法の選択基準 (3) 判例研究：Babcock v. Jackson	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し判例をとおしてその法的争点と法理について理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Babcock v. Jackson) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
6	陪審制度I		(1) 連邦と州の刑事および民事陪審制度の相関関係 (2) 民事陪審制度におけるコモンローとエクイティの救済 (3) 判例研究：Curtis v. Loether	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、連邦と州における民事事件・刑事事件の陪審審理の相違点を理解し説明する。		
	事前学修	合衆国憲法修正6条および7条を読み、連邦が刑事事件または民事事件で保障する陪審制度を学習しまとめておく。前回の授業で配布された判例 (Curtis v. Loether) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	陪審制度II		(1) 判例研究：Apodaca v. Oregon (2) 判例研究：J.E.B. v. Alabama ex rel. TB (3) 判例研究：Williams v. Florida	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Apodaca v. Oregon; J.E.B. v. Alabama ex rel. TB; Williams v. Florida）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
8	基本的人権 I		(1) 合衆国憲法修正第1条（信教の自由） (2) 判例研究：Lemon v. Kurtzman (3) 判例研究：Wisconsin v. Yoder	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の政教分離・信教の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Lemon v. Kurtzman; Wisconsin v. Yoder）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
9	基本的人権 II		(1) 合衆国憲法修正第1条（言論・出版の自由） (2) 判例研究：Schenck v. United States (3) 判例研究：New York Times Co. v. United States	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の言論・出版の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Schenck v. United States; New York Times Co. v. United States）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
10	基本的人権 III		(1) 判例研究：Miller v. California (2) 判例研究：New York Times Co. v. Sullivan (3) 判例研究：Texas v. Johnson	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の表現の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Miller v. California; New York Times Co. v. Sullivan; Texas v. Johnson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
11	基本的人権 IV		(1) 合衆国憲法修正第14条（平等権） (1) 判例研究：Dred Scott Case (2) 判例研究：Plessy v. Ferguson (3) 判例研究：Brown v. Board of Education, (4) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の人種差別に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Dred Scott Case; Plessy v. Ferguson; Brown v. Board of Education of Topeka; Moose Lodge No. 107 v. Irvis; ）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
12	基本的人権 V		テーマ：平等権II (1) 判例研究：Shelley v. Kraemer (2) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Shelley v. Kraemer; Moose Lodge No. 107 v. Irvis）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基本的人権 VI	(1) 判例研究：Regents of the University of California v. Bakke (2) 判例研究：Phillips v. Martin Marietta Corp. (3) 判例研究：Missouri v. Jenkins；(4) Gratz v. Bollinger；(5) Grutter v. Bollinger	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Regents of the University of California v. Bakke；Phillips v. Martin Marietta Corp.；Missouri v. Jenkins；Gratz v. Bollinger；Grutter v. Bollinger) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律 専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明する。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカの司法制度を学修し、主に人権問題について考察する。「平等条項」及び「デュー・プロセス」を手掛かりに、人種差別、性と婚姻の自由等を検証する。また、表現の自由、信教の自由等についても検証する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文に遡って検証し、 (2)リーディング・ケースを少なくとも20以上読み、分析、整理する ことを通して、合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、問題点を受講生が分析、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アメリカの連邦と州の司法府の二重構造における相関関係について管轄権の見解から理解し説明できるようになる。					2	2				2		
②	基本的人権に関する最高裁の判例から法的争点と法理を認識し抽出できる能力を身につける。					2	2				2		
③	英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解し日本語で説明できるようになる。					2	2				2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は、記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ憲法の主要論点が理解されているか、具体的判例を分析できるかについてテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に二回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度。基本用語の理解度をテストする。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者は評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知(共訳)	国際書院	1998	その他	任意
『アメリカ法判例百選』	樋口範雄編	有斐閣	2012	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	連邦と州の裁判制度 I		(1) 連邦の裁判制度 (2) 州の裁判制度 (3) 裁判所の選択	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカ合衆国の連邦裁判所と州裁判所の管轄権の概要について原文での専門用語を理解し説明できるようになる。		
	事前学修	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の裁判制度にみられるそれぞれの特徴について法学部の図書館の書籍及びデータベースを使用して調べその相違点について自分なりの考えをまとめておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
2	連邦と州の物的管轄権		(1) 連邦裁判所の物的管轄権 (2) 州裁判所の物的管轄権 (3) 競合的物的管轄権	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事案問題を使用し、連邦と州のいずれの裁判所に訴訟を提起すべきかを学修しその判断要素を整理し説明する。		
	事前学修	合衆国憲法3条を読み、連邦司法府の物的管轄権の範囲を考察し整理する。わからない英米法の法律専門用語を『英米法 辞典』等で調べておく		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
3	人的管轄権の拡張と縮小		(1) 判例研究：Pennoyer v. Neff (2) 判例研究：International Shoe Co. v. Washington (3) 判例研究：Shaffer v. Heitner (4) 判例研究：Daimler AG v. Bauman	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、アメリカの裁判所の人的管轄権の拡張と最近の縮小の動向について考察し判例の流れをとらえて説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Pennoyer v. Neff; International Shoe Co. v. Washington; Shaffer v. Heitner; Daimler AG v. Bauman) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
4	州と州の関係		(1) 他州判決の承認と執行 (2) 判例研究：Sherrer v. Sherrer (3) 判例研究：Williams v. North Carolina	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの州裁判所の判決が他の州で承認・執行される要件を判例をとおして整理して説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Sherrer v. Sherrer; Williams v. North Carolina) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
5	裁判所における実体準拠法の選択基準		(1) 契約法の準拠法の選択基準 (2) 不法行為法の準拠法の選択基準 (3) 判例研究：Babcock v. Jackson	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し判例をとおしてその法的争点と法理について理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例 (Babcock v. Jackson) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
6	陪審制度I		(1) 連邦と州の刑事および民事陪審制度の相関関係 (2) 民事陪審制度におけるコモンローとエクイティの救済 (3) 判例研究：Curtis v. Loether	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、連邦と州における民事事件・刑事事件の陪審審理の相違点を理解し説明する。		
	事前学修	合衆国憲法修正6条および7条を読み、連邦が刑事事件または民事事件で保障する陪審制度を学習しまとめておく。前回の授業で配布された判例 (Curtis v. Loether) を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	陪審制度II		(1) 判例研究：Apodaca v. Oregon (2) 判例研究：J.E.B. v. Alabama ex rel. TB (3) 判例研究：Williams v. Florida	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し当該判例の法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Apodaca v. Oregon; J.E.B. v. Alabama ex rel. TB; Williams v. Florida）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
8	基本的人権 I		(1) 合衆国憲法修正第1条（信教の自由） (2) 判例研究：Lemon v. Kurtzman (3) 判例研究：Wisconsin v. Yoder	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の政教分離・信教の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Lemon v. Kurtzman; Wisconsin v. Yoder）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
9	基本的人権 II		(1) 合衆国憲法修正第1条（言論・出版の自由） (2) 判例研究：Schenck v. United States (3) 判例研究：New York Times Co. v. United States	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の言論・出版の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Schenck v. United States; New York Times Co. v. United States）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
10	基本的人権 III		(1) 判例研究：Miller v. California (2) 判例研究：New York Times Co. v. Sullivan (3) 判例研究：Texas v. Johnson	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の表現の自由に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Miller v. California; New York Times Co. v. Sullivan; Texas v. Johnson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
11	基本的人権 IV		(1) 合衆国憲法修正第14条（平等権） (1) 判例研究：Dred Scott Case (2) 判例研究：Plessy v. Ferguson (3) 判例研究：Brown v. Board of Education, (4) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記の人種差別に関する判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Dred Scott Case; Plessy v. Ferguson; Brown v. Board of Education of Topeka; Moose Lodge No. 107 v. Irvis; ）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
12	基本的人権 V		テーマ：平等権II (1) 判例研究：Shelley v. Kraemer (2) 判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記のアメリカの先例拘束性の原理に関する配布資料を学修し判例の法的争点と法理を理解し説明する。		
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Shelley v. Kraemer; Moose Lodge No. 107 v. Irvis）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基本的人権 VI	(1) 判例研究：Regents of the University of California v. Bakke (2) 判例研究：Phillips v. Martin Marietta Corp. (3) 判例研究：Missouri v. Jenkins；(4) Gratz v. Bollinger；(5) Grutter v. Bollinger	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記判例について配布資料を学修し法的争点と法理を理解し説明する。	
	事前学修	前回の授業で配布された判例（Regents of the University of California v. Bakke；Phillips v. Martin Marietta Corp.；Missouri v. Jenkins；Gratz v. Bollinger；Grutter v. Bollinger）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律 専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例の法的争点と法理ごとに要約して説明する。	
	事前学修	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法A(独) I	担当者	栗島 智明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代の日本法の体系・解釈・運用の実態を知る上では、それに影響を与えている外国法の知識を修得することもまた必要となる。この講義で取り扱うドイツ法は、歴史的に見ても、また現代の観点からも、日本法に大きな影響を与えてきた。とりわけ、憲法、行政法、民法、刑法、商法、民事訴訟法などの分野ではドイツ法由来の考え方が多く見受けられる。外国法A（独）では、このうちドイツ公法（憲法・行政法）を中心とした講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、とくにドイツの公法（憲法・行政法）に関する解釈論を修得し、またドイツ公法学に関する専門用語等を学ぶことでより高いレベルでのドイツ公法理解を目指す。世界的に見ても模範とされることの多いドイツの公法学を学ぶことで、そこから日本法への示唆をも引き出せる能力を身につける。

【履修条件】
英語・ドイツ語いずれかの読解能力を有し、かつ、憲法の知識を有すること

【授業方法】		
『An Introduction to German Law/Einführung in das deutsche Recht』と題する指定教科書（英語版・ドイツ語版のいずれも内容は同じであるため、どちらを用いてもよい）の該当部分を受講生が各自であらかじめ読んでくるようにし（＝必須課題。予習を怠る者は不可とする）、授業ではその内容について解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ドイツ公法に関する具体的な問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ公法に関する正確な知識と理解を修得し、この知見を日本の公法理解にも活かすことができる。				2							
②	ドイツの公法に関する専門用語などを学ぶことにより、ドイツ語での議論を理解しすることができる。				2							
③	ドイツ公法に関する諸問題について、正確な知識をもとに議論することができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、ドイツ公法学に関する基本的知識及びそこでの議論に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各回の授業に対する準備，グループ・ディスカッションでの積極的な参加などを総合的に評価する。			30								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
個別に相談に応じる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An Introduction to German Law (7th Edition)	Gerhard Robbers	Nomos	2019	教科書	必携
Einführung in das deutsche Recht (7. Aufl.)	Gerhard Robbers	Nomos	2019	教科書	必携
ドイツ連邦共和国基本法	初宿正典	信山社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
個別に相談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法伝統①	ドイツの法伝統（法典化志向・ローマ法の継受等）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツの法伝統（法典化志向・ローマ法の継受）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
2	法伝統①	ドイツの法伝統（戦後の自然法ルネサンス等）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツの法伝統（戦後の自然法ルネサンス）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
3	法領域①	ドイツにおける法領域の分類（私法・公法・刑法等）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法領域の分類について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
4	法領域②	ドイツにおける法領域の分類（実体法と手続法・ヨーロッパ法等）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法領域の分類（実体法と手続法・ヨーロッパ法等）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
5	法源①	ドイツにおける法源（成文法・判例法の一般論）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法源（成文法・判例法）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
6	法源②	ドイツにおける法源（先例拘束性・慣習法）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法源（先例拘束性・慣習法）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	規範ヒエラルキー①		ドイツにおける規範ヒエラルキー（憲法・実定法を超える法・議会法）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける規範ヒエラルキー（憲法・実定法を超える法・議会法）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
8	規範ヒエラルキー②		ドイツにおける規範ヒエラルキー（国際法・EU法）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける規範ヒエラルキー（国際法・EU法）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
9	法解釈		ドイツにおける法解釈について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法解釈について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
10	裁判権①		ドイツにおける裁判権（全体像・基本原則）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（全体像・基本原則）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
11	裁判権②		ドイツにおける裁判権（個別の5つの裁判権）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（個別の5つの裁判権）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
12	裁判権③		ドイツにおける裁判権（憲法裁判権・EU司法裁判所）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（憲法裁判権・EU司法裁判所）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法曹養成①	ドイツにおける法曹養成（統一法曹・弁護士）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法曹養成（統一法曹・弁護士）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
14	法曹養成②	ドイツにおける法曹養成（裁判官・検察・行政官・大学教員）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法曹養成（裁判官・検察・行政官・大学教員）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
15	法律文献	ドイツにおける法律文献について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法律文献等について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

科目名	外国法A(独)Ⅱ	担当者	栗島 智明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代の日本法の体系・解釈・運用の実態を知る上では、それに影響を与えている外国法の知識を修得することもまた必要となる。この講義で取り扱うドイツ法は、歴史的に見ても、また現代の観点からも、日本法に大きな影響を与えてきた。とりわけ、憲法、行政法、民法、刑法、商法、民事訴訟法などの分野ではドイツ法由来の考え方が多く見受けられる。外国法A（独）では、このうちドイツ公法（憲法・行政法）を中心とした講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、とくにドイツの公法（憲法・行政法）に関する解釈論を修得し、またドイツ公法学に関する専門用語等を学ぶことでより高いレベルでのドイツ公法理解を目指す。世界的に見ても模範とされることの多いドイツの公法学を学ぶことで、そこから日本法への示唆をも引き出せる能力を身につける。

【履修条件】
英語・ドイツ語いずれかの読解能力を有し、かつ、憲法の知識を有すること

【授業方法】		
『An Introduction to German Law/Einführung in das deutsche Recht』と題する指定教科書（英語版・ドイツ語版のいずれも内容は同じであるため、どちらを用いてもよい）の該当部分を受講生が各自であらかじめ読んでくるようにし（＝必須課題。予習を怠る者は不可とする）、授業ではその内容について解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ドイツ公法に関する具体的な問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ公法に関する正確な知識と理解を修得し、この知見を日本の公法理解にも活かすことができる。				2							
②	ドイツの公法に関する専門用語などを学ぶことにより、ドイツ語での議論を理解しすることができる。				2							
③	ドイツ公法に関する諸問題について、正確な知識をもとに議論することができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、ドイツ公法学に関する基本的知識及びそこでの議論に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各回の授業に対する準備，グループ・ディスカッションでの積極的な参加などを総合的に評価する。			30								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
個別に相談に応じる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
An Introduction to German Law (7th Edition)	Gerhard Robbers	Nomos	2019	教科書	必携
Einführung in das deutsche Recht (7. Aufl.)	Gerhard Robbers	Nomos	2019	教科書	必携
ドイツ連邦共和国基本法	初宿正典	信山社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
個別に相談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法伝統①	ドイツの法伝統（法典化志向・ローマ法の継受等）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツの法伝統（法典化志向・ローマ法の継受）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
2	法伝統①	ドイツの法伝統（戦後の自然法ルネサンス等）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツの法伝統（戦後の自然法ルネサンス）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
3	法領域①	ドイツにおける法領域の分類（私法・公法・刑法等）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法領域の分類について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
4	法領域②	ドイツにおける法領域の分類（実体法と手続法・ヨーロッパ法等）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法領域の分類（実体法と手続法・ヨーロッパ法等）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
5	法源①	ドイツにおける法源（成文法・判例法の一般論）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法源（成文法・判例法）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
6	法源②	ドイツにおける法源（先例拘束性・慣習法）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法源（先例拘束性・慣習法）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	規範ヒエラルキー①		ドイツにおける規範ヒエラルキー（憲法・実定法を超える法・議会法）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける規範ヒエラルキー（憲法・実定法を超える法・議会法）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
8	規範ヒエラルキー②		ドイツにおける規範ヒエラルキー（国際法・EU法）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける規範ヒエラルキー（国際法・EU法）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
9	法解釈		ドイツにおける法解釈について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法解釈について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
10	裁判権①		ドイツにおける裁判権（全体像・基本原則）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（全体像・基本原則）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
11	裁判権②		ドイツにおける裁判権（個別の5つの裁判権）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（個別の5つの裁判権）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分
12	裁判権③		ドイツにおける裁判権（憲法裁判権・EU司法裁判所）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける裁判権（憲法裁判権・EU司法裁判所）について説明できるようになる。		
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法曹養成①	ドイツにおける法曹養成（統一法曹・弁護士）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法曹養成（統一法曹・弁護士）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
14	法曹養成②	ドイツにおける法曹養成（裁判官・検察・行政官・大学教員）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法曹養成（裁判官・検察・行政官・大学教員）について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分
15	法律文献	ドイツにおける法律文献について学ぶ。	
	この回の到達目標	ドイツにおける法律文献等について説明できるようになる。	
	事前学修	テキストの該当頁をあらかじめ読み、翻訳をしてくる。関連する条文も翻訳しておくこと。	120分
	事後学修	授業内で扱った内容についてテキストの該当頁を読みながら復習する。	120分

科目名	外国法B(アジア) I	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
中国文化圏における台湾（中華民国）、香港、マカオの法制度及び実定法について講義する。台湾法については日本法との関連において、香港法については英国法との関連において、マカオ法についてはポルトガル法との関連において論及する。更に、それらの地域の住民と中華人民共和国本地居民との間における交流についても、随時、解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
隣接科目の履修のために必要となる台湾法、香港法、マカオ法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる台湾、香港、マカオに関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される台湾法及びマカオ法、そして、英米法系に分類される香港法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
担当者が作成したレジュメ（台湾法、香港法、マカオ法の主要法規の概要）に基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における台湾法の位置づけについて説明することができる。				3	3	3			3		
②	台湾法と日本法の異同について説明することができる。				3	3	3			3		
③	台湾法が準拠法となった際に、当該法を調査し、適用することを説明することができる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	成績評価は、配布資料を踏まえたレポートの提出によって 行います。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	台湾法に関する総合的な知識を駆使し、多角な視点から、 当該法について理解を深めているかを確認する。	20	20	30								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては、実施直後の授業において、また、レポートについては、最終授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし		なし	なし		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること）教場にて行う。メールアドレス jo.zuisei11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	前期のガイダンス。講義の進め方、配布資料、期末レポート等について説明する。	
	この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
2	中華民国法の歴史	中華民国法の歴史について解説する。	
	この回の到達目標	中華民国法の歴史を説明できること。	
	事前学修	中華民国法の歴史のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国法の歴史のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
3	中華民国の法的地位	中華民国の法的地位について解説する。	
	この回の到達目標	中華民国の法的地位を説明できること。	
	事前学修	中華民国の法的地位のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国の法的地位のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
4	中華民国憲法	中華民国憲法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国憲法を説明できること。	
	事前学修	中華民国憲法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国憲法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
5	中華民国行政法	中華民国行政法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国行政法を説明できること。	
	事前学修	中華民国行政法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国行政法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
6	中華民国刑事法	中華民国刑事法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国刑事法を説明できること。	
	事前学修	中華民国刑事法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国刑事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中華民国財産法	中華民国財産法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国財産法を説明できること。	
	事前学修	中華民国財産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
8	中華民国家族法	中華民国家族法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国家族法を説明できること。	
	事前学修	中華民国家族法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
9	中華民国商事法	中華民国商事法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国商事法を説明できること。	
	事前学修	中華民国商事法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国商事法プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
10	中華民国労働法	中華民国労働法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国労働法を説明できること。	
	事前学修	中華民国労働法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国労働法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
11	中華民国知的財産法	中華民国知的財産法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国知的財産法を説明できること。	
	事前学修	中華民国知的財産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国知的財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
12	中華民国国際私法	中華民国国際私法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国国際私法を説明できること。	
	事前学修	中華民国国際私法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国国際私法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中華民国環境法	中華民国環境法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国環境法を説明できること。	
	事前学修	中華民国環境法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国環境法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
14	中華民国の紛争解決方法	中華民国の紛争解決方法について解説する	
	この回の到達目標	中華民国の紛争解決方法を説明できること。	
	事前学修	中華民国の紛争解決方法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	中華民国の紛争解決方法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
15	前期のまとめ	前期のまとめ	
	この回の到達目標	前期の学習内容を説明できること。	
	事前学修	前期のプリントをすべて通読すること。（2時間）	120分
	事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

科目名	外国法B(アジア)Ⅱ	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
中国文化圏における台湾（中華民国）、香港、マカオの法制度及び実定法について講義する。台湾法については日本法との関連において、香港法については英国法との関連において、マカオ法についてはポルトガル法との関連において論及する。更に、それらの地域の住民と中華人民共和国本地居民との間における交流についても、随時、解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
隣接科目の履修のために必要となる台湾法、香港法、マカオ法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる台湾、香港、マカオに関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される台湾法及びマカオ法、そして、英米法系に分類される香港法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
担当者が作成したレジュメ（台湾法、香港法、マカオ法の主要法規の概要）に基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の諸法体系における香港法、マカオ法の位置づけについて説明することができる。					3					3		
②	香港法、マカオ法と日本法の異同について説明することができる。					3					3		
③	香港法、マカオ法が準拠法となった際に、当該法を調査し、適用することを説明することができる。					3					3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	成績評価は、配布資料を踏まえたレポートの提出によって行います。香港法、マカオ法に関する総合的な知識を駆使し、多角な視点から、当該法について理解を深めているかを確認する。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては、実施直後の授業において、また、レポートについては、最終授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし		なし	なし		
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取る） 教場にて行う。メールアドレス jo.zuisei11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		法律実務に関する知識の授与。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	後期のガイダンス。講義の進め方、配布資料、期末レポート等について解説する。	
	この回の到達目標	授業の運営を理解すること。	
	事前学修	授業の復習を行っておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
2	香港法総説	香港法総説	
	この回の到達目標	香港法総説を説明できること。	
	事前学修	香港法総説のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	香港法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
3	香港の憲法性法律	香港の憲法性法律について解説する	
	この回の到達目標	香港の憲法性法律を説明できること。	
	事前学修	香港の憲法性法律のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	香港の憲法性法律のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
4	香港行政法	香港行政法について解説する	
	この回の到達目標	香港行政法を説明できること。	
	事前学修	香港行政法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	香港行政法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
5	香港刑事法	香港刑事法について解説する	
	この回の到達目標	香港刑事法を説明できること。	
	事前学修	香港刑事法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	香港刑事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
6	香港財産法	香港財産法について解説する	
	この回の到達目標	香港財産法を説明できること。	
	事前学修	香港財産法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	香港財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	香港家族法	香港家族法について解説する	
	この回の到達目標	香港家族法を説明できること。	
	事前学修	香港家族法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	香港家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
8	香港企業法	香港企業法について解説する	
	この回の到達目標	香港企業法を説明できること。	
	事前学修	香港企業法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	香港企業法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
9	マカオ法総説	マカオ法総説	
	この回の到達目標	マカオ法総説を説明できること。	
	事前学修	マカオ法総説のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	マカオ法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
10	マカオ民法総説	マカオ民法総説	
	この回の到達目標	マカオ民法総説を説明できること。	
	事前学修	マカオ民法総説のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	マカオ民法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
11	マカオ債権法	マカオ債権法について解説する	
	この回の到達目標	マカオ債権法を説明できること。	
	事前学修	マカオ債権法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	マカオ債権法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
12	マカオ物権法	マカオ物権法について解説する	
	この回の到達目標	マカオ物権法を説明できること。	
	事前学修	マカオ物権法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	マカオ物権法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マカオ家族法	マカオ家族法について解説する	
	この回の到達目標	マカオ家族法を説明できること。	
	事前学修	マカオ家族法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	マカオ家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
14	マカオ商事法	マカオ商事法について解説する	
	この回の到達目標	マカオ商事法を説明できること。	
	事前学修	マカオ商事法のプリントを読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	マカオ商事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）	120分
15	後期のまとめ	後期のまとめ	
	この回の到達目標	後期の学習内容を説明できること。	
	事前学修	後期のプリントをすべて通読すること。（2時間）	120分
	事後学修	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）	120分

科目名	外国法B(EU) I	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から知識を修得することを目的とする。トランスナショナルなEU域内市場法において、物・人・サービスの自由移動に関するEU司法裁判所の判例法について理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	超国家的な法秩序を構成するEUにおける単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）の意義について理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3			3		
②	超国家的な法秩序を構成するEUの単一市場における競争法の意義について理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3			3		
③	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				3	3	3			3		
④	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】				3	3	3			3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、毎回の授業内容に関する小テスト(教科書2冊、ハンドアウト、ノート参照可)により評価する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説・講評を、毎週、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法政策篇	庄司克宏	岩波書店	2014年	教科書	必携
欧州連合 統治の論理とゆくえ	庄司克宏	岩波書店	2007年、16年12月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール shoji.katsuhiro11@nihon-u.ac.jp により、授業内容に関する質問や相談を受け付ける（★授業内容以外の質問や相談には回答しない）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	EUの仕事、制度、拡大と深化	EUの基礎知識（一）EUの仕事、制度、拡大と深化 （１）EUはどのような仕事を行っているか。誰によりどのように運営されているか。 （２）EUはどのように拡大してきたか。どこまで拡大するのか。脱退はあるか。 （３）EUの深化にはどのような限界があるか。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの仕事、制度、拡大と深化について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第１～３章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟	EUの基礎知識（二）EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟 （１）域内市場の統治モデルとしての市場統合アプローチにはどのようなものがあるか。 （２）EU司法裁判所は、加盟国の社会的価値や文化的多様性に対して、どのように配慮しているか。 （３）EU市民権はどのように保護されているか。 （４）経済通貨同盟における金融政策と財政政策は、どのような意味で非対称的か。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第４～７章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係	EUの基礎知識（三）EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係 （１）EUはどのような意味で規範形成力を行使しているか。 （２）EUはどのようにして安全保障上の役割を果たしているか。 （３）EUは東アジアのモデルとなるか。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第８～１０章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	域内市場（単一市場）総論	域内市場（単一市場）総論 物・人・サービス・資本の自由移動および競争法を中心とする域内市場について概観し、複数の国家が単一の市場を形成するには何が必要なのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、物・人・サービス・資本の自由移動および競争法を中心とする域内市場の基本事項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』序章、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第４章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	関税・課徴金の廃止（EU機能条約第３０条）	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（一） 物の自由移動のうち関税・課徴金の廃止（EU機能条約第３０条）について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、関税・課徴金の廃止について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第２章１～３節を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	差別的内国税の禁止（EU機能条約第１１０条）	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（二） 物自由移動のうち差別的内国税の禁止（EU機能条約第１１０条）について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、差別的内国税の禁止について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第２章１～３節を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）と差別的国内税の禁止（EU機能条約第110条）の関係	物の自由移動（関税・課徴金、国内税）（三） 関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）と差別的国内税の禁止（EU機能条約第110条）の関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、関税・課徴金の廃止と差別的国内税の禁止の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章1～3節を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34～36条）	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（一） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34～36条）について、定義および明文の適用除外関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止の定義および明文の適用除外について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	相互承認と「不可避的要請」	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（二） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34～36条）について、相互承認と「不可避的要請」に関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止における相互承認と「不可避的要請」について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	「一定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチ	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（三） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34～36条）について、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テスト、「一定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、数量制限と同等の効果を有する措置の禁止におけるデ・ミニミス・ルールの排除、遠隔度テスト、「一定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	物の自由移動と知的財産権	物の自由移動（知的財産権との関係）（四） 国内法の所産としての知的財産権はEU域内市場における物の自由移動を制限する方向に働くが、EU司法裁判所はどのようにして両者の調和を図っているかについて権利消尽理論に焦点を当て、特許、商標、著作権に関する判例を取り上げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、物の自由移動と知的財産権との関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第2章5節を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	人の自由移動の範囲と明文の適用除外	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（一） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、その範囲および明文の適用除外関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動の範囲および明文の適用除外について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	人の自由移動と資格同等性原則		人の自由移動（労働者、開業、サービス）（二） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、相互承認と「公益上不可欠の理由」および資格同等性原則に関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動における相互承認、「公益上不可欠の理由」および資格同等性原則について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
14	人の自由移動における市場アクセス・アプローチ		人の自由移動（労働者、開業、サービス）（三） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テストおよび市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、人の自由移動におけるデ・ミニミス・ルールの排除、遠隔度テストおよび市場アクセス・アプローチについて理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
15	総括と質疑		総括と質疑	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまで学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』および『新EU法政策篇』の学習部分を再読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。		120分

科目名	外国法B(EU)Ⅱ	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から授業を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から知識を修得することを目的とする。トランスナショナルなEU域内市場法のうち、資本の自由移動および競争法全般について理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】		
パワーポイントで用意した内容を投影して授業を行う。適宜、質疑を行う。教科書2冊を毎回使用するので必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回必ず手元に用意して、授業中にいつでも参照できるようにすること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	超国家的な法秩序を構成するEUにおける単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）の意義について理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3			3		
②	超国家的な法秩序を構成するEUの単一市場における競争法の意義について理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3			3		
③	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定がEU司法裁判所によりどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						3	3	3			3		
④	EU基本条約の単一市場と競争法に関する諸規定の解釈・運用に関して、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3			3		
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関する基礎知識が身についているかを、毎回の授業内容に関する小テスト(教科書2冊、ハンドアウト、ノート参照可)により評価する	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説・講評を、毎週、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新EU法政策篇	庄司克宏	岩波書店	2014年	教科書	必携
欧州連合 統治の論理とゆくえ	庄司克宏	岩波書店	2007年、16年12月	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
メール shoji.katsuhirou1@nihon-u.ac.jp により、授業内容に関する質問や相談を受け付ける（★授業内容以外の質問や相談には回答しない）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	EUの基礎知識の再確認	EUの基礎知識の再確認	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』の内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』全体を再読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
2	資本の自由移動	資本の自由移動 資本の自由移動について他の自由移動との相違を踏まえながら、その範囲および適用除外について判例の動向とともに解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、資本の自由移動について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第4章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
3	EU競争法の枠組みおよび目的	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（一） EU競争法の枠組みおよび目的について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の枠組みおよび目的について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
4	EU競争法の遵守確保（1）	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（二） EU競争法の遵守確保（enforcement）について定める規則1/2003に関して解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の遵守確保（enforcement）について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
5	EU競争法の遵守確保（2）	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（三） EU競争法の遵守確保（enforcement）におけるコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係に関して解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU競争法の遵守確保（enforcement）におけるコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
6	EU機能条約第101条（1）	EU競争法（競争制限的行為の禁止）（一） EU機能条約第101条の解説を行う。まず第101条1項について、事業者、協定および協調的行為、「目的又は効果」、デ・ミニミス・ルール等の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条1項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	EU機能条約第101条（2）		EU競争法（競争制限的行為の禁止）（二） EU機能条約第101条3項の適用除外について、排他的流通や選択的流通などの垂直的制限に関する一括適用除外なども素材として使用しながら解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条3項について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
8	EU機能条約第101条の域外適用		EU競争法（競争制限的行為の禁止）（三） EU機能条約第101条の域外適用の問題について取り上げる。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第101条の域外適用について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
9	EU機能条約第102条（1）		EU競争法（支配的地位の濫用の禁止）（一） EU機能条約第102条における支配的地位の有無に関し、産品市場および地理的市場、市場占有率および参入障壁について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第102条における支配的地位の有無について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第8章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
10	EU機能条約第102条（2）		EU競争法（支配的地位の濫用の禁止）（二） EU機能条約第102条における支配的地位の濫用の態様について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU機能条約第102条における支配的地位の濫用について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第8章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
11	EU合併規則		EU競争法（合併規則）（三） EU合併規則の背景、合併規則におけるEUの管轄、手続および実体的審査について、それぞれ解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU合併規則について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第9章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分
12	EU競争法と公共サービス		EU競争法（EU競争法と公共サービス）（四） まずEU法における市場と国家の関係について述べた後、公の事業者等に対するEU競争法の適用の問題、国家援助規制と公共サービスの関係、一般的経済利益を有するサービスの順に解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU法における市場と国家の関係について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。	
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第10章を通読する。	120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	EU市民権		EU市民権（一） 経済活動に従事していなくとも加盟国国民のEU市民権という基本的地位に基づいて、移動・居住することが可能となっていることについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU市民権の地位について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第1章および『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第6章を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
14	EU市民権と自由移動		EU市民権（二） EU市民権に基づく移動・居住の自由に関するEU司法裁判所の判例法の発展について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、EU市民権に基づく移動・居住の自由に関するEU司法裁判所の判例法について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『新EU法政策篇』第1章および『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第6章を通読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。		120分
15	総括と質疑		総括と質疑	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、これまでに学んだ内容について理解し、説明すること、また、自己の見解を系統立て述べることができる。		
	事前学修	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』全体および『新EU法政策篇』の学習部分を再読する。		120分
	事後学修	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。		120分

科目名	外国法B(英米) I	担当者	C.スチュードベーカー	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはIIを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。 貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CONTRACTS』	C. H. SMITH	WEST PUBLISHING CO	1969	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米契約法総論 I	(1) 日本法との比較 (2) 英米契約法の法源とその補充的相関関係	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修しコモンローにおける契約法の法源の種類が複数ありそれらが相関関係にあることを説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを読み、大陸法系と英米法系の契約法にみられるそれぞれの特徴について調べ、授業での発言に備えて自分の考えをノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
2	英米契約法総論II	(1) コモンローとエクイティー (2) 契約の定義 (3) 契約の成立要件	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修しコモンローとエクイティーの二重構造と契約の定義と成立要件を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
3	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) I	(1) 申込の定義 (2) 申込の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し申込に関する判例・事案をとおしてその定義と要件を確認し説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
4	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) II	(1) 申込撤回自由の原則 (2) オプション契約 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し日本法にはない申込撤回自由の原則を判例・事案をとおして説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
5	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) I	(1) 承諾の定義 (2) 承諾の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修しアメリカの法源下における承諾の効果を判例・事案をとおして確認し説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
6	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) II	(1) ミラーイメーজルール (mirror image rule) (2) 書式の戦い (battle of the forms) (3) メールボックス スルール (mailbox rule) (4) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、ミラーイメージルールを否定するアメリカ合衆国統一商法典2-207条に関する判例・事案を分析し書式の戦い問題を認識し説明できるようになる。また、国連物品売買条約とアメリカ契約法との関係も理解し説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	：契約の成立要件：約因 (consideration) I		(1) 約因の定義 (2) 約因の法理 (sufficient considerationその他)	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおして理解し説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
8	契約の成立要件：約因 (consideration) II		(1) 約因の法理 (past considerationその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、past considerationの法理やコモンロー上の約因法理の例外について説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
9	契約の成立要件：約因 (consideration) III		(1) 約因の法理 (right of contributionその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、アメリカの不法行為法上の古い法理である寄与過失の法理と約因との関係を説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
10	契約の成立要件：約因 (consideration) IV		(1) 約因の法理 (time element, accord and satisfactionその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、代物弁済と約因の関係また契約締結後の時間の経過による約因への影響について理解し説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
11	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) I		(1) 捺印証書 (sealed instrument) (2) 約束的禁反言 (promissory estoppel) (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、エクイティー上の約因の代替についてコモンローと比較して位置づけ説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
12	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) II		(1) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、判例・事案をとおして、約因の代替に関する最近の判例の動向を説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）		（１）契約締結能力（capacity）の欠如 （２）違法性（illegality）（３）強迫（duress） （４）良心性（Unconscionability）
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、コモンロー上の契約成立に対する抗弁に関する知識を高め、判例・事案をとおして整理し説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション		これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。
	この回の到達目標	前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できるようになる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートの作成を継続し提出する準備を整える（1時間）	120分
15	授業内試験 フィードバック		授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。
	この回の到達目標	自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法B(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはIIを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CONTRACTS』	C. H. SMITH	WEST PUBLISHING CO	1969	教科書	
備考	教科書は絶版であるため必要箇所のコピーを資料として配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米契約法総論 I	(1) 日本法との比較 (2) 英米契約法の法源とその補充的相関関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しコモンローにおける契約法の法源の種類が複数ありそれらが相関関係にあることを説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、大陸法系と英米法系の契約法にみられるそれぞれの特徴について調べ、授業での発言に備えて自分の考えをノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
2	英米契約法総論II	(1) コモンローとエクイティー (2) 契約の定義 (3) 契約の成立要件	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しコモンローとエクイティーの二重構造と契約の定義と成立要件を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
3	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) I	(1) 申込の定義 (2) 申込の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し申込に関する判例・事案をとおしてその定義と要件を確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
4	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) II	(1) 申込撤回自由の原則 (2) オプション契約 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し日本法にはない申込撤回自由の原則を判例・事案をとおして説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
5	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) I	(1) 承諾の定義 (2) 承諾の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカの法源下における承諾の効果を判例・事案をとおして確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
6	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) II	(1) ミラーイメーجزール (mirror image rule) (2) 書式の戦い (battle of the forms) (3) メールボックス スルール (mailbox rule) (4) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、ミラーイメーجزールを否定するアメリカ合衆国統一商法典 2-207条に関する判例・事案を分析し書式の戦い問題を認識し説明できる。また、国連物品売買条約とアメリカ契約法との関係も理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	：契約の成立要件：約因 (consideration) I	(1) 約因の定義 (2) 約因の法理 (sufficient considerationその他)		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおして理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
8	契約の成立要件：約因 (consideration) II	(1) 約因の法理 (past considerationその他) (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、past considerationの法理やコモンロー上の約因法理の例外について説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
9	契約の成立要件：約因 (consideration) III	(1) 約因の法理 (right of contributionその他) (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、アメリカの不法行為法上の古い法理である寄与過失の法理と約因との関係を説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
10	契約の成立要件：約因 (consideration) IV	(1) 約因の法理 (time element, accord and satisfactionその他) (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、代物弁済と約因の関係また契約締結後の時間の経過による約因への影響について理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
11	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) I	(1) 捺印証書 (sealed instrument) (2) 約束的禁反言 (promissory estoppel) (3) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、エクイティー上の約因の代替についてコモンローと比較して位置づけ説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	
12	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) II	(1) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、判例・事案をとおして、約因の代替に関する最近の判例の動向を説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめる。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)	120分	
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation)	(1) 契約締結能力 (capacity) の欠如 (2) 違法性 (illegality) (3) 強迫 (duress) (4) 良心性 (Unconscionability)	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、コモンロー上の契約成立に対する抗弁に関する知識を高め、判例・事案をとおして整理し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートの作成を継続し提出する準備を整える (1時間)	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめる。	60分

科目名	外国法B(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはIIを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。 貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CONTRACTS』	C. H. SMITH	WEST PUBLISHING CO	1969	教科書	
備考	教科書は絶版であるため必要箇所のコピーを資料として配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	英米契約法総論 I	(1) 日本法との比較 (2) 英米契約法の法源とその補充的相関関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しコモンローにおける契約法の法源の種類が複数ありそれらが相関関係にあることを説明できる。	
	事前学修	シラバスを読み、大陸法系と英米法系の契約法にみられるそれぞれの特徴について調べ、授業での発言に備えて自分の考えをノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
2	英米契約法総論II	(1) コモンローとエクイティー (2) 契約の定義 (3) 契約の成立要件	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しコモンローとエクイティーの二重構造と契約の定義と成立要件を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
3	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) I	(1) 申込の定義 (2) 申込の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し申込に関する判例・事案をとおしてその定義と要件を確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
4	契約の成立要件：相互の合意の一致：申込 (offer) II	(1) 申込撤回自由の原則 (2) オプション契約 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し日本法にはない申込撤回自由の原則を判例・事案をとおして説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
5	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) I	(1) 承諾の定義 (2) 承諾の要件 (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修しアメリカの法源下における承諾の効果を判例・事案をとおして確認し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
6	契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾 (acceptance) II	(1) ミラーイメーجزール (mirror image rule) (2) 書式の戦い (battle of the forms) (3) メールボックス スルール (mailbox rule) (4) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、ミラーイメーجزールを否定するアメリカ合衆国統一商法典 2-207条に関する判例・事案を分析し書式の戦い問題を認識し説明できる。また、国連物品売買条約とアメリカ契約法との関係も理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	: 契約の成立要件：約因 (consideration) I	(1) 約因の定義 (2) 約因の法理 (sufficient considerationその他)	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおして理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
8	契約の成立要件：約因 (consideration) II	(1) 約因の法理 (past considerationその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、past considerationの法理やコモンロー上の約因法理の例外について説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
9	契約の成立要件：約因 (consideration) III	(1) 約因の法理 (right of contributionその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、アメリカの不法行為法上の古い法理である寄与過失の法理と約因との関係を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
10	契約の成立要件：約因 (consideration) IV	(1) 約因の法理 (time element, accord and satisfactionその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、日本法にはない約因の法理について判例・事案をとおしてさらに理解を深め、代物弁済と約因の関係また契約締結後の時間の経過による約因への影響について理解し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
11	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) I	(1) 捺印証書 (sealed instrument) (2) 約束的禁反言 (promissory estoppel) (3) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、エクイティー上の約因の代替についてコモンローと比較して位置づけ説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
12	契約の成立要件：約因の代替 (substitutes for consideration) II	(1) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、判例・事案をとおして、約因の代替に関する最近の判例の動向を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめる。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べる。(2時間)	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）	（１）契約締結能力（capacity）の欠如 （２）違法性（illegality）（３）強迫（duress） （４）良心性（Unconscionarbility）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、コモンロー上の契約成立に対する抗弁に関する知識を高め、判例・事案をとおして整理し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、事案問題を法的争点と法理の観点から分析し、授業での発言に備えて自分の考えを講義ノートにまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートの作成を継続し提出する準備を整える（1時間）	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめる。	60分

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	C.スチュードベーカー	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはII又は外国法B（英米）Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。 貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CONTRACTS』	C. H. SMITH	WEST PUBLISHING CO	1969	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	アメリカ契約法の法源と大陸法との比較	アメリカの契約法の法源を大陸法のそれとの比較において学修する。		
	この回の到達目標	配布資料をもとにアメリカの契約法の法源とその相関関係について学修し理解し説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
2	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) I	(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し、イギリス法と日本法との比較においてアメリカ契約法における詐欺防止法の法的争点と法理を認識・説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
3	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) II	(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (前回から続く) (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、アメリカの詐欺防止法に関する法的争点と法理をより深く理解し説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
4	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) III	(1) 詐欺防止法の適用を免れる場合：部分履行 (part performance) の法理 (2) 詐欺防止法の適用を免れる場合：禁反言 (estoppel) の法理 (3) 詐欺防止法の適用を免れる場合：UCC § 2-201		
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し詐欺防止法の適用が除外される場合を理解し説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
5	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) I	(1) パロールエヴィデンスルール (2) パロールエヴィデンスルールの例外 (ambiguous termsその他)		
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し日本法にはないパロールエヴィデンスルールの法的争点と法理を確認し説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
6	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) II	(1) パロールエヴィデンスルールの例外 (lack of considerationその他) (2) 判例・事例研究		
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、パロールエヴィデンスルールの例外に関する法的争点と法理を説明できるようになる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	履行：条件（condition）Ⅰ	（１）条件の種類と立証責任（２）条件と契約不履行の関係（３）約束と契約不履行の関係	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、約束との違いを念頭に条件に関する法的争点と法理を認識し説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	履行：条件（condition）Ⅱ	（１）条件的約束（２）判例・事案研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、どのようなときに条件が約束となるのかについて事案と判例をあげて説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ	テーマ：履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ （１）契約不履行の有無の判断基準である実質的履行（substantial performance）の法理（コモンロー）（２）完全履行の法理（perfect tender rule）（UCC）（３）判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の履行の基準とアメリカ統一商法典上のそれとの相違を認識し、事案と判例をとおして各法源の下での履行に関する法的争点と法理を整理して説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅱ	（１）契約不履行を構成する履行期前の履行拒絶（anticipatory repudiation）（２）判例・事例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修し理解しコモンローに特有の履行気前の履行拒絶に関する法的争点と法理を事案と判例をとおして日本法との比較において説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	救済：類型と範囲Ⅰ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）（２）エクイティー上の特定履行（specific performance）（３）エクイティー上の差止命令（injunction）	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、コモンローとエクイティー上の救済について、法的争点と法理を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	救済：類型と範囲Ⅱ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）に関する事案・判例研究	
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の損害賠償の種類に関する英米法の専門用語を認識し日本語で説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	救済：類型と範囲 III		(1) エクイティー上の特定履行 (specific performance) に関する判例・事例研究 (2) エクイティー上の差止命令 (injunction) に関する事案・判例研究
	この回の到達目標	上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の救済との比較において、エクイティー上の救済を獲得するための要件がどのような点でより厳格であるかを認識し、いずれの救済がどのような場合に適切であるのかを説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション		これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。
	この回の到達目標	前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できるようになる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック		授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。
	この回の到達目標	自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を認識し学修する。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはII又は外国法B（英米）Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CONTRACTS』	C. H. SMITH	WEST PUBLISHING CO	1969	教科書	推奨
備考	教科書は絶版であるため必要箇所のコピーを資料として配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	アメリカ契約法の法源と大陸法との比較		アメリカの契約法の法源を大陸法のそれとの比較において学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、配布資料をもとにアメリカの契約法の法源とその相関関係について学修し理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
2	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) I		(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、イギリス法と日本法との比較においてアメリカ契約法における詐欺防止法の法的争点と法理を認識・説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
3	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) II		(1) 詐欺防止法 (Statute of Frauds) の範囲内にある口頭契約 (前回から続く) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、アメリカの詐欺防止法に関する法的争点と法理をより深く理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
4	契約の成立に対する抗弁 (Legal Defense to Contract Formation) III		(1) 詐欺防止法の適用を免れる場合：部分履行 (part performance) の法理 (2) 詐欺防止法の適用を免れる場合：禁反言 (estoppel) の法理 (3) 詐欺防止法の適用を免れる場合：UCC § 2-201	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し詐欺防止法の適用が除外される場合を理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
5	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) I		(1) パロールエヴィデンスルール (2) パロールエヴィデンスルールの例外 (ambiguous termsその他)	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し日本法にはないパロールエヴィデンスルールの法的争点と法理を確認し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
6	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) II		(1) パロールエヴィデンスルールの例外 (lack of considerationその他) (2) 判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、パロールエヴィデンスルールの例外に関する法的争点と法理を説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	履行：条件（condition）Ⅰ	（１）条件の種類と立証責任（２）条件と契約不履行の関係（３）約束と契約不履行の関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、約束との違いを念頭に条件に関する法的争点と法理を認識し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	履行：条件（condition）Ⅱ	（１）条件的約束（２）判例・事案研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、どのようなときに条件が約束となるのかについて事案と判例をあげて説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ	テーマ：履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ （１）契約不履行の有無の判断基準である実質的履行（substantial performance）の法理（コモンロー）（２）完全履行の法理（perfect tender rule）（UCC）（３）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の履行の基準とアメリカ統一商法典上のそれとの相違を認識し、事案と判例をとおして各法源の下での履行に関する法的争点と法理を整理して説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅱ	（１）契約不履行を構成する履行期前の履行拒絶（anticipatory repudiation）（２）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し理解しコモンローに特有の履行気前の履行拒絶に関する法的争点と法理を事案と判例をとおして日本法との比較において説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	救済：類型と範囲Ⅰ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）（２）エクイティー上の特定履行（specific performance）（３）エクイティー上の差止命令（injunction）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンローとエクイティー上の救済について、法的争点と法理を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	救済：類型と範囲Ⅱ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）に関する事案・判例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の損害賠償の種類に関する英米法の専門用語を認識し日本語で説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	救済：類型と範囲 III		(1) エクイティー上の特定履行 (specific performance) に関する判例・事例研究 (2) エクイティー上の差止命令 (injunction) に関する事案・判例研究
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の救済との比較において、エクイティー上の救済を獲得するための要件がどのような点でより厳格であるかを認識し、いずれの救済がどのような場合に適切であるのかを説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション		これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック		授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
判例法として発展してきた英米法の法理をとりあげ、特にアメリカのビジネスに関連する分野の法律を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
英米法の基本法理を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できることを目的とする。

【履修条件】
外国法A（英米）I若しくはII又は外国法B（英米）Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義と質疑応答を主体として進めて行く。授業内試験のフィードバックは試験終了後に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的問題についてディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し、説明できるようになる。				3	3	3			3		
②	コモンローの法域でビジネスを行う上で実際に役に立つ基本的法律知識、法律用語を修得し、説明、使用できる力をつける。				3	3	3			3		
③	英米私法に関する理解しにくい概念を正確に把握し、判例をとおして説明できるようになる。				3	3	3			3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の最後に授業内試験を行う。問題は記述式で、概念の説明および判例を出題する。アメリカ・ビジネス法の主要点が理解されているか、具体的判例を分析、解説できるかをテストする。	25	25	20								70
小テスト等	学期に2回、法律基本用語や事案問題について小テストを行う。時間は10分程度で基本用語の理解度をテストする。	5	10	5								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	適宜、具体的問題を投げかけ、それをベースにディスカッションを行う。 貢献者には評価点を与える。	5	5	0								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『CONTRACTS』	C. H. SMITH	WEST PUBLISHING CO	1969	教科書	推奨
備考	教科書は絶版であるため必要箇所のコピーを資料として配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	アメリカニューヨーク州弁護士・外国法事務弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約及び国際民事訴訟の実務の経験からアメリカと日本の法制度について比較法的な観点を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	アメリカ契約法の法源と大陸法との比較		アメリカの契約法の法源を大陸法のそれとの比較において学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、配布資料をもとにアメリカの契約法の法源とその相関関係について学修し理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
2	契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）I		（１）詐欺防止法（Statute of Frauds）の範囲内にある口頭契約 （２）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し、イギリス法と日本法との比較においてアメリカ契約法における詐欺防止法の法的争点と法理を認識・説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
3	契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）II		（１）詐欺防止法（Statute of Frauds）の範囲内にある口頭契約（前回から続く）（２）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、アメリカの詐欺防止法に関する法的争点と法理をより深く理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
4	契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）III		（１）詐欺防止法の適用を免れる場合：部分履行（part performance）の法理（２）詐欺防止法の適用を免れる場合：禁反言（estoppel）の法理（３）詐欺防止法の適用を免れる場合：UCC § 2-201	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し詐欺防止法の適用が除外される場合を理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
5	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール（parol evidence rule）I		（１）パロールエヴィデンスルール （２）パロールエヴィデンスルールの例外（ambiguous termsその他）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し日本法にはないパロールエヴィデンスルールの法的争点と法理を確認し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分
6	契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール（parol evidence rule）II		（１）パロールエヴィデンスルールの例外（lack of considerationその他）（２）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、パロールエヴィデンスルールの例外に関する法的争点と法理を説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	履行：条件（condition）Ⅰ	（１）条件の種類と立証責任（２）条件と契約不履行の関係（３）約束と契約不履行の関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、約束との違いを念頭に条件に関する法的争点と法理を認識し説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
8	履行：条件（condition）Ⅱ	（１）条件的約束（２）判例・事案研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、どのようなときに条件が約束となるのかについて事案と判例をあげて説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
9	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ	テーマ：履行：契約不履行（breach of contract）Ⅰ （１）契約不履行の有無の判断基準である実質的履行（substantial performance）の法理（コモンロー）（２）完全履行の法理（perfect tender rule）（UCC）（３）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の履行の基準とアメリカ統一商法典上のそれとの相違を認識し、事案と判例をとおして各法源の下での履行に関する法的争点と法理を整理して説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
10	履行：契約不履行（breach of contract）Ⅱ	（１）契約不履行を構成する履行期前の履行拒絶（anticipatory repudiation）（２）判例・事例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修し理解しコモンローに特有の履行気前の履行拒絶に関する法的争点と法理を事案と判例をとおして日本法との比較において説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
11	救済：類型と範囲Ⅰ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）（２）エクイティー上の特定履行（specific performance）（３）エクイティー上の差止命令（injunction）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンローとエクイティー上の救済について、法的争点と法理を説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
12	救済：類型と範囲Ⅱ	（１）コモンロー上の損害賠償（damages）に関する事案・判例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の損害賠償の種類に関する英米法の専門用語を認識し日本語で説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	救済：類型と範囲 III	(1) エクイティー上の特定履行 (specific performance) に関する判例・事例研究 (2) エクイティー上の差止命令 (injunction) に関する事案・判例研究	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、上記について配布資料を学修・理解し、コモンロー上の救済との比較において、エクイティー上の救済を獲得するための要件がどのような点でより厳格であるかを認識し、いずれの救済がどのような場合に適切であるのかを説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
14	Q&Aセッション	これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回までに学修しまとめた内容をテーマと判例・事案の法的争点と法理ごとに要約して説明できる。	
	事前学修	前回の講義までに配布された事案の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	120分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	120分
15	授業内試験 フィードバック	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らの回答が出題の趣旨に応え評価ポイントをおさえていたかを確認し、おさえ切れていなかった箇所を発見できる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事案の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。	180分
	事後学修	授業で学んだポイントをまとめておく。	60分

科目名	外国法B(独)Ⅰ	担当者	難波 岳穂	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代の日本法の体系・解釈・運用の実態を知る上では、それに影響を与えている外国法の知識を修得することもまた必要となる。この講義で取り扱うドイツ法は、歴史的に見ても、また現代の観点からも、日本法に大きな影響を与えてきた。とりわけ、憲法、行政法、民法、刑法、商法、民事訴訟法などの分野ではドイツ法由来の考え方が多く見受けられる。外国法B（独）では、このうちドイツ私法（民法・家族法・民事訴訟法）を中心とした講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、とくにドイツの私法（民法・家族法・民事訴訟法）に関する解釈論を修得し、またドイツ私法学に関する専門用語等を学ぶことでより高いレベルでのドイツ私法学理解を目指す。とりわけ、家族法の領域で中心的な役割を果たす「Lebensgemeinschaft」論を中心とした議論を紹介し、そこから日本法への示唆をも引き出せる能力を身につける。

【履修条件】
特になし。板書で説明を行う際にドイツ語を表記するので、受講生はドイツ語の辞書を持参してもらうことをすすめる。辞書を持ち込むことが叶わない場合を考慮し、必要に応じて日本語訳でも解説するので心配せず参加して欲しい。

【授業方法】
Zoomミーティングによる講義形式を中心とするが、ミニレポートの講評も適宜採り入れ、受講生の理解度に配慮しつつ講義を行う。講義ごとにレジュメおよび配布資料等（ドイツ連邦憲法裁判所の判例ないしコメンタール、ドイツの新聞記事等）を準備する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第1回目以降、各講義の中で受講生が関心を寄せた内容や概念定義に関する解釈が暫定的と判断できる場合には、特に講義内でディスカッションを行う。その際は、ミニレポートの作成と提出を求める場合もある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ私法に関する正確な知識と理解を修得し、この知見を日本の私法理解にも活かすことができる。				2							
②	ドイツの私法に関する専門用語などを学ぶことにより、ドイツ語での議論を理解しすることができる。				2							
③	ドイツ私法に関する諸問題について、正確な知識をもとに議論することができる。									2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、ドイツ私法学に関する基本的知識及びそこでの議論に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等	ミニレポートの提出，完成度などを総合的に評価する。			15								15
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションでの積極的な参加などを総合的に評価する。			15								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義及びミニレポートで受講生が述べた質問等の他、各課題に対する講評については、適宜講義内で行うか、又はメール等で回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
調査資料2017－2平成28年度国際政策セミナー報告書：「家族のダイバーシティーヨーロッパの経験から考える」	国会図書館調査及び立法考査局	国会図書館	平成28年度	その他	必携
ドイツ法入門〔改訂版第9版〕	村上淳一ほか	有斐閣	平成30年	教科書	必携
ドイツの憲法判例Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	ドイツ憲法判例研究会編	信山社	平成30年他	参考書	必携
備考	「国会図書館調査資料2017－2」はインターネットより閲覧可能。 http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1				

【オフィシアワー】
木曜日10：40～12：10事前にメール等で連絡すること。※なお、講義内容に関する質問等については、メールにても対応する予定である。 nanba.takeho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 【Willkommen in Deutschland !】	①講義内容の説明、資料等の取扱い、レポート等の書き方など。 ②戸田典子「すべての人のための婚姻―同性婚法施行」論究ジュリスト23号[2017年]他。	
	この回の到達目標	受講生が身近に感じるドイツ連邦共和国（Deutschland）の知識やイメージを確認し、ドイツ連邦共和国を再発見しよう！	
	事前学修	ドイツ連邦共和国について各受講生が知っている事柄（ニュース、歴史、音楽等）について説明できるようにしておくことが望ましい。	120分
	事後学修	配布資料をよく読み、「ドイツと日本の婚姻制度の差異と類似点」について各自ミニレポートを作成する。	120分
2	ヴァイマル憲法期と基本法の男女の権利	第1回目の事後学習で作成したミニレポートの見解を基にし、基本権3条・6条等との関係を中心に憲法上の権利へと至った婚姻制度について理解する。	
	この回の到達目標	婚姻制度（Ehe）の改革状況を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
	事後学修	配布資料をよく読み、ヴァイマル憲法と基本権（Grundgesetz）それぞれの婚姻制度の差異と類似点についてミニレポートを作成する。	120分
3	ドイツ基本法の男女同権	第1回目と第2回目の事後学習で作成したミニレポートを基にし、基本権1条・2条・3条・6条等との関係を中心に憲法上の権利へと変遷した離婚・婚姻制度について理解する。	
	この回の到達目標	憲法上の権利としての離婚・婚姻制度を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用する等。	120分
4	ドイツ家族法制改革の概要（1）	離婚に関する苛酷条項と婚姻・家族の特別の保護 有澤知子「期限付き苛酷条項違憲決定」[1980年]〔ド憲判Ⅰ〕他	
	この回の到達目標	離婚・婚姻制度の大改革について理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
	事後学修	1957年施行の男女同権法の影響に鑑みて、第4回目の論点を整理すること。 例えば、法学部図書館の他、国会図書館を利用し男女同権の歴史に関して検討することも望ましい。	120分
5	ドイツ家族法制改革の概要（2）	ドイツ民法典（BGB）とヴァイマル憲法の理念を共に継承する基本法が、どのようにして子どもを「親の権利」から解放したのかについて検討する。	
	この回の到達目標	親子関係法の大改革を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
6	所得税法と憲法上の家族（Familie）	小林博志「婚姻・家族の特別の保護と夫婦合算課税違憲判決」[1957年]〔ド憲判Ⅰ〕他	
	この回の到達目標	「婚姻家族」と「単身家族」の平等化を検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
	事後学修	特に、第4回目の講義内容と「事後学習」で推奨した男女同権法に関する検討と並行して第6回目の議論を復習する。 例えば、インターネットによる検索の他、法学部図書館と国会図書館の利用をすることも望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	妊娠中絶の自由化と自己決定権		嶋崎健太郎「胎児の生命権と妊婦の自己決定権―第一次堕胎判決―」[1975年]〔ド憲判Ⅰ〕他、『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』の266-273頁の「刑法の基本原則と正義の貫徹との緊張関係」・「現代社会における正義」を採り上げる。	
	この回の到達目標	「胎児の生命権」とは、妊婦の中絶権を超える保護の対象となり得るのか!?		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	日本の場合、胎児の生命保護の観点はどのように考えられているのか、という問題についてミニレポートを作成しておくことが望ましい。そのために、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
8	Gender Gapと両性の実質的平等 (1)		光田督良「家事労働日州法違憲決定」[1979年]〔ド憲判Ⅰ〕他	
	この回の到達目標	両性の労働共生と労働共働に着目して「両性の実質的平等」について検討しよう！参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	特に、性差別（Gender Gap）に基づくBVerfGの判断枠組みとの関係で、第8回目の「家事労働日州法違憲決定」も重要な判例である故、基本法3条に関するBVerfGの理論を理解するためにも第8回目の内容をよく理解すること。		120分
9	Gender Gapと両性の実質的平等 (2)		第8回目につき、BVerfGの判例が示した男女同権法の影響とその軌跡について、古野豊秋「夫婦財産契約における契約の自由とその限界―扶養請求権放棄契約事件―」[2001年]〔ド憲判Ⅲ〕」を採りあげて確認する。	
	この回の到達目標	男女同権法の趣旨を踏まえて離婚・婚姻法について検討しよう！参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、第9回目の判例をよく読み、関連する内容について学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索して理解を深めることが望ましい。		120分
	事後学修	第8回目と第9回目の内容を横断的に理解し、BVerfGが説く「両性の実質的平等」を保障するための理論を理解し、各自が最も良い方法でミニレポートを作成することが望ましい。例えば、インターネットの検索の他、法学部図書館や国会図書館の利用もすすめる。		120分
10	1990年代までの子どもの福利（Kindeswohl）		①ディータ・ヘンリッヒ著＝田村五郎他訳「扶養法に関するドイツ裁判所の判例―不明確な法概念の充足の試み―」『ドイツ現代家族法』[1993年]を読み扶養法改革を理解をする。②2019年に施行した「Das Gute-Kita-Gesetz」に規定する「未就学児の養育費負担の平等化」を理解する。	
	この回の到達目標	子どもの養育費と子どもの福利（Kindeswohl）に関する基礎的理解を深めよう！参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	第10回目で考察した②ドイツの「未就学児の養育費負担の平等化」の方針や政策についてミニレポートを作成することが望ましい。例えば、日本の状況との比較をするために、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
11	子どもの養育費と国家による家族の特別の保護		第10回目引き続き「Das Gute-Kita-Gesetz」の改革内容を検討する。第11回目では「社会保障費算定における教育費の考慮」に関する浮田徹「家族介護判決（Familien - Pflegeurteil）」[2001年]〔ド憲判Ⅲ〕との比較により、社会保障における「家族の特別の保護」に関するBVerfGの判断枠組みについて検討する。	
	この回の到達目標	社会保障上の「国家による家族の特別の保護」について検討しよう！参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（177、188頁）の「親による保護」		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
12	夫婦同氏原則と両性の実質的平等		山下威士「婚氏未決定の場合における夫の出生氏の優先適用規定の違憲性―婚氏（Ehenamen）事件―」[1991年]〔ド憲判Ⅱ〕と新村とわ「再婚時の「夫婦氏」の選択の制限」[2004]〔ド憲判Ⅲ〕の二つのBVerfGの判例を採りあげる。	
	この回の到達目標	これまでの講義の復習と並行し1990年、1998年、2005年の法改正による影響を確認し、基本法2条1項との関係から基本法3条に基づく「両性の実質的平等」を検討しよう！		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	国際家族法を舞台にする二つの事案		①古野豊秋「国籍の異なる両親と子供の国籍—国籍事件—」[1974年]〔ド憲判Ⅰ〕の他、「Kindeswohl」の意義をより深く検討するために、②古野「両親による子供の争奪と子供の福祉」[1998年]〔ド憲判Ⅲ〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	子どもの福利（Kindeswohl）と両性の実質的平等について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
14	憲法上の「家族（Familie）」概念と成年養子		核家族と家族の特別の保護と外国人の滞在許可 横田守弘「成年養子縁組事件」[1989年]〔ド憲判Ⅱ〕他	
	この回の到達目標	子どもの年齢に着目して国家による特別の保護の射程を確認しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
15	前学期のまとめ 【補足説明と質疑応答】		前学期レポートの提出準備と前学期の講義内容の補足等	
	この回の到達目標	前学期の講義内容全体の中で理解が不十分であると思う内容及び事柄について質問しよう！		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により、前学期のレポートの提出準備を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	前学期のレポートの提出に向けた準備として、これまでの復習を十分に行っておくことが望ましい。しかし、レポートの提出に懸念材料がある場合には、別途質問時間を設けるので、該当する学生は質問内容を整理しておくこと。		120分

科目名	外国法B(独)Ⅱ	担当者	難波 岳穂	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
現代の日本法の体系・解釈・運用の実態を知る上では、それに影響を与えている外国法の知識を修得することもまた必要となる。この講義で取り扱うドイツ法は、歴史的に見ても、また現代の観点からも、日本法に大きな影響を与えてきた。とりわけ、憲法、行政法、民法、刑法、商法、民事訴訟法などの分野ではドイツ法由来の考え方が多く見受けられる。外国法B（独）では、このうちドイツ私法（民法・家族法・民事訴訟法）を中心とした講義を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、とくにドイツの私法（民法・家族法・民事訴訟法）に関する解釈論を修得し、またドイツ私法学に関する専門用語等を学ぶことでより高いレベルでのドイツ私法学理解を目指す。とりわけ、家族法の領域で中心的な役割を果たす「Lebensgemeinschaft」論を中心とした議論を紹介し、そこから日本法への示唆をも引き出せる能力を身につける。

【履修条件】
特になし。板書で説明を行う際にドイツ語を表記するので、受講生はドイツ語の辞書を持参してもらうことをすすめる。辞書を持ち込むことが叶わない場合を考慮し、必要に応じて日本語訳でも解説するので心配せず参加して欲しい。

【授業方法】
Zoomミーティングによる講義形式を中心とするが、ミニレポートの講評も適宜採り入れ、受講生の理解度に配慮しつつ講義を行う。講義ごとにレジュメおよび配布資料等（ドイツ連邦憲法裁判所の判例ないしコメンタール、ドイツの新聞記事等）を準備する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第1回目以降、各講義の中で受講生が関心を寄せた内容や概念定義に関する解釈が暫定的と判断できる場合には、特に講義内においてディスカッションを行う。その際、ミニレポートの作成と提出を求める場合もある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ドイツ私法に関する正確な知識と理解を修得し、この知見を日本の私法理解にも活かすことができる。					2							
②	ドイツの私法に関する専門用語などを学ぶことにより、ドイツ語での議論を理解しすることができる。					2							
③	ドイツ私法に関する諸問題について、正確な知識をもとに議論することができる。										2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、ドイツ私法学に関する基本的知識及びそこでの議論に関する理解が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	30									70
小テスト等												
レポート等	ミニレポートの提出，完成度などを総合的に評価する。			15								15
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションでの積極的な参加などを総合的に評価する。			15								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義及びミニレポートで受講生が述べた質問等の他、各課題に対する講評については、適宜講義内で行うか、又はメール等で回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
調査資料2017－2平成28年度国際政策セミナー報告書：「家族のダイバーシティーヨーロッパの経験から考える」	国立国会図書館調査及び立法考査局	国立国会図書館	平成28年度	その他	必携
ドイツ法入門〔改訂版第9版〕	村上淳一ほか	有斐閣	平成30年	教科書	必携
ドイツの憲法判例Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	ドイツ憲法判例研究会編	信山社	平成30年他	参考書	必携
備考	「国会図書館調査資料2017－2」はインターネットより閲覧とダウンロードが可能である。 http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1				

【オフィスアワー】
木曜日10：40～12：10事前にメール等で連絡すること。※なお、講義内容に関する質問等については、メールにても対応する予定である。 nanba.takeho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ドイツ法の歴史と特徴 【ドイツとドイツ人】		『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』の1-25頁、38-50頁、105-114頁、135-139頁の他、Konrad Adenauer Stiftung, "Deutschland Erste Informationen für Flüchtlinge", HERDER, 2015, S. 16ff. を採り上げる。	
	この回の到達目標	ドイツ法の特徴を確認し、ドイツ民法典および基本法（憲法）の体系上の特徴を理解しよう！		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
2	憲法とドイツ家族法		『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』の177-192頁の他、138、145、161-163頁の「私的自治と憲法」を採り上げる。	
	この回の到達目標	基本法と私的自治について検討しよう！		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。		120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
3	子どもの福利（Kindeswohl）と両性の実質的平等（1）		小林武「親権における父の最終決定権および単独代理を定めた男女同権法の合憲性—最終決定権（Stichentscheid）判決—」[1959年]〔ド憲判Ⅰ〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	自らの出自を知る権利を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。		120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
4	子どもの福利（Kindeswohl）と婚外子差別の撤廃（1）		渡辺中「非嫡出子の基本権と憲法委託—非嫡出子決定」[1969年]〔ド憲判Ⅰ〕を読み、「婚外子差別禁止」が憲法上の要請として徹底化した経緯について採りあげる。	
	この回の到達目標	婚外子差別の撤廃を謳う基本法6条5項の趣旨を理解しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。		120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分
5	子どもの福利（Kindeswohl）と婚外子差別の撤廃（2）		①佐々木健「ドイツ親子法における子の意志の尊重（1）」[2005年]〔立命館法学〕と②押久保倫夫「婚外子の父を知る権利と母親の人権」[1997年]〔ド憲判Ⅰ〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	1992年に114番目の「児童の権利に関する条約」の批准国となったドイツが、実際にどのように子どもの権利の拡大を図ったのかについて確認しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。		120分
	事後学修	特に、佐々木 [2005年]（ http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf ）については、「子どもの福利（Kindeswohl）」との関係で重要な示唆を与える故、これまでの復習を行うために、よく読んで内容を理解する。		120分
6	子どもの福利（Kindeswohl）と婚外子差別の撤廃（3）		渡辺中「婚外子に対する親としての配慮権（Sorgerecht）」[1991年]〔ド憲判Ⅱ〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	婚外子に対する「親による保護」の基準について確認しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）		
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。		120分
	事後学修	第6回目は、次の第7回目と関連する判例なので内容をよく読んで理解する。例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	子どもの福利（Kindeswohl）と婚外子差別の撤廃（4）	第21回目を踏まえたうえで、新村とわ「婚外子に対する父母の配慮宣言と親による配慮権」[2003年]〔ド憲判Ⅲ〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	親の配慮権における「両性の実質的平等」と子どもの福利（Kindeswohl）について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
	事後学修	第6回目と第7回目の内容を復習することにて、第8回目の内容の理解がし易くなるので十分にこれまでの復習を行う。	120分
8	子どもの福利（Kindeswohl）と両性の実質的平等（2）	第5回目で議論した「自らの出自を知る権利」とも関連する、玉蟲由樹「子の出自を知る父親の権利」[2007年]〔ド憲判Ⅳ〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	第5回目講義の議論を踏まえ、「自らの出自を知る権利」について再考しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
	事後学修	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。	120分
9	子どもの福利（Kindeswohl）と養子縁組制度（1）	戸田典子「すべての人のための婚姻―同性婚法施行」論究ジュリスト23号[2017年]の他、赤坂正浩「『第三の性』―インターセクシュアルの性別登録と一般的人格権・平等権」自治研究94巻12号[2018年]を読み、養子縁組制度に必要な子どものへの配慮や子どものための最善の利益について検討する。	
	この回の到達目標	子どもの福利（Kindeswohl）と養子縁組制度について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
	事後学修	第9回目で議論したテーマに関する日独の比較を行いミニレポートにまとめることが望ましい。法学部図書館、国会図書館の利用の他、「特別養子制度の見直しについて」 http://www.moj.go.jp/content/001260586.pdf もすすめる。	120分
10	子どもの福利（Kindeswohl）と養子縁組制度（2）	「核家族と両親・里親・里子の基本権」に関して、飯田稔「里親の養育権（Sorgerecht）訴訟」[1988年]〔ド憲判Ⅱ〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	子どもの福利（Kindeswohl）と養子縁組制度について検討しよう！ 参照：『ドイツ法入門〔改訂版第9版〕』（161-163、177-188、190-192頁）	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
	事後学修	第9回目の理解を踏まえ第10回の判例を検討し、「ドイツと日本の養子縁組制度を比較したうえで、自らの見解を述べる。」についてミニレポートを作成する。	120分
11	憲法上の「家族（Familie）」概念の変遷（2）	近時の家族概念の拡大をめぐるBVerfGの見解となる2014年6月24日の第一法廷判決を読み、家族の特別の保護の対象となる「家族」概念の解釈が拡大する状況にあることを検討する。	
	この回の到達目標	憲法上の「家族（Familie）」が、核家族から多世代型大家族へ変遷した際の基準となった「子どもの意見表明」に着目し、「子どもの最善の利益」と養育環境の安定化について検討しよう！	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
	事後学修	特に、第5回目で参照した佐々木〔2005年〕（ http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf ）を読んで、『子どもの意見表明』についての理解を深める。	120分
12	未就学児の養育環境に関する平等化（1）	難波岳穂「バイエルン州育児手当の合憲性」[2012年]〔ド憲判Ⅳ〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	未就学児の養育環境に関する平等化と外国人の母親をもつ子どもの「福利（Kindeswohl）」について検討しよう！	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
	事後学修	特に、第5回目で参照した佐々木〔2005年〕（ http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf ）を読んで、ドイツにおける「児童の権利に関する条約」の影響力についてミニレポートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	未就学児の養育環境に関する平等化(2)	齋藤純子「ドイツの連邦親手当・親時間法―所得比例方式の育児手当制度への転換―」[2007年]〔国会図書館〕を採りあげる。	
	この回の到達目標	2006年施行の「ドイツの連邦親手当・親時間法」と2019年施行法の「Das Gute-Kita-Gesetz」の関連性ないし違いについて検討しよう！	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。	120分
	事後学修	第11回目、12回目と並行して第13回目で検討した齋藤[2007年]を十分に復習する。	120分
14	憲法上の「家族（Familie）」概念の例外	三宅雄彦「生活パートナーシップ法の合憲性」[2002年]〔ド憲判Ⅲ〕他を採りあげる。	
	この回の到達目標	生活パートナーシップ法をめぐるBVerfGの判例を理解しよう！	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
	事後学修	第14回目の内容の理解を助ける、国会図書館の「家族のダイバーシティ ―ヨーロッパの経験から考える―」[2017年]（ http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1 ）を読むこともすすめる。	120分
15	後学期のまとめ【補足説明と質疑応答】	後学期のレポートの提出準備と後期の講義内容の補足等	
	この回の到達目標	後学期の講義内容の中で不十分かつ曖昧な理解と検討であると判断できる事柄について質問しよう！	
	事前学修	各自が最も良いと思う方法により後学期のレポートの提出準備を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。	120分
	事後学修	後学期のレポートの提出に向けた準備として、これまでの復習を十分に行っておくことが望ましい。しかし、レポートの提出に懸念材料がある場合には、別途質問時間を設けるので、該当する学生は質問内容を整理しておくこと。	120分

科目名	ガバナンス論	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
この授業では、主に公共組織に関連するガバナンスを中心に、「ガバナンス」について学修する。ガバメントからガバナンスへという潮流が生じた背景・歴史を学修する。その上で、様々な政策領域、レベルにおけるガバナンスと呼ばれる構造を、具体的な実例から学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門においてガバナンスという概念が多用されるようになった背景・歴史を学修し、現代の公共ガバナンスの実像を理解する。その上で、様々な政策領域におけるガバナンスや、公共部門のガバナンスにおける諸問題、ステークホルダー、アクターの役割を多面的に捉えることができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
オンラインにて動画を配信するオンデマンド形式で実施する。質疑応答等、双方向のコミュニケーションを目的として、ZOOMによるライブ講義とオンデマンド配信を併用する講義を学期中に適宜実施する。動画配信とともに隔週程度のペースで、講義内容に関する課題を課し、それを元に成績評価を行う。定期試験は実施しない予定である。なお、本シラバスの記載内容は2021年2月時点のものであり、社会情勢を踏まえて講義の実施形式は変更となる可能性がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ガバナンスという概念が多用されるようになった背景・歴史を説明することができる。				2		2					
②	ガバナンスの具体例、日本における公共部門のガバナンスの実態に関する知識を習得した上で、その特徴について説明することができる。				2		2					
③	講義で学修した知識・理論を活用して、ガバナンスに関連する社会現象について、論理的な評価・考察を行い自分の意見を述べることができるようになる。				2		2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する知識・技能が身に付いているかどうか、隔週程度のペースで実施する課題により確認する。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
随時、課題の採点結果や講評をGoogle Classroom上で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共ガバナンス	大山耕輔	ミネルヴァ書房	2010	参考書	任意
公共ガバナンス論 サードセクター・住民自治・コミュニティ	金川幸司(編)	晃洋書房	2018	参考書	任意
ローカル・ガバナンスと地域	佐藤正志・前田洋介(編)	ナカニシヤ出版	2017	参考書	任意
グローバル保健ガバナンス	城山英明(編)	東信堂	2020	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講義の概要		この授業の概要、どのような内容を学ぶことができる授業なのかを解説する。また、ガバナンスという概念がどのようなものを指しているのかについても取り上げる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガバナンスというものが何か、大まかに理解し説明することができるようになる。	
	事前学修	シラバスをよく確認し、隣接諸領域との学問内容の違いや、自らが興味関心のある授業内容かどうかをよく検討する。	120分
	事後学修	授業の内容を振り返り、ニュース等でガバナンスという用語が使われるのはどのような場合か調べる。	120分
2	ガバナンスとは何か		ガバナンスという概念の意味について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガバナンスという概念の意味を説明することができるようになる。	
	事前学修	ガバナンスという概念に関するイメージ、日常生活の中のどのようなシーンで用いられる用語かを考えてくる。	120分
	事後学修	ガバナンスという概念と、類似の用語との違いをもう一度復習し、ガバナンスへの理解を深める。	120分
3	NPMによるガバメントの縮小		New Public Management（NPM）により、政府（ガバメント）の役割が縮小し、ガバナンスと呼ばれる状況が登場する下地が作られた歴史的経緯について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、NPMの登場により政府が直接行政サービスを提供する範囲が縮小してきた歴史的経緯を説明できるようになる。	
	事前学修	日本の財政赤字の推移とその是非について考えてみる。	120分
	事後学修	身の回りの行政サービスの中で、公務員が直接供給を担っているもの、担っていないものを分類してみる。	120分
4	公共サービスの外部化 民営化・外部委託・エージェンシー化		ガバメントからガバナンスへという潮流の中で、どのような形で公共サービスの外部化が進んでいるのかについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共サービスの外部化とはどのような現象なのかについて説明できるようになる。	
	事前学修	身の回りの行政サービスの中で、かつては国営・公営だったが、現在は民営化されているものを探してみる。	120分
	事後学修	自分が使ったことのある外部委託された行政サービスについて、その良し悪しを考察する。	120分
5	地域における公共ガバナンスの拡大 非営利組織・市民参加		公共部門の中でガバナンスと呼ばれる構造をとる領域が拡大している状況について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、どのような政策領域においてガバナンスと呼ばれる構造をとる領域が拡大しているのかを説明できるようになる。	
	事前学修	NP0や市民が参画し影響を与えていそうな政策領域を考えてみる。	120分
	事後学修	自分の住んでいる地域で、どのようなNP0や市民活動が行われているか調べてみる。	120分
6	ローカルガバナンスの事例①社会福祉		社会福祉関連の事例を通じて、日本のローカルガバナンスの現状を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会福祉関連のローカルガバナンスの現状を理解する。	
	事前学修	社会福祉の分野において、NP0や市民団体等がどのような形で活動しているか調べてみる。	120分
	事後学修	自分の住んでいる地域で活動している社会福祉関係のNP0について探してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ローカルガバナンスの事例②都市計画	都市計画関連の事例を通じて、日本のローカルガバナンスの現状を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、都市計画関連のローカルガバナンスの現状を理解する。	
	事前学修	都市計画やまちづくり、地域振興の分野において、商工会や町内会、NPO等の団体がどのような形で活動しているか調べてみる。	120分
	事後学修	自分の住んでいる地域で活動している商工会や町内会、NPO等の団体について探してみる。	120分
8	国際政治とグローバルガバナンス	国内政治とは異なる国際政治の特徴と、グローバルレベルのガバナンスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際政治とグローバルガバナンスの特徴について説明できるようになる。	
	事前学修	国を超えたグローバルレベルの団体にはどのようなものがあるか調べてみる。	120分
	事後学修	独立行政法人の職員の待遇、就職試験の仕組みについて調べてみる。	120分
9	グローバルガバナンスの事例①保健医療政策	WHOとグローバル保健ガバナンスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、WHOとグローバル保健ガバナンスについて、その構造を理解する。	
	事前学修	新型コロナウイルスの対策において、WHOがどのような役割を果たしているか調べてみる。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえた上で、WHOのあり方について考えてみる。	120分
10	グローバルガバナンスの事例②環境政策	IPCCなどを題材に、環境政策のガバナンスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、環境政策のガバナンスについて、その構造を理解する。	
	事前学修	IPCC、京都議定書、パリ協定という用語の意味について調べてみる。	120分
	事後学修	自分の住んでいる自治体の活動の中で、気候変動に関連した取り組みについて調べてみる。	120分
11	マルチレベルガバナンス	自然環境保全政策を題材に、グローバル、ナショナル、ローカルというマルチレベルのガバナンス構造の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マルチレベルガバナンスとはどのような構造か説明できるようになる。	
	事前学修	IPBES、SDGs、生物多様性という用語の意味について調べてみる。	120分
	事後学修	自分の住んでいる自治体の活動の中で、SDGsに関連した取り組みについて調べてみる。	120分
12	企業におけるコーポレートガバナンス	企業におけるコーポレートガバナンスを通じて、大規模組織におけるガバナンスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業におけるコーポレートガバナンスとはどのようなものか説明できるようになる。	
	事前学修	企業のコーポレートガバナンスが問題視されたニュースを探してみる。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえた上で、事前学修で見つけた企業の事例を再度見直してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ガバナンスの官民比較	企業におけるコーポレートガバナンスと、公共組織に求められるガバナンス、組織環境の違いについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、官民のガバナンスの違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	民間企業と公共組織のガバナンスの違いについて考えてみる。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえた上で、自分の住んでいる自治体のガバナンスを考察してみる。	120分
14	ガバナンス指標	世界銀行のガバナンス指標など、ガバナンスを数量化した各種指標について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガバナンス指標の読み方、活用方法とその限界について理解する。	
	事前学修	どのようなデータを測定すれば、その組織のガバナンスのあり方が良いガバナンスであるかを評価できるか考えてみる。	120分
	事後学修	日本に関するガバナンス指標を確認し、世界の国々と比べてみる。	120分
15	講義の総括	ここまでの講義を振り返り、ガバナンスについての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガバナンスの重要なポイントを理解する。	
	事前学修	これまでの講義で理解が難しかったところ、興味がわいたところを再度確認する。	120分
	事後学修	講義で得た知識を活かして、自らの住んでいる自治体や興味のある政策領域のガバナンスについて調べてみる。	120分

科目名	環境政策	担当者	賀来 健輔	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
環境問題は、地球上の生きとし生けるもの全ての生死に関わる現代社会の最も憂慮すべき課題の一つである。環境問題の改善を企図する環境政策は、今日公共政策の個別分野の中でも最も重要な位置を占めていると言ってよい。この授業では、我が国を中心とした環境政策と環境行政の基本的事項を学修する。特になぜ日本では、これまで「維持可能な発展（Sustainable Development）」の観点から十分な環境政策が取られてこなかったのかという点に注目し、これから必要とされる環境政策のあり方を一歩進んだ政策対応という形で受講者諸君と共に考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
生きていく上で環境問題を考えることがいかに重要なことであるのかを理解できる人を育成すること、また環境政策、環境行政というものが公共政策を考えていく上でいかに重要であるのかということが理解できる人を育成することを授業の目的とする。環境問題の発生、解決、及び環境政策の仕組みや機能、その果たす役割が広くかつ深く理解できるようになることを涵養する。

【履修条件】
特にないが、「公共政策論」、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」など関係の深い科目と併せて履修することで、より効果的な学習が期待できる。

【授業方法】
講義形式による授業を進める。基本的に授業毎にレジュメ及び講義資料を配布する。各単元（章）の終了時に復習テストを行い、後日その解説を行うことで当該分野の理解を深める。環境問題の現状を理解するには、ヴィジュアルな副教材＝視覚的教材（＝TVの録画）の活用が効果的であることから、授業内で可能な限りビデオなどの視聴を行っていきたいと考えている。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ビデオの視聴などを通して、可能な限り学生との対話・応答を行い、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	環境問題を現状を理解し、その中から取りうるべき高い倫理観を得ることができる。				1							
②	現状十分な環境政策がとられていないことに関して、批判的な洞察力をえることができる。						1					
③	環境問題に関して十分な考察の上、取りうるべき行動を発見する・見つけることができる。							1				
④	これまでの流されてきた現代社会のライフスタイルを見直し、地球規模の環境改善のために取りうるべき地球市民としての行動力を涵養する。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、③、④、⑤、に関して、十分に備わっている のかを筆記試験により評価する。	30		15	15	15						75
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①、③、④、⑤に関して小テスト（含むリアク ション・ペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を 通して、自分の身についているかを確認する。	10		5	5	5						25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40		20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通じて実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
環境政策論【第3版】	倉坂秀史	信山社	2014	参考書	任意
地域から考える環境と経済	八木信一・関耕平	有斐閣	2019	参考書	任意
食・農・環境とSDGs	古沢広祐	農文協	2020	参考書	任意
考えながら学ぶ環境法	畠山武道	三省堂	2013	参考書	任意
わか〜る環境法 [増補改訂版]	西尾哲茂	信山社	2019	参考書	任意
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
木曜日12時～13時。また他の曜日、時間帯でも可能です。まずはメールで希望日時をご連絡下さい。kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が授業の準備を行えるようにする。その後前提的理解として、環境問題とは何か、環境政策とは何か、環境行政とは何かについて、その意味するところについて学ぶ。	
	この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①、③、④、⑤、を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を確認し、理解できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書として挙げた文献の目次や各章を参照し、環境政策（論）とはどのような授業科目であるのか、また講義の全体像を概観及び理解する。	120分
	事後学修	第1回目の授業内容をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	1. 公共政策と環境政策	「公共政策と環境政策」という標題のもと、公共政策とは何か？環境政策とは何か？環境問題とは何か？という点について、基礎的理解を深める。	
	この回の到達目標	公共政策とは何か？環境政策とは何か？環境問題とは何か？という点についてよく理解し、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）	120分
3	2. 環境行政組織(1) 環境省	環境省を中心とした国レベルの環境行政組織について、その制度的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	環境省に関してその行政組織上の概要と課題をよく理解した上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）	120分
4	3. 環境行政組織(2) 環境省を除いたその他の環境行政組織	環境省を除いた他の中央官庁の環境行政組織と地方自治体の環境行政組織に関して、その制度的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	環境省を除いたその他の中央官庁の環境行政組織と地方自治体の環境行政組織に関してよく理解した上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
5	4. 環境政策の手法(1) 規制的手法	環境政策は一つの手法を用いて完結するものではなく、多種多様な手法を相互有機的に用いて初めて効果的な政策実施が可能になる。この授業ではまずその多種多様な環境政策の種類について基本的な概要を学び、次にその中でも最も基本的なものとされる規制的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	環境政策で用いられる最も基本的な手法である規制的手法の概要、仕組みを学び、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
6	5. 環境政策の手法(2) 経済的手法	規制的手法の次に重要な位置を占めるとされる経済的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	規制的手法に次いで環境政策の主要な手法とされる経済的手法について、その概要、仕組みを学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	6. 環境政策の手法(3)情報的手法①	経済的手法に次いで重要な位置を占めるとされる情報的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	経済的手法と並んで環境政策の主要な手法とされる情報的手法について、その概要、仕組みを学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
8	7. 環境政策の手法(4)情報的手法②	情報的手法がグリーン・コンシューマー、グリーン・インベスターに果たす意義や役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	情報的手法がグリーン・コンシューマーやグリーン・インベスターに果たす意義や役割について学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
9	8. 環境政策の手法(5)自主的取組手法	情報的手法に次いで重要な位置を占めるとされる自主的取組手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。また環境政策の手法のまとめとして、ポリシーミックスの重要性を考える。	
	この回の到達目標	経済的手法と並んで環境政策の主要な手法の一つである自主的取り組み手法について、その概要、仕組みを学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
10	9. 国際的な環境政策の諸相	この授業では、国際的な取り決めとしての各国協調の上での環境政策の形成、決定、実施について学習する。特に地球温暖化防止条約締結国会議（COP）を事例として取り上げ、京都議定書やパリ協定の意義と限界（課題）などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	日本も国際的な協調の上で環境政策を展開することが求められていることから、この会では各国協調の上での環境政策の形成、決定、実施について学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
11	10. 環境法の仕組み(1)	環境法体系(1) 環境政策の基本をなすのは環境法と言われる環境に関する諸法である。ここではその中でも最も根幹をなす環境基本法について、その制度的概要を学ぶ。	
	この回の到達目標	環境法体系の中心をなす環境基本法の概要や仕組みを学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分
12	11. 環境法の仕組み(2)	環境法体系(2) 個別の環境法について、その制度的概要、機能、役割について学ぶ。また国際的な環境に関する取り決め（条約など）と日本の国内法への作用などについても理解を深める。	
	この回の到達目標	個別の環境法について、その制度的概要、機能、役割について学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。	
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。	120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	12. 環境政策の歴史(1)～明治時代から戦後高度経済成長期前半まで		日本の環境政策の歴史を振り返る。この授業では、特に明治時代の開国、富国強兵、殖産興業期から高度経済成長期の前半までを取り上げて学習する。	
	この回の到達目標	今回は日本の環境政策の歴史の中でも、特に明治開国以来から戦後の高度経済成長期の前半までの政策展開をよく学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。		
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。		120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。		120分
14	12. 環境政策の歴史(2)～戦後高度経済成長期後半から現在まで		前回に引き続き日本の環境政策の歴史を振り返る。この授業では、高度経済成長期の後半から現在までを取り上げて学習する。	
	この回の到達目標	引き続き日本の環境政策の歴史を概観するが、今回は度経済成長期の後半から現在までの政策展開をよく学んだ上で、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。		
	事前学修	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。		120分
	事後学修	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。		120分
15	授業のまとめ～理解の到達度を測る		授業全体を通じた理解度を測るために、理解到達度試験を行う。また後半の時間を使って、試験の解説、また学期中のまとめとして、この間に行った主要な事柄に関する質問に答える。	
	この回の到達目標	これまでの授業で行った環境政策の全体像を断片的ではなく有機的に理解し直し、到達目標①、③、④、⑤、を自分のものとすることができる。		
	事前学修	これまでの授業で学んだ事柄について講義でとったノートや参考文献を見直し、全体的な理解に努める。		120分
	事後学修	学習到達度を測るテストで出題された問題と自ら解答した内容を復習し直し、一層の環境問題、環境政策、環境行政の深い理解に努める。		120分

科目名	観光政策	担当者	小野 芳計	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
観光政策について、まず概論、基礎を学修し、その後各分野についてその現状、課題及び政策効果などを学修する。観光政策についての理解を深めるとともに、「観光」の語源をはじめ、観光振興を行う経済的意義、観光の経済効果などを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
観光政策について、その現状、課題及び政策効果などを学修し、観光政策の政策形成に必要な基礎的知識を身につけ、論理的かつ批判的にプロセスや政策効果を評価することができる能力を修得することを目的とする。 旅の歴史、「観光」の語源をはじめ、観光産業の具体的なイメージや概念、観光に関する組織、観光の現状の具体例、観光振興を行う経済的意義、観光の経済効果が広範囲に及んでいることなどを理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
2年次生以降を対象とする。

【授業方法】
講義形式、スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域を振興し、内外の我が国への理解を深めるために観光政策が必要とされていることを理解し、説明することができる。〔知識〕					4		4	4	4			
②	他分野の政策とは異なる観光政策の基本的構造と政策の内容を理解し、説明することができる。〔知識〕					4		4	4	4			
③	観光政策のそれぞれの施策がどのように機能し、課題や問題点を解決するのに適用されるかを調べることができる。〔技能〕					4		4	4	4			
④	観光政策のそれぞれの施策の実際上の運用を理解し、与えられた課題に対して適切に適用することができる。〔技能〕					4		4	4	4			
⑤	観光政策のそれぞれの施策の解釈・運用に関する議論に積極的に参加し、自己の意見を述べるることができる。〔態度・習慣〕					4		4	4	4			
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、文字数、書式等の要件を満たし、課題に適切に応える内容になっているかを基準に、到達目標①②に関する基礎知識が身についているか、到達目標③④に関わる調査・説明ができるようになっているかを評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標⑤に関わる積極的な学修態度が身についているかを評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解説・講評を、後日、ポータルシステム等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	スライドを使用するので教科書は使用しない。参考書は講義中に適宜紹介				

【オフィスアワー】
金曜日 16:10～16:20 授業講堂にて (メールアドレス: onoyoshi@a08.itscom.net)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	約30年間 運輸省、国土交通省勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		観光政策の立案・執行に携わっており、実務経験に基づき、観光各分野の現状、課題及び政策効果などの講義をすることが可能である。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	観光概論Ⅰ～講義の目的・概要～		観光政策の目的・概要について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、観光政策がどのような政策か、またどのような目的で実施されているかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各回ごとに事前に示す講義資料（観光概論Ⅰ）を読み、講義の全体を概観する。		120分
	事後学修	講義終了後、観光概論Ⅰについてノートを整理・復習して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	観光概論Ⅱ～観光の定義、歴史、意義、政策の概況～		観光の定義、歴史、観光政策の意義、概況などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、観光の定義、歴史、観光政策はどのような意義があるのか、またその概況などについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（観光概論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、観光概論Ⅱについてノートを整理し復習をしておくこと		120分
3	観光産業論Ⅰ～旅行業１：旅行業とは～		旅行業の定義、旅行業に関する法体系、実態、経営上の課題などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、旅行業の定義、旅行業に関する法体系、実態などについて理解し、経営上の課題などに関する観光政策について説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（観光産業論Ⅰ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、観光産業論Ⅰについてノートを整理し復習をしておくこと		120分
4	観光産業論Ⅱ～旅行業２：環境激変下の旅行業～		環境激変下の旅行業サイドからみた実態、旅行商品の形成、人材育成、今後の方向などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、旅行業サイドからみた実態、旅行商品の形成、人材育成、今後の方向などに関する観光政策について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（観光産業論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、観光産業論Ⅱについてノートを整理し復習をしておくこと		120分
5	観光産業論Ⅲ～宿泊業１：宿泊業概論～		宿泊産業の特色、市場動向、ホテル業・旅館業における最近の動向、宿泊産業の今後の課題と方向などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、宿泊産業の特色、市場動向、ホテル業・旅館業における最近の動向、宿泊産業の今後の課題と方向などに関する観光政策について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（観光産業論Ⅲ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、観光産業論Ⅲについてノートを整理し復習をしておくこと		120分
6	観光産業論Ⅳ～宿泊業２：ホテル業の取組み～		ホテル業の取組みとしての近代ホテル経営、ホテル業界の現状、顧客満足度、人材育成、差別化などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、近代ホテル経営、ホテル業界の現状、顧客満足度、人材育成、差別化などに関する観光政策について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（観光産業論Ⅳ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、観光産業論Ⅳについてノートを整理し復習をしておくこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	国際観光論Ⅰ～外国人観光客誘致活動～		訪日プロモーションの歴史・概要、マーケティング理論から見た訪日プロモーション、訪日プロモーションの課題などについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、訪日プロモーションの歴史・概要、マーケティング理論から見た訪日プロモーション、訪日プロモーションの課題などに関する観光政策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に講義の資料（国際観光論Ⅰ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
	事後学修	講義終了後、国際観光論Ⅰについてノートを整理し復習をしておくこと	120分
8	国際観光論Ⅱ～JNT0について～		政府観光局とは何か、JNT0の業務、マーケティング、JNT0とパートナーとの協力などについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、政府観光局とは何か、JNT0の業務、マーケティング、JNT0とパートナーとの協力などに関する観光政策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に講義の資料（国際観光論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
	事後学修	講義終了後、国際観光論Ⅱについてノートを整理し復習をしておくこと	120分
9	国際観光論Ⅲ～外国人受入れ体制の整備～		外国人の視点の重要性、訪日外国人旅行者の受入環境整備、観光案内表示の整備、通訳案内士制度などについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、外国人の視点の重要性、訪日外国人旅行者の受入環境整備、観光案内表示の整備、通訳案内士制度などに関する観光政策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に講義の資料（国際観光論Ⅲ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
	事後学修	講義終了後、国際観光論Ⅲについてノートを整理し復習をしておくこと	120分
10	観光コミュニティ論Ⅰ～観光地域振興政策～		観光地域づくりの意義、事例、新たなツーリズムに対応できる観光地域づくり、国の施策などについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、観光地域づくりの意義、事例、新たなツーリズムに対応できる観光地域づくり、国の施策などに関する観光政策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に講義の資料（観光コミュニティ論Ⅰ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
	事後学修	講義終了後、観光コミュニティ論Ⅰについてノートを整理し復習をしておくこと	120分
11	観光コミュニティ論Ⅱ～旅行需要の創出に向けて～		JR東日本の事業概要、ツーリズム、観光開発事例、鉄道需要誘発に向けたキャンペーン、今後の展開の方向などについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、JR東日本の事業概要、ツーリズム、観光開発事例、鉄道需要誘発に向けたキャンペーン、今後の展開の方向などに関する観光政策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に講義の資料（観光コミュニティ論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
	事後学修	講義終了後、観光コミュニティ論Ⅱについてノートを整理し復習をしておくこと	120分
12	観光コミュニティ論Ⅲ～観光コミュニティのケーススタディ～		小樽観光まちづくり、黒川温泉観光開発事例などの観光コミュニティ論のケーススタディについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、小樽観光まちづくり、黒川温泉観光開発事例などの観光コミュニティ論のケーススタディなどからこれらに関する観光政策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に講義の資料（観光コミュニティ論Ⅲ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと	120分
	事後学修	講義終了後、観光コミュニティ論Ⅲについてノートを整理し復習をしておくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	観光コミュニティ論Ⅳ～テーマパーク～		テーマパークの定義、歴史、経営の重要課題、TDLの歴史、成功要因、今後の方向などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、テーマパークの定義、歴史、経営の重要課題、TDLの歴史、成功要因、今後の方向などからこれらに関する観光政策について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（観光コミュニティ論Ⅳ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、観光コミュニティ論Ⅳについてノートを整理し復習をしておくこと		120分
14	観光と交通の関係～観光学と交通経済学～		観光と交通の関係、観光の発展を促す交通の役割、交通分野の規制緩和と政策などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、観光と交通の関係、観光の発展を促す交通の役割、交通分野の規制緩和と政策などからこれらに関する観光政策について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（観光と交通の関係）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと		120分
	事後学修	講義終了後、観光と交通の関係についてノートを整理し復習をしておくこと		120分
15	総括～概論、観光産業論、国際観光論、観光コミュニティ論を総括する～		観光概論、観光産業論（旅行業・宿泊業）、国際観光論、観光コミュニティ論などを総括して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、観光概論、観光産業論（旅行業・宿泊業）、国際観光論、観光コミュニティ論などに関する観光政策について総括して理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に講義の資料（総括）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめておくこと また、初回からの講義資料とノートを見直し、観光政策全体を考察すること		120分
	事後学修	講義終了後、観光政策の総括についてノートを整理し復習をしておくこと また、初回からの講義資料とノートを見直し、レポート作成に向けて準備すること		120分

科目名	監査論Ⅰ	担当者	小俣 光文	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
現代の経済社会の中心的な担い手となっているのは、広く一般の投資家から資金を調達する株式会社である。株式会社は、資金を提供する投資家等に対して、資金が適切に利用されていることを示すために、財務報告を行う必要がある。しかしながら、会社の経営者が行った財務報告は、会社に都合の良い情報しか示されていない可能性があり、そのままでは信用されないため、会社が示した情報が適切なものであるかどうかを判断できるようにするのが監査の役割である。そこで、本講義では、なぜ監査という行為が行われるのか、どのように監査が行われるのかについて学び、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
監査が現代の経済社会に、監査に対する社会的期待が非常に高まるとともに、各種の情報公開が進むにつれて監査に対するニーズも非常に大きくなっている。監査に対するニーズが高まるとともに、新聞やテレビのニュースで監査が扱われる事例が増えている。まず、監査についての基本的な理論を習得することによって、こうした監査に対するニーズが高まっている理由を理解できる能力を身につける。そして、監査に関する基礎知識を習得することによって、こうした新聞記事やニュースの内容を理解できる能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義を行うので会計関連科目を履修しておくことが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進める。 また、適宜、講義内容確認のためにミニテストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の資本主義経済において、監査が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】						3	3						
②	法律とは違う規範としての監査基準が監査制度にどのような影響を与えているのかを理解し、説明することができる。【知識】						3	3						
③	監査基準と実務指針の規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているのかを調べることができる。【技能】								3	3		3		3
④	監査基準と実務指針が実際にどのように運用されているのかを理解し、与えられた事例に対して規定を当てはめることができる。【技能】								3	3		3		3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	15	15	15	15							60
小テスト等	講義のまとめとして行う小テストにおいて，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等	講義のはじめにおいて，前回の小テストの解説を行う。到達目標③，④，に関わる課題の論理的考察力を確認し，質問の際の意見の明瞭性・論理性及び他人の意見を傾聴する態度等を確認する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日，ポータルシステムにおいて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後，質問を受け付ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公認会計士としての監査業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		事例に即して，実務においては監査基準や実務指針がどのように適用されているのかの解説を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	監査論の考え方		監査とは何か、また監査論とはどのような学問なのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の本質、監査論の学習領域について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査の本質について調べておく。		100分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査の本質や監査論の学習内容について知識を整理しておく。		100分
2	ディスクロージャー制度と株式会社		金融商品取引法の債権者保護の前提となる企業情報ディスクロージャー制度について、前提となる株式会社の成立過程について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、株式会社の成立過程について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、株式会社がどのように成立したのかについて調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、株式会社の本質や成立改定について知識を整理しておく。		120分
3	コーポレート・ガバナンス		コーポレート・ガバナンスとは何かについて、様々な定義から検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、コーポレート・ガバナンスについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、コーポレート・ガバナンスについて調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、コーポレート・ガバナンスの定義や本質について知識を整理しておく。		100分
4	日本企業のガバナンス		日本の会社法制下における企業のガバナンスについて検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、会社法における機関設計の規定について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、会社法における機関設計を中心としたガバナンスについて調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、会社法における機関設計を中心としたガバナンスについて知識を整理しておく。		100分
5	貸借対照表の見方		金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表の意義および内容について複数の具体例を示しながら検討を行う。また財政状態を示す貸借対照表について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表、特に貸借対照表について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表および貸借対照表について調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、金融商品取引法の下での流通市場における開示制度の中核をなす財務諸表および貸借対照表について知識を整理しておく。		120分
6	損益計算書の見方		財務諸表のうち、企業の経営成績を示す損益計算書の意義および内容について複数の具体例を示しながら検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、損益計算書の意義および損益計算書から何が読み取れるのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、損益計算書の意義および損益計算書がどのように作成されるのかについて調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、損益計算書の意義および損益計算書から何が読み取れるのかについて知識を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	キャッシュ・フロー計算書		財務諸表のうち、企業のキャッシュ・フローを示すキャッシュ・フロー計算書の意義および内容について複数の具体例を示しながら検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、キャッシュ・フローの意義およびキャッシュ・フロー計算書から何が読み取れるのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、キャッシュ・フローの意義およびキャッシュ・フロー計算書から何が読み取れるのかについて調べておく。	150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、キャッシュ・フローの意義およびキャッシュ・フロー計算書から何が読み取れるのかについて知識を整理しておく。	120分
8	監査の経済的機能		監査が経済社会においてどのような機能を果たしているのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の本質、監査論の学習領域について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査の本質について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査の本質や監査論の学習内容について知識を整理しておく。	120分
9	監査のフレームワーク		企業情報の作成者と利用者、監査人といった3者関係を中心とした監査のフレームワークについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査のフレームワークについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査の理論的な構造について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査の経済的機能について知識を整理しておく。	120分
10	監査規範と監査人の適格性		監査基準を中心に、監査規範がなぜ必要なのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査基準の生成過程と内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査基準の生成過程と内容について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査基準の生成過程と内容および果たす役割について知識を整理しておく。	120分
11	監査人の独立性		公認会計士法に盛られた監査人の独立性に関する規定を念頭に、信頼しうる監査を遂行するための監査人の適格性および監査業務と非監査業務の同時提供の禁止問題について検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査人の適格性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査基準を中心に監査人の適格性についてどのような規定が置かれているのかについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査人の適格性の内容と規定について知識を整理しておく。	120分
12	金融商品取引法監査制度		金融商品取引法の下で監査がどのように規定されているのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、金融商品取引法において監査についてどのように規定されているのかについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法において監査についてどのように規定されているのかについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、金融商品取引法において監査についてどのような規定が置かれているのかについて知識を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公認会計士の責任		公認会計士法を中心として、監査を実施した公認会計士にどのような責任が課されているのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、公認会計士法において公認会計士の責任がどのように規定されているのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、公認会計士法において公認会計士の責任についてどのように規定されているのかについて調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、公認会計士法において公認会計士の責任についてどのように規定されているのかについて知識を整理しておく。		120分
14	不正・違法行為		企業の不正・違法行為について、監査上どのような対応が必要となるのかについて、クレッシーの理論を用いて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査上、企業の不正や違法行為についてどのように対応するのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、企業の不正や違法行為について調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、企業が不正や違法行為を行う原因や監査上の対応について知識を整理しておく。		120分
15	まとめ		監査論Ⅰにおける財務諸表監査のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、レジュメや参考書を読み、監査が社会システムにおいてどのような役割を果たしているのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	これまでのレジュメや、参考資料を読み、特に金融商品取引法の下での監査制度に関して知識を整理しておく。		120分
	事後学修	本講義で学んだ内容をまとめて復習し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、金融商品取引法と会社法における監査制度の違いについて整理する。		120分

科目名	監査論Ⅱ	担当者	小俣 光文	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		○

【授業の概要】
監査は、一つの社会的なコントロールシステムとして企業の健全な社会的発展を図るために必要不可欠な要具となっている。しかしながらエンロンのように経営破綻した企業が、それまで経営の不振を隠蔽するために不正な財務報告を行っていたことが明らかになることがある。このような事態が生じると監査に対する批判が高まり、その批判に答える形で、監査の実施方法も大きく変わることがある。そこで、本講義では、監査に対する批判が高まる原因となる不正な財務報告の事例等を概観しながら、財務諸表監査の基本となる監査基準がどのように監査を規定しているかを中心にして、企業の財務諸表監査が具体的にどのように行われているのかについて学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代は監査に対するニーズが高まっており、公認会計士にならずとも多くの人が監査に関わる機会が増えている。こうした状況のなかで、監査がどのように行われているのか、また監査の結果がどのように利用者に伝達されるのかについて学び、自らが監査に関わる立場になったときに必要な知識を習得することを目標とする。 さらに、公認会計士になった場合はもちろんのこと、実際に内部監査部門に配属されたり、監査を受ける立場になったり、監査報告書を読む場合に必要な知識も身につけることを目標とする。

【履修条件】
直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義を行うので会計関連科目を履修しておくことが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進める。 また、適宜、講義内容確認のためにミニテストを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の資本主義経済において、監査が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3				
②	法律とは違う規範としての監査基準が監査制度にどのような影響を与えているのかを理解し、説明することができる。【知識】				3	3	3	3				
③	監査基準と実務指針の規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているのかを調べることができる。【技能】						3	3		3		3
④	監査基準と実務指針が実際にどのように運用されているのかを理解し、与えられた事例に対して規定を当てはめることができる。【技能】						3	3		3		3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	15	15	15	15							60
小テスト等	講義のまとめとして行う小テストにおいて，到達目標①，②に関わる監査制度の基礎的構造に関する知識が身についているか，及び到達目標③，④に関する，規定を適切に適用し，様々な事例に適用できるかについて確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等	講義のはじめにおいて，前回の小テストの解説を行う。到達目標③，④，に関わる課題の論理的考察力を確認し，質問の際の意見の明瞭性・論理性及び他人の意見を傾聴する態度等を確認する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	金融庁が公表している「監査基準」，日本公認会計士協会が公表している「監査基準委員会報告書」を参考資料とする。				

【オフィスアワー】
授業終了後，質問を受け付ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	公認会計士としての監査業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		事例に即して，実務においては監査基準や実務指針がどのように適用されているのかの解説を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	監査実施プロセスの全体像		国民経済の適切な運営、投資者の保護、公認会計士監査：金融商品取引法第193条の2の規定に基づく公認会計士または監査法人による監査の基本的枠組みについて理論的な視点から検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査の基本的枠組みについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、金融商品取引法における公認会計士監査の規定について調べておく。		100分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、特に金融商品取引法の下での監査制度に関して知識を整理しておく。		100分
2	リスクアプローチ		リスクアプローチとはどのような監査の方法論化なのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、リスクアプローチがどのように生成してきたのか、また、どのような考え方なのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、リスクアプローチとはどのようなものなのかについて調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、リスクアプローチに関して知識を整理しておく		120分
3	監査計画と監査要点		監査要点とは何か、戦略的な監査の実施と監査計画について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査要点とは何か、監査の戦略的实施と監査計画の関係について理解し、説明することができる。		
	事前学修	到達目標①、②に関して、監査要点と監査計画について調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査要点と監査の戦略的实施と監査計画の関係に関して知識を整理しておく。		120分
4	監査リスクと監査上の重要性		監査リスクおよび監査上の重要性とは何か、監査リスクと監査上の重要性について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、監査リスクおよび監査上の重要性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査リスクおよび監査上の重要性について調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、監査リスクおよび監査上の重要性に関して知識を整理しておく。		120分
5	重要な虚偽表示のリスクの評価		重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかについて調べておく。		150分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、重要な虚偽表示リスクとは何か、およびそれをどのように評価するのかに関して知識を整理しておく。		120分
6	リスク対応手続と内部統制		評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、監査手続とは何かについて調べておく。		120分
	事後学修	レジュメや、参考資料を読み、評価された重要な虚偽表示リスクに対して監査人がどのような対応を取るのかに関して知識を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	内部統制 1		経営者の責任の一環として位置づけられる内部統制について、内部統制とコーポレートガバナンス、内部統制とリスクマネジメントの関係について検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，内部統制について理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，内部統制について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，内部統制に関して知識を整理しておく。	120分
8	内部統制 2		内部統制について，COSOのフレームワークを中心に，内部統制の目的，構成要素について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，内部統制の目的および構成要素について理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，COSOの内部統制のフレームワークについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，COSOの内部統制のフレームワークに関して知識を整理しておく。	120分
9	試査		監査を実施する上での試査と統計理論について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，試査とは何か，試査が原則とされる理由について学び，実際に監査の結果をどのように解釈するのかについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，試査およびサンプリングとは何かについて調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，試査とはどのような考え方なのか，および監査を実施する上で試査が原則とされるのかについて知識を整理しておく。	120分
10	監査証拠		監査証拠がどのように分類できるのかについて学び，なぜ分類が必要なのか，分類することによってどのような効果があるのかについて検討する。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査証拠がどのように分類できるのかについて学び，なぜ分類が必要なのか，分類することによってどのような効果があるのかについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，監査証拠とは何か，および監査証拠の分類について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，監査証拠がどのように分類できるのかについて学び，なぜ分類が必要なのか，分類することによってどのような効果があるのかに関して知識を整理しておく。	120分
11	監査報告		短文式監査報告書に盛られる監査人のメッセージの中に「一般に公正妥当と認められる監査の基準」および「適正に表示している」との重要なキーワードがあるが，それらの意味する内容等について検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，短文式監査報告書の形式と記載内容について理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，短文式監査報告書の形式と記載内容について調べておく。	150分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，短文式監査報告書の形式と記載内容に関して知識を整理しておく。	120分
12	監査上の主要な検討事項		監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと，監査上の主要な検討事項（KAM：Key Audit Matters）の開示に関する監査人の対応に対して検討を行う。
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと，KAMについて理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，監査上の主要な検討事項（KAM：Key Audit Matters）の開示について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，監査報告書における情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと，KAMに関して知識を整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	継続企業の前提と監査報告	監査報告書におけるゴーイング・コンサーン（継続企業の前提）情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと、ゴーイングコンサーン情報の開示に関する監査人の対応に対して検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，監査報告書におけるゴーイング・コンサーン（継続企業の前提）情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと，ゴーイングコンサーン情報の開示について理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，監査報告書におけるゴーイング・コンサーン情報の開示について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，監査報告書におけるゴーイング・コンサーン情報の開示の適切性に関する監査人の取り組みと，ゴーイングコンサーン情報の開示に関して知識を整理しておく。	120分
14	内部統制監査	内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査をめぐる問題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査について理解し，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，経営者の内部統制報告書とその監査について調べておく。	120分
	事後学修	レジュメや，参考資料を読み，内部統制が有効に機能しているかどうかに関する経営者の内部統制報告書の監査に関して知識を整理しておく。	120分
15	まとめ	監査論Ⅱにおける財務諸表監査の実施に関するまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関して，財務諸表監査の実施について理解し，説明することができる。	
	事前学修	これまでのレジュメや，参考資料を読み，監査がどのように実施されるのかに関して知識を整理しておく。	120分
	事後学修	本講義で学んだ内容をまとめて復習し，自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する	120分

科目名	管理会計論Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○			○	

【授業の概要】
経営管理のために行われる管理会計は、財務会計とは異なり企業内部で利用するための会計情報の提供を目的とし、目的に応じた多様な会計情報が作成される。この授業では企業経営の様々な場面で活用される管理会計の基礎について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営意思決定における会計情報の役立ちについて理解して企業経営における課題を発見する能力を身につける。また、経営トップの思考・問題意識等を理解する力を獲得する。

【履修条件】
管理会計論Ⅱとあわせて履修することが望ましい。また、原価計算論Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、受講の際は電卓を用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力			
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力			
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力			
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	製品原価の計算構造を理解し、経営形態ごとの製造原価計算ができる。				3	3				
②	原価管理の考え方を理解し、標準原価による原価管理ができる。					3	3	3		
③	利益管理の考え方を理解し、直接原価計算やCVP分析による利益管理ができる。					3	3	3		
④	原価管理や利益管理の理解を通じて、企業経営者が会計情報を通じてどのように経営を考え、課題を発見するかを理解できる。						3	3		3
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標についての総合的な理解が身についているかを、 毎回の授業課題（小テスト）によって評価する。	20	30	30	20							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で全体講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00　本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る　こと）　Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	原価計算の基本と管理会計	原価計算の基本を確認し、管理会計と財務会計の違いを学ぶ	
	この回の到達目標	原価計算の基本を概観し、管理会計と財務会計の違いを理解する。また、管理会計の役割を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、製造業における経営の全体像をイメージしておく。	120分
	事後学修	管理会計と意義と役割、財務会計との違いを説明できるようにする。各種原価を把握する。	120分
2	個別原価計算の仕組み	生産販売形態別の製品原価計算方法と個別原価計算の仕組みを学ぶ	
	この回の到達目標	個別原価計算が適合する生産形態と計算の基本的仕組みを理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	指図書別の製品原価の計算方法を身につける。	120分
3	製造間接費の配賦	製造間接費をめぐる論点とその配賦方法、差異分析方法を学ぶ	
	この回の到達目標	製造間接費の配賦手続きの必要性を理解し、具体的な配賦方法と変動予算における差異分析を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	公式法変動予算における製造間接費の配賦と予算差異・操業度差異の分析方法を把握する。	120分
4	総合原価計算、月末仕掛品の評価	総合原価計算の計算の仕組みと月末仕掛品の評価方法を学ぶ	
	この回の到達目標	総合原価計算が適合する生産形態と計算の基本的仕組みを理解し、月末仕掛品の評価ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	総合原価計算における原料費と加工費の取扱いの違いを理解し、月末仕掛品の評価と完成品総合原価の計算を身につける。	120分
5	先入先出法と平均法	月初仕掛品がある場合の期末仕掛品の評価方法を学ぶ	
	この回の到達目標	先入先出法と平均法の計算方法の違いを理解し、それぞれの評価方法における月末仕掛品の評価ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	先入先出法と平均法のそれぞれによる月末仕掛品の評価方法を身につける。	120分
6	標準原価計算による製品原価の計算	標準原価計算の基本的考え方と標準原価による製品原価の計算を学ぶ	
	この回の到達目標	標準原価を用いた製品原価計算の基本的考え方を理解し、標準原価による月末仕掛品評価ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	標準原価計算と実際原価計算の違いを理解し、原価標準を用いて製品原価を計算する方法を身につける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	標準原価による原価管理と直接材料費差異分析	標準原価計算を用いた原価管理の考え方と直接材料費差異分析方法を学ぶ	
	この回の到達目標	原価の目標値としての標準原価の役割を理解し、直接材料費差異の細分析ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	直接材料費差異を材料消費価格差異と材料消費数量差異に分解できるようにする。	120分
8	直接労務費差異分析	直接労務費差異の分析方法を学ぶ	
	この回の到達目標	直接労務費差異の細分析ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	直接労務費差異を賃率差異と作業時間差異に分解できるようにする。	120分
9	製造間接費差異分析	製造間接費差異の分析方法を学ぶ	
	この回の到達目標	製造間接費差異の内容を細分析した上で、各差異の分類方法の違いによる分析方法を学ぶ	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	予算差異、変動費能率差異、固定費能率差異、操業度差異の分解方法を身につけ、それぞれの際の分類方法に応じた差異分析方法の違いを理解する。	120分
10	CVP分析と貢献利益	原価・営業量・利益の関係に基づく利益管理の考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	分析の基本となる変動費と固定費の分解や貢献利益の計算方法などの基礎的知識を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	原価の発生態様による分類の必要性と意義を理解し、貢献利益ないし限界利益と呼ばれる利益の概念を理解する。	120分
11	各種CVP分析と固変分解	損益分岐点分析をはじめとする各種CVP分析の方法と、固変分解の仕方を学ぶ	
	この回の到達目標	損益分岐点売上高や目標利益達成点販売量等の計算方法、固変分解のための高低点法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	貢献利益率を使った各種CVP分析手法や高低点法による固変分解の方法を把握する。	120分
12	直接原価計算の概要	直接原価計算の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	CVP分析のための基礎資料を提供する直接原価計算の方法を理解し、全部原価計算との違いを把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	変動費のみによる製品原価の計算方法を身につけ、全部原価計算との違いを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	固定費調整		固定費調整の必要性和固定費調整の方法を学ぶ
	この回の到達目標	固定費調整の意義を理解し、コログシ調整法による固定費調整の仕方を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	直接原価計算による営業利益を全部原価計算による営業利益へと調整する仕組みを理解する。	120分
14	問題演習による各種計算技法の確認		前期に扱った各種計算技法を、問題演習を通じて再確認する
	この回の到達目標	問題演習を通じて各論点の計算方法を修得する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	前期に扱った各論点の計算方法を完全に修得する。	120分
15	前期総括		管理会計論の基本的考え方から原価管理および利益管理までの内容を総括する
	この回の到達目標	管理会計の基礎から標準原価計算、CVP分析および直接原価計算の各論点を理解する	
	事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	管理会計論Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○			○	

【授業の概要】
経営管理のために行われる管理会計は、財務会計とは異なり企業内部で利用するための会計情報の提供を目的とし、目的に応じた多様な会計情報が作成される。この授業では企業経営の様々な場面で活用される管理会計の基礎について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営意思決定における会計情報の役立ちについて理解して企業経営における課題を発見する能力を身につける。また、経営トップの思考・問題意識等を理解する力を獲得する。

【履修条件】
管理会計論Ⅰとあわせて履修することが望ましい。また、原価計算論Ⅰ・Ⅱの履修を済ませておくと、さらに理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、受講の際は電卓を用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	予算管理の考え方を理解し、企業における予算と実績の差異分析ができる。				3		3					
②	業務的意思決定の考え方を理解し、日常業務レベルにおける経営課題の認識やその解決のための意思決定を理解できる。				3	3	3	3				
③	構造的意思決定の考え方を理解し、経営基盤に関わる意思決定における課題の認識やその解決のための意思決定を理解できる。				3	3	3	3				
④	新たな原価管理の手法や企業評価の方法など、経営トップの意思決定に影響する管理会計上の論点を理解できる。						3	3			3	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標についての総合的な理解が身についているかを、 毎回の授業課題（小テスト）によって評価する。	20	30	30	20							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で全体講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00　本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取るこ）　Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	管理会計論Ⅰの学修内容の確認および管理会計論Ⅱの全体像の確認	管理会計論Ⅰで学修した管理会計の基本と原価管理・利益管理の各論点を復習しつつ、管理会計論Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
	この回の到達目標	管理会計論Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、前期の学修内容を確認しておく。	120分
	事後学修	管理会計の目的をはじめ、原価管理や利益管理の基本論点を理解する。	120分
2	予算実績差異分析	貢献利益の予算と実績の差異を分析する手法を学ぶ	
	この回の到達目標	貢献利益差異を販売価格差異、販売数量差異、変動費差異に分解する方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	貢献利益差異の細分析方法を修得する。	120分
3	販売数量差異の細分析	販売数量差異を細分析する方法を学ぶ	
	この回の到達目標	市場総需要量差異と市場占有率差異の分析方法を理解し、販売数量差異の細分析ができるようになる。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	市場総需要量差異と市場占有率差異の分析方法を身につける。	120分
4	意思決定の基礎	意思決定の種類と意思決定における基本的用語を学ぶ	
	この回の到達目標	業務的意思決定と構造的意思想定の違いを理解し、意思決定会計における基本用語の内容を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	業務的意思決定と構造的意思想定の違いや、差額収益、差額原価ならびに埋没原価といった基本用語が説明できるようになる。	120分
5	差額原価収益分析	差額原価収益分析を用いた業務的意思決定を学ぶ	
	この回の到達目標	差額原価収益分析における差額収益や差額原価の概念を理解し、業務的意思決定の方法を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	業務的意思決定における基本的な意思決定の流れを理解する。	120分
6	問題演習による差額原価収益分析の理解	問題演習を通じて差額原価収益分析による業務的意思決定を学ぶ	
	この回の到達目標	問題演習によって、差額原価収益分析における差額収益や差額原価の捉え方、埋没原価の取扱いを身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	演習問題を復習し、差額原価収益分析による意思決定の方法を完全に修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	構造的意思決定の基礎	構造的意思決定の基本的考え方とキャッシュ・フローの見積りを学ぶ	
	この回の到達目標	設備投資の是非を題材に、構造的意思決定の基本的考え方を理解し、キャッシュ・フローの見積り方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	業務的意思決定と構造的意思決定の違いを認識し、将来キャッシュ・フローの見積り方法を把握する。	120分
8	単純回収期間法と貨幣の時間価値	単純回収期間法による投資案の評価方法と貨幣の時間価値の概念を学ぶ	
	この回の到達目標	単純回収期間法による投資案の評価ができるようになるとともに、貨幣の時間価値の概念を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	単純回収期間法の計算方法を身につけ、貨幣の時間価値を考慮するための割引計算の必要性を理解する。	120分
9	正味現在価値法による意思決定	正味現在価値法による設備投資の意思決定方法を学ぶ	
	この回の到達目標	割引計算の手法を理解し、正味現在価値により設備投資案の評価方法を身につける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	正味現在価値の計算手法を修得し、NPV法による構造的意思決定を理解する。	120分
10	タックス・シールドの考慮と資本コストの計算	より実践的な構造的意思決定のための論点と技法を学ぶ	
	この回の到達目標	設備投資の意思決定におけるタックス・シールド考慮の必要性を理解するとともに、割引計算の基礎となる資本コストの算定根拠を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	タックス・シールドを考慮した将来キャッシュ・フローの見積りや、加重平均資本コストの計算ができるようになる。	120分
11	問題演習による構造的意思決定の理解	問題演習を通じて設備投資の意思決定方法を学ぶ	
	この回の到達目標	問題演習を通じて設備投資における構造的意思決定を総合的に理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	演習問題を復習し、構造的意思決定の方法を完全に修得するとともに、相互排他的な投資案の評価方法を把握する。	120分
12	企業価値評価	企業価値評価の基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	配当割引モデルを用いた企業価値の評価方法を理解し、設備投資の意思決定との考えの共通性を認識する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	配当割引モデルによる企業価値の評価方法を身につける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ライフサイクル・コストイング	ライフサイクル・コストイングの基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	ライフサイクル・コストイングの必要性を理解し、製品ライフサイクルの各段階における原価の概念を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	製品ライフサイクルにおける各段階で生じる原価の内容を把握し、ライフサイクル全体を通じた原価管理の必要性を理解する。	120分
14	原価企画	原価企画の基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	原価企画によって製品の企画開発段階から原価管理を行う必要性を理解する	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	製品の企画開発の段階から始まる原価管理の手法を理解し、今日的な原価管理の論点を把握する。	120分
15	後期総括	予算実績差異分析から原価企画までの内容を総括する	
	この回の到達目標	予算実績差異分析、業務的意思決定、構造的意味決定、ライフサイクル・コストイングおよび原価企画の各論点を理解する	
	事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	企業会計法Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
企業が行う財務報告は、会計基準に従って作成された財務諸表で行われるが、財務諸表そのものの作成開示を要請しているのは、金融商品取引法や会社法といった法律である。このように企業会計は法律とも密接に結びついており、会計数値の中には法律によって測定方法が定められているものもある。この授業では、「会計に関する法律」という視点から会計学を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
株式会社を取り巻く会計規制についての総合的な理解を身に付け、企業会計と法との関わり合いについて論理的に思考する力や、制度との関係を批判的に思考する力を身に付ける。また、会計方法に基づいて企業経営を省察する力を獲得する。

【履修条件】
企業会計法Ⅱとあわせて履修することが望ましい。また、簿記原理、会計学、財務諸表論、会社法についての履修を済ませ、これらについての基本的理解が得られていると、さらに授業内容の理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、受講の際は電卓を用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業会計に関連する法制度の基本的考え方を理解する。				3	3						
②	企業会計の規制のあり方と法制度との関わり合いを理解し、論理的に考察できる。					3	3	3				
③	法体系の中における会計制度の役割を理解することで、制度における課題を発見できる。					3	3		3			
④	具体的な計算規定を理解することを通じて、企業経営を省察できる。					3			3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標についての総合的な理解が身についているかを、 毎回の授業課題（小テスト）によって評価する。	20	30	20	30							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で全体講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00　本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る　こと）　Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	企業会計にまつわる法規、会計規制の必要性	企業会計に関する法律や、会計規制の体系を学ぶ	
	この回の到達目標	日本における会計に関連する法律を中心に、どのような会計制度の体系が存在しているのかを理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、簿記や財務会計の基礎について確認しておく。	120分
	事後学修	会計規制の必要性をめぐる各種議論について理解し、企業会計に関する法律を把握する。	120分
2	金融商品取引法による会計規制の概要	金融商品取引法におけるディスクロージャー制度について学ぶ	
	この回の到達目標	金融商品取引法による会計規制の概要を理解し、ディスクロージャー制度の仕組みを理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	ディスクロージャー制度の基本的考え方について理解し、金融商品取引法に基づく開示書類を把握する。	120分
3	会社法による会計規制の概要	会社法および会社計算規則における会計情報の開示関連規定について学ぶ	
	この回の到達目標	会社法・会社計算規則による会計情報の開示規定の概要を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	会社法における会計規制の基本的考え方を理解し、会社法に基づく開示書類を把握する。	120分
4	貸借対照表に関する諸規定	会社計算規則における貸借対照表関連規定を学ぶ	
	この回の到達目標	会社計算規則における貸借対照表の計上項目に関する表示規定を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	貸借対照表の計上項目に関する会社計算規則の諸規定を理解し、具体的な表示方法を把握する。	120分
5	損益計算書に関する諸規定	会社計算規則における損益計算書関連規定を学ぶ	
	この回の到達目標	会社計算規則における損益計算書の構造やその計上項目に関する表示規定を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	損益計算書の様式に関する会社計算規則の諸規定を理解し、段階的利益計算の仕組みを把握する。	120分
6	株主資本等変動計算書に関する諸規定	会社計算規則における株主資本等変動計算書に関する表示規定を理解する。	
	この回の到達目標	株主資本等変動計算書の様式に関する会社計算規則における表示規定を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	株主資本等変動計算書の様式に関する会社計算規則の諸規定を理解し、具体的な表示内容を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	資産評価総論	会社計算規則における資産評価に関する基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	資産評価のための測定値としてどのようなものが存在するかを知り、その役割を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	資産評価のための各測定値の考え方を理解し、どのような測定方法があるかを把握する。	120分
8	各種測定値による具体的な資産評価	各論点別に具体的な資産評価の方法を学ぶ	
	この回の到達目標	取得原価や時価といった様々な測定値による、具体的な資産評価方法を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	資産評価のための各測定値の具体的算定方法を把握する。	120分
9	現在価値による資産評価	現在価値測定の基本的考え方と具体的測定方法を学ぶ	
	この回の到達目標	現在価値測定の理論的根拠を理解し、具体的な測定方法を身に付ける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	現在価値計算の基本的考え方を理解し、割引現在価値による資産評価方法を把握する。	120分
10	リース資産の測定	リース取引における借手の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	リース取引の全体像を把握し、借手が行う会計処理の考え方を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	リース取引の概要を理解し、借手が行う一連の会計処理を修得する。	120分
11	負債評価総論	会社計算規則における負債評価に関する基本的考え方を学ぶ	
	この回の到達目標	負債評価のための測定値としてどのようなものが存在するかを知り、その役割を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	負債評価のための各測定値の考え方を理解し、どのような測定方法があるかを把握する。	120分
12	引当金会計	引当金の計上根拠や分類を学ぶ	
	この回の到達目標	引当金に関する理論的・法的根拠を理解し、引当金の会計処理を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	引当金会計の理論的根拠や法的根拠を理解し、引当金の分類や計上方法を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	退職給付会計		退職給付制度を理解し、退職給付の会計処理を学ぶ
	この回の到達目標	確定給付制度や確定拠出制度の概要を理解し、退職給付に関する会計処理の方法を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	退職給付会計の概要を理解し、一連の会計処理を把握する。	120分
14	債務性引当金と非債務性引当金		債務性引当金と非債務性引当金の違いを学ぶ
	この回の到達目標	債務性引当金および非債務性引当金それぞれの特徴を理解し、その相違を把握する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	債務性引当金と非債務性引当金との相違を理解し、会計理論上の問題点を把握する。	120分
15	前期総括		会計規制に関する基本的内容から引当金会計までの内容を総括する
	この回の到達目標	会計規制の概要、資産評価や負債評価についての各論点を理解する	
	事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	企業会計法Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
企業が行う財務報告は、会計基準に従って作成された財務諸表で行われるが、財務諸表そのものの作成開示を要請しているのは、金融商品取引法や会社法といった法律である。このように企業会計は法律とも密接に結びついており、会計数値の中には法律によって測定方法が定められているものもある。この授業では、「会計に関する法律」という視点から会計学を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
株式会社を取り巻く会計規制についての総合的な理解を身に付け、企業会計と法との関わり合いについて論理的に思考する力や、制度との関係を批判的に思考する力を身に付ける。また、会計方法に基づいて企業経営を省察する力を獲得する。

【履修条件】
企業会計法Ⅰとあわせて履修することが望ましい。また、簿記原理、会計学、財務諸表論、会社法についての履修を済ませ、これらについての基本的理解が得られていると、さらに授業内容の理解が深まる。

【授業方法】
授業では演習を織り交ぜつつ講義を行う。なお、授業では計算問題を用いた演習も頻繁に行うので、受講の際は電卓を用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業会計に関連する法制度の基本的考え方を理解する。				3	3						
②	企業会計の規制のあり方と法制度との関わり合いを理解し、論理的に考察できる。					3	3	3				
③	法体系の中における会計制度の役割を理解することで、制度における課題を発見できる。					3	3		3			
④	具体的な計算規定を理解することを通じて、企業経営を省察できる。					3			3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標についての総合的な理解が身についているかを、 毎回の授業課題（小テスト）によって評価する。	20	30	20	30							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で全体講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00　本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る　こと）　Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	企業会計法Ⅰの学修内容の確認および企業会計法Ⅱの全体像の確認	企業会計法Ⅰで学修した各論点を復習しつつ、企業会計法Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
	この回の到達目標	企業会計法Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、前期の学修内容を確認しておく。	120分
	事後学修	会計規制の概要をはじめ、資産評価や負債評価についての各論点の内容を理解する。	120分
2	純資産の部、資本金と資本剰余金	純資産の部の構成と、払込資本の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	会社法および会社計算規則における純資産の部の内訳を把握し、資本金および資本剰余金の会計処理を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	純資産の部の構成を把握し、払込資本に関する会社法上の諸規定を理解する。	120分
3	資本金等の増減、利益剰余金	会社法における資本金の増減や利益剰余金の取扱いに関する諸規定を学ぶ	
	この回の到達目標	資本金等の増減についての処理方法を身に付け、利益剰余金の性質を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	払込資本と留保利益の性格の相違を理解し、資本金等の増減についての処理方法を修得する。	120分
4	剰余金の配当と分配可能額	会社法・会社計算規則における剰余金の分配規制を学ぶ	
	この回の到達目標	会社法における剰余金の概念を理解し、分配可能額の算定方法を身に付ける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	剰余金の配当に関する会社法上の規定を理解し、分配可能額の算定方法を修得する。	120分
5	自己株式の意義	自己株式に関する規制と諸論点を学ぶ	
	この回の到達目標	自己株式の性質を理解し、自己株式をめぐる諸論点を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	自己株式の意義を理解し、自己株式をめぐる諸論点を把握する。	120分
6	自己株式の取得と処分	自己株式の取得時および処分時の規定を学ぶ	
	この回の到達目標	自己株式の取得・処分における規定を理解し、その会計処理方法を身に付ける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	自己株式の取得規制および処分規制を理解し、それぞれの場面における会計処理方法を修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	新株予約権の意義	新株予約権の仕組みと基本的処理を学ぶ	
	この回の到達目標	新株予約権の仕組みを理解し、通常の発行時の会計処理方法を身に付ける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	新株予約権の仕組みを理解し、通常の発行時における新株予約権の会計処理方法を修得する。	120分
8	ストック・オプション会計	ストック・オプションとして付与される新株予約権の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	ストック・オプションの仕組みを理解し、その会計処理方法を身に付ける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	ストック・オプションの基本的考え方を理解し、報酬として付与される新株予約権の会計処理方法を把握する。	120分
9	新株予約権の行使と失効	新株予約権の行使時と失効時の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	新株予約権の権利行使時と権利失効時の会計処理を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	新株予約権の権利行使時および失効時の会計処理を理解し、修得する。	120分
10	連結計算書類	連結計算書類の作成開示に関する諸規定を学ぶ	
	この回の到達目標	連結計算書類の作成開示に関する会社法上の規定を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	会社法における連結計算書類の作成に関する諸規定を理解し、具体的な構成を把握する。	120分
11	資本連結と連結貸借対照表	資本連結手続と連結貸借対照表の作成方法を学ぶ	
	この回の到達目標	資本連結手続と連結貸借対照表の作成方法を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	資本連結の考え方を理解し、一連の会計処理方法を修得する。	120分
12	吸収合併と株式交換	吸収型組織再編の類型と、その会計処理方法を学ぶ	
	この回の到達目標	吸収合併や株式交換の概要を理解し、パーチェス法による会計処理方法を理解する	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	企業結合の基本的考え方を理解し、吸収型再編における企業結合の会計処理を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	新設合併と株式移転	新設型組織再編の類型と、その会計処理方法を学ぶ。	
	この回の到達目標	新設合併や株式移転の概要を理解し、それらの会計処理方法を理解する。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	新設型再編における企業結合の会計処理を把握する。	120分
14	会社分割および営業譲渡	会社分割や営業譲渡における事業分離取引の会計処理を学ぶ	
	この回の到達目標	事業分離取引の基本的仕組みを理解し、投資の清算と継続に関する会計処理を身に付ける。	
	事前学修	配布レジュメを通読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	事業分離の基本的考え方を理解し、事業分離取引の会計処理を把握する。	120分
15	後期総括	純資産会計から組織再編会計までの内容を総括する	
	この回の到達目標	純資産の会計に関する諸論点、連結計算書類や企業結合・事業分離についての各論点を理解する。	
	事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	企業不祥事論Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、実際に発生した企業不祥事の事例や日常で起こりうる倫理的ジレンマについて紹介する。自身が倫理的ジレンマに直面した際にどのような行動が求められるのかに関して、ケースメソッドを通じて、個人で考える能力を養い、多様な価値観を学ぶことの重要性の理解を目標としている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
倫理的なジレンマに直面した際に求められる行動に唯一無二の答えはない。そのため、重要なことは多様な価値観・考え方に触れ、考える力を身につけることである。したがって、本講義では、教員と学修者とのコミュニケーションを重視し、学修者が企業不祥事に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義、企業不祥事の事例を用いたケースメソッドにより進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、企業不祥事の発生要因や倫理的ジレンマについて考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業倫理に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。				3	3						
②	個人で働くことと企業(組織)の一員として働くことの違いを理解し、説明することができる。				3	3						
③	日常生活における様々な倫理的ジレンマの存在を理解し、説明することができる。				3		3	3				
④	企業不祥事に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、企業不祥事の発生要因ならびに倫理的ジレンマに関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③④にかかわる倫理的ジレンマや企業不祥事に関する諸問題について考察する力が身についているかを評価する。			10	20							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『問いからはじめる現代企業』	小山・出見世・谷口著	有斐閣	2018	教科書	任意
『ハーバードのケースで学ぶ企業倫理』	リン・シャープ・ペイン著、梅津・柴柳訳	慶應義塾大学出版会	1999	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業倫理と企業不祥事の関係について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	企業不祥事とはなにか	企業不祥事とは何か、その定義について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業不祥事の定義について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	企業不祥事の歴史	日本における企業不祥事の歴史とその内容について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における企業不祥事の歴史とその内容について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の歴史の中で関心をもったものを具体的に調べてまとめる。(2時間)	120分
4	企業不祥事と企業倫理Ⅰ：規範倫理と企業倫理	規範倫理(哲学や倫理学)が企業倫理とどのように関わっているのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、規範倫理と企業倫理の関係を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、規範倫理と企業倫理の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	企業不祥事と企業倫理Ⅱ：コンプライアンスと企業内部制度	企業不祥事を防止するために、企業が行っている仕組みづくりについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業内部制度の意義と課題について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業内部制度の意義と課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	企業不祥事と企業倫理Ⅲ：倫理的思考と倫理的行動	個人の倫理的行動が企業にどのような影響を与えるのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、個人が直面する倫理的ジレンマについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、個人が陥りうる倫理的ジレンマとしてどのようなものがあるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ケースメソッドⅠ：個人の非倫理的行動に基づく企業不祥事		実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について自身で考え、意見を述べることができる。		
	事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。		120分
8	組織の誠実さを理解する：企業倫理の役割		個人ではなく、組織が倫理的であるとはどのような状態なのかについて、企業と市場の関係から学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業倫理の役割について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業倫理の役割について、自分なりの説明をまとめる。		120分
9	組織の誠実さを構築する：環境づくり		企業が誠実であるために、組織内外の主体とどのような関係を築く必要があるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、倫理制度の必要性について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、どのような環境づくりが求められるのかについて、自分なりの説明をまとめる。		120分
10	ケースメソッドⅡ：途上国における児童労働問題		実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について自身で考え、意見を述べることができる。		
	事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。		120分
11	組織の誠実さを維持する：倫理教育		企業不祥事を防止するために、企業は従業員に対してどのような倫理教育を行っているのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、経営者と従業員の関係について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営者と従業員はどのような関係を築くことが求められるのかについて、自分なりの説明をまとめる。		120分
12	組織の誠実さを実現する：企業の目的と責任		企業不祥事を防止するためには、企業はどうあるべきなのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業の役割と責任について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	関心のある企業を対象として、企業不祥事を防止するためにどのような取り組みをしているのかについて、調べてまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	技術革新と企業倫理	技術革新によって生じる新たな倫理的課題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、技術革新が企業の活動にどのような影響を与えるのかを理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、技術革新によって生じる新たな倫理的課題に対して企業はどのように対応していることが求められるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	ケースメソッドⅢ：良い経営者とはなにか	良い経営者に求められる条件に関する様々なテーマについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、良い経営者に求められる条件について自身で考え、意見を述べることができる。	
	事前学修	さまざまな経営者について調べ、まとめておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、良い経営者に求められるものは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	前期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業不祥事に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて配布資料、講義ノートを基に、講義内容を復習する。	120分

科目名	企業不祥事論Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、実際に発生した企業不祥事の事例や日常で起こりうる倫理的ジレンマについて紹介する。自身が倫理的ジレンマに直面した際にどのような行動が求められるのかに関して、ケースメソッドを通じて、個人で考える能力を養い、多様な価値観を学ぶことの重要性の理解を目標としている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
倫理的なジレンマに直面した際に求められる行動に唯一無二の答えはない。そのため、重要なことは多様な価値観・考え方に触れ、考える力を身につけることである。したがって、本講義では、教員と学修者とのコミュニケーションを重視し、学修者が企業不祥事に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
企業不祥事論Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義、企業不祥事の事例を用いたケースメソッドにより進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて企業不祥事の発生要因や倫理的ジレンマについて考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業倫理に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。					3	3						
②	組織と個人の関係について理解し、その違いについて説明することができる。					3	3	3					
③	グローバル化や技術革新が私たちの生活に与える影響について理解し、説明することができる。					3		3	3				
④	企業不祥事に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。						3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、企業不祥事の発生要因ならびに倫理的ジレンマに関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③④にかかわる倫理的ジレンマや企業不祥事に関する諸問題について考察する力が身についているかを評価する。			10	20							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『問いからはじめる現代企業』	小山・出見世・谷口著	有斐閣	2018	教科書	任意
『キャリアで語る経営組織』	稲葉・井上・鈴木・山下著	有斐閣アルマ	2010	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業倫理と企業不祥事の関係について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画の見直しと前期の授業内容の復習。	120分
2	組織と個人の関係	組織と個人の関係における倫理的ジレンマについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、組織に属することで生じる倫理的ジレンマについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、組織と個人の間にどのようなコンフリクトが生じうるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	ステークホルダーと倫理的課題事項	企業と外部ステークホルダーとの間における倫理的ジレンマについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業と外部ステークホルダーとの間に生じる倫理的ジレンマについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業と外部ステークホルダーとの間にどのようなコンフリクトが生じうるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	企業不祥事と企業の社会的責任	企業の事業活動と社会貢献活動との間における倫理的ジレンマについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業の社会的責任の必要性について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業が経済性と社会性を両立する上での課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	企業不祥事とコーポレート・ガバナンス	経営者の暴走によって生じる企業不祥事をどのようにして防止するのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業倫理とコーポレート・ガバナンスの関係について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業倫理とコーポレート・ガバナンスの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	企業不祥事と経営戦略	企業が戦略を企てる上で生じる倫理的ジレンマについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、企業倫理と経営戦略との関係について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営戦略に企業倫理を組み込むことの必要性について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ケースメソッドⅠ：法律と倫理	実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について自身で考え、意見を述べることができる。	
	事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	ビジネス・システムⅠ：経営者を取り巻くさまざまな制約	経営者は社会の中でどのようなステークホルダーと関わり、いかなる制約を受けているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、経営者は他のステークホルダーとの関わりの中で、どのような制約を受けているのかについて理解し、意見を述べることができる。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営者はさまざまな制約に対して、どのように対応していく必要があるのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	ビジネス・システムⅡ：経営者の役割	企業はどのようにしてビジネス・システムを設計していくのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、ビジネス・システムを設計するプロセスについて理解し、意見を述べることができる。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ビジネス・システムを設計する上での課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	ケースメソッドⅡ：消費者に求められる倫理的責任	健全な社会を築くために、消費者に求められる倫理的行動に関する様々なテーマについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、消費者に求められる倫理的責任について自身で考え、意見を述べることができる。	
	事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	企業不祥事とグローバル化	グローバル化の進展によって生じた新たな倫理的課題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、グローバル化がもたらす影響について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、グローバル化の進展によって生じた企業不祥事の事例を調べてまとめる。	120分
12	企業不祥事と専門職倫理	専門職とはなにか、専門職従事者独自の倫理的ジレンマとはなにかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、専門職倫理の意義と課題について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、専門職に関わる企業不祥事の実例を調べてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	非営利組織における不祥事	非営利組織における不祥事は、企業不祥事とどのように異なるのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、非営利組織における不祥事の特徴について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、非営利組織における不祥事の事例を調べてまとめる。	120分
14	ケースメソッドⅢ：非営利組織独自のジレンマに基づく不祥事	実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について自身で考え、意見を述べることができる。	
	事前学修	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	後期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業不祥事に基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に、講義内容を復習する。	120分

科目名	企業法務Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
企業の事業活動に伴って発生する法律問題、国際取引が進展する中で必要とされるビジネス法務において問題となる主要事項、などを取り上げ、幅広く学習する。特に、金融資本市場とコーポレート・ガバナンス（企業統治）やコーポレート・ファイナンス（資金調達）、国際契約など国際法務、更にはM&A（企業買収）の理論とプラクティスなどに焦点を当て、実務的な知識やノウハウの習得が可能となるよう講義を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネス社会を取り巻く環境変化により、ビジネスのあり方、法との関係も大きく変化しつつある。法的リスクの顕在化、企業運営の在り方も変容してきている。ビジネスに関する法務について、受講生自身が考え履践し、卒業後の第一線のビジネスマンとなった暁には自律・自立し、自ら検討、判断、修正し、また説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も歓迎する。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進め、授業内レポートを提出していただきたい。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	企業法務について理解し、説明できる。【知識】		2	2	2				
②	企業法務や国際契約などで用いられる諸条項の意味および目的について理解し、説明できる。【知識】		2	2	2				
③	企業法務の実践、国際契約に関する規定・解釈などに応用できる。【技能】		2	2	2				
④	企業法務の実践のほか、国際契約など初歩的な契約条項を解釈できる。【技能】		2	2	2				
⑤	企業法務の実践のほか、国際契約の解釈などについて自分の意見を述べるができる。【態度・習慣】		2	2	2				
⑥	企業法務の実践のほか、国際契約の条項の運用や策定など、その意味および目的を理解し、意見を述べるほか、自身が相手側と交渉・締約・運営に携わることができる。【態度・習慣】		2	2	2				
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④、⑤、⑥にかかわる説明ができるようになって いるか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、 グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10	5				25
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解な どを示して質問など行っているかについて、評価する。								5	5	5	15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評について、最終日の授業において解説などを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストや参考書などについては、授業内で別途、具体的に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話に 来てください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業の融資や調査などを長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、企業法務とは		授業のテーマ、内容やスケジュール、成績評価方法、参考文献の紹介を含めて学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、どのような科目内容か、また関連法制度とのかかわり等について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	ビジネスと法		現代のビジネス社会と法務などについて、企業経営、法解釈も交えて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと法のかかわりなどについて、理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
3	コンプライアンスとリスク管理（1）		コンプライアンスとリスク管理などについて、社会的責任、コンプライアンスなども含めて概説し、全体像を学習する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、コンプライアンスとリスク管理などについて、理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
4	コンプライアンスとリスク管理（2）		コンプライアンスとリスク管理などについて企業倫理と社会的責任、企業内のコンプライアンス態勢整備などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、コンプライアンスとリスク管理などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
5	ビジネスと企業組織（1）		企業形態、会社の分類などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと企業組織などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
6	ビジネスと企業組織（2）		会社設立、株主と会社の機関、取締役の業務執行などコーポレート・ガバナンス（企業統治）について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと企業組織などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	ビジネスと企業組織 (3)	資金調達（ファイナンス）、株式公開、I R（投資家との関係づくり）など金融資本市場について、学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと企業組織などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	
8	ビジネスと企業組織 (4)	企業買収と防衛策、事業承継と相続、企業倒産などについて学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと企業組織などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	
9	ビジネスと企業提携 (1)	業務提携、企業結合・統合などについて学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと企業提携などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	
10	ビジネスと企業提携 (2)	合併、株式交換と持ち株会社設立などについて学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと企業提携などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	
11	ビジネスと企業提携 (3)	会社分割、事業譲渡、更に2021年3月施行の改正会社法において新設された株式交付などについても、学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと企業提携などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	
12	ビジネスと企業提携 (4)	M&A（企業買収）法制度と防衛策に関して、判例研究を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと企業提携などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	営業活動の補助者		代理店・特約店、仲立業・問屋業などについて、法制度を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、営業活動の補助者などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
14	企業と従業員		企業と従業員の関係、雇用条件と法規制、解雇と法、保険・年金などについて、法制度を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、企業と従業員などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
15	ビジネスと税 前期の総まとめ		企業活動と税、消費税などについて学習する。 前期の総まとめの解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、ビジネスと税、前期の学習の総まとめについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分

科目名	企業法務Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
国際取引の進展に伴い国際売買契約が締結された後、当該契約について紛争が生じた場合の対応について、国際民事訴訟や国際商事仲裁を中心に学修する。 また、必要に応じてわが国の仲裁法やニューヨーク条約なども参考にしながら、より実践的な学修を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際売買契約に関する特徴的なツールおよび紛争発生時の対応などについて、ウィーン売買条約やニューヨーク条約等も参考にしながら、主に国際商取引における紛争解決に関する基礎知識の修得を目的とする。 この基礎知識の基づき、具体的な紛争発生時における実践的交渉手法の基礎を修得し説明できることを目標とする。

【履修条件】
法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も歓迎する。

【授業方法】		
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進め、授業内レポートを提出していただきたい。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際売買契約に関する特徴的なツールであるインコタームズの種類や船荷証券の法理的性質などについて理解し、説明できる。【知識】				2	2	2				
②	ウィーン売買条約やニューヨーク条約等も参考にしながら、国際商取引における紛争解決方法について理解し、説明できる。【知識】				2	2	2				
③	インコタームズの種類や船荷証券の法的性質などについて理解したうえで、実際の国際売買契約に応用することができる。【技能】				2	2	2				
④	紛争解決条項やニューヨーク条約などにに基づき、国際民事訴訟や商事仲裁による紛争解決方法を導くことができる。【技能】				2	2	2				
⑤	インコタームズの種類や船荷証券の法的性質を理解し、国際売買契約への応用につき、自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】				2	2	2				
⑥	紛争解決条項やニューヨーク条約に基づき、国際紛争の解決方法について自分の意見を述べることができる。【態度・習慣】				2	2	2				
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④、⑤、⑥にかかわる説明ができるようになって いるか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、 グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10	5				25
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解な どを示して質問など行っているかについて、評価する。								5	5	5	15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評について、最終日の授業において解説などを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストや参考書などについては、授業内で別途、具体的に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話に 来てください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業の融資や調査などを長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	契約と法務（1）		契約の基礎知識、契約類型と法規制などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、契約と法務等について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	契約と法務（2）		財産と権利（物権・債権・無体財産権）、取引と契約文書、継続的契約など、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、契約と法務等について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
3	契約と法務（3）		契約不履行と民事責任、製造物責任などについて、学習する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、契約と法務等について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
4	不動産取引と法（1）		不動産取引と法などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、不動産取引と法などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
5	不動産取引と法（2）		不動産売買契約の成立・効果、賃貸借契約と借地借家法などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、不動産取引と法などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
6	不動産取引と法（3）		不動産取引と登記制度、不動産の鑑定、行政規制、刑事罰則、不動産取引と税などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、不動産取引と法などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	与信取引・銀行融資と担保（1）	与信取引と契約、担保の種類、登記などについて、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、与信取引・銀行融資と担保などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
8	与信取引・銀行融資と担保（2）	抵当権、根抵当権、仮登記担保などについて、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、与信取引・銀行融資と担保などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
9	与信取引・銀行融資と担保（3）	代理受領・振込指定、所有権留保、譲渡担保、人的担保などについて、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、与信取引・銀行融資と担保などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
10	電子商取引と法、ビジネスと消費者	電子商取引と法、ビジネスと消費者などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、電子商取引と法、ビジネスと消費者などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
11	市場経済と法	私的独占と法規制、不当な取引制限と規制、不公正な取引方法の規制、企業結合・集中の規制などについて、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、市場経済と法などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
12	紛争の処理	紛争処理の多様化、民事裁判、債権回収、債務者の倒産と対応などについて、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、紛争の処理などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際取引法（1）	国際商取引と国際売買契約の概要、インコタームズ2020、国際的資金決済などについて、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、国際取引法などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
14	国際取引法（2）	準拠法・裁判管轄、ウィーン売買条約、国際合弁契約などについて、法制度を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、国際取引法などについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
15	国際金融法 後期の総まとめ	サブプライム金融危機と国際金融法制、フィンテックと仮想通貨などについて学習する。 後期の総まとめの解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③等に関連して、国際金融法、前期の学習の総まとめについて、さらに深く学習し、理解・説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分

科目名	教育政策	担当者	壽福 隆人	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
教育政策立案過程から説き起こし、教育政策が社会生活に及ぼす重要性を理解する。とくに、「子どもの貧困」というわが国社会が直面している問題を深く掘り下げ、その対策について検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
教育政策が社会に及ぼす影響を理解し社会人として教育問題に取り組む態度を育み、「子どもの貧困」対策について自らの考えを述べられる知識、さらにその具体的解決策について提言できるような技能を身に付けられるよう教育政策論を学修する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義を基本とするが、BYODを活用して、講義中に学生自身が資料や統計を検索しつつ講義は進められる。講義に対するラーニングリフレクションの提出を求め、各テーマの理解度、補足必要な課題などを検証しながら講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	BYODを用いた資料検索を通して、自ら考え、自らの意見をまとめられる学生の育成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育政策の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。				4		4	4	4			
②	現代の教育政策が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。				4		4	4	4			
③	「子どもの貧困」はどこに原因があるのか、問題点を明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。				4		4	4	4			
④	発見した現在の教育政策の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。				4		4	4	4			
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。				4		4	4	4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。				10	10						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポートの模範例を示すとともに、ABCの3段階で評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育政策・行政	安藤忠・壽福隆人監修	弘文堂	平成25年3月		必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日4限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当 学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業計画について 導入講義	講義形式、BYODの活用、評価法を説明し、教育政策論の領域について紹介する。	
	この回の 到達目標	教育政策の学修領域とは何かを理解し、講義に対する意欲・意識を高める。	
	事前学修	シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。各自の教育歴・学校歴の中で、教育政策と関係が深いと思われる事象についてリストアップする。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
2	教育政策の概念について	日本経済の成長の過程で、教育政策がどのようにかかわってきたのかを明らかにし、教育政策の概念を明らかにする。	
	この回の 到達目標	到達目標①に関して、教育政策とはどのように社会と関わっているか説明できる。	
	事前学修	各自の教育歴と学校歴のなかで教育政策とのかかわりについて把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	近代日本の教育政策	教育政策がわが国の近代化に大きく貢献したことを確認する。	
	この回の 到達目標	子どもが子どもの自身の文化を持ち始めたことについて理解する。	
	事前学修	「子どもの遊び」について考える。子どもが子ども時代しか使わない玩具、子どもの時代しか遊ばない遊びの収集を通して、子どもの文化が成立する時代を考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、文明の発達が「子ども」を生み出したという理論を理解する。同時に「青年期」も文明の発達の所産であることを確認し、子どもや青年期について、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
4	教育政策立案過程	現代の教育問題に対して行政がどのように対応しているのか明らかにし、政策立案過程に見られる問題点を明らかにする。	
	この回の 到達目標	教育政策が社会の発展と大きく関わっていることを歴史的事実から説明できる。（到達目標①）	
	事前学修	近代史の中から教育政策の果たした役割について把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	教育政策と学習指導要領	教育政策が学習指導要領にどのように反映しているかを明らかにする。	
	この回の 到達目標	到達目標②に関して、学習指導要領の教育政策的意味について説明できるようにする。	
	事前学修	学習指導要領の法的位置づけについて調べ、授業内で発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	中国の歴史的 教育政策と日本への影響	わが国の伝統的教育政策と中国との交流について学習する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関して、わが国の教育政策に見られる伝統について説明することができる。	
	事前学修	教育に関する公的支出が少ないのにわが国の教育水準が高い理由について各自が自分の意見を授業内で発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	古代ギリシャの教育政策	社会構造の違いが教育政策にどのような影響を与えるかについて古代ギリシャの教育政策から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、社会構造と教育政策の関係を明らかにして、今日の教育問題の原因を論理的に説明・批判できるようにする。	
	事前学修	今日の教育に関する問題点を各自明らかにし、問題の所在を自らの言葉で、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	絶対主義王政下の教育政策	義務教育制度の成り立ちと教育政策の関係を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、義務教育制度の果たすべき役割と問題点について説明することができる。	
	事前学修	各自の教育歴の中に占める義務教育大きさについて、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	資本主義発達期の教育政策	産業の発達と教育政策の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、産業社会の発達に教育政策が深くかかわることを説明することができる。	
	事前学修	高指定された文献等で産業の発達と教育政策との深い関係について、質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	現代アメリカの教育政策と現代日本の教育政策	今後の教育政策の展望のために、現代アメリカ、現代日本が直面している教育問題について明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、今後の教育政策に何を期待するか各自の意見を述べることができる。	
	事前学修	指定された文献等により今後教育政策の歩むべき方向に対して把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。指定された文献等により今後教育政策の歩むべき方向に対して把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	子どもの貧困（1）	一億総中流という意識の中で捨て置かれてきた「子どもの貧困」問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、「子どもの貧困」の問題が現在いかに深刻な問題となっているか説明することができる。	
	事前学修	指定された資料・文献等により、OECDの勧告の意味を理解し、その重大性を把握しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	子どもの貧困（2）	到達目標③④に関して、「子どもの貧困」の問題が現在いかに深刻な問題となっているか医療ものの観点から説明することができる。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、医療の観点から貧困家庭の子供が置かれている現状を説明することができる。	
	事前学修	指定された資料・文献等により、医療の観点から子供の置かれている状況尾を授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	子どもの貧困（3）	受験制度・進学問題から「子どもの貧困」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、貧困家庭と進学・受験問題の深刻な現実について学び、その問題性を説明できる。	
	事前学修	自らの学校歴の中から、受験や進学が現代日本においていかに重要な問題であるかをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	子どもの貧困（4）	世界各地の貧困状態に置かれた子供の現状にも目を向け、その解決策について議論できる力をつける。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、国際的視点から「子どもの貧困」問題を理解し、この解決策を模索し、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
15	子どもの貧困問題への提言	これまでの講義内容を踏まえて「子供の貧困」という問題に有効な手を打てない現代の教育政策の問題点を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、論理的に自らの意見をまとめ、「子どもの貧困」対策を自らの言葉で訴えることができるようにする。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加でき、自らの意見を述べらるよう自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。
--

【履修条件】 特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。
--

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。出席管理システム（レスポ）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。		2		2				
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。		2		2				
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2	2			
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。					2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山 公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾 勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政学を指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、国民生活と行政		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、国民生活と行政の密接な関係について、説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するするとともに、教科書の目次を見て、市民生活と行政活動について調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政活動について理解を深めること。		120分
2	行政サービスの範囲拡大		歴史的側面から行政活動を検討し、行政サービスの範囲拡大要因を考察する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の歴史の変遷について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、歴史的側面から、行政活動の範囲を検討しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、特に社会背景と行政の役割について理解を深めること。		180分
3	福祉国家の成立と課題		行政活動の拡大と共に変化した国家の役割、特に福祉国家の成立と課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政活動の拡大要因について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公行政の特質について検討しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、国家の役割変化と行政活動の変化について理解を深めること。		180分
4	行政と国民		行政国家の特質を見つつ、行政と国民の関係、ならびに行政の役割と課題について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政国家の特質について、立法国家と対比して説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代行政が国民のために存在する意義を検討しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、立法国家と行政国家の違いの理解を深めること。		180分
5	アメリカ行政学の歴史的展開		現代行政学の基礎となる、アメリカ行政学の発展について歴史的に学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、アメリカ行政学の歴史的展開について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、現代国家に必要不可欠な体制を整えるために発展した、アメリカ行政学について検討しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、アメリカ行政学の発達以前と比較して理解を深めること。		180分
6	アメリカ行政学と行政理論		社会背景変化の中で、求められてきた行政活動と行政理論の変化を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政理論の変化要因と、行政理論について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、社会背景の違いを見つけ出し、行政活動の違いと現代行政学の基礎を検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政理論の変化と社会背景を照らし合わせて理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	行政学の構成		日本の行政学の成り立ちと、研究動向をみつつ行政学の構成を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本における行政学の発展と、そのパラダイム等について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、日本の行政学の歴史的発展とその構成について検討しておくこと。	60分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政学の変遷の理解を深めること。	180分	
8	現代国家の政府体系		中央政府・地方政府関係から概観し、現代国家の政府体系と行政について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の中央政府・地方政府関係に照らし合わせて、政府体系を説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政活動を梓づける、政府体系と政府形態について検討しておくこと。	60分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政府間関係と行政について理解を深めること。	180分	
9	現代国家の政府体系の課題		行政サービスの拡大を題材に、その量的・質的变化をみつつ現代国家の政府体系の課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公共の担い手の変化について、その必要性と課題について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、セクショナリズムなどの用語とともに、官民の関係について理解しておくこと。	120分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政サービスの変化と担い手変化の理解を深めること。	120分	
10	行政管理と行政改革		行政組織に求められた役割と、財政などの問題を関連させつつ、行政管理と行政改革を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織のマネジメントの必要性和、公共性について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政が導入した、重要な概念である管理について検討しておくこと。	60分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。	180分	
11	行政活動の能率		行政管理で用いられる、能率性・効率性・経済性の用語を中心に、現代で求められる公共性について検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政の能率の考え方を比較し、現在求められる行政の能率について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の能率・効率について調べておくこと。	60分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、現代に求められる行政の能率について理解を深めること。	180分	
12	行政組織		組織論の変遷を見つつ、特に人間関係論の発展から行政組織について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、組織論の変遷と、マネジメントの関係を説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政組織の機能について検討しておくこと。	120分	
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政管理論・行政組織論を比較しつつ理解を深めること。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	官僚制と民主制	官僚制の特質と、行政組織における権限などを用語中心に学習し、民主主義における国民と行政を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、官僚制の特色とその病理について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、官僚制の特色について検討しておくこと。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、官僚制の特質と問題点の理解を深めること。	120分
14	現代公務員制度の構成原理	公務員制度の諸原理について、戦前・戦後を比較しつつ学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、戦前・戦後の行政原理を比較しつつ、現代公務員制度の課題を説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、公務員制度について検討しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、民主主義における官僚制について理解を深めること。	180分
15	講義のまとめと行政環境の変化	行政をとりまく環境を検討しつつ、新しい公共を検討し、その後全体のまとめを行う。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、社会変化を理解しつつ、現代に求められる行政活動と公共性について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分とノート必ず読み、行政活動やそれを担う公務員の規律なども含めて検討して、さらに初回からのノートなどを見直し、行政学の流れを検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅰ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】 「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。
--

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるための必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】 特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。
--

【授業方法】 講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中折をみてリアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を理解し、識別することができる。				2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について理解し、論理的に説明できる。				2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『行政学案内[第2版]』	真淵 勝	慈学社	2014	参考書	任意
『行政学〔新版〕』	真淵 勝	有斐閣	2020	参考書	任意
『はじめての行政学』	伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔	有斐閣	2016	参考書	任意
備考	教科書は使用しないが、上記真淵著の2冊を準拠として授業を構成しているので、この2冊は非常に有用である。				

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：授業内容の説明	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を確認し理解できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章に目を通し、講義の全体像をイメージできるようにする。	120分
	事後学修	第1回目に行った授業内容や参考書をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。	120分
2	1. 国家行政機構(1) 中央省庁のしくみ	「霞が関」とも呼ばれる中央官庁の各省及び庁の構成、仕組み、役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	「霞が関」とも呼ばれる中央官庁の各省及び庁の構成、仕組み、役割を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
3	1. 国家行政機構(2) 中央省庁の出先機関等	中央省庁の出先機関の構成、配置、役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	中央省庁の出先機関の構成、配置、役割を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
4	1. 国家行政機構(3) 中央省庁再編の意味合い	中央省庁の再編の意味合いと再編後の省庁の特徴、課題、展望について学ぶ。	
	この回の到達目標	中央省庁の再編の意味合いと再編後の省庁の特徴、課題、展望を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
5	1. 国家行政機構(4) 内閣制度のしくみと機能	内閣制度の仕組みと機能、また内閣総理大臣のリーダーシップについて学ぶ。	
	この回の到達目標	内閣制度 その仕組みと機能、また内閣総理大臣のリーダーシップを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
6	2. 国家公務員制度(1) 公務員制度のしくみ	国及び地方公務員の任用-主として採用と昇進を対象とした-に関する諸制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	国及び地方公務員の任用-主として採用と昇進を対象とした-に関する諸制度を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	2. 国家公務員制度 (2) 官僚のライフステージ：天下りの機能と逆機能	官僚の天下りに関して、その功罪を学ぶ。		
	この回の到達目標	官僚の天下りに関して、その功罪を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
8	2. 国家公務員制度 (3) 人事院の制度と機能	公務員は労働基本権を制約されているが、その代償としての人事院勧告を中心に学ぶ。		
	この回の到達目標	人事院の制度と機能を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
9	2. 国家公務員制度 (4) 行政資源としての出向官僚	行政資源として見た中央官僚の地方出向について学ぶ。		
	この回の到達目標	行政資源として見た中央官僚の地方出向について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
10	3. 日本的行政システムの特徴 (1) 「官僚像」の時代的変容①「国土型官僚」、「調整型官僚」	「政官関係論」的視座に基づいて、時代により「官僚」像がどのように変わってきたかについて学ぶ。「国土型官僚」モデルから「調整型官僚」モデルまで		
	この回の到達目標	時代により「官僚」像がどのように変わってきたかを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
11	3. 日本的行政システムの特徴 (2) 「官僚像」の時代的変容②「吏員型官僚」	「政官関係論」的視座に基づいて、時代により「官僚」像がどのように変わってきたかについて学ぶ。「吏員型官僚」モデルを中心に扱い、このような変容をどのように理解するのかを主権者である国民の視点から探る。		
	この回の到達目標	時代により「官僚」像がどのように変わってきたかを理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
12	3. 日本的行政システムの特徴 (3) 大部屋主義とセクショナリズム	日本的官僚制の特質の一つと言われる「大部屋主義」と「セクショナリズム」について学ぶ。		
	この回の到達目標	日本的官僚制の特質の一つと言われる「大部屋主義」と「セクショナリズム」について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	3. 日本的行政システムの特徴(4)稟議制神話と実際①通説としての「稟議制」	長年わが国特有の行政組織の意思決定方式と言われてきた「稟議制」について学ぶ。		
	この回の到達目標	「稟議制」について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
14	3. 日本的行政システムの特徴(4)稟議制神話と実際②多様な意思決定方式のあり様	実際の行政組織においては「稟議制」はごく一部に採用されているにすぎず、実際には多様な意思決定方式が採用されていることを、井上誠一の所論に学ぶ。		
	この回の到達目標	行政組織における多様な意思決定方式を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
15	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通じた理解度は測るために、理解到達度試験を行う。また期間のまとめとして、この間行った主要な事柄について質問に答える。		
	この回の到達目標	半期で学んだ行政学の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。		
	事前学修	半期で授業で学んだ事柄について、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分	
	事後学修	これまでに授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、疑問を解消する。	120分	

科目名	行政学Ⅱ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータル・システムにおいて、解説・講評を加える。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。				2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。				2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山 公美編	弘文堂	2016	教科書	必携
行政学	西尾 勝	有斐閣	2001	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容	審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政学を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	中央政府の組織編制		中央政府の組織を見つつ、その内部構成を検討していく。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁の特色等について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、さらに中央省庁のホームページ等を見て行政組織図について理解しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政組織の理解を深めること。		120分
2	行政の内部過程		行政の内部メカニズムについて検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政組織における、統合と調整等、そのメカニズムを説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、管理運営技術などを検討しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織におけるメカニズムの理解を深めること。		120分
3	政策過程		政策過程を概説し、政策展開を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、政策形成・立案における、行政と国民の関係を説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策とは何かについて理解しておくこと。		60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策形成と立案の理解を深めること。		180分
4	環境変化と政策		環境変化による政策の変化を検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、多様な政策展開について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策ごとの違いと関連について理解しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策の時間軸的变化の理解を深めること。		120分
5	政策過程分析		政策ごとに進め方や参加者が違うこと等に着目し、政策過程分析をみていく。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、政策過程の理論や分析等について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策の違いと参加の関連について理解しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、多様な政策実施について理解を深めること。		120分
6	行政裁量・許認可・行政指導		行政裁量について、許認可・行政指導との関連をみていく。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政行為について説明できる。		
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政裁量について、許認可・行政指導との関連を理解しておくこと。		120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政裁量の必要性和課題の理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政策評価	政策評価の対象と基準について検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、政策評価の意義と限界について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の効果について検討しておくように。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策評価実施後の行政活動の在り方についての検討を深めること。	120分
8	政策決定過程	政策過程における諸段階のうち、政策決定過程を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、政策決定過程ならびに、その過程における調整等について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策決定過程について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、課題設定などその過程についての理解を深めること。	120分
9	政策実施過程	政策過程における諸段階のうち、行政の実施を学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、実施主体の課題等について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、政策実施過程について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策過程を全体として理解する。	120分
10	予算と会計	財政制度と予算・決算について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の財政制度とその課題について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、財政制度について理解しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、財政制度の理解を深めつつ、財政制度の問題点を検討しておくこと。	180分
11	議院内閣制と省庁制	行政組織を歴史的に概観し、内閣制度につて検討する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、中央省庁改革の目的などを説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、三権分立における行政について、検討しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、中央省庁改革などの理解を深めること。	180分
12	地方自治	戦後日本の中央地方関係を概観し、地方自治の役割と自治体行政について学習する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、一番身近な行政である地方自治を理解し、住民意識の重要性について説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、地方自治について理解しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、身近な行政サービスと住民意識についての理解を深めること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	行政責任		行政責任の概念を見つつ、現代に求められる行政責任を検討する。
	この回の到達目標	①～④に関連して、現代で求められる行政責任について、自分なりの意見を説明できる。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政責任について理解しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政責任のバランスを考えること。	180分
14	行政統制		行政統制の類型を概観しつつ、行政の在り方を検討する。
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政統制の必要性、なかでも国民の責任について理解する。	
	事前学修	指定した教科書の部分を必ず読み、行政統制の類型を理解しておくこと。	60分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政内・外の存在の理解を深めること。	180分
15	講義のまとめと新たな行政モデル		行政をとりまく環境変化を検討しつつ、新たな行政モデルの必要性検討し、その後全体のまとめを行う。
	この回の到達目標	①～④に関連して、現状の行政について理解しつつ、その問題点を説明でき、新たな行政モデル必要性について自分の意見を持つ。	
	事前学修	初回からの教科書と講義ノートを見直し、行政内・外の役割について考察する。	120分
	事後学修	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政学Ⅱ	担当者	賀来 健輔	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
「行政国家」という用語が今日広く流通しているように、三権分立を原則とする現代国家においては、例外なく「行政」の占める比重は「立法」や「司法」を凌駕するに至っている。しかしながら他の二権に比べると、「行政」という領域は漠としてイメージしづらいものがある。この講義では、主権者としての「国民」と「行政」の関係性を基礎に据え、理論、歴史、過程の各分析を通して、「行政」の全体像について具体的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者として必要な能力を身につけておくために、行政学に関する基礎的知識を修得する。その知識をもとに現代社会の解決すべき諸課題に積極的にに関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。また国家・地方公務員受試験の志望者にあっては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
講義形式により行う。教科書、参考書、資料配布等の有無に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政学における主要な概念や理論を識別することができる。					2		2					
②	現代行政に生起する諸問題について、論理的に説明できる。					2		2					
③	現代行政に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。							2	2				
④	行政学に関する理解を踏まえた上で、主権者としてふさわしい行動がとれる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	授業時に実施する小テスト（含むリアクションペーパー）により，到達目標①②に関して、身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する積極的な質問、意見等を通して、到達目標④に資する能力を身につけているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『行政学案内[第2版]』	真淵 勝	慈学社	2014	参考書	任意
『行政学〔新版〕』	真淵 勝	有斐閣	2020	参考書	任意
『はじめての行政学』	伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔	有斐閣	2016	参考書	任意
備考	教科書は使用しないが、上記真淵著の2冊に準拠して授業を構成しているので、この2冊は非常に有用である。				

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	4. 官僚制論 (1) 近代官僚制とは何か？	マックス・ウェーバーらの近代官僚制論について、家産官僚制などと比較しながらその所論を学ぶ。		
	この回の到達目標	マックス・ウェーバーらを中心とする近代官僚制論を理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
2	4. 官僚制論 (2) 官僚制の逆機能	近代官僚制の逆機能と言われる諸現象について、アメリカで起こったマートン、セルズニックらの逆機能学派の所論に学ぶ。		
	この回の到達目標	近代官僚制の逆機能について理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
3	4. 官僚制論 (3) 他の側面から見た官僚制	ストリートレベルの官僚制、プロフェッショナル組織、開放的昇任制と閉鎖的昇任制など、もう一つの側面から現代の官僚制について焦点を当て、その機能について学ぶ。		
	この回の到達目標	官僚制のもう一つの側面について理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
4	5. 行政責任 (1) 行政責任とは何か？	主にギルバートの行政責任（行政統制）の4類型をモデルとして、行政責任とはどのようなものかについて学ぶ。		
	この回の到達目標	現代行政国家における行政責任の意味合いを理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
5	5. 行政責任 (2) 受動的責任・能動的責任・自律的責任	古典的な行政責任の考え方である受動的責任に止まらず、能動的責任さらには自律的責任までが求められるその意味合いについて学ぶ。		
	この回の到達目標	受動的責任・能動的責任・自律的責任を理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
6	5. 行政責任 (3) フリードリッヒとファイナーの論争	行政責任をめぐる有名なフリードリッヒとファイナーの論争を理解し、行政責任の考え方について学ぶ。		
	この回の到達目標	フリードリッヒとファイナーの論争から現代行政国家における行政責任のあり方を理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	6. 行政ネットワーク (1) 公的グリーゾーン組織とは何か？		独立行政法人組織らを中心とする公的グリーゾーン組織と呼ばれる一群について、その制度や機能・役割を学ぶ。	
	この回の到達目標	現代行政国家に果たす公的グリーゾーン組織について理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
8	6. 行政ネットワーク (2) 私的グリーゾーン組織とは何か？		業界団体を始めとする私的グリーゾーン組織と呼ばれる一群について、その制度や機能・役割を学ぶ。	
	この回の到達目標	現代行政国家に果たす私的グリーゾーン組織について理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
9	6. 行政ネットワーク (3) 諮問機関について		行政ネットワークから見た審議会等を始めとする諮問機関について、その制度、機能、役割等について学ぶ。	
	この回の到達目標	諮問機関について理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
10	7. 利益団体と行政について		利益団体が行政に果たす影響力を中心に、利益団体と行政、広く政治過程におけるその役割、機能について学ぶ。	
	この回の到達目標	政治行政過程において利益団体が果たす役割や機能を理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
11	8. 官民関係について		特に民間委託の功罪を取り上げ、「官」と「民」のあり方について学ぶ。	
	この回の到達目標	「官民関係」を理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
12	9. 政策過程 (1) 政策過程に関する諸理論		政策過程に関する諸理論について学ぶ。	
	この回の到達目標	政策改訂に関する諸理論について理解し、到達目標①②③④を自分のものとしてすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	9. 政策過程 (2) 各過程の分析	政策過程の5段階について概説し、そこで行政が果たす役割、機能について学ぶ。	
	この回の到達目標	各政策過程を理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
14	10. 国民と行政	国民はどのように行政過程に参加し、政策に関わることができるのかという点について学ぶ。	
	この回の到達目標	国民の行政参加について理解し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
15	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度は測るために、理解到達度試験を行う。また期間のまとめとして、試験の解説の他、後期の授業で扱った主要な事柄について質問に答える。	
	この回の到達目標	半期で行った行政学の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③④を自分のものとすることができる。	
	事前学修	半期の授業で学んだ事柄について、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
	事後学修	これまでに授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、疑問を解消する。	120分

科目名	行政管理研究	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
行政組織の業務を目的活動と区別し、目的活動を効率的に達成できるようにするための組織と維持発展をはかるためには何が必要かを検討する。具体的にはトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローアー・マネジメントにも続き、行政活動との関連で行政管理のあり方を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義は、国民の期待に応え、社会により貢献していく行政管理を、専門的に理解する能力を学修者に養成することを目的とする。具体的に本講義では、行政管理の基礎理論を解説しつつ、行政の効率的機能の改善・合理化を検討し、行政管理の問題点・展望を検討していく。さらに行政の目的のひとつである能率に検討を加えることで、能率よりも高い価値とされる「公益」とのバランスを学修者には考えられるようになってもらうことを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、行政管理の概念を理解し、行政管理のマネジメント機能について説明できる。					4							
②	学修者が、行政機関におけるトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローアー・マネジメントの機能に基づき、行政管理の機能を説明できる。					4		4	4				
③	学修者が、現代に求められる行政管理を能率と公益を踏まえて説明できるようになる。					4			4	4			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政管理の機能について理解し、行政組織の在り方を定期試験の問題において論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政組織の目的と管理の意味、研究方法についてキーワードを説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	行政組織の目的		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政組織の目的と管理の意味、研究方法についてキーワードを説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理の目的について理解する。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政管理論について理解しておく。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の意味や意義について理解を深めること。		120分
2	行政組織と行政管理		行政組織と行政管理の関係について検討していく。	
	この回の到達目標	①～③に関連して組織と管理の関係について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織論について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、組織と管理の関係について理解を深めること。		120分
3	行政管理の機能		行政管理に用いられる用語を解説しつつ、管理の機能について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、管理者についての機能について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、管理機能について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と機能について理解を深めること。		120分
4	意思決定と行政管理		行政管理に用いられる用語を解説しつつ、意思決定との関係を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の意思決定と管理機能の関係について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政の意思決定過程について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と意思決定の理解を深めること。		120分
5	行政管理と基本構想		行政管理と基本構想などの具体的な事例を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、具体的な行政活動と管理の関係を説明できる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、基本構想などを見ておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分が住む自治体の方向性と行政管理について検討を加えること。		120分
6	政策と行政管理		行政管理に用いられる用語を解説しつつ、政策実施・行政組織との関係を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、政策実施における行政管理の機能について理解する。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、政策とは何かについて理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と政策、行政の部署の理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	行政責任と行政管理		行政責任の変遷と、行政管理の関係について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政に求められる責任の変化と行政管理の変化について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政責任とは何かについて理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政管理の考え方や変化について理解を深めること。		120分
8	トップ・マネジメント		行政管理における、トップ・マネジメントについて学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、トップ・マネジメントの役割と対象について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織の階層性について理解し、トップ・マネジメントについて調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるトップ・マネジメントと行政管理の役割についての理解を深めること。		120分
9	ミドル・マネジメント		行政管理における、ミドル・マネジメントについて学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、ミドル・マネジメントの役割と対象について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織の階層性について理解し、ミドル・マネジメントについて調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるミドル・マネジメントの役割についての理解を深めること。		120分
10	ローアー・マネジメント		行政管理における、ローアー・マネジメントについて学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、ローアー・マネジメントの役割と対象について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、ローアー・マネジメントと行政サービスの実施段階について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるローアー・マネジメントの役割についての理解を深めること。		120分
11	行政評価と行政管理		行政管理と行政評価の関連について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政評価と行政管理の機能の関連を説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政評価と政策評価について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政管理と行政評価を経営管理の側面から理解を深めること。		120分
12	行政理論と行政管理		行政理論の変遷と行政管理について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政理論とその時代の行政管理の考え方の関係を説明できる。説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政理論と行政管理の関係について、歴史と照らし合わせて理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代の要請に基づく行政管理について理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	行政管理における管理者の役割		歴史・社会背景を見つつ、時代に求められる管理者について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、社会変化に伴う、管理者の役割変化について説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、管理者の意味について復習しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代ごとの管理者の役割について理解を深めること。		120分
14	NPMと行政管理		NPMを含めた、新しい行政管理についてグループディスカッションを行いつつ検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、現代的な行政管理について意見が言えるようになる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、NPMと行政の能率について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、現代に求められる行政管理について検討すること。		120分
15	講義のまとめと現代的行政管理		現在求められている行政組織を、行政管理の機能に基づいて検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理の機能と階層別のマネジメントを理解し、現在求められる行政管理について説明できる。		
	事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政管理の機能とその対象について考察する。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。		120分

科目名	行政管理論	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
現代行政が多岐にわたり国民の期待にさらに応え、社会により貢献していくためには、行政を科学的・能率的に管（Managing）することが必要とされる。すなわち、行政が効率的に機能を果たすように、行政活動の改善・合理化を進め、行政機能をより一層有効に果たすことが要請されているのである。そこで本講義では、行政管理の歴史、基礎理論を解説しつつ、行政管理の問題点や展望の基礎を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政に関連する、上級科目履修のために必要な行政管理の基礎の修得を目的とする。現在国・地方も財政難と言われ、行政の効率化が叫ばれている。そこで、行政の目的のひとつである「能率」に検討を加えることで、能率より高い価値とされる「公益」とのバランスを、行政だけではなく国民自身がそれぞれ現在の行政活動には何が求められるかを学修者が考える力をつけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	関連する事象についてグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5 挑戦力							
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6 コミュニケーション力							
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7 リーダーシップ・協働力							
		A-4	問題発見・解決力			A-8 省察力							
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、民間と行政の管理の概念違いを理解し、行政管理の特徴を説明できる。					2							
②	学修者が、現代に求められる行政サービスとの重要性和行政管理の役割について、歴史と社会背景を関係させつつ説明できる。					2		2	2				
③	学修者が、行政管理の機能を理解し、現在求められる行政管理手法の基礎を身につける。					2			2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政管理の概念、機能について理解し、試験の問題において課題について論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政管理の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	管理の考え方		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連を基礎にしつつ、管理の意味や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にこなせるようにする。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、管理の意味についてマネジメントであることを理解する。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政管理論について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の意味について理解を深めること。		120分
2	行政の概念		歴史の中での行政活動を見つつ、その公共性について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政活動の誕生と、公共サービスとは何かについて理解する。		
	事前学修	様々な教科書などを読み、行政とは何かについて、調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、公共性・公益について検討すること。		120分
3	行政組織の役割		公共性に基づく、行政組織の在り方について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政組織と民間組織の違いについて説明できる。		
	事前学修	ニュースなどを見て、関心ある行政活動について検討しておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の透明性の必要性の理解を深めること。		180分
4	行政の技術性		行政の技術性について学習し、その必要性と公共性との関係を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、現代にもとめられる行政の技術性と問題点を説明できる。		
	事前学修	身近で行われている行政活動について、ホームページなどで調べ、行政の専門性について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の専門性と公共性のバランスに検討を加えておくこと。		120分
5	管理の歴史		管理という言葉を経史的に検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、民間の管理手法から行政へ導入された「管理」の意味について理解できる。		
	事前学修	官民の管理活動を調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理についての理解を深めること。		120分
6	行政国家の成立		国家の歴史的変遷を見つつ、政府・官僚制などを検討し、行政サービスと管理手法を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、その時代に求められた行政活動と行政管理を説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政国家について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政国家の成立要因についてまとめておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行政国家の展開	福祉国家への道と、行政サービスの拡大をみつつ、そこで求められる管理を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の拡大と行政管理の変化を理解できる。	
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、福祉国家について理解しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、福祉国家への道への共通認識と、行政活動について理解を深めること。	120分
8	行政と行政管理	歴史の中で、社会背景に要請された行政活動の妥当性とは何かについて検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、社会の要請と行政管理の役割について説明できる。	
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、行政機能の拡大の歴史について復習しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、社会に求められてきた行政活動を行うための行政の変化について検討しておくこと。	120分
9	科学的管理法	テーラーの科学的管理法と行政活動について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、テーラーの科学的管理法について説明できる。	
	事前学修	一般的な行政学の教科書を参照し、科学的管理法について理解しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、なぜ科学的管理法を行政が導入する必要性があったかを検討しておくこと。	120分
10	POSDCORB	ギューリックのPOSDCORBを検討しつつ、行政における管理の必要性について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、管理機能について説明できる。	
	事前学修	組織における管理機能について検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政機能の拡大と管理を関連させて理解を深めること。	120分
11	行政管理の理念と概念	行政組織における「管理」の意味について、キーワードを用いて学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の効率性について自分の意見が言えるようになる。	
	事前学修	行政の効率性について、検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の目的と行政組織について理解を深めること。	120分
12	現代行政と行政管理の役割	行政の能率について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の能率に関する考えを説明できる。	
	事前学修	自分が住んでいる地域の財政について調べておくこと。	60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、能率の考え方について検討しておくこと。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行政管理における効率と経済性	行政の目標を効率性・経済性を踏まえて検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、住民主体の行政とは何かについて、自分の意見が言えるようになる。	
	事前学修	行政の効率性と、公益について、検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分にとって必要な行政活動について検討しておくこと。	120分
14	行政管理と公益	現代行政に求められる行政管理について、グループディスカッション行いつつ検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政管理と公共性について説明できる。	
	事前学修	「公益」を中心に文献を読み、行政活動を検討しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の公共性・技術性・効率性・経済性を総合的に理解しておくこと。	120分
15	講義のまとめと行政管理	現在求められている、行政管理について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の公共性・技術性・効率性・経済性を踏まえて、行政管理を説明できる。	
	事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政管理の役割について考察する。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政広報研究	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この講義では、社会とのコミュニケーション手段である「広聴広報」を戦略的に展開するいわば「戦略的広報」に焦点をあてる。そのため「戦略的広報」を実施していくにあたって、広聴広報行政の課題である「役割分担の明確化と連携の強化」、「PDCAサイクルのCAの強化」、及び「情報の共有化」の推進など、戦略的広報に必要となる情報創造・経営意思の明確化・組織内外の情報収集などの課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者には、行政課題を専門的に解決する能力の養成を目的とする。具体的には、行政環境の変容における現代の行政機関と地域住民とを結ぶパイプ・ラインの醸成の仕方、行政と住民の善意友好関係を築く行政広報・広聴（PublicRelations）を出発点として、広報活動を多角的に考察し、市民との関係を調整する、Public Relationsの優れた機能を検討することで、行政組織におけるマネジメント としての行政広報を理解できるようになることを学修者の目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	関連する事象についてグループディスカッションを行う	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者が、行政の新しいモデルと行政広報の関係の必要性と、そのキーワードを説明できるようになる。						4						
②	学修者が、行政課題解決に用いられるための、行政広報の機能を身に着ける。						4		4	4			
③	学修者が、行政広報戦略を立案できるようになる。									4	4		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政広報の機能を理解ししつつ、その戦略等について理解し、試験問題において論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報のマネジメントを指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	広報戦略のキーワード	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報戦略のキーワードや研究方法について説明し、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報、Public Relations、コミュニケーション、行政マネジメントの関係について理解できるようになる。		
	事前学修	広報に関する書籍を読み、その言葉に対する印象を一人一人が考えておくこと。		180分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政活動と行政広報に関連するキーワードの理解を深めること。		60分
2	広報・広聴の理論	行政広報に関する、理論などを学習する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の一般理解と理論の違いについて説明できるようになる。		
	事前学修	日本における広報の一般理解について調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、一般的に考えられている行政広報と、講義内で説明した理論を比較し理解を深めること。		120分
3	行政組織内における広報・広聴の役割	行政経営と行政広報の役割について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、現在求められる行政経営という言葉と、行政広報の関連を理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体などの広報紙を読んでおくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政経営の必要性について理解を深め、行政広報との関連をまとめる。		180分
4	行政組織外における広報・広聴の役割	行政の基本方向と行政広報の関連について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、住民主体とは何かについて理解できるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、予算など自分の生活する地域を知っておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の基本方向と住民の関連について理解を深めること。		120分
5	広報・広聴制度の検討	行政組織内外の関係構築について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報による、組織内外のマネジメントの必要性を理解することができるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、広報課などの仕事を理解しておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政広報による協力のネットワーク作りについての理解を深めること。		180分
6	広報・広聴戦略立案	具体的事例を解説しつつ、行政広報と行政の方向性について検討する。		
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政と市民が同じ方向性を共有するための広報戦略を理解することができるようになる。		
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、基本構想を見ておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政と住民の関係をまとめておく。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	広報・広聴と地域活性化	具体的事例を解説しつつ、行政広報における「選択」・「統合」・「関係」・「価値」を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政と住民のコミュニケーションの必要性について説明できるようになる。	
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、地域の活性化方策など、地域の方向性をみておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政経営と行政広報の関連をまとめる。	120分
8	地域経営と広報・広聴戦略	ハコ作りから、コト作りへの変化の要請について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報と地域の価値について説明できるようになる。	
	事前学修	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、地域の財政を見ておくこと。	60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、地域財政と行政広報の役割についての理解を深めること。	180分
9	広報・広聴マネジメント	中枢管理機能としての行政広報を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政マネジメントと行政広報の役割について説明できるようになる。	
	事前学修	どこか民間企業のホームページなど見て調べ、その広報活動中心に活動を知っておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政マネジメントと行政広報の役割をまとめておくこと。	120分
10	住民との合意形成	合意形成と行政広報の役割について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政対住民、住民対住民の対立構造について理解できるようになる。	
	事前学修	合意形成の必要性について、官民の活動を見ておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、合意形成における行政広報の具体的実施方法について理解を深めること。	120分
11	迷惑施設と合意形成	合意形成における、行政対住民・住民対住民など対立関係改善の行政広報をグループディスカッションを行いつつ検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政の説明責任と行政広報について理解できるようになる。	
	事前学修	迷惑施設とは何かについて、理解しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、関係改善のための行政広報の役割についての理解を深めること。	120分
12	迷惑施設と行政広報機能	行政広報による価値の共有の手法について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、広聴を軸に、従来型行政広報の活動と現在の違いを説明できるようになる。	
	事前学修	民間企業における地域開発事例、地元の企業誘致活動などを調べておくように。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、従来型の行政広報との違いについて理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	迷惑施設と行政広報の行政広報の課題		迷惑施設の建設プロセスなどの事例を解説し、課題を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、迷惑施設における行政の問題点を示すことができるようになる。		
	事前学修	身近にある迷惑施設と、自らの関係を調べ、自分で問題意識を持っておくように。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分なりの解決策をまとめておく。		120分
14	広聴と広報の連動		双方向性」・「協働」・「コミュニケーション」・「マネジメント」と行政広報の関連について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政マネジメントと行政広報の関係を説明できるようになる。		
	事前学修	双方向コミュニケーションについて調べておくように。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、協働へと導く行政広報戦略についてまとめておくこと。		120分
15	講義のまとめと広報行政		行政活動における、広聴の重要性を再確認し、コミュニケーションに基づく行政活動の確立を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、住民本位の行政活動とは何かについて、行政広報に基づき問題点を明らかにすることが出来るようになる。		
	事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政広報・行政マネジメント・協働・地域経営について考察する。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。		120分

科目名	行政広報論	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
今日、行政には行政環境、特に市民社会とのリレーション・シップづくりの重要性が増してきている。それは、行政を取り囲む環境が急激に変化し、多様化したからである。そこで本講義において、学修者は行政と様々な環境主体とのリレーション・シップをつくるコミュニケーション活動としての行政広報の歴史・概念・方法論を理解し、社会の課題解決に役立てるための行政広報の基礎を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者には、行政活動における、市民とのコミュニケーション実践の基礎を養成することを目的とする。市民の関心を引く広報技術、さらに行政広報・広聴（Public Relations）の優れた機能を検討することで、コミュニケーション・マネジメント戦略としての行政広報を理解し、そうしたマネジメントを立案できる能力がつくことを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義ノート・資料に沿って講義を行う。また、関連する事象についてグループディスカッション、小レポートを行うため、受講に当たっては必ずノートを持参すること。受講状況を見ながら小テストを課し、その講評を加えることもありうる。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 関連する事象についてグループディスカッションを行う

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、行政広報の概念を理解し、一般に理解されている行政広報の問題点を批判できる。				2							
②	学修者が、現代に求められる行政と市民の協働の重要性と行政広報の役割について説明できる。				2		2	2				
③	学修者が、行政広報の機能を理解し、社会の諸問題の解決方法を身に着ける。				2			2	2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、行政広報の概念、機能について理解し、試験の問題において課題が論じられているかを評価する。	25	25	25								75
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①にかかわる問題点を理解しているかを評価する。	15										15
討論・発表等	グループディスカッションにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③にかかわるが身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験などの解説を後日、ポータルにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	行政広報のキーワード		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報戦略のキーワードや研究方法について説明し、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報、Public Relations、コミュニケーションの関係について理解できるようになる。		
	事前学修	広報に関する書籍を読み、その言葉に対する印象を一人一人が考えておくこと。		180分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政活動と行政広報に関連するキーワードの理解を深めること。		60分
2	広報の概念		広報の概念について、その多義性・共通性について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の正しいイメージを再確立できるようになる。		
	事前学修	広報という言葉や、辞書などで調べておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報に関する一般理解と講義での説明の違いについて理解しておくこと。		180分
3	広報の歴史		広報の歴史を見つつ、広報活動の発展と変化を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、広報機能の歴史的変化を理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	自分の身の回りの広報の対象について、官民組織ごとに検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、社会背景と広報の発展段階の理解を深めること。		120分
4	広報の理論的考察		広報とその対象を検討しつつ、理論的な変化を学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報の主体・客体を理解し、現状の問題点を説明できるようになる。		
	事前学修	広報における情報の方向性について、情報の送受信を基礎に検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代・対象・理論についてまとめておくこと。		120分
5	行政広報と自治体		自治体における政策と、行政広報のかかわりについて学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、自治体の政策と行政広報の関連、並びに重要性を理解できるようになる。		
	事前学修	自分の住んでいる自治体の広報紙またはホームページを見ておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自治体の基本計画・経営方針などについて、検討しておくこと。		180分
6	行政広報の課題確認		行政広報の一般理解として認識されている、一方向性について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報がPublic Relationsであることを理解し、その機能を説明できるようになる。		
	事前学修	広報における対象とのコミュニケーション活動について、具体的活動を官民の活動を通して検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政広報＝Public Relationsという理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	アクターの相互関係		双方向コミュニケーションとしての行政広報を検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、市民・行政の双方向コミュニケーションの必要性について説明できるようになる。		
	事前学修	広報における主体・客体について検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、組織における双方向コミュニケーションの必要性についての理解を深めること。		120分
8	行政広報と組織マネジメント		組織マネジメントにおける行政広報の位置づけについて学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政広報組織の環境整備の重要性について理解できるようになる。		
	事前学修	行政と民間企業の広報担当の組織の位置づけについて調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、中枢管理機能と行政広報についての理解を深めること。		120分
9	市民との信頼関係構築		市民協働の視点と、行政広報について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、市民との協働手法としての行政広報が説明できるようになる。		
	事前学修	地域における「市民の役割」と、「市民」という言葉について調べておくこと。		60分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、協働と行政広報の関係についての理解を深めること。		180分
10	地域社会と政策		ニーズの把握における広聴の重要性について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、住民ニーズの多様化と、それを聴く手法である広聴の必要性和政策への反映について説明できるようになる		
	事前学修	行政組織と環境変化について調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政における広聴の重要性の理解を深めること。		120分
11	市民の社会参加と行政広報		行政の社会変化対応と行政広報について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、新しい行政モデルの必要性和行政広報の関係について理解できるようになる。		
	事前学修	行政における参加の意味について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、プロデュース型行政の理解を深めること。		120分
12	合意形成と行政広報		迷惑施設など、行政対応と行政広報をグループディスカッション行いつつ検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政における調整コミュニケーション手法の必要性について理解できるようになる。		
	事前学修	自分に身近な行政サービスなどについて調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、市民とのコミュニケーションの重要性の理解を深めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	広報戦略の組織的展開	行政広報戦略と戦術の必要性について学習する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、協働のマネジメントとしての行政広報手法を理解できるようになる。	
	事前学修	市民と行政の協働について、具体例や必要性について調べておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、従来の一方向的な広報では、市民の理解は得られないという認識を深めること。	120分
14	広報戦略とメディア	市民との情報ギャップを埋める、行政広報戦略と情報発信媒体であるメディア工夫について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、行政実務における基礎となる、住民とのコミュニケーションと政策の関係について理解できるようになる。	
	事前学修	行政と市民のコミュニケーションの必要性とその方策について、調べておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、コミュニケーションに基づく仕事への転換についての理解を深めること。	120分
15	講義のまとめと協働型行政広報	現在求められている、協働型広報について検討する。	
	この回の到達目標	①～③に関連して、市民・行政の協働による共同作品とは何かについて説明できるようになる。	
	事前学修	初回からの講義ノートを見直し、行政広報＝Public Relationsの役割について考察する。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。	120分

科目名	行政実務演習	担当者	福島 康仁 岩井 義和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○	○	○	○	○

【授業の概要】
行政機関や非営利法人などにおいて2週間以上のインターンシップを行うことを前提とする。インターンシップによって今後の公務員等の公職への就職を希望するもののキャリア形成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
インターンシップによって今後の公務員等の公職への就職を希望するもののキャリア形成に資することを目的とする。 インターンシップにより行政の理論と実際を体験することで、より理論的考察を深化させ、多角的思考ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
①ガイダンスをオンデマインドで視聴すること。②学内で行われるインターンシップ・マナー講座を受講すること。③公職につく意思があること。その他の事項について詳細はガイダンス期間中に説明する。

【授業方法】
この科目は①事前調査、②インターンシップ、③事後報告、④事後レポートの作成をする。なお、インターンシップ先は、行政機関が行う公募によって決定する方法と本学部が提携する機関で行う方法（学内での選抜）を予定している。 事後レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習を通じて意見を述べなければならないので、ほとんどの演習時間中、教員との質疑応答をおこなう。またレポートの添削をつうじて常にフィードバックと作業を繰り返す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	将来の政策担当者として必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4			4				
②	各種の政策課題の認知、公共的な解決に当たって規範的判断について理解し説明できる。								4			
③	課題解決の優先順位、施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。									4		
④	政策課題の規範論の観点から積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。										4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③について公共政策規範の諸論点・具体的事例への適用等について、学術論文の技法を駆使して説明できているか等をレポートにより評価する。	20	10	10								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(実務演習)	到達目標①②④について公共政策規範、具体的に現場への適用等について実践できるかを評価する。	20	20		20							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
随時レポートの添削指導をおこなう

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
原則水曜日の昼休みとする。事前にメール（fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp）などでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいつていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体の審議会委員としての経験を生かして、実務的な場面を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業計画の説明とこの演習の位置づけ	インターンシップとは行政機関の公募試験の概要、学内選抜試験の概要について学修する。	
	この回の到達目標	インターンシップの位置づけについて説明できる。	
	事前学修	インターンシップガイダンスに参加していること。	120分
	事後学修	履修条件と自分の将来との関係を考える	120分
2	インターンシップの選択方法について	インターンシップの選択方法や考え方について学修する	
	この回の到達目標	インターンシップの選択方法や考え方について説明できる	
	事前学修	実習をしたいインターンシップ先について考えてくる	120分
	事後学修	インターンシップの選択しその理由について考える	120分
3	インターンシップ先での学修について	インターンシップの選択し何を学ぶ事項について学修する	
	この回の到達目標	インターンシップの何を学ぶ事項について説明できる	
	事前学修	実習をしたいインターンシップ先について考えてくる	120分
	事後学修	実習をしたいインターンシップ先について考える	120分
4	エントリーシートの書き方	エントリーシートの書き方について学修する	
	この回の到達目標	エントリーシートのひとり書きあげることができる	
	事前学修	エントリーシートを自分の視点で記述してみる	120分
	事後学修	エントリーシートを指摘事項を修正する	120分
5	エントリーシートの留意点	エントリーシートの作成時の留意点について学修する	
	この回の到達目標	エントリーシートの作成時の留意点を踏まえてレポート作成作業ができる	
	事前学修	エントリーシートを指摘事項を踏まえて作成する	120分
	事後学修	エントリーシートの作成時の留意点を踏まえてレポート作成作業する	120分
6	事前レポートの作成	事前レポートの形式と内容について学修する	
	この回の到達目標	事前レポートの形式と内容について説明できる	
	事前学修	レポートの作成方法についてインターネットを用いて調べてくる	120分
	事後学修	事前レポートの骨格を作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事前レポートの留意点	事前レポートの留意点について学修する	
	この回の到達目標	事前レポートの形式と内容の留意点について説明できる	
	事前学修	事前レポートの骨格について説明できるように準備をする	120分
	事後学修	事前レポートを留意点を意識しながら作成する	120分
8	事前レポート作成のための調査手法	事前レポート作成のための調査手法について学修する	
	この回の到達目標	事前レポート作成のための調査手法について説明できる	
	事前学修	事前レポート作成のための調査方法を調べてみる	120分
	事後学修	事前レポート作成のための調査してみる	120分
9	読みやすい事前レポート	読みやすい事前レポートについて学修する	
	この回の到達目標	読みやすい事前レポートについて学修する	
	事前学修	読みやすい事前レポートとはなにか考える	120分
	事後学修	読みやすい事前レポートのための工夫する	120分
10	事前レポートの作成	事前レポートの完成にむけて学修する	
	この回の到達目標	事前レポートの完成にむけて完成する	
	事前学修	事前レポートの完成にむけて不足分を考える	120分
	事後学修	事前レポートの完成させる	120分
11	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し仕事の在り方について説明できる	
	事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする	120分
	事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える	120分
12	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し使命感について説明できる	
	事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする	120分
	事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターンシップ	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②④について、当該組織でインターンシップを実施し働き方について説明できる	
	事前学修	当該実習先での自分の課題について明確にする	120分
	事後学修	当該組織でインターンシップを実施した反省し課題を抽出し、改善点を考える	120分
14	事後レポートの書き方	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの形式について学修する	
	この回の到達目標	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの的確な形式について説明できる	
	事前学修	メモをまとめてレポートを作成する	120分
	事後学修	アドバイスをもとに修正する	120分
15	事後レポートの書き方	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの留意点について学修する	
	この回の到達目標	当該実習組織でのインターンシップ後のレポートの留意点をふまえてレポートを作成できる	
	事前学修	レポートの総仕上げをする	120分
	事後学修	提出後の反省を整理する	120分

科目名	行政組織研究	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
今後の公共政策の学習及び実社会での各種活動等において必須の知識となる我が国行政組織の原理・編成を体系的に学習する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手としての基礎的知識を獲得するために、我が国中央行政組織の編成原理、内閣・府省組織の基本的構造及び独立行政法人制度などを体系的に学習し、実際の行政現場や公共政策課題解決の場において円滑に行動するための基礎的能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	既存の組織理論にとらわれず、自ら日本行政組織の特性を分析し説明できる。				4		4					
②	現代日本の行政組織の問題点は何か、その改善のためには何が求められるか自分の言葉で説明できる。							4				
③	地域社会における行政組織の実態を知るための、実地調査・ヒアリングなどの調査手法を実行できる。								4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について自分の言葉で説明できているかを 筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業等におけるグループワークにおいて自分の意 見を述べることができたかを基準に、到達目標②③にかか わる説明能力が身についているかを評価する。		15	5								20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	55	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。	
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治権力と行政組織：中央省庁の日本型制度設計	河合 晃一	勁草書房	2019	参考書	推奨
行政組織法	藤田 宙靖	良書普及会	1994	参考書	任意
霞ヶ関の正体―国を亡ぼす行政の病理	稲葉 清毅	晶文社	2005	その他	任意
内閣情報調査室	今井 良	幻冬舎新書	2019	その他	任意
文部科学省の解剖	青木 栄一他	東信堂	2019	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】	
火曜日 12：10-13：00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp 事前にメールにて在室確認のこと	

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		累次の国家行政組織法改正や組織新設査定に従事した経験に基づく素材を適宜提供する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び行政組織の基本構造 1（基本法制等）		①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②行政組織法制と機構定員管理の概要を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、国家行政組織法及び機構定員管理の基本的仕組みを説明することができる。		
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②行政法テキスト等により国家行政組織法及び総定員法の概要を学習しておく		180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		180分
2	行政組織の基本構造 2（省庁トップマネジメント）		各省庁のトップ層を構成する大臣、副大臣、大臣政務官、事務次官等の組織制度・機能等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、各省庁の大臣等の役割を説明することができる。		
	事前学修	国家行政組織法の大臣等に係る規定を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
3	行政組織の基本構造 3（省庁内部部局）		各省庁の基本組織となる局・部・課などの制度・機能等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、行政組織特有のライン組織及びスタッフ組織の基本的構造や組織編制の考え方を説明することができる。		
	事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法により局・課等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
4	行政組織の基本構造 4（庁・委員会・審議会）		①同じ基本的行政機関である府省と庁・委員会との役割分担や、②いわゆる3条機関としての委員会と諮問機関としての審議会の違いについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、本府省と外局との違い、諮問機関としての審議会と外局としての委員会との違いなどについて説明することができる。		
	事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法により庁・委員会・審議会等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
5	行政組織の基本構造 5（施設等機関・地方支分部局）		施設等機関の類型・機能、地方支分部局の役割等について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、各省にどのような機関等が設置され、どのような役割を果たしているか説明することができる。		
	事前学修	国家行政組織法及び任意の省庁設置法等により施設等機関・地方支分部局等の規定ぶりを確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
6	内閣・内閣官房の組織体制		内閣・内閣官房がどのような組織から構成され、どのように機能発揮しているかを学ぶ。特に各省庁にまたがる内外の情報関係業務がどのように調整され、統合されているか調べる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣等の総合調整機能・政策企画機能の発揮のために、どのような組織設計がされているか、特に情報機関相互の連携等がどう確保されているか説明することができる。		
	事前学修	内閣法の規定を読んでおくとともに、内閣官房等の公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	内閣府の組織体制①（内部部局・各種会議体）	総合調整機関及び政策実施機関の双方の性格を持つ内閣府の組織体制・機能を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣官房と内閣府はどのように機能分担しているのか、各省庁とはどのように組織体制・機能が異なるのか説明することができる。	
	事前学修	内閣府設置法及び内閣府公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
8	内閣府の組織体制②（警察・公取・宮内庁など）	内閣府の外局である各庁・委員会にどのような組織・機能上の特徴があるか学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、内閣府の外局はどのように機能分担しているのか、そのためにどのような組織体制をとっているのか説明することができる。	
	事前学修	各庁・委員会の設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
9	内閣府の組織体制③（金融・消費者・復興庁など）	比較的最近に設置された内閣府外局の設置経緯・組織上の特徴等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、新たな内閣府の外局はどのような経緯で設置されたのか、組織設置が実現するためには、どのような条件が必要なのか説明することができる。	
	事前学修	各庁・委員会の設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
10	行政コントロール機関（内閣人事局、人事院、会計検査院）	各省庁の監督機関の立場にあり、組織上も独自の位置づけを与えられている各種組織の制度・機能等を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、行政コントロール機関設置の必要性や、そのために与えられた権限や機能発揮のための制度等を説明することができる。	
	事前学修	各機関の根拠法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
11	省庁組織 1（総務・法務・外務・財務省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に最も新しい庁である出入国在留管理庁の設置経緯等について調べる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び新たな出入国在留管理庁はどのような経緯で設置されたのか、説明することができる。	
	事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
12	省庁組織 2（厚労・文科・農水省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に今回は文科省の業務運営の実態等について組織面から理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び文科省の業務運営にはどのような特徴があるのか説明することができる。	
	事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	省庁組織3（国交・環境・防衛省）	内閣の行政事務を分担する各省の組織・機能について学ぶ。特に今回は原子力規制庁等の組織制度及び防衛本省と自衛隊との関係などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、それぞれの省の組織・機能の概容及び原子力規制行政・防衛行政の特徴について組織面から説明することができる。	
	事前学修	各省設置法及び公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
14	独立行政法人制度	各府省と一体となって重要な業務を実施する独立行政法人の制度・実態を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、独立行政法人の主要制度、組織類型、代表的な法人の業務実態等について説明することができる。	
	事前学修	独立行政法人通則法及び主要法人の根拠法・公式ウェブサイトを開覧し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
15	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	60分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	60分

科目名	行政組織論	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
組織論の代表的な理論について、特に行政組織・非営利組織を特徴づける基本要素は何か、その行動原理はどのようなものかを体系的に学習する

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策の担い手としての基礎的素養を身に付けるために、組織とは何か、どのような原理で組織ができるのか、行政機関・NPO等は民間企業とどこが異なるのか、その具体的な働きの特徴は何か等を理解し、自己の立場を確認しつつ他者との関係の中で課題解決を円滑に進める能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	人間集団としての組織の本質を学び、組織人としての心構えを身に付け、行動で示すことができる。					2							
②	組織とは何か、すぐれた組織の特性は欧米理論に頼らず、自らの分析に基づいて述べることができる。							2					
③	現代日本の行政組織の問題点は何か自分の言葉で説明できる。								2				
④	現代日本の行政組織について、主要理論に照らしてどのような改善策が考えられるか、自分の言葉で提案できる。								2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉でき説明できているかを筆記試験により評価する。		40	20	20							80
小テスト等												
レポート等	第15回等の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①③④にかかわる説明能力が身についているかを評価する。	5		10	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	40	30	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
組織論	桑田 耕太郎他	有斐閣アルマ v	2010	参考書	推奨
非営利組織論	田尾 雅夫他	有斐閣アルマ	2009	参考書	推奨
テキストブックNPO第2版	雨森 孝悦 編	東洋経済新社	2017	参考書	任意
現代行政と行政改革	東田 親司	芦書房	2004	参考書	任意
備考	特に指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日 12：10-13：00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		国家行政組織の管理部局に勤務した経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び組織の基礎理論 1 (組織とは何か)	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②組織の本質についての理論を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、組織と呼ばれる人間集団の本質は何か、組織における共通目標や分業はなぜ重要か、現代社会においてはなぜ組織が 基本的構成要素となっているのか等につき説明することができる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で自分の考える「組織」とな何か？人はなぜ「組織」を作るのか考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。	180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	組織の基礎理論 2 (組織と環境)	外部環境と組織とはどのように相互に影響を与え合っているのか、そもそも組織の境界はどこに設けるのが適切なのか、組織の規模はどの程度とするのが適切なのか等につき学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、組織の「内」と「外」はどこで分割するのが最も適切なのか？一般的に最適な解答はあり得るのかを説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により代表的な組織形態モデルを学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
3	組織の基礎理論 3 (組織の目標と構造)	組織における目標とは何か、成果を挙げる組織とそうでない組織の違いは何か、どのようにすれば強い組織を作ることができるのかなどについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、強い組織の条件とは何か？どのように組織を構築するのが最も適切か、学修者の身近な組織 (学校、サークル、ゼミ、バイト先、家族) に即して説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により代表的な経営理論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
4	組織デザイン 1 (基礎理論)	組織の分割と統合の基礎理論、ラインとスタッフ等の組織類型について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、組織目的に応じた最適な組織規模・分業の在り方・スタッフ配置はどのようなものかについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により基礎的な組織デザイン論を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
5	組織デザイン 2 (我が国中央政府)	前回講義の内容を踏まえ、我が国省庁がどのような原理に基づいて編成されているのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、各省庁組織の主な構成要素、官庁組織におけるラインとスタッフの概念などについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により主要な省庁の組織編制を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
6	官僚制の逆機能について	我が国中央行政組織はどのような組織制度・行動原理に基づいて機能してきたのか、その結果、どのような弊害が表れてきたのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、これまでの我が国行政組織にどのような問題があったのか、その原因は何であったか組織論の観点から説明することができる。	
	事前学修	行政学テキスト等により官僚制の主要な問題点等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	組織文化とマネジメント		組織カルチャーの重要性とモチベーション論等について経営管理論・経営学等の諸理論も援用しつつ学習する	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、組織が単なる入れ物でなく、多くの参加者が相互に影響を与え合う有機的な活動体であることを理解した上で、組織が有効に機能するために重要な組織文化とは何か、良い組織文化はどのように構築されるのか説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により組織文化に係る代表的な理論を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
8	組織の発展		激変する外部環境の中で組織が存続するために必要な自己変革はどのようにして行われるのか、そのための組織マネジメントはどのように行えばよいかなどについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、組織が生き残っていく条件とは何か、成長する組織の秘訣とは何か、行政組織の特質に即して説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により民間企業の発展事例等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
9	非営利組織論の基礎理論		行政組織・NPO等の公的な組織の基本的編制原理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、公共的な組織と民間組織の違いは何か、そのメルクマールはどこにあるのか説明することができる。		
	事前学修	行政学・公共経済学テキスト等により公共的組織の特質を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
10	非営利組織の特徴と課題		現代経済社会において非営利組織に期待される役割と、組織面での課題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、非営利組織の重要性がなぜ増大してきたのか、その一方でこれら組織が機能を最大限に発揮するために克服すべき課題は何かを説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により非営利組織の類型、現状と課題等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
11	律令制下の行政組織		二官八省制の概要を知るとともに現代まで継受されているその組織上の特徴・運営方式などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、律令制下の行政組織の特徴及びその影響について説明することができる。		
	事前学修	律令時代に係る基礎文献等により、当時の行政組織に関する考えをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
12	江戸幕藩制下の行政組織		江戸幕府の老中支配組織・若年寄支配組織・地方統治組織や文書行政の仕組みなどを学ぶとともに、現代まで継受されている組織上の特徴・運営方式などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、江戸時代の行政組織が現代行政にもたらした影響について説明することができる。		
	事前学修	江戸幕府の行政に関する文献を読み、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	明治期の行政組織	明治期の太政官制から内閣制に至る行政組織の概要を学び、戦後行政組織の基盤となったその特徴を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、明治期の太政官制から内閣制に至る行政組織の変遷の意義、及び戦後行政組織の基盤となった諸点について説明することができる。	
	事前学修	関連文献等の該当部分を読み込み、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
14	戦後改革と行政組織	現代行政組織に直結するGHQ改革のポイントについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、GHQ改革等が現代行政組織にもたらした影響等について説明することができる。	
	事前学修	関連文献等の該当部分を読み込み、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
15	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特にはありませんが、憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。

【授業方法】
オンデマンド方式で行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。						2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。						2		2		2			
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等	提出された回答が、行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、法律上の要件・効果を的確に指摘できているかを評価する。	25	25									50	
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	25	25									50	
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		50	50									100	

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleクラスルームなどにて、フィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	必携
備考	本講義は、行政法総論の部分であるため行政判例百選Ⅰは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅱの部分については資料として配付することになります。				

【オフィスアワー】
希望者は、授業後（水曜・木曜10：30）などに教室にて申し出てください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 行政法の概要	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、あらかじめ教科書の目次等（参考資料がある場合には、参考資料も）を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政法の概要について理解を深める。	120分
2	行政の概念	行政法学の対象である「行政」の概念・特徴等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政の概念と特徴等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、各自のイメージする「行政」を簡潔にまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政の概念に関する学説について再確認し理解を深める。	120分
3	行政組織	行政活動の担い手である行政組織について、主に行政主体、行政機関等を取り上げ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政組織について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政主体と行政機関の概念を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政組織について再確認し理解を深める。	120分
4	行政法の法源	行政法とされる法の存在形式とそれらの法規範の特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の存在形式と特質を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政活動に関連する法規範を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政法の法源について再確認し理解を深める。	120分
5	行政上の法律関係	公法私法二元論、行政法規違反の法律行為の効力等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公法私法二元論や行政法規違反の法律行為の効力等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、公法私法二元論等について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、公法私法二元論等について再確認し理解を深める。	120分
6	行政過程	行政過程のあり方について、3段階構造モデルとその修正モデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政過程のモデルについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政活動の法的な流れを図式化する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政過程について再確認し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	行政の活動（1）；行政基準①（法規命令）		行政が立法を行う場面のうち、市民の権利義務に関する基準を定立する法規命令について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法規命令の概念および種類について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法規命令の種類である委任命令と執行命令といった分類および、法規命令が問題となった事例について再確認をするようにしてください。		120分
8	行政の活動（1）；行政基準②（行政規則）		行政が立法を行う場面のうち、行政の内部基準を定立する行政規則について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政規則の概念およびそれが抱える問題点（いわゆる外部化現象）について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料4から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政規則が問題となった事例について再確認をするようにしてください。		120分
9	行政の活動（2）；行政計画①（行政計画の意義と種類）		行政計画とは何か、そしてまた、行政計画にはどのようなものがあるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画の概念および行政計画の位置付けなどについて十分な説明・理解ができるようになる。		
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。		120分
10	行政の活動（2）；行政計画②（行政計画の統制と権利救済）		行政計画は、どのようにコントロールすべきであるのか、そしてまた市民に大きな影響を及ぼす場合にどのように権利救済を行うことができるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画が行政訴訟の対象となるかどうかについて、いくつかの判例を挙げ、そしてこれについて十分な理解ができるようになる。		
	事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政計画が行政訴訟の対象となるかについては判例の動向を再確認するようにしてください。		120分
11	行政の活動（3）；行政行為①（行政行為の意義・特質①）		行政行為とは何か、そしてまた、これが他の「行政の活動」などとどのような違いがあるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為とは何か、そして日常生活のどのようなものと一致するのかといったことを十分理解し、説明することができるようになる。		
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為の定義については覚えるようにしてください。		120分
12	行政の活動（3）；行政行為①（行政行為の意義・特質②）		行政行為とは何か、そしてまた、これが他の「行政の活動」などとどのような違いがあるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の特徴を挙げることができ、そして他の「行政の活動」などとどのような違いがあるのかを十分理解し、説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為とその他の活動との差異については再確認をするようにしてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行政の活動（3）；行政行為②（行政行為の効力）	行政行為という行政の活動には、どのような特別な効力があるのかということについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の効力を挙げることができ、そしてこれらの概念を簡潔に説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為の効力の種類については覚えるようにしてください。	120分
14	行政の活動（3）；行政行為③（行政行為の種類）	行政行為の種類について概観していくとともに、許可、特許そして認可について重点的に学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の種類を挙げることができ、そしてこれらの種類の違いについて十分理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、許可と特許、許可と認可の違いについては再確認をするようにしてください。	120分
15	行政の活動（3）；行政行為④（行政行為の羁束と裁量）	行政裁量と呼ばれるものについて、種類およびわが国における展開について学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政裁量の概念を説明することができ、その種類について十分理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、司法審査の有無から区別される羁束裁量と自由裁量については再確認をするようにしてください。	120分
16	行政の活動（3）；行政行為⑤（行政行為の附款）	行政行為の附款と呼ばれるものの定義や種類について学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の附款を説明することができるようになる。	
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、附款の種類については覚えるようにしてください。	120分
17	行政の活動（3）；行政行為⑥（行政行為の瑕疵、取消しと撤回）	取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、無効の判定基準を学びつつ、取消しと撤回の違いについて学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、無効の判定基準を学びつつ、取消しと撤回の違いを十分理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料8から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、取消しと撤回の違いについては再確認をするようにしてください。	120分
18	行政の活動（4）；行政契約①	行政契約とは何か、そしてどのような行政契約があるのかについて学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の概念を十分理解し、その種類などについて説明することができるようになる。	
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政契約の概念および行政契約が登場する場面については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	行政の活動（４）；行政契約②		行政契約が問題となった事例について、掘り下げて学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約が問題となった事例を簡潔に説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政契約が問題となった事例については再確認をするようにしてください。	120分
20	行政の活動（５）；行政指導①		行政指導の概念およびその種類について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の概念およびその種類についてを十分理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政指導の概念および行政指導の種類については覚えるようにしてください。	120分
21	行政の活動（５）；行政指導②		行政指導が問題となった裁判例を確認しつつ、それが行政手続法の規定にどのような影響を与えているのかについて学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導が問題となった裁判例を紹介することができ、それが行政手続法の規定にどのような影響を与えているのかについて説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政指導が問題となった事例および、行政手続法における行政指導に関する規定については再確認をするようにしてください。	120分
22	行政の実効性確保（１）；行政上の強制執行①（行政代執行）		行政の実効性確保を概観すると共に、行政代執行法で規定されている代執行について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して行政の実効性確保について理解ができ、かつ、到達目標①に関連して行政代執行法で規定されている代執行について説明することができるようになる。	
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政強制の沿革および行政代執行の要件については再確認するようにしてください。	120分
23	行政の実効性確保（１）；行政上の強制執行②（執行罰、直接強制、強制徴収）		執行罰、直接強制、強制徴収などについて学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執行罰、直接強制、強制徴収などについて説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
24	行政の実効性確保（２）；即時強制		即時強制と呼ばれるものについて、行政強制との違いを意識しつつ、学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して即時強制の概念について説明をすることができ、到達目標②に関連して行政強制との違いについて理解することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政強制との違いについては再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	行政の実効性確保（3）；その他の義務履行確保制度（行政罰）		行政上のその他の義務履行確保制度として、行政刑罰と行政上の秩序罰について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して行政罰の概念について説明をすることができ、到達目標②に関連して行政刑罰と行政上の秩序罰との違いについて理解することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政刑罰と行政上の秩序罰との異同については再確認をするようにしてください。	120分
26	行政の実効性確保（4）；行政調査		行政調査について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政調査について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
27	行政手続①		行政手続法に基づいて、行政手続法の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して行政手続法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政手続法の規定の議論について説明することができるようになる。	
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、行政手続法の規定も確認するようにしてください。	120分
28	行政手続②		行政手続法に基づいて、行政手続法の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して行政手続法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政手続法の各規定の議論について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、行政手続法の規定も確認するようにしてください。	120分
29	情報公開		情報公開法に基づいて、情報公開の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して情報公開法の規定について理解をし、到達目標②に関連して情報公開法の各規定の議論について説明することができるようになる。	
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、情報公開法の規定も確認するようにしてください。	120分
30	個人情報保護		行政機関個人情報保護法に基づいて、個人情報保護の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して行政機関個人情報保護法の規定について理解をし、到達目標②に関連して行政機関個人情報保護法の規定の議論について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政機関個人情報保護法の規定も確認するようにしてください。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	高橋 雅夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。						2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。						2		2		2			
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	提出された回答が、行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、法律上の要件・効果を的確に指摘できているかを評価する。	25	25									50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出レポートの解説は、後日ポータルシステム(グーグルクラスルームを含む)にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法〔第3版〕	池村正道 編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	任意
行政判例百選Ⅱ	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10～13:00 研究室（本館6階1609） takahashi.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 行政法の概要	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、あらかじめ教科書の目次等（参考資料がある場合には、参考資料も）を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政法の概要について理解を深める。	120分
2	行政の概念	行政法学の対象である「行政」の概念・特徴等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政の概念と特徴等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、各自のイメージする「行政」を簡潔にまとめる。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政の概念に関する学説について再確認し理解を深める。	120分
3	行政組織	行政活動の担い手である行政組織について、主に行政主体、行政機関等を取り上げ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政組織について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政主体と行政機関の概念を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政組織について再確認し理解を深める。	120分
4	行政法の法源	行政法とされる法の存在形式とそれらの法規範の特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の存在形式と特質を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政活動に関連する法規範を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政法の法源について再確認し理解を深める。	120分
5	行政上の法律関係	公法私法二元論、行政法規違反の法律行為の効力等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公法私法二元論や行政法規違反の法律行為の効力等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、公法私法二元論等について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、公法私法二元論等について再確認し理解を深める。	120分
6	行政過程	行政過程のあり方について、3段階構造モデルとその修正モデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政過程のモデルについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政活動の法的な流れを図式化する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政過程について再確認し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法律による行政の原理 1（法律による行政の原理の意義と内容）	行政活動を法的にコントロールする原理である「法律による行政の原理」の基本的な内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の意義および具体的内容について説明ができる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、法律による行政の原理の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、法律による行政の原理の意義および具体的内容について再確認し理解を深める。	120分
8	法律による行政の原理 2（法律の留保）	法律による行政の原理のうち、法律の留保の妥当範囲等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律の留保に関する学説について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、法律の留保について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、法律の留保の学説について再確認し理解を深める。	120分
9	法律による行政の原理 3（法律による行政の原理の例外）	法律による行政の原理の例外としての部分社会論と緊急措置のほかに、法の一般原則との抵触について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の例外および法の一般原則との抵触について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、法律による行政の原理の例外を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、法律による行政の原理の例外および法の一般原則との抵触について再確認し理解を深める。	120分
10	行政基準 1（法規命令）	行政基準の意義および私人の権利義務に関する基準を定立する法規命令の概念・コントロールのあり方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政基準の意義および法規命令の概念について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政基準の意義と法規命令の概念について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政基準の意義および法規命令の概念・コントロールのあり方について再確認し理解を深める。	120分
11	行政基準 2（行政規則）	行政基準のうち、行政の内部基準を定立する行政規則について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政規則の概念およびその外部化現象について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政規則の概念を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政規則の概念、外部化現象およびコントロールのあり方について再確認し理解を深める。	120分
12	行政計画 1（行政計画の意義と種類）	行政計画の意義および種類について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画の概念および法的根拠等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政計画の概念を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政計画の概念および行政過程における位置づけ等について再確認し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	行政計画 2（行政計画のコントロールと権利救済）		行政計画に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画に対するコントロールのあり方について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政計画に対するコントロールの概要について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政計画に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて再確認し理解を深める。		120分
14	行政行為 1（行政行為の意義と特質）		行政行為の意義と特質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の意義と特質を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の意義・特質の概要について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の意義および行政過程における位置づけ等について再確認し理解を深める。		120分
15	行政行為 2（行政行為の効力）		行政行為という活動形式に認められる特別な効力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の効力を挙げ、説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の効力である、公定力、不可争力、執行力、不可変更力の概要を理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の効力について再確認し理解を深める。		120分
16	行政行為 3（行政行為の種類）		行政行為の分類のあり方を含め、行政行為の種類について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の種類を挙げることができ、それらの概念を説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の種類の概要について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の分類のあり方および行政行為の種類について再確認し理解を深める。		120分
17	行政行為 4（行政裁量）		行政裁量の意義、必要性、種類および司法的コントロールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政裁量の意義と種類について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政裁量の必要性について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政裁量の意義、必要性、種類および司法的コントロールについて再確認し理解を深める。		120分
18	行政行為 5（行政行為の附款）		行政行為の附款の意義、種類、違法な附款とその効力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の附款の意義と種類について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の附款の概要について理解する。		120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の附款の意義、種類等について再確認し理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	行政行為 6（行政行為の瑕疵）	行政行為の瑕疵の種類とその是正のための法的ルートについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の取消原因たる瑕疵（取消すべき行政行為）と無効原因たる瑕疵（無効の行政行為）の相違点と、無効の判定基準について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政行為の瑕疵の程度に応じた種類の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政行為の瑕疵の種類と無効の判定基準について再確認し理解を深める。	120分
20	行政指導 1（行政指導の意義と分類）	事実行為である行政指導の意義、分類、法的根拠について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の意義と分類について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政指導の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政指導の意義、分類、法的根拠について再確認し理解を深める。	120分
21	行政指導 2（行政指導の手続的コントロールと司法的コントロール）	行政指導に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政指導に対する手続的コントロールと司法的コントロールの概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政指導の手続的コントロールと司法的コントロールについて再確認し理解を深める。	120分
22	行政契約 1（行政契約の意義と分類）	行政契約の意義と分類について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の意義と分類について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政契約の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政契約の意義と分類について再確認し理解を深める。	120分
23	行政契約 2（行政契約の手続的コントロールと司法的コントロール）	行政契約の手続的コントロールと司法的コントロールについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約に対する手続的コントロールと司法的コントロールについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政契約に対するコントロールのあり方の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政契約の手続的コントロールと司法的コントロールについて再確認し理解を深める。	120分
24	行政上の義務履行確保の手段 1（行政代執行）	行政上の義務履行確保の手段の概要と行政代執行について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政上の義務履行確保の手段の概要および行政代執行を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政上の義務履行確保の手段の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政上の義務履行確保の手段の概要および行政代執行について再確認し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	行政上の義務履行確保の手段 2（執行罰、直接強制、強制徴収）	行政上の義務履行確保の手段である、執行罰、直接強制、金銭債権の強制徴収について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執行罰、直接強制、強制徴収について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、執行罰、直接強制、強制徴収について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、執行罰、直接強制、強制徴収について再確認し理解を深める。	120分
26	行政上の義務履行確保の手段 3（行政罰）	行政上の義務履行確保の手段としての行政刑罰と秩序罰について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政罰の概念と種類について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政罰の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政刑罰と秩序罰について再確認し理解を深める。	120分
27	行政上の義務履行確保の手段 4（その他の義務履行確保の手段および類似の制度）	行政上の義務履行確保のその他の手段（公表等）と直接強制に代わり多用される即時強制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、その他の義務履行確保の手段と即時強制について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、公表等の義務履行確保の手段と即時強制の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、その他の義務履行確保の手段および即時強制について再確認し理解を深める。	120分
28	行政手続	行政活動の手続的コントロールのあり方を、行政手続法を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政手続の意義を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政手続法の概要を理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政手続の意義および行政手続法について再確認し理解を深める。	120分
29	行政情報管理・行政調査	情報公開制度、個人情報保護制度、公文書管理、行政調査について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政情報管理、行政調査の意義および制度について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当部分（参考資料がある場合には、参考資料も）をあらかじめ読み、行政情報管理、行政調査の制度の概要について理解する。	120分
	事後学修	授業の内容と教科書（参考資料がある場合には、参考資料も）をつき合わせて、行政情報管理、行政調査の諸制度について再確認し理解を深める。	120分
30	講義のまとめ	行政法総論の体系と基本的な論点について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法総論の基本的論点について説明できる。	
	事前学修	これまでの配布物、教科書等を読み返し、行政法の体系と基本的論点を考察する。	120分
	事後学修	各項目について、簡単にまとめたものを文章化し、定期試験に向けて準備をする。	120分

科目名	行政法Ⅰ	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法総論について学修する。具体的な学修対象は、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、及び行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法が多様化している。行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、これまでの判例と行政法理論の正確な理解に基づいて、解決の端緒を自ら発見し説明できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド。レポート課題の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政組織法、行政作用法及び行政手続法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。						2		2		2			
②	行政法総論の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。						2		2		2			
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②についての理解力と表現力が身に付いているかを、筆記試験により評価する。	45	45									90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	5	5									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
一部（月曜日12：10/土曜日12：10）、二部（月曜日19：30/火曜日21：10）に研究室にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 行政法の概要	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、行政法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書を事前にざっと目を通しておくこと。	120分
	事後学修	教科書をざっと目を通して、これから学ぶことを理解してみること。	120分
2	行政法とは何か	行政法の全体像と主要なテーマについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の基本構造について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書や講義ノートで確認し、感想をノートにまとめること。	120分
3	行政とは何か	行政の意義、特徴、種類について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政の意義と特徴について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。	120分
4	行政法の法源の意義と種類(成文法源)	行政法の法源の意義と種類のうち、成文法源について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の法源における成文法源について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
5	行政法の法源の種類(不文法源)	行政法の法源の種類のうち、不文法源の意義と内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の法源における不文法源について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、行政法の法源について自分の意見をノートにまとめること。	120分
6	行政法の効力範囲と行政上の法律関係	行政法の効力範囲、行政上の法律関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法の効力範囲、行政上の法律関係の概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法律による行政の原理の意義と内容	「法律による行政の原理」の意義と具体的内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律による行政の原理の内容について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、法律による行政の原理について自分の意見をノートにまとめること。	120分
8	法律の留保の妥当範囲	法律の留保の妥当範囲をめぐる学説と判例について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律の留保の妥当範囲をめぐる争いの概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
9	行政主体	行政主体の意義、種類、特色について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政主体の種類と特色について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政主体について自分の意見をノートにまとめること。	120分
10	行政機関	行政機関の意義、種類、権限について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政機関の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政機関について自分の意見をノートにまとめること。	120分
11	行政過程と法	行政過程の意義、特色、対象について学修する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政過程の意義と概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
12	行政行為の意義と性質	行政行為の意義と性質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の意義と性質について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行政行為の種類	行政行為の種類である法律行為的行政行為と準法律行為的行政行為について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の種類と具体例について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
14	行政行為の効力	行政行為の効力である公定力、不可争力、執行力、不可変更力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の効力の種類と特色について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
15	行政裁量	行政裁量の意義、必要性、種類、司法審査について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政裁量の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
16	行政行為の瑕疵	行政行為の瑕疵の意義と種類について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の瑕疵の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
17	行政行為の取消と撤回	行政行為の取消と撤回の意義と相違点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の取消と撤回の意義と相違点について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深める。	120分
18	行政行為の付款	行政行為の付款の意義、種類、違法な付款とその効力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政行為の付款の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	行政立法の意義と法規命令	行政立法の意義、法規命令の特色・内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政立法の意義と法規命令の概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政立法について感想をノートにまとめること。	120分
20	行政規則の意義と内容	行政立法の種類のうち、行政規則の意義と内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政規則の意義と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
21	行政計画の意義と種類と根拠	行政計画の意義、種類、根拠について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。	120分
22	行政計画の手続的統制と司法的統制	行政計画に対する手続的統制及び司法的統制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政計画に対する手続的統制と司法的統制の概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分
23	行政指導の意義と分類	行政指導の意義、分類、法的根拠について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導の意義と分類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
24	行政指導の手続的統制と司法的統制	行政指導に対する手続的統制及び司法的統制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政指導に対する手続的統制と司法的統制の概要について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	行政契約		行政契約の意義、種類、履行確保手段について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政契約の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
26	行政上の義務履行確保の手段		行政上の義務履行確保の手段の意義や種類について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政上の強制手段の特色と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
27	行政手続		行政手続の意義、特色、内容について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政手続の特色と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
28	行政情報管理		情報公開、個人情報保護、公文書管理について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政情報管理の特色と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
29	行政調査		行政調査の意義、特色、種類、法的統制について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政調査の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。	120分
30	授業のまとめ		行政法総論の体系と基本的な論点について総括的に学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政法総論の基本的な論点について説明できる。	
	事前学修	これまでの学んだことを復習し、行政法の体系を考察すること。	120分
	事後学修	これまでの学んだことを再度復習し、レポート課題に向けて準備すること。	120分

科目名	行政法Ⅱ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】
憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。また、行政法Ⅰについては、履修済であった方がより効果的に授業を受けることができる。

【授業方法】
オンデマンド形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。		2		2		2			
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。		2		2		2			
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等	到達目標①及び②に基づいて、必要な知識を持っているかどうか。		25	25									50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。		25	25									50
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題については、Googleクラスルームなどを用いて適宜フィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	必携
備考	本講義は、行政救済法の部分であるため行政判例百選Ⅱは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅰの部分については資料として配付することになります。				

【オフィスアワー】
希望者は、メールなどでお問い合わせをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	行政救済制度の概観	行政救済制度（行政争訟と国家補償）の全体像を学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政救済制度（行政争訟と国家補償）について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政救済制度にはどのようなものがあるかは覚えるようにしてください。	120分
2	行政訴訟の概観と司法権	行政争訟や行政訴訟の概念や歴史について学ぶと共に、裁判所がどのような訴訟を取り上げるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政争訟および行政訴訟について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律上の争訟とはどのようなものかについては覚えるようにしてください。	120分
3	行政訴訟の種類	行政訴訟の種類として、抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟（民衆訴訟、機関訴訟）について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政訴訟の種類を挙げ、そしてこれらについて十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政訴訟にはどのような種類があるのかについては覚えるようにしてください。	120分
4	取消訴訟（1）	行政事件訴訟法で規定されている取消訴訟の要件について、全体を確認していくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の要件を挙げ、これらの要件について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の訴訟要件は覚えるようにしてください。	120分
5	取消訴訟（2）；処分性①	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性の概念および重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ゴミ焼却場事件については再確認をしていただき、そこで示された定義については覚えるようにしてください。	120分
6	取消訴訟（2）；処分性②	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	取消訴訟（2）；処分性③	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分
8	取消訴訟（3）；原告適格①	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以前の動向について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原告適格の概念、これに関する学説および、重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、原告適格に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
9	取消訴訟（3）；原告適格②	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正以前に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
10	取消訴訟（3）；原告適格③	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正後に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
11	取消訴訟（4）；訴えの利益	取消訴訟の訴訟要件のうち、訴えの利益について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴えの利益の概念および関連する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、訴えの利益が無いと判断された判例については再確認をするようにしてください。	120分
12	取消訴訟（5）；取消訴訟の審理	取消訴訟の審理として、審理対象や審理手続について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、民事訴訟法との異同については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	取消訴訟（6）；取消訴訟の判決と効果、仮の権利救済		取消訴訟について裁判所が出す判決の種類およびその効果、そして、仮の権利救済について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の判決の種類とその効果、そして仮の権利救済について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の判決の種類、判決の効果、そして仮の権利救済の種類と要件については覚えるようにしてください。	120分
14	その他の抗告訴訟		その他の抗告訴訟の種類として、無効等確認の訴え、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟以外のその他の抗告訴訟を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、その他の抗告訴訟の種類および要件については再確認をするようにしてください。	120分
15	行政不服審査法		行政不服審査法で規定されている審査請求について、行政事件訴訟法との異同を意識しながら学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服審査法の重要規定を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行訴法と用語が異なる部分に注意をしつつ、再確認をするようにしてください。	120分
16	国家補償法の概観①		国家補償法として、国家賠償および損失補償について概観したいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家補償について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償と損失補償の異同については再確認をするようにしてください。	120分
17	国家賠償法の概観②		国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定を簡単に概観したいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償賠償法の沿革について十分な説明ができ、国家賠償法の規定を簡単に説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定については再確認をするようにしてください。	120分
18	国賠法1条（1）；賠償責任の根拠		国家賠償法について、どのような理由から国が賠償をすることになるのかについて、学説を踏まえて見ていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償法の責任の根拠に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、賠償責任の根拠となる学説については覚えるようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	国賠法1条（2）；公権力の行使①		国家賠償法1条が規定する「公権力の行使」とは何かについて説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公権力の行使に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公権力の行使に関する学説については覚えるようにしてください。		120分
20	国賠法1条（2）；公権力の行使②（権限不行使）		公権力の行使との関係で、いわゆる権限の不行使が国家賠償法1条の対象となるのかについて説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権限不行使に関する判例の展開について十分な利害ができるようになり、そして判例で示された要件を説明できるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、権限不行使に関する判例の展開およびそこで違法へと導いた要件については再確認をするようにしてください。		120分
21	国賠法1条（3）；職務関連性		職務関連性の概念およびこれに関する判例について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務関連性について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、職務関連性が問題となった判例については再確認をするようにしてください。		120分
22	国賠法1条（4）；違法性①		国家賠償法で規定する違法性の概念について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、違法性について説明をすることができ、これに関する学説の展開を示すことができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、違法性に関する行為不法説と結果不法性については再確認をするようにしてください。		120分
23	国賠法1条（4）；違法性②（立法作用、司法作用と国家賠償責任）		行政機関以外の国家機関による違法な活動について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政機関以外の国家機関に対する国家賠償訴訟に関する重要判例を説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、特別な活動に関する判例の展開については再確認をするようにしてください。		120分
24	国賠法1条（5）；過失①		国家賠償法で規定する過失の概念およびその後の展開について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失とは何かを説明することができるようになり、そして過失の客観化についても説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失の客観化については再確認をするようにしてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	国賠法1条（5）；過失②		過失に関する重要判例および組織過失について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失が問題となった事案を紹介することができるようになり、そして組織過失についても説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失にかかわる判例の展開および組織過失については再確認をするようにしてください。	120分
26	国賠法2条 瑕疵概念		国家賠償法2条で規定している公の営造物の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公の営造物の瑕疵とはどのような場面であり、そしてそこでの要件について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国賠法2条の要件については覚えるようにしてください。	120分
27	国賠法2条（2）；道路設置管理瑕疵		公の営造物の瑕疵に関する判例のうち、道路設置管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、道路設置管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、基本となる高知落石事件を覚えつつ、その他の判例についても再確認をするようにしてください。	120分
28	国賠法2条（3）；河川設置管理瑕疵		公の営造物の瑕疵に関する判例のうち、河川管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、河川管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、大東水害訴訟および多摩川水害訴訟については覚えるようにしてください。	120分
29	損失補償①―損失補償の根拠と要件		損失補償の根拠およびその要件について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償の根拠およびその要件について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料13を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、損失補償の法的根拠および要件については覚えるようにしてください。	120分
30	損失補償②		損失補償を行う際に、国家側はどの程度、補償をすべきかなどについて学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、損失補償を行う際に、国家側の補償の程度に関する学説を挙げることができ、そしてその学説について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料13から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、完全補償説と相当補償説については覚えるようにしてください。	120分

科目名	行政法Ⅱ	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】
憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。また、行政法Ⅰについては、履修済であった方がより効果的に授業を受けることができる。

【授業方法】

オンデマンド形式で行う。成績評価の方法・基準・割合に則して、Googleフォーム等を活用して小テストを実施する予定である。指定教材と小型六法を必ず毎回使用すること。2018版より前の六法を使用してはならない。最新の2021年版の六法を使用することが原則である。特別な理由がある場合は、2019年版又は2020年版の六法を使用することを認める。指定教材又は六法を持参し忘れて、講義の理解及び小テスト等に支障が出ることがないように注意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。					2		2		2			
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。					2		2		2			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等	到達目標①及び②に基づいて、必要な知識を持っているかどうか。	25	25									50	
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	25	25									50	
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		50	50									100	

【課題に対するフィードバックの方法】
GoogleClassroomを経由してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）Next教科書シリーズ	池村正道 編	弘文堂	2017	教科書	必携
デイリー六法 2021年版（2019・2020年版も許容）	大石眞ほか編修	三省堂	2020	その他	必携
ポケット六法 2021年版（2019・2020年版も許容）	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2020	その他	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	行政不服審査法に参照条文が付いていることから、小型六法はデイリー六法（三省堂）を推奨する。六法は、上記のどちらか一方を持参すること。六法の版については、2021年版を持参・使用するのが原則である。2018年版より前の六法を使用することを禁止する。六法と指定教材は必ず毎回持参すること。判例百選は参考書であり必携ではない。六法、教科書及び参考書を購入する際は、何版かに注意すること。				

【オフィスアワー】
原則としてメールで対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士として実際に経験・見聞した実例に基づいて、行政法Ⅱの領域に関連する事柄を守秘義務に抵触しない範囲で具体的に説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・行政法の概要	高等学校までの12年間及び学部前半を合計した14年間の様々な学修を「学士（法学）」として集大成する時期に、受講者が差し掛かっている。現在各自が取り組んでいる就職活動・各種資格試験の準備、更には卒業後の職務執行と行政法の理解・知見はダイレクトに繋がっている。初回のイントロダクションにおいて、受講者は行政法の概要を理解するとともに、本講座の内容・スケジュールを体得する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、高等学校まで及び学部での2年以上の修練と行政救済法の学修の連続性を正しく理解し説明できるようになるとともに、法学部卒業後の社会生活・職務執行と行政法の密接不可分性を正確に理解し説明することができる。到達目標②に関連して、前期30回の講義の展開を適切に理解し、具体的に説明できるとともに、学士（法学）の学位を取得する過程における行政法の位置づけと重要性を的確に体得し、正しく明瞭に説明することができる。	
	事前学修	六法を講義前日までに購入して準備をすること。指定教科書は、履修登録の日程に則して第5回の講義日までに購入することが義務である。シラバスに記載している事柄を全部読んだ上で、7月下旬までの15週間で自分が何をしなければならないかを、正確に具体的に理解しておくこと。これまでの14年間の学修事項を適切に思い出して、これらの修得事項と行政法Ⅱがどのように関連しているかを具体的に考え、述べるようにしておくこと。	150分
	事後学修	第1回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせて、7月下旬までの15週間の学修計画を具体的に正しく策定すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。 回数が多く講義科目であることに配慮して、受講する学生の利便性向上・サポートのため、各回の事後学修事項を丁寧に工夫して叙述しました。また、紙幅の関係でこのシラバスに記載していない受講生の義務も沢山あります。自分自身が実行すべき義務を正しく確知して着実に遂行し、実りある15週間にしましょう。	120分
2	行政救済法の意義	指定教科書第11章の「行政救済法の意義」を題材として、講義・説明を実施する。行政救済法の意義を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政救済法の意義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政救済法に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政救済法の意義」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。4月下旬以降の講義時にリアクションペーパー作成や小テストの解答を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによってリアクションペーパー作成や解答が滞った場合は評価を減点するので、一週目の段階から毎回の両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
	事後学修	第2回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。前日の講義後に自分で策定した7月下旬までの15週間の学修計画を点検し、必要に応じて正しく改訂すること。他の法律専門科目と同じく行政法Ⅱも、15週間の講義における解説事項は、各回の進展に応じて濃密な連続性・関連性を有している。したがって、講義時に具体的な指示がない場合でも、受講者が自分自身で、必要な事柄を適時に正しく明瞭に思い出した上で、各事柄相互の関連性を明敏に整理し、具体的に文字（口頭及び筆記）で適切に説明できる状態にすることが義務である。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
3	行政不服審査の概要	指定教科書第11章の「行政不服審査の概要」を題材として、講義・説明を実施する。行政不服審査の概要を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政不服審査の概要を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政不服審査に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政不服審査の概要」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第3回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。先週自分で策定した7月下旬までの学修計画とこの1週間の自己の修練状況を照合し、何が実現できたのか、実現できなかった項目が何かを適切に点検すること。この点検に基づいて、自分が今後実行しなければならない事項が何かを認識し、その認識事項を必ず速やかに遂行すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
4	不服申立ての対象、不服申立事項	指定教科書第11章の「不服申立ての対象、不服申立事項」を題材として、講義・説明を実施する。不服申立ての対象及び不服申立事項を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、不服申立ての対象を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、不服申立事項に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「不服申立ての対象、不服申立事項」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第4回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。履修登録の有無を点検し、来週以降何を講義に持参しなければならないか、何を準備しなければならないかを正しく認識・実行すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
5	不服申立ての種類、審査請求の要件、教示制度	指定教科書第11章の「不服申立ての種類、審査請求の要件、教示制度」を題材として、講義・説明を実施する。不服申立ての種類、審査請求の要件、及び教示制度を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、不服申立ての種類を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、審査請求の要件・教示制度に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「不服申立ての種類、審査請求の要件、教示制度」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第5回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回までの講義で説明のあった事柄を正しく鮮明に思い出して、それぞれの事柄が行政法領域においてどのように繋がっているかを詳細に確認するとともに、他の法律分野や社会生活一般とどのように関連しているかを分析する。これらの確認と分析の成果を自分自身で正確に文字化してノートを作成していく。作成ノートは手書きを推奨するが、Word等の電子媒体で作成することも認める。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。		
回数	テーマ	内 容
6	行政不服審査の審理手続、審査請求をめぐるタイムライン	指定教科書第11章の「行政不服審査の審理手続、審査請求をめぐるタイムライン」を題材として、講義・説明を実施する。行政不服審査の審理手続、及び審査請求をめぐるタイムラインを理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政不服審査の審理手続を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、審査請求をめぐるタイムラインに関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政不服審査の審理手続、審査請求をめぐるタイムライン」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
	事後学修	第6回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第6回までの講義で説明のあった事柄を正しく鮮明に思い出して、それぞれの事柄が行政法領域においてどのように繋がっているかを詳細に確認するとともに、他の法律分野や社会生活一般とどのように関連しているかを分析する。これらの確認と分析の成果を自分自身で正確に文字化してノートを作成していく。作成ノートは手書きを推奨するが、Word等の電子媒体で作成することも認める。このノート作成は、第7回以降の講義の事後学修においても同様の義務である。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。
7	行政審判、苦情処理制度・オンブズマン	指定教科書第11章の「行政審判、苦情処理制度・オンブズマン」を題材として、講義・説明を実施する。行政審判、及び苦情処理制度・オンブズマンを理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政審判を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、苦情処理制度・オンブズマンに関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政審判、苦情処理制度・オンブズマン」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
	事後学修	第7回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。間もなく、前期が始まって1か月が経過する。5月初旬の次週は、この1か月間の自己の鍛錬状況と既定の計画を照合することになるから、今週は、これまでの4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別しておくこと。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。
8	行政事件訴訟の概要	指定教科書第12章の「行政事件訴訟の概要」を題材として、講義・説明を実施する。行政事件訴訟の概要を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政事件訴訟の概要を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政事件訴訟の概要に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政事件訴訟の概要」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
	事後学修	第8回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。間もなく、前期が始まって1か月が経過する。5月初旬の次週は、この1か月間の自己の鍛錬状況と既定の計画を照合することになるから、今週は、これまでの4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別しておくこと。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。
9	行政事件訴訟法の沿革と特徴	指定教科書第12章の「行政事件訴訟法の沿革と特徴」を題材として、講義・説明を実施する。行政事件訴訟法の沿革と特徴を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政事件訴訟法の沿革と特徴を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政事件訴訟法の沿革と特徴に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政事件訴訟法の沿革と特徴」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
	事後学修	第9回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。今週で、前期が始まって1か月が経過する。この1か月間の自己の鍛錬状況と4月上旬に策定した計画を照合すること。この照合によって、4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別すること。この識別と講座の進捗状況を踏まえて、速やかに学修計画を再点検し、5月10日までに行政法Ⅱの学修計画を改訂・修正・再構築すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。
10	行政事件訴訟の類型	指定教科書第12章の「行政事件訴訟の類型」を題材として、講義・説明を実施する。行政事件訴訟の類型を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政事件訴訟の類型を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政事件訴訟の類型に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「行政事件訴訟の類型」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。
	事後学修	第10回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。今週で、前期が始まって1か月が経過する。この1か月間の自己の鍛錬状況と4月上旬に策定した計画を照合すること。この照合によって、4週間で自分が何を修得したか、修得しなければならなかったにもかかわらず修得できなかった事項が何かを正しく識別すること。この識別と講座の進捗状況を踏まえて、速やかに学修計画を再点検し、5月10日までに行政法Ⅱの学修計画を改訂・修正・再構築すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	訴訟要件の概要	指定教科書第12章の「訴訟要件の概要」を題材として、講義・説明を実施する。訴訟要件の概要を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、訴訟要件の概要を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、訴訟要件の概要に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「指定教科書の所定ページに沿って「訴訟要件の概要」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第11回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。前日までに改訂・修正・再構築した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。この照合に基づいて、学修計画を適切に補訂すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
12	処分性の要件	指定教科書第12章の「処分性の要件」を題材として、講義・説明を実施する。処分性の要件を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、処分性の要件を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、処分性に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「処分性の要件」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第12回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。前々日までに改訂・修正・再構築した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。この照合に基づいて、学修計画を適切に補訂すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
13	原告適格の要件	指定教科書第12章の「原告適格の要件」を題材として、講義・説明を実施する。原告適格の要件を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、原告適格の要件を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、原告適格に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「原告適格の要件」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第13回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。先週までに改訂・修正・再構築・補訂した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点まで1週間の自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく綿密に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
14	狭義の訴えの利益	指定教科書第12章の「狭義の訴えの利益」を題材として、講義・説明を実施する。狭義の訴えの利益の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、狭義の訴えの利益を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、狭義の訴えの利益に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「狭義の訴えの利益」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第14回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。先週までに改訂・修正・再構築・補訂した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく綿密に実施すること。訴訟要件の主軸となる事項の説明が、この狭義の訴えの利益で一つの区切りとなる。したがって、ここまで学修した事項を的確に復習して、訴訟要件の位置づけと法律上の意義を正しく体得すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
15	出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、管轄	指定教科書第12章の「出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、管轄」を題材として、講義・説明を実施する。出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、及び管轄の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、及び管轄を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、及び管轄に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「出訴期間、被告適格、不服申立てとの関係、管轄」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第15回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。5月中旬までに再構成した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく綿密に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
16	本案審理	指定教科書第12章の「本案審理」を題材として、講義・説明を実施する。本案審理の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、本案審理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、本案審理に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「本案審理」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第16回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。5月中旬までに再構成した行政法Ⅱの学修計画と、今日の時点までの自己の理解状況・修得状況を綿密に照合すること。各自で責任を持って義務と計画を正しく綿密に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
17	違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ、立証責任	指定教科書第12章の「違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ、立証責任」を題材として、講義・説明を実施する。違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ、及び立証責任の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ及び立証責任を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ及び立証責任に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「違法判断の基準時、関連請求、訴訟参加、釈明処分の特則、職権証拠調べ、立証責任」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第17回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
18	仮の救済—執行停止制度	指定教科書第12章の「仮の救済—執行停止制度」を題材として、講義・説明を実施する。仮の救済—執行停止制度の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、仮の救済—執行停止制度を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、仮の救済—執行停止制度に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「仮の救済—執行停止制度」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第18回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
19	訴訟の終了・判決の効力、教示制度	指定教科書第12章の「訴訟の終了・判決の効力、教示制度」を題材として、講義・説明を実施する。訴訟の終了・判決の効力、及び教示制度の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、訴訟の終了・判決の効力、及び教示制度を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、訴訟の終了・判決の効力及び教示制度に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「訴訟の終了・判決の効力、教示制度」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第19回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
20	無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟	指定教科書第12章の「無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟」を題材として、講義・説明を実施する。無効等確認訴訟、及び不作為の違法確認訴訟の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、無効等確認訴訟、及び不作為の違法確認訴訟を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、無効等確認訴訟、及び不作為の違法確認訴訟に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第20回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
21	義務付け訴訟	指定教科書第12章の「義務付け訴訟」を題材として、講義・説明を実施する。義務付け訴訟の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、義務付け訴訟を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、義務付け訴訟に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「義務付け訴訟」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
22	事後学修	第21回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。講義回数として既に3分の2が経過した。また、前期末まで1か月である。これまで自分自身が実行してきた事柄を正しく振り返り、明確に思い出すこと。思い出した事項を既定の計画と照合し、何を達成して体得できているか、或いは実行すべきであったのに実行していなかった事実が何かを適切に点検し書き出すこと。書き出した項目と取り組まなければならない各種の義務を照らし合わせて、今後1か月間の学修計画を的確に策定すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、差止訴訟及び当事者訴訟・争点訴訟を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、差止訴訟及び当事者訴訟・争点訴訟に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「差止訴訟、当事者訴訟・争点訴訟」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
23	事後学修	第22回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。講義回数として既に3分の2が経過した。また、前期末まで1か月である。これまで自分自身が実行してきた事柄を正しく振り返り、明確に思い出すこと。思い出した事項を既定の計画と照合し、何を達成して体得できているか、或いは実行すべきであったのに実行していなかった事実が何かを適切に点検し書き出すこと。書き出した項目と取り組まなければならない各種の義務を照らし合わせて、今後1か月間の学修計画を的確に策定すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家賠償制度の意義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、国家賠償制度の意義に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「国家賠償制度の意義」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
24	事後学修	第23回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「公権力行使に伴う損害賠償（1条責任）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
25	事後学修	第24回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
26	事後学修	第25回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「公の営造物の瑕疵に伴う損害賠償（2条責任）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
26	賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、相互保証主義	指定教科書第13章の「賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、相互保証主義」を題材として、講義・説明を実施する。賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、及び相互保証主義の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、及び相互保証主義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、及び相互保証主義に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「賠償責任者、民法の適用、特別法の適用、相互保証主義」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第26回の講義で説明のあった事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。前期終了まで約2週間となった。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノートを全て綿密に見直すこと。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、7月以降前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	180分
27	損失補償制度	指定教科書第14章の「損失補償制度」を題材として、講義・説明を実施する。損失補償制度の要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償制度を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、損失補償制度に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「損失補償制度」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第27回の講義で説明のあった事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノート全て綿密に見直すこと。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
28	損失補償の谷間	指定教科書第14章の「損失補償の谷間」を題材として、講義・説明を実施する。損失補償の谷間に関連する要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償の谷間を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、損失補償の谷間に関する要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする。	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って「損失補償の谷間」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第28回の講義で説明のあった事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノート全て綿密に見直すこと。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
29	行政法Ⅱの総復習	第28回までに説明した事柄を題材として、復習の講義を実施する。行政救済法に関連する要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政救済法全般を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政救済法全般における法律上の要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って行政救済法の領域と自分自身が作成したノートを講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第29回の講義で説明のあった事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせること。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノート全て綿密に見直すこと。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
30	問題演習と総括	第29回までに説明した事柄を題材として、問題演習と総括の講義を実施する。行政救済法に関連する要件・効果を理解し、骨格となる各条文を解釈することができる。また、各法令における要件、効果及び問題点を適切に説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、行政救済法全般を正しく理解し説明できるようにする。到達目標②に関連して、行政救済法全般における法律上の要件・効果、及び関連判例・裁判例を適切に体得し、正確に条文解釈・説明ができるようにする	
	事前学修	指定教科書の所定ページに沿って行政救済法の領域と自分自身が作成したノートを講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務であるから、必ず準備して講義に携行すること。	120分
	事後学修	第30回の講義で説明の有った事項について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと手元の各教材を照らし合わせる。第5回及び第6回の事後学修で着手したノート作成を自分自身で正しく精密に実行すること。各自で責任を持って義務と計画を適切かつ適時に実施すること。これまで2か月以上を掛けて自分自身で作成してきたノートを全て綿密に見直すこと。見直す際に、自分のノートと六法・指定教科書を正しく照合すること。見直しと照合を通じて、必要に応じて暗記すべき項目を暗記すること。見直し、照合、及び暗記を踏まえて、行政法Ⅱの理解を進展させて、具体的に的確に文字で記述できるようにすること。この理解進展と記述能力の向上は、前期終了までの間、毎日適時に正確に実行し続けること。各講義の到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

科目名	行政法Ⅱ	担当者	小澤 久仁男	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要がある。しかし、現実には、行政活動が違法に行われることが多くある。そのため、行政活動に対する国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となる。本講義においては、わが国の行政救済制度の内容や論点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済制度についての必要な基本的知識と考え方を修得するために、行政救済制度の意義、内容、現状、主要な判例及び学説を理解する。

【履修条件】
憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。また、行政法Ⅰについては、履修済であった方がより効果的に授業を受けることができる。

【授業方法】
オンデマンド形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の基本的事項を理解し、骨組みとなる各条文を解釈することができる。					2		2		2			
②	行政救済法の基本的条項の解釈に基づいて、法律上の要件・効果や問題点を的確に説明できる。					2		2		2			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①及び②に基づいて、必要な知識を持っているかどうか。	25	25									50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①及び②に係る表現力が身に付いているかを評価する。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題については、Googleクラスルームなどを用いて適宜フィードバックを行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017年	参考書	必携
備考	本講義は、行政救済法の部分であるため行政判例百選Ⅱは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅰの部分については資料として配付することになります。				

【オフィスアワー】
希望者は、メールなどでお問い合わせをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	行政救済制度の概観	行政救済制度（行政争訟と国家補償）の全体像を学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政救済制度（行政争訟と国家補償）について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政救済制度にはどのようなものがあるかは覚えるようにしてください。	120分
2	行政訴訟の概観と司法権	行政争訟や行政訴訟の概念や歴史について学ぶと共に、裁判所がどのような訴訟を取り上げるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政争訟および行政訴訟について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律上の争訟とはどのようなものかについては覚えるようにしてください。	120分
3	行政訴訟の類型	行政訴訟の類型として、抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟（民衆訴訟、機関訴訟）について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政訴訟の類型を挙げ、そしてこれらについて十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政訴訟にはどのような類型があるのかについては覚えるようにしてください。	120分
4	取消訴訟（1）	行政事件訴訟法で規定されている取消訴訟の要件について、全体を確認していくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の要件を挙げ、これらの要件について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の訴訟要件は覚えるようにしてください。	120分
5	取消訴訟（2）；処分性①	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性の概念および重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ゴミ焼却場事件については再確認をしていただき、そこで示された定義については覚えるようにしてください。	120分
6	取消訴訟（2）；処分性②	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	取消訴訟（2）；処分性③	取消訴訟の訴訟要件のうち、処分性について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、処分性にかかわる重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。	120分
8	取消訴訟（3）；原告適格①	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以前の動向について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原告適格の概念、これに関する学説および、重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、原告適格に関する学説については覚えるようにしてください。	120分
9	取消訴訟（3）；原告適格②	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正以前に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
10	取消訴訟（3）；原告適格③	取消訴訟の訴訟要件のうち、原告適格について学ぶことになり、特に2004年改正以後の重要判決について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正後に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。	120分
11	取消訴訟（4）；訴えの利益	取消訴訟の訴訟要件のうち、訴えの利益について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴えの利益の概念および関連する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、訴えの利益が無いと判断された判例については再確認をするようにしてください。	120分
12	取消訴訟（5）；取消訴訟の審理	取消訴訟の審理として、審理対象や審理手続について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2004年以降の原告適格に関する重要判例について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、民事訴訟法との異同については再確認をするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	取消訴訟（6）；取消訴訟の判決と効果、仮の権利救済		取消訴訟について裁判所が出す判決の種類およびその効果、そして、仮の権利救済について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟の判決の種類とその効果、そして仮の権利救済について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の判決の種類、判決の効果、そして仮の権利救済の種類と要件については覚えるようにしてください。	120分
14	その他の抗告訴訟		その他の抗告訴訟の種類として、無効等確認の訴え、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消訴訟以外のその他の抗告訴訟を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、その他の抗告訴訟の種類および要件については再確認をするようにしてください。	120分
15	行政不服審査法		行政不服審査法で規定されている審査請求について、行政事件訴訟法との異同を意識しながら学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政不服審査法の重要規定を挙げ、そしてこれについて十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行訴法と用語が異なる部分に注意をしつつ、再確認をするようにしてください。	120分
16	国家補償法の概観①		国家補償法として、国家賠償および損失補償について概観したいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家補償について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償と損失補償の異同については再確認をするようにしてください。	120分
17	国家賠償法の概観②		国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定を簡単に概観したいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償賠償法の沿革について十分な説明ができ、国家賠償法の規定を簡単に説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定については再確認をするようにしてください。	120分
18	国賠法1条（1）；賠償責任の根拠		国家賠償法について、どのような理由から国が賠償をすることになるのかについて、学説を踏まえて見ていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家賠償法の責任の根拠に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。	
	事前学修	参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、賠償責任の根拠となる学説については覚えるようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	国賠法1条（2）；公権力の行使①		国家賠償法1条が規定する「公権力の行使」とは何かについて説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公権力の行使に関する学説を挙げることができ、そしてそこでの学説について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公権力の行使に関する学説については覚えるようにしてください。		120分
20	国賠法1条（2）；公権力の行使②（権限不行使）		公権力の行使との関係で、いわゆる権限の不行使が国家賠償法1条の対象となるのかについて説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権限不行使に関する判例の展開について十分な利害ができるようになり、そして判例で示された要件を説明できるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、権限不行使に関する判例の展開およびそこで違法へと導いた要件については再確認をするようにしてください。		120分
21	国賠法1条（3）；職務関連性		職務関連性の概念およびこれに関する判例について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務関連性について十分な説明ができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、職務関連性が問題となった判例については再確認をするようにしてください。		120分
22	国賠法1条（4）；違法性①		国家賠償法で規定する違法性の概念について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、違法性について説明をすることができ、これに関する学説の展開を示すことができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、違法性に関する行為不法説と結果不法性については再確認をするようにしてください。		120分
23	国賠法1条（4）；違法性②（立法作用、司法作用と国家賠償責任）		行政機関以外の国家機関による違法な活動について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政機関以外の国家機関に対する国家賠償訴訟に関する重要判例を説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、特別な活動に関する判例の展開については再確認をするようにしてください。		120分
24	国賠法1条（5）；過失①		国家賠償法で規定する過失の概念およびその後の展開について説明をしていきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失とは何かを説明することができるようになり、そして過失の客観化についても説明することができるようになる。		
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。		120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失の客観化については再確認をするようにしてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	国賠法1条（5）；過失②		過失に関する重要判例および組織過失について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、過失が問題となった事案を紹介することができるようになり、そして組織過失についても説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失にかかわる判例の展開および組織過失については再確認をするようにしてください。	120分
26	国賠法2条 瑕疵概念		国家賠償法2条で規定している公の营造物の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公の营造物の瑕疵とはどのような場面であり、そしてそこでの要件について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	学生教員共有フォルダから参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国賠法2条の要件については覚えるようにしてください。	120分
27	国賠法2条（2）；道路設置管理瑕疵		公の营造物の瑕疵に関する判例のうち、道路設置管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、道路設置管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、基本となる高知落石事件を覚えつつ、その他の判例についても再確認をするようにしてください。	120分
28	国賠法2条（3）；河川設置管理瑕疵		公の营造物の瑕疵に関する判例のうち、河川管理の瑕疵について説明をしていきたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、河川管理の瑕疵に関する重要判例を挙げることができ、これらの重要判例について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、大東水害訴訟および多摩川水害訴訟については覚えるようにしてください。	120分
29	損失補償①—損失補償の根拠と要件		損失補償の根拠およびその要件について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、損失補償の根拠およびその要件について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料13を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、損失補償の法的根拠および要件については覚えるようにしてください。	120分
30	損失補償②		損失補償を行う際に、国家側はどの程度、補償をすべきかなどについて学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、損失補償を行う際に、国家側の補償の程度に関する学説を挙げることができ、そしてその学説について説明することができるようになる。	
	事前学修	参考資料13から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、完全補償説と相当補償説については覚えるようにしてください。	120分

科目名	金融商品取引法Ⅰ	担当者	中曽根 玲子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
金融商品取引法は大きく分けて、①ディスクロージャー規制、②不公正な取引規制、③金融商品取引業者規制に分かれる。本講義では、金融商品取引法の目的である「資本市場の機能の十全の発揮による金融商品等の公正な価格形成等を図る」ために、①ディスクロージャー制度全般について取り上げる。なお、②③は後期開講の金融商品取引法Ⅱで扱う。また、金融商品取引法は本来広く有価証券を適用対象としているが、本講義では、有価証券の典型例である株式を中心に検討をしていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル化した企業社会において、上場会社が直面する資本市場に関わる諸問題の背景にある法的問題点を抽出し、金融商品取引法の法的知識に基づき問題を論理的かつ批判的に検討する能力と高度な職業意識を備えた人材の養成を目的とする。

【履修条件】
・株式の知識を前提とするため、会社法（株式・株主総会）をすでに履修または同時並行で履修していることと、金融商品取引法の全体像を理解するには、金融商品取引法Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
・事前資料等（レジュメ、事例、最新のトピックを含む）を活用して講義を行う ・金融商品取引法上の規制と密接に関連する会社法制度については適宜確認する ・事前資料は、Google Classroomにアップするので、各自ダウンロードし授業に持参する ・出席管理システム（レスポん）を利用して授業開始直前に出欠確認を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）を使って、理解の定着度を測る（予定） 適宜、提出物を求め、理解の確認を行う

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	横断的資本市場法制である金融商品取引法の目的を理解し、その重要性を説明することができる。						3							
②	資本市場における公正な価格形成を達成するために金融商品取引法が具体的に定めている法規制の意義、手続の概要、法規制に違反した場合の法効果などを理解した上で、金融商品取引法のあるべき方向性について自らの考えを述べるができる。								3					
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①については、典型的な事例問題を通して、金融商品取引法の役割・目的を確実に理解しているかを評価し、到達目標②に関しては、金融商品取引法のディスクロージャー制度の具体的な内容について基礎知識が定着しているかを記述問題によって評価する。	20	20									40
小テスト等												
レポート等	各回の授業の進度に応じて、到達目標①②の修得状況を確認するため、適時課題の提出を求め、その内容を評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②については、授業テーマに沿って事前に配付するレジュメ・資料等に目を通し、目的や内容を理解して授業に臨んでいるかを発言内容等から評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の内容に応じて、授業内でのコメント、Google Classroomでの講評及び解説、添削またはコメント付きの課題の返却等を通じて行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学べる金融商品取引法（第4版）	近藤光男ほか3名	弘文堂	2018	教科書	必携
指定六法			最新版	その他	必携
備考	六法は、金融商品取引法全文及び関係する内閣府令が掲載されているものが好ましいが、少なくとも大学指定の六法で構わない。その場合は、省略部分については、必要に応じ、コピーで対応すること。				

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日12時10分～）に授業講堂において質問を受ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】金融商品取引法Ⅰの学修に当たって	- 講義のテーマや内容、講義の方法、成績評価の方法等について説明する - 金融商品取引法Ⅱを受講するに際しての取り組み方、注意事項等について説明する - 金融商品取引法の全体像、及び会社法との関係について概観する		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融商品取引法Ⅰの学修計画を立てることができる		
	事前学修	- シラバス及び事前資料等をよく読み、他の履修科目との関係や自分の学修計画を考える - 教科書 第1章「Ⅰ 金融商品市場の基本的な仕組み」と第2章「Ⅰ 有価証券の上場」を読んでおく - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分
2	【金融商品取引法総論】金融商品取引法の目的は何か	- 証券市場とは何かを考える - 金融商品取引法1条の目的の意義について、金融商品取引法成立の背景を踏まえて説明する - 投資家を一般投資家、機関投資家、特定投資家に区分する意義とそれぞれの違いについて整理する		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、横断的資本市場規制である金融商品取引法の規制目的について、投資家保護の考え方の意義を理解した上で、批判的に検討することができる		
	事前学修	- 教科書 第1章「Ⅱ 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか」、第4章「Ⅷ 特定投資家への適用除外」を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分
3	【金融商品取引法上の有価証券（１）】金融商品取引法上の有価証券とは何か	- 金融商品取引法が規制の対象とする有価証券とは、どのようなものを概観する - 有価証券の典型である株式については、会社法を踏まえつつ説明する		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融商品取引法2条1項及び2項前段に定める有価証券とはどのようなものか理解し説明することができる		
	事前学修	- 教科書 第1章「Ⅲ 金融商品取引法はどの範囲に適用されるか」を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分
4	【金融商品取引法上の有価証券（２）】金融商品取引法上の有価証券とは何か	- 資産流動化法に基づく有価証券について概観する - みなし有価証券（とくに集団投資スキーム）について説明する		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融商品取引法2条2項各号に定める有価証券とはどのようなものか理解し説明することができる		
	事前学修	- 教科書 第6章「Ⅰ 投資信託および集団投資スキームの経済的意義 ②」と「Ⅴ 集団投資スキーム持分の規制」を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分
5	【証券市場のプレーヤー】証券市場でのキーマンは誰か	- 証券市場を利用する上場会社について考える - 証券会社の役割について検討する - 証券取引所（金融商品取引所）の役割について会社法を踏まえて説明する - 金融庁や証券取引等監視委員会の役割にも言及する		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、証券市場の役割を担保する（支える）ものについて理解し説明することができる		
	事前学修	- 教科書 第2章「Ⅲ 金融商品取引所」、第4章「Ⅰ 金融商品取引業の意義」、第8章を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書または各自の講義ノートを参照する - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
6	【流通市場の役割】流通市場とは何か		・流通市場が果たす役割について説明する ・株式はどのように譲渡（売買）されるかについて説明する ・会社法を踏まえつつ、振替株式について確認する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、現代社会で証券市場（とくに流通市場）が果たす役割について理解し説明することができる		
	事前学修	・教科書 第2章「Ⅱ 有価証券取引の仕組み」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する		120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する		120分
7	【流通市場の情報開示（１）】流通市場での開示の必要性は何か		・自己責任の原則とは何か、その前提条件は何かについて確認する ・上場会社における会計と監査の意義とその制度について概観する ・会社法上の会計および監査制度について復習する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場の情報開示の必要性について理解し説明することができる		
	事前学修	・事前資料等をよく読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する		120分
	事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する		120分
8	【流通市場の情報開示（２）】継続開示にはどのようなものがあるか		・金融商品取引法が上場会社等に課す情報開示義務のうち、有価証券報告書・四半期報告書・臨時報告書についてその目的や開示の意義について概観する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場における情報開示の重要性について理解し説明することができる		
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅰ 開示規制の概要」と「Ⅲ 上場会社等が行う定期的な開示」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する		120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する		120分
9	【流通市場の情報開示（３）】継続開示にはどのようなものがあるか		・金融商品取引法が上場会社に課す情報開示義務のうち、内部統制報告書や確認書等についてその目的や開示の意義について概観する ・証券取引所におけるタイムリーディスクロージャーの意義について考える	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、流通市場において開示される情報の多様性について理解し説明することができる		
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅳ 財務情報の正確性を確保するための制度」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書を参照する ・質問を用意する		120分
	事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する		120分
10	【発行市場の役割】発行市場とは何か		・発行市場の役割について説明する ・発行市場と流通市場の連続性と関係性について説明する ・発行市場を通じて行われる上場会社の資金調達方法について会社法を踏まえつつ概観する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、現代社会で証券市場（とくに発行市場）が果たす役割について理解し説明することができる		
	事前学修	・事前資料等をよく読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する		120分
	事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	【発行市場の情報開示（１）】発行市場における情報開示の必要性は何か	・発行開示規制の必要性和有典型例である価証券届出書等について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、発行市場の情報開示の必要性について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅱ 有価証券を発行する際の開示①②」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
12	【発行市場の情報開示（２）】発行開示にはどのようなものがあるか	・発行開示における継続開示制度との統合について説明する ・投資家に対して提供される目論見書の意義について考える ・募集概念と売出概念について、会社法を踏まえつつ説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連付けて、発行市場での開示の仕組みについて理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅱ 有価証券を発行する際の開示③④」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
13	【発行市場・流通市場における虚偽記載等の責任（１）】発行市場における責任とは何か	・発行市場において開示される情報に虚偽記載等が存在した時の問題点について説明する ・誰が誰に対してどのような責任を負うのかを、会社法の規定を踏まえつつ、系統立てて、また事例を題材に検討する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、発行市場における責任について、到達目標①の金融商品取引法の目的を前提として、条文の意義や適用関係について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅴ 虚偽の情報開示を行ったものはどのような責任を負うか①②③」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書等を参照する ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
14	【発行市場・流通市場における虚偽記載等の責任（２）】流通市場における責任とは何か	・流通市場において開示される情報に虚偽記載等が存在した時の問題点について説明する ・誰が誰に対してどのような責任を負うのかを、会社法の規定を踏まえつつ、系統立てて、また事例を題材に検討する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、流通市場における責任について、到達目標①の金融商品取引法の目的を前提として、条文の意義や適用関係について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第3章「Ⅴ 虚偽の情報開示を行ったものはどのような責任を負うか④⑤」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
15	授業内試験及び振り返り		提示された問題に時間内で取り組む
	この回の到達目標	到達目標①②が達せられているかを課題に取り組み、理解度を各人が確認することができる	
	事前学修	・事前資料等に沿って教科書や自らの講義ノートを熟読しておく ・不正確な部分や理解が十分でない部分を抽出して、自学自習を行い、疑問を解消しておく	180分
	事後学修	・授業内試験を通じて不正確であった部分及び理解が十分でなかった部分について復習をしておく	120分

科目名	金融商品取引法Ⅱ	担当者	中曽根 玲子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
金融商品取引法は大きく分けて、①ディスクロージャー規制、②不正な取引規制、③金融商品取引業者規制に分かれる。金融商品取引法Ⅰの講義をベースに、本講義では、金融商品取引法の目的である「資本市場の機能の十全の発揮による金融商品等の公正な価格形成等を図る」ために定められている公開買付け、インサイダー取引、相場操縦などの②不正な取引規制を取り上げる。また、③資本市場を支える証券会社に対する業者規制や行為規制についても概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル化した企業社会において、上場会社が直面する資本市場に関わる諸問題の背景にある法的問題点を抽出し、金融商品取引法の法的知識に基づき問題を論理的かつ批判的に検討する能力と高度な職業意識を備えた人材の養成を目的とする。

【履修条件】
・株式の知識を前提とするので、会社法（株式・株主総会）をすでに履修または同時並行で履修すること。金融商品取引法の全体像を理解するには、金融商品取引法Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
・事前資料等（レジュメ、事例、最新のトピックを含む）を活用して講義を行う ・金融商品取引法上の規制と密接に関連する会社法制度については適宜授業内で確認する ・事前資料は、Google Classroomにアップするので、各自ダウンロードし授業に持参する ・出席管理システム（レスポん）を利用して授業開始直前に出欠確認を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）を使って、理解の定着度を測る（予定） 適宜、提出物を求め、理解の確認を行う

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	横断的資本市場法制である金融商品取引法の目的を理解し、その重要性を説明することができる。					3							
②	資本市場における公正な価格形成を達成するためにき金融商品取引法が具体的に定めている法規制の意義、手続の概要、法規制に違反した場合の法効果について説明できる。							3					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①に関しては、典型的な事例問題と通して、公開買付け、インサイダー取引、相場操縦などの不公正な取引規制の内容について手続きの意義及び適用要件・法効果についての理解度を評価する。到達目標②に関しては、基礎知識が定着しているかを記述問題によって評価する。	20	20									40
小テスト等												
レポート等	各回の授業の進度に応じて、到達目標①②の修得状況を確認するため、適時、課題の提出を求め、その内容进行评估する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②については、授業テーマに沿って配付する事前資料等に目を通し、目的や内容を理解して授業に臨んでいるかを発言内容等から評価する。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の内容に応じて、授業内でのコメント、Google Classroomでの講評及び解説、添削またはコメント付きの課題の返却等を通じて行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎から学べる金融商品取引法（第4版）	近藤光男ほか3名	弘文堂	2018	教科書	必携
指定六法			最新版	その他	必携
備考	六法は、金融商品取引法全文及び関係する内閣府令が掲載されているものが好ましいが、少なくとも大学指定の六法で構わない。その場合は、省略部分については、コピーで対応すること。				

【オフィスアワー】
授業終了後（水曜日12時10分～）に授業講堂において質問を受ける

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】金融商品取引法Ⅱの学修に当たって	・講義のテーマや内容、講義の方法、成績評価の方法等について説明する ・金融商品取引法Ⅱを受講するに際しての取り組み方、注意事項等について説明する ・金融商品取引法の全体像を概観する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融商品取引法Ⅱを学修するに際して学修計画を立てることができる	
	事前学修	・シラバス及び事前資料等をよく読み、他の履修科目との関係や自分の学習計画を考える ・教科書 第1章「Ⅰ 金融商品市場の基本的な仕組み」と「Ⅱ 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか」、第2章「Ⅰ 有価証券の上場」と「Ⅱ 有価証券取引の仕組み」を読んでおく（とくに金融商品取引法Ⅰを受講していない場合には、丁寧に読む） ・質問を用意しておく	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、内容を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
2	【公開買付制度（１）】公開買付けの意義とは何か	・公開買付制度の意義について考える ・企業買収方法に関連して、会社法を踏まえつつ説明する ・公開買付制度の全体像を概観する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、公開買付制度とはどのような制度かを説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）①②」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
3	【公開買付制度（２）】強制公開買付けとは何か	・公開買付けが適用されるケース（強制公開買付け）について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、強制公開買付の意義及びその内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）③」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
4	【公開買付制度（３）】公開買付者に求められている義務は何か	・公開買付けの方法に関する規制の意義や内容について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、勧誘の対象者と公開買付者の利益調整を図る規制の内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）④」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
5	【公開買付制度（４）】発行会社による公開買付けとは何か	・引き続き、公開買付けの方法に関する規制、違法な公開買付の場合の対応について説明する ・発行会社による公開買付けの目的と規制内容について概観する ・発行会社以外の会社による公開買付けとの違いを確認する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、発行会社が行う公開買付についてその目的と規制内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）④⑤」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
6	【大量保有報告制度（１）】大量保有報告とは何か	- 大量保有報告制度の目的について考える - 大量保有報告制度を概観する		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、上場会社の一定の株主に義務付けられている大量保有報告制度について理解し説明することができる		
	事前学修	- 教科書 第5章「Ⅱ 株券等を大量に保有する者の開示義務とは ①②③」を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁や会社法のテキストを再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分
7	【大量保有報告制度（２）】大量保有報告の特例	大量保有報告制度の意義を踏まえつつ、特例報告制度について検討する		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、機関投資家に適用される大量保有報告制度について理解し説明することができる		
	事前学修	- 教科書 第5章「Ⅱ 株券等を大量に保有する者の開示義務とは ④⑤⑥」を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分
8	【インサイダー取引規制（１）】インサイダー取引規制とは何か	- インサイダー取引規制の意義について考える - インサイダー取引規制の全体像を概観する		
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的に関連して、上場会社の株式に係る重要情報を利用したインサイダー取引が規制される目的について理解し説明することができる		
	事前学修	- 教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制 ①」を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分
9	【インサイダー取引規制（２）】インサイダー取引規制はどのような場合に適用されるか	- インサイダー取引規制の対象となる者とのような情報がインサイダー取引規制の対象となるかについて説明をする - 公開買付関係者によるインサイダー取引とは何かを確認する		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、インサイダー取引規制の内容について理解し説明することができる		
	事前学修	- 教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制 ②」を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分
10	【インサイダー取引規制（３）】インサイダー取引の予防を目的とする規制とは何か	インサイダー取引を未然に防止するために設けられた規制について説明する		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、インサイダー取引を抑止または予防する規制の内容について理解し説明することができる		
	事前学修	- 教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制 ③⑤」を読んでおく - 事前資料等に目を通しておく - 質問を用意する		120分
	事後学修	- 教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく - 指示された事項があれば、期間内に行う - 疑問点が解消されたかを確認する		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	【不正取引規制（１）】相場操縦とは何か	・相場操縦規制の意義について考える ・相場操縦行為として規制対象となる類型を説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、悪質な市場阻害行為としての相場操縦規制の内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第7章「Ⅲ 相場操縦の規制 ①②③」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
12	【不正取引規制（２）】その他不正取引とは何か	・空売り、風説の流布、偽計取引規制について取り上げる ・詐欺的行為を規制する金融商品取引法157条について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、相場操縦以外の悪質な市場阻害行為に対する規制の必要性について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第7章「Ⅲ 相場操縦の規制 ④⑤」と「Ⅰ 詐欺的行為を禁止する157条」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する等	120分
13	【金融商品取引業者等に対する規制（１）】金融商品取引業者規制とは何か	・市場を支える金融商品取引業者、金融商品取引仲介業者、外務員について説明する ・金融商品取引業を行うための登録制度について概観する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、金融商品取引業者に対する規制の目的とその内容について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第4章「Ⅱ 開業の規制と登録制度」、「Ⅳ 金融商品仲介業制度」、「Ⅴ 外務員への規制」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
14	【金融商品取引業者等に対する規制（２）】金融商品取引業者はどのような義務を負うか	・金融商品取引業者の誠実公正義務（適合性原則と最良執行義務）を取り上げる ・金融商品取引業規制にうち、とくに損失補填を巡る法的問題点と規制の在り方について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①の金融商品取引法の目的と関連して、金融商品取引業者が顧客に対して負う義務について理解し説明することができる	
	事前学修	・教科書 第4章「Ⅵ 金融商品取引業者の誠実公正義務」と第7章「Ⅳ 金融商品取引業者による不正取引 ②」を読んでおく ・事前資料等に目を通しておく ・質問を用意する	120分
	事後学修	・教科書の該当頁を再度確認し、事前資料等を整理しておく ・指示された事項があれば、期間内に行う ・疑問点が解消されたかを確認する	120分
15	授業内試験及び振り返り		・提示された問題について時間内に取り組む
	この回の到達目標	到達目標①②が達せられているかを課題に取り組み、理解度を各人が確認することができる	
	事前学修	・事前資料等に沿って教科書や各自の講義ノートを熟読しておく ・不正確な部分や理解が十分でない部分を抽出し、自学自習を行い、疑問を解消しておく	180分
	事後学修	・授業内試験を通じて不正確であった部分及び理解が十分でなかった部分について復習をしておく	120分

科目名	金融法 I	担当者	田中 貴一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本講座では、預貯金取扱金融機関（銀行）による預金取引、貸出取引及び為替取引を中心として、各種の金融取引に関する法令と法的問題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
金融取引に関する民事実体法上の位置付けを理解するため、主として預金取引等を題材にして、その法的性質や法的問題について修得する。

【履修条件】
民法総則、担保物権法、債権法（総論・各論）を履修済みであること

【授業方法】
基本的には講義形式で進行するが、民事実体法の基礎的な理解の確認と金融法の発展的な理解を促すために問答形式によることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で法的論点に関して問答法を用いて検討を行うなど、対話的主体的な深い学びにより理解度を高める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	金融法における各種取引の法的な位置付けを説明することができる。				3							
②	金融法に関する基礎的な理解を踏まえつつ、主要な論点に関する問題の所在を適切に把握した上で、解決の道筋について簡潔に示すことができる。				3		3					
③	金融法の論点について自ら考察し、自分の意見を述べることができる。						3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業時間内に実施する小テストにより、到達目標①②に係る知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや授業内試験の解説・講評については、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融法務入門	藤池智則＝高木いづみ著	経済法令研究会	2020	教科書	必携
金融法概説	神田秀樹＝森田宏樹＝神作裕之編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士として信託銀行に出向した上でその業務に従事する等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務において実際に生じ得る法律問題と解決方法の紹介

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び金融法の全体像		ガイダンスを行い、金融法の全体像について講義する。
	この回の到達目標	金融法の全体像に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。	120分
2	預金の法的性質と種類		預金の法的性質や預金の種類について講義する。
	この回の到達目標	預金の法的性質や種類に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
3	預金の受入れ		預金の受入れについて講義する。
	この回の到達目標	預金の受入れに関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
4	預金の払戻し		預金の払戻しについて講義する。
	この回の到達目標	預金の払戻しに関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
5	預金の相続		預金の相続について講義する。
	この回の到達目標	預金の相続に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
6	預金の差押え、消滅時効		預金の差押え、消滅時効について講義する。
	この回の到達目標	預金の差押え、消滅時効に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	当座勘定取引	当座勘定取引について講義する。	
	この回の到達目標	当座勘定取引に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
8	約束手形	約束手形について講義する。	
	この回の到達目標	約束手形に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
9	為替手形・小切手	為替手形・小切手について講義する。	
	この回の到達目標	為替手形・小切手に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
10	手形交換制度、電子記録債権	手形交換制度と電子記録債権について講義する。	
	この回の到達目標	手形交換制度、電子記録債権に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
11	貸出の種類	貸出の種類について講義する。	
	この回の到達目標	貸出の種類に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
12	金利規制等	金利規制等について講義する。	
	この回の到達目標	金利規制等に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	銀行取引約定書（前半）	銀行取引約定書（第5条まで）について講義する。	
	この回の到達目標	銀行取引約定書（第5条まで）に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
14	銀行取引約定書（後半）	銀行取引約定書（第6条以下）について講義する。	
	この回の到達目標	銀行取引約定書（第6条以下）に関して、到達目標①についてはその内容を説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
15	授業内試験及びまとめ	前期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。	
	この回の到達目標	前期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。	
	事前学修	教科書を読むほか、前期中に配布されたレジュメや講義の復習をして授業内試験に備える。	120分
	事後学修	試験の解答についてレジュメ等により確認する。	120分

科目名	金融法Ⅱ	担当者	田中 貴一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本講座では、預貯金取扱金融機関（銀行）による預金取引、貸出取引及び為替取引を中心として、各種の金融取引に関する法令と法的問題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
金融法Ⅱでは、前期の金融法Ⅰに引き続き、金融取引に関する民事実体法上の位置付けを理解するため、主に貸出取引、為替取引等を題材にして、その法的性質や法的問題について修得する。加えて、銀行の固有業務（預金、貸出、為替取引）から派生する決済手段であるクレジット取引や電子マネー取引のほか、信託に関する取組みについても修得する。

【履修条件】
金融法Ⅰを履修済みであること、民法総則、担保物権法、債権法（総論、各論）を履修済みであること）。

【授業方法】
基本的には講義形式で進行するが、民事実体法の基礎的な理解の確認と金融法の発展的な理解を促すために問答形式によることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員との間で法的論点に関して問答法を用いて検討を行うなど、対話的主体的な深い学びにより理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	金融法における各種取引の法的な位置付けを説明することができる。				3							
②	金融法に関する基礎的な理解を踏まえつつ、主要な論点に関する問題の所在を適切に把握した上で、解決の道筋について簡潔に示すことができる。				3		3					
③	金融法の論点について自ら考察し、自分の意見を述べることができる。						3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、授業内試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業時間内に実施する小テストにより、到達目標①②に係る知識が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストや授業内試験の解説・講評については、授業内に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融法務入門	藤池智則＝高木いづみ著	経済法令研究会	2020	教科書	必携
金融法概説	神田秀樹＝森田宏樹＝神作裕之編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士として信託銀行に出向した上でその業務に従事する等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務において実際に生じ得る法律問題と解決方法の紹介

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	貸出取引の相手方	貸出取引の相手方について講義する。	
	この回の到達目標	貸出取引の相手方に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
2	抵当権・根抵当権	抵当権・根抵当権について講義する。	
	この回の到達目標	抵当権・根抵当権に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
3	抵当権・根抵当権以外の担保	抵当権・根抵当権以外の担保について講義する。	
	この回の到達目標	抵当権・根抵当権以外の担保に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
4	保証	弁済・相殺	
	この回の到達目標	保証に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
5	弁済・相殺	弁済・相殺について講義する。	
	この回の到達目標	弁済・相殺に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
6	時効管理等	時効管理等について講義する。	
	この回の到達目標	時効管理等に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法的倒産手続	法的倒産手続について講義する。	
	この回の到達目標	法的倒産手続に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
8	為替取引	為替取引について講義する。	
	この回の到達目標	為替取引に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
9	守秘義務、マネーロンダリング規制等	守秘義務、マネーロンダリング規制等について講義する。	
	この回の到達目標	守秘義務、マネーロンダリング規制等に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
10	銀行の業務範囲規制	銀行の業務範囲規制について講義する。	
	この回の到達目標	銀行の業務範囲規制に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく。	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
11	クレジット取引	クレジット取引について講義する。	
	この回の到達目標	クレジット取引に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
12	電子マネー	電子マネーについて講義する。	
	この回の到達目標	電子マネーに関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	信託の概略		信託の概説について講義する。
	この回の到達目標	信託の概略に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
14	信託の活用事例		信託の活用事例について講義する。
	この回の到達目標	信託の活用事例に関して、到達目標①についてはその位置付けを説明でき、到達目標②についてはそれを簡潔に示し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	金融に関する新聞、雑誌の記事に目を通しておく	120分
	事後学修	講義に使用したレジュメ・資料を再読するとともに、関連する法令・判例を確認する。	120分
15	授業内試験及びまとめ		後期のまとめとして授業内試験と解説・講評を実施する。
	この回の到達目標	金融法Ⅱの全体を通じて、到達目標①②③の到達度を評価し、今後の学修に役立てる。	
	事前学修	教科書を読むほか、後期中に配布されたレジュメや講義の復習をする。	120分
	事後学修	試験の解答についてレジュメ等により確認する。	120分

科目名	グローバル・コミュニケーションⅠ	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
アメリカは、いくたびかの戦争、そして平時を通じて、どのようにメディアを駆使し、人々の心と精神を勝ち取ろうとしたのか。本授業では、アメリカのメディア戦略と実践を学びながら、メディアと外交の絡み合い、そして文化や科学技術の持つ政治性について考える。それは、一見すると国際政治や日米関係史を学ぶもののように思えるが、マス・コミュニケーション研究や広告研究などにも密接に繋がっており、本授業は、領域横断的な議論のうえに成り立っている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、昨今の国際政治・外交で大きな注目を浴びている広報文化外交やパブリック・ディプロマシーの可能性や限界、課題を考えるための知識の習得と新たな視点の提供を目的としている。到達目標は、次の三点におかれている。 1. 東アジア・アメリカを中心とする国際関係とメディアの関係性に対する理解 2. 広報文化外交や対外情報プログラム、パブリック・ディプロマシーに関する知識の獲得 3. メディアやコミュニケーション、広告研究への新たな視座の提供

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。

【授業方法】
原則として、毎回、受講生には論文あるいは学術書の1章分を読み、「同意できる点／できない点」と質問を記したペーパーの作成・提出が課題として課される。授業は、それへの教師からのフィードバックを中心に行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、課題の論文、あるいは著書1章分を読み、上記のペーパーを提出したうえで授業に参加し、講義内で課題の解説とペーパーへの応答を行うことで理解を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	広報文化外交やパブリック・ディプロマシーについて説明することができる。						3						
②	東アジアおよびアメリカの政治・社会・文化について説明することができる。							3					
③	メディアやコミュニケーション、広告研究への新たな視座を獲得することができる。								3				
④	国際政治とメディアの関係を読み解き、解釈することができる。									3			
⑤	社会構造の多様性や重層性について、構造的な観点から説明することができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する知識が身につく、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③④の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	2	2	2	2							8
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる知識が身につく、独創的な思考を展開できているのかを評価する。			12								12
討論・発表等												
授業への参画度	課題文を読んで作成するペーパーの提出について、読解の深さと、十分に練られたコメントの内容によって到達目標①②③④⑤に関わる知識と洞察力について評価する。	6	6	6	6	6						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	30	18	16						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で講評するほか、成績評価のための課題に関してはポータルシステムなどを活用し、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『対米依存の起源』	松田武	岩波書店	2015	参考書	任意
『アメリカ文化外交と日本』	藤田文子	東京大学出版会	2015	参考書	任意
『占領する眼・占領する声』	吉見俊哉ほか	東京大学出版会	2012	参考書	任意
『スマート・パワー』	ジョセフ・ナイ	日本経済新聞出版社	2011	参考書	任意
『文化冷戦と科学技術』	土屋由香	京都大学学術出版界	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則的には、水曜日の12時20分～13時。事前にメールで予約を取ってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション・導入講義		広報文化外交について学ぶことの意義について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、「アメリカ」について思想的に問うことの重要性を把握し、広報文化外交に関する研究の射程への考察を通じて、能動的に学修をすすめていくうえでの方法を体得できるようにする。		
	事前学修	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
2	広報文化外交とは何か		広報文化外交とは何か：外交における世論の重要性が、あらたな課題として浮上してきている現状を紹介し、広報外交研究の潮流と、その射程について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、広報文化外交の研究意義と課題について説明できるようになる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
3	広報文化外交と世論		世論調査データを読み解くことで、現在の国際政治環境について説明することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、外交と世論の関係を説明できるようになる。		
	事前学修	2回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
4	アメリカの「強さ」とは何か		ジョセフ・ナイの議論であるハード、ソフト、スマートパワーの概念について説明し、有用性と限界について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、ハード、ソフト、スマート・パワーについて説明し、それぞれが内包する問題点、課題について考察することができる。		
	事前学修	3回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
5	広報文化外交の理念		主として欧米での議論を中心に、その歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、広報文化外交の歴史的起源と、その政治・社会的背景について述べることができる。		
	事前学修	4回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
6	第二次世界大戦期の心理戦		広報文化外交の前史として、第二次世界大戦期に活発に行われた心理戦の実態と、それが、どのように広報文化外交へと装いを新たにしていくのか。そのプロセスと意味について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、心と精神を掴み取ろうとする心理戦が、どのように開始され、いかに展開されたのかについて述べることができる。		
	事前学修	5回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	広報文化外交に関する研究蓄積を踏 まえた時事解説および現状分析		広報文化外交に関する研究蓄積を踏まえた時事解説および現状分析：国際政治、外交に関する時 事的なトピックを取り上げ、それまでの授業で学んだことが、どのように実践できるかについて の具体的な例を示すことで、受講生の視野拡大と知識の定着を目指す。	
	この回の 到達目標	国際政治、外交に関する時事的なトピックを取り上げ、それまでの授業で学んだことが、どのように実践できるかについて の具体的な例を示すことで、受講生の視野拡大と知識の定着を目指す。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に勝つようし、日常的に国際報道に接しておくこ と。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
8	GHQ占領とアメリカの文化攻勢（1）		GHQ占領期に、アメリカが、敗戦国日本の国民から、心と精神を掴み取ろうとしたのか、その 戦略と実践について説明する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、GHQ占領による文化戦略と実践について、現代日本社会にもたらしている意味を踏まえなが ら、述べることができる。		
	事前学修	7回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
9	GHQ占領とアメリカの文化攻勢		心と精神を掴み取るために、どのようにメディアが利用されたのかを説明したうえで、「文化」 の持つ力と政治性について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、GHQは、どのように「文化」を活用し、占領政策を推進したのか、その効果と限界について述 べることができる。		
	事前学修	8回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）		120分
10	GHQ占領期におけるメディア検閲（1）		アメリカが行ったメディア検閲の実態について説明する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、検閲に関する説明と、それがもたらす政治的、意味について説明することができる。		
	事前学修	9回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
11	GHQ占領期におけるメディア検閲（2）		民主主義を促進するために行われた「非民主主義」的な方法という観点から、検閲と並行して行 われたメディアへの指導について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、言論の自由と民主主義に関する歴史的なアプローチからの説明を行うことができる。		
	事前学修	10回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
12	アメリカの対外情報プログラムと 「メディア」としての科学技術①		科学技術と文化冷戦の関係について説明し、広報外交・情報政策などの概念整理を行う。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、広報文化外交の拡張された議論を理解し、文化だけでなく、科学技術も、パブリック・ディ プロマシーの手段として活用されていたこと、そして、その意味について述べることができる。		
	事前学修	11回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。		180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アメリカの対外情報プログラムと「メディア」としての科学技術②	「アトムズ・フォー・ピース」から「サイエンス・フォー・ピース」への展開を説明し、科学技術が、アメリカの対外情報プログラムにおいて、積極的に活用されていく様相を講述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、対外情報プログラムにおける科学技術の利用について、その背景や意図も含めて説明することができる。	
	事前学修	12回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	アメリカの対外情報プログラムと「メディア」としての科学技術③	宇宙開発が、アメリカの対外情報プログラム、あるいはパブリック・ディプロマシーの重要な手段としてされていく様相を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、宇宙開発の意味について、対外情報プログラムの観点から説明することができる。	
	事前学修	13回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	まとめ	広報文化外交の可能性と今後の課題について説明する。	
	この回の到達目標	授業の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと。（2時間）	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、必要な経営学に関する基礎的知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを、リアクションペーパーに基づいて評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『経営戦略をつかむ』	浅羽茂/牛島辰男	有斐閣	2010	教科書	必携
『戦略の経済学』	デイビット・ベサンコ/マーク・リャンリー/デイビッド・ドラノブ	ダイヤモンド社	2002	参考書	任意
『戦略経営論』	ガース・サローナー/アンドレア・シェパード/ジョエル・ポドルニー	東洋経済新報社	2002	参考書	任意
『組織の経済学』	ポール・ミルグロム/ジョン・ロバーツ	NTT出版	1997	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	経営学とはどのような学問かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：経営学とはどのような学問かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、経営学の対象を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、経営学とはどのような学問かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
2	経営戦略とは何か	経営戦略とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：経営戦略とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、経営戦略の定義を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、経営戦略とは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
3	企業の目標	株主やその他の様々な利害関係者の存在と、企業の目標の関係を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：株主やその他の様々な利害関係者の存在と、企業の目標の関係を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、企業の目標とは何かを検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、株主やその他の様々な利害関係者の存在と、企業の目標の関係を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
4	競争と利益	競争と利益の関係を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：競争と利益の関係を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、完全競争市場と独占市場について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、競争と利益の関係を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
5	需要曲線	需要曲線（顧客の支払い意思）とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：需要曲線（顧客の支払い意思）を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、需要曲線（顧客の支払い意思）について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、需要曲線（顧客の支払い意思）を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
6	平均費用	平均費用とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：平均費用を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、平均費用について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、平均費用を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	経営戦略の成り立ち	経営戦略はどのようなもので成り立っているかを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：経営戦略はどのようなもので成り立っているかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、経営戦略に必要な要素は何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、経営戦略はどのようなもので成り立っているかを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
8	事業戦略の考え方	事業戦略の基本的な考え方を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：事業戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、事業戦略の基本的な考え方を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事業戦略の基本的な考え方を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
9	外部要因の分析	企業を取り巻く外部要因を分析するための視点について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：企業を取り巻く外部要因を分析するための視点を理解し、応用できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、業界構造分析とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業を取り巻く外部要因を分析するための視点について復習し、応用できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
10	内部要因の分析	企業の内部要因を分析するための視点について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：企業の内部要因を分析するための視点を理解し、応用できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、バリューチェーン分析とリソース・ベースト・ビューについて確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業の内部要因を分析するための視点について復習し、応用できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
11	競争優位と基本戦略	競争優位の基本的な型について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：競争優位の基本的な型を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、競争優位の基本的な型であるコスト優位と差別化優位が何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、競争優位の基本的な型について復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
12	コスト優位	コストに影響を与える要因は何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：コストに影響を与える要因は何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、コストに影響を与える要因は何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コストに影響を与える要因は何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	差別化優位		差別化に影響を与える要因は何かを学修する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：差別化に影響を与える要因は何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、影響を与える要因は何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、差別化に影響を与える要因は何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
14	総括		いままでの授業で扱った内容を体系立てて整理する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④関連：いままでの授業で扱った内容を体系立てて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書、講義ノートを見返して、今まで扱った内容を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、授業で扱った内容を体系立てて説明できるようにする。すべての講義資料について、復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
15	授業内試験とその解説		理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：到達目標①②③④の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
	事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
	事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	大久保 いづみ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
「経営学Ⅱ」の履修。

【授業方法】
授業は、パワーポイントを使用した講義形式で行う。画像・映像なども利用し、対象企業や対象製品等について体感的に理解が進むようにする。受講者数に応じて、グループワーク・発表やディスカッションを取り入れることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー、調査学修、グループワーク・発表、ディスカッション等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	経営学に関する知識の習得、理解度について、小テスト等により評価する。	10	10	10								30
レポート等	経営学に関する知識の習得、理解度について、レポート・課題等により評価する。	10	10	10	25							55
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	毎回、授業後に、リアクションペーパーを提出してもらう(感想、質問、簡単な設問等)。学生の理解度、学習の進捗状況を把握し、次回以降の授業に反映する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーにおける代表的な質問について、次回の授業で回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。参考図書について、授業で紹介する。				

【オフィスアワー】
初回の授業でアナウンスする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題・試験等について、説明する。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の到達目標	経営学の概要について、理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について把握する。	120分
	事後学修	配布資料を読み、講義内容について復習する。	120分
2	基本戦略1	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について、学習する。	
	この回の到達目標	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について、理解し説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
3	基本戦略2	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について、事例に則して理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
4	アクティブラーニング	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略に関して、調査学習を行う。	
	この回の到達目標	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略に関して、事例を調査しまとめる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	課題を提出する。	120分
5	STP	STPについて、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	STPについて、事例に則して理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
6	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスについて、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	マーケティング・ミックスについて、事例に則して理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小テスト	1回～6回の講義内容に関して、小テストを行う。	
	この回の到達目標	1回～6回の講義内容について、学習する。	
	事前学修	1回～6回の配布資料を読み、小テストの準備をする。	120分
	事後学修	小テストの内容について、復習する。	120分
8	マーケティング戦略	マーケティング戦略について、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	マーケティング戦略について、事例に則して理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
9	マーケティング戦略	マーケティング戦略について、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	マーケティング戦略について、事例に則して理解し説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
10	業界の構造分析	業界の構造分析について、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	業界の構造分析について、事例に則して理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
11	アクティブラーニング	マーケティング戦略、業界の構造分析に関して、調査学習を行う。	
	この回の到達目標	マーケティング戦略、業界の構造分析に関して、事例を調査しまとめる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	課題を提出する。	120分
12	事業とドメインの定義	事業とドメインの定義について、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	事業とドメインの定義について、事例に則して理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	多角化とPPM	多角化とPPMについて、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	多角化とPPMについて、事例に則して理解し説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
14	レポート作成準備	「経営学Ⅰ」の内容に関して、レポート作成の準備を行う。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅰ」の内容に関して、事例を考察する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	レポート作成の準備を行う。	120分
15	レポート作成	「経営学Ⅰ」の内容に関して、レポートを作成する。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅰ」の内容に関して、事例を考察する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	レポートを提出する。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と事例を用いたケースメソッドにより進める。 試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて、自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する（ポータルシステムでも配信を行う）。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『実践に学ぶ経営学』【改訂版】	風間、松田編	文真堂	2021	教科書	任意
備考	上記教科書は、2021年3月末出版予定のため、購入する場合は4月以降を推奨します。				

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	現代社会と経営学：経営学とは何か	経営学とはいかなる学問なのか、現代社会においてこれを学ぶことの意義を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学とはどのような学問なのかを理解すること。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	企業と社会	社会における企業の位置づけ・役割について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の役割や存在意義について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業と社会との関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	企業の種類	企業の種類についての分類方法とそれぞれの特質について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の種類や分類方法について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業の種類について、それぞれの特質を説明できるようにまとめる。	120分
5	企業理念と企業文化	企業理念と企業文化とはどのようなものなのか、その意義を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業理念と企業文化の意義について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、その企業がどのような企業理念・企業文化をもっているのかをまとめる。	120分
6	企業文化の浸透とその逆機能	企業文化が組織内に浸透することでどのような有効性を発揮するのか、またどのような危険性があるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業文化の意義と危険性について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業文化の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	企業の社会的責任Ⅰ：環境問題と社会的課題	企業を取り巻く環境問題や社会的課題にはどのようなものがあるか、それに企業はどのように対応していくことが求められているのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の社会的責任の概念について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業の社会的課題とはいかなるものなのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
8	企業の社会的責任Ⅱ：事業活動と社会貢献活動	企業が事業活動と社会貢献活動を両立していくためには、どのような課題があるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業の社会的責任の意義と課題について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ事業活動と社会貢献活動を両立しなければならないのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
9	ケースメソッドⅠ：企業の社会的責任	企業はどのようにして社会的責任を果たしているのか調べ、それが社会にどのような影響を与えているのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、企業の社会的責任に関するさまざまな企業の取り組みについて、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、どのような社会貢献活動を行っているのか調べておく。	120分
	事後学修	企業の社会的責任の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分
10	企業戦略論Ⅰ：戦略の必要性	企業の活動において戦略はどのような意義があるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の活動における戦略の必要性を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ、どのようにして戦略を企てるのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
11	企業戦略論Ⅱ：経済性と社会性の調和	企業が戦略を企てる上で、利益(経済性)と社会貢献(社会性)のバランスをどのようにしてとっているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性について、自分なりの考えをまとめる。	120分
12	ケースメソッドⅡ：企業分析	授業内で説明した企業分析の手法を用いて、興味ある企業の分析を行い発表する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、企業分析を行い、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	配布資料をよく読み、企業分析の手法について理解しておく。	120分
	事後学修	企業戦略の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マーケティング論Ⅰ：市場と顧客	市場と顧客の関係から、企業がどのようにして顧客を見つけ出すのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、マーケティングの必要性を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、マーケティングはどのようにして計画されるのかについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
14	マーケティング論Ⅱ：製品戦略と製品ライフサイクル	企業は顧客にどのようにして価値を形成し、それを伝達するのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、製品戦略と製品ライフサイクルについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、これからのマーケティングに求められるものについて、自分なりの考えをまとめる。	120分
15	前期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に講義内容を復習する。	120分

科目名	経営学Ⅰ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートに多大な時間を要するため、その心構えが十分にできていること。経営学を将来の仕事に結び付けようと考えていること。

【授業方法】

オンデマンド方式。授業動画の配信（YouTube）とそれに基づき、授業内課題（「問題〇〇」）への回答をGoogle Classroom（クラスコード：t5swdxr）に提出。授業内課題・中間レポートは授業時間内に回答例や講評を提示。期末レポートは要求に応じてメールで評価をフィードバック。授業動画で使用するスライド、ケース、教科書等の全資料は、PDFファイルとしてGoogle Classroomよりダウンロード可。授業を十分にフォローしていくために、事前学修・事後学修時間（後掲）を記載量あるいはそれ以上要する。特に、授業の効果を得るために、十分な事前学修が欠かせないしくみになっている。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているか、また、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを、レポート課題等により評価する。	15	15	15	5							50
討論・発表等												
授業への参画度	授業動画のコンテンツに基づき、自身の思考により授業内課題（問題）に取り組み回答する。各受講生独自の思考結果だけが評価対象となり、ネットからのコピー・ペーストや他の受講生の回答の引き写しは評価対象にならない。ネット検索はあくまでも思考過程を支援する補助的手段にすぎない	10	10	10	20							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題・中間レポートは授業時間内に回答例の提示や講評を実施。期末レポートは希望者に対してメールにより評価をフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版社	2013年	教科書	必携
ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之西野和美	日本経済新聞出版社	2012年	教科書	必携
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、あるいは、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング） 経営コンサルティング業務や企業での経営管理業務に基づき、経営理論の説明に終わらず、理論の経営現場への適用面にも留意した学修を目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション、及び導入講義	シラバスに基づく前期授業全体の内容について説明。	
	この回の到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、経営学と経営の違いについて、理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	教科書「経営学入門（上）」の全体に目を通し、「経営」と「経営学」の違いについて考察する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を確認し、プレゼンテーション課題のテーマ選定とプレゼンテーション日程について検討。	60分
2	ミクロ組織論	ミクロ組織論。組織行動論（個人～20名未満のグループの行動）に関しての理論について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。	
	この回の到達目標	組織行動に関する主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	『経営学入門（上）』13～48頁、49～96頁に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容について復習し、ミクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる。	60分
3	マクロ組織論	20名以上の構成員からなる組織に関する理論（「組織論」）について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。	
	この回の到達目標	組織論の主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	『経営学入門（上）』97～140頁に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容について復習し、マクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる。	60分
4	社会的ネットワーク論と柔構造組織	SNSの普及とともに社会において重要性が増している社会的ネットワーク論の主要理論について学修する。また、社会的ネットワーク論に関連して組織の「柔構造」についても環境との関係より学修する。	
	この回の到達目標	社会的ネットワーク論のうち組織に関する理論を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年149～185頁、若林広二「柔構造の理論」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 13、2020年を熟読し、社会的ネットワーク論の主要理論について理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容について復習し、社会的ネットワーク論の主要理論の提唱者とその概要、柔構造組織の概要について理解し説明できるようになる。	60分
5	業務プロセスと人事制度	企業内で従業員が日々実施している業務を分類し、各業務の内容について学修する。また、ミクロ組織論の適用としての人事制度の実際について学修する。	
	この回の到達目標	主要業務プロセスと人事制度を理解し、説明できるようになること（関連目標④）。	
	事前学修	ポーター、M. E.（土岐岬他訳）『競争優位の戦略』ダイヤモンド社1985年45～77頁を熟読し、業務プロセス（バリューチェーン）の概念について理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容について復習し、業務プロセスと人事制度の不要な構成要素について説明できるようになること。	60分
6	事業定義1（概念）	経営戦略の中核をなす事業定義（事業ドメイン）の背景、概念、重要性について、分析的アプローチとの対比等も踏まえて学修。	
	この回の到達目標	事業ドメインを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	『経営学入門（上）』141～152ページ、188～213ページに目を通し、経営戦略の定義と事業ドメインについて理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義に概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事業定義2（方法）	事業定義から事業展開シナリオへの落とし込み方、組織構造への展開方法等について学修。	
	この回の到達目標	事業ドメインの再構築方法を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年101～115ページに目を通す。教科書『ケースブック 経営戦略の論理』16～36ページ（AKB48）に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、事業定義の方法について説明できるようになる。	60分
8	SWOT	自社の強み、弱み、環境の中の機会、脅威を分析・統合し、企業戦略や事業戦略を導き出すという戦略構築上最も基礎的な方法について学修する。	
	この回の到達目標	SWOTのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』282～301ページ（アップル）に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、SWOTの概念について説明できるようになる。	60分
9	製品・市場戦略とマーケティング	製品・市場分析より特定事業の事業戦略を導き出すツールであり、マーケティングとの関連について学修。新規事業戦略についても触れる	
	この回の到達目標	製品・市場戦略の概念と適用手順を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年47～57ページに目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、製品・市場戦略の概念について説明できるようになる。	60分
10	5フォースと競争戦略	ポーターの競争要因分析ツール：5フォースによる業界構造分析の方法について学修する。	
	この回の到達目標	5フォースの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『経営学入門（上）』169～180ページに目を通し、教科書『ケースブック 経営戦略の論理』102～46ページ（サムスン電子）に関して授業内課題に回答する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、5フォースを特定業界に適用できるようになる。	60分
11	P P M	企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。	
	この回の到達目標	PPMのフレームワークを理解し、説明できるようになる（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『経営学入門（上）』152～169ページに目を通す。企業のケースに目を通す。前期中間レポートの作成。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、P P Mの概念について説明できるようになる。	60分
12	コア・コンピタンス	企業戦略、事業戦略の前提となるコア・コンピタンスの理論的背景、概念、使い方等について学修。	
	この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	プラハラード, C.K. & ハメル, G.「コア・コンピタンス経営」に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、コア・コンピタンスの概念について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦略プロファイリング	特定企業に関する情報の分析に基づいて企業の戦略の全体像について推論を行う戦略プロファイリングの概念について学修する。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標④）。	
	事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、戦略プロファイリングについて説明できるようになる。	60分
14	バランス・スコアカード	経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。	
	この回の到達目標	バランス・スコアカードのフレームワークを理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181ページに目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの概念について説明できるようになる。	60分
15	全体のまとめ	組織と戦略に関する主要理論とその適用範囲、今後の生かし方等について学修。	
	この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
	事前学修	期末レポートの作成。	200分
	事後学修	授業全体のコンテンツについて復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	池田 直史	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
経営学Ⅰの履修を前提とする。

【授業方法】
主に講義によって授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・授業中に随時質問を投げかけ、それに答えてもらいながら授業を進める。 ・授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。 (ただし、リアクションペーパーの実施方針については、受講者の人数によって変更する可能性がある)	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、必要な経営学に関する基礎的知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを、リアクションペーパーに基づいて評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーについては、翌週の授業の冒頭で代表的な質問について回答を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『経営戦略をつかむ』	浅羽茂/牛島辰男	有斐閣	2010	教科書	必携
『戦略の経済学』	デイビット・ベサンコ/マーク・リャンリー/デイビッド・ドラノブ	ダイヤモンド社	2002	参考書	任意
『戦略経営論』	ガース・サローナー/アンドレア・シェパード/ジョエル・ポドルニー	東洋経済新報社	2002	参考書	任意
『組織の経済学』	ポール・ミルグロム/ジョン・ロバーツ	NTT出版	1997	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	前期の復習と後期に扱う内容の関連付けを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連：前期の内容と後期に扱う内容を関係づける。	
	事前学修	シラバスを改めて確認するとともに、教科書や参考書を読んで、前期に扱った内容とこれから学ぶ内容について整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、前期の内容と後期に扱う内容について復習し、関係づけられるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
2	企業戦略の考え方	企業戦略の基本的な考え方を学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：企業戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、企業戦略の基本的な考え方を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業戦略の基本的な考え方を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
3	垂直統合とは	垂直統合とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：垂直統合とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、垂直統合とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合とは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
4	垂直統合と生産費用	垂直統合と生産費用の関係について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：垂直統合と生産費用の関係について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、生産費用とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合と生産費用の関係について復習し、説明できる。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
5	垂直統合と取引費用	垂直統合と取引費用の関係について学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：垂直統合と取引費用の関係について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、取引費用とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合と取引費用の関係について復習し、説明できる。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
6	垂直統合と市場取引	垂直統合と市場取引の関係と、企業の範囲がどのように決まるのかを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：垂直統合と市場取引の関係と、企業の範囲がどのように決まるのかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、垂直統合と市場取引の関係を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、垂直統合と市場取引の関係と、企業の範囲がどのように決まるのかを復習し、説明できる。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	多角化とは		多角化とは何かを学修する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：多角化とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、多角化とは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
8	多角化の誘因		企業の多角化の誘因を学修する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：企業の多角化の誘因を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、企業の多角の誘因を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業の多角化の誘因を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
9	多角化のマネジメント		多角化のマネジメントについて学修する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：多角化のマネジメントについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化のマネジメント手法を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、多角化のマネジメントについて復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
10	多角化と内部資本市場		内部資本市場とその存在のメリットとは何かを学修する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：内部資本市場とその存在のメリットとは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、内部資本市場とその存在のメリットを検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、内部資本市場とその存在のメリットとは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
11	多角化ディスカウント：内部資本市場の機能不全		内部資本市場が機能不全を起こした場合に、多角化ディスカウントが生じる可能性があることを学修する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：内部資本市場が機能不全を起こした場合に、多角化ディスカウントが生じうる理由を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、多角化のメリットとデメリットを整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、多角化のメリットとデメリットを押さえた上で、コングロマリット・ディスカウントとは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
12	多角化ディスカウント：エージェンシー問題		エージェンシー問題が存在する場合に、多角化ディスカウントが生じる可能性があることを学修する。
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：エージェンシー問題が存在する場合に、多角化ディスカウントが生じうる理由を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、エージェンシー問題と多角化ディスカウントの関係を検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、エージェンシー問題が存在する場合に、多角化ディスカウントが生じうる理由を復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	M&A	M&A（企業の合併・買収）とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④と関連：M&A（企業の合併・買収）とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書や参考書を読んで、M&A（企業の合併・買収）とは何かを確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、M&A（企業の合併・買収）とは何かを復習し、説明できるようにする。講義資料にある復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
14	総括	経営学Ⅰの内容を含め、いままでの授業で扱った内容を体系立てて整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④関連：授業で扱った内容を体系立てて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書や参考書、講義ノートを見返して、今まで扱った内容を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、授業で扱った内容を体系立てて説明できるようにする。すべての講義資料について、復習クイズに何も見ずに答えられるようにする。	120分
15	授業内試験とその解説	理解度を計測する授業内試験を行い、その後に試験の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連：到達目標①②③④の達成度合いを計測し、達成されていない部分を認識する。そして、その部分について理解し、説明できる。	
	事前学修	講義ノートを確認して、試験の準備をする。	180分
	事後学修	理解が足りなかった部分について復習し、その部分について完全に理解し、説明できるようにする。	60分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	大久保 いづみ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
「経営学Ⅰ」の履修。

【授業方法】
授業は、パワーポイントを使用した講義形式で行う。画像・映像なども利用し、対象企業や対象製品等について体感的に理解が進むようにする。受講者数に応じて、グループワーク・発表やディスカッションを取り入れることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レスポンスペーパー、調査学修、グループワーク・発表、ディスカッション等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	経営学に関する知識の習得、理解度について、小テスト等により評価する。	10	10	10								30
レポート等	経営学に関する知識の習得、理解度について、レポート・課題等により評価する。	10	10	10	25							55
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	毎回、授業後に、リアクションペーパーを提出してもらう(感想、質問、簡単な設問等)。学生の理解度、学習の進捗状況を把握し、次回以降の授業に反映する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レスポンスペーパーにおける代表的な質問について、次回の授業で回答します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。参考図書について、授業で紹介する。				

【オフィスアワー】
初回の授業でアナウンスする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題・試験等について、説明する。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の到達目標	経営学の概要について、理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について把握する。	120分
	事後学修	配布資料を読み、講義内容について復習する。	120分
2	科学的管理法、フォーディズム	科学的管理法、フォーディズムについて、学習する。	
	この回の到達目標	科学的管理法、フォーディズムについて、理解し説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
3	人間関係論、モチベーション論	人間関係論、モチベーション論について、学習する。	
	この回の到達目標	人間関係論、モチベーション論について、理解し説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
4	アクティブラーニング	科学的管理法、フォーディズム、人間関係論、モチベーション論等に関して、調査学習を行う。	
	この回の到達目標	科学的管理法、フォーディズム、人間関係論、モチベーション論等に関して、調査しまとめる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	課題を提出する。	120分
5	組織構造1	組織構造について、学習する。	
	この回の到達目標	組織構造について、理解し説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
6	組織構造2	組織構造について、事例に則して学習する。	
	この回の到達目標	組織構造について、事例に則して理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小テスト	1回～6回の講義内容について、小テストを行う。	
	この回の到達目標	1回～6回の講義内容について、学習する。	
	事前学修	1回～6回の配布資料を読み、小テストの準備をする。	120分
	事後学修	小テストの内容について、復習する。	120分
8	ケースに学ぶ日本の企業	日本の企業について、ケースで学習する。	
	この回の到達目標	日本の企業・産業について、ケースで学習する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
9	ケースに学ぶ日本の企業	日本の企業について、ケースで学習する。	
	この回の到達目標	日本の企業・産業について、ケースで学習する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
10	ケースに学ぶ日本の企業	日本の企業について、ケースで学習する。	
	この回の到達目標	日本の企業・企業家について、ケースで学習する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
11	アクティブラーニング	「経営学Ⅱ」の内容に関して、調査学習を行う。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅱ」の内容に関して、調査しまとめる。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	課題を提出する。	120分
12	ケースに学ぶ日本の企業	日本の企業について、ケースで学習する。	
	この回の到達目標	日本の企業・企業家について、ケースで学習する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ケースに学ぶ日本の企業	日本の企業について、ケースで学習する。	
	この回の到達目標	日本の企業・企業家について、ケースで学習する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	リアクションペーパーを提出する。配布資料を読み、授業内容について復習する。	120分
14	レポート課題作成準備	「経営学Ⅱ」の内容に関して、レポート作成の準備を行う。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅱ」の内容に関して、考察する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	レポート作成の準備を行う。	120分
15	レポート課題作成	「経営学Ⅱ」の内容に関して、レポートを作成する。	
	この回の到達目標	「経営学Ⅱ」の内容に関して、考察する。	
	事前学修	配布資料を読む。	120分
	事後学修	レポートを提出する。	120分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
経営学Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と事例を用いたケースメソッドにより進める。 試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、企業の仕組みや社会における課題について、経営学の視点から考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。					2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。					2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。						2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	25	20	25								70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて、自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。		5		25							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する（ポータルシステムでも配信を行う）。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『実践に学ぶ経営学』【改訂版】	風間、松田編	文真堂	2021	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営学の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	企業の組織構造	企業はどのような組織構造によって構成されているのか、また組織構造にはどのような種類があるのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の組織構造について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	雇用と人事	企業には、ワーク・ライフ・バランスを推進する上でなにが求められているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、働くことの意味について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、仕事と生活を両立するためにはなにが重要なのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	合併・買収(M&A)の効果と目的	企業はなぜ合併・買収(M&A)を推し進めるのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合併・買収(M&A)について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、買収・合併(M&A)の効果と課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	企業とイノベーション	企業はなぜイノベーションを必要とするのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、イノベーションの効果と課題について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、イノベーションとはなにかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	生産管理論Ⅰ：モノづくりの基本	企業はどのようにしてモノづくりを行っているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、モノづくりの基礎について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの基礎とこれまでどのように発展してきたのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	生産管理論Ⅱ：モノづくりの高度化	グローバル化や技術革新の進展が、モノづくりにどのような影響を与えているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、グローバル化や技術革新がモノづくりに与える影響について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの高度化によって私たちの生活がどのように変化しているのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	ケースメソッドⅠ：イノベーションと生産管理論	技術革新、とりわけAI技術の進展によって、私たちの生活はどのように変化するのか、その効果と課題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、技術革新が私たちの生活に与える影響について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	私たちが日々の生活で使用している製品が、技術革新によってこれまでどのように変化してきたのかを調べる。	120分
	事後学修	イノベーションとモノづくりの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	人的資源管理Ⅰ：リーダーシップ論	企業の経営者はどのようにして人的資源(人材)を有効活用しているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、人的資源の有効な活用方法について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営者の役割と責任について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	人的資源管理論Ⅱ：グローバル化とダイバーシティ	グローバル化の進展が、企業を構成するメンバー(従業員)にどのような変化をもたらしているのか、そのことによってどのような課題が生じているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、人的資源を活用する上での課題を理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ダイバーシティとはなにか、なぜそれが必要なのかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	ケースメソッドⅡ：人的資源管理	さまざまな環境の変化によって、私たちの働き方がどのように変化していくのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、働き方の多様化について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	昨今の社会状況の変化によって、働き方がどのように変化してきているのかを調べる。	120分
	事後学修	働き方の多様化が、社会にどのような影響を与えるのか、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	国際経営Ⅰ：国際経営の組織モデル	企業は海外でどのように経営しているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業が海外進出をする意義について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、国際経営独自の課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経営Ⅱ：グローバル化と経営の現地化	国際経営において、経営の現地化がなぜ必要なのか、その課題とはなにかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、国際経営の課題について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、経営の現地化の必要性和課題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	SDGs(持続可能な開発目標)と企業価値の向上	社会の健全な発展と企業価値の向上を目指して、求められる企業像とはなにかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と②に関連して、SDGs(持続可能な開発目標)を達成するために求められる企業の役割について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、現代社会における企業の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	後期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経営学に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に講義内容を復習する。	120分

科目名	経営学Ⅱ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との協働が重要である。本講義では、企業と社会との関係を念頭に、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。

【履修条件】
事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートに多大な時間を要するため、その心構えが十分にできていること。経営学を将来の仕事に結び付けようと考えていること。

【授業方法】
オンデマンド方式。授業動画の配信（YouTube）とそれに基づき、授業内課題（「問題〇〇」）への回答をGoogle Classroom（クラスコード：jxd7r6e）に提出。授業内課題・中間レポートは授業時間内に回答例や講評を提示。期末レポートは要求に応じてメールで評価をフィードバック。授業動画で使用するスライド、ケース、教科書等の全資料は、PDFファイルとしてGoogle Classroomよりダウンロード可。授業を十分にフォローしていくために、事前学修・事後学修時間（後掲）を記載量あるいはそれ以上要する。特に、授業の効果を得るために、十分な事前学修が欠かせないしくみになっている。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営学を学ぶことの意義を理解し、その必要性を説明することができる。				2	2						
②	社会における企業の役割や存在意義について説明することができる。				2		2					
③	先進国における経営学の理論的展開を理解し、説明することができる。					2	2					
④	経営学に関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての経営学に関する基礎的な知識が身についているか、また、到達目標②④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを、レポート課題等により評価する。	10	15	15	5							45
討論・発表等												
授業への参画度	授業動画のコンテンツに基づき、自身の思考により授業内課題（問題）に取り組み回答する。各受講生独自の思考結果だけが評価対象となり、ネットからのコピー・ペーストや他の受講生の回答の引き写しは評価対象にならない。ネット検索はあくまでも思考過程を支援する補助的手段にすぎない。	15	10	10	20							55
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題・中間レポートは授業時間内に回答例の提示や講評を実施。期末レポートは希望者に対してメールにより評価をフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンサルティングの基本	神川貴実彦	日本実業出版社	2008	参考書	推奨
コンサルティングの基本 ベストプラクティス集	神川貴実彦	日本実業出版社	2013	参考書	推奨
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、あるいは、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング） 経営コンサルティング業務の知見に基づき、経営理論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション、及び導入講義	シラバスに基づく後期授業全体の内容について説明。	
	この回の到達目標	授業全体の内容と主旨について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	経営学Ⅰで学修した理論について、コンサルタントとして経営現場に適用することを想定しながら復習する。	120分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する。	120分
2	コンサルティング業界と組織	世界と日本のコンサルティング市場（規模、分野別構成比と各分野の成長性、主要企業別収益ランキング）とコンサルティング企業の組織構造や人事評価制度について学修する。	
	この回の到達目標	コンサルティング業界とコンサルティング企業の組織体制・人事制度について理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、39～58ページに目を通し、コンサルティング業界の全体像を理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する。	60分
3	コンサルティング業務	コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。	
	この回の到達目標	コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。	
	事前学修	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、13～36ページに目を通し、コンサルティング業務の手順と内容を理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、コンサルティング業務の手順について説明できるようになる。	60分
4	事業ドメインコンサルティング1（概要）	企業において実際に事業定義（ドメイン）を設定する手順を各種分析ツールを用いながら学修する。	
	この回の到達目標	事業ドメイン再構築の手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	経営学Ⅰ資料より、（6）事業ドメインの概念、（7）事業定義の方法を復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年3～12ページを熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の復習し、事業ドメインコンサルティングの手順について説明できるようになる。	60分
5	事業ドメインコンサルティング2（演習1）	第4回で作成したCFT分析表に基づいて、将来の事業ドメイン（案）を設定する。	
	この回の到達目標	CFT分析の記入方法について理解し、自身で作成できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	良品計画のホームページ（www.muji.com/jp）より、現在の主要製品群（事業）を10～20抽出し、それぞれについてCFT分析をする（指定様式使用）。	180分
	事後学修	各人が作成したCFT分析表を、授業の内容を受けて修正する。	60分
6	事業ドメインコンサルティング3（演習2）	各人が作成した事業ドメインマップに基づいて、全社の将来事業を定義する。	
	この回の到達目標	将来事業ドメインの再構築方法について理解し、自身である程度事業ドメインを構築できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	良品計画について、CFT分析の結果に基づいて、現在から将来の事業ドメインマップを作成する（指定様式使用）。	180分
	事後学修	事業ドメインマップに基づいて、全社事業定義を設定する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	収益コンサルティング	損得学の主要理論について、演習課題により修得する。	
	この回の到達目標	損得学の主要理論を理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	森田正雄「経営者のための損得学入門」海難タイムズVol. 379・382・385・388・391・395、2012年を熟読し、意思決定の論理を理解する。	120分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、損得学の同様の問題に対して正答できるようになる。	120分
8	事業戦略コンサルティング	状況に応じて、製品・紫綬戦略、新規事業戦略、ブルー・オーシャン戦略の3つがあるが、各ツールの手順について学修する。	
	この回の到達目標	事業戦略策定方法を複数修得し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理（全面改訂版）』日本経済新聞出版社2012年257～77ページ（アサヒビール）に目を通す。	180分
	事後学修	配布資料の復習により、各種事業コンサルティング手法を状況によって使い分けることができるようになる。	60分
9	人事・組織コンサルティング	企業に人事制度を導入する際の手順、また組織構造を変える際の考え方について学修する。	
	この回の到達目標	人事・組織のコンサルティング手順を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	経営学Ⅰ資料より、（3）マクロ組織論、（5）業務プロセスと人事制度 について復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年81～95ページを熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、人事制度の改定・組織改編の手順を説明できるようになる。	60分
10	ファイナンスと将来設計	大学での学修を将来への自己投資ととらえ、投資を中心としたファイナンスの基礎理論について学修する。	
	この回の到達目標	ファイナンスの重要性を理解し、キャリアプランとの関係で説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	中間レポート（実在企業に対するコンサルティングプロジェクトの企画提案書）の作成。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、ファイナンス理論の基礎を説明できるようになる。	60分
11	中間レポートレビュー	各人作成・提出の企画提案書（PPT）について講評する。	
	この回の到達目標	中間レポートを完成させるとともに、期末レポートに向けての課題を確認する（関連目標④）。	
	事前学修	前回作成した中間レポートのレビュー（特にコンサルティングのテーマ）。	120分
	事後学修	各企画提案書に対する講評を振り返り修正し、修正版を再提出する。	120分
12	バランス・スコアカードコンサルティング1（概要）	前期扱ったバランス・スコアカードを実際に企業に導入する際の手順について学修。	
	この回の到達目標	バランス・スコアカードの導入手順を理解し、説明できるようになること（関連目標①④）。	
	事前学修	経営学Ⅰ資料より、（14）バランス・スコアカード（経営学Ⅰ履修者）や若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181ページ（経営学Ⅰ未履修者）について復習する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの導入手順を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	バランス・スコアカードコンサルティング2（戦略プロファイリング）	経営学Ⅰの戦略プロファイリングの手順をレビューし、同ツールへの理解を深める。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順を完全に修得する（関連目標①④）。	
	事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年をレビューする。	100分
	事後学修	指定企業の戦略プロファイリング（全体の一部）を実施・提出。	140分
14	ブルー・オーシャン戦略	ブルー・オーシャン戦略の理論について理解する。	
	この回の到達目標	ブルー・オーシャン戦略の概念について、理解し説明できるようになること（関連目標②③）。	
	事前学修	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』ダイヤモンド社2014年、33～58頁（「ブルー・オーシャン戦略」）に目を通す。	180分
	事後学修	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』102～46ページ（サムスン電子）の情報に基づいて、サムスン電子の戦略キャンパスを作成・提出。	60分
15	全体のまとめ	各回の内容、扱ったコンサルティングツールとそのポイント、キャリアとしての経営コンサルタント等について学修。	
	この回の到達目標	科目全体を通して、経営コンサルティング業務とそのポイントを理解し、説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
	事前学修	期末レポート（中間レポートの企画提案書に対応した答申書）の作成。	200分
	事後学修	配布資料（PDF）により全体について復習する。	40分

科目名	経営管理論	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
経営管理論の対象は企業内部における価値創造のダイナミズムであり、それを生み出す組織の活動であり、その組織で主体的活動を行う人間そのものである。経営管理論を学ぶということは、企業内部における人と資源が織りなす有機的な協働システムの実態を把握し、そこから生み出される企業固有の能力の展開を理解することである。本講義では、経営管理論の理論的背景を歴史的視点から概観することで、その背景から経営管理施策の現代的意味を理解していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営管理論の成立過程と歴史的背景について説明できるようになる。 今日的な経営管理課題について理論的な視角から分析できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド形式で講義動画を視聴してもらう形で授業を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	ネットワークを利用し、出来る限りインタラクティブな講義を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営管理論の成立過程と歴史的背景について理解している。				2		2	2				
②	経営管理論の理論体系について理解している。				2		2	2				
③	今日的な経営管理課題について理論的な視角から分析できる。						3	3				
④	分析結果から適切な解決策を提案することができる。						3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	今日的な経営管理課題について理論的な視点から分析し、適切な解決策を提案できるかについて、到達目標①②③④の観点から授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④の観点から身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営管理【新版】	鈴木良隆・大東英祐・武田晴人	有斐閣	2017	参考書	推奨
ビジネス・ヒストリー	フランコ アマトーリ・アンドレーア コリー	ミネルヴァ書房	2015	参考書	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	経営管理について調べる（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスを確認し、講義計画を立てる（2時間）	120分
2	経営管理とは何か	経営管理（マネジメント）の歴史的体系について説明する。	
	この回の到達目標	経営管理（マネジメント）の歴史的体系について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	テイラーと科学的管理法	テイラーの科学的管理法の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	テイラーの科学的管理法の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	ファヨールと管理過程論	ファヨールの管理過程論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	ファヨールの管理過程論の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	人間関係論と行動科学	人間関係論と行動科学の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	人間関係論と行動科学の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	人的資源管理論	人的資源管理論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	人的資源管理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	モチベーション理論	モチベーション（動機付け）理論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	モチベーション（動機付け）理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	経営戦略論	経営戦略論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	経営戦略論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	経営資源における情報	情報資源の蓄積・利用と組織体制について説明する。	
	この回の到達目標	情報資源の蓄積・利用と組織体制について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	バーナードと近代組織論	近代組織論の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	近代組織論の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	組織間関係論	組織間関係論と日本の企業グループについて説明する。	
	この回の到達目標	組織間関係論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	リーダーシップ	リーダーシップの主要な理論について説明する。	
	この回の到達目標	リーダーシップの主要な理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	企業文化と組織	企業文化と組織の理論について説明する。	
	この回の到達目標	企業文化と組織の理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	日本の経営管理	日本の経営管理について説明する。	
	この回の到達目標	日本の経営管理について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営情報システム論Ⅰ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
ICTが飛躍的に発展している現在、企業や様々な組織において、大量なデータ等を効率的に活用することは、経営の根幹にかかわる重要課題である。この経営情報システム論は、人と情報技術、そして組織を経営の視点から包括的に研究する学問領域であり、学生は、このような見地から企業その他の組織を把握し、経営情報システムがどのように利用されているかを学修することで経営情報システムの概要について理解を深めていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日のICT環境を前提にして、「情報システム」と個々の「人間固有の情報処理能力」の情動的相互作用を組織全体として整合性のあるものにする理論の構築ができ、それによって組織体の維持発展や革新のための提案ができるようになる。

【履修条件】
特になし。後期の「経営情報システム論Ⅱ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと配布資料（ファイル）を使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営情報システムとICTの関係について理解している。					2		2	2				
②	企業環境の変化と経営情報システムの変遷について理解している。							2					
③	情報セキュリティの概要や情報倫理の問題点について理解し、説明できる。					2							
④	経営情報システムとネットビジネスの関係について理解し、説明できる。							2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	企業における経営情報システムの導入と問題点について、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験、小テストの解説・講評を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営情報論（新版補訂第3刷）	遠山暁・村田潔・岸眞理子	有斐閣アルマ	2017年	参考書	任意
HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク	労務行政研究所 編	労務行政	2015	参考書	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル等で事前に配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	経営情報システムとは何か	経営情報システムとは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムとは何かについて理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	経営情報論の基礎	組織体と情報システムについて説明する。	
	この回の到達目標	組織体と情報システムについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	経営情報論の基礎理論	経営組織論と経営戦略論の概要について説明する。	
	この回の到達目標	経営組織論と経営戦略論の概要について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	経営情報システムの変遷	経営情報システムの変遷について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの変遷について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	情報通信技術の進展	情報通信技術の進展（クラウド・コンピューティング、ビッグデータ等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術の進展について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	経営情報システムの設計・開発	経営情報システムの設計・開発方法論（SDLC法等）について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの設計・開発について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	経営情報システムの管理	経営情報システムの管理（情報セキュリティ・マネジメント等）について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの管理について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	情報通信技術とビジネス・プロセス革新	情報通信技術とビジネス・プロセス革新（プロセスの戦略的重要性等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術とビジネス・プロセス革新（プロセスの戦略的重要性等）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	ネット・ビジネス	ネット・ビジネスについて説明する。	
	この回の到達目標	ネット・ビジネスについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	情報通信技術と組織変革	情報通信技術と組織変革（クローズドシステムとオープンシステム）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術と組織変革について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	情報通信技術と組織コミュニケーション	情報通信技術と組織コミュニケーション（メディア・リッチネス等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術と組織コミュニケーションについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	情報通信技術と社会	情報通信技術と社会（個人情報の利用とプライバシー等）について説明する。	
	この回の到達目標	情報通信技術と社会について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	経営情報システムの課題	経営情報システムの課題（ITガバナンス等）について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの課題（ITガバナンス等）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営情報システム論Ⅱ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
近年、経営情報システムはICTの急激な進歩に伴って大きく変化している。ERP（Enterprise Resource Planning）やSCM（Supply Chain Management）をはじめ、クラウドやIoT、ビッグデータ、AIなど様々な環境の変化に対応し変化している。本講義では、実際に事例に当たること、企業等で経営情報システムの構築、運用、改善できる知識を身に付けていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営情報システムの最新技術への対応を理解しシステムを体験することで、企業等で経営情報システムの構築、運用、改善について提案できる人材を育成する。

【履修条件】
特になし。前期の「経営情報システム論Ⅰ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと配布資料（ファイル）を使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営情報システムの変遷と背景について理解している。						2	2				
②	情報通信技術の現状と課題について理解している。				2		2	2				
③	経営情報システムの最新技術について理解している。						2	2				
④	経営情報システムの構築、運用、改善について提案できる。				2		2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	企業における経営情報システムの導入と問題点について、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験、小テストの解説・講評を授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク	労務行政研究所 編	労務行政	2015	その他	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	I C Tとパラダイムシフト	I C Tによる地球規模でのパラダイムシフトについて説明する。	
	この回の到達目標	I C Tによる地球規模でのパラダイムシフトについて説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	I C Tと経営情報システム	I C Tと経営情報システムの現状について説明する。	
	この回の到達目標	I C Tと経営情報システムの現状について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	経営情報システムの変遷（M I S、D S S、S I S）	経営情報システムの変遷（M I S、D S S、S I S）と背景について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの変遷と背景について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	経営情報システムの変遷（C l o u d、I o T、ビッグデータ、A I）	経営情報システムの変遷（C l o u d、I o T、ビッグデータ、A I）と背景について説明する。	
	この回の到達目標	経営情報システムの変遷と背景について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	基幹業務統合システム（ERP）	基幹業務統合システム（ERP）について説明する。	
	この回の到達目標	基幹業務統合システム（ERP）について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	サプライチェーンの全体最適化（SCM）	サプライチェーンの全体最適化（SCM）について説明する。	
	この回の到達目標	サプライチェーンの全体最適化（SCM）について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	ビッグデータの概念とその戦略的活用	ビッグデータの概念とその戦略的活用について説明する。	
	この回の到達目標	ビッグデータの概念とその戦略的活用について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用について説明する。	
	この回の到達目標	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	クラウドサービスの活用と問題点	クラウドサービスの活用と問題点について説明する。	
	この回の到達目標	クラウドサービスの活用と問題点について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	A I の活用と課題	A I の活用と課題について説明する。	
	この回の到達目標	A I の活用と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性について説明する。	
	この回の到達目標	HR（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	HRテクノロジーの活用事例	HRテクノロジーの活用事例について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーの活用事例について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	情報セキュリティとサイバー攻撃	情報セキュリティとサイバー攻撃について説明する。	
	この回の到達目標	情報セキュリティとサイバー攻撃について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営組織論	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
経営組織論の対象はビジネスの現場のみならず社会全般に亘っており、組織と関わらずに生活することはほとんど不可能と言える。本講義では基本的な組織論の歴史的背景を概観した上で、組織の定義からその成立要件（組織目的、コミュニケーション、貢献意欲）、組織が安定的に活動を継続することを可能にする構造とプロセスを取り上げる。また、現代の組織において重要な課題であるイノベーション創出や変革を取り上げ、組織と戦略の関係性についても解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経営組織論の成立過程と歴史的背景について説明できるようになる。 経営組織論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる。 経営組織論の枠組みで経営組織課題を分析できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド形式で講義動画を視聴してもらう形で授業を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ネットワークを利用し、出来る限りインタラクティブな講義を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営組織論の成立過程と歴史的背景について理解している。				2		2	2				
②	経営組織論の基本的な概念について理解している。				2		2	2				
③	今日的な経営組織における課題について理論的な視角から分析できる。						3	3				
④	分析結果から適切な解決策を提案することができる。						3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	今日的な経営組織における課題について理論的な視点から分析し、適切な解決策を提案できるかについて、到達目標①②③④の観点から授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④の観点から身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめての経営組織論	高尾 義明	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	経営組織について調べる（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスを確認し、講義計画を立てる（2時間）	120分
2	組織とは	経営組織の定義について説明する。	
	この回の到達目標	経営組織の定義について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	組織の成立要件	組織の3つの成立要件（組織目的、コミュニケーション、貢献意欲）について説明する。	
	この回の到達目標	組織の3つの成立要件（組織目的、コミュニケーション、貢献意欲）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	組織目的の存在	組織目的や制約としての諸目的について説明する。	
	この回の到達目標	組織目的や制約としての諸目的について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	組織におけるコミュニケーション	組織におけるコミュニケーションと調整について説明する。	
	この回の到達目標	組織におけるコミュニケーションと調整について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	貢献意欲（インセンティブ設計と一体感の醸成）	貢献意欲（インセンティブ設計と一体感の醸成）について説明する。	
	この回の到達目標	貢献意欲（インセンティブ設計と一体感の醸成）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	組織の発展と構造変化	組織の発展と構造変化について説明する。	
	この回の到達目標	組織の発展と構造変化について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	官僚制	官僚制の歴史的背景について説明する。	
	この回の到達目標	官僚制の歴史的背景について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	ネットワークと組織文化	ネットワークと組織文化について説明する。	
	この回の到達目標	ネットワークと組織文化について説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	組織プロセスの重要性	組織プロセスの重要性について説明する。	
	この回の到達目標	組織プロセスの重要性について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	モチベーション理論	モチベーションの主要な理論について説明する。	
	この回の到達目標	モチベーションの主要な理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	環境と組織	環境と組織の関係について説明する。	
	この回の到達目標	環境と組織の関係について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦略と組織学習	戦略と組織学習の理論について説明する。	
	この回の到達目標	戦略と組織学習の理論について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	イノベーションと組織	イノベーションと組織の関係について説明する。	
	この回の到達目標	イノベーションと組織の関係について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営訴訟法Ⅰ	担当者	坪川 弘	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経営法学的観点に立脚すると、現代企業は予防法的・戦略法務的な経営を目指している。前者においてはリコールにいかに対処するか、さらにPL法紛争に対処できる内部統制システムの構築を目指している。他方、後者においてはいかに自社の知的財産権の創造、および活用を推進するかが急務となっている。そして、訴訟以外の方法による紛争解決制度の利用も増加している。これらに対する総合的学習が本講座の目的である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義は、経営の意思決定に際しての法的知識の育成を目的とし、さまざまな経営場面における判断基準を容易に選択できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法、商法、民事訴訟法、会社法などを履修していることが望ましいが、条件とはしない。

【授業方法】
講義で取り上げる資料を事前に発表者に配布し、講義時に資料の発表を行い、それに対する解説および討論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、前週に与えた課題に関する発表者を決め、その発表に基づいて教員のコメント及びクラス内のディベートを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業を取り巻く法的リスクには何があるか、またその解決方法とはなにか。【知識】						2	3	4	3				
②	与えられた課題について自分なりに調べて他者にわかりやすいように発表する。【技能】						2	3	4	4				
③	講義で扱う法的リスクの重要度を他者に伝えること。【技能】						2	3	4	3				
④	法的リスクの発表に対する自己の考え方の表明。【態度・習慣】						4	3	4	3				
⑤	最終レポートにより講義内での発表・議論をまとめること。【技能】						3	3	3	3				
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	自己の発表した事項、具体的内容及びクラスでのディス カッションを踏まえたレポートを作成することにより、合 理的な事象の解明に努める。					50						50
討論・発表等	毎回与えられた課題について発表者が具体的内容を調べ、 その発表に基づいてクラス内のディスカッションを行うこ とによって、到達目標の①②③④に関わる論理的思考に基 づく発表及びより合理的な法的リスクの解決方法の模索を 図る。	10	20	10	10							50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	10	50						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の発表に対する教員のコメントを述べることによって発表者及びクラス内の課題に対する理解を深める。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず				

【オフィスアワー】
講義等に関する質問および課題の提出は、下記のメール・アドレスへ講義の前日（月曜日）までにアップすること。 tubokawa@shodai.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・導入講義	法的リスクとその解消方法	
	この回の到達目標	企業法務における関心事の解明（到達目標①）	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解しておくこと。	120分
	事後学修	経営訴訟法で学ぶべき事項を事後学習で確認する。	120分
2	企業経営とリーガル・リスク	企業経営におけるリスクには何があるかの解明	
	この回の到達目標	企業経営におけるリーガル・リスクの存在を確認すること。（到達目標①）	
	事前学修	企業経営における様々なリーガル・リスクにはどんなものがあるか考えてみること。	120分
	事後学修	企業の法務部の関心事項がどのようなものか確認すること。	120分
3	リーガル・リスクとしての訴訟リスク	企業の訴訟に対する考え方の分析	
	この回の到達目標	企業が訴訟を求めていることの確認（到達目標①）	
	事前学修	企業は果たして訴訟をすることを好ましいと考えているかどうか自分自身で検討すること。	120分
	事後学修	企業が訴訟リスクを回避するためにどのような法的観点からその是非を検討しているかを考えてみる。	120分
4	企業経営におけるリーガル・リスク・マネジメント	訴訟に至らないようにするための企業努力	
	この回の到達目標	訴訟をしないために企業はなにをすべきか（到達目標①）	
	事前学修	現代の企業においてはどのようなリーガル・リスクがあるかについて検討すること。	120分
	事後学修	講義で検討したリーガル・リスクを再確認すること。	120分
5	企業経営におけるリコールの現代的意義	リコールを行うべきかどうか	
	この回の到達目標	リコールの決断は企業の義務である（到達目標①）	
	事前学修	どのような場合に企業はリコールを実行すべきかについて検討すること。	120分
	事後学修	企業が単なるコスト的観点でリコールを回避した場合の危険性を確認すること。	120分
6	リコールの特性と企業対応	どのような場合にリコールをすべきか	
	この回の到達目標	リコール決定までの企業内意思決定システムの解明（到達目標①②）	
	事前学修	リコールはあらゆる製造製品に関して発生するが、その製造製品ごとにリコール対応が変わることを確認すること。	120分
	事後学修	製造製品によってどのように企業が対応するかは、企業の日常的緊急的体制構築が必要であることを確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	リコール事例の検討：その 1		フォード・ピント事件等の自動車に関するリコール事例の検討	
	この回の到達目標	自動車リコールの史的変化を学ぶ。（到達目標②③④）		
	事前学修	リコールの典型事例といわれる自動車のケースでどれくらいの頻度でリコールが行われているか調べてみること。		120分
	事後学修	自動車リコール事例の古典的ケースといえるフォード・ピント事件における企業の対応と裁判の結果について考えてみること。		120分
8	リコール事例の検討：その 2		多種にわたる食品リコール事例を学ぶ。	
	この回の到達目標	食品リコールの多様性を学ぶ。（到達目標②③④）		
	事前学修	食品・飲料・生活製品等の日常的に消費者が利用するものに対するリコールについて考えてみること。		120分
	事後学修	これらのものの特性に応じた各企業の対処方法について確認すること。		120分
9	リコール事例の検討：その 3		リコールプラス等のサイトを通じて最近のリコール事例を分析	
	この回の到達目標	民間のリコール状況の現状を知る。（到達目標②③④）		
	事前学修	最近発生したリコール事例を検討してみること。		120分
	事後学修	最近のリコール事例において成功または失敗したと考えられるものを検討すること。		120分
10	企業経営とコンプライアンス		企業におけるコンプライアンスの必要性を学ぶ。	
	この回の到達目標	具体的な企業内のコンプライアンス体制の構築状況を知る。（到達目標①）		
	事前学修	企業経営におけるコンプライアンスとは何か考えてみること。		120分
	事後学修	東証の『コーポレートガバナンスコード』がどのようなものか検討すること。		120分
11	製造物責任法の構造		PL法の目的等の解明	
	この回の到達目標	欠陥・責任主体・責任範囲等の解明（到達目標①）		
	事前学修	製造物責任法がどのような経緯で成立したか考えてみること。		120分
	事後学修	製造物責任における「製造物の範囲」・「欠陥の種類」・「責任主体」・「免責事由および消滅時効」等が P L 法でどのように規定されているか確認すること。		120分
12	製造物責任訴訟の事例：その 1		PL判例の事案・判旨の検証	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）		
	事前学修	事前に与えられた P L ケースを検討すること。		120分
	事後学修	講義で扱った事例で何が問題になったか検討すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	製造物責任訴訟の事例：その2	PL判例の事案・判旨の検証	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
	事前学修	事前に与えられたP Lケースを検討すること。	120分
	事後学修	講義で扱った事例で何が問題になったか検討すること。	120分
14	製造物責任訴訟の事例：その3	PL判例の事案・判旨の検証	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
	事前学修	講義で扱った事例を検討すること。	120分
	事後学修	P L対策としての平時及び緊急時体制構築の重要性を確認すること。	120分
15	前期のまとめ	リコール・PL法判例の検証	
	この回の到達目標	リコール及びPL法に関するレポートの提出（到達目標⑤）	
	事前学修	前期でやったことの確認をすること。	120分
	事後学修	今までの講義の内容を再検討すること。	120分

科目名	経営訴訟法Ⅱ	担当者	坪川 弘	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経営法学的観点に立脚すると、現代企業は予防法的・戦略法務的な経営を目指している。前者においてはリコールにいかに対処するか、さらにPL法紛争に対処できる内部統制システムの構築を目指している。他方、後者においてはいかに自社の知的財産権の創造、および活用を推進するかが急務となっている。そして、訴訟以外の方法による紛争解決制度の利用も増加している。これらに対する総合的学習が本講座の目的である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義は、経営の意思決定に際しての法的知識の育成を目的とし、さまざまな経営場面における判断基準を容易に選択できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法、商法、民事訴訟法、会社法などを履修していることが望ましいが、条件とはしない。

【授業方法】
講義で取り上げる資料を事前に発表者に配布し、講義時に資料の発表を行い、それに対する解説および討論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、前週に与えた課題に関する発表者を決め、その発表に基づいて教員のコメント及びクラス内のディベートを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業を取り巻く法的リスクには何があるか、またその解決方法とはなにか。【知識】				2	3	4	3				
②	与えられた課題について自分なりに調べて他者にわかりやすいように発表する。【技能】				2	3	4	4				
③	講義で扱う法的リスクの重要度を他者に伝えること。【技能】				2	3	4	3				
④	法的リスクの発表に対する自己の考え方の表明。【態度・習慣】				4	3	4	3				
⑤	最終レポートにより講義内での発表・議論をまとめること。【技能】				3	3	3	3				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	自己の発表した事項、具体的内容及びクラスでのディス カッションを踏まえたレポートを作成することにより、合 理的な事象の解明に努める。					50						50
討論・発表等	毎回与えられた課題について発表者が具体的内容を調べ、 その発表に基づいてクラス内のディスカッションを行うこ とによって、到達目標の①②③④に関わる論理的思考に基 づく発表及びより合理的な法的リスクの解決方法の模索を 図る。	10	20	10	10							50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	10	50						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の発表に対する教員のコメントを述べることによって発表者及びクラス内の課題に対する理解を深める。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず				

【オフィスアワー】
講義等に関する質問および課題の提出は、下記のメール・アドレスへ講義の前日（月曜日）までにアップすること。 tubokawa@shodai.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	企業経営と知的財産権	企業における知的財産権の重要性の検証	
	この回の到達目標	企業における知的財産権の重要度の確認（到達目標①）	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解しておくこと。	120分
	事後学修	個々の知的財産権の具体的な内容を検討してみること。	120分
2	特許侵害訴訟の構造	特許侵害訴訟の提起前・後の過程の検証	
	この回の到達目標	特許侵害訴訟の手続過程の解明（到達目標①）	
	事前学修	企業経営における様々なリーガル・リスクにはどんなものがあるか考えてみること。	120分
	事後学修	特許侵害訴訟の流れを確認すること。	120分
3	特許侵害訴訟の事例：その1	特許権に関わる訴訟の解明	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
	事前学修	企業は果たして訴訟をすることを好ましいと考えているかどうか自分自身で検討すること。	120分
	事後学修	講義で取り扱った訴訟の特徴は何かを確認すること。	120分
4	特許侵害訴訟の事例：その2	特許権に関わる訴訟の解明	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
	事前学修	現代の企業においてはどのようなリーガル・リスクがあるかについて検討すること。	120分
	事後学修	講義で取り扱った訴訟の特徴は何かを確認すること。	120分
5	その他の知的財産権関連訴訟：その1	商標権に関わる訴訟の検証	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
	事前学修	どのような場合に企業はリコールを実行すべきかについて検討すること。	120分
	事後学修	講義で扱った訴訟の特性を確認しよう。	120分
6	その他の知的財産権関連訴訟：その2	著作権に関わる判例の検証	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）	
	事前学修	リコールはあらゆる製造製品に関して発生するが、その製造製品ごとにリコール対応が変わることを確認すること。	120分
	事後学修	最近のインターネット関連の著作権問題を検討してみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	経営者の会社に対する責任		取締役等の義務の検証	
	この回の到達目標	任務懈怠による損害賠償責任の解明（到達目標①）		
	事前学修	リコールの典型事例といわれる自動車のケースでどれくらいの頻度でリコールが行われているか調べてみることに。		120分
	事後学修	講義で確認した取締役等の責任を検討すること。		120分
8	株主代表訴訟の構造		株主代表訴訟の提起手続の検証	
	この回の到達目標	会社法における株主代表訴訟の位置づけの確認（到達目標①）		
	事前学修	食品・飲料・生活製品等の日常的に消費者が利用するものに対するリコールについて考えてみることに。		120分
	事後学修	株主代表訴訟の訴訟過程における問題点を確認しよう。		120分
9	株主代表訴訟の事例：その1		株主代表訴訟の判例の検証	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）		
	事前学修	最近発生したリコール事例を検討してみることに。		120分
	事後学修	講義で検討した事例の問題点を明確にすること。		120分
10	株主代表訴訟の事例：その2		株主代表訴訟の判例の検証	
	この回の到達目標	判例の論点・問題点の解明（到達目標②③④）		
	事前学修	企業経営におけるコンプライアンスとは何か考えてみることに。		120分
	事後学修	講義で検討した事例の問題点を明確にすること。		120分
11	ADR（裁判外紛争処理）制度の現代的意義		ADR制度の意義の解明	
	この回の到達目標	ADR制度の必要性の解明（到達目標①）		
	事前学修	製造物責任法がどのような経緯で成立したか考えてみることに。		120分
	事後学修	訴訟とADRの手続きの相違点を確認すること。		120分
12	ADRの種類		ADR制度の種類の検証	
	この回の到達目標	行政型・民間型ADRの存在の確認（到達目標①）		
	事前学修	事前に与えられたPLケースを検討すること。		120分
	事後学修	様々なADR制度の特性を確認すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ADR制度の活用事例その1	医療・金融ADR制度等の検証	
	この回の到達目標	各制度の意義及び活用状況の解明（到達目標②③④）	
	事前学修	事前に与えられたPLケースを検討すること。	120分
	事後学修	各ADR制度の現状を確認してみよう。	120分
14	ADR制度の活用事例その2	労働・原子力損害賠償等のADR制度の検証	
	この回の到達目標	各制度の意義及び活用状況の解明（到達目標②③④）	
	事前学修	講義で扱った事例を検討すること。	120分
	事後学修	各ADR制度の現状を確認してみよう。	120分
15	後期のまとめ	知的財産権・株主代表訴訟・ADR制度の検証	
	この回の到達目標	講義で扱ったテーマの最終レポートの提出（到達目標⑤）	
	事前学修	前期でやったことの確認をすること。	120分
	事後学修	今までの講義の内容を再検討すること。	120分

科目名	経営分析論	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
企業活動とは経営戦略の実行であり当然これを実行した結果が決算書に表れてくる。つまりより良く企業を知るためには企業が目指す経営戦略を念頭に置いて決算書を読み解く必要がある。つまり経営分析を行うためにも経営戦略の評価が必要であり、経営分析は正しい戦略的意思決定を行うプロセスであるといえる。本講義では戦略的意思決定を行うための経営分析の知識を身に付け、実際に財務諸表を読み解くケーススタディを実施する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業経営を評価するための前提として経営戦略を念頭に置いた経営分析を理解し、正しい意思決定ができる人材を育成する。

【履修条件】
特になし。会計知識があることが望ましいが、基礎から説明するので初学者でも可。

【授業方法】
オンデマンド形式により、授業動画を視聴してもらい授業を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り課題を提出させ、それに答える形式で講義を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財務3表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）について理解している。				2		2	2				
②	会計数値や会計指標について理解している。				2		2	2				
③	各指標を用いて経営分析を行うことができる。						3	3				
④	分析結果から適切な意思決定を提案することができる。						3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	財務3表について各指標を用いて分析ができるかについて、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	財務3表について調べる（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスを確認し、講義計画を立てる（2時間）	120分
2	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）について説明する。	
	この回の到達目標	決算書とは何か（財務3表の種類と内容）について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	売上高、利益、原価率（P/L）	売上高、利益、原価率（P/L）について説明する。	
	この回の到達目標	売上高、利益、原価率（P/L）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	キャッシュフロー計算書（C/F）	キャッシュフロー計算書（C/F）について説明する。	
	この回の到達目標	キャッシュフロー計算書（C/F）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）について説明する。	
	この回の到達目標	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	連結決算（B/S、P/L）	連結決算（B/S、P/L）について説明する。	
	この回の到達目標	連結決算（B/S、P/L）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ケーススタディ 1	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	ケーススタディ 2	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	ケーススタディ 3	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	ケーススタディ 4	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	ケーススタディ 5	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	ケーススタディ 6	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ケーススタディ 7	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	ケーススタディ 8	ケースとして取り上げた企業について経営分析及び問題解決にあたる。	
	この回の到達目標	ケースとして取り上げた企業の問題を把握し、解決方法を提案できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○					

【授業の概要】
多くの企業にとって、企業成長と働き方改革の両立が重要課題とされる。企業成長と働き方改革の両立の鍵が、経営戦略とイノベーションである。本講座では、実在企業のケースに基づく課題に取り組むことで、経営戦略の主要理論の適用方法・適用範囲とその限界を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、組織体の戦略を策定しその実施を推進し、働き方を変えていくための実践的スキルを身につけることを目的とする。「経営学Ⅰ」で取り上げた経営戦略の主要理論の理解を前提に、より多くのケースに接することで、組織内のファシリテーターやリーダーとして戦略作りを推進できるようになることを目標とする。関連CP・DP:経営法学科3

【履修条件】
事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートに多大な時間を要するため、その心構えが十分にできていること。経営戦略論を将来の仕事に結び付けようと考えていること。

【授業方法】
オンデマンド方式。授業動画の配信（YouTube）とそれに基づき、授業内課題（「問題○○」）への回答をGoogle Classroom（クラスコード：1k5brfb）に提出。授業内課題・中間レポートは授業時間内に回答例や講評を提示。期末レポートは要求に応じてメールで評価をフィードバック。授業動画で使用するスライド、ケース、教科書等の全資料は、PDFファイルとしてGoogle Classroomよりダウンロード可。授業を十分にフォローしていくために、事前学修・事後学修時間（後掲）を記載量あるいはそれ以上要する。特に、授業の効果を得るために、十分な事前学修が欠かせないしくみになっている。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	企業にとって戦略的発想の重要性を理解し、それを説明することができる。							3				
②	企業のおかれた状況の中で、最適な戦略を選ぶ能力を高める。							3				
③	企業の戦略的目標を認識し、目標間の関係性を明確化する方法を修得する。							3				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題2では、到達目標③について、レポートを提出し戦略 目標間の関係性の適切さを評価する。			30								30
討論・発表等	課題1では、到達目標③について、企業のステークホル ダー別に戦略目標を分類整理し発表する。			30								30
授業への参画度	到達目標①②について、戦略論の基礎知識が身につしてい るかを、授業中の課題や討議により評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題・課題Ⅰは授業時間内に回答例の提示や講評を実施。課題2は希望者に対してメールにより評価をフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版	2013	参考書	推奨
ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之・西野和美	日本経済新聞出版	2012	参考書	推奨
道具としての「事業定義」	若林広二	中央経済社	2012	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、あるいは、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサル ティング） 経営コンサルティング業務の知見に基づき、戦略論の経営現場への適用方法、適用手順を学修。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	シラバスに基づく授業全体の内容について説明。	
	この回の到達目標	授業全体の内容について、説明できるようになること。また、企業経営にとって経営戦略の果たす役割について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	経営学Ⅰの授業コンテンツの復習。	120分
	事後学修	配布資料の内容の復習と、戦略プロファイリング対象企業候補を検討。	120分
2	事業定義1（理論）	事業定義の重要性の再確認と事業定義手順について学修。	
	この回の到達目標	事業定義の方法・手順を説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	レビット，T. 「マーケティング近視眼」『ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス』1993年2月-3月号を熟読し、若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年1～33頁に目を通す。	120分
	事後学修	配布資料の内容の復習に基づき、事業定義を企業組織で実際に実施できるようになる。	120分
3	事業定義2（ケース）	セコムのケースの詳細な分析に基づく事業定義（ドメイン）の変化についての学修。	
	この回の到達目標	セコムの事業定義の優れている点について理解し、説明すること（関連目標②）。	
	事前学修	セコムのケース（コピー事前配布）に基づく、機能の変遷と事業定義（ドメイン）のもたらす効果についてワークシートを用いた検討。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習と事前に作成したワークシートの修正。	60分
4	戦略プロファイリング1（理論）	戦略プロファイリングの背景、定義、実施方法について学修。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年を熟読し、戦略プロファイリングの概念を理解する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により「戦略プロファイリング」を説明できるようになる。	60分
5	製品・市場戦略1（理論）	製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。	
	この回の到達目標	製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。	
	事前学修	大前研一『マッキンゼー現代の経営戦略』プレジデント社1979年35～74ページを読む。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により「製品・市場戦略」の適用手順を説明できるようになる。	60分
6	製品・市場戦略2（ケース）	各人作成のワークシートに基づく現実の製品・市場戦略についての学修。	
	この回の到達目標	製品・市場戦略の手順・適用方法を理解し、適用できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	ケースを読み、それに基づく製品・市場分析、K F S（成功要因）等についてワークシートを用いて検討する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習による製品・市場分析の方法と製品・市場戦略への結び付け方について説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	SWOTと業界構造分析1（理論）	外部環境と経営資源の分析に用いられるSWOTと5フォースの適用に重点を置いた学修。	
	この回の到達目標	SWOTと5フォースの使い方を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	ポーター，M．E．（土岐他訳）『競争の戦略』ダイヤモンド社1982年17～54頁を熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習による5フォースの正しい適用方法を説明できるようになる。	60分
8	SWOTと業界構造分析2（ケース1）	マッキントッシュ時代のアップルを通して、SWOTと5フォースの適用方法を学修。	
	この回の到達目標	SWOTと5フォースの使い方を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	アップルのケース1（PCメーカー時代）に基づいた、ワークシートを用いたアップルのSWOTと5フォースによるパソコン業界の業界構造の分析。	180分
	事後学修	各人作成のワークシートの修正。	60分
9	SWOTと業界構造分析3（ケース2）	iPod・iPhone以降のプラットフォームへの成長過程のアップルについて、ケース1からSWOTで導かれる戦略仮説がケース2で実際に実施されたか検証する。	
	この回の到達目標	アップルの戦略を通して、クロスSWOT分析に基づく戦略と実際の戦略の関係について理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	アップルのケース2（iPod・iPhone時代）に基づいた、ワークシートを用いたアップルのSWOTと5フォースによるパソコン業界の業界構造の分析。	180分
	事後学修	各人作成のワークシートの修正。	60分
10	戦略プロファイリング2（戦略プロファイリングの方法）	各人作成の戦略プロファイリング結果（戦略マップ）について講評。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順・方法を理解し、実在の企業に適用できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年をレビューし、戦略プロファイリングの手順を理解する。	60分
	事後学修	課題1（個別企業の戦略プロファイリング）の作成。	180分
11	戦略プロファイリング3（演習）	各人作成の戦略プロファイリング結果について講評。	
	この回の到達目標	戦略プロファイリングの手順を修得すること（関連目標③）。	
	事前学修	他の参加者のプロファイリング対象企業の戦略情報に目を通す。	120分
	事後学修	作成した戦略プロファイリングへの講評内容を復習し、講評に基づいて戦略マップを修正し、戦略プロファイリングのスキルを修得する。	120分
12	PPM1（理論）	企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。	
	この回の到達目標	PPMの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年85～100ページを熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、PPMの概念を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	PPM 2（ケース）	経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。	
	この回の到達目標	PPMの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	GEのケースより、花形・金のなる木・問題児・負け犬事業を選定、シャープのケースより、成功事業・失敗事業を選定する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、PPMの結果の適用方法を修得する。	60分
14	コア・コンピタンス（ケース）	コア・コンピタンスの概念について復習した上で、ケースによりそれを実在企業に適用する。	
	この回の到達目標	コア・コンピタンスの概念について復習した上で、ケースによりそれを実在企業に適用する。	
	事前学修	ブラハラード, C.K. & ハメル, G.「コア・コンピタンス経営」『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』2014年307～45ページを分析。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、コア・コンピタンスを説明できるようになる。	60分
15	まとめ（AI時代の経営戦略）	経営戦略の主要理論とその適用方法についてまとめる。今後急速な普及が予想されるAIの経営戦略プロセスへの影響についても触れる。	
	この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③）。	
	事前学修	課題2：課題1と異なる企業について戦略プロファイリングの実施。	200分
	事後学修	配布資料（PDF）により全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅱ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○					

【授業の概要】
多くの企業にとって、企業成長と働き方改革の両立が重要課題とされる。企業成長と働き方改革の両立の鍵が、経営戦略とイノベーションである。本講座では、実在企業のケースに基づく課題に取り組むことで、経営戦略の主要理論の適用方法・適用範囲とその限界を理解する。また、イノベーション＝「価値創造」という認識の下、イノベーションの主要フレームワークをケースを用いながら理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座では、企業を成長させ従業員の働き方を変えるイノベーションとは何かを理解した上で、イノベーションの主要理論について学修することを目的とする。現象としてのイノベーションを、イノベーション理論で説明できるようになることを目標とする。関連CP・DP：経営法学科3

【履修条件】
事前学修、授業内課題への回答、中間・期末レポートに多大な時間を要するため、その心構えが十分にできていること。イノベーション理論を将来の仕事に結びつけようと考えていること。

【授業方法】
オンデマンド方式。授業動画の配信（YouTube）とそれに基づき、授業内課題（「問題○○」）への回答をGoogle Classroom（クラスコード：nwxebzi）に提出。授業内課題・中間課題（期末レポート）は授業時間内に回答例や講評を提示。期末レポートは要求に応じてメールで評価をフィードバック。授業動画で使用するスライド、ケース、教科書等の全資料は、PDFファイルとしてGoogle Classroomよりダウンロード可。授業を十分にフォローしていくために、事前学修・事後学修時間（後掲）を記載量あるいはそれ以上要する。特に、授業の効果を得るために、十分な事前学修が欠かせない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業にとってのイノベーションの重要性を理解し、それを説明することができる。							3					
②	現象としてのイノベーションを、諸イノベーション理論で説明する能力を修得。							3					
③	イノベーションの阻害要因を、実際のケースの中にみつける能力を修得する。							3					
④	イノベーションを起こす、あるいは、それを支援する能力を修得する。							3					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末レポート：到達目標②④について、中間課題での計画にそって、現象としてのイノベーションを授業で扱った理論で論理的に説明する総合的な能力を評価する。A4（約1,000字詰）×10枚（図表含む）以内のケース研究の形でまとめる。		30		10							40
討論・発表等	中間課題：到達目標②について、現実起きた現象としてのイノベーションについて、適用可能なイノベーション理論をみつける能力を評価する。		20									20
授業への参画度	到達目標①③について、イノベーション理論の基礎知識が身についているかを、授業中の課題や討議により評価する。	20		20								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題・中間発表は授業時間内に回答例の提示や講評を実施。期末レポートは希望者に対してメールにより評価をフィードバック。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト イノベーション・マネジメント	近能善範・高井文子	新世社	2010	教科書	必携
経営学入門（上）第2版	榊原清則	日本経済新聞出版	2013	参考書	推奨
ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之・西野和美	日本経済新聞出版	2012	参考書	推奨
イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	2015	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
時間設定せず、Google Classroomのコメント欄、あるいは、メール（wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp）で対応。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ソニー（経営管理・商品企画・マーケティング）、三菱総研（経営コンサルティング）
実務経験に基づく実践的教育の内容		ものづくりの現場で得た知見に基づき、イノベーション理論の経営現場への適用方法を学修。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	シラバスに基づく授業全体の内容について説明。	
	この回の到達目標	企業経営にとってイノベーションの果たす役割について、理解し説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	最近の新聞記事の中から、「イノベーション」と思われる事例を2つあげる。	120分
	事後学修	配布資料の復習。	120分
2	イノベーションの定義	代表的なイノベーションの定義をあげ、それらより、授業における定義を作る。また、イノベーションとそうでないものの違いより、イノベーションの意味について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの定義について説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』1～17頁に目を通し、「イノベーション」とは何か（定義）について検討する。	120分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションを説明できるようになる。	120分
3	イノベーションとバリューチェーン（理論）	イノベーションがバリューチェーン上を移動する上での阻害要因について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの3つの阻害要因をバリューチェーン上で説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』19～45頁を読む。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、3つの阻害要因について説明できるようになる。	60分
4	イノベーションとバリューチェーン（ケース）	ゼロックスのケースの詳細な分析より、3つの阻害要因の企業活動における実際を学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの生かし方と企業成長の関係について、ゼロックスとアップルの例で説明できるようになること（関連目標③）。	
	事前学修	ゼロックスのケースについて、ゼロックスの事業定義の変化、PARCでのアルト（Alto）の商品化に向けての阻害要因等について検討。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの3つの阻害要因について説明できるようになる。	60分
5	イノベーションのライフサイクル	イノベーションを時間軸でとらえ、その進展を曲線で表現したモデル（理論）について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションのライフサイクルに関する諸理論を説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』47～80頁を熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの時間による様々なモデルを説明できるようになる。	60分
6	イノベーションの連続性	イノベーションの連続性（非連続性）を性能面、顧客価値（機能）面、経営資源面よりとらえ、相互の差について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの技術・顧客価値による非連続性について説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』73～112頁、119～132頁を読んで、業務用カラオケにおけるイノベーションをワークシートをワークシートを用いて分析する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションの連続性の3つの視点間の差を説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	イノベーションとアーキテクチャ	アーキテクチャ（製品の構造・部品構成）の2つの軸（部品間特性・オープン化特性）について学修する。	
	この回の到達目標	各製品分野でアーキテクチャの果たす役割について説明できるようになること（関連目標②）。	
	事前学修	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』113～8頁、191～222頁を熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、特定のイノベーションを2軸に位置付けられるようになる。	60分
8	イノベーションの課題	これまでに扱ったいくつかの間違いやすい類似概念を、実際の例によって確認するとともに、イノベーションを起こすための理論（現象を説明するための理論ではなく）について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーション理論間の関係、イノベーションを起こす理論について、説明できるようになること（関連目標②④）。	
	事前学修	クリステンセン, C.（玉田俊平太訳）『イノベーションのジレンマ』翔泳社2001年27～58頁（第1章）より技術一顧客価値のマトリクスにHDDにおけるイノベーションを位置付け、アップルのケース1（前期使用）より主要パソコンを部品間特性・オープン化特性の2軸に位置付ける。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションを起こす方法について説明できるようになる。	60分
9	中間課題レビュー	イノベーションのケースの中間報告（PPT）に対する講評。	
	この回の到達目標	期末レポート（イノベーションのケース）の作成に向けて、解決すべき調査・分析の問題を明確にする（関連目標②）。	
	事前学修	中間課題（イノベーションのケース分析レポートの中間報告）作成。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、期末課題に向けての指針とする。	60分
10	イノベーションと知的財産	イノベーションの役割を知的財産マネジメントの観点より学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションにおいて果たす知財の役割について理解し、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	知的財産マネジメントのサイクル（モデル）について調べる。	60分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーションと知的財産の相互関係について説明できるようになる。	180分
11	イノベーションとBOP（ケース）	BOP（ベース・オブ・ピラミッド：新興国市場）におけるイノベーションとその展開プロセスについて学修する。	
	この回の到達目標	リバースイノベーションの概念を理解し、説明できるようになること（関連目標②④）。	
	事前学修	ゴビンダラジャン, V（渡部典子訳）『リバース・イノベーション』ダイヤモンド社2012年247～76頁（コピー事前配布）を読み、GEのリバース・イノベーションの成功要因について検討する。	180分
	事後学修	配布資料の内容を復習することにより、リバース・イノベーションの概念を説明できるようになる。	60分
12	イノベーション組織	社会的ネットワーク論の主要なものについて概説し、それらより、イノベーション組織（イノベーションが起きやすい組織）作りの方法について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションを起こすための組織体制について説明できるようになること（関連目標②④）。	
	事前学修	入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年、125～148頁（第7章）、149～185頁（第8、9章）を熟読し、社会的ネットワーク論とイノベーションの関係について考察する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーション組織が説明できるようになる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	イノベーションの評価	イノベーションの進展を評価するしくみとして、バランス・スコアカードが適用できる。イノベーション評価のツールとしてのバランス・スコアカードについて学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションの進捗を評価する手法としてのBSCの使用方法について、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181頁を熟読する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、バランス・スコアカードについて説明できるようになる。	60分
14	イノベーションと経営戦略	「事業定義（経営戦略）→イノベーション→企業成長」という経営における一連の因果関係に直目し、本講座の意義について学修する。	
	この回の到達目標	イノベーションと経営戦略の関係について、説明できるようになること（関連目標①）。	
	事前学修	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年、1～33頁（前期配布済み）を読み、イノベーション、経営戦略、企業成長の関係について考察する。	180分
	事後学修	配布資料の内容の復習により、イノベーション企業成長の関係について説明できるようになる。	60分
15	全体のまとめ	イノベーションの定義、イノベーションとバリューチェーン、イノベーションのライフサイクル、イノベーションの連続性、イノベーションとアーキテクチャ、イノベーションと知財、イノベーションとBOP、イノベーション組織、イノベーションの評価、イノベーションと経営戦略といった項目のポイントについて振り返る。	
	この回の到達目標	科目全体を通して、学修したことを説明できるようになること（関連目標①②③④）。	
	事前学修	期末レポート（イノベーションのケース）の作成。	200分
	事後学修	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードして全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する。	40分

科目名	経営法学特殊講義(ビジネス法学入門) I	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
我々の生活はどこかで「ビジネス」との接点がある。特に、大学生である諸君にとっては、これからよりビジネスとの関わりが増えることになる。本講義では、ビジネスとの関わりを商法（会社法など）をはじめとした法律学の側面から切り取って分析する。とりわけビジネスの主体となる株式会社について深く学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの主体となる株式会社に関する法的知識を涵養することを目的とする。 講義を通じて、受講生が社会生活とビジネスとの接点を見出し、それらを法的に分析することができるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法関連科目を履修していることが望ましい

【授業方法】
オンデマンド型の講義形式をとる。各回の講義でレポート課題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取締役・取締役会に関する法システムの全体構造とその特質を識別することができる。						1	1						
②	取締役・取締役会に関する主要な学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						2	2						
③	取締役・取締役会についての主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。						2	2						
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回の授業の内容について到達目標②を修得しているか、 毎回のレポートで評価する。	15	15	15								45
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身について いるかを期末レポートで評価する。	10	20	25								55
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のレポート内容について次回以降の授業でGoogle Classroomを通じて全体的にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 I	松嶋隆弘＝大久保拓也	中央経済社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
オンデマンド講義のため未定（決定したら講義でアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 会社法総論	講義のガイダンスを行う。会社法のアウトラインを学ぶ。	
	この回の到達目標	講義の全体像を把握するとともに、会社法の基本事項を学ぶ。	
	事前学修	日本経済新聞等の経済関連の新聞・雑誌を読み会社法に関する知識に興味をもつ。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本経済新聞等の会社法に関する記事を改めて読み返す。	120分
2	機関総論	機関総論を学ぶ。	
	この回の到達目標	機関総論を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
3	株主総会①	株主総会の基本事項を学ぶ。	
	この回の到達目標	株主総会の意義と機能を学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
4	株主総会②	株主総会に関する手続きなどを学ぶ。	
	この回の到達目標	株主総会に関する手続きなどを学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
5	株主総会③	株主総会の応用事項について学ぶ。	
	この回の到達目標	取締役の解任に係る法的問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
6	役員等の選任ルール	役員等の選任ルールなどを学ぶ。	
	この回の到達目標	役員等の選任ルールを理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	取締役会	取締役会の機能などを学ぶ。	
	この回の到達目標	取締役会の機能を学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	役員等の義務	役員等の義務を学ぶ。	
	この回の到達目標	役員等の義務について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	役員等の義務と責任追及	役員等の義務を責任追及を学ぶ。	
	この回の到達目標	役員等の義務と責任追及を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	取締役の報酬	取締役の報酬について学ぶ。	
	この回の到達目標	取締役の報酬について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	監査機関・会計参与	監査機関・会計参与を学ぶ。	
	この回の到達目標	監査機関と会計参与について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	株主代表訴訟	株主代表訴訟について学ぶ。	
	この回の到達目標	株主代表訴訟について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	対第三者責任	対第三者責任について学ぶ。	
	この回の到達目標	対第三者責任について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	委員会型の会社	委員会型の会社について理解する。	
	この回の到達目標	取締役の業務執行を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	期末レポート まとめ	講義で学んだ項目を期末レポートで纏める。	
	この回の到達目標	前期で学んだ事項を理解できているか確認する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して試験の内容を再確認する。	120分

科目名	経営法学特殊講義(ビジネス法学入門) Ⅱ	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
我々の生活はどこかで「ビジネス」との接点がある。特に、大学生である諸君にとっては、これからよりビジネスとの関わりが増えることになる。本講義では、ビジネスとの関わりを商法（会社法など）をはじめとした法律学の側面から切り取って分析する。とりわけビジネスの主体となる株式会社について深く学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの主体となる株式会社に関する法的知識を涵養することを目的とする。 講義を通じて、受講生が社会生活とビジネスとの接点を見出し、それらを法的に分析することができるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法関連科目を履修していることが望ましい

【授業方法】
オンデマンド型の講義形式をとる。各回の講義でレポート課題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	取締役・取締役会に関する法システムの全体構造とその特質を識別することができる。						1	1						
②	取締役・取締役会に関する主要な学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						2	2						
③	取締役・取締役会についての主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。						2	2						
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回の授業の内容について到達目標②を修得しているか、 毎回のレポートで評価する。	15	15	15								45
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、 期末レポートで評価する。	10	20	25								55
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のレポート内容について次回以降の授業でGoogle Classroomを通じて全体的にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 I	松嶋隆弘＝大久保拓也	中央経済社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
オンデマンド講義のため未定（決定したら講義でアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	資金調達総論	資金調達の総論を学ぶ。	
	この回の到達目標	資金調達の総論を学ぶ。	
	事前学修	日本経済新聞等の経済関連の新聞・雑誌を読み会社法に関する知識に興味をもつ。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本経済新聞等の会社法に関する記事を改めて読み返す。	120分
2	株式の意義	株式の意義を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式の意義を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
3	株式の譲渡	株式の譲渡に関する問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式の譲渡に関する問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
4	新株発行・新株予約権	新株発行・新株予約権を学ぶ。	
	この回の到達目標	新株発行・新株予約権を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
5	自己株式	自己株式についての諸問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	自己株式についての諸問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
6	株式分割・株式併合	株式分割・株式併合を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式分割・株式併合を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	計算規制、会計帳簿、計算書類	計算規制、会計帳簿、計算書類を学ぶ。	
	この回の到達目標	計算規制、会計帳簿、計算書類を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	資本制度	資本制度を学ぶ。	
	この回の到達目標	資本制度を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	組織変更・事業譲渡	組織変更・事業譲渡を学ぶ。	
	この回の到達目標	組織変更・事業譲渡を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	合併	合併を学ぶ。	
	この回の到達目標	合併を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	株式交換・株式移転・株式交付	株式交換・株式移転・株式交付を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式交換・株式移転・株式交付を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	株式分割	株式分割を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式分割について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	キャッシュ・アウト	キャッシュ・アウトを学ぶ。	
	この回の到達目標	キャッシュ・アウトを理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	会社法関連の罰則	会社法関連の罰則を学ぶ。	
	この回の到達目標	会社法関連の罰則を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	期末レポート まとめ	講義で学んだ項目を期末レポートで纏める。	
	この回の到達目標	前期で学んだ事項を理解できているか確認する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して試験の内容を再確認する。	120分

科目名	経済学 I	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間のなかで講義内容に関する課題やアンケートに答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間中やポータルシステムを通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。または、メール連絡を受ければ調整可能です。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	経済学Ⅰを受講するにあたって		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第1章1経済と経済学をよく読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	経済学の基本問題と経済学の課題(1)		経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書第1章2経済循環の構造 3市場経済・計画経済・混合経済 4市場機構の仕組み 5経済学の歴史をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の主要テーマを整理する。		120分
3	消費者行動の理論(1)		消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用および効用関数の概念を身近な例を挙げて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用及び効用関数の概念を身近な例を挙げて説明できる。加重限界効用均等の法則を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章1消費者行動をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、効用関数を自分で描く。		120分
4	消費者行動の理論(2)		消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。		
	事前学修	教科書第2効用関数と無差別曲線をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、無差別曲線を自分で描く。		120分
5	消費者行動の理論(3)		消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を説明できる。。		
	事前学修	教科書第2章3最適消費の条件をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、最適消費点を自分でグラフに描く。		120分
6	消費者行動の理論(4)		消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を説明できる。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章4価格と所得の変化をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、需要曲線を自分で描く。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。		
	事前学修	教科書第3章1生産者の行動、2生産関数と等量曲線をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産者行動の目的を整理する。		120分
8	生産者行動の理論(2)		企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。		
	事前学修	教科書第3章3費用関数をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、費用曲線を自分で描く。		120分
9	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。		
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。		120分
10	生産者行動の理論(4)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について微分を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。		
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。		120分
11	生産者行動の理論(5)		損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を説明できる。		
	事前学修	教科書第3章5供給曲線をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線を自分でグラフに描く。		120分
12	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。	
	この回の到達目標	目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。		
	事前学修	教科書第4章1競争市場をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の分類を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	競争市場均衡(2)	経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
	事前学修	教科書第4章2余剰分析、3比較静学をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、余剰概念を整理する。	120分
14	不完全競争市場(1)	独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。独占企業の利潤極大化条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争市場における独占企業の利潤極大化条件を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1不完全競争市場とは、2完全独占市場とは、3独占的競争・寡占市場とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、不完全競争理論を整理する。	120分
15	講義のまとめ	講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のミクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分

科目名	経済学Ⅰ	担当者	川又 祐	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める（動画の視聴）。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。 グーグルクラスルームを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容に関する課題（小テスト等）を出し、答えてもらう。 グーグルフォームあるいは出席管理システム（レスポん）を使用する予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。 場合により授業外課題を筆記試験に替えることがある。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはグーグルクラスルームやポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	経済学Ⅰを受講するにあたって		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第1章1経済と経済学をよく読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	経済学の基本問題と経済学の課題(1)		経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。社会科学における経済学の位置づけ、経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や貨幣の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書第1章2経済循環の構造 3市場経済・計画経済・混合経済 4市場機構の仕組み 5経済学の歴史をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の主要テーマを整理する。		120分
3	消費者行動の理論(1)		消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用および効用関数の概念を身近な例を挙げて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用及び効用関数の概念を身近な例を挙げて説明できる。加重限界効用均等の法則を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章1消費者行動をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、効用関数を自分で描く。		120分
4	消費者行動の理論(2)		消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動の分析に用いる無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。		
	事前学修	教科書第2効用関数と無差別曲線をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、無差別曲線を自分で描く。		120分
5	消費者行動の理論(3)		消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、最適消費、効用極大条件を説明できる。。		
	事前学修	教科書第2章3最適消費の条件をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、最適消費点を自分でグラフに描く。		120分
6	消費者行動の理論(4)		消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を説明できる。さらに需要の価格弾力性、上級財・下級財、代替財・補完財を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章4価格と所得の変化をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、需要曲線を自分で描く。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章1生産者の行動、2生産関数と等量曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産者行動の目的を整理する。	120分
8	生産者行動の理論(2)		企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産を行う際の生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章3費用関数をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、費用曲線を自分で描く。	120分
9	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。	120分
10	生産者行動の理論(4)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について微分を用いて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章4最適生産の決定をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、利潤最大化点を自分でグラフに描く。	120分
11	生産者行動の理論(5)		損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線の導出を説明できる。	
	事前学修	教科書第3章5供給曲線をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、損益分岐点、操業停止点、供給曲線を自分でグラフに描く。	120分
12	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
	この回の到達目標	目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1競争市場をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の分類を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	競争市場均衡(2)		経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
	事前学修	教科書第4章2余剰分析、3比較静学をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、余剰概念を整理する。	120分
14	不完全競争市場(1)		独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。独占企業の利潤極大化条件を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争市場における独占企業の利潤極大化条件を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1不完全競争市場とは、2完全独占市場とは、3独占的競争・寡占市場とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、不完全競争理論を整理する。	120分
15	講義のまとめ		講義のまとめ
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のミクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分

科目名	経済学 I	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用してのオンラインによる講義。 リアクション・ペーパー提出課題、レポート提出課題をGoogleClassroomにて配信回収を行う。 定期試験（レポート課題）の解説を後日、GoogleClassroomにて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。 オンライン授業のため、レポート提出による評価に変更の可能性はある。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、小テスト（又はリアクション・ペーパー）により、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版』	楠谷・川又編著	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス、導入授業、経済学の基本問題と経済学の課題①】		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。経済と経済学の関係、経済学の主要テーマが何であることを説明できる。経済学の分類を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会科学の中の経済学の分析対象と分析手法、及び経済学の体系、経済学の主要テーマ、経済学の分類、について理解し説明することが出来る。		
	事前学修	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書 第1章の「1. 経済と経済学」の部分を読み、経済と経済学の関係を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【経済学の基本問題と経済学の課題②】		経済循環の構造を学習し、消費者（家計）、企業、政府との財や金の流れから経済主体のつながりを説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場を介した経済循環の構造を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章の「2. 経済循環の構造」の部分を読み、経済循環の構造を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、第1章末の問題（1）と（2）を自分なりの説明をまとめる。		120分
3	【経済学の基本問題と経済学の課題③】		資源配分の異なるシステム（市場経済・計画経済・混合経済）を学習し相違点を説明できる。また、市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、市場経済、計画経済、混合経済の相違点、そして、市場の概念、市場の価格決定メカニズム、市場による資源配分機能（役割）を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章の「3. 市場経済・計画経済・混合経済」「4. 市場機構の仕組み」を読み、市場機構の大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、需要曲線や供給曲線が移動すると価格と生産量はどのように変化するか、作図してみよう。		120分
4	【経済学の歴史】 「リアクション・ペーパー実施予定」		経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、経済学の発展過程、及び歴史上の著名な経済学者の学説の特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章の「5. 経済学の歴史」を読み、歴史に残る著名な経済学者の時代的背景や学説を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートや配付資料を確認して、スミス、マルクス、ケインズの経済学の特徴について自分なりの説明をまとめる。		120分
5	【消費者行動の理論①】		消費者行動とは何か、また、消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、消費者行動の分析の基本となる効用関数、無差別曲線の基礎的概念を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章の「1. 消費者行動」「2. 効用関数と無差別曲線 A効用関数 B無差別曲線 C無差別曲線の特徴」を読み、内容を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）を解いてみる。		120分
6	【消費者行動の理論②】		予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、予算制約線と無差別曲線の基礎的概念を用いて、市場の需要曲線の導き方を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章の2の「D ささまざまな無差別曲線」、「3. 最適消費の決定」を読み、内容を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートや配付資料を確認して、章末にある問題（3）を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【消費者行動の理論③】 「レポート提出課題予定」	消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するか説明できる。また、財の価格変化と消費者の購入量変化から消費者の需要曲線の導出を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が、所得の変化や財価格の変化による消費者の財購入の最適化は満足（効用）の最大化であること、また、財の価格変化と消費者の購入量変化から消費者の需要曲線が導出されることを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第2章の「4. 価格と所得の変化」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートや配付資料を確認して、章末にある問題（4）を解いてみる。	120分
8	【生産者行動の理論①】	生産者の行動とは何を意味するのか学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的關係を表す生産関数の概念を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者（企業）の行動目標、生産者（企業）の行動原則について理解し説明できる。また、生産者行動分析の基礎となる生産関数の基礎的概念を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第3章の「1. 生産者の行動」、「2. 生産関数と等量曲線」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）を解いてみる。	120分
9	【生産者行動の理論②】	技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者行動分析の基礎となる技術的限界代替率、生産可能性フロンティアの基礎的概念を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第3章の2「B 生産技術と等量曲線」「C 生産可能性フロンティア」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（2）について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	【生産者行動の理論③】 「リアクション・ペーパー実施予定」	企業が財を生産する際の費用にどのような分類が経済学で用いられているのか、固定費用、可変費用、総費用、平均費用、平均可変費用、限界費用などの費用の基礎的概念を学習し説明できる。さらに、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習し、財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財の市場価格と生産における限界費用が等しくなるところで利潤が最大化すること。財の価格が変化すると限界費用との一致が変化し、企業は生産量を変化させることになること。価格変化と限界費用が一致する軌跡から企業の供給曲線の導出を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第3章の「3. 費用関数」、「4. 最適生産の決定」、「5. 供給曲線」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（3）を自分なりの説明でまとめる。	120分
11	【競争市場均衡①】	完全競争市場の概念を学習、また、市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習によって、市場均衡の概念、市場均衡の安定性、について説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全競争市場の概念、各個人の需要曲線を集計した市場の需要曲線の導出、また各企業の供給曲線を集計した市場の供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、市場均衡の安定性について、それぞれ理解し悦名出来る。	
	事前学修	教科書 第4章の「1. 競争市場」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）を自分なりの説明でまとめる。	120分
12	【競争市場均衡②】	経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習し、その概念を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学を学習するうえで、また経済を研究するうえで重要な概念である効率の意味を余剰の概念を用いて理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章「3. 比較静学」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認し、章末の問題（2）を自分なりの説明でまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【競争市場均衡③】 「レポート提出課題予定」	市場の需要曲線、供給曲線のシフト（移動）の原因を学修して、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
	この回の到達目標	市場における需要曲線および供給曲線のシフトの概念を理解し、市場価格の変化を説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章「3. 比較静学」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認し、章末の問題（3）を自分なりの説明でまとめる。	120分
14	【不完全競争市場①】	独占市場とはどのような市場をいうのか、また、独占企業の生産量決定にどのような特徴があるのか完全競争市場下の企業と比較して学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全独占市場とはどのような市場をいうのか、なぜ独占が生じるのか、完全競争市場と比較して理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章「1. 不完全競争市場とは」、「2. 完全独占市場とは」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、完全競争市場に在る企業の個別需要曲線と独占企業の個別需要曲線の相違について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	【不完全競争市場②】	独占による社会的損失はどうして発生するのか説明できる。独占企業は、同一の財について顧客ごとに異なる価格を付けることによって、利潤を最大かしようとすることがある。価格差別戦略の実態を身近な経済取引から説明できる。独占的競争、製品の差別化、広告・ブランド戦略、寡占市場での競争の各概念を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占による社会的損失はどうして発生するのか理解し説明できる。また、身近な経済取引から企業の価格差別戦略を体験していること、なぜ企業はその様な行動を取るのか理解し説明できる。独占的競争、製品の差別化、広告・ブランド戦略、寡占市場での競争の各概念を学習し独占寡占企業のさまざまな行動概念を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章の2の「C 独占による社会的損失」「D 価格差別戦略」「3. 独占的競争・寡占市場とは」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、企業による身近な価格差別戦略の事例を検索してみる。また、章末の問題（2）と（3）について自分なりの説明でまとめる。	200分

科目名	経済学 I	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、Google Classroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 経済学入門 [第2版]	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取る） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	1 経済と経済学 2 経済循環の構造		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済学とはどのような学問であるか説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「経済学とは何か」と「ミクロ経済学とマクロ経済学の違い」について理解するように努力すること。	120分	
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分	
2	経済学の基本問題と経済学の課題(2)	3 市場経済・計画経済・混合経済 4 市場機構の仕組み 5 経済学の歴史		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場と合理的行動、経済学の大きな流れについて説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場」と「合理的行動」を理解するように努力すること。	120分	
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分	
3	消費者行動の理論(1)	1 消費者行動 2 効用関数と無差別曲線		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、効用と無差別曲線について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「効用関数」と「無差別曲線」を理解するように努力すること。	120分	
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分	
4	消費者行動の理論(2)	3 最適消費の決定		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最適消費の決定について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「予算制約線」の概念と「最適消費の決定」の理論を理解するように努力すること。	120分	
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分	
5	消費者行動の理論(3)	4 価格と所得の変化		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、所得と価格の変化に対する需要の変化について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、価格と所得が変化した場合に、それぞれ需要関数がどのように変化するかを理解するように努力すること。	120分	
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分	
6	生産者行動の理論(1)	1 生産者の行動 2 生産関数と等量曲線		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生産関数と技術的限界代替率について説明できる。		
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「生産関数」と「等量曲線」、「生産可能性フロンティア」を理解するように努力すること。	120分	
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	生産者行動の理論(2)	3 費用関数	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最適消費の決定について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「効用関数」と「無差別曲線」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
8	生産者行動の理論(3)	4 最適生産の決定	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、企業の生産量決定のメカニズムについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「利潤最大化条件」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
9	生産者行動の理論(4)	5 供給曲線	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、供給曲線の導出について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「損益分岐点」と「操業停止点」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
10	競争市場均衡(1)	1 競争市場	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、市場均衡と均衡の安定性について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場需要曲線」と「市場供給曲線」、「市場均衡」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
11	競争市場均衡(2)	2 余剰分析	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、社会的余剰について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「消費者余剰」と「生産者余剰」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
12	競争市場均衡(3)	3 比較静学	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、需要曲線と供給曲線のシフトについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「需要曲線のシフト」と「供給曲線のシフト」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	不完全競争市場(1)	1 不完全競争市場とは 2 完全独占市場とは	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、独占市場の社会的余剰について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「独占企業の行動」と「価格差別戦略」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
14	不完全競争市場(2)	3 独占的競争・寡占市場とは	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、独占的競争と寡占市場について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「独占的競争」と「寡占市場」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
15	試験	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者行動の理論と企業行動の理論、市場均衡について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の1章から5章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分

科目名	経済学Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することができるが、この講座では主に消費者(家計)、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるために、初級の経済理論を修得し、社会で生じる価格決定や価格変動について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(12:20～12:50)研究室にて、 事前にアポイントメントを取ること

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	経済学Ⅰを受講するにあたって		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	経済学の基本問題と経済学の課題(1)		経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書(第1章1節、2節、3節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
3	経済学の基本問題と経済学の課題(2)		市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。		
	事前学修	教科書(第1章4節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
4	経済学の基本問題と経済学の課題(3)		経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。		
	事前学修	教科書(第1章5節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
5	消費者行動の理論(1)		消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。		
	事前学修	教科書(第2章1節、2節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
6	消費者行動の理論(2)		予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線の導出を説明できる。		
	事前学修	教科書(第2章3節、4節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	生産者行動の理論(1)		生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。		
	事前学修	教科書(第3章1節、2節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
8	生産者行動の理論(2)		企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産要素を購入する費用に限りがあり、その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を説明できる。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を説明できる。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。		
	事前学修	教科書(第3章3節、4節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
9	生産者行動の理論(3)		最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線の導出を説明できる。		
	事前学修	教科書(第3章5節、6節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
10	競争市場均衡(1)		市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。		
	事前学修	教科書(第4章1節、2節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
11	競争市場均衡(2)		経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。		
	事前学修	教科書(第4章3節、4節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分
12	不完全競争市場(1)		独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占市場とはどのような市場かを説明できる。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して説明できる。		
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	不完全競争市場(2)		価格差別の概念を学習する。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格差別の概念を説明できる。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節、4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
14	不完全競争市場(3)		不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習する。さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか説明できる。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度、さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章5節、6節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
15	講義のまとめ		講義のまとめ
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間の中で講義内容に関する課題やアンケートに答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。または、メール連絡を受ければ調整可能です。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国民所得のさまざまな概念(1)	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。 広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得の概念を整理する。	120分
3	国民所得のさまざまな概念(2)	国民所得理論における三面等価の原則の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、三面等価の原則の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章2三面等価の原則をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、三面等価の原則を整理する。	120分
4	国民所得のさまざまな概念(3)	国内総生産、および名目値と実質値の相違を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国内総生産、および名目値と実質値の相違を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章3国内総生産（GDP）、4名目と実質をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、自分でパーシェ指数を計算する。	120分
5	均衡国民所得の決定（1）	国民所得を大きくする方法を学習する。 ケインズの有効需要の原理を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズの有効需要の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第7章1有効需要の原理、2消費、投資と乗数効果の関係をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、消費関数のグラフを自分で描く。	120分
6	均衡国民所得の決定（2）	政府支出増減、増減税の効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府支出増減、増減税の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、45度線のグラフを自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	均衡国民所得の決定（3）	フィスカル・ポリシーについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィスカル・ポリシーを説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、インフレーションとデフレーションの相違を整理する。	120分
8	国際経済学の基礎（1）	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、国民所得を大きくする方法を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、絶対優位と絶対劣位を整理する。	120分
9	国際経済学の基礎（2）	生産可能性フロンティアと特化との関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産可能性フロンティアと特化との関係について説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産可能性フロンティアのグラフを自分で描く。	120分
10	金融論の基礎	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章1金融とは、2貨幣とは、3金利とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、貨幣の機能を整理する。	120分
11	財政学の基礎（1）	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政の三大機能を説明できる。	
	事前学修	教科書第9章1政府の経済活動、2財政をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政の三大機能を整理する。	120分
12	財政学の基礎（2） 公共経済学の基礎	経費論およびプライマリー・バランスを学習する。 市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政問題を説明できる。 到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第9章3日本の財政問題をよく読む。 教科書第10章公共経済学の基礎をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経済学の基礎（3）	国際貿易の基礎理論として、貿易と国内市場均衡が、外国為替相場を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、貿易と余剰の関係、外国為替相場を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論、2外国為替相場と国際収支をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、固定相場制と変動相場制を整理する。	120分
14	国際経済学入門（2） 日本経済論（1）	円高、円安の要因とファンダメンタルズを学習する。 日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。 日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。 日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章2外国為替相場と国際収支をよく読む。 教科書第12章1占領政策と戦後復興をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、ファンダメンタルズを整理する。	120分
15	日本経済論（2） 講義のまとめ	アベノミクスの評価と、講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	教科書第12章2高度経済成長とその終焉、3バブル経済とその崩壊、4小泉構造改革とアベノミクスをよく読む。 初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のマクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める(動画の視聴)。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。 グーグルクラスルームを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容に関する課題（小テスト等）を出し、答えてもらう。 グーグルフォームあるいは出席管理システム（レスポンス）を使用する予定。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。 場合により授業外課題を筆記試験に替えることがある。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいは-google-クラスルームやポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国民所得のさまざまな概念(1)	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。 広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得の概念を整理する。	120分
3	国民所得のさまざまな概念(2)	国民所得理論における三面等価の原則の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、三面等価の原則の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章2三面等価の原則をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、三面等価の原則を整理する。	120分
4	国民所得のさまざまな概念(3)	国内総生産、および名目値と実質値の相違を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国内総生産、および名目値と実質値の相違を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章3国内総生産（GDP）、4名目と実質をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、自分でパーシェ指数を計算する。	120分
5	均衡国民所得の決定（1）	国民所得を大きくする方法を学習する。 ケインズの有効需要の原理を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズの有効需要の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第7章1有効需要の原理、2消費、投資と乗数効果の関係をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、消費関数のグラフを自分で描く。	120分
6	均衡国民所得の決定（2）	政府支出増減、増減税の効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府支出増減、増減税の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、45度線のグラフを自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	均衡国民所得の決定（3）	フィスカル・ポリシーについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィスカル・ポリシーを説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、インフレーションとデフレーションの相違を整理する。	120分
8	国際経済学の基礎（1）	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、国民所得を大きくする方法を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、絶対優位と絶対劣位を整理する。	120分
9	国際経済学の基礎（2）	生産可能性フロンティアと特化との関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産可能性フロンティアと特化との関係について説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産可能性フロンティアのグラフを自分で描く。	120分
10	金融論の基礎	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章1金融とは、2貨幣とは、3金利とはをよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、貨幣の機能を整理する。	120分
11	財政学の基礎（1）	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政の三大機能を説明できる。	
	事前学修	教科書第9章1政府の経済活動、2財政をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政の三大機能を整理する。	120分
12	財政学の基礎（2） 公共経済学の基礎	経費論およびプライマリー・バランスを学習する。 市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政問題を説明できる。 到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第9章3日本の財政問題をよく読む。 教科書第10章公共経済学の基礎をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	国際経済学の基礎 (3)	国際貿易の基礎理論として、貿易と国内市場均衡が、外国為替相場を学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、貿易と余剰の関係、外国為替相場を説明できる。		
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論、2外国為替相場と国際収支をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、固定相場制と変動相場制を整理する。		120分
14	国際経済学入門 (2) 日本経済論 (1)	円高、円安の要因とファンダメンタルズを学習する。 日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。 日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。		
	事前学修	教科書第11章2外国為替相場と国際収支をよく読む。 教科書第12章1占領政策と戦後復興をよく読む。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、ファンダメンタルズを整理する。		120分
15	日本経済論 (2) 講義のまとめ	アベノミクスの評価と、講義のまとめ		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。		
	事前学修	教科書第12章2高度経済成長とその終焉、3バブル経済とその崩壊、4小泉構造改革とアベノミクスをよく読む。 初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。		120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のマクロ経済学の教科書を読んでみる。		120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していること。

【授業方法】		
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用してのオンラインによる講義。 リアクション・ペーパー提出課題、レポート提出課題をGoogleClassroomにて配信回収を行う。 定期試験（レポート課題）の解説を後日、GoogleClassroom（又はポータル・システム）にて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。 オンライン授業のため、レポート提出による評価に変更の可能性はある。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、小テスト（又はリアクション・ペーパー）により経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内で解説、または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。期末試験の解説を後日ポータルを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版』	楠谷・川又編著	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス，導入授業】 【国民所得のさまざまな概念①】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明する。受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、さらに、国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎的概念である国民所得、三面等価の原則について学習し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、マクロ経済学の分析対象と分析方法、金融論の基礎的体系、財政学の基礎的体系、公共経済学の基礎的体系国際経済学の基礎的体系について理解し説明することが出来る。また、マクロ経済学の基礎的概念である国民所得、三面等価の原則について理解し説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書「第6章 国民所得のさまざまな概念」の「1 国民所得」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【国民所得のさまざまな概念②】	国内総生産（GDP）、名目GDPと実質GDPについて学習し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、国内総生産（GDP）、名目GDPと実質GDPについて理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章の「3 国内総生産」、「4 名目と実質」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	【均衡国民所得の決定①】	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習し、説明できる。また、所得と消費支出の関係を表す消費関数を学習し、さらに投資が増えると国民所得が増えること、投資が増えると投資額の数倍の国民所得が増えるという乗数効果の理論を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、国民所得の大きさは総需要と総供給が等しくなるときに決まることを理解し説明できる。消費関数とは何か、乗数効果の概念は何かについて理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第7章の「1. 総需要と総供給」、「2. 消費、投資と乗数効果の関係」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を確認して、章末にある問題を解いてみる。	120分
4	【均衡国民所得の決定②】	国民所得の規模決定に関する重要な恒等式と作図によって学習し説明できる。また、政府支出が拡大すると経済波及効果によって政府支出の乗数倍国民所得が増えることを説明できる。さらに、租税が国民所得に与える影響を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、国民所得の大きさはどのように決まるのかを理解し説明できる。乗数効果の概念を理解し説明できる。減税は、国民所得の大きさにどの程度影響を与えるのか租税乗数の概念を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第7章の「3. 政府支出拡大と減税の効果」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、以下の問題を解きなさい。 $C=40+0.6Y$ （消費関数）、 $I=100$ （投資額）、 $G=50$ （政府支出額）のとき、 （問） Y （GDP＝国民所得）の金額を求めよ。	120分
5	【小テスト（リアクション・ペーパー）実施】	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標②③に係わる理解が身についているか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国民所得決定の基礎的理解が身についているか確認する。	
	事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。	150分
	事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
6	【金融論の基礎①－金融とは何か】	金融とは何かを理解するために金融の役割、金融機関、直接金融・間接金融をそれぞれ学習し説明できる。さらに、貨幣とは何かを理解するために貨幣の機能、貨幣の範囲について学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、金融の役割、金融機関、直接金融・間接金融の概念をそれぞれ理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第8章の「1. 金融とは」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（1）について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【金融論の基礎②－貨幣とは何か、金利とは何か】 「レポート提出課題予定」	貨幣の機能、貨幣の範囲について理解し説明できる。さらに、金利と利回りの概念を学習し、概念の違いを説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、金利及び利回りの概念を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第8章の「2. 貨幣とは」、「3. 金利とは」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（2）と（3）について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	【財政学の基礎①】	経済循環の図によって、政府と民間部門（家計、企業）のつながりを学習する。さらに、財政の役割、財政経費、租税について学習して説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、政府と民間部門との間の財サービスと貨幣の流れ、財政の役割、財政経費、租税の意義を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第9章 「1. 政府の経済活動」、「2. 財政 A財政の役割、B経費、C租税」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（1）（2）について、回答する。	120分
9	【財政学の基礎②】	公債発行と日本の発行残高の現状、公的年金制度の仕組み、財政政策の概念、日本財政の抱える財政赤字と世代間の負担の不公平について学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、公債発行と日本の発行残高の現状、公的年金制度の仕組み、財政政策の概念、日本の財政が抱える問題を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第9章 「2. 財政 D公債 E社会保障 F財政政策」、「3. 日本の財政問題」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（3）について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	【公共経済学の基礎①－市場の失敗】	市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴点であることを学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、市場の失敗するケースの意味を理解し、公共経済学の研究目的が市場の失敗を調整する方法を示すことにあることを理解し説明できる。さらに、公共財の概念を学修し、なぜ市場は公共財の最適供給に失敗し処理できないのか理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第10章の「1. 公共経済学とは何か」、「2. 市場の機能と失敗」、「3. 公共財の供給」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	市場の機能とメリットは何か、教科書、講義ノートと配付資料を確認して、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	【公共経済学の基礎②－公共財、外部性と市場の失敗】 「リアクション・ペーパー実施予定」	どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適（効率的）資源配分を実現することが出来ないのか学習し、どのような調整策があるか説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、外部性の概念を学習し、なぜ市場は外部性の問題を処理できないのか理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第10章の「4. 外部性」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題を解いてみる。	120分
12	【国際経済学の基礎①－貿易と余剰、比較優位】	貿易と余剰、比較優位を学習し、なぜ貿易が行われ、どのような財が国際間で貿易の対象となるのか国際経済学の基礎を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、貿易と余剰の概念を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第11章の「1. 国際貿易の基礎理論」の「A貿易と余剰」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【国際経済学の基礎②－外国為替相場、国際通貨制度、国際収支統計】 「レポート提出課題予定」	比較優位、外国為替相場、国際通貨制度、国際収支統計、国民経済計算と国際収支との関連について学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、比較区優位外国為替相場の決定、国際通貨制度（固定相場制、変動相場制）、国際収支統計の各概念、及び国民経済計算と国際収支との関連について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第11章の1の「B比較優位」、「2. 外国為替相場と国際収支」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	章末の問題（1）と（2）について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	【日本経済論①－高度経済成長とその終焉】	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習して説明できる。さらに、高度経済成長の終焉を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、戦後からの復興、占領下の三大構造改革、朝鮮戦争特需の意義を理解し説明できる。高度経済成長を可能とした要因及び高度経済成長の終焉を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第12章の「1. 占領政策と戦後復興、2. 高度経済成長とその終焉」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	章末の問題（1）について、自分なりの説明をまとめる。 レポート課題の解答作成	120分
15	【日本経済論②－バブル経済の発生とその崩壊】	バブル経済の発生とその崩壊、小泉構造改革とアベノミクスを学習し、バブル経済発生の背景と崩壊原因、小泉構造改革の特徴と時代背景、アベノミクスの概要を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、受講生が、バブル経済発生の背景と崩壊原因、小泉構造改革の特徴と時代背景、アベノミクスの概要を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第12章の「3. バブル経済とその崩壊、4. 小泉構造改革とアベノミクス」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	章末の問題（2）（3）について、自分なりの説明をまとめる。 初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し整理する。	200分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、Google Classroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 経済学入門 [第2版]	楠谷清・川又祐	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取る） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅰの復習	1 経済と経済学（第1章） 2 経済循環の構造（第1章）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済学とはどのような学問であるか説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「ミクロ経済学とマクロ経済学の違い」と「経済主体」、「市場」について理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
2	国民所得のさまざまな概念(1)	1 国民所得 2 三面等価の原則(1)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、付加価値と産業連関表について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「付加価値」と「産業連関表」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
3	国民所得のさまざまな概念(2)	2 三面等価の原則(2) 3 国内総生産	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、三面等価の原則および付加価値の概念を使って国内総生産について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「三面等価の原則」と「国内総生産（GDP）」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
4	国民所得のさまざまな概念(3)	4 名目と実質	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名目GDPと実質GDPの違いと物価指数について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「名目GDP」と「実質GDP」、「物価指数」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
5	均衡国民所得の決定(1)	1 有効需要の原理 2 消費、投資と乗数効果の関係(1) 総需要とケインズ型消費関数	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ケインズ型消費関数と可処分所得の関係について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「ケインズ型消費関数」と「限界消費性向」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
6	均衡国民所得の決定(2)	2 消費、投資と乗数効果の関係(2) 乗数効果 3 政府支出拡大と減税の効果(1)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、乗数効果（メカニズム）および均衡国民所得について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「乗数」と「均衡国民所得」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	均衡国民所得の決定(3)	3 政府支出拡大と減税の効果(2)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府支出拡大および減税が均衡国民所得に与える効果について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「政府支出拡大の効果」と「減税の効果」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
8	金融論の基礎(1)	1 金融とは	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金融システムと金融の役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「金融の役割」と「直接金融と間接金融の違い」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
9	金融論の基礎(2)	2 貨幣とは 3 金利とは	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、貨幣の機能および金利と債券価格について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「信用創造」と「金利と債券価格の関係」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
10	財政学の基礎(1)	1 政府の経済活動 2 財政(1)	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政府の経済活動と財政の3機能について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「資源配分」と「所得再分配」、「経済安定化」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
11	財政学の基礎(2)	2 財政(2) 3 日本の財政問題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の財政状況と今後の課題について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
12	公共経済学の基礎	1 公共経済学とは何か 2 市場の機能と失敗 3 公共財の供給 4 外部性	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、市場の機能と市場が失敗する4つのケース、公共財、外部性について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「市場の失敗」と「公共財」、「外部性」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経済学の基礎(1)	1 国際貿易の基礎理論	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自由貿易均衡や比較優位を通して貿易の経済効果について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「自由貿易の利益」と「比較優位」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
14	国際経済学の基礎(2)	2 外国為替制度と国際収支	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、為替レートと貿易や金融取引、国際収支の関係について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当ページを読み、その内容を大まかに理解し、疑問点をまとめる。特に、「為替レートと輸出入の関係」を理解するように努力すること。	120分
	事後学修	ノートを整理して、学んだ概念と理論をまとめる。	120分
15	試験	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学と財政学、公共経済学、国際経済学の入門的な内容を総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の6章から11章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分

科目名	経済学Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していること。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間中に講義内容に関する課題を出し、答えてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。				1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。				1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。				1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10							80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(12:20～12:50)研究室にて、事前にアポイントメントを取ることに

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国民所得のさまざまな概念	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。	
	事前学修	教科書(第6章)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
3	均衡国民所得の決定(1)	総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを説明できる。	
	事前学修	教科書(第7章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
4	均衡国民所得の決定(2)	国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国民所得の規模(金額)の決定を重要な恒等式と作図によって説明できる。	
	事前学修	教科書(第7章3節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
5	金融論の基礎(1)	貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲から学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲を説明できる。	
	事前学修	教科書(第8章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
6	金融論の基礎(2)	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類について説明できる。	
	事前学修	教科書(第8章3節、4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	財政学の基礎(1)	財政の役割と機能について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割と機能について説明できる。	
	事前学修	教科書(第9章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
8	財政学の基礎(2)	日本の財政の現状と問題点について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政の現状と問題点について説明できる。	
	事前学修	教科書(第9章2節、3節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
9	財政政策と金融政策	財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を説明できる。	
	事前学修	教科書(第7章、第8章、第9章)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
10	公共経済学の基礎(1)	市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書(第10章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
11	公共経済学の基礎(2)	どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのかを学習し、どのような調整策があるかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適(効率的)資源配分を実現することができないのか、さらに、どのような調整策があるかを説明できる。	
	事前学修	教科書(第10章3節、4節、5節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
12	国際経済学入門(1)	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、近代貿易理論の展開を説明できる。	
	事前学修	教科書(第11章1節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際経済学入門(2)	外国為替相場と国際収支について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国為替相場と国際収支について説明できる。	
	事前学修	教科書(第11章2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
14	日本経済論	日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
	事前学修	教科書(第12章)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用	120分
15	講義のまとめ	講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済行政法Ⅰ	担当者	友岡 史仁	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
世の中多くの場所で国や公共団体が規制を行っています。このような規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見ようというのが、この授業の主な目的です。規制は必要と考えられるので行われますが、不要となると本当はそれをやめるべきです。しかしながら、利害関係が複雑に絡み合うのでなかなかそういうわけにはいきません。このような状態をどのように考えたらよいのかを具体例を交えながら検討します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国や公共団体が私たちの日常生活（経済活動）を規制する場合、それを「行政上の規制」と呼ぶことができます。これまで国は「公的規制」と呼んできましたが、その規制が効率的であるべきなのに非効率化したり、時代の変化で技術が各段に成長したりして、規制が不要となってきました。しかし本当のところは、多数の規制が存在することも事実です（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本授業では、このような「行政上の規制」の具体例を学び、それにかかわる諸問題を法的思考（リーガルマインド）で解き明かすための能力を身につけられるようにします。

【履修条件】
憲法、民法、行政法を履修していることが望ましいのですが、初めて法律科目を学ぶ履修予定者も考慮します。

【授業方法】
講義およびケーススタディになります。担当者が執筆したテキストを中心に進めますが、最新事情を交えた時事問題にも触れます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	履修者が「行政上の規制」のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。		2		2				
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。		2		2				
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015年	教科書	必携
行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:30/木曜日19:30に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	経済行政法総論（総説）——経済行政法の位置づけ（1）	経済行政とは何か？公的規制と規制緩和の関係。民間化・民営化などのキーワードを説明し、これから本授業で扱う論点などを概説します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解でき、難しいキーワードが出てくるので、それらに慣れることを目指します。	
	事前学修	本授業で用いる教科書の最初（第1部のサマリー）を一読してみましょう。	120分
	事後学修	授業内容について次の回につなげられるよう、当日扱った教科書の該当箇所をもう一度読んでみましょう。次に出てくる具体例も想定してみてください。	120分
2	経済行政法の位置付け（2）	経済行政上の規制のとらえ方、経済行政法の位置付け等について説明していきます。「経済行政法」という授業は、他の法律分野とは異なり位置づけが難しいところがあります。それを平易に解説します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、他の法律との関係性を具体的に説明できることを目指します。	
	事前学修	第1回目で取り上げた授業内容から、教科書ではどのような話が登場するのかを自分なりに考えてみましょう。	120分
	事後学修	第1回目と第2回目の授業内容を比較して、自分が接した時事問題とどのように関係するかを考えたいので、第3回目につなげてみましょう。	120分
3	経済行政法の位置付け（3）	経済行政と法治主義、公的規制の機能、独禁法の適用関係などの多様な論点について、学んでいきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、基本的な概念と経済行政法との結びつきを具体例を交えて論じられることを目指します。	
	事前学修	第2回目の事後学習で踏まえた時事問題がどのように法的に問題となるのかを考えるため、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	今回の授業内容は、本授業の中でももっともコアとなり学習するうえでも基礎的な内容を含むものですので、応用的論点に移る前に今一度その内容を復習してみましょう。	120分
4	経済行政法の位置付け（4）	経済行政の歴史と外国法のほか、隣接諸分野との関係として、憲法、民事法、経済法・独禁法、刑事法等を取り上げます。独禁法の適用関係は第3回目で触れていますが、ここで改めて触れることにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、外国法との関係性を意識するほか、隣接科目である経済法との接点に分かることを目指します。	
	事前学修	第3回目での基礎的な議論が、他の法分野とどのように関係するかを考えるため、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	他の法分野は受講生の中にはまだ学んだことのない諸君もおられるはずですので、今回の授業の復習を兼ねて、どのような法分野が経済行政法と関わり合いがあるのかを思い描いて見ましょう。	120分
5	経済行政過程論（1）	経済行政の基本的前提となる二面関係・三面関係、および公法私法の関係等について取り上げます。これらは、行政法の講義でも触れる箇所ですが、経済活動を視野に入れて、具体例を織り交ぜながら検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、私たちに身近な時事問題とこの講義内容との関係性を明らかにできることを目指します。	
	事前学修	今回の授業から、法解釈の方法について学んでいきます。本授業では特に行政法・経済法（独禁法）との接点が密接なため、その両方（または行政法を中心）について、教科書を通じて学ぶよう心がけてください。	60分
	事後学修	理論的な問題、事例的な議論が複雑に絡み合ってきますので、その整理をこの段階でしてみましょう。	180分
6	経済行政過程論（2）	経済行政の政策論であり、経済行政における政策、政策過程がどのように具体的課題と接点を持つかについて検討するものです。本来、法律は条文を解釈するものと思われがちですが、経済行政の世界では政策の実現可能性を踏まえた検討が必要ですので、このことを意識することになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、法律だけではなく政策の観点からどのような課題があるかを自ら発見できることを目指します。	
	事前学修	第5回目の事後学習を通じて得られた概念が、どのように実際に応用されているかを学ぶ必要があり、そのことがまさにこの回の授業内容になりますので、該当箇所の教科書を一読しておきましょう。	60分
	事後学修	授業では経済政策を中心としてどのように形成されていったのかといった歴史的な過程を中心に議論の対象にしていますので、これまで学んできた歴史を中心に、自分の知識と照らし合わせてみましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	経済行政過程論（３）		経済行政計画は経済政策の実現のための具体的なロードマップを示したものです。それがどのように形作られ、それとあわせて、実現過程の中で国民の意思がどのように反映されるのか（国民参加）について、学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、政策形成に必要な経済行政計画の具体例について理解できることを目指します。		
	事前学修	経済政策の形成を歴史的にとらえる前回の授業に引き続き、それが具体的にどのような形になっていくのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分	
	事後学修	難しい言葉が連続して出てきますので、授業で扱われた専門的単語を今一度復習してみましょう。	120分	
8	経済行政過程論（４）		経済行政における行為形式（１）として、この回では行政立法について学びます。法律では規定されていない事柄について、いったいどのような形で「規制」するのかという視点から、説明していきます。その中でも、経済行政法として最も多用されている「通達」の形式について、その機能等を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、規制や通達という抽象的な概念が経済行政の世界でどのように機能しているかを理解できることを目指します。		
	事前学修	今回からは「行為形式」として、国や公の団体がどのように「規制」を行っているかという形式面について議論するものです。このため、できる限り「経済行政過程論」を扱う部分の教科書を、読むようにしておきましょう。	120分	
	事後学修	複雑な構造を伴う「規制」を具体例を持って説明されますので、どのようにその「規制」が機能しているのかを、時事問題を交えながら考えてみてください。	120分	
9	経済行政過程論（５）		経済行政における行為形式（２）として、「行政処分」について学びます。行政法の履修者はこの表現に聞き覚えがあると思いますが、そうではない諸君に対して、ここでイメージ作りをしてもらうよう試みます。その内容としては、伝統的な整理方法のほかに、詳しい機能ごとに整理します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本講義の隣接科目である行政法の概念を用いることで、「規制」の概念を法的に理解できることを目指します。		
	事前学修	前回の授業で扱った形式以外のものを取り上げる観点から、該当箇所の教科書を読むようにしておきましょう。	60分	
	事後学修	許認可と呼ばれる行為形式を今回は学びましたので、自ら日頃接する時事問題に照らして頭にその内容を吸収しましょう。	180分	
10	経済行政過程論（６）		経済行政における行為形式（３）として、「行政契約」という内容について、経済活動への「規制」という視点にてらして論じます。通常の契約は対等な当事者間で成立しますが、ここでは一方的な義務を負う側（国・公共団体等）に関する法的問題、その他、公のサービスを民間企業が行う場合の課題について、取り上げる予定です。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済活動が民間以外の公の機関によっても行われている実態を知りそこでの課題を理解できることを目指します。		
	事前学修	今回は前回までに学んだ行為形式とは違い、民法などで取り上げられる「契約」をベースにした議論になります。ですので、民法を履修中または履修済の諸君は、そこで学んでいる（学んだ）内容を思い浮かべながら、該当箇所の教科書を一読しましょう。	120分	
	事後学修	今回は、行為形式の中でも、どのような実体があるのかという「現象面」で議論していますので、講義を通じてわかりにくいと感じる諸君については、そこで話された事実がどのように身近な場面で起きているかを思い浮かべるようにしてください。	120分	
11	経済行政過程論（７）		経済行政上のエンフォースメント（実効性確保）を取り上げます。独禁法などでは一般的な課徴金納付命令、公共的なサービスでは問題の多い役務提供拒否（給付拒否）などが、この具体例になります。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済活動が民間以外の公の機関によっても行われている実態を知りそこでの課題を理解できることを目指します。		
	事前学修	「規制」は表面上行われても、それが実際に受け手の側で守られなければ意味がありません。なので、該当箇所の教科書を読むことで、どのような手段がそのためにあるのかについて予習してみましょう。	120分	
	事後学修	ここでも専門用語がたくさん出てきますので、一つ一つの意味合い（使われ方など）に気をつけながら、疑問点を集約しておきましょう。	120分	
12	経済行政過程論（８）		経済行政組織という名称で、「総合調整機能」といった複雑な問題の解決に関する具体的課題、その組織として独任制（大臣責任制）と合議制（第三者機関制）の関係性など、多様な方法の存在を意識して解説します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、行政上の規制を機能させる行政機関の仕組みを、具体例を通じて理解できることを目指します。		
	事前学修	経済行政における行為形式に取り上げた一連の手段は、かなり政策とからみ合わさりながら実行に移されていますので、該当箇所の教科書を一読することで、それらがどのような組織により実行されているのかを意識してみましょう。	120分	
	事後学修	国や公の団体を動かすための組織に関するルールとして、今回取り上げた課題がどのような問題点をはらんでいるかについて、考えてみましょう。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	経済行政過程論（9）		具体的な主体として掲げられるものに、特殊法人、独立行政法人といった法的責任を負う主体があるほか、第三者機関として構成される審議会がどのように経済行政に関与しているかについて、具体例を交えながら論じます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、多数の意思形成機関の存在に注意を払う必要性と求められる機能を理解できることを目指します。		
	事前学修	前回で学んだ経済行政組織としてのルールを実際に運用する法的主体も多数存在するため、どのようなものが具体的にあるかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	今回取り上げた法主体・機関は行政改革の議論の中でも、その存在意義が問われてきましたので、そのことを思い起こしてみましょう。		120分
14	経済行政過程論（10）		経済行政の行政救済論として、経済行政法の特有の訴訟事例を学ぶための基礎知識を身につけることとなります。具体的には、全体像を眺めることと並び、行政訴訟を中心にその訴訟手続についてとりあげることにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本講義と関連する訴訟手続の基本を理解し、その応用事例の論点を明らかにできるよう目指します。		
	事前学修	ここからは訴訟手続の議論にはいりますが、そもそも裁判手続について聞き慣れない、または学んだことがない諸君がいる場合は、是非訴訟手続について書かれた書物を手に取りながら、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	訴訟手続が中心的な議論になりますので、頭に入ってくるのは事実です。ですので、しっかりと教科書で復習などしながら、授業中に取り上げた諸事例への当てはめ方について勉強しておきましょう。		120分
15	経済行政過程論（11）		前回の授業中には十分取り上げられなかった裁判所による国・公の団体の活動に対するコントロールの方法や、損害賠償請求、損失補償等の訴訟事例や制度設計の方法について、取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、各種事例が訴訟手続の中でいかに扱われているかをより具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	前回の授業では主に訴訟手続を中心に議論していますが、それが実際にどのように行われるのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	今回までが経済行政法の総論部分となりますので、これまで学んだことを該当箇所の教科書を通じて自分なりにまとめるようつとめてください。		120分

科目名	経済行政法Ⅱ	担当者	友岡 史仁	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
世の中多くの場所で国や公共団体が規制を行っています。このような規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見ようというのが、この授業の主な目的です。規制は必要と考えられるので行われますが、不要となると本当はそれをやめるべきです。しかしながら、利害関係が複雑に絡み合うのでなかなかそういうわけにはいきません。このような状態をどのように考えたらよいのかを具体例を交えながら検討します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国や公共団体が私たちの日常生活（経済活動）を規制する場合、それを「行政上の規制」と呼ぶことができます。これまで国は「公的規制」と呼んできましたが、その規制が効率的であるべきなのに非効率化したり、時代の変化で技術が各段に成長したりして、規制が不要となってきました。しかし本当のところは、多数の規制が存在することも事実です（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本授業では、このような「行政上の規制」の具体例を学び、それにかかわる諸問題を法的思考（リーガルマインド）で解き明かすための能力を身につけられるようにします。

【履修条件】
憲法、民法、行政法を履修していることが望ましいのですが、初めて法律科目を学ぶ履修予定者も考慮します。

【授業方法】
講義およびケーススタディになります。担当者が執筆したテキストを中心に進めますが、最新事情を交えた時事問題にも触れます。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	履修者が「行政上の規制」のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。		2		2				
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。		2		2				
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015年	教科書	必携
行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日14:30/木曜日19:30に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	経済行政法各論（総説）——事業規制・業務規制法制（１）		経済行政法各論では、まずは「事業規制」・「業務規制」に関わる法制度について、その意味内容を理解することになります。このような用語方法は、本授業独特の側面があるので、その理解につとめます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解します。難しいキーワードが出てくるので、それらに慣れることを目指します。		
	事前学修	今回から経済行政法各論にはいっていきます。まずはどのような内容が各論で扱われるのかを、該当箇所の教科書（とりわけ教科書第2部要旨部分）を一読してみましょう。		120分
	事後学修	用語法の理解を通じて、各論で何が具体的に問題となりそうかについて、総論の復習も兼ねながら考えてみましょう。		120分
2	事業規制・業務規制法制（２）		伝統的に「公企業」とか「公共企業」と呼ばれてきたいわゆる「ネットワーク産業」に関する規制の初歩的な内容についてとりあげます。「ネットワーク産業」とは、電力・ガス、電気通信などの点と点を線で結ばなければ産業として成立しない分野ですが、これには多数の規制が存在していますので、その理解を理論的に説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、「ネットワーク産業」という特殊な分野の特質と規制の関係について理解できることを目指します。		
	事前学修	今回から、本当の意味の各論がはじまります。ここで取り上げる「公益事業」とは何を意味するかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	初めて聞く単語ばかりであり、「ネットワーク産業」に対する規制の理由は、経済学とも関係しますので、可能な限り、授業で扱った単語の基礎的理解を進めるよう心がけてください。		120分
3	事業規制・業務規制法制（３）		次回以降に触れる事業規制の具体的内容を踏まえるために、それらの諸規制に見られる共通した機能（公益性担保機能、行政監督機能、補完的機能）の意味、相関関係について取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、規制の様々な機能を法的に整理する方法について、その基準を理解できることを目指します。		
	事前学修	事業規制と業務規制という用語で分けた経済行政に関する「規制」について、多様な目的から成り立っていることを念頭に置き、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	さまざまな規制にどのような機能が備わっているかをとらえることの大切さを、授業で取り上げた事例を通じて改めて検討し直してみましょう。		120分
4	事業規制・業務規制法制（４）		事業規制の中身として、参入規制を取り上げます。ネットワーク産業では複数の事業者間で競争が生ずることにより大きな影響（消費者への悪影響等）が考えられるため、従来、そのために独占を保護する規制が存在していた点を踏まえ、それに関連した多様な規制について説明していきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、競争との関係を意識したうえで、どのような規制がそれに対し必要とされているかを具体例を通じて理解できることを目指します。		
	事前学修	前回までに取り上げた内容として「市場」という言葉をキーワードとすることができることから、このキーワードがどのように事業規制と関係するのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	具体例を交えた規制の説明ではありますが、授業内では十分に議論できないところがあるので、自らインターネットや新聞報道等で補うように努めましょう。		120分
5	事業規制・業務規制法制（５）		まずは規制の対象となる「料金」について学びます。その際、ネットワーク産業は私たちの生活にとって不可欠なサービスを提供するものと位置づけられることが多いのですが、それはまた、「公共料金」とも賞されることがあります。授業ではこのあたりを批判的にとらえながら、どのような規制が実際に存在しているかを取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、市場原理の根幹である料金設定について行政上の規制の機能やその具体的意義を理解できることを目指します。		
	事前学修	前回は参入規制を主としましたが、今回は事業者が本来自由に設定できる料金が規制される場合について学びますので、身近にある料金規制に関する諸事例を思い描き、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		60分
	事後学修	なぜ「公共料金」と呼ばれたり、その料金がどのように規制されているかを考えてみましょう。		180分
6	事業規制・業務規制法制（６）		料金決定手続はかなり複雑ですので、総括原価主義やプライスカップ規制など、基本的な論点として整理し学びます。この場合、規制緩和政策との関係などについても触れることにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、「ネットワーク産業」に関する料金規制の機能を理解できることを目指します。		
	事前学修	料金規制は単にその種類を論ずるだけではならず、どのような手続によって規制されるかを具体的に検討する必要がありますので、その内容に関する該当箇所の教科書を一読してみましょう。		60分
	事後学修	複雑ではありますが、そこにある原理原則は外さずに記憶に残しておくことが重要です。このため、何がここで取り上げる手続の原理原則であるのかを、今一度検討してみましょう。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事業規制・業務規制法制（7）	料金決定原則の基本は「原価」を規制対象とすることですので、その定義が法的にどのようなになっているのか、その他、参入規制と並び、事業の終了に関わる規制（退出規制）についても学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、料金規制の法的問題を総括的に理解し、他の事業規制法制の存在を理解できることを目指します。	
	事前学修	料金規制の最後の回ですので、前回と前々回の議論を踏まえるためにも、過去2回分の講義内容を復習して今回の授業に臨むことを期待します。	60分
	事後学修	今回は事業規制法制の総括を含む意味もありますので、第1回目以降の議論をここで頭に入れ直してみましょう。	180分
8	事業規制・業務規制法制（8）	業務規制法制を総説します。参入・料金・退出といった事業規制との違いを見据えながら、今回は役務の利用者にとって役務の提供が不可欠とされる場合に、通常の経済活動（競争）では賄えない場合にその提供を義務付けるための規制について、概念・必要性などの諸問題を扱います。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、競争と規制の具体的関係性が事業規制法制以外に存在することを理解できることを目指します。	
	事前学修	今回は業務規制法制という新たな項目に移りますので、第1回目で取り上げた事業規制法制との区別がどのようなものだったかについて、学び直しましょう。	120分
	事後学修	今回学んだ役務提供義務は、私たちが日常必要とされる公共サービスがその対象とされることが多いので、身近な場面を思い起こしながら、今回学んだ内容を思い起こすようにしましょう。	120分
9	事業規制・業務規制法制（9）	競争が導入される際に、規制の撤廃とあわせて、規制の受け手（事業者）が競争しやすい環境を作り出すなどの競争促進的なさまざまな規制が登場しますので、その種類をここで学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、競争を生み出すための規制の意義について理解できることを目指します。	
	事前学修	規制緩和とともに、競争が不適切と考えられてきた分野に競争が導入されることになる場合に、どのようにそのギャップを是正するかが問題となります。いかなる規制がその是正に必要とされるかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	60分
	事後学修	今回学んだ業務規制が日常接する分野においてどのように活用されているかを、インターネット・新聞報道などを通じて思い起こすようにしましょう。	180分
10	産業保護・育成法制（1）	産業保護・育成法制について学んでいきます。この法制が一体何を意味するのかについて解説し、その必要性について詳述していきます。具体的には、国や公の団体から拠出される補助金などの金銭の提供を通じて、経済活動を担う企業を保護したり育成するための法制度について見ていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、分野を横断する規制の存在とその意義について理解できることを目指します。	
	事前学修	前回までとは違って、個別の規制を見るのではなく、種別の隔てがない形での規制が行われている場合があるので、その一例をここで学びます。	120分
	事後学修	他の箇所とは異なり、聞きなれない言葉遣いにまずは慣れるため、該当箇所の教科書を再読し復習してみましょう。	120分
11	産業保護・育成法制（2）	産業保護・育成法制には、産業助成型、競争制限型、外資規制型といった様々な手段が設けられていることから、それぞれの類型についてどのような制度が存在し、課題とされているかを見ていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、産業保護・育成がどのように横断的に行われているかを法的に理解できることを目指します。	
	事前学修	言葉遣いに慣れたことを前提に、どのような法制度があるかを該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	ここでは、補助金といった金銭の提供だけで産業が保護・育成されるわけではないことを確認しておきましょう。	120分
12	産業特性を持つ主要分野（1）	今回は、エネルギー産業を取り上げますが、それが電力やガスといった私たちの生活に密接につながっている産業であるために、常に意識せざるを得ない分野であると同時に、複雑な規制、そして規制改革の流れの中で、産業構造自体が大きく変化しています。その内容をできるだけ平易かつ具体例を出しながら、解説していきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、エネルギー産業の特質について具体的に理解できることを目指します。	
	事前学修	経済行政法各論の集大成の第1回目は、エネルギー産業を取り上げます。これ以前で具体例において時折この産業が登場することがあるので、そのことの復習もかねて、どのような話がそれ以前に登場したかを思い起こしながら、該当箇所の教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	現在、電力会社、ガス会社が複数の会社から選択できるようになっているので、履修者諸君のご家庭での実体験があればそのことが、本授業とどのように関連付けられるかを検討してみましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	産業特性を持つ主要分野（2）		交通産業は、その手段に応じて自動車、鉄道、航空機および船舶の4つにわけることができますが、それぞれに特徴のある規制が存在していることも事実です。密接につながりがある一方、特徴を持つ規制もありますので、事業規制・業務規制法制で学んだ知識をここであてはめながら、その内容について解説していきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、交通産業の特質について具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	各論集大成の第2回目は、交通産業を取り上げます。これまでの授業内でも断片的ではありますが取り上げられることがあった産業がどのような規制によって存在しているかを見ていきますので、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	身近であるものとそうではないもののがこの産業ではありますが、いずれも経済活動を支える大動脈を担う手段ばかりですので、どのような規制が登場していたのか、それに伴いどのような訴訟などの具体的事例が登場するのかを思い起こしてみましょう。		120分
14	産業特性を持つ主要分野（3）		通信産業は、電気通信と郵便に分けて論ずることが適当と考えられます。時に電気通信は、日進月歩の技術革新によって日々発展し続けていますので、規制がそれに追いついていないこともある一方、郵便は競争とどのようになじんでいるかという問題点を抱えています。このような具体例を事例を通じて検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、産業特性を持つ個別分野について、通信産業の特質について具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	各論集大成の第3回目は、通信産業を取り上げます。第1回目および第2回目と同様に、これまでの授業内で断片的に取り上げてきましたので、ある程度聞きなれた単語が出てきますが、ここではそれを前提にしながら応用的な問題について取り上げますので、該当箇所の教科書を一読してみましょう。		120分
	事後学修	通信産業はいずれも身近なものばかりですから、その背景にある規制の構造を把握することで、身近なものの存在を意識してみましょう。		120分
15	産業特性を持つ主要分野（4）		第1回目以降に取り扱った経済行政法の各論にかかわる様々な課題について総括し、今後の経済活動にもたらす影響、その他国民生活への影響やその法的問題点について、ここで展望を明らかにしておきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、総論的論点とあわせて、経済行政法全体の構造を説得的に理解できることを目指します。		
	事前学修	第1回目から第14回目までの議論を前提に、経済行政法の世界で何が起こっていたのかを、まとめてみましょう。		120分
	事後学修	各論で取り扱った授業内容の復習を通じて、発見できた問題がどのように法的に解決されているのか、それとも解決されていないのかについて、具体例をイメージしながら改めて復習してみましょう。		120分

科目名	経済刑法 I	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
経済活動と刑法の関係は軽視されがちであるが、事後チェック型社会といわれるなかで今後の刑事規制の重要性を見直しつつ、現実のケースを通して経済犯罪に対する刑事制裁の機能について学修できるようにする。経済犯罪に関する基礎的な知識を講じるだけでなく、具体的な事件や現象にそくして、経済刑法に関する理論や実務の実態をみながらそれぞれの問題点を検討し、論点が整理できるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済犯罪といわれるものについて深い関心を持ち、自分なりの分析や意見が持てる者を養成することを目的とする。自分の関心のあるテーマや現象について、専門的知識を前提とした報告またはディスカッションができる能力が身につけられるようにする。

【履修条件】
刑法総論と刑法各論の双方についての十分な理解があること。刑法各論は優以上の成績でないと基本的には議論についていけないだろう。

【授業方法】
将来を見据えた罰則の在り方を討論する方法で授業を行う。予習と報告を前提としたクリエイティブな発言を促すような質問をするので、現状の罰則の体系のどこを維持し、どこを維持し、どこを変えるべきなのかを考えてもらう。学生の関心に応じて、外国法をみんなで訳す作業も導入したい（時間割上は主に後期に翻訳を割り当てる）。 具体的には一年を通して、デジタル化に伴う罰則の在り方を考えていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質疑応答によるソクラティックメソッドで行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済犯罪についての基礎的知識を身につけ、諸概念について説明できる。						1	1	1		1			
②	経済犯罪に関する法令に関して、個々の類型を把握し、それぞれの要件について説明できる。						1	1	1		1			
③	経済犯罪に関連する判例について争点を理解し、批判的な検討ができる。						1	1	1		1			
④	新たな経済犯罪現象について、立法的観点から問題点を指摘し、体系的な考察ができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	経済犯罪に関する事例について、到達目標②③に関しなが ら、事実の概要が的確に把握でき、争点が整理されている か判断する。		5	10								15
討論・発表等	到達目標①②をふまえたうえで、問題の本質をとらえ、論 理的な説明ができているかを判断する。くわえて、到達目 標③④に関連するような能力があるかについえも判断す る。	10	10	20	30							70
授業への参画度	授業における質疑や議論において、到達目標①②をふま えた発言等ができているか判断する。	10	5									15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
皆で議論する形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない 必要な資料をアップロードする。				

【オフィスアワー】
火曜日

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	サイバー犯罪の概要を説明し、どういうところがこれから問題になりそうなのか、みんなで議論して、各人の予習・報告範囲を決める。	
	この回の到達目標	サイバー犯罪に興味を持つ。	
	事前学修	サイバー犯罪が大きな社会的問題になっていることを具体的事案を用いて知っておく。	30分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	120分
2	電子計算機使用詐欺罪（1）	電子計算機使用詐欺罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を討論する。	
	この回の到達目標	電子計算機使用詐欺罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	電子計算機使用詐欺罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
3	電子計算機使用詐欺罪（2）	電子計算機使用詐欺罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を討論する。	
	この回の到達目標	電子計算機使用詐欺罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	電子計算機使用詐欺罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
4	電磁的記録不正作出等罪（1）	電磁的記録不正作出等罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	電磁的記録不正作出等罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	電磁的記録不正作出等罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
5	電磁的記録不正作出等罪（2）	電磁的記録不正作出等罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	電磁的記録不正作出等罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	電磁的記録不正作出等罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
6	電磁的記録毀棄罪	電磁的記録毀棄罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	電磁的記録毀棄罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	電磁的記録毀棄罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	電子計算機損壊等業務妨害罪(1)		電子計算機損壊等業務妨害罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。
	この回の到達目標	電子計算機損壊等業務妨害罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	電子計算機損壊等業務妨害罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
8	電子計算機損壊等業務妨害罪(2)		電子計算機損壊等業務妨害罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。
	この回の到達目標	電子計算機損壊等業務妨害罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	電子計算機損壊等業務妨害罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
9	不正アクセス罪（不正アクセス禁止法）(1)		不正アクセス罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。
	この回の到達目標	不正アクセス罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	不正アクセス罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
10	不正アクセス罪（不正アクセス禁止法）(2)		不正アクセス罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。
	この回の到達目標	不正アクセス罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	不正アクセス罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
11	不正指令電磁的記録に関する罪(1)		不正指令電磁的記録に関する罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。
	この回の到達目標	不正指令電磁的記録に関する罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	不正指令電磁的記録に関する罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
12	不正指令電磁的記録に関する罪(2)		不正指令電磁的記録に関する罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。
	この回の到達目標	不正指令電磁的記録に関する罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	不正指令電磁的記録に関する罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	通信の秘密侵害罪	通信の秘密侵害罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	通信の秘密侵害罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	通信の秘密侵害罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
14	営業秘密侵害罪	営業秘密侵害罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	営業秘密侵害罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	営業秘密侵害罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
15	まとめ	我が国のサイバー犯罪対策立法の在り方を議論する。	
	この回の到達目標	我が国のサイバー犯罪対策立法の在り方を他人に説明できるようになる。	
	事前学修	抽象的なレベルでサイバー犯罪の体系を考える。	90分
	事後学修	不要	90分

科目名	経済刑法Ⅱ	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
経済活動と刑法の関係は軽視されがちであるが、事後チェック型社会といわれるなかで今後の刑事規制の重要性を見直しつつ、現実のケースを通して経済犯罪に対する刑事制裁の機能について学修できるようにする。経済犯罪に関する基礎的な知識を講じるだけでなく、具体的な事件や現象にそくして、経済刑法に関する理論や実務の実態をみながらそれぞれの問題点を検討し、論点が整理できるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済犯罪といわれるものについて深い関心を持ち、自分なりの分析や意見が持てる者を養成することを目的とする。自分の関心のあるテーマや現象について、専門的知識を前提とした報告またはディスカッションができる能力が身につけられるようにする。

【履修条件】
刑法総論と刑法各論の双方についての十分な理解があること。刑法各論は優以上の成績でないと基本的には議論についていけないだろう。また、基本的な英語の理解が必要となる。できればドイツ語にも興味をもってほしいがびとまずは英語だけで十分である。

【授業方法】
将来を見据えた罰則の在り方を討論する方法で授業を行う。予習と報告を前提としたクリエイティブな発言を促すような質問をするので、現状の罰則の体系のどこを維持し、どこを維持し、どこを変えるべきなのかを考えてもらう。学生の関心に応じて、外国法をみんなで訳す作業も導入したい（時間割上は主に後期に翻訳を割り当てる）。 具体的には一年を通して、デジタル化に伴う罰則の在り方を考えていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	質疑応答によるソクラティックメソッドで行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済犯罪についての基礎的知識を身につけ、諸概念について説明できる。				1	1	1		1			
②	経済犯罪に関する法令に関して、個々の類型を把握し、それぞれの要件について説明できる。				1	1	1		1			
③	経済犯罪に関連する判例について争点を理解し、批判的な検討ができる。				1	1	1		1			
④	新たな経済犯罪現象について、立法的観点から問題点を指摘し、体系的な考察ができる。				1	1	1		1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	経済犯罪に関する事例について、到達目標②③に関しなが ら、事実の概要が的確に把握でき、争点が整理されている か判断する。		5	10								15
討論・発表等	到達目標①②をふまえたうえで、問題の本質をとらえ、論 理的な説明ができているかを判断する。くわえて、到達目 標③④に関連するような能力があるかについえも判断す る。	10	10	20	30							70
授業への参画度	授業における質疑や議論において、到達目標①②をふま えた発言等ができているか判断する。	10	5									15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
皆で議論する形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない 必要な資料をアップロードする。				

【オフィスアワー】
火曜日

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション	サイバー犯罪の概要を説明し、どういうところがこれから問題になりそうなのか、みんなで議論して、各人の予習・報告範囲を決める。基本的には、後期は外国法のアプローチを丹念に知るところを学んでいきたい。	
	この回の到達目標	サイバー犯罪に興味を持つ。	
	事前学修	サイバー犯罪が大きな社会的問題になっていることを具体的事案を用いて知っておく。	30分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	120分
2	コンピュータ詐欺罪（1）	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を討論する。	
	この回の到達目標	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
3	コンピュータ詐欺罪（2）	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を討論する。	
	この回の到達目標	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
4	コンピュータ詐欺罪（3）	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を討論する。	
	この回の到達目標	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	ドイツ語圏のコンピュータ詐欺罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
5	コンピュータ・サボタージュ罪(1)	ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
6	コンピュータ・サボタージュ罪(2)	ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	コンピュータ・サボタージュ罪(3)		ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪について十分な理解を得る。		
	事前学修	ドイツのコンピュータ・サボタージュ罪の理解を深めておく。		90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。		90分
8	補足としてのデータ変更罪		ドイツのデータ変更罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	ドイツのデータ変更罪について十分な理解を得る。		
	事前学修	ドイツのデータ変更罪の理解を深めておく。		90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。		90分
9	無権限アクセス罪(1)		ドイツの無権限アクセス罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	ドイツの無権限アクセス罪について十分な理解を得る。		
	事前学修	ドイツの無権限アクセス罪の理解を深めておく。		90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。		90分
10	無権限アクセス罪(2)		ドイツの無権限アクセス罪の罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	ドイツの無権限アクセス罪について十分な理解を得る。		
	事前学修	ドイツの無権限アクセス罪の理解を深めておく。		90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。		90分
11	ハッカーパラグラフ(1)		ドイツ刑法202条cの罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	ドイツ刑法202条cについて十分な理解を得る。		
	事前学修	ドイツ刑法202条cの理解を深めておく。		90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。		90分
12	ハッカーパラグラフ(2)		ドイツ刑法202条cの罪質・解釈・裁判例・あり得る改正案等を考えられるようにする。	
	この回の到達目標	ドイツ刑法202条cについて十分な理解を得る。		
	事前学修	ドイツ刑法202条cの理解を深めておく。		90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	英語圏のウィルス罪(1)		英語圏のウィルス罪の罪質等を考えられるようにする。
	この回の到達目標	英語圏のウィルス罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	英語圏のウィルス罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
14	英語圏のウィルス罪(2)		英語圏のウィルス罪の罪質等を考えられるようにする。
	この回の到達目標	英語圏のウィルス罪について十分な理解を得る。	
	事前学修	英語圏のウィルス罪の理解を深めておく。	90分
	事後学修	割り当てられた部分を読む、配付資料の指定された部分を読む。	90分
15	まとめ		国際的なサイバー犯罪対策立法の在り方を議論する。
	この回の到達目標	国際的なサイバー犯罪対策立法の在り方を他人に説明できるようになる。	
	事前学修	抽象的なレベルでサイバー犯罪の体系を考える。	90分
	事後学修	不要	90分

科目名	経済史	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
日本経済の歩みを、戦後から最近年までを学習する。戦後70年以上が経つが、その間の経済状況に様々な現象や変化が起きた。戦後の改革と復興期、高度経済成長期、ニクソン・ショック、高度経済の終焉と経済安定期、バブル経済の発生と崩壊、デフレーションなどの現象を取り扱いながら現代の日本経済がどのように形成されたのか考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講座では、欧米の経済に大きく遅れをとりながらも、短期間のうちに驚異的な発展を遂げ、欧米先進資本主義国と肩を並べる地位にまで躍進した日本経済の現代史的展開について、第二次世界大戦以降を中心に考察する。現代の日本経済がどのように形成されたのか、その歴史的過程を考察することで現代の経済の本質を分析し、また現代日本経済のかかえる問題点を歴史的に検出することを目的とする。受講生が、戦後日本経済に生じた様々な社会経済現象の要因に関する通説を修得して経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド(パワー・ポイント)を使用しての講義の予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明することができる。					3	3					
②	経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。					3	3					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できる思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	リアクションペーパーにより、到達目標①②にかかわる理解が身についているかを確認する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間中やポータル経由で行なう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代日本経済史〔新版〕』有斐閣Sシリーズ	森・浅井・西成田・春日・伊藤著	有斐閣	2002	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス，導入授業		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済史の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる重要性を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書 第1章と第2章を読み、内容を考察する。		120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	1945～1954年)「占領下の暮らし」「戦後改革と占領政策の転換」「生産の再開と復興」		終戦直後の「占領下の暮らし」、「戦後改革と占領政策の転換」、「生産の再開と復興」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、終戦直後の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章 改革と復興(1945～1954年)の「1. 占領下の暮らし」、「2. 戦後改革と占領政策の転換」、「3. 生産の再開と復興」を読み、終戦直後の経済状態について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
3	(1945～1954年)「労働・農民運動の再興と資本の再編」「朝鮮戦争と日米経済協力」		終戦直後の「労働・農民運動の再興と資本の再編」、「朝鮮戦争と日米経済協力」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて政府管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、終戦直後の経済政策の検討を通じて政府管理・支配の特徴、また、対外関係、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章 改革と復興(1945～1954年)の「4. 労働・農民運動の再興と資本の再編」、「5. 朝鮮戦争と日米経済協力」を読み、内容について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
4	(1955～1964年)「高度成長下の暮らし」「農業・重化学工業化・技術革新」「企業集団と中小企業」		戦後の高度経済成長がスタートした年とされる1955年以降の時期における、「高度成長下の暮らし」、「農業・重化学工業化・技術革新」、「企業集団と中小企業」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、高度経済成長初期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第3章 成長と「自立」(1955～1964年)の「1. 高度成長下の暮らし」、「2. 農業・重化学工業化・技術革新」、「3. 企業集団と中小企業」を読み、内容について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
5	(1955～1964年)「日本の労使関係の成立」「経済政策と権力構造」「貿易為替の自由化」		高度経済成長期の「日本の労使関係の成立」、「経済政策と権力構造」、「貿易為替の自由化」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、高度経済成長期の経済政策、また、対外関係、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第3章 成長と「自立」(1955～1964年)の「4. 日本の労使関係の成立」、「5. 経済政策と権力構造」、「6. 貿易為替の自由化」を読み、内容を考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
6	(1965～1971年)「大衆消費社会と暮らし」「長期好況と大型化投資」「〔企業主義原理〕の普及」		後期高度経済成長期に分類される1965年以降の時期における「大衆消費社会と暮らし」、「長期好況と大型化投資」、「〔企業主義原理〕の普及」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、後期高度経済成長期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況の歴史性を論理的、科学的に理解して説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章 成長と軋轢(1965～1971年)の「1. 大衆消費社会と暮らし」、「2. 長期好況と大型化投資」、「3. 〔企業主義原理〕の普及」を読み、内容を考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	(1965～1971年)「高度成長政策と地域開発政策」「高度成長と対外経済関係」	後期高度成長期の「高度成長政策と地域開発政策」、「高度成長と対外経済関係」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を学習して説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、この時代の経済政策の学修を通じて管理・支配の特徴を理解し、また、対外関係、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章 成長と軋轢(1965～1971年)の「4. 高度成長政策と地域開発政策」、「5. 高度成長と対外経済関係」を読み、内容を考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学修したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	小テスト、まとめ	リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②に係わる基礎的理解が身についているか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦後日本経済社会に生じた経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な基礎的理解が身についているか確認する。	
	事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト(リアクション・ペーパー)に臨む準備をする。	120分
	事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。	120分
9	(1971～1991年)高度経済成長の終焉と、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期	高度経済成長の終焉と、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期を学習し、これらの経済現象の歴史性を論理的、科学的に説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、度経済成長の終焉、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期を学修し、これらの経済現象の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦(1971～1991年)の「1. 1980年代の暮らし」、「2. ドル・ショックと石油危機」、「3. 企業と職場の変貌」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	(1971～1991年)「企業と職場の変貌」「バブル経済の発生と原因」	この時期に生じた「企業と職場の変貌」を学習し、管理・支配関係の特徴を検出、また、「バブル経済」と呼ばれる現象が何であったか、バブル経済の発生と原因、消費者物価の低水準で安定した原因(プラザ合意→円高、新興国の出現)、金融政策の失敗を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「バブル経済」現象、バブル経済の発生と原因、消費者物価の低水準で推移した原因(プラザ合意→円高、新興国の出現)、金融政策の歴史性を論理的、科学的、かつ批判的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦(1971～1991年)の「3. 企業と職場の変貌」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
11	(1971～1991年)総需要管理政策の破綻と再編	「臨調・行革の構図―総需要管理政策の破綻と再編」、「5. 世界のなかの日本―欧米とアジア」を学習し、1980年代の経済政策、対外関係・国際関係を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、1980年代の経済政策、対外関係・国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦(1971～1991年)の「4. 臨調・行革の構図―総需要管理政策の破綻と再編」、「5. 世界のなかの日本―欧米とアジア」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	(1992～2001年)「バブル崩壊後の暮らし」「金融システム不安と〔失われた10年〕」「1990年代の日本企業と仕事の現場」	1990年代の時期における「バブル崩壊後の暮らし」、「金融システム不安と〔失われた10年〕」、「1990年代の日本企業と仕事の現場」を学習し、また、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、この時代の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の経済現象を論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章 暗転と「再生」(1992～2001年)の「1. バブル崩壊後の暮らし」、「2. 金融システム不安と〔失われた10年〕」「3. 1990年代の日本企業と仕事の現場」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	(1992～2001年)「橋本〔6大改革〕」から「小泉〔構造改革〕へ」		「橋本〔6大改革〕」から「小泉〔構造改革〕へ」橋本政権(1996年1月11日～1998年7月30日)および小泉政権(2001年4月26日～2006年9月26日)を学習し、各経済政策のめざした経済構造改 革を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「橋本〔6大改革〕」から「小泉〔構造改革〕へ」橋本政権(1996年1月11日～1998年7月30日)および小泉政権(2001年4月26日～2006年9月26日)の各経済政策のめざした経済構造改革現象を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第6章 暗転と「再生」(1992～2001年)の「4. 橋本〔6大改革〕から小泉〔構造改革〕へ」を読み、内容を考察する。	120分	
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学修したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
14	(1992～2001年)「アジアのなかの日本経済」		アジアのなかの日本経済に関連して、21世紀に入り特にアジア圏における対外関係・国際関係に伴う経済現象を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、21世紀に入り特にアジア圏における対外関係・国際関係に伴う経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書 第6章 暗転と「再生」(1992～2001年)の「5. 21世紀の国際関係―アジアのなかの日本経済」を読み、内容を考察する。	120分	
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
15	(2020年以降)「日本経済の課題」		雇用状況、所得格差、財政状況の経済現象、さらに、安倍政権の経済政策を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2000年以降に生じた経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて理解し説明できる。		
	事前学修	雇用状況、所得格差、財政状況、安倍政権の経済政策の特徴を考察する。		120分
	事後学修	初回からの教科書、授業ノート、配付資料を確認し、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるか確認する。 期末試験の準備をする。		120分

科目名	経済史	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
日本経済の歩みを、戦後から最近年までを学習する。戦後70年以上が経つが、その間の経済状況に様々な現象や変化が起きた。戦後の改革と復興期、高度経済成長期、ニクソン・ショック、高度経済の終焉と経済安定期、バブル経済の発生と崩壊、デフレーションなどの現象を取り扱いながら現代の日本経済がどのように形成されたのかを考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講座では、欧米の経済に大きく遅れをとりながらも、短期間のうちに驚異的な発展を遂げ、欧米先進資本主義国と肩を並べる地位にまで躍進した日本経済の現代史的展開について、第二次世界大戦以降を中心に考察する。現代の日本経済がどのように形成されたのか、その歴史的過程を考察することで現代の経済の本質を分析し、また現代日本経済のかかえる問題点を歴史的に検出することを目的とする。受講生が、戦後日本経済に生じた様々な社会経済現象の要因に関する通説を修得して経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用してのオンラインによる講義。 リアクション・ペーパー提出課題、レポート提出課題をGoogleClassroomにて配信回収を行う。 定期試験（レポート課題）の解説を後日、GoogleClassroom（又はポータル・システム）にて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明することができる。			3	3				
②	経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。			3	3				
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できる思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。 オンライン授業のため、レポート提出による評価の変更の可能性はある。	30	30									60
小テスト等	リアクション・ペーパーにより、到達目標①②にかかわる理解が身についているかを確認する。	20	20									40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト（リアクション・ペーパー）実施後、解説を行う。または、ポータルシステムを通じて解説を受講生に配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代日本経済史〔新版〕』有斐閣Sシリーズ	森・浅井・西成田・春日・伊藤著	有斐閣	2013年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス，導入授業		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済史の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済現象の歴史性を論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる重要性を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書 第1章と第2章を読み、内容を考察する。		120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	(1945～1954年)「占領下の暮らし」「戦後改革と占領政策の転換」		終戦直後の「占領下の暮らし」、「戦後改革と占領政策の転換」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、終戦直後の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章 改革と復興(1945～1954年)の「1. 占領下の暮らし」、「2. 戦後改革と占領政策の転換」の「対日占領政策、農地改革、財閥解体・独占禁止」を読み、終戦直後の経済状態や改革について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
3	「戦後改革と占領政策の転換－労働改革」 「生産の再開と復興」		終戦直後の「戦後改革と占領政策の転換」、「生産の再開と復興」を学習し、この時期の経済状態、経済改革、制度改革を説明できる。	
	この回の到達目標	終戦直後の「戦後改革と占領政策の転換」、「生産の再開と復興」を理解し、受講生は、この時期の経済状態、経済改革、制度改革を説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章 改革と復興(1945～1954年)の「2. 戦後改革と占領政策の転換」の「労働改革～戦後改革の意義」、「3. 生産の再開と復興」を読み、終戦直後の経済状態について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
4	(1945～1954年)「労働・農民運動の再興と資本の再編」「朝鮮戦争と日米経済協力」 (リアク・ペーパー予定)		終戦直後の「労働・農民運動の再興と資本の再編」、「朝鮮戦争と日米経済協力」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて政府管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、終戦直後の経済政策の検討を通じて政府管理・支配の特徴、また、対外関係、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章 改革と復興(1945～1954年)の「4. 労働・農民運動の再興と資本の再編」、「5. 朝鮮戦争と日米経済協力」を読み、内容について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
5	(1955～1964年)成長と「自立」		戦後の高度経済成長が始まる1955年以降の時期における、「高度成長下の暮らし」、「農業・重化学工業化・技術革新」、「企業集団と中小企業」、「日本的労使関係の成立」「経済政策と権力構造」「貿易為替の自由化」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積、対外関係、国際関係の状況を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、高度経済成長初期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状況の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第3章 成長と「自立」(1955～1964年)を読み、内容について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を各テーマ毎に検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分
6	(1965～1971年)成長と軋轢「大衆消費社会と暮らし」「長期好況と大型化投資」		後期高度経済成長期に分類される1965年以降の時期における「大衆消費社会と暮らし」、「長期好況と大型化投資」を学習し、この時期の生活構造の変化、産業構造や生産・資本蓄積の状況を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、高度経済成長期の経済政策、また、対外関係、国際関係の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章 成長と軋轢(1965～1971年)の「1. 大衆消費社会と暮らし」、「2. 長期好況と大型化投資」の「1965年不況と日銀特融、財政・輸出主導の不況克服」を読み、内容を考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	「いざなぎ景気の特徴と要因」	後期高度経済成長期に区分される「いざなぎ景気の特徴と要因」「株式の相互持ち合いと企業集団」「大型合併の進展と独占禁止法」「素材部門の大型化投資の急増」を学習し、いざなぎ景気の特徴と要因を説明できる。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、後期高度経済成長期に区分される「いざなぎ景気の特徴と要因」を論理的、科学的に理解して説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章 成長と軌轢（1965～1971年）の「2. 長期好況と大型化投資」の「いざなぎ景気の特徴と要因」、「株式の相互持ち合いと企業集団」、「大型合併の進展と独占禁止法」、「素材部門の大型化投資の急増」を読み、内容を考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したいざなぎ景気の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		
8	いざなぎ景気の経済構造、労資関係の特徴 （レポート提出課題予定）	「耐久消費財部門の大型化投資の激増」「企業主義原理の普及－能力主義管理の提唱、推進、受容基盤」「労資協調路線の台頭」「能力主義管理の進展」について学習し、いざなぎ景気時期の産業構造や労資関係の変化と特徴を説明できる。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、いざなぎ景気時期の産業構造や労資関係の変化と特徴の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章 成長と軌轢（1965～1971年）の「2. 長期好況と大型化投資」の「耐久消費財部門の大型化投資の激増」、「3. 企業主義原理の普及」を読み、内容を考察する。		150分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学修したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		
9	（1965～1971年） 「高度成長政策と地域開発政策」	後期高度成長期の「高度成長政策と地域開発政策」を学習し、この時期の経済政策（高度成長の財政・金融政策、国際競争力強化政策、高度成長型地域開発政策、農業基盤の弱体化）の検討を通じて政策の特徴を学習して説明できる。		
	この回の到達目標	後期高度成長期の「高度成長政策と地域開発政策」を学習し、この時期の経済政策（高度成長の財政・金融政策、国際競争力強化政策、高度成長型地域開発政策、農業基盤の弱体化）の検討を通じて、受講生は政策の特徴を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章 成長と軌轢（1965～1971年）の「4. 高度成長政策と地域開発政策」を読み、内容について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		
10	（1965～1971年） 「高度成長と対外経済関係」	「資本の自由化」、「ベトナム特需とアジア投資の増大」、「日米経済摩擦の激化」について学習し、受講生は説明できる。		
	この回の到達目標	後期高度経済成長期に生じた「資本の自由化」、「ベトナム特需とアジア投資の増大」、「日米経済摩擦の激化」について理解し、受講生は説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章 成長と軌轢（1965～1971年）の「5. 高度成長と対外経済関係」を読み、内容について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		
11	高度経済成長の終焉と、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期 （リアク・ペーパー予定）	高度経済成長の終焉と、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期を学習し、これらの経済現象の歴史性を論理的、科学的に説明できる。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、度経済成長の終焉、ドル・ショックと石油危機、狂乱物価発生、低経済成長期を学修し、これらの経済現象の歴史性を論理的、科学的に理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦（1971～1991年）の「1. 1980年代の暮らし」、「2. ドル・ショックと石油危機」を読み、内容について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		
12	「第1次石油危機」 不況克服策1 不況克服策2	第1次石油危機後に発生した狂乱物価の現象をさまざまなデータで確認し、狂乱物価発生の原因を分析し、受講生は説明できる。また、同時に生じた不況への対応策を学習し説明できる。		
	この回の到達目標	第1次石油危機後に発生した狂乱物価の現象をさまざまなデータで確認し、狂乱物価発生の原因を理解し、また、同時に生じた不況への対応策を理解し受講生は説明できる。		
	事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦（1971～1991年）の「2. ドル・ショックと石油危機」の「第1次石油危機、集中豪雨的輸出拡大、総需要拡大政策」を読み、内容について考察する。		120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	不況克服策3（減量経営） 「企業と職場の変貌」 「バブル経済の発生と原因」	この時期に生じた「企業と職場の変貌」を学習し、管理・支配関係の特徴を検出、また、「バブル経済」と呼ばれる現象が何であったか、バブル経済の発生と原因、消費者物価の低水準で安定した原因（プラザ合意→円高、新興国の出現）、金融政策の失敗を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「バブル経済」現象、バブル経済の発生と原因、消費者物価の低水準で推移した原因（プラザ合意→円高、新興国の出現）、金融政策の歴史性を論理的、科学的、かつ批判的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章 過剰と摩擦（1971～1991年）の「2. ドル・ショックと石油危機」の「減量経営」、「3. 企業と職場の変貌」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	(1992～2001年) 「バブル崩壊後」 (レポート提出課題予定)	1990年代の時期における「バブル崩壊後の暮らし」、「金融システム不安と「失われた10年」」、「1990年代の日本企業と仕事の現場」を学習し、バブル崩壊後にさまざまな経済分野に生じた現象を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、バブル経済崩壊後のさまざまな経済分野に突きつけられた経済状態を論理的、科学的に理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章 暗転と「再生」（1992～2001年）の「1. バブル崩壊後の暮らし」、「2. 金融システム不安と「失われた10年」」、「3. 1990年代の日本企業と仕事の現場」の「企業収益の全般的悪化～リストラのなかの労働現場」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、バブル経済崩壊直後の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	橋本「6大改革」から小泉「構造改革」 安倍内閣の「アベノミクス」	バブル経済崩壊以降、各内閣が掲げたスローガン（橋本〔6大改革〕、小泉〔構造改革〕、安倍〔アベノミクス〕）を学習し、各内閣がめざした経済構造改革、経済政策を学習し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、橋本政権（1996年1月11日～1998年7月30日）および小泉政権（2001年4月26日～2006年9月26日）、安倍内閣の各経済政策がめざした経済構造改革現象を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章 暗転と「再生」（1992～2001年）の「4. 橋本〔6大改革〕から小泉〔構造改革〕へ」を読み、内容を考察する。雇用状況、所得格差、財政状況、安倍政権の経済政策の特徴を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書、授業ノート、配付資料を確認し、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるか確認する。	200分

科目名	経済思想史Ⅰ	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本講義では、各時代の経済学がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済思想史Ⅰでは、経済学の形成期から20世紀初頭頃までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済学がどのように成立したかを知ることは、経済学を理解するために役立つ。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ること、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解してほしい。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
知識の定着だけでなく、考える力を身につけるためテーマ毎にグループ・ディスカッションなどを取り入れながら行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間の中で講義内容に関するグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済学や経済思想を展開したのかを説明できるようになる。				2	2	2					
②	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済思想を展開したのかを社会的背景等も含め説明できるようになる。				2	2	2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①および②について身に付いているかを筆記試験により総合的に評価する。	20	20									40
小テスト等												
レポート等	予習課題	10	10									20
討論・発表等	グループ・ディスカッションへの積極的な参加	5	5									10
授業への参画度	授業後の事後課題（コメント）	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間中，あるいはポータルシステムを通じて行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめての人のための経済学史』	江頭進	新世社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介等について説明し、受講生が本講義を受けるための準備を具体的に行えるようにする。さらに、経済思想史を学ぶ意味を考える機会とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて理解し、経済思想史の講義の特色を説明できる。	
	事前学修	事前にシラバスをよく読む。教科書を準備し、「はじめに」や各章の冒頭にある「学習のポイント」を読み、自分なりに「経済思想史を学ぶ意味」を考察してみる。	120分
	事後学修	受講ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関連について検討する。「経済思想史を学ぶ意味」を改めて考察し、事後課題として提出する。	120分
2	経済学形成の歴史的背景：資本主義と産業革命	経済学が形成される際に重要となる時代背景を理解し、経済学的な考え方の出発点にどのような現実があったのかを理解し、その特質を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、資本主義の特徴や産業革命の意義とそれらの事柄が経済学の誕生、形成とどのように関連するかを説明できる。	
	事前学修	教科書の年表及び1章の終わりにある「補論」をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、資本主義の特徴や産業革命の意義とそれらの事柄が経済学の誕生、形成とどのように関連するかについて、自分の言葉でまとめ事後課題として提出する。	120分
3	経済学形成の背景1：ジョン・ロック～私的所有権の起源	ジョン・ロックの思想にある市場社会の根本となる制度である私的所有権の考えとその背景を理解する。また、産業革命へとつながるロックの生きた時代の様子を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ジョン・ロックの思想にある市場社会の根本となる制度である私的所有権の考えとその背景、そして、産業革命へとつながるロックの生きた時代の様子を説明できる。	
	事前学修	教科書第1章の1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ロックの私的所有に関わる思想と彼の生きた時代の特徴をまとめ、事後課題として提出する。	120分
4	経済学形成の背景2：ジョン・ロック～社会契約としての国家	ジョン・ロックの国家論の特徴や社会契約という概念について理解する。さらに、ロックが人々と国家の関わり方を考えた理由を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ジョン・ロックの国家論の特徴や社会契約という概念について説明できる。さらに、ロックが人々と国家の関わり方を考えた理由を説明できる。	
	事前学修	教科書第1章の4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ロックが人々と国家の関わりについて考えたことをまとめ、事後課題として提出する。	120分
5	経済学の産声1：アダム・スミスと道徳哲学	アダム・スミスが生きた時代の様子を理解し、彼の道徳哲学の特徴的な観点（利己心）を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アダム・スミスが生きた時代の様子と彼の道徳哲学の特徴的な観点（利己心）を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、アダム・スミスの道徳哲学の特徴をまとめ、事後課題として提出する。	120分
6	経済学の産声2：市場社会の基礎理論	アダム・スミスがとらえた市場社会の原理を理解する。さらに、スミスの自由主義的な思想の特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アダム・スミスがとらえた市場社会の原理と彼の自由主義的な思想の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章4-8を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、アダム・スミスがとらえた市場社会の特徴と彼の国家観をまとめ、事後課題として提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	古典派の経済学者たち1：リカードとマルサスの時代	古典派の経済学者デヴィッド・リカードとロバート・マルサスの登場した時代背景を理解するとともに、彼らの思想の背景にある事柄を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リカードとマルサスの登場した時代背景と彼らの経済学・経済思想との関わりを説明できる。	
	事前学修	教科書第3章1-2を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、リカードとマルサスの生きた時代と彼らの経済学・経済思想との関わりをまとめ、事後課題として提出する。	120分
8	古典派の経済学者たち2：リカードとマルサスの論争	リカードとマルサスの論争について、テーマ毎にその主張の違いを理解する。グループ・ディスカッションを通じ、それぞれの主張を議論しながら理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リカードとマルサスの論争について、テーマ毎にその主張の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第3章3-4を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、リカードとマルサスの論争についてそれぞれの主張の違いを意識してまとめ、事後課題として提出する。	120分
9	カール・マルクスの経済学	カール・マルクスの提示した経済学の特徴を理解し、それが生み出された背景にある資本主義社会に生じた問題を捉える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マルクスの提示した経済学の特徴とそれが生み出された背景にある資本主義社会に生じた問題を説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、マルクスの経済学の特徴とその思想的背景や社会的背景をまとめ、事後課題として提出する。	120分
10	カール・マルクスの影響	マルクスによる経済学や経済思想が後世に与えた影響を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マルクスによる経済学や経済思想が後世に与えた影響を説明できる。	
	事前学修	教科書第4章4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、マルクスによる経済学や経済思想の影響を捉え、自分なりにその意味を考察し、事後課題として提出する。	120分
11	限界革命：新古典派経済学への道	古典派経済学から新古典派経済学へと至る転換点に起きた「限界革命」は、どのような意味で革命的なのか理解する。さらに古典派と新古典派の「価値論」の違いを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「限界革命」の意義と古典派と新古典派の価値論の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、「限界革命」の意義と古典派と新古典派の価値論の違いをまとめ、事後課題として提出する。	120分
12	限界革命トリオの経済理論	限界革命の立役者である、ワルラス、ジェヴォンズ、メンガー（限界革命トリオ）の経済理論の大まかな特徴を理解するとともに、彼らが目指した経済学の姿がどのようなものであったかを正しく理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、限界革命トリオの理論の特徴と彼らが目指した経済学の姿を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、限界革命トリオの理論の特徴と彼らが目指した経済学の姿をまとめ、事後課題として提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	新古典派経済学1：マーシャルの経済理論	アルフレッド・マーシャルの登場した時代背景と、彼の経済理論を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マーシャルの経済理論の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章(p. 87まで)を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、マーシャルの経済理論の特徴をまとめ、事後課題として提出する。	120分
14	新古典派経済学2：マーシャル～有機的成長理論と経済生物学	マーシャルの有機的成長論と経済生物学の特徴（進化論との関係）を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マーシャルの有機的成長論と経済生物学の特徴（進化論との関係）を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章(p. 87～)を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、マーシャルの経済思想と進化論との関係をまとめ、事後課題として提出する。	120分
15	総括	全講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書内容及び受講ノートを振り返り、それぞれの経済学者たちの理論や思想を考察する。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	経済思想史Ⅱ	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本講義では、各時代の経済学がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済思想史Ⅱでは、19世紀末以降の時代を扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済学がどのように成立したかを知ることは、経済学を理解するために役立つ。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ること、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解してほしい。

【履修条件】
経済思想史Ⅰを受講済みであることが望ましい

【授業方法】
知識の定着だけでなく、考える力を身につけるためテーマ毎にグループ・ディスカッションなどを取り入れながら行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義時間の中で講義内容に関するグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済学や経済思想を展開したのかを説明できるようになる。				2	2	2					
②	各時代の経済学者たちが、それぞれどのような経済思想を展開したのかを社会的背景等も含め説明できるようになる。				2	2	2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①および②について身に付いているかを筆記試験により総合的に評価する。	20	20									40
小テスト等												
レポート等	予習課題	10	10									20
討論・発表等	グループ・ディスカッションへの積極的な参加	5	5									10
授業への参画度	授業後の事後課題（コメント）	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時間中，あるいはポータルシステムを通じて行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめての人のための経済学史』	江頭進	新世社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について		講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介等について説明し、受講生が本講義を受けるための準備を具体的に行えるようにする。さらに、経済思想史を学ぶ意味を考える機会とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて理解し、経済思想史の講義の特色を説明できる。		
	事前学修	事前にシラバスをよく読む。教科書を準備し、「はじめに」や各章の冒頭にある「学習のポイント」を読み、自分なりに「経済思想史を学ぶ意味」を考察してみる。		120分
	事後学修	受講ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関連について検討する。「経済思想史を学ぶ意味」を改めて考察し、事後課題として提出する。		120分
2	経済思想史Ⅰの復習：古典派と新古典派		経済思想史Ⅱで扱う19世紀末までの経済学・経済思想を振り返り、その内容とポイントを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、19世紀末までの経済思想の内容とポイントを説明できる。		
	事前学修	教科書第1章から第6章までや経済思想史Ⅰの受講ノートを振り返る。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、19世紀末までの経済思想のポイントをまとめ、事後課題として提出する。		120分
3	ソースティン・ヴェブレン1：進化論と経済学・もの作り本能と競争心		主流派経済学とは異なる視点からのヴェブレンの経済学（進化論的経済学）を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヴェブレンの経済学と主流派の経済学の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書第7章の1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ヴェブレンの経済学の特徴をまとめ、事後課題として提出する。		120分
4	ソースティン・ヴェブレン2：顕示的消費、産業社会を見る眼		ヴェブレンが示したオリジナルな経済思想の要素（顕示的消費や金融資本の経済への関わり方に関する視点）を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヴェブレンのオリジナルな経済思想のエッセンスを説明できる。		
	事前学修	教科書第7章の4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ヴェブレンの経済思想の特徴をまとめ、事後課題として提出する。		120分
5	ジョン・メイナード・ケインズ1：ケインズ経済学とは		ケインズ経済学の登場した時代背景とケインズ理論の特徴を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズ経済学の登場した時代背景とケインズ理論の特徴を説明できる。		
	事前学修	教科書第8章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ケインズ理論の時代背景と特徴をまとめ、事後課題として提出する。		120分
6	ジョン・メイナード・ケインズ2：経済政策～国家と国民		不況期の財政政策と金融政策の基本的構造を理解する。また、ケインズと関連して、国家が国民の幸福に対し責任をもつという考えが登場した背景を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不況期の財政政策と金融政策の基本的構造や、国家が国民の幸福に対し責任をもつという考えが登場した背景を説明できる。		
	事前学修	教科書第8章3-5を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。		120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ケインズの理論を参考にしながら国家と国民の関係について考察し、事後課題として提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	フリードリッヒ・ハイエク1：経済理論	ハイエクの経済理論の特徴と、ケインズの対抗理論・思想として語られる背景について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ハイエクの経済理論の特徴と、ケインズの対抗理論・思想として語られる背景について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章1-2を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、リカードとマルサスの生きた時代と彼らの経済学・経済思想との関わりをまとめ、事後課題として提出する。	120分
8	フリードリッヒ・ハイエク2：社会観・人間観・自由主義思想	ハイエクの社会観・人間観・自由主義思想についてポイントを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ハイエクの社会観・人間観・自由主義思想について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章3-5を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ハイエクの社会観・人間観・自由主義思想について考察し、事後課題として提出する。	120分
9	グループ・ディスカッション（テーマ：ケインズ 対 ハイエク）	ケインズとハイエクの経済理論、経済思想の違いについて、それぞれがそれぞれを批判するポイントを捉えつつ、グループ・ディスカッションを通じて、自分自身の経済観について考える機会とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズとハイエクの対照を通じて、自分自身の経済観を構築し、説明できる。	
	事前学修	教科書第8章と9章および受講ノート等を手がかりに、グループ・ディスカッションで意見を述べるための準備をする	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、グループ・ディスカッションを経て捉えた自身の経済観についてまとめ、事後課題として提出する。	120分
10	ミルトン・フリードマン1：実証主義へのこだわり	フリードマンの経済理論の特徴と実証主義へのこだわりに関して理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フリードマンの経済理論の特徴と彼の実証主義へのこだわりを説明できる。	
	事前学修	教科書第10章1-3を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、フリードマンの経済理論の特徴と彼が実証主義にこだわったポイントをまとめ、事後課題として提出する。	120分
11	ミルトン・フリードマン2：自由論	フリードマンの自由論の特徴と彼の経済理論との関連を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フリードマンの自由論の特徴と経済理論との関連を説明できる。	
	事前学修	教科書第10章4-6を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、フリードマンの自由論の特徴と経済理論との関連をまとめ、事後課題として提出する。	120分
12	ゲーム理論と経済学	ゲーム理論が経済学と結びつくプロセスとその内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲーム理論と経済学との関わりを説明できる。	
	事前学修	教科書第11章を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、ゲーム理論と経済学との関わりをまとめ、事後課題として提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	経済学の未来	限界革命以降の主流派の経済学とは異なる視点をもつ経済思想について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、限界革命以降の主流派の経済学とは異なる視点をもつ経済思想について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章を読み、事前に提示した予習課題に取り組む。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、自分自身が経済学を学ぶ意味をまとめ、事後課題として提出する。	120分
14	グループ・ディスカッション（テーマ：経済理論・経済思想の可能性を探る）	各自で講義全体を振り返りつつ、グループ・ディスカッションにより、意見交換をしながら経済学の理論や思想の意味や意義を自分なりに深く考察する機会とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分なりの経済理論や経済思想の意義を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書内容及び受講ノートを振り返り、それぞれの経済学者たちの理論や思想を考察する。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、グループ・ディスカッションでの個人の成果をまとめ、事後課題として提出する。	120分
15	総括	全講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書内容及び受講ノートを振り返り、それぞれの経済学者たちの理論や思想をまとめる。	120分
	事後学修	教科書と受講ノートを確認して、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	刑事政策Ⅰ	担当者	西山 智之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の措置を行えばいいのか、そうした問を解決する能力を身につけるため、犯罪原因の分析や犯罪者の処遇制度、各種犯罪に対する対策などの現状やその歴史について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
犯罪の予防及び鎮圧のための方法に関する知識を修得し、現行制度への批判的考察を可能とするために、現在行われている刑事司法制度の仕組みや犯罪の原因、各種犯罪対策について理解し、犯罪予防のための実効的な政策を考える力を身につける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法・少年法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、受講生から意見を聴く機会を多く設ける予定である。是非、積極的に自分の考えや授業への要望を述べて欲しい。毎回の授業で、授業で学んだことや要望等を記入するコメントカードを提出してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における現行の刑事司法システムの仕組みを説明できる。【知識】				1	1						
②	犯罪がなぜ発生するのか、その仕組みを説明できる。【知識】				1	1						
③	刑罰の歴史や意義を理解し、説明することができる。【知識】				1	1						
④	犯罪白書・警察白書等の犯罪統計資料に基づいて、今後どのような犯罪への対応が必要なのかを調べることができる。【技能】					1	1		1			
⑤	日本における現行の刑事司法システムに対して、今後どのような改善策が必要であるのか、警察・検察・裁判所の資料を基に、調査することができる。【技能】					1	1		1			
⑥	犯罪対策に関する教員からの問いに対して、論理的に応えることができる。【態度】					1	1		1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、レポート等の提出物が要件を満たし、かつ課題に適切に答える内容になっているかを前提に、基礎知識が身についているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを基準として評価する。	15	15	15	15	15						75
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑥に関連して、毎回の授業時の担当教員からの問に適切かつ積極的に対応しているか等の評定尺度に照らして、論理的思考能力・問題解決力・積極性が身についているかを評価する。						25					25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	15	25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業終了時に毎回、課題やコメントカードを提出してもらい、その次の回に記載されていた意見や質問に対応する。

【教科書・参考書等】					
	書名	著者名	出版社名	発行年	種別 必要度
	刑事政策【第7版】	岩井宜子	尚学社	2018	教科書 推奨
	令和2年版 犯罪白書	法務総合研究所	昭和情報プロセス	2020	その他 推奨
	令和2年版 警察白書	国家公安委員会・警察庁	日経印刷	2020	その他 推奨
	Next教科書シリーズ 刑事法入門	船山泰範 編	弘文堂	2014	参考書 任意
備考	教科書は必携ではない。犯罪白書・警察白書はWeb上で無料で閲覧できるものでも可。授業で取り扱ったテーマについて最適な文献をその都度紹介する。また授業において毎回資料を配布する。				

【オフィスアワー】
研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑事政策とは何か、犯罪学とは何か	刑事政策学・犯罪学の学問の概要やその歴史について説明し、社会にどのように貢献しているのかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	受講生が刑事政策学の概要を理解し、次回以降の講義に備えられるようにする。受講生がこの授業を通じて、どのように到達目標①②③④⑤⑥を達成していくのかを理解し説明できる。	
	事前学修	刑事政策もしくは犯罪学に関して、どの項目でも構わないので、自らの関心のあるテーマを見つけて、ノートに200～300文字程度で列挙し学習意欲を高めておく。	120分
	事後学修	講義で配布したレジュメを確認し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、刑事政策学の社会での役割について確認し、ノートに300文字程度で列記する。	120分
2	犯罪原因論①生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因	犯罪者がなぜ犯罪者になってしまうのか、生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因に基づいて犯罪の科学的分析の歴史を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑥に関連して、受講生が犯罪の発生原因の1つとされる生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因を理解し、それに基づいて犯罪の原因について説明することができる。	
	事前学修	最近、新聞・ニュース・インターネットで話題となった犯罪について、犯罪者はなぜ行為におよんだのかを考え、理由と思われるものをノートに列記する。授業時には、各自の意見を求める。	120分
	事後学修	授業で解説した、生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因について、自ら考えた理由と対比し、犯罪の発生原因について改めて考えてみる。考えた内容は、ノートに500文字程度で整理する。	120分
3	犯罪原因論②社会学的要因	犯罪者がなぜ犯罪者となってしまったか、社会学的要因の各理論に基づいて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②⑥に関連して、受講生が社会学的要因の理論を正しく理解し、分化的接触理論やアノミー理論等について具体的事例を用いながら説明することができる。	
	事前学修	マートンの「アノミー理論」と「社会解体理論」について、刑事政策、犯罪学の教科書等を調べ、それぞれ400文字程度でノートに整理した上で、2つ理論について自らの意見をノートに500文字程度で列記する。	120分
	事後学修	授業で解説した社会学的要因の理論のうち、自らが興味・関心を持った理論について、論文等を探し閲読する。探し方が分からない場合は、授業終了後及びオフィスアワーの時間を使用して、担当教員に質問する。	150分
4	犯罪原因論③犯罪原因論の転換、犯罪学の新しい動向	1960年代に登場したラベリング理論等、比較的新しい犯罪学の理論・考え方についての解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②⑥に関連して、受講生が犯罪発生に関する新しい犯罪学の考え方を正しく理解し、ラベリング理論やコントロール理論について論理的に説明することができる。	
	事前学修	「自分が犯罪を行わないのはなぜか？」ということについて考え、ノートに500文字程度で列記してくる。	120分
	事後学修	ラベリング理論に基づき、少年（少女）が犯罪者となっていく過程について、具体例を自分で考えノートに500文字程度で列記する。	120分
5	犯罪機会論①犯罪原因論から犯罪機会論へ	犯罪予防に関する考え方について、犯罪原因論から犯罪機会論へ変遷した経緯について歴史的背景に触れつつ解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生が犯罪予防の考え方が各刑事司法機関でどのように変わっていったのか、そして現在の犯罪を予防する方法について、どのように考えられているのかについて説明することができる。	
	事前学修	犯罪を事前に予防する方法としてはどのようなものが考えられるか、犯罪者の視点に立って考え、予防方法をノートに500文字程度で列記する。犯罪予防について、自分の住む都道府県の警察本部のホームページを確認してくる。	120分
	事後学修	①犯罪原因論が衰退した原因、②犯罪機会論の理論、③犯罪機会論が普及した理由、についてそれぞれ400文字程度で整理し、ノートに後で確認しやすいように記述しておく。	120分
6	犯罪機会論②Broken Window Theory、防犯環境設計の解説	破れ(割れ)窓理論（Broken Window Theory）、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティといった犯罪機会論に基づいて考案された犯罪の事前予防のための理論や政策について、具体例を用いて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生が破れ(割れ)窓理論（Broken Window Theory）、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティ等の犯罪の事前予防に関する政策等の内容を理解し、説明することができる。	
	事前学修	ニューヨークで行われた破れ（割れ）窓理論に基づく犯罪対策について調査を行い、ニューヨークの対策前の状況、行われた対策の内容、対策後の状況について、それぞれ400文字程度でノートに記述する。	120分
	事後学修	破れ(割れ)窓理論、防犯環境設計(CPTED)、セーフコミュニティは、自分の住む都道府県、市町村ではどのように取り入れられているか、警察本部、役所のホームページで確認し、ノートに列挙しておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	犯罪機会論③環境犯罪学に基づく犯罪予防策の具体例	環境犯罪学の理論を基に、防犯パトロールの効果的な実施方法や犯罪発生マップの有効な使い方について、実際の例を使用して解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連して、受講生が現在の日本の犯罪状況を分析した上で、防犯パトロールの効果的な実施方法や犯罪発生マップの有効な使用方法を説明することができる。	
	事前学修	自分の住んでいる都道府県の警察本部のホームページにアクセスし、犯罪発生マップ（都道府県によって名称が異なる）を確認する。そして自分の住んでいる町ではどこで犯罪が発生しているのかを調査しノートに場所や犯罪の種類を列記する。	120分
	事後学修	授業で解説した、防犯パトロールの効果的な実施方法や犯罪発生マップの有効な使い方に基づいて、自分の住んでいる町で犯罪予防政策を実施するにはどのようにすれば良いかを、ノートに600文字程度で記述しておく。	120分
8	刑罰論①刑罰制度総論	日本及び主要国の刑罰の歴史や刑罰の種類について資料を用いて説明した後、刑罰の意義や役割について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑥に関連して、受講生が刑罰の歴史や意義について正しく理解し、刑罰が社会の秩序を維持する上でどのように役立っているのかを説明することができる。	
	事前学修	人類の歴史と共に行われてきた刑の執行方法について、どのようなものがあつたのかを調査し、ノートに列記してくる。拷問器具等については、憶測も多く実際に存在したか疑問が呈されているものもあるため注意すること。	110分
	事後学修	刑罰の意義や役割がどのように変化していったのかについて、ノートに図表化してみる。刑罰の歴史の中で、残虐な刑の執行方法や拷問はどのような意味合いをもっていたのか、再整理しノートに列記する。	150分
9	刑罰論②刑罰制度各論Ⅰ 【死刑】	死刑制度について、現状を分析し、その問題点を抽出し、対応策を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連して、受講生が死刑制度の意義やその問題点について正しく理解し、対応策を説明することができる。	
	事前学修	近年の日本の死刑執行状況と世界の死刑執行状況を調査し、ノートに列記する。刑法典の定める犯罪のうち、死刑が規定されている犯罪を調べ、ノートに列記する。	180分
	事後学修	授業で解説した死刑の意義や目的をノートに整理し、自らは死刑制度に対してどのように考えるのかを賛成・反対を明確にした上で、500文字程度でノートに記述する。	180分
10	刑罰論③刑罰制度各論Ⅱ 【自由刑】	自由刑について、現状を分析し、その問題点を抽出し、解決策を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連して、受講生が自由刑の意義・問題点について正しく理解し、解決策まで説明することができる。	
	事前学修	刑法典の定める犯罪のうち、自由刑（懲役・禁錮・拘留）が規定されている犯罪を調べ、ノートに列記する。自由刑が執行される施設にはどういったものがあるか具体的な施設名を調べ、ノートに列記する。	120分
	事後学修	自由刑のメリット・デメリットについて調査し、それぞれノートに500文字程度で記述しておく。	120分
11	刑罰論④刑罰制度各論Ⅲ 【財産刑】	財産刑について、現状を分析し、その問題点を抽出し、どのような解決策があるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連して、受講生が財産刑の意義・問題点について理解し、問題点の解決のためにはどのような解決策があるのかを説明することができる。	
	事前学修	刑法典の定める犯罪のうち、財産刑（罰金・科料）が規定されている犯罪を調べ、ノートに列記する。財産刑はどこに支払うのかを調べノートに記述してくる。	120分
	事後学修	財産刑のメリット・デメリットについて調査し、それぞれノートに500文字程度で記述しておく。	120分
12	犯罪者の処遇①司法的処遇	犯罪者処遇の歴史及び現行のシステムについて解説した後、警察段階・検察段階・裁判所段階でどのような手続きが行われているか、また各段階でのダイバージョンはどのように実施されているのかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤⑥に関連して、受講生が犯罪者処遇の歴史の変遷や現行の刑事司法システムについて正しく理解し、説明できる。日本におけるダイバージョンについて解説を行い、正しく理解し説明できる。	
	事前学修	日本における法定化されたダイバージョンである微罪処分・起訴猶予・執行猶予について、根拠条文及び要件を調査し、ノートに列記してくる。	120分
	事後学修	警察段階・検察段階・裁判所段階での処遇及び猶予制度について整理し、ノートに図式化して記述する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	犯罪者の処遇②施設内処遇		日本における刑事施設の種類や処遇方針について諸外国と比較しながら説明し、刑事施設の中ではどのような矯正処遇が行われているかについて解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①④⑤⑥に関連して、受講生が日本の刑事施設の処遇制度について正しく理解し、諸外国との違いなどについて説明することができる。	
	事前学修	関東には、どのような刑事施設がどこに存在するのか調査を行い、ノートに列記してくる。	150分
	事後学修	刑務所で行われている処遇をノートに列記し、その処遇に対する自分の意見をそこに付け足す。矯正処遇の現状について、犯罪白書（ http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html ）で確認しておく。	120分
14	犯罪者の処遇③社会内処遇		犯罪者は刑事施設からの仮釈放が認められた場合、または裁判で執行猶予付判決となり保護観察付となった場合には社会内処遇となる。そうした社会内処遇の制度について、保護観察制度を中心に現状と課題を解説する。
	この回の到達目標	到達目標①④⑤⑥に関連して、受講生が保護観察制度についての現状について正確に理解し、犯罪者の社会内処遇はどのように行われるべきかを説明することができる。	
	事前学修	刑事政策・犯罪学の教科書、法務省のウェブサイト等で、保護観察官とはどのような職業かを調査し、更生保護における保護観察官の役割についてノートに列記する。	120分
	事後学修	保護観察制度の現状と問題点、解決策について、ノートに600文字程度で記述する。保護観察制度の現状について、犯罪白書（ http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html ）で確認しておく。	120分
15	総括・まとめ		刑事政策Ⅰで学修した犯罪原因論、犯罪機会論、刑罰論、犯罪者処遇論の内容を通してまとめて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生は前期で学んだ犯罪原因論、犯罪機会論、刑罰論、犯罪者処遇論の内容を定着させ、今後自らが我が国の犯罪対策を考える際に役立てることができる。	
	事前学修	これまでにノートに列記した事項を整理し、再度見直しを行い総復習を実施する。自らが興味がある犯罪情勢についての情報を収集しノートに列記する。	200分
	事後学修	事前学習で自らが収集した犯罪のデータを、第15回の授業で復習した内容に基づき分析し、今後どのような対策を行うことで犯罪の減少を行うことができるかを考え、自分の案をノートに500文字程度で列記しておく。	90分

科目名	刑事政策Ⅱ	担当者	西山 智之	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の措置を行えばいいのか、そうした問を解決する能力を身につけるため、犯罪原因の分析や犯罪者の処遇制度、各種犯罪に対する対策などの現状やその歴史について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
犯罪の予防及び鎮圧のための方法に関する知識を修得し、現行制度への批判的考察を可能とするために、現在行われている刑事司法制度の仕組みや犯罪の原因、各種犯罪対策について理解し、犯罪予防のための実効的な政策を考える力を身につける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法・少年法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。

【授業方法】
講義形式を中心とするが、受講生から意見を聴く機会を多く設ける予定である。是非、積極的に自分の考えや授業への要望を述べて欲しい。毎回の授業で、授業で学んだことや要望等を記入するコメントカードを提出してもらう予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゲストスピーカーによる講演及び質疑応答を行う。 ※社会の状況によって変更となる場合がある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現在の日本における犯罪情勢を説明できる。【知識】				1	1						
②	性犯罪・高齢者犯罪・薬物犯罪・交通犯罪・外国人犯罪等の各種犯罪の原因・特徴を説明できる。【知識】				1	1						
③	犯罪被害者支援策等の近年の刑事司法手続きにおける諸政策を説明することができる。【知識】				1	1						
④	犯罪白書・警察白書等の犯罪統計資料に基づいて、日本は今後どのような犯罪への重点的な対応策が必要なのかを調べることができる。【技能】					1	1		1			
⑤	日本における各種犯罪対策に対して、今後どのような改善策が必要であるのか、警察・検察・裁判所の資料を基に、調査することができる。【技能】						1	1	1			
⑥	各種犯罪対策に関する教員からの問いに対して、その場で考え、論理的に応えることができる。【態度】					1	1		1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤に関連して、レポート等の提出物が要件を満たし、かつ課題に適切に答える内容になっているかを前提に、基礎知識が身についているか、課題を適切に分析した上で自らの意見を説得的に述べられているかを基準として評価する。	15	15	15	15	15						75
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑥に関連して、毎回の授業時の担当教員からの問に適切かつ積極的に対応しているか等の評定尺度に照らして、論理的思考能力・問題解決力・積極性が身についているかを評価する。						25					25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	15	25					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業終了時に毎回、課題やコメントカードを提出してもらい、その次の回に記載されていた意見や質問に対応する。

【教科書・参考書等】					
	書名	著者名	出版社名	発行年	種別 必要度
	刑事政策【第7版】	岩井宜子	尚学社	2018	教科書 推奨
	令和2年版 犯罪白書	法務総合研究所	昭和情報プロセス	2020	その他 推奨
	令和2年版 警察白書	国家公安委員会・警察庁	日経印刷	2020	その他 推奨
	Next教科書シリーズ 刑事法入門	船山泰範 編	弘文堂	2014	参考書 任意
備考	教科書は必携ではない。犯罪白書・警察白書はWeb上で無料で閲覧できるものでも可。授業で取り扱ったテーマについて最適な文献をその都度紹介する。また授業において毎回資料を配布する。				

【オフィスアワー】
研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jpまで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	現在の日本の犯罪情勢と分析方法		日本の犯罪の公式統計にはどのようなものがあり、採用されている統計方法はどのようなものか、また日本の犯罪情勢は どのような現状にあるのかを統計資料を用いて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が犯罪情勢の分析方法や日本の刑法犯認知件数の推移について理解し、説明できる。		
	事前学修	現在の日本の犯罪の発生件数がどのくらいかについて新聞・インターネット等で調べ、ノートに列記しておく。		100分
	事後学修	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、刑法犯認知件数と暗数の問題等の犯罪統計に関する正しい知識を確認し、ノートに300文字程度でまとめておく。		120分
2	犯罪被害者Ⅰ 犯罪被害者と刑事司法制度		犯罪被害者とは何か、犯罪被害者支援の意義、犯罪被害者に必要なもの、犯罪被害者と刑事裁判について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が犯罪被害者の置かれてきた立場と犯罪被害者支援の意義について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	犯罪被害の一次被害・二次被害・三次被害とはどのようなものか、調査しノートにそれぞれ200文字程度で列記してくる。		120分
	事後学修	犯罪被害者に必要な4つの点について、それぞれ具体例を添えて150文字程度でまとめノートに列記しておく。		140分
3	犯罪被害者Ⅱ 犯罪被害者の保護と支援		警察・検察・裁判段階の犯罪被害者の保護・支援策について具体的な制度を紹介しながら、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤⑥に関連して、受講生が警察・検察・裁判所段階における犯罪被害者の保護・支援策について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	自分が犯罪被害者となった場合に公的機関には何をしてほしいか想像し、ノートに400文字程度で列記してくる。		120分
	事後学修	警察・検察・裁判所の各段階の犯罪被害者の保護・支援策について、図表化しノートに分かりやすいようにまとめて記述しておく。		140分
4	犯罪被害者Ⅲ 犯罪被害者の保護・支援の現場 【ゲストスピーカーによる講演】		犯罪被害者の保護・支援の現場で仕事をしている警察官（警視庁総務部企画課犯罪被害者支援室の方を予定）から直接、犯罪被害者の保護と支援の実際についてお話を聞く。 ※ゲストスピーカーによる講演は、社会の状況や先方との日程調整により変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤⑥に関連して、受講生が犯罪被害者の保護・支援の現場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	自分の住む都道府県における犯罪被害者の保護・支援策について調査し、ノートに400文字程度でまとめて列記してくる。		100分
	事後学修	犯罪被害者の保護・支援の現場の声を踏まえて、第2回・第3回の授業も参考とし、今後の犯罪被害者の保護・支援はどのように行っていけば良いかについて考え、自分の意見を1000文字程度にまとめレポートとして提出する。		200分
5	少年非行Ⅰ 少年非行の基本知識		少年非行とは何か、少年非行の現状、少年非行の原因、少年非行の問題点について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が少年非行の現状や原因、問題点について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	少年が非行にはしる原因は何か、自分の中学～高等頃の周りの様子を参考に予想し、考えた内容をノートに400文字程度でまとめ列記してくる。		120分
	事後学修	自分が予想した内容と授業で解説した少年非行の原因を比較し、自分の考えをより深く考察し、その結果をノートに500文字程度でまとめ記述しておく。		130分
6	少年非行Ⅱ 少年司法制度と少年非行対策		少年法の基本理念、少年司法制度、少年非行対策について簡潔に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が少年法の基本理念、少年司法制度、少年非行対策について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	少年法に対する自分の考え（重要である・不要である等）をノートに500文字程度でまとめ記述してくる。		120分
	事後学修	授業を受けた後で、自分の少年法にもっていたイメージが変わったか変わらなかったを明確にした上で、少年法に対する自分の意見を500文字程度でまとめノートに記述しておく。		130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	児童虐待		児童虐待の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が児童虐待の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明できる。		
	事前学修	近年、ニュースや新聞で取り上げられた児童虐待の事件について調査し、事件の概要を400文字程度でまとめノートに記述してくる。		110分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、児童虐待を効果的に減少させることができると考える政策を考え、ノートに500文字程度で記述しておく。		140分
8	薬物犯罪		薬物犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が薬物犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	薬物犯罪として取り締まりの対象となる薬物にはどのようなものがあるのか調査し、取り締まりの法令も含めてノートに列記してくる。		130分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、薬物犯罪を効果的に減少させることができる政策を1つ考え、ノートに400文字程度で記述しておく。		110分
9	外国人犯罪		外国人の数が年々増加する日本国内において、外国人犯罪の現状と課題を説明し、今後日本がどのような対策を行うことが必要なのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が外国人犯罪に対して、偏見やイメージに基づかない冷静な分析を行い、その対策について理解し、説明できる。		
	事前学修	外国人の犯罪と聞いてイメージすることを、ノートに500文字程度でまとめ記述してくる。		120分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、外国人犯罪を効果的に減少させることができる政策を1つ考え、ノートに400文字程度で記述しておく。		120分
10	高齢者犯罪		かつては犯罪被害者としての面が強かった高齢者であるが、現在は犯罪加害者としての高齢者が注目されている。高齢者はどのような犯罪を行うのか、また高齢者の社会復帰はどのようにすれば良いのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が高齢犯罪者の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	高齢者はどのような犯罪を起こすのか予想し、その内容をノートに400文字程度で列記してくる。		120分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、高齢犯罪者が社会復帰するためにはどのような政策が必要かを考え600文字程度でまとめノートに記述しておく。		140分
11	精神障害者の犯罪		日本における精神障害者による犯罪の件数や特徴等の現状を統計データを用いて説明し、それに対する対応策の課題と今後の展望について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が偏見やイメージに基づかない、科学的データに基づく触法性精神障害者への正しい理解をし、説明することができる。		
	事前学修	精神障害者の犯罪と言われて自分が思い浮かべるイメージをノートに300文字程度で列記してくる。		100分
	事後学修	授業や配布資料で示した資料を基に、精神障害者の何パーセントが犯罪を犯すのかや罪名別の精神障害者の割合について、図表化しノートにわかやすいようにまとめを記載しておく。		120分
12	サイバー犯罪		サイバー犯罪の種類と各種サイバー犯罪の現状と対策について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生がサイバー犯罪に関する最新の高度な知識を習得し、その対応策を説明することができる。		
	事前学修	サイバー犯罪と聞いてどのようなものをイメージするか、その内容をノートに400文字程度で列記してくる。		110分
	事後学修	授業や配布資料で示した資料を基に、今後、大学生の被害者化対策に有効と思われる政策を考え、ノートに600文字程度でまとめ記述しておく。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	交通犯罪		交通犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が交通犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	「妨害運転（あおり運転）」について、取り締まり対象の行為（運転）と取り締まり強化に繋がった事件とその後の法改正の流れについて、ノートに500文字程度でまとめ記述してくる。		140分
	事後学修	配付した資料にも目を通し、道路交通法違反と刑罰の関係について、まとめを行い500文字程度でノート記述しておく。		120分
14	犯罪対応・犯罪対策の現場 【ゲストスピーカーによる講演】		警察の交通部・刑事部・生活安全部・組織犯罪対策部のいずれかから、現役の警察官若しくはOB・OGを呼び、犯罪対応・犯罪対策の現場についての講演を行ってもらう。 ※ゲストスピーカーによる講演は、社会の状況や先方との日程調整により変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤⑥に関連して、受講生が犯罪対応・犯罪対策の現場を理解し、説明することができる。		
	事前学修	警察の組織図（例〔警視庁〕： https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/saiyo/2020/about/organization.html ）を基に、それぞれの部課がどのような業務を行っているかを調査し、ノートに列記してくる。		150分
	事後学修	犯罪対応・犯罪対策の現場の声を聴いた上で、我が国の刑事司法機関についての自分の考えを600文字程度でまとめノートに記述しておく。		150分
15	性犯罪		性犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について解説を行う。性犯罪の特徴的な問題点や対応策の難しさ、最新の議論についても解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥に関連して、受講生が性犯罪の定義・意義・現状・特徴・原因・問題点・対策について正しく理解し、説明することができる。また性犯罪の現在議論されている最新の問題についても理解し、説明することができる。		
	事前学修	性犯罪者の情報公開制度について調査を行い、制度の概要（日本では実施されていない）を400文字程度でまとめノートに記述しておく。キーワード：ミ（メ）ーガン法		100分
	事後学修	刑事政策Ⅱで学んだ犯罪対策を踏まえて、性犯罪に有効と考えられる政策を考え、ノートに900文字程度でまとめ記述しておく。		140分

科目名	経済政策論	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			

【授業の概要】
経済政策とは、経済理論を背景に政策的介入や規制等の効果について検討を行うものである。本講義ではミクロ経済政策について学修する。なお、講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実の経済問題（人口減少、雇用、経済成長、規制緩和、少子化、高齢化、社会保障）に対する、経済政策がどのような効果をもたらすかについて論じることができるようになるために、経済政策についてその理論的背景を修得する。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（同時履修可）

【授業方法】
教科書・講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、リアクション・ペーパー（小テスト）を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。					3	3	3	3			
②	ミクロ経済政策の概念や政府の介入の意義を、論理的に説明することができる。					3	3	3	3			
③	外部性や情報の非対称性をはじめとする市場の問題を説明することができる。					3	3	3	3			
④	個々のミクロ経済政策に対する自分なりの評価、より望ましい状況を論理的に説明できる。					3	3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、5回行う小テスト・レポートにより、到達目標①②③⑤⑥⑦に関わる基礎知識を評価する。	3	3	3		2	2	2				15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④(中間)、⑧(期末)にかかわる課題の探求能力が身についているかを評価する。				35				35			70
討論・発表等	授業中の演習・質疑応答において自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標①②③⑤⑥⑦にかかわる事例問題の解答能力が身についているかを評価する。	2	2	2		3	3	3				15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	35	5	5	5	35			100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナール「経済政策入門」	岩田規久男、飯田泰之	日本経済新聞出版社	2006年	教科書	必携
競争政策論（第2版）	小田切宏之	日本評論社	2017年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		該当しない	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション・需給分析】	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、経済政策論を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、経済政策論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	教科書第1章1．2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討をする。	120分
2	【厚生分析の基礎】	消費者余剰、生産者余剰、総余剰について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済分析の基礎である厚生分析の方法を説明できる。	
	事前学修	教科書第1章5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第1章の練習問題3について説明をまとめること。	120分
3	【競争市場と税・規制】	税・補助金の死荷重、価格規制と参入規制の費用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、税や補助金による市場介入による死荷重を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章1．2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第2章の練習問題1について説明をまとめること。	120分
4	【貿易政策と産業政策】	自由貿易の利益と日本の産業政策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自由貿易・産業政策の利益と費用を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章3．4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第2章の練習問題5について説明をまとめること。	120分
5	【独占と規制】	規模の経済、独占企業の価格規制について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、規模の経済と独占が生じる仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第3章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第3章の練習問題1．2について説明をまとめること。	120分
6	【インセンティブと規制緩和】	インセンティブ規制と公益事業の規制緩和について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インセンティブ規制の内容と規制緩和の利益について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第3章の練習問題5について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【外部性と環境政策】	外部性、市場の失敗、コースの定理、排出権取引について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場の失敗と環境問題の経済学的理解について説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第4章の練習問題1について説明をまとめること。	120分
8	【公共財の供給】	公共財の性質と、費用便益分析について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共財供給のメカニズムについて説明できる。	
	事前学修	教科書第4章2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第4章の練習問題6について説明をまとめること。	120分
9	【不完全情報とリスク】	期待効用仮説、リスク・プール、逆選択、モラル・ハザードについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、限界効用逓減、情報の非対称性について説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1．2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の練習問題1について説明をまとめること。	120分
10	【不完全情報下の経済政策】	情報開示政策、有限責任行動、政策金融の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報の非対称性についての政策介入について説明できる。	
	事前学修	教科書第5章3．4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の練習問題4について説明をまとめること。	120分
11	【所得再分配政策】	効率性と公平性のトレードオフ、所得再分配の基準について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、効率性と公平性の違いについて説明でき、所得再分配政策の基準について議論できる。	
	事前学修	教科書第10章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の練習問題1について説明をまとめること。	120分
12	【所得税】	包括的所得税について考え方と性質について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、包括的所得税の概念と問題点について説明でき、議論できる。	
	事前学修	教科書第11章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第11章の練習問題1について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【支出税】	支出税について考え方と性質について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、支出税の概念と問題点について説明でき、議論できる。	
	事前学修	教科書第11章 2 の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第11章の練習問題 2 について説明をまとめること。	120分
14	【年金と医療】	保険原理と財政原理の違い、日本の年金制度について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険原理と財政原理の違いについて説明でき、日本の社会保障制度について議論できる。	
	事前学修	教科書第12章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第12章の練習問題 2 について説明をまとめること。	120分
15	【まとめ】	ここまでの講義全体の総括と、経済政策論を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、経済政策論を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
	事後学修	定期試験に向けて準備しておくこと。	240分

科目名	経済法Ⅰ	担当者	友岡 史仁	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【履修条件】
憲法、民法、行政法、会社法等を履修していること（既習であること）が望ましいのですが、そうではない場合も配慮する予定です。

【授業方法】
講義およびケーススタディーになります。担当者がすでに執筆している『要説経済行政法』（弘文堂・2015年）にも関連する事例等を取り上げているので、それらを参考にしながら進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が独禁法ののさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。					2		2					
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。					2		2					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済法・第8版補訂版	岸井大太郎ほか	有斐閣	2019年	教科書	必携
経済法判例・審決百選〔第2版〕	金井貴嗣ほか編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日17:50に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	独禁法概説		序論として独占禁止法の全体を眺め、どのような規定があるかを概観します。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本授業で行う全体像を理解します。規制の種類が条文に照らしてどのようなものがあるかを理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法はどのような規定であるのかについて、六法を開けてざっと読んでください。	120分
	事後学修	授業で話された内容を六法で確認しておきましょう。	120分
2	独禁法成立経緯（１）		独禁法制定当時の経緯を説明し、新日鉄合併事件などを通じて学びます。ここで景表法などの成り立ちを嘘つき牛缶事件を通じて学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、後で学ぶ独禁法のエンフォースメントの強化に至る具体的経緯を知ることで、現代的意義を理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の歴史的経緯が書かれた教科書の該当箇所を見ておきましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
3	独禁法成立経緯（２）		独禁法が次第に課徴金制度など規制強化の制度経緯を眺めることで、現在の柱となる概念の活用方法を理解します。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法の歴史的経緯に触れることで、独禁法上の既成概念の意義を深く理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の歴史的経緯が書かれた教科書の該当箇所を見ておきましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
4	独禁法の基礎的概念（１）		「一定の取引分野」、「競争の実質的制限」、公正競争阻害性といった独禁法の実体的規定の柱となる法概念の関係性を学びます。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法全体で共通して用いられる抽象概念をはじめに理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の実体的規定に共通する概念を六法で見ておきましょう。	120分
	事後学修	これらの概念がどの規定と共通するかを六法で確認しましょう。	120分
5	独禁法の基礎的概念（２）		「事業者」や「公共の利益」など、独禁法の柱となる抽象的概念がどのように活用されるかを、都営芝浦と畜場事件や石油カルテル刑事事件を通じて概観します。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的概念が実際の事例でどのように用いられているかを、最初の段階で知識として取得できることを目指します。	
	事前学修	第4回で学んだ独禁法の実体的規定がどのような場合に当てはまるのかに注意しながら、教科書の該当箇所を一読しましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
6	公正取引委員会の組織と権限（１）		独禁法を具体的に適用する行政組織に与えられる権原、その他の特殊性について取り上げます。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法が特別の行政組織である公正取引委員会により執行されることを理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法を適用する主体が誰であるかを教科書の該当箇所から学び取ってみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公正取引委員会の組織と権限（２）		独禁法の適用事例を通じて組織上の課題を取り上げます。なお、すでに審判手続は廃止されていますが、学ぶ諸事例はこの手続にのっとり解決されているケースが多数になりますので、現在の制度と対比させながら論じます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法が特別の行政手続を設けることで紛争処理を行っている実態を理解できることを目指します。		
	事前学修	公正取引委員会に与えられる諸権限を六法で確認しておきましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分
8	違反事件の処理手続（１）		公正取引委員会に与えられる行政上の諸権限がどのような意味を持ち、それがどのように行使されるのかについて、主に手続的な問題として取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、公正取引委員会が他の行政機関とは独立していることの意義を、紛争事例を通じて習得できることを目指します。		
	事前学修	公正取引委員会の諸権限がどのように六法で規定されているかを一読しておきましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分
9	違反事件の処理手続（２）		公正取引委員会に与えられた特殊な権限が違反事件にいかに関与しているかを概観します。この場合、詳細な手続が委員会規則によって定められていることがあるので、事前学習で調べたものに照らし合わせることを期待します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、公正取引委員会が独禁法違反の処理を行うための根拠規定の内容とその解釈ができることを目指します。		
	事前学修	公正取引委員会が定めた規則がありますので、その規則をインターネット等で調べてみましょう。		120分
	事後学修	取り上げられた諸権限が具体的にどのように活用されているのかを教科書などで確認しておきましょう。		120分
10	実効性確保手段（１）		公正取引委員会による違反事件に対する行政上の措置として排除措置命令・課徴金納付命令を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法特有の違反処理に関する実体・手続の両面からの論点を理解できることを目指します。		
	事前学修	公正取引委員会の諸権限がどのように六法で規定されているかを一読しておきましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分
11	実効性確保手段（２）		違反事件に対する民事上・刑事上の現れ方を概観します。特に、独禁法25条に規定される無過失損害賠償訴訟の意義を、鶴岡灯油訴訟を素材に学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、民事・刑事両面にわたり実効性確保手段がどのように機能するかを理解できることを目指します。		
	事前学修	独禁法の中で訴訟にかかわる部分についてどのような規定があるかを、六法の中から探し出してみましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分
12	独禁法の機能の全体的概観		これまでに取り上げてきた内容について、独禁法がどのように機能するかを全体的に概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、独禁法特有のさまざまな現象や行政・民事・刑事の実効性確保を全体的に鳥瞰し、次の実体的な規定の解釈につなげられる能力を身につけられることを目指します。		
	事前学修	独禁法の柱となる概念はどのようなものがあるかを確認するため、教科書を読んでみましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行為規制に関する共通規定——「競争の実質的制限」	独禁法2条5項・3条前段の規定の意味を取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的な概念がどのように実際事例に生かされるかについて改めて認識できることを目指します。	
	事前学修	私的独占について独禁法がどのように規定しているかを六法から読み取ってみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
14	私的独占（１）——排除型私的独占	私的独占の類型のうち排除型に関する諸事例として、パラマウントベッド事件、NTT東日本FTTH事件などを取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、抽象的な概念がどのように実際事例に生かされるかについて改めて認識できることを目指します。	
	事前学修	到達目標①②と関連して、典型的な排除型私的独占のモデルを理解できることを目指します。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
15	私的独占（２）——支配型私的独占	私的独占の類型のうち支配型に関する諸事例として、野田醤油事件などを取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、支配型私的独占の典型モデルを深く理解できることを目指します。	
	事前学修	第14回で学んだ排除型私的独占と対比させながら、何が支配型私的独占であるのかについて、教科書を一読してみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分

科目名	経済法Ⅱ	担当者	友岡 史仁	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済活動は自由に行われ、そこには価格競争が成立します。しかし実際には、大企業による他の競争企業の排除であったり、秘密裏に価格を決め済活動は自由に行われ、そこには価格競争が成立します。しかし実際には、大企業による他の競争企業の排除であったり、秘密裏に価格を決め企業同士で競争しない協定が締結されることもしばしば行われるため、市場原理に反する企業によって競争がゆがめられてしまいます。このように、私たちの日常で起きうるさまざまな競争上の問題を解消する独占禁止法を本授業では取り上げ、その基本的な解釈をできるだけ忠実に条文に照らしながら学ぶことを目的とし、社会に出ても十分に対応できる法的思考（リーガルマインド）を身につけられることを目標とします。

【履修条件】
経済法Ⅰの履修者であることを求めます。なお、憲法、民法、行政法、会社法等を履修していること（既習であること）が望ましいのですが、そうではない場合も配慮する予定です。

【授業方法】
講義およびケーススタディーになります。担当者がすでに執筆している『要説経済行政法』（弘文堂・2015年）にも関連する事例等を取り上げているので、それらを参考にしながら進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が独禁法のさまざまな現象を具体的に理解できるよう説明する。				2		2					
②	履修者が法的な言葉遣いで授業内容を説得的に語れるよう説明する。				2		2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について講義内の解説を理解し論述力が身についているかを、筆記試験により評価する。	35	45									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	履修者数次第だが、単元の理解を高めるために適宜トピックを与え、到達目標①および②の順に従い、各次週までに議論ができるよう履修者が論点発見し報告できるよう工夫する。	5	5									10
授業への参画度	履修者数次第だが、授業への積極的参加を求めるため、履修者に質問を投げかけそれに応じた諸君に加点することがある。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する予定。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済法・第8版補訂版	岸井大太郎ほか	有斐閣	2019年	教科書	必携
経済法判例・審決百選〔第2版〕	金井貴嗣ほか編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
要説経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日17:50に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	独禁法の実体的規定（概要）	経済法Ⅰで学んだ独禁法の基礎的概念や実体的規定を前提に、「競争の実質的制限」を共通要件とする独禁法2条6項・3条後段の規定の意味を取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、行為規制として重要な違反行為の典型類型をより深く理解できることを目指します。	
	事前学修	今回から不当な取引制限（カルテル）について学んでいきますので、カルテルとは何かなどを、身近な事例で感じながら教科書を一読してみましょう。あわせて六法で該当する規定を読んでおきましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分
2	不当な取引制限（１）	多数の不当な取引制限に関する諸事例の典型的なものについて、取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、まずは条文が期待する基本的事例のイメージを理解できることを目指します。	
	事前学修	第16回で概要を理解した「不当な取引制限」がどのように活用されるのかについて、教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	120分
3	不当な取引制限（２）	カルテル・官製談合について、協和エクシオ事件、目隠しシール談合事件のような典型的事例を通じて学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、先に学んだ基本的な事例イメージが具体的事例にいかにか当てはめられるかを理解できることを目指します。	
	事前学修	不当な取引制限のうち、「談合」を典型として特殊な事例として行政機関が関わるものもあるので、それらが何かについて教科書で一読してみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
4	不当な取引制限（３）	不当な取引制限に関する課徴金納付命令などの特殊な手続について、復習およびそれにかかわる諸手続の問題を検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、課徴金制度の概要とその実効性を制度上どのような課題があるかを理解できることを目指します。	
	事前学修	独禁法の実効性確保手段（エンフォースメント）について、六法で該当する規定を探し出してみましょう。	60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分
5	構造規制（１）——独占的状态規制	構造規制の一つである独禁法8条の4に規定される独占的状态規制について取り上げます。特に、「ネットワーク産業」と競争政策の関係性を意識します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、伝家の宝刀と呼ばれる独占的状态規制の存在意義について、具体的事例を交えて理解できることを目指します。	
	事前学修	構造規制がどのような意味を持つのかについて、教科書で確認してみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。	120分
6	構造規制（２）——集中規制概観	企業結合のうち集中規制（一般・市場）の意味について取り上げます。公取委のガイドラインに記された意義について、独禁法の歴史的観点から学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、構造規制の全体像を頭の中で描けるよう、独禁法の仕組みを理解できることを目指します。	
	事前学修	インターネット・新聞報道でもよく扱われるM&Aについて、どのような時事問題が登場するかを意識して教科書を一読してみましょう。	120分
	事後学修	取り上げられた事例を教科書やインターネット・新聞報道などで確認しておきましょう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	構造規制（３）——持株会社規制		構造規制の一つである持株会社規制に係る独禁法9条・11条について、関連する公取委ガイドラインに照らしながら、その中身について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、財閥復活の抑止力となるこれらの規定の存在意義を理解できることを目指します。		
	事前学修	企業結合に関する独禁法の規定を六法で確認してみましょう。その際、公正取引委員会が公表している事業支配力過度集中規制ガイドラインもインターネット等で確認してみましょう。		120分
	事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。		120分
8	構造規制（４）——株式保有・役員兼任・合併規制		独禁法10条、13条以下について取り上げ、株式保有・役員兼任・合併といった諸規制について概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、本来自由であるこれらの諸規制が存在する意義について具体的に理解できることを目指します。		
	事前学修	第22回の授業で取り上げられなかった企業結合に関する独禁法の規定を六法で確認してみましょう。その際、公正取引委員会が公表している企業結合ガイドラインもインターネット等で確認してみましょう。		120分
	事後学修	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。		120分
9	構造規制（５）——企業結合事例の検討		公正取引委員会による審決例である新日鉄事件、広島電鉄事件、日本楽器事件などを通じて、企業結合に関する諸事例の基本的理解を進めます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、典型事例を説明することで企業結合事例の法的問題を理解できることを目指します。		
	事前学修	企業結合ガイドラインで触れられた内容に照らしてどのような問題が生ずるかについて、教科書を一読してみましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分
10	不公正な取引方法（１）		不公正な取引方法の要件である公正競争阻害性について、私的独占・不当な取引制限とは異なる構成要件とその意味を概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の概念についてその法構造を他の諸規制と照らして説明できることを目指します。		
	事前学修	六法の中で不公正な取引方法はどのように規定されているかを確認してみましょう。		120分
	事後学修	取り上げられた規定の意味を教科書などで確認しておきましょう。		120分
11	不公正な取引方法（２）		排他条件付取引について和光堂事件をはじめとした典型事例を学ぶことで、不公正な取引方法の一角を担う違反行為について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の典型事例を理解し他の関連事例の説明にもつながれることを目指します。		
	事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分
12	不公正な取引方法（３）		独禁法上課徴金の対象となる再販売価格維持行為について、ソニーコンピュータエンタテインメント事件などを取り上げます。これとあわせて、拘束条件付取引にかかわる諸類型について、公取委のガイドラインに照らして検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、不公正な取引方法の中でも違法性の強い再販売価格維持行為のイメージを深く理解できることを目指します。		
	事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。		60分
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	不公正な取引方法（４）		共同・その他の取引拒絶、差別対価等の差別的取扱いについて、全農協事件、北國新聞事件（第二次）など、実体法上の論点にかかわる諸事例を取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、一般指定の深い読み方を具体的事例に照らして理解できることを目指します。		
	事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。	60分	
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分	
14	不公正な取引方法（５）		不当廉売、優越的地位の濫用を、読売新聞社事件や三越事件といった典型事例を中心に学ぶとともに、その他の不公正な取引方法を含めた公正競争阻害性を要件とした行為規制全体像を明らかにします。180	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、典型事例を頭に入れることで、不公正な取引方法の全体的な把握できることを目指します。		
	事前学修	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。	60分	
	事後学修	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。	180分	
15	独禁法の実体的規定（総括）		独禁法の総説・実体的規定を通じて学んだ諸事項を総括し、問題発見能力（リーガルマインド）が養われていることを確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、経済法Ⅰを含めて学んだ独禁法に準備された様々な諸規制が私たちの経済活動にどのように関係しているかを理解できることを目指します。		
	事前学修	経済法Ⅰから前回までに学んだ独禁法に関する諸規定の解釈と具体的な諸事例について、復習してみましょう。	120分	
	事後学修	確認できたことを教科書・百選に照らして検討してみましょう。	120分	

科目名	警察政策	担当者	金山 泰介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
治安行政は、外交及び防衛と並んで重要な国家の基本機能でありながら、我が国の大学ではあまり論じられてこなかった分野である。しかしながら、平成に入ってから犯罪急増、サイバー犯罪、振り込め詐欺、ストーカー等新たな治安への脅威の出現により、治安に対する国民の関心が高まっているところである。本科目においては、警察行政を中心に犯罪や事故等人に起因する危険から個人や社会を守るための行政政策を説明する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
◎授業目的：治安行政は、平成期に入り犯罪急増等により国民の関心が高まるとともに、配偶者暴力、ストーカー、児童虐待等の新規立法が相次いで行われるなど大きく進展している。こうした治安行政の中核に担う警察行政の進展の背景、内容を理解し、社会の安全にかかわる施策の企画、立案、執行を担える人材を養成する。 ◎到達目標：近年の警察行政の進展の背景、内容について自分の言葉で説明できるようになるとともに、社会における危険に対して国、自治体、企業、個人それぞれのレベルでの対処について考察し、具体的な対策について説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを用いた講義形式またはオンデマンド方式のメディア授業で行うが、予習しておくこと。また、講義冒頭に前回講義のポイントを質問するので復習を欠かさないこと。試験または授業内レポートの解説は、終了後に行う。、

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	警察制度の変遷について説明できる。【知識】		4		4	4			
②	警察法及び警察官職務執行法の概要を説明できる。【知識】		4		4	4			
③	犯罪統計の概要及び分析手法を説明できる。【知識】		4		4	4	4		
④	平成期の警察政策（社会安全政策）の大きな変化についてその特徴を説明できる。【知識】		4		4	4	4		
⑤	警察政策策定の基本的考え方を説明できる。【知識】		4		4	4			
⑥	危険事態に対処する場合の基本的な警察活動について法的根拠に基づき判断できる。【技能】		4		4	4	4		
⑦	公務員及び警察官の倫理について議論できる。【態度・習慣】		4		4	4	4		
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①ないし⑦に関し、2回の筆記試験または授業内レポートにより評価する。警察に関する断片的な知識の羅列ではなく、社会の発展や国民の意識の変化とのかかわりなど制度や権限の変遷等現行法制の背景を踏まえた総合的な論述を求めます。理解の正しさ、表現力も評価します。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	各授業冒頭では、前回の授業についての質問を行うことにより、復習の有無を確認します。メディア授業では、出欠の確認を兼ねて課題の提出を求めます。	20										20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験／授業内レポート後に論点等の解説をします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版警察行政概論	金山泰介	立花書房	2019	教科書	必携
令和2年版警察白書	警察庁		2020	参考書	推奨
令和2年度版犯罪白書	法務省		2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日授業の前後に授業講堂で受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を有しています。 警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を基に、日本警察の法制度及び政策の策定プロ説及びその実施について諸外国の警察との比較を交えながら、具体的に説明します。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び日本の警察制度	社会の安全を守るための行政の意義と授業の進め方、評価方法等の説明及びそれを担う警察制度の概要	
	この回の到達目標	社会の安全を守るための行政の意義を説明できる。	
	事前学修	シラバス及びテキスト該当部分を精読する。	60分
	事後学修	講義ノートを整理し、警察制度の基本的事項を確認する。	120分
2	犯罪情勢の推移と変化の原因	戦後の犯罪情勢を概観するとともに犯罪統計について理解する。	
	この回の到達目標	刑法犯、特別法犯、交通業務上過失致死傷罪の意義を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、犯罪統計の概要を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、犯罪統計におけるキーワードを記憶する。	120分
3	警察権限行使の法理	警察権限の法的根拠とその執行の基本的原則を理解する。	
	この回の到達目標	警察権限行使の裁量における判断基準を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、警察法第1条及び第2条の趣旨を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、警察権限行使の基本原則をまとめる。	120分
4	警察の捜査	警察の行う犯罪捜査の意義と任意捜査の原則について理解するとともに、主に英米法との比較において任意捜査の原則の意義を考察する。	
	この回の到達目標	任意捜査の原則を法的根拠に基づき説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、犯罪捜査の法的根拠を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、警察、検察それぞれの捜査の違いをまとめる。	120分
5	警察官の倫理	警察官の職務倫理について理解するとともに警察官の倫理の特徴について考察する。	
	この回の到達目標	警察官には一般公務員より高い倫理が求められることに納得し、を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、警察倫理と公務員倫理の違いを考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、警察官は一般公務員よりも高い倫理性が求められる理由についてまとめる。	120分
6	被害者対策と犯罪予防の理論	犯罪被害者対策の概要及び犯罪理論特に環境犯罪学の概要を理解する。	
	この回の到達目標	犯罪被害者の置かれている状況を知り、その支援の重要性を説明できる。環境犯罪学について説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、犯罪被害者の置かれている立場に思いを寄せる。	120分
	事後学修	講義ノート整理し、犯罪予防の理論の発展の経緯を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	授業内試験またはレポート及びその解説		授業前半の理解度を確認する。
	この回の到達目標	及第点の獲得	
	事前学修	試験準備。	
	事後学修	解説に基づき、自らの答案またはレポートを再構成する。	
8	公共空間・地域の安全		公共空間における犯罪防止政策の変遷と現状を理解するとともに、犯罪予防の理論の適用・実践を考察する。
	この回の到達目標	自らの居住地域の犯罪予防がどのように行われているか具体的に説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、犯罪予防の重要性を理解する。	
	事後学修	講義ノートを整理し、犯罪予防の理論に基づく各種施策をまとめる。	
9	家庭等親密圏の安全		配偶者暴力、ストーカー、児童虐待等親密な関係にある者の間で生ずる事案への対応について考察する。
	この回の到達目標	親密圏に対する国家の介入の変遷を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、家族間の犯罪について考察する。	
	事後学修	講義ノートを整理し、夫婦間暴力、ストーカー対策、児童虐待対策に共通する事項をまとめる。	
10	反社会的勢力対策		暴力団等反社会的勢力への対処について理解する。
	この回の到達目標	暴力団等反社会的勢力への対処について、その歴史的背景及び法制度の変遷について説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、暴力団対策の歴史を考察する。	
	事後学修	講義ノートを整理し、暴力団対策の変化と国民の意識の変化についてまとめる。	
11	サイバー空間の安全		サイバー犯罪対策の歴史と現行法制度について理解するとともに、サイバー空間の秩序構築について考察する。
	この回の到達目標	サイバー空間と現実空間との相違及び融合を理解し、犯罪対策の特徴を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、サイバーセキュリティ基本法の基本条項に目を通す。	
	事後学修	講義ノートを整理し、サイバー空間の秩序構築のための諸施策についてまとめる。	
12	道路交通の安全		交通死亡事故防止対策について理解する。
	この回の到達目標	交通安全基本計画の策定経緯を理解し、議院内閣制における省庁横断型政策プロジェクトの基本的な在り方を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分の精読し、交通事故対策の歴史について考察する。	
	事後学修	講義ノートを整理し、交通死亡事故抑止に効果をもたらした諸要素をまとめる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テロ対策	テロの歴史と対策について理解する。	
	この回の到達目標	テロの変遷を理解し、それに伴うテロ対策の転換を説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分の精読し、テロの歴史を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、テロ防止のための規制の必要性和個人の自由とのバランスについてまとめる。	120分
14	犯罪対策閣僚会議と行動計画	犯罪対策閣僚会議の設置と「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」の策定について考察する。	
	この回の到達目標	犯罪対策閣僚会議の設置と「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」の策定についてその背景及び政策決定のを説明できる。	
	事前学修	テキスト該当部分を精読し、「行動計画」策定の背景を検討する。	120分
	事後学修	講義ノートを整理し、第1次から3次の「行動計画」の発展についてまとめる。	120分
15	授業内試験またはレポート及びその解説	授業全体の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標をクリアする。	
	事前学修	試験の準備	180分
	事後学修	解説を基に答案またはレポートを再構成する。	60分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	澤田 康広	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき，できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが，近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し，その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において，身近に発生しうる犯罪に対し，どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため，刑事手続に内在する問題点を理解し，それを具体的事案にあてはめ，解決できる能力を修得する。

【履修条件】
刑法総論，各論を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
教科書に依拠して講義形式で説明するが，あわせて適宜，判例百選等の事例も紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し，捜査の適法性の基準を説明することができる。				1	1	1					
②	捜査機関の行為の適法性の基準を，具体的事例に即して即して適用し，判断することができる。						1		1			
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 レポートにより評価する。	60	40									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選 (第10版)	井上 正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
刑事法入門	太田茂・上野幸彦	成文堂	2018	参考書	推奨
ポケット六法 令和3年版		有斐閣	2020	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けます。質問内容によっては，授業終了後に，事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	刑事訴訟法を知る		講義予定や成績評価の方法等に関するガイダンス 刑事訴訟法がどのような法律で、学習する際の注意点
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であることを説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を一読し、各章の冒頭に記載されている「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を見ながら、今後学ぶべき事項を確認するとともに、憲法31条から40条までの規定を読んでおくこと。	120分
2	刑事訴訟法の意義と目的		刑事訴訟法の歴史、刑事訴訟法の意義と目的
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、日本の刑事訴訟法がどのような経緯で成立したかを知り、刑事訴訟法の意義と目的を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	刑事手続の概要		刑事手続の流れ
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、時系列に従い、犯罪発生から刑の執行までの刑事手続の流れを説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認し、各手続の根拠条文を確認する。	120分
4	刑事訴訟法の担い手①(裁判官)		刑事裁判権、裁判所の種類と役割、裁判官の除斥・忌避・回避、裁判管轄
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事裁判を担当する裁判所・裁判官の役割を理解し、公平な裁判所を実現するための制度を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、裁判所法の条文を確認する。	120分
5	刑事訴訟の担い手②(検察官)		刑事手続における検察官の地位・役割、我が国検察官の特徴
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続において、検察官が果たしている役割を理解し、我が国の検察官の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、検察庁法の条文を確認する。	120分
6	刑事訴訟法の担い手③(捜査機関)		捜査機関としての司法警察職員の種類、その地位・役割、検察官との関係
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、司法警察職員の種類や検察官との関係を知り、刑事手続における司法警察職員の果たす役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	刑事訴訟法の担い手④(被告人)	被告人の意義，被告人の確定，当事者能力，訴訟能力	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，刑事手続における被告人の地位を知り，氏名冒用事案や身代わり事案における被告人の確定方法を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
8	刑事訴訟法の担い手⑤(弁護士)	弁護人の任務と権限，弁護士選任権	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，刑事手続における弁護人の役割を知り，弁護士選任権について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，該当する条文を確認する。	120分
9	捜査の概説	捜査の意義，構造	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査の意義や構造を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	捜査の端緒①	現行犯人の発見，変死体の検視	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，現行犯人を発見した際や変死体を発見した際に，どのような手続がとられ，捜査が開始されるかを説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	捜査の端緒②	告訴，告発，請求，自首	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，告訴・告発等の意義と内容を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	捜査の端緒③	職務質問	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，職務質問の法的根拠と法的性格，要件，実力行使(強制力の行使)の許否について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，警察官職務執行法の条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	捜査の端緒④	所持品検査，自動車検問	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，所持品検査の法的根拠を知り，その際の実力行使（強制力の行使）の拒否や自動車検問の法的根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
14	任意捜査の原則	任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組み）としての警察（捜査）比例の原則	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，捜査のうち任意捜査が原則であることを理解し，比例の原則について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	強制処分法定主義	強制処分法定主義の根拠，意義・趣旨，令状主義との関係，強制捜査と任意捜査との区別の基準	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制捜査と任意捜査との区別を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
16	新しい強制処分	写真撮影，GPS捜査	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，写真撮影やGPS捜査の適法性やその根拠を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
17	逮捕①	通常逮捕の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，通常逮捕の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
18	逮捕②	緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，緊急逮捕と現行犯逮捕の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	勾留	逮捕前置主義，勾留の要件としての理由と必要性	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，勾留の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
20	逮捕・勾留に関する諸問題①	事件単位の原則，一罪一逮捕一勾留の原則	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，被疑者の身柄拘束をめぐる原則について，理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
21	逮捕・勾留に関する諸問題②	別件逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，別件逮捕・勾留の問題点と主要な学説を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
22	令状による搜索・差押①	令状請求の要件と手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，憲法35条の法意を理解し，搜索と差押の実体的要件(理由と必要性)を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
23	令状による搜索・差押②	搜索・差押えの実施手続，搜索・差押の実施に「必要な処分」	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，搜索・差押えの具体的な実施手続を理解し，「必要な処分」として許容される事項を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
24	令状による搜索・差押③	強制採尿	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，強制採尿の許容性と実施の要件と手続を理解し，説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	逮捕に伴う捜索・差押	逮捕に伴う無令状捜索・差押の対象物、対象となる場所の範囲、時間的範囲	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、無令状捜索・差押が許容される要件や手続を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
26	取調べ	被疑者の取調べ、被告人の取調べ、余罪の取調べ	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、被疑者、被告人の取調べの手続や問題点を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
27	被疑者の黙秘権	黙秘権の根拠と保障の趣旨、黙秘権の保障の及ぶ範囲	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、黙秘権の保障について、憲法の規定と刑訴法の規定を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
28	弁護人の援助を受ける権利	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利と接見交通権	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、接見交通権の内容と保障の趣旨、接見指定の要件を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業で説明した判例を確認する。	120分
29	違法捜査からの救済	違法捜査に対する刑事手続内外で講じることのできる措置	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、準抗告、違法収集証拠排除法則、国家賠償請求等の手続を通じて、違法捜査からの救済方法を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
30	捜査手続の終結	検察官の終局処分とその内容	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、検察官の終局処分とその内容や手続を知り、説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	関 正 晴	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストに依拠しつつ刑事手続を説明し、あわせて適宜、判例百選等の事例も検討する。レポートの解説や講評、復習するに際しての留意点の説明を、後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。				1	1	1						
②	捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。						1		1				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 レポートにより評価する。	60	40									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解説や講評については、講評等をポータルサイトを通じて明らかにする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
N e x t 教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	平成31年	教科書	
刑事訴訟法判例百選(第10版)	井上正仁ら編	有斐閣		その他	
備考					

【オフィスアワー】
授業時間後に、質問を受け付けます。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい質問や相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑事訴訟手続の概説		年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献などの説明、刑事裁判手続の一般的な説明、捜査手続において中心となる各制度の内容と性質等を概説する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	1年生のときに学習した法学の教科書等の「刑事裁判手続」等の該当箇所を一読するとともに、シラバスを確認して講義全体を概観する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の8頁の図と比べあわせて、全体としての刑事手続の流れの理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
2	刑事訴訟法の意義		刑事訴訟制度の歴史、意義、憲法や刑法との関係、刑事手続を捜査、公訴提起、公判、刑の執行等の内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の1頁から10頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
3	刑事訴訟の目的と訴訟構造		刑事訴訟の目的に関して、刑事訴訟法1条に表れている指導理念である適正手続主義、実体的真実主義の内容について確認し、訴訟構造に関する当事者主義の意義について、職権主義との対比で内容を説明し、刑事訴訟法の改正事項を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	法律用語辞典や各人の参考書で適正手続主義、実体的真実主義、当事者主義、職権主義という専門用語の内容を確認すること。教科書3頁から7頁、10頁から12頁を読み、近年の司法制度改革によってなされた刑事訴訟法の改正事項を確認する。		60分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		180分
4	刑事訴訟の主体（裁判所）		刑事裁判権、刑事訴訟を担当する裁判所の種類と役割、国法上の裁判所と訴訟法上の裁判所、裁判官の除斥・忌避・回避、管轄についての条文の概要、事物管轄、土地管轄、審級管轄の意義	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の16頁から21頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
5	刑事訴訟の主体②（裁判員裁判）		裁判員裁判について対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決方法等の内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の22頁から27頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
6	刑事訴訟の主体③（検察官、捜査機関を含む）		刑事手続における検察官の地位・役割、司法警察職員の地位・役割、捜査における検察官と司法警察職員との関係について内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の27頁から34頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	刑事訴訟の主体（被告人・弁護人）		疑者・被告人の訴訟法上の地位、当事者能力と訴訟能力、黙秘権・迅速な裁判を受ける権利、弁護人選任権、被疑者と被告人についてそれぞれの国選弁護制度の仕組み、弁護人の弁護義務と真実義務について内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の34頁から44頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
8	刑事手続における被害者の地位		被害者に対する従来の刑事手続における取扱い、犯罪被害者保護法によって新たに導入されて制度の内容について条文に即して内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の44頁から51頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
9	捜査の概説（捜査の意義・構造）と捜査の端緒		捜査の概念・定義、捜査の端緒の意義と種類、告訴・告発等の意義と内容、職務質問の法的根拠と法的性格、要件、実力行使と所持品検査の許否について内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の54頁から59頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
10	任意捜査の原則		任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組）としての警察(捜査)比例の原則、鑑定の囑託、実況見分、任意同行に対する規制の内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の59頁から61頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
11	強制処分法定主義		強制処分法定主義の条文上の根拠、意義・趣旨、令状主義との関係・異同、任意捜査と強制捜査との区別の基準について内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の61頁から62頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
12	新しい強制処分説と科学的捜査		科学捜査とされる写真撮影や電話傍受について任意捜査と強制捜査との区別の基準がどのように適用されるか、強制処分とされた捜査手段に対する適法性の判断方法について内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の61頁から62頁を再度読み、また教科書91頁から97頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	逮捕		逮捕の種類とそれぞれの異同、通常逮捕の要件と手続、現行犯及び準現行犯の意義と要件、緊急逮捕の要件と手続、逮捕後の手続の流れについて、条文に則して内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の62頁から67頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
14	勾留		逮捕前置主義の条文上の根拠と趣旨、勾留の実体要件としての勾留の理由と必要性、勾留の手続（勾留質問、勾留請求権者、勾留請求の時間制限等）、勾留機関と延長、被疑者勾留の場所、勾留に対する不服申立方法について内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の68頁から70頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
15	逮捕・勾留の諸問題（1）		事件単位の原則の趣旨と意義、二重逮捕・勾留の許否、再逮捕・勾留の許否（一罪一逮捕の原則）について内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の71頁から73頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
16	逮捕・勾留の諸問題（2）		別件逮捕・勾留の問題点と主要な学説と判例、違法な別件逮捕・勾留があった場合の法的効果についてについて内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の72頁から73頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
17	令状による捜索・差押		憲法35条の法意、捜索と差押の実体的要件（理由と必要性）、捜索差押令状の請求手続、捜索場所の特定、差押目的物の特定、捜索・差押の実施手続、令状の事前提示が要求される趣旨、捜索・差押の実施に「必要な処分」の内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の73頁から80頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
18	逮捕に伴う捜索・差押		逮捕に伴う捜索・差押が無令状で許される理由、逮捕に伴う捜索・差押の対象物、捜索の対象となる場所の範囲、逮捕に伴う捜索・差押が許される時間的範囲、被逮捕者の身体・所持品の捜索を実施できる場所等についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の85頁から87頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	科学的捜査		強制採尿の許容性と実施の要件と手続、写真撮影と通信の傍受に対する法的規制についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の80頁から83頁、91頁から97頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
20	おとり捜査に対する法的規制		おとり捜査の意義、適法性の判断基準、違法なおとり捜査の訴訟法上の効果についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の89頁から91頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
21	身柄拘束中の被疑者やの取調べ、余罪の取調べ、被告人の取調べ		捜査構造論、被疑者の取調べ受忍義務の肯定説と否定説、余罪取調べの限界についての学説、起訴後の被告人の取調べの許否についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の97頁から103頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
22	被疑者の黙秘権		黙秘権の根拠条文と保障の趣旨、黙秘権の保障の及ぶ事項、刑事手続以外の手続における黙秘権の保障の有無についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の103頁から105頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
23	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利		刑事弁護人制度の意義、弁護人依頼権の憲法上及び刑事訴訟法上の根拠、実質的で有効な弁護を受ける権利についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の38頁から44頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		60分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		180分
24	被疑者等と弁護人の接見交通権(1)		接見交通権の内容と保障の趣旨、憲法34条の弁護人依頼権との関係、接見指定要件である「捜査のため必要があるとい」の解釈についての学説と判例についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の105頁から109頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	被疑者等と弁護人の接見交通権(2)		接見指定要件を定める刑事訴訟法39条3項の合憲性についての最高裁判例、起訴後の余罪捜査と接見指定の許否について判例の立場と学説の内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の105頁から109頁と各人の参考書の該当箇所を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
26	被疑者の証拠保全制度と被疑者の勾留理由開示請求		証拠保全と勾留理由開示制度について、それらの意義、要件及び手続について条文に則して内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の69頁、99頁等を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
27	違法捜査からの救済		違法捜査に対する刑事手続の内外で講じることのできる措置(準抗告、違法収集証拠の排除法則、控訴棄却、懲戒処分、刑事罰、国家賠償等)の内容を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の109頁から110頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
28	捜査手続の終結と検察官の終局的事件処理の運用原則		検察官への事件装置手続、検察官の行う事件処理の種類(狭義の不起訴処分、起訴猶予処分、起訴処分)についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の110頁から112頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分
29	公訴権の運用原則		国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、起訴猶予処分を行う際の考慮要素、公訴の取消制度についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の114頁から116頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		150分
30	検察官の事件処理を適正化する制度		察審査会制度、付審判請求手続、公訴権乱用論の意義と具体例についての内容等を説明する。	
	この回の到達目標	①捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。 ②捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。		
	事前学修	教科書の116頁から120頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。		120分

科目名	刑事訴訟法 I	担当者	緑 大輔	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。

【履修条件】
刑法総論、刑法各論を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
テキストに沿って、オンラインで講述する予定です。また、講義内容を補足するレジュメをPDFファイルで配布する予定です。レポートの解説を後日ポータルシステムで配信します。今年度は、新型コロナウイルスの流行に鑑みて、オンデマンド形式で実施します。Google Classroomへのクラス登録が必須です。忘れないようにしてください。また、小テストをほぼ毎週、ポータルシステムで実施するので、Google Classroomとともに、ポータルシステムの確認も忘れないようにしてください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。						1	1	1				
②	捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 小テストにより評価する。	40	30									70
レポート等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 事例問題または見解を論評する問題により評価する。	10	20									30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説資料の配布または講義時間内における講述による。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXT刑事訴訟法(第2版)	関正晴編	弘文堂	2019年	教科書	必携
基本刑事訴訟法I・手続理解編	吉開多一・緑大輔ほか	日本評論社	2020年	参考書	推奨
基本刑事訴訟法II・論点理解編	吉開多一・緑大輔ほか	日本評論社	2021年 予定	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
Google Classroomまたはポータルシステムにより指示する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑事訴訟制度の概要	講義で扱う内容および成績評価方法、参考文献の紹介などを行うガイダンスを実施する。その上で、刑事訴訟制度の意義および特色について講述する。	
	この回の到達目標	刑事訴訟の基本的な概念である弾劾主義、糾問主義、当事者主義、職権主義等の概念を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認し、教科書第1章1～2を読む。	120分
	事後学修	教科書第1章1～2および講義ノートの復習。	120分
2	刑事訴訟への関与者(1)	刑事手続への関与者として、検察官制度と検察官の職務権限、司法警察職員の意義と検察官との関係等について学ぶ。	
	この回の到達目標	検察官、裁判所の制度と権限の概要を把握する。	
	事前学修	教科書第1章3～5を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第1章3～5および講義ノートの復習。ポータルシステムにおける小テスト。	120分
3	刑事訴訟への関与者(2)	刑事手続への関与者として、被告人の意義と訴訟能力および基本的権利、弁護人制度の意義と権限について学ぶ。	
	この回の到達目標	被告人、弁護人の権限と両者の関係について、その概要を把握する。	
	事前学修	教科書第1章6～8を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第1章6～8および講義ノートの復習。	120分
4	捜査の基本原則、捜査の端緒	捜査の意義および捜査の端緒（特に職務質問および所持品検査を中心として）について学ぶ。その際に、強制と任意の区別についても併せて確認する。	
	この回の到達目標	職務質問における停止行為や所持品検査の判例を素材として、比例原則を事案に即して適用する方法を理解する。	
	事前学修	教科書第2章1A～Bおよび第2章3Aを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章1A～Bおよび第2章3A、講義ノートの復習、ポータルシステムにおける小テスト。	120分
5	任意捜査の限界(1)	第4講で提示した事例問題を検討・解説した上で、任意捜査の限界について、任意同行を中心に学ぶ。	
	この回の到達目標	任意同行等の判例を素材として、任意捜査における被制約利益を把握する。	
	事前学修	教科書第2章2A～Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章2A～Dおよび講義ノートの復習の検討。	120分
6	任意捜査の限界(2)	おとり捜査、写真撮影・ビデオカメラ撮影の限界について学ぶ。	
	この回の到達目標	おとり捜査、路上写真撮影に関する判例を素材として、任意捜査における被制約利益を意識した上でその適否を検討する方法を理解する。	
	事前学修	教科書第2章4A～Bを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章4A～B、講義ノートの復習、ポータルシステムにおける小テスト。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	強制処分法定主義	第6講で提示した事例問題を検討・解説した上で、強制処分法定主義の意義、令状主義の意義、強制処分と任意処分の区別について学ぶ。その際に、有形力行使、GPS動静監視を素材とする。	
	この回の到達目標	強制処分法定主義の意義、捜査法において具体的な名文規定を必要とする処分の範囲について理解する。	
	事前学修	教科書第2章3A、4Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章3B、4C、講義ノートの復習。	120分
8	逮捕の諸類型	逮捕の諸類型とその要件、勾留の手続について学ぶ。	
	この回の到達目標	通常逮捕、現行犯逮捕(および準現行犯逮捕)、緊急逮捕の要件を把握し、事案に即して要件の充足の有無を検討できる視点を獲得する。	
	事前学修	教科書第2章3B～Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章3B～C、講義ノートの復習、ポータルシステムにおける小テスト。	120分
9	逮捕・勾留の諸問題(1)	逮捕・勾留にかかわる諸問題(逮捕前置主義、別件逮捕勾留、再逮捕再勾留禁止など)について、問題の所在および学説状況を学ぶ。	
	この回の到達目標	逮捕前置主義、別件逮捕勾留・余罪取調べ、再逮捕再勾留禁止原則について、問題の所在と学説の概要を理解する。	
	事前学修	教科書第2章3Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章3D、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
10	逮捕・勾留の諸問題(2)	逮捕・勾留にかかわる諸問題(逮捕前置主義、別件逮捕勾留、再逮捕再勾留禁止など)について、事例に即して学ぶ。	
	この回の到達目標	逮捕前置主義、別件逮捕勾留・余罪取調べ、再逮捕再勾留禁止原則について、裁判例および事例を検討する視点を獲得する。	
	事前学修	教科書第2章3Dを踏まえて、事例問題を検討してくる。	120分
	事後学修	講義ノートの復習、配布する裁判例の復習。ポータルシステムにおける小テスト。	120分
11	搜索、押収の諸問題(1)	搜索、押収の令状審査および令状発付のための要件について学ぶ。	
	この回の到達目標	搜索、押収における令状主義の意義、令状の発付要件について、判例も素材としつつ把握する。	
	事前学修	教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章3E、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
12	搜索・押収の諸問題(2)	搜索、押収の執行に関する諸問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	搜索・押収の執行に伴って必要となる各処分について、判例も素材としつつ把握する。	
	事前学修	教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。(2時間)教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第2章3E、講義ノートの復習。(2時間)教科書第2章3E、講義ノートの復習、ポータルシステムにおける小テスト。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	その他の対物的強制処分(1)	検証、鑑定、期日外尋問について学ぶ。	
	この回の到達目標	検証、鑑定、期日外尋問について、判例も素材としつつ把握する。	
	事前学修	教科書第2章3Eおよび4C～Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章3E、講義ノートの復習。	120分
14	その他の対物的強制処分(2)	通信傍受、GPS動静監視の諸問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	通信傍受、電話検証、GPS動静監視について、判例を確認・精読することで、これらの捜査手法に対する制御方法について検討する視点を獲得する。	
	事前学修	教科書第2章1～4を復習を兼ねて読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、ポータルシステムにおける小テスト。	120分
15	対物的強制処分の検討(1)	対物的強制処分（特に通常の搜索差押え）に関する事例問題を検討する。	
	この回の到達目標	対物的強制処分について、事例を通じて問題の所在を把握し、刑事訴訟法の解釈を行った上で、事例の解決を示す手法を把握する。	
	事前学修	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。事例問題を検討してくる。	120分
	事後学修	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
16	対物的強制処分の検討(2)	対物的強制処分（特に無令状で行われる搜索差押え）に関する裁判例を検討する。	
	この回の到達目標	対物的強制処分のうち、特に逮捕に伴う無令状の搜索・差押え・検証の裁判例について、学説を踏まえて検討する視点を獲得する。	
	事前学修	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、ポータルシステムにおける小テスト。	120分
17	対物的強制処分の検討(3)	対物的強制処分（特に身体に対する措置を伴って証拠を収集する処分）に関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	強制採尿、強制採血などの各処分について、判例を踏まえて適否を検討する視点を獲得する。	
	事前学修	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。	120分
18	捜査における法定主義	強制処分法定主義と法律の留保について検討する。	
	この回の到達目標	強制処分法定主義と法律の留保の関係について、検討する視点を獲得する。	
	事前学修	教科書第2章3を復習として読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章3、講義ノートの復習。ポータルシステムにおける小テスト。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	被疑者の取調べ(1)	被疑者側の防御活動としてとりうる手段を学ぶとともに、被疑者取調べの諸問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	被疑者に対する取調べについて、問題の所在を把握する。	
	事前学修	教科書第2章5B～Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章5B～C、講義ノートの復習。	120分
20	被疑者の取調べ(2)	被疑者取調べの録音録画とその証拠利用にかかわる諸問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	被疑者の取調べにおける録音録画制度と、録音録画媒体の証拠利用に関して、裁判例を通じて問題の所在を把握する。	
	事前学修	教科書第2章5Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章5C、講義ノートの復習。ポータルシステムにおける小テスト。	120分
21	被疑者の取調べ(3)	協議合意制度（捜査協力型の司法取引）にかかわる諸問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	協議合意制度の概要と問題の所在について、把握する。	
	事前学修	教科書第2章5Cを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章5C、講義ノートの復習。	120分
22	被疑者の防御(1)	被疑者と弁護人との接見交通権について、特に接見指定にかかわる問題を中心に学ぶ。	
	この回の到達目標	接見交通権の意義を把握するとともに、接見指定に関する判例の判断枠組みを理解する。	
	事前学修	教科書第2章5Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章5D、講義ノートの復習、ポータルシステムにおける小テスト。	120分
23	被疑者の防御(2)	被疑者と弁護人との秘密交通権に関する諸問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	被疑者と弁護人との秘密交通について、その意義と裁判例を把握し、問題を検討する視点を獲得する。	
	事前学修	教科書第2章5Dを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章5D、講義ノートの復習。	120分
24	捜査手続における救済手段	捜査からの被疑者やその他関係者の救済手段を整理する。	
	この回の到達目標	捜査からの救済手段について、準抗告、違法収集証拠排除法則、国家賠償請求等を把握する。	
	事前学修	教科書5Eを読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章5、講義ノートの復習、ポータルシステムにおける小テスト。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	捜査法の事例研究	ここまで学んだ捜査手続に関連する事例問題を提示し、検討する。	
	この回の到達目標	捜査法の事例問題を通じて、自ら問題の所在を把握し、刑事訴訟法の条文を解釈して、事例に解決を与える手法を把握する。	
	事前学修	教科書第2章1～5を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第2章1～5、講義ノートの復習。	120分
26	検察官の事件処理	捜査の終結段階の処理として、警察官の処分、検察官送致、検察官の処分（起訴・不起訴・起訴猶予）について学ぶ。また、起訴後の捜査の実施の可否についても確認する。	
	この回の到達目標	微罪処分、検察官の起訴猶予権限と福祉的措置、起訴後の捜査の実施の可否について、制度の概要を把握するとともに問題の所在を理解する。	
	事前学修	教科書第2章6を読むとともに、関連条文を検討する。	120分
	事後学修	教科書第2章6、講義ノートの復習。ポータルシステムにおける小テスト。	120分
27	刑事訴訟の関与者(3)——犯罪被害者の地位	犯罪被害者の地位について、公判手続を見すえて整理する。	
	この回の到達目標	犯罪被害者の刑事訴訟における地位について、その概要を把握する。	
	事前学修	教科書第1章6～8を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第1章6～8、講義ノートの復習。	120分
28	刑事訴訟の関与者(4)——裁判所	裁判所の事物管轄、土地管轄、権限などを整理する。	
	この回の到達目標	裁判所の管轄、公平な裁判所を担保するための諸措置、権限について、（裁判員の権限も含めて）その概要を把握する。	
	事前学修	教科書第1章3～5を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
	事後学修	教科書第1章3～5を読むとともに、関連条文を確認する。	120分
29	まとめ(1)	捜査手続に関するまとめを行う。	
	この回の到達目標	捜査上の各処分を規律する際の視点を確認し、本講義で学んだことを体系的に整理する。	
	事前学修	教科書第2章の復習。	120分
	事後学修	教科書第2章の復習と第2章末尾の問題の検討。	120分
30	まとめ(2)	捜査手続に関するまとめを行う（時間調整・予備時間の確保を兼ねる）	
	この回の到達目標	講義の進行に遅れがみられる場合に、この時間を以て調整する。進行に遅れが生じない場合には、事例問題を提示して、その解説を行うことで、応用的な視点を獲得する。	
	事前学修	教科書の上記範囲の読み込みおよび関連条文の確認。	120分
	事後学修	レポート課題の解説を読んで復習を行う。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	田中 優企	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的や役割を学修する。刑事訴訟法のうち捜査手続を中心に解説するが、近時の刑事訴訟法の改正についても詳細に解説し、その意義や目的を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代において、身近に発生しうる犯罪に対し、どのように刑罰権が実現されていくかという知識を修得するため、刑事手続に内在する問題点を理解し、それを具体的事案にあてはめ、解決できる能力を修得する。

【履修条件】
なし。なお、当科目を履修後に「刑事訴訟法Ⅱ」も履修することを強く推奨する。

【授業方法】		
六法、教科書及びパワポ資料を用いながら、講義・オンデマンド形式により、Google Classroomにて実施する。 パワポ資料は、授業前に、Google ClassroomにPDFファイルで掲載する。 事後学修として、Google Classroomにて、各日終了後に小テスト（全15回）を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。					1	1	1					
②	捜査機関の行為の適法性の基準を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。							1		1			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、Google ClassroomにてWebテスト形式により実施・評価する（詳細は初回の授業時に説明）。	30	20									50
小テスト等	事後学修として、Google Classroomにて、各日終了後に実施する（全15回。詳細は初回の授業時に説明）。	30	20									50
レポート等	成績評価は、原則としてWebテストと小テストの合計点を基に行うが、任意レポートによる加点も行う（詳細は初回の授業時に説明）。											
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては、翌週の授業時に授業動画と併せて解説動画を配信する（小テスト⑬の解説動画については翌週に配信）。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事訴訟法（第2版）	関正晴編	弘文堂	2019年	教科書	必携
刑事訴訟法基本判例解説（第2版）	椎橋隆幸・柳川重規編	信山社	2018年	教科書	必携
全訂刑事訴訟法（第2版）	渥美東洋	有斐閣	2009年	参考書	任意
プライマリー刑事訴訟法（第6版）	椎橋隆幸編	不磨書房	2017年	参考書	任意
ポイントレクチャー刑事訴訟法	椎橋隆幸他	有斐閣	2018年	参考書	任意
よくわかる刑事訴訟法（第2版）	椎橋隆幸編	ミネルヴァ書房	2016年	参考書	任意
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁他	有斐閣	2017年	参考書	任意
基礎から学ぶ刑事法	井田良	有斐閣	2017年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
メール（tanaka.yukil1@nihon-u.ac.jp）又はGoogle Classroomにて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション① 導入講義	今期の授業の進め方、成績評価の方法、Webテスト・小テスト・任意レポートの説明、刑事訴訟法の学び方	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今期の学習計画を立てる。	
	事前学修	教科書2－15頁に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	今期の授業の進め方等について確認する。 小テスト①を受講・解答する。	120分
2	オリエンテーション② 導入講義	我が国の犯罪情勢と刑事手続の概要	
	この回の到達目標	今到達目標①・②に関連して、後の学習の前提として、我が国の犯罪情勢を知り、刑事手続の概要を理解する。	
	事前学修	教科書2－15頁に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト①を受講・解答する。	120分
3	強制捜査と任意捜査①	小テスト①の解説 強制処分の規律、任意処分の規律	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト②を受講・解答する。	120分
4	強制捜査と任意捜査②	強制処分の意義	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト②を受講・解答する。	120分
5	職務質問・所持品検査・自動車検問①	小テスト②の解説 職務質問・所持品検査	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト③を受講・解答する。	120分
6	職務質問・所持品検査・自動車検問②	自動車検問	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト③を受講・解答する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	C D・おとり捜査・仮装秘匿捜査①	小テスト③の解説 C D（コントロールドデリバリー）	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト④を受講・解答する。	120分
8	C D・おとり捜査・仮装秘匿捜査②	おとり捜査・仮装秘匿捜査	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト④を受講・解答する。	120分
9	逮捕・勾留① 小テスト①の解説	小テスト④の解説 通常逮捕、現行犯逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。 小テスト①の解説を聴き、到達目標①・②に関連する知識を身に付ける。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑤を受講・解答する。	120分
10	逮捕・勾留②	緊急逮捕、任意同行と実質的逮捕の区別	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑤を受講・解答する。	120分
11	逮捕・勾留③	小テスト⑤の解説 勾留、逮捕・勾留に関わる諸原則	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑥を受講・解答する。	120分
12	逮捕・勾留④	別件逮捕・勾留	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑥を受講・解答する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	搜索・差押①	小テスト⑥の解説 令状に基づく搜索・差押（要件、執行方法、執行上の権限）	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑦を受講・解答する。	120分
14	搜索・差押②	「差押」に関する諸問題	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑦を受講・解答する。	120分
15	搜索・差押③	小テスト⑦の解説 「搜索」に関する諸問題	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑧を受講・解答する。	120分
16	搜索・差押④	サイバー犯罪に関わる法整備	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑧を受講・解答する。	120分
17	搜索・差押⑤ 小テスト②の解説	小テスト⑧の解説 逮捕に伴う搜索・差押（要件、無令状で許される理由）	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。 小テスト②の解説を聴き、到達目標①・②に関連する知識を身に付ける。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑨を受講・解答する。	120分
18	搜索・差押⑥	逮捕の場合以外に無令状で許される場合の有無	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑨を受講・解答する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	検証・鑑定・証人尋問	小テスト⑨の解説 各処分の要件、手続	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑩を受講・解答する。	120分
20	科学技術を用いた捜査①	体液などの採取	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑩を受講・解答する。	120分
21	科学技術を用いた捜査②	小テスト⑩の解説 写真・ビデオ撮影、通信傍受	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑪を受講・解答する。	120分
22	科学技術を用いた捜査③	G P Sを利用した捜査	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑪を受講・解答する。	120分
23	取調べ①	小テスト⑪の解説 目的・役割、問題点、取調べにおける基本権の保障、取調べ受忍義務の有無	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑫を受講・解答する。	120分
24	取調べ②	取調べの可視性の向上、弁護人の取調べへの立会い	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑫を受講・解答する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	取調べ③		小テスト⑫の解説 任意取調べの規律、被告人の取調べ
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑬を受講・解答する。	120分
26	弁護権①		憲法上の弁護権、現行法上の弁護権保障の態様
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑬を受講・解答する。	120分
27	弁護権② 小テスト③の解説		小テスト⑬の解説 国選弁護権の選任、効果的な弁護を受ける権利
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。 小テスト③の解説を聴き、到達目標①・②に関連する知識を身に付ける。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑭を受講・解答する。	120分
28	接見交通権①		役割、弁護権との関係、接見指定権との関係、「捜査のため必要があるとき」の意義
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑭を受講・解答する。	120分
29	接見交通権②		小テスト⑭の解説 初回接見、面会接見
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑮を受講・解答する。	120分
30	接見交通権③		起訴後の接見指定
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、今回の授業で学んだ内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所とパワボ資料に目を通して、概要を理解する。	120分
	事後学修	授業内容について、教科書・パワボ資料を参照しながら、ノートに整理する。 小テスト⑮を受講・解答する。	120分

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	担当者	関 正 晴	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事手続のうち、捜査以後、すなわち公訴提起、公判手続、証拠法、上訴等の手続を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
起訴後の裁判手続の基本構造を理解し、裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代に対応できるようにするため、公判手続や証拠法等の基本的知識や判例等を理解し、各手続に内在する問題点を解決できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストに依拠しつつ刑事手続を説明し、あわせて適宜、判例百選等の事例も検討する。レポートの解説や講評、復習するに際しての留意点の説明を、後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。					1	1	1				
②	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。							1		1		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 レポートにより評価する。	60	40									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの解説や講評については、ポータルシステムを通じて明らかにする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法	関正晴編	有斐閣	平成31 年	教科書	
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁ら編	有斐閣		その他	
備考					

【オフィスアワー】
授業時間後に、受けつける。相談内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑事訴訟手続の概要、公訴提起と公判手続の概要		年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献などの説明、刑事訴訟手続の概要、特に公訴提起と公判手続の概要についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の7頁10頁を読み刑事手続の全体の流れについて理解し、シラバスを確認して講義全体を概観する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
2	刑事裁判の原理(弾劾主義と当事者主義)		刑事訴訟法1条が規定する指導理念である適正手続主義、実体的真実主義の内容と、訴訟構造に関する当事者主義の意義を職権主義との対比で内容を説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の3頁から4頁, 10頁から11頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
3	公訴提起の総説、公訴権の運用とその規制		国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、検察審査会制度、付審判請求手続、公訴権濫用論の意義と具体例についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の114頁から120頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
4	公訴提起の方式と効果		公訴提起の方式、不告不理の原則、条文に則した起訴状の記載事項の説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の120頁から125頁、126頁から132頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
5	起訴状一本主義		起訴状一本主義の趣旨、具体的事例に則した予断排除の原則違反の有無を説明、同原則違反の効果についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の123頁から125頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
6	訴因制度		訴因制度、訴因と公訴事実の関係、訴因の明示・特定の要請、判例の訴因が明示・特定されているか否かの基準と具体的事例の説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の132頁から134頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	訴因変更制度①(訴因変更の可否)		訴因変更制度の意義、訴因の追加、撤回、狭義の変更、訴因変更の可否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の139頁から147頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
8	訴因変更制度②(公訴事実の同一性)		公訴事実の同一性を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更の時機的な限界についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の148頁から155頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
9	訴因変更命令		裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更命令の効力についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の155頁から158頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
10	公判の諸原則の概説、公判準備①(事前準備手続、公判前整理手続と証拠開示)		口頭主義、直接主義、公開主義の説明、公判前整理手続の目趣旨・目的、争点を整理し立証計画を立てるシステムについての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の161頁から169頁、174頁から182頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
11	公判準備②(被告人の出頭を確保する手続、保釈)		公訴提起後の主要な手続の流れ(起訴状謄本の送達、弁護人選任権の告知、第一回公判期日の指定・通知、被告人の召喚等についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の170頁から174頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
12	公判期日の手続(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)		第一審公判の手続の進行(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の183頁から190頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公判の分離・併合、公判手続の更新、停止、公判外の手続		公判の分離・併合の意義と趣旨及び手続、公判手続を停止・更新しなければならない場合、公判期日外の証人尋問等についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の191頁から193頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
14	裁判員裁判制度の概説		裁判員裁判の基本構造(対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決の方法)についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の22頁から27頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
15	簡易手続(簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続)		簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続の意義と内容についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の194頁から199頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
16	証拠法総説(証拠の意義と種類、証拠裁判主義)		証拠の意義と種類、証拠能力と証明力、証拠裁判主義、厳格な証明と自由な証明の概念、厳格な証明が必要な事実の範囲。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の199頁から209頁、212頁から215頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
17	証拠法総説(自由心証主義、挙証責任)		自由心証主義の意義とその合理性を担保する制度、挙証責任に意義、証拠提出責任、争点形成責任、挙証責任の転換が認められるかについての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の209頁から212頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
18	自白法則		自白の意義 自白法則の趣旨についての判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の215頁から217頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	自白法則に関する裁判例		自白法則に関する裁判例の検討、約束による自白、偽計による自白、違法な手続で採取された自白等の具体的事例に則しての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の215頁から217頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
20	補強法則		自白に補強証拠を必要とする理由、公判廷自白のも補強証拠が必要とされるか、補強証拠適格、補強証拠が必要とされる事実の範囲、補強証拠に必要とされる証明力の程度、共犯者自白に補強証拠が必要とされるかについての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の217頁から221頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
21	伝聞法則①		伝聞証拠の意義、供述証拠と伝聞法則の趣旨、伝聞法則と憲法との関係、伝聞法則の適用外についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の221頁から226頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
22	伝聞法則②		伝聞法則の例外を認める理由と例外を認める場合の柱、伝聞書面と伝聞供述についての条文に則した例外とされる場合の説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の227頁から235頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
23	伝聞法則③		任意性の調査、同意書面、合意書面、証明力を争うための証拠、写真・録音テープ・ビデオテープの証拠法上の取扱いについての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の236頁から237頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
24	違法収集証拠の排除法則①		違法収集証拠の排除法則の根拠、違法収集証拠の証拠能力が否定される要件とその判断の際に考慮する要素、判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の238頁から240頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	違法収集証拠の排除法則②		毒樹の果実の法理、違法に収集された証拠から派生して収集された証拠の取扱いと判例の事案の説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の240頁から241頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
26	裁判の効力①(確定判決の内容的確定力)		裁判の種類、裁判の成立の時点、裁判の確定の意義その効力、実体裁判の内容的確定利欲の意義とそれが及ぶ事件の範囲についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の243頁から259頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
27	裁判の効力①(一事不再理効、二重の危険の禁止)		一事不再理効の意義及び根拠、一事不再理効の発生時期、一事不再理効の及ぶ客観的範囲についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の259頁から263頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
28	上訴総説(上訴権、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の拘束力)		上訴制度の意義と種類、上訴の利益、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の拘束力についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の272頁から279頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分
29	控訴審、上告審		控訴・上告理由の種類、控訴審の基本構造、審理手続、事実の取調べ、上告理由の種類、上告審の行う裁判の種類、職権破棄事由についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の279頁から295頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		120分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		120分
30	非常救済手続(再審、非常上告)		再審、非常上告についての概説、再審開始の要件としての証拠の新規性と明白性についての説明。	
	この回の到達目標	①公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 ②公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の297頁から306頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。		90分
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、講義内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。		150分

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	担当者	澤田 康広	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑事手続のうち、捜査以後、すなわち公訴提起、公判手続、証拠法、上訴等の手続を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
起訴後の裁判手続の基本構造を理解し、裁判員裁判を始めとして国民が積極的に刑事司法に参加する時代に対応できるようにするため、公判手続や証拠法等の基本的知識や判例等を理解し、各手続に内在する問題点を解決できる能力を修得する。

【履修条件】
刑事訴訟法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
教科書に依拠して講義形式で説明するが、あわせて適宜、判例百選等の事例も紹介する。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公訴の提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。						1	1	1				
②	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。								1		1		
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 レポートにより評価する。	60	40									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)	関 正晴編	弘文堂	2019年	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選 (第10版)	井上 正仁編	有斐閣	2017年	参考書	推奨
刑事法入門	太田茂・上野幸彦	成文堂	2018	参考書	推奨
ポケット六法 令和3年版		有斐閣	2020	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後に授業講堂で質問を受け付けます。質問内容によっては，授業終了後に，事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容	元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑事手続の流れを知る	年間の講義予定や成績評価の方法等に関するガイダンス 公訴提起と公判手続の概要	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続の流れを確認し、公訴提起と公判手続の概要を説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を一読し、各章の冒頭に記載されている「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を見ながら、今後学ぶべき事項を確認するとともに、憲法31条から40条までの規定を読んでおくこと。	120分
2	刑事裁判の原理と刑事訴訟法の目的	弾劾主義と当事者主義、適正手続主義、実体的真実主義の内容と、訴訟構造における当事者主義の意義と職権主義との対比	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、刑事手続における基本的原理を知り、刑事訴訟法の目的との関係を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	公訴提起の概説	国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、検察審査会制度、付審判請求手続、公訴権濫用論	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、公訴提起に関する基本原則を知り、その例外についても説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認し、各手続の根拠条文を確認する。	120分
4	公訴提起の方式と効果	公訴提起の方式、不告不理の原則、起訴状の記載事項	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、条文に則して公訴提起の方式や起訴状の記載事項を知り、公訴提起の手続を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	起訴状一本主義	起訴状一本主義の趣旨、予断排除の原則	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、具体的事例に即した予断排除の原則違反の有無や同原則違反の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	訴因制度	訴因と公訴事実との関係、訴因の明示・特定の要請	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、判例の具体的事例を通じて、訴因が明示・特定されているか否かの基準を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、該当する条文を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	訴因変更制度①（訴因変更の要否）	訴因変更手続の意義，訴因の追加，撤回，狭義の変更	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，訴因変更の要否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
8	訴因変更制度②（公訴事実の同一性）	公訴事実の同一性の意義，訴因変更の時期的な限界	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公訴事実の同一性を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
9	訴因変更命令と訴訟条件	訴因変更における裁判所の在り方	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
10	公判の諸原則の概説，公判準備①	事前準備手続，公判前整理手続と証拠開示	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公判前整理手続の目的及び従前の準備手続との異同や公判前整理手続の実施に伴う証拠開示の拡大について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	公判準備②	被告人の出頭を確保する手続，保釈，公訴提起後の主要な手続の流れ	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公訴提起後の第1回公判までの手続の流れを説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	公判期日の手続，第1審公判の手続の流れ	冒頭手続，証拠調べ，弁論，論告・求刑，判決の宣告，裁判所の訴訟指揮	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，第1審公判の手続の流れやその際の訴訟当事者の活動について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公判の分離，併合，公判手続の更新・停止	公判外の手続，弁論の分離・併合の意義と趣旨及び手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，公判外における手続の意義や趣旨を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	裁判員裁判概説	裁判員裁判の基本構造	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，裁判員裁判の対象事件や裁判員の権限，評決の方法等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	簡易手続	簡易公判手続，即決裁判手続，略式手続	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，各手続の意義と内容を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
16	証拠法総説①	証拠の意義と種類，証拠能力と証明力，厳格な証明と自由な証明	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，証拠裁判主義について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
17	証拠法総説②	自由心証主義，挙証責任	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，証拠による事実認定や訴訟当事者の責任について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
18	自白法則	自白の意義，自白法則の趣旨	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，自白法則についての判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	自白法則に関する裁判例	約束による自白，偽計による自白，違法な手続で採取された自白	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，具体的事例における自白の証拠能力について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
20	補強法則	自白に補強証拠を必要とする理由	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，補強証拠適格，補強証拠が必要な範囲等について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
21	伝聞法則①	伝聞証拠の意義，伝聞法則の趣旨	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則と憲法との関係や伝聞法則が適用されない場合について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
22	伝聞法則②	伝聞法則の例外	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則の例外を認める理由，伝聞書面と伝聞供述の例外について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業内で説明した判例を確認する。	120分
23	伝聞法則③	同意書面，合意書面，弾劾証拠	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，伝聞法則の例外に関連して，写真・録音テープやビデオテープの証拠法上の扱いについて説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分
24	違法収集証拠排除法則①	違法収集証拠排除法則の根拠	
	この回の到達目標	到達目標①，②に関連して，違法収集証拠排除法則により証拠能力が否定される要件やその判断の際に考慮する要素について，判例の立場や主要な学説の考え方について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を読み，授業で説明した判例を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	違法収集証拠排除法則②	毒樹の果実の法理、派生証拠の証拠能力	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、先行行為の違法性が後行行為に承継されるか、後行行為の証拠の取扱いについて、判例の立場や主要な学説の考え方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業内で説明した判例を確認する。	120分
26	裁判の効力①	確定判決の内容的確定力	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、裁判の確定の意義とその効力、実体裁判の内容的確定力の意義とそれが及ぶ事件の範囲について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業内で説明した判例を確認する。	120分
27	裁判の効力②	一事不再理効	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、一事不再理効の意義と根拠、その発生時期、一事不再理効の及ぶ客観的範囲について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業内で説明した判例を確認する。	120分
28	上訴総説	上訴権、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の効力	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、上訴制度の意義と種類、上訴の利益、上訴における各原則について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を読み、授業で説明した判例を確認する。	120分
29	控訴、上告	控訴理由の種類、控訴審の基本構造、上告理由の種類	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、控訴審における審理手続、上告審の種類や職権破棄事由について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
30	非常救済手続	再審、非常上告	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、再審、非常上告の要件や手続について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法Ⅰ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
裁判員制度が始まり、だれもが裁判員として人を裁く側に回りうるようになった。刑事法の問題はすべての人が考えなければならない問題となった。本講義では、刑法総論や刑法各論、刑事司法に関する重要問題をピックアップし、問題の所在を明らかにし、対立する背景について分析したのち、刑事法的重要問題を考える視座を講じていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法に関わる社会問題を刑事法的に考える視野を養い、自分なりの考えを築くとともに、それを表現し、他者とも意見交換もできるようにする。

【履修条件】
授業内容は、刑事法Ⅰと刑事法Ⅱを統合したものである。また、事前学習として、下記に指定したテキストの箇所をあらかじめ読むことを求める。

【授業方法】
もっぱら講義を中心に展開する。指定した教科書を用いつつ、レジュメでその内容を補い、講義を展開する。質問も快く承る。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の存在理由について理解し、説明することができる。					2	2	2		2			
②	刑事司法制度の全体像について理解し、説明することができる。					2	2	2		2			
③	刑法の基本原則について理解し、説明することができる。					2	2	2		2			
④	刑法総論上の重要問題について理解し、説明することができる。					2	2	2		2			
⑤	裁判例を正しく読み取り、その射程範囲について、説明することができる。					2	2	2		2			
⑥	なぜ学説や裁判例が対立するのか、その所在を理解することができる。					2	2	2		2			
⑦	刑法の重要問題について、学友と意見を交換し、議論することができる。					2	2	2		2			
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、受講者が刑法の重要問題について、理解し、 私見を築き、議論できる能力を身につけたかを確認する。	15	15	10	10	10	10	30				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	10	10	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題終了後に解説をclassroomに掲載する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる刑法（第3版）』	井田良・佐藤拓磨	ミネルヴァ書房	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Googleクラスルームからメールを送信してください。速やかに対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑法はいったい何のために存在する のか		刑罰という手段を用いる刑法はないほうがよい、という考えは多数ではないものの存在する。本 当にそうだろうか。	
	この回の 到達目標	さまざまな規範と法との関係、民法と刑法の違い、刑法の存在理由について考察できるようにする。		
	事前学修	序・基礎理論 1 ～ 3 まで読む。		120分
	事後学修	他の法律と刑法はどこが異なるのかを考える。		120分
2	罪刑法定主義の重要性とその背後に ある思想とは		犯罪と刑罰は成文法によって定めるべきであるという思想は無味乾燥のように感じる。しかしこ れがなければ、刑法は刑法たり得ない。この原則の意義とは。	
	この回の 到達目標	罪刑法定主義の歴史的背景をふまえて、この原則の意味について考察できるようにする。		
	事前学修	序・基礎理論 4 ～ 5 まで読む。		120分
	事後学修	罪刑法定主義と刑法の在り方はどう結びついているのかを考える。		120分
3	なぜ刑法は故意犯処罰の原則を採用 しているのか		被害者の目からすれば、故意によってであろうが過失によってであろうが、関係がないはずであ る。しかし、刑法は故意犯処罰の原則を堅持している。それはなぜなのかを考える。	
	この回の 到達目標	故意犯処罰の原則を刑法の存在理由と絡めて理解し説明できるようになる。		
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件8～10を読む。		120分
	事後学修	刑法の在り方と故意犯処罰の原則がどう結びつくのかを考える。		120分
4	組織体による過失行為に対して刑法 はどう対処しようとしているのか		企業組織体による過失行為はたびたび起き、被害者が多数に上ることが多い。こうした事件に対 して、刑法はどう臨むべきだろうか。	
	この回の 到達目標	管理過失および監督過失について理解し、企業組織体の刑事責任に対して私見をもてるようにする。		
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件11～13を読む。		120分
	事後学修	JR福知山線脱線事故や東京電力福島第一原発の事故は刑法的にどう考えるべきか。		120分
5	法人を処罰することの意義とは		刑法は個人行為責任を原則としているが、企業組織体による刑事事件が発生した場合に刑法はど のように対処するべきであろうか。	
	この回の 到達目標	個人行為責任の限界を理解するとともに、法人を処罰する理屈はどのように立てうるかを考え表現できるようにする。		
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件 2 を読む。		120分
	事後学修	法人処罰により目指すものは何かを考える。		120分
6	犯罪行為から重い結果が生じさえす れば、その者を重罰に処してよいの か		行為責任主義の意義について考える。とくに結果責任主義ではないかとの批判を向けうる結果的 加重犯の在り方について検討する。	
	この回の 到達目標	被害者保護の風潮が高まる中、行為責任主義の意義について説明することができるようにする。		
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件 5 ～ 7 を読む。（2時間）		120分
	事後学修	なぜ刑法においては被害者の視点に立つことがなぜ許されないのかを、合理的に考える。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	他者を犠牲にしてまで、自己または他者を救うことがなぜ認められているのか	刑法は人を死亡させることを絶対的に禁止してはいない。正当防衛と緊急避難がこれを一定限度許容している。なぜそうした規定が設けられているのか。	
	この回の到達目標	正当防衛や緊急避難の意義について説明することができるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性 1～4， 5を読む。	120分
	事後学修	刑法と道徳の違いとどう関係するか、さらに法益保護とどう結びつくかを考える。	120分
8	指を詰めてくれと依頼され、その者の指を切り落とすことは犯罪か	被害者が自ら享受している法益を他者によって侵害されることに同意したときは、不可罰であるとい一般的に考えられている。それはなぜか。またその限界はどこにあるかを検討する。	
	この回の到達目標	刑法の存在理由から被害者の同意が不可罰となる理由を理解するとともに、被害者が同意さえすればすべて不可罰とするこの弊害についても考察することができるようになる。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性 8を読む。	120分
	事後学修	被害者の同意が許容される範囲と許容されない範囲の線引きを考える。	120分
9	終末期における医療に対し刑法はどうかかわるべきか	私たちはやがて死をだれもが迎えることになるが、死をどう迎えるかを自ら決めることができるとするならば、それはどこまで許容され、どこからは認めえないのかを考える。	
	この回の到達目標	治療中止と安楽死との違いについて理解するとともに、積極的安楽死について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅱ違法性 9を読む。	120分
	事後学修	この問題はおそらく身近だろうから、身近な事例を刑法的に考察する。	120分
10	刑法は、刑罰を科す前提として、刑事責任能力があることをなぜ要求しているのか	犯罪を犯したにもかかわらず、その者に刑事責任を問うことができなければ、刑法はこれを処罰することはできない。一見常識に反するかのようなことの規定の意味について考える。	
	この回の到達目標	心神喪失・心神耗弱について理解するとともに、責任無能力者への対応についても説明することができる。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅲ責任 1 および 2を読む。	120分
	事後学修	刑事責任能力が問題となっている事件について考えてみる。	120分
11	犯罪行為に出たものの結果が生じなかった場合、刑法はどう対応するか	犯罪を思い描いて犯罪行為に及んだものの、それが実現できなかった時に刑法はどう対応するべきかについて考える。	
	この回の到達目標	未遂犯と不能犯が刑法の存在理由と密接に関係していることについて理解するとともに、これについて私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅳ未遂犯 1 および 2を読む。（2時間）	120分
	事後学修	刑法の役割論とどう関係するか考察する。（2時間）	120分
12	犯罪者にも、1等（正犯）と2等（共犯）とランク付けがあるが、それはなぜか	犯罪に関与したものはすべて等しく刑事責任を負うべきであると考えるところ、刑法はそういう考え方をとらず、正犯と共犯を区別し、前者が第一次的刑事責任を負うとしている。それはなぜか。	
	この回の到達目標	正犯と共犯を区別することや間接正犯の意義を理解するとともに、共犯の処罰根拠について考察することができるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・Ⅴ共犯 1～4を読む。	120分
	事後学修	なぜランク付けするべきなのかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	まずは共謀罪の意味を正しく知る	組織犯罪処罰法におけるテロ準備罪の制定をめぐり、国論は二分された。まずはこの犯罪について正確に理解するとともに、これからの課題について考える。	
	この回の到達目標	犯罪の企行段階に応じて刑法はどう対応しているか、またその理由について考えるとともに、テロ準備罪の特徴について説明することができるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・V共犯5～8を読む。	120分
	事後学修	賛成論や反対論はどこか感情的になっている。社会の変化との関係で共謀罪の問題を考える。	120分
14	死刑は本当に必要か	死刑を存置するべきであるとするのがわが国の世論であるが、世界を見渡すと、それは必ずしも当たり前ではない。死刑の必要性について考える。	
	この回の到達目標	最高裁に示した死刑適用基準について理解するとともに、死刑制度について私見をもてるようにする。	
	事前学修	第1部刑法総論・VI犯罪の数と量刑理論1および2を読む。（2時間）	120分
	事後学修	ドイツ政府は友好国である日本が死刑を執行するたびに、抗議声明を出している。このことを考える。（2時間）	120分
15	刑法はどうあるべきか（まとめに代えて）	これまでの学びを振り返る。	
	この回の到達目標	これまでの学びをふまえて、刑法は何のためにあるのかについて、私見を展開できるようにする。	
	事前学修	これまで学んだことを自分なりに頭の中でまとめる（2時間）	120分
	事後学修	自分が考える刑法の在り方についてまとめる。（2時間）	120分

科目名	刑事法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する実体法と手続法を概観する。専門的な知識の習得だけではなく、刑事司法を身近なものとしてとらえながら、犯罪等についての理論がいかに現実の現象に反映されているか、実務の実態がどのようなものなのか等、自ら考えられるような機会として講義を行う。また、教科書だけではなく、その時々犯罪にかかわるニュースを取り入れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法および刑事訴訟法を中心とした刑事司法に関する法についての基礎的な知識の習得できる者を養成することを目的とし、近年生じている犯罪の動向やその問題点なども指摘しながら、これからの刑事的制裁の意義あるいは機能等を論ずる。そのうえで、専門基礎知識を得ることによって、現実に行き起きている犯罪やその抑止のための諸政策に関して問題意識を持ち、問題解決の方策を模索するような姿勢を身につけられることを目標とする。

【履修条件】
授業内容は、刑事法Ⅰと刑事法Ⅱを統合したものである。また、事前学習として、下記に指定したテキストの箇所をあらかじめ読むことを求める。

【授業方法】
もっぱら講義を中心に展開する。指定した教科書を用いつつ、レジュメでその内容を補い、講義を展開する。質問も快く承る。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世の中で起きている刑事法に関わる事件について説明することができる。				2	2	2		2			
②	刑法の在り方を想起しながら、刑事法に関わる事件にしついて私見を展開することができる。				2	2	2		2			
③	日本の刑事司法制度について説明するとともに、その問題を見極めることができる。				2	2	2		2			
④	事件を解決するために、刑罰法規を解釈することの意義を説明することができる。				2	2	2		2			
⑤	事件を解決するために、解釈された刑罰法規を事件に適用することの意義を説明することができる。				2	2	2		2			
⑥	刑法における犯罪の種類について説明し、その違いが何に由来するかについて述べることができる。				2	2	2		2			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、受講者が刑法の重要問題について、理解し、 私見を築き、議論できる能力を身につけたかを確認する。	15	15	10	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題終了後に解説をclassroomに掲載する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる刑法（第3版）』	井田良・佐藤拓磨	ミネルヴァ書房	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Googleクラスルームからメールを送信してください。速やかに対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法各論において何を学ぶのか	刑法典にはさまざまな刑罰法規が用意されている。一つ一つの刑罰法規の意味について考えることの意義を考える。	
	この回の到達目標	刑罰法規を解釈して処罰範囲を定める作業の重要性について理解する。	
	事前学修	刑事法Ⅰの履修者は刑事法Ⅰで学んだことを振り返る。	120分
	事後学修	殺人罪の規定をよく読みながら、その背後に広がる様々な事件について想像を膨らませよう。（2時間）	120分
2	人の生命はどのように保護されるべきか	人の生命は生きる上で必要不可欠な法益であり、それを侵害する行為は厳しく処罰されるべきである。しかしながら、そもそも「人」の生命はどこからどこまでのことをさすべきなのか。生命に対する刑罰的保護の在り方について考える。	
	この回の到達目標	「人」の意義や、通常殺人罪と同意殺人・自殺関与罪の違いについて、理解するとともに、その処罰範囲について説明できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪1および2を読む。（2時間）	120分
	事後学修	人の始期と終期はどう定められるべき考える。（2時間）	120分
3	人の身体を刑法はどう保護するべきか	身体への侵害行為をどう規制するべきか考える。	
	この回の到達目標	傷害概念と暴行概念について理解するとともに、これをふまえて、同意傷害の可罰性や結果的加重犯についても説明することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪4および5を読む。	120分
	事後学修	精神障害は刑法上の傷害概念に含むうるかを考える。	120分
4	性犯罪規定はどのように改正されたか	性犯罪の規定が大幅に改正され、強制性交等罪や監護者わいせつ・性交等罪などが創設され、法定刑の引き上げも行われた。旧規定と新規定を比較しながら、新規定が目指すべき方向について考える。	
	この回の到達目標	性犯罪の新しい枠組みについて理解するとともに、処罰範囲について説明することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪10を読む。	120分
	事後学修	性犯罪が改正された社会的背景を考える。	120分
5	言論の自由と個人の名誉の保護とをどう調和させるべきか	名誉毀損罪は人の社会的評価を保護するためにあるが、これを強調すると、言論の自由を狭めるおそれが出てくる。その調和点を探る。	
	この回の到達目標	名誉毀損罪の基本構造を理解するとともに、報道の真実性が法廷において証明できなかった場合の処理について、私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪12および13を読む。	120分
	事後学修	いずれか一方を強調するときのデメリットを考えよう。	120分
6	刑法は私有財産をどのように保護しようとしているか	刑法による財産保護の体系について学ぶ。	
	この回の到達目標	財物と財産上の利益との区別、故意犯処罰の原則がここにおいて貫かれている点について、説明することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪15および16を読む。	120分
	事後学修	窃盗罪が保護する財産が限定的であるのはなぜかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	財産犯が保護しようとしている法益は何か	財産犯は究極的にどのような法益を保護すべきなのかを考える。	
	この回の到達目標	本権説と占有説について理解するとともに、判例に現れた事案を分析できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪19および20を読む。	120分
	事後学修	最高裁判例が保護法益を占有と解している政策的な理由を考える。	120分
8	詐欺罪が処罰される真の理由はどこにあるか	搭乗券事例やゴルフ場利用事例など、近年、詐欺罪をめぐる裁判例の動きが活発である。また、振り込め詐欺のように今や詐欺は身近な罪といってもよい。詐欺罪の保護法益や構造について学ぶ。	
	この回の到達目標	詐欺罪が成立するための要件を順番に理解するとともに、最近の裁判例について検討する。	
	事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪24～28を読む。	120分
	事後学修	この授業で取り上げた様々な事案をどう考えるべきか、整理しておく。	120分
9	横領罪と背任罪の共通点と相違点は何かー経済犯罪と絡めてー	横領罪と背任罪は経済活動と密接に関係する犯罪の一つである。その処罰根拠について考える。	
	この回の到達目標	横領罪と背任罪の構造について理解するとともに、これをふまえて経済犯罪に関するいくつかの事例について考察することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪30および34を読む。	120分
	事後学修	学んだことをふまえて、刑法と経済のかかわりについて私見をまとめる。	120分
10	盗まれた物を買った者は何罪に当たるか	財産犯の背後で行われる行為を規制するのが盗品等に関する罪である。その存在理由を考察する。	
	この回の到達目標	盗品等に関する罪について全体像を理解するとともに、保護法益について説明することができるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・I 個人的法益に対する罪35・36を読む。（2時間）	120分
	事後学修	盗品等に関する罪における故意はどの程度のものでなければならないか。	120分
11	放火罪の処罰範囲について	社会的法益を保護する犯罪の一つである放火罪について学ぶ。比較的既遂に至りやすい犯罪であるため、一つ一つの要件について学んでいく。	
	この回の到達目標	公共危険犯の意義を理解するとともに、保護法益や現住性、建造物の意義、未遂時期や既遂時期について説明できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・II 社会的法益に対する罪1～3を読む。	120分
	事後学修	建造物の物理的一体性および機能的一体性を論ずる意義は何か。	120分
12	文書偽造罪が処罰される理由とは何か	文書の社会的機能を考えるとともに、何をもって文書「偽造」といえるのかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	文書の定義や偽造概念について理解するとともに、いくつかの事案について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・II 社会的法益に対する罪4～7を読む。	120分
	事後学修	履歴書の氏名記載欄に虚偽の名前を書き、写真欄に自身の写真を添付する行為は、私文書偽造罪に当たるか。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターネットとわいせつ罪との関係	わいせつ罪は風俗犯であるが、その保護法益をめぐり対立が以前から続いている。わいせつ罪の存在理由について考える。	
	この回の到達目標	刑法175条の保護法益について理解するとともに、インターネット上の無修正映像の送信について私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅱ社会的法益に対する罪8を読む。	120分
	事後学修	わいせつ動画ファイルを販売する行為は、その場所が日本と外国とで、処罰の可否が分かれるかを考える。	120分
14	収賄罪はいかなる構造をもつ犯罪か	本学部は公務員志望者が多いからこそ、この罪をしっかりと学ぶ必要がある。保護法益や処罰範囲をめぐり、学説と裁判例が対立している。この罪の構造を学ぶ。	
	この回の到達目標	収賄罪の保護法益、収賄罪の体系について学ぶとともに、職務権限の範囲をめぐり私見を展開できるようにする。	
	事前学修	第2部刑法各論・Ⅲ国家的法益に対する罪4および5を読む。（2時間）	120分
	事後学修	収賄罪の保護法益をめぐる対立を整理する。（2時間）	120分
15	刑罰法規と社会生活とのかかわりについて（特に犯罪化の意味について）	これまでの学びを振り返るとともに、犯罪化の時代の意味について考える。	
	この回の到達目標	90年代後半から続く犯罪化の潮流について学ぶとともに、これまでの学びとその潮流との関係について考える。	
	事前学修	これまで学んだことを復習しておく。	120分
	事後学修	社会の変化に刑法はどう対応するべきかを考える。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠA	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠAの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠAの分野についての基本的知識を修得し、刑法の総則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義の方法を用いる。 オンライン授業の場合は、GoogleClassroomを用いて動画を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。 オンライン授業の場合、総合ポータルシステムを用いて試験を実施することがある。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日、総合ポータルシステムまたはGoogleClassroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（16:10～17:10）オンライン授業実施中はメールにより対応する。shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	序 刑法の目的		授業についての説明 刑法の目的と基本原則
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、刑法の目的と基本原則を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	刑法の目的と基本原則について、授業で学んだことをまとめる。	120分
2	刑法の解釈のあり方		刑法の解釈のあり方 厳格解釈の原則 拡張解釈の限界
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の目的・基本原則と解釈・適用のあり方との関係を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	刑法の解釈・適用のあり方について、授業で学んだことをまとめる。	120分
3	明確性の原則		明確性の原則 判断基準 徳島市公安条例事件
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の基本原則としての明確性の原則と具体的事案における問題点について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	明確性の原則について、授業で学んだことをまとめる。	120分
4	実行行為の類型性と危険性		実行行為の類型性と危険性 主観的要素と類型性・危険性
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実行行為の類型性と危険性について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	実行行為の類型性と危険性について、授業で学んだことをまとめる。	120分
5	早過ぎた構成要件実現		早過ぎた構成要件の実現 実行の着手 一連の実行行為 クロロホルム事件
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、早過ぎた構成要件の実現の問題点を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	早過ぎた構成要件実現について、授業で学んだことをまとめる。	120分
6	遅過ぎた構成要件実現		遅過ぎた構成要件実現 複数の個別行為と結果の発生
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遅過ぎた構成要件実現の問題点を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	遅過ぎた構成要件実現について、授業で学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	間接正犯と不真正不作為犯 実行行為論のまとめ	間接正犯 不真正不作為犯 実行行為論のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、間接正犯、不真正不作為犯を含めた、実行行為論全般について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	間接正犯、不真正不作為犯、実行行為全般について、授業で学んだことをまとめる。	120分
8	因果関係	因果関係 相当性の判断基準 実行行為以外の行為の介在と相当性	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、因果関係の問題点を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	因果関係について、授業で学んだことをまとめる。	120分
9	35条による違法性の阻却	35条による違法性阻却の基準 被害者の同意 治療中止 秘密漏示と取材	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、35条の規定とその具体的事案への適用について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	35条による違法性阻却について、授業で学んだことをまとめる。	120分
10	36条の正当防衛と過剰防衛	正当防衛の趣旨と要件 複数の反撃行為と正当防衛・過剰防衛	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、36条の規定とその具体的事案への適用について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	36条の規定と適用について、授業で学んだことをまとめる。	120分
11	故意、過失、錯誤	故意と過失の意義 錯誤による故意の阻却	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、故意、過失、錯誤による故意の阻却について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	故意、過失、錯誤について、授業で学んだことをまとめる。	120分
12	共謀共同正犯	共謀共同正犯 練馬事件 大麻密輸入事件 スワット事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共謀共同正犯の問題点を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	共謀共同正犯について、授業で学んだことをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	承継的共同正犯	承継的共同正犯 傷害重篤化事件 特殊詐欺事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、承継的共同正犯の問題を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	承継的共同正犯について、授業で学んだことをまとめる。	120分
14	共同正犯の離脱・解消	共同正犯の離脱・解消 強盗着手前立去り事件 おれ帰る事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共同正犯の離脱・解消の問題を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	共同正犯の離脱・解消について、授業で学んだことをまとめる。	120分
15	中立的行為による幫助 授業のまとめ	中立的行為による幫助 ウイニー事件 授業全体のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、中立的行為による幫助の問題を理解し、到達目標①②③に関連して、適正な刑法総則の諸規定等の解釈・適用の方法と文章による的確な表現について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	中立的行為による幫助について、授業で学んだことをまとめる。 今まで授業で学んだことを整理して、的確に文章に表現できるようにする。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠA	担当者	清水 洋雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠAの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠAの分野についての基本的知識を修得し、刑法の総則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義中心とする。ただし、学生に質問をしながら授業を進めるものとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の総則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論（Next教科書シリーズ）	設楽裕文・南部篤編	弘文堂	2018年	教科書	必携
刑法総論講義第7版	前田雅英	東京大学出版会	2019年	参考書	推奨
最新重要判例250刑法第12版	前田雅英	弘文堂	2020年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日3時限（13：00～14：30） 研究室（13号館5階1354研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	罪刑法定主義		罪刑法定主義の意義、特に類推解釈の禁止、遡及処罰の禁止等を考察する。	
	この回の到達目標	類推解釈や遡及処罰が許されないことの趣旨を理解し、具体例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
2	責任主義、犯罪の一般的成立要件		責任主義の意義、事業主処罰規定、結果的加重犯や、犯罪の一般的成立要件、構成要件該当性、違法性、有責性を考察する。	
	この回の到達目標	責任主義、構成要件該当性、違法性、有責性という犯罪論体系、それに従って犯罪の成否を判断することの意義について理解し、その概要を説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートの基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
3	構成要件要素、不作為犯		構成要件要素（行為、主体、客体、結果、状況等）、不真正不作為犯の成立要件等を考察する。	
	この回の到達目標	行為とは何か、法人の犯罪能力、不真正不作為犯の成立要件である作為義務、作為可能性、構成要件の当価値性等を理解し、その概要を具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートの基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
4	因果関係		条件関係、条件説、相当因果関係説、危険の現実化説等を考察する。	
	この回の到達目標	実行行為と結果との間の因果関係の意義を理解し、その概要を具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートの基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
5	違法性の基礎、正当防衛		形式的違法論・実質的違法論、行為無価値論・結果無価値論、正当防衛、過剰防衛、誤想防衛、誤想過剰防衛等を考察する。	
	この回の到達目標	違法性とは何か、正当防衛が成立する要件等について、その概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
6	緊急避難、正当行為		緊急避難の法的性格、緊急避難の要件、刑法35条の趣旨、法令行為、正当業務行為、正当行為等を考察する。	
	この回の到達目標	緊急避難の法的性格、緊急避難の要件、刑法35条の意図等について、その概要を具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	責任の基礎、期待可能性		責任とは何か、適法行為の期待可能性について考察する。	
	この回の到達目標	刑法における責任や、適法行為の期待可能性について理解し、その概要を説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
8	責任能力、原因において自由な行為		責任能力とは何か、心神喪失・心神耗弱、原因において自由な行為等を考察する。	
	この回の到達目標	責任能力の意義、心神喪失・心神耗弱の判断方法、原因において自由な行為等について、その概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
9	故意、事実の錯誤		故意の成立要件、故意の種類、行為者の認識した事実と発生した事実のくい違いをどう処理するかについて考察する。	
	この回の到達目標	故意の成立要件、故意の種類、具体的事実の錯誤・抽象的事実の錯誤に関する具体的符合説、法定的符合説、抽象的符合説について、その概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
10	法律の錯誤、過失		法律の錯誤とは何か、事実の錯誤と法律の錯誤の区別、過失犯の成立要件、過失犯の構造、過失犯の種類、信頼の原則等を考察する。	
	この回の到達目標	法律の錯誤の意義、事実の錯誤と法律の錯誤の区別、過失犯の成立する場合について、その概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
11	未遂犯、中止犯、不能犯		犯罪の遂行段階、未遂の種類、中止犯の法的性格、中止犯の要件、未遂犯と不能犯の区別を考察する。	
	この回の到達目標	実行の着手時期、中止犯の要件、未遂犯と不能犯の区別などの概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
12	正犯と共犯、間接正犯、共同正犯		正犯と共犯の区別、間接正犯、共同正犯を考察する。	
	この回の到達目標	共犯の類型、間接正犯の成立する場合、共同正犯の成立要件などの概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	共謀共同正犯、承継的共同正犯、狭義の共犯		共謀共同正犯の意義・要件、承継的共同正犯の意義・要件、教唆犯・従犯（幫助犯）の成立要件を考察する。	
	この回の到達目標	共謀の意義、承継的共同正犯に関する学説、教唆犯・従犯（幫助犯）の成立要件の概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
14	共犯の諸問題		共犯と身分、共犯と錯誤、共犯関係からの離脱、不作為と共犯、正当防衛と共犯等について考察する。	
	この回の到達目標	65条に関する主な学説・判例、共犯と錯誤の問題、共犯関係からの離脱が認められる場合などの概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
15	罪数		罪数論の意義、特殊な一罪、科刑上の一罪、併合罪等を考察する。	
	この回の到達目標	罪数決定の基準、法条競合、包括一罪、観念的競合、牽連犯、かすがい現象等についての概要を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠB	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠBの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠBの分野についての基本的知識を修得し、刑法の各則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義の方法を用いる。 オンライン授業の場合は、GoogleClassroomを用いて動画を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。 オンライン授業の場合、総合ポータルシステムを用いて試験を実施することがある。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日、総合ポータルシステムまたはGoogleClassroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
備考 『刑法解釈論』は、2020年5月中旬刊行予定である。					

【オフィスアワー】
水曜日（16:10～17：10） オンライン授業実施中はメールを用いて対応する。shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	序 胎児性傷害・致死	刑法の各則の諸規定等の解釈一般について 胎児性傷害・致死	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、各則の諸規定等の解釈に関する基本的知識を修得し、到達目標②③に関連して、胎児性傷害・致死について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	胎児性傷害・致死について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
2	殺人罪と自殺関与罪	殺人罪と自殺関与罪の区別	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、殺人罪と自殺関与罪とを区別する基準を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	殺人罪と自殺関与罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
3	傷害罪の「傷害」	傷害罪の「傷害」に関する諸問題 暴行によらない傷害 昏睡・PTSDと傷害	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、傷害の概念と関連する諸問題を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	傷害について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
4	名誉の保護	名誉に対する罪の客体・保護対象	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名誉毀損罪・侮辱罪の客体・保護対象について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	名誉の保護について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
5	財物と財産上の利益	財物と財産上の利益に関わる諸問題	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、財物と財産上の利益の概念及びこれに関わる諸問題について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	財物と財産上の利益について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
6	民法的不法と財産罪	民法的不法が財産罪の成否に及ぼす影響	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、民法的不法が財産罪の成否にどのような影響を及ぼすかを理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	民法的不法と財産罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	窃盗罪と不法領得の意思	窃盗罪における不法領得の意思の要否とその内容	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、窃盗罪における不法領得の意思について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	窃盗罪と不法領得の意思について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
8	詐欺罪と財産上の損害	詐欺罪における欺罔行為と財産上の損害	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、詐欺罪と財産上の損害について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	詐欺罪と財産上の損害について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
9	244条1項と家庭裁判所により選任された後見人の横領	家庭裁判所によって選任された後見人による横領の事案への244条1項準用の可否 成年後見人横領事件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家庭裁判所によって選任された後見人が横領した事案に244条1項が準用されるかについて理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	244条1項と家庭裁判所によって選任された後見人による横領について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
10	取引の相手方と特別背任罪の共同正犯	取引の相手方が特別背任罪の共同正犯となるための要件	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、取引の相手方が特別背任罪の共同正犯となるための要件について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	取引の相手方と特別背任罪の共同正犯について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
11	被害者に戻す行為と盗品関与罪	被害者に盗品を戻す行為と盗品関与罪の成否	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、被害者に戻す行為が盗品関与罪に問われるかについて理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	被害者に戻す行為と盗品関与罪について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
12	文書の有形偽造	文書偽造罪における有形偽造の概念と認定基準	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文書偽造罪における有形偽造について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	文書の有形偽造について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	103条の「罪を犯した者」と「隠避」	103条の「罪を犯した者」と「隠避」の解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、103条の「罪を犯した者」と「隠避」の適正な解釈について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	103条の「罪を犯した者」と「隠避」について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
14	197条1項の「その職務に関し」	197条1項の「その職務に関し」の解釈 時間的広がりの問題 同一時点における広がり的问题	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、197条1項の「その職務に関し」の解釈について理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	197条1項の「その職務に関し」について、授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
15	刑法の諸規定等の解釈のあり方	刑法の諸規定等の解釈・適用のあり方 適正な解釈・適用の過程を的確に文章に表す方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑法の各則の諸規定等の解釈・適用を適正になすために必要なことは何かを理解し、適正な解釈・適用の思考過程を文章に的確に表現する方法を理解する。	
	事前学修	刑事法演習Ⅰと同様である。	120分
	事後学修	学んだ事項を的確に文章に表現できるように整理する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅠB	担当者	清水 洋雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法特殊講義ⅠBの分野では、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識を学修し、これによって修得した知識を基に、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事法特殊講義ⅠBの分野についての基本的知識を修得し、刑法の各則の諸規定等に関する具体的事案について、問題を発見し、同問題を、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義中心とする。ただし、学生に質問をしながら授業を進めるものとする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観をもって、解釈・適用を行う者の使命・役割を認識することができる。				3							
②	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する具体的事案を注意深く観察して、問題を発見することができる。							3				
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に関する問題についての自己の見解がより良い社会・共同体の創造に貢献できる適正なものであるか否かを振り返ることができる。											3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①に関する理解ができているか、及び、到達目標②の問題の発見ができ、同問題を到達目標③の適正な解釈・適用を行って解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	10	40	50								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法各論（Nextk教科書シリーズ）	沼野輝彦・設楽裕文編	弘文堂	2017年	教科書	必携
刑法各論講義第7版	前田雅英	東京大学出版会	2020年	参考書	推奨
最新重要判例250刑法第12版	前田雅英	弘文堂	2020年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日3時限（13：00～14：30） 研究室（13号館5階1354研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	生命・身体に対する罪		人の意義、殺人の罪、遺棄の罪、傷害の罪、（危険運転致死傷罪）、凶器準備集合罪・同結集罪、過失傷害の罪を考察する。	
	この回の到達目標	上記各犯罪の保護法益、罪質、各犯罪の成立要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
2	自由・平穏に対する罪		逮捕及び監禁の罪、脅迫の罪、略取・誘拐の罪、強制わいせつ・強制性交等罪、住居を侵す罪、秘密を侵す罪を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、（特に住居を侵す罪）、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
3	名誉・信用に対する罪、財産に対する罪総説		名誉毀損罪の成立要件と事実の証明、信用毀損罪、業務妨害罪、財産罪の基礎を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等、事実の証明の趣旨・要件、財産罪の基本的事項を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
4	窃盗罪		窃盗罪の保護法益、占有、不動産侵奪罪、親族間の犯罪に関する特例を考察する。	
	この回の到達目標	上記各犯罪の保護法益、罪質、要件等、親族間の犯罪に関する特例の趣旨・要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
5	強盗罪		強盗罪（1項強盗罪、2項強盗罪）、事後強盗罪、昏酔強盗罪、強盗致死傷罪等を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪、特に強盗罪、事後強盗罪、強盗致死傷罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
6	詐欺・恐喝の罪		詐欺罪（1項詐欺罪、2項詐欺罪）、電子計算機使用詐欺罪、準詐欺罪、恐喝罪（1項恐喝罪、2項恐喝罪）を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪（特に詐欺罪、恐喝罪）の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	横領・背任の罪		横領罪、業務上横領罪、遺失物等横領罪、背任罪を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪（特に横領罪、背任罪）の保護法益、罪質、要件（横領罪の占有・委託関係・不法領得の意思、背任罪の事務処理者・財産上の損害等）を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
8	盗品等関与罪		盗品等関与罪（無償譲受け罪、有償譲受け罪、運搬罪、保管罪、有償処分あっせん罪）、親族等の犯罪に関する特例を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等、親族間の犯罪に関する特例の趣旨、要件を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
9	騒乱の罪、放火・失火の罪、往来を妨害する罪		騒乱罪、多衆不解散罪、放火罪（現住建造物等放火罪、非現住建造物等放火罪、建造物等以外放火罪など）、往来妨害罪、往来危険罪、汽車転覆等を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪（特に放火罪）の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
10	通貨偽造の罪、有価証券偽造罪、文書偽造罪総説		通貨偽造・同行使罪、通貨偽造準備罪、有価証券偽造罪、文書の意義、文書偽造罪等を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等、特に文書偽造罪の基本概念を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
11	公文書偽造罪、私文書偽造罪		公文書偽造罪、私文書偽造罪等を考察する。	
	この回の到達目標	上記の犯罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分
12	わいせつの罪、賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪		公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等罪、賭博・富くじに関する罪、死体損壊等を考察する。	
	この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	公務の執行を妨害する罪	公務執行妨害罪、職務強要罪、強制執行妨害罪等を考察する。		
	この回の到達目標	上記の各犯罪特に公務執行妨害罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	120分	
14	逃走の罪、犯人蔵匿・証拠隠滅の罪、偽証の罪	逃走の罪、犯人蔵匿・証拠隠滅罪、偽証罪等を考察する。		
	この回の到達目標	上記の各犯罪の保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	120分	
15	職権乱用罪、賄賂の罪	職権乱用罪、特別公務員職権濫用・暴行陵虐罪、収賄罪・贈賄罪等を考察する。		
	この回の到達目標	上記の各犯罪の基本概念、保護法益、罪質、要件等を理解し、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	当該授業で扱う刑法上の用語について、その定義等を理解し、さらに、教科書等の該当頁をよく読んで授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	教科書、参考書、判例集、授業中にとったノートに基づき、授業内容を十分に復習すること。	120分	

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
なし。但し、刑法の基礎の習得が不十分な者は履修を見送ることを推奨する。難度の高い事例問題への取組みが不可能だからである。

【授業方法】
判例、過去問、オリジナルの設問、学術論文等を教材に用い、各授業前半で答案の作成または論文の読み込みをさせ、後半を検討・質疑に充てる。通年科目であるが、前学期は総論のテーマを、後学期は各論のテーマを中心的に扱う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事前学修項目で示した内容につき、授業時に意見表明を受講者自身に行わせ、次いで教員が評価を示し、さらに受講者からの意見を求めることがある。これにより、いわゆる討論技術獲得のみを目指すディベートとは一線を画した、刑法の実質的内容とリアルな社会の現実に即した意味ある議論が可能となる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	ある学説を参照する場合に、当該学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】	
質問等参加度に関する評価については授業時間内に、筆記試験についても、その出題意図・解説・具体的評価基準を同様に授業時間内に説示する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし（授業の度に問題，教材，補足資料を配布する。）					
備考	六法は必携（出版社、サイズ等を問わない）。				

【オフィスアワー】	
土曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法の基礎に関する学力の確認	刑法学修についての基礎、とくに保護法益論と刑法解釈のアプローチにつき詳細に解説する。また、学力レベル確認のための試験を実施する。	
	この回の到達目標	保護法益とは何かを説明することができる。また、自己の刑法分野についての学力水準を正確に知り、適切な学修計画を立てることができる。	
	事前学修	刑法総論・各論について、基本書を読み返すなどして基礎的理解を確かなものにした上で初回授業に臨むこと。	120分
	事後学修	出題されたテーマについて、提出した自分の答案を振り返り、自己採点、解答点検を怠らないようにする。	120分
2	法解釈と法益概念との関係、および刑法学修計画作成	刑法解釈の技法を確認した上で、この授業のすすめ方、教材・参考書等の準備について綿密な検討・説明を行う。	
	この回の到達目標	個々の受講者ごとに最適な学習計画を立て、十分な準備を行うことができる。	
	事前学修	前回受験した試験についての復習に基づき、教員に対する質問を用意した上で授業に臨むこと。	100分
	事後学修	これまでの授業をふまえ、自分なりの模範答案をもう一度作成してみる。	140分
3	同意に関する錯誤と犯罪の 成否	自殺関与と殺人の限界（偽装心中と殺人罪の成否）	
	この回の到達目標	被害者の同意ないし承諾が犯罪の成否にいかなる影響を与えるかに関する基本的理解を確かなものにし、法益関係 的錯誤論の是非等発展的テーマを理解する。	
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
4	同時傷害の特例の問題点	同時傷害の特例の趣旨、射程範囲、判例と学説の見解を検討し、その問題点を解明する。	
	この回の到達目標	刑法207条の同時傷害の特例が、举证責任の転換という刑事裁判の例外を定めた特異な規定であることを正確に理解 し、判例、学説の検討を通じて自己の見解を説明できるようにする。	
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例問題が出題されるかを予想し、答案構成を含めた準備検討作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
5	傷害罪と被害者の承諾	被害者の承諾は犯罪の成否にいかなる影響を与えるか。	
	この回の到達目標	法益の帰属主体による保護法益の処分と犯罪成否との関係を理解したうえ、とくに同意傷害に関して犯罪の成立が 否定される限界をどのような基準で判断するか、自己の見解を展開できる。	
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	120分
6	監禁罪の保護法益	場所的移動の自由を保護法益とする監禁罪について、その自由が現実的自由であることを要するか、潜在的可能的なもので足りるか、について検討する。	
	この回の到達目標	監禁罪の保護法益について、可能的自由説を採る判例に対して、現実的自由説に立つ有力説からの批判をめぐる議論を正確に理解し自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。	140分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	住居侵入罪の保護法益		住居・建造物侵入罪の保護法益をめぐる判例の変遷を検討し、同罪をどのようにとられるべきかを考察する。	
	この回の到達目標	住居権説から平穩説を経て新住居権説へと至る判例の変遷と背景をたどしく理解し、保護法益と同罪の処罰範囲、機能をふまえた適切な解釈を行うことができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
8	名誉毀損罪と真実性の錯誤		名誉の保護と表現の自由の保護との関係を背景に、とくにマスメディアの取材・報道への刑罰制裁による制約の限界を論じ、同罪の適正な処罰範囲を探る検討を行う。	
	この回の到達目標	名誉の保護と表現の自由との調整を図る規定としての刑法230条の2の趣旨を理解した上で、真実性の錯誤をどう取り扱うかについての判例の考え方をたどしく把握できる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
9	刑法における占有の概念		窃盗罪における占有概念について多角的に検討し、占有をめぐる判例の態度と学説の発展を考察する。	
	この回の到達目標	占有侵害によって特徴づけられる窃盗罪の性格をたどしく理解し、窃盗罪の成否の基準として働く占有の意義、性質の把握をふまえて、占有の有無が問題となった諸判例を分析し説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分
10	不法領得の意思		窃盗罪における不法領得の意思の意義、機能、その内容を検討し、判例がそれをどのようにとらえているかを解明する。併せて、横領罪における不法領得意思も視野に入れ、財産領得罪と不法領得の意思の関係を明らかにする。	
	この回の到達目標	不法領得の意思の2つの側面（機能）を理解し、具体的事案における判例の態度と動向を説明し、自己の見解を説得的に展開することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
11	強盗と恐喝との相違		強盗罪と恐喝罪とが、刑法典のそれぞれ異なる章におかれた異質な類型とされるものでありながら、現象的には脅迫行為の程度の違い、量的差異に過ぎないものとも見えることを切り口に、両罪の比較検討を行う。	
	この回の到達目標	「窃盗および強盗の罪」と「詐欺および恐喝の罪」とを対比し、異なる性格を有する財産犯罪であることを理解した上で、両罪の相違を説明し、行為者に錯誤が生じた場合、被害者の意思抑圧の程度が行為者の意図とは異なった場合等にふみこんで罪責の検討を進めることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）		130分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）		110分
12	死者の占有		死者が生前占有していた財物を死後に領得する行為をどう評価するか。死者が財物を事実上管理支配することはありえないと考えれば、およそ占有侵害を要素とする窃盗も強盗も成立の余地はないことになるが果たしてどうか。この点についての判例、学説を掘り下げて検討する。	
	この回の到達目標	刑法における占有の概念を理論的に厳密に把握するとともに、実質的妥当な結論を導くことの重要性に配慮しつつ、強盗罪、窃盗罪、遺失物等横領罪の成否を適切に論じることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	詐欺罪における処分行為		詐欺罪における処分行為は意識的なものでなければならないか、無意識的なもので足りるかが問題となる。何らかの意思に基づく処分といえるものがなければ窃盗罪に問うほかない。従って、財産上の利益の移転のケースについては、利益窃盗で不可罰となる。処分行為の内容を明らかにすることが重要となる。	
	この回の到達目標	詐欺罪の処分行為をめぐる判例の動向を整理したうえで、学説の状況をふまえ、処分行為の意義と内容を適切に説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
14	クレジットカードの不正使用と詐欺		人を欺く行為が行われ、それによって相手方が錯誤に陥り、その錯誤に基づく処分行為行われた結果、財物の交付による占有の移転または財産上の処分行為による利益の移転が惹起されるという詐欺罪に特徴的な構成要件実現のプロセスに照らし、自己名義のクレジットカードを用いた不正行為に詐欺罪を認めうるかが問題となる。	
	この回の到達目標	詐欺罪特有の構成要件の構造を正確に理解し、支払い能力・支払い意思のいずれも欠いた自己名義のクレジットカード利用形態の不正行為が詐欺罪を構成するか否かを論じ、説得力ある結論を導くことができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
15	不法原因給付と詐欺罪の成否		たとえば規制薬物を購入する旨偽って代金支払い意思無く薬物を騙し取ったり、売春の対価を支払う意思が無いにあるかのように装いこれに応じさせる行為に詐欺罪が成立するか。民法上返還請求が認められない場合や、履行を要求しえない場合に詐欺罪の成立を認めうるかが問題となる。	
	この回の到達目標	不法原因給付と詐欺罪の成否との関係を適切に理解した上で、民法と刑法との目的の相違をふまえて妥当な見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法総論及び各論の履修又は独習が終了していること。

【授業方法】
シラバスに書いてある論点に関する教科書を読んでもくる等、毎回十分予習させ、課題に現れた個々の論点等につき、双方向的授業を通じ、その理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例や事例問題について、学生との質疑や議論を通じ、解決方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。				3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。				3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。				3			3				3
④	ある学説を参照する場合に、当該学説の理解を概ね誤りなく説明できる。				3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。				3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。				3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。				3			3				3
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の模範解答等を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法 第3版	山口厚	有斐閣	2015	教科書	必携
刑法総論 第3版	山口厚	有斐閣	2017	参考書	推奨
判例刑法総論 第7版	西田典之ほか	有斐閣	2018	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	因果関係論（1）		ガイダンス。訳の割当て等。因果関係論について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。判例数が多いので2回にわたり、同じ作業を行う。	
	この回の到達目標	因果関係に関する判例を理解し、別の事案の解決もできるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、因果関係に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
2	因果関係論（2）		因果関係論について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。判例数が多いので2回にわたり、同じ作業を行う。	
	この回の到達目標	因果関係に関する判例を理解し、別の事案の解決もできるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、因果関係に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
3	不作為犯論		不作為犯論（ここでは不真正不作為犯の解釈論）について、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	不作為犯論に関する判例を理解し、少なくとも不作為の殺人の事例において、様々な事案の解決ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、不作為犯に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
4	その他の構成要件論		因果関係及び不作為以外の客観的構成要件に係る判例を読んで、体系的な理解を定着させる。	
	この回の到達目標	構成要件段階でどのような判断が行われるかを理解する。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、構成要件の判断に係る様々な事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
5	被害者の同意論		被害者の同意に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	被害者の同意の効果の判断に際して、様々な事案の解決ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、被害者の同意の効果に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
6	正当防衛論（1）		正当防衛のうちの、「急迫不正の侵害」の有無（主に急迫性）に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	急迫不正の侵害の有無の判断に際して、様々な事案の解決ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、急迫不正の侵害の有無に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	正当防衛論(2)		正当防衛のうちの「防衛の意思」の有無に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	防衛の意思の有無の判断に際して、積極的加害意思の有無との関係も意識しながら、様々な事案の解決ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、防衛の意思の有無に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
8	正当防衛論(3)		正当防衛のうちの、「防衛行為の相当性」の有無及び自招防衛や過剰防衛の限界等、その他の要件に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	防衛行為の相当性の判断に関する様々な事案の解決ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、防衛行為の相当性に関する事例の自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
9	誤想防衛論		責任の議論との架橋のために、誤想防衛、誤想過剰防衛についての理解を確認し、これらに関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	自身のよってたつ学説に基づいて、誤想過剰防衛についての判断ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、誤想過剰防衛について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
10	錯誤論（1）		いわゆる抽象的事実の錯誤に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	抽象的事実の錯誤に関する事例の判断ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、抽象的事実の錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。構成要件の重なり合いの態様（形式的か実質的か）といったことにも注意を払って考える。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
11	錯誤論（2）		いわゆる抽象的事実の錯誤に関する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	抽象的事実の錯誤に関する事例の判断ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、抽象的事実の錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。構成要件の重なり合いの態様（形式的か実質的か）といったことにも注意を払って考える。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
12	違法性の意識の可能性		いわゆる違法性の錯誤に関すると思われる判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	違法性の錯誤に関する事例について、どのような場合に故意ないし責任が阻却されることがあるのかを説明できるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、違法性の意識の可能性の処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	過失犯論		過失犯についての基本的な考え方を理論面から確認しつつ、関連する判例を精読し、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	過失犯に関する事例の判断ができるようになること		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、過失犯の処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
14	未遂犯論		未遂犯についての判例を読みつつ、事案と結論と判旨（決定要旨）について丁寧に確認しながら、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	未遂犯に関する事例の判断ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、未遂犯の処理について自分なりの解決法を見つけておく。その際、犯罪類型毎の検討も行っておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
15	罪数論		罪数についての基本的な整理を前提とし、今まで読んできた判例の罪数処理等をも確認しながら、罪数に関する判例も読み、判例の射程と類似事案が発生した際の解決の方法を議論する。	
	この回の到達目標	罪数に関する事例の判断ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、罪数処理について自分なりの解決法を見つけておく。その際、犯罪類型毎の検討も行っておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	三隅 諒	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法Ⅰ及び刑法Ⅱを履修中又は履修済であることが望ましい。

【授業方法】		
講義の動画をオンデマンド配信するので、それを視聴してもらう。 予習用に簡単なレジュメを出す予定なので、視聴する前に各自で考えてみてほしい（提出する必要はない）。また、復習用に課題を出すことがあり、こちらは何回か提出してもらう予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	ある学説を参照する場合に、当該学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか、又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法事例演習教材	井田良ほか	有斐閣	2020	その他	推奨
財産犯バトルロイヤル	高橋則夫ほか	日本評論社	2017	その他	推奨
刑事事実認定重要判決 上（第3版）	植村立郎	立花書房	2020	その他	任意
刑事事実認定重要判決 下（第3版）	植村立郎	立花書房	2020	その他	任意
刑法総論の悩みどころ	橋爪隆	有斐閣	2020	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか、又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	判例理解と事例演習		刑法を学修するにあたり、具体的な事例を自力で解決するために、判例を十分に理解することと実際に事例問題を記述することの双方が重要であることを理解する。
	この回の到達目標	到達目標②⑤に関連して、犯罪の成否に関する基本的な思考手順を再度確認する。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した事例問題を実際に解いて、改めて講義資料を読み返す。	120分
2	因果関係①		因果関係についての近時の最高裁判例の内容を分析し、理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③⑦に関連して、因果関係が問題となった最高裁判例がいかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、どのような事実注目すべきか、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	素材となる最高裁判例を読み、予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
3	因果関係②		因果関係の成否が問題となる事例問題を実際に記述し、その論述の可否を検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥⑦に関連して、因果関係が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
4	不作為犯①		不真正不作為犯についての近時の最高裁判例の内容を分析し、理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③⑦に関連して、不真正不作為犯が問題となった最高裁判例がいかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、どのような事実注目すべきか、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	素材となる最高裁判例を読み、予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
5	不作為犯②		不真正不作為犯の成否が問題となる事例問題を実際に記述し、その論述の可否を検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥⑦に関連して、不真正不作為犯が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
6	故意①		故意（錯誤を含む）についての近時の最高裁判例の内容を分析し、理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③⑦に関連して、故意が問題となった最高裁判例がいかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、どのような事実注目すべきか、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	素材となる最高裁判例を読み、予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	故意②		故意（錯誤を含む）の成否が問題となる事例問題を実際に記述し、その論述の可否を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥⑦に関連して、故意が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分
8	正当防衛①		急迫性（又は正当防衛状況）についての近時の最高裁判例の内容を分析し、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑦に関連して、急迫性（又は正当防衛状況）が問題となった最高裁判例がいかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、どのような事実注目すべきか、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	素材となる最高裁判例を読み、予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分
9	正当防衛②		急迫性（又は正当防衛状況）の成否が問題となる事例問題を実際に記述し、その論述の可否を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥⑦に関連して、急迫性（又は正当防衛状況）が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分
10	正当防衛③		防衛行為の相当性についての近時の最高裁判例の内容を分析し、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑦に関連して、防衛行為の相当性が問題となった最高裁判例がいかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、どのような事実注目すべきか、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	素材となる最高裁判例を読み、予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分
11	正当防衛④		防衛行為の相当性が問題となる事例問題を実際に記述し、その論述の可否を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥⑦に関連して、防衛行為の相当性が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分
12	共謀共同正犯①		共謀の成否・解消についての近時の最高裁判例の内容を分析し、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑦に関連して、共謀の成否・解消が問題となった最高裁判例がいかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、どのような事実注目すべきか、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	素材となる最高裁判例を読み、予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	共謀共同正犯②		共謀の成否・解消が問題となる事例問題を実際に記述し、その論述の可否を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥⑦に関連して、共謀の成否・解消が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分
14	共犯と違法性①		共犯の一部の違法性阻却についての近時の最高裁判例の内容を分析し、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑦に関連して、共犯の一部の違法性阻却が問題となった最高裁判例がいかなる事実を抽出して認定を行ったかを理解することにより、どのような事実注目すべきか、なぜその事実注目すべきなのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	素材となる最高裁判例を読み、予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分
15	共犯と違法性②		共犯の一部の違法性阻却が問題となる事例問題を実際に記述し、その論述の可否を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑤⑥⑦に関連して、共犯の一部の違法性阻却が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを確認し、その適否を理解することができる。		
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。		120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。		120分

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
なし。但し、刑法の基礎の習得が不十分な者は履修を見送ることを推奨する。難度の高い事例問題への取組みが不可能だからである。

【授業方法】
判例，過去問，オリジナルの設問，学術論文等を教材に用い，各授業前半で答案の作成または論文の読み込みをさせ，後半を検討・質疑に充てる。通年科目であるが，前学期は総論のテーマを，後学期は各論のテーマを中心的に扱う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事前学修項目で示した内容につき，授業時に意見表明を受講者自身に行わせ，次いで教員が評価を示し，さらに受講者からの意見を求めることがある。これにより，いわゆる討論技術獲得のみを目指すディベートとは一線を画した，刑法の実質的内容とリアルな社会の現実に即した意味ある議論が可能となる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	学説を参照する場合に、学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問等参加度に関する評価については授業時間内に，筆記試験についても，その出題意図・解説・具体的評価基準を同様に授業時間内に説示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし（授業の度に問題，教材，補足資料を配布する。）					
備考	六法は必携（出版社、サイズ等を問わない）。				

【オフィスアワー】
土曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	使途を定めて委託した金銭と横領		金銭は、預かったときにその所有権も自己に移転するが、こうした性質から、「自己の占有する他人の物」を客体とする横領罪の成否が問題となる。そこで、この点についての判例の態度と、「金額の所有権」論も含めた学説を検討する。	
	この回の到達目標	金銭の持つ性質をふまえて、理論的整合性をたもちつつ合理的妥当な横領罪の処罰範囲を画する解釈を導く議論を展開することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
2	横領の意義		横領行為とは何かについて、さまざまな横領の手段・態様を検討したうえで、領得行為説と越権行為説との対立に関する議論を考察しつつ、今日の判例と学説の状況を検討する。	
	この回の到達目標	財産領得罪の一種としての横領罪の性格を理解した上で、判例の立場を説明し、同罪の本質をどうとらえるべきか、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	前回受験した試験についての復習に基づき、教員に対する質問を用意した上で授業に臨むこと。		140分
	事後学修	これまでの授業をふまえ、自分なりの模範答案をもう一度作成してみる。		100分
3	横領と背任の関係		横領罪と背任罪との関係については、しばしば両罪が同時に成立するようにみえる場合があるが、この両罪の区別についてのさまざまな見解を検討し、適切妥当な区別基準を導き出すべく検討を加える。	
	この回の到達目標	横領罪と背任罪との区別について、判例の態度はどうか、学説にはどのようなものがあるかを整理し、もっとも妥当な見解を説得的に展開することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
4	不動産の二重売買と横領		自己の不動産を売却後に、登記未了のため依然所有名義者としての不動産登記上の外観が維持されていることを利用し、重ねて第三者に売却した場合の罪責を検討する。	
	この回の到達目標	横領罪における占有の概念の正確な理解を前提に、不動産取引と登記に関する知識をふまえ、土地等の二重売買事案についての横領罪成立の可能性を説明できる。さらに、二重売買不動産の譲受者に横領罪の共犯罪責の可能性について述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例問題が出題されるかを予想し、答案構成を含めた準備検討作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分
5	不動産の二重抵当と背任		自己の不動産を担保に供する抵当権設定契約を締結した者が、登記未了であることを利用し、その後重ねて第三者のために抵当権を設定して登記を了し、本来先順位の抵当権者となるべき者を後順位の位置に置いた場合の罪責を検討する。	
	この回の到達目標	背任罪の「他人の事務処理」とは何を意味するかについての判例の具体的判断基準を理解した上で、学説の対立を整理し、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
6	横領後の横領		従来、横領罪が成立すれば、その後同一の客体に対する不法な処分がなされても重ねて横領罪が成立することはないとするのが判例・学説の承認するところであった。しかし、近時最高裁はこの判例を変更した。そこで、これがいかなる理由によるものかを検討する。	
	この回の到達目標	横領物に対する横領行為が、不可罰的事後行為とされてきた従来の法解釈から、どのような事案を念頭に横領罪成立へと変更されたのかをふまえ、横領罪成否について自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	放火罪の既遂時期		放火罪の既遂時期について、独立燃焼説に立つ判例の立場と、その早期に過ぎる点で批判を加える学説との対立状況を把握し、今日、具体的妥当な見解は何かを解明する。	
	この回の到達目標	従来の伝統的な判例の見解と、さまざまな学説との対立状況をふまえ、放火罪の罪質や今日の状況にふさわしい既遂時期の基準について妥当な見解を述べ、説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		140分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		100分
8	放火罪の客体と建造物の一体性		物理的に独立した複数の建造物が、回廊や通路等で接続する構造を有し、機能的に一体的な施設とみられる場合、それら一部が現住建造物性を具えていれば、他のどの部分に放火しても現住建造物への放火と扱うことができるか、という問題を検討する。	
	この回の到達目標	判例の見解を十分理解し、また今日の高度の難燃性建材・耐火構造の建築物に関する裁判例にあらわれた問題点なども視野に入れ、結論の具体的妥当性をふまえた見解を導くことができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
9	コピーと文書偽造		偽造した物自体を真正な文書の原本として用いる場合ばかりでなく、真正な文書のコピーとして呈示する等する場合も偽造文書の行使といえるか（そのような目的で作った場合文書偽造といえるか）が問題となる。判例と、有力な反対説とを検討する。	
	この回の到達目標	コピーが広く普及したことにより生じた現実と、判例の拡張的な解釈に対する学説の批判的態度を正確に理解し、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分
10	代理代表名義の冒用と文書偽造		狭義の文書偽造とは作成名義の偽りを意味するが、作成名義人の氏名自体の偽りではなく、代理権、代表権の付与なしに代理、代表名義を使用した文書を作る行為を文書偽造罪に問うことができるかを検討する。	
	この回の到達目標	名義人に無断で作成名義を用いた文書を作る行為がなぜ処罰される必要があるかをふまえ、肩書きの冒用ある文書の作成、代理名義・代表名義の冒用ある文書の作成行為が文書偽造に該当するか否か、自己の見解を説得的に述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
11	同姓同名の使用と文書偽造		自分と同姓同名の弁護士Aのいることを知った行為者が、この弁護士に成りすまして「弁護士A」との作成名義を表示した請求書を作成・行使した場合、有形偽造といえるかを検討する。	
	この回の到達目標	有形偽造説と無形偽造説とに分かれる学説の対立を整理し、「人格の同一性」に齟齬を生じさせたか否かを基準とする判例をふまえて自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
12	作成名義人の承諾と文書偽造罪の成否		作成名義人の承諾ある場合であっても、文書によっては、その性質上偽造罪にあたる場合があるが、それはどのような場合で、いかなる原理によるのかを検討する。	
	この回の到達目標	作成名義人の承諾があっても、文書の性質上名義人以外の者による作成行為が許されない場合があるか、あるとすればどのような場合かを、判例の立場をふまえて説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		100分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	職務行為の適法性と公務執行妨害罪		公務の適正円滑な遂行を保護する公務執行妨害罪は、公務員による違法な行為はもとより職務の外形があっても適法性を欠く場合、成立する余地はないであろう。そこで、どのような意味・程度に職務行為が適法でなければならないかが問題となる。こうした点を検討する。	
	この回の到達目標	公務執行妨害罪における職務行為の適法性をめぐる判例の態度と、学説状況を整理し、説得的に自己の見解を組み立て、説明できる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分
14	犯人蔵匿罪における「罪を犯した者」の意義		犯人蔵匿罪における「罪を犯した者」については、真犯人を意味すると解する説、犯罪の嫌疑をかけられ捜査・訴追の対象とされている者を指すとする説、また、真犯人、および合理的判断から真犯人と強く疑われる理由のある者を指すとする説があるが、こうした点を検討する。	
	この回の到達目標	本罪の保護法益の観点をふまえ、各説を整理・分析した上で、整合性と具体的妥当性のある見解に立った議論を展開することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。		140分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		100分
15	わいろ罪における「職務に関し」の意義		賄賂罪の保護法益から、その本質的要素として導かれる職務との関連性が、どのような意味で、どの程度要求されるかを検討する。	
	この回の到達目標	判例が、「準職務行為」、「職務密接関連行為」などの概念を用い、広範で包括的な権限を有し高い地位にある公務員による收受行為を処罰範囲に取込む解釈を採用していることについて、適切な検討を加え、説明することができる。		
	事前学修	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は書き出しておくこと。		120分
	事後学修	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。		120分

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法総論及び各論の履修又は独習が終了していること。

【授業方法】
シラバスに書いてある論点に関する教科書を読んでもくる等、毎回十分予習させ、課題に現れた個々の論点等につき、双方向的授業を通じ、その理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例や事例問題について、学生との質疑や議論を通じ、解決方法を学修する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。				3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。				3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。				3			3				3
④	学説を参照する場合に、学説の理解を概ね誤りなく説明できる。				3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。				3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。				3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。				3			3				3
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の模範解答等を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法 第3版	山口厚	有斐閣	2015	教科書	必携
刑法総論 第3版	山口厚	有斐閣	2017	参考書	推奨
判例刑法総論 第7版	西田典之ほか	有斐閣	2018	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 昼休み 研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	単独犯の事件処理		共犯論に入る前に、単独犯の事件処理の刑法的側面を確認する。	
	この回の到達目標	単独犯の事件処理ができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、単独犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
2	共犯の処罰根拠論		共犯の処罰根拠論としての因果的共犯論の内容を理解し、それを前提に、関連する判例を読んで、共犯の因果関係の処理をできるようになる。	
	この回の到達目標	共犯の処罰根拠論（通説たる因果的共犯論）に基づく事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
3	共犯の処罰根拠論		共犯の処罰根拠論としての因果的共犯論の内容を理解し、それを前提に、関連する判例を読んで、共犯の因果関係の処理をできるようになる。	
	この回の到達目標	共犯の処罰根拠論（通説たる因果的共犯論）に基づく事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
4	共同正犯論		共謀概念の理論的な位置づけも踏まえつつ、共謀共同正犯の成立の限界を、関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	判例法として発展してきた共謀共同性犯論に基づく事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共謀共同正犯の成立範囲について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
5	共同正犯と幫助		共謀概念の理論的な位置づけも踏まえつつ、共同正犯と幫助犯の判断の分かれ目について、関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	共同正犯における正犯性についての事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共同正犯と幫助の境界について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分
6	共犯論における関与者の変動		承継的共犯及び共犯関係の解消について、関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	承継的共犯及び共犯関係の解消に関する事案への当てはめができるようになること。		
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、承継的共犯及び共犯関係の解消（中止犯との差異も意識する）について自分なりの解決法を見つけておく。		180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不作為犯と共犯，共犯と錯誤	不作為犯や錯誤といった単独犯でも問題となる論点について，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	不作為犯と共犯及び共犯と錯誤に関する事案への当てはめができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，不作為犯と共犯，共犯と錯誤について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
8	過失犯の共犯	複数人関与の場合の過失犯について，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	単独犯としての監督・管理過失及び過失の共同正犯との関係を理解する。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，過失犯と共犯（監督・管理過失を含む）について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
9	正当防衛と共犯	一部の者に違法性阻却事由が付着している場合についての事件処理について（一部の者に積極的 が害意がある場合や，新たな共謀の要否論等），関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	正当防衛と共犯に関する事案への当てはめができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，正当防衛と共犯について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
10	共犯と身分	共犯と身分についての条文適用を含む事件処理の方法について，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて共犯と身分に関する事案における条文適用ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，共犯と身分について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
11	間接正犯と共犯	単独犯の法理が適用される間接正犯と，共犯の差を理解しつつ，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて間接正犯と共犯に関する事案の判断ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，間接正犯と共犯のどちらが成立するか悩ましい事案における判断順序を含む判断方法について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分
12	刑法各論と共犯	事後強盗罪等を取り上げながら，刑法各論における共犯論の議論を理解しつつ，関連する判例を読んで理解する。	
	この回の到達目標	自身のたつ見解に基づいて事後強盗罪等と共犯の文脈における事案の処理ができるようになる。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し，事後強盗罪等にかかる共犯の論点について，自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや，議論された判例の射程について批判的に検討し，自分の理解を確立する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	共犯の事件処理（1）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
	この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
14	共犯の事件処理（2）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
	この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分
15	共犯の事件処理（3）	共犯に関する総合問題を解きつつ、刑法総論全体の理解を深める。	
	この回の到達目標	共犯の事件処理ができるようになること。	
	事前学修	関連判例及び学説を教科書や体系書を用いながら学習し、共犯の事件処理について自分なりの解決法を見つけておく。	180分
	事後学修	重要だとされた判例の言い回しや、議論された判例の射程について批判的に検討し、自分の理解を確立する。	60分

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	三隅 諒	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑法総論及び各論の基本的知識があることを前提に、法的論述の基礎を身に付ける。授業では双方向的演習方式を導入し、受講生相互間で切磋琢磨させ、能力の向上を図る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法曹実務家に不可欠な基礎的思考方法、それに必要な実務の基礎知識の習得、刑法理論のより深い体系的な理解の下、理にかなった結論を導き出せる柔軟で合理的な法的考え方、口頭又は書面による簡明な表現力の涵養と向上を目的とする。

【履修条件】
刑法Ⅰ及び刑法Ⅱを履修中又は履修済であることが望ましい。

【授業方法】		
講義の動画をオンデマンド配信するので、それを視聴してもらう。 予習用に簡単なレジュメを出す予定なので、視聴する前に各自で考えてみてほしい（提出する必要はない）。また、復習用に課題を出すことがあり、こちらは何回か提出してもらう予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	事案をみて、何罪の成否の検討をすればよいかを識別できる。					3			3				3
②	構成要件・違法・責任の順番で適切に関連事実を分析できる。					3			3				3
③	判例の見解を、明確な点と明確になっていない点の存否等を意識しながら説明できる。					3			3				3
④	学説を参照する場合に、学説の理解を概ね誤りなく説明できる。					3			3				3
⑤	事実を規範に容易に反論できない形で当てはめることができる。					3			3				3
⑥	自身の出した結論に対し、自身で批判的に検討できる。					3			3				3
⑦	他者の見解について、適切な批評をすることができる。					3			3				3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	法的思考能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	20	10	10				100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか、又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法事例演習教材	井田良ほか	有斐閣	2020	その他	推奨
財産犯バトルロイヤル	高橋則夫ほか	日本評論社	2017	その他	推奨
刑事事実認定重要判決 上（第3版）	植村立郎	立花書房	2020	その他	任意
刑事事実認定重要判決 下（第3版）	植村立郎	立花書房	2020	その他	任意
刑法総論の悩みどころ	橋爪隆	有斐閣	2020	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか、又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	窃盗における占有の意義		窃盗における占有の意義が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、窃盗における占有の意義が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
2	不法領得の意思		不法領得の意思の有無が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、不法領得の意思の有無が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
3	窃盗と詐欺の区別		いわゆる交付行為の有無が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、いわゆる交付行為の有無が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
4	強盗と窃盗・詐欺・恐喝の区別		反抗抑圧の有無が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、反抗抑圧の有無が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
5	詐欺と横領の区別		欺罔と権限の関係が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、欺罔と権限の関係が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
6	背任と詐欺・横領の区別		背任と詐欺・横領の区別が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、背任と詐欺・横領の区別が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	不可罰的事後行為と共罰的事後行為		複数の犯罪が（一見）成立し、それらの関係が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、成立する（しそうな）犯罪相互の関係が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
8	事後強盗と二項強盗		事後強盗と二項強盗の成否が問題となる事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、事後強盗と二項強盗の成否が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
9	各種文書の不正取得		預金通帳や搭乗券の不正取得の事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、預金通帳や搭乗券の不正取得についての事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
10	クレジットカードの不正使用		クレジットカードの不正使用の事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、クレジットカードの不正使用についての事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
11	振り込み詐欺		いわゆる振り込み詐欺の事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、振り込み詐欺（と未遂）についての事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
12	建造物・放火の意義		複合建造物の現住建造物等放火の事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、複合建造物の現住建造物等放火についての事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公共の危険の意義	現住建造物等放火以外の放火の事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、公共の危険の意義が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
14	偽造の意義	文書偽造の事例を検討すると共に、関連する最高裁判例を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、偽造の成否が問題となる事例問題に直面した際、考える際に注目すべき事実を的確に抽出して評価することができたかを、関連判例・学説を踏まえて確認し、その適否を理解することができる。	
	事前学修	予習レジュメの問題を考えてみる。理解に不安な箇所がある場合は、手持ちの教科書で確認する。	120分
	事後学修	講義中に言及した判例を再度丁寧に読み、予習レジュメの問題を再度考える。	120分
15	授業内試験・講評	授業内試験を行う。やや時間をおいて講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、長文の事例問題について、関連する裁判例を踏まえつつ、適切に事例を抽出・評価して結論を導くことができる。	
	事前学修	これまでの講義で取り扱った最高裁判例を読み返すと共に、実際に論述した事例問題を解き直してみる。	120分
	事後学修	講評を踏まえて、試験問題を再度解き直してみる。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅢA	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論（捜査手続を中心に）を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、現在の刑事司法の抱える問題点はどこにあるかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事訴訟法の目的や刑事訴訟の担い手が果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、捜査手続を中心に公訴提起に至るまでの流れを理解し、捜査手続における問題点の解決方法を理解する。

【履修条件】
刑事訴訟法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
事例問題を中心に討論形式で実施するが、適宜講義形式で説明することもある。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出欠確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題に対する考え方を適宜発表してもらい、それについて討論する形式で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。				3			3				3
②	捜査機関の行為の適法性の判断基準を説明することができ、それを具体的事例に即して適用して、解決することができる。				3			3				3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）第2版」	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選(第10版)	井上正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
刑事法入門	太田茂・上野幸彦	成文堂	2018	参考書	推奨
ポケット六法 令和3年版		有斐閣	2020	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 14：30に授業講堂で質問を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として，自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑事訴訟法を知る	講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献等の説明、刑事訴訟法を学習する際の注意点	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑事訴訟法を学習する際の注意点について学び、刑事訴訟法がどのような法律であることを説明することができる。	
	事前学修	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。	120分
2	捜査の端緒①	職務質問、所持品検査、自動車検問等	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職務質問や所持品検査等各捜査の法的根拠と法的性格、実力行使(強制力の行使)の許否について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	捜査の端緒②	告訴、告発	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、告訴・告発の手続や要件等を説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
4	任意捜査の原則	任意捜査の原則、強制処分法定主義（任意捜査の限界）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、任意捜査を規制する原理(適法性の判断枠組み)と警察(捜査)比例の原則について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	新しい強制処分	写真撮影	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、写真撮影の適法性や関係判例について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	逮捕・勾留①	通常逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、逮捕の理由及び必要性について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	逮捕・勾留②	緊急逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、緊急逮捕の合憲性や要件について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
8	逮捕・勾留③	現行犯逮捕	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現行犯逮捕、準現行犯逮捕の要件や関係判例を理解し、説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
9	逮捕・勾留に関する諸問題	別件逮捕、逮捕前置主義、一罪一逮捕一勾留の原則	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、別件逮捕の適法性や関係判例、一罪一逮捕一勾留の原則について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	搜索・差押え①	令状に基づく搜索・差押え	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法35条の法意を理解し、搜索と差押えの実体的要件(理由と必要性)について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	搜索・差押え②	強制採尿	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、強制採尿の適法性と要件、採尿場所への連行の適法性について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	搜索・差押え③	逮捕に伴う搜索・差押え	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、逮捕に伴う無令状搜索・差押えの範囲や要件を説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	接見交通権①		接見指定の合憲性，要件，余罪と接見指定
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，接見指定の合憲性，接見指定の手続や要件等についても説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	接見交通権②		初回接見，面会接見
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，初回接見の重要性や接見指定との関係等について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	公訴提起		起訴独占主義と起訴便宜主義，検察審査会制度
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，公訴提起に関する基本原則を知り，その例外について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅢB	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、現在の刑事司法の抱える問題点はどこにあるかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑事訴訟法の目的や刑事訴訟の担い手が果たす役割について理解するとともに、捜査手続から、公訴提起、公判手続を経て判決(裁判)に至るまでの流れを理解し、各手続における問題点の解決方法を理解する。

【履修条件】
刑事訴訟法Ⅰ, 刑事訴訟法Ⅱを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
事例問題を中心に討論形式で実施するが、適宜講義形式で説明することもある。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出欠確認する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題に対する考え方を適宜発表してもらい、それについて討論する形式で行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から公訴の提起に至るまでの手続を理解し、捜査の適法性の基準を説明することができる。					3			3				3
②	捜査機関の行為の適法性の判断基準を説明することができ、それを具体的事例に即して適用して、解決することができる。					3			3				3
③	公訴提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 公訴提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。 公訴提起から裁判の執行に至るまでの手続を理解し、公判手続における諸原則を説明することができる。					3			3				3
④	公判手続や証拠法の法的規制の具体的内容を理解し、問題点を説明することができる。					3			3				3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）第2版」	関正晴編	弘文堂	2019	教科書	必携
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上正仁編	有斐閣	2017	参考書	推奨
刑事法入門	太田茂・上野幸彦	成文堂	2018	参考書	推奨
ポケット六法 令和3年版		有斐閣	2020	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日 14：30に授業講堂で質問を受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として、自ら経験した具体的事件等を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	公訴提起以降の手続の流れを知る	公訴提起後の公判手続の概要	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公訴提起後の手続の流れを確認し、公訴提起と公判手続の概要を説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。	120分
2	訴因①	訴因の特定	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴因制度を理解し、公訴事実の違い、訴因の特定について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
3	訴因②	訴因変更の要否	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴因変更の要否の基準について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
4	訴因③	訴因変更の可否	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴因変更の可否の基準について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
5	訴因④	訴因変更命令	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴因変更命令制度、訴因変更命令の効力や義務性について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
6	証拠法	証拠の意義と種類、証拠能力と証明力、厳格な証明と自由な証明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、証拠裁判主義について、証拠能力と証明力を区別して説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	伝聞法則①	実況見分調書(被害再現見分調書)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、伝聞法則と伝聞例外としての実況見分調書の証拠能力について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
8	伝聞法則②	再伝聞	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再伝聞証拠の証拠能力について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
9	自白法則①	偽計による自白	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自白法則の論拠や判例理論について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
10	自白法則②	違法な取調べと自白の証拠能力	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自白と違法収集証拠排除法則との関係等について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
11	自白の補強法則	補強証拠の範囲、補強証拠能力	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、補強証拠となり得る範囲、補強証拠となる証拠等について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
12	違法収集証拠排除法則①	違法収集証拠排除法則の要件	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、違法収集証拠排除法則の要件と判例理論を説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	違法収集証拠排除法則②	毒樹の果実の理論	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、毒樹の果実の理論について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
14	択一的認定	共犯関係と択一的認定	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有罪判決の理由、択一的認定、共犯関係と択一的認定について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分
15	裁判	一事不再理効	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、既判力や一事不再理効について説明できる。	
	事前学修	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣA	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
警察官、検察事務官、家庭裁判所調査官、法務教官、保護観察官などを目指す者を対象として、刑事司法手続過程における実務の現状を概観し、各段階における今日的課題を分析・検討し、犯罪の背景にある様々な社会的因子を踏まえた、総合的な犯罪に対する事前・事後予防のあり方を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門基幹科目（Ⅴ群）で学修した憲法、刑法、刑事訴訟法や専門展開科目（Ⅵ群）で学修した刑事政策等の基礎的な理解を発展させるために、憲法、刑法、刑事訴訟法、犯罪者処遇に関する関係法等の関連性を理解し、犯罪者と被害者人権保障を踏まえた刑事司法手続のあり方と運用について考察する能力を修得する。

【履修条件】
憲法，刑法，刑事訴訟法，刑事政策を履修していることが望ましい。

【授業方法】
毎回動画とPDFファイルを配信し、オンデマンドで授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	施設見学（コロナの状況次第で）を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑事司法手続過程における実務のあり方や運用について理解し、説明ができる				3			3				3
②	実務家に必須の聴く力と観察力を身に付ける							3				3
③	調書等の書面作成能力を養う				3			3				3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達①②③に関する基礎知識が身についているかを、毎回課題を出して評価する。	20	20	20								60
レポート等	到達目標①②③に関連し、課題に対する簡潔、明確に論点を踏まえた自説が展開されているかを評価する。	10	10	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたt課題とレポートに対して、毎回コメントをして、評価する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、憲法、刑法、刑事訴訟法、少年法などの基本書があれば、それを使用して下さい。				

【オフィスアワー】
oda.kiyotaka@nih0n-u.ac.jp で実施する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本個々と連盟顧問、警視庁留置視察委員会委員、さいたま市精神保険審査会委員、東京家庭裁判し少年友の会会員等
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務家の招聘と施設見学（コロナの状況による）	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑事司法手続を概観する	犯罪発生から刑事司法手続の終了までの実務の現状について概括的に解説し、この演習で何を学び、どう活かすのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②関連し、刑事司法手続の概要について説明できる。	
	事前学修	犯罪の発生から刑事司法手続の終了までの手続の概要について調べてみる	120分
	事後学修	受講する際に必要な基本的知識の過不足について理解し、シラバスで検討する課題に必要な関係領域の学習計画立てる	120分
2	犯罪抑止と警察活動	犯罪防止に関する事前抑止の現状を知るとともに、住民、自治体、警察の相互補完の関係を効果的あらしめるための考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	住民自ら担う犯罪抑止について、都道府県等で実際に行われている対策について、各自の地域の状況を調べておく	120分
	事後学修	住民、自治体、そして警察が三位一体で効率的な犯罪抑止を行えた目の役割分担についてまとめる	120分
3	特殊詐欺の抑止	特殊詐欺の現状とその対策について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、課題を明らかにし、改善策が提案できる。	
	事前学修	警察、自治体が行っている対策について調べる	120分
	事後学修	効果的な対応方法について、自らの考えをレポートにまとめる	120分
4	犯罪捜査と適正手続の保障	警察による捜査活動上の課題と法的な問題を理解し、その解決に向けた取組状況について、比較法的な視点も踏まえ解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、違法排除の限界について説明ができる。	
	事前学修	適正手続の保障に関し、憲法・刑事訴訟法の基本書で論点について事前苦くしておく	120分
	事後学修	違法収集証拠として証拠が排除される範囲と警察活動の限界についてまとめる	120分
5	犯罪被害者の保護	犯罪被害者基本法に基づく、刑事司法手続の各段階における具体的取組状況について、警察実務家の参加を得て、解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、課題を明らかにし、改善策が提案できる。	
	事前学修	犯罪被害者にとって保護が必要な項目を洗い出し、加害者家族も被害者か、について考えておく	120分
	事後学修	犯罪被害者の保護に関する刑事司法制度下の諸制度とその他の制度についてまとめる	120分
6	精神疾患と措置入院	精神障害者による犯罪に対する刑事司法と精神保健福祉法の対応の現状と課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	精神疾患を有する者によって、犯罪が行われた場合に、警察や検察はどの様に対応しているのか調べておく。	120分
	事後学修	措置入院や医療観察制度についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	微罪処分	微罪処分の法的根拠と法的性格を理解した上で、被害者（遺族を含む）も納得できる運用がなされている否か学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	微罪処分とはどのようなものか調べてみる	120分
	事後学修	微罪処分の果たすべき役割についてまとめる	120分
8	起訴猶予処分の新たな展開	起訴猶予処分を受けた者に対する再犯防止措置の必要性が指摘されて忌め現状に鑑み、検察が取りうる対応について、その現状と対策について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	起訴猶予処分の現状について、犯罪白書や刑訴法の基本書で調べる	120分
	事後学修	起訴猶予処分を受けた者に対する再犯防止策について整理し、レポートにまとめる	120分
9	検察審査会の機能	検察審査会法が改正され、機能強化が図られているが、現状と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	検察審査会について、基本書や犯罪白書、裁判所のHPで調べる	120分
	事後学修	指定弁護士による強制起訴が効果的に運用されるための制度設計についてまとめる	120分
10	通常裁判と裁判新裁判	両者の差異と裁判員裁判固有の問題点を指摘し、現状と課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	両者の差異はどこにあるのか、裁判新裁判が導入された背景に何があったのか裁判所のHP等で調べる	120分
	事後学修	裁判長の訴因変更命令と裁判員裁判における検察控訴の可否についてまとめる	120分
11	公正かつ公平な裁判	憲法、裁判所法、刑事訴訟法がどのような保障措置を講じているかについて、現状と課題について解説する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	裁判を受ける権利に関し、公正かつ公正な裁判とはどのような裁判か、そのための制度設計はどうなっているか調べておく	120分
	事後学修	外国人への対応について、刑事司法手続を俯瞰する公正かつ公平な裁判制度とはどのようなものかまとめる	120分
12	執行猶予と刑の一部執行猶予	執行猶予と刑の一部執行猶予が再犯防止にどのような役割を果たしているかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	執行猶予の現状と果たすべき役割について調べておく	120分
	事後学修	再犯性の高い犯罪者に対する執行猶予や刑の一部執行猶予制度の果たすべき焼き割と限界についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	受刑者の権利と特別改善教育	相対的応報刑の視点に立ち、受刑者の権利としての処遇参加と再犯防止に向けた効果的な処遇のあり方として導入された特別改善教育について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	受刑者の人権と処遇の強制について調べておく。	120分
	事後学修	受刑者自らが処遇計画の策定に参加できるのか、刑罰の目的との関係で整理する	120分
14	保護観察制度の改革	効果的な再犯防止を図るためには、保護観察の立ち位置や運用上の課題が有り、現行制度の課題と対策について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	保護観察（制度）について、その種類と概要について調べておく。犯罪白書や法務省のHPを見てみよう	120分
	事後学修	保護司の専門性と権限、そして、特別遵守事項の効果的な運用についてまとめる	120分
15	修復的司法と治療的司法の導入	21世紀は、被害者の世紀とも言われ、既存の刑事司法手続に代わって被害者の当事者性を取り入れた修復的司法や、犯罪類型によっては、刑事罰を前提としない治療的司法が薬物・性犯罪について導入されているのが欧米の現状で有り、この点について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	それぞれの内容について、HP上で調べてみよう。	120分
	事後学修	これらの制度を日本に導入することの是非について、レポートにまとめる	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣA	担当者	毛利 晴光	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事訴訟法が扱う捜査，公判（一審）全般の刑事手続を授業の対象とする。 刑事訴訟法の基本原則や刑事手続の流れ・仕組みについて，実務とのつながりを意識しつつ，幅広く学修する，

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法科大学院への進学や予備試験合格に必要な基礎的学力の修得を目指し，刑事訴訟法の基本原則や刑事手続の流れ・仕組みについて体系的に理解した上，刑事手続のそれぞれの段階で生じる諸問題に対し，実務においてどのような運用（解決の仕方）がされているのか，学説・判例ではどのような考え方が示されているのかを学修する。

【履修条件】
法科大学院への進学や予備試験合格を目指し積極的な履修に取り組む意欲のある者を歓迎する。ただし，履修の条件は特に設けない。

【授業方法】		
毎回、レジュメと参考資料を配付して、それに基づき講義をする。教科書は、事前学習の際に使用する（具体的な学習箇所は、第1回に指定する。）。教科書に掲載されている書式については、授業の際に随時活用する。参考書は、授業や教科書の理解を深めるのに役立つものであるが、利用を義務付けるものではない。3回の小テストのほか、適宜、授業内及び授業外課題を設定する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑事手続法の基礎知識を修得する。					3			2				
②	刑事手続の仕組みについて、実務とのつながりを意識しつつ、幅広くかつ柔軟な見方・理解ができる。					3			2				
③	刑事手続法の基礎知識を基に、刑事手続の仕組みについて、自分の言葉で説明することができる。					2			3				2
④	刑事手続法の基礎知識を基に、刑事手続の諸問題について、自分で考え、意見を述べるができる。					2			3				3
⑤	刑事手続の諸問題に関する考え方を、与えられた事例に対し、適切に当てはめすることができる。					2			3				3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)	
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)														
小テスト等	3回の授業内での小テストにより，それぞれの段階での到達目標に関わる基本的な知識を身に着けているかを確認する。		15	15	15	15	15						75	
レポート等														
討論・発表等														
授業への参画度	教員との質疑応答や課題の取組みなどを通じて，授業への関心の度合いを測るとともに，予習や復習の効果がどの程度上がっているかをチェックし，総合的な評価をする。		5	5	5	5	5						25	
その他()														
その他()														
その他()														
			到達目標別の比率(%)	20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストは、後日、答案を採点し、正解例を付して返却する。そのほかの課題については、授業内で適宜解説等をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 刑事手続法 [第8版]	三井誠・酒巻匡	有斐閣	2020年	教科書	必携
刑事訴訟法講義案 [4訂補訂版]	裁判所職員総合研修所	司法協会	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 16:30～17:30（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（1356号室） メールアドレス： mouri.harumitsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	裁判官として、東京、横浜、大阪地裁等で一審の、また東京、大阪高裁で二審の刑事裁判を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		刑事裁判実務に携わった経験を活かして、実際の刑事手続（実務）の一端を紹介するとともに、実務で採用されている考え方や仕組みなどを学修できるように教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 刑事手続の流れと主体		はじめに、本授業のねらいや学び方、授業のスケジュールなどを説明する。その際、刑事訴訟法の条文や判例の重要性についても触れる。次いで、刑事手続の流れを概観するとともに、刑事手続の主体についても解説し、刑事手続がどのような仕組みになっているかを大まかに学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、刑事手続の流れや仕組みについて、概略、理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、刑事訴訟法及び刑事訴訟規則にざっと目を通し、かつ、教科書の「はじめに」及び目次並びに「刑事手続の流れ」の図表を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分
2	捜査その1 任意捜査と強制捜査		はじめに、捜査に対する法的規律として、強制処分法定主義と令状主義の説明をし、次いで、任意捜査と強制捜査の区別、判断枠組等について解説をし、捜査の適法性を検討するのにどのような考え方をとるのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、捜査に対する法的規律について、概略、理解し、説明することができるとともに、具体的な事例において、捜査の適法性の検討が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分
3	捜査その2 逮捕、勾留、取調べ		殺人事件の捜査を題材にして、捜査（身柄関係）の実際がどのような流れで進むのかを概観した上、逮捕及び勾留の要件等を説明し、逮捕・勾留をめぐる問題（逮捕前置主義など）や被疑者の取調べをめぐる問題について、実務の考え方を交えながら、解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、身柄関係の捜査がどのようなものであるか、概略、理解し、説明することができるとともに、具体的な事例において、逮捕・勾留や取調べに関する問題の検討が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分
4	捜査その3 搜索・差押えなど		覚せい剤事件の捜査を題材にして、捜査（証拠収集）の実際がどのような流れで進むのかを概観した上、捜査の端緒や任意捜査をめぐる問題、搜索・差押えをめぐる問題、強制採尿等をめぐる問題について、実務の考え方を交えながら、解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、証拠収集関係の捜査がどのようなものであるか、概略、理解し、説明することができるとともに、具体的な事例において、搜索・差押えや強制採尿等に関する問題の検討が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分
5	捜査その4 被疑者の権利、捜査段階の弁護		被疑者の権利として、黙秘権と弁護権（弁護人の援助を受ける権利）を説明し、特に弁護権として、弁護人選任権及び接見交通権の内容とこれらをめぐる問題について解説する。また、捜査段階の弁護として、どのような活動があるのか、実務の実際を交えながら、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、被疑者の権利、捜査段階の弁護がどのようなものであるか、概略、理解し、説明することができるとともに、具体的な事例において、接見交通に関する問題の検討が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分
6	小テスト第1回 公訴提起、公判準備		はじめに、捜査に関する問題を小テストする。次いで、公訴提起について、起訴状一本主義等の基本原則に触れた上、訴因の機能や特定について解説し、さらに、公訴提起後第1回公判期日までの流れについて概観する。被告人の勾留、保釈についても、併せて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、公訴提起、公判準備がどのようなものであるか、概略、理解し、説明することができるとともに、具体的な事例において、訴因や被告人の保釈に関する問題の検討が一応できるようになる。なお、小テストでは、捜査に関する基本的事項の修得について再確認をする。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公判準備，公判期日の手続		はじめに，公判準備（公判前整理手続を除く）として，その内容とこれに関連する証拠開示の問題を解説する。次いで，公判期日の手続として，典型的な裁判における手続の流れを概観した上，証人尋問と訴訟指揮権について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，公判準備，公判期日の手続がどのようなものであるか，概略，理解し，説明することができるとともに，具体的な事例において，証拠開示や証人尋問等に関する問題の検討が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
8	訴因の変更，弁論の併合 証拠法その1 総論		はじめに，刑事裁判の変形といえる訴因の変更と弁論の併合（客観的併合）について，解説する。次いで，証拠法の総論として，証拠に関する基本原則のほか，証拠能力と証明力，挙証責任等，基本的な事項について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，訴因の変更や弁論の併合がどのようなものであるか，概略，理解し，説明することができるとともに，これらに関する問題の検討が一応できるようになる。併せて，証拠に関する基本的な事項について，正しく理解し，説明できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
9	証拠法その2 伝聞証拠		証拠能力の制限の一つとして，伝聞証拠を取り上げる。具体的には，伝聞法則の意義・根拠，伝聞例外，非伝聞について，実務の実際を踏まえつつ，具体例を示して解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，伝聞証拠とはどのようなものであるか，なぜ問題になるのか，伝聞例外になるのはどのようなものかなどについて，理解し，説明することができるとともに，具体的な事例において，伝聞証拠に関する問題の検討が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
10	証拠法その3 自白，違法収集証拠排除		証拠能力の制限の一つとして，自白法則と違法収集証拠排除法則を取り上げる。具体的には，自白法則については，その意義・根拠，具体例，これに関連する問題を，違法収集証拠排除法則についても，その意義・根拠，具体例，これに関連する問題を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，任意性のない自白や違法収集証拠とはどのようなものであるか，なぜ問題になるのかについて，理解し，説明することができるとともに，具体的な事例において，自白法則と違法収集証拠排除法則に関する問題の検討が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
11	小テスト第2回 裁判員裁判その1 選任手続，公判手続，評議		はじめに，第6回以降の授業で取り上げた公判・証拠等に関する基本的事項について小テストをする。次いで，裁判員裁判を取り上げ，裁判員の選任手続，公判手続，評議などについて，実務の実際を踏まえつつ，具体例を示して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，裁判員の選任手続の流れを知るとともに，裁判員裁判が通常の裁判とどこが違うのか，どのような工夫がなされているのかについて，概略，理解し，説明することができる。なお，小テストでは，公判・証拠法に関する基本的事項の修得について再確認をする。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
12	裁判員裁判その2 公判前整理手続		前回に次いで裁判員裁判を取り上げ，裁判員裁判対象事件において必要である公判前整理手続について，その意義，手続の流れなどを，実務の実際を踏まえつつ，説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，公判前整理手続とはどのようなものであるか，公判準備との違いはどこか，なぜ裁判員裁判では公判前整理手続が必要なのかについて，概略，理解し，説明することができる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	要通訳事件，被害者保護		刑事手続においてしばしば問題になる要通訳事件と犯罪被害者保護を取り上げる。まず，要通訳事件では，通訳人の選任，通訳をめぐる問題などを説明し，次いで，犯罪被害者保護では，被害者特定事項の秘匿，被害者参加など，被害者保護に関する諸制度について，実務の実情も交えつつ，説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，要通訳事件がどのように処理されているのか，犯罪被害者保護のための制度にはどのようなものがあるのか，どのような経緯から制度化されるようになったのかについて，概略，理解し，説明することができる。	
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
14	情状立証，量刑		はじめに，公判弁護の一つである情状立証について，その内容等を説明する。次いで，事実認定とともに刑事裁判で必ず問題となる量刑について，その仕組み，考え方などを，実務の実情を踏まえつつ，説明し，さらに，量刑をめぐる問題についても解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，情状立証とはどのようなものか，量刑とは，どのような考えにより，どのような手順で判断されるのかについて，概略，理解し，説明することができる。	
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分
15	判決，準抗告・抗告など 小テスト第3回		はじめに，判決について，その内容，確定の効力について説明する。次いで，準抗告・抗告について。説明する。最後に，第11回以降の授業で取り上げた事項について小テストをする。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，判決，準抗告・抗告などについて，どのようなものであるか，概略，理解し，説明することができる。なお，小テストでは，裁判員裁判，量刑などに関する基本的事項の修得について再確認をする。	
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣB	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事法演習ⅣAで行った授業の枠組みは維持しながら、その対象を一般犯罪から少年による非行に限定し、少年司法手続過程を巡る今日的課題を抽出し、健全育成と事件処理（再送防止）の二面性を踏まえて、法理論の限界を実務がどの様に克服しているかについて学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
非行少年の大半は、被害少年の側面を有していることから、成人と同じ目線で対応することは難しい。そこで、少年司法手続の特殊性を先ず理解し、少年と関わる関係者に求められている“良い聴き方”を身に付けるために、非行原因論の主要な理論を理解し、説明できる能力を修得する。

【履修条件】
憲法、刑法、刑事訴訟法、少年法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
毎回動画とPDFファイルを配信し、オンデマンドで授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	施設見学（コロナの状況による）を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	少年司法手続過程における刑事手続との違いについて理解し、節委できる				3			3				3
②	実務家に必須の聴く力と観察力を身に付ける							3				3
③	保護処分の現状を踏まえ改善すべき点を指摘できる				3			3				3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関する基礎知識が身についているかを、 毎回課題を出して評価する。	20	20	20								60
レポート等	到達目標①②③に関連し、課題に対する簡潔、明確に論点 を踏まえた自説が展開されているかを評価する。	10	10	20								40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題とレポートに対して、毎回コメントをして評価する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
			無し		
備考	特に指定しないが、憲法、刑法、刑事訴訟法、少年法等の基本書が有れば、それを使用して下さい。				

【オフィスアワー】
oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jpにより実施する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本BBS連盟顧問、警視庁留置施設視察委員会委員、さいたま市精神医療審査 会委員、東京家裁ボランティア等 少年司法関係者の講義参加と施設見学を実施する（コロナの状況による）。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	少年司法手続を概観する	非行（犯罪）の発生から少年手続の終了までを概観し、各段階でどのような課題が有るか説明し、今後の授業に向けた取組方針を各自が立てる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、少年手続の概要を理解し、説明できる。	
	事前学修	少年法、刑事訴訟法、裁判所法、更生保護法等を基に、概略を調べよう	120分
	事後学修	受講する際に必要な基本的知識の過不足について理解し、シラバスで検討する課題に必要な関係領域の学習計画立てる	120分
2	非行防止と警察活動	非行抑止と再非行防止に果たすべき少年警察の役割と家庭・学校・地域の連携の現状と課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	健全育成と事件処理の現状について、警察庁のHPで調べておく	120分
	事後学修	家庭・学校・地域社会と警察活動の効果的な連携についてまとめる	120分
3	事件処理と適正手続の保障	少年警察・検察段階における適正手続の保障について、1965年のゴールト判決を受け、日本でも手続二分論に立脚し、適正手続の保障が図られているが、その現状を踏まえ、課題を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、課題を明らかにし、改善策が提案できる。	
	事前学修	犯罪少年の取扱いにおける適正手続の保障がどの様に行われているかについて調べる	120分
	事後学修	少年警察活動規則の運用と少年係警察官の機能につてまとめる	120分
4	犯罪被害者保護	警察による捜査活動上の課題と法的な問題を理解し、その解決に向けた取組状況について、比較法的な視点も踏まえ解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、違法排除の限界について説明ができる。	
	事前学修	加害者が少年であった場合の被害者の保護は、成人犯罪者の場合と異なるのかしら経ておく	120分
	事後学修	警察、検察、家庭裁判所、矯正・保護の各段階での被害者対応について整理しまとめる	120分
5	微罪処分と簡易送致、署限りの措置	全件送致主義の原則がある中で、警察での取扱いにはどのような処理が行われているかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、警察での取扱い率いて理解し、説明ができる。	
	事前学修	少年にも微罪処分が可能か、少年法の基本書等で調べておく	120分
	事後学修	微罪処分と簡易送致の関係と少年係警察官の専門性についてまとめる	120分
6	少年係検察官の役割と機能	訴追裁量権が認められていない検察官が、少年手続で果たすべき役割について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	少年係検察官の役割について調べておく	120分
	事後学修	違法収集証拠への対応と処遇意見の添付についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	検察関与と裁定合議制	検察関与と裁定合議制が採用された場合の検察官の権能とその限界に関して検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	それぞれの制度内容と何故導入されたのかについて、少年法の基本書等で調べておく	60分
	事後学修	手続二分論を踏まえた検察官の権能と審判を主催する裁判官に必要とされる資質や経験についてまとめる	60分
8	被害者の訴訟参加	刑事訴訟法の一部改正で認められた被害者の訴訟参加等の制度が、少年審判ではどの様に運用されているのか、その下乗と課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	審判への被害者の訴訟参加の現状について、裁判所のHPで調べておく	120分
	事後学修	訴訟参加が認められる場合と認められない場合の裁判所の対応、刑事和解制度についてまとめる	120分
9	逆送（原則逆送）と裁判員裁判	逆送と原則逆送の違い、逆送時の検察官の役割と成人事件の検察官の対応や役割の差異について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	逆送、原則逆送に対する検察官の対応、裁判員裁判に付される少年事件の類型について、裁判所のHP等で調べておく	120分
	事後学修	家庭裁判所に送致するケースは、どの様なものか整理してみる。	120分
10	処遇勧告	終局決定に際し、裁判官は、1号観察や少年院送致決定時に、当該少年に対する具体的に処遇条件を勧告し、個別処遇内容の策定に反映させることができるが、どの様に運用されているのかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、その内容を理解し説明ができる。	
	事前学修	処遇勧告とはどの様なものか調べておく	120分
	事後学修	処遇勧告が保護処分にどの様に反映されているかについてまとめる	120分
11	1号観察の課題	1号観察の効果的な運用を図るためには、現状でどの様な問題点あるのかを理解し、その解決方法について検討する	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、課題を踏まえてあるべき姿を提案できる。	
	事前学修	保護処分としての保護観察の種類と運用実態について法務省のHPや犯罪白書等で調べておく	120分
	事後学修	保護司の専門性や年齢等が、少年に対する保護観察にどの様な影響を及ぼすかを踏まえて、改善策をレポートにまとめる	120分
12	2号観察	仮退院に向けた環境調整（調査）の内容と仮退院決定への寄与度に占める被害者の意向、仮退院後の遵守事項の効果的な運用について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、課題を踏まえてあるべき姿を提案できる。	
	事前学修	仮退院に伴う保護観察の現状について、犯罪白書や法務省のHPで調べておく	120分
	事後学修	良好措置と特別遵守事項違反に際し、保護観察所長が取りうる措置についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	少年刑務所における特別改善教育	刑事処分に付された結果、有罪判決を受けた少年がその年齢によっては、直接少年刑務所には収容されないか、それぞれの場所でどのような処遇を受けているのか、現状と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	少年刑務所における処遇について、犯罪白書等で調べておく	120分
	事後学修	何故刑務官ではなく、法務教官が処遇に当たるのか、刑罰の執行と個別処遇との関係についてまとめる	120分
14	交通保護事件の処理手続と特別改善教育	一般事件を犯していない交通事犯少年に関しては、家庭裁判所の交通部での対応、交通保護観察での対応等、事案に即した対応がなされてきたが、課題も多いことから、その対策を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、課題を踏まえてあるべき姿を提案できる。	
	事前学修	交通事件処理手続について、少年法の基本書等で調べておく	120分
	事後学修	交通短期保護観察・長期保護観察の現状と課題についてまとめる	120分
15	修復的司法の導入	軽微な非行（犯罪）に関しては、欧米では、少年事件・刑事事件の両方について、既存の司法手続から加害者・被害者・地域社会による犯罪被害の修復を基本コンセプトとする修復的司法が導入されている。この点に関し、日本でも導入が可能か否かについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、現状の問題点を指摘し、改善策を提案できる。	
	事前学修	修復的司法とはどのようなものか調べておく	120分
	事後学修	少年手続への導入可能性についてまとめる	120分

科目名	刑事法特殊講義ⅣB	担当者	毛利 晴光	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
刑事裁判の事実認定に関して入門的な講義をするものである。併せて、事実認定と関連づけながら、証拠法や事実認定に関わる諸問題（特に、刑事法特殊講義ⅣAで取り上げることができなかった事項）についても、実務とのつながりを意識しつつ、幅広く学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法科大学院への進学や予備試験合格に必要な基礎的学力の修得を目指し、刑事裁判の事実認定について、その仕組みや基礎的事項を体系的に理解した上、刑事裁判の事実認定において必然的に問題となる証拠法等の諸問題についても、実務ではどのような運用（解決の仕方）がされているのか、学説や判例ではどのような考え方が示されているのかを学修する。

【履修条件】
法科大学院への進学や予備試験の合格を目指し積極的に履修に取り組む意欲のある者を歓迎する。ただし、履修の条件は特に設けない。

【授業方法】		
毎回、レジュメと参考資料を配付して、それに基づき講義をする。教科書は、事前学習の際に使用する（具体的な学習箇所は、第1回に指定する。）。参考書は、授業や教科書の理解を深めるのに役立つものであるが、利用を義務付けるものではない。3回の小テストのほか、適宜、授業内及び授業外課題を設定する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑事裁判の事実認定について基礎知識を修得する。						3			2				
②	事実認定が特別なものではなく、刑事手続の各場面で問題になることを理解する。						3			2				
③	事実認定の仕組みについて、自分の言葉で説明することができる。						2			3				2
④	事実認定に関連する諸問題について、自分で考え、意見を述べることができる。						2			3				3
⑤	事実認定がどのようなものであるか、具体的事例を踏まえつつ、体得する。						2			3				3
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の授業内での小テストにより、それぞれの段階での到達目標に関わる基本的な知識を身に着けているかを確認する。	15	15	15	15	15						75
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	教員との質疑応答や課題への取組みなどを通じて、授業への関心の度合いを測るとともに、予習や復習の効果がどの程度上がっているかをチェックし、総合的な評価をする。	5	5	5	5	5						25
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う小テストは、後日、答案を採点し、正解例を付して返却する。そのほかの課題については、授業内で適宜解説等をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事事実認定入門〔第3版〕	石井一正	判例タイムズ社	2015年	教科書	必携
入門 刑事手続法〔第8版〕	三井誠・酒巻匡	有斐閣	2020年	教科書	必携
刑事訴訟法講義案〔4訂補訂版〕	裁判所職員総合研修所	司法協会	2015年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 16:30～17:30（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントをとること）研究室（1356号室） メールアドレス：mouri.harumitsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	裁判官として、東京、横浜、大阪地裁等で一審の、また東京、大阪高裁で二審の刑事裁判を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		刑事裁判実務に携わった経験を活かして、実際の刑事裁判の事実認定やこれに関連する刑事手続の一端を紹介するとともに、実務で採用されている考え方などを学修できるように教育する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 事実認定が問題になった事例		はじめに、本授業のねらいや学び方、授業のスケジュールなどを説明する。次いで、事実認定の意義等について解説するとともに、事実認定が問題になった事例を取り上げ、事実認定についてイメージ、関心を持てるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、刑事裁判の事実認定が特別なものではなく、刑事手続の各場面で問題になること（裁判官だけでなく、検察官や弁護人にも関係すること）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書（刑事事実認定入門）のはしがき及び目次を熟読し、かつ、本文にざっと目を通しておく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
2	事実認定の基礎		事実認定の基礎として、事実認定の対象となる事実、事実認定の資料となる証拠、事実認定の結果として問題になる証明の程度、挙証責任について説明し、さらに、事実認定の方法（構造）についても、概要を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、刑事裁判の事実認定について基礎知識を修得するとともに、事実認定の仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
3	供述証拠の信用性判断その1 一般		事実認定で重要な作業となる供述証拠の信用性判断を取り上げ、その1として、信用性判断の考慮すべきポイントなどを説明する。併せて、供述の証明力を争う方法（反対尋問、弾劾証拠、供述経過の立証など）についても解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、供述証拠の信用性判断について基礎知識を修得するとともに、供述証拠の信用性判断の仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。併せて、供述の証明力を争う方法についても、正しく理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
4	供述証拠の信用性判断その2 被告人の供述		供述証拠の信用性判断の具体例として、被告人の供述を取り上げる。具体的には、信用性判断の考慮すべきポイントなどを説明し、自白の信用性が問題になった判例を参考に、その実際を学修する。併せて、自白の証明力に関するものとして、補強法則についても解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、被告人の供述の信用性判断について基礎知識を修得するとともに、その仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。併せて、自白の補強法則についても、正しく理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。あらかじめ配付する自白の信用性が問題になった判例についても目を通しておく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
5	供述証拠の信用性判断その3 共犯者の供述		供述証拠の信用性判断の具体例として、共犯者の供述を取り上げる。具体的には、信用性判断の考慮すべきポイントなどを説明し、共犯者供述の信用性が問題になった判例を参考に、その実際を学修する。併せて、共同被告人の審理や共犯者供述の証拠能力、証明力について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、共犯者の供述の信用性判断について基礎知識を修得するとともに、その仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。併せて、共犯者供述の証拠能力や証明力などについても、正しく理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。あらかじめ配付する共犯者供述の信用性が問題になった判例についても目を通しておく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分
6	小テスト第1回 供述証拠の信用性判断その4 被害者供述		はじめに、第1回から第5回までに学修した事項について小テストを行う。次いで、供述証拠の信用性判断の具体例として、被害者供述を取り上げる。具体的には、被害者供述の信用性判断の考慮すべきポイントなどを説明し、被害者供述の信用性が問題になった判例を参考に、その実際を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、被害者の供述の信用性判断について基礎知識を修得するとともに、その仕組みについて、概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。なお、小テストでは、第1回以降で触れた基本的事項の修得について再確認する。	
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。あらかじめ配付する被害者供述の信用性が問題になった判例についても目を通しておく。	120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	供述証拠の信用性判断その5 目撃供述，犯人識別供述		供述証拠の信用性判断の具体例として，目撃供述，犯人識別供述を取り上げる。具体的には，目撃供述，犯人識別供述の信用性判断の考慮すべきポイントなどを、実務の実際を踏まえつつ、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，目撃供述，犯人識別供述の信用性判断について基礎知識を修得するとともに，その仕組みについて，概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
8	信用性判断に用いられる客観的証拠その1 実況見分調書など		供述の信用性判断で重視される客観的証拠その1として，実況見分調書を取り上げる。実況見分調書がどのようなものであるか，実例を示して説明するとともに，実況見分調書の証拠能力に関する問題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，実況見分調書が供述の信用性判断においてどのように用いられるか，概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。併せて，実況見分調書の証拠能力に関する問題について，一応の検討ができるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
9	信用性判断に用いられる客観的証拠その2 鑑定		供述の信用性判断で重視される客観的証拠その2として，鑑定を取り上げる。鑑定がどのようなものであるか，その手続の流れも含めて，説明するとともに，DNA型鑑定など各種鑑定について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，鑑定が供述の信用性判断においてどのように用いられるか，概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。併せて，鑑定をめぐるどのような問題があるのか，幅広く学修する。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
10	事実認定の構造 小テスト第2回		事実認定の構造として，直接証拠による認定と情況証拠による認定があり，その認定の仕組みがどのようなものであるかを説明する。最後に，第6回以降に学修した基本的事項について小テストを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して，事実認定には直接証拠による認定と情況証拠による認定があることを，概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。なお，小テストでは，第6回以降で触れた基本的事項の修得について再確認する。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
11	事実認定の具体例その1 殺意，薬物の認識		事実認定の具体例として，殺意及び薬物の認識を取り上げる。具体的には，殺意に関しては，殺意とは何かに触れた上，殺意の認定がどのようになされるかを解説する。次いで，薬物の認識についても，その認定がどのようになされるかを解説する。その上で，事例を用いて，実際に殺意の認定を行ってみる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，殺意や薬物の認識の認定は情況証拠による認定であることが多く，それが実際どのように認定されていくのか，その仕組みを概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。併せて，殺意が問題になる事例を用いて，殺意の認定が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分
12	事実認定の具体例その2 共謀		事実認定の具体例として，共謀を取り上げる。具体的には，共謀とは何かに触れた上，共謀の認定がどのようになされるかを解説する。併せて，共謀をめぐる争い方について，実務の実際と関連させながら，解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して，共謀の認定は情況証拠による認定であることが多く，それが実際どのように認定されていくのか，その仕組みを概略，理解し，自分の言葉で説明することができる。併せて，共謀をめぐる争い方について，正しく理解する。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	事実認定の具体例その3 犯人と被告人との同一性		事実認定の具体例として、犯人と被告人との同一性（犯人性）を取り上げる。具体的には、犯人性の認定がどのようになされるか、その仕組みを解説する。その上で、事例を用いて、実際に犯人性の認定を行ってみる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、犯人性の認定は状況証拠による認定であることが多く、それが実際どのように認定されていくのか、その仕組みを概略、理解し、自分の言葉で説明することができる。併せて、犯人性が問題になる事例を用いて、犯人性の認定が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分
14	事実認定に関わる問題その1 訴因変更の要否、択一的認定		事実認定に関わる問題として、訴因変更の要否及び択一的認定を取り上げる。具体的には、訴因変更の要否や択一的認定が、事実認定とどう関わっているのかを説明し、これらに関する刑事法上の諸問題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、訴因変更の要否や択一的認定が、事実認定とどう関わっているのかを、理解し、自分の言葉で説明できるとともに、これらに関する刑事法上の問題の検討が一応できるようになる。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分
15	事実認定に関わる問題その2 類似事実による認定 小テスト第3回		事実認定に関わる問題として、類似事実による認定を取り上げる。具体的には、類似事実による認定が、事実認定とどう関わっているのかを説明し、これに関する刑事法上の諸問題について解説する。最後に、第11回以降に学修した基本的事項について小テストをする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、類似事実による認定が、事実認定とどう関わっているのかを、理解し、自分の言葉で説明できるとともに、これに関する刑事法上の問題の検討が一応できるようになる。なお、小テストでは、第11回以降で触れた基本的事項の修得について再確認する。		
	事前学修	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。		120分
	事後学修	配付されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。		120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義の方法を用いる。 オンライン授業の場合は、GoogleClassroomを用いて動画を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。 オンライン授業の場合、総合ポータルシステムを用いて試験を実施することがある。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日、総合ポータルシステムまたはGoogleClassroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
Next教科書シリーズ刑法総論	設楽裕文＝南部篤編	弘文堂	2018年	参考書	推奨
法学刑法5判例インデックス1000〈コンメンタール〉	設楽裕文編	信山社	2012年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（16：10～17：10）オンライン授業実施中はメールで対応する。shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	序 刑法の解釈とはどのようなものか	授業についての説明 成績評価の方法 刑法の学びの必要性 刑法の基礎 刑法解釈の方法	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論（教科書『刑法解釈論』を指す。以下同じ）の3頁、目（『刑法の目的と解釈』を指す。以下同じ）の第1章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
2	刑法解釈の実際	刑法の解釈適用の実際と刑法解釈の技法（文章化の技法を含む）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の3～17頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
3	憲法と刑法の目的・基本原則・解釈	罪刑法定主義と人権保障 基本的人権保障主義 基本的人権保障主義と刑法解釈	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の3～14頁、目的の第1章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
4	刑法の基本原則と刑法の解釈	基本的人権保障主義と厳格解釈の原則 拡張解釈の限界	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の15～23頁、目的の第2章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
5	刑法の基本原則と明確性の原則	明確性の原則 判断基準 徳島市公安条例事件等	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の12～14頁、目の第3章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
6	43条の「犯罪の実行」と実行行為	実行行為の類型性と危険性	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の29～32頁、目の第4章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不作為による実行 他人を道具とする実行	不作為による実行と不真正不作為犯 他人の行為を利用する実行と間接正犯	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の32～33頁、目の第7章・第8章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
8	43条の「犯罪の実行に着手」と早過ぎた構成要件実現	実行の着手 早過ぎた構成要件実現	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解	
	事前学修	論の33～36頁、論の第5章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
9	43条の「これを遂げなかった」と遅過ぎた構成要件実現	結果の不発生 未遂犯としての所為の終了 遅過ぎた構成要件実現	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の37～39頁、目の第6章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
10	43条の「これを遂げなかった」と因果関係中止未遂	因果関係の存否、特に相当性の判断基準 中止未遂の規定の解釈	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の39～41頁、目の第9章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
11	共犯に関する諸規定の概観 共同正犯の規定の解釈 共謀共同正犯	共犯に関する諸規定の概観 共同正犯の要件 片面的共同正犯 相互利用・補充関係と共同正犯 共謀共同正犯	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の42～46頁、目の第14章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
12	承継的共同正犯 異なる行為意思を有する者の共同 過失犯の共同正犯	承継的共同正犯の事案において後行者が共同正犯の罪責を負う範囲 異なる行為意思を有するものが共同した場合の共同正犯の成立範囲 過失犯・不作為犯の共同正犯 予備罪の共同正犯	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の46～49頁、目の第15章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	共謀の範囲外の犯罪 離脱による共同正犯関係の解消	共謀の範囲（射程）外の犯罪と共同正犯 離脱による共同正犯関係の解消の要件	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の49～51頁、目の第16章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
14	教唆犯 従犯（1）	教唆犯の要件 未遂の教唆 教唆犯における共犯関係の解消 従犯の要件 不作為による従犯	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の52～55頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
15	従犯（2）	中立的行為による幫助 ウイニー事件	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の55～56頁、目の第17章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
16	従犯（3） 共犯と身分	幫助の因果性 従犯における共犯関係の解消 共犯と身分	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の56～58頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
17	正当行為の規定の解釈	35条の解釈 被害者の同意 治療中止 秘密漏示と取材	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の58～61頁、目の第10章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
18	正当防衛の規定の解釈（1）	36条1項の趣旨と解釈 予期された侵害 自ら招いた侵害 対物防衛 偶然防衛	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の62～65頁、目の第11章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	正当防衛の規定の解釈（2）	複数の反撃行為と正当防衛・過剰防衛 共犯と正当防衛・過剰防衛	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の65～67頁、目の第12章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
20	緊急避難に関する規定の解釈 過剰防衛の規定の解釈	緊急避難の要件 過剰避難 業務上特別の義務がある者についての特例 過剰防衛	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の67～70頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
21	故意に関する規定の解釈（1）	故意犯処罰の原則 故意の内実	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の70～73頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
22	故意に関する規定の解釈（2）	事実の錯誤と故意	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の73～76頁、目の第13章を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
23	過失に関する諸規定の解釈	過失犯と過失 故意と過失の相違 過失の内実	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の76～77頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
24	責任能力に関する諸規定の解釈	39条の解釈 原因において自由な行為 41条の解釈	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の77～78頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	科刑に関する諸規定の解釈（1）	犯罪の個数（狭義の罪数論）と犯罪競合論	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の78～79頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
26	科刑に関する諸規定の解釈（2）	科刑上一罪の規定、併合罪の規定の解釈	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の78～83頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
27	刑及びその執行に関する諸規定の解釈（1）	刑の意義・内容・本質・適用（科刑の過程）・執行・消滅	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の82～83頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
28	刑及びその執行に関する諸規定の解釈（2）	没収・執行猶予に関する諸規定の解釈	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の84～89頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
29	刑法の適用範囲に関する諸規定の解釈	場所的適用範囲・時間的適用範囲・他の法令の罪に対する適用に関する規定の解釈	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	論の5～29頁を読んで、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。	120分
30	授業のまとめ	刑法の適正な解釈とはどのようなものか 解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記内容を理解する。	
	事前学修	教科書及びノートを読み返して、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業で得た知識を整理し、文章に表現できるようにする。	120分

科目名	刑法 I	担当者	南部 篤	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について，その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し，その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために，犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し，刑法固有の理念を修得し，今日的課題について考察する。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
テキストに沿って進める。但し，テーマの重要度，難易度に応じて割愛，要約，補足説明を行うことがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者に対し，授業における議論への積極的参加を促し発言を求めるほか，課題を示して能動的な取組みを行うよう導いて行く。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。				1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。					1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。						1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。				1	1	1		1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての刑法総論への理解および知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	40	30	20	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評は，実施後の授業期日において，またはポータルシステム等を通じて行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ネクスト教科書シリーズ・刑法総論	設楽裕文＝南部篤編	弘文堂	発行予定		
備考	教科書の版，刷が改められた場合は，開講時現在で最新のものを準備すること。				

【オフィスアワー】
土曜日，12時10分から13時までの時間帯に，事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑法の基礎・刑法の意義と役割		刑罰制度と「刑法」の意義、刑法はどのような役割をはたしているのか、他の法分野とのちがいはどうかについて検討を行う。	
	この回の到達目標	刑法は何のためにあり、実際にいかなる仕組みを通じてどのような働きをしているのかを、自分の言葉で説明し、これについての意見を述べることができる。		
	事前学修	もし、窃盗や殺人、放火などが罰せられず放任されるとしたら世界はどうか、また、どんな行為が罰せられるか、まったく分からない世界で生きていかなければならないとしたらどうか、想像してみること。		120分
	事後学修	法は権利や利益を保護するためにあるが、民法やその他の法分野と比べ、刑法はいかなる意味で権利・利益を保護しているのか、その特徴は何かを整理し確認する。		120分
2	刑法の基礎・刑法学修の出发点		刑事法の中の刑法の位置について、刑事訴訟法や少年法、刑事収容施設法、更生保護法などとの関係を検討し、また刑法各論と対比し刑法「総論」の意味を確認する。	
	この回の到達目標	刑法とはどんな法で、どのような特徴をもつものなのか、実体法として他の刑事法と有機的に関係することにより刑事司法制度を形づくっていることの意味を説明することができる。		
	事前学修	六法を開き、刑事法分野に属する法令をながめ、どのように分類され、体系的に整理されているか考えたうえで授業に臨むこと。		100分
	事後学修	刑事実体、刑事手続法、矯正保護法の三分類に属する各種法律を確認し、刑法総則と各則の関係、刑法総則の地位について確認する。		140分
3	刑罰の意義と内容		刑罰の種類・内容など刑罰制度の概要と、行政処分や損害賠償等の他の法的統制手段との関係を検討する。	
	この回の到達目標	刑罰の種類・軽重と個々の刑の内容を説明し、法的統制手段としての刑罰固有の性格を説明することができる。		
	事前学修	刑罰の種類と定義に関する条文に目を通し、疑問に思った点を挙げておくこと。		140分
	事後学修	行政処分等と比べ、刑罰の最も大きな特徴は何か、また各種刑罰の性格について文章にまとめ確認する。		100分
4	刑罰制度の正当化根拠		害悪の賦課を内容とする刑罰制度について、国家はなぜ刑罰の名の下に犯罪者の生命や自由、財産を剥奪することができるのかを検討する。	
	この回の到達目標	刑罰を純粋に自己目的的な正義の実現ととらえる絶対的応報の観念から説明づける見解から、その対局にある教育刑論、そして本質は応報でありながら犯罪抑止の効果を有する限度で正当化を考える相対的応報刑論、こうした議論を整理し説明することができる。		
	事前学修	国家の手による刑罰も、犯人の生命・自由・財産という利益を奪う点で「法益の侵害」と共通の性格を有する。これをどう説明するか、自分なりの見解をまとめたうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	絶対的応報刑と相対的応報刑、一般予防と特別予防、との関係を整理しておく。		120分
5	死刑制度論		死刑制度について、死刑の存廃をめぐる古くて新しい議論を概観し、今日、真に問題とすべき課題がどこにあるか、冷静な検討を試みる。	
	この回の到達目標	死刑は人道に反する、誤判の可能性を絶無にできない、といった検証不能な主張にとどまることなく、制度をとりまく環境や廃止後の代替措置など、今日の死刑制度が直面する問題を視野に入れた冷静な意見を述べることができる。		
	事前学修	わが国で死刑が言い渡される件数、執行される件数を調べてみること。		110分
	事後学修	直観的・情緒的な議論を除き、死刑存廃に関するさまざまな意見を整理し、授業で取り上げた内容をふまえ、両論を対比し自分なりの一覧表を作成してみる。		130分
6	刑法の基本原則		刑法を支配する基本原則である罪刑法定主義に関し、その沿革、自由主義的側面と民主主義的側面、多様な派生原則について検討する。	
	この回の到達目標	罪刑法定主義の趣旨と内容、罪刑法定主義が問題となった判例の態度について、批判的に検討を加え、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	罪刑法定主義の否定は何をもたらすか、考察した上で授業に臨むこと。		100分
	事後学修	罪刑法定主義の背景にある自由主義的要求と民主主義的要求、マグナカルタ以来の歴史的沿革、各種の派生原則などにつき整理・確認を行う。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	刑法の政策的基礎		刑法の政策的基礎（刑罰制度の基盤をなすもの）として、法益保護の原則（「法益なければ処罰なし」）と、責任主義の原則（何人も自己の非難に値する行為によらなければ刑罰を科せられない）を明らかにし、詳細な検討を加える。	
	この回の到達目標	刑法の主たる任務が法益の保護にあること、および、非難可能性の認められないところに処罰を行うことはゆるされない、とされることの意味をただしく説明することができる。		
	事前学修	利益と法益と権利、これら三つの概念の異同を辞典、参考書等で調べ、考えてみること。		120分
	事後学修	結果責任主義と団体責任主義に基づく刑事責任の追及が行われた前近代と比べ、非難可能性を刑罰の不可欠の要件とし、個人責任主義の徹底を図る今日の考え方を対比し、確認しておく。		120分
8	刑法学説の発展と学説		刑法学説史の変遷と近代刑法学の発展について、新派と古典派、現代社会と刑法理論の課題を検討する。	
	この回の到達目標	刑法学の歴史の中で、近代派の主張がどのようなものであったのか、そして近代派の批判による激しい対立状況から生み出されたものが何であったのかを説明することができる。		
	事前学修	犯罪は行為者の悪い性格の一つの表れに過ぎず、未遂と既遂も本質的違いはなく、暴行、器物損壊、公務執行妨害も細かく区別して論じる必要はないとの考えをどう思うか、考察を試みること。		120分
	事後学修	新派刑法学は、それまでの古典派の考え方に対する批判に端を発した学説であるが、どのような点で古典派は批判されたのか、まとめてみる。		120分
9	刑法理論の今日的課題		自然犯と法定犯とは、非犯罪化論の是非、法人の犯罪と法人の処罰をめぐる争いなど、刑法理論が直面する今日的課題について検討する。	
	この回の到達目標	自然犯法定犯区別説に対する批判的考察、また非犯罪化論の実体は何であったかを説明し、法人の犯罪主体性を否定し法人に対する刑罰的統制に消極的なわが国の刑法に関して、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	さまざまな犯罪の中には、今日、あえて刑罰の対象とする必要性が乏しくなったものもあるとの指摘が行われたことがある。刑法典のなかにあるどの犯罪がそれにあたるかを考えてみる。		140分
	事後学修	各種犯罪を自然犯と法定犯とに分けて論じる見解に合理性はあるか、また、自然人のみを刑罰の名宛人とする現行刑法典のあり方は妥当か、自身の見解をまとめてみる。		100分
10	犯罪の成立要件		犯罪成立要件の全体をながめ、刑法学はなぜ煩雑な法解釈問題に拘り、難解な理論構築を志向するのかをふまえた上で、三分体系を採るわが国刑法学の特徴的な思考方法を検討する。	
	この回の到達目標	ある行為について犯罪が成立するか否かは、直感的な判断を排し、一回的な判断でもなく、構成要件該当性・違法性・有責性の三点の具備、すなわち違法な構成要件該当行為をしたことにつき行為者が有責であることの確認による、ということの意味を説明することができる。		
	事前学修	いかなる場合に犯罪は成立し、成立が妨げられるのか、刑法がきわめて慎重な判断をすることとしている理由は何か、考察したうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	三分体系のメリットとデメリットについて整理し確認する。		120分
11	構成要件とは何か		犯罪成立要件の構造と特徴、構成要件の客観的要素と主観的要素、構成要件の機能、構成要件と違法性、有責性との関係等につき検討する。	
	この回の到達目標	構成要件はどのような要素からなるか、客観的要素と主観的要素との関係はどうか、構成要件はいかなる機能を有するか、構成要件は違法行為類型であり有責行為類型でもあるとはいかなる意味かを説明することができる。		
	事前学修	犯罪成立要件と構成要件との関係はどうか、考えた上で授業に臨むこと。		120分
	事後学修	客観的構成要件要素および主観的構成要件要素をなすものをすべて挙げ、一覧表にするなどして整理確認する。		120分
12	構成要件該当性		不作為犯をめぐる諸問題、とくに作為と不作為、行為とは何か、真正不作為犯と不真正不作為犯、不真正不作為犯の成立要件について検討する。	
	この回の到達目標	不真正不作為犯の成立を認めた判例をあげ、その問題点を説明し、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	作為とは何か、不作為とは何か、行為とは何か、考察してみること。		110分
	事後学修	不作為犯、とりわけ不真正不作為犯の成立要件について整理・確認し、放火罪に関する判例を検討しておく。		130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	正犯と共犯の基礎		構成要件該当性の観点から、正犯構成要件に該当する正犯の実行行為、そして正犯以外の方法で関与する共犯の行為を検討し、正犯と共犯・直接正犯と間接正犯・正犯のメルクマールについての考察を行う。	
	この回の到達目標	正犯とは自ら犯罪を実行する者をいい、共犯とは正犯以外の方法で正犯行為に関与する者をいうが、直接正犯・間接正犯の区別、正犯と教唆犯・幫助犯の区別、正犯の基準をどう考えるべきか、について整理し説明することができる。		
	事前学修	自ら手を汚して犯罪を実行する場合と、他人の犯罪に間接的に関わる場合とではその罪悪性にどのような違いがあるか考えてみること。		120分
	事後学修	正犯の概念をめぐる理論刑法学上の議論を整理しておく。		120分
14	刑法における因果関係		刑法における因果関係論の意義、条件説の提唱した条件関係の意義、条件説への批判と相当因果関係説の登場、相当因果関係説内部の対立、相当因果関係説の危機から因果関係の処理に関する新しいアプローチ、について検討する。	
	この回の到達目標	従来の因果関係に関する理論状況を整理した上で、当該行為のもつ危険が結果に現実化したものとみられるか否かという判断方法を採る判例の思考方法を説明することができる。		
	事前学修	ある行為と発生した被害との間に原因・結果の関係が認められなければ、その結果は行為者のしわざとはいえない、とされるのはなぜか、考えた上で授業に臨むこと。		120分
	事後学修	因果関係の有無が問題とされた最高裁判例を検討し、判例がどのような基準に立って判断しているかを整理し確認する。		120分
15	違法性論の基礎		違法性とは何か、違法性の本質、主観的違法性論と客観的違法性論、結果無価値論と行為無価値論などの違法性論の基礎を検討する。	
	この回の到達目標	犯罪は違法な行為であるが、その違法性という評価が、構成要件該当性と、また有責性とどのような関係を有するかを整理したうえで、違法性の本質を説明することができる。		
	事前学修	法に違反する性質を意味する「違法性」とは実質的には何を意味するのか、考察した上で授業に臨むこと。		140分
	事後学修	形式的違法・実質的違法、主観的違法正論・客観的違法正論、行為無価値論・結果無価値論、これらの違法性の本質をめぐる議論を整理しておく。		100分
16	違法性の阻却		違法性阻却事由と違法性阻却の原理を検討する。	
	この回の到達目標	正当防衛、緊急避難、ならびに法令行為、正当業務行為および超法規的違法阻却事由について、個々の違法性阻却事由の要件を検討し、違法性阻却の意義と原理とを説明することができる。		
	事前学修	正当防衛が認められやすい社会状況と、認められにくい状況とを対比して、どのような点がその違いをもたらすかを検討してみる。		120分
	事後学修	刑法35条を拠り所とする違法阻却の場合にはどのようなものがあるか、整理し確認しておく。		120分
17	緊急正当行為		正当防衛と緊急避難とを対比しつつ検討を加える。	
	この回の到達目標	正当防衛と緊急避難とを比較し、両者がいかなる共通点を有し、相違点はどのようなものかについて、また正当防衛に関する近時の判例の動向を説明することができる。		
	事前学修	正当防衛と緊急避難の意義と要件とを整理し、両者の共通点と相違点について考えた上で授業に臨むこと。		110分
	事後学修	違法性阻却事由に関する刑法35条・36条・37条の規定の意義と内容を整理し確認する。		130分
18	責任論の基礎		刑法における違法評価と責任評価との関係をふまえたうえで、期待可能性の概念と規範的責任論の発展について検討する。	
	この回の到達目標	犯罪成立の不可欠の要素としての責任が非難可能性を意味するものであり、非難は他行為可能性が認められて初めて可能になる（それに基づき刑罰を科しうる）という近代刑法の基盤にある考え方を具体例を挙げ説明することができる。		
	事前学修	自分の行為が原因で他人に被害が生じたとき、それが不可抗力であって自分に何の落ち度もないのに、厳しい非難にさらされた場合、どうこたえるか、熟慮してみたうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	責任、非難可能性、他行為可能性、期待可能性のそれぞれの意味と関係、位置づけ、また心理的責任論から規範的責任論への近代的責任概念の発展、これらについて整理・検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	責任領域の諸問題		故意と過失、責任能力、心神喪失と心神耗弱、刑事未成年という責任領域の諸問題について検討する。	
	この回の到達目標	刑法が故意犯処罰を原則とし、過失犯処罰を例外としていることの理由、また、犯罪が成立するためには責任能力が不可欠であることの理由について説明することができる。		
	事前学修	どんなに凶悪残忍な態様で多数の人命を奪う等しても、心神喪失にあたる場合は絶対に処罰できない。なぜか。自分なりの答えを見出すまで考えてみること。	140分	
	事後学修	心神喪失・心神耗弱の意義、刑事未成年の意義、原因において自由な行為、これらの意義と問題点について整理し、まとめる。	100分	
20	故意論		故意の体系的地位、故意の内容、確定的故意と不確定的故意、故意と過失との限界について検討を加える。	
	この回の到達目標	故意は構成要件・違法・有責のいずれに属する要素か、また、不確定的故意とは何か、未必の故意と認識のある過失との区別の基準をどのように考えるべきかについて説明することができる。		
	事前学修	わざとやった場合＝故意の結果惹起と、うっかりやってしまった場合＝過失の結果惹起とでは、その重大性がきわめて大きく異なる、と考えるのはなぜか、考察した上で授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	確定的故意と不確定的故意、概括的・択一的・未必の故意の異同、認識説と意思説、認容説と蓋然性説をめぐる議論、故意と過失との分水嶺、こうした諸点を分析整理しまとめる。	120分	
21	事実の錯誤		事実の錯誤を具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤に大別し、具体的事実の錯誤をさらに客体の錯誤・方法の錯誤・因果関係の錯誤とに分類し、抽象的事実の錯誤について構成要件的符合の観点から判断する等、事実の錯誤の処理について総合的に検討する。	
	この回の到達目標	法律の錯誤（違法性の錯誤）と対比して事実の錯誤の性格を論じ、錯誤が具体的事実の点にとどまる場合と、抽象化した事実におよぶ場合との違いをふまえ、とくに方法の錯誤の処理に関し具体的符合説と法定的符合説の対立について説明することができる。		
	事前学修	犯人が①殺そうとした人を誤って別人と取り違え撃ち殺してしまったとき、②撃った弾が逸れ物陰の別人にあたって死亡させてしまったとき、罪責に違いが生じるか、考えてみること。	100分	
	事後学修	具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤のちがい、客体・方法・因果関係の錯誤のちがいとその罪責への影響、具体的符合説と法定的符合説、故意の個数の問題、これらを整理しておく。	140分	
22	法律の錯誤		事実の錯誤と対比して法律の錯誤（違法性の錯誤）の区別を論じ、厳格故意説と制限故意説の対立の性格、故意説と責任説との対立、故意と違法性の意識、違法性の意識の可能性について検討する。	
	この回の到達目標	事実自体の錯誤と事実についての評価に関する錯誤の違い、法の不知や、あてはめの錯誤の類型が故意の成立を妨げないのに対して、事実の評価の誤りに相当な理由が認められる場合は故意を阻却する余地のあることを、判例の事案を挙げて説明することができる。		
	事前学修	飼い犬を野犬だと思って撲殺してしまった場合と、飼い犬だが首輪もせず放し飼いなので処分しても罪に問われることはないと確信して撲殺した場合とで罪責は異なるか、考えてみること。	120分	
	事後学修	法律の錯誤により違法性の意識を欠いた場合のうち、錯誤に無理もない（相当な）事情があり処罰が妨げられる場合とは具体的にどんなときか、判例を挙げて論じてみる。	120分	
23	過失犯		故意犯と過失犯との比較をふまえ、過失犯の構造に関する刑事過失理論の変遷（旧過失論・新過失論・危惧感説）をながめ、予見可能性の内容と程度、信頼の原則、管理・監督過失の問題について検討する。	
	この回の到達目標	過失犯の実体を、法益侵害結果を予見できたのに行為に出て結果を惹起したことに求める旧過失論から、法益侵害結果を予見し、それに従って結果の発生を回避する適切な行動にでなかったことに求める新過失論への進化を説明し、そのような刑事過失理論の変遷の背景に何があったかを明らかにすることができる。		
	事前学修	わざとやったわけではなくとも、過失による人の死傷等の惹起は処罰される。なぜか。考えた上で授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	旧過失論から新過失論、危惧感説へと発展する刑事過失理論と判例の動向を検討してみる。	120分	
24	犯罪遂行の過程と刑法		犯行の決意から、共謀・準備、実行の着手、結果の発生へと至る、陰謀・予備罪、未遂犯、既遂犯という犯罪遂行のプロセスと刑法の干渉時期について検討する。	
	この回の到達目標	近代刑法は犯行の決意の段階で干渉することはありません、陰謀の段階で処罰するのも稀有の例外、予備はごく限られた重大犯罪に限定され、多くの犯罪は未遂以降を処罰時期とし、既遂になってはじめて罰する類型もあるが、こうした処罰時期の差異は何に由来するかを説明することができる。		
	事前学修	犯罪が未遂に終わって被害が発生していないのに、多くの犯罪についてなぜ未遂犯として処罰する必要があるのか、考えてみること。	140分	
	事後学修	刑法は、さまざまな犯罪類型において既遂のみを罰するものから、未遂をも罰する、あるいは少数ではあるが予備をも罰する、さらに早期の段階、陰謀を捕捉するものもある。その理由を考察する。	100分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	未遂犯		未遂犯の要件、実行の着手の意義、障害未遂と中止未遂、中止未遂の意義と要件、および不能犯について検討を加える。
	この回の到達目標	未遂犯の意義と要件をふまえ、実行の着手時期について、また中止未遂の成立要件についての判例の見解を説明し、また、不能犯の判断基準に関する判例と学説の考え方を示して自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	殺人の用途でピストルを準備した段階（予備）と、それを被害者に向け引き金を引こうとした時点（未遂）とを比べると刑罰の重さに著しい違いがある。なぜかを考えること。	100分
	事後学修	中止未遂が寛大に扱われる理由は何か、中止が認められる要件はどうか、整理しておく。	140分
26	共犯の基礎		必要的共犯と任意的共犯、共同正犯と狭義の共犯（教唆犯・従犯）との区別をふまえ、正犯と対比して共犯の性格を論じ、共犯の処罰根拠、個々の共犯の要件、一部実行・全部責任の法理について検討する。
	この回の到達目標	総則の共犯について、正犯との違い、その処罰根拠をなかに求めるか、一部実行・全部責任の法理とは何か、教唆犯と従犯それぞれの成立要件、共同正犯の特徴、共謀共同正犯の成立要件について説明することができる。	
	事前学修	共犯者としての犯罪への関りにはどのような形態が考えられるか、検討したうえで授業に臨むこと。	120分
	事後学修	共犯における「一部実行・全部責任の法理」とは何か、自分で事例を挙げて説明を試みる文章を書いてみる。	120分
27	共犯の諸問題		正犯（直接正犯・間接正犯）と共犯、共犯の従属性（実行従属性・要素従属性・罪名従属性）、承継的共犯、片面的共犯等共犯をめぐる諸問題について検討する。
	この回の到達目標	共犯の正犯との対比、共犯独立性説と従属性説、従属性の内容（実行、要素、罪名の従属性）について、また承継的共犯、片面的共犯、過失犯の共犯について説明することができる。	
	事前学修	盗みをするよう唆したが、唆された者が応じなかった場合、いったん窃盗を決意したが思い返し実行に出なかった場合、実行に出たが発見されて盗めなかった場合、これらの罪責はどうか、考えること。	120分
	事後学修	共犯の従属性につき、実行・罪名・要素の各従属性を説明し、それぞれ判例がどう考えているかを確認しておく。	120分
28	罪数論		犯罪の個数はどのような基準により決するべきかに関し、行為、故意、法益等の罪数決定標準を用いること、また、単純一罪、法条競合、包括一罪等の概念にしたがって判断することを検討する。
	この回の到達目標	一罪の成立を導く法条競合と包括一罪の概念について説明し、加えて、判例がどのような判断を示しているかを説明することができる。	
	事前学修	泥棒がA宅に侵入、書斎にあったAの財布を盗り、次いで子供Bの部屋から貯金箱を、さらに居間のタンスから妻Cのヘソクリ5万円を盗んだとき、窃盗罪は何個成立するか、考えること。	100分
	事後学修	単純一罪、法条競合、包括一罪、科刑上一罪、併合罪、単純数罪、これらの分類・整理を確認し、体系的理解を確かなものにしておく。	140分
29	科刑処理論		複数の犯罪が成立する場合の科刑処理に関し、科刑上一罪、併合罪について検討を加える。
	この回の到達目標	複数の犯罪が成立するとき、行為者に科すべき刑をどのように導き出すかに関し、科刑上一罪、併合罪による科刑処理について説明することができる。	
	事前学修	窃盗罪の懲役刑の上限は10年であるが、空き巣を繰り返し計10件の窃盗について起訴された犯人に科せられる懲役刑は最長何年になるか、10年か、100年か、それとも？この点を考えてみた上で授業に臨むこと。	130分
	事後学修	法定刑⇒処断刑⇒宣告刑⇒執行刑という量刑と刑の宣告手続はどのように行われるか、とりわけ処断刑を導き出す処理はどうか、整理し確認しておく。	110分
30	刑罰の適用		執行猶予、仮釈放、刑の加重減免、刑の時効など刑罰執行上の諸問題について検討する。
	この回の到達目標	執行猶予制度の趣旨と内容、また仮釈放制度はどのような役割を果たしているかについて、刑事政策的意義をふまえた説明をすることができる。	
	事前学修	執行猶予とはどのような制度で、何のためにあるのかを考えた上で授業に臨むこと。	120分
	事後学修	微罪処分、起訴猶予、宣告猶予（立法論）、執行猶予（一部執行猶予を含む）、仮釈放のそれぞれの意義と関係、制度の趣旨の理解を確かなものにしておく。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、その目的としての社会秩序維持および人権保障の機能に関する知識を学修する。また、人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有する刑罰に関する理念についての理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を身につけるために、犯罪論と刑罰制度の基礎を理解し、刑法固有の理念を修得し、今日的課題について考察する。

【履修条件】
刑法Ⅰ（総論）を履修していることが望ましい。刑法は罪刑法定主義が支配する法律であるから、六法は必ず持参されたい。特に刑法各論ではこまめに条文にあたる。

【授業方法】
担当者が作成するレジュメも併用し講義する。事前学習であらかじめ指示した箇所を必ず読み授業に臨む。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基本原則および犯罪論・刑罰論の諸概念に関する基礎的知識を説明することができる。					1	1						
②	犯罪の成立要件に関する知識をふまえながら、個々の犯罪の成否と対比し、関係づけることができる。						1	1					
③	基本的な判例についての理解に基づき、争点を説明し、かつ評価することができる。							1		1			
④	今後の犯罪状況などをふまえて、解釈の限界と立法の必要性などについて指摘することができる。					1	1	1		1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験または授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、 によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案採点后に、講評をメールにて一斉送信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講義刑法学・各論	井田良	有斐閣	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
classroomを介してメールにて随時受け付けます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法各論で学ぶべきこと	個々の刑罰法規を解釈することの意義とは、私たちの日常生活における行為の自由が広狭することと連動している。このことの意味を考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて、理解し説明することができるようになる。①刑罰法規を解釈する意義、②解釈における保護法益の重要性、③法益侵害行為を明確にすることの重要性。	
	事前学修	はしがき、第1章を読む。	120分
	事後学修	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。	120分
2	人の生命に対する罪（1）	人の生命は個人が人生を送るうえで最も重要な法益である。刑法は人の生命をどう保護しようとしているのか、その体系を学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことを理解し説明することができるようになる。①人の生命に対する罪の全体像、②人の生命として保護されるのは何時から何時までか（始期と終期）。	
	事前学修	第2章を読む。	120分
	事後学修	人の始期と終期について説明せよ。	120分
3	人の生命に対する罪（2）	殺人罪は、通常殺人罪と同意殺人・自殺関与罪とに分かれる。なぜこうした構図を用意しているのかを考察するとともに、両罪の区別に関する事例について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①199条と202条との区別、②暴行・脅迫・欺罔行為によって得られた被害者の同意の効力。	
	事前学修	第2章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	人を欺いて自殺させる行為は何罪に該当するか。（2時間）	120分
4	人の身体に対する罪（1）	人の身体は、最も侵害されやすい法益であるとともに、身体の侵害を通じて行われる社会的行為も存在する（スポーツ、治療行為など）。身体に対する罪の基本概念を学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①暴行概念、②傷害概念、③精神障害の扱い、④日常生活と暴行・傷害。	
	事前学修	第3章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	精神障害は傷害に該当するか。（2時間）	120分
5	人の身体に対する罪（2）	暴行によって傷害さらには死亡に至ることは、よくあることである。こうした事態を想定している結果的加重犯の構造について学ぶとともに、同意傷害、度維持傷害の特例について触れる、	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①結果的加重犯、②同意傷害、③同時傷害の特例の射程範囲。	
	事前学修	第3章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	結果的加重犯について説明せよ。（2時間）	120分
6	生命及び身体に対する危険犯	生命及び身体に対する危険犯について学ぶ。危険が生じただけでなぜ処罰されるのか、危険の判断基準をどうすべきかを念頭に置きながら、考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①危険犯（抽象的危険犯と具体的危険犯）、②堕胎罪（胎児に対する罪であると同時に母体に対する罪でもあること）、③遺棄罪（遺棄概念、身分犯が置かれている理由）。	
	事前学修	第4章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	危険犯とは何か。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	身体的内密領域に対する罪		刑法典が制定されて以来、約110年ぶりに性犯罪の規定が改正され、強制性交等罪や監護者わいせつ・性交等罪などが創設された。性犯罪の処罰理由について考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①性的自己決定権の内実、②強制性交等罪、強制わいせつ罪の構造、③監護者による性犯罪の構造。		
	事前学修	第5章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	性犯罪に関する旧規定と新規定の違いについて説明せよ。（2時間）		120分
8	自由に対する罪		憲法においては様々な自由が保障されているが、刑法の守備範囲は限定的である。いかなる自由をどのように保護するべきかを考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①脅迫罪の保護法益、②強要罪の性格、③逮捕・監禁罪の保護法益、④略取誘拐・人身売買罪の保護法益。		
	事前学修	第6章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	逮捕・監禁罪の保護法益は何か。（2時間）		120分
9	個人の私的領域を侵す罪		プライバシーの保護も憲法においては重視されているが、刑法におけるその保護はやはり断片的である。住居侵入罪と秘密侵害罪を中心に考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①刑法の保護に値する「私的領域」とは何か、②住居侵入罪の保護法益、③秘密侵害の規制方法。		
	事前学修	第7章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	住居侵入罪の保護法益をめぐる対立について説明せよ。（2時間）		120分
10	社会的存在としての人の保護（1）		社会的評価を受けながら私たちは日常生活を送っている。社会からの評価、信用を侵害する罪について考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①名誉毀損罪の保護法益及び構造、②信用毀棄罪の保護法益、③業務に対する罪の保護法益。		
	事前学修	第8章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	名誉毀損罪の保護法益は何か。（2時間）		120分
11	社会的存在としての人の保護（2）		名誉毀損罪に焦点を当て、真実性の錯誤をめぐる処理の在り方について考察する。刑法230条の2の意義をどう解するかが重要である。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①230条の2の沿革、②真実性の証明が失敗した場合の問題点、③言論の自由と名誉保護の調和点はどこか。		
	事前学修	第8章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	真実性の錯誤をどう考えるべきか。（2時間）		120分
12	財産犯総論（1）		財産犯に共通する論点について2回に分けて講ずる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①財産犯の体系、②故意犯処罰の原則が貫かれている意味、③財物と財産上の利益の区別。		
	事前学修	第9章を読む。（2時間）		120分
	事後学修	財物と財産上の利益について説明せよ。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	財産犯総論（2）	財産犯に共通する問題で、前回触れた以外の論点について講ずる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①財産犯の保護法益（占有説、本件説）、②不法領得の意思（利益窃盗不可罰の理由）、③占有概念。	
	事前学修	第9章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	財産罪の保護法益について説明せよ。（2時間）	120分
14	窃盗罪と不動産侵奪罪	窃盗罪と1960年代に新設された不動産侵奪罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①窃盗罪の構造（利益窃盗が不可罰であることの理由〔再確認〕、②不動産侵奪罪の構造、③親族相盗例の適用範囲。	
	事前学修	第10章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	不動産侵奪罪の特徴について説明せよ。（2時間）	120分
15	強盗罪（1）	財産犯の中でも凶悪犯に分類される強盗罪について2回に分けて講ずる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①強盗罪の構造、②1項強盗と2項強盗の違い、③事後強盗罪・昏睡強盗罪と強盗罪との区別。	
	事前学修	第11章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	強盗罪の要件について説明せよ。（2時間）	120分
16	強盗罪（2）	強盗罪は財産だけでなく、被害者の生命及び身体をも危険にさらす犯罪である。240条はこのことを想定した規定であるが、法定刑が極めて重いため、適用範囲をどう画するかが問題となる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①240罪の構造、②適用範囲をめぐる争い（機会説、手段説、折衷説）。	
	事前学修	第11章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	240条の適用をめぐる見解の対立について説明せよ。（2時間）	120分
17	詐欺罪と恐喝罪	詐欺罪と恐喝罪はともに被害者の意思および行為に基づいて財産が行為者へ移転される罪である。詐欺罪については裁判例が活発な動きを見せている。そうした事案も踏まえて考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①詐欺罪が既遂に至るための要件、②詐欺罪の処罰根拠、③権利行使と恐喝罪の関係。	
	事前学修	第12章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	ヤクザが、暴力団関係者の使用禁止の看板を掲げているゴルフ場を利用することは、2項詐欺罪に当たるか。（2時間）	120分
18	横領罪と背任罪	被害者との委託信任関係を裏切ってなされるのが横領罪と背任罪である。両罪の類似点と相違点を明確にするとともに、経済と両罪の関係をも考察する。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①横領罪と背任罪の構成要件における共通点と相違点、②不法原因給付物と横領、③背任罪の本質・	
	事前学修	第13章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	横領と背任の区別について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	盗品等に対する罪		財産犯の背後をカバーするのが盗品等に関する罪である。財産犯に対して刑法が二段構えをとっている理由を探る。
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①盗品等に対する罪の保護法益、②盗品等に対する罪の諸類型とその典型例。	
	事前学修	第14章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	盗品に対する罪の保護法益は何か。（2時間）	120分
20	毀棄・隠匿の罪		財産を毀損する罪も財産犯のかなめの一つである。毀棄隠匿罪の存在理由について考察する。
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①毀棄及び損壊概念、②器物損壊罪の構造、③文書等毀棄罪の構造、④建造物損壊罪の構造。	
	事前学修	第15章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	器物損壊罪の保護法益について説明せよ。（2時間）	120分
21	社会的法益に対する罪・総説		以上は個人的法益に対する罪であったが、ここからは社会的法益に対する罪について学ぶ。社会的法益とは何かを明らかにするとともに、その一つである騒乱罪について触れる。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①社会的法益とは何か、②騒乱罪の構造。	
	事前学修	第16章、第17章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	公共危険罪とはどのような犯罪か。（2時間）	120分
22	放火の罪		放火の罪は社会的法益に対する罪の代表格である。比較的既遂に至りやすいため、放火罪の構成要件を正確に理解することが求められる。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①現住建造物等放火罪の構造、②非現住建造物等放火罪の構造、③建造物等以外放火罪の構造。	
	事前学修	第18章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	焼損概念について説明せよ。（2時間）	120分
23	通貨偽造罪		各種偽造罪についてここから学ぶ。偽造罪も社会的法益に対する罪であるが、その法益をどう解するかが重要である。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①通貨偽造罪の保護法益および構造、②取得後知情行使等罪の射程範囲。	
	事前学修	第20章、第21章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	取得後知情行使等罪について説明せよ。（2時間）	120分
24	文書偽造罪		文書偽造罪について学ぶ。文書には様々な社会的機能があるが、何をもって偽造といえるかが問題となる。
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①文書偽造罪の基礎理論をめぐる対立、②公文書偽造罪および虚偽公文書作成罪の構造、③私文書偽造罪の構造。	
	事前学修	第22章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	文書偽造罪の基礎理論について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	有価証券偽造罪	通貨や文書以外にも、社会的信頼が担保されなければならない客体がある。とりわけ経済取引に 関係する客体に対する偽造罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①有価証券偽造罪の構造、②支払用カード電磁的記録の罪の構造、③不正指令電磁的記録に関する罪に対する構造。	
	事前学修	第23章、第24章、第25章、第26章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	ウィルス作成罪の意義について説明せよ。（2時間）	120分
26	風俗犯総説	風俗犯とは、社会集団の生活上の様々な仕方やしきたりを保護するためにあるが、ここでは性風俗を侵害する罪について学ぶ。性風俗は日々変化し、芸術活動の制約にもつながる恐れがある。 調和点について考察したい。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①わいせつ罪の保護法益、②わいせつ概念の変遷、③インターネットとわいせつ罪に関わる問題。	
	事前学修	第27章、第28章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	芸術作品とわいせつの罪の関係について説明せよ。（2時間）	120分
27	公務の執行を妨害する罪	公務の執行を担保するための犯罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①公務執行妨害罪の構造、②不正な公務も保護されるのか、③職務強要罪の構造。	
	事前学修	第31章、第35条を読む。（2時間）	120分
	事後学修	公務執行妨害罪において保護される公務とは何か。（2時間）	120分
28	刑事司法作用に対する罪	刑事司法作用を保護する罪について学ぶ。保護法益や罪質をどうとらえるかにより、帰結が大きく変わりうる犯罪である。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①犯人蔵匿・証拠隠滅罪の構造、②偽証罪の保護法益。	
	事前学修	第37章、第38章、第39章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	偽証の本質について説明せよ。（2時間）	120分
29	公務員による犯罪	公務員が主体となる犯罪について学ぶ。職権濫用罪と収賄罪、贈賄罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①職権乱用の概念、②収賄罪の保護法益、③収賄罪の類型、④収賄罪の守備範囲。	
	事前学修	第40章、第41章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	「職務に関し」の意義について説明せよ。（2時間）	120分
30	これまでの学びの振り返り	これまで学んできた刑罰法規について振り返るとともに、刑法の在り方について考える。	
	この回の到達目標	4つの到達目標を確認しながら、復習する。	
	事前学修	これまでの学びをふりかえる（2時間）	120分
	事後学修	疑問のある点について復習する（2時間）	120分

科目名	刑法Ⅰ【法職課程】	担当者	南 由介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
予習をし、意欲的に取り組む意思がある学生に履修してもらいたい。

【授業方法】
予習をしてくることを前提に、適宜質問を交えながら判例および学説の理解の深化を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生への質問とそれに対する教員の応答。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。						1	1	1		1			
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1	1	1		1			
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1	1	1		1			
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、グーグルクラスルーム等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講義刑法学・総論〔第2版〕	井田良	有斐閣	2018	教科書	必携
よくわかる刑法〔第3版〕	井田良・佐藤拓磨編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
刑法総論判例インデックス〔第2版〕	井田良・城下裕二編	商事法務	2019	参考書	任意
刑法の時間	佐久間修・橋本正博編	有斐閣	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14：40～16：10（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室9号館4階 minami.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法の存在理由と機能	刑法の意義、応報、犯罪予防、応報について学修する。	
	この回の到達目標	刑法の意義、応報、犯罪予防、応報について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
2	刑法の基本原則－罪刑法定主義	罪刑法定主義（法律主義、遡及処罰の禁止および派生原則等）を中心に、行為主義、責任主義について学修する。	
	この回の到達目標	罪刑法定主義を中心に、行為主義、責任主義について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
3	刑罰法規の解釈・適用	刑罰法規の解釈（文理解釈、目的論的解釈など）および刑罰法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について学修する。	
	この回の到達目標	刑罰法規の解釈および刑罰法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
4	犯罪論の基礎理論、結果無価値・行為無価値、構成要件	犯罪論の目的、機能、体系および結果価値論と行為無価値論の対立、構成要件の位置づけ、構成要件要素について学修する。	
	この回の到達目標	犯罪論の目的、機能、体系および結果価値論と行為無価値論の対立、構成要件の位置づけ、構成要件要素について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
5	因果関係論（1）	結果の意義および条件関係（仮定的消去法など）について学修する。	
	この回の到達目標	結果の意義および条件関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
6	因果関係論（2）	法的因果関係（相当因果関係説、行為の危険性の結果への現実化など）について学修する。	
	この回の到達目標	法的因果関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不作為犯論	作為と不作為の区別、不真正不作為犯における作為義務の発生根拠（保証人説など）、不作為の因果関係について学修する。	
	この回の到達目標	作為と不作為の区別、不真正不作為犯における作為義務の発生根拠、不作為の因果関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
8	故意論（1）	故意における事実認識の対象およびその程度（意味の認識）について学修する。	
	この回の到達目標	故意における事実認識の対象およびその程度について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
9	故意論（2）	確定的故意、不確定的故意、未必の故意と認識ある過失の区別（認識説、蓋然性説、認容説、動機説など）について学修する。	
	この回の到達目標	確定的故意、不確定的故意、未必の故意と認識ある過失の区別について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
10	錯誤論（1）	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、具体的事実の錯誤（法定的符合説と具体的符合説）について学修する。	
	この回の到達目標	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、具体的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
11	錯誤論（2）	抽象的事実の錯誤（法定的符合説と抽象的符合説、実質的重なり合い）について学修する。	
	この回の到達目標	抽象的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
12	過失犯論（1）	旧過失論と新過失論、危惧感説（新・新過失論）について学修する。	
	この回の到達目標	旧過失論と新過失論、危惧感説について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	過失犯論（2）	結果の予見可能性および結果回避義務違反と、結果的加重犯について学修する。	
	この回の到達目標	結果の予見可能性および結果回避義務違反と、結果的加重犯について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
14	違法性、違法性阻却事由、正当行為	違法とは何か、および、違法性阻却事由、正当行為（法令行為、正当業務行為）について学修する。	
	この回の到達目標	違法とは何か、および、違法性阻却事由、正当行為について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
15	正当防衛	正当防衛の要件（急迫性、防衛行為、「やむを得ずにした行為」など）および過剰防衛について学修する。	
	この回の到達目標	正当防衛の要件および過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
16	緊急避難	緊急避難の要件（「現在の危難」、避難行為、法益の均衡など）および過剰避難、その他の緊急行為について学修する。	
	この回の到達目標	緊急避難の要件および過剰避難、その他の緊急行為について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
17	被害者の同意、安楽死・尊厳死	被害者の同意の体系的位置づけ、同意傷害の違法性、安楽死（特に積極的安楽死）・尊厳死（特に治療中止の根拠）の違法性阻却について学修する。	
	この回の到達目標	被害者の同意の体系的位置づけ、同意傷害の違法性、安楽死・尊厳死の違法性阻却について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
18	責任論の基礎、責任要素	責任の本質、責任の要素、責任要素（責任能力のほか、違法性の意識の可能性、適法行為の期待可能性）、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について学修する。	
	この回の到達目標	責任の本質、責任の要素、責任要素（特に責任能力）、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	違法性阻却事由の錯誤	事実の錯誤か、違法性の錯誤か、またその学説（責任故意を否定する見解、消極的構成要件要素の理論、厳格責任説）について学修する。	
	この回の到達目標	事実の錯誤か、違法性の錯誤か、またその学説について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
20	未遂犯論	未遂処罰の根拠、実行の着手時期、間接正犯の実行の着手について学修する。	
	この回の到達目標	未遂処罰の根拠、実行の着手時期、間接正犯の実行の着手について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
21	不能犯論	危険判断および抽象的危険説、具体的危険説、客観的危険説について学修する。	
	この回の到達目標	危険判断および抽象的危険説、具体的危険説、客観的危険説について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
22	中止犯論	中止犯の法的根拠、中止行為、任意性について学修する。	
	この回の到達目標	中止犯の法的根拠、中止行為、任意性について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
23	正犯と共犯	正犯の概念、共犯の概念（実行従属性、罪名従属性など）について学修する。	
	この回の到達目標	正犯の概念、共犯の概念について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
24	間接正犯、原因において自由な行為	間接正犯とは何か、いかなる場合に肯定され得るか（間接正犯の正犯性、間接正犯の諸類型など）、また、原因において自由な行為における構成要件モデルと例外モデル（責任モデル）について学修する。	
	この回の到達目標	間接正犯とは何か、いかなる場合に肯定され得るか、また、原因において自由な行為における構成要件モデルと例外モデルについて理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	共同正犯	共謀共同正犯、犯罪共同説と行為共同説、承継的共同正犯および様々な形態の共同正犯（過失、結果的加重犯、不作為など）について学修する。	
	この回の到達目標	共謀共同正犯、犯罪共同説と行為共同説、承継的共同正犯および様々な形態の共同正犯について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
26	教唆犯と幫助犯	共犯の処罰根拠およびその帰結、幫助犯の様々な形態（片面的、不作為など）、共犯の因果関係について学修する。	
	この回の到達目標	共犯の処罰根拠およびその帰結、幫助犯の様々な形態、共犯の因果関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
27	共犯をめぐる諸問題（1）	共犯と錯誤、共犯の中止・共犯関係の解消について学修する。	
	この回の到達目標	共犯と錯誤、共犯の中止・共犯関係の解消について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
28	共犯をめぐる諸問題（2）	共犯と身分について学修する。	
	この回の到達目標	共犯と身分について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
29	犯罪の個数・競合	本来の一罪、併合罪、科刑上一罪について学修する。	
	この回の到達目標	本来の一罪、併合罪、科刑上一罪について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
30	刑罰論	学派の争い、刑罰の種類、刑罰の適用、刑の執行について学修する。	
	この回の到達目標	学派の争い、刑罰の種類、刑罰の適用、刑の執行について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	三隅 諒	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義の動画をオンデマンド配信するので、それを視聴してもらう。 予習用に簡単なレジュメを出す予定なので、視聴する前に各自で考えてみてほしい（提出する必要はない）。また、復習用に課題を出すことがあり、こちらは何回か提出してもらう予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、 及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解 決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評 価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか，又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論判例インデックス（第2版）	井田良ほか	商事法務	2019	参考書	推奨
どこでも刑法	和田俊憲	有斐閣	2019	教科書	推奨
入門刑法学・総論（第2版）	井田良	有斐閣	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜14:00～15:30（休暇中を除く） 可能な限り，事前にアポを取ること（misumi.ryo@nihon-u.ac.jp） 研究室（9号館2階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	刑法総論とは		刑法総論の取り扱い対象について、理解する。また、授業のスケジュールや成績評価の方法、参考文献の紹介も行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法総論がどのような学問分野であるか、また犯罪論と刑罰論、それらと刑事学や刑事政策との関連性を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読むとともに、推奨された教科書を手に取り、興味・関心の湧く箇所を一読してみる。刑法基礎演習を受講した者は、その内容を復習する。また、予習レジュメの問題について考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
2	構成要件総説 因果関係①		犯罪論における構成要件の機能を理解すると共に、行為・結果・因果関係の基礎を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における構成要件の機能を理解すると共に、その構成要素である行為・結果・因果関係という概念の意義と機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
3	因果関係②		法的因果関係の成否が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、因果関係の成否が問題となる事例群を整理し、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
4	故意①		犯罪論における故意の意義と機能を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における故意の意義と機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
5	故意②		錯誤が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、故意の中でも錯誤論が問題となる事例軍を整理し、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
6	未遂犯		犯罪論における未遂犯の位置づけと、その成立要件を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における未遂犯の位置づけを理解すると共に、「実行の着手」に関する判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	違法性①－違法性総説	犯罪論における違法性の意義を理解し、各種の違法性阻却事由を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における違法性の意義を理解すると共に、実質的違法性阻却事由について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
8	正当防衛①	正当防衛の基本的な成立要件を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、正当防衛の基本的な成立要件を理解すると共に、各要件の議論における基本的な判例や学説について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
9	責任①－責任総説	犯罪論における責任の意義を理解し、各種の責任要素を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における責任の意義を理解すると共に、責任の基礎に関する学説の対立や期待可能性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
10	まとめ①	犯罪の成否が問題となる基礎的な事例を題材に、具体的な事例に直面した際の思考の手順を理解し、適切な処理を記述できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、犯罪の成否に関する基本的な思考手順を理解し、具体的な事例における犯罪の成否を筋道立てて記述できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
11	不作為犯①	犯罪論における不作為犯の位置づけを理解すると共に、不作為犯における行為や因果関係の基礎を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における不作為犯の位置づけを理解すると共に、行為や因果関係が作為犯とどのように異なるかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
12	不作為犯②	不真正不作為犯の成否が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、不真正不作為犯が問題となる事例群を整理し、各事例における作為義務の存否についての判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	過失犯①		犯罪論における過失犯の位置づけを理解すると共に、過失犯における行為や因果関係の基礎を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における過失犯の位置づけを理解すると共に、行為や因果関係が故意犯とどのように異なるかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
14	共同正犯		犯罪論における共同正犯の位置づけを理解すると共に、共同正犯における行為や因果関係の基礎を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における共同正犯の位置づけを理解すると共に、行為や因果関係が単独犯とどのように異なるかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
15	間接正犯・狭義の共犯		犯罪論における間接正犯・狭義の共犯の位置づけを理解すると共に、間接正犯・狭義の共犯における行為や因果関係の基礎を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における間接正犯・狭義の共犯の位置づけを理解すると共に、行為や因果関係が単独犯や共同正犯とどのように異なるかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
16	まとめ②		犯罪の成否が問題となる応用的な事例を題材に、具体的な事例に直面した際の思考の手順を理解し、適切な処理を記述できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、犯罪の成否に関する思考手順を理解していることを前提に、応用的な事例における犯罪の成否を筋道立てて記述できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
17	未遂と不能		不能犯の成否が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、不能犯の成否が問題となる事例群を整理し、各事例における危険の有無についての判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
18	違法性②－同意		同意の有無が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、同意の有無が問題となる事例群を整理し、各事例における同意の有効性についての判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	正当防衛②		急迫性（又は正当防衛状況）の有無が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、急迫性（又は正当防衛状況）の有無が問題となる事例群を整理し、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
20	正当防衛③		防衛行為の相当性が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、防衛行為の相当性が問題となる事例群を整理し、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
21	違法性③－緊急避難ほか		緊急避難や、他の違法性阻却事由（正当行為、許された危険等）が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、緊急避難やその他違法性阻却事由が問題となる事例群を整理し、各事例において生じる問題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
22	早すぎた構成要件実現原因において自由な行為		早すぎた構成要件実現や原因において自由な行為が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、早すぎた構成要件実現や原因において自由な行為が問題となる事例の典型例を素材に、各事例において生じる問題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
23	誤想防衛・誤想過剰防衛		誤想防衛・誤想過剰防衛が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、誤想防衛や誤想過剰防衛問題となる事例の典型例を素材に、各事例の体系的な位置づけや処理において生じる問題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分
24	過失犯②		監督・管理過失が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、監督過失・管理過失が問題となる事例の典型例を素材に、各事例の体系的な位置づけや処理において生じる問題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	中止犯		犯罪論における中止犯の位置づけと、その成立要件を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪論における中止犯の位置づけを理解すると共に、「自己の意思により」に関する判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
26	共犯の諸問題①		承継的共犯や共犯からの離脱が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、承継的共犯や共犯からの離脱が問題となる事例の典型例を素材に、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
27	共犯の諸問題②		身分犯に関する共犯や共犯者の一部の違法性阻却が問題となる事例について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、身分犯に関する共犯や共犯者の一部の違法性阻却が問題となる事例の典型例を素材に、各事例における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
28	罪数・量刑		複数の犯罪が成立する場合の罪数処理や、量刑の考え方について、判例や学説の動向を理解する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、罪数処理や量刑における判例や学説の立場を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
29	刑法の基本原則		犯罪論・刑罰論を考える上で最も基本となる諸原則（法益保護主義・責任主義・罪刑法定主義）について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法益保護主義・責任主義・罪刑法定主義の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える。	120分
30	授業内試験・講評		犯罪論・刑罰論の基本的な考え方についての理解を、再度確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、犯罪の成否が問題となる場合の簡単な事例問題を適切に処理できるようにすると共に、刑法全体の基本原則について説明できるようにする。	
	事前学修	試験勉強として、講義全体の予習レジュメ・復習課題を再度考えてみる。	120分
	事後学修	講評の内容を自分なりにまとめる。	120分

科目名	刑法Ⅰ	担当者	南 由介	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅰの分野では、刑法の諸規定の解釈・適用の前提となる基本的知識（例えば、刑法の目的・機能や基本原則についての知識）を学修し、これによって修得した知識を基に、刑法（明治40年法律第45号）の総則（「第1編 総則」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
刑法Ⅰの分野についての専門的知識を修得し、刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
刑法を学習することについて、意欲的に取り組む意思がある学生に履修してもらいたい。

【授業方法】
学生に対し適宜質問を交えながら判例および学説の理解の深化を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生への質問とそれに対する教員の応答。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法Ⅰの分野についての専門的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。						1	1	1		1			
②	刑法の基本構造と刑法の総則の諸規定等の内容を理解し、概略的に説明することができる。						1	1	1		1			
③	刑法Ⅰの分野についての基本的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1	1	1		1			
④	刑法Ⅰの分野についての専門的知識を基に、刑法の総則の諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。						1	1	1		1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、グーグルクラスルーム等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ケーススタディ刑法〔第5版〕	井田良・丸山雅夫	日本評論社	2019	教科書	必携
よくわかる刑法〔第3版〕	井田良・佐藤拓磨編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
刑法総論判例インデックス〔第2版〕	井田良・城下裕二編	商事法務	2019	参考書	任意
刑法の時間	佐久間修・橋本正博編	有斐閣	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14：40～16：10（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室9号館4階 minami.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法と道徳	刑法は何のためにあるか、刑法と道徳の関係について。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法は何のためにあるか、刑法と道徳の関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
2	罪刑法定主義	罪刑法定主義の古典的内容と現代的 content について。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、罪刑法定主義の古典的内容と現代的 content について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
3	責任主義、刑法の解釈	責任主義の意義および刑法の解釈（文理解釈、目的論的解釈など）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、責任主義の意義および刑法の解釈について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
4	結果無価値論と行為無価値論	「結果」が悪いのか、「行為」が悪いのか、および、これらの見解からの帰結について	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、「結果」が悪いのか、「行為」が悪いのか、および、これらの見解からの帰結について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
5	刑法の適用	刑罰の法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、刑罰の法規の時間的適用範囲・場所的適用範囲について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
6	構成要件	犯罪論の体系と構成要件要素について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、犯罪論の体系と構成要件要素について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不真正不作為犯	不真正不作為犯の問題性および作為義務の発生根拠について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、不真正不作為犯の問題性および作為義務の発生根拠について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
8	因果関係（1）	条件関係について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、条件関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
9	因果関係（2）	法的因果関係（相当因果関係説、危険現実化説）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法的因果関係について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
10	故意	事実認識の程度（意味の認識）および未必の故意について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事実認識の程度および未必の故意について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
11	事実の錯誤（1）	事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、および、具体的事実の錯誤（法定的符合説、具体的符合説）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事実の錯誤と違法性の錯誤の違い、および、具体的事実の錯誤について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
12	事実の錯誤（2）	抽象的事実の錯誤（法定的符合説、抽象的符合説）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、抽象的事実の錯誤理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	過失犯、結果的加重犯	旧過失論、新過失論、危惧感説（新・新過失論）、管理・監督過失、および、結果的加重犯の諸問題について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、旧過失論、新過失論、危惧感説、管理・監督過失、および、結果的加重犯の諸問題について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
14	違法の実質	違法性、違法性阻却、実質的違法性論について。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違法性、違法性阻却、実質的違法性論について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
15	正当防衛	正当防衛の成立要件（急迫性、防衛の意思、「やむを得ずにした行為」など）、過剰防衛について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、正当防衛の成立要件、過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
16	緊急避難	緊急避難の法的性格、緊急避難の成立要件（「現在の危難」、避難行為、法益の均衡など）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、緊急避難の法的性格、緊急避難の成立要件について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
17	安楽死、尊厳死、終末期医療	安楽死（特に積極的安楽死）、尊厳死（治療行為の中止）の違法性阻却について。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、安楽死、尊厳死の違法性阻却について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
18	責任能力、原因において自由な行為	責任能力、責任無能力、限定責任能力、および、行為の責任の同時存在の原則について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、責任能力、責任無能力、限定責任能力、および、行為の責任の同時存在の原則について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	違法性の錯誤		違法性の錯誤における「違法性」、違法性の錯誤の回避可能性、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、違法性の錯誤における「違法性」、違法性の錯誤の回避可能性、事実の錯誤と違法性の錯誤の区別について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
20	違法性阻却事由の錯誤		事実の錯誤か違法性の錯誤か、それに関する学説（責任故意を否定する見解、消極的構成要件要素の理論、厳格責任説）、誤想過剰防衛について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、事実の錯誤か違法性の錯誤か、それに関する学説、誤想過剰防衛について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
21	実行の着手		処罰の拡張としての未遂犯、および、形式的客観説および実質的客観説について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、処罰の拡張としての未遂犯、および、形式的客観説および実質的客観説について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
22	不能犯		未遂処罰の根拠、未遂犯と不能犯の区別、危険判断の標準について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、未遂処罰の根拠、未遂犯と不能犯の区別、危険判断の標準について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
23	中止犯		中止犯の法的性格、任意性、中止行為について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、中止犯の法的性格、任意性、中止行為について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分
24	正犯と共犯		実行行為と正犯行為、正犯と共犯の区別、間接正犯について。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実行行為と正犯行為、正犯と共犯の区別、間接正犯について理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	共同正犯		犯罪共同説と行為共同説、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、犯罪共同説と行為共同説、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
26	共犯の従属性		共犯の従属性（実行従属性、要素従属性など）、共犯の処罰根拠、未遂の教唆について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、共犯の従属性、共犯の処罰根拠、未遂の教唆について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
27	幫助犯		幫助犯における促進関係、様々な形態の幫助（片面的、不作為、間接、中立的行為など）について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、幫助犯における促進関係、様々な形態の幫助について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
28	共犯の関連問題		不作為の共犯、共犯関係の解消、違法性阻却事由と共犯について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、不作為の共犯、共犯関係の解消、違法性阻却事由と共犯について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
29	共犯と身分		構成的身分と加減的身分、違法身分と責任身分、65条1項・2項の解釈について。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、構成的身分と加減的身分、違法身分と責任身分、65条1項・2項の解釈について理解し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分
30	犯罪の数、刑罰制度		本来の一罪と科刑上一罪、刑罰の意義と機能、刑罰の種類について。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、本来の一罪と科刑上一罪、刑罰の意義と機能、刑罰の種類について理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を復習し、抱いた疑問点を解消する。		120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義の方法を用いる。 オンライン授業の場合、GoogleClassroomを用いて動画を配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを文章に的確に表現できているか、によって評価する。 オンライン授業の場合、総合ポータルシステムを用いて試験を実施することがある。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を後日、総合ポータルシステムまたはGoogleClassroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法解釈論	設楽裕文	八千代出版	2020年	教科書	必携
刑法の目的と解釈	設楽裕文	八千代出版	2019年	教科書	必携
Next教科書シリーズ刑法各論	沼野輝彦＝設楽裕文編	弘文堂	2017年	参考書	推奨
法学刑法 5 判例インデックス1000 〈コンメンタール〉	設楽裕文編	信山社	2012年	その他	推奨
備考	『Next教科書シリーズ刑法各論』については、補遺を弘文堂のサイトから入手して手もとにおく必要がある (http://www.koubundou.co.jp/files/00227_1.pdf)。				

【オフィスアワー】
水曜日（16：10～17：10）オンライン授業実施中はメールで対応する。shitara.hirobumi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	序 刑法の基本原則と解釈	授業についての説明 成績評価の方法 刑法の基本原則と刑法解釈の関係	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、刑法の諸規定の解釈・適用に必要な基本原則に関する基本的知識を修得し、適正な解釈・適用とは何かについて理解する。	
	事前学修	以下、教科書『刑法解釈論』を「論」、『刑法の目的と解釈』を「目」と略記する。 論の3～14頁、目の第1章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
2	刑法解釈の方法	刑法の解釈方法 文章表現の技法	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、刑法の解釈方法と文章に表現する技法を理解する。	
	事前学修	論の15～23頁、目の第2章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
3	77～94条の諸規定の解釈	内乱に関する罪、外患に関する罪、国交に関する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、内乱に関する罪、外患に関する罪、国交に関する罪について理解する。	
	事前学修	論の91～97頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
4	95～96条の6の諸規定の解釈	公務の執行を妨害する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、公務の執行を妨害する罪について理解する。	
	事前学修	論の97～105頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
5	97～105条の2の諸規定の解釈	逃走の罪、犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、逃走の罪、犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪について理解する。	
	事前学修	論の105～112頁、目の第30章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分
6	106～118条の諸規定の解釈	騒乱の罪、放火及び失火の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、騒乱の罪、放火及び失火の罪について理解する。	
	事前学修	論の113～121頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	119～129条の諸規定の解釈	出水及び水利に関する罪、往來を妨害する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出水及び水利に関する罪、往來を妨害する罪について理解する。	
	事前学修	論の122～129頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
8	130～147条の諸規定の解釈	住居を侵す罪、秘密を侵す罪、あへん煙に関する罪、飲料水に関する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、住居を侵す罪、秘密を侵す罪、あへん煙に関する罪、飲料水に関する罪について理解する。	
	事前学修	論の129～139頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
9	148～161条の2の諸規定の解釈（1）	通貨偽造の罪の構造と解釈 文書偽造の罪の基本概念	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、通貨偽造の罪と文書偽造の罪の基本概念とを理解する。	
	事前学修	論の139～148頁、目の第29章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
10	148～161条の2の諸規定の解釈（2）	文書偽造の罪の各規定の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、文書偽造の罪の各規定について理解する。	
	事前学修	論の148～154頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
11	162～168条の3の諸規定の解釈	有価証券偽造の罪、支払用カード電磁的記録に関する罪、印章偽造の罪、不正指令電磁的記録に関する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、有価証券偽造の罪、支払用カード電磁的記録に関する罪、印章偽造の罪、不正指令電磁的記録に関する罪について理解する。	
	事前学修	論の154～165頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
12	169～173条の諸規定の解釈	偽証の罪、虚偽告訴の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、偽証の罪、虚偽告訴の罪について理解する。	
	事前学修	論の165～169頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	174～192条の諸規定の解釈	わいせつ・強姦性交等・重婚の罪、賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、わいせつ・強姦性交等・重婚の罪、賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪について理解する。	
	事前学修	論の169～183頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
14	193～198条の諸規定の解釈	汚職の罪（職権濫用罪、賄賂罪）の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、汚職の罪について理解する。	
	事前学修	論の183～191頁、目の第31章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
15	199～203条の諸規定の解釈	人に対する罪の基本問題 殺人の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、人に対する罪の基本問題、殺人の罪について理解する。	
	事前学修	論の192～195頁、目の第18章・第19章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
16	204～208条の2の諸規定の解釈	傷害の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、傷害の罪について理解する。	
	事前学修	論の195～201頁、目の第20章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
17	209～219条の諸規定の解釈	過失傷害の罪、堕胎の罪、遺棄の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、過失傷害の罪、堕胎の罪、遺棄の罪について理解する。	
	事前学修	論の201～207頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
18	220～229条の諸規定の解釈	逮捕及び監禁の罪、脅迫の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、逮捕及び監禁の罪、脅迫の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪について理解する。	
	事前学修	論の208～218頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	230～234条の2の諸規定の解釈	名誉に対する罪、信用及び業務に対する罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、名誉に対する罪、信用及び業務に対する罪を理解する。	
	事前学修	論の218～226頁、目の第21章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
20	財産罪の諸規定の解釈に入るにあたって	財産罪の概要・分類・基本概念（客体等）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産罪の基本的事項について理解する。	
	事前学修	論の226～227頁、目の22章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
21	235～245条の諸規定の解釈（1）	窃盗の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、窃盗の罪について理解する。	
	事前学修	論の226～228頁、目の第24章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
22	235～245条の諸規定の解釈（2）	強盗の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、強盗の罪について理解する。	
	事前学修	論の228～235頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
23	246～251条の諸規定の解釈（1）	詐欺罪の基本構造と解釈 欺罔行為と財産上の損害	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐欺罪の基本構造等について理解する。	
	事前学修	論の235～239頁、目の第25章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。。	120分
24	246～251条の諸規定の解釈（2）	電子計算機使用詐欺罪、背任罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、電子計算機使用詐欺罪、背任罪について理解する。	
	事前学修	論の239～243頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	246～251条の諸規定の解釈（3）	背任罪（特に共同正犯の成立範囲関係）、準詐欺罪、恐喝罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、背任罪の共同正犯の成立範囲、準詐欺罪、恐喝罪について理解する。	
	事前学修	論の243～246頁、目の第27章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
26	252～255条の諸規定の解釈	横領の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、横領の罪について理解する。	
	事前学修	論の246～254頁、目の第26章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
27	256～257条の諸規定の解釈	盗品関与罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、盗品関与罪について理解する。	
	事前学修	論の254～259頁、目の第28章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる	120分
28	236～256条の解釈と民法的不法（まとめ）	二項強盗罪、詐欺罪、恐喝罪、横領罪、盗品関与罪と民法的不法	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、上記の財産罪と民法的不法の関係について理解する。	
	事前学修	論の229頁、236～237頁、249～250、254～256頁、目の第23章を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
29	258～264条の諸規定の解釈	毀棄及び隠匿の罪の構造と解釈	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、毀棄及び隠匿の罪について理解する。	
	事前学修	論の259～267頁を読み、問題点をメモする。	120分
	事後学修	授業の際にとったメモを基にノートをまとめる。	120分
30	授業のまとめ	刑法各則の諸規定等の解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、解釈・適用の思考過程を的確に文章に表現する方法を理解する。	
	事前学修	教科書とノートを読み返し、問題点をメモする。	120分
	事後学修	今まで学んできたことを整理する。	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	南部 篤	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
なし。ただし、刑法Ⅰを履修済みであることがのぞましい。刑法総論（刑法Ⅰ）の修得内容の理解を前提に授業を進めるからである。

【授業方法】
テキストに沿って進める。ただし、テーマの重要度、難易度に応じて割愛、要約、補足説明を行うことがある。試験の解説は、後日ポータルシステム等により行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者に対し、授業における議論への積極的参加を促し発言を求めるほか、課題を示して能動的な取り組みを行うよう導いて行く。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。				1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。					1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。						1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の解説・講評は、実施後の翌授業期日に行い、それが困難な場合および定期試験のそれはポータルシステムによる配信により行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ネクスト教科書シリーズ・刑法各論	沼野輝彦＝設楽裕文編	弘文堂	2017年発行		
備考	版，刷があらためられた場合は，開講時現在で最新のものを準備すること。				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 事前アポイントメントを前提に、場所・方法を調整した上で面談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	刑法各論の基礎、保護法益の概念および各則の体系		刑法各論という学問分野の特徴をまなび、個々の犯罪定型の解釈指針としてもっとも重要な「保護法益」を検討する。	
	この回の到達目標	保護法益とは何かを正しく理解し、保護法益の帰属主体に基づく各種犯罪類型の体系的配列について説明することができる。		
	事前学修	すでに単位取得済みであっても、刑法総論全般を自身で復習し、基礎的理解を十分なものにしておく。とくに、責任主義と罪刑法定主義、構成要件要素、既遂と未遂、違法と責任分野の基本的テーマ等の理解を確認しておくこと。		100分
	事後学修	保護法益について、「利益」、「法益」、「権利」の意義とそれらの関係、法益の帰属主体による各種犯罪の三分類、体系的把握に関し、整理・確認を行う。		140分
2	生命に対する罪		殺人等の生命を保護法益とする罪の特徴と、固有の論点を検討する。	
	この回の到達目標	人の生命を保護法益とする犯罪類型の概要を説明し、人の始期と終期など生命に対する犯罪類型固有の問題点を整理して説明することができる。		
	事前学修	殺人とその周辺の条文に目を通しておくこと。また、さまざまな法益の中で「生命」がもっとも重要なものであるとされる理由は何か、自分なりの答えを出せるよう考えておくこと。		120分
	事後学修	殺人罪と自殺関与等の罪の法定刑に著しい軽重の差があるのはなぜか、試みに自分の言葉で答案を書いてみる。		120分
3	身体に対する罪		傷害罪など身体に対する罪の全体とその特徴を検討する。	
	この回の到達目標	身体に対する各種犯罪の概要を整理して把握し、暴行・傷害・傷害致死など犯罪類型相互の位置づけと関係を正確に説明することができる。		
	事前学修	刑法が、生命に次いで身体を手厚く保護しているのはなぜか、こう問われたときどう答えるか、考えておくこと。		100分
	事後学修	「傷害」とは何か、「心と体」に対する加害行為が傷害罪にあたる場合とあたらない場合について、判例はどう考えているか、整理しておく。		140分
4	身体に対する罪（過失犯）		生命・身体に対する加害行為と過失致死傷、交通犯罪等の特徴を検討する。	
	この回の到達目標	単純過失傷害、同過失致死、業務上および重過失致死傷、さらに過失運転致死傷等各罪の内容を、それら規定の法改正の経緯をふまえて説明することができる。		
	事前学修	過失犯は、故意に生命を害した場合・傷害を負わせた場合と比較し、どういった点が違うのか、よく考えてみたうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	単純過失傷害・致死の刑が著しく軽い理由は何か、また、自動車運転に起因する死傷事故に対する刑事規制はどのように変わってきたのか、整理しておく。		120分
5	人身の自由に対する罪		逮捕・監禁、略取・誘拐の罪について、その保護法益と個々の類型の特徴・内容について検討する。	
	この回の到達目標	逮捕・監禁罪ならびに略取・誘拐および人身売買罪について、それらの保護法益論をふまえた犯罪類型の特徴と内容について説明することができる。		
	事前学修	人の行動の自由を奪う行為を刑罰を用いて禁圧する理由は何か、いいかえれば逮捕監禁罪は何を保護しようとしているのかを考えてみること。		120分
	事後学修	逮捕監禁罪の保護法益と、略取誘拐罪の保護法益との比較、また略取誘拐、人身売買の罪に関する法改正の内容と経緯・理由について整理しておく。		120分
6	精神的自由に対する罪		脅迫、住居侵入、秘密を侵す罪等の精神的自由を侵害する犯罪類型について、その保護法益と個々の類型の特徴・内容について検討を加える。	
	この回の到達目標	脅迫罪等の精神的自由を害する犯罪について、それらの概要を示し、とくに住居侵入罪の保護法益をめぐる判例の変遷について説明し、判例の問題点を指摘することができる。		
	事前学修	脅迫罪が保護する自由とは何か、住居侵入・秘密を侵す罪は何を保護しようとしているのか、を考えてみる。		100分
	事後学修	住居侵入罪の保護法益をめぐる判例と学説の動向について整理し、自分なりにまとめる。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	名誉の保護と名誉毀損罪、侮辱罪		名誉に対する罪の特徴、その構成要件の内容を分析し、現行法が人の名誉をどのように保護しようとしているかを検討する。	
	この回の到達目標	名誉毀損罪について、名誉とは何か、本罪成立に事実の摘示が必要な理由、公然性の要件と公然性が要求される理由について説明することができる。		
	事前学修	名誉とは無縁の一般の人々は、刑法で保護される名誉毀損とはかかわりないのか、刑法が保護する「名誉」は何を意味するのか、考えたうえで授業に臨むこと。		120分
	事後学修	侮辱と名誉毀損、生者に対する名誉毀損と死者の名誉を毀損する行為、との比較対照を通じてここでの諸テーマを整理する。また、公然性が要求される理由とは何かについて再確認しておく。		120分
8	名誉の保護と言論・表現、取材・報道の自由		刑法230条の2の規定がおかれた理由を考えたうえで、同規定により処罰が妨げられる場合を検討し、とくに真実性の証明に関する判例と学説を考察する。	
	この回の到達目標	真実性の証明に関する判例の意義を理解した上で、個人の名誉の保護と表現の自由、取材・報道の自由、知る権利との関係を適切に整理し、説明することができる。		
	事前学修	誰のどんな事実であっても名誉を傷つける行為全てを処罰する、すなわちどれほど公的地位にある者でも権力者でも、名誉はどこまでも刑罰で保護されるべきだ、という考え方の徹底は、何をもちたらずかを考えてみる。		100分
	事後学修	名誉という個人的法益の保護と、言論・表現の自由、マスメディア等の取材・報道の自由の保護とは、どちらが優先されるか、あるいはどのように調和を図るべきか、整理しておく。		140分
9	業務に対する罪		偽計、威力による業務妨害を処罰する犯罪類型について、その保護法益論をふまえ、成立要件を検討する。	
	この回の到達目標	威力業務妨害、偽計業務妨害罪の成立要件について、具体例をあげて説明することができる。		
	事前学修	「業務」という言葉から何を連想するか、その指し示す意味内容と、なぜ刑法がそれを保護しようとしているのかを考えてみること。		110分
	事後学修	業務として保護されるものには何があるのか、公務執行妨害により保護される公務との関係はどうか、威力と偽計による業務妨害の具体的事例にはどんなものがあるか、整理しておく。		130分
10	性犯罪		強制性交等罪および強制わいせつ罪を中心に、性に関する自己決定の自由を保護する罪としての性犯罪を検討する。近時の大きな改正がもたらした点を中心に、性犯罪の課題にも目を向け考察を行う。	
	この回の到達目標	強制性交等罪、強制わいせつ罪について、それらの成立要件および関連する類型の内容を明らかにし、またその保護法益が性に関する自己決定権であること、その手段たる暴行・脅迫の程度など特徴を説明することができる。		
	事前学修	強制わいせつ罪、強制性交等罪の意義、これらの罪は、わいせつ物頒布等罪など性表現に関する罪とその犯罪としての性質がどう違うのか、考えてみること。		120分
	事後学修	強制性交等罪を中心に近時行われた大きな法改正の内容と、立法経緯、その理由、改正前後の変更点について確認・整理しておく。		120分
11	財産犯罪の基礎		刑法における財産の保護と財産犯の体系を概観し、各種財産犯罪の今日的課題を視野に入れて検討を行う。	
	この回の到達目標	財産犯罪の種類を挙げ、刑法典が、章別にそれらをどのように位置づけているかを説明することができる。		
	事前学修	なぜ刑法は財産を保護する必要があるのか、また財産犯罪の種類について窃盗罪以下の条文を事前に読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	他人の財産に対する加害的行為のうち、刑法はその一部をピックアップし、その特徴を記述することにより犯罪として規定しているが、財産犯全体の構成要件的行為と法定刑を一覧できるよう整理してみる。		120分
12	窃盗罪		窃盗罪について、その構成要件の基本的構造と罪質、成立要件に関して検討を行い、保護法益、占有の概念、実行の着手時期、既遂時期、不法領得の意思等について詳細に検討を加える。	
	この回の到達目標	窃盗罪の罪質の特徴、構成要件の構造、成立要件を説明し、保護法益、占有侵害、不法領得の意思に関する判例の考え方を明らかにすることができる。		
	事前学修	窃盗と強盗は、なぜ同じ章に規定されているか、また、これら二つの罪の違いはどこにあるか、条文の比較を試みること。		110分
	事後学修	窃盗罪の客体たる財物の意義について、占有の意義について、保護法益について、また不法領得の意思に関して、判例と学説を整理しておく。		130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	強盗罪		強盗罪の構成要件の特徴、実行行為たる暴行・脅迫の概念、強盗に関連する諸類型について検討を加える。
	この回の到達目標	強盗罪の性格と特徴を十分に理解した上で、諸問題についての判例の態度をふまえ、自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	窃盗には財物に対する領得行為を罰する規定しかないが、強盗には財物に対する一項の規定と利益に対する二項の規定があるが、これはなぜかを考えてみることに。	120分
	事後学修	単純強盗と事後強盗、こん睡強盗、強盗致死傷、強盗殺人と強盗致死等の関連する諸規定・諸類型の擬律について整理しておく。	120分
14	詐欺罪		詐欺罪の性格と構成要件の構造と特徴について、判例と学説の整理・分析を通じた考察を行い、詐欺罪の成否が問題となる具体例を素材にした検討を加える。
	この回の到達目標	窃盗などとの比較を通じて詐欺罪の特徴を明らかにし、その実行行為、処分行為などについて、判例の立場を説明し自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	詐欺罪が、「窃盗及び強盗の罪」とは別の章、すなわち次に扱われる恐喝罪と一緒に「詐欺及び恐喝の罪」の章に置かれてのはなぜかを考えてみることに。	140分
	事後学修	詐欺罪の構成要件の構造とその構成要素（人を欺く行為、錯誤、処分行為、財物・利益の移転の連鎖）、処分行為の意義についての判例と学説について整理しておく。	100分
15	恐喝罪		構成要件の内容と特徴、詐欺と恐喝、強盗と恐喝との比較等を通じて検討を加え、恐喝罪に関する諸問題について考察する。
	この回の到達目標	恐喝罪の構成要件の内容と特徴をふまえ、詐欺との関係、強盗との比較など、恐喝罪の概要と関連する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	恐喝罪と詐欺罪との共通の性格は何か、異なる点は何かにについて考えてみることに。	120分
	事後学修	正当な権利を有する者が、その権利行使の手段として用いた方法が脅迫行為に当たる場合、恐喝罪が成立することがあるか、あるとすればどのような場合で、どの範囲について恐喝が認められるか、解答を試みる。	120分
16	横領罪・背任罪		横領罪および背任罪について、それぞれの類型の内容と特徴を明らかにし、両者の関係を検討する。
	この回の到達目標	横領罪の成立要件と横領行為について、および、背任罪の成立要件と特徴を述べ、両罪の関係を説明することができる。	
	事前学修	横領罪に問われる典型的な行為はどのようなものであるか、テキスト等から納得いくまで読み取っておくこと。	100分
	事後学修	横領、業横、遺失物等横領、窃盗を比較対照し、占有侵害の有無、委託信任関係違背の点、背任との区別、占有が委託等による基礎を有するか否か、占有の業務性、など諸点の関係を各自で表を作るなどして整理しておく。	140分
17	盗品等に関する罪		盗品等に関する罪の意義を明らかにし、その保護法益に関する議論をながめ、同罪が規定する各種の類型の内容と問題点を検討する。
	この回の到達目標	盗品等に関する罪がおかれている趣旨をふまえ、その保護法益を説明し、同罪を構成する各種類型の内容を述べ、本犯との関係を説明することができる。	
	事前学修	財産犯罪を抑止するために盗品等の買受行為などを厳しく処罰する必要があるのはなぜか、考えてみることに。	120分
	事後学修	保護法益をめぐる議論、盗品等に関する各種犯罪類型の内容、本犯の共犯者による行為の取扱いについて整理し、自分の考えをまとめておく。	120分
18	毀棄・隠匿の罪		毀棄隠匿の罪について、その保護法益、犯罪類型の特徴、他の財産犯との関係などの諸点について検討を加える。
	この回の到達目標	毀棄隠匿の罪の内容と保護法益、構成要件の結果を説明し、判例の立場と問題点を明らかにして自己の見解を述べることができる。	
	事前学修	器物損壊は他人の物を破壊等する財産侵害行為であって、物の効用を所有者から完全に奪う点に特徴がある。しかし刑罰は最高3年の懲役で、所有者による回復可能性を残す窃盗より相当軽い。この理由を考えて授業に臨むこと。	100分
	事後学修	物の破壊、隠匿等利用妨害、動物の殺傷など本罪を構成する様々な行為の態様を挙げ、分類・整理しておく。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	放火罪	放火罪が客体の別および公共の危険発生の別により詳細な規定を持ち、その刑罰の重い点などの特徴を有するものであることをふまえて、既遂時期、客体の把握方法等について検討を加える。	
	この回の到達目標	公共危険犯の典型としての放火罪の問題点を理解した上で、判例の立場を検討し、今日の建造物の構造と建材の特徴をふまえて妥当な見解を述べることができる。	
	事前学修	住宅等への放火に、死刑を含む殺人と同等の重い刑罰が予定されている理由はなぜか、自己の見解を述べられるよう考察しておくこと。	120分
	事後学修	客体の別により、各種放火罪が、具体的危険発生の要否、法定刑の大きな格差など細かにかき分けられていることを条文に即して確認・整理しておく。	120分
20	その他の公共危険犯等	騒乱罪、出水等に関する罪、往来妨害罪、および薬物濫用犯罪について検討する。	
	この回の到達目標	刑法が規定する騒乱罪、往来妨害罪などの公共危険犯の内容と問題点を、判例の態度をふまえて説明し、刑法典以外の罰則におよぶ薬物濫用犯罪の今日の課題を指摘することができる。	
	事前学修	麻薬などの規制薬物を自己に用いる行為は、直接他人向けられた加害行為と言い難い面を持つが、それにもかかわらず処罰の対象とされるのはなぜかを考えておくこと。	120分
	事後学修	薬物濫用行為の規制は、刑法典以外の法令に委ねられている部分がほとんどである。そこで、戦後の薬物規制立法の沿革と内容、現行法令の概要をまとめ、理解を深めておく。	120分
21	通貨偽造罪および有価証券偽造罪	通貨偽造罪、有価証券偽造罪について、その犯罪としての特徴、保護法益、構成要件の内容等について検討を加える。	
	この回の到達目標	通貨偽造罪の保護法益は何か、通貨の意義、偽造の概念と模造、偽造と変造、偽造行為と行使行為、目的犯であること、偽造罪・行使罪・交付罪・取得罪等について説明すること、また有価証券偽造についても同様に説明することができる。	
	事前学修	偽札を作ったり、勝手に人の名前の領収書を作ったりすることを、なぜ重い刑罰で禁止する必要があるのか。仮に、大量の偽札が出回る事態が起こったとして、それが何をもたらすのか。こうしたことを考察してみること。	140分
	事後学修	行使の目的とは何か、偽造と変造の違いは何か、偽造と模造との違いは何か、偽造と行使との関係はどうか、通貨の概念・有価証券の概念、こうしたことについて、自分自身納得がいくまで検討し、確認・整理しておく。	100分
22	文書偽造罪等	偽造の概念と、詔書偽造、公文書偽造、私文書偽造について、および印章偽造、電磁的記録不正作出、不正指令電磁的記録に関する罪等につき検討する。	
	この回の到達目標	文書偽造（有形偽造）と虚偽文書作成（無形偽造）との関係をふまえ、各種文書偽造罪の成立要件を正しく説明し、また電磁的記録不正作出罪等の文書偽造周辺の犯罪について説明することができる。	
	事前学修	他人の名義の文書を勝手に作ることと、内容虚偽の自分名義の文書を作ることが区別され、私文書においては後者は処罰の対象とはならない理由はどこにあるか、自分なりの答えを出したうえで授業に臨むこと。	120分
	事後学修	可視性・可読性、永続性、有形偽造と無形偽造、偽造と虚偽文書作成、公・私文書、有印・無印文書、権利・義務、事実証明に関する文書の概念等につき得心が行くまでテキスト等を読み込み、確認と整理を怠らない。	120分
23	わいせつ表現犯罪等	公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等の罪、重婚罪などの各種わいせつ犯罪について検討する。	
	この回の到達目標	公然わいせつ罪等のわいせつ表現犯罪と重婚罪等の保護法益の理解を前提に、これらの類型の内容と問題点を整理し、説明することができる。	
	事前学修	なぜ、わいせつな表現行為に刑法が介入する必要があるのか（刑罰をもって禁圧することが正当とされる理由は何か）、ポルノグラフィーなどを処罰することにより何を護ろうとしているのか、考えたうえで授業に臨むこと。	120分
	事後学修	公然わいせつ罪とわいせつ物頒布等の罪の刑罰に、大きな差異が設けられている理由は何かについて、各自、答案を書いてみる。	120分
24	風俗を害する罪	賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪について検討を加える。	
	この回の到達目標	賭博罪や礼拝所不敬罪などの犯罪について、その意義・保護法益をふまえ、内容と問題点を説明することができる。	
	事前学修	自分の金を賭けて賭博に参加することは、自身の財産を自己の意思で処分すること（もとより殆どの場合掛金を失うことになる）なので、刑罰をもって介入禁止する必要があるどこにあるのか、考えてみた上で授業に参加すること。	100分
	事後学修	賭博・富くじの罪、礼拝所・墳墓に関する罪の保護法益は何か、言い換えれば、これらの犯罪は誰の、どのような利益を侵害する犯罪なのか、という設問について答えを書いてみる。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	職権濫用罪		公務員を犯罪主体とする罪としての職権濫用の罪について検討する。	
	この回の到達目標	公務員による個人に対する加害行為を罰する職権濫用罪が、国家的法益に対する罪と位置づけられていることの意味を理解した上で、各種職権濫用罪の内容を説明し、問題点を明らかにすることができる。		
	事前学修	職権濫用罪の被害者は誰か、同罪はなぜ「汚職の罪」として位置づけられているのか、十分に考えた上で授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	職権濫用罪の成否が争われた事例について、そこでは何が争点とされ、裁判所はどのような判断を示したか、その判例の考え方は妥当なものかを論評してみる。	120分	
26	賄賂罪		公務員を犯罪主体とする罪としての賄賂の罪について検討する。	
	この回の到達目標	賄賂罪が、公務の公正さと公正さに対する国民の信頼を保護法益とする犯罪であることを説明し、各種賄賂罪の成立要件を明らかにし、職務関連性についての判例の態度とその理由を説明することができる。		
	事前学修	賄賂罪の被害者誰か、賄賂のやり取りは、どのような害悪をもたらすか、よく考えて自分なりの答えを得た上で授業に臨むこと。	120分	
	事後学修	収賄罪構成要件の中核にある「職務関連性」をめぐる論点を整理し、わが国の判例がどのような事案について、いかなる判断を示してきたかを整理・分析しておく。	120分	
27	公務執行妨害罪		公務を害する罪としての公務執行妨害罪の内容と問題点を検討する。	
	この回の到達目標	公務執行妨害罪、職務強要罪、封印破棄・談合等の罪について説明し、とくに公務執行妨害罪に関する職務行為の適法性について自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	刑法は、公務執行中の公務員に暴力を振るったり脅迫を加えたりする行為を処罰しているが、これは何を保護しようとしているのか、この点について自分の考えをまとめた上で授業に臨むこと。	100分	
	事後学修	公務執行妨害罪成立のためには、公務の外形を有することで足りるのか、それとも適法なものでなければならないのか、適法性を要するとして、どの程度厳格に要求されるのか、業務妨害との関係はどうかを整理しておく。	140分	
28	司法作用を害する罪		逃走の罪、犯人蔵匿・証拠隠滅、偽証等の刑事司法作用の適正円滑な働きを保護する犯罪を検討する。	
	この回の到達目標	逃走の罪等刑事司法作用を保護する犯罪類型について説明し、これらの司法妨害関連犯罪の諸問題について、自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	勾留中の被疑者や、刑務所収容中の受刑者がそれら刑事施設から逃走することや、犯人を匿ったり証拠を消し去ったりすることが処罰されるのはなぜか、考えてみる。	120分	
	事後学修	逃走、犯人蔵匿、証拠隠滅、偽証の各罪について、また捜査機関への不協力が犯人蔵匿罪に問われることがあるのか、冤罪を主張して逃走中の者の無実を信じて隠避する行為も同罪に問われるか等論点を整理し、確認する。	120分	
29	国家の存立を脅かす罪		国家の存立を脅かす罪としての内乱および外患の罪について検討する。	
	この回の到達目標	内乱に関する罪および外患に関する罪の意義と保護法益を明らかにし、これらに関する問題点について自己の見解を述べることができる。		
	事前学修	内乱罪は国の統治機構自体の破壊を指向する大規模な加害を想定した犯罪であるが、過去に本罪に問われた例はあるのか、調べてみる。	120分	
	事後学修	内乱、外患の成立要件と、関連する各種の規定を整理しておく。	120分	
30	国交に関する罪		外国国章損壊罪、私戦予備・陰謀罪、中立命令違反罪について検討する。	
	この回の到達目標	国交に関する罪の意義と保護法益を理解した上で、外国国章損壊罪、私戦予備・陰謀罪、中立命令違反罪がおかれていることの意義を明らかにし、これらの罪の内容と問題点について説明することができる。		
	事前学修	衆人環視の中で外国の国旗を焼いたり、外国に敵対する軍事組織に所属して攻撃する準備を行ったりする行為は、それら外国の利益を保護するためのものなのか、考察した上で授業に臨む。	120分	
	事後学修	刑法が国益を護るために定める各種国交に関する罪を整理し、その保護法益、成立要件等を確認する。	120分	

科目名	刑法Ⅱ【法職課程】	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
法曹コース生向けの授業であるので、総合法コースの学生は同コースの刑法Ⅱをとること。

【授業方法】		
担当者が作成するレジュメも併用し講義する。事前学習であらかじめ指示した箇所を必ず読み授業に臨む。定期試験の模範解答等を後日ポータルシステムで配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、 及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解 決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評 価する。	15	15	30	40							100	
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)	15	15	30	40						100	

【課題に対するフィードバックの方法】												
試験の模範解答等を，後日，ポータルシステムにて配信する。												

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法 第3版	山口厚	有斐閣	2018	教科書	必携
刑法各論 第8版	西田典之著 橋爪隆補訂	有斐閣	2019	参考書	推奨
判例刑法各論 第7版	西田典之ほか	有斐閣	2018	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】												
火曜日 昼休み 研究室												

【実務経験を活かした実践的教育について】												
担当教員の実務経験の有無		無	実務経験の内容									
実務経験に基づく実践的教育の内容												

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法各論で学ぶべきこと	刑法総論と異なり、個々の刑罰法規をめぐる解釈論を展開するのが刑法各論である。その学ぶ心構えについて考える。	
	この回の到達目標	刑罰法規を解釈する意義、保護法益、法益侵害行為、時代の変化と刑法解釈について、説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。	120分
2	個人的法益に対する罪・総説	人の生命は最も重要な法益である。この法益をどのように保護するべきか考察する。	
	この回の到達目標	人の生命に対する罪の全体像を説明できるとともに、人の始期と終期について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
3	刑法による生命保護	殺人罪、同意殺人・自殺関与罪について考察する。欺罔によって得らえた被害者の同意の問題もここで扱う。	
	この回の到達目標	199条と202条の区別について説明できる。積極的安楽死や治療中止について裁判例をふまえて説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	生命・身体に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）	120分
4	刑法による身体の保護（1）	暴行罪、傷害罪、傷害致死罪を中心に、刑法が人の身体をどう保護するべき考察する。	
	この回の到達目標	傷害概念について説明することができる。結果的加重犯としての傷害罪と故意犯としての傷害罪について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
5	刑法による身体の保護（2）	同時傷害の特例、凶器準備集合・結集罪、自動車運転死傷処罰法について考察する。	
	この回の到達目標	同時傷害の特例の適用範囲、凶器準備集合等罪の保護法益、危険運転致死傷罪について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
6	生命身体に対する危険犯	人の生命身体に対する危険犯である遺棄罪について学ぶ。胎児の生命身体に対する危険犯である堕胎罪についても学ぶ。	
	この回の到達目標	危険犯（抽象的危険犯と具体的危険犯）と侵害犯について説明できる。遺棄概念について説明できる。胎児性致死傷について論評できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	身体的内密領域に対する罪		平成29年に性犯罪が抜本的に改正された。ただし今も様々な議論が交わされている。新設された犯罪類型とその問題点について考察する。	
	この回の到達目標	性犯罪の保護法益、強制性交等罪、監護者わいせつ・性交等罪について説明できる。		
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。		120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。		120分
8	自由に対する罪		生命や身体について、人間が生きていく上で重要な法益が自由である。自由という法益の特質をふまえながら、脅迫罪、強要罪、逮捕監禁罪、略取誘拐・人身売買罪について考察する。	
	この回の到達目標	それぞれの構成要件について説明することができる。離婚協議中の親による子の奪い合いについて説明することができる。		
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。		120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。		120分
9	個人の私的領域を侵す罪		住居侵入罪や秘密侵害罪について学ぶ。住居侵入罪は他の犯罪と随伴して行われることが多く、解釈論上の重要な論点も存在している。秘密侵害罪の守備範囲についても考察する。	
	この回の到達目標	住居侵入罪の保護法益をめぐる議論状況を説明することができる。秘密漏示罪の処罰範囲について説明ができる。		
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。		120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。		120分
10	社会的活動の主体としての人の保護		名誉、信用、業務に対する罪について学ぶ。とくに名誉毀損罪における公共の利害に関する場合の特例（230条の2）は名誉の保護と言論の自由の尊重とをどう調和させるかが課題となる。	
	この回の到達目標	名誉毀損罪、信用毀損罪、業務妨害罪について説明することができる。刑法230条の2の法意について説明することができる。		
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。		120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。		120分
11	財産犯総論		財産犯に共通する基本概念（財産と財産上の利益、財産犯の保護法益、不法領得の意思、占有概念）について学ぶ。	
	この回の到達目標	財産犯に共通する基本概念について説明することができる。財産犯の体系について説明することができる。		
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。		120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。		120分
12	窃盗罪と不動産侵奪罪		窃盗罪や不動産侵奪罪、親族相盗例について学ぶ。	
	この回の到達目標	窃盗罪や不動産侵奪罪の構造について説明できる。親族相盗例の適用範囲について説明することができる。		
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。		120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	強盗罪	強盗罪の罪質、1項強盗と2項強盗に関わる問題、事後強盗罪および昏睡強盗について学ぶ。さらに240条の擬律に関する問題も学ぶ。	
	この回の到達目標	強盗罪の構成要件について説明できる。事後強盗罪の構造について説明できる。240条の適用範囲について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
14	詐欺罪と恐喝罪	被害者の財産処分行為を介することにより成立する詐欺罪と恐喝罪について学ぶ。とくに詐欺罪に関する最近の裁判例について考察する。	
	この回の到達目標	詐欺罪の構成要件について説明することができる。詐欺罪に関する最近の裁判例について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
15	横領罪と背任罪	横領罪と背任罪の構造について学ぶ。	
	この回の到達目標	横領罪と背任罪の構成要件を説明することができる。両罪の類似点と相違点について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
16	盗品等に関する罪	いわば財産犯を補強する盗品等関与罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	盗品等関与罪の保護法益について説明できる。盗品等関与罪の類型について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
17	毀棄・隠匿罪	窃盗罪に次いで認知件数が多い器物損壊罪をはじめ各種毀棄・隠匿罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	毀棄・隠匿罪の保護法益について説明できる。毀棄隠匿罪の類型について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
18	社会的法益に対する罪・騒乱罪	社会的法益に対する罪の特徴について学ぶとともに、騒乱罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	社会的法益に対する罪の全体像について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	放火罪	現住建造物等放火罪、非現住建造物等放火罪、建造物等以外放火罪、その他放火に係る罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	放火罪の種類、放火罪の保護法益、焼損概念、建造物の一体性について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
20	往来を妨害する罪	交通妨害および交通危険に関する罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	往来を妨害する罪の種類について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
21	通貨偽造罪	通貨偽造罪、偽造通貨行使罪、外国通貨偽造罪など、偽造通貨等取得罪、取得後知情行使等罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	各犯罪の構成要件について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
22	文書偽造罪	公文書偽造罪、私文書偽造罪を中心に文書偽造罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	文書偽造罪の保護法益について説明できる。その理解が偽造罪の成否にどう関係するか説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
23	有価証券偽造罪・印章偽造罪	有価証券や印章に対する信用を害する罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	有価証券偽造罪、印章偽造罪の構成要件について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
24	支払用カード電磁的記録に関する罪・不正指令電磁的記録に関する罪	現代社会において重要性が増している支払用カードの信頼に対する罪について学ぶ。いわゆるコンピュータウィルス作成等罪についてもここで学ぶ。	
	この回の到達目標	支払用カードへの保護の必要性について説明できる。コンピュータウィルス作成罪の構成要件について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	わいせつの罪	風俗犯である公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等罪などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	両罪の保護法益について説明できる。表現・芸術の自由とのバランスを図るためにどうするべきかを説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
26	公務の執行を妨害する罪	公務執行妨害罪やその他の関係する犯罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	公務執行妨害罪により保護されるべき公務とは何かを説明することができる。公務の執行を妨害する罪の全体像について説明できる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
27	逃走罪、犯人蔵匿および証拠隠滅の罪	司法作用に対する罪である、逃走罪、犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪の保護法益について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
28	偽証罪・虚偽告訴罪	国家審判作用の安全に対する罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	偽証の定義をめぐる見解の対立について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	偽証の定義をめぐる見解の対立について説明することができる。	120分
29	職権濫用罪および賄賂の罪・総論	公務員による犯罪について、職権濫用罪について学ぶとともに、わいろに関する罪の基本概念も併せて学ぶ。	
	この回の到達目標	職権濫用とは何かを説明することができる。賄賂に関する罪の基本概念（保護法益、「職務に関し」、「請託」、不正な職務）について説明することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分
30	賄賂の罪・各論	賄賂に関する罪の諸類型、贈賄罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	賄賂罪の諸類型について説明し、どのように処罰範囲が拡張されているかを指摘することができる。	
	事前学修	該当するところを読み、不明な点と理解できる点を整理しておく。	120分
	事後学修	レジュメやノートを整理し、関連判例について論評する。	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
刑法Ⅰ（総論）を履修していることが望ましい。刑法は罪刑法定主義が支配する法律であるから、六法は必ず持参されたい。特に刑法各論ではこまめに条文にあたる。

【授業方法】
担当者が作成するレジュメも併用し講義する。事前学習であらかじめ指示した箇所を必ず読み授業に臨む。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験または授業内試験により、到達目標①②の理解が できているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に 行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できている か、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
答案採点后に、講評をメールにて一斉送信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講義刑法学・各論	井田良	有斐閣	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Googleクラスルームからメールを送信してください。速やかに対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	刑法各論で学ぶべきこと	個々の刑罰法規を解釈することの意義とは、私たちの日常生活における行為の自由が広狭することと連動している。このことの意味を考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて、理解し説明することができるようになる。①刑罰法規を解釈する意義、②解釈における保護法益の重要性、③法益侵害行為を明確にすることの重要性。	
	事前学修	はしがき、第1章を読む。	120分
	事後学修	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。	120分
2	人の生命に対する罪（1）	人の生命は個人が人生を送るうえで最も重要な法益である。刑法は人の生命をどう保護しようとしているのか、その体系を学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことを理解し説明することができるようになる。①人の生命に対する罪の全体像、②人の生命として保護されるのは何時から何時までか（始期と終期）。	
	事前学修	第2章を読む。	120分
	事後学修	人の始期と終期について説明せよ。	120分
3	人の生命に対する罪（2）	殺人罪は、通常殺人罪と同意殺人・自殺関与罪とに分かれる。なぜこうした構図を用意しているのかを考察するとともに、両罪の区別に関する事例について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①199条と202条との区別、②暴行・脅迫・欺罔行為によって得られた被害者の同意の効力。	
	事前学修	第2章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	人を欺いて自殺させる行為は何罪に該当するか。（2時間）	120分
4	人の身体に対する罪（1）	人の身体は、最も侵害されやすい法益であるとともに、身体の侵害を通じて行われる社会的行為も存在する（スポーツ、治療行為など）。身体に対する罪の基本概念を学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①暴行概念、②傷害概念、③精神障害の扱い、④日常生活と暴行・傷害。	
	事前学修	第3章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	精神障害は傷害に該当するか。（2時間）	120分
5	人の身体に対する罪（2）	暴行によって傷害さらには死亡に至ることは、よくあることである。こうした事態を想定している結果的加重犯の構造について学ぶとともに、同意傷害、度維持傷害の特例について触れる、	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①結果的加重犯、②同意傷害、③同時傷害の特例の射程範囲。	
	事前学修	第3章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	結果的加重犯について説明せよ。（2時間）	120分
6	生命及び身体に対する危険犯	生命及び身体に対する危険犯について学ぶ。危険が生じただけでなぜ処罰されるのか、危険の判断基準をどうすべきかを念頭に置きながら、考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①危険犯（抽象的危険犯と具体的危険犯）、②堕胎罪（胎児に対する罪であると同時に母体に対する罪でもあること）、③遺棄罪（遺棄概念、身分犯が置かれている理由）。	
	事前学修	第4章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	危険犯とは何か。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	身体的内密領域に対する罪		刑法典が制定されて以来、約110年ぶりに性犯罪の規定が改正され、強制性交等罪や監護者わいせつ・性交等罪などが創設された。性犯罪の処罰理由について考察する。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①性的自己決定権の内実、②強制性交等罪、強制わいせつ罪の構造、③監護者による性犯罪の構造。	
	事前学修	第5章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	性犯罪に関する旧規定と新規定の違いについて説明せよ。（2時間）	120分
8	自由に対する罪		憲法においては様々な自由が保障されているが、刑法の守備範囲は限定的である。いかなる自由をどのように保護するべきかを考察する。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①脅迫罪の保護法益、②強要罪の性格、③逮捕・監禁罪の保護法益、④略取誘拐・人身売買罪の保護法益。	
	事前学修	第6章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	逮捕・監禁罪の保護法益は何か。（2時間）	120分
9	個人の私的領域を侵す罪		プライバシーの保護も憲法においては重視されているが、刑法におけるその保護はやはり断片的である。住居侵入罪と秘密侵害罪を中心に考察する。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①刑法の保護に値する「私的領域」とは何か、②住居侵入罪の保護法益、③秘密侵害の規制方法。	
	事前学修	第7章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	住居侵入罪の保護法益をめぐる対立について説明せよ。（2時間）	120分
10	社会的存在としての人の保護（1）		社会的評価を受けながら私たちは日常生活を送っている。社会からの評価、信用を侵害する罪について考察する。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①名誉毀損罪の保護法益及び構造、②信用毀棄罪の保護法益、③業務に対する罪の保護法益。	
	事前学修	第8章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	名誉毀損罪の保護法益は何か。（2時間）	120分
11	社会的存在としての人の保護（2）		名誉毀損罪に焦点を当て、真実性の錯誤をめぐる処理の在り方について考察する。刑法230条の2の意義をどう解するかが重要である。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①230条の2の沿革、②真実性の証明が失敗した場合の問題点、③言論の自由と名誉保護の調和点はどこか。	
	事前学修	第8章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	真実性の錯誤をどう考えるべきか。（2時間）	120分
12	財産犯総論（1）		財産犯に共通する論点について2回に分けて講ずる。
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①財産犯の体系、②故意犯処罰の原則が貫かれている意味、③財物と財産上の利益の区別。	
	事前学修	第9章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	財物と財産上の利益について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	財産犯総論（2）	財産犯に共通する問題で、前回触れた以外の論点について講ずる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①財産犯の保護法益（占有説、本件説）、②不法領得の意思（利益窃盗不可罰の理由）、③占有概念。	
	事前学修	第9章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	財産罪の保護法益について説明せよ。（2時間）	120分
14	窃盗罪と不動産侵奪罪	窃盗罪と1960年代に新設された不動産侵奪罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようにする。①窃盗罪の構造（利益窃盗が不可罰であることの理由〔再確認〕、②不動産侵奪罪の構造、③親族相盗例の適用範囲。	
	事前学修	第10章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	不動産侵奪罪の特徴について説明せよ。（2時間）	120分
15	強盗罪（1）	財産犯の中でも凶悪犯に分類される強盗罪について2回に分けて講ずる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①強盗罪の構造、②1項強盗と2項強盗の違い、③事後強盗罪・昏睡強盗罪と強盗罪との区別。	
	事前学修	第11章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	強盗罪の要件について説明せよ。（2時間）	120分
16	強盗罪（2）	強盗罪は財産だけでなく、被害者の生命及び身体をも危険にさらす犯罪である。240条はこのことを想定した規定であるが、法定刑が極めて重いため、適用範囲をどう画するかが問題となる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①240罪の構造、②適用範囲をめぐる争い（機会説、手段説、折衷説）。	
	事前学修	第11章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	240条の適用をめぐる見解の対立について説明せよ。（2時間）	120分
17	詐欺罪と恐喝罪	詐欺罪と恐喝罪はともに被害者の意思および行為に基づいて財産が行為者へ移転される罪である。詐欺罪については裁判例が活発な動きを見せている。そうした事案も踏まえて考察する。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①詐欺罪が既遂に至るための要件、②詐欺罪の処罰根拠、③権利行使と恐喝罪の関係。	
	事前学修	第12章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	ヤクザが、暴力団関係者の使用禁止の看板を掲げているゴルフ場を利用することは、2項詐欺罪に当たるか。（2時間）	120分
18	横領罪と背任罪	被害者との委託信任関係を裏切ってなされるのが横領罪と背任罪である。両罪の類似点と相違点を明確にするとともに、経済と両罪の関係をも考察する。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①横領罪と背任罪の構成要件における共通点と相違点、②不法原因給付物と横領、③背任罪の本質・	
	事前学修	第13章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	横領と背任の区別について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	盗品等に対する罪	財産犯の背後をカバーするのが盗品等に関する罪である。財産犯に対して刑法が二段構えをとっている理由を探る。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①盗品等に対する罪の保護法益、②盗品等に対する罪の諸類型とその典型例。	
	事前学修	第14章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	盗品に対する罪の保護法益は何か。（2時間）	120分
20	毀棄・隠匿の罪	財産を毀損する罪も財産犯のかなめの一つである。毀棄隠匿罪の存在理由について考察する。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①毀棄及び損壊概念、②器物損壊罪の構造、③文書等毀棄罪の構造、④建造物損壊罪の構造。	
	事前学修	第15章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	器物損壊罪の保護法益について説明せよ。（2時間）	120分
21	社会的法益に対する罪・総説	以上は個人的法益に対する罪であったが、ここからは社会的法益に対する罪について学ぶ。社会的法益とは何かを明らかにするとともに、その一つである騒乱罪について触れる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①社会的法益とは何か、②騒乱罪の構造。	
	事前学修	第16章、第17章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	公共危険罪とはどのような犯罪か。（2時間）	120分
22	放火の罪	放火の罪は社会的法益に対する罪の代表格である。比較的既遂に至りやすいため、放火罪の構成要件を正確に理解することが求められる。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①現住建造物等放火罪の構造、②非現住建造物等放火罪の構造、③建造物等以外放火罪の構造。	
	事前学修	第18章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	焼損概念について説明せよ。（2時間）	120分
23	通貨偽造罪	各種偽造罪についてここから学ぶ。偽造罪も社会的法益に対する罪であるが、その法益をどう解するかが重要である。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①通貨偽造罪の保護法益および構造、②取得後知情行使等罪の射程範囲。	
	事前学修	第20章、第21章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	取得後知情行使等罪について説明せよ。（2時間）	120分
24	文書偽造罪	文書偽造罪について学ぶ。文書には様々な社会的機能があるが、何をもって偽造といえるかが問題となる。	
	この回の到達目標	つぎのことについて理解し説明することができるようになる。①文書偽造罪の基礎理論をめぐる対立、②公文書偽造罪および虚偽公文書作成罪の構造、③私文書偽造罪の構造。	
	事前学修	第22章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	文書偽造罪の基礎理論について説明せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	有価証券偽造罪	通貨や文書以外にも、社会的信頼が担保されなければならない客体がある。とりわけ経済取引に 関係する客体に対する偽造罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①有価証券偽造罪の構造、②支払用カード電磁的記録の罪の構造、③不正指令電磁的記録に関する罪に対する構造。	
	事前学修	第23章、第24章、第25章、第26章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	ウィルス作成罪の意義について説明せよ。（2時間）	120分
26	風俗犯総説	風俗犯とは、社会集団の生活上の様々な仕方やしきたりを保護するためにあるが、ここでは性風俗を侵害する罪について学ぶ。性風俗は日々変化し、芸術活動の制約にもつながる恐れがある。 調和点について考察したい。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①わいせつ罪の保護法益、②わいせつ概念の変遷、③インターネットとわいせつ罪に関わる問題。	
	事前学修	第27章、第28章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	芸術作品とわいせつの罪の関係について説明せよ。（2時間）	120分
27	公務の執行を妨害する罪	公務の執行を担保するための犯罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①公務執行妨害罪の構造、②不正な公務も保護されるのか、③職務強要罪の構造。	
	事前学修	第31章、第35条を読む。（2時間）	120分
	事後学修	公務執行妨害罪において保護される公務とは何か。（2時間）	120分
28	刑事司法作用に対する罪	刑事司法作用を保護する罪について学ぶ。保護法益や罪質をどうとらえるかにより、帰結が大きく変わりうる犯罪である。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①犯人蔵匿・証拠隠滅罪の構造、②偽証罪の保護法益。	
	事前学修	第37章、第38章、第39章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	偽証の本質について説明せよ。（2時間）	120分
29	公務員による犯罪	公務員が主体となる犯罪について学ぶ。職権濫用罪と収賄罪、贈賄罪について学ぶ。	
	この回の到達目標	次のことについて理解し説明することができるようになる。①職権乱用の概念、②収賄罪の保護法益、③収賄罪の類型、④収賄罪の守備範囲。	
	事前学修	第40章、第41章を読む。（2時間）	120分
	事後学修	「職務に関し」の意義について説明せよ。（2時間）	120分
30	これまでの学びの振り返り	これまで学んできた刑罰法規について振り返るとともに、刑法の在り方について考える。	
	この回の到達目標	4つの到達目標を確認しながら、復習する。	
	事前学修	これまでの学びをふりかえる（2時間）	120分
	事後学修	疑問のある点について復習する（2時間）	120分

科目名	刑法Ⅱ	担当者	三隅 諒	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法Ⅱの分野では、刑法Ⅰで学修した基本的知識及び解釈・適用の方法に加えて、刑法（明治40年法律第45号）の各則（「第2編 罪」）の諸規定等（特別刑法に言及することがあるので「等」を付記する）の解釈・適用に必要な基本的知識（例えば、保護法益と文理解釈の関係に関する知識）を学修し、同解釈・適用を適正に行って問題を解決する方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
修得した基本的知識及び解釈・適用の方法を基に、刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、関連する判例及び学説につき考察した上で、同諸規定等の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現する表現力を身に着ける。

【履修条件】
特になし。ただし、刑法基礎演習又は刑法Ⅰを履修済であることが望ましい。また、民法や商法の知識を使うことがある。

【授業方法】		
講義の動画をオンデマンド配信するので、それを視聴してもらう。 予習用に簡単なレジュメを出す予定なので、視聴する前に各自で考えてみてほしい（提出する必要はない）。また、復習用に課題を出すことがあり、こちらは何回か提出してもらう予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識の修得を通じて、法令遵守の精神と高い倫理観の重要性を理解し、説明することができる。					1							
②	刑法の各則の諸規定等の構造・内容を理解し、概略的に説明することができる。						1						
③	刑法の各則の諸規定等の解釈・適用に必要な基本的知識を基に、同諸規定等を解釈・適用し、あわせて、関連する判例及び学説につき、論理的、合理的かつ批判的に考察することの重要性を説明することができる。							1					
④	刑法の各則についての専門的知識を基に、同諸規定等を適正に解釈・適用して問題を解決することの重要性を認識することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験により、到達目標①②の理解ができているか、及び、到達目標③④の解釈・適用を適正に行って問題を解決し、これを的確に文章に表現できているか、によって評価する。	15	15	30	40							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか，又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法各論判例インデックス	井田良ほか	商事法務	2016	参考書	推奨
入門刑法学・各論（第2版）	井田良	有斐閣	2018	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜14:00～15:30（休暇中を除く） 可能な限り，事前にアポを取ること（misumi.ryo@nihon-u.ac.jp） 研究室（9号館2階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	刑法各論とは 各犯罪の動向について		刑事法学全体における刑法各論の位置づけを学修するとともに、刑法各論を理解するために必要な考え方について学修する。また、授業のスケジュールや成績評価の方法、参考文献の紹介も行う。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、刑法各論がどのような学問分野であるか、また刑法総論や刑事学・刑事政策との関連性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書に指定した刑法各論の教科書の冒頭部分を一読する。	120分
	事後学修	刑法各論という分野がどのような学問分野であるか、どのように学修するのが好ましいかを意識しつつ、参考書に指定した刑法各論の各教科書の冒頭部分を再読する。	120分
2	財産犯総説 毀棄罪①（器物損壊） 横領罪①（遺失物横領）		刑法各論全体における財産犯の位置づけを学修するとともに、比較的単純な類型である器物損壊及び遺失物横領について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産犯の保護法益と各犯罪類型の位置づけを理解し、説明できるようにする。また、器物損壊及び遺失物横領について、保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
3	窃盗罪①〔他人の財物〕		窃盗罪における「他人の財物」の意義について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、窃盗罪の典型的事例を理解し、「他人の財物」の意義に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
4	窃盗罪〔窃取・不法領得の意思〕		窃盗罪における「窃取」の意義について、保護法益を踏まえて学修する。また、「不法領得の意思」の意義及び機能について、器物損壊等との対比を通じて学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、窃盗罪の保護法益と「窃取」の意義、また「不法領得の意思」について、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
5	強盗罪①（強盗罪）		強盗罪について、窃盗罪との対比を踏まえて学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、強盗罪の保護法益と典型的事例を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
6	強盗罪②（事後強盗罪・強盗致死傷罪）		事後強盗罪について、窃盗罪および強盗罪との関連を意識しつつ学修する。また、強盗致死傷罪について、非常に重い法定刑が用意されていることの趣旨を学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、事後強盗罪の典型的事例を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。また、強盗致死傷罪の保護法益を理解し、解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	詐欺罪①〔欺く行為〕		詐欺罪における欺く行為について、窃盗との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐欺罪の保護法益と典型的事例を理解し、欺く行為に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
8	詐欺罪②〔交付行為〕		詐欺罪における交付行為について、窃盗との対比を踏まえて学修する。また、三角詐欺などの複雑な類型についても説明できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐欺罪の交付行為に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
9	恐喝罪		恐喝罪について、強盗罪及び詐欺罪との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、恐喝罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
10	横領罪②（委託物横領罪）		横領罪について、窃盗罪及び遺失物横領罪との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、委託物横領罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
11	背任罪		背任罪について、横領罪との対比を踏まえて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、背任罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
12	毀棄罪②（器物損壊以外） 盗品等に関する罪		器物損壊等以外の毀棄罪について、器物損壊等との対比を踏まえて学修する。また、盗品等に関する罪について、他の財産犯との違いを意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、毀棄隠匿罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。また、盗品等に関する罪についても、保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	財産犯まとめ		財産犯全体がどのような仕組みになっていたかを整理し、各犯罪類型を的確に位置づけられるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の財産犯について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、これまでに取り扱った各種犯罪類型に関する議論を整理し直しておく。また、参考書に指定した教科書の該当部分や記憶のあいまいな判例・裁判例についても一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
14	殺人罪・傷害罪 堕胎罪		殺人（自殺関与含む）や傷害罪につき、刑法総論の知識との連動を意識しつつ学修する。また、堕胎につき、母体保護法の存在も意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、殺人・傷害罪と堕胎罪に関し、各種の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
15	遺棄の罪		遺棄について、刑法総論の知識との連動を意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、遺棄罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
16	逮捕・監禁の罪 強要・脅迫の罪		逮捕・監禁・強要・脅迫の各犯罪類型につき、いかなる自由の侵害を問題としているのかを意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、逮捕・監禁・強要・脅迫の各犯罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
17	略取・誘拐の罪		略取誘拐の罪について、処罰範囲の拡張の沿革にも配慮しつつ学修する。また、住居侵入について、他罪との関係にも意識しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、略取・誘拐の罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
18	性的自由に対する罪		性的自由に対する罪について、近年の法改正にも配慮しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、性的自由に対する罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	住居侵入罪		住居侵入罪について、他罪との関係にも配慮しつつ学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、住居侵入罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
20	名誉に対する罪		名誉に対する罪について、憲法上の権利との対抗やプライバシーに対する保護の規制、民事上の責任との関係も意識しつつ学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、名誉に対する罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
21	秘密漏示罪 業務・信用に対する罪		秘密漏示罪及び業務・信用に対する罪について、近年の法改正も意識しつつ学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、秘密漏示罪と業務・信用に対する罪の各犯罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
22	個人的法益に対する罪のまとめ 国家的・社会的法益総説		個人的法益に対する罪の全体について、財産犯も取り入れて整理する。また、国家的・社会的法益に対する罪と個人的法益に対する罪の違いについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の個人的法益に対する罪について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。さらに、個人的法益と国家的・社会的法益の違いを説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、これまでに取り扱った各種犯罪類型に関する議論を整理し直しておく。また、参考書に指定した教科書の該当部分や記憶のあいまいな判例・裁判例についても一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
23	放火罪①〔建造物等〕		現住建造物等放火罪における現住建造物の意義を中心に、放火罪の客体について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の放火罪の保護法益と典型的事例を理解し、放火の客体に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分
24	放火罪②〔焼損・公共の危険〕		放火罪における焼損と公共の危険の意義について、保護法益を踏まえて学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、放火罪における焼損と公共の危険に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。	
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。	120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	偽造罪①〔文書・作成者〕		偽造罪の類型を学修し、文書偽造罪における文書と作成者の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の偽造罪の保護法益と典型的事例を理解し、偽造罪における文書と作成者に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
26	偽造罪②〔偽造〕		文書偽造罪における偽造の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、偽造の意義に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
27	公務執行妨害罪		公務執行妨害罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の公務を妨害する罪の保護法益と典型的事例を理解し、公務執行妨害に関する解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
28	司法作用に対する罪 職権濫用罪		司法作用に対する罪と職権濫用罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の司法作用に対する罪の保護法益と典型的事例を理解し、各犯罪ごとの解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。また、職権濫用罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
29	賄賂罪		賄賂罪について、各犯罪の成立範囲に留意しつつ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、各種の賄賂罪の保護法益と典型的事例を理解し、その解釈論上の問題点や関連する最高裁判例について説明できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、そこに引用されている判例集の判例・裁判例を丁寧に読む。また、参考書に指定した教科書の該当部分を一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分
30	まとめ		各犯罪類型が様々な利益の保護について占める位置づけを学修するとともに、生の事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択するための考え方を学修する。また、その考え方の表現方法についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各種の犯罪類型について、その保護法益と各犯罪類型の典型的事例、交錯する犯罪類型ごとの関係や位置づけを理解し、説明できるようにする。また、事実関係に応じて適切な犯罪類型を選択できるようにする。		
	事前学修	レジュメを一読し、これまでに取り扱った各種犯罪類型に関する議論を整理し直しておく。また、参考書に指定した教科書の該当部分や記憶のあいまいな判例・裁判例についても一読する。		120分
	事後学修	参考書に指定した教科書の該当部分を読みながら、講義の内容を自分なりに整理する。また、講義で取り扱った判例・裁判例について、講義を踏まえて再び丁寧に読む。		120分

科目名	計量経済学	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
計量経済学とは、データを用いてその関係性について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデル、手法について講義と演習を行う。計量経済学の手法は、政治学をはじめとする社会科学分野全般に多く用いられており、政策の現場でも「証拠に基づく政策立案（EBPM）」のための重要なツールである。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象を分析するための基本的な分析手法である、計量経済学の基本的な手法（最小二乗法）の基本的なモデルと考え方の基礎力を養成を目的とする。社会現象についてデータを用いて科学的に分析する手法について理解し、その結果について正しく説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科3，4，5

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいた講義形式を中心として、理解を深めるため演習で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので持参すること。定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	可能な限りPCを使った演習を行う。演習が難しい場合は、出席管理システム（レスポん）により、リアクションペーパー（小テスト）を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	計量経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						3	3	3			
②	計量経済学におけるデータを、適切に処理することができる。						3	3	3			
③	計量経済学で用いる統計理論を説明することができる。						3	3	3			
④	計量経済学における回帰分析の結果に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	10	20	10							70
小テスト等	セメスター中、3 回行う演習により、到達目標①②③④に 関わる基礎知識と技能を評価する。	5	15	5	5							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	25	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
計量経済学の第一歩-実証分析のススメ -	田中隆一	有斐閣	2015	教科書	必携
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、計量経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、計量経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の第1章を読み内容について概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、確認問題1－1と1－2を解く。 自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【データの扱い方】	平均や分散について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平均と分散の求め方を説明できる。	
	事前学修	教科書第2章を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、確認問題2－2を解く。	120分
3	【Excelを用いたデータ加工の方法】 (演習)	Excelを用いたデータ加工の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、E x c e lを用いてデータの加工ができる。	
	事前学修	前回の講義内容について確認する。	60分
	事後学修	演習の内容について小レポートを作成する。	180分
4	【確率の基礎】	確率論と確率分布について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、確率論について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章1．2を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、確認問題3－1と3－2を解く。	120分
5	【計量経済学で用いる確率論】	同時確率分布、連続確率分布、正規分布、カイ二乗分布、t分布、F分布について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、確率分布の種類と性質について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章3．4．5を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、実証分析問題3－Aを解く。	120分
6	【統計的推論】	標本平均、不偏性、一致性、大数の法則について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不偏性、一致性について説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1．2．3を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、確認問題4－3を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【仮説検定】	帰無仮説と対立仮説、検定の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、帰無仮説と対立仮説の関係について説明できる。	
	事前学修	教科書第4章4を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、実証分析問題4－Aを解く。	120分
8	【Excelを用いた統計的実証の方法】 (演習)	Excelを用いた統計的実証の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、E x c e lを用いて統計的実証の操作ができる。	
	事前学修	これまでの講義内容について確認する。	60分
	事後学修	演習の内容について小レポートを作成する。	180分
9	【単回帰モデル（最小二乗法）】	最小二乗法の基本的なモデルについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最小二乗法で何を行っているのか説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1．2を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、確認問題5－2を解く。	120分
10	【分析結果の解釈】	単回帰分析の結果から、何が言えて、何が言えないのか説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、単回帰分析の結果について説明できる。	
	事前学修	教科書第5章3．4．5を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	授業で提示した練習問題について自分の考えをまとめること。	120分
11	【重回帰分析の基本】	外的条件の制御、多重共線性、脱落変数について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、重回帰分析のメリット、生じる問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第6章1．2．3を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、確認問題6－1を解く。	120分
12	【回帰分析後の検定】	重回帰分析の結果から、何が言えて、何が言えないのか説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、重回帰分析の検定方法について説明できる。	
	事前学修	教科書第6章4．を読み、データ処理について概観を理解する。	120分
	事後学修	授業で提示した練習問題について自分の考えをまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【Excelを用いた単回帰・重回帰分析の方法】（演習）	Excelを用いた回帰分析の方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、E x c e lを用いて回帰分析の操作ができる。	
	事前学修	これまでの講義内容について確認する。	60分
	事後学修	演習の内容について小レポートを作成する。	180分
14	【重回帰分析の応用】	今まで学んだ分析で言えること、言えないこと（その解決の方向性）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、限界効果、ダミー変数の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章を読み内容について概観を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、確認問題1－1と1－2を解く。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、計量経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、計量経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
	事後学修	期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	計量政治学	担当者	窪田 悠一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本授業では、まず計量政治学における現象の捉え方の基本的立場や研究のプロセスについて議論を行い、その次に分析の基礎として政治現象の数値化を考察するとともに、データの集計や図表による表現方法を扱う。そして統計的な推定や検定の仕組みを概観しながら、多様な回帰分析の手法に取り組む。授業は各手法が用いられる場面や適用例を紹介しながら進められるが、実際のデータを用いたコンピュータによる演習が中心となる。これに加えて、授業で学んだ分析手法を自らの関心に合わせて応用できるようにするため、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマと分析に基づいた研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
本授業では、政治学的なテーマを中心に様々な社会現象を題材にして、1) それらに関するデータの計量的な分析手法を理解し、2) そうした分析を用いた学術論文や実務報告書を批判的に読みこなし、3) 自らが分析を行い、かつ結果を解釈することができるようになることを目指す。こうした分析・批判能力は、他の授業におけるレポートや卒業論文などの知的プロジェクトを遂行する上で必要不可欠であるだけでなく、卒業後における諸業務においても重要になってくるものと思われる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義及びコンピュータを用いた演習の形式で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	適宜、グループ・ディスカッションやグループ・ワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会科学などの基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。							3				
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見することができる。								3			
③	法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、より良い社会・共同体を創造するためにすべきこと着手することができる。									3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	研究論文及び最終発表	20	25	25								70
討論・発表等	研究計画発表	5	5	5								15
授業への参画度	(出席を前提とした) 講義中の積極的な発言と課題提出	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Rによる計量政治学	浅野正彦・矢内勇生	オーム社	2018年	教科書	必携
S t a t a による計量政治学	浅野正彦・矢内勇生	オーム社	2013年	参考書	推奨
社会科学のための計量分析入門	松田憲忠・竹田憲史	ミネルヴァ書房	2012年	参考書	任意
備考	a				

【オフィスアワー】
月曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション（シラバスの説明、授業計画）	浅野・矢内（R）： 第1章 計量政治学とは？	
	この回の到達目標	本授業で扱う内容の概要と進め方を理解する。	
	事前学修	実証的な政治分析や統計データの活用に関心をもって授業に参加すること。できれば教科書の該当箇所に目を通し、統計データ分析の方法と応用例、計量政治学の方法と射程について事前にある程度の情報を得ていることが望ましい。	120分
	事後学修	本授業で扱うテーマや課題の内容・量を振り返り、履修するか否かを定める。履修する場合は教科書を次回授業までに購入し、第1章を読み直す。また本授業で取り組みたい研究論文のテーマについて考え始める。その他、授業外で統計データ分析やその分析がどのように行われているかについて常に情報を得られるよう努める。	120分
2	実証研究の基礎（政治学における実証研究、研究デザインと実施のプロセス）	浅野・矢内（R）： 第2章 研究テーマの選び方 第3章 理論と仮説	
	この回の到達目標	政治学における実証研究の基礎について理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、政治学（社会科学）における実証研究とは何か、またそれがどのように行われるのかについて確認する。その際に、自分の興味・関心がどういったテーマにあるのかについて省察し、いかなるリサーチクエスチョンと仮説をたてることができるのかについて考える。	120分
	事後学修	統計データを用いた政治分析やその方法を振り返り、本授業で取り組みたい研究論文のテーマについて考えを進める。その際に、事前学習で考えたリサーチクエスチョンや仮説を見直し、どのように改善することができるかについて考察する。	120分
3	政治現象の数値化（概念の定義・操作化、測定尺度）	浅野・矢内（R）： 第6章 記述統計とデータの可視化・視覚化	
	この回の到達目標	政治現象の数値化がどのようにされるのかについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、変数や尺度の種類について学ぶ。特に、カテゴリー（質的）変数（名義尺度、順序尺度）と量的変数（間隔尺度、比率尺度）の違いについて事前に把握する。またこれらの測定尺度がどのように使い分けられているのかについて考える。	120分
	事後学修	政治現象をいかに数字で表すのか、またその際に考慮すべき点について振り返る。また、これらを自らの研究テーマに照らし合わせて、どのような尺度を用いた変数が必要になるかを考えるとともに、入手・使用可能なデータセットがないか探してみる。	120分
4	集計表とグラフ	浅野・矢内（R）： 第6章 記述統計とデータの可視化・視覚化	
	この回の到達目標	データの特徴を集計表やグラフによって効率的に表現することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、統計データの特徴・パターンを集計表やグラフによって表現する方法とそのバリエーションについて学ぶとともに、それらを用いた表現方法の目的と特徴について考える。	120分
	事後学修	授業で扱った集計表・グラフについて振り返ると同時に、統計ソフト上での出力方法を確認する。また他の表現方法について調べるとともに、自らが扱う予定のデータ・変数に適した表・グラフについて考える。その際にも、統計ソフト上での出力方法を可能な限り調べておく。	120分
5	記述統計	松田・竹田： 第5章 分布の数値的要約	
	この回の到達目標	データの特徴を目的に応じた代表値によって効率的に表現することができる。	
	事前学修	参考書の該当箇所に目を通し、記述統計量の種類とその考え方について考える。特に、データの中心やちらばりを表す代表値の目的や種類について確認する。また、こうした代表値がどのように使い分けられているのかについて考える。	120分
	事後学修	授業で扱った記述統計量について振り返る。特に標準偏差や分散の概念について、授業資料と参考書の該当箇所を読み返して十分に理解する。また、統計ソフト上でのこれらの記述統計量の計算・出力方法について改めて見直しておく。	120分
6	統計的推定（仮説検定、区間推定、標準誤差）	浅野・矢内（R）： 第7章 統計的推定 第8章 統計的仮説検定	
	この回の到達目標	統計的推定の基礎について理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、記述統計と推測統計の違いについて考える。その際に統計的推定の考え方について予備知識を得るように試みる。特に、標本分布、確率分布、母平均の信頼区間、有意水準、棄却域などといった用語について確認しておく。	120分
	事後学修	仮説検定、区間推定、標準誤差といった概念を中心に統計的推定の考え方について、授業資料と教科書の該当箇所を読み返して十分に理解する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	変数間の関連性の検定		浅野・矢内（R）： 第9章 変数間の関連性	
	この回の到達目標	変数間の関連性の考え方と検定のやり方を理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、変数間に関係があるとはどういうことか、またその統計的な検定方法について考える。特に相関係数やカイ二乗検定といった検定の目的や方法の違いについて事前に把握し、それらが用いられる場面について考える。		120分
	事後学修	統計的推定に基づいた変数間の関係性に関する検定方法について振り返り、推測統計の考え方を復習する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。		120分
8	研究計画発表会		研究論文の構想（リサーチ・クエスチョン、データ、期待する結論など）について報告する。	
	この回の到達目標	事前にまとめた研究論文の構想について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。		
	事前学修	研究論文の構想について資料を作成し、報告の準備を行う。		120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆に活用する。		120分
9	研究計画発表会		研究論文の構想（リサーチ・クエスチョン、データ、期待する結論など）について報告する。	
	この回の到達目標	事前にまとめた研究論文の構想について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。		
	事前学修	研究論文の構想について資料を作成し、報告の準備を行う。		120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆に活用する。		120分
10	回帰分析の基礎とバリエーション		浅野・矢内（R）： 第10章 回帰分析の基礎	
	この回の到達目標	回帰分析（最小二乗法）の基本的な考え方について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、回帰分析（最小二乗法）の目的と方法について事前に把握する。特に、これまでの分析や検定とどのように異なるのかについて考える。また、回帰分析が実際にどのような場面で用いられているのかについて調べる。		120分
	事後学修	回帰分析の目的について振り返り、これまで学んだ分析方法との違いを考える。また、最小二乗法の考え方を復習し、基本的なアイデアを確認する。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。		120分
11	単回帰と重回帰		浅野・矢内（R）： 第11章 回帰分析による統計的推定 第12章 回帰分析の前提と妥当性の診断 第13章 回帰分析の応用 第14章 交差項の使い方	
	この回の到達目標	単回帰分析と重回帰分析の違いや、様々な独立変数を用いた分析モデルの特徴について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、単回帰分析と重回帰分析の違いについて考える。また、回帰分析による統計的推定の意味について事前に把握するとともに、最小二乗法を用いた回帰分析の前提とその妥当性の診断方法について確認する。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を振り返り、単回帰分析と重回帰分析の違いについて復習する。また回帰分析と統計的推定や仮説検定との関係について考える。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。		120分
12	ロジスティック回帰分析		浅野・矢内： 第15章 ロジスティック回帰分析	
	この回の到達目標	ロジスティック回帰分析の特徴や応用例を理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通し、最小二乗法を用いた回帰分析とロジスティック回帰分析との違いについて考える。その際に、回帰分析における統計的推定の意味を再確認する。また、回帰分析が実際にどのような場面で用いられているのかについて調べる。		120分
	事後学修	授業で扱った内容を振り返り、回帰分析（最小二乗法）とロジスティック回帰分析の違いについて復習する。またロジスティック回帰分析における統計的推定や仮説検定について考える。また、授業で行った演習を改めて振り返り、自分でそれを行えるようにするとともに、その内容や目的を説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	回帰分析の復習と個別チュートリアル		研究論文で用いるデータとその分析方法について報告する。	
	この回の到達目標	研究論文で用いるデータを用意するとともに、その分析に関するアイデアについて口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる。		
	事前学修	自らの研究論文で用いるデータを収集・整備し、その準備状況について授業で報告できるよう用意する。		120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆・修正に活用する。		120分
14	回帰分析の復習と個別チュートリアル/研究発表		研究論文で用いるデータとその分析方法について報告する／研究論文の概要について報告する。	
	この回の到達目標	研究論文で用いるデータを用意するとともに、その分析に関するアイデアについて口頭発表を行い、それに対するフィードバックを研究論文を完成させるために活かすことができる／研究論文の成果について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを今後の学習に活かすことができる。		
	事前学修	自らの研究論文で用いるデータを収集・整備し、その準備状況について授業で報告できるよう用意する／研究論文の成果について報告できるよう用意する。		120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントをどのように活かすことができるかを考え、研究論文の執筆・修正に活用する／授業内で受けた質問やコメントを今後の学習にどのように活かすことができるかを考える。		120分
15	研究発表		研究論文の概要について報告する。	
	この回の到達目標	研究論文の成果について口頭発表を行い、それに対するフィードバックを今後の学習に活かすことができる。		
	事前学修	研究論文の成果について報告できるよう用意する。		120分
	事後学修	授業内で受けた質問やコメントを今後の学習にどのように活かすことができるかを考える。		120分

科目名	原価計算論Ⅰ	担当者	船越 洋之	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
製造業企業の製造活動について、工業簿記や原価計算の専門領域の基礎知識・計算技法を用いてその基本的な内容を学習する。日商簿記検定2級レベルの学習を念頭においている。簿記原理で学ぶ商業簿記を前提にしているが、ここではもっと専門的な知識と計算技法を学ぶので、予習復習は欠かせない。日商簿記試験方法の改定により、2級工業簿記は仕訳の重要度が増えることになったので、仕訳についてもきちんと学習することになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の製造業企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。製造業企業の製造活動の成果である製品に関して、その製造コスト（製造原価）をどのように測定・計算するのかをテーマに、主として工業簿記のしくみと基本的な計算技法（日商簿記検定2級レベル）を中心に理解し、説明できることを到達目標とする。これにより、工業簿記と原価計算の基礎知識が身につくようになる。

【履修条件】
教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。日商簿記検定2級に興味のある者。簿記原理を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書を使用する講義形式（オンデマンドによる授業事前録画配信形式）だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。質問は金曜日の授業から3日間メール（funakoshi.hiroyuki11@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。専任教員ではないので回答は少し遅くなる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	簿記論で学んだ知識を土台にして、工業簿記と商業簿記との相違を専門的視点から理解することができる。					2	2						
②	製造活動と原価計算の必要性を専門的視点から理解することができる。					2	2						
③	工業簿記と原価計算に関する専門用語を理解し、説明することができる。					2	2	2					
④	製造活動の流れと勘定科目間の振替関係を仕訳等の専門的視点から理解することができ、かつ合理的に考察できる。						2	2	2				
⑤	生産形態により異なる原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。						2	2	2				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。60%の評価割合とする。	12	12	12	12	12						60
小テスト等	Google Formsを用いたミニテストをほぼ毎回行う予定。40%の評価割合とする。	8	8	8	8	8						40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
原価計算ガイダンス・第2版（ISBN:9784502278716）	柳田仁編著	中央経済社	2018年	教科書	必携
備考	初版は古い構成のため使用できません。第2版を必ず購入してください。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日授業終了後にメールにて3日間のみ受け付ける。メールアドレス：funakoshi.hiroyuki11@nihon-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、簿記検定、電卓		工業簿記と商業簿記の違い及び受験可能な簿記検定を説明することによりこの科目を学ぶ意義を理解することができる。簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sを紹介することによって、電卓の重要性を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、学問としての工業簿記や原価計算について理解することができる。		
	事前学修	シラバスをよく読むこと。教科書のはしがきを読むことで、この科目の意義を把握できるように準備すること。		90分
	事後学修	履修すると決めたら、教科書を購入し、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。教科書の目次を見て自分なりの学習計画を検討すること。		150分
2	工業簿記と原価計算の意義と目的		製造業を前提に、その経営活動を理解することで、工業簿記と原価計算の役割や存在意義を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、工業簿記と原価計算の意義と目的を理解することができる。		
	事前学修	教科書第1章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分
3	原価の概念と原価計算制度		原価の概念と原価計算制度について、基本的な意味と役割を学ぶ。特に製造原価に関してはしっかりと理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、基本的な原価概念と原価計算制度について理解することができる。		
	事前学修	教科書第2章と第3章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分
4	工業簿記の構造		工業簿記の構造について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。日商簿記2級工業簿記でも今後仕訳の重要度が増すので、絶対に理解する必要がある基本単位となる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、工業簿記の全体の流れと振替関係を理解することができる。		
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分
5	材料費の基本		材料費の分類、購入、消費額の計算について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、材料費の基本を理解することができる。		
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分
6	材料費の応用		材料費の消費額の計算と予定価格法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、材料費の応用を理解することができる。		
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	労務費の基本		労務費の分類、調整計算、支払額と消費額について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、労務費の基本を理解することができる。	
	事前学修	教科書第6章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
8	労務費の応用と経費		労務費の予定価格法と経費の計算について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、労務費の応用と経費の計算技法を理解することができる。	
	事前学修	教科書第6章と第7章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
9	製造間接費の計算と記帳		製造間接費の配賦計算について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造間接費の配賦計算を理解することができる。	
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
10	製造間接費の予定配賦		製造間接費の予定配賦について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造間接費の予定配賦を理解することができる。	
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
11	原価の部門別計算の基本		原価の部門別計算の計算プロセス全体を理解し、そのうち第1次集計段階について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価の部門別計算の基本を理解することができる。	
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
12	原価の部門別計算の応用		原価の部門別計算の計算プロセスのうち第2次集計段階と第3次集計段階について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価の部門別計算の応用を理解することができる。	
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	個別原価計算		個別原価計算について、その意義と計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、個別原価計算を理解することができる。	
	事前学修	教科書第13章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
14	製造原価報告書の基本		実際配賦を前提にした製造原価報告書の基本について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。授業内試験について伝達する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、製造原価報告書の構造を理解することができる。	
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
15	授業内試験実施とその解説		授業内試験（60分）と試験の解説（25分）および後期に向けて（5分）
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、前期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
	事前学修	授業内試験に向けた準備をしておくこと。	180分
	事後学修	試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。	60分

科目名	原価計算論Ⅱ	担当者	船越 洋之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
製造業企業の製造活動について、原価計算論Ⅰで学習した内容を土台にして、工業簿記や原価計算の専門領域の応用知識・計算技法を用いてその発展的内容を学習する。日商簿記検定２級レベルの学習を念頭においている。簿記原理で学ぶ商業簿記を前提にしているが、ここではもっと専門的な知識と計算技法を学ぶので、予習復習は欠かせない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の製造業企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。製造業企業の製造活動の成果である製品に関して、その製造コスト（製造原価）をどのように測定・計算するのかをテーマに、主として工業簿記のしくみと基本的な計算技法（日商簿記検定２級レベル）を中心に理解し、説明できることを到達目標とする。これにより、工業簿記と原価計算の基礎知識が身につくようになる。

【履修条件】
教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。日商簿記検定２級に興味のある者。簿記原理を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書を使用する講義形式（オンデマンドによる授業事前録画配信形式）だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（８桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。質問は金曜日の授業から３日間メール（funakoshi.hiroyuki11@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。専任教員ではないので回答は少し遅くなる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	工業簿記と原価計算に関する専門用語を理解し、説明することができる。					2	2	2					
②	製造活動の流れと勘定科目間の振替関係を専門的視点から理解することができ、かつ合理的に考察できる。						2	2	2				
③	生産形態により異なる原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。						2	2	2				
④	原価管理概念とそれに役立つ原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。						2	2	2				
⑤	短期利益計画概念とそれに役立つ原価計算技法を専門的視点から理解することができ、かつ合理的批判的に考察できる。						2	2	2				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。60%の評価割合とする。	12	12	12	12	12						60
小テスト等	Google Formsを用いたミニテストをほぼ毎回行う予定。40%の評価割合とする。	8	8	8	8	8						40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】	
テスト実施後に講評・解説を実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
原価計算ガイダンス・第2版 (ISBN:9784502278716)	柳田仁編著	中央経済社	2018年	教科書	必携
備考	前期の原価計算論Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。				

【オフィスアワー】	
非常勤講師ゆえ、金曜日授業終了後にメールにて3日間のみ受け付ける。メールアドレス：funakoshi.hiroyuki11@nihon-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期の復習、製造間接費配賦差異の細分析		夏休みをはさんだので、思い出してもらうために前期の復習を確認する。製造間接費配賦差異の細分析について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、前期の学習内容の振り返りを行うことができる。製造間接費配賦差異について、更なる分析を理解することができる。	
	事前学修	前期で学んだことを復習しておくこと。	120分
	事後学修	日商簿記2級受験希望者は、勉強の計画を立てること。それ以外の学生は、配付したプリントを復習しておくこと。	120分
2	日商簿記2級レベルの製造原価報告書、損益計算書		日商簿記2級レベルの製造原価報告書と損益計算書について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、日商簿記2級レベルの製造原価報告書と損益計算書について、理解することができる。	
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
3	総合原価計算の基礎（単純総合原価計算）		単純総合原価計算を前提に、総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、総合原価計算の基本的な計算手続きについて、理解することができる。	
	事前学修	教科書第10章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
4	総合原価計算の応用（減損・仕損）		単純総合原価計算を前提に、減損や仕損が生じた場合の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、減損や仕損が生じた場合の総合原価計算の計算手続きについて、理解することができる。	
	事前学修	教科書第10章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
5	工程別総合原価計算		工程別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、工程別総合原価計算の計算方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書第12章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
6	組別総合原価計算		組別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、組別総合原価計算の計算方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書第11章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	等級別総合原価計算		等級別総合原価計算の計算方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。日商簿記2級レベルの総合原価計算の問題を解くことで、総合原価計算の理解を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、等級別総合原価計算の計算方法について理解することができる。		
	事前学修	教科書第11章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習すること。		120分
8	標準原価計算の基礎、標準直接材料費差異		標準原価計算の役割と基本的計算方法を学ぶことができる。さらに、標準直接材料費差異について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価計算の計算方法について理解することができる。		
	事前学修	教科書第14章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分
9	標準直接労務費差異、標準製造間接費差異		標準直接労務費差異と標準製造間接費差異について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価差異の細分析について理解することができる。		
	事前学修	教科書第15章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分
10	標準製造間接費差異		標準製造間接費差異について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。日商簿記2級レベルの標準原価差異の総合問題を解くことで、標準原価差異の細分析の理解を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価差異の細分析について理解することができる。		
	事前学修	教科書第15章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分
11	標準原価計算の記帳		標準原価計算の記帳方法であるパーシャルプランとシングルプランについて、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、標準原価計算の記帳方法について理解することができる。		
	事前学修	教科書第15章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分
12	直接原価計算の計算構造		直接原価計算の計算構造について、全部原価計算と比較して学習することができる。さらに、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、直接原価計算の計算構造について理解することができる。		
	事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	短期利益計画とCVP分析	短期利益計画とCVP分析について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、CVP分析について理解することができる。	
	事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
14	CVP分析と原価予測の方法	原価予測の方法について、実際に問題を解くことで知識の定着を図ることができる。さらに、CVP分析に関しては、日商簿記2級レベルの問題を解くことで、さらなる理解を深めることができる。授業内試験について伝達する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、原価予測の方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書第16章の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを復習しておくこと。	120分
15	授業内試験の実施とその解説	授業内試験（60分）、試験の解説（25分）、日商簿記2級受験のアドバイス（5分）	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、後期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
	事前学修	試験に向けた準備をしておくこと。	180分
	事後学修	試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。	60分

科目名	現代行政論Ⅰ	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近年、行政と民間セクターの間にあって、公共的課題解決のために不可欠となっている住民参加、官民協働、NPO、ソーシャルビジネス等の諸要素を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、近年、民間セクターを巻き込んで、ネットワーク化が急速に進展する現代行政の特質や運営実態等を当面の諸課題との関連の中で学び、諸アクターの中で調整・交渉を経て課題解決に結びつけるための基礎的能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会人として、公共政策課題の解決に当たって官のみに頼らず自助・共助を基本とする行動ができる。				2							
②	官民連携、NPO法人との協力の必要性を専門的観点から理解し、説明できる。					2						
③	一見複雑な社会事象を公共政策学のツールを活用して論理的・科学的・合理的に考察することができる。						2					
④	地域社会の抱える諸課題を自ら積極的にコミットすることで具体的に考察することができる。							2				
⑤	より良い地域社会の構築のために官民連携の在り方はどうすべきか説明できる。								2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標②～⑤について自分の言葉で説明できているかを筆記試験により評価する。		20	20	20	20						80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回等の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①④⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	20	30	25						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。
の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特定非営利活動法人制度 テキストブックNP0第2版 日本のソーシャルビジネス ネス 公民連携白書	特定非営利活動法人 制度研究会	商事法務	2015	参考書	推奨
テキストブックNP0第2版	雨森 孝悦 編	東洋経済新社	2017	参考書	任意
日本のソーシャルビジネス	日本政策金融公庫総合 研究所	同友館	2015	参考書	任意
公民連携白書	東洋大学PPP研究セン ター	時事通信社	各年	参考書	任意
非営利組織の経営	P. ドラッカー	ダイヤモンド社	1991	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:20-13:00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp メールにて事前に在室確認のこと

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び官民連携（PPP）総論	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②PPPとは何かを概略的に学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、現代社会において、公共課題解決の担い手が行政のみにとどまらず、民間企業、各種法人、住民等にまで広がりを見 せている理由はなにか、官民はどのように連携すべきか、その政策的意義は何か等について説明することができる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②参考文献の目次・序文等に一通り目を通し、授業テーマの概略を把握しておく。③（各回共通）日頃より新聞・ニュースの政治・行政関連記事は常にフォローしておく。	180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	官民連携の諸相①（PFIの基礎概念）】	PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）による公共施設整備等の考え方・制度等を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関して、公共的な事業に民間資金を導入するPFIの意義とは何か、なぜそれが必要なのか、民間企業等はなぜ資金を投じて公的分野に参入するのかを理解して説明できる。	
	事前学修	指定された文献等によりPFIの仕組み・運営実態等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	官民連携の諸相②（PFIの事例1：刑務所等）	公権力行使の典型である矯正事業に民間企業が参入する意義は何か。運営の実態はどうなっているのか具体的事例に基づき学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、刑務所の民営化はなぜ可能か、民間企業はどのように刑務所の運営に参画できるのかの学修を通じて、官民の役割分担の在り方、PFIの本質とは何かを理解し、説明できる。	
	事前学修	指定された文献、公式ウェブサイト等により矯正施設におけるPFIの仕組み・運営実態等の概略を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておくこと。	120分
4	官民連携の諸相③（PFIの事例2：空港・道路等）	PFIの一手法として近年注目を集めているコンセッション方式など巨大インフラに対するPFI手法を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、なぜ多額の赤字を計上してきた空港事業等に民間企業が参入するのか、その意義・制度の仕組み・実態等を理解し、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献・公式ウェブサイト等により関西国際空港や仙台空港の「経営主体」はどこか、その経緯はどうであったかなどの概略を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	官民連携の諸相④（PFIの事例3：上下水道・公園等）	最近のPFI等では、住民の健康・生活に直結するライフライン関連事業等もその範囲に含まれつつある。本講ではこうした事業の実例を取り上げ、その実情を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、ライフライン関連事業の民営化の意義と、事業運営の安定性・サービス品質等の懸念への対応等について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された文献・最近の新聞報道等により水道の民営化をめぐる議論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	官民連携の諸相⑤（第三セクター、指定管理者制度、市場化テスト）	第三セクター等すでに定着した官民連携の各種仕組とその実態・問題点を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、自治体の施設運営等は現在その多くが 公務員以外の民間主体により実施されている実態を理解し、その改善点等 を考察、説明することができる。	
	事前学修	受講者が日常的に行政の現場で接する職員は、いわゆる「公務員」なのか、それとも「民間」の職員なのか、可能な限り事例を収集し、授業内で説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	官民連携の諸相⑥（住民意見の把握と社会的合意形成）	政策決定への住民参加の仕組みとして活用されているワークショップ、住民協定、パブリックコメントなどについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、近年の政策決定過程において説明責任（アカウンタビリティ）が問われるのみならず、住民等の具体的な参画の程度が重要になってきていることを理解し、その具体的な活用方策を考察し説明することができる。	
	事前学修	受講者の居住自治体の公式ウェブサイト等を調べ、住民の意見を行政に反映させる手段としてどのようなものが用意されているか 調べ、授業内で説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	官民連携の諸相⑦（住民参加・外国事例）	住民が実際に公共政策実施の現場に参加する事例として 住民による税金の使途決定制度、小規模工事等への直接参加などを学ぶ。併せて諸外国の官民連携事例として ドイツのシュタットベルケなどの仕組みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、政策決定への参加にとどまらず、住民が執行過程等にも加わることの意義・重要性等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	住民が政策決定・実施に直接参画する制度・手段としてどのようなものがあるか、行政学・地方自治論のテキスト等で学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	NPO論①（総論・現状）	NPO法人（特定非営利活動法人）をはじめとする非営利組織とは何か、その概念・制度・機能等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、NPOと営利組織との違いは何か、NPO等が近年、新たな公共的アクターとしてクローズアップされてきた理由は何かを説明することができる。	
	事前学修	受講者の身近な地域社会にあるNPO法人等の概容を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	NPO論②（各分野でのNPOの活動1）	高齢者福祉、障害者支援、不登校など教育問題、子育て支援などの領域におけるNPOの活動実態と課題等について学習する	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、いわゆるヒューマンサービスの特性を理解した上で、なぜこの分野でNPO等が重要な役割を果たすのか、またこれら組織が機能を最大限に発揮するために克服すべき課題は何かを理解し、説明することができる。	
	事前学修	受講者の居住自治体における社会福祉施設等の運営主体にはどのようなものがあるか、複数事例に当たり、その類型を把握し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	NPO論③（各分野でのNPOの活動2）	災害対応・コミュニティ再生、住民主体のまちづくり支援などの分野におけるNPOの活動実態と課題等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、NPOの様々な活動実態を把握し、地域社会における自助・共助の観点からその意義を考察した上で、説明することができる。	
	事前学修	報道状況・各種文献等から災害時等におけるNPOの役割・重要性について考えをまとめておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	NPO論④（ソーシャルビジネス・世界のNPO）	ソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について学習する。併せて米英仏の非営利組織の制度・現状等を日本と比較することによって、我が国NPOの問題点等を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、「新しい公共」分野で発展が期待されているソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について説明できる。また、欧米の制度と比較して我が国NPO等の制度・実態等を分析し説明できる。	
	事前学修	「非営利」組織において事業収益の追求は許されるか？その意義とはなにか？あなたの考えをまとめ、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。また、国際的に著名なNPO・NGOの事例を調べておき、発表できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	NPO論⑥（NPO等のマネジメント1）	NPOのマネジメントに関し、特に重要案なミッション（使命）論、リーダー論、意思決定手法、イノベーション手段などについて学習する	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、NPOにはなぜ一般の営利企業と異なる特有のマネジメント手段が要求されるのか、NPOの特性に即して理解し、説明できる。	
	事前学修	受講者が所属組織（サークル・バイト先・ゼミなど）の運営・マネジメントについて感じている疑問や要改善点などについて感覚に頼らずに論理的に分析し、授業内で発言できるように考えをまとめておく	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	NPO論⑦（NPO等のマネジメント2）	前講に引き続き、NPOに特有のマネジメント方策として、各種ステークホルダー（利害関係者）との対外関係管理、職員・ボランティア等に係るチーム作り、財務管理等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、特にNPO等の対外・対内関係の重要性につき、具体的事例に即して論理的に説明できる。	
	事前学修	人材マネジメント論・リーダーシップ論などの文献に目を通した上で、「自分がNPO職員だったら」という当事者意識をもって授業に参加できるようにする。	120分
	事後学修	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	現代行政論Ⅱ	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
講義前半では、公共政策を実際に担当する公務員の勤務状況の実態・問題点・改善方向などを学ぶ。講義後半では具体的に公務員が働く現場で政治サイドと公務員がどのように関係し、影響し合うのかを歴史的変遷・立法過程における実例などを通して学び、我が国政治行政システムの特性を学習する。 日程の調整状況等によるが実務家の外部講師による授業も予定している。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、公共分野におけるアクターがどのような実態にあり、いかなる原理で機能しているのか理解した上で、具体的な課題解決場面で能動的に行動できる能力を修得する。併せて将来の職業生活においてあるべき働き方とは、どのようなものなのか自ら判断でき実生活を構築できる能力を修得するとともに、将来の職場勤務環境等に係る構想力・提案力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディベート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公務員制度の理解の上で、公務員に求められる倫理とは何か説明できる。				2							
②	公務員法制・働き方の仕組みなどを専門的観点から理解し説明できる。					2						
③	政官関係の現状などを論理的・科学的・合理的に説明できる。						2					
④	現代行政に求められる改善点を自らの分析に基づき考案し、説明できる。							2				
⑤	現場・実地調査の必要性を理解し、調査計画を立てることができる。								2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉でき説明できているかを筆記試験により評価する。		20	30	30							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業等におけるグループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①④⑤にかかわる説明能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	30	40	5						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公務員人事改革	村松 岐夫 編著	学陽書房 第一法規 小学館新書 ちくま新書	2018	教科書	推奨
現代日本の公務員人事	河合 晃一 他	第一法規	2019	参考書	推奨
官僚たちの冬	田中 秀明	小学館新書	2019	その他	推奨
政治主導－官僚制を問い直す	新藤 宗幸	ちくま新書	2012	その他	任意
首相支配－日本政治の変貌	竹中 治堅	中公新書	2006	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:10-13:00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp 事前にメールで在室確認のこと

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容	勤務管理責任者、複数法律の実務責任者としての経験や、国家・与党との対応を行ってきた経緯などを踏まえて適宜講義素材を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び公務員をめぐる議論の概況		①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公務員をめぐるさまざまな展開されている議論の概要を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、現在、公務員をめぐるどのような議論が行われているのか、公務員への批判等はどのような文脈で展開されているのか、公務員制度の改善に向けてどのような改善策が提案されているか説明できる。		
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自でメディア論調等を確認して、公務員の現況に関する考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。		180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		180分
2	国家公務員制度		国家公務員法、一般職員給与法を中心に公務員法制の概要を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国家公務員に係る採用・任免・服務・給与・倫理・研修などの諸制度を理解し、説明できる。		
	事前学修	指定された文献等により国家公務員制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
3	国家公務員の働き方改革 1		我が国において「働き方改革」や「ワーク・ライフ・バランス」が重要課題となった理由・背景事情を学ぶ。さらに公務員特有の事情が長時間労働・非効率な働き方に拍車をかけている状況を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国家公務員の勤務実態及びこれに対する改革への取り組み状況を説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
4	国家公務員の働き方改革 2		国家公務員の働き方改革のため取り組まれている具体的方策を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フレックス・タイム制、テレワーク、IT化等による業務効率化、管理職の意識改革・マネジメント能力向上等の諸方策について説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
5	女性公務員をめぐる現状		我が国の働き方改革の中でも特に課題となっている「女性活躍」及び「女性公務員」をめぐる諸論点について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、「女性活躍」について、その意義・重要性、女性登用が遅れてきた理由、現在取り組まれている対策等について説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
6	地方公務員をめぐる議論の概況		地方公務員をめぐるさまざまな展開されている議論の概要を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、現在、地方公務員をめぐるどのような議論が行われているのか、地方公務員への批判等はどのような文脈で展開されているのか、地方公務員制度の改善に向けてどのような改善策が提案されているか説明できる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方公務員制度		地方公務員法を中心とする法制度の概要について学習する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員に係る採用・任免・服務・給与・倫理・研修などの諸制度を理解し、説明できる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
8	地方公務員の働き方改革 1		地方公務員の勤務実態、働き方改革のための取組を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員の勤務実態及びその改革方策について説明できる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
9	地方公務員の働き方改革 2		地方公務員の「やり甲斐喪失」、「士気低下」等の背景事情として地方公務員独自の要因があることを学習する。さらに最近、特に深刻化が指摘される教員の長時間労働等の勤務実態について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地方公務員特有の構造的問題とこれを解決するための方策について説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
10	政官関係をめぐる諸議論		最近の「官邸主導論」に代表される政官の在り方論に関し、どのような議論が行われているのか学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、政官関係に係る最近の議論の特徴を説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
11	政官関係の基礎理論		政治行政分離論・融合論などの様々な見解や、本人・代理人理論等の分析ツールを学ぶとともに過去の「政治主導」への試みを概観し、その功罪を探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、様々な分析ツールを活用することにより、我が国の政治行政関係をめぐる諸論点を多角的に考察し、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
12	政治任用論		「政治任用」とは何か、その機能・問題点は何か、我が国における政治任用の態様はどうかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、昨今取り沙汰される公務員の「政治化」の問題点とは何か等を具体的事例に即して論理的に説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	諸外国の政官関係		米英独仏の公務員制度を概観し、それぞれの政官関係・政治任用の在り方の違いについて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、各国間の政官関係・政治任用形態の差異が、それぞれの国の政体・政治文化、歴史的経緯、国民意識を反映したものであるとの理解の上に、我が国の現行システムの成立理由・特質等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	我が国政官関係の歴史的展開		戦前期我が国の政治任用制や戦後期のGHQによる公務員制度改革の概要等を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、なぜ我が国官僚制が今日みるような世界的にみても特異な姿 となったか、戦前との比較・GHQ改革の意義などを援用して説明できる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	グループワーク等		立法過程における官僚の役割について、担当教員の法律実務・国会与党対応等の体験を素材に、これまでの講義内容も踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	事前配布するレジュメを読み込むとともに、これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	現代政治理論	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代の政治学における中核的な政治理論を、体系的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を支える市民として必要不可欠な知識と良識を修得するために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として、講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	参考書	推奨
『現代世界の民主主義理論』	白鳥令・曾根泰教編	新評論	1984	参考書	推奨
『議会制民主主義の揺らぎ』	岩崎正洋編	勁草書房	2021	参考書	推奨
『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1981	参考書	任意
『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1982	参考書	任意
『現代政治学の理論（続）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1985	参考書	任意
『政治学講義〔第2版〕』	佐々木毅	東京大学出版会	2012	参考書	任意
『日本政治とカウンター・デモクラシー』	岩井奉信・岩崎正洋編	勁草書房	2017	参考書	任意
備考	特定の一冊の教科書に依拠して授業を行うわけではないため、参考書や授業中に紹介する文献をよく読む必要がある。				

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治理論（とりわけ、現代の民主主義理論）を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	140分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	100分
2	民主主義とは何か	民主主義とは何かについて、政治理論と現実政治とのかかわりを理解するとともに、両者の関係を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義とは何かについて、政治理論と現実政治とのかかわりを理解するとともに、両者の関係を説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	古典的民主主義と現代民主主義	古典的民主主義と現代民主主義との共通点や相違点について、説明する。	
	この回の到達目標	古典的民主主義と現代民主主義との共通点や相違点について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	J. A. シュンペーターの競合的エリート民主主義理論	J. A. シュンペーターの競合的エリート民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	J. A. シュンペーターの競合的エリート民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	G. サルトーリの選挙によるポリアーキー論	G. サルトーリの選挙によるポリアーキー論について、説明する。	
	この回の到達目標	G. サルトーリの選挙によるポリアーキー論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	C. ペイトマンの参加民主主義理論	C. ペイトマンの参加民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	C. ペイトマンの参加民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	A. ダウンズの民主主義の経済理論	A. ダウンズの民主主義の経済理論について、説明する。	
	この回の到達目標	A. ダウンズの民主主義の経済理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	R. A. ダールの多元的民主主義理論	R. A. ダールの多元的民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	R. A. ダールの多元的民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	A. レイプハルトの多極共存型民主主義理論	A. レイプハルトの多極共存型民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	A. レイプハルトの多極共存型民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	A. レイプハルトの多数代表型・合意形成型民主主義理論	A. レイプハルトの多数代表型・合意形成型民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	A. レイプハルトの多数代表型・合意形成型民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	T. ロウィの依法的民主主義理論	T. ロウィの依法的民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	T. ロウィの依法的民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	J. フィッシュキンの討論民主主義理論	J. フィッシュキンの討論民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	J. フィッシュキンの討論民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	教授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	レイブルックの抽選型代議制民主主義理論	レイブルックの抽選型代議制民主主義理論について、説明する。	
	この回の到達目標	レイブルックの抽選型代議制民主主義理論について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）	120分
14	P. ロザンヴァロン の 対 抗 民 主 主 義 理 論	P. ロザンヴァロン の 対 抗 民 主 主 義 理 論 に つ い て 、 説 明 す る 。	
	この回の到達目標	P. ロザンヴァロン の 対 抗 民 主 主 義 理 論 に つ い て 、 説 明 す る こ と が で き る 。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	今学期のまとめ	今学期のまとめとして、D. ランシマンの民主主義理論、とりわけ、『民主主義の壊れ方』の議論に言及しながら、現代の民主主義理論の鳥観図について、説明する。	
	この回の到達目標	現代の民主主義理論の鳥観図について、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）	100分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）	140分

科目名	現代政治理論	担当者	吉野 篤	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代の政治学における中核的な政治理論を、体系的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を支える市民として必要不可欠な知識と良識を修得するために、現代政治学の代表的な理論や概念のほか、さまざまな議論を理解する。

【履修条件】
特にないが、できれば1年次に政治学を履修していることが望ましい。

【授業方法】
主として講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期中に数回程度、リアクションペーパーで履修学生の質問・意見を聴取し講義に反映させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	25	25	20								70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標③に関する学力を評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後にポータルシステムを使ってフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next教科書シリーズ 政治学』第2版	吉野篤編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	参考書その他の文献・資料は授業中に指示する。なお新聞報道を資料として可能な限り配布する予定。				

【オフィスアワー】
火曜日午前中 研究室（本館 8 階1807研究室） yoshino.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	政治理論とは何か、今後の授業計画		理論とは何か、とりわけ政治理論とは何かを大前提として開設し、前学期で取り上げる具体的内容の概要を示し、留意事項を伝える。
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、政治理論の意味や意義を理解し、授業内容の全体像を理解し、注意すべき点、留意点などを把握することができる。	
	事前学修	国内外で問題となっている政治問題について関心を広げ、その経緯や現状を調べてみること。	120分
	事後学修	授業の全体像について理解し、テキストの該当箇所を確認し、整理すること。	120分
2	イギリス理想主義の政治哲学		20世紀のアメリカ政治学史を具体的に取り上げる前に、19世紀末のイギリスで思想的にも理論的にもおおきな影響を与えたオックスフォート学派の政治哲学について考察する。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、時代の転換期にあつて、その時代的変容に対処しようとしたイギリスの政治哲学的英知について概要を認識できる。	
	事前学修	19世紀後半のイギリスが直面していた課題はどのようなものであったのか、事前に調べておくこと。	120分
	事後学修	国家とはどのような存在であり、個人と国家の関係はどうあるべきかを日本の現状から考えてみる。	120分
3	政治過程論の生成		20世紀初頭に現れたベントレーの政治過程論について具体的な特徴を中心に考察する。
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、科学としての政治学への重要なステップとしてこの政治過程論が位置づけられることを理解できる。	
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、新しいアプローチの意味を考えておくこと。	120分
	事後学修	テキストにある参考文献に当たり、さらに政治過程分析について掘り下げること。	120分
4	政治学は科学として可能であるか		社会学者マンハイムの『政治学は科学として可能であるか』を紹介し、そこでの議論の要点を提示して、科学化への道程に関するヒントを探る。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、政治学の科学的性格を高めることについてのヨーロッパの英知とはどのような内容であったかの一端を理解できる。	
	事前学修	マンハイムの業績、知識社会学などについて関係資料で事前に調べておくこと。	120分
	事後学修	もう一度マンハイムの主張を整理し、政治研究の可能性や課題などについて整理すること。	120分
5	シカゴ学派の全体像		1920年代からのシカゴ学派の形成とその主要メンバーの主要な功績、ある程度共通する立場などについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、アメリカ政治学のこれ以後の基盤となったシカゴ学派の考え方を全体的に理解することができる。	
	事前学修	主要メンバーだったメリアムやラスウェルについてある程度の予備知識を仕入れておくこと。	120分
	事後学修	統領だったメリアムの考え方などをアメリカ政治学の参考書などで今一度整理すること。	120分
6	ラスウェルの政治的精神分析学		シカゴ学派の具体的研究例としてラスウェルの政治的精神分析学を取り上げ、科学化へのステップとして位置づけながら、その独自性について解説する。
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、近隣の学問的成果を政治学に応用しようとした具体的事例として、その重要なステップであることを理解できる	
	事前学修	できる範囲で精神分析学の大まかな枠組みを調べておくこと。	120分
	事後学修	発展的に他のラスウェルの研究をフォローしてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	行動論政治学の台頭		第二次大戦後に興隆する行動論政治学について、その基本的特徴を中心に全体像を示す。
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、シカゴ学派の基本的取り組みの延長線上に行動論的枠組みが生じ、大きなムーブメントとなったことを理解し認識できる。	
	事前学修	行動科学そのものについて予備知識的に概要を捉えておくこと。	120分
	事後学修	発展的に主要メンバーの主要研究成果についても調べてみること。	120分
8	政治システム論の展開		1950年代後半に提起されたイーストンによる政治システム論についてモデル図を参照しながら解説する。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、このシステムが政治の一般理論的な性格をもっていたことを認識できるとともに、自然科学的枠組みが導入されていることを理解できる。	
	事前学修	システムのそもそもの意味を考えておくとともに、自然科学と社会科学の特徴を整理しておくこと。	120分
	事後学修	政治システム論の特徴を整理し、合わせてそこにどのような課題を見出すことができるかを主体的に考えること。	120分
9	脱行動論革命の衝撃		1969年に提起された脱行動論革命が政治学界にいかなるインパクトを与えたか、また、その核心的意義はどのような点にあったかを考察する。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、イーストンの演説内容がいかなる重要性をもっていたか、また、学問としての政治学を考えるうえで、いかに大きなインパクトを与えたかを認識でき、理解できる。	
	事前学修	アメリカの1960年代後半という時代はどのような時代であったのか、脱行動論革命を理解するための参考として調べておくこと。	120分
	事後学修	できればイーストンの政治体系論を丹念にあたりに、改めてその理論枠組みを整理すること。	120分
10	行動論以後の多様なアプローチ		1970年代以降の研究のいくつかのアプローチを提示して、研究の多様性を紹介し、行動論からの変容を跡付ける。
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、政治哲学の復権をはじめとする研究分野の拡散について、その概要をつかむことができる。	
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、新しいアプローチの意味を考えておくこと。	120分
	事後学修	各アプローチのもつ有意性について主体的に考えること	120分
11	政治制度研究の系譜：プラトン		制度研究が政治研究の王道であったという視点から、プラトンの政治哲学の中にある制度設計について考える。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、プラトンの提起した問題意識が決して時代錯誤ではなく、現代の政治制度設計に関しても重要な視点を提供するものであることを理解できる	
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、古代ギリシャの思想的営為について整理すること。	120分
	事後学修	できればプラトンの国家編を部分的にでも読み、古典に触れる機会とすること。	120分
12	マキャベリの統治術		君主論を中心として、マキャベリの政治概念の革新性について考察する。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、近代の政治概念の確立に果たしたマキャベリの功績を理解するとともに、マキャベリズムの真意に迫ることができる。	
	事前学修	15世紀後半のイタリアの置かれていた状況を整理し、マキャベリの政治理論的位置づけを認識することができる。	120分
	事後学修	国家理性という概念について整理し直し、マイネッケの研究などにも主体的に取り組むこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	規範的新制度論の考え方	新制度論の分析枠組みの総論としてマーチとオルセンによる議論を取り上げ、行動論の成果を踏まえて登場した新たな制度論について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、それまでの伝統的な制度論との比較を通じて、この考え方がどのようなインパクトをもつのかを理解することができる。	
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、この考え方の枠組みを整理しておくこと。	120分
	事後学修	改めて制度の意味を多角的に整理してみること。	120分
14	歴史的新制度論の考え方	総論として分析の枠組みを示し、合わせて具体的な研究文献をもとに、より具体的な論理を示す。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、政治史と政治理論の接点となり、両者の融合の可能性を認識し理解できる。	
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、考え方のアウトラインを捉えること。	120分
	事後学修	政治の歴史に理論的視点が導入されることの意味を改めて考えてみること。	120分
15	合理的選択新制度論・社会学的新制度論	経済学と政治学の接点、また、社会学と政治学の接点について考察する際の参考例としてふたつの分析枠組みを示す。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、隣接の学問分野が政治研究にとって有意になるケースの具体的な研究について一定の知見を得ることができる。	
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、考え方のアウトラインを整理しておくこと。	120分
	事後学修	このような学際的研究についてさらに他の例があるか主体的に調べること。	120分

科目名	現代メディア社会論Ⅰ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となる現状がある。その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、社会人として必要な社会科学の知識を修得する。

【履修条件】
新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
教科書を概略学習に使用、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる（第6回）。また、グループワークで映像表現について討論させる（第11回）。リアクションペーパーは、毎回書かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マスメディアのメディア別の組織形態や成立、それぞれのメディアの特徴、役割を理解し、説明できる。【知識】				1							
②	それぞれのメディア発達の歴史過程を理解し、その特徴を理解、説明できる。【知識】					1						
③	メディアの成立と現在を比較対照し、現在の問題点を探る為、書物・Web等で調べることができる。【技能】					1						
④	統計資料に基づいて、グラフ、表等を正に解釈でき、説明できる。【知識】				1							
⑤	映像資料を見聞きし、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑥	文字資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑦	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】										1	
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	中間で1回、まとめに1回提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる、各メディア成立と特徴の理解が身についているかを評価する。	15	8	8	8	8	8	15				70
討論・発表等	到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを、映像表現についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べることができたか等の評定尺度により受講生同士がお互いに評価する。(ピア評価)					10	5	5				20
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	9	9	9	19	15	23				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	教科書	必携
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	任意
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	任意
備考						

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特に授業に関連したものに解説を加え授業冒頭で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション及び導入講義		イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①②に関連し、メディアとは何かを理解し、説明できる。		
	事前学修	本講座シラバスでのメディアの諸問題について、新聞、出版、放送、広告、エンタテインメントの各業界別の問題点を列記しまとめておく。	150分	
	事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。授業の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分	
2	現代社会とメディアの関係		現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」に沿って解説。	
	この回の到達目標	日本のメディアの盛衰について、到達目標①②③に関して、歴史的背景を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」を、特に戦後の日本メディアのメディア別盛衰について注意して読み、その特徴を列記しておく。	180分	
	事後学修	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考察する。	60分	
3	現代メディアの利用と環境		ケータイからスマホへ教科書第6章 ケータイからスマホへ P. 247～273に沿ってその変遷を解説する。	
	この回の到達目標	現代のメディア利用が、携帯電話成立とインターネットの普及、更にスマートフォン中心となっていった経緯を、到達目標②に関連し理解できる。		
	事前学修	教科書P. 247～273を事前に読み、何故メディアからの情報が、WEB や携帯電話からの情報に偏り始め、普及とともにスマートフォンに変って行ったかを考えながら読む。	180分	
	事後学修	スマートフォンの功罪について、具体的に列記し考察する。	60分	
4	各業界 新聞①		第1章 新聞① 教科書新版P. 27～に沿って日本の新聞の成立時期や、限段までの変遷を学ぶ	
	この回の到達目標	新聞の成立、変遷について、ニュースメディアの祖である新聞の生まれた理由を、到達目標①に関連し理解できる		
	事前学修	教科書新版P. 27～ 第1章について、新聞の盛衰についてメディアの祖であることに留意し、現在の状況も考慮しながら、事前に読んでおく。	180分	
	事後学修	コンビニや、図書館で新聞に触れ同日の紙面を複数紙読んで、同一の出来事の表現の違いをみる。	60分	
5	各業界 新聞②		第1章 新聞② 教科書新版P. 27～P. 74教科書に沿って新聞業界のはじめから盛衰を解説する。	
	この回の到達目標	新聞は読まない人が増えたという割に、メディアとしての信頼度が高いのは何故か、到達目標①②③に関連し理解できる。		
	事前学修	当日の新聞を複数紙読んで、同一の出来事について記した記事の表現の違いを列記しておく。	90分	
	事後学修	インターネットのプラットフォームニュースサイトで、ニュース項目をチェックしてみる。既存メディア発のニュースがどのくらいあるか件数を数え、Webメディアと比べる。	150分	
6	メディアの大衆化以前		映画「薔薇の名前」抜粋 上映 印刷機発明以前の中世ヨーロッパの時代、本は写本であったが、本を所蔵できるのはキリスト教会であった。知の独占状況と大衆化以前のメディアについて学びレポートを提出する。	
	この回の到達目標	メディアの大衆化以前は、本は写本として流通していた。また本が所蔵されているのは中世ヨーロッパではキリスト教会、日本では貴族階級の独占であった。大衆化以前のメディアについて、到達目標①②③に関連し理解できる。		
	事前学修	映画「薔薇の名前」について、本編等映画雑誌、Web等で、印刷術の発明の前は本はどこに保存され、どう扱われていたかを中心にストーリーを確認する。	90分	
	事後学修	知の独占であった中世の教会には、知識の大衆化、メディアの大衆化にどんな影響があったか振り返り、その後の印刷術の発明によるメディアの大衆化への流れを推論する。	150分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	マスコミュニケーションの成立と近代		前回のメディア大衆化以前の状況から活版印刷」の発明、写真、映画と発展してくるメディアとそれが大量に伝達されていく過程を学ぶ	
	この回の到達目標	活版印刷機の発明後、宗教改革や政党政治等、社会状況とメディア・コミュニケーションは密接に関係しながら発達してきたことを、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	マスコミュニケーションが成立するためには、どのような社会状況や条件が必要か特に文字、口伝、印刷物、交通、平和かどうか等を考慮に入れ、調べる。		150分
	事後学修	前回提出のレポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事や、薔薇の名前の内容と比較、考察する。		90分
8	各業界 放送① 制度・構造・歴史		テレビの放送組織、機械構造を学ぶ。教科書第2章放送 P. 75～130のうちテレビの歴史から現在まで。	
	この回の到達目標	テレビの発明、成立、テレビ普及のエポックを学ぶ。今は普及しているPCと同じように放送開始当時は大変高価だったものが普及していく経緯を社会、時代背景と共に、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	テレビと映画との映像表示システムの違い、普及の仕方を調べ、対抗関係にあった2つのメディアが、依然として残っている理由を考察する。		150分
	事後学修	テレビ普及と社会事象、現代史との対比が、事件をはじめ社会的出来事と共に認識できているか、〇〇のテレビ化、映像化といった社会現象と共に考察する。		90分
9	各業界 放送② WEB、動画配信と放送		テレビ、ラジオの今とインターネット、スマートフォンとの対立、融合について。また動画配信サービス、youtube等との関係について問題点を探る。教科書第2章 放送 P. 75～130	
	この回の到達目標	1970年代からメディアの王者であったテレビが2000年前後から視聴者を減らし、Web、スマホ、定額動画配信といった新たなメディアが発展してきた。今後、テレビなど放送はどうなっていくのか、現状と問題点を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	テレビを視聴する。ニュース、ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、スポーツ中継、教育・文化・科学番組は、それぞれ何の為に存在するか、また、コマーシャルのある商業放送と受信料を取る公共放送の違いを理解する。		140分
	事後学修	動画配信、オンデマンド配信はどういうものか体験してみる（Tver、GYAOといった無料のアプリを使う）		100分
10	各業界 放送③ テレビ放送と報道		映画『グッドナイト&グッドラック』を鑑賞、テレビ報道の機能を商業放送の根本理念との対立や、社会現象とメディアの関係を読み取る。権力監視・表現の自由とニュース関係を知る。	
	この回の到達目標	映画『グッドナイト&グッドラック』を見、ジャーナリズムの権力監視、表現の自由と圧力、商業放送の利益追求の対立をどう切り抜けて、事実の放送に到達するか、それぞれの立場を見て、どうあるべきかを到達目標①②③④⑤に関連し考察できる。		
	事前学修	映画『グッドナイト&グッドラック』について内容を調べ、「赤狩り」・レッドページ（red purge）とは何か日米の社会的背景を調べて理解しておく。		120分
	事後学修	番組放送に対すると圧力、あるいは名誉棄損訴訟といった放送にまつわる問題と権力監視、表現の自由、の例について具体的にWeb、書籍などで調べ代表例を列記しておく。		120分
11	前週見た映画についてグループワーク		前回の映画「グッドナイト&グッドラック」を見て、○権力の監視機能、○商業放送、○弱者の声を聞く等のTVメディアの機能と社会の関係での問題点をグループ討議しお互いに評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦に関連し、前週に見た映画について、テレビメディアの機能と社会との関係を念頭に討論に参加し、意見を述べることができる。		
	事前学修	社会とTVメディアの関係について（権力監視・弱者の救済・企業との関係・経営問題等）過去の問題を調べ自らはどう考えるか、発言をする素地をノートなどに列記しておく。		180分
	事後学修	自らの発言だけではなく、他の学生の発言も取り入れて検討し、より適切な意見とするためにノートに記し、合わせて考察する。		60分
12	各業界 出版と広告 業界の概要		教科書P. 131～出版、P. 169～広告業の各界もWebの波に押され、広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。出版は電子書籍の台頭と、特に雑誌に特化して述べる。	
	この回の到達目標	Webの台頭が著しいが、その流れが加速する原因と現状の出版・広告業界について状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	教科書P. 131～出版、P. 169～広告について、それぞれの業界の盛衰に注意しながら、現在の課題に注目し列記しておく。		150分
	事後学修	業界の変化が速さを増していることを知ることと、Web広告がテレビ広告を抜く可能性があり、それは何を意味するかを考察する。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	各業界エンタテインメント	映画、アニメ、音楽業界を中心とするエンタテインメントは、映画・音楽は2千億円産業、アニメは国内だけで2兆円産業といわれる。それぞれの産業の成立と今、現在の問題点を探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、映画、アニメ、音楽産業、それぞれの業界の特徴に注意しながら各業界の盛衰と今後の課題について理解できる。（教科書P.209～245）	
	事前学修	映画、アニメ、音楽業界、教科書P.209～245をそれぞれの業界の特徴に注意しながら盛衰と今後の課題についてあらかじめ読んでまとめる。	150分
	事後学修	アニメ業界が産業として大きく飛躍した理由や経過について具体的に調べて確かめてみる。	90分
14	フェイク・ニュースとファクトチェック、SNS。	2016年のアメリカ大統領選は「フェイクニュース」という言葉を流布させ、「オルタナティブ・ファクト」を流行らせた。こうした言葉はSNSによって広がり、一方でそれを調べる「ファクトチェック」も立ち上がった。「フェイクニュース」と「ファクトチェック」それを結ぶ「SNS」との関係をあきらかにする。	
	この回の到達目標	フェイクニュースとは何か、ファクト・チェックとは何を明らかにすることか、到達目標①②③④⑤⑥関連し理解できる。	
	事前学修	フェイクニュースとは何か、具体的にどういうことがあったか、フェイクニュースの特徴は何か列記して、代表的なフェイクニュースの具体的な文を含めて、調べる。	140分
	事後学修	フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。	100分
15	授業内レポート及び解説	これまでの講座でやってきた単元の選択問題を出し、レポート形式で答える。制限60分。終了後授業内レポートについて、模範例をはじめ、書き方のポイント、分かりやすく書く方法、必要な記述などを示すことで受講生にフィードバックをする。	
	この回の到達目標	これまでの講座でやってきた範囲の中での理解度をレポート提出で評価する。成績評価の方法・基準・割合の通り。それぞれの課題を到達目標①②③④⑤⑥に関連し理解でき、説明できる。	
	事前学修	レポート課題についてその範囲を復習し、レポートを時間内に書ききれるようにする。	180分
	事後学修	授業内レポートで書いた内容を検討し、書けなかった部分、足りなかった部分を補強する。	60分

科目名	現代メディア社会論Ⅰ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となる現状がある。その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、社会人として必要な社会科学の知識を修得する。

【履修条件】
新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
教科書を概略学習に使用、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる（第6回）。また、グループワークで映像表現について討論させる（第11回）。リアクションペーパーは、毎回書かせる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マスメディアのメディア別の組織形態や成立、それぞれのメディアの特徴、役割を理解し、説明できる。【知識】				1							
②	それぞれのメディア発達の歴史過程を理解し、その特徴を理解、説明できる。【知識】					1						
③	メディアの成立と現在を比較対照し、現在の問題点を探る為、書物・Web等で調べることができる。【技能】					1						
④	統計資料に基づいて、グラフ、表等を正當に解釈でき、説明できる。【知識】				1							
⑤	映像資料を見聞きし、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑥	文字資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【態度】										1	
⑦	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】										1	
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	中間で1回、まとめに1回提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる、各メディア成立と特徴の理解が身についているかを評価する。	15	8	8	8	8	8	15				70
討論・発表等	到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを、映像表現についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べることができたか等の評定尺度により受講生同士がお互いに評価する。(ピア評価)					10	5	5				20
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	9	9	9	19	15	23				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	教科書	必携
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	任意
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	任意
備考						

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特に授業に関連したものに解説を加え授業冒頭で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション及び導入講義		イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①②に関連し、メディアとは何かを理解し、説明できる。		
	事前学修	本講座シラバスでのメディアの諸問題について、新聞、出版、放送、広告、エンタテインメントの各業界別の問題点を列記しまとめておく。	150分	
	事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。授業の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分	
2	現代社会とメディアの関係		現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」に沿って解説。	
	この回の到達目標	日本のメディアの盛衰について、到達目標①②③に関して、歴史的背景を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書P. 13～26「本書を読む人の為に」を、特に戦後の日本メディアのメディア別盛衰について注意して読み、その特徴を列記しておく。	180分	
	事後学修	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考察する。	60分	
3	現代メディアの利用と環境		ケータイからスマホへ教科書第6章 ケータイからスマホへ P. 247～273に沿ってその変遷を解説する。	
	この回の到達目標	現代のメディア利用が、携帯電話成立とインターネットの普及、更にスマートフォン中心となっていった経緯を、到達目標②に関連し理解できる。		
	事前学修	教科書P. 247～273を事前に読み、何故メディアからの情報が、WEB や携帯電話からの情報に偏り始め、普及とともにスマートフォンに変って行ったかを考えながら読む。	180分	
	事後学修	スマートフォンの功罪について、具体的に列記し考察する。	60分	
4	各業界 新聞①		第1章 新聞① 教科書新版P. 27～に沿って日本の新聞の成立時期や、限段までの変遷を学ぶ	
	この回の到達目標	新聞の成立、変遷について、ニュースメディアの祖である新聞の生まれた理由を、到達目標①に関連し理解できる		
	事前学修	教科書新版P. 27～ 第1章について、新聞の盛衰についてメディアの祖であることに留意し、現在の状況も考慮しながら、事前に読んでおく。	180分	
	事後学修	コンビニや、図書館で新聞に触れ同日の紙面を複数紙読んで、同一の出来事の表現の違いをみる。	60分	
5	各業界 新聞②		第1章 新聞② 教科書新版P. 27～P. 74教科書に沿って新聞業界のはじめから盛衰を解説する。	
	この回の到達目標	新聞は読まない人が増えたという割に、メディアとしての信頼度が高いのは何故か、到達目標①②③に関連し理解できる。		
	事前学修	当日の新聞を複数紙読んで、同一の出来事について記した記事の表現の違いを列記しておく。	90分	
	事後学修	インターネットのプラットフォームニュースサイトで、ニュース項目をチェックしてみる。既存メディア発のニュースがどのくらいあるか件数を数え、Webメディアと比べる。	150分	
6	メディアの大衆化以前		映画「薔薇の名前」抜粋 上映 印刷機発明以前の中世ヨーロッパの時代、本は写本であったが、本を所蔵できるのはキリスト教会であった。知の独占状況と大衆化以前のメディアについて学びレポートを提出する。	
	この回の到達目標	メディアの大衆化以前は、本は写本として流通していた。また本が所蔵されているのは中世ヨーロッパではキリスト教会、日本では貴族階級の独占であった。大衆化以前のメディアについて、到達目標①②③に関連し理解できる。		
	事前学修	映画「薔薇の名前」について、本編等映画雑誌、Web等で、印刷術の発明の前は本はどこに保存され、どう扱われていたかを中心にストーリーを確認する。	90分	
	事後学修	知の独占であった中世の教会には、知識の大衆化、メディアの大衆化にどんな影響があったか振り返り、その後の印刷術の発明によるメディアの大衆化への流れを推論する。	150分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	マスコミュニケーションの成立と近代		前回のメディア大衆化以前の状況から活版印刷」の発明、写真、映画と発展してくるメディアとそれが大量に伝達されていく過程を学ぶ	
	この回の到達目標	活版印刷機の発明後、宗教改革や政党政治等、社会状況とメディア・コミュニケーションは密接に関係しながら発達してきたことを、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	マスコミュニケーションが成立するためには、どのような社会状況や条件が必要か特に文字、口伝、印刷物、交通、平和かどうか等を考慮に入れ、調べる。		
	事後学修	前回提出のレポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事や、薔薇の名前の内容と比較、考察する。		
8	各業界 放送① 制度・構造・歴史		テレビの放送組織、機械構造を学ぶ。教科書第2章放送 P. 75～130のうちテレビの歴史から現在まで。	
	この回の到達目標	テレビの発明、成立、テレビ普及のエポックを学ぶ。今は普及しているPCと同じように放送開始当時は大変高価だったものが普及していく経緯を社会、時代背景と共に、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	テレビと映画との映像表示システムの違い、普及の仕方を調べ、対抗関係にあった2つのメディアが、依然として残っている理由を考察する。		
	事後学修	テレビ普及と社会事象、現代史との対比が、事件をはじめ社会的出来事と共に認識できているか、〇〇のテレビ化、映像化といった社会現象と共に考察する。		
9	各業界 放送② WEB、動画配信と放送		テレビ、ラジオの今とインターネット、スマートフォンとの対立、融合について。また動画配信サービス、youtube等との関係について問題点を探る。教科書第2章 放送 P. 75～130	
	この回の到達目標	1970年代からメディアの王者であったテレビが2000年前後から視聴者を減らし、Web、スマホ、定額動画配信といった新たなメディアが発展してきた。今後、テレビなど放送はどうなっていくのか、現状と問題点を到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	テレビを視聴する。ニュース、ドラマ、バラエティー、ドキュメンタリー、スポーツ中継、教育・文化・科学番組は、それぞれ何の為に存在するか、また、コマーシャルのある商業放送と受信料を取る公共放送の違いを理解する。		
	事後学修	動画配信、オンデマンド配信はどういうものか体験してみる（Tver、GYAOといった無料のアプリを使う）		
10	各業界 放送③ テレビ放送と報道		映画『グッドナイト&グッドラック』を鑑賞、テレビ報道の機能を商業放送の根本理念との対立や、社会現象とメディアの関係を読み取る。権力監視・表現の自由とニュース関係を知る。	
	この回の到達目標	映画『グッドナイト&グッドラック』を見、ジャーナリズムの権力監視、表現の自由と圧力、商業放送の利益追求の対立をどう切り抜けて、事実の放送に到達するか、それぞれの立場を見て、どうあるべきかを到達目標①②③④⑤に関連し考察できる。		
	事前学修	映画『グッドナイト&グッドラック』について内容を調べ、「赤狩り」・レッドページ（red purge）とは何か日米の社会的背景を調べて理解しておく。		
	事後学修	番組放送に対すると圧力、あるいは名誉棄損訴訟といった放送にまつわる問題と権力監視、表現の自由、の例について具体的にWeb、書籍などで調べ代表例を列記しておく。		
11	前週見た映画について グループワーク		前回の映画「グッドナイト&グッドラック」を見て、○権力の監視機能、○商業放送、○弱者の声を聞く等のTVメディアの機能と社会の関係での問題点をグループ討議しお互いに評価する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦に関連し、前週に見た映画について、テレビメディアの機能と社会との関係を念頭に討論に参加し、意見を述べることができる。		
	事前学修	社会とTVメディアの関係について（権力監視・弱者の救済・企業との関係・経営問題等）過去の問題を調べ自らはどう考えるか、発言をする素地をノートなどに列記しておく。		
	事後学修	自らの発言だけではなく、他の学生の発言も取り入れて検討し、より適切な意見とするためにノートに記し、合わせて考察する。		
12	各業界 出版と広告 業界の概要		教科書P. 131～出版、P. 169～広告業の各界もWebの波に押され、広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。出版は電子書籍の台頭と、特に雑誌に特化して述べる。	
	この回の到達目標	Webの台頭が著しいが、その流れが加速する原因と現状の出版・広告業界について状況を、到達目標①②③④⑤に関連し理解できる。		
	事前学修	教科書P. 131～出版、P. 169～広告について、それぞれの業界の盛衰に注意しながら、現在の課題に注目し列記しておく。		
	事後学修	業界の変化が速さを増していることを知ることと、Web広告がテレビ広告を抜く可能性があり、それは何を意味するかを考察する。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	各業界エンタテインメント		映画、アニメ、音楽業界を中心とするエンタテインメントは、映画・音楽は2千億円産業、アニメは国内だけで2兆円産業といわれる。それぞれの産業の成立と今、現在の問題点を探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、映画、アニメ、音楽産業、それぞれの業界の特徴に注意しながら各業界の盛衰と今後の課題について理解できる。（教科書P.209～245）		
	事前学修	映画、アニメ、音楽業界、教科書P.209～245をそれぞれの業界の特徴に注意しながら盛衰と今後の課題についてあらかじめ読んでまとめる。		150分
	事後学修	アニメ業界が産業として大きく飛躍した理由や経過について具体的に調べて確かめてみる。		90分
14	フェイク・ニュースとファクトチェック、SNS。		2016年のアメリカ大統領選は「フェイクニュース」という言葉を流布させ、「オルタナティブ・ファクト」を流行らせた。こうした言葉はSNSによって広がり、一方でそれを調べる「ファクトチェック」も立ち上がった。「フェイクニュース」と「ファクトチェック」それを結ぶ「SNS」との関係をあきらかにする。	
	この回の到達目標	フェイクニュースとは何か、ファクト・チェックとは何を明らかにすることか、到達目標①②③④⑤⑥関連し理解できる。		
	事前学修	フェイクニュースとは何か、具体的にどういうことがあったか、フェイクニュースの特徴は何か列記して、代表的なフェイクニュースの具体的な文を含めて、調べる。		140分
	事後学修	フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容を受けて更に考察する。		100分
15	授業内レポート及び解説		これまでの講座でやってきた単元の選択問題を出し、レポート形式で答える。制限60分。終了後授業内レポートについて、模範例をはじめ、書き方のポイント、分かりやすく書く方法、必要な記述などを示すことで受講生にフィードバックをする。	
	この回の到達目標	これまでの講座でやってきた範囲の中での理解度をレポート提出で評価する。成績評価の方法・基準・割合の通り。それぞれの課題を到達目標①②③④⑤⑥に関連し理解でき、説明できる。		
	事前学修	レポート課題についてその範囲を復習し、レポートを時間内に書ききれるようにする。		180分
	事後学修	授業内レポートで書いた内容を検討し、書けなかった部分、足りなかった部分を補強する。		60分

科目名	現代メディア社会論Ⅱ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。そしてニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。基本的にはジャーナリズムの担い手としてマス・メディアを想定して、理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズムを政治・社会学の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。					2							
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。						2						
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。											2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	論述問題を出題し、①②に関する到達度を評価する。	46	46									92
小テスト等	なし											
レポート等	なし											
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。			4								4
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			4								4
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	46	8								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版	大井真二編ほか	世界思想社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読してくること。	120分
	事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	120分
2	メディア化時代のジャーナリズム	「メディア化」した現代におけるジャーナリズムの問題と課題について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、「メディア化」の概念について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
3	ジャーナリズムの歴史・教育・制度①	ジャーナリズム史について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム史の基礎を理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
4	ジャーナリズムの歴史・教育・制度②	ジャーナリズム教育―ジャーナリズム・リテラシーについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム教育に関する基礎を理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
5	ジャーナリズムの歴史・教育・制度③	ジャーナリズムの法と倫理について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムの法・倫理について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
6	ジャーナリズムの生産過程①	事件・現実に関する情報の取捨選択（取材と報道）について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジャーナリズムの生産過程②	ニュース価値と選択性と「ニュースのコントロール」について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ニュース・価値論に関する基礎について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
8	ジャーナリズムの生産過程③	プロフェッショナリズムと客観性について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、客観報道主義について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
9	ジャーナリズムの生産過程④	ジェンダーとメディアについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、メディア研究におけるジェンダー問題について基礎的に理解できる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
10	ニュースのフレーム、ニュースにおける物語	ジャーナリズム研究における「フレーム」「物語」概念について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、「フレーム」「物語」といった概念に関する基礎的理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
11	オルタナティブ・ジャーナリズム	マス・メディア以外のオルタナティブ・メディアによるジャーナリズムについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、オルタナティブ・ジャーナリズムに関する基礎的な理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
12	グローバル化とジャーナリズム	グローバル化時代におけるジャーナリズムについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、グローバル時代におけるジャーナリズムについて基礎的な理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦争と平和のジャーナリズム	戦争と平和についてジャーナリズムがどう関係してきたのか解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムが戦闘と平和について果たして来た役割について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
14	ジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、ジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
	この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
	事前学修	今までの教科書の該当範囲を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
	事前学修	授業内試験の準備	190分
	事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	50分

科目名	現代メディア社会論Ⅱ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○					○	

【授業の概要】
新聞学とは新聞社に関する学問のことではなく、ニュースにまつわる様々な社会的現象・制度を研究する学問である。そしてニュースはレビュー（評論）とともにジャーナリズムを構成している。そしてジャーナリズムはコミュニケーションの一機能である。この授業では、社会的行為、およびその行為主体としての「ジャーナリズム」を政治学、社会学、メディア・コミュニケーション論的観点から説明する。基本的にはジャーナリズムの担い手としてマス・メディアを想定して、理論と事例を織り交ぜながら解説していきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ジャーナリズムを政治・社会学の観点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にジャーナリズムに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	新聞学の学問の射程と、基礎的な概念について説明することができる。					2						
②	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションについて概要を理解することができる。						2					
③	現代のジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関する問題点について、学生同士で議論することができる。										2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	論述問題を出題し、①②に関する到達度を評価する。	46	46									92
小テスト等	なし											
レポート等	なし											
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。			4								4
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。			4								4
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		46	46	8								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版	大井真二編ほか	世界思想社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	「新聞学（メディア・ジャーナリズム）」に関する議論の射程について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読してくること。	120分
	事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	120分
2	メディア化時代のジャーナリズム	「メディア化」した現代におけるジャーナリズムの問題と課題について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、「メディア化」の概念について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
3	ジャーナリズムの歴史・教育・制度①	ジャーナリズム史について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム史の基礎を理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
4	ジャーナリズムの歴史・教育・制度②	ジャーナリズム教育—ジャーナリズム・リテラシーについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズム教育に関する基礎を理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
5	ジャーナリズムの歴史・教育・制度③	ジャーナリズムの法と倫理について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムの法・倫理について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
6	ジャーナリズムの生産過程①	事件・現実に関する情報の取捨選択（取材と報道）について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、情報の取捨選択について基礎的に理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジャーナリズムの生産過程②	ニュース価値と選択性と「ニュースのコントロール」について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ニュース・価値論に関する基礎について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
8	ジャーナリズムの生産過程③	プロフェッショナリズムと客観性について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、客観報道主義について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
9	ジャーナリズムの生産過程④	ジェンダーとメディアについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、メディア研究におけるジェンダー問題について基礎的に理解できる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
10	ニュースのフレーム、ニュースにおける物語	ジャーナリズム研究における「フレーム」「物語」概念について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、「フレーム」「物語」といった概念に関する基礎的理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
11	オルタナティブ・ジャーナリズム	マス・メディア以外のオルタナティブ・メディアによるジャーナリズムについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、オルタナティブ・ジャーナリズムに関する基礎的な理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
12	グローバル化とジャーナリズム	グローバル化時代におけるジャーナリズムについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、グローバル時代におけるジャーナリズムについて基礎的な理解をすることができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦争と平和のジャーナリズム	戦争と平和についてジャーナリズムがどう関係してきたのか解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②に関して、ジャーナリズムが戦闘と平和について果たして来た役割について理解することができる。	
	事前学修	授業範囲の教科書（『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第二版』）を熟読して、理解を深めること。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
14	ジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、ジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
	この回の到達目標	目標③に関連し、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
	事前学修	今までの教科書の該当範囲を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
	事前学修	授業内試験の準備	190分
	事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	50分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に準拠し、オンデマンド講義形式で授業を行います。講義動画の配信や資料の配布は、ポータルシステムを通じて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	原則として毎回の授業につき、調べ学修を必要とする授業内課題を課します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①③についての基礎知識が身についているかを、 授業内課題により評価する。	30		30								60
レポート等	到達目標②④についての能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		20		20							40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題については、必要に応じて、提出物にみられた一般的傾向に対する講評や注意喚起などを、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454号室） ikeda.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	授業案内・導入：憲法の学び方		当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開		憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	憲法総論 憲法総論（2）：日本憲法史／日本国		明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	人権総論：人権の類型／人権の私人間効力		基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明し，履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明している教科書pp. 13-18を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，人権の類型，人権の享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ，説明できるようにする。	150分
5	精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由		思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明し，履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明している教科書pp. 136-145 を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界をノートにまとめ，説明できるようにする。	150分
6	精神的自由権（2）：政教分離		制度的保障としての政教分離の意義，政教分離原則の内容，政教分離原則違反の違憲審査基準（目的・効果基準）を説明し，履修者が政教分離原則の特質を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，政教分離の意義・内容，目的・効果基準を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準を説明している教科書pp. 145-150を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	精神的自由権（3）：政教分離をめぐる判例		政教分離をめぐる判例（津地鎮祭訴訟，殉職自衛官合祀訴訟，箕面忠魂碑訴訟，愛媛玉串料訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して，政教分離をめぐる主要判例に表れた法理を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，政教分離原則違反の違憲審査基準に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離をめぐる判例を説明している教科書pp. 150-161を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，政教分離をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	150分	
8	精神的自由権（4）：学問の自由／内心の自由の総復習		学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を説明し，履修者が学問の自由の特質を理解できるようにする。また，これまでに学修した内心の自由全般に関する総復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，学問の自由の意義・限界，教授の自由の範囲，大学の自治の主体・範囲を説明している教科書pp. 161-165を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，学問の自由の意義・判例をノートにまとめ，これまでの学修を振り返って，内心の自由の特質を説明できるようにする。	120分	
9	精神的自由権（5）：表現の自由		表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明し，履修者が表現の自由の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明している教科書pp. 165-170を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，表現の自由の優越的地位，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
10	精神的自由権（6）：表現の自由をめぐる判例／知る権利		表現の自由をめぐる判例（チャタレイ事件，夕刊和歌山時事事件，月刊ペン事件，沖縄返還阻止闘争事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また，表現の自由との関連で，知る権利・アクセス権の意義を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して，表現の自由をめぐる主要判例に表れた法理，知る権利・アクセス権の意義を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，表現の自由に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由をめぐる主要判例，知る権利・アクセス権の意義を説明している教科書pp. 170-177を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，表現の自由をめぐる主要判例に表れた法理，知る権利・アクセス権の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。	150分	
11	精神的自由権（7）：取材・報道の自由／検閲の禁止		取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例（博多駅テレビフィルム提出命令事件，外務省秘密漏洩事件など），検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例（税関検査事件，家永訴訟，北方ジャーナル事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例，検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，取材・報道の自由，検閲の禁止を説明している教科書pp. 177-186を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，取材・報道の自由の意義・判例，検閲の禁止の意義・判例をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
12	精神的自由権（8）：集会・結社の自由／通信の秘密		集会・結社の自由，通信の秘密の意義及びそれをめぐる判例（皇居前広場事件，泉佐野市民会館事件，東京都公安条例事件，エンタープライズ寄港阻止闘争事件，宗教団体アレフ観察処分取消し請求事件など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，集会・結社の自由の意義・判例，通信の秘密の意義・判例を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，集会・結社の自由を説明している教科書pp. 187-200を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，集会・結社の自由，通信の秘密の意義・判例をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	経済的自由権（1）：職業選択の自由	近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、職業選択（営業）の自由及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
14	経済的自由権（2）：財産権	財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権をめぐる問題を説明している教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	150分
15	経済的自由権（3）：その他の経済的自由権／経済的自由権の復習	居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明したのち、経済的自由権の総復習を行い、履修者が経済的自由権の全容を包括的に理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明している教科書pp. 220-224を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、経済的自由権をめぐる論点をノートにまとめ、その意義や重要判例の概要・争点・判旨、関連する法制度の趣旨をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
16	身体的自由権（1）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、身体的自由権（人身の自由）の基本原則を説明している教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分
17	身体的自由権（2）：被疑者の権利／刑事被告人の権利	被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利及び刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 233-241を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分
18	身体的自由権（3）：刑事被告人の権利	刑事被告人の権利（証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 241-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	参政権：参政権と選挙制度		参政権の意義及びそれをめぐる判例（外国人地方参政権訴訟，在外選挙権制限違憲訴訟など），選挙の基本原則，選挙制度の概要，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を説明し，履修者が参政権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，参政権の意義及びそれをめぐる判例，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，参政権の意義並びにそれをめぐる問題及び判例を説明している教科書pp. 320-326，124-135を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，「法の下での平等」原則との関連において，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向をノートにまとめ，参政権の特質を説明できるようにする。		120分
20	受益権		受益権（裁判を受ける権利，国家賠償請求権，刑事補償請求権，請願権）の意義を説明し，履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，受益権の意義及びそれを具体化する制度の概要を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，受益権を説明している教科書pp. 251-263を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，受益権の意義をノートにまとめ，受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。		120分
21	社会権（1）：生存権の法的性格		社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し，履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，社会権の歴史的背景・意義・特質，生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明している教科書pp. 264-272を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，社会権の意義，生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ，生存権の法的性格を説明できるようにする。		120分
22	社会権（2）：生存権をめぐる判例／教育を受ける権利		生存権をめぐる判例（朝日訴訟，堀木訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また，教育を受ける権利の内容を説明し，履修者がその特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して，生存権をめぐる判例（朝日訴訟，堀木訴訟など）を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解し，説明することができる。また，到達目標①②③に関連して，教育を受ける権利の内容及び特質を理解し，説明することができる。		
	事前学修	生存権をめぐる判例，教育を受ける権利を説明している教科書pp. 272-280を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，生存権をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また，教育を受ける権利の意義をノートにまとめ，説明できるようにする。		120分
23	社会権（3）：労働者の権利		勤労の権利・義務の意義，労働基本権の内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を説明し，履修者が労働者の権利の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，勤労の権利・義務の意義，労働基本権の内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，勤労の権利，労働基本権を説明している教科書pp. 280-290を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，勤労の権利・義務の意義，労働基本権の意義・内容，公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例をノートにまとめ，労働者の権利の特質を説明できるようにする。		120分
24	包括的人権（1）：法の下での平等		「平等」思想の歴史，「平等」のさまざまな意味，憲法14条の意義を説明し，履修者が「法の下での平等」原則の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，憲法14条の「法の下での平等」原則の特質を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，「法の下での平等」の意義及び特質を説明している教科書pp. 107-114を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，「法の下での平等」原則の意義，憲法14条の差別禁止自由列举の意義をノートにまとめ，「法の下での平等」原則の特質を説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	包括的人権（2）：平等原則違反の違憲審査基準／判	平等原則違反の違憲審査基準を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、「法の下 の平等」をめぐる判例（性別による差別に関する判例、尊属殺・尊属傷害致死重罰規定に関する 判例、非嫡出子法定相続分規定に関する判例）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理 解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下 の平等」をめぐる判例に表れた法理を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、「法の下 の平等」に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平等原則違反の違憲審査基準及び「法の下 の平等」をめぐる判例を説明している教科書pp. 115-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、平等原則違反の違憲審査基準をノートにまとめ、平等原則違反の違憲審査基準を説明できるように する。また、「法の下 の平等」をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	150分
26	包括的人権（3）：人権総論と「法の下 の平等」の総復習／個人の尊重と幸福追求権	人権総論で扱った内容と「法の下 の平等」に関するグループ・ディスカッション等のワークを行 う。また、個人の尊重と幸福追求権の意義を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、「法の下 の平等」に関するグループ・ディスカッション等を行い、意見を述べる ことができる。また、到達目標①②に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義を理解し、説明 することができる。★2	
	事前学修	前回授業の後に課せられた小テストの解答として提出した自分の答案を印刷またはメモして授業に持参する。また、 個人の尊重と幸福追求権を説明している教科書pp. 77-82を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメ モしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
27	包括的人権（4）：プライバシー権・肖像権	「新しい人権」の類型を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、一般的人格権 （プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者が事件の概要・争 点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「新しい人権」の類型、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する 判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、プライバシー権、肖像権を説明している教科書pp. 83-93 を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、「新しい人権」の類型をノートにまとめ、これを説明できるようにする。また、一般的人格権（プ ライバシー権、肖像権）の意義・判例をノートにまとめ、一般的人格権の特質を説明できるようにする。	120分
28	包括的人権（5）：名誉権・環境（人 格）権／自己決定権	名誉権・環境（人格）権の意義・判例を説明し、履修者がその趣旨を理解できるようにする。また、一般的人格権 （プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者が自己決定権の特質を理 解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名誉権・環境（人格）権の意義・判例、自己決定権の意義・類型及びそれに関連する判例を理 解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、名誉権・環境（人格）権、自己決定権を説明している教 科書pp. 93-106を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、名誉権・環境（人格）権の意義・判例をノートにまとめ、その趣旨を説明できるようにする。ま た、自己決定権の意義・判例をノートにまとめ、その特質を説明できるようにする。	120分
29	補遺：「憲法をまもる」ことの意味	政治的立場のいかんを問わず、すべての国民が知っておくべき「憲法 の特質」のことを、「憲法をまもる」というキーワードを手がかりに説明し、履修者が憲法論議の前提を理解できるように する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、「憲法 の特質」をはじめ、憲法論議の前提についての理解をもとに、憲法問題について自分の意見 を述べる ことができる。	
	事前学修	事前配布する資料を一読し、講義内容を概観しておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、憲法論議の前提を共有する。	150分
30	総括：「憲法Ⅰ（人権）」の総復習	本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項につき説明を補い、履修者がこれを十分に理解で きるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項についての知識と思考力を深めることができ る。	
	事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し、疑問点・不明点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、ノートを補完しつつ、定期試験を視野に入れた総復習を行い、基本的人権の意義や重要判例を理解 し、説明できるようにする。	150分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	石塚 壮太郎	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 日本国憲法	斎藤一久ほか編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入授業	講義の進め方および憲法の概要について説明する。	
	この回の到達目標	講義の趣旨、進め方、評価方法などをよく理解する。また、憲法の概要を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業概要および趣旨をよく理解しておく。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、憲法の概要についてノートにまとめる。	120分
2	人権総論(1)	憲法上の権利の構造（主体・名宛人・内容）と基本的な論じ方（保護領域・制限・正当化）について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について振り返り、ノートにまとめる。	120分
3	人権総論(2)	憲法上の権利の主体について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について振り返り、ノートにまとめる。	120分
4	人権総論(3)	憲法上の権利の私人間効力について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法上の権利の構造と基本的な論じ方について振り返り、ノートにまとめる。	120分
5	表現の自由(1)	表現の自由のうち、その保護領域や規制類型について学ぶ。	
	この回の到達目標	表現の自由の保護領域や規制類型について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	表現の自由の保護領域や規制類型について振り返り、ノートにまとめる。	120分
6	表現の自由(2)	表現の自由のうち、規制の正当化、審査基準論や二重の基準について学ぶ。	
	この回の到達目標	表現に対する規制の正当化、審査基準論や二重の基準について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	表現に対する規制の正当化、審査基準論や二重の基準について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	表現の自由(3)	表現の自由のうち、各表現類型ごとの考え方について学ぶ。	
	この回の到達目標	各表現類型ごとの考え方について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	各表現類型ごとの考え方について振り返り、ノートにまとめる。	120分
8	知る権利・報道の自由	知る権利・報道の自由について学ぶ。	
	この回の到達目標	知る権利・報道の自由について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	知る権利・報道の自由について振り返り、ノートにまとめる。	120分
9	集会の自由(1)	集会の自由について学ぶ。	
	この回の到達目標	集会の自由について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	集会の自由について振り返り、ノートにまとめる。	120分
10	集会の自由(2)	集会の自由を素材に、パブリック・フォーラム論と合憲限定解釈について学ぶ。	
	この回の到達目標	パブリック・フォーラム論と合憲限定解釈について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	パブリック・フォーラム論と合憲限定解釈について振り返り、ノートにまとめる。	120分
11	信教の自由	信教の自由について学ぶ。	
	この回の到達目標	信教の自由について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	信教の自由について振り返り、ノートにまとめる。	120分
12	政教分離	政教分離について学ぶ。	
	この回の到達目標	政教分離について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	政教分離について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	学問の自由	学問の自由について学ぶ。	
	この回の到達目標	学問の自由について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	学問の自由について振り返り、ノートにまとめる。	120分
14	大学の自治	大学の自治について学ぶ。	
	この回の到達目標	大学の自治について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	大学の自治について振り返り、ノートにまとめる。	120分
15	職業の自由 (1)	職業の自由のうち、保護領域やその制限について学ぶ。	
	この回の到達目標	職業の自由の保護領域やその制限について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	職業の自由の保護領域やその制限について振り返り、ノートにまとめる。	120分
16	職業の自由 (2)	職業の自由のうち、制限の正当化について、小売市場判決を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	職業の自由の制限の正当化について理解し、小売市場判決に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	小売市場判決について振り返り、ノートにまとめる。	120分
17	職業の自由 (3)	職業の自由のうち、制限の正当化について、薬事法違憲判決を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	職業の自由の制限の正当化について理解し、薬事法違憲判決に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	薬事法判決について振り返り、ノートにまとめる。	120分
18	財産権 (1)	財産権の基本的な考え方（内容形成論）について学ぶ。	
	この回の到達目標	財産権の基本的な考え方（内容形成論）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	財産権の基本的な考え方（内容形成論）について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	財産権(2)	財産権の基本的考え方について、森林法判決を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	財産権の基本的考え方について理解し、森林法判決に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	森林法判決について振り返り、ノートにまとめる。	120分
20	生存権(1)	生存権の具体化について学ぶ。	
	この回の到達目標	生存権の具体化について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	生存権の具体化について振り返り、ノートにまとめる。	120分
21	生存権(2)	生存権について、朝日訴訟と堀木訴訟を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	生存権について理解し、朝日訴訟と堀木訴訟に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	朝日訴訟と堀木訴訟について振り返り、ノートにまとめる。	120分
22	環境権	環境権について学ぶ。	
	この回の到達目標	環境権について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	環境権について振り返り、ノートにまとめる。	120分
23	教育を受ける権利(1)	教育を受ける権利について学ぶ。	
	この回の到達目標	教育を受ける権利について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	教育を受ける権利について振り返り、ノートにまとめる。	120分
24	教育を受ける権利(2)	教育を受ける権利について、旭川学テ訴訟を素材に学ぶ。	
	この回の到達目標	教育を受ける権利について理解し、旭川学テ訴訟に基づいて説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	旭川学テ訴訟について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	勤労権・勤労の義務	勤労権・勤労の義務について学ぶ。	
	この回の到達目標	勤労権・勤労の義務について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	勤労権・勤労の義務について振り返り、ノートにまとめる。	120分
26	労働基本権(1)	労働基本権について学ぶ。	
	この回の到達目標	労働基本権について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	労働基本権について振り返り、ノートにまとめる。	120分
27	労働基本権(2)	労働基本権について、特に公務員の労働基本権について学ぶ。	
	この回の到達目標	公務員の労働基本権について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	公務員の労働基本権について振り返り、ノートにまとめる。	120分
28	適正手続	適正手続について学ぶ。	
	この回の到達目標	適正手続について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	適正手続について振り返り、ノートにまとめる。	120分
29	授業内試験とコメント	授業内で筆記試験を行い(60分)、それについてコメントを行う(30分)。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、適切に問題を発見し、解答することができる。コメントに基づき、試験の解答についてポイントを把握することができる。	
	事前学修	筆記試験のために、これまでの授業を復習する。	120分
	事後学修	試験の解答のポイントを踏まえ、自らの解答をレビューする。	120分
30	まとめ	憲法上の権利について、統治の考え方と比較して、授業全体を振り返る。	
	この回の到達目標	憲法上の権利の考え方について理解し、統治の考え方と比較して説明することができる。	
	事前学修	作成したノート全体を振り返る。	120分
	事後学修	憲法上の権利の考えを、統治の考え方と比較して振り返り、ノートにまとめる。	120分

科目名	憲法Ⅰ（人権）【法職課程】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書にそってオンデマンド講義形式で行う。講義で使用する動画・資料をGoogle Classroomにて配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に把握できる能力が身についているかを各回の小テストにより評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で整理できる能力が身についているかをレポートにより評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法 7版	芦部信喜	岩波書店	2019	教科書	必携
憲法判例 8版	戸松秀典・初宿正典	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（ takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp ）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと	120分
	事後学修	オリエンテーションを振り返ること	120分
2	国家とは・憲法とは何か、立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書3-17ページを読んでくること。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。	120分
3	人権総論（1）	人権保障の歴史と意義・分類を学習する。歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書75-87ページを読んでくること。「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人権の性質と政府との関係をまとめること。	120分
4	人権総論（2）	人権の享有主体について学習する。憲法上の権利を行使することのできる者について考察する。特に外国人の国内での処遇と人権保障の問題を深く考えていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の享有主体についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書87-97ページを読んでくること。人権保障の対象となる人は誰なのかについて考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「人権の享有主体」「平等（人種・外国人）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
5	人権総論（3）	憲法規定の私人間効力について学習する。統治権を行使する政府を生み出す法としての憲法の性質を再確認したうえで、政府の権限行使に制約を課す規定である人権規定の役割を理解し、その間隙に生じる問題への具体的解決方法を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法規定の私人間効力についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書110-118ページを読んでくること。憲法というものの性質と、人権保障が及ぶ場面はどのようなものであるのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「私人間効力」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
6	人権総論（4）	人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題について学習する。無制約な人権は保障されないという常識的な感覚について、それを根拠づける考えを考察する。さらには一般国民とは別に、政府と特別な法律関係を結ぶ人々に対する特異な取り扱いについての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書98-102, 106-110, 281-283ページを読んでくること。「自由」と「勝手気まま」とは同じなのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「福祉国家主義」という憲法原則の内容と「内在的制約」の内容をまとめること。また、参考書で「公務員の政治活動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	人権総論（5）		人権を制約する法令の憲法適合性を判断する手法を学習する。公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	ある法律が憲法に違反するというのを、どのように決定するのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」の内容をまとめること。		120分
8	法の下での平等		平等原則の意義と内容について学習する。「等しい」とは何を意味するのか、どのような平等ならば憲法上許されるのかなどについての理解を深める。さらに、「合理的区別」による人の異なる取り扱いはいかなる理由で認められるのか、どのような事例に認められているのかなどを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、平等原則の意義と内容についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書127-148ページを読んでくること。何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができるのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「平等（家族関係）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
9	幸福追求権		「新しい人権」としての幸福追求権を学習する。主に人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「新しい人権」としての人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書119-126ページを読んでくること。電子機器の発展とプライバシー保護との関係を考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「幸福追求権の意味」「プライバシーの権利」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
10	環境権・自己決定権		「新しい人権」である環境権・自己決定権について学習する。環境権の意義と内容について、さらに自己決定権の保障範囲について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「新しい人権」である環境権・自己決定権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書126-127, 271-273ページを読んでくること。自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「環境権・人格権」「自己決定権・人格権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
11	思想・良心の自由		内心の自由の内容と保障範囲について学習する。内面の精神活動に対する制約を検討することを通して、内心の自由が保障する中核的内容の理解に努める。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、内心の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書149-153ページを読んでくること。国旗国歌に起立斉唱しなければならないのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「思想・良心の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
12	信教の自由・政教分離		宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係について学習する。内心の自由の内容と保障範囲、宗教への配慮の問題、宗教的色彩を帯びる政府活動の許容性などについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書153-167ページを読んでくること。風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いですので追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人々を政府が追悼するのは許されるのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「信教の自由」「政教分離原則」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	学問の自由・大学の自治		学問研究の自由の内容と保障範囲について学習する。人間の欲望と倫理的制約の関係を念頭に置きつつ、学問研究の自由の限界について考察する。加えて、研究の場である大学の独自性について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、学問研究の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書168-174ページを読んでくること。人間の複製に関する研究は許されるのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「学問の自由と大学の自治」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
14	表現の自由 (1)		表現の自由の意義について学習する。表現の自由に認められる「優越的地位」について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現の自由の意義についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書175-180ページを読んでくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、表現の自由は一般に他の人権よりも「優越的地位」にあるといわれるが、その理由を考えてくること。		120分
15	表現の自由 (2)		表現内容規制について学習する。名誉毀損表現、性表現、ヘイトスピーチなどを扱う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現内容規制についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書180-196ページを読んでくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「扇動的言論」「わいせつ表現」「名誉毀損」「営利的言論」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
16	表現の自由 (3)		表現内容中立規制について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現内容中立規制についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書196-198, 205-213ページを読んでくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「ビラ貼り・ビラ配布」「選挙運動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
17	表現の自由 (4)		検閲・知る権利について学習する。表現活動に不可欠な情報の入手はいかに確保できるのかについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、検閲・知る権利についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書198-204ページを読んでくること。(2時間)		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「情報公開・知る権利」「事前抑制・検閲の禁止」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)		120分
18	表現の自由 (5)		報道の自由、通信の秘密について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、報道の自由、通信の秘密についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書181-188, 221-223ページを読んでくること。(2時間)		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「報道の自由・取材源秘匿権」「通信の秘密」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	集会・結社の自由	集会・結社の自由について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集会・結社の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書213-221ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「集会・結社の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
20	人身の自由	人身の自由について学習する。日本国憲法下における徴兵制の可否についても考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、人身の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書242-243ページを読んでくること。（2時間）	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「意に反する苦役」と「強制役務」の違いをまとめること。（2時間）	120分
21	法定（適正）手続の保障	法定（適正）手続の保障について学習する。行政手続にも求められる適正さについても考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定（適正）手続の保障についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書243-246ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「適正手続の原則」「行政手続」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
22	刑事手続の保障（1）	被疑者の権利について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、被疑者の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書246-249ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「令状主義」「住居の不可侵」「弁護士依頼権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
23	刑事手続の保障（2）	被告人の権利について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、被告人の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書249-255ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「残虐な刑罰の禁止」「遡及処罰・事後立法の禁止」「一事不再理・二重の危険」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
24	職業選択の自由	居住移転の自由および職業・営業の自由について学習する。営利活動に対する憲法の姿勢について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、居住移転の自由および職業・営業の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書234-232ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「職業活動の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	財産権	財産権について学習する。憲法が「財産権の不可侵」を規定する意義を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書233-241ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「財産権」「正当な補償」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
26	社会権全般・生存権	福祉国家主義の意義と生存権の内容について学習する。私的自治の内容を確認したうえで、政府による弱者保護の実態を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、福祉国家主義の意義と生存権の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書267-271ページを読んでくること。社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「生存権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
27	教育を受ける権利・労働権	教育を受ける権利と労働者の権利を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、教育を受ける権利と労働者の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書273-281ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「教育を受ける権利」「団結権・団体交渉権」「争議権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
28	国務請求権	請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書256-259ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「裁判を受ける権利」「国家賠償請求権」「刑事補償請求権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
29	参政権	投票権、立候補の自由について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、投票権、立候補の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書260-262ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
30	まとめ	この講義で修得した内容を振り返る。	
	この回の到達目標	この講義で修得した憲法の人権保障の内容についての理解を説明できる。	
	事前学修	今までの授業内容をまとめておくこと。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。	120分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを、④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	憲法とは何か		憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章「憲法の概念」1を読んでおくこと。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念について整理したノートを作成する。	150分
2	基本的人権の歴史		基本的人権の歴史的展開について、人権思想、権利内容の変遷を中心に論じる。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、とりわけロックの社会契約に関する議論、憲法における人権の保障、人権概念の歴史的変遷を説明することができる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の歴史的展開について整理したノートを作成する。	150分
3	基本的人権の主体		基本的人権の主体ないし人的保護領域に関する議論を、国民、外国人、法人を例としながら論じる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法の基本的人権の享有主体に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の人的保護領域について、判例も含めて整理したノートを作成する。	150分
4	基本的人権の制限と正当化		基本的人権の制限とその正当化にかかわる議論を、公共の福祉論、比較衡量論、二重の基準論、比例原則審査論などを紹介しながら論じる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基本的人権の制限と正当化に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」3・4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、公共の福祉論および違憲審査基準論に関する議論を整理したノートを作成する。	150分
5	私人間効力論		私人間の法律関係に対する基本的人権規定の適用に関する議論を、三菱樹脂事件などの主要判例の展開を含めて論じる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人権規定の私人間効力という問題とそれに対する日本の裁判所の対応について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「基本的人権総論」5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、私人間における基本的人権の効力について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	150分
6	個人の尊重・幸福追求権（1）幸福追求権の保護領域		日本国憲法13条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を論じる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、とりわけ幸福追求権に関する人格的利益説と一般的自由説との対立、さらにはより現代的な解釈としての「違憲の強制を受けない権利」という理解を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」1～2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、幸福追求権の保護領域について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	個人の尊重・幸福追求権（2）新しい人権		日本国憲法には明文で保障されていない権利をどのように承認するかについての議論を、前回講義で説明した幸福追求権の保護領域との関係で論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、不文の権利の保障根拠、具体的な保障内容について、判例の展開を含めて説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「包括的基本権」3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、不文の権利の保障について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。		150分
8	法の下での平等（1）平等概念		絶対的/相対的平等，形式的/実質的平等といった平等概念と、日本国憲法14条後段列举事由の解釈について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平等概念がもつ意義と問題点、14条後段列举事由の意味が説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法上の平等概念および14条後段列举事由について整理したノートを作成する。		150分
9	法の下での平等（2）平等原則と違憲審査		前回講義で説明した14条後段列举事由の解釈を踏まえて、平等原則違反が問題となった具体的事例を挙げながら、平等原則違反に関する違憲審査のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、尊属殺重罰規定違憲判決、国籍法違憲判決、非嫡出子相続分差別違憲決定、再婚禁止期間違憲判決について違憲審査の内容を含めて説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7章「平等権」2～3を読んでおく。		90分
	事後学修	平等原則違反が問題となった裁判例およびそこでの判示内容を整理したノートを作成する。		150分
10	思想・良心の自由（1）思想・良心の自由の保護領域		日本国憲法19条が保障する思想・良心の自由の意義および保護領域に関する議論を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、従来の思想・良心の自由に関する解釈論を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、思想・良心の自由に関する従来の議論を判例の態度も含めて整理したノートを作成する。		150分
11	思想・良心の自由（2）思想・良心の自由と行為強制		一連の君が代・日の丸裁判で新たに議論されるようになった「望まぬ行為の強制」と思想・良心の自由への間接的制約の問題を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向を踏まえて、様々な「思想－行為」問題について自己の見解を示すことができる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。		150分
12	信教の自由と政教分離原則（1）信教の自由		日本国憲法20条が保障する信教の自由の意義や保護領域、制約事例について、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、信教の自由の保護領域や制約事例を、エホバの証人剣道実技拒否事件、オウム真理教解散命令事件などを含めて、具体的に説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、信教の自由の意義と内容について整理したノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	信教の自由と政教分離原則（2）政教分離原則		日本国憲法20条および89条が定める政教分離原則について、意義および内容を論じるとともに政教分離原則違反が問題とされた事例を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政教分離原則の内容とこれに対する違反が問題となった事例およびそこでの判示内容が説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、政教分離原則が問題となった裁判例を整理したノートを作成する。		150分
14	学問の自由		日本国憲法23条が定める学問の自由および大学の自治について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学問の自由の意義および大学の自治の内容について、主要判例を含めて説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、学問の自由および大学の自治について、判例を含めて整理したノートを作成する。		150分
15	表現の自由（1）表現の自由の保護領域		日本国憲法21条が定める表現の自由の意義と保護領域について、古典的表現の自由から知る権利を含めた現代的な表現の自由への展開を含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由の現代的な保護領域について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由の現代的な保護領域について整理したノートを作成する。		150分
16	表現の自由（2）表現の自由の制約と正当化		表現の自由に対する多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開を含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由に対する制約の態様と正当化論証のバリエーションを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。		150分
17	集会・結社の自由		日本国憲法21条が保障する集会・結社の自由について、保護領域、制約の正当化を中心に、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、集会・結社の自由の意義とともに、泉佐野市民会館事件、広島市暴走族条例事件などの事案を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第8章「精神的自由権」5・6を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、集会・結社の自由の意義と内容および制約事例について整理したノートを作成する。		150分
18	職業の自由（1）職業の自由の保護領域		日本国憲法22条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業の自由の具体的な保護領域について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」1・3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由の保護領域について整理したノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	職業の自由（2）職業の自由の制約と正当化	制約態様や規制目的による正当化論証の切り分け論も踏まえて、職業の自由に対する制約事例を、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、薬事法違憲判決、小売市場判決、酒税法事件などの主要判例について、そこでの判示内容も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業の自由が問題となった裁判例について整理したノートを作成する。	150分
20	財産権（1）財産権の保護領域と立法者による内容形成	日本国憲法29条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性を中心に論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権の特殊性やそれが顕著にあらわれた判例である森林法違憲判決について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ森林法違憲判決での最高裁の判断を整理したノートを作成する。	150分
21	財産権（2）財産権制約と正当化	財産権に対する制約類型（公用収用を含む）を踏まえて、それぞれの類型における違憲審査のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権保障に対する制約とその正当化論証を、判例の立場も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「経済的自由権」2・5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、財産権が問題となった裁判例について、制約類型を意識して整理したノートを作成する。	150分
22	身体の自由（1）適正手続保障	日本国憲法31条が定める刑事手続に関する原則規定の解釈のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、適正手続保障が何を意味するのか、それはどこまでの射程をもつのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」1～3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、適正手続保障の意義と内容について整理したノートを作成する。	150分
23	身体の自由（2）身体の自由各論	日本国憲法33条以下で定められた具体的な刑事手続に関する権利保障を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な刑事手続に関する権利保障の内容と限界を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第10章「身体的自由権」4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、刑事手続に関する権利保障を整理したノートを作成する。	150分
24	参政権（1）選挙権の意義と射程	日本国憲法15条が保障する選挙権を中心に、政治参加のための権利保障について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙権の意義・内容について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」1・2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、選挙権の意義と内容について、在外国民選挙権判決などの判例も含めて整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	参政権（2）議員定数不均衡	選挙の正当性・有効性を阻害する原因となる議員定数の不均衡という問題について、判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議員定数不均衡問題の所在とこれに対する裁判所判断の展開を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「参政権」3・4および第7章「平等権」4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、議員定数不均衡訴訟について整理したノートを作成する。	150分
26	受益権・国務請求権	請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権について、その制度依存的な特徴を含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権・国務請求権の意義や内容を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第12章「受益権」1～4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけそれぞれの権利の具体化を担う法令との関係性を整理したノートを作成する。	150分
27	生存権（1）生存権の法的性格	日本国憲法25条が定める生存権について、その法的性格をめぐる議論を紹介し、生存権保障の特殊性を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生存権の法的性格をめぐる議論を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」1・2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、生存権の法的性格を整理したノートを作成する。	150分
28	生存権（2）生存権訴訟の行方	堀木・朝日の両訴訟をはじめとして、近年の老齢加算廃止違憲訴訟などの展開を踏まえて、生存権訴訟の可能性について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、立法・行政裁量論と裁量統制手法について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、裁量統制手法としての判断過程統制について整理したノートを作成する。	150分
29	教育を受ける権利・労働三権	教育を受ける権利と労働三権について、具体的な事例を含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育を受ける権利と労働基本権の保障内容を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「社会権」3～5を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、教育を受ける権利、労働基本権について整理したノートを作成する。	150分
30	まとめ	基本的人権論に関するまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、基本的人権論の全体像と今後の展望を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法と明治憲法の条文が掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日、ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東裕ほか4名	嵯峨野書院	2015	教科書	必携
START UP 憲法判例50！	上田・尾形・片桐	有斐閣	2016	その他	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	近代立憲主義と人権概念の成立	近代立憲主義の意義、人権概念、イギリス権利章典、アメリカ独立宣言、フランス人権宣言、夜警国家等。 ＊教科書第5講(pp. 75-85)	
	この回の到達目標	近代立憲主義の成立と内容、および当時の人権概念について説明できること。	
	事前学修	教科書第5講(pp. 75-85)を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
2	現代立憲主義と人権概念の変容	現代立憲主義の意義、社会権、社会国家（福祉国家）、行政国家、人権保障の国際化。 ＊教科書第5講(pp. 85-88)	
	この回の到達目標	現代立憲主義の内容と人権の変容をもたらした背景について説明できる。	
	事前学修	教科書第5講(pp. 85-88)を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
3	人権の享有主体（1）	人権の享有主体―（1）日本国民 ＊教科書第6講(pp. 90-120)	
	この回の到達目標	日本国民のみに保障される憲法上の人権について説明できる。	
	事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
4	人権の享有主体（2）	人権の享有主体―（2）外国人 ＊教科書第6講(pp. 90-120)	
	この回の到達目標	外国人にも保障される人権について説明できる。	
	事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。特に、判例に注意すること。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
5	人権の享有主体（3）	人権の享有主体―（3）法人 ＊教科書第6講(pp. 90-120)	
	この回の到達目標	法人にも保障される人権について説明できる。	
	事前学修	教科書第6講(pp. 90-120)を読むこと。特に、判例に注意すること。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
6	人権と「公共の福祉」	「公共の福祉」に関する学説、「公共の福祉」に関する通説の再検討	
	この回の到達目標	「公共の福祉」とは何かを学説を整理して説明できる。	
	事前学修	教科書の索引を利用して「公共の福祉」について書かれているページに目を通すこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	幸福追求権と新しい人権（1）		幸福追求権と新しい人権―（1）名誉権・プライバシー権 ＊教科書第6講(pp. 97-104)	
	この回の到達目標	「新しい人権」とは何かを説明できる。		
	事前学修	教科書第6講(pp. 97-104)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
8	幸福追求権と新しい人権（2）		幸福追求権と新しい人権―（2）自己決定権・環境権 ＊教科書第6講(pp. 102-104)	
	この回の到達目標	自己決定権にはどのような権利・自由があるかを説明できる。		
	事前学修	教科書第6講(pp. 102-104)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
9	法の下平等（1）		法の下平等―（1）憲法14条1項の解釈 ＊教科書第7講(pp. 105-110)	
	この回の到達目標	憲法14条1項の解釈を説明できる。		
	事前学修	教科書第7講(pp. 105-110)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
10	法の下平等（2）		法の下平等―（2）尊属殺重罰規定違憲判決 ＊教科書第7講(pp. 110-112)	
	この回の到達目標	尊属殺重罰規定違憲判決（最大判昭48・4・4）の違憲理由を説明できる。		
	事前学修	教科書第7講(pp. 110-112)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
11	法の下平等（3）		法の下平等―（3）議員定数不均衡訴訟、投票価値の平等、事情判決、違憲状態等。 ＊教科書第7講(pp. 113-119)	
	この回の到達目標	最近の議員定数不均衡訴訟について簡潔に説明できる。		
	事前学修	教科書第7講(pp. 113-119)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
12	精神的自由権（1）		精神的自由権―（1）思想・良心の自由 ＊教科書第8講(pp. 122-124)	
	この回の到達目標	思想・良心の自由が問題となった判例について説明できる。		
	事前学修	教科書第8講(pp. 122-124)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	精神的自由権（2）		精神的自由権―（2）信教の自由の意義・内容・限界、政教分離の原則 ＊教科書第8講(pp. 124-131)	
	この回の到達目標	「目的効果基準」について説明できる。		
	事前学修	教科書第8講(pp. 124-131)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
14	精神的自由権（3）		精神的自由権―（3）表現の自由、報道の自由、取材活動の自由、二重の基準論、事前抑制、検閲、表現内容規制・表現内容中立規制。 ＊教科書第8講(pp. 132-137)	
	この回の到達目標	表現の自由の優越的地位について説明できる。		
	事前学修	教科書第8講(pp. 132-137)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
15	精神的自由権(4)		精神的自由権―（4）集会・結社の自由、パブリック・フォーラム	
	この回の到達目標	「集会の自由」の限界について説明できる。		
	事前学修	教科書第8講を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
16	精神的自由（5）		精神的自由権―（5）学問の自由	
	この回の到達目標	「学問の自由」が問題となった事件について説明できる。		
	事前学修	教科書第8講を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
17	経済的自由権(1)		経済的自由権―（1）居住・移転の自由	
	この回の到達目標	「居住・移転の自由」の経済的自由の側面・精神的自由の側面について説明できる。		
	事前学修	教科書第9講を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
18	経済的自由権(2)		経済的自由権―（2）職業選択の自由	
	この回の到達目標	消極的・警察的規制と積極的・政策的規制について説明できる。		
	事前学修	教科書第9講を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	人身の自由(1)	人身の自由―（１）適正手続きの保障。罪刑法定主義。	
	この回の到達目標	「罪刑法定主義」について説明できる。	
	事前学修	教科書第１０講を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
20	人身の自由(2)	人身の自由―（２）被疑者・被告人の権利	
	この回の到達目標	被疑者・被告人にはどのような権利が保障されているか説明できる。	
	事前学修	教科書第１０講を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
21	参政権(1)	参政権―（１）選挙権、被選挙権、選挙の基本原則、選挙制度。	
	この回の到達目標	選挙権・被選挙権の法的性格について説明できる。	
	事前学修	教科書第１１講を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
22	参政権(2)	参政権―（２）直接民主制の種類、最高裁判所裁判官の国民審査、住民投票、憲法改正の国民投票、	
	この回の到達目標	日本国憲法が定める直接民主制の諸制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第１１講を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
23	国務請求権(1)	国務請求権―（１）国務請求権の意義、請願権、請願の手続。	
	この回の到達目標	請願権の意義と請願の手続について説明できる。	
	事前学修	教科書第１２講を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
24	国務請求権(2)	国務請求権―（２）裁判を受ける権利、裁判を受ける権利の法的性格、裁判を受ける権利の範囲。	
	この回の到達目標	裁判を受ける権利の法的性格について説明できる。	
	事前学修	教科書第１２講を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	国務請求権(3)	国務請求権―(3) 国家賠償請求権、刑事補償請求権。	
	この回の到達目標	国家賠償請求権と刑事補償請求権の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第12講を読むこと。(1時間)	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
26	社会権(1)	社会権―(1) 生存権、プログラム規定説、抽象的権利説、具体的権利説。	
	この回の到達目標	生存権の法的性格について説明できる。	
	事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
27	社会権(2)	社会権―(2) 教育を受ける権利、教育の機会均等、義務教育の無償、学習権、教育権。	
	この回の到達目標	「教育を受ける権利」の内容について説明できる。	
	事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
28	社会権(3)	社会権―(3) 労働基本権、団結権、団体交渉権、団体行動権、公務員の労働基本権。	
	この回の到達目標	公務員の労働基本権について説明できる。	
	事前学修	教科書第13講を読むこと。(1時間)	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
29	国民の義務	国民の義務の意義、教育の義務、勤労の義務、納税の義務、憲法尊重擁護の義務。	
	この回の到達目標	国民の義務の内容について説明できる。	
	事前学修	教科書第14講を読むこと。(1時間)	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。(3時間)	180分
30	授業の総まとめ	全講義の中の特に重要な点について、要点を示しながら説明する。	
	この回の到達目標	全講義の中で疑問点を明確に把握できる。	
	事前学修	前回までの授業範囲を確認しておくこと。(1時間)	60分
	事後学修	全授業で扱った部分をすべて確認すること。(3時間)	180分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	柳瀬 昇	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
オンライン授業（オンディマンド形式）に対応できることが必要である。

【授業方法】		
この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論を、体系的を重視し、概括的に、かつ平明に講述する（授業担当者の私見を説明するのではなく、あくまで大学において一般的に学ぶべきと考えられる内容を伝授する）。今年度は、オンディマンド形式で行う。Google Classroomのこの講義のクラスに登録し（クラスコードはizklyadである）、講義の動画を視聴し事後学修課題に取り組む。詳細は、オリエンテーションの動画（ https://youtu.be/Ygd72HW81n8 ）で述べる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	憲法判例の読み方についての実習、憲法問題についての調査研究	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、毎回の事後学修課題及び中間・期末レポートにより評価する。	30	30	20	20							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『憲法判例百選I〔第7版〕』	長谷部恭男ほか編	有斐閣	2019	教科書	必携
『憲法判例百選II〔第7版〕』	長谷部恭男ほか編	有斐閣	2019	教科書	必携
備考	上記のほか、第2回の講義以降、六法が必携である（種類や出版社は問わない）。詳しくは、第1回の講義で説明する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の火曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。Zoomを使用したオンライン・オフィスアワーも適宜行う予定である。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	憲法の概念		はじめに、この講義の進め方について説明する。次に、法学の全体像と憲法学の位置を確認したうえで、憲法の概念を確定する。	
	この回の到達目標	「形式的意味の憲法」及び「実質的意味の憲法」の意味及びその異同について理解している。「立憲的意味の憲法」の意義について、「固有の意味の憲法」と対比して理解している。		
	事前学修	「法学I」等の講義で学習した法の意義（目的）、法の存在形式（法源）、法の分類等について復習したうえで、憲法がどのように位置づけられるかを考えておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法の概念について整理する。また、六法を参照しながら、形式的意味の憲法ではないが実質的意味の憲法といえるものをいくつか挙げ、なぜそういえるのかを説明する。		120分
2	立憲主義の基本原則（1）		まず、憲法規範の特質について説明する。次に、憲法の目的について検討したうえで、日本国憲法の基本的原理を確認するとともに、そのうち、人権尊重主義について検討する。	
	この回の到達目標	授権規範性や制限規範性などといった憲法規範の特質について理解している。日本国憲法の基本的原理を挙げ、その相互関係について説明することができる。基本的人権の概念について、標準的な定義を述べることができる。基本的人権の主な類型化論について、それぞれの類型の意義と特色を説明することができる。		
	事前学修	配布資料「憲法学へのいざない～憲法総論」を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法規範の特質、日本国憲法の基本原則及び人権尊重主義について整理する。		120分
3	立憲主義の基本原則（2）		日本国憲法の基本的原理のうち、国民主権主義及び平和主義について検討する。	
	この回の到達目標	近代立憲主義の意義及びその歴史的展開について理解している。国民主権の正統性の契機と権力的契機の2つの側面について説明することができる。日本国憲法9条1項にいう「国際紛争を解決する手段」としての戦争及び2項にいう「前項の目的」をめぐる学説対立について理解している。自衛隊の合憲性について、政府見解を説明することができる。		
	事前学修	配布資料「憲法学へのいざない～日本国憲法の基本原則」を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国民主権主義及び平和主義について整理する。		120分
4	憲法と人権の限界（1）		人権の享有主体性について論ずる。特に、法人の人権及び外国人の人権（享有主体性、出入国の自由、社会保障の権利）について検討する。	
	この回の到達目標	人権の享有主体性という問題の意味を理解している。法人及び外国人の人権享有主体性について、性質説の立場を理解したうえで、保障される人権の範囲及び制限される人権の程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	八幡製鉄事件最高裁判決（I-8）及びマククリーン事件最高裁判決（I-1）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。また、外国人の出国の自由事件最高裁判決（I-A1）及び森川キャサリーン事件最高裁判決（I-A2）の説明を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法人の人権及び外国人の人権について整理する。余力があれば、指紋押捺制度事件最高裁判決（I-2）及び塩見訴訟最高裁判決（I-5）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。		120分
5	憲法と人権の限界（2）		まず、人権の享有主体性に関して、特に、外国人の人権（参政権）及び未成年者の人権について検討する。次に、特別な法律関係における人権保障の意義について説明する。	
	この回の到達目標	外国人に選挙権・被選挙権・公務就任権が保障されるか、判例を踏まえて、考察することができる。未成年者の基本的人権が、成人の場合とは異なる特別の制約に服するか否かについて理解している。伝統的な特別権力関係の理論を理解したうえで、日本国憲法下においても、それが妥当するか否かについて、考察することができる。		
	事前学修	定住外国人選挙権訴訟最高裁判決（I-3）及び東京都管理職選考受験訴訟最高裁判決（I-4）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、外国人の人権、未成年者の人権及び特別な法律関係における人権保障の意義について整理する。		120分
6	憲法と人権の限界（3）		一般職公務員の人権及び刑事施設収容者の人権について検討する。	
	この回の到達目標	一般職公務員の人権が特別の制約に服するか否かについて、政治的行為の自由や労働基本権が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。刑事施設被収容者の人権が特別の制約に服するか否かについて、喫煙の自由や図書閲覧の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	猿払事件最高裁判決（I-12）、全農林警職法事件最高裁判決（II-141）及びよど号ハイジャック記事抹消事件最高裁判決（I-14）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。また、被拘禁者の喫煙の禁止事件最高裁判決（I-A4）の説明を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、一般職公務員の人権及び刑事施設被収容者の人権について整理する。堀越事件最高裁判決（I-13）の事実の概要及び判旨等を読んだうえで、猿払事件最高裁判決とどのように事案が異なるのかを確認する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	憲法と人権の限界（4）	憲法の私人間効力について検討する。	
	この回の到達目標	人権の私人間効力という問題の意味を理解している。私人間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためには、どのような論理構成をとるべきかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	三菱樹脂事件最高裁判決（I-8）及び昭和女子大事件最高裁判決（I-9）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法の私人間効力について整理する。日産自動車事件最高裁判決（I-11）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
8	憲法判例の読み方	憲法判例の読み方について、具体的な事件に係る判決文を用いて実習する。判決文を読むコツを伝授するとともに、判例の学び方についても解説する。	
	この回の到達目標	電子データベース等で判決原文を探すことができる。憲法判断がなされた最高裁判決の主な構造を理解し、重要な部分とそうでない部分とを見分けて読み解くことができる。判例を理解するための資料（評釈や調査官解説等）を収集することができる。	
	事前学修	学内のネットワーク環境から、法学部図書館のウェブサイト（ http://www.law.nihon-u.ac.jp/library/ ）にアクセスし、「電子ジャーナル・データベース」のページからリンクされているD1-Law.comから、判例タイムズのマクリーン事件最高裁判決（判タ368号196-200頁）及び三菱樹脂事件最高裁判決（判タ302号112-123頁）の掲載された部分をダウンロードしたうえで、読んでおく（講義の際に、印刷したものを持参する）。	120分
	事後学修	他の裁判例などに関しても、電子データベース等で判決原文を探して、重要な部分を見分けて読み解いてみる。また、法学部図書館に行き、調査官解説や判例評釈等を探してみる。	120分
9	幸福追求権（1）	幸福追求権の意義について検討したうえで、新しい人権のうち、プライバシーの権利について考察する。	
	この回の到達目標	日本国憲法13条の法的性格について説明することができる。同条後段の定める幸福追求権に関して、その権利としての性格、保障の範囲、これを母体とし根拠づけられる具体的な権利について、説明することができる。プライバシーの権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	京都府学連事件最高裁判決（I-16）、前科照会事件最高裁判決（I-17）及び「宴のあと」事件東京地裁判決（I-60）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、幸福追求権の意義及びプライバシーの権利について整理する。余力があれば、早稲田大学江沢民講演会参加者名簿事件最高裁判決（I-18）及び住基ネット訴訟最高裁判決（I-19）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
10	幸福追求権（2）	新しい人権のうち、自己決定権及び環境権について検討する。	
	この回の到達目標	幸福追求権を母体とし、そこに根拠付けられる特定の具体的な権利について、特に、自己決定権及び環境権の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	エホバの証人輸血拒否事件最高裁判決（I-23）及び大阪空港訴訟最高裁判決（I-24）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、自己決定権及び環境権について整理する。余力があれば、東京学館高校バイク自主退学事件最高裁判決（I-22）の事実の概要及び判旨等ならびに熊本丸刈り校則訴訟第一審判決（I-A5）の説明を読んでおく。	120分
11	法の下の平等（1）	法の下の平等の意義及び優先処遇と逆差別について検討する。	
	この回の到達目標	平等の観念について、自由の観念と対比して理解している。形式的平等と実質的平等、絶対的平等と相対的平等、法適用の平等と法内容の平等について、それらの異同を説明することができる。日本国憲法14条1項後段に掲げられた5つの事由の意義について理解している。積極的差別是正措置の意義について、考察することができる。	
	事前学修	自分の身のまわりの事柄で、法の下の平等に関する問題をいくつか取り上げたうえで、それが法の下の平等との関係でどのように問題であるのかについて説明しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法の下の平等の意義及び優先処遇と逆差別について整理する。	120分
12	法の下の平等（2）	法の下の平等が争われた最高裁判例について検討する。尊属殺人罪重罰規定違憲訴訟最高裁判決（最大判昭和48年4月4日刑集27巻3号265頁）を取り上げる。	
	この回の到達目標	日本国憲法14条1項は、事柄の性質に即応した合理的な根拠に基づくものでない限り、差別的な取扱いを禁止する趣旨であるとする判例の見解について説明することができる。どのような区別が合理的な根拠に基づくものではないのかについて、尊属に対する犯罪を特に重く処罰する規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	尊属殺人罪重罰規定違憲訴訟最高裁判決（I-25）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、取り扱った最高裁判例について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法の下の平等（3）	法の下の平等が争われた最高裁判例について検討する。国籍法3条1項違憲訴訟最高裁判決（最大判平成20年6月4日民集62巻6号1367頁）、非嫡出子相続分規定違憲訴訟最高裁決定（最大決平成25年9月4日民集67巻6号1320頁）、再婚禁止期間規定違憲訴訟最高裁判決（最大判平成27年12月16日民集69巻8号2427頁）及び夫婦同氏制違憲訴訟最高裁判決（最大判平成27年12月16日民集69巻8号2586頁）を取り上げる。	
	この回の到達目標	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではないのかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定、日本国民の父と外国籍の母との間に出生した後に父から認知された子に対して帰化と準正の場合を除き日本国籍の取得を認めない規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	国籍法3条1項違憲訴訟最高裁判決（I-26）、非嫡出子相続分規定違憲訴訟最高裁判決（I-27）、再婚禁止期間規定違憲訴訟最高裁判決（I-28）及び夫婦同氏制違憲訴訟最高裁判決（I-29）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、取り扱った最高裁判例について整理する。余力があれば、東京青年の家事件控訴審判決（I-30）及びサラリーマン税金訴訟最高裁判決（I-31）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
14	憲法問題についての調査研究	憲法問題をめぐって、与えられた資料を読んだうえで、必要に応じて資料を自ら収集し、問題を検討し、レポートを作成する。検討するテーマは、法の下の平等に関連して、優先処遇政策のあり方、憲法適合性及び政策的妥当性等についてである。	
	この回の到達目標	憲法問題をめぐって、与えられた資料を読んだうえで、必要に応じて資料を自ら収集し、問題を検討し、自分の主張を的確に述べることができる。歴史的に差別されてきた集団に対して、優先的な処遇を与える積極的差別是正措置が、逆差別として、憲法に違反するか否かについて、具体的事例を挙げ、考察することができる。	
	事前学修	事前に、配布資料「課題研究～法の下の平等とアフターマティブ・アクション」を読んだうえで、必要に応じて、図書館等を利用して資料等を自主的に収集する。	120分
	事後学修	5,000文字程度でレポートを作成し、提出する。	120分
15	内心の自由（1）	思想・良心の自由及び信教の自由の意義について検討する。	
	この回の到達目標	思想・良心の自由の内容及び範囲について説明することができる。思想・良心の自由の侵害の態様について、具体的事例を挙げて、説明することができる。信教の自由の保障の内容について、信仰の自由、宗教的行為の自由及び宗教的結社の自由などを挙げて、説明することができる。	
	事前学修	謝罪広告事件最高裁判決（I-33）、牧会事件神戸簡裁判決（I-40）、オウム真理教解散命令事件最高裁判決（I-39）及び加持祈祷事件最高裁判決（I-38）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、思想・良心の自由及び信教の自由について整理する。余力があれば、麹町中学校内申書訴訟最高裁判決（I-34）及び国旗・国歌訴訟最高裁判決（I-37）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
16	内心の自由（2）	まず、信教の自由に関して、政教分離の原則について検討する。次に、学問の自由について検討する。	
	この回の到達目標	政教分離の意義及び法的性格について理解している。目的効果基準について説明することができる。どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、考察することができる。学問の自由の保障の内容について説明することができる。大学の自治の意義及び法的性格について理解している。	
	事前学修	津地鎮祭事件最高裁判決（I-42）、愛媛県玉串料訴訟最高裁判決（I-44）、空知太神社訴訟最高裁判決（I-47）及び東大ボロボロ事件最高裁判決（I-86）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、政教分離の原則及び学問の自由について整理する。エホバの証人剣道実技拒否事件最高裁判決（I-41）の事実の概要及び判旨等ならびに日曜授業参観事件第一審判決（I-A6）の説明を読んでおく。	120分
17	表現の自由（1）	表現の自由の価値・射程及び表現の自由の内容（報道の自由）について検討する。	
	この回の到達目標	表現の自由を保障する意義について、人格価値、真理の探究及び民主政などに関連づけて、理解している。「知る権利」及び通信の秘密について理解している。報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	サンケイ新聞事件最高裁判決（I-76）、博多駅テレビフィルム提出命令事件最高裁決定（I-73）、囑託証人尋問証言拒否事件最高裁決定（I-71）及び外務省秘密電文漏洩（西山）事件最高裁判決（I-75）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、表現の自由の価値・射程及び内容（報道の自由）について整理する。余力があれば、レセプト情報公開請求事件最高裁判決（I-79）及び電話傍受事件最高裁決定（I-59）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
18	表現の自由 (2)		表現の自由の内容（放送の自由、わいせつ表現の自由、名誉毀損的表現の自由）について検討する。
	この回の到達目標	放送の自由に対する規律の基本的なあり方について説明することができる。「わいせつ」の概念を説明することができる。検閲等に該当するか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。名誉及びプライバシーを侵害する表現の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	法廷メモ（レベタ）訴訟最高裁判決（I-72）、夕刊和歌山時事事件最高裁判決（I-64）、「チャタレイ夫人の恋人」事件最高裁判決（I-51）、岐阜県青少年保護育成条例事件最高裁判決（I-50）、北方ジャーナル事件最高裁判決（I-68）及びあん摩師等法違反事件最高裁判決（I-54）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、表現の自由の内容（放送の自由、わいせつ表現の自由、名誉毀損的表現の自由）について整理する。余力があれば、NHK受信料違憲訴訟最高裁判決（I-77）、「悪徳の栄え」事件最高裁判決（I-52）、「四畳半襖の下張」事件最高裁判決（I-53）及び月刊ペン事件最高裁判決（I-65）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
19	表現の自由 (3)		まず、日本国憲法21条2項の定める「検閲」の禁止について、1項で保障される表現の自由の一内容としての事前抑制の禁止との対比で検討する。次に、表現の自由の規制立法に対する違憲審査について考察する。
	この回の到達目標	日本国憲法21条2項の定める「検閲」の概念を述べることができる。検閲と表現の事前抑制との関係について説明することができる。検閲等に該当するか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。「表現の自由を規制する立法の合憲性は、経済的自由を規制する立法よりも厳しい基準によって審査されなければならない」という見解について、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	税関検査事件最高裁判決（I-69）及び第一次家永訴訟最高裁判決（I-88）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、検閲の禁止及び表現の自由の規制立法に対する違憲審査について整理する。特に、二重の基準論について、その論拠を含めて、自分で説明できるようにしておく。余力があれば、ノンフィクション「逆転」事件最高裁判決（I-61）及び「石に泳ぐ魚」事件最高裁判決（I-62）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
20	表現の自由 (4)		まず、集会・結社の自由について解説する。次に、表現の自由に対する規制の類型化を試みたくうえで、表現の自由を規制する漠然不明確ないし過度に広汎な法令の規定の問題点を説明する。
	この回の到達目標	日本国憲法21条1項にいう「集会」及び「結社」の意味について説明することができる。「パブリック・フォーラム」論について説明することができる。集会の自由の保障及び結社の自由の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。表現の自由を規制する法令の規定のあり方について、漠然不明確性と過度の広汎性を説明することができる。	
	事前学修	皇居前広場事件最高裁判決（I-80）、吉祥寺駅構内ビラ配布事件最高裁判決（I-57）、泉佐野市民会館事件最高裁判決（I-81）、新潟県公安条例事件最高裁判決（I-82）、佐世保エンタープライズ寄港阻止闘争事件最高裁判決（I-51）、福岡県青少年保護育成条例事件最高裁判決（II-108）及び徳島市公安条例事件最高裁判決（I-83）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、集会・結社の自由及び表現の自由を規制する漠然不明確ないし過度に広汎な法令の規定の問題点について整理する。余力があれば、東京都公安条例事件最高裁判決（I-A8）の説明、ならびに三井美唄炭鉱労組事件最高裁判決（II-144）及び広島市暴走族追放条例事件最高裁判決（I-84）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
21	表現の自由 (5)		表現内容規制と表現内容中立規制の区別、その具体的な内容、適合すべき違憲審査基準等について、学説と判例のそれぞれの立場の違いに留意しつつ検討する。
	この回の到達目標	表現の自由を規制する法令の規定のあり方について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。表現内容規制と表現内容中立規制とどのように具体的に区別するか、それぞれが表現の自由にどのような不利益をもたらすか及び両者の合憲性をそれぞれどのように審査すべきかなどに留意しつつ、説明することができる。	
	事前学修	大分県屋外広告物条例事件最高裁判決（I-56）、大阪市屋外広告物条例最高裁判決（I-55）及び立川反戦ビラ配布事件最高裁判決（I-58）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、表現の自由に対するさまざまな規制とそれに適合すべき違憲審査基準について整理する。	120分
22	経済の自由 (1)		まず、公共の福祉の意義について考察する。次に、経済的自由権のうち、居住・移転の自由及び財産権の保障について検討する。
	この回の到達目標	「公共の福祉」規定の法的性格について説明することができる。居住・移転の自由を保障する意義について理解している。財産権の保障の意味について説明することができる。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかや、日本国憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味について理解している。	
	事前学修	帆足計事件最高裁判決（I-105）、森林法事件最高裁判決（I-96）、土地収用法最高裁判決（I-101）、農地改革事件最高裁判決（I-100）及び河川附近地制限令事件最高裁判決（I-102）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、公共の福祉、居住・移転の自由及び財産権の保障について整理する。余力があれば、証券取引法事件最高裁判決（I-97）及び予防接種事故第一審判決（I-103）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
23	経済の自由（2）	経済的自由権のうち、職業選択の自由及びその規制立法に対する違憲審査について検討する。	
	この回の到達目標	職業選択の自由の内容について説明することができる。職業選択の自由に対する規制にはさまざまな態様があるということを理解している。職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、説明することができる。職業選択の自由の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	小売商業調整特措法事件最高裁判決（I-91）、薬事法事件最高裁判決（I-92）及び公衆浴場法事件最高裁判決（I-89）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、職業選択の自由及びその規制立法に対する違憲審査について整理する。余力があれば、白タク営業事件最高裁判決（I-90）、西陣ネクタイ事件最高裁判決（I-93）、酒類販売免許制事件最高裁判決（I-94）及び司法書士資格制事件最高裁判決（I-95）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
24	人身の自由	奴隷的拘束・苦役からの自由及び法定適正手続の保障について検討したうえで、日本国憲法が定める刑事手続上の権利について概観する。また、死刑制度の憲法適合性について議論する。	
	この回の到達目標	日本国憲法18条の定める「奴隷的拘束」等の意味について理解している。31条の定める「法律の定める手続」の意味について、その手続の内容を含めて、説明することができる。33条ないし39条の定める刑事手続上の権利の内容について、おおむね理解している。死刑が憲法上許されるか否かについて、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	成田新法事件最高裁判決（II-109）、川崎民商事件最高裁判決（II-114）、高田事件最高裁判決（II-116）及び死刑制度違憲訴訟最高裁判決（II-115）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、奴隷的拘束の禁止・意に反する苦役からの自由、法定適正手続の保障、日本国憲法の定める刑事手続上の権利及び死刑制度の憲法適合性について整理する。余力があれば、GPS捜査違憲訴訟最高裁判決（II-112）、国税犯則取締法事件最高裁判決（II-119）及び検察官上訴違憲訴訟最高裁判決（II-121）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
25	国家による自由（1）	国務請求権について概観したうえで、社会権のうち、生存権について議論する。	
	この回の到達目標	いわゆる国務請求権に関して、請願権（16条）国家賠償請求権（17条）、裁判を受ける権利（32条）及び刑事補償請求権（40条）の内容について、おおむね理解している。自由権と社会権の内容及び性格について、その異同を説明することができる。生存権の法的性格に関する学説及び判例の内容について説明することができる。	
	事前学修	堀木訴訟最高裁判決（II-132）及び朝日訴訟最高裁判決（II-131）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国務請求権及び生存権について整理する。余力があれば、郵便法免責規定事件最高裁判決（II-128）、総評サラリーマン税金訴訟最高裁判決（II-133）、高齢加算廃止違憲訴訟最高裁判決（II-135）及び学生無年金障害者訴訟最高裁判決（II-134）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分
26	国家による自由（2）	社会権のうち、教育を受ける権利及び勤労に関する権利について検討する。	
	この回の到達目標	教育を受ける権利の意義、主体及び内容について理解している。「教育権」の所在に関する学説の対立について、説明することができる。初等中等教育機関における教師の「教育の自由」について理解している。日本国憲法27条の定める勤労の権利等の内容について理解している。団結権、団体交渉権及び団体行動権の意義、内容及び性格を説明することができる。	
	事前学修	旭川学テ事件最高裁判決（II-136）及び岩教組学テ事件最高裁判決（II-143）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。また、教科書無償訴訟最高裁判決（II-A11）の説明を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、教育を受ける権利及び勤労に関する権利について整理する。余力があれば、公務員の労働基本権に関する全通東京中郵事件（II-139）、都教組事件（II-140）、全農林警職法事件（II-141）、全通名古屋中郵事件（II-142）及び岩教組学テ事件（II-143）の各最高裁判決の意義について、簡潔にまとめておく。	120分
27	国家への自由（1）	参政権について検討する。	
	この回の到達目標	参政権の意義及び内容を理解している。選挙権の性格について理解している。選挙権及びその行使の制約が憲法違反となるか否かについて、判例を踏まえて、考察することができる。近代選挙法の基本原則の内容を説明することができる。公職選挙法による選挙運動の制約等について、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	公職選挙法違反事件最高裁判決（II-146）、在外国民選挙権訴訟最高裁判決（II-147）、法定外ピラ訴訟最高裁判決（II-156）及び戸別訪問事件最高裁判決（II-158）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、参政権について整理する。余力があれば、衆議院小選挙区比例代表並立制違憲訴訟最高裁判決（II-152）及び参議院非拘束名簿式比例代表制違憲訴訟最高裁判決（II-154）の事実の概要及び判旨等を読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
28	国家への自由（2）	一票の較差について検討する。	
	この回の到達目標	選挙における投票価値の平等について、議員定数不均衡問題などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	議員定数不均衡訴訟最高裁判決（II-148、II-153、II-150）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、一票の較差について整理する。衆議院における議員定数不均衡に係る平成27年の最高裁判決（II-149）及び地方議会における議員定数不均衡に係る最高裁判決（II-151）の意義について、簡潔にまとめておく。	120分
29	違憲審査基準論	まず、憲法による人権保障・国家による制約（規制）・裁判所による規制に対する違憲審査の相互関係について整理する。次に、自由権・平等権・社会権・参政権・新しい人権への規制に対する違憲審査基準について、改めて確認する。そして、三段階審査論についても紹介する。	
	この回の到達目標	これまでで検討してきた個別の人権の保障について、その権利としての類型に応じて、その制約に対する違憲審査という観点から、横断的に理解している。	
	事前学修	第9回から第28回までの内容に関して、特に、人権の制約に対する違憲審査に注目しながら（その権利としての類型を意識する）、復習しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、人権の類型ごとの違憲審査基準の違いについて整理する。	120分
30	総括	これまでの「憲法I（人権）」の講義の内容について総括する。	
	この回の到達目標	これまでの「憲法I（人権）」の講義の内容全般について、疑問点などがあればそれを解消し、さらに理解を深める。	
	事前学修	これまでの「憲法I（人権）」の講義の内容について、自分で整理したうえで、疑問点などがあれば、質問項目としてまとめておく。	120分
	事後学修	解消された疑問点などを含めて、これまでの「憲法I（人権）」の講義の内容を改めて整理する。	120分

科目名	憲法Ⅰ（人権）	担当者	野口 健格	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民の政府に対する権利（基本的人権）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の人権保障の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
・講義はオンデマンド形式で開講する。 ・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・六法（出版社は問わない）を用意し動画の視聴の際も利用すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が保障する基本的人権の意義及び特質を把握できる。				1	1						
②	基本的人権をめぐり、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているか、④についての論証力をオンライン上で行う記述式試験（実施は時間を限定して行う）により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての基本知識が身についているか、④についての論証力をレポートにより評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	web上での有益な質問や「sounding board」（どこかの授業内で時間を決めて用意してきた質問または意見を披露する機会）などの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。		10		10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートや授業内に出した課題については、後日、Google Classroomにて配信する。また、「sounding board」等の学生とオンライン上で時間を共有する場において適宜フィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法1 人権(第7版)	渋谷 秀樹・赤坂 正浩 著	有斐閣アルマ	2019年	教科書	必携
憲法判例集(第11版)	野中俊彦・江橋崇／編著、渋谷秀樹／補訂	有斐閣新書	2016年	参考書	任意
備考	授業内容に関するレジュメをweb上で共有する。その他の文献に関しては授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
土曜3限の講義終了後に適宜実施する（web上の何らかの手段で事前にアポイントメントを取ること）。メールでの相談は（noguchi.takenori@nihon-u.ac.jp）に送信すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション（憲法とは何か？日本国憲法の三大原理と憲法の基本原理）		本講義における受講のルールや成績の評価方法等の基本事項を確認する。また、日本国憲法の三大原理やその他の基本原理について説明するとともに、憲法という法規範自体の理解と人権保障の重要性について説明する。	
	この回の到達目標	・自発的な学習ができるように講義受講の際に心掛けること、自分流のメモやノートをとる訓練の必要性を理解すること。 ・憲法の規範としての特殊性を理解するとともに、立憲主義の重要性についても意識できるようにすること。 ・日本国憲法の特徴について自身の言葉で説明できるようにすること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
2	人権論の歴史		人権という概念が誕生した歴史的な背景を説明し、その中で人権がどのように発展してきたのかを学んでもらう。	
	この回の到達目標	・人権が重要性に気づけるようにすること。 ・人権が尊重されなければならなくなった背景を知ること。 ・自分の言葉で人権について説明できるようにすること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
3	人権享受の主体適格性の限界		天皇・皇族、外国人、法人、公務員、在監者など通常の「人」とは異なる法的存在である者の存在を認識することを通して、実際に生じた事案について説明する。	
	この回の到達目標	・人権が保障される法的主体を知ること。 ・人権の保障が及ばない主体を理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
4	人権と公共の福祉		憲法典内にも度々登場する文言である「公共の福祉」について正しく理解するとともに、この概念を広く捉えてしまうことによって生じる人権への影響について学んでもらう。	
	この回の到達目標	・人権を制限できる場面を把握すること。 ・「公」の利益とは何かイメージできるようにすること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
5	私人間における憲法の適用		本来的には国家（権力）と個人との関係を規律した規範である憲法が私人間にも適用されるに至った背景を意識しつつ、判例を参照しながら説明する。	
	この回の到達目標	・私人間に憲法が適用されるに至った理由を語れるようにすること。 ・私人間へ憲法を適用する際の手法について理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
6	部分社会論		具体的な事例（大学の単位認定や地方議会における処分、政党内部の処分）について司法審査の対象になるのかどうか説明する。	
	この回の到達目標	・具体的な部分社会についてイメージできるようにすること。 ・部分社会内での問題に対し司法審査が及ぶ射程について理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法の下の平等①（不合理な差別の禁止）		差別はあからさまに生じるとは限らず、気がつけば誰もが差別の当事者（被害者または加害者）になり得る。そのため、差別が生じた事例に関しては背景も含めて説明し、平等の意義についても深く学んでもらう。
	この回の到達目標	・差別が起こる理由について考えることができるようになること。 ・憲法14条1項の意義について自身の言葉で説明できるようにすること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
8	法の下の平等②（積極的差別是正措置）		差別の是正には長い時間がかかるのが常であるが、国家がそれを認識することによって差別的状況を改善するための政策を立案する場合がある。法の下の平等を実現するための方策の一つについて学ぶ。
	この回の到達目標	・特定の差別を是正する手法について理解すること。 ・社会の中に存在するマイノリティーについて関心を持てるようにすること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
9	法の下の平等③（家族と平等）		家族のあり方について判示した最高裁判例を学ぶことで、家族の形について深く考えてもらう。
	この回の到達目標	・最小単位の社会と言われている家庭内の問題と平等について考えることができるようにすること。 ・憲法判例を参照しつつ、現時点で家庭に対する国民の認識について理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
10	精神的自由①（思想・良心の自由）		個人の人格にかかわる内面的な精神作用について「強い個人」という理想を掲げることもあるが、実際には難しく周りに流される生き方になってしまいがちである。そこで、憲法が保障する精神的自由の総則的規定の意義について学習する。
	この回の到達目標	・目に見えない心の自由の重要性和脆弱性について理解すること。 ・心の自由を侵害されたことによって生じる損害についてイメージできるようにすること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
11	精神的自由②（信教の自由と政教分離）		宗教でいうところの「神」的（絶対的）な存在を肯定しようとする精神作用について理解し、なぜ政治と宗教が癒着しやすいのか、癒着すると（宗教を信仰していない）個人にとってどのような不都合が生じるのか説明する。
	この回の到達目標	・宗教について理解し、保障される自由の範囲を理解すること。 ・政教分離原則の具体的な事例について知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
12	精神的自由③（集会・結社の自由）		不特定多数の人が何か特定の目的のために集まる集会は誰もがその存在を認識しているし、誰もが一度は何らかの結社に所属したことがあるはずである。なぜこれらに参加したりしなかったりすることが自由なのかを説明する。
	この回の到達目標	・集会やデモ行進の目的を把握すること。 ・団体を結成するとはどのようなことなのか理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	精神的自由④（表現の自由(1)－表現への規制）	表現の自由の保障は現代憲法学でも非常に重要なウエイトを占めている。なぜそれほどまでに重要視されるのかを具体的な事例や法理論を通して説明する。	
	この回の到達目標	・表現の自由の重要性について実感することができるようにすること。 ・実社会の中で規制される得る場面をイメージできるようにすること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
14	精神的自由⑤（表現の自由(2)－検閲の禁止および事前抑制の禁止）	表現の自由の保障は現代憲法学でも非常に重要なウエイトを占めている。なぜそれほどまでに重要視されるのかを具体的な事例や法理論を通して説明する。	
	この回の到達目標	・表現の自由の事前抑制が何故ダメなのかを理解すること。 ・表現の自由が行使できなくなってしまった際に生じる影響について実感できるようにすること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
15	精神的自由⑥（学問の自由）	大学の研究機関としての側面と教育機関としての側面を理解するため、いくつかの事案や判例を紹介しつつ説明する。	
	この回の到達目標	・学問の自由と大学の自治について理解すること。 ・学問の自由の歴史的背景を知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
16	人身の自由①（奴隷的拘束からの自由と適正手続）	権力者から身体の自由を奪われることはある意味で非常にわかりやすい権力行使である。そのため、国家から身体の自由を奪われないよう設定された人権規定について理解し、それら人権規定の意義について学んでもらう。	
	この回の到達目標	・権力によって身体が拘束される具体的な場面を知ること。 ・憲法が人身の自由を保障してくれることの意義を理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
17	人身の自由②（被疑者の権利と被告人の権利）	権力者から身体の自由を奪われることはある意味で非常にわかりやすい権力行使である。そのため、国家から身体の自由を奪われないよう設定された人権規定について理解し、それら人権規定の意義について学んでもらう。	
	この回の到達目標	・権力によって身体が拘束される具体的な場面を知ること。 ・憲法が人身の自由を保障してくれることの意義を理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
18	経済的自由①（職業選択の自由）	人が自己の生計を維持するためにする継続的活動である職業は、憲法上どのように位置付けられ、また規制されているのが学んでもらう。	
	この回の到達目標	・経済活動の前提としての職業について、歴史的な背景を理解すること。 ・実際に職業選択の自由が規制される場面を知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	経済的自由②（財産権）		財産権の具体的な姿を認識しながら財産権の意義と法的制約の根拠について説明する。	
	この回の到達目標	・私有財産制の意義と現代社会における財産権概念について考えることができるようにすること。 ・実際に財産権が制約される場面を知ること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
20	受益権		請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権について説明する中で、国家に対して作為を求めることの意義を学習してもらう。	
	この回の到達目標	・18～19世紀の「自由国家」観と20世紀の「社会国家」観について正しく認識すること。 ・国民が国家に対し行為や給付を要求することの意義を理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
21	社会権①（生存権）		憲法上の健康で文化的な最低限度の生活がどのようなものなのかを考えてもらいつつ、時代時代に合った豊かさをどのように実現するか、またセーフティーネットはどの程度準備すれば良いのかについて学んでもらう。	
	この回の到達目標	・憲法25条が保障する生存権の内容を理解すること。 ・朝日訴訟や堀木訴訟などの判例を通して生存権の限界を理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
22	社会権②（教育を受ける権利）		大人と比較して本来的に未熟である子供に教育を施さなければならないことは確かだが、憲法上の教育を受ける権利の考え方は様々である。ここでは過去の判例を素材にわが国の教育権の内容を説明する。	
	この回の到達目標	・教育を受ける機会が等しく与えられていなかった時代を知ること。 ・義務教育の意義について考察できるようにすること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
23	社会権③（労働基本権）		長期の景気低迷によって労働運動が下火になって久しいが、ここでは労働基本権とその周辺の法制度について学びつつ、過去や現在の状況を踏まえてその重要性和課題について説明する。	
	この回の到達目標	・労働者と使用者の権力関係について意識できるようにすること ・憲法の規定を具体化している制度について理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
24	幸福追求権の意義		幸福追求権に関する様々な学説について説明する中で、そもそも幸福追求権は何を保障しているのか考え学んでもらう。	
	この回の到達目標	・憲法13条の性質について理解すること。 ・個人主義の重要性について改めて認識すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	新しい人権①（環境権）		新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
	この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
26	新しい人権②（プライバシー権と行政情報開示請求権）		新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
	この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
27	新しい人権③（自己決定権）		新しい人権の法的特徴と幸福追求権から権利性を導く方法について説明する。	
	この回の到達目標	・新しい人権が生まれた背景について理解すること。 ・新しい人権についての判例の内容を知ること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
28	参政権・義務		選挙権と被選挙権について国政と地方自治に分けて説明すると同時に公務就任権についても言及する。また、勤労の義務・納税の義務・子女教育の義務について説明する。	
	この回の到達目標	・政治に参加するいくつかの具体的な場面を知ること。 ・日本国憲法の三大義務について理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
29	憲法と国際法		憲法にも「日本国が締結した条約及び確立された国際法規は、これを誠実に遵守することを必要とする。」などと規定されているが、それぞれの法規範の関係性までは言及していない。本講義では、学説はどのように解釈されているのか学んでもらう。	
	この回の到達目標	・国内法と国際法の違いについて理解すること。 ・憲法優位説と国際法優位説についてそれぞれ説明できるようにすること		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分
30	人権の国際的保障		世界人権宣言や国際人権規約、その他の条約について学び、これまで日本が国際人権についてどの程度積極的にコミットしてきたのかを説明する。	
	この回の到達目標	・国際人権という概念について理解すること。 ・ユニバーサルな人権保障の可能性と困難さについて考えることができるようにすること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。		120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。		120分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に準拠し、オンデマンド講義形式で授業を行います。講義動画の配信や資料の配布は、ポータルシステムを通じて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	原則として毎回の授業につき、調べ学修を必要とする授業内課題を課します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①③についての基礎知識が身についているかを、 授業内課題により評価する。	30		30								60
レポート等	到達目標②④についての能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		20		20							40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題については、必要に応じて、提出物にみられた一般的傾向に対する講評や注意喚起などを、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454号室） ikeda.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	授業案内・導入：憲法の学び方		当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開		憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	憲法総論 憲法総論（2）：日本憲法史／日本国		明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	国会（1）：国会の地位		代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を説明し，履修者が国会の地位を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の地位を説明している教科書pp. 291-299を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
5	国会（2）：国会の活動		会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を説明し，履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を理解し，会期制の趣旨を説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の活動を説明している教科書pp. 300-306を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	国会（3）：国会の権能と衆議院の優越		国会の権能（法律の議決，予算の議決，条約の承認，内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し，履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，国会の権能及び衆議院の優越を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院の優越に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の権能及び衆議院の優越を説明している教科書pp. 306-315を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，国会の権能及び衆議院の優越をノートにまとめ，説明できるようにする。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国会（4）：議院の権能／国会の総復習	議院の権能（議院の自律権、国政調査権）を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、これまでに学修した国会に関する総復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院の権能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議院の権能を説明している教科書pp. 315-320を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、議院の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	国会（5）：参政権と選挙制度	参政権の意義（「国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制、大選挙区制、比例代表制）の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、参政権の意義と各種選挙制度の特徴を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、選挙制度に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、参政権と選挙制度を説明している教科書pp. 320-326を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、参政権の意義と各種選挙制度の特徴をノートにまとめ、説明できるようにする。	150分
9	国会（6）：議員定数不均衡（一票の較差）問題	議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し、履修者が投票価値の平等の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明している教科書pp. 124-135を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
10	内閣（1）：行政権と内閣制度／衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題	行政権の意義、内閣制度の変遷を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政権の意義、内閣制度の変遷、衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題の所在を理解し、説明することができる。	
	事前学修	行政権の意義、内閣制度の変遷を説明している教科書pp. 327-330を通読し、また事前に配布するパワーポイント資料を一読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、行政権の意義、内閣制度の変遷、衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
11	内閣（2）：議院内閣制	権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみを説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみを理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、議院内閣制を説明している教科書pp. 330-337を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみをノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
12	内閣（3）：内閣の組織	内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の組織を説明している教科書pp. 337-341を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、内閣総理大臣の地位・要件、国務大臣の地位・要件、閣議の運営方法をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	内閣（４）：内閣の権能		内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣及び内閣総理大臣の権能を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、内閣の権能に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、内閣の権能を説明している教科書pp. 342-348を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。	150分	
14	天皇（１）：象徴天皇制		日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任、皇位継承の原則を明らかにし、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任及びそれをめぐる判例、皇位継承の原則を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、象徴天皇制を説明している教科書pp. 23-34を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任及びそれをめぐる判例、皇位継承の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
15	天皇（２）：国事行為／皇室経済		天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を説明し、履修者がその意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則を説明している教科書pp. 34-43を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度、皇室経済の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
16	裁判所（１）：司法権		「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例、司法権の限界に関する理論を説明し、履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「法律上の争訟」の要件、司法権の限界を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の特質を説明している教科書pp. 349-354を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例、司法権の限界に関する理論をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
17	裁判所（２）：司法権の独立		裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度を説明し、履修者が司法権の独立を確保する制度の概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、司法権の独立に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、司法権の独立を説明している教科書pp. 354-360を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度をノートにまとめ、説明できるようにする。	150分	
18	裁判所（３）：裁判所の組織・権能		最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則（裁判の公開、裁判員制度）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、裁判所の組織・権能を説明している教科書pp. 360-370を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	裁判所（４）：違憲審査制		違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法についての考え方を説明し、履修者が違憲審査制の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、司法権の独立に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、違憲審査制を説明している教科書pp. 370-374を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	90分	
	事後学修	授業を振り返り、違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法をノートにまとめ、参政権の特質を説明できるようにする。	150分	
20	財政（１）：財政民主主義／予算		財政民主主義、租税法律主義を説明し、履修者が財政の基本原則を理解できるようにする。また、予算の法的性格、予算の内容、国会の予算修正権を説明し、履修者が予算とは何かを具体的に理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政民主主義、租税法律主義、予算の法的性格、予算の内容、国会の予算修正権を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財政の基本原則及び予算を説明している教科書pp. 375-384を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、財政の基本原則及び予算制度をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
21	財政（２）：決算／公金支出等の禁止		決算の意義と手続、財政状況の報告の意義を説明し、履修者がその趣旨を理解できるようにする。また、公金支出等の禁止を定めた憲法89条の意義と、とりわけ慈善・教育・博愛事業との関連で表出する論点を説明し、履修者がこの憲法規定の問題点を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、決算の意義と手続、財政状況の報告の意義、公金支出等の禁止を定めた憲法89条の意義及び問題点を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、憲法89条に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、決算、財政状況の報告、公金支出等の禁止を説明している教科書pp. 384-389を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	90分	
	事後学修	授業を振り返り、決算の意義と手続、財政状況の報告の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。	150分	
22	戦争の放棄（１）：平和主義の理念		憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、平和主義の理念を説明している教科書pp. 44-48を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
23	戦争の放棄（２）：憲法9条の解釈		憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、憲法9条を説明している教科書pp. 49-58を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分	
24	戦争の放棄（３）：自衛隊に関する判例		自衛隊に関する判例（恵庭事件、長沼事件、百里基地訴訟など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自衛隊に関する判例に表れた法理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、自衛隊に関する判例を説明している教科書pp. 58-65を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り、自衛隊に関する判例をノートにまとめ、そこに表れた法理を説明できるようにする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	戦争の放棄（４）：安全保障	在日米軍に関する判例（砂川事件）、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題、戦後日本の国防法制の展開を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、在日米軍に関する判例、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題、戦後日本の国防法制の展開を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、日米安保条約と自衛権、国防法制の展開を説明している教科書pp. 65-76を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、在日米軍に関する判例、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題、戦後日本の国防法制の展開をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
26	地方自治（１）：国の統治機構の重要項目の確認／地方自治の本旨	国の統治機構（国会、内閣、天皇、裁判所）に関する復習的講義を行う。また、地方自治の本旨、「憲法上の地方公共団体」の意義を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の本旨、「憲法上の地方公共団体」の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでに学修した国の統治機構（国会、内閣、天皇、裁判所）の総復習をするとともに、地方自治の本旨を説明している教科書pp. 390-393を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、国の統治機構の重要項目を確認するとともに、地方自治の本旨をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
27	地方自治（２）：地方公共団体の組織	地方公共団体の組織（議会、長、長と議会の関係、住民の直接的な政治参加の制度）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の組織（議会、長、長と議会の関係、住民の直接的な政治参加の制度）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、地方公共団体の組織を説明している教科書pp. 393-404を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、地方公共団体の組織（議会、長、長と議会の関係、住民の直接的な政治参加の制度）及び諸制度をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
28	地方自治（３）：条例制定権	国の事務と地方公共団体の事務の区分、条例制定権及びそれをめぐる判例（徳島市公安条例事件、奈良県ため池条例事件、大阪市売春取締条例事件など）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国の事務と地方公共団体の事務の区分、条例制定権及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、条例制定権を説明している教科書pp. 404-410を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、国の事務と地方公共団体の事務の区分、条例制定権及びそれをめぐる判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
29	憲法改正	憲法改正の意義・限界の有無・手続を説明し、履修者がその概要を理解し、意見を述べるができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、憲法改正の意義を理解したうえで、立憲主義と憲法改正の関係について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	憲法改正を説明している教科書pp. 18-22を通読したうえで、疑問点をノートにメモしておく。また、事前配布する資料を一読し、講義内容を概観しておく。	120分
30	総括：「憲法Ⅱ（統治機構）」の総復習	本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項につき説明を補い、履修者がこれを十分に理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、本科目で学修した内容のうち、特に重要な事項についての知識と思考力を深めることができる。	
	事前学修	この科目で学修したすべての内容を総復習し、疑問点・不明点をメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、ノートを補完しつつ、定期試験を視野に入れた総復習を行い、統治機構の重要事項を理解し、説明できるようにする。	150分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	石塚 壮太郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。					1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。						1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。							1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 日本国憲法	斎藤一久ほか編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入授業	講義の進め方および憲法の概要について説明する。	
	この回の到達目標	講義の趣旨、進め方、評価方法などをよく理解する。また、憲法の概要を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業概要および趣旨をよく理解しておく。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返り、憲法の概要についてノートにまとめる。	120分
2	統治総論(1)	統治構造と基本原則（国民主権・権力分立・民主制原理・法治国家原理）について学ぶ。	
	この回の到達目標	統治の規範構造（組織規範・権限規範・国家目標規定）と基本原則（国民主権・権力分立・法治国家原理・民主制原理）の関係について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	統治構造と基本原則（国民主権・権力分立・民主制原理・法治国家原理）の関係について振り返り、ノートにまとめる。	120分
3	統治総論(2)	統治の基本原則のうち、国民主権について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	国民主権について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国民主権について振り返り、ノートにまとめる。	120分
4	統治総論(3)	統治の基本原則のうち、権力分立について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	権力分立について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	権力分立について振り返り、ノートにまとめる。	120分
5	統治総論(4)	統治の基本原則のうち、法治国家原理について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	法治国家原理について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	法治国家原理について振り返り、ノートにまとめる。	120分
6	統治総論(5)	統治の基本原則のうち、民主制原理について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	民主制原理について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	民主制原理について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	代表制	代表制の性質と仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	代表制の性質と仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	代表制の性質と仕組みについて振り返り、ノートにまとめる。	120分
8	選挙制度	選挙制度の内容形成と統制について学ぶ。	
	この回の到達目標	選挙制度の内容形成と統制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	選挙制度の内容形成と統制について振り返り、ノートにまとめる。	120分
9	政党	政党について学ぶ。	
	この回の到達目標	政党について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	政党について振り返り、ノートにまとめる。	120分
10	立法権および国会	立法権および国会について学ぶ。	
	この回の到達目標	立法権および国会について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	立法権および国会について振り返り、ノートにまとめる。	120分
11	国会の組織および活動	国会の組織および活動について学ぶ。	
	この回の到達目標	国会の組織および活動について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国会の組織および活動について振り返り、ノートにまとめる。	120分
12	国会・議院の権能	国会・議院の権能について学ぶ。	
	この回の到達目標	国会・議院の権能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国会・議院の権能について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国会議員の地位と権能	国会議員の地位と権能について学ぶ。	
	この回の到達目標	国会議員の地位と権能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国会議員の地位と権能について振り返り、ノートにまとめる。	120分
14	行政権と内閣	行政権と内閣について学ぶ。	
	この回の到達目標	行政権と内閣について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	行政権と内閣について振り返り、ノートにまとめる。	120分
15	内閣の組織と権能	内閣の組織と権能について学ぶ。	
	この回の到達目標	内閣の組織と権能について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	内閣の組織と権能について振り返り、ノートにまとめる。	120分
16	衆議院の解散	衆議院の解散について学ぶ。	
	この回の到達目標	衆議院の解散について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	衆議院の解散について振り返り、ノートにまとめる。	120分
17	司法権の観念	司法権の観念について学ぶ。	
	この回の到達目標	司法権の観念について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	司法権の観念について振り返り、ノートにまとめる。	120分
18	司法の独立と裁判制度	司法の独立と裁判制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	司法の独立と裁判制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	司法の独立と裁判制度について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	違憲審査制(1)		違憲審査制について、海外の法制度も含めて、その類型を学ぶ。
	この回の到達目標	違憲審査制の類型について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	違憲審査制の類型について振り返り、ノートにまとめる。	120分
20	違憲審査制(2)		日本の違憲審査制について学ぶ。
	この回の到達目標	日本の違憲審査制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	日本の違憲審査制について振り返り、ノートにまとめる。	120分
21	憲法訴訟の要件		憲法訴訟の要件について学ぶ。
	この回の到達目標	憲法訴訟の要件について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法訴訟の要件について振り返り、ノートにまとめる。	120分
22	立法不作為と救済方法		立法不作為と救済方法について学ぶ。
	この回の到達目標	立法不作為と救済方法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	立法不作為と救済方法について振り返り、ノートにまとめる。	120分
23	法令審査		法令審査について学ぶ。
	この回の到達目標	法令審査について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	法令審査について振り返り、ノートにまとめる。	120分
24	適用審査		適用審査について学ぶ。
	この回の到達目標	適用審査について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	適用審査について振り返り、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	財政	財政について学ぶ。	
	この回の到達目標	財政について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	財政について振り返り、ノートにまとめる。	120分
26	地方自治	地方自治について学ぶ。	
	この回の到達目標	地方自治について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	地方自治について振り返り、ノートにまとめる。	120分
27	国法の諸形式	国法の諸形式について学ぶ。	
	この回の到達目標	国法の諸形式について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	国法の諸形式について振り返り、ノートにまとめる。	120分
28	憲法改正	憲法改正について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法改正について理解し、説明することができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当テーマについて読んでくる。	120分
	事後学修	憲法改正について振り返り、ノートにまとめる。	120分
29	授業内試験	授業内で筆記試験を行い（60分）、それについてコメントを行う（30分）。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、適切に問題を発見し、解答することができる。コメントに基づき、試験の解答についてポイントを把握することができる。	
	事前学修	筆記試験のために、これまでの授業を復習する。	120分
	事後学修	試験の解答のポイントを踏まえ、自らの解答をレビューする。	120分
30	まとめ	統治について、人権の考え方と比較して、授業全体を振り返る。	
	この回の到達目標	統治の考え方について理解し、人権と比較して説明することができる。	
	事前学修	作成したノート全体を振り返る。	120分
	事後学修	統治の考えを、人権と比較して振り返り、ノートにまとめる。	120分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）【法職課程】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定の教科書にそってオンデマンド講義形式で行う。講義で使用する動画・資料をGoogle Classroomにて配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	習得した知識の理解度を深めるために、グループ・ディスカッションなどを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に把握できる能力が身についているかを各回の小テストにより評価する。	10	10	10	10							40
レポート等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で整理できる能力が身についているかをレポートにより評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法 7版	芦部信喜	岩波書店	2019	教科書	必携
憲法判例 8版	戸松秀典・初宿正典	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（ takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp ）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと。	120分
	事後学修	オリエンテーションを振り返ること。	120分
2	国家とは・憲法とは何か、立憲主義	憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書3-17ページを読んでくること。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。	120分
3	憲法史	明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、明治憲法と現行憲法の歴史についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書18-34ページを読んでくること。明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、明治憲法の欠陥はなんであったのか、日本国憲法の特徴は何かをまとめること。	120分
4	統治の原理（1）	民主制と政党・選挙の原則について学習する。直接民主制、代表民主制の違いや、日本国憲法の想定する民主制の在り方を考察し、さらに政党の意義および普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票の意義と内容を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民主制と政党・選挙の原則についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書36-37, 263-264, 290-292ページを読んでくること。社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、代表民主制において議員と国民の関係はどのようなものであるのかをまとめること。	120分
5	統治の原理（2）	【統治の原理（2）】平等選挙の現代的意味と現在の選挙制度について学習する。平等選挙の意義の変容の理解に努めるとともに、「一票の格差」の是正がいかに民意の反映に影響を与えるのかを考察する。またこれに関わる最高裁判例を学ぶことを通して、現行の選挙制度の内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、平等選挙の現代的意味と現在の選挙制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書265-266, 301-307ページを読んでくること。選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙の平等」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。	120分
6	国会（1）	憲法の規定する国会の地位について学習する。国会議員に対する命令委任が禁止され、表決の自由が認められる理由や、「国権の最高機関」という規定の実質的意味を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法の規定する国会の地位についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書292-295ページを読んでくること。「国民の代表機関」「国権の最高機関」の意味を確認してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、三権分立の観点から国会の地位はどのようなものであるのかをまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国会（2）		【国会（2）】立法権について学習する。国会で制定すべき法律とはどのようなルールであるべきか、そのようなルール制定において、国会はどのような活動をするのかについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、立法権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書295-299ページを読んでくること。「唯一の立法機関」「法規概念」の内容を確認してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、法律で規定すべき内容についてまとめること。また立法手続の過程もまとめておくこと。		120分
8	国会（3）		国会の組織と活動について学習する。二院制の意義、衆議院と参議院の関係、衆議院の優越の意義と内容を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の組織と活動についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書299－301、309-312ページを読んでくること。参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、二院制の意義と「ねじれ国会」の問題点をまとめること。		120分
9	国会（4）		国会議員の地位について学習する。国会議員が行使する権能および特権の内容を学ぶ。さらには、国会議員の活動を支える組織についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国会議員の地位についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書307-308ページを読んでくること。国会議員の権能と特権の内容を確認してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「国会議員の特権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
10	国会（5）		国会の権能について学習する。立法権以外にも憲法は国会に多様な権能を認めているが、その内容を確認するとともに、法律上国会の権限として認められるものも学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の権能についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書312-315ページを読んでくること。国会に認められる権能の内容を確認すること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法改正や条約締結における国会の役割をまとめること。		120分
11	国会（6）		議院自律権と国政調査権について学習する。議院自律権に関する憲法規定を確認するとともに、国政調査権の行使における様々な問題を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議院自律権と国政調査権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書315-321ページを読んでくること。「議院自律権」の内容を確認してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「議院自律権」「国政調査権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
12	議院内閣制		議院内閣制の本質、日本における議院内閣制について学習する。憲法の想定する衆議院の解散は、政治的実例を許容するのかについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制の本質、日本における議院内閣制についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書330-335ページを読んでくること。議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「衆議院の解散」に関する裁判例の内容をまとめること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	内閣（1）		内閣の組織について学習する。内閣の構成、文民統制の意義、総辞職の内容について理解を深める。さらには、内閣に求められる責任、内閣の意思決定機関である閣議についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣の構成、文民統制の意義、総辞職の内容について理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書325-330ページを読んでくること。文民統制の意義について考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「内閣総理大臣の職務権限」に関する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
14	内閣（2）		行政権と内閣の権能について学習する。行政権の定義に関する見解や内閣の権能、独立行政委員会の位置づけなどについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の定義に関する見解や内閣の権能、独立行政委員会の位置づけなどについての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書298-299、322-325ページを読んでくること。行政権の内容をどのように確定することができるのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「委任命令」「行政権による立法」に関する裁判例の内容をまとめること。		120分
15	司法権（1）		司法権の意味と範囲について学習する。司法権の概念を確認したうえで、法律上の争訟の内容についての理解に努める。さらに司法権の限界についての様々な論点について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の意味と範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書336-346ページを読んでくること。「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「司法権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
16	司法権（2）		裁判所の組織について学習する。日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係や最高裁判所の権能について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の裁判所の特徴についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書347-356ページを読んでくること。裁判員制度の意義について考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「特別裁判所の禁止」「裁判官」「国民の司法参加」に関する最高裁判例の内容をまとめること。		120分
17	司法権（3）		司法権の独立について学習する。政治権力から裁判所が独立することの意義を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、司法権の独立の理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書356-359ページを読んでくること。民意と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、司法権の独立の内容をまとめること。		120分
18	違憲審査制		法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律を無効にする裁判所の権能についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書377-392ページを読んでくること。最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「違憲審査権」「憲法判断の方法」に関する裁判例の内容をまとめること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	地方自治（1）		地方自治の本旨について学ぶ。我が国の国家制度に関する憲法規定を確認したうえで、単一国家における地方自治制度の意義を理解する。そして、憲法のいう「地方自治の本旨」の内容について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法のいう「地方自治の本旨」の内容についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書367-368ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、国と地方の関係はどのようなものであるのかをまとめること。	120分
20	地方自治（2）		地方公共団体の組織と住民の権利について学習する。地方公共団体の種類や住民が持つ条例制定改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地方公共団体の組織と住民の権利についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書368-369ページを読んでくること。住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを確認してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「地方公共団体」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
21	地方自治（3）		条例制定権など地方公共団体の権限について学習する。自治組織権、自治行政権、自治財政権および条例制定権について考察する。条例に関しては、法律との関係についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、条例制定権など地方公共団体の権限についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書369-373ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「条例制定権とその限界」「自治体財政権」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
22	財政（1）		租税制度について学習する。租税法律主義の意義と内容を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書360-362ページを読んでくること。	120分
	事後学修	講ノートを確認するとともに、義の内容を振り返り、参考書で「租税法律主義」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
23	財政（2）		予算制度と歳出に対する制約を学習する。予算の法的性質、国会における審議、決算などを理解したうえで、歳出に対する制約、とくに公金支出の禁止規定に該当する場合を考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、予算制度と歳出に対する制約についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書362-366ページを読んでくること。私立学校への政府補助について、その必要性和問題点を考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「公の財産」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
24	天皇制		憲法上の天皇の地位について学習する。国民主権と天皇制、象徴天皇、天皇の権能と公的行為、皇室財政の関わる問題を考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民主権と天皇制、象徴天皇、天皇の権能と公的行為、皇室財政の関わる問題についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書44-53ページを読んでくること。わが国における天皇の存在はなにかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「天皇」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	平和主義（1）	憲法9条と自衛権について学習する。戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制についての理解を深めたうえで、国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法9条と自衛権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書54-63ページを読んでくること。現在の国際社会での自衛権の行使について考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「日米安保条約の合憲性」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
26	平和主義（2）	【平和主義（2）】自衛隊と国民保護法制について学習する。国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書63-71ページを読んでくること。自衛隊の任務について確認してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「自衛隊の合憲性」に関する裁判例の内容をまとめること。	120分
27	国民主権	「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。さらには、国民の要件である「国籍」について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国民が主権を持つことの意義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書39-43ページを読んでくること。社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、国民主権と立憲主義の関係をまとめること。	120分
28	憲法改正の手続、国際法と憲法	憲法改正に関わる諸問題とその手続、さらには憲法および国内法と国際法との関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法改正、憲法および国内法と国際法との関係についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書392-399ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法改正の手続と、国際法と国内法の関係をまとめること。	120分
29	憲法規範の特徴と法源	憲法というルールに特徴的な性質や、憲法が破棄された時の国民の権利、憲法の内容が移り変わるなどについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法規範の特徴と法源についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書9-11, 375-377, 399-400ページを読んでくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法解釈の権威となるものはなにかをまとめること。	120分
30	まとめ	これまで学んだ事項について、改めて深く考える機会を設け、疑問などを教員に尋ねる。	
	この回の到達目標	この講義で修得した憲法の人権保障の内容についての理解を説明できる。	
	事前学修	今までの授業内容をまとめておき、質問できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。	120分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題に関するグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2017年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章「憲法の概念」1・2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念についてまとめたノートを作っておく。	150分
2	日本憲法史（1）大日本帝国憲法	日本初の近代憲法である大日本帝国憲法について、成立史、特色、運用を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大日本帝国憲法の成立、特色、運用の特徴について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、大日本帝国憲法の特徴および運用についてまとめたノートを作っておく。	150分
3	日本憲法史（2）日本国憲法の成立	現行憲法である日本国憲法の成立史、特色について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法がどのような経緯で成立し、いかなる特色をもつ憲法であるかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」2・3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法の成立過程およびそこでの重要な憲法上の論点についてまとめたノートを作っておく。	150分
4	「統治と国家組織」総論	国家の統治という作用と憲法との関係性について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法が国家権力に対して、どのような影響および拘束を与えているのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第1章「憲法の概念」3・4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国家統治に関する基礎理論を整理したノートを作成しておく。	150分
5	法治国家原理と法の支配	「法治国家」原理と「法の支配」との異同について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ的な「法治国家」概念とイギリス・アメリカ的な「法の支配」とが、どのような背景から生じ、それぞれどのような経緯をたどってきたのかを、内容的異同を含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第1章「憲法の概念」3・4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、法治国家原理と法の支配の異同について整理をしたノートを作っておく。	150分
6	国民主権原理	国民主権という原理が憲法上どのように位置づけられ、どのような歴史的展開を経たのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権論の原型およびその後の展開を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とくにナシオン主権論・プープル主権論について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	民主政原理		国民主権原理の具体的な表れである民主政について、歴史的展開も踏まえて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の民主政が抱える問題も含めて、直接民主制、間接民主制、選挙制度などの具体的な制度の関連性を説明することができる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とくに議会制民主主義の特徴について整理したノートを作成する。		150分
8	天皇制		日本国憲法が採用する「象徴天皇制」について、その内容的特質、国事行為の解釈を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「象徴天皇制」というユニークな制度の意義および現代的問題を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法における天皇制の位置づけおよび国事行為に関する実質的決定権の所在について整理したノートを作成する。		150分
9	権力分立原理（1）権力分立論の意義		権力分立論がどのような理由から憲法上の組織原理として採用されるようになったのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、権力分立に関する理論的背景、消極的および積極的な見方の意味などを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、権力分立の基礎的理解を整理したノートを作成する。		150分
10	権力分立原理（2）現代の権力分立		とりわけ20世紀以降の権力分立における大きな変化を、行政国家現象、司法国家現象などを素材として概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会国家原理や違憲審査制が導入されて以降の国家権力のあり方の変化を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、現代の権力分立が抱える諸問題について整理したノートを作成する。		150分
11	国会と立法権（1）立法の概念		国会が行使する権力としての「立法権」について、とりわけ「立法」とはいかなる概念であるのかを論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実質的立法概念の内容と限界について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ実質的立法概念について整理したノートを作成する。		150分
12	国会と立法権（2）国会・議院・議員の権能		国会、各議院、国会議員の権能について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの組織や議員個人の権能がどのように憲法上設定されているのかを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章3～8を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国会・議院・議員の権能について整理をし、とりわけ国政調査権、議員特権に関する判例をまとめたノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	内閣と行政権（1）行政権の概念	行政権の概念について、執政権論を参照しながら、現代的な行政権理解を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の理解についての変遷および執政権論の登場によって生じた理解の変化を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ執政権論について整理したノートを作成する。	150分
14	内閣と行政権（2）議院内閣制	内閣の組織に関する制度である議院内閣制の特徴と、日本国憲法上の問題点について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制の本質論、衆議院解散権の所在・限界について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」2～4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ内閣の衆議院解散権についての議論を整理したノートを作成しておく。	150分
15	裁判所と司法権（1）司法権の概念	司法権がどのような意義・目的をもった権力であるのかを、その特殊性を踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の概念、内在的・外在的限界について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、警察予備隊違憲訴訟、板まんだら事件などの重要判例を含めて、司法権の概念について整理したノートを作成する。	150分
16	裁判所と司法権（2）司法の独立	司法権の対外的独立、裁判官の身分保障などの司法の独立性保障がいかなる意義をもち、かつどのような問題にさらされているのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の独立、裁判官の独立、裁判官の良心について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」2～3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、司法の独立がなぜ重要なのかについて、対外的独立と対内的な独立とを対比しながら整理したノートを作成する。	150分
17	違憲審査制（1）違憲審査の類型	違憲審査の意義・歴史、類型論などについて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査がどのような理由から制度化されてきたのか、どのような類型があるのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ付随的違憲審査と抽象的違憲審査の類型について整理したノートを作成する。	150分
18	違憲審査制（2）付随的違憲審査制の特徴と審査技法	日本国憲法81条の下で採用されている付随的違憲審査制について、最高裁判例を参照しながら特徴・具体的審査技法について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、付随的違憲審査制の特徴・審査技法を具体例を挙げながら説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、最高裁判例と関連づけながら、付随的違憲審査の手法について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	違憲審査制（3）違憲判決の手法		法令違憲，適用違憲，処分違憲，違憲状態判決などの判決手法および違憲判決の効果について，最高裁判例を挙げながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，法令違憲，適用違憲，処分違憲，違憲状態判決などの判決手法および違憲判決の効果を具体例を挙げながら説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，違憲判決の類型および判決の効力について，具体例とともに整理したノートを作成する。		150分
20	国家と財政（1）租税法律主義		国家の財政ルールの一つである租税法律主義について，その意義と射程を，判例も参照しながら概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，租税法律主義についての具体的な表れを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，租税法律主義について，判例もあわせて整理したノートを作成する。		150分
21	国家と財政（2）予算と公金支出		予算と公金支出に関する憲法上の規律について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，予算と公金支出に関する憲法上のルールが説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」2～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，予算・公金支出のルールについて整理したノートを作成する。		150分
22	地方自治制度（1）地方自治の本旨		地方自治制度の意義と特徴を論じるとともに，地方自治の本旨（団体自治・住民自治）の意味するところを具体例を挙げながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，日本国憲法が採用する地方自治制度の特徴を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，地方自治制度の特徴を整理したノートを作成する。		150分
23	地方自治制度（2）条例		地方自治体がもつ条例制定権について，その意義と射程・限界を，具体例を参照しながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，とりわけ条例制定権の射程・限界を具体例を挙げながら説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」2～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，条例制定権をめぐる問題について整理したノートを作成する。		150分
24	憲法保障制度（1）憲法改正		日本国憲法上の憲法改正手続について，改正限界に関する議論も踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，憲法改正の手続的要件や内容的限界について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第19章「憲法改正」1～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，憲法改正の手続と限界について整理したノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	憲法保障制度（2）憲法尊重擁護義務	憲法尊重擁護義務の実質的意味について、昨今の緊急事態に関する議論も踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法尊重擁護義務がいかなる意味をもつのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法尊重擁護義務をめぐる諸問題について整理したノートを作成する。	150分
26	平和主義（1）前文・9条の解釈論	日本国憲法前文・9条で定められた平和主義の意味を、政府解釈の変遷や学説の対応を踏まえて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平和主義が置かれた状況を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」1～2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、前文・9条の平和主義の解釈について整理したノートを作成する。	150分
27	平和主義（2）9条裁判	とりわけ自衛隊の合憲性が争われた裁判について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条裁判がどのように展開してきたのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」2～3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、9条をめぐる判例とそこでの判決内容について整理したノートを作成する。	150分
28	平和主義（3）平和主義の現状	9条改正問題や安保法制などの現状について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条に関する具体的な現状を理解し、自分なりの考えを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」3～4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、平和主義が抱える問題とそれに対する自分の考えを整理したノートを作成する。	150分
29	統治・国家組織論と人権論	違憲審査制、私人間効力論、生存権保障など、人権論と国家組織論とが交錯する領域についての議論を総括しながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論と人権論とがどのように関連しているのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、統治・国家組織論と人権論との関係性について整理したノートを作成する。	150分
30	まとめ	統治・国家組織論についてのまとめをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論の特徴や全体的な構造を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題に関するグループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①③についての基礎知識が身についているかを、 授業内課題により評価する。	30		30								60
レポート等	到達目標②④についての能力が身についているかを、レ ポートにより評価する。		20		20							40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる憲法（第3版）	武居一正（編著）	嵯峨野書院	2020年	教科書	必携
憲法判例集（第11版）	野中俊彦・江橋崇編	有斐閣	2016年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室） tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章「憲法の概念」1・2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念についてまとめたノートを作っておく。	150分
2	日本憲法史（1）大日本帝国憲法	日本初の近代憲法である大日本帝国憲法について、成立史、特色、運用を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、大日本帝国憲法の成立、特色、運用の特徴について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、大日本帝国憲法の特徴および運用についてまとめたノートを作っておく。	150分
3	日本憲法史（2）日本国憲法の成立	現行憲法である日本国憲法の成立史、特色について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法がどのような経緯で成立し、いかなる特色をもつ憲法であるかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「日本憲法史概説」2・3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法の成立過程およびそこでの重要な憲法上の論点についてまとめたノートを作っておく。	150分
4	「統治と国家組織」総論	国家の統治という作用と憲法との関係性について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法が国家権力に対して、どのような影響および拘束を与えているのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第1章「憲法の概念」3・4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国家統治に関する基礎理論を整理したノートを作成しておく。	150分
5	法治国家原理と法の支配	「法治国家」原理と「法の支配」との異同について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ドイツ的な「法治国家」概念とイギリス・アメリカ的な「法の支配」とが、どのような背景から生じ、それぞれどのような経緯をたどってきたのかを、内容的異同を含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第1章「憲法の概念」3・4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、法治国家原理と法の支配の異同について整理をしたノートを作っておく。	150分
6	国民主権原理	国民主権という原理が憲法上どのように位置づけられ、どのような歴史的展開を経たのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権論の原型およびその後の展開を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」1を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とくにナシオン主権論・プープル主権論について整理したノートを作成する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	民主政原理		国民主権原理の具体的な表れである民主政について、歴史的展開も踏まえて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の民主政が抱える問題も含めて、直接民主制、間接民主制、選挙制度などの具体的な制度の関連性を説明することができる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とくに議会制民主主義の特徴について整理したノートを作成する。		150分
8	天皇制		日本国憲法が採用する「象徴天皇制」について、その内容的特質、国事行為の解釈を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「象徴天皇制」というユニークな制度の意義および現代的問題を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「国民主権と象徴天皇」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法における天皇制の位置づけおよび国事行為に関する実質的決定権の所在について整理したノートを作成する。		150分
9	権力分立原理（1）権力分立論の意義		権力分立論がどのような理由から憲法上の組織原理として採用されるようになったのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、権力分立に関する理論的背景、消極的および積極的な見方の意味などを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、権力分立の基礎的理解を整理したノートを作成する。		150分
10	権力分立原理（2）現代の権力分立		とりわけ20世紀以降の権力分立における大きな変化を、行政国家現象、司法国家現象などを素材として概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会国家原理や違憲審査制が導入されて以降の国家権力のあり方の変化を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、現代の権力分立が抱える諸問題について整理したノートを作成する。		150分
11	国会と立法権（1）立法の概念		国会が行使する権力としての「立法権」について、とりわけ「立法」とはいかなる概念であるのかを論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実質的立法概念の内容と限界について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章「国会」2を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ実質的立法概念について整理したノートを作成する。		150分
12	国会と立法権（2）国会・議院・議員の権能		国会、各議院、国会議員の権能について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、それぞれの組織や議員個人の権能がどのように憲法上設定されているのかを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第14章3～8を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国会・議院・議員の権能について整理をし、とりわけ国政調査権、議員特権に関する判例をまとめたノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	内閣と行政権（1）行政権の概念		行政権の概念について、執政権論を参照しながら、現代的な行政権理解を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の理解についての変遷および執政権論の登場によって生じた理解の変化を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ執政権論について整理したノートを作成する。		150分
14	内閣と行政権（2）議院内閣制		内閣の組織に関する制度である議院内閣制の特徴と、日本国憲法上の問題点について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制の本質論、衆議院解散権の所在・限界について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第15章「内閣」2～4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ内閣の衆議院解散権についての議論を整理したノートを作成しておく。		150分
15	裁判所と司法権（1）司法権の概念		司法権がどのような意義・目的をもった権力であるのかを、その特殊性を踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の概念、内在的・外在的限界について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、警察予備隊違憲訴訟、板まんだら事件などの重要判例を含めて、司法権の概念について整理したノートを作成する。		150分
16	裁判所と司法権（2）司法の独立		司法権の対外的独立、裁判官の身分保障などの司法の独立性保障がいかなる意義をもち、かつどのような問題にさらされているのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の独立、裁判官の独立、裁判官の良心について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」2～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、司法の独立がなぜ重要なのかについて、対外的独立と対内的な独立とを対比しながら整理したノートを作成する。		150分
17	違憲審査制（1）違憲審査の類型		違憲審査の意義・歴史、類型論などについて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査がどのような理由から制度化されてきたのか、どのような類型があるのかを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ付随的違憲審査と抽象的違憲審査の類型について整理したノートを作成する。		150分
18	違憲審査制（2）付随的違憲審査制の特徴と審査技法		日本国憲法81条の下で採用されている付随的違憲審査制について、最高裁判例を参照しながら特徴・具体的審査技法について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、付随的違憲審査制の特徴・審査技法を具体例を挙げながら説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、最高裁判例と関連づけながら、付随的違憲審査の手法について整理したノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	違憲審査制（3）違憲判決の手法		法令違憲，適用違憲，処分違憲，違憲状態判決などの判決手法および違憲判決の効果について，最高裁判例を挙げながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，法令違憲，適用違憲，処分違憲，違憲状態判決などの判決手法および違憲判決の効果を具体例を挙げながら説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「裁判所」4を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，違憲判決の類型および判決の効力について，具体例とともに整理したノートを作成する。		150分
20	国家と財政（1）租税法律主義		国家の財政ルールの一つである租税法律主義について，その意義と射程を，判例も参照しながら概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，租税法律主義についての具体的な表れを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，租税法律主義について，判例もあわせて整理したノートを作成する。		150分
21	国家と財政（2）予算と公金支出		予算と公金支出に関する憲法上の規律について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，予算と公金支出に関する憲法上のルールが説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「財政」2～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，予算・公金支出のルールについて整理したノートを作成する。		150分
22	地方自治制度（1）地方自治の本旨		地方自治制度の意義と特徴を論じるとともに，地方自治の本旨（団体自治・住民自治）の意味するところを具体例を挙げながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，日本国憲法が採用する地方自治制度の特徴を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」1を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，地方自治制度の特徴を整理したノートを作成する。		150分
23	地方自治制度（2）条例		地方自治体がもつ条例制定権について，その意義と射程・限界を，具体例を参照しながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，とりわけ条例制定権の射程・限界を具体例を挙げながら説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「地方自治」2～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，条例制定権をめぐる問題について整理したノートを作成する。		150分
24	憲法保障制度（1）憲法改正		日本国憲法上の憲法改正手続について，改正限界に関する議論も踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，憲法改正の手続的要件や内容的限界について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第19章「憲法改正」1～3を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに，憲法改正の手続と限界について整理したノートを作成する。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	憲法保障制度（2）憲法尊重擁護義務	憲法尊重擁護義務の実質的意味について、昨今の緊急事態に関する議論も踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法尊重擁護義務がいかなる意味をもつのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法尊重擁護義務をめぐる諸問題について整理したノートを作成する。	150分
26	平和主義（1）前文・9条の解釈論	日本国憲法前文・9条で定められた平和主義の意味を、政府解釈の変遷や学説の対応を踏まえて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平和主義が置かれた状況を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」1～2を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、前文・9条の平和主義の解釈について整理したノートを作成する。	150分
27	平和主義（2）9条裁判	とりわけ自衛隊の合憲性が争われた裁判について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条裁判がどのように展開してきたのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」2～3を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、9条をめぐる判例とそこでの判決内容について整理したノートを作成する。	150分
28	平和主義（3）平和主義の現状	9条改正問題や安保法制などの現状について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、9条に関する具体的な現状を理解し、自分なりの考えを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「平和主義」3～4を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、平和主義が抱える問題とそれに対する自分の考えを整理したノートを作成する。	150分
29	統治・国家組織論と人権論	違憲審査制、私人間効力論、生存権保障など、人権論と国家組織論とが交錯する領域についての議論を総括しながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論と人権論とがどのように関連しているのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、統治・国家組織論と人権論との関係性について整理したノートを作成する。	150分
30	まとめ	統治・国家組織論についてのまとめをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治・国家組織論の特徴や全体的な構造を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	150分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法、明治憲法およびポツダム宣言の条文がそれぞれ掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているかを，④についての論証力を筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	グループ・ディスカッションなどの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目標④についての能力が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評を後日、ポータルシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東裕ほか4名	嵯峨野書院	2015	教科書	必携
Next教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	近代国家と憲法		国家の成立要件、憲法の内容、国家と憲法の関係、近代国家の特徴。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
	この回の到達目標	国家（近代国家）および憲法（近代憲法）の内容を理解し、国家と憲法の関係について説明できる。		
	事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
2	現代の国際社会と憲法		現代の国際社会の現実、国際社会における国家の存立と憲法の役割。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
	この回の到達目標	現代国際社会の特徴を踏まえて、国家の存立についての憲法の役割を説明できる。		
	事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
3	現代国家における憲法の目的と機能		現代国家の特徴、近代憲法から現代憲法への変容、福祉国家（社会国家）における憲法の目的と機能。 ※教科書：第1講 (pp. 1-15)	
	この回の到達目標	現代国家における憲法の目的と機能について説明できる。		
	事前学修	教科書第1講 (pp. 1-15)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
4	日本国憲法の成立		ポツダム宣言の内容、明治憲法の改正、日本国憲法の成立過程、八月革命説。 ※教科書：第2講 (pp. 17-31)	
	この回の到達目標	ポツダム宣言の受諾から日本国憲法の成立に至る一連の流れを説明できる。		
	事前学修	教科書第2講 (pp. 17-31)を読むこと。ポツダム宣言の条文を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
5	権力分立		権力分立の意義と目的、日本国憲法における権力分立の在り方。 ※教科書：第2講 (pp. 17-24)	
	この回の到達目標	日本国憲法の条文をもとに権力分立を説明できる。		
	事前学修	教科書第2講を（pp. 17-24）読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分
6	日本国憲法の基本原理		国民主権、平和主義、基本的人権、基本原理相互間関係。 ※教科書：第2講 (pp. 25-31)。第4講 (pp. 47-58)、第5講 (pp. 73-75)	
	この回の到達目標	国民主権、平和主義および基本的人権の保障の相互関係について説明できる。		
	事前学修	教科書第2講 (pp. 25-31)、第4講 (pp. 47-58)、第5講 (pp. 73-75)を読むこと。（1時間）		60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	天皇と国民主権	天皇（1）：天皇の地位、「国民の総意」（憲法1条）の意味。 ＊教科書：第3講（pp. 33-40）	
	この回の到達目標	天皇の地位と国民主権の関係を説明できる。	
	事前学修	教科書第3講（pp. 33-40）を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
8	天皇と元首	天皇（2）：元首の概念、元首概念の変容 ＊教科書：第3講（pp. 38-40）	
	この回の到達目標	天皇は元首であると言えるか否かについて説明できる。	
	事前学修	教科書第3講（pp. 33-40）を読むこと。明治憲法の関連条文を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
9	天皇の行為	天皇（3）―国事行為・公的行為 ＊教科書：第3講（pp. 41-44）	
	この回の到達目標	天皇の行為にどのようなものがあるか説明できる。	
	事前学修	教科書第3講（pp. 41-44）を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
10	占領下における憲法解釈	戦争の放棄（1）―ポツダム宣言、占領、占領下における9条解釈 ＊教科書：第4講（pp. 47-55）	
	この回の到達目標	占領下における9条解釈について説明できること。	
	事前学修	教科書第4講（pp. 47-55）および「ポツダム宣言」を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
11	独立回復と憲法解釈の変更	戦争の放棄（2）―日本国との平和条約、独立、保安隊から自衛隊へ、9条解釈の変更 ＊教科書：第4講（pp. 55-64）	
	この回の到達目標	独立回復後の9条解釈の変更の理由（背景）について説明できる。	
	事前学修	教科書第4講（pp. 55-64）を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
12	冷戦後の国際社会と憲法解釈の変更	戦争の放棄（3）―現代国際社会と安全保障 ＊教科書：第4講（pp. 65-70）	
	この回の到達目標	冷戦後の国際社会の変容と憲法解釈変更の理由（背景）について説明できる。	
	事前学修	教科書第4講（pp. 65-70）を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国会の地位	国会（１）－国会の地位 ＊教科書：第１５講(pp. 241-244)	
	この回の到達目標	国会の地位について説明できる。	
	事前学修	教科書第１５講(pp. 241-244)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
14	国会の組織	国会（２）－国会の組織、選挙制度。 ＊教科書：第１５講(pp. 244-248)	
	この回の到達目標	国会の組織と衆参両院の選挙制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第１５講(pp. 244-248)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
15	国会の権能	国会（３）－国会の権能、議院の権能。 ＊教科書：第１５講(pp. 248-255)	
	この回の到達目標	国会の主要な権能について説明できる。	
	事前学修	教科書第１５講(pp. 248-255)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
16	国会議員の地位と特権・憲法と政党	国会（４）－国会議員の地位、国会議員の特権、日本国憲法と政党。 ＊教科書：第１５講(pp. 255-259)	
	この回の到達目標	国会議員の特権について説明できる。日本国憲法と政党の関係について説明できる。	
	事前学修	教科書第１５講(pp. 255-259)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
17	内閣の地位と行政権	内閣（１）－内閣の地位、行政権の意義、独立行政委員会。 ＊教科書：第１６講(pp. 261-263)	
	この回の到達目標	行政権について説明できる。	
	事前学修	教科書第１６講(pp. 261-263)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
18	内閣の組織と権能	内閣（２）－内閣の構成、内閣の権能、内閣総理大臣の地位と権能。 ＊教科書：第１６講(pp. 267-273)	
	この回の到達目標	内閣はどのように組織され、どのような権能をもっているか説明できる。	
	事前学修	教科書第１６講(pp. 267-273)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	議院内閣制	内閣（３）―議院内閣制の本質、議院内閣制の原則、衆議院の解散権、大統領制。 ＊教科書：第１６講(pp.264-267)	
	この回の到達目標	議院内閣制と大統領制の異同について説明できる。	
	事前学修	教科書第１６講(pp.264-267)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
20	首相公選論	内閣（４）―首相公選論 ＊教科書：第１６講(p.265)	
	この回の到達目標	首相公選制とはどのような制度であるかを説明できる。	
	事前学修	教科書第１６講(p.265)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
21	司法権とその独立	裁判所（１）―司法権の意義、法律上の争訟、主観訴訟、客観訴訟、裁判官の独立。 ＊教科書：第１７講(pp.275-281)	
	この回の到達目標	司法権の意義と司法権の独立を確保するための制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第１７講(pp.275-281)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
22	裁判所の組織と権能	裁判所（２）―裁判所の組織と権能、三審制、裁判員制度、規則制定権。 ＊教科書：第１７講(pp.281-286)	
	この回の到達目標	裁判所の組織と裁判員制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第１７講(pp.281-286)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
23	違憲審査制	裁判所（３）―違憲審査制、付随的審査制、抽象的審査制、憲法裁判所、 ＊教科書：第１７講(pp.286-302)	
	この回の到達目標	わが国の違憲審査制についてせる名できる。	
	事前学修	教科書第１７講(pp.286-302)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分
24	予算と財政	財政民主主義、租税法律主義、予算の法的性格、公金支出制限 ＊教科書：第１８講(pp.303-315)	
	この回の到達目標	租税法律主義について説明できる。	
	事前学修	教科書第１８講(pp.303-315)を読むこと。（１時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（３時間）	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	地方自治の本旨	「地方自治の本旨」の意義、団体自治、住民自治 ＊教科書：第 1 9 講 (pp. 316-320)	
	この回の到達目標	「地方自治の本旨」について説明できる。	
	事前学修	教科書第 1 9 講 (pp. 316-320) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
26	地方公共団体の組織と権能	地方公共団体の統治機構（首長、議会、執行機関）、選挙制度、長と議会の選挙および権能。 ＊教科書：第 1 9 講 (pp. 320-322)	
	この回の到達目標	地方公共団体の統治機構のしくみについて説明できる。	
	事前学修	教科書第 1 9 講 (pp. 320-322) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
27	条例制定権	法律と条例、条例制定権の範囲、住民投票条例とその効力。 ＊教科書：第 1 9 講 (pp. 323-331)	
	この回の到達目標	条例制定権の限界について説明できる。	
	事前学修	教科書第 1 9 講 (pp. 323-331) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
28	憲法改正	憲法改正の手続き、憲法改正の限界、憲法の変遷。 ＊教科書：第 2 0 講 (pp. 339-346)	
	この回の到達目標	憲法改正手続を説明できる。	
	事前学修	教科書第 2 0 講 (pp. 339-346) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
29	憲法保障	憲法保障の意義、憲法保障のための制度。抵抗権、国家緊急権。 ＊教科書：第 2 0 講 (pp. 333-339)	
	この回の到達目標	憲法保障の制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第 2 0 講 (pp. 333-339) を読むこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分
30	授業の総まとめ	定期試験についての説明など。	
	この回の到達目標	授業を振り返り、疑問点を明らかにできる。	
	事前学修	前回までの授業範囲を確認しておくこと。（1時間）	60分
	事後学修	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）	180分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	柳瀬 昇	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
オンライン授業（オンディマンド形式）に対応できることが必要である。

【授業方法】		
この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論を、体系的を重視し、概括的に、かつ平明に講述する（授業担当者の私見を説明するのではなく、あくまで大学において一般的に学ぶべきと考えられる内容を伝授する）。今年度は、オンディマンド形式で行う。Google Classroomのこの講義のクラスに登録し（クラスコードはgiyi5otである）、講義の動画を視聴し事後学修課題に取り組む。詳細は、オリエンテーションの動画（ https://youtu.be/ne1F6uDh0B0 ）で述べる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	憲法問題についての調査研究	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。				1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。					1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。						1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての基本知識が身についているかと、④についての論証力を、毎回の事後学修課題及び中間・期末レポートにより評価する。	30	30	20	20							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『憲法判例百選I〔第7版〕』	長谷部恭男ほか編	有斐閣	2019	教科書	推奨
『憲法判例百選II〔第7版〕』	長谷部恭男ほか編	有斐閣	2019	教科書	必携
備考	上記のほか、六法が必携である（種類や出版社は問わない）。				

【オフィスアワー】
授業期間中の火曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。Zoomを使用したオンライン・オフィスアワーも適宜行う予定である。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	立憲主義の基本原理		日本国憲法の基本的原理として、権力分立及び法治主義・法の支配について説明したうえで、立憲主義の意義と変遷について検討する。	
	この回の到達目標	権力分立の意義及び歴史的展開について理解している。法の支配と（形式的）法治主義との異同を踏まえて、それらの意義及び歴史的展開について理解している。立憲主義の意義及び歴史的展開について理解している。		
	事前学修	「憲法I（人権）」の講義を復習したうえで、人権論と統治機構論とがどのような関係にあるのかを考えておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、権力分立、法治主義・法の支配及び立憲主義の意義と変遷について整理する。		120分
2	国会と立法権（1）		国会の地位について検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法41条にいう「国権の最高機関」及び「国の唯一の立法機関」ならびに43条にいう「全国民の代表」の意味について理解している。実質的意味の立法権の概念について、標準的な定義を述べることができる。国会中心立法の原則及び国会単独立法の原則について、それぞれの意味及び憲法上の例外を理解している。		
	事前学修	参考書等で、国会の地位について調べ、目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の地位について整理する。		120分
3	国会と立法権（2）		国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法（会期制など）について検討する。	
	この回の到達目標	二院制が採用される理由について理解しているとともに、日本国憲法における参議院の意義及び役割について説明することができる。国会及び各議院の憲法上の権能について理解している。議院自律権の意義について理解している。国会の会期及び参議院の緊急集会について理解している。		
	事前学修	参考書等で、国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法（会期制など）について調べ、目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法（会期制など）について整理する。		120分
4	国会と立法権（3）		国会の活動方法（会議の原則、法律の制定等の手続、両院協議会など）及び議員特権について検討する。	
	この回の到達目標	両議院の会議の定足数・表決・公開に関する憲法の規定の内容について理解している。衆議院と参議院との関係に関する憲法の規定の内容について説明することができる。国会議員の地位・権限・特権について理解している。		
	事前学修	参考書等で、国会の活動方法（会議の原則、法律の制定等の手続、両院協議会など）及び議員特権について調べ、目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の活動方法（会議の原則、法律の制定等の手続、両院協議会など）及び議員特権について整理する。		120分
5	国会と立法権（4）		国政調査権の性質と限界について検討する。	
	この回の到達目標	国政調査権の法的性格及び範囲について説明することができるとともに、国政調査権の限界について、司法、検察、一般行政権及び国民の基本的人権との関係で、具体例を挙げて、説明することができる。		
	事前学修	日商岩井事件東京地裁判決（II-171）、造船疑獄有田二郎逮捕許諾決議事件東京地裁決定（II-168）及び病院長自殺国家賠償請求事件最高裁判決（II-170）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国政調査権の性質と限界について整理する。		120分
6	民主政治と選挙		わが国の選挙制度の変遷を概観したうえで、代表制・選挙制度を類型し、その意義について検討する。	
	この回の到達目標	わが国の選挙制度の変遷についておおむね説明することができる。多数代表制と少数代表制（比例代表制を含む）の意義及び大選挙区制と小選挙区制の意義について理解している。投票方法にさまざまな方法があることを知っている。		
	事前学修	参考書等で、わが国の選挙制度の変遷及び代表制・選挙制度の類型について調べ、目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、わが国の選挙制度の変遷及び代表制・選挙制度の類型について整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	民主政治と政党		政党の意義・機能を確認したうえで、トリーペルの政党4段階説を紹介し、政党制について検討する。
	この回の到達目標	代議制民主主義国家における政党の意義・機能及び政党制について理解するとともに、政党に関するわが国の法制度や判例の立場を説明することができる。	
	事前学修	参考書等で、政党の意義・機能、トリーペルの政党4段階説及び政党制について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、政党の意義・機能、トリーペルの政党4段階説及び政党制について整理する。	120分
8	内閣と行政権（1）		行政権の概念について検討したうえで、内閣の組織に関する憲法条項を確認し、独立行政委員会の合憲性について議論する。
	この回の到達目標	実質的意味の行政権の概念について、標準的な定義を述べることができる。内閣の構成及び内閣総理大臣・国務大臣の任命等について、説明することができる。独立行政委員会が憲法に違反するか否かについて、説明することができる。	
	事前学修	参考書等で、行政権の概念、内閣の組織及び独立行政委員会の合憲性について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、行政権の概念、内閣の組織及び独立行政委員会の合憲性について整理する。	120分
9	内閣と行政権（2）		内閣の権能・内閣総理大臣の権限について確認したうえで、議会と政府との関係について議論する。
	この回の到達目標	憲法が明文で定める内閣の個別の権限の内容を理解している。内閣が行政権の行使について国会に対して連帯して負う責任の意味を説明することができる。議院内閣制や大統領制など、議会と政府の関係から見た政治体制の類型について理解している。日本国憲法の定める議院内閣制の仕組みについて、憲法の条文に則して説明することができる。	
	事前学修	ロッキード事件丸紅ルート最高裁判決（II-174）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、内閣の権能・内閣総理大臣の権限及び議会と政府との関係について整理する。	120分
10	内閣と行政権（3）		議会と政府との関係に関して、首相公選論や国民内閣制をめぐる議論を敷衍するとともに、衆議院の解散権の所在について議論する。
	この回の到達目標	首相公選論の問題点と国民内閣制の意義を理解している。衆議院の解散の法的意義を理解している。衆議院を解散する実質的権限が内閣にあることの根拠となりうる条文を、理由を述べつつ挙げることができる。日本国憲法69条が定める場合以外に、内閣の裁量により衆議院を解散することができるか否かについて、説明することができる。	
	事前学修	参考書等で、議会と政府との関係及び衆議院の解散権の所在について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、議会と政府との関係及び衆議院の解散権の所在について整理する。	120分
11	憲法問題についての調査研究		憲法問題をめぐって、与えられた資料を読んだうえで、必要に応じて資料を自ら収集し、問題を検討し、レポートを作成する。検討するテーマは、公共政策の決定のあり方である。重要な政策課題をめぐる国民（住民）投票などのような直接民主主義的な政治参加の制度の導入が、憲法に違反するか否かについて、考察する。
	この回の到達目標	憲法問題をめぐって、与えられた資料を読んだうえで、必要に応じて資料を自ら収集し、問題を検討し、自分の主張を的確に述べるることができる。重要な政策課題をめぐる国民（住民）投票などのような直接民主主義的な政治参加の制度の導入が、憲法に違反するか否かについて、考察することができる。	
	事前学修	事前に、配布資料「課題研究～公共政策の決定のあり方」を読んだうえで、必要に応じて、図書館等を利用して資料等を自主的に収集する。	120分
	事後学修	5,000文字程度でレポートを作成し、提出する。	120分
12	裁判所と司法権（1）		国会や内閣といった政治部門との対比で裁判所を法原理機関として位置づける考え方を説明したうえで、裁判所の組織について説明するとともに、裁判員制度の合憲性について議論する。
	この回の到達目標	政治部門との対比で裁判所を法原理機関として位置づける考え方を説明することができる。裁判所の憲法上の権能について理解している。裁判所の種類・構成・管轄などについて理解している。裁判官の任命等について理解している。わが国の裁判員制度について、陪審制・参審制との異同やその合憲性について説明することができる。	
	事前学修	裁判員制度違憲訴訟最高裁判決（II-175）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、裁判所の組織及び国民の司法参加の制度について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	裁判所と司法権（2）		司法権の独立の意義を説明したうえで、憲法が定める裁判官の身分保障の内容及び意義について検討する。	
	この回の到達目標	司法権の独立の意義、内容、具体的な発現形態について理解している。		
	事前学修	寺西事件最高裁判決（II-177）、国民審査制度違憲訴訟最高裁判決（II-178）及び高井住男簡裁判事弾劾裁判判決（II-179）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、司法権の独立について整理する。		120分
14	裁判所と司法権（3）		裁判の公開について解説したうえで、司法権の内容について検討する。	
	この回の到達目標	裁判の公開の意義について理解している。実質的意味の司法権の概念について、標準的な定義を述べることができる。「法律上の争訟」の意味について、判例を踏まえて、説明することができる。ある争いが法律上の争訟に当たるか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	法廷メモ（レペタ）訴訟最高裁判決（I-72）、板まんだら事件最高裁判決（II-184）及び警察予備隊違憲訴訟最高裁判決（II-187）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、裁判の公開及び司法権の内容について整理する。		120分
15	裁判所と司法権（4）		司法権の限界について検討する。	
	この回の到達目標	ある争いが法律上の争訟に当たるとしても裁判所による司法審査の対象となるか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	警察法改正無効訴訟最高裁判決（II-180）、苫米地事件最高裁判決（II-190）、富山大学事件最高裁判決（II-182）、共産党袴田事件最高裁判決（II-183）及び山北村議会議員懲罰事件最高裁判決（II-181）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、司法権の限界について整理する。		120分
16	裁判所と違憲審査権（1）		違憲審査権の性格・主体・対象について検討する。	
	この回の到達目標	違憲審査制の意義と類型について理解したうえで、抽象的違憲審査制と付随的違憲審査制の基本的仕組みと特質について説明することができる。日本国憲法が定める違憲審査権の性格・主体・対象について、説明することができる。		
	事前学修	警察予備隊違憲訴訟最高裁判決（II-187）、砂川事件最高裁判決（II-163）及び百里基地訴訟最高裁決（II-166）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、違憲審査権の性格・主体・対象について整理する。		120分
17	裁判所と違憲審査権（2）		違憲審査権の対象に関して、立法の不作为について検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法81条の定める「一切の法律、命令、規則又は処分」の意味について説明できるとともに、特に、立法の不作为が違憲審査の対象となるか否かについて、判例を踏まえて、説明することができる。		
	事前学修	在宅投票制廃止違憲訴訟最高裁判決（II-191）、在外国民選挙権訴訟最高裁判決（II-147）及び国籍法3条1項違憲訴訟最高裁判決（I-26）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、違憲審査権の対象としての立法の不作为について整理する。		120分
18	裁判所と違憲審査権（3）		違憲判断の方法・効力について検討したうえで、憲法訴訟の訴訟要件と憲法訴訟の当事者適格（違憲主張の適格）の問題を議論する。	
	この回の到達目標	違憲審査の方法、法令の全部又は一部違憲、適用違憲などの違憲判断の方法及び最高裁判所による違憲判断の効力について理解している。また、裁判において憲法上の争点を提起する適格について理解している。		
	事前学修	第三者所有物事件最高裁判決（II-107）、皇居前広場使用不許可事件最高裁判決（I-80）及び最決平成26年7月9日判時2241号20頁（II-188）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、違憲判断の方法・効力及び憲法訴訟の訴訟要件と憲法訴訟の当事者適格（違憲主張の適格）について整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	裁判所と違憲審査権（4）	司法消極主義と憲法判断の方法について考察する。	
	この回の到達目標	司法積極主義と司法消極主義の意義について理解している。付随的違憲審査制における違憲審査の必要性の原則及び憲法判断回避の準則について説明することができるとともに、どのような場合に憲法判断自体を回避すべきか、またどのような場合に合憲限定解釈を行うべきかについて、考察することができる。	
	事前学修	恵庭事件札幌地裁判決（II-164）、都教組事件最高裁判決（II-193）及び広島市暴走族追放条例事件最高裁判決（I-84）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、司法消極主義と憲法判断の方法について整理する。	120分
20	財政からみる民主主義	憲法上の財政の基本原則について確認したうえで、公金・公の財産の支出・利用の制限について検討するとともに、予算・決算についての憲法上の制度を概観する。	
	この回の到達目標	財政民主主義や租税法律主義の意義について理解している。租税の意味について、誤解することなく、正確に認識している。公金・公の財産の支出・利用の制限、予算及び決算等についての憲法上の制度について、条文に即して、その意義を説明することができる。	
	事前学修	旭川市国民健康保険条例事件最高裁判決（II-196）及び吉川町幼児教室公費助成訴訟東京高裁判決（II-199）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、財政の基本原則、公金・公の財産の支出・利用の制限及び予算・決算について整理する。	120分
21	地方からみる民主主義（1）	日本国憲法92条の定める「地方自治の本旨」の意義について検討したうえで、93条2項にいう「地方公共団体」の意味を画定する。	
	この回の到達目標	日本国憲法92条の定める「地方自治の本旨」の意義について説明することができる。憲法上の地方公共団体とは何かについて、判例を踏まえて、説明することができる。地方公共団体の長及び議会に関する憲法の規定について理解している。地方公共団体の事務についておおむね説明することができる。	
	事前学修	区長公選制廃止違憲訴訟最高裁判決（II-200）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、地方自治の本旨及び憲法上の地方公共団体の意義について整理する。	120分
22	地方からみる民主主義（2）	日本国憲法94条の定める「条例」の意味を画定したうえで、条例制定権の意義とその限界について考察する。	
	この回の到達目標	日本国憲法94条の定める「条例」の意味及び条例制定権の意義について理解している。憲法上の法律留保事項について条例で定められるかや、条例が法律の範囲内にあるか否かについて、具体的事例を挙げて、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	奈良県ため池条例事件最高裁判決（I-98）、大阪市売春取締条例事件最高裁判決（II-208）、神奈川県臨時特例企業税事件最高裁判決（II-201）及び徳島市公安条例事件最高裁判決（I-83）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、条例制定権の意義とその限界について整理する。	120分
23	天皇	天皇の地位・性格及び権限について議論したうえで、天皇・皇族の人権享有主体性について検討するとともに、その他の天皇に関連する論点について考察する。	
	この回の到達目標	日本国憲法下の天皇の地位等について、大日本帝国憲法の場合と比較して、説明することができる。天皇の国事行為等の内容及び法的性質について理解している。天皇及び皇族の人権の制約の根拠と範囲について理解している。元号、国旗及び国歌と天皇との関係について理解している。	
	事前学修	プラカード事件最高裁判決（II-161）及び最判平成元年11月20日民集43巻10号1160頁（II-162）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、天皇の地位・性格、天皇の権限、天皇・皇族の人権享有主体性及び天皇に関連する論点について整理する。	120分
24	安全保障（1）	自衛権の概念について検討したうえで、戦力の不保持と交戦権の否認をめぐる論争を概観する。平和的生存権について考察し、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について議論する。	
	この回の到達目標	個別的自衛権や集団的自衛権の意味を説明することができるとともに、日本国憲法9条2項の定める「戦力」及び「交戦権」の意味について理解している。	
	事前学修	砂川事件最高裁判決（II-163）の事実の概要及び判旨をもう一度読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、自衛権の概念及び戦力の不保持と交戦権の否認について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	安全保障（2）		平和的生存権、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について検討する。
	この回の到達目標	平和的生存権をめぐる議論について理解している。日米安全保障体制の基本的仕組みを理解したうえで、駐留米軍が日本国憲法9条2項の「戦力」に該当するか否かについて、判例を踏まえて、説明することができる。自衛隊の国際平和維持活動への参加についての基本的仕組みを理解している。	
	事前学修	長沼ナイキ訴訟福岡地裁判決（II-165）の事実の概要及び判旨を読んでおく。余力があれば、解説についても目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、平和的生存権、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について整理する。	120分
26	日本国憲法制定史		日本国憲法の制定と運用をめぐる歴史を概観する。大日本帝国憲法の制定から日本国憲法の制定までの歴史について通観し、新旧憲法の特徴を比較する。
	この回の到達目標	日本国憲法の特徴について、大日本帝国憲法との比較において、理解している。日本国憲法の制定過程について、その歴史的経緯を理解した上で、法的観点から説明することができる。	
	事前学修	参考書等で、日本国憲法の制定史について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本国憲法の制定史について整理する。	120分
27	日本国憲法運用史（1）		戦後の日本政治について、安全保障を通じて検討する。
	この回の到達目標	戦後の安全保障をめぐる基本的な法制度の展開について理解している。	
	事前学修	参考書等で、戦後の日本における安全保障をめぐる議論について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、戦後の日本における安全保障をめぐる議論について整理する。	120分
28	日本国憲法運用史（2）		戦後の政党政治と日本国憲法の改正をめぐる議論について概観する。
	この回の到達目標	日本国憲法の改正をめぐる戦後の主要政党の姿勢について、各時代の背景を踏まえて、理解している。	
	事前学修	参考書等で、戦後の政党政治と日本国憲法の改正をめぐる議論について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	戦後の政党政治と日本国憲法の改正をめぐる議論について整理する。	120分
29	憲法の変動と保障		憲法保障の意義とその具体的な形態を確認するとともに、憲法改正の意義、手続及び限界について検討する。
	この回の到達目標	憲法保障の意義及びそのための諸制度の内容について理解している。憲法改正の意義を説明することができる。日本国憲法96条が定める憲法改正手続について理解している。憲法変遷論の問題点と憲法改正の限界について理解している。	
	事前学修	参考書等で、憲法保障の意義ならびに憲法改正の意義、手続及び限界について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法保障の意義ならびに憲法改正の意義、手続及び限界について整理する。	120分
30	総括		これまでの「憲法II（統治機構）」の講義の内容について総括する。
	この回の到達目標	これまでの「憲法II（統治機構）」の講義の内容全般について、疑問点などがあればそれを解消し、さらに理解を深める。	
	事前学修	これまでの「憲法II（統治機構）」の講義の内容について、自分で整理したうえで、疑問点などがあれば、質問項目としてまとめておく。	120分
	事後学修	解消された疑問点などを含めて、これまでの「憲法II（統治機構）」の講義の内容を改めて整理する。	120分

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	野口 健格	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では主に国家制度（統治機構）をテーマとします。憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
受講にあたっては、憲法の規定する国家制度の特質を理解し、民主制のみならず国会・内閣・裁判所・地方自治の概要を説明する能力を養成することが求められます。18歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と政府の仕組みとの関係を理解し正しい政治判断をするために、我が国の統治機構の基本的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目的とします。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
・講義はオンデマンド形式で開講する。 ・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・六法（出版社は問わない）を用意し動画の視聴の際も利用すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法が規定する国家組織の基本内容と特質を把握できる。					1	1						
②	統理機構に関して、どのような問題が生じているかを説明できる。						1	1					
③	統治機構に関する主要判例の概要を説明できる。							1					
④	主要判例の示した法理を活用して、論理的に想定問題を解決できる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本知識が身についているか、 ④についての論証力をオンライン上で行う記述式試験（実施は時間を限定して行う）により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての基本知識が身についているか、 ④についての論証力をレポートにより評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	web上での有益な質問や「sounding board」（どこかの授業 内で時間を決めて用意してきた質問または意見を披露する 機会）などの能動的学修への積極的参加を基準に、到達目 標④についての能力が身についているかを評価する。		10		10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートや授業内に出した課題については、後日、Google Classroomにて配信する。また、「sounding board」等の学生とオンライン上で時間を共有する場において適宜フィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法2 統治(第7版)	渋谷 秀樹・赤坂 正浩 著	有斐閣アルマ	2019年	教科書	必携
憲法判例集(第11版)	野中俊彦・江橋崇／ 編著、渋谷秀樹／補訂	有斐閣新書	2016年	参考書	任意
備考	授業内容に関するレジュメをweb上で共有する。その他の文献に関しては授業内で適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
土曜3限の講義終了後に適宜実施する（web上の何らかの手段で事前にアポイントメントを取ること）。メールでの相談は（noguchi.takenori@nihon-u.ac.jp）に送信すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	イントロダクション（統治機構と権力分立）		本講義における受講のルールや成績の評価方法等の基本事項を確認する。また、憲法における統治機構と権力分立についての基本的な構造が認識できるようにする。
	この回の到達目標	・憲法の基本構造を理解するとともに、わが国の統治機構における権力分立の重要性を意識できるようにすること。 ・自発的な学習ができるように講義受講の際に心掛けること、自分流のメモやノートをとる訓練の必要性を理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
2	日本国憲法史（統治機構）		明治憲法から現行憲法、そして日本国憲法制定から今日に至るまでの流れを概観する。その過程で、わが国の統治機構がどのように変遷してきたのを理解してもらう。
	この回の到達目標	・大日本国憲法と日本国憲法の根本的な違いを理解すること。 ・戦後の日本国憲法が辿った流れを知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
3	象徴天皇制（天皇の地位と権能）		前回の講義を受けて、天皇の地位がどのように変わったのかについて理解し、現行憲法下で有する象徴としての権能を学習する。
	この回の到達目標	・明治憲法から現行憲法に移行する過程で天皇の地位がどのように変わったのかを理解すること。 ・現行憲法上の天皇の権能を把握すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
4	平和主義①（憲法9条の意義）		憲法9条の条文解釈や同条制定の背景、過去から現在に至るまでに生じた問題点について学習する。
	この回の到達目標	・憲法9条の具体的な問題点について知ること。 ・憲法9条の解釈の必要性について意識すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
5	平和主義②（国防と安全保障）		自衛隊の法的位置付けと国際社会の中で日本を取り巻く安全保障環境の変化について学ぶ。
	この回の到達目標	・自衛隊の役割と国際社会における日本の位置付けについて理解すること。 ・現在の集団安全保障体制とその問題点について知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
6	立法①（国会の地位と構造）		国権の最高機関でありかつ国の唯一の立法機関である国会の基本事項について学習する。
	この回の到達目標	・わが国の国会が憲法上どのように位置付けられているのか理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	立法②（国会の権能）		国権の最高機関でありかつ国の唯一の立法機関である国会の基本事項について学習する。
	この回の到達目標	・国会が持つ様々な権限・能力について理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
8	立法③（国会議員の地位）		法律という規範を議論を経て制定する役割を担う国会議員とはどのような者なのかを学ぶ。
	この回の到達目標	・国会議員が憲法上どのように位置付けられているのかを理解すること。 ・具体的な国会議員像についてイメージできるようにすること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
9	立法④（国会の運営）		法律を制定する際に具体的な議論が行われる委員会や国会の運営方法について学習する。
	この回の到達目標	・国会内でどのように審議が行われているのかを知ること。 ・国会運営を支える仕組みについて理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
10	立法⑤（議員定数の不均衡）		一票の格差と平等についての問題点とこれまでに下された選挙訴訟に関する裁判所の判断について学習する。
	この回の到達目標	・わが国の選挙制度について知ること。 ・一票の格差と平等の問題について理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
11	行政①（議院内閣制）		わが国において国会と内閣とが分立した上で、内閣は国会の信任によって存立する政治制度である議院内閣制について、大統領制と比較しつつ学ぶ。
	この回の到達目標	・議院内閣制の本質について理解すること。 ・議院内閣制と大統領制の違いについて理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
12	行政②（内閣の組織・権能・責任）		内閣の基本事項について学習する。
	この回の到達目標	・内閣の基本的な構造について理解し、全体を俯瞰できるようにすること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	行政③（内閣総理大臣の権限）		内閣総理大臣の権力性がどのような仕組みを背景として生じるのかを認識できるように学習する。
	この回の到達目標	・内閣総理大臣の権限について知ること。 ・わが国では内閣総理大臣の権力や権威がどのように生じているのかを理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
14	行政④（衆議院の解散）		衆議院の解散権行使の主体について理解し、解散という国家行為の法的・政治的問題について学習する。
	この回の到達目標	・衆議院の解散がどのような法的・政治的事象であるのかを知ること。 ・解散権の所在を説明できるようにすること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
15	行政⑤（独立行政委員会）		内閣に属していない行政機関である独立行政委員会の法的問題点と意義について具体的な機関を例にあげて学習する。
	この回の到達目標	・独立行政委員会の法的特徴について説明できるようにすること。 ・独立行政委員会の必要性と問題点について理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
16	司法①（司法権の由来と特色）		司法権についての基本事項について学習する。
	この回の到達目標	・司法権の本質とわが国の司法制度について理解すること。 ・わが国における裁判の類型を知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
17	司法②（裁判所の組織・権能）		司法権の担い手である裁判所に関する基本的事項に関して学習する。
	この回の到達目標	・わが国の裁判所を概観し、全体像を把握すること。 ・わが国の裁判所の権限・能力について知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
18	司法③（司法の独立と民主統制-国民の政治参加）		司法の独立性と民主的統制に関する手法について学習する。
	この回の到達目標	・司法の独立の重要性について理解すること。 ・裁判所の国民審査を制度的に理解すること。 ・裁判員裁判の制度の概要を知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	抽象的違憲審査制（憲法裁判所型）		ドイツに代表される憲法裁判所による違憲審査について学習する。	
	この回の到達目標	・ドイツに代表される憲法裁判所による違憲審査の意義について知ること。 ・違憲審査の何が「抽象的」なのか理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
20	具体的違憲審査制（通常裁判所型）		日本やアメリカが採用している通常裁判所による違憲審査について学習する。	
	この回の到達目標	・日本やアメリカが採用している通常裁判所による違憲審査の意義について知ること。 ・違憲審査の何が「具体的」なのか理解すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
21	憲法訴訟論①（対象）		わが国の憲法判例のいくつかを素材として憲法訴訟について学習する。	
	この回の到達目標	・憲法訴訟の対象事案の特徴を理解すること。 ・憲法判例の読み方を体得すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
22	憲法訴訟論②（要件と手続）		わが国の憲法判例のいくつかを素材として憲法訴訟について学習する。	
	この回の到達目標	・憲法訴訟が成立する要件と成立した際の手続きについて知ること。 ・憲法判例の読み方を体得すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
23	憲法訴訟論③（判断の方法・違憲判決の効力と事後処理）		わが国の憲法判例のいくつかを素材として憲法訴訟について学習する。	
	この回の到達目標	・憲法訴訟において裁判官がどのようなアプローチをして結論に至るのかを知ること。 ・違憲判決が出た際、その効力と事後処理の方法について知ること。 ・憲法判例の読み方を体得すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	
24	世界の違憲審査制		憲法訴訟について学ぶにあたり世界各国の違憲審査制度について可能な限り紹介しながら進めていく。各国の制度比較を通して違憲審査という事象についての理解を深めていく。	
	この回の到達目標	・他国との制度比較を通じて違憲審査の意義を再検討すること。 ・憲法判例の読み方を体得すること。		
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分	
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	財政①（財政民主主義と租税法律主義）	国家レベルの財務と税務のあり方と民主的統制について学習する。	
	この回の到達目標	・財務や税務が民主的統制を受けていることの意義を理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
26	財政②（予算と決算）	国家予算の編成と決算について学習する。	
	この回の到達目標	・国家における予算と決算の仕組みについて理解すること。 ・国庫に対して国民の監視の目が及ばなければならないという視点を持つこと。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
27	地方自治①（地方自治の本旨と地方公共団体の機関）	地方公共団体の基本事項について学習するとともに、憲法上想定される地方のあり方について学ぶ。その際、他国の事例も参照する。	
	この回の到達目標	・わが国の地方自治体の由来と特徴を理解すること。 ・地方分権の意義と問題点について理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
28	地方自治②（条例の性質・条例の範囲と限界）	わが国の地方公共団体が制定する条例について学ぶとともに、条例制定の目的や様々な地方行政の中で果たす役割について学習する。	
	この回の到達目標	・条例の性質について理解すること。 ・条例の適用範囲を知ること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
29	憲法保障の諸類型（抵抗権・国家緊急権・違憲審査制）	わが国における憲法保障の意義は、憲法典の規範力を維持するために用意（想定）されているものを理解し、国家と憲法との関係性を再認識する。	
	この回の到達目標	・憲法保障という概念を理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分
30	憲法改正手続の意義と憲法改正権の限界	わが国の憲法改正手続の内容を再確認するとともに、その手続の妥当性を考え、また憲法改正権の「限界」についても考える。その過程で他国の事例も参照する。	
	この回の到達目標	・憲法改正手続規定と憲法改正手続法について理解すること。 ・憲法改正権の所在と限界について理解すること。	
	事前学修	教科書の該当箇所（自身がこの回の設定テーマに関係のあると判断した部分）をよく読んでおくこと（当然、重要な部分は何度も重複するはずである）。また、憲法上の論点について疑問に思ったものをメモをするなど文章化して明確にしておくこと。	120分
	事後学修	この回にとった講義ノートをもとに自分自身のオリジナルノート（講義ノートに加筆しわかりやすくまとめたもの）を作成すること。作成過程で講義の内容も自然と振り返ることができるはずである。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に準拠し、オンデマンド講義形式で授業を行います。講義動画の配信や資料の配布は、ポータルシステムを通じて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	原則として毎回の授業につき、調べ学修を必要とする授業内課題を課します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③についての基礎知識が身についているかを、授業内課題により評価する。	20	20	20								60
レポート等	到達目標④についての能力が身についているかを、レポートにより評価する。				40							40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題については、必要に応じて、提出物にみられた一般的傾向に対する講評や注意喚起などを、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454号室） iked.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内・導入：憲法（人権）の学び方	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論：人権論へのイントロダクション	憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	人権総論：人権の種類／人権の私人間効力	基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明し，履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，人権の享有主体や私人間効力に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，基本的人権の意義・類型・享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）を説明している教科書pp. 13-18を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，人権の種類，人権の享有主体，人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ，説明できるようにする。	150分
4	精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由	思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明し，履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，信教の自由の限界に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界，学校教育における信教の自由の問題を説明している教科書pp. 136-145を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例，信教の自由の意義・限界をノートにまとめ，説明できるようにする。	150分
5	精神的自由権（2）：政教分離	制度的保障としての政教分離の意義，政教分離原則の内容，目的・効果基準を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して，政教分離の意義・内容，目的・効果基準を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，政教分離原則を説明している教科書pp. 145-161を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，政教分離原則の意義・内容，目的・効果基準をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	精神的自由権（3）：表現の自由	表現の自由の意義，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準，表現の自由をめぐる判例を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して，表現の自由の意義，表現の自由に対する規制の合憲性審査基準，表現の自由をめぐる判例を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，表現の自由を説明している教科書pp. 165-177を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，政教分離をめぐる判例をノートにまとめ，事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	経済的自由権（1）：職業選択の自由	近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、職業選択（営業）の自由及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。	120分
8	経済的自由権（2）：財産権	財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、経済的自由権に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、財産権をめぐる問題を説明している教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	150分
9	身体的自由権（1）：適正手続の保障	奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、身体的自由権（人身の自由）の基本原則を説明している教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。	120分
10	身体的自由権（2）：被疑者の権利／刑事被告人の権利	被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利、証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利益な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、被疑者の権利及び刑事被告人の権利を説明している教科書pp. 233-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。	120分
11	受益権	受益権（裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、請願権）の意義を説明し、履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受益権の意義及びそれを具体化する制度の概要を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、受益権を説明している教科書pp. 251-263を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、受益権の意義をノートにまとめ、受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。	120分
12	社会権（1）：生存権の法的性格	社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し、履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明している教科書pp. 264-272を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り、社会権の意義、生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ、生存権の法的性格を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	社会権（2）：生存権をめぐる判例／その他の社会権		生存権をめぐる重要判例（朝日訴訟、堀木訴訟）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また、その他の社会権（教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、生存権をめぐる重要判例（朝日訴訟、堀木訴訟）に表れた法理を理解し、説明することができる。また、教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の概要を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、生存権をめぐる重要判例、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権を説明している教科書pp. 272-290を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、生存権をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の概要をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分
14	包括的人権（1）：法の下での平等		「平等」思想の歴史、「平等」のさまざまな意味、憲法14条の意義、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下での平等」をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、憲法14条の「法の下での平等」原則の特質、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下での平等」をめぐる判例の概要を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、「法の下での平等」の意義及び特質並びにそれをめぐる判例を説明している教科書pp. 107-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、「平等」のさまざまな意味、「法の下での平等」をめぐる判例をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。		120分
15	包括的人権（2）：幸福追求権と「新しい人権」		個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例に表れた法理を理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら、を説明している教科書pp. 77-97を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型、一般的人格権の意義及びそれに関連する判例に表れた法理をノートにまとめ、説明できるようにする。		120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	石塚 壮太郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。教科書および事前配布資料に沿って講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。						1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。							1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、レポートにより評価する。	30	30	30	10							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 日本国憲法	斎藤 一 久ほか	弘文堂	2018	教科書	必携
Start Up 憲法判例50！	上田健介ほか	有斐閣	2016	参考書	推奨
確認 憲法用語	大沢秀介ほか	成文堂	2014	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入授業	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要および目的を理解すること。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返ること。	120分
2	憲法とは何か	憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、憲法という法の意義や特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章「憲法とは何か」Ⅰ～Ⅳを読んでおくこと。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、「憲法」の概念について整理したノートを作成する。	120分
3	基本的人権の構成	基本的人権の構成要素に関する議論を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法上の人権の構成に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第2章「人権の射程」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の人的保護領域・事項的保護領域およびその制限について、判例も含めて整理したノートを作成する。	120分
4	基本的人権の保障と制限	基本的人権の保護領域に関する議論を紹介するとともに、その制限と正当化についても論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法上の人権保障と制限に関する議論を、主要判例も含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「新しい人権」Ⅰを読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、基本的人権の保護領域およびその制限について、判例も含めて整理したノートを作成する。	120分
5	個人の尊重・幸福追求権	日本国憲法13条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を、新しい人権に関する判例も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、とりわけ幸福追求権の保護領域に関する議論および、それを踏まえた新しい人権の保障問題について論じる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第3章「包括的基本権」Ⅱ～を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、幸福追求権の保護領域、新しい人権の保障について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。	120分
6	法の下の平等	絶対的/相対的平等、形式的/実質的平等といった平等概念と、日本国憲法14条後段列举事由の解釈を、主要な判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平等原則の意義およびこれに関する判例である尊属殺重罰規定違憲判決、非嫡出子相続分差別違憲決定、国籍法違憲判決、再婚禁止期間違憲判決、夫婦同氏制合憲判決について違憲審査の内容を含めて説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第4章「法の下の平等」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、平等原則違反が問題となった裁判例およびそこでの判示内容を整理したノートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	思想・良心の自由		思想・良心の自由の保護領域およびその制約に関する近年の判例の展開について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向を踏まえて、様々な「思想－行為」問題について自己の見解を示すことができる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第5章「思想・良心の自由」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について、判例の展開を含めて整理したノートを作成する。		120分
8	信教の自由と政教分離原則		日本国憲法20条が保障する信教の自由および政教分離原則の意義や内容、制約・違反事例について、エホバの証人剣道実技拒否事件や津地鎮祭事件など主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、信教の自由、政教分離原則の内容とこれに対する制約・違反が問題となった事例およびそこの判示内容が説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第6章「信教の自由」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、信教の自由、政教分離原則が問題となった裁判例を整理したノートを作成する。		120分
9	表現の自由		日本国憲法21条が定める表現の自由の意義と保護領域、さらには多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表現の自由の現代的な保護領域、制約の態様と正当化論証のバリエーションを説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第7・8章「表現の自由・総論および各論」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、表現の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。		120分
10	集会・結社の自由		日本国憲法21条が定める集会・結社の自由の意義と保護領域、制約事例を説明し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開も含めて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、集会・結社の自由の保護領域、制約の態様と正当化論証を説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第9章「集会・結社の自由」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、集会・結社の自由が問題となった裁判例とそこでの判示内容について整理したノートを作成する。		120分
11	職業選択の自由		日本国憲法22条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を論じるとともに、薬事法違憲判決、小売市場判決などの制約事例を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、職業の自由の具体的な保護領域、制約事例に対する裁判所の判断について説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第11章「職業選択の自由」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、職業選択の自由が問題となった裁判例について整理したノートを作成する。		120分
12	財産権		日本国憲法29条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性、制約類型（公用収用を含む）を踏まえた違憲審査のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産権保障に対する制約とその正当化論証を判例の立場も含めて説明できる。		
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第12章「財産権」を読んでおく。		120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、財産権が問題となった裁判例について、制約類型を意識して整理したノートを作成する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会権	日本国憲法25条が保障する生存権を中心に、社会権保障のあり方、これが問題となった判例などを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会権の特徴とその実現に関する議論を説明できる。到達	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第13章「生存権」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、生存権を中心に、社会権保障とそれに伴う問題を整理したノートを作成する。	120分
14	参政権	日本国憲法15条が保障する選挙権を中心に、政治参加のための権利保障、選挙制度について概観する。	
	この回の到達目標	目標①②③に関連して、選挙権の意義・内容について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第16章「参政権と選挙制度」を読んでおく。	120分
	事後学修	選挙権の意義と内容について、在外国民選挙権判決などの判例も含めて整理したノートを作成する。	120分
15	人身の自由	日本国憲法31条以下が定める刑事手続に関する規律に関する解釈のあり方を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、具体的な刑事手続に関する権利保障の内容と限界を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第17章「刑事手続上の権利」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、刑事手続に関する権利保障を整理したノートを作成する。	120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書にそってオンデマンド講義形式で行う。講義で使用する動画・資料をGoogle Classroomにて配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に把握できる能力が身についているかを各回の小テストにより評価する。	30	30	30	10							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高校から大学への憲法 第2版	君塚正臣	法律文化社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、憲法という法規範の概要についての理解を深める。なお、この講義はオンデマンド式で実施する。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、憲法という法規範の概要について、法律との違いや政府との関連性などを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解すること。	120分
	事後学修	オリエンテーションを振り返ること。	120分
2	人権保障の一般原則(1)	人権を憲法で保障することの意義を考察する。西欧の歴史において中世から近代へと以降する時期に、どのように自由や権利の意識が芽生え定着していったのか、。産業革命の進展とともに権利の内容はどのように拡大していったのかを考察し、人権保障に通底する理念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国家・憲法の意義と立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書121-123ページを読み、人権保障の意義について考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の中で示された「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を想定してみること。	120分
3	人権保障の一般原則(2)	人権の主体・私人間効力について考察する。憲法上の権利を主張することのできる人は誰かについて、国民、外国人、法人などを区分して考察する。さらに、人権の主張はどのような場面で可能なのかについては、統治権の意義と内容を確認したうえで、国民に及ぼす影響と人権との関係を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の享有主体と憲法の私人間効力についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書124-126ページを読み、憲法上の権利を主張することのできる人は誰か、人権の主張はどのような場面で可能なのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、憲法と国民との関係を考えつつ自分が外国に行った時のことを想定してみる。また社会の中の格差や差別をどうやって解決すべきかを考えてみること。	120分
4	人権の一般原則(3)	人権制約の原理について考察する。憲法上の権利は無制約に国民に認められるのか、それとも制約は必要か。どの程度までの制約ならば許されるのか。その制約はいかなる理由で正当化できるのかを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、人権の制約原理についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書126-128ページを読み、誰もが無制限に人権を主張した場合に、どのようなことは発生するのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「みなが平和に暮らす」とことと「みな同じように行動しなければダメ」は同じか、違うのかを考えてみること。	120分
5	精神的自由(1)	良心の自由・信教の自由について学習する。良心の自由を保障する意義とその範囲、そして近年の最高裁判例が示した良心の自由に対する制約の原理を学ぶ。そして信教の自由を保障し、政教分離原則を掲げる理由を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、思想良心の自由および信教の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書135-142ページを読み、信念を持って生きること、信仰に基づいて生活することの意義を考え、それが否定された時の感情を想像してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国旗国歌に起立斉唱しなければならないのか、風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いで追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人たちを政府が追悼するのは許されるかを考えてみること。	120分
6	精神的自由(2)	学問の自由・表現の自由の意義について学習する。学問研究を保障する意義を考察するとともに、表現の自由が人間の発展にどのような影響を及ぼし、さらには民主社会にいかなる意義を持つのかを学ぶ。また表現することに必要な様々な人間の活動についても触れる。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、学問の自由・表現の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書142-144ページを読み、科学研究や表現活動がいかに人間社会を進展させたのかを考えてくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、クローン技術やiPS細胞、AI技術のような人間の生活に大きな影響を与える研究はなぜ推進されるのか、表現の自由は「優越的地位」にあるというのが本当にそうなのかを考えてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	精神的自由 (3)		表現の自由に対する制限・事前抑制と検閲を学習する。表現して情報を発信するにおいて、実際にどのような制約が存在しているのか、その制約はいかなる理由により正当化されているのか、その制約に対して裁判所はどのように憲法適合性を判断すべきなのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、表現の自由に対する制限・事前抑制と検閲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書144-149ページを読み、表現の自由になぜ制約が必要なのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、表現の自由を制約する理由はすべてにおいて同じか、それとも異なる理由づけによるのか考えてみる。		120分
8	精神的自由 (4)		知る権利と報道機関の自由について考察する。知る権利の憲法上の地位を確認するとともに、関連する最高裁判例を学び、情報流通の確保の重要性を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、知る権利と報道機関の自由についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書149-152ページを読み、知る権利とはどのようなものであるのか、知る権利を具体化する報道機関の自由は何かを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、新型コロナウイルス流行に際して政府が正しい情報を提供しない場合どうなるのかを考えてみる。		120分
9	精神的自由 (5)		集会・結社の自由について考察する。集会の自由については、公の施設を利用した場合と集団的示威行為とに分けて、最高裁判例を中心にその規制の実態を学ぶ。また結社の自由については、グループを結成して活動を継続することに政府はどのように関与することができるのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、集会・結社の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書152-154ページを読み、集会がどのように人々の政治的意見の形成にかかわるのかを考えてみる。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、サークルやバンドを結成し参加して活動することにどのような問題があるのかを考えてみる。		120分
10	経済的自由 (1)		職業選択の自由について考察する。近代市民社会の基本理念である「私的自治」を確認し、契約の自由の意味を理解したうえで、就職し起業して営利を得ることの意義を考えるとともに、営業活動における公平さはいかに確保できるのか、現状の制約は公平といえるのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職業選択の自由の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書155-161ページを読み、就職したり起業して営利を稼ぐことは無制限に許されるのか、あるいは何らかの制約は必要なのか、必要ならどのような制約が望ましいのかを考えてくる。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、人はだれでも生活のために働くが、それを選び続ける自由はどこまで認められるのかを考えてみる。		120分
11	経済的自由 (2)		財産権保障について学習する。「私的自治」における所有権絶対の原則を確認したうえで、その他の財産的権利の内容とその保障の在り方を学ぶ。そして秩序や安全確保のための財産権制約と、弱者保護のための制約の理由を考察して、損失補償の実態を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財産権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書161-163ページを読み、各自の持つ服や靴、時計を「所有する」とはどういうことなのかを考えてくる。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、財産をもつ権利にはどのような制限が及ぶのかを考えてみる。		120分
12	社会権 (1)		福祉国家主義・生存権について学習する。憲法が福祉国家主義を採用した理由を考察するとともに、政府による経済的社会的弱者の救済を社会権の内容を確認したうえで理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、福祉国家主義・生存権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書168-170ページを読み、経済活動を放任した結果貧富の格差が著しい社会はどのようなものなのかを考えてくる。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差は正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	社会権(2)		教育権・労働基本権について学習する。教育を受ける権利の意義を考察するとともに、公教育に対する政府の関与と補助の現状を学ぶ。また労働者の権利を理解して、特に労働三権の意義を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、教育権・労働基本権についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書164-168ページを読み、小学校・中学校に通わなかった場合に今の日本で仕事を探すことができるのかを考え、さらに「ブラック企業」と何か調べてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国家が国民に教育を提供することの意味を考え、また労働者が集団で使用者と交渉する権利が認められるのはなぜかを考えてみること。		120分
14	幸福追求権		憲法13条で保障されていると理解される人格権・自己決定権について学習する。「新しい人権」を保障する原理としての「幸福追求権」を理解するとともに、その内容である人格権・自己決定権の内実を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、幸福追求権の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書171-185ページを読み、憲法13条の保障する幸福を追求する権利とはどのようなものか、また憲法に明記されていない権利はどのように保障されるべきかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてみよう、また電子機器とプライバシー保護との関係を考えてみること。		120分
15	平等		形式的平等と実質的平等の差異を考えつつ、平等原則の意義を学習する。社会に存在する様々な区別と差別とをいかに見分けるのかについて、最高裁判例を参照しつつ考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、平等の内容と保障範囲についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書128-133ページを読み、「等しいものは等しく扱い、等しくないものは別々に扱う」ということはどういう意味なのかを考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができるのかを考えてみること。		120分

科目名	憲法A(人権)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実に生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
指定教科書に沿って講義形式で行う。必要に応じてレジュメ・資料等を配付するなど、教科書の記述で不十分なところを補完する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義での理解度を確認するため、指定用紙による授業内レポートを課し、それに対する講評を受講生全員に示すことによって問題意識を全体で共有し、意見を求め議論することで、講義内容の理解を深化させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1					
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1				
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の結果と講評とポータスシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック 日本国憲法	下條芳明・東裕ほか	嵯峨野書院	2016	教科書	必携
START UP 憲法判例 50！	上田・尾形・片桐	有斐閣	2016	参考書	任意
Next 教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	近代立憲主義の成立と展開		近代憲法の成立と基本的人権の保障，イギリス名誉革命と権利章典，アメリカの独立革命と憲法的文書，フランス革命と人権宣言。（教科書73-85頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	近代憲法の成立過程とその基本原理を理解し，簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
2	人権の観念と内容		人権の性格，人間の尊厳，人権の分類（教科書73-85頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	人権の基礎づけと各種の人権の性格を理解し，人権の分類について説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
3	現代立憲主義と人権概念の変容		近代立憲主義から現代立憲主義への変化，現代憲法における人権保障，人権の国際化（教科書85-88頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	近代立憲主義から現代立憲主義への変化をもたらした時代背景と現代憲法の特徴を理解し，簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
4	人権の享有主体		人権享有主体（国民・外国人・法人・未成年），各種人権の性質，享有主体ごとに保障される人権の種類（教科書90-96頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	日本国憲法の保障する基本的人権が，その性質に応じて保障されることを理解し，人権享有主体のそれぞれが享有できる人権について簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。		180分
5	人権と公共の福祉		「公共の福祉」とは何か，公共の福祉による人権制約，違憲審査基準（教科書98-99頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	「公共の福祉」について学説・判例の見解が簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
6	包括的人権（幸福追求権）		幸福追求権の意義と範囲，幸福追求権から導き出される人権（名誉権・プライバシー権・自己決定権・環境権）。（教科書97-104頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	「新しい人権」について，判例に則して簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	平等原則・平等権	平等観念の展開（市民革命期の人権宣言），日本国憲法における平等原則（14条1項の解釈・14条1項違反とされた判例），選挙権の平等，家族生活及び職場における男女平等。（教科書105-120頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	平等原則と合理的な差別について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
8	精神的自由権（1）	精神的自由権の意義，思想・良心の自由，信教の自由，政教分離の原則，学問の自由。（教科書122-131，141-142頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	内心の自由について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
9	精神的自由権（2）	表現の自由の意義と内容，集会の自由，結社の自由。（教科書132-140頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	民主政における表現の自由の重要性について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
10	経済的自由権	経済的自由権の意義，居住・移転の自由，外国移住・国籍離脱の自由，職業選択の自由，財産権の保障。（教科書144-158頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	経済的自由権に対する規制について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
11	人身の自由	人身の自由の意義，奴隷的拘束および苦役からの自由，適正手続の保障，被疑者の権利と被告人の権利。（教科書159-178頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	人身の自由の保障の重要性について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
12	参政権	参政権の意義，選挙権の法的性質，選挙の基本原則，選挙の方法と選挙運動の規制，直接民主制方式としての参政権。（教科書180-195頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	代表民主制にとっての参政権の重要性について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国務請求権	国務請求権の意義，請願権，裁判を受ける権利，国家賠償請求権，刑事補償請求権。（教科書196-210頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	国務請求権は自由権や社会権とどう違うか，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
14	社会権（1）	社会権の歴史的背景，日本国憲法における社会権保障，生存権の法的性格，教育を受ける権利，教育権の所在と教育を受ける自由。（教科書211-223頁，授業時配布レジュメ・資料〔判例〕）	
	この回の到達目標	生存権に関する主要な判例について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。特に授業時に資料として配布した判例を読むこと。	180分
15	社会権（2）	勤労権，労働基本権の性格と内容，労働基本権の制限（教科書223-232頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	公務員の労働基本権に関する判例の傾向について，簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

科目名	憲法A(人権)	担当者	柳瀬 昇	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観する。次に、日本国憲法における人権保障について通説・判例の見解を理解することを主として講義し、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権分野では重要な判例が多数あるので、教科書に紹介されている判例の要旨だけでなく、いくつかの判例の全文を取り上げ、その論理展開の仕方を分析する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現実には生起する人権問題について憲法の視点から分析し、かつ適切な判断ができるようになるため、憲法上の人権の生成発展の過程を理解し、基本的人権に関する通説・判例の知識を修得することを目的とする。

【履修条件】
講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれたい。後期の同一曜日・時間に設置された「憲法B（統治機構）」を受講するものとする。

【授業方法】		
この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論を、体系的性を重視し、概括的に、かつ平明に講述する（授業担当者の私見を説明するのではなく、あくまで大学において一般的に学ぶべきと考えられる内容を伝授する）。この講義を受講すれば、憲法解釈論の基礎をきちんと理解できるようになる。この講義で扱う内容は、憲法総論及び人権論についてである（なお、統治機構及び憲法史については、後期の同一曜日・時間に設置された「憲法B（統治機構）」で講述する）。毎回、レジュメに沿って、教科書を用いて講義を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	指定された課題について自主的に資料を調査したうえで、レポートを作成し、提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	近代憲法から現代憲法に至る基本的人権の成立と展開について、簡潔に説明できる。					1	1						
②	日本国憲法が保障する基本的人権の意義と特質について、説明できる。					1	1						
③	基本的人権をめぐる主要判例について、事件の概要と判旨を説明できる。						1	1					
④	主要判例の法理を活用して基本的人権をめぐる問題について、一定の解決ができる。				1			1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験（授業内試験）により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、自主的に調査をしたうえで作成したレポートについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『教育判例で読み解く憲法〔第2版〕』	柳瀬昇	学文社	2021	教科書	必携
備考	上記のほかに、第2回の講義以降、六法が必携である（種類や出版社は問わない）。詳しくは、第1回の講義で説明する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の火曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	憲法の概念と憲法規範の特質		はじめに、この講義の進め方について説明する。次に、法学の全体像と憲法学の位置を確認したうえで、憲法の概念を確定する。そして、憲法規範の特質について検討する。
	この回の到達目標	憲法の概念に関して、形式的意味、実質的意味、立憲的意味、固有の意味について理解している。憲法の授権規範性と制限規範性について説明できる。	
	事前学修	教科書の「序章 憲法判例の読み方」（8-12頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、憲法の概念及び憲法規範の特質について整理する。また、六法を参照しながら、形式的意味の憲法ではないが実質的意味の憲法といえるものをいくつか挙げ、なぜそういえるのかを説明する。	120分
2	立憲主義の基本原則（1）		日本国憲法の基本的原理として、国民主権主義、平和主義及び人権尊重主義について説明する。
	この回の到達目標	日本国憲法の基本原則の相互関係について理解している。人権の概念について、標準的な定義を述べることができる。人権の特質について理解するとともに、人権の類型の意義と特色を説明することができる。国民主権の正統性の契機と権力的契機の2つの側面について説明することができる。日本国憲法9条をめぐる学説対立について理解している。	
	事前学修	教科書の「日本国憲法の基本的原理と意義」（13-15頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国民主権主義、平和主義及び人権尊重主義ならびにその相互関係について整理する。	120分
3	憲法と人権の限界（1）		人権の享有主体性に関して、法人及び外国人の人権について検討する。
	この回の到達目標	人権の享有主体性という問題の意味を理解している。法人及び外国人の人権享有主体性について、性質説の立場を理解したうえで、保障される人権の範囲及び制限される人権の程度について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の「人権の享有主体性」（26-27頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法人及び外国人の人権について整理する。	120分
4	憲法と人権の限界（2）		まず、特別な法律関係における人権保障に関して、一般職公務員の人権について検討する。次に、憲法の私人間効力について検討する。
	この回の到達目標	一般職公務員の人権が特別の制約に服するか否かについて、政治的行為の自由や労働基本権が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。私人間の紛争において人権侵害の主張がなされた場合に、法的解決のためには、どのような論理構成をとるべきかについて、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の「第1章 憲法の私人間効力」（16-25頁）及び「第2章 公務員の人権」（28-36頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、一般職公務員の人権及び憲法の私人間効力について整理する。	120分
5	幸福追求権		幸福追求権の意義について検討したうえで、新しい人権のうち、プライバシーの権利及び自己決定権について考察する。
	この回の到達目標	幸福追求権の権利としての性格、保障の範囲、これを母体とし根拠づけられる具体的な権利について、説明することができる。プライバシーの権利及び自己決定権の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の「第3章 幸福追求権と新しい人権」（38-47頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、幸福追求権の意義、プライバシーの権利及び自己決定権について整理する。	120分
6	法の下の平等		法の下の平等の意義及び優先処遇と逆差別について検討する。
	この回の到達目標	形式的平等と実質的平等、絶対的平等と相対的平等、法適用の平等と法内容の平等について、それらの異同を説明することができる。優先的な処遇を与える積極的差別是正措置の意義について、考察することができる。どのような区別が合理的な根拠に基づくものではないのかについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	尊属殺人罪重罰規定違憲訴訟について、第1審の控訴審の判断とでは、どちらが妥当であるかについて考えておく。また、教科書の「（3）法の下の平等の意義」（127-128頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法の下の平等の意義及び優先処遇と逆差別について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	内心の自由		思想・良心の自由、信教の自由の意義及び学問の自由について検討する。	
	この回の到達目標	思想・良心の自由の内容及び範囲を説明することができる。信教の自由の内容及び政教分離の原則の意義について、説明することができる。目的効果基準について理解するとともに、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、判例を踏まえ、考察することができる。学問の自由の内容及び大学の自治の意義について、説明することができる。		
	事前学修	教科書の「第4章 思想・良心の自由」（62-71頁）、「第5章 信教の自由と政教分離」（72-81頁）及び「第8章 学問の自由と大学の自治」（102-109頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、思想・良心の自由、信教の自由の意義及び学問の自由について整理する。		120分
8	表現の自由（1）		表現の自由の価値・射程及び表現の自由の内容（報道の自由・取材の自由、わいせつ表現の自由、名誉毀損的表現の自由）について検討する。	
	この回の到達目標	表現の自由を保障する意義について、人格価値、真理の探究及び民主政などと関連づけて、理解している。表現の自由の射程について理解している。報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について、判例を踏まえて、考察することができる。わいせつ表現や名誉及びプライバシーを侵害する表現の制約について、考察することができる。		
	事前学修	教科書の「第6章 表現の自由と検閲の禁止」（82-91頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、表現の自由の価値・射程及び表現の自由の内容について整理する。		120分
9	表現の自由（2）		まず、検閲の禁止について検討する。次に、表現の自由の規制立法に対する違憲審査について考察する。そして、集会・結社の自由について検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法21条2項の定める「検閲」の概念（判例の立場）を述べることができる。検閲と表現の事前抑制との関係について説明することができる。どのような場合に検閲等に該当するか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。日本国憲法21条1項にいう「集会」及び「結社」の意味について理解している。		
	事前学修	教科書の「第7章 集会・結社の自由」（92-101頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、検閲の禁止、表現の自由の規制立法に対する違憲審査及び集会・結社の自由について整理する。		120分
10	経済の自由（1）		まず、公共の福祉の意義について考察する。次に、経済的自由権のうち、居住・移転の自由及び財産権の保障について検討する。	
	この回の到達目標	「公共の福祉」規定の法的性格について説明することができる。居住・移転の自由を保障する意義について理解している。財産権の保障の意味について説明することができる。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかや、日本国憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味について理解している。		
	事前学修	教科書の「（6）財産権」（118-119頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、公共の福祉、居住・移転の自由及び財産権の保障について整理する。		120分
11	経済の自由（2）		経済的自由権のうち、職業選択の自由及びその規制立法に対する違憲審査について検討する。	
	この回の到達目標	職業選択の自由の内容について説明することができる。職業選択の自由に対する規制のさまざまな態様があることを理解している。職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、説明することができる。職業選択の自由の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	教科書の「第9章 職業選択の自由」のうち、解説（5）まで（110-118頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、職業選択の自由及びその規制立法に対する違憲審査について整理する。		120分
12	人身の自由		法定適正手続の保障及び奴隷的拘束・苦役からの自由について検討したうえで、日本国憲法の定める刑事手続上の権利について概観する。また、死刑制度の憲法適合性について議論する。	
	この回の到達目標	日本国憲法31条の定める「法律の定める手続」の意味について、その手続の内容を含めて、説明することができる。18条の定める「奴隷的拘束」等の意味について理解している。33条ないし39条の定める刑事手続上の権利の内容について、おおむね理解している。死刑が憲法上許されるか否かについて、判例を踏まえて、考察することができる。		
	事前学修	教科書の「（7）身体的自由権」（119頁）を読んでおく。		120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、法定適正手続の保障、日本国憲法の定める刑事手続上の権利及び死刑制度の憲法適合性について整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国家による自由		社会権に関して、生存権及び教育を受ける権利について検討する。
	この回の到達目標	自由権と社会権の内容及び性格について、その異同を説明することができる。生存権の法的性格に関する学説及び判例の内容について説明することができる。教育を受ける権利の意義、主体及び内容について理解している。「教育権」の所在に関する学説の対立について、説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第10章 生存権の法的性格」（120-129頁）及び「第11章 教育を受ける権利」（130-139頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、生存権及び教育を受ける権利について整理する。	120分
14	国家への自由		参政権について検討する。
	この回の到達目標	参政権の意義及び内容を理解している。選挙権の性格について理解している。選挙権及びその行使の制約が憲法違反となるか否かについて、判例を踏まえて、考察することができる。近代選挙法の基本原則の内容を説明することができる。公職選挙法による選挙運動の制約等について、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の「参政権」（139頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、参政権について整理する。	120分
15	総括		これまでの「憲法A（人権）」の講義の内容について総括する。
	この回の到達目標	これまでの「憲法A（人権）」の講義の内容全般について、疑問点などがあればそれを解消し、さらに理解を深める。	
	事前学修	これまでの「憲法A（人権）」の講義の内容について、自分で整理したうえで、疑問点などがあれば、質問項目としてまとめておく。	120分
	事後学修	解消された疑問点などを含めて、これまでの「憲法A（人権）」の講義の内容を改めて整理し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	池田 実	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に準拠し，オンデマンド講義形式で授業を行います。講義動画の配信や資料の配布は，ポータルシステムを通じて行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	原則として毎回の授業につき，調べ学修を必要とする授業内課題を課します。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③についての基礎知識が身についているかを 授業内課題により評価する。	20	20	20								60
レポート等	到達目標④についての能力が身についているかをレポート により評価する。				40							40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題については、必要に応じて、提出物にみられた一般的傾向に対する講評や注意喚起などを、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454号室） ikeda.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	授業案内：憲法（統治機構）の学び方		当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法令・判例・学説の学び方，予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，法令・判例・学説を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	120分
2	憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開		憲法の前提としての国家，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を説明し，履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，憲法の意味，立憲的憲法（近代憲法）の特徴，法体系における憲法の地位，立憲主義の展開を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法とは何か，立憲主義の展開を説明している教科書pp. 1-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法の意味，法体系における憲法の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法の基本原理		明治憲法の成立過程・基本原理，日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し，履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，明治憲法との比較において，日本国憲法の成立過程・基本原理を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，明治憲法，日本国憲法の基本原理，日本国憲法の制定過程・基本原理を説明している教科書pp. 9-13，23-25，49を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，日本国憲法の基本原理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
4	国会（1）：国会の地位		代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を説明し，履修者が国会の地位を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の地位を説明している教科書pp. 291-299を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，代表民主制の趣旨，国会の地位，国会議員の地位をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
5	国会（2）：国会の活動		会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を説明し，履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則を理解し，会期制の趣旨を説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の活動を説明している教科書pp. 300-306を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，会期，参議院の緊急集会，会議の諸原則をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
6	国会（3）：国会の権能／議院の権能		国会の権能（法律の議決，予算の議決，条約の承認，内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し，履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。また，議院の権能（議院の自律権，国政調査権）を説明し，これを理解できるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，国会の権能及び衆議院の優越，議院の権能を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院の優越に関する問題に解答することができる。	
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，国会の権能及び衆議院の優越，議院の権能を説明している教科書pp. 306-320を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，国会の権能及び衆議院の優越をノートにまとめ，説明できるようにする。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国会（４）：参政権と選挙制度		参政権の意義（国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制，大選挙区制，比例代表制）の特徴を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。また，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し，その概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，参政権の意義と各種選挙制度の特徴，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，参政権と選挙制度を説明している教科書pp. 320-326，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明している教科書pp. 124-135を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，参政権の意義と各種選挙制度の特徴，議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例に表れた法理をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
8	内閣（１）：行政権と内閣制度／議院内閣制		行政権の意義，議院内閣制のしくみを説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，行政権の意義，内閣制度の変遷，権力分立制の態様と議院内閣制の本質・しくみを理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，衆議院解散総選挙に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，行政権の意義，内閣制度の変遷，議院内閣制を説明している教科書pp. 327-337を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，行政権の意義，内閣制度の変遷，権力分立制の態様と議院内閣制の本質・しくみをノートにまとめ，説明できるようにする。	150分	
9	内閣（２）：内閣の組織・権能		内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能を説明している教科書pp. 337-348を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，内閣の組織，内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
10	天皇：象徴天皇制／国事行為／皇室経済		日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，象徴天皇制を説明している教科書pp. 23-43を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，天皇の地位，皇位継承の原則，天皇の国事行為，皇室経済の原則をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。	120分	
11	裁判所（１）：司法権		司法権（の独立）の意義，裁判官の身分保障を説明し，履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，司法権（の独立）の意義，裁判官の身分保障を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，司法権の特質を説明している教科書pp. 349-360を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例，司法権の限界に関する理論をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	
12	裁判所（２）：裁判所の組織・権能		裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法を説明している教科書pp. 360-374を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。	120分	
	事後学修	授業を振り返り，裁判所の組織・権能，違憲審査制の意義，憲法判断の方法をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	戦争の放棄：平和主義／憲法9条／安全保障		憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を理解し，説明することができる。また，到達目標④に関連して，戦争の放棄に関する問題に解答することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制を説明している教科書pp. 44-76を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，憲法9条の解釈・判例，自衛権の意義，安全保障法制をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。		150分
14	財政：予算・決算／公金支出等の禁止		予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義を説明している教科書pp. 375-389を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，予算・決算の制度，公金支出等の禁止の意義をノートにまとめ，その概要を説明できるようにする。		120分
15	地方自治：地方自治の本旨／地方公共団体の組織・運営		地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を理解し，説明することができる。		
	事前学修	事前に配布するパワーポイント資料で要点を確認しながら，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営を説明している教科書pp. 390-410を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。		120分
	事後学修	授業を振り返り，地方自治の本旨，地方公共団体の組織・運営をノートにまとめ，その概要説明できるようにする。		120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	石塚 壮太郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。事前配布資料に沿って講義を進める

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	具体的な憲法問題についてのグループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について、論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立、議院内閣制等について、条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について、条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について、みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、レポートにより評価する。	30	30	30	10							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図録 日本国憲法	斎藤一久ほか	弘文堂	2018	教科書	必携
Start Up 憲法判例50！	上田健介ほか	有斐閣	2016	参考書	推奨
確認憲法用語	大沢秀介ほか	成文堂	2014	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入授業	この講義の進め方についての概要を説明するとともに、人権と統治の考え方の違いについて理解を深める。	
	この回の到達目標	担当教員が説明する、この講義の目的、進め方、評価方法などをよく理解して、適切な講義を選択すること。また、人権と統治の考え方の違いを理解できる。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解すること。 教科書第18章「統治機構・総論」Ⅰを読んでおく。	120分
	事後学修	ガイダンスを振り返ること。	120分
2	権力分立原理	権力分立論がどのような理由から憲法上の組織原理として採用されるようになったのか、そして現在どのような変化を生じているのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、権力分立に関する理論的背景、消極的および積極的な見方の意味、現代的变化などを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「統治機構・総論」Ⅱを読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、現代の権力分立が抱える諸問題について整理したノートを作成する。	120分
3	国民主権原理	国民主権という原理が憲法上どのように位置づけられ、どのような歴史的展開を経たのかを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権論の原型およびその後の展開を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第18章「統治機構・総論」Ⅲを読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、国民主権原理とその具体的な表れである民主制との関係性を整理したノートを作成する。	120分
4	国会と立法権	国会が行使する権力としての「立法権」について、とりわけ「立法」とはいかなる概念であるのかを論じるとともに、国会の組織・権能などを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、実質的な立法概念とは何かを説明でき、また国会の組織や権能がどのように憲法上設定されているのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第19章「国会」、第20章「議院と議員」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、とりわけ実質的な立法概念について整理したノートを作成する。	120分
5	内閣と行政権	行政権の概念、議院内閣制、行政組織を中心に、現代的な行政権理解を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政権の概念、議院内閣制の本質論、主な行政組織について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第21章「内閣」、第22章「行政」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、執政権論、内閣の衆議院解散権についてノートを作成する。	120分
6	裁判所と司法権	司法権がどのような意義・目的をもった権力であるのかを、司法の独立の要請を踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、司法権の概念、内在的・外在的限界、司法の独立について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第23章「裁判所」、第24章「司法権と憲法訴訟」Ⅰを読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、警察予備隊違憲訴訟、板まんだら事件などの重要判例を含めて、司法権の概念について整理したノートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	違憲審査制(1)	違憲審査の意義・歴史、類型論などについて概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、違憲審査がどのような理由から制度化されてきたのか、どのような類型があるのかを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第24章「司法権と憲法訴訟」Ⅱ1を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、付随的違憲審査と抽象的違憲審査の類型について整理したノートを作成する。	120分
8	違憲審査制(2)	日本国憲法81条の下で採用されている付随的違憲審査制を中心に、最高裁判例を参照しながら特徴・具体的審査技法について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、付随的違憲審査制の特徴・審査技法を具体例を挙げながら説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第24章「司法権と憲法訴訟」Ⅱ2-4を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、最高裁判例と関連づけながら、付随的違憲審査の手法について整理したノートを作成する。	120分
9	地方自治	地方自治制度の意義と特徴を論じるとともに、地方自治の本旨(団体自治・住民自治)の意味するところ、条例制定権の射程を具体例を挙げながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本国憲法が採用する地方自治制度の特徴を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第25章「地方自治」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、地方自治制度の特徴を整理したノートを作成する。	120分
10	財政	国家の財政ルールの一つである租税法律主義を中心に、その意義と射程を判例も参照しながら概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税法律主義についての具体的な表れを説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第26章「財政」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、租税法律主義について、判例もあわせて整理したノートを作成する。	120分
11	憲法改正	日本国憲法上の憲法改正手続について、改正限界に関する議論も踏まえて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、憲法改正の手続的要件や内容的限界について説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第30章「憲法改正」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、憲法改正の手続と限界について整理したノートを作成する。	120分
12	平和主義	日本国憲法前文・9条で定められた平和主義の意味を、政府解釈の変遷や学説の対応を踏まえて概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、平和主義が置かれた状況を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第28章「平和主義」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、前文・9条の平和主義の解釈について整理したノートを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本憲法史	大日本帝国憲法から日本国憲法へと至る歴史的な展開を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法がどのような経緯で成立し、いかなる特色をもつ憲法であるかを、大日本帝国憲法と対比しながら説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第29章「日本憲法史」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法の成立過程およびそこでの重要な憲法上の論点についてまとめたノートを作成する。	120分
14	天皇制	日本国憲法が採用する「象徴天皇制」について、その内容的特質、国事行為の解釈を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「象徴天皇制」というユニークな制度の意義および現代的問題を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料をよく読んでおく。 教科書第27章「天皇」を読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、日本国憲法における天皇制の位置づけおよび国事行為に関する実質的決定権の所在について整理したノートを作成する。	120分
15	まとめ	統治機構・国家組織論についてのまとめをする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、統治機構・国家組織論の特徴や全体的な構造を説明できる。	
	事前学修	事前配布資料とこれまで作成したノートをよく読んでおく。	120分
	事後学修	事前学修した内容と講義で得た知識をもとに、全体のまとめを自分なりに考えてノートを作成する。	120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点を基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
ありません。

【授業方法】
指定の教科書にそってオンデマンド講義形式で行う。講義で使用する動画・資料をGoogle Classroomにて配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について、論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立、議院内閣制等について、条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について、条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について、みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に把握できる能力が身についているかを各回の小テストにより評価する。	30	30	30	10							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高校から大学への憲法 第2版	君塚正臣	法律文化社	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国民主権	国民主権の意義・民主主義について学習する。まずは「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。そして、このことと不可分の関係にある民主主義の在り方について学ぶ。なお、この講義はオンデマンド式で実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国民主権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書37-43ページと世界史の教科書を読み、人々が政治に参加する権利を獲得してきた歴史を確認してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてみること。	120分
2	選挙(1)	国民の政治参加を具体化する制度、すなわち選挙の原則について学習する。普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票および平等選挙の意義と内容を考察する。その際に「一票の格差」の問題に触れ、近年の最高裁判例の発展について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、選挙の原則についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書43-47ページを読み、選挙の原則の概要を理解してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてみること。	120分
3	選挙(2)	現在の選挙制度について学ぶ。衆議院および参議院の選挙制度の概要を理解したうえで、小選挙区制と比例代表制の内容と問題点を考察する。さらに日本の政党に対する規制についての理解も深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現在の選挙制度についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書43-54ページを読み、日本の選挙制度の概要を理解してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現行の選挙制度にはどのような問題点があるのかを考えてみること。	120分
4	国会(1)	二院制・国会の審議方法について学習する。二院制、とくに参議院の存在意義について理解を深めたうえで、国会が法律を制定する際の審査過程を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、二院制・国会の審議方法についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書59-63ページを読み、国会の組織と手続の概要を理解してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてみること。	120分
5	国会(2)	立法権・議員特権について学習する。国会が制定すべき法律とはどのようなものであるべきか、また法律を制定する国会議員の任務と特権はどのようなものかを理解する。そしてなぜ国会議員が国民には認められない特権を手にするのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、立法権・議員特権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書63-68ページを読み、国会議員に認められている特権の内容を確認してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国民よりも厚く保護されている国会議員に求められる役割とはどのようなものかを考えてみること。	120分
6	内閣	議院内閣制・内閣の構造と権能について学習する。議会と行政府との関係につき、議院内閣制の特徴を理解する。さらには、内閣の構造と権能を学んだうえで、今日の内閣主導の政治決定のあり様について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、議院内閣制・内閣の構造と権能についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書69-87ページを読み、内閣の組織と国会との関係の概要を理解してくること。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	裁判所(1)		司法権の内容・日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係を学んだうえで、裁判所が裁判する際に不可欠な条件を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、司法権の内容・日本の裁判所の特徴についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書103-107、109-114ページを読み、裁判所の構成と裁判所の任務について理解してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてみる。	120分
8	裁判所(2)		司法権の限界・司法の独立について学習する。裁判所が裁判できるにもかかわらず、その権限行使を回避する範囲と理由を考察し、その必要性の理解に努める。また司法の独立の意義を考察し、裁判と民意との関係について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、司法権の限界・司法の独立についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書106-109、111ページを読み、司法権が政治部門から独立していることの重要性を理解してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、民主政と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてみる。	120分
9	違憲立法審査権		法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、違憲立法審査権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書115-120ページを読み、憲法上最高裁判所に付与された違憲立法審査権の意義について理解してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてみる。	120分
10	地方自治(1)		地方自治制度・地方公共団体の構造について学習する。憲法の規定する「地方自治の本旨」の理解とともに、現行の地方自治制度の概要および地方公共団体の構造を学ぶ。さらには国と地方公共団体との関係を考察する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方自治制度・地方公共団体の構造についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書89-95ページを読み、日本の国家制度としての地方自治の概要を理解してくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国と地方の関係はどのようなものであるのかを考えてみる。	120分
11	地方自治(2)		住民の権利・条例制定権について学習する。条例制定改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。さらに地方公共団体の権限として条例制定権ほかを学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、住民の権利・条例制定権についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書95-102ページを読み、地方自治制度の下での住民の権利について理解を深めてくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを考えてみる。	120分
12	天皇		象徴としての地位・国事行為についての理解を深める。国民主権の下での天皇の存在、国事行為以外の天皇の行為の法的性質、象徴として天皇に認められる特権と制約、皇族などについて学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、天皇についての理解を深め、その内容を説明できる。	
	事前学修	教科書15-18ページや日本史の教科書を読み、日本の歴史における天皇について考えてくる。	120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	平和主義		戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制について学習する。国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係、9条の理解、国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書187-200ページを読み、憲法が平和主義を採用するようになった経緯を理解してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現在の国際社会での自衛権の行使について考えてみること。		120分
14	国家について・憲法とは何か、立憲主義		憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家について・憲法とは何か、立憲主義についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書1-22ページを読み、さらにこれまで学んだことを振り返り、国家の存在意義、国家と憲法との関係について考えてくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてみること。		120分
15	憲法史		明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明治憲法と現行憲法の歴史についての理解を深め、その内容を説明できる。		
	事前学修	教科書22-35ページを読み、と日本史の教科書を読み、幕末から明治維新、条約改正から5・15事件や満州事変を経て敗戦に至る歴史と、GHQの占領、新憲法制定、高度経済成長期にかけての歴史を理解してくること。		120分
	事後学修	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考えてみること。		120分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点を基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分あることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
指定教科書に沿って，講義形式で行う。必要に応じてレジュメ・資料等を配付するなど，教科書の記述で不十分なところを補完する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義での理解度を確認するため，指定用紙による授業内レポートを課し，それに対する講評を受講生全員に示すことによって問題意識を全体で共有し，意見を求め議論することで，講義内容の理解を深化させる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。					1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。					1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。						1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。				1			1	1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識およびその応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、授業内レポートに真摯に取り組んで提出しているかどうかについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の結果と講評とポータスシステムまたはGoogle Classroomで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック 日本国憲法	下條芳明・東裕ほか	嵯峨野書院	2016	教科書	必携
N e x t 教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹ほか	弘文堂	2019	その他	任意
備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。				

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	国家と憲法		憲法と国家、憲法の分類、憲法の特質、近代憲法の基本原理、近代国家から現代国家への変容と現在憲法の展開。（教科書1-15頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	憲法と国家の関係を理解し、近代から現代にかけて憲法と国家の関係の変容を簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
2	日本国憲法の成立		ポツダム宣言の意味、占領下における憲法の成立、八月革命説。（教科書17-24頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	日本国憲法の成立過程を理解し、その問題点を簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
3	日本国憲法の基本原理		日本国憲法の基本原理（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）とその相互関係。（教科書25-31頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	各基本原理の内容を理解し憲法の目的という観点から、基本原理相互間の関係を簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
4	天皇の地位と権能		国民主権と天皇制、天皇の地位、天皇の権能と行為、皇室経済。（教科書33-46頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	主権の意味の多義性を理解し、国民主権と調和する天皇制について簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。特に判例に留意すること。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
5	戦争の放棄		日本国憲法の平和主義の特徴・9条解釈のあり方、政府・裁判所の9条解釈、9条解釈についての学説、憲法と安全保障。（教科書47-70頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	多様な9条解釈の存在を知り、憲法と国家の安全保障のあり方について各自が一定の見解をもてる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
6	権力分立原理		権力分立の意義、権力分立の目的、権力分立の現代的変容。（教科書11－12、242、261、275頁、授業時配布レジュメ）
	この回の到達目標	近代憲法の基本原理である権力分立が日本国憲法にどのように現れているか、条文を示して説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	議院内閣制		議院内閣制の意義と本質，議院内閣制と大統領制，首相公選論。（教科書264-271頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	議院内閣制がどのような制度であるか，大統領制との比較において説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
8	国会の地位		国民の代表機関，国権の最高機関，国の唯一の立法機関。（教科書241-244，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	国民代表，国会中心立法の原則，国会単独立法の原則について簡潔に説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
9	国会の組織と権能		二院制，会期，国会の権能と議院の権能，衆議院の優越，国会議員の地位と特権，議会制民主主義と政党。（教科書241-259頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	日本国憲法における二院制の特徴について理解し，現代議会政治における議員と政党の関係についての憲法上の問題について説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
10	内閣の組織と権能		行政権の意義，独立行政委員会，内閣の構成，内閣の責任，内閣の権能，内閣総理大臣の地位と権能。（教科書261-273頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	内閣がどのように組織され，どのような権能があるか理解し，内閣と国会（衆議院）の関係について説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
11	裁判所の組織と権能		司法権の意義，司法権の独立，裁判所の構成・運営・管轄，裁判員制度，最高裁判所の組織と権能。（教科書275-286頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	司法権の独立の意義を理解し，それを支える制度について説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分
12	違憲審査制		違憲審査制の類型，違憲審査の主体と対象，違憲審査制の運用，司法権の限界（党利行為論・立法裁量・行政裁量），違憲審査の方法と効力。（教科書286-302頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	違憲審査制の運用実態について理解し，司法権の限界について説明できる。		
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。		60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	財政	財政の基本原則，予算の意義・性質・内容，予算の作成手続，決算の意義・効果，公金の支出制限。（教科書303-315頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	財政民主主義・租税法律主義について説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
14	地方自治	地方自治の概念，わが国の地方自治制度，地方自治の本旨（住民自治・団体自治），地方公共団体の組織，条例制定権とその限界，住民投票，直接請求。（教科書316-331頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	国と地方の関係について，憲法と地方自治法をもとに簡潔に説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分
15	憲法保障と憲法改正	憲法保障の意義，国家緊急権，抵抗権，憲法改正の意義と限界，憲法の変遷の意義。（教科書333-346頁，授業時配布レジュメ）	
	この回の到達目標	憲法改正規定と国家緊急権が，なぜ憲法保障とされるのか説明できる。	
	事前学修	上記の教科書の該当ページを読むこと。	60分
	事後学修	講義内容をレジュメと教科書で再確認すること。	180分

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	柳瀬 昇	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立の観点の基本にして，日本国憲法の統治機構について，制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら，その組織，権能，および相互関係について解説する。通説・判例の見解を主に講義するほか，比較憲法の視点にも留意し，国際比較における日本国憲法の特徴を明らかにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
主権者国民として正しい政治的判断ができるようになるために，日本国憲法の統治機構のしくみを権力分立の観点から理解し，かつそれが人権保障と不可分であることを説明できる能力を修得する。さらにその理解力をもとに，時代に即した統治機構の望ましい在り方を構想できる能力を修得する。

【履修条件】
講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれない。前期の同一曜日・時間に設置された「憲法A（人権）」を受講するものとする。

【授業方法】		
この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論を、体系的を重視し、概括的に、かつ平明に講述する（授業担当者の私見を説明するのではなく、あくまで大学において一般的に学ぶべきと考えられる内容を伝授する）。この講義を受講すれば、憲法解釈論の基礎をきちんと理解できるようになる。この講義で扱う内容は、統治機構及び憲法史についてである（なお、憲法総論及び人権論については、前期の同一曜日・時間に設置された「憲法A（人権）」で講述する）。毎回、レジュメに沿って、教科書を用いて講義を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	指定された課題について自主的に資料を調査したうえで、レポートを作成し、提出する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本国憲法の統治機構の特質について，論理的に説明できる。						1	1					
②	日本国憲法の権力分立，議院内閣制等について，条文を示しながら説明できる。						1	1					
③	統治機構とその問題点について，条文解釈と現実を照応しながら説明できる。							1	1				
④	統治機構の改革について，みずからの構想を提示できる。					1			1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識および応用力が身についているか、そしてそれを論理的に文章で表現できる能力が身についているか、筆記試験（授業時間内試験）により評価する。	30	30	30								90
小テスト等												
レポート等	講義内容の理解を基礎として、自主的に調査をしたうえで作成したレポートについて、到達目標④の観点から、それに関わる能力が身についているか、評価する。				10							10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に、適宜、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『教育判例で読み解く憲法〔第2版〕』	柳瀬昇	学文社	2021	教科書	必携
備考	上記のほかに、第2回の講義以降、六法が必携である（種類や出版社は問わない）。詳しくは、第1回の講義で説明する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の火曜日（12時20分～12時50分）に研究室（本館8階1810号室）で対応する。電子メール（yanase.noboru@nihon-u.ac.jp）で連絡をとることもできる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	立憲主義の基本原理（２）	日本国憲法の基本的原理として、権力分立及び法治主義・法の支配について説明したうえで、立憲主義の意義と変遷について検討する。	
	この回の到達目標	権力分立の意義及び歴史的展開について理解している。法の支配と（形式的）法治主義との異同を踏まえて、それらの意義及び歴史的展開について理解している。立憲主義の意義及び歴史的展開について理解している。	
	事前学修	配布資料「憲法学へのいざない～日本国憲法の基本原理」を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、権力分立、法治主義・法の支配及び立憲主義の意義と変遷について整理する。	120分
2	国会と立法権（１）	国会の地位について検討する。	
	この回の到達目標	日本国憲法41条にいう「国権の最高機関」及び「国の唯一の立法機関」ならびに43条にいう「全国民の代表」の意味について理解している。実質的意味の立法権の概念について、標準的な定義を述べることができる。国会中心立法の原則及び国会単独立法の原則について、それぞれの意味及び憲法上の例外を理解している。	
	事前学修	教科書の「（２）国会の組織・権能と衆議院の優越」（158-159頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の地位について整理する。	120分
3	国会と立法権（２）	国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法について検討する。	
	この回の到達目標	二院制が採用される理由について理解している。国会及び各議院の憲法上の権能について理解している。衆議院と参議院の関係に関する憲法の規定の内容について説明することができる。国会の会期及び参議院の緊急集会について理解している。	
	事前学修	教科書の「（２）国会の組織・権能と衆議院の優越」（158-159頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、国会の組織、国会・議院の権能及び国会の活動方法について整理する。	120分
4	内閣と行政権（１）	行政権の概念について検討したうえで、内閣の組織、内閣の権能及び内閣総理大臣の権限について考察する。	
	この回の到達目標	実質的意味の行政権の概念について、標準的な定義を述べることができる。内閣の構成及び内閣総理大臣・国務大臣の任命等について理解している。日本国憲法が定める内閣の権能及び内閣総理大臣の権限について理解している。内閣が行政権の行使について国会に対して連帯して負う責任の意味を説明することができる。	
	事前学修	教科書の「（４）内閣の組織と権能」（160-162頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、行政権の概念、内閣の組織及び内閣の権能・内閣総理大臣の権限について整理する。	120分
5	内閣と行政権（２）	議会と政府との関係について議論したうえで、衆議院の解散権の所在について検討する。	
	この回の到達目標	議院内閣制や大統領制など、議会と政府の関係から見た政治体制の類型について理解している。日本国憲法の定める議院内閣制の仕組みについて、憲法の条文に則して説明することができる。日本国憲法69条が定める場合以外に、内閣の裁量により衆議院を解散することができるか否かについて、説明することができる。	
	事前学修	教科書の「（５）議院内閣制の意義と解散権の所在」（162-163頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、議会と政府との関係及び衆議院の解散権の所在について整理する。	120分
6	裁判所と司法権・違憲審査権（１）	裁判所の組織・権能及び司法権の独立について検討する。	
	この回の到達目標	実質的意味の司法権の概念について、標準的な定義を述べることができる。裁判所の憲法上の権能について理解している。司法権の独立の意義、内容、具体的な発現形態について理解している。裁判官の任命等について説明できるとともに、憲法が定める裁判官の身分保障の内容及び意義について理解している。	
	事前学修	教科書の「第13章 司法権の限界」のうち、解説（２）まで（164-170頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、裁判所の組織・権能及び司法権の独立について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	裁判所と司法権・違憲審査権（2）		司法権の内容及び限界について検討する。
	この回の到達目標	「法律上の争訟」の意味について、判例を踏まえて、説明することができる。ある争いが法律上の争訟に当たるか否かや、法律上の争訟に当たるとしても裁判所による司法審査の対象となるか否かについて、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	教科書の「（3）司法権・違憲審査権の範囲と限界」（171-172頁）及び「（4）団体の内部事項に関する行為の司法審査と部分社会論」（172-173頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、司法権の内容及び限界について整理する。	120分
8	裁判所と司法権・違憲審査権（3）		違憲審査権の性格・主体・対象について検討し、裁判所による違憲判断の方法と効力について考察する。
	この回の到達目標	違憲審査制の意義と類型について理解したうえで、抽象的違憲審査制と付随的違憲審査制の基本的仕組みと特質について説明することができる。日本国憲法の定める違憲審査権の性格・主体・対象について、説明することができる。裁判所の違憲審査の方法と効力について理解している。	
	事前学修	配布資料「憲法学へのいざない～憲法保障」を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、違憲審査権の性格・主体・対象及び違憲判断の方法・効力について整理する。	120分
9	財政からみる民主主義		憲法上の財政の基本原則について確認したうえで、公金・公の財産の支出・利用の制限について検討するとともに、予算・決算についての憲法上の制度を概観する。
	この回の到達目標	財政民主主義や租税法律主義の意義について理解している。租税の意味について、誤解することなく、正確に認識している。公金・公の財産の支出・利用の制限、予算及び決算等についての憲法上の制度について、条文に即して、その意義を説明することができる。	
	事前学修	日本国憲法第7章の規定についてあらかじめ目を通しておく。また、教科書の「第14章 財政・地方自治」のうち、解説（2）まで（174-180頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、財政の基本原則、公金・公の財産の支出・利用の制限及び予算・決算について整理する。	120分
10	地方からみる民主主義		地方自治の本旨について検討したうえで、条例制定権とその限界について考察する。
	この回の到達目標	日本国憲法92条の定める「地方自治の本旨」の意義について説明することができる。94条の定める「条例」の意味及び条例制定権の意義について理解している。憲法上の法律留保事項について条例で定められるかや、条例が法律の範囲内にあるか否かについて、具体的事例を挙げて、判例を踏まえて、考察することができる。	
	事前学修	日本国憲法第8章の規定についてあらかじめ目を通しておく。また、教科書の「（3）地方自治の本旨と地方公共団体の意義」（180-181頁）、「（4）条例制定権の意義・範囲と限界」（181-182頁）及び「（5）法令と条例との関係」（182-183頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、地方自治の本旨及び条例制定権とその限界について整理する。	120分
11	天皇		天皇の地位・性格及び権限について議論したうえで、天皇・皇族の人権享有主体性について検討するとともに、その他の天皇に関連する論点について考察する。
	この回の到達目標	日本国憲法下での天皇の地位等について、大日本帝国憲法の場合と比較して、説明することができる。天皇の国事行為等の内容及び法的性質について理解している。天皇及び皇族の人権の制約の根拠と範囲について理解している。元号、国旗、国歌と天皇との関係について理解している。	
	事前学修	参考書等で、憲法上での天皇の意義について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、天皇の地位・性格、天皇の権限、天皇・皇族の人権享有主体性及びその他の天皇に関連する論点について整理する。	120分
12	安全保障		自衛権の概念について検討したうえで、戦力の不保持と交戦権の否認をめぐる論争を概観する。平和的生存権について考察し、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について議論する。
	この回の到達目標	個別的自衛権及び集団的自衛権ならびに日本国憲法9条2項の定める「戦力」及び「交戦権」の意味について理解している。平和的生存権をめぐる議論について理解している。日米安全保障体制及び自衛隊の国際平和維持活動への参加についての基本的仕組みを理解している。	
	事前学修	参考書等で、安全保障に関する憲法の規定について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、自衛権の概念、戦力の不保持と交戦権の否認、平和的生存権、日米安全保障体制及びわが国の国際貢献について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	日本国憲法の生成と展開（１）		日本国憲法の制定と運用をめぐる歴史を概観する。まず、大日本帝国憲法の制定から日本国憲法の制定までの歴史について通観し、新旧憲法の特徴を比較する。次に、戦後政治について、安全保障を通じて検討する。
	この回の到達目標	日本国憲法の特徴について、大日本帝国憲法との比較において、理解している。戦後の安全保障をめぐる基本的な法制度の展開について理解している。	
	事前学修	参考書等で、日本国憲法と大日本帝国憲法との差異について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本国憲法の制定史及び運用史について整理する。	120分
14	日本国憲法の生成と展開（２）		日本国憲法の改正論議について概観するとともに、憲法改正の意義、手続及び限界について検討する。
	この回の到達目標	日本国憲法の改正をめぐる戦後の主要政党の姿勢について、各時代の背景を踏まえて、理解している。憲法改正の意義及び日本国憲法の改正手続・限界について理解している。	
	事前学修	参考書等で、日本国憲法の改正論議と改正手続について調べ、目を通しておく。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、戦後の政党政治と憲法改正論議との関係ならびに憲法改正の意義、手続及び限界について整理する。	120分
15	総括		これまでの「憲法B（統治機構）」の講義の内容について総括する。
	この回の到達目標	これまでの「憲法B（統治機構）」の講義の内容全般について、疑問点などがあればそれを解消し、さらに理解を深める。	
	事前学修	これまでの「憲法B（統治機構）」の講義の内容について、自分で整理したうえで、疑問点などがあれば、質問項目としてまとめておく。	120分
	事後学修	解消された疑問点などを含めて、これまでの「憲法B（統治機構）」の講義の内容を改めて整理し、期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	公共経営論	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
この授業では、国や自治体、独立行政法人など、公共政策の形成・実施を担う公共組織の経営（マネジメント）について学修する。限られた税金を有効に活用するには公共組織をどのように経営するのがよいだろうか。伝統的な行政管理のあり方が、新しい公共経営の考え方へと移り変わった背景・歴史を踏まえた上で、New Public Management（以下、NPM）と呼ばれる公共経営手法の具体例、日本の公共経営の実情について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
NPMが登場した背景・歴史を学修し、現代の公共組織において経営的視点が求められていることを理解する。その上で、NPMの具体的な手法、日本における実情を学修し、公共経営における諸問題、NPMの功罪を多面的に捉えることができるようになる。上記の知識・技能を習得した上で、公共経営に関する実社会の諸問題について、自らの考えを論理的に述べるができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
オンラインにて動画を配信するオンデマンド形式で実施する。質疑応答等、双方向のコミュニケーションを目的として、ZOOMによるライブ講義とオンデマンド配信を併用する講義を学期中に適宜実施する。動画配信とともに隔週程度のペースで、講義内容に関する課題を課し、それを元に成績評価を行う。定期試験は実施しない予定である。なお、本シラバスの記載内容は2021年2月時点のものであり、社会情勢を踏まえて講義の実施形式は変更となる可能性がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	NPMが登場した背景・歴史を説明することができる。				2		2					
②	NPMの具体的な手法、日本におけるNPMの実態に関する知識を習得した上で、そのメリット・デメリットを説明することができる。				2		2					
③	講義で学修した知識・理論を活用して、公共経営に関する社会現象について、論理的な評価・考察を行い自分の意見を述べるができるようになる。				2		2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する知識・技能が身に付いているかどうか、隔週程度のペースで実施する課題により確認する。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
随時、課題の採点結果や講評をGoogle Classroom上で配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の公共経営	外山公美，平石正美， 中村祐司，西村弥， 五味太始，古坂正人， 石見豊	北樹出版	2014	参考書	任意
地方自治入門	入江容子(編)，京俊 介(編)	ミネルヴァ書房	2020	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	公共経営とは？		この授業の概要、どのような内容を学ぶことができる授業なのかを解説する。また、公共経営という学問の目的、隣接諸領域との違いについても取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共経営という学問が、どのような学問なのかを理解し説明することができるようになる。		
	事前学修	シラバスをよく確認し、隣接諸領域との学問内容の違いや、自らが興味関心のある授業内容かどうかをよく検討する。		120分
	事後学修	授業の内容を振り返り、これまでに履修した科目、これから履修する科目との関連性、違いについて検討する。		120分
2	公共組織の役割		国・地方自治体に代表される公共組織と、企業に代表される民間組織の異同について取り上げる。公務と民間それぞれの役割・ミッションの違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共組織と民間企業の共通点、役割の違いを理解し、公共経営特有の性質を説明することができるようになる。		
	事前学修	公共組織と民間企業にはどのような共通点があり、どのような違いがあるか、具体的な組織をイメージしつつ考察する。		120分
	事後学修	公共組織の不祥事・失敗に対するパッシングを含むニュースを題材に、それが公共組織特有の問題に起因する現象であるかという観点から、授業で学んだ知識を基に自分なりの考察に取り組む。		120分
3	公共組織のガバナンス		公共組織と民間企業のガバナンスのあり方の違いについて取り上げる。公共組織特有の意思決定の仕組み、ガバナンスのあり方を、民間企業との対比で解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共組織と民間企業のガバナンスの共通点、違いを理解し、公共経営特有の性質を説明することができるようになる。		
	事前学修	民間企業におけるコーポレートガバナンス、会社、従業員、株主の関係について、事前に調べて予習する。		120分
	事後学修	公共組織の不祥事・失敗に対するパッシングを含むニュースを題材に、それが公共組織特有のガバナンス構造に起因する現象であるかという観点から、授業で学んだ知識を基に自分なりの考察に取り組む。		120分
4	伝統的な行政管理から公共経営へ		伝統的なPublic Administration（行政管理）の課題、New Public Management（新公共経営）と呼ばれる経営手法が登場した背景を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、伝統的な行政管理の課題、問題点について理解し、理論を援用し現実の社会現象を説明できるようになる。		
	事前学修	お役所仕事と呼ばれるような、公共組織の働きぶりの問題点、公務員への批判などのニュースを探し、なぜそのような現象が起きるのか、自分なりに考察する。		120分
	事後学修	事前学修で検討した実例を題材に、授業で学んだ理論を用いてもう一度考察を行う。		120分
5	NPMの登場		NPMと後に呼ばれることとなる経営のあり方が登場した歴史的経緯を、イギリスの実例から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、1970年代のイギリスを含む先進諸国が直面していた財政赤字の問題、福祉国家の限界、新自由主義の登場といった、公共経営が必要とされるようになった歴史的経緯を説明できるようになる。		
	事前学修	オイルショック、福祉国家、イギリスの首相であったサッチャーについて、事前に調べてみる。		120分
	事後学修	サッチャーの行った行政改革のその後の評価について、イギリスのメディアがどのように評価しているか調べてみる。		120分
6	日本におけるNPMのはじまり		日本の財政赤字の推移、中曽根内閣における行財政改革を取り上げ、日本でも1980年代からNPM志向の改革が始まったことを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本でも民営化に代表されるNPM志向の改革が必要となった背景について説明できるようになる。		
	事前学修	日本の財政赤字が国・地方合わせてどれくらいの金額になるのか、いつから借金が増え始めたのか、なぜ増え始めたのか、調査・考察してみる。		60分
	事後学修	日本以外の国の、国債発行に関する財政規律のルールがどのようになっているのか、調査・考察してみる。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国鉄の民営化		国鉄（現在のJR）の民営化を題材に、民営化という手法がもたらす影響を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国鉄民営化事例から、民営化という手法のもたらすメリット・デメリット、影響を説明できるようになる。		
	事前学修	国鉄時代の鉄道運行がどのようなものであったか、当時を知る50代後半以上の親族・知人に尋ねてみる。または、インターネットや文献を通じて、当時の様子を調査する。		60分
	事後学修	JR北海道の将来計画など、現在の地方交通の実情、地方自治体の公共交通に関する問題について調査し、これからの公共交通はどのようなあり方が望ましいか考察する。		180分
8	道路公団の民営化		道路公団・郵政公社の民営化を題材に、民営化という手法がもたらす影響を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、道路公団・郵政民営化の事例から、日本における民営化には様々な経営の態様が存在することを理解し、それぞれの民営化の違いがもたらした影響を説明できるようになる。		
	事前学修	バブル崩壊後の日本の財政赤字の推移、財政投融资制度について、自分なりに調査し学修する。		120分
	事後学修	道路公団・郵政民営化後の、両社の複雑な組織構造と、改革の帰結・評価について、授業内容を復習する。		120分
9	独立行政法人		独立行政法人制度を題材に、イギリスのエージェンシーとの比較の観点から、日本におけるエージェンシー化の影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の独立行政法人制度、特徴をイギリスとの相違、対比の観点から捉えることができるようになる。		
	事前学修	日本の独立行政法人には、どのような組織が存在するのか調べてみる。		60分
	事後学修	独立行政法人の職員の待遇、就職試験の仕組みについて調べてみる。		180分
10	公共サービスの外部委託		外部委託、市場化テストなど、多様化する公共サービスの供給手法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外部委託、市場化テストなど、様々な公共サービスの供給手法について、それぞれの仕組み、手法間の違いを説明できるようになる。		
	事前学修	身の回りの公共サービスで、公務員ではなさそうな職員が実施しているものを探してみる。		120分
	事後学修	自分の住んでいる自治体の公共サービスで、指定管理者制度が活用されているものがあるか調べてみる。		120分
11	ガバメントからガバナンスへ		近年の公共経営において、新たな公共の担い手として重要性が高まっているNPOなどの非営利団体について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共サービスの供給において、NPOなどの非営利団体が果たしている役割、地域社会の実態を理解し、その機能を説明できるようになる。		
	事前学修	自分の住んでいる地域で、公共的な目的のために非営利組織が活動している事例を探してみる。		120分
	事後学修	自分の住んでいる自治体が、公共政策を実施する上で非営利組織を活用している事例（NPOの活動に補助金を給付している等）を探してみる。		120分
12	地方自治体の経営		三位一体改革、夕張市の事例、地方創生の取り組みなどを題材に、近年の地方自治体を取り巻く経営環境の厳しさについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現在の日本の地方自治体を取り巻く経営環境を理解し、これからの地方自治体が直面する経営課題について説明できるようになる。		
	事前学修	自分の住んでいる自治体の人口の推移、財政状況、ふるさと納税の内容について調べてみる。		120分
	事後学修	自分の住んでいる自治体の人口ビジョンと、まち・ひと・しごと創生総合戦略に目を通してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	大都市経営の問題	大阪都構想を題材に、昨今の政令指定都市を取り巻く諸問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東京、大阪、横浜など、財政を中心とした大都市特有の問題、大阪都構想が生じてきた背景について説明できるようになる。	
	事前学修	大阪維新の会のウェブサイトアクセスし、都構想の概要に目を通してみる。	120分
	事後学修	授業で学修した内容を踏まえた上で、改めて大阪維新の会のウェブサイトを確認し、その是非について考えてみる。	120分
14	公共経営と評価の情報	公共組織の活動に対する様々な評価が、どのように経営に活用され、どのような影響を与えているかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共組織特有の評価の難しさ、活用のあり方の難しさを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	公共組織の活動の良し悪しを、どのような基準で評価すればよいか考察してみる。	120分
	事後学修	自分の住んでいる自治体の活動について、行政評価、政策評価、業績測定、満足度調査など、何らかの評価結果の情報を探してみる。	120分
15	講義の総括	ここまでの講義を振り返り、公共経営についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共経営の重要なポイントを理解する。	
	事前学修	これまでの講義で理解が難しかったところ、興味がわいたところを再度確認する。	120分
	事後学修	講義で得た知識を活かして、自らの住んでいる自治体の経営について調べてみる。	120分

科目名	公共経済学Ⅰ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整するために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
経済学Ⅰ・Ⅱないしミクロ・マクロ経済学を履修していることが望ましい。

【授業方法】		
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用してのオンラインによる講義。 リアクション・ペーパー提出課題、レポート提出課題をGoogleClassroomにて配信回収を行う。 定期試験（レポート課題）の解説を後日、GoogleClassroom（又はポータル・システム）にて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。								3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。								3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。								3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。								3	3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。 オンライン授業のため、レポート提出による評価に変更の可能性はある。	30	20	20	10							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『基礎コース 公共経済学 第2版』	井堀利宏著	新世社	2015年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス，導入授業】 【公共経済学の意義】		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて公共経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共経済学と同様に公共部門を分析対象とする学問分野に財政学があるが、両学問の違いを特徴付けるものが何であるかの学修を通して公共経済学の分析手法を理解し、説明できる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【市場メカニズムと市場の失敗】		市場の機能とメリットを学習、競争的市場は優れた機能を有するが、失敗するケースがあることを学習、効率性を基準に公共経済学が市場の失敗の調整を提唱することを説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、競争的市場は優れた機能を有するが万能ではなく、どのようなケースにおいて失敗してしまうのかを理解し、さらに、効率性を基準に公共経済学が市場の失敗の調整を考察することを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章の「1節 市場の機能」の部分を読み、市場の機能とメリットを理解し、市場の失敗の意味を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、市場の機能とメリット及び市場の失敗について、自分なりの説明をまとめる。		120分
3	【政府の役割と市場の失敗】 (リアク・ペーパー予定)		政府の役割（財政の三大機能）を学習し政府（財政）の役割と市場の失敗との関連性を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、なぜ市場システムを通じて最適な資源配分、所得分配、経済の安定化が実現できないのかを理解し、なぜ政府（財政）が資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能を持つのかを理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章の「2節 政府の役割」の部分を読み、市場の失敗と政府の役割との関係を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、資源配分、所得分配、経済安定化のケースにおける市場の失敗と政府の役割（財政の機能）との関係について、自分なりの説明をまとめる。		120分
4	【国民と投票①】		中位投票者定理、投票のパラドックス、選挙区を学習し、多数決原理の意義と問題点について受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、投票制度による政策決定にどのような特徴と問題点があるのか、経済学の効率性基準から理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章の「1節 選挙と投票」の部分を読み、民主主義の基本制度である投票によって、有権者の意向が適切に反映されない可能性を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、中位投票者定理や投票のパラドックスの理論を作図して説明できるようにする。八代尚宏著『シルバー民主主義』（中公新書）を読み、感想をまとめる。		120分
5	【国民と投票②】		選挙の棄権について、効率性の観点からアプローチし、棄権の意義について説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、投票行動を公共経済学の基軸とする効率性基準の観点から分析し、棄権には良い棄権と悪い棄権に分けられることを理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章の「2節 選挙と棄権」の部分を読み、なぜ選挙を棄権するケースがあるのか、棄権を良い棄権と悪い棄権に分ける公共経済学の基準を理解し説明できる。		150分
	事後学修	国政選挙における投票率データを参照して、その動向について自分なりの分析をまとめてみる。		120分
6	【国民と投票③】		様々な投票制度を学習し、投票の回数を少なくしながら、有権者の意向をより適切に反映できる投票制度について、簡単な数値例を用いて考察し、受講生が各投票制度の評価を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主主義制度の基本である投票制度を効率性の観点から理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章の「3節 望ましい投票制度」の①相対多数決、②決選投票、③単記委譲投票、望ましい判断基準の部分を読み、様々な投票制度の概念を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、節末の練習問題を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【国民と投票④】 (レポート提出課題予定)	様々な投票制度を学習し、投票の回数を少なくしながら、有権者の意向をより適切に反映できる投票制度について、簡単な数値例を用いて考察し、受講生が各投票制度の評価を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主主義制度の基本である投票制度を効率性の観点から理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第2章の「3節 望ましい投票制度」の①ボルダ投票、②是認投票 ③小選挙区制と比例代表制の部分を読み、様々な投票制度の概念を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、節末の練習問題を解いてみる。	120分
8	【国民と投票⑤】	声による投票、圧力団体モデル、足による投票を学習し、投票以外の政治行動の意義と問題点について、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政策決定に関連する投票以外の有権者の政治行動を効率性の観点から理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第2章「4節 有権者の政治行動」を読み、有権者による投票以外の政治行動について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、住民投票、圧力団体、足による投票の具体例を挙げてそれらの意義と問題点についてまとめる。	120分
9	【規制】	政府による参入規制や価格規制は非効率性を生み社会的余剰を縮小し社会に損失をもたらすことを理論的に理解し、受講生が説明できる。また、規模の利益と市場の失敗の意味について理解し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政府による参入規制や価格規制は非効率性を生み社会的余剰を縮小し社会に損失をもたらすことを理論的に理解し、受講生が説明できる。また、規模の利益と市場の失敗の意味について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章「4-1 参入規制」、「4-2 価格規制」、4-3の中の「規模の利益」を読み、内容について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教科書81頁4-2節練習問題を解いてみる。	120分
10	【自然独占と料金規制】	市場の失敗するケースの1つである自然独占企業の特徴を学習し、その企業に対する規制方法を効率性基準から考察し、さらに、代表的料金規制の意義と問題点について学習し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自然独占がなぜ市場の失敗原因となるのか、失敗の解決策としてどのような方法があるのかを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章の「3節 独占と公的規制」を読み、自然独占企業の概念を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自然独占企業の具体例を挙げて、その特徴をまとめてみる。	120分
11	【外部性と市場の失敗】 (リアク・ペーパー予定)	市場の失敗の代表的な例である外部性、特に外部不経済(＝公害)のケースを取り上げ、簡単な数値例を用いて超過負担の概念から市場の失敗との関連を学習し、それを解消するための政府によるピグー課税を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、外部性がなぜ市場の失敗原因となるのか。外部性問題の解決策としてピグーの提唱した課税による方法について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章の「1節 外部性とは何か」「2節 ピグー課税」を読み、外部性の概念とピグー課税の意味について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、地球規模での環境税設立の可能性について、囚人のジレンマの理論を踏まえて、自分なりの説明をまとめる。また、COPの会議の推移についてまとめてみる。	120分
12	【外部性とコースの定理】	コースの定理、汚染権の売買について学習し、それぞれの意義と問題点を受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、外部性問題の解決策として、ピグー課税とは異なり当事者の自発的交渉によって最適解を見いだすことが出来ることを、ノーベル賞受賞者であるコースの定理によって理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章の「3節 コースの定理」「4節 外部性対策の経済的手段」の部分を読み、コースの定理、代表的な経済的手段の意義を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コースの定理の現実適用例を挙げてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【公共財と市場の失敗】 (レポート提出課題予定)	公共財という特別の概念をもつ政府支出を、資源配分の効率性の観点から学習するために、まず公共財の概念を学習し、ただ乗りの問題解決が重要であることを説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共財とは、どのように定義されるのか、また、公共財はなぜ市場の失敗の原因となるのか理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章の「1節 公共財の概念とただ乗りの問題」を読み、公共財とはどのような財をいうのか、また、なぜ市場で最適供給が出来ないのかを考察する。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、教科書119頁の各キーワードをノートに3行ほどでまとめてみる。また、119頁の6－1節練習問題を解いてみる。	120分
14	【公共財の私的供給とナッシュ均衡】	公的供給と私的供給のメカニズムを学習し、公共財の最適供給条件であるサムエルソン・ルールは市場で成立しないことを学習する。学習を踏まえ受講者が政府による公共財供給の意義を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共財はなぜ市場の失敗の原因となるのか理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章の「2節 公共財の公的供給と私的供給」を読み、サムエルソン・ルールの意義、また、公共財の公的供給と私的供給とはどういう意味か公共財の性質から考察する。また、私的（市場）供給では、なぜ最適供給が実現しないのか考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教科書124頁の各キーワードをノートに3行ほどでまとめてみる。さらに、125頁の6－2節 練習問題を解いてみる。	120分
15	【準公共財と最適供給】	準公共財の概念、地方公共財、地方公共財の最適供給の方法と地方分権の意義を受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方公共財の供給においては、地方分権に基づいて供給する方が効率的資源配分の実現可能性から望ましいことを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章の「3節 準公共財」を読み、純粋公共財との違いは何か、地方公共財とはどのように定義され準公共財に分類されるのか理解し説明できる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、地方分権の意義と問題点、および日本における地方分権の状況について自分なりの説明をまとめる。 初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し整理する。	200分

科目名	公共経済学Ⅰ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整するために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」と「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。							3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。							3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。							3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。							3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを評価する。	30	20	20	10							80
小テスト等	到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、Google Classroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共経済学15講	佐藤主光	新世社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取る） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・公共経済学とはどのような学問か ・分析の視点：効率性と公平性 ・市場均衡による効率的な資源配分の実現	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	ミクロ経済学の復習(1)		・限界便益と最適消費 ・限界費用と利潤最大化	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最適消費の決定と最適生産の決定について説明できる。		
	事前学修	ミクロ経済学の参考書などを読み、「最適消費の決定」と「最適生産の決定」の内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を復習して、ノートを整理する。		120分
3	ミクロ経済学の復習(2)		・余剰分析	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、余剰分析について説明できる。		
	事前学修	ミクロ経済学の参考書などを読み、「余剰分析」の内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業内容を復習して、ノートを整理する。		120分
4	政府の役割と市場の失敗		・市場の失敗：外部性、公共財、情報の非対称性、独占 ・政府の役割（財政の3機能）：資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能 ・大きな政府と小さな政府	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、市場の失敗と政府の役割を説明できる。		
	事前学修	教科書 第1講 1.4の後半「市場の失敗の例1：独占・寡占」から最後までと、1.5の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「市場の失敗」と「財政の3機能」について説明できるようにする。		120分
5	外部性の理論(1)		・外部性とは何か ・均衡と効率の乖離 ・非効率とならない外部性	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外部性について説明できる。		
	事前学修	教科書 第2講 2.1と2.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「外部性」について具体例を用いて説明できるようにする。また、「外部性が存在する場合の市場均衡における死重の損失」について図を使って説明できるようにする。		120分
6	外部性の理論(2)		・政府の介入（ピグー税とピグー補助金） ・自発的交渉（コースの定理）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外部性の矯正について説明できる。		
	事前学修	教科書 第2講 2.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「コースの定理」と「排出量取引市場の特徴」について説明できるようにする。また、「ピグー税による矯正」について図を使って説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共財理論(1)		公共財について体験的に学ぶために、公共財供給ゲーム実験を行う。 その後、この場合の合理的な選択について、以下の2点を学ぶ。 ・ゲーム理論「囚人のジレンマ」 ・公共財の過小供給（ただ乗り問題）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共財の非効率性について説明できる。		
	事前学修	教科書 第3講 3.2の真ん中「協調の失敗＝只乗り問題」と「囚人のジレンマ」を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「公共財ゲーム（囚人のジレンマ）におけるナッシュ均衡とパレート効率性」について説明できるようにする。		120分
8	公共財理論(2)		・公共財とは何か（非競合性と排除不可能性） ・公共財の効率的供給（サムエルソン条件） ・純粋公共財と準公共財	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公共財とサミュエルソン条件について説明できる。		
	事前学修	教科書 第3講 3.1の全部と3.2の最初「公共財の効率的供給」、3.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「公共財」と「純粋公共財と準公共財の違い」について説明できるようにする。また、「サミュエルソン条件」について図を使って説明できるようにする。		120分
9	公共選択論(1)		・公共選択論とはどのような学問か ・中位投票者定理 ・投票のパラドックス	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、多数決投票による政策決定について説明できる。		
	事前学修	教科書 第4講 4.1と4.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「中位投票者定理」と「投票のパラドックス」について説明できるようにする。		120分
10	公共選択論(2)		・政治家と官僚の関係（エージェンシー問題） ・レント・シーキング	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政策決定過程における問題点について説明できる。		
	事前学修	教科書 第4講 4.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「ニスカネンの予算最大仮説」と「レント・シーキング」について説明できるようにする。		120分
11	情報の非対称性(1)		・逆選抜 ・保険市場と情報の非対称性 ・資本市場と情報の非対称性	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報の非対称性について説明できる。		
	事前学修	教科書 第5講 5.1と5.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「情報の非対称性が中古車市場に与える影響」と「逆選抜が発生する理由」について説明できるようにする。		120分
12	情報の非対称性(2)		・モラルハザード ・医療保険と事後的モラルハザード ・スクリーニングとシグナリング	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、モラルハザードとスクリーニングについて説明できる。		
	事前学修	教科書 第5講 5.3と5.4、5.5の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「モラルハザード」と「現物給付の利点」について説明できるようにする。また、「事後的モラルハザードによる死重の損失」について図を使って説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	租税の経済効果(1)	・税の機能（財源確保、ビッグ税、所得再分配、自動安定化装置） ・物品税が消費選択に与える影響	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の機能と影響について説明できる。	
	事前学修	教科書 第6講 6.1と6.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「税の機能」について説明できるようにする。また、「一括税と物品税の消費選択に与える影響の違い」について図を使って説明できるようにする。	120分
14	租税の経済効果(2)	・所得税が労働供給に与える影響 ・利子課税が貯蓄に与える影響 ・労働所得税と消費税の関係（税等価）	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の経済効果について説明できる。	
	事前学修	教科書 第6講 6.3と6.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。その上で、「所得税が労働供給に与える影響」と「利子課税が貯蓄に与える影響」について図を使って説明できるようにする。	120分
15	試験	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義内容全体について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の第1講から第6講までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分

科目名	公共経済学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に 応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理 論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整する ために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
公共経済学Ⅰを履修していることが望ましい。経済学Ⅰ・Ⅱないしミクロ経済学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】		
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用してのオンラインによる講義。 リアクション・ペーパー提出課題、レポート提出課題をGoogleClassroomにて配信回収を行う。 定期試験（レポート課題）の解説を後日、GoogleClassroom（又はポータル・システム）にて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。								3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。								3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。								3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。								3	3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。 オンライン授業のため、レポート提出による評価の変更の可能性はある。	30	20	20	10							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『基礎コース 公共経済学 第2版』	井堀利宏著	新世社	2015年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス，導入授業】 【公共経済学とは】		講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて公共経済学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が、公共経済学と同様に公共部門を分析対象とする学問分野に財政学があるが、両学問の違いを特徴付けるものが何であるかの学習を通して公共経済学の分析手法を理解し、説明できる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して各章の冒頭にある導入説明を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【市場の機能と政府の役割】		市場の機能と市場の失敗を学習し、効率性を基準に公共経済学は市場の失敗の調整方法を提唱することを学習し、受講生が同様に公共部門の研究をする財政学との相違点を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が、市場システムはどのようなケースにおいて失敗するのかを理解し、なぜ政府（財政）が資源配分の機能、所得再分配機能、経済安定機能を果たすのかを理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章 市場と政府 を読み、市場の機能とメリットを理解し、市場の失敗と政府の機能との関連を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、市場の機能と市場の失敗、および市場の失敗と政府の役割（財政の機能）との関係について、自分なりの説明をまとめる。		120分
3	【費用便益分析】 (リアク・ペーパー予定)		公共財の最適供給を実現するための、代表的な公共支出の評価方法である費用便益分析を学習し、その意義と分析手法を受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	市場に代わって、受講生が、政府が財政を通じて公共財を最適に供給する方法の1つである費用便益分析の理論について理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第7章の「1節 費用便益分析」を読み、その意義と手法を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、7－1節 練習問題を解いてみる。		120分
4	【最適な公共投資】		公共支出の役割、市場経済での公共投資の役割、公共投資の割引率を学習し、受講生が公共経済学のアプローチによって最適な公共投資を説明できる。	
	この回の到達目標	社会資本のような公共財は公共投資によって整備される。その際に、最適な（効率的な）公共投資のルールは、民間投資との配分問題、地域間での配分問題、異時点間での配分問題の観点から議論できることを、受講生が理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第7章の「2節 最適な公共投資」を読み、その意義とテーマに対する公共経済学のアプローチ手法を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、日本における地域間の生産性の違いデータをネット等から取得して、どのような資源配分が効率的と言えるのか自分なりの説明をまとめる。		120分
5	【費用便益分析に代わる方法】		費用便益分析に代わる方法として、トラベルコスト法、ヘドニック・アプローチ、仮想的市場評価法を学習し、費用便益分析との相違点と意義について受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	費用便益分析に代わる、公共支出から家計が得る便益の推計方法としてのトラベルコスト法、ヘドニック・アプローチ、仮想的市場評価法を、受講生が理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第7章の「3節 費用便益分析に代わる方法」を読み、代表的代替法を確認し代替法の意義を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、代替法が具現化しているケースを挙げてみる。		120分
6	【小テスト（リアクション・ペーパー）】		リアクション・ペーパーにより、前回までに学修した授業内容を踏まえ、到達目標①②④に係わる理解が身についているか確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が、効率的公共投資、費用便益分析の意義と問題点について基礎的理解が身についているか確認する。		
	事前学修	教科書、配布資料、及び講義ノート復習し小テスト（リアクション・ペーパー）に臨む準備をする。		150分
	事後学修	理解が不十分であった項目について教科書、配布資料、及び講義ノートを見直して復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【転嫁からみた直接税と間接税の定義】		直接税と間接税の定義、転嫁と帰着、累進税と比例税について学習し、個別間接税の経済的な負担が、税金を誰が納税するかとは無関係に、需要と供給の関係で決まることを受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が、個別間接税の経済的負担は、財市場における需要と供給の価格弾力性の関係によって決まることを理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第8章の「1節 直接税と間接税」をよみ、相違点を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、需要および供給の価格弾力性の異なる財に間接税を課すことによって生じる資源配分の攪乱を考察してみる。		120分
8	【現代の租税原則】 (レポート提出課題予定)		現代の租税原則、わが国の所得税の特徴、総合課税と分離課税の概念を理解し、受講生は説明できる。	
	この回の到達目標	現代の租税原則の歴史的収斂、わが国の所得税の特徴、総合課税と分離課税をそれぞれ理解し、意義と問題点について、受講生は理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第8章の2節の「現代の租税原則」、「わが国の所得税の特徴」、「総合課税と分離課税」を読み、わが国の所得税の特徴や問題点を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、現代の租税（課税）原則論を調べて、原則論の内容を考察する。		120分
9	【一般消費税と労働所得税の同等性の命題】		二元的所得課税、クロヨンの意味、付加価値税（消費税）、一般消費税と労働所得税、税支払いのタイミング効果、包括的所得税と支出税について学習し、受講生が所得税体系の考え方を説明し、一般消費税と労働所得税の効果を比較して、その類似性を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して受講生が、一般消費税と労働所得税の効果に違いのないとする「同等性の命題」について理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第8章の2節の「課税体系の考え方」を読み、わが国の所得税の特徴と問題点を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、包括的所得税のメリット・デメリットを自分なりにまとめる。		120分
10	【最適課税の理論】		課税原則の1つである中立性の原則を学習し、資源配分の効率性を損ねることがない課税言い換えれば超過負担の発生しない課税はどうあるべきかについて説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が、課税原則の1つ中立性の原則を踏まえると、労働所得税は超過負担という社会的損失をもたらすことを理解し、また、どのような課税方法を採用すれば超過負担の発生を抑えることが出来るか理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第8章の「3節 最適課税の理論」を読み、その意義を前回の事後学習で得た租税原則論を踏まえて考察する。		150分
	事後学修	講義ノートを確認して、最適課税論と公共経済学のアプローチとの共通点を自分なりの説明をまとめる。		120分
11	【消費課税のメリット・デメリット】 (リアク・ペーパー予定)		租税原則に照らして既存の所得税や相続税に伴う問題点を理解し説明できる。また、消費税は中立性の原則からは優れた制度であるが、公平性の原則から問題があることを学習し受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	租税原則に照らして既存の所得税や相続税に問題があること。消費税は中立性（効率性）の原則からは優れるが公平性の原則に照らして問題があることを、受講生が理解し説明できる。海外の付加価値税の現状を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第8章の「4節 消費税増額の政治経済学」を読み、課税のあり方を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、マイナンバー制度について説明し、制度が公平な徴税制度に不可欠とされる理由を自分なりにまとめよ。		120分
12	【財政赤字と公債】		日本の公債発行状況、公債発行の問題点、財政運営のいろいろ考え方、クラウドディング・アウト、将来世代への負担の転嫁、リカードの中立命題、バローの中立命題を学習し、公債発行の問題点を踏まえて、日本の財政がいかに深刻であるのか受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が、公債発行に伴う問題点を理解し説明できる。また、公債発行に伴う問題に世代間への負担問題について、負担は生じないとするリカード及びバローの理論を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第9章の「1節 財政運営の考え方」「2節 財政赤字の負担」を読み、財政運営の考え方のいろいろな立場の存在を考察し、財政赤字の負担の様々な捉え方を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、9－2節 練習問題を解いてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【年金制度】 (レポート提出課題予定)	わが国の公的年金制度の仕組み意義、世代間の再分配の現状と問題点、高齢化・少子化社会進行の状況を踏まえた年金制度改革の方向性について学習し、公的年金制度の意義、世代間再分配の現状と問題点、改革の必要性和方向性について理解できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、わが国の公的年金制度の仕組み意義、世代間の再分配の現状と問題点、高齢化・少子化社会進行の状況を踏まえた年金制度改革の方向性について、受講生は理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第10章の「1節 公的年金制度」、「2節 世代間の再分配政策」、「3節 高齢化・少子化社会の年金改革」を読み、その意義と問題点を考察する。	120分
	事後学修	少子高齢化と人口減少が生じているわが国の現状を鑑みて、従来方式の再分配政策の有効性について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	【再分配政策①】	所得格差を是正する問題を学習し、どの程度の再分配が望ましいのか、また、それを実現するために、その程度の累進的所得税が望ましいか考察し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、受講生が、所得再分配政策を検討する際に有名な価値判断としてのベンサム基準とロールズ基準の意義と問題点を理解し、さらに、モラルハザードの問題を生じないリスク・シェアリングの再分配政策を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第11章の「1節 個人間の再分配政策」を読み、再分配政策の意義について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、11-1節 練習問題を解いてみる。	120分
15	【再分配政策②】	地域間での再分配政策のあり方を学習し、また、地域間での人口移動や公共財の波及効果を考慮すると、公平性の観点からデメリットが有ることとし、再分配政策のあり方やその問題点について受講生が説明できる。オーツの「地方分権定理」及びティブーの「足による投票」の学説を理解し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地域間での人口移動や公共財の波及効果を考慮すると、公平性の観点から問題が有ること理解し説明できる。受講生が、地方分権に基づく資源配分は、最適性を実現するとするオーツの「地方分権定理」の学説、及び地方分権に基づく最適資源配分の問題と関係するティブーの「足による投票」の学説の意義を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第11章の「2節 地域間の再分配政策」、第2章の4節内の「足による投票」、第6章の3節内の「地方公共財」、を読み、地方分権の意義を考察する。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、オーツの定理とティブーの学説の共通点と相違点を自分なりの説明する。初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し整理する。	200分

科目名	公共経済学Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
				○	○			

【授業の概要】
公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に応用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理論編に現実編を織り交ぜながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共部門にかかわる経済主体の行動を理論的に説明できるようになるために、どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整するために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を修得する。

【履修条件】
「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」と「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「公共経済学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共経済学における主要な概念や理論を識別することができる。							3	3			
②	公共経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。							3	3			
③	公共部門の経済行動について説明することができる。							3	3			
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。							3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを評価する。	30	20	20	10							80
小テスト等	到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、Google Classroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共経済学15講	佐藤主光	新世社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取る） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	オリエンテーション及び導入講義		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・公共経済学とはどのような学問か ・市場の失敗 ・政府の役割（財政の3機能）
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	税の帰着と負担(1)		・税の負担 ・税の帰着と価格弾力性 ・法人税の帰結
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、税の負担について説明できる。	
	事前学修	教科書 第7講 7.1の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
3	税の帰着と負担(2)		・社会保険料の帰着 ・多国籍企業と租税回避 ・租税競争
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会保険料の帰着と多国籍企業の租税回避、租税競争について説明できる。	
	事前学修	教科書 第7講 7.3と7.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
4	望ましい税制に向けて(1)		・課税のコスト ・次善（セカンドベスト）という考え方
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、課税におけるセカンドベストについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第8講 8.1と8.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
5	望ましい税制に向けて(2)		・ラムゼイ・ルール ・生産効率性
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ラムゼイ・ルールについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第8講 8.3と8.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
6	最適課税論(1)		・社会厚生関数 ・最適所得税理論 ・最適所得税の一般化
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、最適所得税理論について説明できる。	
	事前学修	教科書 第9講 9.2～9.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	最適課税論(2)	・アトキンソン・スティグリッツの定理 ・資本課税	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、アトキンソン・スティグリッツの定理について説明できる。	
	事前学修	教科書 第9講 9.5と9.6の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
8	メカニズム・デザイン	・メカニズム・デザイン ・オークション	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メカニズム・デザインとオークションについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第10講 10.1と10.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
9	コミットメント問題	・展開形ゲーム ・時間非整合性 ・コミットメント	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時間非整合性とコミットメントについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第11講 11.1と11.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
10	公共部門の効率化	・公共部門の効率性 ・費用便益分析 ・新しい公共経営	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、費用便益分析と新しい公共経営について説明できる。	
	事前学修	教科書 第12講 12.1～12.3の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
11	財政赤字と財政再建	・財政政策の効果 ・財政赤字の経済学	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政政策の効果と日本の財政赤字の現状と問題点について説明できる。	
	事前学修	教科書 第13講 13.1と13.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
12	EBPMという視点	・エビデンスに基づく政策立案 (EBPM) ・ランダム化比較実験	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、エビデンスに基づく政策立案 (EBPM) とランダム化比較実験について説明できる。	
	事前学修	教科書 第14講 14.1と14.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行動経済学で考える(1)	・経済人とは ・行動経済学とは ・行動経済学のいくつかの例	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行動経済学とはどのような学問かを説明できる。	
	事前学修	教科書 第15講 15.1と15.2の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
14	行動経済学で考える(2)	・ナッジとは ・ナッジの実例	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ナッジについて説明できる。	
	事前学修	教科書 第15講 15.3と15.4の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
15	試験	ここまでの内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義内容全体について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の第7講から第15講までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要です。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディベートを実施します。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに公務員の実際を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、公務員とは	授業の概要、目的等について説明する。公務員制度について説明する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解し、公務員とはなにか。その制度や概要について説明できる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員とはなにかイメージを整理してくる。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	公務員の種類(国家)	日本の国家公務員制度のしくみや試験制度について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の国家公務員制度の機能を理解し説明できる。	
	事前学修	国家公務員の種類について調べてくる。	120分
	事後学修	授業で扱った国家公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
3	公務員の種類（地方）	日本の地方公務員制度について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の地方公務員制度について理解する。また、国家公務員との相違について説明できる。	
	事前学修	日本の地方公務員の種類と採用試験方法について調べてくる。	120分
	事後学修	授業で扱った地方公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
4	公務員という職業	日本の公務員の仕事の特質について民間との比較を学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、日本の公務員の仕事の内容の特質を説明できる。	
	事前学修	可能な限り公務員の仕事の内容を調べてまとめてくる。	120分
	事後学修	民間の仕事との比較をして、その特質をまとめておくこと。	120分
5	公務員に必要な要素と自分たちに欠けているもの（集団討論）	公務員の社会における使命感とそれに必要な要素について集団討論により学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の持つ使命感とはなにかを自分なりに説明できる。	
	事前学修	公務員による社会貢献や行政の仕事について調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の使命感と必要な要素について集団討論の結果をうけて、自分なりの課題を整理してみる。	120分
6	公務員の特殊性と社会的責任	公務員の仕事の特殊性と社会的責任について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の仕事の特殊性について、他のアクターの違いや他のアクターとの連携、政策形成に果たす役割を説明できる。	
	事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	公務員という仕事の課題（集団討論）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の仕事の課題や困難な状況について説明できる。	
	事前学修	公務員の仕事で困難な業務について討論できるように調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の仕事の課題について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
8	社会における公務員	公務員と社会の関係について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	授業で扱ったグループ・ワークなどの結果をうけて整理してみる。	120分
9	官民の感覚（ゲストスピーカー）	公務員の仕事にも民間感覚が必要であることを学修する。民間感覚とはになかということを学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、現代の公務員に求められる民間感覚について議論できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
10	行政手法と公務員	行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことをふまえ、務員について自分なりに整理する。	120分
11	公務員の業務の実際と特質	公務員の実際の業務と特質について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員の実際と特質について他者と議論ができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	公務員の実際について、就職指導課で調べる。	120分
12	志望先公務員試験（多岐選択問題）	学習者がが志望する公務員試験の選択問題について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、学習者が志望する公務員試験の選択問題の傾向とその仕組みについて、情報収集と説明ができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	志望先公務員試験（論述問題）	学習者がが志望する公務員試験の論述試験について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、学習者がが志望する公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	公務員試験の論術問題を実際に解いてみる。	120分
14	面接試験	公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、公務員試験の面接試験の方法や内容について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	自分が希望する公務員試験の面接について調べてみる。	120分
15	まとめ	これまでの授業で扱った公務員制度について説明し、その試験内容について学修する。	
	この回の到達目標	①～④に関連して、自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
	事前学修	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
	事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義、グループワーク、個人ワークを混合して実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、個人ワーク、ディスカッションにより、主体的に公共政策の諸問題に対する考えを深める機会を設ける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧								1					
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修人数によるが、毎回の授業内あるいは翌週の授業時に適宜フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公共政策学の基礎	秋吉貴雄，伊藤修一郎，北山俊哉	有斐閣	2015	参考書	任意
公共政策の歴史と理論	笠原英彦(編)，桑原英明(編)，大山耕輔(監修)	ミネルヴァ書房	2013	参考書	任意
政治学の第一歩〔新版〕	砂原庸介，稗田健志，多湖 淳	有斐閣ストゥディア	2020	参考書	任意
地方自治入門	入江容子(編)，京俊介(編)	ミネルヴァ書房	2020	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	公共政策とは何か	授業の概要を説明するとともに、公共政策とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	公共政策という概念にどのような活動が含まれるのかを理解し説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスをよく確認し、興味・関心を抱く内容があるか確認しておく。	120分
	事後学修	自宅や大学の付近で、公共政策によって供給された財・サービスがあるかどうか考えてみる。	120分
2	公共的問題とアジェンダ	グループワーク、ディスカッションを通じて、社会の中に存在する様々な問題が、公共的問題として認識されるプロセスについて学修する。	
	この回の到達目標	社会の中に存在する様々な問題が、公共的問題として認識されるプロセスを理解し説明できるようになる。	
	事前学修	普段の社会生活の中で、自分にとっては問題であるが、社会的には問題視されていない事象を探してみる。	120分
	事後学修	事前学修で見つけた事象が、なぜ公共的問題として社会の中で問題視されていないのかを考察してみる。	120分
3	公共政策における価値観・争点の多様性	グループワーク、ディスカッションを通じて、社会には多様な争点、問題が存在することを学修する。	
	この回の到達目標	どのような問題を公共的問題として認識するか、それぞれの問題間の優先順位には、個々人の多様性があることを、グループワーク、ディスカッションを通じて体感し理解する。	
	事前学修	ニュースや新聞を見て、解決すべきだと考える公共的問題を10個考え、優先順位を付けてリストアップしておく。	120分
	事後学修	ディスカッションの際に、自分とは異なる意見を述べた人々の立場に立って、相手の考えを理解してみようとする。	120分
4	公共政策にまつわる利害関係	グループワーク、ディスカッションを通じて、利益集団の活動について理解を深める。	
	この回の到達目標	利益集団、ステークホルダーなどの概念を、具体的な公共政策の実例から理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	自宅の周りで選挙のポスターを貼っている会社を探し、どのような会社がどの政党のポスターを貼っているかまとめてみる。	120分
	事後学修	授業で学修した知識を活用し、自宅の周りで見つけた会社と支持政党の利害関係を考察してみる。	120分
5	ステークホルダー	グループワーク、ディスカッションを通じて、公共政策における多様なステークホルダーの存在について学修する。	
	この回の到達目標	自治体の再開発の事例から、公共政策や行政の活動には様々なステークホルダーが関与していることを理解する。	
	事前学修	自分の住んでいる町の開発、町おこし等に、どのような関係者が関わっているか考えてみる。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえた上で、自分の町の開発、町おこし等における、ステークホルダーはどのような人たちかを考えてみる。	120分
6	公共政策を左右する制度・理念／アイデア	公共政策の形成過程における制度、理念、アイデアの影響について学修する。	
	この回の到達目標	政策形成過程における制度・理念／アイデアの影響を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	普段の生活の中で、自分がどのような制度、ルールによって行動を変えているか考えてみる。（例：小売店のポイントカード制度や、特売日の設定に応じて買い物する店舗・曜日を変える等）	120分
	事後学修	ニュースで取り扱われている様々な政策決定の背景に、制度や理念によるものがないか考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政策の評価	グループワーク、ディスカッションを通じて、公共政策の評価をどのように行えばよいかを学修する。	
	この回の到達目標	実際にグループワークで公共政策の評価を体験し、公共政策の評価が難しいものであることを理解する。	
	事前学修	自分の住んでいる自治体の図書館を訪問し、どのような基準で評価を行えば、図書館という行政サービスの良し悪しを測定できるか考察する。	120分
	事後学修	授業で学修した内容を踏まえた上で、図書館サービスの評価をどのように行うのがよいか再度考察する。	120分
8	グループワーク テーマの決定	グループワークの初回として、各グループで分析の対象とする政策課題を議論・決定する。	
	この回の到達目標	分析対象の政策課題を決定する。	
	事前学修	自分が興味関心のある公共的問題について考えておく。	120分
	事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
9	グループワーク 現状分析	各グループのテーマについて、幅広く現状の分析を行う。	
	この回の到達目標	講義の前半で習得した知識を活用し、政策の現状分析ができるようになる。	
	事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
	事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
10	グループワーク 原因の分析	各グループのテーマについて、なぜその問題が解決されないのか分析を深める。	
	この回の到達目標	講義の前半で習得した知識を活用し、問題の原因を多角的な視点から分析することができるようになる。	
	事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
	事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
11	グループワーク 施策の調査	各グループのテーマについて、現在実施されている施策を調査する。	
	この回の到達目標	講義の前半で習得した知識を活用し、各グループのテーマに関して、国内・国外含めて実施されている施策のリストをラインナップした上で、その良し悪しを評価できるようになる。	
	事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
	事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
12	グループワーク 政策の評価	各グループのテーマについて、現在実施されている施策を評価する。	
	この回の到達目標	講義の前半で習得した知識を活用し、現在実施されている施策の効果、成果について評価できるようになる。	
	事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
	事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループ報告 パワーポイントの作成	研究報告の方法に関する講義を聴いた上で、報告の際に用いるパワーポイントを作成する。	
	この回の到達目標	研究報告に用いるパワーポイントの技法、表現を工夫する方法等を身に着ける。	
	事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
	事後学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
14	グループ報告前半	各グループでこれまでの成果を報告する。	
	この回の到達目標	グループで調査した政策提言の内容を、聴衆に対してうまく伝えることができるようになる。	
	事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
	事後学修	グループごとに報告の反省、他グループの報告の良かった部分を確認し、次の報告に活かせるようにする。	120分
15	グループ報告後半	各グループでこれまでの成果を報告する。	
	この回の到達目標	グループで調査した政策提言の内容を、聴衆に対してうまく伝えることができるようになる。	
	事前学修	グループごとに報告の準備に取り組む。	120分
	事後学修	グループごとに報告の反省、他グループの報告の良かった部分を確認し、次の報告に活かせるようにする。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修している行政職課程の学生が対象（他学科・コースの学生は履修できない）。必ず毎回授業に出席すること。※グループ分け、輪読分担決定等を行うので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
国家公務員志望者を主な対象に、将来の政策立案の際に必要な基礎知識を確実に身に付けるため、講義形式に加え、個人研究発表、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る） なお、本講義では行政職課程の全学生が一斉に受講する共通授業の機会が設けられる（外部講師の授業など。詳細は授業内で説明する。）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じた個人研究発表、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 公共政策学	秋吉貴雄	中央公論社	2017	教科書	必携
自治体の公共政策	岩崎忠	学陽書房	2013	教科書	任意
公共政策学	石橋章市朗他	ミネルヴァ書房	2018	参考書	必携
対立軸でみる公共政策入門	松田 憲忠他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:10-13:00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び公共政策学の概容	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公共政策学とはなにかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関し、授業全般の構成について把握するとともに、公共政策学の全体的イメージを理解し、その概要及び他の隣接学問分野との異同について説明することができる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②指定教科書の導入部分を読み進めておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分
2	講義 1（公共政策課題の発見）	公共政策課題とは何か、その本質とは何か等につき学習する。具体的事例として福祉政策を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、身近にある様々な問題のうち、社会的解決を必要とするものは何か、そしてそれはなぜ個人や企業の努力で 解決することが出来ないのかななどを説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	講義 2（公共政策の設計・決定）	公共政策はどのようなプロセスを経て決定されるのかなどについて学習する。具体的事例として教育政策を取り上げる。具体的事例として経済政策を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、社会的問題の解決のために考えられる手段としてどのようなものがあるか、政策決定過程に参画する多くのアクター（政治・民間・学界・市民・官僚）はどのような相互作用を行って政策が作られるのかを説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により等を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	講義 3（公共政策の実施）	決定された公共政策は実施フェーズにおいて、どのような手段・プロセスを用いて具体化されるのかについて学習する。具体的事例として農業政策を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、公共政策の現場においてどのように政策が展開されるのか生活保護の事例等を基に具体的に説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策過程論のテキストの該当部分にも目を通して自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	講義 4（公共政策の評価・改善）	公共政策のPDCAサイクル及びその中で基幹的な位置を占める政策評価について学習する。具体的事例として公共事業・公共交通政策を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、実施された政策の「善し悪し」は何をもって測るのか、また政策が社会に与える「効果」とは何なのか、公共政策を 改善するために市民・専門家等は政策決定過程等にどう参画すべきかなどについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等の該当部分を学習するほか、行政学や政策評価論のテキストの該当部分にも目を通して、自分の考えを整理し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	個人研究発表①（政策課題の発見）	参加者輪番により、公共政策課題の発見、アジェンダ化の過程などに係る教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほかエネルギー政策について学習する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	個人研究発表②（政策決定課程）	参加者輪番により、政策決定過程の最重要プロセスに関する教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほかICT政策について学習する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
8	個人研究発表③（他アクターとの関係）	参加者輪番により、政策決定・執行するに当たって国会・民間・自治体とはどのような影響を与え合っているのか、各アクターの動きを扱った教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
9	個人研究発表④（政策の実施プロセス、社会資本整備など）	参加者輪番により、施策執行の様々な具体的ケースに関する教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。このほか移民政策について学習する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
10	個人研究発表⑤（政策の概念と公共政策の歴史）	参加者輪番により、学問としての公共政策学の位置付け、政策の定義・理念型、歴史的発展モデル、現代的な政策課題の諸相などについて教科書該当部分の概要紹介・関連事例や重要事項の調査研究発表を行った後、学習者全員で質疑応答・ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は最低6時間）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分
11	行政職課程共通授業①	現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。	
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	行政職課程共通授業②		現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。		
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分
13	行政職課程共通授業③		現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。		
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分
14	行政職課程共通授業④		現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。		
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分
15	行政職課程共通授業⑤		現職公務員等による講義・実務演習などを予定（日時・内容等未定）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け実践できる。		
	事前学修	あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
他学科の学生は履修できない。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要である。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。

【授業方法】
グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディバートを実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題やグループディスカッションに対する講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICT政策の現状について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICT成長戦略について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（災害対策）について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（教育分野）について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（医療分野）について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政府のICT政策に関する学習	わが国におけるICT政策の現状について学修する。	
	この回の到達目標	わが国におけるICTの利活用（データ利活用）について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	グループディスカッション①	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
	この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	グループディスカッション②	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
	この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	グループディスカッション③	グループごとに、わが国のICT政策における課題を取り上げ、その概要について検討し、整理する。	
	この回の到達目標	他者と協調しながら、わが国におけるICT政策の概要について、グループ内で議論を深める。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	わが国の現状と解決すべき課題に関する学習①	わが国における社会的課題を取り上げ、その解決策について検討する。	
	この回の到達目標	わが国における社会的課題の概要や、その解決のための政策について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	わが国の現状と解決すべき課題に関する学習②	わが国における社会的課題を取り上げ、その解決策について検討する。	
	この回の到達目標	わが国における社会的課題の概要や、その解決のための政策について理解する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーション①	前回のディスカッションの結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	わが国における社会的課題と解決策について、グループごとに、他者に分かりやすく説明する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	プレゼンテーション②	前回のディスカッションの結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	わが国における社会的課題と解決策について、グループごとに、他者に分かりやすく説明する。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	ICT政策に関する主要な論点を修得する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期「公共政策論」を履修していること。グループディスカッションを行うので、毎回授業への出席が必要。

【授業方法】
担当教員の講義とそれを題材にしたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。								2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。						2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。										2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。										2	2	2	2
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	労働政策と平成の経済		労働政策の背景にある平成年間の経済情勢を俯瞰的に学修する。
	この回の到達目標	到達目標①に関し、平成年間の経済情勢と基本的出来事（バブル崩壊、不良資産、金融不況、リーマンショック）の関係について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	労働政策とコロナ禍		労働政策がコロナ禍で果たした役割について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①に関し、労働政策がコロナ禍で果たした役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
4	労働政策の効果と課題（グループワーク）		2回目と3回目の授業を題材としたグループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働政策の効果と課題（グループワーク）	グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	労働政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	林 紀行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修していることを履修条件とする。他学科の学生は履修できない。また、グループ学習を行うため、必ず毎回授業に積極的に参加すること。

【授業方法】
毎回、公共政策に関するグループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション等を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する講評を行い、フィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
				教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日の昼休みの時間とする。事前にメール等でアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会の委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会の委員の経験を取り入れて授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業の狙いや内容、方法について学修する。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、割り振り等を決めるので、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	公共政策の基本構造	公共政策の階層性、目的手段関係、構成要素に関する基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策の基本構造の内容や意義を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
3	アジェンダ設定と政策決定	公共政策のアジェンダ設定から政策決定への流れを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるアジェンダ設定と政策決定の内容や意義を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
4	目的と手段	公共政策における目的と手段の内容や意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策における目的と手段の関係の内容や意義を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
5	デザイン思考	公共政策におけるデザイン思考の内容や意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデザイン思考の内容や意義を理解できる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
6	市場・政府・地域社会の関係	公共政策における市場・政府・地域社会の関係の内容や意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策における市場・政府・地域社会の関係の内容や意義を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	市場メカニズムの活用	公共政策における市場メカニズムの活用の内容や意義を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策における市場メカニズムの活用の内容や意義を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
8	ディベート（現代日本の公共政策）①	公共政策の基本的な枠組みに留意しつつ、公共政策の課題についてディベートを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、公共政策に関する説得力のある議論を展開することができる。	
	事前学修	事前に、ディベートの議題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
9	ディベート（現代日本の公共政策）②	公共政策の基本的な枠組みに留意しつつ、公共政策の課題についてディベートを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、公共政策に関する説得力のある議論を展開することができる。	
	事前学修	事前に、ディベートの議題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
10	ディベート（現代日本の公共政策）③	公共政策の基本的な枠組みに留意しつつ、公共政策の課題についてディベートを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、公共政策に関する説得力のある議論を展開することができる。	
	事前学修	事前に、ディベートの議題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
11	予備的討議（現代日本の公共政策）①	グループごとに、現代日本の政策を一つ取り上げ、その概要と問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、他者と協調しながら、現代日本における政策の概要について、グループ内で議論を深めることができる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分
12	予備的討議（現代日本の公共政策）②	グループごとに、現代日本の政策を一つ取り上げ、その概要と問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、他者と協調しながら、現代日本における政策の概要について、グループ内で議論を深めることができる。	
	事前学修	事前に課題に関する資料を収集し、分析をしておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の諸問題について整理し、復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーション（現代日本の公共政策）①	予備討議の内容を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行い、公共政策の現状と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループごとのプレゼンテーションを通じて、日本の公共政策の現状と課題について理解することができる。	
	事前学修	事前にプレゼンテーションの内容を整理し、発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	プレゼンテーションで扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、発表内容を再検討すること。	120分
14	プレゼンテーション（現代日本の公共政策）②	予備討議の内容を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行い、公共政策の現状と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループごとのプレゼンテーションを通じて、日本の公共政策の現状と課題について理解することができる。	
	事前学修	事前にプレゼンテーションの内容を整理し、発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	プレゼンテーションで扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、発表内容を再検討すること。	120分
15	総括	これまでの授業で取り扱った公共政策の現状と課題、展望について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、公共政策に関する主要な論点を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。

【授業方法】
講義および演習 レポート試験や課題レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会などで議論を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について説明する。公務員制度について説明する。	
	この回の到達目標	授業の狙いや内容、方法について理解し、公務員とはなにか。その制度や概要について説明できる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。公務員とはなにかイメージを整理してくる。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	日本の国家公務員制度	日本の国家公務員制度のしくみや試験制度について学修する。	
	この回の到達目標	日本の国家公務員制度の機能を理解する。	
	事前学修	国家公務員の種類について調べてくる。	120分
	事後学修	授業で扱った国家公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
3	日本の地方公務員制度	日本の地方公務員制度について学修する。	
	この回の到達目標	日本の地方公務員制度について理解する。また、国家公務員との相違について説明できる。	
	事前学修	日本の地方公務員の種類と採用試験方法について調べてくる。	120分
	事後学修	授業で扱った地方公務員制度に関する知識を整理し、再検討すること。	120分
4	公務員の仕事の実態と特質について	日本の公務員の仕事の実態について民間との比較を学修する。	
	この回の到達目標	日本の公務員の仕事の内容の特質を説明できる。	
	事前学修	可能な限り公務員の仕事の内容を調べてまとめてくる。	120分
	事後学修	民間の仕事との比較をして、その特質をまとめておくこと。	120分
5	公務員の仕事の特殊性	公務員の仕事の特殊性について学修する。	
	この回の到達目標	公務員の仕事の特殊性について、他のアクターの違いや他のアクターとの連携、政策形成に果たす役割を説明できる。	
	事前学修	公務員と他のアクターとの協働について事例を調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の時代ごとの役割変化についてまとめておくこと。	120分
6	公務員の使命感（集団討論）	公務員の社会における使命感について集団討論により学修する。	
	この回の到達目標	公務員の持つ使命感とはなにかを自分なりに説明できる。	
	事前学修	公務員による社会貢献について事例を調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の使命感について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	公務員の仕事の課題（集団討論）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	公務員の仕事の課題や困難な状況について説明できる。	
	事前学修	公務員の仕事で困難な業務について討論できるように調べてくる。	120分
	事後学修	公務員の仕事の課題について集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
8	公務員と社会の関係について	公務員と社会の関係について学修する。	
	この回の到達目標	公務員が社会の中で果たす役割と機能的変化について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った集団討論の結果をうけて整理してみる。	120分
9	公務員と民間感覚（ゲストスピーカー）	公務員の仕事にも民間感覚が必要であることを学修する。民間感覚とはになかということを学修する。	
	この回の到達目標	現代の公務員に求められる民間感覚について議論できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
10	行政手法の担い手としての公務員（ゲストスピーカー）	行政手法としての公務員の役割について学修する。	
	この回の到達目標	行政手法をになう公務員の実際の行動とその課題について学修する。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの話から感じたことを自分なりに整理する。	120分
11	公務員の実際と特質	公務員の実際と特質について学修する。	
	この回の到達目標	公務員の実際と特質について他者と議論ができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	公務員の実際について、就職指導課で調べる。	120分
12	公務員試験について（多岐選択問題）	公務員試験の選択問題について学修する。	
	この回の到達目標	公務員試験の選択問題の傾向とその仕組みについて説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	公務員試験の選択問題を実際に解いてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公務員試験について（論述問題）	公務員試験の論述試験について学修する。	
	この回の到達目標	公務員試験の論述試験の傾向とその仕組みについて説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	公務員試験の論術問題を実際に解いてみる。	120分
14	公務員試験の面接試験	公務員試験で行われる面接試験について学修する。	
	この回の到達目標	公務員試験の面接試験の方法や内容について説明できる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	自分が希望する公務員試験の面接について調べてみる。	120分
15	総括	これまでの授業で扱った公務員制度について説明し、その試験内容について学修する。	
	この回の到達目標	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人に説明できる。	
	事前学修	自分の調べた公務員試験と公務員制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
	事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
前期の公共政策論を履修していることが求められます（他学科の学生は履修できません）。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に積極的に参加することが必要です。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。

【授業方法】
毎回、グループ学習や（グループごとの）プレゼンテーションを実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。								2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								2	2	2	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の目的や政策の定義、意味等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	政策過程に関する基礎的な理論モデルを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政策過程の代表的な理論モデルの意味を理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
3	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	主として欧米における政策過程の代表的なモデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米における代表的な政策過程の理論モデルを理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
4	政策過程の基礎的なモデルに関する学修	主として日本における政策過程の代表的なモデルについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本における代表的な政策過程の理論モデルを理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
5	グループごとの予備的討議（政策過程）	政策過程の代表的なモデルを踏まえ、現代の政治をそれらがどう説明できるかをグループごとに学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでに構築されてきた理論モデルが、現実の政治・社会をどう説明できるのかを理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
6	グループごとの予備的討議（政策過程）	政策過程の代表的なモデルを踏まえ、現代の政治をそれらがどう説明できるかをグループごとに学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでに構築されてきた理論モデルが、現実の政治・社会をどう説明できるのかを理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	プレゼンテーション（政策過程）	前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行いながら政策過程について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、政策過程モデルの論点について、グループごとに、他者に分かりやすく説明することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
8	ディベート（政策過程）	前回のプレゼンテーションの内容に留意しつつ、政策過程の問題と課題についてディベートを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、政策過程に関する説得力のある議論を展開することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
9	公共政策の現状と課題に関する学修	欧米社会における政策を一つ取り上げ、その問題と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米社会で生じている問題の概要や、その解決のための政策について理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
10	公共政策の現状と課題に関する学修	日本社会における政策を一つ取り上げ、その問題と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、欧米社会で生じている問題の概要や、その解決のための政策について理解することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
11	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）	グループごとに、現代日本の政策を一つ取り上げ、その概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、他者と協調しながら、現代日本における主要政策の概要について、グループ内で議論を深めることができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
12	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）	前回取り上げた政策について、グループごとにその問題や課題を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グループ内の議論に積極的に参加し、現代日本における主要政策の問題についてメンバー全員で理解を共有することができる	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	プレゼンテーション（現代日本の公共政策）		前回、前々回の予備討議の結果を踏まえ、グループごとにプレゼンテーションを行いながら日本の公共政策について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、現代日本における公共政策の論点について、グループごとに、他者に分かりやすく説明することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
14	ディベート（現代日本の公共政策）		前回のプレゼンテーションの内容に留意しつつ、現代日本における政策の問題と課題についてディベートを行いながら学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、根拠を明示しながら、日本の公共政策の論点に関する説得力のある議論を展開することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った政策過程及び諸政策の課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を理解し、他者に説明することができる。	
	事前学修	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）	120分

科目名	公共政策基礎演習	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワークを通じ、わが国の政策に関する現状と課題について理解を深めていく。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生が、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、また その解決策を自分の言葉で説明できる能力の修得を目標とする。

【履修条件】
授業の構成および進行は、公共政策学科の学生を念頭において行われるが、他学科・他学部の学生の受講も大いに歓迎します。

【授業方法】
演習形式を取り、学生の積極的な質問や意見表明を期待する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							2	2				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	2				2
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、課題について議論できるようになる。									2	2	2	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									2	2	2	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の最終回に発表の結果についての公表と、希望者には各自の評価を伝達する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 公共政策学	秋吉貴雄	中央公論社	2017		
備考	購入は必須ではありません				

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・ウォーミングアップ 導入講義	・ウォーミングアップ（班分けとメンバー間の情報共有） ・課題と評価についての説明	
	この回の到達目標	授業の意図と課題を理解し、自分の演習課題を決定するか、もしくは課題達成までの計画を立てる。	
	事前学修	「入門 公共政策学」を読み、公共政策の全体像をイメージする。	120分
	事後学修	この授業で自分が何をするのかを考え、計画を紙面に起こす。	120分
2	公共政策の基本知識と原理	理念・目的・税との関係および新しい公共を含む公共政策におけるステークホルダーについて説明を行う。 またそれを踏まえて授業の課題を確認する。	
	この回の到達目標	グループが授業の中で取り上げる政策課題を決定する。	
	事前学修	興味のある政策や自治体の取り組みについて調べてくる。	120分
	事後学修	決定した政策について、その概要を整理し、文章化する。	120分
3	課題についての情報収集	自分たちが取り上げる政策について必要の情報の収集を行う。	
	この回の到達目標	自分（達）が取り上げる政策について、その特徴と意義を説明できるようになる。	
	事前学修	政策の評価を行う上で必要な情報をリストアップしておく。	120分
	事後学修	授業のグループ作業を通じて得た情報を踏まえて足りないものがないか確認する。	120分
4	政策の概要の把握	集めた情報を踏まえて、取り上げる政策の概要についてまとめる。	
	この回の到達目標	自分（達）が取り上げ政策について、実際に説明する。	
	事前学修	自分（達）が取り上げる政策を効果的に説明する方法を自分なりに考える。	120分
	事後学修	授業での作業を踏まえて、中間発表のための準備をする。	120分
5	中間発表①	ここまでの授業を受けて、最終的な課題発表に向けて各自（グループ）の進捗状況を2回に分けて確認する。	
	この回の到達目標	他の人（グループ）との比較を通じて、自分（達）の取り組みの課題を挙げるができるようになる。	
	事前学修	中間発表に向けた準備をする。	120分
	事後学修	自分（達）の進捗状況をふまえての課題について、対策を考える。	120分
6	中間発表②	ここまでの授業を受けて、最終的な課題発表に向けて各自（グループ）の進捗状況を2回に分けて確認する。	
	この回の到達目標	他の人（グループ）との比較を通じて、自分（達）の取り組みの課題を挙げるができるようになる。	
	事前学修	中間発表に向けた準備をする。	120分
	事後学修	自分（達）の進捗状況をふまえての課題について、対策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政策の評価		政策の評価について講義を行う。 グループディスカッション（自分たちの班の評価について考える）	
	この回の到達目標	自分（達）が取り上げる政策について、有効な評価方法が説明できるようになる。		
	事前学修	取り上げる政策の課題について調べてくる。		120分
	事後学修	自分（達）が予定している評価方法に必要な情報を確認する。		120分
8	政策評価のための計画		どのようにして政策評価を行うか、具体的に計画を立てる。	
	この回の到達目標	自分（達）が想定する計画の流れ（論理構成）に沿って説明できる。		
	事前学修	自分（達）が取り上げる政策の評価について、必要と思われる情報を集めてくる。		120分
	事後学修	授業での作業を踏まえて、全体の流れに課題がないか確認する。		120分
9	政策評価の実施		集めた情報および計画に従って、実際に政策評価を行いその結果をまとめる。	
	この回の到達目標	自分（達）が取り上げる政策の評価を結論として示すことができる。		
	事前学修	全体の流れを踏まえて足りない情報の確認と、必要な情報の収集を行う。		120分
	事後学修	自分（達）が取り上げるテーマと課題解決について、最終的な評価をまとめる。		120分
10	発表のための基礎知識		プレゼンテーションの方法と技術、および政策策定における役割について説明する。	
	この回の到達目標	自分（達）が発表する課題解決方法のアピールポイントを挙げ、それをプレゼンテーションに生かす方法を選択することができる。		
	事前学修	さまざまなプレゼンテーションの方法を調べる。		120分
	事後学修	自分（達）の発表のプレゼンテーション資料作りのための計画を立てる。		120分
11	プレゼンテーション(PPT)の作成		これまでの授業を通じて、課題の完成とプレゼンテーションの作成を行う。	
	この回の到達目標	発表に必要なプレゼンテーションの技術を身に着け、自らのプレゼンテーションに生かすことができるようになる。		
	事前学修	最終的なプレゼンテーション作成に必要な資料・情報を集める。		120分
	事後学修	プレゼンテーションの準備を行う。		120分
12	発表1回目		3～4組程度の発表を行う。	
	この回の到達目標	公共政策の種類と特性を、他との比較を通じて説明できるようになる。		
	事前学修	自分の発表の改善に必要な情報について調べ、発表の準備を行う。		120分
	事後学修	他の発表を踏まえて、各自（グループ）の発表の改善を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	発表2回目		3～4組程度の発表を行う。
	この回の到達目標	公共政策の種類と特性を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
	事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
	事後学修	他の発表を踏まえて、各自（グループ）の発表の改善を行う。	120分
14	発表3回目		3～4組程度の発表を行う。
	この回の到達目標	公共政策の種類と特性を、他との比較を通じて説明できるようになる。	
	事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
	事後学修	全体の発表を受けて、それぞれの計画の違いとその理由について考察する。	120分
15	授業のまとめと振り返り		授業全体を通じた振り返りと、各自（グループ）の発表の講評を行う。希望者には採点結果を伝達する。
	この回の到達目標	授業を通じて完成した計画および策定過程の課題をあげ、具体的な解決策を提案できるようになる。	
	事前学修	他の班の発表を受けて、自分の発表の改善に必要な情報や理解できなかった点について調べる。	120分
	事後学修	授業を通じて、今後に向けての自己評価と課題の確認を行う。	120分

科目名	公共政策特殊講義A	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会福祉事業史は政治・行政からの統治の歴史ばかりではなく、人々の側から制度の歴史を学ぶ学問であるとともに、社会政策の背景をなす基本的人権の具体的な発達過程を知るうえでも重要である。社会福祉制度の世界的起源とその発展過程を歴史的に掌握する。とりわけ世界で最も古く世界の公的社会福祉制度に影響を与えたイギリス救貧法の歴史について、中世から近代までのイギリス社会史を織り込みながら学ぶようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会福祉事業史の履修講座は公務員就任時の社会福祉主事任用資格要件を得るための基幹講座となっている。イギリス史全体の政治経済的流れと、イギリス行政史を深く学習し、比較政治学からの学問研究的視点を醸成することを目的とする。 社会福祉事業史を政治・行政からの統治の歴史ばかりではなく、人々の側から制度の歴史を理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科 1， 3， 4， 5

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対してはそれが実現できるように配慮する。

【授業方法】		
シラバスに沿ってパワーポイントおよびプリントを使って講義を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	社会福祉事業の歴史性と固有性が理解できる。		4		4	4	4		
②	社会福祉事業と政治・経済・社会との歴史的関連性が理解できる。		4		4	4	4		
③	基本的人権及び人間の尊厳の思想が、社会福祉事業史を通じて理解できる。		4		4	4	4		
④	社会政策の中の社会福祉事業史の位置づけが理解できる。		4		4	4	4		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	オンデマンドでオンライン授業を実施する。	20	20	10	10							60
小テスト等												
レポート等	レポートは毎回の授業について提出するというものではない。レポートの内容は、学修の要約と個人の感想、意見等によって構成される。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	毎週ではないが、授業ののちに課題を出し、概要と感想を含むレポートを提出する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の歴史的動向に注視し、課題の評論等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
メールにて随時コミュニケーションが可能。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		公務員行政の実際と民間事業活動の実際を同時に教育内容に反映することができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	はじめに マインド	リーガルマインドと行政	社会福祉事業史を学ぶ意義について	
	この回の 到達目標	リーガルマインドはどのようなものか、行政マインドとはどのようなものかについてその概要を理解する。		
	事前学修	公務員試験やその他の国家試験での過去問題で社会福祉事業の歴史についてどのような出題があるか確認する。（2時間）		120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）		120分
2	イギリス救貧法成立以前。		チューダー王朝までのイギリス社会と古典的福祉制度	
	この回の 到達目標	エリザベス救貧法が成立する以前のイギリスの状況について理解する。		
	事前学修	古代から中世までのイギリス史を文献、インターネット等によって調べる。（2時間）		120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）		120分
3	エリザベス救貧法の成立過程		中世封建制度の変容と重商主義体制	
	この回の 到達目標	世界初の公的扶助制度がイギリスの地で発生した前後の状況について理解する。		
	事前学修	エリザベス一世のイギリスの時代を把握する。（2時間）		120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）		120分
4	1662年定住法について		定住法の成立とピューリタン革命による絶対王制による国内政治の混乱	
	この回の 到達目標	救貧法成立の後に、関連立法として成立した定住法について理解する。		
	事前学修	ピューリタン(清教徒)革命の概略を把握する。（2時間）		120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）		120分
5	ナッチブル法とワークハウスの誕生		名誉革命による社会の安定とナッチブル法による救貧法対象者の施設収容主義の成立	
	この回の 到達目標	生活困窮者及び高齢者、障がい者等の院内救済を促進したナッチブル法時代は、ワークハウスの建設が促進された。これらの状況について理解する。		
	事前学修	名誉革命と議会政治の発達および救貧法体制の拡充について調べる。（2時間）		120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）		120分
6	ギルバート法の成立過程		産業資本主義の萌芽と救貧法の人道主義化	
	この回の 到達目標	院内救済の弊害が叫ばれ、ギルバートによって在宅で救済が行われる院内救済が奨励された。この時期について理解する。		
	事前学修	18世紀の経済社会変動と重商主義から産業資本主義移行期における社会政策の動きを把握する。（2時間）		120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	イーデンの貧困調査	産業革命と旧救貧法の行き詰まり	
	この回の到達目標	18世紀後半のエリザベス救貧法が次第に効力をなくしてゆく状況について理解する。	
	事前学修	18世紀末の産業革命時の急激な社会変動と社会福祉事業を把握する。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
8	政治経済学の誕生と旧救貧法	救貧法廃止論と救貧法存続論　タウンゼンドとジェレミー・ベンサムの理論	
	この回の到達目標	経済学の誕生とこの理論に影響を与えた旧救貧法について理解する。	
	事前学修	ホイッグ党による議会制改良手技による社会政策を把握する。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
9	新救貧法成立への途	古典派資本主義経済理論と救貧法の改正	
	この回の到達目標	1834年の新救貧法成立前後の状況について理解する。	
	事前学修	19世紀初めの資本主義の進行と貧困について考察する。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
10	新救貧法の成立と内容	新救貧法の成立過程とともに、同法の内容及び原則について理解する。	
	この回の到達目標	新救貧法の趣旨と条項ごとの内容を確認する。	
	事前学修	新救貧法の内容についてインターネット等であらかじめ予習をする。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
11	労働運動と慈善組織活動	新救貧法成立後に発生した労働運動と、この時期に中産階級によってなされた慈善活動について理解する。	
	この回の到達目標	スウィング一揆、チャーチスト運動、それに友愛組合運動、COS等を理解する。	
	事前学修	スウィング一揆、チャーチスト運動、それに友愛組合運動、COS等について把握する。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
12	失業問題	近代労働者階級による貧困問題へ理解と、それを実施したロンドン調査、ヨーク調査等について	
	この回の到達目標	近代的産業社会の発展と貧困の概念の変化をブース、ラウントリーらの業績を通じて理解する。	
	事前学修	ブースのロンドン調査、ラウントリーのヨーク調査について把握する。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自由社会改良の時代と貧困に関する 王立委員会報告	普通選挙の拡大による労働者階級の政治参加と、社会政策の重視について。	
	この回の 到達目標	高齢者処遇への政策接近と王立委員会の内容について理科愛する。	
	事前学修	19世紀末から20世紀初頭の自由党、労働党の政治的動きについて把握する。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
14	救貧法の解体	2つの世界大戦による保守・労働両党の社会政策及び社会保障の興隆と救貧法の解体	
	この回の 到達目標	1930年の救貧法の廃止に至る政治的動向について理解する。	
	事前学修	ロイドジョージ内閣、マクドナルド内閣、ネヴィル・チェンバレン内閣等の政治的動きを把握する。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分
15	まとめ	イギリスの社会政策である救貧法に見る歴史的意義	
	この回の 到達目標	イギリス救貧法の通史を通じて、貧民、高齢者、障がい者等の処遇の変遷を把握する。	
	事前学修	すべての講義内容を概観し、まとめてみる。（2時間）	120分
	事後学修	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）	120分

科目名	公共政策特殊講義B	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会福祉事業史は人々の側から制度の歴史を学ぶ学問であるとともに、日本における基本的人権の具体的な発達を知るうえでも重要である。日本における社会福祉の思想及び制度の発展過程を歴史的に掌握する。奈良時代から中世および江戸期までに確立した日本の社会福祉の発達過程を考察するとともに、近代社会福祉制度の成立に関わる明治大正、昭和時代の人権思想の成立、変容・発展過程についても考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本社会福祉事業史の履修講座は公務員の社会福祉主事任用資格要件を得るための基幹講座となっている。従来の日本社会福祉事業史とは異なった、より精緻で幅の広い学問的研究視点を醸成することを目的とする。日本における社会福祉の思想及び制度の発展過程を歴史的に掌握し、説明できるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：公共政策学科 1， 3， 4， 5

【履修条件】
学科の別を問わない。履修を望む2年以上の学生に対してはそれが実現できるように配慮する。

【授業方法】		
オンディマンド方式でオンライン方式の講義を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会福祉事業の歴史性と固有性が理解できる。						4		4	4	4			
②	社会福祉事業と政治・経済・社会との歴史的関連性が理解できる。						4		4	4	4			
③	基本的人権及び人間の尊厳の思想が、社会福祉事業史を通じて理解できる。						4		4	4	4			
④	社会政策の中の社会福祉事業史の位置づけが理解できる。						4		4	4	4			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	オンラインで授業を実施する。授業後に与えられた課題についてレポートを提出する。個々のレポートの総合的評価によって成績を決める。	20	20	10	10							60
小テスト等												
レポート等	レポートは毎回の授業について提出するというものではない。レポートの内容は、学修の要約と個人の感想、意見等によって構成される。	5	5	5	5							20
討論・発表等	質問、確認等はメールによって行う。											
授業への参画度	毎週ではないが、授業ののちに課題を出し、概要と感想を含むレポートを提出する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済・社会の歴史的動向に注視し、文献を駆使して課題の評論等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
メールアドレス宛、随時質問、意見の表明することができる。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当 公務員行政の実際と民間事業活動の実際を同時に教育内容に反映することができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本の社会福祉事業の概観	慈善博愛から人権思想の尊重まで	
	この回の到達目標	本講義の意義と目的について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
2	日本社会福祉事業の源流	奈良時代、および鎌倉時代の仏教的博愛思想による慈善事業、奈良仏教による慈善事業、鎌倉期の真言律宗の慈善活動について	
	この回の到達目標	聖徳太子、行基、光明皇后、叡尊、忍性等の日本の社会福祉事業化による活動について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
3	江戸期の社会福祉事業（1）	享保の改革と「小石川（赤ひげ）養療院」	
	この回の到達目標	徳川吉宗の享保の改革と小川笹船による小石川養成所について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
4	江戸期の社会福祉事業（2）	寛政の改革、長谷川平蔵と石川島人足寄せ場、松平定信の七分積金制度	
	この回の到達目標	長谷川平蔵による石川島人足寄せ場に経営とその内容、松平定信が創設した江戸七分積金制度の内容を理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
5	明治維新とキリスト教慈善普及活動	明治維新前後から日本に入ってきたキリスト教慈善活動について	
	この回の到達目標	日本に流入した明治初期のキリスト教慈善活動を、カトリック、プロテスタントについてそれぞれ理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
6	東京養育院の社会福祉事業と恤救規則の成立	幕末から明治前半の政府、自治体による社会福祉事業活動	
	この回の到達目標	明治初期に行った維新政府による社会政策立法について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本の民間社会福祉慈善活動	キリスト教思想の浸透と民間社会福祉活動 石井十次、留岡幸助、山室軍平、石井亮一について	
	この回の到達目標	日本の社会福祉事業の創始者とその内容について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
8	大正デモクラシーと低所得、貧困層への社会政策	近代低賃労働者の発生と新しい貧困問題の発見。片山潜、横山源之助の事業	
	この回の到達目標	日本の近代的規定賃金労働者の創生と貧困問題の発成及びその発見と対処を試みた片山潜、横山源之助の事業について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
9	米騒動と政府・民間による社会政策	米騒動と関東大震災に直面した時代の行政、民間の福祉活動 セツルメント、井上友一、賀川豊彦	
	この回の到達目標	米騒動の内容と推移及び関東大震災によって対処した社会福祉事業活動について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
10	社会主義の浸透と救護法	マルクス主義浸透への対処と救護法の成立	
	この回の到達目標	救護法成立に至る昭和初期の政治・経済状況について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
11	敗戦と占領下の社会福祉事業	GHQの指令と福祉3法の時代	
	この回の到達目標	アメリカ占領軍による社会福祉関連立法の成立とその内容について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
12	高度経済成長と社会福祉制度の拡充、発展	国民皆保険・皆年金、福祉6法、1973年の福祉元年等の社会福祉法制度の充実とその内容について	
	この回の到達目標	日本の高度経済成長とその余慶としての福祉国家の充実の過程について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本型福祉の模索	欧米福祉国家へのキャッチ・アップの時代から日本型福祉の時代へ	
	この回の到達目標	1980年代の世界的不況と福祉後退の局面における日本の福祉国家の在り方への模索段階について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
14	社会福祉基礎構造改革	官庁による措置の時代から民営化による民間の契約の時代へ 社会福祉制度改革	
	この回の到達目標	2000年を境とした社会福祉基礎構造改革の内容とその後の変化について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
15	まとめ 新たな社会福祉の充実に向けて	現在当面している社会福祉の課題	
	この回の到達目標	当面する社会福祉の課題と、将来の方向性について議論する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

科目名	公共政策論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				○

【授業の概要】
本講義では、政治の表舞台・裏舞台において活動する政治的アクターの組織と機能について触れつつ、実際の公共政策を事例として取り上げ、その形成過程、及びわが国における公共政策の現状と課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会を深く観察し、その問題・課題を理解しながら「政策人」としての素養を身に着けることを目的とします。 同時に、社会問題の解決策を究明し、そのための政策オプションについて理解します。

【履修条件】
※公共政策学科の必修科目です。他学科の学生は履修できません。

【授業方法】
原則として講義形式で進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進めます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の諸問題や政策形成過程に興味を持ち、新聞を読むようになる。				2		2	2				2
②	学生が、現代社会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。						2	2				2
③	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。						2	2				2
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	現代社会における政策及び政策形成過程の特質やその問題について、主に到達目標①②③の観点から十分に理解できているかを評価します。	10	30	40								80
小テスト等	授業中に実施される小テストにおいて、主に到達目標②③にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価します。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に積極的に参加することが求められます。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回の小テスト等に対する講評を行い、政策や政策過程に対する理解の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2021年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	「公共政策」とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、公共政策の意義やその特殊性について理解することができる。	
	事前学修	履修条件を説明するので、初回ガイダンスには必ず出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認するとともに、教科書を用意しておくこと	120分
2	国家の役割と公共政策	国家の中で果たす公共政策の役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、戦前と戦後とで公共政策の果たす役割が大きく変化したことを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
3	公共政策と議会	日本の国会の会期制や委員会制度のついて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本の国会の会期制や委員会制度が特殊であることを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
4	公共政策と議会	先進各国の二院制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本の国会の二院制が特殊であることを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
5	公共政策と政党	政策形成過程において政党が果たす役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政党の性格や役割、その意義や問題について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
6	政府と官僚制	行政国家の意味や官僚の役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、行政国家における官僚制度の特質について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	利益集団の圧力活動		利益集団の定義及び政策過程において利益集団が果たす役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、利益集団の圧力活動のメリットとデメリットについて把握することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
8	政策過程のモデル		主に欧米において用いられてきた政策過程を説明する理論モデルを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、政策過程を説明するモデルの意味やその限界について理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
9	政策類型論		政策の内容が政策過程を決定するという理論モデルを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、代表的な政策類型モデルを理解するとともに、その問題点を把握することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
10	戦後の日本における公共政策の展開		戦後の日本において、重点政策がどのように変化していくのかを選挙と絡めて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、選挙と政策の関係性を把握しながら、戦後日本政治の流れを理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
11	戦後の日本における公共政策の諸問題		戦後の日本において実施されてきた重要政策の意義や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、戦後政治史における公共政策の変遷やその問題・課題について理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分
12	現代日本における公共政策の現状		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の概要を把握し、それを他者に説明することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現代日本における公共政策の諸問題	現代日本における公共政策の問題について、具体例を挙げながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の問題点を把握し、それを他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
14	現代日本における公共政策の課題	現代日本における公共政策の今後の課題について、具体例を挙げながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、現代の日本における重要政策の課題を把握し、それを他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分
15	まとめ	これまでの授業で扱った諸政策、及び政策過程の問題や課題について整理しながら学修する。	
	この回の到達目標	公到達目標①②③に関連し、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を説明することができる。	
	事前学修	公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得する。	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと	120分

科目名	公共選択論	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
選挙・政党・議会といった政治活動などの過程を経済学の手法を使用して分析する。また、これらの過程を明らかにするのみではなく、投票制度、政治資金に関する規制等、現実の政策論へと展開していくことも対象としているため、政策決定の枠組みを規定する諸制度の設計を重点的に学修する。最終的に、政治過程を理論的に理解することで、経済学が意図する最適な政策を提供することの不確実性及び政治活動の過程における法の重要性を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治活動の過程に関する研究を進めていくために必要な日本及び世界における政治活動の過程に関するシステムの知識及び問題発見・解決力を習得するために、政治活動の過程に関する基本的理論や核心となる概念を理解する。

【履修条件】
特にないが、基本的な政治学及び経済学の知識を有していることが望ましい。

【授業方法】
参考書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共選択論における主要な概念や理論を識別することができる。						2						
②	世界の経済及び政治システムにおける主要な概念や理論を識別できる。						2						
③	公共選択論における各モデルの帰結を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						2		2				
④	公共選択論における各モデルの帰結を教訓として、現代社会の諸問題に対して解決策を提示することができる。						2		2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	25	25							70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②③④に関わる基礎知識及び問題解決能力を評 価する。	5	5	10	10							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
(1)テキストブック公共選択	川野辺裕幸・中村ま づる編	勁草書房	2013年	参考書	任意
(2) 公共選択の経済分析	小西秀樹	東京大学出版会	2009年	参考書	任意
備考	特定の教科書は指定しないが、上記の参考書、特に(1)を熟読することが望ましい。講義日前日までに講義資料をポータルシステムにて配布する。授業内では配布しないため、必要に応じて持参すること。				

【オフィスアワー】	
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取ること） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	公共選択論とは何か？：公共選択論の射程、成績評価について	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、公共選択論を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、公共選択論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認し、「公共選択」「政治経済」といったキーワードについて自分なりに理解してくること。	90分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、どの分野に興味があるかを自分なりに考え、日本での現状について調べてみる。	150分
2	公共選択論の対象と方法論について	公共選択論の分析対象と方法論（規範的・実証的）について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共選択論の分析対象とその方法論を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：経済学、政治学、政治経済学	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、経済学及び政治学における各プレイヤーの概念を比較し、その違いをまとめること。また、公共選択の対象とその分析手法について自分なりにまとめること。	120分
3	政府の失敗と市場の失敗の違いについて	経済学における市場の失敗と公共選択論における政府（政治）の失敗について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の失敗と政府の失敗及び2つの失敗の関係性について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政府の失敗、市場の失敗	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、経済学における市場の失敗についてまとめること。また、公共選択論における政府の失敗についても再確認し、2つの失敗がどのように関係しているかをまとめること。	120分
4	公共選択論における大きな政府と小さな政府の違い	政府がどれほど市場又は社会へ関与しているかを意味する指標として、大きな政府と小さな政府について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大きな政府と小さな政府の概念及び関連する統計等の内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：大きな政府、小さな政府、社会保障	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、大きな政府と小さな政府の特徴をまとめること。また、日本、アメリカ、中国などの各国政府はどちらのタイプに当てはまるかを考えてみる。	120分
5	投票ルールの考え方(1)：多数決のルールについて	多数決のルールに関して、最もシンプルである全員一致ルール等に関して説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多数決ルールの考え方とそれぞれのルールの意味について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：パレート最適、メイの定理	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、多数決のルール設定についてまとめ、投票ルールが投票結果に与える影響をまとめること。	120分
6	投票ルールの考え方(2)：投票のパラドックスとアローの不可能性定理	投票ルールを考える上での問題点として投票のパラドックスとアローの不可能性定理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票のパラドックスとアローの不可能性定理について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：投票のパラドックス、アローの不可能性定理	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、投票のパラドックスとアローの不可能性定理についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	投票ルールの考え方(3)：中位投票者定理の理解とその応用	中位投票者定理について説明し、どのように実際の投票ルールに応用するかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中位投票者定理及び現実の投票ルールへの応用方法を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：中位投票者定理	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、中位投票者定理の理解及び前回の内容の再確認を行う。	120分
8	選挙時における政治家の行動に関する理論	選挙時における政治家の得票最大化行動について理論的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙時における政治家の最大化行動及び現実の問題を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政治家、得票最大化行動	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、選挙時に政治家が何を重視して選挙活動を行うかをまとめること。また、現実の世界ではどうなっているかも自分なりに調べてみる。	120分
9	二大政党制及び多数政党制における政党間競争	主にな政党制度として二大政党制及び多数政党制について説明したうえで、両制度においてどのように政党間競争が行われるかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党制度の違い、多党制の発生要因、そして各制度ごとに政党間競争に関して理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：二大政党制、多数政党制	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、政党制の違いによって政党間競争がどのように異なってくるかをまとめること。	120分
10	合理的投票者と論理的投票者の理解	投票者の行動を理解するために合理的投票者と論理的投票者について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、両投票者の行動及び自身の投票行動に関して理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：合理的投票者、論理的投票者	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、合理的投票者と論理的投票者の違いについてまとめること。また、自身はどのように投票を行なっているかを考えること。	120分
11	公共選択路における官僚制度に関する理論：ニスカネンモデル、ダンレヴィーモデル	政治主体の1つである官僚の行動に関して、ニスカネンモデル及びダンレヴィーモデルについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、官僚制度及び官僚の最大化行動に関して理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：ニスカネンモデル、ダンレヴィーモデル	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、官僚制度における官僚の最大化行動に関してまとめ、日本の現状についてももう一度考えをまとめること。	120分
12	政治的景気循環について	動学的な分析を行うために、政治的景気循環について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済政策と政治（活動）の関係について理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政治的景気循環、選挙競争、マクロ経済政策	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、政治的景気循環についてまとめること。その中でも、特にマクロ経済政策と政治の関係についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公共選択論と財政赤字の問題	現在日本でも問題となっている財政赤字を公共選択論の分析フレームワークを使用しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政赤字が公共選択論においてはどのように扱われているかを理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：財政赤字、政治経済学	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、財政赤字とその解消方法についてまとめること。また、経済学と公共選択論における財政赤字への考え方の違いについてもまとめること。	120分
14	公共選択と現実の政策	公共選択論の分析フレームワークを使用し、現実社会で発生している諸問題に関する考え方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共選択論の分析手法を通じて日本及び世界における社会的問題を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：社会保障制度、環境問題、国際貿易問題	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、現実世界で起きている問題を解決する時、公共選択論ではどの分析手法が適しているかをまとめること。また、自身の考えもまとめておくこと。	120分
15	講義のまとめ：公共選択と現実世界のつながり	公共選択論の内容を総括し、理論的メカニズム及び政治活動の過程における諸システムに関する問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して公共選択論における理論的メカニズム及び政治活動の過程における注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で政治行動の過程に関する諸システム対して判断ができる。	
	事前学修	これまでの講義資料を参考に講義内容を見直し、疑問点や興味を持った点等をまとめる。	90分
	事後学修	これまでの講義資料を見直し、定期試験の準備を進めること。	150分

科目名	広告コミュニケーションⅠ	担当者	安達 周	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
広告コミュニケーションの概要を学修する。そのため、インターネットの発展による広告の変容、広告の機能、マーケティング、マーケティングにおける広告の役割、広告業界の仕組み、広告会社（広告代理店）の役割、広告を具体化する「広告計画」、広告媒体（テレビ、新聞、ネットなど広告を掲載するメディア）の特性などをテーマとする。併せて広報の概要を学修する。そのため、広告と広報の違い、広報の情報発信とパブリシティ、マーケティングでの広告との連携などをテーマとする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常、私たちは広告を目にしないことはない。テレビCM、ネット広告、新聞広告、雑誌広告、電車内の交通広告などに囲まれて生活している。これら広告は、広告主・広告会社・媒体社などの連携によって私たちの目に触れることになる。この過程には、広告効果を高めるための様々な計画や工夫、法則、理論があり、これらを修得することにより広告コミュニケーションの概要を理解する。併せて広報の概要を、広告との違いや広告との連携などを修得することによって理解する。

【履修条件】
履修条件はないが、後期「広告コミュニケーションⅡ」も履修することが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	広告の機能、広報の情報発信とパブリシティ、インターネットによる広告と広報の変容を理解し、説明することが出来る。【知識】					3	3	3	3				
②	マーケティング、マーケティングにおける広告と広報の役割と連携について理解し、説明することが出来る。【知識】					3	3	3	3				
③	広告業界の仕組み、広告会社の役割について理解し、説明することが出来る。【知識】					3	3	3	3				
④	広告を具体化するために不可欠な「広告計画」について理解し、説明することが出来る。【知識】					3	3	3	3				
⑤	積極的な姿勢で授業に臨むことが出来る。【態度 習慣】					3	3	3	3				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業外課題（期末レポート課題）を出す。 課題提出により到達目標①②③④の達成度を評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	各授業ごとに授業内課題を出す。 課題提出により到達目標⑤の達成度を評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて開示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
個人メールアドレス meguru@arion.ocn.ne.jp 宛か adachi.meguru11@nihon-u.ac.jp 宛にて随時受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【広報とは何か 広告と広報の違い パブリシティ】	授業方法、成績評価方法、授業計画などを説明した後、広報とは何か、広報と同義語で使われるPRとは何か、広告と広報の違い、広報の情報がメディアに掲載されるパブリシティについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告と広報の違い、パブリシティについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、広報の発信する情報がメディアに掲載されるプロセスについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、パブリシティと広告の効果の違いについて整理する。	120分
2	【メディアリレーションズ】	広報のメディアリレーションズについて学修する。広報が発信する情報は、テレビや新聞などのメディアを通して広く知らせることが出来る。このため広報にとってメディアとの良好な関係を築くメディアリレーションズが必要不可欠となる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広報のメディアリレーションに関する実務を理解し、メディアとの関係の重要性を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	広報の中核的なツールであるプレスリリース（ニュースリリース）について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、プレスリリースの効果を上げるポイントを整理する。	120分
3	【広告とは何か】【インターネット による広告・広報の変容】	企業にとっての広告の役割、インターネットの出現と発展による広告と広報の変容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告の役割、インターネットが広告と広報に与えている影響について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	自身のテレビCM、ネット広告、新聞広告、雑誌広告への日常の接触度と、一番影響を受けているメディアを整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、インターネットの発展による広告と広報の変容について整理する。	120分
4	【広告の機能】	広告の情報提供機能、説得機能、関係強化機能、経済的機能、社会的・文化的機能について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告の基本的機能である情報伝達機能をはじめ、時に社会の風潮を変化させる社会的・文化的機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	広告の諸機能について調べておく。併せて最近印象に残った広告事例を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告の諸機能を整理する。	120分
5	【広告の定義 広告の種類 広告の歴史】	広告の定義、インターネットの発展による定義の変化、広告の種類、広告の歴史について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、広告の定義とその変化、目的によって異なる広告の種類について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	利益追求が目的ではない「非営利広告」について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告の定義、目的の違いによる広告の種類を整理する。	120分
6	【マーケティングと広告・広報】	広告と広報はマーケティングの一翼を担っている。マーケティングの概要、マーケティングにおける広告と広報の役割と連携について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マーケティングの概要とともに、マーケティングにおける広告と広報の役割、連携について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	マーケティングの基本要素である「4P」と、マーケティングミックスについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、マーケティングにおける広告・広報の役割と連携を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【マーケティングの市場分析】	マーケティングの市場分析方法（PEST分析、SWOT分析、3C分析）について学修する。これらの分析は、広告を具体化する「広告計画」に関係する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マーケティングの市場分析を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	PEST分析、SWOT分析、3C分析、コミュニケーションミックスについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、マーケティングの市場分析方法を整理する。	120分
8	【広告業界の仕組み】 【広告会社の役割】	広告主・広告会社（広告代理店）・広告制作会社・媒体社による連携で成り立っている広告業界と、とりわけ大きな役割を果たしている広告会社について学修する。広告会社の役割を学ぶことによって広告業界の概要が理解出来る。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、広告業界の仕組みと広告会社の役割について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	広告会社と広告制作会社の関係について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告会社の主要な役割を整理する。	120分
9	【広告費の仕組み】 【広告会社の発展過程】	日本の広告業界特有の広告費の仕組み、広告会社の歴史的発展過程について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、広告費の仕組み、広告会社の発展過程を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	「コミッション」と「フィー」、日本と欧米の広告会社の違いについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告費の仕組みを整理する。	120分
10	【広告計画】	広告を具体化するために不可欠な「広告計画」について学修する。広告計画は、広告目標の設定、表現計画、媒体計画などのプロセスを踏む。広告計画を理解することは、広告の概要を理解することにつながる。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告計画の立案実行プロセスを理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	広告計画の際に必要な「製品ライフサイクル」について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告計画の立案実行プロセスを整理する。	120分
11	【表現計画】	広告計画プロセスの一環である「表現計画」について学修する。広告表現をいかに魅力的なものに出来るかは広告の訴求効果を高めるポイントだ。魅力的な広告表現の制作に必要な要素、法則を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告計画でポイントとなる表現計画を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	広告の訴求効果を高めるために必要な5I（ファイブ・アイ）の法則、3Bの法則、UPIについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告表現制作に必要な法則を整理する。	120分
12	【消費者理解の重要性】	広告を制作する上で常に意識すべきは消費者を理解することだ。広告会社の広告制作プロセスを見ることによって、消費者理解のポイントであるアカウントプランニング、コンシューマーインサイトを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、広告計画における消費者理解の重要性を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	アカウントプランニング、コンシューマーインサイトについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、アカウントプランニングとコンシューマーインサイトが消費者理解になぜ必要かを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【各媒体の特性】	様々な媒体（広告を掲載するメディア）の特性について学修する。広告メッセージを最も効果的に伝達するためには、各媒体をどのように組み合わせるかがポイントとなる。そのためには媒体特性の理解が前提となる。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、テレビ・新聞などのマスメディア媒体、ネット媒体などの特性を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	主な媒体（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット、電車などの交通、看板などの屋外）の特性、メディアニュートラルについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、各媒体の特性を整理しておく。	120分
14	【媒体計画】	媒体特性の理解を踏まえ、広告計画で重要な「媒体計画」について学修する。そこにはメディアミックス、クロスメディア、トリプルメディアなど、現代のインターネット社会ならではの重要な概念が反映されており、これらをテーマに学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、媒体計画をメディアミックス、クロスメディア、トリプルメディアの概念と併せて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	メディアミックス、クロスメディア、トリプルメディアについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、媒体計画のポイントを整理する。	120分
15	【ブランド】	ブランドについて学修する。マーケティング研究の第一人者、フィリップ・コトラーが「優れたブランドは、平均以上の収益を確保するための唯一の手段である」と述べているように、ブランドは企業にとって貴重な「資産」となっている。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブランドの重要性について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	コモディティ化、ブランドエクイティについて調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、企業にとってブランドがなぜ資産なのかを整理する。	120分

科目名	広告コミュニケーションⅡ	担当者	安達 周	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
広告コミュニケーションを幅広く学修する。現代の広告コミュニケーションに不可欠なインターネット広告の優れた特性、映画のような「コンテンツと融合した」動画広告、消費者の方から来てもらうインバウンドマーケティング、企業の社会貢献を重視するソーシャルマーケティングと広告、世界展開するグローバルマーケティングと広告、知的財産と広告の関係、広告の法律規制、広告媒体の責任論、記事を装い消費者を欺くステルスマーケティング、広告に見る差別表現などを学修のテーマとする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
広告コミュニケーションを、広告が抱える問題点（負の側面）も含めて幅広く修得する。そのために、ステルスマーケティング、不適切なサイトに広告が掲載される広告価値の毀損（きそん）問題、ジェンダーや人種差別の観点から批判される広告表現などを併せて修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ソーシャルメディアを含むインターネット広告の特性、機能と種類を理解し、説明することが出来る。【知識】						3	3	3	3		3		
②	ネットを利用するマーケティング手法、訴求効果を高めるための広告の工夫を理解し、説明することが出来る。【知識】						3	3	3	3		3		
③	広告の法律規制、業界自主規制、媒体責任、知的財産と広告の関係を理解し、説明することが出来る。【知識】						3	3	3	3		3		
④	ステルスマーケティング、広告による差別表現など、広告の抱える問題点を理解し、説明することが出来る。【知識】						3	3	3	3		3		
⑤	積極的な姿勢で授業に臨むことが出来る。【態度・習慣】						3	3	3	3		3		
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業外課題（期末レポート課題）を出す。 課題提出により到達目標①②③④の達成度を評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	各授業ごとに授業内課題を出す。 課題提出により到達目標⑤の達成度を評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて開示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
個人メールアドレス meguru@arion.ocn.ne.jp 宛か adachi.meguru11@nihon-u.ac.jp 宛にて随時受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】【インターネット広告の特性、種類と機能】		授業計画や成績評価方法を説明した後、広告活動に大きな影響を与えているインターネット広告を取り上げ、その特性、種類と機能、SNSなどのソーシャルメディアを利用した企業の取り組みを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、インターネット広告の特性、種類と機能、ソーシャルメディアを利用した企業の消費者アプローチを理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	テレビ、新聞などの旧メディアによる広告と比較し、インターネット広告の優位性を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、インターネット広告の特性を整理する。	120分
2	【ネイティブ広告 ステルスマーケティング】		「広告を見せられている」という抵抗感を感じさせないネイティブ広告を学修する。併せて広告の負の側面であるステルスマーケティング、不適切なサイトに広告が掲載されてしまう広告価値の毀損問題などを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、ネイティブ広告、ステルスマーケティング、広告価値の毀損について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	問題化したステルスマーケティング事例を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、広告が抱える問題点を整理する。	120分
3	【コンテンツと広告の融合】		映画のようなブランデッドエンターテインメント、映画やテレビドラマの一場面に商品を溶け込ませるプロダクトプレイスメントについて学修する。それにより、見る者に広告であることを意識させず、自然に広告効果を高める工夫を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブランデッドエンターテインメント、プロダクトプレイスメントについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	「コンテンツと広告の融合」の概念を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを参考に、授業で扱った事例以外の「コンテンツと広告の融合」の成功例を調べる。	120分
4	【インバウンドマーケティング】		インターネットの進化とスマホの普及により多様なマーケティング手法が登場しているが、その一つ「消費者に自発的に来てもらう」インバウンドマーケティングについて学修する。併せて旧来の比較広告などの手法について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インバウンドマーケティング、比較広告手法を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	インバウンドマーケティングをはじめとする様々なマーケティング手法について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、インバウンドマーケティング効果を整理する。	120分
5	【ソーシャルマーケティングと広告】		ソーシャルマーケティングと広告について学修する。ソーシャルマーケティングとは、利益追求だけでなく、社会的責任を果たすことによって企業価値、企業イメージを高める手法をいう。社会貢献をテーマとした企業広告の事例を基に学修する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ソーシャルマーケティングの意義を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	ソーシャルマーケティングに基づいた企業広告事例を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、企業が力を入れている社会的課題とその広告事例を整理する。	120分
6	【グローバルマーケティングと広告】		グローバルマーケティングと広告について学修する。世界の距離が縮まるにつれ、世界展開する企業が増えている。マーケティングのグローバル化は広告のグローバル化を必要とし、各国の文化や政治社会制度の違いによって表現計画や媒体計画の変更が必要となることを学修する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、各国の政治社会制度の違い、文化の違いを考慮して展開されるグローバルマーケティングと広告について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	グローバル広告戦略の「標準化」と「現地化」について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、グローバルマーケティングによる広告事例を、欧米の事例を含めて調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【広告の法律規制】		広告は訴求効果を高めようとするあまり、虚偽・誇大表現をしがちであることなどから、様々な規制の下にある。規制には「法律規制」「業界による自主規制」「公正競争規約」がある。初めに法律規制について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、広告法律規制の概要を理解し、説明することが出来る。		
	事前学修	虚偽・誇大表現など「不当表示」規制の代表的法律である景品表示法を調べておく。		120分
	事後学修	最近の景品表示法違反事例を消費者庁ホームページや報道記事などで調べ、「優良誤認表示」「有利誤認表示」を整理する。		120分
8	【広告の業界自主規制 公正競争規約】		業界の自主規制、公正競争規約について学修する。業界自主規制は、法律による規制では不適切な広告の社会的責任、倫理・道徳、業界固有の商習慣を考慮してつくられる。公正競争規約は自主規制に強制力を加えたものだ。これらを学修することによって、広告規制の全体像を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法律規制とは異なる「業界の自主規制」「公正競争規約」について理解し、説明することが出来る。		
	事前学修	広告主、広告会社、媒体社が作る「自主規制」の内容を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告規制の全体像を整理する。		120分
9	【媒体責任】		媒体責任について学修する。広告の責任は本来広告主にあるが、広告により経済的精神的損害を被った者が、広告を掲載した媒体（新聞社やテレビ局）に対し損害賠償訴訟を起こすことがある。媒体責任をどう考えるか、最高裁判例などを基に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、媒体責任について、媒体責任を問われた判例を考察することによって理解し、説明することが出来る。		
	事前学修	媒体責任が問われた代表的事例である「日本コーポ事件」について調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で扱った判例以外の「媒体責任が認められなかったケース」「認められたケース」を調べる。		120分
10	【広告と知的財産】		広告と知的財産について学修する。知的財産を権利者の許諾なく使用することはできない。広告と関係の深い知的財産権は、著作権、商標権、肖像権、不正競争防止法上の権利である。知的財産が広告制作の上でどのように関係してくるのか、どんな点に注意すべきか、知的財産をめぐるどのような係争が起こるかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、広告と知的財産の関係について、著作権、商標権、肖像権、不正競争防止法の観点から理解し、説明することが出来る。		
	事前学修	著作権法が定義する著作物の範囲、広告と知的財産をめぐる係争事例、不正競争防止法を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、著作権、商標権、肖像権、不正競争防止法と広告との関係を整理する。		120分
11	【広告に見る差別表現】		広告に見る差別表現について学修する。広告は、ジェンダーに基づく女性差別、人種差別、障害者差別などの観点から問題化し、時に炎上することがある。批判された事例を検証し、問題点を理解する。広告は「時代を映す鏡」といわれるが、その時代の意識が広告によって浮かび上がる。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告に見られる女性差別、人種差別、障害者差別表現とその原因について理解し、説明することが出来る。		
	事前学修	批判されたテレビCM、ネット動画CM、新聞広告などの事例を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告による差別表現と社会意識との関係を考察する。		120分
12	【続・広告に見る差別表現】		前回に続き、広告による差別表現について学修する。主に人種差別表現をテーマとする。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告に見られる女性差別、人種差別、障害者差別表現とその原因について理解し、説明することが出来る。		
	事前学修	人種差別表現として批判され炎上した広告事例を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、広告による差別表現と社会意識との関係を考察する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【江戸・明治の広告】	江戸・明治の広告について学修する。江戸時代の引札（ひきふだ）、錦絵、明治時代に新しい情報媒体として登場した新聞による広告を学修することにより、日本の広告の発展過程と広告の工夫について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本の近代化に伴う広告の発展過程と広告の工夫を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	江戸時代に越後屋呉服店（現三越）が配布した引札、明治時代に福沢諭吉が新聞広告の効用を説いた「商人に告ぐるの文」を調べておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた広告以外の江戸・明治の広告を「アドミュージアム東京」や文献で調べ、広告の発展過程を整理する。	120分
14	【プロモーションメディアの特性と役割】	目立たないが広告媒体として重要な役割を果たしているダイレクトメール、フリーペーパー、フリーマガジン、POP、展示・映像などの特性と役割を学修する。これらは新聞折込、交通、屋外を加えてプロモーションメディアと称されている。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、マーケティングで重要な役割を果たしているプロモーションメディアの各特性と役割を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	プロモーションメディアの各特性と役割、日本の総広告費に占める同メディアの広告費割合を、電通の「日本の広告費」で調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、プロモーションメディアの役割を整理する。	120分
15	【授業のまとめ】	授業で取り上げた各テーマを振り返ることにより、広告コミュニケーションの全体像を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、広告が抱える問題点も含めた広告コミュニケーションの全体像を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	これまでの講義ノートを確認し、各授業テーマの要点を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートなどをもとに、広告コミュニケーションの全体像を整理する。	120分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅰ	担当者	古川 隆	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
4年次に履修可能となる広報広告演習Ⅱ・Ⅲで「卒業レポート」を作成するための準備段階の位置づけ。大きく三つの内容がある。①広報論の基礎知識（講義）②問題発見と解決力の醸成（グループワーク）③論理的な文章力の向上（新聞クリッピングレポート）これらの内容を組み合わせ総合的に取り組んでいく。広報ならびに広告は授業担当者の専門研究分野であり、本務での業務分野でもある。4年次の卒業レポート作成に向けたアドバイスが可能である。【本演習は3年生が対象である。4年生の履修は想定していない】

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会人として必要な広報と広告についての基本的な知識や企業活動における役割とそれぞれの違いを理解出来る能力を養成することを目標とする。ひとつのテーマについて問題発見と解決方法を考えられるようにする。自らの考えを論理的な文章で書けるようになる。本講座では、これらの目的を達成するために毎回の授業での決められた提出物を提出し、グループワークでの積極的な役割と発表ができることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1, 4, 8

【履修条件】
本演習は3年生が対象である。4年生の履修は想定していない。企業における広報や広告に興味をもっていること。広報の理論と実践を理解して、社会人になった将来にそれを生かすことを希望していること。事前・事後学習における課題にきちんと取り組めること。

【授業方法】
通常の講義の他、小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議なども取り入れる。積極的な授業参画を求める。また、受講者の理解度を勘案し、授業の方法や内容を変更することがある。4年次になり卒業レポートを作成する予定の3年生を対象とした授業である。卒業レポートを作成することができない4年生の履修はクラス全体によくない影響を与えるので遠慮してもらいたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケーススタディを用いて小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議を早い段階で数回行う。このグループワークは4年次の演習Ⅱと演習Ⅲでも継続するので重視している。グループワークの基本を学んでもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	新聞クリッピングレポートがきちんと作成できる。						2	2				
②	与えられたテーマに基づき200字作文が書ける。				2	2						
③	グループワークに積極的に参加して自らの役割を達成できる。						2			2		
④	確認テスト（筆記）において一定レベル以上の回答を導き出せる。				2	2	2	2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	授業を通して到達目標①②③に関連し、学修した内容についてきちんと理解できているかどうかを期末（授業内）に確認テストを実施して評価する。成績評価で比重がもっとも大きい。確認テストを受験しない場合は単位認定はされない。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	新聞クリッピングレポートにおいて、到達目標③④に関連して記事に対する論述が十分に行われているかどうかを評価する。			10	10							20
討論・発表等	グループワークにおけるグループ内での討議や全体での発表、全体討議などでテーマや質問に対して前向きに意見を述べ有益であったかどうかを評価する。			10		10						20
授業への参画度	授業の内容にかかわらず学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業への参加は成績評価の前提であり、出席状況自体は加点・減点の対応とはならない。欠席の際も課題の提出は免除されない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	25	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
特になし					
備考	受講者の理解度を勘案して、開講後教科書（または参考書）を指定することがある。				

【オフィスアワー】
金曜16:10～ 30分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する）なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	広告会社ならびにコンサルティングファームでの実務経験。現職はマーケティングコンサルティング会社の代表取締役。多くの製薬企業やソリューション企業にアドバイスをしている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		広告や広報の理論や実践に関して実務者の観点から講義を行う。グループワークは企業で行われる形式を準用して行い社会人となった際に備えてもらう。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		オリエンテーション。半年間の授業計画や内容を説明し、講師の自己紹介や学生の自己紹介を行う。授業に関する事前のアンケートも実施する。今後必要となる「新聞クリッピングレポート」の作成方法を詳しく説明する。	
	この回の到達目標	授業内容を理解する。新聞クリッピングレポートの作成方法を理解する。		
	事前学修	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)		120分
2	グループワークの説明		前回実施した授業アンケートの結果をフィードバックする。200時作文を実施する。ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。	
	この回の到達目標	ケーススタディによるグループワークの方法を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)		120分
3	ケーススタディ (1) によるグループワーク		前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ (1) を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。	
	この回の到達目標	グループワークに主体的に参加する。グループ内において自分の役割を達成する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)		120分
4	ケーススタディ (2) によるグループワーク		前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ (2) を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。	
	この回の到達目標	グループワークに主体的に参加する。グループ内において自分の役割を達成する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)		120分
5	ケーススタディ (3) によるグループワーク		前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ (3) を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。	
	この回の到達目標	グループワークに主体的に参加する。グループ内において自分の役割を達成する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)		120分
6	広報論の基礎の講義①「広報の定義、基本」		時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義①を行う「広報の定義、基本」	
	この回の到達目標	広報論の基礎の講義①を聞き、「広報の定義、基本」を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	広報論の基礎の講義②「広報の歴史：米国」		時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義②を行う「広報の歴史：米国」	
	この回の到達目標	広報論の基礎の講義②を聞き、「広報の歴史：米国」を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
8	広報論の基礎の講義③「広報の歴史：日本」		時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義③を行う「広報の歴史：日本」	
	この回の到達目標	広報論の基礎の講義③を聞き、「広報の歴史：日本」を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
9	広報論の基礎の講義④「企業活動と広報」		時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義④を行う「企業活動と広報」	
	この回の到達目標	広報論の基礎の講義④を聞き、「企業活動と広報」を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
10	広報論の基礎の講義⑤「広報とメディア」		時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑤を行う「広報とメディア」	
	この回の到達目標	広報論の基礎の講義⑤を聞き、「広報とメディア」を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
11	広報論の基礎の講義⑥「製品広報（マーケティングPR）」		時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑥を行う「製品広報（マーケティングPR）」	
	この回の到達目標	広報論の基礎の講義⑥を聞き、「製品広報（マーケティングPR）」を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
12	広報論の基礎の講義⑦「IRと社内広報」		時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑦を行う「IRと社内広報」	
	この回の到達目標	広報論の基礎の講義⑦を聞き、「IRと社内広報」を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	広報論の基礎の講義⑧「ネット広報と危機管理」	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑧を行う「ネット広報と危機管理」	
	この回の到達目標	広報論の基礎の講義⑧を聞き、「ネット広報と危機管理」を理解する。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）	120分
14	理解度確認テスト	前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。理解度確認テストを実施する。	
	この回の到達目標	理解度確認テストに取り組む。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）	120分
15	理解度確認 講評	前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。前回実施の理解度確認テストの回答と解説、講評を行う。本講座終了にあたり総括を行い、4年次履修可能な広報・広告コミュニケーション演習Ⅱ・Ⅲについて説明をする。	
	この回の到達目標	理解度確認テストの回答と解説、講評を受けて自分の回答を振り返る。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）	120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）	120分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	担当者	古川 隆	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
主に広告並びに広報を研究対象とした授業で、研究の対象となる広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得し、卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)の技法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観（DP-1、CP-1）日本及び世界の社会システムを理解し説明する力（DP-2、CP-2）、論理的・批判的思考力（DP-3、CP-3）、問題発見・解決力（DP-4、CP-4）とコミュニケーション力（DP-6、CP-6）を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。

【履修条件】
演習Ⅰの履修で単位を取得し広報や広告に関するテーマを持っていること。1年間かけてレポートを書き上げる意気込みがあること。就職活動（欠席）には配慮するが、事前・事後学習の課題に関して責任を持って取り組むこと。

【授業方法】
通常の講義の他、小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議なども取り入れる。積極的な授業参画を求める。広報や広告に関するテーマが決まっていない学生は早期（4月～5月）にテーマを決めるように指導をする。各自のテーマに基づいた発表を随時行ってもらおう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケーススタディを用いて小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議を早い段階で数回行う。演習Ⅰですでにグループワークを実施しているので、より発表や討議の比重を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を取り扱うことができる人材を育成する。					3						
②	日本社会全体および世界的視野に立って、諸問題を理解し、説明することができる人材を育成する。						3					
③	考察の対象を客観的にかつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。							3				
④	「自ら課題を発見し、それを解決できる」といった研究活動に積極的に関与できる人材を育成する。								3			
⑤	担当教員や他の履修生の意見を謙虚に受け容れ、結局的に生産性のある議論に参加できる。										3	
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業を通して広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得したうえで、自らの卒業レポートのテーマを設定し、作成していくための「卒業レポート作成計画書」を期末（授業内）に提出し、その内容にて評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、学修内容を踏まえて論理的かつ批判的案論証が行われているか評価する。	10	10	10								30
討論・発表等	課題や研究テーマについて行われる報告とそれに対する討議において、到達目標④⑤に関連した専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、他の履修者に向けた有益な意見を述べることでできたかを評価する。				10	10						20
授業への参画度	演習という性格上、学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業の参加は成績評価の前提であり、出欠状況自体は加点・減点の対応とはならない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞クリッピングレポート（作成方法は授業にて指導）を毎回の授業で提出してもらうので、新聞の購読はした方がよい。広報や広告に関するテキストは各人のテーマによって個別に指導をする。					

【オフィスアワー】
金曜14:30～ 30分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する）なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	広告会社ならびにコンサルティングファームでの実務経験。現職はマーケティングコンサルティング会社の代表取締役。多くの製薬企業やソリューション企業にアドバイスをしている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		広告や広報の具体的な事例に対する実務者の観点からの解題や説明など。広告会社やPR代理店の実務作業に基づく考え方の教示。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション。1年間の授業計画や内容を説明し、講師の自己紹介や学生の自己紹介を行う。授業に関する事前のアンケートも実施する。2回目以降提出が必須となる新聞クリッピングレポートの作成方法を詳しく説明する。		
	この回の到達目標	本授業の内容をしっかりと理解する。新聞クリッピングレポートの作成方法を理解する。		
	事前学修	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
2	MB0の作成	年間目標設定(MB0)の詳細な説明をし、実際に自分のMB0を作成する。講師が教室を巡回し、作成上の個別指導を行う。前回実施した授業アンケートの結果をフィードバックする。200字作文を実施する。		
	この回の到達目標	自分のMB0を作成する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
3	グループワーク（1）	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ（1）を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。		
	この回の到達目標	グループワークで自分の役割を達成する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
4	グループワーク（2）	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ（2）を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。		
	この回の到達目標	グループワークで自分の役割を達成する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
5	グループワーク（3）	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ（3）を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。		
	この回の到達目標	グループワークで自分の役割を達成する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
6	レポート作成方法（1）	レポート作成方法の講義（1）を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。		
	この回の到達目標	レポート作成方法を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	レポート作成方法（2）		レポート作成方法の講義（2）を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	レポート作成方法を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
8	レポート作成方法（3）		レポート作成方法の講義（3）を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	レポート作成方法を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
9	レポート作成方法（4）		レポート作成方法の講義（4）を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	レポート作成方法を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
10	文献検索方法（1）		レポート作成方法（文献検索）の講義（1）を行う。「大石芳裕研究室 文献検索法」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	文献検索方法を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
11	文献検索方法（2）		レポート作成方法（文献検索）の講義（2）を行う。「大石芳裕研究室 文献検索法」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	文献検索方法を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）		120分
12	卒業レポート作成計画書の作成方法と個別指導（1）		卒業レポート作成計画書の作成方法を講義する。その後個別のテーマヒアリングと指導を行う（1名10分～20分） ※履修人数により個別指導の時間は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	卒業レポート作成方法を理解する。自分のテーマをしっかりと相談する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）		120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。個別指導をもとに卒業レポート作成計画書の作成を行う（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卒業レポート作成計画書の作成方法と個別指導（2）	卒業レポート作成計画書の作成方法を講義する。その後個別のテーマヒアリングと指導を行う（1名10分～20分） ※履修人数により個別指導の時間は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	卒業レポートの作成方法を理解する。自分のテーマをしっかりと相談する。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）	120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。個別指導をもとに卒業レポート作成計画書の作成を行う（2時間）	120分
14	卒業レポート作成計画書の個別発表（A）	卒業レポート作成計画書の個別発表（Aグループ）と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。 ※履修人数により発表の予定は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。	
	この回の到達目標	卒業レポート作成計画書を発表する。全体討議に参加して発言をする。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）	120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。発表後の討議や講評をもとに卒業レポート作成計画書の修正を行う（2時間）	120分
15	卒業レポート作成計画書の個別発表（B）	卒業レポート作成計画書の個別発表（Bグループ）と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。 ※履修人数により発表の予定は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。○夏休み中の課題を発表し、説明をする・	
	この回の到達目標	卒業レポート作成計画書を発表する。全体討議に参加して発言をする。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）	120分
	事後学修	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。発表後の討議や講評をもとに卒業レポート作成計画書の修正を行う（2時間）	120分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	担当者	湯浅 正敏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
主に広告並びに広報を研究対象とした授業で、研究の対象となる広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得し、卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)の技法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観（DP-1、CP-1）日本及び世界の社会システムを理解し説明する力（DP-2、CP-2）、論理的・批判的思考力（DP-3、CP-3）、問題発見・解決力（DP-4、CP-4）とコミュニケーション力（DP-6、CP-6）を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。

【履修条件】
1年かけて大学4年の学びの集大成である「卒業研究レポート」を作成するため、「広報広告コミュニケーション演習Ⅱ」と「広報広告コミュニケーション演習Ⅲ」を継続して履修することが望まれる。

【授業方法】
通常の講義の他、討議型授業、プレゼンテーション等アクティブ・ラーニングも取り入れる。また研究レポート計画書作成の個別指導を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習のため、主体は討議型授業である。論点を提示し、それについて事前レポートを提出させ、討議を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を取り扱うことができる人材を育成する。				3							
②	日本社会全体および世界的視野に立って、諸問題を理解し、説明することができる人材を育成する。					3						
③	考察の対象を客観的にかつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						3					
④	「自ら課題を発見し、それを解決できる」といった研究活動に積極的に関与できる人材を育成する。							3				
⑤	担当教員や他の履修生の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加できる。									3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、学修内容を踏まえて論理的かつ批判的案論証が行われているか評価する。	20	15	15	15							65
討論・発表等	課題や研究テーマについて行われる報告とそれに対する討議において、到達目標④⑤に関連した専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。				15	20						35
授業への参画度	演習という性格上、学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業の参加は成績評価の前提であり、出欠状況自体は加点・減点の対応とはならない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	15	30	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で公表するとともに、コルネットを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『メディア産業論』	湯浅正敏編著	ミネルヴァ書房	2020	教科書	必携
『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』	湯浅正敏単著	ミネルヴァ書房	2020	参考書	推奨
『広告をキャリアにする人の超入門』	湯浅正敏編著	三和書籍	2011	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12：20～13：00（事前メール予約）メールアドレス：yuasa.masatoshi@nihon-u.ac.jp 講義内容、研究レポート作成等相談に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	今広告業界で注目されているテーマや課題を提示する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		カンヌライオンズ審査員への取材を基にした広告クリエイティブのトレンド	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、研究領域	教員自己紹介（研究領域、研究実績等）並びに、シラバスの内容について一通り説明をした上で、広告研究領域の全体像を把握するための講義を行う。授業では、1）社会科学領域（経済学、経営学、法学、会計学）、2）人間科学領域（人文学・社会学・心理学等）、二つに大別される点と研究領域の多様性について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤について、全体的な説明を行う。	
	事前学修	シラバスを確認し、広告について何に関心があるのか、どんな研究をしたいのかといった目的意識をもって授業に臨む。	120分
	事後学修	広告研究は、「経済的側面、コミュニケーション的側面、社会・文化的側面といった多面性を持ち、広告主、生活者、メディア企業、広告会社の関係性も加わることによって、研究領域の多様性を生み出している。」ことを理解し、研究レポートのテーマを検討する。	120分
2	広告産業の概況	事前学習に加え、広告の3つの機能、経済的機能、社会・文化機能、コミュニケーション機能、広告の分類（主体・目的別、表現別）について講義で触れ、広告の研究領域について全体的に把握できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告産業についての理解を深める	
	事前学修	教科書『メディア産業論』6章1節広告産業の概況から、デジタルシフトに向かっていることを理解させ、問題意識を醸成する。	120分
	事後学修	講義ノートと教科書から広告の機能の多面性、一つは企業のマーケティング活動の一環としての経済的機能ともう一つは、「広告は時代を映す鏡である」という社会、文化に与える影響という側面を十分理解し、自分なりに説明できるようにする。	120分
3	広告ビジネスの日米の差異	事前学習に加え『メディア産業論』6章1節広告産業の概況、1）広告主とのアカウント上に違い、2）事業領域、提供サービスの違い、3）報酬制度の違いについて詳細に触れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告産業についての理解を深める。	
	事前学修	教科書『メディア産業論』6章1節広告産業の概況から日米広告会社の相違点についてノートに記入して授業に臨む。（2時間）	120分
	事後学修	講義ノートと教科書『メディア産業論』6章1節広告産業の概況併せておさらいし、欧米を中心とした広告業界のグローバルスタンダードからみて、日本の特異性について考察する。（2時間）	120分
4	広告コミュニケーションの変容	事前学習に加え、メディアの多様化とコミュニケーション・ニュートラル、トリプルメディア（ペイドメディア、オーンドメディア、アーンドメディア）について触れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告コミュニケーションについての理解を深める。	
	事前学修	広告媒体の分類、広告媒体の機能特性について学習する。マスコミ4媒体とは何か、テレビCMとネット広告の違い、電波媒体と印刷媒体特性について、比較考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと資料を併せておさらいし、トリプルメディアにはそれぞれメリット、デメリットがあること、そのためには三位一体の活用が必要であることを十分理解した上で、自分なりに説明できるようにする。（2時間）	120分
5	広告会社のグローバル化	事前学習に加え、日本の広告費のほか、世界の広告費（WARC：World Advertising Research Center）および世界の広告費予測（電通イージス・ネットワーク）からデジタルシフトの現状を把握する。また、世界の広告会社ランキングについても触れる。	
	この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告会社のグローバル化についての理解を深める。	
	事前学修	各自「日本の広告費2019」（2020.2月電通発表）を入手し、特に媒体別広告費について、対前年比、構成比を確認し、数字からどのようなことが言えるのか、意見や考えを持ち寄って授業に臨む。	120分
	事後学修	講義ノートと講義スライド内容（PPT）を併せておさらいし、世界の広告費、国・地域別では成長率が高い国、日本のランキング、媒体別では、テレビ広告費とインターネット広告費について確認する。	120分
6	広告会社のステークホルダー	事前課題「広告会社のステークホルダー」の解答を示す。小説やテレビドラマに取り上げられた作品を通じて、広告業界を理解する。映像題材：海外ドラマ『MADMEN』、『シリウスの道』（原作・藤原伊織 電通出身WOWOW放映）等。	
	この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告会社のステークホルダーについての理解を深める。	
	事前学修	COLNETにアップした課題（広告会社のステークホルダーについて）を事前に記入し、授業に臨む。	120分
	事後学修	テレビドラマを通じて、広告業界についてどのような感想を持ったのかを課題レポートとする。次回の授業で提出。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	広告とブランド		「ブランド理論」の変遷、製品とブランドの違い、ブランドの機能、ブランドの目的等基本的な説明およびブランド・コミュニケーション、ブランドコンセプトの開発については、ハーゲンダッツをケースに解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告とブランドについての理解を深める。		
	事前学修	「ブランド理論とブランディング」の講義スライド内容（PPT）を予め読んで、事前課題を解いて授業に臨む。		120分
	事後学修	なぜ今日ブランドが重要なのか？ 広告会社は、なぜブランド研究およびブランディングに積極的に取り組んだのか？について説明できるようにする。		120分
8	マーケティングのフレームワーク		前半は6回目授業の課題レポートをもとにグループ発表を行う。後半はマーケティングについてセールスとの違い、マーケティングのフレームワーク、PEST（マクロ分析）SWOT分析、3C、4Pについて応用例を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②を重点に広告コミュニケーションについての理解を深める。		
	事前学修	6の課題レポートをグループ内で発表できるように準備する。		120分
	事後学修	発表で注意されたことを理解し、プレゼンテーション技法について次回に活かせるようにする。		120分
9	広告クリエイティブの拡張		参考書『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』の5章を参考資料として抜粋し、補足説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点に広告クリエイティブの拡張についての理解を深める。		
	事前学修	各自参考資料（参考書『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』5章抜粋）を読んで考えをまとめて授業に臨む。		120分
	事後学修	広告クリエイティブの拡張、4つの融合領域について説明できるようにする。		120分
10	世界のクリエイティブのトレンド		世界のクリエイティブのトレンドについて、カンヌライオンズ受賞作品を事例に紹介する。広告からブランデッド・コンテンツへ、広告媒体力からコンテンツ伝播力へ、USPからブランド・フィロソフィーへ、ペイドメディアからオーンドメディア、アーンドメディアへ等7つのトレンドを示す。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点に広告コミュニケーションについての理解を深める。		
	事前学修	広告図書館（汐留・電通本社近く）へ行き、ここ数年の広告専門誌「ブレーン」カンヌライオンズ特集号をみて、受賞作品の中で関心を持ったものを3つ挙げて授業に臨む。		120分
	事後学修	講義ノートと講義スライド内容（PPT）を併せておさらいし、カンヌライオンズのトレンドについて自分なりに考察する。		120分
11	デジタルトランスフォーメーションと5つの領域		授業では、PPTを使ってデジタルトランスフォーメーションと5つの領域BASICについて解説し、問題点を討議する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点にデジタルトランスフォーメーションと5つの領域についての理解を深める。		
	事前学修	教科書「6章1節デジタルトランスフォーメーションと5つの領域」を読み、ネット広告の歴史、基本的な広告手法およびターゲティング手法について学修する。		120分
	事後学修	ネット広告の特性やコンテンツターゲティング、行動ターゲティングの違いについて自分なりに説明できるようにする。		120分
12	個人データの活用と課題		個人データの活用と課題については、テキストの他、参考書『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』について、補足説明をする。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点に個人データの活用と課題についての理解を深める。		
	事前学修	参考資料『広告会社からビジネスデザイン・カンパニーへ』を読み、授業に臨む。		120分
	事後学修	個人データの活用と課題について、理解し、説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	広告と社会的課題	論文とレポートの違い、問いの立て方（テーマの決め方）について学ぶ。 教科書をもとにPPTで補足説明をする。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤を重点に広告と社会的課題についての理解を深める。	
	事前学修	参考資料から問いを立てることの重要性を確認する。	120分
	事後学修	問いの立て方、比較のフィールドの広げ方、類似性と差異について確認する。	120分
14	卒業研究レポート計画書の作成の手引き	教科書をもとにPPTで補足説明をする。	
	この回の到達目標	到達目標③④を重点に研究レポート計画書についての理解を深める。	
	事前学修	参考資料から、問いの立て方のアプローチについて確認する。	120分
	事後学修	歴史的時間軸（縦軸）と地理的空間軸（横軸）で比較し、差異を見つけ分析する。 自分の研究領域に当てはめて問いを発見できるようにする。	240分
15	卒業研究レポート計画書の作成	卒業研究レポート計画書を提出。授業では、後期に向けて計画書作成から研究レポート作成のための作業工程について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④を重点に研究レポート計画書についての理解を深める。	
	事前学修	卒業研究レポート計画書を作成し、授業に臨む	120分
	事後学修	各自夏季休暇を利用して、研究レポート作成のための研究活動を行う。	480分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	古川 隆	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
主に広告並びに広報を研究対象とした授業で、広告研究の対象となる広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得し、卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)や論理的な文章構成について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学4年間の学びの集大成、成果物となる「卒業研究レポート」を作成することを目指す。 新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観（DP-1、CP-1）、日本及び世界の社会システムを理解し説明する力（DP-2、CP-2）、論理的・批判的思考力（DP-3、CP-3）問題発見・解決力（DP-4、CP-4）、コミュニケーション力（DP-6、CP-6）を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。

【履修条件】
広報広告演習Ⅱの単位を取得していること。1年間かけてレポートを書き上げる意気込みがあること。就職活動（欠席など）には配慮するが、事前・事後学習の課題に関しては責任を持って取り組むことが大前提である。

【授業方法】
各自が作成途中の卒業レポートに関する個別の発表と全体での討議を数多く実施する。通常の講義、グループワークと発表なども取り入れる。他に個別のレポート作成指導なども時間を決めて行う予定である。※履修人数により指導方法の変更がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各自が作成途中の卒業レポートの発表と全員での討議の場を進捗に応じて数多く設ける。ケーススタディを用いた小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議も行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を扱うことができる人材を育成する。					4							
②	日本及び世界における諸問題を理解し、説明することができる人材を育成する。						4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。							4					
④	自ら問題を発見し、問題に対する解決策を考え、積極的に提案することができる人材を育成する。								4				
⑤	担当教員や他の履修生の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。										4		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末（授業中）に卒業レポートの提出をもって試験に代える。成績評価でもっとも比重が大きい。教員の指導を受けずに卒業レポートだけを提出しても単位認定はしない。卒業レポートが提出されない場合はもちろん単位認定をしない。	10	10	10	10	10						50
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、学修内容を踏まえて論理的かつ批判的な論証が行われるかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	課題や研究テーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標④⑤に関連して専門的な知識に基づいて論理的な議論を行うことができ、他の履修者に向けた有益な意見を述べることであったかを評価する。					10						10
授業への参画度	演習という性格上、学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業の参加は成績評価の前提であり、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に随時行う。

【教科書・参考書等】						
	書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	新聞クリッピングレポート（作成方法は授業にて指導）を毎回の授業で提出してもらうので、新聞の購読はした方がよい。広報や広告に関するテキストは各人のテーマによって個別に指導をする。					

【オフィスアワー】
金曜14:30～ 30分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する）なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 広告会社ならびにコンサルティングファームでの実務経験。現職はマーケティングコンサルティング会社の代表取締役。多くの製薬企業やソリューション企業に対してアドバイスをしている。
実務経験に基づく実践的教育の内容		各自の研究テーマに合わせた調査の設計の指導やテーマに合わせた企業関係者の紹介などが行える予定。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		後期オリエンテーション。半年間の授業計画や内容を説明する。前期提出の目標設定(MB0)のレビューの方法を説明し、各自がレビューを記載する。そのうえで各自の課題の認識を促す。前期最終回に提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	後期の授業内容を理解する。MB0レビューを行う。		
	事前学修	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。MB0のレビューをもとに卒業レポート作成上の現状の課題をノートにまとめ、解決方法を考える。(2時間)		120分
2	卒業レポートのドラフト個別発表(Aグループ)		卒業レポートのドラフト(夏休みの宿題)の個別発表(Aグループ)と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	各自の卒業レポートのドラフトを発表し、討議を行う。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)		120分
3	卒業レポートのドラフト個別発表(Bグループ)		卒業レポートのドラフト(夏休みの宿題)の個別発表(Bグループ)と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	各自の卒業レポートのドラフトを発表し、討議を行う。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)		120分
4	卒業レポートのドラフト個別発表(やり直しグループ)		卒業レポートのドラフト(夏休みの宿題)の個別発表(やり直しグループ)と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	各自の卒業レポートのドラフトを発表し、討議を行う。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)		120分
5	卒業レポートのドラフト個別発表のフォローアップ(1)		レポートのドラフトの発表にもとづくフォローアップの授業(1)を行う。調査の基本知識に関する講義を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	フォローアップ授業の内容を自身のレポート作成に生かす。調査の基本を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。フォローアップ授業から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)		120分
6	卒業レポートのドラフト個別発表のフォローアップ(2)		レポートのドラフトの発表にもとづくフォローアップの授業(2)を行う。ヒアリング実施の基本知識に関する講義を行う。前回は提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	フォローアップ授業の内容を自身のレポート作成に生かす。ヒアリング実施の基本を理解する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。フォローアップ授業から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。(2時間)		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	卒業レポートの個別発表と全体討議 A		卒業レポートの個別発表と全体討議 A（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	卒業レポートの個別発表を行い討議に参加する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）	120分	
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理事。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）	120分	
8	卒業レポートの個別発表と全体討議 B		卒業レポートの個別発表と全体討議 B（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	卒業レポートの個別発表を行い討議に参加する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）	120分	
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理事。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）	120分	
9	卒業レポートの個別発表と全体討議 C		卒業レポートの個別発表と全体討議 C（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	卒業レポートの個別発表を行い討議に参加する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）	120分	
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理事。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）	120分	
10	卒業レポートの個別発表と全体討議 D		卒業レポートの個別発表と全体討議 D（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	卒業レポートの個別発表を行い討議に参加する。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）	120分	
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理事。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）	120分	
11	個別のレポート作成の指導 A		個別の学生に対するレポート作成の指導 A（先着予約順）を行う。※先着順とするので遅い者は指導できません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	個別のレポート作成指導を受けて自身のレポートに生かす。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポート完成に向けてた作成をする（2時間）	120分	
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理事。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへ反映させる。（2時間）	120分	
12	個別のレポート作成の指導 B		個別の学生に対するレポート作成の指導 B（先着予約順）を行う。※先着順とするので遅い者は指導できません。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	個別のレポート作成指導を受けて自身のレポートに生かす。		
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの完成に向けた作成をする（2時間）	120分	
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理事。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへ反映させる。（2時間）	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	個別のレポート作成の指導 C	個別の学生に対するレポート作成の指導 C（先着予約順）を行う。※先着順とするので遅い者は指導できな場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	個別のレポート作成指導を受けて自身のレポートに生かす。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの完成に向けた作成をする（2時間）	120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへ反映させる。（2時間）	120分
14	卒業レポートの提出	卒業レポートの提出を行う。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。	
	この回の到達目標	期限通り卒業レポートを完成させ、提出する。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの提出に向けた最終の作成をする（2時間）	120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）	120分
15	卒業レポートの講評	提出された卒業レポートの講評を行う。1年間の授業の総括と社会人となる前の心構えについて講義をする。 ※この授業での提出が最終期限となる。いかなる理由によっても事後の提出は受け付けない。 （事前提出は相談による）	
	この回の到達目標	卒業レポートの講評を聞き、自身のレポートを振り返る。総括を聞き、社会人となる心構えをする。	
	事前学修	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートが未提出の者は提出に向けた最終の作成をする（2時間）	120分
	事後学修	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）	120分

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	湯浅 正敏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
主に広告並びに広報を研究対象とした授業で、広告研究の対象となる広報専門分野や広告専門分野の専門知識を習得し、卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)や論理的な文章構成について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学4年間の学びの集大成、成果物となる「卒業研究レポート」を作成することを目指す。 新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観(DP-1、CP-1)、日本及び世界の社会システムを理解し説明する力(DP-2、CP-2)、論理的・批判的思考力(DP-3、CP-3)問題発見・解決力(DP-4、CP-4)、コミュニケーション力(DP-6、CP-6)を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。

【履修条件】
前期の「広報広告コミュニケーション演習Ⅱ」の単位を取得していること。研究レポートの課題に関しては、自らが決め、論理的な文章、執筆に取り組む意欲をもつことを望む。

【授業方法】
「卒業研究レポート」作成のための論理的思考力、論理的文章作成力、構成力を重点に指導し、発表形式を中心とした授業とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	研究発表のための事前学修、ディスカッション(意見交換、討議等)、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を扱うことができる人材を育成する。					4					4		
②	日本及び世界における諸問題を理解し、説明することができる人材を育成する。						4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。							4					
④	自ら問題を発見し、問題に対する解決策を考え、積極的に提案することができる人材を育成する。								4				
⑤	担当教員や他の履修生の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。										4		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、学修内容を踏まえて論理的かつ批判的な論証が行われるかを評価する。	10	20	20	20							70
討論・発表等	課題や研究テーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標④⑤に関連して専門的な知識に基づいて論理的な議論を行うことができ、他の履修者に向けた有益な意見を述べることであったかを評価する。				20	10						30
授業への参画度	演習という性格上、学生の主体的な取り組みを前提とする。そのため、授業の参加は成績評価の前提であり、出欠状況自体は加点・減点の対象とはならない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	40	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評を行うとともに、COLNETを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『メディア産業論』	湯浅正敏編著	ミネルヴァ書房	2020	教科書	必携
『広告会社から「ビジネスデザイン・カンパニー」へ』	湯浅正敏単著	ミネルヴァ書房	2020	参考書	推奨
よくわかる卒論の書き方	白井利明・高橋一郎	ミネルヴァ書房	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日（事前メール予約）メールアドレス：yuasa.masatoshi@nihon-u.ac.jp質問内容については、卒業研究レポート作成に限って受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	広告実務の経験を生かした発想法、企画立案、プレゼンテーション技法等
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，導入講義	初回オリエンテーション	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関連して、授業の進め方や評価方法について理解し、これからの学修計画の立て方について説明する。	
	事前学修	シラバスをみて当日のオリエンテーションに臨む。	120分
	事後学修	COLNETで演習問題を解いて、復習する。	120分
2	議論の仕方、意見の仕方	教科書『よくわかる卒論の書き方』7 議論の仕方、10意見の仕方について、解説する。	
	この回の到達目標	特に到達目標⑤について、議論の仕方、意見の仕方を学修する。	
	事前学修	COLNETの講義スライド（（7 議論の仕方、10意見の仕方について）で事前学習する。	120分
	事後学修	COLNETで演習問題を解いて、復習する。	120分
3	企画・プレゼンテーションの技法	企画・プレゼンテーションの技法、	
	この回の到達目標	到達目標⑤について、企画・プレゼンテーションの技法を学修する。	
	事前学修	COLNETの講義スライド（（クリティカルシンキング）で事前学習する。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの講義を聴いて、学んだ点をまとめて提出する。	120分
4	論理的に書く	参考書『よくわかる卒論の書き方』8論理的に書くについて、論理的な組み立て方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③の論理的に書く技法を学修する。	
	事前学修	COLNETの講義スライドで事前学習する。	120分
	事後学修	COLNETの演習問題を解いて、復習する。	120分
5	水平思考と類推思考	水平思考と類推思考の講義をする。	
	この回の到達目標	到達目標③の論理的に書く技法を学修する。	
	事前学修	COLNETの講義スライド（水平思考と類推思考）で事前学習する。	120分
	事後学修	COLNETの演習問題を解いて、復習する。	120分
6	考える技術・書く技術	参考書『新版 考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』による授業。	
	この回の到達目標	到達目標③④の論理的に書く技法を学修する。	
	事前学修	COLNETの講義スライド（ロジカルライティング）で事前学習する。	120分
	事後学修	COLNETの演習問題を解いて、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	A I と創造性	「A I と創造性」について、討議型授業を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
	事前学修	論文「21世紀型教育論—AI時代の創造性教育導入に関する提言—」を読んで授業に臨む。	120分
	事後学修	討議型授業の感想をレポート提出する。	120分
8	考える技術・書く技術	参考書『新版 考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』による授業。	
	この回の到達目標	到達目標②③④の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
	事前学修	COLNETの講義スライド（ロジカルライティング）で事前学習する。	120分
	事後学修	ロジカルライティングを研究レポート計画書作成に応用する。	120分
9	卒業研究レポート計画書の発表（第1回目）	卒業研究レポート計画書の発表（第1回目）討議と評価をする。レポートの書式とマナーの講義。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤	
	事前学修	卒業研究レポート計画書の 発表準備。	120分
	事後学修	レポートの書式とマナーについて、演習問題を解く。	120分
10	卒業研究レポート計画書の発表（第2回目）	卒業研究レポート計画書の発表（第2回目）討議と評価をする。引用、参考文献の表記の講義。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤	
	事前学修	卒業研究レポート計画書 発表準備。事前学習する。	120分
	事後学修	引用、参考文献の表記について、演習問題を解く。	120分
11	卒業研究レポート計画書の発表（第3回目）	卒業研究レポート計画書の発表（第3回目）討議と評価をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
	事前学修	卒業研究レポート計画書 発表準備。事前学習する。	120分
	事後学修	卒業研究レポート計画書の発表で指摘された点を研究レポート作成に役立てる	120分
12	個別卒業研究レポート	個別卒業研究レポート指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
	事前学修	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅶ卒論の書き進め方について、事前学習する。	120分
	事後学修	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	個別卒業研究レポート	個別卒業研究レポート指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
	事前学修	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅶ卒論の書き進め方について、事前学習する。	120分
	事後学修	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。	120分
14	個別卒業研究レポート	個別卒業研究レポート指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
	事前学修	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅷ研究の方法について、事前学習する。	120分
	事後学修	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。	120分
15	1年間の総括	1年間の総括授業。社会で必要な能力・学習・スキル。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤の研究レポート作成に向けての学びの総合力を醸成する。	
	事前学修	参考書『よくわかる卒論の書き方』Ⅷ研究の方法について、事前学習する。	120分
	事後学修	期日までに卒業研究レポートを提出。	120分

科目名	公法特殊講義Ⅰ（憲法）A	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
憲法の権利論（今年度は政教分離に関する最高裁判例を扱う予定である）について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法の権利論に関する知見を深め、判例をはじめとする現実の諸問題に接近する力を養成することを目的とする。 憲法の権利論について基礎となる理解を修得、定着させ、それを踏まえて、最高裁の（本年度は政教分離に関する）重要基本判例を読むことができるようになることを目標とする。

【履修条件】
この講義を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】
授業形態は音声データ（録音）の聴取によるオンデマンド方式とする予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例テキストを精密に読むことができる。						3			3				3
②	憲法上の権利論について批判的に議論することができる。						3			3				3
③	現実の問題と憲法理論との関係について考察することができる。						3			3				3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	全15回各回の課題に加え、レポートをもって行う予定である。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。判例については事前および授業内に指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日の19：00～20：00とします。事前に法務研究科事務課（13号館1階）にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	開講の辞		憲法の権利論とは何かについて考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論とは何かについて問題意識を持つことができる。		
	事前学修	憲法の権利論を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと（2時間）		120分
	事後学修	事前の想像と開講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）		120分
2	最高裁判例を素材とした憲法の権利論		最高裁判例を素材とした憲法の権利論について考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論が最高裁判例を素材とした場合にどのような形をとるかを説明することができる。		
	事前学修	前回の演習内容を前提として今回の演習内容がどのようなものになるかについて想像をめぐらしておくこと（2時間）		120分
	事後学修	次回以下のこの演習の展開を可能な限り予測すること（2時間）		120分
3	主題判例1の判断枠組み		主題判例1の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例1についてその判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例1の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
4	主題判例1の事案類型		主題判例1の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例1の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例1の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
5	主題判例1の構造		主題判例1の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例1の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例1の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
6	主題判例2の判断枠組み		主題判例2の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例2の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例2の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	主題判例 2 の事案類型		主題判例 2 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 2 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 2 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
8	主題判例 2 の構造		主題判例 2 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 2 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 2 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
9	主題判例 3 の判断枠組み		主題判例 3 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 3 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 3 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
10	主題判例 3 の事案類型		主題判例 3 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 3 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 3 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
11	主題判例 3 の構造		主題判例 3 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 3 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 3 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
12	主題判例 4 の判断枠組み		主題判例 4 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 4 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 4 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	主題判例 4 の事案類型	主題判例 4 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 4 の事案類型を説明することができる。	
	事前学修	主題判例 4 の事案類型について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
14	主題判例 4 の構造	主題判例 4 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 4 の構造を説明することができる。	
	事前学修	主題判例 4 の構造について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
15	政教分離の最高裁判例	政教分離の最高裁判例を再点検する。	
	この回の到達目標	①②③ 政教分離の最高裁判例について批判的に議論することができる。	
	事前学修	事前の想像とこの講義との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）	120分
	事後学修	事前の想像とこの講義との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること（2時間）	120分

科目名	公法特殊講義Ⅰ（憲法）B	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
憲法の権利論（今年度はプライバシーの権利に関する最高裁判例を扱う予定である）について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法の権利論に関する知見を深め、判例をはじめとする現実の諸問題に接近する力を養成することを目的とする。 憲法の権利論について基礎となる理解を修得、定着させ、それを踏まえて、最高裁の（本年度はプライバシーの権利に関する）重要基本判例を読むことができるようになることを目標とする。

【履修条件】
この講義を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】		
授業形態は音声データ（録音）の聴取によるオンデマンド方式とする予定である。 なお、下記の授業計画において主題判例５、６、７、８とあるのは、「公法特殊講義Ⅰ（憲法）Ａ」と併せた通し番号を振っているためである。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会に生起する諸事象のなかに憲法問題を発見することができる。						3			3			3
②	発見した憲法問題から法律論としての憲法論を構築することができる。						3			3			3
③	取り扱う主題、素材について判例を用いながら批判的に議論することができる。						3			3			3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	全15回各回の課題に加え、レポートをもって行う予定である。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】											
授業内で行う予定である。											

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。判例については事前および授業内に指示する。				

【オフィスアワー】											
木曜日の17：00～18：00とします。事前に法務研究科事務課（13号館1階）にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。											

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	主題判例 5 の判断枠組み		主題判例 5 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 5 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 5 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
2	主題判例 5 の事案類型		主題判例 5 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③、主題判例 5 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 5 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
3	主題判例 5 の構造		主題判例 5 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 5 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 5 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
4	主題判例 6 の判断枠組み		主題判例 6 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 6 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 6 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
5	主題判例 6 の構造		主題判例 6 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 6 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 6 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
6	主題判例 7 の判断枠組み		主題判例 7 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 7 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 7 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	主題判例 7 の事案類型		主題判例 7 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 7 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 7 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
8	主題判例 7 の構造		主題判例 7 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 7 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 7 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
9	主題判例 8 の判断枠組み		主題判例 8 の判断枠組みについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 8 の判断枠組みを説明することができる。		
	事前学修	主題判例 8 の判断枠組みについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
10	主題判例 8 の事案類型		主題判例 8 の事案類型について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 8 の事案類型を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 8 の事案類型について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
11	主題判例 8 の構造		主題判例 8 の構造について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 主題判例 8 の構造を説明することができる。		
	事前学修	主題判例 8 の構造について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）		120分
12	プライバシーの権利の最高裁判例		プライバシーの権利の最高裁判例を再点検する。	
	この回の到達目標	①②③ プライバシーの権利の最高裁判例について批判的に議論することができる。		
	事前学修	事前の想像とこの演習とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）		120分
	事後学修	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	最高裁判例を素材とした憲法の権利論の再考察	ふたたび最高裁判例を素材とした憲法の権利論について考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論が最高裁判例を素材とした場合にどのような形をとるかを批判的に説明することができる。	
	事前学修	憲法判例とはどのようなものであるかについて考えをめぐらしておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
14	最高裁判例を素材とした憲法の権利論の再考察	みたび最高裁判例を素材とした憲法の権利論について考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論が最高裁判例を素材とした場合にどのような形をとるかを批判的に説明することができる。	
	事前学修	憲法判例とはどのようなものでないかについて考えをめぐらしておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）	120分
15	閉講の辞	憲法の権利論とは何かについてあらためて考察する。	
	この回の到達目標	① 憲法の権利論とは何かについて更なる問題意識を持つことができる。	
	事前学修	憲法の権利論を主題とする演習について当初想像していたことを思い出してみること（2時間）	120分
	事後学修	開講前に想像していた演習の内容と閉講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること（2時間）	120分

科目名	公法特殊講義Ⅱ（行政法）A	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
本講座では、行政法領域の判例の検討と事例研究を行う。 主に行政救済法の分野を取り扱う予定である。必要に応じて行政組織法や行政作用法の範囲も説明する。 履修者数や理解の進捗に対応して、法律の実務に携わる専門家（現職の裁判官、検察官、弁護士等）をゲストスピーカーとして招く予定である。

【授業の目的】（General Instructional Objective:GIO 一般目標）
本講座は、行政法領域における判例を分析し事例研究を行うことにより、行政法全般の理解を深めることを目的としている。行政救済法について基本的な理解がされていることを標準として、関係する判例を読み込むことにより、判例の射程について理解を深める。判例の理解と連動して、実際の事例を解決する際の法的思考力を醸成することを目標にしている。前期は主に判例分析を行い、後期は主に事例演習を行う計画である。場面に応じて国家試験等の過去問を検討する。ロースクール進学希望者については、進学後の行政法及びその関連分野の講座を、支障なく受講できる程度に到達することを目標とする。司法試験予備試験を受験する場合は、本年度又は来年度の最終合格を目標に設定する。

【履修条件】
法職課程の学生であることが望ましい。総合法コースの学生の受講も可能である。ロースクールへの進学希望者、司法試験予備試験受験者及び各国家試験受験者の受講を歓迎する。

【授業方法】
オンデマンド形式で行う。前もって検討予定の判例や事例問題を指定する。該当判例や事例について起案や講評を行う。受講者は全員予習をしてくること。進捗は人数及び理解の進捗状況に応じて調整する。必要に応じて司法試験・予備試験の過去問を活用する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 行政法の判例・裁判例及び事例を分析する際に、オンラインで講評を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の重要事項や関連判例の問題点と理論を理解する。				3			3				
②	行政法に関する知見に基づいて、実際の事例における問題点を発見して分析する。				3			3				3
③	発見した問題点に関する行政法理論と判例を基盤とした分析を適切に発表する。							3				3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的な重要事項や重要判例についてレポートを作成する。	10		20								30
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	10	10	20								40
授業への参画度	講義中に双方向・多方向で質疑応答を行う。		10	20								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質疑応答及び報告発表の際に、受講者に対して評価と解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	教科書と最新版の小型六法を必ず毎回持参すること。六法は、デイリー六法（三省堂）又はポケット六法（有斐閣）の使用を推奨する。毎年9月に翌年版の六法が出版されるので購入・持参すること。教科書指定はしないが、各自がこれまで使用している体系書を必ず併用すること。				

【オフィスアワー】
原則としてメールで対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政、民事及び刑事領域の実務経験に基づいて、具体的な事例における法令の運用を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	前期のガイダンス 判例研究と報告に関する説明	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法を理解する上で重要な項目を理解する。	
	事前学修	シラバスを必ず確認しておくこと。行政法の既習事項について復習しておくこと。	120分
	事後学修	講座内容の確認。行政法の概観を再度点検しておくこと。	120分
2	行政上の不服申立て総論	判例研究 ◆不服申立適格（最判昭和53年3月14日）、処分の告示と不服申立期間の起算点（最判平成14年10月24日）を主に扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、不服申立ての概要を理解するとともに、到達目標②との関連で、具体的な最高裁判所の判例でどのような判断がされているかを判例の射程を意識して分析する。	
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
3	行政上の不服申立て総論	判例研究 ◆審査決定と理由附記（最判昭和37年12月26日）、壁面線指定と不服申立ての教示（最判昭和61年6月19日）を主に扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、不服申立ての実例を理解し判例の射程を考察するとともに、到達目標③と関連して、各判例における理論上の問題点を説明できるようにする。	
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
4	抗告訴訟の対象	判例研究 ◆土地区画整理事業計画（最大判平成20年9月10日）、用途地域の指定（最判昭和57年4月22日）を主に扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で抗告訴訟の意義と役割を理解するとともに、到達目標②と関連して各重要判例の射程を分析して考察する。	
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
5	抗告訴訟の対象	判例研究 ◆建築基準法42条2項の道路指定（最判平成14年1月17日）、病院開設中止勧告（最判平成17年4月14日）を主に扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、抗告訴訟の対象を具体的事例に則して理解し射程を考察するとともに、到達目標③と関係して一連の重要判例の理論的問題点を説明できるようにする。	
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分
6	原告適格	判例研究 ◆都市計画事業認可と第三者の原告適格（最大判平成17年12月7日）、総合設計許可と第三者の原告適格（最判平成14年1月22日）を主に扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して原告適格の意義を理解した上で、到達目標②との関係で第三者の原告適格に関する重要判例の意義と射程を考察する。	
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	原告適格		判例研究 ◆公衆浴場業の競業者（最判昭和37年1月19日）と一般廃棄物処理業の競業者（最判平成26年1月28日）の原告適格を主に取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、競業者の原告適格について理解し射程を分析するとともに、到達目標③と関係して原告適格に関する一連の重要判例の意義を説明できるようにする。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分
8	原告適格		判例研究 ◆特急料金認可と第三者の原告適格（最判平成元年4月13日）、史跡指定解除処分と第三者の原告適格（最判平成元年6月20日）を主に取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各判例の射程と理論構成を分析するとともに、到達目標③との関係で、原告適格の機能と要件の当てはめについて説明できるようにする。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分
9	訴えの利益		判例研究 ◆裁量基準の効果と訴えの利益（最判平成27年3月3日）、放送局免許拒否処分と訴えの利益（最判昭和43年12月24日）を主に取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して訴えの利益の意義を理解した上で、到達目標②との関係で各判例の射程を分析する。さらに到達目標③との関連で、各判例の理論上の問題点を説明できるようにする。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分
10	取消訴訟以外の抗告訴訟		判例研究 ◆義務付け訴訟（最判平成21年12月17日）、懲戒処分差止め訴訟（最判平成24年2月9日）を主に取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①との関連で、抗告訴訟以外の訴訟類型を理解するとともに、到達目標②と関係して各重要判例の理論構成を考察する。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分
11	取消訴訟以外の抗告訴訟		判例研究 ◆在外邦人の選挙権に関する確認訴訟（最大判平成17年9月14日）、事情判決（最判昭和33年7月25日）を主に取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関係して、抗告訴訟と判決の重要事項を理解するとともに、各判例の射程を考察する。さらに、各類型の主要な判例の理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分
12	国家賠償法		判例研究 ◆学校事故（最判昭和62年2月6日）、「職務を行うについて」（最判昭和31年11月30日）を主に取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①との関連で、国家賠償法の基本事項や要件・効果を理解するとともに、到達目標②との関連で各判例の射程を分析考察する。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	国家賠償法		判例研究 ◆河川管理の瑕疵の二つの判例と道路管理の瑕疵の二つの判例を主に取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で国家賠償法上の各要件の意義と事例での解釈を理解するとともに、到達目標③に関連して、各判例の理論構成と問題点を説明できるようにする。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分
14	損失補償		判例研究 ◆正当な補償（最大判昭和28年12月23日）、長期にわたる都市計画制限と補償の要否（最判平成17年11月1日）を主に取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で損失補償の意義を理解し、到達目標②との関係で損失補償の実例を分析する。その上で、それぞれの重要判例の射程と理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分
15	前期の総まとめ		これまでの14回で取り扱った判例等を総括するとともに、関連する判例・裁判例や具体的な事例を提示して実践的に分析する。	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、これまで説明した重要事項と判例の射程を理解するとともに、到達目標③と関連して、重要理論と判例の解釈を説明できるようにする。		
	事前学修	所定の判例と、これらに対応する体系書の箇所を講座の前日までに読んでおくこと。		120分
	事後学修	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で復習ノートを作成すること。		120分

科目名	公法特殊講義Ⅱ（行政法）B	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
本講座では、行政法領域の事例研究と判例の検討を行う。 主に行政救済法の分野を取り扱う予定である。必要に応じて行政組織法や行政作用法の範囲も説明する。 履修者数や理解の進度に対応して、法律の実務に携わる専門家（現職の裁判官、検察官、弁護士等）をゲストスピーカーとして招く予定である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講座は、行政法領域における事例研究を行うことにより、行政法全般の理解を深めることを目的としている。行政救済法について基本的な理解がされていることを標準として、関連判例も読み込み判例の射程について理解を深める。判例の理解と連動して、実際の事例を解決する際の法的思考力を醸成することを目標にしている。場面に応じて国家試験等の過去問を検討する。ロースクール進学希望者については、進学後の行政法及びその関連分野の講座を、支障なく受講できる程度に到達することを目標とする。司法試験予備試験を受験する場合は、本年度又は来年度の最終合格を目標に設定する。

【履修条件】
法職課程の学生であることが望ましい。総合法コースの学生の受講も可能である。ロースクールへの進学希望者、司法試験予備試験受験者及び各種国家試験受験者の受講を歓迎する。

【授業方法】
オンデマンド形式で行う。前もって検討予定の判例や事例問題を指定する。該当判例や事例について起案や講評を行う。 受講者は全員予習をしてくること。進度は人数及び理解の進捗状況に応じて調整する。必要に応じて司法試験や予備試験の過去問を活用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	行政法の判例・裁判例及び事例を分析する際に、オンラインで講評を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政救済法の重要事項や関連判例の問題点と理論を理解する。					3			3				
②	行政法に関する知見に基づいて、実際の事例における問題点を発見して分析する。					3			3				3
③	発見した問題点に関する行政法理論と判例を基盤とした分析を適切に発表する。								3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的な重要事項や重要判例についてレポートを作成する。	10		20								30
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	10	10	20								40
授業への参画度	講義中に双方向・多方向で質疑応答を行う。		10	20								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質疑応答及び報告発表の際に、受講者に対して評価と解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
事例から行政法を考える	北村和生ほか著	有斐閣	2016	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考	教科書と小型六法（デイリー六法（三省堂）又はポケット六法（有斐閣））を必ず毎回持参すること。六法と各書籍は、最新版を使用すること。毎年9月に翌年度の六法が出版されるので購入・持参すること。教科書指定はしないが、各自がこれまで使用している体系書を必ず併用すること。履修者数や進度に応じて補助教材を配付する。				

【オフィスアワー】
原則としてメールで対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政、民事及び刑事領域の実務経験に基づいて、具体的な事例における法令の運用を説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期のガイダンス及び導入講義	事例研究と報告に関する説明 後期の講座進行について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関連で、これまで各自が学んできた行政法の重要事項を再度点検して理解を深める。	
	事前学修	シラバスを確認した上で、既に各自が使用している行政法のテキストの冒頭にある総論的な導入説明を読んで、行政法分野の全体構造を再確認しておくこと。	120分
	事後学修	ガイダンスと講義の概要、及び今後使用していくテキストを確認すること。	120分
2	地下水保護条例をめぐる紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、地下水保護条例の紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
	事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
3	地下水保護条例をめぐる紛争	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、地下水保護条例の紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
	事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
4	公の施設の利用許可をめぐる紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、公の施設の利用許可をめぐる紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
	事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
5	公の施設の利用許可をめぐる紛争	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、公の施設の利用許可をめぐる紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
	事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
6	地方公務員の懲戒処分に対する司法審査	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、地方公務員の懲戒処分に対する司法審査における法律上の問題点を的確に導き出す。	
	事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地方公務員の懲戒処分に対する司法審査	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、地方公務員の懲戒処分に対する司法審査における法律問題を適切に分析して論述する。	
	事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
8	老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方における法律上の問題点を的確に導き出す。	
	事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
9	老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方における法律問題を適切に分析して論述する。	
	事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
10	社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
	事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
11	社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争	事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
	事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
12	廃棄物処理法における営業許可に関する紛争	事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。必要に応じて司法試験論文式試験（行政法）過去問の検討を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、廃棄物処理法における営業許可に関する紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
	事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	廃棄物処理法における営業許可に関する紛争		事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。必要に応じて司法試験論文式試験（行政法）過去問の検討を実施する。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、廃棄物処理法における営業許可に関する紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
	事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
14	都市計画法における建築許可に関する紛争		事例研究 指定教科書に基づいて、関連する判例と問題点を説明する。体系書における理論構成を確認する。必要に応じて司法試験論文式試験（行政法）過去問の検討を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②との関連で、都市計画法における建築許可に関する紛争における法律上の問題点を的確に導き出す。	
	事前学修	前回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分
15	都市計画法における建築許可に関する紛争		事例研究 前回の説明を踏まえて各自が作成した起案を題材に、質疑応答を実施する。必要に応じて司法試験論文式試験（行政法）過去問の検討を実施する。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、都市計画法における建築許可に関する紛争における法律問題を適切に分析して論述する。	
	事前学修	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案作成をすること。	120分
	事後学修	講義で説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。	120分

科目名	公務員制度論	担当者	小田 勇樹	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
公務員に関する人的資源管理制度の束である公務員制度について、民間企業との共通点／特殊性に着目しながら学修します。採用・給与・昇進・退職のほか、公務員特有の問題である労働基本権、政官関係など、公務員制度の諸要素について取り上げた後、日本の公務における雇用システムの特徴・特殊性を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
採用・給与・昇進・退職のほか、公務員特有の問題である労働基本権、政官関係など、公務員制度の諸要素についてよく理解し、その特徴について説明できるようになる。その上で、雇用システム総体としての、日本の公務労働の特徴、公務員制度の特徴を理解し説明できるようになる。日本の公務員制度についての理解を通じて、公務員という職業への理解を深める。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
オンラインにて動画を配信するオンデマンド形式で実施する。質疑応答等、双方向のコミュニケーションを目的として、ZOOMによるライブ講義とオンデマンド配信を併用する講義を学期中に適宜実施する。動画配信とともに隔週程度のペースで、講義内容に関する課題を課し、それを元に成績評価を行う。定期試験は実施しない予定である。なお、本シラバスの記載内容は2021年2月時点のものであり、社会情勢を踏まえて講義の実施形式は変更となる可能性がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	公務員の人的資源管理の特殊性について理解し説明することができるようになる。		2		2				
②	採用・給与・昇進・退職など、日本の公務員制度を構成する諸要素について、その特徴を説明することができる。		2		2				
③	雇用システム総体としての日本の公務員制度の特徴を理解した上で、日本の公務員の働き方について論理的な評価・考察を行い、公務員の働き方に対する自らの意見を述べるようになる。		2		2	2			
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する知識・技能が身に付いているかどうか、隔週程度のペースで実施する課題により確認する。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
人的資源管理論	八代充史	中央経済社	2019	参考書	任意
日本の官僚人事システム	稲継裕昭	東洋経済新報社	1996	参考書	任意
現代日本の公務員人事	大谷基道，河合晃一	第一法規	2019	参考書	任意
公務員人事改革	村松岐夫	学陽書房	2018	参考書	任意
若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす	濱口桂一郎	中公新書ラクレ	2013	参考書	任意
日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学	小熊英二	講談社現代新書	2019	参考書	任意
公務員制度改革の国際比較	OECD，平井文三	明石書店	2009	参考書	任意
国家公務員の中途採用	小田勇樹	慶應義塾大学出版会	2019	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	公務員制度とは？		この授業で取り扱う内容の概略、様々な人的資源管理制度の束である公務員制度について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公務員制度とはどのような内容を含むものであるのかを理解する。		
	事前学修	事前にシラバスに目を通し、どのような内容を取り扱う授業であるか、公務員制度とはどのようなものかを確認する。		120分
	事後学修	様々な職種の公務員について、どのような仕事が存在するのか調査する。		120分
2	公務員制度の役割		人的資源管理とはどのようなことを目的にした活動であるのか、労務管理から人的資源管理への概念の変遷など、官民に共通する人的資源管理の基本部分を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人的資源管理という概念が生じた背景、人的資源管理の目的を理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	人事という言葉から連想する活動にはどのようなものがあるか、自分なりに調査・考察する。		120分
	事後学修	自分の立場に置き換えて、アルバイトや勉強をする際に、どのような報酬あるいは環境・条件があれば、取り組む意欲が高まるかを考察する。		120分
3	公務労働の特殊性		前回授業における官民共通の人的資源管理の基本を踏まえた上で、労働基本権や、業務内容の特殊性、民間の仕事との違いなど、公務特有の性質に起因する公務労働の特殊性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公務員の労働基本権、業務内容の特殊性、民間の仕事との違いを理解し、公務員の人的資源管理の特殊性を説明することができる。		
	事前学修	労働基本権とは何かについて復習し、事前に理解を深めておく。		120分
	事後学修	もしも、公務員がストライキを起こすことができるようになったら、どのようなことが起きるか、海外の事例を調査してみる。		120分
4	政官関係(1)公務員の政治的中立性と政治任用		公務員に政治的中立性が求められるようになった背景、政治任用の役割、政官関係の類型について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治的中立性の必要性、政治任用の役割、政官関係の類型を理解した上で、それらの用語について説明することができるようになる。		
	事前学修	政治家と官僚（公務員）の違いについて調査する。		120分
	事後学修	政治家と官僚の役割分担はどのようにあるべきか考えてみる。		120分
5	政官関係(2)政治家と官僚はどちらが強い？		戦後の日本政治を題材に、日本の政治家と官僚の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の政治家と官僚の関係について、その変遷を理解した上で、近年の政治現象について政官関係の理論的視座から説明することができるようになる。		
	事前学修	政治主導というキーワードについて、その内容、主張していた政党・政治家などを調査する。		120分
	事後学修	日本の政治家と官僚の役割分担はどのようにあるべきか、望ましい政官関係のバランスはどのようなものか、授業の内容を踏まえて自分の考えをまとめてみる。		120分
6	誰を採用すべきか？公務員試験とメリットシステム		ペンドルトン法の成立、ノースコートトレヴェリアン報告など、過去の歴史的経緯を踏まえた上で、メリットシステムの基本について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、過去の歴史的経緯を踏まえた上で、メリットシステムが必要とされる理由を理解し説明できるようになる。		
	事前学修	公務員試験にはどのような内容の試験が含まれているのか調査する。		120分
	事後学修	コネや賄賂による不正な採用が発覚した過去の事例をインターネットや新聞を活用して調査し、メリットシステムの意義を考察する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本の公務員の給与は高い？低い？ 人事院勧告の仕組み		日本の公務員の給与水準がどのように決まっているか、民間企業や他国と比較した場合にその賃金水準は高いのか、低いのかについて学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、人事院勧告の仕組みについて理解し、日本の公務員の賃金水準がどのように決まっているかを説明できるようになる。		
	事前学修	公務員の給与の高低を論じている記事や批評に目を通し、その妥当性を自分なりに考察してみる。		120分
	事後学修	事前学修で発掘した資料に再度目を通し、授業で学修した知識を用いてその主張の妥当性を検証する。		120分
8	誰に高い給与を払うべきか？労働市場との均衡と組織内の均衡		職務給と職能給という2つの異なる賃金制度を踏まえた上で、職階制の仕組み、日本の公務員の現在の給与制度について学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、職務給と職能給の違いを理解した上で、日本の公務員の賃金制度の特徴を説明できるようになる。		
	事前学修	組織の中で誰に高い給与を払うべきか、どのような基準（年齢、仕事内容、その年の働きぶり等）で給与を決めるのが良いかを考察し、その基準を用いた場合に生じるメリット・デメリットを検討する。		120分
	事後学修	身の回りの仕事（アルバイト先、家族等）の給与が、どのような基準で決まっているか調査し、その理由を考察する。		120分
9	誰が組織の上級ポストに就くのか？ 昇進と中途採用		組織の中で重要なポストに誰を就けるのが良いのか、日本の公務における昇進管理、出世競争のあり方に加えて、公募・中途採用を活用する諸外国の公務員制度について学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の公務員制度における昇進管理が持つ職員への動機付けの機能を理解し、他国の公務員制度との違いを説明できるようになる。		
	事前学修	課長や局長と名が付くポストに、内部で育成された職員がたたき上げで就任する場合と、外から中途採用された職員が就任する場合を比べ、そのメリット・デメリットを考察する。		120分
	事後学修	自分が公務員あるいは民間企業に就職する場合に、どのようなキャリアパスを歩みたいか、どの程度の地位にまで昇進したいか、将来像を考えてみる。		120分
10	天下りは必要か？公務員の退職管理		天下りと呼ばれる現象がなぜ生じるのか、それは公務員特有の現象なのかについて、国内の民間企業との比較、イギリスの公務員制度との比較の観点から学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、天下りが生じる背景、そのメリットとデメリットを理解した上で、国内民間企業や他国との比較の観点を踏まえ、天下りの是非について自分の考えを説明することができるようになる。		
	事前学修	ここ数年のメディアにおける報道を調査し、天下りとはどのような現象を指しているのか理解を深める。		120分
	事後学修	天下りを厳格に取り締まる場合、公務員のキャリアパスをどのように設計するのがよいか、自分なりの考えをまとめてみる。		120分
11	なぜ霞が関の公務員は長時間働くのか？最大動員型の公務員制度		これまでの授業で取り上げた個別の人的資源管理制度を踏まえた上で、限られた資源を最大動員する日本型雇用の公務員制度の仕組みを学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、限られた資源を最大動員する日本型雇用の公務員制度の仕組みを雇用システム総体として理解し、日本の公務員が勤勉に働くメカニズムを説明できるようになる。		
	事前学修	公務員の長時間労働に関するニュースを調査し事前に目を通してくる。		120分
	事後学修	日本型雇用の特徴を活かした最大動員型の公務員制度の是非、自分が働く職場として考えた時に就職したいと感じるかどうか、自らの考えをまとめておく。		120分
12	官民の人的資源管理 国内比較と国際比較		日本の公務員制度と日本の民間企業、諸外国の公務員制度、諸外国の民間企業と比較し、相対的な視点から学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、官民・国際間の比較を通じて、日本の公務員制度の性質のうち、普遍的部分と特殊的部分を区分して理解することができるようになる。		
	事前学修	日本の公務員制度の様々な側面のうち、日本に特有な部分、公務特有の部部はどのような点か、これまでの授業で学んだことを踏まえてまとめてみる。		120分
	事後学修	授業で学修した公務・民間・諸外国の人的資源管理のあり方を踏まえて、自分に合った働き方、キャリアはどのようなものか考えをまとめてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	日本の公務員数と非正規雇用の増加		日本の公務員数が少ない背景、総定員法の概要、近年増加する非正規公務員について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、なぜ日本の公務員数は諸外国よりも少なくなったのか、なぜその人数で公共経営が成り立っているのか、NPMによる公共サービスの外部化の影響等を理解した上で、公務において非正規雇用が増加する背景を説明できるようになる。		
	事前学修	どのような公務員の職種で、非正規雇用が増加しているのか調査する。		120分
	事後学修	正規雇用と非正規雇用、少ない公務員の問題を解決するにはどうすればよいか、自分なりに考察する。		120分
14	働き方改革と公務員制度		近年の民間における働き方改革の進展、公務における働き方改革の動向、今後の公務員制度に与える影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における働き方改革の趣旨と方向性、公務における改革の現状を理解した上で、改革が日本の公務員制度にもたらす影響を説明することができる。		
	事前学修	働き方改革とは何か、ニュース等に目を通し事前に学修しておく。		120分
	事後学修	公務員あるいは民間企業への就職を念頭に、自らの将来像、働き方、キャリアパスを考え直し、どのような働き方をしていきたいか現時点での考えをまとめてみる。		120分
15	社会環境の変化に伴う公務員の専門性の変化 AI、EBPMの進展		公共組織の現場において導入が進むAIの影響により、公務員の仕事、職種、専門性へどのような変化が生じるのか、EBPMと呼ばれる政策立案が要求されることによりどのような専門性が要求されるのか学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、AIやEBPMなどの進展に伴い、これからの公務員に求められる専門性の変化について理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	EBPMとはどのような概念なのか事前に学修する。		120分
	事後学修	AIによりなくなる仕事、新たに増える仕事にはどのようなものがあるか、官民を問わず調査する。		120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日、様々な企業のトップ・マネジメントのあり方(コーポレート・ガバナンス)を問う企業不祥事が多く発生している。こうした経営学において重要な概念のひとつであるコーポレート・ガバナンスがどのような背景のもとで誕生し、これまでどのように議論が展開されてきたのか理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「良い企業とはなにか」、「良い経営者とはなにか」という問いに対する答えは決してひとつではなく、個々人によってその答えは異なる。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーションを重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力を修得できるようになることを目標としている。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と事例を用いたケースメソッドにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、株式会社の仕組みやコーポレート・ガバナンスに関する課題について考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	株式会社の仕組みを理解し、その特徴を説明することができる。						2	2					
②	企業とステイクホルダーとの関係を理解し、説明することができる。						2	2		2			
③	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。						2		2				
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。							2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて、自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業の分類について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	コーポレート・ガバナンスとはなにか	コーポレート・ガバナンスの定義となぜこれが重要なのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、コーポレート・ガバナンスとは何かを理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	株式会社とはなにか	コーポレート・ガバナンスと関連の深い株式会社の発展とその背景について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式会社の仕組みについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社の特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	株式会社と会社機関	株式会社はどのような機関構造を有しているのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式会社の構造について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社における様々な会社機関について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	株式会社と経営者支配	コーポレート・ガバナンスにおける経営者支配論がどのように展開されてきたのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経営者支配とは何かについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと経営者支配の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	経済の金融化と新制度派経済学	コーポレート・ガバナンスの新制度派経済学アプローチの内容と限界について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、新制度派経済学とは何かについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、新制度派経済学アプローチとは何かについて、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	コーポレート・ガバナンスとステイクホルダー論		ステークホルダーとは何か、コーポレート・ガバナンスにおいてなぜこれが重要なのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ステイクホルダーの定義とその重要性について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとステークホルダー論の関係について、自分なりの説明をまとめる。		120分
8	ケースメソッドⅠ：企業とステイクホルダー		企業のステークホルダーにはどのようなものが存在し、それらに対して企業はいかなる責任を有しているのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標②と④に関連して、企業とステイクホルダーとの関係について、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。		120分
	事後学修	現代企業に求められる責任について、自分なりの説明をまとめる。		120分
9	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅰ：戦後の経済発展		戦後の経済発展と日本的経営について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、日本的経営の特徴について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、日本的経営とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。		120分
10	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅱ：企業不祥事との関係		これまでの企業不祥事の歴史を基に、「企業はだれのものか」という問いについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、企業不祥事とコーポレート・ガバナンスの関係について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業不祥事の関係について、自分なりの説明をまとめる。		120分
11	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅲ：外部監視と内部統制		外部監視と内部統制に関する制度的展開について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、外部監視と内部統制の内容について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、外部監視と内部統制とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。		120分
12	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅳ：経営者報酬		経営者報酬の仕組みと種類について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、経営者報酬の仕組みと種類について理解する。		
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。		120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、世界と日本の経営者報酬の相違について、自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向Ⅴ：同族企業	同族企業の特徴とこれがもたらす問題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、同族企業のを理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、同族企業の事例を調べ、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	ケースメソッドⅡ：イノベーションとコーポレート・ガバナンス	IT企業におけるコーポレート・ガバナンスの問題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、イノベーションがもたらす問題について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
	事後学修	イノベーションとコーポレート・ガバナンスの関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	前期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に講義内容を復習する。	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日、様々な企業のトップ・マネジメントのあり方(コーポレート・ガバナンス)を問う企業不祥事が多く発生している。こうした経営学において重要な概念のひとつであるコーポレート・ガバナンスがどのような背景のもとで誕生し、これまでどのように議論が展開されてきたのか理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「良い企業とはなにか」、「良い経営者とはなにか」という問いに対する答えは決してひとつではなく、個々人によってその答えは異なる。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーションを重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力を修得できるようになることを目標としている。

【履修条件】
1年生から4年生を対象とする。

【授業方法】
講義、レジメ配布 授業内レポートの解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	株式会社の仕組みを理解し、その特徴を説明することができる。						2	2						
②	企業とステイクホルダーとの関係を理解し、説明することができる。						2	2		2				
③	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。						2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。							2	2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『企業不祥事はなぜ起きるのか ソーシャル・キャピタルから読み解く組織風土』	稲葉陽二	中央公論新書	2017		
備考	テキストや参考書などについては、授業内で別途、具体的に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話に来てください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関するコーポレート・ガバナンス法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】 【導入講義】		コーポレート・ガバナンス制度概論－コーポレート・ガバナンスの新たな意義と展望－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①②③⑤⑥について、コーポレート・ガバナンス制度概論に関する理解を深める。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【成長戦略とコーポレート・ガバナンス改革】		アベノミクスの第3の矢・成長戦略と新しいコーポレート・ガバナンス改革の重要性－企業価値向上に向けて－ 企業のガバナンス改革が政府の成長戦略の基本となっていることを理解し、その重要性について学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、ガバナンス改革が政府の成長戦略の中核となっていることを理解する。		
	事前学修	コーポレート・ガバナンス改革の重要性について、概要を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、政府の成長戦略の一環であることを復習する。		120分
3	【日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革】		日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革の位置付け－成長戦略の中核としてのガバナンス－ 政府のガバナンス改革に対する取り組みを概観し、会社法改正、スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの三位一体で制度構築を図っていることを学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革の位置付けを理解する。		
	事前学修	コーポレート・ガバナンス改革の位置づけについて、具体的に考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、会社法改正、スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの関連について復習する。		120分
4	【会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革】		2014年会社法改正、2020年会社法改正（予定）とコーポレート・ガバナンス改革 ガバナンス改革は2019年会社法改正の大きな論点であり、関連する改正点と企業実務を学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革についての理解を深める。		
	事前学修	法制度面からガバナンス改革に関する改正内容を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、会社法改正と実務の対応について復習する。		120分
5	【3つのガバナンス形態】		指名委員会等設置会社（米国型）、監査役会設置会社、および新設の監査等委員会設置会社のスキームの比較考察 法制度、企業実務の両面から、3つのガバナンス形態について具体的に学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、3つのガバナンス形態について具体的に理解を深める。		
	事前学修	会社法における3つのガバナンスの形態について、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、3つのガバナンス形態、実務の対応について復習する。		120分
6	【日本版スチュワードシップ・コード】		日本版スチュワードシップ・コードの策定と課題－機関投資家と経営陣の対話・エンゲージメント作り－ 日本版スチュワードシップ・コードについて、英国のコードと比較しつつ、機関投資家の対応、対話・エンゲージメントについて学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、日本版スチュワードシップ・コードについて具体的に理解を深める。		
	事前学修	スチュワードシップ・コードについて、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードについて復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【日本版コーポレート・ガバナンス・コード】【対話・エンゲージメント】		日本版コーポレート・ガバナンス・コードの策定と課題 日本版コーポレート・ガバナンス・コードについて、英国のコードと比較しつつ、機関投資家の対応、対話・エンゲージメントについて学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、日本版コーポレート・ガバナンス・コード、対話・エンゲージメントについて具体的に理解を深める。		
	事前学修	コーポレート・ガバナンス・コードについて、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンス・コードについて復習する。		120分
8	【2つの日本版コードの改定と上場企業の取り組み】		最近の会社法改正、2つの日本版コードの改定と上場企業の取り組み 2017年、2018年のコードの改定に対する対応が上場企業の大きな課題であり、最新の内容を学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、ダブルコードと上場企業の取り組みについて具体的に理解を深める。		
	事前学修	2つのコードの改定など、新しい動きについて考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、2つのコードの改定、企業実務の対応について復習する。		120分
9	【ソフトローにおけるプリンシプル・ベース】		プリンシプル・ベース（原則主義）とComply or Explainルール（遵守せよ、さもなければ説明せよ） コードのソフトローにおけるプリンシプル・ベース（原則主義）と企業の対応について、学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、ソフトローにおけるプリンシプル・ベースについて具体的に理解を深める。		
	事前学修	プリンシプル・ベース（原則主義）、ソフトローについて考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、プリンシプル・ベース（原則主義）と企業の対応について復習する。		120分
10	【コーポレート・ガバナンス報告書】		有価証券報告書とコーポレート・ガバナンス報告書、東京証券取引所上場規程 コードの内容が上場規則に入っており、企業法務としての具体的な対応を学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、コーポレート・ガバナンス報告書などガバナンスの開示について理解を深める。		
	事前学修	東京証券取引所上場規程について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、上場規則と企業の対応について復習する。		120分
11	【中長期的企業価値向上とガバナンス改革】		新たなコーポレート・ガバナンス検討に当たっての視点ー旧来のガバナンス理論から日本独自の転換へ、欧米との相違、中長期的企業価値向上とROE重視かROIC重視か、経営陣とステイクホルダー・株主ー ROE（株主資本利益率）重視の考え方とステイクホルダーなど、最近の新しい論点を学習する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連して、中長期的企業価値向上とガバナンス改革の理解を深め、議論できるようになる。		
	事前学修	旧来のガバナンス理論と日本独自の転換について、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ステイクホルダーなど、最近の新しい論点について復習する。		120分
12	【独立社外取締役】		独立社外取締役、取締役会の監督機能強化、監査役の監査機能の強化、リスクマネジメント、コンプライアンス、内部統制など 法制度面と企業実務の観点から、プラクティスについて学習する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連して、独立社外取締役の役割、機能など理解を深め、説明できるようになる。		
	事前学修	独立社外取締役、取締役会の機能などについて、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、独立社外取締役、取締役会などについて復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【ガバナンスのケーススタディ】		米国型・指名委員会設置会社、日本型・監査役会設置会社、監査等委員会設置会社のケーススタディー三菱UFJ銀行、ソニー、東芝、日産自動車、キャノン、パナソニック、三菱重工など実効性あるガバナンス改革の考察ーグローバル上場企業、巨大金融機関を取り上げ、ガバナンスの課題について実例を学習する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連して、ガバナンスのケーススタディの理解を深め、説明できるようになる。		
	事前学修	米国型、日本型のガバナンスの課題について考察する。		120分
	事後学修	米国型、日本型のガバナンスの課題について企業実務の面から復習する。		120分
14	【日本版コード改訂によるコードの実質化】		会社法改正と日本版コード改訂によるコードの実質化に向けての最新のフォローアップ状況政府、規制当局のガバナンスの実効性確保に向けた最新のフォローアップ状況について学習する。	
	この回の到達目標	①②③について、ガバナンスの実効性確保に向けた規制当局の動向を概観し、理解を深める。		
	事前学修	規制当局の最新のフォローアップ状況について考察する。		120分
	事後学修	ガバナンスの実効性確保に向けたフォローアップについて復習する。		120分
15	【前期総まとめ】		授業内レポートについて、解説等を行う。ガバナンス改革について総まとめを行う。	
	この回の到達目標	①②③④に関連して、前期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。		
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、ガバナンス改革に関する法制、実務の対応など全体の体系を考察する。		120分
	事後学修	前期の授業内レポートの提出。解説を行うので、参考にして、企業のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。		120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
コーポレート・ガバナンスの扱う問題領域は当初、経営者と株主であったが、今日ではその範囲が拡大され、株主のみならずその他の主体(消費者や従業員など)を含む複雑な概念となっている。このことを踏まえ、本講義では経営学におけるその他の概念(CSRや企業倫理など)との関係を整理することで、コーポレート・ガバナンスについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国・地域によってコーポレート・ガバナンスに関する取り組みが異なるように、社会に存在する様々な問いや課題に対する答えもひとつではない。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーションを重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。

【履修条件】
1年生から4年生を対象とする。

【授業方法】
講義、レジメ配布 期末に課題を示し、レポートを作成・提出していただきたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。				2		2					
②	日本と他の国におけるコーポレート・ガバナンスの相違について理解し、説明することができる。					2	2					
③	経営学領域においてコーポレート・ガバナンスと隣接・類似する諸概念の内容を理解し、説明することができる。				2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、期末レポートなどにより評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	授業におけるグループワークにおいて、自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
参考書『企業不祥事はなぜ起きるのか ソーシャル・キャピタルから読み解く組織風土』	稲葉陽二	中央公論新書	2017		
備考	テキストや参考書などについては、授業内で別途、具体的に指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話に来てください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関するコーポレート・ガバナンス法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【後期授業ガイダンス】【導入講義】		後期授業ガイダンス 前期に学習した基本事項の確認と後期の授業計画・目標の説明	
	この回の到達目標	①②③について、前期に学習した基本事項の確認、後期の授業計画・目標の説明により、ガバナンスの学習の理解を深める。		
	事前学修	前期に学習した基本事項の確認を行う。		120分
	事後学修	後期の授業計画・目標の説明と合わせて、ガバナンスの基本的事項を確認する。		120分
2	【企業風土】		企業風土について	
	この回の到達目標	①②③に関し、ガバナンスと企業風土の関連について、理解を深める。		
	事前学修	ガバナンスと企業風土の関連について、事前に調べる。		120分
	事後学修	授業で学んだ企業風土の内容をガバナンスとの関連から整理し、復習する。		120分
3	【日本における企業統治の制度】		日本における企業統治の制度の再確認：改革で何が変わったのか会社とはなにか、企業不祥事はなぜ起こるのか	
	この回の到達目標	①②③に関し、日本における企業統治の制度について、理解を深める。		
	事前学修	日本における企業統治の制度について、事前によく調べる。		120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。		120分
4	【米国のガバナンス】		米国における企業統治制度の展開	
	この回の到達目標	①②③に関し、米国における企業統治の法制度について、理解を深める。		
	事前学修	米国における企業統治の法制度について、よく調べておいてください。		120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。		120分
5	【米国のガバナンス】【コンプライアンスとリスクマネジメント経営】		米国における企業統治制度の展開：市場の評価とM&A、コンプライアンスと内部統制・企業のリスクマネジメント経営	
	この回の到達目標	①②③に関し、米国における企業統治の法制度について、理解を深める。特にコンプライアンスとリスクマネジメント経営を理解する。		
	事前学修	米国におけるコンプライアンスとリスクマネジメント経営について、よく調べておいてください。		120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。		120分
6	【ドイツ、イギリスとの比較】		米国における企業統治制度の展開：ドイツ、イギリスとの比較	
	この回の到達目標	①②③に関し、米国における企業統治の法制度とドイツ、イギリスとの比較について、理解を深める。		
	事前学修	米国における企業統治の法制度とドイツ、イギリスとの比較について、よく調べておいてください。		120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【経済学・経営学からの企業統治】		経済学・経営学からの企業統治 エージェンシー問題への対応
	この回の到達目標	①②③に関し、経済学・経営学からの企業統治について、理解を深める。	
	事前学修	経済学・経営学からの企業統治について、よく調べておいてください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
8	【経済学・経営学からみた企業統治】【株主構成／債権者/市場規律】		経済学・経営学からみた企業統治：株主構成の影響／債権者からの見方/市場からの規律
	この回の到達目標	①②③④に関連して、経済学・経営学からみた企業統治、株主構成／債権者/市場規律について、理解を深める。	
	事前学修	株主構成／債権者/市場規律とガバナンスについて、よく調べておいてください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
9	【企業不祥事】		それでも無くならない企業不祥事（１）企業不祥事の定義と分類
	この回の到達目標	①②③④に関連して、企業不祥事について、理解を深める。	
	事前学修	企業不祥事について、よく調べておいてください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
10	【企業不祥事】【企業不祥事が生じる背景】		企業不祥事が生じる背景
	この回の到達目標	①②③④に関連して、企業不祥事が生じる背景について、理解を深める。	
	事前学修	企業不祥事が生じる背景について、よく調べておいてください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
11	【企業不祥事】【企業内社会関係資本と不祥事】		企業統治のどこに問題があるのか 社会関係資本の観点の欠如 企業内社会関係資本と不祥事は密接にかかわっている。
	この回の到達目標	①②③④に関連して、企業内社会関係資本と不祥事について、理解を深める。	
	事前学修	企業内社会関係資本と不祥事について、よく調べておいてください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
12	【コードの改訂と新たな課題		スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの改訂 資本コスト、報酬シナリオ、政策投資株式、議決権行使助言会社などの新たな課題への対応
	この回の到達目標	①②③に関し、2つのコードの改訂について、資本コスト、報酬シナリオ、政策投資株式、議決権行使助言会社などの新たな課題に関する理解を深める。	
	事前学修	2つのコードの改訂について、よく調べておいてください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【グループガバナンスのガイドライン】	グループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドライン	
	この回の到達目標	①②③④に関連して、経済産業省のグループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドラインについて、理解を深める。	
	事前学修	グループガバナンスのガイドライン、公正なM&Aのガイドラインについて、よく調べておいてください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
14	【ESGとガバナンス】	E S G投資と S D G s、株主エンゲージメント	
	この回の到達目標	①②③④に関連して、E S G（環境、社会、ガバナンス）に関する理解を深める。	
	事前学修	E S G（環境、社会、ガバナンス）に関する予習を十分に行ってください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容を再度確認して知識の定着を図る。	120分
15	【後期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。ガバナンス改革について、全体の授業の総まとめを行う。	
	この回の到達目標	①②③④に関連して、後期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、ガバナンス改革に関する法制、実務の対応など全体の体系を再度、考察する。	120分
	事後学修	後期の授業内レポートの提出。解説を行うので、参考にして、企業のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
コーポレート・ガバナンスの扱う問題領域は当初、経営者と株主であったが、今日ではその範囲が拡大され、株主のみならずその他の主体(消費者や従業員など)を含む複雑な概念となっている。このことを踏まえ、本講義では経営学におけるその他の概念(CSRや企業倫理など)との関係を整理することで、コーポレート・ガバナンスについて理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国・地域によってコーポレート・ガバナンスに関する取り組みが異なるように、社会に存在する様々な問いや課題に対する答えもひとつではない。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーションを重視し、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。

【履修条件】
コーポレート・ガバナンス論Ⅰの履修。

【授業方法】
スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と事例を用いたケースメソッドにより進める。 試験の後に解説を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容やケースメソッドに関して、教員と学修者とのコミュニケーションを通じて、、株式会社の仕組みやコーポレート・ガバナンスに関する課題について考える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コーポレート・ガバナンスの理論的展開を理解し、説明することができる。				2		2					
②	日本と他の国におけるコーポレート・ガバナンスの相違について理解し、説明することができる。					2	2					
③	経営学領域においてコーポレート・ガバナンスと隣接・類似する諸概念の内容を理解し、説明することができる。				2		2					
④	コーポレート・ガバナンスに関する諸問題を考察し、自分の意見を主張することができる。					2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのコーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	講義やケースメソッドにおいて、自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標③④にかかわる企業と社会の関係における諸問題について考察する能力が身についているかを評価する。			10	30							40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室(本館7階1705研究室) suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーポレート・ガバナンスとは何かについて理解する。	
	事前学修	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	自分の学習計画の見直しと前期の授業内容の復習。	120分
2	コーポレート・ガバナンスと資本コスト	資本コストとは何か、株主や機関投資家が重視する財務諸表とは何かについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コーポレート・ガバナンスと資本コストの関係について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、資本コスト削減のための施策について、自分なりの説明をまとめる。	120分
3	コーポレート・ガバナンスと事業投資	事業投資とは何か、事業投資の評価方法について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、事業投資の評価方法について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、事業投資と企業価値の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分
4	コーポレート・ガバナンスと資本政策	資本政策と株式発行、新たな種類株について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、株式の種類について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株主総会の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
5	コーポレート・ガバナンスと合併・買収(M&A)	コーポレート・ガバナンスと企業の合併・買収(M&A)の関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合併・買収(M&A)の目的について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、合併・買収(M&A)の目的と類型について、自分なりの説明をまとめる。	120分
6	機関投資家とコーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンス原則と機関投資家の関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、機関投資家の定義とその役割について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、様々な投資視点について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ケースメソッドⅠ：グローバル化による影響と課題	海外子会社の企業不祥事を基に、コーポレート・ガバナンスのグローバル化に関する様々なテーマについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、グローバル化の影響と課題について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
	事後学修	コーポレート・ガバナンスのグローバル化がもたらす問題について、自分なりの説明をまとめる。	120分
8	アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの動向	イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。	120分
11	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任との関係について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業の社会的責任とは何かについて理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任の相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分
12	コーポレート・ガバナンスと社会的企業	社会的企業や非営利組織におけるコーポレート・ガバナンスについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、社会的企業や非営利組織にコーポレート・ガバナンスが求められる要因について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社と非営利組織の比較を通じて、求められるコーポレート・ガバナンスの相違について、自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コーポレート・ガバナンスと企業倫理	企業不祥事を防止するために、コーポレート・ガバナンスはどのような役割を担うのかについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①と③に関連して、企業不祥事を防止するためのコーポレート・ガバナンスの役割について理解する。	
	事前学修	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。	120分
	事後学修	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事を防止するための経営者や会社機関の役割について、自分なりの説明をまとめる。	120分
14	ケースメソッドⅡ：事業の繁栄と社会の繁栄	これまでの授業内容を踏まえて、従来のコーポレート・ガバナンスの課題について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①と④に関連して、今日におけるコーポレート・ガバナンスの意義と課題について、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。	120分
	事後学修	現代のコーポレート・ガバナンスのあり方について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	後期の総括	試験に向けて、基本的な概念・事項を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コーポレート・ガバナンスに関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。	120分
	事後学修	試験に向けて、配布資料、講義ノートを基に授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
教科書に沿いながら講義する。オンライン（Zoom使用）を予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
近代ヨーロッパ国際政治史	君塚直隆	有斐閣	2010	教科書	必携
ヨーロッパ国際関係史（新版）	渡邊啓貴	有斐閣	2008	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16時20分～17時50分研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要 導入講義	はじめに：授業の概要について	
	この回の 到達目標	授業の概要を把握する。	
	事前学修	国際関係史についてネット等で各自情報収集をする。	120分
	事後学修	授業で紹介された文献を各自、図書館等で探す。	120分
2	国際関係史	国際関係と国際関係史について	
	この回の 到達目標	国際関係と国際関係史の関連性について、国際法に注目しながら、理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（序章）を読む。	120分
	事後学修	国際関係と国際関係史についての授業の内容を復習する。	120分
3	宗教改革	宗教改革について	
	この回の 到達目標	マルティン・ルターから始まる宗教改革について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第1章）を読む。	120分
	事後学修	宗教改革についての授業の内容を復習する。	120分
4	宗教戦争	宗教戦争について	
	この回の 到達目標	宗教改革に関連して発生した戦争について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第1章、第2章）を読む。	120分
	事後学修	宗教戦争についての授業の内容を復習する。	120分
5	三十年戦争	三十年戦争の発生から終了まで	
	この回の 到達目標	宗教戦争を4つの局面で理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第3章pp. 65～76）を読む。	120分
	事後学修	三十年戦争についての授業の内容を復習する。	120分
6	ウェストファリア条約	ウェストファリア条約とウェストファリア体制について	
	この回の 到達目標	三十年戦争の結果成立したウェストファリア条約とウェストファリア体制について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第3章pp. 76～83）を読む。	120分
	事後学修	ウェストファリア条約とウェストファリア体制についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	勢力均衡	勢力均衡の始まりについて	
	この回の到達目標	大国間の勢力均衡による平和の実現について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第4章）を読む。	120分
	事後学修	勢力均衡の始まりについての授業の内容を復習する。	120分
8	ロシア帝国	ロシア帝国の台頭について	
	この回の到達目標	ロシア帝国の台頭を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第5章）を読む。	120分
	事後学修	ロシア帝国の台頭についての授業の内容を復習する。	120分
9	神聖ローマ帝国	神聖ローマ帝国について	
	この回の到達目標	神聖ローマ帝国の基本的な構造と対外関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第6章）を読む。	120分
	事後学修	神聖ローマ帝国についての授業の内容を復習する。	120分
10	アメリカ独立	アメリカの独立について	
	この回の到達目標	アメリカの独立をヨーロッパとの関連で理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第7章）を読む。	120分
	事後学修	アメリカの独立についての授業の内容を復習する。	120分
11	フランス革命	フランス革命について	
	この回の到達目標	フランス革命を他のヨーロッパ諸国との関係で理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第8章pp. 179~186）を読む。	120分
	事後学修	フランス革命についての授業の内容を復習する。	120分
12	ナポレオン戦争	ナポレオン戦争について	
	この回の到達目標	ナポレオンのフランスと他のヨーロッパ諸国との間の戦争について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第8章pp. 186~201）を読む。	120分
	事後学修	ナポレオン戦争についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ウィーン体制	ウィーン体制と勢力均衡について	
	この回の到達目標	ナポレオン戦争の結果成立したウィーン体制について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第9章）を読む。	120分
	事後学修	ウィーン体制と勢力均衡についての授業の内容を復習する。	120分
14	クリミア戦争	クリミア戦争について	
	この回の到達目標	クリミア戦争をめぐる英仏トルコとロシアとの関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第10章）を読む。	120分
	事後学修	クリミア戦争についての授業の内容を復習する。	120分
15	まとめ	授業のまとめ	
	この回の到達目標	ヨーロッパの国際関係史について、宗教改革からクリミア戦争までを復習する。	
	事前学修	前期学習した内容を確認する。	120分
	事後学修	前期学習した内容を総復習する。	120分

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版 』	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	推奨
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室） （事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・国際関係史を学ぶ意味は何か		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。また、関連科目である国際政治学・国際関係論との違いを示しながら、国際関係史を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係史を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	国際政治とは何か		国際関係史を学ぶための前提となる無政府的国際社会についての異なる見方を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、現在の無政府的国際社会の見方をリアリスト、リベラリスト、コンストラクティヴィストの立場から説明することができる。		
	事前学修	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?」の第1節（p. 1-p. 21）を読み、無政府的国際社会とは何かについて、自分の考えをノートにまとめる。		120分
	事後学修	現在の無政府的国際社会の見方を、リアリスト、リベラリスト、コンストラクティヴィストの立場から表にまとめ、相違点についての知見をノートにまとめる。		120分
3	現代に通じる歴史上の紛争要因と倫理的問題		ペロポネソス戦争を事例として取り上げ、安全保障のジレンマを軸に、現代にも応用可能な歴史上の紛争要因を検証する。また、国際関係における倫理的問題について、懐疑主義、国家中心的道義主義、コスモポリタニズムの立場から向き合う方法を検証する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、歴史と理論を結びつけるためには、理論と事例を通じての理解が不可欠であることを説明できる。		
	事前学修	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?」の第2節・第3節（p. 32-p. 48）を読み、国際関係における倫理的考慮や道義的義務とは何かをノートにまとめる。		120分
	事後学修	国際関係における倫理的問題について、懐疑主義、国家中心的道義主義、コスモポリタニズムの立場から、イラク戦争の歴史的解釈を試み、知見をノートにまとめる。		120分
4	国際関係史の主要な概念		国際関係史を学ぶ上で最も大事な概念である主権国家およびパワーとは何かについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際関係史における主要な概念である主権国家およびパワーとは何かを説明できる。		
	事前学修	「第2章紛争と協調を説明する一知の技法」の第1節（p. 49-p. 69）を読み、主権国家という概念が国際政治学の中でしばしば混乱して語られる理由をノートにまとめる。		120分
	事後学修	講義の中で出てきた国家、国際的主体、国際システムなどの用語を使い、国家が追求する国益についての知見を整理しノートにまとめる。		120分
5	国際関係における分析のレベル		ウォルツの3つの分析レベルを用いて国際関係史を分析する手法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ウォルツの3つの分析レベルについて説明することができる。到達目標③④に関連して、特定の事例をウォルツの3つの分析レベルを用いて分析・検証することができる。		
	事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第2節（p. 69-p. 81）を読み、3つの分析のレベルの特徴についてノートにまとめる。		120分
	事後学修	分析レベルについての知見をまとめ、戦争の原因、環境問題の原因など興味のある問題について3つのレベルで考え、ノートにまとめる。		120分
6	国際関係史のパラダイムと理論		国際関係におけるパラダイムとは何か、またパラダイム転換とはどのようなものかを解説する。それらを理解した上で、マルクス主義、コンストラクティヴィズムがどのようなパラダイム転換を、国際社会の紛争と協調の解釈にもたらしたのかを検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、国際関係研究に必要なパラダイムの内容、特に、マルクス主義、コンストラクティヴィズムの理論を説明できる。		
	事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第3節（p. 82-p. 94）を読むとともに、『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』第8章を通読し、マルクス主義、コンストラクティヴィズムの特徴をノートにまとめる。		120分
	事後学修	第5回のリアリズム、リベラリズムの比較表に、マルクス主義、コンストラクティヴィズムを加えて、国際社会の紛争と協調をこれらの理論がどのように解釈するのかの知見をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	国際関係史と反実仮想	反実仮想モデルを用いながら、歴史の因果関係を検証する手法を解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、反実仮想を用いた推論の方法の価値を説明できる。到達目標③④に関連して、反実仮想を用いて特定の事例を分析することができる。		
	事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」の第4節 (p. 94-p. 101) や、吉川直人『国際関係理論』(2015年、勁草書房) 第2章などを読み、反実仮想に不可欠な、もっともらしさ、時間の近接性などの意味をノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義で学習した「仮想歴史」の方法論を使って、ペロポネソス戦争についての反実仮想を実施し、そこから得た知見をノートにまとめる。	120分	
8	第1回から第7回の復習 中間テスト	これまでに学んだ事項を振り返る。また、第1回から第7回の範囲から中間テストを実施する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際関係研究に必要な理論や概念について説明できる。到達目標⑤に関連して、現在の国際社会における様々な課題を国際関係理論を用いて考察できる。		
	事前学修	第1回から第7回の復習をする。これまでのノートを振り返る。	120分	
	事後学修	理解が浅かった事項をノートにまとめる。また、新聞に目を通して、今日の国際社会の問題をテーマ毎に分類し、特に興味を持った事項について情報収集をしノートに書きだす。	120分	
9	バランス・オブ・パワー	ウェストファリアからナポレオン戦争までの国際関係について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、バランス・オブ・パワーとは何かについて説明できる。		
	事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」の2節 (p. 115-p. 123) を読み、パワー分布としてのバランス・オブ・パワー、政策としてのバランス・オブ・パワーの意味についてノートにまとめる。	120分	
	事後学修	ウェストファリア前後のヨーロッパの情勢について整理してノートにまとめる。	120分	
10	19世紀のバランス・オブ・パワー	第一次世界大戦前後の国際関係について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、欧州におけるバランス・オブ・パワーがどのように変化したのか説明できる。		
	事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」の2節 (p. 115-p. 123) を読み、19世紀のバランス・オブ・パワーの構造についてノートにまとめる。	120分	
	事後学修	1914年からの「教訓」から戦争回避の政策に関する知見をノートにまとめる。	120分	
11	第一次世界大戦の起源	第一次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて考える。		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、第一次世界大戦の起源を3つの分析レベルの手法を用いて分析できる。		
	事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」の3節 (p. 123-p. 144) を、システム・レベルを意識しながら読み、戦争が不可避であったのかについてノートにまとめる。	120分	
	事後学修	ウォルツの3つのイメージを用いて第一次世界大戦の起源に関する知見をノートにまとめる。	120分	
12	集団安全保障の興亡	国際連盟と集団安全保障について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集団安全保障の概念と国際連盟について説明できる。到達目標③④に関連して、第一次世界大戦後の世界の態度を分析して、国際連盟が機能しなかったことを説明できる。		
	事前学修	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第1節 (p. 145-p. 157) を、集団安全保障の意味を考えながら読み、初期の国際連盟とアメリカの関係についてノートにまとめる。	120分	
	事後学修	戦間期における集団安全保障の方法についての知見をノートにまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	第二次世界大戦の起源	第二次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて考える。		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、第二次世界大戦の起源をウォルツの分析手法を用いて説明できる。到達目標⑤に関連して、第一次世界大戦と第二次世界大戦の起源の違いについて説明できる。		
	事前学修	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第2節（p. 157～p. 178）を、ヒトラーの戦略を考えながら読み、3つのレベルに分解して、戦争の起源についてノートにまとめる。	120分	
	事後学修	第二次世界大戦がどのようにして進行していったのか、個人・国内・国際社会システムに分けて知見をノートにまとめる。	120分	
14	第二次世界大戦の教訓	二度とヒトラーを生み出さないための政治的発明について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦後の国際社会が取った戦争防止のための政策を説明できる。また、到達目標⑤に関連して、戦争を起こさないための方法の有無及びその理由について自分の考えを説明することができる。		
	事前学修	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」の第2節（p. 157～p. 178）を、第二次世界大戦の意味を考えながら読み、太平洋戦争の特徴をノートにまとめる。	120分	
	事後学修	第二次世界大戦は不可避だったのかについての知見をノートにまとめる。	120分	
15	講義から得られた知見と講評	今期のできごとのレビュー及び3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考える思考の実験を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考えることができる。		
	事前学修	第1回から第14回までに学んだことをノートを読みながら振り返る。	120分	
	事後学修	世界で起こっている現在の問題の今後を、前期で学んだ歴史的事実から類推してノートにまとめてみる。	120分	

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】 現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解するために、国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】 地位協定や米兵の刑事裁判権の問題に関心のある者が履修するのがのぞましい。

【授業方法】 講義形式を基本とする。ただし、必要に応じ、映像を紹介し、国際関係の流れ、および、日本外交について、適宜、説明を加える方法をとる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。						3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。						3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。						3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。					3							
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評を、後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
米軍基地権と日米密約	信夫隆司	岩波書店	2019年	参考書	推奨
備考	現在、本講義の教科書を執筆中である。出版され次第、紹介する。				

【オフィスアワー】
講義の前後。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際関係史の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。その上で、米兵の刑事裁判権問題を明らかにすることが、日米関係、さらには、国際関係史を理解するうえで重要なことを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、米兵の刑事裁判権問題を学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	刑事裁判権問題とはなにか（１）	地位協定が同盟国間の壁となっていることを明らかにする。冷戦終焉と米軍の状況、刑事裁判権とはなにかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、地位協定とはいかなるものなのかを説明できる。	
	事前学修	ベルリンの壁vs地位協定の壁、冷戦終焉と米軍、刑事裁判権とはなにかについて、要点をノートにまとめる。	90分
	事後学修	地位協定の現状、冷戦終焉後の米軍の配置状況、ならびに、刑事裁判権がなぜ問題となるかについて知見をまとめる。	150分
3	刑事裁判権問題とはなにか（２）	刑事裁判権に関連して、地位協定の原理、地位協定の運用改善、米兵を守るためにアメリカが築いた三つの砦を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、米軍の現状、地位協定の原理、地位協定の運用改善の状況、さらに、アメリカが米兵を守るために築いた三つの砦とはなにかを説明できる。	
	事前学修	地位協定の運用改善、および、アメリカが米兵を守るために築いた砦とはなにかをノートにまとめる。	120分
	事後学修	日本において、米軍基地はどこに存在し、どのくらいの人数が配置されているのかを調べ、ノートにまとめる。	120分
4	日米における運用改善（１）	１９９５年沖縄でおきた少女暴行事件を契機に、日本側が米兵を起訴する前、その身柄がアメリカ側の手中にある場合、アメリカ側がその身柄を日本側に引き渡す途が開かれた。なぜ、これが可能になったのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、１９９５年の沖縄で起きた少女暴行事件、身柄引き渡しに関する地位協定の概要、身柄引き渡しについて地位協定の運用はどのように改善されたのかを説明できる。	
	事前学修	１９９５年の沖縄少女暴行事件とはなにか、身柄引き渡しにおける地位協定の規定はどのようなになっているかを調べ、ノートにまとめる。	90分
	事後学修	身柄引き渡しに関する地位協定の運用は改善されたが、依然として問題は残る。その問題点はなにかを考え、ノートにまとめる。	150分
5	日米における運用改善（２）	２０１１年１月、沖縄で日本人男性が運転する車が、米軍属の車に衝突され、死亡する事件が起きた。地位協定では、軍属も軍人と同様、公務犯罪はアメリカ側に裁判権がある。軍属の公務犯罪の問題点および改善点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、地位協定上、軍属の公務犯罪は日米いずれが処罰できるのか、この問題の運用の改善点を説明できる。	
	事前学修	軍属の刑事裁判権はどのようにになっているのか、問題点はなにかをノートにまとめる。	150分
	事後学修	軍属の刑事裁判権は、どのように改善されたのか、また、依然としてなにが問題なのかをノートにまとめる。	90分
6	日米における運用改善（３）	２０１６年４月、沖縄で米軍属による女性殺害事件が起きた。犯人たる軍属の身分があいまいであったため、日米は軍属の範囲の見直しをおこなった。なぜこのような改善がおこなわれたのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、軍属とはなにか、軍属の範囲はどのようになったのか、また、問題点はなにかを説明できる。	
	事前学修	軍属とはいかなる者をさすのか、また、運用改善で軍属の範囲はどのようになったのかをノートにまとめる。	120分
	事後学修	米軍で、軍属はいかなる役割を果たしているのか、その人数はどれくらいなのかを知らべ、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日米における運用改善（４）	２００８年８月、沖縄で、米兵の運転する車がオートバイに乗っていた男性と衝突し、死にいたらしめる事件が起きた。この事件を契機に、犯罪の通報制度が問題とされ、改善にいたったことを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、米兵が罪を犯し、アメリカ側が裁判権を有する場合、処分結果をどのように日本側に通報するかを説明できる。	
	事前学修	米兵が罪を犯した場合、これまでの通報制度はどのようになっていたか、改善された通報制度はどのようになったかをノートにまとめる。	120分
	事後学修	アメリカ側が第一次裁判権を有する場合、その処分結果を日本側に通報した概要を整理し、その問題点をノートに整理する。	120分
8	フィリピンと基地協定（１）	１９４７年にアメリカとフィリピンが締結した米比軍事基地協定の刑事裁判権条項について考察する。とくに、１９８６年にフィリピンで誕生したアキノ政権が、同協定をどのようにとらえていたのかを分析する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、フィリピンにアキノ政権が誕生した経緯と新憲法の制定を説明できる。	
	事前学修	マルコス政権からアキノ政権にどのように移行したのか、また、アキノ政権下で制定された新憲法で、外国軍の駐留はどのように規定されていたのかを学修し、ノートにまとめる。	90分
	事後学修	マルコス政権とはどのようなものであったのか、同政権崩壊はなにによってもたらされたのか、アキノ政権は米比軍事基地協定をどのようにとらえていたのかを整理し、ノートにまとめる。	150分
9	フィリピンと基地協定（２）	１９４７年にアメリカとフィリピンが締結した米比軍事基地協定の刑事裁判権条項について考察する。とくに、あらたに締結された米比安保条約とはいかなるものであったのか、フィリピン上院は、同条約をなぜ批准しなかったのかを分析する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、米比安保条約とはどのようなものなのか、フィリピン上院はなぜ批准しなかったのかを説明できる。	
	事前学修	刑事裁判権条項に関して、米比軍事基地協定と米比安保条約を比較し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	米比安保条約が成立しなかった要因はなにかを整理し、ノートにまとめる。	120分
10	フィリピンと基地協定（３）	１９４７年にアメリカとフィリピンが締結した米比軍事基地協定の刑事裁判権条項について考察する。とくに、米比軍事基地協定の失効後、訪問米軍地位協定が成立した経緯、ならびに、その問題点を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、米比は、なぜ訪問米軍地位協定を締結するにいったのか、その問題点を説明できる。	
	事前学修	訪問米軍地位協定、ならびに、米比が軍事協力に関するその他の協定を締結するにいたった経緯を整理し、ノートにまとめる。	90分
	事後学修	フィリピンのドゥテルテ大統領は、訪問米軍地位協定の廃棄をアメリカ側に通告している。現在、この問題がどうなっているかを整理し、ノートにまとめる。	150分
11	韓国と地位協定（１）	米韓は１９６６年に米韓地位協定を締結した。その後、１９９１年と２００１年の２度にわたり同協定を改正している。とくに、同協定における刑事裁判権条項とはいかなるものなのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、米韓が１９９６年に締結した米韓地位協定の刑事裁判権条項とはいかなるものかを説明できる。	
	事前学修	１９９６年の米韓地位協定には、韓国による裁判権の自動放棄条項があった。この条項はいかなる意味を有するのかを整理し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	韓国における米兵の犯罪の状況を調べ、ノートにまとめる。	120分
12	韓国と地位協定（２）	米韓は１９６６年に米韓地位協定を締結した。その後、１９９１年と２００１年の２度にわたり同協定を改正している。とくに、１９９１年に、米韓は同協定の刑事裁判権条項をどのように改正したのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、米比が１９９１年に地位協定をどのように改正したのかを説明できる。	
	事前学修	１９９１年の改正で、裁判権放棄条項がどのように改正されたのかを整理し、ノートにまとめる。	90分
	事後学修	１９９１年改正の要因とは何だったのかを考え、ノートにまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	韓国と地位協定（３）	米韓は１９６６年に米韓地位協定を締結した。その後、１９９１年と２００１年の２度にわたり同協定を改正している。とくに、２００１年に、米韓は同協定の刑事裁判権条項をどのように改正したのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、２００１年に米兵の拘禁に関する規定が、どのように改正されたのかを説明できる。	
	事前学修	韓国側が米兵を起訴する前、および、起訴後における米兵の拘禁の扱いがどうなっているのか。改正によってどう変わったのかを整理し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	米兵の身柄の拘束に関して、日米地位協定と米韓地位協定とを比較し、ノートにまとめる。	120分
14	韓国と地位協定（４）	米韓は１９６６年に米韓地位協定を締結した。その後、１９９１年と２００１年の２度にわたり同協定を改正している。とくに、２００２年に起きた米軍による少女轢殺事件を中心に、米韓は米兵の公務犯罪についてどのように議論したのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、２００２年に韓国で起きた米軍による少女轢殺事件を説明できると同時に、この事件の問題点を指摘できる。	
	事前学修	２００２年、韓国で起きた少女暴行事件とはいかなるものであったのか、なぜ韓国側が米兵に対する裁判権を行使できなかったのかを整理し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	日米地位協定および米韓地位協定において、公務犯罪の扱いがどのようになっているのかを整理し、ノートにまとめる。	120分
15	地位協定の改善	冷戦終焉から今日まで、アメリカが日本、フィリピン、韓国と締結した地位協定（基地協定）がどのように変わってきたのかを振り返る。同時に、これらの地位協定の問題点を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカが日本、フィリピン、韓国と締結した地位協定は、どのように改善されたのか、また、残された問題はなにかを説明できる。	
	事前学修	日米地位協定、米比軍事基地協定、米韓地位協定の刑事裁判権条項を比較し、ノートにまとめる。	90分
	事後学修	地位協定における刑事裁判権の根本的問題とはなにかをみずから考え、ノートにまとめる。	150分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
教科書に沿いながら講義する。オンライン（Zoom使用）で授業を行う予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroomで適宜行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
近代ヨーロッパ国際政治史	君塚直隆	有斐閣	2010	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16時20分～17時50分研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要・導入講義	はじめに：授業の概要について	
	この回の到達目標	授業の概要を把握する。	
	事前学修	国際関係史についてネット等で各自情報収集をする。（2時間）	120分
	事後学修	授業で紹介された文献を各自、図書館等で探す。（2時間）	120分
2	神聖ローマ帝国	神聖ローマ帝国について	
	この回の到達目標	神聖ローマ帝国の基本的な構造と対外関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（『近代ヨーロッパ国際政治史』第6章）を読む。	120分
	事後学修	神聖ローマ帝国についての授業の内容を復習する。	120分
3	アメリカ合衆国独立	イギリスの拡張とアメリカ合衆国の独立について	
	この回の到達目標	アメリカの独立をヨーロッパとの関連で理解する。	
	事前学修	教科書第7章を読む。	120分
	事後学修	アメリカ合衆国の独立についての授業の内容を復習する。	120分
4	フランス革命	フランス革命について	
	この回の到達目標	フランス革命を他のヨーロッパ諸国との関係で理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（180～186頁）を読む。	120分
	事後学修	フランス革命についての授業の内容を復習する。	120分
5	ナポレオン戦争	ナポレオン戦争について	
	この回の到達目標	ナポレオンのフランスと他のヨーロッパ諸国との間の戦争について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（186～201頁）を読む。	120分
	事後学修	ナポレオン戦争についての授業の内容を復習する。	120分
6	ウィーン体制	ウィーン体制と勢力均衡について	
	この回の到達目標	ナポレオン戦争の結果成立したウィーン体制について理解する。	
	事前学修	教科書第9章を読む。	120分
	事後学修	ウィーン体制についての内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	クリミア戦争	クリミア戦争について	
	この回の到達目標	クリミア戦争をめぐる英仏トルコとロシアとの関係について理解する。	
	事前学修	教科書230～243頁を読む。	120分
	事後学修	クリミア戦争についての内容を復習する。	120分
8	ドイツ統一	ドイツ統一と普仏戦争について	
	この回の到達目標	ドイツ統一に至る過程を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（243～250頁）を読む。	120分
	事後学修	ドイツ統一についての授業の内容を復習する。	120分
9	アメリカ独立戦争	アメリカ南北戦争について	
	この回の到達目標	アメリカ独立戦争について、ヨーロッパとの関係を中心に理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（254～271頁）を読む。	120分
	事後学修	アメリカ南北戦争についての授業の内容を復習する。	120分
10	ビスマルク体制	ビスマルク体制について	
	この回の到達目標	ドイツのビスマルク体制について、ヨーロッパとの関係において理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（274～287頁）を読む。	120分
	事後学修	ビスマルク体制についての授業の内容を復習する。	120分
11	ビスマルク後のヨーロッパ	ビスマルク後のヨーロッパについて	
	この回の到達目標	ビスマルク失脚がヨーロッパに与えた影響について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（287～292頁）を読む。	120分
	事後学修	ビスマルク後のヨーロッパについての授業の内容を復習する。	120分
12	第一次世界大戦への道	第一次世界大戦前のヨーロッパについて	
	この回の到達目標	第一次世界大戦前のヨーロッパについて、とくに英仏独露に焦点をあてて理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（296～307頁）を読む。	120分
	事後学修	第一次世界大戦前のヨーロッパについての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第一次世界大戦勃発	第一次世界大戦の勃発について	
	この回の到達目標	第一次世界大戦勃発前のバルカン半島をめぐる情勢を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（307～315頁）を読む。	120分
	事後学修	第一次世界大戦についての授業の内容を復習する。	120分
14	第一次世界大戦の影響	第一次世界大戦の推移とヨーロッパにそれが与えた影響について	
	この回の到達目標	第一次世界大戦の推移と、第一次世界大戦がヨーロッパに与えた影響について理解する	
	事前学修	教科書終章を読む。	120分
	事後学修	第一次世界大戦の推移と影響についての授業を理解する。	120分
15	まとめ	授業のまとめ	
	この回の到達目標	ヨーロッパの国際関係史について、神聖ローマ帝国から第一次世界大戦までを復習する。	
	事前学修	後期学習した内容を確認する。	120分
	事後学修	後期学習した内容を総復習する。	120分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。					3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。					3						
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。					3						
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					3						
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。				3							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版 』	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	推奨
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室） （事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・国際関係史を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。 また、関連科目である国際関係論との違いを示しながら、国際関係史を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	冷戦の起源	冷戦がなぜ起こったのか、またなぜ熱戦にならなかったのか議論し、国際社会の態度を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関して、抑止と封じ込めについて説明できる。	
	事前学修	「第5章 冷戦」の第1節・第2節（p.179-p.201）を読み、冷戦の起源についての、伝統主義者、修正主義者、ポスト修正主義者の見解をノートにまとめる。	120分
	事後学修	抑止と封じ込めの定義を確認し、自分の言葉でノートにまとめる。	120分
3	封じ込めの実践	封じ込めの実践についてキューバ危機を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、冷戦に対する国際社会の対応を説明できる。到達目標④⑤に関連して、キューバ危機が国際社会に与えた影響を説明できる。	
	事前学修	「第5章 冷戦」の第3節・第4節（p.201-p.206）を読み、キューバ危機の概要をノートにまとめる。	120分
	事後学修	キューバ危機はなぜ起こったのか、なぜ衝突を回避できたのかを振り返り、ノートにまとめる。また、その後国際社会はどう変化したか、歴史的な意味を考え、ノートに知見をまとめる。	120分
4	冷戦後の軍事紛争	冷戦後、国家間の軍事衝突は少なくなったが、世界で地域紛争や内戦は起こっている。国際社会が冷戦後、紛争をどのように管理しているのか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、国際組織による軍事介入について説明できる。	
	事前学修	「第6章 冷戦後の紛争と協調」の第1節（p.237-p.255）を読み、国際社会が紛争解決のためにどのような施策を行っているのかをノートにまとめる。	120分
	事後学修	介入について、意味を確認し、冷戦後の紛争における介入事例をノートにまとめる。	120分
5	冷戦後の世界	冷戦後の軍事紛争について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、介入と民族自決問題について説明できる。	
	事前学修	「第6章 冷戦後の紛争と協調」（p.256-p.274）を読み、介入とは何かをノートにまとめる。	120分
	事後学修	冷戦前と冷戦後の軍事紛争への介入の違いについての知見をノートにまとめる。	120分
6	東ヨーロッパの現状	現在の引火点としての東ヨーロッパの情勢について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、「新しい冷戦」としての東ヨーロッパの紛争について説明できる。	
	事前学修	「第7章 現在の引火点」の第1節（p.275-p.288）を読み、最近の東ヨーロッパ情勢についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	東ヨーロッパに関する文献、新聞記事などをネットで探し、最新の政治情勢を確認し、今回の知見に重ねてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	近東と中東の現状 中間テスト	現在の引火点としての近東と中東情勢を解説する。また、中間テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、イスラエル、イラン、アフガニスタン、シリア、イエメンなどの情勢について説明できる。	
	事前学修	「第7章 現在の引火点」の第2節・第3節（p. 288-p. 322）を読み、最近の近東、中東の情勢についてノートにまとめる。第1回から第6回の復習をしておく。	120分
	事後学修	近東、中東に関する文献、新聞記事などをネットで探し、最新の政治情勢を確認し、今回の知見に重ねてノートにまとめる。	120分
8	アジアの現状	現在の引火点としての中国、北朝鮮を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、アジアの情勢について説明できる。	
	事前学修	「第7章 現在の引火点」の第4節・第5節（p. 322-p. 338）を読み、最近のアジア情勢をノートにまとめる。	120分
	事後学修	東アジアに関する文献、新聞記事などをネットで探し、最新の政治情勢を確認し、今回の知見に重ねてノートにまとめる。	120分
9	グローバリゼーション	グローバリゼーションと相互依存の概念について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、グローバリゼーションと相互依存の概念について説明できる。	
	事前学修	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」の第1節（p. 339-p. 347）を読み、21世紀のグローバリゼーションの意味をノートにまとめる。	120分
	事後学修	グローバリゼーションの功罪についての知見をノートにまとめる。	120分
10	グローバリゼーションへの対応	グローバリゼーションがもたらす政治的態度と反グローバリゼーションについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、反グローバリゼーションの考え方について説明できる。	
	事前学修	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」の第2節・第3節（p. 347-p. 374）を複合的相互依存の意味をノートにまとめる。	120分
	事後学修	相互依存の源泉・利益・コスト・対称性などについての知見をノートにまとめる。	120分
11	情報革命とパワー	近代国際社会を揺るがす情報革命とパワーについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、なぜ情報技術の進歩がウェストファリア体制を脅かす可能性があるのか、その理由と実態について説明できる。	
	事前学修	「第9章 情報革命と脱国家的主体」の第1節（p. 375-p. 396）を読み、インターネットの意味を考えながらアラブの覚醒についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	なぜインターネットが世界政治に大きなインパクトを与えるのかの知見をノートにまとめる。	120分
12	情報革命と脱国家主体	情報革命と脱国家的主体について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、情報化時代における脱国家主体のパワーについて、テロリズムなど負の側面からも説明できる。	
	事前学修	「第9章 情報革命と脱国家的主体」の第2節（p. 396-p. 411）を読み、脱国家的テロリズムと情報革命の関係についてノートにまとめる。	120分
	事後学修	21世紀的な対テロ戦争についての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	新しい世界秩序	20世紀から21世紀へ、新しい世界秩序について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、20世紀から21世紀にかけての国際社会の変化について説明できる。	
	事前学修	「第10章 未来に何を期待できるか？」の第1節（p. 413-p. 440）を読み、テキストの「5つの未来構想」をノートにまとめる。	120分
	事後学修	大量破壊兵器と安全保障の脱国家的な挑戦についての知見をノートにまとめる。	120分
14	持続可能な社会の実現	持続可能な社会を実現するための方策について検証する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、多様な理論を用いて、複雑な世界を複数の角度から分析し、未来予測をすることの重要性について説明できる。	
	事前学修	「第10章 未来に何を期待できるか？」の第2節（p. 440-p. 453）を、新しい世界秩序の意味を考えながら読み、今後の世界で起こりうることをノートにまとめる。	120分
	事後学修	今日の世界における様々な問題を整理し、新しい世界秩序についての知見をノートにまとめる。	120分
15	講義から得られた知見と講評	今期のできごとのレビュー及び3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考える思考の実験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、3つのレベルから見る方法と反実仮想的に考えることができる。	
	事前学修	第1回から第14回までに学んだことをノートを読みながら振り返る。	120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題の今後を、後期で学んだ歴史的事実から類推してノートにまとめる。	120分

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
国際関係の歴史のなかから、重要な外交案件や出来事を紹介し、それらが国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学修する。これらを学ぶことで、現在の国際政治や国際法が形作られた背景を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。

【履修条件】
地位協定や米兵の刑事裁判権の問題に関心のある者が履修するのがのぞましい。

【授業方法】
講義形式を基本とする。ただし、必要に応じ、映像を紹介し、国際関係の流れ、および、日本外交について、適宜、説明を加える方法をとる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。							3					
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。							3					
③	国際関係史における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。							3					
④	国際関係史における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。							3					
⑤	国際関係史における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。						3						
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評を、後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
米軍基地権と日米密約	信夫隆司	岩波書店	2019年	参考書	推奨
備考	現在、本講義の教科書を執筆中である。出版され次第、紹介する。				

【オフィスアワー】
講義の前後。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	国際関係史の学修		本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。地位協定の刑事裁判権条項はなぜ変わらないのかを学修する意義を明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地位協定の刑事裁判権条項の問題点を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
	事後学修	講義の概要を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	公務犯罪（１）		米兵が罪を犯した場合、公務犯罪であれば、米軍側がその者に対する裁判権を有することを地位協定は原則としている。なぜこの原則が誕生したのか、旗国法原理対領域主権論という視点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、なぜ公務犯罪は米軍側の第一次裁判権の対象となったのか、アメリカ連邦最高裁の判決にさかのぼって説明できる。	
	事前学修	旗国法原理と領域主権論の違いを整理し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	旗国法原理誕生のきっかけとなった連邦最高裁の判決とはいかなるものであったのかを検討し、ノートにまとめる。	120分
3	公務犯罪（２）		米兵が罪を犯した場合、公務犯罪であれば、米軍側がその者に対する裁判権を有することを地位協定は原則としている。この原則を確立したのがNATO軍地位協定である。同協定はなぜこの原則を確立したのか、ブリュッセル地位協定との比較から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、NATO軍地位協定およびその先駆をなしたブリュッセル地位協定の刑事裁判権条項について説明できる。	
	事前学修	ブリュッセル地位協定における競合的裁判権とはどのようなものであったのか、また、同協定がNATO軍地位協定にどのように引き継がれたのかを整理し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	競合的裁判権において、派遣国が第一次裁判権を有する犯罪としてどのようなものがあるかを整理し、ノートにまとめる。	120分
4	公務犯罪（３）		米兵が罪を犯した場合、公務犯罪であれば、米軍側がその者に対する裁判権を有することを地位協定は原則としている。NATO軍地位協定の交渉過程で、公務犯罪をめぐる、各国はどのような議論をおこなったのかを考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、NATO軍地位協定の交渉過程で、各国は公務犯罪の問題について、どのように議論したのか、結果はどうなったのかを説明できる。	
	事前学修	公務犯罪に関するNATO軍地位協定の交渉過程で、各国が議論した状況を整理し、ノートにまとめる。	90分
	事後学修	NATO軍地位協定の交渉過程で、公務犯罪が派遣国の第一次裁判権の対象となったことについて考察し、その妥当性について、みずからの考えをノートにまとめる。	150分
5	公務犯罪（４）		米兵が罪を犯した場合、公務犯罪であれば、米軍側がその者に対する裁判権を有することを地位協定は原則としている。公務犯罪をめぐる、日本でおきたジラード事件および伊江島事件を考察する。
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、1957年のジラード事件、および、1974年の伊江島事件とはどのようなものであったのか、公務犯罪がどのように議論されたのかを説明できる。	
	事前学修	ジラード事件および伊江島事件の概要を調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	ジラード事件では、アメリカ側が米兵に対する裁判権を行使しないこととなった。これに対して、伊江島事件では、日本側が米兵に対する裁判権を行使しないこととなった。この結果について考察し、ノートにまとめる。	120分
6	刑事裁判権放棄（１）		地位協定では、受入国が、派遣国要員が犯した罪の裁判権を放棄する場合がある。ただし、それは受入国の意思にもとづく。ところが、派遣国（米側）は受入国に裁判権を放棄してもらう方式を編み出す。とくに、日米間の裁判権放棄密約の先例となったアイスランドの例を考察する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、1951年に、アメリカとアイスランドがなぜ裁判権を放棄する協定をかわしたのかを説明できる。	
	事前学修	アイスランドとはどのような国か、同国の安全保障の状況はどうなっていたのかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	アイスランドは、アメリカと裁判権を放棄する協定をなぜ締結ことになったのか、歴史的経緯、アイスランドが置かれた状況を整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	刑事裁判権放棄（２）	地位協定では、受入国が、派遣国要員が犯した罪の裁判権を放棄する場合がある。ただし、それは受入国の意思にもとづく。ところが、派遣国（米側）は受入国に裁判権を放棄してもらう方式を編み出す。とくに、１９５３年に日米がかわした裁判権放棄密約を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標④⑤の関連で、日米間の裁判権放棄密約とはいかなるものなのか、なぜそれが密約といえるのかを説明できる。		
	事前学修	津田實の一方的陳述を考察し、なぜそれが密約を構成するのかを整理し、ノートにまとめる。		90分
	事後学修	日本は、裁判権放棄密約にしたがって、裁判権を放棄しているのかを考え、ノートに知見をまとめる。		150分
8	刑事裁判権放棄（３）	地位協定では、受入国が、派遣国要員が犯した罪の裁判権を放棄する場合がある。ただし、それは受入国の意思にもとづく。ところが、派遣国（米側）は受入国に裁判権を放棄してもらう方式を編み出す。とくに、アメリカとオランダがかわしたオランダ方式といわれる裁判権放棄方式を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標③との関連で、オランダ方式といわれる裁判権放棄方式とはいかなるものかを説明できる。		
	事前学修	オランダ方式といわれる裁判権放棄方式とはどのようなものであるのかを整理し、ノートにまとめる。		120分
	事後学修	オランダは、なぜオランダ方式を受け入れたのか、オランダの国防上の視点から考え、ノートにまとめる。		120分
9	刑事裁判権放棄（４）	地位協定では、派遣国が、派遣国要員が犯した罪の裁判権を放棄する場合がある。ただし、それは受入国の意思にもとづく。ところが、派遣国（米側）は受入国に裁判権を放棄してもらう方式を編み出す。とくに、派遣国（アメリカ）とドイツがかわしたドイツ方式という裁判権放棄方式を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤の関連で、ドイツ方式といわれる裁判権放棄方式とはなにか、なぜドイツはこの方式をのむにいったのかを説明できる。		
	事前学修	NATO軍地位協定の裁判権放棄方式とドイツ方式とを比較し、なにがどのように違うのかを整理して、ノートにまとめる。		90分
	事後学修	ドイツは、なぜドイツ方式を受け入れたのか、また、ドイツはどの程度裁判権を放棄しているのかを考察し、ノートにまとめる。		150分
10	拘禁の問題（１）	罪を犯した派遣国要員の拘禁の問題は、裁判権と並んで重要である。派遣国あるいは受入国のいずれが容疑者の身柄を拘束できるかである。とくに、身柄拘束はどのようにおこなわれるのかを考察する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤の関連で、罪を犯した米兵が逮捕された場合を例にして、拘禁の流れを説明できる。		
	事前学修	罪を犯した米兵について、アメリカが第一次裁判権を有する場合と、日本が第一次裁判権を有する場合における拘禁の流れについて整理する。		120分
	事後学修	罪を犯した米兵について、アメリカが第一次裁判権を有する場合と、日本が第一次裁判権を有する場合における拘禁の流れについて整理し、ノートにまとめる。		120分
11	拘禁の問題（２）	罪を犯した派遣国要員の拘禁の問題は、裁判権と並んで重要である。派遣国あるいは受入国のいずれが容疑者の身柄を拘束できるかである。とくに、日米は、裁判権放棄密約だけではなく、拘禁権密約もかわしているので、この密約について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、日米が交わした拘禁権密約とはいかなるものかを説明できる。		
	事前学修	日米がかわした拘禁権密約とはいかなるものかを整理し、ノートにまとめる。		120分
	事後学修	日米はなぜ拘禁権密約を締結するにいったのかを考察し、ノートにまとめる。		120分
12	拘禁の問題（３）	罪を犯した派遣国要員の拘禁の問題は、裁判権と並んで重要である。派遣国あるいは受入国のいずれが容疑者の身柄を拘束できるかである。とくに、拘禁に関して、オランダおよびドイツではどのように扱われているのかを考察する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、オランダおよびドイツにおける拘禁の扱いがどのようにになっているのかを説明できる。		
	事前学修	オランダおよびドイツにおける拘禁の扱いがどのようにになっているのかを整理し、ノートにまとめる。		120分
	事後学修	オランダおよびドイツにおける拘禁の扱いと、日本における拘禁の扱いを比較し、その違いをノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	拘禁の問題（４）		罪を犯した派遣国要員の拘禁の問題は、裁判権と並んで重要である。派遣国あるいは受入国のいずれが容疑者の身柄を拘束できるかである。とくに、日本における拘禁の実態について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、日本における拘禁の実態を説明できる。		
	事前学修	日本における拘禁の扱いについて整理し、ノートにまとめる。		90分
	事後学修	日本における拘禁の実態について知見を整理し、ノートにまとめる。		150分
14	刑事裁判権条項をどのように変えるか（１）		現在の日米間の刑事裁判権条項をどのように変えるべきかを考察する。とくに、公務犯罪の問題点、および、通勤途上の交通事故の扱いを取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、公務犯罪の問題点、および、通勤途上の交通事故の問題を取り上げ、どのように変更すべきかを説明できる。		
	事前学修	現行の日米地位協定の刑事裁判権条項について、公務犯罪の問題点、および、通勤途上の交通事故の問題をノートにまとめる。		120分
	事後学修	公務犯罪の問題点、および、通勤途上の交通事故の問題について、なにをどのように改善すべきか、知見を整理し、ノートにまとめる。		120分
15	刑事裁判権条項をどのように変えるか（２）		現在の日米間の刑事裁判権条項をどのように変えるべきかを考察する。とくに、刑事裁判権放棄密約、裁判権行使・不行使の通告期間、未成年の米兵の犯罪、拘禁の問題を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、刑事裁判権放棄密約、裁判権行使・不行使の通告期間、未成年の米兵の犯罪、拘禁の問題を説明できる。		
	事前学修	刑事裁判権放棄密約、裁判権行使・不行使の通告期間、未成年の米兵の犯罪、拘禁の問題で、なにが問題なのかを整理し、ノートにまとめる。		90分
	事後学修	刑事裁判権放棄密約、裁判権行使・不行使の通告期間、未成年の米兵の犯罪、拘禁の問題の改善点について知見を整理し、ノートにまとめる。		150分

科目名	国際関係法〔公法系〕A I	担当者	本吉 祐樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際法は15世紀後半以降に西ヨーロッパで成立した法規範で、主権国家間の権利義務関係を規律する。しかし、国際法は国内法とその性質が大きく異なる。そこで、まず国際法の特質を理解した上で、その国際関係調整機能、紛争処理機能および国際社会の組織化機能、具体的には近代国際法の特質、国際法の法源、主体、国家の成立要件と権利義務、領域主権について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際社会の秩序維持に国際法が果たしている機能を理解するために、まず国際社会と国家社会の法構造の違い、近代国際法の成立と発展過程、国際法の法源および国際法と国内法の関係について説明することができる。その上で、国家の成立要件、権利義務ならびに領域主権に関する知識を修得することにより、国際問題を法的に考察する技能と態度が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。必要に応じて補助教材を利用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代国際法の成立とその特質について説明することができる。				2					2		
②	国際社会における国際法の機能を説明することができる。				2					2		
③	国際法の法源の意義と相互関係について説明することができる。				2							
④	国家の成立要件と権利義務について説明することができる。				2					2		
⑤	国家の領域主権と領域取得の方式について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。	20	25	15	15	15						90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	2	2	2	2	2						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		22	27	17	17	17						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXTシリーズ国際法（第3版）	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集（年度は問わないが、新しいものが望ましい）	岩沢雄司	有斐閣	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時40分―16時10分（事前にメール等でアポイントメントを取るようにしてください。）本館7階1716研究室、メールアドレス：motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要 導入講義	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明	
	この回の到達目標	授業について理解する。	
	事前学修	国際法に関する情報を探してみる。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を確認する。	120分
2	国際法概要	国際社会と国際法	
	この回の到達目標	国際社会と国際法の関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章2―5頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際社会と国際法についての授業の内容を復習する。	120分
3	近代国際法	近代国際法の成立と発展	
	この回の到達目標	近代国際法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章5―8頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	近代国際法の成立と発展についての授業の内容を復習する。	120分
4	国際法の主体	国際法の主体：国家、国際組織、個人、NGO	
	この回の到達目標	国際法の主体について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章9-10頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法の主体についての授業の内容を復習する。	120分
5	国際法と国内法	国際法と国内法の関係について	
	この回の到達目標	国際法と国内法の関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章11-12頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と国内法についての授業の内容を復習する。	120分
6	国際法の法源	国際法の法源①：条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議	
	この回の到達目標	国際法の法源について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法以外の部分）を読んでおく。	120分
	事後学修	条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際慣習法	国際法の法源②：国際慣習法	
	この回の到達目標	国際法の法源としての国際慣習法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法の部分）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際慣習法についての授業の内容を復習する。	120分
8	国家の成立要件	国際法と国家①：国家の成立要素	
	この回の到達目標	国家の成立要件について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章28-29頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家の成立要素についての授業の内容を復習する。	120分
9	国家承認	国際法と国家②：国家承認	
	この回の到達目標	国家承認の学説および必要性について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章29-31頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家承認についての授業の内容を復習する。	120分
10	政府承認	国際法と国家③：政府承認	
	この回の到達目標	政府承認とその必要性について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章32-33頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	政府承認についての授業の内容を復習する。	120分
11	国家承継・政府承継	国際法と国家④：国家承継・政府承継	
	この回の到達目標	国家承継と政府承継について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章34-35頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家承継・政府承継についての授業の内容を復習する。	120分
12	国家の基本的権利義務	国家の基本的権利義務①：国家主権、主権平等、主権免除	
	この回の到達目標	国家の基本的権利義務のなかでも重要な国家主権、主権平等、それらから派生する主権免除について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章36-37頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家主権、主権平等、主権免除についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	不干渉義務と管轄権	国家の基本的権利義務②：不干渉義務、管轄権	
	この回の到達目標	不干渉義務と管轄権について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章37-39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	不干渉義務、管轄権についての授業の内容を復習する。	120分
14	自衛権	国家の基本的権利義務③：自衛権	
	この回の到達目標	自衛権の理論および要件について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	自衛権についての授業の内容を復習する。	120分
15	まとめ	まとめ：前期の総まとめ	
	この回の到達目標	前期の授業を概観する。	
	事前学修	前期の授業の内容を確認する。	120分
	事後学修	前期の授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕A I	担当者	河合 利修	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際法は15世紀後半以降に西ヨーロッパで成立した法規範で、主権国家間の権利義務関係を規律する。しかし、国際法は国内法とその性質が大きく異なる。そこで、まず国際法の特質を理解した上で、その国際関係調整機能、紛争処理機能および国際社会の組織化機能、具体的には近代国際法の特質、国際法の法源、主体、国家の成立要件と権利義務、領域主権について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際社会の秩序維持に国際法が果たしている機能を理解するために、まず国際社会と国家社会の法構造の違い、近代国際法の成立と発展過程、国際法の法源および国際法と国内法の関係について説明することができる。その上で、国家の成立要件、権利義務ならびに領域主権に関する知識を修得することにより、国際問題を法的に考察する技能と態度が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代国際法の成立とその特質について説明することができる。						2					2		
②	国際社会における国際法の機能を説明することができる。						2					2		
③	国際法の法源の意義と相互関係について説明することができる。						2							
④	国家の成立要件と権利義務について説明することができる。						2					2		
⑤	国家の領域主権と領域取得の方式について説明することができる。						2							
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	10	15	15	15	15						70
小テスト等	小テストが、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に出席し、到達目標①～⑤に関する質問・発言等しているかを評価する。	1	1	1	1	1						5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	21	21	21	21						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
N E X T教科書シリーズ『国際法（第3版）』	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集2021	岩沢雄司	有斐閣	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16時20分～17時50分研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要 導入講義	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明	
	この回の 到達目標	授業について理解する	
	事前学修	国際法に関する情報をネット等で探してみる。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を確認する。	120分
2	国際法概要	国際社会と国際法	
	この回の 到達目標	国際社会と国際法の関係について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章2―5頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際社会と国際法についての授業の内容を復習する。	120分
3	近代国際法	近代国際法の成立と発展	
	この回の 到達目標	近代国際法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章5―8頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	近代国際法の成立と発展についての授業の内容を復習する。	120分
4	国際法の基本原理	国際法の主体（国家、国際組織、個人、NGO）、国際法体系、国際法と国内法	
	この回の 到達目標	国際法の基本原理について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第1章9-12頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法の基本原理についての授業の内容を復習する。	120分
5	国際法の法源	国際法の法源①：条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議	
	この回の 到達目標	国際法の法源について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法以外の部分）を読んでおく。	120分
	事後学修	条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議についての授業の内容を復習する。	120分
6	国際慣習法	国際法の法源②：国際慣習法	
	この回の 到達目標	国際法の法源としての国際慣習法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第2章国際慣習法の部分）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際慣習法についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	条約法	ウィーン条約法条約	
	この回の到達目標	条約に関するウィーン条約法条約について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第13章）を読んでおく。	120分
	事後学修	条約法についての授業の内容を復習する。	120分
8	国家の成立要件	国際法と国家①：国家の成立要素	
	この回の到達目標	国家の成立要件について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章28-29頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家の成立要素についての授業の内容を復習する。	120分
9	国家承認と政府承認	国際法と国家②：国家承認と政府承認	
	この回の到達目標	国家承認の学説および必要性、ならびに政府承認について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章29-34頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家承認と政府承認についての授業の内容を復習する。	120分
10	国家の基本的権利義務	国家の基本的権利義務①：国家主権、主権平等、主権免除	
	この回の到達目標	国家の基本的権利義務のなかでも重要な国家主権、主権平等、それらから派生する主権免除について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章36-37頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家主権、主権平等、主権免除についての授業の内容を復習する。	120分
11	不干渉義務と管轄権	国家の基本的権利義務②：不干渉義務、自衛権、管轄権	
	この回の到達目標	不干渉義務、自衛権、管轄権について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章37-39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	不干渉義務、自衛権、管轄権についての授業の内容を復習する。	120分
12	外交法	外交使節と領事機関	
	この回の到達目標	外交使節と領事機関について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第4章）を読んでおく。	120分
	事後学修	外交法についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家責任	国家の国際責任	
	この回の到達目標	国家責任について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第5章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家責任についての授業の内容を復習する。	120分
14	国家の領域	国家の領域：領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式、日本の領土問題	
	この回の到達目標	領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式、日本の領土問題について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第6章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家の領域についての授業の内容を復習する。	120分
15	まとめ	まとめ：前期の総まとめ	
	この回の到達目標	前期の授業を概観する。	
	事前学修	前期の授業の内容を確認する。	120分
	事後学修	前記の授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅡ	担当者	本吉 祐樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際関係法〔公法系〕AⅠで学んだことをもとに、日本の領土問題のほか、主要な国際法制度に関する理解を深める。すなわち、安全保障および資源確保上重要な海洋に関する法制度、外交領事機関の任務と特権免除、外国人の地位、難民の保護、人権の国際的保障、国際犯罪と処罰制度、国際機構の機能と限界、条約の締結手続と効力、国家責任の成立要件と解除方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係に安定と発展をもたらしている国際法の諸制度について理解するために、まず海洋および外交領事機関の法的地位、難民の保護、人権条約の履行確保制度に関する知識を修得する。さらに、国際犯罪、国家責任等に関する知識を充実させることにより、国家の行動を法的に評価できる能力が身につく。また、領土問題について事実関係と日本の立場を説明できるようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の領土問題の事実関係と双方の主張について説明することができる。				2					2		
②	海洋を区分し、それぞれにおける沿岸国の権利義務について説明することができる。				2					2		
③	外交官と領事の任務、不可侵権、特権免除と、その違いについて説明することができる。				2					2		
④	国際社会における人権保護制度について、関連条約を挙げて説明することができる。				2					2		
⑤	国際機構の発展と加盟国の地位、国際犯罪の概念と処罰制度、国家の国際責任の成立要件と解除方法について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	20	15						90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	2	2	2	2	2						10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		22	22	17	22	17						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXTシリーズ国際法（第3版）	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集（年度は問わないが、新しいものが望ましい）	岩沢雄司	有斐閣	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時40分―16時10分（事前にメール等でアポイントメントを取るようにしてください。）本館7階1716研究室、メールアドレス：motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際法の後期分概要 導入講義	授業の説明	
	この回の到達目標	後期の国際法の内容について把握する。	
	事前学修	国際法の諸問題についてネットなどで調べておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を各自確認する。	120分
2	国際法と領域	国家の領域①：領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式	
	この回の到達目標	国際法における領域の重要性と領域取得の方法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第6章67-76頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式についての授業の内容を復習する。	120分
3	領土問題	国家の領域②：日本の領土問題	
	この回の到達目標	領土問題の具体例として、日本の領土問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第6章76-81頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	日本の領土問題についての授業の内容を復習する。	120分
4	海洋法の歴史	海洋法①：歴史的展開	
	この回の到達目標	海洋法で重要な歴史的な経緯を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章84-85頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋法の歴史的展開についての授業の内容を復習する。	120分
5	海洋法の構造	海洋法②：海洋法の具体的な構造	
	この回の到達目標	内水、領海、特殊な地域、EEZ、大陸棚、深海底について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章86-95頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋法の構造についての授業の内容を復習する。	120分
6	海洋に関する紛争解決	海洋法③：海洋境界の画定と紛争の解決	
	この回の到達目標	海洋についての境界画定の方法と紛争の解決方法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章96-99頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋境界の画定と紛争の解決についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国際広域		国際公域：国際河川、運河、南極、宇宙	
	この回の到達目標	どこの国にも属さない国際広域について理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（第8章）を読んでおく。		120分
	事後学修	国際公域についての授業の内容を復習する。		120分
8	外交関係法		外交関係と国際法：外交使節と領事使節	
	この回の到達目標	外交と領事に関する国際法について理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（第4章）を読んでおく。		120分
	事後学修	外交関係と国際法についての授業の内容を復習する。		120分
9	条約法		条約法としてのウィーン条約法条約	
	この回の到達目標	ウィーン条約法条約について理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（第13章）を読んでおく。		120分
	事後学修	条約法についての授業の内容を復習する。		120分
10	国際人権法		国際法と個人：人権	
	この回の到達目標	戦後発展した国際人権法について理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（第9章）を読んでおく。		120分
	事後学修	国際法と個人についての授業の内容を復習する。		120分
11	国際環境法		国際法と地球環境	
	この回の到達目標	国際環境法を地球温暖化防止条約を中心に理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（第10章）を読んでおく。		120分
	事後学修	国際法と地球環境についての授業の内容を復習する。		120分
12	国際経済法		国際法と国際経済	
	この回の到達目標	GATT/WTOと地域経済協定について理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分（第11章）を読んでおく。		120分
	事後学修	国際法と国際経済についての授業の内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際機構法		国際法と国際機構
	この回の到達目標	特に国連と国連憲章について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第12章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と国際機構についての授業の内容を復習する。	120分
14	国際責任		国家の国際責任
	この回の到達目標	国家の行為についての責任について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第5章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国家の国際責任についての授業の内容を復習する。	120分
15	後期授業概要		後期まとめ
	この回の到達目標	後期の授業の総まとめを行い、授業の内容を確認する。	
	事前学修	後期の授業の内容の確認をする。	120分
	事後学修	後期の授業の総復習をする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅡ	担当者	河合 利修	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際関係法〔公法系〕AⅠで学んだことをもとに、日本の領土問題のほか、主要な国際法制度に関する理解を深める。すなわち、安全保障および資源確保上重要な海洋に関する法制度、外交領事機関の任務と特権免除、外国人の地位、難民の保護、人権の国際的保障、国際犯罪と処罰制度、国際機構の機能と限界、条約の締結手続と効力、国家責任の成立要件と解除方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係に安定と発展をもたらしている国際法の諸制度について理解するために、まず海洋および外交領事機関の法的地位、難民の保護、人権条約の履行確保制度に関する知識を修得する。さらに、国際犯罪、国家責任等に関する知識を充実させることにより、国家の行動を法的に評価できる能力が身につく。また、領土問題について事実関係と日本の立場を説明できるようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の領土問題の事実関係と双方の主張について説明することができる。				2					2		
②	海洋を区分し、それぞれにおける沿岸国の権利義務について説明することができる。				2					2		
③	外交官と領事の任務、不可侵権、特権免除と、その違いについて説明することができる。				2					2		
④	国際社会における人権保護制度について、関連条約を挙げて説明することができる。				2					2		
⑤	国際機構の発展と加盟国の地位、国際犯罪の概念と処罰制度、国家の国際責任の成立要件と解除方法について説明することができる。				2							
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。なお、事前に採点基準を公表し、試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。	10	15	15	15	15						70
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が見についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業に出席し、到達目標①～⑤に関する質問・発言等しているかを評価する。	1	1	1	1	1						5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	21	21	21	21						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXT教科書シリーズ『国際法（第3版）』	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集2021	岩沢雄司	有斐閣	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日16時20分～17時50分研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際法の後期分概要 導入講義	授業の説明	
	この回の 到達目標	後期の国際法の内容について把握する。	
	事前学修	国際法の諸問題についてネットなどで調べておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を各自確認する。	120分
2	海洋法の歴史	海洋法①：歴史的展開	
	この回の 到達目標	海洋法で重要な歴史的な経緯を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章84－85頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋法の歴史についての授業の内容を復習する。	120分
3	内水と領海	海洋法②：内水、領海	
	この回の 到達目標	内水と領海について理解する	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章86－88頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	内水と領海についての授業の内容を復習する。	120分
4	接続水域、群島水域、国際海峡	海洋法③：接続水域、群島水域、国際海峡	
	この回の 到達目標	接続水域、群島水域、国際海峡について理解する	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章88－90頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	接続水域、群島水域、国際海峡についての授業の内容を復習する。	120分
5	公海	海洋法④：公海	
	この回の 到達目標	公海について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章90－92頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	公海についての授業の内容を復習する。	120分
6	排他的経済水域	海洋法⑤：排他的経済水域	
	この回の 到達目標	排他的経済水域の法的地位と漁業資源の管理について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章92－93頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	排他的経済水域と漁業資源の管理についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	大陸棚	海洋法⑥：大陸棚	
	この回の到達目標	大陸棚の法的地位と開発について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章93－94頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	大陸棚の法的地位と開発についての授業の内容を復習する。	120分
8	深海底	海洋法⑦：深海底	
	この回の到達目標	深海底の法的地位と開発について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章94－95頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	深海底の法的地位と開発についての授業の内容を復習する。	120分
9	海洋に関する紛争解決	海洋法⑧：海洋境界の画定と紛争の解決	
	この回の到達目標	海洋についての境界画定の方法と紛争の解決方法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章96－99頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	海洋境界の画定と紛争の解決についての授業の内容を復習する。	120分
10	国際河川、運河、南極	国際公域①：国際河川、運河、南極	
	この回の到達目標	国際河川、運河、南極の国際法上の地位について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第8章102－106頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際河川、運河、南極の国際法上の地位についての授業の内容を復習する。	120分
11	空、宇宙	国際公域②：空、宇宙	
	この回の到達目標	空と宇宙の国際法上の地位について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第8章106－109頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	空と宇宙の国際法上の地位についての授業の内容を復習する。	120分
12	国際人権法	国際法と個人：人権	
	この回の到達目標	戦後発展した国際人権法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第9章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と個人についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際環境法		国際法と地球環境
	この回の到達目標	国際環境法を地球温暖化防止条約を中心に理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第10章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と地球環境についての授業の内容を復習する。	120分
14	国際経済法		国際法と国際経済
	この回の到達目標	GATT/WTOと地域経済協定について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第11章）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際法と国際経済についての授業の内容を復習する。	120分
15	後期授業概要		後期まとめ
	この回の到達目標	後期の授業の総まとめを行い、授業の内容を確認する。	
	事前学修	後期の授業の内容の確認をする。	120分
	事後学修	後期の授業の総復習をする。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅠ	担当者	田中 誠	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際紛争はいかなる手続で解決されるのか。また、国家はいかなる手段で自国の領土と政治的独立を保全するのか。戦争の違法化の過程を概観した上で、国際紛争を平和的に解決するための非裁判手続(政治的手続)と裁判手続(司法裁判)のほか、復讐(対抗措置)、自衛、戦争などの強力的解決手続について学修する。また、集団安全保障制度と国際連合の平和維持活動(PKO)に関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際紛争の解決制度および国際平和の維持制度を理解するために、まず国際紛争解決のための非裁判手続、国際連盟と国際連合の紛争解決制度、国際裁判手続に関する知識を充実させる。さらに、集団安全保障制度の理念と現状を認識し、PKO創設の背景と発展について理解することにより、国際平和を実現するための国際法制度を説明できる能力が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
総合ポータルシステムにアップロードした学習資料またはスライド（パワーポイントなど）を併用して教科書に基づいて講義を中心に進めていく。この際、出席管理システム（レスポん）を利用して出欠確認を行う。毎回授業後3日以内にリアクションペーパーを作成させ、これを総合ポータルシステムで提出させる。一部の授業回では、事前の課題付与によるプレゼンテーション、ディベート、レポート作成を行わせる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で口頭の質疑応答の他、出席管理システム（レスポん）により適宜アンケートを行いながら理解の定着を図る。事後学修における振り返りとして、授業後3日以内にリアクションペーパーを提出させ、質問または理解不十分な事項に対しては次回の授業で回答または補足説明を行い理解の定着を図る。一部の授業回では、事前の課題付与によるプレゼンテーション、ディベート、レポート作成を行わせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	古代から現代に至る戦争観の変遷、とくに戦争の違法化について説明することができる。				3							
②	国際紛争解決に関する非裁判手続について、事例を挙げて説明することができる。				3					3		
③	国際裁判の管轄権、訴訟手続、判決の履行および日本が当事国となった事例について説明することができる。				3					3		
④	個別的小および集团的自衛権の意義と発動要件、事例について説明することができる。				3							
⑤	国連の集団安全保障制度と平和維持活動の概要、問題点について説明することができる。				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力を習得しているかを評価する。	5	5	5	10	10						35
討論・発表等	事例研究課題を付与し、授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標②③⑤に関して論理的に話す能力、他人の主張の趣旨を理解した上で合理的な反論をする能力を習得しているかを評価する。		5	5		10						20
授業への参画度	授業時間内における教官または他の受講者からの質問に対する応答、主体的質問、意見表明などの発言回数・内容、事後学修におけるリアクションペーパーの内容によって、到達目標①～⑤に関する積極的な学習態度を習得しているかを評価する。	9	9	9	9	9						45
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	19	19	19	29						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ国際法〔第3版〕	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集2021年版	岩沢雄司ほか	有斐閣	2021	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日の講義終了後（最大60分）講義講堂において

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 自衛隊における法務教官（法務官養成）及び警務官（司法警察職員）
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際法による安全保障の現状と課題について実務経験に基づき紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	1 シラバス（授業の目的、到達目標、成績評価、授業計画） 2 国内社会と国際社会における紛争解決手段の相違	
	この回の到達目標	国内社会と国際社会における紛争解決手段の相違について説明することができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
2	国際機構	1 国際機構の概念と歴史 2 国際機構の意思決定	
	この回の到達目標	国際機構が創設された目的について説明することができる。	
	事前学修	教科書162-180頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
3	国際紛争の平和的解決Ⅰ：非裁判手続	1 国際社会における国際紛争解決 2 当事者間による手続（外交交渉） 3 第三者による手続（その他の伝統的解決手段）：①周旋、②仲介、③審査、④調停 4 対抗措置	
	この回の到達目標	国際紛争の平和的解決手段は、①紛争当事者の合意に基づく紛争処理と②紛争当事者の合意によらない一方的な手段（対抗措置）に分類することができる。	
	事前学修	教科書199-202頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
4	国際紛争の平和的解決Ⅱ：裁判手続	1 仲裁裁判 2 司法裁判 3 国際司法裁判所の現状と課題	
	この回の到達目標	国際司法裁判所の現状と課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書202-210頁及び学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
5	国際紛争の平和的解決Ⅲ：国際裁判の判決	1 国際司法裁判所判決 2 国際海洋法裁判所判決	
	この回の到達目標	日本が当事国となった国際裁判の判決につき、事実、争点、判旨を説明することができる。	
	事前学修	事例研究課題を解答し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う準備をする。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。	120分
6	国際法における戦争の位置付け	1 神学的正戦論 2 正戦論 3 無差別戦争観 4 戦争制限・戦争モラトリアム 5 戦争違法観	
	この回の到達目標	国際法における戦争観念の変遷について説明することができる。	
	事前学修	教科書240-242頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	戦争の違法化	1 国際連盟における戦争違法観 2 国際連合における戦争違法観	
	この回の到達目標	国際法上戦争の違法化が実現した時期について説明することができる。	
	事前学修	教科書198-199頁，212-213頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
8	武力不行使原則Ⅰ：武力不行使原則の内容	1 武力不行使原則の歴史的意義 2 武力不行使原則の内容（武力、武力の行使、武力による威嚇）	
	この回の到達目標	武力不行使原則によって具体的に何が禁止されるのかについて説明することができる。	
	事前学修	教科書39頁，217-218頁，242頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
9	武力不行使原則Ⅱ：武力不行使原則の射程	1 自国領域内における法執行措置（内戦などへの適用問題） 2 自国領域外における法執行措置	
	この回の到達目標	非国際的武力紛争に対して武力不行使原則が適用されない理由について説明することができる。	
	事前学修	教科書39頁，217-218頁，242頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
10	武力不行使原則の例外Ⅰ：国連憲章上の根拠	1 個別的・集団的自衛権（国連憲章51条）：国連憲章51条の下での自衛権と伝統的国际法の下での自衛権 2 国連による軍事的措置（同42条） 3 旧敵国条項（同53条・107条）の死文化	
	この回の到達目標	自衛権の行使として武力の行使が正当化される根拠について説明することができる。	
	事前学修	事例研究課題を解答し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う準備をする。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。	120分
11	武力不行使原則の例外Ⅱ：国連憲章上の根拠以外の事由	1 相手国政府の同意 2 在外自国民の保護 3 人道的干渉 4 保護する責任	
	この回の到達目標	国連憲章上の根拠以外の事由によって武力の行使が正当化される場合について説明することができる。	
	事前学修	事例研究課題を解答し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う準備をする。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。	120分
12	集団安全保障制度Ⅰ：国際連盟における集団安全保障	1 勢力均衡 2 国際連盟誕生の経緯 3 国際連盟における集団安全保障の限界	
	この回の到達目標	国際連盟が集団安全保障の十分な機能を果たすことができなかった理由について説明することができる。	
	事前学修	教科書212-216頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	集団安全保障制度Ⅱ：国際連合における集団安全保障	1 国際連盟と国際連合における集団安全保障の相違 2 冷戦期における国連の集団安全保障 3 冷戦後における国連の集団安全保障		
	この回の到達目標	国際連合における集団安全保障の特徴について冷戦期と冷戦終焉後に区分して説明することができる。		
	事前学修	教科書217-228頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
14	集団安全保障制度Ⅲ：国連憲章第7章に基づく武力の行使	1 湾岸戦争における武力行使 2 国連による人道的介入		
	この回の到達目標	国連憲章第7章に基づく武力の行使が容認された事例について説明することができる。		
	事前学修	事例研究課題を解答し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う準備をする。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。		120分
15	国連平和維持活動（PKO）	1 冷戦期におけるPKOの生成と確立 2 冷戦後におけるPKOの機能変化 3 PKOへの自衛隊参加		
	この回の到達目標	PKOが考案された経緯とその後の機能変化について説明することができる。		
	事前学修	教科書228-233頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅠ	担当者	本吉 祐樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際紛争はいかなる手続で解決されるのか。また、国家はいかなる手段で自国の領土と政治的独立を保全するのか。戦争の違法化の過程を概観した上で、国際紛争を平和的に解決するための非裁判手続(政治的手続)と裁判手続(司法裁判)のほか、復讐(対抗措置)、自衛、戦争などの強力的解決手続について学修する。また、集団安全保障制度と国際連合の平和維持活動(PKO)に関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際紛争の解決制度および国際平和の維持制度を理解するために、まず国際紛争解決のための非裁判手続、国際連盟と国際連合の紛争解決制度、国際裁判手続に関する知識を充実させる。さらに、集団安全保障制度の理念と現状を認識し、PKO創設の背景と発展について理解することにより、国際平和を実現するための国際法制度を説明できる能力が身につくようになる。

【履修条件】
国際法AI、AⅡを履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書にもとづいて講義する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	古代から現代に至る戦争観の変遷、とくに戦争の違法化について説明することができる。				3							
②	国際紛争解決に関する非裁判手続について、事例を挙げて説明することができる。				3					3		
③	国際裁判の管轄権、訴訟手続、判決の履行および日本が当事国となった事例について説明することができる。				3					3		
④	個別的小および集团的自衛権の意義と発動要件、事例について説明することができる。				3							
⑤	国連の集団安全保障制度と平和維持活動の概要、問題点について説明することができる。				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15	20						80
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	4	4	4	4	4						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		19	19	19	19	24						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEXTシリーズ国際法（第3版）	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集（年度は問わないが、新しいものが望ましい）	岩沢雄司	有斐閣	2018	教科書	必携
現代国際法講義（第5版）	杉原 高嶺 他	有斐閣	2012	教科書	任意
国際法判例百選（第2版）	小寺彰 他	有斐閣	2012	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時40分―16時10分（事前にメール等でアポイントメントを取るようにしてください。）本館7階1716研究室、motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業概要 導入講義	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明	
	この回の 到達目標	授業の概要について把握する。	
	事前学修	世界で発生している戦争について調べてみる。	120分
	事後学修	授業で紹介された参考書等を確認しておく。	120分
2	戦争の違法化	戦争の違法化の歴史的経緯	
	この回の 到達目標	戦争の違法化の経緯を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第14章198頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	戦争の違法化についての授業の内容を復習する。	120分
3	自衛権	国連憲章と自衛権	
	この回の 到達目標	自衛権を、国連憲章と慣習法の観点から理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	自衛権についての授業の内容を復習する。	120分
4	自衛権(2)	自衛権の要件と集団的自衛権	
	この回の 到達目標	自衛権の要件と、集団的自衛権等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	自衛権についての授業の内容を復習する。	120分
5	非裁判的手続	国際紛争の平和的解決①：非裁判的手続き	
	この回の 到達目標	国連憲章における非裁判的手続きについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第14章199－202頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	非裁判的手続きについての授業の内容を復習する。	120分
6	国際裁判	国際紛争の平和的解決②：裁判手続	
	この回の 到達目標	国連憲章における裁判手続について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第14章202－208頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	裁判手続についての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本と国際裁判	国際紛争の平和的解決③：我が国と国際司法裁判所	
	この回の到達目標	我が国に関わった国際裁判について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第7章99－100頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	我が国と国際司法裁判所についての授業の内容を復習する。	120分
8	国際安全保障の歴史的経緯	国際安全保障①：正戦論から集団安全保障へ	
	この回の到達目標	中世の正戦論から現在の集団安全保障までの経緯を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章212－214頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	正戦論から集団安全保障までについての授業の内容を復習する。	120分
9	集団安全保障	国際安全保障②：国際連盟と国際連合の集団安全保障	
	この回の到達目標	国際連盟と国際連合の集団安全保障制度の違いについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章214－216頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際連盟と国際連合の安全保障についての授業の内容を復習する。	120分
10	国連の集団安全保障制度	国際安全保障③：国際連合の集団安全保障制度の変遷	
	この回の到達目標	国連憲章下における集団安全保障制度の変遷について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章217－228頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際連合の集団安全保障制度の変遷についての授業の内容を復習する。	120分
11	国連の集団安全保障制度(2)	国際安全保障④：国際連合の集団安全保障制度の現在	
	この回の到達目標	教科書の該当部分（第15章217－228頁）を読んでおく。昨今の集団安全保障の事例について調べる。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章217－228頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国際連合の集団安全保障制度の現在についての授業の内容を復習する。	120分
12	PKO	国連平和維持活動（PKO）の発生から冷戦終結まで	
	この回の到達目標	PKOについて、その発生から現在までを理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章228－233頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	国連平和維持活動（PKO）の発生から冷戦終結までについての授業の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	人道的介入		人道的介入の歴史的展開
	この回の到達目標	人道的介入について、その展開から現在までを理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第3章38頁、第15章237頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	人道的介入について、その展開から現在までについての授業の内容を復習する。	120分
14	軍備に関する国際法		軍備管理と軍縮
	この回の到達目標	とくに軍備の規制・禁止に関する国際法について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分（第15章233－237頁）を読んでおく。	120分
	事後学修	軍備管理と軍縮についての授業の内容を復習する。	120分
15	まとめ		前期まとめ
	この回の到達目標	前期に学習したことを確認、あらためて理解する。	
	事前学修	前期に行った授業の内容を確認する。	120分
	事後学修	前記の授業の内容を復習する。	120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅡ	担当者	田中 誠	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
武力による紛争解決が原則的に禁止されている現代の国際社会においても、武力紛争は絶えることがない。第二次世界大戦以降は文民の犠牲者が増加する傾向にある。こうした現状をふまえ、国際人道法に関する理解を深める。そのために、人道法 の概念と基本原則を理解した上で、内戦への適用、害敵手段の規制、戦争犠牲者の保護、人道法の履行確保制度等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
武力紛争に適用される国際法規に関する知識を修得するために、まず国際人道法の基本原則、内戦に適用される諸規則、捕虜および傷病者、文民の保護、害敵手段に関する諸規則について理解する。さらに、戦争犯罪人の処罰制度、軍縮・軍備管理、日本による人道法の実践に関する理解を深めることにより、人道法が戦争被害の極小化に果たす機能を説明する能力が身につくようになる。

【履修条件】
なし。

【授業方法】		
総合ポータルシステムにアップロードした学習資料またはスライド（パワーポイントなど）を併用して教科書に基づいて講義を中心に進めていく。この際、出席管理システム（レスポん）を利用して出欠確認を行う。毎回授業後3日以内にリアクションペーパーを作成させ、これを総合ポータルシステムで提出させる。一部の授業回では、事前の課題付与によるプレゼンテーション、ディベート、レポート作成を行わせる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業で口頭の質疑応答の他、出席管理システム（レスポん）により適宜アンケートを行いながら理解の定着を図る。事後学修における振り返りとして、授業後3日以内にリアクションペーパーを提出させ、質問または理解不十分な事項に対しては次回の授業で回答または補足説明を行い理解の定着を図る。一部の授業回では、事前の課題付与によるプレゼンテーション、ディベート、レポート作成を行わせる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際人道法の概念と基本原則、発展過程について説明することができる。					3							
②	日本による国際人道法の受容と実践について、具体例をあげて評価することができる。					3					3		
③	捕虜の資格と待遇ならびに傷病者、文民の保護について、関連条約をもとに説明することができる。					3					3		
④	禁止される害敵手段について、関連条約を挙げて説明することができる。					3							
⑤	国際人道法違反者の処罰制度および軍縮の歴史と現状について説明することができる。					3					3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力を習得しているかを評価する。	5	5	5	10	10						35
討論・発表等	事例研究課題を付与し、授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標②③⑤に関して論理的に話す能力、他人の主張の趣旨を理解した上で合理的な反論をする能力を習得しているかを評価する。		5	5		10						20
授業への参画度	授業時間内における教官または他の受講者からの質問に対する応答、主体的質問、意見表明などの発言回数・内容、事後学修におけるリアクションペーパーの内容によって、到達目標①～⑤に関する積極的な学習態度を習得しているかを評価する。	9	9	9	9	9						45
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		14	19	19	19	29						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ国際法〔第3版〕	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集2021年版	岩沢雄司ほか	有斐閣	2021	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
土曜日の講義終了後（最大60分）講義講堂において

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自衛隊における法務教官（法務官養成）及び警務官（司法警察職員）
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際人道法の履行確保を図る方策について実務経験に基づき紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	1 シラバス（授業の目的、到達目標、成績評価、授業計画） 2 国際人道法遵守を阻害する要因	
	この回の到達目標	戦闘という極限状況において、勝利を達成したいという願望と国際人道法遵守の要請との緊張関係をいかに克服するべきかについて自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
2	武力紛争を規制する国際法	1 武力行使それ自体の合法性を判断する規則（jus ad bellum） 2 武力紛争の期間における交戦者の行為を規律する規則（jus in bello） （1）中立法（交戦国と中立国の関係を規律する規則） （2）国際人道法（交戦者間の行為を規律する規則）	
	この回の到達目標	「武力紛争を規制する国際法」の体系について説明することができる。	
	事前学修	教科書240-244頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
3	戦闘様相と国際法	1 武力紛争の二類型（国際的武力紛争と非国際的武力紛争） 2 国際人道法の平等適用原則（戦争の違法化の無影響） 3 国連部隊の活動と国際法 4 テロリズムと国際法 5 サイバー戦と国際法	
	この回の到達目標	jus ad bellum上の違法性評価はjus in belloの適用に直接影響しない点を指摘することができる。	
	事前学修	教科書240-244頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
4	戦闘の方法及び手段Ⅰ：国際人道法の原則	1 国際人道法の基本原則（①軍事的必要性、②人道的考慮） 2 国際人道法の派生原則（①区別原則、②均衡性原則、③背信行為の禁止原則、④不必要な苦痛の禁止原則） 3 敵対行為の主体と客体：交戦者（戦闘員・非戦闘員）、文民、軍使、間諜、傭兵、人的軍事目標（戦闘員）と人的非軍事目標（非戦闘員・文民）、物的軍事目標と物的非軍事目標（民用地物）、軍事目標を攻撃目標とした場合の非軍事目標に対する付随的損害	
	この回の到達目標	国際人道法の原則が国際人道法を構成する諸条約の条項にどのように反映されているのかについて説明することができる。	
	事前学修	教科書245-247頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
5	戦闘の方法及び手段Ⅱ：害敵手段	1 特定兵器の使用を規制する理由（無差別的効果を及ぼす兵器、過度の傷害または無用の苦痛を与える兵器） 2 軍備管理と軍縮（軍備管理・軍縮両概念の相違、大量破壊兵器・通常兵器の規制）	
	この回の到達目標	国際人道法の原則という観点から、兵器の使用規制が正当化される理由について説明することができる。	
	事前学修	教科書233-237頁、248-249頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
6	戦闘の方法及び手段Ⅲ：背信行為と奇計	1 背信行為 （1）それ自体が禁止され違法と評価される背信行為 （2）それ自体は禁止されないが、殺傷又は捕獲のための暴力行為を伴ったときに違法と評価される背信行為 2 奇計 （1）いかなる戦闘条件下でも禁止されない奇計 （2）一定の戦闘条件下で禁止される奇計	
	この回の到達目標	背信行為と奇計の概念の相違について説明することができる。	
	事前学修	教科書247頁および関係条文その他学習資料を通読する。	120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	武力紛争犠牲者の保護Ⅰ：捕虜の取扱い（捕虜たる身分の開始）		1 捕虜尋問に対する回答事項 2 捕虜の所持品の取扱い 3 捕虜に対する人道的待遇	
	この回の到達目標	捕虜に対する人道的待遇について説明することができる。		
	事前学修	教科書252頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
8	武力紛争犠牲者の保護Ⅱ：捕虜の取扱い（捕虜資格を有する者の範囲）		1 ハーグ陸戦規則・ジュネーヴ第3条約上の戦闘員 2 ジュネーヴ諸条約第1追加議定書上の戦闘員 3 戦闘員と文民との区別義務緩和の意義	
	この回の到達目標	文民による敵対行為への直接参加を国際法は禁止していないが、このような文民は捕虜として処遇されず、敵国によって刑法犯として訴追される理由について説明することができる。		
	事前学修	教科書252頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
9	武力紛争犠牲者の保護Ⅲ：傷病者などの保護		1 保護される傷病者・医療要員などの範囲 2 医療要員などに表示される特殊標章	
	この回の到達目標	ジュネーヴ諸条約および同第1追加議定書において保護される傷病者の範囲について説明することができる。		
	事前学修	教科書251頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
10	武力紛争犠牲者の保護Ⅳ：文民・財産の保護		1 被保護者とされる文民の範囲 2 攻撃が一般的に禁止される民用物 3 民用物に表示される特殊標章	
	この回の到達目標	ジュネーヴ諸条約および同第1追加議定書において被保護者とされる文民の範囲について説明することができる。		
	事前学修	教科書252-253頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
11	武力紛争犠牲者の保護Ⅴ：文民の保護		1 「敵対行為に直接参加していない文民」に対する人道的待遇 2 文民であるか否かについて疑義がある場合の処遇	
	この回の到達目標	適用される国際人道法の条項を指摘するとともに、軍事的必要性和人道的考慮の両面について配慮することができる。		
	事前学修	事例研究課題に解答し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う準備をする。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。		120分
12	国際人道法の履行確保Ⅰ：履行確保の三類型		1 国際人道法遵守の度合いを高める手段 2 継続している違法行為を中止させるための手段（戦時復仇） 3 被害の事後的救済を図るための手段	
	この回の到達目標	国際人道法の履行確保を図るための手段について分類することができる。		
	事前学修	教科書253-255頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	国際人道法の履行確保Ⅱ：ニュルンベルク裁判までの戦争犯罪処罰制度		1 敵国の戦争犯罪人に対する交戦国国内裁判所の管轄権 2 ニュルンベルクおよび極東両国際軍事裁判所の管轄権	
	この回の到達目標	ニュルンベルクおよび極東両国際軍事裁判所の管轄に属する犯罪について説明することができる。		
	事前学修	教科書255頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
14	国際人道法の履行確保Ⅲ：第2次世界大戦後における戦争犯罪処罰制度		1 ジュネーヴ諸条約および同第1追加議定書の「重大な違反行為」に対する普遍的管轄権 2 旧ユーゴスラヴィアおよびルワンダ両国際刑事裁判所の管轄権 3 国際刑事裁判所の管轄権	
	この回の到達目標	今日の武力紛争において国際法上の犯罪とされ、処罰の対象となる行為について説明することができる。		
	事前学修	教科書255-257頁および関係条文その他学習資料を通読する。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。		120分
15	国際人道法の履行確保Ⅳ：日本における国際人道法の実践		1 日本が国際刑事法を受容する際に行った国内法整備の特徴 2 ジュネーヴ諸条約加入（1953年）時の国内法未整備 3 同条約第1追加議定書加入（2004年）時の国内法整備 4 国際刑事裁判所規程加入（2007年）時の国内法整備	
	この回の到達目標	日本が国際人道法の実践のために行った国内法整備の状況について説明することができる。		
	事前学修	日本が国際人道法を受容する際に行った国内法整備の状況を調べるとともに、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う準備をする。		120分
	事後学修	授業内容を整理し、レポートを作成する。		120分

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅡ	担当者	本吉 祐樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
武力による紛争解決が原則的に禁止されている現代の国際社会においても、武力紛争は絶えることがない。第二次世界大戦以降は文民の犠牲者が増加する傾向にある。こうした現状をふまえ、国際人道法に関する理解を深める。そのために、人道法 の概念と基本原則を理解した上で、内戦への適用、害敵手段の規制、戦争犠牲者の保護、人道法の履行確保制度等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
武力紛争に適用される国際法規に関する知識を修得するために、まず国際人道法の基本原則、内戦に適用される諸規則、捕虜および傷病者、文民の保護、害敵手段に関する諸規則について理解する。さらに、戦争犯罪人の処罰制度、軍縮・軍備管理、日本による人道法の実践に関する理解を深めることにより、人道法が戦争被害の極小化に果たす機能を説明する能力が身につくようになる。

【履修条件】
特になし。国際関係法〔公法系〕BⅠを履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際人道法の概念と基本原則、発展過程について説明することができる。					3							
②	日本による国際人道法の受容と実践について、具体例をあげて評価することができる。					3					3		
③	捕虜の資格と待遇ならびに傷病者、文民の保護について、関連条約をもとに説明することができる。					3					3		
④	禁止される害敵手段について、関連条約を挙げて説明することができる。					3							
⑤	国際人道法違反者の処罰制度および軍縮の歴史と現状について説明することができる。					3					3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①～⑤に関する基礎知識が身についているか、また設問に適切に答える論理的な答案が作成できているかを、筆記試験により評価する。	20	15	15	15	15						80
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤に関する基礎知識、問題発見力、論理的思考力、文章力が身についているかを評価する。	4	4	4	4	4						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	19	19	19	19						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で適切に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
N E X Tシリーズ国際法（第3版）	渡部茂己・喜多義人	弘文堂	2018	教科書	必携
国際条約集（年度は問わないが、新しいものが望ましい）	岩沢雄司	有斐閣	2018	教科書	必携
現代国際法講義（第5版）	杉原 高嶺 他	有斐閣	2012	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時40分―16時10分（事前にメール等でアポイントメントを取るようにしてください。）本館7階1716研究室、メールアドレス：motoyoshi.yuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	国際法の後期分概要 導入講義		授業の説明
	この回の 到達目標	後期の国際法の内容について把握する。	
	事前学修	国際法の諸問題についてネットなどで調べておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考書等を各自確認する。	120分
2	国際人道法の概念と歴史		戦争の残虐化を防止し、戦争犠牲者を保護するための法規範である国際人道法の概念、発展過程について解説する。
	この回の 到達目標	国際人道法とはいかなる法規範かを理解し、その形成・発展について説明できるようになる。	
	事前学修	国際人道法の概念について理解しておくこと。	120分
	事後学修	国際人道法の法典化について説明できるようにする。	120分
3	国際人道法の分類と適用範囲		国際人道法の分類および適用範囲について解説する。
	この回の 到達目標	国際人道法をその内容、法源等を基準に分類できるとともに、それが適用される時間的・人的範囲について説明できるようになる。	
	事前学修	国際人道法の適用対象について確認しておくこと。	120分
	事後学修	jus ad bellumとjus in bello、ハーグ法 とジュネーブ法に分類される人道法それぞれの性質と関連条約について説明できるようにする。	120分
4	国際人道法の基本原則		国際人道法の基本原則、すなわち目標区別原則、不必要な苦痛を与える兵器の禁止原則、均衡性の原則等について解説する。
	この回の 到達目標	国際人道法の基本原則について、条約規定を挙げて説明できるようになる。	
	事前学修	国際人道法の基本原則について確認しておくこと。	120分
	事後学修	軍事目標主義について説明できるようにする。	120分
5	国際人道法と日本		幕末から第二次世界大戦にかけての国際人道法の受容、及びその適用について解説する。
	この回の 到達目標	国際人道法の受容と実践を通じて、日本における国際法認識を説明することができるようになる。	
	事前学修	日本が国際人道法を受容し、実践した事例を確認しておくこと。	120分
	事後学修	日本がいかにして国際人道法を受容し、実践したかについて説明できるようにする。	120分
6	内戦と国際人道法		内戦に国際人道法を適用する意義、そのための手段としての交戦団体の承認について考察した上で、ジュネーブ諸条約共通第3条と第2追加議定書が定める人道的保護の対象者と内容について解説する。
	この回の 到達目標	内戦への国際人道法適用の意義と限界、ジュネーブ諸条約と追加議定書によって与えられる保護の内容について説明できるようになる。	
	事前学修	なぜ内戦への国際人道法の適用が必要か、また適用する際の問題点について理解しておくこと。	120分
	事後学修	ジュネーブ諸条約と第2追加議定書を比較し、両者の保護規定の違いについて説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	害敵手段の規制(1)：核兵器	核兵器に関する学説、国連総会の決議、国際司法裁判所の勧告的意見および国内裁判所の判決等について解説した上で、核兵器の使用が違法か合法かを検討する。	
	この回の到達目標	武力紛争に関する国際慣習法や関連諸条約、国際機構の決議等をもとに、核兵器の違法性(または合法性)について、自己の見解を述べることができるようになる。	
	事前学修	核兵器の製造、使用、実験等を規制する条約を確認しておくこと	120分
	事後学修	核兵器の規制について説明できるようになる。	120分
8	害敵手段の規制(2)：化学兵器・生物兵器	化学兵器と生物兵器規制の歴史を概観した上で、化学兵器禁止条約と生物毒素兵器禁止条約について解説する。	
	この回の到達目標	化学兵器と生物兵器の製造、保有、使用等を禁止する条約の内容および履行確保制度について説明できるようになる。	
	事前学修	化学兵器および生物兵器の特質と、法規制の歴史について確認しておくこと。	120分
	事後学修	化学兵器禁止条約の構造と履行確保制度について説明できるようにする。	120分
9	害敵手段の規制(3)：通常兵器の規制・背信行為	対人地雷、焼夷兵器、レーザー兵器、クラスター爆弾等の規制について解説するとともに、背信行為の禁止について説明する。	
	この回の到達目標	個別条約による通常兵器の規制について説明できるとともに、背信行為と奇計の違いを具体例を挙げて説明できるようになる。	
	事前学修	通常兵器それぞれの性質と関連条約について確認しておくこと。	120分
	事後学修	通常兵器の規制をめぐる国際機構やNGOの行動について説明できるようにする。	120分
10	戦争犠牲者の保護(1)：捕虜	捕虜になりうる資格と捕虜の権利義務、捕虜管理国の義務について解説し、さらにテロリストと民間軍事会社要員の捕虜資格について検討する。	
	この回の到達目標	捕虜資格の拡大、捕虜の待遇について説明できるようになる。	
	事前学修	捕虜に関する条約について確認しておくこと。	120分
	事後学修	捕虜資格の変遷とテロリストの捕虜資格について説明できるようにする。	120分
11	戦争犠牲者の保護(2)：傷病者・文民	1949年の傷病者保護条約および文民保護条約を中心に、傷病者と文民の人道的保護について解説する。	
	この回の到達目標	傷病者保護の基本原則と衛生要員の保護、敵の権力内にある外国人たる文民の権利について説明できるようになる。	
	事前学修	1864年に第一回ジュネーブ条約(赤十字条約)が採択された背景とその基本原則について確認しておくこと。	120分
	事後学修	敵国内や敵の占領地内にある、敵の国籍を持たない者の権利について説明できるようにする。	120分
12	国際人道法の履行確保(1)：復仇、利益保護国、事実調査制度など	国際人道法の履行を確保するための手段としての復仇、利益保護国制度、事実調査制度および国際人道法の普及教育について解説する。	
	この回の到達目標	ジュネーブ諸条約と第1追加議定書に採用された利益保護国制度および事実調査制度について説明できるようになる。	
	事前学修	人道法の履行を確保するための諸制度について確認しておくこと。	120分
	事後学修	第1追加議定書が定める事実調査の制度と、その問題点について説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際人道法の履行確保(2)：戦争犯罪人の処罰		戦争犯罪の概念と処罰制度の発展を概観した上で、第二次世界大戦終結後の戦争犯罪裁判、冷戦後の国際刑事裁判所の設立、管轄権、訴訟手続等について解説する。
	この回の到達目標	第二次世界大戦後、戦争犯罪を裁く目的で設立された国際裁判所の管轄権、適用法規、訴訟手続、問題点等について説明できるようにする。	
	事前学修	戦争犯罪の処罰制度の発展について確認しておくこと。	120分
	事後学修	戦争犯罪裁判における被告人の責任阻却事由について説明できるようにする。	120分
14	軍縮と軍備管理		軍備管理の概念と軍縮の歴史について考察した上で、二国間および多国間の軍縮条約と軍備管理条約、相互検証制度などについて解説する。
	この回の到達目標	大量破壊兵器および通常兵器の軍縮について、関連条約を挙げて説明できるようになる。	
	事前学修	軍縮と軍備管理の歴史について確認しておくこと。	120分
	事後学修	国連軍縮委員会の組織構造、活動および成果について説明できるようにする。	120分
15	後期授業概要		後期まとめ
	この回の到達目標	後期の授業の総まとめを行い、授業の内容を確認する。	
	事前学修	後期の授業の内容の確認をする。	120分
	事後学修	後期の授業の総復習をする。	120分

科目名	国際関係法〔私法系〕AⅠ	担当者	中村 進	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法と国際民事訴訟法及び国際取引法の一部を学修するのが国際関係法〔私法系〕A及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕A」においては、国際的な契約・不法行為・婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（＝準拠法）を決定する国際私法を授業の対象とする。「国際関係法〔私法系〕AⅠ」においては、国際私法の必要性と基礎理論、及び「法の適用に関する通則法」（通則法）の総則規定について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「国際関係法〔私法系〕」を学修するために必要となる国際私法の基本的な構造と通則法上の総則規定を理解し、その実際上の適用方法を修得する。より具体的には、国際的な契約・不法行為・婚姻・離婚等に関する私的な紛争が発生した場合に、国際私法がどの様にその紛争の準拠法を選択し、その解決を図っているかについて学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。講義の一部は、パワーポイントを使用して行う。理解度を図るために授業内で2度小テストを行い、翌週にその講評・解説を行う。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第7回以降、簡単な事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際的な私的な紛争を解決するために、国際私法が必要とされていることを理解し、説明することができる。【知識】					3					3		
②	他の法律とは大きく異なる国際私法の基本的構造と総則上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】					3					3		
③	国際私法の総則法上の諸規定がどのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】					3					3		
④	総則法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】					3					3		
⑤	総則法上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】					3					3		
⑥	総則法上の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					3					3		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際私法の基礎的構造に関する知識が身についているか、及び到達目標②に関わる総則規定を適切に適用し、様々なケースに系統立てて応用できるかについて確認する。	30	30									60
レポート等												
討論・発表等	第7回目の講義以降、事例についての課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいて討議を行う。その中で、到達目標③④⑤⑥に関わる課題の論理的考察力及び討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性及び他人の意見の傾聴、討議に向けた課題に対し、適切に事例等を調べることができたかをチェックリストや評定尺度に照らして評価する。			10	10	10	10					40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	10	10	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第7版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章	有斐閣	2020年	教科書	必携
『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）	櫻田嘉章・道垣内正人	有斐閣	2012年	参考書	推奨
『六法』（種類は指定しないが、出来るだけ最新版）			2020年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20～17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】 【国際私法とは】	「国際関係法〔私法系〕」の中心となる国際私法の全体像と国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法がどのような法律か、またその国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について理解し、説明することができる。【知識】		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の国際私法のテキストを読み、国際私法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、国際私法と国際民事訴訟法・国際取引法との相違と相互関連性についてノートに分類・整理する。	120分	
2	【国際私法の必要性】	国際私法は、なぜ必要とされているか、またどのような理念に基づいて国境を越えて発生する私的紛争の解決を図っているかについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法がなぜ必要とされているかについて理解し、説明することができる。また、各国の法内容と日本法との相違について、調べることができる。【知識】 【技能】		
	事前学修	教科書第1章の「国際私法の必要性」を読み、世界各国の法制の相違の存在を理解し、なぜ国際私法が必要とされているかについて考察する。また、各国法の併存の状態を解決する方法について調べ、ノートに記述する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、なぜ世界中で国際私法という法律が必要とされているかについて考えるとともに、国際的な私的な法律関係を規律するのに最適な方法は何かについて考察し、ノートに列記する。(時間)	120分	
3	【国際私法の基礎的観念】	国際私法の基礎的観念として、国際私法の定義、目的と方法、基本的用語について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法の基礎的観念について知るとともに、国際私法の目的と方法、基本的用語について理解し、説明することができる。【知識】		
	事前学修	教科書第2章の「国際私法の基礎的観念」を読み、その大枠について考察するとともに、それが正しく理解されているかが授業内で確認できるようにノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	事前学習の内容と講義ノートと比較し、今後の学修のために、国際私法の基礎的観念及びその目的と規律方法、基本的用語について自分の理解に誤りがないよう確認し、ノートに列記する。	120分	
4	【国際私法の法的性質・機能と隣接法分野】	国際私法の法的性質と機能を理解するとともに、国際私法の隣接法分野を知ることによって、国際私法がどのような法的性質と機能を持つ法律であるかについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際私法の法的性質と機能を理解するとともに、国際私法の隣接法分野を調べ、他の法分野とは異なる国際私法の性質をより深く理解し、説明することができる。【知識】 【技能】		
	事前学修	教科書第3章の「国際私法の法的性質と機能」・第4章の「隣接法分野」を読み、国際私法の法的性質・機能と隣接する他の法との相違について調べ、大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分	
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートと比較して、国際私法の法的性質と機能、及び国際私法と隣接法分野との結びつきについての理解について再度確認し、今後の学修に役立つようにノートに列記する。	120分	
5	【国際私法の沿革】	国際私法が歴史的にどのようにして発生し、どのように発達してきたか、そしてそれが現在のサヴィニーの国際私法体系にどのようにつながっているかについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際私法の歴史を理解するとともに、それが現在の国際私法が採用するサヴィニーの国際私法体系にどのように結びついているかについて調べ、説明することができる。【知識】 【技能】		
	事前学修	教科書第5章の「国際私法の沿革」を読み、国際私法の歴史的発展について調べ、それが現在の国際私法理論にどのように結びついているかについてノートに記述し授業に備える。	120分	
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートと比較して、国際私法体系の歴史的形成に関する自己の理解を確認するとともに、それが現在の国際私法規定にどのように結びついているかノートに列記する。	120分	
6	【国際私法の法源】	国際私法の主たる法源である現行の通則法の成立まで展開を知るとともに、現在は、通則法以外の他の国内法と条約の中の国際私法規則から国際私法という法律分野が形成されていることを学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、通則法成立までの展開と通則法以外の国際私法規則の役割とおおよその内容を調べ、説明することができる。【知識】 【技能】		
	事前学修	教科書第6章の「法源」を読み、国際私法がどのように発展し、現行法に至っているか、通則法以外の法・条約中の国際私法規定に何があるかについて調べてノートに記述し、授業内容をより理解できるように整理する。	120分	
	事後学修	事前学修ノートと講義ノートを確認して、国際私法規定の展開について理解を図るとともに、国際私法の法源を成す条約と通則法以外の国内諸法の関係性について整理するためのノートを作成する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【法律関係の性質決定】【小テスト】		国際私法規則の適用の過程で最初に問題になる「法律関係の性質決定」の問題について学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業の内容の理解度ををはかるための小テストを実施する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法の体系から必然的に生じる「法律関係の性質決定」の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標①②③④⑤に関連して、小テストの実施を通じて、これまでの授業内容の体系的な理解を図る。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第7章の「法律関係の性質決定」を読み、性質決定の問題の重要性について理解する。また、第1回～第6回の授業内で学修したことを教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し小テストに備える。	140分
	事後学修	講義ノートを確認して、法律関係の性質決定の問題について自分なりの説明をノートに列記しておく。また、授業内で配布された法律関係の性質決定に関する課題について、次の授業の中で行われる討議に備え準備する。	140分
8	【小テストの講評・解説】【連結点の確定】		【小テストの講評・解説】【連結点の確定】 前回の小テストの講評と解説を行う。準拠法の決定過程における連結点の確定について、連結点の中心をなす国籍、常居所を中心に学修する。また、法律回避の問題についても学修する。さらに、前回の授業の課題である法律関係の性質決定の事例への当てはめに関するディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、連結点の確定の問題を理解し、説明することができる。小テストの講評・解説により学修内容の整理と事例への応用方法を知ることができる。また到達目標④⑤⑥に関連し、法律関係の性質決定の課題の討議を行い、より深い理解を得ることができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第8章の「連結点の確定」を読み、国際私法規則における各連結点の役割についてノートに記述し授業に備える。	130分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートで各規定で用いられている連結点について確認し、整理ノートに列記しておく。配布された連結点の確定の問題に関する課題に取り組む。小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで答え合わせをする。	130分
9	【準拠法の指定】		準拠法として指定された当事者の本国（国籍国）が地域的・人的に不統一法国である場合の処理について学修する。また、課題である連結点の確定に関する問題についてのディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地域的・人的に不統一な国の準拠法が指定された場合の処理について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、課題の連結点の確定について討議を行い、その確定方法のより深い理解を得、他に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第9章の「準拠法の指定」を読み、準拠法の指定を巡りどのような問題が生じているかについて調べ、それをノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認し、準拠法の指定を巡る諸問題の解決方法について整理しノートに列記しておく。事例へ適用できるようにする。また、授業内で配布された準拠法の指定に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
10	【反致】		反致とは何か、またそれが準拠法決定においてどのような意味を有するかについて学修する。また、授業の課題である準拠法の指定に関する問題についてのディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、反致の根拠・種類について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、準拠法の指定に関する課題について討議を行い、反致の適用方法をより深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第10章の「反致」を読み、反致のシステムについて調べ、ノートに記述し授業に備える。	130分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、反致の根拠・種類について整理しノートに列記しておく。事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された反致に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	130分
11	【外国法の適用】		準拠法として外国法を適用・解釈することの意味、指定された外国の法規に欠缺や内容の不明があった場合の処理について学修する。また、授業の課題である反致に関する問題についてのディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、外国法を適用する際に発生する問題の解決方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された反致の問題について討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第11章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程において発生する問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、外国法の適用過程で生じる諸問題についてのノートに列記しておく。事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国法の適用に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
12	【国際私法上の公序】		準拠法として指定された外国法の適用結果がわが国の公序に反する場合に発動される公序則について学修する。また、授業の課題である外国法の適用に関する問題についてのディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法上の公序の意味と発動方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された外国法の適用上の問題についての討議を行い、解決方法についてのより深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第12章の「公序」を読み、国際私法上の公序の問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、国際私法上の公序に関する問題を整理しノートに列記しておく。事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された公序に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【先決問題と適用問題】		国際私法独自の問題である先決問題と適用問題について学修する。また、授業の課題である公序に関する問題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、先決問題と適用問題の解決方法を理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された国際私法上の公序の問題についての討議を行い、公序についての深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第13章の「先決問題と適応問題」を読み、先決問題と適応問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、先決問題と適応問題に関する問題を整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された先決問題と適用問題に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
14	【自然人】 【小テスト】		自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力、後見等の開始の審判の準拠法（国際裁判管轄権を含む）について学修する。授業の後半で、第7回～第13回までの講義内容の理解度をはかるための小テストを実施する。また、前回出された先決問題と適応問題に関する課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力、後見等の開始の審判に関する国際私法関連規定を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された国際私法上の公序の問題についての討議を行い、公序についての深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第13章の「先決問題と適応問題」を読み、先決問題と適応問題について考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	事前学習ノートと講義ノートを確認して、先決問題と適応問題に関する問題を整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された先決問題と適用問題に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
15	【小テストの講評・解説】【質疑応答】		前回の小テストの講評と解説を行う。また、前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。さらに、前回出された自然人の権利能力に関する課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際私法の総則規定全体について概説することにより、これまでに学修した知識を確認し、それらを説明することができる。また到達目標④⑤⑥に関連し、課題として出された自然人の権利能力に関する問題の討議を行い、権利能力についての深い理解を得、事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。		140分

科目名	国際関係法〔私法系〕AⅡ	担当者	中村 進	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事訴訟法及び国際取引法の一部を学修するのが国際関係法〔私法系〕A及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕A」は、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（準拠法）を選択する法律である国際私法を中心に学習する。「国際関係法〔私法系〕A」のⅡにおいては、国際私法の主たる法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）上の各論の規定について学修する。る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際的な私的生活関係の準拠法を選択する通則法上の規定の内容を理解し、実際の場面での適用の仕方を修得することを目的とする。より具体的には、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等に関する紛争が発生した場合、国際私法規定がどの様に準拠法を選択し、解決を図っているかについて学修し、それを様々なケースに応用できるようにする。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ」を学修していることを前提に講義が行われるため、その履修の経験者であること。単位の修得には至ってなくても良い。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際的な私的法律関係に適用される個々の規則を理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
②	私法関係に関する日本と諸外国との法内容の基本的な相違について理解し、説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法の各論上の諸規定が實際上どのように解釈され・適用されるかを調べることができる。【技能】				3					3		
④	各論上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				3					3		
⑤	各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥	各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				3					3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により、到達目標①②に関わる国際私法の各論上の諸規定に関する知識が身についているか、及び到達目標③④⑤⑥に関わる、各論上の諸規定を適切に適用し、様々なケースに系統立てて応用できるかについて確認する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいて討議を行う。その中で、到達目標③④⑤⑥に関わる課題の論理的考察力及び当時への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性及び他人の意見の傾聴、討議に向けて課題に足し、適切に事例等を調べることができたかをチェックリストや評価尺度に照らして評価する。			5	5	5	5					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題については、授業内で講評と解説を行う。また、定期試験の解説については、後日ポータルで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第7版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章	有斐閣	2020年	教科書	必携
『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）	櫻田嘉章・道垣内正人	有斐閣	2012年	参考書	推奨
『六法』（特に指定しないが、出来るだけ最新版）			2021年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【法人】	法人の権利能力の準拠法の決定について、及び外国会社のわが国における権利能力の享有に関する民法等の諸規定について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法人に関する国内法規定と外国法との相違及び国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	教科書第15章の「法人」を読み、法人に関する国際私法上の諸規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法人に関する国際私法規定と外国会社の権利義務について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法人の権利能力に関する課題に取り組み、次の討議に備える。	120分
2	【法律行為】	法律行為に関する問題のうち、代理を中心とする法律行為の成立と方式の準拠法の決定について学修する。また、前回出された法人の権利能力の準拠法に関する課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、代理を中心とする法律行為の成立と方式の準拠法について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された法人の権利能力の準拠法についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第16章の「法律行為」を読み、法律行為の実質と方式に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法律行為に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法律行為に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備を行う。	120分
3	【物権法】	物権の準拠法について学修する。また、前回出された法律行為に関するディスカッションと課題の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権に関する国内法規定と外国法との相違及び国際私法関連規定の理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された法律行為の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第17章の「物権法」を読み、物権に関する国際私法規定を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、物権に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された物権に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備を行う。	120分
4	【契約（1）】	契約の準拠法につき、特に「当事者自治の原則」とその制限論について学修する。また、前回出された物権に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の準拠法に関する「当事者自治の原則」を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連し、課題として出された物権の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅰの1・2を読み、契約債権に関する「当事者自治の原則」を考察し、ノートに記述し授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、「当事者自治の原則」に関する議論について整理し、ノートの列記しておき、事例に適用できるようにする。	130分
5	【契約（2）】	当事者による準拠法選択がない場合の契約準拠法、及び消費者契約及び労働契約の準拠法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約準拠法に関する当事者の選択がない場合の準拠法を決定する国際私法関連の規定、及び消費者契約と労働契約に関する規定の内容を理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅰの2・3を読み、契約債権に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法選択が無い場合の契約準拠法、消費者契約及び労働契約に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された契約債権に関する課題に取り組む。	120分
6	【法定債権】	不法行為を中心とした法定債権の準拠法について学修する。また、前回出された契約債権に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、不法行為を中心とする法定債権に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された契約債権の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第18章の「債権法」Ⅱ・Ⅲを読み、法定債権に関する国際私法規定の大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、法定債権に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された法定債権に関する課題に取り組む。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【婚姻の成立】		婚姻の実質的・形式的成立要件（方式）の準拠法について学修する。また、前回出された法定債権に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻の実質的・形式的成立要件に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された法定債権の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを読み、婚姻の成立に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、婚姻の成立に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻の成立に関する課題に取り組む。		120分
8	【婚姻の効力】		婚姻の身分的効力・財産的効力（夫婦財産制）の準拠法について学修する。また、前回出された婚姻の成立に関するディスカッションと課題の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻の身分的・財産的効力に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された婚姻の成立の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅴ・Ⅵを読み、婚姻の効力に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、婚姻の効力に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻の効力に関する課題に取り組む。		120分
9	【離婚】		離婚の国際裁判管轄権、及び離婚の準拠法と婚約と内縁の準拠法について学修する。また、前回出された婚姻の効力に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、離婚の裁判管轄、及び離婚・婚約・内縁に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された婚姻の効力の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「婚姻」Ⅶ・Ⅷを読み、離婚の準拠法に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、離婚の裁判管轄と準拠法に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された離婚に関する課題に取り組む。		120分
10	【実親子関係】		実親子関係（嫡出親子関係と嫡出でない子の親子関係）の準拠法について学修する。また、準正の準拠法についても学修する。さらに、前回出された離婚に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、実親子関係に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された離婚の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第20章の「親子関係」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴを読み、実親子関係の成立に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、実親子関係の成立に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された実親子関係に関する課題に取り組む。		120分
11	【養親子関係】		養親子関係の実質的成立要件、離縁の準拠法について学修する。また、前回出された実親子関係に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、養親子関係に関する国内法規定と外国法との相違、国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された実親子関係の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第20章の「親子関係」Ⅵ・Ⅶを読み、養親子関係に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、養親子に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された養親子関係に関する課題に取り組む。		120分
12	【親族関係・扶養義務・後見】		親族関係、扶養義務、後見・保佐の準拠法について学修する。また、前回出された養親子に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、親族関係、扶養義務、後見・補佐に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された養親子関係の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第21章の「親族関係」・第22章の「扶養義務」・23章の「後見・保佐」を読み、それぞれの国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、親族関係と扶養義務及び後見・保佐に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておく、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親族関係、扶養義務及び後見・保佐に関する課題に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【相続・遺言】		相続、遺言の準拠法、及び「遺言の方式の準拠法に関する法律」の主要規定について学修する。また、前回出された親族関係、扶養義務、後見・保佐に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、相続、遺言に関する国際私法関連規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された親族関係、扶養義務及び後見・補佐の問題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第24章の「相続」・第25章の「遺言」を読み、相続と遺言に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、相続と遺言に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された相続及び遺言に関する課題に取り組む。		120分
14	【国際民事訴訟法】		国際裁判管轄権、外国判決の承認・執行等の国際民事訴訟法上の諸問題について学修する。また、前回出された相続と遺言に関する課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄、外国判決の承認・執行等の国際民事訴訟法上の規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤⑥に関連して、課題として出された相続及び遺言に関する課題についての討議を行い、より深い理解を得、それを事例に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第24章の「相続」・第25章の「遺言」を読み、相続と遺言に関する国際私法規定についての大枠を考察し、ノートに記述し授業に授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、相続と遺言に関する国際私法規定について整理し、ノートに列記しておき、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された相続及び遺言に関する課題に取り組む。		120分
15	【質疑応答】		前回出された国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する課題のディスカッションと解説を行う。また、後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国際私法規定である通則法の規定全体について質疑応答、及び国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する課題の討議を行うことにより、これまでに学修した知識を確認し、それを事例に適切に応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	教科書と講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。		140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅠ	担当者	中村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学修するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法の実際的な適用過程を学修するとともに、国際民事手続法の主要規定と国際取引法における主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅠ」では特に、ケース事例を通じて国際私法の実際的な適用過程や問題点を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際私法の主要法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）規定の実際的な適用過程についての修得を目的とする。 国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の私的法律関係に適用される法（＝準拠法）が、どのような決定過程を経て選定・適用されるかについて様々な事例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕A」の学修を終えていること前提に講義が行われるため、同科目の履修を終えていること。「BⅠ」と「AⅠ」の同時履修も不可。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する（パワーポイントを使用することもある）。理解度をはかるために授業内で行う小テストの講評・解説は、翌週の授業内で行う。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケース事例の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際私法の総則及び各論の規定の内容を理解し、それを体系的に説明することができる。【知識】					3					3		
②	国際私法と関連の深い条約や商慣習法を理解し、それを説明することができる。【知識】					3					3		
③	国際私法規定の適用過程を正しく理解し、様々なケースにおいて該当する規定を調べ、それを正しく解釈し、適切に応用・適用することができる。【技能】					3					3		
④	国際私法及び関連条約の適用関係を理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる事ができる。【態度・習慣】					3					3		
⑤	国際的私的紛争の解決に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べる事ができる。【態度・習慣】					3					3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際私法と関連条約に関する基礎的知識が身についているか、及び到達目標③に関わる適用規定を適切に発見し、それを実際のケースに適用・応用する力が身についているかを確認する。	20	20	30								70
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいた発表・討論を行うことで、到達目標④⑤に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。				15	15						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法入門（第4版）』	松岡博編	有斐閣	2019年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（特に指定しない、出来るだけ最新版）			2021年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際私法・国際民事手続法・国際取引の関連性】	国際私法・国際民事手続法・国際取引法の大枠について学修する。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法・国際民事手続法・国際取引法がどのような役割を持つ法律であるかを理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書等で国際私法、国際民事手続法、国際取引法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の役割についてノートに分類・整理する。	120分
2	【国際関係私法の学び方】	国際関係私法とは何か、またそれを構成する国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性、及びそれらに関連する条約や商慣習について学修する。また、それらの学び方についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、関連する条約や商慣習についてどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第1章の「国際関係私法の学び方」を読み、国際関係私法とは何か、及びその学び方についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の学び方及び相互関連性について、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
3	【法選択規則】	国際的私的紛争に適用される準拠法を選択する法である法選択規則の目的とその実現方法、及び国際民事手続法と国際取引法との役割・構造上の相違について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法選択規則の役割及びその構造と規律方法について理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、法選択規則と国際民事手続法と国際取引法上の規定の役割と構造の相違について調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第2章の「法選択規則」を読み、法選択規則の構造と規律方法を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法選択規則としての国際私法の役割と規律の方法についてノートに整理・列記し、事例に適用できるようにする。	120分
4	【準拠法の決定】	準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、法律関係の性質決定、連結点、不統一法国及び反致について、実際のケース事例への適用を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律関係の性質決定、連結点、不統一法国及び反致について理解し、応用することができる。また、到達目標③に関連して、それらをケース事例へ当てはめて、解決へ導くことができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第3章の「準拠法の決定」を読み、準拠法の決定をめぐる諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する法律関係の性質決定、不統一法国法の指定、反致に関する国際私法規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
5	【外国法の適用】	準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、外国法の適用、公序、先決問題、適応問題について学修する。また、前回授業で出された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、性質決定・連結点・反致に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第4章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程で発生する諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する、外国法の適用、公序、先決問題及び適応問題に対する国際私法の解決方法について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
6	【人・法人】	人・法人に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人・法人に関する準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第5章の「人・法人」を読み、人・法人に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法及びその他の法律中の人・法人に関する抵触規則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人・法人に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【契約】【小テスト】	契約に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された人・法人に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③④⑤に関連して、小テストの実施を通じたこれまでの授業内容の整理・理解し、事例へ当てはめることができる。更に、到達目標④⑤に関連し、人・法人に関する事例の討議を通じた法適用プロセスの確認とその様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第6章の「契約」を読み、契約に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述する。また、第1回～第6回の授業内で学習したことを教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の契約に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された契約に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
8	【小テストの講評・解説】【不法行為・事務管理・不当利得】	前回の小テストの講評と解説を行う。不法行為・事務管理・不当利得に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された契約に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストの解説を通じて、第1回～第6回までの内容を整理・理解する。また、到達目標①②不法行為・事務管理・不当利得の準拠法の決定について理解し、説明することができる。更に、到達目標③④⑤に関連して、契約に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第7章の「不法行為・事務管理・不当利得」を読み、法定債権に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の不法行為・事務管理・不当利得に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された不法行為に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせをする。	120分
9	【債権債務関係】	債権債務関係（金銭債権、債権の対外的効力、債権の消滅等）の準拠法の適用について学修する。また、前回授業で出された不法行為に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権債務関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、不法行為に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第8章の「債権債務関係」を読み、債権債務関係の諸問題に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、債権債務関係の準拠法の適用について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された債権債務関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
10	【物権・知的財産・家族関係の基本原則】	物権・知的財産に関する通則法の規定と国際私法の家族関係規定の基本原則について学修する。また、前回授業で出された債権債務に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権・知的財産の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、債権債務に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第9の「物権・知的財産」と第10章の「家族法の基本原則」を読み、物権・知的財産の抵触規則と国際家族法の基本理念や総論上の諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の物権・知的財産に関する規定と国際私法の家族関係法の基本原則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された物権・知的財産に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
11	【婚姻・離婚】	婚姻・離婚に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された物権・知的財産に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻・離婚の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、物権・知的財産に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第11章の「婚姻・離婚」を読み、婚姻・離婚に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の婚姻の成立・効力及び離婚に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻・離婚に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	【親子】		親子関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された婚姻・離婚に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親子関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、婚姻・離婚に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第12章の「親子」を読み、親子関係の成立に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親子関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親子関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
13	【親族関係の諸問題】		親族関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された親子関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親族関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親子関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第13章の「親族関係の諸問題」を読み、親族関係に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親族関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親族関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
14	【相続・遺言】【小テスト】		相続・遺言の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第7～13回の授業の内容の理解度を高めるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された親族関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相続・遺言の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親族関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第14章の「相続・遺言」を読み、相続・遺言に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておく。また、第7回～第13回の授業内で学習した国際私法上の主要規定について教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の相続及び遺言に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で 配布された相続・遺言に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		130分
15	【小テストの講評・解説】【質疑応答】		前回の小テストの講評と解説を行う。また、前回出された相続・遺言に関する課題についての解説を行う。さらに、 前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テストの解説を通じて第7回～第13回の授業内容を整理・理解し、様々なケースに応用することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、相続・遺言に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで確認で見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。		140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅠ	担当者	中村 進	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学修するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法の実際的な適用過程を学修するとともに、国際民事手続法の主要規定と国際取引法における主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅠ」では特に、ケース事例を通じて国際私法の実際的な適用過程や問題点を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際私法の主要法源である「法の適用に関する通則法」（通則法）規定の実際的な適用過程についての修得を目的とする。 国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の私的法律関係に適用される法（＝準拠法）が、どのような決定過程を経て選定・適用されるかについて様々な事例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕A」の学修を終えていること前提に講義が行われるため、同科目の履修を終えていること。「BⅠ」と「AⅠ」の同時履修も不可。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する（パワーポイントを使用することもある）。理解度をはかるために授業内で行う小テストの講評・解説は、翌週の授業内で行う。六法を必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ケース事例の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいたディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際私法の総則及び各論の規定の内容を理解し、それを体系的に説明することができる。【知識】				3					3		
②	国際私法と関連の深い条約や商慣習法を理解し、それを説明することができる。【知識】				3					3		
③	国際私法規定の適用過程を正しく理解し、様々なケースにおいて該当する規定を調べ、それを正しく解釈し、適切に応用・適用することができる。【技能】				3					3		
④	国際私法及び関連条約の適用関係を理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる事ができる。【態度・習慣】				3					3		
⑤	国際的私的紛争の解決に関する討議において、他者の見解にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べる事ができる。【態度・習慣】				3					3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、到達目標①②に関わる国際私法と関連条約に関する基礎的知識が身についているか、及び到達目標③に関わる適用規定を適切に発見し、それを実際のケースに適用・応用する力が身についているかを確認する。	20	20	30								70
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でそれに基づいた発表・討論を行うことで、到達目標④⑤に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。				15	15						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	15	15						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト及び課題については、授業内で講評と解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法入門（第4版）』	松岡博編	有斐閣	2019年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（特に指定しないが、出来るだけ最新版）			2021年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際私法・国際民事手続法・国際取引の関連性】	国際私法・国際民事手続法・国際取引法の大枠について学修する。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法・国際民事手続法・国際取引法がどのような役割を持つ法律であるかを理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書等で国際私法、国際民事手続法、国際取引法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の役割についてノートに分類・整理する。	120分
2	【国際関係私法の学び方】	国際関係私法とは何か、またそれを構成する国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性、及びそれらに関連する条約や商慣習について学修する。また、それらの学び方についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、関連する条約や商慣習についてどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第1章の「国際関係私法の学び方」を読み、国際関係私法とは何か、及びその学び方についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の学び方及び相互関連性について、授業内で取り上げられた事例をもとに考察し、ノートに列記する。	120分
3	【法選択規則】	国際的私的紛争に適用される準拠法を選択する法である法選択規則の目的とその実現方法、及び国際民事手続法と国際取引法との役割・構造上の相違について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法選択規則の役割及びその構造と規律方法について理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、法選択規則と国際民事手続法と国際取引法上の規定の役割と構造の相違について調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第2章の「法選択規則」を読み、法選択規則の構造と規律方法を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法選択規則としての国際私法の役割と規律の方法についてノートに整理・列記し、事例に適用できるようにする。	120分
4	【準拠法の決定】	準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、法律関係の性質決定、連結点、不統一法国及び反致について、実際のケース事例への適用を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律関係の性質決定、連結点、不統一法国及び反致について理解し、応用することができる。また、到達目標③に関連して、それらをケース事例へ当てはめて、解決へ導くことができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第3章の「準拠法の決定」を読み、準拠法の決定をめぐる諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する法律関係の性質決定、不統一法国法の指定、反致に関する国際私法規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
5	【外国法の適用】	準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、外国法の適用、公序、先決問題、適応問題について学修する。また、前回授業で出された性質決定・連結点・反致に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、性質決定・連結点・反致に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第4章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程で発生する諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する、外国法の適用、公序、先決問題及び適応問題に対する国際私法の解決方法について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
6	【人・法人】	人・法人に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された公序・先決問題・適応問題に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人・法人に関する準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、外国法の適用、公序、先決問題及び適用問題に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第5章の「人・法人」を読み、人・法人に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法及びその他の法律中の人・法人に関する抵触規則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人・法人に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【契約】【小テスト】	契約に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された人・法人に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標①②③④⑤に関連して、小テストの実施を通じたこれまでの授業内容の整理・理解し、事例へ当てはめることができる。更に、到達目標④⑤に関連し、人・法人に関する事例の討議を通じた法適用プロセスの確認とその様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第6章の「契約」を読み、契約に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述する。また、第1回～第6回の授業内で学習したことを教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の契約に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された契約に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
8	【小テストの講評・解説】【不法行為・事務管理・不当利得】	前回の小テストの講評と解説を行う。不法行為・事務管理・不当利得に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された契約に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、小テストの解説を通じて、第1回～第6回までの内容を整理・理解する。また、到達目標①②不法行為・事務管理・不当利得の準拠法の決定について理解し、説明することができる。更に、到達目標③④⑤に関連して、契約に関する事例の討議を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第7章の「不法行為・事務管理・不当利得」を読み、法定債権に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の不法行為・事務管理・不当利得に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された不法行為に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせをする。	120分
9	【債権債務関係】	債権債務関係（金銭債権、債権の対外的効力、債権の消滅等）の準拠法の適用について学修する。また、前回授業で出された不法行為に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権債務関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、不法行為に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第8章の「債権債務関係」を読み、債権債務関係の諸問題に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、債権債務関係の準拠法の適用について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された債権債務関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
10	【物権・知的財産・家族関係の基本原則】	物権・知的財産に関する通則法の規定と国際私法の家族関係規定の基本原則について学修する。また、前回授業で出された債権債務に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権・知的財産の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、債権債務に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第9の「物権・知的財産」と第10章の「家族法の基本原則」を読み、物権・知的財産の抵触規則と国際家族法の基本理念や総論上の諸問題についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の物権・知的財産に関する規定と国際私法の家族関係法の基本原則について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された物権・知的財産に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
11	【婚姻・離婚】	婚姻・離婚に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された物権・知的財産に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、婚姻・離婚の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、物権・知的財産に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第11章の「婚姻・離婚」を読み、婚姻・離婚に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の婚姻の成立・効力及び離婚に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された婚姻・離婚に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	【親子】		親子関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された婚姻・離婚に関するケース事例の課題についてのディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親子関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、婚姻・離婚に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第12章の「親子」を読み、親子関係の成立に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親子関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親子関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
13	【親族関係の諸問題】		親族関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、前回授業で出された親子関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、親族関係の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親子関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第13章の「親族関係の諸問題」を読み、親族関係に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の親族関係に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された親族関係に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		120分
14	【相続・遺言】【小テスト】		相続・遺言の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学修する。また、授業の後半で、第7～13回の授業の内容の理解度を高めるための小テストを実施する。さらに、前回授業で出された親族関係に関するケース事例の課題のディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相続・遺言の準拠法の決定について理解し、説明することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、親族関係に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第14章の「相続・遺言」を読み、相続・遺言に関する抵触規則についての大枠を考察し、ノートに記述しておく。また、第7回～第13回の授業内で学習した国際私法上の主要規定について教科書、講義ノート及び整理ノートで確認し、小テストに備える。		130分
	事後学修	講義ノートを確認して、通則法中の相続及び遺言に関する規定について整理・列記し、事例に適用できるようにする。また、授業内で 配布された相続・遺言に関するケース事例の課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。		130分
15	【小テストの講評・解説】【質疑応答】		前回の小テストの講評と解説を行う。また、前回出された相続・遺言に関する課題についての解説を行う。さらに、 前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テストの解説を通じて第7回～第13回の授業内容を整理・理解し、様々なケースに応用することができる。また、到達目標③④⑤に関連して、相続・遺言に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	前期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで確認で見直し、質問事項の有無を確認する。		140分
	事後学修	小テストの講評・解説を受けて、教科書、講義ノート及び整理ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。		140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅡ	担当者	中村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法規定の実際の適用過程と、国際民事手続法の主要規定と国際取引法の主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅡ」では、国際民事手続法上の規定及び国際取引システムと主要な国内法・条約・商慣習法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際民事手続法及び国際取引の主要分野（国際売買売買・国際運送・国際保険・国際決済）のシステムと法内容を理解し、国際的な商取引紛争がどの様に解決されているのかについて学修し、それを様々なケースに応用することができる。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ・Ⅱ」及び「BⅠ」の学修の終了を前提に講義が行われるため、同科目の履修を終えていること。なお、単位未修得でも良い。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいてディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際裁判管轄、国際的民事事件における「当事者・送達・証拠調べ」及び外国判決の承認・執行に関する規則を理解し、説明することができる。【知識】					3				3		
②	国際売買・国際運送・国際保険・国際決済のシステムや法内容を理解し、説明することができる。【知識】					3				3		
③	国際的私的紛争事案について、どのような規定の適用が問題となるかについて調べ、それを適切に適用することができる。【技能】					3				3		
④	国際取引紛争について、どのような法律の適用が問題となるかについて調べ、それを事例に適切に適用することができる。【技能】					3				3		
⑤	国際民事手続法及び国際取引法について理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるすることができる。【態度・習慣】					3				3		
⑥	国際民事手続法及び国際取引法に関する紛争の解決に関する討議において、他者の意見にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べるすることができる。【態度・習慣】					3				3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により、到達目標①②について国際民事手続法と国際取引法の諸規則の理解が身についているか、及び到達目標③④に関わるそれを応用することができる力が身についているかを確認する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。					10	10					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。また、課題については、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法（第4版）』	松岡博編	有斐閣	2019年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（特に指定しないが、出来るだけ最新版）			2019年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】 後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を簡単に振り返るとともに、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠について学修する。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、授業の準備を行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、関連の法律や援用可能な統一規則にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、国際民事手続法及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べ、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事手続法・国際取引法の法内容、及びその他の援用可能な統一規則の役割について整理・分類し、ノートに列記する。	120分
2	【国際裁判管轄(1)】	国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄の重要性と意義、基本的な管轄原因を理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	130分
3	【国際裁判管轄(2)】	国際裁判管轄に関する各種の規定、及び国際的な訴訟競合について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合意管轄や専属管轄などの各種の裁判管轄規定、「特別な事情」の判断規定及び国際訴訟競合の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、裁判管轄規定の成立の基礎となった判例・裁判例を調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
4	【当事者・送達・証拠調べ】	国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学修する。また、前回出された裁判管轄に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べの法システムについて理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、裁判管轄に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
5	【外国判決の承認・執行】	外国判決の承認・執行に関する法システムについて学修する。また、前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についてディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国判決の承認・執行に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
6	【国際家事事件(1)】	国際家事事件の特性、及び人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定について学修する。また、前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際家事事件の特性と人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際家事事件(2)】		家事審判事件と相続訴訟事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認、及び国際的な子の奪取の場合における子の返還事件について学修する。また、前回出された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄、外国判決の承認、子の奪取における返還請求に関する法規定を理解し、説明することができる。到達目標③⑤⑥に関連し、人事訴訟事件の国際裁判管と外国判決の承認に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び国際的な子の奪取の返還請求事件についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び子の奪取の返還請求事件についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された家事事件・相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
8	【国際商事仲裁】		国際的な商事紛争の解決手段としての仲裁について学修する。また、前回出された家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際商事仲裁の役割とシステムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際商事仲裁の役割とシステムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
9	【国際取引と法】		国際取引の特質とその私法的規律について学修する。また、前回出された国際商事仲裁に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の特質とその私法的規律について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際商事仲裁に関する事例の検討を行い、適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。		120分
10	【国際物品売買(1)】		国際取引の基礎をなす国際物品売買に関連する国際取引について学修する。また、「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買と関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、国際売買契約に付随する問題にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
11	【国際物品売買(2)】		国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズについて学修する。また、前回出された国際物品売買契約についての課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズの内容について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、貿易条件であるインコタームズの役割と内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
12	【国際運送及び国際保険】		国際運送及び国際保険に関する法システムについて学修する。また、前回出されたインコタームズに関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際運送と国際保険に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、インコタームズに関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
13	【国際支払】		国際的な決済の方法と荷為替信用状について学修する。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の決済に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際運送と国際保険に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケース事例へ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際決済に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
14	【事例問題】		国際取引に関する紛争の事例問題及び紛争発生の予防方法について学修する。また、前回出された国際決済に関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引を巡る紛争の解決方法と発生の予防方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際決済に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書、講義ノート及び整理ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法と発生の予防方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分
15	【質疑応答】		後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な様々な私的法律関係に適用される法及び紛争解決に至るまでの法システムを体系的に理解し、それを説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質疑応答において、国際民事手続法、国際取引法についての総合的な理解をすることができる。【知識】【態度・習慣】	
	事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
	事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	140分

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅡ	担当者	中村 進	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法規定の実際の適用過程と、国際民事手続法の主要規定と国際取引法の主要な条約・法律の内容について学修する。「BⅡ」では、国際民事手続法上の規定及び国際取引システムと主要な国内法・条約・商慣習法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際民事手続法及び国際取引の主要分野（国際売買売買・国際運送・国際保険・国際決済）のシステムと法内容を理解し、国際的な商取引紛争がどの様に解決されているのかについて学修し、それを様々なケースに応用することができる。

【履修条件】
「国際関係法〔私法系〕AⅠ・Ⅱ」及び「BⅠ」の学修の終了を前提に講義が行われるため、同科目の履修を終えていること。なお、単位未修得でも良い。

【授業方法】
教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題の課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいてディスカッションを行うことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際裁判管轄、国際的民事事件における「当事者・送達・証拠調べ」及び外国判決の承認・執行に関する規則を理解し、説明することができる。【知識】					3				3		
②	国際売買・国際運送・国際保険・国際決済のシステムや法内容を理解し、説明することができる。【知識】					3				3		
③	国際的私的紛争事案について、どのような規定の適用が問題となるかについて調べ、それを適切に適用することができる。【技能】					3				3		
④	国際取引紛争について、どのような法律の適用が問題となるかについて調べ、それを事例に適切に適用することができる。【技能】					3				3		
⑤	国際民事手続法及び国際取引法について理解し、様々な国際的私的紛争の解決に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるすることができる。【態度・習慣】					3				3		
⑥	国際民事手続法及び国際取引法に関する紛争の解決に関する討議において、他者の意見にも配慮しながら、自己の見解を系統立てて述べるすることができる。【態度・習慣】					3				3		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験により、到達目標①②について国際民事手続法と国際取引法の諸規則の理解が身についているか、及び到達目標③④に関わるそれを応用することができる力が身についているかを確認する。	20	20	20	20							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ケース事例に関する課題を与え、翌週の授業内でその発表・討論を実施することにより、到達目標⑤⑥に関わる課題の論理的考察力、討議への積極的な参加、意見の明瞭性・論理性、他人の意見の傾聴、課題に関連する適切な事例の調査・検討等をチェックリストや評定尺度に照らして評価する。					10	10					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	10	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験については、ポータルを利用してフィードバックを行う。また、課題については、授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係私法（第4版）』	松岡博編	有斐閣	2019年	教科書	必携
『マテリアルズ国際取引法（第3版）』	澤田壽夫・柏木昇他編	有斐閣	2014年	参考書	推奨
『六法』（特に指定しないが、出来るだけ最新版）			2021年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】 後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を簡単に振り返るとともに、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠について学修する。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、授業の準備を行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際民事手続法と国際取引法の法内容の大枠を理解し、説明することができる。また、到達目標③④に関連して、関連の法律や援用可能な統一規則にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、国際民事手続法及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べ、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事手続法・国際取引法の法内容、及びその他の援用可能な統一規則の役割について整理・分類し、ノートに列記する。	120分
2	【国際裁判管轄(1)】	国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際裁判管轄の重要性と意義、基本的な管轄原因を理解し、説明することができる。【知識】	
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	130分
3	【国際裁判管轄(2)】	国際裁判管轄に関する各種の規定、及び国際的な訴訟競合について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、合意管轄や専属管轄などの各種の裁判管轄規定、「特別な事情」の判断規定及び国際訴訟競合の問題を理解し、説明することができる。また、到達目標③に関連して、裁判管轄規定の成立の基礎となった判例・裁判例を調べることができる。【知識】【技能】	
	事前学修	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	130分
4	【当事者・送達・証拠調べ】	国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学修する。また、前回出された裁判管轄に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べの法システムについて理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、裁判管轄に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
5	【外国判決の承認・執行】	外国判決の承認・執行に関する法システムについて学修する。また、前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についてディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国判決の承認・執行に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分
6	【国際家事事件(1)】	国際家事事件の特性、及び人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定について学修する。また、前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際家事事件の特性と人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国判決の承認に関する法規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標③⑤⑥に関連して、外国判決の承認・執行に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、人事訴訟事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組み、次回の討議に備え準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際家事事件(2)】		家事審判事件と相続訴訟事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認、及び国際的な子の奪取の場合における子の返還事件について学修する。また、前回出された人事訴訟事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄、外国判決の承認、子の奪取における返還請求に関する法規定を理解し、説明することができる。到達目標③⑤⑥に関連し、人事訴訟事件の国際裁判管と外国判決の承認に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び国際的な子の奪取の返還請求事件についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、及び子の奪取の返還請求事件についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された家事事件・相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
8	【国際商事仲裁】		国際的な商事紛争の解決手段としての仲裁について学修する。また、前回出された家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求事件に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際商事仲裁の役割とシステムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、家事審判事件と相続関係事件の国際裁判管轄と外国判決の承認、子の奪取の返還請求に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際商事仲裁の役割とシステムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
9	【国際取引と法】		国際取引の特質とその私法的規律について学修する。また、前回出された国際商事仲裁に関する課題についてのディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の特質とその私法的規律について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際商事仲裁に関する事例の検討を行い、適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。		120分
10	【国際物品売買(1)】		国際取引の基礎をなす国際物品売買に関連する国際取引について学修する。また、「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買と関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容を理解し、説明することができる。また、到達目標④に関連して、国際売買契約に付随する問題にどのようなものがあるか調べることができる。【知識】【技能】		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、国際物品売買に関連する国際取引、及び国際物品売買条約の主要規定の内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関するケース事例の課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分
11	【国際物品売買(2)】		国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズについて学修する。また、前回出された国際物品売買契約についての課題のディスカッションと解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際物品売買に関する貿易条件であるインコタームズの内容について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際物品売買契約に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】		
	事前学修	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、貿易条件であるインコタームズの役割と内容についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
12	【国際運送及び国際保険】		国際運送及び国際保険に関する法システムについて学修する。また、前回出されたインコタームズに関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際運送と国際保険に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、インコタームズに関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースに応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
13	【国際支払】		国際的な決済の方法と荷為替信用状について学修する。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引の決済に関する法システムを理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際運送と国際保険に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケース事例へ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察し、ノートに記述しておき授業に備える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。また、国際決済に関する課題に取り組み、次の討議に備え準備する。	120分
14	【事例問題】		国際取引に関する紛争の事例問題及び紛争発生の予防方法について学修する。また、前回出された国際決済に関する課題のディスカッションと解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際取引を巡る紛争の解決方法と発生の予防方法について理解し、説明することができる。また、到達目標④⑤⑥に関連して、国際決済に関する事例の検討を行い、法適用プロセスを確認し、それを様々なケースへ応用することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】	
	事前学修	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書、講義ノート及び整理ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法と発生の予防方法についてノートに整理・分類し、事例に適用できるようにする。	120分
15	【質疑応答】		後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的な様々な私的法律関係に適用される法及び紛争解決に至るまでの法システムを体系的に理解し、それを説明することができる。また、到達目標⑤⑥に関連して、質疑応答において、国際民事手続法、国際取引法についての総合的な理解をすることができる。【知識】【態度・習慣】	
	事前学修	後期の授業全体の内容を教科書、講義ノート及び整理ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。	140分
	事後学修	教科書、講義ノート及び整理ノートで後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。	140分

科目名	国際関係論Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶ。国際関係論の分析枠組みによってどのように考察すれば国際社会の現実を的確に捉えられるのか、その必要条件と十分条件を整理する。また、「学問を通じて社会を見ることの意味」を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶことを目的とする。さらに、貧困がどのような結果を世界にもたらしているのか、NGOのような国家以外のアクターが国際協力の中でどのような役割を担っているのか、平和構築に何が必要なのか考えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
国際政治や国際社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する(パスワードについてはポータルサイトを確認のこと)。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。出席管理システム(レスポンス)を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポンス)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	国際社会における主要な概念を説明することができる。					2					
②	国際社会における主要な理論を説明することができる。					2					
③	国際社会における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。							2			
④	国際社会における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						2				
⑤	国際社会における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				2		2		2		
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『平和学入門1ー紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> 』（Next教科書シリーズ）	佐渡友哲, 信夫隆 司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取るこ) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・国際関係論とは	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。また、国際関係論の学問的な位置づけなどを示しながら、国際政治学、国際関係史との違いや国際関係論を学ぶ意味について考える。ガイダンス期間ではあるが受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	教科書「序 平和学とは何か」(p. 2-7)を読むことに加え、『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』第1章1節2節から、国際関係論が扱うテーマをノートに書きだす。また、以下の書籍などに目を通す。石田雄『平和の政治学』(1968年、岩波書店)最初の30ページ程度。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば参考書を入手の上、全体の流れを把握しておく。教科書「序 平和学とは何か」を復習しノートにまとめる。	120分
2	国際関係論と平和学	国際社会を理解するための国際関係論の考え方を整理しながら、国際関係論の歴史や成り立ちを解説するとともに、国際関係論で使われる基本となる概念を理解し、国際関係論を理解するための知の後背地を形成する。さらにこの講義で特に焦点をあてる平和学的思考について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際関係論の概要、学問としての歴史を説明できる。	
	事前学修	教科書「第1講 平和学と国際関係論」(p. 11-22)を読むことに加え、『国際政治学事典』(弘文堂)、『国際政治経済辞典』(東京書籍)で調べたり、『国際関係論〈第3版〉(Next教科書シリーズ)』の索引を利用しながら、ウェストファリア体制、アナーキー、国家主権などの主要な概念をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ウェストファリアシステム、国家主権、アクターの概念など、国際関係論で使われる基本となる概念についてノートにまとめたことと講義での説明を重ねながら復習する。	120分
3	国際社会のモデル化	無政府状態の国際社会をどのように理解したらよいのかについて、これまで、国際関係論で蓄積されてきた国際社会モデルを使いながら理解を深める。その上で、これまでのモデルでは説明しえない「新しい社会現象」が国際社会に起きていることも確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代国際関係の原型である主権国家体制の意味を説明できる。	
	事前学修	教科書「第2講 国際社会のモデル化」(p. 23-39)を読むことに加え、国際社会モデルについてまとめる。	120分
	事後学修	なぜ、モデル化が物事を考える上で思考を助けるのだろうか。国際社会をモデル化する意義について考え、ノートにまとめる。	120分
4	平和の概念整理	平和の多様性と平和概念の多義性、社会科学における平和の定義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、平和の概念を説明できる。到達目標④に関連して、平和の多義性に基づいて自分の言葉で平和を定義できる。	
	事前学修	教科書「第3講 平和の概念整理」(p. 41-60)を読むことに加え、自分自身で「平和」の定義を試みる。そのうえで、以下の書籍などに目を通し平和とはなにかをノートにまとめる。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房、2000年)第1講。	120分
	事後学修	講義での知見と、自分の定義した「平和」の概念の違いは何かについてノートにまとめる。石田雄『平和の政治学』(岩波書店、1968年)を図書館で探して復習に使う。	120分
5	現代型平和学以前の平和学	初期の平和学がどのように紛争をとらえてきたのか、国際社会を研究するうえでどのような位置づけになったのか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、初期の平和学について説明できる。	
	事前学修	教科書「第4講 現代型平和学以前の平和学」(p. 63-70)を読むことに加え、以下の書籍などに目を通して、19世紀以前の平和の考え方と現代における平和の考え方の違いをノートにまとめる。カント『永遠平和のために』(岩波文庫、1985年)。	120分
	事後学修	講義で学んだ平和概念について自分の言葉でノートにまとめる。カントが伝えたかったことが今の国際機関のシステムにどのように生かされているのかを考える。	120分
6	紛争の科学的分析の登場	現代平和研究のさきがけとして、戦争の統計的分析の先駆者リチャードソン、ボールディングらを取り上げ、紛争を科学的に分析する方法論から現代的平和学が始まったことを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争を科学的に分析する手法を理解することができる。到達目標④に関連して、社会科学における数量的アプローチを使うことができる。	
	事前学修	教科書「第5講 紛争の科学的分析の登場」(p. 71-88)を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房、2000年)第2講。	120分
	事後学修	講義で学んだリチャードソン方程式やボールディングの相互作用モデルなどを復習する。その折、数学的な論理的思考が社会科学に必須なことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ゲーム理論による発展／中間テスト		「人間が創った環境のなかでの紛争」（アナトール・ラバポート）を取り上げ、ゲーム理論による紛争理解の方法論について解説する。また、1回から6回の範囲から中間テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲーム理論を説明することができる。到達目標④に関連して、ゲーム理論のアプローチを用いて身近な事象を考察できる。		
	事前学修	教科書「第6講 ゲーム理論による発展」（p. 89-97）を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（筑摩書房、2000年）第2講。また、第1回から第6回の復習をしておく。	120分	
	事後学修	講義で学んだラバポートの人類を減ばす4つの事象や囚人のジレンマなどを復習する。テスト結果に基づいて、自分の理解が届かなかったことをテキストなどを使って復習する。	120分	
8	平和ならざる状態（ピースレスネス）		新しい平和の概念として登場したダスグプタの「平和ならざる状態（peacelessness）」について解説し、平和学にどのようなパラダイムチェンジが起きたのかを議論する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、新しい平和の概念「平和ならざる状態」を説明できる。到達目標⑤に関連して、現代社会における平和ならざる状態とは何か、自分なりの考察をすることができる。		
	事前学修	教科書「第7講 平和ならざる状態（ピースレスネス）」（p. 99-112）を読むことに加え、平和学のパラダイムチェンジが起こった背景を考える。	120分	
	事後学修	現在の「平和ならざる状態」の具体的事例をあげて、その状態を導く原因と自分なりの解決の対応策を考え、ノートにまとめる。パラダイムチェンジが社会にもたらす変革の意味を一般化できるようにする。	120分	
9	構造的暴力と積極的平和		ガルトゥングは、平和の対概念は、必ずしも戦争ではなく、暴力であると考えている。この講では、暴力を分類することから始めて、「構造的暴力」とは何かを考える。そして、その構造的暴力を無くすための方法論として積極的平和のあり方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ガルトゥングの主張を説明できる。到達目標③に関連して、構造的暴力の原因について考察できる。		
	事前学修	教科書「第8講 構造的暴力と積極的平和」（p. 113-128）を読むことに加え、『国際関係論〈第3版〉（Next教科書シリーズ）』11講を読み、国際社会のなかでの構造的暴力の具体的事例をノートにまとめる。	120分	
	事後学修	今、自分たちが活きている現代社会の中で、構造的暴力であると考えられる事象に対して、その構造を考え、自分なりの構造変革の解決策をノートにまとめる。	120分	
10	平和学の制度化		平和構築の研究について、教育面、運動面から議論し、どのように制度化されたか、その流れを解説する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、平和研究の進展について説明できる。⑤に関連して、平和研究が平和構築にどのように機能するのか考察すること異ができる。		
	事前学修	教科書「第9講 平和学の制度化」（p. 129-142）を読むとともに、これまで、自分が受けてきた学校教育やコミュニティーでの学びの中で、平和教育と考えられるものをノートにまとめてみる。	120分	
	事後学修	平和研究の成果が市民社会に影響を与えた事例をノートにまとめる。	120分	
11	紛争関連の資料の集め方・読み方		武力紛争の変遷を、統計データを使って分析しながら解説する。統計のもととなるデータをどのように収集すればよいか、集めたデータから何が読み取れるのかななどを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍備、武力紛争に関するデータ集め、分析することができる。		
	事前学修	教科書「第10講 紛争関連資料の集め方・読み方」（p. 145-162）を読むことに加え、ストックホルム国際平和研究所のウェブページにアクセスし、武力紛争のデータセットの意味を考え、ひとつグラフを取り出してその知見をノートにまとめる。	120分	
	事後学修	20世紀の武力紛争の特徴に関する講義の知見から、「非両立性」についての理解をノートにまとめる。	120分	
12	核兵器と安全保障		現代型戦争の特徴、核兵器と平和などについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代型戦争の特徴について説明できる。また、到達目標③④⑤に関連して、核兵器と平和について考察することができる。		
	事前学修	教科書「第11講 核兵器と安全保障」（p. 163-173）を読むことに加え、文献やインターネットなどを用いて核兵器に対する様々な見解を調べ、自分の意見をノートにまとめる。	120分	
	事後学修	講義の知見から、「恐怖の均衡」についての理解と、核兵器への科学者たちの取り組みについてをノートにまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	経済関連指標と世界の現実		経済の指標である人口、生産、貿易の3つから平和をどのように考えるかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人口、生産、貿易に関する様々な統計資料を読むことができる。また、到達目標③④⑤に関連して、統計資料から世界で起きている状況を考察することができる。		
	事前学修	教科書「第12講 経済関連指標と世界の現実」(p.175-203)を読むことに加え、人口、生産、貿易が平和とどのように関連しているのか考え、ノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業で出てきた統計などから現在の国際社会における、人口、生産、貿易に関する問題、特に20世紀の意味とは何かを考えノートにまとめる。		120分
14	貧困者の声		貧困問題について、マクロの視点と逆にミクロの視点を使いながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貧困の問題について説明できる。到達目標⑤に関連して、貧困に関する様々な課題を平和構築の視点から考察できる。		
	事前学修	教科書「第13講 貧困者の声」(p.205-216)を読み、インターネットで、世界銀行『貧しい人々の声 (Voices of the Poor)』をダウンロードして読むとともに、内外の具体的な貧困の事例を探し、そこに存在する問題をノートにまとめる。		120分
	事後学修	貧困とは何なのかについて、講義の知見を使いながら、自分なりに定義を試み、ノートにまとめる。		120分
15	前期まとめ		第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際社会をどのように理解するのかについて、レビューする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、前期で学んだことを体系的に説明することができる。		
	事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄をノートを見ながら振り返る。		120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題を、前期で学んだ平和構築理論や概念を使ってどのように理解できるのかをノートにまとめる。		120分

科目名	国際関係論Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶ。国際関係論の分析枠組みによってどのように考察すれば国際社会の現実を的確に捉えられるのか、その必要条件と十分条件を整理する。また、「学問を通じて社会を見ることの意味」を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶことを目的とする。さらに、貧困がどのような結果を世界にもたらしているのか、NGOのような国家以外のアクターが国際協力の中でどのような役割を担っているのか、平和構築に何が必要なのか考えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
国際政治や国際社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備をすることを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際社会における主要な概念を説明することができる。					2						
②	国際社会における主要な理論を説明することができる。					2						
③	国際社会における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。							2				
④	国際社会における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						2					
⑤	国際社会における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				2		2		2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『平和学入門2―紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	教科書	必携
『国際関係論 <第3版> 』（Next教科書シリーズ）	佐渡友哲, 信夫隆 司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・前期国際関係論Ⅰのレビュー（第2回から第7回）		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講登録を希望する学生は、できる限り第1回、第2回講義も出席することが望ましい。前期の国際関係論Ⅰの第2回から第7回までのレビューを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	教科書『平和学入門2』の「序 平和学入門1で何を学ぶのか」（p. 2-3）を読むことに加え、『平和学入門1』の第1講から第6講までを復習しておく。Ⅱから受講の学生は一度それらの個所を通読しておく。	120分	
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、教科書を読み、全体の流れを把握しておく。特に、アナーキー、主権国家、アクターなどの基本用語をノートにまとめ理解を深めておく。	120分	
2	前期国際関係論Ⅰのレビュー（第8回から第14回）		国際関係論Ⅰの第8回から第14回までのレビューを行う。受講登録を希望する学生は、できる限り第1回、第2回講義も出席することが望ましい。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際関係論を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	『平和学入門2』の第7講から第13講までを復習しておく。Ⅱから受講の学生は一度その個所を通読しておく。	120分	
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、教科書を読み、全体の流れを把握しておく。特に、囚人のジレンマ、平和ならざる状態、構造的暴力、恐怖の均衡などの基本用語をノートにまとめ理解を深めておく。	120分	
3	戦争の中立的定義		戦争とは何かを中立的に定義する意味を考える。さまざまな定義があることを紹介しながら、「戦争」とはどういうことを指すのか議論する。国会での有権解釈についても検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争の中立的定義を説明できる。到達目標③④に関連して、定義することの意味を説明できる。		
	事前学修	教科書「第1講 戦争の中立的定義」（p. 7-30）を読むことに加え、中立とは何か、一般的にどのような状態を指すのか考え、ノートに抜き出す。	120分	
	事後学修	社会科学における定義と自然科学における定義の違いをノートにまとめ、なぜ戦争を一意に定義できないのか、その中で中立的定義ということがどのような意味を持つのか考える。	120分	
4	戦争の肯定的定義		クラウゼヴィッツの言説を使いながら戦争の肯定的定義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦争の肯定的定義を説明できる。また、到達目標③に関連して、クラウゼヴィッツの戦争に対する思想を理解することができる。		
	事前学修	教科書「第2講 戦争の肯定的定義」（p. 31-42）を読むことに加え、クラウゼヴィッツの『戦争論』（岩波文庫など）、毛沢東の『毛沢東語録』（平凡社）などから戦争とは何かの記述をノートに抜き出す。	120分	
	事後学修	戦争が人類社会にとって不可避なもの、必要悪であるとはどういう意味か、自分の理解をノートにまとめる。	120分	
5	戦争の否定的定義		アナトール・ラパポートの定義を使いながら、戦争の否定的定義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アナトール・ラパポートの戦争の定義を説明できる。		
	事前学修	教科書「第3講 戦争の否定的定義」（p. 43-55）を読む。余裕があれば、A. ラパポート 著、関寛治 編訳、『現代の戦争と平和の理論』（岩波書店、1969年）から戦争とは何かの記述をノートに抜き出す。	120分	
	事後学修	戦争は必要悪ではなく、意志的に起こされるもの、すなわち、避けるものとして定義する否定的定義について、自分の見解をノートにまとめる。	120分	
6	データから見る戦争		戦争の変遷を統計データを使って解説する。それらの統計のもととなるデータをどのように収集すればよいか、集めたデータから何が読み取れるのかなどを指導する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、武力紛争に関するデータを集め、分析することができる。		
	事前学修	教科書「第4講 データから見る戦争」（p. 59-91）を読むことに加え、ストックホルム国際平和研究所のウェブページにアクセスし、武力紛争のデータセットの意味を考え、ノートにまとめる。	120分	
	事後学修	20世紀の武力紛争の特徴に関する講義の知見をノートにまとめ、「非両立性」「アノクラシー」についての理解を深める。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	軍事支出と社会支出／中間テスト		軍事費と人々の日々の生活に直結する公的な社会支出を比較しながら、本来、私たちが戦争をどのようにとらえなければいけないのかを考える。また、1回から6回の範囲から中間テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍事費と社会的支出を比較することの意味を説明できる。		
	事前学修	教科書「第5講 軍事支出と社会支出」(p.93-113)を読み、軍事費と教育費の比較などから読み取れることをノートにまとめる。また、第1回から第6回の復習をしておく。		120分
	事後学修	ルース・シヴァードが『世界の軍事支出と社会支出』で世界に何を訴えたかったのかを考え、ノートにまとめる。テスト結果に基づいて、自分の理解が届かなかったことをテキストなどを使って復習する。		120分
8	戦争原因の文化人類学的説明など		なぜ人間が戦争を起こしてしまうのかの根源的な問いを文化人類学の知見を援用しながら戦争原因を究明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、なぜ人間が戦争を起こすのかという文化人類学的視点について説明することができる。		
	事前学修	教科書「第6講 戦争原因の文化人類学的説明など」(p.115-125)を読むことに加え、文化人類学についてインターネットなどで調べてノートにまとめる。		120分
	事後学修	文化人類学から見た戦争原因をノートにまとめる。		120分
9	戦争原因としての軍産官学労情民複合体		戦争原因について、軍産官学労情民複合体という経済的視点から解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、軍産官学労情民複合体という経済的視点について説明することができる。		
	事前学修	教科書「第7講 戦争原因としての軍産官学労情民複合体」(p.127-145)を読むことに加え、世界の軍事費に占める各国の割合変化や、特定の国家の軍事費の推移の特徴を、国際社会の出来事と連動させてノートにまとめる。		120分
	事後学修	軍事費の推移と「軍産官学複合体」の関係に関する講義の知見を、アメリカ大統領の所属政党の違いとともにノートにまとめる。		120分
10	科学技術の進展と戦争の変化		科学技術と戦争がどういう関係にあったかを説明する。20世紀が、人口増加、科学技術の発展に至るまで、いかに他の世紀とは違う異質な世紀であったかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、科学技術と戦争がどのような関係にあったのかを説明できる。		
	事前学修	教科書「第8講 科学技術の進展と戦争の変化」(p.147-173)を読むことに加え、20世紀の科学技術、21世紀の科学技術の特徴について、身の回りの技術を思い浮かべながらノートにまとめる。		120分
	事後学修	コピーとドублиケートの違いなど、科学技術の違いが戦争の本質を変えたことについての知見をノートにまとめる。		120分
11	勢力均衡政策		勢力均衡の考え方とその欠点について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、集団安全保障について説明することができる。また、到達目標③④⑤に関して、集団安全保障の短所と長所について自分の見解を述べることができる。		
	事前学修	教科書「第9講 勢力均衡政策」(p.177-198)を読むことに加え、勢力均衡政策の歴史についてノートにまとめる。		120分
	事後学修	勢力均衡政策の限界についての知見をノートにまとめる。特に、第10回講義に備えて、国連の集団安全保障の変遷について理解を深めておく。		120分
12	集団安全保障と協調的安全保障		国際社会の協調的安全保障システムへの進展について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、協調的安全保障について説明することができる。また、到達目標③④⑤に関して、協調的安全保障の短所と長所について自分の見解を述べることができる。		
	事前学修	教科書「第10講 集団安全保障と協調的安全保障」(p.199-214)を読むことに加え、北大西洋条約機構のウェブページにアクセスし、NATOの安全保障から協調的安全保障への変遷についてノートにまとめる。		120分
	事後学修	協調的安全保障のどこが優れているのかについて、NATOのシステムの変遷から考えてノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	核の均衡		核による均衡と核廃絶に対する国際社会の現実について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、国際社会に起きている紛争の状況について説明できる。到達目標③④⑤に関して国際社会の平和維持がどこまで可能なのかについて、その限界とともに考えることができる。		
	事前学修	教科書「第11講 核の均衡」(p. 215-228)を読むことに加え、ガリー元国連事務総長の『平和への課題』『開発への課題』をウェブで読み、そのメッセージの意味を考える。		120分
	事後学修	ガリー元国連事務総長の『平和への課題への追補』がなぜ出されたのかを、内容の整理とともに、講義からの知見を使いながらノートにまとめる。		120分
14	社会現象へのアプローチ：比較と分類の基本的ドリル		国際関係論のみならず、社会科学で応用可能な比較と分類の方法論について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関して、国際関係論ⅠとⅡで提示されてきた「一般化」「抽象化」がどのような方法論に基づくものであったかを理解することができる。		
	事前学修	教科書「付録 社会現象へのアプローチ：比較と分類の基本的ドリル」を読む。わかりにくいところをピックアップしておく。		120分
	事後学修	講義を参考に、国際社会を見る上で、これまで自分が使っていなかった方法論が、社会で生活していく中でどのように応用可能かをノートにまとめる。		120分
15	まとめと講評		第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際社会における紛争をどのように理解すればよいのかについてレビューする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、後期で学んだ戦争についての知見を体系的に説明することができる。		
	事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄を教科書とノートを見ながら振り返る。		120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題を、後期で学んだ紛争概念を使ってどのように理解できるのかをノートにまとめる。		120分

科目名	国際金融論Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では国際金融について学ぶ準備となる、金融論の基礎から講義をすすめていきます。最近の国際金融の動向や諸問題を理解する上で、知っておくとよいと考えられる内容を中心に学んでいきます。金融の理論や金融制度についての知識に加え、金融を考える上で有用な、経済学のさまざまな概念についても紹介していきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際金融論では国の枠を越えた金融取引を扱う。この授業では金融の理論や金融制度といった、金融論の基礎を理解し説明できる能力を養成することを目的とします。その上で、そこで理解した事柄を、国の枠を越えて取引が行われる場合に応用できるようにすることを、目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 経営法学科2, 3, 4, 6, 7 公共政策学科1, 2, 3, 4

【履修条件】
経済学Ⅰ,Ⅱの受講を終えていると、この授業で学ぶ内容を理解しやすくなります。

【授業方法】
講義形式で授業を行います。授業中に中間試験を実施し、その解説を行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に中間試験を実施し、その解説を行います。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。						3	3					3
②	日本と外国の金融の仕組みを理解し、説明することができる。						3	3					3
③	金融の現状を観察し、金融に関する問題を発見することができる。							3	3				3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。									3			3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の金融の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	10							65
小テスト等	授業時間中に実施する中間試験により、到達目標①と②にかかわる日本と外国の金融の仕組みを理解しているかを確認する。	15	20									35
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
金融論	家森信善	中央経済社	2018	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントを取ること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際金融論Ⅰを受講するにあたって	講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際金融論の学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際金融論Ⅰの学習方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して第1章を読む。	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
2	貨幣	貨幣の役割、貨幣の定義、新しい貨幣	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経済活動における貨幣の役割を把握することができる。	
	事前学修	教科書(第2章1節、2節、5節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	金利(1)	金利の重要概念、金利と債券価格の関係	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、金利についての基本知識を把握することができる。	
	事前学修	教科書(第3章1節、2節、5節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	金利(2)	金利の決定要因、金利の期間構造	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、経済活動における金利の役割を把握することができる。	
	事前学修	教科書(第3章3節、4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	中央銀行	中央銀行の機能	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、中央銀行の機能について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	外国の中央銀行	連邦準備制度(アメリカ)、欧州中央銀行	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、中央銀行の機能について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	金融政策(1)	金融政策全般	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央銀行が実施する金融政策について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第2章4節、第4章2節、第5章4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	中間試験 振り返り	中間試験とその解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第7回までの講義内容を把握していて、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第7回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書、ノート、中間試験問題を利用	120分
9	金融政策(2)	金融政策の手段	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融政策の手段について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第6章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	金融システム	金融システムの機能、金融仲介機関の役割	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融システムについて基本的な説明をすることができる。	
	事前学修	教科書(第3章6節、第7章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	金融機関	銀行、証券会社	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融システムにおける金融機関の役割を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第7章3節、4節、第8章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	ブルーデンス政策	金融システム安定化のための政策 ブルーデンス政策の政策手段	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ブルーデンス政策についての基本的な説明ができる。また政策手段を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第9章1節、2節、3節、4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	金融機関破綻への対応	金融機関破綻への対応	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融機関破綻への対応手段を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第10章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	金融市場規制	金融市場の健全な発展を図るための政策的取り組み	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、金融市場規制の目的を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第11章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	理解度の確認	理解度の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握し、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際金融論Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
この授業では国際金融市場と国際金融制度について学びます。具体的には、外国為替市場で行われる取引(直物取引・先渡取引・通貨派生取引)について説明します。また、各種外国為替相場制度を紹介します。適宜、各種資料や統計を参照しながら国際金融取引の現状を見ていきます。またユーロ市場、金利先物取引と金利スワップ取引、クレジットデフォルトスワップ(CDS)取引についても扱います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では国際金融市場と国際金融制度についての知識を養成することを目的とし、国際金融市場と国際金融制度についての基本知識を得ること、そして国際金融市場で行われる取引の仕組みを理解し、説明できるようになることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 経営法学科2, 3, 4, 6, 7 公共政策学科1, 2, 3, 4

【履修条件】
経済学Ⅰ、Ⅱ、国際経済論Ⅱ、国際金融論Ⅰの受講を終えていると、授業内容の理解が容易になります。

【授業方法】
講義形式で授業を行います。授業中に中間試験を実施し、その解説も行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に中間試験を実施し、その解説を行います	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					3	3					3
②	日本と外国の金融の仕組みを理解し、説明することができる。					3	3					3
③	金融の現状を観察し、金融に関する問題を発見することができる。						3	3				3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の金融の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	15	10							65
小テスト等	授業時間中に実施する中間試験により、到達目標①と②にかかわる日本と外国の金融の仕組みを理解しているかを確認する。	15	20									35
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	40	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 現代の国際金融を学ぶ	中條誠一	勁草書房	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントを取る) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際金融論Ⅱを受講するにあたって	講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際金融論の学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際金融論Ⅱの学習方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	外国為替	外国為替とは	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、遠隔地の決済システムである為替について説明できる。外国為替と内国為替の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第6章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	ユーロカレンシー市場	ユーロカレンシーとは、発行国外で取引される通貨のことである。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ユーロカレンシー市場が伝統的市場に比べて金融コストの低い市場となる理由を説明することができる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	直物取引と通貨先渡取引	外貨建てでの資金調達には、予測不可能な為替レートの変動によって、高額なコストが発生する可能性がある。資金調達者はあらかじめ決められた為替レートで必要な外貨を調達する為替予約(通貨先渡取引)を行うことで、このような可能性に備えることができる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、為替リスクを回避(ヘッジ)する仕組みである、通貨先渡取引(為替予約)を説明できる。	
	事前学修	教科書(第6章2節、3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	通貨派生取引(1)通貨先物取引	ヘッジとは、取引で発生するリスクを回避するために、相反する取引を行うことをいう。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、通貨先渡取引との違いを含めて、通貨先物取引について説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	通貨派生取引(2)通貨オプション取引	為替リスクをヘッジする方法の1つとして、外国為替市場を利用する通貨オプション取引がある。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、通貨オプション取引の仕組みを説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	企業の国際財務活動(1)為替リスクの管理	為替リスクとは一般に、為替レートの変動によって経済主体が被る損失、または期待した利益を失うというマイナスの影響を指す。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、企業の為替リスクの管理方法について説明できる。	
	事前学修	教科書(第7章2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	中間試験 振り返り	中間試験の実施とその解説	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第7回までの講義内容を把握しており、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第7回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書、ノート、中間試験問題を利用	120分
9	企業の国際財務活動(2)	外貨資金の調達と運用	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、企業による外貨資金の調達・運用方法について説明することができる。	
	事前学修	教科書(第7章1節、3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	国際収支表(金融収支)	国際収支表の読み方について説明する。	
	この回の到達目標	国際収支表の数字が読めるようになる。	
	事前学修	教科書(第1章2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	世界金融危機	証券化 クレジット・デフォルト・スワップ取引	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、証券化とクレジット・デフォルト・スワップ取引の仕組みを説明できる。	
	事前学修	教科書(第8章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	アジア通貨危機	様々な外国為替相場制度	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、様々な外国為替相場制度について説明できる。	
	事前学修	教科書(第8章2節、第4章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際協力(1)		国際通貨基金(IMF)
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際通貨基金の仕組みを説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	国際協力(2)		国際決済システム
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際決済システムについて説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	理解度の確認		理解度の確認
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握しており、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際経営法学Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この講座では、国際的に展開する企業を取り巻く法制度について、基礎的内容から学習する。初学者を念頭に、分かり易く説明をしたい。経営面に関するグローバルな法制度に主眼を置き、コーポレート・ガバナンス(企業統治)を中心に、理論面と実践の双方から学習を進める。ケーススタディも採り上げる。 前期授業では英国のガバナンス改革、後期には米国のガバナンス改革を主に取り上げたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
米国・英国のコーポレート・ガバナンス(企業統治)法制度を中心に、国際的企業買収(M&A)・防衛策、さらにサブプライム・リーマン金融危機やフィンテック(Financial Technology)・仮想通貨など国際金融における、グローバル企業の経営に関する法制度を比較法的に学習する。受講生が総合的な法制・経営の一体的な理解、説明ができることを目標とする。社外取締役、CEOなど重要な国際ビジネス面の基礎知識も、身に付けていただきたい。 法律関係学科以外の学生や2年生も歓迎する。金融機関やグローバル企業の就職を目指す者も幅広く、受講してほしい。

【履修条件】
法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も歓迎する。

【授業方法】
配布物やパソコンを用いて講義を進める。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。期末レポートなどを提出していただきたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																	
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	グローバルな展開をはかる企業の経営において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						2	2	2			2					
②	他の法律とは異なる国際経営にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						2	2	2			2					
③	国際経営に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べる。【技能】						2	2	2			2					
④	国際経営に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						2	2	2			2					
⑤	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑥	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑦	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑧	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑨	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑩	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)				
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥		⑦	⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																	
小テスト等																	
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。						15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。										10	10	5				25
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。													5	5	5	15
その他()																	
その他()																	
その他()																	
到達目標別の比率(%)							15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100
【課題に対するフィードバックの方法】																	
レポートの講評について、最終日の授業において解説などを行う。																	

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。					

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話にきてください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業の融資や調査などを長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】【国際経営法学とは】		授業のテーマ、成績評価方法、参考文献の紹介を含め、国際経営法学の学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 国際経営法学概説－企業の国際展開と法制度など－	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際経営法学がどのような法律か、また国際取引法、国際私法や国際経済法との関連性について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、各自で講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【国際金融法制】【サブプライム金融危機】		サブプライム・ローン問題と米国金融危機（1） 米国におけるサブプライム・ローン問題について、背景、金融規制動向などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融法制、国際金融全般に関する知識について理解し、説明することができる。		
	事前学修	サブプライム・ローン問題について概要を把握し、問題意識を持って授業に臨んで下さい。関連の専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、授業内容に関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
3	【国際金融法制】【サブプライム金融危機】		サブプライム・ローン問題と米国金融危機（2） 米国のサブプライム・ローン問題について、証券化商品と格付機関、リーマンブラザーズの破綻事例などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融に関する法制度がどのような法律か、また国際金融全般に関する知識についても理解し、説明することができる。		
	事前学修	サブプライム・ローン問題と米国金融危機について、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
4	【国際金融法制】【サブプライム金融危機】		サブプライム・ローン問題と米国金融危機（3） 大規模金融機関に関する国際的金融規制、オバマ政権のドッド・フランク法（金融改革法）などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融法制、国際金融全般に関する知識についても理解し、説明することができる。		
	事前学修	サブプライム・ローン問題と米国金融危機について、時系列的に把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
5	【国際金融法制】【欧州債務危機問題】		欧州債務危機問題と国際金融 ギリシャ金融危機・財政破綻とユーロ危機、銀行経営の影響、ドイツ銀行の事例などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際金融法制、国際金融全般に関する知識についても理解し、説明することができる。		
	事前学修	欧州債務危機問題に関し、問題点を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
6	【グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制】		グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制の概説 アベノミクス・政府の成長戦略の中心となるグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革について学習する。コーポレートガバナンス・コード（企業経営陣向の規律）、スチュワードシップ・コード（機関投資家向の規律）が車の両輪となり、実践的理解が重要である。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス法制がどのような法律か、について理解し、説明することができる。		
	事前学修	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、関連法制度の内容関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	【英国のコーポレート・ガバナンス法制】	英国スチュワードシップ・コードの改革（1） スチュワードシップ・コード（機関投資家向規律）について、英国スチュワードシップ・コードを中心に学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英国スチュワードシップ・コード（機関投資家向）の内容を理解できるようになる。		
	事前学修	英国スチュワードシップ・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
8	【英国のコーポレート・ガバナンス法制】	英国スチュワードシップ・コードの改革（2） 機関投資家と経営陣の対話・エンゲージメント、利益相反などについて、英国スチュワードシップ・コードを中心に学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英国スチュワードシップ・コード（機関投資家向）の内容を理解できるようになる。		
	事前学修	英国スチュワードシップ・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
9	【英国のコーポレート・ガバナンス法制】	英国スチュワードシップ・コードの改革（3） 受託者責任、集团的エンゲージメントなどについて、英国スチュワードシップ・コードを中心に学習する。日本のスチュワードシップ・コードとの比較考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英国スチュワードシップ・コード（機関投資家向）の内容を理解できるようになる。日本のスチュワードシップ・コードとの比較ができるようになる。		
	事前学修	英国スチュワードシップ・コード、日本のスチュワードシップ・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
10	【英国のコーポレート・ガバナンス法制】	英国コーポレートガバナンス・コードの改革（1） コーポレートガバナンス・コード（企業の経営陣向規律）について、英国コーポレートガバナンス・コードを中心に学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英国コーポレートガバナンス・コードの内容を理解できるようになる。		
	事前学修	英国コーポレートガバナンス・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
11	【英国のコーポレート・ガバナンス法制】	英国コーポレートガバナンス・コードの改革（2） プリンシプル（原則）ベースとComply or Explain（遵守せよ、さもなければ説明せよ）、について英国コーポレートガバナンス・コードを中心に学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英国コーポレートガバナンス・コードの内容を理解できるようになる。		
	事前学修	英国コーポレートガバナンス・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分
12	【英国のコーポレート・ガバナンス法制】	英国コーポレートガバナンス・コードの改革（3） 株主総会、取締役会、各委員会などについて、英国コーポレートガバナンス・コードを中心に学習する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英国コーポレートガバナンス・コードの内容を理解できるようになる。		
	事前学修	英国コーポレートガバナンス・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【英国のコーポレート・ガバナンス法制】		英国コーポレートガバナンス・コードの改革（4） 上級独立社外取締役（SID）、取締役会議長、CEO（最高経営責任者）などについて、英国コーポレートガバナンス・コードを中心に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英国コーポレートガバナンス・コードの内容を理解できるようになる。		
	事前学修	英国コーポレートガバナンス・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分	
14	【英国のコーポレート・ガバナンス法制】		英国コーポレートガバナンス・コードの改革（5） 英国会社法について、会社組織、取締役の成功促進義務、会社秘書役制度など、その特徴を学習する。コードと会社法の一体的把握、日本法との比較などが重要である。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英国コーポレートガバナンス・コード、英国会社法の内容を理解できるようになる。		
	事前学修	英国コーポレートガバナンス・コード、英国会社法の概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して復習を行い、次の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分	
15	【前期の総まとめ】		授業内レポートについて、解説等を行う。前半の総まとめを行い、体系的な学習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期の総まとめを行い、理解の定着が図られる。		
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、国際金融法制、グローバル企業、金融機関に関するガバナンス改革の体系を考察する。	120分	
	事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、グローバル企業、金融機関のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分	

科目名	国際経営法学Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
この講座では、国際的に展開する企業を取り巻く法制度について、基礎的内容から学習する。初学者を念頭に、分かり易く説明をしたい。経営面に関するグローバルな法制度に主眼を置き、コーポレート・ガバナンス(企業統治)を中心に、理論面と実践の双方から学習を進める。ケーススタディも採り上げる。 前期授業では英国のガバナンス改革、後期には米国のガバナンス改革を主に取り上げたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
米国・英国のコーポレート・ガバナンス(企業統治)法制度を中心に、国際的企業買収(M&A)・防衛策、さらにサブプライム・リーマン金融危機やフィンテック(Financial Technology)・仮想通貨など国際金融における、グローバル企業の経営に関する法制度を比較法的に学習する。受講生が総合的な法制・経営の一体的な理解、説明ができることを目標とする。社外取締役、CEOなど重要な国際ビジネス面の基礎知識も、身に付けていただきたい。 法律関係学科以外の学生や2年生も歓迎する。金融機関やグローバル企業の就職を目指す者も幅広く、受講してほしい。

【履修条件】
法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も歓迎する。国際経営法学Ⅰの履修を要件としない。後期のみの受講も構わない。

【授業方法】
配布物やパソコンを用いて講義を進める。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。期末レポートなどを提出していただきたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																	
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	グローバルな展開をはかる企業の経営において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						2	2	2			2					
②	他の法律とは異なる国際経営にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						2	2	2			2					
③	国際経営に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べる。【技能】						2	2	2			2					
④	国際経営に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						2	2	2			2					
⑤	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑥	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑦	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑧	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑨	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
⑩	国際経営に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						2	2	2			2					
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標							評価方法別の比率(%)			
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																	
小テスト等																	
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。						15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。										10	10	5				25
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。													5	5	5	15
その他()																	
その他()																	
その他()																	
到達目標別の比率(%)							15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100
【課題に対するフィードバックの方法】																	
レポートの講評について、最終日の授業において解説などを行う。																	

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。					

【オフィスアワー】			
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話に来てください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。			
【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業の融資や調査などを長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル企業に関する法制度に関して、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的なケーススタディを実践したい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】【国際金融法制、米国ドッド・フランク法】		後期授業のテーマ、成績評価方法、参考文献の紹介を含め、国際経営法学の学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 米国ドッド・フランク法（金融改革法）（1） 金融危機後のオバマ政権による米国ドッド・フランク法（金融改革法）について、概要を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際金融法制、ドッド・フランク法に関し、コーポレート・ガバナンスの面も含めて、さらに深く掘り下げて理解を深める。		
	事前学修	ドッド・フランク法について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【米国ドッド・フランク法】		米国ドッド・フランク法（金融改革法）（2） ドッド・フランク法（金融改革法）について、コーポレート・ガバナンス、報酬改革、消費者保護などに関連して学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際金融法制、ドッド・フランク法に関し、コーポレート・ガバナンスの面も含めて、さらに深く掘り下げて理解を深める。		
	事前学修	ドッド・フランク法について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
3	【国際的M&A法制】		国際的M&A（企業買収）と法制度（1） 米国M&A法制、EU企業買収指令、合併、株式交換、会社分割、三角合併、株式公開買付（TOB）などと企業経営・経営戦略について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際的M&A法制を理解する。		
	事前学修	国際的なM&A（企業買収）について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
4	【米国のM&A法制】		国際的M&A（企業買収）と法制度（2） 米国の敵対的企業買収防衛策、ユノカル判決、ポイズンピル（毒薬条項）などについて、司法の判断、企業経営・戦略面などを中心に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際的M&A法制を理解する。		
	事前学修	国際的なM&A（企業買収）について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
5	【米国のコーポレート・ガバナンス法制】		米国のコーポレート・ガバナンス法制（1） 米国におけるコーポレート・ガバナンス（企業統治）法制について、会社法・会社組織、金融資本市場など概要を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国のコーポレート・ガバナンス法制の概略を理解する。		
	事前学修	米国のコーポレート・ガバナンス法制について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
6	【米国のコーポレート・ガバナンス法制】		米国のコーポレート・ガバナンス法制（2） 米国の株主総会、取締役会制度、CEOやCOO（最高業務執行責任者）、筆頭独立社外取締役（LID）、監査・指名・報酬委員会、訴訟委員会、取締役会評価、などについて、日本法と比較しつつ、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国のコーポレート・ガバナンス法制の概略を理解する。		
	事前学修	米国のコーポレート・ガバナンス法制について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【米国のコーポレート・ガバナンス法制】	米国のコーポレート・ガバナンス法制（3） 米国の株主代表訴訟と取締役責任、経営判断原則（BJR）などについて、米国判例をもとに学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国のコーポレート・ガバナンス法制の概略を理解する。	
	事前学修	米国のコーポレート・ガバナンス法制について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
8	【米国のコーポレート・ガバナンス法制】	米国のコーポレート・ガバナンス法制（4） 米国汚職行為防止法（FCPA）と企業のコンプライアンス（法令遵守）体制など、国際不正取引と域外適用に関し、丸紅、ブリジストンのケースを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国のコーポレート・ガバナンス法制、コンプライアンスの概略を理解する。	
	事前学修	米国のコーポレート・ガバナンス法制について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
9	【米国のコーポレート・ガバナンス法制】	米国のコーポレート・ガバナンス法制（5） 内部統制と企業経営について、エンロン事件と米国COSO報告書、米国企業改革法（SOX法）と戦略的リスクマネジメント（ERM）などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国のコーポレート・ガバナンス法制、リスクマネジメントの概略を理解する。	
	事前学修	米国のコーポレート・ガバナンス法制について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
10	【グローバル企業のガバナンス改革と新たな政策】	社外取締役とグループガバナンスなどに関する新しい施策 社外取締役ガイドライン、グループガバナンス、M&A指針（以上、経済産業省）、ESG投資、プライム証券市場創設とコーポレートガバナンス・コード（上場規則）改訂など、新しい政策動向とグローバル経営について、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のガバナンス改革にかかる新しい政策動向を理解する。	
	事前学修	グローバル企業のガバナンス改革にかかる新しい政策動向について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
11	【グローバル企業のガバナンス改革の総合的ケーススタディー】	国際的企業の経営戦略と法務（1） パナソニック、日立製作所、ソニー、帝人、トヨタなど、コンプライアンスやリスクマネジメント、経営・財務分析を含めた総合的な事例研究を行う。日産自動車で、ルノー（仏）との国際合併・統合問題も取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、法制度や経営・会計を含めた総合的なケーススタディーを理解する。グローバルなメーカーを題材とする。	
	事前学修	国際的企業における経営法務について調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
12	【グローバル企業のガバナンス改革の総合的ケーススタディー】	国際的企業の経営戦略と法務（2） 三菱東京UFJ、みずほ、三井住友など、ガバナンス改革を進めるメガバンクほか巨大金融機関の法務戦略と実践について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、法制度や経営・会計を含めた総合的なケーススタディーを理解する。メガバンクなど金融機関を主として対象とする。	
	事前学修	巨大金融機関の経営法務、ガバナンスについて調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、特にメガバンクの総合的事例の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【国際金融法制とフィンテック】	フィンテックと法制度（1） フィンテック（Financial Technology）、仮想通貨に関して、欧米の法制度、銀行法改正など金融業界の構造変化、概略を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際金融法制とフィンテックについて概略を理解する。	
	事前学修	フィンテックについて調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、特にフィンテック全般の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
14	【国際金融法制とフィンテック】	フィンテックと法制度（2） 仮想通貨と裁判事例、AI（人工知能）にかかる規制のあり方、などを欧米の法制度と比較しつつ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、フィンテックについて理解する。AI、仮想通貨などに関する法制度を欧米各国を含めて理解する。	
	事前学修	フィンテック、仮想通貨などを調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、特に仮想通貨などの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。	120分
15	【後期の総まとめ】	後期の総まとめ 授業内レポートと解説等を行う。グローバル企業のガバナンス改革などについて、総まとめを行う。スチュワードシップ・コードの再度改訂版、コーポレートガバナンス・コードの改訂の内容など、英国コードと対比しつつ、考察を進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、後期の総まとめを行い、理解の定着が図られる。レポートの解説も行う。	
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、グローバル企業に関するガバナンス全体の体系を考察する。	120分
	事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、グローバル企業のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	国際経営論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
多国籍企業の特徴と国際経営の独自問題について体系的に理解する。グローバル市場環境の中で日系多国籍企業が直面する問題とその解決策に関して講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、多国籍企業による国際経営の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
原則として「経営学ⅠとⅡ」「国際経営論Ⅰ」の単位取得を条件とする。単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にくること。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 3名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また各自が独自に考案する計画をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員が質疑応答に参加する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経営の独自問題を説明できる					2	2	2					
②	多国籍企業の歴史について説明できる					2	2	2					
③	内部化理論について説明できる						2	2					
④	グローバル組織について説明できる						2	2					
⑤	マルティドメスティック組織について説明できる						2	2					
⑥	トランスナショナル組織について説明ができる						2	2					
⑦	理論やフレームワークに基づき、多国籍企業成立のメカニズムを説明できる						2	2					
⑧	他者へ国際経営組織の特徴を説明できる							2					
⑨	他者の国際経営組織が内在する課題を批判的に検討できる							2					
⑩	優れた多国籍企業の組織モデルについて説明できる						2	2					

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約3,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身で国際経営の独自問題を調査・分析する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	5	5	5	5	5	5	15	5	5	5	60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション）、ケーススタディ、個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。	5	5	5	5	5	5		5	5		40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	15	10	10	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終講義においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経営	大木清弘	新世社	2018	教科書	推奨
未来の多国籍企業	浅川・伊田・臼井・内田	文真堂	2020	参考書	推奨
備考	「国際経営Ⅱ」の履修を予定している学生には「教科書」の購入を勧める。				

【オフィスアワー】
水曜11：00～12：00 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	国際経営の独自問題	そもそも国境を越える経営である国際経営には国内経営とは異なる独自の経営問題が内在している。これら問題について理解する	
	この回の到達目標	①の関連において、国際経営の独自問題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。有名な多国籍企業の動向を新聞記事等で調べておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	多国籍企業の歴史	多国籍企業の歴史と定義について理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の歴史と定義について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	多国籍企業の成立①	多国籍企業の成立の論理を理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（優位性概念）について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	多国籍企業の成立②	多国籍企業の成立の論理を理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（内部化理論）について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
6	多国籍企業の成立③	多国籍企業の成立の論理を理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、多国籍企業の成立の論理（OLIパラダイム）について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）		企業のケースを使って、多国籍企業の成立プロセスを分析する	
	この回の到達目標	①，②，③，⑦，⑧，⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、多国籍企業の成立プロセスを分析し、報告する		
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集		120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備		120分
8	グローバル経営組織①		多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥の関連において、多国籍企業の組織モデルについて説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備		120分
9	グローバル経営組織②		多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥の関連において、多国籍企業の組織モデルについて説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備		120分
10	グローバル経営組織③		多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥の関連において、多国籍企業の組織モデルについて説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備		120分
11	グローバル経営組織④		多国籍企業が採用する組織モデルについて理解する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥の関連において、多国籍企業の組織モデルについて説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備（レポート提出日）		180分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		60分
12	アクティブ・ラーニング②（グループ演習2）		レポートを相互に分析する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨の関連において、他者のレポートを分析し、アドバイスをを行う		
	事前学修	自身のレポートの整理		120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブ・ラーニング③（個人演習1）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標において、国際経営の独自問題を分析し、課題を提示できる	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	アクティブ・ラーニング④（個人演習2）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標において、国際経営の独自問題を分析し、課題を提示できる	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する	
	事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
	事後学修	振り返り	120分

科目名	国際経営論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
多国籍企業の特徴と国際経営の独自問題について体系的に理解する。グローバル市場環境の中で日系多国籍企業が直面する問題とその解決策に関して講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、多国籍企業による国際経営の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
原則として「経営学ⅠとⅡ」ならびに「国際経営論Ⅰ」の単位取得を条件とする。単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にすること。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また受講生各自が特定多国籍企業の国際経営の実践についてレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員がディスカッションに参加する演習形式で実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	多国籍企業におけるグローバル生産管理しくみを説明できる				2	2	2					
②	多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみを説明できる				2	2	2					
③	多国籍企業における国際人的資源管理のしくみを説明できる				2	2	2					
④	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割を説明できる				2	2	2					
⑤	多国籍企業におけるグローバル・リーダーシップの機能を説明できる				2	2	2					
⑥	未来の多国籍企業の課題について説明ができる				2	2	2					
⑦	理論やフレームワークに基づき、多国籍企業の経営機能を説明できる				2	2	2					
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約3,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身で国際経営の独自問題を調査・分析する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	5	5	5	5	5	15	20				60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション）、ケーススタディ、個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。	5	5	5	5	5	5	10				40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	20	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終講義においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経営	大木清弘	新世社	2018	教科書	推奨
未来の多国籍企業	浅川・伊田・臼井・内田著	文真堂	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜11：00～12：00 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	グローバル生産管理①	メーカーによる生産管理に基本とグローバル生産管理のしくみならびに課題について理解する	
	この回の到達目標	①の関連において、グローバル生産管理のしくみならびに課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	グローバル生産管理②	メーカーによる生産管理に基本とグローバル生産管理のしくみならびに課題について理解する	
	この回の到達目標	①の関連において、グローバル生産管理のしくみならびに課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	グローバル・イノベーション・マネジメント①	現在のイノベーション・マネジメントにおける課題を理解した上で、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を理解する	
	この回の到達目標	②の関連において、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	グローバル・イノベーション・マネジメント②	現在のイノベーション・マネジメントにおける課題を理解した上で、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を理解する	
	この回の到達目標	②の関連において、多国籍企業におけるグローバル・イノベーション・マネジメントのしくみと課題を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
6	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	グローバル・イノベーション・マネジメントのための独自のしくみを考案する	
	この回の到達目標	②と⑦の関連において、グローバル・イノベーション・マネジメントの課題を説明し、解決策を考案できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際人的資源管理①	多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について理解する	
	この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
8	国際人的資源管理②	多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について理解する	
	この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
9	アクティブ・ラーニング②（グループ演習2）	多国籍企業の国際人的資源管理における新しい機能を考案する	
	この回の到達目標	③の関連において、多国籍企業における国際人的資源管理の機能と課題について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
10	多国籍企業における組織文化と経営理念①	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において、多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習、レポート準備	120分
11	多国籍企業における組織文化と経営理念②	多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において、多国籍企業における組織文化と経営理念の役割と効果について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備、レポート準備（レポート提出日）	180分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	60分
12	グローバル・リーダーシップ	グローバル・リーダーシップの機能と効果について理解する	
	この回の到達目標	⑤の関連において、グローバル・リーダーシップの機能と効果について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブ・ラーニング③（個人演習1）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標において、多国籍企業の経営機能を分析し、課題を提示できる	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	アクティブ・ラーニング④（個人演習2）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標において、多国籍企業の経営機能を分析し、課題を提示できる	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	①～⑦すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する。	
	事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
	事後学修	振り返り	120分

科目名	国際経済法Ⅰ	担当者	中村 良	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
現在のグローバル経済を支える大きな仕組みの一つである「WTO体制」を講義の対象とし、GATTの前身である「ITO」、「GATT体制」、「WTO体制」の仕組みを理解し、それぞれの時代背景、交渉経緯、特色等を学修する。さらに、ITOの頓挫、GATTの制定経緯、そして現在のWTO体制の成立から、「WTO体制」基本原則や紛争処理手続きを学修し、具体的事例に紛争処理手続きについて自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「自由貿易体制」の意義を理解するための必要な国際経済法の基礎理論および「WTO体制」の基礎知識の修得を目的とする。 国際貿易紛争を「WTO体制」の枠組みにおいてどのように紛争解決を図っているのかを受講生が自らの言葉で説明できることを目標とする。

【履修条件】
特にないが、経済法、国際経済法Ⅱを履修済みか、並行履修が好ましい。

【授業方法】
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。受講生間において討議することがある。 小テスト、振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経済法の基本理論を正確に理解できる。						2		2					
②	経済紛争における国際経済法上の問題点を正確に抽出できる。						2	2	2					
③	必要な資料を検索・入手できる。						2	2	2					
④	他者の意見を正確に理解できる。						2	2	2			2		
⑤	自分の意見を相手に分かりやすく正確に伝えることができる。						2	2	2			2		
⑥	個々の現象を関連づけ国際経済法の考え方を用いて今後の展開を予測できる。						2	2	2			2		
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は行わない。											
小テスト等	授業中に小テストを2回（20点×2回＝40点）行う。	5	5			5	5					20
レポート等	レポートを1回かす(30点)。	10	5	5		5	5					30
討論・発表等	授業中のディスカッションへの積極的な参加（30点）。	10			10	10						30
授業への参画度	評価しない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	10	5	10	20	10					80

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業で解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『2020年版不正貿易報告書』	経済産業省通商政策 局編	経済産業業HP	令和2 年		
備考	上記報告書は、 https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/tsusho_boeki/fukosei_boeki/report_2020/honbun.html にUPされている。				

【オフィスアワー】
水曜日12時10分から13時00分（事前に口頭かメールでご連絡ください。メールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の目的、授業方法、教科書、参考図書・資料、成績評価等、そして資料検索の方法について学修する。 国際経済法Ⅰを学修する意義を理解する。	
	この回の到達目標	受講に必要な資料の収集方法、予習の仕方等を理解し実施できる。 国際経済法Ⅰを学修する意義を自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	1 シラバスを確認するとともに、テキストをダウンロードし、目次を確認し講義全体を概観する。 2 テキスト13－15頁の「略語・頭文字」を確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業計画について確認するとともに、授業で行った資料の検索方法を用いて指定された資料を検索する。	120分
2	WTOの概要と関税制度	WTO体制成立経緯 WTO協定の概要 「WTO協定の基本的目的」、「WTOの基本原則」、「WTO協定の全体像」、「WTOの機構」、そして「GATTおよびWTOにおける自由化交渉の流れ」を考察し、「WTO体制」の概要を学修する。 関税制度の概要について簡単に学修する。	
	この回の到達目標	WTO体制成立の経緯とその背景を自分の言葉で説明できる。 WTO協定の概要について簡単に説明できる。	
	事前学修	1 指定されたテキストを印刷し、151－159頁を読み「WTO協定の概要」を確認する。 2 テキスト419－440頁WTOの紛争解決手続きを読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「WTO体制」の全体像を自分の言葉で説明できるように知識を整理する。	120分
3	最恵国待遇原則	最恵国待遇原則 「ルールの概観」講義し、「主要ケース」における問題点を学修する。	
	この回の到達目標	WTOにおける最恵国待遇規定について具体例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト159－170頁を読んで、「最恵国待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「最恵国待遇」原則の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
4	内国民待遇原則	内国民待遇原則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を学修する	
	この回の到達目標	内国民待遇原則につて具体的な事例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト171－178頁を読んで、「内国民待遇」原則について制度趣旨等確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「内国民待遇原則」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
5	数量制限禁止原則	数量制限への規制・輸出規制 「ルールの概観」、「主要ケース」について講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	何故数量制限が禁止されているのか自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定されたテキスト179－200頁を読んで、「数量制限」制限規制、「輸出規制」について制度趣旨等を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「数量制限」規制、「輸出規制」の問題点等と上級委員会の判断について整理しておくこと。	120分
6	正当化事由	正当化事由 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	紛争事例において正当化事由がどのように主張され、どのような場合に認められるか主要な事例をあげて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト201－234頁を読んで、紛争当事国の主張する「正当化事由」についてその趣旨について確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「正当化事由」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	関税制度	関税制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	譲許表を用いて関税の計算ができる。	
	事前学修	指定されたテキスト235-248頁と配布資料を読んで、「関税制度」の概要、基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、関税制度の概要、基礎知識を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
8	アンチダンピング	ダンピング規制・アンチダンピング措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	ダンピング規制及びアンチダンピング措置の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト249-270頁を読んで、アンチダンピング措置について概要、基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、アンチダンピング措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
9	補助金	補助金・相殺措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	補助金のWTO上の問題点について主要ケースを用いて説明できる。	
	事前学修	指定テキスト271-298頁を読んで、補助金・相殺措置の制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、補助金・相殺措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
10	セーフガード	セーフガード 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。	
	この回の到達目標	セーフガードが認められたケースを用いてどのような場合に認められるか説明できる。	
	事前学修	指定テキスト299-316頁を読んで、セーフガードの制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
11	貿易投資関連措置	貿易関連投資措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点について考察する。	
	この回の到達目標	貿易関連投資措置の概要について自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト317-322頁を読んで、貿易関連措置の基礎知識を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、貿易関連投資措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
12	原産地規則	原産地規則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。	
	この回の到達目標	原産地規則についてその問題点を自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト323-328頁を読んで、原産地規制の概要を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、原産地規制の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	基準・認証制度		基準・認証制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	この回の到達目標	基準・認証制度が国際貿易に及ぼす影響について具体的事例をあげながら自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	指定テキスト329-354頁を読んで、基準・認証の制度趣旨を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
14	サービス貿易		サービス貿易 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	この回の到達目標	サービス貿易をWTOで取り扱う意義について自分の言葉で説明できる	
	事前学修	指定テキスト355-380頁を読んで、WTO体制におけるサービス貿易の取扱いについて確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、サービス貿易のWTO体制での取扱いについて自分の言葉で説明できるように整理する。	120分
15	WTO体制の展望		これまでの講義を復習するとともに、残されているWTO体制の問題点について考察する。
	この回の到達目標	ここまでの講義を通じて学修した知識をふまえWTO体制の意義について自分の見解を整理し発表できる。	
	事前学修	これまでも講義ノート、テキストを確認して、自由貿易体制における「WTO体制」の役割を自分の言葉で説明できるように確認する。	120分
	事後学修	これまでの、資料・ノートを読み、残された課題について、自分なりの見解を示せるよう考えを整理する。	120分

科目名	国際経済法Ⅱ	担当者	中村 良	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○			○		

【授業の概要】
国際経済法Ⅱでは、「自由貿易体制」維持の観点から、世界の主要な競争法について制度趣旨・基礎概念・特徴を理解し、特に世界の競争方法をリードするアメリカ競争法（以下、アメリカ反トラスト法という）を中心にEU、アジア（日本、韓国、中国）における競争の法の基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
アメリカ、EU、アジア（日本、韓国、中国）における競争法の基礎理論の修得を目的とし、競争法の背後にある経済理論の展開についても留意しながら、各国競争法について学修する。そして、今後の世界の競争法の展開について自分の見解をもち、自分の言葉で説明できることを目標とする。

【履修条件】
経済法、国際経済法Ⅰを履修済みか、並行履修が望ましい。

【授業方法】
授業資料を配布する。当該配布資料に沿って講義を進める。受講生間で討議することがある。 小テスト・振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際経済法の基本理論を正確に理解できる。						2					
②	経済紛争における国際経済法の問題点を正確に抽出できる。				2	2	2					
③	必要な資料を検索・入手できる。						2					
④	他者の意見を正確に理解することができる。					2				2		
⑤	自分の意見を相手に分かりやすく正確に伝えることができる				2	2	2			2		
⑥	個々の現象を関連づけ国際経済法の考え方を用いて今後の展開を予測できる。				2	2	2			2		
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は行わない。											
小テスト等	授業中に小テストを2回(20点×2回=40点) 行う	10				5	5					20
レポート等	レポートを1回かす (30点) 。	5	5	5	5	5	5					30
討論・発表等	授業中のディスカッションへの積極的な参加(30点)	10			10	10						30
授業への参画度	加味しない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	5	5	15	20	10					80

【課題に対するフィードバックの方法】
次回以降の授業において解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教科書は指定しない。					
参考資料・参考図書について適宜指示する。					
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12：10～13：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ってくださいメールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		1 授業の目的、方法、教科書、参考図書、成績評価等について 2 「競争法」の定義 3 国際経済法Ⅰとの関係 4 資料収集方法	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を正確に理解できる。 「競争法」の定義、勉強の意義、国際経済法Ⅰとの関係を自分の言葉で説明できる。		
	事前学修	経済法を履修済の受講生は、教科書・ノートを読み直しておくこと。未履修の受講生は、公正取引委員会のHPを参照し我が国における独占禁止法について確認する。		120分
	事後学修	ガイダンスの内容を確認し整理する。質問があれば、オフィスアワーのアポをとる。 授業内で紹介された情報検索を実施し内容を確認する。		120分
2	世界の競争法概説		世界主要国の競争法の歴史を概観し、その関係を学修する。	
	この回の到達目標	世界の「競争法」の歴史を概観し、その関係と制定経緯について、自分の言葉で説明できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)		120分
	事後学修	今回の授業の概要を配布資料・ノートで確認し、競争法の制定経緯について復習し、自分の言葉で説明できるように整理する。		60分
3	米国競争法（米国の法の特徴・反トラスト法制定以前の競争法・反トラスト法の制定）		米国の法の特徴について学修する。 反トラスト法の起源・変遷について具体的事例を用いて学修する。 必要な資料の収集方法についても学修する。	
	この回の到達目標	米国の法の特徴と反トラスト法制定以前の競争制限行為規制についてその特色を正確に理解し自分の言葉で説明できる。 反トラスト法制定当時の米国の政治状況を踏まえ何故成立できたのかについて理解し、自分の言葉で説明できる。 制定資料等を自分で検索収集できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	今回の授業の概要を配布資料・授業ノートで確認して、①米国の特色について整理し、②米国判例の検索方法を確認しておく。		120分
4	米国競争法（反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関）		反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関について、必要な資料の収集方法を学修するとともに、日本法と比較しての反トラスト法の特色を理解する。	
	この回の到達目標	反トラスト法の法源・実体規定・手続規定・執行機関について、日本法と比較してのその特色を正確に説明できる。 必要な資料を検索・収集できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	今回の授業の概要を配布資料・授業ノートで確認し、アメリカ反トラスト法の概要について、自分の言葉で説明できるように整理する。		120分
5	米国競争法（反トラスト法による共同行為規制）		反トラスト法による主に共同行為（カルテル等）規制について、要件・立証責任・捜査方法等その特色を主要な判例等を参照しながら学修する。	
	この回の到達目標	反トラスト法による主にカルテル規制について、要件・立証責任・捜査方法等その特色を主要な判例等を参照しながら学修し、その特色を整理し自分の言葉で説明できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、アメリカ反トラスト法における「カルテル規制」について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。		120分
6	米国競争法（反トラスト法単独行為・私的独占規制）		反トラスト法における単独行為規制（私的独占等）について主要な判例をあげながら学修し、その特色について整理する。	
	この回の到達目標	反トラスト法における単独行為規制（私的独占等）について、その要件と法の執行について事例をあげながら自分の言葉で説明できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、アメリカ反トラスト法における「独占規制」について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	米国競争法（合併規制・FTC法5条等）		反トラスト法の企業結合規制について主要判例、ガイドライン等を参照しながら、どのような場合に企業結合が制限されるか学修する。 FTC法5条についてその概要を理解する。	
	この回の到達目標	米国競争法における企業結合規制についてガイドラインと主要判例を用いて、どのような場合に規制されるか説明できる。 FTC法5条について日本法と比較しながら説明できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理反トラスト法における企業結合規制・FTC法の運用について整理し、自分の言葉で説明できるようにする。		120分
8	EU競争法（歴史・概要）		EUの歴史・基本原理、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の基礎理論を講義し、その特色を考察する。	
	この回の到達目標	EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の基礎理論を学修し、自分の言葉で説明できる。 必要な資料を収集できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。		120分
9	EC競争法（共同行為規制）		EU競争法における「共同行為規制」（カルテル規制）の要件・主要な事例を学修し、米国・日本との違いを整理する。	
	この回の到達目標	EU競争法における「共同行為規制」（カルテル規制）について米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、EU競争法における「共同行為規制」の特色と米国・日本との違いについて、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。		120分
10	EU競争法（単独行為規制）		EC競争法における単独規制（市場支配的地位の濫用行為規制）の要件・主要な事例を学修し、米国・日本との違いを整理する。	
	この回の到達目標	EC競争法における単独規制（市場支配的地位の濫用行為規制）の要件・主要な事例について米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、韓国独占禁止法における「市場支配的地位の濫用禁止」および「企業結合規制」の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。		120分
11	EU競争法（合併・買収規制）		EC競争法における合併規制の要件・審査手続を学修し、米国・日本との違いを整理する。	
	この回の到達目標	EC競争法における合併規制の要件・審査手続を学修し、米国・日本との違いを自分の言葉で説明できる。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、EC競争法における企業結合規制の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。		120分
12	アジアの競争法（韓国－執行機関・支配的地位の濫用等）		韓国競争法の執行機関、市場支配的地位の濫用禁止および企業結合規制について講義し、その特色を考察する。	
	この回の到達目標	韓国競争法の執行機関、市場支配的地位の濫用禁止および企業結合規制について、その特色を自分の言葉で説明する。		
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。		120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、中国独占禁止法の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	アジアの競争法（韓国－カルテル規制）		アジア 韓国独占禁止法における「不当な共同行為」規制について講義し、その特色を考察する。
	この回の到達目標	韓国の競争法について制定経緯・概要・執行機関・最近の運用について自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、韓国競争法の特徴と主要な規定の運用について自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
14	アジアの競争法（中国他）		中国競争法について制定経緯・概要について学修する。
	この回の到達目標	中国競争法について制定経緯、概要、主要な規定の運用状況を自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。	120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、中国競争法の特徴と主要な規定の運用について自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。	120分
15	国際経済法Ⅱのまとめと展望		アメリカ反トラスト法、EU競争法、日本独占禁止法、韓国独占禁止法、中国独占禁止法の特色を比較するとともに国際協力について比較し、今後の競争法の展開について考察する。
	この回の到達目標	「課題」について、これまでの学修した複数の知識を用いて論点と予測される結論について自分の言葉で説明できる。これから主要競争法の今後の展望について自分の意見を言える。	
	事前学修	これまでの配布資料・授業ノートを読み直し、各国の競争法の特色を整理する。必要に応じて参考資料を検索する。	120分
	事後学修	配布資料、授業ノートで、世界の主要な競争法の特色を確認し、これからの競争法の展開を自分の言葉で説明できるように自分の考えを整理する。	120分

科目名	国際経済論Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
この国際経済論Ⅰでは貿易論を、国際経済論Ⅱでは国際マクロ経済学を学びます。貿易論では、国同士が財の交換を行うことで生じる利得から、貿易を説明します。授業では最初に、余剰の概念を用いて、貿易政策の影響について説明します。次に、基本的な貿易モデルを、具体的には交換モデル、リカード・モデル、ヘクシャー＝オリーン・モデルという3つのモデルを順に紹介します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
貿易政策が生産者と消費者、双方に与える影響について、及び貿易モデル(交換モデル、リカード・モデル、ヘクシャー＝オリーン・モデル)について、理解し説明できる能力を養成することを目的とする。 また、二種類の生産要素(資本と労働)を使い生産した財を国同士で交換するヘクシャー＝オリーン・モデルを理解することで、国を跨いだ資本と労働の移動について考える、1つの見方を手にすることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 6 公共政策学科1, 2, 3, 4

【履修条件】
経済学Ⅰの受講を終えていることが望ましい。または、経済学の基本的な概念を知っていることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で行います。また授業中に小テストを実施します。 小テストの解説もおこないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に小テストを実施し、その解説を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力			
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力			
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力			
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					2				2
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。					2	2			2
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。						2	2		2
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								2	2
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	10							70
小テスト等	授業時間中に実施する小テストにより、第1回は到達目標①にかかわる経済活動を観察する力が身についているか、第2回は到達目標①②にかかわる経済の現状を分析する力が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経済学 第2版	大川昌幸	新世社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントを取ること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際経済論Ⅰを受講するにあたって	講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際経済論の学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際経済論Ⅰの学習方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、第Ⅰ部の各章冒頭にある導入説明を読む。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	世界の通商システムと日本(1)	世界と日本の貿易とGDPを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、世界と日本の貿易とGDPを説明できる。	
	事前学修	教科書(第1章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	世界の通商システムと日本(2)	世界貿易機関(WTO)	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、世界貿易機関(WTO)について説明できる。	
	事前学修	教科書(第1章)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	貿易政策(1)	需要曲線と消費者余剰、供給曲線と生産者余剰	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、消費者余剰と生産者余剰の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書(第2章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	貿易政策(2)	貿易の自由化と貿易利益 自由貿易を行うことが国全体のメリットになる理由を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、貿易利益を説明できる。	
	事前学修	教科書(第2章3節、4節、5節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	自給自足経済	自給自足経済の均衡	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貿易が行われる前の経済状態を説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	交換モデル		自由貿易均衡
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、交換モデルを使って、貿易利益を説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	リカード・モデル(1)		絶対優位と比較優位 リカードの比較優位説(リカード・モデル)では、国家間の労働生産性の違いから貿易を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、絶対優位と比較優位の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
9	リカード・モデル(2)		相対価格と貿易パターン 国家間の労働生産性の違いと相対価格から、貿易パターンを説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貿易パターンを説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章3節、4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	リカード・モデル(3)		貿易利益
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、リカード・モデルを使って、貿易利益を説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章6節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	ヘクシャー=オリーン・モデル(1)		資本・労働比率、生産要素の集約性、生産可能性フロンティア ヘクシャー=オリーン・モデルでは、それぞれの国で入手できる生産要素の割合と、特定の品を生産するのに必要な生産要素の割合との関連性から貿易を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、リカード・モデルとの違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	ヘクシャー=オリーン・モデル(2)		リブチンスキー定理
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、リブチンスキー定理を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヘクシャー=オリーン・モデル(3)	ヘクシャー=オリーン定理	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ヘクシャー=オリーン定理を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	ヘクシャー=オリーン・モデル(4)	ヘクシャー=オリーン定理	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ストルパー=サミュエルソン定理を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章5節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	理解度の確認	理解度の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握しており、説明できる。	
	事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際経済論Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			○

【授業の概要】
この国際経済論Ⅱの授業では、国際マクロ経済学を学びます。外国との取引を取り入れたマクロ経済モデル(開放経済モデル)を扱うことになり、閉鎖経済モデルにはなかった、外国為替相場や輸出入といった新しい変数を取り入れられます。国際収支統計は、公表されている統計資料を用いて、数字の読み方についても解説します。外国為替相場決定理論の紹介の他、経済政策の効果について考察するためのマクロ経済モデルを紹介します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では国際マクロ経済学を学びます。開放経済を説明する諸変数とそれらの相互関係について理解し説明出来る能力を養成することを目的とします。 さらには、外国と取引が行われている場合では経済政策の効果が、取引が行われていない場合と異なることを、その理由も含めて考えられるようになることを目標とします。関連D P 及びC P：法律学科1, 2 政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 6 公共政策学科1, 2, 3, 4

【履修条件】
経済学Ⅰ、Ⅱの受講を終えていることが望ましい。

【授業方法】
講義形式で授業を行います。また授業中に小テストを実施します。 小テストの解説も行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に小テストを実施し、その解説を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。					2	2					2
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。					2	2					2
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。						2	2				2
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。								2			2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	10							70
小テスト等	授業時間中に実施する小テストにより、第1回は到達目標①にかかわる経済活動を観察する力が身についているか、第2回は到達目標①②にかかわる経済の現状を分析する力が身についているかを確認する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コア・テキスト国際経済学 第2版	大川昌幸	新世社	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントを取ること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際経済論Ⅱを受講するにあたって	講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際経済論の学習方法について説明し、受講生が講義を受ける準備を具体的にできるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義テーマや概要、講義スケジュール、成績評価の方法、他の講義科目との関連を含めて、国際経済論Ⅱの学習方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、第Ⅱ部の各章冒頭にある導入説明を読む。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国民所得	国民所得勘定と対外取引	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国内総生産と国民総所得との違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第11章1節、2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
3	国際収支	開放経済と国際収支	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際収支統計の数字を説明できる。	
	事前学修	教科書(第11章3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
4	外国為替相場変動相場制度	外国為替市場と外国為替相場為替相場制度と外国為替相場	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、外国為替取引についての基本的な説明ができる。 到達目標②に関連して、金本位制、金ドル本位制、変動相場制といった為替相場制度について説明できる。	
	事前学修	教科書(第12章1節、2節、3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
5	貿易と外国為替相場	外国為替相場の変化と貿易収支	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、外国為替相場と貿易収支との関係を説明できる。	
	事前学修	教科書(第12章4節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
6	外国為替相場の決定理論(1)	短期における外国為替相場の決定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、金利平価説を説明できる。	
	事前学修	教科書(第12章5節、第13章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	外国為替相場の決定理論(2)	長期における外国為替相場の決定	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、購買力平価説を説明できる。	
	事前学修	教科書(第13章2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
8	開放経済モデル	閉鎖経済モデルと開放経済モデル	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、開放経済モデルと閉鎖経済モデルの違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第14章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
9	45度線図モデル	45度線図モデルの復習	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、45度線図モデルを説明できる。	
	事前学修	教科書(第14章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
10	外国貿易乗数	開放経済モデルを使って、需要の変化の影響を見る。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、開放経済モデルと閉鎖経済モデルの違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第14章2節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
11	IS-LMモデル	IS-LMモデルを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、IS-LMモデルのエッセンスを把握し、説明できる。	
	事前学修	教科書(第15章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
12	マンデル=フレミング・モデル(1)	IS曲線とLM曲線	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、IS曲線とLM曲線の導出について説明できる。	
	事前学修	教科書(第15章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	マンデル=フレミング・モデル(2)	国際収支均衡線	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際収支均衡線の導出について説明できる。	
	事前学修	教科書(第15章1節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
14	金融・財政政策の効果	金融政策と財政政策の効果	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、マンデル=フレミング・モデルを使って、金融・財政政策の効果を説明できる。	
	事前学修	教科書(第15章2節、3節)を利用	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分
15	理解度の確認	理解度の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第1回から第14回までの講義内容を把握し、説明できる。	
	事前学修	第1回から第14回までの講義内容の復習	120分
	事後学修	教科書とノートを利用	120分

科目名	国際契約法 I	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
The aim of the course is to introduce students to basic principles of international contracts together with developing practical skills of contract drafting, review and negotiation. The course will also provide an overview of the various contracts commonly used in international trade.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Students should gain knowledge on and obtain an ability to explain: ・ general principles of international contract law; ・ negotiating international contract clauses; and ・ general terms and conditions found in international agreements.

【履修条件】
Students who are interested in international contract law. This course will be taught in English.

【授業方法】
講義及び論点についてのグループディスカッションと設例に基づいたロールプレイを行う。 This course will be taught in English. This will be a "camera on" class.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	アクティブラーニングの形態 第2回目の講義以降、配布する資料に基づいたグループディスカッションやロールプレイを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Students will analyze the general principles of international contract law and be able to explain them in writing and orally.				2	2				2		
②	Students will form teams to design and create presentations to demonstrate their knowledge of a given country' s laws.				2	2				2		
③	Students should compare, evaluate and demonstrate various negotiation strategies used in international business.				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に2回の小テストを行い、到達目標①②及び③に関する国際契約の知識が身に付いており、それを自らの言葉で記述し説明することができているかを基準として評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等	到達目標②について、グループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。		25									25
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から③について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	15	15	15								45
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback will be provided via quiz, group discussion, and presentations.

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ポイントがわかる！国際ビジネス契約の基本・文例・交渉』	樋口一磨	日本加除出版株式会社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
By appointment. Please email me at michael.abe@nihon-u.ac.jp to set up an appointment.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Over 25 years managing legal matters in Asia and the U.S.
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Class Overview. Introduction to U.S. Legal System (General) 【授業の概要】【アメリカの法制度とは(概要)】	アメリカの法制度について基本的な知識を学修する。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際契約とはどのようなものなのか、またアメリカの法制度について基本的な知識を学修し、説明することができる。Understand and explain key concepts of the U.S. legal system.	
	事前学修	Read the syllabus. We will study general concepts of the U.S. legal system.	90分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネスの基本について確認する。	90分
2	国際ビジネスについて Common Law	Common Law. We will study common law and examine some peculiarities of the U.S. legal system.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際契約とはどのようなものなのか、またcommon lawについて基本的な知識を学修し、説明することができる。Be able to distinguish key concepts of common law and explain their importance.	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際契約法がどのような役割を果たしているのかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	90分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネスの基本について確認する。	90分
3	国際契約法とは	国際契約の全体像と国際ビジネスについての学修をする。国際ビジネスの3類型のうち、貿易型とは。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際契約とはどのようなものなのか、また国際ビジネスの3類型のうち、貿易型について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際契約法がどのような役割を果たしているのかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。Please read pages 3-9 of the text.	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネスの基本3類型のうち、貿易型の具体的な論点について整理・再確認する。	120分
4	国際ビジネスの類型としての間接進出型と直接進出型	国際ビジネスの3類型のうち、間接進出型と直接進出型の具体的な内容と論点について学修をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、間接進出型と直接進出型の国際ビジネスについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の9ページから27ページまでをあらかじめ読んでおき、国際ビジネス契約の間接進出型と直接進出型の具体的類型や課題などを理解し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	180分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネスの基本3類型のうち、間接進出型と直接進出型と貿易型の具体的な論点について整理・再確認する。	120分
5	国際ビジネス契約の特徴	〈国際ビジネス契約の特徴〉国際ビジネス契約にはどのような特徴があるのか、法の適用などはどうなっているのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、国際契約には複数の側面からの特徴を有しているかについて、その内容を理解し、説明することができる。また、契約書の重要性や使用言語、法適用あるいは国際契約に固有のルールの内容を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の29ページから46ページまでをあらかじめ読んでおき、国際ビジネス契約の特徴を有しているかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネス契約の特徴と法や貿易ルール適用について整理・再確認する。	120分
6	商業信用状と紛争解決 Quiz #1	商業信用状と紛争解決 Quiz #1. 国際ビジネスの決済に特有の商業信用状と紛争解決について学修をする。授業終了時に、第1回目から第5回目の内容について的小テストを実施し、フィードバックをする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②に関連して、商業信用状の具体的な内容とその仕組み、国際ビジネス契約に関して紛争が発生した場合の解決方法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の46ページから55頁までをあらかじめ読み、商業信用状の内容や国際ビジネス契約に関連して発生した紛争の解決方法について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートと小テストの内容を確認して、国際ビジネスの類型と国際ビジネス契約の特徴についての具体的な論点について整理・再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国際ビジネス契約書の体裁		教科書のUniform Commercial Code、Statute of Frauds、及びBattle of the Formsについて学修し、契約書の体裁について、Preamble、Recitals、and Considerationに分けて理解し説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、students should understand the above sections of the contract and explain their importance. This will be achieved via class discussion, group teamwork and mock negotiations.		
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の57ページから64頁までをあらかじめ読み、Order、Acceptance、Order Confirmation、及びBattle of the Formsについて考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、review the above clauses and confirm your understanding.		120分
8	英文契約に特有の表現		We will examine: shall vs. may; right vs. obligation; best efforts vs. reasonable efforts; and liability.	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、examine and explain how these terms are used in negotiations. Divide into teams and negotiate a hypothetical “Order.” Discuss how disputes may arise.		
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の64ページから73頁までをあらかじめ読み、examine how usage of these terms may affect a party’s obligations under the agreement.		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、become familiar with the clauses discussed and examine why misunderstandings may lead to litigation.		120分
9	1. 英文契約に特有の表現 2. 契約類型別。秘密保持契約 (“NDA”)		英文契約に特有の表現 (binding, enforceable, terminate, cancel, and termination for cause) について学修する。Nondisclosure agreements (NDA)について理解し、NDAについて模擬交渉を行い、フィードバックをする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、examine and explain the following concepts: binding; enforceable; terminate; cancel; and termination for cause. Study and explain nondisclosure agreements and their purpose.		
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の74ページから95頁までをあらかじめ読み、examine nondisclosure agreement terms and conditions.		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、review non disclosure agreements and how they are used.		120分
10	契約類型別。 売買契約 I Overview		We will explore a typical sales agreement for the sale of goods. Please study Purpose, Terms and Condition of Purchase, Quantity and Price.	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、understand and explain the clauses found in a typical sales agreement. Divide into teams, study the clauses above and negotiate a hypothetical sales contract.		
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の97ページから110頁までをあらかじめ読み、examine the clauses included in a typical sales agreements.		180分
	事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses used in a typical sales agreement and become familiar with the concepts discussed in class.		120分
11	契約類型別 売買契約 II 所有権		We will explore the following: Title and Risk of Loss; Price; Payment; and Foreign Exchange Risk. We will reinforce these concepts via group discussion.	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、become familiar with and explain contract terminology used in a typical sales agreement. Reinforce your understanding via group discussion and mock negotiations.		
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の110ページから120頁までをあらかじめ読み、examine how sales agreements are structured and negotiated.		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses used in a typical sales agreement and confirm your understanding of the concepts discussed in class.		120分
12	契約類型別 売買契約 III		We will study the following: Warranty; Intellectual Property; and Product Liability. Quiz #2. 第6回目から第11回目の内容についての小テストを実施し、フィードバックをする。	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、examine the sections titled: Warranty; Intellectual Property; and Product Liability. Explain why these clauses are important and their purpose. Take note of possible cultural differences and expectations with respect to these clauses.		
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の120ページから131頁までをあらかじめ読み、examine the sections on Warranty, Intellectual Property and Product Liability.		180分
	事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses used in a typical sales agreement and become familiar with the concepts discussed in class.		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	Case Study I		Case Study I. We will explore an international contract case study. Handouts will be provided in advance.
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、begin designing and creating your presentation materials. Meet with your team members to discuss the case handouts.	
	事前学修	Handouts will be provided prior to class.	180分
	事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses and concepts used in class.	180分
14	Case Study II		Case Study II. We will explore an international contract case study. Handouts will be provided in advance.
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、continue designing and creating your presentation materials. Meet with your team members to discuss the case handouts.	
	事前学修	Handouts will be provided prior to class.	180分
	事後学修	講義ノートを確認して、review the clauses and concepts used in class. Prepare for team presentations.	180分
15	Team Presentations		Team Presentations.
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、design, create and deliver your presentation. Pay particular attention to pronunciation, delivery and organization of your presentation materials.	
	事前学修	Prepare for team presentations.	240分
	事後学修	講義ノートを確認して、review the material covered in prior classes.	180分

科目名	国際契約法Ⅱ	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
The aim of the course is to introduce students to basic principles of international contracts together with developing practical skills of contract drafting, review and negotiation. The course will also provide an overview of the various contracts commonly used in international trade.

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
Students should gain knowledge on and obtain an ability to explain: ・ general principles of international contract law; ・ negotiating international contract clauses; and ・ general terms and conditions found in international agreements.

【履修条件】
Students who are interested in international contract law. This course will be taught in English.

【授業方法】
講義及び論点についてのグループディスカッションと説例に基づいたロールプレイを行う。 This course will be taught in English. This will be a "camera on" class.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	アクティブラーニングの形態 Textbook, 配布する資料に基づいたグループディスカッションやロールプレイを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Students will analyze general principles of international contract law and be able to explain them in writing and orally.				2	2				2		
②	Students will form teams to design and create presentations to demonstrate their knowledge of a chosen country's laws.				2	2				2		
③	Students should compare, evaluate and demonstrate various negotiation strategies used in international business.				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に2回の小テストを行い、到達目標①②及び③に関する国際契約の知識が身に付いており、それを自らの言葉で記述し説明することができているかを基準として評価する。	10	10	10								30
レポート等												
討論・発表等	到達目標②について、グループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。		25									25
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から③について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	15	15	15								45
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Feedback will be provided via quiz, group discussion, presentations and mock negotiations.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ポイントがわかる！国際ビジネス契約の基本・文例・交渉』	樋口一磨	日本加除出版株式会社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
By appointment. Please contact me at michael.abe@nihon-u.ac.jp to set up an appointment.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Over 25 years managing legal matters in Asia and the U.S.
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	国際契約法とは		国際契約の全体像と国際ビジネスについての学修をする。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際契約とはどのようなものなのか、また国際ビジネス、distribution agreementについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の133ページから145ページまでをあらかじめ読んでおき、distribution agreementを理解し、説明する。		90分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際ビジネスの基本、貿易の具体的な論点について整理・再確認する。		90分
2	Distributor Agreements Part I		Distributor Agreements. What is a distributor and how can you differentiate a distributor from an agent? We will study these differences as well as Minimum Purchases, Inventory and Competing Products.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、be able to evaluate and explain Minimum Purchase Requirements, Inventory, and Competing Products. The goal of this class is to be able to differentiate Distributors from Agents.		
	事前学修	Please read pages 146-159 of the text. Be able to explain Minimum Purchases, Inventory and Competing Products.		60分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the above topics.		60分
3	Distributor Agreements Part II		Distributor Agreements. We will study Resale Price, Intellectual Property and Termination.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、be able to explain Resale Price, Intellectual Property, and Termination.		
	事前学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Please read pages 160-172. Read and study any handouts provided earlier.		60分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.		60分
4	Contracts Agency Arrangements		Review of Agency Arrangements. We will study Appointment as an Agent, Minimum Sales Targets, and Incentives.	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、become familiar with and explain Distributor Agreements, Sales Targets and Incentives. Judge whether you will use these in your negotiations and be ready to discuss/negotiate these clauses.		
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書の173-180頁までをあらかじめ読み、choose what clauses you would like to include in your contract and explain why.		120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.		120分
5	契約類型別 Individual Contracts		We will examine Individual Contracts, Commission, Price, Payment, and Agent Responsibilities.	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、be able to explain Individual Contracts, Commission, Price, Payment, and Agents. Comprehension of these concepts will be reinforced through role play and group discussion.		
	事前学修	Review the syllabus and read the text pp 180-192. Practice using these legal terms. Read and study any handouts provided earlier.		120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.		120分
6	International Contracts Quiz #1		Manufacturer Agreement, OEM Agreements. This class will cover Manufacturer Agreements and OEM Agreements. We will examine manufacturer arrangements including Specifications and Processes. Quiz #1. 授業終了時に、第1回目から第5回目の内容についての小テストを実施し、フィードバックをする。	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、be able to explain Specifications and Processes. Become familiar with the main clauses found in manufacturing agreements and OEM agreements.		
	事前学修	Review your notes from the prior class and read the text pp 193-200. Prepare for Quiz #1.		120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	OEM Agreements Intellectual Property		We will continue to explore OEM agreements. We will also study intellectual property ownership.	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、be able to explain OEM Agreements and the Intellectual Property rights associated with various types of OEM arrangements.		
	事前学修	Please read the text pp 200 - 204. Evaluate and compare the different types of Intellectual Property ownership.		120分
	事後学修	Review the clauses used in a typical agreement and become familiar with the concept of Minimum Purchase Requirements, Incentive Targets and Inventory.		120分
8	OEM Agreements		We will study Competing Products, Title, and Warranty.	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、evaluate and be able to explain Competing Products, Title and Warranty.		
	事前学修	Please read pp 204-212. Examine Competing Products, Resale Price and Intellectual Property.		120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Examine which clauses are more important to you and your business.		120分
9	General Provisions		We will look at Choice of Law, Language, Forum, and Force Majeure.	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、be able to explain Choice of Law, Language and Force Majeure. Why are they important? Provide examples.		
	事前学修	Please review the material covered in prior classes and read the text pages 213-218. Choose what clauses you would like to include in your contract and explain why.		180分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.		120分
10	General Provisions		We will study the concepts of Set Off, Limitation of Liability and Indemnity.	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、be able to explain Set Off, Limitation of Liability and Indemnity. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via group discussion and mock negotiations.		
	事前学修	Review the material from prior classes and read pp 218-224 of the text. Choose which clauses you would like to include in your contract and explain why.		180分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to use your expanding legal vocabulary during the next class. Prepare for Quiz #2.		120分
11	International Contracts Case Study Quiz #2		We will study Term of the Agreement, Termination and Acceleration. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via group discussion. Quiz #2. 授業終了時に、第6回目から第10回目の内容について的小テストを実施し、フィードバックをする。	
	この回の到達目標	到達目標の①③に関連して、be able to explain and negotiate the following clauses: Term of the Agreement; Termination; and Acceleration.		
	事前学修	Review the material from prior classes and read pages 225-231 of the text. Choose which clauses you would like to include in your contract and be prepared to explain why. Prepare for Quiz #2.		180分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to use your expanding legal vocabulary during the next class.		180分
12	International Contracts Governing Law, CISG		We will study Language, Governing Law, and Disputes.	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、be able to explain and negotiate Language, Governing Law and Disputes. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via group discussion and mock negotiations.		
	事前学修	Please read pp 231-242 of the text. Prepare for mock negotiations. Continue to work on your final presentation.		180分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	International Contracts Disputes	Arbitration, Jurisdiction and Compliance.	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、be able to explain and negotiate Arbitration, Jurisdiction and Compliance. Divide into groups and reinforce your understanding of these clauses via mock negotiations.	
	事前学修	Please read the text pp 242-250. Continue working on your company contract and final presentations.	180分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	120分
14	International Contracts Disputes (continued)	Notice, Severability, Entire Agreement, Amendments.	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、be able to explain Notice, Severability, Entire Agreement, and Amendments. Continue designing and organizing your presentation materials. Meet with your team members to finalize your presentations.	
	事前学修	Please review the materials from prior classes and read the text pages 250-258.	180分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for final presentations.	120分
15	Class Presentations	Class Presentations	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、create, design, and deliver your presentation. Pay particular attention to pronunciation, delivery and organization.	
	事前学修	Prepare for your presentations.	180分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	120分

科目名	国際政治学Ⅰ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。この柑本担当の「国際政治学」科目は、基本的に2年生対象となる（1年生は山本直先生担当、3・4年は信夫隆司先生担当のものを履修すること）。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて今年度にかぎり、柔軟な履修を認める場合があるが、基本的には学年に沿った履修を推奨する。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備することを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各回の授業の後、出席管理システム(レスポん)を用いて課題を提示し、理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係論 Ⅰ(第3版) (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 編	弘文堂	2018	教科書	必携
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	推奨
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・国際政治学を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際政治学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	国際政治学はどのような学問なのか	国際政治学の目指すところや研究領域について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際社会の形成や歴史、今日の課題などを大局的に説明することができる。	
	事前学修	テキスト第1章を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際政治学の特徴をノートにまとめる。 ウォルツ, K. N. / 河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。	120分
	事後学修	国際政治学とはどのような学問なのかについての知見をノートにまとめる。	120分
3	国際関係の理論について	国際社会を学ぶための基本的な見方を提示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会には自然科学のような厳格な理論は存在しないが、国際社会を理解するための見方が存在することを説明できる。	
	事前学修	テキスト第8章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際政治学の理論をノートにまとめる。 ウォルツ, K. / 河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。	120分
	事後学修	国際政治に関する「理論」と自然科学における理論の違いについての知見をノートにまとめる。	120分
4	国際関係の様々な理論について	第二次世界大戦前のユートピアニズムに対する批判としてリアリズム、戦後生まれた古典的リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズムといった多様な理論について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ユートピアニズム、リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズムとは何かを説明することができる。	
	事前学修	テキスト第8章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、リアリズムとリベラリズムの特徴をノートにまとめる。 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣, 2013年。	120分
	事後学修	ユートピアニズム、リアリズム、ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズムなど、それぞれの見方によって、国家やアナーキーがどのように捉えられているかについての知見をノートに整理する。	120分
5	国際レジーム論	レジームとは何か、機能や設立について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際レジームとは何かについて説明することができる。	
	事前学修	テキスト第9章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国際レジームの特徴をノートにまとめる。 ポーター, G.・ブラウン, J. W. / 信夫隆司訳『地球環境政治—地球環境問題の国際政治学』国際書院, 1993年。	120分
	事後学修	国際レジームが国際社会で果たす役割と必要性についての知見をノートにまとめる。	120分
6	グローバル・ガバナンス論	グローバル・ガバナンスについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバル・ガバナンスとは何かについて説明することができる。	
	事前学修	テキスト第9章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、グローバル・ガバナンスの特徴をノートにまとめる。 渡辺昭夫・土山實男編『グローバル・ガヴァナンス—政府なき秩序の模索』東京大学出版会, 2001年。	120分
	事後学修	グローバル・ガバナンスと国際レジームの違いについての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	20世紀の国際関係	第一次世界大戦、第二次世界大戦から冷戦期までの国際関係を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、第一次世界大戦から冷戦までの国際社会の歴史的流れを説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、第2次大戦と冷戦の特徴をノートにまとめる。 山本吉宣『「帝国」の国際政治学—冷戦後の国際システムとアメリカ』東信堂，2006年。	120分
	事後学修	2度の大戦から冷戦までの歴史を振り返り、それぞれの原因についての知見をノートにまとめる。	120分
8	ポスト冷戦時代の国際関係 中間テスト	ポスト冷戦時代の国際関係について解説する。また、中間テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、冷戦後の国際社会の特徴について説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、冷戦後のアメリカ基準化についてノートにまとめる。 石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂高文社，2000年。	120分
	事後学修	冷戦終結は世界に何をもたらしたのかについての知見をノートにまとめる。	120分
9	今日の国際関係	ポスト冷戦期以降に国際社会で起こったことを追いながら、今日の国際政治について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、21世紀を象徴するような9.11が起こった背景と、国際政治の対応について説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、9.11とはどのような出来事であったのかをノートにまとめる。 ウッドワード，B. / 伏見威蕃訳『ブッシュの戦争』日本経済新聞社，2003年。	120分
	事後学修	9.11後、アメリカの政治がどのように転換したのかについての知見をノートにまとめる。	120分
10	今日の国際関係における課題	911以降、自国第一の考え方が広まったことについて、国際政治の視点から解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、アメリカやヨーロッパ各国の経済、雇用、移民、難民の現状を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、難民問題の特徴をノートにまとめる。 遠藤乾『欧州複合危機—苦悶するEU、揺れる世界』中央公論新社，2016年。	120分
	事後学修	なぜ今、自国第一主義の時代なのかについての知見をノートにまとめる。	120分
11	グローバリゼーション	グローバリゼーションの光と陰について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、われわれの生活が、世界各国と相互依存関係にあることを説明することができる。	
	事前学修	テキスト第4章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、相互依存論の理解をノートにまとめる。 フリードマン，T. / 伏見威蕃訳『フラット化する世界—経済の大転換と人間の未来（上・下）』日本経済新聞社，2006年。	120分
	事後学修	グローバリゼーションの功罪についての知見をノートにまとめる。	120分
12	今日のグローバリゼーション	グローバリゼーションに対する推進派と反対派の対立など、様々な経済界や市民社会の対応について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、グローバリゼーションを当たり前のように受け止めるのではなく、その本質を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第4章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、グローバル市民社会の特徴をノートにまとめる。 重田康博『激動するグローバル市民社会—「慈善」から「公正」への発展と展開』明石書店，2017年。	120分
	事後学修	講義で扱ったグローバリゼーションに対する様々な主張についての知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	南北問題	南北問題とは何か、新興国の登場によって南北問題はどのように変化しているのか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、南北問題とは何かについて説明することができる。	
	事前学修	テキスト第11章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、発展途上国が抱える問題についてノートにまとめる。 サックス, J. D. / 鈴木主税・野中邦子訳『貧困の終焉—2025年までに世界を変える』早川書房, 2007年。	120分
	事後学修	新興国の台頭によって世界の開発の問題がどのように変化したのかについての知見をノートにまとめる。	120分
14	南北問題をどう解決するのか	国連ミレニアム開発目標について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、国際社会は国連ミレニアム開発目標などを通じて、途上国問題についてどのように対応しようとしているかについて説明することができる。	
	事前学修	テキスト第11章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通し、国連ミレニアム開発目標の特徴をノートにまとめる。 田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGs と開発教育—持続可能な開発目標のための学び』学文社, 2016年。	120分
	事後学修	日本におけるSDGsに対する取り組みについての知見をノートにまとめる。	120分
15	まとめ	第1回から第14回までのまとめを通じて、グローバル化する国際政治をどのように理解するのかについて、レビューする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、前期で学んだことを体系的に説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までで学んだ事柄をノートを見ながら振り返る。	120分
	事後学修	世界で起こっている現在の問題を、前期で学んだ国際関係理論を使って考えノートにまとめてみる。	120分

科目名	国際政治学 I	担当者	信夫 隆司	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。この信夫担当の「国際政治学」は、基本的に3・4年生を対象となる（1年生は山本直先生、2年生は柑本英雄先生担当のものを履修すること）。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて今年度にかぎり、柔軟な履修を認める場合があるが、基本的には学年に沿った履修を推奨する。

【授業方法】
講義形式を基本とする。また、随時、最新の国際事情に関する新聞記事を紹介する。必要に応じ、映像資料を用いることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して試験の講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論〔第3版〕	佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義の前後。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際政治学の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。国際化する世界の中で、国際政治学を学ぶ意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学を学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
	事後学修	シラバスを基に説明された内容を復習し、その要点をノートにまとめる。	120分
2	学問としての国際政治学	国際政治学とはどのような学問なのか、その研究領域と特徴を中心に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学とはどのような学問なのかを説明できる。	
	事前学修	第1章 国際関係論とはどのような学問なのかのうち、国際関係論の学び方および国際関係論の研究領域とその特徴を読み、国際政治学とはどのような学問なのかをノートにまとめる。	90分
	事後学修	国際関係論と国際政治学の区別についてノートにまとめる。	150分
3	国際政治学の基本的枠組み	国際政治学研究の基本的枠組み、歴史分析における3つの仮説について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学の基本的枠組みを説明できる。	
	事前学修	第1章 国際関係論とはどのような学問なのかの後半を読み、国際政治学の基本的枠組みを整理し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	歴史分析における3つの仮説について、知見をノートにまとめる。	120分
4	大戦から冷戦へ	20世紀の国際関係とはいかなるものであったのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、20世紀の国際関係のうち、第一次世界大戦から第二次世界大戦、米ソ冷戦時代の国際関係を説明できる。	
	事前学修	第2章 20世紀の国際関係をどう理解するかを読み、世界大戦、その後の冷戦についてノートにまとめる。	90分
	事後学修	世界大戦はなぜ起こったのか、冷戦はなぜ起こったのかを考え、知見をノートにまとめる。	150分
5	ポスト冷戦の国際関係	ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀の国際関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀の国際関係について説明できる。	
	事前学修	第2章 20世紀の国際関係をどう理解するかのうち、ポスト冷戦時代の国際関係の特徴、および、20世紀における主要な出来事をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ポスト冷戦時代の国際関係の特徴をまとめるとともに、20世紀の国際関係といかなるものであったかを考え、ノートに知見をまとめる。	120分
6	9.11同時多発テロの意味	21世紀の国際関係のうち、9.11同時多発テロおよびその後の国際関係の状況について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、2001年9月11日、米国で起きた同時多発テロ、および、その後の国際関係を説明できる。	
	事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかの前半を読み、2001年9月11日に米国で起きた同時多発テロについて調べ、その経緯および原因をノートにまとめる。	90分
	事後学修	9.11同時多発テロが、国際政治に与えた影響について考え、ノートに知見をまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	オバマ政権の誕生	オバマ政権の誕生後のアメリカの国際関係について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オバマ政権はなぜ誕生したのか、オバマ政権の特徴は何かを説明できる。		
	事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかのうち、3 オバマ政権成立後のアメリカ外交と国際関係を読み、オバマ政権の特徴についてノートにまとめる。	120分	
	事後学修	オバマ政権の核軍縮、および、オバマ政権が目指した太平洋重視の外交政策をノートにまとめる。	120分	
8	トランプ政権と自国第一主義	自国第一主義の時代とはいかなるものかを分析する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、トランプ政権の誕生、および、トランプ政権の政策がなぜ自国第一主義といわれるのかを説明できる。		
	事前学修	第3章 今日の国際関係をどう読むかのうち、4 自国第一主義の時代を読み、自国第一主義とはいかなるものがあるかをノートにまとめる。	90分	
	事後学修	自国第一主義の問題点を整理し、この問題に対する知見をノートにまとめる。	150分	
9	イギリスのEUからの離脱	自国第一主義のうち、イギリスのEUからの離脱について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、なぜイギリスは国民投票でEUから離脱することを選択したのかを説明できる。		
	事前学修	2016年6月におこなわれたイギリスの国民投票は、いかなる意味をもっていたのかをノートにまとめる。	120分	
	事後学修	イギリスがEUから離脱すると、EUおよび国際政治全般についてどのような影響が及ぶのかを考え、知見をノートにまとめる。	120分	
10	グローバリゼーションの影響	グローバリゼーションとは何か、その影響、および、光と影について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバリゼーションとはいかなる現象なのか、その光と陰について説明できる。		
	事前学修	第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むかの前半を読み、とくに、グローバリゼーションの光と影についてノートにまとめる。	90分	
	事後学修	グローバリゼーションの功罪について考え、知見をノートにまとめる。	150分	
11	新自由主義とグローバリゼーション	新自由主義とグローバリゼーションの関係、さらには、グローバリゼーションの理論について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、新自由主義とグローバリゼーションについて説明できる。		
	事前学修	第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むかの後半を読み、グローバリゼーションの理論的な面についてノートにまとめる。	120分	
	事後学修	グローバリゼーションと私たちの暮らしについて考え、知見をノートにまとめる。	120分	
12	現代の安全保障	国際社会における安全保障とは何か、国家の安全保障と地域の安全保障について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会における安全保障とは何か、国家および地域の安全保障について説明できる。		
	事前学修	第5章 現代の安全保障をどう読むかの前半を読み、安全保障とはいかなる意味があるのかをノートに整理する。	90分	
	事後学修	現代の安全保障の特徴とは何かを考え、知見をノートにまとめる。	150分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	非伝統的安全保障	伝統的安全保障から非伝統的安全保障へ、安全保障の概念はどのように変容してきたのかを分析する。	
	この回の到達目標	到達目標②④⑤に関連して、伝統的安全保障と非伝統的安全保障の違いを説明できる。	
	事前学修	第5章 現代の安全保障をどう読むのかの後半を読み、現代の安全保障における問題点を調べ、ノートに整理する。	120分
	事後学修	現代の安全保障とはいかなるものかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
14	北東アジアの政治と国際関係	北東アジアの政治と国際関係について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、北東アジアの政治と国際関係について説明できる。	
	事前学修	第6章 北東アジアの政治と国際関係をどう読むのかを読み、北朝鮮、中国を中心とする北東アジアの国際関係を調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	北東アジアにおける国際関係を整理し、ノートにまとめる。	120分
15	国際政治の理論と現実	前期の講義全体を俯瞰し、国際政治の理論と現実について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際政治の理論と現実を説明できる。	
	事前学修	国際政治の理論と現実の乖離について調べ、ノートにまとめる。	90分
	事後学修	国際政治の理論と現実の問題点について考え、知見をノートにまとめる。	150分

科目名	国際政治学 I	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。なお、この山本担当の「国際政治学」科目は、基本的に1年生対象となる（2年生は柑本英雄先生担当、3・4年は信夫隆司先生担当のものを履修すること）。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて今年度にかぎり、柔軟な履修を認める場合があるが、基本的には学年に沿った履修を推奨する。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料を印刷して配布したり、映像を紹介し、国際政治の展開などについて適宜説明する場合もある。また、外部講師を招いて、国際社会の出来事 の理解を深める機会を提供する場合もある。出席管理システム（レスポ ン）を利用して出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleクラスルーム等で実施することがある。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を説明する。	
	この回の到達目標	授業の進め方と学び方を把握できる。ノートに書き留めたことを発表できる。	
	事前学修	教科書の第1章から第7章まで（3ページ～118ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分
2	学問としての国際政治学	国際政治学と国際関係論がどのような学問なのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学と国際関係論がどのような学問であるのかを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	国際システムの形成	国際システムがどのように形成されたのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際システムがどのように形成されたのかを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	20世紀前半の国際政治	20世紀前半の国際政治をどう理解するのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀前半の国際政治を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	20世紀後半の国際政治	20世紀後半の国際政治をどう理解するのかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、20世紀後半の国際政治を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	核兵器と国際政治	今日の国際政治をどう読むのか、とくに核軍縮を主題にしてともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、とくに核軍縮を主題とする今日の国際関係について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テロとの戦い	今日の国際政治をどう読むのか、とくにテロとの戦いを主題にしてともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、とくにテロとの戦いを主題とする今日の国際関係について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	現象としてのグローバリゼーション	グローバリゼーションの時代をどう読むのか、現象としてのグローバリゼーションに留意してともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現象としてのグローバリゼーションに留意しつつ、現代のグローバリゼーションを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	課題としてのグローバリゼーション	グローバリゼーションの時代をどう読むのか、課題としてのグローバリゼーションに留意してともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、課題としてのグローバリゼーションに留意しつつ、現代のグローバリゼーションを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	伝統的安全保障	現代の安全保障をどう読むのか、伝統的安全保障の面からともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現代の安全保障を伝統的安全保障の面から理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	非伝統的安全保障	現代の安全保障をどう読むのか、非伝統的安全保障の面からともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、現代の安全保障を非伝統的安全保障の面から理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	北東アジアの国際政治	北東アジアの国際政治をどう読むのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、北東アジアの国際政治を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章「北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	冷戦期の国際社会と日本	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか、冷戦期の国際社会を念頭においてともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、冷戦期の国際社会における日本の位置づけを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	冷戦終結後の国際社会と日本	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか、冷戦終結後の国際社会を念頭においてともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、冷戦終結後の国際社会における日本の位置づけを理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	学修成果の確認	学修成果を確認するための筆記試験を実施する。答案回収後に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、試験問題に解答できる。	
	事前学修	これまでの授業の内容をふりかえり筆記試験に備える。	180分
	事後学修	授業と筆記試験の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。この柑本担当の「国際政治学」科目は、基本的に2年生対象となる（1年生は山本直先生担当、3・4年は信夫隆司先生担当のものを履修すること）。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて今年度にかぎり、柔軟な履修を認める場合があるが、基本的には学年に沿った履修を推奨する。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料は学生教員共有フォルダを通じて配布する（パスワードについてはポータルサイトを確認のこと）。あらかじめ、プレゼンテーション資料をタブレット端末にダウンロードしたり、紙媒体にプリントしたりしてノートをとれるように準備することを求める。また、国際政治の展開などについて理解を深めるため、映像を使いながら適宜説明する場合もある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際関係論 Ⅲ(第3版) (Next教科書シリーズ)』	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 編	弘文堂	2018	教科書	必携
『平和学入門--紛争と平和を理解するための思考のドリル』	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	推奨
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期授業の進め方・前期の復習	後期授業の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。前期に学習したことを用いて、今日の国際政治を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、国際政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。理解が足りない事項については、ノートにまとめる。	120分
2	現代の安全保障	国際社会における安全保障とは何かについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、安全保障という問題領域がどのように定義され、その概念がどのように変化していったのかを理解する。	
	事前学修	テキスト第5章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 防衛大学校安全保障学研究会編著『安全保障学入門（新訂第4版）』亜紀書房，2009年。	120分
	事後学修	国際連盟や国際連合と、新しい安全保障の考え方の違いを考え、ノートにまとめる。	120分
3	集団安全保障	自国の安全を確保するためにどのような地域協力を構築しているのかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際安全保障のためにこれまでに各国で取り組んできた仕組みとその限界を理解する。	
	事前学修	テキスト第5章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 神保謙・東京財団「アジアの安全保障」プロジェクト編『アジア太平洋地域の安全保障アーキテクチャー—地域安全保障の三層構造』日本評論社，2011年。	120分
	事後学修	国防のために日本や米国が行っている具体策とその実態を調べ、それらの問題点や課題を考え、ノートに書きだす。	120分
4	国際紛争・国内紛争	現代における国際紛争・国内紛争の特徴について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国際社会が紛争解決のためにどのような試みを行ってきたか理解する。	
	事前学修	テキスト第15章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣，2011年。	120分
	事後学修	ポスト冷戦期の紛争を取り上げ、その紛争に対する国際社会の対応についてノートにまとめる。	120分
5	人間の安全保障	人間の安全保障が紛争解決にどのような役割を果たすのかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、人間の安全保障の内容について理解し、国際社会の取り組みを知る。	
	事前学修	テキスト第15章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 武者小路公秀編著『人間の安全保障—国家中心主義をこえて』ミネルヴァ書房，2009年。	120分
	事後学修	人間の安全保障と従来の安全保障との違いをノートにまとめる。	120分
6	北東アジアの政治と国際関係—韓国・北朝鮮	朝鮮半島の状況と韓国と北朝鮮の政治について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、朝鮮半島の歴史と政治について理解する。	
	事前学修	テキスト第6章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 小倉紀蔵・小針進編『日韓関係の争点』藤原書店，2014年。	120分
	事後学修	韓国・北朝鮮の外交の特徴をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	北東アジアの政治と国際関係―中国 中間テスト	中国の外交と日中関係について解説する。また、中間テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日中関係の流れを理解する。	
	事前学修	テキスト第6章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。増田弘・波多野澄雄編『アジアの中の日本と中国―友好と摩擦の現代史』山川出版社、1995年。 第1回から第6回の復習をしておく。	120分
	事後学修	日韓、日中関係の流れを確認し、ノートにまとめる。	120分
8	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか	国際社会の中で日本が置かれている状況について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の安全保障、経済外交、国際社会への貢献について説明できる。また、到達目標④に関連して、国際社会での位置づけを理解する。	
	事前学修	テキスト第7章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 五百旗頭真編『戦後日本外交史（第3版）』有斐閣、2010年。 進藤栄一・水戸考道編『戦後日本政治と平和外交―21世紀アジア共生時代の視座』法律文化社、2007年。	120分
	事後学修	日本の国際貢献にはどのようなものがあるか調べ、ノートに書きだす。	120分
9	地球環境問題と国際社会	地球環境問題に向けた国際社会の取り組みについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、地球環境問題の実態を理解し、さまざまなアクターがどのように対応しているのかについて理解する。	
	事前学修	テキスト第12章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 日本国際政治学会編「特集環境とグローバル・ポリティクス」『国際政治』166号、2011年。	120分
	事後学修	環境問題を、大気汚染、温暖化、生態系破壊、生物多様性、などに分類して原因と現状についてノートにまとめる。	120分
10	地球環境問題への対応	国際社会は地球環境問題を解決できるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、地球温暖化の問題を中心に、各国の態度と国際社会が抱える課題について理解する。	
	事前学修	テキスト第12章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 クライン, N. / 幾島幸子・荒井雅子訳『これがすべてを変える―資本主義vs. 気候変動（上・下）』岩波書店、2017年。	120分
	事後学修	地球環境問題に関して、どのような利害関係があるのか調べ、ノートに書きだす。	120分
11	リージョナリズム	リージョナリズムとは何か、EUを例として開設する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、欧州統合の歴史とEUの仕組みについて理解する。	
	事前学修	テキスト第10章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 中村民雄『EUとは何か―国家ではない未来の形』信山社、2016年。	120分
	事後学修	EU統合がなぜ必要だったのかを考えながら、統合までの道のりをノートにまとめる。	120分
12	欧州統合の現状	EUの現状と課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、EUが現在抱える問題を説明できる。また、到達目標⑤に関連して、EU加盟国の現状と課題を関連して考えることができる。	
	事前学修	テキスト第10章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 遠藤乾『欧州複合危機―苦悶するEU、揺れる世界』中公新書、2016年。	120分
	事後学修	なぜ今EUからの離脱や欧州統合の進展に反対する声が提起されているのか考え、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	非国家アクターの台頭	非国家アクターとは何か、国際社会においてどのような役割を担っているのか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非国家アクターの定義とその活動について理解する。	
	事前学修	テキスト第13章前半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 西川潤・佐藤幸男編『NPO/NGO と国際協力』ミネルヴァ書房，2002年。	120分
	事後学修	非国家アクターが登場した理由について考え、自分の言葉でノートにまとめる。	120分
14	公の役割	非国家アクターを通して、「公」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、非国家アクターの公的役割について、その現状と必要性を理解する。	
	事前学修	テキスト第13章後半を読むことに加え、以下の書籍などに目を通す。 柑本英雄『国際的行為体とアイデンティティの変容―欧州沿岸境界地域会議と共通漁業政策をめぐって』成文堂，2000年。	120分
	事後学修	国家アクターの限界と非国家アクターの可能性について考え、ノートにまとめる。	120分
15	まとめ	第1回から第14回までのまとめと講評	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際社会の現状を理解し、課題解決への自分なりの方法を思考することができる。	
	事前学修	教科書やノートに目を通し、第14回までに学んだ事柄を振り返る。	120分
	事後学修	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認する。	120分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	信夫 隆司	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。この信夫担当の「国際政治学」は、基本的に3・4年生を対象となる（1年生は山本直先生、2年生は柑本英雄先生担当のものを履修すること）。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて今年度にかぎり、柔軟な履修を認める場合があるが、基本的には学年に沿った履修を推奨する。

【授業方法】
講義形式を基本とする。また、随時、最新の国際事情に関する新聞記事を紹介する。必要に応じ、映像資料を用いることがある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。						1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。						1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。						1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。					1		1	1				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価 する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢 が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極 的な学修態度が身についているか評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して試験の講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論〔第3版〕	佐渡友哲・信夫隆 司・柑本英雄	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義の前後。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際政治学の学修	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。国際政治学を学ぶ意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治学を学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
	事後学修	今後の授業内容を理解し、その要点をノートに整理する。	120分
2	国際政治理論とは何か	国際政治理論とは何かを考察するとともに、主要な理論であるリアリズムについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際政治理論とは何か、および、国際政治学におけるリアリズムとは何かを説明できる。	
	事前学修	第8章 国際関係理論とは何かのうち、第1節、第2節を読み、国際政治理論とは何かを調べ、とくに、リアリズムおよびネオリアリズムとは何かをノートにまとめる。	150分
	事後学修	モーゲンソーのリアリズム、ウォルツの防御的リアリズム、ミアシャイマーの攻撃的リアリズムを整理し、ノートにまとめる。	90分
3	ネオリベラリズム	国際政治理論の中で、ネオリベラリズムについて考察し、リアリズムとの違いを明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ネオリベラリズムとはいかなる国際政治の理論かを説明できる。	
	事前学修	第8章 国際関係理論とは何かのうち、第3節を読み、ネオリベラリズムとはいかなる理論かを調べ、とくに、リアリズムおよびネオリアリズムとの違いをノートにまとめる。	120分
	事後学修	ネオリベラリズムは国際政治のいかなる現象に適用できるのかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
4	コンストラクティヴィズム	国際政治理論におけるコンストラクティヴィズムとは何かを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、国際政治理論におけるコンストラクティヴィズムとは何か、リアリズムおよびネオリベラリズムとの違いを説明できる。	
	事前学修	ウェントのコンストラクティヴィズムについて調べ、この理論の概要を整理する。	90分
	事後学修	観念的な国際政治理論と物質的な国際政治理論について考え、知見をまとめる。	150分
5	リージョナリズムと欧州統合	リージョナリズムと欧州統合について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②③との関連で、欧州統合の歴史を説明できる。	
	事前学修	第10章 リージョナリズムと欧州統合の第1節、第2節を読み、欧州統合の歴史をノートに整理する。	90分
	事後学修	なぜ欧州統合は可能であったのかを考え、知見をまとめる。	150分
6	EUの拡大とEUからの離脱	EUの拡大の歴史を学ぶとともに、イギリスのEUからの離脱について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤との関連で、なぜイギリスがEUから離脱しようとしたのかを説明できる。	
	事前学修	昨今の欧州統合の問題点を調べ、ノートに整理する。	120分
	事後学修	イギリスのEUからの離脱を考え、知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	南北問題とは何か	南北問題とは何か、その背景、および、今日の課題について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関連で、南北問題とはいかなるものなのか、問題の根源は何かを説明できる。	
	事前学修	第11章 南北問題をどう解決するか第1節、第2節を読み、南北問題とはどのようなものなのか、この問題の由来をノートに整理する。	90分
	事後学修	南北問題の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	150分
8	南北問題の理論的枠組み	南北問題の理論的枠組みを分析し、公正な国際社会のあり方について分析する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、南北問題の理論的枠組みを説明できる。	
	事前学修	第11章 南北問題をどう解決するか第3節、第4節を読み、南北問題の理論的枠組みを整理し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	南北問題の理論的枠組みとしていかなるものがあるかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
9	地球環境問題とは何か	地球環境問題にはどのようなものがあるか、ならびに、国際社会の取り組みを中心に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、主要な地球環境問題、および、国際社会における取り組みを説明できる。	
	事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第1節を読み、地球環境問題にはどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	地球環境問題の解決策を考え、知見をノートに整理する。	120分
10	地球温暖化	地球温暖化の科学的メカニズムを理解し、温暖化に対する国際社会の取り組みを中心に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、地球温暖化とは何か、国際社会の取り組みを説明できる。	
	事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第3節を読み、気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定を比較し、ノートに整理する。	90分
	事後学修	地球温暖化を防止するためのパリ協定の実効性を考え、知見をノートにまとめる。	150分
11	地球環境ガバナンス	生物多様性、環境安全保障、グリーン経済を中心として、地球環境ガバナンスを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、地球環境ガバナンスとは何かを説明できる。	
	事前学修	第12章 地球環境問題をどう解決するか第4節を読み、とくに、生物多様性について調べ、その概要をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ワシントン条約、生物多様性条約、名古屋議定書についてノートに整理する。	120分
12	非国家アクターと市民社会	国際政治において、非国家アクターと市民社会がどのような役割を果たしているのかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①③との関連で、非国家アクターと市民社会の国際政治における役割、および、問題点を説明できる。	
	事前学修	第13章および第14章を読み、国際政治における非国家アクターとしてどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	90分
	事後学修	非国家アクターおよび市民社会の役割を整理し、ノートにまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際紛争・国内紛争とは何か	現代の主要な国際紛争・国内紛争の実態について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、現代の主要な国際紛争・国内紛争の実態を説明できる。	
	事前学修	第15章 国際紛争・国内紛争をどう解決するか第1節、第2節を読み、現代の国際紛争・国内紛争にはどのようなものがあるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	国際紛争・国内紛争の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	120分
14	国際紛争・国内紛争の解決策	現代の主要な国際紛争・国内紛争の解決策について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、現代の主要な国際紛争・国内紛争の解決策を説明できる。	
	事前学修	第15章 国際紛争・国内紛争をどう解決するか第3節、第4節を読み、現代の国際紛争・国内紛争の解決策としてどのようなものがあるかをノートにまとめる。	90分
	事後学修	国際紛争・国内紛争の解決策を考え、知見をノートにまとめる。	150分
15	国際政治学を理解するとは	後期の講義を振り返り、国際政治学を理解するとはいかなる意味かを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際政治学を理解するとはいかなる意味かを説明できる。	
	事前学修	後期の講義における問題点を振り返り、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	問題点についての解決策を自ら考え、ノートにまとめる。	120分

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
現代の国際政治を理解するために必要となる国際政治の理論、国際政治の歴史と事象、国際政治の諸問題を多面的に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ますますグローバル化が進み、複雑化するであろうこれからの国際社会を生き抜くうえで求められる論理性、規範性、省察力および批判的精神を身に付けるために、国際政治学の基礎知識と基礎的理論を学び、かつ、それらをどのように応用できるのか考え説明する力を養う。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。なお、この山本担当の「国際政治学」科目は、基本的に1年生対象となる（2年生は柑本英雄先生担当、3・4年は信夫隆司先生担当のものを履修すること）。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて今年度にかぎり、柔軟な履修を認める場合があるが、基本的には学年に沿った履修を推奨する。

【授業方法】		
PowerPointのプレゼンテーション等を利用した講義形式を基本とする。プレゼンテーション資料を印刷して配布したり、映像を紹介し、国際政治の展開などについて適宜説明する場合もある。また、外部講師を招いて、国際社会の出来事の理解を深める機会を提供する場合もある。出席管理システム（レスポ）を利用して出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治における主要な概念を説明することができる。					1						
②	国際政治における主要な理論を説明することができる。					1						
③	国際政治における個々の事象がどのように生まれたのかを説明することができる。					1						
④	国際政治における個々の事象の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。					1	1	1				
⑤	国際政治における個々の事象について自分なりの評価を論理的かつ規範的に説明できる。				1		1	1				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	20	20	10	10	10						70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識が網羅できているかを評価する。また、到達目標③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標⑤に関する積極的な学修態度が身についているかを評価する。					10						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	15	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
Googleクラスルーム等で実施することがある。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 (編)	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	初版、第2版ではなく第3版を用いるので注意されたい。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を確認する。	
	この回の到達目標	授業の進め方と学び方を把握できる。ノートに書き留めたことを発表できる。	
	事前学修	教科書の第8章から第15章まで（121ページ～256ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。	180分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	60分
2	国際政治の現実主義理論	国際政治の現実主義理論とは何かをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治の現実主義理論について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	国際政治の自由主義理論とコンストラクティヴィズム	国際政治の自由主義理論とは何かをともに考える。国際政治におけるコンストラクティヴィズム・アプローチがどのような意味をもつかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、国際政治の自由主義理論について、ならびに国際政治においてコンストラクティヴィズム・アプローチがもつ意味について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	国際レジーム論	国際政治において国際レジーム論がどのような意味をもつかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際政治において国際レジーム論がもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	グローバル・ガバナンス	国際政治においてグローバル・ガバナンスの視点がどのような意味をもつかをともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、到達目標①②に関連して、国際政治においてグローバル・ガバナンスの視点がもつ意味を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	リージョナリズムと欧州統合	リージョナリズムとは何か、なぜ欧州で統合が進むのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、リージョナリズムと欧州統合の過程について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	EUの成果と課題	EUの成果と課題は何かともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、EUの成果と課題について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
8	南北問題と国際政治	南北問題をどう解決するのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、南北問題の現状と解決に向けた取り組みの内容を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第11章「南北問題をどう解決するのか」について準備する	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
9	国際課題をめぐる講演会	国際政治に携わる外部講師を招いて講演会を開催する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、講演会の内容を理解したうえで自らの私見を説明できる。	
	事前学修	特別授業として外部講師の講演会を行う。課題は事前に告知する。	120分
	事後学修	講演会の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
10	地球環境問題	地球環境問題をどう解決するのかともに考える	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地球環境問題の現状と解決に向けた取り組みの内容を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第12章「地球環境問題をどう解決するのか」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
11	非国家アクター	非国家アクターの台頭をどう見るのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、非国家アクターの台頭を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第13章「非国家アクターの台頭をどう見るのか」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
12	市民社会と世界	市民社会は世界を動かすことができるのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、市民社会が世界を動かす現状と可能性を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第14章「市民社会は世界を動かすことができるのか」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際紛争と国内紛争	国際紛争・国内紛争をどう解決するのかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際紛争・国内紛争の事象を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」前半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	紛争の解決と日本	国際紛争・国内紛争の解決に向けて日本がどのように関われるかともに考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、国際紛争・国内紛争の解決に向けて日本が関わる現状と可能性を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」後半部について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	学修成果の確認	学修成果を確認するための筆記試験を実施する。答案回収後に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、筆記試験問題に解答できる。	
	事前学修	これまでの授業の内容をふりかえり筆記試験に備える。	120分
	事後学修	授業と筆記試験の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

科目名	国際政治経済特殊講義A	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○		

【授業の概要】
地球環境問題、とりわけ大気をめぐる地球環境問題を中心に、地球温暖化、オゾン層の破壊、長距離越境大気汚染（酸性雨）について、発生の原因、影響、国際社会の取り組み、具体的な環境条約、それら条約の効果、わたしたちの生活への影響について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
われわれにとって身近な問題である地球環境問題にはいかなるものがあるのか、および、国際社会でどのような取り組みが行われているかを理解するために、具体的な事例にもとづき、これら問題の解決能力を修得する。また、地球環境問題を通して、ディスカッションおよびプレゼン能力を修得する。

【履修条件】
地球環境問題に関心のある、意欲のある学生が履修することが望ましい。

【授業方法】
特殊講義の特性をいかし、一方的な講義形式ではなく、学生参加型の授業方法とする。大気に関する地球環境問題を中心に、各自がテーマを決め、レポートを作成し、プレゼンを行う形式である。また、レポートの講評をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッションおよびプレゼン。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球環境問題にはどのようなものがあるかを説明できる。						3	3	3	3		
②	地球環境問題に対する国際社会の取り組みを説明できる。						3	3	3	3		
③	地球環境問題に対するディスカッションを通して、理解を深めることができる。						3	3	3	3		
④	地球環境問題について、プレゼンをおこなうことができる。						3	3	3	3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②④にしたがい、最終的に、地球環境問題に関するレポートを作成する。	10	10		30							50
討論・発表等	到達目標①②③にしたがい、自ら選択した地球環境問題について、プレゼンを行うとともに、ディスカッションする。	10	10	30								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最後に、プレゼン・レポートの講評をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
講義の前後。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際政治経済特殊講義の趣旨	講義の内容、授業の進め方、最終的な提出物等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地球環境問題を学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、その要点をノートにまとめる。	120分
2	地球環境問題とは何か（１）	地球環境問題にはいかなるものがあるかを考察し、われわれの生活との関連を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地球環境問題にはどのようなものがあるかを説明できる。	
	事前学修	地球環境問題にはどのようなものがあるのかを調べ、われわれの生活への影響をノートにまとめる。	120分
	事後学修	地球環境問題の特徴とは何かについてノートに知見をまとめる。	120分
3	地球環境問題とは何か（２）	地球環境問題にはいかなるものがあるかを考察し、われわれの生活との関連を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地球環境問題にはどのようなものがあるかを説明できる。	
	事前学修	地球環境問題にはどのようなものがあるのかを調べ、われわれの生活への影響をノートにまとめる。	120分
	事後学修	地球環境問題の特徴とは何かについてノートに知見をまとめる。	120分
4	地球温暖化の基礎（１）	地球温暖化はなぜ起こるのか、その科学的メカニズムを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地球温暖化の科学的メカニズムを説明できる。	
	事前学修	地球温暖化はなぜ起こるのか、および、その影響を調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	地球温暖化の身近な影響には何があるかをノートにまとめる。	120分
5	地球温暖化の基礎（２）	地球温暖化はなぜ起こるのか、その科学的メカニズムを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地球温暖化の科学的メカニズムを説明できる。	
	事前学修	地球温暖化はなぜ起こるのか、および、その影響を調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	地球温暖化の身近な影響には何があるかをノートにまとめる。	120分
6	気候変動枠組条約・京都議定書（１）	気候変動枠組条約・京都議定書の概要を考察するとともに、地球温暖化の国際的取り組みについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、気候変動枠組条約・京都議定書の概要を説明できるとともに、問題点をについてディスカッションできる。	
	事前学修	気候変動枠組条約・京都議定書とはいかなるものかを調べ、両者の違いをノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションの成果を整理し、気候変動枠組条約・京都議定書の問題点をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	気候変動枠組条約・京都議定書 (2)		気候変動枠組条約・京都議定書の概要を考察するとともに、地球温暖化の国際的取り組みについてディスカッションする。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、気候変動枠組条約・京都議定書の概要を説明できるとともに、問題点をについてディスカッションできる。	
	事前学修	気候変動枠組条約・京都議定書とはいかなるものかを調べ、両者の違いをノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションの成果を整理し、気候変動枠組条約・京都議定書の問題点をノートにまとめる。	120分
8	気候変動枠組条約・京都議定書 (3)		気候変動枠組条約・京都議定書の概要を考察するとともに、地球温暖化の国際的取り組みについてディスカッションする。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、気候変動枠組条約・京都議定書の概要を説明できるとともに、問題点をについてディスカッションできる。	
	事前学修	気候変動枠組条約・京都議定書とはいかなるものかを調べ、両者の違いをノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションの成果を整理し、気候変動枠組条約・京都議定書の問題点をノートにまとめる。	120分
9	パリ協定 (1)		京都議定書後のパリ協定について考察すると共に、ポスト京都議定書のあり方についてディスカッションする。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パリ協定の概要を説明できると同時に、地球温暖化の問題について私見を述べることができる。	
	事前学修	ポスト京都議定書への国際社会の対応について調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	京都議定書とパリ協定を比較し、両者の違いをノートにまとめる。	120分
10	パリ協定 (2)		京都議定書後のパリ協定について考察すると共に、ポスト京都議定書のあり方についてディスカッションする。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、パリ協定の概要を説明できると同時に、地球温暖化の問題について私見を述べることができる。	
	事前学修	ポスト京都議定書への国際社会の対応について調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	京都議定書とパリ協定を比較し、両者の違いをノートにまとめる。	120分
11	オゾン層破壊 (1)		オゾン層破壊のメカニズム、ならびに、この問題に対する国際社会の対応を考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オゾン層破壊のメカニズム、および、オゾン層を保護するためのウィーン条約、モントリオール議定書の内容を説明できる。	
	事前学修	オゾン層破壊のメカニズム、および、国際社会の対応を調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	ウィーン条約およびモントリオール議定書の内容を整理するとともに、温暖化対策との違いについて知見を深める。	120分
12	オゾン層破壊 (2)		オゾン層破壊のメカニズム、ならびに、この問題に対する国際社会の対応を考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オゾン層破壊のメカニズム、および、オゾン層を保護するためのウィーン条約、モントリオール議定書の内容を説明できる。	
	事前学修	オゾン層破壊のメカニズム、および、国際社会の対応を調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	ウィーン条約およびモントリオール議定書の内容を整理するとともに、温暖化対策との違いについて知見を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	長距離越境大気汚染（酸性雨） （1）		長距離越境大気汚染（酸性雨）の科学的メカニズム、および、この問題への国際社会の対応を考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長距離越境大気汚染の発生原因、および、長距離越境大気汚染条約について説明できる。	
	事前学修	長距離越境大気汚染の発生原因および国際社会の対応を調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	日本における酸性雨問題についての知見を深め、ヨーロッパおよび北米との違いをノートにまとめる。	120分
14	長距離越境大気汚染（酸性雨） （2）		長距離越境大気汚染（酸性雨）の科学的にメカニズム、および、この問題への国際社会の対応を考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長距離越境大気汚染の発生原因、および、長距離越境大気汚染条約について説明できる。	
	事前学修	長距離越境大気汚染の発生原因および国際社会の対応を調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	日本における酸性雨問題についての知見を深め、ヨーロッパおよび北米との違いをノートにまとめる。	120分
15	プレゼン		自ら選択した地球環境問題についてプレゼンをおこなう。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、自らが選択した地球環境問題について、レジュメ、パワーポイント等を作成し、プレゼンをおこなうことができる。	
	事前学修	自ら選択した地球環境問題についてのプレゼンの準備をおこなう。	120分
	事後学修	プレゼンの結果をとおして、地球環境問題が、わたしたちの暮らしにどのように関連しているのかについて知見を深める。	120分

科目名	国際政治経済特殊講義B	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
野生生物や生態系の保護をめぐる地球環境問題について、その科学的メカニズムおよび国際社会の対応を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
われわれにとって身近な問題である地球環境問題にはいかなるものがあるのか、および、国際社会でどのような取り組みが行われているかを理解するために、具体的な事例にもとづき、これら問題の解決能力を修得する。また、地球環境問題を通して、ディスカッションおよびプレゼン能力を修得する。

【履修条件】
地球環境問題に関心のある、意欲ある学生が履修することを望む。

【授業方法】
特殊講義の特性をいかし、一方的な講義形式ではなく、学生が積極的に参加する授業方法とする。自然環境・野生生物に関する地球環境問題を中心に、各自がテーマを決め、レポートを作成し、プレゼンを行う。最後に、レポートの講評をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマについてディスカッションをおこなうとともに、各自が設定したテーマについてプレゼンする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球環境問題にはどのようなものがあるかを説明できる。					3		3		3		
②	地球環境問題に対する国際社会の取り組みを説明できる。					3		3		3		
③	地球環境問題に対するディスカッションを通して、理解を深めることができる。					3		3		3		
④	地球環境問題について、プレゼンをおこなうことができる。					3		3		3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②④にしたがい、最終的に、地球環境問題に関するレポートを作成する。	10	10		30							50
討論・発表等	到達目標①②③にしたがい、自ら選択した地球環境問題について、プレゼンを行うとともに、ディスカッションする。	10	10	30								50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最後に、プレゼンおよびレポートについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
講義の前後。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	国際政治経済特殊講義の趣旨	講義の内容、授業の進め方、最終的な提出物等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地球環境問題を学ぶことの意義を説明できる。	
	事前学修	本科目のシラバスを熟読し、その内容を確認するとともに、不明点があればメモしておく。	120分
	事後学修	授業内容を振り返り、その要点をノートにまとめる。	120分
2	生物多様性	生物多様性とは何かについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、生物多様性とはいかなるものかを説明できる。	
	事前学修	生物多様性とはいかなるものかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	生物多様性はわたしたちの暮らしにどのような意味をもっているのかを考え、知見をノートにまとめる。	120分
3	生物多様性条約（１）	生物多様性条約とはいかなるものかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、生物多様性条約の内容を説明できる。	
	事前学修	生物多様性条約とはいかなるものかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	生物多様性条約の内容について知見を深め、ノートにまとめる。	120分
4	生物多様性条約（２）	生物多様性条約とはいかなるものかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、生物多様性条約の内容を説明できる。	
	事前学修	生物多様性条約とはいかなるものかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	生物多様性条約の内容について知見を深め、ノートにまとめる。	120分
5	名古屋議定書（１）	生物多様性の保護と利用について考察するとともに、この問題についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名古屋議定書の内容を説明できるとともに、この問題についてディスカッションできる。	
	事前学修	生物多様性の保護と利用にはどのような問題があるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	名古屋議定書の内容について整理し、ノートにまとめる。	120分
6	名古屋議定書（２）	生物多様性の保護と利用について考察するとともに、この問題についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、名古屋議定書の内容を説明できるとともに、この問題についてディスカッションできる。	
	事前学修	生物多様性の保護と利用にはどのような問題があるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	名古屋議定書の内容について整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ワシントン条約（１）	野生生物の減少を防ぐ国際的な取り組みについて考察するとともに、この問題についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ワシントン条約の内容について説明できるとともに、この問題についてディスカッションできる。	
	事前学修	野生生物の減少を防ぐ国際的な取り組みに何があるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	ワシントン条約との関連で、わが国における象牙の問題について、どのような取り組みが行われているか知見を深める。	120分
8	ワシントン条約（２）	野生生物の減少を防ぐ国際的な取り組みについて考察するとともに、この問題についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ワシントン条約の内容について説明できるとともに、この問題についてディスカッションできる。	
	事前学修	野生生物の減少を防ぐ国際的な取り組みに何があるかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	ワシントン条約との関連で、わが国における象牙の問題について、どのような取り組みが行われているか知見を深める。	120分
9	日本国内における野生生物の保護（１）	日本国内における野生生物の保護に関する取り組みについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本国内における野生生物の保護に関する取り組みを説明できる。	
	事前学修	野生生物の保護に関する日本国内の取り組みを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	日本国内における野生生物の保護に関する法律を調べ、ノートにまとめる。	120分
10	日本国内における野生生物の保護（２）	日本国内における野生生物の保護に関する取り組みについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本国内における野生生物の保護に関する取り組みを説明できる。	
	事前学修	野生生物の保護に関する日本国内の取り組みを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	日本国内における野生生物の保護に関する法律を調べ、ノートにまとめる。	120分
11	森林減少（１）	森林減少の原因、および、森林減少を防ぐ国際社会の取り組みについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、森林減少の原因、および、森林原則声明等の国際社会の取り組みを説明できる。	
	事前学修	なぜ森林は減少するのか、どのような森林が減少するのかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	森林減少の実態、および、森林原則声明の内容を整理し、ノートにまとめる。	120分
12	森林減少（２）	森林減少の原因、および、森林減少を防ぐ国際社会の取り組みについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、森林減少の原因、および、森林原則声明等の国際社会の取り組みを説明できる。	
	事前学修	なぜ森林は減少するのか、どのような森林が減少するのかを調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	森林減少の実態、および、森林原則声明の内容を整理し、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	砂漠化（１）		砂漠化とは何か、国際社会の取り組みを考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、砂漠化はなぜ起きるのか、砂漠化を防止するための国際社会の取り組みを説明できる。	
	事前学修	どうして砂漠化が起きるのか、他の地球環境問題との関連も調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	砂漠化対処条約の内容を整理し、ノートにまとめる。	120分
14	砂漠化（２）		砂漠化とは何か、国際社会の取り組みを考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、砂漠化はなぜ起きるのか、砂漠化を防止するための国際社会の取り組みを説明できる。	
	事前学修	どうして砂漠化が起きるのか、他の地球環境問題との関連も調べ、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	砂漠化対処条約の内容を整理し、ノートにまとめる。	120分
15	プレゼン		自ら選択した地球環境問題についてプレゼンをおこなう。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、自らが選択した地球環境問題について、レジュメ、パワーポイント等を作成し、プレゼンをおこなうことができる。	
	事前学修	自ら選択した地球環境問題についてのプレゼンの準備をおこなう。	120分
	事後学修	プレゼンの結果をとおして、地球環境問題が、わたしたちの暮らしにどのように関連しているのかについて知見を深める。	120分

科目名	国際税法Ⅰ	担当者	伊藤 悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
国際税法は、ヒト、モノ、カネ、情報にかかる国境を越えた取引に対する課税問題を検討する税法科目です。授業は、国際物流である貿易取引にかかる税、すなわち関税について行います。貿易取引において、通関手続に伴う関税の納税は、重要な問題です。通関士などの専門家はかりでなく、国際物流に関わる者（メーカー、輸出入業者、運輸、倉庫、為替銀行、等）にとって関税・通関の知識は不可欠です。授業形式は、講義形式ですが、過去問演習もあります。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際税法は、ヒト、モノ、カネ、情報にかかる国境を越えた取引に対する課税問題を検討することを目的とする。通関士試験の科目を中心に関税・通関の基礎的知識を習得し、国際貿易の基礎、通関と関税、通関士制度などを学習し、国際的視野をもった国際物流、貿易取引の初歩的技術も修得することを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1，2，6

【履修条件】
通関士受験者、国際物流企業への就職希望者を大いに歓迎します。

【授業方法】
講義形式であるが、双方向的講義としたい。予習、復習を十分に行うように学修・講義ポートフォリオを活用する。レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	関税に関係する税関、通関業者、ネット組織を知る。【知識】				2	2				2		
②	輸出入貨物の品目分類を実践する。【知識】【技能】				2	2				2		
③	関税の計算ができる。【技能】				2	2				2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題リポートの提出により、到達目標①②③を評価する。	40	30	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールで個別対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
市民のための税法学	伊藤 悟	八千代出版	2016年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜17:50～ 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	シラバス解説、貿易取引の基本構造(国内取引との相違を中心に)	
	この回の到達目標	物品販売における売手と買手との法律関係等の基本を理解し、国境を越える物品販売の特性を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み概観しておくこと。	120分
	事後学修	貿易実務の基礎を学習する。	120分
2	国際物流と税関等	国際物流におけるカミ、カネ、モノの流れと税関の職務機能、財務省・関税局等の組織構造	
	この回の到達目標	貿易取引の基本構造(売手と買手)に介入する行政と業者を構造的に書類、資金(代金)、貨物の流れを理解する。	
	事前学修	税関ホームページをネット検索し、閲覧し、関税行政の組織について調べる。	120分
	事後学修	海上輸送を担当する船会社、為替為替銀行、貿易当事者の間での書類のやり取りを整理する。	120分
3	通関業法(1)	国際物流の仲介業種の多様性、通関業者の必要性と法規制、通関業者と通関士、通関士試験	
	この回の到達目標	通関業者の機能等を知り、通関士試験の目的等を理解する。	
	事前学修	通関士について調べる。	120分
	事後学修	通関士試験の出題内容について税関公告などで整理する。通関業法の基礎重要規定を整理する。	120分
4	通関業法(2)	通関士試験の通関業法問題の特質、通関業者等の権利義務、出題傾向	
	この回の到達目標	通関士試験の過去問分析をし、通関士試験の通関業法の実践的解答を経験する。	
	事前学修	通関士試験の過去問を通関業法と照合しながら解答する。	120分
	事後学修	通関業法に関する基礎重要事項に関するサブノートを作成する。	120分
5	関税法等(1)	関税法制の構造、関税率の構造、関税関係基礎用語、保税地域	
	この回の到達目標	関税法の基礎を理解する。特に、税関、輸出入業者、保税地域などの基本的関係構造を理解する。	
	事前学修	保税地域とは何かを調べる。	120分
	事後学修	保税地域の種類、その設置申請、許可権者、目的、蔵置期間などを整理する。	120分
6	関税法等(2)	輸出入通関手続の基本と特例、コンテナ輸送、特殊運搬船、手荷物、郵便、国際宅配便、輸出入禁止物	
	この回の到達目標	国際貿易取引と通関手続の基本を知る。	
	事前学修	輸出禁止物、輸入禁止物を調べる。	120分
	事後学修	船舶の種類を調べる。外国貨物の種類と輸入方法の違いなどを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	関税法等(3)		関税申告、税関長の処分(決定、更正)、修正申告、更正の請求
	この回の到達目標	申告納税と課税処分との関係を理解する。	
	事前学修	国税通則法16条に規定する申告納税方式の定義を理解し、決定、更正、更正の請求、修正申告についての基本的関係を調べる。	120分
	事後学修	過去問の択一式問題による答案練習をする。	120分
8	関税法等(4)		N A C C Sによる申告等、A E O、特殊関税
	この回の到達目標	関税に関する電子申告システムでもあるN A C C Sについて理解する。	
	事前学修	N A C C Sに関するネット記事を検索し、基本的な事項を予習する。	120分
	事後学修	関税法等に関する法規事項を整理しサプノートを作成する。	120分
9	通関実務(1)		実行関税率表、品目分類の基礎、為替計算、課税標準・税額の計算(端数処理)
	この回の到達目標	貨物の品目分類ができる。	
	事前学修	H S条約に基づく品目分類について調べる。	120分
	事後学修	関税実務の過去問題で出題された品目分類について答案練習する。	120分
10	通関実務(2)		輸出申告・輸入申告のN A C C S申告書作成、個別理論問題の検討
	この回の到達目標	通関実務の中心である申告書作成手順を理解する。	
	事前学修	関税法等が規定する申告書書式とN A C C S申告書形式を比較する。	120分
	事後学修	個別理論問題の答案練習をする。	120分
11	通関実務(3)		個別計算問題、品目分類問題の解答、解説
	この回の到達目標	通関実務試験での個別問題等について解答し解説する。	
	事前学修	品目分類の間違い、適用税率の間違いがあった場合の税務処理について調べる。	120分
	事後学修	品目分類問題の答案練習をする。	120分
12	演習問題(1)		通関士試験の通関業法問題を実践的に解答、解説する。
	この回の到達目標	通関士試験の通関業法過去問に基づき、通関業法のまとめとしての演習をする。	
	事前学修	通関業法と照合しながら過去問を検討する。	120分
	事後学修	通関業法問題の解答練習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	演習問題(2)	通関士試験の関税法問題を実践的に解答、解説する。	
	この回の到達目標	通関士試験の関税法等過去問に基づき、関税法等のまとめとしての演習をする。	
	事前学修	関税法等の関税関係法令と照合しながら過去問を検討する。	120分
	事後学修	関税法等問題の解答練習をする。	120分
14	演習問題(3)	通関士試験の通関実務問題を実践的に解答、解説する。	
	この回の到達目標	通関士試験の通関実務過去問に基づき、通関実務のまとめとしての演習をする。	
	事前学修	通関実務正答と照合しながら過去問を検討する。	120分
	事後学修	過去問の解答練習をする。計算問題の解答時間を短くする練習をする。	120分
15	総括	今日の国際物流と日本の関税法制の課題	
	この回の到達目標	貿易立国日本の過去、現在、将来を検討する。	
	事前学修	日本の貿易取引を統計からみて分析する。	120分
	事後学修	通関士試験の受験手続を確認し、国家資格である通関士を取得する。	120分

科目名	国際税法Ⅱ	担当者	伊藤 悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
グローバルなヒト、モノ、カネ、情報の移動に関する国際取引が日常的に行われる今日、国際取引への課税問題があります。これが国際税法の学習研究対象です。授業は、これを所得課税、消費課税、資産課税に分けて検討します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引にかかる課税問題を学習研究することを目的とし、国際人としての基礎知識を習得し、今日の国際税法の課題を法的に解決する基礎力を修得することを目指す。関連DP及びCP：経営法学科1，2，6

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式であるが、双方向的講義としたい。レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際取引に対する課税問題の起因とその解決方法を知る。【知識】					2	2				2		
②	個人所得課税をめぐる国際課税問題を知る。【知識】					2	2				2		
③	法人税課税をめぐる国際課税問題を知る。【知識】					2	2				2		
④	消費課税をめぐる国際課税問題を知る。【知識】					2	2				2		
⑤	資産課税をめぐる国際課税問題を知る。【知識】					2	2				2		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題レポートの提出により、到達目標①から⑤を評価する。	20	20	20	20	20						100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
メールによる個別対応とする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
市民のための税法学	伊藤 悟	八千代出版	2016年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜17:50～ 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	国際取引と国際税法	
	この回の到達目標	授業概要をシラバス記述から理解し、国際税法の対象等を知る。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の概要を理解する。	120分
	事後学修	国際取引法関係の書籍における国際税法または国際課税法についての記述を検討する。	120分
2	国際税法の法源	国内税法と租税条約との関連性	
	この回の到達目標	国内事象である課税と国際課税問題との関係を理解し、その問題解決方法を知る。	
	事前学修	租税法律主義と国際法(租税条約)の地位について調べる。	120分
	事後学修	租税条約に関する情報をネット検索し確認する。	120分
3	所得税の国際税法(1)	納税義務者と課税範囲	
	この回の到達目標	国民の納税義務という憲法規定からみた日本の所得税法が規定する納税義務者の問題について理解する。	
	事前学修	日本の所得税の概略について調べる。	120分
	事後学修	居住者、非居住者等の概念と所得課税関係を復習する。	120分
4	所得税の国際税法(2)	日本人の国際所得課税	
	この回の到達目標	海外赴任、海外移住者など日本国籍を有する個人への所得課税を知る。	
	事前学修	海外赴任する日本人が出国までにしなければならない諸手続を調べる。	120分
	事後学修	所得税法の居住者課税主義を理解する。	120分
5	所得税の国際税法(3)	外国人の国内源泉所得課税	
	この回の到達目標	外国に居住する外国人への日本国の課税はないが、日本国内に居住する外国人への所得課税はどうなるのか知る。	
	事前学修	日本における外国人にかかる基本的な義務と権利について調べる。	120分
	事後学修	外国人タレント、スポーツ選手などへの所得課税を整理する。	120分
6	法人税の国際税法(1)	外国法人課税	
	この回の到達目標	法人税法に規定する内国法人と外国法人の区別を理解し、外国企業への日本法人税の課税の基礎を理解する。	
	事前学修	日本に外国法人が直接進出した歴史を調べる。	120分
	事後学修	外国法人の法人税法上の定義を理解し、特派員、営業所、支店、完全支配子会社等の法人税課税について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法人税の国際税法(2)	国際的二重課税の排除、外国税額控除	
	この回の到達目標	国際的二重課税の原因とその排除方法について理解する。	
	事前学修	内国法人が海外進出するときの基礎知識をJICA(https://www.jica.go.jp)情報で調べる。	120分
	事後学修	伝統的国際課税問題である二重課税は排除されるべきか否かを考え整理する。	120分
8	法人税の国際税法(3)	タックスヘイブン対策税制	
	この回の到達目標	租税天国、無税国家、タックスヘイブン地域の定義等を知る。	
	事前学修	タックスヘイブンと言われている国と地域を調べ、その特質を知る。	120分
	事後学修	租税特別措置法の規定を確認する。	120分
9	法人税の国際税法(4)	移転価格税制	
	この回の到達目標	移転価格税制とは何かを理解する。	
	事前学修	国際取引の中での価格設定について調べる。	120分
	事後学修	移転価格税制の結果もたらされる税制問題を整理する。	120分
10	法人税の国際税法(5)	過少資本税制、等、レポート課題の配布	
	この回の到達目標	過少資本税制とは何かを理解する。	
	事前学修	国際取引を活用しての租税回避は許さないとすれば、どのような方法があるか調べる。	120分
	事後学修	法人企業行動としての租税回避行動に対する各国や国連の対応について調べる。	120分
11	消費税の国際税法	消費地課税主義、日本の消費税を外国法人に課税する理由	
	この回の到達目標	G A F Aに対する課税強化が各国で検討され、これから国内消費者がサービスを受けるときの消費税課税について知る。	
	事前学修	消費税法の制定から今日までの消費税をめぐる問題を整理する。	120分
	事後学修	海外との取引に対する消費課税の問題を整理する。	120分
12	資産税の国際税法	海外資産への課税、外国人相続課税	
	この回の到達目標	海外居住の外国人への相続税課税など現行日本相続税の構造を知る。	
	事前学修	外国人の国内不動産取得に対する制限等の問題がある。これにつき調べる。また、日本人の海外投資についても調べる。	120分
	事後学修	相続税法の納税義務者規定を理解し、課題を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際税法の課題(1)		新たな国際的租税回避への対応
	この回の到達目標	ヒト、モノ、カネ、情報の国際移動取引という基礎的国際課税問題とは異なる新たな国際的租税回避行為が実行される懸念もあり、それに対応する課税機関の対応策を知る。	
	事前学修	租税回避についての基礎を学習する。(2時間)	120分
	事後学修	国際的租税回避に対する国内税法、国税庁の対応を整理する。	120分
14	国際税法の課題(2)		インターネットと国際税法
	この回の到達目標	インターネットによる仮想通貨等、想定外の国際取引が実行され、それに対する課税問題もある。これらを考察する。	
	事前学修	各自が考える国際税法の課題をまとめる。	120分
	事後学修	授業内での議論を整理する。	120分
15	総括		国際税法の総括
	この回の到達目標	国際課税問題をめぐる税法の今後のあり方について総括する。	
	事前学修	所得課税、消費課税、資産課税の国際課税問題を整理する。	120分
	事後学修	国際税法の基礎、個別問題を整理しサブノートを作成する。	120分

科目名	国際取引法AⅠ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
この講座では、国際取引に関する法制度を基礎から理解する。初学者を念頭に、できるだけ分かり易く平易に説明をしたい。さらに国際売買契約、国際運送・保険契約、国際販売代理店契約、国際的M&A（企業買収）契約、準拠法や裁判管轄、国際紛争処理・国際仲裁などについて幅広く学習する。国際取引に関する新しい動向や法制度、企業法務の対応など理論とプラクティスの双方から実践的に学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引全般に関する基礎的な法制度の修得を目的とする。企業のグローバル化が進展し、国際取引法の修得の重要性は増加しており、国際売買契約など国際契約、国際的製造物責任、国際的M&A（企業買収）、国際投融資、国際企業結合、紛争処理、国際金融など、総論として幅広く学習し、修得することを目的とする。全くの初心者にも理解しやすいよう講義する。法律関係でない学科の学生や1年生にもできるだけ多く受講してほしい。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解して説明できるようになることを目標とする。さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学習することが目標となる。

【履修条件】
学科を問わず1年生から4年生まで広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。

【授業方法】		
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。初学者を念頭に、できるだけ分かり易く平易に説明をしたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業の国際取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】				2	2			2			
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				2	2				2		
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				2	2				2		
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】				2	2				2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。							5	5	5	5	20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定					
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。テキスト、参考書などについては授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話にきてください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有 実務経験の内容 政府系金融機関においてグローバル企業の融資・調査を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容	グローバル企業に関する法制度に関して、実務経験に基づき、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【国際取引法とは】	国際取引法概説（１）－国際取引法の枠組み－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、国際取引法の学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法の概要に関して学習し、国際私法などとの関連性も理解することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、国際取引について講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【国際取引法と関連法分野】	国際取引法概説（２）－国際取引法と関連法分野－ 国際取引法概説として、国際取引法と関連法分野について、企業法務の視点も含め学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と関連法分野について、概要を理解する。	
	事前学修	国際取引法と関連法分野について、概要を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法概説について内容を復習する。	120分
3	【国際取引法と企業の海外進出形態】	国際取引法と企業の海外進出形態（１）－輸出、海外生産・国際合併と為替、貿易摩擦－ 国際取引法と企業の海外進出について、輸出、海外生産・国際合併と為替、貿易摩擦などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と企業の海外進出形態について、概要を理解する。	
	事前学修	国際取引法と企業の海外進出について、概要を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法と企業の海外進出について内容を復習する。	120分
4	【国際取引法と多国籍企業】	国際取引法と企業の海外進出形態（２）－グローバル展開・グローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦－ 国際取引法と企業の海外進出について、グローバル展開・グローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法とグローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦などについて、概要を理解する。	
	事前学修	国際取引法と企業の海外進出のさらなる展開について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引法と企業の海外進出のさらなる展開について内容を復習する。	120分
5	【国際統一規則等と国際取引法】	国際統一規則等と国際取引法 国際統一規則等の概要について、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際統一規則等について、概要を理解する。	
	事前学修	国際統一規則等の概要について、学習する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際統一規則等の概要について内容を復習する。	120分
6	【国際通商法関係と国際取引法】	国際通商法関係と国際取引法（１）－WTO、米国通商法・関税法ダンピング規制、相殺関税、セーフガード措置、原産地国問題－ 国際通商法関係と国際取引法について、WTO、米国通商法・関税法ダンピング規制、相殺関税、セーフガード措置などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際通商法関係等について、概要を理解する。	
	事前学修	国際通商法関係と国際取引法について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法について内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【国際取引法と地域統合条約】	国際通商法関係と国際取引法（2）－EU、NAFTA、ASEANなど地域統合条約ほか－ 国際通商法関係と国際取引法について、EU、NAFTA、ASEANなど地域統合条約などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と地域統合条約について、概要を理解する。	
	事前学修	国際通商法関係と国際取引法に関し、地域統合条約について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法、地域統合条約などについて内容を復習する。	120分
8	【国際取引法とTPP問題】	国際通商法関係と国際取引法（3）－TPP問題－ 国際通商法関係と国際取引法について、TPP11などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法とTPP11などの概要を理解する。	
	事前学修	国際通商法関係と国際取引法に関し、TPP問題について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法、TPP問題などについて内容を復習する。	120分
9	【国際取引と知的財産権訴訟】	国際取引と知的財産権訴訟－米国のプロパテント政策、パリ条約、WTOと中国の模倣品対策など－ 国際取引と知的財産権訴訟に関し、米国のプロパテント政策などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と知的財産権訴訟の概要を理解する。	
	事前学修	国際取引と知的財産権訴訟に関し、概要を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と知的財産権訴訟について内容を復習する。	120分
10	【国際取引と製造物責任訴訟】	国際取引と到達目標①②に関連して、国際取引法と知的財産権訴訟の概要を理解する。 （1）－PL責任と契約責任－ 国際取引と製造物責任訴訟に関して、PL責任と契約責任などの概要を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と製造物責任訴訟の概要を理解する。	
	事前学修	国際取引と製造物責任訴訟に関し、概要を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と製造物責任訴訟の概要について内容を復習する。	120分
11	【国際取引と製造物責任訴訟】	国際取引と製造物責任訴訟（2）－米国の厳格責任主義ほか－ 国際取引と製造物責任訴訟に関し、米国の厳格責任主義についての判例などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と製造物責任訴訟の概要を理解する。特に、米国の厳格責任主義について理解を深める。	
	事前学修	国際取引と製造物責任訴訟に関し、米国の判例などを考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と製造物責任訴訟について米国の判例などを復習する。	120分
12	【国際取引法と準拠法と国際裁判管轄、域外適用】	域外適用（1）－近年の域外適用問題の概要、管轄・裁判籍など－ 準拠法と国際裁判管轄に関し、域外適用問題も含めて理論と判例動向などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引法と域外適用を理解する。	
	事前学修	準拠法と国際裁判管轄などについて考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄について判例などを復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【国際取引法と準拠法と国際裁判管轄、域外適用】		域外適用（2）－米国汚職行為防止法（F C P A）、英国腐敗防止法（Bribery Act 2 0 1 0）－ 準拠法と国際裁判管轄に関し、米国や英国の域外適用問題の判例、今後の展望を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引法と域外適用を理解する。米国汚職行為防止法（F C P A）、英国腐敗防止法（Bribery Act 2 0 1 0）の具体的事例を理解する。		
	事前学修	準拠法と国際裁判管轄に関し、域外適用問題も含めて考察を深める。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄、域外適用について復習する。		120分
14	【国際取引と企業法務】		国際取引と企業法務－企業の業種と国際取引の形態、国際契約、法的リスク、グローバル内部統制とコンプライアンス・プログラム、日本企業の対応－ 国際取引と企業法務に関して、最近の動向を中心に組織形態、プラクティスを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、準拠法と国際裁判管轄に関し、国際取引と企業法務を理解する。		
	事前学修	国際取引と企業法務などについて考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際取引と企業法務について具体例などを復習する。		120分
15	【前期総まとめ】		授業内レポートについて、解説等を行う。国際取引法の総論について、前期の総まとめを行い、体系的な学習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、前期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。		
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。		120分
	事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、国際取引法の総論について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。		120分

科目名	国際取引法AⅡ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
この講座では、国際取引に関する法制度を基礎から理解し、さらに国際売買契約、国際運送・保険契約、国際販売代理店契約、国際的M&A（企業買収）契約、準拠法や裁判管轄、国際紛争処理・国際仲裁などについて幅広く学習する。国際取引に関する新しい動向や法制度、企業法務の対応など理論とプラクティスの双方から実践的に学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引全般に関する基礎的な法制度の修得を目的とする。企業のグローバル化が進展し、国際取引法の修得の重要性は増加しており、国際売買契約など国際契約、国際的製造物責任、国際的M&A（企業買収）、国際投融資、国際企業結合、紛争処理、国際金融など、総論として幅広く学習し、修得することを目的とする。全くの初心者にも理解しやすいよう講義する。法律関係でない学科の学生や1年生にもできるだけ多く受講してほしい。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解して説明できるようになることを目標とする。さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学習することが目標となる。

【履修条件】
学科を問わず1年生から4年生まで広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。

【授業方法】		
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。初学者を念頭に、できるだけ分かり易く平易に説明をしたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業の国際取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】				2	2				2		
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				2	2				2		
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				2	2				2		
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】				2	2				2		
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】				2	2				2		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。							5	5	5	5	20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定					
備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話にきてください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	有 実務経験の内容 政府系金融機関においてグローバル企業の融資・調査を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容	グローバル企業に関する法制度に関して、実務経験に基づき、経営や会計も総合的にリンクさせた総合的にケーススタディを実践したい。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【国際売買契約の概要】	国際売買契約の概要（1）－インコタームズ2010、FOB、CIFなど引渡条件－ 国際売買契約の概要、インコタームズ2010、具体的条項例、引渡条件を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際売買契約の概要を理解する。	
	事前学修	国際売買契約の概要などについて、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要について復習する。	120分
2	【国際売買契約の概要】【具体的条項例、品質保証、瑕疵担保責任】	国際売買契約の概要（2）－品質保証、瑕疵（かし）担保責任、不可抗力条項、契約解除など－ 国際売買契約の概要として、具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法と国際売買契約の概要、具体的条項例、品質保証、瑕疵担保責任を理解する。	
	事前学修	国際売買契約の概要、具体的条項例について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要、具体的条項例について復習する。	120分
3	【国際的資金決済】	国際売買契約の概要（3）－国際的資金決済、荷為替信用状（L/C）ほか－ 国際売買契約の概要として、国際的資金決済、荷為替信用状（L/C）などを中心に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要として、国際的資金決済、荷為替信用状を理解する。	
	事前学修	国際売買契約の概要、国際的資金決済について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的資金決済について復習する。	120分
4	【国際運送・保険契約】	国際運送・保険契約、国際秘密保持契約などの概要 国際運送・保険契約、国際秘密保持契約などの概要について、企業法務の視点も含めて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際運送・保険契約、国際秘密保持契約を理解する。	
	事前学修	国際運送・保険などの概要を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際運送・保険などについて復習する。	120分
5	【国際的企業買収（M&A）】	国際的企業買収（M&A）（1）－意義と概要－ 国際的企業買収（M&A）の概要、意義について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収（M&A）を理解する。	
	事前学修	国際的企業買収（M&A）の概要などを考察する。	120分
	事後学修	国際的企業買収（M&A）の概要などについて復習する。	120分
6	【友好的企業買収と敵対的企業買収】	国際的企業買収（M&A）（2）－友好的企業買収と敵対的企業買収－ 国際的企業買収（M&A）について、友好的企業買収契約と敵対的企業買収（TOB、二段階買収）などを判例、実務などの面から学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、友好的企業買収と敵対的企業買収を理解する。	
	事前学修	国際的企業買収（M&A）について、友好的企業買収と敵対的企業買収を考察する。	120分
	事後学修	国際的企業買収（M&A）の友好的企業買収と敵対的企業買収について、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際的M&A契約、買収方式】		国際的企業買収（M&A）（3）－M&A契約、買収方式、資金調達、企業評価方法、ケーススタディー 国際的企業買収（M&A）の具体的な法制度、手法などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、M&A契約、買収方式を理解する。		
	事前学修	国際的企業買収（M&A）について、M&A契約、買収方式、企業評価方法などを考察する。		120分
	事後学修	国際的企業買収（M&A）の具体的な法制度、手法を復習する。		120分
8	【国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンス】		国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンス（詳細調査）、買収後の企業運営（PAM）など企業のプラクティスを学習する。 国際的企業買収（M&A）（4）－デューディリジェンス（詳細調査）、買収後の企業運営－	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収のうち、デューディリジェンス（詳細調査）などの実務を理解する。		
	事前学修	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンスなどを考察する。		120分
	事後学修	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンスなどを復習する。		120分
9	【国際投融資と国際合弁契約】		国際投融資と国際契約（1）－国際合弁契約・ジョイント・ベンチャー・ゼネラル・パートナーシップ、国際共同開発－ 国際投融資と国際契約、国際合弁契約、国際共同開発などの企業法務を含めて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際投融資と国際合弁契約・ジョイント・ベンチャーなどを理解する。		
	事前学修	国際投融資、国際合弁契約などを考察する。		120分
	事後学修	国際投融資、国際合弁契約などの復習を行う。		120分
10	【国際投融資とリース、プロジェクト・ファイナンス】		国際投融資と国際契約（2）－リース、プロジェクト・ファイナンスほか新しい融資・担保契約－ 国際投融資と国際契約、プロジェクト・ファイナンス（PF）などについて、具体的に事例を用いて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際投融資とリース、プロジェクト・ファイナンスなどの実務を理解する。		
	事前学修	国際投融資と国際契約、新しい融資・担保契約について考察する。		120分
	事後学修	国際投融資と国際契約、プロジェクト・ファイナンスなどの復習を行う。		120分
11	【国際代理店・販売店契約】		国際企業組織－代理店・販売店、支店、現地法人、子会社管理など－ 国際企業組織、国際代理店・販売店契約、支店、現地法人、子会社管理など企業法務を含めて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際代理店・販売店契約の実務を理解する。		
	事前学修	国際企業組織、国際代理店・販売店について考察する。		120分
	事後学修	国際企業組織、国際代理店・販売店契約などの復習を行う。		120分
12	【国際取引と紛争処理】		国際取引と紛争処理（1）－国際民事訴訟と準拠法、裁判管轄ほか－ 国際取引と紛争処理、国際民事訴訟と準拠法、裁判管轄の問題を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引と紛争処理などを理解する。		
	事前学修	国際取引と紛争処理について考察する。		120分
	事後学修	国際取引と紛争処理について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【国際取引と紛争処理】 【国際仲裁・調停】		国際取引と紛争処理（2）－国際仲裁・調停、ADR（裁判外紛争処理制度）、国際倒産ほか－ 国際取引と紛争処理に関し、国際仲裁・調停などを主に企業法務の視点も含め、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、国際仲裁・調停、ADR（裁判外紛争処理制度）などを理解するとともに、説明や議論ができるようになる。		
	事前学修	国際取引と紛争処理、国際仲裁・調停などを考察する。		120分
	事後学修	国際取引と紛争処理、国際仲裁・調停などを復習する。		120分
14	【ウィーン売買条約】		国際取引法分野の新展開（1）－ウィーン売買条約の概要－ 国際取引法分野の新展開としてウィーン売買条約の内容、インコタームス2010との比較などを具体的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ウィーン売買条約の概要を理解する。		
	事前学修	国際取引法分野の新展開として、ウィーン売買条約と企業実務の対応などを考察する。		120分
	事後学修	ウィーン売買条約と企業実務の対応などについて復習する。		120分
15	【後期総まとめ】		国際取引法分野の新展開（2）－ウィーン売買条約に関する実務の対応など－ ウィーン売買条約と企業実務の対応の学習を深める。授業内レポートについて、解説等を行う。国際取引法の総論について、総まとめを行い、体系的な学習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、後期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。		
	事前学修	ウィーン売買条約について考察を深めるとともに、最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。（2時間）		120分
	事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、国際取引法の総論について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）		120分

科目名	国際取引法B I	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
この講座では、企業の国際取引に関する法制度を広く包括的に理解し、基礎から応用まで学習する。初学者を念頭に、できるだけ分かり易く平易に説明をしたい。国際取引法各論として、重要な領域に焦点を当て、理論と企業実務も含め学習する。主として後期では、国際投融资、国際合併（ジョイントベンチャー）、国際売買契約に関してインコタームス2010やウィーン売買条約、国際金融法制などを採り上げ学習する。国際取引法総論の内容をさらに深めて、具体的な企業法務を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引法各論としてグローバル企業の国際業務等に関し比較法的な基礎理論と企業法務の実践の習得を目的とする。国際的M&A（企業買収）と敵対的防衛策、国際売買契約、国際販売代理店、国際投融资、国際企業結合法制などのほか、ウィーン売買条約、インコタームズ2010、国際資金決済、国際不正取引、国際金融法、域外適用など最新のテーマについて、受講生が説明できることを目標とする。法律関係でない学科の学生、2年生にも多く受講してほしい。企業実務の接点として重要な科目である。基礎理論のみならず実践・専門的内容を学び、総合的な国際ビジネス法の修得を目標とする。卒業後の進路に役立つよう備えることも目標となる

【履修条件】
国際取引法 I の履修を前提としない。法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も歓迎する。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																		
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力										
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力										
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力										
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力										
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル											
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8				
①	グローバルな展開をはかる企業の取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3	3	3						
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】 他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3	3	3						
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						3	3	3	3	3	3						
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						3	3	3	3	3	3						
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)					
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥			⑦	⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																		
小テスト等																		
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。						15	15	15	15								60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。										10	10						20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。												5	5	5	5		20
その他()																		
その他()																		
その他()																		
到達目標別の比率(%)							15	15	15	15	10	10	5	5	5	5		100

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートについては、最終の授業において詳しい解説を行うので、今後の学習に役立てていただきたい。

【教科書・参考書等】

書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定					

備考

レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。

【オフィスアワー】

授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話にきてください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】

担当教員の 実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業の融資・調査を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際取引に関する法制度に関して、企業の実務の視点から総合的にケーススタディも含めて授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【国際取引法とは】	国際取引法概説－基礎的内容の講義－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、国際取引法の学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際取引法がどのような法律か、またその国際経済法や国際私法との関連性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、事前に各自で授業全体の概要について把握し、概観する。専門用語、キーワードなども意味を学習する。次回の講義内容、学習・資料収集方法などは毎回事前に指示する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【国際的M&A】	国際的M&A（企業買収）の概要 国際的M&A（企業買収）の基礎的内容を考察し、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的M&A（企業買収）の概要を説明することができる。	
	事前学修	国際的M&A（企業買収）について考察して、概要を把握する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的M&A（企業買収）の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	【国際的M&A】	企業買収（M&A）と法制度－合併、株式交換・移転、会社分割、MBO（経営者による買収）、三角合併など－ 企業買収（M&A）と法制度について、具体的、かつ比較法的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的M&A（企業買収）の合併、株式交換・移転、会社分割、MBOを理解し、説明することができる。	
	事前学修	企業買収（M&A）と法制度について、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的M&A（企業買収）と法制度の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	【敵対的買収防衛策】	企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策の具体例－ライツプラン、黄金株など－ 企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策について、具体的、かつ比較法的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敵対的買収防衛策について、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策について、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	【国際的企業買収（M&A）契約】	国際的企業買収（M&A）契約の概要（1）－意義、概要－ 国際的企業買収（M&A）契約の概要について、企業法務など具体的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収（M&A）契約について、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	国際的企業買収（M&A）契約の概要について、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的企業買収（M&A）契約の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	【国際的企業買収（M&A）契約】	国際的企業買収（M&A）契約の概要（2）－資産特定、負債承継、競業禁止義務など具体的条項例－ 国際的企業買収（M&A）契約の具体的条項例として、企業法務など具体的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際的企業買収（M&A）契約について、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。具体的条項例について、さらに具体的に学習する。	
	事前学修	国際的企業買収（M&A）契約の具体的条項例について、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的企業買収（M&A）契約のの具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【敵対的企業買収（M&A）とTOB】		敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルール、国際組織再編制度（1）－米国－ 敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、米国を中心に法制度を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルールについて、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、米国法制度の大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、敵対的企業買収（M&A）とTOBにかかる米国法制度について自分なりの説明をまとめる。		120分
8	【敵対的企業買収（M&A）とTOB】【欧州ルール】		敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルール、国際組織再編制度（2）－欧州－ 敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、英国、EUを中心に法制度を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルールについて、具体的、かつ比較法的に理解し、説明することができる。特に欧州の法制度を学習する。		
	事前学修	敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、欧州の法制度の大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、敵対的企業買収（M&A）とTOBにかかる欧州の法制度について自分なりの説明をまとめる。		120分
9	【日米欧における買収防衛策】		日米欧における買収防衛策の新動向（1）－経営判断原則、ユニカル判決など米国の判例法理－ 日米欧における買収防衛策について、経営判断原則、ユニカル判決など米国の判例法理を主に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米欧における買収防衛策について、経営判断原則、ユニカル判決など米国の判例法理を具体的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	日米欧における買収防衛策の動向について、主な判例など大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、日米欧における買収防衛策の新動向について自分なりの説明をまとめる。		120分
10	【日米欧における買収防衛策】		日米欧における買収防衛策の新動向（2）－レブロン判決、ブラウシス判決など米国の判例法理の変遷と企業の対応など－ 日米欧における買収防衛策の新動向として、レブロン判決、ブラウシス判決などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米欧における買収防衛策について、レブロン判決、ブラウシス判決などを具体的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	日米欧における買収防衛策の動向について、主な判例など大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、日米欧における買収防衛策の新しい判例などについて自分なりの説明をまとめる。		120分
11	【日米欧における買収防衛策】		日米欧における買収防衛策の新動向（3）－国際的企業買収のケーススタディ、英ボードフォンによる独マンネスマンの敵対的買収など－ 国際的企業買収のケーススタディとして英ボードフォンによる独マンネスマンの敵対的買収などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米欧における買収防衛策について、国際的企業買収のケーススタディを具体的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	日米欧における買収防衛策の新動向について、国際的企業買収の事例の大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的企業買収のケーススタディについて自分なりの説明をまとめる。		120分
12	【敵対的買収・防衛策の法制と今後の展望】		日米欧における敵対的買収・防衛策の法制と今後の展望 日米欧における敵対的買収・防衛策の法制について、比較法的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日米欧における敵対的買収・防衛策の法制と今後の展望・課題を具体的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	日米欧における敵対的買収・防衛策の法制の比較などについて、大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、日米欧における敵対的買収・防衛策の法制について自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【敵対的買収・防衛策と我が国の対応】		敵対的買収・防衛策と我が国の対応（1）－ブルドックス事件、買収防衛策指針、MBO指針など－ 敵対的買収・防衛策と我が国の対応について、具体的に判例、規制当局の対応などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、敵対的買収・防衛策と判例、規制当局の対応を具体的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	敵対的買収・防衛策に関して、ブルドックス事件などについて、大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、敵対的買収・防衛策と我が国の対応について自分なりの説明をまとめる。		120分
14	【中国、アジアにおけるM&A法制度】		中国、アジアにおけるM&A法制度と企業の対応 中国、アジアにおけるM&A法制度と企業の対応について、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、中国、アジアにおけるM&A法制度と企業の対応を具体的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	中国、アジアにおけるM&A法制度などについて、大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、中国、アジアにおけるM&A法制度について自分なりの説明をまとめる。		120分
15	【前期総まとめ】		授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業の国際的M&A法制度について、総まとめを行い体系的な学習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、前期総まとめを行う。授業内レポートについて、解説等も行い、今後の学習に役立てていただきたい。		
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、前期の国際的M&A法制度全体の体系を考察する。		120分
	事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分全体の復習を行う。		120分

科目名	国際取引法BⅡ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
この講座では、企業の国際取引に関する法制度を広く包括的に理解し、基礎から応用まで学習する。初学者を念頭に、できるだけ分かり易く平易に説明をしたい。国際取引法各論として、重要な領域に焦点を当て、理論と企業実務も含め学習する。主として後期では、国際投融资、国際合併（ジョイントベンチャー）、国際売買契約に関してインコタームス2010やウィーン売買条約、国際金融法制などを採り上げ学習する。国際取引法総論の内容をさらに深めて、具体的な企業法務を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際取引法各論としてグローバル企業の国際業務等に関し比較法的な基礎理論と企業法務の実践の習得を目的とする。国際的M&A（企業買収）と敵対的防衛策、国際売買契約、国際販売代理店、国際投融资、国際企業結合法制などのほか、ウィーン売買条約、インコタームズ2010、国際資金決済、国際不正取引、国際金融法、域外適用など最新のテーマについて、受講生が説明できることを目標とする。法律関係でない学科の学生、2年生にも多く受講してほしい。企業実務の接点として重要な科目である。基礎理論のみならず実践・専門的内容を学び、総合的な国際ビジネス法の修得を目標とする。卒業後の進路に役立つよう備えることも目標となる

【履修条件】
国際取引法Ⅰの履修を前提としない。法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も歓迎する。

【授業方法】
配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																		
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力										
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力										
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力										
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力										
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル											
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8				
①	グローバルな展開をはかる企業の取引において必要な法的知識を理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3	3	3						
②	他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】 他の法律とは異なる国際取引にかかる法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】						3	3	3	3	3	3						
③	国際取引に関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】						3	3	3	3	3	3						
④	国際取引に関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】						3	3	3	3	3	3						
⑤	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑥	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑦	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から発せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑧	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑨	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
⑩	国際取引に関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】						3	3	3	3	3	3						
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)					
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥			⑦	⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																		
小テスト等																		
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。						15	15	15	15								60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。										10	10						20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。												5	5	5	5		20
その他()																		
その他()																		
その他()																		
到達目標別の比率(%)							15	15	15	15	10	10	5	5	5	5		100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートについては、最終の授業において詳しい解説を行うので、今後の学習に役立てていただきたい。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定					
備考	レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。				

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話にきてください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業の融資・調査を長年担当した経験がある。
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際取引に関する法制度に関して、企業の実務の視点から総合的にケーススタディも含めて授業を行いたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【国際投融资、企業結合法制】	国際投融资、企業結合法制概説 国際投融资、企業結合法制について、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際投融资、企業結合法制を理解し、説明することができる。	
	事前学修	国際投融资、企業結合法制などについて、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際投融资、企業結合法制について自分なりの説明をまとめる。	120分
2	【国際合弁契約の概要】	国際合弁契約の概要（1）－意義、概要－ 国際合弁契約の概要について、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際合弁契約の概要を理解し、説明することができる。	
	事前学修	国際合弁契約の概要などについて、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際合弁契約の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	【国際合弁契約の具体的条項例】	国際合弁契約の概要（2）－具体的条項例、株主間契約など－ 国際合弁契約の具体的条項例、株主間契約などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際合弁契約の具体的条項例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	国際合弁契約の具体的条項例、株主間契約などについて、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際合弁契約の具体的条項例、株主間契約について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	【国際合弁契約の具体的条項例】	国際合弁契約の概要（3）－譲渡制限、撤退条項など－ 国際合弁契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際合弁契約の具体的条項例を理解し、説明することができる。特に譲渡制限、撤退条項などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	事前学修	国際合弁契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項などについて、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際合弁契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	【国際合弁契約の具体的条項例】	国際秘密保持契約の概要－具体的条項例、秘密情報遵守、返却・破棄、義務違反など－ 国際秘密保持契約の概要、具体的条項例などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際合弁契約の具体的条項例を理解し、説明することができる。特に秘密情報遵守、返却・破棄、義務違反などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	事前学修	国際秘密保持契約の概要などについて、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際秘密保持契約の概要、具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	【国際共同開発契約、国際ライセンス契約】	国際共同開発契約、国際ライセンス契約の概要－意義、具体的条項例、業務委託、成果物帰属・利用など－ 国際共同開発契約、国際ライセンス契約の意義、具体的条項例などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際共同開発契約、国際ライセンス契約について、具体的な企業法務などを学習する。	
	事前学修	国際共同開発契約、国際ライセンス契約などについて、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際共同開発契約、国際ライセンス契約の概要、具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際売買契約の概要】【インコタームス】		国際売買契約の概要（1）－意義、インコタームス2010、具体的条項例、引渡条件などー国際売買契約に関し、意義、インコタームス2010、具体的条項例、引渡条件などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要、インコタームスについて、具体的な企業法務などを学習する。特に引渡条件などについて理解する。		
	事前学修	国際売買契約の概要などについて、大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約について意義、インコタームス、具体的条項例、引渡条件について自分なりの説明をまとめる。		120分
8	【国際売買契約の概要】【インコタームス】		国際売買契約の概要（2）－具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任などー国際売買契約に関し、具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要、インコタームスについて、具体的な企業法務などを学習する。特に品質保証、瑕疵担保責任について理解する。		
	事前学修	国際売買契約の具体的条項例などについて、大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約について具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任について自分なりの説明をまとめる。		120分
9	【国際売買契約の概要】【インコタームス】		国際売買契約の概要（3）－具体的条項例、不可抗力条項、運送・保険、契約解除、裁判管轄・準拠法などー国際売買契約に関し、具体的条項例、不可抗力条項、運送・保険、契約解除、裁判管轄・準拠法などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約の概要、インコタームスについて、具体的な企業法務などを学習する。特に不可抗力条項、運送・保険、契約解除、裁判管轄・準拠法などについて理解する。		
	事前学修	国際売買契約の具体的条項例、裁判管轄・準拠法などについて、大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際売買契約について具体的条項例、契約解除、裁判管轄・準拠法などについて自分なりの説明をまとめる。		120分
10	【国際売買契約の概要】【国際的資金決済】		国際的資金決済の概要－外国為替、荷為替信用状、船荷証券などー国際的資金決済に関し、外国為替、荷為替信用状、船荷証券などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約について、具体的な企業法務などを学習する。特に国際的資金決済について理解する。		
	事前学修	国際的資金決済の概要などについて、大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際的資金決済に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。		120分
11	【国際売買契約の概要】【ウィーン売買条約】		ウィーン売買条約の概要（1）－基本的構成、適用範囲および総則ーウィーン売買条約に関し、基本的構成、適用範囲および総則などについて、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約について、具体的な企業法務などを学習する。特にウィーン売買条約について理解する。		
	事前学修	ウィーン売買条約の概要などについて、大枠を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ウィーン売買条約の概要に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。		120分
12	【国際売買契約の概要】【ウィーン売買条約】		ウィーン売買条約の概要（2）－契約の成立、物品の売買、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除、最終規定ほかーウィーン売買条約に関し、契約の成立、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除など主要な内容について、具体的な企業法務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際売買契約について、具体的な企業法務などを学習する。特にウィーン売買条約について理解する。契約の成立、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除などを理解する。		
	事前学修	ウィーン売買条約の概要について、契約の成立など内容面を深く掘り下げて考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ウィーン売買条約の主要な内容に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【準拠法と国際裁判管轄】	準拠法と国際裁判管轄、域外適用問題－国際私法、国際不正とコンプライアンス、最新の事例研究－ 準拠法と国際裁判管轄、域外適用などについて、具体的なケーススタディを交えて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、準拠法と国際裁判管轄などを学習し、理解・説明できる。	
	事前学修	準拠法と国際裁判管轄、域外適用などについて、大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄、域外適用に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。	120分
14	【国際金融と国際取引法】	国際金融におけるサブプライムローン金融取引の構造と米国ドッド・フランク法など金融改革法の動向、ギリシャ危機など欧州債務危機の問題点と展望、海外金融機関のフィンテックと仮想通貨の対応 国際金融領域に関して、国際取引法の視点から最新の理論と金融機関の企業実務などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、国際金融と国際取引法などを学習し、理解・説明できる。	
	事前学修	国際金融取引について、新しい動向を中心に大枠を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、国際金融領域に関して国際取引法の視点から具体的に自分なりの説明をまとめる。	120分
15	【後期総まとめ】	授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業の国際的M&A法制度について、総まとめを行い体系的な学習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、後期総まとめを行う。授業内レポートについて、解説等も行い、今後課題、展望などの理解が一層できるようになる。	
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、国際的M&A法制度全体の体系を考察する。	120分
	事後学修	授業内レポートと解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分全体の復習を行う。	120分

科目名	国際民事紛争処理法Ⅰ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
クロスボーダー（国境を越えた）ビジネスや外国の当事者との間のビジネスから発生した法的問題を解決する法と実務に関する基礎的知識を学修する。授業で扱う法的争点はどれも、実際に国際的に活動する企業の代理人弁護士が必然的に直面するものであり、それらは、（１）国際裁判管轄権、（２）国際訴訟競合、（３）国際送達、（４）国際証拠調べ、（５）外国判決の承認と執行、（６）外国主権免除、（７）国際仲裁合意の国際的有効性、（８）外国仲裁判断の国際的執行性、（９）外国弁護士の国際商事仲裁における代理可能性、（１０）国際商事調停の将来性を含む。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業の目的】 コモンロー法域（イギリス、アメリカ、香港、シンガポール等）とシヴィルロー法域（日本、中国等）における国際ビジネス紛争の解決に関する法と実務を対比し理解する。その理解から、国境を越えたビジネスに関わる紛争の解決方法として国際交渉、国際調停、国際訴訟、国際仲裁の長所と短所を学修する。

【履修条件】
民事訴訟法、外国法、法律外国語、国際関係法を履修していることが望ましい。

【授業方法】		
各授業で発言を求められる受講生を事前に選び、教科書と配布資料(日本語・英語)を題材として、講義形式とディスカッション形式を併用し授業を進める。		
授業内小テストのフィードバックは、小テストを実施した次の授業中に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題に関する課題を与え、あらかじめ指名された各授業での発言を求められる複数の受講生を中心にディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コモンロー系諸国とシヴィルロー系諸国における国際ビジネスの紛争解決の法と実務に関する基本的知識を身に付け、説明することができる。						3	3	3	3	3			
②	コモンロー法域の法律専門用語を正確に理解・説明し、それらを使用してコミュニケーションすることができる。						3	3			3	3		
③	国際契約の一般条項において定められる紛争解決条項について問題点を発見し、起案し、客観的に自己の見解を系統立てて提言することができる。						3	3	3	3	3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	3回の小テストにより、到達目標①に関連する国際民事紛争の解決手段に関する基本的知識が身についているか、及び到達目標②に関連する法律専門用語を正確に理解し適切に使用することができているかを確認する。	35	35									70
レポート等												
討論・発表等	事例について課題を与え、授業中に事前に選ばれた受講生を中心にディスカッション（討議）を行う。その中で、到達目標①②③に関連する個別行動目標が達成されたかどうかを確認する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは行った次の回の授業で講評する。討論は行ったその回に講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際取引紛争 紛争解決の基本ルール第3版』	中村 達也	敬文堂	2019	教科書	必携
『国際商取引紛争解決の法と実務 ―交渉、調停、仲裁の戦略的活用』	大貫 雅晴	同文館出版	2018	参考書	任意
『国際取引における準拠法・裁判管轄・仲裁の基礎知識』	大塚章男	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として国際契約の実務と国際民事紛争の解決に従事。 国際契約と国際民事紛争解決の実務経験に基づき、主に、アメリカと日本の紛争当事者間の国際民事紛争事案を例としてとりあげ、国際民事事件を裁判所に提訴した際に紛争当事者が直面する特別な法的及び実務的問題点に関する基礎的な知識を学修し、そのうえで、裁判に替え調停や仲裁といった裁判外紛争解決手段(ADR)を利用した際に直面する法的及び実務的問題点を検討する授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【概説】 【シヴィルローとコモンローの特徴】	「国際民事紛争処理法」に関するシヴィルロー系とコモンロー系の法域の法制度の特徴について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、「国際民事紛争処理法」に関するシヴィルロー系とコモンロー系の法域の法制度の特徴について学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。「国際民事紛争処理法」の舞台となるシヴィルロー系とコモンロー系の法域の法制度の特徴について理解し、説明できる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、教科書（pp.1-4）を読み、国際民事紛争の解決手段としてどのような方法があるかを調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備する。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際民事紛争の各解決手段に関するシヴィルロー系とコモンロー系の法域の法制度の特徴について授業ノートに分類・整理する。	120分
2	【国際民事紛争の解決手段】	国際民事紛争の解決方法として裁判所を利用する方法と利用しない方法を学修し、それぞれの長所と短所を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際民事紛争の解決方法としての交渉、調停、訴訟、仲裁の特徴を説明し、それらの方法を比較し、長所と短所について理解し、説明し、提言できる。	
	事前学修	教科書（pp. 5-9 pp.152-160の(2)の前まで；pp.167-171の(g)の前まで；pp.235の2-245）を読み、国際民事紛争の解決方法として裁判所を利用する方法と利用しない方法を調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備する。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際民事紛争の各解決手段とそれに伴う長所と短所について、授業ノートに分類・整理する。	120分
3	【アメリカの紛争解決スタイルと裁判制度】	訴訟社会(Litigation Society)と呼ばれ、訴訟で紛争を解決する傾向が強い(Litigiousness)と言われるアメリカ社会を支持する法制度や法理を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、訴訟社会(Litigation Society)と呼ばれ、訴訟で紛争を解決する傾向が強い(Litigiousness)と言われるアメリカ社会を支持する法制度や法理とはなにか、についてアメリカが英米法系（Common Law System)に属する法域であることと関連付けて考察し理解し説明できる。	
	事前学修	教科書（pp.10-31(7)(d)）と配布資料を読み、アメリカが訴訟社会と呼ばれる理由を調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したアメリカの訴訟社会の背景にある法制度と法理について、授業ノートに分類・整理する。	120分
4	【アメリカの民事訴訟手続の流れ】 【日本企業が直面するリスク】	アメリカの裁判所における民事訴訟手続の流れを、陪審制度における略式判決(Summary Judgment)、指図評決(Directed Verdict)、及び評決無視の判決(Judgment Non Obstante Veredicto)の役割とともに概観し、アメリカにおいて日本企業が直面する国際民事訴訟のリスクとは何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解したうえで説明できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、アメリカの裁判所における民事訴訟手続の流れと日本企業が直面する国際民事訴訟のリスクを理解し、説明し、そのリスクの回避策を提言できる。	
	事前学修	教科書（pp.31(8)-63）と配布資料を読み、アメリカの民事訴訟手続の流れと略式判決(Summary Judgment)、指図評決(Directed Verdict)、及び評決無視の判決(Judgment Non Obstante Veredicto)について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したアメリカの民事訴訟手続の流れ、専門用語、日本企業が直面するリスクについて、授業ノートに分類・整理する。	120分
5	【主権免除の原則】 【小テスト（第1回目）実施】	国際民事紛争では国内外の自然人や法人のほかに主権国家が被告となりうることを認識し、その際の日本やアメリカの裁判所による当該主権国家に対する裁判権の行使の可否、また、行使が可能となる場合の要件について学修する。小テスト（第1回目）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本やアメリカの裁判所における外国国家に対する裁判権の行使の要件を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書（pp.130の6-151）と配布資料を読み、日本やアメリカの裁判所における外国国家に対する裁判権の行使の可否と要件について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の1回目から4回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第1回目）のための準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本やアメリカの裁判所における外国国家に対する裁判権の行使の要件について、授業ノートに分類・整理する。	120分
6	【法廷地の選択】 【小テスト（第1回目）講評】	日本やアメリカにおける国内裁判管轄や国際裁判管轄の概念や要件の相違点、その相違に関連する法律問題、国際ビジネス契約の実務における裁判管轄条項の内容について学修する。小テスト（第1回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、法域により国内・国際裁判管轄の概念や要件が異なりうることを理解、説明できるようになり、その違いから生じる法律問題を発見し、かかる法律問題の解決策のひとつとして有効な裁判管轄条項を起草し、提言できる。	
	事前学修	教科書（pp.64-84(c)の前まで）と配布資料を読み、国内裁判管轄、国際裁判管轄、及び裁判管轄条項について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国内裁判管轄、国際裁判管轄、及び裁判管轄条項について、関連法律問題とそれへの法的対応方法と共に、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【フォーラム・ノン・コンビニエンスの法理】	アメリカにおけるフォーラム・ノン・コンビニエンスの法理について、日本の民事訴訟法下における「特別の事情」との比較において相違点を明確にし、関連する法律問題を考察し、その問題を解決する方法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、アメリカにおけるフォーラム・ノン・コンビニエンスの法理を理解し、日本の民事訴訟法下における「特別の事情」との比較において説明できるようになる。また、その相違点から生じる法律問題点を発見できる。	
	事前学修	教科書(pp. 84(c)-97)と配布資料を読み、アメリカにおけるフォーラム・ノン・コンビニエンスの法理と日本の民事訴訟法下における「特別の事情」について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したアメリカにおけるフォーラム・ノン・コンビニエンスの法理と日本の民事訴訟法下における「特別の事情」について、その相違点と関連法律問題と共に、授業ノートに分類・整理する。	120分
8	【国際訴状送達】	コモンロー法域における「私人送達主義」とシヴィルロー法域における「職権送達主義」と、その相違点から生じる関連法律問題を学修する。ヘーグ送達条約（民事又は商事に関する裁判上及び裁判外の文書の外国における送達及び告知に関する条約）10条（a）が定める直接郵送送達に対する拒否宣言の効果、条約に従わずになされた訴状の送達の扱い方について学修する（2018年12月21日に日本政府も拒否宣言を行っている）。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、コモンロー法域とシヴィルロー法域で訴状の送達の実務が異なること、国際訴状送達が条約に基づき行われることがあること、条約の下でなされなかった訴状の送達の法的問題点を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書(pp. 108(4)-117)と配布資料を読み、訴状の送達の実務がコモンロー法域とシヴィルロー法域で異なること、国際訴状送達に関する条約について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した訴状の送達におけるコモンロー法域とシヴィルロー法域での実務の相違点、国際訴状送達に関する条約、国際訴状送達に関する法律問題について、授業ノートに分類・整理する。	120分
9	【国際訴訟競合】	国内訴訟と異なり、国際訴訟では、日本と外国の裁判所で同一当事者間が訴訟を提起し、各裁判所での手続きが並行して進められるといったいわゆる国際訴訟競合の問題が発生すること、その問題から生じる関連法律問題、日本の裁判所におけるその法律問題への対応とアメリカにおける対応を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際訴訟競合とそれから生じる法律問題とそれに対する日本とアメリカの裁判所の対応について理解、説明することができる。	
	事前学修	教科書(pp. 98-108; pp. 128の5-130)と配布資料を読み、国際訴訟競合とそれから生じる法律問題、日本の裁判所におけるそれらの法律問題への対応について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際訴訟競合とそれから生じる法律問題、かかる法律問題に対する日本とアメリカの裁判所の対応について、授業ノートに分類・整理する。	120分
10	【国際証拠調べ-デポジション】 【小テスト（第2回目）実施】	「日本の訴訟のための外国にある証拠の取調べ」と「外国の訴訟のための日本にある証拠の取調べ」の有効性について条約の観点から学修する。アメリカの弁護士によるアメリカの裁判のための日本にいる証人に対して行われるデポジション（証言録取）の方法と法的問題点について学修する。 小テスト（第2回目）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際民事訴訟における証拠収集の方法と範囲を理解し、説明できるようになる。国際証拠調べにおけるアメリカの弁護士によるアメリカの訴訟のためのディスカバリ（証拠開示手続）に関して、日本で行われるデポジション（証言録取）の法的問題点を発見し、その問題への対処方法を考察し提言することができる。	
	事前学修	教科書(pp. 116(8)-117)と配布資料を読み、国際証拠調べに関する条約と日本の現状、アメリカの弁護士による日本におけるデポジション（証言録取）について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。 授業の5回目から9回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第2回目）の準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際民事訴訟における証拠収集の方法と範囲、国際証拠調べに関する法的問題点、アメリカの国際証拠調べに対する姿勢について、授業ノートに分類・整理する。	120分
11	【国際証拠調べ（続き）-アメリカ合衆国法律集第28編第1782条】 【小テスト（第2回目）講評】	国際民事訴訟における証拠収集に関連し、アメリカ合衆国法律集第28編第1782条(28 U.S.C. § 1782)の下での実務（アメリカの裁判所による外国の裁判で使用されるアメリカに所在する証拠の収集）について学修する。 小テスト（第2回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、アメリカ合衆国法律集第28編第1782条(28 U.S.C. § 1782)の解釈と同条下での実務について理解し、アメリカの国際民事訴訟への取り組みを国際証拠調べの観点から説明し、日本での国際民事訴訟における同条下での実務の便益を判断できる。	
	事前学修	教科書(前回と同様にpp. 116(8)-117)と配布資料を読み、アメリカ合衆国法律集第28編第1782条の解釈と同条下での実務について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したアメリカ合衆国法律集第28編第1782条の解釈と同条下での実務、そしてアメリカの国際民事訴訟への取り組みについて、授業ノートに分類・整理する。	120分
12	【多数当事者訴訟-クラスアクション】	アメリカにおけるクラスアクションと呼ばれる集団訴訟制度について日本との比較において学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本とアメリカの集団訴訟制度の違いについて理解、説明できるようになり、日本の企業がアメリカのクラスアクションの被告となるリスクを減じる対策について考察し、提言できる。	
	事前学修	配布資料を読み、アメリカのクラスアクションと日本の選定当事者訴訟や消費者特別特例法についてその相違点を調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した日米の集団訴訟制度の相違点と日本の企業がアメリカにおけるクラスアクションに巻き込まれるリスクを減じる方法について、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【外国判決の承認と執行】 【小テスト（第3回目）実施】	日本とアメリカと中国の裁判所における外国判決の承認と執行の要件を学修する。 小テスト（第3回目）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本とアメリカと中国の裁判所における外国判決の承認と執行の要件を理解し、説明することができる。日本における外国判決の承認と執行に関する法律問題を考察し、発見できる。かかる法律問題を解決する方法を推論し提言できる。	
	事前学修	教科書（pp. 118-128の5の前まで）と配布資料を読み、日本とアメリカと中国の裁判所における外国判決の承認と執行の要件について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。 授業の10回目から12回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第3回目）の準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本とアメリカと中国の裁判所における外国判決の承認と執行の要件、関連法律問題、その解決方法について、授業ノートに分類・整理する。	120分
14	【まとめと質疑応答】 【クラスディスカッション】 【小テスト（第3回目）講評】	1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。 小テスト（第3回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
	事前学修	教科書、配布資料、授業のノートの内容を確認し、1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートの内容を確認し、学修・討論した1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
15	【まとめと質疑応答（続き）】 【クラスディスカッション（続き）】	8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
	事前学修	教科書、配布資料、授業のノートの内容を確認し、8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分

科目名	国際民事紛争処理法Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○		

【授業の概要】
クロスボーダー（国境を越えた）ビジネスや外国の当事者との間のビジネスから発生した法的問題を解決する手段とそれに関する法と実務についての基礎的知識を学修する。授業で扱う法的争点はどれも、実際に国際的に活動する企業の代理人弁護士が必然的に直面するものであり、本科目では、主に、日本でも国をあげてその活性化が望まれている国際商事仲裁に関する法的問題点について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業の目的】 コモンロー法域（イギリス、アメリカ、香港、シンガポール等）とシヴィルロー法域（日本、中国等）における国際ビジネス紛争の解決に関する法と実務を国際仲裁を題材として学修する。

【履修条件】
民事訴訟法、外国法、法律外国語、国際関係法、国際民事紛争処理法Iを履修していることが望ましい。

【授業方法】		
各授業で発言を求められる受講生を事前を選び、教科書と配布資料(日本語・英語)を題材として、講義形式とディスカッション形式を併用し授業を進める。		
授業内小テストのフィードバックは、小テストを実施した次の授業中に行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事例問題に関する課題を与え、あらかじめ指名された各授業での発言を求められる複数の受講生を中心にディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コモンロー系諸国とシヴィルロー系諸国における国際ビジネスの紛争解決の法と実務に関する基本的知識を身に付け、説明することができる。						3	3	3	3	3			
②	コモンロー法域の法律専門用語を正確に理解・説明し、それらを使用してコミュニケーションすることができる。						3	3			3	3		
③	国際契約の一般条項において定められる紛争解決条項について問題点を発見し、起案し、客観的に自己の見解を系統立てて提言することができる。						3	3	3	3	3	3		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の小テストにより、到達目標①に関連する基本的知識が身についているか、及び到達目標②に関連する法律専門用語を正確に理解し適切に使用することができているかを確認する。	35	35									70
レポート等												
討論・発表等	事例について課題を与え、授業中に事前に選ばれた受講生を中心にディスカッション（討議）を行う。その中で、到達目標①②③に関連する個別行動目標が達成されたかどうかを確認する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	45	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは行った次の回の授業で講評する。討論は行ったその回に講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際取引紛争 紛争解決の基本ルール第3版』	中村 達也	敬文堂	2019	教科書	必携
『国際商取引紛争解決の法と実務 ―交渉、調停、仲裁の戦略的活用』	大貫 雅晴	同文館出版	2018	参考書	任意
『国際取引における準拠法・裁判管轄・仲裁の基礎知識』	大塚章男	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
日時：水曜日12:30-13:00場所：9号館1階ロビー備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として国際契約の実務と国際民事紛争の解決に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際契約と国際民事紛争解決の実務経験に基づき、主に、アメリカと日本の紛争当事者間の国際民事紛争事案を例としてとりあげ、国際民事事件を裁判所に提訴した際に紛争当事者が直面する特別な法的及び実務的問題点に関する基礎的な知識を学修し、そのうえで、裁判に替え調停や仲裁といった裁判外紛争解決手段(ADR)を利用した際に直面する法的及び実務的問題点を検討する授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【国際裁判管轄権】 【管轄合意条項】 【国際民事紛争解決手段としての裁判制度の限界】	国際取引の契約書には、紛争が生じた場合に適用される法や当該紛争を解決する手段について予測可能性を高めるため、あらかじめ準拠法条項や管轄合意条項を設けることがある。日本とアメリカの管轄合意条項の要件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本とアメリカで管轄合意条項が有効となる要件について理解し、説明できるようになり、有効な管轄合意条項を起案し、提言できる。	
	事前学修	教科書(pp. 84(c)-97)と配布資料を読み、管轄合意と日本とアメリカの契約書における管轄合意条項の例を2つずつ探し、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した管轄合意条項の要件と例について、授業ノートに分類・整理する。	120分
2	【裁判外紛争解決手段】	裁判以外の国際民事紛争解決の手段としては、交渉、調停、仲裁がある。これらの各手段の国際ビジネスにおける特徴（長所と欠点）とは何かを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際ビジネスにおける紛争解決手段としての交渉、調停、仲裁の特徴について、理解し説明できる。	
	事前学修	教科書(pp. 1-9; pp. 152-160の(2)の前まで; pp. 167-171の(g)の前まで; pp. 235の2-245)と配布資料を読み、国際ビジネスにおける交渉、調停、仲裁の特徴について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した交渉、調停、仲裁の特徴について、授業ノートに分類・整理する。	120分
3	【ハイブリッド条項】	国際民事紛争解決の目的においては、裁判外紛争解決手段(ADR)である調停を裁判に前置したり、調停を仲裁に前置することを合意することによって、裁判や仲裁を事前に回避する紛争解決条項（ハイブリッド条項）が存在する。日本とアメリカにおけるハイブリッド条項の要件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、ハイブリッド条項の種類と要件について理解し、説明できるようになり、有効なハイブリッド条項を起案し、提言できる。	
	事前学修	到達目標の①②③に関連して、教科書(pp. 160(2)-190の(3)の前まで)と配布資料を読み、ハイブリッド条項について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したハイブリッド条項の種類と要件について、授業ノートに分類・整理する。	120分
4	【ハイブリッド条項（続き）】	シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書(前回と同様にpp. 160(2)-190の(3)の前まで)と配布資料を読み、シヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したシヴィルロー法域のアジア諸国におけるハイブリッド条項の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
5	【世界の国際仲裁制度の動向】 【小テスト（第1回目）実施】	世界の著名な国際仲裁機関における国際商事仲裁の件数を概観し、日本、中国、香港、シンガポール、韓国、欧米における国際仲裁の利用の動向を学修する。小テスト（第1回目）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際仲裁の利用について中国、香港、シンガポール、韓国、欧米の動向を考察し、それとの比較において日本の現状を理解し、説明できるようになる。また、自らが考えるかかる日本の現状の理由について、グループディスカッションをとおしてコミュニケートし発信することができる。	
	事前学修	これまでにあった教科書と配布資料を読み、日本、中国、香港、シンガポール、韓国、欧米における国際仲裁の利用の動向とその背景について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の1回目から4回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第1回目）のための準備をする。	120分
	事後学修	これまでにあった教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した諸外国との比較における日本の国際仲裁の利用の動向とその理由について、授業ノートに分類・整理する。	120分
6	【国際仲裁合意の効力】 【小テスト（第1回目）講評】	日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について学修する。小テスト（第1回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について理解し、その違いを説明できる。	
	事前学修	配布資料を読み、日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本とアメリカの国際仲裁における仲裁合意の効力の範囲について、授業ノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【国際仲裁に関する専門用語】		Arbitration Agreement, Submission Agreement, Severability, Arbitrability, Kompetenz-Kompetenz, Arbitration Award, functus officio等の仲裁関連の専門用語の意味を理解し、それらが使用される実務での場面を認識する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、仲裁関連の専門用語の意味を英語と日本語で理解し説明できる。		
	事前学修	配布資料を読み、日本とアメリカの仲裁関連の専門用語を列挙しその意味について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分	
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本とアメリカの仲裁関連の専門用語の意味について、授業ノートに分類・整理する。	120分	
8	【国際仲裁の事実審理の流れと特徴】		日本とアメリカにおける仲裁審理の流れとその特徴を対比して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、国際仲裁の事実審理の流れと特徴を日本との比較において理解し説明できる。		
	事前学修	教科書（pp. 198(4)-216の(5)の前まで）と配布資料を読み、国際仲裁の事実審理の流れとその特徴について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分	
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した国際仲裁の事実審理の流れと日本との比較におけるその特徴について、授業ノートに分類・整理する。	120分	
9	【国際仲裁条項の内容】		欠陥のある仲裁条項（pathological arbitration clause）に関する問題点を考察し、仲裁条項に記すべき内容を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、仲裁条項の欠陥とその問題点を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書（p. 167）と配布資料を読み、欠陥のある仲裁条項とその問題点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分	
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した欠陥のある仲裁条項の事例と仲裁条項に記すべき内容について、授業ノートに分類・整理する。	120分	
10	【国際仲裁条項の起案】 【小テスト（第2回目）実施】		国際仲裁条項のドラフティング（起案）について学修し、グループに分かれて討論を行う。 小テスト（第2回目）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、仲裁条項に記されるべき内容の理解を深化させ、仲裁条項をドラフティング（起案）し、その起案の理由をコミュニケーションし、最終的な国際仲裁条項を提言できる。		
	事前学修	配布資料を読み、仲裁条項に記されるべき内容について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の5回目から9回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第5回目）のための準備をする。	120分	
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した仲裁条項に記されるべき内容について、授業ノートに分類・整理する。	120分	
11	【国際仲裁条項の起案（続き）】 【小テスト（第2回目）講評】		言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点をグループに分かれて討論を行う。 小テスト（第2回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点を理解し、説明し、コミュニケーションし、提言できる。		
	事前学修	配布資料を読み、言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分	
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した言語、法文化、法意識、ビジネスマナーの異なる当事者同士の間の国際仲裁条項の交渉における留意点について、授業ノートに分類・整理する。	120分	
12	【外国仲裁判断の取消】		日本、アメリカ、イギリスの裁判所において国内仲裁判断が取り消される要件を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、日本、アメリカ、イギリスの裁判所において国内仲裁判断が取り消される要件を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書（pp. 216(5)-230の(7)の前まで）と配布資料を読み、日本、アメリカ、イギリスの裁判所における国内仲裁判断の取消要件について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分	
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修した日本、アメリカ、イギリスの裁判所における国内仲裁判断の取消要件について、授業ノートに分類・整理する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【外国仲裁判断の承認と執行】 【小テスト（第3回目）実施】	外国仲裁判断の承認と執行の拒否事由についてニューヨーク条約に関連して学修する。また、外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、ニューヨーク条約における外国仲裁判断の承認と執行の拒否事由について理解し、説明できるようになる。外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所の裁判所における承認と執行の可能性について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書(前回と同様にpp. 216(5)-230の(7)の前まで)と配布資料を読み、ニューヨーク条約の内容と外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について調べ、授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。授業の10回目から12回目までに学修した内容について復習し、小テスト（第3回目）のための準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修したニューヨーク条約の内容と外国の裁判所で取り消された国内仲裁判断の日本、アメリカ、イギリス、フランス等の裁判所における承認と執行の可能性について、授業ノートに分類・整理する。	120分
14	【まとめ質疑応答】 【小テスト（第3回目）講評】	1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。 小テスト（第3回目）の講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
	事前学修	教科書と配布資料を読み、1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した1回目から7回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分
15	【まとめ（続き）】 【クラスディスカッション（続き）】	8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を学修し討論する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③に関連して、8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点理解し、説明し、コミュニケーションすることができる。	
	事前学修	教科書と配布資料を読み、8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点を授業ノートに整理し、講義内容と比較・検討できるよう準備をする。	120分
	事後学修	教科書、配布資料、授業のノートを確認し、学修・討論した8回目から13回目までの授業内容の要点及び論点並びに関連する今後の法的問題点について、授業ノートに分類・整理する。	120分

科目名	国会論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
周知の通り、わが国の国会は「国権の最高機関」として位置付けられています。しかしその実態については、ほとんどの国民に理解されているとは言い難い状況です。本講義では、前期の立法過程論に引き続き、国会について指摘される様々な特質を解説しながら、その問題と課題を多面的に検討し、国会や立法過程についての基礎的な知識を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国会の抱える諸問題や、その課題及び改革の方向性について理解します。

【履修条件】
学修効果の観点から、前期の「立法過程論」を履修していることが必要です。

【授業方法】
原則として、講義を軸に授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、授業の中に対話形式を取り入れます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、国会や立法過程に興味を持ち、メディアの報道内容を理解できるようになる。						2	2				
②	学生が、国会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。					2	2	2				
③	学生が、国会の抱える諸問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。					2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の観点から、国会や政策形成過程の特質やその問題について、十分に理解できているかを評価する。	10	30	40								80
小テスト等	到達目標②③の観点から、授業中に実施される小テストにおいて、立法過程を分析する視点が身についているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説、講評を、後日、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治 第3版	加藤秀治郎・水戸克典	慈学社出版	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室）※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	法律の立案－官僚機構		立法過程において官僚の果たす役割とその問題点について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会審議以前に官僚が果たす役割について説明することができる。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	法律の立案－審議会		審議会政治とそれが政策過程に与える影響について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、審議会政治の特徴やその問題について、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
3	法令審査		内閣法制局と衆参両院法制局の組織や役割について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、内閣法制局や両院法制局の仕組みについて理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
4	与党審査－政務調査会		自民党の政務調査会の組織、役割、課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、与党審査における政務調査会の役割を他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
5	与党審査－総務会		自民党の総務会の組織、役割、課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、総務会の組織や特徴について理解し、それを説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
6	族議員の登場とその役割		政策形成過程に大きな影響力を行使する族議員の役割、性格等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、族議員の定義を含め、その役割を理解し、説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ポスト５５年体制下の与党審査		連立政権が常態化した時代の与党審査の特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単独政権下と連立政権下で与党審査がどのように変化したのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
8	政府内手続き		事務次官等会議をはじめとした政府内手続きの特徴を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、かつて政策形成過程で大きな意味をもった事務次官等会議の特質について理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
9	政府内手続き－閣議		閣議決定の仕組みや特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、閣議決定の意味や特徴を理解し、他者に説明することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
10	予算編成と財務省の役割		わが国における予算編成の流れ、及びその特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における予算編成のプロセスや特徴を理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
11	予算編成と経済財政諮問会議		日本の財政状況に触れながら、予算編成の改革の軌跡について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの日本で行われてきた予算編成にかかわる改革の概要を理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分
12	国会における決算		国会における決算機能強化の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、軽視されがちな決算審査の意義を、参議院改革の文脈で理解することができる。		
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（２時間）		120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（２時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国会とマス・メディア	立法過程にマス・メディアの及ぼす影響について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・メディアの報道が立法過程にどのような影響を与えるのかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
14	国会改革	国会改革の歴史を振り返りながら、その可能性と限界について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの国会改革の概要を理解しつつ、その問題や限界について他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返りながら、国会の特質やその問題・課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わが国の国会及び政策形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

科目名	コミュニケーション演習Ⅰ	担当者	浅利 光昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
この演習では、取材や報道などのジャーナリズム活動の背景にあるコミュニケーション行為の理論的な基礎知識について、原典及び関連文献等を通じて学習する。具体的には「マス・コミュニケーションの効果研究」を中心に、コミュニケーション理論の周辺分野の研究・知見等も扱うことで、インターネットの普及やサービスの多様化など情報化社会におけるコミュニケーション行為の諸課題を理論的な視点から整理、学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
コミュニケーション領域の中級・上級科目及び発展科目の履修、さらには卒業論文の執筆などで必要となる先行研究の調査・探索、読解能力の深化等を通じて、コミュニケーションに係る基礎的及び専門的知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観を含めた汎用的能力として情報を取り扱う力を育成することを目的とする。 自らの調査・研究成果を他者と共有する経験を通じ、他者からの評価を謙虚に受け止め、課題の解決策を考える過程を通じて、受講生自らが積極的に問題解決に取り組み、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1、4、8

【履修条件】
特になし

【授業方法】
コミュニケーション理論を題材としたプレゼンテーションなどの演習方式による授業を行う。基本的に毎回アクションシート（A41枚程度）の提出を求め、授業中に講評・解説等のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第2回講義以降、コミュニケーション理論を紹介した推奨文献等の該当箇所に関する課題を与え、担当週の講義内でそれに基づいた報告及びディスカッション等を実施する。また、担当以外の受講生は当該報告のレジュメ等を参照の上、講義参加前に質問を用意し、講義内で質疑応答に備える。また、講義終了後には、講義内容等の整理・確認等を目的としたリアクションペーパーの提出を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代社会におけるコミュニケーション活動の理論的背景であるコミュニケーション理論の必要性を理解し、説明することができる【知識】						3	3	3				
②	コミュニケーション理論における代表的な先行研究の内容（問題意識、仮説設定、検証手法及び知見と課題等）を理解し、説明することができる【知識】						3	3	3				
③	コミュニケーション理論の代表的な先行研究の内容（問題意識、仮説設定、検証手法及び知見と課題等）を調べることができる【技能】					3		3	3				
④	コミュニケーション理論の代表的な先行研究の知見及び課題等を現代社会におけるマスメディアならびにジャーナリズム活動の諸課題に対して適切に当てはめることができる【技能】					3	3	3	3				
⑤	コミュニケーション理論の代表的な先行研究の調査・分析に関する討議に積極的に参加し、自らの意見を述べる【態度、習慣】					3					3		
⑥	コミュニケーション理論の代表的な先行研究の調査・分析に関する討議において、他社の見解も配慮しながら、自らの見解を論理的に系統立てて述べる【態度、習慣】					3					3		
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準として、到達目標①②に関わるコミュニケーション理論の基礎的及び専門的知識を正確に理解し、到達目標③④に基づく文献調査ならびに現代社会におけるマスメディア、ジャーナリズム活動における諸課題に適切に応用できているかどうかを確認する。	5	10	10	10							35
討論・発表等	第2回講義以降、コミュニケーション理論を紹介した推奨文献等の該当箇所に関する課題を与え、翌週の講義内でそれに基づいた報告及びディスカッション等を実施する。その中で、到達目標③④⑤⑥に関わる課題に適切に取り組むことができたか（論理的考察力）及び討議への積極的参加（自らの意見の論理性並びに明瞭性）、他者の意見の傾聴等が適切になされたかをチェックリストや評定尺度等に照らして評価する。	5	5	5	10	5	5					35
授業への参画度	講義中の質問や意見表明をどれだけ活発に行ったかを基準に、到達目標⑤⑥に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。					15	15					30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	15	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
第3回講義以降実施するディスカッションの最後に講評を行う。また、レポートに関する解説、講評は第15回講義で行う。なお、最終講義内で完了しなかった講評は、後日、ポータルサイト等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マス・コミュニケーション効果研究の展開〔改訂新版〕	田崎篤郎、児島和人	北樹出版	2003	教科書	推奨
マス・コミュニケーション理論 上－メディア・文化・社会	スタンリー J. バランら	新曜社	2007	参考書	任意
マス・コミュニケーション理論 下－メディア・文化・社会	スタンリー J. バランら	新曜社	2007	参考書	任意
情報メディア白書2021	電通メディア・イノベーションラボ	ダイヤモンド社	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日10:30～10:40及び12:10～12:30 授業講堂にて実施する。質問、相談等は事前にメールにてアポイントメントを取ること（メールアドレス：asari@mdri.co.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【コミュニケーション理論とは】	【コミュニケーション演習Ⅰのガイダンス】 コミュニケーション理論の外接並びに授業のテーマやねらい、授業内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献等の紹介を含め、コミュニケーション理論の学習方法や研究方法等について解説し、受講生がこの演習の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、コミュニケーション理論とはどのようなものか、また、現代社会におけるマスメディア並びにジャーナリズム活動の諸課題に対する論理的分析、考察への寄与等を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書やその他関連文献、資料等（インターネット上の情報等を含む）を参照し、コミュニケーション理論とはどのようなものかを調べ、ノート等で整理し、講義内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自らの学習計画と他の履修科目との関係について整理し、検討する。また、コミュニケーション理論とマスメディア、ジャーナリズム活動の現代的諸課題との関連性についてノートに整理し、検討する。	120分
2	【マスコミュニケーションの弾丸理論】	初期のコミュニケーション理論研究の一つであるキャントリル「火星からの侵入」の翻訳書の一部を読み、1930年代当時の米国におけるラジオ放送の位置付けと現代社会との相違を踏まえたうえで、現代社会における課題等をディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、初期のコミュニケーション理論の代表的な研究・知見である「マスコミュニケーションの弾丸理論」について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスコミュニケーションの弾丸理論」に関する先行研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、ラジオドラマ「火星からの侵入」を事例とする一連の研究（マスコミュニケーションの弾丸理論）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。講義時に提出）を作成する。	180分
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
3	【コミュニケーションの流れ研究 ①ピープルズ・チョイス／パーソナル・インフルエンス】	代表的な初期のコミュニケーション理論研究であるP. ラザーズフェルドらによる投票行動に関する研究（ピープルズ・チョイス／パーソナル・インフルエンス研究）に関する論文を閲読したうえで、一連の研究から導き出される現代社会における課題等をディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「コミュニケーションの流れ」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「コミュニケーションの流れ」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	原典、教科書（p. 20～p. 24）インターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、コミュニケーションの流れを分析した一連の研究（ピープルズ・チョイス／パーソナル・インフルエンス）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
4	【コミュニケーションの流れ ②イノベーション理論】	米国農村部における技術革新の普及過程について研究したE.M. ロジャース「イノベーションの普及過程」研究に関する論文を閲読したうえで、一連の研究から導き出された知見と現代社会の諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「イノベーション理論」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「イノベーション理論」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	原典、教科書（p. 25～p. 29）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、1950年代の米国農村部における技術革新の普及プロセスを分析した研究（イノベーション研究）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
5	【コミュニケーションの流れ ③批判とその後の展開】	「ピープルズ・チョイス」「パーソナル・インフルエンス」「イノベーションの普及過程」など、コミュニケーションの流れに関する一連の研究成果・知見を再度整理し、これらの研究成果に対する批判並びにその後の展開を踏まえたうえで、現代社会におけるコミュニケーションの多様化（インターネットの普及、サービス・デバイスの多様化等）を踏まえた関係性や今後の問題、諸課題についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「コミュニケーションの流れ」として整理された知見に対する批判やその後の展開について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「コミュニケーションの流れ」に関する諸研究の批判とその後の展開として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	「コミュニケーションの流れ」に関する一連の研究（第3回、第4回授業で実施）に関する知見を整理したうえで、教科教科書（p. 48～p. 53）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「コミュニケーションの流れ」に関する諸研究への批判並びにその後の展開を踏まえた現代社会における諸課題についてまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
6	【マスメディアの「利用と満足」研究】		Berelson (1949) “What ‘Missing the Newspaper’ Means”に代表される、ラジオや書籍、新聞等のマスメディアとの利用（視聴、聴取、閲読等）がユーザーにどのような効用（満足等）をもたらすかについてまとめたマスメディアの「利用と満足」研究の知見と現代社会の諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「マスメディアの利用と満足」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスメディアの利用と満足」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。		
	事前学修	原典、教科書（p. 29～p. 34/p. 53～p. 61）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、1940年代から1950年代にかけてメディア利用者の効用に注目した研究（「利用と満足」研究）及び諸研究への批判、その後の展開等の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分	
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分	
7	【「説得的コミュニケーション」研究】		C. I. Hovlandらによる『コミュニケーションと説得』における一連の研究成果・知見（情報の送り手／受け手による違い、コミュニケーション内容による差異など）と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「説得的コミュニケーション」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「説得的コミュニケーション」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。		
	事前学修	原典、教科書（p. 34～p. 41/p. 61～64）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、C. I. Hovlandらによる研究（コミュニケーションと説得）と諸研究に対する批判、その後の展開等の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分	
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分	
8	【認知的不協和の理論】		レオン・フェスティンガー『認知的不協和の理論 社会心理学序説』における一連の研究成果・知見と、現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題（SNSを通じた情報取得の問題、課題等）との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「認知的不協和の理論」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「認知的不協和の理論」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。		
	事前学修	ポータルシステム上で配布する各種資料及び原典、インターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、L. フェスティンガーによる「認知的不協和」に関する一連の研究成果・知見の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分	
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分	
9	【「マス・コミュニケーションの限定効果論」の確立と課題】		Klapperによる“The Effect of Mass Communication”における一連の研究成果・知見（マス・コミュニケーション効果の類型化と一般化及びその要素）と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「マスコミュニケーションの限定効果論」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスコミュニケーションの限定効果論」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。		
	事前学修	原典、教科書（p. 41～p. 46）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「マスコミュニケーションの限定効果論」に関する一連の研究成果・知見の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分	
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分	
10	【マスメディアの議題設定機能】		Maxwell e. McCombs & Donald L. Shawによる「マスメディアの議題設定機能」仮説に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「マスメディアの議題設定機能」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスメディアの議題設定機能」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。		
	事前学修	原典、教科書（p. 66～p. 75）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「マスメディアの議題設定機能」仮説の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分	
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	【マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説】	E. Noelle-Neumannによる「（マスメディアによる）沈黙の螺旋」仮説に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	原典、教科書（p. 75～p. 89）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説の概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
12	【知識ギャップ仮説】	ディチナーらによる「知識ギャップ仮説」に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「知識ギャップ仮説」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「知識ギャップ仮説」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	原典、教科書（p. 99～p. 112）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、イノベーションの普及過程を踏まえた知識ギャップ仮説に関する概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
13	【培養分析】	Gerbnerらによる一連の「培養分析」に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「培養分析」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「培養分析」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	原典、教科書（p. 112～p. 123）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「培養分析」研究の知見を踏まえたコミュニケーション研究領域への応用に関する概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
14	【メディアシステム依存理論】	Sandra J. Ball-Rokeachらによる「メディアシステム依存理論」に関する一連の研究成果・知見を踏まえたうえで、現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、「メディアシステム依存理論」として整理された知見について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、「メディアシステム依存理論」として整理された諸研究の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	原典、教科書（p. 123～p. 132）及びインターネット等を活用して収集した関連情報等を整理、熟読し、「メディアシステム依存理論」研究の知見を踏まえたコミュニケーション研究領域への応用に関する概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。	180分
	事後学修	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。	60分
15	【コミュニケーション理論研究の課題】	コミュニケーション理論に関する代表的な論文、文献等を通じて学んだ成果及び知見等を踏まえ、コミュニケーション理論研究からみた現代社会におけるインターネットとジャーナリズムの関係性、ジャーナリズム活動におけるインターネット（ソーシャルサービスを含む）の利活用に関する問題、諸課題についてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、コミュニケーション理論の課題について理解し、説明することができる。また、到達目標③④に基づき、コミュニケーション理論研究の課題の調査、整理、分析を通じて、コミュニケーション理論研究の課題に関する調査、学習の方法論を体得する。講義内のディスカッションにおいて、到達目標⑤⑥に基づく意見表明、他者の意見の傾聴等を通じて課題に対する理解を深める。	
	事前学修	教科書（p. 150～p. 163）やインターネット等を活用して収集、整理、分類した関連資料等を改めて整理や自ら作成したレポートの見直しを通じて、コミュニケーション理論の体系を考察する。併せて自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、過去のディスカッションの成果を踏まえたレポートを作成し、提出する。	220分
	事後学修	講義内でのコメント並びにポータルサイト等を通じて配信された講評等を確認する。	20分

科目名	コミュニケーションの科学A	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションの仕組みを学問的な視点からとらえ、日常的な場面で直面するコミュニケーションに関する現象や問題を分析するための基礎を学ぶ

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、コミュニケーションについての基礎的な学説やモデルを+修得したうえで、現代社会のコミュニケーションの現象を理解し、そこに学問的問題や課題を発見する力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や文献資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションの仕組みを学説的に理解し、説明することができる				1		1					
②	現代社会のコミュニケーションに関係する現象を事例として挙げることができる					1	1					
③	コミュニケーションに関係する現象に内在する問題や課題を発見することができる					1	1					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②、③が身についているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標③の問題発見する力が身についているか、レポートで評価する			10								10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション論をつかむ	辻大介・是永論・関谷	有斐閣	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	コミュニケーション論の学問的位置づけをメディアやジャーナリズムとの関係から確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーション論の学問的位置づけを説明することができる	
	事前学修	シラバスに目を通してくること。教科書の1章・Unit 1 を読んでくること。	120分
	事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	120分
2	コミュニケーションを分類する	日常的なコミュニケーションを観察し、分類することでそこから見えてくるコミュニケーションの形態を把握する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連しコミュニケーションを多角的に把握し、説明することができる	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
3	動物のコミュニケーション／人間のコミュニケーション	動物のコミュニケーションと人間のコミュニケーションとの違いを把握したうえで、文字・記号・ノンバーバルといった概念からコミュニケーションの特徴を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる)	
	事前学修	教科書・第1章・Unit 3～4 を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
4	コミュニケーションが成立するとはどういうことは？	コミュニケーションの成立する仕組みを、シンボルや他者、相互関係から把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第2章・Unit 7～9 を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
5	コミュニケーション現象の分析－ケーススタディ 1－	実際のコミュニケーション現象を扱った資料を読み、その内容の読解と小論文形式のレポートを執筆する（60分）。後半では、その資料についての解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、現時点での理解と発見の力を試す	
	事前学修	第1講～第4講までを復習する	135分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	105分
6	社会関係を調整するコミュニケーション	コミュニケーションは人間関係や社会関係を形成する。親密性、役割といった概念とともにその仕組みを把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションと人間関係、社会関係との関連を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第2章Unit10～11を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	都市空間とコミュニケーション	都市の中の匿名な空間で行われるコミュニケーションからみえてくる、距離、儀礼性を、ゴフマンの議論を通して把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションー都市ー儀礼との関連を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第2章・Unit11～12を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
8	説得のコミュニケーション	説得のコミュニケーションは社会の至る所に存在する。例えば広告、通販、詐欺等々。そうした現象に、説得のメカニズムをとらえる。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションー説得の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3章・Unit13を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
9	うわさと流言飛語	うわさや流言飛語研究の歴史は古い。その学説的な流れをおさえつつ、現代のうわさ現象を観察する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションーうわさの関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3章・Unit14を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
10	小テスト 振り返り	第6講～9講までの内容に対する小テストを行う	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションの具体的現象を説明することができる	
	事前学修	第6講～9講を復習すること	180分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
11	流行とコミュニケーション	流行現象のメカニズムや大衆消費社会のコミュニケーションと社会関係を、リースマンの議論などを介しながら把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、流行の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3・Unit15を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
12	コミュニケーションと公共性	公共性について、ハーバーマスのコミュニケーションの議論を手掛かりに検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、公共空間の構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3章・Unit16を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	広告とコミュニケーション	広告をコミュニケーションの視点からとらえ、P Rの多義性やマーケティングとがI C Tとともに連動している。この現在の状況を検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、広告とコミュニケーションの関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第4章・Unit19～20を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
14	ネットワーク空間とコミュニケーション	現在のI C Tのネットワークが編成されるなかでコミュニケーションはどのような姿を見せるのか? 「わたし」のありかとともに検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、ネットワーク社会におけるコミュニケーションに問題を発見する	
	事前学修	教科書・第4章・Unit23～24を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、コミュニケーションの現在の課題をを考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、現代社会にコミュニケーションの課題を発見することができる	
	事前学修	第1講～第14講までのノートや資料を振り返る	120分
	事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習る	90分

科目名	コミュニケーションの科学A	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションの仕組みを学問的な視点からとらえ、日常的な場面で直面するコミュニケーションに関する現象や問題を分析するための基礎を学ぶ

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、コミュニケーションについての基礎的な学説やモデルを+修得したうえで、現代社会のコミュニケーションの現象を理解し、そこに学問的問題や課題を発見する力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や文献資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションの仕組みを学説的に理解し、説明することができる				1		1					
②	現代社会のコミュニケーションに関係する現象を事例として挙げることができる					1	1					
③	コミュニケーションに関係する現象に内在する問題や課題を発見することができる					1	1					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②、③が身についているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標③の問題発見する力が身についているか、レポートで評価する			10								10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション論をつかむ	辻大介・是永論・関谷	有斐閣	2014	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	コミュニケーション論の学問的位置づけをメディアやジャーナリズムとの関係から確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーション論の学問的位置づけを説明することができる	
	事前学修	シラバスに目を通してくること。教科書の1章・Unit 1 を読んでくること。	120分
	事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	120分
2	コミュニケーションを分類する	日常的なコミュニケーションを観察し、分類することでそこから見えてくるコミュニケーションの形態を把握する	
	この回の到達目標	到達目標②に関連しコミュニケーションを多角的に把握し、説明することができる	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
3	動物のコミュニケーション／人間のコミュニケーション	動物のコミュニケーションと人間のコミュニケーションとの違いを把握したうえで、文字・記号・ノンバーバルといった概念からコミュニケーションの特徴を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる)	
	事前学修	教科書・第1章・Unit 3～4 を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
4	コミュニケーションが成立するとはどういうことは？	コミュニケーションの成立する仕組みを、シンボルや他者、相互関係から把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しコミュニケーションの仕組みを理解し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第2章・Unit 7～9 を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
5	コミュニケーション現象の分析－ケーススタディ 1－	実際のコミュニケーション現象を扱った資料を読み、その内容の読解と小論文形式のレポートを執筆する（60分）。後半では、その資料についての解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、現時点での理解と発見の力を試す	
	事前学修	第1講～第4講までを復習する	135分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	105分
6	社会関係を調整するコミュニケーション	コミュニケーションは人間関係や社会関係を形成する。親密性、役割といった概念とともにその仕組みを把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションと人間関係、社会関係との関連を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第2章Unit10～11を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	都市空間とコミュニケーション	都市の中の匿名な空間で行われるコミュニケーションからみえてくる、距離、儀礼性を、ゴフマンの議論を通して把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連し、コミュニケーションー都市ー儀礼との関連を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第2章・Unit11～12を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
8	説得のコミュニケーション	説得のコミュニケーションは社会の至る所に存在する。例えば広告、通販、詐欺等々。そうした現象に、説得のメカニズムをとらえる。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションー説得の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3章・Unit13を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
9	うわさと流言飛語	うわさや流言飛語研究の歴史は古い。その学説的な流れをおさえつつ、現代のうわさ現象を観察する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションーうわさの関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3章・Unit14を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
10	小テスト 振り返り	第6講～9講までの内容に対する小テストを行う	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、コミュニケーションの具体的現象を説明することができる	
	事前学修	第6講～9講を復習すること	180分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	90分
11	流行とコミュニケーション	流行現象のメカニズムや大衆消費社会のコミュニケーションと社会関係を、リースマンの議論などを介しながら把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、流行の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3章・Unit15を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
12	コミュニケーションと公共性	公共性について、ハーバーマスのコミュニケーションの議論を手掛かりに検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、公共空間の構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3章・Unit16を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	広告とコミュニケーション	広告をコミュニケーションの視点からとらえ、PRの多義性やマーケティングとがICTとともに連動している。この現在の状況を検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、広告とコミュニケーションの関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第4章・Unit19～20を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
14	ネットワーク空間とコミュニケーション	現在のICTのネットワークが編成されるなかでコミュニケーションはどのような姿を見せるのか?「わたし」のありかとともに検討する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、ネットワーク社会におけるコミュニケーションに問題を発見する	
	事前学修	教科書・第4章・Unit23～24を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、コミュニケーションの現在の課題をを考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連し、現代社会にコミュニケーションの課題を発見することができる	
	事前学修	第1講～第14講までのノートや資料を振り返る	120分
	事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習る	90分

科目名	コミュニケーションの科学B	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
インターネットが普及した社会におけるコミュニケーションの問題について、現代社会における若年層のコミュニケーションという観点からアプローチし、理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者自身の日常生活における経験に即しながらコミュニケーションとインターネットの問題をとらえ、そうした問題を授業内容をふまえながら、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【履修条件】
新聞学科必修科目（各自で条件を確認したうえで履修してください）

【授業方法】
指定した文献をもとに講義形式で授業を進めます。必要に応じて新聞・雑誌記事やプレゼンテーション資料を用います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションとインターネットの特徴を理解し、説明することができる				2							
②	現代社会における若年層とコミュニケーションの問題を説明できる					2						
③	コミュニケーションとインターネットの問題を自らの経験に引き付けて考察・論述できる						2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内容に関連する設問を原則として毎回提示し、到達目標①②③の観点から評価する。	10	15	25								50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身についているかを評価する。なお、レポートは2回実施する予定である。	10	15	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、レポートの解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
キャラ化する／される子どもたち―排除型社会における新たな人間像	土井隆義	岩波ブックレット	2009	教科書	必携
つながりを煽られる子どもたち―ネット依存といじめ問題を考える	土井隆義	岩波ブックレット	2014	教科書	必携
「宿命」を生きる若者たち―格差と幸福をつなぐもの	土井隆義	岩波ブックレット	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日10:00-11:00：事前にアポイントを取ってください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の概要	コミュニケーションとインターネットを学ぶ意味について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーションとインターネットの現状と問題を理解することができる	
	事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
	事後学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
2	コミュニケーション偏重の時代（1）	格差化する人間関係のなかで	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、人間関係をめぐる格差化の問題について説明することができる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	コミュニケーション偏重の時代（2）	コミュニケーション至上主義	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーション能力の問題を自身の経験をふまえながら説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	アイデンティティからキャラへ（1）	外キャラという対人関係の技法	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、日常生活の経験に引きつけて「外キャラ」を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	アイデンティティからキャラへ（2）	内キャラという絶対的な拠り所	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、自身の経験をふまえて「内キャラ」を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
6	キャラ社会のセキュリティ感覚（1）	子どもと相似化する大人の世界	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、親や教師との関係におけるフラット化を自らの経験に即して説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	キャラ社会のセキュリティ感覚（2）	子どもをキャラ化する大人たち	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、具体的な事例に基づき社会における包摂と排除を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
8	キャラ化した子どもたちの行方	閉塞化するコミュニケーション／「キャラ化」を越えて	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、閉塞化するコミュニケーションの問題を説明し、解決の道筋を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	メビウスの輪の罫り（1）	つながり過剰症候群／多様化する価値観	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、授業の内容をふまえて自身のネットを通じたつながりの実態を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	メビウスの輪の罫り（2）	自由な関係の二面性／関係不安からの依存	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、インターネットが普及した社会におけるつながり依存の問題を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	つながりの格差化（1）	新自由主義とリスク化／コミュニケーション能力	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションの格差が生じる背景を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	つながりの格差化（2）	インフラとしての友だち／「つながり力」専制の時代	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友人の数の多さが重視される理由を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「いいね！」の承認願望（1）	暴走するつながり意識／SNSでの自己承認	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、SNSを通じた承認願望の高まりの理由を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り組む	120分
14	「いいね！」の承認願望（2）	世代間ギャップの縮小／承認の耐えられない軽さ	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友だちとの関係性といじめの問題を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り組む	120分
15	常時接続を超えて	肥大する承認願望／キャラの機能／つながりの質的転換へ／ほか	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返る	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り組む	120分

科目名	コミュニケーションの科学B	担当者	平井 智尚	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
コミュニケーションとインターネットについて、現代社会における若年層のコミュニケーションという観点からアプローチし、インターネットが普及した社会におけるコミュニケーションの問題について理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者自身の日常生活の経験に即しながらコミュニケーションとインターネットの問題を考え、そうした問題を授業内容をふまえながら、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【履修条件】
新聞学科必修科目（各自で条件を確認したうえで履修してください）

【授業方法】
指定した文献をもとに講義形式で授業を進めます。必要に応じて新聞・雑誌記事やプレゼンテーション資料を用います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コミュニケーションとインターネットの特徴を理解し、説明することができる				2							
②	現代社会における若年層とコミュニケーションの問題を説明できる					2						
③	コミュニケーションとインターネットの問題を自らの経験に引き付けて考察・論述できる						2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内容に関連する設問を原則として毎回提示し、到達目標①②③の観点から評価する。	10	15	25								50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身についているかを評価する。なお、レポートは2回実施する予定である。	10	15	25								50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、レポートの解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
キャラ化する／される子どもたち―排除型社会における新たな人間像	土井隆義	岩波ブックレット	2009	教科書	必携
つながりを煽られる子どもたち―ネット依存といじめ問題を考える	土井隆義	岩波ブックレット	2014	教科書	必携
「宿命」を生きる若者たち―格差と幸福をつなぐもの	土井隆義	岩波ブックレット	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日10:00-11:00：事前にアポイントを取ってください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の概要	コミュニケーションとインターネットを学ぶ意味について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、コミュニケーションとインターネットの現状と問題を理解することができる	
	事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
	事後学修	教科書・参考書を揃え、目を通しておく	120分
2	コミュニケーション偏重の時代（1）	格差化する人間関係のなかで	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、人間関係をめぐる格差化の問題について説明することができる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	コミュニケーション偏重の時代（2）	コミュニケーション至上主義	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーション能力の問題を自身の経験をふまえながら説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	アイデンティティからキャラへ（1）	外キャラという対人関係の技法	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、日常生活の経験に引きつけて「外キャラ」を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	アイデンティティからキャラへ（2）	内キャラという絶対的な拠り所	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、自身の経験をふまえて「内キャラ」を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
6	キャラ社会のセキュリティ感覚（1）	子どもと相似化する大人の世界	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、親や教師との関係におけるフラット化を自らの経験に即して説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	キャラ社会のセキュリティ感覚（2）	子どもをキャラ化する大人たち	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、具体的な事例に基づき社会における包摂と排除を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
8	キャラ化した子どもたちの行方	閉塞化するコミュニケーション／「キャラ化」を越えて	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、閉塞化するコミュニケーションの問題を説明し、解決の道筋を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	メビウスの輪の罫り（1）	つながり過剰症候群／多様化する価値観	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、授業の内容をふまえて自身のネットを通じたつながりの実態を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	メビウスの輪の罫り（2）	自由な関係の二面性／関係不安からの依存	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、インターネットが普及した社会におけるつながり依存の問題を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	つながりの格差化（1）	新自由主義とリスク化／コミュニケーション能力	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、コミュニケーションの格差が生じる背景を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	つながりの格差化（2）	インフラとしての友だち／「つながり力」専制の時代	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友人の数の多さが重視される理由を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「いいね！」の承認願望（1）	暴走するつながり意識／SNSでの自己承認	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、SNSを通じた承認願望の高まりの理由を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
14	「いいね！」の承認願望（2）	世代間ギャップの縮小／承認の耐えられない軽さ	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、友だちとの関係性といじめの問題を説明できる	
	事前学修	教科書を読み、予習する	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分
15	常時接続を超えて	肥大する承認願望／キャラの機能／つながりの質的転換へ／ほか	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連し、本講義の個別具体目標を振り替り、一般目標を達成する	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返る	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆に取り掛かる	120分

科目名	債権法各論	担当者	蓮田 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第2章第3章第4章第5章の「契約」「事務管理」「不当利得」「不法行為」に規定された、第521条から第724条の2までが対象領域である。債権法各論の講義では、契約・不法行為といった各種債権の基本理論を学修する。具体的には、人からお金を借りた場合（消費貸借契約）や人と物の売り買いを行った場合（売買契約）といった人に対する権利、すなわち、債権について、具体的な契約類型に関する規律（債権各論）について取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権法は、債権総論・契約・事務管理・不当利得・不法行為等に項目が分けられているが、いずれも実社会において非常に重要な役割を担っている。判例や学説の基礎理論を理解することを通じて、政治・経済の仕組みや現状を分析できる論理的思考能力を養成することを目的とする。判例等を通じて、実際の社会での債権の役割を理解し、債権法の考え方を習得し、最終的に、簡単な事例問題を通じて各問題点を正確に理解し、的確に説明する能力を身に着けることを目標とする。

【履修条件】
特に指定しないが、六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式で行う。 授業計画にもあるように、まずは契約に関して講義を行い、その後、事務管理、不当利得、不法行為について講義を行う。 講義に際しては、各回レジュメを配布することを予定している。 第15回講義にて授業内試験を行い、直後に解説等を述べる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対して、どのように考えるのかを口頭で表現してもらうことを予定している。 また、場合によっては出席管理システム（レスポん）を用いて問題の投げかけに答えてもらうことがある。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						3						
②	債権法各論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						3						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②についての理解度を確認する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の小テストに関しては翌回の授業にて解説を行い、第15回講義にて実施する授業内試験に関しては直後に解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅳ 債権各論〔第4版〕有斐閣Sシリーズ	藤岡康宏 ほか	有斐閣	2019	教科書	推奨
別冊ジュリスト238号 民法判例百選Ⅱ 債権〔第8版〕	窪田充見 他編	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考	第1回授業にて説明するため、第1回授業までに準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
火曜日 14：40～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室（ ） メールアドレス：

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び契約法総論	ガイダンスとして、授業の進め方や成績評価の方法、参考文献の紹介などについて説明する。その後、契約法総論といわれる領域について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権各論の民法上の位置づけ及び契約法総論について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権各論の導入部分を読み、債権各論の民法上の位置づけ及び契約法総論について確認する。	120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、債権各論および契約法総論に関する内容を整理する。	120分
2	売買契約1	売買契約は双務・有償契約の典型的な契約であり、多くの契約関係に規定が準用される。売買契約では買主と売主間の権利義務がどのように規定されており、どのような考慮に基づくものであるか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、売買契約の要件・効果について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、売買契約がどのような契約類型であるのかについて調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
3	売買契約2	売買契約では、契約内容に適合した履行がなされない場合に関する特別な規定を設けている。基本的には買主を保護するための規定であるが、一方的に買主を保護しているわけではなく、売主の利益にも配慮がなされており、具体的な条文を踏まえながら権利関係を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、売買契約において、契約に適合した履行がなされない場合の法適用について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、担保責任について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
4	贈与契約及び貸借型契約1	一方当事者が他方当事者に無償で目的物を譲り渡す契約である贈与契約は、双方の当事者が負担を迫る契約と比して当事者の保護の在り方が異なっている。片務・無償契約の典型例である贈与契約の解説を通じ、当事者の利害関係の調整を解説する。また、物の貸し借りを目的とする契約類型である貸借型契約（消費貸借・使用貸借・質貸借）について概要を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、贈与契約の要件・効果および貸借型契約の概要について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、贈与および貸借型契約について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
5	貸借型契約2	貸借型契約である消費貸借契約と使用貸借契約について解説する。 消費貸借契約は、主として金銭を目的とした契約であるが、実社会において融資を受ける場合などが当てはまる。 使用貸借契約は、主として対価を得ることなく自己の物を貸し与える契約であるが、実社会において友人間の物の貸し借りの場合などが当てはまる。 これらの法的性質及び権利義務について具体的な事例を交え解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費貸借契約および使用貸借契約の要件・効果について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、消費貸借契約および使用貸借契約について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
6	貸借型契約3	貸借型契約である質貸借契約について解説する。 質貸借契約は、もともと借主よりも貸主に有利な契約であり、借主の権利を保護するために様々な立法や判例が成立してきた。借主と貸主の権利義務に関する解説を主として行い、自身が当事者となった際の権利義務について理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、質貸借契約の要件・効果について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、質貸借契約について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	貸借型契約4		貸借型契約である賃貸借契約の内容を修正する借地借家法の概要について解説する 賃貸借契約は、民法の特別法である借地借家法にて特別の規定が設けられている。多くは借主を保護するための規定であるが、借地借家法がどのような点で民法を修正し、借主の保護を図っているかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、賃貸借契約に関連して、借地借家法の概要について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、借地借家法が賃貸借契約に及ぼす影響について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分	
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分	
8	請負契約		請負契約は、仕事の完成を目的とするものであるが、請負契約の要件・効果等について解説するとともに、未完成の場合の対応についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、請負契約の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、請負契約について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分	
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分	
9	委任契約		委任契約は、委託した事務の適切な処理を目的とするものであるが、委任契約の要件・効果等について解説するとともに、請負契約との異同についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、委任契約の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、委任契約について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分	
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分	
10	事務管理		事務管理は、他人のために義務なくして他人の事務処理をした際に生じる債権関係であるが、合意なく債権が生じる法定債権であり、要件が抽象的であるため、具体的な事例を交えながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事務管理の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、事務管理について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分	
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分	
11	不当利得1		不当利得は、法律上の要件を満たすと債権が発生する法定債権であるが、条文自体は多くない。そのため、不当利得に関する論理的考察がなされているが、類型論に立脚して解説する。ここでは、特に侵害利得について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不当利得の概要および類型論に立脚した侵害利得の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、事務管理の概要および侵害利得について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分	
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分	
12	不当利得2		類型論に立脚して不当利得を解説する。 ここでは、特に給付利得および支出利得について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不当利得の概要および類型論に立脚した給付利得及び支出利得の要件・効果について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、給付利得及び支出利得について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分	
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	不法行為1		不法行為は条文が少ないにもかかわらず重要な項目であり、不法行為の問題点としてどのようなものがあり、どのような考察がなされているのかを解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為制度一般について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、不法行為制度一般について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
14	不法行為2		不法行為にて生じた債権は、公平の観点などから一定の制限を受けることがあり、過失相殺や損益相殺など賠償額の調整する制度について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為における過失相殺や損益相殺など賠償額の調整する制度について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、過失相殺や損益相殺など賠償額の調整する制度について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
15	授業内試験及び解説		授業内にて試験を行い、また、債権法各論の授業のまとめとなるよう試験の解説を合わせて行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験の解説等を踏まえ、試験で問われた内容及び債権各論全体の概要について理解し、説明できる。	
	事前学修	授業内にて試験を行うためこれまで学習した内容を復習する。	120分
	事後学修	債権法と他の法領域との関係を考え、債権法の役割について検討する。	120分

科目名	債権法総論	担当者	蓮田 哲也	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権法は、債権総論・契約・事務管理・不当利得・不法行為等に項目が分けられているが、いずれも実社会において非常に重要な役割を担っている。判例や学説の基礎理論を理解することを通じて、政治・経済の仕組みや現状を分析できる論理的思考能力を養成することを目的とする。判例等を通じて、実際の社会での債権の役割を理解し、債権法の考え方を習得し、最終的に、簡単な事例問題を通じて各問題点を正確に理解し、的確に説明する能力を身に着けることを目標とする。

【履修条件】
特に指定しないが、六法を持参すること。

【授業方法】		
講義形式で行う。 授業計画にもあるように、債権総論について講義を行う。 講義に際しては、各回レジュメを配布することを予定している。 第15回講義にて授業内試験を行い、直後に解説等を述べる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対して、どのように考えるのかを口頭で表現してもらうことを予定している。 また、場合によっては出席管理システム（レスポん）を用いて問題の投げかけに答えてもらうことがあ る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。							3					
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。							3					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②についての理解度を確認する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の小テストに関しては翌回の授業にて解説を行い、第15回講義にて実施する授業内試験に関しては直後に解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅲ 債権総論[第4版] 有斐閣Sシリーズ	野村豊弘 他	有斐閣	2018	教科書	推奨
別冊ジュリスト238号 民法判例百選Ⅱ 債権 [第8版]	窪田充見 他編	有斐閣	2018	参考書	推奨
債権総論 第4版	中田裕康	岩波書店	2020	教科書	任意
備考	教科書はあくまで参考であり，授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため，第1回授業開始前に準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
火曜日 14：40～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室() メールアドレス：

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス、債権の意義及び発生原因	ガイダンスとして、授業の進め方や成績評価の方法、参考文献の紹介などについて説明する。その後、債権の意義及び発生原因について講義を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権法総論の民法上の位置付け、債権の意義及び発生原因について説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書などを通じて、債権の意義及び発生原因について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
2	債権の目的と種類1	債権の目的である給付とは何かについて学ぶとともに、特定物の引渡しを目的とする債権(特定物債権)と種類物の引渡しを目的とする債権(種類債権)との相違について解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権の目的、特定物債権及び種類債権について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、債権の目的、特定物債権及び種類債権について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
3	債権の目的と種類2	金銭の支払いを目的とする債権（金銭債権）と数個の給付の中から選択によって定まる債権(選択債権)について解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金銭債権及び選択債権について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、金銭債権及び選択債権について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
4	債権の効力と債務不履行類型	債権の機能から、債権にはどのような効力が認められるのかについて解説を行うとともに、伝統的理解に即した債務不履行類型について解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権の効力と債務不履行類型について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、贈与および貸借型契約について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
5	債務不履行責任	債務不履行が生じた場合、当該債務の債務者は責任（債務不履行責任）を負うこととなるが、ここでの「責任」とは何を意味するのか、更に債務不履行責任に関連する制度について解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務不履行責任及び関連する制度について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、債務不履行責任及び関連する制度について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分
6	受領遅滞と責任財産	債務者が履行を提供しているにもかかわらず、債権者がこれを受領しないことがある（受領遅滞）。この場合、どのように処理されるのかについて解説する。その後、責任財産について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受領遅滞及び責任財産について説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて、受領遅滞及び責任財産について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。		120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	責任財産の保全1	責任財産の保全にかかる制度である債権者代位権について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権者代位権の意義、要件、効果について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権者代位権について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
8	責任財産の保全2	債権者代位権は、債務者が無資力であることが要件となっているが、場合によっては無資力でなくとも債権者代位権の行使が認められることがある（債権者代位権の転用）。この債権者代位権の転用について解説を行う。また、責任財産の保全にかかる制度である詐害行為取消権について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権者代位権の転用及び詐害行為取消権の意義、要件並びに効果について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権者代位権の転用及び詐害行為取消権について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
9	連帯債務	多数当事者の中で最も重要な概念の一つである連帯債務について、債務者が複数人存在し、かつ、連帯して債務を負っている場合にどのような影響関係があるかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連帯債務について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、連帯債務について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
10	債権譲渡	債権譲渡を活用することの利点と不都合性としてどのようなものがあるかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権譲渡の意義、要件及び効果について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権譲渡について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
11	債務引受	債務引受とは単純に債務者に代わって第三者が債務を引き受けるというものに留まるものではない。債務引受とは何を意味するのかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務引受の意義、要件及び効果について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債務引受について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
12	債権の消滅1	債権の消滅原因は種々あるが、これらについて概要を解説するとともに、最も代表的な債権消滅原因である弁済について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権消滅原因一般及び弁済について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、債権の消滅原因一般及び弁済について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	債権の消滅2		相殺は日常生活の中でも頻繁に耳にするものであるが、その法制度は複雑でありその内容などについて解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相殺について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、相殺について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
14	債権の消滅3		民法に定められている債権の消滅原因において、一見するとその相違が分かりにくいのが代物弁済と更改である。これらの違いについて解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代物弁済と更改の異同について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、代物弁済及び更改について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
15	授業内試験及び解説		授業内にて試験を行い、また、債権法各論の授業のまとめとなるよう試験の解説を合わせて行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験の解説等を踏まえ、試験で問われた内容及び債権総論全体の概要について理解し、説明できる。	
	事前学修	授業内にて試験を行うためこれまで学習した内容を復習する。	120分
	事後学修	債権総論と他の法領域との関係を考え、債権総論の役割について検討する。	120分

科目名	財政学Ⅰ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
特になし（経済学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい）。

【授業方法】
テキスト中心に講義形式の授業を行う（動画の視聴）。必要な資料は講義中に配布する。 グーグルクラスルーム、グーグルフォーム、出席管理システム（レスポん）、Yドライブを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。						2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。 場合により筆記試験を授業外課題に替えることもある。	20	20	10	20							70
小テスト等	グーグルフォーム小テストにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財政学入門	楠谷・藪下・斎藤・川又	八千代	2018	教科書	必携
備考	その他適宜、授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。 kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス・導入講義	教科書の第1章 財政の3大機能から、1 財政と、財政学の歴史を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、社会科学における財政学の位置づけを理解し、財政学を学ぶ意義を認識する。	
	事前学修	古典学派と官房学派及びその代表者について調べる。	120分
	事後学修	財政学の2大源流を説明できるようにする。	120分
2	財政と資源配分機能①	教科書の第1章から、2 財政と資源配分機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済循環と政府の財政、財政学理論の発展過程、市場の機能、市場の失敗と財政の機能（役割）との関係を学習し、受講生が財政の機能の意義について説明できるようにする。	
	事前学修	現代の財政に期待される役割を調べる。	120分
	事後学修	市場の失敗を説明できるようにする。	120分
3	財政と資源配分機能②	教科書の第1章から、2 財政と資源配分機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民間財と公共財の違いを認識し、財政の資源配分機能を説明できるようにする。	
	事前学修	公共財の概念を調べる。	120分
	事後学修	純粋公共財と準公共財を説明できるようにする。	120分
4	財政と所得再分配機能①	教科書の第1章から、3 財政と所得再分配機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、資本主義は所得不平等を前提とする社会であることを説明できるようにする。	
	事前学修	資本主義における所得の不平等の原因を調べる。	120分
	事後学修	絶対的貧困と相対的貧困を説明できるようにする。	120分
5	財政と所得再分配機能②	教科書の第1章から、3 財政と所得再分配機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、財政の所得再分配機能を説明できるようにする。	
	事前学修	所得再分配を実現している累進税と生活保護を調べる。	120分
	事後学修	ローレンツ曲線とジニ係数を説明できるようにする。	120分
6	財政と経済安定機能①	教科書の第1章から、4 財政と経済安定機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、世界大不況の原因を説明できるようにする。	
	事前学修	J. M. ケインズの経済・財政学界における業績について調べる。	120分
	事後学修	J. M. ケインズの有効需要の原理、乗数理論を説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	財政と経済安定機能②	教科書の第1章から、4 財政と経済安定機能を中心に現代財政に求められる機能を明らかにし、そして5 現代財政の課題を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、財政の経済安定機能を説明できるようにする。	
	事前学修	フィスカル・ポリシー、ビルト・イン・スタビライザーを調べる。	120分
	事後学修	フィスカル・ポリシーの目標である完全雇用を説明できるようにする。	120分
8	財政民主主義	教科書の第2章 予算制度から、1 財政民主主義の歴史と意義を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、財政民主主義の意義を説明できるようにする。	
	事前学修	財政民主主義の歴史的背景を調べる。	120分
	事後学修	戦前と戦後の日本における財政民主主義の相違を説明できるようにする。	120分
9	予算制度	教科書の第2章から、2 予算制度の概要を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、予算がどのような過程を経て成立するか、説明できるようにする。	
	事前学修	予算の種類を調べる。	120分
	事後学修	財政法の規定を確認する。	120分
10	予算原則	教科書の第2章から、3 予算原則を中心に財政民主主義との関連を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、予算原則を説明できるようにする。	
	事前学修	財政民主主義と予算原則との関係を調べる。	120分
	事後学修	伝統的予算原則と現代的予算原則の相違を調べる。	120分
11	予算制度	教科書の第2章から、4 予算制度の課題をプライマリーバランスの観点から明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、財政の役割を実現するために必要な予算制度を説明できるようにする。	
	事前学修	財政民主主義を再確認する。	120分
	事後学修	予算制度の課題を調べる。	120分
12	政府支出	教科書の第3章 政府支出の理論と実際から、1 政府支出の理論を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、政府支出（経費）の効果を説明できるようにする。	
	事前学修	ケインズの有効需要の原理、乗数理論を再確認する。	120分
	事後学修	フィスカル・ポリシーの内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	経費膨張		教科書の第3章から、2 政府支出の膨張要因を明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、経費膨張の法則を説明できるようにする。	
	事前学修	アドルフ・ワグナーの財政学界における業績を調べる。	120分
	事後学修	ピーコック、ワイズマンの経費膨張論を調べる。	120分
14	政府支出の構造		教科書の第3章から、3 政府支出の構造を明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府支出（経費）の分類を説明できるようにする。	
	事前学修	政府支出（経費）の効果（乗数効果）を再確認する。	120分
	事後学修	政府支出（経費）の分類を説明できるようにする。	120分
15	経費区分		教科書の第3章から、4 主要な経費を明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、主要経費やその他の経費区分を説明できるようにする。	
	事前学修	今年度予算の政府支出（経費）を調べる。	120分
	事後学修	主要経費の額を各年度で比較する。	120分

科目名	財政学 I	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
経済学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

【授業方法】		
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用してのオンラインによる講義。 リアクション・ペーパー提出課題、レポート提出課題をGoogleClassroomにて配信回収を行う。 定期試験（レポート課題）の解説を後日、GoogleClassroom（又はポータル・システム）にて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。							2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。							2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。							2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。 オンライン授業のため、レポート提出による評価に変更の可能性はある。	20	20	10	20							70
小テスト等	リアクションペーパーにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・試験実施後、授業内または後日GoogleClassroomを通じて解説を配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『財政学入門』	楠谷・藪下・川又・ 斉藤編著	八千代出版	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス，導入授業】		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財政学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、私たちの生活が財政と深く結びついていることを学修し、さらに、財政学の学問体系を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、「第1章 財政の三大機能」を読む。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【財政とその機能】		経済循環と政府の財政、財政学理論の発展過程、市場の機能、市場の失敗と財政の機能（役割）との関係を学習し、財政の機能の意義について説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が、財政理論の発展過程、市場の機能と失敗、市場の失敗と財政の機能の関係を理解し、財政の機能の意義について説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章の「1. 財政と財政学の歴史」「2. 財政と資源配分機能」を読み、財政とは何か、財政学の発展過程、財政の三大機能の1つである資源配分機能の意義を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、財政の三大機能のうち資源配分機能の意義を市場の失敗との関連づけて、自分なりの説明をまとめる。		120分
3	【財政の所得再分配機能】		資本主義経済における所得分配の決定メカニズム、所得格差の現状、財政の所得再分配機能を学習し、受講生が財政による所得再分配機能の意義を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、市場システムの所得分配決定メカニズム、所得格差の現状と発生原因を学習し、受講生は、財政の所得再分配機能の内容と意義を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章の「3. 財政と所得再分配機能」を読み、所得分配の現状と財政の所得再分配機能の意義を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、わが国における所得格差の推移データを参考に、格差を生じさせる原因は何か、自分なりの説明をまとめる。		120分
4	【財政の経済安定機能、現代財政の課題】 (リアク・ペーパー予定)		資本主義経済における景気循環を学習し、財政の経済安定機能の意義を学習する。また、日本の財政の現状を主要経費別分類の会計資料を基に学習し、財政の現状把握から日本の財政の抱える課題を考察し、経済安定機能と日本の財政の現状について説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、景気循環の発生に伴う弊害を学修し、財政の経済安定化機能の意義について説明できる。日本の財政が抱える問題の1つである、借金の増加を抑えるプライマリー・バランスの黒字化目標の意味を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章の「4. 財政と経済安定機能」、「5. 現代財政の課題」を読み、経済安定機能の意義と日本の財政が抱える課題について、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、財政の経済安定機能とその意義、プライマリー・バランスの黒字化目標について、自分なりの説明をまとめる。		120分
5	【予算制度1】		税や予算などの財政活動を規定する法制度、財政民主主義の考え方を学習し、どのような法制度の枠組みの中で財政が営まれることによって財政民主主義が保証されているのか考察し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、財政活動を規定する日本国憲法を初めとする各種法制度を学修し財政民主主義を理解し、財政民主主義の意義を説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章の「1. 財政民主主義」、「2. 予算制度」を読み、財政民主主義の概念、税や予算などの財政活動を規定する法制度、予算の種類を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、税や予算が法律で規定されているのはなぜかについて、自分なりの説明をまとめる。		120分
6	【予算制度2】		予算過程の仕組みを学習して、受講生はそれらを説明できる。予算作成の意義と予算編成に求められる原則について法規定との関連性を学習し、これらの意義について受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、わが国財政の予算過程の仕組みを学習して、受講生はそれらを説明できる。さらに、予算の機能（役割）及び予算編成に求められる一般原則について法規定との関連性を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章の「2. 予算制度の3）予算過程」、「3. 予算原則」を読み、予算過程の仕組みと予算原則について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、予算過程の構造、通説的予算原則の内容を整理し、予算原則の意義について自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【政府支出の理論と実際 1】 (レポート提出課題予定)		政府の支出には効率性が求められるが、どのような意味で効率的と判断されるのかを学習し、どのような条件が満たされれば、政府支出は効率性となるのか関連する経済学理論を用いて学習し、受講生が政府支出の経済的効率の意義を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、受講生が、政府支出に効率性が求められる意義を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書 第3章の「1. 政府支出の理論」を読み、政府支出に求められる経済効率の意義について考察する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、公共財の最適供給と地方分権の関係について、自分なりの説明をまとめる。	120分	
8	【政府支出の理論と実際 2】		わが国の一般会計予算における経費の分類方法、経費構造、主要経費の構造の特徴を学習し、これらを受講生が理解し説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、わが国の一般会計予算における経費の分類方法及び特徴を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書 第3章の「3. 政府支出の構造」を読み、わが国の経費の分類について考察する。	120分	
	事後学修	わが国の政府支出の構造と歴史的な移り変わり（戦中→戦後→現在）を、予算の主要経費別分類に基づいて自分なりの説明をまとめる。	120分	
9	【政府支出の理論と実際 3】		主要経費の構造の特徴を学習し、これらを受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④と関連して、受講生が、日本財政の近年における主要経費の構造の特徴を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書 第3章の「4. 主要な経費 4) その他の経費」を読み、わが国の経費の特徴と問題点について考察する。	120分	
	事後学修	財政の機能と日本財政の経費との関係について自分なりの説明をまとめる。	120分	
10	【租税の役割と租税原則】 (リアク・ペーパー予定)		租税の果たす役割、現代の租税原則について学習し、それらの意義を受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④と関連して、受講生が、租税の役割は何か、また現代の租税原則は何かを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章の「1. 税の役割と租税原則」を読み、その意義について考察する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、スミスとワグナーの租税原則の相違点を指摘し、相違点を両者の活躍した時代背景から捉え、自分なりの説明をまとめる。	120分	
11	【公平な税とは】		租税の根拠論から導かれる税負担配分の応益原則及び応能原則の意義について学習し、公平な課税を実施する際、受講生が課税には応益原則に基づくものと応能原則に基づく思想の違いがあることを説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④と関連して、受講生が、租税の根拠論から導かれる税負担配分の応益原則及び応能原則の意義を理解し、公平な課税を実施する際、課税には応益原則に基づくものと応能原則に基づく思想の違いがあることを理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章の「2. 公平な税とは 1) 応益原則と応能原則」を読み、その意義について考察する。	120分	
	事後学修	講義ノートや講義資料を確認して、消費税を応益原則と応能原則から評価考察する。	120分	
12	【累進税・比例税・逆進税／水平的公平・垂直的公平／累進税の理論的根拠】		累進税・比例税・逆進税／水平的公平・垂直的公平の各概念と累進税の理論的根拠を学習し受講生がそれらの概念を具体的に説明でき、また、累進税の理論的根拠を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、受講生が、累進税・比例税・逆進税／水平的公平・垂直的公平の各概念と累進税の理論的根拠を理解し、それらの概念を具体的に説明でき、また、累進税の理論的根拠を説明できる。		
	事前学修	教科書 第4章の「2. 公平な税とは 1) 応益原則と応能原則」を読み、累進税の理論的根拠とされる均等犠牲の理論について考察する。	120分	
	事後学修	講義ノートや講義資料を確認して、垂直的公平が累進税によって確保されることを自分なりの説明をまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【転嫁と帰着】 (レポート提出課題予定)	間接税（消費税）の転嫁と帰着を学習し、税の実際の負担が市場の状況によって異なることを考察し、受講生が、完全転嫁と部分転嫁の違いが需要の価格弾力性に起因することを説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、受講生が、間接税（消費税）の転嫁と帰着、税の実際の負担は市場の状況によって異なること、完全転嫁と部分転嫁の違いが需要の価格弾力性に起因すること、を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章の「2. 公平な税とは 2) 租税の帰着と転嫁 3) 消費税と転嫁」を読み、その意義について考察する。	120分
	事後学修	1989年に、日本が消費税を導入した際、物品税が廃止された。このような間接税の改革は経済効率の改善につながるといわれるが、この点について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	【日本の税制（所得税）】	日本の租税構造を主要国の構造と比較して日本の租税構造の特徴を学習する。さらに、わが国の所得税の仕組みと特徴について学習し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、受講生が、日本の租税構造を主要国の構造と比較して日本の租税構造の特徴を理解し、さらに、わが国の所得税の仕組みと特徴について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章の「4. 日本の租税構造」、「5. 所得税」を読み、その構造と特徴について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、わが国における所得税の特徴を税率構造、課税最低限、超過累進税などの点から自分なりの説明をまとめる。	120分
15	【日本の税制（消費税）】	わが国の消費税の仕組み及びメリット・デメリットを学習し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④と関連して、わが国の消費税の仕組み及びメリット・デメリットを理解し、受講生が説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章の「6. 消費税」を読み、その構造と特徴、租税原則、日本の財政状況、少子高齢化等を踏まえて、消費税のメリット・デメリットについて考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、租税原則、日本の財政状況、少子高齢化、格差拡大の現状等を踏まえて、消費税のメリット・デメリットについて考察する。 初回からの授業ノートや配布資料、事後学修を見直して整理する。	200分

科目名	財政学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
特になし（経済学Ⅰ、Ⅱ、財政学Ⅰを履修していることが望ましい。またマクロ経済学Ⅰ、Ⅱを履修中であることが望ましい。）

【授業方法】
テキスト中心に講義形式の授業を行う（動画の視聴）。必要な資料は講義中に配布する。 グーグルクラスルーム、グーグルフォーム、出席管理システム（レスポンス）、Yドライブを使用する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。						2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。						2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。 場合により筆記試験を授業外課題に替えることもある。	20	20	10	20							70
小テスト等	グーグルフォーム小テストにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・サイトを通じてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財政学入門	楠谷・藪下・斎藤・川又	八千代	2018	教科書	必携
備考	その他適宜、授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。 kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業ガイダンス・導入講義	教科書第4章 租税の原則と日本の税制 1 税の役割と租税原則	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税の概念と課税の正義を説明できるようにする。	
	事前学修	財政学Ⅰでとりあげた財政民主主義を調べる。	120分
	事後学修	憲法の租税に関連する条文を調べる。	120分
2	租税原則	教科書 1 税の役割と租税原則	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、スミス4原則、ワグナー4大9小原則、現代租税原則を説明できるようにする。	
	事前学修	租税が果たしている役割を調べる。	120分
	事後学修	その他の租税原則を調べる。	120分
3	公平な税	教科書 2 公平な税とは	
	この回の到達目標	到達目標①②③3④に関連して、水平的公平と垂直的公平を説明できるようにする。	
	事前学修	財政学Ⅰで言及した比例税と累進税の違いを確認する。	120分
	事後学修	公平な租税をみずから考える。	120分
4	応益原則と応能原則	教科書 2 公平な税とは 1) 応益原則と応能原則	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公平な課税といわれる累進税を犠牲説によって正当化できるようにする。	
	事前学修	経済学で学ぶ限界効用の概念を確認する。	120分
	事後学修	応益原則と応能原則を調べる。	120分
5	租税の転嫁と帰着	教科書2) 租税の転嫁と帰着	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、転嫁の種類を説明できるようにする。	
	事前学修	現代租税原則のうち中立原則を再確認する。	120分
	事後学修	前転、後転、帰着を調べる。	120分
6	租税の転嫁と帰着	教科書2) 租税の転嫁と帰着②	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、租税転嫁によってひきおこされる超過負担を説明できるようにする。	
	事前学修	経済学やミクロ経済学でとりあげられる余剰概念（消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰）を調べる。	120分
	事後学修	価格弾力性について調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	課税と経済効率	教科書 3 課税と経済効率	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、所得税と労働供給の関係を説明できるようにする。	
	事前学修	経済学やミクロ経済学でとりあげられる代替効果、所得効果を調べる。	120分
	事後学修	労働供給に影響を与えるものは何か、を調べる。	120分
8	日本の租税構造	教科書 4 日本の租税構造 5 所得税 6 消費税 7 法人税 8 資産課税	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、各租税の収入の大きさを説明できるようにする。	
	事前学修	今年度予算（歳入）を調べる。	120分
	事後学修	各租税の収入を各年度で比較する。	120分
9	公債論	教科書第5章 日本の公債問題 1 租税と公債の相違	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、租税と公債の違いを説明できるようにする。	
	事前学修	今年度予算（歳入）を調べる。	120分
	事後学修	公債残高を調べる。	120分
10	公債の現状	教科書 2 公債発行の問題 3 公債の負担 4 日本の公債発行の現状	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、財政赤字を減らす方法を説明できるようにする。	
	事前学修	公債依存度を調べる。	120分
	事後学修	プライマリー・バランスを調べる。	120分
11	社会保障財政	教科書第6章 社会保障財政 1 超高齢社会と社会保障	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、超高齢社会における財政の役割を説明できるようにする。	
	事前学修	日本の人口ピラミッドを調べる。	120分
	事後学修	日本の社会保障制度を調べる。	120分
12	社会保障制度	教科書 2 年金保険制度 3 医療保険制度と財政 4 公的扶助	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、日本の年金保険制度を説明できるようにする。	
	事前学修	財政学Ⅰでとりあげられる財政の所得再分配機能を調べる。	120分
	事後学修	積立方式と賦課方式を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	財政政策		教科書第7章 財政政策の理論 1 政府の目的 2 乗数効果と45度線分析
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、均衡国民所得の決定を説明できるようにする。	
	事前学修	財政学Ⅰでとりあげられる財政の経済安定機能を調べる。	120分
	事後学修	ケインズの有効需要の原理を調べる。	120分
14	IS曲線とLM曲線		教科書 3 IS曲線とLM曲線 4 IS-LM分析
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、IS曲線とLM曲線、クラウディングアウトを説明できるようにする。	
	事前学修	経済学及びマクロ経済学でとりあげられる流動性選好を調べる。	120分
	事後学修	IS曲線とLM曲線を自分で書いてみる。	120分
15	地方財政		教科書第8章 地方の財政問題
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、地方財政の役割を説明できるようにする。	
	事前学修	中央財政と地方財政の違いを調べる。	120分
	事後学修	地方財政の規模を調べる。	120分

科目名	財政学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。

【履修条件】
財政学Ⅰを履修していることが望ましい。経済学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

【授業方法】		
テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用してのオンラインによる講義。 リアクション・ペーパー提出課題、レポート提出課題をGoogleClassroomにて配信回収を行う。 定期試験（レポート課題）の解説を後日、GoogleClassroom（又はポータル・システム）にて配信する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。								2	2				
②	財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。								2	2				
③	財政の思想史的背景を説明することができる。								2	2				
④	財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。								2	2				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての論理的思考力が身についているかを、筆記試験により評価する。 オンラインの授業のため、レポート提出による評価に変更の可能性はある。	20	20	10	20							70
小テスト等	リアクションペーパーにより、到達目標①②④にかかわる理解が身についているかを確認する。	5	5		5							15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる理解が身についているかを評価する。				15							15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	10	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後授業内または後日ポータルシステムを通じて解説を配信する。試験の解説を後日ポータルシステムを通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『財政学入門』	楠谷・戴下・川又・ 斎藤著	八千代出版	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス，導入授業】		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財政学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、私たちの生活が財政と深く結びついていることを学修し、さらに、財政学の学問体系を理解し、説明できる。		
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、「第1章 財政の三大機能」を読み、財政機能を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	【日本の公債問題 1】		公債の定義と種類、公債の発行方法および償還方法を学習し、受講生が公債の仕組みや公債の評価を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、財源調達方法の1つである公債の特徴、種類、発行方法、償還方法を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書 第5章の「1. 公債の定義と種類」、「2. 公債の発行方法および償還方法」を読み、財源調達手段としての租税との相違、公債の種類や発行方法について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、公債発行に関するわが国の財政規定を確認し、その財政規定の根拠を、自分なりの説明をまとめる。		120分
3	【日本の公債問題 2】		公債負担の問題に関する主要学説（ケインズ派経済学、ボーエン・デービス・コップ、モディリアーニの説、中立命題）を考察し、各学説の意義と相違点を明らかにし、受講生が公債負担に関する各学説を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、税金の先取りとされる公債発行が、公債の償還に際し、世代間の負担の不公平がどのような形で生じるのか、あるいは生じないのか、関連する学説を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第5章の「3. 公債負担に関する考え方」を読み、負担に関する各学説を考察する。		120分
	事後学修	中立命題の成立可能性に関する理論的論争を参考に、自分なりの説明をまとめる。		120分
4	【日本の公債問題 3 —日本の公債累増の問題】 (リアク・ペーパー予定)		公債発行の累増によって、財政の硬直化、世代間の不公平、経済に損失をもたらす非効率率生む大きな政府、民間経済活動への阻害、わが国の財政状況を学習し、累増による問題点を考察し、受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、特に日本の財政は公債発行の累増が著しいこと。累増によって世代間負担の不公平の他にどのような問題が発生するのか理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第5章の「4. 公債累増の問題点」、「5. 日本の財政状況と公債発行の推移」を読み、わが国の公債発行残高の状況を踏まえて累増の問題点を考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、わが国の財政再建に求められることは何か、自分なりの説明をまとめる。		120分
5	【社会保障制度と財政 1】		わが国の社会保障制度の意義と財政との関連を学習し、超高齢社会の進展によって、社会保障給付費が拡大していることを学習し、制度の仕組みと意義、現状を受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、社会保障制度の内容及び社会保障制度と財政の関連を学修し、財政機能の観点から社会保障制度の意義を理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第6章の「1. 超高齢社会と社会保障」を読み、社会保障の概念と意義について考察する。		120分
	事後学修	社会保障給付費の概念と一般会計予算の社会保障関係費の概念の違いを確認し、社会保障関係費の一般会計予算に占める推移と現役世代（若年世代）の負担について、自分なりの説明をまとめる。		120分
6	【社会保障制度と財政 2 —公的年金制度と財政】		わが国の公的年金の財政制度に関する、財政方式における積立方式と賦課方式の仕組みとメリット・デメリットを学習し、わが国の財政方式の問題点について受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、わが国の公的年金の財政制度に関する、財政方式における積立方式と賦課方式の仕組みとメリット・デメリット、さらに、わが国の財政方式の問題点について受講生が理解し説明できる。		
	事前学修	教科書 第6章の「2. 年金保険制度」を読み、公的年金制度の財政方式とわが国の公的年金制度の仕組みを考察する。		150分
	事後学修	講義ノートを確認して、積立方式と賦課方式それぞれの方式の特徴について、自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【社会保障制度と財政 3 —年金財政の危機】 (レポート提出課題予定)	わが国公的年金制度の危機に伴う制度改革の経緯を学習し、受講生は制度改革の必要性和制度改革の方向を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、わが国公的年金制度の危機に伴う制度改革の経緯を学習し、受講生は制度改革の必要性和制度改革の方向を理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章の2「2）年金財政の危機」、「3）2004年度の年金改正」、「4）世代間の不公平問題と年金改革の方向」を読み、公的年金制度改革のあり方を考察する。	120分
	事後学修	講義ノート及び資料を参考して、わが国（日本）の年金改革の方向について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	【社会保障制度と財政 4 —医療保険制度と財政】	わが国の医療保険制度の概要、意義、課題について学習し、超高齢化の進展とともに厳しい財政状況にあることを学習し、説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、わが国の医療保険制度の概要、意義、課題について理解し、超高齢化の進展とともに厳しい財政状況にあることを説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章の「3. 医療保険制度と財政」を読み、医療保険制度の仕組みと現状について考察する。	120分
	事後学修	「医療保険制度の存在が、医療費を増加させる原因である」とも言われる。この点について、自分なりの説明をまとめる。	120分
9	【社会保障制度と財政 5 —公的扶助制度と財政】	公的扶助の現状、及び日本の生活保護制度の問題点を「負の所得税」の学説から学習し、生活保護制度の問題点と改革案を説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、公的扶助制度の体系、日本の生活保護制度の問題点、さらにその問題点の解消と関連する「負の所得税」の学説を理解し、説明できる。	
	事前学修	「4. 公的扶助」を読み、医療保険制度の仕組みと現状、また、公的扶助の意義と現状について考察する。ミルトン・フリードマンの「負の所得税」を考察する。	120分
	事後学修	講義ノートと配付資料を見直し、公的扶助の内容と問題点を整理する。公的扶助の予算配分の推移の特徴と要因について、自分なりの説明をまとめる。	120分
10	【財政政策の理論 1】	1. ケインズ理論と財政の経済安定化機能 2. 乗数理論 3. 経済の安定化機能 4. 財市場の均衡と貨幣市場の均衡 5. IS-LM分析と財政政策・金融政策の効果を学習し、「財政の安定化機能」に関連する理論を受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、ケインズ理論と財政の経済安定化機能、乗数理論、経済の安定化機能、財市場の均衡と貨幣市場の均衡、IS-LM分析と財政政策・金融政策の効果を理解し、「財政の安定化機能」に関連する理論を受講生が説明できる。	
	事前学修	教科書 「第7章 財政政策の理論」を読み、財政政策に関連する理論を考察する。	120分
	事後学修	1970年代半ば以降における、わが国の財政の特徴を財政政策を中心に調べ、箇条書きにしてまとめてみる。	120分
11	【財政政策の理論 2】 (リアク・ペーパー予定)	財政の安定化機能に関連して、「4. 財市場の均衡と貨幣市場の均衡」「5. IS-LM分析と財政政策・金融政策の効果」「6. 裁量的な財政政策をめぐる理論」について学習し、裁量的財政政策の効果を疑問だとする代表的な研究者の考え方を受講生が説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、財政の安定化機能に関する、財市場の均衡と貨幣市場の均衡、IS-LM分析と財政政策・金融政策の効果、裁量的な財政政策をめぐる理論について理解し、裁量的財政政策の効果を疑問だとする代表的な研究者の考え方を受講生が理解し説明できる。	
	事前学修	教科書 「第7章 財政政策の理論」を読み、財政政策に関連する理論を考察する。	120分
	事後学修	講義資料及び講義ノートを見直し、公共支出増加によるクラウドニング・アウトの発生について、IS-LM分析を用いての説明をまとめる。	120分
12	【地方の財政問題 1】	地方財政の機能の特徴、国と地方政府間財政関係、地方財政計画の役割、地方歳入の構造、地方税体系を学習し、地方財政の特徴点について説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、地方財政の機能の特徴、国と地方政府間財政関係、地方財政計画の役割、地方歳入の構造、地方税体系を理解し、地方財政の特徴点について説明できる。	
	事前学修	教科書 第8章の「1. 地方財政の課題」、「2. 地方財政の収入 1）地方の歳入構造」を読み、中央財政と地方財政の関係、地方財政の理論、地方の歳入構造を考察する。	120分
	事後学修	地方公共財の供給において民間手法を活用すべきだという意見について、自分なりの考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【地方の財政問題 2—地方税体系】	(1) 地方税の原則 (2) シャウブ税制 (3) 国と地方の課税の根拠 (4) 国税と地方税 (5) 都道府県税 (6) 市町村税 (7) 国と地方の税源配分の見直し、について学習し受講生はその内容、仕組み、意義について説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、地方税の原則、シャウブ税制、国と地方の課税の根拠、国税と地方税、都道府県税、市町村税、国と地方の税源配分の見直し、について理解し受講生はその内容、仕組み、意義について説明できる。	
	事前学修	教科書 第8章2の2) 地方税体系 (1) 地方税の原則 (2) シャウブ税制 (3) 国と地方の課税の根拠 (4) 国税と地方税 (5) 都道府県税 (6) 市町村税 (7) 国と地方の税源配分の見直し、を読み、内容と意義について考察する。	120分
	事後学修	講義資料及び講義ノートを見直し、地方財体系の特徴と問題点について、自分なりの考えをまとめる。	120分
14	【地方の財政問題 3—地方財政の制度】 (レポート提出課題予定)	普通会計と公営事業会計、目的別分類、性質別分類、経常収支比率を学習し、地方公共団体の会計制度について説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、普通会計と公営事業会計、目的別分類、性質別分類、経常収支比率を理解し、地方公共団体の会計制度について説明できる。	
	事前学修	教科書 第8章 地方の財政問題 3. 地方の歳出構造—地方公共団体の会計制度 4. 地方交付税と財政調整 5. 国庫支出金を読み、各制度の仕組みを考察する。	120分
	事後学修	特定補助金と一般補助金の違いについて説明し、地方住民の厚生水準を引き上げるためには、特定補助金を一般補助金に変えるべきとする主張について、自分なりの説明をまとめる。	120分
15	【地方の財政問題 4—地方分権の定理】	分権化の推進と関連する学説「オーツの地方分権定理」を学習して、資源配分の観点から分権化のメリットを説明できる。 ティブーの「足による投票」を学習して、資源配分の効率性の観点から分権化のメリット・デメリットを説明できる。	
	この回の到達目標	到達目標の①②④に関連して、分権化の推進と関連する学説「オーツの地方分権定理」を理解して、資源配分の観点から分権化のメリットを説明できる。さらに、ティブーの「足による投票」を理解して、資源配分の効率性の観点から分権化のメリット・デメリットを説明できる。	
	事前学修	教科書 第8章の「6. 分権化の地方財政」を読み、分権化の意味と分権化のメリット・デメリットを考察する。	120分
	事後学修	高齢化や人口減少により地方消滅が心配されているわが国において、地方分権の意義と推進策について自分なりの考えをまとめる。 初回からの授業ノートや配布資料事後学修を見直して整理する。	200分

科目名	サイバー法 I	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○		○	○

【授業の概要】
コンピュータに関する問題やインターネット上に生ずる問題を、現行法によりどのように解決することが、社会にとって妥当なのか、それでは解決できない場合はどのような解決策を講じればよいのかを考えてみる講義である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的 コンピュータやインターネットに関わる問題を特別法や現行法や条約によりいかに解決するかを学ぶ。 到達目標 コンピュータネットワークやスマートフォンを利用する際に生ずる様々な問題をどのように解決することが良いのかや、現行法上の問題点などを理解し、解決の方向性を見出せるようになること。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。 必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	1 回、2 回、インターネットを利用して、各種データベースにアクセスし、必要な情報を発見、収集することを行う。 毎回、e-GAV法令検索システムを利用して関連法令を検索、確認する。諸種の資料を検索、収集する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	インターネット、コンピュータに関する問題を解決するための知識と教養を、インターネットを活用して、補う。						4						
②	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、問題点を論理的に説明し、何を保護すべきなのかを指摘する。								4				
③	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、現に起きている問題、起こりうる問題点を指摘して、その解決方法を示す。									4			
④	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、調和を考え、調和点をインターネット上で率先して実行する。											4	
⑤	インターネット、コンピュータの利用における匿名性を指摘し、協調性のあるネットワークの利用に貢献する。												4
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義で取り上げたテーマの中からレポートの課題を決め、学期末にレポートを提出し、そのレポートにより成績を評価する。	20	20			40				10	10	100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20			40				10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回にレポート課題の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
インターネット法	松井、鈴木、山口編	有斐閣	2015年	教科書	推奨
情報ネットワークの法実務		第一法規	1999年	参考書	推奨
備考	テキストに講義で取り上げる全てのテーマに関する内容が記載されているわけではない。				

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜２・３・４限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		インターネットやコンピュータに関して、社会でどのような問題が生じているのか考えてみる。本講義で学ぶ内容に関して、講義計画、成績評価、参考文献等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット、コンピュータに関わる問題点を整理し、その問題点は本来どうあるべきかを理解し説明できる。		
	事前学修	最近話題となった、コンピュータ、インターネットに関する問題を調べておく(例えばAI)。テキスト第1章を読んでおくこと。		120分
	事後学修	コンピュータやインターネットが何をもたらすのかを考え、まとめる。		120分
2	情報の検索と収集		インターネットやコンピュータ、AIを利用し、作業効率を上げる方法を考えてみる。例えば、翻訳ソフトの利用で作業効率は向上するのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネットやコンピュータの利用がもたらすメリット、デメリットを理解し説明できる。		
	事前学修	コンピュータやインターネットを利用した1日の有効利用を考える。利用できるデータベースシステムを検索する。		120分
	事後学修	講義内容からコンピュータやインターネットを利用して1日の有効利用法を考え、試す。図書館のデータベースを利用する。ネット上の翻訳ソフトを使用する。e-GOV法令検索を利用する。		120分
3	インターネット上の人権侵害		インターネット上に情報を発信する際に、人権侵害がなされる理由とその侵害予防と救済について考える。例、「ガラケー女 デマ投稿の市議」(2019/10/29朝日新聞)	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、プライバシー権や名誉毀損(刑法230条以下や)について理解し、説明できる。		
	事前学修	情報発信の意義を考えておく。テキスト第3章「インターネット上の名誉毀損・プライバシー侵害」部分を読んでおく。		120分
	事後学修	どのような場合に自己の情報発信が他者の人権を侵害することになるのか説明できるようにまとめる。		120分
4	バイオメトリクス(画像検索エンジン)		バイオメトリクス認証システムを利用した社会のメリット、デメリットとプライバシーの保護を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、バイオメトリクス認証について理解し、その運用により守られる利益とプライバシーの保護について説明する。		
	事前学修	生体情報とは何なのか、その収集方法どのように行われるのかを調べておく。参考書「情報ネットワークの法実務 第7章6(バイオメトリクス個人認証)」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	バイオメトリクス情報の利用とプライバシー侵害の境界線を説明できるようにまとめる。		120分
5	インターネットと表現の自由、インターネット上の差別的表現		インターネット上での、例えば、反政府活動とテロ行為の喧伝、自殺の奨励、ヘイトスピーチなどと表現の自由について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関連して、憲法上で保障されている「表現の自由」、「言論の自由」に対する規制が可能か否か、メディアの違いにより規制の強弱が可能か否かなどを理解し、的確に説明する。		
	事前学修	表現の自由の概念を理解しておくこと。テキスト第6章「インターネット上の差別的表現・ヘイトスピーチ」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	表現に対する制限の基準を正しく説明できるようにまとめる。		120分
6	プロバイダーの責任		人権侵害、名誉毀損、違法行為のサイトに関してインターネットサービスプロバイダーはどのように対処しなければならないのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、プロバイダー責任制限法との関係を理解し、プロバイダーの行為、責任を説明する。		
	事前学修	違法なウェブサイトとはどのようなものか調べておく。第12章「サービス・プロバイダーの責任と発信者開示」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	プロバイダーの責任と人の権利に対する制限の境界線を理解し、説明できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	電子メールの盗み読み		企業による従業員の監視行為としての企業メールサーバの監視行為や、個人による個人が使用するメールサーバに保存あるいは個人の所有する機器に保存されたメールの閲覧は許されるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、通信の秘密、信書開披罪(刑法133条)を基にして、メールの無断閲覧について理解し、的確に説明する。		
	事前学修	他人の電子メールを読む方法を調べておく。参考書「情報ネットワークの法実務第7章15(IT機器を利用した従業員の監視の在り方)」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	電子メールと信書の違いを説明し、電子メールを監視することの適法性を説明できるようにまとめる。		120分
8	不正アクセス禁止法の問題点		大学のパソコンを利用する為のIDとパスワードを学生(A)友人(B)に教え、その友人(B)に大学のパソコンを利用させる行為や、その友人(B)が友人(C)に学生(A)のID、パスワードを教え、大学のパソコンを使わせる行為は許されるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不正アクセス禁止法と、パソコンの利用規約を正しく理解し、不正アクセス行為、規約違反について説明する。		
	事前学修	大学のコンピュータの利用の為のID、PWを友達に教えたらどうなるのか。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	同一の条約に基づく方でありながらドイツ法と日本法では客体に違いがあること等をまとめる。		120分
9	不正指令電磁的記録作成供用罪(刑165条の2)		コンピュータウイルスは不正指令電磁的記録の一つであるが、プログラムやアプリの自動アップデートでプログラム、アプリが正常に機能しなくなった場合には、そのアップデートプログラムは不正指令電磁的記録なのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不正指令電磁的記録の意義を正しく理解して、成立要件を的確に説明できる。		
	事前学修	パソコンの自動アッププログラムはウイルスソフトには該当しないのか確認する。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	「クッキー」に対する欧州と我が国の捉え方の違い等、不正指令概念の不正確さを理解し説明できるようにまとめる。		120分
10	携帯電話(スマホ)の譲渡		スマートフォンを他人に自由に譲渡した場合に起こるべき問題を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、携帯電話やスマートフォンの譲渡の際に生じる問題を理解し、なぜ規制があるのかを的確に説明する。		
	事前学修	携帯電話不正利用防止法を確認しておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第8章26(携帯電話不正利用防止法の概要)」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	今日ではチップの譲渡が対象となること、本人確認の方法という観点から問題点を指摘できるようまとめる。		120分
11	ブロッキングとフィルタリング		未成年者が携帯電話を使用する際にフィルタリングの契約を求められる理由について、青少年保護条例に規定される「有害図書」に関する規制と対比して考える。さらに、ブロッキングの根拠について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フィルタリングによる青少年の保護について理解し、ブロッキングの危険性と児童の保護について理解し、規制の範囲と合法性についての的確に説明する。		
	事前学修	青少年保護条例による有害図書の指定とは何かを調べておく。テキスト第5章「インターネット上での青少年の保護」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	フィルタリングとブロッキングの違いを理解して説明できるようまとめる。		120分
12	リベンジポルノ、名誉毀損		いわゆるリベンジポルノ、コラージュ画像の頒布と名誉毀損について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、これらの行為の目的を理解し、被害者をどのように保護すべきかを的確に説明する。		
	事前学修	私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律の趣旨を調べておくこと。		120分
	事後学修	被害者に氏名の変更を認めるという解決方法やドイツ法のような規制と我が国の法とを比較して違いを説明できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ネット広告詐欺		ネット広告を利用した、世界で被害推計額5.5兆円といわれる広告主に対する詐欺行為(ネット広告詐欺)について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ネット広告詐欺について理解し、その規制の必要性について説明する。		
	事前学修	ネット広告詐欺について調べておく。参考書として、NHK出版新書590「暴走するネット広告」2019年6月10日を読んでもおく。		120分
	事後学修	技術の進化とインターネット上で起こる問題に対して、既存の法による解決の可能性についてまとめる。		120分
14	フェイクニュースの問題点		政治から既存のマスコミをも巻き込むフェイクニュースがもたらす影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フェイクニュースか否かを見極めるための方法を理解し、ファクトニュースを発見する方法とフェイクニュースの発信者の責任について説明する。		
	事前学修	フェイクニュースによる弊害について調べておく。さらにフェイクニュースの拡散に対する現行法による対処を考える。		120分
	事後学修	ファクトニュースとフェイクニュースの違いを知る方法を理解し、フェイクニュースの発信拡散の防止方法についてまとめる。		120分
15	今学期のレポートについての解説		今学期のレポート課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、課題に対して、的確に情報が収集し、利用し、理解し、説明し、結論を導く。		
	事前学修	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。		120分
	事後学修	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。		120分

科目名	サイバー法Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○		○	○

【授業の概要】
コンピュータに関する問題やインターネット上に生ずる問題を、現行法によりどのように解決することが、社会にとって妥当なのか、それでは解決できない場合はどのような解決策を講じればよいのかを考えてみる講義である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的 コンピュータやインターネットに関わる問題を特別法や現行法や条約によりいかに解決するかを学ぶ。 到達目標 コンピュータネットワークやスマートフォンを利用する際に生ずる様々な問題をどのように解決することが良いのかや、現行法上の問題点などを理解し、解決の方向性を見出せるようになること。 関連DP及びCP 経営法学科1, 3, 5, 7, 8

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。 必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	1回、インターネットを利用して、各種データベースにアクセスし、必要な情報を発見、収集することを行う。 毎回、e-GAV法令検索システムを利用して関連法令を検索、確認する。諸種の資料を検索、収集する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	インターネット、コンピュータに関する問題を解決するための知識と教養を、インターネットを活用して、補う。						4						
②	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、問題点を論理的に説明し、何を保護すべきなのかを指摘する。								4				
③	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、現に起きている問題、起こりうる問題点を指摘して、その解決方法を示す。									4			
④	インターネット、コンピュータに関する事象に関して、調和を考え、調和点をインターネット上で率先して実行する。											4	
⑤	インターネット、コンピュータの利用における匿名性を指摘し、協調性のあるネットワークの利用に貢献する。												4
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義で取り上げたテーマの中からレポートの課題を決め、 学期末にレポートを提出し、そのレポートにより成績を評価する。	20	20			40				10	10	100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20			40				10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】	
講義の最終回にレポート課題の解説を行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
インターネット法	松井、鈴木、山口 編	有斐閣	2015年	教科書	推奨
情報ネットワークの法実務		第一法規	1999年	参考書	推奨
備考	テキストに講義で取り上げる全てのテーマに関する内容が記載されているわけではない。				

【オフィスアワー】	
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜２・３・４限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		インターネットやコンピュータに関して、社会でどのような問題が生じているのか考えてみる。本講義で学ぶ内容に関して、講義計画、成績評価、参考文献等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット、コンピュータに関わる問題点を整理し、その問題点は本来どうあるべきかを理解し説明できる。		
	事前学修	最近話題となった、コンピュータ、インターネットに関する問題を調べておく(例えばAI)。テキスト第1章「インターネット法の発達と特色」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	コンピュータやインターネットが何をもたらすのかを自ら考え、まとめる。		120分
2	道路周辺映像サービスの問題点		道路周辺映像サービスにおける画像情報の提供とプライバシーの保護との関係を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、道路周辺映像サービスといわれる地図が提供する情報の違いを理解し、プライバシーの保護について説明する。		
	事前学修	グーグルストリートビュー事件判決(福岡地裁平23, 3, 16)を読んでおく。日本法学81巻2号「道路周辺映像サービスの問題点」(https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law81_2.pdf)を読んでおくこと。		120分
	事後学修	米国とヨーロッパの個人情報の保護の考え方の違いを理解し、説明できるようにまとめる。		120分
3	忘れられる権利(削除権)		被検索者の同意のないネット上に存在する被検索者の情報を、検索エンジンが、検索結果として表示することは許されるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、インターネットの特質(情報の拡散)と他のメディアとの違いを比較、人権侵害について理解し、検索結果表示の可否を説明する。		
	事前学修	最高裁平成29年1月31日判決、欧州裁判所2014年5月13日判決、日本法学82巻1号「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」(https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law82_1.pdf)を読んでおくこと。		120分
	事後学修	我が国とEUの個人情報の保護の相違を理解し、検索エンジンの規制の是非を説明できるようまとめる。		120分
4	コンピュータ、インターネットと詐欺		インターネット、コンピュータを利用した詐欺と、いわゆるフィッシング詐欺について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、フィッシング詐欺と刑法上の詐欺との違いを理解して、それぞれについての的確に説明する。		
	事前学修	詐欺罪(刑法246条、246条の2)の成立要件と、不正アクセス禁止法7条を確認しておくこと。テキスト第9章「インターネットと刑法」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	それぞれの詐欺について理解し、その違いを整理し正しく説明できるようにまとめる。		120分
5	国境のないインターネットと犯罪の成否		日本に住んでいるマカオの中国人(中国国籍)が、マカオでは合法的なインターネットカジノに日本からアクセスし賭博行為を行った場合、日本の賭博罪(刑法185条)を適用できるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国境のないインターネットの世界に国内法がどこまで適用できるのかを理解し、犯罪の成立について説明する。		
	事前学修	賭博罪(刑法185条)、富くじ発売等(刑法186条)の成立要件を確認する。最高裁判決昭52年12月22日を確認する。参考書「情報ネットワークの法実務12章9(国境を超える犯罪に対する刑法の適用)部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	各国の固有法の適用と、グローバルスタンダードという観点から犯罪の成否を説明できるようまとめる。(2時間)		120分
6	サイバーテロ		チェーン中華料理店の経営者を殺害すること「経済テロ」なのであろうか。テロリズムの定義を理解し、サイバーテロについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テロリズムの定義を理解し、サイバーテロについての的確に説明する。		
	事前学修	ネットワークで制御されている社会インフラにはどのようなものがあるか確認する。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材提供→サイバーテロ にある資料を読んでおくこと。		120分
	事後学修	テロの定義を正しく理解すること。社会インフラに対する攻撃のリスクを説明できるようまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。					
回数	テーマ		内 容		
7	検索エンジンサイト、プロバイダー、SNSの自主規制		検索エンジン、SNSでは、違法な発信がなされる場合があるが、検索エンジン、SNS主催者、インターネットサービスプロバイダ(ISP)が発信、通信内容に関して自主規制を行うことの是非を考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、検索エンジンサイト運営者、SNS主催者、インターネットサービスプロバイダは、発信、送信内容に関して責任を負うべきなのか否かを理解し、その責任の存否について説明する			
	事前学修	検索エンジン利用の際にブロッキングはなされているのかを調べてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→検索エンジンサイトの自主規制		にある資料を読んでおくこと。(2時間)	120分
	事後学修	検索エンジンのブロッキングと公益性、言論の自由、知る権利との関係を理解し、規制の是非を説明できるようまとめる。			120分
8	デジタル万引き		窃盗は「他人の財物を窃取する(刑法235条)」ことであるが、いわゆるデジタル万引きは、雑誌等を撮影するだけであり、雑誌等が盗まれるわけではない。それゆえ、雑誌等を撮影する行為が窃盗罪に該当するのかを考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、いわゆるデジタル万引きといわれる行為に対し適用可能な法条を発見し、その要件を理			
	事前学修	デジタル万引きが何罪に当たるのか考えてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→デジタル万引き		にある資料を読んでおくこと。	120分
	事後学修	法律の解釈方法についてよく理解し、法条の適用を論理的に説明できるようまとめる。			120分
9	ウェブサイトでの各種チケットの転売		コンサートチケットの転売とマスクの高額転売を比較し、転売の是非を考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、いわゆる「チケット不正転売禁止法」、「ダフ屋行為」について理解し、様々な物の高			
	事前学修	いわゆるダフ屋行為とはどのようなものか理解しておくこと。不正転売規制法について検索し、その趣旨を理解し		ておく。	120分
	事後学修	コンサートチケットの転売の有効な対策はあるのか、主催者側、消費者側の立場から説明できるようまとめる。			120分
10	いわゆるポケモンGOに関わる事件の法的な検証		日本で配信される前に、他国で配信され、その利用者による様々な違法な問題が起きていたアプリを、問題に対する対策をとることなく日本国内に配信し、他国と同様な問題が生じた場合の配信者の責任について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、配信後に日本国内で生じた違法な問題に対する配信者の責任を問うことができるのか否かを理			
	事前学修	公共の場所でのスマホ利用の是非を考えてみる。刑法61条、62条、未必の故意、概括的故意について刑法のテキスト		を読んでおく。	120分
	事後学修	法の解釈、適用の範囲を考え、(例えば、教唆、幫助)各法条が適用できるのか説明できるようにまとめる。			120分
11	スパムメールとワン切り		いまだに広告メール配信が配信され、スマートフォンばかりでなく固定電話にまでいわゆる「ワン切り」がかかってくることにについて考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、広告メールの規制やワン切りの規制は何を保護するために制定されているのかを理解し、			
	事前学修	いまだにスパムメールが配信されたり、ワン切りがかかってくる理由を考えてみる。参考書「情報ネットワークの法実務8章20(スパムメールの法律問題)、8章23(いわゆるワン切り対策…)		部分を読んでおくこと。(2時間)	120分
	事後学修	スパムメールやワン切りの新たな利用方法とその規制の成否を理解し、新たな視点での説明ができるようまとめる。			120分
12	防犯カメラの法規制		日本と諸外国における防犯カメラの運用と、藤沢市、ドイツDuisburg、カナダTorontoが掲げる「スマートシティ」における防犯カメラの役割について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、防犯カメラの運用方法と結果について理解し、その運用方法について説明する。			
	事前学修	杉並区防犯カメラの設置及び利用に関する条例を確認しておく。ネットに投稿される防犯カメラ映像と設置場所の		関係を把握しておく。参考書「情報ネットワークの法実務7章16(防犯カメラの法規制)部分を読んでおく。	120分
	事後学修	個人による防犯カメラの設置と撮影可能範囲の境界線を理解し、説明できるようにまとめる。			120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ビックデータの利用と保護の問題点		ネットワーク、コンピュータを利用した個人情報取得の許容範囲について考える。収集されたBigデータの利用とプライバシーの保護を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集とBigデータの利用について理解し、どのような観点から、何を保護すべきなのかを的確に説明する。		
	事前学修	情報の一局集中のメリット、デメリットを考える。テキスト11章「インターネット上の個人情報の保護」部分を読んでおく。		120分
	事後学修	経済発展を優先するのか、プライバシーを優先するのか、そのバランスは可能なのかを考えてみる。		120分
14	情報タグの利用とプライバシーの保護		RFID(radio frequency identifier)を用いた人や物の管理を行うことによる人権侵害の可能性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、RFIDタグの機能と使用方法を理解し、移動制限、追跡などに利用した場合の人権侵害の危険性について説明する。		
	事前学修	情報タグや情報機器からプライバシーが侵害される場合を考えてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→情報タグ の資料を読んでおくこと。		120分
	事後学修	配布した情報タグの目的外の使用により、プライバシーの侵害は生ずるのか考えてみる。		120分
15	今学期のレポート課題についての解説		今学期のレポート課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、課題に対して、的確に情報が収集し、利用し、理解し、説明し、結論を導く。		
	事前学修	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。		120分
	事後学修	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。		120分

科目名	財務諸表論Ⅰ	担当者	古市 雄一朗	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
会計は、公認会計士、税理士、会社の経理担当者だけが理解すればよいものではなく、企業に関わるすべての人にとって必要不可欠な知識です。例えば、投資者はどの企業の株式を購入するかという意思決定を行う際に、会計の知識が役立ちます。また就職活動などにおいても、この会社の将来はどうか、財務データからある程度読み取ることができます。そこで本授業においては、企業の仕組みや会計の役割、会計に関わる基本的概念を理解します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業における会計いわゆる「企業会計」をテーマとして、企業の作成する財務諸表（損益計算書および貸借対照表等）の背後にある会計制度の習得を目的とします。受講生が、財務諸表に記載される内容を理解し、そのように記載される根拠を説明できるようになることを到達目標とします。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。理解の確認を行うために問題演習を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会において会計情報が果たす意義を理解する。				2	2	2	2	2			
②	財務諸表が示している情報を正しく理解し、適切な分析が行える。				2	2	2	2	2			
③	財務諸表データを基に経済社会を正しく分析できるようになる。				2	2	2	2	2			
④	企業運営において、会計データを正しく取り扱えるようになる。				2	2	2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末レポートにより各到達目標に達しているかを判断し成績評価を行います。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	オンデマンド講義のため必要に応じて講義内課題を課します。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代の会計	齋藤真哉	NHK出版	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の講義後および電子メールにて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	会計の基礎的理解	社会において会計が果たす役割について説明する。また講義全体を概観し、成績評価等の講義の進め方について説明を行う。	
	この回の到達目標	会計が果たす役割について具体的なイメージを持つ。	
	事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書の各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	会計の意義	(1) 会計の意義と対象領域、(2) 会計の機能と目的、(3) 会計情報伝達の道具としての財務諸表について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計の意義について理解し、経済社会に当てはめて知識を用いる事が出来る。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
3	会計の基礎	(1) 財務会計の前提(会計公準) (2) 会計主体について考察し、解説する	
	この回の到達目標	会計公準が果たす役割について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
4	複式簿記と財務諸表の構成要素(1)	複式簿記の全体像について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計情報において簿記が果たす役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
5	複式簿記と財務諸表の構成要素(2)	前回の複式簿記の全体像について確認した上で、財務諸表の構成要素について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	実際に簡単な簿記処理が行えるようになる。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
6	損益計算と資産負債の関係(1)	(1) 財務会計におけるキャッシュフロー制約、(2) 収益費用アプローチと資産負債アプローチについて考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計における資産・負債の意義について理解し、経済社会に当てはめて知識を用いる事が出来る。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	損益計算と資産負債の関係(2)	収益費用アプローチと資産負債アプローチについて確認した上で、（１）収益の費用の計算基準、（２）資産と負債の計算基準について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	資産負債アプローチと収益費用アプローチの異同とその意義について正しく理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
8	第5章 会計制度（１）	（１）会計制度を規制する主な法律、（２）会計制度の概要、（３）会社法会計について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	日本におけるトライアングル体制の意義について正しく理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
9	第5章 会計制度（２）	金融商品取引法会計について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	証券市場において会計情報が果たす役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
10	会計制度（３）	税務会計について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計制度と法人税法の関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
11	財務諸表（１）	（１）財務諸表、（２）貸借対照表、（３）損益計算書および包括利益計算書について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	主要財務諸表間の相互の関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
12	財務諸表（２）	（１）株主資本等変動計算書、（２）キャッシュ・フロー計算書について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	財務諸表全体の体系について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会計基準（１）	企業会計原則について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計制度において企業会計原則が果たす役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
14	会計基準（２）	（１）日本版「概念フレームワーク」、（２）会計基準の適用対象について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計基準の体系全体を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
15	講義のまとめ	講義全体を振り返る	
	この回の到達目標	制度会計の基礎について復習し、定期試験に備えて知識を整理する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	講義全体の復習を行い、定期試験の準備をする。	180分

科目名	財務諸表論Ⅱ	担当者	古市 雄一朗	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
会計は、公認会計士、税理士、会社の経理担当者だけが理解すればよいものではなく、企業に関わるすべての人にとって必要不可欠な知識です。例えば、投資者はどの企業の株式を購入するかという意思決定を行う際に、会計の知識が役立ちます。また就職活動などにおいても、この会社の将来はどうか、財務データからある程度読み取ることができます。そこで本授業においては、企業の仕組みや会計の役割、会計に関わる基本的概念を理解します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業における会計いわゆる「企業会計」をテーマとして、企業の作成する財務諸表（損益計算書および貸借対照表等）の背後にある会計制度の習得を目的とします。受講生が、財務諸表に記載される内容を理解し、そのように記載される根拠を説明できるようになることを到達目標とします。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。理解の確認を行うために問題演習を行う場合があります。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会において会計情報が果たす意義を理解する。				2	2	2	2	2			
②	財務諸表が示している情報を正しく理解し、適切な分析が行える。				2	2	2	2	2			
③	財務諸表データを基に経済社会を正しく分析できるようになる。				2	2	2	2	2			
④	企業運営において、会計データを正しく取り扱えるようになる。				2	2	2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末レポートにより各到達目標に達しているかの成績評価を行います。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	オンデマンド講義のため必要に応じて講義内課題を課します。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代の会計	齋藤真哉	NHK出版	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日の講義後および電子メールにて対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	会計の基礎的理解	社会において会計が果たす役割について説明する。また講義全体を概観し、成績評価等の講義の進め方について説明を行う。	
	この回の到達目標	会計が果たす役割について具体的なイメージを持つ。	
	事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書第の各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	金融商品に関わる取引（１）	（１）金融資産・金融負債の意義と内容、（２）債権・債務について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	金融商品の会計上の特徴について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
3	金融商品に関わる取引（２）	有価証券について考察し、解説する	
	この回の到達目標	有価証券の会計上の取扱いについて理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
4	金融商品に関わる取引（３）	（１）デリバティブ（金融派生商品）、（２）ヘッジ取引について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	各種金融商品の会計上の処理について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
5	棚卸資産に関わる取引	（１）棚卸資産の意義と範囲、（２）棚卸資産の取得原価、（３）棚卸資産の費用化、（４）棚卸資産の評価について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	棚卸資産会計の意義を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
6	有形固定資産に関わる取引（２）	（１）有形固定資産の内容と意義、（２）有形固定資産の取得原価、（３）有形固定資産の減価償却について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	固定資産会計の意義について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	有形固定資産に関わる取引（２）	リース取引について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	リース会計の意義および近年の動向を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
8	有形固定資産に関わる取引（３）	（１）固定資産の減損、（２）資産除去債務について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	減損会計および資産除去債務の会計について具体的にその処理を行えるようにする。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
9	無形固定資産に関わる取引	（１）無形固定資産の意義と内容、（２）各種無形固定資産、（３）研究開発費などの会計処理について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	証券市場において会計情報が果たす役割を理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
10	引当金等に関わる取引	（１）引当金の意義と分類、（２）退職給付に係る負債について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	引当金の会計上の負債性について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
11	法人税等に関わる取引（１）	（１）法人税等の意義と会計処理、（２）税効果会計の目的と手続き、（３）一時差異等について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	会計上の利益と税務上の課税所得の関係について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
12	法人税等に関わる取引（２）	（１）資産負債法と繰延法、（２）税効果額の記録と財務諸表上の表示、（３）繰延税金資産の回収可能性と繰延税金負債の支払可能性について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	税効果会計の意義について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	純資産に関わる取引（１）	（１）純資産の意義と内容、（２）株主資本、（３）自己株式について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	企業における株主資本の意義および会計上の純資産について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
14	純資産に関わる取引（２）	（１）新株予約権、（２）評価・換算差額等について考察し、解説する。	
	この回の到達目標	純資産の部の構成要素について理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	教科書および講義ノートを用いて理解が難しい点を確認する。	120分
15	講義のまとめ	講義全体を振り返る	
	この回の到達目標	情報システムとして、会計が果たす役割について講義全体を通して理解する。	
	事前学修	前回の講義で指定した教科書の範囲を読み、専門用語について下調べを行う。	120分
	事後学修	講義全体の復習を行い、定期試験の準備をする。	180分

科目名	産学連携と知的財産 I	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
産学連携は、大学及び企業双方のポテンシャルを高めることにつながることから近年活発に行われており、また、イノベーション創出の有力な手段として積極的に推進されている。本授業では、産学連携に関する基本的な知識、産学連携における知的財産の取扱、産学連携を活性化するための政策制度等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
イノベーションの創出を目指した産学連携活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を醸成することを目的とする。より具体的には、産学連携に関する基本的な知識を習得するとともに、産学連携の意義、産学連携と知的財産との関わり、産学連携を活性化するために講じられている政策制度に関する理解を深めることにより、企業等において産学連携活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
研究の推進や技術移転などの実務に関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布するプリントに基づき講義を進める。また、レポートの提出（授業内または課外学修）を複数回求める。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケート、小テスト等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	産学連携に関する基本的な概念を説明することができる。						3	3					
②	産学連携の意義について説明することができる。							3					
③	産学連携の事例について、その成功・失敗要因を指摘することができる。									3	3		
④	産学連携における知的財産の役割及びその取扱上の留意点について説明することができる。							3					
⑤	産学連携の事例に即して知的財産取扱上の工夫や課題を指摘することができる。									3	3		
⑥	産学連携を活性化するための政策制度について説明することができる。							3					
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テスト等により，到達目標①②④⑥に関する知識と理解が身についているかを確認する。	10	15		15		10					50
レポート等	レポート等により到達目標③⑤に関する調査，分析ができているかを評価する。			25		25						50
討論・発表等												
授業への参画度	出席回数が2/3に満たない者は採点の対象とはしない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	25	15	25	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート及び小テストの結果については，内容を取りまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日13：30～14：30，事前に予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本大学の産学連携部門において，産学連携の実務に携わった。
実務経験に基づく実践的教育の内容		産学連携の現場で起こっている問題点や課題を事例を通じて授業に反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【イントロダクション，導入講義】	本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について学修する。また，産学連携の事例を通じて，本授業における産学連携の範囲について学修する。	
	この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また，到達目標①のうち，多くの産学連携活動に共通する特徴について説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。	120分
	事後学修	配布したプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。多くの産学連携活動に共通する特徴について自分なりの説明をまとめる。	120分
2	【産学連携とは何か1 産学連携に関する基本的な知識】	産学連携の定義，産学連携の形態等産学連携に関する基本的な知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，産学連携の定義，産学連携の形態等産学連携に関する基本的な知識を理解し，説明できるようになる。	
	事前学修	「産学連携とは何か」との問いに対する自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，産学連携に関する基本的な知識について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	【産学連携とは何か2 産学連携に参加するプレイヤー】	産学連携の主体は企業と大学であるが，産学連携の場には大学と企業以外の様々な立場のプレイヤーが関与する場合が多い。今回はその状況及び各プレイヤーの役割について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，産学連携活動に参加するプレイヤーについて理解を深め，説明できるようになる。	
	事前学修	性格の異なる企業と大学が協力して事業を行うときに留意すべき点について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，産学連携には企業と大学以外のプレイヤーが関与する理由について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	【産学連携とは何か3 産・学が産学連携に取り組む意義】	企業はなぜ大学と連携する必要があるのか，大学はなぜ企業と連携しようとするのか。産・学が産学連携に取り組む意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち，企業及び大学にとっての産学連携の意義を理解し，説明できるようになる。	
	事前学修	企業及び大学が産学連携に取り組む理由について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，企業及び大学が産学連携に取り組む意義について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	【産学連携とは何か4 政府が産学連携を推進する意義】	現在政府（官）は産学連携を積極的に推進している。政府が産学連携を推進する意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち，政府が産学連携を推進する意義について理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	政府が産学連携を積極的に推進する理由について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，政府が産学連携を積極的に推進する意義について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	【産学連携とは何か5 産学連携の事例1】	産学連携の成功事例について，その経緯，得られた成果，成功の要因等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③について，取り上げた産学連携の事例の成功・失敗要因及び知的財産取扱上の工夫や課題を指摘することができる。	
	事前学修	産学連携の事例を分析する際に，どのような点に注目すべきであるかについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，それぞれの事例の成功要因について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【産学連携とは何か6 産学連携の事例2】	別の産学連携の成功事例について、その経緯、得られた成果、成功の要因等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③について、取り上げた産学連携の事例の成功・失敗要因及び知的財産取扱上の工夫や課題を指摘することができる。	
	事前学修	産学連携の成功事例を見つけ、その概要を調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、それぞれの事例の成功・失敗要因及び知的財産取扱上の工夫や課題について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	【産学連携における知的財産の取扱1 産学連携における知的財産の役割】	知的財産権の取得、組織間の移転、営業秘密としての保護等知的財産の取扱が産学連携において極めて重要であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、知的財産の取扱が産学連携において極めて重要であることについて理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	知的財産に関する基本的な知識を事前学修する。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、知的財産の取扱が産学連携において極めて重要な課題であることについて自分なりの説明をまとめる。	120分
9	【産学連携における知的財産の取扱2 共同研究契約】	共同研究契約における知的財産に関する留意点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、共同研究契約における知的財産に関する留意点について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	共同研究契約を締結する際に同意しておくべき項目について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、共同研究契約を締結する際に同意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	【産学連携における知的財産の取扱3 ライセンス契約】	ライセンス契約における知的財産に関する留意点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、ライセンス契約における知的財産に関する留意点について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	ライセンス契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、ライセンス契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。	120分
11	【産学連携における知的財産の取扱4 産学連携に関するその他の契約】	秘密保持契約等産学連携に関するその他の契約に関する留意点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、産学連携に関するその他の契約における知的財産に関する留意点について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	産学連携を行うに当たり必要となるその他の契約の種類を考える。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、産学連携に関するその他の契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	【産学連携に関する政策制度1 産学連携に関する政策制度】	産学連携を推進するために講じられてきた政策制度について、それらの目的、制度の概要、実施状況等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥のうち、産学連携を推進するために講じられてきた政策制度について理解を深め、説明できるようになる。	
	事前学修	産学連携を推進ために、どのような政策制度が有効かについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、わが国において講じられてきた産学連携に関する政策制度の概要について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【産学連携に関する政策制度2 イノベーション政策における産学連携】	わが国のイノベーション政策において、産学連携がその推進方策の柱と位置付けられ、多様な政策が推進されている状況について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥のうち、産学連携がイノベーション政策推進上の重要な役割を担っていることについて理解を深め、説明することができるようになる。	
	事前学修	産学連携がどのようにしてイノベーション創出に寄与するのかについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、産学連携がどのようにしてイノベーション創出に寄与するのかについて自分なりの説明をまとめる。	120分
14	【産学連携に関する政策制度3 地域振興政策における産学連携】	わが国の地域振興政策における産学連携への取組の経緯及び近年その重要性が高まっていることについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥のうち、わが国の地域振興政策における産学連携の重要性について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	産学連携がどのようにして地域活性化に貢献するのかについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、産学連携がどのようにして地域活性化に貢献するのかについて自分なりの説明をまとめる。	120分
15	【授業のまとめ】	本授業で学修した事項に関する振り返りとまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥について、到達目標の達成状況を確認し、さらなる学修への課題を把握する。	
	事前学修	初回からの配布プリントを再読し、産学連携と知的財産について学修したことを再確認する。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、到達目標へ達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。	120分

科目名	産学連携と知的財産Ⅱ	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○		○	○			

【授業の概要】
産学連携は、大学及び企業双方のポテンシャルを高めることにつながることから近年活発に行われており、また、イノベーション創出の有力な手段として積極的に推進されている。本授業では、産学連携の現況、産学連携に伴うリスクマネジメント、産学連携の推進に向けた取組、産学連携を支える専門人材等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
イノベーションの創出を目指した産学連携活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を醸成することを目的とする。より具体的には、産学連携の現況、産学連携に伴うリスクマネジメント、産学連携の推進に向けた取組、産学連携を支える専門人材等に関する理解を深めることにより、企業等において産学連携活動に参画する能力を獲得する。

【履修条件】
産学連携と知的財産Ⅰを履修していることが望ましい。研究の推進や技術移転などの実務に関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布するプリントに基づき講義を進める。また、レポートの提出（授業内または課外）を複数回求める。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケート、小テスト等を行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	産学連携の現況について説明することができる。					3	3						
②	産学連携に伴うリスクマネジメントについて説明することができる。					3	3						
③	産学連携に伴うリスクマネジメントの事例について、工夫された点、課題等を指摘することができる。								3	3			
④	産学連携の促進に向けた取組について説明することができる。						3						
⑤	産学連携を促進するための取組事例について、工夫された点、課題等を指摘することができる。								3	3			
⑥	産学連携を支える専門人材について説明することができる。						3						
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テスト等により，到達目標①②④⑥に関する知識と理解が身についているかを確認する。	10	15		15		10					50
レポート等	レポート等により到達目標③⑤に関する調査，分析ができているかを評価する。			25		25						50
討論・発表等												
授業への参画度	出席回数が2/3に満たない者は採点の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	25	15	25	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート及び小テスト等の結果については，内容を取りまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日13：30～14：30，事前にメールで予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本大学の産学連携部門で産学連携の実務に携わった。
実務経験に基づく実践的教育の内容		産学連携の現場で起こっている問題点や課題を事例を通じて授業に反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【イントロダクション，導入講義】	本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について説明する。また，産学連携に関する基本的な知識について学修する。	
	この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また，本授業の履修の前提となる産学連携に関する基本的な知識，産学連携の意義等について理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。産学連携に関する基本的な知識，産学連携の意義等について自分なりの説明をまとめる。	120分
2	【産学連携の現況 1 大学】	大学における産学連携活動の状況，問題点と課題，対応策等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，大学における産学連携活動の状況，問題点と課題，対応策等について理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	大学が産学連携に取り組む上での問題点・課題について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，産学連携の推進に向けた大学の取組について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	【産学連携の現況 2 企業】	企業における産学連携活動の現況，問題点，課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，企業における産学連携活動の現況，問題点，課題等について理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	企業が産学連携を行う理由について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，企業における産学連携の状況について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	【産学連携の現況 3 公的研究機関】	公的研究機関における産・学との連携の現況，問題点，課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，公的研究機関における産・学との連携の現況，問題点，課題等について理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	公的研究機関が産・学との連携を促進しようとする際に課題となる点について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，公的研究機関と産・学との連携方策について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	【産学連携の現況 4 大学発ベンチャー】	大学発ベンチャーの意義，設立状況，問題点，課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち，大学発ベンチャーの意義，設立状況，問題点，課題等について理解を深め，説明することができる。	
	事前学修	最近元気な大学発ベンチャーを見つけ，その事業の概要を調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，大学発ベンチャーの意義，現況及び課題について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	【産学連携に伴うリスクマネジメント 1 利益相反マネジメント】	産学連携に伴うリスクのうち，大学内で生じることが懸念されるリスクへの対応について，利益相反マネジメントを中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち，利益相反マネジメント等大学内で生じることが懸念されるリスクへの対応について理解を深め，説明することができる。到達目標③のうち，産学連携に伴うリスクマネジメントの事例について，工夫された点，課題等を指摘することができる。	
	事前学修	産学連携に伴い大学内部で起こることが懸念されるリスク要因について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し，利益相反マネジメントについて自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【産学連携に伴うリスクマネジメント 2 不実施補償問題】		産学連携に伴うリスクのうち、産学間で生じることが懸念されるリスクへの対応について、不実施補償問題を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち、不実施補償問題等産学間で生じることが懸念されるリスクへの対応について理解を深め、説明することができる。到達目標③のうち、産学連携に伴うリスクマネジメントの事例について、工夫された点、課題等を指摘することができる。		
	事前学修	産学連携に伴い、企業と大学の間で起こることが懸念されるリスク要因について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、不実施補償問題について自分なりの説明をまとめる。		120分
8	【産学連携に伴うリスクマネジメント 3 安全保障貿易管理】		外部との人と情報の交流が活発な大学において適切な対応が求められている安全保障貿易管理への最近の対応状況について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち、安全保障貿易管理に関する最近の対応状況について理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	安全保障貿易管理について基本的な事項を事前学修する。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、安全保障貿易管理の概要及びそれへの大学の対応策について自分なりの説明をまとめる。		120分
9	【産学連携の推進に向けた取組 1 共同研究の促進】		産・学が連携して新しい知識・技術を創出する共同研究を促進するための取組について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、共同研究を促進するための取組について理解を深め、説明することができる。到達目標⑤のうち、共同研究を促進するための取組事例において工夫された点、課題等を指摘することができる。		
	事前学修	企業と大学の共同研究を実施する際に留意すべき点について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、企業と大学の共同研究を促進するための留意点及びそれに対応するための取組について自分なりの説明をまとめる。		120分
10	【産学連携の推進に向けた取組 2 技術移転の促進】		大学の発明を企業にライセンスする活動を促進するための取組について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、ライセンスを促進するための取組について理解を深め、説明することができる。到達目標⑤のうち、ライセンスを促進するための取組事例において工夫された点、課題等を指摘することができる。		
	事前学修	大学の発明を企業にライセンスする活動を促進する際に留意すべき点について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、大学の発明を企業にライセンスする活動を促進する際に留意すべき点について自分なりの説明をまとめる。		120分
11	【産学連携の推進に向けた取組 3 中小企業との連携の促進】		中小企業と大学が共同研究や技術移転を行う際の課題及びその課題を克服するために講じられている取組について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、中小企業と大学との産学連携を促進するために講じられている取組について理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	中小企業と大学との連携を促進する上で課題となる点について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、中小企業と大学との連携を促進するための方策について自分なりの説明をまとめる。		120分
12	【産学連携の推進に向けた取組 4 人材交流の促進】		産・学・官の間の研究者交流を活発にする意義及びその促進のための取組についてクロスアポイントメント制度を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、産・学・官の間の研究者交流を活発にする意義及びその促進のための取組について理解を深め、説明することができる。		
	事前学修	研究者の組織間の流動性を阻害している要因について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、クロスアポイントメント制度の意義とその促進に向けた課題について自分なりの説明をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【産学連携の推進に向けた取組5 産学連携を促進するための政策】	産学連携を促進するために、現在政府が推進している政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、わが国の産学連携政策について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	産学連携を阻害すると懸念される要因について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、産学連携を促進するための政策について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	【産学連携を支える専門人材】	産学連携を支える専門人材の現況と課題について、コーディネータ、リサーチ・アドミニストレータを中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥について、産学連携を支える専門人材の現況と課題について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	産学連携を支援し、推進するために必要なスキルについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、コーディネータ及びリサーチアドミニストレータに求められる役割及びスキルについて自分なりの説明をまとめる。	120分
15	【授業のまとめ】	本授業で学修した事項に関する振り返りととりまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥について、到達目標の達成状況を確認し、さらなる学修への課題を把握する。	
	事前学修	初回からの配布プリントを再読し、産学連携と知的財産について学修したことを再確認する。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、到達目標の達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。	120分

科目名	産業技術と知財A(情報通信)Ⅰ	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
ICT（情報通信技術）に関する研究・開発や業務経験を踏まえ、ICTの全体像やICTの中心となるコンピュータのハードウェア、ソフトウェア、およびコンテンツについて概略を述べ、コンピュータを用いたサービスやアプリケーション、ビジネス等を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報通信機器やデジタル家電など情報通信技術（ICT）を利用した装置やシステムの仕組みを知ることにより、その効率的・効果的な利用を考える力、および世の中の発展に寄与する技術について考察する力を身に付ける。

【履修条件】
ICT（情報通信技術）や情報通信サービス、コンテンツに興味があること〔予備知識は不要〕

【授業方法】		
プレゼンテーション図面（プロジェクタ投影）や配布資料による授業と質疑応答、レポートによる履修生からの質問への回答。最後の回で期末レポートの解答に対する講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容の節目となるポイントで履修生に課題を与え、次回にその解答内容についてフィードバックを行うとともに、履修生との質疑応答と意見交換を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ICTの基本構成であるコンピュータ、半導体等の基本的仕組みを理解し、説明できる。								1				
②	ICTやコンテンツ処理技術が我々の生活の中で使われる際の問題を解決し、従来サービスへの応用について工夫できる。								2	1			
③	自分自身が触れたこと、あるいは見聞したことのないICT/コンテンツの分野について、そのサービスやビジネスについて想像したり予測が出来る。									2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義の中間段階でのテストにより、それまでに学修した項目について内容の理解度を評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見・考え方が要求する基準となっているかを評価する。	30	10									40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中、講義内容について履修生に質問し、回答を求めるとともに、履修生にも質問を求め、それに回答することで、個々の履修生の参画度を上げる。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	35	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、レポート実施後の授業で、内容についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用せず、必要に応じ資料を配布。 参考書はその都度紹介。				

【オフィスアワー】
水曜日16：20～17：20 iwaki.osamu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		情報・通信企業におけるＩＣＴ関連研究開発および知的財産管理、並びに国立研究開発法人における科学技術情報提供サービス コンピュータのハードウェア・ソフトウェアやインターネットの技術的仕組みだけでなく、サービスやビジネスの現状・課題を含めた実務について理解することを実施

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ICTの基本概念	ICT、情報通信の全体像	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、ICTの基本分野における全体像について理解する。	
	事前学修	IT(Information Technology)やICT(Information Communication Technology)といった用語の意味をWeb等で調べる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
2	情報	情報の基本的概念	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、情報の基本的概念について理解する。	
	事前学修	「情報」という言葉から自分自身が思い浮かべる内容を整理する。また、自分が利用しているPCやスマートフォンの中にはどのような情報が入っているか抜き出してみる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
3	アナログ情報とデジタル情報	アナログ情報とデジタル情報の特徴と基本的相違	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、アナログ情報とデジタル情報の基本的な違いについて理解する。	
	事前学修	アナログとデジタルの相違を調べる。また、2進数とは何かを調べ、10進数の“1”から“10”までを2進数で表してみる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。特にアナログ情報とデジタル情報の相違について十分に理解する。	120分
4	コンピュータの概要	コンピュータの歴史と種類	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、コンピュータの歴史と種類について理解する。	
	事前学修	情報処理学会（国内最大の情報処理に関する学会）のホームページ「コンピュータ博物館（ http://museum.ipsj.or.jp/ ）」に目を通しておく。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
5	コンピュータハードウェア	コンピュータハードウェアの構成と動作の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、コンピュータハードウェアの基本的な構成と動作の仕組みについて理解する。	
	事前学修	自分が使用しているコンピュータ（PCやタブレット、スマートフォン等）の装置の構成要素を洗い出し、リスト化する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
6	コンピュータソフトウェア	コンピュータソフトウェアの動作の仕組みと構成	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、コンピュータソフトウェアの基本的な動作と構成について理解する。	
	事前学修	自分が使用しているPCやスマートフォンのOS（Operating System）、アプリケーションの種別を確認し、列挙する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	OSとAP	コンピュータのオペレーティングシステムとアプリケーションの種類と働き	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、OSとAPの構造や働きについて理解する。	
	事前学修	PCやスマートフォンで利用可能なアプリケーションにはどのようなものがあるか挙げてみる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。特にOSの役割について十分に理解する。	120分
8	デジタルコンテンツ	デジタルメディアとデジタルコンテンツの概要	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、デジタルメディアやデジタルコンテンツの概要と相違について理解する。	
	事前学修	PCやスマートフォン等で視聴する文書、音楽、画像、映像の情報形式を調べる。また、その容量を推測する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。特にコンテンツ・メディアに容量（情報量）があること、およびその違いについて十分に理解する。	120分
9	情報圧縮	情報圧縮とコンテンツ産業	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、情報圧縮の技術、およびデジタルコンテンツ産業の構造と問題点について理解する。	
	事前学修	コンテンツにはどのような種類があるか調べる。また、コンテンツ産業の規模やコンテンツ産業に含まれる企業にはどのようなところがあるか調査する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
10	データベース	データベースの定義と仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、データベースの概要を理解する。	
	事前学修	自分がPCやスマートフォンに保有している大量の情報（情報の種別には拘らない）の管理方法と問題点についてまとめる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。また、事前学習で抽出した問題点が授業において解決したかどうかを見直す	120分
11	DBMS	データベースマネジメントシステム（DBMS）の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、データベースマネジメントシステムの概要について理解する。	
	事前学修	サーバに格納されている同じ文書を複数のPCから編集できるようになっているとき、同時に複数の利用者がその文書を編集しようとする場合に気を付けなければならないことは何か。また、そのサーバが障害で故障する恐れがあることを考慮して準備しておく仕組みは何かについて考える。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
12	DWHとBI	データウェアハウスとビジネスインテリジェンスの概要	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、データウェアハウス（DWH）とビジネスインテリジェンス（BI）の概要について理解する。	
	事前学修	スーパーマーケットやコンビニで商品を購入したときにレジで収集する情報にはどのようなものがあるか推測する。また、自分がよく利用するこれらの店舗（あるいはそのサービス）の1日の利用者数や販売物品の種類と数量、売り上げを考える。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	CRM	カスタマリレーションシップマネジメントの概要	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、カスタマリレーションシップ（CRM）の概要について理解する。	
	事前学修	店舗が顧客に物やサービスを売るためにどのような工夫をしていると思うか、とりわけ、ICTの機能を使うとすればどのような仕組みを取り入れれば良いかを考える。	90分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習と、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	150分
14	ユビキタス	ユビキタスの概念とその応用	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ユビキタスの概要と関連するサービスやビジネスについて理解する。	
	事前学修	「ユビキタス」という言葉の由来を事前に調べ、ユビキタスという言葉を使った様々な概念をピックアップして纏める。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
15	ICTの基本分野のまとめ	ICTにおける情報、コンピュータ、コンテンツのまとめと応用分野	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、ICT分野のサービスやビジネスの課題を見付け、解決方法について考察する。	
	事前学修	今までの授業で学習した内容を復習する。	180分
	事後学修	回答したパワーポイント資料の復習	60分

科目名	産業技術と知財A(情報通信)Ⅱ	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
I C T（情報通信技術）に関する研究・開発や業務経験を踏まえ、I C Tの全体像やI C Tの中心となるコンピュータのハードウェア、ソフトウェア、およびコンテンツについて概略を述べ、コンピュータを用いたサービスやアプリケーション、ビジネス等を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報通信機器やデジタル家電など情報通信技術（I C T）を利用した装置やシステムの仕組みを知ることにより、その効率的・効果的な利用を考える力、および世の中の発展に寄与する技術について考察する力を身に付ける。

【履修条件】
I C T（情報通信技術）や情報通信サービス、コンテンツに興味があること〔予備知識は不要〕

【授業方法】		
プレゼンテーション図面（プロジェクタ投影）や配布資料による授業と質疑応答、レポートによる履修生からの質問への回答。最後の回で期末レポートの解答に対する講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容の節目となるポイントで履修生に課題を与え、次回にその解答内容についてフィードバックを行うとともに、履修生との質疑応答と意見交換を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ICTの基本構成であるコンピュータ、半導体等の基本的仕組みを理解し、説明できる。								1				
②	ICTやコンテンツ処理技術が我々の生活の中で使われる際の問題を解決し、従来サービスへの応用について工夫できる。								2	1			
③	自分自身が触れたこと、あるいは見聞したことのないICT/コンテンツの分野について、そのサービスやビジネスについて想像したり予測が出来る。									2	2		
④	ICT分野に関連した法律等について理解を深め、運用上の問題などを整理・考察する。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義の中間段階でのテストにより、それまでに学修した項目について内容の理解度を評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見・考え方が要求する基準となっているかを評価する。	20	10									30
討論・発表等												
授業への参画度	授業中、講義内容について履修生に質問し、回答を求めるとともに、履修生にも質問を求め、それに回答することで、個々の履修生の参画度を上げる。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト、レポート実施後の授業で、内容についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用せず、必要に応じ資料を配布。 参考書はその都度紹介。				

【オフィスアワー】
水曜日 16：20～17：20 iwaki.osamu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 情報・通信企業におけるＩＣＴ関連研究開発および知的財産管理、並びに国立研究開発法人における科学技術情報提供サービス
実務経験に基づく実践的教育の内容		コンピュータのハードウェア・ソフトウェアやインターネットの技術的仕組みだけでなく、サービスやビジネスの現状・課題を含めた実務について理解することを実施

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	情報通信の基本概念	情報通信の基本技術と全体像	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、情報通信の基本技術について理解する。	
	事前学修	「通信」という言葉から思い浮かべるサービスの種類、また通信を行う上で必要となる要素を抜き出してみる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
2	アナログ通信とデジタル通信	アナログ通信とデジタル通信の基本およびネットワークの概念	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、アナログ通信・デジタル通信の基本と通信ネットワークの概念について理解する。	
	事前学修	アナログ情報とデジタル情報の違いについて前期3回目の授業内容を復習する。また、世の中で「通信ネットワーク」と呼ばれるものにはどのようなものがあるか列挙する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
3	L A N	ローカルエリアネットワークの基本技術とイーサネットの成り立ちおよびサービス	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、LANの基本技術とイーサネットの成り立ちおよびサービスについて理解する。	
	事前学修	大学や企業などの中に設置されているネットワークはどのような仕組みであるか調べてみる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
4	無線 L A N	無線 L A N の基本技術とサービス	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、無線LANの基本技術とサービスについて理解する。	
	事前学修	無線 L A N にはどのような種類があるか調査する。また、WiFiという言葉の由来を調べる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
5	W A N	ワイドエリアネットワークの基本技術とサービス	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、WANの基本技術とサービスについて理解する。	
	事前学修	WANと呼ばれるものの代表的なサービスは電話であるが、電話で受話器を取ってプッシュボタンを押し、相手に繋がって話をした後に受話器を置くまで、どのようなルートを通っているか想像してみる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。また、授業で習ったW A N の以外の事例について調査する。	120分
6	モバイル通信	モバイル通信の基本技術とサービス	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、モバイル通信の基本技術とサービスについて理解する。	
	事前学修	前回の授業で学んだ電話の繋がる仕組みを参考に、携帯電話やスマートフォンを使って相手との通話やメールのやり取りをする場合の通信の仕組みについて考える。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	インターネット	インターネットの基本概	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、インターネットの基本概念について理解する。	
	事前学修	「インターネット」とは何かについて考察する。とりわけ前回学習した「モバイル」との仕組みの違いについて考える。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
8	インターネットアプリケーション	インターネットで提供されるアプリケーションの仕組みとサービス	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、インターネット上のアプリケーションの仕組みとサービスについて理解する。	
	事前学修	インターネットで提供されているサービスを思い付く限り列挙する。また、これらがサービス形態として類別化できるか検討する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
9	情報セキュリティ	情報セキュリティの概念と基本技術	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、情報セキュリティの概念と基本技術について理解する。	
	事前学修	I C T分野で近年話題となった情報セキュリティの事件に関する記事を調査する。また、自分のP Cのセキュリティ対策についてとりまとめる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
10	暗号	暗号の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、暗号の仕組みについて理解する。	
	事前学修	「暗号」という言葉から連想する内容についてまとめる。子供時代に友達同士で「暗号」を使って遊んだ経験がある履修生は、その時の暗号に必要な要素は何であったかを思い出してまとめる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
11	I C T分野の法律	I C T分野における法律の種類と概要	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、I C T分野における法律の種類と内容について理解し、適用性について考察する。	
	事前学修	I C Tに関連する法律には何があるか列挙する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
12	I C Tビジネス分野	I C Tのビジネス分野	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、I C Tのビジネス分野での課題を見付け、解決方法について考察する。	
	事前学修	I C Tに関わるビジネスの種類や産業規模、および代表的な企業について調査する。	90分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習と、これまでの授業内容に関する感想および質問項目をレポートにまとめる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	I C Tと知財	I C T分野における知財問題	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連して、I C T分野における知財問題の概要を理解し、課題解決の方法について考察する。	
	事前学修	I C Tに関わる知的財産と知的財産権にはどのようなものがあるか考える。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分
14	I C T分野のとりまとめ	情報通信の基本技術や、サービス、ビジネスに関する質問への回答と解説	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、情報通信に関わるビジネスの課題を見付け、解決方法について考察する。	
	事前学修	後期の授業の教材を復習する。	150分
	事後学修	回答したパワーポイント資料の復習	90分
15	I C Tの最新動向	I C T分野の最新動向と課題	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、I C T分野の新しいサービスやビジネスについて考察する。	
	事前学修	I C Tの最新トピックや課題をインターネット等で調べる。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習	120分

科目名	産業技術と知財B(機械・エネルギー) I	担当者	石塚 冬樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
近年、スーパー台風・豪雨・猛暑・干ばつ・巨大竜巻・記録的積雪など、地球温暖化の影響とみられる異常気象が世界的に頻発している。一方では化石燃料から再生可能エネルギーへのシフト、原発依存是非の議論、低炭素・脱炭素社会への移行などが進み、環境・エネルギー問題は現代社会の最重要課題の一つとなっている。本講義では環境・エネルギー問題の現状と課題、対応する最先端環境技術について学習し、日本そして世界の歩むべき方向性を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知財人材として必要な環境・エネルギー分野の学力の習得を目的とする。 【到達目標】 環境・エネルギー分野の諸項目についての現状と見通し、国内外の最先端環境技術の開発動向や普及課題等について、企業活動や社会・経済・外交などの動きと関連付けて理解する。また環境・エネルギー分野の知的財産を取り扱うのに必要な技術的知識を習得し、関連情報（新聞・テレビ・ネット等）をその背景を含めて理解・分析する力、さらにそのテーマについて自ら情報発信する力を身に付けることを目標とする。

【履修条件】
特になし。高校で理系科目（数学・物理・化学・生物）が習熟不足でも十分理解できるよう、「わかりやすさ」を重点に授業を行う。視覚教材（画像、ビデオ映像等）を多用することで理解を深める。

【授業方法】
各回ともパワーポイントを用いるとともに、国内外の最新動向をビデオ映像資料により紹介する。時事的テーマを取り上げた「事例研究」（＝事件・事故の分析、下欄●印の項目）により、実践的な問題分析能力の育成を図る。授業内レポートの採点・講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地球の気候変動の現状やその影響、また近未来の見通しについて説明することができる。						2	2	2			
②	原子力発電の仕組みを理解するとともに、過酷事故について説明することができる。						2	2	2			
③	ロボット技術を例として、最先端技術のあり方についての自分の意見を述べる ことができる。						2	2	2			
④	主要な公害や産業事故について、発生要因について分析し、説明することが できる。る。						2	2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題につき、理解の正確さ及び論理的思考の程度を評価する。	10	10	5	5							30
討論・発表等												
授業への参画度	各回の到達目標に達しているかを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	35	20	5	10							70
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	10	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
木曜日授業後に授業講堂で行う。メールでの相談は随時受け付ける。いつでも遠慮なく連絡されたい。メールアドレス： ishizuka.fuyukil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 シンクタンクにおいて環境・エネルギー分野の国家プロジェクト・民間プロジェクトへの参画、調査研究活動に経験多数。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実体験に基づく身近な事例を紹介することにより、より現実感を伴う理解を促進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	1. 気候変動と人類の未来 (1)地球シミュレーターが描く近未来の地球	スーパーコンピューターによる未来予測、温暖化シミュレーション、大気と海洋の異変、日常化する異常気象、スーパー台風	
	この回の到達目標	気候変動や異常気象について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむ。 「地球シミュレーター」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	気候変動や異常気象について、自分の実感や体験と照らしあわせる。	120分
2	(2)生態系の異変と人類への影響	アマゾン熱帯雨林の砂漠化、食料危機、熱帯病の北上、気候難民、溶解が進む永久凍土	
	この回の到達目標	気候変動による生態系への影響について理解し、説明することができる。	
	事前学修	「熱帯雨林」、「永久凍土」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	生態系の異変について、現状と見通しをまとめる。	120分
3	(3) 臨界点を迎える極地	極地氷の融解と海面上昇、氷床崩壊、臨界点を迎える北極、日本の豪雪のメカニズム、氷河湖決壊	
	この回の到達目標	温暖化による極地への影響を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「北極」、「南極」の地理や気候について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	「ティッピングポイント」、「ポイントオブノーリターン」とはどういう状況かまとめる。	120分
4	(4) 温室効果ガス削減の国際的枠組み	温暖化のメカニズム、温暖化対策の国際的枠組みの推移、I P C C 報告書、歴史的合意：パリ協定、米国政権の動き	
	この回の到達目標	温室効果ガス削減に向けての国際的な動きを理解し、説明することができる。	
	事前学修	「温室効果ガス」、「I P C C」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	「パリ協定」について、合意内容・問題点をまとめる。	120分
5	(5) 資源とエネルギー	人類とエネルギー、「資源なし国」日本、資源高騰・暴落、資源争奪、買収の危機にさらされた新日鉄、レアメタル、シェールガス、メタンハイドレート	
	この回の到達目標	エネルギーをめぐる国際的な動きを理解し、説明することができる。	
	事前学修	「敵対的買収」、「アルセロールミタル」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	日本におけるメタンハイドレートについて、開発状況と課題をまとめる。	120分
6	(6) 再生可能エネルギー（総論）	再生可能エネルギーと新エネルギー、普及の意義・状況・課題、固定価格買取制度、海外先進事例と日本の現状	
	この回の到達目標	日本及び世界の再生可能エネルギーへの取組状況を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「固定価格買取制度」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	「再生可能エネルギー」の普及の必要性和意義についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	中間まとめ		第1回～6回の内容について授業内レポートを行う。レポートは次回返却・解説する。
	この回の到達目標	第1～6回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	第1～6回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。	120分
	事後学修	レポートの設問について復習する。	120分
8	2．原子力エネルギー (1)原子力発電の仕組みと三大過酷事故		東日本と西日本の異なるリスク、原発大国へ突き進む中国、日本の原子力産業の状況、安全性の高い次世代原子炉 ●事例研究：スリーマイル島原発事故
	この回の到達目標	原子力発電の仕組みを理解し、説明することができる。	
	事前学修	「原子力発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	原子力発電についての日本と世界の状況についてまとめる。	120分
9	(2)●事例研究：チェルノブイリ原発事故		軍事転用原発の危険な構造、ずさんな運転管理、果てしなく続く事故処理、悲惨な被曝労働者
	この回の到達目標	チェルノブイリ事故の発生要因を分析し、説明することができる。	
	事前学修	「チェルノブイリ原発事故」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	「チェルノブイリ原発事故」の発生要因についてまとめる。	120分
10	(3)●事例研究：福島第一原発事故		事故の経緯と発生要因の分析、収束への遥かな道のり、首の皮1枚で助かった日本列島
	この回の到達目標	福島第一原発事故の発生要因を分析し、説明することができる。	
	事前学修	「福島第一原発事故」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	「福島第一原発事故」の発生要因についてまとめる。	120分
11	(4)核燃料サイクル		世界を牛耳るロシアの思惑、イラン核疑惑、核施設への空爆、もんじゅ廃炉、「準」国産エネルギーへの険しい道
	この回の到達目標	核燃料サイクルの目的・状況・課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「核燃料サイクル」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	原子力発電の今後について、自分の考えをまとめる。	120分
12	3．最先端技術のあり方1 ●事例研究：ロボット技術の軍事利用		戦場に送り込まれるロボット軍団、ロボット代理戦争の現状、AI殺人ロボット、流出する日本の技術、グーグル・ソフトバンクの思惑
	この回の到達目標	事例としてあげたロボットの軍事利用につき、最先端技術のあり方について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	「ロボットの軍事利用」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	「ロボット」がもたらす人類への恩恵と脅威について、自分の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	4. 公害と産業事故 (1) ●事例研究：四大公害病	企業の社会的責任、終わらぬ被害者救済、企業論理に埋没した技術者の良心、後追いする環境法整備	
	この回の到達目標	四大公害病の発生原因を分析し、自分の意見を述べることができる。。	
	事前学修	「四大公害病」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	公害の発生に伴う日本の法規制整備についてまとめる。	120分
14	まとめ	第8回～13回の内容について授業内レポートを行う。レポートは次回返却・解説する。	
	この回の到達目標	第8～13回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	第8～13回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。	120分
	事後学修	授業内レポートの設問について復習する。	120分
15	(2) ●事例研究：化学工場三大事故	歴史的重大事故（イギリス、イタリア、インドの事例分析）の発生経緯 化学工場大爆発、ダイオキシン噴出、史上最大の企業犯罪：猛毒ガス漏洩	
	この回の到達目標	化学工場三大事故の要因を分析し、説明することができる。	
	事前学修	「ボパール化学工場事故」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	講義全体で学んだことをもとに、環境・エネルギー問題の方向性について自分の考えをまとめる。	120分

科目名	産業技術と知財B(機械・エネルギー)Ⅱ	担当者	石塚 冬樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
近年、スーパー台風・豪雨・猛暑・干ばつ・巨大竜巻・記録的積雪など、地球温暖化の影響とみられる異常気象が世界的に頻発している。一方では化石燃料から再生可能エネルギーへのシフト、原発依存是非の議論、低炭素・脱炭素社会への移行などが進み、環境・エネルギー問題は現代社会の最重要課題の一つとなっている。本講義では環境・エネルギー問題の現状と課題、対応する最先端環境技術について学習し、日本そして世界の歩むべき方向性を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知財人材として必要な環境・エネルギー分野の学力の習得を目的とする。 【到達目標】 環境・エネルギー分野の諸項目についての現状と見通し、国内外の最先端環境技術の開発動向や普及課題等について、企業活動や社会・経済・外交などの動きと関連付けて理解する。また環境・エネルギー分野の知的財産を取り扱うのに必要な技術的知識を習得し、関連情報（新聞・テレビ・ネット等）をその背景を含めて理解・分析する力、さらにそのテーマについて自ら情報発信する力を身に付けることを目標とする。

【履修条件】
特になし。高校で理系科目（数学・物理・化学・生物）が習熟不足でも十分理解できるよう、「わかりやすさ」を重点に授業を行う。視覚教材（画像、ビデオ映像等）を多用することで理解を深める。

【授業方法】
各回ともパワーポイントを用いるとともに、国内外の最新動向をビデオ映像資料により紹介する。時事的テーマを取り上げた「事例研究」（＝事件・事故の分析、下欄●印の項目）により、実践的な問題分析能力の育成を図る。授業内レポートの採点・講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	再生可能エネルギーの普及促進の背景、各種エネルギーの仕組み・普及の現状・課題について説明することができる。								2	2	2			
②	自動車関連技術や熱利用技術などのエネルギーの高度利用技術について説明することができる。								2	2	2			
③	サイボーグ技術を例として、最先端技術のあり方についての自分の意見を述べる ことができる。								2	2	2			
④	低炭素社会・脱炭素社会に向けての世界の動きを理解し、その方向性について自 分の意見を述べる ことができる。								2	2	2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題につき、理解の正確さ及び論理的思考の程度を評価する。	10	5	5	10							30
討論・発表等												
授業への参画度	各回の到達目標に達しているかを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	40	10	5	15							70
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	15	10	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
木曜日授業後に授業講堂で行う。メールでの相談は随時受け付ける。いつでも遠慮なく連絡されたい。オフィスメールアドレス： ishizuka.fuyukil1@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 シンクタンクにおいて環境・エネルギー分野の国家プロジェクト・民間プロジェクトへの参画、調査研究に経験多数。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実体験に基づく身近な事例を紹介することにより、より現実感を伴う理解を促進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	1. 再生可能エネルギー（仕組み・現状・課題） (1) 太陽エネルギー	太陽光発電・太陽熱発電・太陽熱利用、太陽光バブルの崩壊、特許に沈んだ大手メーカーの末路	
	この回の到達目標	太陽光発電等の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「太陽光発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	日本の太陽光パネル大手メーカーの知財戦略における失敗についてまとめる。	120分
2	(2) 風力エネルギー	風力発電・洋上風力発電の仕組み、海外先進事例と日本の現状、特許出願状況からみる日本の未来	
	この回の到達目標	風力発電の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「風力発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	特許出願状況から導かれる日本における風力発電の状況についてまとめる。	120分
3	(3) 地熱エネルギー ●事例研究：渋谷温泉施設爆発事故	火山と地熱、資源小国日本の豊富な資源、海外先進事例と日本の状況、福島事故後の国策大転換、普及への課題、ガス田上に住む我々	
	この回の到達目標	地熱発電の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「地熱発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	日本における地熱発電が進まない要因についてまとめる。	120分
4	(4) 河川・海洋エネルギー	水力発電の現状、中小水力への活路、巨大な蓄電池：揚水発電、世界6位の海洋大国日本の未来	
	この回の到達目標	水力発電の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「水力発電」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	日本における河川・海洋エネルギー開発の方向性についてまとめる。	120分
5	(5) バイオマスエネルギー	バイオマスは「地球に優しい」か、カーボンニュートラル、食糧との競合、生態系の破壊、次世代バイオマスへの期待、ミドリムシは世界を救うか？	
	この回の到達目標	バイオマス発電の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「バイオマス」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	自動車用バイオ燃料に関する問題点と、今後あるべき方向性についてまとめる。	120分
6	(6) 一般廃棄物エネルギー	廃棄物概論（一廃と産廃）、ごみ処理の優等生日本、一廃のエネルギー利用、循環型社会への移行	
	この回の到達目標	一般廃棄物のエネルギー利用や循環型社会への取組状況を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「一般廃棄物」と「産業廃棄物」について調べ、両者の相違を理解する。	120分
	事後学修	循環型社会への移行の必要性についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	(7)産業廃棄物エネルギー ●事例研究：産業廃棄物の不法投棄事件	豊島・滋賀・福岡の事例分析、産廃のエネルギー利用、産廃の受け皿産業、不法投棄の発生メカニズム、不法投棄処理：巨額の税金投入	
	この回の到達目標	産業廃棄物の再利用技術や不法投棄問題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「不法投棄」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	不法投棄が行われた理由についてまとめる。	120分
8	中間まとめ	第1～7回の内容につき授業内レポートを行う。レポートは次回返却・解説する。	
	この回の到達目標	第1～7回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	第1～7回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。	120分
	事後学修	授業内レポートの設問について復習する。	120分
9	2. エネルギーの高度利用技術 (1)燃料電池とエコカー	究極のエコカー燃料電池車、ハイブリッド車、電気自動車、次世代エコカーの覇者は、脱ガソリン車に向けての世界的潮流	
	この回の到達目標	各種エコカーの仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。。	
	事前学修	「燃料電池」、「エコカー（環境対応自動車）」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	各種エコカーについての特徴（長所、短所など）をまとめる。	120分
10	(2)ヒートポンプとコジェネレーション	あなたの家にもある高効率エネルギー供給システム、電力会社vsガス会社、六本木ヒルズ・スカイツリー・東京ドームシティー等の事例	
	この回の到達目標	熱利用技術（ヒートポンプとコジェネレーション等）の仕組み・普及状況・課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「ヒートポンプ」、「コジェネレーション」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	「ヒートポンプ」と「コジェネレーション」の原理と応用事例についてまとめる。	120分
11	3. 最先端技術のあり方2 ●事例研究：サイボーグ技術	人類にもたらす恩恵と脅威、難病克服、スーパー兵器・兵士、許されざる人間改造、人工知能が人間を超える日、人類の後継者サイボーグ(?)	
	この回の到達目標	事例としてあげたサイボーグ技術をつき、最先端技術のあり方について自分の意見を述べるすることができる。	
	事前学修	「サイボーグ技術」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	サイボーグ技術開発のあるべき方向性について、自分の考えをまとめる。	120分
12	4. 低炭素・脱炭素社会への移行 (1)さまざまな環境問題への取り組み	オゾンホール、酸性雨、自動車排ガス、山手トンネル・ノルウェー・スイス等の事例、道路トンネル天井崩落事故	
	この回の到達目標	さまざまな環境問題（地球規模、都市型）について理解し、説明することができる。、	
	事前学修	「低炭素社会」、「脱炭素社会」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	低炭素・脱炭素社会に向けて自分ができること、するべきことについて考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(2) 低炭素・脱炭素社会への移行	経済的動機付け、世界各国の環境エネルギー政策、つまづいた日本の固定価格買取制度、脱炭素に踏み出した日本、スマート社会の構築	
	この回の到達目標	低炭素・脱炭素社会に向けての世界の動きを理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	「スマート社会」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	日本の固定価格買取制度が直面している問題点についてまとめる。	120分
14	まとめ	第9～13回の内容に関する授業内レポートを行う。レポートは次回返却・解説する。	
	この回の到達目標	第9～13回の授業内容について正しく理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	第9～13回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。	120分
	事後学修	授業内レポートの設問について復習する。	120分
15	(3) 地球環境の行方	加速する地球温暖化と対策、環境ビジネス～各国の取り組み、日本のグリーン成長戦略、砂漠に建つ環境未来都市、水素社会を目指す日本	
	この回の到達目標	地球環境の変化と人類の対応について理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	「環境未来都市マスタープラン」について調べ、概要をつかむ。	120分
	事後学修	講義全体で学んだことをもとに、環境・エネルギー問題の方向性について自分の考えをまとめる。	120分

科目名	産業技術と知財C(バイオ・環境化学) I	担当者	劉 斌斌	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
人間の健康や生活の快適さを向上させる産業の発展のために、自然科学を応用した科学物質や動植物、微生物の利用は歴史上古くから行われてきた。近年、遺伝子工学の発展により、患者の体質に合った医療や予防医療も進んでいる。さらに、ヒトなどの遺伝子によってiPS細胞という自分の遺伝子から多能な細胞を作り出すことが実験で可能になり、皮膚、脊椎や臓器などが再生できることがわかっている。この分野の研究は世界的に注目され、研究開発や知的財産の確保に国を挙げて重点的に取り込んでいる。本授業では、バイオなど先端技術の発展・実態について学習し、バイオ・環境化学に関する特許と知財戦略に関する知識を身につけ、理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知財人材としてバイオ・環境化学分野の知識の習得を目的とする。 【到達目標】 バイオ・環境化学分野の諸項目についての発展及び研究現状と見通し、それに関する国内外の最先端技術の開発動向や普及課題等について、国際情勢や経済・政策・外交などの動きと関連付けて理解する。バイオ・環境化学分野の知的財産を取り扱うのに必要な知識を習得し、諸外国比較とする視点から、最新の情報・事例・データ及び判例などを、その背景を含めて理解・分析する力を身に付けることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
各回ともレジュメや資料などを配布するとともに、国内外の最新動向、データ、事例など紹介する。授業内の討論、意見交換を行い、実践的な問題分析能力の育成を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	バイオ創薬、バイオ医薬品、ゲノム創薬に関する基本知識を理解し、説明することができる。							2	2	2			
②	微生物および人類との関わりを理解し、説明することができる。							2	2	2			
③	日本及び世界の再生医療の取組状況を理解し、自分の意見を述べるができる。							3	3	3			
④	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制に関する内容を正しく理解し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解を説明することができる。							2	2	2			
⑤	バイオ特許戦略の国際性、特許制度の仕組みを理解し説明することができる。							3	3	3			
⑥	日本、米国、中国の特許制度の相違点、および、特許出願や職務発明に関する注意点を理解し説明することができる。							2	2	2			
⑦	バイオ特許の特徴と特有の問題点について理解し、説明することができる。							2	2	2			
⑧	医療・医薬分野のAIに関する技術の現状・発展について理解し、問題点や知的財産に対し、自分の考えを述べることができる。							2	2	2			
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題につき、合理性及び論理的思考の程度を評価する。	2	4	4	4	4	4	4	4			30
討論・発表等	授業内において、討論、発表、意見交換などの積極性を重視して評価する。	2	4	4	4	4	4	4	4			30
授業への参画度	各回の到達目標に達している否かを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	5	5	5	5	5	5	5	5			40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		9	13	13	13	13	13	13	13			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日14：10―15：30

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		中国甘肅省発明協会理事長、中国甘肅省知的財産局顧問、甘肅省高級人民法院知財裁判顧問、中国専利（特許）侵害判定諮詢センター諮問委員など知財分野に関する活動に経験多数。 身近な事例、判例を紹介することにより、理解・認識を促進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	バイオテクノロジーの概要および人類社会への影響について	バイオテクノロジーの歴史、応用分野について考察する。また、バイオテクノロジーの将来性について紹介する。人類社会に与える影響など分析する。	
	この回の到達目標	バイオに関する基本知識について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむこと。バイオについて調べ、概要をつかむこと。	120分
	事後学修	授業内容を確認し、バイオ分野に関する基本を、自分の認識や体験と照らして理解すること。	120分
2	(1) バイオ創薬、バイオ医薬品 (2) ゲノム創薬	(1) バイオ創薬とはなにか、動物を利用した創薬、植物を利用した創薬について、説明する。 (2) バイオ医薬品、タミフル、そのほかのバイオ医薬品について、紹介する。 (3) ゲノム創薬とはなにか、グリベック、将来のゲノム創薬などについて、説明する。	
	この回の到達目標	バイオ創薬、バイオ医薬品、ゲノム創薬について理解し、説明することができる。	
	事前学修	バイオ創薬、バイオ医薬品、ゲノム創薬について調べ、予習しておくこと。	120分
	事後学修	バイオ創薬、バイオ医薬品、ゲノム創薬の現状と見通しをまとめること。以下の問題：①新薬開発には遺伝子の探索がなぜ必要なのか、②抗体医薬とは何か、③ゲノム関係のデータベースにはどのようなものがあるか、を考えまとめて復習しておくこと。	120分
3	(1) 人類と生物との関わり (2) 人類と微生物との関わり (3) 環境と微生物	(1) 生命の発生以前の有機物、生命をつかさどる物質の基礎、生物の利用などについて、考察する。 (2) 微生物の食品、染料での利用や、微生物の発見などについて、説明する。 (3) さまざまな環境と環境へのアプローチ、特殊環境と微生物、未培養微生物について、解説する。	
	この回の到達目標	微生物および人類との関わりを理解し、説明することができる。	
	事前学修	微生物、環境へのアプローチなどについて調べ、予習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容について理解し、以下の問題：①共生関係はお互いに何をもたらすか、②環境から得た遺伝子情報でも特許は獲得できるか、を考えまとめて復習しておくこと。	120分
4	ゲノム解析と組換えDNA	(1) ゲノム解析の対象 (2) ゲノム情報から判明すること (3) 組換えDNA の基礎 (4) 塩基配列解読	
	この回の到達目標	ゲノム解析、ゲノム情報、塩基配列解読などを理解し、説明することができる。	
	事前学修	ゲノム解析、塩基配列解読法について調べ、概要をつかむこと。	120分
	事後学修	講義内容について理解し、以下の問題：①ゲノムサイズの大小によりゲノム解析の戦略はどのように異なるのか②配列比較による機能推定の落とし穴、③次世代シーケンサーはバイオの世界をどう変えるか、を考えて、整理しまとめる。	120分
5	(1) ゲノム情報の利用、遺伝子情報の利用 (2) 遺伝子診断、遺伝子治療	(1) ゲノム情報技術利用について (2) 遺伝子データベース、遺伝子情報と保険、遺伝子に関する特許について (3) 遺伝子診断・治療の現状、将来	
	この回の到達目標	ゲノム情報と遺伝子情報の利用、遺伝子診断・治療に関する知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	ゲノム情報、遺伝子情報の利用、遺伝子診断・治療について調べ、概要をつかむこと。	120分
	事後学修	講義の内容を理解し、以下の問題：①なぜゲノム情報が必要なのか、②DNAを利用した犯罪捜査とはなにかを考えて、整理してまとめること。	120分
6	再生医療の歴史、現状と課題	(1) 細胞医療とは何か、幹細胞、多能性幹細胞、体性幹細胞とは何か (2) 再生医療の歴史 (3) 幹細胞研究の動向 (4) 再生医療の倫理	
	この回の到達目標	日本及び世界の再生医療の取組状況を理解し、自分の意見を述べるることができる。	
	事前学修	幹細胞、多能性幹細胞などについて調べ、再生医療の概要をつかむこと。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①iPS細胞技術扱う企業の開発状況、②将来の再生医療、③再生医療倫理的な問題、を自分なりの考えを整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制		日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制を考察する。	
	この回の到達目標	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制に関する内容を正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、授業の内容を確認し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解などをまとめておくこと。		120分
8	環境とバイオテクノロジー		(1) 環境ホルモン、環境ホルモンの実験法、化学物質の管理について、説明する。 (2) 環境保護におけるバイオ技術の応用、解析	
	この回の到達目標	環境ホルモンの基本知識、環境整備におけるバイオ技術の応用状況を理解し、説明することができる。		
	事前学修	環境ホルモンとは何か、環境整備におけるバイオ技術の応用などを調べて、予習しておくこと。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、復習しながら重要なポイントを整理しておくこと。		120分
9	特許制度の仕組みとバイオ特許 1		(1) バイオ特許と知財戦略：バイオ知財戦略の重要性、国際標準化と絡めたバイオ知財 (2) 特許制度の仕組み	
	この回の到達目標	バイオ特許戦略の国際性、特許制度の仕組みを理解し説明することができる。		
	事前学修	バイオ特許戦略について調べ、ポイントを整理しておくこと。特許制度の仕組みを予習しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①日本のバイオ特許の現状、及び世界との比較②特許制度は何のためにあるのか、を考えて、ポイントを整理しておくこと。		120分
10	特許制度の仕組みとバイオ特許 2		(1) 外国特許をとる基本的な仕組み：各国知的財産権制度について、海外で特許を取得する仕組み、米国・中国特許法の問題点 (2) 特許出願 (3) 職務発明	
	この回の到達目標	日本、米国、中国の特許制度の相違点を理解し、説明することができる。特許出願や職務発明に関する注意点を理解することができる。		
	事前学修	日本、米国、中国の知財制度を調べて、予習しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容を復習し、以下の問題：①外国出願する場合、パリ条約ルートとPCTルートのどちらを選べばいいか、②発表と特許出願の関係において注意すべきことは何か、を考えて、整理しておくこと。		120分
11	(1) バイオ分野の特許の種類 (2) 塩基配列解読手法の進歩と特許		(1) バイオ分野特許の種類と概要：①化学物質の特許性対象が認められた経緯②バイオ分野特許の種類③微生物に関する特許についての寄託制度 (2) 塩基配列解読手法の進歩と特許	
	この回の到達目標	バイオ分野特許の種類、塩基配列解読手法の進歩に関する知識を理解し、説明することができる。		
	事前学修	化学物質の特許性について、調べて予習しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①農産物など植物の新品種について種苗法があるが、特許や商標との関係はどうなっているのか、を考えて、復習しておくこと。		120分
12	バイオ特許の特徴と特有の問題点について		(1) リサーチツール特許とリーチスルーライセンスについて (2) バイオに関するライセンス契約と特徴と注意点 (3) バイオ特許に関するいくつかの代表的なライセンス事例	
	この回の到達目標	バイオ特許の特徴と特有の問題点について理解し、説明することができる。		
	事前学修	バイオ特許について、ライセンス契約に関する知識を予習しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①医療関連行為に関して、特許を与えるべきかどうか②バイオ関連会社の起業の条件、必要な仕組みについてを考えて、ポイントを整理しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	(中国) バイオ分野におけるイノベーション戦略と知財保護	(1) (中国) イノベーション戦略とバイオ産業 (2) (中国) バイオ分野特許戦略の実態 (3) (中国) バイオ製薬産業の研究開発現状、技術移転、知財保護	
	この回の到達目標	中国におけるイノベーション戦略、バイオ産業の知財戦略について、理解することができる。	
	事前学修	中国のイノベーション国家戦略の概要を調べて、つかむこと。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から自分なりの考えを整理しておくこと。	120分
14	医療・医薬分野のAIに関する技術・知的財産	(1) 医療・医薬分野のAIに関する技術の応用現状および関連政策（比較する視点から） (2) 医療・医薬分野のAIに関する技術の法問題 (3) 医療・医薬分野のAIに関する技術の知的財産について	
	この回の到達目標	医療・医薬分野のAIに関する技術の現状・発展について、理解し、問題点や知的財産に対し、自分の考えを述べることができる。	
	事前学修	レジメや資料を配布するので、諸外国と比較する視点から、予習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①日本における医療・医薬分野のAI技術の応用、②日本、米国、中国、EUにおける医療AI に関する政策の相違点を考えて、自分なりの考えを整理しておくこと。	120分
15	中米貿易戦争：中国バイオ関連産業に与える影響及び対策について	(1) バイオ関連産業における中米貿易・競争の実態 (2) 中米貿易戦争が、中国のバイオ関連産業に与える影響 (3) 中国医薬・バイオ技術分野の対応および方策	
	この回の到達目標	中米貿易戦争の背景や、バイオ技術関連産業に与える影響など理解して説明できること。	
	事前学修	中米貿易戦争について調べて、予習しておく。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、国際的な視点から、自分なりの理解・考えを整理しておくこと。	120分

科目名	産業技術と知財C(バイオ・環境化学)Ⅱ	担当者	劉 斌斌	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
近年、遺伝子工学の発展により、患者の体質に合った医療や予防医療も進んでいる。さらに、ヒトなどの遺伝子によってiPS細胞という自分の遺伝子から多能な細胞を作り出すことが実験で可能になり、皮膚、脊椎や臓器などが再生できることがわかっている。この分野の研究は世界的に注目され、研究開発や知的財産の確保に国を挙げて重点的に取り込んでいる。本授業では、バイオなど先端技術の発展・実態について学習し、バイオ・環境化学に関する特許と知財戦略に関する知識を身につけ、理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知財人材としてバイオ・環境化学分野の知識の習得を目的とする。 【到達目標】 バイオ・環境化学分野の諸項目についての発展及び研究現状と見通し、それに関する国内外の最先端技術の開発動向や普及課題等について、国際情勢や経済・政策・外交などの動きと関連付けて理解する。バイオ・環境化学分野の知的財産を取り扱うのに必要な知識を習得し、諸外国と比較する視点から、最新の情報・事例・データ及び判例などを、その背景を含めて理解・分析する力を身に付けることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
各回ともレジュメや資料などを配布するとともに、国内外の最新動向、データ、事例など紹介する。授業内の討論、意見交換を行い、実践的な問題分析能力の育成を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本におけるバイオ・ライフサイエンス産業の国際競争力に関して理解し、説明することができる。								3	3	3		
②	比較をする視点から、中国におけるバイオ・ライフサイエンス産業の現状に関して理解し、問題点などを説明することができる。								2	2	2		
③	日本及び世界の再生医療の取組状況を理解し、自分の意見を述べることができる。								3	3	3		
④	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制に関する内容を正しく理解し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解を説明することができる。								2	2	2		
⑤	バイオ特許戦略の国際性、特許制度の仕組みを理解し説明することができる。								2	2	2		
⑥	日本、米国、中国の特許制度の相違点、および、特許出願や職務発明に関する注意点を理解し説明することができる。								2	2	2		
⑦	バイオ特許の特徴と特有の問題点について理解し、説明することができる。								2	2	2		
⑧	医療・医薬分野のAIに関する技術の現状・発展について、理解し、問題点や知的財産に対し、自分の考えを述べることができる。								2	2	2		
⑨	中国におけるイノベーション戦略、バイオ産業の知財戦略について、理解することができる。								2	2	2		
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題につき、合理性及び論理的思考の程度を評価する。	2	3	3	3	3	3	3	4	6		30
討論・発表等	授業内において、討論、発表、意見交換などの積極性を重視して評価する。	2	3	3	3	3	3	3	4	6		30
授業への参画度	各回の到達目標に達しているかを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	4	4	4	4	4	4	4	6	6		40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		8	10	10	10	10	10	10	14	18		100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート採点后、返却・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日の4限（14：10―16：10）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中国甘肅省發明協会理事長、中国甘肅省知的財産局顧問、甘肅省高級人民法院知財裁判顧問、中国專利（特許）侵害判定諮詢センター諮問委員など知財分野に関する活動に経験多数。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身近な事例、判例を紹介することにより、理解・認識を促進する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	特許面から見たバイオ・ライフサイエンス産業の国際競争力：日本	(1) ゲノム編集技術に関する特許 (2) 画像診断における人工知能（AI）の活用に係る特許 (3) 人工臓器に係る特許の動向 (4) 中分子を対象とする創薬に係る特許の動向 (5) プロバイオティクス医薬品における特許動向	
	この回の到達目標	日本におけるバイオ・ライフサイエンス産業の国際競争力について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむこと。 日本バイオ・ライフサイエンス産業の国際競争力について調べ、概要をつかむこと。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、日本バイオ・ライフサイエンス産業の国際競争力について、自分の認識や体験と照らして理解すること。	120分
2	特許面から見たバイオ・ライフサイエンス産業の国際競争力：中国と米国	(1) 中国ゲノム編集技術に関する特許動向 (2) 世界にゲノム編集技術に関する特許の分析 (3) ゲノム編集技術に関する特許の中米競争動向 (4) 中国における人口臓器に係る特許について (5) 中国医薬品特許の現状および問題点	
	この回の到達目標	比較をする視点から、中国におけるバイオ・ライフサイエンス産業の現状について理解し、説明することができる。	
	事前学修	中国と米国バイオ・ライフサイエンス産業の実態を調べて、予習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①中米におけるバイオ・ライフサイエンス産業に関する特許の競争が世界経済に与えた影響はなにかを考えて、復習しておくこと。	120分
3	医薬品の知的財産制度等に係る諸外国における実態1（日本）	(1) 医薬品の知的財産制度概要 (2) 医薬品に係る特許紛争 (3) 薬事制度と特許制度の調整に関する制度	
	この回の到達目標	比較をする視点から、中国におけるバイオ・ライフサイエンス産業の現状について理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本の医薬品知財の実態を把握し、説明することができる。	120分
	事後学修	薬事制度や医薬品特許紛争の事例を調べ、予習しておくこと。	120分
4	医薬品の知的財産制度等に係る諸外国における実態2（米国）	(1) 医薬品の知的財産制度概要 (2) 医薬品に係る特許紛争 (3) 薬事制度と特許制度の調整に関する制度	
	この回の到達目標	米国の医薬品知財の実態を把握し、説明することができる。	
	事前学修	米国特許制度を調べ、概要をつかむこと。	120分
	事後学修	講義内容を理解し、以下の問題：①米国特許制度の問題点、②米国特許紛争解決について、日本との相違点を考えて、まとめて整理しておくこと。	120分
5	医薬品の知的財産制度等に係る諸外国における実態3（中国）	(1) 医薬品に関する産業施策 (2) 医薬品の知的財産制度に関する制度 (3) 医薬品に係る特許紛争	
	この回の到達目標	中国の医薬品知財の制度や実態を把握し、説明することができる。	
	事前学修	中国特許制度の内容を予習し、概要をつかむこと。	120分
	事後学修	講義の内容を理解し、以下の問題：①中国特許制度に対し、日本との違いは何か、②中国知財裁判の特徴および問題点、を考えて、整理してまとめること。	120分
6	バイオ医薬品分野における知的財産戦略	(1) 日本 (2) 米国 (3) 中国 (4) その他	
	この回の到達目標	主要諸国バイオ医薬品分野における知的財産戦略の取組状況を理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、比較する視点から、自分なりの考えを整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制を考察する。	
	この回の到達目標	日本、米国、中国、EUにおける再生医療の実用化に関わる規制に関する内容を正しく理解し、説明することができる。	
	事前学修	レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、授業の内容を確認し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解などをまとめておくこと。	120分
8	バイオ特許の出願について	(1) 外国特許をとる基本的な仕組み：各国知的財産権制度について、海外で特許を取得する仕組み、米国・中国特許法の問題点 (2) 特許出願 (3) 職務発明	
	この回の到達目標	日本、米国、中国の特許制度の相違点を理解し説明することができる。特許出願や職務発明に関する注意点を理解することができる。	
	事前学修	日本、米国、中国の知財制度を調べて、予習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容を復習し、以下の問題：①外国出願する場合、パリ条約ルートとPCTルートのどちらを選ばいいか、②発表と特許出願の関係において注意すべきことは何か、を考えて、整理しておくこと。	120分
9	(1) バイオ分野の特許の種類 (2) 塩基配列解読手法の進歩と特許	(1) バイオ分野特許の種類と概要：①化学物質の特許性対象が認められた経緯②バイオ分野特許の種類③微生物に関する特許についての寄託制度 (2) 塩基配列解読手法の進歩と特許	
	この回の到達目標	バイオ分野特許の種類、塩基配列解読手法の進歩に関する知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	化学物質の特許性について、調べて、予習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①農産物など植物の新品種について種苗法があるが、特許や商標との関係はどうなっているのか、を考えて、復習しておくこと。	120分
10	バイオ特許の特徴と特有の問題点について	(1) リサーチツール特許とリーチスルーライセンスについて (2) バイオに関するライセンス契約と特徴と注意点 (3) バイオ特許に関するいくつかの代表的なライセンス事例	
	この回の到達目標	バイオ特許の特徴と特有の問題点について理解し、説明することができる。	
	事前学修	バイオ特許について、ライセンス契約に関する知識を予習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①医療関連行為に関して、特許を与えるべきかどうか、②バイオ起業の条件、必要な仕組みについて、考えて、ポイントを整理しておくこと。	120分
11	(日本、中国) バイオ関係会社の知的財産管理	(1) 日本におけるバイオ産業の知財管理に関する考察 (2) 中国におけるバイオ産業の知財管理の歩み (3) 中国におけるバイオ産業の知財管理の現状、政策対応および問題点	
	この回の到達目標	バイオ産業に関する知財管理の重要性、および、バイオ産業における知財管理に対し、日本と中国の相違点を理解し、自分なりの意見を述べることができる。	
	事前学修	知財管理の基本知識などを予習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①知財管理における知財人材養成のアクセス、②知財管理における日本と中国の相違点、③その相違点に対し、何を表しているのか、を考え、自分なりのポイントを整理しておくこと。	120分
12	(中国) バイオ分野におけるイノベーション戦略と知財保護	(1) (中国) イノベーション戦略とバイオ産業 (2) (中国) バイオ分野特許戦略の実態 (3) (中国) バイオ製薬産業の研究開発現状、技術移転、知財保護	
	この回の到達目標	中国におけるイノベーション戦略、バイオ産業の知財戦略について、理解することができる。	
	事前学修	中国のイノベーション国家戦略の概要を調べて、つかむこと。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から自分なりの考えを整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	コロナ感染の背景の下で中国バイオ産業のイノベーション戦略および政策対応		(1) ワクチンなどの研究開発及び問題点 (2) 法整備について (3) イノベーション国家戦略 (4) 政策に関する変化	
	この回の到達目標	コロナに関する基本知識、及びコロナ禍の下で、比較する視点から、中国の政策変化などに対し、自分なりの理解・考えを述べることができる。		
	事前学修	レジメや資料を配布する。コロナ感染状況及び中国の対応などを調べておくこと。		120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、国際的な視点から自分なりの考えを整理しておくこと。		120分
14	医療・医薬分野のAIに関する技術・知的財産		(1) 医療・医薬分野のAIに関する技術の応用現状および関連政策（比較する視点から） (2) 医療・医薬分野のAIに関する技術の法問題 (3) 医療・医薬分野のAIに関する技術の知的財産について	
	この回の到達目標	医療・医薬分野のAIに関する技術の現状・発展について、理解し、問題点や知的財産に対し、自分なりの考えを述べることができる。		
	事前学修	レジメや資料を配布するので、比較的な視点から、予習しておくこと。		120分
	事後学修	講義内容を確認し、以下の問題：①日本における医療・医薬分野のAI技術の応用、②日本、米国、中国、EUにおける医療AIに関する政策の相違点、を考えて、自分なりの考えを整理しておくこと。		120分
15	中米貿易戦争：中国バイオ関連産業に与えた影響及び対策について		(1) バイオ関連産業における中米貿易・競争の実態 (2) 中米貿易戦争が（中国）バイオ関連産業に与える影響 (3) 中国医薬・バイオ技術分野の対応および方策	
	この回の到達目標	中米貿易戦争の背景や、バイオ技術関連産業に与えた影響など理解して説明できること。		
	事前学修	中米貿易戦争について調べて、予習しておく。		120分
	事後学修	義内容を確認し、国際的な視点から、自分なりの理解・考えを整理しておくこと。		120分

科目名	産業技術と知財D(コンテンツ) I	担当者	齋藤 崇	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
コンテンツ、コンテンツビジネスおよびコンテンツと知的財産権の関係について講義します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
さまざまなジャンルのコンテンツ、コンテンツビジネスおよびコンテンツと知的財産権の関係について理解し、考察し、自己の見解として説明することができるようになります。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
資料を配布して講義を行います。また、授業内容の定着度を確認したり、質問や要望等に応えたりしますので、リアクションペーパーを記入していただきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コンテンツおよびコンテンツビジネスについて理解し、考察し、自己の見解として説明することができる。						2	2	2			
②	コンテンツと知的財産権の関係について理解し、考察し、自己の見解として説明することができる。						2	2	2			
③	コンテンツを取り巻く諸問題について理解し、考察し、自己の見解として説明することができる。						2	2	2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、コンテンツ、コンテンツビジネスおよびコンテンツと知的財産権の関係について理解し、考察し、自己の見解として説明することができているのかを、レポートにより評価します。	10	10	20								40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関連して、各回の授業内容に関する自己の見解をリアクションペーパーに記入していただき、その内容から総合的に評価します。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの場合はレポート提出後において、リアクションペーパーの場合は各回の授業の冒頭において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デジタルコンテンツ白書2020	経済産業省 商務情報政策局監修・一般財団法人デジタルコンテンツ協会編	デジタルコンテンツ協会	2020	参考書	任意
備考	使用しません。毎回、資料を配布します。				

【オフィスアワー】
木曜日の5時限目に設定します。研究室は、9号館1階9105研究室です。なお、事前にアポイントメントをいただけると対応しやすいです。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび総論	本授業のガイダンスおよびコンテンツの総論について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の内容およびコンテンツの総論について理解しましょう。	
	事前学修	新聞やインターネットなどを利用して、コンテンツに関する話題について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツの総論について復習し、整理しておいてください。	120分
2	コンテンツの概要	コンテンツの概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コンテンツの概要についてについて理解しましょう。	
	事前学修	身の回りにあるコンテンツについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツの概要について復習し、整理しておいてください。	120分
3	コンテンツとメディア	コンテンツとメディアの関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コンテンツとメディアの関係について理解しましょう。	
	事前学修	メディアについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツとメディアの関係について復習し、整理しておいてください。	120分
4	クールジャパン戦略	クールジャパン戦略について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、クールジャパン戦略について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	クールジャパン戦略について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、クールジャパン戦略について復習し、整理しておいてください。	120分
5	知的財産法（1）	コンテンツと著作権法の関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、コンテンツと著作権法の関係について理解しましょう。	
	事前学修	著作権法について調べ、または復習しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツと著作権法の関係について復習し、整理しておいてください。	120分
6	知的財産法（2）	コンテンツと商標法および不正競争防止法の関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、コンテンツと商標法および不正競争防止法の関係について理解しましょう。	
	事前学修	商標法および不正競争防止法について調べ、または復習しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツと商標法および不正競争防止法の関係について復習し、整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	エンターテインメント法	エンターテインメント法について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、エンターテインメント法について理解しましょう。	
	事前学修	エンターテインメント法について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、エンターテインメント法について復習し、整理しておいてください。	120分
8	コンテンツビジネスの総論	コンテンツビジネスの総論について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コンテンツビジネスの総論について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	コンテンツビジネスについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツビジネスの総論について復習し、整理しておいてください。	120分
9	キャラクタービジネス	キャラクタービジネスについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キャラクタービジネスについて理解しましょう。	
	事前学修	キャラクターの役割について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、キャラクタービジネスについて復習し、整理しておいてください。	120分
10	ネット関連コンテンツビジネス (1)	コンテンツ配信ビジネスについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コンテンツ配信ビジネスについて理解しましょう。	
	事前学修	コンテンツ配信ビジネスについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツ配信ビジネスについて復習し、整理しておいてください。	120分
11	ネット関連コンテンツビジネス (2)	インターネット広告について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット広告について理解しましょう。	
	事前学修	インターネット広告について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、インターネット広告について復習し、整理しておいてください。	120分
12	ネット関連コンテンツビジネス (3)	AI・IoT・ビッグデータについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、AI・IoT・ビッグデータについて理解しましょう。	
	事前学修	AI・IoT・ビッグデータについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、AI・IoT・ビッグデータについて復習し、整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コンテンツビジネスの資金調達	コンテンツビジネスの資金調達の方法について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コンテンツビジネスの資金調達の方法について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	コンテンツビジネスの資金調達の方法について調べておいてください	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツビジネスの資金調達の方法について復習し、整理しておいてください。	120分
14	コンテンツを取り巻く諸問題	コンテンツを取り巻く諸問題について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コンテンツを取り巻く諸問題について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	コンテンツを取り巻く諸問題について調べ、考えておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツを取り巻く諸問題について復習し、整理しておいてください。	120分
15	まとめ	前期の内容のまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コンテンツ、コンテンツビジネスおよびコンテンツと知的財産権の関係について理解し、考察し、自己の見解として説明してみましょう。	
	事前学修	各回の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	理解があやふやなところについて復習し、整理しておいてください。	120分

科目名	産業技術と知財D(コンテンツ)Ⅱ	担当者	齋藤 崇	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
コンテンツ、コンテンツビジネスおよびコンテンツと知的財産権の関係について講義します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
さまざまなジャンルのコンテンツ、コンテンツビジネスおよびコンテンツと知的財産権の関係について理解し、考察し、自己の見解として説明することができるようになります。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
資料を配布して講義を行います。また、授業内容の定着度を確認したり、質問や要望等に応えたりしますので、リアクションペーパーを記入していただきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コンテンツおよびコンテンツビジネスについて理解し、考察し、自己の見解として説明することができる。						2	2	2			
②	コンテンツと知的財産権の関係について理解し、考察し、自己の見解として説明することができる。						2	2	2			
③	コンテンツビジネスを取り巻く諸問題について理解し、考察し、自己の見解として説明することができる。						2	2	2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して、コンテンツ、コンテンツビジネスおよびコンテンツと知的財産権の関係について理解し、考察し、自己の見解として説明することができているのかを、レポートにより評価します。	10	10	20								40
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関連して、各回の授業内容に関する自己の見解をリアクションペーパーに記入していただき、その内容から総合的に評価します。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの場合はレポート提出後において、リアクションペーパーの場合は各回の授業の冒頭において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デジタルコンテンツ白書2020	経済産業省 商務情報政策局監修・一般財団法人デジタルコンテンツ協会編	デジタルコンテンツ協会	2020	参考書	任意
備考	使用しません。毎回、資料を配布します。				

【オフィスアワー】
木曜日の5時限目に設定します。研究室は、9号館1階9105研究室です。なお、事前にアポイントメントをいただけると対応しやすいです。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび総論	本授業の内容およびコンテンツの総論について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の内容およびコンテンツの総論について理解しましょう。	
	事前学修	新聞やインターネットなどを利用して、コンテンツに関する話題について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、コンテンツの総論について復習し、整理しておいてください。	120分
2	出版関連コンテンツ（1）	出版業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、出版業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	出版業界のコンテンツについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、出版業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。	120分
3	出版関連コンテンツ（2）	新聞業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新聞業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	新聞業界のコンテンツについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、新聞業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。	120分
4	音楽関連コンテンツ（1）	音楽業界のコンテンツの著作権の管理・運用について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音楽業界のコンテンツの著作権の管理・運用について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	音楽業界のプレイヤーについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、音楽業界のコンテンツの著作権の管理・運用について復習し、整理しておいてください。	120分
5	音楽関連コンテンツ（2）	音楽業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、音楽業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	音楽業界のコンテンツについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、音楽業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。	120分
6	音楽関連コンテンツ（3）	ライブ・エンターテインメント業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ライブ・エンターテインメント業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	ライブ・エンターテインメント業界のコンテンツについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、ライブ・エンターテインメント業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	映像関連コンテンツ（1）		映画業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、映画業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。		
	事前学修	映画業界のコンテンツについて調べておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、映画業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。		120分
8	映像関連コンテンツ（2）		放送業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、放送業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。		
	事前学修	放送業界のコンテンツについて調べておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、放送業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。		120分
9	映像関連コンテンツ（3）		アニメ業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アニメ業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。		
	事前学修	アニメ業界のコンテンツについて調べておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、アニメ業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。		120分
10	映像関連コンテンツ（4）		ゲーム業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゲーム業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。		
	事前学修	ゲーム業界のコンテンツについて調べておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、ゲーム業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。		120分
11	広告関連コンテンツ		広告業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、広告業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。		
	事前学修	広告業界のコンテンツについて調べておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、広告業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。		120分
12	ネット関連コンテンツ（1）		ウェブ・モバイル業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ウェブ・モバイル業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。		
	事前学修	ウェブ・モバイル業界のコンテンツについて調べておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、ウェブ・モバイル業界のコンテンツの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ネット関連コンテンツ (2)	AI・IoT・ビッグデータの概要および知的財産権との関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、AI・IoT・ビッグデータの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	AI・IoT・ビッグデータについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、AI・IoT・ビッグデータの概要および知的財産権との関係について復習し、整理しておいてください。	120分
14	ネット関連コンテンツ (3)	デジタルアーカイブの概要および知的財産権の関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、デジタルアーカイブの概要および知的財産権との関係について理解し、考察しましょう。	
	事前学修	デジタルアーカイブについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、デジタルアーカイブの概要および知的財産権の関係について復習し、整理しておいてください。	120分
15	まとめ	後期の内容のまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、コンテンツ、コンテンツビジネスおよびコンテンツと知的財産権の関係について理解し、考察し、自己の見解として説明してみましょう。	
	事前学修	各回の講義内容を確認しておいてください。	120分
	事後学修	理解があやふやなところについて復習し、整理しておいてください。	120分

科目名	産業技術と知財F(エレクトロニクス)Ⅰ	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
エレクトロニクスとは、一般的に電子部品や電子装置に関する技術を指すが、今や社会基盤ともなったコンピュータ、インターネット、スマートフォンなどの情報通信機器のみならず、自動車・エネルギー・医療・環境などの様々な分野で各産業を支える基幹技術となっている。エレクトロニクスⅠでは、情報通信企業に従事した経験をもとに、エレクトロニクスが各種システムやサービスにどのように関わっているかについて概説し、さらに知的財産権との関わりについても理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、エレクトロニクスに関する基本技術を学び、社会に普及する各種サービスへの応用事例を知る機会とする。これにより、今後の社会の発展に求められる技術やその応用などについて考察する力を養成することを目的とする。

【履修条件】
エレクトロニクスに興味があること [予備知識は不要]

【授業方法】
プレゼンテーション画面や配布資料による授業と、質疑応答（質問票の提出を含む）、レポートによる履修生からの質問への回答。最後の回で期末レポートの解答に対する講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容の節目となるポイントで履修生に課題を与え、次週にその解答内容に対してフィードバックを行うとともに、履修生と質疑応答による意見交換を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	エレクトロニクス技術の代表格とも言えるコンピュータや、核となる半導体等の基本的仕組みを理解し、説明できる。								1				
②	人々の生活においてエレクトロニクス技術が使われる際の課題等を洞察し、各種サービスへの応用について発想できる。								2	1			
③	自身であまり触れることのないエレクトロニクス技術の応用分野においても、新たなサービスやビジネスについて発想し、予測することができる。									2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義の中間段階で小テストを実施し、それまでに学習した内容についての理解度を評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見や考え方が要求する水準となっているかを評価する。	30	10									40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中、講義内容について全ての履修生に質問し解答させると同時に、履修生からも質問を出させ、それに回答することで履修生の参画度を上げる。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	35	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート実施後の授業で、結果や内容についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用せず、必要に応じ資料を配布する。また、参考書は適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日 16：20～17：20（4時限目の授業後）、場所：相談可能な場所、内容：学業・その他

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 情報・通信企業におけるＩＣＴ関連研究開発および知的財産管理、並びに国立研究開発法人における科学技術情報提供サービス
実務経験に基づく実践的教育の内容		コンピュータのハードウェアやソフトウェア、インターネットなど、技術的観点だけではなく、サービスやビジネスの現状や課題を含めた実務について理解を深めることを目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	エレクトロニクス基本分野	<前期オリエンテーション> エレクトロニクスに関わる基本分野や基礎技術の全体像	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、エレクトロニクス基本分野や基礎技術の全体像を理解する。	
	事前学修	エレクトロニクスという言葉から思い付く技術やサービスについて自分なりにまとめる。	180分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	60分
2	コンピュータとデジタル情報	エレクトロニクス基礎技術としてのコンピュータとデジタル情報の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、エレクトロニクスの代表格であるコンピュータについてその仕組みを理解する。	
	事前学修	PCがどのような装置から構成されているかを考える。また光の3原色、色の3原色とは何かを復習する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。特にデジタルの意味について理解する。	120分
3	デジタル情報の記録・保存	デジタル情報の記録・保存の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、デジタル機器の基礎となるデジタル情報の記録・保存方法に関して理解する。	
	事前学修	PCを利用する場合に、文書（テキスト）や音声、音楽、画像、映像などを格納する媒体にはどのようなものがあるか整理する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材の復習。特に情報の格納媒体により記録方式が異なることを理解する。	120分
4	デジタル情報の入出力	デジタル情報の入出力の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、デジタル機器の基礎となるデジタル情報の入出力方法に関して理解する。	
	事前学修	PCを利用する場合に、情報の入力や出力、また通信を行う装置にはどのようなものがあるか整理する。	90分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	150分
5	コンピュータ産業	コンピュータ産業の誕生と発展の歴史	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、コンピュータ産業の歴史や動向を知り、その課題や解決方法について考察する。	
	事前学修	情報処理学会（情報処理の分野で国内最大の学会）のホームページ「コンピュータ博物館」(http://museum.ipsj.or.jp/index.html) に目を通しておく。	60分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。また、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	180分
6	コンピュータ産業の今後と知的財産権問題	コンピュータ産業の将来像と知的財産権問題	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、コンピュータ産業に関わる知的財産権について、疑問点などを整理し、解決を図るを試みる。	
	事前学修	コンピュータにはどのような知的財産権が含まれているか、また、どのような問題があるのかについて調査する。	150分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ」質疑応答	「エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ」に関する質問への回答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、エレクトロニクス基礎技術とコンピュータに関する疑問点などを整理し、解決を図ることを試みる。	
	事前学修	「エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ」の教材を復習する。	180分
	事後学修	回答したパワーポイント資料を復習する。	60分
8	半導体とコンピュータ素子	エレクトロニクス基礎技術と半導体におけるコンピュータ素子の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、「産業の米」とも呼ばれる半導体（トランジスタ、コンピュータ素子）について理解する。	
	事前学修	「デジタル情報の記録・保存の仕組み」を復習する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
9	半導体加工技術	半導体加工技術の発展とコンピュータの性能	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、半導体加工技術とコンピュータ性能について理解する。	
	事前学修	「デジタル情報の記録・保存のしくみ」で学習した高密度化技術について復習する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。特に半導体の仕組みについて理解を深める。	120分
10	化合物半導体と光エレクトロニクス	化合物半導体と光エレクトロニクスへの応用	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、化合物半導体と光エレクトロニクス技術について理解する。	
	事前学修	NHK高校講座のホームページ「元素の周期表」(https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/kagakukiso/archive/resume010.html) に目を通しておく。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。特に発光／受光ダイオードの仕組みを理解する。	120分
11	半導体産業	半導体産業の誕生と発展の歴史	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、半導体産業の課題について考察する。	
	事前学修	日本半導体歴史館 (http://www.shmj.or.jp/index.html) を閲覧し、「業界動向」、「応用製品」、「集積回路」などの歴史に目を通しておく。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
12	半導体産業と知的財産権	半導体産業における知的財産権問題の概要と解決方法	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、半導体産業における知的財産権問題の概要を理解し、課題解決の方法について考察する。	
	事前学修	半導体にはどのような知的財産権が含まれているか、また、どのような問題があるのかについて調査する。	180分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	エレクトロニクス基本分野と知的財産権	エレクトロニクス基本分野における知的財産権問題	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、エレクトロニクス基本分野における知的財産権問題の概要を理解し、課題解決の方法について考察する。	
	事前学修	エレクトロニクス基本分野の知的財産権に関する紛争やビジネス上のトピック等について調査する。	90分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。また、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	150分
14	エレクトロニクス基本分野のグローバル化	エレクトロニクス基本分野におけるビジネスのグローバル化と国際経済協力	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、エレクトロニクス基本分野の国際経済協力について理解し、問題の本質について考察する。	
	事前学修	我が国が他国や地域と取り結んでいる国際協力協定等について調査する。	150分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分
15	エレクトロニクス基本分野のまとめ	エレクトロニクス基礎技術と半導体、ビジネス実務に関する質問への回答と解説、並びにまとめ	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、エレクトロニクス基本分野のビジネスにおける課題や解決方法について考察する。	
	事前学修	エレクトロニクス基礎技術と半導体、ビジネス実務に関する教材について復習する。	180分
	事後学修	回答したパワーポイント資料を復習する。	60分

科目名	産業技術と知財F(エレクトロニクス)Ⅱ	担当者	岩城 修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
エレクトロニクスとは、一般的に電子部品や電子装置に関する技術を指すが、今や社会基盤ともなったコンピュータ、インターネット、スマートフォンなどの情報通信機器のみならず、自動車・エネルギー・医療・環境などの様々な分野で各産業を支える基幹技術となっている。エレクトロニクスⅡでは、情報通信企業に従事した経験をもとに、情報通信やエレクトロニクスを応用した技術、サービス、並びにビジネスに関して概説し、さらに知的財産権との関わりについても理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、エレクトロニクスに関する基本技術を学び、社会に普及する各種サービスへの応用事例を知る機会とする。これにより、今後の社会の発展に求められる技術やその応用などについて考察する力を養成することを目的とする。

【履修条件】
エレクトロニクスに興味があること [予備知識は不要]

【授業方法】
プレゼンテーション画面や配布資料による授業と、質疑応答（質問票の提出を含む）、レポートによる履修生からの質問への回答。最後の回で期末レポートの解答に対する講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内容の節目となるポイントで履修生に課題を与え、次週にその解答内容に対してフィードバックを行うとともに、履修生と質疑応答による意見交換を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	エレクトロニクス技術の代表格とも言えるコンピュータや、核となる半導体等の基本的仕組みを理解し、説明できる。								1				
②	人々の生活においてエレクトロニクス技術が使われる際の課題等を洞察し、各種サービスへの応用について発想できる。								2	1			
③	自身であまり触れることのないエレクトロニクス技術の応用分野においても、新たなサービスやビジネスについて発想し、予測することができる。									2	2		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義の中間段階で小テストを実施し、それまでに学習した内容についての理解度を評価する。	15	15									30
レポート等	提出されたレポートが提出条件に合致していることを前提に、解答が講義内容を反映しているだけでなく、個人の意見や考え方が要求する水準となっているかを評価する。	30	10									40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中、講義内容について全ての履修生に質問し解答させると同時に、履修生からも質問を出させ、それに回答することで履修生の参画度を上げる。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	35	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストやレポート実施後の授業で、結果や内容についての講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に使用せず、必要に応じ資料を配布する。また、参考書は適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日 16：20～17：20（4時限目の授業後）、場所：相談可能な場所、内容：学業・その他

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 情報・通信企業における I C T 関連研究開発および知的財産管理、並びに国立研究開発法人における科学技術情報提供サービス
実務経験に基づく実践的教育の内容		コンピュータのハードウェアやソフトウェア、インターネットなど、技術的観点だけではなく、サービスやビジネスの現状や課題を含めた実務について理解を深めることを目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	エレクトロニクス応用分野の概要	<後期オリエンテーション> エレクトロニクス応用分野と応用技術の全体像	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、エレクトロニクス応用分野や応用技術の全体像を理解する。	
	事前学修	エレクトロニクスの応用分野である「自動車」、「医療」、「通信」、「電力」、「環境・エコ」等で、技術やサービスに関して最近話題となったトピックをインターネット情報などから洗い出す。	180分
	事後学修	エレクトロニクスの応用分野に関する全体像を整理する。	60分
2	情報通信デジタル化と多重化	エレクトロニクス応用技術と情報通信における通信のデジタル化と多重通信の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、情報通信において1回線で複数チャネルの通信ができることを理解する。	
	事前学修	前期で学習した「デジタル情報」について復習する。	120分
	事後学修	デジタル情報の多重通信の意味を理解する。	120分
3	移動体無線通信と光ファイバ通信	移動体無線通信と大容量光ファイバ通信の仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、基幹通信網で用いられる光ファイバの性質と利用形態を理解する。	
	事前学修	大容量光ファイバ通信で用いる光ファイバとは何かを調査する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
4	インターネット通信	インターネット通信の高度化とユビキタスネットワークの仕組み	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、インターネットの基本的な仕組みを理解する。	
	事前学修	自身で利用しているインターネット通信サービスの種別を列举し、ユビキタスという言葉の由来とその言葉を使った概念をピックアップする。	90分
	事後学修	布したパワーポイント教材を復習する。また、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	150分
5	情報通信産業における法的課題	情報通信産業の発展における法的課題の概要	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、情報通信産業の歴史や動向を知り、法的課題について考察する。	
	事前学修	身の回りで情報通信を利用したサービスやビジネスにどのようなものがあるか列举する。	120分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分
6	「エレクトロニクス応用技術と情報通信」の質疑応答	「エレクトロニクス応用技術と情報通信」に関する質問への回答と解説	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、エレクトロニクス応用技術と情報通信に関する疑問点などを整理し、解決を図るを試みる。	
	事前学修	「エレクトロニクス応用技術と情報通信」の教材を復習する。	150分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	カーエレクトロニクス	カーエレクトロニクスの概要と自動車産業の現状		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、カーエレクトロニクス技術やサービスを理解し、自動車産業の課題について考察する。		
	事前学修	近年話題の自動車の「自動運転」について、どのようなエレクトロニクス技術が応用されているかを調査する。	150分	
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分	
8	パワーエレクトロニクス	パワーエレクトロニクスの概要と電力産業の現状		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、パワーエレクトロニクス技術やサービスを理解し、電力産業の課題について考察する。		
	事前学修	我が国の自然エネルギーにはどのようなものがあり、その比率や産業規模がどの程度かなどについて調査する。	150分	
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分	
9	メディカルエレクトロニクス	メディカルエレクトロニクスの概要と医療システム産業の現状		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、メディカルエレクトロニクスの技術やサービスを理解し、医療分野の課題について考察する。		
	事前学修	電子化された医療機器にはどのようなものがあるかを調査する。	150分	
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分	
10	エコ産業	エレクトロニクスとエコ産業の関連		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、エコ技術やサービスを理解し、エコ産業の課題について考察する。		
	事前学修	地球温暖化の原因と問題となる理由、現状や対策などについて調査する。	150分	
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分	
11	光エレクトロニクス	光エレクトロニクスの概要と光応用産業の現状		
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、光エレクトロニクス技術やサービスを理解し、光応用産業の課題について考察する。		
	事前学修	3Dプリンタ、レーザ加工、光センサといった言葉がどのようなものなのか、概要を掴んでおく。	120分	
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分	
12	エレクトロニクス応用産業と知的財産権	エレクトロニクス応用産業における知的財産権問題の概要と解決方法		
	この回の到達目標	到達目標①、②に関して、エレクトロニクス応用分野における知的財産権問題の概要を理解し、課題解決の方法について考察する。		
	事前学修	エレクトロニクス応用技術と産業で学んだ技術や産業に関わる知的財産権には何があるか、またその権利に関する問題点は何かについて調査する。	120分	
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	エレクトロニクス業界の国際技術紛争	ビジネス実務に関する話題としての我が国のエレクトロニクス業界が体験した国際技術紛争の事例	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、エレクトロニクス業界の国際技術紛争について理解し、問題の本質について考察する。	
	事前学修	エレクトロニクス業界が関連する国際的な技術紛争について調査する。	90分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。また、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。	150分
14	国際標準化と知的財産権	技術規格の国際標準化の内容と知的財産権との関連	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関して、エレクトロニクスの技術規格の国際標準を理解し、知的財産権との関連を考察する。	
	事前学修	エレクトロニクスの技術規格に関する標準化の事例を調査する。	150分
	事後学修	配布したパワーポイント教材を復習する。	90分
15	エレクトロニクス応用分野のまとめ	エレクトロニクス応用技術と情報通信、エレクトロニクス応用技術と応用産業、ビジネス実務に関する話題に関する質問への回答と解説	
	この回の到達目標	到達目標③に関して、エレクトロニクス分野のビジネスの課題を洞察し、解決方法について考察する。	
	事前学修	エレクトロニクス応用技術と情報通信、エレクトロニクス応用技術と応用産業、ビジネス実務に関する話題の教材を復習する。	180分
	事後学修	回答したパワーポイント資料を復習する。	60分

科目名	産業立地論	担当者	小原 文明	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○	○			

【授業の概要】
本授業では、農業や工業、商業、サービス産業、オフィスといった各種産業における立地について学び、考えていきます。科目名に「論」とあることから、各種産業の立地の実態を把握するだけでなく、それぞれの理論についての理解も深めていきます。具体的には、理論についてはチューネンやウェーバー、クリスタラー、マーシャル、スコット、ポーター、クルーグマンなどの理論それぞれについて学ぶだけでなく、各理論間の関係性についても考えていきます。また、具体的な事例を通じて、各種産業の立地や集積の実態についても考えていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業を通じて、各種理論のメカニズムや問題点などについて理解できるようになるだけでなく、各産業における立地や集積の実態について理解が深まるようになることを目標とします。また、各種理論や各産業における立地・集積の実態の問題点について批判的に捉え、自身の意見を提示することができるようになることも目標とします。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
本科目は講義形式で授業を行うので、基本的には授業担当者からの話題提供が中心となります。授業のコンテンツはパワーポイントによるスライドの内容、配布資料（レジュメ、図表等資料）、口頭説明からなります。なお、特定の教科書は使用しません。授業においては、適宜、授業内小レポート課題や授業外レポート課題を出します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内小レポート課題や授業外レポート課題、さらに事前学修や事後学修を通じて、受講者自らが資料を集め、内容を検討し、自身の意見・考えを示すことで主体的な学びについて取り組んでいきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	産業立地論における主要な概念や理論を識別できる。					2	2						
②	産業立地論に関連するを事項を踏まえ、各種理論や各産業の立地の実態について批判的に分析することができる。					2	2						
③	産業立地論に関連するを事項を踏まえ、各種理論や各産業の立地の実態に対して、自身の意見・考えを提示できる。					2	2	2					
④	産業立地論に関連するを事項を踏まえ、各種理論や各産業の立地の実態に対して、新たな考えおよび従来示されてこなかった政策案を示すことができる。						2	2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	筆記試験により，到達目標の①・②・③・④に関して正しく理解できているかを評価する。	20	10	20	20							70
小テスト等												
レポート等	授業内小レポート課題や授業外レポート課題により，到達目標の①・②・③・④について正しく理解できているかを評価するとともに，自分なりの意見・考えを示すことができるかを評価する。	5	5	10	10							30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	15	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小レポート課題や授業外レポート課題では受講者の意見や考えを問うことになるので，それらの意見・考えの全体的傾向や個別意見について，授業の中でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書は使用しません。参考書等については，授業にて適宜紹介します。				

【オフィスアワー】
質問等については授業後に応対します。事前にメールにて，アポイントメントを取ってください。担当教員のメールアドレスは以下の通りです。take-kohara@hosei.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション／概念整理	イントロダクションとして、本授業の狙いや進め方等について説明を行う。また、本授業に関連するさまざまな概念や用語、事象について整理する。特に、立地論とはどのような概念・理論であるのか考える。そして、産業立地論を学ぶ意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②に関連して、立地論とはどのような概念・理論であるのか説明することができる。	
	事前学修	シラバス等を参照し、授業の全体像を把握しておく。また、産業立地とはどのような事象であるのか、産業の種類にどのようなものがあるのかなどについて調べておく。	90分
	事後学修	産業立地に関連する概念や理論、用語について確認し、理解を深めておく。また、産業の全体像を把握するとともに、本授業にて扱う産業がどのような内容であるのか確認しておく。	150分
2	立地・集積の理論について考える ①：チューネンの農業立地論	農業に関する立地・集積の理論について学ぶ。具体的には、チューネンの農業立地論について、その内容や背景、影響について考える。また、現代の事象に適用してその理論の意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②に関連して、チューネンの農業立地論の内容やメカニズムについて説明することができる。	
	事前学修	チューネンの農業立地論とはどのような理論・概念であるのか概要を調べておく。	120分
	事後学修	現代の農業において、チューネンの農業立地論が適用できる部分と、適用できない部分について考える。また、他にどのような農業立地論があるのか調べておく。	120分
3	立地・集積の理論について考える ②：ウェーバーの工業立地論	工業に関する立地・集積の理論について学ぶ。具体的には、ウェーバーの工業立地論について、その内容や背景、影響について考える。また、現代の事象に適用してその理論の意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②に関連して、ウェーバーの工業立地論の内容やメカニズムについて説明することができる。	
	事前学修	ウェーバーの工業立地論とはどのような理論・概念であるのか概要を調べておく。	120分
	事後学修	ウェーバーの工業立地論の優れている点および不足している点について考える。また、他にどのような工業立地論があるのか調べておく。	120分
4	立地・集積の理論について考える ③：クリスタラーおよびレッシュの中心地理論	都市の立地に関する理論である中心地理論について学ぶ。具体的には、クリスタラー中心地理論やレッシュの中心地理論について、その内容や背景、影響について考える。また、現代の事象に適用してその理論の意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②に関連して、クリスタラーの中心地理論やレッシュの中心地理論の内容やメカニズムについて説明することができる。	
	事前学修	中心地理論とはどのような理論・概念であるのか、とりわけクリスタラーの中心地理論とレッシュの中心地理論の概要について調べておく。	120分
	事後学修	クリスタラーの中心地理論とレッシュの中心地理論の共通点および相違点について考える。また、現代の都市の立地を考える上で、それらの中心地理論が適用できる部分と、適用できない部分について考える。	120分
5	立地・集積の理論について考える ④：古典的な集積論	2回にわたり、産業集積の理論について学ぶ。1回目では、古典的な集積論であるマーシャルの集積論やウェーバーの集積論について、その内容や背景、影響について考える。また、現代の事象に適用してその理論の意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②に関連して、マーシャルの集積論とウェーバーの集積論の内容やメカニズムについて説明することができる。	
	事前学修	産業集積とはどのような概念であるのか調べておく。また、マーシャルの集積論やウェーバーの集積論とはどのような理論・概念であるのか概要を調べておく。	120分
	事後学修	マーシャルの集積論とウェーバーの集積論の共通点および相違点について考える。また、現代の産業集積を考える上で、それらの集積論が適用できる部分と、適用できない部分について考える。	120分
6	立地・集積の理論について考える ⑤：新しい集積論	産業集積の理論に関する2回目の授業では、比較的に新しい集積論であるスコットの新産業空間論やポーターの産業クラスター論について、その内容や背景、影響について考える。また、実際の事象に適用してその理論の意味を考える。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②に関連して、スコットの新産業空間論やポーターの産業クラスター論の内容やメカニズムについて説明することができる。	
	事前学修	スコットの新産業空間論やポーターの産業クラスター論とはどのような理論・概念であるのか概要について調べておく。	120分
	事後学修	古典的な集積論（マーシャル、ウェーバー）と新しい集積論（スコット、ポーター）の共通点と相違点について考える。また、他にどのような集積論があるのか調べておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	立地・集積の理論について考える ⑥：クルーグマンの産業立地モデル		立地・集積の比較的新しいモデルであるクルーグマンの産業立地モデルについて、その内容や背景、影響について考える。また、実際の事象に適用してその理論の意味を考える。
	この回の到達目標	到達目標の①・②に関連して、クルーグマンの産業立地モデルの内容やメカニズムについて説明することができる。	
	事前学修	クルーグマンの産業立地モデルとはどのような理論・概念・モデルであるのか概要について調べておく。	120分
	事後学修	クルーグマンの産業立地モデルとスコットの新産業空間論やポーターの産業クラスター論との共通点・相違点について考える。	120分
8	工業立地の実態を考える①：伝統産業		第2回～第6回の授業で学んできた立地・集積の理論を踏まえ、実際の産業立地について学ぶ。まずは、3回にわたり、工業の立地の実態について考える。1回目は伝統産業の立地について、具体的な事例を基に、その実態や背景、影響について考える。また、その立地の妥当性などについても考えていく。
	この回の到達目標	到達目標の①・②・③・④に関連して、伝統産業の立地の実態について、その内容やメカニズムについて説明することができる。また、伝統産業の立地の妥当性や問題点、改善点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	どのような伝統産業があるのか、それぞれの伝統産業の立地の特徴について調べておく。	120分
	事後学修	伝統産業ごとの立地の共通点や相違点について考える。また、それら共通点・相違点の要因について考える。	120分
9	工業立地の実態を考える②：ハイテク産業		工業立地の2回目では、ハイテク産業の立地について、具体的な事例を基に、その実態や背景、影響について考える。また、その立地の妥当性などについても考えていく。
	この回の到達目標	到達目標の①・②・③・④に関連して、ハイテク産業の立地の実態について、その内容やメカニズムについて説明することができる。また、ハイテク産業の立地の妥当性や問題点、改善点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	どのようなハイテク産業があるのか、それぞれのハイテク産業の立地の特徴について調べておく。	120分
	事後学修	ハイテク産業ごとの立地の共通点や相違点について考える。また、それら共通点・相違点の要因について考える。そして、ハイテク産業ならではの立地要因について考える。	120分
10	工業立地の実態を考える③：コンテンツ産業		工業立地の3回目では、コンテンツ産業の立地について、具体的な事例を基に、その実態や背景、影響について考える。また、その立地の妥当性などについても考えていく。
	この回の到達目標	到達目標の①・②・③・④に関連して、コンテンツ産業の立地の実態について、その内容やメカニズムについて説明することができる。また、コンテンツ産業の立地の妥当性や問題点、改善点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	コンテンツ産業とはどのような産業であるのか、どのような種類があるのか調べておく。また、それぞれのコンテンツ産業の立地の特徴について調べておく。	120分
	事後学修	コンテンツ産業ごとの立地の共通点や相違点について考える。また、それら共通点・相違点の要因について考える。そして、コンテンツ産業ならではの立地要因について考える。	120分
11	商業立地の実態を考える		商業の立地について、具体的な事例を基に、その実態や背景、影響について考える。また、その立地の妥当性などについても考えていく。特に、チェーンストアの立地の実態について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標の①・②・③・④に関連して、チェーンストアの立地の実態について、その内容やメカニズムについて説明することができる。また、チェーンストアの立地の妥当性や問題点、改善点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	商業施設にはどのような形態があるのか、チェーンストアとはどのような概念・定義であるのか調べておく。また、チェーンストアにはどのような種類があるのか、それぞれの立地の特徴について調べておく。	120分
	事後学修	チェーンストアの業態・業種ごとの立地の共通点や相違点について考える。また、それら共通点・相違点の要因について考える。	120分
12	サービス産業立地の実態を考える		サービス産業の立地について、具体的な事例を基に、その実態や背景、影響について考える。また、その立地の妥当性などについても考えていく。対個人サービス業と対事業所サービス業それぞれの実態について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標の①・②・③・④に関連して、対個人サービス業および対事業所サービス業の立地の実態について、それらの内容やメカニズムについて説明することができる。また、それら産業の立地の妥当性や問題点、改善点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	サービス産業とはどのような産業であるのか、どのような種類があるのか調べておく。また、それぞれのサービス産業の立地の特徴について調べておく。	120分
	事後学修	サービス産業ごとの立地の共通点や相違点について考える。また、それら共通点・相違点の要因について考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	オフィス（業務施設）立地の実態を考える	本回では産業の区分による立地ではなく、事業所の一形態である（また、就業の形態でもある）オフィス（業務施設）の立地の実態について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②・③・④に関連して、オフィス（業務施設）の立地の実態について、その内容やメカニズムについて説明することができる。また、オフィス（業務施設）の立地の妥当性や問題点、改善点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	オフィス（業務施設）の特徴や立地の概要について調べておく。また、オフィス（業務施設）にはどのような部門・部署があり、どのような機能があるのか調べておく。	120分
	事後学修	オフィス（業務施設）の立地について、さまざまな空間スケールに位置づけて考える。また、特定の企業に焦点を当て、その企業のオフィス立地について調べてみる。	120分
14	多国籍企業の立地の実態を考える	本回では多国籍企業の立地について、具体的な事例を基に、その実態や背景、影響について考える。特に、多国籍企業の行動原理・戦略性に着目して考える。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②・③・④に関連して、多国籍企業の立地の実態について、その内容やメカニズムについて説明することができる。また、多国籍企業の立地の妥当性や問題点、改善点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	多国籍企業の定義や概念について調べておく。また、産業ごとにどのような多国籍企業があるのか調べておく。	120分
	事後学修	多国籍企業の立地について、さまざまな空間スケールに位置づけて考える。また、特定の企業に焦点を当て、その企業の立地の展開・戦略性について調べてみる。	120分
15	授業内試験／まとめ／振り返り	授業内試験を行うとともに、試験内容や関連事項について振り返りを行う。また、それまでに実施した授業内小レポート課題や授業外レポート課題の結果を踏まえ、再度、本授業のポイントについてまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標の①・②・③・④に関連して、これまでの授業で学んだ事柄を正しく、整理して理解することができる。また、その学習の成果を試験において発揮することができる。	
	事前学修	授業内試験に向けて、これまでに事業で扱った事項について整理しておく。	180分
	事後学修	授業内試験の内容を再確認しておく。また、授業で示されたまとめを基に、本授業の要点を整理しておく。	60分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅠ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
新聞学科の「新聞」とは、ジャーナリズムの訳語である。つまり、ジャーナリズム論は新聞学科の学生が学修する中心をなす科目である。受講者は、そのことをふまえて、新聞学科の学生が学ぶべきこととは何かを学修する。その中でもジャーナリズム論Aでは、「哲学・規範論」の部分学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、ジャーナリズム論といわれる領域の中の規範論を理解し説明できるようになるために、諸理論の知識を身につけ、ジャーナリズムの実践においてどの理論を適用するか判断できる技能を修得する。そのために常に事前学修を十分に行って講義の臨む態度と積極的に質問をする習慣を身につける。

【履修条件】
教科書を購入した者に限る。

【授業方法】
講義形式が中心となるが、レポートの提出と講義ノートのチェック及びそれへのフィードバックを織り交ぜる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出により、講義ノート・チェックにより受講生の講義の理解度を、レポート提出によって講義の臨む態度・習慣をみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分は新聞学科で何を学びたいかを説明できる。				3							
②	ジャーナリストの社会における役割を説明し評価することができる。					3						
③	ジャーナリズム研究における規範論と記述論の違いを説明し適用できる。					3						
④	ジャーナリズム論における各規範論を解釈できる。						3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートのチェックによって、講義内容を適切に理解しているかと、事前事後の学修により、理解を深めるような工夫をしているかどうかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
初回の講義で、レポートの書き方とノートの取り方を詳しく説明し、最後の講義で解説をする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャーナリズムの規範理論	塚本晴二郎	日本評論社	2021	教科書	必携
ジャーナリズム倫理学試論	塚本晴二郎	南窓社	2010	参考書	推奨
「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇編著	印刷学会出版部	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、講義ノートの取り方、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。【関連する到達目標（以下同様）＝①】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書1・2・3章を読み、ジャーナリズムの理論というもののイメージを固めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの取り方、レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	ジャーナリズムとプロフェッション	ジャーナリストをニュースを扱う専門職と考えた初期の人であるジョゼフ・ピューリツァーについて説明する。その後、専門職という概念を説明し、なぜジャーナリストに専門職教育が必要か、を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムをなぜ学ぶのか、ジャーナリズム論の意義を理解する。①②	
	事前学修	教科書4・5章を読み、ジャーナリズム研究のイメージを固めておき、ジャーナリズム論の意義を考えておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、専門職とジャーナリズム論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	ジャーナリズムと規範理論	ジャーナリズム論における規範理論の位置づけと、記述論との相違を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム論の中での規範理論の意義を理解する。①②③	
	事前学修	前回までの講義の内容を講義ノート及び教科書を使って確実に把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、規範論と記述論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
4	ジャーナリズム論における日本の課題	日本のジャーナリズム研究にどのような問題点があるのかを理解する。	
	この回の到達目標	日本のジャーナリズム研究における規範理論の位置づけを理解する。①②③	
	事前学修	前回までの講義ノート及び教科書の通読等からジャーナリズム論の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、日本のジャーナリズム研究の問題点をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
5	プレスの自由委員会	プレスの自由委員会の報告書『自由で責任あるプレス』が刊行されるまでの過程とその意義を理解する。	
	この回の到達目標	プレスの自由委員会の活動内容とその意義を理解し説明できる。①②③	
	事前学修	アメリカの1800年代後半から1900年代初めにかけての機械化・工業化・都市化の状況を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、プレスの自由委員会について学んだことをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
6	社会的責任論	当初ジャーナリズムの現場からも研究者からも評価されなかった、社会的責任論が『マスコミの自由に関する四理論』を通じて普及していく過程を理解する。	
	この回の到達目標	社会的責任論の内容を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	プレスの自由委員会が、ジャーナリズムの危機と考えたメディア状況を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、社会的責任論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジョン・C・メリルの社会的責任論批判	ジャーナリズム論の主流となった社会的責任論を、メリルがどのように批判したかを理解する。	
	この回の到達目標	メリルの社会的責任論批判の内容を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	『マスコミの自由に関する四理論』の内容を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、メリルの社会的責任論批判をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
8	リバタリアン・ジャーナリズム	メリルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	リバタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	リバタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リバタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
9	エドモンド・B・ランベスのスティワードシップ論	メリルの社会的責任論批判に対する反論としてのランベスのスティワードシップ論の主旨を理解する。	
	この回の到達目標	ランベスのスティワード・シップ論を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	メリルの社会的責任論批判を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ランベスのスティワードシップ論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
10	リベラル・ジャーナリズム	ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	リベラル・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	リベラリズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リベラル・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
11	クリフォード・G・クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論	自由主義や個人主義を批判するクリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論の主旨を理解する。	
	この回の到達目標	クリスチャンズのトランス・フォーマティブ・ジャーナリズム論を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	デモクラシーという概念を可能な限り多角的に把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
12	コミュニタリアン・ジャーナリズム	クリスチャンズのコミュニタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	コミュニタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	コミュニタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、コミュニタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジャーナリストの行為規範①	ジャーナリストの行為規範を「二つの大前提」・「ジャーナリズムの定義」・「四つのアプローチ」の組み合わせによって構築する方法論を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範の構築の仕方を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	これまでの講義ノートと教科書を使い、これまでの講義の全体像を把握する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリストの行為規範構築の方法論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
14	ジャーナリストの行為規範②	ナショナリズム・リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの「四つのアプローチ」の内容を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範を適用し評価できる。①②③④	
	事前学修	リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの各ジャーナリズムを復習しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、「四つのアプローチ」をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
15	総括	講義ノートが適切にとれたか、レポートは適切に書き提出できたか、今後の講義にこの講義で得た知識が応用できるか等を確認する。	
	この回の到達目標	講義全体を通して積極的に受講していたかと、講義の到達目標に達しているかを省察できる。①②③④	
	事前学修	講義全体にわたって疑問点が残らないように質問事項を準備するとともに、講義ノートの精査ができるような準備をしておく。	120分
	事後学修	講義での確認事項をすべておさえておくとともに、講義ノート・レポートの修正点を適切に処理しておく。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅠ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
新聞学科の「新聞」とは、ジャーナリズムの訳語である。つまり、ジャーナリズム論は新聞学科の学生が学修する中心をなす科目である。受講者は、そのことをふまえて、新聞学科の学生が学ぶべきこととは何かを学修する。その中でもジャーナリズム論Aでは、「哲学・規範論」の部分学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、ジャーナリズム論といわれる領域の中の規範論を理解し説明できるようになるために、諸理論の知識を身につけ、ジャーナリズムの実践においてどの理論を適用するか判断できる技能を修得する。そのために常に事前学修を十分に行って講義の臨む態度と積極的に質問をする習慣を身につける。

【履修条件】
教科書を購入した者に限る。

【授業方法】
講義形式が中心となるが、レポートの提出と講義ノートのチェック及びそれへのフィードバックを織り交ぜる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	レポート提出により、講義ノート・チェックにより受講生の講義の理解度を、レポート提出によって講義の臨む態度・習慣をみる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	自分は新聞学科で何を学びたいかを説明できる。				3							
②	ジャーナリストの社会における役割を説明し評価することができる。					3						
③	ジャーナリズム研究における規範論と記述論の違いを説明し適用できる。					3						
④	ジャーナリズム論における各規範論を解釈できる。						3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	講義ノートのチェックによって、講義内容を適切に理解しているかと、事前事後の学修により、理解を深めるような工夫をしているかどうかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
初回の講義で、レポートの書き方とノートの取り方を詳しく説明し、最後の講義で解説をする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャーナリズムの規範理論	塚本晴二郎	日本評論社	2021	教科書	必携
ジャーナリズム倫理学試論	塚本晴二郎	南窓社	2010	参考書	推奨
「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇編著	印刷学会出版部	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、講義ノートの取り方、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。【関連する到達目標（以下同様）＝①】	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書1・2・3章を読み、ジャーナリズムの理論というもののイメージを固めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの取り方、レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	ジャーナリズムとプロフェッション	ジャーナリストをニュースを扱う専門職と考えた初期の人であるジョゼフ・ピューリツァーについて説明する。その後、専門職という概念を説明し、なぜジャーナリストに専門職教育が必要か、を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムをなぜ学ぶのか、ジャーナリズム論の意義を理解する。①②	
	事前学修	教科書4・5章を読み、ジャーナリズム研究のイメージを固めておき、ジャーナリズム論の意義を考えておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、専門職とジャーナリズム論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	ジャーナリズムと規範理論	ジャーナリズム論における規範理論の位置づけと、記述論との相違を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム論の中での規範理論の意義を理解する。①②③	
	事前学修	前回までの講義の内容を講義ノート及び教科書を使って確実に把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、規範論と記述論の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
4	ジャーナリズム論における日本の課題	日本のジャーナリズム研究にどのような問題点があるのかを理解する。	
	この回の到達目標	日本のジャーナリズム研究における規範理論の位置づけを理解する。①②③	
	事前学修	前回までの講義ノート及び教科書の通読等からジャーナリズム論の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、日本のジャーナリズム研究の問題点をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
5	プレスの自由委員会	プレスの自由委員会の報告書『自由で責任あるプレス』が刊行されるまでの過程とその意義を理解する。	
	この回の到達目標	プレスの自由委員会の活動内容とその意義を理解し説明できる。①②③	
	事前学修	アメリカの1800年代後半から1900年代初めにかけての機械化・工業化・都市化の状況を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、プレスの自由委員会について学んだことをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
6	社会的責任論	当初ジャーナリズムの現場からも研究者からも評価されなかった、社会的責任論が『マスコミの自由に関する四理論』を通じて普及していく過程を理解する。	
	この回の到達目標	社会的責任論の内容を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	プレスの自由委員会が、ジャーナリズムの危機と考えたメディア状況を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、社会的責任論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジョン・C・メリルの社会的責任論批判	ジャーナリズム論の主流となった社会的責任論を、メリルがどのように批判したかを理解する。	
	この回の到達目標	メリルの社会的責任論批判の内容を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	『マスコミの自由に関する四理論』の内容を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、メリルの社会的責任論批判をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
8	リバタリアン・ジャーナリズム	メリルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	リバタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	リバタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リバタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
9	エドモンド・B・ランベスのスティワードシップ論	メリルの社会的責任論批判に対する反論としてのランベスのスティワードシップ論の主旨を理解する。	
	この回の到達目標	ランベスのスティワード・シップ論を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	メリルの社会的責任論批判を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ランベスのスティワードシップ論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
10	リベラル・ジャーナリズム	ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	リベラル・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	リベラリズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、リベラル・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
11	クリフォード・G・クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論	自由主義や個人主義を批判するクリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論の主旨を理解する。	
	この回の到達目標	クリスチャンズのトランス・フォーマティブ・ジャーナリズム論を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	デモクラシーという概念を可能な限り多角的に把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズム論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
12	コミュニタリアン・ジャーナリズム	クリスチャンズのコミュニタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズムの長所と欠点を理解する。	
	この回の到達目標	コミュニタリアン・ジャーナリズムを理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	コミュニタリアニズムの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、コミュニタリアン・ジャーナリズムをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ジャーナリストの行為規範①	ジャーナリストの行為規範を「二つの大前提」・「ジャーナリズムの定義」・「四つのアプローチ」の組み合わせによって構築する方法論を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範の構築の仕方を理解し説明できる。①②③④	
	事前学修	これまでの講義ノートと教科書を使い、これまでの講義の全体像を把握する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリストの行為規範構築の方法論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
14	ジャーナリストの行為規範②	ナショナリズム・リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの「四つのアプローチ」の内容を理解する。	
	この回の到達目標	ジャーナリストの行為規範を適用し評価できる。①②③④	
	事前学修	リバタリアニズム・リベラリズム・コミュニタリアニズムの各ジャーナリズムを復習しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、「四つのアプローチ」をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
15	総括	講義ノートが適切にとれたか、レポートは適切に書き提出できたか、今後の講義にこの講義で得た知識が応用できるか等を確認する。	
	この回の到達目標	講義全体を通して積極的に受講していたかと、講義の到達目標に達しているかを省察できる。①②③④	
	事前学修	講義全体にわたって疑問点が残らないように質問事項を準備するとともに、講義ノートの精査ができるような準備をしておく。	120分
	事後学修	講義での確認事項をすべておさえておくとともに、講義ノート・レポートの修正点を適切に処理しておく。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅡ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
民主主義社会においてジャーナリズムは主権者である国民の知る権利に奉仕する重要な役割を担う。以上のような前提のもと、本科目では具体的な事例を参照しつつ、ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、①ジャーナリズムと真実、②ジャーナリズムとニュース、③ジャーナリズムと社会を学習することを通じて、ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を修得する。そして、ジャーナリズムの活動を多元的に理解することにより、クリティカルな視点で解釈する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。その過程で、可能な限り時事的な問題を参照事例として取り上げる。またそれらの問題について、随時学生と意見交換を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を理解し、適切に用いることができる。				2	2	2					
②	ニュースが報道される仕組みを理解し、具体的に説明できる。				2	2						
③	社会の諸領域とジャーナリズムの関わりについて理解し、的確に説明できる。				2	2	2					
④	授業で修得した知識に基づいて、ジャーナリズムに関する課題に取り組むことができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているか、自分自身の意見を述べる事ができているか、そして論理的に記述できているかを基準として、到達目標①②③④に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5	10	10							30
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーを提出させることによって、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているのかを基準として、到達目標①②に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第9回の授業で、第8回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。また、第15回の授業で実施した筆記試験に対する解説は、Google Classroomを通じて実施する。なお、課題に対する解説は第8回及び第15回の授業で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために＜第2版＞	大井眞二他編	世界思想社	2018	教科書	必携
ジャーナリズム・スタディーズのフィールド	大井眞二	学文社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、講義を受講する準備を整える。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	ジャーナリズムの役割	民主主義社会におけるジャーナリズムの存在意義について、複数の類型を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムの複数の類型を学習することを通じて、ジャーナリズムに対する多角的な視点を修得する。	
	事前学修	ジャーナリズムの類型について事前に調べ、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	ジャーナリズムと教育	ジャーナリズム教育の意義と役割について学習する。ついで、現代社会におけるジャーナリズム・リテラシーの大切さについて考察する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム教育の意義と役割について学習することを通じて、ジャーナリズム教育の重要性を理解する。	
	事前学修	教科書第3章「ジャーナリズム教育」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	客観報道	ジャーナリズムの重要な理念である「客観報道」の意義、歴史、そして問題点について学習する。ついで、送り手と受け手の立場から、ニュースの客観性について考察する。	
	この回の到達目標	「客観報道」について学習することを通じて、ニュースにおける「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
	事前学修	教科書第7章「プロフェッショナリズムと客観性」の内容を読み、客観報道について自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	ドキュメンタリーと真実	ジャーナリズムにおけるドキュメンタリーの意義、そして問題点について学習する。その際、実際にドキュメンタリーを視聴しつつ考察する。	
	この回の到達目標	映像における事実の伝達について学習することを通じて、「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
	事前学修	ドキュメンタリーの定義について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	問題報道	ジャーナリズムの信頼性に大きく影響する「やらせ」や「捏造」、そして「誤報」の問題とその背景について学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	問題報道について学習することを通じて、その構造的要因について理解する。	
	事前学修	やらせと捏造に関する事件について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	犯罪報道	犯罪報道の構造について学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	犯罪報道の構造を学習することを通じて、ニュースとしての「犯罪」について理解する。	
	事前学修	犯罪報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	総括(1)	第2回から第7回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。合わせて、課題に対するフィードバックを実施する。	
	この回の到達目標	課題のフィードバックと筆記試験への取り組みから、授業で修得したジャーナリズムに関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第2回から第7回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。	120分
	事後学修	第2回から第7回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、課題に対するフィードバックおよび筆記試験の内容を省察する。	120分
9	ニュースとは何か	ニュースがどのような過程を経て私たちに届けられるのか、その取材と報道の仕組みについて学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	取材と報道の仕組みについて学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	教科書第5章「取材と報道」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	ニュースの選択過程	ニュースの選択過程について、その理論的枠組みを学習する。特に、その代表的な理論であるゲートキーピングの概念を中心に学習する。	
	この回の到達目標	ゲートキーピングの概念を学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	教科書第6章「『ニュースのコントロール』をめぐる相互作用過程」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	ニュースのフレーム	ニュース・フレームについて学習する。ついで、私たちの社会的現実が、フレームによって「切り取られた」ものであることを考察する。	
	この回の到達目標	フレームの概念について学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	教科書第10章「ニュースのフレーム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	世論とジャーナリズム	世論とジャーナリズムの関係について学習する。その際、第二次世界大戦への参戦にあたり日本のジャーナリズムが当時の世論の形成にどのように関わっていたのかを事例として参照しつつ考察する。	
	この回の到達目標	第二次世界大戦前の日本のジャーナリズムの概観から、ジャーナリズムと世論が相互に影響しあっていることを理解する。	
	事前学修	第二次世界大戦における日本のジャーナリズムについて事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政治とジャーナリズム	政治報道の構造について、権力とジャーナリズムの観点から学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	政治報道の構造を学習することを通じて、政治とジャーナリズムの関わりが社会にもたらす影響について理解する。	
	事前学修	政治報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	戦争とジャーナリズム	戦争にジャーナリズムがどのような影響を与えるのかを学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	国際問題の認識過程を学習することを通じて、戦争の勃発と平和の実現におけるジャーナリズムの役割について理解する。	
	事前学修	教科書第14章「戦争と平和のジャーナリズム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	総括(2)	第2回から第8回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。 合わせて、課題に対するフィードバックを実施する。	
	この回の到達目標	課題のフィードバックと筆記試験への取り組みから、授業で修得したジャーナリズムに関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第9回から第14回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。	120分
	事後学修	第9回から第14回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、課題に対するフィードバックおよび筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅡ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
民主主義社会においてジャーナリズムは主権者である国民の知る権利に奉仕する重要な役割を担う。以上のような前提のもと、本科目では具体的な事例を参照しつつ、ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、①ジャーナリズムと真実、②ジャーナリズムとニュース、③ジャーナリズムと社会を学習することを通じて、ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を修得する。そして、ジャーナリズムの活動を多元的に理解することにより、クリティカルな視点で解釈する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。その過程で、可能な限り時事的な問題を参照事例として取り上げる。またそれらの問題について、随時学生と意見交換を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズムに関する基本的な知識および理論を理解し、適切に用いることができる。						2	2	2					
②	ニュースが報道される仕組みを理解し、具体的に説明できる。						2	2						
③	社会の諸領域とジャーナリズムの関わりについて理解し、的確に説明できる。						2	2	2					
④	授業で修得した知識に基づいて、ジャーナリズムに関する課題に取り組むことができる。						2	2	2					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているか、自分自身の意見を述べる事ができているか、そして論理的に記述できているかを基準として、到達目標①②③④に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5	10	10							30
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーを提出させることによって、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているのかを基準として、到達目標①②に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第9回の授業で、第8回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。また、第15回の授業で実施した筆記試験に対する解説は、Google Classroomを通じて実施する。なお、課題に対する解説は第8回及び第15回の授業で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために＜第2版＞	大井眞二他編	世界思想社	2018	教科書	必携
ジャーナリズム・スタディーズのフィールド	大井眞二	学文社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、講義を受講する準備を整える。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	ジャーナリズムの役割	民主主義社会におけるジャーナリズムの存在意義について、複数の類型を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズムの複数の類型を学習することを通じて、ジャーナリズムに対する多元的な視点を修得する。	
	事前学修	ジャーナリズムの類型について事前に調べ、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	ジャーナリズムと教育	ジャーナリズム教育の意義と役割について学習する。ついで、現代社会におけるジャーナリズム・リテラシーの大切さについて考察する。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム教育の意義と役割について学習することを通じて、ジャーナリズム教育の重要性を理解する。	
	事前学修	教科書第3章「ジャーナリズム教育」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	客観報道	ジャーナリズムの重要な理念である「客観報道」の意義、歴史、そして問題点について学習する。ついで、送り手と受け手の立場から、ニュースの客観性について考察する。	
	この回の到達目標	「客観報道」について学習することを通じて、ニュースにおける「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
	事前学修	教科書第7章「プロフェッショナリズムと客観性」の内容を読み、客観報道について自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	ドキュメンタリーと真実	ジャーナリズムにおけるドキュメンタリーの意義、そして問題点について学習する。その際、実際にドキュメンタリーを視聴しつつ考察する。	
	この回の到達目標	映像における事実の伝達について学習することを通じて、「真実」をクリティカルに解釈する能力を修得する。	
	事前学修	ドキュメンタリーの定義について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	問題報道	ジャーナリズムの信頼性に大きく影響する「やらせ」や「捏造」、そして「誤報」の問題とその背景について学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	問題報道について学習することを通じて、その構造的要因について理解する。	
	事前学修	やらせと捏造に関する事件について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	犯罪報道	犯罪報道の構造について学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	犯罪報道の構造を学習することを通じて、ニュースとしての「犯罪」について理解する。	
	事前学修	犯罪報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	総括(1)	第2回から第7回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。合わせて、課題に対するフィードバックを実施する。	
	この回の到達目標	課題のフィードバックと筆記試験への取り組みから、授業で修得したジャーナリズムに関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第2回から第7回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。	120分
	事後学修	第2回から第7回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、課題に対するフィードバックおよび筆記試験の内容を省察する。	120分
9	ニュースとは何か	ニュースがどのような過程を経て私たちに届けられるのか、その取材と報道の仕組みについて学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	取材と報道の仕組みについて学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	教科書第5章「取材と報道」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	ニュースの選択過程	ニュースの選択過程について、その理論的枠組みを学習する。特に、その代表的な理論であるゲートキーピングの概念を中心に学習する。	
	この回の到達目標	ゲートキーピングの概念を学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	教科書第6章「『ニュースのコントロール』をめぐる相互作用過程」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	ニュースのフレーム	ニュース・フレームについて学習する。ついで、私たちの社会的現実が、フレームによって「切り取られた」ものであることを考察する。	
	この回の到達目標	フレームの概念について学習することを通じて、ニュースが選択的事実であることを理解する。	
	事前学修	教科書第10章「ニュースのフレーム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	世論とジャーナリズム	世論とジャーナリズムの関係について学習する。その際、第二次世界大戦への参戦にあたり日本のジャーナリズムが当時の世論の形成にどのように関わっていたのかを事例として参照しつつ考察する。	
	この回の到達目標	第二次世界大戦前の日本のジャーナリズムの概観から、ジャーナリズムと世論が相互に影響しあっていることを理解する。	
	事前学修	第二次世界大戦における日本のジャーナリズムについて事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政治とジャーナリズム	政治報道の構造について、権力とジャーナリズムの観点から学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	政治報道の構造を学習することを通じて、政治とジャーナリズムの関わりが社会にもたらす影響について理解する。	
	事前学修	政治報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	戦争とジャーナリズム	戦争にジャーナリズムがどのような影響を与えるのかを学習する。その際、複数の事例を参照することを通じて学習する。	
	この回の到達目標	国際問題の認識過程を学習することを通じて、戦争の勃発と平和の実現におけるジャーナリズムの役割について理解する。	
	事前学修	教科書第14章「戦争と平和のジャーナリズム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	総括(2)	第2回から第8回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。 合わせて、課題に対するフィードバックを実施する。	
	この回の到達目標	課題のフィードバックと筆記試験への取り組みから、授業で修得したジャーナリズムに関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第9回から第14回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。	120分
	事後学修	第9回から第14回までの教科書の各章と講義ノートを見直し、課題に対するフィードバックおよび筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	ジャーナリズム倫理Ⅰ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
本講義は、ジャーナリズム倫理学、すなわち情報発信者のための倫理学を学ぶ講義である。日本では情報発信者のための倫理学、中でもメディア関係の倫理学の場合に、法で規制しきれない部分を補うためのもののように、倫理学を扱う。それがどれだけ間違ったことであるか、それを明確にするのが本講義の主な内容である。受講者は、情報発信者にとって、自身の行為に関する法を守ることと、倫理的な行為を行う事の相違について理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を扱うことの重要性を理解できる人間の育成を目的とする。 倫理学でいうところの自律とは何かを理解し、ジャーナリスト、すなわち情報発信者が遭遇する倫理的諸問題を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3

【履修条件】
・ジャーナリズム倫理Ⅰの単位取得者であること。・テキストは必ず毎回持参。

【授業方法】		
講義形式とディベートを組み合わせる講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義した内容に関する、受講者同士のディベート。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、説明できる。		3						
②	ジャーナリストの行為を規範に則って、事例ごとに解釈し、適用し、評価できる。			3					
③	自身の考えを他の受講者に理解できるように説明できる。				3				
④	他の受講者の意見を適切に解釈し評価できる。					3			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる説明、解釈、適用、評価の力が身についているかを評価する。	25	25									50	
討論・発表等	授業におけるディスカッションにおいて自分の意見を述べる ことができたかを基準に、到達目標③④にかかわる理解、 説明、解釈、評価の力が身についているかを評価する。			25	25							50	
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		25	25	25	25							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
ディベートでは終了後に各チームへのコメントをする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャーナリズムの規範理論	塚本晴二郎	日本評論社	2021	教科書	必携
「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇 編著	印刷学会出版部	2018	参考書	推奨
ジャーナリズム倫理学試験	塚本晴二郎	南窓社	2010	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、ディベートのルールとチーム編成、成績評価の方法、作戦会議のやり方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
	この回の到達目標	ディベートのルールと作戦会議のやり方を確実に把握する。①②③④	
	事前学修	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	120分
	事後学修	ディベートのルールと作戦会議のやり方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	ジャーナリズム倫理Ⅰのお復習	ジャーナリズム倫理Ⅰの概要を確認し、ディベートの準備に繋げる。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム倫理Ⅰの内容を理解し説明できるかを確認する。①②③④	
	事前学修	ジャーナリズム倫理Ⅰの概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリズム倫理Ⅰの概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	プライバシーの侵害①	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
4	プライバシー侵害②	プライバシー侵害の事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	プライバシー侵害の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
5	少年法①	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
6	少年法②	少年犯罪報道の事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	少年犯罪報道の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	記者クラブ①	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	記者クラブの事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
8	記者クラブ②	記者クラブの事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	記者クラブの事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	記者クラブの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	記者クラブの事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
9	ヘイト・スピーチ①	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
10	ヘイト・スピーチ②	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	ヘイト・スピーチの事例に関するディベートの結果を反省する。	120分
11	紛争地取材①	紛争取材の事例に関するディベートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	紛争地取材の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
12	紛争地取材②	紛争地取材の事例に関するディベートを行う。	
	この回の到達目標	紛争地取材の事例に関するディベートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	紛争地取材の事例に関するディベートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	紛争地取材の事例に関するディベートの結果を反省する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家機密報道①	国家機密報道の事例に関するディバートの作戦会議を行う。	
	この回の到達目標	国家機密報道の事例に関する論点を理解し説明できる。①②	
	事前学修	国家機密報道の事例に関するディバートの作戦資料を収集する。	120分
	事後学修	国家機密報道の事例に関するディバートの作戦会議の結果を実行できるように準備する。	120分
14	国家機密報道②	国家機密報道の事例に関するディバートを行う。	
	この回の到達目標	国家機密報道の事例に関するディバートで自らの主張を他の受講者に納得させられる。③④	
	事前学修	国家機密報道の事例に関するディバートの作戦会議の結果を実行するためのリハーサルを行う。	120分
	事後学修	国家機密報道の事例に関するディバートの結果を反省する。	120分
15	総括	全ディバートを通しての講評と受講者全員への個別指導	
	この回の到達目標	自身が講義全体の到達目標に達したかどうかを評価できる。①②③④	
	事前学修	講義全体の疑問点を質問できるように準備しておく。	120分
	事後学修	講評の内容と自身への指導内容を理解するとともに、今後の学修に繋がられるように記録しておく。	120分

科目名	ジャーナリズム倫理Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「ジャーナリズム倫理Ⅰ」では、「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題を専門的に理解し、説明する能力を培った。そのような基礎を前提に、本講義ではジャーナリズム倫理学に関連する諸問題の応用力の養成を主眼とする。具体的な事例を使用して、実際に倫理的判断ができるようにジャーナリズム倫理学の理論をブレインストーミング等を通じて学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズム倫理学、すなわち情報発信者のための倫理学に関する諸問題の分析力、判断力を涵養し、ジャーナリズムに関する倫理学的問題を、適切に分析できる素養を養成することを目的とする。 「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題を批判的に捉え、論理的に結論を導き出せるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3

【履修条件】
テキストは必ず毎回持参。

【授業方法】		
講義形式とディスカッションを組み合わせる講義を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義した内容に関する、受講者同士のディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリストの行為規範を理解し、説明できる。				3	3	3	3				
②	ジャーナリストの行為を規範に則って、事例ごとに解釈し、適用し、評価できる。				3	3	3	3				
③	自身の考えを他の受講者に理解できるように説明できる。				3	3	3	3				
④	他の受講者の意見を適切に解釈し評価できる。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業におけるグループワーク、ディベートにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標①②③④にかかわる理解、説明、解釈、評価の力が身についているかを評価する。	25	25	25	25							100
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ディスカッションでは終了後に各自へのコメントをし、レポートについては、初回の講義で、レポートの書き方を講義し、最後の講義で解説をする。個人指導希望者にはオフィスアワーを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジャーナリズムの規範理論	塚本晴二郎	日本評論社	2021	教科書	必携
ジャーリズム倫理学試験	塚本晴二郎	南窓社	2010	参考書	推奨
「極化」現象と報道の倫理学的研究	塚本晴二郎・上村崇 編著	印刷学会出版部	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の各回のテーマや内容、スケジュール、ディスカッションのやり方、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。	
	この回の到達目標	ディスカッションのやり方とレポートの書き方を確実に把握する。【関連する到達目標（以下同様）＝③④】	
	事前学修	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	120分
	事後学修	講義ノートの取り方、レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
2	プライバシーの侵害①	プライバシー侵害の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	『逆転』事件の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	プライバシー侵害の事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、『逆転』事件の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
3	プライバシーの侵害②	プライバシー侵害の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	プライバシー侵害の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ディスカッションをまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
4	少年法①	少年犯罪報道の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	少年犯罪報道の事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	少年犯罪報道の事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、少年犯罪報道の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
5	少年法②	少年犯罪報道の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	少年犯罪報道の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、少年犯罪報道の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
6	記者クラブ①	記者クラブの事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	記者クラブの事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	記者クラブの事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、記者クラブの事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	記者クラブ②	記者クラブの事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う	
	この回の到達目標	記者クラブの事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、記者クラブの事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
8	ヘイト・スピーチ①	ヘイト・スピーチの事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	ヘイト・スピーチの事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ヘイト・スピーチの事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
9	ヘイト・スピーチ②	ヘイト・スピーチの事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	ヘイト・スピーチの事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ヘイト・スピーチの事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
10	紛争地取材①	紛争地取材の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	紛争地取材の事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	紛争地取材の事例の概要を把握しておく	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、紛争地取材の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
11	紛争地取材②	紛争地取材の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	紛争地取材の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、紛争地取材の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
12	国家機密報道①	国家機密報道の事例を概観し、ジャーナリストの行為規範との関係を考える。	
	この回の到達目標	国家機密報道の事例の内容を理解し説明できる。①②	
	事前学修	国家機密報道の事例の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、国家機密報道の事例をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家機密報道②	国家機密報道の事例に関して、ジャーナリストの行為規範の観点から、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	国家機密報道の事例に関して自分の意見を明確に述べられる。③④	
	事前学修	前回の講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、国家機密報道の事例の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
14	総括ディスカッション	ジャーナリズム倫理全般にわたるディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	ジャーナリズム倫理全般に関して自分の意見を明確に述べられる。①②③④	
	事前学修	前回までのすべての講義を踏まえ、自身の意見を整理しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリズム倫理全般の概要をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。	120分
15	総括	ディスカッションとレポートの講評と指導	
	この回の到達目標	自身が講義全体の到達目標に達したかどうかを評価できる。①②③④	
	事前学修	講義全体に関する疑問点を質問できるように準備をする。	120分
	事後学修	講義での確認事項をすべておさえておくとともに、講義ノート・レポートの修正点を適切に処理しておく。	120分

科目名	社会情報システム研究	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、企業や公的機関においても資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。そのため、本講義において、学生はデータの集計や視覚化、加工などの処理を身に付けるためにデータベースソフトを用いる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各種データの収集・加工・分析に必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、基礎的スキルとしてのAccessの基本的操作方法を学習する。Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作を習得すると同時に、データベースを設計し、必要なデータを抽出できる。さらに、グラフや表を作成し、視覚化した資料を作成できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
Accessは比較的難解なため、Excel等の経験者、できれば、前期の「社会情報システム論」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】		
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	Accessの基本的操作方法を理解し、操作できる。				4				4			
②	リレーショナルデータベースを適切に設計できる。				4		4	4				
③	テーブル、クエリ、フォーム、レポートなど適切に利用できる。						4	4	4			
④	データベースを使い、統計処理や分析ができる。						4	4	4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作や、データベースの設計、必要なデータを抽出できるかについて、到達目標①③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル形式で事前に配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。	
	事前学修	ID, パスワードを事前に確認しておく。	120分
	事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	データベースの概略	データベースの概略について説明する。	
	この回の到達目標	データベースの概略について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	Microsoft Access 1	リレーショナルデータベースについて説明する。	
	この回の到達目標	リレーショナルデータベースについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	Microsoft Access 2	Microsoft Access におけるデータベースの設計について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるデータベースの設計について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	Microsoft Access 3	Microsoft Access におけるテーブル（主キー、データ型、フィールドプロパティ）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（主キー、データ型、フィールドプロパティ）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	Microsoft Access 4	Microsoft Access におけるテーブル（インポート、CSVファイル）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（インポート、CSVファイル）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Access 5	Microsoft Access におけるテーブル（リレーションシップ、参照整合性）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるテーブル（リレーションシップ、参照整合性）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	Microsoft Access 6	Microsoft Access におけるクエリ（選択クエリ、並べ替え、抽出条件）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（選択クエリ、並べ替え、抽出条件）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	Microsoft Access 7	Microsoft Access におけるクエリ（演算フィールド、集計）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（演算フィールド、集計）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	Microsoft Access 8	Microsoft Access におけるクエリ（パラメータクエリ、Where条件）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるクエリ（パラメータクエリ、Where条件）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	Microsoft Access 9	Microsoft Access におけるフォーム（ツール、プロパティシート）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるフォーム（ツール、プロパティシート）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	Microsoft Access 10	Microsoft Access におけるフォーム（プロパティの設定）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるフォーム（プロパティの設定）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Access 11	Microsoft Access におけるレポート（レポートウィザード、宛名ラベル）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるレポート（レポートウィザード、宛名ラベル）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	Microsoft Access 12	Microsoft Access におけるグラフの作成（ピボットテーブル、ピボットグラフ）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Access におけるグラフの作成（ピボットテーブル、ピボットグラフ）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について再度見直しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	社会情報システム論	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、企業や公的機関においても資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。そのため、本講義において、学生はデータの集計や視覚化、加工などの処理を身に付けるために表計算ソフトを用い、統計処理や分析方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各種データの収集・加工・分析に必要不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Excelの基本的操作方法を学習する。Excelを用いた表の作成および集計を行うための基本的な計算式や関数を習得すると同時に、ビジネスグラフを作成し視覚的なデータに加工できる。さらに、データから必要な情報を取り出し 統計処理や分析ができるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし。後期の社会情報システム研究と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	PCとネットワーク環境を活用した授業で、課題作成、提出など授業を双方向に進めていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について説明することができる。						2						
②	Excelの基本的操作方法を理解する。								2	2			
③	データの集計や視覚化、加工、グラフ化などの処理ができる。								2	2			
④	データを用い、統計処理や分析ができる。						2		2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Excelを用いた表の作成および集計を行うための基本的な計算式や関数の利用等、及び視覚的なデータに加工できるかについて、到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか授業内試験を実施し、評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル形式で事前に配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。）研究室（本館6階1601）メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	法学部情報システムのネットワークにログインし、授業用フォルダを作成する。	
	事前学修	ID, パスワードを事前に確認しておく, 事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	法学部情報システムのネットワークに再度ログインし、利用環境を確認する。	120分
2	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付等について説明する。	
	この回の到達目標	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付等の操作について理解できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	Microsoft Excel 1	Microsoft Excel を使った表の作成と計算方法について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った表の作成と計算方法について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	Microsoft Excel 2	Microsoft Excel を使った計算式の利用方法やセル属性とコピー方法について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った計算式の利用、セル属性とコピーについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	Microsoft Excel 3	Microsoft Excel を使った基本的な関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った基本的な関数（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	Microsoft Excel 4	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Microsoft Excel 5	Microsoft Excel を使った（棒グラフ作成、2軸グラフ）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（棒グラフ作成、2軸グラフ）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	Microsoft Excel 6	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（条件付き書式、データの入力規則）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	Microsoft Excel 7	Microsoft Excel を使った（簡易データベース機能、並べ替え、フィルタ、小計）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（簡易データベース機能、並べ替え、フィルタ、小計）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	Microsoft Excel 8	Microsoft Excel を使った（データ参照、VLOOKUP）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（データ参照、VLOOKUP）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	Microsoft Excel 9	Microsoft Excel を使った（グラフの種類と特徴）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（グラフの種類と特徴）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	Microsoft Excel 10	Microsoft Excel を使った（クロス集計）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（クロス集計）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Microsoft Excel 11	Microsoft Excel を使った（基本統計量、相関分析、ヒストグラム）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（基本統計量、相関分析、ヒストグラム）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	Microsoft Excel 12	Microsoft Excel を使った（回帰分析）について説明する。	
	この回の到達目標	Microsoft Excel を使った（回帰分析）について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について整理する。	
	事前学修	これまでの授業内容について確認しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	社会政策論Ⅰ	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会政策は、公共政策の中でもとりわけ人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図る目的で、日本や世界全体の政策動向と政策決定について学ぶための学問である。今日労働政策、労務管理、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策、教育政策、住宅政策などを含む概念として理解されているが、これを人間の権利と尊厳を重視する視点から概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会政策の政策目標は、産業社会の諸問題の緩和である。大きくは生活の向上と基本的人権の尊重である。これに従って学校教材の基礎、公務員試験対策、福祉行政の知識やNPO活動のための知識のほか、広く人々にとって幸福、権利、尊厳とは何か、について深く理解できるように講義を行うことを目的とする。学問としてのアプローチと分析方法を知ることによって、政府の政策に対する科学的・客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 3, 4 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式による。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習として授業内で提示された文献や資料を読み、それについての疑問や課題を整理したうえでの受講。 またその疑問や課題が授業内で解決されなかった場合には、コメントシートなどで質問する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	社会政策の概念について理解できるようになる。		2		2	2	2		
②	他の社会科学、公共政策と社会政策の位置づけができるようになる。		2		2	2	2		
③	政治・経済の変容と社会政策との関連について理解できる。		2		2	2	2		
④	社会政策と福祉国家との関連について理解できる。		2		2	2	2		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験を実施する。	15	10	15	10							50
小テスト等												
レポート等	毎回の授業で加点の対象となるコメントを集めます。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	20	15							70

【課題に対するフィードバックの方法】
コメントに対しては次の授業の最初でリプライを行う。その他、質問への回答やリプライを資料として配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	その都度授業内で紹介します。				

【オフィスアワー】
火曜4限もしくは5限（ただし、事前にメール等で確認すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション：社会政策の理解のための基礎知識	受講に当たっての注意点の説明および社会政策の理解に必要な基本的知識の確認	
	この回の到達目標	社会政策についての基本的な知識を説明できるようになる。	
	事前学修	社会政策とは何かについて考えてくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、社会政策の範囲について自分なりの線引きとその根拠を整理する。	120分
2	社会政策とは	社会政策とは何かについてその概念成立の背景から考察する。	
	この回の到達目標	社会政策の定義を広義・狭義ともに説明できるようになる。	
	事前学修	社会政策の定義についての文献を探し読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分が考えた社会政策の範囲と実際の定義との違いを整理する。	120分
3	社会政策論	日本における代表的な社会政策論について説明する。	
	この回の到達目標	代表的な社会政策論の違いを説明できるようになる。	
	事前学修	日本の社会政策論者についての文献を探し読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、代表的な社会政策論とその違いを整理する。	120分
4	社会政策の対象・機能	社会政策が対象とする人・事象・分野と、社会政策に求められる機能について考える。	
	この回の到達目標	社会政策の機能を実際の政策に照らして説明できるようになる。	
	事前学修	労働市場についての文献を探し読んでくる。	120分
	事後学修	社会政策の役割における労働市場との関係を整理し、言語化する。	120分
5	給付と規制	社会政策における給付と規制について、その種類や目的を実際の例を踏まえて説明する。	
	この回の到達目標	社会政策における給付と規制の使い分けを実際の政策に照らして説明できるようになる。	
	事前学修	日本の社会政策における労働市場に係る規制について調べてくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、日本の社会政策の規制の特徴について整理し、言語化する。	120分
6	福祉国家レジーム論	社会政策の機能や位置づけの違いについて、福祉国家論を用いて説明する。	
	この回の到達目標	福祉国家論の定義にしたがって日本の位置づけを説明できるようになる。	
	事前学修	エスピン-アンデルセンの福祉国家論についての文献を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、福祉国家レジーム論における日本の位置づけとその理由を考察し、言語化する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会政策の財政	社会政策の実施・運営における財源と財政の仕組みについて説明する。	
	この回の到達目標	社会政策におけるお金の流れを図を書いて説明できるようになる。	
	事前学修	社会政策の財源の種類について身の回りの生活から考えてくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分の日々の生計と社会政策とのお金の流れを図示する。	120分
8	社会情勢と社会政策	社会情勢が社会政策に与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	現在の社会情勢が社会政策に与える影響について説明できるようになる。	
	事前学修	社会政策の改革や改正に関する新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、現代社会における社会政策の課題を整理し、言語化する。	120分
9	所得保障制度	所得保障制度の仕組みと方法論について説明する。	
	この回の到達目標	所得保障制度の代表的な方法とその違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）している所得保障制度を調べてくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分が利用（加入）している所得保障制度を方法論の違いで分類してみる。	120分
10	所得保障をめぐる議論	前回の授業を踏まえて所得保障制度をめぐる議論について説明する。	
	この回の到達目標	現代社会における社会保障論を巡る代表的な議論について説明し、自分の意見を提示することができるようになる。	
	事前学修	所得保障制度の課題に関する新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分が問題だと思う所得保障制度とその論点を整理し、言語化する。	120分
11	医療保障	医療保障の仕組みと方法論について説明する。	
	この回の到達目標	医療保障の代表的な方法とその違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）している医療保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分が問題だと思う医療保障制度とその論点を整理し、言語化する。	120分
12	労働保障	労働保障の基盤となる理念から、その仕組みと方法論について説明する。	
	この回の到達目標	労働保障の代表的な方法とその違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）している労働保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分が問題だと思う労働保障制度とその論点を整理し、言語化する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	住宅保障	住宅保障の方法と社会政策における意義を説明する。	
	この回の到達目標	住宅保障の代表的な方法とその違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）している住宅保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分が問題だと思う住宅保障制度とその論点を整理し、言語化する。	120分
14	生活の基盤を支える制度	家族制度を中心として、教育やシチズンシップなど、社会制度の基盤となる制度について説明する。	
	この回の到達目標	家族制度が社会政策の実施に与える影響について説明できるようになる。	
	事前学修	世界の家族制度についての文献を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分が問題だと思う日本の家族制度とその論点を整理し、言語化する。	120分
15	理解度の確認	これまでの授業の総括を行い理解度の確認の機会とする。	
	この回の到達目標	これまでの授業を通じて学んだことを自分の言葉で説明し新たな課題を見つけることができるようになる。	
	事前学修	これまでの授業を振り返り、不明な点などを整理し、リストアップする。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分なりの今後の課題を設定する。	120分

科目名	社会政策論Ⅱ	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会政策は、公共政策の中でもとりわけ人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図る目的で、日本や世界全体の政策動向と政策決定について学ぶための学問である。今日労働政策、労務管理、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策、教育政策、住宅政策などを含む概念として理解されているが、これを人間の権利と尊厳を重視する視点から概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会政策の政策目標は、産業社会の諸問題の緩和である。大きくは生活の向上と基本的人権の尊重である。これにしたがって公務員試験対策、福祉行政やNPO活動のほか、人々にとって幸福、権利、尊厳とは何か、について深く理解できるように講義を行うことを目的とする。学問としてのアプローチと分析方法を知ることによって、政府の政策に対する科学的・客観的な評価を行う力を身に付けることができるようになることを目標とする。また社会政策が人々の権利や尊厳をもとに制度設計がなされる傾向にある点にも注目して講義を行う。関連DP及びCP：経営法学科1, 3, 4 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式による。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習および授業内で提示した資料や文献を読み、自分なりの考えを整理したうえでの受講。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会問題に対する社会政策の機能を説明できるようになる。					2		2	2	2			
②	貧困問題とその社会的要因について説明できるようになる。					2		2	2	2			
③	社会的排除の構造とその対象者の特性を関連付けて説明できるようになる。					2		2	2	2			
④	世界的な社会問題における日本の位置づけについて説明できるようになる。。					2		2	2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験を実施する（60%）。	15		15	10	10						50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	毎回の授業で加点対象となるコメントを集める（40%）。	10		10	10	10						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25		25	20	20						90

【課題に対するフィードバックの方法】
授業を通じて行う。また、コメントへのリプライを資料として配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	随時授業内で紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜4限もしくは5限（ただし事前にメール等で確認すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション：社会政策と社会問題	受講に当たっての注意点の説明および前期の社会政策論Ⅰとの関係についての説明。	
	この回の到達目標	社会問題に対する社会政策の役割について説明できるようになる。	
	事前学修	現代の社会問題についてどのようなものがあるか、どのような点が問題なのかを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、自分が興味のある社会問題について調べる。	120分
2	貧困	貧困の概念とその変化について説明する。	
	この回の到達目標	貧困の概念の変化とその違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	貧困の定義についての文献を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、貧困の定義の変化が社会政策に与えた影響を整理し、文章化する。	120分
3	格差と社会的排除	貧困の概念を前提として、格差と社会的排除との関係を説明する。	
	この回の到達目標	格差と社会的排除を実際の状況を踏まえて事象として説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業の内容を踏まえて、貧困の定義の変化と格差論の関係を考察してくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、社会的排除の発生プロセスを図式化してみる。	120分
4	日本における子どもの貧困	日本における子どもの貧困を題材に日本の格差・社会的排除の問題を説明する。	
	この回の到達目標	日本の子どもの貧困問題を、社会的排除の構図として説明できるようになる。	
	事前学修	子どもの貧困に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、日本の子どもの貧困の特徴を整理し、文章化する。	120分
5	非正規雇用問題	非正規雇用問題を題材に日本の格差・社会的排除の問題を説明する。	
	この回の到達目標	非正規雇用の問題を社会政策の問題という視点から説明できるようになる。	
	事前学修	非正規雇用問題に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、非正規雇用問題の論点をリスト化し、それぞれの対策を考えてみる。	120分
6	労働の危機	日本における労働の危機について、その社会的制度的背景とともに説明する。	
	この回の到達目標	労働の危機をその発生要因とともに説明できるようになる。	
	事前学修	労働の危機に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、労働における危機回避のために必要な方策を考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	ケアの不在問題		高齢者介護と待機児童問題を題材としてケアの不在問題について説明する。
	この回の到達目標	ケアの不在問題をその発生要因とともに説明できるようになる。	
	事前学修	ケアの供給に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	ケアの不在問題における社会構造的要因についてリスト化し、その説明を文章化する。	120分
8	不適切なケア		児童・高齢者・障害者などの虐待問題を中心として不適切なケアについて説明する。
	この回の到達目標	不適切なケア問題に対する社会政策の意義と役割を説明できるようになる。	
	事前学修	児童・高齢者・障害者の虐待に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	虐待の予防における社会政策の課題と限界について整理し、文章化する。	120分
9	差別と排除		差別と排除の問題とその政策的対応について差別解消法制度を題材に説明する。
	この回の到達目標	差別の予防における社会政策の機能と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	障害者差別解消法についての文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、日本の差別禁止法制をリスト化し、それぞれの課題を整理し、文章化する。	120分
10	住宅弱者		高齢者をはじめとするいわゆる住宅確保要配慮者についての課題と対策を説明する。
	この回の到達目標	日本における住宅弱者の現状とその社会的要因について説明できるようになる。	
	事前学修	日本の住宅保障に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、日本の住宅保障制度の特徴と課題を、実際の住宅弱者の現状を踏まえて説明し文章化する。	120分
11	家族と社会政策		社会システムとしての家族制度と社会政策との関連について説明する。
	この回の到達目標	日本の家族制度の特徴をその社会的背景とともに説明できるようになる。	
	事前学修	家族制度に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、日本における家族制度に関する議論を整理し、それらについて自分の立場を明らかにし言語化する。	120分
12	外国人の権利保障		権利保障システムとしての社会政策を外国人の事例を通じて説明する。
	この回の到達目標	外国人の権利保障における日本の特徴を説明できるようになる。	
	事前学修	外国人の権利保障に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、身の回りで実際に起きている外国人の権利保障に係る問題を探し、それについての自分の立場を明らかにし言語化する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公共事業の民営化	これまで行政が担ってきた事業の民営化についてその意義と課題について説明する。	
	この回の到達目標	行政による事業の民営化の社会政策運営における意味を説明できるようになる。	
	事前学修	公共事業の民営化についての文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、身の回りから公共事業の民営化の事例を探し、それに対する自分の見解を文章化する。	120分
14	コロナと医療政策	コロナ禍のなかで明らかになった医療政策の課題について説明する。	
	この回の到達目標	緊急時の医療供給体制における課題を説明できるようになる。	
	事前学修	(コロナ禍での) 医療供給体制についての文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、平常時の医療供給体制の改善点について自分なりの意見を示し、文章化する。	120分
15	理解度の確認	これまでの授業の総括を行い理解度の確認の機会とする。	
	この回の到達目標	社会問題に対する社会政策の役割について、自分なりの考えを説明できるようになる。	
	事前学修	これまでの授業を振り返り、課題や疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて、授業で得たことの整理とその今後の活用、新たな課題について整理し文章化する。	120分

科目名	社会調査概論	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
社会調査は、社会のさまざまな領域で活用されている。社会の実態を知る上で、社会調査は必要不可欠のツールである。以上のような前提のもと、本科目では①社会調査の概念、②社会調査の歴史、③社会調査の方法を学習することを通じて、社会調査に関する基本的な知識および方法論を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、社会調査に対する理解を深めるために、社会調査についての基本的な知識とと方法論を修得する。また、実際に社会調査を企画することで、社会調査を実施する基本的な能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
前半は、教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。後半は、スライドを用いて講義を進めつつ、受講生は各々が社会調査を企画し、実際に調査票の作成に取り組む。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会調査に関する基本的な知識および方法論を理解し、適切に用いることができる。				2	2	2	2				
②	社会調査の概念および歴史を理解し、具体的に説明できる。				2	2						
③	社会調査のデータに対するリテラシーを身につけ、それらをクリティカルに解釈できる。				2	2	2	2				
④	授業で修得した知識と方法論に基づいて、社会調査を企画することができる。				2	2	2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	20	15	15	15							65
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているかを基準として、到達目標①④に関わる能力が修得できているかを評価する。	10			15							25
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーを提出させることによって、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているのかを基準として、到達目標①②に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	15	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第10回の授業で、第9回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。また、第15回の授業で実施した筆記試験に対する解説は、Google Classroomを通じて実施する。なお、課題に対する解説は第15回の授業で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
系譜から学ぶ社会調査	小林多寿子	嵯峨野書院	2018	教科書	必携
社会調査の実際	島崎哲彦・大竹延幸	学文社	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業概要、授業目的、到達目標、成績評価の方法等を説明し、受講生が授業準備を具体的に実施できるようにする。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書を通して読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	社会調査とは何か	社会調査の定義、考え方、そして類型について学習する。ついで、社会調査の意義について考察する。	
	この回の到達目標	社会調査に関する基本的な知識を学習することで、社会調査に対するリテラシーを修得する。	
	事前学修	教科書第1章「リサーチ力を培うための社会調査論」の内容を読み、社会調査について自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	社会調査のルーツ	社会調査のルーツについて学習する。現在の社会調査につながる調査がどのようにして始まったのか、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	社会調査のルーツについて学習することで、社会調査の意義に対する理解を深める。	
	事前学修	教科書第2章「社会調査のルーツとヨーロッパにおける先駆者たち」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	古典的社会調査	家計調査および貧困調査について学習する。社会調査の原点ともいえるそれらの調査について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	家計調査および貧困調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	教科書第3章「貧困調査からの出発」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	シカゴ学派	シカゴ学派による社会調査について学習する。シカゴ学派が形成された背景、そしてそこで発展した質的調査について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	シカゴ学派が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	教科書第4章「シカゴ・スタイルーシカゴ学派とアメリカにおける質的調査の出発」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	地域調査	ミドルタウン調査に代表される地域調査について学習する。地域調査がもたらした影響について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	地域調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	教科書第5章「『ミドルタウン』と『ピープルズ・チョイス』」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	メディア効果調査	メディア効果調査について学習する。メディアの影響力に対する認識がどのように変化していったのかについて、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	メディア効果調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	教科書第5章「『ミドルタウン』と『ピープルズ・チョイス』」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	世論調査	世論調査について学習する。世論調査の誕生からその発展の過程について、複数の事例を参照することを通じて考察する。	
	この回の到達目標	世論調査が社会調査にもたらした影響を学習することで、社会調査の発達過程について理解を深める。	
	事前学修	教科書第11章「世論調査の発展」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
9	総括 (1)	第2回から第8回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第2回から第8回までの講義ノートを見直し、社会調査への総合的な理解を深める。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	社会調査の前提	社会調査を企画するために必要な基礎的知識を学習する。社会調査の種類、データの意味、実施する上での倫理等について考察する。	
	この回の到達目標	社会調査を企画するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	身近にある社会調査の事例について調べ、自分なりに理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	社会調査の設計	社会調査の設計するために必要な基礎的な知識について学習する。社会調査の目的、方法、概念の操作的定義、仮説の構成等について考察する。	
	この回の到達目標	社会調査を設計するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	社会調査の主体として、どのようなテーマを選択するのか、そのテーマを選んだ理由は何なのかについて考えておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	調査票の作成	調査票の作成について学習する。具体的には、質問文の作成における注意点について学習する。	
	この回の到達目標	社会調査を設計するための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	社会調査の主体として、調査テーマの概念の操作的定義や仮説について考えておく。	120分
	事後学修	授業で提示した課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	調査の実施	社会調査の準備と実施、および調査票の回収と点検について学習する。	
	この回の到達目標	社会調査を実施のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	社会調査の主体として、調査を実施する際の注意事項について考えておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	集計と分析	データのエディティング、コーディング、クリーニングの方法、集計の種類、そして分析の考え方を学習する。収集したデータを集計、分析する方法について考察する。	
	この回の到達目標	データの集計および分析のための基礎的知識を学習することで、社会調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	社会調査の主体として、データの適切な集計と分析のために必要なことは何なのかについて理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	総括（2）	第10回から第14回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第10回から第14回までの講義ノートを見直し、社会調査への総合的な理解を深める。	120分
	事後学修	第10回から第14回までの講義ノートを見直し、筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	社会保障法Ⅰ	担当者	神尾 真知子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。各論として、社会保障法Ⅰでは、社会保険を中心に取 り上げて、代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。なお、社会保障法Ⅱは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に 取り上げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保険に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにする。また、社会 保険の仕組みを理解し、説明できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
静粛に授業を聞くこと。社会保障法Ⅰと社会保障法Ⅱの両方を履修して、社会保障法の全体像が理解できるので、両方履修することが望まし い。

【授業方法】
講義形式。社会福祉六法で条文を確認しながら講義を進める。授業の理解の確認を行うアクションペーパーは次の回にコメントする。また、 授業内試験のフィードバックは最終講義日に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的に考察できる。【論理的・批判的思考力】							2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べるができる。【問題発見・解決力】								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障法上の知識と論理的・批判的思考力が身についているかを確認する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識を身につけているかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分の意見を述べるができているかを確認する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験（授業内試験を実施予定）のフィードバックは講義の最終回に行う。毎回の小テストのフィードバックは次の講義時に添削の上返却し、コメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
トピック社会保障法 2021年版	本沢巳代子・新田秀樹編著	不磨書房	2021年	教科書	必携
社会福祉六法 2021年版		ミネルヴァ書房	2021年	教科書	必携
社会保障（NEXT教科書シリーズ）	神尾真知子・古橋エツ子	弘文堂	2014年	参考書	任意
備考	上記2冊の教科書は講義に必須ですので、必ず購入してください。判例や資料については、事前にクラスルームで配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取る） 適宜場所を指定する。 kamio.machiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 労災の業務上外認定に関する再審査申立機関である労働保険審査会（厚生労働省所管）の委員を9年務めた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		実際の労災認定が実際にどのように行われているのかについて、講義する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【第1回 ガイダンス 社会保障法とは何か】	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、社会保障法を学ぶ意義を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	社会保障法にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【第2回 社会保障法の歴史、法理念、法体系、法源】	社会保障法の歴史を学び、法理念及び法体系を理解し、社会保障法の法源にはどのようなものがあるのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会保障法の総論的な事項を理解する。	
	事前学修	社会保障法はどのような歴史をたどってきたのか、法理念、法体系、法源とは何かについて考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、社会保障法の歴史、法理念、法体系、法源を確認し、説明できるようにする。（	120分
3	【第3回 医療保険の仕組み】	社会保険のうち、医療保険を取り上げ、社会保険としての仕組みを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、医療保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できる。	
	事前学修	医療保険の社会保険としての仕組みを理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、医療保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。	120分
4	【第4回 医療保険の給付】	社会保険のうち、医療保険を取り上げ、医療保険の給付にはどのようなものがあるのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①及び③に関連して、医療保険の給付の仕組みを理解し、説明できるようにするとともに、現行医療保険制度の問題点を理解し、自分の意見を持てるようにする。	
	事前学修	医療保険の給付の仕組みを理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、医療保険の給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにし、日本の医療保険制度の問題点を整理する。	120分
5	【第5回 法人の代表者と被保険者資格広島高裁判決等】	社会保険のうち、医療保険を取り上げ、法人代表と健康保険の被保険者資格等に関する判決を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、医療保険をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
	事前学修	医療保険に関連する判決を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、医療保険関連判決の判旨を確認する。	120分
6	【第6回 介護保険の仕組みと給付】	社会保険のうち、介護保険を取り上げ、その仕組みと給付を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、介護保険の仕組みと給付を理解し、説明できる。	
	事前学修	介護保険の社会保険としての仕組みと給付を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、介護保険の社会保険としての仕組みと給付を確認して、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【第7回 介護保険における減額査定と居宅介護サービス費請求に関する高松高裁判決等】	社会保険のうち、介護保険を取り上げ、介護保険における減額査定と居宅介護サービス費請求に関する判決等を学修する。	
	この回の到達目標	到達到達目標③に関連して、介護保険をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
	事前学修	介護保険に関連する判決を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、介護保険関連判決の判旨を確認する。	120分
8	【第8回 年金保険の仕組み】	社会保険のうち、年金保険を取り上げ、社会保険としての仕組みを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、年金保険の仕組みを理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	年金保険の社会保険としての仕組みを理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、年金保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。	120分
9	【第9回 年金保険の給付】	社会保険のうち、年金保険を取り上げ、どのような給付があるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①及び③に関して、年金制度を理解すると共に、現行年金制度が変えている問題点を把握し、自分の意見を述べるようにする。	
	事前学修	年金保険の給付の仕組みを理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、年金保険の給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。	120分
10	【第10回 重婚的内縁関係と遺族年金に関する判決等】	社会保険のうち、年金保険を取り上げ、重婚的内縁関係と遺族年金に関する判決等を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、年金保険をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
	事前学修	年金保険に関連する判決を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、年金保険関連判決の判旨を確認する。	120分
11	【第11回 労災保険の仕組み】	社会保険のうち、労災保険を取り上げ、社会保険としての仕組みを学修する。 労働保険審査会委員としての経験を踏まえ、労災の業務上外認定の実務及び再審査申立制度の仕組みの説明をする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、労基法の災害補償との違いに留意して、労災保険の仕組みを理解し、説明できる。	
	事前学修	労災保険の社会保険としての仕組みを理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、労災保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。	120分
12	【第12回 労災保険の給付】	社会保険のうち、労災保険を取り上げ、どのような給付があるのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、労災保険の給付を理解し、説明できる。	
	事前学修	労災保険の給付の仕組みを理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、労災保険の給付にはどのようなものがあるかを確認し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【第13回 労働者性をめぐる判決等】	社会保険のうち、労災保険を取り上げ、労働者性をめぐる判決等を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、労災保険をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
	事前学修	労災保険関連の判決の判旨を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、労災保険関連の判決の判旨を確認する。	120分
14	【第14回 総まとめと授業内試験】	これまで学んだことを復習し、授業内試験の準備をし、授業内試験を受ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前学期で学んだことを復習し、理解を確認する。	
	事前学修	講義ノートを確認し、これまで学習したことを振り返り、授業内試験の準備をする。	120分
	事後学修	授業内試験を受けて、学習不足だった点は何かを検討する。	120分
15	【第15回 授業内試験の解説】	授業内試験の問題の趣旨を解説し、学生の理解状況についてコメントする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会保険についての理解を確認し、説明できる。	
	事前学修	前学期の講義内容を振り返り、復習する。	120分
	事後学修	授業内試験のコメントを聞いて、前期の学習の達成度を自分なりに評価する。	120分

科目名	社会保障法Ⅰ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。各論として、社会保障法Ⅰでは、社会保険を中心に挙げて、代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。なお、社会保障法Ⅱは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に挙げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにする。また、社会保険の仕組みを理解し、説明できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパーを配り、その回で考えたこと、意見、質問等を記入してもらい、次の授業の最初にフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】				2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的に考察できる。【論理的・批判的思考力】						2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べる事ができる。【問題発見・解決力】							2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障法上の知識と論理的・批判的思考力が身についているかを確認する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識を身につけているかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分の意見を述べるができているかを確認する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業期間内に実施した課題については、授業内に、最終回に実施した課題については、ポータルを通じてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法	黒田 有志弥 (著), 柴田 洋二郎 (著), 島村 暁代 (著), 橋爪 幸代	有斐閣	2019年 度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日17時～18時 研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会保障法の概念	社会保障が、国民の生活を保障するために、どのような役割を担っているのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	社会保障の概念とその役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
2	医療保険について考える（ワークショップ）	医療保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。	
	この回の到達目標	医療保険の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
3	医療保険制度の概要	医療保険の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	医療保険制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
4	医療保険制度の課題	医療保険制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	医療保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
5	労災保険制度について考える	労災保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。	
	この回の到達目標	労災保険の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
6	労災保険制度の概要	労災保険の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	労災保険制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	労災保険制度の課題		労災保険制度に関する判例や、最近の課題について学ぶ。
	この回の到達目標	労災保険制度に関する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
8	医療保険制度と労災保険制度の差異		医療保険制度と労災保険制度の差異を確認し、各制度における課題とその解決案について考える。
	この回の到達目標	医療保険制度と労災保険制度の仕組みの差異について理解し、各制度における現代的な課題について、政策提案を含む私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
9	雇用保険制度について考える		雇用保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ（ゲスト講師）。なお、ゲスト講師については、予定調整により変更となる場合がある。
	この回の到達目標	雇用保険の役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
10	雇用保険制度の概要		雇用保険の仕組みについて学ぶ。
	この回の到達目標	雇用保険制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
11	雇用保険制度の課題		雇用保険制度に関する判例や、最近の課題について学ぶ。
	この回の到達目標	雇用保険制度に関する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
12	年金制度について考える		年金保険が、生活において生じるどのようなリスクをカバーしているのかを考え、学ぶ。
	この回の到達目標	年金保険制度に関する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	年金制度の概要	年金保険の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	年金保険制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	年金制度の課題	年金保険制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	年金保険制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	前学期のまとめ試験及び振り返り	4つの社会保険制度について、それぞれの制度の仕組みを確認し、各制度の課題とその解決策について考える。	
	この回の到達目標	4つの社会保険制度について、それぞれの制度の仕組みを理解し説明できるようにするとともに、各制度の課題とその解決策について私見を述べることができる。	
	事前学修	前学期講義内容を確認する。	120分
	事後学修	前学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	社会保障法Ⅱ	担当者	神尾 真知子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】 社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。社会保障法Ⅰは社会保険を中心に、社会保障法Ⅱは社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に講義する。
--

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにすることを目標とする。

【履修条件】 社会保障法全体を理解するために、社会保障法Ⅰ及び社会保障法Ⅱを通して履修してほしい。社会保障法Ⅱから履修する学生は、教科書の前半を読んでおくこと。
--

【授業方法】 講義形式。社会福祉六法で条文を確認しながら講義を進める。授業の理解の確認を行うアクションペーパーは次の回にコメントする。また、授業内試験のフィードバックは最終講義日に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的の考察できる。【論理的・批判的思考力】							2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べる事ができる。【問題発見・解決力】								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障上の知識と論理的・ 批判的思考力が身についているかを確認する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識が身について いるかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会 保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分 の意見を述べる事ができているか確認する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験（授業内試験を実施予定）のフィードバックは講義の最終回に行い、毎回の小テストのフィードバックは次の講義時に添削の上返却し、 コメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
トピック社会保障法 2021年版	本沢巳代子・新田秀樹編著	不磨書房	2021年	教科書	必携
社会福祉六法 2021年版		ミネルヴァ書房	2021年	教科書	必携
社会保障（NEXT教科書シリーズ）	神尾真知子・古橋エツ子	弘文堂	2014年	参考書	任意
備考	上記2冊の教科書は講義に必須ですので、必ず購入してください。判例や資料は、事前にクラスルームで配布します。				

【オフィスアワー】
月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取る事） 適宜場所を指定する。 kamio.machiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【第1回 ガイダンス 社会保障法Ⅱ及び雇用保険の仕組み】	社会保障法Ⅱから受講する学生のために、簡単な社会保障法のガイダンスを行った上で、社会保険のうち、雇用保険を取り上げ、仕組みを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、社会保障法を学ぶ意義を理解する。到達目標①に関連して、雇用保険の仕組みを理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	雇用保険の社会保険としての仕組みを理解する。	120分
	事後学修	雇用保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。	120分
2	【第2回 岡山職安所長事件判決等】	社会保険のうち、雇用保険を取り上げ、「職業に就くこと」に関する判決等を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、雇用保険をめぐる判決の論理を理解し、説明できる。	
	事前学修	雇用保険関連判決をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。	120分
	事後学修	雇用保険関連判決の判旨を理解し、説明できるようにする。	120分
3	【第3回 保育サービスの種類と仕組み】	社会福祉サービスのうち、児童福祉を取り上げて、保育サービスの種類と仕組みを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、保育サービスの種類と仕組みを理解し、説明できるようにする。到達目標③に関連して、日本の保育サービスの課題を理解し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	社会福祉サービスとは何か、保育サービスの種類と仕組みを確認する。現状の課題を理解する。	120分
	事後学修	保育サービスはどのような種類があり、どのような仕組みなのかを理解し、説明できるようにする。現状の課題に対する自分の意見を考察する。	120分
4	【第4回 保育所への入所承諾義務付けに関する判例等】	社会福祉サービスのうち、児童福祉を取り上げて、保育所への入所承諾義務付けに関する判例等を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、保育サービスをめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
	事前学修	保育関連判決をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。	120分
	事後学修	保育関連判決の判旨を理解し、説明できるようにする。	120分
5	【第5回 児童手当の仕組み】	社会手当のうち、児童手当を取り上げ、仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、児童手当の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	社会手当とは何か、児童手当とは何かを確認する。	120分
	事後学修	児童手当の仕組みを理解し、説明できるようにする。	120分
6	【第6回 フランスの子育て支援のための社会手当】	日本の社会手当と比較するために、フランスの子育てのための社会手当である家族給付について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、フランスの家族給付制度の理念と制度のあり方と比較して、日本の子育て支援の社会手当のあり方も問題点を理解し、自分の意見を述べるようにする。	
	事前学修	フランスの子育てに関連する社会手当について確認する。	120分
	事後学修	フランスの社会手当と日本の社会手当の違いを理解し、説明できるようにし、日本の社会手当のあり方に対して自分の意見を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【第7回 児童扶養手当の仕組み】	社会手当のうち、児童扶養手当を取り上げ、その仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①及び③に関連して、児童扶養手当の仕組みを理解し、説明できるようにし、児童扶養手当の問題点に対する自分の意見を述べられるようにする。	
	事前学修	児童扶養手当の仕組みを確認する。	120分
	事後学修	児童扶養手当の仕組みを理解し、説明できるようにし、自分の意見を考察する。	120分
8	【第8回 堀木訴訟等の判決】	社会手当のうち、児童扶養手当を取り上げ、堀木訴訟等の判決を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、児童扶養手当をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
	事前学修	児童扶養手当関連判決に関連する知識を確認する。	120分
	事後学修	児童扶養手当関連判決をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。	120分
9	【第9回 障がい者福祉の仕組み】	社会福祉サービスのうち、障がい者福祉を取り上げ、その仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、障がい者福祉の仕組みを理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	障がい者福祉サービスはどのような仕組みかを確認する。	120分
	事後学修	障がい者福祉の仕組みを理解し、説明できるようにする。	120分
10	【第10回 身体障害者居宅生活支援被保険者と介護保険給付との関係大阪高裁判決等】	社会福祉サービスのうち、障がい者福祉を取り上げ、身体障害者居宅生活支援被保険者と介護保険給付との関係大阪高裁判決等を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、障がい者福祉に関する判決の論理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	障がい者福祉サービスに関する判決を確認する。	120分
	事後学修	講義ノート確認し、障がい者福祉サービスに関連する判決の判旨を確認する。	120分
11	【第11回 生活保護の仕組み】	公的扶助のうち、生活保護を取り上げ、その仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、生活保護の仕組みを理解し、説明することができる。	
	事前学修	公的扶助とは何か、生活保護の仕組みを確認する。	120分
	事後学修	生活保護はどのような場合にどのような手続きによって給付されるのかを理解し、説明できるようにする。	120分
12	【第12回 保護の補足性の原則】	公的扶助のうち、生活保護を取り上げ、保護の補足性の原則について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、保護の補足性の原則を理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	生活保護支給の要件を確認する。	120分
	事後学修	保護の補足性の原則とは何かを理解し、説明できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【第13回 学資保険の満期返戻金を収入認定する処分の適法性最高裁判決等】	公的扶助のうち、生活保護を取り上げ、保護の補足性と稼働能力の活用に関する判決について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、生活保護をめぐる判決の論理の道筋を理解し、説明することができる。	
	事前学修	生活保護関連判決をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。	120分
	事後学修	生活保護関連判決の判旨を確認する。	120分
14	【第14回 総まとめと授業内試験】	これまで学んだことを復習し、授業内試験の準備をし、授業内試験を受ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後学期で学んだことを復習し、理解を確認する。	
	事前学修	講義ノートを確認し、これまでの学習を振り返り、授業内試験の準備をする。	120分
	事後学修	授業内試験を受けて、学習不足だった点は何かを検討する。	120分
15	【第15回 授業内試験の解説】	授業内試験の問題の趣旨を解説し、学生の理解状況についてコメントする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、雇用保険、社会手当、障がい者福祉、生活保護についての理解を確認し、説明できる。	
	事前学修	後学期の講義内容を振り返り、復習する。	120分
	事後学修	授業内試験のコメントを受けて、後学期の学習の達成度を自分なりに評価する。	120分

科目名	社会保障法Ⅱ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。社会保障法Ⅰは社会保険を中心に、社会保障法Ⅱは社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP ： 法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、リアクションペーパーを配り、その回で考えたこと、意見、質問等を記入してもらい、次の授業の最初にフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法はどのような理念と仕組みであるのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	社会保障をめぐる判決を理解し、判例にみる論理の道筋を批判的の考察できる。【論理的・批判的思考力】							2					
③	現在の日本が直面している社会保障上の諸問題を理解し、自ら意見を述べる ことができる。【問題発見・解決力】								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①及び②にかかわる社会保障上の知識と論理的・批判的思考力が身についているかを確認する。	30	30									60
小テスト等	到達目標①の社会保障に関する基礎的な知識が身についているかについて、毎回確認する。	30										30
レポート等	到達目標③について、現在社会的に問題となっている社会保障上の問題について、的確にとらえ、根拠を持って自分の意見を述べる事ができているか確認する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	30	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業期間内に実施した課題については、授業内に、最終回に実施した課題については、ポータルを通じてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法	黒田 有志弥 (著), 柴田 洋二郎 (著), 島村 暁代 (著), 橋爪 幸代	有斐閣	2019年度	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日17時～18時 研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 福祉オンブズパーソンとして、福祉相談業務を行う。
実務経験に基づく実践的教育の内容		福祉の現場で、どのようなことが課題となっているか、相談業務等を通じた経験を反映させる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会福祉制度及び生活保護制度の歴史と概念	社会福祉サービスと生活保護制度の歴史を踏まえ、それぞれの役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	社会福祉サービスと生活保護制度の歴史と各制度の役割を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
2	子育て支援をめぐる制度の概要	子育て支援制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	子育て支援制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
3	子育て支援をめぐる制度の課題	子育て支援制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	子育て制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。	120分
4	児童虐待をめぐる制度の概要	児童虐待防止制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	児童虐待防止制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
5	児童虐待をめぐる制度の課題	児童虐待防止制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	児童虐待防止制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
6	障害者福祉について考える	障害者の福祉ニーズについて学ぶ。	
	この回の到達目標	障害者の福祉ニーズについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	障害者福祉制度の概要	障害者福祉制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	障害者福祉制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
8	障害者福祉制度の課題	障害者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	障害者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
9	高齢者福祉について考える	高齢者の福祉ニーズについて学ぶ。	
	この回の到達目標	高齢者の福祉ニーズについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
10	高齢者福祉制度の概要	高齢者福祉制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	高齢者福祉制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく（2時間程度）。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。	120分
11	高齢者福祉制度の課題	高齢者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	高齢者福祉制度に関係する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
12	生活保護制度について考える	貧困問題と生活保護制度の役割について学ぶ（ゲスト講師）。なお、ゲスト講師については、予定調整により変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	貧困問題と生活保護制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	生活保護制度の概要	生活保護制度の仕組みについて学ぶ。	
	この回の到達目標	生活保護制度の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	生活保護制度の課題	生活保護制度に関する判例や、最近の課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	生活保護制度に関する判例や、最近の課題について理解し、それらについて批判的な考察を行い、自ら意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	後学期のまとめ試験及び振り返り	福祉サービス制度と生活保護制度について、それぞれの制度の仕組みを確認し、各制度の課題とその解決策について考える。	
	この回の到達目標	福祉サービス制度と生活保護制度について、それぞれの制度の仕組みを理解し説明できるようにするとともに、各制度の課題とその解決策について私見を述べることができる。	
	事前学修	後学期講義内容を確認する。	120分
	事後学修	後学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	社会保障論Ⅰ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。

【授業方法】
オンディマンド方式でオンライン方式の講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。				2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。				2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。				2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	オンラインで授業を実施する。授業後に与えられた課題についてレポートを提出する。個々のレポートの総合的評価によって成績を決める。	40			40							80
小テスト等												
レポート等	レポートは毎回の授業について提出するというものではない。レポートの内容は、学修の要約と個人の感想、意見等によって構成される。	10		5	5							20
討論・発表等	質問、意見等のやり取りはメールによって行う。											
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50		5	45							100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
個人的質問その他は随時メールにて確認が可能

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		授業遂行の上で公務員経験からの政策アプローチのほかに民間部門からのアプローチも論じることができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、社会保障とは何か	社会保障とは何かについての概要を理解する。	
	この回の到達目標	社会保障の概念を理解すると同時に現代社会における社会保障の重要性を述べる。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
2	社会保障の理念 目的	現代社会に社会保障が果たす役割についてその理念・目的を理解する。	
	この回の到達目標	社会保障の理念目的について政治・経済・雇用・労働の側面から理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
3	社会保障の歴史（１）	イギリス救貧法と公的扶助	
	この回の到達目標	公的扶助の制度的源流としてイギリス救貧法について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
4	社会保障の歴史（２）	ドイツ社会政策と社会保険制度	
	この回の到達目標	日本の社会保障制度の根幹をなす社会保険制度の源流としてドイツ・ビスマルク釈迦保険制度について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
5	社会保障の歴史（３）	世界大恐慌とアメリカ社会保障法	
	この回の到達目標	世界で最初に立法化された社会保障法の源流として1930年代のアメリカの状況について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
6	日本の社会保障の歴史（１）	明治大正期の労働保険	
	この回の到達目標	近代的労働屋の発生と、東京帝国大学の労働保険講座の発生前後の事情を理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本の社会保障の歴史（2）	健康保険法の成立と展開	
	この回の到達目標	日本で最初の社会保険制度である健康保険法成立前後の事情を理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
8	日本の社会保障の歴史（3）	年金制度の成立と展開	
	この回の到達目標	公的年金制度の最初である労働者年金保険法成立前後の事情を理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
9	日本の社会保障の歴史（4）	戦後の体制変革と、いち早く行われた社会保障制度による福祉国家成立の事情について理解する。	
	この回の到達目標	社会保障制度審議会の成立と「社会保障制度に関する勧告」の発表について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
10	日本の社会保障の歴史（5）	社会保障の拡大について理解する。	
	この回の到達目標	日本の高度経済成長と国民皆保険、皆年金から社会保障制度の完成までの時期について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
11	社会保障の給付と負担	社会保障費、社会保障関連費、社会保障給付費、国民医療費に就て理解する。	
	この回の到達目標	財政、経済の側面から社会保障関連統計について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
12	効率と公平、新自由主義と社会保障	福祉国家の基盤としての社会保障の充実からの観点と、安定した経済財政基盤としての社会保障の観点についてそれぞれ理解する。	
	この回の到達目標	ILOによる社会保障の見方と、OECDによる社会保障の見方について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	政治と社会保障		日本における歴代政権の社会保障政策を分析し、国家財政政策、政権交代が及ぼす影響について理解する。
	この回の到達目標	日本の国内政治がどのように社会保障政策に影響を及ぼしたかについて理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
14	最近の社会保障政策の動き		社会保障国民会議答申と、最近の全世代型社会保障について理解する。
	この回の到達目標	社会保障が当面する課題についての的確にとらえる。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
15	今学期のまとめ		社会保障とは何か、どこからきてどこに行くのかについてまとめる。
	この回の到達目標	今学期における社会保障の全体像について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

科目名	社会保障論Ⅰ	担当者	山村 りつ	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するところにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。				2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。				2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。				2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、定期試験で評価する。		20	20	20							60
小テスト等	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で適宜コメントや質問へのリプライを行う。また最終的にリプライのまとめを資料として配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会福祉士基礎講座『社会保障論』		中央法規出版	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（ただし、この時間であっても事前にメール等で確認すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	オリエンテーション：授業の進め方についての説明 イントロダクション：社会保障と制度の概観	
	この回の到達目標	社会保障制度の枠組みを図示できるようになる。	
	事前学修	社会保障各制度の予習をする。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
2	社会保障の基礎知識	社会保障制度の定義と基本的な理念について説明する。	
	この回の到達目標	社会保障の広義・狭義の定義を説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障の定義についての文献を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
3	社会保障の方法論	社会保障制度における方法論について説明する。	
	この回の到達目標	社会保障制度における方法論についてその違いを説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障制度における税方式と保険方式について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
4	歴史的展開：創成から拡大（欧米）	欧米における社会保障の創成から拡大期の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	社会保障制度の創成期の特徴と課題を説明できるようになる。	
	事前学修	イギリスのエリザベス救貧法について調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
5	歴史的展開：創成から拡大（日本）	日本における社会保障の創成から拡大期の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	日本の所得保障制度の創成期の特徴と課題を説明できるようになる。。	
	事前学修	公的年金制度の成り立ちについて調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
6	歴史的展開：成熟と安定（欧米）	欧米における社会保障の成熟期から安定期の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	欧米の社会保障制度の英熟期の特徴と課題を説明できるようになる。	
	事前学修	ドイツの社会保険制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	歴史的展開：成熟と安定（日本）		日本における社会保障の成熟期から安定期の歴史的展開について説明する。
	この回の到達目標	日本の社会保障制度の成熟期の特徴と課題を説明できるようになる。	
	事前学修	生活保護制度と皆年金・皆保険制度の沿革について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
8	歴史的展開：危機と転換		社会保障の危機から転換期の歴史的展開について説明する。
	この回の到達目標	「福祉国家の危機」について説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障制度における改革についての文献を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
9	産業化と社会保障		産業化の伸展が社会保障政策に与えた影響について説明する。
	この回の到達目標	産業化が社会保障制度に与えた影響について説明できるようになる。	
	事前学修	産業革命とその後の社会保障制度の変化について整理する。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
10	家族の変化と社会保障		家族の変化が社会保障政策に与えた影響について説明する。
	この回の到達目標	家族形態の変化が社会保障制度に与えた影響について説明できるようになる。	
	事前学修	日本の世帯構造の変化について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
11	現代社会保障の世界的潮流		現代の社会保障政策にみられる世界的潮流とその社会的背景について説明する。
	この回の到達目標	現代の社会保障制度にみられる特徴と課題を説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障制度改革に関する文献や新聞記事を探し、読んでくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
12	国家類型論による理解		福祉国家レジーム論の概要と、それを通じて日本の社会保障制度の位置づけを説明する。
	この回の到達目標	福祉国家レジーム論における日本の位置づけについて、自らの意見を述べられるようになる。	
	事前学修	欧米先進国と比較した日本の社会保障の特徴について調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	排除と包摂		社会的排除と包摂の理論から社会保障政策の意義と役割を説明する。
	この回の到達目標	社会的包摂に社会保障制度が果たす役割について自らの意見を述べられるようになる。	
	事前学修	社会的排除と社会的包摂について調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
14	社会保障における価値と理念		社会保障制度において重要な価値と理念を、その形成の背景から説明する。
	この回の到達目標	社会保障制度における重要な理念について説明できるようになる。	
	事前学修	憲法における社会保障制度の根拠となる規定について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
15	まとめと総括		これまでの授業のまとめと総括を行う。
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、日本の社会保障制度のとりべき方向性について自らの意見を述べられるようになる。	
	事前学修	今学期の講義概要をまとめる。	120分
	事後学修	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る	120分

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。

【授業方法】
オンディマンド方式でオンライン方式の講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。				2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。				2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。				2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	オンラインで授業を実施する。授業後に与えられた課題についてレポートを提出する。個々のレポートの総合的評価によって成績を決める。	30			30	20						80
小テスト等												
レポート等	レポートは毎回の授業について提出するというものではない。レポートの内容は、学修の要約と個人の感想、意見等によって構成される。	10		5	5							20
討論・発表等	質問、意見等のやり取りはメールによって行う。											
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40		5	35	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
政治・経済の動向に注視し、課題の評論やマスメディアの反応等について確認する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、個々の授業で関連の文献について指示する。				

【オフィスアワー】
木、金曜日11時30分から13時前まで

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 健保連・社会保障研究室及び東京海上メディカル株式会社にて保健医療福祉サービス実務を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		授業遂行の上で公務員経験からの政策アプローチのほかに民間部門からのアプローチも論じることができる。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	公的年金制度1	国民年金制度の仕組み。保険料、財源、給付額その他について。	
	この回の到達目標	国民年金制度全般について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
2	公的年金制度2	厚生年金制度の仕組み、保険料、財源、給付額その他について。	
	この回の到達目標	厚生年金保険法、厚生年金制度について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
3	公的年金制度3	国民年金基金、企業年金、厚生年金基金制度の内容について。	
	この回の到達目標	国民年金基金、企業年金、厚生年金基金制度等の内容について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
4	健康保険制度（協会けんぽ、健保組合）、共済組合制度	健康保険制度（協会けんぽ、健保組合、公務員共済組合）について。保険料、財源、給付額その他について。	
	この回の到達目標	いわゆる被用者保険制度としての医療保険について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
5	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について。保険料、財源、給付額その他について。	
	この回の到達目標	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
6	労働者災害補償保険制度	労働者災害補償保険制度の特徴について。保険料、財源、給付額その他について。	
	この回の到達目標	労働者災害補償保険法（労災保険法）、労働者災害補償保険制度について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	雇用保険制度・基本手当	雇用保険制度の失業給付（基本手当）の仕組み。保険料、財源、給付額その他について。	
	この回の到達目標	雇用保険法、雇用保険制度の内容について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
8	雇用保険制度・基本手当以外	雇用保険の基本手当以外の各手当制度の給付内容、給付額その他について。	
	この回の到達目標	雇用保険の基本手当以外の給付の種類とその内容について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
9	介護保険制度	介護保険法及び介護保険制度について。保険料、財源、給付額その他について。	
	この回の到達目標	介護保険法及び介護保険制度全般について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
10	生活保護制度について	生活保護の給付財源、給付内容、給付の申請、認定、保護の種類、給付内容等について。	
	この回の到達目標	生活保護法及び生活保護制度全般について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
11	児童に関する社会的給付	児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当について。保険料、財源、給付額その他について各制度の保険料、社会支出、財源、給付内容等について。	
	この回の到達目標	子供の貧困に関連する児童手当制度、児童扶養手当制度、特別児童扶養手当制度について理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
12	社会保障の国際比較	社会保障の国際比較と国際比較から見たわが国の特徴。	
	この回の到達目標	日本の社会保障制度の特徴を国際統計から理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	社会保障の適正な在り方についての考察	マスメディアの論調にみる社会保障費の取り上げ方とその見方	
	この回の到達目標	マスメディアの論調にみる社会保障費の取り上げ方とその見方を分析し、社会保障の論点を理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
14	労働・雇用と社会保障	労働・雇用と社会保障との関係と望ましい在り方に関する提言。	
	この回の到達目標	社会保障制度は日本の労働・雇用とどのように関連しているかについて理解する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分
15	まとめ	日本の社会保障の今日的要件と将来予測	
	この回の到達目標	社会保障Ⅱで学んだ社会保障制度から、将来にわたりどのような方向を目指すべきかについて議論する。	
	事前学修	予め配布されたレジュメに沿って、講義内容の要点と関連の資料等について学習する。	120分
	事後学修	オンラインの授業内容をもとに授業内容について把握し、それについての感想をまとめる。	120分

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	山村 りつ	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学生諸君が、講義が終了するところにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
シラバスに沿って講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障政策における諸制度についてその概要を説明できるようになる。					2		2					
②	社会保障政策の主要エリアについて現在の課題を指摘できるようになる。					2		2	2				
③	社会保障政策の現状について、これまでの政策形成過程の影響を説明できる。					2		2					
④	社会保障政策の今後について自らの意見を述べ、新たな提案を示すことができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	社会保障政策についての正しい知識が身についているかを、試験で評価する。		20	20	20							60
小テスト等	授業に対するコメントや質問によって評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でコメントや質問へのリプライを行う。また最終的にまとめたリプライを資料として配布する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会福祉士基礎講座『社会保障論』		中央法規出版	2020	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（ただし、この時間でも事前にメール等で確認すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	オリエンテーション：授業の進め方についての説明 イントロダクション：社会保障政策を理解するために必要な基本知識を説明する。	
	この回の到達目標	社会保障制度の基本的な用語について説明できるようになる。	
	事前学修	社会保障各制度の予習をする。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
2	各論①-1：所得保障	所得保障制度の基本的枠組みと方法論について説明する。	
	この回の到達目標	所得保障制度の基本的な枠組みと役割について説明できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）している所得保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
3	各論①-2：所得保障制度と公的扶助	日本の公的扶助制度について説明する。	
	この回の到達目標	生活保護制度の役割と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	自分の生活状況に対する生活保護基準を算出してみる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
4	各論①-3：所得保障制度と公的年金制度	日本の公的年金制度について説明する。	
	この回の到達目標	日本の公的年金制度の構造とその役割の違いを説明できるようになる。	
	事前学修	自分が加入している年金制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
5	各論②-1：医療保障	医療保障制度の基本的枠組みと方法論について説明する。	
	この回の到達目標	医療保障制度の基本的な枠組みと役割について説明できるようになる。	
	事前学修	海外の医療保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
6	各論②-2：社会保険による医療保障制度	日本の医療保険制度について説明する。	
	この回の到達目標	社会保険制度による医療保障体制を図式化できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）している医療保険制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各論②-3：補足的な医療保障制度	日本の捕捉的な医療保障制度について説明する。	
	この回の到達目標	補足的な医療保障制度の特徴と意義を説明できるようになる。	
	事前学修	自分の住んでいる自治体独自の医療保障制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
8	各論③-1：労働保障	労働保障制度の基本的枠組みと方法論について説明する。	
	この回の到達目標	労働保障制度の基本的な枠組みと役割について説明できるようになる。	
	事前学修	労災保険と雇用保険について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
9	各論③-2：労働の質の保障	労働者の権利保障に関する政策を説明する。	
	この回の到達目標	労働者の権利を守るための仕組みを図示し、説明できるようになる。	
	事前学修	労働三法とそれぞれの役割について調べる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
10	各論③-3：労働の量の保障	積極的労働市場政策と就労支援の取り組みについて説明する。	
	この回の到達目標	積極的労働市場政策の意義と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	日本における積極的労働市場政策について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
11	社会サービス	社会保障制度における社会サービス給付の位置づけについて説明する。	
	この回の到達目標	社会サービスによる給付制度の特徴と意義を説明できるようになる。	
	事前学修	自分が利用（加入）できる社会サービス制度について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
12	福祉多元化と地方分権	社会保障制度にみられる福祉多元化と地方分権化の傾向について説明する。	
	この回の到達目標	社会保障制度にみられる福祉多元化と地方分権化について、その社会的背景とともに説明することができるようになる。	
	事前学修	福祉ミックス論について調べてくる。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	社会保障財政		わが国の例を中心に社会保障財政について説明する。
	この回の到達目標	日本の社会保障財政の特徴と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	直近の社会保障財政のデータを収集し考察する。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
14	現代社会保障政策の課題		現代社会保障政策が抱える課題について説明する。
	この回の到達目標	現代社会保障政策が抱える課題のうち少なくとも一つについて説明し、それに対する自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	これまでの授業を振り返り、社会保障政策全体の課題について考察する。	120分
	事後学修	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。	120分
15	まとめと総括		これまでの授業のまとめと総括を行う。
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえ、日本の社会保障制度のとりべき方向性について自らの意見を述べられるようになる。	
	事前学修	今学期の講義概要をまとめる。	120分
	事後学修	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る	120分

科目名	出版メディアⅠ	担当者	森重 良太	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
出版にまつわる様々な事象を解説し、考えてもらう。毎回、新聞記事などをもとに、大量の情報を提供するので、その中から、自分のテーマを見つけて、あとは自分の力で発展させてほしい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来、プロの出版編集者、もしくは、出版関連業界（書店、取次、印刷会社など）で生きていける、もしくはその知識を生かして社会人生活をおくる、そのための基本知識を養成することを目的とする。 たとえば書店店頭で、なぜ、いま、このような本が話題なのか、また、そういう本はどのようにしてできたのか、おおよそ、その出自を瞬時に予想できる、そのような「出版物を見通す力」を身につけられることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1、2、3。

【履修条件】
①将来、出版関連業界（編集、書店、取次、印刷）に進みたい者、②本がなければ生きていけない「書痴」。それ以外の者、特に月1～2冊程度の読書習慣がないものには、つらいだけなので無理に受講しないでください。

【授業方法】
前半は、主に新聞記事（配布します）をもとにした、最近の話題や新刊などについてライブ解説。後半は、出版にまつわる基礎知識。本に興味がないひとには、たいへんつらい授業。課題（下記参照）は、朱字添削を施して返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【本を読む力】1冊の本を精読し、ポイントを整理しながら全体を理解できる。				3	3	3	3				
②	【文章力】読者に伝わる正確な日本語の文章力／メディア入社試験で最低でも最初の書類選考を通過できる作文能力を身に付ける。				3	3	3	3				
③	【出版状況に対する現状理解】いまの出版界がどのような状況にあるのか、これからどうなるのかを正確に理解できる。				3	3	3	3				
④	【授業への常識的な参画】遅刻や欠席をせず、時間を守って授業に参加することで、社会人への予習的な習慣を身に付ける。				3	3	3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	月に1回（前期で3回）、課題書籍を題材とした「書評」を提出する。これによって到達目標①②の実力を身に付ける。3本そろって初めて評価対象とする。月1冊の読書・書評執筆は意外とたいへんな作業になることを承知しておいてほしい。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	全回出席を平常点とし、到達目標③④を身に付ける。遅刻・欠席に応じて減点対象とする。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題（書評）は、原則として翌週に朱字添削と採点を施して、サンプルとあわせて返却し、解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
何かあれば、講義内（毎週土曜2限、10：40～12：10）もしくは、なるべく講義開始前に訊いて下さい。わたしは、原則として10：00過ぎには教室に入っています。時間を要しそうな場合は、個別に、あらためて時間設定します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版社で40年の編集者生活。並行して音楽ライター歴20年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		プロ編集者・校閲者のレベルで課題（書評）を朱字添削します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスなど。2回目から本格講義に入るので、履修予定者は必ず出席すること。 ※以下はおおよその目安です。毎回、ライブ解説に時間をとられることが多いので、下記のとおりには、まず行きません。書評の書き方、添削指導などは、適宜、行います。	
	この回の到達目標	この講義の概要を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分
2	出版業界	出版業界の現況～なぜ、本はこんなに売れないのか。	
	この回の到達目標	出版業界の現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分
3	書籍造本	本の構造～なぜ、本は「16頁」の倍数でできているのか。	
	この回の到達目標	書籍の造本構造を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 ◆現在読んでいる本を、1冊、持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆書店で、本の「台割」と「奥付」を気にかける。	120分
4	雑誌造本	雑誌の構造～なぜ、週刊誌は、前と後ろにグラビアがあるのか。	
	この回の到達目標	雑誌の造本構造を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆その週の木曜日に発売された「週刊文春」を持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆週刊誌と月刊誌の「製本」のちがいを気にかける。	120分
5	ベストセラー	戦後の主なベストセラー～なぜ、いま昔も、漱石『こころ』が文庫売り上げ第1位なのか。	
	この回の到達目標	ベストセラーの条件を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆いま売れている本の「理由」を気にかける。	120分
6	文庫と新書	文庫・新書の歴史～なぜ、書店には、あんなに新書があふれているのか。	
	この回の到達目標	文庫と新書の歴史と現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆文庫か新書を、1冊、持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆大型書店の新書売り場を、隅々まで眺めてほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	雑誌	雑誌の歴史～なぜ、週刊新潮と週刊文春は同じ発売日なのか。	
	この回の到達目標	週刊誌の歴史と現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆週刊文春に目を通してほしい。	120分
8	図書館	図書館問題～なぜ、人々は本を買わないで、借りるのか。	
	この回の到達目標	図書館問題の要点を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆身近な公共図書館が、どのような状況になっているかを「体験」してほしい。	120分
9	コミック	コミック編集・出版の世界～なぜ、ゴルゴ13の銃口の向きは決まっているのか。	
	この回の到達目標	コミック編集の特徴を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 ◆漫画雑誌、もしくはコミック本を1冊、持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆話題の漫画に目を通してほしい。	120分
10	電子出版	電子出版、ネット書店について～なぜ、アマゾン送料を取らずにやっていけるのか。	
	この回の到達目標	電子出版の現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆青空文庫でいいので、一度、「デジタル」で本を読んでみてほしい。	120分
11	取次	取次とは～なぜ、書店で本を注文すると2週間かかるのか。	
	この回の到達目標	出版流通の現状を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆ウェブサイトでもいいので、「取次」の業態について知っておいてほしい。	120分
12	出版契約	出版契約について～なぜ、本は3年たたないと文庫にならないのか。	
	この回の到達目標	出版契約について理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆所有している「文庫」の、単行本初出時期を気にかけてほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	著作権		著作権の話～なぜ、ミッキーマウスの著作権は、いつまでも切れないのか。
	この回の到達目標	著作権の概要を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆奥付にマルＣ表示がある本とない本があることを、気にかけてほしい。	120分
14	映像化		本の映像化について～なぜ、映画化すると、ほとんどがつまらなくなるのか。
	この回の到達目標	本の映像化の条件について理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆どんな作品でもいいので、原作（小説）と映画のちがいを、比較してみてほしい。	120分
15	まとめ		まとめ。前期中にできなかったテーマは、後期（出版メディアⅡ）で解説する予定です。
	この回の到達目標	いままで触れられなかった問題点について理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分

科目名	出版メディアⅡ	担当者	森重 良太	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
「Ⅰ」に準ずる。基本的にⅠの延長線。出版にまつわる様々な事象を解説し、考えてもらう。毎回、新聞記事などをもとに、大量の情報を提供するので、その中から、自分のテーマを見つけて、あとは自分の力で発展させてほしい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「Ⅰ」に準ずる。将来、プロの出版編集者、もしくは、出版関連業界（書店、取次、印刷会社など）で生きていける、もしくはその知識を生かして社会人生活をおくる、そのための基本知識を養成することを目的とする。 たとえば書店店頭で、なぜ、いま、このような本が話題なのか、また、そういう本はどのようにしてできたのか、おおよそ、その出自を瞬時に予想できる、そのような「出版物を見通す力」を身につけられることを目標とする。
関連D P 及びC P：新聞学科1、2、3。

【履修条件】
①「Ⅰ」履修者。②将来、出版関連業界（編集、書店、取次、印刷）に進みたい者、③本がなければ生きていけない「書痴」。

【授業方法】
「Ⅰ」に準ずるが、この「Ⅱ」では、業界専門紙の記事を配布資料に加え、前半はニュース解説、後半は出版にまつわる基礎知識。「Ⅰ」同様、課題（下記参照）は、朱字添削を施して返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【本を深く読む力】1冊の本を精読し、ポイントを整理しながら全体を理解、類書にも興味を広げる力を身に付ける。						3	3	3	3				
②	【プロに近い文章力】読者に伝わる正確な日本語で、プロの書評家に近いレベルの文章を書く力を身に付ける。						3	3	3	3				
③	【未来の出版状況に対する理解】今後の出版界がどのようになるかを正確に予測・理解できる力を身に付ける。						3	3	3	3				
④	【授業への常識的な参画】遅刻や欠席をせず、時間を守って授業に参加することで、社会人への予習的な習慣を身に付ける。						3	3	3	3				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	「Ⅰ」同様、月に1回（前期で3回）、課題書籍を題材とした「書評」を提出する。これによって到達目標①②の実力を身に付ける。3本そろって初めて評価対象とする。月1冊の読書・書評執筆は意外とたいへんな作業になることを承知しておいてほしい。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度	「Ⅰ」同様、全回出席を平常点とし、到達目標③④を身に付ける。遅刻・欠席に応じて減点対象とする。			10	10							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題（書評）は、原則として翌週に朱字添削と採点を施して、サンプルとあわせて返却し、解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
何かあれば、講義内（毎週土曜2限、10：40～12：10）もしくは、なるべく講義開始前に訊いて下さい。わたしは、原則として10：00過ぎには教室に入っています。時間を要しそうな場合は、個別に、あらためて時間設定します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版社で40年の編集者生活。並行して音楽ライター歴20年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		プロ編集者・校閲者のレベルで課題（書評）を朱字添削します。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスなど。2回目から本格講義に入るので、履修予定者は必ず出席すること。 ※以下はおおよその目安です。毎回、ライブ解説に時間をとられることが多いので、下記のとおりには、まず行きません。書評の書き方、添削指導などは、適宜、行います。	
	この回の到達目標	この講義の概要を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分
2	新聞の書評	新聞の書評欄、そのちがいを。	
	この回の到達目標	新聞書評の特徴を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆複数の全国紙の書評欄を読み比べてほしい。	120分
3	週刊誌の書評	週刊誌の書評欄、そのちがいを。	
	この回の到達目標	週刊誌書評の特徴を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆1誌でいいので、週刊誌の書評欄をつづけて読んでほしい。	120分
4	ネットの書評	代表的なネット書評について。	
	この回の到達目標	ネット書評の特徴を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆気に入ったネット書評をブックマークして読む習慣を身に付けてほしい。	120分
5	ノーベル文学賞	ノーベル文学賞について。	
	この回の到達目標	ノーベル文学賞の概要を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆1作くらいは、ノーベル文学賞受賞作を読んでほしい。	120分
6	芥川賞、直木賞	芥川賞、直木賞について。	
	この回の到達目標	芥川賞、直木賞の概要を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆1作くらいは、芥川・直木賞受賞作を読んでほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文学賞	そのほかの文学賞について。	
	この回の到達目標	芥川・直木賞以外の主な文学賞について知る。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆講義で紹介した文学賞の受賞作を読んでほしい。	120分
8	神保町	世界最大の古書店街・神保町について。	
	この回の到達目標	神保町の特色を知る。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆実際に神保町を歩いてほしい。	120分
9	ミステリ	日本の4大ミステリ・ランキングについて。	
	この回の到達目標	ミステリ小説の世界を知る。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 ◆漫画雑誌、もしくはコミック本を1冊、持参すること。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆賞を多く受賞したミステリを読んでほしい。	120分
10	映画	出版社・取次が製作した映画について。	
	この回の到達目標	出版界と映画界の関係を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆講義で紹介した映画を1作くらいは観てほしい。	120分
11	和本	和本について。	
	この回の到達目標	洋書（現代の本）と和本（江戸時代以前の本）のちがいを理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆神保町の古書店で、実際に「和本」に触れてほしい。	120分
12	イベント	ブック・イベントについて。	
	この回の到達目標	主なブック・フェアなどのイベントを知る。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆機会があれば、紹介したブック・イベントに実際に行ってほしい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	2020年出版界	2020年の出版界の出来事を振り返る。	
	この回の到達目標	2021年が出版界にとってどんな年だったか、理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆来年に影響を及ぼしそうな出来事をウォッチしつづけてほしい。	120分
14	2020年ベストセラー	2021年ベストセラー・ランキング解説。	
	この回の到達目標	2021年のベストセラーの特色を理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆2020年のベストセラーから、1冊くらい読んでほしい。	120分
15	まとめ	まとめ。前期中にできなかったテーマなど。	
	この回の到達目標	いままで触れられなかった問題点について理解する。	
	事前学修	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。	120分
	事後学修	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。	120分

科目名	上級簿記論Ⅰ	担当者	大野 智弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
上級簿記論Ⅰは、簿記原理ⅠとⅡ（日商簿記検定3級レベル）を学修し終えた学生を対象に、さらに発展的な簿記（商業簿記）を学修するものである。上級簿記論Ⅰでは、財務諸表の作成・公表に関する制度に関連付けて簿記の意義を理解した上で、主たる経営活動に焦点をあてて複式簿記の知識とスキルを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業の目的は次の2つである。第1に、財務諸表の作成・公表に関する制度に関連付けて簿記の意義を理解することである。第2に、主たる経営活動に焦点をあてて実践的に活用可能なレベルにまで複式簿記の知識とスキルを高めることである。

【履修条件】
簿記原理ⅠとⅡ（日商簿記検定3級レベル）の学修を終えていること。

【授業方法】		
書き込み式のプリントを配布する。学生はテキスト等を参照しながら事前学修に努め、授業を通じて内容を確認・理解し、事後学修を通じて知識とスキルの定着を図る。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	簿記の意義を財務諸表の公表制度との関係から理解し、説明することができる。【知識】					2	2	2					
②	財務諸表の様式と区分を理解し、与えられた資料から正確かつ手際よく財務諸表を作成することができる。【技能】								2	2			
③	主たる経営活動の記帳計算原理を理解し、専門用語を交えてその原理を説明することができる。【知識】					2	2	2					
④	主たる経営活動の記帳計算スキルを実践的に活用可能なレベルにまで高めることができる。【知識】								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題により到達目標①②③④がどの程度達成できたかを総合的に評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業あるいはポータルシステムによる。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
エッセンス簿記会計【第17版】	新田忠誓他著	森山書店	2021年4月発行	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業後とするが、4年生と3年生は就職活動やインターン実習が増えるので原則メール（ono.tomohiro11@nihon-u.ac.jp）とする。ただし、返信に時間がかかる場合があるので余裕をもって相談すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の到達目標と学習計画	授業概要、目的と目標、履修条件、授業の進め方、成績評価の方法、勉強の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④について理解し、自らの学修目的と合致するかを確認する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、日商簿記3級レベルの学習内容について、各自で理解度を確認する。	120分
	事後学修	自分の学修目的及び学修計画とあわせて履修の可否を検討する。	120分
2	簿記一巡の手続き	簿記の目的と一巡の手続きについて	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、簿記の目的と全体像を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第4章「簿記の概観」の箇所を読み込む。分からない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストの練習問題を解く。	120分
3	財務諸表の開示制度	会社法と金融商品取引法による財務諸表の開示制度について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、財務諸表の開示制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第20章「決算書の公表」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、インターネット等を使って各社の財務諸表を閲覧する。	120分
4	財務諸表開示の考え方	会社法と金融商品取引法による財務諸表開示に関する考え方や違いについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、財務諸表開示に関する会社法と金融商品取引法の考え方や違いについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第20章「決算書の公表」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、インターネット等を使って各社の財務諸表を閲覧する。	120分
5	貸借対照表	報告式の区分貸借対照表の様式と仕組みについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、貸借対照表の意義と仕組みを理解し、自ら作成することができる。	
	事前学修	テキスト第20章「貸借対照表の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、自ら貸借対照表が作成できるようにスキルアップする。	120分
6	損益計算書	報告式の区分損益計算書の様式と仕組みについて	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、損益計算書の意義と仕組みを理解し、自ら作成することができる。	
	事前学修	テキスト第20章「損益計算書の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、自ら損益計算書が作成できるようにスキルアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	財務諸表の作成と見方	貸借対照表と損益計算書の作成と見方について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、貸借対照表と損益計算書を正確に作成し、その見方がわかるようになる。	
	事前学修	第5回と第6回の授業内容を確認する。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、インターネット等を使って各社の財務諸表を閲覧する。	120分
8	売上総利益の計算	棚卸減耗費と商品評価損を含む売上原価・売上総利益の計算原理について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、売上総利益の計算について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第6章「売上原価・売上総利益の計算」に関する箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと例題を解く。	120分
9	棚卸減耗費と商品評価損	棚卸減耗費と商品評価損の計算・記帳及び財務諸表の表示について、	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、棚卸減耗費と商品評価損の計算・記帳について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第6章「棚卸減耗費と商品評価損」に関する箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
10	売上高と役務収益	売上高と役務収益の計算・記帳について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、売上高と役務収益の計算・記帳について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第7章「販売活動のバリエーション」に関する箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
11	引当金	貸倒れの処理と貸倒引当金について、商品保証引当金とその他の負債性引当金について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、引当金の計算・記帳について理解し、説明することができる	
	事前学修	テキスト第8章「掛取引の記録と管理」と第7章「商品保証引当金」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
12	手形	手形の意義と取引の記録、手形の不渡り、手形の更改について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、手形の記帳について理解し、説明することができる	
	事前学修	テキスト第9章「手形取引の記録と資金の管理」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	銀行勘定調整表	銀行勘定調整表の意義と作成について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、銀行勘定調整表について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第10章「銀行勘定調整表」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
14	海外取引	外貨建て取引の記帳について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、海外取引の記帳について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第19章「海外取引」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
15	授業の総括と到達度の確認	授業内容を総括し、総合的な理解度や到達目標の達成度を確認する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題を通じて授業内容を総括し、不十分な個所を発見・補うことにより、総合的な理解度や達成度を高めることができる。、	
	事前学修	決められた期限内に課題の提出を済ませておく。	120分
	事後学修	不十分な個所を復習し、総合的な理解度や達成度を高める。	120分

科目名	上級簿記論Ⅱ	担当者	大野 智弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
上級簿記論Ⅱは、簿記原理ⅠとⅡ（日商簿記検定3級レベル）を学修し終えた学生を対象に、さらに発展的な簿記（商業簿記）を学修するものである。上級簿記論Ⅱでは、主に資金調達と運用に関する複式簿記の知識とスキルを学修する。なお、前期に上級簿記論Ⅰがあるが、上級簿記論Ⅱを先に履修しても問題はない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業の目的は次の2つである。第一に、資金調達と運用に関する記帳計算原理を理解し、説明できるようになることである。第二に、資金調達と運用に関する記帳計算技術を実践的に活用可能なレベルにまで高めることである。

【履修条件】
簿記原理ⅠとⅡ（日商簿記検定3級レベル）の学修を終えていること。

【授業方法】		
書き込み式のプリントを配布する。学生はテキスト等を参照しながら事前学修に努め、授業を通じて内容を確認・理解し、事後学修を通じて知識とスキルの定着を図る。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	資金調達に関する記帳計算原理を理解し、専門用語を交えてその原理を説明することができる。【知識】					2	2	2					
②	資金調達に関する記帳計算スキルを実践的に活用可能なレベルにまで高めることができる。【技能】								2	2			
③	資金運用に関する記帳計算原理を理解し、専門用語を交えてその原理を説明することができる。【知識】					2	2	2		2			
④	資金運用に関する記帳計算スキルを実践的に活用可能なレベルにまで高めることができる。【技能】								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題により到達目標①②③④がどの程度達成できたかを総合的に評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業あるいはポータルシステムによる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
エッセンス簿記会計【第17版】	新田忠誓他著	森山書店	2020年4月発行		推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業後とするが、4年生と3年生は就職活動やインターン実習が増えるので原則メール（ono.tomohiro11@nihon-u.ac.jp）とする。ただし、返信に時間がかかる場合があるので余裕をもって相談すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の到達目標と学習計画	授業概要、目的と目標、履修条件、授業の進め方、成績評価の方法、勉強の進め方について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤について理解し、自らの学修目的と合致するかを確認する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、日商簿記3級レベルの学習内容について、各自で理解度を確認する。	120分
	事後学修	自分の学修目的及び学修計画とあわせて履修の可否を検討する。	120分
2	株式会社の資金調達	株式会社の資金調達方法について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、株式会社の資金調達方法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	株式会社の資金調達方法について調べる。	120分
	事後学修	授業プリントを復習し、理解を深める。	120分
3	貸借対照表の構成と純資産	貸借対照表の様式と内容及び純資産の部の詳細について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、貸借対照表と純資産の部の詳細を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第20章「貸借対照表の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、実際の貸借対照表を閲覧する。	120分
4	株式の発行	株式の発行とその処理について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、資本金と資本準備金に関する処理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章「会社を作る」と第13章「増資」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントと参考書で復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
5	繰延資産及び合併	繰延資産と合併の処理について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、繰延資産と合併の処理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	「繰延資産」と「合併」に関する簿記処理について調べる。	120分
	事後学修	授業プリントを復習し、理解を深める。	120分
6	利益処分	当期純利益の計算と利益処分に関する処理について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、利益処分に関する処理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第15章「損益勘定」と第17章「繰越利益剰余金」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと練習問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書の作成について	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、株主資本等変動計算書の意義と作成方法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第17章「株主資本等変動計算書」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストの練習問題を解く。	120分
8	社債	社債の発行から償還に至る一連の処理について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、社債に関する処理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第13章「社債」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
9	売買目的有価証券	売買目的有価証券の処理について	
	この回の到達目標	到達目標①④に関して、有価証券に関する処理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第14章「有価証券」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
10	売買目的有価証券以外の有価証券	売買目的有価証券以外の有価証券の処理について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、売買目的有価証券以外の有価証券に関する処理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第14章「有価証券」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
11	有形固定資産	有形固定資産の処理について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、有形固定資産に関する処理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第12章「固定資産」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
12	無形固定資産と投資その他の資産	無形固定資産と投資その他の資産の処理について	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、無形固定資産と投資その他の資産に関する処理を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第12章「固定資産」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	本支店会計	本支店会計の考え方と記帳技術について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、本支店会計の考え方と記帳技術について理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキスト第18章「本支店の会計」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。	120分
14	授業の総括と到達度の確認	授業内容を総括し、総合的な理解度や到達度を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、課題を通じて授業内容を総括し、不十分な個所を発見・補うことにより、総合的な理解度や到達度を高めることができる。	
	事前学修	決められた期限内に課題の提出を済ませておく。	120分
	事後学修	不十分な個所を復習し、総合的な理解度や到達度を高める。	120分
15	簿記と財務諸表	簿記の意義と財務諸表の公表について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、簿記の意義と財務諸表の公表の目的を理解し、専門的な視点から説明できるようになる。	
	事前学修	テキスト第20章「決算書の仕組みと読み方」を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。	120分
	事後学修	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと練習問題を解く。	120分

科目名	少年法Ⅰ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
刑法犯に占める少年の割合が半数余にのぼる今、少年事件がどの様に処理されているかについて、少年法の理念や目的を概観しつつ、刑事司法との関係についてその異同を正しく理解するために、比較法的な視点を踏まえて学習を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
非行少年が、被害者や地域社会との関係改善をどの様に図ることが、改善更生に繋がるかに関する知識を習得するために、刑事訴訟法の特別法である少年法が規定されたのか、その理念と制度設計の概要を理解する。

【履修条件】
刑事訴訟法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書は事前に読んできていることを前提にし、毎回動画とPDFファイルを配信し、オンデマンドで授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディベートやグループを取り入れる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	少年法を少年手続と刑事手続との比較を通して、その異同が理解できる					1	1					
②	少年審判の役割や機能について理解し、説明ができる。					1	1					
③	家庭裁判所が管轄権を有する理由を比較法的な側面から説明することができる。					1			1			
④	少年非行の背景にある社会的環境や人的環境要因について調べる。				1				1			
⑤	少年手続を巡る諸問題について考察し、自分の意見をのゝることができる。						1		1			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを、毎回課題を出して、評価する。	20	20	20	20	20						100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題に対して、毎回コメントを付し、評価して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
少年法入門（第6版）	澤登俊雄	有斐閣	2015	教科書	必携
少年法判例百選		有斐閣	1998	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jpにメールすることによって、随時実施する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本BBS連盟顧問、警視庁留置施設視察委員会委員、さいたま市精神医療審査会委員等 少年司法手続関係者による講義と施設見学を実施する（コロナが収束すれば実施）

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	少年法とは（歴史を含む）	少年法の理念や目的を刑事訴訟法との関係を踏まえて解説し、その歴史の変遷についても概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、少年法の理念や目的について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	刑事訴訟法との異同箇所を整理する	120分
2	少年非行の現状	少年非行の昭和23年以降現在に至るまでの推移、非行内容の変遷について概観し、現在の非行の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関する基礎知識を基に説明できる。	
	事前学修	警察白書を読んだり、警察庁のHPで調べておく	120分
	事後学修	昭和23年以降現在までの傾向をまとめる	120分
3	非行少年とは	少年法3条に規定されている非行少年と少年警察活動規則に規定されている不良行為少年の概念の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、少年法が扱う少年について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	刑事上未成年を含む、少年関連年齢についてまとめる	120分
4	少年司法手続に関わる人々	警察・検察・裁判・矯正・保護の各領域に関わる人々について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、少年に特化した対応が何故なされているかにつて説明できる。	
	事前学修	どの範囲の専門家・非専門家が関与するかイメージしてみる	120分
	事後学修	非行（犯罪）の発生から処遇までに関わる人について、区分してみる	120分
5	少年審判と刑事裁判の異同について	少年審判と刑事裁判に関する手続の各段階における差異について概観し、その理由について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、何故その様な差異があるかについて説明できる	
	事前学修	犯罪白書の概略図や裁判所のHPを見ておく	120分
	事後学修	配付資料に加筆しておく	120分
6	アメリカ・イギリスの少年司法手続との異同について	家庭裁判システムと少年裁判所システムの差異、検察官の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、その際について説明できる。	
	事前学修	現行少年法の母法であるイギリス・アメリカの少年法について調べてみる	120分
	事後学修	現行法との違いについて、何故その様な運用になっているのか考えてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	少年警察の現状と課題		健全育成部門と事件処理部門の業務内容を踏まえ、少年警察の現状と課題について概観する。
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連し、少年警察の役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所や警察庁のHPを読む	120分
	事後学修	健全育成と事件処理についてまとめる	120分
8	少年検察の現状と課題		全件送致主義下の検察官の役割と課題について概観する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、少年係検察官の役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所や検察庁のHPを読む	120分
	事後学修	検察官の役割と機能についてまとめる	120分
9	触法少年とぐ犯少年の処遇		少年法と児童福祉法が重疊的に関わる年齢層の非行少年の処遇の差異について概観する。
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連し、12歳以上14歳未満の少年が少年院に送致されることについて説明できる。	
	事前学修	教科書・刑法Ⅰ（刑事上未成年者の責任能力）の該当箇所を読む、また、ぐ犯とは何か考えてみよう	120分
	事後学修	児童福祉上の措置と少年法上の措置の異同についてまとめる	120分
10	家庭裁判所の機能と役割		事件受理から終局決定に至るまでの審判手続に付随する役割と機能について解説する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連し、その役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読み、通常の裁判所との異同について調べてみよう	120分
	事後学修	他の第一審裁判所との異同についてまとめる	120分
11	家庭裁判所調査官の役割と機能		少年審判の訴訟対象との関係で、他の裁判手続には存在しない家庭裁判所調査官の役割役割と機能について解説する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、家庭裁判所調査官の役割と機能について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	家庭裁判所調査官になるためにはどうすれば良いか調べてみる	120分
12	試験観察とParental Order		試験観察の役割と機能について、Parental Order との比較を通して解説する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、試験観察の役割と機能について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読み、どんな種類があるか調べてみよう	120分
	事後学修	家庭裁判所の教育的機能についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	少年鑑別所と観護措置	少年鑑別所の役割と観護措置の役割について、勾留との差異を踏まえて解説する	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連し、少年鑑別所の役割と観護措置の役割が説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所・法務省のHPを読む	120分
	事後学修	役割と機能についてまとめる	120分
14	少年審判の構造と役割	少年審判の構造とその目的、役割について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤に関連し、少年審判の構造が少年の更生にどの様に役立っているか説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読み、職権主義構造と当事者主義構造の違いについて調べてみよう	120分
	事後学修	刑事司法と少年審判の差異についてまとめる	120分
15	少年審判と適正手続	1965年のゴールト判決を受けて、米国でも日本でも適正手続の少年手続に果たすべき役割が大きく変化していることから、適正手続の運用の現状について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連し、少年審判における適正手続のあり方を説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所、刑事訴訟法・憲法の教科書を読む	120分
	事後学修	適正手続がどこまで認められるのかまとめる	120分

科目名	少年法Ⅱ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
家庭裁判所における終局決定後の保護処分や刑事処分の現状、及び少年による各種事案毎の概要と対応について概観しつつ、少年法の理念がどの様に反映されているかについて、比較法的な視点も踏まえて学習を進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
保護処分の種類と内容、及び刑事処分以降の対応に関する知識を修得するために、少年法の理念がどの様に反映されているか、具体的事案に即してどの様な処遇が実施されているかを知る。

【履修条件】
刑法Ⅱ、刑事訴訟法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
教科書は事前に読んできていることを前提にし、毎回動画とPDFファイルを配信し、オンデマンド授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディベートやグループワーク、少年施設の見学を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	終局処分の類型と内容について理解し、説明することができる					1	1					
②	被害者や地域社会との関係改善をどの様に進めることが、更生と社会復帰に繋がるかを理解し、説明ができる。					1	1					
③	少年の刑事手続を巡る現状を理解し、説明できる。					1	1		1			
④	被害者の権利と保護の現象について理解し、少年法と刑事訴訟法上の取扱いの差異について理解し、説明できる。				1		1		1			
⑤	少年事件を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						1		1			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを、毎回課題を出し、評価する。	20	20	20	20	20						100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題について、毎回コメントを付け、評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
少年法入門（第6版）	澤登俊雄	有斐閣	2015	教科書	必携
少年法判例百選		有斐閣	1998	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jpで質問を受ける方法で実施する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		日本BBS連盟顧問、警視庁留置施設視察委員会委員、さいたま市精神医療審査会委員等 少年司法手続関係者による講義と施設見学を実施する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	審判不開始と不処分	全件送致主義の下、審判不開始と不処分の割合が、少年事件のほぼ70%を占めていることから、二つの処分の法的のもと性格と機能について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	不起訴処分及び無罪との差異についてまとめる	120分
2	保護観察（1号観察）	保護観察制度の概要を踏まえ、1号観察を巡る課題について、制度設計と人的資源等との問題点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書や法務省のHPで調べる	120分
	事後学修	遵守事項違反に対するペナ二重処罰の禁止に該当するかについて考えてみる	120分
3	少年院送致と少年院における教育	少年院の収容分類と処遇内容を踏まえ、その現状と課題について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書や法務省のHPで調べる	120分
	事後学修	少年院の種類と処遇内容の違いについて、教育内容を踏まえて整理してみる	120分
4	保護観察（2号観察）	少年院からの仮退院に伴う保護観察の現状と課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読み、犯罪白書や法務省のHPでしらべてみる	120分
	事後学修	遵守事項とそのペナルティーについてまとめる。	120分
5	児童福祉法上の措置	児童相談所における措置の現状と家庭裁判所への通告制度について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関する基礎知識を基に、説明ができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読み、児童相談所における触法少年への対応について調べておく	120分
	事後学修	処遇内容についてまとめる	120分
6	検察官送致と刑事処分（裁判員裁判を含む）	逆送、原則逆送事件処理における検察官の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、その際について説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書・裁判所のHPで調べる	120分
	事後学修	原則逆送と逆送の違いについて整理してみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	少年事件と修復的司法	少年手続への修復的司法の導入に向けた比較法的な視点から考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤に関連し、少年手続における修復的司法の可能性について説明できる。	
	事前学修	修復的司法について調べておく	120分
	事後学修	少年事件にどの様に反映可能かについてまとめる	120分
8	少年事件と被害者の権利・保護	少年審判と刑事裁判における被害者の権利や保護に差異が生じるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連し、基本的な差異について理解し、説明できる。	
	事前学修	加害者が成人である場合と少年である場合で、被害者の権利や保護の内容に違いがあるのか考えておく	120分
	事後学修	配付資料に加筆して、その異同についてまとめる	120分
9	Teen Court	軽微な非行に対する少年司法手続における米国との差異について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	webで調べてみる	120分
	事後学修	わが国への導入の可否について整理しておく	120分
10	少年事件報道	写真雑誌、週刊誌における実名報道と少年法61条の関係について、解説する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読み、新聞記事検索でしらべてみる	120分
	事後学修	少年法61条の意義と射程距離についてまとめる	120分
11	福祉犯と児童虐待	福祉犯の意味内容と児童虐待への対応について、その現状と課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所・警察庁のHPを確認しておく	120分
	事後学修	福祉犯の被害者にならない方法について考えてみる	120分
12	非行原因論	社会学・心理学的視点に基づいた非行原因論によって、実際の非行現象を解明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所やPDFファイルを読んでおく	120分
	事後学修	実際に発生している少年事件に当てはめてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	薬物非行とDrug Court	薬物の薬理効果を理解した上で、薬物非行の現状と対策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所や犯罪白書・警察白書を調べる	120分
	事後学修	Drug Courtは、日本に導入できるか考えてみる	120分
14	性非行	加害者被害者の両側面から、性非行の現状とその対策について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	警察白書・警察庁のHPで現状を調べる	120分
	事後学修	対策についてまとめる	120分
15	交通非行とTraffic Court	道交法事件を対象にした、家裁の交通部での処理と交通保護観察の現状と課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	警察白書で現状を調べる	120分
	事後学修	Traffic Courtは、日本でも使えるか考えてみる	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。 民法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
会社法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で講義内容について質疑応答を行う等、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができるようにする。授業では各種資格試験の過去の問題等の高度な内容の問題についても取り上げることがある。ポータルシステム等デジタルシステムを利用して講義内容や資料を配信する場合もある。学修者の理解度に合わせて講義の進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。出席管理システム等のデジタルシステムも扱いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。				1							
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。						1		1			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（授業内試験・レポート試験になるかは講義の進度やオンラインの利用により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等（オンラインシステムの利用の場合もある）により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。オンラインシステムの利用の場合もある。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内またはポータルシステムや出席管理システム等のデジタルシステムにて後日配信する。試験・レポート等の解説・講評については、後日、ポータルシステム等のデジタルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義1（会社法）	松嶋隆弘＝大久保拓也編	中央経済社	2021	教科書	必携
六法					必携
会社法判例百選（第3版）	岩原紳作ほか編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み。事前にメールでアポイントメントをとることオフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 総論：会社の意義		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 会社の意義はどのようなものであるのか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
2	総論：会社法の目的		会社法の目的にはどのようなものがあるのか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
3	会社の資金調達：総論		株式とはどのような制度であるのか、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
4	株主平等の原則、株式の共有		利益供与とは何か、種類株式とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
5	利益供与、種類株式		利益供与とは何か、種類株式とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
6	株式譲渡とその制限		株式譲渡とは何か、株式譲渡制限とはどのような制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	新株の発行		新株発行とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
8	新株の発行手続、新株予約権		新株発行手続きにはどのようなものがあるか、株予約権とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
9	新株発行差止め、無効、不存在		新株発行の差止めとはどういう制度か、新株発行の無効とはどういう制度か、新株発行の不存在とはどういう制度か何か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
10	自己株式		自己株式とは何か、自己株式取得規制はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
11	株式に関する残された諸問題		株式に関する残された諸問題を扱う。株式の併合、分割、無償割当てとは何か、単元株とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
12	社債		社債とは何か、社債発行規制とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	機関総論		機関とは何か、機関設計にはどのような組み合わせがあるか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
14	株主総会の意義・招集手続		株主総会とは何か、株主総会の招集手続はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
15	株主総会決議の瑕疵		株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴え・株主総会決議不存在確認の訴えとはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
16	役員等の選任等に関するルール		役員等の選任・解任等のルールにはどのようなものがあるか、員数や任期に関する規制の違いは何か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
17	取締役会に関するルール		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会の役割はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
18	取締役の義務		善管注意義務とは何か、忠実義務とはどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	競業取引と利益相反取引		競業取引とは何か、利益相反取引はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
20	報酬		取締役・執行役の報酬とは何か、取締役・執行役の報酬規制はどういう役割をもつ制度か、取締役以外の報酬規制はどういう制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
21	監査機関・会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
22	役員等の対会社責任と株主代表訴訟・違法行為の差止め		役員等の対会社責任とは何か、株主代表訴訟・違法行為の差止めとはどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
23	役員等の対第三者責任		役員等の対第三者責任とは何か、役員等の対第三者責任はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
24	指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社		指名委員会等設置会社とは何か、監査等委員会設置会社はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	会社の計算		資本制度とは何か、会社の計算はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
26	株式会社の設立手続の概要、発起人の権限		株式会社の設立手続の概要は何か、発起人はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
27	株式会社の設立、解散、清算、特別清算		株式会社の設立時の払込の手続とは何か、仮払込はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。会社の解散、清算、特別清算制度についても扱う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
28	持分会社		合名会社・合資会社・合同会社とは何か、持分会社はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
29	組織再編総論		組織変更とは何か、合併分割はどういう役割をもつ制度か、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
30	株式交換・株式移転・株式交付、会社分割、事業譲渡、キャッシュ・アウト、罰則		株式交換・株式移転・株式交付、会社分割、事業譲渡、キャッシュ・アウトとは何か、会社法にはどういう罰則があるか、説明する。判例法理の変遷についても、説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。 授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。		120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
2・3・4年次を対象とする。

【授業方法】
講義形式で行う。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション 出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。						1						
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						1		1		1		
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。								1		1		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法講義30講	松嶋＝大久保編	中央経済社	2020年		
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:20～13:00 研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（9号館3階 9308号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について理解する。 会社とは何か、概観する。	
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 到達目標①②に関連して、会社法の規定のあり方について、簡潔に説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。会社法の位置づけを整理する。		120分
2	会社の意義と会社法の目的		会社の意義、会社の性質、会社法の目的とするものは何かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会社の定義と会社法の目的を識別し、それを簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第2講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
3	会社の能力		会社の権利能力の意義、会社の能力が自然人の能力と異なる点について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会社の能力と会社の目的はそれを簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第3講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
4	会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任		会社の法人格の意義、法人格否認の法理とは何か、株式と有限責任とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、会社の法人格、法人格否認の法理、株式と有限責任に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べるようになる。		
	事前学修	教科書第4講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
5	株主平等の原則とその例外		株主平等の原則とどのような制度か、その例外として属人的定めとは何かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株主平等の原則、属人的定めについて簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第5講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
6	株式の内容		標準となる普通株式とは何か、種類株式とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、普通株式、種類株式に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第6講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	新株発行		新株発行とは何か、新株発行手続きとはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新株発行、新株発行手続に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第7講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
8	新株発行の差止め、無効、不存在		新株発行の差止めとはどのような制度か、新株発行の無効とはどのような制度か、新株発行の不存在とはどのような制度か何かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新株発行の差止め、無効、不存在に関して、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第8講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
9	株式譲渡		株式譲渡自由の原則、株式譲渡の制限とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式譲渡、株式譲渡の制限に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第9講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
10	自己株式		自己株式とは何か、自己株式取得規制とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自己株式取得規制に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第10講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
11	株式の分割、併合等		株式の分割とは何か、株式の併合とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式の分割、株式の併合に関して、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第11講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
12	株主名簿		株主名簿制度とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株主名簿の意義、その効果を簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第9講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	機関総論、株主総会運営の手続	株式会社の機関とは何か、株主総会運営の手続について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、機関、株主総会運営の手続の内容を識別し、簡潔に説明し、これに関して自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第13講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
14	説明義務、株主提案権	説明義務とは何か、株主提案権とはどのような制度かを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、説明義務、株主提案権について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第14講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
15	株主総会決議の瑕疵	株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴えとはどのような制度か、株主総会決議不存在確認の訴えに関する判例法理の変遷についても、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株主総会決議取消しの訴え、無効確認の訴え、不存在確認の訴えに関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第15講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
16	競業取引と利益相反取引	競業取引、利益相反取引とは何か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、競業取引とは何か、利益相反取引に関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第16講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
17	取締役の義務	善管注意義務、忠実義務とは何か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、善管注意義務、忠実義務の内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書第19講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
18	取締役と取締役会の役割	取締役とは何か、取締役会の果たす役割とは何か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、取締役と取締役会について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第19講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会はどのような役割を果たすか、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、取締役と取締役会の役割に関してその内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第17講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
20	報酬規制		取締役の報酬に関する制度、取締役以外の報酬規制がどのようになされるか、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の報酬規制、他の役員の報酬規制に関して簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第18講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
21	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役		指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社はどのような役割を期待されているかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造に関して、簡潔に説明、これに関する自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第20講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
22	取締役の対会社責任と株主代表訴訟		取締役の対会社責任とは何か、株主代表訴訟とはどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の対会社責任と株主代表訴訟に関して、その内容を識別し、簡潔に説明、これに関する自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第22講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
23	取締役の対第三者責任		取締役の対第三者責任とは何か、取締役の対第三者責任はどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取締役の対第三者責任に関して、その内容を識別、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第22講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
24	監査役、監査役会、会計監査人、会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与の意義、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、監査役、監査役会、会計監査人、会計参与について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書第23講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	資本制度と会社の計算	資本制度とは何か、会社の計算制度がいかなるものか、判例法理の変遷とともに、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、資本制度と会社の計算について、その内容を簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第24講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
26	株式会社の設立手続の概要、発起人の権限	株式会社の設立手続の概要、発起人とはどのような役割をもつ制度か、判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式会社の設立手続、発起人の権限について簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第21講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
27	株式会社の設立時の払込の手続と仮装払込	株式会社の設立時の払込の手続、仮装払込に関する判例法理の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式会社の設立時の払込の手続と仮装払込についてその内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第26講、第27講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
28	合併と分割	合併、会社分割とは何か、その役割、関連判例の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、合併、会社分割について、その内容を識別し、簡潔に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第30講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
29	株式交換・株式移転、事業譲渡	株式交換・株式移転、事業譲渡の意義、その役割、関連判例の変遷について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、株式交換・株式移転、事業譲渡について、その内容を識別、説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書第30講を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。 学期末試験の準備をする。	120分
30	授業内試験	会社法全般について、制度の意義・目的、当該制度における問題点とその解決を適切に説明し、自分の意見を述べることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会社法全般に関して、その問題点を識別、指摘、説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	会社法全般における主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	フィードバックを確認し、学期末試験の復習をする。	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
基本的にはレジュメ等を配布し、動画を配信するオンデマンド講義形式によるが、Classroomまたはメール等での質問等を随時受け付ける。なお、期末レポートの解説については、レポート課題提出締切日以降に、Google Classroom等にて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。				1							
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。						1		1			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テスト等により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	30										30
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、レポート課題により評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイト等を通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 1	松嶋隆弘ほか	中央経済社	2020年	教科書	推奨
会社法（リーガルクエスト）（第5版）	田中亘ほか	有斐閣	2021年	教科書	推奨
手にとるようにわかる会社法入門	川井信之	かんき出版	2021年	参考書	任意
会社法判例百選（第4版）	岩原紳作ほか	有斐閣	2016年	参考書	任意
備考	上記教科書・参考書の違い等、詳細については第1回目の講義において説明します。				

【オフィスアワー】
火曜日 5 限を設定するが、事前にアポイントメントがあれば、随時受け付ける。minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【オリエンテーション、会社法の意義と会社法の目的】		現代の経済社会における会社とはどのような存在であるのか、それを規律する会社法とはどのような特徴、体系、機能を有しているのか講義する。
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。会社法の意義等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の該当部分を読み、会社法とはどのような法律であるのかを確認する。(2時間) なお、ひとまず会社法を概観したい受講生は、参考書指定した『手にとるようにわかる会社法入門』を読むことをおすすめする。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、他の関連科目(民法、労働法、経営学、経済学等)との関係を検討する。	120分
2	【会社法総論(1) 一会社の法的意義・会社の種類】		会社とは、法的には、営利を目的とする社团法人であるとされるが、ここにいう営利とは、社团法人とはどのような意味を有するのかについて説明する。さらに、株式会社、合同会社、合資会社、合名会社といった会社毎の違いについて講義する。
	この回の到達目標	会社の法的意義等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	会社とはどのような存在であるのか、「企業」と同じであるのか、それとも異なるのかについて自分なりに検討し、さらに自分自身が身近に感じている「会社」にはどのようなものがあるのか調べておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、自分なりに株式会社、合同会社、合資会社、合名会社の違いについて作図してみる。	120分
3	【会社法総論(2) 一株主有限責任制度】		株主有限責任制度とは、株主は出資した額を上限とする責任を負うのみで、それ以上の責任を負わないとするものであるが、その制度の理論的根拠や問題点について講義し、その問題点への対応策について学習する。
	この回の到達目標	株主有限責任制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、株式会社の事業活動における会社法の役割について調べ、また、株式会社において最も重要な制度の一つである株主有限責任制度の意義とその問題点について考察する。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主有限責任制度における問題点について、他の解決策がないかを検討してみる。	120分
4	【株式会社の機関(1) 一機関総論】		株式会社には、必置機関としての株主総会及び取締役があり、任意機関として、監査役、会計参与、会計監査人等があるが、それぞれの機関の役割や、そのような機関が置かれる理論的根拠等についてコーポレート・ガバナンスという観点から講義する。
	この回の到達目標	株式会社の機関の全体像に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、株式会社にはどのような機関があるのか、そして、なぜそのような機関が要求されるのかについて考察する。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式会社における機関構成を作図してみる。	120分
5	【株式会社の機関(2) 一株主総会】		株主総会の役割や機能について講義し、株主総会を開催するに当たり、どのような招集手続がとられるのかについて講義する。
	この回の到達目標	株主総会に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、株主総会の権限や株主総会招集の手続等の概観を考察する。(2時間) なお、実際の株主総会がどのように開催されているのかをニュースやインターネット記事等で調べておくと、なお理解が深まるのでおすすめする。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、時系列に沿って、株主総会の招集手続がどのように進行するのかをまとめておく。	120分
6	【株式会社の機関(3) 一株主総会決議の瑕疵】		適法に開催されなかった株主総会の決議には瑕疵があるとされるが、具体的にどのような場合に、瑕疵があるとされるのか、さらに株主総会決議の瑕疵を争う訴えには、決議不存在確認の訴え、決議無効確認の訴え、決議取消しの訴えがあり、それぞれの違いについて講義する。
	この回の到達目標	株主総会決議の瑕疵に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、株主総会決議の瑕疵の具体的な事例についてどのようなものがあるのか調べておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、決議不存在確認の訴え、決議無効確認の訴え、決議取消しの訴えの違いについて表でまとめるなどして考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【株式会社の機関（4）―取締役・取締役会・代表取締役】	株式会社の機関のうち、経営や監督を担う取締役・取締役会について、その選任・終任とその職務について講義した上で、取締役会決議を欠いたままなされた取引の効力といった法的問題について学習する。	
	この回の到達目標	取締役等の制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、取締役・取締役会・代表取締役の役割や権限について考察する。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、取締役・取締役会・代表取締役に関わる法的問題にはどのようなものがあり、それに対して判例や学説の立場をまとめておく。	120分
8	【株式会社の機関（5）―監査役、監査役会、会計監査人、会計参与】	会社の監督を担当する監査役、監査役会、会計監査人と取締役と共同して会計書類を作成する会計参与の役割や職務について講義する。	
	この回の到達目標	監査役等の制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、それぞれの役割や職務の内容について考察しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、監査役・監査役会や会計監査人の監督と取締役会の監督とはどのように異なるのか、まとめておく。	120分
9	【株式会社の機関（6）―指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社】	指名委員会等設置会社と平成26年会社法改正で新たに導入された監査等委員会設置会社の機関構造を概観し、監査役設置会社とはどのような点で異なるのか、導入の経緯等について講義をする。	
	この回の到達目標	委員会型の会社に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、監査役設置会社とはどのような点で異なるのか、について考察しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、指名委員会等設置会社や監査等委員会設置会社である会社をニュースやインターネット記事から調べ、具体的にどのように用いられているのかを調べておく。	120分
10	【株式会社の機関（7）―役員員の責任①（役員員の義務総説）】	取締役は会社に対して善管注意義務と忠実義務を負っているとされているが、それらの義務はどのような関係に立っているのか、それらの義務から、具体的に取締役はどのような義務を会社に対して負っているのかについて、判例や学説を踏まえて講義する。	
	この回の到達目標	役員員の義務に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、取締役の善管注意義務と忠実義務の異同について考察しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、どのような事例で取締役の会社に対する義務が問題となるのかについてまとめておく。	120分
11	【株式会社の機関（8）―役員員の責任②（競業禁止義務・利益相反取引・取締役の報酬規制）】	取締役は会社に対して忠実義務を負っていることから、そこから派生する規制として、競業取引規制、利益相反取引規制、取締役の報酬規制が定められている。そこで、これらの規制の具体的な内容及びそこから生じる法的問題について講義する。	
	この回の到達目標	競業規制等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、取締役の忠実義務から派生する競業禁止義務、利益相反取引や取締役の報酬についてどのような規制がとられているのかについて調べておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、具体的な裁判例を素材に、どのような取引が競業取引に当たるのか、利益相反取引に当たるのかについてまとめておく。	120分
12	【株式会社の機関（9）―役員員の責任③（会社に対する責任）】	取締役は会社に対して善管注意義務を負っているが、当該義務が問題となる場面として、経営の失敗や監視義務違反があるが、そこで問題となる経営判断原則や内部統制システム構築義務とはどのような原則、義務であるのかについて講義する。	
	この回の到達目標	役員員の対会社責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読み、取締役の善管注意義務が問題となる事例にはどのようなものがあるのかを確認しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、講義で扱った事例以外の経営の失敗ともいべき事例や企業不祥事が問題となった事例では、取締役の善管注意義務違反の有無についてどのように判断されているのかを調べてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【株式会社の機関（10）―役員の責任④（株主代表訴訟・多重代表訴訟）】		取締役の会社に対する義務違反により会社に損害が生じた場合、通常、会社が当該取締役に対して損害賠償を求めることになるが、実際には会社と取締役が馴れ合う可能性があることから、株主が会社に代わって取締役の責任を追及する株主代表訴訟制度がある。そこで、この株主代表訴訟はどのような手続で行われるかなどについて講義する。	
	この回の到達目標	株主代表訴訟に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、株主代表訴訟の手続について概観しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主代表訴訟及び多重代表訴訟の手続について作図するなどしてまとめておく。		120分
14	【株式会社の機関（11）―役員の責任⑤（第三者に対する責任）】		役員は本来であれば、会社に対してのみ責任を負うが、通説によれば、会社法は第三者に対しても特別の法定責任を負わせている。この対第三者責任の趣旨は何か、どのような場面で問題となるのかについて講義する。	
	この回の到達目標	役員の対第三者責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、役員等の対第三者責任の意義について考察しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、対第三者責任が問題となった裁判例を調べ、どのような判断がなされているのか、学説はそれに対してどのように評価しているかなどを調べておく。		120分
15	【前半のまとめ】		会社法の意義、株式会社の機関構成、それぞれの機関の職務や役割を概観し、そこで問題となる法的紛争にはどのようなものがあり、判例や学説上、それに対してどのように対応しているのかについて概観する。	
	この回の到達目標	コーポレート・ガバナンスの全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、いわゆる会社法のうち、ガバナンスに関する部分について理解を深めておく。		120分
	事後学修	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、自分自身の知識がどの程度定着しているのか、演習本等でチェックする。		120分
16	【株式制度と株主平等原則】		一般的に、株式は投資の対象としても見られているが、会社法上、株式を保有する株主には、会社に対して様々な権利を有している。そこで、株主の権利や株主は内容及び数に応じて平等に取り扱われなければならないという株主平等原則とはどのようなものなのかについて講義する。	
	この回の到達目標	株式制度等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第3章 株式」のうち、「1 株式の意義」を読み、株式を保有する株主にはどのような権利が認められているのか、また実際の株式投資はどのように行われているのかを、ニュース等で調べておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主の権利にはどのような権利があるのか、具体的に表にまとめるなどしておく。		120分
17	【種類株式制度】		教科書ではほとんど扱われていない種類株式制度について、具体的な種類株式の内容や用途について講義する。	
	この回の到達目標	種類株式制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第3章 株式」のうち、「Column 3-1」を読み、種類株式の概観について把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、実際に発行されている種類株式についてニュース等で調べておく。		120分
18	【株式の譲渡（1）―株式譲渡自由の原則とその例外】		株式の譲渡は原則として自由とされているが、その理論的背景には何があるのかについて講義し、株式譲渡自由の原則の例外にはどのようなものがあるのかについて学習する。	
	この回の到達目標	株式譲渡自由の原則等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第3章 株式」のうち、「2 株式譲渡自由の原則とその例外」を読み、株式譲渡自由の原則が認められる理論的根拠について考察しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式譲渡自由の原則の例外に反した場合の法的問題について、どのように考えられているのかまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	【株式の譲渡（2）―株式の譲渡方法】		株式の譲渡方法には、大別して、株券発行会社と株券不発行会社の場合があることから、それぞれの会社に応じて、具体的にどのような手続によって株式は譲渡されるのかを講義する。	
	この回の到達目標	株式の譲渡方法等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第3章 株式」のうち、「3 株式の譲渡と権利行使の方法」を読み、株式の譲渡の手続がどのように行われているのかについて概観しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社法が定める株式の譲渡方法だけではなく、振替株式制度についても教科書の該当ページを読むなどして理解しておく。		120分
20	【資金調達（1）―募集株式の発行手続】		募集株式の発行手続の概要について説明し、その手続の背景にある募集株式の発行によって生じる既存株主の利益への影響についても講義する。	
	この回の到達目標	募集株式の発行手続等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「1 株式会社の資金調達方法の概要」「2 募集株式の発行等」を読み、募集株式の発行手続の概要について理解しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、なぜ募集株式の発行手続が法的に定められているのかなどについて、自分なりにノートなどを使用してまとめる。		120分
21	【資金調達（2）―違法な募集株式の発行① 有利発行規制違反】		いわゆる有利発行とはどのような募集株式の発行であるのかについて説明した上で、有利発行であるにもかかわらず法定の手続に違反して募集株式が発行されてしまった場合には、どのような効果があるのかなどについて講義する。	
	この回の到達目標	有利発行規制に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「いわゆる有利発行の問題」を読み、有利発行とはそもそも何か、有利発行規制違反の募集株式の発行とは何かについて調べておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、有利発行規制違反の募集株式の発行が行われた場合の法的解決方法についてまとめておく。		120分
22	【資金調達（3）―違法な募集株式の発行② 募集株式の発行の瑕疵】		募集株式の発行等が手続に違反してなされようとしている場合、もしくはなされてしまった場合に、影響を受ける株主は、事前又は事後にどのような措置をとることができるのかについて講義する。	
	この回の到達目標	募集株式の発行の瑕疵に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「募集株式の発行等の瑕疵をめぐる争い」を読み、募集株式の発行等の瑕疵について、事前及び事後にどのような措置が可能なのかについて調べておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、新株発行の差止請求や新株発行無効の訴えについてまとめておく。		120分
23	【資金調達（4）―新株予約権・社債】		募集株式の発行以外にも新株予約権や社債による資金調達手法があることから、新株予約権や社債の発行手続について概観し、そこで問題となる法的問題について講義する。	
	この回の到達目標	新株予約権等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「3 新株予約権」「4 社債」を読み、募集株式の発行以外の資金調達手法について調べておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、募集株式の発行と新株予約権・社債の発行による資金調達にはどのような違いがあるのかまとめておく。		120分
24	【会社の計算】		会社の計算書類や剰余金の配当手続について講義する。	
	この回の到達目標	会社の計算に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第5章 計算」を読み、会社の計算書類や剰余金配当手続について概観しておく。なお、他に簿記や会計学の講義をとっている場合には、それらの教科書等も読んでおくこともおすすめする。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社の計算書類の役割等についてまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	【組織再編（1）—組織再編手続総説】		会社の組織再編には、合併、分割、株式移転、株式交換があるが、それぞれの再編の意義や手続について講義する。	
	この回の到達目標	組織再編手続に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第6章 組織再編」を読み、会社の組織再編にはどのようなものがあるのかについて確認しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、合併、分割、株式移転、株式交換の手続の概要について、自分なりにまとめておく。		120分
26	【組織再編（2）—株式買取請求・事業譲渡】		会社が組織再編する場合、当該組織再編に反対する株主には株式買取請求が認められているが、当該株式買取請求手続について講義する。また、厳密には組織再編とはいえないが、それと類似する取引である事業譲渡手続についても講義する。	
	この回の到達目標	株式買取請求制度等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第6章 組織再編」を読み、会社の組織再編により影響を受ける株主を保護するための手続としての株式買取請求について概観し、さらに事業の譲渡手続について概観しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式買取請求や事業譲渡手続において問題となる法的問題にはどのようなものがあるのか確認しておく。		120分
27	【株式会社の設立（1）—設立手続総説】		会社の設立には、実体の形成と法人格の取得という二つの側面を有することから、それぞれの側面に併せて、会社の設立手続について講義する。	
	この回の到達目標	会社の設立手続に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「1 設立」を読み、会社の設立手続について概観しておく。（2時間）		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社の設立手続について作図して、その概要を把握しておく。		120分
28	【株式会社の設立（2）—払込手続】		会社設立時の払込手続と払込仮装行為としての預合及び見せ金の効力について講義する。	
	この回の到達目標	払込手続に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「1 設立」及び「第4章 資金調達」のうち、「出資の履行」を読み、払込の手続及びその仮装行為にはどのようなものなのかを確認しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、払込仮装行為の効力について判例及び学説はどのように考えているのかを考察する。		120分
29	【会社の解散】		会社は株主総会決議等によって解散するが、その際の手続等について講義する。	
	この回の到達目標	会社の解散に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「2 解散・清算」を読み、会社の解散手続の概要を把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、どのような場合に会社は解散するのか、解散はどのような手続によってなされるのかを確認する。		120分
30	【全体のまとめ】		会社法の全体を概観し、コーポレート・ガバナンスやコーポレート・ファイナンスに関する先端的な法的問題を講義する。	
	この回の到達目標	コーポレート・ガバナンス及びコーポレート・ファイナンスの全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	配布された全ての講義レジュメ及び教科書を通読し、自分自身の知識を確認しておく。		120分
	事後学修	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認しつつ、演習本等を利用して、会社法上の法的諸問題についてアウトプットしてみる。		120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
民法関連科目を履修していることが望ましい

【授業方法】
オンデマンド型の講義形式（オンライン講義）をとる。各回の講義でレポート課題を課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。						1				4			
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。						1			1		1		
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。									1		1		
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、講義最終回の試験で評価する。オンデマンド講義のため、試験は遠隔方式により実施する予定である。	10	20	25								55
小テスト等	毎回の授業の内容について到達目標②を修得しているか、毎回のレポートで評価する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のレポート内容について次回以降の授業でGoogle Classroomを通じて全体的にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 I	松嶋隆弘＝大久保拓也	中央経済社	2020	教科書	必携
商法判例集〔第8番〕	山下友信＝神田秀樹	有斐閣	2020	参考書	必携
六法					必携
				その他	任意
				参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
オンデマンド講義のため未定（決定したら講義でアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 会社法総論	講義のガイダンスを行う。会社法のアウトラインを学ぶ。	
	この回の 到達目標	講義の全体像を把握するとともに、会社法の基本事項を学ぶ。	
	事前学修	日本経済新聞等の経済関連の新聞・雑誌を読み会社法に関する知識に興味をもつ。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本経済新聞等の会社法に関する記事を改めて読み返す。	120分
2	機関総論	機関総論を学ぶ。	
	この回の 到達目標	機関総論を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
3	株主総会①	株主総会の基本事項を学ぶ。	
	この回の 到達目標	株主総会の意義と機能を学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
4	株主総会②	株主総会に関する手続きなどを学ぶ。	
	この回の 到達目標	株主総会に関する手続きなどを学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
5	株主総会③	株主総会の応用事項について学ぶ。	
	この回の 到達目標	取締役の解任に係る法的問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
6	役員等の選任ルール	役員等の選任ルールなどを学ぶ。	
	この回の 到達目標	役員等の選任ルールを理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	取締役会	取締役会の機能などを学ぶ。	
	この回の到達目標	取締役会の機能を学ぶ。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	役員等の義務	役員等の義務を学ぶ。	
	この回の到達目標	役員等の義務について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	役員等の義務と責任追及	役員等の義務を責任追及を学ぶ。	
	この回の到達目標	役員等の義務と責任追及を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	取締役の報酬	取締役の報酬について学ぶ。	
	この回の到達目標	取締役の報酬について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	監査機関・会計参与	監査機関・会計参与を学ぶ。	
	この回の到達目標	監査機関と会計参与について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	株主代表訴訟	株主代表訴訟について学ぶ。	
	この回の到達目標	株主代表訴訟について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	対第三者責任	対第三者責任について学ぶ。	
	この回の到達目標	対第三者責任について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	委員会型の会社	委員会型の会社について理解する。	
	この回の到達目標	取締役の業務執行を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	期末レポート まとめ	講義で学んだ項目を期末レポートで纏める。	
	この回の到達目標	前期で学んだ事項を理解できているか確認する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して試験の内容を再確認する。	120分
16	資金調達総論	資金調達の総論を学ぶ。	
	この回の到達目標	資金調達の総論を学ぶ。	
	事前学修	日本経済新聞等の経済関連の新聞・雑誌を読み会社法に関する知識に興味をもつ。	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、日本経済新聞等の会社法に関する記事を改めて読み返す。	120分
17	株式の意義	株式の意義を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式の意義を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
18	株式の譲渡	株式の譲渡に関する問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式の譲渡に関する問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	新株発行・新株予約権	新株発行・新株予約権を学ぶ。	
	この回の到達目標	新株発行・新株予約権を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
20	自己株式	自己株式についての諸問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	自己株式についての諸問題を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返し講義の内容を再確認する。	120分
21	株式分割・株式併合	株式分割・株式併合を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式分割・株式併合を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
22	計算規制、会計帳簿、計算書類	計算規制、会計帳簿、計算書類を学ぶ。	
	この回の到達目標	計算規制、会計帳簿、計算書類を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
23	資本制度	資本制度を学ぶ。	
	この回の到達目標	資本制度を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
24	組織変更・事業譲渡	組織変更・事業譲渡を学ぶ。	
	この回の到達目標	組織変更・事業譲渡を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	合併	合併を学ぶ。	
	この回の到達目標	合併を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
26	株式交換・株式移転・株式交付	株式交換・株式移転・株式交付を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式交換・株式移転・株式交付を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
27	株式分割	株式分割を学ぶ。	
	この回の到達目標	株式分割について理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
28	キャッシュ・アウト	キャッシュ・アウトを学ぶ。	
	この回の到達目標	キャッシュ・アウトを理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
29	会社法関連の罰則	会社法関連の罰則を学ぶ。	
	この回の到達目標	会社法関連の罰則を理解する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
30	期末試験 まとめ	講義で学んだ項目を期末試験で確かめる。	
	この回の到達目標	前期で学んだ事項を理解できているか確認する。	
	事前学修	教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	教科書の該当ページを読み返して試験の内容を再確認する。	120分

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	酒巻 俊之	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識は社会生活において必ず身に付けておくべきである。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17(2005)年に全面改正され、平成26(2014)年・令和元(2019)年に重要な改正がなされた。同法が規律する会社は経済の主たる担い手であり、会社の活動は社会に与える影響が大きい。授業では、会社に関する法規制に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
Google Classroomでの出席確認・資料アップ、ZOOMでの動画視聴環境を整えること。レポート作成にはPCソフトを使用すること(携帯メール等不可)。

【授業方法】
授業形式は「オンデマンド型」とする。パワーポイントによる要点整理を投射した動画と教科書参照により講義を進める。対面授業が可能になった時もオンデマンドを併用し、パワーポイントのスクリーン投射と教科書参照により授業を進める。WEBテストは参照可で1週間程度の解答時間を与えるが、十分教科書等で調べて解答する難問である(指定教科書以外やネット等では古い内容を参照し間違える可能性が高い)。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	第7回以降、随時、PC上で検索エンジンを用いて上場会社の機関設計や判例等の検索を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法制度の全体構造とその特質を識別することができる。					1							
②	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					1		1		1			
③	株式・会社の機関・組織再編等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べる ことができる。							1		1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、WEBテストにより評価する。	15	10	10								35
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、2回のレポート提出により評価する。	20	20	15								55
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、毎回の授業におけ出席確認課題又はアンケートにおける質疑応答において評価する。	4	3	3								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		39	33	28								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業時にWEBテストの自己採点バージョン(採点及び正解・不正解と注意を表示)をアップ、レポートは基準をストリーム等にアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法講義 令和元年改正対応版増補版	酒巻俊之	桜門書房	2020	教科書	必携
六法(判例付きも電子版も可, 令和3年版以降)			2020	参考書	推奨
備考	上記教科書が品切れの場合は2021発行の市販本又は2021改訂版(価格変更あり)				

【オフィスアワー】
対面授業時は授業間の休み時間及び授業終了後、オンライン時は随時対応、対面授業以外では予約のこと(sakamaki.toshiyuki11@nihon-u.ac.jp)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	会社顧問
実務経験に基づく実践的教育の内容		現場における実務的な対応の講義	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法学入門・会社法入門	各法の関係、法の名称、民事訴訟・刑事訴訟、商法・会社法の歴史・変遷についての基礎知識を講義する。	
	この回の到達目標	「法学」の授業で修得した知識に上乗せした知識を習得し、商法・会社法・その他関連法規の役割を覚える。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。商法・会社法の歴史については講義に合わせて随時振り返る。	120分
2	会社の種類	会社の種類と現状について講義する。	
	この回の到達目標	この講義の中心となる株式会社のみでなく、他の会社形態と現状について把握する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
3	株式会社の設立 発起人・定款・絶対的記載事項	株式会社の設立のうち、発起人・定款・絶対的記載事項について講義する。	
	この回の到達目標	株式会社の設立行為の最初の部分を覚える。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
4	株式会社の設立 変態設立事項	変態設立事項・検査役の選任・検査役の調査の省略ができる場合(他の項目と比較し)を講義する。	
	この回の到達目標	現物出資や検査役の調査のシステム、弁護士・税理士・公認会計士による検査役の調査の代替制度、発起人等の責任について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
5	株式会社の設立手続き(役員等の選任等)	役員等の選任等について講義する。後の機関に繋がる重要項目である。	
	この回の到達目標	会社の役員等及びその選任手続きについて会社設立時のみでなく、設立後についても理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
6	株式会社の設立のまとめ及び株式入門	株式会社の設立のまとめ及び株式の内容、株券の廃止等について講義する。	
	この回の到達目標	株式会社の設立手続き全体を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	公開会社・公開会社でない株式会社	会社法上重要な定義である公開会社・公開会社でない株式会社について講義する。	
	この回の到達目標	公開会社・公開会社でない株式会社の定義、その性質の違い、公開会社における上場会社についての知識を身に着ける。 検索エンジンを使ったアクティブラーニングを行う。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
8	種類株式、公開会社・公開会社でない株式会社の株式譲渡	会社法上重要な公開会社・公開会社でない株式会社の株式譲渡について講義する。	
	この回の到達目標	種類株式及び公開会社・公開会社でない株式会社の株式譲渡、公開会社における上場会社の株式市場における株式譲渡についての知識を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
9	株主の権利	株主名簿、株式の共有・質権等及び株券等の現状について講義する。	
	この回の到達目標	株券の原則廃止、株主名簿による株主の管理、株式の共有等についての知識を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
10	募集株式の発行手続き	募集株式の発行手続きについて講義する。	
	この回の到達目標	会社設立後の資金調達方法の一つである募集株式の発行についての知識を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
11	新株予約権	新株予約権の内容について講義する。	
	この回の到達目標	新株予約権についての基礎知識を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
12	募集株式の発行手続きと募集新株予約権の発行手続き	募集新株予約権の発行手続きについて、募集株式の発行手続きと対比して講義する。	
	この回の到達目標	募集株式の発行手続きと募集新株予約権の発行手続きを比較しながら学習し、判例を考察しながら理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自己株式の取得	MBO、子会社化、企業買収、キャッシュ・アウトについて概説し、相続人に対する株式の売渡請求とともに、スクイーズ・アウト(少数株主の締出し)について講義する。	
	この回の到達目標	自己株式取得のパターン、スクイーズ・アウト(少数株主の締出し)等についての知識を深める。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
14	株式会社に対する株式買取請求	前回の内容を踏まえ、各種株式買取請求について講義する。	
	この回の到達目標	自己株式取得のパターン、スクイーズ・アウト(少数株主の締出し)等についての知識をさらに深め、株式買取請求の態様について理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
15	株主総会(令和3年改正対応) (レポート第1回課題発表週)	株主総会について概説する(オンライン株主総会についても触れる)。	
	この回の到達目標	株主総会について概説する。さらに新型コロナの影響下による株主総会の対応や令和3年のオンライン株主総会の状況についての知識を得る。これによりその現状を調査するレポート作成に着手する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
16	少数株主権(令和元年改正対応)	少数株主権について詳細に講義する。	
	この回の到達目標	株主の権利について理解する。単独株主権と少数株主権についての知識を得る。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
17	株主の権利行使に関する利益供与、 その他会社における犯罪	株主の権利行使に関する利益供与その他会社における犯罪について講義する。	
	この回の到達目標	会社法の規定による犯罪(刑事罰規定)についての知識を得る。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
18	株主総会以外の機関の設置(令和元年 改正対応)	株主総会以外の機関の設置についてその役割とともに概説する。	
	この回の到達目標	会社法の規定による様々な機関設計及びその法的規制を理解する。WEBテストにおける最重要項目である。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	令和元年改正対応機関設計、コーポレート・ガバナンス、コーポレートガバナンス・コード(アクティブラーニング有り)	前回の内容をさらに深め、上場会社の機関設計、コーポレート・ガバナンス、コーポレートガバナンス・コードについて概説する。	
	この回の到達目標	前回の内容をさらに深め、上場会社の機関設計、コーポレート・ガバナンス、コーポレートガバナンス・コードについて概説し、対面授業が可能なら実際に様々な会社を検索するアクティブラーニングを行う(オンライン授業時には課題とする)ことで調査能力を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
20	取締役・取締役会の役割、義務と責任(第2回レポート課題発表)	取締役・取締役会の役割、義務と責任について講義する。	
	この回の到達目標	取締役・取締役会の役割、義務と責任についての知識を得る。さらに判例検索等により実際の事例を調査する能力を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
21	取締役・執行役・監査役の資格・役割・任期(令和元年改正対応)	取締役・執行役・監査役の資格・役割・任期について講義する。	
	この回の到達目標	取締役・執行役・監査役の資格・役割・任期についてWEBテストにおいて正確に答える能力を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
22	会計参与、会計監査人、社外取締役等の資格・役割・任期	会計参与、会計監査人、社外取締役・社外監査役の資格・役割・任期について講義する。	
	この回の到達目標	会計参与、会計監査人、社外取締役・社外監査役の資格・役割・任期についてWEBテストにおいて正確に答える能力を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
23	監査機関の役割、違法行為差止請求権	監査機関の役割、違法行為差止請求権について講義する。	
	この回の到達目標	様々な機関設計における監査機関とは何か、その役割について理解する。実際の事例や問題に正確に答える知識を身に着ける(WEBテストにおける重要項目)。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
24	役員等の会社に対する責任・計算(剰余金の配当・配当等の責任)	役員等の会社に対する責任について配当等の責任を交えて講義する。	
	この回の到達目標	役員等の会社に対する責任についての知識を得る。特に取締役・執行役についての対会社責任は代表訴訟、補償契約等、この後の講義の基礎知識となる為、確実に身に着けて置く。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	役員等の会社に対する責任免除	役員等の会社に対する責任免除・責任査定について講義する。	
	この回の到達目標	役員等の会社に対する責任免除・責任査定についての知識を前回の講義内容とともに理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
26	役員等の会社に対する責任の追及権者, 株主代表訴訟	役員等の会社に対する責任の追及権者、株主代表訴訟について講義する。	
	この回の到達目標	役員等の会社に対する責任の追及権者、株主代表訴訟についての知識を、過去の講義内容である株主の権利、監査機関の役割、役員等の責任とともに理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
27	役員等の第三者に対する責任、補償契約、役員等損害賠償責任保険(令和元年改正対応)	役員等の第三者に対する責任、補償契約、役員等損害賠償責任保険について講義する。	
	この回の到達目標	役員等の第三者に対する責任の性質を判例とともに理解する。令和元年改正で設けられた補償契約、役員等損害賠償責任保険の知識を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
28	事業譲渡, 簡易事業譲渡等(WEBテスト問題発表週)	事業譲渡等及び簡易・略式事業譲渡、特別支配会社について講義する。	
	この回の到達目標	事業譲渡及びその手続きを理解するとともに、特別支配会社等の用語の知識を身に着ける。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
29	組織変更, 組織再編概説(令和元年改正対応)(WEBテスト提出週)	組織変更、組織再編等について概説する。	
	この回の到達目標	組織変更、組織再編等の全体像を理解する。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分
30	組織再編等まとめ、簡易・略式組織再編等(WEBテスト自己採点バージョン、追・再試対象者及び追・再試問題発表週)	合併・分割・株式移転・株式交換・株式交付について掘り下げる。株式買取請求についても振り返る。	
	この回の到達目標	組織変更、組織再編等について詳しい手続き等の知識を得る。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容まとめ。	120分

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学修を必ず行う者。

【授業方法】
オンデマンド方式により実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商取引法の全体構造とその特質を識別することができる。				2		2					
②	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				2		2		2			
③	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。						2		2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、期末試験（最終回に実施）により評価する。試験は遠隔方式を予定している。	25	25	20								70
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	20	5	5								30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じて講義でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義2	松嶋隆弘＝大久保拓也編	中央経済社	2020	教科書	必携
商法判例集〔第8版〕	山下友信＝神田秀樹	有斐閣	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したら講義でアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	商法総論	商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。	
	この回の到達目標	このガイダンスによって、学修者が講義の全体像を理解することができる。 商法総論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を通読して商法総則・商行為法がどのような分野であるのかを確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
2	商法の意義と商法の法源	商法の意義と商法の法源について講義する。	
	この回の到達目標	学修者が商法の意義と商法の法源を理解することができる。 商法の意義と商法の法源について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商法の意義と商法の法源についての概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
3	商法の基本概念	商法の基本概念について講義する。	
	この回の到達目標	学修者が商法の基本概念を理解することができる。 商法の基本概念について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商法の基本概念についての概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
4	商業登記	商業登記について講義する。	
	この回の到達目標	学修者が商業登記を理解することができる。 商業登記について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商業登記についての概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
5	商号①	商号の意義、法規制の必要性、商号選定自由の原則、商号自由の制限、商号単一の原則を講義する。	
	この回の到達目標	学修者が、商号の意義・法規制の必要性・商号選定自由の原則・商号自由の制限・商号単一の原則を理解することができる。 商号の意義・法規制の必要性・商号選定自由の原則・商号自由の制限・商号単一の原則について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商号についての概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
6	商号②	名板貸、商号の譲渡、商号の廃止、商号の登記、商号権を講義する。	
	この回の到達目標	学修者が、名板貸・商号の譲渡・商号の廃止・商号の登記・商号権を理解することができる。 名板貸・商号の譲渡・商号の廃止・商号の登記・商号権について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商号の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	商業帳簿		商業帳簿を講義する。
	この回の到達目標	学修者が、商業帳簿を理解することができる。 商業帳簿について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商業帳簿の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	商業使用人		商業使用人を講義する。
	この回の到達目標	学修者が商業使用人を理解することができる。 商業使用人について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商業使用人の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	代理商		代理商を講義する。
	この回の到達目標	学修者が代理商を理解することができる。 代理商について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して代理商の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	営業		営業を講義する。
	この回の到達目標	学修者が営業を理解することができる。 営業について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して営業の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	商行為法総則		商行為法総則を講義する。
	この回の到達目標	学修者が商行為法総則を理解することができる。 商行為法総則について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商行為法総則の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	売買		商事売買および消費者売買を講義する。
	この回の到達目標	学修者が商事売買および消費者売買を理解することができる。 商事売買および消費者売買について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して商事売買および消費者売買の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	交互計算		交互計算を講義する。
	この回の到達目標	学修者が交互計算を理解することができる。 交互計算について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して交互計算の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	匿名組合・仲介営業		匿名組合と仲介営業を講義する。
	この回の到達目標	学修者が匿名組合と仲介営業を理解することができる。 匿名組合と仲介営業について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を通読して匿名組合の概要を確認する。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	期末試験及び振り返り		講義のまとめとして試験を実施する
	この回の到達目標	学修者が講義全体を理解することができる。 講義全体について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	教科書を通読して講義の内容を確認する。	120分
	事後学修	教科書を読み返して講義の内容を再確認する。	120分

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	井口 浩信	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

【履修条件】
民法総則および債権法を履修済みか並行履修していることが望ましい。必ず直近の商法改正を反映した六法（小型版六法で可）を携行のこと。

【授業方法】
講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。 小テスト（理解度確認テスト）のフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	裁判例や時事の法律問題について、各自の調査・研究に基づいた報告と討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商取引法の全体構造とその特質を識別することができる。				2							
②	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。				2			2				
③	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。							2		2		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	30										30
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、期末レポート課題において評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中にフィードバックします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 2 ―商法総則・商行為―	松嶋隆弘・大久保拓也	中央経済社	2020年	教科書	必携
備考	参照する裁判例や取引約款等の資料は事前配布する。				

【オフィスアワー】
開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	商法総則・商行為法の学習範囲	本講義のガイダンス 商法総則・商行為法を学ぶ目的を説明し、本講座が対象とする法領域を説明する。	
	この回の到達目標	民法と商法との領域の違いとその理由を理解し、他者に説明できる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認し、教科書第1章を通読し理解する。	120分
	事後学修	民事法の全体像を把握したうえで、民事法の中における商法の役割・存在意義を理解し、自分の言葉で説明してみる。	120分
2	商法の法源と民法との異同	商法の法源・適用範囲を学び、民事法の法源と商法典の役割、民法と商法の異同を検討する。	
	この回の到達目標	民法と商法の規整の相違とその理由づけを理解し、他者に説明できる。	
	事前学修	商法1条～3条、同501条～503条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第2章第1節・第2節を通読し理解する。	120分
	事後学修	商法が規整する対象範囲を理解し説明できる。 民法と商法との具体的な規整内容の異同を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
3	商人の意義	商人の意義と商人資格に関する裁判例を学び、商法典の規整対象を検討する。	
	この回の到達目標	商人の意義と商人資格に関する裁判例を理解し、他者に説明できる。	
	事前学修	商法4条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第2章第2節を通読し理解する。	120分
	事後学修	商人資格に関する裁判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
4	商号と登記制度	商号と商号登記に関する制度趣旨と法規整を検討する。	
	この回の到達目標	商号と商号登記に関する制度趣旨と法規整を理解し、他者に説明できる。	
	事前学修	商法11条～13条、15条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第4章を通読し理解する。	120分
	事後学修	商号・商号登記に関する判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
5	名板貸責任	名板貸責任の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	名板貸責任の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を他者に説明できる。	
	事前学修	商法14条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第4章第4節第7を通読し理解する。	120分
	事後学修	名板貸責任に関する判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
6	営業譲渡	営業譲渡の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	営業譲渡の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を他者に説明できる。	
	事前学修	商法16条～18条2を通読し条文の意味するところを考える。教科書第5章を通読し理解する。	120分
	事後学修	営業譲渡の場合分けごとの要件・効果を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	営業譲渡の裁判例	さまざまにタイプの営業譲渡について、最近の裁判例に基づいて検討する。	
	この回の到達目標	さまざまにタイプの営業譲渡について、最近の裁判例に基づいて検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	営業譲渡に関する最近の裁判例を事前に配布するので、これを熟読し理解する。	120分
	事後学修	営業譲渡に関する裁判例と法規整との関係を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
8	確認テスト・解説	授業内確認テストとその解説	
	この回の到達目標	これまでの授業内容を振り返り、重要論点や重要裁判例の判旨を理解し、他者に説明できる。	
	事前学修	第1回～第7回の講義内容を振り返り、重要論点を整理・理解しておく。	120分
	事後学修	テストと自己の解答を振り返り、自分の理解度を確認する。	120分
9	商業使用人	支配人・商業使用人に関する法規整と関連裁判例を検討する。	
	この回の到達目標	支配人・商業使用人に関する法規整と関連裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	商法20条～26条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第7章を通読し理解する。	120分
	事後学修	支配人・表見支配人・商業使用人に関する判例を熟読し自分の言葉で説明してみる。	120分
10	代理商	代理商に関する法規整と裁判例を検討する。	
	この回の到達目標	代理商に関する法規整と裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	商法27条～31条、543条～558条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第7章第7節を通読し理解する。	120分
	事後学修	代理商・仲立人・問屋の異同を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
11	仲立商・問屋	仲立商・問屋に関する法規整と裁判例を検討する。	
	この回の到達目標	仲立商・問屋に関する法規整と裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	商法27条～31条、543条～558条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第11章を通読し理解する。	120分
	事後学修	代理商・仲立人・問屋に関する判例を熟読し自分の言葉で説明してみる。	120分
12	商行為法総則	商行為法総則で規整される事項とこれに関連する裁判例を検討する。	
	この回の到達目標	商行為法総則で規整される事項とこれに関連する裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	商法504条～521条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第8章を通読し理解する。	120分
	事後学修	特に、諾否通知義務・物品保管義務等に関する判例を熟読し自分の言葉で説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	商事売買	商事売買に関する法規整とこれに関連する裁判例を検討する。	
	この回の到達目標	商事売買に関する法規整とこれに関連する裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	商法524条～528条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第9章を通読し理解する。	120分
	事後学修	商事売買に関する裁判例の動向を整理し理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
14	場屋営業者	場屋営業者とその顧客との法律関係とこれに関連する裁判例を検討する。	
	この回の到達目標	場屋営業者とその顧客との法律関係とこれに関連する裁判例を検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	商法593条～596条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第13章を通読し理解する。	120分
	事後学修	場屋営業者に関する裁判例を整理し理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
15	授業内試験・解説	授業内試験 フィードバックはポータルサイト等を通じて行う。	
	この回の到達目標	これまでの授業内容を振り返り、重要論点や重要裁判例の判旨を理解し、他者に説明できる。	
	事前学修	これまでの復習を行っておくこと。	120分
	事後学修	テストと自己の解答を振り返り、自分の理解度を確認する。	120分

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	南 健悟	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済社会で日常的に行われている商取引について法的な知識を修得するために、商法総則及び商行為法の基礎的な知識及びそこから生じ得る法的諸問題について従来の判例や学説を手がかりに考察する能力を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。

【授業方法】
基本的にはレジュメ等を配布し、動画を配信するオンデマンド講義形式によるが、Classroomまたはメール等での質問等を随時受け付ける。なお、期末レポートの解説については、レポート課題提出締切日以降に、Google Classroom等にて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商取引法の全体構造とその特質を識別することができる。					2							
②	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					2		2		2			
③	商人概念や商人の情報開示制度、そして商取引に関する法的問題の主要な論点について考察し、自分の意見を述べるることができる。							2		2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	30										30
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、期末レポート課題において評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内に行う。定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 2	松嶋隆弘ほか	中央経済社	2020年	教科書	推奨
商法総則・商行為法	北村雅史編	法律文化社	2019年	参考書	推奨
商取引法（第8版）	江頭憲治郎	弘文堂	2018年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 5 限を設定するが、事前にアポイントメントがあれば、随時受け付ける。minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	商法総論		商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。る。	
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。商法総論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書に目を通し、商法総則・商行為法と呼ばれる分野にはどのような法的な問題があるのかを確認しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法と民法の違い等を説明できるようにしておく。		120分
2	商法の特徴		商法とはどのような法律であるのか、民法とはどのような点で異なるのか、商法とはどのような歴史を有しているのかについて説明する。	
	この回の到達目標	商法の特徴に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、商法の意義、特徴、歴史と展開について把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法の特徴について確認しておく。		120分
3	商人の意義		商取引の主体たる商人や、商行為概念は商法の基本概念として位置づけられており、その2つの概念について説明する。	
	この回の到達目標	商人の意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、商法の基本概念である商人と商行為について、その概要を把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商人とはどのような存在かについて、商人資格の取得等と合わせて説明できるようにしておく。		120分
4	商号制度		商人がその営業上自己を表す名称のことを商号というが、商号とはどのようなものか、どのように機能しているのか、どのように保護されているのかについて説明する。	
	この回の到達目標	商号制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、商号にはどのような機能があるのかを把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商号の基本的事項について把握したうえで、どのような場合であれば類似商号といえるのかなどについて自分なりに検討してみる。		120分
5	商業登記制度の概要		商人情報の公示方法の一つである商業登記制度について、その制度の存在意義や特徴を不動産登記との違いを明らかにしながら、説明する。	
	この回の到達目標	商業登記制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、商業登記制度とはどのような制度なのかを把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記制度の特徴について、不動産登記との違いを意識しながら、説明できるようにしておく。		120分
6	商業登記の効力		商業登記には、一般的効力として消極的公示力と積極的公示力があるとされ、さらに不実登記の効力等も有することから、これらの効力について説明する。	
	この回の到達目標	商業登記の効力に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、商業登記にはどのような効力があるのかを確認しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記の効力に関する条文操作や解釈に慣れておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	商業帳簿制度	商人情報の公示として位置づけられる商業帳簿にはどのような機能を有しているのかなどについて説明する。	
	この回の到達目標	商業帳簿制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、商業帳簿制度の概要について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、さらに簿記論や会計学との関係について自分なりに検討しておく。	120分
8	商業使用人制度・代理商	商人の補助者としての商業使用人や代理商について説明する。	
	この回の到達目標	商人の補助者としての商業使用人や代理商に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、商人の補助者についてどのような者がいるのかを把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業使用人や代理商制度の概要を踏まえたうえで、商業使用人と代理商の違いなどについて考察してみる。	120分
9	商行為の通則規定	商行為の通則規定についてまずは説明したうえで、民法上の規定との違いなどについて解説する。	
	この回の到達目標	商行為の通則規定に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、商行為法通則に関する規定にはどのようなものがあるのかを確認しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法及び商法の規定との違いは何に起因しているのかなどについて説明できるようにしておく。	120分
10	商事売買	商人間の売買の場合には、民法とは異なる規律を受ける場合があることから、商人間の売買である商事売買に関する特則規定について説明する。	
	この回の到達目標	商事売買に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、また民法における債務不履行責任や解除制度等について復習しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の売買に関する規定とどのような点が異なるのか、自分なりに表にまとめるなどして説明できるようにしておく。	120分
11	交互計算契約	企業取引の決済手段の一つである交互計算契約の特殊性やその効力について説明する。	
	この回の到達目標	交互計算契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、交互計算契約とはどのような契約であるのか、その概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、交互計算契約の効力等について説明できるようにしておく。	120分
12	匿名組合契約	事業を行うに当たって用いられる匿名組合契約とはどのような契約であるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	匿名組合契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、その契約の概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の組合や会社制度との違いについて、自分なりにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	仲立営業	仲立営業の具体例を用いながら、仲立人の意義や民事仲立・商事仲立の区別、そして仲立人の権利義務関係について説明する。	
	この回の到達目標	仲立営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジюме及び教科書の該当部分を読み、仲立営業の意義や特徴を把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジюмеや教科書を確認しながら解答し、仲立人の特徴について説明できるようにしておく。	120分
14	問屋営業	問屋営業の具体例を用いながら、問屋の意義や特徴、そして問屋と委託者との関係や取引の相手方との関係について説明する。	
	この回の到達目標	問屋営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジюме及び教科書の該当部分を読み、問屋営業の意義や特徴を把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジюмеや教科書を確認しながら解答し、代理商・仲立人・問屋の異同について説明できるようにしておく。	120分
15	場屋営業	場屋営業において適用される規定や運送人の責任についてその概要を説明する。	
	この回の到達目標	場屋営業に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	
	事前学修	事前に配布されるレジюме及び教科書の該当部分を読み、場屋取引の意義や特徴を把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジюмеや教科書を確認しながら解答し、場屋営業主が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを説明できるようにしておく。	120分

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	金澤 大祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
個人や企業が契約を締結して代金の支払いをすることで代金を支払う債務が消滅するが、これを支払決済という。個人や企業が売買代金の支払いを行う際、銀行振込を利用するか、電子マネーで支払うか、手形・小切手を使うか等さまざまな方法が考えられる。授業では、これらの企業取引の決済手段に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業取引の基礎知識として、手形・小切手等の支払決済の仕組みの主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて支払システムの全体構造、銀行取引等さまざまな決済方法の主要な論点についての知識を獲得し、さらに手形・小切手等企業間決済のような高度な決済法制の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
継続的に講義に出席し、予習・復習を行う者。

【授業方法】		
本講義は、講義形式で行うが、適宜質疑応答を行うことによって学修者一人一人が論理的な解答を導き出すことができることを目指す。また、授業では、判例の原文を用いて、講義を行うなど、高度な内容を取り扱うこともある。 classroomを利用して、解説や講評を配信する場合もある。 学修者の理解度に合わせて授業計画記載の授業進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者との教員で支払システム法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	支払システム法の全体構造とその特質を識別することができる。		2							
②	銀行振込や電子マネー等さまざまな決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。		2		2		2			
③	さまざまな決済方法の概要、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。				2		2			
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、レポートにより評価する。	25	30									55
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における課題において到達目標②及び到達目標③が身についているかを評価する。		25	20								45
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	55	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解説は、次回の授業内にてZ o o mにて配信する。試験の解説・講評については、試験終了後、行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 3（支払決済法）	松嶋隆弘＝大久保拓也	中央経済社	2020	教科書	推奨
六法				その他	必携
支払決済法－手形小切手から電子マネーまで－（第3版）	小塚荘一郎＝森田果	商事法務	2018	参考書	任意
手形小切手判例百選（第7版）	神田秀樹＝森田果	有斐閣	2014	参考書	任意
備考	教科書は、開講時に指示する。最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日 12:10～12:40 （事前にメールでアポイントメントを取ること） kanazawa.daisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 支払決済法の基礎		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 支払決済法の全体像を把握する。	
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関する文献で予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
2	支払決済の基本的仕組み		支払決済法の基本的な仕組みについて学ぶ。支払決済とは、どのような制度か、どのような法的問題点があるか説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
3	電子マネー		電子マネーの基本的な仕組みについて学ぶ。電子マネーの意義、法的位置付け及び判例等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
4	仮想通貨（暗号資産）		仮想通貨（暗号資産）の基本的な仕組みについて学ぶ。仮想通貨（暗号資産）の意義、法的位置付け及び判例等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
5	銀行振込の概要		銀行振込の基本的な仕組みについて学ぶ。銀行振込の意義、法的位置付けについて説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
6	銀行振込の法的問題点		銀行振込についての法的問題点について学ぶ。銀行振込に関する裁判例について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	デビットカード		デビットカードの基本的な仕組みについて学ぶ。デビットカードの意義、法的位置付け及び判例等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
8	銀行間決済システム・資金移動業		銀行間決済システム・資金移動業の基本的な仕組みについて学ぶ。銀行間決済システム・資金移動業意義、法的位置付け及び判例等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
9	有価証券理論		有価証券理論について学ぶ。有価証券の意義等について説明する。約束手形による決済の過程について学ぶ。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
10	有価証券理論・約束手形総論		約束手形の振出、裏書および支払並びに手形訴訟の概要について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
11	手形行為		手形行為とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。手形行為の特殊性、手形行為の成立要件、手形債権と原因債権の関係について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
12	約束手形の振出		約束手形の振出に関する仕組みについて学ぶ。約束手形の記載事項、手形の交付、利益相反取引との関係、代理権限の濫用について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第三者による手形行為		第三者による手形行為とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。代理方式、機関方式について学ぶ。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
14	無権代理、偽造、変造		無権限者が手形行為をした場合に誰がどのような責任を負うかについて学ぶ。無権代理、偽造、変造裏書について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
15	約束手形の裏書		約束手形の裏書とは、どのような仕組みになっているかについて学ぶ。裏書の意義、方式および効力並びに手形行為独立の原則の裏書への適用について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
16	裏書の連続の効力		裏書の連続にはどのような効力があるかについて学ぶ。裏書の連続の判断方法、権利推定的効力、善意支払、善意取得について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
17	特殊な裏書		特殊な裏書とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。無担保裏書、裏書禁止裏書、戻裏書、取立委任裏書、質入裏書について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
18	手形抗弁		手形抗弁とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。物的抗弁と人的抗弁の意義、両者の区別について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	人的抗弁		人的抗弁とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。人的抗弁の制限、悪意の抗弁、融通手形の抗弁、後者の抗弁、二重無権の抗弁について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
20	約束手形の請求、手形交換所と不渡		約束手形の請求、不渡とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。満期の意義、支払呈示の効力、手形交換所制度等について学ぶ。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
21	遡求		遡求とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。遡求の意義、要件、効果について学ぶ。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
22	手形保証、手形行為独立の原則、善意取得		手形保証、手形行為独立の原則、善意取得とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。手形保証、手形行為独立の原則、善意取得の意義、方式、裁判例等について学ぶ。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
23	白地手形、手形割引、手形貸付、手形書替		白地手形、手形割引、手形貸付、手形書替とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。白地手形、手形割引、手形貸付、手形書替の意義、方式、裁判例等について学ぶ。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
24	公示催告と除権決定		公示催告、除権決定とはどのような仕組みになっているかについて学ぶ。公示催告の手続、除権決定の効果について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	手形の時効、利得償還請求権		手形の時効制度の概要、利得償還請求権の仕組みについて学ぶ。手形法上の消滅時効、利得償還請求の意義、要件について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
26	電子記録債権		電子記録債権について約束手形と比較して学ぶ。電子記録債権の発生、譲渡および消滅について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
27	ファクタリング		ファクタリングの仕組みについて学ぶ。ファクタリングの意義、規制、法律構成、関係する裁判例について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
28	クレジットカード		クレジットカードの仕組みや法的問題点について学ぶ。クレジットカードの意義、規制、法律構成、関係する裁判例について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
29	小切手		小切手はどのような仕組みになっているか学ぶ。小切手の意義、振出、線引について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分
30	為替手形		為替手形はどのような仕組みになっているか学ぶ。為替手形の意義、活用方法について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テキストでテーマに関して予習する。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んだり、経済ニュース等を見ておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。		120分

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
個人や企業が契約を締結して代金の支払いをすることで代金を支払う債務が消滅するが、これを支払決済という。個人や企業が売買代金の支払いを行う際、銀行振込を利用するか、電子マネーで支払うか、手形・小切手を使うか等さまざまな方法が考えられる。授業では、これらの企業取引の決済手段に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業取引の基礎知識として、手形・小切手等の支払決済の仕組みの主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて支払システムの全体構造、銀行取引等さまざまな決済方法の主要な論点についての知識を獲得し、さらに手形・小切手等企業間決済のような高度な決済法制の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。 民法Ⅳ・民法Ⅴを履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
オンデマンド講義において、支払システム法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説する。講義の残りの時間は各回でレポートを課し、Google Classroomを通じて提出してもらう。授業では各種資格試験の過去の問題等の高度な内容の問題についても取り上げることがある。学修者の理解度に合わせて授業計画記載の授業進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	支払システム法の全体構造とその特質を識別することができる。					2							
②	銀行振込や電子マネー等さまざまな決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。					2		2		2			
③	さまざまな決済方法の概要、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。							2		2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、期末試験（最終回に実施）により評価する。期末試験は遠隔方式で実施する予定である。	30	20	5								55
小テスト等	各回の小テストにより到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	15	15	15								45
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	35	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
必要に応じて講義でフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義3(支払決済法)	松嶋隆弘＝大久保拓也編	中央経済社	2020	教科書	必携
六法				その他	必携
商法判例集〔第8版〕	山下友信＝神田秀樹編	有斐閣	2020	教科書	必携
				参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
オンデマンド講義のため未定（決定したら講義でアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 支払決済の基礎		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。支払決済の全体像について説明する。
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
2	支払手段法の役割		支払手段法の役割を学修する。
	この回の到達目標	支払手段法の役割を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
3	支払手段の特徴		支払手段の特徴を学修する。
	この回の到達目標	支払手段の特徴を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
4	決済システムの特徴		決済システムの特徴を学修する。
	この回の到達目標	決済システムの特徴を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
5	電子マネー		電子マネーを学修する。
	この回の到達目標	電子マネーを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
6	仮想通貨と疑似通貨		仮想通貨と疑似通貨を学修する。
	この回の到達目標	仮想通貨と疑似通貨を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	銀行振込の仕組み	銀行振込の仕組みを学修する。	
	この回の到達目標	銀行振込の仕組みを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
8	預金取引	預金取引を学修する。	
	この回の到達目標	預金取引を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
9	振込の取消・撤回	振込の取消・撤回を学修する。	
	この回の到達目標	振込の取消・撤回を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
10	デビットカード	デビットカードを学修する。	
	この回の到達目標	デビットカードを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
11	銀行間決済システム	銀行間決済システムを学修する。	
	この回の到達目標	銀行間決済システムを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
12	資金移動業・収納代行・代引き	資金移動業・収納代行・代引きを学修する。	
	この回の到達目標	資金移動業・収納代行・代引きを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	小切手の基本		小切手の基本を学修する。
	この回の到達目標	小切手の基本を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
14	小切手の振り出し		小切手の振り出しを学修する。
	この回の到達目標	小切手の振り出しを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
15	無権限取引		無権限取引を学修する。
	この回の到達目標	無権限取引を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
16	為替手形		為替手形を学修する
	この回の到達目標	為替手形を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
17	約束手形とその発展形態		約束手形とその発展形態を学修する。
	この回の到達目標	約束手形とその発展形態を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
18	約束手形の振り出し		約束手形の振り出しを学修する。
	この回の到達目標	約束手形の振り出しを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	約束手形の流通	約束手形の流通を学修する。	
	この回の到達目標	約束手形の流通を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
20	約束手形の支払	約束手形の支払を学修する。	
	この回の到達目標	約束手形の支払を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
21	約束手形の遡求	約束手形の遡求を学修する。	
	この回の到達目標	約束手形の遡求を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
22	約束手形上の権利の消滅	約束手形上の権利の消滅を学修する。	
	この回の到達目標	約束手形上の権利の消滅を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
23	手形訴訟	手形訴訟を学修する。	
	この回の到達目標	手形訴訟を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
24	電子記録債権概論	電子記録債権概論を学修する。	
	この回の到達目標	電子記録債権概論を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	電子記録債権の発生		電子記録債権の発生を学修する。
	この回の到達目標	電子記録債権の発生を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
26	電子記録債権の譲渡		電子記録債権の譲渡を学修する。
	この回の到達目標	電子記録債権の譲渡を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
27	電子記録債権の消滅		電子記録債権の消滅を学修する。
	この回の到達目標	電子記録債権の消滅を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
28	電子記録債権の利用		電子記録債権の利用を学修する。
	この回の到達目標	電子記録債権の利用を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分
29	クレジットカード		クレジットカードを学修する。
	この回の到達目標	クレジットカードを理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当箇所を読み返して講義の内容を再確認する。	120分
30	有価証券理論		有価証券理論を学修する。
	この回の到達目標	有価証券理論を理解することができる。	
	事前学修	各自の教科書の該当ページを通読する。	120分
	事後学修	各自の教科書の該当ページを読み返して講義の内容を再確認する。	120分

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	大久保 拓也	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
個人や企業が契約を締結して代金の支払いをすることで代金を支払う債務が消滅するが、これを支払決済という。個人や企業が売買代金の支払いを行う際、銀行振込を利用するか、電子マネーで支払うか、手形・小切手を使うか等さまざまな方法が考えられる。授業では、これらの企業取引の決済手段に関する法知識を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業取引の基礎知識として、手形・小切手等の支払決済の仕組みの主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて支払システムの全体構造、銀行取引等さまざまな決済方法の主要な論点についての知識を獲得し、さらに手形・小切手等企業間決済のような高度な決済法制の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。 民法Ⅳ・民法Ⅴを履修中または履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
支払システム法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で質疑応答を行い、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができるようにする。授業では各種資格試験の過去の問題等の高度な内容の問題についても取り上げることがある。ポータルシステム等デジタルシステムを利用して講義内容や資料を配信する場合もある。学修者の理解度に合わせて授業計画記載の授業進度を柔軟に変更する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員で支払システム法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いて検討を行い、内容の理解度を高める。出席管理システム等のデジタルシステムも扱いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	支払システム法の全体構造とその特質を識別することができる。		2							
②	銀行振込や電子マネー等さまざまな決済方法、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について簡潔に説明することができる。		2		2		2			
③	さまざまな決済方法の概要、手形・小切手等の高度な決済法制等の主要な論点について考察し、自分の意見を述べることができる。				2		2			
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての知識・技能・態度が身についているかを、試験（授業内試験・レポート試験になるかは講義の進度やオンラインの利用により異なる）により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	小テスト等（オンラインシステムの利用の場合もある）により、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	5										5
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答等によって到達目標③が身についているかを評価する。オンラインシステムの利用の場合もある。		5	10								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストの解説は、授業内またはポータルシステムや出席管理システム等のデジタルシステムにて後日配信する。試験・レポート等の解説・講評については、後日、ポータルシステム等のデジタルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義3（支払決済法）	松嶋隆弘＝大久保拓也編	中央経済社	2021	教科書	必携
六法				その他	必携
手形小切手判例百選（第7版）	神田秀樹＝神作裕之編	有斐閣	2014	参考書	推奨
備考	六法を持参すること（令和元年改正会社法が令和3年3月1日に施行されたため、最新版（2021(令和3)年版以降）が望ましい）				

【オフィスアワー】
火曜昼休み。事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204） ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 支払決済の基礎		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 支払決済の全体像について説明する。	
	この回の 到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認する。 テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
2	支払決済の基本的仕組み		手形・小切手の基本的仕組みについて学ぶ。支払決済とはどういう制度か、有価証券の意義等について説明する。	
	この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
3	約束手形の記載事項の概要		約束手形の記載事項には何があるかについて学ぶ。必要的記載事項、署名等について説明する。	
	この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
4	約束手形の記載事項		約束手形の記載事項には何があるかについて学ぶ。有益的記載事項、無益的記載事項、有害的記載事項等について説明する。	
	この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
5	約束手形の振出の概要		振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出と交付等について説明する。	
	この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
6	約束手形の振出		振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の権利外観法理、手形行為と民法・商法の適用等について説明する。	
	この回の 到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	約束手形の振出と手形の代理		振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。手形の代理の概要について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
8	約束手形の振出と手形の無権代理		振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。手形の無権代理について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
9	約束手形の裏書の概要		裏書とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の権利移転的効力、担保的効力等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
10	約束手形の裏書の効力		裏書とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の資格授与的効力等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
11	約束手形の裏書と裏書の連続		裏書とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の効力等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分
12	裏書の連続		裏書の連続とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の連続に関連する制度について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	裏書に関わる特別な規制の概要	裏書に関わる特別な規制について学ぶ。善意取得等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
14	裏書に関わる特別な規制	裏書に関わる特別な規制について学ぶ。特殊の裏書として無担保裏書、戻手形、期限後裏書等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
15	裏書に関わる特別な規制と取立委任裏書	裏書に関わる特別な規制について学ぶ。特殊の裏書として取立委任裏書等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
16	裏書に関わる特別な規制と質入裏書	裏書に関わる特別な規制について学ぶ。特殊の裏書として質入裏書等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
17	手形上の権利の請求の概要	手形上の権利の請求とはどういう制度であるかについて学ぶ。請求の効力等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
18	手形上の権利の請求	手形上の権利の請求とはどういう制度であるかについて学ぶ。手形の呈示、善意免責等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	手形抗弁の意義		手形抗弁とはどういう制度であるかについて学ぶ。抗弁の意義等について説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
20	手形抗弁の種類		手形抗弁とはどういう制度であるかについて学ぶ。物的抗弁・人的抗弁等について説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
21	約束手形の利用と不渡り		約束手形の利用方法について学ぶ。手形不渡制度等について説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
22	約束手形の利用と手形行為独立の原則		約束手形の利用方法について学ぶ。手形行為独立の原則等について解説する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
23	手形の支払確保制度の概要		手形の支払確保について学ぶ。手形保証等について説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
24	手形の支払確保制度の仕組み		手形の支払確保について学ぶ。手形割引、手形貸付等について説明する。
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	手形の支払確保と白地手形	手形の支払確保について学ぶ。白地手形等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
26	約束手形の喪失	約束手形の喪失時の対応策について学ぶ。公示催告、除権決定について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
27	約束手形の時効	約束手形の時効について学ぶ。時効、利得償還請求権について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
28	為替手形・小切手	為替手形や小切手とはどういう有価証券であるかについて学ぶ。為替手形と小切手の法的仕組みや活用方法について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
29	手形・小切手の電子化	手形・小切手の電子化、ファクタリング等について学ぶ。でんさい、電子記録債権等について説明する。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
30	新たな資金決済制度	銀行取引、資金決済法による新たな資金決済制度について学ぶ。銀行振込、暗号資産(仮想通貨)について説明する。 授業全体のまとめをする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。 授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。	120分

科目名	商法Ⅳ（保険法）	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
保険契約の意義を理解し、損害保険契約および生命保険契約に関する解釈論上の問題点とこれに関する裁判例を検討し、保険法に関する法的基礎知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における保険制度の役割を理解し、倫理性を踏まえた論理的思考を身に着けるために、保険会社はどのように運営されているか、損害保険契約とは、生命保険契約とは、傷害疾病保険契約とは何か、保険契約に特徴的な点は何か等、保険法に関する基礎的知識を修得する。

【履修条件】
3，4年生を対象とする。商法Ⅰ、債権法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
適宜、資料を配布して、これらを活用して講義を中心に進める。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	保険規制の意義を識別することができる。				2							
②	保険契約・制度、その趣旨、関連する問題点と法の適用等を理解し、説明できる。				2		2		2			
③	保険法の主要な論点に関する裁判例および学説を説明できる。						2		2			
④	保険法の主要な論点に関して考察し、自分の意見を述べることができる。						2		2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎的知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10							60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが，書式等の要件を満たし，課題に適切に答える内容になっているかを基準に，到達目標①②③④にかかわる基礎的理解ができているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に，到達目標③④にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	35	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート、討論・発表等の解説は、授業内に行う。試験の解説は、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ポイントレクチャー保険法	甘利公人=福田弥夫=遠山聡	有斐閣	2020年	教科書	必携
保険法判例百選	山下友信=洲崎編	有斐閣	2010年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:20～13:00 研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（9号館3階 9308号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 保険法の意義		ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明する。 保険法とはどのような法規かを把握する。
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 到達目標①に関連して、保険法の位置づけを理解することができる。	
	事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。保険法の位置づけを整理する。	120分
2	保険の意義		保険とは何か、法学的、経済学的、経営学的にアプローチし、理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保険の意義を整理し、説明することができる。	
	事前学修	教科書UNIT 1 I、IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
3	保険監督法		保険監督のための法整備 保険制度・保険契約に関する法のうち、保険業法の目的、そこに定める定義等を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保険監督法である保険業法に関連する主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
	事前学修	教科書UNIT 1 5を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
4	保険監督規制のあり方		保険募集の規制について、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保険募集規制と、それをめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
	事前学修	教科書UNIT 1 5 VI～を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。新聞の経済面を読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
5	説明義務		保険法における説明義務とは何か、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、説明義務に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 1 III～を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
6	保険契約の定義		保険契約の定義、当事者および関係者について、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保険契約の定義、契約の当事者および関係者と、それをめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
	事前学修	教科書UNIT 2 I～IIIを読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	保険給付の履行期	保険給付の履行期はいつか、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険給付の履行期をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 2 IV～を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
8	被保険利益	被保険利益とは何か、関連判例および学説等を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、被保険利益をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べるができる。	
	事前学修	教科書UNIT 3 を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
9	告知義務	告知義務とは何か、保険契約の中でどのような役割を果たすか、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、告知義務をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
	事前学修	教科書UNIT 4 I、II を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
10	告知義務違反の効果	告知義務に違反した場合の効果について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、告知義務違反をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
	事前学修	教科書UNIT 4 IIIを読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
11	保険金額と保険価額	保険金額、保険価額の意義について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険金額、保険価額の意義に関連する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 5 I～IVを読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
12	通知義務	通知義務とは何か、保険契約においてどのような役割を果たすか等について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、通知義務をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明することができる。	
	事前学修	教科書UNIT 5 V～を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	火災保険		火災保険とはどのような保険か、主要な問題点等について、判例および学説等とともに理解し、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、火災保険をめぐる主要な問題点に関する考察について、グループワークを行い、自分の考えを述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 5 VI～を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
14	保険代位		保険代位とは何か、保険給付請求においてどのような役割を果たすか、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険代位をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の考えを述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 6 を読み、テーマに関する予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
15	故意免責		故意免責の「故意」の意義等について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、故意免責をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の考えを述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 7 を読み、テーマに関するテキストの予習をする。主要な論点に関する判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた主要な論点全てに関して復習し、自分の意見をまとめる。		120分
16	重過失免責		重過失免責の「重過失」の意義等について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、重過失免責に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 7 を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
17	責任保険		責任保険の意義を中心に、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、責任保険に関連する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 8 I、II を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
18	専門家賠償責任保険		専門家賠償責任保険について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、専門家賠償責任保険に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 8 III を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	自賠責保険		自賠責保険について、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自賠責保険に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 9 I、IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
20	運行供用者の責任		自賠責保険における運行供用者責任について、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、運行供用者の責任に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 9 IIIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
21	対人賠償責任保険、搭乗者傷害保険		任意自動車保険における対人賠償責任保険、搭乗者傷害保険について、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意自動車保険における対人賠償責任保険、搭乗者傷害保険に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 10 I、IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
22	人身傷害補償保険、車両保険等		任意自動車保険における人身傷害補償保険、車両保険、特約条項について、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意自動車保険における人身傷害補償保険、車両保険、特約条項に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 10 III～を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
23	保険料と保険者の責任		生命保険契約における保険料と保険者の責任について、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生命保険契約における保険料と保険者の責任に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 11 I～Vを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分
24	他人の生命の保険契約、第三者のためにする生命保険契約		他人の生命の保険契約、第三者のためにする生命保険契約について、関連判例および学説等とともに理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他人の生命の保険契約、第三者のためにする生命保険契約に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書UNIT 11 VI～を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	保険金受取人の変更		生命保険契約における保険金受取人の変更について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生命保険契約における保険金受取人の変更に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 1 2 I、IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
26	生命保険金受取人の権利		生命保険契約における保険金受取人の権利の取得割合、介入権について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保険金受取人の権利の取得割合、介入権に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 1 2 III～を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
27	生命保険契約の免責事由		生命保険の免責事由について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生命保険の免責事由に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 1 3を読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
28	傷害保険の保険事故		傷害保険契約の保険事故について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、傷害保険契約の保険事故に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 1 4 Iを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
29	責任開始期前発病不担保		生命保険契約における責任開始期前発病不担保条項について、関連判例および学説等とともに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生命保険契約における責任開始期前発病不担保条項をめぐる主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	教科書UNIT 1 4 IIを読み、テーマに関する予習をする。関連判例、学説を調べておく。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。主要な論点に関する自分の意見をまとめる。		120分
30	授業内試験及び振り返り		保険契約全般について、総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、説明義務に関する主要な判例の事実、争点、判旨を説明し、自分の意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの教科書、ノート等を確認し、保険法前夫案における主要な論点を整理し、判例・学説をまとめる。		120分
	事後学修	学期末試験の復習。		120分

科目名	商法Ⅳ（保険法）	担当者	井口 浩信	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
保険契約の意義を理解し、損害保険契約および生命保険契約に関する解釈論上の問題点とこれに関する裁判例を検討し、保険法に関する法的基礎知識を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における保険制度の役割を理解し、倫理性を踏まえた論理的思考を身に着けるために、保険会社はどのように運営されているか、損害保険契約とは、生命保険契約とは、傷害疾病保険契約とは何か、保険契約に特徴的な点は何か等、保険法に関する基礎的知識を修得する。

【履修条件】
民法総則および債権法を履修済みか並行履修していることが望ましい。必ず「保険法」が登載された六法（小型版六法で可）を携行のこと。

【授業方法】
講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。 確認テストのフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	裁判例や時事の法律問題について、各自の調査・研究に基づいた報告と討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	保険規制の意義を識別することができる。				2							
②	保険契約・制度、その趣旨、関連する問題点と法の適用等を理解し、説明できる。				2		2		2			
③	保険法の主要な論点に関する裁判例および学説を説明できる。						2		2			
④	保険法の主要な論点に関して考察し、自分の意見を述べることができる。						2		2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎的知識が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	20	20	10							60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが，書式等の要件を満たし，課題に適切に答える内容になっているかを基準に，到達目標①②③④にかかわる基礎的理解ができているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に，到達目標③④にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	35	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対するフィードバックは、授業内またはポータルサイトを通じて実施します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ポイントレクチャー保険法第3版	甘利＝福田＝遠山	有斐閣	2020年	教科書	必携
備考	参照する裁判例や保険約款等の資料は事前配布する。				

【オフィスアワー】
開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信することも可とします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	保険法の範囲	本講義のガイダンス 保険法を学ぶ目的を説明し、本講座が対象とする法領域を説明する。	
	この回の到達目標	本講座で学ぶ法領域を理解し、保険制度と保険契約および保険法の対象領域とこれらの意義について他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT1を通読し理解する。	120分
	事後学修	民事法の全体像を把握したうえで、民事法の中における保険法の役割・存在意義を理解し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
2	保険法判例の読み方	保険法に関する裁判例を読む際の着眼点を理解し、事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT1のPOINT1～4に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
3	保険契約の当事者の権利義務（1）	保険契約の当事者の間の基本的な権利義務関係を整理し理解する。	
	この回の到達目標	保険契約の当事者の間の基本的な権利義務関係を理解し、他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT2を通読し理解する。	120分
	事後学修	保険契約の当事者の間の基本的な権利義務関係を理解し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
4	保険契約の当事者の権利義務（2）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT2のPOINT1～5に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
5	被保険利益（1）	被保険利益に関する従来の議論を踏まえて、今日的な意義を検討する。	
	この回の到達目標	被保険利益に関する今日的な意義を理解し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT3を通読し理解する。	120分
	事後学修	生命保険と損害保険における被保険利益の相違を理解し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
6	被保険利益（2）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT3のPOINT1～3に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	告知義務（１）		告知義務制度に内在する問題点を検討する。
	この回の到達目標	告知義務制度に内在する今日的な法律問題を理解し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 4を通読し理解する。	120分
	事後学修	告知義務違反の意義・要件・効果を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
8	告知義務（２）		事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 4のPOINT 1～6に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
9	火災保険・地震保険（１）		火災保険・地震保険の概要と重要な法律問題を検討する。
	この回の到達目標	火災保険・地震保険の概要と重要な法律問題を検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 5を通読し理解する。	120分
	事後学修	地震免責を巡る法律問題を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
10	火災保険・地震保険（２）		事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 5のPOINT 1～4に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
11	保険代位（１）		保険代位の概要と重要な法律問題を検討する。
	この回の到達目標	保険代位の概要と重要な法律問題を検討し、これらを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 6を通読し理解する。	120分
	事後学修	保険代位を巡る法律問題を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
12	保険代位（２）		事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 6のPOINT 1～4に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	免責事由（１）	保険会社が免責される場合とこれに関する重要な法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	保険会社が免責される場合とこれに関する重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT7を通読し理解する。	120分
	事後学修	故意免責の射程範囲を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
14	免責事由（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT7のPOINT1～7に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
15	・確認テスト ・確認テストの解説	これまでに学んだ領域に関する理解度と応用度を確認する。	
	この回の到達目標	これまでに学んだ領域に関する重要論点と重要裁判例の判旨を再確認し、これらを踏まえた応用問題にも自分の考えを他者に説明できる。	
	事前学修	これまでの重要論点と重要裁判例の振り返り	120分
	事後学修	テスト結果を踏まえ、自分自身の理解度を確認するとともに、理解度が不十分な点、応用力が不十分な点を改めて再確認し、テキストや裁判例の必要箇所を再読する。	120分
16	賠償責任保険（１）	賠償責任保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	賠償責任保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT8を通読し理解する。（120分）	120分
	事後学修	賠償責任保険を巡る法律問題を整理し、自分の言葉で説明を試みる。（120分）	120分
17	賠償責任保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT8のPOINT1～5に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
18	自賠償保険（１）	自賠償保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	自賠償保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT9を通読し理解する。	120分
	事後学修	自賠償保険と任意自動車保険との異同を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	自賠責保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 9のPOINT 1～5に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
20	任意自動車保険（１）	任意自動車保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	任意自動車保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 10を通読し理解する。	120分
	事後学修	自賠責保険と任意自動車保険との異同を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
21	任意自動車保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 10のPOINT 1～6に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
22	生命保険（１）	生命保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	生命保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 11を通読し理解する。	120分
	事後学修	生命保険金請求権の法的性質を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
23	生命保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 11のPOINT 1～6に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
24	保険金受取人（１）	保険金受取人に関する重要な法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	保険金受取人に関する重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT 12を通読し理解する。	120分
	事後学修	保険金受取人とその他の保険契約関係者との関係を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	保険金受取人（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT12のPOINT1～9に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
26	生命保険の免責事由（１）	生命保険の免責事由の概要と重要な法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	生命保険の免責事由の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT13を通読し理解する。	120分
	事後学修	生命保険の免責事由を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
27	生命保険の免責事由（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT13のPOINT1～5に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
28	傷害疾病保険（１）	傷害疾病保険の概要と重要な法律問題を検討する。	
	この回の到達目標	傷害疾病保険の概要と重要な法律問題を検討し、これを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT14を通読し理解する。	120分
	事後学修	生命保険と傷害疾病保険との異同を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
29	傷害疾病保険（２）	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。	
	この回の到達目標	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を他者に説明できる。	
	事前学修	教科書UNIT14のPOINT1～4に掲載の各判例を通読し理解する。	120分
	事後学修	裁判所の判断に対する自らの意見を整理し、自分の言葉で説明を試みる。	120分
30	・本講座のまとめ ・授業内試験 ・試験の解説	本講座で学んだ重要項目を再確認し、その理解度と応用力を授業内試験で確認する。	
	この回の到達目標	これまでに学んだ領域に関する重要論点と重要裁判例の判旨を再確認し、これらを踏まえた応用問題にも自分の考えを他者に説明できる。	
	事前学修	これまでの学習内容の振り返る。	120分
	事後学修	試験で誤った個所の再確認を行う。	120分

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野についても扱う。運送法では運送モードに応じた法規整を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では運送法において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。そして、商法総則及び商行為法を学修するに当たっては、現行の商法の規定と商取引の実態との関連について理解することが重要となる。この講義では、商事取引の基盤となる法制度について理解した上で、そこから生じうる法的諸問題について基礎的な知識を得ることも目標となる。また、運送法分野についても、この講義を通して、運送取引に関する基礎知識を踏まえて、そこで生じうる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
基本的にはレジュメ等を配布し、動画を配信するオンデマンド講義形式によるが、Classroomまたはメール等での質問等を随時受け付ける。なお、期末レポートの解説については、レポート課題提出締切日以降に、Google Classroom等にて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。				2							
②	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。				2		2		2			
③	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。						2		2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	30										30
レポート等	到達目標①②③について知識・技能・態度が身についているかを、レポート課題により評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 2	松嶋隆弘ほか	中央経済社	2020年	教科書	推奨
商法総則・商行為法	北村雅史編	法律文化社	2019年	教科書	推奨
基本講義現代海商法（第3版）	箱井崇史	成文堂	2018年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	運送法概論		運送法とはどのような法分野であるのか、その概要と、各種運送モードの説明を行う。
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 運送法に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、運送法全体を把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を読みながら解答し、各種運送モードによる法規整の違いを確認する。	120分
2	陸上運送契約の意義		陸上運送の契約の性質や、陸上運送の当事者たる運送人及び荷送人との法律関係と、荷受人との関係について説明する。
	この回の到達目標	陸上運送契約の意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上運送の範囲や特徴について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上運送契約の性質や特徴について、自分なりにまとめておく。	120分
3	陸上物品運送人の責任		陸上物品運送人の責任について、民法上の債務不履行責任との違い等を踏まえたうえで、その特徴について説明する。
	この回の到達目標	陸上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを確認しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の責任の特徴（特に、民法上の債務不履行責任との違い）についてまとめておく。	120分
4	陸上運送人の責任の特則		陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴である、高価品特則や損害賠償額の定型化に関する規定等について説明する。
	この回の到達目標	陸上運送人の責任の特則に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴のうち高価品特則や損害賠償額の定型化に関する制度等について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴について、特則が適用される場合とそうではない場合とを把握しておく。	120分
5	鉄道運送契約		陸上運送のうち、鉄道運送契約の特徴について説明したうえで、それ以外の陸上運送との違いについて解説する。
	この回の到達目標	鉄道運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、鉄道運送（鉄道物品運送及び鉄道旅客運送）の特徴について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、鉄道運送契約の特徴を把握し、実際、自身が締結している鉄道運送契約にはどのような問題があるのか、調べておく。	120分
6	航空運送契約		航空運送契約の特徴について説明したうえで、商法の各規定との関係や各種航空運送に係る条約について説明する。
	この回の到達目標	航空運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、航空運送（航空物品運送及び航空旅客運送）の特徴について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、航空運送契約の特徴を把握しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	海商法概論		海商法とはどのような法分野であるのか、そこにはどのような特徴を有しているのか、そして、海商法の基本概念である船舶とは法律上、どのような存在であるのかについて説明する。
	この回の到達目標	海商法概論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海商法とはどのような法分野であるのか、法律上、船舶とはどのように扱われるのかについて確認しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海商法の特異性や船舶の法律上の扱いについて確認しておく。	120分
8	船舶所有者・船員等		船舶の運航主体たる海上運送人・船舶所有者や海上運送人の補助者たる船員とはどのような存在であるのかについて説明する。
	この回の到達目標	船舶所有者・船員等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、船舶の運航主体である海上運送人・船舶所有者の概念、そして、海上運送人の補助者たる船員についてどのような存在であるのか把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上運送人の特徴や船員について確認しておく。	120分
9	船主責任制限制度		船舶所有者等の責任を一定程度制限する船主責任制限制度について説明する。
	この回の到達目標	船主責任制限制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、船舶所有者等の責任について確認し、そのうえで、船舶所有者の責任を一定程度制限する制度（船主責任制限制度）とは、どのような制度であるのか、その概要を確認しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船主責任制限制度の概要及び特徴を確認しておく。	120分
10	船荷証券		海上運送人が荷送人に対して発行する船荷証券とはどのような証券であるのか、そして、どのような特徴を有するものであるのかについて説明する。
	この回の到達目標	船荷証券に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上運送人が発行する船荷証券とはどのような証券であるのかを簡単に確認しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船荷証券の意義及び特徴について把握しておく。	120分
11	海上物品運送契約		海上物品運送契約は、どのように締結され、どのように履行されて、どのように終了するのかなどについて説明する。
	この回の到達目標	海上物品運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送契約の履行過程について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送契約の履行過程について、図示するなどして、説明できるようにしておく。	120分
12	海上物品運送人の責任		海上物品運送人の責任について、陸上運送や航空運送との違いを踏まえたうえで、その特徴について説明する。
	この回の到達目標	海上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任について、どのような特徴を有しているのかを把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任はどのような場合に生じるのか、その責任の性質は何かについて確認しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	海上物品運送人の責任の特則		海上物品運送人がたとえ責任を負ったとしても、一定程度制限する制度や、場合によっては免責が認められる場合があるが、それはどのような場合なのか、なぜそのような制度が存在するのかを説明する。
	この回の到達目標	海上物品運送人の責任の特則に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任制限や免責が認められる場合には、どのような場合があるのかを把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任制限や免責について確認し、さらに、その合理性について説明できるようにしておく。	120分
14	船舶衝突、海難救助、共同海損		海は危険と隣合わせであることから、海商法上、船舶の衝突に関する規定や、海難救助や共同海損制度があるが、その制度の内容及び特徴について説明する。
	この回の到達目標	船舶衝突などに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海商法特有の法的諸問題である、船舶衝突・海難救助・共同海損制度についてその概要を把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船舶衝突規定や海難救助・共同海損制度について、どのような制度なのかについて説明できるようにしておく。	120分
15	運送法・海商法の総復習		前期のまとめとして、運送法の概要及び海商法の概要について、改めてその中心的な部分を説明する。
	この回の到達目標	運送法・海商法の全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	配布された講義レジュメ及び教科書を通読し、運送法とはどのような法分野であるのか、また海商法とはどのような法分野で陸上運送や航空運送とはどのような異同があるのかを確認しておく。	120分
	事後学修	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、陸上運送・航空運送・海上運送の異同について、自分なりに表などにまとめて説明できるようにしておく。	120分

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	井口 浩信	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野についても扱う。運送法では運送モードに応じた法規整を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では運送法において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。そして、商法総則及び商行為法を学修するに当たっては、現行の商法の規定と商取引の実態との関連について理解することが重要となる。この講義では、商事取引の基盤となる法制度について理解した上で、そこから生じうる法的諸問題について基礎的な知識を得ることも目標となる。また、運送法分野についても、この講義を通して、運送取引に関する基礎知識を踏まえて、そこで生じうる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【履修条件】
民法総則および債権法を履修済みかまたは並行して履修していることが望ましい。なお、講義には必ず直近の商法改正を反映した六法（小型版六法で可）を携行のこと。

【授業方法】
講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。確認テストのフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	裁判例や時事の法律問題について、各自の調査・研究に基づいた報告と討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。		2						
②	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。		2		2		2		
③	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。				2		2		
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	30										30
レポート等	到達目標①②③について知識・技能・態度が身についているかを、レポート課題により評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルサイトで実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 2 ―商法総則・商行為	松嶋隆弘・大久保拓也	中央経済社	2020年	教科書	必携
備考	参照する裁判例や取引約款等の資料は事前配布する。				

【オフィスアワー】
開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	寄託に関する法律関係の全体像	「他人からモノをあずかる」ことによって生じる法律関係の基本的な枠組みとその全体像を整理し理解する。	
	この回の到達目標	「他人からモノをあずかる」ことによって生じる法律関係の全体像を理解し、他者に説明できる。	
	事前学修	「他人からモノをあずかる」法律関係の基本となる寄託契約の規整（民法657条～666条）を通読し、その条文の意味するところを理解する。	120分
	事後学修	民事寄託（民法657条～666条）の法規整を再読しそれらの全体像を理解し、自分の言葉で説明してみる。	120分
2	商事寄託と場屋営業	商事寄託（商法593条～596条）の規整を整理したうえで、場屋営業者の顧客に対する法律上の責任を理解する。	
	この回の到達目標	民事寄託と商事寄託の異同を理解したうえで、場屋営業者の顧客に対する法律上の責任の考え方を他者に説明できる。	
	事前学修	商法593条～596条と教科書第13章を通読し、場屋営業者とその顧客との法律関係の概要を理解する。	120分
	事後学修	商事寄託と場屋営業者の責任の異同を整理・理解し、それを自分の言葉で説明してみる。	120分
3	商法典と取引約款の異同	実際の取引で使用される寄託約款・宿泊約款等を参照して、商法典との規整の異同を整理したうえで、重要裁判例の位置づけを理解する。	
	この回の到達目標	商法典の規整と取引約款の異同を整理し理解したうえで、それを他者に説明できる。	
	事前学修	民事寄託と商事寄託に関してあらかじめ指定した取引約款と裁判例（商法判例百選【98事件】）を通読し理解する。	120分
	事後学修	場屋営業者の責任に関する重要裁判例の論点と裁判所の判断を再読して、それを自分の言葉で説明してみる。	120分
4	倉庫営業	倉庫営業者に関する商法典の規整を整理し、倉庫営業者の顧客に対する責任を整理し理解する。また、商法典と倉庫約款との重要な異同について整理し理解する。	
	この回の到達目標	倉庫営業者に関する商法典の規整と取引約款の異同を整理し理解したうえで、それを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書第12章の倉庫営業者の部分を通読し、倉庫営業者とその顧客との法律関係の概要を把握する。	120分
	事後学修	倉庫約款の具体的な規整内容を理解しそれを自分の言葉で説明してみる。	120分
5	倉庫営業の裁判例	倉庫営業者に関する裁判例を検討したうえで、民事寄託・商事寄託・倉庫取引を横断的に整理し理解する。	
	この回の到達目標	倉庫営業者に関する裁判例を検討し理解したうえで、それを他者に説明できる。	
	事前学修	倉庫営業者に関してあらかじめ指定した裁判例（商法判例百選【94事件】）を通読し理解する。	120分
	事後学修	学習した裁判例を再読し、民事寄託・商事寄託・倉庫取引の商法典と約款の規整のそれぞれの異同を理解しそれを自分の言葉で説明してみる。	120分
6	運送営業	運送業界の概要と運送取引に関する商法典の基本構造を理解し、民事寄託・商事寄託・倉庫取引との異同を検討する。	
	この回の到達目標	運送取引に関する法規整を整理・理解し、民事寄託・商事寄託・倉庫取引との異同を他者に説明できる。	
	事前学修	あらかじめ指定する運送業界の資料を一読するほか、教科書第12章の運送営業の部分を通読し、商法典の運送取引に関する規整の概要を把握する。	120分
	事後学修	運送取引に関する商法典の基本構造を理解しそれを自分の言葉で説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	陸上物品運送		陸上物品運送に関する商法典の規整と運送約款を整理し、それらの重要な異同について理解する。
	この回の到達目標	陸上物品運送に関する法規整の概要を理解し、それらを他者に説明できる。	
	事前学修	教科書第12章の「陸上物品運送」の部分を通読し、併せてあらかじめ指定した運送約款を一読し理解する。	120分
	事後学修	運送取引に関する商法典の基本構造と運送約款との重要な異同を理解しそれを自分の言葉で説明してみる。	120分
8	陸上物品運送約款		商法典の規整と運送約款の重要事項を整理したうえで、論点に関する裁判所の判断を整理し理解する。
	この回の到達目標	陸上物品運送において生じる法律問題やそれらの類型を理解し、それらの類型ごとの判断基準を整理し他者に説明できる。	
	事前学修	あらかじめ指定した陸上物品運送に関する重要裁判例（商法判例百選の中から指示する）を一読し理解する。	120分
	事後学修	陸上物品運送に関して紛争となる論点を整理し、裁判例の判断理由を自分の言葉で説明してみる。	120分
9	小テストと解説		授業内容の理解度の確認
	この回の到達目標	これまでの従業内容をふりかえり、その理解度を自身で確認する。	
	事前学修	第1回～第8回の講義内容を振り返り、重要論点を整理・理解しておく。	120分
	事後学修	テストと自己の解答結果および解説を振り返り、自分の理解度を確認する。	120分
10	陸上旅客運送		陸上旅客運送に関する商法典の規整と旅客運送約款を整理し、それらの重要な異同について理解0する。
	この回の到達目標	陸上旅客運送において生じる法律問題やそれらの類型を理解し、それらの類型ごとの判断基準を整理し他者に説明できる。	
	事前学修	教科書第12章の「陸上旅客運送」の部分を通読し、併せてあらかじめ指定した旅客運送約款を一読し理解する。	120分
	事後学修	陸上旅客運送に関する商法典の基本構造と運送約款との重要な異同を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
11	航空旅客運送		旅客運送約款や重要裁判例を通じて航空旅客運送に関する法律問題を整理し、それらの重要な異同について理解する。
	この回の到達目標	裁判例の検討を通じて陸上旅客運送と航空旅客運送の法律問題の相違を理解し、それを他者に説明できる。	
	事前学修	あらかじめ指定する航空旅客運送に関する重要裁判例（商法判例百選の中から指定する）を一読し事案概要を整理・把握する。	120分
	事後学修	陸上旅客運送・航空旅客運送の重要な異同を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
12	航空運送		航空運送に関する近時の重要な法律問題と裁判例を整理しそれらを理解する。
	この回の到達目標	航空運送に関する法規整および航空運送約款の概要を理解し、主要な法律問題について他者に説明できる。	
	事前学修	航空運送に関する業界資料と裁判例等を通読し、航空運送に関する法・条約規整の概要を理解する。	120分
	事後学修	航空運送に関する重要論点と裁判例を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	海上運送	海上運送に関する近時の重要な法律問題と裁判例を整理しそれらを理解する。	
	この回の到達目標	海上運送に関する法規整および航空運送約款の概要を理解し、主要な法律問題について他者に説明できる。	
	事前学修	海上運送に関する業界資料と裁判例等を通読し、海上運送に関する法・条約規整の概要を理解する。	120分
	事後学修	海上運送に関する重要論点と裁判例を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
14	国際海上運送	国際海上運送に関する近時の重要な法律問題と裁判例を整理しそれらを理解する。	
	この回の到達目標	国際海上運送に関する法規整および航空運送約款の概要を理解し、主要な法律問題について他者に説明できる。	
	事前学修	国際海上運送に関する業界資料と裁判例等を通読し、海上運送に関する法・条約規整の概要を理解する。	120分
	事後学修	国際海上運送に関する重要論点と裁判例を理解し自分の言葉で説明してみる。	120分
15	授業内試験と解説	授業内試験 フィードバックはポータルサイト等を通じて行う。	
	この回の到達目標	本講座で学んだ領域についての理解度と応用力の確認を行う。	
	事前学修	これまでに本講座で学んだ重要論点や重要裁判例の判旨を復習する。	120分
	事後学修	試験結果をふりかえり、自分の理解度・応用力を確認する。	120分

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	南 健悟	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○		○			

【授業の概要】
この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野についても扱う。運送法では運送モードに応じた法規整を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では運送法において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。そして、商法総則及び商行為法を学修するに当たっては、現行の商法の規定と商取引の実態との関連について理解することが重要となる。この講義では、商事取引の基盤となる法制度について理解した上で、そこから生じうる法的諸問題について基礎的な知識を得ることも目標となる。また、運送法分野についても、この講義を通して、運送取引に関する基礎知識を踏まえて、そこで生じうる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
基本的にはレジュメ等を配布し、動画を配信するオンデマンド講義形式によるが、Classroomまたはメール等での質問等を随時受け付ける。なお、期末レポートの解説については、レポート課題提出締切日以降に、Google Classroom等にて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。				2							
②	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。				2		2		2			
③	運送法に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。						2		2			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①にかかわる知識が身についているかを確認する。	30										30
レポート等	到達目標①②③について知識・技能・態度が身についているかを、レポート課題により評価する。	20	20	20								60
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答の準備において到達目標②が身についているかを、質疑応答において到達目標③が身についているかを評価する。		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	25	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義 2	松嶋隆弘ほか	中央経済社	2020年	教科書	推奨
商法総則・商行為法	北村雅史編	法律文化社	2019年	教科書	推奨
基本講義現代海商法（第3版）	箱井崇史	成文堂	2018年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 5 限を設定するが、事前にアポイントメントがあれば、随時受け付ける。minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	運送法概論		運送法とはどのような法分野であるのか、その概要と、各種運送モードの説明を行う。
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 運送法に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメ及び教科書の該当部分を読み、運送法全体を把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を読みながら解答し、各種運送モードによる法規整の違いを確認する。	120分
2	陸上運送契約の意義		陸上運送の契約の性質や、陸上運送の当事者たる運送人及び荷送人との法律関係と、荷受人との関係について説明する。
	この回の到達目標	陸上運送契約の意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上運送の範囲や特徴について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上運送契約の性質や特徴について、自分なりにまとめておく。	120分
3	陸上物品運送人の責任		陸上物品運送人の責任について、民法上の債務不履行責任との違い等を踏まえたうえで、その特徴について説明する。
	この回の到達目標	陸上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを確認しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の責任の特徴（特に、民法上の債務不履行責任との違い）についてまとめておく。	120分
4	陸上運送人の責任の特則		陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴である、高価品特則や損害賠償額の定型化に関する規定等について説明する。
	この回の到達目標	陸上運送人の責任の特則に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴のうち高価品特則や損害賠償額の定型化に関する制度等について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴について、特則が適用される場合とそうではない場合とを把握しておく。	120分
5	鉄道運送契約		陸上運送のうち、鉄道運送契約の特徴について説明したうえで、それ以外の陸上運送との違いについて解説する。
	この回の到達目標	鉄道運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、鉄道運送（鉄道物品運送及び鉄道旅客運送）の特徴について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、鉄道運送契約の特徴を把握し、実際、自身が締結している鉄道運送契約にはどのような問題があるのか、調べておく。	120分
6	航空運送契約		航空運送契約の特徴について説明したうえで、商法の各規定との関係や各種航空運送に係る条約について説明する。
	この回の到達目標	航空運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、航空運送（航空物品運送及び航空旅客運送）の特徴について把握しておく。	120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、航空運送契約の特徴を把握しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	海商法概論		海商法とはどのような法分野であるのか、そこにはどのような特徴を有しているのか、そして、海商法の基本概念である船舶とは法律上、どのような存在であるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	海商法概論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海商法とはどのような法分野であるのか、法律上、船舶とはどのように扱われるのかについて確認しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海商法の特異性や船舶の法律上の扱いについて確認しておく。		120分
8	船舶所有者・船員等		船舶の運航主体たる海上運送人・船舶所有者や海上運送人の補助者たる船員とはどのような存在であるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	船舶所有者・船員等に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、船舶の運航主体である海上運送人・船舶所有者の概念、そして、海上運送人の補助者たる船員についてどのような存在であるのか把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上運送人の特徴や船員について確認しておく。		120分
9	船主責任制限制度		船舶所有者等の責任を一定程度制限する船主責任制限制度について説明する。	
	この回の到達目標	船主責任制限制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、船舶所有者等の責任について確認し、そのうえで、船舶所有者の責任を一定程度制限する制度（船主責任制限制度）とは、どのような制度であるのか、その概要を確認しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船主責任制限制度の概要及び特徴を確認しておく。		120分
10	船荷証券		海上運送人が荷送人に対して発行する船荷証券とはどのような証券であるのか、そして、どのような特徴を有するものであるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	船荷証券に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上運送人が発行する船荷証券とはどのような証券であるのかを簡単に確認しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船荷証券の意義及び特徴について把握しておく。		120分
11	海上物品運送契約		海上物品運送契約は、どのように締結され、どのように履行されて、どのように終了するのかなどについて説明する。	
	この回の到達目標	海上物品運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送契約の履行過程について把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送契約の履行過程について、図示するなどして、説明できるようにしておく。		120分
12	海上物品運送人の責任		海上物品運送人の責任について、陸上運送や航空運送との違いを踏まえたうえで、その特徴について説明する。	
	この回の到達目標	海上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任について、どのような特徴を有しているのかを把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任はどのような場合に生じるのか、その責任の性質は何かについて確認しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	海上物品運送人の責任の特則		海上物品運送人がたとえ責任を負ったとしても、一定程度制限する制度や、場合によっては免責が認められる場合があるが、それはどのような場合なのか、なぜそのような制度が存在するのかを説明する。	
	この回の到達目標	海上物品運送人の責任の特則に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任制限や免責が認められる場合には、どのような場合があるのかを把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任制限や免責について確認し、さらに、その合理性について説明できるようにしておく。		120分
14	船舶衝突、海難救助、共同海損		海は危険と隣合わせであることから、海商法上、船舶の衝突に関する規定や、海難救助や共同海損制度があるが、その制度の内容及び特徴について説明する。	
	この回の到達目標	船舶衝突などに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	事前に配布されるレジュメを読み、海商法特有の法的諸問題である、船舶衝突・海難救助・共同海損制度についてその概要を把握しておく。		120分
	事後学修	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船舶衝突規定や海難救助・共同海損制度について、どのような制度なのかについて説明できるようにしておく。		120分
15	運送法・海商法の総復習		前期のまとめとして、運送法の概要及び海商法の概要について、改めてその中心的な部分を説明する。	
	この回の到達目標	運送法・海商法の全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	配布された講義レジュメ及び教科書を通読し、運送法とはどのような法分野であるのか、また海商法とはどのような法分野で陸上運送や航空運送とはどのような異同があるのかを確認しておく。		120分
	事後学修	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、陸上運送・航空運送・海上運送の異同について、自分なりに表などにまとめて説明できるようにしておく。		120分

科目名	情報システム論Ⅰ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ワードやエクセルを利用して、データベースを利用して必要な情報を抽出すること等も含め情報の処理ができるように演習形式で進める講義である。ワード、エクセルの操作方法の習得が中心となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報は紙ベースの時代から電子データの時代へと変化している。そこで、ワード、エクセル、パワーポイントによる電子データの作成と処理方法を習得させることを目的とする。 各ソフトウェアを十分に使いこなせること、特にエクセルに関しては関数が十分に利用できることを目標とする。

【履修条件】
演習が中心となるので、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	インターネットを利用して、知識、教養を深めることができる。				4							
②	Word, の基本操作を理解し、各国語によるFileを作成することができる。					4						
③	Word, PowerPoint、Excelを用いて論理的な文書を作成することや、プレゼンテーションが行える						4					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	Wordの操作を中心にして、到達目標①②②の観点から、授業内でコンピュータを使用した実技試験を行う。	10	80	10								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	80	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回目の講義の際に実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Microsoft Word 2019ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2020年	教科書	必携
よくわかる Microsoft Excel 2019ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2020年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜２・３・４限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		ガイダンス 本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。コンピュータの利用方法について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、キーボードからの文字入力を行う。		
	事前学修	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。		120分
	事後学修	「よくわかるMicrosoft Word 2013 ドリル」Lesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。		120分
2	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 1（テキストLesson1～Lesson3）」		ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、ワードのテキストレッスン 1 ～レッスン3までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson1～Lesson3を予習すること。特にLesson3でタッチキー入力を練習すること。		120分
	事後学修	特殊文字の入力には様々な方法があるので合理的な方法を活用するように復習すること。タッチキー入力の練習をすること。		120分
3	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 2（テキストLesson4～Lesson6）」		ワードのテキストレッスン4～レッスン6までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson4～Lesson6を予習すること。特にLesson4、Lesson5を利用してタッチキー入力を練習する。		120分
	事後学修	同一の結果になる複数の操作方法があるので好みの方法で行えばよい。タッチキーの練習をすること。		120分
4	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 3（テキストLesson7～Lesson10）」		ワードのテキストレッスン7～レッスン10までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson7～Lesson10を予習すること。		120分
	事後学修	表の作成作業は、エクセルと共通する操作方法もあるので、再度、演習問題で復習すること。		120分
5	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 4（テキストLesson11～Lesson14）」		ワードのテキストレッスン11～レッスン14までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson11～Lesson14を予習すること。		120分
	事後学修	操作ボタンは予想がつくので、簡単に選択、操作できるようになるように、復習して覚えること。		120分
6	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 5（テキストLesson15～Lesson17）」		ワードのテキストレッスン15～レッスン17までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson15～Lesson17を予習すること。		120分
	事後学修	図形、画像の挿入、ワードアートの作成ができるよう復習して覚えること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 1 (テキストLesson20～Lesson22)」		ワードのテキストレッスン20～レッスン22までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson20～Lesson22を予習すること。	120分
	事後学修	画像の挿入とオンライン画像の挿入方法の違いについて理解し、利用できるよう復習すること。	120分
8	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 2 (テキストLesson23～Lesson25)」		ワードのテキストレッスン23～レッスン25までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson23～Lesson25を予習すること。	120分
	事後学修	様々な基本操作の組み合わせができるようになること。差し込み印刷の操作を確認し、完成できるよう復習すること。	120分
9	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 3 (テキストLesson26～Lesson27)」		ワードのテキストレッスン26～レッスン27までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson26～Lesson27を予習すること。	120分
	事後学修	差し込み印刷ⅠとⅡの違いを理解し両方の操作方法を復習する。長文の編集ができるよう復習しておく。	120分
10	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 4 (テキストLesson30～Lesson31)」		ワードのテキストレッスン30～レッスン31までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson30～Lesson31を予習すること。エクセルの基礎知識を予習すること。	120分
	事後学修	エクセルデータを利用したワード文書の作成ができるよう、エクセルの基本操作も復習しておくこと。	120分
11	テキスト「マイクロソフトワードの応用 5 (テキストLesson32～Lesson33)」		ワードのテキストレッスン32～レッスン33までに關して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson32～Lesson33を予習すること。	120分
	事後学修	長文の作成と校閲方法を理解し、レポートの作成等に即応できるよう、復習すること。	120分
12	パワーポイントの操作 1		パワーポイントに關する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標③に關連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	配布したパワーポイントの教材を予習すること。	120分
	事後学修	基本操作を正しく理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パワーポイントの操作 2	パワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	配布したパワーポイントの教材を予習すること。	120分
	事後学修	パワーポイントの元となる文書を要約してレジュメが作成できるようにする。	120分
14	実技試験を実施する。 授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
	事前学修	今期の講義で学んだことを復習すること。	120分
	事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。(2時間)	120分
15	実技試験の内容解説	実技試験における問題完成に関しての解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
	事前学修	習熟度チェックでできなかったところを自ら学習しておくこと。(2時間)	120分
	事後学修	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう習熟度チェック問題を再度行う。(2時間)	120分

科目名	情報システム論Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ワードやエクセルを利用して、データベースを利用して必要な情報を抽出すること等も含め情報の処理ができるように演習形式で進める講義である。ワード、エクセルの操作方法の習得が中心となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報は紙ベースの時代から電子データの時代へと変化している。そこで、ワード、エクセル、パワーポイントによる電子データの作成と処理方法を習得させることを目的とする。 各ソフトウェアを十分に使いこなせること、特にエクセルに関しては関数が十分に利用できることを目標とする。 関連DP及びCP 経営法学科1, 2, 3

【履修条件】
演習が中心となるので、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。

【授業方法】
配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、操作方法の解説に基づいて、各自が演習問題を処理してゆく方法により進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	インターネットを利用して、知識、教養を深めることができる。						4						
②	Excel, の基本操作を理解し、各国語によるBookを作成することができる。							4					
③	Excel ,Word, PowerPoint、を用いて論理的な文書を作成することや、プレゼンテーションが行える。								4				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	Excel操作を中心に、到達目標①②③の観点から、授業内でコンピュータを使用した実技試験を行い、成績の評価を行う。	10	80	10								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	80	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回目の講義で、実技試験の内容について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
よくわかる Microsoft Excel 2019ドリル	FOM株式会社	FOM出版	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		本講義の進め方、テキスト、参考書、成績評価方法などについて説明する。 コンピュータの利用方法について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PCの電源の入れ方をはじめ安全に操作する方法を理解し、FileやBookの保存操作を理解する。		
	事前学修	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。		120分
	事後学修	表計算ソフトは一次方程式の計算であることを理解すること。算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を大度復習すること。		120分
2	エクセルの基礎知識 データの入力 (テキストLesson1～Lesson3)		ネット上から配布する教材を各自に割り当てられているドライブにコピーする。次に、エクセルのテキストレッスン1～レッスン3までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ネットワークドライブから各自のドライブに教材のコピー方法を理解し、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson1～Lesson3を予習しておく。		120分
	事後学修	データの入力方法、一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。		120分
3	表の作成Ⅱ (テキストLesson4～Lesson6)		エクセルのテキストレッスン4～レッスン6までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson4～Lesson6を予習しておく。		120分
	事後学修	データの入力と数式の入力の違いについて理解すること 再度、演習問題を完成させてみること。		120分
4	数式の入力 複数シートの操作 (テキストLesson7～Lesson9)		エクセルのテキストレッスン7～レッスン9までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson7～Lesson9を予習しておく。		120分
	事後学修	数式の入力、関数意味とその入力、複数シートの操作方法を理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。		120分
5	複数のシートの入力 表の印刷 (Lesson10～Lesson12)		エクセルのテキストレッスン10～レッスン12までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson10～Lesson12を予習しておく。		120分
	事後学修	複数シートの操作方法を理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。		120分
6	グラフの作成 (Lesson13～Lesson14)		エクセルのテキストレッスン13～レッスン14までに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。		
	事前学修	テキストLesson13～Lesson14を予習しておく。		120分
	事後学修	どのデータを利用してグラフを作成するのかよく理解し、再度、演習問題を完成させてみること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	データベースの利用 (Lesson15～Lesson16)		エクセルのテキストレッスン15～レッスン16までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson15～Lesson16を予習しておく。	120分
	事後学修	データベースから必要なデータが抽出できるよう、再度、演習問題を完成させてみること。	120分
8	関数の利用 (Lesson18～Lesson19)		エクセルのテキストレッスン18～レッスン19までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson18～Lesson19を予習しておく。	120分
	事後学修	個々の関数の意味を理解し、その使い方を十分に理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。	120分
9	表作成の活用 グラフの活用 (Lesson20～Lesson22) グラフィックの利用		エクセルのテキストレッスン20～レッスン22までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson20～Lesson22を予習しておく。	120分
	事後学修	関数の利用と表作成についてよく理解すること。どのデータを利用してグラフを作成するのかよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。	120分
10	グラフの活用 グラフィックの利用 (Lesson23～Lesson26)		エクセルのテキストレッスン23～レッスン26までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson23～Lesson25を予習しておく。	120分
	事後学修	表作成の際のデータの利用について理解すること。ワード文書の図形を利用した文書の作成方法であり、どちらのソフトが便利か判断できるようにする。再度、演習問題を完成させてみること。	120分
11	グラフィックの利用 データベースの活用 (Lesson27～Lesson28)		エクセルのテキストレッスン27～レッスン28までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson26～Lesson28を予習しておく。	120分
	事後学修	データベースの活用は、表計算ソフト、パソコンの得意とする作業であり、その使用方法をよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。	120分
12	ピボットテーブルとピボットグラフの作成 (Lesson29～Lesson30)		エクセルのテキストレッスン29～レッスン30までにに関して、操作方法の説明に基づいて各自操作する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	テキストLesson29～Lesson30を予習しておく。	120分
	事後学修	データベースの分析機能であり、その使用方法をよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	パワーポイントの操作	パワーポイントに関する教材を使用し、操作方法の説明に基づいて各自操作する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、操作方法の説明を理解し、その教材を利用して演習を行い、完成させる。	
	事前学修	配布されたパワーポイントの教材を予習しておく。	120分
	事後学修	文書からレジメを作成できるように、文書の要点をまとめられるようにする。	120分
14	実技試験の実施 授業のまとめ	今学期の演習講義の範囲において、80分の実技試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
	事前学修	今期の講義で学んだことを復習すること。	120分
	事後学修	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。	120分
15	実技試験の解説	実技試験の問題完成に関しての解説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、操作方法を十分に理解し、指示に従った適切な回答を作成する。	
	事前学修	実技試験でできなかったところを自ら学習しておくこと。	120分
	事後学修	誤っていた操作について正しく理解し各ソフトウェアを利用できるよう習熟度チェック問題を再度行う。	120分

科目名	消防政策	担当者	渡辺 剛英	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
消防は、国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、傷病者の救急・救助、地震等の災害による被害軽減など、国民の安心・安全に関する重要な役割を担っている。 本講義では、消防に関する制度、組織、主な課題と施策等について、総務省消防庁や県・市の消防防災部局における実務経験も交えながら、基礎的な知識と考え方を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
消防に関する基礎的な知識を身につけ、火災や自然災害等に対する自助・共助・公助に繋げていくことができる能力を修得する。 より具体的には、消防白書や消防関連の報道内容等から、消防政策上の主な課題を理解し、社会的背景や具体的な行政施策と関連付けることのできる能力を修得する。

【履修条件】
2年次生以上を対象とする。

【授業方法】

オンデマンド方式により、Google Classroomを通じて配信する動画およびレジュメを用いて、各回のテーマと関連する制度、現況、主な課題と施策等について説明する。
また、各回の動画中に提示されている授業内課題と授業外課題について、履修者はGoogle Formにより提出する（提出期限：授業日（土曜日）中）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	消防に関する法令、統計、政策等の基礎的な知識を理解し、その概要を説明することができる。【知識】				4		4	4	4			
②	消防に関する基礎的な知識を、実社会の動向に対して適切に当てはめることができる。【技能】				4		4	4	4			
③	消防政策上の課題・施策に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べる ことができる。【態度・習慣】				4		4	4	4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関する知識、技能および態度・習慣が身についているかを、講義15回分の課題の提出状況で評価する。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
各回の課題に関するフィードバックは、Google Classroomを通じて配信する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	事前・事後の学修において、消防白書（消防庁ホームページに掲載）を使用。				

【オフィスアワー】	
曜日・時間：土曜日12:20～13:00（事前にメールでアポイントメントを取ること）受付場所：メールアドレス：watanabe.takehide11@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省消防庁や県・市の消防防災部局において勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記の勤務経験に基づく消防政策に関する事例や考え方を解説。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【消防防災に関する概論】		消防組織法・消防法に基づく狭義の消防と、災害対策基本法・国民保護法に基づく広義の消防防災について、主な法的枠組み、組織体制、対応範囲等を学習する。	
	この回の到達目標	消防組織法・消防法に基づく狭義の消防と、災害対策基本法・国民保護法に基づく広義の消防防災について、主な法的枠組み、組織体制、対応範囲等を理解する。		
	事前学修	シラバスを精読するとともに、消防白書を概観する。		120分
	事後学修	授業中に解説した関連法を概観する。		120分
2	【消防行政（１）－消防に関する体制整備】		消防法令に基づく国・地方の消防体制について、主な法的枠組み、組織体制、財政、主な課題と施策等を学習する。	
	この回の到達目標	消防法令に基づく国・地方の消防体制について、主な法的枠組み、組織体制、財政、主な課題と施策等を理解する。		
	事前学修	消防白書第２章第１節～第４節を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
3	【消防行政（２）－火災統計と火災原因調査】		消防法令に基づく火災統計と火災原因調査について、主な法的枠組み、組織体制、統計から見られる火災予防上の課題等を学習する。	
	この回の到達目標	消防法令に基づく火災統計と火災原因調査について、主な法的枠組み、組織体制、統計から見られる火災予防上の課題等を理解する。		
	事前学修	消防白書第１章第１節〔火災の現況と最近の動向〕１～５、同節〔火災予防行政の現況〕９～１０を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
4	【消防行政（３）－住宅や事業所の火災予防】		消防法に基づく住宅や事業所の火災予防対策について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を学習する。	
	この回の到達目標	消防法に基づく住宅や事業所の火災予防対策について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を理解する。		
	事前学修	消防白書第１章第１節〔火災予防行政の現況〕１～８、同節〔火災予防行政の課題〕１～５を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
5	【消防行政（４）－危険物施設や石油コンビナートの災害対策】		消防法に基づく危険物保安、石油コンビナート等災害防止法に基づくコンビナート防災について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を学習する。	
	この回の到達目標	消防法に基づく危険物保安、石油コンビナート等災害防止法に基づくコンビナート防災について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を理解する。		
	事前学修	消防白書第１章第２節～第３節を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
6	【消防行政（５）－救急】		消防法令や救急救命士法に基づく救急業務について、法的枠組み、組織体制、活動の流れ、主な課題と施策等を学習する。	
	この回の到達目標	消防法令や救急救命士法に基づく救急業務について、法的枠組み、組織体制、活動の流れ、主な課題と施策等を理解する。		
	事前学修	消防白書第２章第５節を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【消防行政（６）－救助】		消防法令に基づく救助業務について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を学習する。	
	この回の到達目標	消防法令に基づく救助業務について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を理解する。		
	事前学修	消防白書第２章第６節を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
8	【消防行政（７）－緊急消防援助隊と消防活動の高度化】		消防組織法に基づく緊急消防援助隊の広域応援について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を学習する。	
	この回の到達目標	消防組織法に基づく緊急消防援助隊の広域応援について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を理解する。		
	事前学修	消防白書第２章第８節を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
9	【消防行政（８）－大規模な事故災害等への対応】		大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を学習する。	
	この回の到達目標	大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を理解する。		
	事前学修	消防白書第１章第７節、第８節「地下施設等の災害対策」、同節「ガス災害対策」、同節「消防活動阻害物質に係る災害対策」、同節「海上災害対策」、同節「航空災害対策」を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
10	【消防行政（９）－消防における国際協力と研究開発】		大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を学習する。	
	この回の到達目標	大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を理解する。		
	事前学修	消防白書第５章～第６章を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
11	【防災・危機管理（１）－国・地方公共団体における防災の体制】		災害対策基本法に基づく国・地方の防災体制について、法的枠組み、組織体制、最近の改正動向、主な課題と施策等を消防防災の観点から学習する。	
	この回の到達目標	災害対策基本法に基づく国・地方の防災体制について、法的枠組み、組織体制、最近の改正動向、主な課題と施策等を消防防災の観点から理解する。		
	事前学修	消防白書第２章第９節～第１０節を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分
12	【防災・危機管理（２）－震災への対応】		災害対策基本法や大規模地震に関する特別措置法に基づく震災対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。	
	この回の到達目標	災害対策基本法や大規模地震に関する特別措置法に基づく震災対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から理解する。		
	事前学修	消防白書第１章第６節を精読する。		120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【防災・危機管理（３）－風水害・雪害への対応】	災害対策基本法に基づく風水害対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。	
	この回の到達目標	災害対策基本法に基づく風水害対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から理解する。	
	事前学修	消防白書第１章第５節、第８節〔雪害対策〕を精読する。	120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
14	【防災・危機管理（４）－国・地方公共団体における国民保護の体制】	国民保護法に基づく住民防護について、法的枠組み、組織体制、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。	
	この回の到達目標	国民保護法に基づく住民防護について、法的枠組み、組織体制、主な施策と課題等を消防防災の観点から理解する。	
	事前学修	消防白書第３章を精読する。	120分
	事後学修	レジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分
15	【防災・危機管理（５）－種々の危機管理事案への対応】	種々の危機管理事案への対応について、関係法令の枠組み、共通的な考え方等を消防防災上の観点から学習する。	
	この回の到達目標	種々の危機管理事案への対応について、関係法令の枠組み、共通的な考え方等を消防防災上の観点から理解する。	
	事前学修	政府の事態対処・危機管理に関する業務（ https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/fukutyoukanho.html 等）を調べる。	120分
	事後学修	レジュメ等を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。	120分

科目名	情報通信政策	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現代の経済社会活動の基礎インフラである情報通信技術（ICT）を如何に開発・整備・活用していくか、過去の政策経緯・今後の方向性などを学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、国策としてのIT振興の意義、基礎的行政ツールとしての各種ITの展開、ITを活用した行政運営の変革などの理解にたって、今後激変する社会経済情勢の中で、旧来型の発想にとらわれず課題に積極的に取り組むことができる能力を修得する。

【履修条件】
特にICTの専門知識は必要としないが、AI、クラウド、IOT等の用語になじみのない学生は、参考書として掲げた「未来を味方にする技術—これからのビジネスを創るITの基礎の基礎—」を一読しておくことを勧める。

【授業方法】
講義形式 日程調整状況によっては実務家外部講師による授業も予定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策・産業の担い手として公益に資する倫理を学び実践できる。				4							
②	我が国の情報通信政策の目指す目標とその手段の適合性などを批判的・論理的に分析し、説明できる。						4					
③	我が国の情報通信政策に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。							4				
④	ICTを活用した新たな行政運営・地域社会の発展策などを自ら考案し、提案できる。								4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉で説明できているかを筆記試験により評価する。			40	40							80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第14・15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標①③④にかかわる説明能力が身についているかを評価する。	5			10	5						20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5		40	50	5						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
情報通信白書	総務省	日経印刷	各年	その他	推奨
情報セキュリティ白書	情報処理推進機構	情報処理推進機構	各年	その他	推奨
サイバーセキュリティ	谷脇 康彦	岩波新書	2018	参考書	推奨
ビジュアル版 コンピューター&テクノロジー解体新書	ロン・ホワイト	SB Creative	2015	参考書	任意
未来を味方にする技術ーこれからのビジネスを創るITの基礎の基礎ー	斎藤 昌義 ロン・ホワイト	技術評論社	2017	参考書	任意
サイバーセキュリティ：組織を脅威から守る戦略・人材・インテリジェンス	松原 実穂子	新潮社	2019	参考書	推奨
改定版 高等学校 情報の科学	坂村 健	数研出版	2020	その他	任意
改定版 高等学校 社会と情報	坂村 健	数研出版	2020	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：10-13：00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		IT政策立案の実務責任者としての経験に基づく素材を適宜提供する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び最新ICTの動向①		①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②AI、IoT、クラウド、ブロックチェーン等の概要とこれらが社会経済にもたらす影響について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、受講のために必要な主要ICTの概要について説明できる。		
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で主なICTの内容や特徴を把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。		180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		180分
2	最新ICTの動向②		前回に引き続き、主要ICTの動向とこれらが社会経済にもたらす影響について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、受講のために必要な主要ICTの概要について説明できる。		
	事前学修	各自で主なICTの内容や特徴を把握しておき、授業内で発言できるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
3	情報通信政策の概観		Society5.0、官民データ活用など、「世界最先端IT国家」の創造をめざすため、政府が展開している各種施策につき学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、我が国中央政府が示す将来の社会像とその実現のためのICT政策の基本的な方向性を説明することができる。		
	事前学修	「成長戦略」などの主要な政府決定文書を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
4	情報通信政策等の経緯（通信自由化等）		独占体制であった我が国情報通信市場が、電電公社民営化、新規参入・規制緩和などの自由化を経て今日に至る経緯を学び、競争によるサービス低廉化やネットワーク高度化が多様なIT産業の創出へ結び付いた意義などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、現在の主要通信キャリア各社がどのような変遷（合併・吸収・事業譲渡等）を経て現在の体制になったか、このためにどのような自由化政策が採用され、影響したかを説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等に電電民営化以降の経緯論等を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
5	電子政府・電子自治体①		我が国中央政府が推進しているデジタルファースト、オンライン申請、マイナンバー、クラウド化などの取組みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、行政のIT化が、どのように業務運営の効率化、意思決定の高度化、国民本位の行政の実現、政府の透明化などに寄与するか説明することができる。		
	事前学修	受講者が居住する自治体の「情報化推進計画」等をネット等で入手して、その特徴を確認しておき、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
6	電子政府・電子自治体②		自治体クラウドなど地方公共団体におけるICT化の取り組み状況を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、自治体のICT化はなぜ遅れているのか、その一方でなぜICT化を進める必要があるのかなどについて説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により電子自治体の進捗状況等を学習するとともに、居住自治体の公式ウェブサイトで施設予約・許認可手続・証明書入手・意見提出等がどうすれば出来るか確認し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	諸外国の電子政府	エストニア、デンマークなど電子政府先進国と言われる諸外国の取り組み状況を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、電子政府先端国の成功の理由は何か、これらの国では我が国で指摘される隘路をどう克服してきたのか説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により諸外国での取り組みを学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	オープンデータ①（全体像、諸外国の状況）	オープンデータとは何か、我が国より先行している諸外国での状況はどうかなどについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、「データ主導経済」の意味及びオープンデータの内容・重要性を説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により該当部分を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
9	オープンデータ②（我が国の状況）	オープンデータに係る我が国政府・自治体の取り組みを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、我が国におけるオープンデータの進捗状況及びその問題点を具体例に即して説明することができる。	
	事前学修	中央政府のデータカタログ、統計情報提供システムや自治体のオープンデータサイトから実際に情報を入手し、その体験に基づいて授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
10	個人情報保護①	個人情報保護法の対象となる個人情報とは何か、個人情報の取扱に当たって課せられる義務とは何か等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、個人情報保護の基本的考え方と法運用の問題点等について説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により個人情報保護法制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
11	個人情報保護②	2017年5月から新たに導入された「匿名加工情報」の概念、データエコノミー時代におけるその意義などについて学び、併せてEUのGDPR（一般データ保護規則）への対応など国際的なデータ流通をめぐる課題について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、匿名加工情報に係る法制度を理解した上で、個人情報の保護と活用のバランスをどのように図っていくべきかを自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により個人情報保護法制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
12	ICTセキュリティ①	個人情報漏えい、サーバ攻撃などのICT利用に当たっての各種脅威の概要とその対策について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、ICTの利便性、高機能性等とその反面での様々な脅威とのバランスをどのように考え、いかなる対策を講じていくべきか、具体的事例に即して説明することができる。	
	事前学修	受講者が実際に体験した、あるいはメディア等で見聞した情報セキュリティ上の脅威について、その概要を発表出来るようまとめておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ICTセキュリティ②		ウイルス感染、サイバーアタックなどの悪意ある侵入者への対策を始めとして、現下の国家的重要課題と なっているサイバー防衛の各種方策を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、ICTの利便性、高機能性等とその反面での様々な脅威とのバランスをどのように考え、いかなる対策を講じていくべきか、具体的事例に即して説明することができる。		
	事前学修	受講者が実際に体験した、あるいはメディア等で見聞した情報セキュリティ上の脅威について、その概要を発表出来るようまとめておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
14	グループワーク等①		担当教員のIT政策立案の実務経験などを素材に、これまでの講義内容を踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。		
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分
15	グループワーク等②		担当教員のIT政策立案の実務経験などを素材に、これまでの講義内容を踏まえて学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。		
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。		120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。		120分

科目名	情報の科学 I	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの歴史を概観したうえで、SNS・ソーシャルメディア利用を中心としながら、情報化の進展した社会における諸問題について社会科学の観点からアプローチし、理解を深めていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日常生活におけるインターネット利用について、コミュニケーションやアイデンティティといったミクロな次元、そして、政治や経済といったマクロな次元から把握し、それぞれの布置を把握したうえで、自らの経験や事例に即して説明・論述できるようになることを目標として設定します。

【履修条件】
各自で確認したうえで履修してください。

【授業方法】
講義形式で授業を進めます。必要に応じてプレゼンテーション、映像資料、新聞・雑誌記事を資料として用います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	デジタル化の進展した社会の市民として高い知識と倫理観を獲得することができる				3							
②	デジタル・メディアによりネットワーク化された社会の仕組みを理解することができる					3						
③	デジタル化の進展した社会の実態を論理的かつ科学的に考察することができる						3					
④	自らの日常生活における経験に即してデジタル化の進展した社会の問題を説明できる							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内容に関連する設問を原則として毎回提示し、到達目標①②③④の観点から評価する。	10	10	15	15							50
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関する知識が身についているかをレポートにより評価する。レポートは2回実施する予定である。	10	10	15	15							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、試験の解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
つながりっぱなしの日常を生きる――ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの	ダナ・ボイド	草思社	2014	参考書	推奨
フィルターバブル――インターネットが隠していること	イーライ・パリサー	早川書房	2016	参考書	推奨
メディア社会論	辻泉ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考	特に指定する予定はありません。				

【オフィスアワー】
金曜日10:00-11:00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の概要	社会科学の観点から見るインターネット	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、インターネットが普及した現代社会の実態を理解することができる	
	事前学修	シラバス等を確認し授業に備える	120分
	事後学修	参考書等を揃え、目を通しておく	120分
2	インターネットの歴史	インターネットの誕生から普及までの歴史を追う	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットの歴史を説明することができる	
	事前学修	参考書等を揃え、目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	ウェブ2.0とソーシャル化の進展	ウェブ2.0やソーシャルメディアの発展とその展開を整理する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ウェブ2.0以降に生まれた各種の用語を説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	ケータイの普及	モバイル化の進展とケータイ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、携帯電話の歴史をふまえながら、現在のスマートフォンを通じたやりとりとの連続性を考える	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	SNSの普及	社会科学の観点からSNSへアプローチする	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、日常生活のSNS利用を授業内容に即して説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分
6	SNSとコミュニケーション	SNSを通じたコミュニケーションに関する研究	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、SNSとコミュニケーションに関する研究の知見を日常生活の経験に展開し、説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	SNSとアイデンティティ	SNSとアイデンティティに関する研究	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、SNSとアイデンティティに関する研究の知見を日常生活の経験に展開し、説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、ノートなどにまとめていく	120分
8	オンライン・コミュニティ	インターネット上で形成されるコミュニティ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、オンライン・コミュニティの歴史をふまえながら、現在の情報環境におけるコミュニティの有り様を考える	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	社会運動・アクティビズム	インターネットを通じた社会運動・アクティビズム	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットを通じた社会運動・アクティビズムを具体例を挙げながら説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	デジタルネイティブ	デジタルネイティブ論とその問題点	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、デジタルネイティブ論の問題点を説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	うわさ	インターネットとうわさ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットを通じて流通するうわさの特徴を具体例を挙げながら説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	情報接触	インターネットを通じた情報接触の特徴	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネットを通じた情報接触の特徴を、事例を交えながら説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	フェイクニュース	フェイクニュースの実態	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、フェイクニュースの実態や生産される背景を説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分
14	プラットフォームの発展	デジタル・プラットフォーマーの台頭とその問題を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在のインターネット産業の問題点を説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分
15	コミュニケーション資本主義	インターネットを介して展開されるコミュニケーションの問題を批判的に読み解く	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在のインターネットとコミュニケーションの問題を批判的に説明できる	
	事前学修	参考書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	試験に備えて、これまでの授業を振り返り、授業で扱ったテーマについて論述できるように準備する	120分

科目名	情報の科学Ⅱ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットと文化（ネットカルチャー）に焦点を当て、関連する現象を社会科学の観点から読み解き、理解を図っていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
インターネット上でユーザーが展開するやりとり、ならびに、それらのやりとりから生じる事象を「文化」という観点から把握し、その意味を明らかにしていきます。授業内で取り上げたテーマを、現在の文脈で見られる具体的事例に即して説明・論述できるようになることを目標として設定します。

【履修条件】
各自で確認したうえで履修してください。

【授業方法】
講義形式で授業を進めます。映像資料を用いる場合もあります。必要に応じてレジュメあるいはプレゼンテーション資料を用意します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	なし	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	インターネット上に見られる現象について高い知識を獲得することができる				3							
②	ネットカルチャーの特徴を理解し、説明することができる					3						
③	ネットカルチャーの問題を批判的に考察し、課題を見つけ、見解を示すことができる						3					
④	ネットカルチャーに関わる事象を観察して問題を発見し、具体的事例に即した考察ができる							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内容に関連する設問を原則として毎回提示し、到達目標①②③④の観点から評価する。	10	10	15	15							50
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる知識が身についているかを評価する。	10	10	15	15							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
後日、試験の解説をポータルシステムを通じて公表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「くだらない」文化を考える――ネットカルチャーの社会学	平井智尚	七月社	2021	教科書	必携
備考	特に指定する予定はありません。				

【オフィスアワー】
金曜日10:00-11:00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の概要	インターネットと文化	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、インターネットと文化の関係を理解することができる	
	事前学修	シラバスや教科書を確認し授業に備える	120分
	事後学修	教科書を揃え、目を通しておく	120分
2	インターネットと文化の歴史	インターネットの歴史を文化の関連から概観する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、歴史的な流れをふまえながらインターネットと文化の関係を説明できる	
	事前学修	教科書を揃え、目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
3	インターネットの思想	インターネットの思想を文化の観点から読み解く	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット普及初期に共有されていた思想を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
4	日本におけるネットカルチャー史	日本社会を文脈とするインターネットと文化の歴史を概観する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、日本のインターネット文化の歴史を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
5	電子掲示板と文化	匿名掲示板に見られる現象を文化の観点から読み解く	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、匿名掲示板の歴史や現状を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	これまでの授業を振り返り、ノートの整理を行う	120分
6	動画投稿・共有サービスの発展	インターネットを通じた動画投稿・共有サービスの展開を文化の観点から読み解く	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、具体的な事例を元にして動画投稿・共有サービスを文化の観点から説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	これまでの授業を振り返り、ノートの整理を行う	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	インターネットミーム	インターネット上で模倣され、伝播していくコンテンツの諸相を理解する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在の文脈に引きつけてインターネット上の文化とテレビの関係を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う	120分
8	ネットカルチャーとテレビ	ネットカルチャーにおけるテレビの位置づけを考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、具体的な事例を元にして動画投稿・共有サービスを文化の観点から説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
9	ネットカルチャーとマスコミ	インターネット上に見られるマスコミ批判の背景を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ネットカルチャーをふまえたうえでマスコミ批判の背景・理由を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
10	インターネットにおける「祭り」	かつてインターネット上に見られた「祭り」と呼ばれる現象を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上で起きた炎上の歴史を説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
11	インターネットと炎上（1）	炎上の歴史を具体的な事例を挙げながら概観する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上で起きた炎上の歴史を説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分
12	インターネットと炎上（2）	炎上からインターネット空間の変容を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、インターネット上で起きた炎上の変容を具体的な事例に基づき説明することができる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	授業内で取り上げた用語や議論を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターネットと排外主義	ネット右翼を軸としながらインターネットと排外主義について考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、ネットカルチャーの歴史を振り返りながらインターネット上に見られる排外主義を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分
14	ネットカルチャーの現在	SNSやプラットフォームが幅を利かせるインターネット空間における文化の位置づけを考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、現在のインターネット空間における文化の有り様を説明できる	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分
15	講義のまとめ	インターネットの現象を文化の観点からアプローチする意味を改めて確認する	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連し、講義内容をふまえて現代社会におけるインターネットと文化の位置づけや意味を説明できる。本授業の個別具体目標①～④を振り返り、一般目標を達成する	
	事前学修	教科書等の関連資料に目を通しておく	120分
	事後学修	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの執筆を手掛ける	120分

科目名	情報法Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの急激な発達により、利用者から見ると放送と通信の境界が曖昧になりつつある。また、ソーシャルメディアの普及によって、だれもが容易に情報発信ができるようになる一方で、違法・有害情報が拡散するなど、新たな問題も起きている。こうした認識のもと、情報の「自由」「規制」「保護」に着目して情報に関する法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度情報化社会の一員として、情報の取得や発信などのリテラシーを身につけるため、情報に関する法と倫理について理解する力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内でレポート課題を2回行う。レポート課題の解説も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	表現の自由の意義を説明することができる。				3	3						
②	情報流通に関するこれまでの政策について説明することができる。				3	3						
③	情報流通に関する法について説明することができる。					3	3					
④	情報流通を巡ってどのような課題があるのかを説明することができる。						3	3				
⑤	情報流通を巡ってる諸課題について考察し、自分の意見を述べることができる。						3	3				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤が身についているか評価する。	20	20	20	20	20						100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で解説を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「情報法概説」 第2版	曾我部真裕ほか	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、情報通信とは何か	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。情報の生産・流通・消費に関する法とは何かを説明する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、大きな変革期にある情報社会における政策・法を考察する意義を理解し、能動的に今後の学修をすすめることができるようにする。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
2	表現の自由Ⅰ	検閲の歴史を概観する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、検閲の歴史から表現の自由を獲得してきた経緯を説明することができる。	
	事前学修	憲法第21条の内容を確認するとともに、大日本帝国憲法第29条との違いを調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
3	表現の自由Ⅱ	思想の自由市場論、表現の自由の優越的地域、二重の基準論などについて考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、表現の自由の優越的地位について説明することができる。	
	事前学修	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
4	放送制度Ⅰ	戦前の放送法制を概観する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、戦前の放送制度の特徴を説明することができる。	
	事前学修	放送メディアと印刷メディアの違いについて整理する。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
5	放送制度Ⅱ	電波3法制定、民放の誕生など。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、放送制度の概要を説明することができる。	
	事前学修	GHQが行った日本の放送の民主化政策にはどのようなものがあったか調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
6	放送制度Ⅲ	放送法の構造を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、放送の規制根拠を説明することができる。	
	事前学修	放送法第1章、2章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	電気通信政策の変遷Ⅰ	電話から携帯、そしてインターネットへ。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、電気通信技術の発達と政策の変遷について説明することができる。	
	事前学修	1985年の「通信の自由化」について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
8	電気通信事業の変遷Ⅱ	ブローバンドとスマートフォンの時代へ。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、高度情報通信ネットワーク社会の形成に向けた政策を説明することができる。	
	事前学修	Society 5.0について調べる	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
9	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
10	通信の秘密	通信の秘密の保障根拠、通信の秘密への制約を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、通信の秘密について説明することができる。	
	事前学修	電波法、電気通信事業法の通信の秘密、検閲の禁止規定につて調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
11	情報通信法構想	情報通信法構想で提示されたコンテンツ規制、および規制に対する反対意見の内容、2010年の放送法改正について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、放送のハード・ソフト分離についてメリットとデメリットを説明することができる。	
	事前学修	「通信・放送の総合的な法体系に関する研究会」報告書を読む。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
12	インターネットとは何か	インターネットが、これまでのメディアと異なる独自の特徴。	
	この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、インターネットの光と陰を説明することができる。	
	事前学修	インターネットを日常的にどのように利用してるか、また、どのような問題点があるかをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターネットにおける表現の自由	インターネット上の表現の功罪。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、インターネットにおける表現の自由に関する新たな課題を説明することができる。	
	事前学修	講義「表現の自由Ⅰ、Ⅱ」の授業ノート、事後学習のまとめを改めて読む。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
14	インターネット法はどうあるべきか	印刷メディアの法、放送メディアの法、コモンキャリアッジの法。	
	この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、インターネットを包括する法律が必要か必要ではないか意見を述べることができる。	
	事前学修	電気通信事業者の役割をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
15	授業内レポート課題、解説	後半の授業の振り返りとレポート作成、解説	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	情報法Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
インターネットの急激な発達により、利用者から見ると放送と通信の境界が曖昧になりつつある。また、ソーシャルメディアの普及によって、だれもが容易に情報発信ができるようになる一方で、違法・有害情報が拡散するなど、新たな問題も起きている。こうした認識のもと、情報の「自由」「規制」「保護」に着目して情報に関する法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高度情報社会の一員として、情報の取得や発信などのリテラシーを身につけるため、情報に関する法と倫理について理解する力を修得する。

【履修条件】
情報法Ⅰの単位取得者

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内でレポート課題を2回行う。レポート課題の解説も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	情報流通に関するこれまでの政策について説明することができる。				3	3						
②	情報流通に関する法について説明することができる。				3	3						
③	情報流通を巡ってどのような課題があるのかを説明することができる。					3	3					
④	情報流通を巡ってる諸課題について考察し、自分の意見を述べることができる。						3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④が身についているか評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「情報法概説」 第2版	曾我部真裕ほか	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、情報通信のこれから	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。第4次産業革命の進展。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、大きな変革期にある情報社会における政策・法を考察する意義を理解し、能動的に今後の学修をすすめることができるようにする。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	情報法Ⅰの授業ノートを改めて読む。	120分
2	名誉毀損とインターネット上の表現の自由	名誉毀損成立の要件および免責要件、ネット上の名誉毀損を含む人権侵害の現状を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、名誉毀損の成立要件、免責要件を説明することができる。	
	事前学修	「あなたは大丈夫？考えようネットと人権」を読む。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
3	インターネットにおける名誉毀損の実例	ラーメンチェーン店事件、読売新聞西部本社事件を通じて、インターネット上の名誉毀損の特徴を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、インターネット上の名誉毀損の特徴を説明することができる。	
	事前学修	配付した判例を疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
4	インターネットとわいせつ表現	刑法によるわいせつ表現規制の概要、ウェブ上でのわいせつ表現。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、インターネット上のわいせつ表現の特徴を説明することができる。	
	事前学修	チャタレイ事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
5	児童ポルノ規制	児童買春ポルノ禁止法を通じて、児童ポルノについて考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、児童ポルノ法が抱える課題を説明することができる。	
	事前学修	児童買春ポルノ禁止法を読んで概要を把握する。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
6	青少年保護と情報の取り扱いⅠ	有害図書規制の合憲性について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、有害図書規制の合憲性を巡る議論を説明することができる。	
	事前学修	配付した資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	青少年保護と情報の取り扱いⅡ	青少年インターネット環境整備法など。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、青少年に対する有害情報対策について説明することができる。	
	事前学修	青少年インターネット環境整備法を読んで概要を把握する。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
8	インターネット上の差別表現	差別表現の実態、ヘイト・スピーチ規制法。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、ヘイトスピーチに関する諸課題について説明することができる。	
	事前学修	部落差別について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
9	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
10	個人情報保護法Ⅰ	個人情報保護法制定の経緯を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、個人情報保護法制定までの背景を説明することができる。	
	事前学修	自己情報コントロール権について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
11	個人情報保護法Ⅱ	個人情報保護法の概要および、現在の諸課題について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、個人情報保護に関する現在の諸課題を説明することができる。	
	事前学修	「個人情報保護法ハンドブック」を読む。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
12	電子取引と契約Ⅰ	ワンクリック請求、なりすまし。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、電子取引に関する契約成立時の説明することができる。	
	事前学修	電子商取引の市場規模の推移を調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	電子取引と契約Ⅱ	モール・サイト運営者の責任	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、インターネット上の消費者保護政策の概要について説明することができる。	
	事前学修	Amazonや楽天などの利用規約を読んでどんなことが記述されているかをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
14	著作権法	知的財産権のなかでの著作権位置づけ	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、違法コピー問題について説明することができる。	
	事前学修	2020年の著作権法改正点について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
15	授業内レポート課題、解説	後半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	人材マネジメント論Ⅰ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
企業のビジョン・ミッション・戦略を実現するために、経営資源としてのヒトをマネジメントするのが人材マネジメントである。この授業では、日本企業で行われてきた人事施策を「人材の多様化」「人材需給のグローバル化」「人材の流動化」という人材の変化に対し、どう対応すればよいのかという観点から「グローバル人事」を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の「事業のグローバル化」を前提にして、「グローバル人事」とはどのようなものか学び、また、グローバル人事における評価制度や人材配置についてその概要を理解した人材を育成する。

【履修条件】
特になし。「人材マネジメント論Ⅱ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと講義用レジュメを使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本企業のグローバル化の問題点について理解している。				3	2	2	2				
②	グローバル人事の必要性和グローバル組織について理解し説明できる。					2	2					
③	グローバル人事における評価制度や人材配置について理解し説明できる。					3	3					
④	グローバル人事における評価制度や人材配置について提案することができる。				3			3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	日本企業のグローバル化における問題点とグローバル人事における適切な評価制度や人材配置について到達目標①②③④の観点から十分に理解できているか評価する。	10	10	20	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末テストや提出物のフィードバックについては授業内、またはポータルサイトで解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新しい人事労務管理〔第5版〕	佐藤 博樹 他	有斐閣	2015	参考書	任意
人事こそ最強の経営戦略	南 和気	かんき出版	2018	参考書	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	人材マネジメント論とは何か	人材マネジメント論とは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	人材マネジメント論とは何かについて説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	日本企業と海外企業の人事慣習の違い	日本企業と海外企業の人事慣習の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	日本企業と海外企業の人事慣習の違いについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	グローバル人事の必要性	グローバル人事の必要性について説明する。	
	この回の到達目標	グローバル人事の必要性について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	人材価値の適正評価	グローバル企業における人材価値の適正評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	人材価値を適正に評価する方法について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	ダイバーシティ・マネジメント&インクルージョン	グローバル人事におけるダイバーシティ・マネジメントとインクルージョンの必要性について説明する。	
	この回の到達目標	ダイバーシティ・マネジメント&インクルージョンについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グローバル・グレーディング	グローバル・グレーディングについて説明する。	
	この回の到達目標	グローバル・グレーディングについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	サクセッション・プランニング、人材プール管理	サクセッション・プランニングや人材プール管理について説明する。	
	この回の到達目標	サクセッション・プランニングや人材プール管理について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	戦略的人事評価制度	グローバル人事における戦略的人事評価制度について説明する。	
	この回の到達目標	戦略的人事評価制度について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	コンピテンシー評価	グローバル人事におけるコンピテンシー評価について説明する。	
	この回の到達目標	グローバル人事におけるコンピテンシー評価について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	ノーレイティング、1 on 1 ミーティング	ノーレイティングや、1 on 1 ミーティングについて説明する。	
	この回の到達目標	ノーレイティング、1 on 1 ミーティングについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	組織開発とイノベーション	グローバル企業における組織開発とイノベーションについて説明する。	
	この回の到達目標	グローバル企業における組織開発とイノベーションについて理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グローバル人事とHRテクノロジー	グローバル人事におけるHRテクノロジーの現状について説明する。	
	この回の到達目標	グローバル人事におけるHRテクノロジーの現状について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	人事におけるA I の活用	人事におけるA I 活用の現状について説明する。	
	この回の到達目標	人事におけるA I 活用の現状について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について理解する。	
	事前学修	これまでの授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	人材マネジメント論Ⅱ	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
I C T分野の急速な発展は企業における労働形態を大きく変化させ、特に、A IやI ｏT、ビッグデータなどの進化は働き方を大きく変えつつある。これらの技術は、人事分野では「H R (Human Resource) テクノロジー」と呼ばれ、業務効率化や採用・配置の精度向上に大きく貢献することが期待されている。この授業では、H Rテクノロジーが企業人事に与える影響を理解することで、学生がH Rテクノロジーを有効活用できる人材になることを目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
我が国の持続的な経済成長に向けての「H Rテクノロジー」の役割とはどういうものか、また、適切な「H Rテクノロジー」の活用についてその概要を理解することを目的とする。

【履修条件】
特になし。「人材マネジメント論Ⅰ」と併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
パワーポイントと講義用レジュメを使用して授業を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、対話形式で授業を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の生産性革命とHRテクノロジーの関係について理解している。					3	2						
②	世界と日本のHRテクノロジーの現状について理解している。						2	2					
③	HRテクノロジーについて様々な視点（技術、HRM、労働法、個人情報保護）から説明できる。						3	3					
④	HRテクノロジーの活用方法について提案できる。							3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	HRテクノロジーの様々な視点（技術、HRM、労働法、個人情報保護）について、主に到達目標③④の観点から十分に理解できているか評価する。			40	20							60
小テスト等	授業中に実施される小テスト等において、到達目標①②③④にかかわる分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	50	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末テストや提出物のフィードバックについては授業内、またはポータルサイトで解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク	労務行政研究所 編	労務行政	2015	参考書	任意
備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義計画や成績評価方法について説明する。	
	この回の到達目標	講義計画や成績評価方法を理解する。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること。	120分
2	HR（Human Resource）テクノロジーとは何か	HR（Human Resource）テクノロジーとは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	HR（Human Resource）テクノロジーとは何かについて説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
3	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向について説明する。	
	この回の到達目標	世界と日本におけるHRテクノロジーの動向について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
4	HRテクノロジーの現状と可能性	HRテクノロジーの現状と可能性について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーの現状と可能性について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
5	HRテクノロジーの事例1（採用・配置、技術的視点）	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置の事例について説明する。	
	この回の到達目標	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
6	HRテクノロジーの事例2（採用・配置、HRM的視点）	採用分野におけるHRテクノロジー活用の背景と配置におけるHRテクノロジーの留意点について説明する。	
	この回の到達目標	A Iや人材データを活用した採用判断および入社者・既存従業員の適正配置について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	HRテクノロジーの事例3（採用・配置、労働法的視点）	採用領域における労働法上の問題点と配置における人事権について説明する。	
	この回の到達目標	採用領域における労働法上の問題点と配置における人事権について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
8	HRテクノロジーの事例4（採用・配置、個人情報保護的視点）	採用領域における個人情報保護と配置・評価・報酬に関するHRテクノロジーと個人情報について説明する。	
	この回の到達目標	採用領域における個人情報保護と配置・評価・報酬に関するHRテクノロジーと個人情報について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
9	HRテクノロジーの事例5（人材開発・退職、技術的視点）	A Iの活用による人材育成と退職予測について説明する。	
	この回の到達目標	A Iの活用による人材育成と退職予測について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
10	HRテクノロジーの事例6（人材開発・退職、労働法的視点）	HRテクノロジーと賃金制度の問題点について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーと賃金制度の問題点について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
11	HRテクノロジーの事例7（人材開発・退職、労働法的視点）	HRテクノロジーと労働時間の問題点について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーと労働時間の問題点について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
12	HRテクノロジーの事例8（人材開発・組織開発、個人情報保護的視点）	HRテクノロジーとキャリア・マネジメント、モチベーション向上施策の問題点について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーとキャリア・マネジメント、モチベーション向上施策の問題点について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	HRテクノロジーの事例9（安全配慮、労働法的視点）	HRテクノロジーと安全配慮義務について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーと安全配慮義務について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
14	HRテクノロジーの事例10（安全配慮・退職、労働法的視点）	HRテクノロジーとハラスメント予測、退職、解雇問題について説明する。	
	この回の到達目標	HRテクノロジーとハラスメント予測、退職、解雇問題について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分
15	まとめ	授業内容の総まとめ	
	この回の到達目標	これまでの授業内容について理解する。	
	事前学修	これまでの授業内容についてあらかじめ調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、また、授業内で触れた用語等について調べ、十分に理解しておくこと。	120分

科目名	西欧政治思想史Ⅰ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代にいたる西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクションペーパーを実施する予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。						2		2					2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。						2		2					
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。						2		2					
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2		2					2
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを評価する。	25	20	20	15							80
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極 的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋政治思想史	宇野重規	有斐閣	2013	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16:20-17:00 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス・政治思想史を学ぶ意味は何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。 また、関連科目である政治哲学との違いを示しながら、政治思想史を学ぶ意味について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治思想史を学ぶ意味と意義を認識することができる。		
	事前学修	このシラバスの内容を確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。		100分
	事後学修	ガイダンス内容を再確認するとともに、この時点で可能であれば、教科書を入手の上、目を通し、全体の流れを把握しておく。		140分
2	西洋政治思想の目指したもの 個人と共同体	「自由」という概念をキーワードとして、古代から近現代に至る西洋政治思想の流れを学修する。 なお、この回の講義は、この後度々振り返ることになるため、受講者には必ず出席するように求める。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、西洋政治思想の最重要概念である「自由」の多様性を理解すると共に、西洋政治思想史の全体像を把握することができる。		
	事前学修	教科書を入手し、目次に目を通して全体の流れを把握しておく。		120分
	事後学修	講義内容を復習するとともに、教科書の「はじめに」に目を通す。		120分
3	プラトン（古代の政治思想①）	アテナイを中心とする古代ギリシアにおける人間観・政治観・社会観について学修する。その上で、イデア論を中心とするプラトンの哲学を概説し、そして『国家』に代表される彼の政治思想について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西洋政治思想の源流となった古代ギリシアの政治思想の思想的意義と、プラトンの政治思想の内容と意味について説明することができる。		
	事前学修	教科書（第1章第2節）や歴史書、またインターネットなどを利用して、古代ギリシアについて簡単に調べておく。		120分
	事後学修	第2回講義の内容や配布資料もあわせて参考にしながら、古代ギリシアにおける政治の意味や役割を考える。そのうえで、プラトンの政治思想の特徴をまとめる。		120分
4	「アリストテレス（古代の政治思想②）」	前回講義したプラトンとの違いを意識しながら、『ニコマコス倫理学』や『政治学』を中心にアリストテレスの政治思想を学ぶ。また、彼の政治思想が現代にいたるまで政治学に影響を与えている理由と、彼の政治思想の意義を考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プラトンと比較しながら、アリストテレスの政治思想の思想史上の意義と現代的意義の両方を説明することができる。		
	事前学修	教科書や配付資料などを利用して、プラトンの政治思想について復習する。また、プラトンとの違いを意識しながら、アリストテレスの政治思想について教科書（第1章第3節）などを利用して簡単に確認しておく。		120分
	事後学修	教科書（第1章第2節・第3節）や配布資料などに使って、プラトンとアリストテレスの政治思想の違いについてまとめる。		120分
5	「中世社会とキリスト教（トマス・アクイナスを中心に）」	まず、草創期から中世にかけてのキリスト教の歴史とその当時のヨーロッパの政治・社会状況を学ぶ。そのうえで、普遍論争やトマス・アクイナスの政治思想について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、西洋社会におけるキリスト教とりわけローマ・カトリックの存在とその影響およびトマス・アクイナスの政治思想について説明することができる。		
	事前学修	教科書（第2章第3節・第4節および第3章）や歴史書、またインターネットなどを利用して、中世ヨーロッパについて簡単に確認しておく。その際、特にローマ・カトリックやその長であるローマ教皇（法王）に注目する。		120分
	事後学修	教科書（第3章第2節）や配付資料を使用して、講義内容について復習する。 また、トマス・アクイナスについては、充実した無料のインターネット講義が開設されているため、関心があればその視聴をすすめる（サイトの情報は、講義の際に紹介する）。		120分
6	「ルネサンスと宗教改革」	まず、当時のイタリアの政治状況について把握したうえで、ルネサンスとその政治的意味について考える。そして、マルティン・ルターやジャン・カルヴァンによって始められた宗教改革とそれが政治や社会に与えた影響について考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、ルネサンスと宗教改革の政治的意義について説明することができる。		
	事前学修	教科書（第3章）や関連書籍などの資料を利用して、カトリックを中心としたキリスト教の教義や社会教説、歴史について確認しておく。		120分
	事後学修	教科書（第4章第2節・第3節）や前回の講義資料なども参考にしながらキリスト教の特徴や歴史を確認したうえで、宗教改革とその政治的影響についてまとめる。また、現代社会における政治と宗教をめぐる問題についても考えてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「絶対王政の政治思想（ジャン・ボダンを中心に）」		宗教改革によって生じた政治対立（コンフェッショナリズム）やその克服を目的として打ち立てられたジャン・ボダンの主権理論、そしてボダンの理論などを根拠として成立した絶対王政について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、近代国家の基礎となる概念である主権概念の成立と意味について説明することができる。		
	事前学修	教科書（第3章第1節）や歴史書の利用や講義内容の再確認を通して、封建制を中心とする中世ヨーロッパ社会の特徴について確認しておく。	120分	
	事後学修	封建制を中核的特徴とする中世社会とボダンが提唱した中央集権的な政治体制との違いをまとめる。	120分	
8	「ニコロ・マキアヴェリ 近代政治思想の幕開け」		『君主論』で展開されたきわめて現実的な政治思想と『ローマ史論』に見られる共和主義的な政治思想というニコロ・マキアヴェリ政治思想に見られる2つの側面を比較しながら、彼の政治思想を学び、その政治思想史的意義について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代や中世における政治思想と比較した際のマキアヴェリ政治思想の特徴について説明することができる。		
	事前学修	第2回講義から第4回講義までの講義内容を振り返り、古代社会の政治思想について確認しておく。また、教科書の「はじめに」および第4章第1節を読む。	120分	
	事後学修	古代や中世の政治思想と比較しながら、マキアヴェリ政治思想の特徴と彼が後の政治に与えた影響について考えてみる。	120分	
9	「モンテスキュー 自由主義の源流」		『法の精神』を主要な材料として、モンテスキュー政治思想について学ぶ。彼の思想には保守主義的性質と自由主義的性質をあわせ持つ複雑な特徴があるため、具体的な政体論の理解などを通して、モンテスキュー政治思想について説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保守主義的性質と自由主義的性質の双方を視野に入れて、モンテスキュー政治思想を説明することができる。		
	事前学修	第7回講義の資料などを利用して、絶対王政について復習する。	120分	
	事後学修	「モンテスキューの考える『自由』とはどのようなものだったのか」という問題意識をもって、教科書（第6章第1節）や配付資料を用いて講義内容を再確認する。	120分	
10	「社会契約説とは何か？（社会契約説①）」		「個人」や「擬制」（フィクション）といった概念を材料として、さまざまな思想家によって主張され、今日でも国家の成立根拠のひとつとして承認されている社会契約説という政治思想の本質的な特徴について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「政治という営為はあくまでも人間の営みである」という考え方の登場が、政治に与えた影響について自分なりに解釈することができる。		
	事前学修	「社会や国家は、個人によって形成される」という考え方を意識しながら、第2回講義の内容を再確認する。	120分	
	事後学修	社会や国家といった共同体と個人の作為との関係性に注意しながら、配布資料を使って講義内容を復習する。	120分	
11	「トマス・ホッブズ（社会契約説②）」		『リヴァイアサン』を主な材料として、「自然状態」「自然権」「自然法」などの概念を注目しながら、トマス・ホッブズ政治思想を学習する。その際、「自然状態」などの概念は社会契約説を考えるうえで重要な概念であるため、特に注意を払って内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然状態」「自然権」「自然法」という主要概念を用いて、ホッブズ政治思想について説明することができる。		
	事前学修	前回講義の内容を再確認するとともに、教科書（第5章第2節）を使ってトマス・ホッブズ政治思想を概観する。	120分	
	事後学修	講義内容や教科書（第5章第2節）を確認し、講義内容を理解する。特に、ホッブズのいう「自然状態」「自然権」「自然法」についてまとめる。	120分	
12	「ジョン・ロック（社会契約説③）」		主として『統治二論』で展開されたジョン・ロック社会契約説について学ぶ。「自然状態」「自然権」「自然法」に関するロックとトマス・ホッブズとの考え方の違いを理解するとともに、ロック政治思想における「プロパティ」（所有権）の重要性を把握し、説明できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然状態」「自然権」「自然法」に関するロックとトマス・ホッブズとの考え方の違いを理解するとともに、ロック政治思想における「プロパティ」（所有権）の重要性を把握し、説明できるようにする。		
	事前学修	教科書（第5章第4節）などを使用して、ジョン・ロック政治思想について確認を行う。	120分	
	事後学修	「自然状態」「自然権」「自然法」に注目しながら、トマス・ホッブズとジョン・ロックによるそれぞれの社会契約説の特徴と違いについて考察する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	「ジャン＝ジャック・ルソー（社会契約説④）」		他の2人の社会契約論者の考え方や啓蒙思想などの共通点と相違点に注目しながら、ジャン＝ジャック・ルソーの政治思想について学ぶ。特に、一般意志をはじめとするルソーの思想概念は独自性が高く、理解しにくいものも多いため、概念把握に注意する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一般意志を中心とするルソーの政治思想について理解した上で、ホッブズやルソーの政治思想との違いを説明することができる。		
	事前学修	トマス・ホッブズとジョン・ロックの社会契約説をあらためて確認したうえで、教科書（第7章第1節）などを使って、ジャン＝ジャック・ルソーについて確認する。		120分
	事後学修	トマス・ホッブズ、ジョン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソーの社会契約説を比較しながら、それぞれの思想の内容と特徴を十分に理解し、説明できるようにする。そのうえで、3人の思想に共通する要素を考えて、社会契約説が持っている政治思想史的な意義について考察する。必要なら、他の書籍や資料なども確認する。		120分
14	「フランス革命をめぐる政治思想」		フランス革命のなかで登場してきた政治思想、具体的には急激な改革を求めたジャコバン主義や絶対王政への回帰を望んだ反動思想について学習する。さらに、政治における過激な考え方や実際の暴力といった問題について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会契約説等の政治思想がフランス革命といった現実政治に与えた影響について説明することができる。		
	事前学修	教科書や講義資料などを利用して、トマス・ホッブズ、ジョン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソーの社会契約説について復習を行う。		120分
	事後学修	講義内容を確認するとともに、テロリズムやヘイト・スピーチといった現代の政治的・社会的問題についても考えてみる。		120分
15	前期総括		古代から近代の市民革命の時代にいたる政治思想について、総括的に考える。また、講義内容に関する質疑応答が設定されているため、必要に応じて利用する。試験の内容や評価に関して説明を行うので、受講者はできる限り出席するようにを求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター中の個々の講義内容の意味を有機的に理解し、政治を理論的かつ論理的に考えることの重要性を説明することができる。		
	事前学修	前期の講義内容全体を再確認し、疑問点などがあれば、それらを整理しておく。		100分
	事後学修	教科書や講義資料などを総復習し、期末試験の準備を行う。		140分

科目名	西欧政治思想史Ⅱ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代以降の西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。 最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
原則として、「西洋政治思想Ⅰ」が履修済みであることを求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクションペーパーを実施する予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。						2		2				2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。						2		2				2
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。						2		2				
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2		2				2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	25	20	20	15							80
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極 的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
西洋政治思想史	宇野重規	有斐閣	2013年	教科書	必携
備考	参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日16:20～17:00 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	「西欧政治思想史Ⅰ」の講義内容について簡単に説明したのち、後期に行う講義の方針や内容、成績評価方法の概要について説明を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、社会契約説を中心とする近代前期の政治思想について説明することができる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、講義の流れを把握しておく。	120分
	事後学修	今期の講義内容について、教科書を使って全体の流れを把握しておく。	120分
2	「エドモンド・バーク 革命に対するリアクションとしての保守主義」	「自由」をキーワードとして、エドモンド・バークの保守思想を学ぶ。講義ではバークに限定せず、ヒュームなども含めて広い視野から保守主義について説明を行うので、受講者は保守主義の本質を理解するように努める。また、イギリスとアメリカの保守主義の比較的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、保守主義の祖とされるバークの政治思想の本質について、「自由」をキーワードとして説明することができる。	
	事前学修	「保守」または「保守主義」「保守思想」といった言葉が現在一般にどのように使われているのか、インターネットなどを利用して調べてみる。そして、教科書（第7章第3節）を用いて、エドモンド・バークの保守思想について確認しておく。	120分
	事後学修	教科書（第7章第3節）や講義資料などを参考として、「自由」という概念に注目しながら、エドモンド・バークの保守思想について復習を行う。また、現代政治や現代社会における「保守」や「保守主義」「保守思想」についても考えてみる。	120分
3	「アレクシス・ド・トクヴィル（市民革命後の政治思想①）」	主著『アメリカのデモクラシー』を材料として、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想について学ぶ。トクヴィルのいうデモクラシーは一般の認識よりも広い意味を持っているため、その点に注意しながら理解し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トクヴィルのデモクラシー概念の特徴について説明することができる。	
	事前学修	今日、多様な意味で使われている「デモクラシー」という言葉について、インターネットなどを利用して調べてみる。そのうえで、教科書（第8章第2節）を利用しながら、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想について確認しておく。	120分
	事後学修	まず、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想におけるデモクラシーの意味について、教科書（第8章第2節）や講義資料などを参考にしながら、復習を行う。そのうえで、現代のデモクラシーが抱えている問題点について考えてみる。	120分
4	「ジョン・スチュアート・ミル（市民革命後の政治思想②）」	はじめに功利主義やロマン主義について学んだうえで、ジョン・スチュアート・ミルの政治思想について学習する。ミルの思想的業績は膨大だが、この講義では主に『自由論』と『代議制統治論』について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、功利主義の全体的な特徴を理解した上で、ミルの自由主義思想の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書や哲学・倫理学に関する書籍、またインターネットなどを利用して、功利主義について確認しておく。	120分
	事後学修	教科書や講義資料などを利用して、「自由」というものの意味を考えながら、ジョン・スチュアート・ミルの政治思想の特徴についてまとめる。	120分
5	「カントとヘーゲル 市民社会と国家」	イマヌエル・カントとゲオルグ・ウィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲルの政治思想について学ぶ。彼らの哲学的業績はきわめて多く、多岐にわたるため、この講義では特にそれぞれの人間観や国家観・市民社会観について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カントやヘーゲルに代表されるドイツ観念論について概観した上で、それが市民社会をどのように理解していたのか、英仏の政治思想と対照させながら説明することができる。	
	事前学修	教科書（第8章第1節）や哲学・倫理学に関する書籍、またインターネットなどを利用して、ドイツ観念論について確認しておく。詳細は講義の中で説明していくので、事前学習の段階では正確に理解していなくても構わない。	120分
	事後学修	教科書（第8章第1節）や講義資料、その他の文献なども利用しながら、講義の内容について再確認しておく。ドイツ観念論は抽象的な議論が多いため、把握困難な個所があればまとめておく。	120分
6	フランス初期社会主義（社会主義思想①）	はじめに19世紀の急速な産業化・都市化の進展に伴って発生した、貧困をはじめとする社会問題について理解し、説明できるようにする。それを踏まえて、サン＝シモンやシャルル・フーリエ、ピエール・ジョセフ・ブルドンらによって主張されたフランス初期社会主義思想について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、社会問題の発生メカニズムとそれらへの対策として構想されたフランス初期社会主義思想の内容と意義について説明することができる。	
	事前学修	18世紀末のフランス革命から19世紀初頭までのフランスの政治・社会状況について、教科書（第8章第3節）や歴史書、またはインターネットなどを利用して簡単に把握しておく。	120分
	事後学修	「社会」という概念に注目し、その意味を考えながら、それぞれの社会主義者の思想内容についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「カール・マルクス（社会主義思想②）」	「剰余価値」や「上部構造・下部構造」、「疎外」といったカール・マルクスの社会主義思想の基本概念を学習し、そして彼の思想が後の政治に与えた影響やその政治学的な意味について考える。あわせて、現代にも共通する、政治と経済の間に存在する摩擦や緊張に関しても考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マルクスの主要な思想概念およびそれが後世に与えた影響について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第5回講義で取り上げたドイツ観念論および第6回講義のフランス初期社会主義の内容を再確認する。	120分
	事後学修	第5回講義や第6回講義の内容とあわせて、カール・マルクスの社会主義思想・政治思想について復習を行い、その概要をまとめる。必要であれば、各種の書籍やインターネットなども利用する。	120分
8	「レーニン／ベルンシュタイン（社会主義思想③）」	レーニンやベルンシュタインらによって実際に推進された社会主義構想に関して学習する。彼らが自らの理想の実現にあたって直面した困難に触れることを通して、政治における理論と現実の差とそれを埋める困難さについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、レーニンやベルンシュタインの革命思想と実際に彼らが推進した革命運動について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第6回講義および第7回講義で取り上げた社会主義思想について再確認しておく。	120分
	事後学修	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第6回講義から第8回講義において取り上げた社会主義思想について再確認する。	120分
9	「全体主義（ファシズム・ナチズム）」	はじめにデモクラシーの特徴とそれを原因として生じる問題点について押さえる。そのうえで、全体主義およびファシズム、ナチズムについて、その定義や特質、発生要因などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、デモクラシーの悪しき帰結としての全体主義という視点から、全体主義が登場した意味を説明することができる。	
	事前学修	第3回講義の内容を再確認して、デモクラシーの本質的な問題点について確認しておく。	120分
	事後学修	「なぜデモクラシーが全体主義の原因になってしまうのか」という問いについて考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
10	「ハンナ・アレント 全体主義に対する批判」	第一に全体主義批判、第二に『人間の条件』で展開された理想的な政治のあり方、第三に『イェルサレムのアイヒマン』で示された時代や政治、組織の中における人間の存在に関する考察を材料として、ハンナ・アレントの政治思想を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、全体主義に対するアレントの批判の要点とそれへの対策について説明することができる。	
	事前学修	前回講義の資料などを利用して全体主義の発生要因について確認したうえで、教科書（「結章」）などを利用してハンナ・アレントの政治思想について簡単に把握しておく。	120分
	事後学修	現代の社会や政治、デモクラシーに対する批判としての性格を持っていることを認識したうえで、ハンナ・アレントの政治思想の概要をまとめる。近年、アレントに関する映画が公開されており、関心があればその視聴をすすめる。	120分
11	「フェデラリストとリパブリカン（アメリカの政治思想①）」	はじめに、ヨーロッパ人によるアメリカ植民の時代から独立戦争、その後のアメリカ合衆国憲法に代表される国家体制の整備の時代にいたる、政治・社会状況について学習する。そして、その経緯であらわれたフェデラリストとリパブリカンの対立を把握したうえで、アメリカという国家の原理について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカ独立の歴史的経緯と独立運動を支えた政治思想について説明することができる。	
	事前学修	教科書（第7章第2節）や歴史書、またインターネットなどを利用して、アメリカの歴史、とりわけ植民地成立期から独立戦争、その後の国家形成のころまでの経緯について簡単に確認しておく。なお、アメリカの歴史については、在日アメリカ大使館・アメリカンセンターのホームページが詳しく、正確である。	120分
	事後学修	教科書（第7章第2節）や講義資料などを利用して、アメリカ独立の指導者（ファウンディング・ファーザーズ）の政治思想について確認する。	120分
12	「ロールズのリベラリズム（アメリカの政治思想②）」	『正義論』の内容を中心に、ジョン・ロールズの政治思想についてその詳細を学ぶ。特に、「無知のヴェール」や「正義の2原理」といったロールズの基本概念に関しては、その意味を正確に理解するように努める。また、彼の政治思想が後の政治学や現実の政治に与えた影響についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロールズの政治思想について正確に理解した上で、その政治思想史・政治哲学上の意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書（「結章」）などを利用して、ジョン・ロールズの政治思想について確認しておく。	120分
	事後学修	教科書（「結章」）や講義資料などを利用して、『正義論』を中心にジョン・ロールズの政治思想について復習する。特に「正義の2原理」は十分に理解するように努める。必要に応じて、他の書籍なども確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「コミュニタリアニズム（アメリカの政治思想③）」	ジョン・ロールズの政治思想に対する批判の中から生まれた、アラスデア・マッキンタイアやマイケル・サンデルらによるコミュニタリアニズム（共同体主義）について学ぶ。また、アメリカの政治思想における「自由」の意味の多様さについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、コミュニタリアニズムに関する諸理論を比較しながら、そのそれぞれについて説明することができる。	
	事前学修	教科書（「結章」）や講義資料などを利用して、ジョン・ロールズの政治思想について再確認しておく。特に、彼の重要概念については、その意味を十分に考察する。	120分
	事後学修	ジョン・ロールズの政治思想と比較しながら、さまざまな論者によるコミュニタリアニズムをまとめる。	120分
14	「近代政治思想の再検討」	フェミニズムやクイア理論、ケアの倫理、またアフリカ系アメリカ哲学などによる問題提起を参考として、「個人」や「理性」、「男性」の存在を前提に形成されてきた近代政治思想の問題点について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、フェミニズム等によってなされてきた、近代政治思想に対する本質的批判について説明することができる。	
	事前学修	さまざまな書籍や資料、インターネットなどを利用して、女性差別や人種差別、セクシュアル・マイノリティに対する差別といった社会問題について把握しておく。	120分
	事後学修	前回まで取り上げてきた近代政治思想と今回講義したさまざまな政治思想を比較して、それぞれの評価すべき点や功績と問題点の両方について考えてみる。	120分
15	後期総括	市民革命後から現代にいたるまでの政治思想に関する総括的講義を行うため、近現代の政治思想全体を把握するように努める。 試験の内容や評価に関して説明を行うので、受講者はできる限り出席するようにを求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター中の個々の講義内容の意味を有機的に理解し、政治を理論的かつ論理的に考えることの重要性を説明することができる。	
	事前学修	後期の講義内容全体を再確認し、疑問点などがあれば、それらを整理しておく。	120分
	事後学修	教科書や講義資料などを総復習して、期末試験を準備する。	120分

科目名	西欧政治思想史Ⅱ	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					○

【授業の概要】
近代以降の西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学修する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学修していく。 最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、究極的には人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核的概念を習得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	西洋政治思想における主要な概念や理論を認識することができる。						2		2				2
②	政治思想の概念や個々の理論の意義を、論理的に説明することができる。						2		2				2
③	西洋政治史上の政治的事象の思想史的意義を説明することができる。						2		2				
④	個々の政治思想概念や政治理論に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2		2				2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	15	15	15							65
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①に関わる基礎知識と到達目標②③④に関するリテラシー・知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5								15
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する質問や意見等、到達目標④に関する積極的な学習態度が身についているかを評価する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	20	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	西洋政治思想史の学問的位置づけおよび学問的意義について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治思想史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	近代政治思想の論点	政治を「集合的意思決定」として理解しつつ、それがどのように考えられてきたかを歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	啓蒙思想の光と影	近代の政治思想として、啓蒙思想を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	百科全書派の活動について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	アメリカ独立革命	市民革命の一環として、アメリカ独立革命とそれを支えた政治思想を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	アメリカの統治機構について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	フランス革命	市民革命の一環として、フランス革命とそれを支えた政治思想を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	共和主義の思想について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	保守主義の政治思想	保守主義の政治思想として、エドモンド・バークの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	イギリスの保守党について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ドイツの政治思想		ドイツの政治思想として、ヘーゲルの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	ロマン主義について調べる。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
8	ベンサムと功利主義		功利主義の政治思想として、ジェレミー・ベンサムの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	産業革命について調べる。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
9	ミルと自由主義		自由主義の政治思想として、J・S・ミルの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	ビクトリア時代のイギリスについて調べる。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
10	進化論と政治思想		近代の政治思想として、進化論の展開と政治思想の関係を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	ダーウィンの進化論について調べる。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
11	マルクスと社会主義		社会主義の政治思想として、カール・マルクスの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	19世紀ヨーロッパの労働運動について調べる。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
12	帝国主義の時代		19世紀ヨーロッパを支配した帝国主義を分析する政治思想を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	大英帝国時代の植民地政策について調べる。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	全体主義の時代	全体主義経験を踏まえ、ハンナ・アーレントの政治哲学を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ナチス・ドイツについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	戦後政治思想	冷戦期・ポスト冷戦期を概観するなかで、政治思想の現代的展開を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	冷戦について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政策過程論	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
わがくにおける行政機関、とりわけ地方公共団体における政策課題の発見から政策形成段階、政策実施、政策過程の各段階を学修したうえで、その課題を検討する。講義では、行政機関での審議会委員の経験を生かして行政活動の実態についても学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政策形成過程の各段階の問題点を理解している。また、どのような作業や手法があるのか説明できる。

【履修条件】
公務員志望である必要はないが政策形成と実施について関心があること。公共政策論を履修していることが望ましい。

【授業方法】
オンデマインド形式により行う。講義を聞いたうえで、授業内の課題を提出すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策・産業の担い手として公益に資する倫理を学び実践できる。				2							
②	政策過程を批判的・論理的に分析し、説明できる。						2					
③	政策過程に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。							2				
④	効率的、効果的な行政運営などを自ら考案し、提案できる。							2	2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標②③④について自分の言葉で説明できているかを 筆記試験により評価する。		40	40								80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①③④にかかわる説明能力が身についているかを 評価する。	5		10	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	40	50	5							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
必携自治体職員ハンドブック	公職研編集部	公職研	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
メール（fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp）など相談すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	政策過程とはなにか。その問題テーマについて。	政策過程論の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
	この回の到達目標	政策過程について説明できる	
	事前学修	政策過程とはなにか、簡単について調べてみる	120分
	事後学修	分権時代における政策過程とはなにか考えてみる。	120分
2	政策過程とはなにか	行政機関における政策形成、政策実施、政策評価をめぐる現状と課題について学修する	
	この回の到達目標	政策過程について説明できる	
	事前学修	政策形成について調べる	120分
	事後学修	政策形成の課題について明らかにする。	120分
3	行政のサイクルとその意味	行政のサイクルについて学修する。	
	この回の到達目標	行政サイクルについて具体例で説明できる	
	事前学修	自治体の政策の流れについて調べてくる	120分
	事後学修	本日の講義の具体例について整理する	120分
4	政策の立案の前提過程	問題の発見と課題の設定について学修する	
	この回の到達目標	行政課題の設定の流れを説明できる	
	事前学修	行政課題と社会の課題の違いを理解してくる	120分
	事後学修	行政課題について政策的思考について整理する	120分
5	政策の立案のための分析過程	政策課題の分析と明確化、そして狭義の政策立案について学修する	
	この回の到達目標	政策課題の分析と明確化、そして狭義の政策立案について説明できる	
	事前学修	政策課題について調べてくる	120分
	事後学修	政策立案についてについてまとめる	120分
6	政策の立案における課題発見	問題の発見や課題の設定に関する手法について学修する	
	この回の到達目標	問題の発見や課題の設定に関する手法について説明できる	
	事前学修	問題の発見や課題について復習してくる	120分
	事後学修	問題の発見や課題の設定に関する手法について問題点を書き出す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政策の立案のための情報収集	効果的な情報提供とコミュニケーション実現の手法について学修する	
	この回の到達目標	効果的な情報提供とコミュニケーション実現の手法について説明できる	
	事前学修	新聞から政策課題を抜き出してみる。情報提供の方法について検討する。	120分
	事後学修	講義で行った手法についてまとめる	120分
8	政策実施の研究	政策実施研究の実態について学修する	
	この回の到達目標	政策実施研究の現在について説明できる	
	事前学修	政策実施とはなにか調べてくる	120分
	事後学修	政策立案と政策実施の関係を理解する。政策実施の研究論文を読む	120分
9	規制行政の実施と実態	規制行政の政策実施について学修する	
	この回の到達目標	規制行政の政策実施の方法や課題について説明できる	
	事前学修	規制行政について考察してくる	120分
	事後学修	規制行政の政策実施の方法についてまとめる	120分
10	給付行政の実施と実態	給付行政の政策実施について学修する	
	この回の到達目標	給付行政の政策実施の方法や課題について説明できる	
	事前学修	給付行政について考察してくる	120分
	事後学修	給付行政の政策実施の方法についてまとめる	120分
11	ストリートレベルの実施過程の問題点	ストリートレベルの政策実施について学修する	
	この回の到達目標	ストリートレベルの政策実施のジレンマについて説明できる	
	事前学修	ストリートレベルの公務員の特徴について検討してくる	120分
	事後学修	ストリートレベル特有の政策実施についてまとめる	120分
12	現代の政策実施課題の課題	政策実施過程の現代的課題について学修する	
	この回の到達目標	政策実施過程の現代的課題について議論できる	
	事前学修	今までの議論を整理してくる	120分
	事後学修	政策実施過程の現代的課題について自分なりの見解をしめす	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策評価とはなにか	政策過程システムにおける政策評価の意義について学修する	
	この回の到達目標	政策過程システムにおける政策評価の意義について学修するか説明できる	
	事前学修	前回の議論について理解する	120分
	事後学修	政策評価の構築のための環境整備について検討する。	120分
14	政策過程の応用	政策評価と政策支援について議論し学修する	
	この回の到達目標	政策過程の地域づくりための応用についての可能性について検討する。	
	事前学修	政策過程の地域づくりための応用についての可能性について検討する。	120分
	事後学修	政策過程の応用についての可能性について検討する。	120分
15	全体の総括	これまでの授業で扱った政策過程構築の考え方について学修する。	
	この回の到達目標	これまでの授業で扱った政策過程の基本的な視点について他人に説明できる。	
	事前学修	政策過程制度について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
	事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	政策研究A	担当者	立福 家徳	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この講義では、国家公務員（内閣府）としてNPO法人行政に関わった経験を引きつつ、新しい公共、共助社会において重要な役割が期待される非営利組織（NPO）について、理論と実証を通じて講義を行う。また、適宜ゲストスピーカーからの話題提供を通じて履修者の理解が深まるようにする。なお、講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
非営利組織が現実の社会問題（人口減少、雇用、少子化、高齢化、まちづくり）解決において果たす・期待される役割について説明できるようになるために、経済学に基づく理論的背景について修得する。また、営利企業との違いやミッション、現状について議論できるようになる力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義ノートに基づいて講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、小レポートを2回実施する。また、演習とゲストスピーカーへの質問での極的な授業参加を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	非営利組織における主要な概念や理論を識別することができる。				4		4	4	4			
②	非営利組織のミッションや活動の意義を、論理的に説明することができる。				4		4	4	4			
③	寄付の理論、ボランティアの理論をはじめとする、経済理論を説明することができる。				4		4	4	4			
④	非営利組織（セクター）の活動に対する自分なりの評価、より望ましい状況を論理的に説明できる。				4		4	4	4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、2回行う小レポートにより、到達目標①②③に関わる基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる課題の探求能力が身についているかを評価する。				70							70
討論・発表等	授業中の演習・質疑応答において自分の意見を述べることでできたかを基準に、到達目標①②③にかかわる事例問題の解答能力が身についているかを評価する。	5	5	5								15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	70							100

【課題に対するフィードバックの方法】
期末レポートについては評価のポイント・講評を学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は特に用いない。講義ノートに基づいて講義を行う。参考文献は、その都度必要に応じて紹介する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	国家公務員（内閣府）
実務経験に基づく実践的教育の内容		国家公務員としてNPO行政に携わった経験をふまえ、非営利組織について最新の情報を提供する。また、ゲストスピーカー（NPO関係者）からの話題提供も行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション（非営利組織とは何か）】	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、非営利組織の定義など基礎的事項について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、非営利組織について学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	自分の知っている、聞いたことのある非営利組織（NPO法人等）の団体をインターネット等で調べておくこと。	120分
	事後学修	非営利組織について今まで誤解していた部分・初めて知った部分について整理すること。	120分
2	【営利企業と何が違うか（利潤最大化）】	営利企業との違いを理解するために、営利企業の行動について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済学における営利企業の意思決定について説明できる。	
	事前学修	ミクロ経済学の企業行動について復習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行うこと。	120分
3	【営利企業と何が違うか（費用最小化）】	非営利組織の行動として費用最小化問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ミクロ経済学における費用最小化行動を説明できる。	
	事前学修	前回の講義内容を復習しておく。ミクロ経済学の企業行動について再復習しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行うこと。	120分
4	【非営利組織は何を目的に行動するのか（ミッションとは何か）】	非営利組織の目的としてのミッションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、非営利組織のミッションとビジョンについて説明できる。	
	事前学修	インターネット等で非営利組織（NPO法人等）のミッションを調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、インターネット等で非営利組織（NPO法人等）のミッションを調べ直すこと。	120分
5	【非営利組織は何で評価されるのか、何で評価されるべきか。】	社会的インパクト評価について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、非営利組織の目標や成果について議論することができる。	
	事前学修	インターネット等で社会的インパクト評価について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえ、インターネット等で社会的インパクトを調べ直すこと。	120分
6	【ロジックモデルを作成する】	実際にロジックモデルを作成する。（演習）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自分でロジックモデルが作成できる。	
	事前学修	ロジックモデルについて調べておくこと。	120分
	事後学修	自分の関心のある分野のロジックモデルを作成してみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【非営利組織の雇用】	非営利組織の雇用について政府統計等を用いて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、非営利組織の雇用の状況についてについて説明できる。	
	事前学修	インターネット等で非営利組織の求人・雇用条件等について調べておくこと。	120分
	事後学修	講義内容で紹介したデータについて復習を行うこと。	120分
8	【非営利組織で働くということ】	非営利組織で働くゲストスピーカーから、活動やキャリアについてお話をいただく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゲストスピーカーの話を基に考えを整理することが出来る。	
	事前学修	インターネット等でゲストスピーカーの所属団体について調べてくること。	60分
	事後学修	小レポートを作成すること。	180分
9	【寄付について考える】	寄付の経済理論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、利他的動機の経済理論について説明できる。	
	事前学修	個人の消費行動についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行っておくこと。	120分
	事後学修	授業の最後に提示する練習問題を解いておくこと。	120分
10	【ボランティアについて考える】	ボランティアの経済理論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時間の最適配分の理論と利他的動機について説明できる。	
	事前学修	個人の余暇行動についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行っておくこと。	120分
	事後学修	授業の最後に提示する練習問題を解いておくこと。	120分
11	【ソーシャル・ビジネス（営利と非営利のあいだ）】	ソーシャル・ビジネスについてその定義や事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソーシャル・ビジネスの現状について議論できるようになる。	
	事前学修	インターネット等でソーシャル・ビジネスについて調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて、ソーシャル・ビジネスについて知識を整理すること。	120分
12	【営利企業の社会貢献（CSRの実態と課題）】	CSRについて、経団連の取り組みや、各企業の取り組みについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、企業の社会貢献活動について説明でき、議論できるようになる。	
	事前学修	インターネット等で企業の社会貢献について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて、企業の社会貢献の類型について整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【グローバルな活動について考える】	途上国支援などNGOで活動するゲストスピーカーから、その活動内容やキャリアについてお話を頂く。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゲストスピーカーの話を基に考えを整理することが出来る。	
	事前学修	インターネット等でゲストスピーカーの所属団体について調べておくこと。	60分
	事後学修	小レポートを作成すること。	120分
14	【行政との協働】	指定管理者制度、ふるさと納税による支援等の実情について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、指定管理者制度とふるさと納税について説明でき、そのメリット・デメリットについて議論できるようになる。	
	事前学修	インターネット等で行政とNPOとの協働について調べておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて、行政とNPOの協働について整理すること。	120分
15	【まとめ（非営利組織を取り巻く今日的課題）】	ここまでの講義全体の総括と、非営利組織について学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、非営利組織の意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておくこと。	120分
	事後学修	最終レポートを作成すること。	360分

科目名	政策評価論	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】 わがくにおける行政機関、とりわけ地方公共団体における政策評価を学修したうえで、その課題を検討する。講義では、行政機関での審議会委員の経験を生かして政策評価の実態についても学修する。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 政策評価制度について理解している。また、政策評価をするには、どのような作業や手法があるのか説明できる。

【履修条件】 公共政策論、政策過程定論を履修済みでないと講義の理解はむずかしい。履修する場合は、公共政策の基礎知識を服しておくことが必要である。
--

【授業方法】 オンライン講義形式で行う。その後、課題を各自課題を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義のリアクションペーパーを書くことで、課題の理解を含める。各自の意見を述べるが、その中から特徴的なものを適宜講義で取り上げて解説を加える。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策・産業の担い手として公益に資する倫理を学び実践できる。				2							
②	政策評価を批判的・論理的に分析し、説明できる。						2					
③	政策評価に内在する問題点を発見し、その解決策を提案できる。						2					
④	効率的、効果的な行政運営などを自ら考案し、提案できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標②③④について自分の言葉で説明できているかを 課題により評価する。		20	30	30							80
討論・発表等												
授業への参画度	自分意見を述べることができたかを基準に，到達目標①③ ④にかかわる説明能力が身についているかを評価する	5		10	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	20	40	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーのなかから代表例をとり適宜紹介し回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は利用しない。				

【オフィスアワー】
場所は本館 6 階の研究室。fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会員を多数経験。
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会委員の経験を生かし事例や実務上の問題点などを解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	政策評価論の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
	この回の到達目標	政策評価を学ぶ上での学修技法について説明できる。自ら政策評価について調べることができる。	
	事前学修	シラバスをよく読んでくること。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価とはなにか考えてみる。（2時間）	120分
2	政策評価の意義について	行政機関における政策形成、政策実施、政策評価をめぐる現状と課題について学修する。	
	この回の到達目標	行政機関における政策形成、政策実施、政策評価をめぐる現状と課題について説明できる。	
	事前学修	国と地方の政策評価制度とはなにかネットで調べてくる。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価の整理を行う。（2時間）	120分
3	政策評価の導入の社会的背景	政策評価の導入の背景について、国地方の社会的背景と制度の誕生について学修する。	
	この回の到達目標	社会的背景と政策評価制度導入の契機について説明できる。	
	事前学修	行政の説明責任について調べてくる。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価が導入された背景について整理する。（2時間）	120分
4	政策評価制度の目的	政策評価の目的について学修する。	
	この回の到達目標	政策評価の目的について、国、地方の文書などをもと説明できる。	
	事前学修	政策評価の目的について国と自治体について違いがあるか考察する。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価の目的と導入の背景について合わせて考察する。（2時間）	120分
5	政策評価の対象と手法	政策評価の対象はなにか、またその際の手法・技法について学修する。	
	この回の到達目標	政策体系を理解した上で政策評価の対象について説明できる。	
	事前学修	評価の手法について調べてくる。（2時間）	120分
	事後学修	定性的評価と定量的評価の特性についてまとめる。（2時間）	120分
6	政策評価の動向	政策評価の動向について、先進自治体について学修する。	
	この回の到達目標	政策評価制度の先進自治体について説明できる。	
	事前学修	政策評価は先行自治体について調べてくる。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価の先行例をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	政策評価の動向		政策評価制度の基本的な形、類型について学修する。
	この回の到達目標	政策評価制度の類型について説明できる。	
	事前学修	政策評価の先行事例と国への伝播について検討する。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価制度の傾向についてまとめる。（2時間）	120分
8	政策評価の評価基準		政策評価の評価基準：3Eなどについて学修する。
	この回の到達目標	政策評価の評価基準についてそれぞれ詳細に説明できる。	
	事前学修	政策評価の基準の必要性について考察する。（2時間）	120分
	事後学修	評価基準がどのように機能するのか整理する。（2時間）	120分
9	政策評価シートの構造		政策評価シートの公開、外部評価などについて学修する。
	この回の到達目標	政策評価シートの構造について説明できる。	
	事前学修	自分居住する自治体の政策評価制度についてネットで調べる。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価とアカウンタビリティの確保について検討する。（2時間）	120分
10	政策評価制度の構築		政策評価システムの構築過程の課題について学修する。とくに、地方公共団体での導入過程について学修する。
	この回の到達目標	政策評価制度の構築過程の課題について解決策を説明できる。	
	事前学修	政策評価の構築の障害となるものについて検討する。（2時間）	120分
	事後学修	構築の障害がどのような影響を与えられているのか検討する。（2時間）	120分
11	政策評価制度の構築		政策評価システムの構築過程の課題について学修する。とくに、組織内の弊害について学修する。
	この回の到達目標	政策評価制度の構築過程の組織内の弊害について学修する。	
	事前学修	前回の議論を理解したうえで講義に臨む。（2時間）	120分
	事後学修	構築と様々な主体の役割について理解する。（2時間）	120分
12	政策評価制度の成功への条件		政策評価システムの成功条件をどのように整備すべきか学修する。
	この回の到達目標	政策評価制度の構築のための成功条件について環境条件について説明できる。	
	事前学修	政策評価システムの成功と地域の状況の関係について検討する。（2時間）	120分
	事後学修	成功の条件について整理する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策評価制度の運営継続の条件	政策評価制度の運営継続の条件について学修する。組織内、住民との関係について学修する。	
	この回の到達目標	政策評価制度の運営継続の条件について説明できる。	
	事前学修	前回の議論について理解する。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価の成功の条件について、環境整備について検討する。（2時間）	120分
14	政策評価制度の応用	政策評価制度を利用して、行政運営にどのような改善が必要か学修する。	
	この回の到達目標	政策評価制度の行政運営の改善例を説明できる。	
	事前学修	政策評価の応用についての可能性について検討する。（2時間）	120分
	事後学修	政策評価と政策支援について検討する。（2時間）	120分
15	まとめ	政策評価制度の全体にまとについて学修する。	
	この回の到達目標	政策評価制度の意義、課題について説明できる。	
	事前学修	いままでの学んだ事項を整理し試験に臨む（2時間）	120分
	事後学修	試験でできなかった点を再度勉強しておくこと。（2時間）	120分

科目名	政策法務論	担当者	牛山 久仁彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
本講座では、地方分権の時代にふさわしい自治体行政運営にとって求められる政策法務について講義を行う。今日の自治体において政策法務が求められていることは広く知られており、多くの自治体での実践が行われている。そこで、まず政策法務が求められてきた状況や背景について理解を進め、その意義について考える。その上で、地方分権改革が政策法務に与えた影響や効果、さらには政策法務の具体的な内容や条例論の展開などについて考えたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義を通じて、政策法務とは何かを学び、地方自治の重要性を理解することを目的とする。また、条例制定や政策への取り組みの具体的な取り組みについて学ぶことで、自治体の法システムを学び、説明できるようになることを目標とする。これらは、公務員を志望する学生にとって必要な知識であるが、公務員志望者でなくとも、地域社会で暮らしていく市民としての知識として政策法務を理解する視点もちたい。関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
なし。

【授業方法】
テキストを参照しながら、講義を実施する。関連資料は適宜配布するが、基本的には、講義内容をふまえた学生の自主的なノート作成を求めたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治についての確かな知識を習得し、その考え方や内容を説明することができる				2							
②	地方分権の考え方とその実践としての政策法務について理解し、実践するための必要性について説明できる。				2		2					
③	政策法務の基本的な知識を発展させ、具体的な政策に結びつけることができる						2	2				
④	政策を実践するための根拠として、自治体の自主的な法令解釈や条例制定の実務についての知識を習得し、実践することができる。						2	2				
⑤	政策法務の実践によって、住民生活を守り、発展させる取り組むことの必要性について理解し、説明することができる。				2			2				
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施し、講義内容についての知識の習得度を 確認する。	10	20	20	10	10						70
小テスト等	定期的に実施するリアクションびペーパーによって、講義 内容についての理解度を確認する。	2	2	2	2	2						10
レポート等	予定していない。											
討論・発表等	講義後半で行うグループワークによって、条例制定の実務 や政策形成のあり方について議論する。			5	5	5						15
授業への参画度	講義への出席状況を質問などの状況から、講義科目につい ての意欲を確認する。	1	1	1	1	1						5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		13	23	28	18	18						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内容についてのリアクションペーパーやグループらワークによる問題提起に対して、適宜コメントやペーパーを用いてフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
自治・分権と地域行政	今川晃・牛山久仁彦	芦書房	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜12：10～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義全体の概要と目的 導入講義	講義の内容やスケジュール、成績評価の方法、テキストなどについて説明する。あわせて、講義の全体像を示し、学習の方法や研究姿勢などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	①～⑤の到達目標を実現するため、全体の講義を通じて理解すべき内容の概略を理解する。	
	事前学修	シラバスの内容を確認すると共に、教科書の目次で、事前に全体の内容を確認する。	120分
	事後学修	講義スケジュールなどについて確認し、各自の学習計画を立てる。	120分
2	地方自治の概念	地方自治の必要性と自治体行政のあり方についての概略を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治の基本を理解する。	
	事前学修	地方自治とはいかなるものかについて、自分の経験や新聞等のニュースを通じて考えてくる。	120分
	事後学修	地方自治がなぜ必要かという点についての理解ができたかどうか、講義ノートを通じて振り返る。	120分
3	戦前における日本の地方制度	戦前の日本の地方制度について講義をする。この回では戦前の地方行政制度について、明治憲法下での特徴を、その官治集権的な体制に着目して解説すると同時に、戦後の地方自治に引き継がれている側面にも留意したい。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦前の地方自治制度をふり返り、その課題と意義について理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、戦前日本の国家体制と地方制度についての理解を進める。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、戦前の地方制度の特徴をまとめる。	120分
4	地方自治と憲法	日本の戦後の地方自治改革について講義をする。日本国憲法の制定によって日本の地方自治の確立が図られ、法制度が整備された。そこで、ここでは日本国憲法における地方自治の規定について確認し、その意義を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、今日の地方自治制度の基本となる法と制度についての知識を習得する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、戦後日本の地方自治制度の成立の背景などについて事前に把握する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認すると共に、憲法の該当条文を見直して講義内容を整理する。	120分
5	高度経済成長と地方自治	高度経済成長期の日本の地方自治の状況について講義をする。高度経済成長期、日本の地域社会は大きく変貌を遂げ、自治体のあり方にもさまざまな影響を与えた。そこにおいて、自治体が問われた都市問題等への対応について概説し、自治体の政策法務が発展したことについて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①および②に関連して、高度経済成長がもたらした地方自治をめぐる状況の変化とその背景、および自治体による政策法務への取り組みについて理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、高度成長期の自治体の政策的な取り組みについて考える。高度成長期の日本の状況について、基本的な知識を習得しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体における政策法務の芽生えについて知識を整理する。	120分
6	「地方の時代」と自治体	80年代における、日本の地方自治の発展と課題について講義をする。「地方の時代」と称される80年代に、自治体が直面した政策課題と、そこに生じた課題などについて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①および②に関連して、「地方の時代」の下での地方自治の発展と課題について理解し、自治体が行った政策についての知識を習得する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、「地方の時代」の下での自治体の状況についての事前の理解を深める。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、80年代の日本の自治体の政策的な取り組みと直面した課題について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方分権をめぐる背景と状況		1990年代に地方分権改革が進められた背景と状況について講義を行う。あわせて、日本の国と地方の関係が変化することの意味を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、地方分権が求められた日本社会の変化と直面した課題について学び、地方分権の必要性について理解を深める。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、地方分権改革が進められた背景と状況について学習しておくことが望ましい。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、地方分権とは何だったのかを整理する。		120分
8	地方分権改革の推進		2000年4月に施行された分権一括法によって、どのように地方自治のあり方が変化したのかを解説する。この回では、主に機関委任事務の廃止について論じ、新しい国と自治体の関係について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、地方分権改革によって生じた変化と、それが政策法務に与えた影響について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、地方分権一括法の全体像について把握しておく。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、機関委任事務の廃止がもつ意味と自治体政策の変化について整理する。		120分
9	地方分権改革と国地方関係の変化		8回目につき、分権一括法による自治体の変化について論じる。この回では、国の関与の改革による国と自治体の関係変化について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②と③に関連して、地方分権改革による国地方関係と係争処理のあり方について、理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、「国の関与」とは何かについての基本的な知識を事前学習しておきたい。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、「国の関与」の改革を通じて、国と地方の関係がどのように変わったのかを整理しておく。		120分
10	自治体の条例制定		自治体の条例制定権について、地方自治法の規定を基に解説する。自治体独自の法創造の視点から、条例制定権についての理解を進めたい。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、自治体が条例制定を行うことの根拠と意義について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体条例にはどのようなものがあるかを知っておく。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体が条例制定権をもつことの意味と役割を整理する。		120分
11	自治体の政策形成		自治体が行き組んだ「要綱行政」の意義と課題について講義を行う。自治体が直面した政策法務の課題と、その発展方向について、具体的な取り組みを例に論じる。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、1970年代以降にみられた自治体の自主的な政策法務への取り組みのひとつである「要綱行政」の意義と限界について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、1970年代の自治体の「要綱行政」の取り組みについて、その歴史的背景や内容について予習しておく。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、「要綱行政」の意義と限界について整理する。		120分
12	自治体による政策法務の実践		自治体が行き組んだ「要綱行政」の意義と課題について講義を行う。自治体が行き組んださまざまな政策や条例の事例を分析し、その意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③と④に関連して、自治体が行き組んださまざまな政策や条例の事例を分析し、その意義について理解する。		
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体の具体的な取り組み事例について概観しておく。		120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体の取り組み事例を振り返ると共に、その意義と発展方向について確認する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自治体政策法務の具体的検討①	自治体の政策と条例についての実践的な理解を深めるため、グループワークにより意見交換を行いながら政策と条例について考える。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑤に関連して、これまで得た知識を実践的な課題に結びつけ、政策としてまとめあげることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を事前に読み、あるいは新聞記事などから地域の課題や自治体の政策についての事例等、事前の概略的な知識を習得する。（2時間）	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、自治体にとっての政策の意味や評価のあり方について整理する。（2時間）	120分
14	自治体政策法務の具体的検討②	政策法務の実践を通じて生じる自治体行政の組織や体制の変化と、分権時代にふさわしい今後の自治体のあり方についてグループワークを通じて考える。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑤に関連して、これまで得た知識を実践的な課題に結びつけ、政策としてまとめあげるとともに、その根拠となる条例制定につなげることができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を整理し、そこに生じている課題や問題点について考えておくことが望ましい。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認し、これからの自治体行政組織等のあり方について整理しておく。	120分
15	政策法務についての理解度の確認 まとめ	自治体政策法務の全体的なまとめを行い、時間内に実施する試験を通じて、最終的な受講生の知識の習得状況を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤までの全体的な内容について、理解度を確認し、不足する部分があれば今後の学習の課題として整理する。	
	事前学修	ここまでの講義内容の全体像についてふり返り、問題意識を整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを全体的に確認し、理解を深める。	120分

科目名	政治学 I	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・真淵勝・久米郁男	有斐閣	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分	
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	
2	「組織された集団（1）：鉄の三角同盟」		理容所と美容所の事例を参考に、業界団体、官僚、政治家の三者間で業界の利益を擁護する同盟関係が構築されている点を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、業界団体、官僚、政治家の三者がなぜ同盟関係を結ぶのか、という点を説明できる。		
	事前学修	教科書の「第1章 組織された集団」の「1 鉄の三角同盟」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、改めて、業界団体、官僚、政治家の三者間の同盟関係について説明できるようにまとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
3	「組織された集団（2）：少数者たちが支配する？」		業界団体、官僚、政治家の三者間による同盟関係（鉄の三角同盟）に関して、集団理論および多元的民主主義理論の視点から見た場合にどのように理解できるのか、また、フリー・ライダーの可能性が少数者の優位をもたらすのはなぜか、という点を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、業界団体、官僚、政治家の鉄の三角同盟を集団理論および多元的民主主義理論の視点からどのように把握できるのか、またフリー・ライダーの可能性が少数者優位をもたらすのはなぜかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第1章 組織された集団」の「2 少数者たちが支配する？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、鉄の三角同盟に関する集団理論および多元的民主主義理論の理解、およびフリー・ライダーの可能性と少数者優位の関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
4	「官と民の関係（1）：規制緩和と何が変わったか？」		電話事業の事例を見ながら、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第2章 組織された集団」の「1 規制緩和と何が変わったか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「自然独占」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
5	「官と民の関係（2）：市場の失敗・政府の失敗」		市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのか、という点を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第2章 組織された集団」の「2 市場の失敗・政府の失敗」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「公共財」および「情報の非対称性」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
6	「大企業と政治（1）：大企業が政治を支配している？」		財界が政治に対してどのような影響力を及ぼしているのか、その反対に政治は財界をどのようにコントロールしているのか、という点を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、財界に政治に対する影響力、および政治による財界の支配がどのように行われているのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第3章 大企業と政治」の「1 大企業が政治を支配している？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互の一般的な影響力関係についてまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「大企業と政治（2）：大企業の構造的な影響力と政治的紛争」	財界と政治の相互の影響力関係について、「製造物責任法」の制定過程や影響力の分布調査から浮かび上がるより実際の関係性について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、財界と政治の相互の影響力関係が経験的な事例から見てどのようなものであるのかを説明できる。	
	事前学修	教科書の「第3章 大企業と政治」の「2 大企業の構造的な影響力と政治的紛争」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互のより具体的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
8	「選挙と政治（1）：政策で選挙は戦えるか」	政策投票とはどのような投票行動であり、実際に政策投票を行うことの困難さについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、政策投票とはどのような投票行動であるのか、また政策投票を行うことに伴う困難さについて説明できる。	
	事前学修	教科書の「第4章 選挙と政治」の「1 政策で選挙は戦えるか」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政策投票の特徴や実際に行うことの困難さについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
9	「選挙と政治（2）：政策に代わる手がかりは」	有権者の投票行動に関して、政策以外の決定因として候補者の個人的資質や政党がどれだけ効いているのか、および戦後の日本の政党対立がどのような軸に沿って展開されてきたのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、有権者の投票行動において候補者の個人的資質や政党がどれだけの影響力を持つのか、また戦後の日本政治の対立軸がどのようなものであったのか説明できる。	
	事前学修	教科書の「第4章 選挙と政治」の「2 政策に代わる手がかりは」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、候補者や政党支持に基づく投票行動モデルにはどの程度の説明能力があるのか、また戦後の日本の政党対立はどのような軸に沿って展開されてきたのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
10	「地方分権（1）：自治体には2つの役割がある」	パスポートの発券や沖縄米軍基地用地の代理署名などの事例を踏まえて、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第5章 地方分権」の「1 自治体には2つの役割がある」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における機関委任事務が抱えていた長所と短所について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
11	「地方分権（2）：国と地方の相互依存」	地方自治体の権限の決め方として挙げられる「制限列举方式」と「包括授權方式」がどのような特徴を持つのか、また戦後の日本の中央地方関係ではどちらの方式が採用されどのような特徴を示していたのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、地方自治体の権限に関する2つの方式の長所と短所、および戦後の日本における地方自治体の権限の特徴について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第5章 地方分権」の「2 国と地方の相互依存」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、地方自治体の権限に関する「制限列举方式」と「包括授權方式」の特徴、および戦後日本の地方自治体の特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
12	「マスメディアと政治（1）：マスメディアは政治を動かす？」	実際の事例においてマスメディアが政治に対してどれだけの影響力を発揮したのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞では違いがあるのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、政治に対するマスメディアの影響力がどのようなものであり、マスメディアにおける政治的中立性の扱いの違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「1 マスメディアは政治を動かす？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアの政治に対する影響力がどのように発揮されたのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞ではどのように対応しているのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「マスメディアと政治（2）：マスメディアは誰の味方か？」	マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「2 マスメディアは誰の味方か？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、その連携関係がもたらす影響について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
14	「講義のまとめ」	教科書の第1章から第6章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各章で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
	事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	180分
15	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学 I	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治をはじめとする社会現象に対して日常的に関心を持ち、それらについて理論的に考える姿勢を意識してもらいたい。

【授業方法】
PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを評価する。	10	30	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基 準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につ いているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通した試験の解説によって、講義のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治学 補訂版	久米郁男・川出良枝 ほか	有斐閣	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを確認して、講義内容全体を概観する。	100分
	事後学修	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味について考える。	140分
2	政治と経済	現代経済の中核である市場のプラス面とマイナス面を理解したうえで、それらに対する政治や政府の対応を学び、政治と経済の関係について考える。特に、「市場の失敗」が社会に与える影響やそれに対する政府の取り組みに注目して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、「市場の失敗」をキーワードとして、政治と経済の関係性について、説明することができる。	
	事前学修	教科書第2章「政治と経済」を読み、政治と経済の関係性について考える。	120分
	事後学修	講義内容や教科書（第2章）を参考として、「なぜ市場は失敗するのか」「失敗するにもかかわらず、なぜ市場は重視されるのか」「市場の失敗に対して、政治や政府は何を行うべきなのか」という問いについて考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
3	自由とは何か	ジョン・ロックからジョン・スチュアート・ミル、そしてジョン・ロールズにいたる自由主義思想について、「自由」の意味の変化に注意を払いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自由主義の諸理論を識別することができる。	
	事前学修	教科書第3章「自由と自由主義」を読み、「自由」に関してさまざまな考えがあることを理解する。	120分
	事後学修	政治・経済・社会的背景の変化を考慮しながら、「自由」の意味が変化してきた理由について考え、自分なりの見解をまとめる。	120分
4	福祉国家の役割とその意味	福祉政策が求められるようになった背景やその基礎となっている理念、福祉国家の形式、そして福祉政策・福祉国家が直面している問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、福祉国家に関する諸理論と現在直面している問題について説明することができる。	
	事前学修	第2回講義の内容を振り返りながら、教科書第4章「福祉国家」を読む。	120分
	事後学修	福祉政策が求められる理由を考えることを通して、現代の国家や政治の果たすべき役割や責任について考察し、自分なりの見解をまとめる。	120分
5	国家とは何か	前近代の国家との違いを意識しながら近代国家の特徴について理解し、それを支えるさまざまな理念について学修する。また、国家の活動に必然的に付随する権力に関する諸理論について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前近代の国家と比較しながら、近代以降の国家の特質について説明することができる。	
	事前学修	教科書第5章「国家と権力」を読み、国家の役割について考えてみる。	120分
	事後学修	教科書第5章を参考にしながら、近代国家のプラスの側面とマイナスの側面について考察し、自分なりの見解をまとめる。また、国家の「正統性」についても考える。	120分
6	公と私	政治や社会における「公」と「私」の意味について考えたうえで、市民社会のあり方やナショナリズム・民族の問題について学ぶ。また、その中で、フェミニズム研究が果たした役割についても学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治における「公（公共性）」の重要性について、「官」との違いを区別しながら、説明することができる。	
	事前学修	前回講義の内容を振り返りながら、教科書第6章「市民社会と国民国家」を読む。	120分
	事後学修	教科書第6章や講義内容を参考にしながら、現代の国家における「公（公共性）」について考えてみる。その際、「公」と民族、国家と民族の関係性についても考察を行い、自分なりの見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国際関係を考える		主権の意味と、主権国家概念形成の過程について学ぶ。そのうえで、現代の国際関係を考える際の基本的概念について学習する。	
	この回の到達目標	主権の意味と、主権国家概念形成の過程について学ぶ。そのうえで、現代の国際関係を考える際の基本的概念について学修する。		
	事前学修	教科書第7章「国内社会と国際関係」を読み、前回講義の内容も参考にしながら、国際関係と民族の問題について考える。		120分
	事後学修	前回の講義内容もあわせて参考にしながら、近代国家が形成される過程で民族という概念が果たした役割と弊害の両方について考える。		120分
8	安全保障のか？		「四人のジレンマ」や勢力均衡、民主的平和論といった安全保障に関する主な理論や概念について学んだうえで、冷戦後の国際秩序や日本の安全保障について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際政治に関する諸理論を識別することができる。		
	事前学修	教科書第8章「国際関係における安全保障」を読むとともに、近代から今日にいたる歴史の中で発生したさまざまな戦争や国際紛争を振り返る。（2時間）		120分
	事後学修	「現代の国家が取り組むべき安全保障において、守られるべきものは何なのか」という問いを意識しながら、教科書第8章を読み返し、講義内容を再確認する。（2時間）		120分
9	グローバリゼーションがもたらしたもの		グローバリゼーションのプラスとマイナスについて、特にそれによってもたらされた格差問題について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グローバリゼーションの功罪双方について説明することができる。		
	事前学修	教科書第9章「国際関係における富の配分」を読んだうえで、インターネットなどを使って「グローバリゼーション」について調べる。		120分
	事後学修	教科書第9章や講義内容を参考として、経済学的視点ではなく、政治学的視点で、「格差は仕方ないことなのか、それとも解消されなければいけないことなのか」について考え、自分なりの見解をまとめる。		120分
10	立法部（国会）の役割と機能		アメリカとイギリスの議会制度の比較を通して、議会の制度と特徴について学ぶ。さらに、日本の議会（国会）の特徴と問題点、そして議会に不可欠な政党の意味と役割について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界国家の議会政治と日本の議会政治を対照させて、それぞれの特質について説明することができる。		
	事前学修	教科書第10章「議会」を読み、世界各国の議会制度の違いについて概観する。		120分
	事後学修	日本の議会政治（国会）に対する一般的評価は決して高くないが、それは議会政治の本質的特徴を原因としたものだろうか、それとも日本の国会特有の問題なのだろうか。教科書第10章の内容や講義内容を参考にして考察する。		120分
11	日本の内閣制度		戦前の内閣制度を理解したうえで、それと比較しながら現在の内閣制度の特徴について学ぶ。また、日本やイギリスのような議院内閣制とアメリカのような大統領制における執政部の性格の違いを学習し、それぞれの長所と短所について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史的変遷や国際比較等も意識しながら、日本の内閣制度の特徴について説明することができる。		
	事前学修	教科書第11章「執政部」を読むとともに、インターネットなどを利用して日本の内閣と国会の関係をうかがえる記事を探してみる。		120分
	事後学修	日本の内閣制度の変遷、とりわけ小選挙区制導入以降の変化に注目しながら、首相や内閣のリーダーシップのあり方について、自分なりの見解をまとめる。		120分
12	官僚制		マックス・ウェーバーによる伝統的な官僚制定義を学んだうえで、官僚制が本質的に有している問題点を把握し、それへの対策としての新たな官僚制のあり方（NPMなど）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近代官僚制の有する優位点と問題点の双方について、比較考察しながら、説明することができる。		
	事前学修	教科書第12章「官僚制」を読み、官僚制の利点と欠点について把握する。		120分
	事後学修	教科書第12章や講義内容を再確認して、現在の日本においてしばしば官僚制が批判されている理由について考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の地方自治	「中央と地方」をキーワードとして、日本の地方分権について学修する。その際、とりわけ2000年頃より進められてきた地方分権改革の内容とその現在について取り上げ、中央と地方の不均衡や格差の問題について詳しく学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治が直面している問題点と地方分権改革の現実について、説明することができる。	
	事前学修	教科書第13章「中央地方関係」を読むとともに、報道などを検索して、現在地方が抱えている諸問題を洗い出す。	120分
	事後学修	教科書第13章や講義内容を参考として、中央と地方の間に生じた不均衡の理由について考察する。	120分
14	グローバル・ガバナンス	ネオ・リアリズムや覇権安定論といったグローバル・ガバナンスに関する基本的な理論を学び、さらに環境問題に代表される世界規模の諸問題に世界や各国がどのように対処していくべきなのか考えていく。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、グローバル・ガバナンスに関する諸理論について理解し、世界的問題に対する自分なりの考えを説明することができる。	
	事前学修	教科書第14章「国際制度」を読み、国内におけるガバナンスと世界規模でのガバナンスの違いについて考える。	120分
	事後学修	第9回講義の内容もあわせて参考として、国際社会の安定に必要な制度的枠組や各国の取り組みについて考える。	120分
15	期末総括	これまでの講義内容を総括的に再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義内容を有機的に総括し、政治学を学ぶ意義について論述することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。	100分
	事後学修	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。	140分

科目名	政治学 I	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。また、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。毎回の授業の課題の提出および出席管理システム（レスポん）を利用しての出席管理も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、身につけているかを毎回の授業内課題や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	20	20	20	20							80
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関して、小テスト、リアクションペーパーやレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デモクラシーの政治学[増補版]	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00 （事前にメールでアポイントメントをとること）。suzuki.takashi●nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	政治とは何か		政治学について理解するために、政治、政治学とは何かについて学修する。また、政治学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講義で取り上げる政治について説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の34～36頁を読み、政治について自分の考えをまとめる。		60分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治について自分の考えを述べられるようになる。		120分
2	政治学とは何か		今後学んでいく政治学についてよりよく理解するために、社会科学における位置づけや特質等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政治学の社会科学における位置づけや特質等について概説できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、政治学について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治学について自分の考えを述べられるようになる。		120分
3	伝統的政治学と現代政治学の確立		現代政治学を学ぶための基礎的な知識を養うために、伝統的政治学や現代政治学の確立について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、伝統的政治学や現代政治学の確立について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えを述べられるようになる。		120分
4	現代政治学の展開		現代政治学を学ぶために、基礎的な知識として現代政治学の展開について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、現代政治学の展開について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、現代政治学の展開について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、現代政治学の展開について自分の考えを述べられるようになる。		120分
5	デモクラシー		政治学に関してよりよく理解するために、基礎的な概念の一つであるデモクラシーについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、デモクラシーについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、デモクラシーについて自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、デモクラシーについて自分の考えを述べられるようになる。		120分
6	政治権力		政治学に関してよりよく理解するために、基礎的な概念の一つである政治権力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、政治権力について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、政治権力について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治権力について自分の考えを述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	支配、権力構造		政治学に関してよりよく理解するために、政治権力の行使に関係する支配や権力構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、支配や権力構造について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、支配や権力構造について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、支配や権力構造について自分の考えを述べられるようになる。		120分
8	リーダーシップ		政治学に関してよりよく理解するために、政治学における基礎的な概念の一つであるリーダーシップについて学修する。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、リーダーシップについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、リーダーシップについて自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、リーダーシップについて自分の考えを述べられるようになる。		120分
9	市民社会の誕生		政治における国家の役割や政治の発展と社会状況等の変化について理解するために、市民社会の誕生について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、市民社会の誕生について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、市民社会の誕生について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、市民社会の誕生について自分の考えを述べられるようになる。		120分
10	市民社会の政治		現代の政治状況について理解するために、市民社会の政治とその終焉について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、市民社会の政治とその終焉について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、市民社会の政治とその終焉について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、市民社会の政治とその終焉について自分の考えを述べられるようになる。		120分
11	大衆社会の成立		現代の政治状況について理解するために、その基礎となる大衆社会の成立とその制度的特徴について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、大衆社会の成立とその制度的特徴について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えを述べられるようになる。		120分
12	大衆社会の構造や心理		現代の政治状況について理解するために、現代政治社会の基礎となる大衆社会の構造や心理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、大衆社会の構造や心理について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、大衆社会の構造や心理について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、大衆社会の構造や心理について自分の考えを述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	議院内閣制	政治制度について理解するために、権力分立や議院内閣制の生成と展開について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、権力分立や議院内閣制の生成と展開について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	イギリスの議院内閣制	わが国の政治制度について理解するために、議院内閣制の代表であるイギリスの制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、議院内閣制の代表であるイギリスの制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、イギリスの議院内閣制の特徴について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、イギリスの議院内閣制について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	現代政治の制度や状況等についてよりよく理解するために、これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代の政治の基礎となる概念や政治状況、政治制度を考慮し、政治のあり方について自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	180分

科目名	政治学 I	担当者	松元 雅和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、期末レポートにより評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『公共の利益とは何かー公と私をつなぐ政治学』	松元雅和	日本経済評論社	2021年11月	教科書	推奨
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	教科書序章を読む。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	政治とは何か	政治を「集合的意思決定」として理解しつつ、その特徴を権力と公共性の立場から概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第1章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	公共の利益	政治において用いられる公共の利益概念を類型化し、それぞれの特徴を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	自由主義	自由主義の思想的特徴を概観したうえで、社会契約・市場経済の論理を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	民主主義	民主主義の思想的特徴を概観したうえで、有権者の合理性やポピュリズム現象について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	権力分立	権力機構の分割という考え方を、権力論および三権分立論の再検討とともに概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	議会		近代民主主義が採用する代議制の特徴を代表観の複数の類型とともに説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
8	執政部		議院内閣制と大統領制の制度的違い、および行政国家化のもとでの執政権について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第7章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
9	官僚		行政府の主要アクターである官僚（制）の機能を、歴史的経緯も交えつつ概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第8章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
10	選挙		様々な選挙制度がもつメリット・デメリットを確認し、有権者の投票行動の分析モデルを提示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第9章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
11	政党		現在の議会政治において主要な役割を果たす政党を組織化の論理の観点から論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第10章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分
12	団体		団体政治の性質とその是非を、多元主義およびコーポラティズムの区別とともに検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第11章を読む。		180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中央地方関係	権限配分および資源配分の観点から、現代日本の中央地方関係を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第12章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	国際関係	主権国家体制の成立を歴史的に跡づけながら、グローバル化時代の国際政治現象を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第13章を読む。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治学 I	担当者	三澤 真明	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②③④に関わる基礎知識や積極的な学修態度を評 価する。		10	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『デモクラシーの政治学（増補版）』	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、火曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	政治と政治「学」	政治とは何かについて、特にD. イーストンの定義をを説明するとともに、社会科学の一分野としてのな政治「学」とは何かを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治とは何か、学問とは何かを説明することができる。	
	事前学修	新聞、テレビ、インターネットなど様々な媒体を用いて、どのような問題が政治として取り上げられているかを確認しておく。	120分
	事後学修	新聞、テレビ、インターネットなど様々な媒体を用いて、自身が関心をもった政治問題について、どのような意見対立があり、どのような決定が下されようとしているのかを調べる。	120分
3	政治学の展開	アリストテレスやマキャベリの研究を通じて、政治学の分析対象の変遷や彼らの研究の方法論がどのようなものであったのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治学の分析対象の変遷を説明することができる。	
	事前学修	アリストテレスやマキャベリが生きてきた時代背景を知るために、古代ギリシアや中世ヨーロッパの歴史を確認しておく。	60分
	事後学修	アリストテレスやマキャベリが執筆した『政治学』や『君主論』のうち、いずれかを実際に手に取って読んでみる。	180分
4	科学としての政治学	第二次世界大戦以降、伝統的政治学の研究対象や方法論が大きく変化してきたことを取り上げ、行動論革命や脱行動論革命が政治学に対してどのようなインパクトを与えたのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行動論革命と脱行動論革命とは何かを説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業内容を基にして、学問とは何かを確認し、他分野と政治学の違いを考えてみる。	90分
	事後学修	授業内容を確認した上で、政治学が社会に対して貢献できることは何かを考えてみる。	150分
5	政治システム論	D. イーストンの政治システム論とは何かを検討することで、政治学上、政治システム論がどのようなインプリケーションが持っていたのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の構成要素や意義を説明することができる。	
	事前学修	第4回の授業内容を基にして、行動論革命の特徴を整理しておく。	90分
	事後学修	D. イーストンの政治システム論が行動論革命の中で、どのように位置づけられるのかをまとめる。	150分
6	政治権力	実体的権力概念や関係的権力概念を検討することで、権力行使には様々な様態があり、支配の正統性と密接な関係にあることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2つの権力概念、支配の三類型を説明することができる	
	事前学修	いわゆる「権力者」と呼ばれる人物を一人取り上げて、なぜそう呼ばれるのかを調べておく。	120分
	事後学修	各国の指導者と国民の関係について、支配の三類型に照らして分析し違いをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	リーダーシップ論	指導者が支持を調達を手段として、どのようなリーダーシップを発揮しているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リーダーシップの諸類型を説明することができる。	
	事前学修	歴史上の著名なリーダーがなぜ評価されているのかをまとめておく。	120分
	事後学修	歴史上の著名なリーダーをリーダーシップの諸類型に基づいて分類してみる。	120分
8	市民革命と市民社会	市民革命を経て絶対王政から政治体制が変動したことによって、一部の特権階級から市民層が政治の担い手となっていったことを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治学における「市民」概念を説明することができる。	
	事前学修	イギリスにおけるピューリタン革命と名誉革命、フランスにおけるフランス革命の流れを概観しておく。	120分
	事後学修	イギリス、フランスにおける市民革命とドイツ三月革命の違いを調べる。	120分
9	市民社会と大衆社会	市民社会の成立によって、政治体制が大きく変動したものの民主主義を実現する上で課題が残されていたことを説明する。その背景に、市民社会から大衆社会への移行があったことを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市民社会に残された課題と大衆の特質を説明することができる。	
	事前学修	各国の参政権について、普通選挙の実現がいつなされたのかをまとめておく。	120分
	事後学修	大衆社会の問題点を検討してみる。	120分
10	民主主義論①	多義的な意味をもつ言葉として使われる「民主主義」の定義を説明するとともに、シュンペーターやダールの理論を基にして、民主主義と非民主主義の違いを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、現代の各国の政治体制が民主主義であるか否かを説明することができる。	
	事前学修	日本の政治や報道などの中で、「民主主義」がどのような使われ方をしているのかをまとめておく。	120分
	事後学修	Freedom HouseやPolity IVなどを使用し、世界各国の民主主義について考えてみる。	120分
11	民主主義論②	民主主義がバリエーションに富んだものであることを理解するために、A. レイプハルトの議論を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、多極共存型民主主義と多数代表型民主主義とは何かを説明できる。	
	事前学修	イギリスとスイスの政治システムを調べ、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	レイプハルトの理論に基づく日本の民主主義は、どのように位置付けられるのかを検討する。	120分
12	執政制度①	議院内閣制、大統領制、半大統領制の制度的違いを説明するとともに、各執政制度が政治的安定性に与える影響を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議院内閣制と大統領制を区別する解任と選出のルールを説明することができる。	
	事前学修	首相がいる国、大統領がいる国、両者が併存する国を調べ、整理しておく。	120分
	事後学修	日本において、望ましい執政制度は何かを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	執政制度②	議院内閣制や大統領制は、政権形態や政党の凝集性、大統領に与えられた権限によって、様々なバリエーションを有していることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、大統領制化の理論を説明することができる。	
	事前学修	日本とイギリスの政党について調べ、それぞれの特徴を整理しておく。	120分
	事後学修	日本において自民党と民主党が政権を担当した時期を、政党の凝集性の観点から比較してみる。	120分
14	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を考える際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・真淵勝・ 久米郁男	有斐閣	2009	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分	
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分	
2	「国会（１）：ねじれ国会」		議院内閣制と大統領制の制度的相違を踏まえて、日本の国会で与党に対して野党がどのような抵抗を取ってきたのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会において野党が与党に対してどのような抵抗を取ってきたのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第7章 国会」の「1 ねじれ国会」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会における野党の抵抗手段について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
3	「国会（２）：国会の影響力」		自民党一党支配体制の時代の内閣提出法案の成立率を参照しながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能になってきたのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日本の国会において野党の抵抗がなぜ可能であるのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第7章 国会」の「2 国会の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能なのか、そして与党の対抗手段である強行採決にはどのような制約があるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
4	「内閣と総理大臣（１）：総理大臣と大統領」		議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領は選ばれ方にどのような違いがあり、それぞれの政治的役割はどのようなものであるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、議院内閣制と大統領制における執政部の長の選出方法および政治的役割の相違を説明できる。		
	事前学修	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「1 総理大臣と大統領」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領の選ばれ方、および政治的役割の相違について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
5	「内閣と総理大臣（２）：総理大臣の影響力」		議院内閣制下の首相にはどのような影響力資源があるのか、そしてその影響力資源をいかに活用できるのか、あるいはできないのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、議院内閣制下の首相の影響力資源にはどのようなものがあり、それらの資源をどのような場合に活用できるのかを説明できる。		
	事前学修	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「2 総理大臣の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相がどのような影響力資源を持ち、それらの影響力資源をいかに活用できるのか、あるいは活用できないとればなぜかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
6	「官僚（１）：大臣と官僚のバトル」		日本における大臣と官僚の間にはどのような関係性が見られるのか、その関係性を規定する要因には何があるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本における大臣と官僚の関係性がどのようなものであり、その関係性を規定する要因について説明できる。		
	事前学修	教科書の「第9章 官僚」の「1 大臣と官僚のバトル」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における大臣と官僚の関係性を規定する要因にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「官僚（2）：キャリア官僚のキャリア」	キャリア官僚と呼ばれる官僚たちはどのようなキャリアパスを経ているのか、キャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、キャリア官僚のキャリアパスがどのようなものであるのか、またキャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのかを説明できる。	
	事前学修	教科書の「第9章 官僚」の「2 キャリア官僚のキャリア」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、キャリア官僚のキャリアパスにはどのような特徴があるのか、またその弊害にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
8	「冷戦の終わってからテロとの戦いへ（1）：戦後の国際環境」	第二次世界大戦後の国際社会がどのような基本構造をもつものであったのか、そしてその基本構造はそれぞれどのような特徴をもつものであったのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、第二次世界大戦後の国際社会の基本構造について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第10章 冷戦の終わってからテロとの戦いへ」の「1 戦後の国際環境」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の国際社会における基本構造である「冷戦構造」と「自由貿易体制」がどのように構築され、どのような特徴をもっていたのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
9	「冷戦の終わってからテロとの戦いへ（2）：日本の対外政策」	第二次世界大戦後の日本の対外政策がどのように形成され定着していったのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、第二次世界大戦後の日本の対外政策の形成と定着の過程について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第10章 冷戦の終わってからテロとの戦いへ」の「2 日本の対外政策」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の日本の対外政策がどのように形成・定着していったのか、またその特徴はどのようなものであったのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
10	「経済交渉（1）：貿易は世界を幸せにするか？」	国際貿易の基礎にある「比較優位」の考え方、および対外政策と国内政治の連関について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「比較優位」の考え方、および対外政策と国内政治の連関について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第11章 経済交渉」の「1 貿易は世界を幸せにするか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「比較優位」とはどのような考え方なのか、そして対外政策に国内政治がどのような影響を及ぼしているのかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
11	「経済交渉（2）：経済交渉の行われ方」	日本とアメリカの経済交渉において、アメリカが日本に圧力をかけるアプローチにはどのようなものがあり、どのような特徴をもつのか、実際にそれらのアプローチがとられた経済交渉にはどのような事例があるのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、アメリカが日本との経済交渉において圧力をかけるために用いるアプローチにはどのようなものがあるのか実例を踏まえて説明できる。	
	事前学修	教科書の「第11章 経済交渉」の「2 経済交渉の行われ方」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「構造協議アプローチ」と「管理貿易アプローチ」の特徴について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
12	「国境を越える政治（1）：ビリヤード・ゲームのような国際政治」	市場の失敗の一つである「外部不経済」の特徴がどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐって主権国家がどのような立場に立っているのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、「外部不経済」とはどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐる主権国家の立場について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「1 ビリヤード・ゲームのような国際政治」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「外部不経済」の特徴、および地球環境問題をめぐる国家の対応について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「国境を越える政治（2）：裸になる国家」	国際社会の相互依存関係がどれだけ深化しているのか、またトランスナショナルな国際交流が国際政治にどのような影響をもたらしているのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際社会の相互依存の深化、およびトランスナショナルな国際交流が国際政治に及ぼす影響について説明できる。	
	事前学修	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「2 裸になる国家」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国際的な相互依存関係の深化、およびトランスナショナルな国際交流の国政政治に対する影響について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
14	「講義のまとめ」	教科書の第7章から第12章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各章で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章から第12章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	180分
15	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
同一講師による「政治学I」を履修していることを求める。政治をはじめとする社会現象に対して日常的に関心を持ち、それらについて理論的に考える姿勢を意識してもらいたい。

【授業方法】
PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。						1						
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。						1	1					
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。						1	1	1				
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。						1	1	1	1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを評価する。	10	30	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通した試験の解説によって、講義のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政治学 補訂版	久米郁男・川出良枝 ほか	有斐閣	2011	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。なお、簡単な質疑応答であれば、授業の前後に受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	前期の「政治学I」の講義内容および本講義の内容全体を概観する。	100分
	事後学修	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味を再確認する。	140分
2	国内政治における政策過程	政策過程を学ぶうえで必要な基本的なモデルや分析的な枠組について学ぶ。具体的には、政治における意志決定プロセスのほか、政策課題の設定やそれへのメディアの影響、そしてこれらに関する諸研究について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程論の基本的な理論について説明することができる。	
	事前学修	教科書第15章「政策過程」を読んで、特定の政策が具体化していくプロセスをイメージしておく。（2時間）	120分
	事後学修	講義内容や教科書（第15章）などを参考として、講義で取り上げた諸モデル・諸理論について整理する。（2時間）	120分
3	対外政策における政策過程	対外政策や国際間の意志決定に関する基本的なモデルや分析的な枠組について学ぶ。また、国内の社会や利害関係が対外政策に与える影響についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国内政治における政策過程と比較しながら、対外政策における政策決定過程について説明することができる。	
	事前学修	教科書第16章「対外政策の形成」を読む。そして、前回講義で取り上げた国内政治における政策過程と対外政策における政策過程の違いを考える。	120分
	事後学修	前回講義の内容を再確認して、あらためて国内的な政策と対外的な政策の決定過程の違いについて考察する。	120分
4	国家と制度	国家において制度が持つ意味について、歴史的制度論と合理的選択制度論という2つの制度論から考える。また、合理的選択制度論の学習を通して、実証的で論理的に政治現象を分析する方法を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、歴史的制度論と合理的選択制度論について、正確に説明することができる。	
	事前学修	教科書第17章「制度と政策」を読み、国家という存在が政治において果たしている役割や政治における制度の意味について考える。	120分
	事後学修	講義内容や教科書第17章を参考として、今回の講義で取り上げた諸理論、特に合理的選択制度論について十分に理解する。	120分
5	デモクラシー	古代ギリシアのポリスから近代の代表制デモクラシー、そしてポリアーキーのような現代デモクラシーへといたるデモクラシーの理論的変遷を学ぶ。その他、丸山眞男に代表される日本のデモクラシー論についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、デモクラシーに対する評価の変遷と、市民の主体性の重要性について説明することができる。	
	事前学修	教科書第18章「デモクラシー」を読み、デモクラシーの歴史的変遷や地域的な違いについて簡単に把握しておく。	120分
	事後学修	講義内容や教科書第18章を参考として、デモクラシーに対する評価が時代によって変化してきた理由について考え、デモクラシーに対する自分なりの考えをまとめる。	120分
6	社会契約説とは何か	西洋近代に理論化され、今日のリベラル・デモクラシーの理論的支柱にもなっている社会契約説に関して、代表的な理論家（ホブズ、ロック、ルソー）の思想を中心に、その本質と意義、後世の政治への影響に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会契約説の特質を理解し、個々の論者の政治思想について説明することができる。	
	事前学修	前回講義の内容を振り返り、デモクラシーの歴史と主要な理論について復習する。	120分
	事後学修	講義内容を参考として、政治における「個人」および「作為（人為）」の意味について考え、自分なりの見解をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	フェミニズム	近代政治思想に関してフェミニズムの提起や告発について学び、それらの問題に対してフェミニズムがどのような批判や対案を提示してきたのか、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、フェミニズムの諸理論を理解し、近代以降の政治思想に内在している問題点について指摘することができる。	
	事前学修	第5回および第6回講義の内容を再確認し、西洋の政治学において最も重視されてきた概念やそこでの大前提について考えてみる。	120分
	事後学修	講義内容を参考として、フェミニズムによる諸批判を理解したうえで、近代政治思想が本質的に抱えている問題点を考えてまとめる。	120分
8	投票行動	大衆デモクラシーの成立に伴う市民像の変化が政治学に与えた影響について学修したうえで、いわゆる無党派層の投票行動を中心に近年の選挙で見られる投票行動について考える。また、その中で、行動科学的政治学が成立した背景と意味についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票行動が選挙結果に及ぼす影響について、理論的に説明することができる。	
	事前学修	教科書第19章「投票行動」を読んだうえで、インターネットなどを利用して、近年行われた日本の国政選挙のひとつを取り上げて、投票率などに現れた人々の政治行動について調べる。	120分
	事後学修	なぜ特性の政党を継続的に支持しない無党派層と呼ばれる人々が現れることになったのか、講義の内容を元にして自分なりの考えをまとめる。	120分
9	政治における心理	人々の政治に対する意識といった非制度的要素（政治文化）が政治に与える影響について学修する。また、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が政治の活性化に与える影響について考える。	
	この回の到達目標	人々の政治に対する意識といった非制度的要素（政治文化）が政治に与える影響について学修する。また、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が政治の活性化に与える影響について考える。	
	事前学修	前回講義の内容を踏まえながら、教科書第20章「政治の心理」を概観する。	120分
	事後学修	自分が投票などの政治行動をとる場合、何に基づいて、もしくは何に影響されているのか、自らの実態に沿って考えをまとめる。	120分
10	ポピュリズム	近年、問題視されているポピュリズムと呼ばれる現象の意味と原因、その影響について学ぶ。特に、日本において発生したポピュリズムと呼ばれている政治現象を考察するほか、「民意」の重視とポピュリズムの違いについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ポピュリズムという概念について説明することができる。	
	事前学修	近年、欧米で見られている政治現象のうち、「ポピュリズム」と呼ばれているものがあれば抽出し、インターネットなどを利用してその概要を調べる。	120分
	事後学修	講義内容を参考にして、ポピュリズムとデモクラシーの違いは何なのか、自分なりの見解をまとめる。	120分
11	世論とメディア	世論という言葉の本来の意味を理解したうえで、世論に対するメディアの影響や効果（フレーミング効果など）、そして市民とメディアの関係について考察する。また、世論に対するSNSや各種ネットメディアの効果についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、メディアが政治的事象に与える影響について、自分なりの考えを説明することができる。	
	事前学修	教科書第21章「世論とメディア」を読み、自分が日常的に接しているメディアについて考える。	120分
	事後学修	現在、主に接しているメディア（テレビ・新聞・SNS・ニュースアプリなど）からどのような影響を受けているのか、特に政治や経済、社会に関する事柄に対する自分の意見の形成にそのメディアがどのように影響しているのか考え、まとめる。	120分
12	選挙と政治参加	デモクラシーにおける選挙の役割を考え、そのうえで小選挙区制・中選挙区制・比例代表制といった選挙制度の仕組みについて学修する。それ以外に、住民投票やデモといった選挙以外での政治参加について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、長所と短所の双方を認識した上で、各選挙制度の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書第22章「選挙と政治参加」を読み、各種選挙制度の概要を把握する。	120分
	事後学修	各種選挙制度を比較し、それぞれのプラスの要素とマイナスの要素についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政治における利益団体	政治的意志決定に対する利益団体・圧力団体の影響、特に日本におけるこれらの団体の影響について学修する。また、多元主義やコーポラティズムといった利益政治の各種パターンについても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程において利益団体が果たす役割とその問題点について、説明することができる。	
	事前学修	教科書第23章「利益団体と政治」を読んだうえで、政治（政治家・政府）と利益団体をはじめとする特定の個人・団体との関係でその不適切性が問題視された、近年の事例をピックアップする。（2時間）	120分
	事後学修	講義内容や教科書（教科書第23章）を参考にして、デモクラシーにおける利益団体の利益表出機能がもたらす功罪についてまとめる。（2時間）	120分
14	政党	現代政治・デモクラシーにおいて政党が担っている機能のほか、政党システムやそれに関する各国の状況、デュヴェルジェの法則といった政党に関する諸理論について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党に関する諸理論について説明することができる。	
	事前学修	教科書第24章「政党」を読み、政党に関する諸概念やさまざまな政党システムについて概観する。	120分
	事後学修	選挙制度が政党や政党システムに与える影響（デュヴェルジェの法則）について確認したうえで、日本の政党システムについてまとめる。（2時間）	120分
15	期末総括	これまでの講義内容を総括的に再確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義内容を有機的に総括し、政治学を学ぶ意義について論述することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。	100分
	事後学修	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。	140分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。また、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。毎回の授業の課題の提出および出席管理システム（レスポん）を利用しての出席管理も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。					1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					1	1	1	1				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④に関して、身につけているかを毎回の授業内課題や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	20	20	20	20							80
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関して、小テスト、リアクションペーパーやレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デモクラシーの政治学[増補版]	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。suzuki.takashi●nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	政治過程		政治学について理解するために、政治過程について学修する。また、政治学について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実際のかつ動態的に政治について考えるために、政治過程について理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の147～148頁を読み、政治過程について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政治過程について自分の考えを述べられるようになる。	120分
2	選挙		政治過程について理解するために、選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えを述べられるようになる。	120分
3	投票行動		政治現象を理解するために、投票行動について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、投票行動について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、投票行動について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、投票行動について自分の考えを述べられるようになる。	120分
4	政党		政治現象を理解するために、政党の成立や定義、機能について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党の成立や定義、機能について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、政党の成立や定義、機能について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政党の成立や定義、機能について自分の考えを述べられるようになる。	120分
5	政党と議会		政治過程を動態的に理解するために、政党システムに関する研究や野党について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政党システムに関する研究や野党について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、政党システムに関する研究や野党について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、政党システムに関する研究や野党について自分の考えを述べられるようになる。	120分
6	官僚制		政治過程を理解するために、官僚制について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、官僚制について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、官僚制について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、官僚制について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	圧力団体		政治過程を理解するために、圧力団体について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、圧力団体について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、圧力団体について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、圧力団体について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	マスメディア		政治過程を理解するために、マスメディアについて学修する。これまでの授業についての確認も行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、マスメディアについて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、マスメディアについて自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、マスメディアについて自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	政策過程		実際の政治過程を理解するために、政策過程について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政策過程について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に提示する文献を読み、政策過程について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、政策過程について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	国際政治		政治過程についてより理解するために、一国の政治過程にも影響を与える国際政治について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国際政治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に提示する文献を読み、国際政治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、国際政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	地方自治		実際に起こる政治現象を理解するために、地方自治について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に提示する文献を読み、地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	日本の政治		政治上の諸問題を理解するために、日本の政治について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の政治について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、日本の政治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本の政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の行政	政治上の諸問題を理解するために、日本の行政について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の行政について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に提示する文献を読み、日本の行政について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	授業ノート、関連文献等を参照し、日本の行政について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	日本の地方自治	政治上の諸問題を理解するために、日本の地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、日本の地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、日本の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本の地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治過程におけるアクター等について、より広範囲な視野から、そして詳細な分析の視点から理解し、政治のあり方について自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書等の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	松元 雅和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、期末レポートにより評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準 に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身につい ているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	近代政治原理	自由主義・立憲主義・民主主義がどのように戦後憲法に反映されているかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	近代政治原理前史	近代市民革命の背景として、中世から近世のヨーロッパ政治社会を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	中世・近世について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	自由主義Ⅰ：個人の発見と政府の権威	ホッブズの社会契約説を17世紀前半のイギリスの歴史状況とともに紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	清教徒革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	自由主義Ⅱ：市民的自由と経済的自由	ロックの社会契約説を17世紀後半のイギリスの歴史状況とともに紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	名誉革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	立憲主義Ⅰ：自然法の観念	アメリカ独立革命の政治思想的特徴を自然法の観念から概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	アメリカ独立革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	立憲主義Ⅱ：権力分立の思想	アメリカ合衆国の建国と憲法制定の理念として、権力分立の概念を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	三権分立について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	民主主義Ⅰ：身分制議会から国民議会へ	フランス革命において目指された人民主権の実際を、直接／間接民主主義の区別から分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	民主主義Ⅱ：ファシズムの経験	参政権・社会権の拡大に伴う民主主義の拡大と、それがもたらした正負の結果を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	第二次世界大戦について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	戦前日本Ⅰ：明治維新から明治憲法まで	日本の近代化の特徴と、ヨーロッパの近代化との異同を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	自由民権運動について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	戦前日本Ⅱ：議会主義の展開と挫折	大正デモクラシーを経て軍国主義に向かう戦前日本の経緯を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	大正デモクラシーについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	戦後日本Ⅰ：近代主義と戦後憲法	戦後憲法の政治思想的特徴と、丸山眞男ら「近代主義」者の思想活動を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	日本国憲法について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦後日本Ⅱ：市民運動の時代	反基地闘争、安保闘争、学生運動に至る直接政治行動の時代とその趨勢を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	高度経済成長期について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	「政治」についてどのように「学ぶか」	政治現象について分析するツールとしての政治学の多様な手法を、事例とともに概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内容に関する政治学の基本知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	2016年米国大統領選挙について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治学Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
政治学で蓄積されてきた基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等について、現実の事例も踏まえながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、第一に、政治学の基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、第二に、民主主義社会を構成する政治的市民としての意識を涵養する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				1							
②	政治学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				1	1						
③	政治学の基礎的な知識をもとに、現実の政治的問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				1	1	1					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				1	1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標②③④に関わる基礎知識と積極的な学修態度を評 価する。		10	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『デモクラシーの政治学（増補版）』	杉本稔	北樹出版	2011	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
原則として、火曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	政党	「民主主義の生命線」といわれている政党の定義や機能を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党の定義や機能を説明することができる。	
	事前学修	現在の日本には、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
	事後学修	授業で学んだ政党の機能について、現実の政党がその機能を果たしているかを検討してみる。	150分
3	政党組織と政党システム	政党内部を分析対象とする政党組織と政党間の関係を分析対象とする政党システムの類型について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党組織と政党システムの類型を説明することができる。	
	事前学修	第二次世界大戦から現在に至るまでの日本の政党数や各政党の支持基盤をまとめておく。	120分
	事後学修	現在の日本の政党システムや各政党組織は、理論的にどのように位置づけられるかを検討してみる。	120分
4	政党システム形成の要因	政党システムを規定する要因として、選挙制度、社会構造、有権者の選好それぞれについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党システム形成の要因を説明することができる。	
	事前学修	日本がどのような選挙制度を採用しているかをまとめておく。	90分
	事後学修	現在の日本の政党システムが上記の要因によって説明することができるかを検討してみる。	150分
5	イギリスの政党政治	典型的な二大政党制の国と言われていたイギリスの政党システムの実態と保守党、労働党の政党組織の変化を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、イギリスは二大政党制の国ではないことを説明することができる。	
	事前学修	イギリスにおいて、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
	事後学修	1950年代以降の二大政党の得票率、議席率を調べてみる。	150分
6	ドイツの政党政治	穏健な多党制の国と言われてきたドイツの政党システムを、キリスト教民主・社会同盟、社民党、ドイツのための選択、左派党に着目して検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ドイツの政党システムの変化について説明することができる。	
	事前学修	ドイツにおいて、どのような政党があり、何を主張しているかをまとめておく。	90分
	事後学修	1990年代以降、ドイツの政権に参画する政党のバリエーションが増加していることを確認してみる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本の政党政治	1955年から1993年にかけて続いた「55年体制」の下で政党システムと自民党長期政権の要因を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、55年体制とは何かを説明することができる。	
	事前学修	第二次世界大戦前後の日本における政党の存在を確認してまとめておく。	90分
	事後学修	自民党政権や1993年の非自民連立内閣、2009年の民主党政権を比較検討してみる。	150分
8	選挙制度論	民主主義を支える重要な制度としての選挙制度を、議席決定方式や選挙制度が与える影響という観点から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、議席決定方式や選挙制度が与える影響を説明することができる。	
	事前学修	直近の国政選挙の選挙制度と結果をまとめておく。	120分
	事後学修	自身の国で望ましい選挙制度は何かを考えてみる。	120分
9	投票行動論	投票行動研究における基礎的理論であるコロンビアモデルおよびミシガンモデルを中心に検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、コロンビアモデルおよびミシガンモデルを説明することができる。	
	事前学修	もし、自身が選挙権を行使するならば、どのような基準で投票先を選択するか基準をまとめておく。	60分
	事後学修	政党のHP、SNS等を利用して各政党が掲げる主張や現職議員のイメージを確認してみる。	180分
10	世論とメディア	第四の権力と言われるマスメディアについて、世論や政治に対してどのような影響力を与えているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メスメディアの影響力について説明することができる。	
	事前学修	同一のニュースについて、各メディアによって伝え方に違いがあるかをまとめておく。	120分
	事後学修	SNSが大きな影響を果たしたとされる事例を検討してみる。	120分
11	利益団体と政治	政党を補完する存在としての利益団体の行動様式や多元社会に与える影響を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、利益団体の行動様式を説明することができる。	
	事前学修	農協や医師会等、自身が興味を持った利益団体の特徴をまとめておく。	120分
	事後学修	日本における利益団体が政治に与える影響をどのように評価するか検討してみる。	120分
12	国家とは何か	政治学において、最も基本的な分析単位であった国家について、その定義や主権国家体系の成立について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国家や主権の定義を説明することができる。	
	事前学修	各国家を比較検討して、それぞれの国の類似点を整理しておく。	90分
	事後学修	20世紀以降に発生した主要な戦争とその原因が何かを検討してみる。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	主権国家と超国家的共同体	EUに代表される地域統合が深化した結果、国家の役割は低下したのかということについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の特異性を説明することができる。	
	事前学修	国連等の国際組織の役割や権限をまとめておく。	120分
	事後学修	EUが果たした貢献と問題点は何かを検討してみる。	120分
14	後期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を考える際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	90分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	150分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治学原論	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代政治学の基本的な知識（理論、モデル、概念など）を幅広く，体系的に正確に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，現代政治学の代表的な理論や概念のほか，さまざまな議論を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として，講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。					2		2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1981	参考書	推奨
『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1982	参考書	推奨
『現代政治学の理論（続）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1985	参考書	推奨
『政治学講義〔第2版〕』	佐々木毅	東京大学出版会	2012	参考書	任意
『現代政治分析』	R. A. ダール	岩波書店	2012	参考書	任意
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：政治学の第一歩	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	教科書および参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	政治と政治学	「政治」とは何か、「政治学」とは何かについて、「社会」と「社会科学」とのかかわりを理解するとともに、両者の関係を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学が対象とする「政治」現象と「政治学」とのかかわりについて説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	現代政治学の対象と方法	現代政治学の対象となる「政治」現象とは何か、その特徴について解説し、現代政治学の方法である「規範的アプローチ」と「経験的アプローチ」のアプローチの特徴や取り扱う内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代政治学の対象となる政治現象について具体的に説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	政治権力と国家	現代政治学が取り扱う「政治権力」、「国家」、「政府」との関係と、「政治権力以外の権力」について、政治学の古典にも言及しながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「政治権力」と「国家」とのかかわりについて説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	新しい政治学と政治システム論	行動科学革命と現代政治学とのかかわりについて、これまでの授業で取り扱ってきた講義内容を総括するとともに、今後の内容の導入としての解説も併せて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代政治学の主な特徴と、主要な分析枠組みである「政治システム」とのかかわりについて説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	政治システム	イーストン（David Easton）による政治システム（political system）論の内容を中心に、現代政治学における位置づけにも言及しながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論について説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政治システムの構造機能分析		アーモンド (Gabriel A. Almond) とパウエル (G. Bingham Powell, Jr.) による政治システムの構造機能分析について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論における政治システムの構造機能分析について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
8	政治システムと政治文化		政治発展 (political development) と政治文化 (political culture) とのかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システムの発展と政治文化とのかかわりについて説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
9	民主主義		現代における「民主主義」とは何か、民主主義理論の系譜をふまえながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
10	政党と利益集団		現代民主主義における政党 (political party) と利益集団 (interest group) との共通点と相違点を中心に両者の機能と地位について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治学の主な論点である「政党」と「利益集団」とのかかわりについて説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
11	政党		現代民主主義における政党の変容について、デュベルジェ (Maurice Duverger), カッツ (Richard Katz) とメア (Peter Mair) の議論をもとに政党組織と機能という点から説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代民主主義における主要なアクターである政党について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
12	政党システム		政党システムのタイポロジーについて、サルトーリ (Giovanni Sartori) による代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	議院内閣制と大統領制		議院内閣制と大統領制の比較、議院内閣制における政治の大統領制化について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制と大統領制の違い、大統領制化について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
14	政策決定過程		個々の公共政策がどのようにつくられ、どのように実施されるのかについて、政治システム論の枠組みをもとに政策決定過程をいくつかの段階に分けて理解することができる点を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システム論をもとにした「政策決定過程」について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
15	今学期のまとめ：現代政治学の系譜		現代政治学が単なる政治学ではなく、「現代」の「政治学」であることの意味について、今学期の講義で取り扱ってきた議論をふまえて、総括として解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代政治学の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関連する教科書および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		180分

科目名	政治学原論	担当者	吉野 篤	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
現代政治学の基本的な知識（理論、モデル、概念など）を幅広く，体系的に正確に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，現代政治学の代表的な理論や概念のほか，さまざまな議論を修得する。

【履修条件】
特にないが、できれば1年次に政治学を履修していることが望ましい。

【授業方法】
主として講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学期中に数回程度、リアクションペーパーで履修学生の質問・意見を聴取し講義に反映させる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。				2		2					
②	現代政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。				2		2					
③	現代の政治・社会状況について批判的・論理的に考察することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後にポータルシステムを使ってフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『Next教科書シリーズ 政治学』第2版	吉野篤編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考	参考書その他の文献・資料は授業中に指示する。なお新聞報道を資料として可能な限り配布する予定。				

【オフィスアワー】
火曜日午前中 研究室（本館 8 階1807研究室） yoshino.atsushi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	オリエンテーションと授業内容の確認		前学期で取り上げる具体的内容の概要を示し、留意事項を伝える。
	この回の到達目標	到達目標②に関して、授業内容の全体像を理解し、注意すべき点、留意点などを把握することができる。	
	事前学修	国内外で問題となっている政治問題について関心を広げ、その経緯や現状を調べてみること。	120分
	事後学修	到達目標②との関係で、授業の全体像について理解し、テキストの該当箇所を確認し、整理すること。	120分
2	社会科学の方法論		マックス・ウェーバーの社会科学方法論を取り上げ、広く社会科学的な見方・認識の重要性について考える。
	この回の到達目標	到達目標①に関して、ウェーバーの「価値自由」という考え方を理解し、それが政治学的にもきわめて重要な方法論であることを認識できる。	
	事前学修	ウェーバーの立場、社会学者としての業績などを事前に調査して、その全体像を把握すること。	120分
	事後学修	理念型や価値自由といった概念について確認し、著書『職業としての学問』に触れてみる。	120分
3	権力の概念と構造		権力の概念的整理を行い、とくに政治権力の構造や特質について個別具体的な事例を提示して考察を深め、分析レベルを分けて政治権力の問題を掘り下げる。
	この回の到達目標	到達目標②との関連で、権力、とくに政治権力の特異性、特質などについて理解し、過去の政治史上のエポックを含めて政治権力の実態や脅威について認識し、それを深めることかできる。	
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、政治権力の態様や特質について概要を整理すること。	120分
	事後学修	テキストにある参考文献に当たり、さらに政治権力の実態について掘り下げること。	120分
4	市民革命の歴史的意義とイギリス革命の政治過程		政治の近代化・民主化に与えた市民革命の大きなインパクトを歴史的文脈の中に位置づけて、その具体的展開をイギリスの市民革命を通して考察する。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、市民革命とはどのような政治変動であったのか、その歴史的意義の正当な評価を行えるとともに、イギリス革命の政治過程を追うことで、イギリス政治がいかに近代化していくかを客観的に理解することができる。	
	事前学修	ネットや辞典類あるいは簡潔な市民革命史の書籍を通じて事前に市民革命の原因や展開、帰結について調べておくこと。	120分
	事後学修	清教徒革命、名誉革命が別個の政治過程を示しているとはいえ、ひとつの政治過程として認識できることを確認すること。	120分
5	アメリカ独立革命の政治過程		アメリカ独立革命の特異性・独自性を踏まえながら、具体的な政治過程の枠組みを示し、合わせて「最初の新興国家」アメリカの政治的性格を考える。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で他の市民革命とは異なり、アメリカの「独立」革命がいかに大きな課題と特異性を抱えていたかを理解し、アメリカという国家の建国の理念について認識を深めることができる。	
	事前学修	前回と同様にアメリカ独立革命について、発端となった事象や展開、帰結について事前に調査しておくこと。	120分
	事後学修	到達目標③との関係で、独立革命以後のアメリカの発展や課題について自主的に調べ、現在のアメリカの立ち位置について考察する際の視点を考えてみる。	120分
6	フランス革命の政治過程		フランス革命が「典型的な市民革命」と称されるのはなぜかという問題意識を提起しながら、その背景を示し、具体的な革命の成果や試練について考察する。
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、革命の規模、革命がより大きなインパクトをヨーロッパに与えた地政学的要因を理解することができ、フランス革命の理念の普遍性がいかに大きな意味をその後の世界に与えたかを理解することができる。	
	事前学修	イギリス革命、アメリカ独立革命の回と同様に、事前に革命の経緯や成果について調べておくこと。高等学校用の世界史の本格的な参考書なども有用である。	120分
	事後学修	フランス革命の理念である自由・平等・博愛がいかに重要で普遍的な理念であったかを再認識するために、現在の国際社会の状況などについてメディアの報道などを整理して考えてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	保守主義の政治理論		フランス革命に対する反動(反応)として現れる近代保守主義の考え方を、保守主義思想の祖型であるエドモンド・バークの考え方を中心に解説し、合わせて20世紀の保守主義研究の事例についても発展的に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、保守主義の考え方とはどのようなものなのか、その核心に何があるのかを理解し、現在の政治状況の中で、そのような認識が根付いているのかどうかを批判的に判断できる。		
	事前学修	歴史的にみて、既成秩序への挑戦がなされたとき、既成秩序側はどのように反応したのか、いくつかの事例を探して調べてみる。		120分
	事後学修	日本の55年体制でいわれた「保守」とバークによって展開された保守の考え方は同じなのか、違うのか、違うとしたら何が違うのかといった問題意識のもとで日本の政治の展開などを整理してみる。		120分
8	社会主義の政治理論		第一次産業革命後の19世紀に顕在化したいわゆる階級対立を背景にして現れる社会主義の政治理論を、それを確立したマルクスの考え方に沿って説明し、社会主義革命・社会主義社会の展望を含めて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、社会主義の考え方の枠組み、革命へのビジョンなどをマルクスの主張をもとに理解し、その考え方の枠組みが決して時代錯誤とはいえない今日的重要性をもっていることを認識できる。		
	事前学修	産業革命後の社会構造の変化などをはじめとする資本主義社会の変容・深化の問題点などを事前に調べておくこと。		120分
	事後学修	現在の資本主義体制について問題点は何か、それを克服するためには何か方法があるのかを自分なりに考察し、整理してみる。		120分
9	政党の概念と機能		現代の政治過程におけるアクター分析として、依然としてきわめて重要な存在である政党の概念と機能を古典的定義を含めて観察し、現代の政党に求められる役割を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、政党の存在が現代の政治過程の中でいかなる重要性をもつか、また機能からみて今日的な課題と展望を主体的に考察できる。		
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、合わせて日本や海外の政党の置かれている現状をメディアの報道などで調べておくこと。		120分
	事後学修	ケーススタディとして日本の各政党の立ち位置や政策について主体的に資料に当たり、それらの課題について整理すること。		120分
10	政党システムの分析枠組み		政党システムの分類学として著名なサルトーリのシステム類型に基づいて、それぞれの政党システムを個別具体的に提示し、合わせて現実の政党政治の展開についても補足的に取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、政党政治の展開の枠組みの概要を理解でき、政権形態との関連性や政権のパフォーマンスにそれがどのように作用しているかを認識できる。		
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、さらに日本の政党政治の現状について情報を整理しておくこと。		120分
	事後学修	日本の政党政治は果たして健全に機能しているか、野党の弱体はどこから来ているのかを主体的に考察すること。		120分
11	選挙の意義と機能		政治参加の最も基本的な手段である選挙について、その大原則・意義・機能などを提示する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、国政選挙、地方選挙ともに低投票率にあえぐ現状を踏まえ、選挙がいかに重要で参加する価値のあるものであるのかを主体的に理解できる。		
	事前学修	例えば直近に参加した選挙の結果などを独自に調べて、自らの投票の意義などを考える材料として整理しておくこと。		120分
	事後学修	なぜ投票率はきわめて低迷したままなのか、若者の政治参加を高めるためには何が求められるかを主体的に考える。		120分
12	選挙制度の現状と課題		制度としての選挙を類型化して示し、それぞれの基本的な設計を中心に考察する	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で選挙制度の基本的考え方や設計を理解でき、日本の国政での選挙制度の課題などを認識することができる。		
	事前学修	身近な地方選挙あるいは国政選挙の投票率などを調べてみて、なぜ投票率が低くなっているのか考えてみる。		120分
	事後学修	現状の選挙制度の在り方を踏まえて、どのような選挙制度が望ましいのか、代替案としてどのような制度が考えられるか、他国の例などを参照しながら主体的に問題提起してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	議院内閣制の生成		日本を含めて政治制度の大類型である議院内閣制はどのように生まれたのかを、発祥の地イギリスの歴史を追うことで考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、高等学校までの通説的見解とは異なる、議院内閣制の生成過程をイギリス政治史学の成果をもとに理解することができる。		
	事前学修	高等学校の世界史や政治・経済の教科書・参考書などを用いて、議院内閣制の誕生がどのように解説されているかを事前に確認しておくこと。		120分
	事後学修	日本の議院内閣制は機能しているのか、また大統領制と比較してどのような実体があるかなどについて主体的に考察すること。		120分
14	戦後日本政治の歴史的展開		いわゆる55年体制の生成からの日本政治の展開を歴史的文脈の中に位置づけて、大きな流れをマクロに追う。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、55年体制の生成とその後の展開をマクロに見通すことができ、日本政治の巨視的変容と課題について主体的に考察することができる。		
	事前学修	テキストの該当箇所を精読し、概要を把握するとともに、他の資料なども参考にしながら日本政治の現状はどこから来たか整理してみる。		120分
	事後学修	自民党一強の体制はどのように築きあげられたか、マクロな政治史的視点に立ってその現状と課題を考えてみる。		120分
15	日本の国会は機能しているか		自民党政権が継続する中、国会が果たすべき極めて重要な役割である行政監視の機能は健全に果たされているか、またそれに関連して政と官の役割分担は健全になされているか、などの問題点について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標③との関係で、議院内閣制のもとでの立法部と行政部の関係は、日本でどのようになっているのか、また、国会を活性化させるには何が必要かなどの重大な課題についてアクティブに考えることができる。		
	事前学修	ネットなどで国会中継や録画を見直し、国会が討論と説得の場になっているかどうか確認してみる。		120分
	事後学修	新聞報道などに注目し、国会の議論が成熟したものとなっているか、あるいは内閣は国会の要請に誠実に応えているか考えてみる。		120分

科目名	政治過程論	担当者	浅井 直哉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
政治過程論は、政治の動態的な側面に注目し、具体的に政治がどのようなメカニズムで動いているのかについて分析を行う分野である。政治過程を①選挙過程，②立法過程，③政策過程の三つに分けて考え，政治の「流れ」をたどることにより，政治過程を体系的に理解するのに必要な用語やモデルを取り扱い，どのようにして政治を捉え，分析するのかを学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治過程に関する知識を身につけ、現実政治の流れについて体系的に理解することを目的とする。政治現象の全体像を捉えて現実は何が起きているのかを理解し，説明することができるようになるために，政治過程全体や，政治にかかわりを持つアクターをめぐる理論，モデルを修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主として，PowerPointを使用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。 出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	政治過程の段階を理解し，区分することができる。					2	2				
②	政治過程にかかわるアクターを識別し，説明することができる。					2	2				
③	政治過程にかかわる理論やモデルを識別し，説明することができる。					2	2				
④	政治過程にかかわる理論やモデルを現実政治に援用するための手続きを適用することができる。					2	2				
⑤	政治の現実と理論の両者に対して，問題点や疑問点を考え，説明することができる。					2	2				
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標①②③に関して説明できるようになっているかについて評価する。	10	20	10								40
レポート等	到達目標④～⑤について求められる学力が身についているかを，学期末レポートにより評価する。				30	30						60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	30	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の授業においてレポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『よくわかる政治過程論』	松田憲忠・岡田浩編	ミネルヴァ書房	2018	参考書	推奨
『政治過程論』	伊藤光利・田中愛治・真淵勝	有斐閣	2000	参考書	推奨
『現代の政党と選挙〔新版〕』	川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子	有斐閣	2011	参考書	推奨
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 12:15～12:45 あらかじめ、メールで連絡をしてください。 asai.naoya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：政治過程論とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、政治過程論の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治過程論を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	現実政治に関する情報を収集し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	60分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	政治過程の見取り図	イーストン（David Easton）の政治システム論を通じ、政治過程の流れについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	政治過程論のアプローチ	政治現象を研究するにあたっての考え方や方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して、政治学の分析に関する基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	制度論から新制度論へ	制度の比較を通じた研究から制度とアクターのかかわりに注目する研究への展開に目を向けて、政治学において集団に関心が向けられるようになった過程を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政治にかかわる集団の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	政治過程論の展開	ベントレー（Arther F. Bentley）とトルーマン（David B. Truman）の議論をもとに、政治と集団のかかわりについて理論的な見方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治にかかわる集団の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	選挙過程と集団	利益団体の分類や集合行為問題をとり上げて、選挙と集団のかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、投票行動にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	選挙過程と有権者	有権者の投票行動に関する議論として、社会学的アプローチ、社会心理学的アプローチ、経済学的アプローチについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙過程と集団にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	選挙過程とインターネット	マス・コミュニケーション研究の系譜をたどることによって、メディアが政治に与える効果に注目しながら、選挙過程におけるインターネット使用に関する近年の研究動向について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、選挙過程とインターネットにかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	選挙過程と政党	選挙過程において政党が中心的な役割を担うのにはどのような理由があると考えられているのかについて、政党の機能と議員の合理的選択という二つの見方説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	立法過程と政党	立法過程において政党がどのような役割を担い、実際にどのような行動をとるとされるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	立法過程と議会	立法過程における議会の位置づけについて、日本の事例に注目し、政党、議会、内閣との結びつきを踏まえながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	立法過程と利益集団	立法過程と集団のかかわりについて、ネオ・コーポラティズムをとり上げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤に関連して、選挙と政党にかかわる基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策決定過程の理論的枠組み	政策過程を分析するための枠組みについて、拒否権プレイヤー論をとり上げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、拒否権プレイヤー論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	政策過程と官僚	政治過程における官僚の役割、官僚制の逆機能について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、政策過程における官僚の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	政治過程論の理論と実践	現実政治を題材として、政治過程にかかわる理論やモデルを援用する際の手続き・流れを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、政治過程論の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
	事前学修	参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
毎回、180分の事前学修ができ、授業時に、教科書と英和辞典を持参できること。120分の事後学修をすることもいうまでもない。このように、単位取得にあたっては、かなりハードであることを記しておく。なお、受講者は全員、資料の共有のため、Google Classroomへの登録が必須である。

【授業方法】
実施形態は演習形式であり、受講者全員が毎回、教科書の英文を事前に精読してくることはいうまでもない。また、担当箇所をきめることとなるが、自分の担当箇所については、レジュメおよび全訳のプリントの2種類を作成し、報告をおこなうことが必須である。 授業では、担当者の報告をうけて、参加者全員によるディスカッションを実施する。そのため、「履修条件」にもあるように、資料の共有の関係で、受講者は全員、Google Classroomへの登録が必須となるので、注意すること。 ちなみに、受講人数にもよるが、昨年度であれば、1人がレジュメおよび全訳のプリント作成を2回担当するというかたちとなっていた。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各自、割りあてられた箇所のレジュメを作成するだけでなく、毎時間、積極的に議論に参加することとなっている。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。			25	25								50
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)	25	50	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The Clash: U.S.-Japanese Relations throughout History	Walter LaFeber	Norton	1997	教科書	必携
『日米関係史』〔新版〕	細谷千博・本間長世編	有斐閣	1991	参考書	推奨
『日米関係通史』	細谷千博編	東京大学出版会	1995	参考書	推奨
『日米関係資料集－1945-97－』	細谷千博・有賀貞・石井修・佐々木卓也編	東京大学出版会	1999	その他	任意
『アメリカ VS ロシア－冷戦時代とその遺産－』	ウォルター・ラフィーバー	芦書房	2012	その他	任意
『日本政治史－現代日本を形作るもの－』	清水唯一朗・瀧井一博・村井良太	有斐閣	2020	その他	任意
備考	毎時間教科書を使用するので、かならず持参すること。				

【オフィスアワー】
水曜日・5時限目（休暇中はのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	レジュメの作成方法と報告のポイント		教科書を熟読するだけでなく、それ以外の関連書籍の精読などもつうじて、みずからレジュメを作成することとなるが、その方法について学ぶとともに、報告をするにあたってのポイントを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、図書館での参考文献の探し方をマスターするとともに、レジュメ作成にあたっての知識を習得する。		
	事前学修	シラバスを読み、半年間の授業の流れを把握する。くわえて、自分の希望する担当箇所をいくつかリストアップしておく。また、参考書を熟読し、日米関係史についておさえておく。		180分
	事後学修	授業中のメモを確認し、教科書の各自の担当部分を精読する。さらに、参考書を熟読し、日米関係の流れをおさえる。		120分
2	天皇対「機械の法則」		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、第二次大戦中、米国側が天皇の存在をどのように位置づけていたのかを学修する。くわえて、当時の日本の対米観についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書214-218頁のTenno versus the “Laws of the Machine”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
3	カリフォルニアが戦争に突入するー強制収容所、そしてハリウッドー		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、米国カリフォルニア州の日系人強制収容所の実態を詳細に学修する。くわえて、ハリウッド映画のなかで描かれた日本人像についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書218-223頁のCalifornia Goes to War: The Relocation Camps, and Hollywoodを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
4	日本の組織の失敗		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、第二次大戦時の日本の軍部の戦い方を学修する。くわえて、日本軍の対応を米国側がどのようにとらえていたのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書223-231頁のThe Failure of the Japanese Machineを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
5	「われわれは、こいつらのためにもて遊ばれている」。米国の戦後計画で、敵が友人になりかわりはじめる		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、第二次大戦後の日本の占領方式をめぐる登場したさまざまな議論を学修する。くわえて、日米二国間の関係だけでなく、国際関係の文脈においても、日本の占領方式について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書231-239頁の“We are Being Played for Suckers”：The Enemy Begins to Replace the Friend in U.S. Postwar Planningを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
6	トルーマンとヤルタ体制の崩壊		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、原子爆弾が開発され、対日戦にもちいられるまでの米国内の議論をおさえる。くわえて、米ソ間の対立の萌芽についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書239-246頁のTruman and the Destruction of the Yalta Systemを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「二重の衝撃」、そして終わり		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、原子爆弾投下による日本側への影響を詳細に検討する。くわえて、無条件降伏にいたるまでの日本側の動向についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書246-256頁のThe “Double Shock” -and the Endを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
8	「パンをください、さもなければ、弾丸をください」		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、マッカーサー訪日までの経緯を学修する。くわえて、マッカーサーと天皇との顔あわせの有する意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書257-262頁の“Give Me Bread or Give Me Bullets”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
9	第一の占領（1945-47年）		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、占領政策において、米国側が吉田を活用するにいたった政治過程を学修する。あわせて、この当時おこなわれた民主化の具体例についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書262-270頁のThe First Occupation（1945-47）を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
10	第二の占領（1947-50年）－米国人－		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、ケナンの進言によって対日占領政策が転換する過程を学修する。くわえて、対日政策の転換を国際関係の視点からも考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書270-275頁のThe Second Occupation（1947-50）：The Americansを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
11	第二の占領（1947-50年）－日本人、米国人、中国人－		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、日本の独立にむけて、吉田がとった行動について、詳細におさえる。くわえて、吉田に対し、米国側がいだいていた認識などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書275-283頁のThe Second Occupation（1947-50）：Japanese, Americans, and Chineseを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
12	朝鮮－日本のための戦争、「神の贈りもの」－		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、朝鮮戦争の勃発が、日本におよぼした影響を学修する。くわえて、吉田とダレスとの再軍備をめぐる交渉について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書283-295頁のKorea: The War for Japan- “A Gift of the Gods”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	「日本・・・善にも悪にもなる独特の能力を有している」		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、ダレスが日本をどのようにとらえていたのかをくわしく学修する。くわえて、この当時の日米間の文化的な交流の意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書296-301頁の“Japan...Has a Unique Capacity for Good or Evil”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
14	デミング、ダレス、そして大きな選択ー中国かベトナムか？ー		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、日本の再建と東南アジアの問題を、米国側がどのように関連づけてとらえていたのかを学修する。くわえて、対日政策をめぐる米国内の路線対立についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書301-310頁のDeming, Dulles, and the Great Choice: China or Vietnam?を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
15	あたらしい冷戦		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、第五福竜丸事件が日米関係にあたえたインパクトの大きさをおさえる。くわえて、日本の首相が、吉田から鳩山となったことによる影響についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書310-314頁のA New Cold Warを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書やその他の文献の輪読を行う。その際に、受講生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、リアクション・ペーパー等の方法を採用入れる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。						3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。								3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。											3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Issues and Methods in Comparative Politics: An Introduction	Todd Landman and Edzia Carvalho	Routledge	2017	教科書	必携
備考	1				

【オフィスアワー】
月曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 導入講義	授業の内容、目的、進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスや教科書に目を通し、授業の概要について予備知識を得る。	120分
	事後学修	授業の内容、目的、進め方などについて振り返り、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	事例比較	Ch.1 Why Compare Countries? Ch.2 How to Compare Countries?	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
3	多事例・少数事例・単一事例の比較	Ch.3 Comparing Many Countries Ch.4 Comparing Few Countries Ch.5 Single-country Studies as Comparison	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
4	経済と政治、政治暴力、社会運動	Ch.6 Economic Development and Democracy Ch.7 Violent Political Dissent and Social Revolution Ch.8 Non-violent Political Dissent and Social Movements	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
5	民主化、政治制度	Ch.9 Transition to Democracy Ch.10 Institutional Design and Democratic Performance	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
6	人権、国際関係と国内政治	Ch.11 Human Rights Ch.12 International Relations and Comparative Politics	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	比較の方法と新しい課題		Ch.13 Common Themes and Different Comparisons Ch.14 New Challenges for Comparative Politics	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
8	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
9	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
10	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
11	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
12	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
14	研究動向レビュー		受講生が自らの関心に基づくテーマの研究動向について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
15	研究動向レビュー		受講生が自らの関心に基づくテーマの研究動向について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
予習等を行った上での出席を前提とする。詳細な履修上の注意事項等を説明するため、第1回授業に必ず出席すること。辞書を持参すること。

【授業方法】		
演習方式で行う。基本的に教科書の内容に関する報告を行う。報告では内容について翻訳および要点の説明などを行う。報告の方法等については、第1回目の授業での担当教員の指示に従うこと。受講状況によりレポートや小テスト（リアクションペーパー含む）等を課す場合もある。毎回の授業の課題の提出および出席管理システム（レスポシ）を利用しての出席管理も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	報告内容について理解を深めるための調査学修や報告内容等に関する討論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告、報告資料、レポート等の講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Urban Politics: Cities and Suburbs in a Global Age (Tenth Edition)	Myron A. Levine	Routledge	2020	教科書	任意
備考	授業で扱う部分についてはコピーを配布する。また、適宜授業内容に応じて他の文献も使用する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。suzuki.takashi●nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		アメリカの地方自治・都市政治について理解するために、アメリカの地方自治・都市政治研究の概要について学修する。また、原書研究を適切に行うために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アメリカの地方自治・都市政治の現状について理解することができる。		
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、わが国の地方自治に関する文献を読み、アメリカの地方自治と我が国の地方自治との違いを見出す。		120分
	事後学修	授業で扱った文章を読み直し、興味を持った部分について調べ、自分の意見を述べられるようになる。		120分
2	アメリカの地方自治、都市政治について		アメリカの地方自治の現状について理解するために、アメリカの地方自治、都市政治の概観について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの地方自治の主要な制度や歴史について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治、都市政治について理解する。		120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの地方自治、都市政治について自分の考えを述べられるようになる。		120分
3	アメリカの都市の現状		アメリカの地方自治・都市政治の捉え方を理解するために、アメリカの都市の現状について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの都市の現状について説明できるようになる。		
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市の現状について理解する。		120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの都市の現状について自分の考えを述べられるようになる。		120分
4	脱工業化社会と地方自治		現在のアメリカの地方自治・都市政治を理解するために、脱工業化社会と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、脱工業化社会と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、脱工業化社会と地方自治について理解する。		120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、脱工業化社会と地方自治について自分の考えを述べられるようになる。		120分
5	アメリカの郊外と地方自治		現在のアメリカの地方自治・都市政治を理解するために、郊外と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、郊外と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、郊外と地方自治について理解する。		120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、郊外と地方自治について自分の考えを述べられるようになる。		120分
6	アメリカ都市部における公私の権力		アメリカの地方自治について理解するために、アメリカ都市部における公私の権力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカ都市部における公私の権力について説明できるようになる。		
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ都市部における公私の権力について理解する。		120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカ都市部における公私の権力について自分の考えを述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アメリカの都市における課題	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの都市における課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの都市における課題について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市における課題についてについて理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの都市における課題について自分の考えを述べられるようになる。	120分
8	アメリカ都市政治と人種・民族	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカ都市政治と人種・民族について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカ都市政治と人種・民族について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ都市政治と人種・民族についてについて理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカ都市政治と人種・民族について自分の考えを述べられるようになる。	120分
9	経済成長と都市政治	アメリカの地方自治について理解するために、経済成長と都市政治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済成長と都市政治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、経済成長と都市政治について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、経済成長と都市政治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
10	連邦政府の都市政策	アメリカの地方自治について理解するために、連邦政府の都市政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連邦政府の都市政策について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、連邦政府の都市政策についてについて理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、連邦政府の都市政策について自分の考えを述べられるようになる。	120分
11	連邦政府の財政的関与	アメリカの地方自治について理解するために、連邦政府の財政的関与について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連邦政府の財政的関与について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、連邦政府の財政的関与について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、連邦政府の財政的関与について自分の考えを述べられるようになる。	120分
12	都市問題と連邦政府	アメリカの地方自治について理解するために、都市問題と連邦政府について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの都市問題と連邦政府について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市問題と連邦政府について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの都市問題と連邦政府について自分の考えを述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	経済発展と地方自治	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの経済発展と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの経済発展と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの経済発展と地方自治について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの経済発展と地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
14	都市計画と地方自治	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの都市計画と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの都市計画と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市計画と地方自治について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの都市計画と地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分
15	郊外の発展と地方自治	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの郊外の発展と地方自治について学修する。また、期末レポート等の説明及び解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの郊外の発展と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの郊外の発展と地方自治について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの郊外の発展と地方自治について自分の考えを述べられるようになる。	120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
第1回授業に必ず出席すること。

【授業方法】
演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者が担当箇所について説明（報告）を行う。すべての履修者が少なくとも1回は担当する（つまり履修者数によっては2回以上担当する可能性がある）ように割り当てる。詳しい方法は第1回授業で説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各自が報告を担当した箇所に関するレポートによって、到達目標①に関わる能力が身についているかを評価する。	20										20
討論・発表等	報告等によって、到達目標①③に関わる能力が身についているかを評価する。	20		20								40
授業への参画度	到達目標①②について、リアクションペーパーや授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	20	20									40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評は、最後の授業で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Thinking, Fast and Slow	Daniel Kahneman	Penguin	2012	教科書	必携
備考	必ず教科書を入手すること。5月以降は教科書を持たずに出席した場合は、（入手済みかどうかにかかわらず）その都度大幅に減点を行う。				

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の進め方や教科書の他、成績評価の方法について説明を行う。その後に、行動経済学について講義する。	
	この回の到達目標	セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、行動経済学を学ぶ意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	The Characters of the Story (1)	第1章「The Characters of the Story」の最初の4分の1くらいを教員が説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Characters of the Story」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Characters of the Story」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
3	The Characters of the Story (2)	前回に続き「The Characters of the Story」の残りの3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Characters of the Story」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Characters of the Story」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
4	The Characters of the Story (3)	前回に続き「The Characters of the Story」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Characters of the Story」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Characters of the Story」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
5	The Characters of the Story (4)	前回に続き「The Characters of the Story」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Characters of the Story」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Characters of the Story」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
6	Attention and Effort (1)	第2章「Attention and Effort」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Attention and Effort」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Attention and Effort」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Attention and Effort (2)	前回に続き「Attention and Effort」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Attention and Effort」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Attention and Effort」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
8	Attention and Effort (3)	前回に続き「Attention and Effort」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Attention and Effort」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Attention and Effort」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
9	The Lazy Controller (1)	第3章「The Lazy Controller」の最初の4分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Lazy Controller」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Lazy Controller」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
10	The Lazy Controller (2)	前回に続き「The Lazy Controller」の残りの3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Lazy Controller」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Lazy Controller」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
11	The Lazy Controller (3)	前回に続き「The Lazy Controller」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Lazy Controller」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Lazy Controller」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
12	The Lazy Controller (4)	前回に続き「The Lazy Controller」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Lazy Controller」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Lazy Controller」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	The Associative Machine (1)	第4章「The Associative Machine」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Associative Machine」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Associative Machine」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
14	The Associative Machine (2)	前回に続き「The Associative Machine」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Associative Machine」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Associative Machine」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
15	The Associative Machine (3)	前回に続き「The Associative Machine」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「The Associative Machine」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「The Associative Machine」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

科目名	政治経済原書研究A	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な原書の読解能力を養い、政治学や経済学に関する基礎知識や基礎概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。

【履修条件】
スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
プレゼンテーションを行う。レポートを作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーションは履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		25	25								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	50	25								100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者のプレゼンテーションとレポート等の内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Modern Japan	Christopher Goto-Jones	Oxford University Press	2009	教科書	必携
リーダーズ英和辞典第3版	高橋作太郎	研究社	2012	参考書	推奨
備考	教科書を持参した者のみ授業を受けることができる。ただし教科書を事前に購入する必要はない。詳しくは初回に説明する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業を始めるにあたって、導入講義	授業の進め方を確認する。	
	この回の到達目標	授業の進め方を確認することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	120分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
2	「普通の国」日本？（1）	教科書の“What is a normal Japan?”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の“What is a normal Japan?”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“What is a normal Japan?”の前半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
3	「普通の国」日本？（2）	教科書の“What is a normal Japan?”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の“What is a normal Japan?”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“What is a normal Japan?”の後半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
4	正統性の赤字と戦争責任（1）	教科書の“The legitimacy deficit and the question of war responsibility”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の“The legitimacy deficit and the question of war responsibility”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“The legitimacy deficit and the question of war responsibility”の前半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
5	正統性の赤字と戦争責任（2）	教科書の“The legitimacy deficit and the question of war responsibility”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の“The legitimacy deficit and the question of war responsibility”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“The legitimacy deficit and the question of war responsibility”の後半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
6	民族的病理の否定と1990年代の「失われた10年」（1）	教科書の“Denial as national pathology and the 'lost decade' of the 1990s”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の“Denial as national pathology and the 'lost decade' of the 1990s”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“Denial as national pathology and the 'lost decade' of the 1990s”の前半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	民族的病理の否定と1990年代の「失われた10年」 (2)		教科書の“Denial as national pathology and the ‘lost decade’ of the 1990s”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の“Denial as national pathology and the ‘lost decade’ of the 1990s”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“Denial as national pathology and the ‘lost decade’ of the 1990s”の後半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
8	「日本」は治療を受けることができるか (1)		教科書の“Can ‘Japan’ receive therapy?”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の“Can ‘Japan’ receive therapy?”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“Can ‘Japan’ receive therapy?”の前半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
9	「日本」は治療を受けることができるか (2)		教科書の“Can ‘Japan’ receive therapy?”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の“Can ‘Japan’ receive therapy?”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“Can ‘Japan’ receive therapy?”の後半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
10	非正統性の帰結 (1)		教科書の“Consequences of illegitimacy”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の“Consequences of illegitimacy”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“Consequences of illegitimacy”の前半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
11	非正統性の帰結 (2)		教科書の“Consequences of illegitimacy”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の“Consequences of illegitimacy”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“Consequences of illegitimacy”の後半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
12	内なるフロンティア：精神の革命 (1)		教科書の“The frontier within: a spiritual revolution”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の“The frontier within: a spiritual revolution”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“The frontier within: a spiritual revolution”の前半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	内なるフロンティア：精神の革命 (2)	教科書の“The frontier within: a spiritual revolution”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の“The frontier within: a spiritual revolution”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“The frontier within: a spiritual revolution”の後半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
14	日出ずる地 (1)	教科書の“The land of the rising sun”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の“The land of the rising sun”の前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“The land of the rising sun”の前半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。	120分
15	日出ずる地 (2)	教科書の“The land of the rising sun”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の“The land of the rising sun”の後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の“The land of the rising sun”の後半部について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえる。これまでの授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。	120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
毎回、180分の事前学修ができ、授業時に、教科書と英和辞典を持参できること。120分の事後学修をすることもいうまでもない。このように、単位取得にあたっては、かなりハードであることを記しておく。なお、受講者は全員、資料の共有のため、Google Classroomへの登録が必須である。

【授業方法】
実施形態は演習形式であり、受講者全員が毎回、教科書の英文を事前に精読してくることはいうまでもない。また、担当箇所をきめることとなるが、自分の担当箇所については、レジュメおよび全訳のプリントの2種類を作成し、報告をおこなうことが単位修得の最低条件である。なお、授業では、担当者の報告をうけて、参加者全員によるディスカッションを実施する。そのため、「履修条件」にもあるように、資料の共有の関係で、受講者は全員、Google Classroomへの登録が必須となるので、注意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各自、割りあてられた箇所のレジュメを作成するだけでなく、毎時間、積極的に議論に参加することとなっている。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
The Clash: U.S.-Japanese Relations throughout History	Walter LaFeber	Norton	1997	教科書	必携
『日米関係史』〔新版〕	細谷千博・本間長世編	有斐閣	1991	参考書	推奨
『日米関係通史』	細谷千博編	東京大学出版会	1995	参考書	推奨
『日米関係資料集－1945-97－』	細谷千博・有賀貞・石井修・佐々木卓也編	東京大学出版会	1999	その他	任意
『アメリカ VS ロシア－冷戦時代とその遺産－』	ウォルター・ラフィーバー	芦書房	2012	その他	任意
備考	教科書は毎時間、かならず持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日・お昼休み（休暇中はのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	レジュメの作成方法と報告のポイント		教科書を熟読するだけでなく、それ以外の関連書籍の精読などもつうじて、みずからレジュメを作成することとなるが、その方法について学ぶとともに、報告をするにあたってのポイントを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館での参考文献の探し方をマスターするとともに、レジュメ作成にあたっての知識を習得する。		
	事前学修	シラバスを読み、半年間の授業の流れを把握する。くわえて、自分の希望する担当箇所をいくつかリストアップしておく。また、参考書を熟読し、日米関係史についておさえておく。		180分
	事後学修	授業中のメモを確認し、教科書の各自の担当部分を精読する。さらに、参考書を熟読し、日米関係の流れをおさえる。		120分
2	安全保障条約をめぐる爆発（1957-60年）		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、安保改定にいたる政治過程を学修する。くわえて、ジラード事件が当時の日米関係にあたえた影響についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書314-324頁のThe Explosion Over the Security Pact（1957-60）を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
3	池田の「奇跡」と、ほかの「トランジスタの貿易商」		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、所得倍増計画と日本の経済発展の関連を、米国側がどのようにとらえていたのかに関して、詳細に学修する。くわえて、日本政治と米中央情報局（CIA）とのかわりについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書325-332頁のThe “Miracle” of Ikeda-and Other “Merchants of Transistors” を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
4	ケネディ、池田、そして、「対等な協力関係」という幻想		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、池田内閣期の日米間の政治・経済関係の実情を学修する。くわえて、駐日大使をつとめたライシャワーの役割についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書332-338頁のKennedy, Ikeda, and the Illusion of “Equal Partnership” を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
5	ジョンソン、佐藤、そして、ベトナム		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、佐藤とジョンソンとのあいだで、どのようなやりとりがくりひろげられたのかを学修する。くわえて、ベトナム戦争が日米関係にあたえた影響についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書338-347頁のJohnson, Sato, and Vietnamを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
6	ニクソンと佐藤、あるいは「敵との貿易」		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、日本を「敵」とみなしていたニクソンと、佐藤との会談の内容などを学修する。くわえて、ニクソン・ドクトリンの意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書348-352頁のNixon and Sato-or “Trading with the Enemy” を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ニクソン・ショック		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、米中接近・新経済政策といったニクソン・ショックがおこるまでの政治過程を、日米関係の視点から学修する。くわえて、佐藤・ニクソン会談の内容についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書352-358頁のThe Nixon Shocksを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
8	冷戦時代の転換点		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、カラーテレビや農産品をめぐる経済摩擦の実態を学修する。くわえて、石油ショックによる日米関係への影響についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書359-363頁のThe Watershed of the Cold War Eraを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
9	求むー米国人の肉体を。銀行ではない。または、ナンバーワンの日本をー		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、この当時、さかんに叫ばれた、日本株式会社やジャパン・アズ・ナンバーワンといったことばの意味を学修する。くわえて、政治・経済の両面から、この当時の日米関係の実像についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書363-370頁のNeeded: American Bodies, Not American Banks-Or, Japan as Number Oneを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
10	1980年代ー「ロン・ヤス」から・・・		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、いわゆる「ロン・ヤス関係」時の日米関係の緊密化の過程を学修する。くわえて、与野党対立という視点から、このロン・ヤス関係が、日本の国内政治におよぼした影響についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書370-373頁のThe 1980s: From “Ron-Yasu” ...を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
11	・・・競合する2つの資本主義へ・・・		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、激化する日米経済摩擦の実情を学修する。くわえて、日本異質論者（リビジョニスト）の主張をみることで、当時の米国内の空気についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書373-379頁の...to Two Competing Capitalisms....を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
12	・・・「1960年以來最悪の関係」へ		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、反日感情のたかまりと経済摩擦の関連を学修する。くわえて、1988年包括通商法の成立過程や次期支援戦闘機（FSX）をめぐる問題などについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書379-381頁の...to “Relations Have Not Been So Low Since 1960”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	「冷戦は終わった。日本人が勝った」		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、米ソ冷戦の終結を受けた、日本異質論者（リビジョニスト）の発言内容をくわしく学修する。くわえて、ジャパン・マナーによって「買われる米国」の実態についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書381-385頁の“The Cold War Is Over, the Japanese Won”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
14	湾岸戦争－衝突の事例研究－		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、湾岸戦争を契機におこった日本の国際貢献をめぐる議論を学修する。くわえて、冷戦後の新世界秩序の構築に悩む米国の姿についても、日米関係の視点から考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書385-389頁のThe Gulf War: A Case Study of the Clashを精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
15	1990年代－「米国のアジアでの政策は、日本とともに始まる」－		英文の精読とレジュメの報告、それにもとづく討論をつうじて、1990年代の日米間の政治・経済関係の実像を学修する。くわえて、国際社会における米国の覇権（ヘゲモニー）の衰退のもつ意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、英語力の涵養にくわえ、授業でとりあげた当時の日米関係の特質を的確に説明することができる。		
	事前学修	教科書389-395頁のThe 1990s: “American Policy in Asia Begins with Japan”を精読するとともに、参考書も併読して、このときの日米関係のトピックをおさえておく。		180分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する（辞書なしで読めることがのぞましい）。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
教科書やその他の文献の輪読を行う。その際に、受講生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、リアクション・ペーパー等の方法を採用入れる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワークなど。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
World Politics: Interests, Interactions, Institutions	Jeffry Friedman, David Lake, and Kenneth Schulz	WW Norton	2018	教科書	必携
備考	1				

【オフィスアワー】
月曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 導入講義	授業の内容、目的、進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスや教科書に目を通し、授業の概要について予備知識を得る。	120分
	事後学修	授業の内容、目的、進め方などについて振り返り、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	国際関係を理解する	Ch.1 What Shaped World Politics? A Historical Introduction Ch.2 Understanding Interests, Interactions, and Institutions	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
3	国家間戦争と国内政治	Ch.3 Why Are There Wars? Ch.4 Domestic Politics and War	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
4	国際制度と国家間戦争、内戦	Ch.5 International Institutions and War Ch.6 Violence by Nonstate Actors: Civil War and Terrorism	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
5	国家間貿易と財政	Ch.7 International Trade Ch.8 International Financial Relations	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分
6	国際金融と開発	Ch.9 International Monetary Relations Ch.10 Development: Causes of the Wealth and Poverty of Nations	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。	
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	国境を越えた政治		Ch.11 International Law and Norms Ch.12 Human Rights Ch.13 The Global Environment	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
8	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
9	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
10	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
11	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
12	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	文献の紹介		受講生が自らの関心に基づき選定した学術論文について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	リーディング資料の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	リーディング資料を読み込み、リアクション・ペーパーに概要と質問をまとめる。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
14	研究動向レビュー		受講生が自らの関心に基づくテーマの研究動向について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分
15	研究動向レビュー		受講生が自らの関心に基づくテーマの研究動向について口頭発表及び議論を行う。	
	この回の到達目標	授業で示された研究動向の内容を理解するとともに、疑問点や反論を自らの言葉で伝えることができる。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で行った議論を振り返るとともに、自らが取り組む研究動向レビューにどのように活かすことができるか考える。		120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
予習等を行った上での出席を前提とする。第1回授業で詳細な履修上の注意事項等を説明するため、出席すること。辞書を持参すること。

【授業方法】		
演習方式で行う。基本的に教科書の内容に関する報告を行う。報告では内容について翻訳および要点の説明などを行う。報告の方法等については、第1回目の授業での担当教員の指示に従うこと。受講状況によりレポートや小テスト（リアクションペーパー含む）等を課す場合もある。毎回の授業の課題の提出および出席管理システム（レスポん）を利用しての出席管理も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	報告内容について理解を深めるための調査学修や報告内容等に関する討論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告、報告資料、レポート等の講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Understanding Urban Politics: Institutions, Representation, and Policies	Krebs, T. B. and A. Fleischmann	Rowman & Littlefield	2020	教科書	任意
備考	授業で扱う部分についてはコピーを配布する。また、適宜授業内容に応じて他の文献も使用する。				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00 （事前にメールでアポイントメントをとること）。suzuki.takashi●nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	アメリカの地方自治・都市政治について理解するために、アメリカの地方自治・都市政治研究の概要について学修する。また、原書研究を適切に行うために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、今後学ぶアメリカの地方自治・都市政治をめぐる状況について理解する。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、わが国の地方自治に関する文献を読み、アメリカの地方自治と比較ができるようになる。	120分
	事後学修	授業で扱った文章を読み直し、興味を持った部分について調べ、自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	都市政治と市民参加	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの都市政治と市民参加について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの都市政治と市民参加について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市政治と市民参加について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、アメリカの都市政治と市民参加について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	政策形成と地方自治	アメリカの地方自治研究について理解するために、政策形成と地方自治について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政策形成と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、政策形成と地方自治について理解する。	120分
	事後学修	資授業で使用した資料や関連文献を参照し、政策形成と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	政策の施行と地方自治	アメリカの地方自治研究について理解するために、政策の施行と地方自治について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政策の施行と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、政策の施行と地方自治について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、政策の施行と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	政策と公共サービス	アメリカの地方自治研究について理解するために、政策と公共サービスについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政策と公共サービスについて説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、政策と公共サービスについて理解する。	120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、政策と公共サービスについて自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	自治体政府と公共サービス	アメリカの地方自治について理解するために、自治体政府と公共サービスについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自治体政府と公共サービスについて説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、自治体政府と公共サービスについて理解する。	120分
	事後学修	授業で使用した資料や関連文献を参照し、自治体政府と公共サービスについて自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	公共サービスと協働	アメリカの地方自治について理解するために、公共サービスと協働について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共サービスと協働について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、公共サービスと協働について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、公共サービスと協働について自分の意見を述べられるようになる。	120分
8	自治体の財政：歳出	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体財政について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、アメリカの自治体財政について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体財政について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体財政について自分の意見を述べられるようになる。	120分
9	自治体の財政：歳入	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体の歳入について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの自治体の歳入について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体の歳入について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体の歳入について自分の意見を述べられるようになる。	120分
10	自治体の歳入と税	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体の歳入と税について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの自治体の歳入と税について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体の歳入と税について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体の歳入と税について自分の意見を述べられるようになる。	120分
11	自治体の歳入と受益者負担等	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体の歳入と受益者負担等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの自治体の歳入と受益者負担等について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体の歳入と受益者負担等について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体の歳入と受益者負担等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
12	自治体の予算	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの自治体の予算について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの自治体の予算について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体の予算について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体の予算について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自治体予算と地方自治	アメリカの地方自治について理解するために、アメリカの地方自治における開発政策等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの自治体予算と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの自治体予算と地方自治について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの自治体予算と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	都市の開発政策	アメリカの地方自治について理解するために、都市の開発政策について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの都市の開発政策について説明できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市の開発政策について理解する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料や関連文献を参照し、アメリカの都市の開発政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	授業の総括	アメリカの地方自治における現状やそれに対する研究などについて理解するために、これまでの授業についての総括を行う。また、期末レポート等の説明及び解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、アメリカの地方自治・都市政治をめぐる制度や課題等を考慮した上で、わが国の地方自治の状況と比較し、地方自治のあり方について自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	初回から学習してきた資料を見直し、興味を持った内容について調べたり、日本との比較等の考察を行い、自分の意見を述べられるようになる。	120分
	事後学修	これまで配布した資料等を見直し、期末レポートの完成に向け取組む。	180分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
第1回授業に必ず出席すること。

【授業方法】
演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者が担当箇所について説明を行う。すべての履修者が少なくとも1回は担当する（つまり履修者数によっては2回以上担当する可能性がある）ように割り当てる。詳しい方法は第1回授業で説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各自が報告を担当した箇所に関するレポートによって、到達目標①に関わる能力が身についているかを評価する。	20										20
討論・発表等	報告等によって、到達目標①③に関わる能力が身についているかを評価する。	20		20								40
授業への参画度	到達目標①②④について、リアクションペーパーや授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	20		10							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評は、最後の授業で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Economics (14th edition)	Paul A. Samuelson and William D. Nordhaus	McGraw Hill	1992	教科書	任意
備考	各回で使用する箇所はコピーを配布する。				

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取る） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の進め方や教科書の他、成績評価の方法について説明を行う。その後に、教科書を読むのに必要なグラフの読み方についてAppendix Iを使用して、教員が講義する。	
	この回の到達目標	セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、Economicsを学ぶ意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容を再確認し、授業で学んだ基礎的な数学について復習する。	120分
2	How to read graphs	前回に続き「Appendix I」の後半を使用して、教員が講義する。	
	この回の到達目標	「Appendix I」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Appendix I」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
3	Basic elements of supply and demand (1)	「Chapter 4」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 4」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 4」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
4	Basic elements of supply and demand (2)	前回に続き「Chapter 4」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 4」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 4」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
5	Basic elements of supply and demand (3)	前回に続き「Chapter 4」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 4」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 4」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
6	Supply and demand in individual markets (1)	「Chapter 5」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 5」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 5」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Supply and demand in individual markets (2)	前回に続き「Chapter 5」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 5」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 5」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
8	Supply and demand in individual markets (3)	前回に続き「Chapter 5」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 5」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 5」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
9	Demand and consumer behavior (1)	「Chapter 6」の最初の3分の1くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 6」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 6」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
10	Demand and consumer behavior (2)	前回に続き「Chapter 6」の残りの半分くらいを、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 6」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 6」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
11	Demand and consumer behavior (3)	前回に続き「Chapter 6」の残り全部を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 6」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 6」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
12	Theory of production and marginal products (1)	「Chapter 7」の「B」の前半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 7」の「B」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 7」の「B」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Theory of production and marginal products (2)	前回に続き「Chapter 7」の「B」の後半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 7」の「B」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 7」の「B」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
14	Economic analysis of costs (1)	「Chapter 8」の「A」の前半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 8」の「A」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 8」の「A」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
15	Economic analysis of costs (2)	前回に続き「Chapter 8」の「A」の後半を、担当者が分担して説明し、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	「Chapter 8」の「A」の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	「Chapter 8」の「A」の事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

科目名	政治経済原書研究B	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学や経済学に関する標準的な外国語文献の講読により、学術的に重要な知識や主要概念について理解を深める。また、講読文献についての報告や意見交換等によって、自発的に原書の専門書等を読み進めるための読解の能力や技術を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学や経済学の理解を深めるために、外国語文献の講読によって学術的な外国語文献の読解能力を養い、政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念を修得し、社会科学的な視点から政治や経済に関する事象について考察できるようになる。そして、課題を発見し、解決策の提案や実践的行動を見出せるようになる。

【履修条件】
スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
プレゼンテーションを行う。レジュメを作成する。レポートまたはリアクションペーパーを提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーションは履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学や経済学に関する重要な知識や主要概念について理解し、説明できる。				4	4						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						4	4	4	4		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									4	4	4
④	考察や議論を通して、問題に関する解決策や社会に貢献可能な行動等を見出せるようになる。						4	4	4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	25	25									50
授業への参画度	到達目標②③④について、リアクションペーパーや小テスト、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		20	20	10							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者のプレゼンテーションとレポート等の内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リーダーズ英和辞典第3版	高橋作太郎	研究社	2012	参考書	推奨
備考	教科書は使用しない。辞書を持参すること。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	授業の進め方を確認する。	
	この回の到達目標	授業の進め方を確認することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。	120分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
2	世界の政治経済を学ぶ（1）	アメリカの政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	アメリカの政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	アジア太平洋地域の政治経済について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。	120分
3	世界の政治経済を学ぶ（2）	中国の政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	中国の政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	中国の政治経済について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。	120分
4	世界の政治経済を学ぶ（3）	韓国および北朝鮮の政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	韓国および北朝鮮の政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	韓国および北朝鮮の政治経済について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。	120分
5	世界の政治経済を学ぶ（4）	東南アジアおよびインドの政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	東南アジアおよびインドの政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	東南アジアおよびインドの政治経済について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。	120分
6	世界の政治経済を学ぶ（5）	ヨーロッパおよびロシアの政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	ヨーロッパおよびロシアの政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	ヨーロッパおよびロシアの政治経済について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	世界の政治経済を学ぶ (6)		中東およびアフリカの政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	中東およびアフリカの政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	中東およびアフリカの政治経済について準備する。		120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。		120分
8	世界の政治経済を学ぶ (7)		中南米および太平洋地域の政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	中南米および太平洋地域の政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	中南米および太平洋地域の政治経済について準備する。		120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。		120分
9	世界の政治経済を学ぶ (8)		日本の政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	日本の政治経済を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	日本の政治経済について準備する。		120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。		120分
10	世界の政治経済を学ぶ (9)		新型コロナウイルスが世界の政治経済に与える影響を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	新型コロナウイルスが世界の政治経済に与える影響を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	新型コロナウイルスが世界の政治経済に与える影響について準備する。		120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。		120分
11	世界の政治経済を学ぶ (10)		科学技術（情報技術や人工知能AIを含む）が世界の政治経済に与える影響を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	科学技術（情報技術や人工知能AIを含む）が世界の政治経済に与える影響を取り上げる英字ニュースについてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	科学技術（情報技術や人工知能AIを含む）が世界の政治経済に与える影響について準備する。		120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。		120分
12	世界の政治経済を学ぶ (11)		武力紛争とテロを取り上げる英字ニュースに関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	武力紛争とテロを取り上げる英字ニュースに関するプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	武力紛争とテロの現状について準備する。		120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	世界の政治経済を学ぶ（12）	核兵器の撤廃と禁止について取り上げる英字ニュースに関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	核兵器の撤廃と禁止について取り上げる英字ニュースに関するプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	核兵器の撤廃と禁止をめぐる現状について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。	120分
14	世界の政治経済を学ぶ（13）	地球環境と温暖化防止について取り上げる英字ニュースに関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	地球環境と温暖化防止について取り上げる英字ニュースに関するプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	地球環境と温暖化防止をめぐる現状について準備する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて理解を深める。	120分
15	まとめ	これまで行ってきた英字ニュースに関するプレゼンテーションとディスカッションについて振り返る。	
	この回の到達目標	これまで行ってきた英字ニュースに関するプレゼンテーションとディスカッションを振り返り、世界の政治経済の現状を総合的に理解することができる。	
	事前学修	これまでどのようなプレゼンテーションとディスカッションを行ってきたか振り返っておく。	120分
	事後学修	これまでの授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
現代の政治事象に多大な関心を有していること。また、本授業では、情報共有のため、Google Classroomへの登録が必須となる。

【授業方法】
授業は、講義形式だけでなく、演習形式もとり入れて、展開する。それゆえ、各自が事前に作成したレジュメの内容を報告し、それにもとづいて活発な議論をおこなう場面も多々ある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自、割りあてられた箇所のレジュメを作成するだけでなく、毎時間、積極的に議論に参加することとなっている。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。					3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『日米首脳会談と「現代政治」』	浅野一弘	同文館出版	2000	参考書	推奨
『日米首脳会談と戦後政治』	浅野一弘	同文館出版	2009	参考書	推奨
『改訂版 現代日本の政治』	飯尾潤	放送大学教育振興会	2019	参考書	任意
『日本政治の第一歩』	上神貴佳・三浦まり編	有斐閣	2018	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日・お昼休み（休暇中はのぞく）に実施する。希望者は研究室までくること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	レジュメの作成方法と報告のポイントおよび公文書の意味		教科書を熟読するだけでなく、それ以外の関連書籍の精読などをもとにして、みずからレジュメを作成することとなるが、その方法について学ぶとともに、報告をするにあたってのポイントを学修する。くわえて、公文書の重要性をおさえる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館での参考文献の探し方をマスターするとともに、レジュメ作成にあたっての知識を習得する。さらに、公文書の有する意味をおさえておく。		
	事前学修	シラバスを読み、半年間の授業の流れを把握する。くわえて、自分の希望する担当箇所をいくつかリストアップしておく。また、教科書の第1回を熟読し公文書の性格についておさえておく。		120分
	事後学修	授業中のメモを確認し、教科書の自分の担当部分を熟読する。さらに、教科書の第2回を熟読し、公文書と官僚制の関連をおさえる。		120分
2	公文書と官僚制		公文書と官僚制の関連などを学修する。とりわけ、日本の地方自治体における公文書管理の現状について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公文書のもつ特質と官僚制とのかかわりを説明することができる。		
	事前学修	教科書の第2回を精読し、公文書と官僚制の関連についてのトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
3	日米首脳会談		日米首脳会談にいたるまでの政治過程を詳細に学修する。くわえて、ほかの国々との首脳会談の少なさについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後の日米首脳会談の流れをふまえ、米国追随外交の特質を説明することができる。		
	事前学修	教科書の第3回を精読し、日米首脳会談に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
4	政治家の失言		政治家の失言をめぐる政治過程を学修する。くわえて、政治家が失言する背景についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治家の失言の歴史をふまえ、政治家の心理の特質を説明することができる。		
	事前学修	教科書の第4回を精読し、政治家の失言に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
5	「55年体制」		戦後日本政治を学ぼううえで、もっとも重要といえる55年体制成立にいたる政治過程について、学修する。くわえて、55年体制の崩壊についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1955年以前の日本政治史の流れをふまえ、1955年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。		
	事前学修	教科書の第5回を精読し、55年体制に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
6	野党の審議拒否と参考人招致・証人喚問		参考人招致・証人喚問にいたるまでの政治過程を学修する。くわえて、野党の審議拒否の意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、野党の審議拒否という行動をふまえ、参考人招致・証人喚問の特質を説明することができる。		
	事前学修	教科書の第6回を精読し、参考人招致・証人喚問に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国会はダイエツト中！？	岸・アイゼンハワー会談にいたる政治過程を学修する。くわえて、ジラード事件が、日米関係におよぼした影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、1957年以前の日本政治史の流れをふまえ、1957年の日本政治の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第7回を精読し、国会のしくみに関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
8	衆参両院の委員会と「働き方改革」	定数削減にいたる政治過程を学修する。くわえて、二院制の有する意義についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、衆参両院の委員会の特質（内政・外交両面）を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第8回を精読し、衆参両院の委員会に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
9	銃規制と利益集団	銃規制をめぐる政治過程を学修する。くわえて、米国における利益集団の動きについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、利益集団の動向をふまえ、銃規制の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第9回を精読し、米国における銃規制に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
10	文化というパワー	ソフト・パワーについて、学修する。くわえて、スマート・パワーの意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソフト・パワーの特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第10回を精読し、文化というパワーに関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
11	史上初の米朝首脳会談	史上初の米朝首脳会談をめぐる政治過程を詳細に学修する。くわえて、米国における選挙との関連についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米朝関係の流れをふまえ、米朝首脳会談の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第11回を精読し、米朝首脳会談に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
12	国会の種類！？	国会の種類を学修する。くわえて、“金焔火来”の理由についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国会の種類をふまえ、会期制のもつ意味を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第12回を精読し、国会の種類に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の独立	日本の独立をめぐる政治過程をくわしく学修する。くわえて、冷戦の影響についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、冷戦という国際政治の実状をふまえ、日本の独立のもつ意味を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第13回を精読し、日本の独立に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
14	2 4 2 回目のバースデー	米国の独立にいたる政治過程について、学修する。くわえて、米国外交の有する意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国政治史の流れをふまえ、米国外交の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第14回を精読し、米国政治外交史に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
15	「国権の最高機関」としての国会	三権分立との関連で、「国権の最高機関」としての国会のもつ意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、三権分立の考え方をふまえ、「国権の最高機関」としての国会の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第15回を精読し、国会に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、教科書の該当箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
政治的・社会的課題について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
各テーマについて講義形式とグループワーク形式を組み合わせる。グループワークでは、グループ内で意見を出し合い、その話し合った内容について発表を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。					3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の政策課題』	岩崎正洋（編）	八千代出版	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	「少子化（1）：講義」		日本の少子化の現状、少子化の原因となっている要因、および少子化に対する政府の対策がどのようなものであるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本における少子化の原因および少子化に対する政府の対策について説明できる。		
	事前学修	教科書の第1章を読み、日本の少子化の現状とその原因について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の少子化の現状と政府による対策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにした点をまとめる。		120分
3	「少子化（2）：グループワーク・発表」		履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、少子化の現状とそれに対する政府の対策を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。		
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第1章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の少子化の現状と政府による対策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにした点をまとめる。		120分
4	「生殖医療（1）：講義」		日本の生殖医療の現状、優生思想の系譜、および今後の生殖医療の政治的課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の生殖医療の現状、優生思想の系譜、今後の生殖医療の政治的課題について説明できる。		
	事前学修	教科書の第2章を読み、日本の生殖医療の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の生殖医療の現状および政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにした点をまとめる。		120分
5	「生殖医療（2）：グループワーク・発表」		履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の生殖医療の現状、および今後の生殖医療の政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。		
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第2章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の生殖医療の現状および政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにした点をまとめる。		120分
6	「医師不足（1）：講義」		日本の医師不足をめぐる歴史的経緯と現状、医師政策に関係するステークホルダーの主張、および今後の医師政策をめぐる政治的課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の医師不足の経緯と現状、各ステークホルダーの主張、および今後の医師政策をめぐる政治的課題について説明できる。		
	事前学修	教科書の第3章を読み、日本の医師不足の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。		120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の医師不足の歴史的経緯と現状、医師政策をめぐる利害関係の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにした点をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「医師不足（２）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の医師不足の現状、および今後の医師政策をめぐる政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べるができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第3章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の医師不足の歴史的経緯と現状、医師政策をめぐる利害関係の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
8	「公務員（１）：講義」	日本の公務員制度の構造、公務員を取り巻く現状、および公務員制度をめぐる政治的課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の公務員制度の構造と現状、および公務員制度をめぐる政治的課題について説明できる。	
	事前学修	教科書の第4章を読み、日本の公務員の現状や天下りの問題点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の公務員制度の現状と政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
9	「公務員（２）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の医師不足の現状、および今後の医師政策をめぐる政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べるができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第4章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の公務員制度の現状と政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
10	「地方創生（１）：講義」	日本の地方創生の歴史的経緯と現状、今後の地方創生に関する政治的課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の地方創生の歴史的経緯と現状、今後の地方創生に関する政治的課題について説明できる。	
	事前学修	教科書の第5章を読み、日本の地方創生に関する歴史的経緯と現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の地方創生に関する歴史的経緯と現状について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
11	「地方創生（２）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の地方創生の歴史的経緯と現状、今後の地方創生に関する政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べるができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第5章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の地方創生の歴史的経緯と現状、および今後の地方創生に関する政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分
12	「格差社会（１）：講義」	日本社会の格差の現状、および日本で格差が生まれる背景について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本社会の格差の現状、および日本で格差が生まれる背景について説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章を読み、日本社会における格差の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本社会の格差の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	「格差社会（２）：グループワーク・発表」		履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本社会の格差の現状、および日本で格差が生まれる背景を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。		
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第6章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本社会の格差の現状とその背景の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
14	「貧困（１）：講義」		貧困とはどのような状況を意味し、世界および日本社会において貧困の現状がどのようなものであるのか、貧困がうまれる背景にはどのような要因が存在しているのかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本と世界における貧困の現状とその背景要因について説明できる。		
	事前学修	教科書の第7章を読み、貧困とはどのような状態を意味するのか、そして世界および日本社会における貧困の現状がどのようなものであるのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本社会における貧困の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	
15	「貧困（２）：グループワーク・発表」		履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本と世界における貧困の現状とその背景要因を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。		
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第7章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分	
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本社会における貧困の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分	

科目名	政治経済専門研究A	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義とグループ・ディスカッションを組み合わせる。また、グループ・ディスカッションの内容をプレゼンテーションによってクラス全体でシェアし、より多くの他者の意見や考えに触れる機会を作り、自身の考察を深めることを目指す。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、プレゼンテーションの実施。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。						3						
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。						3	3					
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。						3	3	3				
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。						3	3	3	3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業時間内に行なう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書276）	川北 稔	岩波書店	1996	教科書	推奨
『イギリス帝国の歴史 アジアから考える』（中公新書2167）	秋田 茂	中央公論新社	2012	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション:講義 の進め方, 評価方法等につ いて	講義のテーマや内容, スケジュール, 成績評価の方法, 参考文献の紹介等について説明し, 受講生が本講義を受けるための準備を具体的に行えるようにする。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して, 講義のテーマや内容, スケジュール, 成績評価の方法, 参考文献などについて理解する。		
	事前学修	教科書を購入し持参する。シラバスを確認する。		60分
	事後学修	受講ノートを確認して, 自分の学習計画と他の履修科目との関連について検討する。		60分
2	講義①: 予備知識の確認～世界史	課題図書の前提となるイギリスや関連する国々の情勢や歴史について, 知識の確認を行う。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して, イギリスや関連する国々の情勢や歴史について説明できる。		
	事前学修	イギリスの近代史について調べ, まとめる。		120分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して, 教科書の理解の補助となる事項をまとめておく。		120分
3	講義②: 現代アジアの経済的再興とイギリス帝国	課題図書の序章から, 現代のイギリス経済の特徴とインド経済との関わりを説明し, イギリス経済に関する知識を共有する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して現代のイギリス経済の特徴とインド経済との関わりについて説明できる。		
	事前学修	教科書の序章を読み, 要点や自分にとって理解しにくい箇所を確認しておく。		120分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して, 序章の要点をまとめ, 事後課題を提出する。		120分
4	グループ・ディスカッション①	第2回, 3回の講義内容をもとに, グループ・ディスカッションを行い, 知識の確認と定着をはかる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して, 現代のイギリス経済とインド経済との関わりやそれに関連する事柄について, 自らの意見を論理的に述べることができる。		
	事前学修	第2回, 3回の講義内容をもとに, グループ・ディスカッションで述べる意見について検討しておく。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を振り返り, 事後課題を提出する。		120分
5	講義③: 環大西洋世界と東インド(1)	課題図書の第1章の1-4節より, 18世紀の環大西洋世界と東インドとの関わりについて解説する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して, 18世紀の環大西洋世界と東インドとの関わりについて説明できる。		
	事前学修	教科書の第1章1-4節を読み, 要点や自分にとって理解しにくい箇所を確認しておく。		180分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して, 第1章1-4節の要点をまとめ, 事後課題を提出する。		180分
6	講義④: 環大西洋世界と東インド(2)	課題図書の第1章の5節より, イギリスの産業革命の歴史的起源や経済史分野における論争について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標②③に関連してイギリスの産業革命の歴史的起源や経済史分野における論争について説明できる。		
	事前学修	教科書の第1章5節を読み, 要点や自分にとって理解しにくい箇所を確認しておく。		120分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して, 第1章5節の要点をまとめ, 事後課題を提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループ・ディスカッション②	第5回、6回の講義内容をもとに、グループ・ディスカッションを行い、知識の確認と定着をはかる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して18世紀の環大西洋世界とイギリス、東インドとの関わりについてや、経済史分野における産業革命に関する論争について自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	第5回、6回の講義内容をもとに、グループ・ディスカッションで述べる意見について検討しておく。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を振り返り、事後課題を提出する。	120分
8	講義⑤：自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ(1)	課題図書の第2章の1-2節より、19世紀イギリスの各植民地との関わりについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して19世紀イギリスの各植民地との関わりについて説明できる。	
	事前学修	教科書の第2章1-2節を読み、要点や自分にとって理解しにくい箇所を確認しておく。	120分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して、第2章1-2節の要点をまとめ、事後課題を提出する。	120分
9	講義⑥：自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ(2)	課題図書の第2章の3-5節より、ジェントルマン資本主義やイギリス経済にとっての金融の役割について解説する。また、ヘゲモニー国家としてのイギリスとアジアとのつながりについても触れる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連してジェントルマン資本主義やイギリス経済にとっての金融の役割について説明できる。	
	事前学修	教科書の第2章3-5節を読み、要点や自分にとって理解しにくい箇所を確認しておく。	120分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して、第2章3-5節の要点をまとめ、事後課題を提出する。	120分
10	グループ・ディスカッション③	第8回、9回の講義内容をもとに、グループ・ディスカッションを行い、知識の確認と定着をはかる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して19世紀のイギリスの帝国主義としての特徴をとらえ、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	第8回、9回の講義内容をもとに、グループ・ディスカッションで述べる意見について検討しておく。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を振り返り、事後課題を提出する。	120分
11	講義⑦：脱植民地化とコモンウェルス(1)	課題図書の第3章の1-2節より、19世紀末から20世紀のイギリスの植民地との関わり方の変化について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して19世紀末から20世紀のイギリスの植民地との関わり方の変化について説明できる。	
	事前学修	教科書の第3章の1-2節を読み、要点や自分にとって理解しにくい箇所を確認しておく。	120分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して、第3章の1-2節の要点をまとめ、事後課題を提出する。	120分
12	講義⑧：脱植民地化とコモンウェルス(2)	課題図書の第3章の3-4節より、イギリスの脱植民地化と帝国の終焉について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連してイギリスの脱植民地化と帝国の終焉について説明できる。	
	事前学修	教科書の第3章の3-4節を読み、要点や自分にとって理解しにくい箇所を確認しておく。	120分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して、第3章の3-4節の要点をまとめ、事後課題を提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループ・ディスカッション④	第11回、12回の講義内容をもとに、グループ・ディスカッションを行い、知識の確認と定着をはかる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連してイギリスがヘゲモニー国家の役割を終える時期の事柄について、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	第11回、12回の講義内容をもとに、グループ・ディスカッションで述べる意見について検討しておく。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を振り返り、事後課題を提出する。	120分
14	講義⑨：グローバル歴史とイギリス帝国	課題図書の終章より、全講義のまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、講義全体（課題図書全体）を振り返り、その要点について説明できる。	
	事前学修	教科書の終章を読み、要点や自分にとって理解しにくい箇所を確認しておく。	120分
	事後学修	講義ノートや資料を確認して、終章および課題図書全体の要点をまとめ、事後課題を提出する。	120分
15	グループ・ディスカッション⑤	第14回の講義内容をもとに、グループ・ディスカッションを行い、知識の確認と定着をはかる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して講義で扱った内容全般について、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	第14回の講義内容をもとに、グループ・ディスカッションで述べる意見について検討しておく。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を振り返り、事後課題を提出する。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
経済学（ミクロⅠ、マクロⅠ）および財政学を履修していること。

【授業方法】		
GoogleClassroomを用いたオンラインによる授業形式。 受講生各人による研究発表レポートをGoogleClassroom上で公表し、発表者以外の受講生が発表者の発表レポートをGoogleClassroom上で評価・講評・感想を述べる。このような形式を通した形でのディスカッションによって授業を進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。						3						
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。						3	3					
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。						3	3	3				
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。						3	3	3	3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対する解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
財政学入門	楠谷 他著	八千代出版	2018年	参考書	任意
基礎コース 公共経済学 第2版	井堀利宏著	新世社	2015年	参考書	任意
図説 日本の財政 令和2年度版または令和3年度版		東洋経済	2020, 21年	参考書	任意
備考	教科書の特定、参考書の選定については、受講生状況に応じて決定する。				

【オフィスアワー】
火曜日 15:00～16：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取る） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス、導入授業】	授業のテーマや内容、授業方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本及び世界の法、政治、行政、経済、等の仕組みについての理解を基に、日本の公共政策に関する問題を学修し説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読む。参考書を手に入れ財政に関する様々な問題意識を構築する。		150分
	事後学修	授業で予定された研究テーマに関する情報を、書籍・新聞・政府発表資料（各省庁のHPなど）等から収集する。今回の発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートの作成を準備する。		120分
2	【日本の財政状況と特徴】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の財政状況と特徴について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。		150分
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。A 4用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。		120分
3	【財政の資源配分機能―公共財供給の意義】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に財政の資源配分機能―公共財供給の意義について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。		150分
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。A 4用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。		120分
4	【財政の所得再分配機能】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に財政による財政の所得再分配機能の意義と方法を理解し、また、ジニ係数値の推移から現状を理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。		150分
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。A 4用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。		120分
5	【財政の経済安定化機能】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に財政による経済安定化機能の意義と方法について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。		150分
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。A 4用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。		120分
6	【国家予算制度】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に国家予算制度の意義と特徴について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。		150分
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。A 4用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	【日本財政の一般会計歳出歳入の現状と問題点】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本財政の一般会計歳出歳入の現状と問題点について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。	150分	
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。	120分	
8	【租税原則論】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に租税原則論意義について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。	150分	
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。	120分	
9	【日本の租税体系と問題点ー所得税のメリット、デメリット】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の所得税のメリット、デメリットについて理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。	150分	
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。	120分	
10	【日本の租税体系と問題点ー消費税のメリット、デメリット】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に消費税のメリット、デメリットについて理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。	150分	
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。	120分	
11	【社会保障財政ー日本の社会保障制度】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の社会保障制度について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。	150分	
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。	120分	
12	【社会保障制度ー日本の公的年金制度】	テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の公的年金制度の現状と問題点について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。	150分	
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【日本の公的年金制度改革】		テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の公的年金制度改革の意義について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。		150分
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。		120分
14	【所得再分配におけるベンサム基準とロールズ基準】		テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に所得再分配におけるベンサム基準とロールズ基準の意義について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。		150分
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。		120分
15	【生活保護とフリードマンの「負の所得税」】		テーマについて、指名された学生による研究報告発表、報告発表に受講学生間での意見感想評価を含めてGoogleClassroom上で意見交換。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者、受講者共に日本の生活保護制度の問題点とその改善策としてのフリードマンの「負の所得税」の意義について理解し、意見表明できる。		
	事前学修	到達目標①②③を踏まえて、テーマについての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、GoogleClassroomでの発表レポートを作成し、授業開始前までに投稿。		150分
	事後学修	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4 用紙に発表者の報告内容に対する講評、感想、評価をまとめ、期限までにGoogleClassroomに提出する。		120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	佐藤 高尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
必要な予備知識は、特になし。積極的に参加しうる履修者を希望する。。履修者は、新聞やインターネットを利用し、日頃からニュースをチェックしておくこと。

【授業方法】
講義を中心にして、演習、集団討議、小テスト、レポート提出等も適宜実施する。人数・習熟度により弾力的な授業運営を行う。フィードバックは、課題やテスト等の形態毎に、授業内もしくはポータルサイトで適時実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修者の希望・人数・習熟度により、ディベートやディスカッションを実施する可能性あり。事前に履修者の意向を確認する予定。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。					3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内の小テスト（毎回の課題）により、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		20	20	20							60
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	10	10							30
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関する質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート等は、後日講義内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。参考文献は適宜紹介予定。				

【オフィスアワー】
講義前後の当該講堂。火曜日17：50～18：20（休暇中を除く）。事前にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス アダム・スミスと共感		到達目標、授業の進め方、成績評価の仕方について説明する。また、参考文献案内をする予定。加えて、「共感（同感）」という観点から、私たちの眼前にある紛争や貧困そして難民といったグローバルな問題にどう向き合うべきかを考える。特にアダム・スミスの議論を中心的に取り上げ、そこから、グローバリゼーションや労働の価値、政府の役割などの喫緊の課題と解決策とを考えていく。	
	この回の到達目標	スミスの「共感」の概念について、その基本的内容を説明することができる。		
	事前学修	シラバスを熟読しておくこと。また、既修科目のテキストやノートを手掛かりに、それらとシラバスとの関連性を検討しておくこと。「共感」という言葉の意味内容を、哲学事典などで調べておくこと（2時間）。		120分
	事後学修	アダム・スミスの『道徳感情論』と『国富論』には、現在入手可能なものでは、どのような翻訳があるのか、調べる。また日本におけるスミスの受容史を調べておくこと（2時間）。		120分
2	アダム・スミスの生涯と著作		スミスの主要著作と、各著作間の関係を比較検討する。それを通じて、スミスの方法論的枠組みを明らかにする。	
	この回の到達目標	スミスの著作を通じて、彼の思想構造を理解するとともに、法律・政治・経済といった社会科学における隣接分野がいかに結びつきうるかを理解することができる。		
	事前学修	アダム・スミスの主要著作にはどのようなものがあるのか、またそれらの版について刊行年も含め調べておくこと（2時間）。		120分
	事後学修	スミスの主張で、現代に適用可能な部分を検討し整理しておくこと（2時間）。		120分
3	スミスの思想の時代的背景とスコットランド		当時のスコットランド課題をとることで、スミスの思想背景を理解する。そうした背景から生成された構想から、スミスを「純粋な資本主義」の擁護者として評価しうるか検討する。	
	この回の到達目標	「資本主義」の概略を理解するとともに、そのプラス面・マイナス面を、スミスの思想を手掛かりに説明することができる。		
	事前学修	「資本主義」とは、そもそも何を意味するのか、複数の文献にあたり、調べておくこと（2時間）。		120分
	事後学修	スミスの主張で、賛成できる箇所・できない箇所を自分なりに検討し、整理しておくこと（2時間）。		120分
4	スミスと「中立な観察者」		グローバル時代に有効な視点として、スミスの「中立な観察者」の概念を説明をする。特にアマルティア・センのスミス理解を手掛かりに、スミスの思想の現代的意義を考える。	
	この回の到達目標	現代における「対立」や「分断」の状況を理解し、それらを解決する手がかりとして、スミスの思想を利用して分析し、解決策を提示することができる。		
	事前学修	「グローバリゼーション」の概念について、どのような人が、どのような定義づけをしているか調べておくこと。複数の定義をおさえておくことが望ましい（2時間）。		120分
	事後学修	スミスはどのようなプロセスで「中立」を担保しようとしているのか、整理しておくこと（2時間）。		120分
5	『国富論』における「富」とは何か？		スミスの「富」の定義を確認するとともに、現代の「富」の認識との共通点・相違点を考察する。加えて、国際体系と「富」がどのように関連するのかを考察し、「富」の外的環境を考える。	
	この回の到達目標	スミスの思想を手掛かりに、現代における自国第一主義の是非を、自分なりに説明することができる。		
	事前学修	「富」（豊かさ）とは何か、自分なりに定義を考えてくること。また、古今の思想家は「富」をどのように定義しているか、調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	スミスの議論のどの部分が現代に応用しうるのかを検討すること（2時間）。		120分
6	分業とその起源		分業論の思想史的系譜を辿り、「分業」の考え方が歴史的にどのように形成され、またどのように変化してきたのかを説明する。その上で、スミスの分業論の特異性を検討する。	
	この回の到達目標	古来より分業論が展開されていることを踏まえた上で、現代で「分業」を論じることの意義や可能性を説明することができる。		
	事前学修	分業のメリットとデメリットを自分なりに考えてくること。具体的事例を用いて説明できるようにしておくこと（2時間）。		120分
	事後学修	事前学習で調べた事例に、授業内容で扱ったスミスの議論はどのように関連付けることができるのか検討すること（2時間）。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	スミスの価格論		スミスにおいて、実質価格、名目価格、労働価格、貨幣価格が、それぞれどのように説明されているかを概観する。その上で、スミスがどのようなものに「商品の価格を構成するもの」を見出しているのかを検討する。	
	この回の到達目標	実質価格、名目価格、労働価格、貨幣価格のそれぞれを類別し、説明することができる。		
	事前学修	スミスは商品の「実質価格」と「名目価格」についてどのように説明しているのか、概要を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	前半のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理しておくこと（2時間）。		120分
8	資本の性格、蓄積、利用（小括：中間試験の可能性あり）		スミスの資財の分類を概観した上で、それと彼の通貨観とを関連付けて検討する。またスミスは生産的労働と非生産的労働とをどのように区別しているのか考察し、この分類が現代ではどのような意義をもちうるか考える（小括：中間試験の可能性あり）。	
	この回の到達目標	スミスの労働観を手掛かりに、現代の労働の在り方を多様な角度から説明・論述することができる。		
	事前学修	現代の日本における「労働」をめぐる問題にどのようなものがあるのか調べておくこと。前半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（2時間）。		120分
	事後学修	スミスは生産的労働と非生産的労働の事例としてどのようなものを挙げていたか確認するとともに、現代特有の労働の在り方を例示し、上記分類のいずれに該当するかけ検討すること（2時間）。		120分
9	資本の性格、蓄積、利用（2）		スミスにおける資本と利子の説明、および資本のさまざまな用途についての説明を概観した上で、トマ・ピケティ『21世紀の資本』や水野和夫『資本主義の終焉と歴史の危機』を手掛かりに、現代資本主義の問題を考える。	
	この回の到達目標	現代の議論において、資本主義の問題のどのようなところに焦点が当たっているのかを理解し、事例を踏まえて論述することができる。		
	事前学修	スミスとマルクスの「資本」の考え方を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	スミスの資本観は、現代に適用できるか否か、具体例とともに検討すること（2時間）。		120分
10	国による豊かさへの道筋の違い		スミスが歴史の発展・展開をどのように認識していたのかを概観した上で、特にローマ帝国の崩壊後に生まれたヨーロッパの旧秩序と農業への障害をどのように理解していたのかを説明する。	
	この回の到達目標	スミスの歴史観を通して、ヨーロッパの法律・政治・経済の史的展開を理解するとともに、それを手掛かりに、現代のさまざまな問題を分析することができる。		
	事前学修	英国のEU離脱の背景と現状を調べてくること（2時間）。		120分
	事後学修	現代の「グローバリゼーション（もしくはグローバリズム）」や、「リージョナリズム」は、スミスの観点からはどのように分析可能か、自分なりに検討しておくこと（2時間）。		120分
11	国による豊かさへの道筋の違い（2）		スミスがローマ帝国崩壊後の都市の発生と発展についてどう認識していたのかを説明し、彼が農村の発展に対する都市の商業の寄与に着目した理由を検討する。	
	この回の到達目標	スミスの歴史観を通して、ヨーロッパの法律・政治・経済の史的展開を理解するとともに、それを手掛かりに、現代のさまざまな問題を分析し、解決策を提示できる。		
	事前学修	G7を中心とする先進国の経済状況の概要を把握するとともに、それらの相違の原因を政治との関連で説明できるように調べておくこと（2時間）。		120分
	事後学修	スミスの都市と農村をめぐる議論の現代的意義と限界はどこに見出せるのか、自分なりにまとめておくこと（2時間）。		120分
12	政治経済学の諸体系		スミスの貿易論と、アメリカやインドなどの植民地観を説明し、グローバルな課題への向き合い方を考える。	
	この回の到達目標	帝国時代の英国と、現代のグローバリゼーションとの共通点と相違点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	経済的グローバリズムの問題点を調べておくこと。また「重商主義」という語の意味を確認するとともに、スミスの時代において何が問題とされていたのかを確認しておくこと（2時間）。		120分
	事後学修	「ポスト・コロニアリズム」という語の意味を確認するとともに、その観点からスミスはどう評価するのか検討すること（2時間）。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベート（１）	現代世界と「共感」―紛争と平和：スミスの「共感」をキーワードにして、現代の紛争や平和の問題をさまざまな角度から検討する。 *履修者の要望によっては、映像資料の利用によるディスカッションやリアクション・ペーパー提出による講義形式の可能性あり。	
	この回の到達目標	これまでの講義内容を、到達目標①②③④にかかわる形で、現実の問題分析に応用することができる。	
	事前学修	事前に具体的なテーマを示すので、それについて賛否両方の立場から、立論の根拠を複数考えてくること（２時間）。	120分
	事後学修	自分とは異なる立場の主張の中から、説得力のある議論を取り上げ、自分自身がそのように評価する理由を検討すること（２時間）。	120分
14	ディベート（２）	3.11後の日本と「共感」：スミスの「共感」をキーワードにして、3.11後の日本が抱える問題をさまざまな角度から検討し、解決策を検討する。 *履修者の要望によっては、映像資料の利用によるディスカッションやリアクション・ペーパー提出による講義形式の可能性あり。	
	この回の到達目標	これまでの講義内容を、到達目標①②③④にかかわる形で、現実の問題分析・解決策の提示に応用することができる。	
	事前学修	事前に具体的なテーマを示すので、それについて賛否両方の立場から、立論の根拠を複数考えてくること（２時間）。	120分
	事後学修	自分とは異なる立場の主張の中から、説得力のある議論を取り上げ、自分自身がそのように評価する理由を検討すること。 後半のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理しておくこと（２時間）。	120分
15	試験および解説授業	試験を実施し、その後に試験についての解説を行う。	
	この回の到達目標	講義全体の内容を、到達目標①②③④にかかわる形で論述できる。	
	事前学修	後半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（２時間）。	120分
	事後学修	授業全体のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理すること（２時間）。	120分

科目名	政治経済専門研究A	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
プレゼンテーションを行う。レポートを作成する。 (※以下、オンデマンド授業になる場合は別に指示する。Googleクラスルーム等の指示を各自で確認すること。)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーションは履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					3							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					3	3						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。					3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者のプレゼンテーションとレポートの内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『パンデミック後の世界 10の教訓』	ファリード・ザカリ ア	日本経済新聞出版	2021年	教科書	必携
備考	なるべく早く購入し、初回に持参すること。教科書を持参した履修生のみが受講できる。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業を始めるに当たっての導入講義	授業の進め方と学び方を確認する。	
	この回の到達目標	授業の進め方と学び方を確認することができる。	
	事前学修	教科書を購入し持参する。シラバスを確認する。	120分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
2	プレゼンテーションとディスカッションの準備	プレゼンテーションとディスカッションの準備を行う。	
	この回の到達目標	プレゼンテーションとディスカッションの準備を行うことができる。	
	事前学修	教科書を大まかに読み終える。授業の進め方についてあらためて確認する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (1)	教科書の序章「コウモリ効果」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の序章「コウモリ効果」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の序章「コウモリ効果」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (2)	教科書のLesson1「シートベルトを締めよ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson1「シートベルトを締めよ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書のLesson1「シートベルトを締めよ」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (3)	教科書のLesson2「重要なのは政府の「量」ではない、「質」だ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson2「重要なのは政府の「量」ではない、「質」だ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書のLesson2「重要なのは政府の「量」ではない、「質」だ」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (4)	教科書のLesson3「市場原理だけではやっていけない」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson3「市場原理だけではやっていけない」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書のLesson3「市場原理だけではやっていけない」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (5)		教科書のLesson4「人々は専門家の声を聞け、専門家は人々の声を聞け」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson4「人々は専門家の声を聞け、専門家は人々の声を聞け」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書のLesson4「人々は専門家の声を聞け、専門家は人々の声を聞け」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
8	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (6)		教科書のLesson5「ライフ・イズ・デジタル」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson5「ライフ・イズ・デジタル」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書のLesson5「ライフ・イズ・デジタル」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
9	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (7)		教科書のLesson6「アリストテレスの慧眼——人は社会的な動物である」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson6「アリストテレスの慧眼——人は社会的な動物である」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書のLesson6「アリストテレスの慧眼——人は社会的な動物である」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
10	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (8)		教科書のLesson7「不平等は広がる」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson7「不平等は広がる」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書のLesson7「不平等は広がる」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
11	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (9)		教科書のLesson8「グローバリゼーションは死んでいない」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson8「グローバリゼーションは死んでいない」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書のLesson8「グローバリゼーションは死んでいない」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
12	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (10)		教科書のLesson9「二極化する世界」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書のLesson9「二極化する世界」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書のLesson9「二極化する世界」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（11）		教科書のLesson10「徹底した現実主義者は、ときに理想主義者である」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書のLesson10「徹底した現実主義者は、ときに理想主義者である」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書のLesson10「徹底した現実主義者は、ときに理想主義者である」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（12）		教科書の終章「運命は決まってなどいない」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の終章「運命は決まってなどいない」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の終章「運命は決まってなどいない」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	授業のふりかえり		これまでの授業の内容をふりかえる。新型コロナウイルスのパンデミックが起きた現代世界の全体像を理解し、グローバルな政治経済情勢を展望する。
	この回の到達目標	これまでの授業の内容をふりかえることができる。新型コロナウイルスのパンデミックが起きた現代世界の全体像を理解し、グローバルな政治経済情勢を展望することができる。	
	事前学修	これまでの授業の内容をふりかえる。	120分
	事後学修	授業をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
現代の政治事象に多大な関心を有していること。また、情報共有のため、Google Classroomへの登録が必須となる。

【授業方法】
授業は、講義形式だけでなく、演習形式もとり入れて、展開する。それゆえ、各自が事前に作成したレジュメの内容を報告し、それにもとづいて活発な議論をおこなう場面も多々ある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自、割りあてられた箇所のレジュメを作成するだけでなく、毎時間、積極的に議論に参加することとなっている。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。					4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。					4	4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学2』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『日米首脳会談と「現代政治」』	浅野一弘	同文館出版	2000	参考書	推奨
『日米首脳会談と戦後政治』	浅野一弘	同文館出版	2009	参考書	推奨
『改訂版 現代日本の政治』	飯尾潤	放送大学教育振興会	2019	参考書	任意
『日本政治の第一歩』	上神貴佳・三浦まり編	有斐閣	2018	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日・お昼休み（休暇中はのぞく）に実施する。希望者は研究室までくること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	・レジュメの作成方法と報告のポイント ・日本政治における権力者		教科書を熟読するだけでなく、それ以外の関連書籍の精読などをもとにして、みずからレジュメを作成することとなるが、その方法について学ぶとともに、報告をするにあたってのポイントを学修する。くわえて、日本政治の真の権力者がだれかをおさえる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、図書館での参考文献の探し方をマスターするとともに、レジュメ作成にあたっての知識を習得する。さらに、日本政治の実態をおさえておく。		
	事前学修	シラバスを読み、半年間の授業の流れを把握する。くわえて、自分の希望する担当箇所をいくつかリストアップしておく。また、授業であつかった教科書の第16回を熟読し、日本政治の真の実力者の動向についておさえておく。		120分
	事後学修	授業中のメモを確認し、教科書の自分の担当部分を熟読する。		120分
2	冷戦の契機		冷戦の開始時期についてはさまざまな議論があるが、ここでは、それらの学説を整理したうえで、冷戦の契機の特定をこころみる学修をする。くわえて、冷戦の終焉についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際政治に大きな影響をおよぼした冷戦の特質について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第17回を精読し、冷戦に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
3	党人派と官僚派		自民党内の党人派と官僚派の政治的駆けひきを学修する。くわえて、その起源についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自民党内における党人派と官僚派の対立の構図について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第18回を精読し、党人派と官僚派に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
4	日本外交の原点		米国追従外交という視点をふまえ、戦後日本外交をめぐる政治過程を学修する。くわえて、アジアと日本との関連についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後の日本外交の特質について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第19回を精読し、敗戦後の日本外交の起点に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
5	安保改定への道		旧日米安全舗装条約締結までの政治過程を学修する。くわえて、旧日米安全保障条約の問題点についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、旧日米安全保障条約の特質を説明することができる。		
	事前学修	教科書の第20回を精読し、旧日米安全保障条約に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
6	安保改定の位置づけ		安保改定をめぐる政治過程を学修する。くわえて、戦後政治における安保改定の意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、安保改定の動向について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第21回を精読し、安保改定に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	自然災害と危機管理	日本の危機管理の実態を学修する。くわえて、危機の意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本における危機管理の特質について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第22回を精読し、自然災害と危機管理に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
8	地方自治をめぐる日米比較	地方自治に着目し、日米間の相違点を学修する。くわえて、地方分権の動向についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本と米国との地方自治の類似点を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第23回を精読し、日米両国の地方自治に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
9	自民党総裁選挙の政治学	自民党総裁誕生をめぐる政治過程を学修する。くわえて、自民党総裁選挙が日本経済にあたえた影響についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自民党総裁選挙のしくみを説明することができる。	
	事前学修	教科書の第24回を精読し、自民党総裁選挙に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
10	自民党の派閥政治	派閥の対立がもたらす政治過程を学修する。くわえて、日本政治史上における派閥のもつ意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自民党の派閥政治の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第25回を精読し、自民党の派閥政治に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
11	内閣改造・自民党役員人事	内閣改造・自民党役員人事をめぐる政治過程を学修する。くわえて、政権交代の意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、内閣改造・自民党役員人事の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の第26回を精読し、ひんばんにみられる内閣改造・自民党役員人事に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分
12	内閣総理大臣と閣僚	内閣総理大臣と閣僚の関係性を学修する。くわえて、閣議の実態についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、閣議のもつ性格について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第27回を精読し、内閣総理大臣と閣僚に関するトピックをおさえておく。	120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	米国の連邦最高裁判所		米国の連邦最高裁判所をめぐる政治過程を学修する。くわえて、三権分立の意味についても、詳細に考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国の連邦最高裁判所の特質にくわえ、政治とのつながりを説明することができる。		
	事前学修	教科書の第28回を精読し、米国の連邦最高裁判所に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
14	米国の中間選挙		米国における中間選挙の特徴を学修する。とりわけ、大統領選挙との関連において、中間選挙の投票率のひくさの意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、米国の中間選挙の特質を説明することができる。		
	事前学修	教科書の第29回を精読し、米国の中間選挙に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分
15	日本の住民投票		沖縄県における住民投票実現までの政治過程を学修する。くわえて、日本政治における沖縄の位置づけについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の住民投票の特質を説明することができる。		
	事前学修	教科書の第30回を精読し、日本の住民投票に関するトピックをおさえておく。		120分
	事後学修	レジュメの内容をみなおすとともに、授業であつかった教科書の当該箇所を再読する。また、授業中に担当教員がコメントした事柄についても思いだし、まとめておくようにする。		120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
政治的・社会的課題について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
各テーマについて講義形式とグループワーク形式を組み合わせる。グループワークでは、グループ内で意見を出し合い、その話し合った内容について発表を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。					4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。					4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。					4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。					4	4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の政策課題』	岩崎正洋（編）	八千代出版	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:15-13:00 研究室（4号館4階9403研究室） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	「外国人労働者（1）：講義」	日本の外国人労働者をめぐる問題状況、および日本の外国人労働者政策の特徴がどのようなものであるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の外国人労働者をめぐる問題状況、および日本の外国人労働者政策の特徴について説明できる。	
	事前学修	教科書の第8章を読み、日本における外国人労働者の現状、および日本の外国人労働者政策の特徴について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の外国人労働者をめぐる問題状況と政策的対応の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	「外国人労働者（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、少子化の現状とそれに対する政府の対策を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第8章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の外国人労働者をめぐる問題状況と政府による外国人労働者政策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	「観光立国（1）：講義」	世界および日本における観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の観光政策の特徴、およびグローバル時代の観光をめぐる功罪について説明できる。	
	事前学修	教科書の第9章を読み、世界および日本における観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本の観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	「観光立国（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の観光政策の特徴、およびグローバル時代の観光をめぐる功罪を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第9章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本の観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	「エネルギー問題（1）：講義」	世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について説明できる。	
	事前学修	教科書の第10章を読み、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「エネルギー問題（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第10章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
8	「防災（1）：講義」	日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について説明できる。	
	事前学修	教科書の第11章を読み、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
9	「防災（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第11章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
10	「ソーシャルメディアと政治（1）：講義」	「アラブの春」などソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、ソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について説明できる。	
	事前学修	教科書の第13章を読み、ソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、ソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
11	「ソーシャルメディアと政治（2）：グループワーク・発表」	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソーシャルメディアをめぐる政治的課題を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第13章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、ソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
12	「グローバル化が当たり前なのか？（1）：講義」	グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて説明できる。	
	事前学修	事前に配布する「グローバル化が当たり前なのか？」という論考を読み、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「グローバル化が当たり前なのか？」 (2)：グループワーク・発表	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グローバル化した時代における国家の役割を踏まえて、自らの意見を論理的に述べるができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて「グローバル化が当たり前なのか？」を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	「国会をいかに活性化するか？」 (1)：講義	日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、および国会における審議の形骸化をもたらした要因について説明できる。	
	事前学修	事前に配布する「国会をいかに活性化するか？」という論考を読み、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
15	「国会をいかに活性化するか？」 (2)：グループワーク・発表	履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。履修者は、グループワークを通じて、自らの考えを他者に対して論理的に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、および国会における審議の形骸化をもたらした要因を踏まえて、自らの意見を論理的に述べることができる。	
	事前学修	前回の授業での講義内容を踏まえて「国会をいかに活性化するか？」を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
課題図書についての輪読を主とし、形式はプレゼンテーション担当、質疑担当、司会担当など毎回役割分担を交代しながら実施し、発表→質疑→ディスカッションの流れで行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講生によるプレゼンテーションと、それにもどづくディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。						4						
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。						4	4					
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。						4	4	4				
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。						4	4	4	4			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的に授業時間内に行なう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グローバル時代のアメリカ 冷戦時代から21世紀（シリーズアメリカ合衆国史④）（岩波新書 1773）	古矢 旬	岩波書店	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取る）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション:講義の進め方、評価方法等につ いて	講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介等について説明し、受講生が本講義を受けるための準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	講義のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介等について理解し、説明できる。	
	事前学修	シラバスを読む。課題図書を準備しておく。	120分
	事後学修	課題図書を概観する(目次等から内容を大まかに把握する)。	120分
2	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (1) : 第1章「曲がり角のアメリカー1970年代」	課題図書の第1章1「成長からスタグフレーションへ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第1章1「成長からスタグフレーションへ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進捗ができたかなどについて振り返っておく	120分
3	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (2) : 第1章「曲がり角のアメリカー1970年代」	課題図書の第1章2「70年代の文化変容」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第1章2「70年代の文化変容」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進捗ができたかなどについて振り返っておく	120分
4	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (3) : 第1章「曲がり角のアメリカー1970年代」	課題図書の第1章3「ポスト・ウォーターゲイト」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第1章3「ポスト・ウォーターゲイト」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進捗ができたかなどについて振り返っておく	120分
5	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (4) : 第1章「曲がり角のアメリカー1970年代」	課題図書の第1章4「民主党リベラルから共和党保守へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第1章4「民主党リベラルから共和党保守へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進捗ができたかなどについて振り返っておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (5) : 第2章「レーガンの時代」	課題図書の第2章1 「レーガノミクス」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第2章1 「レーガノミクス」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
7	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (6) : 第2章「レーガンの時代」	課題図書の第2章2「『力による平和』と冷戦の終わり」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第2章2「『力による平和』と冷戦の終わり」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
8	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (7) : 第3章「グローバル時代の唯一の超大国」	課題図書の第3章1「民主党の変容とニューエコノミー」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第3章1「民主党の変容とニューエコノミー」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
9	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (8) : 第3章「グローバル時代の唯一の超大国」	課題図書の第3章2「グローバル化の波」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第3章2「グローバル化の波」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
10	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (9) : 第3章「グローバル時代の唯一の超大国」	課題図書の第3章3「アメリカの再定義」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第3章3「アメリカの再定義」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】 課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（10）：第3章「グローバル時代の唯一の超大国」	課題図書の第3章4「漂流する超大国外交」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第3章4「漂流する超大国外交」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
12	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（10）：第4章「21世紀のアメリカ」	課題図書の第4章1「暗転するグローバル化」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第4章1「暗転するグローバル化」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
13	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（12）：第4章「21世紀のアメリカ」	課題図書の第4章2「オバマとトランプ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第4章2「オバマとトランプ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
14	課題図書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（13）：第4章「21世紀のアメリカ」	課題図書の第4章3「アメリカと世界」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書の第4章3「アメリカと世界」についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	【全員】課題図書の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
15	全体のまとめ	課題図書全体を振り返り、全体でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	課題図書から得た知識や、そこから生じた論点等について、全体で共有し意見交換できる。	
	事前学修	課題図書全体や各回のレジュメ等を振り返っておく。	120分
	事後学修	ディスカッションで得た知見や考えをまとめ、レポートとして提出する。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	佐藤 高尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
積極的に参加しうる履修者を希望する。政治学（原論）、政治思想史、平和学の既修、もしくは本講義と並行して履修者を前提とする。履修者は、新聞やインターネットを利用し、日頃からニュースをチェックしておくこと。

【授業方法】
講義形式を中心に行う。また授業中に意見・感想を求める場合がある。履修者の理解度や習熟度により、弾力的に授業を運営していく予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。				4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。				4	4	4	4				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内の小テスト（毎回の課題）により、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		20	20	20							60
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	5	5	10	10							30
討論・発表等												
授業への参画度	授業に関連した質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポート等は、後日講義内で講評を行う。授業内試験を実施する場合は、試験後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
内戦の地に生きる：フォトグラファーが見た「いのち」	橋本 昇	岩波ジュニア新書	2019	その他	任意
カラー版 アフガニスタンで考える	中村 哲	岩波ブックレット	2006	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
講義前後の当該教室。火曜日17：50～18：20（休暇中を除く）。事前にアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 紛争とはなにか 平和とはなにか	到達目標、授業の進め方、成績評価の仕方について説明する。また、参考文献案内をする予定。加えて、「紛争」および「平和」の概念について基本的内容を確認する。	
	この回の到達目標	「紛争」および「平和」の概念について、その基本的内容を説明することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを熟読しておくこと。履修上確認しておきたい点をチェックしておくこと。社会科学系の事典で、「紛争」・「平和」の項目を調べておくこと。	120分
	事後学修	講義後にシラバスを熟読し、履修上必要な事項を確認しておくこと。	120分
2	国際紛争はどうとらえられてきたのか	伝統的紛争観および冷戦後の紛争の異同を確認した上で、民主的平和論の功罪を検討し、現代の紛争の向き合い方を明らかにする。	
	この回の到達目標	従来の伝統的紛争観の特徴を理解し、説明できるようになる。現代の紛争の特徴を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	WWI、WWII、冷戦、イラク戦争の概要を調べておくこと。	120分
	事後学修	シリア内戦と講義内容とをどのように関連づけられるか検討する。	120分
3	現代紛争の構造とグローバリゼーション	紛争の現状と形態の変化を説明し、グローバリゼーションと紛争とがいかに結びついているのかを明らかにし、「私たち」との関係性を検討する。	
	この回の到達目標	グローバリゼーションが何かを理解した上で、その正負両面を理解し、それを紛争と関連づけて説明することができる。	
	事前学修	ユーゴ紛争、ルワンダ紛争の概要を調べておくこと。	120分
	事後学修	中満泉『危機の現場に立つ』（講談社、2017年）を読み、紛争の現場ではどのようなことが起こりうるのかを、講義と関連付けて検討すること。	120分
4	地域機構	冷戦終結と地域機構の再登場という事態を、国際紛争における地域機構の役割および政策としての地域的アプローチという観点から説明する。	
	この回の到達目標	冷戦前、冷戦後の地域機構の役割の違いを認識し、類別することができる。	
	事前学修	EU、AUが紛争に関係した事例を調べておくこと。	120分
	事後学修	地域機構による紛争への関与の成功例・失敗例を調べ、その原因を検討すること。	120分
5	核軍拡と核軍縮	世界の核兵器の現状を抑えるとともに、核軍拡と核戦略の変遷を辿ることで、戦後の核軍縮の歩みとその現代的課題を検討する。	
	この回の到達目標	核問題の現状と課題を理解した上で、日本の役割を提示しうる。	
	事前学修	イラン、北朝鮮の核問題の論点を確認しておくこと。	120分
	事後学修	萩中三十二、佐藤優『核と戦争のリスク 北朝鮮・アメリカ・日本・中国 動乱の世界情勢を読む』（朝日新書、2017年）を読み、講義との関連性を検討すること。	120分
6	人の移動と難民保護（1）	「移動する人々」の実態を踏まえた上で、人の移動はなぜ起きるのか、その原因を探るとともに、更に長期難民状況の実態を明らかにする。	
	この回の到達目標	移民・難民の移動原因を、「プッシュ要因」「プル要因」という用語を用いて整理し、論述することができる。	
	事前学修	ミュリエル・ジョリヴェ『移民と現代フランス：フランスは「住めば都」か』（集英社新書、2003年）を読むこと。	120分
	事後学修	日本の移民・難民受け入れ状況とその問題点を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	人の移動と難民保護（2）	移動する人々の脆弱性や受入国の受容の在り方の問題等を考察する。その上で、移動する人々の問題にどう向き合うべきなのかを考える。	
	この回の到達目標	移動する人々の受け入れ状況と、各国の対応の違いを区別できる。	
	事前学修	内藤正典『ヨーロッパとイスラーム：共生は可能か』（岩波新書、2004年）を読んでくること。	120分
	事後学修	米川正子『あやつられる難民：政府、国連、NGOのはざままで』（ちくま新書、2017年）と講義内容との関連を確認しておくこと。	120分
8	テロリズムとテロ対策（前半のまとめを行う可能性あり）	国際テロリズムの動向を抑えたうえで、テロリズムの原因およびテロ対策を説明する。 *前半のまとめを行う可能性あり。	
	この回の到達目標	9.11前後のテロ認識、世界認識の変容を説明することができる。	
	事前学修	9.11テロの概要を調べてくること。	120分
	事後学修	「テロ」というレッテルを張られる側の論理を考えること。	120分
9	紛争後選挙と選挙支援	紛争後選挙の意義と課題を考察し、それを支援するための取り組みを説明する。その上で、移行支援としての選挙支援のあり方を明らかにする。	
	この回の到達目標	紛争後選挙の意義を理解し、紛争とデモクラシーとを関連付けて考察することができる。	
	事前学修	東ティモールとカンボジアで行われた日本の選挙支援の内容を調べておくこと。	120分
	事後学修	選挙監視団が選挙の不正・不公平を報告した事例を調べ、その後の状況を確認しておくこと。	120分
10	開発協力（1）	「開発」の意味内容を明らかにした上で、開発の阻害要因としての紛争の影響を説明する。さらに、貧困と紛争とがいかなる関係性を有するのかを検討する。	
	この回の到達目標	「開発」と「紛争」との関係性を理解し、記述形式で詳説することができる。	
	事前学修	「貧困の罟」「FFW」の意味を調べておくこと。	120分
	事後学修	アマルティア・セン『貧困の克服』（集英社新書、2002年）を読み、講義内容をフォローしておくこと。	120分
11	開発協力（2）	人道支援から開発協力への流れを考察する。人道支援の内容を押さえた上で、自立に向けて取り組まれる諸施策を説明する。それらを踏まえ、平和構築のための開発の位置づけを考察する。	
	この回の到達目標	人道支援と開発協力を対比し、違いを明確に述べることができる。	
	事前学修	「ODA」の意味を調べておくこと。	120分
	事後学修	アマルティア・セン『人間の安全保障』（集英社新書、2005年）を読み、講義内容との関連を検討すること。	120分
12	平和構築とジェンダー	平和とジェンダーとの関係を、種々の社会との関連の中で検討する。その上で、ジェンダー的な暴力の連鎖の実態を説明し、それを回避するため諸施策を考察する。	
	この回の到達目標	ジェンダーを紛争および「構造的暴力」というキーワードと関連づけて説明することができる。	
	事前学修	マララさんのノーベル平和賞受賞演説を読んでくること。	120分
	事後学修	国連・国際NGOのジェンダー的暴力の具体的事例を調べておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	NGOと市民社会	NGOとはなにかをまずは押さえた上で、地域紛争においてNGOがいかなる役割を果たしているのかを説明する。さらに日本のNGOの現状と課題を明らかにする。	
	この回の到達目標	平和のアクターとしてNGOを把握するとともに、「私たち」の観点から平和にどう関わることを示すことができる。	
	事前学修	岸谷美穂『イラクの戦場で学んだこと』（岩波ジュニア新書、2005年）を読んでくること。	120分
	事後学修	鬼丸昌也『平和をつくるを仕事にする』（ちくまプリマー新書、2018）を読み、「私たち」と「紛争」との関わり方を検討すること。任意のNGO団体のHPを調べ、活動内容と財政状況を調べること。	120分
14	理解度の確認：要点のまとめ	重要ポイント振り返るとともに、質疑の時間を設け、個別の論点について解説する。	
	この回の到達目標	講義全体の内容を、到達目標①②③④にかかわる形で説明ができる。	
	事前学修	ノートなどを見直し、理解が不十分な点を確認しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容を踏まえ、再度ノートを整理しておくこと。	120分
15	試験及び解説授業	試験を実施し、その後に試験についての解説を行う。	
	この回の到達目標	講義全体の内容を、到達目標①②③④にかかわる形で論述できる。	
	事前学修	各論点を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。	120分
	事後学修	解説を踏まえた上で、自分なりに試験の解答を再度作成しておくこと。	120分

科目名	政治経済専門研究B(選挙制度論)	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レジュメ等の関連資料の配布は、共有フォルダ等の手段を用いて行う。また授業内あるいはポータルシステムを介し、定期的にレポートの提出を求め、授業者の理解度を確認する。定期試験の解説は後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、何回かグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。												
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。						4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。						4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。						4	4	4				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートに対する講評、報告に対するコメント。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	履修者と相談の上決定する。				

【オフィスアワー】
火曜の昼休憩時に研究室にて。事前の予約は必要。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的の市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治的の市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	授業計画の策定		講義の内容や進め方に関して、具体的な担当者の割り振りを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の運営について意思決定を行うことで、政治的の市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。そのうえで授業を履修するか否かを決定する。		120分
	事後学修	選定された教科書の目次・内容を確認し、次週の報告内容について自分なりに整理する。		120分
3	報告（教員）		選定された教科書の概要について、講座担当者がレジュメなどを用い講義を行う。その後、講義の内容・意見・感想について講義担当者及び受講生間でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講座担当者の報告内容を参考にしつつ今後の報告に向けて準備を行うことで、政治的の市民として社会的課題について取り組む知識を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び講義内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
4	報告①（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的の市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
5	報告②（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的の市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
6	報告③（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的の市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	報告④（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
8	報告⑤（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
9	報告⑥（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
10	報告⑦（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
11	報告⑧（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分
12	報告⑨（学生）		教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。		
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。		120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	報告⑨（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
14	報告⑩（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分
15	報告⑪（学生）	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告内容を作成・報告し、質疑応答の過程で、政治的市民として社会的課題について取り組む態度を習得できる。	
	事前学修	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。	120分
	事後学修	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。	120分

科目名	政治経済専門研究B	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
今日の日本及び世界が直面している社会的課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになるために、社会科学の基礎的な知識を用いながら、それらの社会的課題の背景や構造について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今日の日本及び世界が直面している様々な社会的課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から学修する。

【履修条件】
スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
プレゼンテーションを行う。レポートを作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーションは履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				4							
②	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				4	4						
③	社会科学の概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明し、新たな知見を導出することができる。				4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、どのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解し、具体的な解決の方策を提案することができる。				4	4	4	4				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。		10	10	10							30
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者のプレゼンテーションとレポートの内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』上巻	ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社	2016年		
『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』下巻	ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社	2016年		
備考	上下巻ともになるべく早く購入し、いずれも初回に持参すること。教科書を持参した履修生のみが受講できる。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業を始めるに当たって、導入講義	授業の進め方と学び方を確認する。	
	この回の到達目標	授業の進め方と学び方を確認することができる。	
	事前学修	教科書を上下巻ともに購入し、いずれも初回に持参する。	120分
	事後学修	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
2	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (1)	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
3	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (2)	第2章「虚構が協力を可能にした」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	第2章「虚構が協力を可能にした」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の第2章「虚構が協力を可能にした」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
4	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (3)	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」と第4章「史上最も危険な種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」と第4章「史上最も危険な種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」と第4章「史上最も危険な種」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
5	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (4)	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」と第6章「神話による社会の拡大」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」と第6章「神話による社会の拡大」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」と第6章「神話による社会の拡大」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
6	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (5)	教科書の第7章「書記体系の発明」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第7章「書記体系の発明」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の第7章「書記体系の発明」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (6)		教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
8	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (7)		教科書の第9章「統一へ向かう世界」と第10章「最強の征服者、貨幣」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第9章「統一へ向かう世界」と第10章「最強の征服者、貨幣」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書の第9章「統一へ向かう世界」と第10章「最強の征服者、貨幣」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
9	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (8)		教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
10	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (9)		教科書の第12章「宗教という超人的秩序」と第13章「歴史の必然と謎めいた選択」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第12章「宗教という超人的秩序」と第13章「歴史の必然と謎めいた選択」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書の第12章「宗教という超人的秩序」と第13章「歴史の必然と謎めいた選択」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
11	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (10)		教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」と第15章「科学と帝国の融合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」と第15章「科学と帝国の融合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」と第15章「科学と帝国の融合」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分
12	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション (11)		教科書の第16章「拡大するパイという資本主義のマジック」と第17章「産業の推進力」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義のマジック」と第17章「産業の推進力」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義のマジック」と第17章「産業の推進力」について準備する。		120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（12）		教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
14	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（13）		教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」についてプレゼンテーションとディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。	120分
15	教科書に基づくプレゼンテーションとディスカッション（14）		教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	この回の到達目標	教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	事前学修	教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」について準備する。	120分
	事後学修	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。	120分

科目名	政治コミュニケーション	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディアが政治に関して報道することはいかなる意味があるのか。この講義では、戦後日本の政治とメディアの関係についての基礎知識を学んだ上で、メディアが様々な政治的・社会的な問題を報道することが、民主主義社会においていかなる意味を有するのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
戦後日本の政治とメディアの関係についての基礎知識を養成することを目的とする。政治とメディアに関する様々な議論を学ぶことを通じて、政治的・社会的問題の展開にメディアやコミュニケーションが重要な役割を果たしていることを理解できるようになることを目標とする。

【履修条件】
マス・コミュニケーション論の履修を終えていることが望ましい。

【授業方法】
授業は講義形式で行う。進行に応じて映像資料を用いる。(2021年度はオンデマンド講義となる)

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治とメディアの関係について、理解できるようになる。				3	3	3	3				
②	ニュース生産の背景を、自身の関心に基づいて考察できるようになる。				3	3	3	3				
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②と関連して、授業内試験（期末レポート）を行う。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問があれば、メール等で受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） 事前にメールでアポイントメントを取ること。mitani.fumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	シラバスやスケジュール、授業の進め方の確認を行う。	
	この回の到達目標	授業の評価方法や、今後の進め方、政治コミュニケーションの授業で扱う内容などを全体的に理解する。	
	事前学修	シラバスを確認すること	120分
	事後学修	授業内で配布した資料を読むこと	120分
2	政治コミュニケーション論の基礎概念（1）	政治コミュニケーション論において重要な基礎概念を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーション論において重要な基礎概念を理解できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
3	政治コミュニケーション論の基礎概念（2）	政治コミュニケーション論において重要な基礎概念を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーション論において重要な基礎概念を理解できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
4	政治コミュニケーション論の展開（1）	政治コミュニケーション論の観点から効果研究を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーション論の観点から効果研究を学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
5	政治コミュニケーション論の展開（2）	マス・コミュニケーション研究の視座転換	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、政治コミュニケーション研究の理論的転換について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
6	政治コミュニケーション論の展開（3）	批判的コミュニケーション論	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、批判的コミュニケーション論の特徴を理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ニュース研究とフレーム分析	ニュース制作過程とフレーム分析の関係を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、ニュース制作過程とフレームの関係を理解できるようになる。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
8	政治における象徴と儀礼	政治における象徴と儀礼について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、政治における象徴と儀礼について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
9	メディア・イベント	メディア・イベント論について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、メディア・イベント論について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
10	水俣病事件報道とヘゲモニー	水俣病事件報道をヘゲモニーの観点から学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、水俣病事件報道をヘゲモニーの観点から学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
11	沖縄問題報道と境界線の政治	沖縄問題報道を境界線の政治の観点から学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、沖縄問題報道を境界線の政治の観点から学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
12	原発問題報道と社会秩序	原発問題報道と社会秩序の関係を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原発問題報道と社会秩序の関係を学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ポピュリズムにおけるメディア政治	ポピュリズムとメディア政治の関係を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポピュリズムとメディア政治の関係を学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
14	フェイクニュースとポスト真実	政治とメディアの今日的課題について検討する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治とメディアの今日的課題について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
15	これまでのまとめ	これまでの授業の振り返りを行う	
	この回の到達目標	到達目標①②が達成できているのかを再確認する。	
	事前学修	これまでの復習。	120分
	事後学修	分からなかったところを復習する。	120分

科目名	政治制度論	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
新制度論と呼ばれる一連の理論・分析枠組みについて、伝統的な制度論との対比を明確にしながら学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治制度をめぐる諸問題について客観的・批判的に観察し、その本質を理解し説明することができるようになるために、「新制度論」と呼ばれる理論的潮流に含まれる一連の理論や分析枠組みを修得する。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				2							
②	新制度論の分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。				2	2						
③	新制度論の基礎的な知識をもとに、現実の政治制度をめぐる問題について合理的かつ批判的に説明することができる。				2	2	2					
④	現実の民主主義社会において、政治制度をめぐってどのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				2	2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	20							80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標②に関わる基礎知識を評価する。		10									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標③④にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新制度論』	B・ガイ・ピーター ス／土屋光芳（訳）	芦書房	2007	参考書	任意
『比較政治制度論』	建林正彦・曾我謙 悟・待鳥聡史	有斐閣	2008	参考書	任意
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。また、政治的市民として政治学を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、政治学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	「旧制度論と新制度論（１）」	伝統的な政治制度論（旧制度論）として位置づけられる研究として、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューの議論がどのような特徴をもつものであったのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューによる政治制度論の特徴を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューがどのような議論を展開していたのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、旧制度論として位置づけられる理論や分析枠組みの特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	「旧制度論と新制度論（２）」	政治学における理論的潮流の変化として、旧制度論からリアリズム、科学的政治学、そして現代政治学（行動論や合理的選択論）への移り変わりがどのようにして起きたのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、旧制度論からリアリズム、科学的政治学、そして現代政治学（行動論や合理的選択論）への理論的潮流の移り変わりを説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、政治学における旧制度論から行動論・合理的選択論への移り変わりについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政治学における旧制度論から現代政治学への変動の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	「旧制度論と新制度論（３）」	マーチ&オルセンが指摘した現代政治学の特徴および欠点がどのようなものであるのか、新たに登場した新制度論にはどのような理論的特徴があり、またどのような学派が存在しているのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新制度論の理論的特徴を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、現代政治学にはどのような特徴が見られるのか、新制度論と呼ばれる理論的潮流にはどのような特徴が見られるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、現代政治学の特徴と欠点、新制度論の理論的特徴と学派について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	「新制度論のルーツ（１）」	マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）は、制度をどのように捉えているのか、そして政治的事象をどのような枠組みで理解しようとするのか、という点を履修者が説明できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マーチ&オルセンの提唱する規範的制度論の特徴および現実的妥当性を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）が、制度をどのように捉え、どのような立場から政治的事象の分析を行うのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マーチ&オルセンの規範的制度論の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	「新制度論のルーツ（２）」	マーチ&オルセンの規範的制度論では状況の変化に対して政治制度がどのように対応すると理解しているのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、規範的制度論では状況の変化に対して政治制度がどのように対応すると理解しているのかを説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）には、制度の変化をどのような視点から分析するのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マーチ&オルセンの規範的制度論の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「合理的選択論と制度論（１）」	合理的選択制度論が、どのような考え方に立脚し、どのようにして制度が形成されると理解しているのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、合理的選択制度論の基礎的認識について説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、合理的選択制度論がどのような考え方に立脚しているのか、制度をどのように捉えているのかという点を自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、合理的選択制度論の基本的な考え方と制度の形成に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
8	「合理的選択論と制度論（２）」	本人-代理人モデルの基本的な考え方がどのようなものであり、本人-代理人モデルの視座からは民主主義はどのようなシステムと理解できるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本人-代理人モデルの基本的特徴を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、本人-代理人モデル（プリンシパル・エージェント・モデル）とはどのようなモデルであるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、本人-代理人モデルに関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
9	「歴史的制度論（１）」	国家論とはどのような特徴をもち、なぜ登場してきたのか、そしてアクター中心のアプローチにはどのような特徴があるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、国家論の登場の背景、およびアクター中心アプローチの特徴を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、国家論アプローチの特徴およびアクター中心のアプローチの特徴について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国家論およびアクター中心のアプローチの要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
10	「歴史的制度論（２）」	歴史的制度論の基本的なアプローチの特徴がどのようなものであるか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、歴史的制度論のアプローチの基本的特徴について説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、歴史的制度論がどのようなスタンスに立ち、どのようなアプローチをとるのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、歴史的制度論の基本的なアプローチの要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
11	「歴史的制度論（３）」	歴史的制度論の鍵概念である「経路依存性」とはどのような概念であるのか、歴史的制度論は制度の変化をどのように捉えるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「経路依存性」の特徴、および歴史的制度論における制度変化の理解について説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、歴史的制度論の鍵概念である「経路依存性」とはどのような概念であるのか、また歴史的制度論では制度の変化をどのように捉えるのかという点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、経路依存性に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
12	「社会学的制度論（１）」	社会学的制度論では、制度概念をどのようなもの捉えているのか、そして個人の行動に対して制度はどのような影響を及ぼすと捉えているのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、社会学的制度論における制度概念、および個人の行動に対する制度の影響の捉え方について説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、社会学的制度論が制度をどのように捉えているのか、またどのような枠組みに基づいて政治的事象を分析するのかという点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、社会学的制度論の制度概念および行動に及ぼす制度の影響に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「社会学的制度論（2）」	社会学的制度論が提起する「制度の同型化」とはどのようなロジックであるのか検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会学的制度論が提起する「制度の同型化」のロジック、および現実的妥当性を説明できる。	
	事前学修	参考文献などにあたり、社会学的制度論が提起する「制度の同型化」について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。	120分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、社会学的制度論で提起される「制度の同型化」に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	「講義のまとめ」	第2回から第13回までの講義をふりかえり、各回での議論の要点について解説を行い、全体の議論の流れ、および各回で提示された理論やモデルについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各回で提示された理論やモデルの現実的妥当性および相互の関連性について説明できる。	
	事前学修	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	60分
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各回で提示された理論やモデルがどのようなものであるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げられている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。	180分
15	「授業内試験および解説」	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内で説明した理論やモデルについての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	政治哲学	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
政治哲学は政治学における「べき」論、すなわち、どのような公共政策や政治制度が望ましいかについて考える分野である。しかし、政策担当者（政治家・官僚）が抱く「べき」論は、一私人が抱くそれとは自ずから異なる。本講義では、どのような政治目的を追求すべきかという観点から、幸福、自由といった政治哲学の規範的概念について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治哲学の諸概念について理解し、現実の決定や判断について分析・評価する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパー、グループ討議・発表を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。						3	3						
②	得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。								3					3
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等、到達目標①②に関する積極的な学習態度が身についているか評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	政治目的の規範的分析という観点から政治哲学の諸問題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	120分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	120分
2	政治の倫理：政治目的	政治目的としての公共の利益概念をアリストテレス等を参照しながら論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	政治倫理綱領について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	公共の利益Ⅰ：共和主義	キケロに始まる共和主義的伝統において公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	古典古代の政治について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	公共の利益Ⅱ：契約論	近代の社会契約説とその批判者において公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	市民革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	公共の利益Ⅲ：合意論	社会契約説以後の政治思想および経済思想において公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	産業革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	公共の利益Ⅳ：功利主義	功利主義の創始者ベンサムを手がかりに公共の利益がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ベンサムについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	個人と社会Ⅰ：権利論	フランス革命に始まる権利論において個人の権利がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス人権宣言について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	個人と社会Ⅱ：自由主義	産業革命以後の自由主義社会において個人の自由がどのように論じられてきたかを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ビクトリア時代について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	グループ討議／教材上映	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返る。	180分
	事後学修	討議内容を振り返る。	60分
10	目的の調整Ⅰ：保守主義	過去の政策との連続性の観点から、政治目的をどのように設定するかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス革命以後のヨーロッパについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	目的の調整Ⅱ：妥協	利害や価値観の多元性という観点から、政治目的をどのように設定するかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	南北戦争について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	政治の境界Ⅰ：代表	代表する者とされる者の同一性・非同一性から政治的決定の範囲について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	フランス二月革命について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政治の境界Ⅱ：国際関係	国際関係における国家の倫理的立場から政治的決定の範囲について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	国連憲章について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	政治の境界Ⅲ：世代関係	現在世代と将来世代の関係の観点から政治的決定の範囲について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	地球環境問題について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	政治経済理論特殊講義A	担当者	福森 憲一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
本講義では、政治社会学における市民社会論の観点から、社会運動がいかなる運動であるのかを学修する。社会運動論の理論や歴史を通じ、社会運動がなぜ発生し、いかなる結果を生み出すのかを学修するとともに、社会運動における教育的側面も学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
市民社会において社会運動が果たす役割に関して、社会運動論の定義や理論を説明することができるとともに、現代の政治的かつ社会的現象を社会運動論に基づきながら批判的に考察することができる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的にPowerPointのプレゼンテーションを用いた講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度、リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治社会学における市民社会論や社会運動論に関する基礎的な知識について説明することができる。					2	2	2				
②	市民社会と社会運動に関する基本的な理論を識別することができる。					2	2	2				
③	市民社会や社会運動に関する理論やモデルを現実政治に援用し、問題点や疑問点を批判的かつ論理的に考察することができる。					2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②に関する基礎知識を評価する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に 答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる説明が できるようになっているかを評価する。	25	25	30								80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『市民社会論』	坂本治也編	法律文化社	2017	参考書	推奨
『社会運動の社会学』	大畠裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編	有斐閣選書	2004	参考書	推奨
『政治社会学リニューアル』	栗田宣義編	学文社	1994	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10～12:50（事前にメールで連絡すること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション：市民社会と社会運動		イントロダクションとして、本講義が扱う政治社会学の論点を説明するとともに、講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、政治社会学の市民社会論に基づく社会運動論を学修する際の問題意識や当該学問分野の射程を説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読み、本講義が政治社会学のどのような論点を扱うのかという点を理解する。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
2	政治社会学における市民社会		政治社会学の論点のひとつである市民社会に関して、いかなる論点があるのかを説明するとともに、本講義が扱う社会運動と市民社会の関係を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市民社会に関する政治社会学の論点を説明できるとともに、市民社会と社会運動の関係を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、市民社会論と社会運動論における具体的な論点を授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
3	参加民主主義論		参加民主主義論を通じ、民主主義における政治参加の教育的効果を説明するとともに、政治参加と代議制の関係を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、参加民主主義論に基づきながら、民主主義における政治参加の教育的効果を説明できるとともに、政治参加と代議制の関係を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、民主主義における政治参加の教育的効果がいかなる点に見出されており、また、政治参加と代議制がいかなる関係にあるかを授業前に疑問点な意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
4	政治参加と社会運動		「新しい市民社会論」に基づきながら、市民社会とはいかなる活動が行われる領域であるかを説明するとともに、社会運動の定義をその政治的機能の観点から説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「新しい市民社会論」に基づく市民社会の定義と、社会運動をその政治的機能の観点から説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、「新しい市民社会論」に基づく市民社会の定義と社会運動がもつ政治的機能に関して授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
5	社会運動のレパートリー		タロー（Sidney Tarrow）の社会運動論を通じ、社会運動が採用する方法や手段を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、タローの社会運動論に基づきながら、社会運動が採用する方法や手段を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、社会運動がいかなる方法や手段を採用するのかに関して授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
6	古典的社会運動論		「相対的価値剥奪論」を通じ、社会運動の発生要因を社会の構造的変化と心理的不満の結びつきの点から説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「相対的価値剥奪論」に基づきながら、社会の構造的変化と心理的不満の結びつきが社会運動の発生に与える影響を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、「相対的価値剥奪論」が社会運動の発生をどのような点から説明しているのか授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	資源動員論		「資源動員論」を通じ、社会運動の発生要因を組織の動員や資源の観点から説明するとともに、「資源動員論」の課題としてフリーライダー問題を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「資源動員論」に基づきながら、組織の動員や資源が社会運動の発生に与える影響を説明することができるとともに、「資源動員論」の課題であるフリーライダー問題を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、「資源動員論」が社会運動をどのような点から説明しているのか授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
8	新しい社会運動論		環境問題やマイノリティの権利などの多様なテーマに取り組む「新しい社会運動論」を通じ、公共圏における社会運動の変化を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「新しい社会運動論」に基づきながら、社会運動におけるテーマの多様化が公共圏にもたらした変化を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、「新しい社会運動論」と多様なテーマに取り組む社会運動の登場が公共圏に与えた影響に関して授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
9	政治的機会構造論①		「政治的機会構造論」を通じ、社会運動の発生要因において運動をとりまく外部の政治的環境の重要性を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「政治的機会構造論」に基づきながら、運動をとりまく外部の政治的環境が社会運動の発生に与える影響を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、「政治的機会構造論」が社会運動をどのような点から説明しているのか授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
10	政治的機会構造論②		反原子力運動の比較研究を通じ、政治システムの入力構造と出力構造が政策の変化に与える影響を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「政治的機会構造論」に基づきながら、政治システムの入力構造と出力構造が政策の変化に与える影響を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、政治システムの入力構造と出力構造が具体的に何を意味し、また、それらの構造がいかなる関係にあるのか授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
11	フレーム分析		「フレーム分析」を通じ、参加者となりうる人々の社会運動に対する認識の違いが社会運動の結果にいかなる影響を与えるのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「フレーム分析」に基づきながら、社会運動の参加者の認識の違いが社会運動の結果に与える影響を説明することができる。		
	事前学修	参考書の当該部分を読み、「フレーム分析」が他の社会運動論と比較していかなる点が異なっているのか授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
12	SNSと社会運動		オキュパイ・ウォール・ストリート（OWS）とブラック・ライブズ・マター（BLM）の比較を通じ、現代の社会運動に対してSNSがいかなる影響を与えているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、OWSとBLMの事例に基づきながら、現代の社会運動に対してSNSが与える影響を説明することができる。		
	事前学修	OWSとBLMにおいてSNSがどのように用いられているか授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	サイバースペースと討議		サンスティーン（Cass R. Sunstein）のアーキテクチャ論を通じ、サイバースペース上の討議を阻害する要因を説明するとともに、討議の失敗を回避するための制度やメカニズムを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、サンスティーンのアークテクチャ論に基づきながら、サイバースペース上の討議を阻害する要因と討議の失敗を回避するための制度やメカニズムを説明することができる。		
	事前学修	サイバースペース上で討議を阻害する要因に関して授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
14	政治教育		教育政治学を通じ、教育における政治性を前提としながら、他者との議論を可能にするための政治リテラシーを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、教育政治学に基づきながら教育と政治の関係を説明できるとともに、他者との議論を可能にするための政治的リテラシーを説明することができる。		
	事前学修	他者との議論を可能にする政治的リテラシーに求められることは何か授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
15	政治社会学における社会運動論の課題と展望		講義で取り扱った社会運動論の論点の説明を行うとともに、市民社会論において社会運動が抱える課題と今後の展望を総括として説明する。	
	この回の到達目標	到着目標①②③に関連して、政治社会学の市民社会論に基づく社会運動に関する理論、モデル、概念などを説明することができる。		
	事前学修	第2回から第14回まで講義を配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモを読み返して、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に配布したプリントや参照した文献・資料に目を通し、授業の内容や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

科目名	政治経済理論特殊講義C	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
政治哲学は政治学における「べき」論、すなわち、どのような公共政策や政治制度が望ましいかについて考える分野である。しかし、政策担当者（政治家・官僚）が抱く「べき」論は、一私人が抱くそれとは自ずから異なる。本講義では、どのような政治手段に訴えるべきかという観点から、権力、暴力、操作といった政治哲学の規範的概念について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「よき市民」として政治学研究を進めていくのに必要な倫理性、論理的・批判的思考力および省察力を習得するために、政治哲学の諸概念について理解し、現実の決定や判断について分析・評価する。

【履修条件】
前期に開講する「政治哲学」を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。						3						
②	得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。								3				
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等、到達目標①②に関する積極的な学習態度が身についているか評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	政治手段の規範的分析という観点から政治哲学の諸問題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	ニュース・新聞報道に触れる。	120分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	120分
2	政治の倫理：政治手段	ウェーバーの政治倫理の分析を手がかりに、政治手段に注目することの意義を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ロッキード事件について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	目的と手段Ⅰ：権力	権力論の系譜を読み解きながら、政治手段としての権力を規範的に分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	権力政治について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	目的と手段Ⅱ：暴力	正統な暴力の独占という国家の定義に注目しながら、政治手段としての暴力を規範的に分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	ナチス・ドイツについて調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	目的と手段Ⅲ：操作	ナッジ等の行動経済学の知見も参考にしつつ、政治手段としての操作を規範的に分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	「四つの自由」演説について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	目的と手段Ⅳ：嘘	全体主義体制におけるプロパガンダ政策など、政治手段としての嘘を規範的に分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	ポスト真実について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	目的と手段Ⅴ：秘密	議会の公開性原則の是非などを手がかりに、政治手段としての秘密を規範的に分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	キューバ危機について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
8	目的と手段Ⅵ：戦争	正戦論の伝統を考察しながら、政治手段としての戦争を規範的に分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	正戦論について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	グループ討議／教材上映	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返る。	180分
	事後学修	討議内容を振り返る。	60分
10	善悪の此岸Ⅰ：偽善	政治における善悪の結節点として、悪を善と偽ることの規範的是非について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	政治家の公約違反について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	善悪の此岸Ⅱ：腐敗	政治における善悪の結節点として、政治権力を私益のために用いることの規範的是非について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	政治改革関連四法について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	責任の問題Ⅰ：政治家と官僚	責任倫理が政治家と官僚のあいだでどのように分配されるかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	フリードリヒ＝ファイナー論争について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	責任の問題Ⅱ：政治責任	政治責任と刑事責任の区別を援用しながら、政治家における結果責任の位相について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	マキアヴェリの政治思想について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	責任の問題Ⅲ：政治と市民	責任倫理が政策担当者と一般市民のあいだでどのように分配されるかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる	
	事前学修	政治的無関心について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、具体的な税金問題を検討しながら、税法学の基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法であり、これを理解することは今という時代を読み解き、生き抜いていく国民として不可欠である。学生諸君は、自力で租税現象・租税問題を的確に理解するとともに、法的にも判断を下せるようになるための基本的な素養を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出席管理を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム(レスポん)により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者は、税法全般を支配する憲法上の基本原理とその問題点が説明できる。						2		2				
②	学修者は、税法の解釈適用における問題を、①の憲法原理との関係でその本質を説明できる。						2		2				
③	学修者は、税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。						2		2				
④	学修者は、税法における納税者の権利の内容を説明できる。						2		2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	原則として、到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。ただし状況に応じては、授業の進捗状況に応じた課題を出す。この課題により評価する。何方となるかは授業中に指示する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第10版)』	石村耕治	清文社	2020年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第4版)』	中里実他	有斐閣	2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 9号館3階研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	税法の学び方		この授業で何を学ぶのか、ここでは税法のうち、基礎理論・総論を扱う。授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書全体を概観し、講義全体を確認する。	120分
	事後学修	配布レジュメと講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書全体を概観し講義全体を確認する。	120分
2	租税とは何か		そもそも租税とはいったい何なのか、なぜわれわれは税を納付しなければならないのか、また税にはどのような種類のものがあるのかといった内容を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税の意義、納税の根拠及び税の種類を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税とは何か」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	租税法律主義		国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法律主義」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	租税条例主義		地方税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税条例主義」・「地方税制」該当箇所を熟読し、それぞれの内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
5	税法の解釈適用と実質課税の原則(1)		税法の解釈適用の原則といわれる実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」について、その内容、意義とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」について、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税法の解釈適用と実質課税の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	税法の解釈適用と実質課税の原則(2)		税法の解釈適用の原則といわれる実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「借用概念と固有概念」、「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「借用概念と固有概念」、「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税法の解釈適用と実質課税の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	租税負担公平原則	「租税負担公平原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「租税負担公平原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税負担公平原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	応能負担原則	租税立法原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税立法原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「応能負担原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	課税最低限	わが国所得税法における「課税最低限」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、わが国所得税法における「課税最低限」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「課税最低限」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	課税の限界	わが国における「課税の限界」とは、どの位なのだろうか。そしてこの限界はどのように導かれてくるのであろうか。この課税の限界について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、わが国における「課税の限界」の具体的内容とその根拠について理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「課税の限界」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	租税法律関係	納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法律関係」。この関係にはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法律関係」。これにはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法律関係」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	租税法と信義誠実の原則	私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税法と信義誠実の原則」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	源泉徴収と年末調整（1）		わが国における納税者のほとんどが給与所得者に該当する。この給与所得者における課税関係は、原則として、源泉徴収と年末調整により完結する。この源泉徴収と年末調整の仕組みを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、給与所得者における課税関係の原則である源泉徴収と年末調整の仕組みを理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「源泉徴収と年末調整」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	源泉徴収と年末調整（2）		わが国における納税者のほとんどが給与所得者に該当する。この給与所得者における課税関係は、原則として、源泉徴収と年末調整により完結する。この源泉徴収と年末調整の問題点と給与所得者における確定申告権を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、給与所得者における課税関係の原則である源泉徴収と年末調整の問題点と給与所得者における確定申告権を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「源泉徴収と年末調整」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	税の使途		税の問題は一般的に納税者からすれば納付に関する内容ばかりが問題とされる。しかし、納付の場面で民主的な制度が構築されていても、その使途が非民主的では意味がない。ここでは税の使途に関する法制度とその問題点を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税の使途に関する法制度とその問題点を理解し、その説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税の使途」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
具体的な税金問題を交えながら、税法学の最も大切な基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法で、これを理解することは今の時代を読み解き、生き抜いてい国民として不可欠である。各人が自力で租税現象、租税問題を的確に理解し、法的にも判断を下せるようになるための基本的な視座を獲得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を修得するために、ここではことさら総論としての基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
民・商法、憲法等、法律学の基礎科目の基礎知識があるか少なくともこれらとの平行学習が望ましい。簿記会計の素養は理解の助けとなります。

【授業方法】
毎回の講義はなるべくテキストに沿った形で進めますが、必ずノートをとってください。その場（教室）で理解・習得できるよう、濃い時間の使い方をしてもらいます。 後日定期試験の解説をポータルサイトにて配信します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	普通の講義型の授業ですが、その場で税法の基本的考え方を習得するのが目標ですから、あえて言うなら、頭の回路は常にアクティブにしておいて下さい。疑問点は放置せずに、その場で質問して理解するように心がけてください。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。				2		2					
②	税法解釈を含めた税法現象と税法との関係を理解しその本質を説明できる。				2		2					
③	近代税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。				2		2					
④	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。				2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。(ただし、リモート授業の間はレポートをもってこれに代える。)											
小テスト等	基本的に行わない。											
レポート等	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、レポートにより評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等	ゼミや大学院と異なり、学部は効率的に税法の知識・理念を身に付けることに主眼を置くため、気hん的に行わない。											
授業への参画度	これは、答案やレポートに自ずと表れます。											
その他(集中力)	集中してその場でマスターするつもりで集中して授業に取り組んでください。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験（レポート）の評価に加点要素のレポート等が加味されることがある。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
税法学原論（第8版）	北野弘久著黒川功監修	勁草書房	2020年	教科書	必携
納税者の権利	北野弘久	岩波新書	1981年1月	参考書	推奨
備考	授業はほぼ税法学原論の内容に従って行われる。				

【オフィスアワー】
金曜14時40分～16時10分。事前にアポイントメントを取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。9号館研究室にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入～税法基礎理論	オリエンテーション、年間講義計画など 租税制度と国民生活・権利	
	この回の到達目標	なぜ「税法のない法学部は未完成である」とわれるのか。現代税法の中心領域といわれる税法の位置と意義を知りましょう。また、この講座での勉強方法も理解しましょう。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
2	租税法律関係と税法の本質	現代の暮らしと税金問題～国民生活と税	
	この回の到達目標	現代社会では人々の生活も人権も物質的（経済的）基盤の上にもみ成り立っています。近代国家を成立させるのに不可欠である税は同時に人々の生活の基盤を切り崩してしまいかねないものもあります。税って何？税法って何？まずは基本的視覚から得ていきましょう。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
3	税法学の特質（1）～財政学との関係	財政学と税法の関係、財政学の問題と限界	
	この回の到達目標	税に関する議論は、あらゆる隣接諸科学の視覚から行われます。税法のそれとの違いと問題点を理解して、まずは交通整理から始めましょう。手始めは財政学です。過去の事例（土地税制論、物税論等）から学びます。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、授業での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
4	税法学の特質（2-1）～会計学との関係（1）	会計学との関係、税務会計学	
	この回の到達目標	会計学も税法問題に億発言のある分野ですが、その関与には限界と制約があります。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
5	税法学の特質（2-2）～会計学との関係（2）	貸借一致の原則、一般会計学の概要と可能性	
	この回の到達目標	会計学の「貸借一致の原則」は、数学の公理を除いては、人類が絶対に正しいと前提できる唯一の原則なのに、税法学において会計学は必ずしも望ましい影響を与えられていません。その問題点と可能性を理解しましょう。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
6	税法学の特質（3-1）～行政法学との関係（1）	行政法学との関係（1）旧公法学理論とその問題点	
	この回の到達目標	かつては税の法的研究は行政法各論の問題と位置付けられてきたが、特殊公法性の理論を軸とする行政法一般理論の応用という視点から現代法の中心領域である税法の研究が果たして可能なのか否か理解しましょう。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	税法学の特質（3-2）～行政法学との関係（2）		行政法学との関係（2）、独立税法学の特質と意義
	この回の到達目標	行政法一般理論の応用による税法研究が不可能であるならば、独立税法学は、どのような性格、特徴を持つのでしょうか。またその機能と使命とは何でしょうか。これを理解します。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
8	租税の法的概念（1）		近代税法における租税概念
	この回の到達目標	日常的に「租税」が徴収されているにも拘わらず、我が国の税法においては租税の定義規定がありません。ほんの20年前までは封建時代の「年貢」と大差のないドグマがこれに代わっていたのですが、その問題点を知り、近代国家における「租税」の備えているべき属性を探ります。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
9	租税の法的概念（2）		現行日本法体系下における租税概念
	この回の到達目標	近代民主主義国家における租税の正当要件を解明して、今日の租税の問題点を理解します。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
10	租税の法的分類（1）		国税・地方税、所得・資産・消費税
	この回の到達目標	租税に関する議論で用いられる租税の種類疑念とそこに含まれる法的問題を正しく知って、これらん議論を出しく理解できるようにします。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
11	租税の法的分類（2）		人税・物税、直接税・間接税、普通税・目的税、他
	この回の到達目標	租税に関する議論で用いられる租税の種類疑念とそこに含まれる法的問題を正しく知って、これらん議論を出しく理解できるようにします（後半）。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
12	租税法律主義の原則（1）		税法の根本原理とその意義、憲法原則
	この回の到達目標	税法の立法から解釈適用の全てに通ずる基本原則の意義、内容、憲法との関係等を理解します。税の世界の民主主義・人権保障の考え方を学びます。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	租税法律主義の原則（2）	7つの具体的法理とその内容	
	この回の到達目標	租税法律主義の7つの具体的法理の内容と理論を理解します。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましいが、教室での集中が何より大切。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）	120分
14	租税法律主義の原則（3）	現代における機能と意義	
	この回の到達目標	租税法律主義の機能と現代性を理解します。	
	事前学修	テキストに目を通しておくことが望ましい。	120分
	事後学修	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。	120分
15	総括・期末評価説明	学習した重要項目についての総括と理解を図ります。	
	この回の到達目標	テキストの持ち込みを認めていますので、暗記は不要です。近代税法の思考方法が身についていることを示すことが肝要です。	
	事前学修	テキスト・ノートに目を通し、考えをまとめておくことが大切です。	120分
	事後学修	うんくかけなかった場合、どこかの理解が不足していたのか自己分析しておきましょう。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、具体的な税金問題を検討しながら、税法学の基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法であり、これを理解することは今という時代を読み解き、生き抜いていく国民として不可欠である。学生諸君は、自力で租税現象・租税問題を的確に理解するとともに、法的にも判断を下せるようになるための基本的な素養を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出席管理を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム(レスポん)により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、国際税法の概要とその問題点について説明ができる。				2		2					
②	学修者は、税務調査手続・滞納処分といった租税手続の概要とその問題点について説明ができる。				2		2					
③	学修者は、租税救済制度についてその概要と問題点について説明ができる。				2		2					
④	学修者は、租税制裁制度についてその概要と問題点について説明ができる。				2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	原則として、到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。ただし状況に応じては、授業の進捗状況に応じた課題を出す。この課題により評価する。何方となるかは授業中に指示する。	25	25	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第10版)』	石村耕治	清文社	2020年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第4版)』	中里 実 他	有斐閣	2019年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 9号館3階研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	税法の学び方	この授業で何を学ぶのか、ここでは税法のうち、租税手続法・租税救済法・租税制裁法・地方財政権そして国際課税を扱う。授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書全体を概観し、講義全体を確認する。	120分
	事後学修	配布レジュメと講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書全体を概観し講義全体を確認する。	120分
2	租税手続法（１）納税義務の成立と確定	納税義務の成立と確定とは何か。納税義務の成立にはどのような手続が必要なのか。また納税額の確定手続きにはどのような種類のものがあるかを習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税義務の成立と確定、ことさらの納税者からの確定手続きについてを理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「納税義務の成立と確定」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	租税手続法（２）納税義務成立と確定	納税義務の確定方法、ことさら課税庁による確定方法とその問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、納税義務の確定方法、ことさら課税庁による確定方法とその問題点、修正申告の勧奨を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「納税義務の成立と確定」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	租税手続法（３）源泉徴収と年末調整	わが国における納税者のほとんどが給与所得者に該当する。この給与所得者における課税関係は、原則として、源泉徴収と年末調整により完結する。この源泉徴収と年末調整の仕組みと問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、源泉徴収と年末調整の仕組みと問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「源泉徴収と年末調整」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
5	租税手続法（４）税務調査(１)	税務調査の種類とその内容、各国が競い合うように制定する「納税者権利憲章」とわが国における現状を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税務調査の種類とその内容、各国の納税者権利憲章制定の背景とわが国の現状を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税務調査」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	租税手続法（５）税務調査(２)	税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「税務調査」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	租税手続法（５）滞納処分	近年増加傾向にある税金等の滞納処分、この滞納処分の仕組みとその制度的問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、滞納処分の仕組みとその制度的問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「滞納処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	租税手続法（６）滞納処分の緩和	滞納処分を規定する国税徴収法は滞納者にとってことさら厳しい内容となっている。その一方で、いくつもの緩和のための措置もとられている。この緩和措置の内容を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、滞納処分の緩和措置を理解し、これらの内容を説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「滞納処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	租税救済法（１）不服申立制度	課税庁の処分に不満がある場合には税務争訟ができる。ただし、税に関する場合は、まずこの不服申立てがなされなければならない。この不服申立制度の内容とその問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不服申立制度の内容とその問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「不服申立制度」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	租税救済法（２）租税裁判	不服申立てののち、それでも課税庁の処分に不満がある場合には租税裁判へと移行することになる。この租税裁判の種類とその制度的問題点を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税裁判の種類とその制度的問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税裁判」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	租税制裁法（１）租税犯と 附帯税	租税犯とはいったい何をいうのであろうか。この租税犯の意義を明確にするとともに、一般刑法との関係を理解する。併せて附帯税とは何を言うのか、どのような場合に附帯税が適用されるのかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税犯の意義、一般刑法との関係、さらに租税犯と附帯税との関係を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税犯と附帯税」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	租税処罰法（２）租税犯則 調査・通告処分	一般的に「マルサ」といわれる租税犯則調査、この租税犯則調査の内容とその問題点を理解するとともに、通告処分といわれる制裁方法の内容と問題点について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、租税犯則調査・通告処分の意義、その問題点を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「租税犯則調査・通告処分」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	タックスミックス論と消費課税	近年、税法分野ではタックスミックス論なる考えのもと、消費税に重点が置かれてきた。このタックスミックス論とはどういうことか、さらにはその問題点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、タックスミックス論と消費税性との関係、そしてこの理論が社会に与える影響を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「消費課税」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	地方財政権	地方分権がいわれて久しい今日、自治体が独自に課税できるかといった地方財政権の根本的問題と課題を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方財政権、すなわち自治体が独自に課税できるかといったといった根本的な問題点とその課題を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「地方財政権」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	国際課税	近年その重要性が高まっている国際課税、この国際課税の仕組みとその概要を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国際課税の現状とその具体的内容を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「国際課税」該当箇所を熟読し、その内容について考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
具体的な税金問題を交えながら、税法学の最も大切な基礎理論を理解する。税法は現代法の中心領域に位置する法で、これを理解することは今の時代を読み解き、生き抜いてい国民として不可欠である。各人が自力で租税現象、租税問題を的確に理解し、法的にも判断を下せるようになるための基本的な視座を獲得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を修得するために、ここではことさら総論としての基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
税法の重要性をr買いうる人であれば特に設定しません。ただし、法理つつがあく一般の素養をつけておくべきことは言うまでもありません。

【授業方法】		
毎回の講義はなるべくテキストに沿った形で進めますが、必ずノートをとってください。その場（教室）で理解・習得できるよう、濃い時間の使い方をしてもらいます。 後日定期試験の解説をポータルサイトに配信します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態	大人数のため講義型の授業とならざるを得ないが、質問には可能な限り応えていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	税法の意義と機能を説明できる。						2		2					
②	税法解釈を含めた税法現象と税法との関係を理解しその本質を説明できる。						2		2					
③	近代税法の基本原則を現行法体系の中に位置づけて説明できる。						2		2					
④	近代税法における納税者の権利の内容と性質を説明できる。						2		2					
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、期末試験により評価するが、当面リモート授業とならざるを得ないため、レポートをもってこれに代える。	25	25	25	25							100
小テスト等	時折行う。平常点として加点の要素とするが、不利な判定要素とはしない。当面実施しないが、臨時レポートの形での実施はありうる。	5	5	5	5							20
レポート等	到達目標①②③④についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、期末試験に代えて評価する。当面リモート授業とならざるを得ないため、事実上レポートが試験の代わりとなる。	25	25	25	25							100
討論・発表等	大人数のため講義型の授業とならざるを得ず、双方向型の授業は考えていないが、メールをつうじての質問には可能な限り授業内で応えていく。	0	0	0	0							
授業への参画度	自ずと答案の内容に反映してくるので、特に個別の評価方法を考えているわけではない。											
その他(平常点)	時折平常点・努力点の加点要素として、授業内外で臨時レポートを課すことがある。ただしおうじなかったからといって不利な要素とは一切ならない。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	60	60	60							240

【課題に対するフィードバックの方法】
大人数となることが予想されるので、残念ながら最終評価以前に個別の対応までは考えていない。ただし、予め注意点を指摘しておくので、話はよく聞いておいてほしい。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
税法学原論（第8版）	北野弘久著黒川功監修	勁草書房	2020年	教科書	必携
納税者の権利	北野弘久	岩波新書	1981年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜14時40分～16時10分。事前にアポイントメントを取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。9号館研究室にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	実質課税の原則（1）		草創期の我が国税法学界で猛威を振るった実質課税原則。そのコンセプトと問題点を学びます。	
	この回の到達目標	今日でも時折耳にする「実質課税の原則」。その論理と問題点を学習します。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		120分
2	実質課税の原則（2）		抽象論ではなく、実際に実質課税論者が主張した解釈論を類型化しその構造を分析することにより実質課税論者の目論見を客観的に解明します。さらに、実例を交え、近代税法の正しい解釈のあり方を示して、実質課税論の誤謬性を確認します。	
	この回の到達目標	かつての三越事件のような租税回避事件とその顛末のような具体的な租税法律関係の分析まで含めた近代税法の解釈適用の在り方と、実質課税論の企図したところを対比してその誤謬性を認識します。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		120分
3	実質課税の原則（3）		学界ではすでに否定されているのに、今日でも課税の現場で主張されることのある実質課税論。なぜそのような影響力が残っているのか。その理由を租税現象としての同原則の本質を捉えることによって理解し、類似の議論に騙されないだけの眼力を養います。	
	この回の到達目標	実質課税論が、国民のどういう階層のどういうお金を狙ったものであり、それが我が国税制の中でどう作用するのか考えます。そして、税の公平とは何か、それをどう実現していくのが正しいのか考えてもらいます。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		120分
4	応能負担の原則		憲法の応能負担原則の内容と意義を理解します。	
	この回の到達目標	近代立憲主義国において国民がその能力に応じて平等に租税を負担するというのがなぜ税の基本原則となるのか。その法理論的基礎を学ぶと同時に、同じ平等・公平を出発点としながら、納税者の権利侵害につながる実質課税原則と憲法原則との違いを認識します。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		120分
5	税法と信義則		かつては公法領域には適用がないとされていた一般法原則ですが、今日ではそのドグマは崩れ去っています。税法と信義則の関係を通じて法理論の変化を確認します。	
	この回の到達目標	公法、とりわけ厳しい租税法律主義の支配する税法領域には法の一般原則の適用の余地はないとされていましたが、ある事件をきっかけにそのドグマは崩れ去りました。その経緯と理論的背景を学びます。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		120分
6	租税の法源と通達行政		国民に納税義務を負わせる法的根拠と税務通達との関係を整理して理解します。	
	この回の到達目標	課税の現場では税務通達が大きく幅を利かせていますが、租税の法的根拠・法源は何であるのか、通達とは何で、税法適用の現場でどう扱われるべきなのかをまなびます。		
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。		120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	税法の解釈と適用		税法の解釈・適用の仕方を学びます。
	この回の到達目標	事実に対して、税法をいかに適用して国民に納税義務を課すのか、そのやり方を若干の具体例を交えながらまなびます。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分
8	租税法律関係の性質		素地法律関係の構造と性質を学びます。
	この回の到達目標	税法が創出する国家と国民納税者との間の権利と義務の関係の全体像・構造と性質を学びます。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分
9	納税義務の成立・確定（1）		納税義務の成立～確定までの流れと法的問題点を学びます。
	この回の到達目標	租税構成要件の充足をもって納税義務は成立しますが、各税ごとにその態様を確認し、含まれる法的問題について分析します。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分
10	納税義務の成立・確定（2）		納税義務の成立～確定までの流れと法的問題点を学びます
	この回の到達目標	成立した納税義務は、一定の手続き等を経る事等によって実際に行使しうる状態の租税債権となり（確定）しますが、各税ごとにその態様を確認し、含まれる法的問題について分析します。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分
11	連帯納税義務制度		世界的にも珍しい連帯納税義務制度の内容と問題点を学び、考察します。
	この回の到達目標	我が国に特有の連帯納税義務制度は、ある納税者の納付されなかった租税をその納税者と一定の関係を持つ他の者に納付させるというもので、その理論的基礎からして不明な制度ですが、その問題点を探ります。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分
12	第二次納税義務制度		世界的にも珍しい第二次納税義務制度の内容と問題点を学び、考察します。
	この回の到達目標	我が国に特有の第二次納税義務制度は、ある納税者の納付されなかった租税をその納税者と一定の条件を満たす源泉徴収制度関係を持つ他の者に納付させるというもので、その理論的基礎からして不明な制度ですが、その問題点を探ります。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておくとう理解の助けになります。	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	源泉徴収制度		世界的にも珍しい徹底した我が国の源泉徴収制度の仕組みと問題点を探ります。
	この回の到達目標	世界的にも珍しい徹底した我が国の源泉徴収制度を、給与所得者の源泉徴収・年末調整を例に分析し、その問題点を探ります。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分
14	税務争訟制度		我が国の税務争訟制度を、行政不服審査段階から訴訟段階までを一体として学び、その問題点を探ります。
	この回の到達目標	我が国の税務争訟は行政不服申立前置主義をとっており、しかも国営不服審判所という国税庁長官の指揮監督の下にある機関がその業務にあたっています。その後の訴訟においても、旧来の行政法理論に基づいた取消訴訟の形で行われることとなりますが、その特徴と問題点を学びます。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分
15	最終評価の説明とアドバイス		最終評価の方法の解説とアドバイス、場合によっては加点のための臨時レポートの指示もあります。
	この回の到達目標	最終的な評価の方法・内容の説明とアドバイスをを行います。場合によっては任意の追加レポートの告知もあり得ます。	
	事前学修	事前にテキストに目を通しておく和理解の助けになります。	120分
	事後学修	ノートをきれいにまとめる作業は自らの理解をまとめる効果もあります。	120分

科目名	税法ⅡA(所得税法)	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、さらに最も身近な税の一つである所得税法と個人住民税についての基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら所得税法及び個人住民税の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出席管理を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム(レスポん)により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修者は、この授業を通じて所得税及び個人住民税の基本的内容を説明できる						2		2				
②	学修者は、簡単なケースにおける所得税額及び個人住民税が具体的に計算できる						2		2				
③	学修者は、わが国の所得税制についての問題点を指摘することができる						2		2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	原則として、到達目標①②③についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。ただし状況に応じては、授業の進捗状況に応じた課題を出す。この課題により評価する。何方となるかは授業中に指示する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに所得税確定申告書が作成できるか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部 徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾第10版』	石村 耕治	清文社	2020年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第4版)』	中里 実	有斐閣	2019年	その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 研究室（9号館3階阿部徳幸研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	所得税法の学び方		この授業において何を学ぶのか、そしてそれが実生活においてどのような意味があるのかを修得する。そしてその学び方、さらには税理士等の資格試験について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書の所得税箇所を概観し、講義全体を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書の所得税部分を読みかえし講義全体を確認する。	120分
2	所得概念		所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。ここではこの所得とはいったい何をいうのか、さらには実定税法のもと、具体的なその範囲と問題点を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、「所得」とはいったいどのようなものをいうのか、またその問題点は何かを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得概念」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	所得税の納税義務者と課税の範囲		所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。ここではこの個人とはいったい何をいうのか、この個人の具体的内容を、さらには非課税の分類とその範囲を修得する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における個人とは何をいうのか、さらには非課税とはどういうことかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の納税義務者と課税の範囲」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	収入金額と必要経費 1		所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。この所得金額は原則として、収入金額から必要経費を控除して求められる。ここではこのうち収入金額について、その問題点とともに学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における収入金額とは何か、わが国の現状と問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「収入金額と必要経費」項目を、ことさら「収入金額」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
5	収入金額と必要経費 2		所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。この所得金額は原則として、収入金額から必要経費を控除して求められる。ここではこのうち必要経費について、その問題点とともに学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税における必要経費とは何か、わが国の現状と問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「収入金額と必要経費」項目を、ことさら「必要経費」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	所得分類 1		所得税法は、個人が得た経済的利得を 10 種類の所得として分類する。所得税法は、なぜこのように分類することを要求するのか。その意味を問題点とともに学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法は、なぜ 10 種類の所得分類を求めるのか、その理由を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得分類」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	所得分類 2		前回、所得分類の意義について学習した。ここではこの 10 種類の所得分類の具体的内容について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、所得税法が要求する 10 種類の所得分類の具体的内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得分類」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
8	給与所得課税		給与所得の場合、その税額計算は他の所得を明らかに異なる。ここではこの給与所得課税における具体的計算方法について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、給与所得課税における税額の計算方法とその問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「給与所得課税」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
9	源泉徴収と年末調整		給与所得者の場合、課税関係は源泉徴収と年末調整で完了することになる。ここではこの源泉徴収と年末調整について、その問題点とともに学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、源泉徴収とは、年末調整とは何か、さらにはその問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「給与所得課税」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
10	譲渡所得課税		所得分類の一つに「譲渡所得」がある。その譲渡所得の税法的意義をさらに掘り下げて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、譲渡所得課税とは、何に担税力を求め課税するのか。その内容と問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「譲渡所得」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
11	所得税の計算構造 1		具体的な所得税は、どのように計算されるのか、具体的な例示のもと所得税額の計算方法を、ここで学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、具体的な所得税額が計算できるようになるとともに、税率の意義を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の計算構造」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
12	所得税の計算構造 2		前回に引き続き具体的な所得税は、どのように計算されるのか、具体的な例示のもと所得税額の計算方法を、ここで学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、具体的な所得税額が計算できるようになるとともに、税率の意義を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の計算構造」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	人的控除		所得税法には、人的控除と呼ばれるものがある。この人的控除の本質的意義とその具体的内容をここでは学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、人的控除の本質的意義と具体的内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「その他の所得控除、税額控除」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
14	物的控除と税額控除		所得税法には、人的控除のほかいくつもの所得控除がある。またいくつもの税額控除がある。これらの意義とその具体的内容をここでは学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、物的控除および税額控除の意義と具体的内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「所得税の計算構造」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
15	個人住民税		個人住民税について、その全体像を、ことさら所得税との相違点について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、個人住民税の具体的内容と所得税との相違点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法ⅡB(法人税法)	担当者	伊藤 悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
授業は、法律学としての税法を考究し、企業課税法のうち、所得課税法である法人税法についての基礎理論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法人企業経営において税負担は重要事項である。この授業は、企業課税法の考察の一環として、法人税法の理論と計算構造を検討し、現代税制の課題を探ることを目的としている。

【履修条件】
税法条文の参照を総務省「法令データ提供システム」を活用することから、P C等でのネット利用できることが望ましい。

【授業方法】
税法の知識・情報として、財務省や国税庁等のサイトを活用する。レポートの講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習としての課題を与え、授業内またはメールでの回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて法人税の基本的内容を説明できる				3		3					
②	学修者は、簡単なケースにおける法人税額が具体的に計算できる				3		3					
③	学修者は、わが国の法人税制についての問題点を指摘することができる				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①③についての法人税制の基本が身についているかを，筆記試験により評価する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに法人税確定申告書が作成できるか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
学内おしらせ配信を活用

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
市民のための税法学	伊藤悟	八千代出版社	2016年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜16:10～ 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士として税法事務、各種申告書等の作成などの税理士業務一般
実務経験に基づく実践的教育の内容		法人税の課税標準計算、税額計算、申告書の記載等についての指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	シラバスの解説、国税庁WEB等の授業内活用、PC等でのノートテーク可、税法研究論と本授業、企業課税法について	
	この回の到達目標	法人税法の授業概略を理解する。	
	事前学修	カリキュラム表、シラバスの記述確認	120分
	事後学修	国税庁WEB(http://www.nta.go.jp/)>税について調べる、等を閲覧	120分
2	法人所得課税の基礎	所得課税法としての法人税法、税分類と法人税、法人税法の本質	
	この回の到達目標	毎年の課税システムにおける所得課税の基礎を理解する。	
	事前学修	参考書「市民のための税法学」第14章「課税基礎と税制論」および第15章「所得課税法の基礎」を通読、財務省WEB内税制(http://www.mof.go.jp/tax_policy/)を閲覧	120分
	事後学修	法人税法、法人税法施行令および法人税法施行規則を法令データWEBにて確認、法人税基本通達を国税庁WEBにて確認	120分
3	法人税法の構造	現行法人税法の基本構造、本則と附則、租税特別措置法	
	この回の到達目標	法人税関係法令の基本的構造と関係を理解する。	
	事前学修	参考書「市民のための税法学」第17章「法人税の基本構造と課題」を通読	120分
	事後学修	法人税の歴史を調べる。法人擬制説に基づく法人税の特徴を考える。	120分
4	法人税法の基礎	納税義務者、各事業年度所得に対する法人税の基本事項、副読本第1章	
	この回の到達目標	原稿法人税法の課税要件の基本を知る。	
	事前学修	会社法に規定する会社とは何か調べる。一般社団法人とは何か。日本の法人設立はどうする。	120分
	事後学修	青色申告制度について調べる。	120分
5	法人税の課税標準	企業損益と税務調整、法人税法22条、副読本第2章	
	この回の到達目標	益金－損金＝所得金額と企業会計の関係を知る。	
	事前学修	副読本第2章を通読する。	120分
	事後学修	税務調整の必要性和分類について考察する。	120分
6	益金の計算	益金事項：売上、受取配当金、副読本第3章・4章	
	この回の到達目標	益金算入、益金不算入について理解する。	
	事前学修	副読本第3章と第4章を通読する。	120分
	事後学修	売上計上基準についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	損金の計算(1)	損金事項(1)：売上原価、テキスト第5章1節	
	この回の到達目標	売上原価＝期首棚卸高＋当期仕入高－期末棚卸高の算式、棚卸高の評価について知る。	
	事前学修	副読本第5章1節を通読する。	120分
	事後学修	期末棚卸商品の評価方法による売上原価と売上利益への影響をまとめる。	120分
8	損金の計算(2)	損金事項(2)：減価償却費、副読本第5章2節	
	この回の到達目標	減価償却資産の減価償却について知る。	
	事前学修	副読本第5章2節を通読する。	120分
	事後学修	償却過不足の当期と翌期の処理を理解する。	120分
9	損金の計算(3)	損金事項(3)：給与、交際費、副読本第6章1節、2節	
	この回の到達目標	役員給与と交際費等の税務措置を知る。	
	事前学修	副読本第6章を通読する。	120分
	事後学修	役員給与の損金算入となる支給方法についてまとめる。	120分
10	損金の計算(4)	損金事項(4)：租税公課、引当金、その他、副読本第6章4節、第7章、第8章	
	この回の到達目標	租税公課の税務処理など損金計算を知る。	
	事前学修	法人企業が負担する税金について検討する。	120分
	事後学修	法人税、住民税、事業税の法人税処理を理解する。	120分
11	法人税額の計算	税額計算、別表4、別表5(1)等、副読本第9章、第10章	
	この回の到達目標	課税標準の処理、税額計算ができる。	
	事前学修	副読本第9章、第10章を通読する。	120分
	事後学修	副読本掲載の設例に基づく処理と申告書記載を理解する。	120分
12	特殊な法人税制度	連結納税とグループ法人税制、更正等	
	この回の到達目標	連結納税、グループ法人税、その他事項を知る。	
	事前学修	副読本第11章、第12章を通読する。	120分
	事後学修	出題した理論演習問題を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	演習(1)		計算演習問題(1) 設例の確認、全経3級法人税法過去問演習
	この回の到達目標	事前に与えた演習(1)の課題を解き、授業にて発表する。	
	事前学修	副読本第10章末の設例を理解する。	120分
	事後学修	演習問題の復習をする。	120分
14	演習(2)		計算演習問題(2) 全経2級法人税法過去問演習
	この回の到達目標	事前に与えた演習(2)の課題を解き、授業にて発表する。	
	事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	120分
	事後学修	演習問題の復習をする。	120分
15	総括		法人税法の課題、国際課税問題
	この回の到達目標	国際課税問題に対応する法人税のあり方を知る。	
	事前学修	授業全体での疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	この講義を基礎とし、法人税法につき税理士試験等をめざし勉強してください。	120分

科目名	税法ⅢA(資産税法)	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
学生諸君は、この講座で法律学としての税法を理解し、さらに最も身近な税の一つである相続税と贈与税についての基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。学生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら相続税及び贈与税の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
毎回の授業におけるテーマに関して簡単な事例問題を提示する。授業においては、その問題の検討を進めることによりそれぞれのテーマについて学修する。事後学修において教科書を利用し該当するテーマに対する更なる知識を修得する。 出席管理システム(レスポん)を利用して、出席管理を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム(レスポん)により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、この授業を通じて相続税・贈与税の基本的内容を説明する				3		3					
②	学修者は、簡単なケースにおける相続税・贈与税額が具体的に計算できる				3		3					
③	学修者は、わが国の資産税制についての問題点を指摘することができる				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	原則として、到達目標①②③についての法律学としての税法基礎理論が身についているかを、筆記試験により評価する。ただし状況に応じては、授業の進捗状況に応じた課題を出す。この課題により評価する。何方となるかは授業中に指示する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに相続税・贈与税 税務申告書が作成できるか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる 3 0 話』	阿部 徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾(第10版)』	石村 耕治	清文社	2020年	参考書	推奨
『租税法判例六法(第4版)』	中里 実 他	有斐閣	2019年	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16:30以降 研究室（9号館3階阿部徳幸研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	資産税法の学び方	この授業において何を学ぶのか、そしてそれが実生活においてどのような意味があるのかを修得する。そしてその学び方、さらには税理士等の資格試験について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、資産税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活にどのように役立つのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメとシラバスを確認するとともに、教科書の「相続税の根拠と課税方式」と「相続税の計算構造」を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画を作成するとともに、教科書の「相続税の根拠と課税方式」と「相続税の計算構造」を読みかえし講義全体を確認する。	120分
2	相続税のあらまし	相続税と贈与税の関係について、さらには課税方式の種類とわが国の課税方式について、その問題点を交えて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税と贈与税の関係について、さらには課税方式の種類とわが国の課税方式について、さらにはその問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税・贈与税のあらまし」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
3	相続税の納税義務者と納税義務の範囲	相続税ではその納税義務者の違いにより、課税財産の範囲が異なる。ここでは相続税における納税義務者の種類とその内容、さらにそれぞれの課税範囲について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税における納税義務者とその課税範囲さらにはその問題点を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の納税義務者と納税義務の範囲」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
4	相続税の課税価格と税額計算 1	相続税の課税財産には、本来の財産、みなし相続財産との区分がある。ここではことさらみなし相続財産について学習する。併せて非課税財産の意義内容についても学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税における課税財産と非課税財産の内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「課税財産と非課税財産」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
5	相続税の課税価格と税額計算 2	相続税の課税価格を計算する場合、様々な特例が用意されている。ここではこの特例措置について重要と思われるものについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の課税価格計算の特例にはどのようなものがあり、その内容はどうなっているのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の課税価格計算の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
6	相続税の課税価格と税額計算 3	わが国の相続税額計算における特徴的な相続税の総額の計算方法、さらには様々な税額控除の意義と内容について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の総額計算と税額控除の具体的内容を修得し、簡単な事例による実際の税務申告書を作成する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続税の税額計算・税額控除」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	贈与税の課税価格 1	贈与税の課税財産には、本来の財産、みなし相続財産との区分がある。ここではことさらみなし相続財産について学習する。併せて非課税財産の意義内容についても学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税における課税財産と非課税財産の内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の課税価格」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。（2時間）	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
8	贈与税の課税価格 2	相続税の課税価格を計算する場合、様々な特例が用意されている。ここではこの特例措置について重要と思われるものについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税の課税価格計算の特例にはどのようなものがあり、その内容はどうなっているのかを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の課税価格計算の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
9	相続時精算課税制度	贈与税の課税方式に、暦年課税と相続時精算課税がある。ここではこの相続時精算課税制度の内容と、暦年課税の違いについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税における暦年課税と相続時精算課税について修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「相続時精算課税制度」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
10	贈与税の税額計算	贈与税の税額計算について、暦年課税と相続時精算課税、それぞれについて学習するとともに、実際の税務申告書を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、贈与税の税額計算を修得し、簡単な事例による実際の税務申告書を作成する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「贈与税の計算」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
11	延納・物納・連帯納付義務	相続税・贈与税は財産課税であることから、その税額の納付方法に様々な特例が用意されている。この相続税法特有の納付の特例について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、延納・物納・連帯納付義務とは何かを修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「延納・物納・連帯納付義務」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
12	相続税・贈与税の納税猶予及び納税免除の特例	相続税・贈与税においては様々な政策から、納税猶予及び納税免除が定められている。これらの規定の存在意義とその内容について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税・贈与税の納税猶予及び納税免除の内容とその意義を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「納税猶予及び納税免除の特例」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	事業承継税制		近年、相続税制において様々な事業承継税制が創設されている。またその関心も強いものとなっている。ここでは新たな事業承継税制をその問題点とともに学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、事業承継税制の意義と具体的内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「事業承継税制」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
14	申告・更正及び決定		相続税では、法定申告期限後に後発事象が生ずるケースが頻繁である。相続税法はこの後発事象に備えて様々な特例を用意する。ここではこの特例の内容を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、相続税法が規定する申告・更正及び決定の内容を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「申告・更正及び決定」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分
15	財産の評価		相続税・贈与税は財産課税である。財産課税においてその財産は金額で評価しなければならない。ここでは相続税法における各種財産の評価方法について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、財産評価の内容とその具体的方法を修得する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の「財産評価」該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。	120分

科目名	税法ⅢB(消費・諸税法)	担当者	伊藤 悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この授業は、法律学としての税法を理解し、個別税法令の考察として、市民が日々の消費生活で負担している消費税を規定する消費税法を中心に消費・諸税法を考究する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
税は、市民にとって、国・自治体にとって、重要なものである。現代国家の租税制度は、所得税、消費税および資産税を組合わせたタックス・ミックス論に基づくものとなっている。この授業は、消費税について考究することで、現代税制の特質を理解すること、また消費課税法の現代法的特質を解明することを目的としている。

【履修条件】
税法令掲載の六法は特殊なものとなり、ネットでの法令データを活用できるPC等やネット環境の利用できることが望ましい。

【授業方法】
税法の知識・情報として、財務省や国税庁等のサイトを活用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	演習としての課題を与え、授業内またはメールでの回答等の発表と教員の解説に基づく質疑検討を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者は、この授業を通じて消費税の基本的内容を説明する				3		3					
②	履修者は、簡単なケースにおける消費税額が具体的に計算できる				3		3					
③	履修者は、わが国の消費税制についての問題点を指摘することができる				3		3					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①③についての消費税制の基本が身についているかを，筆記試験により評価する。	50		40								90
小テスト等												
レポート等	到達目標②について、簡単な事例をもとに消費税確定申告書が作成できるか確認する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
学内おしらせ配信を活用

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
市民のための税法学	伊藤悟	八千代出版	2016	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜16:10～ 授業講堂にて。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士としての税法事務、各種申告書等の作成などの税理士業務一般
実務経験に基づく実践的教育の内容		消費税の課税標準計算、税額計算、申告書の記載等についての指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	シラバスの解説、税法研究論と本授業	
	この回の到達目標	本授業の概略理解	
	事前学修	シラバスの記載を確認する。	120分
	事後学修	テキスト「はしがき」を読む。	120分
2	課税基礎論からみた消費課税	課税基礎論、消費課税の位置・意義、消費課税目の分類	
	この回の到達目標	課税基礎論からみた消費課税法の位置づけを理解する	
	事前学修	財務省WEB>税制>わが国税制>税の種類をみて、日本税制の税目を知る。	120分
	事後学修	参考書「市民のための税法学」第14章「課税基礎と税制論」を読む。	120分
3	消費課税法の諸原則等	税法原理・原則、消費課税諸原則、消費税と付加価値税、財政赤字と消費税、福祉目的税論	
	この回の到達目標	税法基礎原理から消費課税法原則までの展開を知る。	
	事前学修	参考書「市民のための税法学」第19章「消費課税法の基礎」を読む	120分
	事後学修	税大講本「税法入門」第4章第4節消費税、同「消費税法」（副読本）第1章を読む。消費税法を法令データベース等で確認する。	120分
4	消費税法の取引区分	事業者の取引と消費税、不課税取引と課税取引	
	この回の到達目標	消費税法が規定する消費税の課税対象取引について知る。	
	事前学修	副読本第2章を通読する。	120分
	事後学修	不課税取引と課税取引を理解する。	120分
5	消費税の非課税と免税	課税取引と非課税取引、免税取引	
	この回の到達目標	消費税非課税の意義と法効果、免税の意義と法効果を知る。	
	事前学修	副読本第3章を通読する。	120分
	事後学修	消費税に係る取引区分を理解する。	120分
6	消費税の納税義務者	消費税の納税義務者、免税事業者、納税義務の成立	
	この回の到達目標	各種取引区分と消費税の納税義務者を理解する。	
	事前学修	副読本第4章を通読する。	120分
	事後学修	事業者課税である消費税の特質を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	消費税の課税標準計算等	消費税の計算基礎、地方消費税、関税等、課税標準の計算	
	この回の到達目標	消費税の課税標準計算、税額計算ができる。	
	事前学修	副読本第5章を通読する。	120分
	事後学修	関税等と消費税の関係、消費税計算と地方消費税計算の関係を理解する。端数処理を知る。（2時間）	120分
8	消費税の税額控除制度	仕入税額控除、等	
	この回の到達目標	標準税率と軽減税率の適用と税額控除のシステムを知る。	
	事前学修	副読本第6章仕入税額控除の節を通読する。	120分
	事後学修	原則課税における仕入税額控除の基本を知る。	120分
9	中小企業への消費税特例	簡易課税制度	
	この回の到達目標	簡易課税制度の概略を知る。	
	事前学修	副読本第6章簡易課税制度の節を通読する。	120分
	事後学修	中小企業の消費税負担のあり方を検証する。	120分
10	消費税の基準年度と課税期間、申告等	消費税の課税期間、申告・納付等、雑則	
	この回の到達目標	納税義務の成立と確定、納付について知る。	
	事前学修	副読本第7章、第9章を通読する	120分
	事後学修	個人事業者・法人事業者の申告等手続を理解する。	120分
11	消費税の申告書の記載	一般用申告書、簡易課税用申告書	
	この回の到達目標	消費税の申告書の記載方法を知る。	
	事前学修	副読本(参考)4確定申告書の作成手順を知る。	120分
	事後学修	申告書の記載手順に従い、消費税額の計算を理解する。	120分
12	演習(1)	消費税演習問題(1) 基礎問題、理論問題	
	この回の到達目標	事前に与えた演習(1)の課題を解き、授業にて発表する。	
	事前学修	副読本の記載で不明なところをチェックする。	120分
	事後学修	演習問題を復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	演習(2)	消費税演習問題（2）総合計算問題(全経3級消費税法過去問)	
	この回の到達目標	事前に与えた演習(2)の課題を解き、授業にて発表する。	
	事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	120分
	事後学修	演習問題を復習する。	120分
14	演習(3)	消費税演習問題（3）総合計算問題(全経2級消費税法過去問)	
	この回の到達目標	事前に与えた演習(3)の課題を解き、授業にて発表する。	
	事前学修	次回授業の予習を行っておくこと。	120分
	事後学修	演習問題を復習する。	120分
15	総括	消費税法の課題	
	この回の到達目標	現代日本における消費課税の本質を理解し、各自の消費課税論を総括する。	
	事前学修	授業全体での疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	この講義を基礎とし、消費税法につき税理士試験等をめざし勉強してください。	120分

科目名	西洋政治史Ⅰ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、近代欧米政治史を当時の国際関係も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、理解度の確認を目的として、毎回授業の最初に小テスト(簡単な論述試験)を受験し、学修の度合いを深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するために、それらに関する知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの出発点が近代欧米政治にあること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようにすることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】		
講義形式で行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。なお、理解度の確認を目的として「リアクションペーパー課題」を毎回グーグルクラスルーム(以下GCR)で配信する。GCRに提出されたリアクションペーパー課題の解答については、採点して返却した後、GCRのストリーム上で解説(全体フィードバック)を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全15回中2回、テーマに応じた「ミニ・レポート」提出を義務づける。 詳細については授業の中で指示する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回のリアクションペーパー課題により、到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを確認する。	12	12	12	12	12						60
レポート等	提出されたミニ・レポートが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容となっているかを基準に、到達目標①②③④⑤に関する能力が総合的に身についているかを評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則としてGCRを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編	弘文堂	2014	教科書	必携
Next 教科書シリーズ 政治学 [第2版]	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	市民的政治体制と絶対王政		シラバスに基づいて授業計画の全体を説明した後、市民的政治体制の形成と絶対王政の関連を解説し、それらの特質と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業計画の全体像を把握するとともに、絶対王政の特質と意義に加え、市民的政治体制の基本的性格を説明することができる。		
	事前学修	シラバスを用意するとともに、教科書の序「西洋政治史を学ぶために」および8－10頁を読んで、西洋政治史を学ぶ意味を考え、市民的政治体制とは何かイメージしておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
2	市民革命と近代市民社会・市民的政治体制		市民革命と近代市民社会の関係を解説し、それらの特質と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、市民革命と近代市民社会の関係ならびに市民的政治体制の特質と意義を説明することができる。		
	事前学修	教科書の11－14頁を読んで、市民革命の意味を把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
3	イギリス革命とクロムウェル共和制の成立		イギリス革命の前半部分を解説するとともに、クロムウェル共和制の問題点について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、イギリスで共和制が成功しなかった理由を説明することができる。		
	事前学修	教科書の14－18頁を読んで、ピューリタン革命の流れを把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
4	イギリス革命と名誉革命体制の確立		イギリス革命の後半部分を解説するとともに、王政復古や名誉革命体制の特質と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、王政復古の重要性を説明することができる。		
	事前学修	教科書の18－24頁を読んで、名誉革命の流れを把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
5	アメリカ独立革命と合衆国の建国		アメリカ独立革命の全体を解説するとともに、アメリカ独立革命の特質と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ独立革命の特殊性を複数の観点から説明することができる。		
	事前学修	教科書の24－31頁を読んで、アメリカ独立革命の流れを把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
6	フランス革命の背景と展開		フランス革命の前半部分を解説するとともに、その背景と特質について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、フランス革命の勃発理由を政治と経済の関係から説明することができる。		
	事前学修	教科書の31－36頁を読んで、旧体制の意味を把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	フランス革命の展開と影響	フランス革命の後半部分を解説するとともに、その特質と影響について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ独立革命との違いに加え、フランス革命の影響を政治思想の観点から説明することができる。		
	事前学修	教科書の36－41頁を読んで、恐怖政治の意味を把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
8	ドイツ三月革命とドイツ帝国の成立	ドイツ三月革命とドイツ統一プロセスを解説するとともに、ドイツ三月革命の問題点とドイツ的特殊性の関連について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、市民革命の重要性とドイツ的特殊性の意義を説明することができる。		
	事前学修	教科書の41－49頁を読んで、ドイツと日本の類似性を把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
9	ホイッグ寡頭制の展開とトーリー党の進化	イギリス革命後の二大政党の状況を解説し、二大政党の発展要因について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政党ならびに政党政治の発展に不可欠な要素を説明することができる。		
	事前学修	教科書の54－58頁を読んで、ホイッグとトーリーの違いを把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
10	イギリス議院内閣制の成立と展開	イギリス議院内閣制の成立過程を解説し、日本との違いについて考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、議院内閣制の基本的性格を説明することができる。		
	事前学修	教科書を読まずに、議院内閣制の意味を自分なりに把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
11	市民的政治体制の展開への試練としてのウィーン体制	ウィーン体制の成立と基本的性格を解説し、その意義と問題点について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国際秩序の役割と国内政治への影響を説明することができる。		
	事前学修	教科書の62－66頁を読んで、ウィーン会議前後の流れを把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
12	1848年の革命運動	フランスの七月革命と二月革命、イギリスのチャーティスト運動を解説し、西洋政治史における1848年という年の意義について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ウィーン体制崩壊後の変化と意義を説明することができる。		
	事前学修	教科書の66－69頁を読んで、この時期のヨーロッパ主要国の動きを把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	イギリス議会政治の近代化と政党の組織化、フランス第二帝政の基本的性格		イギリスにおける選挙法改正と政党組織化プロセスを解説し、両者の関係について考える。加えて、フランス第二帝政の基本的性格について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、選挙権拡大と政党組織化の関連を説明することができる。		
	事前学修	教科書を読まずに、選挙法改正の流れを自分なりに把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
14	イギリス議会政治の古典的展開と変容		イギリスにおける大衆デモクラシーの実現過程とその後の展開を解説し、その特質と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、大衆デモクラシーの特徴と問題点を説明することができる。		
	事前学修	教科書の70－73頁を読んで、大衆と大衆社会の意味を把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
15	アメリカ二大政党の成立とジャクソニアン・デモクラシー		アメリカ二大政党の成立過程とジャクソニアン・デモクラシーの意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、アメリカ二大政党の起源や相違点、ジャクソニアン・デモクラシーの意義と影響を説明することができる。		
	事前学修	アメリカ政治に関する文献を1冊選び読んでおく。		180分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		60分

科目名	西洋政治史Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「現代型政治経済システムの形成と変容」をテーマとして、現代欧米政治史を現在の世界情勢も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するうえで不可欠な基本的知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの変容が今日の政治課題をもたらしていること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
履修条件は特に設けないが、他の学生の学習を妨げるような行為には厳しく対応する。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢 が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	30	10	10	10						80
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①②③④⑤に関わる基礎知識を評価する。	4	4	4	4	4						20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	34	14	14	14						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代ヨーロッパ政治史【増補版】	杉本稔	北樹出版	2012年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の流れ（授業のテーマ、スケジュールなど）や成績評価についての説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、第二次世界大戦後のヨーロッパ政治の歴史を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。特に講義の中心となるイギリス、ドイツ、フランス各国の現況を調べ、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	第二次世界大戦とヨーロッパ政治	第二次世界大戦の戦後処理をめぐり、どのような世界秩序が構築されていき、何が問題となったのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第二次世界大戦後の戦後秩序がどのように形成されることになったのかを説明することができる。	
	事前学修	どのような経緯をたどって第二次世界大戦へと突入したのかを確認する。	120分
	事後学修	第二次世界大戦後の国際秩序がその後の世界政治にどのような影響を与えていくことになるのかをまとめる。	120分
3	ドイツ分断のプロセス	分割統治されたドイツの分断が固定化されていったプロセスと西ドイツの政治体制の特徴を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、冷戦構造がドイツ分断に及ぼした影響を説明することができる。	
	事前学修	第二次世界大戦後の国際秩序がどのようなものであったのかを確認する。	120分
	事後学修	西ドイツ政治の特徴は何かをまとめる。	120分
4	ヤルタの屈辱とゴーリスム	戦後フランス政治を規定するドゴールの政治理念とその源泉を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゴーリスムとは何かを説明することができる。	
	事前学修	第二次世界大戦中のフランス政治とドイツへのレジスタンス活動を確認する。	90分
	事後学修	第五共和制憲法の内容をまとめる。	150分
5	イギリス型福祉国家の建設とバツケリズム	戦後イギリス政治の基礎となる「合意の政治」とは何かを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、「合意の政治」がどのような政策へと変換されたかを説明することができる。	
	事前学修	第二次世界大戦におけるチャーチルの役割を確認する。（2時間）	90分
	事後学修	「合意の政治」に当てはまらない政策分野は何かを検討する。	150分
6	ヨーロッパ統合への道	戦後のヨーロッパ政治を左右することになるヨーロッパ統合がどのように始まったのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ヨーロッパ統合がもつ政治的な意義を説明することができる。	
	事前学修	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間である戦間期のヨーロッパ統合運動を確認する。	150分
	事後学修	国家と超国家共同体の関係性について検討してみる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	デタントとヤルタ体制	米ソの緊張が最も高まったキューバ危機の原因と教訓、その後を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、米ソの関係が変容してきたことを説明することができる。	
	事前学修	戦後、アメリカとソ連が担ってきた役割を確認する。	120分
	事後学修	ソ連と東欧諸国との関係を整理する。	120分
8	ドイツ大連立政権と東方外交	大連立をきっかけにドイツの政党政治が変容し、新たな外交政策を展開していったことを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、社会民主党政権誕生がもつ政治的な意義を説明することができる。	
	事前学修	アデナウアーに代表されるCDU/CSU政権の外交政策を確認する。	120分
	事後学修	社会民主党の党組織改革を確認する。	120分
9	ドゴールなきゴリスム	ドゴールの退陣以後の政権においても、ゴリスムの影響が残り続けたことを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドゴール後の大統領をゴリスムの中で位置づけて説明することができる。	
	事前学修	ドゴール後のボンビドー、ジスカールデスタン、ミッテラン大統領の政治を確認する。	120分
	事後学修	コアビタシオンによる政治の展開を確認する。	120分
10	イギリス病の進行とサッチャリズム	「合意の政治」によって規定されたイギリス政治の停滞とサッチャーによる改革を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、「合意の政治」の延長線上としてのサッチャリズムを説明することができる。	
	事前学修	「合意の政治」とは何かを確認する。	150分
	事後学修	サッチャリズムの特質とは何かを確認する。	90分
11	ヨーロッパ統合の拡大と深化	ECSCからスタートしたヨーロッパ統合の深化と拡大について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、統合の深化にともなってヨーロッパ統合にどのような変化がもたらされたのかを説明することができる。	
	事前学修	関税同盟とFTAの違いを確認する。	90分
	事後学修	ECSC、EEC、ECの違いについて整理する。	150分
12	ペレストロイカと東欧市民革命	戦後国際秩序を支えていたソ連政治の転換と東欧諸国の市民革命を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゴルバチョフの改革が東欧市民革命とどのような関係にあるのかを説明することができる。	
	事前学修	制限主権論とは何かを確認する。	60分
	事後学修	民主化の波の事例は何かをまとめる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ドイツ統一と冷戦の終焉	冷戦の象徴といわれた東西ドイツの統一について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドイツ統一のプロセスを説明することができる。	
	事前学修	戦後国際秩序とは何だったのかを検討する。	120分
	事後学修	現在の国際政治と戦後国際政治の違いはどこにあるのかを検討する。	120分
14	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を検討する際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	西洋政治史Ⅱ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○		○

【授業の概要】
「現代型政治経済システムの形成と変容」をテーマとして、現代欧米政治史を現在の世界情勢も含めて政治学的な見地から学修する。また、重要な部分については政治思想の側面からも学修していくが、それは、政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治現象の歴史的背景や歴史的意義を考察するうえで不可欠な基本的知識と思考力の修得を目的とする。また、現代型政治経済システムの変容が今日の政治課題をもたらしていること、政治と経済が密接な関係にあることを理解したうえで、それらを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】		
講義形式で行う。必要に応じてレジュメや資料を配布する。なお、理解度の確認を目的として「リアクションペーパー課題」を毎回グーグルクラスルーム(以下GCR)で配信する。GCRに提出されたリアクションペーパー課題の解答については、採点して返却した後、GCRのストリーム上で解説(全体フィードバック)を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全15回中2回、テーマに応じた「ミニ・レポート」提出を義務づける。 詳細については授業の中で指示する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の基本的な流れや専門用語を理解することができる。					1						
②	西洋政治史上の出来事の特徴や意義を論理的に説明することができる。						1	1				
③	西洋政治史上の出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。						1					
④	西洋政治史に関する概念を、経済・政治思想・政策などと関連づけることができる。							1				
⑤	西洋政治史に関する他者の評価や見解を尊重することができる。									1		1
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	毎回のリアクションペーパー課題により、到達目標①②③④⑤に関する基礎知識が身についているかを確認する。	12	12	12	12	12						60
レポート等	提出されたミニ・レポートが書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容となっているかを基準に、到達目標①②③④⑤に関する能力が身についているかを評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
原則としてGCRを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編	弘文堂	2014	教科書	必携
Next 教科書シリーズ 政治学 [第2版]	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日13:00-14:30 研究室（9号館2階9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	第一次世界大戦の勃発		シラバスに基づいて授業計画の全体を説明した後、第一次世界大戦の背景や経緯を解説し、第一次世界大戦の特質と意義について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業計画の全体像を把握するとともに、第一次世界大戦の特質と意義に加え、現代型政治経済システムの基本的性格を説明することができる。	
	事前学修	シラバスを用意するとともに、教科書の序「西洋政治史を学ぶために」および78－85頁を読んで、西洋政治史を学ぶ意味を考え、現代型政治経済システムとは何かイメージしておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
2	総力戦体制とロシア革命		第一次世界大戦の影響とロシア革命を解説し、それらの問題点について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第一次世界大戦とロシア革命が現代型政治経済システムにおよぼした影響と問題点を説明することができる。	
	事前学修	教科書の86－93頁を読んで、ロシア革命の流れを把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
3	第一次世界大戦の終結とヴェルサイユ条約		ドイツ11月革命とヴェルサイユ体制の基本的性格を解説し、それらの特質と意義について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドイツ11月革命とロシア革命の違い、ヴェルサイユ体制下での内政面の変化を説明することができる。	
	事前学修	教科書の78－85頁を読んで、第一次世界大戦後の流れを把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
4	ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ(ドイツ、イギリス)		1920年代のドイツとイギリスの内政面での変化を比較しながら解説し、両者の違いについて考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主化に不可欠な要素を説明することができる。	
	事前学修	教科書の96－99頁を読んで、当時のドイツとイギリスの状況を把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
5	ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ(フランス、世界恐慌)		1920年代のフランスの内政面での変化と世界恐慌の基本的性格を解説し、フランス第3共和制の持続要因ならびに世界恐慌に対するアメリカの反応について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主化に不可欠な要素ならびに世界経済の動向が国内政治におよぼす影響を説明することができる。	
	事前学修	教科書の99－101頁を読んで、当時のフランスとアメリカの状況を把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
6	世界恐慌とナチスの台頭		世界恐慌に対するドイツ・イギリス・フランスの反応を比較しながら解説し、とりわけドイツの問題点について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、デモクラシー崩壊とファシズム台頭の要因を説明することができる。	
	事前学修	教科書の101－104頁を読んで、1930年代のドイツ・イギリス・フランスの状況を把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第二次世界大戦	第二次世界大戦とナチズムの関係を解説し、今日教訓とすべき事柄について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、政治史と政治思想の関連を説明することができる。	
	事前学修	教科書の104－105頁、110－112頁を読んで、第二次世界大戦の流れを把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
8	冷戦の始まりとヨーロッパの分断(ドイツとフランスの変容)	第二次世界大戦後のドイツとフランスの変容プロセスを解説し、民主化と変革の要因について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第二次世界大戦による変化と影響を説明することができる。	
	事前学修	教科書の112－118頁、120－121頁を読んで、冷戦の意味を把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
9	冷戦の始まりとヨーロッパの分断(福祉国家の発展とヨーロッパ統合の起源)	イギリスにおける福祉国家形成過程とヨーロッパ統合の起源を解説し、現代型政治経済システムの基本的性格について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、福祉国家の特質と意義、ヨーロッパ統合のきっかけを説明することができる。	
	事前学修	教科書の121－125頁を読んで、福祉国家の意味とヨーロッパ統合初期の流れを把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
10	模索する西ヨーロッパ諸国(1960年代のドイツとフランス)	1960年代のドイツとフランスを比較しながら解説し、政治と経済の関係について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、1960年代のドイツとフランスの状況から現代型政治経済システムの問題点を説明することができる。	
	事前学修	教科書の125－127頁を読んで、当時のドイツとフランスの状況を把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
11	模索する西ヨーロッパ諸国(1960年代のイギリスとヨーロッパ統合)	1960年代のイギリスならびにヨーロッパ統合を解説し、政治と経済の関係について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、1960年代のイギリスとヨーロッパ統合の状況から現代型政治経済システムの問題点を説明することができる。	
	事前学修	教科書の127－130頁を読んで、当時のイギリスとヨーロッパ統合の状況を把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分
12	冷戦の緊張緩和とオイルショック	1970年代における西欧・南欧・ヨーロッパ統合を解説し、オイルショックの影響と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、世界経済の動向が国内政治におよぼす影響を説明することができる。	
	事前学修	教科書の131－140頁を読んで、当時の流れを把握しておく。	120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	新冷戦から冷戦の終結へ		1980年代におけるドイツ・フランス・イギリス・欧州統合を解説し、冷戦終結ならびに福祉国家と欧州統合の変容について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、冷戦終結・福祉国家再編・ヨーロッパ統合進展の要因を経済面から説明することができる。		
	事前学修	教科書の140－146頁を読んで、冷戦終結に至る流れを把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
14	ポスト冷戦期のヨーロッパ政治		1990年代におけるヨーロッパの様々な変容を解説し、現代型政治経済システムのあり方やヨーロッパ統合深化の意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、現代型政治経済システムの課題とその処方箋を説明することができる。		
	事前学修	教科書の147－158頁を読んで、東欧革命・ドイツ統一・ソ連崩壊の流れを把握しておく。		120分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		120分
15	経済のグローバル化と政治のポピュリズム化		グローバリゼーションによって生じた様々な政治問題を解説し、ポピュリズムをめぐる諸問題とその処方箋について政治史的見地から考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、国民国家のあり方やポピュリズム台頭の要因を複数の観点から説明することができる。		
	事前学修	グローバリゼーションかポピュリズムに関する文献を1冊選び読んでおく。		180分
	事後学修	教科書・講義ノート・授業ファイルの内容を確認して、リアクションペーパーの課題に取り組む。		60分

科目名	西洋法制史Ⅰ	担当者	出雲 孝	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
新型コロナウイルスの現況に鑑みて、原則的にオンデマンド方式とする。動画の配信およびレジュメの配布をおこなう。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。				2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得しているかを評価する。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての西洋法制史に関する基礎的な知識 が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	50									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
概説 西洋法制史	勝田有恒＝山内進＝ 森征一	ミネルヴァ 書房	2004	その他	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法典編纂の歴史的基盤	この講義では、近世における法典編纂運動の前提として、法典編纂の必要性がどのような状況に 応じて発生しうるのかを歴史的に考察する。その基本的な出発点は、社会に法典以外の規範が散 在している場合、当該社会構成員が負担するコストの問題である。この講義では、社会における 規範の散在が、紛争解決の長期化、複雑化をもたらし、それに対する不満から法典というひとつ のシステムが要請されるという仮説について歴史的に検討する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、法典の必要性について歴史的に検討を加えることができる。	
	事前学修	日本にどのような法典があるかを調べ、その役割を検討する。	120分
	事後学修	法典が実際に社会コストを削減する機能を有しているのかを検討し、現在日本に存在する法典について具体的な例を 考える。	120分
2	物の分類と所有権	物の分類は、自然科学からみれば物質の分類の問題であるけれども、社会科学からみればそれは 人間生活におけるフレーム設定の問題でもある。この講義では、法典編纂の基礎としての物の分 類方法と、その応用としての所有制度について歴史的に考察する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、物を分類する意義を理解し、その応用として所有制度を歴史的に考察することができる。	
	事前学修	日本法における物の分類を調べて整理する。	120分
	事後学修	物の分類はなぜ法典編纂にとって重要であるかを理解し、その分類が実際のルール作りにどのような影響を与えるか を考察する。	120分
3	占有	近世において、占有は混乱した理解のされた方をしていた。このことは、後にサヴィニーが『占 有法論』において指摘したことである。この講義では、近世における占有の理解とその結果発生 した諸問題について歴史的に考察する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、近世における占有理解の問題点から、現代法がどのような改善を加えているかを歴史的に理解 し、説明することができる。	
	事前学修	現在の日本の民法学で説明される占有概念を調べて整理する。	120分
	事後学修	近世における占有概念がどのような問題を抱えていたかを整理し、現在の日本の民法典においてどの程度まで解決さ れているのかを考察する。	120分
4	役権	現行の日本民法典において、ローマ法の「役権（servitus）」に該当するものとして、地役権が 挙げられる。しかし、近世においては、各国の諸事情に合わせて、さまざまな役権が新たに考案 されていた。この講義では、役権と法文化との関係について歴史的に考察する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ法上の伝統的な制度である役権を理解し、これを現代法と比較して説明することができ る。	
	事前学修	日本の民法典の地役権について復習する。	120分
	事後学修	近世においてローマ法の役権がどのように活用され、その時代ごとに合わせられていたのかを整理する。	120分
5	取得時効	取得時効の意義については、現在の民法学においてもさまざまな見解がある。この講義では、 ローマ法の「使用取得（usucapio）」などから派生した取得時効制度について、それが近世にお いてどのように発展・継承させられたのかを歴史的に概観する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、取得時効制度の歴史的発展を理解し、現代法の起源を把握して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における取得時効制度を復習する。	120分
	事後学修	近世に発展した取得時効制度を整理し、日本の民法典との異同に注意しつつ、取得時効制度の意義について再考す る。	120分
6	担保	担保制度は金融システムの発達を前提とするものであり、近世以降のグローバルな経済活動は、 その整備を要請していた。しかし、法学サイドからその需要に対する理解が十分にあったと言 い難いものがある。この講義では、質制度をめぐる近世ドイツでの議論を中心に歴史的に概観 し、当時の法整備の困難さについて再確認する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、担保制度の発展史を理解し、現代の担保制度がどのような点でその問題を解決しているのかを把 握して説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における担保制度について復習する。	120分
	事後学修	近世ドイツにおける質制度が、譲渡担保と質との混合形態として認識されていたことの意義をまとめ、現在の日本法 においてどのように分離されているかを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	物の自然な取得		人が物を取得するにあたっては、売買などの契約を通じてこれを行なうこともある一方、川の作用などによる自然現象によってこれが生じることもある。この講義では、近世において「自然な取得（acquisitio naturalis）」と呼ばれていた領域を紹介し、現代法と比較する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約などの取引によらない所有権取得の制度史を理解し、現代の民法典においてどのように活用されているのかを説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典において、取引によらずに所有権を取得する制度にはどのようなものがあるかを調べ、整理する。		120分
	事後学修	物の自然な取得と呼ばれた制度が、日本の民法典のどこに位置付けられているかをまとめる。		120分
8	契約の分類		法典編纂を行なうにあたって、社会で実践されているすべての契約類型を網羅的に規律することはできない。そこで、民法典において規律する典型契約とそれ以外のものを分ける作業が必要になる。この講義では、近世においてどのような契約が典型的とされたのかを概観し、そのカタログの意義について歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約カタログの歴史的な意義を理解し、その整理がどのような基準にもとづいているのかを説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における典型契約を調べて整理する。		120分
	事後学修	近世において提示されたさまざまな契約カタログを整理し、それらが日本の民法典における契約カタログとどのように異なるのかをまとめる。		120分
9	給付の均衡		私たちが日常的に取引をするとき、そこには適正価格があることを無意識に前提してしまう。実際、適正価格の概念は法制度のなかでも重要な役割を果たしている。しかし、あたかも物に客観的に価値が付着しているかのように考えると、ある商品に対しては一定の金額を支払うべきだ、という給付の均衡の要請が出てくる。この講義では、給付の均衡が実際の経済システムでは虚構に近いことを踏まえつつ、法典編纂における価格規律の問題を歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格形成が経済システムに依拠していることと、価格規制を行なう法制度との歴史的関係を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本において、取引価格を規制する法律にはどのようなものがあるかを調べる。		120分
	事後学修	取引価格を規制する法律の役割を整理し、それが経済システムが前提とする枠組みとどの程度まで整合的であるかを考察する。		120分
10	過失		過失は、不法行為における難問のひとつであり、近世においてもその理解の困難さは意識されていた。この講義では、法典編纂の機運の中で、過失概念が規律しやすいように単純化される過程を近世ドイツを中心に歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一元的な過失理解が、法典編纂との関係でどのように進められたのかを理解し、説明することができる。		
	事前学修	現在の民法学における過失の概念を復習する。		120分
	事後学修	段階的に理解されていた主観的な過失の定義が、違法性という基準に一元化されていくことの歴史的意義を再考する。		120分
11	無償契約		契約の大きな分類方法として、無償・有償契約がある。この分類は有益であるにもかかわらず、ローマ法には存在していなかった。さらに、近世に入って類似の分類が登場したときも、現在とは異なる理解をされていた。この講義では、無償・有償契約という分類の誕生の歴史的過程を概観し、その前半部として、無償契約を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無償契約という概念の成立史を通じて、その意義を把握し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典にはどのような無償契約があるかを調べる。		120分
	事後学修	無償契約という類型が果たす役割を整理し、民法典における意義を考察する。		120分
12	有償契約		この講義では、前回のテーマの後半部として、有償契約を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有償契約という概念の成立史を通じて、その意義を把握し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典にはどのような有償契約があるかを調べる。		120分
	事後学修	有償契約という類型が果たす役割を整理し、民法典における意義を考察する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	家族制度		いわゆる家父長制が解体される前提として、親権概念の変化を挙げることができる。この講義では、親の権利から子に対する義務の履行へという親権概念の転換を概観しつつ、この啓蒙的発想がどの程度まで近世社会において見出されうるのかを歴史的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、子の権利という発想の歴史的起源として、ドイツ啓蒙期における親権概念を把握し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法学において親権がどのように位置付けられているかを調べて整理する。		120分
	事後学修	親の権利から子に対する義務へ、という流れが、現代の国際的潮流とどの程度まで親和的であり、どこから異なっているのかを考察する。		120分
14	相続制度		相続がなぜ認められるのか、また、誰が相続するのか、という問題は、近世においてさまざまな角度から考察されてきた。この講義では、ローマ法上の遺言相続の原則から、無遺言相続の原則への転換期にあたる近世ドイツの諸制度を歴史的に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、高齢社会における相続制度という問題と絡めて、その歴史的発展を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における相続制度を調べて整理する。		120分
	事後学修	相続制度を根拠づけるさまざまな理由について整理し、それらについて批判的な検討を加える。		120分
15	近世の法典編纂運動に関する有機的総括		第1回からの講義をまとめ、近世における法典編纂運動と各種法制度との相互関連を有機的に考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における諸制度と法典編纂の運動とを有機的に理解し、説明することができる。		
	事前学修	第1回から第14回までのテーマを復習する。		120分
	事後学修	近世における諸制度と法典編纂運動との関係を時系列ないしテーマごとに整理し、それが現代法にとってどのような示唆を与えうるのかを考察する。		120分

科目名	西洋法制史Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法学の果たした役割を理解することにより、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本法の淵源を知るために、日本近代法の定立基盤であるヨーロッパ法学の歴史の学修を通じて、日本法の特質及びヨーロッパ法との差異を説明することができる能力を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
新型コロナウイルスの現況に鑑みて、原則的にオンデマンド方式とする。動画の配信およびレジュメの配布をおこなう。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。					2	2						
②	学修者が、学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得をめざすことを目標とする。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての西洋法制史に関する基礎的な知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	50									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
概説 西洋法制史	勝田有恒＝山内進＝森征一	ミネルヴァ 書房	2004	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	契約カタログ		西洋法制史IIでは、西洋法制史Iで扱った近世における各種法制度と法典編纂運動との関係を、より理論的なレベルから考察を加える。まず、契約カタログに関わる諸理論の変遷史の概観を通じて、そもそも契約カタログにはどのような機能があるのかを歴史的に明らかにする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約カタログの意義を、単に実定法上のそれとしてではなく、法典編纂に必要不可欠な規律の方法論として理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本の民法典における契約カタログによって規律されていない契約を調べる。	120分
	事後学修	契約カタログがない民法典は可能か、また、可能であるとすればどのような形態として可能かを考察する。	120分
2	貨幣と契約理論		契約において、一方の当事者が金銭によって給付を行なう場合、そこには貨幣が介在している。貨幣と何であるかは、近世においても多大な関心を払われていた。この講義では、当時の貨幣論のいくつかを紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約における貨幣の役割を再検討し、説明することができる。	
	事前学修	日本銀行券とは何であるかを調べる。	120分
	事後学修	近世における貨幣の理解と現代における貨幣の理解との異同を整理してまとめる。	120分
3	契約におけるリスク		契約には、必ずリスクが伴う。それは、債務者の不履行であったり、目的物の予期せぬ滅失によって生じる。この講義では、近世におけるリスクの概念を概観し、当時の人々がどのような対策を講じていたのかを紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約におけるリスク概念の基礎を理解し、説明することができる。	
	事前学修	契約におけるリスクにはどのようなものがあるかを整理する。	120分
	事後学修	近世におけるリスク概念を整理し、現代におけるリスク対応との異同をまとめる。	120分
4	法的判断と推論		訴訟において、裁判官は法的推論を行なう。それは論理学に服さなければならないという主張は古くから唱えられてきたものの、法学者は法的推論といわゆる論理との差異に着目し続けてきた。この講義では、18世紀ドイツにおける論理主義の台頭と法学者サイドの反論を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法的三段論法といわゆる論理との異同について理解し、説明することができる。	
	事前学修	法的三段論法について調べて整理する。	120分
	事後学修	近世における論理主義と法学者とのあいだの議論を整理し、現代におけるその意義を考察する。	120分
5	蓋然主義		ある複数の選択肢が与えられたとき、最も合理的なものを選択することが要請されていると考えてしまいがちである。しかし、歴史的にみると、最も合理的なものを選択せよ、という要請は自明でないだけでなく、強い反論に晒されていた。この講義では、その反論のひとつである蓋然主義を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中世神学において発達した蓋然主義を理解し、その現代的意義を考察し、説明することができる。	
	事前学修	ふたつの選択肢が与えられたときに、両方に誤りがみつからない場合の行動指針として、どのようなものが考えられるかを考察する。	120分
	事後学修	蓋然主義の内容を整理した上で、その現代的意義を考察する。	120分
6	証拠論		訴訟においては、証明が求められる。証明を行なうためには、何らかの証拠を提示する必要がある。この講義では、ある事実を証明するとはどういうことであるのか、また、そのために必要な証拠としてどのようなものが考えられていたのかを歴史的に概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴訟における証明と証拠の意義について再検討し、説明することができる。	
	事前学修	日本の法廷における証拠には、どのような種類があるかを調べる。	120分
	事後学修	歴史的に証拠と考えられてきたものを整理し、日本の法廷で扱われている証拠との異同をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	所有と幾何学		法の制度史、とりわけ領海概念に対しては、幾何学とその応用（測量）が重要な役割を果たしてきた。この講義では、17世紀に生じた領海に関する論争を出発点とし、その現代的意義について考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における所有と幾何学との関係を理解し、説明することができる。	
	事前学修	私たちが所有において視覚的情報に頼っているケースとしては、どのようなものがあるかを考える。	120分
	事後学修	所有と幾何学との歴史的関係を整理し、現代におけるその意義を考察する。	120分
8	所有と力学		幾何学的な世界観とは別に、近世においては力学的な世界観から法制度を構築しようとする試みもあった。これは、当時の力学をどのように理解するかという科学史的な問題とも関連している。この講義では、単なる幾何学的な分割は所有の本質ではないとし、主体と客体との作用関係を所有の本質と見る近世の考え方を紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における所有と力学との関係を理解し、説明することができる。	
	事前学修	近世における力学の発展史を予習する。	120分
	事後学修	近世における力学の発展と、物体に対する作用としての所有という考え方を整理し、近代法にどのような影響があったかをまとめる。	120分
9	無体財産		無体財産は、幾何学的規制に服することが困難な財産であり、その規律は視覚情報とは別の規準によらなければならない。この講義では、18世紀における著作権の萌芽的議論を概観し、従来の所有と異なる無体財産に対する法制度の出発点を歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無体財産に関する歴史的起源を理解し、説明することができる。	
	事前学修	現代における無体財産にはどのようなものがあるかを調べて整理する。	120分
	事後学修	近世において考えられていた無体財産の規律と、現代におけるそれとを比較してまとめる。	120分
10	人格の価値		人格に価値があることの発露として、名誉毀損に対する損害賠償請求を上げることができる。では、人格に価値がある、ということは、そもそもどのような事態を指しているのだろうか。この講義では、名誉毀損はありえない、という近世の一学説から出発して、人格の価値の本質を歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人格の価値に関して歴史的な学説を踏まえた上で自分なりの見解を持ち、説明することができる。	
	事前学修	名誉毀損に関する日本の民法典の規律を整理する。	120分
	事後学修	名誉毀損に関する歴史的な学説を整理し、日本の民法学に対してどのような示唆を加うるかを考察する。	120分
11	時効の意義と役割		時効制度はローマ法上の諸制度にヒントを得たものであるけれども、より抽象的な次元では、権利の永続性の問題へと帰着させることができる。すなわち、ある権利に一定の持続性が認められる根拠は何であり、その持続期間は何によって規定されているのか、という問題である。この講義では、所有権および債権に永続性が付与される可能性について歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各種の権利の存続期間というものを設定できる根拠について自分なりの見解を持ち、説明することができる。	
	事前学修	所有権に消滅時効が存在しないとされている理由について考える。	120分
	事後学修	所有権に消滅時効があるとすれば、どのような場合は、あるいは、消滅時効が存在しない債権というものは考えられるのかについて整理し、自分なりの見解をまとめる。	120分
12	条文の解釈とは何か		条文を解釈する、ということは、古くから法を巡って行なわれてきた作業である。しかし、歴史的にみると、近世までは、条文を解釈するのではなく、衡平などの上位規範によって条文を不適用にする、という発想もまた存在した。この講義では、ある条文を制限解釈することと、その条文を特定の事案に適用しないということとの間に何らかの差異がありうるかを中心に歴史的な観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条文の解釈という作業に関する近世の変遷を理解し、説明することができる。	
	事前学修	条文の解釈にはどのような種類があるかを整理する。	120分
	事後学修	条文を解釈することと、ある事案に対して特別なルールを設定して処理することとの間にはどのような違いがあるのかを考察し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法典の複雑性について	法典は、規律を精緻にすればするほどよい、というわけではない。このことは、近世ドイツにおいては、法典編纂が実現するまえから意識されていた。この講義では、法典にとって必要不可欠な規範の量というものがありうるのか否かについて、歴史的観点から踏まえて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法典に収録する規範の量を判定する基準の有無および内容を、歴史的な観点から理解し、説明することができる。	
	事前学修	六法のそれぞれの法典にはどのような条文がどのくらいの量の条文があるのかを調べる。	120分
	事後学修	法典に収録する規範の量を考えるときの基準を整理し、具体的な法典がその基準からどのように評価されるかを考察する。	120分
14	規範の理解可能性について	人間の知的能力には限界がある。歴史的には、この知的能力の限界をかなり低く見積もる学派が存在し続けてきた。この講義では、法律というものが実際に人間にとって理解可能なものであるのか、という観点から、近世の議論を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、規範の解釈可能性と人間という存在との関係について、歴史的な観点から理解し、説明することができる。	
	事前学修	通常人にとって、法律は理解可能なものであるか否かを考えて、肯定的な意見と否定的な意見とを考えて整理する。	120分
	事後学修	法律の理解可能性についての学説を整理し、現代の法学に対してどのような示唆を加えることができるかを考察する。	120分
15	近世の法制理論に関する有機的総括	第1回からの講義をまとめ、近世における法制度を巡る理論の相互関連を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、近世における法制度を巡る議論の相互関連を有機的に理解し、説明することができる。	
	事前学修	第1回から第14回までのテーマを復習する。	120分
	事後学修	近世における法制度を巡る議論の相互関連を時系列ないしテーマごとに整理し、それが現代法にとってどのような示唆を与えうるのかを考察する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	浅野 一弘	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の日本政治を分析するにあたっては、自民党政権下で構築された「政・官・財」の“鉄の三角形”の存在を無視できない。つまり、「55年体制」のもとで生みだされた、さまざまな利権の構造を理解せずに、現代日本政治の本質を浮き彫りにすることは不可能ということになる。そこで、本演習においては、現代の日本政治の実態を把握するため、戦後日本政治全体を対象として、なぜ自民党の一党優位体制が、ながきにわたってつづいたのかについて考察していく予定でいる。その際、戦後の日米関係にも留意したい。なぜならば、戦後日本政治のトピックをみると、そこにはかならずといっていいほど米国の影がみえかくれしているからである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本政治の現状を分析するための知識の修得をめざすとともに、受講者の関心にあった研究テーマの発見につとめる。そして、そのテーマをもとに、ゼミナール論文へとつなげていく。また、授業時に、グループごとでレジュメを作成したり、ディスカッションをおこなったりするが、こうした作業をつうじて、他者と協働していく意味を確認していく。

【履修条件】
現代日本政治に多大な関心を有していること。

【授業方法】
参加者は、テキストの担当部分を精読し、その内容をレジュメにまとめることを求められる。その際、たんにテキストの内容をまとめるだけではなく、日米両国の新聞・雑誌記事などを調べることはいうまでもない。さらに、インターネットなどを駆使して、多くの情報を収集することもこころがけてもらいたい。そして、担当者は、みずから作成したレジュメをもとに、各テーマの問題点や今後の展望などを詳細に報告する。その後、それにもとづいて参加者全員による活発な討論をおこなう。いうまでもないが、3年次に習得した知識をもとにして、次年度へとつなげていきたい。なお、10回ごとの授業を1つのパートとし、全体は、3部構成からなる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	本科目は、演習科目であるため、毎時間、ディスカッション中心の授業となることはいうまでもない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	55年体制下でおこった政治的事象について、説明することができる。【知識】					3	3						
②	日本政治のしくみについて、的確に説明することができる。【知識】					3	3						
③	民主党政権下の日本政治の特色について、説明することができる。【知識】					3	3						
④	過去の政治的事象を現在の政治状況にあてはめ、日本政治のかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】							3	3	3			3
⑤	日本政治の特質について議論した折りに、みずからの意見を表明するだけでなく、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】										3	3	3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標④⑤に関連して、授業時でのディスカッションの様子（他者の意見に耳をかたむけ、自分の意見を的確に表明できるか）について評価する。				15	15						30
授業への参画度	日本政治への知的好奇心をもって、授業にのぞんでいるかどうかについて、到達目標①②③④⑤との関連で評価する。				5	5						10
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次におこなうので、注意すること。											
その他(ゼミナール論文)	担当部分のレジュメの内容が、到達目標①②③を満たしているかについて評価する。くわえて、ゼミナール論文の構想などについても、評価の対象とする。	20	20	20								60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レジュメの内容や討論時の発言などについて、授業時間内に直接コメントをする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『現代政治論－解釈改憲・TPP・オリンピック－』	浅野一弘	同文館出版	2015	教科書	必携
『ラジオで語った政治学』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『戦後政治－1945-55年－』上・下巻	升味準之輔	東京大学出版会	1983	参考書	推奨
『戦後日本外交史』1～7巻	山本進ほか	三省堂	1983-1985	参考書	推奨
『現代政治－1955年以降－』上・下巻	升味準之輔	東京大学出版会	1985	参考書	推奨
『現代日本政治史－政治改革と政権交代－』	薬師寺克行	有斐閣	2014	参考書	推奨
『ドキュメント 平成政治史』1～3巻	後藤謙次	岩波書店	2014	参考書	推奨
『日本内閣史録』5・6巻	林茂・辻清明編	第一法規	1981	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
希望者は、火曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に研究室にくること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	保守合同の意味【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制に関する検討をおこない、保守合同の政治過程について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な保守合同に関して、内政・外交の両面から理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分	
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分	
2	日ソ共同宣言【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下でだされた、日ソ共同宣言の政治過程について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な日ソ共同宣言の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分	
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分	
3	安保改定【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制に関する検討をおこなうため、安保改定の政治過程について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な安保改定の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分	
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分	
4	所得倍増計画【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制に関する検討をおこなうため、所得倍増計画の内容とそのインパクトについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な所得倍増計画のもつ政治的意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分	
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分	
5	沖縄返還【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下で実現した、沖縄返還をめぐる政治過程について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な沖縄返還の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分	
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分	
6	日中国交正常化【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下でなされた、日中国交正常化の政治過程について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な日中国交正常化の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。	360分	
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ロッキード事件【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下で発生したロッキード事件の意味について、政・官・財の鉄の三角形という視点から、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要なロッキード事件の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
8	日米「同盟」関係の進展【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制に関する検討をおこなうため、米国との関係に注目する。とりわけ、日米「同盟」関係ということばのもつ意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な日米「同盟」関係の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
9	リクルート事件【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制下でおこったリクルート事件の意味について、政・官・財の鉄の三角形という視点から、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要なリクルート事件の意味を理解し、その知識をもとに、55年体制の特色についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
10	55年体制の終焉【第1部 「55年体制」下の日本政治】		日本政治を考察するうえでかかすことのできない55年体制が、どのような政治過程をへて、崩壊したのか、その経緯について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本政治を検証するうえで、きわめて重要な55年体制がどうして終焉したのか、その政治過程を理解し、政権交代の意味についても説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
11	国会のしくみ（制度論）【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治を動かす主要なアクターである国会に着目して、制度論的なアプローチで検討をおこない、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である国会に関して、制度論的な方法で理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
12	国会のしくみ（米国連邦議会との比較）【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治を動かす主要なアクターである国会に着目して、米国との比較・検討によって、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である国会に関して、米国との比較によって理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	首相の役割（米国大統領との比較） 【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治を動かす主要なアクターである首相に関して、米国との比較・検討によって、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である首相に着目して、米国との比較によって理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
14	首相のリーダーシップ（米国大統領との比較） 【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治を動かす主要なアクターである首相のリーダーシップに着目して、米国大統領との比較・検討によって、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である首相について、そのリーダーシップに着目し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
15	衆議院議員総選挙【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治にとって重要な意味をもつ衆議院議員選挙に関して、その特色を検証し、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治にとって重要な意味をもつ衆議院議員選挙に着目して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
16	参議院議員通常選挙【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治にとって重要な意味をもつ参議院議員選挙に着目して、その特色を検証し、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治にとって重要な意味をもつ参議院議員選挙に関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
17	政党【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治を動かす主要なアクターである政党に関する検討をおこない、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である政党に関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
18	官僚制【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治を動かす主要なアクターである官僚制に関する検討をおこない、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である官僚制に関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	利益集団【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治を動かす主要なアクターである利益集団に関する検討をおこない、日本政治のしくみについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在である利益集団に関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
20	政治とメディア【第2部 日本政治のしくみ】		日本政治を動かす主要なアクターであるメディアに関する検討をおこない、日本政治とメディアとのかかわりについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、日本の政治のしくみのなかでも重要な存在であるメディアに関して理解し、現代日本政治の特色について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
21	マニフェスト【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目されたマニフェストに関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となったマニフェストに関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
22	政治主導【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目された政治主導に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった政治主導に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
23	事業仕分け【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目された事業仕分けに関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった事業仕分けに関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
24	政治とカネ【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下でも注目された政治とカネの問題に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった政治とカネに関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	地域主権【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目された地域主権に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった地域主権に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
26	子ども手当【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目された子ども手当に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった子ども手当に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
27	TPP【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目されたTPPに関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となったTPPに関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
28	普天間飛行場移設問題【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目された普天間飛行場移設問題に関して、その検討をおこない、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった普天間飛行場移設問題に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
29	尖閣諸島問題【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目された尖閣諸島問題に関して、どのようなことがおこったのかを検討し、自公政権からの政権交代がどのようなインパクトをもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった尖閣諸島問題に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分
30	北方領土問題【第3部 政権交代後の日本政治】		民主党政権下で注目された北方領土問題がどの程度進展したのかを検討し、自公政権からの政権交代がどのような影響をもったのかについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、民主党政権下で話題となった北方領土問題に関する理解を深め、現代日本政治の特徴について説明することができる。		
	事前学修	事前に配布されたレジュメを読みこむだけでなく、図書館の書籍などをつかって、自分なりにレジュメの内容を深くほりさげておく。また、事前学修中にでた疑問や意見なども、きちんとまとめておく。		360分
	事後学修	レジュメに記された内容だけでなく、授業中のディスカッションでのみんなの意見や浅野が指摘した事項が、あたまのなかに浮かぶようになるまで復習をすること。さらに、レジュメの参考文献リストにあった書籍を読破する。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	阿部 徳幸	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。ゼミ生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：税法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
税法に興味がある者・税理士・国税専門官を目指す者でゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】		
前学期：教員による各テーマに関して教科書をもとに基礎理論の解説を行う。解説ののちグループごとに当該テーマに関する現状と課題を探索し、報告する。その報告を受け、全体でさらにディスカッションを行う。 後学期：各グループに割り当てられたテーマに関してグループ報告を行う。その報告を受けて、全体でさらにディスカッションを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員による個別テーマについての解説、若しくはゼミ生による課題テーマに関する報告ののち、それぞれのテーマに関してグループディスカッション、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、税法全般を支配する憲法上の基本原理とその問題点が説明できる。				3	3						
②	学修者は、各個別税法の概要とその問題点が説明できる。				3	3						
③	学修者は、課されたテーマに関するグループ報告に積極的に参加し、グループとしての報告ができる。						3	3	3	3	3	3
④	学修者は、各テーマに関するグループディスカッションに積極的に参加し、その結果をグループとしての報告ができる。						3	3	3	3	3	3
⑤	学修者は、各自ゼミ終了論文のテーマを見出し、その内容を報告できる。				4	4	4	4				4
⑥	学修者は、ゼミの様々な行事を通じて、他者とのコミュニケーション力を養う。									2	2	
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各テーマに関するグループ報告に当たり、報告者以外の者は、その前週までに予習レジュメを作成と提出を求める。その予習レジュメの中で到達目標①②に関連し、各テーマに対する論理的思考力が養われているかを評価する。	15	15									30
討論・発表等	前学期は税法基礎理論に関する講義を行う。後学期は各テーマに関するグループ報告を行う。その翌週の授業内において、その報告に基づく討論を行う。その中で、到達目標③④⑤に関わる課題の論理的考察力及び討論への積極的参加、意見の明瞭性・論理性及び他者の意見の傾聴、討議に向けた課題に対し、適切に事例等を調べる事が出来たかをチェックリスト等により評価する。			10	10	10						30
授業への参画度	ゼミナールでは、一般授業と異なり合宿等をはじめいくつもの行事が予定されている。到達目標⑥に関連し、トータルのに評価する。						10					10
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミ終了論文の提出は必須。論文としての形式が整っていること、挑戦力、論理的・批判的思考力及び問題発見・解決力などにより総合的に評価する。					30						30
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	40	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾第10版』	石村耕治	清文社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16：30以降、9号館3階研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ゼミでの学び方		ゼミとはいったいどういうものなのか？ゼミではいったいなにも学ぶのか？学部の税法授業とはどのように、何が違うのか？ゼミでの学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を行えるようにする。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、ゼミにおいて税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活においてどのように役立つのかを習得し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	自分の身の回りにはどのような税があるのか？これらの税はどのようなものなのか？例えば国税庁のWEBサイトなどにより確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認するとともに、教科書全体を概観し、ゼミにおける講義というものを考察する。	120分
2	税法基礎理論 1 租税とは何か		そもそも租税とはいったい何なのか、なぜわれわれは税を納付しなければならないのか、また税にはどのような種類のものがあるのかといった内容を確認する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、租税の意義、納税の根拠及び税の種類を理解し、これらの内容が説明できる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
3	税法基礎理論 2 租税法律主義		国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国税に関する憲法上の原理である租税法律主義について、地方税における租税条例主義について、その内容、意義、派生する法理論とその問題点を理解する。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
4	税法基礎理論 3 税法の解釈適用と実質課税の原則		税法の解釈適用の原則といわれる実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」・「固有概念と借用概念」・「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、実質課税の原則との関連で、ことさらこの原則が検討される「租税回避」・「固有概念と借用概念」・「実質所得者課税の条文解釈」について、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
5	税法基礎理論 4 租税負担公平原則・応能負担原則		「租税負担公平原則」、租税立法上の原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、「租税負担公平原則」、租税立法上の原則である「応能負担原則」とはいったいどういうことなのか、憲法14条等との関係から、その内容、意義とその問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分
6	税法基礎理論 5 課税最低限と課税の限界		わが国所得税法における「課税最低限と課税の限界」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、わが国所得税法における「課税最低限と課税の限界」とは、どのように構成されているのか。憲法が要請する生きる権利との関係からその内容と問題点を理解し、説明ができる。	
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。	120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	税法基礎理論 6 租税法法律関係		納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法法律関係」。この関係にはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、納税者と課税庁の法律関係、すなわち「租税法法律関係」。この関係にはどのような考え方が存在するのか。わが国の現状と課題について理解し、説明ができる。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。		120分
8	税法基礎理論 7 租税法と信義誠実の原則		私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、私法上の原則である「信義誠実の原則」。この私法上の原則は公法とされる税法においても適用されるのか。税法と私法との関係について理解し、説明ができる。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。		120分
9	税法基礎理論 8 税の使途		税の問題は一般的に納税者からすれば納付に関する内容ばかりが問題とされる。しかし、納付の場面で民主的な制度が構築されていても、その使途が非民主的では意味がない。ここでは税の使途に関する法制度とその問題点を理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、税の使途に関する法制度とその問題点を理解し、その説明ができる。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。		120分
10	租税手続法 1 納税義務の成立と確定		納税義務の成立と確定とは何か。納税義務の成立にはどのような手続が必要なのか。また納税額の確定手続きにはどのような種類のものがあるかを習得する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、納税義務の成立と確定とは何か。納税義務の成立にはどのような手続が必要なのか。また納税額の確定手続きにはどのような種類のものがあるかを理解し、説明ができる。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。		120分
11	租税手続法 2 税務調査		税務調査の種類とその内容、各国が競い合うように制定する「納税者権利憲章」とわが国における現状を確認し、税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を習得する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、税務調査の種類とその内容、各国の納税者権利憲章制定の背景とわが国の現状を理解し説明ができ、税務調査のうち最も一般的である「課税処分のための調査」に焦点を当て、この調査の現状と問題点を理解し、これらの内容を理解し、説明ができる。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。		120分
12	租税手続法 3 滞納処分		近年増加傾向にある税金等の滞納処分、この滞納処分の仕組みとその制度的問題点を習得する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、滞納処分の仕組みとその制度的問題点を理解し、説明ができる。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	租税救済法		税務争訟は、大きく不服申立制度と租税裁判に区分される。それらそれぞれの内容とその問題点を習得する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、租税における不服申立制度と租税裁判、それらそれぞれの内容とその問題点を理解し、説明ができる。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。		120分
14	租税制裁法		租税犯とはいったい何をいうのであろうか。この租税犯の意義を明確にするとともに、一般刑法との関係を理解する。併せて附帯税とは何を言うのか、どのような場合に附帯税が適用されるのかを理解する。そのうえでその問題点等について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、租税犯の意義、一般刑法との関係、さらに租税犯と附帯税との関係を理解し、これらの内容を理解し、説明ができる。		
	事前学修	配布レジュメと教科書の該当箇所を熟読し、その内容を考察する。		120分
	事後学修	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。		120分
15	夏合宿におけるグループ報告について		前学期の総復習となる夏合宿におけるグループ報告におけるそれぞれのテーマについて、その報告について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、前学期の総復習となる夏合宿におけるグループ報告のテーマに対する内容はもとより、その報告の方法、役割分担などをグループごとに決定する。		
	事前学修	グループ報告のテーマの確認と、当該テーマに関する教科書の該当箇所、授業ノートなどを確認する。		120分
	事後学修	授業中において行われたグループごとの決定事項などを確認する。		120分
16	後学期におけるゼミでの学び方		後学期では、それぞれグループ発表とそのテーマに対するグループディスカッションを行う。その結果として、各自ゼミ終了論文のテーマを決定することになる。そのためのゼミでの学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、ゼミにおいて税法を学ぶことにどのような意義があるのか、実生活においてどのように役立つのかを習得し、これらの内容が説明できる。		
	事前学修	ゼミ終了論文のテーマ選定を意識しながら前期における講義ノートを確認するとともに、教科書全体を概観し、後学期のゼミにおける講義というものを考察する。		120分
	事後学修	ゼミ終了論文のテーマ選定とはどういうことなのか、授業内容を振り返り自分なりにまとめる。		120分
17	グループ報告「なぜ税は必要なのか」		「なぜ税は必要なのか」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「なぜ税は必要なのか」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。		
	事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。		120分
	事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。		120分
18	グループ報告「税とは何か、誰が、どう払うのか」		「税とは何か、誰が、どう払うのか」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「税とは何か、誰が、どう払うのか」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。		
	事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。		120分
	事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	グループ報告「なぜ税は必要なのか」、「税とは何か、誰が、どう払うのか」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「なぜ税は必要なのか」、「税とは何か、誰が、どう払うのか」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
	事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
	事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
20	グループ報告「人の懐から払う所得税とは何か」	「人の懐から払う所得税とは何か」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「人の懐から払う所得税とは何か」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
	事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分
21	グループ報告「人の懐から払う所得税とは何か」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「人の懐から払う所得税とは何か」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
	事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
	事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
22	グループ報告「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」	「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
	事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分
23	グループ報告「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」の再検討	前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「会社の儲けから払う税、法人税とは何か」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
	事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。	120分
	事後学修	予習レジュメの再訂正	120分
24	グループ報告「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」	「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、グループ報告「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。	
	事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	グループ報告「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」の再検討		前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「毎日の買い物から払う税、間接税とは何か」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。		
	事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。		120分
	事後学修	予習レジュメの再訂正		120分
26	グループ報告「地域社会のための税、地方税とは何か」		「地域社会のための税、地方税とは何か」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、グループ報告「地域社会のための税、地方税とは何か」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。		
	事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。		120分
	事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。		120分
27	グループ報告「地域社会のための税、地方税とは何か」の再検討		前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「地域社会のための税、地方税とは何か」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。		
	事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。		120分
	事後学修	予習レジュメの再訂正		120分
28	グループ報告「明日の税のために、支えあう社会を目指して」		「明日の税のために、支えあう社会を目指して」についてのグループ報告と報告に対する質疑応答	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、グループ報告「明日の税のために、支えあう社会を目指して」を受けて、その内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。		
	事前学修	前期授業ノートと教科書をベースに、各自予習レジュメを作成する。		120分
	事後学修	報告・質疑応答の内容を踏まえて、各自予習レジュメを修正する。		120分
29	グループ報告「明日の税のために、支えあう社会を目指して」の再検討		前半、教員による該当テーマに対する解説を行う。後半は、この解説を聞いたうえで該当テーマについてのグループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、教員による解説を踏まえたうえで、「明日の税のために、支えあう社会を目指して」の内容を理解し、各自の意見としてこの内容を説明できる。		
	事前学修	前回の修正予習レジュメを確認する。		120分
	事後学修	予習レジュメの再訂正		120分
30	ゼミ終了論文のテーマの選定方法		春休みにおける宿題となる「ゼミ終了論文のテーマの選定」とその方法、論文の書き方の解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、「ゼミ終了論文のテーマの選定」とその方法、論文の書き方の解説を理解し、説明できる。		
	事前学修	授業ノート、訂正版予習レジュメ全体を再確認し、各自が興味あるテーマを検討する。		120分
	事後学修	興味あるテーマとテーマ選定方法が合致しているか、論文の書き方を確認する。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
【3年次】国内外の政治制度や政治機構の仕組みについて深く理解し、それらの制度や機構が政治行動にもたらすダイナミズムを明らかにする。 【4年次】3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【3年次】政治制度の基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 【4年次】3年次に学習した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探求心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
【3年次】政治制度・統治機構に関する書籍を取り上げ、その書籍の各章について、毎回全員がレポートを書き発表を行う。発表された内容をもとにグループワークを行い、最後に教員が解説する。 【4年次】各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループワークを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中にグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				3							
②	政治制度に関する概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				3	3						
③	政治制度に関する概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。				3	3	3					
④	現実の民主主義社会において、政治制度をめぐるどのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				3	3	3	3				
⑤	政治制度をめぐる対立の解決のために必要な対策について、政治的市民としての責任を踏まえて、積極的に提示することができる。				3	3	3	3	3			
⑥	グループワークを通じて、政治制度をめぐる論点に関する自らの理解とあるべき対応策について、他者に論理的に主張することができる。				3	3	3	3	3	3		
⑦	グループワークを通じて、異なる考えや思想を持つ他者とコミュニケーションを図り、一方的な意見の押し付けではなく、相互的な自己変容を実現することができる。				3	3	3	3	3	3	3	
⑧	政治制度をめぐる自らの理解とあるべき対応策について、様々な理論やモデルおよび現実の政治的・社会的状況を踏まえて評価し、必要に応じて改善することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②③④⑤にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。		5	5	5	5						20
討論・発表等	グループワークにおいて、異なる他者の考えを踏まえつつ自らの主張を論理的に示し、かつディスカッションを通じて省察することができたかを基準に、到達目標⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。						10	10	5			25
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①⑤⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5							5			10
その他(ゼミナール論文)	各自の興味・関心に沿った研究テーマについてゼミナール論文を作成し、到達目標①②③④⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	10	10						45
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	15	15	15	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
授業中に適宜指示する					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントを取る） 9号館4階9403研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		ゼミナールの内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ゼミナールの全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	レポート発表とグループワーク(1)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
3	レポート発表とグループワーク(2)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
4	レポート発表とグループワーク(3)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
5	レポート発表とグループワーク(4)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
6	レポート発表とグループワーク(5)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめてくる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	レポート発表とグループワーク (6)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
8	レポート発表とグループワーク (7)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
9	レポート発表とグループワーク (8)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
10	レポート発表とグループワーク (9)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
11	レポート発表とグループワーク (10)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
12	レポート発表とグループワーク (11)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	レポート発表とグループワーク (12)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	レポート発表とグループワーク (13)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
15	レポート発表とグループワーク (14)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
16	レポート発表とグループワーク (15)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
17	レポート発表とグループワーク (16)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
18	レポート発表とグループワーク (17)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	レポート発表とグループワーク (18)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
20	レポート発表とグループワーク (19)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
21	レポート発表とグループワーク (20)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
22	レポート発表とグループワーク (21)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
23	レポート発表とグループワーク (22)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
24	レポート発表とグループワーク (23)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	レポート発表とグループワーク (24)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
26	レポート発表とグループワーク (25)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
27	レポート発表とグループワーク (26)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
28	レポート発表とグループワーク (27)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
29	レポート発表とグループワーク (28)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
30	レポート発表とグループワーク (29)		指定された文献について各自レポートをまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、指定された文献について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された文献について、他の学術文献等も参考にして、各自レポートをまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の解説を踏まえて、自らのレポートについて理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	生垣 琴絵	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
課題図書の輪読を主体とし，経済思想や関連する諸分野の知識や基礎的な理論について理解し，自分自身の社会や経済を見る眼をを養うために必要なフレームワークを修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済思想や関連諸分野の思想，学説，理論等について基礎的な知識を修得するとともに，各自の問題関心に基づいた研究テーマを発見，設定し，個人研究を進めるスキルを身につける。さらに，輪読におけるディスカッションや，グループ・ワークなどを通じて，他者とのコミュニケーションを実践しその重要性を理解する。

【履修条件】
経済学，経済思想史，経済史の授業を履修していることが望ましい

【授業方法】
輪読は発表担当，質疑担当，司会担当など毎回役割分担を交代しながら実施し，発表→質疑→ディスカッションの流れで行う。個人研究は，ゼミ論のテーマ設定のための準備として行う（課題図書からテーマを掘り下げる）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表，質疑，ディスカッション，いずれについても学生が主体的にゼミを運営する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済思想や関連する諸分野に関する基本的用語や概念を理解し，他者にわかりやすく説明できる				3	3	3	3	3	3	3	3
②	経済社会に関わる事柄について問題意識や課題を見出し，それについて自身の考えを構築できる				3	3	3	3	3	3	3	3
③	自分で設定したテーマについて，学術的な資料や情報を収集するためのスキルを身につけ，活用することができる				3	3	3	3	3			3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	輪読における発表や個人研究発表が上手くできるかという点だけでなく、ディスカッションにおいて、他のメンバーの意見をよく聞き、他者の考えを理解しながら自分の意見との相違を意識して、説得的に述べることができるかなど、円滑な議論を行えるかどうかとも評価する。	20	20									40
授業への参画度	ディスカッションにおける発言だけでなく、レジュメ作成において見やすさなど工夫ができるかなども評価対象とする。	5	5									10
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミ論文の提出は必須とする。論文としての形式、論理的・批判的思考力及び問題発見・解決力が示されているかなどにより総合的に評価する。	5	25	20								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	50	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ生同士のディスカッション終了後、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
はじめての経済思想史	中村隆之	講談社	2018	教科書	必携
大人のための社会科 未来を語るために	井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作	有斐閣	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の昼休み（基本的に事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス1：輪読のススメ	スケジュール、ゼミの運営の仕方や方針について確認し、輪読の方法や注意事項について説明する。	
	この回の到達目標	輪読の方法を理解する。	
	事前学修	シラバスを読む。課題図書を準備しておく。	120分
	事後学修	課題図書を概観する（目次等から内容を大まかに把握する）。	120分
2	ガイダンス2：個人研究の進め方	輪読を進めながら個人研究のテーマを模索できるようにするために、このタイミングで個人研究の進め方の概要を説明する。	
	この回の到達目標	個人研究の進め方について理解する。	
	事前学修	論文の書き方について調べ、参考資料などを見つける。	120分
	事後学修	個人研究の進め方を復習し、流れをつかんでおく。	120分
3	課題図書[1]の輪読1	課題図書[1]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】 課題図書[1]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
4	課題図書[1]の輪読2	課題図書[1]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】 課題図書[1]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
5	課題図書[1]の輪読3	課題図書[1]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】 課題図書[1]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	課題図書[1]の輪読4	課題図書[1]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】 課題図書[1]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
7	課題図書[1]の輪読5	課題図書[1]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】 課題図書[1]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
8	課題図書[1]の輪読6	課題図書[1]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】 課題図書[1]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
9	課題図書[1]の輪読7	課題図書[1]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】 課題図書[1]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】 担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】 質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】 議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】 プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】 教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】 質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】 スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
10	課題図書[1]の輪読のまとめ	課題図書[1]について総括し、まとめのディスカッションを行う	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	課題図書[1]全体や、レジュメを振り返っておく	120分
	事後学修	まとめのディスカッションやこれまでの個別のディスカッションから得た知識や知見をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	個人研究1：テーマ設定について	課題図書[1]の内容から研究テーマを設定し、章立てや必要な作業について考えてみる。	
	この回の到達目標	自分の問題関心と照らして、研究したいテーマを見出すことができる。	
	事前学修	課題図書[1]の関心のある箇所についてもいう一度見直しておく。	120分
	事後学修	研究テーマを絞り込み、発表の準備をする（パワーポイントの作成など）。	120分
12	個人研究1：テーマの発表1	個々のテーマをパワーポイントを使って決められた形式で発表する。	
	この回の到達目標	【発表者】自分の問題関心と照らして絞り込んだテーマについてわかりやすく発表することができる。 【発表者以外】他のゼミ生の発表に関心を持ち、質問やアドバイスなどを積極的に行うことができる。	
	事前学修	【発表者】パワーポイントを作成し、スムーズな発表ができるような準備しておく 【発表者以外】課題図書[1]を振り返り他のゼミ生のテーマに意見を述べるできるように準備しておく	120分
	事後学修	【発表者】他のゼミ生からの意見や教員からのアドバイスを考慮してテーマを再検討しておく 【発表者以外】他のゼミ生の発表から自身のテーマに役立ちそうな点を見出し、まとめる	120分
13	個人研究1：テーマの発表2	個々のテーマをパワーポイントを使って決められた形式で発表する。	
	この回の到達目標	【発表者】自分の問題関心と照らして絞り込んだテーマについてわかりやすく発表することができる。 【発表者以外】他のゼミ生の発表に関心を持ち、質問やアドバイスなどを積極的に行うことができる。	
	事前学修	【発表者】パワーポイントを作成し、スムーズな発表ができるような準備しておく 【発表者以外】課題図書[1]を振り返り他のゼミ生のテーマに意見を述べるできるように準備しておく	120分
	事後学修	【発表者】他のゼミ生からの意見や教員からのアドバイスを考慮してテーマを再検討しておく 【発表者以外】他のゼミ生の発表から自身のテーマに役立ちそうな点を見出し、まとめる	120分
14	個人研究1：テーマの発表3	個々のテーマをパワーポイントを使って決められた形式で発表する。	
	この回の到達目標	【発表者】自分の問題関心と照らして絞り込んだテーマについてわかりやすく発表することができる。 【発表者以外】他のゼミ生の発表に関心を持ち、質問やアドバイスなどを積極的に行うことができる。	
	事前学修	【発表者】パワーポイントを作成し、スムーズな発表ができるような準備しておく 【発表者以外】課題図書[1]を振り返り他のゼミ生のテーマに意見を述べるできるように準備しておく	120分
	事後学修	【発表者】他のゼミ生からの意見や教員からのアドバイスを考慮してテーマを再検討しておく 【発表者以外】他のゼミ生の発表から自身のテーマに役立ちそうな点を見出し、まとめる	120分
15	個人研究1：テーマを総括する	課題図書[1]からという制約のあるなかでのテーマを考えてみた感想などについてディスカッションする	
	この回の到達目標	個人のテーマとして設定した内容について、問題関心等を含め他のゼミ生に説明できる。また、他のゼミ生のテーマについて自分なりの視点で意見を述べるができる。	
	事前学修	自分のテーマについてディスカッションの際に説明できるよう準備しておく。	120分
	事後学修	ディスカッションを経て、自身のテーマについてより掘り下げるべきところや、変更すべき点などを考察しまとめる	120分
16	課題図書[2]の輪読1	課題図書[2]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】課題図書[2]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
17	課題図書[2]の輪読2	課題図書[2]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】課題図書[2]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
18	課題図書[2]の輪読3	課題図書[2]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】課題図書[2]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
19	課題図書[2]の輪読4	課題図書[2]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】課題図書[2]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
20	課題図書[2]の輪読5	課題図書[2]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】課題図書[2]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
21	課題図書[2]の輪読6	課題図書[2]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】課題図書[2]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめておく 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
22	課題図書[2]の輪読7	課題図書[2]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】課題図書[2]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
23	課題図書[2]の輪読8	課題図書[2]のレジュメ作成と議論	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	【全員】課題図書[2]の該当箇所を読んでおく 【発表担当】担当箇所のレジュメ作成 【質疑担当】質問をあらかじめ複数考えておく 【司会担当】議論が盛り上がるように内容をみながらシミュレーションしておく	120分
	事後学修	【全員】プレゼンテーションやディスカッションについて振り返っておく 【発表担当】教員の講評やゼミ生からの意見を次回発表時に活かすよう振り返っておく 【質疑担当】質疑に関わる議論から学んだことをまとめる 【司会担当】スムーズな進行ができたかなどについて振り返っておく	120分
24	課題図書[2]の輪読のまとめ	課題図書[2]について総括し、まとめのディスカッションを行う	
	この回の到達目標	課題図書の内容を理解し、自分なりに考察することができる。	
	事前学修	課題図書[2]全体や、レジュメを振り返っておく	120分
	事後学修	まとめのディスカッションやこれまでの個別のディスカッションから得た知識や知見をまとめる	120分
25	個人研究2：テーマ設定について	課題図書[2]の内容から研究テーマを設定し、章立てや必要な作業について考えてみる。	
	この回の到達目標	自分の問題関心と照らして、研究したいテーマを見出すことができる。	
	事前学修	課題図書[2]の関心のある箇所についてもいう一度見直しておく。	120分
	事後学修	研究テーマを絞り込み、発表の準備をする（パワーポイントの作成など）。	120分
26	個人研究2：テーマの発表1	個々のテーマをパワーポイントを使って決められた形式で発表する。	
	この回の到達目標	【発表者】自分の問題関心と照らして絞り込んだテーマについてわかりやすく発表することができる。 【発表者以外】他のゼミ生の発表に関心を持ち、質問やアドバイスなどを積極的に行うことができる。	
	事前学修	【発表者】パワーポイントを作成し、スムーズな発表ができるような準備をしておく 【発表者以外】課題図書[2]を振り返り他のゼミ生のテーマに意見を述べるできるように準備をしておく	120分
	事後学修	【発表者】他のゼミ生からの意見や教員からのアドバイスを考慮してテーマを再検討しておく 【発表者以外】他のゼミ生の発表から自身のテーマに役立ちそうな点を見出し、まとめる	120分
27	個人研究2：テーマの発表2	個々のテーマをパワーポイントを使って決められた形式で発表する。	
	この回の到達目標	【発表者】自分の問題関心と照らして絞り込んだテーマについてわかりやすく発表することができる。 【発表者以外】他のゼミ生の発表に関心を持ち、質問やアドバイスなどを積極的に行うことができる。	
	事前学修	【発表者】パワーポイントを作成し、スムーズな発表ができるような準備をしておく 【発表者以外】課題図書[2]を振り返り他のゼミ生のテーマに意見を述べるできるように準備をしておく	120分
	事後学修	【発表者】他のゼミ生からの意見や教員からのアドバイスを考慮してテーマを再検討しておく 【発表者以外】他のゼミ生の発表から自身のテーマに役立ちそうな点を見出し、まとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
28	個人研究2：テーマの発表3	個々のテーマをパワーポイントを使って決められた形式で発表する。	
	この回の到達目標	【発表者】自分の問題関心と照らして絞り込んだテーマについてわかりやすく発表することができる。 【発表者以外】他のゼミ生の発表に関心を持ち、質問やアドバイスなどを積極的に行うことができる。	
	事前学修	【発表者】パワーポイントを作成し、スムーズな発表ができるような準備しておく 【発表者以外】課題図書[2]を振り返り他のゼミ生のテーマに意見を述べることができるように準備しておく	120分
	事後学修	【発表者】他のゼミ生からの意見や教員からのアドバイスを考慮してテーマを再検討しておく 【発表者以外】他のゼミ生の発表から自身のテーマに役立ちそうな点を見出し、まとめる	120分
29	個人研究2：テーマを総括する	課題図書[2]からという制約のあるなかでのテーマを考えてみた感想などについてディスカッションする	
	この回の到達目標	個人のテーマとして設定した内容について、問題関心等を含め他のゼミ生に説明できる。また、他のゼミ生のテーマについて自分なりの視点で意見を述べるができる。	
	事前学修	自分のテーマについてディスカッションの際に説明できるよう準備しておく。	120分
	事後学修	ディスカッションを経て、自身のテーマについてより掘り下げるべきところや、変更すべき点などを考察し、まとめる。	120分
30	全体のまとめ	2回の個人研究テーマ設定の経験を生かして、ゼミ論の研究テーマを設定し計画を立てる	
	この回の到達目標	ゼミ論の研究テーマを決定し、今後の執筆のスケジュールを立てることができる。	
	事前学修	研究テーマ設定に必要な情報、予備知識を入手しておく。	120分
	事後学修	研究テーマやスケジュールについて、より詳細に内容を検討し、まとめ直しておく。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ファイナンス（特に、コーポレートファイナンス）に関わる未解明の問題を理論的・実証的に解明し、その成果を論文としてまとめる。 3年次：ファイナンス論とデータ分析の基礎を習得し、グループで論文を執筆する。 4年次：3年次に培った論理的な思考能力と証拠を提示する力を駆使して、各自が設定したテーマについて論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見し、その問題を解明するための研究活動を通して、論理的な思考能力と証拠を提示する力を高める。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
主に、学生による発表と討論、それに対する教員のフィードバックによって進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表や討論、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ファイナンス論とデータ分析の基礎を習得し、応用することができる。				4	4						
②	論理的で説得力のある発表をすることができる。						4	4		4	4	4
③	討論において、論理的で説得力のある意見を述べるすることができる。						4	4		4	4	4
④	先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。				4	4	4	4	4			
⑤	独自性が高く、論理的で説得力のある論文を書くことができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑥	ゼミナールメンバーの一員として、責任のある行動ができる。								4	4	4	4
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ファイナンス論やデータ分析の考え方を習得した上で、論理的で説得力のある発表ができたか、また、討論において自分の意見を述べる事ができたかを基準に、目標①②③④の達成度を評価する。	5	10	10	5							30
授業への参画度	ゼミナールメンバーの一員としての自覚を持ち、積極的にゼミナール活動に参加・貢献したかを基準に、達成目標⑥を評価する。						10					10
その他(ゼミナール論文)	論理的で説得力のあるグループ論文を書けたか、また、先行研究に対して貢献のある独自性の高いグループ論文を書けたかを基準に、達成目標①④⑤を評価する。	10			10	40						60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	10	15	40	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール内で随時フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指示する。				

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（1）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
2	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（2）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
3	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（3）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
4	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（4）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
5	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（5）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
6	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（6）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（7）		グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。		
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。		120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。		120分
8	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（8）		グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。		
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。		120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。		120分
9	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（9）		グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。		
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。		120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。		120分
10	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（10）		グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。		
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。		120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。		120分
11	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（11）		グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。		
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。		120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。		120分
12	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（12）		グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。		
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。		120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ファイナンス論やデータ分析に関するテキストの輪読（13）	グループでファイナンス論やデータ分析に関するテキストを輪読し、内容に関して討論を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑥に関連：ファイナンス論やデータ分析の基礎に関して、テキストの指定された箇所の内容を理解し、応用できる。討論において自分の意見を述べることできる。論理的で説得力のある発表ができる（発表者）。	
	事前学修	発表グループはテキストの指定された箇所の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ箇所を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	テキストの指定された箇所の内容を復習し、応用できるようにする。	120分
14	グループ論文のテーマ決め（1）	グループ論文のテーマの候補を発表する。	
	この回の到達目標	達成目標④⑥に関連：先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。	
	事前学修	関心のあるテーマのに関して、先行研究を渉猟する。	120分
	事後学修	教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けて、研究テーマを決定する。	120分
15	グループ論文のテーマ決め（2）	グループ論文のテーマの候補を発表する。	
	この回の到達目標	達成目標④⑥に関連：先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。	
	事前学修	関心のあるテーマのに関して、先行研究を渉猟する。	120分
	事後学修	教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けて、研究テーマを決定する。	120分
16	グループ論文の進捗報告（1）	グループ論文の進捗を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
17	グループ論文の進捗報告（2）	グループ論文の進捗を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
18	グループ論文の進捗報告（3）	グループ論文の進捗を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	グループ論文の進捗報告（４）	グループ論文の進捗を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
20	グループ論文の進捗報告（５）	グループ論文の進捗を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	グループで協力して研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
21	グループ論文の進捗報告（６）	グループ論文の進捗を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	グループで協力して、研究を進める。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
22	グループ論文の進捗報告（７）	グループ論文の進捗を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③⑤⑥に関連：グループ論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	グループで協力して、研究を進める。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
23	論文紹介（１）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。	
	この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。	
	事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。	120分
24	論文紹介（２）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。	
	この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。	
	事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文紹介（３）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。	
	この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。	
	事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。	120分
26	論文紹介（４）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。	
	この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。	
	事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。	120分
27	論文紹介（５）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。	
	この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。	
	事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。	120分
28	論文紹介（６）	ファイナンス分野の論文を読み、その内容をまとめて発表する。	
	この回の到達目標	達成課題①②③④⑥に関連：ファイナンス分野の論文を理解することができる。	
	事前学修	発表グループは論文の内容をまとめ、発表の準備を行う。その他のメンバーも同じ論文を読んで、疑問点を挙げておく。	120分
	事後学修	論文の内容を復習し、ゼミナール論文のテーマ設定に生かせるようにする。	120分
29	ゼミナール論文のテーマ発表（１）	ゼミナール論文のテーマの候補を発表する。	
	この回の到達目標	達成目標④⑥に関連：先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。	
	事前学修	関心のあるテーマに関して、先行研究を渉猟する。	120分
	事後学修	教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けて、ゼミナール論文のテーマを決定する。	120分
30	ゼミナール論文のテーマ発表（２）	ゼミナール論文のテーマの候補を発表する。	
	この回の到達目標	達成目標④⑥に関連：先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。	
	事前学修	関心のあるテーマに関して、先行研究を渉猟する。	120分
	事後学修	教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けて、ゼミナール論文のテーマを決定する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ディベートや研究発表を通じて憲法に関する学修を深めるとともに、ゼミナール論文で取り上げる研究テーマをみずから発見する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法改正など、日本国憲法に関して将来生じうる国民的課題に、有権者として、適切に対処できる判断力を身につけるために、憲法の基礎理論、人権、統治機構に関する知識を深め、これを基に、さまざまな社会問題を憲法との関連において考察し、その解決策を提案する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オリジナル教材を用いてディベートや研究発表・学術論文の技法を教授し、教科書を羅針盤として基礎的な知識を確認するための講義を行ったうえで、憲法問題に関するいくつかのテーマを設定し、グループ・ディスカッションをふまえたディベートや研究発表を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション，ディベート，研究発表	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	憲法に関して生じている諸問題の所在や意義，学術研究の技法を説明することができる。				3	3		3					
②	設定された問題について，他者と協働して，先行研究たる文献・資料を収集し，整理することができる。									3	3		
③	学術研究の技法に則り，他者と協働して，ディベートや研究発表のペーパー類を作成することができる。							4	4	3	3	3	
④	ディベートや研究発表を通じて，他者の意見を評価・批判し，自己の意見を述べるとともに，設定された問題をめぐり，新たな知見を示すことができる。						4	4	4	3	3	3	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テスト，ワークシートにより，到達目標①に関する能力が身についているかを評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等	グループ・ワーク，グループ・ディスカッション，ディベート，グループ研究発表により，到達目標②③④に関する能力が身についているかを評価する。		30	30	30							90
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し，成績評価は4年次に行う】											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
当日または次週のゼミで解説・講評等を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法〔第2版〕	池田実	嵯峨野書院	2016年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454号室） ikeda.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内・導入	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，法学部カリキュラムにおけるゼミナールの位置づけ等を説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，ゼミナールを通じて憲法を学ぶ意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	憲法の学び方を説明している教科書pp. i-iii（はしがき）を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	60分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	60分
2	研究発表・論文の技法（1）	文献・資料の収集とノートの作成，発表と論文の標準的な構成，法律学・政治学論文の文章作法などを説明し，履修者が学術研究の技法を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，学術研究の技法を理解し，説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材「発表と論文の手引き」pp. 1-4を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	60分
	事後学修	授業を振り返り，学術研究の技法をノートにまとめ，説明できるようにする。	120分
3	研究発表・論文の技法（2）	学術論文等における註の役割と表記方法を説明し，ワークを行うことを通じて，履修者が正しく註を表記することができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，註の役割を理解し，これを正しく表記することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材「発表と論文の手引き」pp. 5-9を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	90分
	事後学修	授業を振り返り，ワークを通じてみつけた問題に注意して，いま一度ワークを行い，正しく註を表記することができるようにする。	90分
4	原稿作成の方法（1）	小論文フルペーパーの実例を用いて，学術論文の標準的な構成や論旨の展開を説明し，履修者が学術研究の技法を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，学術論文の標準的な構成や論旨の展開を理解し，実例として用いられたペーパーの論旨を説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材「フルペーパー例（2,000字）」を熟読し，その論旨をノートにまとめておく。疑問点があればノートにメモしておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，事前学修でまとめたノートに必要な修正を加えて，実例として用いられたペーパーの論旨を正しく説明できるようにする。	60分
5	原稿作成の方法（2）	履修者が，各自，指導教員が提供した論文の一例をMS-Wordを用いて書写したものを，指導教員がリアルタイムに書き進めていく過程と照らし合わせることによって，履修者が原稿作成の実際のプロセスを理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，正しい書式・表記で学術論文の原稿を作成することができる。	
	事前学修	事前に配布する論文の抜粋部分を，MS-Wordを用いて書写し，授業に持参する。	120分
	事後学修	授業を振り返り，自分が行った書写の問題点を確認し，その部分を正しく表記できるようにする。	60分
6	フルペーパーの作成・発表（1）	憲法問題についてのフルペーパー（2,000字程度）を作成・発表させ，これに講評を加えることを通じて，履修者が論理的な文章を作成できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，文献・資料を調べ，それを基にフルペーパーを作成・発表することができる。	
	事前学修	発表を割り当てられた者は，「憲法総論」，「天皇」，「戦争の放棄」「個人の尊重と幸福追求権」，「法の下の平等」，のいずれかにかかわりのある憲法問題を取り上げ，フルペーパー（2,000字程度）を作成して事前配布する。他の者は，これらの分野に関する教科書の記述を熟読し，その概要をノートにまとめたうえでゼミに臨む。	180分
	事後学修	授業を振り返り，ペーパー作成の方法に関して得たことをノートにまとめておく。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	フルペーパーの作成・発表（2）	憲法問題についてのフルペーパー（2,000字程度）を作成・発表させ、これに講評を加えることを通じて、履修者が論理的な文章を作成できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、文献・資料を調べ、それを基にフルペーパーを作成・発表することができる。	
	事前学修	発表を割り当てられた者は、「精神的自由権」，「経済的自由権」，「身体的自由権」，「受益権」，「社会権」のいずれかにかかわりのある憲法問題を取り上げ、フルペーパー（2,000字程度）を作成して事前配布する。他の者は、これらの分野に関する教科書の記述を熟読し、その概要をノートにまとめたうえでゼミに臨む。	180分
	事後学修	授業を振り返り、ペーパー作成の方法に関して得たことをノートにまとめておく。	60分
8	フルペーパーの作成・発表（3）	憲法問題についてのフルペーパー（2,000字程度）を作成・発表させ、これに講評を加えることを通じて、履修者が論理的な文章を作成できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、文献・資料を調べ、それを基にフルペーパーを作成・発表することができる。	
	事前学修	発表を割り当てられた者は、「国会」，「内閣」，「裁判所」，「財政」，「地方自治」のいずれかにかかわりのある憲法問題を取り上げ、フルペーパー（2,000字程度）を作成して事前配布する。他の者は、これらの分野に関する教科書の記述を熟読し、その概要をノートにまとめたうえでゼミに臨む。	180分
	事後学修	授業を振り返り、ペーパー作成の方法に関して得たことをノートにまとめておく。	60分
9	ディベートの意義・方法	ディベートの意義および具体的な方法を説明し、履修者がこれを理解し実践できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ディベートの意義および方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材「ディベートの手引き」を通読し、概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	60分
	事後学修	授業を振り返り、ディベートの意義および方法をノートにまとめ、説明できるようにする。	60分
10	ディベート（その1）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関するディベートを行うため、PRO, CON, FLOORそれぞれのグループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。	
	事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。	120分
	事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。	240分
11	ディベート（その1）の準備（2）	PRO, CONの各グループは、ディベート第1立論の原稿（フルペーパー）を作成する。FLOORのグループは、論点を整理し、PRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、ディベートのペーパー類を作成することができる。	
	事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
	事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分
12	ディベート（その1）の実施	ディベート（その1）を実施し、FLOORグループおよび指導教員による判定・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ディベートを通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
	事前学修	PRO・CONグループは第1立論と反対尋問の、FLOORグループは反対尋問の、それぞれリハーサルを行っておく。	60分
	事後学修	FLOORグループは、ディベートの「まとめレポート」を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の履修者は、「まとめレポート」を閲覧し、ディベートの振り返りを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	ディベート（その2）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関するディベートを行うため、PRO、CON、FLOORそれぞれのグループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。		
	事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。		120分
	事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。		240分
14	ディベート（その2）の準備（2）	PRO、CONの各グループは、ディベート第1立論の原稿（フルペーパー）を作成する。FLOORのグループは、論点を整理し、PRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、ディベートのペーパー類を作成することができる。		
	事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。		240分
	事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。		240分
15	ディベート（その2）の実施	ディベート（その2）を実施し、FLOORグループおよび指導教員による判定・講評を行う。		
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ディベートを通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。		
	事前学修	PRO・CONグループは第1立論と反対尋問の、FLOORグループは反対尋問の、それぞれリハーサルを行っておく。		60分
	事後学修	FLOORグループは、ディベートの「まとめレポート」を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の履修者は、「まとめレポート」を閲覧し、ディベートの振り返りを行う。		60分
16	前学期の振り返り・後学期の準備	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程、前学期のゼミ内容が後学期にどう関連しているか等を説明し、履修者が後学期授業の準備を行うことができるようにする。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゼミナールを通じて憲法を学ぶ意義を理解し、説明することができる。		
	事前学修	前学期に配布したすべての教材（教科書を除く。）を通読し、復習しておく。		60分
	事後学修	授業を振り返り、ノートを確認して、後学期のの学修計画を立てる。		60分
17	共同研究発表（その1）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関する共同研究発表を行うため、グループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。		
	事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。		120分
	事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。		240分
18	共同研究発表（その1）の準備（2）	グループごとに、共同研究発表の原稿（フルペーパー）を作成する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、共同研究発表のペーパー類を作成することができる。		
	事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。		240分
	事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。		240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	共同研究発表（その1）の実施		共同研究発表（その1）を実施し、学生相互の意見交換および指導教員による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、共同研究発表を通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。		
	事前学修	各グループは、発表のリハーサルを行っておく。		60分
	事後学修	自分のグループの共同研究発表を通じて得られた知見等をノートにまとめておく。		60分
20	ディベート（公開ゼミ）の準備（1）		教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関するディベートを行うため、PRO、CON、FLOORそれぞれのグループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。		
	事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。		120分
	事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。		240分
21	ディベート（公開ゼミ）の準備（2）		PRO、CONの各グループは、ディベート第1立論の原稿（フルペーパー）を作成する。FLOORのグループは、論点を整理し、PRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、ディベートのペーパー類を作成することができる。		
	事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。		240分
	事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。		240分
22	ディベート（公開ゼミ）の実施		ディベート（公開ゼミ）を実施し、FLOORグループおよび指導教員による判定・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ディベートを通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。		
	事前学修	PRO・CONグループは第1立論と反対尋問の、FLOORグループは反対尋問の、それぞれリハーサルを行っておく。		60分
	事後学修	FLOORグループは、ディベートの「まとめレポート」を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の履修者は、「まとめレポート」を閲覧し、ディベートの振り返りを行う。		60分
23	ディベート（公開ゼミ）の実施		ディベート（公開ゼミ）を実施し、FLOORグループおよび指導教員による判定・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ディベートを通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。		
	事前学修	PRO・CONグループは第1立論と反対尋問の、FLOORグループは反対尋問の、それぞれリハーサルを行っておく。		60分
	事後学修	FLOORグループは、ディベートの「まとめレポート」を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の履修者は、「まとめレポート」を閲覧し、ディベートの振り返りを行う。		60分
24	共同研究発表（その2）の準備（1）		教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関する共同研究発表を行うため、グループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。		
	事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。		120分
	事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。		240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	共同研究発表（その2）の準備（2）	グループごとに、共同研究発表の原稿（フルペーパー）を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、共同研究発表のペーパー類を作成することができる。	
	事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
	事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分
26	共同研究発表（その2）の実施	共同研究発表（その2）を実施し、学生相互の意見交換および指導教員による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、共同研究発表を通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
	事前学修	各グループは、発表のリハーサルを行っておく。	60分
	事後学修	自分のグループの共同研究発表を通じて得られた知見等をノートにまとめておく。	60分
27	共同研究発表（その3）の準備（1）	教員が与えるか、または履修者が自ら設定する課題に関する共同研究発表を行うため、グループごとに、課題に関する文献・資料等を収集し整理する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、グループのメンバーが協働して、文献・資料等を収集し整理することができる。	
	事前学修	指導教員からの示唆を受け、課題についての下調べをノートにまとめ、授業に持参する。	120分
	事後学修	授業で収集した文献・資料等の読み込みや整理を行い、電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバーと情報を共有する。	240分
28	共同研究発表（その3）の準備（2）	グループごとに、共同研究発表の原稿（フルペーパー）を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、グループのメンバーが協働して、共同研究発表のペーパー類を作成することができる。	
	事前学修	電子メールやSNSを通じて、グループ・メンバー間でペーパー執筆の分担を決め、分担部分のペーパーを作成して授業に持参する。	240分
	事後学修	PRO・CON両グループは、授業でグループごとに行った検討をふまえ、最終的なフルペーパーを作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。PRO・CONグループは、相手のペーパーを閲覧し、反対尋問を用意する。FLOORグループは、アップされたすべてのペーパーを閲覧し、これをふまえてPRO・CON双方に対する反対尋問を用意する。	240分
29	共同研究発表（その3）の実施	共同研究発表（その3）を実施し、学生相互の意見交換および指導教員による講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、共同研究発表を通じて、他者の意見を評価・批判し、自己の意見を述べるとともに、設定された課題について、新たな知見を示すことができる。	
	事前学修	各グループは、発表のリハーサルを行っておく。	60分
	事後学修	自分のグループの共同研究発表を通じて得られた知見等をノートにまとめておく。	60分
30	ゼミ論計画に関する発表	ゼミナール4年で作成するゼミナール論文の構想を発表する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゼミナール論文の計画を立て、その構想・概要についての見通しを説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の構想をまとめ、所定の期日までにゼミ共有フォルダにアップロードする。	90分
	事後学修	他の履修者や教員からの指摘をふまえ、ゼミナール論文の構想に必要な修正を加える。	30分

科目名	ゼミナール3年	担当者	石川 徳幸	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
所属するゼミの専門領域に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
ゼミが対象とするの専門領域に関する基礎的な知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、毎週の通常授業のほかに、合宿やフィールドワーク、学生フォーラムへの参加、当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会、zoomを使用したオンラインミーティングなど、さまざまな学修方略を採る場合がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。		3						
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。			3					
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。				3				
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。					3			
⑤	専門領域に関する知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと思えることができる。						3		
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。							3	
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。								3
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。								3
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①～⑤に関連し、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】						
	書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指示する。輪読のための教科書代は2,000～3,000円程度を予定しておいてもらいたい。その他、自分の研究テーマに関する文献が必要となる。					

【オフィスアワー】
【2021年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、専門演習の基礎（1）	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。 また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習の基礎（2）	社会科学方法論を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習の基礎（3）	歴史学の手法を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	キャリア・プランニング（1）	当該専門領域を学んだ「あと」の将来設計を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習（1）	文献講読とディスカッション テキスト第1章～第3章	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習（2）	文献講読とディスカッション テキスト第4章～第6章	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	専門演習(3)		文献講読とディスカッション テキスト第7章～第9章
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	専門演習(4)		文献講読とディスカッション テキスト第10章～第12章
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	専門演習(5)		文献講読とディスカッション テキスト第13章～第15章
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	専門演習(6)		文献講読とディスカッション テキスト第16章～第18章
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	専門演習(7)		文献講読とディスカッション テキスト第19章～第21章
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	専門演習(8)		文献講読のまとめ
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	共同研究(1)		共同研究のテーマ設定
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	共同研究（2）		共同研究の先行研究
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組む課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、課題報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	共同研究(3)		作業課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	共同研究(4)		作業課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	共同研究(5)	作業課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	共同研究(6)	作業課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	共同研究(7)	作業課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	共同研究(8)	作業課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	キャリア・プランニング(2)	当該専門領域を学んだ「あと」の将来設計を考える	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	個人研究報告(1)	担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	個人研究報告(2)	担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	個人研究報告(3)	担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	個人研究報告(4)	担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	個人研究報告(5)	担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの研究を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	石塚 壮太郎	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：憲法の主要論点や判例を検討することにより，憲法学の基礎的理解を共有する。 4年次：3年次の学習内容を基礎に，各自の興味・関心に沿った研究テーマについて，卒業報告を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法に関連する諸問題を理解し，卒業報告の研究テーマを発見する力を養う。 4年次：自らの研究テーマについて、憲法比較をはじめ、歴史・文化・社会・哲学などの観点から、日本国憲法を相対化し、より深く理解する。

【履修条件】
憲法の授業を履修し、単位を取得していること。

【授業方法】
3年次：報告担当者が憲法上の論点・判例について報告する。他の学生は、担当者の報告に対して質問する。その都度、教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて，段階的に報告を行う。それに基づいてディスカッションを行い，その都度、教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年次、4年次ともに、報告と質疑応答をしなければならない。他の学生とともに議論を展開することが求められる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法の基本的論点の理解				4	4						
②	基本的な憲法判例の理解					4	4	4				
③	判例法理および学説の理解					4	4	4				
④	論理的理解力・思考力・分析力、問題発見能力、相場観の会得							4	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	学生は担当する論点・半れについて調べ、レジュメにまとめて、ゼミで報告することが求められる。	5	5	5	10							25
授業への参画度	他のゼミ生は、積極的に質疑応答に参加することが求められる。毎回最低1つは質問をしなければならない。	5	5	5	10							25
その他(卒業報告)	ゼミナール4年次には、卒業報告をしなければならない。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミの時間において各報告に対して講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法学の現在地	山本龍彦ほか編	日本評論社	2020	参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの趣旨やスケジュール，進行などについて説明する。	
	この回の到達目標	ゼミナールの趣旨やスケジュール，進行などについて理解し，次回以降の準備ができる。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回以降のゼミに関する資料を読み，各自で準備をする。	120分
2	報告の仕方	参考書の読み方、報告の仕方や資料の調べ方・まとめ方について、説明する。	
	この回の到達目標	参考書の読み方、報告の仕方や資料の調べ方・まとめ方について、理解し，次回以降の準備ができる。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回以降のゼミ報告を各自で準備をする。	120分
3	国民主権	参考書の国民主権に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ，議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
4	国家目標と国家目標規定	参考書の国家目標と国家目標規定に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ，議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
5	天皇制	参考書の天皇制に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ，議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
6	明治憲法と日本国憲法	参考書の明治憲法と日本国憲法に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ，議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	憲法改正の限界		参考書の憲法改正の限界に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
8	人権の国際的保障		参考書の人権の国際的保障に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
9	人権保障と制度		参考書の人権保障と制度に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
10	私人間における権利の保障		参考書の私人間における権利の保障に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
11	プライバシー権		参考書のプライバシー権に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
12	法の下での平等		参考書の法の下での平等に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家と宗教	参考書の国家と宗教に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
14	表現の自由の原理論	参考書の表現の自由の原理論に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
15	マス・メディアの自由と特権	参考書のマス・メディアの自由と特権に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
16	国家助成と自由	参考書の国家助成と自由に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
17	大学の自治・学問の自由	参考書の大学の自治・学問の自由に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
18	教育の自由・教育権	参考書の教育の自由・教育権に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	経済的自由の限界		参考書の経済的自由の限界に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
20	財産権		参考書の財産権に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
21	生存権		参考書の生存権に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
22	代表観念		参考書の代表観念に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
23	選挙制度		参考書の選挙制度に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
24	政党の位置づけ		参考書の政党の位置づけに関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	議院内閣制		参考書の議院内閣制に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
26	法律事項		参考書の法律事項に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
27	立法手続		参考書の立法手続に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
28	内閣と行政各部		参考書の内閣と行政各部に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
29	司法権		参考書の司法権に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分
30	違憲審査制と統治行為論		参考書の違憲審査制と統治行為論に関する記述をベースに、テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	基礎的知識を身につけ、議論を展開する力を習得する。	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	授業で得た知見をもとに、参考書の設問について再検討する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	出雲 孝	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
立法の歴史を通じて、ルールを作るとは何か、ということを考えていく。法学部における学修の主体は、ルールの解釈であり、ルールの設計ではない。ルールの解釈に関する技法をルールの設計に応用していくために、本ゼミでは立法の歴史を概観しつつ、先人たちがどのように苦心しながらルールの設計に携わり、結果としてどのようなメリット・デメリットが発生したのかを学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
このゼミの目的は、ルールを作るとはどのようなことであるかを理解し、実社会に応用するスキルを身につけることにある。理想的な状況を目指す規則が良いルールであるとは限らず、高度な理論に支えられた規則が良いルールであるとも限らない。学生がルールと理想とを区別し、どのようなファクターを考慮しつつルール設計をしなければならないのかを理解かつ実践することを目指す。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
3年次はプレゼミの合議で決まった本を輪読する。グループごとに担当部分をまとめ、レジュメを準備した上で発表し、他のゼミ生と議論する。4年次のゼミナール論文は、ルール設計という観点から各人に関心のあるテーマを選んでもらい、それについて執筆指導を行なう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の発表で、学生同士のディスカッションを行なう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	立法の歴史を学び、立法者たちがルール作りにあたってどのような問題に直面し、どのような工夫をこらしてきたのかを理解する。						3	3					
②	現在の立法学にはどのような立法理論が存在し、どのような議論が行なわれているのかを理解する。						3	3	3				
③	特定の法制度等を踏まえたうえで、適切な分析と批判を加えることができる。							4	4				
④	既存のルールについて、その問題点を発見し、解決案を提示することができる。								4	4	4		
⑤	自分の意見を他の学生に対して適切に伝達し、円滑な議論を行なうことができる。								3		3		
⑥	現実の問題に照らしたルール設計を試み、チームで協働してひとつの具体的なモデルを組むことができる。									3	4	3	3
⑦	自分たちが作ったルールに対する批判に真摯に応え、反省を加えることができる。											3	3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分が担当するテーマについてレジュメを作成・発表し、他の学生からの質疑に対して適切に応答する。レジュメ、発表、質疑応答のそれぞれの内容を基準に、到達目標①②③④⑤にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	自分が担当していないテーマについて発表者の発表をよく理解し、その理解を掘り下げるために適切な討論を行なう。討論への参加の積極性および発言の内容等を基準に、到達目標①②③④⑤にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他(ゼミナール論文)	ルール設計という観点から、自己の関心に合った具体的な法制度等に着目し、当該制度等に対する分析、考察、提案を含むゼミナール論文を完成させる。論文のスタイル、内容および中間発表を基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	10	10	10	5	5	5				50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	20	20	20	15	5	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のゼミで前回分の講評を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	テキストはプレゼミの段階で決定する				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		関心のあるテーマを含めた自己紹介を行ない、担当を割り当てる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、立法の歴史を振り返ることの意義を説明することができる。		
	事前学修	テキストを通覧し、担当したい箇所を決める。		180分
	事後学修	自分が割り当てられた箇所を再読する。		60分
2	第1回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
3	第1回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
4	第2回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
5	第2回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
6	第3回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
8	第4回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
9	第4回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
10	第5回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
11	第5回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
12	第6回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	第6回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
14	第7回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
15	第7回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
16	前期の復習		前期に読んだ箇所の復習をおこなう。論点の振り返りや、議論し忘れた箇所、あるいは意見が変わった箇所につき、自由に発言、質疑応答をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前期に学んだことを振り返り、自分なりに気になった論点を整理する。		120分
	事後学修	ゼミでの議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
17	第8回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
18	第8回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	第9回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
20	第9回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
21	第10回担当部分の報告		担当者がテキストの担当部分をまとめ、他の学生は同じ箇所を熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	割り当てられた箇所を読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
22	第10回担当部分のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、整理された論点につきディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果と自己の見解をまとめる。		120分
23	テキストのまとめ		テキストの内容、質疑応答の内容をまとめ、さらに自己がテキストから学修した事項を各自報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	テキストの全体をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。		120分
24	テーマ準備		第24回から第29回までは、学生自身が歴史的な感染症の事例を取り上げ、そのときの法政策について法制史の観点から分析を加える。第25回までに5つの事例を取り決め、それぞれの分担を定める。このとき、4年次のゼミナール論文執筆のための指導も行なう。最初に、自由テーマに関するディベートの準備をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	関心のあるテーマをまとめ、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、テーマを練り直す。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	自由テーマ1		テーマ1について発表および質疑応答を行なう。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	テーマ1について調査、分析する。	120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
26	自由テーマ2		テーマ2について発表および質疑応答を行なう。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	テーマ2について調査、分析する。	120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
27	自由テーマ3		テーマ3について発表および質疑応答を行なう。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	テーマ3について調査、分析する。	120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
28	自由テーマ4		テーマ4について発表および質疑応答を行なう。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	テーマ4について調査、分析する。	120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
29	自由テーマ5		テーマ5について発表および質疑応答を行なう。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	テーマ5について調査、分析する。	120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、自己の見解を整理してまとめる。	120分
30	ゼミナール論文の準備		4年次のゼミナール論文のテーマを各自発表する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、テーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文のテーマ報告を準備する。	180分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえた上で、自身のテーマを見直す。	60分

科目名	ゼミナール3年	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：行政広報に基づく現代の諸問題について学習し、各自の関心に沿った研究テーマを見つけ、社会科学の方法論を学ぶ。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、ゼミナール論文を作成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。ゼミナール入室試験では、担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。前期は、課題図書についてグループによる各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。後期は、各自の関心領域のテーマについて個別発表を行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3						
②	担当教員の専門領域を深く理解し、これを適切に用いて自らの関心領域について議論することができる。					3	3	3	3	3			
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。								3	3	3	3	3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	与えられた課題に関して、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論に関して、他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文に関して、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各講義の際に、報告者に解説・コメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに卒業論文指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	文献①	課題図書に関する、発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ課題図書のにおけるそれぞれの課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	文献②	課題図書に関する、発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ課題図書のにおけるそれぞれの課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	文献③	課題図書に関する、発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ課題図書のにおけるそれぞれの課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	文献④	課題図書に関する、発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ課題図書のにおけるそれぞれの課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	グループ研究①	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループ研究②	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	グループ研究③	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	グループ研究④	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	グループ研究⑤	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	グループ研究⑥	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	グループ研究⑦	合同ゼミ・フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	それぞれのグループの研究課題について検討し、発表準備をする。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	論文進捗発表①		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
14	論文進捗発表②		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
15	論文進捗発表③		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
16	論文進捗発表④		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
17	論文進捗発表⑤		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
18	論文進捗発表⑥		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	フォーラム発表準備①	フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	グループで、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	フォーラム発表準備②	フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	グループで、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	フォーラム発表準備③	フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	グループで、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	フォーラム発表準備④	フォーラム発表に向けてのグループディスカッション・発表・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	グループで、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	論文進捗発表⑦	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	論文進捗発表⑧	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	論文進捗発表⑨		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
26	論文進捗発表⑩		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題を報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
27	論文テーマの確定①		選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、目次を案を作成し質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
28	論文テーマの確定②		選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、目次を案を作成し質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
29	論文テーマの確定③		選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、目次を案を作成し質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
30	論文テーマの確定④		選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、目次を案を作成し質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	岩崎 正洋	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
この授業では、比較政治学の代表的な研究業績に注目し、比較政治学の議論がどのようなものなのか、これまでにどのようなテーマが取り扱われてきたのか、過去に注目された議論が徐々に堆積して現在の比較政治学を支えているとしたら、具体的に、どのような研究業績が蓄積されてきたのかについて学修する。比較政治学の課題，対象，方法を理解するためには，具体例を通して学ぶことが最適であり，過去に一定の評価を得た研究業績こそ具体例とするのにふさわしいことから，第二次世界大戦後の比較政治学における主な研究を取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
比較政治学の基本的な理論の検討を通して，世界各国における政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，比較政治学の代表的な理論，モデル，概念などを修得するとともに，現実政治の具体例にそれらを結びつけて説明できることを理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストとして，入門書および専門書の両方を用いながら，比較政治学における主たる研究テーマについて，基礎的な理解と応用的な理解との双方を蓄積していく。そのためには，受講者によるテキストの内容についての報告と，それにもとづく課題に対する研究報告と討論を繰り返すことにより，授業の目的の達成を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週の授業において，受講者による報告と討論を行うとともに，セメスター期間中にレポートの提出と，それに対するフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	比較政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
②	比較政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
③	現代の世界各国の政治が抱える問題について比較政治学の理論や概念を用いて具体的に考察することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
④	現代の世界各国の政治が抱える問題について具体的な解決方法を批判的かつ論理的に考察することができる。				3	4	3	4	3	4	3	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	セメスター中，数回行うレポートおよびリアクション・ ペーパーにより，到達目標③④に関する学力を評価する。			10	10							20
討論・発表等	セメスター中，数回行う報告および討論により，到達目標 ①②③に関する学力を評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①②③④について求められる学力が身につについてい るかを，ゼミナール論文により評価する。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し， 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	教科書	必携
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	必携
『政党システムの理論』	岩崎正洋	東海大学出版会	1999	参考書	推奨
『政治発展と民主化の比較政治学』	岩崎正洋	東海大学出版会	2006	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：比較政治学とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、比較政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュールなどについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	政治システム	政治と国家、政治システムとは何かについて、政治システム論の広がりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	政治発展	政治発展とは何か、政治発展論の主な論点、政治発展論の限界について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論および系譜について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	政治文化	政治システム論、政治発展論とのかかわりから政治文化論に注目し、古典的な政治文化論と現在の政治文化論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治文化の違いを分析する方法について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	政治体制	政治体制（民主主義体制、権威主義体制、全体主義体制）の類型化を説明するとともに、民主主義体制と非民主主義体制とを分ける点とは何かについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治体制の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	ポリアーキー	ダール（Robert A. Dahl）によって提示された民主主義体制を分析した概念である「ポリアーキー」論の内容について具体的な事例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義を捉える主要な分析枠組みである「ポリアーキー」論について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	多極共存型民主主義		レイプハルト（Arend Lijphart）による多極共存型民主主義（consociational democracy）論について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多極共存型民主主義論について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
8	民主化		民主化そのものを理解するために、「民主化の第三の波」と、民主主義体制への移行（transition）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主化とは何かについて説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
9	民主主義の定着		民主化における体制移行後に民主主義体制が定着する（consolidation）過程について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主化にかかわる一連の過程について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
10	民主主義		現代における「民主主義」とは何か、民主主義理論の系譜をふまえながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義とは何かについて説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
11	民主主義の二つのモデル		レイプハルト（Arend Lijphart）による民主主義の二つのモデル（Majoritarian Model of Democracy vs. Consensus Model of Democracy）について、世界各国の状況を示しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主主義の二つのモデルについて説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
12	選挙		現代民主主義における選挙の機能、選挙制度の類型、選挙制度と政党システムとの関連を取り扱った「デュベルジェ（Maurice Duverger）の法則」について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における選挙の意味や問題点について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	政党		政党について、デュベルジェ（Maurice Duverger）をはじめとする代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における政党について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
14	政党システム		政党システムについて、デュベルジェ（Maurice Duverger）やサルトーリ（Giovanni Sartori）による代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における政党システムについて説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
15	政党と政党システム		現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
16	政党とは何か、政党システムとは何か		政党とは何か、政党システムとは何か、政党政治とは何かについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党政治について具体的な事例を挙げて説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
17	政党システムの三類型		デュベルジェ（Maurice Duverger）に代表される政党システムの三類型（一党制、二党制、多党制）について、さまざまなバリエーションも挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの三類型について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
18	政党システムのタイポロジー		サルトーリ（Giovanni Sartori）に代表される政党システムのタイポロジー（七類型）について、具体的な事例を挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの七類型について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	選挙制度と政党システム		デュベルジェ（Maurice Duverger）による選挙制度と政党システムとのかかわりを論じた「デュベルジェの法則」をはじめ、関連する議論について具体的な事例を挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、デュベルジェの法則について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
20	凍結仮説と政党システムの形成		リップセット（Seymour M. Lipset）とロッキン（Stein Rokkan）による政党システムの「凍結仮説」について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「凍結仮説」について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
21	凍結仮説の有効性		「凍結仮説」の有効性をめぐる多様な議論に注目することにより、今日における「凍結仮説」の有効性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「凍結仮説」の今日的な意義について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
22	政党システムの変容		政党システムの変容とは何か、具体的にどのような現象を意味し、どのような基準で捉えることができるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの変容とは何かについて説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
23	政党システム変化の指標		先進工業民主主義諸国における政党システム変化の具体的な事例を挙げながら、政党システムの変容の最近の状況について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システム変化の具体的な姿について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
24	政党システムの競合構造		メア（Peter Mair）による政党システムの競合構造について、具体的な事例を示しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党システムの競合構造について説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	一党優位政党制の条件	日本の政党システムを考えるために一党優位政党制に注目し、一党優位政党制がどのように形成されるかに関する条件について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一党優位政党制として日本の政党システムの具体的な姿について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
26	連立政権と政党システム	ヨーロッパと日本の具体的な事例を挙げながら、連立政権と政党システムとのかかわりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、連立政権と政党システムとのかかわりについて説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
27	政党衰退論とポスト政党衰退論	1970年代以降の政党衰退論と、現在の政党政治の状況を説明する議論との両者を対比し、政党政治の現在について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政党政治の現在について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
28	政治の大統領制化	議院内閣制と大統領制の比較、議院内閣制における政治の大統領制化について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制と大統領制の違い、大統領制化について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
29	政党政治の比較	各国の政党政治を分析するのに必要な先行研究ふまえつつ、比較政党論の体系性について総括として説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較政党論に関する主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
30	比較政治学の課題と展望	各国の政治を分析するには、政治システム論や民主主義論の研究蓄積をふまえつつ、政策決定過程論やガバナンス論といった視点からのアプローチが可能であることを総括として解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、比較政治学の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	臼井 哲也	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループで学術論文を英文で執筆し，全国大会「IBインカレ」で優勝を目指す。企業との共同研究，その他自主的な活動も学生自ら提案し，実践できるゼミである。詳しくは「臼井ゼミ」で検索。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グローバル社会において必須となる知識と技能を徹底的に修得することを目指す。具体的には，論理的な考えに基づき自身の考える解決策を考案し，実務家へ提案，説得する力を修得する。

【履修条件】
ゼミ試験の合格者のみ履修可能

【授業方法】		
グローバル社会において必須となる知識と技能を徹底的に修得することを目指す臼井ゼミでは、チームで学術論文の執筆に取り組んでいます。国際ビジネスに関する研究テーマを学生自身が選定し、文献レビューと企業の担当者へのインタビューを通じて、学術的にも実務的にも意義ある問いを立て、これをアンケート調査等を用いて解明していきます（仮説検証）。論文は英語で執筆し、全国大会「IBインカレ」において英語でプレゼンを行います。臼井ゼミはIBインカレ常勝ゼミです。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回のプロゼミにおける発表並びにサブゼミでの準備の繰り返しを通じて、グループ論文を仕上げていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マーケティング，経営学など関連する文献の収集力						4	4						
②	マーケティング，経営学など関連する文献の読解力						4	4						
③	マーケティング，経営学など関連する文献の分析力						4	4						
④	統計学の知識と実践								4	4	4	4	4	4
⑤	パワーポイントスライド等を使用したプレゼンテーション力								4	4	4	4	4	4
⑥	他者の論理を批判する力								4	4	4	4	4	4
⑦	他者の疑問に対して説得的に回答する力								4	4	4	4	4	4
⑧	チーム内で互いに刺激し、協働する力								4	4	4	4	4	4
⑨	自身の独自の論理を組み立て、相手を説得する力								4	4	4	4	4	4
⑩	英語で論文を執筆し、プレゼンテーションを行う力								4	4	4	4	4	4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	グループ論文（英文）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	毎回のプロゼミにおける発言と発表	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	卒業論文	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】	
都度、プロゼミ内でフィードバックを行う	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、関連する文献を紹介する				

【オフィスアワー】	
水曜13：30～14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務的にも示唆に富む研究に取り組む	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	論文テーマの探索①	グループで研究テーマを探索する。		
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。		
	事前学修	サブゼミを通じて研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。		240分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。		240分
2	論文テーマの探索②	グループで研究テーマを探索する。		
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。		
	事前学修	サブゼミを通じて研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。		240分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。		240分
3	論文テーマの探索③	グループで研究テーマを探索する。		
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。		
	事前学修	サブゼミを通じて研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。		240分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。		240分
4	論文テーマの探索④	グループで研究テーマを探索する。		
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。		
	事前学修	サブゼミを通じて研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。		240分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。		240分
5	研究テーマの決定①	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。		
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。		
	事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。		240分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。		240分
6	研究テーマの決定②	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。		
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。		
	事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。		240分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。		240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	研究テーマの決定③	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
	事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジюмеを準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	240分
8	リサーチエッション①	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
	この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
	事前学修	グループで協力して文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
9	リサーチエッション②	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
	この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
	事前学修	グループで協力して文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
10	リサーチエッション③	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
	この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
	事前学修	グループで協力して文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
11	調査設計①	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
	この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
	事前学修	グループで協力して調査設計の提案書を作成する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
12	調査設計②	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
	この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
	事前学修	グループで協力して調査設計の提案書を作成する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	調査設計③	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
	この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチクエッションに対応した調査の設計を行う。	
	事前学修	グループで協力して調査設計の提案書を作成する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチクエッションをさらにブラッシュアップする。	240分
14	フィールドワーク①	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
	事前学修	フィールドワークの実施	240分
	事後学修	次のフィールドワークの準備	240分
15	フィールドワーク②	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
	事前学修	フィールドワークの実施	240分
	事後学修	次のフィールドワークの準備	240分
16	フィールドワーク③	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
	事前学修	フィールドワークの実施	240分
	事後学修	次のフィールドワークの準備	240分
17	仮説構築①	文献、定性データ、各種２次データを総合的に分析し、仮説を構築する。	
	この回の到達目標	検証可能な形式で仮説を構築する（構成概念、変数、測定具の開発）。	
	事前学修	グループで協力して仮説を提示する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、仮説をさらにブラッシュアップする。	240分
18	仮説構築②	文献、定性データ、各種２次データを総合的に分析し、仮説を構築する。	
	この回の到達目標	検証可能な形式で仮説を構築する（構成概念、変数、測定具の開発）。	
	事前学修	グループで協力して仮説を提示する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、仮説をさらにブラッシュアップする	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	データ収集と統計①	webフォームを使ってアンケート調査を実施。	
	この回の到達目標	データの分析を行い、解析結果を解釈する。	
	事前学修	データの収集ならびに解析。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、再度解析。	240分
20	データ収集と統計②	webフォームを使ってアンケート調査を実施。	
	この回の到達目標	データの分析を行い、解析結果を解釈する。	
	事前学修	データの収集ならびに解析。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、再度解析。	240分
21	論文執筆①	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	論文の構成を固める。	
	事前学修	論文の構成案を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
22	論文執筆②	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	第1章（リサーチクエッション）、第2章（文献レビュー）を完成させる。	
	事前学修	草稿を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
23	論文執筆③	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	第3章（仮説）、第4章（統計分析）を完成させる。	
	事前学修	草稿を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
24	論文執筆④	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	第5章（考察）、第6章（結論）を完成させる。	
	事前学修	草稿を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文執筆⑤	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	論文を完成させる。	
	事前学修	草稿を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
26	プレゼン準備①	論文の内容に基づき15分間のプレゼンテーションを準備する。	
	この回の到達目標	優れたプレゼンテーションを準備する。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
27	プレゼン準備②	論文の内容に基づき15分間のプレゼンテーションを準備する。	
	この回の到達目標	優れたプレゼンテーションを準備する。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
28	振り返り①	論文大会参加の反省会をグループで行う。	
	この回の到達目標	十分に反省点を洗い出し、今後の対策を練る。	
	事前学修	対策を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
29	振り返り①	論文大会参加の反省会をグループで行う	
	この回の到達目標	十分に反省点を洗い出し、今後の対策を練る。	
	事前学修	対策を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
30	総括	ゼミ全体で振り返りを共有し、今後の対策を講じる。	
	この回の到達目標	実行可能な対策を立案する。	
	事前学修	対策を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分

科目名	ゼミナール3年	担当者	大久保 いづみ	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
企業の戦略や経営行動について、自ら調査し論理的に分析し、それらをプレゼンテーションやレポート・論文としてまとめることを学ぶ。授業時間外において、企業博物館・工場見学、外部図書館での実習などの学外学習も行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
事例研究に基づき、企業の戦略や経営行動を理解・分析する力の養成を目的とする。経営学、経営戦略論分野の学修。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次は、主にグループワークを行う。研究対象を設定し、調査・分析、発表等を行う。また、テキストの輪読や講義を行い、経営戦略論の基礎的な知識を習得する。3年次の後半において、ゼミナール論文の研究テーマを決定し、発表・討論を行う。 4年次は、個人で研究テーマを設定し、研究発表、ゼミナール論文の執筆に取り組む。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク、フィールドワーク、発表、ディスカッション等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経営戦略論の基礎的な知識の習得				3	3						
②	問いを立てる力				3	3	3	3	3			3
③	調査、情報収集力				3	3	3	3	3			3
④	論理的に結論を導き出す力				3	3	3	3	3			3
⑤	発表、プレゼンテーション力						3	3	3	3	3	3
⑥	レポート、論文の執筆				3	3	3	3	3			3
⑦	グループワーク、フィールドワーク								3	3	3	
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各研究テーマ、輪読に関するレジュメ、レポート等により、評価する。						20					20
討論・発表等	各研究テーマ、輪読に関するプレゼンテーション・口頭発表、ディスカッション等により、評価する。					20						20
授業への参画度	ゼミナールでは、授業時間外において、企業博物館・工場見学、外部図書館での実習などの学外学習も行う。授業への参画度について、総合的に評価する。							20				20
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の提出。	5	5	5	5		20					40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	20	40	20				100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナールでフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
初回の授業でアナウンスする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義のテーマ・概要、講義計画、成績評価の方法、課題等について、説明する。 ※授業計画は目安となります。	
	この回の到達目標	3年ゼミナールの概要について、理解する。	
	事前学修	シラバスを読み、本講義のテーマ・概要、講義計画について把握する。	120分
	事後学修	配布資料を読み、講義内容について復習する。	120分
2	輪読	経営戦略論に関するテキストの輪読を行う。発表担当者は、レジュメを用意し、グループ発表を行う。その他の学生は、ディスカッションポイントについて用意する。	
	この回の到達目標	経営戦略論の基礎的な知識を習得する。グループ発表、ディスカッションを行う。	
	事前学修	レジュメを作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	レジュメや講義ノートを読み、復習する。	120分
3	輪読	経営戦略論に関するテキストの輪読を行う。発表担当者は、レジュメを用意し、グループ発表を行う。その他の学生は、ディスカッションポイントについて用意する。	
	この回の到達目標	経営戦略論の基礎的な知識を習得する。グループ発表、ディスカッションを行う。	
	事前学修	レジュメを作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	レジュメ、講義ノートを読み、復習する。	120分
4	輪読	経営戦略論に関するテキストの輪読を行う。発表担当者は、レジュメを用意し、グループ発表を行う。その他の学生は、ディスカッションポイントについて用意する。	
	この回の到達目標	経営戦略論の基礎的な知識を習得する。グループ発表、ディスカッションを行う。	
	事前学修	レジュメを作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	レジュメ、講義ノートを読み、復習する。	120分
5	輪読	経営戦略論に関するテキストの輪読を行う。発表担当者は、レジュメを用意し、グループ発表を行う。その他の学生は、ディスカッションポイントについて用意する。	
	この回の到達目標	経営戦略論の基礎的な知識を習得する。グループ発表、ディスカッションを行う。	
	事前学修	レジュメを作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	レジュメ、講義ノートを読み、復習する。	120分
6	研究テーマの設定	グループワークにおいて、研究テーマ、調査対象を決定する。	
	この回の到達目標	研究テーマを決定する。問いを立てる。	
	事前学修	研究テーマの候補について、検討する。	120分
	事後学修	役割分担、調査内容について、検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	研究テーマの設定	グループワークにおいて、研究テーマ、調査対象を決定する。	
	この回の到達目標	研究テーマを決定する。問いを立てる。	
	事前学修	研究テーマの候補について、検討する。	120分
	事後学修	役割分担、調査内容について、検討する。	120分
8	調査	文献調査を行う。	
	この回の到達目標	図書館の使い方、新聞、雑誌、論文等のデータベースの使い方について学習する。	
	事前学修	フィールドワークの事前学習を行う。	120分
	事後学修	フィールドワークの事前学習を行う。	120分
9	調査	文献調査を行う。	
	この回の到達目標	図書館の使い方、新聞、雑誌、論文等のデータベースの使い方について学習する。	
	事前学修	フィールドワークの事前学習を行う。	120分
	事後学修	フィールドワーク当日の調査内容、役割分担を決定する。	120分
10	フィールドワーク	フィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	設定した研究テーマ、調査対象について、理解を深める。	
	事前学修	フィールドワーク当日の調査内容、役割分担を決定する。	120分
	事後学修	データ、資料を整理する。	120分
11	フィールドワーク	フィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	設定した研究テーマ、調査対象について、理解を深める。	
	事前学修	フィールドワーク当日の調査内容、役割分担を決定する。	120分
	事後学修	データ、資料を整理する。	120分
12	発表資料作成	グループで発表資料を作成する。	
	この回の到達目標	パワーポイントを利用した発表資料を作成し、プレゼンテーションの準備を行う。	
	事前学修	データ、資料を整理する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションの準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	発表資料作成		グループで発表資料を作成する。
	この回の到達目標	パワーポイントを利用した発表資料を作成し、プレゼンテーションの準備を行う。	
	事前学修	データ、資料を整理する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションの準備を行う。	120分
14	発表		グループで研究内容を発表する。
	この回の到達目標	グループ発表、質疑応答、ディスカッションを行う。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備を行う。	120分
	事後学修	フィードバックを受けて、改善点を整理する。	120分
15	発表(予備日)		グループで研究内容を発表する。
	この回の到達目標	グループ発表、質疑応答、ディスカッションを行う。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	フィードバックを受けて、改善点を整理する。	120分
16	ガイダンス		後学期の授業計画、概要について、説明する。
	この回の到達目標	後学期の授業計画、概要について、把握する。	
	事前学修	前学期のレジюме、講義ノートを読み、復習する。	120分
	事後学修	輪読のレジюмеを作成する。	120分
17	輪読		経営戦略論に関するテキストの輪読を行う。発表担当者は、レジюмеを用意し、発表を行う。
	この回の到達目標	経営戦略論の基礎的な知識を習得する。担当者による発表、ディスカッションを行う。	
	事前学修	レジюмеを作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	レジюме、講義ノートを読み、復習する。	120分
18	輪読		経営戦略論に関するテキストの輪読を行う。発表担当者は、レジюмеを用意し、発表を行う。
	この回の到達目標	経営戦略論の基礎的な知識を習得する。担当者による発表、ディスカッションを行う。	
	事前学修	レジюмеを作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	レジюме、講義ノートを読み、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	輪読	経営戦略論に関するテキストの輪読を行う。発表担当者は、レジュメを用意し、発表を行う。	
	この回の到達目標	経営戦略論の基礎的な知識を習得する。担当者による発表、ディスカッションを行う。	
	事前学修	レジュメを作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	レジュメ、講義ノートを読み、復習する。	120分
20	輪読	経営戦略論に関するテキストの輪読を行う。発表担当者は、レジュメを用意し、発表を行う。	
	この回の到達目標	経営戦略論の基礎的な知識を習得する。担当者による発表、ディスカッションを行う。	
	事前学修	レジュメを作成し、報告の準備を行う。	120分
	事後学修	レジュメ、講義ノートを読み、復習する。	120分
21	研究テーマの設定	ゼミナール論文の研究テーマ、調査対象を決定する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の研究テーマ、調査対象を決定する。問いを立てる。	
	事前学修	研究テーマの候補について、検討する。	120分
	事後学修	研究テーマの候補について、検討する。	120分
22	研究テーマの設定	ゼミナール論文の研究テーマ、調査対象を決定する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の研究テーマ、調査対象を決定する。問いを立てる。	
	事前学修	研究テーマの候補について、検討する。	120分
	事後学修	フィードバックを受けて、改善点を整理する。	120分
23	調査	ゼミナール論文に関して、文献調査を行う。	
	この回の到達目標	図書館の使い方、新聞、雑誌、論文等のデータベースの使い方について学習する。	
	事前学修	ゼミナール論文の研究テーマに関して、文献調査を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の研究テーマに関して、文献調査を行う。	120分
24	調査、個人発表	ゼミナール論文に関して、文献調査を行う。個人発表を行う。	
	この回の到達目標	図書館の使い方、新聞、雑誌、論文等のデータベースの使い方について学習する。	
	事前学修	ゼミナール論文の研究テーマに関して、文献調査を行う。	120分
	事後学修	フィードバックを受けて、改善点を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	フィールドワーク	フィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	設定した研究テーマ、調査対象について、理解を深める。	
	事前学修	フィールドワークにおける調査内容・項目、役割分担を決定する。	120分
	事後学修	データ、資料を整理する。	120分
26	フィールドワーク	フィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	設定した研究テーマ、調査対象について、理解を深める。	
	事前学修	フィールドワーク当日の調査内容・項目、役割分担を決定する。	120分
	事後学修	データ、資料を整理する。	120分
27	発表資料作成	ゼミナール論文に関して、発表資料を作成する。	
	この回の到達目標	プレゼンテーションの準備を行う。	
	事前学修	データ、資料を整理する。	120分
	事後学修	プレゼンテーションの準備を行う。	120分
28	個人発表	ゼミナール論文に関して、研究内容を発表する。	
	この回の到達目標	パワーポイントを利用した個人発表、質疑応答、ディスカッションを行う。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	フィードバックを受けて、改善点を整理する。	120分
29	個人発表	ゼミナール論文に関して、研究内容を発表する。	
	この回の到達目標	パワーポイントを利用した個人発表、質疑応答、ディスカッションを行う。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	フィードバックを受けて、改善点を整理する。	120分
30	個人発表(予備日)	ゼミナール論文に関して、研究内容を発表する。	
	この回の到達目標	パワーポイントを利用した個人発表、質疑応答、ディスカッションを行う。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	フィードバックを受けて、改善点を整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	大久保 拓也	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
商事法に関する基本的事例・判例の検討を通じて、商事法の基本的な知識を身に付け、法的に分析する能力を獲得し、ゼミナール論文の執筆を通じて、論理的思考力・分析力・表現能力を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：商事法の基本的な知識と法的思考能力を修得するために、商事法に関する基本的事例・判例を検討し、検討した内容の研究発表を行う。これにより各自の研究テーマを見つけ出すとともに、グループワークを通じて協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容を踏まえて各自が各別の研究テーマについて知識を修得し、グループ全体で考察する。これによりテーマに関する解決策について研究を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格した者であること。毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。

【授業方法】		
3年次：商事法に関する基本的事例・判例について、学修者各自が基本的な概念や制度を調べ、事例を分析する。担当者は割当された課題について発表し、それをもとに全員で質疑応答を行う。これを通じて、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができる能力を身に付ける。 4年次：学修者各自が研究テーマを設定し、それについて資料調査と研究発表する。担当者が発表した内容について全員で質疑応答を行うことにより、グループ全体でテーマに関する解決策を検討する。担当者はテーマに関する研究を深めてゼミナール論文を執筆することができるようになる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員、学修者相互間で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。出席管理システム等のデジタルシステムも扱いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	商事法の主要論点について十分に理解し、論理的に説明することができる。												
②	商事法の規定・学説・判例を調査し、適切な説明をし、質疑応答を通じて問題の解決策を提示できる。												
③	商事法の主要論点の検討のためにリーダーシップを発揮し、自分の意見を適切に述べることができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次と4年次の2年間継続して履修し、4年次にゼミナール論文を提出しなければならない。到達目標①②③が身についているかについて、商事法学の水準に照らしてゼミナール論文として適正な内容であるかどうか評価する。	10	20	10								40
討論・発表等	毎回の授業における発表の準備において到達目標①②が身についているかを、討論の方法・内容によって到達目標③が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	毎回の授業において担当部分以外の問題の事前調査において到達目標①②が身についているかを、授業中の質疑応答によって到達目標③が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解説は、授業内に行うほか、補足説明についてはポータルシステムにて後日配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義1（会社法）	松嶋隆弘＝大久保拓也編	中央経済社	2021	教科書	必携
六法（最新版）				その他	必携
会社法判例百選（第3版）	岩原紳作ほか編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜昼休み。事前にメールでアポイントメントをとることオフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	会社の種類		3年次：リクエストに応じ最新の改正や判例を取り上げるため、以下の内容は変更があり得る。 4年次：各自のゼミナール論文のテーマに合わせるため、以下の内容は変更があり得る。 会社の種類はどのようなものか。基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
2	会社の意義と会社法の目的		会社の意義は何か、会社法の目的としてどういうものがあるのか。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
3	会社の能力		会社の権利能力は何か、会社の能力は自然人と異なる点があるのか。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
4	会社の法人格		会社の法人格とはどういうものか、法人格否認の法理とは何か、株式と有限責任とはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
5	株主平等の原則		株主平等の原則とはどういう制度か、その例外として属人的定めとは何か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
6	種類株式		普通株式とは何か、種類株式はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	新株発行の手続		新株発行とは何か、新株発行手続とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
8	新株発行の差止め、無効、不存在		新株発行の差止めとはどのような制度か、新株発行の無効とはどのような制度か、新株発行の不存在とはどのような制度か何か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
9	株式譲渡		株式譲渡とはどのような制度か、株式譲渡の制限という制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
10	自己株式		自己株式とは何か、自己株式取得規制はどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
11	自己株式取得の手続		自己株式取得とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
12	社債		社債とは何か、社債発行規制とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	株主総会の運営		機関とは何か、株主総会運営の手続はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
14	株主提案権		説明義務とは何か、株主提案権はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
15	株主総会決議の瑕疵		株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴え・株主総会決議不存在確認の訴えはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
16	競業取引と利益相反取引		競業取引とは何か、利益相反取引はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
17	取締役の義務		善管注意義務とは何か、忠実義務とはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
18	取締役と取締役会の役割		取締役とは何か、取締役会とはどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	取締役会の役割		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会の役割はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
20	報酬規制		取締役の報酬とは何か、取締役の報酬規制はどういう役割をもつ制度か、取締役以外の報酬規制はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
21	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社		指名委員会等設置会社とは何か、監査等委員会設置会社はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
22	取締役の対会社責任		取締役の対会社責任とは何か、株主代表訴訟とはどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
23	取締役の対第三者責任		取締役の対第三者責任とは何か、取締役の対第三者責任はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
24	監査役、会計監査人、会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	資本制度と会社の計算		資本制度とは何か、会社の計算はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
26	株式会社の設立		株式会社の設立手続の概要は何か、発起人はどういいう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
27	払込の手続と仮装払込		株式会社の設立時の払込の手続とは何か、仮装払込はどういいう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
28	持分会社		合名会社・合資会社・合同会社とは何か、持分会社はどいいう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
29	合併と分割		合併とは何か、分割はどいいう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
30	株式交換と事業譲渡		株式交換とは何か、株式譲渡とは何か、事業譲渡はどいいう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	

科目名	ゼミナール3年	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：家族法に関する基礎的な知識を獲得するとともに、ゼミのメンバーとともに、家族法に関連する具体的な主題につき、調査・研究を行い、発見した問題点の解決方法につき、グループで議論を深める。また4年次の卒業論文作成に備え、研究テーマの発見につとめる。ゼミ運営の進捗状況を考慮し、シラバス記載の内容が変更される場合がある。 4年次：3年次に選択したテーマにつき、文献調査を行うとともに、ゼミナール論文を執筆する。 3年次・4年次共通：年間を通して、学年を超えた懇親を深めるため、合同懇親会(年数回)、合宿(春・夏)、食事会(4年生のみ、年1回)の開催を予定している。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：家族法における基礎的な考え方につき修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、ゼミでのグループワークや懇親会等を通して、他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関して、文献を収集するなどの調査活動を行い、知識を習得し、各自が設定した問題点につき、ゼミナール論文の執筆を通して、その解決を探ることにより、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を養う。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
3年次：家族法に関連する諸問題につき、毎週1名に報告をしてもらい、当該問題点につきグループディスカッションを行う。またゼミ時間中に指定された主題につきレポートを作成し、提出する。 4年次：各自で選定した研究テーマにつき、ゼミナール論文の執筆を行う。なおゼミナール論文の進捗状況は個々により異なることもあるため、シラバス記載よりも早く進捗する場合、遅く進捗する場合、あるいは進め方を変更する場合がある。 ※なお状況によりオンラインに変更されることもあります。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年生については学生間で与えられたテーマについての議論を行い、自らの意見を述べる。4年生については研究テーマに関する教員および学生同士のディスカッションを通して知見を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	家族法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。						2						
②	家族法で問題とされる事象につき、積極的に問題点を発見し、それに対する解決の糸口を見出すことができる。							2					
③	現代的課題について理解し、自らの意見を述べるができる。					2				2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③について基礎知識等が身についているかをゼミナールレポートにより評価する。	40										40	
討論・発表等	到達目標①②③について、あらかじめ決められたテーマに沿って、調査・検討をし、レジュメにまとめ、他のゼミメンバーに分かりやすく発表をすることができるかにつき評価する。		15	15								30	
授業への参画度	到達目標①②③について、グループディスカッションへの積極的な参加をしているか、自ら発見した研究テーマに積極的に取り組んでいるかにより評価する。		15	15								30	
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		40	30	30								100	

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対するフィードバックは、講義中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別 必要度
『みんなの家族法入門』		本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月	信山社	2021	教科書 推奨
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』		水野紀子・大村敦志	有斐閣	2018	参考書 推奨
備考	その他必要に応じて、論文や判例評釈のコピーを指示することがある。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	通年の講義内容につき簡単に解説する。授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価方法を説明する。また、ゼミ運営にあたり必要な事項につき協議をすることにより、受講生は、ゼミの準備や年間計画を作成することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミの年間計画やそのために必要な準備を行うことができる。	
	事前学修	教科書の目次を確認し、家族法の全体像について考えてみる。	120分
	事後学修	ゼミの年間計画を作成し、また研究を選定したテーマについて教科書の該当箇所を読んでおく。	120分
2	婚姻届・婚約	婚姻の形式的要件、婚姻の実質的要件、近親婚の禁止等、婚姻・婚約に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻・婚約に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
3	夫婦財産制	夫婦財産制、夫婦の居住形態についてに関する法的考え方について発表し、夫婦財産関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻・婚約に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、夫婦財産制のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
4	親子関係	婚姻と親子関係、認知に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻と親子関係、認知にに関する法的規律と考え方、親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
5	生殖補助医療	生殖補助医療に関する法的考え方について発表し、親子関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、親子関係に関する法的規律と考え方、親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、親子関係のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
6	親子の権利義務	親権に関する法的考え方について発表し、親子関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、親権に関する法的規律と考え方、親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、親子関係のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	児童虐待		児童虐待に関する法的考え方について発表し、子育てのあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、児童虐待に関する法的規律と考え方、子育てのあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、親子関係のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
8	離婚原因		離婚の形式的要件、離婚の実質的要件、具体的離婚原因、抽象的離婚原因に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離婚の形式的要件、離婚の実質的要件、具体的離婚原因、抽象的離婚原因に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
9	離婚時の財産分与		財産分与の法的性質、財産分与の対象と方法、内縁に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財産分与の法的性質、財産分与の対象と方法、内縁に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
10	親権と面会交流		単独親権と共同親権、面会交流、養育費に関する法的考え方について発表し、離婚後の親子関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、単独親権と共同親権、面会交流、養育費に関する法的規律と考え方、離婚後の親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
11	研究テーマにかかる政策の調査		婚姻の形式的要件、婚姻の実質的要件、近親婚の禁止等、婚姻・婚約に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻・婚約に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
12	老親扶養		扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法に関する法的規律と考え方、老親と子の関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、老親と子の関係のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	成年後見制度		成年後見制度に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、成年後見制度に関する法的規律と考え方、扶養のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、扶養のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
14	ゼミナールレポート発表		これまでの発表の中で興味を持ったテーマを選び、それに関する法的考え方、社会におけるありかたについてレポートを作成する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らが選んだテーマに関する法的規律と考え方、あり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、自ら選択したテーマのあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
15	まとめ・振り返り		これまでの発表の中で興味を持ったテーマを選び、それに関する法的考え方、社会におけるありかたについて作成したレポートを再構成し、家族法の全体像を振り返る。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自らが選んだテーマに関する法的規律と考え方、あり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、自ら選択したテーマのあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
16	相続人と相続分		相続人・相続分に関する法的考え方について発表し、相続のあり方について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続人・相続分に関する法的規律と考え方、相続関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、子の相続のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
17	相続欠格と相続人の廃除		相続欠格と相続人の廃除に関する法的考え方について発表し、相続における親子関係のあり方について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続欠格と相続人の廃除に関する法的規律と考え方、相続における親子関係のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、婚姻のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分
18	相続人の不存在・特別縁故者制度		相続人の不存在・特別縁故者制度に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続人の不存在・特別縁故者制度に関する法的規律と考え方、身寄りのない者の相続のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、身寄りのない者の相続のあり方について考えておく。	120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	相続可能な相続財産		相続の対象となる相続財産、特殊な相続が行われる財産に関する法的考え方について発表し、相続財産のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続の対象となる相続財産、特殊な相続が行われる財産に関する法的規律と考え方、相続財産のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、相続財産のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
20	相続財産の共有		相続財産の所有形態、相続財産の管理、相続登記に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続財産の所有形態、相続財産の管理、相続登記に関する法的規律と考え方、相続登記について理解することができる。。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、相続登記についてまとめておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
21	遺言制度		遺言の意義・性質、遺言執行に関する法的考え方について発表し、遺言のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、遺言の意義・性質、遺言執行に関する法的規律と考え方、遺言のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、遺言のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
22	相続の承認・放棄		相続の承認・放棄、特別受益・寄与分に関する法的考え方について発表し、婚姻関係のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続の承認・放棄、特別受益・寄与分に関する法的規律と考え方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、相続の承認・放棄、特別受益・寄与分に関する法的規律と考え方についてまとめておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
23	遺産分割		遺産分割の種類・方法等に関する法的考え方について発表し、遺産分割のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、遺産分割の種類・方法等に関する法的規律と考え方、遺産分割のあり方について理解し自らの考えを述べることができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、遺産分割のあり方について考えておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分
24	遺留分		遺留分、遺留分額侵害請求権、遺留分減殺の順序等に関する法的考え方について発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、遺留分、遺留分額侵害請求権、遺留分減殺の順序等に関する法的規律と考え方、婚姻関係のあり方について理解することができる。		
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、遺留分、遺留分額侵害請求権、遺留分減殺の順序等をまとめておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバー間で討論し、共有された考えをノートにまとめ、それに対する自らの意見をまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	判例調査		これまでの講義で学んだ判例のうち、自らが興味を持つ判例を図書館にて入手し、事案と判旨を分析する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの講義で学んだ判例のうち、自らが興味を持つ判例を選び、図書館にて入手し、判例に対する自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	これまで学んだ判例のうち、自らが興味を持つ判例を選択する。	120分
	事後学修	これまで学んだ判例のうち、自らが興味を持ち選択した判例の事案と判旨をノートにまとめる。	120分
26	判例評釈の調査		第25回の演習で選択した判例の評釈を図書館等にて入手し、評釈にて問題とされていることを分析し、自らの意見をまとめる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第25回の演習で選択した判例の評釈を図書館にて入手し、それをまとめ、自らの意見をまとめることができる。	
	事前学修	第25回の演習で選択した判例の評釈を図書館にて入手する。	120分
	事後学修	第25回の演習で選択した判例の評釈を図書館等にて入手し、評釈にて問題とされていることを分析し、自らの意見をまとめる。	120分
27	判例のまとめ		第25回・第26回の演習で学んだ判例を再度検討し、事案・判旨・判例評釈の概要をまとめ、ゼミで発表する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第25回・第26回の演習で選択した判例の評釈を図書館にて入手し、それをまとめ、自らの意見をまとめることができる。	
	事前学修	第25回・第26回の演習で選択した判例の評釈を図書館等にて入手し、評釈にて問題とされていることを分析し、自らの意見をまとめる。	120分
	事後学修	第25回・第26回の演習で選択した判例の評釈を図書館等にて入手し、評釈にて問題とされていることを分析し、自らの意見をまとめる。	120分
28	論文の輪読		演習にて指定された論文を輪読し、論文の書き方・考え方を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演習にて指定された論文を輪読し、論文の書き方・考え方を学ぶ。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、論文の書き方・考え方を学ぶ。	120分
	事後学修	輪読した論文を再度読みなおして、わからなかったところを書き出しておく。	120分
29	論文の分析		演習にて指定された論文を分析し、論文の書き方・考え方を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、演習にて指定された論文を輪読し、論文の書き方・考え方を学ぶ。	
	事前学修	図書館やインターネットでの調査を通して、論文の書き方・考え方を学ぶ。	120分
	事後学修	輪読した論文を再度読みなおし、論文の流れ・主張すべき点等をレポートにまとめる。	120分
30	まとめ・振り返り		これまでの演習で自らが選択した判例及び輪読した論文を文章にまとめることで、4年次のゼミナール論文に対する準備とする。これにより学生は4年次にスムーズにゼミナール論文執筆に取り組むことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの演習で自らが選択した判例につき説明し、自らの考えを述べることができる。また輪読した論文で問題とされていることを理解することができる。	
	事前学修	これまでの演習で自らが選択した判例及び輪読した論文を文章にまとめておく。	120分
	事後学修	これまでの演習で自らが選択した判例及び輪読した論文を文章にまとめなおし、4年次のゼミナール論文の準備を始める。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワーク等を通して労働法や労働問題に関して深く学修するとともに、各自の感心に沿った研究テーマを発見できるようにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働法の基礎理論について学修するとともに、課題テーマについて研究する手法を身につける。またグループワークによって、他者との協働の意義と重要性を理解する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可能。

【授業方法】
各回、テーマを設定し担当グループが報告する。これに基づき全体でディスカッションを行い、教員が解説・講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマについて予め学習し、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修から得られた知識に基づき、労働法に関わる問題や課題について総合的に理解し、説明することができる。				3	3						
②	労働法の課題や問題を示し、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する解決策を提示することができる。						3	3	3			
③	他者とのコミュニケーションや協働作業を通じて信頼関係を築き、自己分析による評価を今後に活かすことができる。									4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	主に労働裁判を取り上げ、それについてのディスカッションを行う。その中で、到達目標①②③に関連する課題について論理的考察、意見の明確性・論理性、ゼミに向けての準備がされているか等を評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	テーマについて自らの意見や疑問を積極的に示すことができているかを評価する。			20								20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	成績評価はゼミナール論文の提出を前提とする。	20	20	10								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各報告に対して講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。テーマ毎に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日3時限研究室にて（メールでアポイントメントをとること）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		ゼミナール報告に向けてレジュメ作成の方法と準備事項、テーマの設定と各報告スケジュールの決定をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各自の報告テーマの方向性と担当者を決める。		
	事前学修	労働法や労働問題に関するニュースをチェックする。		120分
	事後学修	割り当てられた各自のテーマについて必要な資料を確認する。		120分
2	労働判例の調査方法の指導		ゼミナール報告において必要な労働判例の調べ方と必要な資料の入手方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、図書館で資料を迅速に入手できるようにする。		
	事前学修	図書館のHPからデータベースを利用できるようにしておく。		120分
	事後学修	グループ報告にニュース情報等の資料を収集整理する。		120分
3	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
4	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
5	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
6	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
8	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
9	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
10	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
11	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
12	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
14	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
15	グループ報告（労働判例・労働問題）		割り当てられたテーマ・労働判例について、グループで調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループは、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
16	労働判例の基礎知識		ゼミナール報告に向けてレジュメ作成の方法と準備事項の再確認、テーマの設定と各報告スケジュールの決定をする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前期のゼミで学んだ知識を基に自ら関心のあるテーマを設定できるようにする。	
	事前学修	夏休み中に自らの関心のある労働問題について資料収集をしておく。	120分
	事後学修	選択したテーマについて報告の構成を考える。	120分
17	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
18	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
20	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
21	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
22	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
23	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分
24	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。	
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
26	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
27	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
28	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
29	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分
30	グループもしくは個人報告（労働判例・労働問題）		自ら考えたテーマ・労働判例について、グループもしくは個人で調査研究し報告をする。それを基にして全体で討論をし、テーマ・労働判例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、テーマ・労働判例についての基礎的な理論と傾向を理解し、視野を広げた課題を見つけることができるようにする。		
	事前学修	報告グループ（担当者）は、プレゼミ等を通して議論を練り上げレジュメ・資料を準備する。他のゼミ生は指示された資料を読み込んでおく。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等を基に、自らの関心テーマとの関連性を整理する。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小澤 久仁男	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会行政は、租税・環境保全・消費者保護といった市民生活や社会生活を営む上で、非常に重大な役割を担っています。このような行政活動に関わる法体系、つまり行政法は「犬も歩けば行政法にあたる」などの法格言が謳われている通り、われわれにとって非常に身近な存在であり、その知識や理解は欠かすことのできないものです。他方で、行政法は、各種資格試験などの主要科目とされています。そのため、本演習の目的の一つは、将来、各種試験の受験を考えている学生の要望に応えることです。しかし、単に受験対策講座に終わるだけでなく、日常生活のさまざまな問題を受講者自身との関わりで考えられるようになってもらいたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次の演習の進め方としては、担当者による報告とそれを踏まえた議論という形式をとっていくことにするが、判例や文献の読み方、関連文献の検索方法、レジュメの作成、論理的な報告・議論といういわば当たり前のことが身につくようにすることも、本ゼミナールでは目指していきます

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
毎回担当者および担当内容を割り当てて発表を行います。発表された内容をもとに教員が解説を行います

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政法に関する基礎的概念を理解していること				3	3	3					
②	行政法に関する基礎的判例を理解していること				3	3	3					
③	現実の行政において、行政および裁判所の判断に関して批判的に見ることができ、そして、解決策を提示することができること						3	3	3			
④	レジュメの形式や報告の仕方などがある程度できるようになっていること								3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④に関して、報告レジュメおよび事前提出 の課題などを評価していくことになります。	10	10	10	15							45
授業への参画度	到達目標①②に関して、報告に関しての質疑応答を評価し ていくことになります。	5	5	5								15
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①②③④に関して、ゼミナール論文が提出された ことを前提に、その内容はもちろんのこと、形式などにつ いて評価していくことになります。	10	10	10	10							40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習のため、個別的に対応することにいたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法の基本（第7版）	北村和生ほか	法律文化社	2019	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか	有斐閣	2017	参考書	推奨
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか	斐閣	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
希望者はメールなどでお問い合わせをしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期オリエンテーション・導入講義	レジュメの作成の方法や学生の初回の顔合わせなどの他、本年度の授業の概要について確認していきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法全体を踏まえると共に、到達目標④に関連してレジュメの作成などについて、ある程度理解できるようになる。	
	事前学修	行政法の教科書などをザッと確認するようにしてください。	120分
	事後学修	行政法の教科書のうち、前期で勉強する行政作用の部分を確認するようにしてください。	120分
2	行政法とは	行政とは何か、そしてまた行政法を構成している法としてはどのようなものがあるのかについて学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政法とはどのような学問かを示すことができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
3	行政法の基本原理①	法律による行政の原理およびこの原理から登場する原則について学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法律による行政の原理について説明をすることが出来るようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
4	行政法の基本原理②	法律による行政の原理の例外として特別権力関係、および、行政法の他の基本原理として法の一般原則などについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特別権力関係や、行政上の法の一般原則について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
5	行政基準①	行政が立法を行う場面のうち、市民の権利義務に関する基準を定立する法規命令について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法規命令の意義および法規命令に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
6	行政基準②	行政が立法を行う場面のうち、行政の内部基準を定立する行政規則について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政規則の意義および行政規則に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	行政行為①		行政行為と呼ばれる活動の定義・効力・種類などについて学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政行為の定義・効力・種類について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
8	行政行為②		行政行為の附款、取消しすべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、取消と撤回の違いなどについて学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政行為の附款、取消と無効、取消と撤回などについて説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
9	行政裁量		行政裁量と呼ばれるものについて、種類およびわが国における展開について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政裁量の意義および行政裁量に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
10	行政計画		行政計画とは何か、そしてまた、この行政計画が問題となった場合にはどのように争っていくのかといったことについて学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政計画の意義および行政計画に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
11	行政契約		行政契約とは何か、そしてどのような行政契約があるのかについて学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政契約の意義および行政契約に関連する判例について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
12	行政指導		行政指導の概念およびその種類について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政指導および行政手続法に影響を与えた行政手続法に関する判例について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	義務履行確保制度	行政上の実効性確保を概観すると共に、行政代執行法で規定されている代執行を中心に学ぶこととなります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政上の義務履行確保制度について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
14	行政手続	行政手続法に基づいて、行政手続法の重要な点について学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政手続法の重要な点について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
15	情報公開・個人情報保護	情報公開法および個人情報保護法に基づいて、これらの重要な点について学んでいくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報公開法および個人情報保護法の重要な点について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
16	後期オリエンテーション・導入講義	前期オリエンテーションを踏まえて、後期のテーマについて確認していきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、後期に勉強をすることになる行政救済法の概要を知ることができる。また、到達目標④に関連して、レジュメの作成や報告の仕方などについて再確認することができる。	
	事前学修	行政法の教科書などのうち、行政救済法の部分についてザッと確認するようにしてください。	120分
	事後学修	関心を持った内容などについて、纏めておいてください。	120分
17	国家賠償法の沿革と概要	国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定を簡単に概観したいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国家賠償法の沿革や国家賠償の規定の概要について簡単に説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
18	公権力の行使と国家賠償責任①	国家賠償法1条の規定について、その要件および関連する判例について学んでいきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、国家賠償法1条の要件およびこれに関連する判例について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	公権力の行使と国家賠償責任②	国家賠償法1条に照らして、いわゆる権限の不行使の概念および関連する判例について学んでいきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権限の不行使の概念およびこれに関連して裁判所で出された基準について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
20	営造物の設置・管理と国家賠償責任①	国家賠償法2条で規定している公の営造物の瑕疵および道路の瑕疵について学んでいきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公の営造物の瑕疵に関する規定について説明をすることができるようになると共に、特に道路の瑕疵について知識を持つことができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
21	営造物の設置・管理と国家賠償責任②	国家賠償法2条に関連して、河川の瑕疵について学んでいきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、河川の瑕疵に関する判例の動向を説明することができるようになると共に、道路の瑕疵との違いについて理解できるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
22	損失補償	損失補償の根拠およびその要件について学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、損失補償の根拠およびその要件について説明することができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
23	行政訴訟の概観と法律上の争訟	行政争訟や行政訴訟の概念や歴史について学ぶと共に、裁判所がどのような訴訟を取り上げるのかについて学ぶことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政訴訟の概要および法律上の争訟について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
24	取消訴訟の訴訟要件①	取消訴訟の要件のうち、処分性について扱っていくことになります。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、処分性の概念および判例の動向について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	取消訴訟の訴訟要件②		取消訴訟の要件のうち、原告適格について扱っていくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、原告適格の概念および判例の動向について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
26	取消訴訟の訴訟要件③		取消訴訟の要件のうち、狭義の訴えの利益およびその他の訴訟要件について扱っていくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、訴訟要件を全て示すことができると共に、狭義の訴えの利益の概念および判例の動向について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
27	その他抗告訴訟		その他の抗告訴訟の種類として、無効等確認の訴え、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取消訴訟以外の抗告訴訟が持つ役割について、そこでの要件と共に説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
28	その他行政訴訟		行政訴訟の類型として、抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟（民衆訴訟、機関訴訟）について学ぶことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、抗告訴訟以外の行政訴訟が持つ役割について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
29	行政不服審査		行政不服審査法に基づいて、行政不服審査法の重要な点について学んでいくことになります。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政不服審査法の重要な点について説明をすることができるようになる。	
	事前学修	該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。	120分
	事後学修	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。	120分
30	総括		1年間で学んだ行政法について、総括を行いたいと思います。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政法の知識を再確認することができる。また、到達目標④に関連して、レジュメの作成や報告の仕方などについて再確認することができる	
	事前学修	再度、行政法の教科書の全体を確認するようにし、分からなかったところを纏めるようにしてください。	120分
	事後学修	授業で学んだ内容をベースに、ゼミナール論文に際して、どのような内容について執筆を行いたいのか検討をするようにしてください。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小田 司	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民事訴訟法に関する重要項目について研究報告及び討議を行い、その成果として、民事訴訟法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法に関する重要項目について調査、報告、討議を行うことにより、民事訴訟法についての高度な知識を身につけ、論文を作成するための能力を修得する。

【履修条件】
民事訴訟法に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
各自が選択するテーマについて報告を行い、その内容について全員で討議する。また、学修効果を高めるために、民事訴訟法に関する他大学との討論会に参加する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全員での討議において積極的な発言を求めるほか、選択したテーマについてゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法の概念を理解し、これを用いて議論することができる。				3	3	3	3				
②	民事訴訟法の重要な論点を深く理解し、自己の意見に基づいて議論することができる。						3	3	3	3		
③	教員や他の履修者の意見を受け入れ、自己の学修状況を分析した上で、論文の執筆を進めることができる。								3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自選択したテーマについて行われる報告とそれに対する 討議において有益な意見を述べることをできたかを評価す る。	20	20									40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	提出されたゼミナール論文について、論理的かつ批判的な 論証が行われているかを評価する。			60								60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の報告に対して講評するほか、ゼミナール論文について執筆段階ごとに講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない。					
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	今後のスケジュールを確認するとともに、演習を行う上での注意事項等について確認する。	
	この回の到達目標	論文執筆に着手するための前提となる事項について説明できる。	
	事前学修	論文執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	演習（1）	テーマ「ADR」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	演習（2）	テーマ「主権免除」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	演習（3）	テーマ「法人の内部紛争」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	演習（4）	テーマ「裁判管轄」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	演習（5）	テーマ「当事者の確定」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	演習（6）	テーマ「法人格のない団体の当事者能力」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	演習（7）	テーマ「訴訟能力」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	演習（8）	テーマ「訴えの類型」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	演習（9）	テーマ「形式的形成訴訟」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	演習（10）	テーマ「訴訟物」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	演習（11）	テーマ「二重起訴の禁止」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	演習（12）	テーマ「訴えの利益」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	演習（13）	テーマ「第三者の訴訟担当」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	演習（14）	テーマ「弁論主義」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り	前期の学修事項を振り返るとともに、テーマについて報告する上での注意事項等を確認する。	
	この回の到達目標	テーマについて報告を行うための前提となる事項を説明できる。	
	事前学修	前期を振り返る。また、報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	演習（15）	テーマ「口頭弁論における審理原則」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	演習（16）	テーマ「当事者の訴訟行為」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	演習（17）	テーマ「自由心証主義」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	演習（18）	テーマ「証明責任」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	演習（19）	テーマ「文書提出命令」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	演習（20）	テーマ「訴訟上の和解」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	演習（21）	テーマ「既判力の作用」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	演習（22）	テーマ「既判力の時的限界」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	演習（23）	テーマ「既判力の客観的範囲」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	演習（24）	テーマ「既判力の主観的範囲」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	演習（25）	テーマ「訴えの変更」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	演習（26）	テーマ「共同訴訟」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	演習（27）	テーマ「訴訟参加」について演習を行う。	
	この回の到達目標	テーマについて深く理解し、出席者全員で活発に議論することができる。	
	事前学修	テーマについて検討し、レジュメを用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	論文テーマの選択	論文テーマの選択について、選定上の注意事項等を説明する。	
	この回の到達目標	論文のテーマを選択するための前提となる事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小田 勇樹	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：ゼミナール論文執筆の前段階として、学術的な調査・研究の基礎技能を習得するため、個人・グループ単位での調査・研究を実践する。具体的には、先行研究の調査技能、批判的考察の技能の習得のため、学術論文やそれに準ずる資料の調査収集、分析・考察に取り組む。また、グループでの活動、討論を通じて、他者との協働活動や根拠に基づいた批判・討論の訓練を行う。
4年次：各自のゼミナール論文のテーマについて、それぞれ研究調査を進め、進捗状況の報告を行う。報告者の内容に対して、他の履修者は批判を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：学術調査・研究の基礎技能である、資料収集の手法、資料に対する批判的検討の能力、自らの研究課題を適切に選定・設定する能力の習得を目標とする。また、グループでの活動や討論を通じて、他者に対する理解、情報共有と業務分担などの組織活動の基本的能力、根拠に基づいた批判・討論を行う能力の向上を目的とする。

【履修条件】
事前に履修を許可された学生のみ履修可能。

【授業方法】
前期は担当者からの講義も部分的に交えての授業となるが、履修者自身による調査・分析・報告の実践が中心となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修者自身による主体的な資料収集・調査、その内容に関する解釈の説明・報告、グループ単位での調査・報告・討論等を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学術研究における先行研究の概念を理解し、適切な資料・文献を見つけた上で、論文として適切な形で引用・要約し、他者に対し説明・報告することができるようになる。					3	3						
②	資料・論文等に対して、学術的な観点から論理的・批判的に議論を展開することができるようになる。							3					
③	既存の研究や論説、公共的問題に対して、新しい観点から独自のリサーチクエストを設定できるようになる。								3	3			
④	自らが設定したリサーチクエストに対して、論理的に実証する方法を説明することができるようになる。								3	3			
⑤	グループ活動や研究に関する討論を通じて、他者との協働・討論、他者に対する論理的な批判を円滑かつ積極的に行うことができるようになる。										3	3	3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業内でのグループ活動、討論、発表等の内容を通じて、 到達目標①②③④⑤の達成水準を判断し評価する。	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	授業への参加度、事前・事後学修の状況から、到達目標① ②③④⑤の達成水準を判断し評価する。	3	3	3	3	3						15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	提出されたゼミナール論文、レポート・報告資料等の課題 に対して、到達目標①②③④の基準から技能・能力が身に 付いているかを判断し評価する。	15	15	15	15							60
その他()												
到達目標別の比率(%)		23	23	23	23	8						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内、講義後、翌週に個別にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル	ケイト・L・トゥラビ アン	慶應義塾大学出版会	2012	参考書	任意
備考	教材としていくつかの雑誌論文、学術書等を使用するが、授業内で説明・配布する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミナールの概要及び導入講義	ゼミナールの進め方に関する概要説明を行う。また、学術研究とは何か、ゼミナール論文として最終的にどのようなものを目標とするのか解説する。	
	この回の到達目標	ゼミナール活動、学術研究とはどのようなものか理解する。	
	事前学修	シラバスに目を通し、ゼミナール活動の概要について事前に学んでおく。	60分
	事後学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	180分
2	グループワーク	グループに分かれて自分たちの研究テーマを考える。	
	この回の到達目標	グループの研究テーマを決定する。	
	事前学修	どのようなテーマを研究したいか考えておく。	120分
	事後学修	研究テーマに関する資料を収集する。	120分
3	リサーチクエスト	自分たちの研究テーマのリサーチクエストを考える。	
	この回の到達目標	リサーチクエストとは何か理解する。	
	事前学修	自分たちの研究テーマにおいて解決しなければならない課題や謎について考えておく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて自分たちのリサーチクエストに関連する資料を探す。	120分
4	資料調査の方法	インターネット、図書館を利用した論文検索、資料調査の方法について講義する。	
	この回の到達目標	インターネット、図書館を利用して信頼性の高い資料を自分で見極めて収集できるようになる。	
	事前学修	自分たちの研究テーマについて調べたいことを考えておく。	120分
	事後学修	実際に自分たちだけで資料を探してみる。	120分
5	資料批判	事前に与えられた資料を題材に、その資料の主張の是非について批判的に討論する。	
	この回の到達目標	資料の内容について、論理的に批評することができるようになる。	
	事前学修	与えられた資料読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて自分たちの研究テーマを再度検討する。	120分
6	グループワーク	グループの研究テーマについて、これまでに調べた内容を持ち寄り議論する。	
	この回の到達目標	グループワークの研究テーマについて作業を進展させる。	
	事前学修	グループワークの研究テーマについてあらかじめ調査しておく。	120分
	事後学修	グループワークの結果を踏まえて次回までに調査を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワーク	研究テーマに関する中間報告の準備を行う。	
	この回の到達目標	研究報告の準備を進める。	
	事前学修	研究報告の準備に必要な資料を整えておく。	120分
	事後学修	研究報告の準備を行う。	120分
8	中間報告	各グループで研究報告を行う。	
	この回の到達目標	他のグループの研究報告に対して、論理的な批評を行う。	
	事前学修	研究報告の準備を行う。	120分
	事後学修	研究報告の結果を踏まえてグループで再度議論する。	120分
9	仮説	仮説とは何かについて説明を聞いた上で、自分たちの研究のリサーチエスションと仮説を考えてみる。	
	この回の到達目標	仮説とは何かを理解できるようになる。	
	事前学修	自分たちの研究テーマのリサーチエスションについてもう一度考え直しておく。	120分
	事後学修	自分たちの研究テーマの仮説について改めて考えてみる。	120分
10	グループワーク	中間報告の結果を踏まえて今後の研究の進め方について議論する。	
	この回の到達目標	グループでの研究の今後の調査内容、進め方について決める。	
	事前学修	グループでの研究をどのように進めるか考えておく。	120分
	事後学修	グループで決めた分担に従い、今後の調査研究を進める。	120分
11	グループディスカッション	公共政策に関するテーマについてグループでディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	他人の意見を論理的に批判することに慣れる。	
	事前学修	テーマに関する資料に目を通しておく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分
12	文献輪読	事前に与えられた課題文献を題材に、その文献の仮説・実証の是非について批判的に討論する。	
	この回の到達目標	先行研究の仮説・実証内容について、論理的に批評することができるようになる。	
	事前学修	与えられた課題文献を収集し読んでおく。	120分
	事後学修	授業の内容を踏まえて課題文献を再度読み直す。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループワーク	研究テーマに関する報告の準備を行う。	
	この回の到達目標	研究報告の準備を進める。	
	事前学修	研究報告の準備に必要な資料を整えておく。	120分
	事後学修	研究報告の準備を行う。	120分
14	グループ研究報告	各グループの研究報告を行う。	
	この回の到達目標	他人の研究報告に対して論理的な批評を行えるようになる。	
	事前学修	研究報告の資料に事前に目を通しておく。	120分
	事後学修	4年生の研究報告を参考に、自分たちのグループの研究テーマを改めて振り返る。	120分
15	グループディスカッション	公共政策に関するテーマについてグループでディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	他人の意見を論理的に批判できるようになる。	
	事前学修	ディスカッションのテーマに関する資料を事前に調べて読んでおく。	120分
	事後学修	講義後にディスカッションのテーマについてもう一度考えてみる。	120分
16	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
17	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
18	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
20	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
21	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
22	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
23	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
24	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
26	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
27	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
28	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
29	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
30	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
会社法の基礎を理解し、4年次に作成するゼミナール論文の作成に向け、会社法、保険法を中心とする商法分野の基礎知識を学習するとともに、判例研究を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
会社法を中心とする商法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心にそった研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
3年次生を対象とする。

【授業方法】
ゼミナール方式で行う。 必要に応じて関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会社法における各制度、その趣旨、関連する問題点と法の適用等を理解し、説明できる。				3	3						3
②	会社法の主要な論点に関する裁判例および学説を説明できる。				3	3	3					3
③	商法の主要な論点に関して考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3	3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを、研究報告、および討論において自分の意見を述べる ことができたかを基準に評価する。	20	20									40
授業への参画度	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを、授業、グループワーク等における質疑応答等によ って評価する。	15	15									30
その他(ゼミナール 論文)	到達目標③についての知識・技能・態度が身についている かを、ゼミナール論文により評価する。			30								30
その他()	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成 績評価は4年次に行う。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、講義中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法〈第23版〉	神田 秀樹	弘文堂	2021年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:20～13:00研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（9号館3階 9308号室）メールアドレス： onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ガイダンスを実施し、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ガイダンスをとおして、本ゼミナールの運営方法、内容、全体目標、各回の個別目標とそれらの関係等を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認すると共に、教科書の目次等を読み、会社法全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
2	会社の種類	会社法上の会社について、その他の会社について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
3	株式会社の性質	会社の法人格、法人格否認の法理について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
4	株式の意義	株式の意義、株主平等原則、株式の内容について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
5	株式の譲渡	株式譲渡自由の原則、その例外について、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
6	株主名簿制度	株主名簿の意義、名義書換えの効果等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	株主総会		株主総会における議決権、招集手続、決議、決議の瑕疵等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。		120分
8	取締役会、代表取締役		取締役、取締役会、代表取締役の意義、役割等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。		120分
9	取締役の意義		取締役の義務として、一般的な義務、特別な義務について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。		120分
10	取締役の責任		取締役の責任として、会社に対する責任、第三者に対する責任について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。		120分
11	監査役、監査役会		監査役、監査役会の意義、決議、義務と責任等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。		120分
12	指名委員会等設置会社		指名委員会等設置会社の特徴について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。		
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。		120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	監査等委員会設置会社	監査等委員会設置会社の立法趣旨等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
14	資金調達	資金調達としての新株発行、社債発行等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
15	組織再編	合併、会社分割、株式交換・株式移転等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、会社法における当該制度趣旨、関連する問題点と法の適用等を説明することができる。	
	事前学修	テーマに関するテキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。	120分
	事後学修	参考資料を確認し、卒業論文との関係を検討するとともに、わからない点等について調べる。	120分
16	会社の性質に関する判例研究	会社の性質に関する主要論点に関する判例について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
17	株式に関する判例研究	株式に関する主要論点に関する判例について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
18	株式の譲渡に関する判例研究	株式の譲渡に関する主要論点に関する判例について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	株主名簿に関する判例研究		株主名簿に関する主要論点に関する判例について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
20	株主総会に関する判例研究		株主総会に関する主要論点に関する判例について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
21	取締役会、代表取締役に関する判例研究		取締役会、代表取締役に関する主要論点に関する判例について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
22	取締役の義務に関する判例研究		取締役の義務に関する主要論点に関する判例について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
23	取締役の責任に関する判例研究		取締役の責任に関する主要論点に関する判例について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
24	株主代表訴訟制度に関する判例研究		株主代表訴訟に関する主要論点に関する判例について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	監査役等に関する判例研究	監査役に関する主要論点に関する判例について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
26	会社の設立に関する判例研究	会社の設立に関する主要論点に関する判例について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
27	資金調達に関する判例研究	資金調達に関する主要論点に関する判例について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
28	組織変更、合併に関する判例研究	組織変更、合併（新設合併、吸収合併）に関する主要論点に関する判例について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
29	会社分割、株式交換・株式移転に関する判例研究	会社分割、株式交換・株式移転に関する主要論点に関する判例について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	担当者は報告の準備、その他の受講者は当該判例・裁判例に目を通し、検討する。	120分
	事後学修	判例研究での議論を整理し、わからない点を調べる。卒業論文のテーマとの関連を考える。	120分
30	判例研究のまとめ	会社法における主要論点を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主要な論点に関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	判例研究の成果をゼミナール論文としてまとめる。	120分
	事後学修	卒業論文に向け、資料の収集、整理をする。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
地方自治の現場で生起している様々な問題を取り上げて考察することで、地方自治の制度や機能に関する基本的な事項を学修すると共に、主権者として地方自治に関わっていくための問題意識を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。さらに3年次を通した学びの中から、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを見つけられることを目標とする。

【履修条件】
原則として、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を既に履修済みか現在履修していること。

【授業方法】
授業で使用する地方自治に関する論文を受講生が主体的に選び取り、報告とディスカッションを中心に据えた演習形式により行う。授業の段取り、報告、ディスカッションの手順などについては、第1回目の授業において担当教員が説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員、受講者全員によるディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治の仕組みや全体像を理解することができる。				3	3			3	3	3	3
②	地方自治で生起する諸問題について、論理的かつ批判的に考察することができる。				3		4		3	3	4	
③	地方自治で生起する諸問題について注意深く観察し、自分の意見を述べるができる。				3			3	3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、それらが身についているかを日ごろの授業への関わり（報告、ディスカッション）の中で評価する。ゼミナールは3年時と4年時の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。	20	20	30								70
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年時と4年時の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。また4年時末には、ゼミナールの総仕上げとして「ゼミナール論文」を提出しなければならない。	10	10	10								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	演習で使う文献、論文については、授業1回目に受講生全員と相談しながら決定する。				

【オフィスアワー】
月曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス：授業内容の説明 導入講義	これからの授業概要、演習計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。		
	この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた演習の内容であること、また演習計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を理解できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、授業時に紹介した参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。		120分
	事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。		120分
2	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分
3	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分
4	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分
5	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分
6	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
8	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
9	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
10	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
11	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
12	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
14	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
15	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
16	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
17	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
18	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
20	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
21	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
22	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
23	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
24	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
26	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られた講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
27	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
28	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
29	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
30	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	授地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	加藤 暁子	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：知的財産法に関する基礎知識及び現代の諸問題について，グループ活動を含めて学習するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し，ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：知的財産法に関する基礎知識及び現代の諸問題について学習し，各自の興味・関心に沿った研究テーマを追求できるようになる。知的財産管理技能検定3級の取得を目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し，知的財産法に関する現代の諸問題への理解を深め，制度のあり方について自分自身の見解を論理的に提示できるようになる。また，より一般的に，自身の問題関心を、学問的意義で裏付け、他者の力も借りつつ検討し、解決策を見いだす手法を会得する。 関連DP及びCP：法律・経営法学科1，7，8 政治経済・新聞・公共政策学科1～8

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：基本的なテキスト及び時事問題について履修者が担当の発表を行い，その内容についてグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。適宜，外部施設見学を行う。また，履修者の希望に応じて，集団で統一テーマについて対外インタビュー等も実施しながら研究し，対外的に発表を行う。知的財産管理技能検定3級の取得に向けてサブゼミ等を実施する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて文献やインタビュー等を通じて得られた知見を随時発表し，ディスカッション及び教員による解説を行う。ゼミナール論文を作成する段階では，サブゼミ等においてゼミ生や教員との間で議論しながら進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に少人数の討論やグループワークの形式で、学生及び教員の間で双方向のコミュニケーションをとりながら進める。見学、訪問も、問題関心に応じた見学、訪問先の選定や連絡調整、訪問、事後対応を含めて、ゼミ生主導で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産に関わる制度がどのような目的を有しているか、私益と公益のババランスの重要性を含めて、具体的に説明する。						4	3	3	3	3	3	3	
②	知的財産法制度の概要について、具体例を交えながらわかりやすく説明する。						3	4	3	3	3	3	3	
③	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を挙げる。						3	4	4	4	3	3	3	
④	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、個人又はゼミ生の協調を通じて探求する。						3	3	3	3	4	4	4	3
⑤	知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、より現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、より一般的な法制度上の課題として位置づけて説明する。						3	4	4	4	4	3	3	4
⑥	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例について、個別的に、及び、一般的な法制度上の課題として、解決策を検討する。						3	4	4	4	4	3	3	4
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミ内外における議論及び対外発表への関与において評価する。	5	5	5	5	5	5					30
授業への参画度	ゼミ内外における議論及び対外発表への関与において評価する。	5	5	5	5	5	5					30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。 ゼミナール論文は、テーマ設定から調査研究過程、完成した論文の水準等を総合的に評価する。	5	5	5	5	10	10					40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ活動を通じて随時行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	3年次に用いる基本的なテキストは、履修者の希望も聞きつつ教員との協議の上で定める。4年次のゼミナール論文の参照物は教員からも適宜紹介する。					
【オフィスアワー】						
水曜15時～16時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp						
【実務経験を活かした実践的教育について】						
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	知的財産に関するシンクタンク勤務時における国内外の調査研究を含む制度改正準備作業			
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。				

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	ゼミ活動の目的と大まかな流れを確認し、ゼミ生と教員の間で今後の活動計画を立てる。	
	この回の到達目標	ゼミ活動の目的と大まかな流れを確認し、ゼミ生と教員の間で今後の活動計画を立てることができる。	
	事前学修	ゼミ活動について、情報を収集して、イメージをふくらませておく。	120分
	事後学修	立案した計画に基づき、準備を進める。	120分
2	知的財産法制度の基礎学習①	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
3	知的財産法制度の基礎学習②	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
4	知的財産法制度の基礎学習③	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
5	外部施設見学（可能であれば知的財産法制度の基礎学習の続き）	特許庁を見学し、知的財産の法制度の概要と特許庁など省庁の役割について理解を深める。	
	この回の到達目標	知的財産の法制度の概要と特許庁など省庁の役割について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	特許庁について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	見学を通じて得られた理解についてさらに調べを進める。	120分
6	知的財産法制度の基礎学習④	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	知的財産法制度の基礎学習⑤		基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。		
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。		120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。		120分
8	知的財産法制度の基礎学習⑥		基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。		
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。		120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。		120分
9	知的財産法制度の基礎学習⑥		基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。		
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。		120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。		120分
10	外部施設見学②（可能でなければ知的財産法制度の基礎学習 続き）		ゼミ生で選定した外部施設を見学し、知的財産法制度及びそれに関わる当事者について理解を深める。	
	この回の到達目標	知的財産の法制度の概要と見学した施設の役割について理解し、説明できるようになる。		
	事前学修	見学対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。		120分
	事後学修	見学を通じて得られた理解についてさらに調べを進める。		210分
11	知的財産法制度の基礎学習⑦		基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。		
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。		120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。		120分
12	知的財産法制度の基礎学習⑧		基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。		
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。		120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	知的財産法制度の基礎学習⑨	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
14	知的財産法制度の基礎学習⑩	基本テキスト及び時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
15	前学期の学習のまとめと今後の活動の立案	知的財産制度の基礎学習について理解をまとめ、夏休み以降のゼミ活動を検討する。	
	この回の到達目標	知的財産制度の基礎学習について理解をまとめ、夏休み以降のゼミ活動について見通しを持つ。	
	事前学修	前学期の基礎学習における疑問点を洗い出し、ゼミ活動に関する意見をまとめておく。	120分
	事後学修	疑問点が解消したかを確認し、今後のゼミ活動について必要な準備を進める。	120分
16	後学期の学習の準備 導入講義	後学期のゼミ活動についてイメージを出し合い、計画を立案する。	
	この回の到達目標	後学期のゼミ活動について皆のイメージを実現し得るような計画を立案する。	
	事前学修	後学期のゼミ活動についてイメージとその裏付けを膨らませておく。	120分
	事後学修	後学期のゼミ活動の計画に基づいて準備を始める。	120分
17	グループ学習①	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
18	グループ学習②	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	グループ学習③	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
20	グループ学習の中間報告	各グループから調査研究の進捗について発表し、検討する。	
	この回の到達目標	各グループの調査研究の発表について理解し、課題を共有する。	
	事前学修	グループの中間報告をまとめ、課題を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
21	グループ学習⑥	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
22	グループ学習⑦	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
23	グループ学習⑧	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
24	次期ゼミ生の選抜①	次期ゼミ生の選抜について、入ゼミ試験の実施要領等を検討する。	
	この回の到達目標	入ゼミ試験の実施要領等を決定する。	
	事前学修	適当と考える次期ゼミ生とその選抜方法についてイメージを持つ。	120分
	事後学修	入ゼミ試験を準備する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	次期ゼミ生の選抜②	次期ゼミ生の選抜について、入ゼミ試験の結果を踏まえて結論を出す。	
	この回の到達目標	適切な次期ゼミ生を選抜する。	
	事前学修	ゼミ生候補について資料等をもとに検討する。	120分
	事後学修	入ゼミ生の迎え入れを準備する。	120分
26	グループ学習⑨	計画に基づき、各グループでテーマごとに調査研究をまとめる。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について挙げた疑問点や論点について自分なりの答えを用意する。	120分
	事後学修	調査研究の結果を発表にまとめる。	120分
27	グループ学習の最終発表	各グループから最終発表を行い、検討する。	
	この回の到達目標	各グループの最終発表を理解し、課題を共有する。	
	事前学修	各グループの最終発表を準備し、課題を挙げておく。	120分
	事後学修	各グループの最終発表における課題について、自分なりに調べを進める。自身の卒論テーマについて検討を始める。	120分
28	卒論作成準備①	卒論作成の準備について教員から説明を受け、自身のテーマ設定の具体的な検討に着手する。	
	この回の到達目標	卒論作成の準備について見通しを得る。自身のテーマ設定の検討に着手する。	
	事前学修	過去のゼミナール論文のテーマや構成を把握しておく。	120分
	事後学修	卒論作成の準備と自身の学生生活上のタイムスケジュールに見通しを持ち、自身のテーマ設定の検討に着手する。	120分
29	卒論作成準備②	各自の卒論テーマに関する問題意識と検討手法をゼミ内で共有し検討する。	
	この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する問題意識と検討手法をゼミ内で共有し検討する。	
	事前学修	各自で卒論テーマに関する問題意識と検討手法について構想し、メモを作成する。	120分
	事後学修	ゼミにおける検討結果を踏まえて、準備を進める。	120分
30	卒論作成準備③ 後学期の活動の総括	各自の卒論テーマに関する問題意識と検討手法をゼミ内で共有し検討する。 これまでのゼミ活動を総括し、今後の活動について見通しを検討する。	
	この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する問題意識と検討手法について理解し、今後の準備の見通しを得る。 これまでのゼミ活動を総括し、今後の活動について見通しを得る。	
	事前学修	各自で卒論テーマに関する問題意識と検討手法について構想し、メモを作成する。 ゼミ活動の全体的な課題について整理しておく。	120分
	事後学修	ゼミにおける検討結果を踏まえて、準備を進める。 春休み以降のゼミ活動について、準備を進める。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
知的財産法における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
知的財産法における現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の基本構成を作成できるようになることを目的とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
順番にしたがって、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基本的な法律の解釈について説明することができる。						3	3						
②	基本的な法律に関する判例について説明することができる。								3	3	3			
③	基本的な法律に関する事例について説明することができる。										3	3	3	
④	基本的な法律に関する諸問題について説明することができる。											3	3	3
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の担当箇所についての的確な発表を行ったか。発表された内容をもとに積極的にグループディスカッションを行ったか。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業に積極的に参画し、的確な発言を行ったか。	10	10	10	10							40
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標①②③④にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜5限、加藤浩研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	ゼミナールにおける学習内容について説明します。	
	この回の到達目標	ゼミナールにおける学習内容を理解すること。	
	事前学修	ゼミナールにおける学習内容について考えてきてください。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける学習内容について整理しておいてください。	120分
2	判例研究の基礎Ⅰ	判例研究の基本的な方法について整理します。	
	この回の到達目標	判例研究の基本的な方法を理解すること。	
	事前学修	判例研究の基本的な方法について考えてきてください。	120分
	事後学修	判例研究の基本的な方法について整理しておいてください。	120分
3	判例研究の基礎Ⅱ	判例研究の具体的な方法について整理します。	
	この回の到達目標	判例研究の具体的な方法について整理すること。	
	事前学修	判例研究の具体的な方法について考えてきてください	120分
	事後学修	判例研究の具体的な方法について整理しておいてください。	120分
4	判例研究・発表（特許法）	特許法に関する判例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	特許法に関する判例について論点を整理すること。	
	事前学修	特許法に関する判例について読んできてください。	120分
	事後学修	特許法に関する判例について論点を整理しておいてください。	120分
5	判例研究・発表（意匠法）	意匠法に関する判例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	意匠法に関する判例について論点を整理すること。	
	事前学修	意匠法に関する判例について読んできてください。	120分
	事後学修	意匠法に関する判例について論点を整理しておいてください。	120分
6	判例研究・発表（商標法）	商標法に関する判例についてに論点を整理します。	
	この回の到達目標	商標法に関する判例について論点を整理すること。	
	事前学修	商標法に関する判例について読んできてください。	120分
	事後学修	商標法に関する判例について論点を整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	判例研究・発表（不正競争防止法）	不正競争防止法に関する判例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	不正競争防止法に関する判例について論点を整理すること。	
	事前学修	不正競争防止法に関する判例について読んできてください。	120分
	事後学修	不正競争防止法に関する判例について論点を整理しておいてください。	120分
8	判例研究・発表（著作権法）	著作権法に関する判例について整理します。	
	この回の到達目標	著作権法に関する判例について論点を整理すること。	
	事前学修	著作権法に関する判例について読んできてください。	120分
	事後学修	著作権法に関する判例について論点を整理しておいてください。	120分
9	判例研究・発表（契約法）	契約法に関する判例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	契約法に関する判例について論点を整理すること。	
	事前学修	契約法に関する判例について読んできてください。	120分
	事後学修	契約法に関する判例について論点を整理しておいてください。	120分
10	判例研究・発表（国際法）	国際法に関する判例について論点を整理する。	
	この回の到達目標	国際法に関する判例について論点を整理すること。	
	事前学修	国際法に関する判例について読んできてください。	120分
	事後学修	国際法に関する判例について論点を整理しておいてください。	120分
11	企業研究・発表（企業A）	企業Aについて、企業研究を行い、発表を行います。	
	この回の到達目標	企業Aについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
	事前学修	企業Aについて調べてきてください。	120分
	事後学修	企業Aの企業法務について整理しておいてください。	120分
12	企業研究・発表（企業B）	企業Bについて、企業研究を行い、発表を行います。	
	この回の到達目標	企業Bについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
	事前学修	企業Bについて調べてきてください。	120分
	事後学修	企業Bの企業法務について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	企業研究・発表（企業C）		企業Cについて、企業研究を行い、発表を行います。
	この回の到達目標	企業Cについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
	事前学修	企業Bについて調べてきてください。	120分
	事後学修	企業Cの企業法務について整理しておいてください。	120分
14	企業研究・発表（企業D）		企業Dについて、企業研究を行い、発表を行います。
	この回の到達目標	企業Dについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
	事前学修	企業Dについて調べてきてください。	120分
	事後学修	企業Dの企業法務について整理しておいてください。	120分
15	総括（まとめ）		前期の総括を行います。
	この回の到達目標	これまでの判例研究、企業研究について整理すること。	
	事前学修	これまでの判例研究、企業研究について考えてきて下さい。	120分
	事後学修	これまでの判例研究、企業研究について整理しておいてください。	120分
16	事例研究の基礎Ⅰ		事例研究の基本的な手法について説明します。
	この回の到達目標	事例研究の基本的な手法について理解すること。	
	事前学修	事例研究の基本的な手法について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例研究の基本的な手法について整理しておいてください。	120分
17	事例研究の基礎Ⅱ		事例研究の具体的な手法について説明します。
	この回の到達目標	事例研究の具体的な手法について理解すること。	
	事前学修	事例研究の具体的な手法について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例研究の具体的な手法について整理しておいてください。	120分
18	事例研究、発表（特許法）		特許法に関する事例について論点を整理します。
	この回の到達目標	特許法に関する事例について論点を整理すること。	
	事前学修	特許法に関する事例について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許法に関する事例について論点を整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	事例研究、発表（意匠法）	意匠法に関する事例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	意匠法に関する事例について論点を整理すること。	
	事前学修	意匠法に関する事例について考えてきてください。	120分
	事後学修	意匠法に関する事例について論点を整理しておいてください。	120分
20	事例研究、発表（商標法）	商標法に関する事例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	商標法に関する事例について論点を整理すること。	
	事前学修	商標法に関する事例について考えてきてください。	120分
	事後学修	商標法に関する事例について論点を整理しておいてください。	120分
21	事例研究、発表（不正競争防止法）	不正競争防止法に関する事例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	不正競争防止法に関する事例について論点を整理すること。	
	事前学修	不正競争防止法に関する事例について考えてきてください。	120分
	事後学修	不正競争防止法に関する事例について論点を整理しておいてください。	120分
22	事例研究、発表（著作権法）	著作権法に関する事例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	著作権法に関する事例について論点を整理すること。	
	事前学修	著作権法に関する事例について考えてきてください。	120分
	事後学修	著作権法に関する事例について論点を整理しておいてください。	120分
23	事例研究、発表（契約法）	契約法に関する事例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	契約法に関する事例について論点を整理すること。	
	事前学修	契約法に関する事例について考えてきてください。	120分
	事後学修	契約法に関する事例について論点を整理しておいてください。	120分
24	事例研究、発表（国際法）	国際法に関する事例について論点を整理します。	
	この回の到達目標	国際法に関する事例について論点を整理すること。	
	事前学修	国際法に関する事例について考えてきてください。	120分
	事後学修	国際法に関する事例について論点を整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	小論文の作成（基本的な考え方）	小論文の作成（基本的な考え方）について説明します。	
	この回の到達目標	小論文の作成（基本的な考え方）について理解すること。	
	事前学修	小論文の作成（基本的な考え方）について考えてきてください。	120分
	事後学修	小論文の作成（基本的な考え方）について整理しておいてください。	120分
26	小論文の作成（テーマ選定）	小論文の作成（テーマ選定）を行います。	
	この回の到達目標	小論文の作成（テーマ選定）について理解すること。	
	事前学修	小論文の作成（テーマ選定）について考えてきてください。	120分
	事後学修	小論文の作成（テーマ選定）について整理しておいてください。	120分
27	小論文の作成（事例の調査）	小論文の作成（事例の調査）を行います。	
	この回の到達目標	小論文の作成（事例の調査）について理解すること。	
	事前学修	小論文の作成（事例の調査）について考えてきてください。	120分
	事後学修	小論文の作成（事例の調査）について整理しておいてください。	120分
28	小論文の作成（情報の整理）	小論文の作成（情報の整理）を行います。	
	この回の到達目標	小論文の作成（情報の整理）について理解すること。	
	事前学修	小論文の作成（情報の整理）について考えてきてください。	120分
	事後学修	小論文の作成（情報の整理）について整理しておいてください。	120分
29	小論文の作成（仕上げ）	小論文の作成（仕上げ）を行います。	
	この回の到達目標	小論文の作成（仕上げ）について理解すること。	
	事前学修	小論文の作成（仕上げ）について考えてきてください。	120分
	事後学修	小論文の作成（仕上げ）について整理しておいてください。	120分
30	総括（まとめ）	後期の総括を行います。	
	この回の到達目標	これまでの事例研究、小論文の作成について整理すること。	
	事前学修	これまでの事例研究、小論文の作成について考えてきてください。	120分
	事後学修	これまでの事例研究、小論文の作成について整理しておいてください。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	加藤 雅之	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法に関する事例問題に関する議論を通じて、民法学に対する理解を深める。 4年次：各自で設定する研究テーマについて卒業論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法に関する基本的知識を確認するとともに、既存の判例および学説を批判的に検討することにより、新たな知見を得ることを目的とする。

【履修条件】
2年次までに配当の民法に関する講義を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
ゼミナールは、議論または報告など学生の主体的参加によって行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークが考えられる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する理解を整理し、既存の見解を批判的に検討することができる。				4	4	4	4				
②	説得的な理論的根拠に基づく自説を展開することができる。						4	4	4	4		
③	他者との意見交換を通じて、他者の見解を理解し、自身の考えを相対化することができる。								4	4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標に照らして、ゼミナールにおける討論・発表を総合的に評価する。	15	15	15								45
授業への参画度	到達目標に照らして、報告準備、議論への参加等を総合的に評価する。	10	10	10								30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の内容が到達目標に達しているかを評価する。	5	10	10								25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のゼミナールにおいて、参加者の報告や発言に対して、担当者からコメントを加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日16:20~17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの概要および到達目標について確認する。また、年間の研究計画を参加者全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、現代の民法における問題点について理解し、説明することができる。	
	事前学修	民法に関する基本的知識を整理する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を通じて、いかなる問題を検討すべきかを整理する。	120分
2	事例研究・基礎編（1）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
3	事例研究・基礎編（2）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
4	事例研究・基礎編（3）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
5	事例研究・基礎編（4）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
6	事例研究・基礎編（5）	事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	事例研究・基礎編（6）		事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。		
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
8	事例研究・基礎編（7）		事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。		
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
9	事例研究・基礎編（8）		事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。		
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
10	事例研究・基礎編（9）		事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。		
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
11	事例研究・基礎編（10）		事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。		
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
12	事例研究・基礎編（11）		事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。		
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	事例研究・基礎編（12）		事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
14	事例研究・基礎編（13）		事例問題を題材として、議論を通じて、民法の基本的知識を確認し、対立する見解について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマについて、基本的知識を前提として、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
15	前期の振り返り		前期に検討した事例問題を総合的に振り返り、基礎知識の確認と問題点の発見を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法に関する基本的知識を定着したことを確認し、民法学における問題点について説明することができる。	
	事前学修	これまでに検討した事例問題を確認・整理する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、現代における民法の問題点について整理する。	120分
16	事例研究・応用編（1）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
17	事例研究・応用編（2）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
18	事例研究・応用編（3）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	事例研究・応用編（4）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
20	事例研究・応用編（5）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
21	事例研究・応用編（6）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
22	事例研究・応用編（7）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
23	事例研究・応用編（8）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
24	事例研究・応用編（9）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	事例研究・応用編（10）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
26	事例研究・応用編（11）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
27	事例研究・応用編（12）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
28	事例研究・応用編（13）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
29	事例研究・応用編（14）		事例問題を題材として、既存の学説・判例を批判的に検討して、より説得的な見解を提示する可能性について検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、事例問題で取り上げたテーマに関する既存の見解を批判的に検討し、他者との議論の中で説得的に自説を展開することができる。	
	事前学修	事例問題に関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分
30	総括		一年間のゼミナールにおいて検討した問題を振り返り、議論の整理や反省点を確認し、4年次のゼミナールに向けて理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法学における新たな問題を提示し、それに対する自分なりの解答を論理的に説明することができる。	
	事前学修	これまでに検討した問題を整理し、理解が不十分なものがあれば再検討しておく。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
NPO、ソーシャルビジネス等、現代行政における新たなアクターについての基礎理論を身に付け、実際に調査・分析を行うとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文執筆を開始する。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】		
【前期】グループごとに研究テーマを設定し、既存文献調査の他、NPO・自治体等の実地調査を行い、結果発表を行う。発表された内容をもとにゼミ内でディスカッションを行う。 【後期】論文執筆の基礎的技法についての講義ののち、ゼミナール論文の執筆を開始し（3年次中に5000字執筆）、全体調査計画・調査対象・手法・リサーチクエスチョン・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。 日程調整状況により実務家外部講師による授業も予定する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3	3	3					
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。							3	3					
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3			3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。										3	3	3	4
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10										10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。			10	20							30
授業への参画度	出席、発言状況、各種行事・調査準備への参画状況等を評価する。		20	10								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。				30							30
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各種発表・レポートに対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日 12：10-13：00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省、内閣官房等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政の現場においてNPO等と協力して政策立案に携わってきた経験などを踏まえて適宜講義素材を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、前期における調査研究活動に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	3年次前期のスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	グループ調査研究テーマの議論・グループ分け決定	前期のグループワークで行う調査研究テーマを複数提案しあい、各人の関心に応じたグループ分けを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策課題のうちゼミナールで調査研究するにふさわしい調査研究テーマを探索し、決定できる。	
	事前学修	各人の関心に応じた調査研究テーマをあらかじめ探索し、ゼミナールでの議論に備える。	120分
	事後学修	決定されたグループでの議論を踏まえ、自分の提案したテーマの再探索・深掘りなどを行う。	120分
3	調査研究テーマの発表①	グループ内での議論を踏まえ、前期の調査研究テーマを決定・資料化し発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループ内での議論を踏まえて適切な調査研究テーマを探索・決定し、適切な方法で発表できる。	
	事前学修	グループ内で各人の提案したテーマをすり合わせ、適切なテーマを決定し、発表の準備をする。	120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、テーマの再探索・深掘りなどの検討を行う。	120分
4	調査研究テーマの発表②	グループ内での議論を踏まえ、前期の調査研究テーマを決定・資料化し発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループ内での議論を踏まえて適切な調査研究テーマを探索・決定し、適切な方法で発表できる。	
	事前学修	グループ内で各人の提案したテーマをすり合わせ、適切なテーマを決定し、発表の準備をする。	120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、テーマの再探索・深掘りなどの検討を行う。	120分
5	調査研究手法・調査対象の発表①	前回までに決定したテーマを踏まえ、どのような手法を用いて調査研究を進めるか、フィールドワークの対象をどこにするか発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークの技法に関する基礎知識、調査対象の探索方法などを身に付け、適切な方法で発表できる。	
	事前学修	公共政策の調査研究に当たってどのような調査手法があるのか、フィールドワーク対象に何があるのか調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、調査技法・対象などの再検討を行う。	120分
6	調査研究手法・調査対象の発表②	前回までに決定したテーマを踏まえ、どのような手法を用いて調査研究を進めるか、フィールドワークの対象をどこにするか発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークの技法に関する基礎知識、調査対象の探索方法などを身に付け、適切な方法で発表できる。実地調査で得られたデータ・資料などの素材を資料化して発表する。	
	事前学修	公共政策の調査研究に当たってどのような調査手法があるのか、フィールドワーク対象に何があるのか調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、調査技法・対象などの再検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	フィールドワークの結果発表①		実地調査で得られたデータ・資料などの素材を資料化して発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループで協力して適切な技法によりフィールドワークを実施できる。また、それにより得られた成果をわかりやすく資料化して発表できる。		
	事前学修	実地調査対象に赴いてフィールドワークを実施し、今後の分析のための素材を収集するとともに、それらを発表できるように資料化しておく。		120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、補充調査を実施するほか、今後の分析に備えてデータ等の整理をさらに進める。		120分
8	フィールドワークの結果発表②		実地調査で得られたデータ・資料などの素材を資料化して発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループで協力して適切な技法によりフィールドワークを実施できる。また、それにより得られた成果をわかりやすく資料化して発表できる。		
	事前学修	実地調査対象に赴いてフィールドワークを実施し、今後の分析のための素材を収集するとともに、それらを発表できるように資料化しておく。		120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、補充調査を実施するほか、今後の分析に備えてデータ等の整理をさらに進める。		120分
9	フィールドワークの結果発表③		実地調査で得られたデータ・資料などの素材を資料化して発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループで協力して適切な技法によりフィールドワークを実施できる。また、それにより得られた成果をわかりやすく資料化して発表できる。		
	事前学修	実地調査対象に赴いてフィールドワークを実施し、今後の分析のための素材を収集するとともに、それらを発表できるように資料化しておく。		120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、必要に応じて補充調査を実施するほか、今後の分析に備えてデータ等の整理をさらに進める。		120分
10	中間発表①		フィールドワーク結果・先行研究などの文献調査結果を総合して、第1次的な調査研究成果の発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。		
	事前学修	これまでの諸調査で得られた資料等を整理・分析し、一定の仮説に基づいてグループ内でとりあえずの結論を導出し、発表できるようにしておく。		120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、仮説の変更、ロジックの再整理、データの補強などを実施する。		120分
11	中間発表②		フィールドワーク結果・先行研究などの文献調査結果を総合して、第1次的な調査研究成果の発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。		
	事前学修	これまでの諸調査で得られた資料等を整理・分析し、一定の仮説に基づいてグループ内でとりあえずの結論を導出し、発表できるようにしておく。		120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、仮説の変更、ロジックの再整理、データの補強などを実施する。		120分
12	中間発表③		フィールドワーク結果・先行研究などの文献調査結果を総合して、第1次的な調査研究成果の発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。		
	事前学修	これまでの諸調査で得られた資料等を整理・分析し、一定の仮説に基づいてグループ内でとりあえずの結論を導出し、発表できるようにしておく。		120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、仮説の変更、ロジックの再整理、データの補強などを実施する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	最終発表①	中間発表以後の再検討・補充調査などの成果を踏まえ、調査研究の最終成果を発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
	事前学修	中間報告以降の検討結果・新たに得られた素材等の整理分析結果を踏まえて成果発表の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、発表内容に修正を加えて最終成果物を完成させる。	120分
14	最終発表②	中間発表以後の再検討・補充調査などの成果を踏まえ、調査研究の最終成果を発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
	事前学修	中間報告以降の検討結果・新たに得られた素材等の整理分析結果を踏まえて成果発表の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、発表内容に修正を加えて最終成果物を完成させる。	120分
15	最終発表③	中間発表以後の再検討・補充調査などの成果を踏まえ、調査研究の最終成果を発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィールドワークや文献調査で得られた素材を駆使して、調査研究の取りまとめができる。	
	事前学修	中間報告以降の検討結果・新たに得られた素材等の整理分析結果を踏まえて成果発表の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールでの全体議論を踏まえ、発表内容に修正を加えて最終成果物を完成させる。	120分
16	論文作成のルール・技法①	後期からゼミナール論文を執筆開始するに当たり、論文作成に関するルールや基礎的技法を身に付ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、論文執筆の基本的ルールや技法等を身に付け、ゼミナール論文の執筆を開始できる。	
	事前学修	事前に指定する資料・論文等を読み、論文のルール・技法等についてわからないところを質問できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業での確認を踏まえて、論文執筆に当たって留意すべき点などを整理する。	120分
17	論文作成のルール・技法②	後期からゼミナール論文を執筆開始するに当たり、論文作成に関するルールや基礎的技法を身に付ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、論文執筆の基本的ルールや技法等を身に付け、ゼミナール論文の執筆を開始できる。	
	事前学修	事前に指定する資料・論文等を読み、論文のルール・技法等についてわからないところを質問できるようにしておく。	120分
	事後学修	授業での確認を踏まえて、論文執筆に当たって留意すべき点などを整理する。	120分
18	論文テーマの決定・発表①	ゼミナール論文のテーマ候補を選定し、発表する。これについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
19	論文テーマの決定・発表②	ゼミナール論文のテーマ候補を選定し、発表する。これについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
20	論文テーマの決定・発表③	ゼミナール論文のテーマ候補を選定し、発表する。これについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
21	論文テーマの決定・発表④	ゼミナール論文のテーマ候補を選定し、発表する。これについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
22	論文の構成等①	ゼミナール論文の全体調査計画・調査対象・手法・リサーチクエスト・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの調査計画・リサーチクエスト等の設定について、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文の調査計画・手法・調査対象・リサーチクエスト・論文構成等について立案し、発表できるようにまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文の構想・フレームワークについてさらに検討を加える。		120分
23	論文の構成等②	ゼミナール論文の全体調査計画・調査対象・手法・リサーチクエスト・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの調査計画・リサーチクエスト等の設定について、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文の調査計画・手法・調査対象・リサーチクエスト・論文構成等について立案し、発表できるようにまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文の構想・フレームワークについてさらに検討を加える。		120分
24	論文の構成等③	ゼミナール論文の全体調査計画・調査対象・手法・リサーチクエスト・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの調査計画・リサーチクエスト等の設定について、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文の調査計画・手法・調査対象・リサーチクエスト・論文構成等について立案し、発表できるようにまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文の構想・フレームワークについてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	論文の構成等④		ゼミナール論文の全体調査計画・調査対象・手法・リサーチクエスト・論文構成を決定して発表する。これを元にゼミ内でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文テーマの調査計画・リサーチクエスト等の設定について、適切な議論を展開できる。		
	事前学修	論文の調査計画・手法・調査対象・リサーチクエスト・論文構成等について立案し、発表できるようにまとめる。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文の構想・フレームワークについてさらに検討を加える。		120分
26	第1次発表①		ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
27	第1次発表②		ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
28	第1次発表③		ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
29	第1次発表④		ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
30	第1次発表⑤		ゼミナール論文の冒頭部分（5000字以上）につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文冒頭部分（5000字以上）を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	河合 利修	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際法に関する基本的知識を得て、グループワークをとおして、さらに国際法の知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際法に関する知識を身に着け、そして深化させる。そのために、各自の学習意欲の向上はもちろんのこと、グループワークをとおして、ゼミとしての一体感を養いつつ、国際法に関する問題意識と知識を深める。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面・ゼミ形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際法に関する基本的知識を得る。					3	3						
②	国際法に関する知識を深化させる。							3					
③	ゼミ生各自が国際法についての問題意識をもちながら、国際法を学習する。								3				
④	グループワークをとおして、ゼミとしての一体感を養う。									4	4	4	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークを適切に行う。				50							50
授業への参画度	国際法に関する知識を得、深化させる。	10	10	15								35
その他(ゼミナール 論文)	論文を作成、提出する。			15								15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のゼミにおいて個別に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
月曜日16時20分～17時50分研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミ概要及び導入講義	ゼミの概要について説明する。	
	この回の到達目標	ゼミの概要を把握する。	
	事前学修	国際法について調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識を、各自、ニュースなどに応用してみる。	120分
2	国際法基本知識①	国際法に関する基本的知識を学習する①	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
3	国際法基本知識②	国際法に関する基本的知識を学習する②	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
4	国際法基本知識③	国際法に関する基本的知識を学習する③	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
5	国際法基本知識④	国際法に関する基本的知識を学習する④	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
6	国際法基本知識⑤	国際法に関する基本的知識を学習する⑤	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際法基本知識⑥	国際法に関する基本的知識を学習する⑥	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
8	国際法基本知識⑦	国際法に関する基本的知識を学習する⑦	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
9	国際法基本知識⑧	国際法に関する基本的知識を学習する⑧	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
10	国際法基本知識⑨	国際法に関する基本的知識を学習する⑨	
	この回の到達目標	国際法の基本的知識を習得する。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
11	グループワーク①	グループワークをととした学習①	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
12	グループワーク②	グループワークをととした学習②	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループワーク③	グループワークをととした学習③	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
14	グループワーク④	グループワークをととした学習④	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
15	グループワーク⑤	グループワークをととした学習⑤	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
16	グループワーク⑥	グループワークをととした学習⑥	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
17	グループワーク⑦	グループワークをととした学習⑦	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
18	グループワーク⑧	グループワークをととした学習⑧	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	グループワーク⑨	グループワークをととした学習⑨	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
20	グループワーク⑩	グループワークをととした学習⑩	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
21	グループワーク⑪	グループワークをととした学習⑪	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
22	グループワーク⑫	グループワークをととした学習⑫	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
23	グループワーク⑬	グループワークをととした学習⑬	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
24	グループワーク⑭	グループワークをととした学習⑭	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	グループワーク⑮	グループワークをととした学習⑮	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
26	グループワーク⑯	グループワークをととした学習⑯	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
27	グループワーク⑰	グループワークをととした学習⑰	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
28	グループワーク⑱	グループワークをととした学習⑱	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
29	グループワーク⑲	グループワークをととした学習⑲	
	この回の到達目標	グループワークをととして、国際法に関する知識を深める。	
	事前学修	国際法について、各自、調べてくる。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
30	まとめ	一年で学んだことのまとめ	
	この回の到達目標	学んだことのまとめを行う。	
	事前学修	学んだことを確認する。	120分
	事後学修	1年間のゼミを振り返る。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	川又 祐	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個人研究を主体とし、自分の興味ある経済・財政分野の文献を読み、日本が抱える諸問題の解決方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分が読んだ経済・財政分野の文献を、「序論・本論・結論」の論述構成に還元した上で、それに対する自分の評価を下すことができるようにする。 個人研究だけでなく、法桜祭フォーラム発表を予定しており、グループ研究の重要性を理解する。

【履修条件】
経済学、財政学、マクロ経済学、ミクロ経済学の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
ゼミ生の報告、その後の質疑応答を中心に進める。報告はパワーポイントを利用する。必要に応じて施設見学、合宿を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週、ゼミ生の報告と質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済・財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	経済・財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					3			3	3	3	3
③	経済・財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。				3		3	3		3		3
④	経済・財政の思想史的背景を説明することができる。				3							3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告の内容を到達目標に応じて評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	報告への質疑応答の参加度を評価する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行 う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミ論の内容を評価する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ生の報告後、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	報告の仕方、順番を確認する。	
	この回の到達目標	報告の技法を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
2	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
3	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
4	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
5	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
6	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
8	施設見学		施設見学
	この回の到達目標	公的施設を見学し、経済・財政の現状を理解できるようにする。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
9	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
10	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
11	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
12	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	フォーラム発表	フォーラム発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
14	フォーラム発表	フォーラム発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
15	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
16	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
17	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
18	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
20	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
21	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
22	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
23	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
24	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
26	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
27	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
28	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
29	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
30	まとめ		ゼミ論テーマを設定する。
	この回の到達目標	報告の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
I C T社会における諸問題や経営情報システム、I C Tの利用等に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
I C T社会における諸問題や経営情報システム、I C Tの利用等に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿やフィールドワーク、学会への参加、当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会など、担当教員各自の趣向により、学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3		
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3	3	
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3	3	3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。各自の研究課題に沿った内容の文献を必要に応じ紹介する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	専門演習(6)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	専門演習(7)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	専門演習(8)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	専門演習(9)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	専門演習(10)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	専門演習(11)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	専門演習(12)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	3年次前期のまとめ		これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	課題報告(1)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	課題報告(2)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	課題報告(3)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
20	課題報告(4)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
21	課題報告(5)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
22	課題報告(6)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
23	課題報告(7)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
24	課題報告(8)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	窪田 悠一	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
受講生が自ら設定したテーマに基づく個人研究を行い、その成果を論文としてまとめるとともに、学内外で研究発表を行う。担当教員の主な研究関心は、内戦やテロリズム等を含む政治暴力および途上国の政治経済などであるが、受講生の研究テーマは比較政治学や国際関係論で扱うものであれば、相談のもと自由に選定できるものとする。その際、研究方法としては質的、計量的アプローチのいずれ（あるいは両方）に依拠するものであっても構わない。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
研究論文は日本語もしくは英語で執筆するものとする（担当教員が実質的に指導できる言語がこれらに限られるため）。各論文は実証研究のスタイルに則っていることが求められる。例えば、的確な歴史資料や統計データを用いながら、政治・経済・社会現象に関する因果関係の解明を（社会）科学的な方法論に基づいて厳密に行うことが要求される。これらとともに、明確なりサーチクエスチョンや検証可能な仮説といった論文の重要な構成要素を踏まえておく必要がある。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
学期中はすべての受講生が参加する演習を毎週一回ずつ行う。夏季休暇中の演習に関しては、必要に応じて実施を検討する。演習では実証研究のデザインや社会科学方法論の考え方、また研究論文の書き方に関する文献の輪読を前期に集中的に行う。また後期には、各自が設定した研究テーマに基づき、先行研究のまとめと批判、理論および仮説の構築、資料やデータの収集と分析などの作業を行い、それらに関する進捗の報告と履修者全員による議論を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。		4						
②	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリズムなどの仕組みと、それが直面している問題の解決策を提案することができる。			4					
③	社会科学などの基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。				4				
④	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。					4			
⑤	法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。					4			
⑥	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝え、ときに強い影響を与えることができる。						4		
⑦	社会・共同体のさまざまな活動において、よりよい成果を上げるために、お互いを尊重し、自ら進んで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。							4	
⑧	他者による評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。								4
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ゼミナール論文（研究計画）	10	10	20	20	10	10	10	10			100
討論・発表等	リーディング資料、文献・研究動向・研究計画の紹介に関する口頭発表	10	15	15	10	10	20	10	10			100
授業への参画度	（出席を前提とした）授業への貢献度	10	10	10	10	10	20	15	15			100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	45	40	30	50	35	35			300

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に示す。				

【オフィスアワー】
月曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前半イントロダクション（授業の内容・進め方）	授業の内容、目的、進め方、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスに目を通し、授業で求められることを確認する。	120分
	事後学修	授業で説明された内容を確認し、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば担当教員に確認する。	120分
2	研究の進め方	（実証的）研究の進め方について具体的な例を引き合いに出しながら議論する。	
	この回の到達目標	（実証的）研究のスタイルや進め方について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
3	研究論文	論文の構成（タイトル、イントロダクション、研究方法、分析結果）について説明し、議論する。	
	この回の到達目標	論文の一般的な構成について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
4	社会科学の「科学性」	社会科学の基礎的な考え方について説明し、議論する。	
	この回の到達目標	社会科学の基礎的な考え方について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
5	質的研究と因果関係	因果関係の捉え方について質的研究の観点から説明し、議論する。	
	この回の到達目標	質的研究の観点から因果関係の捉え方について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
6	量的研究と因果関係	因果関係の捉え方について量的研究の観点から説明し、議論する。	
	この回の到達目標	量的研究の観点から因果関係の捉え方について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	リサーチ・クエスチョン	実証研究におけるリサーチ・クエスチョンの役割や設定の方法について説明し、議論する。	
	この回の到達目標	リサーチ・クエスチョンの役割や設定の方法について具体的な例を踏まえて理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
8	文献調査・データ収集	実証研究における文献調査やデータ収集の役割や方法について説明し、議論する。	
	この回の到達目標	文献調査やデータ収集の役割や方法について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
9	仮説の設定	実証研究における仮説の役割や設定の方法について説明し、議論する。	
	この回の到達目標	仮説の役割や方法について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
10	理論枠組み	実証研究における理論枠組みの役割や設定の方法について説明し、議論する。	
	この回の到達目標	理論枠組みの役割や方法について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
11	仮説検証	実証研究における仮説検証の役割や設定の方法について説明し、議論する。	
	この回の到達目標	仮説検証の役割や方法について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
12	研究方法の選択（事例研究）	研究方法の選択について、事例研究に焦点を当てて説明し、議論する。	
	この回の到達目標	事例研究を中心とした研究方法について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	研究方法の選択（計量分析）	研究方法の選択について、計量分析に焦点を当てて説明し、議論する。	
	この回の到達目標	計量分析を中心とした研究方法について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
14	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
15	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
16	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
17	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
18	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
20	文献の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究テーマに関連する文献を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を選定し、その特徴や重要性を理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
21	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
22	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
23	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
24	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
26	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
27	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
28	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
29	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
30	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
是非かで結論の出せるテーマを設定し、チームを組んでディベートを行い、投票により勝敗を決める、一種のゲームを行う中で、自然と学生としての基礎能力を涵養していく。初年度は2年時の税法研究を行うための基礎力養成を行います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら問題を解析し、論点を抽出し、結論に至る論理を組み立て、有力な証拠を探し、効果的に主張する作業を繰り返す中で、法的思考のみならず全ての創造的・社会的活動の基盤となる思考力、論理構成力、表現力を自然に磨いていきます。この能力は、直近では就職面接等で直ぐに試されることとなります。

【履修条件】
周囲と誠実に付き合える者であること。

【授業方法】
基本的にゼミ生達の自主的運営に任されている。ディベートテーマの選定、人員の配置、各種行事の立案と実行等は、ゼミ長（であることが多い）を中心にゼミ生達によって自主的に行われています。それを行うことがすでに修学の一部であり、自分の属する社会と付き合う能力を養うこととなります。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 最初の説明の時を除き、ゼミ活動そのものがアクティブ・ラーニングであると言ってよい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	問題点、争点を的確に見極める。					3	3	3	3	3	3	3
②	結論を導く論理を強固・整合的に組み立てる。					3	3	3	3	3	3	3
③	相手の主張の弱点を見つけ、効果的な反論を行う。					3	3	3	3	3	3	3
④	自己の主張を支える的確な証拠を発見し、適切に提示する。					3	3	3	3	3	3	3
⑤	聞き手の心象を左右する印象的・説得力ある表現をする。					3	3	3	3	3	3	3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	議長等執行役、陪審員、記録・取り纏め役、ディベーター (A、B2チーム)に分かれてディベートを行い、勝敗決定 後、各々試合を振り返り論評する。教員からのアドバイス がなされる。	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	参加型ゼミなので、参加しなければ話にならない。	5	5	5	5	5						25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	学士の学識の証である。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のディベートが課題の発表になる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミ生の自主的判断による	NA	NA	NA	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日14時40分から16時10分まで。まずはアポイントを取ってください。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	コミュニケーションの形成と説明、執行部の選任	目隠しゲーム、自己他己紹介、4年生による指導	
	この回の到達目標	ゼミ運営の基本、人間関係を作ります。笑み活動の概要を説明するとともに、執行部を形成します。	
	事前学修	タオルもしくは目隠しを準備してください。	120分
	事後学修	仲間の顔と名前が一致するようにしてください。	120分
2	宗吾霊堂研修 新入生歓迎	税法ゼミの精神的模範、佐倉宗吾の史実を、現地に赴いて学習し、自らの哲学形成の一助とします。	
	この回の到達目標	佐倉宗吾の史実を現地で学び、税法と向き合う自らの立ち位置を再考し、ゼミの哲学的指標を理解します。	
	事前学修	佐倉宗吾の事跡の何たるかくらいは知っておきましょう。	120分
	事後学修	さ佐倉宗吾の事跡をどう評価するか、自分の意見くらいは説明できるようになっておきましょう。	120分
3	ディベート（基礎編1）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（1）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	100分
4	ディベート（基礎編2）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（2）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	100分
5	ディベート（基礎編3）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（3）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	100分
6	ディベート（基礎編4）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（4）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ディベート（基礎編5）		ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（5）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。		140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。		100分
8	ディベート（基礎編6）		ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（6）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。		140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。		100分
9	ディベート（基礎編7）		ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（7）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。		140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。		100分
10	ディベート（基礎編8）		ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（8）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。		140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。		100分
11	ディベート（基礎編9）		ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（9）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。		140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。		100分
12	ディベート（基礎編10）		ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（10）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。		140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。		100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ディベート（基礎編11）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（11）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	100分
14	ディベート（基礎編12）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（12）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	100分
15	ディベート（基礎編13）	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方、反論の仕方の理解と実践（13）	
	この回の到達目標	ディベートの仕組、論理構成・論証の仕方を理解し実践できるようになります。また相手の主張を崩す反論の仕方も理解するとともに、効果的な主張を展開できるだけの表現力を養います。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは必須です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておきましょう。	140分
	事後学修	なぜ勝った（負けた）か理由を分析し、改善策を模索しておくこと。	100分
16	就職指導	上級生による就職体験談・指導	
	この回の到達目標	業種ごとにグループ分けの上、エントリーシートから面接に至るまで、抑えておくべきポイントを4年生が自分の体験談を交えて伝授し、実技応答に応えます。	
	事前学修	自分の希望、能力、希望職種・企業の現状・実態等、できるだけ明確に把握しておきましょう。	140分
	事後学修	学んだ内容を自分の就職活動にどう生かすか、大局的、具体的に対応策を練ってください。	100分
17	ディベート（発展編1）	前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。	140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	100分
18	ディベート（発展編2）	前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。	140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	ディベート（発展編3）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分
20	ディベート（発展編4）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分
21	ディベート（発展編5）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分
22	ディベート（発展編6）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分
23	ディベート（発展編7）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
24	ディベート（発展編8）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分
25	ディベート（発展編9）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分
26	ディベート（発展編10）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分
27	ディベート（発展編11）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分
28	ディベート（発展編12）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。	
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。		
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。		140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。		100分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
29	ディベート（発展編13）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。	140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	100分
30	ディベート（発展編14）		前提争い（問題をどういうものとして話を進めるか。法解釈で言えば、法の意味内容の解明に相当します。）、効果的プレゼンテーション等、1段ランクアップを図ったディベート力を養います。
	この回の到達目標	ディベートのより高度な手法を身に付けます。前提争い（例えば女性専用列車を廃止すべきかというテーマを、いい制度だから絶対維持すべきという話とするか、取り敢えず問題なく運営されているのだから直ちに止めなくともよいという話とするか等）やボディランゲージを含む効果的なプレゼンテーション技術を習得します。	
	事前学修	予め決めておいたテーマについての下調べは同様です。また、どちらの立場になってもいいように作戦を立てておくのも然りです。どのような視角からどう論理を組み立てどう印象付けるか、できれば、誘いや罠の張り方等まで考えましょう。	140分
	事後学修	勝敗の分析は、論理の組み立ては勿論、展開や表現方法、ディベート技術等、より徹底した見直しをします。	100分

科目名	ゼミナール3年	担当者	柑本 英雄	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：国際関係論の理論を学び、国際関係を通して論理的思考力を身につける。 4年次：3年次の演習において学んだことの集大成である卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析する力を養うことを目標とする。 4年次：自ら問題意識をもって選んだテーマに基づき、討議することを通して、より 深い見識を得ること、社会で必要とされる論理的思考を高めることを目標とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：毎回、担当者にパワーポイントでテキストの理解について報告をしてもらい、それをもとに全員で議論する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。						3	3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。						4	4	3					
③	国際関係における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。						4	4	4		3			
④	国際関係における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						3	3	4	4	4			3
⑤	国際関係における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。								3	4	4	3	3	3
⑥	ゼミナール活動を通して協働したり、議論の中で自分の考えを表現することができる。											3	3	
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告内容を理解し、適切なツールや資料を用いて説明すること、および質疑応答などマネジメント能力についても評価する。	4	4	4	4	4						20
授業への参画度	研究内容とゼミナール論文の内容のみならず、ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する						5					5
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	15	15	15	15	15						75
その他()												
到達目標別の比率(%)		19	19	19	19	19	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係理論	吉川直人・野口和彦著	勁草書房	2015	教科書	必携
国際紛争 原書第10版 理論と歴史	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	参考書	推奨
国際関係学講義（第5版）	原彬久編	有斐閣	2016	参考書	推奨
政治学のリサーチ・メソッド	スティーブソン・ヴァン・エリッ ェウ, 野口和彦・渡辺紫 乃訳	勁草書房	2009	参考書	推奨
国際政治事典	猪口孝他編	弘文堂	2005	参考書	推奨
国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
平和学入門 1・2：平和を理解するための思考のドリル	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室）（事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション： なぜ国際関係理論が重要なのか		国際関係論を学ぶ意義について解説する。また、国際関係理論の定義や価値基準などを明らかにする。	
	この回の 到達目標	国際関係論を学ぶ意義を理解する。		
	事前学修	教科書に目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておく。		120分
	事後学修	授業中に出てきた用語や内容について確認してノートにまとめる。		120分
2	国際関係理論とは何か・国際関係理論の歴史		国際関係理論が発展した経緯や理論が構築された背景などについて学ぶ。	
	この回の 到達目標	国際関係理論の歴史と背景を理解する。		
	事前学修	「国際関係理論の構図」（p. 2-p. 26）を読み、様々な理論についてノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	国際関係理論の歴史を、さまざまな理論を中心にノートにまとめる。		120分
3	国際関係理論のアプローチ： 近代国際システム		近代国際システムの成り立ちについて学ぶ。	
	この回の 到達目標	近代国際システムがどのように構成され、どのように作用しているのか、アナーキーの意味を理解する。		
	事前学修	「第1章 近代国際システムの興隆」（p. 28-p. 61）を読み、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	主権国家体制が確立するまでの過程をノートにまとめる。		120分
4	社会科学の方法論①： 定性的研究		定性的方法論とは何か、定性的方法論が脚光を浴びている理由について考える。	
	この回の 到達目標	定性的方法論の意味を理解し、定性的方法論を用いて事例研究ができるようになる。		
	事前学修	「第2章 定性的研究方法への道案内」（p. 64-p. 99）を読み、定性的方法論の手法をノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	研究課題を設定し、仮説をたて、ノートにまとめる。		120分
5	社会科学の方法論②： 分析レベルと分析アプローチ		ウォルツの3つの分析レベルについて学ぶ。	
	この回の 到達目標	ウォルツの3つの分析レベルを理解し、応用できる。		
	事前学修	「第4章 分析レベルと分析アプローチ」（p. 128-p. 151）を読み、分析レベルと分析アプローチの内容をノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	教科書の分析アプローチ事例をノートにまとめ、理解を深める。		120分
6	リアリズム社会科学の方法論③： 分析レベルと分析アプローチ		リアリズムを理解する。	
	この回の 到達目標	国際関係論における中心的理論であるリアリズムについて、その起源や内容について説明できる。		
	事前学修	「第5章 リアリズム」（p. 154-p. 182）を読み、リアリズムについてノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	リアリズムがどのような理論であるかノートにまとめ、その利点と欠点を考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	リベラリズム		リベラリズムを理解する。	
	この回の到達目標	リベラリズムの国際政治観がどのようなものであるか、国際関係を考えるうえでどのようなアプローチをするのか説明できる。		
	事前学修	「第6章 リベラリズム」(p. 184-p. 210)を読み、リベラリズムについてノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	リベラズムの特徴をノートにまとめる。		120分
8	国際政治経済論		国際政治経済論の概要や国際政治が国際経済と深くかかわっていることなどについて議論する。	
	この回の到達目標	国際政治経済論が、国家間の経済活動や国際市場を通して政治的関係を理解する理論であることを理解できる。		
	事前学修	「第7章 国際政治経済論」(p. 212-p. 238)を読み、政治と経済のかかわりを考えながらノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	国際社会において、経済力がどのように政治に影響を与えるのか考え、ノートにまとめる。		120分
9	従属論と世界システム論		従属論と世界システム論について議論する。	
	この回の到達目標	従属論と世界システム論の概要を説明できる。		
	事前学修	「第8章 従属論と世界システム論」(p. 240-p. 270)を読み、従属論がなぜ必要なのか、また世界システム論がなぜ誕生したのか考えながらノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	従属論と世界システム論で現代の世界を説明することができるか、ノートにまとめる。		120分
10	コンストラクティヴィズム		コンストラクティビズムとは何か、コンストラクティビズムの国際関係理論上の意義について議論する。	
	この回の到達目標	コンストラクティビズムの概念がリアリズムやリベラリズムとどのように異なるのか理解できる。		
	事前学修	「第9章 コンストラクティビズム」(p. 272-p. 292)を読み、コンストラクティビズムの位置づけを考えながら、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	コンストラクティビズムとは何か、自分の言葉でノートにまとめる。		120分
11	規範理論		国際関係における規範理論について議論する。	
	この回の到達目標	コンストラクティビズムの概念がリアリズムやリベラリズムとどのように異なるのか理解できる。		
	事前学修	「第10章 規範理論」(p. 294-p. 323)を読み、なぜ規範理論が必要なのかノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	授業で学んだ知見をもとに、規範理論におけるリアリズム、リベラリズムについてノートにまとめる。		120分
12	批判的国際理論		批判的国際関係理論について議論する。	
	この回の到達目標	批判的国際関係理論のアプローチを習得する。		
	事前学修	「第11章 批判的国際関係理論」(p. 326-p. 357)を読み、批判的国際関係理論が従来の国際関係理論とどう違うのかノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントを使用してまとめる。		120分
	事後学修	批判的国際関係理論がなぜ誕生したのか考え、ノートにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卒業論文製作のためのスケジュール確認・参考文献リストの作成	卒業論文を完成させるための工程やスケジュールを確認する。参考文献リストの作り方について講義する。	
	この回の到達目標	卒業論文のテーマを確認する。論文作成のため参考文献リストを作ることができる。	
	事前学修	卒業論文のテーマを検討し、ノートにまとめる。	120分
	事後学修	卒業論文のテーマを決める。テーマに沿った参考文献5本をリストアップし、参考文献リストを作成し、第15回で提出する。	120分
14	書評論文の書き方	書評論文の書き方について議論する。	
	この回の到達目標	書評論文を作成することができる。	
	事前学修	季刊国際政治、EU研究などの研究学術雑誌から、書評論文を3本ほどピックアップし、その論文の構造を理解し、ノートにまとめてみる。	120分
	事後学修	授業で学んだ知見をもとに3,500字（A4用紙2枚）の書評論文を作成する。後期ゼミナールの中で発表を行うので（第28回、第29回、第30回）、夏季休暇中に参考文献から3本の書評論文を作成する。第30回で3本の書評論文を提出する。	360分
15	これまでのまとめ：講義から得られた知見と講評	第1回から第14回の振り返りを行う。	
	この回の到達目標	国際社会の現状を国際関係理論を用いて説明することができる。	
	事前学修	これまでのノートおよび教科書を読み返す。	120分
	事後学修	興味のあるテーマをノートに書き出し、国際関係理論を用いて説明してみる。	120分
16	論文手本と仮説立証	論文手本の分析方法及び仮説立証について議論する。	
	この回の到達目標	論文手本分析ができる。	
	事前学修	仮説とは何かについて、インターネットや論文執筆作法に関する書籍で理解を深めてノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業で得た知見を踏まえ、事前学修で行った論文手本分析を見直す。	120分
17	個人報告：論文手本分析①	手本論文の分析を行い、発表する。	
	この回の到達目標	論文の分析方法を習得し、論文の分析ができる。	
	事前学修	手本論文を分析し、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	授業で得た知見をノートにまとめる。	120分
18	個人報告：論文手本分析②	手本論文の分析を行い、発表する。	
	この回の到達目標	論文の分析方法を習得し、論文の分析ができる。	
	事前学修	手本論文を分析し、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	授業で得た知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	個人報告：論文手本分析③	手本論文の分析を行い、発表する。	
	この回の到達目標	論文の分析方法を習得し、論文の分析ができる。	
	事前学修	手本論文を分析し、ノートにまとめる。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	授業で得た知見をノートにまとめる。	120分
20	スケルトンの説明	スケルトンの作り方について議論する。	
	この回の到達目標	スケルトンについて理解し、テーマに沿ったスケルトンを作成できる。	
	事前学修	スケルトンは単なる「目次」ではなく「論理」を体系的に見せ、大まかな字数もあてはめねばならない。そのつもりで、自分でテーマを選び、スケルトンを作成しノートに書く。	120分
	事後学修	授業で得た知見を踏まえ、事前学修で行ったスケルトンを見直す。	120分
21	個人報告：スケルトン①	作成したスケルトンを発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文のスケルトンを完成する。	
	事前学修	スケルトンを作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	自分のスケルトンを見直し、必要があれば修正する。	120分
22	個人報告：スケルトン②	作成したスケルトンを発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文のスケルトンを完成する。	
	事前学修	スケルトンを作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	自分のスケルトンを見直し、必要があれば修正する。	120分
23	個人報告：スケルトン③	作成したスケルトンを発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文のスケルトンを完成する。	
	事前学修	スケルトンを作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	自分のスケルトンを見直し、必要があれば修正する。	120分
24	序の作り方	序の作り方を議論する。	
	この回の到達目標	すでに作成したスケルトンに従って、序を作成することができる。	
	事前学修	参考文献リストの論文を1つ選び、序の部分を読み込む。その際、論文における「序」の役割を意識し、どのような「構成」で執筆されているのかを見抜き、ノートにまとめてみる。	120分
	事後学修	授業で得た知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	個人報告：序①	卒業論文の序を作成し、発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文の序を作成する。	
	事前学修	すでに作成したスケルトンに従って、序を作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	序を読み返し、授業で得た知見をもとに修正する。	120分
26	個人報告：序②	卒業論文の序を作成し、発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文の序を作成する。	
	事前学修	すでに作成したスケルトンに従って、序を作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	序を読み返し、授業で得た知見をもとに修正する。	120分
27	個人報告：序③	卒業論文の序を作成し、発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文の序を作成する。	
	事前学修	すでに作成したスケルトンに従って、序を作成する。報告担当者はパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	序を読み返し、授業で得た知見をもとに修正する。	120分
28	個人報告：書評論文①	夏季休業中に作成した書評論文の発表を行う。	
	この回の到達目標	書評論文の書き方を習得する。	
	事前学修	夏季休業中に作成した3本の書評論文のうち1本を、1人10分で発表できるようパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	授業で得られた知見をもとに、自分の書評論文の見直しを行う。修正後の書評論文と他2本の書評論文は第30回で提出する。	120分
29	個人報告：書評論文②	夏季休業中に作成した書評論文の発表を行う。	
	この回の到達目標	書評論文の書き方を習得する。	
	事前学修	夏季休業中に作成した3本の書評論文のうち1本を、1人10分で発表できるようパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	授業で得られた知見をもとに、自分の書評論文の見直しを行う。修正後の書評論文と他2本の書評論文は第30回で提出する。	120分
30	個人報告：書評論文③	夏季休業中に作成した書評論文の発表を行う。	
	この回の到達目標	書評論文の書き方を習得する。	
	事前学修	夏季休業中に作成した3本の書評論文のうち1本を、1人10分で発表できるようパワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	授業で得られた知見をもとに、自分の書評論文の見直しを行う。修正後の書評論文と他2本の書評論文を提出する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小阪 敬志	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：財務会計論の基本書を輪読して会計学の基本を身につけるとともに、学生コンペに参加して研究発表を行う。 4年次：各自で興味あるテーマの設定を行い、卒業論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：会計学の基礎を身につけ、それをもとに特定のテーマに特化した調査研究を行い、コンペでの発表を目指す。 4年次：卒業論文の執筆を通じて、各自の関心あるテーマや企業・産業に対する理解・見識を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
教科書の輪読を行う。輪読はグループごとに担当個所の報告を行い、全員による質疑を実施する形式で進めていく。必要に応じて教員が解説を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループによる報告およびディスカッションを毎回行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会計学の基礎的知識を身につける。						3	3						
②	特定のテーマについての問題意識を持ち、研究テーマを設定することができる。								3	3	3			
③	設定したテーマに対して、適切な調査・研究を行うことができる。									3	3	3	3	
④	調査・研究の内容を報告し、ディスカッションすることができる。												3	3
⑤	会計学についてのより高度な調査・研究の成果を論文としてまとめ、発表・ディスカッションすることができる。						4	4	4	4	4	4	4	4
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	平時のゼミにおける報告や、それに基づくディスカッションの様子により評価を行う。ただし、評価は下記の「ゼミナール論文」の内容と合わせて、総合的に判定する。	10	10	10	10	10						50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	卒業論文により評価を行う。ただし、評価は上記の「討論・発表等」における報告・ディスカッションの内容と合わせて、総合的に判定する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用年度ごとに異なるため、授業開始前に教員より指示する。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00　本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る）　Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	グループ編成、発表分担の決定	
	この回の到達目標	1年間のゼミの流れを把握し、グループメンバーとのアイスブレイキングを行う。	
	事前学修	シラバスを熟読し、1年間のゼミ活動をイメージする。	120分
	事後学修	グループメンバーと今後の発表等に向けた準備について打ち合わせる。	120分
2	発表方法のガイダンス	教員による研究報告のデモンストレーション	
	この回の到達目標	研究報告とはどのようなものかを理解する。	
	事前学修	教員が配布した報告用資料を通読しておく。	120分
	事後学修	研究報告における要点を理解し、次回以降の発表の準備をする。	120分
3	グループ報告 1回目	担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
4	グループ報告 2回目	担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
5	グループ報告 3回目	担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分
6	グループ報告 4回目	担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。	
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グループ報告 5回目		担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。		120分
8	グループ報告 6回目		担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。		120分
9	グループ報告 7回目		担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。		120分
10	グループ報告 8回目		担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。		120分
11	グループ報告 9回目		担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。		120分
12	グループ報告 10回目		担当グループによる報告とディスカッション	
	この回の到達目標	担当グループによる報告を聞き、テーマについてディスカッションする。		
	事前学修	教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を整理しておく。		120分
	事後学修	報告・ディスカッションの結果をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	全体報告に向けた準備	全体報告に向けた準備を行う	
	この回の到達目標	今回の全体報告に向けた報告資料の収集・作成を行う。	
	事前学修	これまでのゼミにおける学びに基づいて、テーマを決めておく。	120分
	事後学修	今回の報告に向けた準備を整える。	120分
14	全体報告	前期の学びの集大成として、それぞれのグループによる研究報告を行う	
	この回の到達目標	半期の学びを通じた総まとめとしての全体報告を行い、ディスカッションする。	
	事前学修	本番に向けた準備を進める。	120分
	事後学修	全体報告の内容・ディスカッションを振り返り、課題点を反省する。	120分
15	後期に向けた準備 まとめ	アカウンティングコンペティション（以下、アカコン）における報告テーマ決定の準備	
	この回の到達目標	アカコンにおける発表テーマを決定に向けた準備を整える。	
	事前学修	前期の学修内容を踏まえて、アカコンにおけるテーマになりうる論点を考える。	120分
	事後学修	ゼミでのディスカッションを踏まえて、テーマ候補を決定する。	120分
16	テーマ報告と作業計画の発表	アカコンにおけるテーマの発表と後期における作業計画の発表	
	この回の到達目標	報告テーマの明示と作業計画を決定する。	
	事前学修	報告テーマを確定し、本番までにに向けたロードマップを作成する。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
17	中間発表に向けた準備 1回目	公開ゼミでの中間発表にむけた準備を行う	
	この回の到達目標	中間発表に向けた調査・資料作成を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
18	中間発表に向けた準備 2回目	公開ゼミでの中間発表にむけた準備を行う	
	この回の到達目標	中間発表に向けた調査・資料作成を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	中間発表に向けた準備 3回目	公開ゼミでの中間発表にむけた準備を行う	
	この回の到達目標	中間発表に向けた調査・資料作成を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
20	中間発表に向けた準備 4回目	公開ゼミでの中間発表にむけた準備を行う	
	この回の到達目標	中間発表に向けた調査・資料作成を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
21	中間発表の予行	中間発表の予行を行う	
	この回の到達目標	公開ゼミにおける中間発表を意識した予行を行う。	
	事前学修	報告全体の6～7割程度は、調査・準備を済ませておく。	120分
	事後学修	公開ゼミ当日に向けて各グループで準備する。	120分
22	中間発表	中間発表を行う	
	この回の到達目標	中間発表を行い、現時点での研究調査の成果を報告する。	
	事前学修	発表準備をする。	120分
	事後学修	発表結果を踏まえて、本番に向けた準備計画を立てる。	120分
23	本番当日に向けた準備 1回目	アカコン本番にむけた準備を行う	
	この回の到達目標	本番当日に向けて準備を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
24	本番当日に向けた準備 2回目	アカコン本番にむけた準備を行う	
	この回の到達目標	本番当日に向けて準備を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	本番当日に向けた準備 3回目	アカコン本番にむけた準備を行う	
	この回の到達目標	本番当日に向けて準備を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
26	本番当日に向けた準備 4回目	アカコン本番にむけた準備を行う	
	この回の到達目標	本番当日に向けて準備を進める。	
	事前学修	本番当日に向けて準備を進める。	120分
	事後学修	次回以降の作業に向けた打ち合わせを、グループごとに行う。	120分
27	本番の予行 1回目	アカコン本番を意識した予行を行う	
	この回の到達目標	本番当日を意識した環境下で、本番の予行を行う。	
	事前学修	本番発表におけるタイムテーブル等を前提にした報告準備を行う。	120分
	事後学修	予行における反省点を洗い出し、想定問答を検討する。	120分
28	本番の予行 2回目	アカコン本番を意識した予行を行う	
	この回の到達目標	本番当日を意識した環境下で、本番の予行を行う。	
	事前学修	本番発表におけるタイムテーブル等を前提にした報告準備を行う。	120分
	事後学修	予行における反省点を洗い出し、想定問答を検討する。	120分
29	アカコン本番	アカコン本番における発表を行う	
	この回の到達目標	アカコン本番で発表する。	
	事前学修	当日に向けた最後の準備を行う。	120分
	事後学修	各グループで当日の結果を振り返る。	120分
30	アカコンの振り返り	本番当日の内容を振り返る	
	この回の到達目標	アカコン本番での発表や審査員からの指摘事項などを振り返り、自分たちの研究内容を総括する。	
	事前学修	アカコン本番での評価点、反省点を洗い出しておく。	120分
	事後学修	次年度に向けた自身の研究活動の指針を立てる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	小林 義寛	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア文化を中心に現代文化、とりわけポップカルチャーに焦点をあて、わたしたちの生活の諸側面における文化事象の諸様態とその意義を理解する。その上で、日常生活におけるわたしたちの文化実践について考える。そのために必要な視座あるいはフレームワークに関しては、現代的な諸理論を基盤に学習し、「文化」事象を理解するための基礎を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ポップカルチャーを研究するために必要な視座あるいはフレームワークを学習し、「文化」事象を理解するための基礎を 修得する。とくに3年次においては、テキスト輪読、発表、ディスカッションを通して、文化研究に関わる諸理論を理解する。また、それと平行して、グループに分かれて共同研究を計画し、遂行する。その際、具体的な文化事象への、現象論ではないアプローチを実践し、それに対する理論的アプローチの基盤を修得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
テキスト輪読、発表、ディスカッションをおこなう。 それと平行して、グループに分かれて共同研究を計画し、遂行する。 サブゼミをおこない、共同研究を遂行する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキスト輪読および共同研究において、発表、議論、レジュメ作成、報告資料作成などをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代文化に関するアプローチを学ぶことで、文化事象を考察するための基本的概念や理論を修得し、理論的フレームワークに基づいて議論ができるようになる。												
②	異なる社会や文化におけるそれぞれの社会構造、文化構造との関係で、特定の文化事象にアプローチできるようになる。												
③	既存の制度、社会を所与のものとせず、「当たり前」を疑い、疑問をもち、考察できるようになる。												
④	身の回りの具体的な文化事象を取り上げ、それに対して理論的なアプローチができるようになる。												
⑤	自明視された事象に対し、異なった視点、新たな態度で臨めるようになる。												
⑥	共同研究やお互いの議論を通じて、問題に関して深く理解するとともに、他者に対して寛容に議論ができる。												
⑦	共同研究やお互いの議論を通じて、グループワークでの協力関係の構築や指導力を発揮し、研究活動ができる。												
⑧	具体的な事象に対し、現象論ではなく、理論的、方法論的なアプローチを通じて、深く考察することができる。												
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	15	10	10	10	10	15	20	10			100
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	10	10	10	15	20	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告、議論、レポート、論文指導を通じて適宜講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業時や共同研究の進行に合わせて指示する。				

【オフィスアワー】
火曜日5限など、研究室で事前に連絡して調整をおこなう。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	共同研究のテーマ①	共同研究のテーマに関する検討。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	共同研究のテーマに関係する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を通じて、研究テーマの問題点を確認し、研究計画の変更をおこなう。	120分
2	共同研究のテーマ②	共同研究のテーマに関する検討。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	前回の問題点を修正し、具体的なテーマへつなげる報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を通じて、研究テーマの問題点を確認し、研究計画の変更をおこなう。	120分
3	共同研究のテーマ③	共同研究テーマの決定	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて決定する。	
	事前学修	前2回の問題点をふまえ、具体的な研究テーマとなる報告資料を作成する。	120分
	事後学修	具体化された報告テーマを基にした研究計画の修正をおこなう。	120分
4	テキスト輪読1-①	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
5	テキスト輪読1-②	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
6	テキスト輪読1-③	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト輪読 1-④	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
8	テキスト輪読 1-⑤	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
9	テキスト輪読 1-⑥	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
10	テキスト輪読 1-⑦	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
11	テキスト輪読 1-⑧	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
12	テキスト輪読 1-⑨	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト輪読 1-⑩	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
14	共同研究中間報告①	共同研究の進行に合わせた中間報告。 問題点と修正	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、共同研究テーマに対するアプローチの現状報告をおこない、その報告と議論を通じて、考察と修正をおこなう。	
	事前学修	研究テーマの中間報告のための資料の作成をする。	120分
	事後学修	議論を通じて、報告書作成までの展開を構想する。	120分
15	共同研究中間報告②	共同研究の進行に合わせた中間報告。 問題点と修正	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、前回の修正と考察を基にして、報告書作成までの今後の展開と方向性について、議論を通じて構成する。	
	事前学修	前回の議論を基に今後の展開に関する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を通じて、報告書作成に向けて展開と方向性などを修正する。	120分
16	テキスト輪読 2-①	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
17	テキスト輪読 2-②	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
18	テキスト輪読 2-③	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	テキスト輪読 2-④	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
20	テキスト輪読 2-⑤	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
21	テキスト輪読 2-⑥	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
22	テキスト輪読 2-⑦	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
23	テキスト輪読 2-⑧	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
24	テキスト輪読 2-⑨	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	テキスト輪読 2-⑩	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
26	共同研究報告①	共同研究の成果の報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、共同研究の成果をまとめ、報告する。	
	事前学修	共同研究の成果を報告するための報告資料を作成する。	120分
	事後学修	報告書作成のために、報告に対する議論を基に問題点等を把握する。	120分
27	共同研究報告②	報告書作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、前回の報告と議論に基づいて報告書を作成する。	
	事前学修	前回の議論を基に、報告書作成のための展開に関する報告資料を作成する。、	120分
	事後学修	これまでの議論を基に報告書を作成する。	180分
28	卒業論文へ向けて①	4年生の卒業論文作成のための事前検討。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	卒業論文のテーマやアプローチに関する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を基に問題点等を把握し、研究計画をたてる。	120分
29	卒業論文へ向けて②	4年生の卒業論文作成のための事前検討。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	卒業論文のテーマやアプローチに関する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を基に問題点等を把握し、研究計画を修正する。	120分
30	卒業論文へ向けて③	4年生の卒業論文作成のための事前検討。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	卒業論文のテーマやアプローチに関する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を基に問題点等を把握し、研究計画を修正する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
英米法に関する興味のある分野を自発的に選び、その分野の判例につき報告と質疑応答・議論を行い、論文のテーマを選定し、計画的にリサーチを継続し手行い、当該論文のテーマについて法律論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
一次的法源と二次的法源を調査し要約して発表する能力、英米法の法律専門用語を正確に理解しそれらを用い分かりやすく聞き手や読み手に説明する能力、調査に基づく論理的かつ批判的な視点から論文を執筆する能力、を修得する。

【履修条件】
英米法の基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が英米法の分野において自発的に選択する論文のテーマにつき行った発表に対して質疑応答を行う。また、学修効果を高めるため、合宿や課外活動（例えば、大学対抗仲裁・交渉コンペティションへの参加やフォーラム等）を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例発表と質疑応答を含む授業中の議論における積極的な発言を行う。ゼミナール論文のテーマを自発的に決定し計画的に執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の法律専門用語を正確に理解し、専門演習や判例報告において、これらを適切に用いて議論することができる。				3	3				3		
②	英米法を学ぶ際に大前提となる諸制度を深く理解し、専門演習や判例報告において、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3	3	3		
③	他の履修生からの意見や質問を尊重し相互に新たな課題を発見しながら論文執筆作業や課外活動に取り組むことができる。								3	3	3	3
④	③で発見した新たな課題を含め計画的に客観的論証を示す論文の執筆を進めることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	判例報告と質疑応答に基づく中間のレポート課題につき、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	判例報告と質疑応答において他の履修者に向けた有益な意見を述べる事ができたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	自発的に選んだテーマについて一次的法源と二次的法源が正確に引用され、客観的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
判例発表は発表後に講評を行う。レポート課題とゼミナール論文については準備段階ごとに質疑応答を行い講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） Colnetのメールで予約を取る（メールアドレス：sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		ニューヨーク州弁護士（アメリカ）と外国法事務弁護士（日本）として国際契約、国際訴訟、国際商事仲裁、国際商事調停の実務に従事。 判例法の法域に特有の法的及び実務的問題点を学修する授業を展開する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、判例発表の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、英米法につき、判例発表を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
	事前学修	配布した設問について検討し、授業中の議論に参加するために解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論に基づき自らの解答を検討し加筆修正する。	120分
3	専門演習(2)	英米法につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
	事前学修	配布した設問について検討し、授業中の議論に参加するために解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論に基づき自らの解答を検討し加筆修正する。	120分
4	専門演習(3)	英米法につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	配布した設問について検討し、授業中の議論に参加するために解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論に基づき自らの解答を検討し加筆修正する。	120分
5	専門演習(4)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	配布した設問について検討し、授業中の議論に参加するために解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論に基づき自らの解答を検討し加筆修正する。	120分
6	判例報告(1)	英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたりサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	判例報告(2)		英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたりサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。		120分
8	判例報告(3)		英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたりサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。		120分
9	判例報告(4)		英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたりサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。		120分
10	判例報告(5)		英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたりサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。		120分
11	判例報告(6)		英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたりサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。		120分
12	判例報告(7)		英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたりサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	判例報告(8)		英米法につき、発表者は判例報告を行い、他の履修者は意見交換と質疑応答で発言をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、判例報告と意見交換・質疑応答において、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	発表者は判例報告の資料と発表の準備を行う。他の履修生は、授業中の議論に参加するために自らの意見と質問を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論に基づき、発表者は新たな課題を発見しそれを含めたリサーチの計画を立てる。他の履修生は、発言した意見と質問に対して得た議論と解答を検討し、その内容を自らの判例報告の準備に役立てる。		120分
14	3年次前期のまとめ		前期に行った判例報告の内容と新たな課題へのリサーチの進捗状況を確認し、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。		
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。		120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答をととした議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
15	夏期レポート課題とその目的と注意事項		夏期レポート課題の目的と注意事項を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、夏期レポート課題の目的と注意事項を理解し、説明できる。		
	事前学修	これまでリサーチした一次的法源と二次的法源の資料のリストを作成してくる。		120分
	事後学修	夏季レポート課題報告の準備計画を立てる。		120分
16	夏期レポート課題報告の注意事項		夏期レポート課題につき報告を行う上での注意事項を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、夏期レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。		
	事前学修	15回目で学んだ注意事項を踏まえレポート課題を作成し報告の準備を行う。		120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。		120分
17	課題報告(1)		夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。		
	事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。		120分
18	課題報告(2)		夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。		
	事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	課題報告(3)		夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
	事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	課題報告(4)		夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
	事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	課題報告(5)		夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
	事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	課題報告(6)		夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
	事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	課題報告(7)		夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
	事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	課題報告(8)		夏期レポート課題報告を行い、報告者以外の履修者は議論に積極的に参加する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題につき、適切に報告、解答、議論することができ、他の履修者は当該報告に対して、適切な質問、発言、議論をすることができる。	
	事前学修	報告者は、報告の準備を行い、他の履修者は、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での意見交換と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	課題報告の見直し(1)	夏季レポート課題へのさらなる検討の進捗状況について報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題に対する議論も踏まえたさらなる検討の進捗状況につき、適切に報告と質問をすることができる。他の履修者は当該報告と質問に対して、適切な解答や意見を示し議論することができる。	
	事前学修	報告者は、報告と質問の準備を行い、他の履修者は、解答や意見等を用意する。	120分
	事後学修	授業での解答や意見交換を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	課題報告の見直し(2)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題に対する議論も踏まえたさらなる検討の進捗状況につき、適切に報告と質問をすることができる。他の履修者は当該報告と質問に対して、適切な解答や意見を示し議論することができる。	
	事前学修	報告者は、報告と質問の準備を行い、他の履修者は、解答や意見等を用意する。	120分
	事後学修	授業での解答や意見交換を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	課題報告の見直し(3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題に対する議論も踏まえたさらなる検討の進捗状況につき、適切に報告と質問をすることができる。他の履修者は当該報告と質問に対して、適切な解答や意見を示し議論することができる。	
	事前学修	報告者は、報告と質問の準備を行い、他の履修者は、解答や意見等を用意する。	120分
	事後学修	授業での解答や意見交換を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	課題報告の見直し(4)	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、報告者は夏季レポート課題に対する議論も踏まえたさらなる検討の進捗状況につき、適切に報告と質問をすることができる。他の履修者は当該報告と質問に対して、適切な解答や意見を示し議論することができる。	
	事前学修	報告者は、報告と質問の準備を行い、他の履修者は、解答や意見等を用意する。	120分
	事後学修	授業での解答や意見交換を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文テーマの選定）とその注意事項	春期休暇中に論文テーマを選定する際の注意事項を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での説明と質疑応答を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
社会学およびメディア研究のテキストクリティークを通して、研究の基礎的なトレーニングを行う。個人研究に加え、共同研究をフィールド調査などを通して行い、その結果をプレゼンテーションする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会学およびメディア研究の基礎理論、方法論について修得するとともに、各自の問題意識・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワーク・共同研究を通して他者との協働性の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミ入室試験に合格したもの

【授業方法】		
テキストのレジュメとディスカッションを基本軸とし、定期的に映像分析を行う。共同研究では、研究計画を立て、それに沿って協働で研究を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像分析 レジュメや資料を作成した、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストの基本的読解とレジュメ等で再構成・発表することができる				3	3	3			3		
②	映像を主にディスコース分析の手法で分析することができる				3	3	3	3				
③	現代社会の諸現象から、テーマを立て、研究を企画することができる				3			3	3			
④	研究テーマにもとづき、関連文献や資料を探索・収集することができる						3	3				
⑤	研究データを的確に収集・まとめることができる				3				3	3	3	
⑥	研究対象やデータを的確に分析し考察することができる					3	3	3				3
⑦	研究結果を論文として構成することができる				4	4	4	4	4	4		4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	共同研究での報告書の作成		5	5			5	5				20
討論・発表等	テキストや映像分析のレジュメ作成とプレゼンテーション	5	5				5					15
授業への参画度	毎回の出席とフィール調査への参加	10				5						15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文			10	10		10	20				50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	15	10	5	20	25				100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール論文、発表、課題については、講義内で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
フーコー講義	檜垣立哉	河出書房新社	2010	教科書	必携
備考	参考図書は、適宜指示する				

【オフィスアワー】
水曜日・昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期のガイダンスおよび導入講義	ゼミナールの共有するテーマとスケジュールを確認し、議論の進め方や評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、ゼミナールの共有テーマと現代社会との関係を理解することができる	
	事前学修	シラバスを確認し、教科書の全体構成を把握すること	120分
	事後学修	講義内容をノートに整理し、教科書の序章を読むこと	120分
2	パンデミックの映像分析	新型インフルエンザを題材にしたドキュメンタリー番組を視聴し、分析・ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を理解することができる	
	事前学修	新型コロナウイルスに関するこれまでの経緯について、報道関連の資料を収集してくること	120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
3	パンデミックの映像分析	新型インフルエンザを題材にしたドラマ作品を視聴し、分析・ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を医療や社会政策の観点から理解することができる	
	事前学修	新型コロナウイルスに関するこれまでの経緯について、行政関係の資料を収集してくること	120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
4	フーコーの方法論	第2講、第3講の映像分析を受けて、M・フーコーの生権力論の分析可能性を議論する	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、教科書第1章の内容を的確に理解する	
	事前学修	教科書第1章を読み、内容をまとめてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
5	「人間」の解剖学	近代的な医学の成立を理解すること	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連し、教科書第2章の内容を的確に理解する	
	事前学修	教科書第2章を読み、内容をまとめてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
6	二重体としての人間	到達目標①、③に関連し、教科書第3章の内容を的確に理解する	
	この回の到達目標	近代の知のエピステーメーの成立を理解すること	
	事前学修	教科書第3章を読み、内容をまとめてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	規律化される人間	到達目標①、③に関連し、教科書第4章の内容を的確に理解する	
	この回の到達目標	近代の規律型権力の特徴と機能を理解すること	
	事前学修	教科書第4章を読み、内容をまとめてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
8	個人研究発表①	各自の研究テーマに関連した文献を1冊取り上げ、レジュメにまとめ発表し、ディスカッションする（2人）	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成する	
	事前学修	発表レジュメを作成する	200分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
9	個人研究発表②	各自の研究テーマに関連した文献を1冊取り上げ、レジュメにまとめ発表し、ディスカッションする（2人）	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成する	
	事前学修	発表レジュメを作成する	200分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
10	個人研究発表③	各自の研究テーマに関連した文献を1冊取り上げ、レジュメにまとめ発表し、ディスカッションする（3人）	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成する	
	事前学修	発表レジュメを作成する	200分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
11	生権力論とは	到達目標①、③に関連し、教科書第5章の内容を的確に理解する	
	この回の到達目標	規律型権力と生権力との違いを理解する	
	事前学修	教科書5章を読み、内容をまとめてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
12	統治性の問い方	到達目標①、③に関連し、教科書第6章の内容を的確に理解する	
	この回の到達目標	フーコーの権力論と統治論との関連を理解する	
	事前学修	教科書6章を読み、内容をまとめてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自己統治の課題	到達目標①、③に関連し、教科書第7章の内容を的確に理解する	
	この回の到達目標	フーコーの生の歴史研究における自己統治と生権力について理解する	
	事前学修	教科書7章を読み、内容をまとめてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
14	フーコーの可能性	到達目標①、③に関連し、教科書第8章の内容を的確に理解する	
	この回の到達目標	フーコーの理論的可能性を理解する	
	事前学修	教科書8章を読み、内容をまとめてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
15	前期講義のまとめ	前期の講義全体を振り返り、パンデミックに対するフーコーの権力論の可能性を議論する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、⑥に関連して、理論と方法の活かし方を修得する	
	事前学修	教科書全体、発表レジュメ全体を復習しなおすこと	180分
	事後学修	前期15回の講義を振り返り、重要点を整理しなおすこと	120分
16	後期のガイダンスと導入講義	後期のスケジュールを確認し、議論の進め方や評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、ゼミナールの共有テーマと現代社会との関係を理解することができる	
	事前学修	共同研究のテーマの研究計画を各自考えてくること	120分
	事後学修	ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
17	公共建築の歴史①	日本の公共建築の歴史をグループワークによって整理する	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤に関連し、日本の近代化のなかで公共建築の建築史を把握することができる	
	事前学修	公共建築に関する文献を探索する	180分
	事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
18	公共建築の歴史②	日本の公共建築、とりわけ庁舎の歴史をグループワークによって整理する	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、庁舎の建築の歴史を年表化し、時代ごとの特徴をまとめることができる	
	事前学修	公共建築に関する文献を探索する	180分
	事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	公共建築の歴史③	日本の公共建築、とりわけ庁舎の歴史をグループワークによって整理する	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、代表的な庁舎建築を選び、マッピングすることができる	
	事前学修	公共建築に関する文献を探索する	180分
	事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
20	木曽町の庁舎建築の過程	木曽町の庁舎建築プロジェクトのプロセスをグループワークによって特徴をまとめる	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、木曽町の庁舎プロジェクトの背景を理解することができる	
	事前学修	木曽町の町の人口、産業など地勢に関する情報を収集する	180分
	事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
21	林業と循環経済	木曽町庁舎の特徴である、木材をめぐる循環経済の仕組みを、グループワークによってまとめる	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、循環型経済について理解することができる	
	事前学修	木材の生産・流通・加工・消費の過程について文献や資料を収集する	180分
	事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
22	戦後の林業政策	木町庁舎の背景となっている、戦後の林業行政について、グループワークによってまとめる	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥に関連し、林業行政について理解することができる	
	事前学修	林業行政の資料を収集する	180分
	事後学修	グループワークの内容を整理しデータベース化する	120分
23	共同研究報告書の作成①	木曽町庁舎プロジェクトと林業の循環型社会について、グループワークによって報告書を執筆、作成する	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、報告書を論文の形でまとめることができる	
	事前学修	報告書の草稿の執筆	180分
	事後学修	グループワークをふまえ、報告書の原稿の執筆	180分
24	共同研究報告書の作成②	木曽町庁舎プロジェクトと林業の循環型社会について、グループワークによって報告書を執筆、作成する	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、報告書を論文の形でまとめることができる	
	事前学修	報告書の草稿の執筆	180分
	事後学修	グループワークをふまえ、報告書の原稿の執筆	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	共同研究報告書の作成③	木曽町庁舎プロジェクトと林業の循環型社会について、グループワークによって報告書を執筆、作成する	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、報告書を論文の形でまとめることができる	
	事前学修	報告書の草稿の執筆	180分
	事後学修	グループワークをふまえ、報告書の原稿の執筆	180分
26	ゼミナール論文の構想発表①	各自のゼミナール論文の構想を発表し、相互にディスカッションする（2人）	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
	事前学修	ゼミナール論文構想のレジュメを作成する	120分
	事後学修	ディスカッションの内容をまとめ、構想を練り直す	120分
27	ゼミナール論文の構想発表②	各自のゼミナール論文の構想を発表し、相互にディスカッションする（2人）	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
	事前学修	ゼミナール論文構想のレジュメを作成する	120分
	事後学修	ディスカッションの内容をまとめ、構想を練り直す	120分
28	ゼミナール論文の構想発表③	各自のゼミナール論文の構想を発表し、相互にディスカッションする（3人）	
	この回の到達目標	到達目標③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、聞き手に分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
	事前学修	ゼミナール論文構想のレジュメを作成する	120分
	事後学修	ディスカッションの内容をまとめ、構想を練り直す	120分
29	新型コロナウイルスの映像分析	新型コロナウイルスのドキュメンタリー作品を視聴し、分析・ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会、生命や医療との関連を理解することができる	
	事前学修	パンデミックを扱った表象作品を各自見ておく	180分
	事後学修	ディスカッションの内容をまとめ整理しておく	120分
30	後期の講義の振り返りと4年生にむけた課題	後期の講義を振り返り、あらためて研究論文を書くための手法を確認する	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連して、研究論文の書き方を修得することができる	
	事前学修	ゼミナール論文構想で指摘された内容を振り返っておくこと	120分
	事後学修	研究論文の書き方の手法を整理しなおし、復習すること	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：メディア、情報流通に関する諸問題についてグループ毎に研究を行い、その成果を法桜祭で発表する。メディア系5大学合同ゼミに参加し、1月の合同発表会で研究成果を披露する。 4年次：3年次に学習した内容を参考に、自分の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナールでのディスカッションを通じて、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：1年次、2年次に学修した基礎的知識を発展させるために、メディア、情報流通に関する現代的な諸問題について理解する能力を修得する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、メディア、情報流通に関する諸問題への理解を深め、自分自身であるべき姿を提案できる能力を修得する。 関連DP及びCP：法律・経営法学科1, 7, 8 政治経済・新聞・公共政策学科1～8

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗状況の発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記、授業方法を参照。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、情報流通に関する基本概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。						3			3	3	
③	メディア、情報流通の現代的な諸課題に対し、あるべき姿を提案することができる。							3	3	3		3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての各能力が身についているかを、毎回のレポートにより評価する。	10	10									20
討論・発表等	到達目標①②③について各能力が身についているかを、発表およびディスカッションの発言内容により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文		15	35								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館 9 階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp)にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミの進め方 導入講義	レポートの書き方、発表の仕方など	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	グループ研究テーマを考える。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
2	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
3	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
4	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
5	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
6	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
8	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
9	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
10	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
11	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
12	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
14	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
15	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
16	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
17	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
18	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
20	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
21	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
22	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
23	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
24	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
26	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
27	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
28	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
29	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
30	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	澤田 康広	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：課題に関するレポート作成等を通じて刑事訴訟法の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容及び新たな課題への取組を通じて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
課題に関するレポート作成等を通じて刑事訴訟法の諸問題について学習し、問題解決能力を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：事前に出題した課題に関するレポートに基づいて、担当の学生が説明・報告し、その内容をもとにグループディスカッションを行い、適宜教員が解説する。		
4年次：事前に出題した課題に関するレポート作成、発表等を通じて各自が研究テーマを決定し、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、適宜教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションを行いながら、適宜、教員が解説して進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から判決に至るまでの各手続を理解し、各手続の適法性の基準を説明することができる。				3	3	3	3	3		3	
②	刑事手続の適法性を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。						3	3	3	3		3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければ ならない。 評価にあたっては、研究内容とゼミナール論文の内容のみ ならず、ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する。	40	60									100
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁ほか編	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
随時（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp）火曜昼休み研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として、自ら経験した具体的事例を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
2	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
3	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
4	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
5	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
6	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
8	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
9	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
10	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
11	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
12	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
14	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
15	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
16	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
17	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
18	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
20	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
21	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
22	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
23	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
24	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
26	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
27	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
28	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
29	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分
30	捜査	捜査に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。	
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。	120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の既存メディアをはじめ、WebやSNSから発信された事柄と、実社会との関係、その事柄が実社会に与える影響やその責任について分析する。 3年時は、グループでテーマを決め研究をし、11月のゼミフォーラムでの発表とその発表を冊子化する。4年次は卒業論文のテーマを自主的に決定しゼミナール講座では中間発表と、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員の指導等のアドバイスを受け、卒業論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代は、マスメディア個人から発信される動画、言葉などの「情報」が瞬時に世界を駆け巡り、その反応も早く、時には数時間のうちに世界情勢は大きな変化を見せる。そのただ中で「情報」が与える社会への影響、発信者の役割、責任を解明、学修する。

【履修条件】
新聞学科のみではなく他の4学科に在籍し、既存メディアに強い関心があり、Web、コミュニケーション、ジャーナリズムにも関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
学生の自主性に基づき、3年次は教員の助言や、先輩ゼミ生のアドバイスを受けながら討論をし、年間の研究テーマを決め、講座毎に研究調査のやり方を討論し、最終的に研究発表をし、その成果を冊子にまとめる。 4年次は、卒業論文を自主的に研究課題を選び、教員の助言等アドバイスを受けながら研究を進め、論文作成をし提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる。また、グループワークで映像表現について討論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	①メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、映像資料を見て、その内容について説明することができる。【知識】					3	3						
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、映像資料を見て、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。【知識】【技能】					3			3				
③	メディアで取り上げられた文字・文章、音声、映像等作品等資料を見て、その内容を踏まえて、自らの意見を述べる事が出来る。【態度】							3			3		
④	メディアで取り上げられた文字・文章、音声、映像等作品を見て、その内容を踏まえて、自らの意見を文章や映像等にまとめる事が出来る。【技能】								3		3		
⑤	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。【態度】									3	3		
⑥	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に進行やまとめ役をすることが出来る。【態度】										3	3	
⑦	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。【技能】									3			3
⑧	文字資料・映像資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【知識】【態度】										3		3
⑨	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】						3	3					3
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次には年に何度か提出させるレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑤にかかわる事が達成されているかを評価する	15	8	8	8	8	8	15				70
討論・発表等	到達目標にかかわる能力が身についているかを、映像表現等についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べる事ができたか等の評定尺度により受講生同士がお互いに評価する。(ピア評価)					4	4	4	4	4		20
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価する	1	1	1	1	1	2	3				10
その他(ゼミナル論文)	4年次に出される卒業論文で最終単位の評価をする。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	9	9	9	13	14	22	4	4		100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で触れる。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	参考書	推奨
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	推奨
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	推奨
もうダメされないための「科学」講義		菊池誠 他	光文社新書541	2011	参考書	推奨
社会の真実の見つけ方		堤 未果	岩波ジュニア文庫673	2011	参考書	推奨
街場のメディア論		内田 樹	光文社新書474	2010	参考書	推奨
備考	教科書は特に使用しないが、上記参考書は読んでおくことが望ましい。					

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、特にメディアと社会の関係で取り上げられているものは、解説を加え講座で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション～メディアとは何か～		イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。		150分
	事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。講座の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
2	現代社会とメディアの関係①		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
3	現代社会とメディアの関係②		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
4	現代社会とメディアの関係③		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、発表可能な課題を2～3に絞る。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
5	現代社会とメディアの関係④		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
6	現代社会とメディアの関係⑤		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。		
	事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	現代社会とメディアの関係⑥		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	
	事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
8	現代社会とメディアの関係⑦		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑨標に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	
	事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。	150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。	90分
9	メディアと社会の問題①		「メディアスクラム」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査・中間発表し、討論する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑩に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
	事前学修	「メディアスクラム」についての具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
	事後学修	「メディアスクラム」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
10	メディアと社会の問題② 「災害報道①」		「災害報道」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査・中間発表し、討論する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑩に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
	事前学修	「災害報道」についての具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
	事後学修	「災害報道」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
11	メディアと社会の問題③ 「災害報道②」		前回の講座を受けて「災害報道」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査・中間発表し、討論する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑩に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
	事前学修	「災害報道」についての具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
	事後学修	「災害報道」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
12	メディアと社会の問題④ 「SNSと既存メディア①」		「SNSと既存メディア」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査・中間発表し、討論する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑨に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
	事前学修	「SNSと既存メディア」についての具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する。	150分
	事後学修	「SNSと既存メディア」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	メディアと社会の問題⑤ 「SNSと既存メディア②」		前回の講座を受け「SNSと既存メディア」について講義、その問題点を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査中間発表し、討論する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑨に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
	事前学修	「SNSと既存メディア」についてのさらなる具体例を情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
	事後学修	「SNSと既存メディア」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。 フェイクニュースに騙されないための方策や、得た情報の拡散の方法に注意を払うにはどうしたら良いか授業内容をを受けて更に考察する。	90分
14	メディアと社会の問題⑥ 映像作品①		ある映像作品を上映し、その作品について、その問題点等を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査中間発表し、討論する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑨に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
	事前学修	「映像作品」についてのその具体的情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
	事後学修	ついて事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
15	メディアと社会の問題⑦ 映像作品②		ある映像作品を上映し、その作品について、その問題点等を討論する。 合わせて、本年の研究課題について調査中間発表し、討論する。
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。 また、到達目標⑥～⑨に関してメディアと社会の問題点の具体例の考察をできる。	
	事前学修	「映像作品」についての具体的情報収集し、社会との関係をどう論じられるか考察する	150分
	事後学修	「映像作品」について事前学習であられた情報と、講座における情報、討論の差異について記して省察する。	90分
16	課題研究発表準備		今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、発表の準備に入る。
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
	事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
	事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分
17	課題研究発表準備		今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
	事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
	事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分
18	課題研究発表準備		今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。	
	事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。	150分
	事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかもう一度考察する。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	課題研究発表準備		今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。		150分
	事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかも一度考察する。		90分
20	課題研究発表準備		今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。		150分
	事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかも一度考察する。		90分
21	課題研究発表準備		今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。		150分
	事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかも一度考察する。		90分
22	課題研究発表準備		今年度研究課題について、11月の発表に向けて、調査、研究、討論をし、具体的な説明文章、動画、画像、パワーポイント、レジュメの検討	
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	今年度研究課題について、完成のための資料収集、アポイントやインタビュー、説明用パワーポイントの作成、画像、映像作成、収集の準備をする。		150分
	事後学修	講座での資料の公開、討論、映像、画像等を見聞きして、よりわかりやすく本質に迫る表現がないかも一度考察する。		90分
23	課題研究発表反省 メディアと社会の今日的課題		今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化する準備をする。	
	この回の到達目標	到達目標⑥～⑩に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。		150分
	事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。		90分
24	課題研究発表文章化② メディアと社会の今日的課題		今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化するための討論等を行う。。	
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。		150分
	事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
25	課題研究発表文章化③ メディアと社会の今日的課題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化するための討論等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。	150分	
	事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。	90分	
26	課題研究発表文章化④ メディアと社会の今日的課題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化するための討論等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。	150分	
	事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。	90分	
27	課題研究発表文章化⑤ メディアと社会の今日的課題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化するための討論等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。	150分	
	事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。	90分	
28	課題研究発表文章化⑦ メディアと社会の今日的課題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化するための討論等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。	150分	
	事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。	90分	
29	課題研究発表文章化⑧ メディアと社会の今日的課題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化するための討論等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておく。	150分	
	事後学修	討論や私的の結果から、自分自身の担当域にかかわらず、全体を見直し適切な表現があればそちらを選択して、文章化にかかる。	90分	
30	課題研究発表文章化完成 メディアと社会の今日的課題	今年度研究課題発表終了後、その発表内容をもう一度精査し内容を再検討、よりブラッシュアップした形で冊子化を完成させる。		
	この回の到達目標	到達目標⑤～⑨に関して、課題を調査・研究し発表する。また、その内容を文章化と映像・画像を冊子として分かりやすくまとめることが出来る。		
	事前学修	発表した内容について、自分の担当域だけではなく全体の構成、表現、画像・映像、文章が適切であったかどうか確認し、省察しておき、完成のための最終案にする。	150分	
	事後学修	冊子を完成させ、ゼミ生で共有、また、HPに掲載する。	90分	

科目名	ゼミナール3年	担当者	清水 恵介	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法（財産法）に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法（財産法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ選択したテーマに関する高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（財産法）に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿や法律討論会、他のゼミナールとの合同勉強会など、学修効果を高めるための創意工夫を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法（財産法）に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3						
②	民法（財産法）に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3					
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。					3				3	3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。					3		3	3	3	3	3	3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、民法（財産法）につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	専門演習(6)		民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	専門演習(7)		民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	専門演習(8)		民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	専門演習(9)		民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	専門演習(10)		民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	専門演習(11)		民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	専門演習(12)		民法（財産法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	3年次前期のまとめ		これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法（財産法）に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	課題報告(1)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	課題報告(2)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	課題報告(3)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
20	課題報告(4)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
21	課題報告(5)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
22	課題報告(6)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
23	課題報告(7)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
24	課題報告(8)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	末澤 国彦	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
法学・歴史学の基礎的知識を共有した上で、近代日本で発生した法に関する事象について、個人研究発表、相互の議論、論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近代日本で発生した法的問題について、その原因、経過、後世への影響などの探求を目的とする。

【履修条件】
3、4年連続して受講すること。

【授業方法】		
法学の基礎知識を共有するときは、テキストの輪読を行う。各学生が担当箇所をまとめて発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。その後個人研究テーマを決定し、各学生が個人研究を行う。研究テーマについては、授業内で発表を行い、教員及び他学生が質問やコメントを行う。 論文執筆に当たっては、執筆方法や論文の構成などについて指導を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生の発表に基づき、相互に意見交換を行い、講評する。それをベースにして、次の研究発表を作成していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学・歴史学の基本的知識を得た上で、それを活用することができる。		3	3	3	3	3	3	3
②	個人研究のテーマを見つけ、それを発展的に研究することができる。		3	3	3	3	3	3	3
③	学生相互間で活発な理性的議論を行うことができる。		3	3	3	3	3	3	3
④	個人研究テーマについて、形式的に整ったレポートや論文を執筆することができる。		3	3	3	3	3	3	3
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分の見解を理性的に言語化し、論理的に示すことができる。	5	10	10	25							50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標に関わる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	25							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次、4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
研究発表に関しては、授業内で講評を行う。論文やレポートに関しては、事後的にコメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・日本近代法論	山中永之佑編	法律文化社	2002年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	1年間のゼミナール活動計画、研究計画を立てる。	
	この回の到達目標	これから1年間で何をするのか、どのように活動するのかを理解し、実行可能な研究計画を立てられるようにする。	
	事前学修	指定されたテキストをあらかじめ一読しておく。	120分
	事後学修	テキストの指定箇所を読み込み、レジュメ作成などの準備を行う。	120分
2	文献輪読	日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。	120分
3	文献輪読	日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。	120分
4	文献輪読	日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。	120分
5	文献輪読	日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。	120分
6	文献輪読	日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分
8	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分
9	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分
10	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分
11	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分
12	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分
14	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分
15	文献輪読		日本法制史の基礎文献（テキスト）を輪読する。担当者は、担当箇所についてレジュメを作成し、口頭発表を行う。担当者以外の者は、質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献の内容を理解する。また、内容について質問や意見が言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献について事前に調べ、問題点を洗い出しておく。また、関連するほかの文献も合わせて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回の輪読に向けて調査を行う。		120分
16	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
17	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
18	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
19	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
20	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
21	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
22	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
23	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
24	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
26	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
27	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
28	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
29	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外の者は、質問や意見を出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理してレジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外の者は、質問意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表の手めに必要な資料収集を行い、問題状況を整理しておく。また、他の学生の研究テーマにも関心を寄せておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査や探求をさらに行う。		120分
30	論文テーマ決定		これまでの研究発表の成果に基づき、ゼミナール論文のテーマを最終決定する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文としてまとめるための問題点及びテーマに対する視点を明確にさせる。		
	事前学修	これまでの研究発表の成果を、しっかりと把握しておく。		120分
	事後学修	ゼミナール論文執筆に向けて、さらなる文献調査や探求を行う。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	杉本 純子	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
倒産に関連する報道やニュース等についてグループディスカッションを行うことにより、現代社会における倒産手続の必要性を理解する。さらに、倒産法に関する事例問題や判例研究に取り組むことにより、倒産法の知識を習得し、問題点の抽出や分析をする力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
倒産法の知識を習得し、現代社会における倒産法の諸問題への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
倒産法Ⅰの講義を受講すること。

【授業方法】		
前学期は、倒産に関連する報道やニュース等についてグループディスカッションを行い、その成果について各グループに報告してもらう。さらに、倒産法に関する事例問題についてグループワークを行い、各グループに報告してもらう。 後学期は、倒産法に関する判例研究を行い、各自が一人で報告レジュメを作成して報告する。 各講義では、報告者の報告についてディスカッションを行いながら、検討を深める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、担当者から報告される研究テーマについてグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産処理制度について、社会における必要性和役割を説明することができる。【知識】				3	3						
②	倒産法における現代の諸問題について、文献や書籍等を用いながら調べることができる。【技能】				3		3	3				
③	倒産法に関する事例問題において、問題点の抽出や分析を行い、説明することができる。【知識】				3	3	2	3				2
④	問題点の抽出や分析をレジュメとして表現することができる。【技能】				2	3	2	3				
⑤	グループワークに積極的に参加し、議論やレジュメの作成に協力することができる【知識】				2	3				3	3	
⑥	報告者の報告を聞いて、ディスカッションを行いながら、自分の意見を述べることができる【知識】				3	3	3	2		3		3
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	グループワークや事例問題、判例研究等について報告レ ジュメを作成する。	10	10	10	10	10	10					60
討論・発表等	グループワークや事例問題、判例研究等について報告を行 う。また、他のゼミ生の発表を聞きながら、そのテーマに ついてディスカッションも行う。					10	10					20
授業への参画度	ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する。					10	10					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の講義時に、報告やディスカッションについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日12：00～13：00（事前にメールに t アポイントメントをとること）研究室：4 号館 4 1 3 研究室 sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミナールの進め方・今後のスケジュール	1年間のゼミナールの進め方や今後のスケジュールなどについて説明をする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、1年間のゼミナールの進め方やスケジュールを把握し、他のゼミ生と協調することができる。	
	事前学修	倒産に関連する報道やニュース等について、インターネットや図書館を利用しながら調べてみる。	120分
	事後学修	1年間のゼミナールの進め方と今後のスケジュールを確認し、グループワークのテーマについてインターネットや図書館などを利用しながら調査を始める。	120分
2	グループワーク① 【倒産に関連する報道・ニュースの検討①】	倒産に関連する報道やニュース等を調査し、各グループで関心のあるテーマを選定する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関し、倒産に関連する報道やニュースをインターネットや図書館等を利用しながら調査し、関心あるニュース等についてグループ内で共有することができる。	
	事前学修	倒産に関連する報道やニュース等について、インターネットや図書館を利用しながら調べ、関心のあるものを選定しておく。	120分
	事後学修	グループで選定したテーマについてさらに調査し、情報を収集する。	120分
3	グループワーク① 【倒産に関連する報道・ニュースの検討②】	各グループで選定したテーマについて、事前に各自が調査してきた情報を共有しながら、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、グループで関心あるテーマについて、その問題意識等を説明し、議論することができる。	
	事前学修	グループの関心あるテーマについて、図書館やインターネットなどを利用しながら調査を行い、問題意識を明確にする。	120分
	事後学修	グループで選定したテーマについて、講義時のディスカッションを通して気付いた問題点等を復習し、グループワークの成果物をまとめる作業に向けて準備しておく。	120分
4	グループワーク① 【倒産に関連する報道・ニュースの検討③】	各グループで選定したテーマについて、事前に各自が調査してきた情報を共有しながら、グループディスカッションを行い、報告用レジュメの作成を進める。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、グループのテーマについて検討・分析を行い、報告用レジュメの作成を進めることができる。	
	事前学修	グループのテーマについて、これまで収集した情報を整理しながら問題意識を明確にし、報告用レジュメ作成の準備をしておく。	120分
	事後学修	グループのテーマについて講義時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習して整理し、担当する報告レジュメ部分を作成する。	120分
5	グループワーク① 【倒産に関連する報道・ニュースの検討④】	グループワークの成果として、各グループが報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、倒産に関連する報道やニュースの中からグループで関心をもったテーマについて、その問題意識等や分析・検討について、グループで協力しながら説明することができる。	
	事前学修	報告を担当する部分についてレジュメの内容等を確認し、わかりやすく説明することができるよう、入念に準備をする。	120分
	事後学修	報告時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習する。	120分
6	グループワーク① 【倒産に関連する報道・ニュースの検討⑤】	グループワークの成果として、各グループが報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、倒産に関連する報道やニュースの中からグループで関心をもったテーマについて、その問題意識等や分析・検討について、グループで協力しながら説明することができる。	
	事前学修	報告を担当する部分についてレジュメの内容等を確認し、わかりやすく説明することができるよう、入念に準備をする。	120分
	事後学修	報告時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワーク② 【倒産法に関する事例問題の検討①】	倒産法に関する事例問題について、問題点の抽出や検討をグループワークで行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、倒産法に関する事例問題をよく読み、問題点を適格に抽出することができる。	
	事前学修	倒産法Ⅰの講義レジュメを復習し、これまでに得た倒産法の知識を確認する。	120分
	事後学修	事例問題を改めてよく読み、自分で図に表現するなどして理解を深め、問題点を理解する。	120分
8	グループワーク② 【倒産法に関する事例問題の検討②】	倒産法に関する事例問題について、問題点の抽出や検討をグループワークで行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、事例問題の問題点をグループ内で明確に理解し、ディスカッションを通して問題点の検討を行うことができる。	
	事前学修	事例問題の問題点について、図書館やデータベースなどを利用しながら情報収集を行っておく。	120分
	事後学修	事例問題の問題点や検討内容について復習し、さらに文献収集を行いながら検討を深める。	120分
9	グループワーク② 【倒産法に関する事例問題の検討③】	倒産法に関する事例問題について、問題点の抽出や検討をグループワークで行いながら、報告レジュメの作成を進める。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、事例問題の問題点をグループ内で明確に理解し、ディスカッションを通して問題点の検討を深め、報告レジュメの作成を進めることができる。	
	事前学修	事例問題の問題点や検討内容について、これまでの情報や文献を整理しながら、レジュメ作成の準備をする。	120分
	事後学修	グループディスカッションを通して行った検討内容を整理し、担当する報告部分についてレジュメを完成させる。	120分
10	グループワーク② 【倒産法に関する事例問題の検討④】	倒産法に関する事例問題について、問題点の抽出や検討をグループワークで行った成果を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、事例問題の問題点をグループ内で明確に理解し、ディスカッションを通して問題点の検討を深めた成果を説明することができる。	
	事前学修	担当する報告部分についてレジュメを完成させ、わかりやすく説明できるよう理解を深める。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、事例問題の検討結果や結論等を確認する。	120分
11	グループワーク③ 【倒産法に関する事例問題の検討①】	倒産法に関する事例問題について、問題点の抽出や検討をグループワークで行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、倒産法に関する事例問題をよく読み、問題点を適格に抽出することができる。	
	事前学修	倒産法Ⅰの講義レジュメを復習し、これまでに得た倒産法の知識を確認する。	120分
	事後学修	事例問題を改めてよく読み、自分で図に表現するなどして理解を深め、問題点を理解する。	120分
12	グループワーク③ 【倒産法に関する事例問題の検討②】	倒産法に関する事例問題について、問題点の抽出や検討をグループワークで行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、事例問題の問題点をグループ内で明確に理解し、ディスカッションを通して問題点の検討を深め、報告レジュメの作成を進めることができる。	
	事前学修	事例問題の問題点について、図書館やデータベースなどを利用しながら情報収集を行っておく。	120分
	事後学修	事例問題の問題点や検討内容について復習し、さらに文献収集を行いながら検討を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループワーク③ 【倒産法に関する事例問題の検討③】	倒産法に関する事例問題について、問題点の抽出や検討をグループワークで行いながら、報告レジュメの作成を進める。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、研究テーマの問題意識を明確にし、文章で表現して説明することができる。	
	事前学修	事例問題の問題点や検討内容について、これまでの情報や文献を整理しながら、レジュメ作成の準備をする。	120分
	事後学修	グループディスカッションを通して行った検討内容を整理し、担当する報告部分についてレジュメを完成させる。	120分
14	グループワーク④ 【倒産法に関する事例問題の検討④】	倒産法に関する事例問題について、問題点の抽出や検討をグループワークで行った成果を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、事例問題の問題点をグループ内で明確に理解し、ディスカッションを通して問題点の検討を深めた成果を説明することができる。	
	事前学修	担当する報告部分についてレジュメを完成させ、わかりやすく説明できるよう理解を深める。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、事例問題の検討結果や結論等を確認する。	120分
15	グループワークまとめ	これまで行ったグループワークを振り返りながら、グループディスカッションのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、前学期に行ったグループワークを振り返りながら、社会における倒産手続の必要性についてグループディスカッションを行う。	
	事前学修	これまでのグループワークを復習するとともに、倒産法Ⅰの講義で得た知識についても復習する。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、グループワークから学修したことをまとめる。	120分
16	判例研究の進め方	後学期のゼミナールのスケジュールを確認するとともに、後学期に行う判例研究の進め方について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関し、判例研究の進め方や調査方法について理解することができる。	
	事前学修	倒産法Ⅰの講義レジュメや、前学期のゼミナールで取り組んだ事例問題を振り返り、倒産法の知識を復習する。	120分
	事後学修	判例研究の進め方について復習し、指定された裁判例を自分で調べて読んでおく。	120分
17	裁判例の読み方	裁判例の読み方や、文献の調べ方、裁判例の検討方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関し、指定された裁判例を読み込み、問題の所在を明確にしたうえで、どのような検討を行うのか理解することができる。	
	事前学修	指定された裁判例を調べて読み込み、問題の所在を明確にする。	120分
	事後学修	裁判例の読み方を復習し、自分が取り組む裁判例の選定を始める。	120分
18	判例研究①	自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	判例研究②		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
20	判例研究③		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
21	判例研究④		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
22	判例研究⑤		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
23	判例研究⑥		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
24	判例研究⑦		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	判例研究⑧		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
26	判例研究⑨		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
27	判例研究⑩		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
28	判例研究⑪		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
29	判例研究⑫		自分の選定した裁判例の判例研究を行い、検討内容を報告レジュメにまとめ、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分で判例研究に取り組み、問題の所在を明確にして検討し、その内容をわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	自分の選定した裁判例を読み込み、問題の所在を明確にして検討を行い、検討内容を報告レジュメにまとめて、報告の準備をする。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、報告レジュメを修正する。		120分
30	判例研究まとめ		後学期に取り組んだ判例研究を振り返り、グループディスカッションをしながら、倒産法における裁判例の重要性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑥に関し、自分の取り組んだ判例研究を振り返りながら、倒産法における裁判例の重要性についてディスカッションを通して理解することができる。		
	事前学修	自分の取り組んだ判例研究を改めて復習する。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、倒産法における裁判例の重要性について自分の考えをまとめる。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	杉本 竜也	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学、政治思想および政治哲学に関する専門的な学修・研究を行う。 政治思想・政治哲学や政治理論の研究を通して、個人の自由と人格を尊重し、公共性への配慮を忘れず、弱者に対する共感と適切な批判精神を備えた市民の育成を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学・政治思想・政治哲学に関する知識や社会人に求められるスキルだけでなく、良識と良心をそなえた市民として必要とされる規範意識を身につけることも目的とする。 3年次においては、政治学・政治思想・政治哲学に関する基礎的な知識や理論の他、自身の考えを理論的に表現する方法を身につける。そして、自らが関心を持ったテーマの研究に必要な情報や知識の習得に努める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格した者のみを対象とする。

【授業方法】
課題図書の輪読を基礎としながら、学生による発表・プレゼンテーションを中心に授業を行う。その際、学生は積極的に議論を行う。また、法桜祭の際に行われる「学生フォーラム」（学生による研究発表）の準備を、学生間の議論を

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生による発表・プレゼンテーション、また議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	10	15									25
授業への参画度	ゼミナール内で実施する議論に積極的かつ主体的に参加し、論理的な発表を行うことができているかを評価する。	10	15									25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	政治学・政治思想史・政治哲学などの方法論や理論、またそれらに関する基本的概念を理解した上で、適切なテーマ・課題設定と論証を行い、論理的に結論を導き出すことに成功しているかを評価する。	25		15	10							50
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて指定する。				

【オフィスアワー】
火曜日16:20-17:00 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	専門演習(6)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
8	専門演習(7)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
9	専門演習(8)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
10	専門演習(9)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
11	専門演習(10)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
12	専門演習(11)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	専門演習(12)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	3年次前期のまとめ		これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	課題報告(1)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	課題報告(2)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	課題報告(3)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
20	課題報告(4)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
21	課題報告(5)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
22	課題報告(6)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
23	課題報告(7)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
24	課題報告(8)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	100分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	140分

科目名	ゼミナール3年	担当者	鈴木 貴大	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次には、コーポレート・ガバナンスを中心として、経営学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、グループごとに設定したテーマを研究成果としてまとめ、アウトプットする能力を身につける。4年次には、ゼミナールを通じて積み上げてきた知識の集大成として、自身が設定したテーマに関しての研究論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次には、企業と社会との関係を基礎として、ディスカッションや共同研究を通じて、多様な価値観や考え方に触れることで、学生の視野を広げることを目標とする。4年次には、卒業論文の執筆を通じて、コーポレート・ガバナンス、経営学に関する知識を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可能

【授業方法】
コーポレート・ガバナンス、経営学に関する基本書の輪読、グループディスカッション、共同研究を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	報告、およびディスカッションを学生が主体となって毎回行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	コーポレート・ガバナンス、経営学に関する基礎的知識を理解し、説明することができる。				3	3						
②	特定のテーマに関して、報告資料を作成し、発表することができる。				3	3	3					
③	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した問題意識をもち、グループで調査、資料作成、発表することができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
④	ディスカッションやディベートにおいて、自身で調査した内容を論理的に説明することができる。						4	4		4	4	4
⑤	コーポレート・ガバナンス、経営学に関して、自身で設定した研究テーマを論文として体系的にまとめることができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告資料の作成や発表、ディスカッションでの積極的な発言に関して、ゼミナール活動を通じて総合的に評価する。	10	10	10	10	10						50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(卒業論文)	自身で設定したテーマに基づいた卒業論文により評価を行う。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、講義内においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
金曜日 14:30-17:00 研究室（本館7階1705研究室） suzuki.takahiro05@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入講義	ゼミナール活動の流れを確認するとともに、発表分担の決定を行う。	
	この回の到達目標	ゼミナール活動の流れを理解し、グループメンバーで発表資料の作成を行う。	
	事前学修	シラバスをよく読み、ゼミナール活動の概観を把握する。	120分
	事後学修	グループで発表資料の作成を行う。	120分
2	グループ発表：経営学の基礎知識(1)	教科書、第1章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
3	グループ発表：経営学の基礎知識(2)	教科書、第2章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
4	グループ発表：経営学の基礎知識(3)	教科書、第3章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
5	グループ発表：経営学の基礎知識(4)	教科書、第4章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
6	グループ発表：経営学の基礎知識(5)	教科書、第5章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループ発表：経営学の基礎知識(6)	教科書、第6章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
8	グループ発表：経営学の基礎知識(7)	教科書、第7章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
9	グループ発表：経営学の基礎知識(8)	教科書、第8章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
10	グループ発表：経営学の基礎知識(9)	教科書、第9章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
11	グループ発表：経営学の基礎知識(10)	教科書、第10章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
12	グループ発表：経営学の基礎知識(11)	教科書、第11章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループ発表：経営学の基礎知識(12)	教科書、第12章に関するグループ発表とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループによる発表、およびディスカッションを通じて、該当箇所の理解を深める。	
	事前学修	教科書の該当する箇所を熟読し、各自質問を準備する。	120分
	事後学修	発表、およびディスカッションの内容に関して、自身の考えをまとめる。	120分
14	共同研究に関するテーマ選定	共同研究のテーマをグループで議論する。	
	この回の到達目標	経営学の基礎知識を基に、グループで共同研究のテーマを決定する。	
	事前学修	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連する研究テーマの候補を調査、選定する。	120分
	事後学修	グループで発表資料の作成を行う。	120分
15	共同研究に関するテーマ発表	共同研究のテーマを発表	
	この回の到達目標	共同研究のテーマをゼミナール全体で共有する。	
	事前学修	共同研究のテーマに関して、問題意識、研究の方向性をグループで議論し、資料としてまとめる。	120分
	事後学修	グループで発表資料の作成を行う。	120分
16	共同研究の中間報告(1)	共同研究の中間報告を行う。	
	この回の到達目標	共同研究の成果を報告し、ゼミナール全体で内容を議論する。	
	事前学修	グループで共同研究の発表準備を行う。	120分
	事後学修	グループで改善点を共有し、適宜内容を修正する。	120分
17	グループディスカッション(1)	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した事例を基に、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループディスカッションを通じて、多様な価値観、考え方に触れ、視野を広げる。	
	事前学修	配布資料に基づき、関連する事項を各自で調べる。	120分
	事後学修	グループディスカッションの内容、および他のグループの意見を踏まえて、自身の考えをまとめる。	120分
18	グループディスカッション(2)	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した事例を基に、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループディスカッションを通じて、多様な価値観、考え方に触れ、視野を広げる。	
	事前学修	配布資料に基づき、関連する事項を各自で調べる。	120分
	事後学修	グループディスカッションの内容、および他のグループの意見を踏まえて、自身の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	共同研究の中間報告(2)	共同研究の中間報告を行う。	
	この回の到達目標	共同研究の成果を報告し、ゼミナール全体で内容を議論する。	
	事前学修	グループで共同研究の発表準備を行う。	120分
	事後学修	グループで改善点を共有し、適宜内容を修正する。	120分
20	グループディスカッション(3)	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した事例を基に、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループディスカッションを通じて、多様な価値観、考え方に触れ、視野を広げる。	
	事前学修	配布資料に基づき、関連する事項を各自で調べる。	120分
	事後学修	グループディスカッションの内容、および他のグループの意見を踏まえて、自身の考えをまとめる。	120分
21	グループディスカッション(4)	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した事例を基に、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループディスカッションを通じて、多様な価値観、考え方に触れ、視野を広げる。	
	事前学修	配布資料に基づき、関連する事項を各自で調べる。	120分
	事後学修	グループディスカッションの内容、および他のグループの意見を踏まえて、自身の考えをまとめる。	120分
22	共同研究の中間報告(3)	共同研究の中間報告を行う。	
	この回の到達目標	共同研究の成果を報告し、ゼミナール全体で内容を議論する。	
	事前学修	グループで共同研究の発表準備を行う。	120分
	事後学修	グループで改善点を共有し、適宜内容を修正する。	120分
23	グループディスカッション(5)	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した事例を基に、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループディスカッションを通じて、多様な価値観、考え方に触れ、視野を広げる。	
	事前学修	配布資料に基づき、関連する事項を各自で調べる。	120分
	事後学修	グループディスカッションの内容、および他のグループの意見を踏まえて、自身の考えをまとめる。	120分
24	グループディスカッション(6)	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した事例を基に、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループディスカッションを通じて、多様な価値観、考え方に触れ、視野を広げる。	
	事前学修	配布資料に基づき、関連する事項を各自で調べる。	120分
	事後学修	グループディスカッションの内容、および他のグループの意見を踏まえて、自身の考えをまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	共同研究の中間報告(4)	共同研究の中間報告を行う。	
	この回の到達目標	共同研究の成果を報告し、ゼミナール全体で内容を議論する。	
	事前学修	グループで共同研究の発表準備を行う。	120分
	事後学修	グループで改善点を共有し、適宜内容を修正する。	120分
26	グループディスカッション(7)	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した事例を基に、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループディスカッションを通じて、多様な価値観、考え方に触れ、視野を広げる。	
	事前学修	配布資料に基づき、関連する事項を各自で調べる。	120分
	事後学修	グループディスカッションの内容、および他のグループの意見を踏まえて、自身の考えをまとめる。	120分
27	グループディスカッション(8)	コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した事例を基に、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	グループディスカッションを通じて、多様な価値観、考え方に触れ、視野を広げる。	
	事前学修	配布資料に基づき、関連する事項を各自で調べる。	120分
	事後学修	グループディスカッションの内容、および他のグループの意見を踏まえて、自身の考えをまとめる。	120分
28	共同研究のフィードバック	共同研究の成果を報告する。	
	この回の到達目標	共同研究の成果を報告し、ゼミナール全体で共有する。	
	事前学修	グループで共同研究の成果を議論する。	120分
	事後学修	自身のグループのみならず、他のグループの成果を踏まえ、自身の考えをまとめる。	120分
29	卒業論文のテーマ選定	次年度の活動に向けて、卒業論文のテーマを選定する。	
	この回の到達目標	卒業論文のテーマを発表し、ゼミナール全体で共有する。	
	事前学修	自身の興味や関心を整理し、コーポレート・ガバナンス、経営学に関連した研究テーマを選定する。	120分
	事後学修	自身で選定したテーマの研究計画を立てる。	120分
30	総括	1年間のゼミナール活動の総括を行う。	
	この回の到達目標	1年間のゼミナール活動を振り返り、次年度の目標を計画する。	
	事前学修	各自で、1年間の振り返りを行う。	120分
	事後学修	各自で次年度の目標を計画する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	高橋 雅夫	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、学修効果を高めるため合宿やフィールドワークなどを行うほか、履修者からの要望も考慮しつつ授業を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3				
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3						
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。								3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指示する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10～13:00（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（本館6階1609） takahashi.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	専門演習(6)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	専門演習(7)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	専門演習(8)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	専門演習(9)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	専門演習(10)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	専門演習(11)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	専門演習(12)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	3年次前期のまとめ		これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	課題報告(1)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	課題報告(2)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	課題報告(3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	課題報告(4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	課題報告(5)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	課題報告(6)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	課題報告(7)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	課題報告(8)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	高畑 英一郎	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：憲法の主要判例を読み込むことによって、現在の憲法的現実を理解する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法に関連する現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定できるようになることを目標とする。また、憲法的素養の向上とともに、論理的思考力、問題発見能力、問題分析能力、衡平（バランス）感覚の養成を目指す。 4年次：憲法に関する現代の諸問題への理解を深め、自らの意見をゼミナール論文にまとめる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：報告担当者が割り当てられた憲法判例の内容・関連判例・学説状況などを報告する。他のゼミ生は、担当者の報告に対して質問することが求められる。そして、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。夏合宿において、中間発表を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年次、4年次ともに、ゼミ生は担当する課題やゼミナール論文の内容について報告するとともに、他のゼミ生との質疑応答をしなければならない。報告することともに、他の参加者とともに議論を展開することが求められる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法の基本的内容の理解				4	4						
②	基本的な憲法判例の内容の理解					4	4	4				
③	判例が説示する判例法理の理解					4	4	4				
④	論理的思考力、問題発見能力、問題分析能力、衡平（バランス）感覚の体得						4	4	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミ生は担当する課題を調査し、ゼミに置いて報告することが求められる。	5	5	5	10							25
授業への参画度	報告担当ではないゼミ生は、積極的に質疑応答に参加することが求められる。	5	5	5	10							25
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール4年次にゼミナール論文の提出が求められる。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミの時間において各報告に対して講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
スタートアップ憲法判例50！ 2版	上田健介ほか	有斐閣	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜18:00～ 9号館3階 高畑研究室(9303室)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	判例研究		憲法の基本判例を検討する。この講義は対面式で実施する。
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
2	判例研究		憲法の基本判例を検討する。
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
3	判例研究		憲法の基本判例を検討する。
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
4	判例研究		憲法の基本判例を検討する。
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
5	判例研究		憲法の基本判例を検討する。
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
6	判例研究		憲法の基本判例を検討する。
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
8	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
9	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
10	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
11	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
12	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
14	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
15	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
16	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
17	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
18	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
20	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
21	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
22	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
23	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分
24	判例研究		憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。		
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。		120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
26	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
27	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
28	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
29	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分
30	判例研究	憲法の基本判例を検討する。	
	この回の到達目標	憲法の基本判例を分析し、その法理の理解に努めるとともに、関連判例、当該問題に関する学説を調査し考察する。	
	事前学修	検討対象の憲法判例を熟読し、判決理由の構造を分析する。さらには、関連判例、当該問題に関する学説を調査する。	120分
	事後学修	関連判例、当該問題に関する学説と照らし合わせながら、判決理由の構造を再検討する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	竹内 敏夫	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
特許法を中心として、知的財産法全般について、法律的な制度や判例などの考え方を学ぶとともに、現代的な課題についても発表を行い、ディスカッションを行うことで理解を深めていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法を中心として、知的財産法に関して、その制度の内容や現代的な問題を指摘し、これらを説明できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
各テーマに基づいてグループごとに調べてきた内容を発表し、これに対してディスカッションをすることを中心とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマの発表とそれに対するディスカッション及びフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の基礎を理解し、説明することができる。				3	3					3	3
②	知的財産法の各制度について理解を深め、説明することができる。						3	3			3	3
③	知的財産権に関する現代的な問題点について理解を深め、説明することができる。								3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③について、ポイントを押さえた発表が行えているかについて評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	到達目標②③について、積極的に授業にかかわり発言を行っているかについて評価する。		10	10								20
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③について、ゼミナール論文により評価する。	10	20	20								50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のプレゼン発表の内容に基づいて適宜フィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準特許法第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12時10分～13時 教員研究室（事前に連絡のこと）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	知的財産法の概要	
	この回の到達目標	到達目標①について、知的財産法の概要を理解する。	
	事前学修	知的財産法の概要を調べてくる。	120分
	事後学修	知的財産法の概要を整理する。	120分
2	特許法の目的	特許法第1条の目的について議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、特許法第1条の法目的の内容を理解する。	
	事前学修	特許法第1条について調べてくる。	120分
	事後学修	特許法の法目的について整理する。	120分
3	特許要件 1	特許法第29条1項柱書について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、特許要件の「産業上利用性」「発明」の内容を理解する。	
	事前学修	「産業上利用性」「発明」の内容について調べてくる。	120分
	事後学修	「産業上利用性」「発明」の内容について整理する。	120分
4	特許要件 2	特許法第29条1項各号について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、特許要件の新規性の内容について理解する。	
	事前学修	特許要件の新規性について調べてくる。	120分
	事後学修	特許要件の新規性について整理する。	120分
5	特許要件 3	特許法第29条2項について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、特許要件の進歩性について理解する。	
	事前学修	進歩性の内容を調べてくる。	120分
	事後学修	進歩性の内容を整理する。	120分
6	新規性喪失の例外	特許法第30条について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、新規性喪失の例外の趣旨、内容について理解する。	
	事前学修	新規性喪失の例外の趣旨、内容について調べてくる。	120分
	事後学修	新規性喪失の例外の趣旨、内容について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特許出願の主体的要件	特許出願人と発明者について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、特許出願人と発明者について理解する。	
	事前学修	特許出願人と発明者について調べてくる。	120分
	事後学修	特許出願人と発明者について整理する。	120分
8	職務発明制度	特許法35条について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、職務発明制度について理解する。	
	事前学修	職務発明制度について調べてくる。	120分
	事後学修	職務発明制度について整理する。	120分
9	特許の記載要件	特許法36条について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、特許出願書類の記載要件について理解する。	
	事前学修	特許出願書類の記載要件について調べてくる。	120分
	事後学修	特許出願書類の記載要件について整理する。	120分
10	発明の単一性	特許法37条について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、発明の単一性について理解する。	
	事前学修	発明の単一性について調べてくる。	120分
	事後学修	発明の単一性について整理する。	120分
11	先願主義	特許法第39条について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、先願主義について理解する。	
	事前学修	先願主義について調べてくる。	120分
	事後学修	先願主義について整理する。	120分
12	国内優先権制度	国内優先権制度について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、国内優先権制度について理解する。	
	事前学修	国内優先権制度について調べる。	120分
	事後学修	国内優先権制度について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	特許出願の分割・変更	特許法第44条、第46条について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、特許出願の分割について理解する。	
	事前学修	特許出願の分割・変更について調べてくる。	120分
	事後学修	特許出願の分割・変更について整理する。	120分
14	審査手続き	審査手続きの流れについて	
	この回の到達目標	到達目標①②について、審査手続きの流れについて理解する。	
	事前学修	審査手続きの流れを調べてくる。	120分
	事後学修	審査手続きの流れを整理する。	120分
15	補正	手続補正について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、手続補正について理解する。	
	事前学修	手続補正について調べてくる。	120分
	事後学修	手続補正についてまとめる。	120分
16	特許権	特許権の内容について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、特許権の内容について理解する。	
	事前学修	特許権の内容について調べてくる。	120分
	事後学修	特許権の内容について整理する。	120分
17	効力が及ばない範囲	特許権の効力が及ばない範囲について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、特許権の効力が及ばない範囲について理解する。	
	事前学修	特許権の効力が及ばない範囲について調べてくる。	120分
	事後学修	特許権の効力が及ばない範囲について整理する。	120分
18	技術的範囲	技術的範囲と均等論について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、技術的範囲と均等論について理解する。	
	事前学修	技術的範囲と均等論について調べてくる。	120分
	事後学修	技術的範囲と均等論について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	特許権の共有・移転	特許権の共有・移転について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、特許権の共有・移転について理解する。	
	事前学修	特許権の共有・移転について調べてくる。	120分
	事後学修	特許権の共有・移転について整理する。	120分
20	許諾による実施権	実施権（特許法77条、78条）の内容について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、実施権（特許法77条、78条）の内容について理解する。	
	事前学修	実施権（特許法77条、78条）の内容について調べてくる。	120分
	事後学修	実施権（特許法77条、78条）の内容について整理する。	120分
21	法定実施権・裁定実施権	法定実施権・裁定実施権について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、法定実施権・裁定実施権について理解する。	
	事前学修	法定実施権・裁定実施権について調べてくる。	120分
	事後学修	法定実施権・裁定実施権について整理する。	120分
22	差止請求権	差止請求権（特許法100条）について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、差止請求権（特許法100条）について理解する。	
	事前学修	差止請求権（特許法100条）について調べてくる。	120分
	事後学修	差止請求権（特許法100条）について整理する。	120分
23	間接侵害	間接侵害（特許法101条）について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、間接侵害（特許法101条）について理解する。	
	事前学修	間接侵害（特許法101条）について調べてくる。	120分
	事後学修	間接侵害（特許法101条）について整理する。	120分
24	損害賠償等に関する規定	損害賠償等に関する規定（特許法102条～106条）について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、損害賠償等に関する規定（特許法102条～106条）について理解する。	
	事前学修	損害賠償等に関する規定（特許法102条～106条）について調べてくる。	120分
	事後学修	損害賠償等に関する規定（特許法102条～106条）について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	特許異議申し立て制度	特許異議申し立て制度について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、特許異議申し立ての制度について理解する。	
	事前学修	特許異議申し立て制度について調べてくる。	120分
	事後学修	特許異議申し立て制度について整理する。	120分
26	拒絶査定不服審判等	拒絶査定不服審判等査定系審判について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、拒絶査定不服審判等査定系審判について理解する。	
	事前学修	拒絶査定不服審判等査定系審判について調べてくる。	120分
	事後学修	拒絶査定不服審判等査定系審判について整理する。	120分
27	特許無効審判等	特許無効審判等当事者系審判について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、特許無効審判等当事者系審判について理解する。	
	事前学修	特許無効審判等当事者系審判について調べてくる。	120分
	事後学修	特許無効審判等当事者系審判について整理する。	120分
28	審決取消訴訟	審決取消訴訟について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、審決取消訴訟について理解する。	
	事前学修	審決取消訴訟について調べてくる。	120分
	事後学修	審決取消訴訟について整理する。	120分
29	国際特許出願に関する手続	国際特許出願に関する手続について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、国際特許出願に関する手続について理解する。	
	事前学修	国際特許出願に関する手続について調べてくる。	120分
	事後学修	国際特許出願に関する手続について整理する。	120分
30	刑事罰	刑事罰について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、刑事罰について理解する。	
	事前学修	刑事罰について調べてくる。	120分
	事後学修	刑事罰について整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：公共経済学と行動経済学における基礎理論を身につけるためにテキストの輪読とディスカッションを行う。 4年次：3年次にが学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを見つけ、グループでゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：経済学、特に公共経済学と行動経済学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
3年次：演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者が担当箇所について説明を行う。すべての履修者が少なくとも1回は担当するように割り当てる。詳しい方法は第1回もしくは第2回授業で説明する。 4年次：グループで研究テーマを見つけ、それに対する調査・分析・論文作成を協働して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済学、特に公共経済学と行動経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④	解決すべき現代の社会問題に関する問いを自ら見つけることができる。				4	3		3	4			
⑤	上記問いに対して経済学に基づいた解決策を発信することができる。					4	4	4	4	4		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10									20
授業への参画度	到達目標②③について、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		10	10								20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文によって、到達目標④⑤についてに関わる能力が身についているかを評価する。				20	40						60
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	20	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の報告に対して、授業中に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	第1回もしくは第2回授業の際に指示する。				

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の進め方や教科書の他、成績評価の方法について説明を行う。その後に、行動経済学について講義する。	
	この回の到達目標	ゼミナールで学ぶことの意義について認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容を再確認し、授業で学んだ行動経済学とはどのような学問かについて復習する。	120分
2	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
3	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
4	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
5	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
6	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
8	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
9	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
10	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
11	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
12	文献①の輪読		担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
14	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
15	文献①の輪読	担当者が分担して、文献①の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献①の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
16	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
17	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
18	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。		
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。		120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。		120分
20	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。		
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。		120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。		120分
21	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。		
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。		120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。		120分
22	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。		
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。		120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。		120分
23	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。		
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。		120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。		120分
24	文献②の輪読		担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。		
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。		120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
26	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
27	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
28	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
29	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分
30	文献②の輪読	担当者が分担して、文献②の指定された箇所の説明をレジメを使って行い、その後に全員でディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	文献②の指定された箇所の内容を理解できる。	
	事前学修	報告者以外も事前に指定された箇所を読み、内容を理解する。	120分
	事後学修	授業での担当者と教員の説明をふりかえり、該当箇所を読み直して、内容を理解する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	立福 家徳	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
立福ゼミナール（経済政策論）は、根拠に基づく政策立案（EBPM）について学び、現実の社会課題についてそのどこが問題か、それを解決するための政策介入について考える。具体的には、少子高齢化、教育、医療、貧困・格差、まちづくり、環境、国際協力など、身近な社会課題を取り上げ、データ分析、議論の作法、論文執筆方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政策研究における基礎的な手法について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で、他のメンバーとの協働の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミのメンバーとの議論を通じて論文としてまとめていく。そうした活動を通じて、政策研究の奥深さに気づき、データ分析、論理的思考を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】
3年次：統計手法と論文執筆に関する講義と、パソコンを使った実習を終えたのち、グループ論文について発表し討論を行い作成する。合宿も開催する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時、発表を行い、ゼミ論文をまとめる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	3年次：グループ論文についての報告とそれに対する討論をおこなう。 4年次：ゼミ論文についての報告とそれに対する討論を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済政策に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3						
②	計量分析に関する手法や留意点を深く理解し、これを適切に用いて研究を進めることができる。							4	4	4			
③	プレゼンテーションについての技術や方法について理解し、自分の研究について論理的に報告することが出来る。									3	3	3	
④	他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働してグループ論文執筆作業に取り組むことができる。										4	4	4
⑤	他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、課題を解決しながら段階的にゼミ論文の執筆を進めることができる。										4	4	4
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次に作成されるグループ論文について、学術論文としての形式を守ったうえで、論理的な記述を行っているかを評価する。				20							20
討論・発表等	グループ論文やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する議論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	3	4	3								10
授業への参画度	講義での積極的な発言、ゼミ全体に対する貢献を評価する。	3	4	3								10
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文について、学術論文としての形式を守ったうえで、論理的な記述を行っているかを評価する。					60						60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	8	6	20	60						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後にその都度対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
計量経済学の第一歩-実証分析のススメ-	田中隆一	有斐閣	2015	参考書	推奨
EBPMの経済学：エビデンスを重視した政策立案	大橋弘 編	東京大学出版会	2020	参考書	任意
「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法	中室牧子・津川友介	ダイヤモンド社	2017	参考書	任意
「家族の幸せ」の経済学 データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実	山口慎太郎	光文社	2019	参考書	任意
備考	教科書は用いない				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	ゼミの方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。また、根拠に基づく政策立案（EBPM）について日本及び各国の取り組みについて紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミ活動の全体像を把握すると共に、根拠に基づく政策立案（EBPM）について学び、学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、1年間の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認する。	120分
2	政策論文の執筆方法	政策論文の執筆方法についてその概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、論文執筆の流れについて説明できる。	
	事前学修	講義資料を基に論文執筆とはどのようなものかおおまかに理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、今後の進め方について、自分なりのイメージをまとめる。	120分
3	計量経済学の方法①	計量経済学の方法について、データの加工、確率論と確率分布について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、データの加工方法、確率論について説明できる。	
	事前学修	講義資料を基に内容の概観を理解しておくこと。	60分
	事後学修	E x c e lを用いてデータの加工を行う。	180分
4	計量経済学の方法②	計量経済学の方法について、標本平均、不偏性、一致性、大数の法則について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、不偏性、一致性について説明できる。	
	事前学修	講義資料を基に内容の概観を理解しておくこと。	60分
	事後学修	E x c e lを用いて統計的実証の操作を行う。	180分
5	計量経済学の方法③	計量経済学の方法について、単回帰分析と重回帰分析について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、重回帰分析のメリット、生じる問題について説明できる。	
	事前学修	講義資料を基に内容の概観を理解しておくこと。	60分
	事後学修	E x c e lを用いて回帰分析の操作を行う。	180分
6	グループワーク①	グループ論文のテーマを決め	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、これら取り組んでいく、グループ論文のテーマを決めることができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文のテーマ案について相談をし、報告資料を作成する。	180分
	事後学修	ゼミで決定したテーマについて下調べを行う。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワーク②	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
8	グループワーク③	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
9	グループワーク④	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
10	グループワーク⑤	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
11	グループワーク⑥	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
12	グループワーク⑦	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グループワーク⑧	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
14	グループワーク⑨	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
15	グループワーク⑩	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、先行研究やデータについてサーチし、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
16	グループワーク⑪	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
17	グループワーク⑫	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
18	グループワーク⑬	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	グループワーク⑭	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
20	グループワーク⑮	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
21	グループワーク⑯	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
22	グループワーク⑰	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
23	グループワーク⑱	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
24	グループワーク⑲	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	グループワーク⑳	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
26	グループワーク㉑	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
27	グループワーク㉒	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
28	グループワーク㉓	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
29	グループワーク㉔	グループごとの共同作業を通じて論文を作成し、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	グループのメンバーで、論文を執筆し、報告資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
30	まとめ	来年度のゼミ論文執筆に向けた、スケジュール等について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、来年度のゼミ論文執筆について具体的なイメージができる。	
	事前学修	来年度のゼミ論文のテーマについて考えてくる。	120分
	事後学修	来年度のゼミ論文執筆に向けて準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	田中 夏樹	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法に関する理論や重要判例を学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法に関する重要な理論について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し、民法に関する理論への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：少人数のグループに分かれて重要判例を検討・報告する。報告された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	民法における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				3	3						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察し、他者と意見交換ができる。				4	4	4	4		3	3	3
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、民法における課題を自ら探求することができる。				4	4	4	4	4		3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	重要判例に関する報告や事例問題における討論の内容に応じて評価する。	5	5	10	10							30
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を執筆し、それを評価対象とする。	10	10	25	25							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール論文の執筆経過に応じて講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業において適宜指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		ゼミの進め方や課題について説明を行う	
	この回の到達目標	①②に関連し、民法の体系を理解し、民法が社会で果たす機能を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に民法の中で興味のある分野や研究してみたい項目をあげておく。		120分
	事後学修	指定された課題について、グループで検討を行う。		120分
2	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
3	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
4	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
5	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
6	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
8	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
9	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
10	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
11	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
12	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
14	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
15	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
16	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
17	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
18	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
20	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
21	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
22	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
23	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
24	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
26	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
27	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
28	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
29	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
30	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の憲法学・比較憲法学における重要トピックについて学ぶとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、これに関する研究論文を作成する。 3年次ゼミで取り扱うテーマについては、受講生と相談の上で決定する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法学・比較憲法学における重要トピックを学ぶとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、これを研究する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容にもとづいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
ゼミ受講生による報告・グループディスカッション・ディベートを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションによる憲法問題に関する討論	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代の憲法問題を考察することで、現代社会に関する深い知識を修得し、社会問題に対するアプローチを見出すことができる。					3	3	3	3				
②	比較憲法学の知見を修得し、「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。						3	3	3	3			
③	自己の研究について、内容や手法を含めて、他者に明確に説明し、また他の者の研究発表に対しても質疑・コメントができる。									3	3	3	
④	興味をもった憲法問題について、アカデミックな研究手法を用いて、研究論文が執筆できる。						4	4	4	4			4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の報告発表における準備のよさや報告のクオリティを総合的に評価する。	10	10	20								40
授業への参画度	自分以外のゼミ生の報告に対する質疑などを総合的に評価する。			10								10
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の完成度や独自性を総合的に評価する。				50							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
各ゼミ回での教員による解説・評価	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回のゼミで指示する				

【オフィスアワー】	
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館1607） tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・導入講義		ゼミナールの意義や今後のスケジュール、ゼミの進行などについて概説する。	
	この回の到達目標	今後のゼミの進行やゼミの準備の仕方を理解し、次回以降のゼミの準備ができる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		120分
	事後学修	次のゼミに関する資料を読み、各自で準備をする。		120分
2	第1回討論テーマの事前報告		第1回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第1回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。		150分
3	第1回討論テーマに関するディベート		グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第1回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。		
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。		90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめる。		150分
4	第2回討論テーマの事前報告		第2回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第2回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。		150分
5	第2回討論テーマに関するディベート		グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第2回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。		
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。		90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめる。		150分
6	第3回討論テーマの事前報告		第3回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第3回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3回討論テーマに関するディベート		グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第3回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。		
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。		90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。		150分
8	第4回討論テーマの事前報告		第4回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第4回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。		150分
9	第4回討論テーマに関するディベート		グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第4回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。		
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。		90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。		150分
10	第5回討論テーマの事前報告		第5回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第5回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。		150分
11	第5回討論テーマに関するディベート		グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第5回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。		
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。		90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめておく。		150分
12	第6回討論テーマの事前報告		第6回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第6回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第6回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し，討論を行う。	
	この回の到達目標	第6回の討論テーマについて，ディベート，討論を通じてより深く理解し，自己の見解を深めることができる。	
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて，各人が自己の見解を形成しておく。	90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し，ペーパーにまとめる。	150分
14	前期ゼミまとめ①	前期のゼミで行ったディベート・討論について振り返る。	
	この回の到達目標	前期ゼミでの討論テーマを再度確認し，問題がどこにあったのかを説明できる。	
	事前学修	これまでの討論テーマに関する自己の見解を示したペーパーを見直しておく。	120分
	事後学修	必要に応じてペーパーの修正を行う。	120分
15	前期ゼミまとめ②	前期のゼミで行ったディベート・討論について振り返る。	
	この回の到達目標	前期ゼミでの討論テーマを再度確認し，問題がどこにあったのかを説明できる。	
	事前学修	これまでの討論テーマに関する自己の見解を示したペーパーを見直しておく。	120分
	事後学修	必要に応じてペーパーの修正を行う。	120分
16	第7回討論テーマの事前報告	第7回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第7回の討論テーマについて，前提となる知識を身につけ，ディベートのための意見を形成できる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分
17	第7回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し，討論を行う。	
	この回の到達目標	第7回の討論テーマについて，ディベート，討論を通じてより深く理解し，自己の見解を深めることができる。	
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて，各人が自己の見解を形成しておく。	90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し，ペーパーにまとめる。	150分
18	第8回討論テーマの事前報告	第8回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第8回の討論テーマについて，前提となる知識を身につけ，ディベートのための意見を形成できる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	第8回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第8回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめる。	150分
20	第9回討論テーマの事前報告	第9回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第9回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分
21	第9回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第9回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめる。	150分
22	第10回討論テーマの事前報告	第10回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第10回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分
23	第10回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第10回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめる。	150分
24	第11回討論テーマの事前報告	第11回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第11回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	第11回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第11回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめる。	150分
26	第12回討論テーマの事前報告	第12回の討論テーマに関連する学説・判例などを担当グループが報告する。さらに報告に関する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	第12回の討論テーマについて、前提となる知識を身につけ、ディベートのための意見を形成できる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	各グループでディベートに向けたディスカッションを行う。	150分
27	第12回討論テーマに関するディベート	グループディスカッションで得られた意見を各グループが発表し、討論を行う。	
	この回の到達目標	第12回の討論テーマについて、ディベート、討論を通じてより深く理解し、自己の見解を深めることができる。	
	事前学修	事前のグループディスカッションの内容を受けて、各人が自己の見解を形成しておく。	90分
	事後学修	討論テーマに関する自己の見解を整理し、ペーパーにまとめる。	150分
28	後期ゼミまとめ①	後期のゼミで行ったディベート・討論について振り返る。	
	この回の到達目標	後期ゼミでの討論テーマを再度確認し、問題がどこにあったのかを説明できる。	
	事前学修	これまでの討論テーマに関する自己の見解を示したペーパーを見直しておく。	120分
	事後学修	必要に応じてペーパーの修正を行う。	120分
29	後期ゼミまとめ②	後期のゼミで行ったディベート・討論について振り返る。	
	この回の到達目標	後期ゼミでの討論テーマを再度確認し、問題がどこにあったのかを説明できる。	
	事前学修	これまでの討論テーマに関する自己の見解を示したペーパーを見直しておく。	120分
	事後学修	必要に応じてペーパーの修正を行う。	120分
30	ゼミ論文テーマ案の決定	4年次に執筆するゼミ論文のテーマ案を報告する。	
	この回の到達目標	これまでのゼミ活動を通じて得られた知見や自己の見解から論文テーマを発見することができる。	
	事前学修	ゼミ論文のテーマ、論文構成、参考となる資料・判例などを準備しておく。	120分
	事後学修	教員・ゼミ生から出された意見などをもとにゼミ論文執筆の準備を始める。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	塚本 晴二郎	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
新聞学に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，新聞学の関心領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
新聞学に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ関心領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
新聞学に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，学生フォーラムへの参加，新聞学に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，ゼミナールごとに学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと思えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミ ナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判 的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、関心領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して関心知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	専門演習(6)		関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	専門演習(7)		関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	専門演習(8)		関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	専門演習(9)		関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	専門演習(10)		関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	専門演習(11)		関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	専門演習(12)		関心領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
14	3年次前期のまとめ		これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。		
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。		
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
17	課題報告(1)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
18	課題報告(2)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	課題報告(3)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
20	課題報告(4)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
21	課題報告(5)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
22	課題報告(6)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
23	課題報告(7)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
24	課題報告(8)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	友岡 史仁	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
経済行政法をテーマとした研究課題を、関連する設問や討論会を通じて深め、リーガルマインドの形成とあわせて、履修者同士の問題発見や討論方法などを学んでいきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：経済行政法におけるさまざまな課題について、与えられた設問からいかなる法律問題が存在するかを発見する能力を身に付けます。その応用として、討論会の準備を通じてグループワークの大切さを学ぶと同時に、社会に出た際の不可欠な能力をあわせて取得することを目指します。
4年次：3年次に習得したリーガルマインドに基き、経済行政法に関連した各自の興味・関心に沿う研究テーマを選択したうえで、ゼミナール論文（卒業論文）に関わる中間報告やレポート等の提出を行い、個別の指導を受けたうえで完成を目指します。

【履修条件】
本ゼミナールでの入室試験（面接試験）合格者のみを受講可とします。可否の大まかな判断基準としては、自分の言葉で意思表示できること、2年間継続する強い意思、積極的なゼミ活動への参加意欲などです。

【授業方法】
担当者が事前準備した課題を全員が予習し、授業時にその成果を報告し全体で討論します。このほか、他大学のゼミナールとの討論会を予定します。あわせて、ゼミナール論文（卒業論文）の作成にかかわる研究テーマの設定を報告や討論を通じて行い、その完成途中での個別指導などを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	復習レポートの提出、討論会に向けたシラバス等の作成を個人またはグループで行うほか、ゼミナール論文（卒業論文）の作成にあたり、都度担当者がチェックをし、ゼミ内または個別に指摘をすることで、リーガルマインドの素養を取得していきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が課題を通じて「行政上の規制」のさまざまな現象を現実具体的に理解できるようにする。						3	3			3	3	3	3
②	履修者が法的な言葉遣いでゼミナール内で習得した知識を説得的に語れるよう説明する。								3	3	3	3	3	3
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次は履修者全員が前期中は毎回出される課題に対する復習レポートの作成・提出を求める。4年次もゼミナール論文(卒業論文)の作成に当たり発見したテーマについてレポート等にまとめる。	20	10									30
討論・発表等	3年次は履修者全員が後期中は予定される討論会時に利用されるレジュメの作成とその他のための論点整理等の報告を求める。4年次はゼミナール論文(卒業論文)に関する自ら決定した研究テーマを深めるための報告を行い、それに基づき完成させる。	20	10									30
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	20	20									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートがあれば全体または個別に講評し、グループ学習の場合は問題点を担当者が先に指摘したうえで、全体で再度検討の機会を設ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015	教科書	必携
NBS行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み、9号館210研究室（事前のアポをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【前期オリエンテーション】課題のこなし方のイロハを学ぶ		経済行政法に関連した課題を配布したうえで、それに関連する参考文献などをこれから勉強する方法、授業スケジュール、成績評価等を説明します。これとあわせて、論文文献、判例・裁判例など課題を解くうえでの検索ツールを、個別に依頼する図書館での簡単なガイダンスを通じて学び、今後の授業準備に備えます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法に関する法的な課題がどのようなものかを深く理解できるための最初の一步を理解し、説明することを目指します。		
	事前学修	どのような課題が出るのかを全体像としてつかむとともに、それにむけた憲法・民法といった基本法律科目のテキストを読了しておくことで、これから何を調べ勉強すべきかを自ら検討できるようにしておきます。		120分
	事後学修	次回以降の課題を検討するうえでの資料検索等の準備とゼミ当日の討論に向けた情報収集、教科書を用いた論点発見の作業を行います。		120分
2	前期課題①行政政策、公法・私法の関係性		経済行政法の課題を検討できるよう、行政法の基本的素養を身につけられるようにします。このため、まずは行政政策にかかわる内容と、公法・私法の関係性について法的に説明できるようにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の全体像を読み解くための法的論点を説明し理解することを目指します。		
	事前学修	すでに憲法・民法の基本法律科目のテキストを読了していることを前提に、六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。		120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題②を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。		120分
3	前期課題②基本と応用の意味を知る		経済行政法の課題を検討できるよう、行政法の基本的素養の中でも一般法原則に関わる事例とあわせて、今後重要な論点となる料金規制に関わる事例を取り上げることで、関連する実定法の存在とそれにかかわる訴訟の存在とそこでの判断の仕方を理解できるようにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。		
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。		120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題③を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。		120分
4	前期課題③理論的な観点から検討できるようにする		経済行政法の課題を検討できるよう、法治行政に関わる理論的な設問を検討します。これとあわせて、今後重要な論点となる参入規制に関わる事例を取り上げることで、関連する実定法の存在とそれにかかわる訴訟の存在とそこでの判断の仕方を理解できるようにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。		
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。		120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題④を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。		120分
5	前期課題④経済活動への行政介入の在り方について学ぶ		経済行政法の課題を検討できるよう、経済行政に係る法律問題の主流を占める行政指導について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。		
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。		120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑤を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。		120分
6	前期課題⑤独占禁止法との関係・趣旨目的の理解について学ぶ		経済行政法の課題を検討できるよう、独占禁止法との関わりに意識しながら、法律の趣旨目的の意味を理解します。これとの関係で、規制目的の分類のうち社会的規制を意識した実定法の存在とそれにかかわる訴訟の存在とそこでの判断の仕方を理解できるようにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。		
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。		120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑥を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	前期課題⑥（統）趣旨目的の理解について学ぶ	経済行政法の課題を検討できるよう、前回に続いて、法律の趣旨目的の意味を理解します。これとの関係で、今回は規制目的の分類のうち経済的規制を意識した実定法の存在とそれにかかわる訴訟の存在とそこでの判断の仕方を理解できるようにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑦を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
8	前期課題⑦経済行政に関する契約について学ぶ	経済行政法の課題を検討できるよう、許認可等の「行政上の規制」とはやや色を異にする経済行政に関する契約に関する課題を取り扱うことにします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑧を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
9	前期課題⑧複数論点の存在について学ぶ	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなした課題で登場する単一論点から、次第に複数論点が存在する場合の法的問題の処理方法について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑨を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
10	前期課題⑨事後的救済手続等を学ぶ（第1回）	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなした課題が訴訟の世界でどのように具体的に扱われるかを、実定法に照らしながら学びます。今回は第1回目であり、金銭補償の問題を扱います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑩を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
11	前期課題⑩事後的救済手続等を学ぶ（第2回）	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなした課題が訴訟の世界でどのように具体的に扱われるかを、実定法に照らしながら学びます。今回は第2回目であり、第1回目で取り残した金銭補償の問題とあわせて、行政争訟の扱い方の第1回目を取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑪を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分
12	前期課題⑪事後的救済手続等を学ぶ（第3回）	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなした課題が訴訟の世界でどのように具体的に扱われるかを、実定法に照らしながら学びます。今回は第3回目であり、第2回目で取り残した行政争訟の扱い方とあわせて、そこで扱えなかった参入規制等を絡めた論点（特に訴訟手続上の課題）を扱います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。あわせて、課題⑫を検討するうえでの資料検索等の準備も行います。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前期課題⑫事後的救済手続等を学ぶ（第4回）	経済行政法の課題を検討できるよう、これまでこなしした課題が訴訟の世界でどのように具体的に扱われるかを、実定法に照らしながら学びます。今回は第4回目ですが、第1回目から第3回目までで学んだ諸論点を複合的に扱う事例を取り上げます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	六法全書や判例データベースなどをフル活用してゼミ当日の準備に励みます。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果を復習レポートで反映させ、次週に提出できるようにします。また、担当者は次の判例研究での報告のため、資料検索等の準備も行います。	120分
14	前期課題⑬判例研究（第1回）	経済行政法の課題を検討できるよう、第2回から第13回まで学んだ内容を応用的に活用し、その総括を行うために、判例研究を行います。取り上げる判例は、できる限り評釈等がない下級審事例とし、各自で興味を持ったものをグループ等で取り上げ、全体報告を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	担当判例について事実関係を根拠となる判例集から徹底的に読み込んだうえで、裁判所の判断について、これまでに培った問題意識を踏まえた論点を報告し、自らの言葉で質疑応答ができるようにします。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果をレポートの形でまとめ、次週に提出できるようにします。また、担当者は次の判例研究での報告のため、資料検索等の準備も行います。	120分
15	前期課題⑭判例研究（第2回）	本回も、経済行政法の課題を検討できるよう、第2回から第13回まで学んだ内容を応用的に活用し、その総括を行うために、判例研究を行います。取り上げる判例は、できる限り評釈等がない下級審事例とし、各自で興味を持ったものをグループ等で取り上げ、全体報告を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済行政法の基本知識と並び応用的理解に進めることを目指します。	
	事前学修	担当判例について事実関係を根拠となる判例集から徹底的に読み込んだうえで、裁判所の判断について、これまでに培った問題意識を踏まえた論点を報告し、自らの言葉で質疑応答ができるようにします。	120分
	事後学修	本回で討論しゼミ中で得られた結果をレポートの形でまとめ、次週に提出できるようにします。また、担当者は次の判例研究での報告のため、資料検索等の準備も行います。	120分
16	【後期オリエンテーション】討論会に向けた準備	前期で学んだ経済行政法の基本と応用の多様な知識を生かし、討論会に向けた準備をするために何が求められているのか、どのようなノウハウが必要なのか、前期中には見えなかった論文文献、判例・裁判例など課題を解くうえでの新たな検索ツールを再確認し、今後の方針を決めていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論をするうえでどのような準備が日ごろの学習面で求められているかを確認します。	
	事前学修	討論に向けて必要なテーマ設定の方法やそのための時事問題への強い関心、その他の問題意識を夏季休暇中等で養います。	120分
	事後学修	討論会に向けた必要な約束事、その他、テーマとして問題となりそうな内容を複数選べるよう、徹底的に情報検索等を行います。	120分
17	後期課題①テーマ発見（第1回）	第16回目で決定された今後の方針が進め方として正しいかどうかを再確認します。それとあわせて、討論会で実際に取り上げるテーマ選定をじっくり行います。この場合、できるかぎり賛成と反対が明確につくものを取り上げるため、事前に調査した内容から精査していきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論テーマを発見するうえで必要な時事問題や法的素養が身につけられるよう目指します。	
	事前学修	討論に向けて必要なテーマ設定を行うため、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
	事後学修	本回で決定した事項を次回に反映できるよう、他のゼミ生とも議論しながら進められるようにします。	160分
18	後期課題②テーマ発見（第2回）	第17回目で議論し取り上げたテーマについて、できる限り多くの詳細な論点と現実的な内容、その内容が正当なものであるのかを、逐次確認し、第2回から第15回までに学んだ方法に従い、討論内容として適切であるのかを検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論テーマを発見するうえで必要な時事問題や法的素養が身につけられるよう目指します。	
	事前学修	討論に向けて必要なテーマ設定を行うため、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分
	事後学修	討論会に向けた必要な約束事、その他、テーマとして問題となりそうな内容を複数選べるよう、徹底的に情報検索等を行います。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	後期課題③テーマ発見（第3回）		第18回目までである程度決定したテーマについて、他大学の担当者などどの主張を交えて、最終的に決定するための議論をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論テーマを発見するうえで必要な時事問題や法的素養が身につけられるよう目指します。		
	事前学修	討論に向けて必要なテーマ設定を行うため、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分	
	事後学修	討論会に向けた必要な約束事、その他、テーマとして問題となりそうな内容を複数選べるよう、徹底的に情報検索等を行います。	160分	
20	後期課題④テーマに即した論点整理（第1回）		第17回目から第19回目までで得られた知見と決定されたテーマに即して、どのような論点が具体的に取り上げられるべきかについて、徹底的に精査していきます。今回はその第1回目なので、精査するためのたたき台を各自提供し、議論の進め方を学んでいきます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選んだテーマについてどのような法的問題があるのが理解できることを目指します。		
	事前学修	テーマに関わる論点について、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分	
	事後学修	テーマに沿った論点が果たして自らの立場を主張するうえで正当なものまたは説得的なものとなっているかを、さまざまな情報ツールまたは他のゼミ生同士の自発的な討論を通じて検討します。	160分	
21	後期課題⑤テーマに即した論点整理（第2回）		第20回目である程度得られた該当テーマに沿った論点について、法制度を踏まえたうえで、自らが立つ賛否いずれかの立場に即した論点となり得ているのかを、徹底的に議論します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選んだテーマについてどのような法的問題があるのが理解できることを目指します。		
	事前学修	テーマに関わる論点について、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分	
	事後学修	テーマに沿った論点が果たして自らの立場を主張するうえで正当なものまたは説得的なものとなっているかを、さまざまな情報ツールまたは他のゼミ生同士の自発的な討論を通じて検討します。	160分	
22	後期課題⑥テーマに即した論点整理（第3回）		第21回目と同様、法制度を踏まえたうえで、自らが立つ賛否いずれかの立場に即した論点となり得ているのかを、徹底的に議論します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選んだテーマについてどのような法的問題があるのが理解できることを目指します。		
	事前学修	テーマに関わる論点について、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	80分	
	事後学修	テーマに沿った論点が果たして自らの立場を主張するうえで正当なものまたは説得的なものとなっているかを、さまざまな情報ツールまたは他のゼミ生同士の自発的な討論を通じて検討します。	160分	
23	後期課題⑦テーマに即した論点整理（第4回）		第20回から第22回目で得られたテーマに関わる他よな論点を最終的に確認し、きれいに賛否が分かれるのか、法制度としての裏付けはあるのは、その際の判例・裁判例等の法解釈上の問題はあのか、といった実際の討論に向けた準備書面の作成に入る前段階の作業を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、選んだテーマについてどのような法的問題があるのが理解できることを目指します。		
	事前学修	テーマに関わる論点について、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。	120分	
	事後学修	テーマに沿った論点が果たして自らの立場を主張するうえで正当なものまたは説得的なものとなっているかを、さまざまな情報ツールまたは他のゼミ生同士の自発的な討論を通じて検討します。	120分	
24	後期課題⑧ブレ討論会		第25回目以降、これまで準備してきたテーマとそれに沿った論点をどのように主張するのかという討論会のノウハウを学ぶため、他校とも調整しながら、前年度までに行ってきた討論テーマを本年度行う現役3年生によって「ブレ討論会」と称して、実施します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、討論された法的論点がどのように展開されれば相手に説得的に伝わるのかについて理解します。		
	事前学修	前年度までに行った討論テーマを実際に討論会形式に焼き直し、それを当日対応できるよう準備します。	120分	
	事後学修	実際に体験した討論会形式の内容を踏まえて、必要な作業を確認します。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	後期課題⑨フル討論会準備（第1回）		第24回目で行ったブレ討論会を通じて得られた各種知見を最大限生かし、実際に討論会に向けた本格的な準備を進めます。今回は、各自担当を決めて、立論者、質問者等、事前に決められた討論形式に沿った主張ができるよう、反復継続します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブレ討論会で学んだ内容を討論会当日に行かせられるよう、創意工夫する能力を養い、その際の法律的背景や説得的な言葉遣いなどの知識を習得します。		
	事前学修	最終的な討論会に向けて、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。		80分
	事後学修	各自与えられた役割に従い、それぞれを深く掘り下げる作業を行ったうえで、レジュメ作成に生かしたうえで次のゼミに臨みます。		160分
26	後期課題⑩フル討論会準備（第2回）		第25回目で試行した討論会形式をステップアップするため、当日利用するためのレジュメ作成を本格化させるとともに、すでに決まったテーマや論点においてその内容が正確であるのかといったフィードバックもあわせて行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブレ討論会で学んだ内容を討論会当日に行かせられるよう、創意工夫する能力を養い、その際の法律的背景や説得的な言葉遣いなどの知識を習得します。		
	事前学修	最終的な討論会に向けて、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。		80分
	事後学修	各自与えられた役割に従い、それぞれを深く掘り下げる作業を行ったうえで、レジュメ作成に生かしたうえで次のゼミに臨みます。		160分
27	後期課題⑪フル討論会準備（第3回）		本回では、第26回目で行ったフィードバックと進行するレジュメ作成を集大成させ、実際の討論会に向けて、立論、質疑応答とあわせて、賛否に分かれて論駁等ができるよう、反復継続します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブレ討論会で学んだ内容を討論会当日に行かせられるよう、創意工夫する能力を養い、その際の法律的背景や説得的な言葉遣いなどの知識を習得します。		
	事前学修	最終的な討論会に向けて、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。		80分
	事後学修	各自与えられた役割に従い、それぞれを深く掘り下げる作業を行ったうえで、レジュメ作成に生かしたうえで次のゼミに臨みます。		160分
28	後期課題⑫フル討論会準備（第4回）		本回では、第29回目に向けた実際の討論会で行う立論、質疑応答、賛否に分かれた論駁等がその当日で行えるのかを再検討し、さらに既定の時間内でそれらが収まるように試行錯誤を繰り返します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ブレ討論会で学んだ内容を討論会当日に行かせられるよう、創意工夫する能力を養い、その際の法律的背景や説得的な言葉遣いなどの知識を習得します。		
	事前学修	最終的な討論会に向けて、様々な情報ツールを自発的活用してゼミの場で報告できるようにします。		80分
	事後学修	各自与えられた役割に従い、それぞれを深く掘り下げる作業を行ったうえで、レジュメ作成に生かしたうえで次のゼミに臨みます。		160分
29	後期課題⑬討論会の実施		討論会当日は、これまでに培った能力を最大限生かすことで、充実した討論内容にします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでに準備してきたテーマに係るさまざまな内容について理解し、そのうえで、問題解決能力を含めた即応力を習得します。		
	事前学修	本回のために、他のゼミ生とも協力をしながら当日の討論会に対応できるようにします。		120分
	事後学修	討論会を経験することで自ら準備してきた内容とその時に得られた内容とのギャップを感じ、それを次のゼミで報告できるようにします。		120分
30	【ゼミ全体の総括】前期課題および討論会終了後のフィードバック		本回は第1回から第29回目までのゼミ全体の内容を総括します。今後のゼミ活動とあわせて、到達目標①②に合わせた内容が達成できているかを担当者が気付いた諸論点にそって互いに論じ合い、履修者自ら確認できる場にします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基本・応用的な課題をこなす能力、討論会を通じたテーマ・論点発見とそれにかかわる説得的かつ即応的な討論能力が養われていることを確認します。		
	事前学修	これまでのゼミ活動で得られた内容がどのように自分にフィードバックできるかを、自らの言葉でまとめます。		120分
	事後学修	これまでに得られた知識が就職活動その他社会に出て行った際にいかに役に立つのかを反芻し、次年度の卒論作成に向けた作業準備をスタートさせます。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次前期：受講生は、自らの興味関心にしたがってジャーナリズム、またはメディア分野の文献を読み、その論点を見出し、プレゼンテーションする。また、提示された論点について、ゼミナール受講者によるディスカッションを通じて検討する。 3年次後期：受講生は、自らの興味関心にしたがってゼミナール論文のテーマを見出し、論文執筆のための研究計画を立案する。また、研究計画の実現可能性についてゼミナール受講者によるディスカッションを通じて検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生は、ゼミナール論文の執筆に向けて、自らの興味関心に沿った研究テーマを見出す。また、社会学的なメソッドを学習することを通じて、論文を執筆する基本的な知識と能力を修得する。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可とする。

【授業方法】		
3年次前期：受講生はジャーナリズム、またはメディア分野の文献を講読し、その論点を見出し、発表する。その発表をもとに、ゼミナール受講者でディスカッションする。 3年次後期：受講生はゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表する。その発表をもとに、ゼミナール受講者でディスカッションする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講読文献を事前に読み、自らの問題意識をまとめておく。受講者による講読内容の発表を聞き、それにとまなうディスカッションに参加することで、問題意識に対する考察を深めることを通じてその解決を目指す（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ジャーナリズム、またはメディア分野の文献を読み、理解し、発表することができる。				3	3	3					
②	ディスカッションを通じて、自らの思考を反省的な視点から捉えることができる。						3	3	3	3	3	3
③	自らの興味関心にしがたって研究テーマを見出し、それを説明することができる。				3	3	3	3	3			
④	ゼミナール論文の執筆のために研究計画を立案し、その準備に取り組むことができる。				3	3	3	3	3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	主体的に発表に取り組んでいるか、独自の意見を述べる ことができているか、発表内容が論理的である、または説得 力であるかを基準として、到達目標①②③④に関わる能力 が修得できているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	自らの発表担当に真摯に取り組んでいるか、発表後に実施 されるディスカッションに積極的に参画しているか等を基 準として、到達目標①②③④に関わる能力が修得できてい るかを評価する。	10	10	10	10							40
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評 価は4年次に行う	5	5	5	5							20
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身に ついていないかを評価する。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール時のディスカッションを通じて課題に対するフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／ 連絡は大学メールアドレスを用いること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの概要や進め方について説明し、受講する準備を整える。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの概要や進め方について概観する。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を確認して、自らが取り組む課題について検討する。	120分
2	講読と発表（1-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションすることを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
3	講読と発表（1-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
4	講読と発表（1-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションすることを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
5	講読と発表（2-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
6	講読と発表（2-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	講読と発表（2-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
8	講読と発表（3-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
9	講読と発表（3-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
10	講読と発表（3-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
11	講読と発表（4-1）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
12	講読と発表（4-2）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	講読と発表（4-3）	指定された講読文献を読み、発表担当者が提示した論点についてディスカッションを実施する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	講読文献の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	講読文献の読解についての発表に対し、自分なりの理解を深めておく。	120分
14	研究テーマの検討（1）	現時点におけるゼミナール論文のテーマについて発表し、それらについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文についての理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
15	研究テーマの検討（2）	現時点におけるゼミナール論文のテーマについて発表し、それらについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文についての理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
16	研究の方法（1）	ゼミナール論文に取り組むにあたり必要な知識や方法論について学ぶ。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文に取り組むにあたり必要な知識や方法論を身につける。	
	事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの概要や進め方について概観する。	120分
	事後学修	身につけた知識や方法論を用いて研究計画の作成に取り組む。	120分
17	研究の方法（2）	ゼミナール論文に取り組むにあたり必要な知識や方法論について学ぶ。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文に取り組むにあたり必要な知識や方法論を身につける。	
	事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの概要や進め方について概観する。	120分
	事後学修	身につけた知識や方法論を用いて研究計画の作成に取り組む。	120分
18	研究計画の発表（1-1）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	研究計画の発表（1-2）		ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
20	研究計画の発表（1-3）		ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
21	研究計画の発表（1-4）		ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
22	研究計画の発表（2-1）		ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
23	研究計画の発表（2-2）		ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
24	研究計画の発表（2-3）		ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究計画の発表（2-4）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
26	研究計画の発表（3-1）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
27	研究計画の発表（3-2）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
28	研究計画の発表（3-3）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
29	研究計画の発表（3-4）	ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等について発表し、それらについてディスカッションする。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文執筆のための研究計画について理解を深める。	
	事前学修	発表担当者は、ゼミナール論文のテーマ・研究方法・仮説等についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表されたレジュメに対して批評を加えるとともに、自らの研究計画の参考とする。	120分
30	ゼミナール活動の反省	ゼミナール運営ならびに研究活動について反省し、その改善を模索する。	
	この回の到達目標	ゼミナール運営ならびに研究活動について反省し、改善を見出す。	
	事前学修	ゼミナール運営ならびに研究活動について課題を抽出する。	120分
	事後学修	課題について検討した結果をもとに、自己改善を図る。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
・近現代の日本政治に関わる文献・資料を読み、それに基づく発表と討議を通じて、学問・研究の方法を学修する。 ・日本政治史に関して自分の研究課題を選定し論文を書く。そのために必要な方法を学び、能力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・大人の基礎能力として、社会科学的なものの見方・考え方（客観性・論理性）を身につける。 ・社会人の基礎能力として、文献の読解方法や事実の捉え方・調べ方を修得する。 ・社会人の基礎能力として、「誰が読んでも理解できる説明文」を書けるようになる。

【履修条件】
入室試験（面接）の合格者。地道な修学・研究作業の継続、ゼミ活動全般への主体的参加を求める。

【授業方法】		
①【文献に基づく発表と討議】文献の読み方、史実の捉え方と調べ方、研究発表の方法等を、実践を通じて指導する。 ②【研究と論文作成】学問的な研究課題の設定、文献の探索・選択・読解方法、史実の扱い方と説明方法、説明文の執筆法等を、論文構想と執筆の実践を通じて指導する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミナールの諸活動はすべて学生が主体です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会事象に関する客観的・論理的な捉え方・考え方を身につける				3	3	3	3				3
②	近現代日本の国家・政治・社会に関する歴史的知識を得て、自らが生きる現代日本の成り立ちを理解する				3	3	3	3				3
③	学問的な文献の適切な探し方・選び方を修得し、文献を正しく読解できるようになる				3	3	3	3	3	3		3
④	日本語能力を高める（語彙の増加、用語法と適確な文章表現の修得、他者への伝達意識の向上等）				3	3	3	3	3	3		3
⑤	物事を客観的・論理的に説明し、正確に伝達できるようになる（口頭および文章で）				3	3	3	3	3	3	3	3
⑥	他者の発表や論文の論旨を理解し、論理的で公正な検討・批判ができるようになる				3	3	3	3	3	3	3	3
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	文献の読解と発表の質、討議（他者の研究に対する批判的検討）の参加度と質	5	10	5		5	10					35
授業への参画度	文献読解、討論、その他ゼミ活動に対する主体的参加 学問と他者の研究に対する敬意、事実の究明に対する真摯 で公正な態度	5		5			5					15
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文：研究作業（論文作成プロセス）の質と 量、論文の達成度	10	5	10	10	15						50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	20	10	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
直接伝える

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講読発表用の共通文献（開講後、相談の上で決定）				教科書	必携
発表および論文作成のための参考文献				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み(12:10-12:50，事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ゼミ始動準備 導入講義		ゼミの運営法・日程、共通文献、発表担当等を相談し、決定する ※以下に示す計画日程は人数等により適宜変更する（大枠は不変）	
	この回の 到達目標	協力してゼミ運営について考え、意見を述べ、決定する。自分たちのゼミだという自覚を持つ。		
	事前学修	共同で講読する文献について要望をまとめてくる。		90分
	事後学修	決定事項に従って、なすべき準備をする。		120分
2	発表の要領 文献に関する説明		共通文献に基づく発表の要領、文献と調査方法について説明する。	
	この回の 到達目標	学術文献の種類と見方（選択判断の手掛り）、検索の方法について学ぶ。		
	事前学修	共通文献を入手し目を通しておく。		120分
	事後学修	文献検索を実践してみる（想定する研究対象に関わる参考文献を探し、適切性の判断をして、読むべき文献をリストアップする）		180分
3	日本政治史研究の概説		日本政治史研究の概要、時期区分と代表的論題、題材への接近方法等を説明する。	
	この回の 到達目標	日本政治史研究の概要を把握し、自己の研究対象（題材や接近法）を見出す手掛りをつかむ。		
	事前学修	自分の研究対象を何にするか、関係文献を検索・読書しつつ思案する。 （次回発表担当者は準備に着手する）		120分
	事後学修	説明をふまえて、自己の研究対象の思案、参考文献の検索・読解を続ける。		180分
4	共通文献に基づく発表Ⅰ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分
5	共通文献に基づく発表Ⅰ②		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分
6	共通文献に基づく発表Ⅰ③		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	研究計画検討Ⅰ①		研究（論文）の題材・接近法・参考文献等の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、研究題材の選択・参考文献選択等の方法と適否を学ぶ。		
	事前学修	研究の題材を選定し、関係文献を検索・選定し、選定理由を含めて文書にまとめる。		180分
	事後学修	検討・指導をふまえて、研究作業の方法と適否を省察し、研究課題の思案につなげる。		60分
8	研究計画検討Ⅰ②		研究（論文）の題材・接近法・参考文献等の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、研究題材の選択・参考文献選択等の方法と適否を学ぶ。		
	事前学修	研究の題材を選定し、関係文献を検索・選定し、選定理由を含めて文書にまとめる。		180分
	事後学修	検討・指導をふまえて、研究作業の方法と適否を省察し、研究課題の思案につなげる。		60分
9	研究発表Ⅰ①		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。		90分
10	研究発表Ⅰ②		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。		90分
11	研究発表Ⅰ③		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。		90分
12	共通文献に基づく発表Ⅱ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	共通文献に基づく発表Ⅱ②		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の設定・構成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分
14	研究計画検討Ⅱ①		研究（論文）の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定（題材・接近法の見直し）・参考文献読解等の方法と適否を学ぶ。		
	事前学修	現時点までの研究作業をふまえて、論題の設定、論題が持つ意味の文章化（序文執筆）、論題に即した参考文献の再考・補充を行い、文書にまとめる。		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、研究の題材・課題や方法を省察し、研究課題の明確化につなげる。		90分
15	研究計画検討Ⅱ②		研究（論文）の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定（題材・接近法の見直し）・参考文献読解等の方法と適否を学ぶ。		
	事前学修	現時点までの研究作業をふまえて、論題の設定、論題が持つ意味の文章化（序文執筆）、論題に即した参考文献の再考・補充を行い、文書にまとめる。		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、研究の題材・課題や方法を省察し、研究課題の明確化につなげる。		90分
16	中間論文の講評		提出した中間論文の講評を行う。	
	この回の到達目標	論文を書くという行為の意味と、それに必要な作業・方法・留意点等を認識し、自己の研究作業・文章表現等の適否を自覚する。		
	事前学修	提出した中間論文を読み直し、問題点・疑問点等を抽出しておく。		180分
	事後学修	講評をふまえて、研究の内容・方法、論文構想を再考し、改善につなげる。		90分
17	共通文献に基づく発表Ⅲ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分
18	共通文献に基づく発表Ⅲ②		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	論文計画検討Ⅰ①		論文の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定とその説明方法、文献読解等を省察し、論文構想を明確化する。		
	事前学修	中間論文の添削・講評とその後の研究作業をふまえて論文構想を立て、それに即して参考文献を更新し、文書化する。		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、論文構想の練り直し、知識・理解不足の補充（文献の補充・読解）を行い、論文構想の具体化と改善につなげる。		90分
20	論文計画検討Ⅰ②		論文の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定とその説明方法、文献読解等を省察し、論文構想を明確化する。		
	事前学修	中間論文の添削・講評とその後の研究作業をふまえて論文構想を立て、それに即して参考文献を更新し、文書化する。		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、論文構想の練り直し、知識・理解不足の補充（文献の補充・読解）を行い、論文構想の具体化と改善につなげる。		90分
21	研究発表Ⅱ①		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。		90分
22	研究発表Ⅱ②		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。		90分
23	研究発表Ⅱ③		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。		90分
24	共通文献に基づく発表Ⅳ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	共通文献に基づく発表Ⅳ②		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。		60分
26	共通文献に基づく発表Ⅳ③		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。		60分
27	論文計画検討Ⅱ①		論文の課題設定・章節構成・参考文献の最終案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、論文の構想・構成を明確化・具体化し、執筆が可能な計画を立てる。		
	事前学修	論文の最終構想（執筆可能な計画）を文書にまとめる：課題設定（序文執筆）・章節構成（各部分の論点の具体化）・参考文献		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、構想・構成を練り直し、不足は補充し、改善する。		210分
28	論文計画検討Ⅱ②		論文の課題設定・章節構成・参考文献の最終案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、論文の構想・構成を明確化・具体化し、執筆が可能な計画を立てる。		
	事前学修	論文の最終構想（執筆可能な計画）を文書にまとめる：課題設定（序文執筆）・章節構成（各部分の論点の具体化）・参考文献		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、構想・構成を練り直し、不足は補充し、改善する。		210分
29	論文執筆相談		論文計画再考・執筆作業につき指導を受ける。	
	この回の到達目標	論文の執筆が可能な状態に到達する。		
	事前学修	論文計画の練り直し、文献の再読・確認等		210分
	事後学修	論文（下書）の執筆にかかる。		990分
30	下書修正相談		提出した論文下書の修正につき指導を受ける。	
	この回の到達目標	論文を完成させるための注意点、必要な補充作業を認識する。		
	事前学修	下書に付したコメント・添削を熟読し理解した上で、修正作業を進め、残る問題点・疑問点を抽出しておく。		990分
	事後学修	完成稿を仕上げる。		990分

科目名	ゼミナール3年	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
労働政策の背景にある社会構造について基本知識を修得するための講義と、その中で取り上げた事項について、グループ単位で課題発見と解決策の検討を行う。その結果についてプレゼンテーションを行い、これを題材に全体で議論を行うことを通じ、労働政策の背景、意義、課題等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：労働政策の背景にある社会構造について基本的知識を修得するとともに、グループ単位の共同作業を通じ、他者との協働の重要性を理解し、リーダーシップを身につけながら、問題発見力、解決力を修得する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自が研究テーマを設定し、当該テーマに関する知識を自主的に掘り下げ、必要に応じ他者とも共有を図り、担当教員の指導も受けながら、最終的には卒業論文を完成させる。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格することが必要。

【授業方法】
数回の講義の後は、毎回、労働政策に関する課題を発見し、解決策についてグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、労働政策をとりまく社会構造や問題点を的確に把握し、説明できる。					3	3		3				
②	学生が、労働政策をとりまく社会の問題点を解決する方策について、自分の言葉で表現できる。					3	3	3	3				3
③	学生が、他者と協働することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮しながら、批判的立場からも議論を展開することができる。							3		3	3	3	3
④	学生が、他者の前で自分の意見をわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。								3	3	3	3	
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、基本知識を 修得した上で、協働しながら成果をまとめているかについ て評価する。	15	10	20	15							60
授業への参画度	講義の回以外は、毎回グループディスカッションやプレゼ ンテーションを行うので、授業への参加が必要。											
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	卒業論文が①書式を満たしたうえで、②正確な事実認識の 下に、③論理的・批判的思考力や問題発見・解決力が反映 されているかを総合的に評価する。	10		15	15							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	10	35	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
プレゼンテーション及び討議実施時に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
ゼミ終了後 ※事前にメールで予約のこと

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旧労働省及び厚生労働省で政策の企画立案、運用に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		①政策の意義、②現場で施行する際の簡明性、双方の立場から、学生のプレゼンテーションや意見に対する助言を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ゼミ入室試験日		入室試験を通じ、授業の目的、進め方等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に留意し、授業の内容、目的、進め方等について理解する。	
	事前学修	シラバスの内容を確認すること	120分
	事後学修	ガイダンスで指示されたことを確認すること	120分
2	講義		超高齢社会下における課題と労働政策の意義について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に留意し、超高齢社会下における課題と労働政策の意義について、自分の言葉で説明できるレベルまで理解することができる。	
	事前学修	事前に指示された資料を確認すること	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
3	講義		経済社会の構造変化と労働政策の役割について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に留意し、経済社会の構造変化と労働政策の役割について、自分の言葉で説明できるレベルまで理解することができる。	
	事前学修	事前に指示された資料を確認すること	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
4	労働政策の現状と課題についてグループワーク		労働政策の現状について（2の講義との関連で）理解し、グループディスカッションを行いながら、課題と解決方法について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者との協働の重要性を理解し、コミュニケーションを取りながら、グループ内で議論を展開しとりまとめることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
5	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
6	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
8	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
9	労働政策の現状と課題についてグループワーク		労働政策の現状について（3の講義との関連で）理解し、グループディスカッションを行いながら、課題と解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者との協働の重要性を理解し、コミュニケーションを取りながら、グループ内で議論を展開しとりまとめることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
10	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
11	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
12	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション	グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
14	講義	職業生涯と労働政策（セーフティネット）	
	この回の到達目標	到達目標①②に留意し、職業生涯における労働政策のセーフティネットとしての役割について自分の言葉で説明できるレベルまで理解することができる。	
	事前学修	事前に指示された資料を確認すること	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
15	総括	講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	労働政策の背景にある社会構造について基本的知識を修得するとともに、グループ単位の共同作業を通じ、他者との協働の重要性を理解し、リーダーシップを身につけながら、問題発見力、解決力を修得する。	
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
16	労働政策の現状と課題についてグループワーク	労働政策の現状について（14の講義との関連で）理解し、グループディスカッションを行いながら、課題と解決方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者との協働の重要性を理解し、コミュニケーションを取りながら、グループ内で議論を展開しとりまとめることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
17	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション	グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分
18	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション	グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
20	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		グループディスカッションで明らかになった課題について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
21	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
22	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
23	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
24	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
26	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
27	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
28	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
29	労働政策の現状と課題についてプレゼンテーション		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、グループごとにプレゼンテーションを行い、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の現状と課題について、自らテーマを設定し他の履修者に対してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分
30	総括		講義やプレゼンテーションを通じて発見した課題と解決策について、全体で討議することによって学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の背景にある社会構造について基本的知識を修得するとともに、グループ単位の共同作業を通じ、他者との協働の重要性を理解し、リーダーシップを身につけながら、問題発見力、解決力を修得する。		
	事前学修	参考資料を収集し、課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った問題について、整理、理解すること		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	西原 雄二	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワーク等を通じて行政法の諸問題について深く学修するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法における基礎理論について学修するとともに、各自の興味・関心にそった研究テーマを発見する手法と身に付ける。また、グループワークをすることで、他者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	行政法の諸問題について、グループ・ディスカッションやディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修から得られた知識に基づき、行政法の現状や課題について総合的に理解し、説明することができる。				3	3						
②	行政法の課題や問題を提示し、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する解決策を示すことができる。						3	3	3			
③	様々な人とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、学修状況の自己分析による評価を、今後に活かすことができる。									4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	行政法の事例問題を取り上げ、それについてディスカッションを行う。その中で、到達目標①②③に関わる課題の論理的考察力、意見の明確性・論理性、他人の意見への傾聴、討論に向けての事例問題の調査・分析が適切にできているか等を評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければならない。 到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文に向けて、当該研究テーマに積極的に取んだか等を評価するが、成績評価は4年次に行う。	20	20	10								50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表に対して講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	宇賀・交告・山本編	有斐閣	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
1部は火曜日12：10に、2部は水曜日21：10に質問を受け付ける。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	行政法の概要や問題点について解説し、次回以降の発表に向けて、担当者を決定する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政法の重要な問題点が説明できる。	
	事前学修	教科書の目次を確認し、行政法の問題点について書き出してみることを。	120分
	事後学修	担当箇所を読み、発表に向けての準備をすること。	120分
2	行政の意義と特徴	行政の意義と特徴について発表・討論・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
3	行政法の法源	行政法の法源について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
4	行政上の法律関係	行政上の法律関係について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
5	行政主体	行政主体について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
6	行政機関	行政機関について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国と地方の行政組織	国と地方の行政組織について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
8	公務員	公務員について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
9	公物	公物について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
10	行政過程	行政過程について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
11	法律による行政の原理	法律による行政の原理について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
12	行政手続	行政手続について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	情報公開	情報公開について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
14	個人情報保護	個人情報保護について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
15	行政調査	行政調査について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
16	行政行為の意義と種類	行政行為の意義と種類について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
17	行政行為の効力	行政行為の効力について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
18	行政裁量	行政裁量について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	行政立法	行政立法について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
20	行政計画	行政計画について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
21	行政指導	行政指導について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
22	行政契約	行政契約について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
23	行政強制	行政強制について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
24	行政不服申立ての意義と特徴	行政不服申立ての意義と特徴について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	行政不服審査法	行政不服審査法について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
26	行政上の苦情処理制度	行政上の苦情処理制度について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
27	行政事件訴訟の沿革と特徴	行政事件訴訟の沿革と特徴について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
28	行政事件訴訟法の類型	行政事件訴訟法の類型について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
29	取消訴訟の訴訟要件	取消訴訟の訴訟要件について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
30	取消訴訟の審理	取消訴訟の審理について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	西山 智之	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
犯罪を予防・鎮圧するためにはどのような政策を行えば良いのか、そうした問題を解決する能力を身につけるため、犯罪の事前予防・犯罪者の更生・犯罪被害者支援策等についてグループで調査・研究を行い、それに基づいて全員で議論を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
グループワークやディスカッションを通じて、犯罪の予防及び鎮圧のための方法に関する知識を修得する。現行制度への批判的考察を可能とするために、現在行われている刑事司法制度の仕組みや犯罪の原因、各種犯罪対策について深く理解し、犯罪予防のための実効的な政策を考える能力を身につける。

【履修条件】
西山ゼミナール入室試験合格者のみ履修可能

【授業方法】		
まず、犯罪の事前予防・犯罪者の更生・犯罪被害者支援策に関する課題をグループで調査・研究し、全員の前で発表を行う。発表後に質疑応答の時間を設け、その後発表で取り扱ったテーマについて全員で議論を行う。最後に担当教員が講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・ディスカッションの他、刑事施設や警視庁の見学等、校外での活動も予定している。 ※社会の状況によって実施できない場合がある。その際には別の方法でのアクティブ・ラーニングの実施を試みる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における現行の刑事司法システムについて、なぜそのような仕組みとなっているかを正しく理解し、説明することができる。【知識】					4	4						
②	犯罪白書・警察白書等の資料に基づいて、今後どのような対応が必要なのかを調査することができる。【技能】							4	4				
③	犯罪対策について考えるディスカッションにおいて、参加メンバーに配慮しつつ、新しい理論に関して論理的に議論を行うことができる。【態度】									3	3		
④	グループで行う調査・研究・発表・質疑応答において、他のメンバーと助け合い、より良い研究発表の内容を作りあげていくことができる。【態度】											3	
⑤	ゼミナールでメンバーと協力し学修したことについて、自らの反省や振り返りを行い、4年間の集大成であるゼミナール論文に向けた具体的な準備として学修成果をまとめることができる。【知識】【技能】【態度】												4
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④に関連して、グループの発表・ディスカッションにおいて、他のメンバーの意見を良く聞いていたか、論理的に自分の意見を述べることができたか、発表後の担当教員からの質問に適切に応えていたか等の評定尺度に照らして評価を行う。			20	20							40
授業への参画度	到達目標③④に関連して、講義の時間だけでなく、グループでの勉強会や施設見学等も含めたゼミナール活動全般において、他のメンバーと協力し、お互いに切磋琢磨することによって能力の向上を行っていたかという積極性を基準として評価を行う。			15	15							30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年終了時にゼミナール論文を提出してもらう。到達目標①②⑤に関連して、刑事政策学の基礎が身についているか、取り組んだ問題について適切に分析した上で、自らの意見を説得的に述べているかを基準に評価を行う。	5	5			20						30
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	35	35	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の終盤に講評を行う。この他適時、全体・グループ別・個別に、調査・研究・発表・議論の方法について、講堂若しくは研究室又はオンラインにおいて指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
令和2年版 犯罪白書	法務総合研究所	昭和情報プロセス	2020	その他	任意
令和2年版 警察白書	国家公安委員会・警察庁	日経印刷	2020	その他	任意
備考	教科書は使用しない。適宜、取り扱っているテーマについて最適な文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
適宜指導を行います。質問等は、nishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。研究室で、水曜日16：20～17：50に行います。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション、ゼミナールの進め方に関する方向性の説明【導入講義】		ゼミナールの概要について説明を行い、その後、担当教員による調査・研究・発表に関する基本的事項の解説を行う。	
	この回の到達目標	受講生がゼミナールの概要を理解し、次回以降に備えられるようにする。このオリエンテーションを通じて、どのように到達目標①②③④⑤を達成していくのかを理解し説明できる。		
	事前学修	ゼミナールで専攻する刑事政策に関して、これまでどのような研究がなされてきているのか、図書館の基本書等で調査してくる。	60分	
	事後学修	同じグループとなったメンバーと決定したテーマについて、調査・研究を始める。	180分	
2	グループでの調査・研究・発表【刑事司法制度の基礎】（Aグループ）		Aグループによる刑事司法制度の基礎に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、刑事司法制度の基礎について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
3	グループでの調査、研究、発表【刑事司法制度の基礎】（Bグループ）		Bグループによる刑事司法制度の基礎に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、刑事司法制度の基礎について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
4	グループでの調査、研究、発表【刑事司法制度の基礎】（Cグループ）		Cグループによる刑事司法制度の基礎に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、刑事司法制度の基礎について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
5	グループでの調査・研究・発表【犯罪被害者支援策】（Aグループ）		Aグループによる犯罪被害者支援策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪被害者支援策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
6	グループでの調査・研究・発表【犯罪被害者支援策】（Bグループ）		Bグループによる犯罪被害者支援策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪被害者支援策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グループでの調査・研究・発表【犯罪被害者支援策】（Cグループ）		Cグループによる犯罪被害者支援策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪被害者支援策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
8	グループでの調査・研究・発表【犯罪者の更生】（Aグループ）		Aグループによる犯罪者の更生に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪者の更生について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
9	グループでの調査・研究・発表【犯罪者の更生】（Bグループ）		Bグループによる犯罪者の更生に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪者の更生について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
10	グループでの調査・研究・発表【犯罪者の更生】（Cグループ）		Cグループによる犯罪者の更生に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪者の更生について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
11	グループでの調査・研究・発表【犯罪の事前予防】（Aグループ）		Aグループによる犯罪の事前予防に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪の事前予防について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	グループでの調査・研究・発表【犯罪の事前予防】（Bグループ）	Bグループによる犯罪の事前予防に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪の事前予防について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
13	グループでの調査・研究・発表【犯罪の事前予防】（Cグループ）	Cグループによる犯罪の事前予防に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、犯罪の事前予防について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
14	刑事施設見学 ※社会の状況により実施できない場合には、ゲストスピーカー等の代替措置を講じる。	担当教員引率の下、ゼミ生全員で刑事施設の見学を行い、実際にその場に行き現場の職員の方の話を聞くことで、刑事施設における矯正処遇の実態を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、矯正処遇の現場に足を運び自らの目で確認することによって、理論と現実の両方からの面から、刑事施設における犯罪者の矯正処遇について正しく理解し説明することができる。	
	事前学修	施設見学当日に対応してくれた職員の方に適切な質問ができるように、刑事施設で行われている処遇制度や受刑者の日常生活について配付した資料等で確認を行い、疑問点をノートに列挙する。	120分
	事後学修	刑事施設見学以前までに自分が持っていたイメージと実際に行って見た感想を、それぞれ500文字程度でノートに記述し比較してみる。	120分
15	前期のまとめ	前期のゼミナール活動について、後期がより良いものになるよう全員で省察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、自己の活動がゼミナール活動に貢献することができたかを振り返り、自らの反省点を謙虚に受け止め、改善に向けて取り組むことができる。	
	事前学修	前期のゼミナール活動についての反省点をノートに800文字程度で記述してくる。	120分
	事後学修	全員で話し合った反省点について、どのような改善をすることが必要かを考え、改善策をノートに1000文字程度で記述しておく。	120分
16	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Aグループ）	Aグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
17	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Bグループ）	Bグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
18	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Cグループ）		Cグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
19	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Aグループ）		Aグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
20	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Bグループ）		Bグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
21	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Cグループ）		Cグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	
22	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Aグループ）		Aグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分	
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
23	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Bグループ）	Bグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
24	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Cグループ）	Cグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
25	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Aグループ）	Aグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
26	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Bグループ）	Bグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
27	グループでの調査・研究・発表【各種犯罪対策】（Cグループ）	Cグループによる各種犯罪対策に関する発表・質疑応答を行い、全員で議論をした後、教員から講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、適切な研究・発表・質疑を行うことにより、各種犯罪対策について正しく理解することができる。またディスカッションの際に他のメンバーが納得できるように自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	発表の担当となっているグループは、適切な発表ができるように決定したテーマについて調査・研究を行い、原稿・配付用資料等を作成する。発表の担当となっていないグループは適切な質問を行い、その後のディスカッションが円滑に行えるように決定したテーマについて調査してくる。	210分
	事後学修	発表の担当だったグループは、答えられなかった質問や担当教員の講評をもとに反省会を行い、ノートに反省点を列記する。発表の担当ではなかったグループは、発表の担当であったグループの問題点を分析し、自分達のグループが発表する際の参考にするため、改善点をノートに列記する。	30分
28	ゼミナール論文作成に向けての研究指導①論文とは何か	ゼミナール論文を書くための準備として、学術論文とはどのようなものであるかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、学術論文とはどのようなものかについて正しく理解し、学術論文の構成や書き方を説明することができる。	
	事前学修	学術論文とはどのようなものであるかについて、図書館等で調べ、ノートに500文字程度で記述してくる。	100分
	事後学修	授業で学んだ学術論文の構成や書き方について、ノートに1000文字程度でまとめておく。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
29	ゼミナール論文作成に向けての研究指導②テーマの選定	ゼミナール論文を書くにあたってどのようなテーマとするか、各自が自らが取り組みたいテーマについて発表してもらった上で、担当教員が助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、自らがゼミナール論文で取り組むテーマを決定し、4年次に書き上げるゼミナール論文に向けた準備を万全にする。	
	事前学修	自らのゼミナール論文のテーマとしたい、自らが関心を持った刑事政策に関連するテーマを選び、理由を付してノートに列記してくる。	120分
	事後学修	担当教員の助言に基づいて、ゼミナール論文のテーマを決定し、決定したテーマと概要をノートに記述し、調査を開始する。	120分
30	後期のまとめ	後期のゼミナール活動について、4年次がより良いものになるよう全員で省察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、自己の活動がゼミナール活動に貢献することができたかを振り返り、自らの反省点を謙虚に受け止め、改善に向けて取り組むことができる。	
	事前学修	後期のゼミナール活動についての反省点をノートに800文字程度で記述してくる。	120分
	事後学修	全員で話し合った反省点について、どのような改善をすることが必要かを考え、改善策をノートに1000文字程度で記述しておく。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	野中 貴弘	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法（財産法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ民法の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（財産法）に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，法律討論会やフォーラムへの参加，民法に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。												
②	民法に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。												
③	教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。												
④	教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。												
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	10								20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則ったうえで、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	30							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
水曜日の10時00分から18時00分 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所において法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事紛争について検討する際には学説の検討だけでなく、当該紛争における裁判例の検討や評価、さらには当該紛争類型の背景などについても立ち入って考察を深める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	専門演習(6)		民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	専門演習(7)		民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	専門演習(8)		民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	専門演習(9)		民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	専門演習(10)		民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	専門演習(11)		民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	専門演習(12)		民法に関する具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
14	3年次前期のまとめ		これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。		
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。		
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
17	課題報告(1)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
18	課題報告(2)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	課題報告(3)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
20	課題報告(4)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
21	課題報告(5)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
22	課題報告(6)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
23	課題報告(7)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
24	課題報告(8)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	野村 和彦	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
刑法総論および刑法各論の重要論点について、判例を素材に研究し、判例や学説を批判的に検討することにより、あるべき刑法の姿を探究する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学説や判例を調査し、そこから得た情報に検討を加え分析し、説得的な私見を構築し、他者との質疑応答や議論に真摯に向き合う姿勢を身につける。

【履修条件】
ゼミの選考試験に合格していることを条件とする。

【授業方法】
研究ペアが選択した判例について、調査研究をしてもらい、レジュメを用意したうえで発表してもらおう。その後、質疑応答および議論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表、質疑応答、討論。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	判例について、その論拠を調査し、前例とも比較しながら、その判例の射程範囲を探る。						3	3	3	3	3	3	3
②	学説について、もれなく渉猟し、その文献を調査及び研究し、議論状況を整理することができる。						3	3	3	3	3	3	3
③	レジュメを作成し、それをもとに明晰な言葉で発表を行うことができる。						3	3	3	3	3	3	3
④	質疑応答や議論に積極的に向き合い、相互にコミュニケーションを図ることができる。						3	3	3	3	3	3	3
⑤	研究ペア同士が互いに協力し、①～④を達成するよう努力する。						3	3	3	3	3	3	3
⑥	他者が発表する際に、その質疑応答および議論に積極的に参加する。						3	3	3	3	3	3	3
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表の内容のわかりやすさ、質疑応答や議論へ真摯に臨む姿勢がある。	7	7	7	7	6	6					40
授業への参画度	他者の発表に耳を傾け、質疑応答に積極的に参加する。	5	5	5	5	5	5					30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。4年次に作成するゼミナール論文の成績も加味して行う。	5	5	5	5	5	5					30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		17	17	17	17	16	16					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ時に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論判例インデックス	井田・城下	商事法務	2011	教科書	必携
刑法各論判例インデックス	井田・城下	商事法務	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時に対応します。Googleクラスルームからのメールによるお問い合わせにも対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	研究発表の割り当てを決定し、ゼミの運営について話し合う。	
	この回の到達目標	研究への士気を高めるとともに、ゼミ活動に主体的に参加する。	
	事前学修	研究ペアと担当課題について最終確認をする。	120分
	事後学修	各自、担当する研究を進める。	120分
2	調査及びプレゼンテーションの仕方	研究発表のための技術を学ぶ。	
	この回の到達目標	判例および学説を分析する力を身につけ、法的に重要な事実の見極めの必要性を認識し、こうした技術を通じて私見をつくりあげ、発表し、質疑応答・討論する基礎力を身につける。	
	事前学修	発表のためにどのような作業が必要か考察する。	120分
	事後学修	各自の研究発表にどう生かせるか考察する。	120分
3	法律データベースの使い方	第一法規の担当者をお呼びし、D1-Lawの使い方について学ぶ。	
	この回の到達目標	法律情報を効率的および確実に収集する方法を身につけ、実践できるようにする。	
	事前学修	どのような法情報を集める必要があるのか、それをどのように集めるとよいのか、事前に予想を立てる。	120分
	事後学修	今後の研究にどう生かせるか、考察する。	120分
4	発表のデモンストレーション	ゼミの担当者が発表および質疑応答の模範をみせる。	
	この回の到達目標	担当者の姿を通じて、学んだ点、修正が必要な点は何かを整理し、自分の発表に役立てるようにする。	
	事前学修	よい発表の仕方はどのようなものか、各自が事前に考察する。	120分
	事後学修	担当者の姿を通じて、生かせる点と改善点について整理し、自分の発表に応用する。	120分
5	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
6	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
8	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
9	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
10	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
11	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
12	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
14	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
15	研究発表、前期総括	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
16	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
17	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
18	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
20	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
21	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
22	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
23	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
24	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
26	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
27	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
28	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
29	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
30	研究発表、後期総括	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
社会保障法制度について理解し、現制度における課題・判例について検討し、解決案を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：社会保障法における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：グループごとにテーマを設定し、担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表グループの報告を受けて、質問や意見を述べ、グループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法制度について、説明することができる。				3	4						
②	社会保障法制度における課題を発見し、その解決策を提示することができる。							4	4	4	4	4
③	社会保障法制度における課題と解決策について、批判的に考察し、議論することができる。						4	3	3	4	3	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告グループは、各テーマについて発表し、それを基に議論をする。	10	20	20								50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	現制度について分析し、その課題を抽出した上で、独自の解決策を提示する。	10	30	10								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業において、課題についてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法	黒田 有志弥、柴田 洋二郎、島村 暁代、橋爪 幸代、永野 仁美	有斐閣	2019	教科書	必携
社会保障法判例百選 第5版	岩村正彦編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜17：00～18：00 本館9階 1906研究室 hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーションー研究の進め方	課題の設定、資料検索の方法、判例検索の方法、発表の方法等について、学ぶ。	
	この回の到達目標	課題についてグループで話し合う。資料収集の方法・発表の方法について理解する。	
	事前学修	医療保険・労災保険・雇用保険・年金保険制度について調べる。	120分
	事後学修	担当となった制度について、教科書を読み、理解する。	120分
2	医療保険①制度	医療保険制度について、学ぶ。	
	この回の到達目標	医療保険制度の概要について理解し、議論する。	
	事前学修	医療保険制度について調べる。	120分
	事後学修	医療保険制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
3	労災保険①制度	労災保険制度について、学ぶ。	
	この回の到達目標	労災保険制度の概要について理解し、議論する。	
	事前学修	労災保険制度について調べる。	120分
	事後学修	労災保険制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
4	雇用保険①制度	雇用保険制度について、学ぶ	
	この回の到達目標	雇用保険制度の概要について理解し、議論する。	
	事前学修	雇用保険制度について調べる。	120分
	事後学修	雇用保険制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
5	年金保険①制度	年金保険制度について、学ぶ	
	この回の到達目標	年金保険制度の概要について理解し、議論する。	
	事前学修	年金保険制度について調べる。	120分
	事後学修	年金保険制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
6	医療保険②課題と政策提案	医療保険制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。	
	この回の到達目標	医療保険制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	労災保険②課題と政策提案		労災保険制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。
	この回の到達目標	労災保険制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
8	雇用保険②課題と政策提案		雇用保険制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。
	この回の到達目標	雇用保険制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
9	年金保険②課題と政策提案		年金保険制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。
	この回の到達目標	年金保険制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
10	医療保険③判例		医療保険制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。
	この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
	事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
	事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
11	労災保険③判例		労災保険制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。
	この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
	事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
	事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
12	雇用保険③判例		雇用保険制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。
	この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
	事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
	事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	年金保険③判例		年金保険制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。
	この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
	事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
	事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
14	ゲストスピーカー		社会保険制度にかかわる実務家又はNP0などの活動家を招聘し、現場で生じている課題について聞き、議論を行う。＊なお、ゲストの招聘日については、ゲストの予定により変更となる場合がある。
	この回の到達目標	社会保険制度にかかわる課題を理解し、私見を述べることができる。	
	事前学修	社会保険制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの講演についてまとめ、課題に対する私見を論理的に説明できるようにする。	120分
15	社会保険制度のまとめ		社会保険制度における課題を整理し、議論する。
	この回の到達目標	4つの社会保険制度を理解し、各制度においてどのような課題があったかを説明し、私見を述べられるようにする。	
	事前学修	これまでの議論を整理する。	120分
	事後学修	他の受講者の意見をまとめる。	120分
16	児童福祉①制度		児童福祉制度について、学ぶ。
	この回の到達目標	児童福祉制度の概要について理解し、議論する。	
	事前学修	児童福祉制度について調べる。	120分
	事後学修	児童福祉制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
17	障害者福祉①制度		障害者福祉制度について、学ぶ。
	この回の到達目標	障害者福祉制度の概要について理解し、議論する。	
	事前学修	障害者福祉制度について調べる。	120分
	事後学修	障害者福祉制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
18	高齢者福祉①制度		高齢者福祉制度について、学ぶ。
	この回の到達目標	高齢者福祉制度の概要について理解し、議論する。	
	事前学修	高齢福祉制度について調べる。	120分
	事後学修	高齢福祉制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	生活保護①制度		生活保護制度について、学ぶ。
	この回の到達目標	生活保護制度の概要について理解し、議論する。	
	事前学修	生活保護制度について調べる。	120分
	事後学修	生活保護制度における課題について調べ、その解決策を考える。	120分
20	児童福祉②課題と政策提案		児童福祉制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。
	この回の到達目標	児童福祉制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
21	障害者福祉②課題と政策提案		障害者福祉制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。
	この回の到達目標	障害者福祉制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
22	高齢者福祉②課題と政策提案		高齢者福祉制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。
	この回の到達目標	高齢者福祉制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
23	生活保護②課題と政策提案		生活保護制度における課題について、その課題解決のための政策提案を行い、その提案に対する議論を行う。
	この回の到達目標	生活保護制度の課題を理解し、課題を解決するための提案について、批判的な議論を行い、より精度の高い政策をまとめる。	
	事前学修	生活保護制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	生活保護課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
24	政策提案のまとめ		これまでの議論を踏まえて改善した政策提案について、発表する。
	この回の到達目標	改善された政策について、説得的に提案する。	
	事前学修	各政策提案について、グループごとに改善策を考え、まとめる。	120分
	事後学修	提案に対して出された批判的な意見への説得的な応答を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゲストスピーカー	社会保障にかかわる職業についている人からの講演を聞く。＊なお、ゲストスピーカーの予定により、日程が変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	社会保障にかかわる職業とそのやりがい・経験について、私見を述べることができる。	
	事前学修	社会保障にかかわる職業について調べる。	120分
	事後学修	社会保障にかかわる職業について、私見及び他の受講生の意見をまとめる。	120分
26	児童福祉③判例	児童福祉制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
	この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
	事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
	事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
27	障害者福祉③判例	制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
	この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
	事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
	事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
28	高齢者福祉③判例	高齢者福祉制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
	この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
	事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
	事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
29	生活保護③判例	生活保護制度における重要判例を取り上げ、その争点について議論を行う。	
	この回の到達目標	判例の検討を通して、法解釈や制度的課題を理解する。	
	事前学修	取り上げる判例について、調べる。	120分
	事後学修	判例における争点についての議論を踏まえ、私見をまとめる。	120分
30	ゼミナール論文のテーマ設定	ゼミナール論文で取り上げるテーマを決める。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文において取り上げる課題を示す。	
	事前学修	ゼミナール論文で取り上げるテーマを考え、そのテーマについて調べる。	120分
	事後学修	テーマについて指摘された課題について、調べる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	蓮田 哲也	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（特に財産法）に関する基礎的な知識を獲得するとともに、主要な論点について議論できるよう教員が提示する事例問題つき、調査・研究を行い、発見した問題点の解決方法につき、グループで議論を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
事例問題を報告するにあたり2つのグループに分けて互いに異なる当事者の立場に立って議論することで、同じ事例に置いても考え方の多様性を見出す。さらに、表面的には理解しにくい論点について、深く掘り下げることで講義では十分に取り扱うことのできないであろう問題に自らの興味関心をもって取り組み、単に1人での作業ではなく、グループでの作業が必須であることから、協調性や社会性を身につけることも主要な目的となる。

【履修条件】
2年次までに配当の民法に関する講義を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
ゼミナールは、民法に関連する具体的な事例問題について、全体を2グループに分け両グループの報告を通じて検討することで実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	学生自身による報告を元に、それぞれの意見を出し合うことによって学生の主体的かつ能動的な学修を实践する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法（財産法）に関する基本知識を正確に理解し、説明することができる。				3	3	3					
②	民法（財産法）で問題とされる事象につき、積極的に問題点を発見し、それに対する解決の糸口を見出すことができる。							3	3	3		
③	現代的課題について理解し、自らの意見を述べるることができる。							3	3			3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の担当箇所についての的確な発表を行ったか。発表された内容をもとに積極的にグループディスカッションを行ったか。	20	20	20								60
授業への参画度	授業に積極的に参画し、的確な発言を行ったか。	10	10	20								40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
毎回のゼミナールにおいて、参加者の報告や発言に対して、担当者からコメントを加える。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	議論の対象となる事例によって参考とすべき書籍が異なるため、ゼミナールにおいて事例毎に例示する。				

【オフィスアワー】	
火曜日 14：40～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(1611研究室) メールアドレス：hasuda.tetsuya@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	自己紹介と本ゼミナールにおける学習内容について説明します。	
	この回の到達目標	本ゼミナールにおける学習内容を理解する。	
	事前学修	本ゼミナールにおける学習内容について考えてくる。	120分
	事後学修	本ゼミナールにおける学習内容について整理する。	120分
2	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であることを再度整理する。	120分
3	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であることを再度整理する。	120分
4	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であることを再度整理する。	120分
5	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であることを再度整理する。	120分
6	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であることを再度整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
8	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
9	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
10	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
11	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
12	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
14	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
15	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
16	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
17	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
18	事例に対する議論	提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。	
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
20	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
21	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
22	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
23	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
24	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
26	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
27	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
28	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて基本的な論点を理解する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
29	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討の論点を分析する。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分
30	事例に対する議論		提示された事例に対して班ごとに調査し、報告を行うとともに、班ごとの特徴および相違について分析する。
	この回の到達目標	事例検討を通じて発展的な論点を見いだす。	
	事前学修	提示された事例について報告するために、班ごとに検討する。	120分
	事後学修	適切な報告ができていたかを振り返るとともに、不足している部分は何であるかを再度整理する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
【3年次】公共選択論の基礎理論を修得するとともに、研究を行うための基礎的な知識を身につける。また、グループごとに研究を行う。 【4年次】3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【3年次】公共選択論の基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 【4年次】3年次に学習した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探求心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
ゼミナール試験入室試験合格者のみが受講できる。

【授業方法】		
【3年次】 演習形式によりゼミナールを進行する。教科書の内容に関して、各章を担当者が報告し、教員が解説を行う。その後グループワークにより研究テーマの選定及び報告の準備を行うことで他者に対する理解、情報共有と業務分担などの組織活動の基本的能力、根拠に 基づいた批判・討論を行う能力の向上を目的とする。		
【4年次】 各自のゼミナール論文のテーマについて、それぞれ研究調査を進め、進捗状況の報告を行う。また、報告に対してゼミ生や教員が質問・コメントすることでゼミナール論文を作り上げていく。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回個人による報告に基づいたディスカッションや、グループ単位での調査・報告・討論等を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済学、特に公共選択論に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。				3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べるができる。						3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。									3	3	3
④	解決すべき現代の社会問題に関する問いを自ら見つけることができる。				4	4		4	4			
⑤	上記問いに対して経済学に基づいた解決策を発信することができる。					4	4	4	4	4		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。	10	10									20
授業への参画度	到達目標②③について、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、リアクションペーパー等を通して評価を行う。		10	10								20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文によって、到達目標④⑤についてに関わる能力が身についているかを評価する。				30	30						60
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	30	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の報告に対して、授業中に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	第1回もしくは第2回授業の際に指示する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ゼミナールガイダンス		ゼミナールの内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者がゼミナールの準備を具体的に行えるようにする。また、ゼミナールで公共選択論を学ぶことの意味と意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナールで学ぶことの意味について認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。		150分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		90分
2	個人報告1		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめてくる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめてくる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
3	個人報告2		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめてくる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめてくる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
4	個人報告3		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめてくる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめてくる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
5	個人報告4		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめてくる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめてくる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
6	個人報告5		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめてくる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめてくる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	個人報告6		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
8	個人報告7		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
9	個人報告8		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
10	個人報告9		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
11	個人報告10		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分
12	個人報告11		指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。		
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめる。		120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	個人報告12	指定された教科書の範囲について担当者が内容をまとめ、授業内に発表を行う。発表について全員による質疑・応答を行う。発表および質疑応答の内容について教員が解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、指定された範囲について正確に理解し、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	指定された範囲について、他の学術文献等も参考にして、報告資料をまとめる。発表者以外は質問の内容や自らの疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	報告や質疑・応答、および教員の解説を踏まえて、当該回の内容について理解が不十分な点や疑問に感じた点について、他の学術文献等も参考にして調べ、明らかになった点をまとめる。	120分
14	研究手法について	グループ研究を行うための研究手法について、一般的な学術論文の構成に関する説明を行う。また、テーマ設定に関しても説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、研究手法の基礎やテーマ設定の方法について理解し、自身の興味がある研究テーマについて説明できる。	
	事前学修	事前に配布する資料を確認し、一般的な学術論文の構成やテーマ設定の重要性を確認してくること。	120分
	事後学修	教員の説明を踏まえて、自身の興味がある研究テーマについて検討すること。	120分
15	研究テーマの選定1	グループごとに研究課題を設定し、関心のあるテーマに関する先行研究について調査報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、関心のある研究課題を発見し、研究テーマを設定できる	
	事前学修	自身の興味がある研究テーマについて検討し、その内容について説明できるようにすること。	120分
	事後学修	決定したテーマについて、グループごとに今後の研究について計画すること。	120分
16	研究テーマの選定2	グループごとに研究課題を設定し、関心のあるテーマに関する先行研究について調査報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、関心のある研究課題を発見し、研究テーマを設定できる	
	事前学修	自身の興味がある研究テーマについて検討し、その内容について説明できるようにすること。	120分
	事後学修	決定したテーマについて、グループごとに今後の研究について計画すること。	120分
17	研究テーマの選定3	グループごとに研究課題を設定し、関心のあるテーマに関する先行研究について調査報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、関心のある研究課題を発見し、研究テーマを設定できる	
	事前学修	自身の興味がある研究テーマについて検討し、その内容について説明できるようにすること。	120分
	事後学修	決定したテーマについて、グループごとに今後の研究について計画すること。	120分
18	研究報告1	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一時的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究報告2	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
20	研究報告3	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
21	研究報告4	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
22	研究報告5	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
23	研究報告6	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
24	研究報告7	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究報告8	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
26	研究報告9	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
27	研究報告10	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
28	研究報告11	グループごとに進捗状況を報告し、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな議論ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、グループワークでのディスカッションを通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
29	最終報告1	グループごとに設定したテーマに関して最終的な研究報告を行い、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな研究報告ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
30	最終報告2	グループごとに設定したテーマに関して最終的な研究報告を行い、他のグループおよび教員とディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、自らが設定した研究テーマに関してアカデミックな研究報告ができ、他者の発表を聞き多様な意見や考え方が存在することを認識し、質疑・応答を通じて自らの主張を一方的な押し付けにならないように論理的に主張することができる。	
	事前学修	研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分
	事後学修	次の研究報告に備え、グループ単位で調査および報告資料の準備を行うこと。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、地方自治における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地方自治の観点から社会を深く観察し、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解することを目的とする。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格を条件とする。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。必ず授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥									4			
⑦									3			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	発表要に作成された資料・レポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッションについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
人口減少社会のデザイン	広井 良典	東洋経済新報社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休みとする。事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	前期授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った地方自治の基本原理及び知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
2	グループワークの手法（１）ディスカッション	グループワークの手法であるディスカッションについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ディスカッションの意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱ったディスカッションの手法を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	グループワークの手法（２）ディベート	グループワークの手法であるディベートについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ディベートの意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱ったディベートの手法を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	グループワークの手法（３）ダイアログ	グループワークの手法であるダイアログについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ダイアログの意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱ったダイアログの手法を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	日本社会の未来	地方自治と日本社会の未来についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点から日本社会の未来についての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
6	人口減少社会	地方自治と人口減少社会についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点から人口減少社会についての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グローバル社会における少子高齢化		地方自治とグローバル社会における少子高齢化についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点からグローバル社会における少子高齢化についての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること		120分
8	コミュニティ		地方自治とコミュニティについての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点からコミュニティについての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること		120分
9	ローカライゼーション		地方自治とローカライゼーションについての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点からローカライゼーションについての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること		120分
10	ポスト成長社会		地方自治とポスト成長社会についての基礎知識学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点からポスト成長社会についての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること		120分
11	社会保障		地方自治と社会保障についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点から社会保障についての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること		120分
12	持続可能な医療		地方自治と持続可能な医療についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点から持続可能な医療についての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	超高齢化社会における死生観	地方自治と超高齢化社会における死生観についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点から超高齢化社会における死生観についての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
14	持続可能な福祉社会	地方自治と持続可能な福祉社会についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方自治の観点から持続可能な福祉社会についての現状と課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで発表することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
15	前期総括	前期授業の総括と振り返りを行い、地方自治の基本原理の学習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期授業の狙いや内容、方法について再整理し、学習成果を自己評価することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、地方自治関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	前期授業で扱った地方自治の基本原理及び知識を復習し、個人研究について検討し、整理すること。	120分
16	ガイダンス及び導入講義	後期授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前に後期スケジュールと内容を確認すること。個人研究の内容についての検討を行うこと。	120分
	事後学修	授業で扱った地方自治の基本原理及び知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
17	研究の手法	個人研究で取り組む論文の目的、研究手法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論文の目的と研究手法について説明することができる。	
	事前学修	個人研究のテーマと概要を事前に整理し、まとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を整理し、個人研究のテーマと研究手法を再検討し、整理すること。	120分
18	個別発表1①	個人研究で取り組む論文の目的、研究手法、概要について発表する（第1グループ）。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、論文の目的と研究手法について説明することができる。	
	事前学修	個人研究のテーマ、研究手法、概要を事前に整理し、発表用資料をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	個人発表を受けて、自分の研究のテーマ、研究手法、概要を再検討し、整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	個別発表 1 ②	個人研究で取り組む論文の目的、研究手法、概要について発表する（第 2 グループ）。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、論文の目的と研究手法について説明することができる。	
	事前学修	個人研究のテーマ、研究手法、概要を事前に整理し、発表用資料をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	個人発表を受けて、自分の研究のテーマ、研究手法、概要を再検討し、整理すること。	120分
20	個別発表 1 ③	個人研究で取り組む論文の目的、研究手法、概要について発表する（第 3 グループ）。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、論文の目的と研究手法について説明することができる。	
	事前学修	個人研究のテーマ、研究手法、概要を事前に整理し、発表用資料をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	個人発表を受けて、自分の研究のテーマ、研究手法、概要を再検討し、整理すること。	120分
21	グループ研究 1	グループ研究で取り組む研究課題の目的、分析手法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループ研究の目的と研究手法について説明することができる。	
	事前学修	グループ研究のテーマと概要を事前に整理し、まとめておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った内容を整理し、グループ研究のテーマと研究手法を再検討し、整理すること。	120分
22	グループ研究 2	中間発表に向けたグループでの研究活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、グループごとにディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループで取り組む研究課題について検討し、問題を整理し、分析することができる。	
	事前学修	グループ研究の作業に必要と考えられる情報収集とその整理を行う。	120分
	事後学修	グループ研究の発表の準備を行う。	120分
23	グループ研究 3	中間発表に向けたグループでの研究活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、グループごとにディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループで取り組む研究課題について検討し、問題を整理し、分析することができる。	
	事前学修	グループ研究の作業に必要と考えられる情報収集とその整理を行う。	120分
	事後学修	グループ研究の発表の準備を行う。	120分
24	グループ研究 4	グループ研究の中間発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、グループ研究の中間成果を発表することができる。	
	事前学修	グループ研究の発表の準備を行い、中間発表用資料を作成する。	120分
	事後学修	発表やコメントを踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	グループ研究 5	最終発表に向けたグループでの研究活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、グループごとにディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、グループで取り組む研究課題について検討し、問題を整理し、分析することができる。	
	事前学修	グループ研究の作業に必要と考えられる情報収集とその整理を行う。	120分
	事後学修	グループ研究の発表の準備を行う。	120分
26	グループ研究 6	グループ研究の最終発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行い、グループ研究の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、グループ研究の成果を発表することができる。	
	事前学修	グループ研究の発表の準備を行い、最終発表用資料を作成する。	120分
	事後学修	発表やコメントを踏まえて、グループの発表の改善点を整理する。	120分
27	個別発表 2 ①	個人研究で取り組む論文の構成と概要について発表する（第 1 グループ）。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、論文の構成と概要について説明することができる。	
	事前学修	個人研究のテーマ、研究手法、概要を事前に整理し、発表用資料をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	個人発表を受けて、自分の研究のテーマ、研究手法、概要を再検討し、整理すること。	120分
28	個別発表 2 ②	個人研究で取り組む論文の構成と概要について発表する（第 2 グループ）。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、論文の構成と概要について説明することができる。	
	事前学修	個人研究の論文構成と概要を事前に整理し、発表用資料をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	個人発表を受けて、自分の研究のテーマ、研究手法、概要を再検討し、整理すること。	120分
29	個別発表 2 ③	個人研究で取り組む論文の構成と概要について発表する（第 3 グループ）。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、論文の構成と概要について説明することができる。	
	事前学修	個人研究の論文構成と概要を事前に整理し、発表用資料をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	個人発表を受けて、自分の研究のテーマ、研究手法、概要を再検討し、整理すること。	120分
30	後期総括	後期授業の総括と振り返りを行い、地方自治の基本原理の学習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後期授業の狙いや内容、方法について再整理し、学習成果を自己評価することができる。	
	事前学修	個人研究の論文構成と概要を事前に整理し、発表用資料をとりまとめておくこと。	120分
	事後学修	後期授業で扱った地方自治の基本原理及び知識を復習し、個人研究について検討し、整理すること。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
前学期は憲法学の基本事項について講義と質疑応答を行う。後学期はゼミ生が各自の研究テーマを決めてレジュメ・資料を準備した上で口頭で発表する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法学の基礎事項を理解し、その基礎の上に立って各自の研究テーマの発見し、レジュメにまとめて発表できる。

【履修条件】
入室試験に合格した者。

【授業方法】
教員による講義と質問、およびゼミ生による研究発表と相互の議論。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法学の基礎概念を理解し、説明することができる。				3	3				3		
②	課題を発見し、解決に必要な情報（資料）を収集できる。							3	3			
③	収集した情報（資料）のエッセンスをまとめることができる。					3	3					
④	収集した情報（資料）をもとに、課題の解決につながる方法を構築できる。						3	3	3			
⑤	自ら構築した方法に従って、課題の解決に向けた論理を展開できる。						3		3	3		
⑥	自らの考えを論理的・説得的に発表できる				3		4		3	3	3	3
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	研究発表の際に要点を的確にまとめたレジュメを作成できること。	3	3	3	3	3						15
討論・発表等	各自最低1回の研究発表を行うこと。	3	3	3	3	3	3					18
授業への参画度	出席回数と報告者に対する質問の頻度。		3				4					7
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】3年次4年次とも上記3項目の点数をそれぞれ40点とし、成績評価の際にその合計点数を0.5倍したものにゼミナール論文の評価点（60点満点）を加えて成績評価する。											
その他(留意事項)	ゼミ合宿に積極的に参加すること。											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文(60点)を作成し、指定の期日までに提出すること。なお、個別指導を受けないで提出した場合、合格点を保証しない。	10	10	10	10	10	10					60
到達目標別の比率(%)		16	19	16	16	16	17					100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表の都度、質問・講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック日本国憲法	下條芳明・東裕	嵯峨野書院	2015	教科書	必携
Next教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹ほか	弘文堂	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	憲法の概念	憲法の概念、分類、特質について講義し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	憲法とはどのような法であるか説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する。	60分
2	国家と憲法	国家の概念および国家と憲法の関係について講義し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	国家と憲法の関係について説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
3	主権の概念	主権の概念について講義し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	国民主権と国家主権の違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
4	自衛権の概念	自衛権の意義について講義し、日本国憲法と自衛権について質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	個別的自衛権と集団的自衛権の違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
5	立憲主義の概念	「立憲主義」の概念の正確な理解を獲得できるよう講義し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	近代立憲主義と現代立憲主義の違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
6	法の支配	「法の支配」の意義とその日本国憲法における現れを講義し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	「法の支配」について日本国憲法の条文を挙げて説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	権力分立		「権力分立」の意義とその日本国憲法における現れを講義し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	日本国憲法における権力分立について、条文を挙げて説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
8	国民代表		国民代表の意義とその現実の在り様について講義し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	国民代表の理念が現実にはどのように運用されているか説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
9	基本的人権		基本的人権の意義と人権の分類について講義し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	人権の分類と個別の人権の性質について説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
10	公共の福祉		「公共の福祉」の概念について通説的理解とそれへの批判について講義し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	「公共の福祉」による人権の制約について説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
11	司法権の独立		司法権の独立の意義とそれを確保するための制度について講義し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	司法権の独立を確保するしくみについて条文をもとに説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分
12	統治行為		「統治行為」の意義および司法権の限界について講義し、質疑応答を行う。
	この回の到達目標	統治行為と司法権の限界に漬ついて説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心にして、講義内容を整理する	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家緊急権	国家緊急権の意義と立憲主義の関係について講義し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	国家緊急権の類型について説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心に、講義内容を整理する	60分
14	憲法改正	憲法改正の意義と立憲主義の関係について講義し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	憲法改正条項があることの意味を説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心に、講義内容を整理する	60分
15	天皇と国体	国民主権に基づく天皇制と「国体」の関係について講義し、質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	「国体」と「政体」の違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書の関連部分を読み、疑問点を明確にする。	180分
	事後学修	授業で配布されたレジュメを中心に、講義内容を整理する	60分
16	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
17	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
18	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
20	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
21	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
22	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
23	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
24	研究発表	ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
26	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
27	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
28	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
29	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分
30	研究発表		ゼミ生2名がそれぞれの研究テーマについてレジュメ・資料を準備した上で発表し、それに対し質疑応答を行う。
	この回の到達目標	研究テーマに沿った主要な参考文献・資料を提示し、それらをもとに研究の方向性を明示できる。	
	事前学修	研究テーマと研究の方向性を示し、かつ参考文献リストを掲載したレジュメを作成すること。	180分
	事後学修	報告者に対して担当教員が行った質問の意味とそれに対する解答を各自が共有できるようにゼミ内容を整理すること。	60分

科目名	ゼミナール3年	担当者	平井 智尚	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：情報コミュニケーション分野の文献や論文の講読を通じて、専門的な知識の修得を図っていきます。また、共同研究を通じて、論文執筆の方法を学び、ゼミナール論文の執筆に向けた基礎固めを行っていきます。 4年次：ゼミナール論文の執筆に向けた個人の研究報告が中心となります。また、必要に応じて、ゼミナール論文の執筆に関連する文献や論文の講読を行います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：情報コミュニケーション分野の基礎的な概念や理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する方法を身につける。また、共同研究を通じて、テーマ設定、調査、論述といった論文執筆のプロセスを身につける。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識の向上をはかり、論理的、批判的、科学的な考察をできるようにする。そうした活動を通じて、学問的探求心を高め、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：文献講読を実施し、報告が割り当てられた担当者は指定箇所のレジュメを作成し、発表を行っていただきます。また、発表された内容をもとにグループディスカッションを実施します。あわせて、共同研究の報告やゼミナール論文に関連する個人の研究報告も実施します。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における報告を行っていただきます。また、発表された内容をもとにしたグループディスカッションを実施します。必要に応じて文献講読を実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーション、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル				
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
①	情報コミュニケーションにかかる社会科学の知識を習得し、高い倫理観を身につける	3							
②	現代社会における情報コミュニケーションをめぐる問題のメカニズムを理解し、その問題を説明できる		3						
③	情報コミュニケーションに関する基礎的・専門的な知識を基にして、論理的、科学的、合理的な考察ができる			3					
④	現代社会における事象を注視し、さまざまな営みへと積極的に関与し、自ら問題を発見する				3				
⑤	より良い社会の創造という観点から問題設定を行う					4			
⑥	他者とのコミュニケーションを通じて、自らの研究活動の発展を図る						4		
⑦	社会・共同体における様々なアクターとの協働を促進する							4	
⑧	研究活動を通じて自己の向上や社会貢献を実現する								4
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	12	13	12	13	12	13	12	13			100
その他()												
到達目標別の比率(%)		12	13	12	13	12	13	12	13			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール時間内および随時の指導

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
つながりっぱなしの日常を生きる：ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの	ダナ・ボイド	草思社	2014	教科書	必携
インターネット・デモクラシー：拡大する公共空間と代議制のゆくえ	ドミニク・カルドン	トランスビュー	2012	教科書	必携
#リパブリック：インターネットは民主主義になにをもたらすのか	ギャス・サンス ディーン	勁草書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
必要に応じて随時対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの運営、スケジュール、文献講読の割り当て	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール活動への理解を深める	
	事前学修	自らの興味・関心に則した文献を読む	120分
	事後学修	輪読予定の文献に目を通しておく	120分
2	文献1-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
3	文献1-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
4	文献1-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
5	文献1-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
6	文献1-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	共同研究報告1	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、報告に関する打ち合わせ	120分
	事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
8	文献2-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
9	文献2-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
10	文献2-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
11	文献2-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
12	文献2-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	共同研究報告2	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、報告に関する打ち合わせ	120分
	事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
14	論文報告1	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆	120分
	事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
15	論文報告2	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆	120分
	事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
16	文献3-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
17	文献3-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
18	文献3-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	文献3-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
20	文献3-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
21	共同研究報告3	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆、報告に関する打ち合わせ	120分
	事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
22	文献4-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
23	文献4-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
24	文献4-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	文献4-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
26	文献4-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
27	共同研究報告4	成果報告：口頭発表	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の成果を互いに共有する	
	事前学修	各種調査の実施、報告に関する打ち合わせ、論文執筆	120分
	事後学修	校正を実施し、論文を完成させる	120分
28	論文報告3	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆	120分
	事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
29	論文報告4	ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆	120分
	事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
30	まとめ	1年間の振り返り：ゼミナール運営および研究活動の改善点や課題等について	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール運営および研究活動のさらなる発展に向けて意識の共有を図る	
	事前学修	ゼミナール運営および研究活動の改善点や課題等を各自で整理する	120分
	事後学修	確認された課題の改善を図る	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
都市政策に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，都市政策に関する専門領域に関する卒業論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共政策および都市政策における基礎理論について修得するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。地方分権社会における各地域が抱える諸問題について学習するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。また，グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
文献研究を行い，各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。後半は履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，フォーラムへの参加など，学修効果を高めるための創意工夫がなされる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3						
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。							3	3	3			
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									4	4	4	4
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。												3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学 修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を 解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる 報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益 な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者 倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われてい るかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
面談、討論、相談、レポートなどの添削により随時おこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員としての知見と経験により情報を提供する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。 到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	当該専門領域につき，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し，これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し，解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	専門演習(6)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	専門演習(7)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	専門演習(8)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	専門演習(9)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	専門演習(10)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	専門演習(11)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	専門演習(12)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	3年次前期のまとめ		これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、レポート課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	課題報告(1)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	課題報告(2)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	課題報告(3)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
20	課題報告(4)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
21	課題報告(5)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
22	課題報告(6)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
23	課題報告(7)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		120分
	事後学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
24	課題報告(8)		レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	課題報告(9)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	課題報告(10)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	課題報告(11)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	課題報告(12)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得るレポート課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次は、知的財産法の基礎を習得し、法律学の研究に欠かせない判例研究を行う。また、実際の事件を下敷きにしたオリジナルの著作権侵害訴訟の「模擬裁判」を体験することで、裁判所、特許庁や企業などの実務の現場において知的財産法がどのように機能しているかについて認識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次は、知的財産法の基礎を習得するために判例研究を数多く行い、4年次に制作するゼミナール論文の研究テーマを自ら選択、決定出来るようになることを目標とする。また、「模擬裁判」を通して、世の中の実際の法律の適用のしかたを実感する。

【履修条件】
当ゼミナール・入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：チームを組んで、判例研究発表を行い、発表された内容をもとに全員でディスカッションを行う。また、「模擬裁判」を実施する。外部研修企画も実施する（JASRAC等）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例研究はチームによる発表が中心となり、模擬裁判も所属する班ごとに主体的に準備を進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3	3						
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3	3						
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3	3						
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。						4	4	4	4	4	4
⑤	商標の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3	3						
⑥	商標権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3	3						
⑦	商標権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。						4	4	4	4	4	4
⑧	不正競争防止法に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3	3						
⑨	不正競争防止法に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3	3						
⑩	不正競争防止法に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。						4	4	4	4	4	4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	担当となった判例研究の発表方法，内容を評価する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
授業への参画度	自分が担当でない判例の研究，他者の発表に対する質問， ディスカッションへの参画度を評価する。 模擬裁判への取り組み方，参画度を評価する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身に ついているかを評価する。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し，成 績評価は4年次を行う											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法判例百選 第6版	小泉直樹，他3名編	有斐閣	2019	教科書	必携
商標・意匠・不正競争判例百選 第2版	茶園成樹 他	有斐閣	2020	教科書	推奨
備考	発表担当者は事前にレジュメを用意すること。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail : akiko_fujita@lapinrose.jp 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士，特許庁工業所有権審議会委員，財務省専門委員（知的財産）
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての19年間の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、判例調査の方法	著作権法判例を題材にして、判例調査の方法を習得する。	
	この回の到達目標	法学部図書館の電子ジャーナルを使用して、判例調査の方法を習得する。	
	事前学修	著作権法判例百選 第6版の目次に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	自ら調査対象の判例の資料を集めてみる。	120分
2	判例研究①	具体的事件の判例調査と発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査、発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
3	判例研究②	具体的事件の判例調査と発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査、発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
4	判例研究③	具体的事件の判例調査と発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査、発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
5	判例研究④	具体的事件の判例調査と発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査、発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
6	判例研究⑤	具体的事件の判例調査と発表、ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査、発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	判例研究⑥	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
8	判例研究⑦	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
9	判例研究⑧	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
10	判例研究⑨ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
11	判例研究⑩ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
12	判例研究⑪ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	判例研究⑫ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
14	判例研究⑬ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
15	判例研究⑭ 模擬裁判準備	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション 模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。 模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。 班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
16	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
17	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
18	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
20	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
21	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
22	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
23	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
24	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	模擬裁判準備	模擬裁判の準備	
	この回の到達目標	模擬裁判の班ごとに準備を進める。	
	事前学修	班ごとに模擬裁判の準備作業をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
26	判例研究⑮	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
27	判例研究⑯	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
28	判例研究⑰	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
29	判例研究⑱	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分
30	判例研究㉔	具体的事件の判例調査と発表，ディスカッション	
	この回の到達目標	チームで判例研究の発表をする。	
	事前学修	チームで協力しあって判例調査，発表の準備をする。	120分
	事後学修	発表時の課題とディスカッションの結果をふまえて発表資料をブラッシュアップする。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	松島 雪江	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
法学の基礎的知識を共有した上で、法哲学的に扱いうる事象につき、個人研究発表、相互の議論、論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法哲学、法思想を通じた法的問題の探求を目的とする。

【履修条件】
3、4年連続して受講すること。

【授業方法】		
法学の基礎知識を共有する時は、テキストの輪読を行う。各学生が担当箇所をまとめて発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。その後個人研究のテーマを見つけ、各学生が個人研究を行う。授業内で発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。論文執筆にあたっては、執筆方法や論文の構成などの指導を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生の発表に基づき、相互に意見交換を行い、講評する。それを元に、次回の研究発表を作成していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学の基本的知識を得た上で、それを活用することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	個人研究のテーマを見つけ、それを発展的に研究することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	学生相互間で議論を行うことができる。				3	3	3	3	3	3	3
④	個人研究テーマにつき、形式的に整ったレポートや論文を執筆することができる。				3	3	3	3	3	3	3
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分の見解を言語化し、論理的に示すことができる。	5	10	10	25							50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	25							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
研究発表に関しては、授業内で講評を行う。論文やレポートに関しては、事後的にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	その都度必要な文献を利用する。				

【オフィスアワー】
火曜12:20-12:50、研究室1713にて。訪問につき事前に連絡のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	1年間のゼミ活動計画、研究計画を立てる。	
	この回の到達目標	これから1年間で何をするのか、どのように活動するのか理解し、実行可能な研究計画を立てられるようにする。	
	事前学修	輪読に適すると思われる法学の基礎的文献を探しておく。	120分
	事後学修	輪読文献を読み込み、レジュメ作成などの準備を行う。	120分
2	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
3	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
4	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
5	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分
6	文献輪読	法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査をしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。	120分
8	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。	120分
9	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。	120分
10	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。	120分
11	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。	120分
12	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。	
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。	120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。		120分
14	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。		120分
15	文献輪読		法学の基礎文献を輪読する。担当箇所につきレジュメを作成し、口頭発表する。担当者以外は質問、意見等を行う。	
	この回の到達目標	輪読文献につき理解する。内容に関して質問や意見など言えるようにする。		
	事前学修	輪読文献につき事前に調べ、問題点を抽出しておく。関連する他の文献も併せて活用する。		120分
	事後学修	輪読文献の不明点を明らかにした上で、次回輪読文献について調査しておく。		120分
16	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
17	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
18	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
19	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
20	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
21	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
22	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
23	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
24	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
26	研究発表個人		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
27	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
28	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
29	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
30	口頭試問		4年生の論文口頭試問に出席し、コメントを述べる。
	この回の到達目標	4年生の発表を理解し、それに質問や意見を行うことができる。	
	事前学修	4年生のこれまでの発表を理解しておく。	120分
	事後学修	口頭試問で4年生が指摘されたことを受け、自分の研究に活かせる点を模索する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	松元 雅和	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：政治哲学における現代の諸問題について学修するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 4年次：3年次に学修した内容に基づき，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し，ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政治哲学における現代の諸問題について理解し，4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し，政治哲学における現代の諸問題への理解を深め，自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表を担当し、グループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治哲学の文献購読を通じて、現代の諸問題について理解する。						3	3	3	3				
②	各自の興味・関心に沿った研究テーマを探求する。										4	4	4	4
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表の充実度・精確性を評価する。	30										30
授業への参画度	積極的な発言を評価する。	30										30
その他(ゼミナール 論文)	研究テーマの進展を評価する。		40									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握する。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	文献1	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
3	文献2	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
4	文献3	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
5	文献4	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
6	文献5	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献6	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
8	文献7	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
9	文献8	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
10	文献9	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
11	文献10	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
12	文献11	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文献12	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
14	文献13	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
15	文献14	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
16	文献15	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
17	文献16	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
18	文献17	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	文献18	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
20	文献19	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
21	文献20	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
22	文献21	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
23	文献22	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
24	文献23	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	文献24	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
26	文献25	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
27	文献26	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
28	文献27	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
29	文献28	指定した文献に関して、輪読・発表・グループディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	指定文献を読み、発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	指定文献を読み直す。	60分
30	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	輪読文献全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	三澤 真明	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ヨーロッパ諸国の政治について、理論的な検討を加えることによって、日本や世界各国の政治に応用可能な知識を身につける。そのために、受講生が主体となって研究発表やディスカッションを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学における理論を理解し、活用することで、ヨーロッパ各国の政治を把握し説明することができる。また説明にあたっては、適切な資料等を準備し、他者に対して説得的なプレゼンテーションが行える。

【履修条件】
積極的にゼミナール活動に参加すること。

【授業方法】
指定のテキストの輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとに質疑応答を行い、最後に教員がコメント等をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講生の発表を中心としたディスカッション形式	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学の基礎理論を説明することができる。				3	3	3	3				
②	ヨーロッパ各国の政治を説明することができる。				3	3	3	3				
③	政治に対して、理論的に自己の意見を表明することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
④	自身の意見を他者に分かりやすく伝えることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①、②、③、④について、発表に際しては、基本的な文献の内容を把握して、論点を明確に示しているか、適切な資料等が準備されているかを評価する。また、発表者にかかわらず、ゼミナール参加者は積極的に自身の意見を表明することで評価を受ける。	5	5	5	5							20
授業への参画度	到達目標①、②、③、④について、ゼミナールにかかわる様々な活動への積極的な参加の有無によって評価する。参加には、自身の意見を述べるなど主体的なかわりが必須となる。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①、②、③、④について、ゼミナール論文で、適切な文献が用いられているか、基本的な論文の書き方を理解しているかを評価する。	10	10	20	20							60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の発表後に適宜、教員がコメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『原因を推論する』	久米郁男	有斐閣	2013	教科書	必携
『ヨーロッパ統合史 増補版』	遠藤乾 編	北海道大学出版会	2014	教科書	必携
『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第二版』	網谷龍介ほか編	ナカニシヤ出版	2014	教科書	必携
備考	その他の文献については、授業の進行に応じて、適宜、紹介する。				

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		ゼミナールの内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、ヨーロッパ政治を学ぶ意味やゼミナールという知的共同体で学ぶ意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナールの全体像を把握すると共に、ヨーロッパ政治を学ぶことやゼミナールという知的共同体で学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	文献購読①		『原因を推論する』の第一章、第二章、第三章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。		
	事前学修	『原因を推論する』の第一章、第二章、第三章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		150分
	事後学修	『政治学の方法』を読み、政治学方法論をさらに深く学ぶ。		90分
3	文献購読②		『原因を推論する』の第四章、第五章、第六章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。		
	事前学修	『原因を推論する』の第四章、第五章、第六章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		150分
	事後学修	『入門政治経済学方法論』を読み、政治学方法論をさらに深く学ぶ。		90分
4	文献購読③		『原因を推論する』の第七章、第八章、第九章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。		
	事前学修	『原因を推論する』の第七章、第八章、第九章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		150分
	事後学修	『社会科学のリサーチデザイン』を読み、政治学方法論をさらに深く学ぶ。		90分
5	文献購読④		『原因を推論する』の第十章、第十一章、第十二章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。		
	事前学修	『原因を推論する』の第十章、第十一章、第十二章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		150分
	事後学修	『社会科学の方法論争』を読み、政治学方法論をさらに深く学ぶ。		90分
6	文献購読⑤		『ヨーロッパ統合史』の序章、第一章、章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。		
	事前学修	『ヨーロッパ統合史』の序章、第一章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		120分
	事後学修	『原典ヨーロッパ統合史』を活用し、一次資料にもアクセスしてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文献購読⑥		『ヨーロッパ統合史』の第二章、第三章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。		
	事前学修	『ヨーロッパ統合史』の序章、第一章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		120分
	事後学修	自身の関心のある国を選び、その国におけるヨーロッパ統合への向き合い方を調べてみる。		120分
8	文献購読⑦		『ヨーロッパ統合史』の第四章、第五章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。		
	事前学修	『ヨーロッパ統合史』の第四章、第五章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		120分
	事後学修	自身の関心のある国を選び、その国におけるヨーロッパ統合への向き合い方を調べてみる。		120分
9	文献購読⑧		『ヨーロッパ統合史』の第六章、第七章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。		
	事前学修	『ヨーロッパ統合史』の第六章、第七章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		120分
	事後学修	自身の関心のある国を選び、その国におけるヨーロッパ統合への向き合い方を調べてみる。		120分
10	文献購読⑨		『ヨーロッパ統合史』の第八章、第九章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。		
	事前学修	『ヨーロッパ統合史』の第八章、第九章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		120分
	事後学修	自身の関心のある国を選び、その国におけるヨーロッパ統合への向き合い方を調べてみる。		120分
11	文献購読⑩		『ヨーロッパ統合史』の終章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。		
	事前学修	『ヨーロッパ統合史』の終章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		60分
	事後学修	現在のヨーロッパ統合の課題を考えてみる。		180分
12	文献購読⑪		『ヨーロッパのデモクラシー』の第一章、第二章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。		
	事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第一章、第二章を読んで、疑問点と問題点を整理する。		120分
	事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエスションを立ててみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文献購読⑫	『ヨーロッパのデモクラシー』の第三章、第四章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第三章、第四章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	120分
	事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエスションを立ててみる。	120分
14	文献購読⑬	『ヨーロッパのデモクラシー』の第五章、第六章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第五章、第六章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	120分
	事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエスションを立ててみる。	120分
15	文献購読⑭	『ヨーロッパのデモクラシー』の第七章、第八章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第七章、第八章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	120分
	事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエスションを立ててみる。	120分
16	文献購読⑮	『ヨーロッパのデモクラシー』の第九章、第十章の内容を要約し、論点と課題を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	『ヨーロッパのデモクラシー』の第九章、第十章を読んで、疑問点と問題点を整理する。	120分
	事後学修	自身が興味関心を持つ各国の政治について、リサーチクエスションを立ててみる。	120分
17	研究発表①	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
18	研究発表②	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究発表③	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
20	研究発表④	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
21	研究発表⑤	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
22	研究発表⑥	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
23	研究発表⑦	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
24	研究発表⑧	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究発表⑨	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
26	研究発表⑩	各自が興味を持ったテーマに従って、研究発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のリサーチペーパーを修正する。	180分
27	ゼミナール論文テーマ発表①	各自がゼミナール論文で取り扱うテーマやリサーチクエスチョンを発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたゼミナール論文概要を読み、質問内容を考えておく。	60分
	事後学修	発表後のディスカッションを踏まえて、論文の序章にあたる部分を構想する。	180分
28	ゼミナール論文テーマ発表②	各自がゼミナール論文で取り扱うテーマやリサーチクエスチョンを発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたゼミナール論文概要を読み、質問内容を考えておく。	60分
	事後学修	発表後のディスカッションを踏まえて、論文の序章にあたる部分を構想する。	180分
29	ゼミナール論文テーマ発表③	各自がゼミナール論文で取り扱うテーマやリサーチクエスチョンを発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたゼミナール論文概要を読み、質問内容を考えておく。	60分
	事後学修	発表後のディスカッションを踏まえて、論文の序章にあたる部分を構想する。	180分
30	ゼミナール論文テーマ発表④	各自がゼミナール論文で取り扱うテーマやリサーチクエスチョンを発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたゼミナール論文概要を読み、質問内容を考えておく。	60分
	事後学修	発表後のディスカッションを踏まえて、論文の序章にあたる部分を構想する。	180分

科目名	ゼミナール3年	担当者	三谷 文栄	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：政治コミュニケーションの理論的枠組みを学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政治コミュニケーションの観点からのゼミナール論文作成に向けて、基礎的な考え方を理解するとともに、問題関心を深めることを目的とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通じて、現代社会の諸問題を政治コミュニケーション論の観点から、分析、判断、評価できるようになることを目的とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：輪読で使用するテキストは、かならず事前に読み、自らの視点からのコメントを準備しておくこと。また、発表に対する助言については、各自で研究に活かせるように授業後に振り返ること。 4年次：各自、研究テーマに関する資料の収集を行い、発表の準備をすること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前の予習と、それを生かしたディスカッション。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代社会の諸問題に対する関心を高める					3	3						
②	他者の意見に耳を傾けながら、研究を進めていく										3	3	
③	政治コミュニケーションの観点から、各自の研究テーマを掘り下げ、ゼミナール論文を作成する							3	3	3			3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①に関連して、研究内容とゼミナール論文が基準に達しているかで評価する。	30										30
授業への参画度	到達目標②に関連して、ゼミナール活動への積極的な参加やコメント内容も評価する。		30									30
その他(ゼミナール論文)	到達目標③に関連して、ゼミナール論文の内容で評価する。			40								40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表内容に対してはその場でコメントするが、その他のことに関してはメール等で受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	参考書は適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日の昼休み。事前に連絡を入れることが好ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	オリエンテーション	
	この回の到達目標	ゼミナールで使用する文献の紹介などを行う。	
	事前学修	シラバスを確認する。	120分
	事後学修	文献を読む。	120分
2	文献 1	文献 1 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
3	文献 1	文献 1 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
4	文献 1	文献 1 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
5	文献 2	文献 2 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
6	文献 2	文献 2 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献 2	文献 2 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
8	文献 2	文献 2 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
9	文献 2	文献 2 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
10	文献 2	文献 2 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
11	文献 2	文献 2 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
12	文献 2	文献 2 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文献 3	文献 3 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
14	文献 3	文献 3 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
15	文献 3	文献 3 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
16	文献 3	文献 3 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
17	文献 3	文献 3 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
18	文献 3	文献 3 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	文献 3	文献 3 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
20	文献 3	文献 3 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
21	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
22	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
23	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
24	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
26	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
27	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
28	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
29	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分
30	文献 4	文献 4 を輪読する。	
	この回の到達目標	文献の輪読を通じて、問題関心を深める。	
	事前学修	文献を読み、わからないところを確認する。	120分
	事後学修	文献を読み、自身の問題関心と照らし合わせて、研究を進める。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
説得ディベートやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における公共政策及びその形成過程の特質を検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：公共政策に関する基礎理論を修得するとともに、社会問題を解決するための政策オプションについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解します。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミ内で共有・考察します。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成しつつ、最終的に卒業論文を完成させます。

【履修条件】
ゼミナールの入室試験に合格することが必要です。

【授業方法】
毎回、公共政策に関する説得ディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	説得ディベート、グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。				3	3		3				
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				3	3	3	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		3	4	4	3
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。							3	3	3	3	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	20	20							60
授業への参画度	毎回、説得ディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他(ゼミナル論文)	4年次に提出される卒業論文が、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	20	20									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回の説得ディベートに関する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	説得ディベート、グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、説得ディベート、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		前期の授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
16	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
17	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
18	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
20	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
21	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（フォーラム発表準備）		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
22	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（フォーラム発表準備）		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
23	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（フォーラム発表準備）		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
24	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
26	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
27	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
28	公共政策の現状と課題に関する説得ディベート		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題について説得ディベートを通じて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
29	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
30	まとめ		後期の授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
このゼミナールでは、商法（商取引法・会社法・運送法）に関する裁判例の知識や基礎的な理論をベースに、商法分野における体系的知識を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商法・会社法・運送法における判例及び学説に関する基礎的な知識について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークやディスカッションの中で他の受講者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミナールの選考を通過したもの

【授業方法】		
判例や事例問題を素材に商法分野についての検討を行い、ゼミナール内において報告し、質疑応答を行うという演習形式で行う。そのため、各自報告する判例や事例問題について検討して、レジュメを作成し、ゼミナール内にて報告をするとともに、担当外の学生についても積極的にディスカッションに参加する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一方的な講義形式ではなく、受講生が予め検討した商法に関連する判例及び事例問題について、自ら教科書や体系書・論文等を参照しつつ、レジュメを作成して報告を行い、参加者同士でディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	商法・会社法の制度の全体構造について説明することができる。						3	3	3	3	3	3	3
②	商法・会社法に関する主要な論点に関する判例・学説を調査し、その内容について説明することができる。						3	3	3	3	3	3	3
③	商法・会社法に関する論点について判例・学説を踏まえた上で、適切な法的紛争の解決方法を、自らの意見を述べながら考察することができる。						3	3	3	3	3	3	3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	商法・会社法に関する判例及び事例問題について予め検討した上で、レジュメを作成し、ゼミナール内において積極的に自らの意見を述べながら報告しているかどうかによって評価を行う。	10	10	10								30
授業への参画度	自分の担当外の判例及び事例問題においても、予め自分なりに検討を重ね、ゼミナール内において質疑応答に積極的に参加しているかどうかによって評価を行う。	10		10								20
その他(ゼミナール論文)	自らの興味関心のある論点等について従来の判例や学説等を踏まえた上で、自らの意見を適切に表現されているかによって評価を行う。			50								50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	10	70								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール内における質疑応答や課題作成等の場合には、適宜、課題への添削という形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、自らが持っている商法・会社法の教科書と六法は必ず持参すること。				

【オフィスアワー】
水曜日の午後1時00分～午後2時30分。ただし、在室中は原則対応する。研究室（本館9階1919研究室） メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び商法判例・事例問題の検討方法		ゼミナールの運営方法に関するガイダンスと商法判例や事例問題の検討方法について説明する。
	この回の到達目標	ガイダンスが学修者が講義の全体像を理解することができる。商法判例や事例問題の検討方法に関して、到達目標①に関連して、その分析手法を知った上で、判例や事例問題についての検討を行うことができるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、学修者自身が持っている商法・会社法の教科書を読んでおき、どのような判例や論点があるのかを予め確認する。	120分
	事後学修	判例研究や事例問題の分析の方法について自分なりにまとめておく。	120分
2	会社法総論（会社制度・法人制度）に関する判例及び学説の分析		会社法総論のうち会社制度や法人制度に関する判例・事例問題について検討する。
	この回の到達目標	会社制度や法人制度に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
3	持分会社制度に関する判例及び学説の分析		持分会社制度に関する判例・事例問題について検討する。
	この回の到達目標	持分会社制度に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
4	会社法総則に関する判例及び学説の分析		会社法総則に関する判例・事例問題について検討する。
	この回の到達目標	会社法総則に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明できるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
5	会社の設立規制に関する判例及び学説の分析		会社の設立規制に関する判例・事例問題について検討する。
	この回の到達目標	会社の設立規制に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明できるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
6	会社設立時における払込規制に関する判例及び学説の分析		会社設立時における払込規制に関する判例・事例問題について検討する。
	この回の到達目標	会社設立時における払込規制に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明できるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	株式の性質等に関する判例及び学説の分析		株式の性質等に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	株式の性質等に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
8	株式の譲渡に関する判例及び学説の分析		株式の譲渡に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	株式の譲渡に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
9	譲渡制限株式制度に関する判例及び学説の分析		譲渡制限株式制度に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	譲渡制限株式制度に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
10	種類株式等に関する判例及び学説の分析		種類株式等に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	種類株式等に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
11	募集株式の発行に関する判例及び学説の分析		募集株式の発行に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	募集株式の発行に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
12	募集株式の有利発行や企業買収に関する判例及び学説の分析		募集株式の有利発行や企業買収に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	募集株式の有利発行や企業買収に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	株式会社の機関構造に関する判例及び学説の分析		株式会社の機関構造に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	株式会社の機関構造に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
14	株主総会に関する判例及び学説の分析		株主総会に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	株主総会に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
15	取締役・取締役会に関する判例及び学説の分析		取締役・取締役会に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	取締役・取締役会に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
16	監査役等に関する判例及び学説の分析		監査役・会計参与・会計監査人に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	監査役・会計参与・会計監査人に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
17	各種委員会設置会社に関する判例及び学説の分析		各種委員会設置会社に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	各種委員会設置会社に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
18	会社の計算に関する判例及び学説の分析		会社の計算に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	会社の計算に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	企業不祥事に関する判例及び学説の分析		企業不祥事に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	企業不祥事に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
20	商法総則及び個人商人に関する判例及び学説の分析		商法総則・個人商人に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	商法総則及び個人商人に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
21	商取引法に関する判例及び学説の分析		商取引法（商事売買等）に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	商取引法（商事売買など民法上の取引との相違）に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
22	場屋営業に関する判例及び学説の分析		場屋営業に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	場屋営業に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
23	運送契約に関する判例及び学説の分析		運送契約に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	運送契約に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
24	運送人の責任に関する判例及び学説の分析		運送人の責任に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	運送人の責任に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	航空運送契約に関する判例及び学説の分析		航空運送契約に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	航空運送契約に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
26	海上運送契約に関する判例及び学説の分析		海上運送契約に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	海上運送契約に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
27	海上運送人の責任に関する判例及び学説の分析		海上運送人の責任に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	海上運送人の責任に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
28	共同海損・海難救助に関する判例及び学説の分析		共同海損・海難救助に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	共同海損・海難救助に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
29	船舶衝突に関する判例及び学説の分析		船舶衝突に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	船舶衝突に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
30	金融法に関する判例及び学説の分析		金融法に関する判例・事例問題について検討する。	
	この回の到達目標	金融法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	南 由介	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：関心のあるテーマを選択し、報告を行った後、ゼミ生全員で批判・検討し、議論を行う。 4年次：ゼミナール論文の題材とするテーマについて中間報告を行い、問題点を批判・検討し、内容を深化させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：刑法総論および各論における様々な問題から各自の関心のあるテーマを選択し、刑法学の探究をはかる。 4年次：3年次で学修した知識・思考力を前提に、ゼミナール論文の題材を決め、さらなる刑法学の探究をはかる。

【履修条件】
履修を許可された学生であること。

【授業方法】		
あらかじめ決めておいた担当者が、担当する問題に関する学説の検討・批判や判例の分析・検討を内容とする報告を行い、ゼミ生全員で、さらに相互に検討・批判することを通して、刑法学の学修を図りたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	あらかじめ決めた担当者に報告をしてもらい、その後にゼミ生全員で議論をしてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	刑法の基礎的知識を修得する。					3	3	3	3	3	3	3	3
②	刑法総論・各論における重要な論点について、判例および学説を理解する。					3	3	4	3	3	3	3	4
③	刑法総論・各論における重要な論点について、判例・学説を批判的に検討した上で、自説を展開できるようにする。					3	3	4	4	4	4	4	4
④	刑法学の学修を通して、法的・論理的思考を涵養し、矛盾なく自分の言葉で自己の考えを示すことができるようにする。					3	3	4	4	4	4	4	3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	3年次・4年次継続して履修し、報告をしなければならない。特に到達目標①②の点が重視される。	10	10	6	6							32
授業への参画度	ただゼミに出席するのみでは足りず、積極的に報告者に質問等を行うなどの発言が求められる。到達目標①の点が問われる。	10	6	6	6							28
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の提出が必要である。特に到達目標②③④の点が重視される。	10	10	10	10							40
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	26	22	22							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日14：40～16：10（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室9号館4階 minami.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	ゼミの運営方針について。	
	この回の到達目標	刑法学を概観する。	
	事前学修	刑法総論・各論を復習する。	120分
	事後学修	刑法総論・各論の文献を読み、報告する題材を探す。	120分
2	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する	120分
3	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
4	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
5	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
6	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
8	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
9	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
10	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
11	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
12	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
14	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
15	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
16	オリエンテーション・導入講義	ゼミナール論文の題材についての現状報告。	
	この回の到達目標	刑法学を概観する。	
	事前学修	刑法総論・各論に関する文献を読み、題材を探す。	120分
	事後学修	題材探しに関し、十分でないところを調べ、さらに探す。	120分
17	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
18	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
20	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
21	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
22	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
23	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
24	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
26	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
27	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
28	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
29	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
30	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：日本における知的財産権（主に特許を中心）における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 また、実際にアメリカに特許出願を行うことを通して、勉強の成果を確認する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。また、米国における特許権の諸問題を研究する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
3年次：日本の判例の輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 また、3～4人にグループに分け、各班が興味のある題材を自ら決定し発表し、教員がコメントする。 4年次：米国の判例の輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。又、各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。 輪読・判例の発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	米国特許庁へ出願を行う。そのため、出願に必要な書類を学生自ら作成し、インターネットにて出願を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10	
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20	
授業への参画度													
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70	
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う												
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		30	40	15	15							100	

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				
【オフィスアワー】					
火曜昼休み 9号館9408 三村淳一研究室					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	米国弁理士としての米国特許出願や、米国企業との特許ライセンス交渉		
実務経験に基づく実践的教育の内容		机上の勉強を、実際の特許出願として実践する。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	当該専門領域（日本特許法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	当該専門領域（日本特許法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	当該専門領域（日本特許法）につき、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	専門演習(6)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
8	専門演習(7)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
9	専門演習(8)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
10	専門演習(9)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
11	専門演習(10)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
12	専門演習(11)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願に向けた発明発掘及び明細書の作成を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	専門演習(12)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
14	専門演習(13)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
15	専門演習(14)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
16	専門演習(15)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
17	専門演習(16)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
18	専門演習(17)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	専門演習 (18)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	専門演習 (19)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）や、特許出願を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	専門演習 (20)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	専門演習 (21)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	専門演習 (22)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	専門演習 (23)		当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	専門演習 (24)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	専門演習 (25)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	専門演習 (26)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	専門演習 (27)	当該専門領域につき、具体的設問を用いた演習（日本重要判例の輪講）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る重要判例の課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、判例発表課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
商法に関する判例・裁判例・その他の事例を素材として、法的問題点を探求し、その解決策を自ら考える力を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商法に関する判例・裁判例・その他の事例を通じて法的問題を探求し、その解決策を自ら提示することができる。 商法の学修を通じて社会・経済が直面する問題を自ら抽出し、分析・考察することができる。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格すること。

【授業方法】
発表者の発表をもとに履修者と教員が互いにディスカッションをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表者の発表に対して教員と履修者が対話をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法に関する判例・裁判例・その他の事例を通じて法的問題点を探求する。						3	3						
②	自ら抽出した商法に関する法的問題点について解決策を自らの力で提示する。								3	3	3			
③	ビジネスと商法との接点を理解する。											4	4	4
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	対話型のゼミにおける質疑応答	15	15	15								45
授業への参画度	ゼミへの積極的な参加	5	5	15								25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	10	10	10								30
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーやウェブサイトなどを用いてフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法判例40	久保田安彦＝舩津浩 司＝松元暢子	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したらゼミでアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		ゼミの概要を説明する。研究素材などを提示する。
	この回の到達目標	ゼミの概要を把握することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	日経新聞等で商法に関する現代的問題点を知る。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	120分
	事後学修	ゼミの概要で理解したことをもとに、改めて日経新聞等を読み返す。	120分
2	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
3	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
4	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
5	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
6	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
8	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
9	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
10	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
11	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
12	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
14	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
15	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
16	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
17	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
18	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
20	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
21	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
22	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
23	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
24	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
26	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
27	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
28	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
29	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
30	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法の基礎及び判例の解釈の仕方を学修する。そこで前期は、判例研究を行う上で必要な知識（条文・判例の読み方、文献・資料の調べ方）を学んだ後、グループで判例研究を行い、それを順次発表する。また、後期はゼミナール論文の作成を目指して、各自の興味・関心に沿った研究テーマの発見にも取り組む。
4年次：3年次に学修した内容及び3年次に選定したゼミナール論文のテーマにつき、深く掘り下げ、ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法の基礎及び判例の解釈の仕方を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に着ける。さらに、グループワークを通して、他者との協働意識の重要性を理解する。
4年次：3年次に学修した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を正しく修得し、それをグループで共有・考察する。かような活動を通じて、学ぶことの面白さを知り、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索する意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：指定された教科書を輪読後、グループに分かれ、家族法の判例等を各グループで選び、判例研究を行う。さらに、学習の理解度に応じて、事例問題の演習なども随時行うこととする。
4年次：各自が決定したゼミナール論文のテーマにつき、随時、中間報告、発表を行い、これに対する講評を行う。なお、後期は、個別の論文指導も実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	判例研究、ゼミナール論文の執筆を進めていく中で、複数回にわたり、グループ発表、ゼミナール論文等の中間報告を実施する。その際は、個別、グループ問わず、事前に報告予定者は、課題・指示に基づき、入念な報告準備を行い、その報告内容に基づき、授業内で皆でディスカッションを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語・概念につき、正確に理解し、説明することができる。											
②	民法における諸制度・諸規定につき、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。											
③	授業で学修した知識に基づき、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。											
④	グループワークを通じて、授業で学修した知識に基づき、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。											
⑤	グループワークを通じて、他者との協働意識の重要性を理解し、仲間と共に、その分野の課題を探究することができる。											
⑥	授業で学修した知識に基づき、その分野の法的課題を探究し、ゼミナール論文をテーマを自ら決定できる。											
⑦	授業で学修した知識に基づき、ゼミナール論文を完成させることができる。											
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ゼミナール論文の完成により、到達目標⑥⑦を評価する。						5	30				35
討論・発表等	授業中のグループ及び個別の報告・発表を通じて、到達目標①②③④⑤⑥についての理解度を把握する。	10	10	10	10	5	10					55
授業への参画度	授業中のグループ及び個別の報告・発表を通じて、到達目標⑤の協働意識の重要性を理解し、積極的に行動できているかを確認する。					10						10
その他(留意事項)	【ゼミナールは、3年次と4年次の2年間の継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	15	15	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施する

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法解釈入門 「法的」に考えるための第一歩 〔第2版〕	山下純司ほか	有斐閣	2020	教科書	必携
思考を鍛えるレポート・論文作成法〔第3版〕	井下千以子	慶応義塾大学出版会	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み(事前にメールでアポイントメントをとること) 研究室（本館1720研究室） yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバスに沿って授業の概要、授業目的、到達目標、授業スケジュール、成績基準等を説明する。それにより、次回以降、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今後のゼミナールの進め方を確認するとともに、判例研究を進めていくうえでの必須となる知識として、民法に関する基本用語・概念、制度の意義等につき、正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、民法総則の復習をしておくこと。	120分
	事後学修	授業での説明内容を確認し、テキスト等の購入など、受講に向けた具体的準備を行う。	120分
2	事例問題演習①：民法総則	民法総則の領域から事例問題を教員が出題するので、その事例検討をグループに分かれて議論を行う。すなわち、該演習問題の論点を正確に見極め、それにつき、論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、事例問題演習を通じて、グループディスカッションの進め方を理解するとともに、民法の基礎知識を深め、正確に説明することができる。	
	事前学修	民法総則の重要な論点を中心に、民法総則のテキストをよく復習してくること。	120分
	事後学修	事例問題の解説を参考に民法総則のテキストの該当箇所をよく復習すること。	120分
3	事例問題演習②：民法総則 物権総論の確認テスト	前回と同様、民法総則の重要な論点にかかわる事例演習問題をグループに分かれて取り組む。さらに、物権総論の基本的な確認テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、事例問題演習の進め方を理解するとともに、物権総論の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	確認テストを実施するため、物権総論のテキストをよく読んでくこと。	120分
	事後学修	事例問題の解説を中心に、民法総則及び物権総論のテキストの該当箇所をよく復習すること。	120分
4	事例問題演習③：物権総論	前回に続き、物権総論の重要な論点にかかわる事例演習問題をグループに分かれて取り組む。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、事例問題演習の進め方を理解するとともに、物権総論の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回の確認テストで出された点を中心に、物権総論のテキストについて復習してくること。	120分
	事後学修	物権総論のテキストについて復習しておくこと。	120分
5	法解釈の方法：テキストの輪読①	この回から法解釈の方法を学修する。まずは、指定したテキスト『法解釈入門 ―「法的」に考えるための第一歩 補訂版』を皆で輪読（第1部1章、2章）し、それにつき、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	指定したテキストのイントロダクション及び第1部1章、2章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
	事後学修	テキストの第一部1章、2章の箇所の要約を作成すること。	120分
6	法解釈の方法：テキストの輪読②	引き続き、法解釈の方法を学修する。指定したテキストを皆で輪読（第1部3章、4章）し、それにつき、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストの第1部3章、4章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
	事後学修	テキストの第1部3章、4章の箇所の要約を作成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法解釈法方法：テキストの輪読③		引き続き、法解釈の方法を学修する。指定したテキストを皆で輪読（第1部5章、6章）し、それに つき、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストの第1部5章、6章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
	事後学修	テキストの第1部5章、6章の箇所の要約を作成すること。	120分
8	法解釈法方法：テキストの輪読④		引き続き、法解釈の方法を学修する。指定したテキストを皆で輪読（第2部7章）し、それに つき、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストの第2部7章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
	事後学修	テキストの第2部7章の箇所の要約を作成すること。	120分
9	法解釈法方法：テキストの輪読⑤		引き続き、法解釈の方法を学修する。指定したテキストを皆で輪読（第2部8章）し、それに つき、質疑応答を繰り返しながら解説を加える。
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連して、判例研究、ゼミナール論文作成の基礎となる法解釈の方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	テキストの第2部8章に目を通し、わからない点があれば、書きだしておくこと。	120分
	事後学修	テキストの第2部8章の箇所の要約を作成すること。	120分
10	判例研究①：判例の調べ方・データ ベースの利用の仕方（ガイダンス）		ここから、グループ（3班）に分かれ、本格的に判例研究を行う。判例研究の進め方及びデータ ベースの利用の仕方等について学修する。
	この回の 到達目標	到達目標④⑤に関連して、判例研究の進め方、データベースの利用の仕方について等について理解し、説明することができ る。	
	事前学修	事前に配布したレジュメ等に目を通してくること。	120分
	事後学修	図書館等にいき、実施にデータベースを利用してみること。	120分
11	判例研究②：判例研究の準備		グループごとに判例研究の判例を重要判例百選等から選び、判例研究の準備を行う。
	この回の 到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。	
	事前学修	判例研究で扱いたいと思うテーマを各自考えてくること。	120分
	事後学修	判例研究の準備として、関連判例などの資料を分担して収集してくること。	120分
12	判例研究③：判例研究の準備		判例研究の準備として、関連判例などの資料を分担して収集してくることとする。
	この回の 到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。	
	事前学修	判例研究の準備として、関連判例、参考文献などの資料を分担して収集してくること。	120分
	事後学修	判例研究の準備として、関連判例、参考文献などの資料を読み込んでくること。 事案の概要と判旨をグループごとにまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	判例研究④：判例研究の中間報告		判例研究のうち、事案の概要と判旨の部分までをまとめ、わかりやすく発表、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができるとともに、わかりやすいプレゼンができるようになる。		
	事前学修	各班ごとに事案の概要と判旨の箇所までのレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の判例についても軽く目を通しておくこと。		120分
	事後学修	授業内で指摘された点を修正するとともに、判例検討を各班ごとに進めること。		120分
14	判例研究⑤：判例研究の準備及び夏合宿のガイダンス		グループに分かれて、判例検討を行い、レジュメを完成させる。夏合宿時における判例研究報告や合宿の予定等について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告ができるようになる。		
	事前学修	判例研究の主となる論点、従前の判例・学説の動向、判例評釈について各自読み込み、さらに、判例の検討・考察をグループで進めておくこと。		120分
	事後学修	次回以降の判例研究の発表準備を行うこと。		120分
15	判例研究⑥		3班のうち、第1班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。		
	事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、夏合宿時の判例研究報告準備を進めること。		120分
16	判例研究⑦：判例研究の準備		新たにグループ分けをし、判例研究を進めていくことにする。前回同様、判例研究のテーマを選択し、判例研究の準備を進める。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。		
	事前学修	判例研究で扱いたいと思うテーマを各自考えてくること。		120分
	事後学修	判例研究の準備として、関連判例などの資料を分担して収集してくること。		120分
17	判例研究⑧：判例研究の準備		前回に続き、判例研究の準備として、班の中で分担をしながら収集した資料を皆で読み込み、判例研究のレジュメを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。		
	事前学修	判例研究の準備として、関連判例、参考文献などの資料を分担して収集してくること。事案の概要と判旨程度は、グループごとに分担を決め、まとめること。		120分
	事後学修	判例研究の主となる論点、従前の判例・学説の動向、判例評釈について各自読み込み、さらに、判例の検討・考察をグループで進め、レジュメを完成させること。		120分
18	判例研究⑨		3班のうち、第1班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。		
	事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、次回以降の判例研究報告準備を進めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	判例研究⑩		3班のうち、第2班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。		
	事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、次回以降の判例研究報告準備を進めること。		120分
20	判例研究⑪		3班のうち、第3班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。		
	事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	発表班は指摘された点を修正しておくこと。		120分
21	判例研究⑫		新たにグループ分けをし、判例研究を進めていくことにする。前回同様、判例研究のテーマを選択し、判例研究の準備を進める。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。		
	事前学修	判例研究で扱いたいと思うテーマを各自考えてくること。		120分
	事後学修	判例研究の準備として、関連判例などの資料を分担して収集してくること。		120分
22	判例研究⑬		前回に続き、判例研究の準備として、分担して収集した資料を読み込み、判例研究のレジュメを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解し、判例研究の準備を仲間とともに進めることができる。		
	事前学修	判例研究の準備として、関連判例、参考文献などの資料を分担して収集してくること。事案の概要と判旨程度は、グループごとに分担を決め、まとめてくること。		120分
	事後学修	判例研究の主となる論点、従前の判例・学説の動向、判例評釈について各自読み込み、さらに、判例の検討・考察をグループで進め、レジュメを完成させること。		120分
23	判例研究⑭		3班のうち、第1班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。		
	事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、次回以降の判例研究報告準備を進めること。		120分
24	判例研究⑮		3班のうち、第2班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。		
	事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	発表班は指摘された点を修正し、発表班以外の班は、次回以降の判例研究報告準備を進めること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	判例研究⑩		3班のうち、第3班が判例研究報告を行い、当該判例の論点につき、討論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、協働意識の重要性を理解しつつ、判例研究の準備を仲間とともに進め、質の高い判例研究報告を行うとともに、論点につき、討論ができるようになる。		
	事前学修	発表班はレジュメを準備し、人数分の配布資料を用意する。また、別の班の学生は、当該判例を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	発表班は指摘された点を修正しておくこと。		120分
26	小論文の作成①: 輪読		テキスト『思考を鍛えるレポート・論文作成法〔第3版〕』を輪読し、小論文の書き方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、卒業論文の前提として、小論文の書き方を理解し、説明することができる。		
	事前学修	テキスト『思考を鍛えるレポート・論文作成法〔第3版〕』に目を通してくること。		120分
	事後学修	テキストを復習し、重要なポイントをまとめておくこと。		120分
27	小論文の作成②: テーマ及び概要の報告		小論文のテーマ・章立てについての報告を通じて、プレゼンの仕方、討論の仕方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、卒業論文の前提として、小論文の書き方を確認するとともに、わかりやすいプレゼンとは何か、を理解する。		
	事前学修	小論文のテーマ及び章立てについての報告準備を行うこと。		120分
	事後学修	授業で指摘を受けた点を修正しつつ、各自小論文を進めておくこと。		120分
28	小論文の作成③: 資料収集・執筆		小論文作成に向けての資料収集及び執筆を開始する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、小論文作成に向けてのさらなる資料収集を行い、執筆の準備を整えることができる。		
	事前学修	資料収集し、その資料の内容を理解し、執筆の準備を行うこと。		120分
	事後学修	引き続き、必要な資料を収集し、その資料の内容の理解に努め、執筆を開始すること。		120分
29	小論文の作成④: 進捗状況の報告及び執筆		小論文完成に向け、小論文の進捗状況の報告を行い、時間があればすでに進めている執筆の続きを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、小論文完成に向けて、自己の進捗状況をわかりやく、説明することができる。		
	事前学修	小論文の進捗状況の報告準備をするとともに、小論文の執筆を進めること。		120分
	事後学修	授業で指摘された点に注意しつつ、小論文の執筆を進めること。		120分
30	小論文の完成・提出⑤		小論文完成に向け、推敲を重ねるとともに、引用文献などの注なども完成させ、小論文を提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、小論文完成に向けて、書き上げた論文を推敲し、誤字脱字などの修正を行い、小論文を完成させることができる。		
	事前学修	小論文をひととおり完成させてくること。その際は、テキストを参考にしながら、注も作成してくること。		120分
	事後学修	完成させた小論文については、春合宿等で概要を報告してもらうため、その発表準備を進めておくこと。		120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	柳瀬 昇	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)

【履修条件】

【授業方法】

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	
アクティブ・ラーニングの形態	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①													
②													
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)												

【課題に対するフィードバックの方法】

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無		実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
2				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
3				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
4				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
5				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
6				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
8				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
9				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
10				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
11				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
12				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
14				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
15				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
16				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
17				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
18				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
20				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
21				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
22				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
23				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
24				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
26				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
27				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
28				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
29				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
30				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			

科目名	ゼミナール3年	担当者	山口 仁	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア・ジャーナリズム理論に関する高度な知識にもとづいて、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修する。そしてその学修状況を自己分析しつつ、メディア・ジャーナリズム理論に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自らの学修状況を自己分析しつつメディア・ジャーナリズム理論の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。既存のジャーナリズム論を批判的に乗り越え、新たな理論枠組みのもとで現代のメディア社会を考察できるようになること。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
メディア・ジャーナリズム理論に関する文献の講読、履修者各自が選択する論文の執筆に向けた発表および議論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと考えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミ ナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判 的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実	山口仁	勁草書房	2018	参考書	推奨
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために	大井真二他編	世界思想社	2018	参考書	推奨
マス・コミュニケーション理論 上・下	スタンリー J. バラ ン、デニス K. デイビ ス著	新曜社	2007	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜4限（法学部本館9階1914研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	専門演習(6)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	専門演習(7)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	専門演習(8)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	専門演習(9)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	専門演習(10)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	専門演習(11)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	専門演習(12)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	3年次前期のまとめ	これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説	夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。	
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎	前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
	事前学修	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	専門演習(13)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	専門演習(14)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	専門演習 (15)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
20	専門演習 (16)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
21	専門演習 (17)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
22	専門演習 (18)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
23	専門演習 (19)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
24	専門演習 (20)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	専門演習 (21)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	専門演習 (22)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	専門演習 (23)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	専門演習 (24)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	3年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	春期休暇中の課題（論文のテーマ選定）とその解説	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	春期休暇中に取り組む論文のテーマ選定につき、そのヒントや選定上の注意事項等を解説する。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	山田 孝紀	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法の事例問題研究、判例研究を通じて民法の知識を深める。報告は数人のグループで行い、それをふまえて全員で議論する。その際には疑問や意見を積極的に述べてほしい。ゼミ生の要望に応じて合宿や日大の他の民法ゼミまたは他大学との討論会も予定する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法における基礎理論について修得するとともに、グループワークの中でゼミ生との協働作業の重要性・方法を理解する。また事例研究や判例研究、合同ゼミナールを通じて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：数人のグループ内で事例問題・重要判例を検討し、報告を行う。報告担当以外のゼミ生は、報告に対して積極的に意見・疑問を述べる こと。担当者はあくまでもサポート役であり、質疑応答をふまえて講評を行う。また日大の民法ゼミまたは他大学との合同ゼミナールを予定 している。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回のオリエンテーション、判例研究・事例研究の方法、文献調査方法の説明を除いて、授業のほとん どは学生による報告・質疑応答から成る。他の学生に対して難しい事項や自分の意見を分かりやすく伝 え、他の学生の意見を聴くことでコミュニケーション能力を養成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【自ら学び、他者と協働する】民法の知識をもとに、ゼミにおける自らの役割を認識し、他者との協働作業の中で課題を解決できるようになる。					3						3	
②	【説明する力・コミュニケーション能力】判例の争点・意義、事例問題の争点・議論状況を理解し、他者に対して自らの意見を分かりやすく伝える。他者の意見を聴き・尊重し、積極的にコミュニケーションを実践することができる。						3				3		
③	【考察力・問題解決能力】ゼミでの議論やゼミ論文の作成を通じて法的問題を発見し、当該問題に関する法状況をふまえ、批判的な視点を持ちつつ、当事者の利益を考慮した妥当・公平な解決を示すことを示すことができるようになること。							3	3				
④	【挑戦力・省察力】レジュメ・ゼミ論文の作成を通じて、自ら設定した課題に取り組む。そして、他者の評価を謙虚に受け止めたうえで、問題の改善に努め、課題を解決できるようになること。									3			3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミでのグループ報告。レジュメの内容、報告内容、質疑 応答などを評価する。	5	10	10	5							30
授業への参画度	報告準備においてゼミ生と協働して積極的に活動しようと しているかどうか、報告に対する積極的に意見・疑問を述 べているかどうかを評価する。質問が著しく少ない場合 は、評価が低くなる。また出席が3回以下の学生には、別途 レポートの提出を要求することもある（もちろん病気・就 活などの事情には一定の配慮をする）。無断欠席は厳禁！	5	10	5								20
その他(ゼミナール 論文)	4年次に卒業論文を作成する。	5	10	15	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	30	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業ごとに講評を行うほか、授業中・後に質問に応じる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法入門ノート	渡邊力編	法律文化社	2019	参考書	任意
リーガルベイス民法入門〔第3版〕	道垣内弘人	日本経済新聞出版	2019	参考書	任意
リーガル・リサーチ&レポート ― 法学部の学び方〔第2版〕	田高＝原田＝秋山	有斐閣	2019	参考書	任意
学術論文の作法〔第2版〕	近江幸治	成文堂	2016	参考書	推奨
民法研究ハンドブック	大村＝道垣内＝森田＝山本	有斐閣	2000	参考書	推奨
Start Up 判例30!の各シリーズ		有斐閣	2018	参考書	任意
判例百選Ⅰ総則・物権、債権〔各第8版〕、親族・相続〔第2版〕、消費者判例百選〔第2版〕		有斐閣	2018-2020	参考書	推奨
備考	上記参考書は、各自の学修目的に応じて用意してください。詳細は授業の中で説明するので、それまで特に購入しなくてよいです。				

【オフィスアワー】
水曜お昼休み（事前にメールでアポイントメントをとってください。その他の時間でも適宜対応します）yamada.takanori★nihon-u.ac.jp 上記の「★」記号を「@」記号に置き換えて下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	簡単に自己紹介をしたのち、今後の予定について決める。 なお、第2回目～第30回目の予定はあくまでも暫定であり、ゼミの進行状況、ゼミ生の要望、討論会の日程に応じて適宜変更することがある。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションできるようになること。また今後の大学生活におけるゼミの重要性、ゼミにおける自己の役割を認識すること。	
	事前学修	①1年生～2年生の民法で使用した教科書などをもう一度読み、民法の目的、基本用語、基本概念を理解しておくこと。 ②民法ゼミに入って何をしたいのか、今後の2年間をどう過ごすか考えておく。	120分
	事後学修	今後2年間の目標を達成するための計画を立てる。	120分
2	基本的な事例問題と法的思考の修得①	前期ではまず事例問題演習を行う予定であるので、その練習として基本的な事例問題について自由に意見を述べてもらう。そして、その意見を法的な主張としてどのように組み立てられるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自分の見解を分かりやすく述べられるようになること。 到達目標③に関連して、民法の条文・判例・学説をふまえ、事例に対する解決策を検討する能力を修得すること。	
	事前学修	今回検討する事例について教科書やこれまでに履修した授業のレジュメを読み、考えておくこと。	120分
	事後学修	授業の発表を聴き、知らなかった用語・判例・学説があれば、この機会にシラバスの参考文献などをもとに調べてみる。	120分
3	基本的な事例問題と法的思考の修得②	前回到続いて事例問題の練習に取り組む。今回も事例問題についてまず当事者の立場に立ったらどのような主張がしたいのか、また相手方はどんな反論をしたいのかを考え、双方の主張を民法の条文・判例・学説を用いて組み立てる方法を考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、自分の見解を分かりやすく述べられるようになること。 到達目標③に関連して、民法の条文・判例・学説をふまえ、事例に対する解決策を検討する能力を修得すること。	
	事前学修	今回検討する事例について教科書やこれまでに履修した授業のレジュメを読み、考えておくこと。	120分
	事後学修	授業の発表を聴き、知らなかった用語・判例・学説があれば、この機会にシラバスの参考文献などをもとに調べてみる。	120分
4	班報告（事例問題演習）の準備①	各グループで担当する事例問題の報告準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して事例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解しその役割を果たすように努めること。 到達目標③・④に関連して、事例の法的問題点、判例・学説の状況を検討すること。	
	事前学修	授業で報告する事例問題について各自で検討しておくこと。	120分
	事後学修	班での議論をふまえ、事例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
5	班報告（事例問題演習）の準備②	各グループで担当する事例問題の報告準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して事例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解しその役割を果たすように努めること。 到達目標③・④に関連して、事例の法的問題点、判例・学説の状況を検討したうえでレジュメを作成すること。	
	事前学修	授業で報告する事例問題について各自で検討しておくこと。	120分
	事後学修	班での議論をふまえ、事例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
6	班報告（事例問題演習）の準備③	各グループで担当する事例問題の報告準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して事例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解しその役割を果たすように努めること。 到達目標③・④に関連して、事例の法的問題点、判例・学説の状況を検討したうえで、レジュメを作成すること。	
	事前学修	授業で報告する事例問題について各自で検討しておくこと。	120分
	事後学修	班での議論をふまえ、事例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	班報告①		グループで4 5分前後報告をしてもらい、その後3 0～3 5分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例の法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め事例を検討し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
	事前学修	担当グループは、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に事例について法的問題点を考え、判例・学説の状況をふまえ、自分の答えを考えておくこと。	240分
	事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきかを各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、自分であればどのような解答をしたのかを改めて考えてみる。将来、筆記型の試験（予備試験・法科大学院試験・公務員試験等）を受ける学生は、答案を作成してみること。	120分
8	班報告②		グループで4 5分前後報告をしてもらい、その後3 0～3 5分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例の法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、予め事例を検討し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
	事前学修	報告担当班は、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。	240分
	事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきかを各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、自分であればどのような解答をしたのかを改めて考えてみる。将来、筆記型の試験（予備試験・法科大学院試験・公務員試験等）を受ける学生は、答案を作成してみること。	120分
9	判例評釈の方法と文献調査方法、判例の選定①		まず、判例とは何かについて1年次で学んだことを振り返る。次に、判例評釈の報告をどのように行えばよいのかについて担当者が作成したレジュメ、判例百選や参考文献（リーガル・リサーチ＆レポート）を基に理解する。そのうえで、図書館やインターネットのデータベースを用いて、判例や法律雑誌を調べる方法を学ぶ。各グループで図書館へ行き、文献をコピーする。また余った時間で報告する判例について、ここ数年の『重要判例解説』または『民法判例百選』から選定する。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して取り組む判例をみつける。到達目標③に関連して、法的問題を解決するための文献調査の方法を修得する。	
	事前学修	法学Ⅰなどで学んだ判例検索の方法について思い出す。法学Ⅰで使った教科書などを読んでみる。	30分
	事後学修	判例について、『重要判例解説』や『判例百選』を参考に調べてみる。	60分
10	判例の選定②と班報告（判例報告）の準備①		次回に続いて、報告する判例について、ここ数年の『重要判例解説』または『民法判例百選』から選定する。その後、判例を報告するための準備を行う。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して取り組む判例をみつける。また判例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解しその役割を果たすよう努めること。到達目標③・④に関連して、争点、判例の意義、判例の位置づけなどを考えること。	
	事前学修	担当する判例について事前にインターネットのデータベースを用いて資料の所在を調べておくこと。	60分
	事後学修	グループでの議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
11	班報告の準備②		判例を報告するための準備を行う。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して取り組む判例をみつける。また判例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解しその役割を果たすよう努めること。到達目標③・④に関連して、争点、判例の意義、判例の位置づけなどを考え、レジュメを作成すること。	
	事前学修	班での議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
	事後学修	班での議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
12	班報告の準備③		判例を報告するための準備を行う。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して取り組む判例をみつける。また判例報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解しその役割を果たすよう努めること。到達目標③・④に関連して、争点、判例の意義、判例の位置づけなどを考え、レジュメを作成すること。	
	事前学修	班での議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分
	事後学修	班での議論をふまえ、判例研究の準備を各自で進めておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	班報告①		グループで4 5分前後報告をしてもらい、その後3 0～3 5分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、争点、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重つつ、応答すること。報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
	事前学修	報告担当班は、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。	240分
	事後学修	報告班は、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。	120分
14	班報告②		グループで4 5分前後報告をしてもらい、その後3 0～3 5分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、判例の概要、判例の意義、判例の位置づけ、学説との関係、射程、自己の見解などを分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。報告担当以外の学生は、予め判例を考察し、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
	事前学修	報告担当班は、レジュメを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。報告に当たっていない学生も、事前に判例を読み、質問を考えておくこと。	240分
	事後学修	報告班は、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。報告に当たっていない学生は、改めて問題の所在、判例の意義について考えてみる。	120分
15	前期のまとめ（予備日）		前期の授業のまとめを行う。1～1 4回目の準備や報告に時間が必要となった場合は、この日に報告を行うこともある（予備日）。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、半年間のゼミで修得できたこと・できなかったことを確認するとともに、次の半年間（あるいは残りの1 年半の大学生活）で何をしたいのかを考え、夏休みに計画を立てること。	
	事前学修	前期のゼミで学んだ内容を振り返る。	60分
	事後学修	夏季休暇期間中の予定を決める。	60分
16	後期のオリエンテーション及び導入講義		後期の授業日程について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、後期のゼミの目的を理解すること。	
	事前学修	特にありませんが、夏季期間中に各自で目標を決めて、取り組んでおくことをおすすめします。	10分
	事後学修	特にありませんが、ゼミも含めて後期の授業計画や資格試験などの目標を再確認すること。	50分
17	担当者による模擬報告		担当者による研究テーマ報告・判例報告を行い、後期の公開ゼミに向けてどのような方法で報告を行うのかイメージをつかんでもらう。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、担当者の報告から、公開ゼミに向けて報告方法の概要を理解すること。 到達目標③に関連して、興味のあるテーマ・判例について問題点を指摘し、当該問題点を解決するための手法、考察法についての概要を理解すること。	
	事前学修	事前に指定した文献を読んできてもらえたらと思います。	60分
	事後学修	公開ゼミに向けてどのようなテーマに取り組みたいか各自で考えてみる。	60分
18	公開ゼミに向けた準備①		公開ゼミでは、班ごとに、特定のテーマに関する報告または判例報告や事例問題研究などを選び、報告してもらう予定である。どんなテーマが良いのかを考える中で、どのような課題が民法学の世界で議論されているのか、また自分はどんなテーマに興味があるのかを見つけてもらいたい。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解し、その役割を果たすよう努めること。 到達目標③・④に関連して、扱うテーマの法的問題点、判例・学説の状況をつかみ、レジュメを作成する。	
	事前学修	公開ゼミに向けてどのようなテーマに取り組みたいか各自で考えてみる。	60分
	事後学修	公開ゼミに向けてどのようなテーマに取り組みたいか各自で考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	公開ゼミに向けた準備②	班で担当する報告準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解し、その役割を果たすよう努めること。 到達目標③・④に関連して、扱うテーマの法的問題点をつかみ、判例・学説の状況をふまえた上で解決策を考え、レジュメを作成する。	
	事前学修	班での議論をふまえ、報告の準備を各自で進めておくこと。	120分
	事後学修	班での議論をふまえ、報告の準備を各自で進めておくこと。	120分
20	公開ゼミに向けた準備③	班で担当する報告準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生とコミュニケーションをとり、協働して報告に向けて計画を立て、自己の役割を理解し、その役割を果たすよう努めること。 到達目標③・④に関連して、扱うテーマの法的問題点をつかみ、判例・学説の状況をふまえた上で解決策を考え、レジュメを作成する。	
	事前学修	班での議論をふまえ、報告の準備を各自で進めておくこと。	120分
	事後学修	班での議論をふまえ、報告の準備を各自で進めておくこと。	120分
21	公開ゼミ①	グループで4 5分前後報告をしてもらい、その後3 0～3 5分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる（なお、現時点では仮の日程である）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例や判例または研究テーマの法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
	事前学修	担当グループは、レジュメまたはパワーポイントを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。	240分
	事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。	60分
22	公開ゼミ②	グループで4 5分前後報告をしてもらい、その後3 0～3 5分全員で議論する。最後に、教員が講評を述べる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、報告学生は、事例や判例または研究テーマの法的問題点、法的問題に関する判例・学説の状況、自己の見解を分かりやすく伝える。また他の学生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。また報告担当以外の学生は、自分の意見・疑問を積極的に述べられるようになること。	
	事前学修	担当グループは、レジュメまたはパワーポイントを完成させ、ゼミ生＋教員の人数分のレジュメを用意するなど、報告の準備を行う。	240分
	事後学修	報告グループは、報告ができたかどうか、質疑応答ができたか、問題点があったとすればどのように改善すべきか、を各自で振り返る。	60分
23	4年生の卒論報告会①	4年生の卒論報告会に参加する（なお、シラバスの都合上、この回に設定していますが、4年生の卒論の予定によって実際の日程を確定します）	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、4年生の卒論報告会に参加し、報告者がどのような問題を設定したのか、当該問題に関する法状況はどうなっているのか、その問題を解決するためにいかなる検討を行い、どのような結果が得られたのかについて理解する。また4年生の報告を聞き、プレゼンの方法を確認する。	
	事前学修	4年生は様々な研究テーマに取り組んでいるので、財産法・家族法の知識を再確認しておく。	120分
	事後学修	3年次で学修したテーマをふまえ、これから学修したいテーマなどを考え、卒論の題材探しに向けて着手する。	120分
24	4年生の卒論報告会②	4年生の卒論報告会に参加する（なお、シラバスの都合上、この回に設定していますが、4年生の卒論の予定によって実際の日程を確定します）	
	この回の到達目標	到達目標②・③に関連して、4年生の卒論報告会に参加し、報告者がどのような問題を設定したのか、当該問題に関する法状況はどうなっているのか、その問題を解決するためにいかなる検討を行い、どのような結果が得られたのかについて理解する。また4年生の報告を聞き、プレゼンの方法を確認する。	
	事前学修	4年生は様々な研究テーマに取り組んでいるので、財産法・家族法の知識を再確認しておく。	120分
	事後学修	3年次で学修したテーマをふまえ、これから学修したいテーマなどを考え、卒論の題材探しに向けて着手する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	討論会準備①		討論会の日程及びテーマ、討論会のルール等について説明する。その後、討論会の役割決め（報告班・質問班など）、題材の検討にうつる。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、討論会（予定）に向けて、ゼミ生と協働して計画を立てる。 到達目標③に関連して、討論会の題材について法的問題点を検討する。	
	事前学修	討論会の題材について法的問題点・判例・学説の状況をふまえ考察すること。	120分
	事後学修	討論会に向けて、ゼミ生と協働して計画を立てる。また討論会の題材について法的問題点を検討する。	120分
26	討論会準備②		討論会の題材についてグループで検討する。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、討論会（予定）に向けて、ゼミ生と協働して計画を実行する。また到達目標③に関連して、討論会の題材について法的問題点を検討する。レジュメの作成も進める。	
	事前学修	討論会の題材について法的問題点・判例・学説の状況をふまえ考察すること。	120分
	事後学修	討論会に向けて、ゼミ生と協働して事案を検討し、レジュメを作成する。	120分
27	討論会準備③		討論会の題材についてグループで検討する。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、討論会（予定）に向けて、ゼミ生と協働して計画を実行する。また到達目標③に関連して、討論会の題材について法的問題点を検討する。レジュメの作成も進める。	
	事前学修	討論会の題材について法的問題点・判例・学説の状況をふまえ考察すること。	120分
	事後学修	討論会に向けて、ゼミ生と協働して事案を検討し、レジュメを作成する。	120分
28	討論会！（実際の日程は詳細が決まってから考えましょう）		討論会当日
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、他ゼミの学生の前で自己の見解を分かりやすく述べられるようになること。また他のゼミ生からの意見を聴き、その意見を尊重しつつ、応答すること。さらに、他のゼミ生とコミュニケーションをとることができるようになること。	
	事前学修	レジュメの作成に向けてゼミ生と協働し、最後の仕上げを行う。	300分
	事後学修	討論会でうまくいった点、うまくいかなかった点を振り返り、今後の学修に活かす。	60分
29	学外研修		ゼミ生の希望に応じて、裁判所の傍聴・国会見学などを行いたい（新型コロナウイルスの感染状況によります）。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、自身の興味のある法分野を改めて考えておくこと。また学外研修を通じて、ゼミ生との交流を深めるとともに、国内外の課題を考えること。	
	事前学修	どこに学外研修に行きたいのかを考えておいてください。	60分
	事後学修	学外研修から得られたことを振り返ること。	60分
30	4年ゼミに向けて		4年のゼミに向けて研究テーマを考えよう。 就活、資格試験など各自の目標に向けて計画的に準備をしよう。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、興味関心のあるテーマについて自ら調べること。	
	事前学修	冬休みの期間中に題材探しをコツコツと行っておく。早めにしておくことがおすすめ。	300分
	事後学修	就活、資格試験などの各自の目標に向けて計画を立て、実行する。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	山村 りつ	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
山村ゼミナールでは、社会的な課題に対する政策的対応あるいは政策による影響を卒論の主題とし、それに沿って各自が興味あるテーマを4年次までに決め、最終的な卒論執筆を目指します。3年生では卒論の執筆に必要な論理的思考と社会的課題の分析の方法、さらに自分の意見をいかに言語化するかをグループワークを通じて学び、それをもとに各自が決めた課題について、課題の分析と仮説の設定を行い、実証研究もしくは論証を通じて自らの考えを論文の結論としてまとめます。本ゼミナールにおいては、個人的でかまいませんが問題意識を前提とした積極的参加が非常に重要となります。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：さまざまな社会的課題を題材として、問題の理解と説明のための論理力と、論証に必要な研究の手法を身につける。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマに基づいてゼミナール論文を作成する。また、4年生は3年生のメンターとして指導を通じて、論理力や表現力を高めていく。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者。

【授業方法】
3年次：前期は課題図書等についてのグループワーク、後期の進め方は夏合宿中に自分たちで決めてもらいます。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。また、担当する3年生（メンティー）のアドバイスを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会的課題について、その問題性（何が問題であるのか）を言語化できるようになる。				3	3	3	3	3	3	3	3
②	選択した課題について、自らの考察をもとに仮説を立てること（問いの言語化）ができるようになる。				3	3	3	3	3	3	3	3
③	設定した仮説に対して、検証のための適切な方法を選択することができるようになる。				3	3	3	3	3	3	3	3
④	論文執筆のための考察を通じて、自らの考えを適当な手法を用いてプレゼンテーションできるようになる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	半期に2回程度のグループもしくは個人による発表の機会を設ける。そこで、事前に提示された発表課題に沿った発表を行えているか。また、他の人の発表に対してコメントや質問を提示することができるか。	10	10	5	5							30
授業への参画度												
その他(卒業論文)	4年次修了時に卒業論文の提出を求める。卒業論文の評価については、①指定された形式に従っているか、②内容が一貫しているか、③論理の妥当性および整合性をもとに評価を行う。	15	20	20	15							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	25	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業の中でコメントとしてフィードバックを行い、必要に応じて個別指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜4限。その場合でも必ず事前に連絡をすること。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション 導入講義	今後の授業の進め方についての説明を行う。 資料作成および卒論執筆に必要な知識について指導を行う。	
	この回の到達目標	卒論執筆にあたり、自分に足りないものをリストアップし示すことができるようになる。	
	事前学修	卒論のテーマ設定にあたり、必要な情報の収集と整理を行っておく。	180分
	事後学修	授業での説明を受けて、自分の卒論執筆に必要なものを考察する。	60分
2	課題図書の選定	前期の授業で用いる課題図書の選定を行う。	
	この回の到達目標	他者の意見を聞き、希望する図書の選定についての理由を言語化できるようになる。	
	事前学修	自分が推薦する図書を熟読し、他の学生に対してその良さをアピールするために必要な情報収集を行い、プレゼンの仕方を検討する。	180分
	事後学修	決定した課題図書を入手し熟読する。	60分
3	発表課題についての説明	発表「課題図書を用いた要約と考察」について、グループ分け、課題（何が求められているのか）の説明を行う。	
	この回の到達目標	求められている課題が何かを理解し、発表のために必要な項目をリスト化することができるようになる。	
	事前学修	課題図書を熟読し、不明な点や疑問点について自分なりに情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表の説明を踏まえて、必要な情報を収集しておく。	60分
4	発表に向けたグループ活動	課題発表に向けたグループでの作業活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、適宜グループごとに指導を行う。	
	この回の到達目標	各自がグループ作業に主体的に参加し、メンバー全員が発表の内容についての質問に回答できるようになる。	
	事前学修	作業のために必要と思われる情報の収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表に向けてデモンストレーションを行い、精査する。	60分
5	課題図書を用いた要約と考察（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
	この回の到達目標	他のグループの発表に対してコメントもしくは質問ができるようになる。	
	事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
6	課題図書を用いた要約と考察（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
	この回の到達目標	他のグループの発表に対してコメントもしくは質問ができるようになる。	
	事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	前回発表の小括と次の発表についての説明	前回発表「課題図書を用いた要約と考察」についてのコメントを行う。 次の発表「課題図書を用いた論証方法の検討」について、グループ分け、課題（何が求められているのか）の説明を行う。	
	この回の到達目標	求められている課題が何かを理解し、発表のために必要な項目をリスト化することができるようになる。	
	事前学修	課題図書を再度熟読し、新たに生じた不明な点や疑問点について自分なりに情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表の説明を踏まえて、必要な情報を収集しておく。	60分
8	発表に向けたグループ活動	課題発表に向けたグループでの作業活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、適宜グループごとに指導を行う。	
	この回の到達目標	各自がグループ作業に主体的に参加し、メンバー全員が発表の内容についての質問に回答できるようになる。	
	事前学修	作業のために必要と思われる情報の収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表に向けてデモンストレーションを行い、精査する。	60分
9	課題図書を用いた論証方法の検討（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
	この回の到達目標	他のグループの発表に対して、自分のグループとの違いを示し、それぞれの長所と短所を指摘できるようになる。	
	事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
10	課題図書を用いた論証方法の検討（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
	この回の到達目標	他のグループの発表に対して、自分のグループとの違いを示し、それぞれの長所と短所を指摘できるようになる。	
	事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
11	前回課題の小括と次の発表についての説明	前回発表「課題図書を用いた論証方法の検討」についてのコメントを行う。 次の発表「個別テーマ」について、グループ分け、課題（何が求められているのか）の説明を行う。	
	この回の到達目標	求められている課題が何かを理解し、発表のために必要な項目をリスト化することができるようになる。	
	事前学修	課題図書を熟読し、新たに生じた不明な点や疑問点について自分なりに情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表の説明を踏まえて、必要な情報を収集しておく。	60分
12	発表に向けたグループ活動	課題発表に向けたグループでの作業活動（情報収集、資料作成等）を行うとともに、適宜グループごとに指導を行う。	
	この回の到達目標	各自がグループ作業に主体的に参加し、メンバー全員が発表の内容についての質問に回答できるようになる。	
	事前学修	作業のために必要と思われる情報の収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表に向けてデモンストレーションを行い、精査する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	個別テーマ（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
	この回の到達目標	自グループの発表の課題を指摘し、改善のための方法を提示することができる。	
	事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
14	個別テーマ（発表）	2グループの発表を行う。その後、学生間のディスカッションとコメントを行ったのち、指導を行う。	
	この回の到達目標	自グループの発表の課題を指摘し、改善のための方法を提示することができる。	
	事前学修	発表に対するコメントを想定して、回答に必要な情報収集を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、グループの発表の改善点を検討する。	60分
15	前期のまとめ	これまでの卒業論文発表について総括を行い、卒論執筆計画②の確認と、今後に向けた指導を個別に行う。	
	この回の到達目標	本格的な卒論執筆に向けて、夏休み中にすべきことを提示できるようになる。	
	事前学修	前期までの卒論に係る発表および収集資料をまとめ、卒論執筆計画②を完成させておく。	180分
	事後学修	授業内で受けた指導を踏まえて、卒論執筆を進める。	60分
16	後期の授業の進め方について 導入講義	後期の進め方についての説明と、卒論執筆における3年次後期の位置づけと役割について説明を行う。	
	この回の到達目標	後期のゼミナールに臨む上での個人の目標を提示することができる。	
	事前学修	後期の授業で取り組みたい課題について、事前に情報を集めておく。	180分
	事後学修	授業の説明を踏まえて、後期の授業で取り組みたい課題についてさらに調べる。	60分
17	共通課題の設定	後期の合宿に向けた共通課題を設定する。各自のプレゼンテーションから討議して決める。	
	この回の到達目標	計画の選定にあたり、客観的な評価と公正な態度のもとで自己の主張を提示することができる。	
	事前学修	自分が希望するテーマについて情報を収集し、プレゼンテーションのための準備をしておく。	180分
	事後学修	具体的な計画の立案に向けて必要な情報を収集する。	60分
18	グループワーク①	合宿の課題を前提に活動内容を決める。まずグループに分かれて、各グループが企画案を作成する。	
	この回の到達目標	自グループの案について、課題（目的）との整合性を説明することができるようになる。	
	事前学修	これまでの活動やフィールドワークの事例などを調べ、グループ内で提案する計画の目途を立てておく。	180分
	事後学修	グループのプレゼンテーションを効果的にする方法を検討し、実際に生かす。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	グループワーク②	合宿の課題を前提に活動内容を決める。各グループのプレゼンテーションを行う。	
	この回の到達目標	他グループとの比較において、自分たちのプレゼンテーションを客観的に評価できるようになる。	
	事前学修	グループでのプレゼンテーションの準備を行う。そのために必要な情報収集やプレゼンテーションの練習を行う。	180分
	事後学修	提示された計画案のそれぞれについて、考察する（利点・欠点や目的との整合性を評価する）。	60分
20	グループワーク③	合宿の課題を前提に活動内容を決める。グループのプレゼンテーションを踏まえて最終的に1つの案に絞る。	
	この回の到達目標	客観的かつ公平な態度でディスカッションに主体的に参加することができる。	
	事前学修	どの案を選択するかを想定し、議論を進めるうえで必要となる情報を収集しておく。	180分
	事後学修	最終的に決まった計画について、より具体的な内容を構想しておく。	60分
21	個人発表①	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
	この回の到達目標	他の人の発表に対して、コメントをすることができるようになる。	
	事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
	事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分
22	個人発表②	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
	この回の到達目標	他の人の発表に対して、コメントをすることができるようになる。	
	事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
	事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分
23	個人発表③	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
	この回の到達目標	他の人の発表に対して、何らかの質問や疑問を提示することができるようになる。	
	事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
	事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分
24	個人発表④	卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
	この回の到達目標	他の人の発表に対して、何らかの質問や疑問を提示することができるようになる。	
	事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。	180分
	事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	入室試験準備		入室試験の実施にあたり、試験が円滑かつ適正に行われるための方法を全体で検討し、そのための計画・準備を行う。	
	この回の到達目標	共同での計画・活動における課題や注意すべき点を明らかにし、提示することができるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。		180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。		60分
26	個人発表⑤		卒業論文の研究テーマを見据えて、個人発表（2～3人）を行う。	
	この回の到達目標	他の人の発表に対して、課題の指摘や改善策の提案ができるようになる。		
	事前学修	自分の発表の準備もしくは、他者の発表に関連して自分の関心分野について調べておく。		180分
	事後学修	発表やコメントを受けて生じた疑問について調べる。		60分
27	フィールドワークに向けた計画		合宿中のフィールドワークについての最終的な計画を策定し、各自の役割を決める。	
	この回の到達目標	フィールドワークの課題（目的）に対する計画の意図を、自分なりの言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。		180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。		60分
28	フィールドワークに向けた準備		合宿中のフィールドワークについての必要な準備作業を進める。	
	この回の到達目標	共同作業における自己の役割を理解し、実際にその役割を果たすことができるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。		180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。		60分
29	まとめと総括		後期の授業の総括を行う。	
	この回の到達目標	後期の授業を振り返り、その課題を踏まえて新年度からの目標を立てることができるようになる。		
	事前学修	後期の授業を通じてやり残したことや疑問点がないかを確認し、あればまずは自分で調べたうえで授業に臨む。		180分
	事後学修	卒業論文のテーマに関連して興味ある領域の情報を収集する。		60分
30	卒業論文執筆に向けて		次年度の卒業論文執筆に向けての指導を行う。	
	この回の到達目標	卒業論文の執筆に必要な点を理解し、新年度からの執筆計画を立てることができるようになる。		
	事前学修	卒業生の卒論で自分のテーマに関連しているもの、興味があるものを熟読する。		180分
	事後学修	自分のテーマに関連した学術論文を探し、熟読する。		60分

科目名	ゼミナール3年	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際政治学をゼミナール形式で学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際政治学の基礎理論を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
積極的に参加する姿勢を求める。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
教科書を講読し、その内容を議論する。卒業論文のテーマを報告し、その内容を議論する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書の講読と議論、ならびに卒業論文のテーマについての報告と議論は、履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治学の基礎理論を修得できる。				3	4	3					
②	自らの興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。							3	4	3		
③	グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。										4	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	要件を満たしたレポートを期日までに提出する。	20										20
討論・発表等	要件を満たした報告を行う。	20										20
授業への参画度	議論に積極的に参加する。			30								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	要件を満たしたゼミナール論文を期日までに提出する。		30									30
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者による報告の内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レポート・論文の書き方入門：第4版	河野哲也	慶應義塾出版会	2018年	教科書	必携
備考	上掲の教科書は後学期に用いる。前学期の教科書（必携）と参考書（推奨）は初回に指示する。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミナールを始めるにあたって（前学期） 導入講義	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認する。	
	この回の到達目標	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認することができる。	
	事前学修	シラバスを読む。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
2	教科書の講読と議論（1）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
3	教科書の講読と議論（2）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
4	教科書の講読と議論（3）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
5	教科書の講読と議論（4）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
6	教科書の講読と議論（5）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	教科書の講読と議論（6）		教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。		
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。		120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。		120分
8	教科書の講読と議論（7）		教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。		
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。		120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。		120分
9	教科書の講読と議論（8）		教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。		
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。		120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。		120分
10	教科書の講読と議論（9）		教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。		
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。		120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。		120分
11	教科書の講読と議論（10）		教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。		
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。		120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。		120分
12	教科書の講読と議論（11）		教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。		
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。		120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	教科書の講読と議論（12）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
14	教科書の講読と議論（13）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
15	教科書の講読と議論（14）	教科書を講読し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	教科書を講読し、その内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
16	授業を始めるにあたって（後学期） 導入講義	後学期の授業を始めるにあたり、進め方と学び方を確認する。	
	この回の到達目標	後学期の授業を始めるにあたり、進め方と学び方を確認することができる。	
	事前学修	前学期のゼミナールの内容を確認し、あらためてシラバスを読む。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
17	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告（1）	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
18	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告（2）	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (3)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
20	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (4)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
21	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (5)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
22	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (6)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
23	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (7)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
24	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (8)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (9)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
26	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (10)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
27	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (11)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
28	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (12)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
29	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (13)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
30	教科書の講読、卒業論文のテーマ報告 (14)	教科書を講読する。卒業論文のテーマを報告する。	
	この回の到達目標	教科書を講読することができる。卒業論文のテーマを報告することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際経済論について理解を深め、国際経済に関する問題点を見つけ出していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際経済に関する問題について、説明ができるようになる。

【履修条件】
経済学ⅠⅡ、国際経済論ⅠⅡの履修を終えていると、履修の助けとなる。

【授業方法】
文献講読と文献内容の報告。レポートの執筆と発表。レポートの添削や報告・発表へのコメント。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文献内容の報告とレポートの発表。 それらに対するコメントや添削。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。											
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。											
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。											
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	10	10	10	10							40
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時間中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
世界経済の潮流(世界経済報告)	内閣府			その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントをとること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	世界経済の減速と金融政策の課題	世界経済の減速と金融政策の課題	
	この回の到達目標	世界経済の減速と金融政策の課題を概観できる。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの概要部分に目を通してくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの概要部分に、再度目を通す。	120分
2	米中貿易摩擦下の世界経済	米中貿易摩擦下の世界経済	
	この回の到達目標	米中貿易摩擦下の世界経済を概観できる。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第1章第1節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第1章第1節を再度読む。	120分
3	金融政策の動向と課題	金融政策の動向と課題	
	この回の到達目標	金融政策の動向と課題を概観できる。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第1章第2節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第1章第2節を再度読む。	120分
4	アメリカ経済の動向	アメリカ経済の動向	
	この回の到達目標	アメリカ経済の動向を概観できる。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第1節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第1節を再度読む。	120分
5	アメリカ経済の見通しとリスク要因	アメリカ経済の見通しとリスク要因	
	この回の到達目標	アメリカ経済の見通しとリスク要因を概観できる。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第1節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第1節を再度読む。	120分
6	中国経済の動向	中国経済の動向	
	この回の到達目標	中国経済の動向を概観できる。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第2節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第2節を再度読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中国経済の見通しとリスク要因	中国経済の見通しとリスク要因	
	この回の到達目標	中国経済の見通しとリスク要因を概観できる。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第2節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第2節を再度読む。	120分
8	ユーロ圏とイギリスの経済動向	ユーロ圏とイギリスの経済動向	
	この回の到達目標	ユーロ圏とイギリスの経済動向を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第3節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第3節を再度読む。	120分
9	ユーロ圏およびイギリス経済の見通しとリスク要因	ユーロ圏およびイギリス経済の見通しとリスク要因	
	この回の到達目標	ユーロ圏およびイギリス経済の見通しとリスク要因を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第3節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅱの第2章第3節を再度読む。	120分
10	継続する米中貿易摩擦	継続する米中貿易摩擦	
	この回の到達目標	継続する米中貿易摩擦を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章を再度読む。	120分
11	米中貿易摩擦 米中両国の立場と対応	米中貿易摩擦 米中両国の立場と対応	
	この回の到達目標	米中貿易摩擦 米中両国の立場と対応を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第1節の1を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第1節の1を再度読む。	120分
12	米中貿易摩擦 アメリカにおける追加関税負担	米中貿易摩擦 アメリカにおける追加関税負担	
	この回の到達目標	米中貿易摩擦 アメリカにおける追加関税負担を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第1節の2を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第1節の2を再度読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	米中貿易摩擦 アメリカ経済への影響	米中貿易摩擦 アメリカ経済への影響	
	この回の到達目標	米中貿易摩擦 アメリカ経済への影響を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の1を読んてくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の1を再度読む。	120分
14	米中貿易摩擦 中国経済への影響	米中貿易摩擦 中国経済への影響	
	この回の到達目標	米中貿易摩擦 中国経済への影響を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の2を読んてくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の2を再度読む。	120分
15	米中貿易摩擦 アジア(中国を除く)経済への影響	米中貿易摩擦 アジア(中国を除く)経済への影響	
	この回の到達目標	米中貿易摩擦 アジア(中国を除く)経済への影響を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の2を読んてくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の2を再度読む。	120分
16	米中貿易摩擦 世界(アメリカとアジアを除く)経済への影響	米中貿易摩擦 世界(アメリカとアジアを除く)経済への影響	
	この回の到達目標	米中貿易摩擦 世界(アメリカとアジアを除く)経済への影響を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の3を読んてくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第1章第2節の3を再度読む。	120分
17	アメリカの財政・金融政策の動向	アメリカの財政・金融政策の動向	
	この回の到達目標	アメリカの財政・金融政策の動向を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第2章第1,2節を読んてくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第2章第1,2節を再度、読む。	120分
18	アメリカの通商政策の動向	アメリカの通商政策の動向	
	この回の到達目標	アメリカの通商政策の動向を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第2章第3節を読んてくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2019年Ⅰの第2章第3節を再度読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	アメリカ・中国の貿易構造の変化	アメリカ・中国の貿易構造の変化	
	この回の到達目標	アメリカ・中国の貿易構造の変化を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第1節に目を通してくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第1節を再度読む。	120分
20	グローバル・バリュー・チェーンにおける中国の位置づけの変化	グローバル・バリュー・チェーンにおける中国の位置づけの変化	
	この回の到達目標	グローバル・バリュー・チェーンにおける中国の位置づけの変化を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第3節の1, 2を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第3節の1, 2を再度読む。	120分
21	グローバル・バリュー・チェーンを通じた貿易摩擦の波及可能性	グローバル・バリュー・チェーンを通じた貿易摩擦の波及可能性	
	この回の到達目標	グローバル・バリュー・チェーンを通じた貿易摩擦の波及可能性を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第3節の3を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第1章第3節の3を再度読む。	120分
22	新興国通貨価格変動の影響	新興国通貨価格変動の影響	
	この回の到達目標	新興国通貨価格変動の影響を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第3節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第3節を再度読む。	120分
23	イギリスのEU離脱がイギリス経済に与える影響	イギリスのEU離脱がイギリス経済に与える影響	
	この回の到達目標	イギリスのEU離脱がイギリス経済に与える影響を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第4節の1, 2を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第4節の1, 2を再度読む。	120分
24	EU加盟国における予算案をめぐる動き	EU加盟国における予算案をめぐる動き	
	この回の到達目標	EU加盟国における予算案をめぐる動きを概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第4節の3を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅱの第2章第4節の3を再度読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	民間債務からみた世界経済のリスクの点検	民間債務からみた世界経済のリスクの点検	
	この回の到達目標	民間債務からみた世界経済のリスクの点検を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章に目を通してくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章を再度読む。	120分
26	民間債務問題の背景	民間債務問題の背景	
	この回の到達目標	民間債務問題の背景を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第1節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第1節を再度読む。	120分
27	世界における民間債務の現状	世界における民間債務の現状	
	この回の到達目標	世界における民間債務の現状を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節を再度読む。	120分
28	世界における民間債務 家計部門	世界における民間債務 家計部門	
	この回の到達目標	世界における民間債務 家計部門を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の2を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の2を再度読む。	120分
29	世界における民間債務 企業部門	世界における民間債務 企業部門	
	この回の到達目標	世界における民間債務 企業部門を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の3を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の3を再度読む。	120分
30	世界における民間債務 金融の国際的伝播	世界における民間債務 金融の国際的伝播	
	この回の到達目標	世界における民間債務 金融の国際的伝播を概観する。	
	事前学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の4を読んでくる。	120分
	事後学修	世界経済の潮流2018年Ⅰの第1章第2節の4を再度読む。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	吉田 純平	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民事訴訟法の重要な問題に関する調査、報告、及び議論を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法の重要問題の検討を通して、法律問題に関する調査能力、情報発信能力、ディベート能力を身につける。

【履修条件】
民事訴訟法や民法関連の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
グループや個人による研究報告とそれに基づく議論を行う。課題は原則として前の授業時に決定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業、学生が研究報告行い、そのための調査を行うことで、法律調査能力及び情報発信スキルを身につける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法における原則や判例の準則を理解し、事案に適用できる。				3	3	3					
②	判例の論点を理解し、自分なりの意見を持つ。						3	3	3	3		
③	グループで調査し、議論することができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミでの発表および討論への積極性を評価する。			40								40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文について、論理性、調査の量及び質、独自 性に基づき評価する。	30	30									60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12：00～13：00 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法人でない団体の当事者能力	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
2	当事者適格	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
3	債権者代位訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
4	法人の内部紛争	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
5	確認の利益	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
6	申立事項と判決事項	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	二重起訴の禁止	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
8	弁論主義	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
9	釈明権	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
10	文書提出命令	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
11	訴訟物	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
12	争点効	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基準時後の形成権の行使	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
14	基準時後の損害拡大	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
15	一部請求	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
16	既判力の主観的範囲	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
17	法人格否認の法理	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
18	反射効	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	和解	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
20	通常共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
21	固有必要的共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
22	類似必要的共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
23	独立当事者参加	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
24	補助参加	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	訴訟承継		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
26	上訴の利益		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
27	不利益変更禁止の原則		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
28	再審		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
29	審判権の限界		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
30	境界確定訴訟		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	吉野 篤	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミナール3年次では、例年一定のテーマを教員側が設定し、そのテーマに関する個別具体的な問題領域に沿ってゼミ生が研究報告を行って、その報告に関する質疑応答を行うという形式をとる。 テーマ設定に関しては、なるべく時宜にかなった問題を取り上げるのが通例である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
課題に対してゼミ生各自が研究報告を行うことを通じて、レジュメの作成の仕方、すなわち、どのように課題となっている問題を展開して一定の結論を導き出すかを自主的に学んで、論理的思考力を高め、プレゼンテーションの技法を修得することを目的とする。また、例えばグループで報告する場合などでは特に、互いのコミュニケーションをはかり、ゼミナールの仲間であることを実感してもらい、学研集団としてだけではなく、濃密な活動集団としてのアイデンティティを醸成することも一つの大きな目標とする。

【履修条件】
政治学を履修済みであることが望ましいが、必ずしもそのことにこだわるものではない。

【授業方法】		
基本的に学期初めに年度全体の研究テーマを設定し、研究課題の全体像、研究報告の個別具体的な領域を決めて、研究報告の分担をして、その計画に沿って毎週研究報告を行う。その報告を受けて全員で質疑応答を行い、報告の不十分な点や課題を浮き彫りにし、次回の報告に反映させていくというスタイルをとる。ここ数年の例では、大学祭のフォーラムに向けて通年で考察できるような課題を設定している。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミナールは授業そのものがアクティブ・ラーニングそのものであり、課題に対する問題意識、疑問点の解明、今後の発展的な対応など、議論を積み重ねることのできる貴重な場となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治学の問題設定、研究領域がどのようなものであるかを研究報告を通じて学修し修得することができることを目標とする。				3	3	3	3	3	3	3	3
②	個別具体的な課題の分析を通じて、当該領域の深い知見や認識を各自が修得できることを目標とする。				3	3	3	3	3	3	3	3
③	プレゼンテーションの技法を磨くことを通じて、いかに分かりやすく問題の本質などを伝えることができるかを訓練することを目標とする。				3	3	3	3	3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	実施しない											
小テスト等	研究報告のレジュメに含まれる											
レポート等	研究報告のレジュメに含まれる											
討論・発表等	この項目の比重が圧倒的に高く、これがゼミの本質的特徴である											
授業への参画度	参画は必須。研究報告の真摯さがなによりも重要となる。											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	30	30	40								100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
報告のたびに具体的な課題・改善点を指摘し、次回の報告に反映できるように個別具体的に指導する	

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用する場合は、できるだけ最新の新書レベルの課題図書を使用する。設定するテーマによって統一の課題図書を使用できない場合がある					

【オフィスアワー】	
火曜日の2時限目・研究室(1807)	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		各自の自己紹介、ゼミ役職者の決定、今後のスケジュールの設定、フォーラム参加の是非を話し合う	
	この回の到達目標	公式な初顔合わせなので、まずお互いを知るためにも自己紹介は重要な機会となる。役職者決定の後は、年度全体のゼミ活動の説明、合宿の過去の取り組み、フォーラムに向けた取り組みなどを話し合う。		
	事前学修	大前提として参加は必須である		120分
	事後学修	ゼミの活動を整理し、自己の取り組み、位置づけを確認してゼミ全体の意義を確認する。		120分
2	研究課題の報告①		前回のゼミで課題が決定された場合には、それについて報告を開始する。レジュメの書き方、展開の仕方などについて、修正点があれば指摘し、次回の報告に活かしてもらう。	
	この回の到達目標	②と③に関連して、報告がどのようなものであったのか各自で自省し、指摘された点について次回の報告で軌道修正することができるように準備することができる。		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること。		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
3	研究課題の報告②		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う。。	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる。		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
4	研究課題の報告③		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う。	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
5	研究課題の報告④		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
6	研究課題の報告⑤		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができる		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	研究課題の報告⑥		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
8	研究課題の報告⑦		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
9	研究課題の報告⑧		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
10	研究課題の報告⑨		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
11	研究課題の報告⑩		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
12	研究課題の報告⑪		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	研究課題の報告⑫		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
14	研究課題の報告⑬		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
15	研究課題の報告⑭		引き続き関連課題に関する報告を行い、それについての質疑応答を全員で行う	
	この回の到達目標	とくに③に関連して報告の論点整理やレジュメの展開の仕方などを確認して、報告のブラッシュアップにつなげることができ		
	事前学修	とくに報告予定者が入念に報告の準備をして報告に臨めるようにすること		120分
	事後学修	指摘された点、自分たちで気づいた不十分・不適切な点を反省し、それを次回の報告に活かせるように準備する		120分
16	前学期のゼミ総括		前学期のゼミの報告内容について議論し、反省点、よかった点などを全員で意見を出し合い、後学期にそれを反映できるように合意形成する	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、後学期の内容を議論する。		
	事前学修	今までの研究報告を振り返り、改めて重要な論点や疑問点、今後の学修課題などを整理する		120分
	事後学修	自らの報告と他の報告を比較し、メリット・デメリットを整理して、後学期の学修に活かせるように学修計画を立てる		120分
17	後学期のゼミ内容の確定と報告の手順の確定		フォーラムでの研究発表をある程度前提として、具体的な報告内容を議論し確定させる	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、報告テーマに反映させる		
	事前学修	フォーラム参加を前提として、自らの役割について整理しておく		120分
	事後学修	決められた役割に従って、それを十分自覚して具体的作業に進むための段取りを整理する		120分
18	フォーラム発表に向けた研究報告①		固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる		
	事前学修	報告内容について入念な準備を行う		120分
	事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	フォーラム発表に向けた研究報告②	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる	
	事前学修	報告内容について入念な準備を行う	120分
	事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする	120分
20	フォーラム発表に向けた研究報告③	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる	
	事前学修	報告内容について入念な準備を行う	120分
	事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする	120分
21	フォーラム発表に向けた研究報告④	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる	
	事前学修	報告内容について入念な準備を行う	120分
	事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする	120分
22	フォーラム発表に向けた研究報告⑤	固められた報告内容に従って実践的な報告を開始する	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる	
	事前学修	報告内容について入念な準備を行う	120分
	事後学修	指摘された点、論理的な混乱などを整理し、報告内容をブラッシュアップする	120分
23	発表の最終調整とリハーサル	報告内容全体を再吟味し、完成度を高めるための議論を進める	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して政治学の論点がどのようなものであるかを改めて確認し、それを具体化する報告に結実させる	
	事前学修	報告の全体像を各人が共有するための認識を深める	120分
	事後学修	最終調整してフォーラムに臨めるように改めて各自で報告の調整を仕上げる	120分
24	残り期間のゼミ内容を確定	ゼミナール論文に向けた研究課題を議論し、併せて改めて論文作成の手順を確認する	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して各自の問題意識や関心領域について議論し、ゼミ論文作成への足がかりとなる報告を開始するための段取りを調整し、論文への関心をさらに高めることができる	
	事前学修	あらかじめ各自でゼミ論文のテーマ設定について考えておくこと	120分
	事後学修	設定されたテーマが妥当であるかどうか自ら吟味し、テーマについて再考すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミ論テーマについての概要の報告 ①	具体的に設定されたテーマについて報告を行う	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる	
	事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること	120分
	事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること	120分
26	ゼミ論テーマについての概要の報告 ②	具体的に設定されたテーマについて報告を行う	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる	
	事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること	120分
	事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること	120分
27	ゼミ論テーマについての概要の報告 ③	具体的に設定されたテーマについて報告を行う	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる	
	事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること	120分
	事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること	120分
28	ゼミ論テーマについての概要の報告 ④	具体的に設定されたテーマについて報告を行う	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる	
	事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること	120分
	事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること	120分
29	ゼミ論テーマについての概要の報告 ⑤	具体的に設定されたテーマについて報告を行う	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる	
	事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること	120分
	事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること	120分
30	ゼミ論テーマについての概要の報告 ⑥	具体的に設定されたテーマについて報告を行う	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、報告者のテーマの妥当性や意義を議論し、次回の報告にそれを反映させることができる	
	事前学修	自らのテーマについて、参考文献などを収集し、レジュメを作成して報告に備えること	120分
	事後学修	指摘された問題点や課題を自らフィードバックし次回の報告に活かせるように論点整理すること	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	米倉 律	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
テレビを中心とした映像ジャーナリズムが現代社会においてどのような役割・機能を果たしているのか、送り手、受け手、コンテンツの各レベルについて研究を行なう。研究は、内容分析、フィールドワーク、アンケート調査など、複数の方法論を組み合わせで行う

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：映像ジャーナリズムについての基礎文献などの講読を行なって基礎知識を習得するとともに、各自の興味・関心に沿ってグループ研究を行ない、研究結果をグループで共有・考察する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループ内で共有・考察する。また、そうした活動を通じて課題設定や課題解決策を模索する問題意識を醸成する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文献講読、番組の映像視聴と内容分析、フィールドワーク

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像視聴を通じたディスカッション、分析内容・研究成果のプレゼンテーションとディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	映像ジャーナリズムについての基礎的理論、概念、歴史などについて説明することができる					3	3						
②	映像ジャーナリズムの制作過程について理解し、その内容や問題点などについて述べることができる						3	3	3	3			
③	映像ジャーナリズムを対象にしてオリジナリティのある研究のある研究を実践し、成果を共有することができる							3	3	3	3	3	3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②に関連し、課題文献や映像資料についての確 に分析し、その結果を共有することができるかどうかを評 価する。	20	15									35
授業への参画度	到達目標①②③に関連し、質疑応答・ディスカッションに 積極的に参画しているかどうかを評価する。	5	5	5								15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標②③に関連し、設定した課題・テーマを対象に、 適切な方法論を用いて有意義な研究成果を出すことができ たかどうかを評価する。		25	25								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に適宜フィードバックする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新放送論	米倉律・島崎哲彦編	学文社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容	放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題などについて実践的に解説する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業の進め方、評価の仕方を説明するとともに、パイロット研究の導入を行なう	
	この回の到達目標	1年間の活動内容と目標を理解し説明することができる	
	事前学修	教科書、シラバスに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理する	120分
2	パイロット研究①	パイロット研究のテーマについてのブレインストーミング	
	この回の到達目標	パイロット研究にふさわしいテーマとはどのようなものかについて説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
3	パイロット研究②	パイロット研究のテーマについてのブレインストーミング	
	この回の到達目標	パイロット研究にふさわしいテーマとはどのようなものかについて説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
4	パイロット研究③	パイロット研究の対象、方法論の検討	
	この回の到達目標	パイロット研究のテーマについて、適切な対象と方法論を説明することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
5	パイロット研究④	パイロット研究のデータ収集と分析	
	この回の到達目標	対象となるデータ収集と分析を的確に遂行できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
6	パイロット研究⑤	パイロット研究のデータ収集と分析	
	この回の到達目標	対象となるデータ収集と分析を的確に遂行できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パイロット研究⑥	パイロット研究の分析結果のまとめと考察	
	この回の到達目標	分析結果を的確にまとめたうえで、それについて多角的に考察を行うことができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
8	パイロット研究⑥	パイロット研究の分析結果のまとめと考察	
	この回の到達目標	分析結果を的確にまとめたうえで、それについて多角的に考察を行うことができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
9	パイロット研究⑦	パイロット研究の成果を発表する	
	この回の到達目標	研究成果をプレゼンテーションで共有し質疑応答を行うことができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
10	共同研究①	共同研究テーマについてのブレーストーミング	
	この回の到達目標	共同研究にふさわしいテーマについて説明することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
11	共同研究②	共同研究テーマについてのブレーストーミング	
	この回の到達目標	共同研究にふさわしいテーマについて説明することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
12	共同研究③	共同研究テーマについてのブレーストーミング	
	この回の到達目標	共同研究にふさわしいテーマについて説明することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	共同研究④	共同研究テーマに関する先行研究レビュー	
	この回の到達目標	共同研究テーマに関する先行研究を的確に収集しその内容を説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
14	共同研究⑤	共同研究テーマに関する先行研究レビュー	
	この回の到達目標	共同研究テーマに関する先行研究を的確に収集しその内容を説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
15	共同研究⑥	共同研究テーマに関する先行研究レビュー	
	この回の到達目標	共同研究テーマに関する先行研究を的確に収集しその内容を説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
16	共同研究⑦	共同研究の研究計画策定	
	この回の到達目標	共同研究についての目的、対象、方法論などを研究計画として策定できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
17	共同研究⑧	共同研究の研究計画策定	
	この回の到達目標	共同研究についての目的、対象、方法論などを研究計画として策定できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
18	共同研究⑨	対象と方法論の検討	
	この回の到達目標	研究対象と方法論についてより具体的に説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	共同研究⑩	対象と方法論の検討	
	この回の到達目標	研究対象と方法論についてより具体的に説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
20	共同研究⑪	対象と方法論の検討	
	この回の到達目標	研究対象と方法論についてより具体的に説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
21	共同研究⑫	データ収集と分析	
	この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
22	共同研究⑬	データ収集と分析	
	この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
23	共同研究⑭	データ収集と分析	
	この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
24	共同研究⑮	データ収集と分析	
	この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	共同研究⑩	分析結果のまとめと考察	
	この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
26	共同研究⑪	分析結果のまとめと考察	
	この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
27	共同研究⑫	プレゼンテーションの作成	
	この回の到達目標	研究成果を論理的かつ分かりやすくプレゼンテーションできる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
28	共同研究⑬	プレゼンテーションの作成	
	この回の到達目標	研究成果を論理的かつ分かりやすくプレゼンテーションできる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
29	共同研究⑭	研究成果のプレゼンテーション	
	この回の到達目標	研究成果を論理的かつ分かりやすくプレゼンテーションできる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
30	総括	年間の研究活動の総括	
	この回の到達目標	一年間の研究成果を整理し説明することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	劉 斌斌	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
本ゼミナールは、“明るく楽しい雰囲気”をモットーにし、ゼミ生一人ひとりの環境や特性に合わせ、人間性、合理性、創造性を重視する。知的財産法の基礎を学び、その基本に関する比較研究を通して、中国における政策、特許法、商標法、著作権法などを広く扱う知的財産法分野に関する具体的な事例や判例を中心に発表、討論を行う。中国の企業法務部、弁護士事務所、大学及び法科大学院ゼミナール、裁判官研究チームなどとも連携し、合同研究や意見交換など行う予定（オンライン等）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 知的財産法の基本に関する比較を通して知財、特に中国の知財、裁判に関わる専門知識などの認識・理解を目的とする。 【到達目標】 知的財産を取り扱うのに必要知識を習得し、比較する視点から、中国知的財産法における仕組み、裁判制度および改革、権利侵害における判定、損害賠償及び救済など、最新の情報、事例・判例を通じて、考察・研究・討論することにより、国際的な視野を持ち、国際舞台において活躍できる国際人・法律家を養成することを目的とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
各回ともレジュメや資料などを配布するとともに、国内外の最新動向、データ、事例など紹介する。ゼミ内の討論、意見交換を行い、実践的な問題分析能力の育成を図る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における発明の歴史、発展および現状に関して、説明・理解することができる。						2	2	2	2		2
②	中国の特許制度の仕組み、日本との相違点等に関して、理解することができる。						2	2	2	2		2
③	中国の商標制度の仕組み、日本との相違点等に関して、理解することができる。						2	2	2	2		2
④	中国の著作権制度の仕組み、日本との相違点等に関して、理解することができる。						2	2	2	2		2
⑤	日本、米国、中国の特許制度の相違点を理解し、説明することができる。特許出願や職務発明に関する注意点を理解することができる。						2	2	2	2		2
⑥	中国における知財訴訟の仕組み、問題点及び再審のアクセスなどに関して、理解して説明することができる。						2	2	2	2		2
⑦	特許権の間接侵害に関する理論、判定手法について、日中間の相違点を理解し、述べることができる。						2	2	2	2		2
⑧	(中国) 特許権侵害事件における損害賠償額の算定方法などに関して、理解することができる。						2	2	2	2		2
⑨	中国における懲罰的損害賠償制度を理解し、説明することができる。						2	2	2	2		2
⑩	中国における著作権侵害訴訟に関する手続きや、判定手法及び考慮要素など、理解して説明できること。						2	2	2	2		2

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	出された課題につき、合理性及び論理的思考の程度を評価する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
討論・発表等	授業内におよびゼミ活動において、討論、発表、意見交換などの積極性を重視して評価する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
授業への参画度	各回の到達目標に達している否かを、学修態度や受講の積極性を通じて評価する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポート採点后、返却・解説を行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
研究室にて、月曜日の4限（14：10―16：10）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 中国甘肅省發明協会理事長、中国甘肅省知的財産局顧問、甘肅省高級人民法院知財裁判顧問、中国專利（特許）侵害判定諮詢センター諮問委員など知財分野に関する活動に経験多数。
実務経験に基づく実践的教育の内容		身近な事例、判例を紹介することにより、理解・認識を促進する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	本ゼミナールについて	本ゼミナールの目標、授業概要、入室要項など紹介し、入室試験などの準備、ゼミ生の選考	
	この回の到達目標	本ゼミナールについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、本ゼミナールの全体像をつかむこと。	120分
	事後学修	知財分野に関する基本を、自分の認識や体験と照らして理解すること。	120分
2	知的財産法の基本に関する考察	(1) 知的財産とは何か (2) 知的財産法の仕組み (3) 日本における知的財産基本法の役割および位置付け	
	この回の到達目標	知的創作物の財産性、知財法の仕組みおよび役割について理解し、説明することができる。	
	事前学修	知的創作物とは何か、知財法の仕組み、日本における知的財産基本法について調べ、予習しておくこと。	120分
	事後学修	知的財産とは何か、知財法の仕組みなどを、まとめること。以下の問題：①知的創作物に対し、なぜ保護の必要があるのか、②知的財産権と物権との相違点、を考えまとめて復習しておくこと	120分
3	日本における発明史に関する考察	日本における世界に大きな影響を与えた発明について	
	この回の到達目標	日本における発明の歴史、発展および現状など、を理解し、説明することができる。	
	事前学修	世界に大きな影響を与えた発明を調べ、予習しておくこと。	120分
	事後学修	検討内容について理解し、以下の問題：①日本の発明力から考え、現在の世界に何をもたらすか、②発明と環境との関係について、を考えまとめて復習しておくこと。	120分
4	シルクロードと知的創作物	(1) シルクロードにおける有名な知的創作物について (2) シルクロードの文化から知的創作行為に与えた影響 (3) 日本と中国・知的創作活動（および文化）における相違点	
	この回の到達目標	シルクロードの文化と知的創作物について、知的創作活動に対し日中文化の相違点などを、理解し、説明することができる。	
	事前学修	シルクロードおよび文化について調べ、概要をつかむこと。	120分
	事後学修	検討内容について理解し、以下の問題：①古代シルクロード及び文化からいま中国の「一带一路」戦略との関係、②文化が知的創作活動に与えた影響について、を自分なりの考えを整理しまとめる。	120分
5	中国における知的財産権法制度の形成及び発展	(1) 中国における知的財産に関する法律の変遷について考察する。 (2) 具体的な事例、原文を読み、検討する。	
	この回の到達目標	中国知財法に関する流れについて、知識を理解し、説明することができる。	
	事前学修	中国法、特に知財法を概観すべく予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミ内討論内容を理解し、以下の問題：①歴史的な視点から、知財法制の形成に対し、中国と日本との相違点、を考えて、整理してまとめること	120分
6	判例で読む：中国における知的財産法の仕組み 1	(1) 中国・特許制度の仕組み (2) (日本と関連ある) 判例を踏まえて、日本との相違点 (3) 問題点と注意点	
	この回の到達目標	中国の特許制度の仕組み、日本との相違点等に関して、理解することができる	
	事前学修	日本の特許制度の仕組みを調べる。また、レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内討論・検討内容を理解し、以下の問題：①日中間における特許制度の相違点により、日系企業に対し、留意すべきことが何か、を考えて、整理してまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	判例で読む：中国における知的財産法の仕組み 2	(1) 中国・商標制度の仕組み (2) (日本と関連ある) 判例を踏まえて、日本との相違点 (3) 問題点と注意点	
	この回の到達目標	中国の商標制度の仕組み、日本との相違点等に関して、理解することができる。	
	事前学修	日本の商標制度の仕組みを調べる。レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、ゼミ内検討・討論内容を確認し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解などをまとめておくこと。	120分
8	判例で読む：中国における知的財産法の仕組み 3	(1) 中国・著作権制度の仕組み (2) (日本と関連ある) 判例を踏まえて、日本との相違点 (3) 問題点と注意点	
	この回の到達目標	中国の著作権制度の仕組み、日本との相違点等に関して、理解することができる。	
	事前学修	日本の著作権制度の仕組みを調べる。レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、ゼミ内検討・討論内容を確認し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解などをまとめておくこと。	120分
9	バイオ特許と知財戦略 1	(1) バイオ特許と知財戦略：バイオ知財戦略の重要性、国際標準化と絡めたバイオ知財 (2) 日本におけるバイオ特許の現状	
	この回の到達目標	バイオ特許戦略の国際性を理解し説明することができる	
	事前学修	バイオ特許戦略について、調べて、ポイントを整理しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内検討内容を確認し、以下の問題：①日本のバイオ特許の現状、及び世界との比較②特許制度は何のためにあるのか、を考えて、ポイントを整理しておくこと。	120分
10	バイオ特許と知財戦略 2	(1) 外国特許をとる基本的な仕組み：各国知的財産権制度について、海外で特許を取得する仕組み、米国・中国特許法の問題点 (2) 特許出願 (3) 職務発明	
	この回の到達目標	日本、米国、中国の特許制度の相違点を理解し、説明することができる。特許出願や職務発明に関する注意点を理解することができる。	
	事前学修	日本、米国、中国の知財制度を調べて、予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内検討内容を復習し、以下の問題：①外国出願する場合、パリ条約ルートとPCTルートのどちらを選べばいいか、②発表と特許出願の関係において注意すべきことは何かを考えて、整理しておくこと。	120分
11	知財戦略における日中比較研究 1	(1) 特許の出願・取得における日・中比較研究 (2) 商標の出願・取得における日・中比較研究 (3) 知的財産権に関する意識における日・中比較研究	
	この回の到達目標	日本、中国に関する特許、商標における出願、取得の現状などを理解し、説明することができる。	
	事前学修	近年、日本における特許、商標に関する出願、取得のデータなど、調べて予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内検討内容を確認し、以下の問題：①中国の特許出願、取得における問題点、②中国・非正常的な商標の出願・登録について、③日本企業にとって、②の問題に対し、対策は何か、を考えて、復習しておくこと。	120分
12	知財戦略における日中比較研究 2	(1) 日本における知的財産の国家戦略について (2) 中国における知的財産の国家戦略について	
	この回の到達目標	日本、中国の知財に関する国家戦略について理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本の知財に関する国家戦略について、その背景や政策などに関する内容を予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内検討内容を確認し、以下の問題：①知的財産国家戦略について、比較する視点から、日本、中国にける方向、政策の相違点、を考えて、ポイントを整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	医療・医薬分野のAIに関する技術・知的財産	(1) 医療・医薬分野のAIに関する技術の応用現状および関連政策（比較する視点から） (2) 医療・医薬分野のAIに関する技術の法問題 (3) 医療・医薬分野のAIに関する技術の知的財産について		
	この回の到達目標	医療・医薬分野のAIに関する技術の現状・発展について、理解し、問題点や知的財産に対し、自分の考えを述べることができる。		
	事前学修	レジメや資料を配布するので、諸外国と比較する視点から、予習しておくこと。		120分
	事後学修	ゼミ内討論内容を確認し、以下の問題：①日本における医療・医薬分野のAI技術の応用、②日本、米国、中国、EUにおける医療AIに関する政策の相違点を考えて、自分なりの考えを整理しておくこと。		120分
14	中米貿易戦争と知的財産	(1) 中米貿易戦争における知的財産に関する争議 (2) 中米貿易戦争の背景の下で、知的財産の方向性・政策性に関する変化		
	この回の到達目標	中米貿易戦争の背景や、産業に与えた影響など理解して説明できること。		
	事前学修	中米貿易戦争について調べて、予習しておく。		120分
	事後学修	ゼミ内討論内容を確認し、国際的な視点から、自分なりの理解・考えを整理しておくこと。		120分
15	レポートの提出および発表	レポートに関する内容、課題および自分の考えなど、発表すること。		
	この回の到達目標	前期に検討、討論内容を理解し、自分なりの考えを述べることができる		
	事前学修	課題を絞り、レポートを準備すること。		120分
	事後学修	発表の際、質問や討論の内容により、比較する視点から、自分の意見に関する研究ポイントを整理して復習しておくこと。		120分
16	中国における裁判制度に関する考察	(1) 中国における裁判制度の仕組み (2) 司法解釈の役割及び位置付け (3) 判決の検索		
	この回の到達目標	中国の裁判制度について理解することができる。		
	事前学修	裁判制度の基本知識を、予習しておくこと。		120分
	事後学修	検討内容を確認し、以下の問題：①中国の裁判制度に対し、日本との相違点、②裁判の独立に関して、自分なりの考え、を思考し、比較する視点から、整理しておくこと。		120分
17	中国における知財訴訟に関する考察	(1) 中国における知財訴訟に関する仕組み・問題点及び改革について、事例や判例で読み、理解する。 (2) 近年、知財訴訟案件の実態に関する考察 (3) 知的財産法院の管轄権 (4) 知財訴訟の再審		
	この回の到達目標	中国における知財訴訟の仕組み、問題点及び再審のアクセスなどに関して、理解して説明することができる。		
	事前学修	レジメや資料を配布する。レジメや資料により、中国の知財訴訟の実態など予習しておくこと。		120分
	事後学修	ゼミ内討論内容を確認し、以下の問題：①中国において、知財（特許、商標、著作権、）訴訟に対し、裁判所の管轄権、②知財訴訟に関する手続き、日本と中国との相違点、③企業の立場から、（中国において）再審の申立てることについて、訴訟戦略でどう考えすべきか、を考えまとめて復習しておくこと		120分
18	判例で読む：（中国）特許権侵害事件における均等論の適用	（中国）特許権侵害事件における均等論の適用に関する考察		
	この回の到達目標	特許権侵害事件において、均等論の適用に関して、日中間の相違点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	均等論に関する知識、流れなどを、調べて、予習しておくこと。		120分
	事後学修	検討内容について理解し、以下の問題：①中国における均等論適用の実態、②均等論の適用に関して、日中間の相違点について、を考えまとめて復習しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	判例で読む：（中国）特許権の間接侵害 1	(1) 間接侵害の理論 (2) (中国) 特許権間接侵害における判定手法	
	この回の到達目標	特許権の間接侵害に関する理論、判定手法について、日中間の相違点を理解し、述べることができる。	
	事前学修	特許間接侵害理論について調べ、概要をつかむこと。	120分
	事後学修	検討内容を理解し、以下の問題：①中国において、間接侵害と共同侵害との関係について、を自分なりの考えを整理しまとめる。	120分
20	判例で読む：（中国）特許権の間接侵害 2	(1) (中国) 多主体が方法特許の実施における侵害行為の判定 (2) (中国) 特許権の間接侵害における裁判の動向	
	この回の到達目標	中国における特許権の間接侵害行為の判定および裁判の動向を理解し、説明することができる。	
	事前学修	レジメや資料を配布する。日本における特許権の間接侵害判例、流れを含む予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内討論内容を理解し、以下の問題：①特許権の間接侵害に対する判定における中国・日本との相違点、を考えて、整理してまとめること。	120分
21	判例で読む：（中国）特許権侵害事件における立証責任に関する考察	(1) (中国) 特許権侵害事件における立証責任及びそのアクセス (2) (中国) 方法特許権侵害事件における立証転換について (3) 問題点と注意点	
	この回の到達目標	(中国) 特許権侵害事件における立証、手法に関して、理解することができる。	
	事前学修	(日本) 特許権侵害事件において、立証に関する手続きなどを調べる。また、レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内討論・検討内容を理解し、以下の問題：①日中間における相違点により、日系企業に対し、留意すべきことが何か、を自分なりに考えて、整理してまとめること。	120分
22	判例で読む：（中国）特許権侵害事件における侵害賠償額の算定について	(1) 侵害行為の判定 (2) 損害賠償請求権 (3) 損害賠償額の算定 (4) 日本との相違点及び注意点	
	この回の到達目標	(中国) 特許権侵害事件における損害賠償額の算定方法などに関して、理解することができる。	
	事前学修	(日本) 特許権侵害における損害賠償額の算定について、調べる。レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、ゼミ内検討・討論内容を確認し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解などをまとめておくこと。	120分
23	判例分析：（中国）商標訴訟における「商標的な使用」の認定	(1) 「商標的な使用」とは (2) (日本と関連ある) 判例を踏まえて、日本との相違点 (3) 問題点と注意点	
	この回の到達目標	「商標的な使用」に関する判定、日本との相違点等に関して、理解することができる。	
	事前学修	「商標的な使用」について、調べる。レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	配布されたプリントを再読し、ゼミ内検討・討論内容を確認し、留意点および問題点など、国際的な視点から自分なりの認識・理解などをまとめておくこと。	120分
24	判例分析：（中国）商標三年不使用取消請求に関する判定	(1) (中国) 商標三年不使用取消請求制度 (2) 「不使用」に関する判断要素	
	この回の到達目標	中国における商標三年不使用取消請求制度を理解し、説明することができる。	
	事前学修	レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内検討内容を確認し、以下の問題：①中国商標三年不使用取消請求制度に対し、企業の対策について、考えて、ポイントを整理しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	判例で読む：（中国）商標権侵害における懲罰的損害賠償の認定 1	(1) 懲罰的損害賠償の理論 (2) (中国) 商標権侵害における懲罰的損害賠償認定の流れ (3) 認定に関する考慮要素	
	この回の到達目標	中国における懲罰的損害賠償制度に関し、理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本、米国、中国に関する知財損害賠償制度を調べて、予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内検討内容を復習し、以下の問題：①中国において、知財侵害行為に対し、懲罰的損害賠償制度導入の背景と狙い、②（訴訟中）懲罰的損害賠償を申立てる際、注意すべきことは何かを考えて、整理しておくこと。	120分
26	判例で読む：（中国）商標権侵害における懲罰的損害賠償の認定 2	(1) (中国) 商標権侵害における懲罰的損害賠償額の算定 (2) 懲罰的損害賠償を認定していただくため、弁護（代理人）の手法およびリスク	
	この回の到達目標	(中国) 商標権侵害における懲罰的損害賠償現状及び留意点などを理解し、説明することができる。	
	事前学修	レジメや資料を配布するので、しっかり予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内検討内容を確認し、以下の問題：①商標権侵害における懲罰的損害賠償制度の問題点、②企業にとって、合理的な対策は何か、を考えて、復習しておくこと	120分
27	判例で読む：（中国）商標の使用と商標機能論	(1) 商標の機能とは、 (2) 不二家食品有限公司 VS 銭氏の商標権侵害事件 (3) 日本との相違点について	
	この回の到達目標	商標機能論に関する日中間の相違点について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	商標の機能に関する知識、商標の使用と商標機能論との関係などを調べて、予習しておくこと	120分
	事後学修	ゼミ内検討内容を確認し、以下の問題：①商標機能論について、比較する視点から、日本、中国にける理論上、実務上の相違点、を考えて、ポイントを整理しておくこと。	120分
28	判例で読む：（中国）商標訴訟事件における「在先著作権」の判定について	(1) (中国) 商標紛争事件における商標権と著作権衝突を発生する原因について (2) 衝突に関する類型 (3) 「商標法」32条の解釈 (4) 実務上現状及び問題点 (5) 改善及び動向	
	この回の到達目標	商標紛争事件において、商標と著作権の衝突に関する現状、問題点について、理解し、自分なりの考えを述べることができる。	
	事前学修	レジメや資料を配布するので、比較する視点から、予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内討論内容を確認し、以下の問題：①日本と関連ある判例から、企業の立場をとって、その解決方策を、②今後商標登録や、会社運営における商標戦略に対し、留意すべきところは何か、自分なりの考えを整理しておくこと。	120分
29	判例で読む：（中国）著作権侵害事件における「実質的な類似」の判定	(1) 実務上の判定現状 (2) 判定手法及び考慮要素 (3) 問題点及び改善に関する動向	
	この回の到達目標	中国著作権侵害訴訟に関する手続きや、判定手法及び考慮要素など、理解して説明できること。	
	事前学修	レジメや資料を配布するので、比較する視点から、予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内討論内容を確認し、自分なりの理解・考えを整理しておくこと。	120分
30	判例で読む：（中国）特許権訴訟事件：権利侵害手続きと無効審判レポートの提出および発表	(1) (中国) 特許権侵害訴訟に関する裁判モデル (2) (中国) 無効審判に関する手続き (3) (中国) 無効審判手続きと権利侵害判定手続きとのアクセス	
	この回の到達目標	(中国) 特許権侵害訴訟において、無効審判に関する手続き、侵害判定手続きとのアクセスに関する留意点など、自分なりの考えを述べることができる。	
	事前学修	(日本) 無効審判に関する手続きを調べる。また、レジメや資料を配布するので、比較する視点から、予習しておくこと。	120分
	事後学修	ゼミ内討論内容を確認し、日本との相違点を考えながら、自分なりの理解を整理しておくこと。	120分

科目名	ゼミナール3年	担当者	渡邊 容一郎	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
<3年次> 教員が指定した西洋政治史に関する課題や、法桜祭学生フォーラム共同研究報告テーマについて、各自エッセイやレジュメを作成・配布し、調べてきた内容の報告(プレゼン)を行う。後期は、各自の個人研究報告内容に関する質疑応答やディスカッション、ディベートなどを行い、最後に教員が講評して総括(フィードバック)する。 <4年次> 3年次に決定したゼミナール論文テーマに基づき、各自教員の前で報告(プレゼン)を行い、その後、教員が今後の課題や修正点などを指導(フィードバック)する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
<3年次> 西洋政治史に関する課題や共通テーマについて研究し、その成果を自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることに加え、各自の興味・関心に沿った具体的な研究テーマを発見してもらうことを到達目標とする。 <4年次> ゼミナール論文の作成を通じて歴史的見地から政治の本質を理解できるようになることに加え、それを自分の言葉と文章で説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
上記「授業の概要」に基づき、ゼミナリステンの自主的かつ積極的なアクティブ・ラーニング(下記参照)を原則とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	初回のオリエンテーション以外は、課題や共通テーマ(3年次)、あるいは各自のゼミナール論文テーマ(4年次)に関連した「研究調査ならびにそれをまとめたエッセイ、レジュメ等の提出」を義務づける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の共通テーマに関する概要と問題点を理解し説明することができる。				3	3		3				
②	各自の研究テーマに関する知見を論理的に説明することができる。				4	4	4					
③	各自の研究テーマを踏まえて、現代社会を批判的に分析することができる。						3	4	4			
④	各自の研究テーマに基づく自分の調査報告・調査結果に対する他者の評価や見解を尊重し、受け容れることができる。				4		4	3		4	3	3
⑤	ゼミナリスト同士でゼミナール行事の難題に挑戦したり、コミュニケーションを取ったり、協働したりすることができる。							3	4	4	4	4
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各自の報告内容を簡潔にまとめたレジュメが書式等の要件を満たし、加えてアクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑤を踏まえて、ゼミナール行事等への参加度も重視する。					5						5
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを普段の授業でチェックするとともに、その成果は「ゼミナール論文」の内容で最終評価する。	15	15	15	15	15						75
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業(3年次：討論・発表、4年次：論文個別指導)の中で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編	弘文堂	2014	教科書	必携
備考	参考文献等は、必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日13：00－14：30 研究室（9号館2階 9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	オリエンテーション及び導入講義		春休みのプレゼミナールの総括、加えて今後のゼミナール活動について考える。
	この回の到達目標	各自ゼミナリスTENとしての自覚をもつようになること。到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナールで西洋政治史を専門的に学ぶ意義を理解し説明できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを用意して、法桜祭学生フォーラム共同研究報告に関するテーマを考えておく。	120分
	事後学修	法桜祭学生フォーラム共同研究報告テーマについてリサーチを行い、次回のゼミナールで発表できるよう準備しておく。	120分
2	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
3	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
4	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
5	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
6	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
8	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
9	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
10	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について検討し、仮のテーマを考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
11	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について検討し、仮のテーマを考える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
12	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究テーマに相応しいと思う内容について検討し、仮のテーマを決定する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		決定した共同研究テーマに基づいて、その目次案を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
14	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		決定した共同研究テーマに基づいて、その目次案を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
15	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		決定した共同研究テーマに基づいて、その目次案を検討し、夏休み中の課題と役割分担について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
16	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		各自課せられた内容について報告し、それを全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
17	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		各自課せられた内容について報告し、それを全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
18	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		各自課せられた内容について報告し、それを全員で検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		各自課せられた内容について報告し、それを全員で検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
20	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		各自課せられた内容について報告し、それを全員で検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
21	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究報告当日に向けて、全員で総仕上げを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
22	法桜祭学生フォーラム共同研究報告の準備		共同研究報告当日に向けて、全員で総仕上げを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
23	各自の個人研究報告		自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分
24	各自の個人研究報告		自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。	
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。	120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	各自の個人研究報告		自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
26	各自の個人研究報告		自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
27	各自の個人研究報告		自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
28	各自の個人研究報告		自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
29	各自の個人研究報告		自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分
30	各自の個人研究報告		自分の興味のある研究テーマについて報告し、全員で質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、各自興味・関心のある研究テーマを発見し、それについての理解・説明力を養うとともに、他者の報告をきちんと聴いたうえで批判的に検討する力を身につけること。		
	事前学修	図書館で関連文献を渉猟し、当日の報告テーマに関する予備知識を身につけておく。		120分
	事後学修	報告者もそれ以外の者も、質疑応答や教員のコメントから学んだ内容・「気づき」をゼミナール専用ノートに記録し、4年次のゼミナール論文作成に役立てられるようにする。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	阿部 徳幸	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
租税国家体制を採るわが国において税が重要であることは言うまでもない。同時に税法は国民の権利義務に多大な影響を及ぼす。ゼミ生諸君は、この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に理解し、現代を生きていく者としての基礎的知識を習得するために、ここではことさら税法基礎理論の概要、関連する制度の概要、判例、主要な学説を理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：税法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
税法に興味がある者・税理士・国税専門官を目指す者でゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】		
前学期：教員による各テーマに関して教科書をもとに基礎理論の解説を行う。解説ののちグループごとに当該テーマに関する現状と課題を探索し、報告する。その報告を受け、全体でさらにディスカッションを行う。 後学期：各グループに割り当てられたテーマに関してグループ報告を行う。その報告を受けて、全体でさらにディスカッションを行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員による個別テーマについての解説、若しくはゼミ生による課題テーマに関する報告ののち、それぞれのテーマに関してグループディスカッション、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者は、税法全般を支配する憲法上の基本原理とその問題点が説明できる。				3	3						
②	学修者は、各個別税法の概要とその問題点が説明できる。				3	3						
③	学修者は、課されたテーマに関するグループ報告に積極的に参加し、グループとしての報告ができる。						3	3	3	3	3	3
④	学修者は、各テーマに関するグループディスカッションに積極的に参加し、その結果をグループとしての報告ができる。						3	3	3	3	3	3
⑤	学修者は、各自ゼミ終了論文のテーマを見出し、その内容を報告できる。				4	4	4	4				4
⑥	学修者は、ゼミの様々な行事を通じて、他者とのコミュニケーション力を養う。									2	2	
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各テーマに関するグループ報告に当たり、報告者以外の者は、その前週までに予習レジュメを作成と提出を求める。その予習レジュメの中で到達目標①②に関連し、各テーマに対する論理的思考力が養われているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	前学期は税法基礎理論に関する講義を行う。後学期は各テーマに関するグループ報告を行う。その翌週の授業内において、その報告に基づく討論を行う。その中で、到達目標③④⑤に関わる課題の論理的考察力及び討論への積極的参加、意見の明瞭性・論理性及び他者の意見の傾聴、討議に向けた課題に対し、適切に事例等を調べる事が出来たかをチェックリスト等により評価する。			10	10	10						30
授業への参画度	ゼミナールでは、一般授業と異なり合宿等をはじめいくつもの行事が予定されている。到達目標⑥に関連し、トータルのに評価する。						20					20
その他(ゼミ終了論文)	ゼミ終了論文の提出は必須。論文としての形式が整っていること、挑戦力、論理的・批判的思考力及び問題発見・解決力などにより総合的に評価する。					30						30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	40	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『税法がわかる30話』	阿部徳幸	中央経済社	2020年	教科書	必携
『現代税法入門塾第10版』	石村耕治	清文社	2020年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・金曜日16：30以降、9号館3階研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	税理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		各回の授業で扱ったテーマが、実際の税務行政の現場においてどのような運用がなされているのか、その実態と問題点を紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミでの学び方	4年生のゼミでは、ゼミ終了論文の作成を最終的な目標とする。そのため3年生最終ゼミ授業で課した宿題、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告し、教員による講評を受け、各自の問題点等を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を決定する。その結果として問題点などを理解する。	
	事前学修	各自ゼミ終了論文のテーマと概要をまとめる。	120分
	事後学修	各自ゼミ終了論文のテーマと概要について受けた講評をもとに、テーマと概要を再構築する。	120分
2	所得税法1	所得税法の基本原則と所得税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで所得税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、所得税法の基本原則と所得税制に関する現状と課題を理解する。	
	事前学修	教科書の所得税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
3	所得税法2	所得税法の基本原則と所得税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで所得税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、所得税法の各論と所得税制に関する現状と課題を理解する。	
	事前学修	教科書の所得税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
4	ゼミ終了論文作成①	第1回の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、現状における各自の論文作成状況における問題点とその解決方法を理解する。	
	事前学修	第1回の授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
	事後学修	今回の報告により受けた講評をまとめる。	120分
5	法人税法1	法人税法の基本原則と法人税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで法人税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、法人税法の基本原則と法人税制に関する現状と課題を理解する。	
	事前学修	教科書の法人税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
6	法人税法2	法人税法の各論と法人税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで法人税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、法人税法の各論と法人税制に関する現状と課題を理解する。	
	事前学修	教科書の法人税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ゼミ終了論文作成②		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえうえて、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、現状における各自の論文作成状況における問題点とその解決方法を理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	今回の報告により受けた講評をまとめる。		120分
8	相続税法1		相続税法の基本原則と相続税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで相続税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、相続税法の基本原則と相続税制に関する現状と課題を理解する。		
	事前学修	教科書の相続税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。		120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。		120分
9	相続税法2		相続税法の各論と相続税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで相続税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、相続税法の各論と相続税制に関する現状と課題を理解する。		
	事前学修	教科書の相続税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。		120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。		120分
10	ゼミ終了論文作成③		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえうえて、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、現状における各自の論文作成状況における問題点とその解決方法を理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	今回の報告により受けた講評をまとめる。		120分
11	消費税法1		消費税法の基本原則と所得税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで消費制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、消費税法の基本原則と消費税制に関する現状と課題を理解する。		
	事前学修	教科書の消費税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。		120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。		120分
12	消費税法2		消費税法の基本原則と消費税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで消費税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、消費税法の各論と消費税制に関する現状と課題を理解する。		
	事前学修	教科書の消費税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。		120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ゼミ終了論文作成④		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、現状における各自の論文作成状況における問題点とその解決方法を理解する。	
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
	事後学修	今回の報告により受けた講評をまとめる。	120分
14	地方税法		地方税の基本原則と地方税制に関する現状と課題を理解する。そのうえで地方税制に関する問題点について、グループディスカッションを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、地方税の基本原則と地方税制に関する現状と課題を理解する。	
	事前学修	教科書の地方税箇所を熟読し、予習レジュメを作成する。	120分
	事後学修	グループディスカッション等の結果を踏まえ、予習レジュメを修正する。	120分
15	ゼミ終了論文作成指導①		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前学期中に指摘された各自のゼミ終了論文の問題点を理解・解決し、作成に向けた準備を整える。	
	事前学修	前学期中に指摘された各自のゼミ終了論文の問題点の内容・疑問点をまとめておく。	120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
16	後学期でのゼミ授業での学び方		今学期は、ゼミで学修した項目をまとめ上げるゼミ終了論文の完成を目的とする。前学期に引き続き、各自の進捗状況に併せ、報告のもと現段階での講評を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前学期中に指摘された各自のゼミ終了論文の問題点を理解・解決し、作成に向けた準備を整える。	
	事前学修	前学期最後の授業において指摘された各自のゼミ終了論文の問題点の内容・疑問点をまとめておく。	120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
17	ゼミ終了論文作成報告①		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分
18	ゼミ終了論文作成報告②		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。	
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。	120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	ゼミ終了論文作成報告③		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
20	ゼミ終了論文作成報告④		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
21	ゼミ終了論文作成報告⑤		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
22	ゼミ終了論文作成報告⑥		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
23	ゼミ終了論文作成報告⑦		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
24	ゼミ終了論文作成報告⑧		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ゼミ終了論文作成報告⑨		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
26	ゼミ終了論文作成報告⑩		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
27	ゼミ終了論文作成報告⑪		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
28	ゼミ終了論文作成報告⑫		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
29	ゼミ終了論文作成指導②		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分
30	ゼミ終了論文作成指導③		前回のゼミ終了論文作成の授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連し、前回のゼミの授業において、指摘された受けた内容を踏まえたうえで、各自ゼミ終了論文のテーマと概要を報告する。その結果として問題点などを理解する。		
	事前学修	前回のゼミ終了論文作成授業において、指摘された受けた内容に対する進捗状態をまとめる。		120分
	事後学修	この授業において、新たに指摘された課題に関するまとめを行う。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
【3年次】国内外の政治制度や政治機構の仕組みについて深く理解し、それらの制度や機構が政治行動にもたらすダイナミズムを明らかにする。
【4年次】3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【3年次】政治制度の基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。
【4年次】3年次に学習した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探求心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
【3年次】政治制度・統治機構に関する書籍を取り上げ、その書籍の各章について、毎回全員がレポートを書き発表を行う。発表された内容をもとにグループワークを行い、最後に教員が解説する。		
【4年次】各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループワークを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中にグループワークを行い、自らの意見・考えを論理的に主張すると同時に、異なる意見・考え方を持つ他者との討議を通じて、より広い視野からの理解を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民主主義社会の政治的市民としての意識を持ち、より良い民主主義社会の実現に貢献できる。				4							
②	政治制度に関する概念や分析枠組み、理論、モデル等を理解し、それらの現実的妥当性を説明することができる。				4	4						
③	政治制度に関する概念や分析枠組み、理論、モデルをもとに、現実の社会的課題について合理的かつ批判的に説明することができる。				4	4	4					
④	現実の民主主義社会において、政治制度をめぐるどのような対立が存在し、その解決のためには何が必要であるのかを理解することができる。				4	4	4	4				
⑤	政治制度をめぐる対立の解決のために必要な対策について、政治的市民としての責任を踏まえて、積極的に提示することができる。				4	4	4	4	4			
⑥	グループワークを通じて、政治制度をめぐる論点に関する自らの理解とあるべき対応策について、他者に論理的に主張することができる。				4	4	4	4	4	4		
⑦	グループワークを通じて、異なる考えや思想を持つ他者とコミュニケーションを図り、一方的な意見の押し付けではなく、相互的な自己変容を実現することができる。				4	4	4	4	4	4	4	
⑧	政治制度をめぐる自らの理解とあるべき対応策について、様々な理論やモデルおよび現実の政治的・社会的状況を踏まえて評価し、必要に応じて改善することができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②③④⑤にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。		5	5	5	5						20
討論・発表等	グループワークにおいて、異なる他者の考えを踏まえつつ自らの主張を論理的に示し、かつディスカッションを通じて省察することができたかを基準に、到達目標⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。						10	10	5			25
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準に、到達目標①⑤⑧にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5							5			10
その他(ゼミナール論文)	各自の興味・関心に沿った研究テーマについてゼミナール論文を作成し、到達目標①②③④⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	10	10						45
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	15	15	15	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
授業中に適宜指示する					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントを取る） 9号館4階9403研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、ゼミナールの全体像を把握すると共に、政治的市民として社会的課題について論理的に考えることの意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	卒論の進捗報告とグループワーク(1)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
3	卒論の進捗報告とグループワーク(2)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
4	卒論の進捗報告とグループワーク(3)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
5	卒論の進捗報告とグループワーク(4)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
6	卒論の進捗報告とグループワーク(5)	各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	卒論の進捗報告とグループワーク (6)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。		
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。		120分
8	卒論の進捗報告とグループワーク (7)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。		
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。		120分
9	卒論の進捗報告とグループワーク (8)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。		
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。		120分
10	卒論の進捗報告とグループワーク (9)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。		
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。		120分
11	卒論の進捗報告とグループワーク (10)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。		
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。		120分
12	卒論の進捗報告とグループワーク (11)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。		
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。		120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	卒論の進捗報告とグループワーク (12)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
14	卒論の進捗報告とグループワーク (13)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
15	卒論の進捗報告とグループワーク (14)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
16	卒論の進捗報告とグループワーク (15)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
17	卒論の進捗報告とグループワーク (16)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
18	卒論の進捗報告とグループワーク (17)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	卒論の進捗報告とグループワーク (18)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
20	卒論の進捗報告とグループワーク (19)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
21	卒論の進捗報告とグループワーク (20)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
22	卒論の進捗報告とグループワーク (21)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
23	卒論の進捗報告とグループワーク (22)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
24	卒論の進捗報告とグループワーク (23)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	卒論の進捗報告とグループワーク (24)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
26	卒論の進捗報告とグループワーク (25)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
27	卒論の進捗報告とグループワーク (26)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
28	卒論の進捗報告とグループワーク (27)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
29	卒論の進捗報告とグループワーク (28)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分
30	卒論の進捗報告とグループワーク (29)		各自が決定した卒論研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめ、授業内に発表を行う。発表についてグループワークによるディスカッションを行う。発表およびディスカッション内容について教員が指導を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連して、研究テーマに関する自らの主張を論理的に組み立て、グループワークでのディスカッションを通じて多様な意見や考え方が存在することを認識し、それを踏まえて自らの主張の論理性を改善することができる。	
	事前学修	各自が決定した研究テーマに関して主張したい内容と全体構想をまとめる。	120分
	事後学修	グループワークによるディスカッション、および教員の指導を踏まえて、自らの主張の論理性について理解が不十分な点や疑問に感じた点をまとめ、様々な学術文献にあたってそれらの点について自ら解決策を考える。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	池田 直史	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ファイナンス（特に、コーポレートファイナンス）に関わる未解明の問題を理論的・実証的に解明し、その成果を論文としてまとめる。 3年次：ファイナンス論とデータ分析の基礎を習得し、グループで論文を執筆する。 4年次：3年次に培った論理的な思考能力と証拠を提示する力を駆使して、各自が設定したテーマについて論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見し、その問題を解明するための研究活動を通して、論理的な思考能力と証拠を提示する力を高める。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
主に、学生による発表と討論、それに対する教員のフィードバックによって進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表や討論、グループワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ファイナンス論とデータ分析の基礎を習得し、応用することができる。				4	4						
②	論理的で説得力のある発表をすることができる。						4	4		4	4	4
③	討論において、論理的で説得力のある意見を述べるすることができる。						4	4		4	4	4
④	先行研究を押さえた上で、ファイナンスに関わる未解明の問題を自ら発見することができる。				4	4	4	4	4			
⑤	独自性が高く、論理的で説得力のある論文を書くことができる。				4	4	4	4	4	4	4	4
⑥	ゼミナールメンバーの一員として、責任のある行動ができる。								4	4	4	4
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ファイナンス論やデータ分析の考え方を習得した上で、論理的で説得力のある発表ができたか、また、討論において自分の意見を述べる事ができたかを基準に、目標①②③④の達成度を評価する。	5	10	10	5							30
授業への参画度	ゼミナールメンバーの一員としての自覚を持ち、積極的にゼミナール活動に参加・貢献したかを基準に、達成目標⑥を評価する。						10					10
その他(ゼミナール論文)	論理的で説得力のあるゼミナール論文を書けたか、また、先行研究に対して貢献のある独自性の高いゼミナール論文を書けたかを基準に、達成目標①④⑤を評価する。	10			10	40						60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	10	15	40	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール内で随時フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指示する。				

【オフィスアワー】
火曜日 12:15から13:00（休暇中を除く）研究室（9号館4階9407号）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミナール論文進捗報告（1）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
2	ゼミナール論文進捗報告（2）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
3	ゼミナール論文進捗報告（3）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
4	ゼミナール論文進捗報告（4）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
5	ゼミナール論文進捗報告（5）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
6	ゼミナール論文進捗報告（6）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゼミナール論文進捗報告（7）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
8	ゼミナール論文進捗報告（8）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
9	ゼミナール論文進捗報告（9）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
10	ゼミナール論文進捗報告（10）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
11	ゼミナール論文進捗報告（11）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
12	ゼミナール論文進捗報告（12）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール論文進捗報告（13）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
14	ゼミナール論文中間報告会（1）	ゼミナール論文について、これまでの研究成果を整理した上で、今後の課題を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文について、これまでの研究成果を整理した上で、論文の完成度を高めるために自分が解決すべき課題を提示することができる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	解決すべき課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
15	ゼミナール論文中間報告会（2）	ゼミナール論文について、これまでの研究成果を整理した上で、今後の課題を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文について、これまでの研究成果を整理した上で、論文の完成度を高めるために自分が解決すべき課題を提示することができる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	解決すべき課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
16	ゼミナール論文進捗報告（14）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	解決すべき課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
17	ゼミナール論文進捗報告（15）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
18	ゼミナール論文進捗報告（16）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミナール論文進捗報告（17）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
20	グループ論文の進捗報告（18）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
21	グループ論文の進捗報告（19）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
22	グループ論文の進捗報告（20）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
23	グループ論文の進捗報告（21）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
24	グループ論文の進捗報告（22）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	グループ論文の進捗報告（23）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
26	グループ論文の進捗報告（24）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
27	グループ論文の進捗報告（25）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
28	グループ論文の進捗報告（26）	ゼミナール論文の進捗報告を報告する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：ゼミナール論文の進捗を発表し、それに対する教員や他のゼミナールメンバーのフィードバックを受けることで、論文の完成度を高めるために必要な解決すべき課題を発見できる。	
	事前学修	研究を進め、論文を執筆する。	120分
	事後学修	指摘された課題に取り組むことで、論文の完成度を高める。	120分
29	ゼミナール論文最終報告会（1）	完成したゼミナール論文の最終報告を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：完成したゼミナール論文の内容をわかりやすく発表できる。	
	事前学修	論文の内容をわかりやすく発表するためにリハーサルを行う。	120分
	事後学修	発表の改善点を考える。	120分
30	ゼミナール論文最終報告会（2）	完成したゼミナール論文の最終報告を行う。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤⑥に関連：完成したゼミナール論文の内容をわかりやすく発表できる。	
	事前学修	論文の内容をわかりやすく発表するためにリハーサルを行う。	120分
	事後学修	発表の改善点を考える。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個別発表，部分原稿添削指導を通じて，ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法改正など，日本国憲法に関して将来生じうる国民的課題に，有権者として，適切に対処できる判断力を身につけるために，憲法の基礎理論，人権，統治機構に関する知識を深め，これを基に，さまざまな社会問題を憲法との関連において考察し，その解決策を提案する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
学術論文の技法を確認したうえで，履修者自らが憲法問題に関するテーマを設定し，これを考察する論文の部分原稿を定期的に提出する。指導教員は，提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを授業で共有し，履修者全員に共通する問題や要注意点を説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	研究発表，ゼミナール論文の作成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	憲法に関して生じている諸問題の所在や意義，学術研究の技法を説明することができる。				3	3		3				
②	設定された問題について，先行研究たる文献・資料を収集し，整理することができる。									3	3	
③	学術論文の技法に則り，ゼミナール論文を作成することができる。						4	4	3	3	3	
④	他者の研究発表を評価・批判し，自己の意見を述べることができる。					4	4	4	3	3	3	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	定期的に行われるゼミナール論文の中間発表におけるパフォーマンスおよびゼミナール論文部分原稿の内容から、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	完成し提出されたゼミナール論文の内容から、到達目標①②③に関する能力が身についているかを評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
当日または次週のゼミで解説・講評等を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454号室） ikeda.minoru61@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業案内・導入	当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程，ゼミナール3年との関連でゼミナール4年を履修する意義等を説明し，履修者が授業の準備を行うことができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，ゼミナール4年を履修する意義を理解し，説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール3年の学修を通じて自分が得た気付き，知見をノートにまとめておく。	60分
	事後学修	授業を振り返り，ノートを確認して，今後の学修計画を立てる。	60分
2	註の表記方法	学術論文等における註の役割と表記方法を説明し，ワークを行うことを通じて，履修者が正しく註を表記することができるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して，註の役割を理解し，これを正しく表記することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材を通読し，概要を把握しておく。疑問点があればノートにメモしておく。	90分
	事後学修	授業を振り返り，ワークを通じてみつけた問題に注意して，いま一度ワークを行い，正しく註を表記することができるようにする。	90分
3	論理の展開	指導教員の論文を題材に，その構成や論旨を解説することによって，履修者が論理を展開させる方法を理解できるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して，学術論文において展開される論理を追い，論旨を正しく理解し説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する論文を熟読し，要旨をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	授業を振り返り，題材となった論文を再読し，その論理展開をノートに図式化する。	120分
4	ゼミナール論文構想の発表（1）	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分
5	ゼミナール論文構想の発表（2）	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分
6	ゼミナール論文構想の発表（3）	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。	
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	ゼミナール論文構想の発表（4）	ゼミナール論文の構想（テーマ，構成，仮説等）を発表させ，講評を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，さまざまな憲法問題を認識し，文献・資料を調べ，ゼミナール論文の構想を発表することができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の構想をペーパーにまとめ，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	120分	
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文構想をブラッシュアップする。	120分	
8	ゼミナール論文部分原稿の発表（1）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分	
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分	
9	ゼミナール論文部分原稿の発表（2）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分	
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分	
10	ゼミナール論文部分原稿の発表（3）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分	
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分	
11	ゼミナール論文部分原稿の発表（4）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分	
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分	
12	ゼミナール論文部分原稿の発表（5）	提出された部分原稿を添削して返却するとともに，これを題材に，授業において，履修者全員に共通する注意事項等を解説し，履修者相互の意見交換等を行う。		
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，先行研究をふまえ，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は，ゼミナール論文の部分原稿を作成し，所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は，事前にこれをダウンロード・閲覧し，不明点等をメモしておく。	180分	
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り，それを活かしつつ，自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。	90分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ゼミナール論文部分原稿の発表（6）		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
14	ゼミナール論文部分原稿の発表（7）		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
15	ゼミナール論文部分原稿の発表（8）		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
16	ゼミナール論文部分原稿の発表（9）		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
17	ゼミナール論文部分原稿の発表（10）		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
18	ゼミナール論文部分原稿の発表（11）		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	ゼミナール論文部分原稿の発表 (12)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
20	ゼミナール論文部分原稿の発表 (13)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
21	ゼミナール論文部分原稿の発表 (14)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
22	ゼミナール論文部分原稿の発表 (15)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
23	ゼミナール論文部分原稿の発表 (16)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
24	ゼミナール論文部分原稿の発表 (17)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ゼミナール論文部分原稿の発表 (18)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
26	ゼミナール論文部分原稿の発表 (19)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
27	ゼミナール論文部分原稿の発表 (20)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
28	ゼミナール論文部分原稿の発表 (21)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
29	ゼミナール論文部分原稿の発表 (22)		提出された部分原稿を添削して返却するとともに、これを題材に、授業において、履修者全員に共通する注意事項等を解説し、履修者相互の意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、先行研究をふまえ、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、相互に講評・意見交換をすることができる。		
	事前学修	発表を割り当てられた者は、ゼミナール論文の部分原稿を作成し、所定の期日までにゼミの共有フォルダにアップロードする。他の者は、事前にこれをダウンロード・閲覧し、不明点等をメモしておく。		180分
	事後学修	発表者に寄せられた講評等を振り返り、それを活かしつつ、自分自身のゼミナール論文部分原稿をブラッシュアップする。		90分
30	ゼミナールの総括		2年間のゼミナール活動を振り返り、将来の展望を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、ゼミナールの経験を将来にどのように活かすかを展望し、説明することができる。		
	事前学修	ゼミナールの経験を将来にどのように活かすかを考え、まとめておく。		60分
	事後学修	授業を振り返り、自分の将来展望を見直す。		60分

科目名	ゼミナール4年	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
所属するゼミの専門領域に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，学生フォーラムへの参加，当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，ゼミナールごとに学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと考えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指示する。輪読のための教科書代は2,000～3,000円程度を予定しておいてもらいたい。その他、自分の研究テーマに関する文献が必要となる。				

【オフィスアワー】
【2021年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。 また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	論文テーマの確定	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	文献の収集(3) ／輪読(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。 ／文献講読を合同で実施。テキスト第1章～第3章。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	文献の確認・整理(1) ／輪読(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。 ／文献講読を合同で実施。テキスト第4章～第6章。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	文献の確認・整理(2) ／輪読（3）		収集した文献や文献リストを確認・整理し，不足があれば指示する。 ／文献講読を合同で実施。テキスト第7章～第9章。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し，文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	文献の確認・整理(3) ／輪読（4）		収集した文献や文献リストを確認・整理し，不足があれば指示する。 ／文献講読を合同で実施。テキスト第10章～第12章。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し，文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	学説等の確認・検討(1) ／輪読（5）		整理された学説等を確認・検討し，不足や不十分な箇所があれば指示する。 ／文献講読を合同で実施。テキスト第13章～第15章。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで，論文のテーマに関する学説等を整理し，レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討(2) ／輪読（6）		整理された学説等を確認・検討し，不足や不十分な箇所があれば指示する。 ／文献講読を合同で実施。テキスト第16章～第18章。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで，論文のテーマに関する学説等を整理し，レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討(3) ／輪読（7）		整理された学説等を確認・検討し，不足や不十分な箇所があれば指示する。 ／文献講読を合同で実施。テキスト第19章～第21章。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで，論文のテーマに関する学説等を整理し，レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討		まとめられた課題を確認・整理し，不足があれば指示する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し，まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	共同研究（１）		共同研究のテーマ設定
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	共同研究（２）		共同研究の先行研究の渉猟
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説		夏期休暇中に取り組む課題や論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	夏期休暇中の課題報告		前期の学修事項を振り返るとともに、課題報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	共同研究（３）		作業課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	共同研究（４）		作業課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	共同研究（５）		作業課題につき担当者が報告を行い，他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて，現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて，ゼミナール論文を修正する。	120分
20	共同研究（６）		作業課題につき担当者が報告を行い，他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて，現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて，ゼミナール論文を修正する。	120分
21	共同研究（７）		作業課題につき担当者が報告を行い，他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて，現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて，ゼミナール論文を修正する。	120分
22	共同研究（８）		共同研究の発表。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて，現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて，ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	卒業論文報告(1)		ゼミナール論文につき担当者が報告を行い，他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて，現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて，ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	卒業論文報告(2)		ゼミナール論文につき担当者が報告を行い，他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて，現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて，ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	卒業論文報告(3)		ゼミナール論文につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	卒業論文報告(4)		ゼミナール論文につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	卒業論文報告(5)		ゼミナール論文につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	卒業論文報告(6)		ゼミナール論文につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	卒業論文報告(7)		ゼミナール論文につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	論文提出、全体の振り返り		2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させ、期日までに論文を提出する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	出雲 孝	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
立法の歴史を通じて、ルールを作るとは何か、ということを考えていく。法学部における学修の主体は、ルールの解釈であり、ルールの設計ではない。ルールの解釈に関する技法をルールの設計に応用していくために、本ゼミでは立法の歴史を概観しつつ、先人たちがどのように苦心しながらルールの設計に携わり、結果としてどのようなメリット・デメリットが発生したのかを学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
このゼミの目的は、ルールを作るとはどのようなことであるかを理解し、実社会に応用するスキルを身につけることにある。理想的な状況を目指す規則が良いルールであるとは限らず、高度な理論に支えられた規則が良いルールであるとも限らない。学生がルールと理想とを区別し、どのようなファクターを考慮しつつルール設計をしなければならないのかを理解かつ実践することを目指す。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
3年次はプレゼミの合議で決まった本を輪読する。グループごとに担当部分をまとめ、レジュメを準備した上で発表し、他のゼミ生と議論する。4年次のゼミナール論文は、ルール設計という観点から各人に関心のあるテーマを選んでもらい、それについて執筆指導を行なう。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の発表で、学生同士のディスカッションを行なう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	立法の歴史を学び、立法者たちがルール作りにあたってどのような問題に直面し、どのような工夫をこらしてきたのかを理解する。						3	3					
②	現在の立法学にはどのような立法理論が存在し、どのような議論が行なわれているのかを理解する。						3	3	3				
③	特定の法制度等を踏まえたうえで、適切な分析と批判を加えることができる。							4	4				
④	既存のルールについて、その問題点を発見し、解決案を提示することができる。								4	4	4		
⑤	自分の意見を他の学生に対して適切に伝達し、円滑な議論を行なうことができる。								3		3		
⑥	現実の問題に照らしたルール設計を試み、チームで協働してひとつの具体的なモデルを組むことができる。								3	4	3	3	
⑦	自分たちが作ったルールに対する批判に真摯に応え、反省を加えることができる。										3		3
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分が担当するテーマについてレジュメを作成・発表し、他の学生からの質疑に対して適切に応答する。レジュメ、発表、質疑応答のそれぞれの内容を基準に、到達目標①②③④⑤にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	自分が担当していないテーマについて発表者の発表をよく理解し、その理解を掘り下げるために適切な討論を行なう。討論への参加の積極性および発言の内容等を基準に、到達目標①②③④⑤にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5	5	5	5						25
その他(ゼミナール論文)	ルール設計という観点から、自己の関心に合った具体的な法制度等に着目し、当該制度等に対する分析、考察、提案を含むゼミナール論文を完成させる。論文のスタイル、内容および中間発表を基準に、到達目標①②③④⑤⑥⑦にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	10	10	10	5	5	5				50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	20	20	20	15	5	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のゼミで前回分の講評を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		卒業論文のテーマを持ち寄り、報告の順番を割り当てる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	テーマと準備状況を報告できるようにする。		180分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、テーマや問題設定について見直す。		60分
2	第1回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分
3	第1回担当者のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。		120分
4	第2回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分
5	第2回担当者のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。		120分
6	第3回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	第3回担当者のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。		120分
8	第4回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分
9	第4回担当者のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。		120分
10	第5回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分
11	第5回担当者のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。		120分
12	第6回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第6回担当者のディベート	前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。	120分
14	第7回担当者の報告	担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。	120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。	120分
15	第7回担当者のディベート	前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。	120分
16	進捗状況の中間報告会	各人が現時点での進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	現時点での進捗状況に関するレジュメを作成する。	120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。	120分
17	第8回担当者の報告	担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。	120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。	120分
18	第8回担当者のディベート	前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	第9回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分
20	第9回担当者のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。		120分
21	第10回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	事前提出されたレジュメを読み、ノートにまとめる。担当者はレジュメを作成する。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分
22	第10回担当者のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。		120分
23	第11回担当者の報告		担当者が自己のゼミナール論文の内容をまとめ、他の学生はレジュメを熟読・整理したうえでゼミに参加し、担当者の報告を聞いたうえで、質疑応答、論点の洗い出しをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	テキストの全体をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ゼミでの報告および議論を踏まえた上で、論点を整理してまとめる。		120分
24	第11回担当者のディベート		前回の報告および質疑応答の内容を踏まえたうえで、報告者は追加のレジュメを作成し、それにもとづいてディベートをおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。		
	事前学修	前回の事後学修で整理した論点にもとづき、ディベートをおこないたい内容をノートにまとめる。		120分
	事後学修	ディベートの結果を踏まえた上で、自己のゼミナール論文にアイデアを反映させる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文の草稿の発表会①	ゼミナール論文の草稿を担当者が発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	担当者はゼミナール論文の草稿を提出する。他の学生はそれを読み、質疑応答のポイントを整理する。	120分
	事後学修	質疑応答の内容を踏まえた上で、自身のゼミナール論文を見直す。	120分
26	ゼミナール論文の草稿の発表会②	ゼミナール論文の草稿を担当者が発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	担当者はゼミナール論文の草稿を提出する。他の学生はそれを読み、質疑応答のポイントを整理する。	120分
	事後学修	質疑応答の内容を踏まえた上で、自身のゼミナール論文を見直す。	120分
27	ゼミナール論文の草稿の発表会③	ゼミナール論文の草稿を担当者が発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	担当者はゼミナール論文の草稿を提出する。他の学生はそれを読み、質疑応答のポイントを整理する。	120分
	事後学修	質疑応答の内容を踏まえた上で、自身のゼミナール論文を見直す。	120分
28	ゼミナール論文の草稿の発表会④	ゼミナール論文の草稿を担当者が発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	担当者はゼミナール論文の草稿を提出する。他の学生はそれを読み、質疑応答のポイントを整理する。	120分
	事後学修	質疑応答の内容を踏まえた上で、自身のゼミナール論文を見直す。	120分
29	ゼミナール論文の草稿の発表会⑤	ゼミナール論文の草稿を担当者が発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	担当者はゼミナール論文の草稿を提出する。他の学生はそれを読み、質疑応答のポイントを整理する。	120分
	事後学修	質疑応答の内容を踏まえた上で、自身のゼミナール論文を見直す。	120分
30	最終報告会	ゼミナール論文の草稿を各自発表する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、ゼミナール論文のテーマに関する基礎的な知識を身につけ、論理的・批判的な分析を加えた上で問題点を発見し、議論を通じて一定の解決案を提示することができる。	
	事前学修	最終報告をするためのレジメを作成する。	180分
	事後学修	質疑応答の内容を踏まえた上で、自身のゼミナール論文を見直す。	60分

科目名	ゼミナール4年	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として3年次に学習した内容に基づき、ゼミナール論文を論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：行政広報に基づく現代の諸問題について学習し、各自の関心に沿った研究テーマを見つけ、社会科学の方法論を学ぶ。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、ゼミナール論文を作成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。3年生のゼミナールからの継続。

【授業方法】		
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4	4						
②	担当教員の専門領域を深く理解し、これを適切に用いて自らの関心領域について議論することができる。					4	4	4	4	4			
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									4	4	4	4
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。								4	4	4	4	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	与えられた課題に関して、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論に関して、他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文に関して、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各講義の際に、報告者に解説・コメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに卒業論文指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	各自の自己紹介を行い、諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また、担当教員の専門領域につき、演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を再確認できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	卒業論文進捗発表①	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	卒業論文進捗発表②	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
4	卒業論文進捗発表③	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
5	卒業論文進捗発表④	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
6	卒業論文進捗発表⑤	各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	卒業論文進捗発表⑥		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
8	卒業論文進捗発表⑦		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
9	卒業論文進捗発表⑧		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
10	卒業論文進捗発表⑨		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
11	卒業論文進捗発表⑩		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
12	卒業論文進捗発表⑪		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	卒業論文進捗発表⑫		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
14	卒業論文進捗発表⑬		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
15	卒業論文進捗発表⑭		各担当者が卒論研究報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を目次ごとに報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
16	課題の確認・検討①		卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
17	課題の確認・検討②		卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
18	課題の確認・検討③		卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	課題の確認・検討④	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	課題の確認・検討⑤	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	課題の確認・検討⑥	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	課題の確認・検討⑦	卒論でまとめた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の研究課題を確認・解決策など報告し、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	論文の第一次報告①	ゼミナール論文全体を担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文に関して、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
24	論文の第一次報告②	ゼミナール論文全体を担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文に関して、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第一次報告③	ゼミナール論文全体を担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文に関して、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
26	論文の第一次報告④	ゼミナール論文全体を担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文に関して、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
27	論文の第二次報告①	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の第二次報告②	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文の第二次報告③	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
30	論文提出に向けた最終調整	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	岩崎 正洋	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
この授業では、比較政治学の代表的な研究業績に注目し、比較政治学の議論がどのようなものなのか、これまでにどのようなテーマが取り扱われてきたのか、過去に注目された議論が徐々に堆積して現在の比較政治学を支えているとしたら、具体的に、どのような研究業績が蓄積されてきたのかについて学修する。比較政治学の課題，対象，方法を理解するためには，具体例を通して学ぶことが最適であり，過去に一定の評価を得た研究業績こそ具体例とするのにふさわしいことから，第二次世界大戦後の比較政治学における主な研究を取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
比較政治学の基本的な理論の検討を通して，世界各国における政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，比較政治学の代表的な理論，モデル，概念などを修得するとともに，現実政治の具体例にそれらを結びつけて説明できることを理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
テキストとして，入門書および専門書の両方を用いながら，比較政治学における主たる研究テーマについて，基礎的な理解と応用的な理解との双方を蓄積していく。そのためには，受講者によるテキストの内容についての報告と，それにもとづく課題に対する研究報告と討論を繰り返すことにより，授業の目的の達成を目指す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週の授業において，受講者による報告と討論を行うとともに，セメスター期間中にレポートの提出と，それに対するフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力			
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力			
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力			
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	比較政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。				3	4	3	4	3	4
②	比較政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。				3	4	3	4	3	4
③	現代の世界各国の政治が抱える問題について比較政治学の理論や概念を用いて具体的に考察することができる。				3	4	3	4	3	4
④	現代の世界各国の政治が抱える問題について具体的な解決方法を批判的かつ論理的に考察することができる。				3	4	3	4	3	4
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	セメスター中，数回行うレポートおよびリアクション・ ペーパーにより，到達目標③④に関する学力を評価する。			10	10							20
討論・発表等	セメスター中，数回行う報告および討論により，到達目標 ①②③に関する学力を評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①②③④について求められる学力が身につについてい るかを，ゼミナール論文により評価する。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し， 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	教科書	必携
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019	教科書	必携
『政党システムの理論』	岩崎正洋	東海大学出版会	1999	参考書	推奨
『政治発展と民主化の比較政治学』	岩崎正洋	東海大学出版会	2006	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション：大統領制化の比較政治学とは何か		第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、比較政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュールなどについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。		
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
2	大統領制化の比較政治学		大統領制化（presidentialization）論の概要について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学における研究テーマの一つである「大統領制化」に関して学修する際の問題意識や、当該テーマの射程を説明することができる。		
	事前学修	教科書の序章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
3	ドイツにおける大統領制化の停滞		ドイツにおける大統領制化の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツにおける大統領制化の事例について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第1章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
4	ブレア後のイギリス		イギリスにおける大統領制化の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、イギリスにおける大統領制化の事例について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第2章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
5	フランスにおける半大統領制の大統領制化		フランスにおける大統領制化の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランスにおける大統領制化の事例について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第3章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
6	多極共存型民主主義における大統領制化		ベルギーにおける大統領制化の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ベルギーにおける大統領制化の事例について説明することができる。		
	事前学修	教科書の第4章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	オーストリアの大統領制化	オーストリアにおける大統領制化の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オーストリアにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第5章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	日本の大統領制化と政策過程の変容	日本における大統領制化と政策過程の変容の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本における大統領制化の事例について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第6章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	スウェーデンの大統領制化	スウェーデンにおける大統領制化の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、スウェーデンにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第7章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	イスラエルの大統領制化	イスラエルにおける大統領制化の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、イスラエルにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第8章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	ロシアの大統領制化	ロシアにおける大統領制化の事例について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロシアにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第9章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	トルコの大統領制化	トルコにおける大統領制化の事例について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トルコにおける大統領制化の事例について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第10章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本政治の大統領制化	日本における大統領制化の事例について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本における大統領制化の事例について説明することができる。	
	事前学修	教科書の終章を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	大統領制化論の課題	各国の大統領制化の事例により明らかになった課題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各国における大統領制化の抱える課題について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	大統領制化の比較政治学の意義	大統領制化の比較研究を行う意義について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大統領制化論の主たる理論、モデル、概念などの相互関係について説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
16	ゼミナール論文の執筆要領	ゼミナール論文の執筆要領について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の執筆および完成に向けて、ゼミナール論文に必要なことについて説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
17	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
18	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
20	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
21	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
22	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
23	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
24	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文	ゼミナール論文の内容に関する中間報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
26	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
27	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
28	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
29	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
30	ゼミナール論文の総括	ゼミナール論文の内容に関する最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の具体的な内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆に関し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究や事例にあたり、授業中の指摘を再考し、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個人でマーケティングあるいは経営学に関する研究テーマを決定し，卒業論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
卒業論文の執筆を通じて，問題発見力，論理的思考力，データを用いた実証研究能力，プレゼンテーション能力を身につける。

【履修条件】
ゼミ試験の合格者のみ履修可能

【授業方法】		
毎回のプロゼミにおける発表並びにサブゼミでの準備の繰り返しを通じて、個人で卒業論文を執筆する。その成果は、他大学の学生と合同発表会にて報告し、評価を受ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回のプロゼミにおける発表並びにサブゼミでの準備の繰り返しを通じて、グループ論文を仕上げていく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マーケティング，経営学など関連する文献の収集力					4	4	4					
②	マーケティング，経営学など関連する文献の読解					4	4	4					
③	マーケティング，経営学など関連する文献の分析力					4	4	4					
④	統計学の知識と実践								4	4	4	4	4
⑤	パワーポイントスライド等を使用したプレゼンテーション力								4	4	4	4	4
⑥	他者の論理を批判する力								4	4	4	4	4
⑦	他者の疑問に対して説得的に回答する力								4	4	4	4	4
⑧	チーム内で互いに刺激し、協働する力								4	4	4	4	4
⑨	自身の独自の論理を組み立て、相手を説得する力								4	4	4	4	4
⑩	英語で論文を執筆し、プレゼンテーションを行う力								4	4	4	4	4

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	毎回のプロゼミにおける発言と発表	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	卒業論文	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
都度、プロゼミ内でフィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜、関連する文献を紹介する				

【オフィスアワー】
水曜11：00～12：00 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務的にも示唆に富む研究に取り組む	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの探索①	個人で研究テーマを探索する。	
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
	事前学修	研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	120分
2	論文テーマの探索②	研究テーマを探索する。	
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
	事前学修	研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	120分
3	論文テーマの探索③	研究テーマを探索する。	
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
	事前学修	研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	120分
4	論文テーマの探索④	研究テーマを探索する。	
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じてさらなるブラッシュアップを目指す。	
	事前学修	研究テーマ候補を選出し、提案書を作成する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをブラッシュアップする。	120分
5	研究テーマの決定①	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
	事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	120分
6	研究テーマの決定②	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
	事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジュメを準備する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	研究テーマの決定③	全体の討論と教員のフィードバックを通じて研究テーマを決定する。	
	この回の到達目標	研究テーマの妥当性、学術的、実務的意義を提案し、全体での議論を通じて最終的な研究テーマへ絞り込む。	
	事前学修	研究テーマの決定において十分に説得的な理由を示したレジюмеを準備する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、研究テーマをさらにブラッシュアップする。	120分
8	リサーチエッション①	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
	この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
	事前学修	文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
9	リサーチエッション②	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
	この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
	事前学修	文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
10	リサーチエッション③	網羅的な文献レビューに基づき、リサーチエッションを導出する。	
	この回の到達目標	理論的にも実務的にも意義のあるリサーチエッションを設定する。	
	事前学修	文献レビューを行い、リサーチギャップを明確にする。それらに基づきリサーチエッションを提案する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
11	調査設計①	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
	この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
	事前学修	調査設計の提案書を作成する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
12	調査設計②	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
	この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
	事前学修	調査設計の提案書を作成する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	調査設計③	調査設計の基本を習得し、定性、定量調査の設計を行う。	
	この回の到達目標	調査設計の基本を習得し、リサーチエッションに対応した調査の設計を行う。	
	事前学修	調査設計の提案書を作成する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、リサーチエッションをさらにブラッシュアップする。	120分
14	フィールドワーク①	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
	事前学修	フィールドワークの実施	120分
	事後学修	次のフィールドワークの準備	120分
15	フィールドワーク②	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
	事前学修	フィールドワークの実施	120分
	事後学修	次のフィールドワークの準備	120分
16	フィールドワーク③	定性調査の一環としてフィールドワークを実施する。	
	この回の到達目標	仮説構築に十分なデータ（量・質）を収集し、分析する。	
	事前学修	フィールドワークの実施	120分
	事後学修	次のフィールドワークの準備	120分
17	仮説構築①	文献、定性データ、各種２次データを総合的に分析し、仮説を構築する。	
	この回の到達目標	検証可能な形式で仮説を構築する（構成概念、変数、測定具の開発）。	
	事前学修	仮説を提示する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、仮説をさらにブラッシュアップする。	120分
18	仮説構築②	文献、定性データ、各種２次データを総合的に分析し、仮説を構築する。	
	この回の到達目標	検証可能な形式で仮説を構築する（構成概念、変数、測定具の開発）。	
	事前学修	仮説を提示する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、仮説をさらにブラッシュアップする	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	データ収集と統計①	webフォームを使ってアンケート調査を実施。	
	この回の到達目標	データの分析を行い、解析結果を解釈する。	
	事前学修	データの収集ならびに解析。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、再度解析。	120分
20	データ収集と統計②	webフォームを使ってアンケート調査を実施。	
	この回の到達目標	データの分析を行い、解析結果を解釈する。	
	事前学修	データの収集ならびに解析。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、再度解析。	120分
21	論文執筆①	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	論文の構成を固める。	
	事前学修	論文の構成案を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
22	論文執筆②	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	第1章（リサーチエッセション）、第2章（文献レビュー）を完成させる。	
	事前学修	草稿を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
23	論文執筆③	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	第3章（仮説）、第4章（統計分析）を完成させる。	
	事前学修	草稿を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
24	論文執筆④	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	第5章（考察）、第6章（結論）を完成させる。	
	事前学修	草稿を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文執筆⑤	論文の構成を考案し、分業して英語で執筆する。	
	この回の到達目標	論文を完成させる。	
	事前学修	草稿を準備する。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
26	中間報告①	全体での討論を通じて論文のブラッシュアップを図る	
	この回の到達目標	完成論文を準備する。	
	事前学修	他者の論文を読む。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
27	中間報告①	全体での討論を通じて論文のブラッシュアップを図る	
	この回の到達目標	完成論文を準備する。	
	事前学修	他者の論文を読む。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
28	中間報告①	全体での討論を通じて論文のブラッシュアップを図る	
	この回の到達目標	完成論文を準備する。	
	事前学修	他者の論文を読む。	240分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	240分
29	プレゼン準備①	論文の内容に基づき15分間のプレゼンテーションを準備する。	
	この回の到達目標	優れたプレゼンテーションを準備する。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	120分
30	プレゼン準備②	論文の内容に基づき15分間のプレゼンテーションを準備する。	
	この回の到達目標	優れたプレゼンテーションを準備する。	
	事前学修	プレゼンテーションの準備する。	120分
	事後学修	フィードバックに基づき、修正する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
商事法に関する基本的事例・判例の検討を通じて、商事法の基本的な知識を身に付け、法的に分析する能力を獲得し、ゼミナール論文の執筆を通じて、論理的思考力・分析力・表現能力を身に付ける者を育成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：商事法の基本的な知識と法的思考能力を修得するために、商事法に関する基本的事例・判例を検討し、検討した内容の研究発表を行う。これにより各自の研究テーマを見つけ出すとともに、グループワークを通じて協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容を踏まえて各自が各別の研究テーマについて知識を修得し、グループ全体で考察する。これによりテーマに関する解決策について研究を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格した者であること。毎回の事前学習・事後学習を必ず行う者。

【授業方法】
3年次：商事法に関する基本的事例・判例について、学修者各自が基本的な概念や制度を調べ、事例を分析する。担当者は割当された課題について発表し、それをもとに全員で質疑応答を行う。これを通じて、学修者一人一人が適切な解答を導き出すことができる能力を身に付ける。 4年次：学修者各自が研究テーマを設定し、それについて資料調査と研究発表する。担当者が発表した内容について全員で質疑応答を行うことにより、グループ全体でテーマに関する解決策を検討する。担当者はテーマに関する研究を深めてゼミナール論文を執筆することができるようになる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学修者と教員、学修者相互間で会社法の主要な論点に関する基本問題について問答法を用いる等して検討を行い、内容の理解度を高める。出席管理システム等のデジタルシステムも扱いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	商事法の主要論点について十分に理解し、論理的に説明することができる。										
②	商事法の規定・学説・判例を調査し、適切な説明をし、質疑応答を通じて問題の解決策を提示できる。										
③	商事法の主要論点の検討のためにリーダーシップを発揮し、自分の意見を適切に述べることができる。										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次と4年次の2年間継続して履修し、4年次にゼミナール論文を提出しなければならない。到達目標①②③が身についているかについて、商事法学の水準に照らしてゼミナール論文として適正な内容であるかどうか評価する。	10	20	10								40
討論・発表等	毎回の授業における発表の準備において到達目標①②が身についているかを、討論の方法・内容によって到達目標③が身についているかを評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	毎回の授業において担当部分以外の問題の事前調査において到達目標①②が身についているかを、授業中の質疑応答によって到達目標③が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解説は、授業内に行うほか、補足説明についてはポータルシステムにて後日配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商事法講義1（会社法）	松嶋隆弘＝大久保拓也編	中央経済社	2021	教科書	必携
六法（最新版）				その他	必携
会社法判例百選（第3版）	岩原紳作ほか編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜昼休み。事前にメールでアポイントメントをとることオフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	会社の種類		3年次：リクエストに応じ最新の改正や判例を取り上げるため、以下の内容は変更があり得る。 4年次：各自のゼミナール論文のテーマに合わせるため、以下の内容は変更があり得る。 会社の種類はどのようなものか。基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
2	会社の意義と会社法の目的		会社の意義は何か、会社法の目的としてどういうものがあるのか。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
3	会社の能力		会社の権利能力は何か、会社の能力は自然人と異なる点があるのか。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
4	会社の法人格		会社の法人格とはどういうものか、法人格否認の法理とは何か、株式と有限責任とはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
5	株主平等の原則		株主平等の原則とはどういう制度か、その例外として属人的定めとは何か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
6	種類株式		普通株式とは何か、種類株式はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	新株発行の手続		新株発行とは何か、新株発行手続とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
8	新株発行の差止め、無効、不存在		新株発行の差止めとはどのような制度か、新株発行の無効とはどのような制度か、新株発行の不存在とはどのような制度か何か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
9	株式譲渡		株式譲渡とはどのような制度か、株式譲渡の制限どのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
10	自己株式		自己株式とは何か、自己株式取得規制はどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
11	自己株式取得の手続		自己株式取得とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
12	社債		社債とは何か、社債発行規制とはどのような制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	株主総会の運営		機関とは何か、株主総会運営の手続はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
14	株主提案権		説明義務とは何か、株主提案権はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
15	株主総会決議の瑕疵		株主総会決議取消しの訴えとは何か、株主総会決議無効確認の訴え・株主総会決議不存在確認の訴えはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
16	競業取引と利益相反取引		競業取引とは何か、利益相反取引はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
17	取締役の義務		善管注意義務とは何か、忠実義務とはどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	
18	取締役と取締役会の役割		取締役とは何か、取締役会とはどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。	120分	
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	取締役会の役割		取締役会設置会社における取締役の役割とは何か、取締役会の役割はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
20	報酬規制		取締役の報酬とは何か、取締役の報酬規制はどういう役割をもつ制度か、取締役以外の報酬規制はどういう制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
21	指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社		指名委員会等設置会社とは何か、監査等委員会設置会社はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
22	取締役の対会社責任		取締役の対会社責任とは何か、株主代表訴訟とはどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
23	取締役の対第三者責任		取締役の対第三者責任とは何か、取締役の対第三者責任はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
24	監査役、会計監査人、会計参与		監査役・監査役会とは何か、会計監査人、会計参与はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	資本制度と会社の計算		資本制度とは何か、会社の計算はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
26	株式会社の設立		株式会社の設立手続の概要は何か、発起人はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
27	払込の手続と仮装払込		株式会社の設立時の払込の手続とは何か、仮装払込はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
28	持分会社		合名会社・合資会社・合同会社とは何か、持分会社はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
29	合併と分割		合併とは何か、分割はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分
30	株式交換と事業譲渡		株式交換とは何か、株式譲渡とは何か、事業譲渡はどういう役割をもつ制度か。 基本的な概念や制度の説明、事例の分析・解説をし、それに関する発表・質疑応答を行う。 4年次は各自の研究テーマの報告とゼミナール論文の執筆をする。	
	この回の到達目標	テーマに関して、到達目標①については主要論点の内容を識別し、到達目標②については担当者の説明と質疑応答で適切に理解し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	商事法に関する基本的事例・判例を指定するので、それを読んで報告原稿をまとめる。ゼミの検討で気がついた論点について調査し、次のゼミで報告する。報告内容が不十分であれば再度の調査もする。		120分
	事後学修	ゼミ生各自の研究テーマについて他のゼミ生も理解できるよう資料を調査する。ゼミの発表後に気がついた論点について再度調査し、論文の内容を改善する。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	大杉 麻美	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：家族法に関する基礎的な知識を獲得するとともに、ゼミのメンバーとともに、家族法に関連する具体的な主題につき、調査・研究を行い、発見した問題点の解決方法につき、グループで議論を深める。グループでの議論の内容は全員で共有し、最善の解決策を探る。また4年次の卒業論文作成に備え、研究テーマの発見につとめる。 4年次：3年次に選択したテーマにつき、文献調査を行うとともに、ゼミナール論文を執筆する。 3年次・4年次共通：年間を通して、学年を超えた懇親を深めるため、合同懇親会(年数回)、合宿(春・夏)、食事会(4年生のみ、年1回)の開催を予定している。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：家族法における基礎的な考え方につき修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、ゼミでのグループワークや懇親会等を通して、他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関して、文献を収集するなどの調査活動を行い、知識を習得し、各自が設定した問題点につき、ゼミナール論文の執筆を通して、その解決を探ることにより、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を養う。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
3年次：家族法に関連する諸問題につき、毎週1名に報告をしてもらい、当該問題点につきグループディスカッションを行う。またゼミ時間中に指定された主題につきレポートを作成し、提出する。 4年次：各自で選定した研究テーマにつき、ゼミナール論文の執筆を行う。なおゼミナール論文の進捗状況は個々により異なることもあるため、シラバス記載よりも早く進捗する場合、遅く進捗する場合、あるいは進め方を変更する場合がある。 ※状況によっては、オンラインでゼミナールを実施する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年生については学生間で与えられたテーマについての議論を行い、自らの意見を述べる。4年生については研究テーマに関する教員および学生同士のディスカッションを通して知見を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	家族法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。						2						
②	家族法で問題とされる事象につき、積極的に問題点を発見し、それに対する解決の糸口を見出すことができる。							2					
③	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。					2				2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③について基礎知識等が身についているかを ゼミナール論文により評価する。	80										80	
討論・発表等													
授業への参画度	到達目標①②③について、グループディスカッションへの 積極的な参加をしているか、自ら発見した研究テーマに積 極的に取り組んでいるかにより評価する。		10	10								20	
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		80	10	10								100	

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対するフィードバックは、講義中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別 必要度
『みんなの家族法入門』		本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月	信山社	2021	教科書 推奨
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』		水野紀子・大村敦志	有斐閣	2018	参考書 推奨
備考	その他必要に応じて、論文や判例評釈のコピーを指示することがある。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		通年の講義内容につき簡単に解説する。授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価方法を説明する。また、ゼミ運営にあたり必要な事項につき協議をすることにより、受講生は、ゼミの準備や年間計画を作成することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミの年間計画やそのために必要な準備を行うことができる。		
	事前学修	自らが興味をもった研究テーマに関連する新書を読み、何が書かれているかをまとめる。		120分
	事後学修	ゼミの年間計画を作成し、また研究を選定したテーマについて教科書の該当箇所を読んでおく。		120分
2	研究テーマの調査		ゼミナール論文の研究テーマに関する資料を収集するために、パソコンを用いる検索方法を紹介する。また実際にパソコンを活用しての研究テーマ資料の検索を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマに関連する資料をリストアップすることができる。		
	事前学修	図書館でゼミナール論文の研究テーマに関連する書籍を探してみる。		120分
	事後学修	ゼミナール論文の研究テーマに関連してリストアップした資料を確認しておく。		120分
3	研究テーマの選定		ゼミナール論文の研究テーマに関連する資料を引き続きパソコンを用いて検索し、興味・関心のあるテーマを探す。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマに関連する資料をリストアップし、調査を進めることができる。		
	事前学修	パソコンを用いて得られた検索結果をまとめ、必要に応じてプリントアウトしておく。		120分
	事後学修	プリントアウトした資料を読み、研究テーマの選定を行う。		120分
4	研究テーマにかかる論文の収集		引き続き、パソコンを用いて検索をし、リストアップした論文を大学図書館や国会図書館で資料収集するための手法について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマに関連する論文を図書館で入手することができる。		
	事前学修	パソコンを通してリストアップした論文のうち、図書館で入手すべき資料をリストアップする。		120分
	事後学修	大学図書館や国会図書館で論文を入手する。		120分
5	研究テーマにかかる論文の調査		大学図書館や国会図書館等で入手した論文を整理し、読み進める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学図書館や国会図書館等で入手した論文を読み進め、ゼミナール論文の研究テーマを整理することができる。		
	事前学修	大学図書館や国会図書館等で入手した論文を読んで、わからなかったところを書き出しておく。		120分
	事後学修	大学図書館や国会図書館等で入手した論文を読んで、わかったところをノートにまとめておく。		120分
6	研究テーマにかかる論文の輪読		大学図書館や国会図書館等で入手した論文を、ゼミメンバー間で共有し、互いのゼミナール論文の研究テーマにつき議論をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、大学図書館や国会図書館等で入手した論文をもとに、ゼミメンバー間で議論を深めることができる。		
	事前学修	ゼミメンバーとの議論のために、これまで自ら入手した論文をノートにまとめておく。		120分
	事後学修	ゼミメンバーとの議論を通して、気づいた点をノートにまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	研究テーマにかかる判例の収集	パソコンを用いて、テーマにかかる判例をリストアップする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、判例の検討・分析を通して、わが国における家族にかかわる問題を認識することができる。	
	事前学修	これまでの講義を受けて興味をもった判例をリストアップし、読んでおく。	120分
	事後学修	パソコンを用いて、リストアップした判例のリストを整理し、判例入手の準備をする。	120分
8	研究テーマにかかる判例の分類	パソコンを用いて、リストアップした判例を整理・分類し、ノートにまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の事実と判旨を理解することができる。	
	事前学修	パソコンを用いてリストアップした判例の〈事実の概要〉〈判旨〉を確認し、読んでノートにまとめておく。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の〈事実の概要〉〈判旨〉を再度確認し、入手予定の判例評釈をリストアップする。	120分
9	研究テーマにかかる判例評釈の分析	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例についての判例評釈を読み、何が問題点であるかを明確にし、ノートにまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を読み、何が問題となっているかを理解することができる。	
	事前学修	大学図書館・国会図書館等で入手した判例評釈を読み、わからないところを確認しておく。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈で何が問題とされているかをノートにまとめる。	120分
10	研究テーマにかかる判例評釈の検討	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を読み、問題とされていることについての自らの考えをまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を読んで、自らの考えを述べることができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を読んで、何が書かれているかをノートにまとめる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかる判例の判例評釈を再度読みなおし、気づいたことをノートにまとめておく。	120分
11	研究テーマにかかる政策の調査	ゼミナール論文の研究テーマにかかり、現在わが国が取り組んでいる政策について調査する（インターネット・図書館を利用する）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関してわが国ではどのような取り組みがあるかについて知り、理解することができる。	
	事前学修	インターネットでゼミナール論文の研究テーマに関連する新聞記事を調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の研究テーマにかかり、わが国が取り組んでいることをノートにまとめる。	120分
12	研究テーマにかかる政策の分析・検討	ゼミナール論文の研究テーマにかかり、現在わが国で取り組んでいる政策について調査した資料を分析・検討し、何が問題となっているか理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、研究テーマにかかる政策を分析・検討し、何が問題となっているかを理解し、自らの意見を述べるることができる。	
	事前学修	インターネットで、官公庁のHPを検索し、自治体の取り組みを調査する。	120分
	事後学修	インターネットで調査し得られた結果をノートにまとめ、自らの意見を書き加えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール論文の主題	これまでの資料調査・分析・検討を通して自らが興味をもったテーマを設定し、当該テーマに関する問題点をまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまで収集した資料を調査し、分析し、検討することにより、問題点を理解するとともに、自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでに収集した資料を再度読みなおし、自らが興味を持った問題点についてノートにまとめておく。	120分
	事後学修	研究テーマにつき、問題の所在や現在争われていること、収集した資料のリストを作成する。	120分
14	ゼミナール論文の構成	これまでの資料の収集・分析・検討を通して得られた問題意識をもとに作成された、研究論文の主題をもとに、研究論文の構成を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまでの資料の収集・分析・検討を通して自らが興味を持ったテーマにつきゼミナール論文の構成を作成し、何をどのように執筆するかを理解することができる。	
	事前学修	あらかじめ収集が済んでいる資料を再度読みなおし、必要な個所をピックアップし、ノートにまとめておくこと。	120分
	事後学修	作成したゼミナール論文の構成を再度確認し、論文の組み立てや考えの流れをノートにまとめておく。	120分
15	まとめ・振り返り	これまで収集した資料を再度確認し、不足している資料を調査・収集・分析を行い、ノートにまとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、これまで収集した資料を再度確認するとともに、あらたに調査・収集の必要がある資料をリストアップし、自らが興味を持ち選定したゼミナール論文のテーマについて、大まかな論文構成と方向性を理解することができる。	
	事前学修	これまで収集した資料を再度確認し、わからない点をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	不足している資料を調査・収集・分析を行う、理解できた点をノートにまとめておく。	120分
16	第1章の執筆準備	ゼミナール論文の第1章執筆に必要な資料を準備し、第1章で執筆すべきことを整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第1章で執筆すべきことを理解し、自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の第1章を執筆するにあたり、必要となる資料をまとめておく。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の第1章を執筆するための資料のうち、重要と思われるところをノートにまとめておく。	120分
17	第1章の執筆	ゼミナール論文の第1章を執筆するにあたり、必要な資料を再度確認し、執筆をすすめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第1章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の第1章に執筆すべき問題点を理解し、文章にあらわすことができる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文第1章に執筆する内容を確認し、自らの裁量でさらに執筆を進める。	120分
18	第1章の振り返り	ゼミナール論文の第1章を執筆した原稿を読みなおし、第1章の文章を整え、問題点を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第1章で問題点として指摘すべきところを理解し、文章にあらわすことができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の第1章に執筆すべき問題点を再度確認し、文章を訂正すべき箇所を確認する。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の第1章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	第2章の執筆準備		ゼミナール論文の第2章執筆に必要な資料を準備し、第2章で執筆すべきことを整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第1章で執筆すべきことを理解し、自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の第2章を執筆するにあたり、必要となる資料をまとめておく。		120分
	事後学修	ゼミナール論文の第2章を執筆するための資料のうち、重要と思われるところをノートにまとめておく。		120分
20	第2章の執筆		ゼミナール論文の第2章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第2章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の第2章に執筆すべき問題点を理解し、文章にあらわすことができる。		120分
	事後学修	ゼミナール論文の第2章に執筆する内容を確認し、自らの裁量でさらに執筆を進める。		120分
21	第2章の振り返り		ゼミナール論文の第2章を執筆した原稿を読みなおし、第2章の文章を整え、問題点を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第2章で問題点として指摘すべきところを理解し、文章にあらわすことができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の第2章に執筆すべき問題点を再度確認し、文章を訂正すべき箇所を確認する。		120分
	事後学修	ゼミナール論文の第2章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。		120分
22	第3章の執筆準備		ゼミナール論文の第3章執筆に必要な資料を準備し、第3章で執筆すべきことを整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第3章で執筆すべきことを理解し、自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の第3章を執筆するにあたり、必要となる資料をまとめておく。		120分
	事後学修	ゼミナール論文の第3章を執筆するための資料のうち、重要と思われるところをノートにまとめておく。		120分
23	第3章の執筆		ゼミナール論文の第3章を執筆するにあたり、必要な資料を再度確認し、執筆をすすめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第3章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の第3章に執筆すべき問題点を理解し、文章にあらわすことができる。		120分
	事後学修	ゼミナール論文の第3章に執筆する内容を確認し、自らの裁量でさらに執筆を進める。		120分
24	第3章の振り返り		ゼミナール論文の第3章を執筆した原稿を読みなおし、第3章の文章を整え、問題点を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第3章で問題点として指摘すべきところを理解し、文章にあらわすことができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の第3章に執筆すべき問題点を再度確認し、文章を訂正すべき箇所を確認する。		120分
	事後学修	ゼミナール論文の第3章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	第4章の執筆準備		ゼミナール論文の第4章執筆に必要な資料を準備し、第4章で執筆すべきことを整理する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第4章で執筆すべきことを理解し、自らの意見を述べることができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の第4章を執筆するにあたり、必要となる資料をまとめておく。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の第4章を執筆するための資料のうち、重要と思われるところをノートにまとめておく。	120分
26	第4章の執筆		ゼミナール論文の第4章を執筆するにあたり、必要な資料を再度確認し、執筆をすすめる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第4章の執筆をはじめ、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の第4章に執筆すべき問題点を理解し、文章にあらわすことができる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の第4章に執筆する内容を確認し、自らの裁量でさらに執筆を進める。	120分
27	第4章の振り返り		ゼミナール論文の第4章を執筆した原稿を読みなおし、第4章の文章を整え、問題点を整理する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第4章で問題として指摘すべきところを理解し、文章にあらわすことができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の第4章に執筆すべき問題点を再度確認し、文章を訂正すべき箇所を確認する。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の第4章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。	120分
28	第5章の執筆準備・執筆		ゼミナール論文の第5章を執筆準備し、執筆し、第5章の文章の整え、問題点を整理する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ゼミナール論文の第5章の執筆準備を進め、執筆し、自らの裁量で執筆を進めることができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の第5章に執筆すべき内容を確認し、執筆する。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の第5章に執筆し、訂正した内容を再度確認し、さらに修正すべき箇所をまとめておく。	120分
29	振り返り・まとめ		作成したゼミナール論文を通読し、誤字脱字の修正、論理構成につき再度確認し、修正を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、自らゼミナール論文を批判的に検討し、修正をすることができる。	
	事前学修	作成したゼミナール論文を再度確認し、気になった点をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	作成したゼミナール論文を再度修正し、内容を再度確認する。	120分
30	ゼミナール論文提出		完成した論文を最終的に確認し、まとめて提出する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、完成した研究テーマに関して問題点を意識し、自らの考えを述べ、文章にまとめることができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の提出にあたり、誤字脱字を再度確認し、体裁を整えておく。	120分
	事後学修	提出したゼミナール論文の概要につき、別途ノートにまとめておく。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	大山 盛義	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次のゼミナールにおいて学んだ判例に関する知識を基に、各自で設定したテーマについてより学修を深め、ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働法の基礎理論を確固たるものにして、各自の興味にしたがってテーマに関する資料収集・情報整理と論文作成という過程で専門的知識を身につける。

【履修条件】
3年次、本ゼミを履修していること。

【授業方法】
グループワークを通じて研究報告をした3年次とは異なり、本年はゼミナール論文完成に向けて個人で調査研究と報告を行い、それぞれのテーマに関して全体で議論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマに従い、予め学習した上でディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学修から得られた知識に基づき、労働法に関わる現状や課題について総合的に理解し、説明することができる。					3	3	3				
②	労働問題や労働法に関する課題や問題を提示し、論理的・批判的な考察を通じて課題に対する解決策を示すことができる。					3		3	4			
③	ゼミナールを通じて様々な意見や疑問に触れることによって、協働することや多様性について考え、社会生活に生かすことができる。								3		2	
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自ら選択したテーマについて、必要な知識を獲得しこれを 分析整理した上で、プレゼンテーションができているか、 論文作成ができているかを評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなけれ ばならない。	20	20	10								50
その他(留意事項)	ゼミナールは2年間継続して履修し、成績評価は4年次後期 に行う。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表・報告に対してその都度講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	それぞれの報告テーマに合わせてその都度紹介する。				

【オフィスアワー】
月曜日3校時。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	ゼミナール論文作成に向けて準備事項の説明と、報告スケジュールの決定する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各自の報告テーマの方向性を決定する。	
	事前学修	春休み中に完成させたゼミナール論文の概要を確認する。	120分
	事後学修	各自のテーマについて必要な資料を確認する。	120分
2	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
3	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
4	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
5	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
6	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	個別テーマについての概要報告		各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。		120分
8	個別テーマについての概要報告		各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。		120分
9	個別テーマについての概要報告		各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。		120分
10	個別テーマについての概要報告		各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。		120分
11	個別テーマについての概要報告		各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。		120分
12	個別テーマについての概要報告		各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。		
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。		120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
14	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
15	個別テーマについての概要報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
16	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
17	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
18	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
20	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
21	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
22	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
23	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
24	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
26	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
27	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
28	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
29	個別テーマについての中間報告	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分
30	個別テーマについての総括	各自が設定したゼミナール論文のテーマについて概要を報告し、論文執筆についての必要な論点について議論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、専門的知識に基づきディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	報告担当者はレジュメ・資料を準備し、他のゼミ生は、指示された資料を読み込んでおくこと。	120分
	事後学修	ゼミにおいて得られた知識等が、自らのテーマとどのような関連するかを各自検討する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
行政法上で議論されている様々な問題について、自己の関心に基づいて論文執筆を行うとともに、他の受講生の動向についてもゼミナール形式で議論などを行うことによって広く行政上の問題について考察する機会を持ちたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成して貰います。また、他の受講生がテーマについても理解することによって、広く行政法上の問題について、理解をして貰いたいと考えています。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行いたいと思います。発表された内容をもとに全員で議論していきたいと思います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政法に関する基礎的概念を理解していること				3	3	3					
②	行政法に関する基礎的判例を理解していること				3	3	3					
③	現実の行政において、行政および裁判所の判断に関して批判的に見ることができ、そして、解決策を提示することができること						3	3	3			
④	論文の形式や、論文の事前報告の仕方などがある程度できるようになっていること								3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②に関して、報告に関しての質疑応答を評価していくことになります。	5	5	5								15
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④に関して、ゼミナール論文が提出されたことを前提に、その内容はもちろんのこと、形式などについて評価していくことになります。	20	20	20	25							85
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
演習のため、個別的に対応することにいたします。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	ゼミナール論文作成がメインとなり、各自で文献を入手する必要があるため、教科書・参考書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日の授業前・授業後に行います。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期オリエンテーションおよび論文作成の手引き①	ゼミナール論文作成の手引きについて、まずはテーマ設定について行っていききたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討するようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
2	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
3	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
4	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定③	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
5	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定④	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分
6	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定⑤	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ゼミナール論文作成のためのテーマ設定⑥		指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。		
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。		120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください。		120分
8	論文作成の手引き②		ゼミナール論文作成の手引きについて、資料収集について取り上げたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生がテーマを決定したことを前提に、文献の収集方法などについて確認することができるようになる。		
	事前学修	自身のテーマに関連する文献をピックアップするようにしてください。		120分
	事後学修	実際に文献を収集するようにしてください。		120分
9	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整①		指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。		
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。		120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください		120分
10	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整②		指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。		
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。		120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください		120分
11	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整③		指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。		
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。		120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください		120分
12	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整④		指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。		
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。		120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整⑤	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
14	ゼミナール論文のテーマの設定と個別の検討課題の調整⑥	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
15	前期総括	ゼミナール論文についての前期までの進捗状況を客観的に把握してもらいたいと考えています。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文についての自身の状況を客観的に把握することができるようになる。	
	事前学修	当初の状況と現在を比べてどの点が進んだのか、あるいは、成長したのかを考えるようにしてください。	120分
	事後学修	論文提出までに何を行っていく必要があるのかを検討するようにしてください。	120分
16	後期オリエンテーション及び導入講義	論文の体裁や締切などを再度確認していきたいと思います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文についての自身の状況を客観的に把握することができるようになる。	
	事前学修	論文執筆を開始する、あるいは、文献を読み込んで執筆内容を検討するようにしてください。	120分
	事後学修	論文提出までに何を行っていく必要があるのかを検討するようにしてください。	120分
17	ゼミナール論文の報告会（中間報告）①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
18	ゼミナール論文の報告会（中間報告）②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミナール論文の報告会（中間報告）③	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
20	ゼミナール論文の報告会（中間報告）④	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
21	ゼミナール論文の報告会（中間報告）⑤	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
22	ゼミナール論文の報告会（中間報告）⑥	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
23	ゼミナール論文の報告会（最終報告）①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
24	ゼミナール論文の報告会（最終報告）②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文の報告会（最終報告）③	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
26	ゼミナール論文の報告会（最終報告）④	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
27	ゼミナール論文の報告会（最終報告）⑤	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
28	ゼミナール論文の報告会（最終報告）⑥	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	授業を踏まえて、再度、検討およびリサーチをするようにしてください	120分
29	完成版のゼミナール論文の報告会①	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	最終提出に向けて準備を整えるようにしてください。	120分
30	完成版のゼミナール論文の報告会②	指名された学生によるゼミナール論文のテーマについて簡単な報告をして貰います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して行政法の知識を再確認することができ、かつ、論文執筆に必要な知識を養うことができるようになる。	
	事前学修	自身の執筆する内容を検討すると共に、他の受講生のテーマを見ることによって刺激を受けるようにしてください。	120分
	事後学修	最終提出に向けて準備を整えるようにしてください。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小田 司	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民事訴訟法に関する重要項目について研究報告及び討議を行い、その成果として、民事訴訟法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法に関する重要項目について調査、報告、討議を行うことにより、民事訴訟法についての高度な知識を身につけ、論文を作成するための能力を修得する。

【履修条件】
民事訴訟法に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
各自が選択するテーマについて報告を行い、その内容について全員で討議する。また、学修効果を高めるために、民事訴訟法に関する他大学との討論会に参加する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	全員での討議において積極的な発言を求めるほか、選択したテーマについてゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法の概念を理解し、これを用いて議論することができる。				3	3	3	3				
②	民事訴訟法の重要な論点を深く理解し、自己の意見に基づいて議論することができる。						3	3	3	3		
③	教員や他の履修者の意見を受け入れ、自己の学修状況を分析した上で、論文の執筆を進めることができる。								3	3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自選択したテーマについて行われる報告とそれに対する 討議において有益な意見を述べることをできたかを評価す る。	20	20									40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	提出されたゼミナール論文について、論理的かつ批判的な 論証が行われているかを評価する。			60								60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の報告に対して講評するほか、ゼミナール論文について執筆段階ごとに講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
使用しない。					
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの選定（1）	論文のテーマを選定するための質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	論文のテーマを選定するにあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補をいくつか挙げて、選定した理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマについてさらに検討を加える。	120分
2	論文テーマの選定（2）	論文のテーマを選定するための質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	論文のテーマを選定するにあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補をいくつか挙げて、選定した理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマについてさらに検討を加える。	120分
3	論文テーマの選定（3）	論文のテーマを選定するための質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	論文のテーマを選定するにあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補をいくつか挙げて、選定した理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマについてさらに検討を加える。	120分
4	文献の収集（1）	論文のテーマに関する文献を収集するための質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	論文のテーマに関する文献を収集するにあたり、注意事項を説明することができる。	
	事前学修	文献の収集方法について検討し、質問事項をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で確認したことを踏まえて、関連する資料を収集する。	120分
5	文献の収集（2）	論文のテーマに関する文献を収集するための質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	論文のテーマに関する文献を収集するにあたり、注意事項を説明することができる。	
	事前学修	文献の収集方法について検討し、質問事項をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で確認したことを踏まえて、関連する資料を収集する。	120分
6	文献収集（3）	論文のテーマに関する文献を収集するための質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	論文のテーマに関する文献を収集するにあたり、注意事項を説明することができる。	
	事前学修	文献の収集方法について検討し、質問事項をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で確認したことを踏まえて、関連する資料を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献の整理（1）	収集した文献を確認・整理し、不足について指示する。	
	この回の到達目標	収集した文献を確認・整理するにあたり、注意事項を説明することができる。	
	事前学修	収集した文献を確認・整理し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業で確認したことを踏まえて、必要に応じて関連する資料を収集する。	120分
8	文献の整理（2）	収集した文献を確認・整理し、不足について指示する。	
	この回の到達目標	収集した文献を確認・整理するにあたり、注意事項を説明することができる。	
	事前学修	収集した文献を確認・整理し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業で確認したことを踏まえて、必要に応じて関連する資料を収集する。	120分
9	文献の整理（3）	収集した文献を確認・整理し、不足について指示する。	
	この回の到達目標	収集した文献を確認・整理するにあたり、注意事項を説明することができる。	
	事前学修	収集した文献を確認・整理し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業で確認したことを踏まえて、必要に応じて関連する資料を収集する。	120分
10	学説の確認・整理（1）	学説を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	論文に必要な学説の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関連する学説を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	学説の確認・整理（2）	学説を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	論文に必要な学説の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関連する学説を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	学説の確認・整理（3）	学説を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	論文に必要な学説の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関連する学説を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	判例の確認・整理（1）	判例を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	論文に必要な判例の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関連する判例を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	判例の確認・整理（2）	判例を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	論文に必要な判例の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関連する判例を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	判例の確認・整理（3）	判例を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	論文に必要な判例の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関連する判例を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	前期の振り返り	前期の学修事項を振り返るとともに、論文を作成する上での注意事項等を確認する。	
	この回の到達目標	論文を作成するための前提となる注意事項を説明できる。	
	事前学修	前期を振り返る。また、論文を作成する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	課題の確認・検討（1）	課題を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関する課題を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	課題の確認・検討（2）	課題を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関する課題を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	課題の確認・検討（3）	課題を確認・検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文に関する課題を整理し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・検討を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	論文の一次報告（1）	論文の一次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
	この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
	事前学修	学説・判例の検討を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
	事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、論文に修正を加える。	120分
21	論文の一次報告（2）	論文の一次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
	この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
	事前学修	学説・判例の検討を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
	事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、論文に修正を加える。	120分
22	論文の一次報告（3）	論文の一次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
	この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
	事前学修	学説・判例の検討を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
	事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、論文に修正を加える。	120分
23	論文の二次報告（1）	論文の一次報告での講評等を踏まえて修正した論文について二次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
	この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
	事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、さらに論文を修正する。	120分
24	論文の二次報告（2）	論文の一次報告での講評等を踏まえて修正した論文について二次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
	この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
	事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、さらに論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の二次報告（3）	論文の一次報告での講評等を踏まえて修正した論文について二次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
	この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
	事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、さらに論文を修正する。	120分
26	論文の二次報告（4）	論文の一次報告での講評等を踏まえて修正した論文について二次報告を行い、報告内容について全員で討議する。	
	この回の到達目標	論文の報告内容に対する質疑応答を含めて、適切に議論することができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、報告原稿を作成する。	120分
	事後学修	授業での議論・講評を踏まえて、さらに論文を修正する。	120分
27	論文の最終調整（1）	作成した論文を検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文を完成するにあたり、適切な質疑応答をすることができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて準備する。	120分
	事後学修	授業での検討や指摘を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
28	論文の最終調整（2）	作成した論文を検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文を完成するにあたり、適切な質疑応答をすることができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて準備する。	120分
	事後学修	授業での検討や指摘を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
29	論文の最終調整（3）	作成した論文を検討し、不十分な個所について指示する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文を完成するにあたり、適切な質疑応答をすることができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて準備する。	120分
	事後学修	授業での検討や指摘を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	全体の振り返り	2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文を完成させるにあたり、適切な質疑応答をすることができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて準備を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指摘を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、論文提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小田 勇樹	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：ゼミナール論文執筆の前段階として、学術的な調査・研究の基礎技能を習得するため、個人・グループ単位での調査・研究を実践する。具体的には、先行研究の調査技能、批判的考察の技能の習得のため、学術論文やそれに準ずる資料の調査収集、分析・考察に取り組む。また、グループでの活動、討論を通じて、他者との協働活動や根拠に基づいた批判・討論の訓練を行う。
4年次：各自のゼミナール論文のテーマについて、それぞれ研究調査を進め、進捗状況の報告を行う。報告者の内容に対して、他の履修者は批判を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
4年次：ゼミナール論文を完成させることを目標とする。また、グループでの活動や討論を通じて、他者に対する理解、情報共有と業務分担などの組織活動の基本的能力、根拠に基づいた批判・討論を行う能力の向上を目的とする。

【履修条件】
事前に履修を許可された学生のみ履修可能。

【授業方法】
履修者自身による調査・分析・報告の実践が中心となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	履修者自身による主体的な資料収集・調査、その内容に関する解釈の説明・報告、グループ単位での調査・報告・討論等を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学術研究における先行研究の概念を理解し、適切な資料・文献を見つけた上で、論文として適切な形で引用・要約し、他者に対し説明・報告することができるようになる。					3	3						
②	資料・論文等に対して、学術的な観点から論理的・批判的に議論を展開することができるようになる。							3					
③	既存の研究や論説、公共的問題に対して、新しい観点から独自のリサーチクエストを設定できるようになる。								3	3			
④	自らが設定したリサーチクエストに対して、論理的に実証する方法を説明することができるようになる。								3	3			
⑤	グループ活動や研究に関する討論を通じて、他者との協働・討論、他者に対する論理的な批判を円滑かつ積極的に行うことができるようになる。										3	3	3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業内でのゼミナール論文の発表等の内容を通じて、到達目標①②③④⑤の達成水準を判断し評価する。	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	授業への参加度、事前・事後学修の状況から、到達目標①②③④⑤の達成水準を判断し評価する。	3	3	3	3	3						15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	提出されたゼミナール論文、レポート・報告資料等の課題に対して、到達目標①②③④の基準から技能・能力が身に付いているかを判断し評価する。	15	15	15	15							60
その他()												
到達目標別の比率(%)		23	23	23	23	8						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内、講義後、翌週に個別にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル	ケイト・L・トゥラビアン	慶應義塾大学出版会	2012	参考書	任意
備考	教材としていくつかの雑誌論文、学術書等を使用するが、授業内で説明・配布する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	60分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	180分
2	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
3	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
4	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
5	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
6	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
8	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
9	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
10	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
11	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
12	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
14	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
15	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
16	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
17	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
18	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
20	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
21	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
22	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
23	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
24	研究報告	各自の研究課題に関する報告・討論を行う。	
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
26	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
27	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
28	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
29	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
30	研究報告		各自の研究課題に関する報告・討論を行う。
	この回の到達目標	報告者の報告内容に対する議論・討論を通じて、到達目標①②③④⑤の水準向上をはかる。	
	事前学修	次回の報告に備え調査・報告資料の準備を行う。	120分
	事後学修	自分のゼミナール論文を改めて確認し、要旨を説明できるようにしておく。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小野寺 千世	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に学習した商法分野の基礎的知識に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを設定したうえで、当該テーマに関する裁判例および学説を考察し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学修した内容に基いて、商法学における各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な社会的問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
4年次生を対象とする。

【授業方法】
各自が決定した研究テーマについて、随時、進捗段階における報告表を行い、報告内容をもとにグループディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	研究テーマに関する主要な論点、それに関する裁判例および学説を説明することができる。				3	3						3
②	研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3	3	3	3	3
③	研究テーマについて、ゼミナール論文としてまとめることができる。				3		3	3	3			3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを、研究報告、および討論において自分の意見を述べる ことができたかを基準に評価する。	20	20									40
授業への参画度	到達目標①②についての知識・技能・態度が身についているかを、授業、グループワーク等における質疑応答等によ って評価する。	10	10									20
その他(ゼミナール 論文)	到達目標③についての知識・技能・態度が身についている かを、ゼミナール論文により評価する。			40								40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜、講義中に行う。必要がある場合には、電子メール等によって行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法判例百選第3版	岩原＝神作＝藤田編	有斐閣	2016	参考書	任意
保険法判例百選	山下＝洲崎編	有斐閣	2010	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:20～13:00 研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（9号館3階 9308号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	卒業論文のテーマ設定	卒業論文における問題意識を明確にする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明し、問題意識を明確に述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
2	テーマの確認	卒業論文におけるテーマを決定する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明し、問題意識を明確に述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
3	テーマの最終決定	卒業論文の考察順等を決定する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明し、問題意識を明確に述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
4	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
5	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
6	論文進捗報告	文献等を分析した結果を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	論文進捗報告		文献等を分析した結果を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
8	論文進捗報告		文献等を分析した結果を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
9	論文進捗報告		文献等を分析した結果を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
10	論文進捗報告		文献等を分析した結果を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
11	論文進捗報告		文献等を分析した結果を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
12	論文進捗報告		文献等を分析した結果を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	テーマに関する文献・資料を収集のうえ、それを的確に分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中間報告	文献等を分析した結果のプレゼンテーションを受け、テーマに関して議論する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は中間報告の準備をし、担当者以外は資料等に目を通し、テーマに関する検討をする。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
14	中間報告	文献等を分析した結果のプレゼンテーションを受け、テーマに関して議論する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は中間報告の準備をし、担当者以外は資料等に目を通し、テーマに関する検討をする。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
15	中間報告	文献等を分析した結果のプレゼンテーションを受け、テーマに関して議論する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は中間報告の準備をし、担当者以外は資料等に目を通し、テーマに関する検討をする。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
16	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
17	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
18	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
20	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
21	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
22	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
23	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分
24	論文進捗報告	文献・資料を分析した説明・解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を説明、考察し、当該論点について自分の意見を述べることができる。	
	事前学修	必要な文献・資料を十分に収集のうえ、それらを理解、分析する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、不明確な点等を確認し、テーマに関する理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	論文進捗報告		卒業論文における考察について最終的な確認をする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
	事前学修	卒業論文を完成させる。	120分
	事後学修	議論をふまえ、卒業論文を推敲する。	120分
26	論文進捗報告		卒業論文における考察について最終的な確認をする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
	事前学修	卒業論文を完成させる。	120分
	事後学修	議論をふまえ、卒業論文を推敲する。	120分
27	論文進捗報告		卒業論文における考察について最終的な確認をする。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
	事前学修	卒業論文を完成させる。	120分
	事後学修	議論をふまえ、卒業論文を推敲する。	120分
28	論文最終報告		テーマに関する考察結果を、簡潔に、わかりやすく報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
	事前学修	完成した卒業論文を推敲する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、完成した卒業論文を推敲する。	120分
29	論文最終報告		テーマに関する考察結果を、簡潔に、わかりやすく報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
	事前学修	完成した卒業論文を推敲する。	120分
	事後学修	議論をふまえ、完成した卒業論文を推敲する。	120分
30	論文最終報告		テーマに関する考察結果を、簡潔に、わかりやすく報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、研究テーマに関する裁判例および学説を考察し、当該テーマについて自分の意見を論文にまとめることができる。	
	事前学修	完成した卒業論文を推敲する。	120分
	事後学修	完成した卒業論文を提出する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
地方自治の現場で生起している様々な問題を取り上げて考察することで、地方自治の制度や機能に関する基本的な事項を学修すると共に、主権者として地方自治に関わっていくための問題意識を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
原則として、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を既に履修済みか現在履修していること。

【授業方法】

授業で使用する地方自治に関する論文を受講生が主体的に選び取り、報告とディスカッションを中心に据えた演習形式により行う。また折々に卒論作成の進捗状況について発表し、受講生皆で検討する。なお授業の段取り、報告、ディスカッションの手順などについては、第1回目の授業において担当教員が説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員、受講者全員によるディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治の仕組みや全体像を理解することができる。						3	3			3	3	3	3
②	地方自治で生起する諸問題について、論理的かつ批判的に考察することができる。						3		3		3	3	3	3
③	地方自治で生起する諸問題について注意深く観察し、自分の意見を述べるができる。						3			3	3	3	3	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、それらが身についているかを日ごろの授業への関わり（報告、ディスカッション）の中で評価する。	20	20	30								70
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年時と4年時の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。また4年時末には、ゼミナールの総仕上げとして「ゼミナール論文」を提出しなければならない。	10	10	10								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業時に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	演習で使う文献、論文については、授業1回目に受講生全員と相談しながら決定する。				

【オフィスアワー】
月曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス：授業内容の説明 導入講義	これからの授業概要、演習計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。		
	この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた演習の内容であること、また演習計画、成績評価の方法、そして紹介された参考文献等を理解できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、授業時に紹介した参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。		120分
	事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。		120分
2	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分
3	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分
4	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分
5	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分
6	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。		
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
8	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
9	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
10	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
11	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
12	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
14	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
15	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
16	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
17	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
18	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
20	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
21	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
22	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
23	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
24	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
26	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
27	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
28	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
29	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
30	各報告者による報告とそれに基づくディスカッション	授地方自治において生起する問題に関する論文を報告者が概略的に紹介した上で、その問題について受講生皆で検討し、解決策を探る。	
	この回の到達目標	この回の当該地方自治の問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	報告者はもとより受講者全員、事前に該当論文をよく読み込んで学習しておく。わからない用語、文脈については、あらかじめ調べて疑問を解消しておく。それでも分からない点は報告者に質問する。また参考文献やウェブサイト、テレビや新聞などで、当該論文に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業で配られたレジュメや資料、書き取った講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書に当たり疑問を解消する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	加藤 暁子	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：知的財産法に関する基礎知識及び現代の諸問題について、グループ活動を含めて学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：知的財産法に関する基礎知識及び現代の諸問題について学習し、各自の興味・関心に沿った研究テーマを追求できるようになる。知的財産管理技能検定3級の取得を目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し、知的財産法に関する現代の諸問題への理解を深め、制度のあり方について自分自身の見解を論理的に提示できるようになる。また、より一般的に、自身の問題関心を、学問的意義で裏付け、他者の力も借りつつ検討し、解決策を見いだす手法を会得する。 関連DP及びCP：法律・経営法学科1，7，8 政治経済・新聞・公共政策学科1～8

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：基本的なテキスト及び時事問題について履修者が担当の発表を行い、その内容についてグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。適宜、外部施設見学を行う。また、履修者の希望に応じて、集団で統一テーマについて対外インタビュー等も実施しながら研究し、対外的に発表を行う。知的財産管理技能検定3級の取得に向けてサブゼミ等を実施する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて文献やインタビュー等を通じて得られた知見を随時発表し、ディスカッション及び教員による解説を行う。ゼミナール論文を作成する段階では、サブゼミ等においてゼミ生や教員との間で議論しながら進める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	基本的に少人数の討論やグループワークの形式で、学生及び教員の間で双方向のコミュニケーションをとりながら進める。見学、訪問も、問題関心に応じた見学、訪問先の選定や連絡調整、訪問、事後対応を含めて、ゼミ生主導で進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	知的財産に関わる制度がどのような目的を有しているか、私益と公益のババランスの重要性を含めて、具体的に説明する。						3	3	3	3	3	3	3
②	知的財産法制度の概要について、具体例を交えながらわかりやすく説明する。						3	3	3	3	3	3	3
③	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を挙げる。						3	3	3	3	3	3	3
④	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、個人又はゼミ生の協調を通じて探求する。						3	3	3	3	3	3	3
⑤	知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、より現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例を、より一般的な法制度上の課題として位置づけて説明する。						3	3	3	3	3	3	3
⑥	現在、知的財産法制度に関して解決が求められている具体的な事例について、個別的に、及び、一般的な法制度上の課題として、解決策を検討する。						3	3	3	3	3	3	3
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等	ゼミ内外における議論及び対外発表への関与において評価する。	5	5	5	5	5	5					30	
授業への参画度	ゼミ内外における議論及び対外発表への関与において評価する。	5	5	5	5	5	5					30	
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。 ゼミナール論文は、テーマ設定から調査研究過程、完成した論文の水準等を総合的に評価する。	5	5	5	5	10	10					40	
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)											
		15	15	15	15	20	20					100	

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ活動を通じて随時行う。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
				</		

【オフィスアワー】	
水曜15時～16時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	知的財産に関するシンクタンク勤務時における国内外の調査研究を含む制度改正準備作業
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	ゼミ活動の目的と大まかな流れを確認し、ゼミ生と教員の間で今後の活動計画を立てる。	
	この回の到達目標	ゼミ活動の目的と大まかな流れを確認し、ゼミ生と教員の間で今後の活動計画を立てることができる。	
	事前学修	ゼミ活動について、情報を収集して、イメージをふくらませておく。	120分
	事後学修	立案した計画に基づき、準備を進める。	120分
2	知的財産法制度の基礎学習①	時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
3	知的財産法制度の基礎学習②	時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
4	知的財産法制度の基礎学習③	時事問題について、輪読・内容要約の発表と、それを受けたグループディスカッションを行い、教員の解説を聴講する。	
	この回の到達目標	時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
5	卒論テーマに関する学習①(可能であれば、3年生と併せて外部施設見学)	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
	この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を認識する。	
	事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
6	卒論テーマに関する学習②	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	卒論テーマに関する学習③	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
8	卒論テーマに関する学習④	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
9	卒論テーマに関する学習⑤	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
10	外部施設見学(3年生ゼミと併せて)	知的財産関連施設を見学し、知的財産法制度と対象施設の役割を理解する。	
	この回の到達目標	知的財産の法制度の概要と当該施設の役割について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	見学対象施設について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	見学を通じて得られた理解についてさらに調べを進める。	210分
11	卒論テーマに関する学習⑥	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
12	卒論テーマに関する学習⑦	各自の卒論テーマに関する基礎知識について共有し、課題を検討する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卒論テーマに関する中間報告①	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題を検討する。	
	この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題について把握する。	
	事前学修	中間報告を準備し、課題を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
14	卒論テーマに関する中間報告②	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題を検討する。	
	この回の到達目標	基本テキストの該当箇所及び時事問題の概要について、具体的な事例を踏まえて内容を説明することができる。	
	事前学修	卒論テーマに関する基礎知識について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
15	前学期の学習のまとめと今後の活動の立案	各自の卒論テーマについて知的財産制度の基礎学習について理解をまとめ、夏休み以降のゼミ活動を検討する。	
	この回の到達目標	知的財産制度の基礎学習について理解をまとめ、夏休み以降のゼミ活動について見通しを持つ。	
	事前学修	前学期の卒論テーマに関する学習を通じた疑問点や課題を洗い出し、ゼミ活動に関する意見をまとめておく。	120分
	事後学修	疑問点や課題の解消を確認し、今後のゼミ活動について必要な準備を進める。	120分
16	後学期の学習の準備	後学期のゼミ活動についてイメージを出し合い、計画を立案する。	
	この回の到達目標	後学期のゼミ活動について皆のイメージを実現し得るような計画を立案する。	
	事前学修	後学期のゼミ活動についてイメージとその裏付けを膨らませておく。	120分
	事後学修	後学期のゼミ活動の計画に基づいて準備を始める。	120分
17	卒論テーマに関する学習⑧	計画に基づき、各自、調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
18	卒論テーマに関する学習⑨	計画に基づき、各自、調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	卒論テーマに関する学習⑩	計画に基づき、各自、調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
20	卒論テーマに関する学習⑪	計画に基づき、各自、調査研究を進める。	
	この回の到達目標	調査研究対象テーマについて理解を深める。	
	事前学修	検討対象について調べ、疑問点や論点を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
21	卒論テーマに関する中間報告2①	各自の卒論テーマに関する2回目の中間報告を行い、今後の課題を検討する。	
	この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題について把握する。執筆の準備を始める。	
	事前学修	中間報告を準備し、課題を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
22	卒論テーマに関する中間報告2②	各自の卒論テーマに関する2回目の中間報告を行い、今後の課題を検討する。	
	この回の到達目標	各自の卒論テーマに関する中間報告を行い、今後の課題について把握する。執筆の準備を始める。	
	事前学修	中間報告を準備し、課題を挙げておく。	120分
	事後学修	議論や聴講を通じて得た理解についてさらに調べを進める。	120分
23	卒論執筆①	卒論の執筆を開始する。	
	この回の到達目標	卒論の執筆を開始する。	
	事前学修	卒論の執筆を開始する準備を進める。	120分
	事後学修	卒論の執筆を開始する。	120分
24	卒論執筆②	卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。	
	この回の到達目標	卒論を執筆する。	
	事前学修	卒論を執筆する。	120分
	事後学修	卒論を執筆する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	卒論執筆③		卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。
	この回の到達目標	卒論を執筆する。	
	事前学修	卒論を執筆する。	120分
	事後学修	卒論を執筆する。	120分
26	卒論執筆④		卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。
	この回の到達目標	卒論を執筆する。	
	事前学修	卒論を執筆する。	120分
	事後学修	卒論を執筆する。	120分
27	卒論執筆⑤		卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。
	この回の到達目標	卒論を執筆する。	
	事前学修	卒論を執筆する。	120分
	事後学修	卒論を執筆する。	120分
28	卒論執筆⑥		卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。
	この回の到達目標	卒論を執筆する。	
	事前学修	卒論を執筆する。	120分
	事後学修	卒論を執筆する。	120分
29	卒論執筆⑦ 提出に向けた課題の整理		卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。
	この回の到達目標	卒論を執筆する。 提出に向けた課題を把握する。	
	事前学修	卒論を執筆する。 執筆上の課題を整理しておく。	120分
	事後学修	ゼミにおける検討結果を踏まえて、準備を進める。	120分
30	卒論執筆⑧ 提出に向けた課題の整理		卒論を執筆する。 課題について適宜、ゼミ生、教員と共有し、解決策を検討する。 これまでのゼミ活動を総括し、今後の活動について見通しを検討する。
	この回の到達目標	卒論を執筆する。 提出に向けた課題を把握する。 これまでのゼミ活動を総括し、今後の活動について見通しを得る。	
	事前学修	卒論を執筆する。 執筆上の課題を整理しておく。	120分
	事後学修	卒論の完成に向けて、執筆する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
知的財産法における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
知的財産法における現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の基本構成を作成できるようになることを目的とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
順番にしたがって、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基本的な法律の解釈について説明することができる。											
②	基本的な法律に関する判例について説明することができる。											
③	基本的な法律に関する事例について説明することができる。											
④	基本的な法律に関する諸問題について説明することができる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の担当箇所についての的確な発表を行ったか。発表された内容をもとに積極的にグループディスカッションを行ったか。	10	10	15	15							50
授業への参画度	授業に積極的に参画し、的確な発言を行ったか。	10	10	15	15							50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜 5 限、加藤浩研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	ゼミナール（2年目）における学習内容について説明します。	
	この回の到達目標	ゼミナールにおける学習内容を理解すること。	
	事前学修	ゼミナールにおける学習内容について考えてきてください。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける学習内容について整理しておいてください。	120分
2	時事問題の基礎Ⅰ	時事問題に関する研究の基本的な方法について整理します。	
	この回の到達目標	時事問題に関する研究の基本的な方法を理解すること。	
	事前学修	時事問題に関する研究の基本的な方法について考えてきてください。	120分
	事後学修	時事問題に関する研究の基本的な方法について整理しておいてください。	120分
3	時事問題の基礎Ⅱ	時事問題に関する研究の具体的な方法について整理します。	
	この回の到達目標	時事問題に関する研究の具体的な方法について整理すること。	
	事前学修	時事問題に関する研究の具体的な方法について考えてきてください	120分
	事後学修	時事問題に関する研究の具体的な方法について整理しておいてください。	120分
4	時事問題・討論（特許法）	特許法に関する時事問題について論点を整理します。	
	この回の到達目標	特許法に関する時事問題について論点を整理すること。	
	事前学修	特許法に関する判例について読んできてください。	120分
	事後学修	特許法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	120分
5	時事問題・討論（意匠法）	意匠法に関する時事問題について論点を整理します。	
	この回の到達目標	意匠法に関する時事問題について論点を整理すること。	
	事前学修	意匠法に関する時事問題について読んできてください。	120分
	事後学修	意匠法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	120分
6	時事問題・討論（商標法）	商標法に関する時事問題についてに論点を整理します。	
	この回の到達目標	商標法に関する時事問題について論点を整理すること。	
	事前学修	商標法に関する時事問題について読んできてください。	120分
	事後学修	商標法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	時事問題・討論（不正競争防止法）	不正競争防止法に関する時事問題について論点を整理します。	
	この回の到達目標	不正競争防止法に関する時事問題について論点を整理すること。	
	事前学修	不正競争防止法に関する時事問題について読んでください。	120分
	事後学修	不正競争防止法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	120分
8	時事問題・討論（著作権法）	著作権法に関する時事問題について整理します。	
	この回の到達目標	著作権法に関する時事問題について論点を整理すること。	
	事前学修	著作権法に関する時事問題について読んでください。	120分
	事後学修	著作権法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	120分
9	時事問題・討論（契約法）	契約法に関する時事問題について論点を整理します。	
	この回の到達目標	契約法に関する時事問題について論点を整理すること。	
	事前学修	契約法に関する時事問題について読んでください。	120分
	事後学修	契約法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	120分
10	時事問題・討論（国際法）	国際法に関する時事問題について論点を整理する。	
	この回の到達目標	国際法に関する時事問題について論点を整理すること。	
	事前学修	国際法に関する時事問題について読んでください。	120分
	事後学修	国際法に関する時事問題について論点を整理しておいてください。	120分
11	企業研究・発表（企業A）	企業Aについて、企業研究を行い、発表を行います。	
	この回の到達目標	企業Aについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
	事前学修	企業Aについて調べてください。	120分
	事後学修	企業Aの企業法務について整理しておいてください。	120分
12	企業研究・発表（企業B）	企業Bについて、企業研究を行い、発表を行います。	
	この回の到達目標	企業Bについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
	事前学修	企業Bについて調べてください。	120分
	事後学修	企業Bの企業法務について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	企業研究・発表（企業C）	企業Cについて、企業研究を行い、発表を行います。	
	この回の到達目標	企業Cについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
	事前学修	企業Bについて調べてきてください。	120分
	事後学修	企業Cの企業法務について整理しておいてください。	120分
14	企業研究・発表（企業D）	企業Dについて、企業研究を行い、発表を行います。	
	この回の到達目標	企業Dについて企業研究を行い、企業の法務について理解すること。	
	事前学修	企業Dについて調べてきてください。	120分
	事後学修	企業Dの企業法務について整理しておいてください。	120分
15	総括（まとめ）	前期の総括を行います。	
	この回の到達目標	これまでの時事問題、企業研究について整理すること。	
	事前学修	これまでの時事問題、企業研究について考えてきて下さい。	120分
	事後学修	これまでの時事問題、企業研究について整理しておいてください。	120分
16	事例研究の基礎Ⅰ	事例研究の基本的な手法について説明します。	
	この回の到達目標	事例研究の基本的な手法について理解すること。	
	事前学修	事例研究の基本的な手法について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例研究の基本的な手法について整理しておいてください。	120分
17	事例研究の基礎Ⅱ	事例研究の具体的な手法について説明します。	
	この回の到達目標	事例研究の具体的な手法について理解すること。	
	事前学修	事例研究の具体的な手法について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例研究の具体的な手法について整理しておいてください。	120分
18	研究発表（特許法）	特許法に関する研究発表について論点を整理します。	
	この回の到達目標	特許法に関する研究発表について論点を整理すること。	
	事前学修	特許法に関する研究発表について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究発表（意匠法）	意匠法に関する研究発表について論点を整理します。	
	この回の到達目標	意匠法に関する研究発表について論点を整理すること。	
	事前学修	意匠法に関する研究発表について考えてきてください。	120分
	事後学修	意匠法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	120分
20	研究発表（商標法）	商標法に関する研究発表について論点を整理します。	
	この回の到達目標	商標法に関する研究発表について論点を整理すること。	
	事前学修	商標法に関する研究発表について考えてきてください。	120分
	事後学修	商標法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	120分
21	研究発表（不正競争防止法）	不正競争防止法に関する研究発表について論点を整理します。	
	この回の到達目標	不正競争防止法に関する研究発表について論点を整理すること。	
	事前学修	不正競争防止法に関する研究発表について考えてきてください。	120分
	事後学修	不正競争防止法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	120分
22	研究発表（著作権法）	著作権法に関する研究発表について論点を整理します。	
	この回の到達目標	著作権法に関する研究発表について論点を整理すること。	
	事前学修	著作権法に関する研究発表について考えてきてください。	120分
	事後学修	著作権法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	120分
23	研究発表（契約法）	契約法に関する研究発表について論点を整理します。	
	この回の到達目標	契約法に関する研究発表について論点を整理すること。	
	事前学修	契約法に関する研究発表について考えてきてください。	120分
	事後学修	契約法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	120分
24	研究発表（国際法）	国際法に関する研究発表について論点を整理します。	
	この回の到達目標	国際法に関する研究発表について論点を整理すること。	
	事前学修	国際法に関する研究発表について考えてきてください。	120分
	事後学修	国際法に関する研究発表について論点を整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	卒業論文の作成（基本的な考え方）	卒業論文の作成（基本的な考え方）について説明します。	
	この回の到達目標	卒業論文の作成（基本的な考え方）について理解すること。	
	事前学修	卒業論文の作成（基本的な考え方）について考えてきてください。	120分
	事後学修	卒業論文の作成（基本的な考え方）について整理しておいてください。	120分
26	卒業論文の作成（テーマ選定）	卒業論文の作成（テーマ選定）を行います。	
	この回の到達目標	卒業論文の作成（テーマ選定）について理解すること。	
	事前学修	卒業論文の作成（テーマ選定）について考えてきてください。	120分
	事後学修	卒業論文の作成（テーマ選定）について整理しておいてください。	120分
27	卒業論文の作成（事例の調査）	卒業論文の作成（事例の調査）を行います。	
	この回の到達目標	卒業論文の作成（事例の調査）について理解すること。	
	事前学修	卒業論文の作成（事例の調査）について考えてきてください。	120分
	事後学修	卒業論文の作成（事例の調査）について整理しておいてください。	120分
28	卒業論文の作成（情報の整理）	卒業論文の作成（情報の整理）を行います。	
	この回の到達目標	卒業論文の作成（情報の整理）について理解すること。	
	事前学修	卒業論文の作成（情報の整理）について考えてきてください。	90分
	事後学修	卒業論文の作成（情報の整理）について整理しておいてください。	90分
29	卒業論文の作成（仕上げ）	卒業論文の作成（仕上げ）を行います。	
	この回の到達目標	卒業論文の作成（仕上げ）について理解すること。	
	事前学修	卒業論文の作成（仕上げ）について考えてきてください。	90分
	事後学修	卒業論文の作成（仕上げ）について整理しておいてください。	90分
30	総括（まとめ）	後期の総括を行います。	
	この回の到達目標	これまでの研究発表、卒業論文の作成について整理すること。	
	事前学修	これまでの研究発表、卒業論文の作成について考えてきてください。	90分
	事後学修	これまでの研究発表、卒業論文の作成について整理しておいてください。	90分

科目名	ゼミナール4年	担当者	加藤 雅之	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法に関する事例問題に関する議論を通じて、民法学に対する理解を深める。 4年次：各自で設定する研究テーマについて卒業論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法に関する基本的知識を確認するとともに、既存の判例および学説を批判的に検討することにより、新たな知見を得ることを目的とする。

【履修条件】
2年次までに配当の民法に関する講義を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】
ゼミナールは、議論または報告など学生の主体的参加によって行われる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークが考えられる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する理解を整理し、既存の見解を批判的に検討することができる。				4	4	4	4				
②	説得的な理論的根拠に基づく自説を展開することができる。						4	4	4	4		
③	他者との意見交換を通じて、他者の見解を理解し、自身の考えを相対化することができる。								4	4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標に照らして、ゼミナールにおける討論・発表を総合的に評価する。	15	15	15								45
授業への参画度	到達目標に照らして、報告準備、議論への参加等を総合的に評価する。	10	10	10								30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の内容が到達目標に達しているかを評価する。	5	10	10								25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のゼミナールにおいて、参加者の報告や発言に対して、担当者からコメントを加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日16:20~17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの概要および到達目標について確認する。ゼミナール論文（卒業論文）作成の計画を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ゼミナール論文のテーマとなりうる民法上の問題をいくつか挙げることができる。	
	事前学修	現代社会における民法上の問題点を調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を通じて、いかなる問題を検討すべきかを整理する。	120分
2	論文作成の準備（1）	ゼミナール論文作成の手順を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法学に関する学術論文の執筆に際して必要な事項を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文のテーマに関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	論文執筆に際して、必要な事項を自身のテーマとの関係で確認する。	120分
3	論文作成の準備（2）	ゼミナール論文作成の手順を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法学に関する学術論文の執筆に際して必要な事項を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文のテーマに関する資料を収集・検討し、自説を準備する。	120分
	事後学修	論文執筆に際して、必要な事項を自身のテーマとの関係で確認する。	120分
4	資料収集について	論文を作成するにあたり必要になる資料の収集方法について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学術論文の執筆に際して必要な資料を的確に収集する方法を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆にあたり、必要と思われる文献のリストを準備する。	120分
	事後学修	作成したリストに修正すべき点があれば修正し、必要な文献等を追加する。	120分
5	ゼミナール論文テーマと文献リストの確認	ゼミナール論文のテーマとそれに対応した文献リストを作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の執筆にあたり必要な文献リストをいったん完成させる。	
	事前学修	文献リストを確認し、ゼミナール論文のテーマに必要なものであるかを再確認する。	120分
	事後学修	完成した文献リストに基づき文献（資料）の収集を開始し、資料の読み込みを開始する。	120分
6	文献の読み込み（1）	ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。	
	事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	文献の読み込み（2）		ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。		
	事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
8	文献の読み込み（3）		ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。		
	事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
9	文献の読み込み（4）		ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。		
	事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
10	文献の読み込み（5）		ゼミナール論文執筆のために必要な資料を読み、問題点があれば議論し、確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文執筆のために収集した資料を読み、自身のテーマとの関係でポイントを説明することができる。		
	事前学修	収集した文献を読み、ポイントを整理する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。		120分
11	ゼミナール論文概要報告（1）		ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。		120分
12	ゼミナール論文概要報告（2）		ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。		120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	ゼミナール論文概要報告（3）		ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。	120分
14	ゼミナール論文概要報告（4）		ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。	120分
15	ゼミナール論文概要報告（5）		ゼミナール論文のテーマの概要を報告し、議論を通じて理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の概要を説明し、他の参加者からの質問に対して論理的に解答することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の概要を報告するために必要な資料を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆に際してさらに検討すべき点や修正すべき点を確認する。	120分
16	ゼミナール論文進捗度確認		各自の論文進捗状況を確認し、論文完成に向けて必要な情報を整理する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、自身のゼミナール論文の進捗状況と今後の課題について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の進捗状況を報告するために必要な資料を準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、論文執筆の際に考慮すべき点を整理する。	120分
17	中間報告（1）		ゼミナール論文の中間報告を行う（2名程度）。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
	事前学修	中間報告の準備。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
18	中間報告（2）		ゼミナール論文の中間報告を行う（2名程度）。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明できるとともに、議論に適切に対応することができる。	
	事前学修	中間報告の準備。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	中間報告（３）	ゼミナール論文の中間報告を行う（２名程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明することができるとともに、議論に適切に対応することができる。	
	事前学修	中間報告の準備。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
20	中間報告（４）	ゼミナール論文の中間報告を行う（２名程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明することができるとともに、議論に適切に対応することができる。	
	事前学修	中間報告の準備。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
21	中間報告（５）	ゼミナール論文の中間報告を行う（２名程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明することができるとともに、議論に適切に対応することができる。	
	事前学修	中間報告の準備。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
22	中間報告（６）	ゼミナール論文の中間報告を行う（２名程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明することができるとともに、議論に適切に対応することができる。	
	事前学修	中間報告の準備。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
23	中間報告（７）	ゼミナール論文の中間報告を行う（２名程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容および自説を説明することができるとともに、議論に適切に対応することができる。	
	事前学修	中間報告の準備。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文の執筆に反映させる。	120分
24	民法研究（１）	ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
	事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	民法研究（２）		ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
	事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分
26	民法研究（３）		ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
	事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分
27	民法研究（４）		ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
	事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分
28	民法研究（５）		ゼミナール論文のテーマに関連する社会的問題や最新判例を民法学の観点から考察する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現代的問題を民法学の観点から説明することができる。	
	事前学修	現代の社会で生じている問題について重要と思われるものについて調べておく。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、ゼミナール論文に生かせるものがないか整理する。	120分
29	ゼミナール論文の最終確認		ゼミナール論文の内容を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文の内容を明快に説明することができる。	
	事前学修	執筆したゼミナール論文の内容を簡潔に報告できるよう準備する。	120分
	事後学修	ゼミで得た指摘を受けて、提出するゼミナール論文に反映させる。	120分
30	総括		各自のゼミナール論文の内容を相互に確認し、ゼミナール活動で得た知見を確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法学における新たな問題を提示し、それに対する自分なりの解答を論理的に説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容と関連する社会的問題を説明できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミナールにおける議論を振り返り、議論のポイントとなる点を確認・整理する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3 年次に学修した内容に基づいて，担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿やフィールドワークを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3				
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。						3			3	3		
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。										3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							3	3	3	3	3	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10										10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。			10	20							30
授業への参画度	出席、発言状況、各種行事・調査準備への参画状況等を評価する。		20	10								30
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。				30							30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各種発表・レポートに対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日 12：10-13：00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省、内閣官房等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政の現場においてNPO等と協力して政策立案に携わってきた経験などを踏まえて適宜講義素材を提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	文献の収集①	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
2	文献の収集②	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
3	文献の収集③	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	文献の確認・整理①	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理につき、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	文献の確認・整理②	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理につき、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	文献の確認・整理③	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理につき、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献の確認・整理④	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理につき、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	学説等の確認・検討①	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
9	学説等の確認・検討②	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討③	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討④	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討①	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題の確認・検討②	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	課題の確認・検討③	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	課題の確認・検討④	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
16	ゼミナール論文の第2次発表①	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	ゼミナール論文の第2次発表②	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	ゼミナール論文の第2次発表③	ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	ゼミナール論文の第2次発表④		ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	ゼミナール論文の第2次発表⑤		ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	ゼミナール論文の第2次発表⑥		ゼミナール論文につき担当者が第2次報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	ゼミナール論文の最終発表①		第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
23	ゼミナール論文の最終発表②		第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
24	ゼミナール論文の最終発表③		第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文の最終発表④	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
26	ゼミナール論文の最終発表⑤	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
27	ゼミナール論文の最終発表⑥	第2次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が最終報告を行い、他の履修者を交えた質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえてゼミナール論文の最終版を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正し、完成に近づける。	120分
28	論文提出に向けた最終調整①	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これをゼミナール論文を反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分
29	論文提出に向けた最終調整②	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これをゼミナール論文を反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分
30	論文提出に向けた最終調整③、全体の振り返り	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これをゼミナール論文を反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	河合 利修	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年生で学んだ知識をふまえて、国際法に関する知識を進化させ、論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際法に関する知識を身に着け、そして深化させる。そのために、各自の学習意欲の向上はもちろんのこと、グループワークをとおして、ゼミとしての一体感を養いつつ、国際法に関する問題意識と知識を深める。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
対面・ゼミ形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際法に関する基本的知識を得る。				3	3						
②	国際法に関する知識を深化させる。						3					
③	ゼミ生各自が国際法についての問題意識をもちながら、国際法を学習する。							4				
④	グループワークをとおして、ゼミとしての一体感を養う。								4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークを適切に行う。				20							20
授業への参画度	国際法に関する知識を得、深化させる。	10	10									20
その他(論文)	論文を作成、提出する。			60								60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】	
各回のゼミにおいて個別に行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
月曜日16時20分～17時50分研究室にて（事前にメールでアポイントメントを取ること：メールアドレスkawai.toshinobu@nihon-u.ac.jp）	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミ概要及び導入講義	ゼミの概要について説明する。	
	この回の到達目標	ゼミの概要を把握する。	
	事前学修	3年生で得た知識を復習する。	120分
	事後学修	論文作成について考える。	120分
2	個別学習①	論文作成準備①	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
3	個別学習②	論文作成準備②	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
4	個別学習③	論文作成準備③	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
5	個別学習④	論文作成準備④	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
6	個別学習⑤	論文作成準備⑤	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	個別学習⑥	論文作成準備⑥	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
8	個別学習⑦	論文作成準備⑦	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
9	個別学⑧	論文作成準備⑧	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
10	個別学習⑨	論文作成準備⑨	
	この回の到達目標	論文作成の準備をする。	
	事前学修	各自、論文作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミで得た知識等を振り返り、修得する。	120分
11	論文作成①	論文作成作業①	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
12	論文作成②	論文作成作業②	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	論文作成③	論文作成作業③	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
14	論文作成④	論文作成作業④	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
15	論文作成⑤	論文作成作業⑤	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
16	論文作成⑥	論文作成作業⑥	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
17	論文作成⑦	論文作成作業⑦	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
18	論文作成⑧	論文作成作業⑧	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文作成⑨	論文作成作業⑨	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
20	論文作成⑩	論文作成作業⑩	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
21	論文作成⑪	論文作成作業⑪	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
22	論文作成⑫	論文作成作業⑫	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
23	論文作成⑬	論文作成作業⑬	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
24	論文作成⑭	論文作成作業⑭	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文作成⑮	論文作成作業⑮	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
26	論文作成⑯	論文作成作業⑯	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
27	論文作成⑰	論文作成作業⑰	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
28	論文作成⑱	論文作成作業⑱	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
29	論文作成⑲	論文作成作業⑲	
	この回の到達目標	論文を作成する。	
	事前学修	各自、論文を作成する。	120分
	事後学修	教員からのコメント、フィードバックを基に論文を修正する。	120分
30	まとめ	一年で学んだことのまとめ	
	この回の到達目標	学んだことのまとめを行う。	
	事前学修	学んだことを確認する。	120分
	事後学修	2年間のゼミを振り返る。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
個人研究を主体とし、自分の興味ある経済・財政分野の文献を読み、日本が抱える諸問題の解決方法を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自分が読んだ経済・財政分野の文献を、「序論・本論・結論」の論述構成に還元した上で、それに対する自分の評価を下すことができるようにする。 個人研究だけではなく、法桜祭フォーラム発表を予定しており、グループ研究の重要性を理解する。

【履修条件】
経済学、財政学、マクロ経済学、ミクロ経済学の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
ゼミ生の報告、その後の質疑応答を中心に進める。報告はパワーポイントを利用する。必要に応じて施設見学、合宿を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎週、ゼミ生の報告と質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済・財政に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				4							
②	経済・財政における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					4			4	4	4	4
③	経済・財政の課題を発見し、みずからの解決策を提示することができる。				4		4	4	4	4		4
④	経済・財政の思想史的背景を説明することができる。				4							4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告の内容を到達目標に応じて評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	報告への質疑応答の参加度を評価する。	5	5	5	5							20
その他(ゼミナール 論文)	ゼミ論の内容を評価する。	10	10	10	10							40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ生の報告後、講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミ論のテーマ票を確認する。	
	この回の到達目標	論文作成の技法を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
2	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
3	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
4	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
5	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
6	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
8	施設見学	施設見学	
	この回の到達目標	公的施設を見学し、経済・財政の現状を理解できるようにする。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
9	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
10	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
11	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
12	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
14	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
15	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
16	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
17	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
18	個人発表	個人発表	
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
20	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
21	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
22	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
23	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
24	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
26	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
27	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
28	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
29	個人発表		個人発表
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
30	まとめ		ゼミ論を完成する。
	この回の到達目標	論文作成の技法と質疑応答の重要性を理解する。	
	事前学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分
	事後学修	自分の興味ある経済・財政分野の文献を講読する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	木川 裕	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
I C T社会における諸問題や経営情報システム、I C Tの利用等に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
I C T社会における諸問題や経営情報システム、I C Tの利用等に関する論文を完成させるために、自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿やフィールドワーク、学会への参加、当該専門領域に関する他のゼミナールとの合同勉強会など、担当教員各自の趣向により、学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3		
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3		
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3	3	3	3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	3	3		3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。各自の研究課題に沿った内容の文献を必要に応じ紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:15-12:55 研究室（本館6階1601研究室） ※事前にメール（kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約をすること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	論文テーマの確定(1)		選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。		
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し、ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。		120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて、具体的なスケジュールを立てる。		120分
2	論文テーマの確定(2)		選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
3	文献の収集(1)		確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
4	文献の収集(2)		確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
5	文献の収集(3)		確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
6	研究調査内容検討(1)		確定した論文のテーマに関する調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。		
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	研究調査内容検討(2)	確定した論文のテーマに関する調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
8	研究調査内容検討(3)	確定した論文のテーマに関する調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
9	アンケート作成(1)	アンケート調査にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
10	アンケート作成(2)	アンケート調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
11	アンケート作成(3)	アンケート調査にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
12	アンケート実施(1)	アンケート実施にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アンケート実施(2)	アンケート実施にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	あらかじめ開示された設問について検討し、解答を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
14	アンケート集計(1)	アンケート集計にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
15	夏期休暇中の課題の確認 振り返り	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文に取り組むための前提事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、研究課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。	
	事前学修	前期の学修事項を振り返る。また、研究課題を作成し報告を準備する上で生じた疑問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
17	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
18	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
20	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
22	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
23	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
24	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文執筆作業の下地となり得る研究課題につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、研究テーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、論文のテーマを選定するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文のテーマを選定する上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	窪田 悠一	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
受講生が自ら設定したテーマに基づく個人研究を行い、その成果を論文としてまとめるとともに、学内外で研究発表を行う。担当教員の主な研究関心は、内戦やテロリズム等を含む政治暴力および途上国の政治経済などであるが、受講生の研究テーマは比較政治学や国際関係論で扱うものであれば、相談のもと自由に選定できるものとする。その際、研究方法としては質的、計量的アプローチのいずれ（あるいは両方）に依拠するものであっても構わない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
研究論文は日本語もしくは英語で執筆するものとする（担当教員が実質的に指導できる言語がこれらに限られるため）。各論文は実証研究のスタイルに則っていることが求められる。例えば、的確な歴史資料や統計データを用いながら、政治・経済・社会現象に関する因果関係の解明を（社会）科学的な方法論に基づいて厳密に行うことが要求される。これらとともに、明確なりサーチクエスチョンや検証可能な仮説といった論文の重要な構成要素を踏まえておく必要がある。

【履修条件】
ゼミナール3年（窪田）を履修していること。

【授業方法】		
学期中はすべての受講生が参加する演習を毎週一回ずつ行う。夏季休暇中の演習に関しては、必要に応じて実施を検討する。演習では各自が設定した研究テーマに基づき、先行研究のまとめと批判、理論および仮説の構築、資料やデータの収集と分析などの作業を行い、それらに関する進捗の報告と履修者全員による議論を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。					4							
②	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリズムなどの仕組みと、それが直面している問題の解決策を提案することができる。						4						
③	社会科学などの基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。							4					
④	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。								4				
⑤	法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。									4			
⑥	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝え、ときに強い影響を与えることができる。										4		
⑦	社会・共同体のさまざまな活動において、よりよい成果を上げるために、お互いを尊重し、自ら進んで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。											4	
⑧	他者による評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。												4
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ゼミナール論文		10	20	20							50
討論・発表等	リーディング資料、文献・研究動向・研究計画の紹介に関する口頭発表						10	10				20
授業への参画度	(出席を前提とした) 授業への貢献度	10				10			10			30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に示す。				

【オフィスアワー】
月曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション（授業の内容・進め方）	授業の内容、目的、進め方、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスに目を通し、授業で求められることを確認する。	120分
	事後学修	授業で説明された内容を確認し、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば担当教員に確認する。	120分
2	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
3	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
4	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
5	研究動向の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれのテーマに関連する研究動向（先行研究レビュー）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する文献を複数選定し、その特徴や重要性を整理・理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
6	研究計画の紹介（受講生による発表）	受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスション、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	研究計画の紹介（受講生による発表		受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
8	研究計画の紹介（受講生による発表		受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
9	研究計画の紹介（受講生による発表		受講生それぞれの研究計画（リサーチ・クエスチョン、研究の意義、先行研究レビュー、方法などを含む）を紹介し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆に向けた研究計画を整理し、説明する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
10	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
11	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
12	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	研究論文の執筆と進捗の報告)		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
14	研究中間発表		受講生それぞれの研究論文に関する中間報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文の執筆の途中経過と課題を説明する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
15	研究中間発表		受講生それぞれの研究論文に関する中間報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文の執筆の途中経過と課題を説明する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
16	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
17	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分
18	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。		
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。		120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
20	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
21	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
22	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
23	研究論文の執筆と進捗の報告)		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
24	研究論文の執筆と進捗の報告		受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究論文の執筆と進捗の報告	受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
26	研究論文の執筆と進捗の報告	受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
27	研究論文の執筆と進捗の報告	受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
28	研究論文の執筆と進捗の報告	受講生それぞれが研究論文の執筆に取り組むとともに進捗の報告を行い、それについて議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文執筆の進捗を説明し、今後の課題について理解する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
29	研究発表	受講生それぞれの研究論文について報告し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文で得られた成果について説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
30	研究発表	受講生それぞれの研究論文について報告し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの卒業論文で得られた成果について説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	黒川 功	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に身に付けた論理構成力を、今度は専門分野の税法の問題で本当の理論構築・主張を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門性が高く、最初はチンプンカンプンだった税法問題について、自分なりの仮説を立て、皆の前で報告する。批判・否定される過程の中で、論破されないよう改善を図ることにより、税法の法理や法的思考を身に付け、論拠、証拠の見つけ方・使い方をマスターする。ちゃんと専門性をもった卒論を仕上げ、真の学士として胸を張って卒業する。

【履修条件】
きちんと出てきて議論に参加すること。

【授業方法】		
まずは自分の興味を持てる税法問題をテーマに仮説を立て、自分の意見を主張する（テーマ報告）。論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき批判的な質疑応答を行う。これに堪えられるよう改善した報告を行い（改良版報告）、再び批判を受ける。これをふまえて作成した仮卒論を報告し（仮卒論布告）、同様に批判を受ける。最後に、卒論の結論をテーマとした1対多数のディベート形式のディスカッション（こき下ろし隊ディベート）を行い、生き残った理論で卒論を作成する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各人の研究報告とこれに対する質疑応答（批判）はそれ自体参加型である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	明確な論拠と論理				3	3	3	3	3	3	3	3
②	社会の現実と齟齬しない議論				3	3	3	3	3	3	3	3
③	客観的、科学的証拠・資料				3	3	3	3	3	3	3	3
④	歴史的、国際的な広い視野				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤	物事の本質を見抜く洞察力				3	3	3	3	3	3	3	3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	字号4回の報告とディベート	5	5	5	5	5						25
授業への参画度	参加型ゼミなので、出席しなければ話にならない。	5	5	5	5	5						25
その他(卒論)	学士の学識の証である。	10	10	10	10	10						50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
最大の課題は卒論であり、評価の基礎。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
税法学原論第8版	北野弘久著、黒川功改定	勁草書房	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜14時40分～16時10分。アポイントを取ってからアクセスのこと。研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	3年生とのコミュニケーションの形成と指導	目隠しゲーム、自己他己紹介、3年生の指導	
	この回の到達目標	ゼミ活動の基本であるコミュニケーションを学年間を含めて形成します。	
	事前学修	去年のことをよく思い出してください。	5分
	事後学修	後輩1人1人を認知してください。	10分
2	宗吾霊堂研修・新入生歓迎	学外研修、新入営歓迎コンパ	
	この回の到達目標	税法ゼミの精神的模範、佐倉宗吾の史実を、現地に赴いて学習し、自らの哲学を再確認します。	
	事前学修	できれば後輩に説明委できる程度の知識を持っておきましょう。	10分
	事後学修	今の自分の生き方をもう一度振り返ってみましょう。	10分
3	テーマ報告（1）	まずは自分の興味を持てる税法問題をテーマに仮説を立て、自分の意見を主張・報告する。各人10分程度報告、5分程度質疑応答。6人程度。	
	この回の到達目標	まずは興味を持てそうな税法問題を見つけましょう。論破されるものであっても、自分の理論を立ててみましょう。	
	事前学修	色々なものに目を通し、興味を持てそうな税法問題を見つけます。	60分
	事後学修	ダメ出しを食らった部分が持ち堪えられるよう、材料を探し論理を練ります。	120分
4	テーマ報告（2）	まずは自分の興味を持てる税法問題をテーマに仮説を立て、自分の意見を主張・報告する。各人10分程度報告、5分程度質疑応答。6人程度。	
	この回の到達目標	まずは興味を持てそうな税法問題を見つけましょう。論破されるものであっても、自分の理論を立ててみましょう。	
	事前学修	色々なものに目を通し、興味を持てそうな税法問題を見つけます。	60分
	事後学修	ダメ出しを食らった部分が持ち堪えられるよう、材料を探し論理を練ります。	120分
5	テーマ報告（3）	まずは自分の興味を持てる税法問題をテーマに仮説を立て、自分の意見を主張・報告する。各人10分程度報告、5分程度質疑応答。6人程度。	
	この回の到達目標	まずは興味を持てそうな税法問題を見つけましょう。論破されるものであっても、自分の理論を立ててみましょう。	
	事前学修	色々なものに目を通し、興味を持てそうな税法問題を見つけます。	60分
	事後学修	ダメ出しを食らった部分が持ち堪えられるよう、材料を探し論理を練ります。	120分
6	改良版報告（1）	前回論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき受けた批判に堪えられるよう改善した報告を行い、同様に批判を受けます。各人15分程度報告、7分程度質疑応答。4人程度。	
	この回の到達目標	前回批判され弱点を補った報告をしましょう。よりしっかりとした論理、論拠、証拠を示しましょう。	
	事前学修	自分の主張の弱点を分析し、論理を強化し、有効な論拠、証拠を探しましょう。	70分
	事後学修	再び受けた批判を克服し、自己の主張を貫徹する議論を組み立てます。	70分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	改良版報告（2）	前回論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき受けた批判に堪えられるよう改善した報告を行い、同様に批判を受けます。各人15分程度報告、7分程度質疑応答。4人程度。	
	この回の到達目標	前回批判され弱点を補った報告をしましょう。よりしっかりとした論理、論拠、証拠を示しましょう。	
	事前学修	自分の主張の弱点を分析し、論理を強化し、有効な論拠、証拠を探しましょう。	70分
	事後学修	再び受けた批判を克服し、自己の主張を貫徹する議論を組み立てます。	70分
8	改良版報告（3）	前回論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき受けた批判に堪えられるよう改善した報告を行い、同様に批判を受けます。各人15分程度報告、7分程度質疑応答。4人程度。	
	この回の到達目標	前回批判され弱点を補った報告をしましょう。よりしっかりとした論理、論拠、証拠を示しましょう。	
	事前学修	自分の主張の弱点を分析し、論理を強化し、有効な論拠、証拠を探しましょう。	70分
	事後学修	再び受けた批判を克服し、自己の主張を貫徹する議論を組み立てます。	70分
9	改良版報告（4）	前回論理の欠陥や、論拠・証拠の欠落等につき受けた批判に堪えられるよう改善した報告を行い、同様に批判を受けます。各人15分程度報告、7分程度質疑応答。4人程度。	
	この回の到達目標	前回批判され弱点を補った報告をしましょう。よりしっかりとした論理、論拠、証拠を示しましょう。	
	事前学修	自分の主張の弱点を分析し、論理を強化し、有効な論拠、証拠を探しましょう。	70分
	事後学修	再び受けた批判を克服し、自己の主張を貫徹する議論を組み立てます。	70分
10	仮卒論報告（1）	自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。	
	この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
	事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
	事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
11	仮卒論報告（2）	自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。	
	この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
	事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
	事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
12	仮卒論報告（3）	自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。	
	この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
	事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
	事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	仮卒論報告（4）		自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。
	この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
	事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
	事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
14	仮卒論報告（5）		自己の主張をさらに改善した準卒論状態の報告を行い、再び批判を受けます。各人20分程度報告、10分程度質疑応答。3人程度。
	この回の到達目標	自分の理論を概ね完成させましょう。	
	事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
	事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
15	予備日 振り返り		予定通り進まなかった部分をリカバリーし、全員が夏休み中に卒論の目鼻を付けられるようにする。
	この回の到達目標	遅れの出ている者はここで追いつくように。	
	事前学修	自分の議論を鳥瞰・チェックし、弱点と思われるところは補強策を考えておきましょう。	70分
	事後学修	受けた批判は確実に処理しておきましょう。	70分
16	ディベート（1）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
17	ディベート（2）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分
18	ディベート（3）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。	
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。	60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。	600分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	ディベート（4）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
20	ディベート（5）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
21	ディベート（1）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
22	ディベート（6）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
23	ディベート（7）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
24	ディベート（8）		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	ディベート (9)		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
26	ディベート (10)		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
27	ディベート (11)		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
28	ディベート (12)		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
29	ディベート (13)		各人の仮卒論の結論をテーマに、1対4～5人でディベート形式のディスカッションを行う。1～2名分。	
	この回の到達目標	各人の主張に対し、4～5人掛で反対の論陣を張って論理の弱点を攻撃してもらいます。この千里を受けることによって、説得力ある理論が形成されます。あとは総論の作成へGOです。		
	事前学修	自分の理論を細部まで再点検しておいて、あらゆる攻撃に備えてください。		60分
	事後学修	批判された点をよく吟味して、卒論作成にかかってください。		600分
30	最終確認、ゼミ誌編集内容確認		全員の卒論の作成状況を確認する。ゼミ誌の編集・発行方法・内容の確認。	
	この回の到達目標	卒論促成、ゼミ誌発行の最終確認。		
	事前学修	最終確認。		30分
	事後学修	最終確認		30分

科目名	ゼミナール4年	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：国際関係論の理論を学び、国際関係を通して論理的思考力を身につける。 4年次：3年次の演習において学んだことの集大成である卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析する力を養うことを目標とする。 4年次：自ら問題意識をもって選んだテーマに基づき、討議することを通して、より深い見識を得ること、社会で必要とされる論理的思考を高めることを目標とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：毎回、担当者にパワーポイントでテキストの理解について報告をしてもらい、それをもとに全員で議論する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際関係および国際法における主要な概念を説明することができる。						3	3						
②	国際関係および国際法における主要な理論を説明することができる。						4	4	3					
③	国際関係における個々の出来事がどのように起きたのかを説明することができる。						4	4	4		3			
④	国際関係における個々の出来事の因果関係を様々な理論的立場から解釈できる。						3	3	4	4	4			3
⑤	国際関係における個々の出来事について自分なりの評価を論理的に説明できる。								3	4	4	3	3	3
⑥	ゼミナール活動を通して協働したり、議論の中で自分の考えを表現することができる。											3	3	
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告内容を理解し、適切なツールや資料を用いて説明すること、および質疑応答などのマネジメント能力についても評価する。	4	4	4	4	4						20
授業への参画度	研究内容とゼミナール論文の内容のみならず、ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する						5					5
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	15	15	15	15	15						75
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		19	19	19	19	19	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際関係理論	吉川直人・野口和彦著	勁草書房	2015	教科書	必携
国際紛争 原書第10版 理論と歴史	ジョセフ・ナイ	有斐閣	2017	参考書	推奨
国際関係学講義（第5版）	原彬久編	有斐閣	2016	参考書	推奨
政治学のリサーチ・メソッド	スティーブソン・ヴァン・エイク エ、野口和彦・渡辺紫乃訳	勁草書房	2009	参考書	推奨
国際政治事典	猪口孝他編	弘文堂	2005	参考書	推奨
国際関係論 <第3版> (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)	弘文堂	2018	参考書	推奨
平和学入門 1・2：平和を理解するための思考のドリル	多賀秀敏	勁草書房	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:15～12:55 研究室（4号館3階433研究室）（事前にアポイントメントを取ること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	卒業論文の完成までのスケジュールの確認	卒業論文完成に向けたスケジュールや注意すべき事項などについて議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文作成のために取り組むべき事項を明確にし、就職活動や未履修科目の受講など他の行動なども含めた計画を策定する。	
	事前学修	残っている単位数の確認および就職活動に関わる動きや希望する業種の報道などをチェックする。	120分
	事後学修	就職活動、他教科、その他の自分の活動予定を書きだし、卒業論文完成までのスケジュールをノートにまとめる。	120分
2	個人報告：スケルトンの修正報告①	3年次に作成したスケルトンを修正し、発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文の概要を明確にし、スケルトンの修正を通して、卒業論文完成への道筋を明確にする。	
	事前学修	修正したスケルトンをパワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、再度スケルトンを見直し、必要があればスケジュールを修正しノートにまとめる。	120分
3	個人報告：スケルトンの修正報告②	3年次に作成したスケルトンを修正し、発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文の概要を明確にし、スケルトンの修正を通して、卒業論文完成への道筋を明確にする。	
	事前学修	修正したスケルトンをパワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、再度スケルトンを見直し、必要があればスケジュールを修正しノートにまとめる。	120分
4	個人報告：スケルトンの修正報告③	3年次に作成したスケルトンを修正し、発表する。	
	この回の到達目標	卒業論文の概要を明確にし、スケルトンの修正を通して、卒業論文完成への道筋を明確にする。	
	事前学修	修正したスケルトンをパワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、再度スケルトンを見直し、必要があればスケジュールを修正しノートにまとめる。	120分
5	引用文献リストの作成・書評論文の発表①	スケルトンに沿った引用文献リストを作成し文献の読み込みを行う。また、書評論文を作成し、発表を行う。	
	この回の到達目標	引用文献リストを完成させ、引用文献を読み込む。	
	事前学修	引用文献リストを作成する。その中から主たる文献を選んで書評論文を作成し、パワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	書評論文を作成しなかった文献についても読み込みを行いノートにまとめる。	240分
6	引用文献リストの作成・書評論文の発表②	スケルトンに沿った引用文献リストを作成し文献の読み込みを行う。また、書評論文を作成し、発表を行う。	
	この回の到達目標	引用文献リストを完成させ、引用文献を読み込む。	
	事前学修	引用文献リストを作成する。その中から主たる文献を選んで書評論文を作成し、パワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	書評論文を作成しなかった文献についても読み込みを行いノートにまとめる。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	引用文献リストの作成・書評論文の発表③	スケルトンに沿った引用文献リストを作成し文献の読み込みを行う。また、書評論文を作成し、発表を行う。	
	この回の到達目標	引用文献リストを完成させ、引用文献を読み込む。	
	事前学修	引用文献リストを作成する。その中から主たる文献を選んで書評論文を作成し、パワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	書評論文を作成しなかった文献についても読み込みを行いノートにまとめる。	240分
8	テンプレートの解説	卒業論文のテンプレートについて議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の形式的な確認を行う。	
	事前学修	卒業論文を読み返し、内容をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業で学んだことをノートにまとめる。	120分
9	個人報告：スケルトンに要旨を載せ込む①	スケルトンに要旨を載せ込み、発表する。	
	この回の到達目標	要旨を作成することで卒業論文の骨子を固める。	
	事前学修	スケルトンに要旨を載せ込み、パワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに要旨を見直し、ノートにまとめる。	120分
10	個人報告：スケルトンに要旨を載せ込む②	スケルトンに要旨を載せ込み、発表する。	
	この回の到達目標	要旨を作成することで卒業論文の骨子を固める。	
	事前学修	スケルトンに要旨を載せ込み、パワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに要旨を見直し、ノートにまとめる。	120分
11	個人報告：スケルトンに要旨を載せ込む③	スケルトンに要旨を載せ込み、発表する。	
	この回の到達目標	要旨を作成することで卒業論文の骨子を固める。	
	事前学修	スケルトンに要旨を載せ込み、パワーポイントにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに要旨を見直し、ノートにまとめる。	120分
12	個人報告：卒業論文の中間発表①	卒業論文の中間発表を行う。	
	この回の到達目標	製作途中の論文を発表することによって、執筆部分に問題がないか確認するとともに、今後の執筆内容の見直しを行う。	
	事前学修	卒業論文の執筆した部分を見直し、内容や課題、今後の執筆予定などについて、パワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、卒業論文見直し、修正する必要がある部分について、ノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	個人報告：卒業論文の中間発表②	卒業論文の中間発表を行う。	
	この回の到達目標	製作途中の論文を発表することによって、執筆部分に問題がないか確認するとともに、今後の執筆内容の見直しを行う。	
	事前学修	卒業論文の執筆した部分を見直し、内容や課題、今後の執筆予定などについて、パワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、卒業論文見直し、修正する必要があるればその部分について、ノートにまとめる。	120分
14	個人報告：卒業論文の中間発表③	卒業論文の中間発表を行う。	
	この回の到達目標	製作途中の論文を発表することによって、執筆部分に問題がないか確認するとともに、今後の執筆内容の見直しを行う。	
	事前学修	卒業論文の執筆した部分を見直し、内容や課題、今後の執筆予定などについて、パワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得られた知見をもとに、卒業論文見直し、修正する必要があるればその部分について、ノートにまとめる。	120分
15	これまでの総括	卒業論文の完成に向けて、前期に取り組んだ事項を振り返る。	
	この回の到達目標	これまでに執筆を進めてきた卒業論文の見直しと、完成までの残された課題を明確にする。	
	事前学修	執筆途中の論文を読み返し、計画を見直す。	120分
	事後学修	執筆のために必要となる文献などをノートにまとめ、収集をする。必要があるれば執筆計画を修正する。	120分
16	今後のスケジュールの確認	卒業論文執筆の進捗を確認し、完成までのスケジュールを策定し、議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の作成状況を確認し、卒業論文完成までに必要な事項をチェックする。	
	事前学修	卒業論文の執筆状況を確認する。	120分
	事後学修	卒業論文の提出までに必要な事項をノートに書きだし、スケジュールを再確認する。	120分
17	論文形式の確認	論文の形式を議論する。	
	この回の到達目標	作成中の卒業論文が論文の形式に従っているか確認する。	
	事前学修	様々な論文に目を通し、論文の形式をノートにまとめる。	120分
	事後学修	自分の論文の形式をノートにまとめる。	120分
18	論文執筆およびディスカッション①	執筆中の卒業論文についてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	執筆中の論文の内容をディスカッションすることによって、論文の内容や形式をチェックし、質の高い論文の作成を試みる。	
	事前学修	自分の卒業論文を読み込むほか、中間発表の時の資料などゼミ生の資料にも目を通し、疑問点や補足すべき事項などをノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションで得た知見をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文執筆およびディスカッション②	執筆中の卒業論文についてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	執筆中の論文の内容をディスカッションすることによって、論文の内容や形式をチェックし、質の高い論文の作成を試みる。	
	事前学修	自分の卒業論文を読み込むほか、中間発表の時の資料などゼミ生の資料にも目を通し、疑問点や補足すべき事項などをノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションで得た知見をノートにまとめる。	120分
20	論文執筆およびディスカッション③	執筆中の卒業論文についてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	執筆中の論文の内容をディスカッションすることによって、論文の内容や形式をチェックし、質の高い論文の作成を試みる。	
	事前学修	自分の卒業論文を読み込むほか、中間発表の時の資料などゼミ生の資料にも目を通し、疑問点や補足すべき事項などをノートにまとめる。	120分
	事後学修	ディスカッションで得た知見をノートにまとめる。	120分
21	個人報告：卒業論文進捗報告①	各自卒業論文の進捗状況の報告を行う。	
	この回の到達目標	進捗状況を報告することによって、完成のために必要な事項を確認する。	
	事前学修	自分の進捗状況を報告ができるようにノートにまとめる。	120分
	事後学修	論文完成のために必要な資料などをそろえる。予定より遅れている場合には計画を見直し、ノートにまとめる。	120分
22	個人報告：卒業論文進捗報告②	各自卒業論文の進捗状況の報告を行う。	
	この回の到達目標	進捗状況を報告することによって、完成のために必要な事項を確認する。	
	事前学修	自分の進捗状況を報告ができるようにノートにまとめる。	120分
	事後学修	論文完成のために必要な資料などをそろえる。予定より遅れている場合には計画を見直し、ノートにまとめる。	120分
23	個人報告：卒業論文進捗報告③	各自卒業論文の進捗状況の報告を行う。	
	この回の到達目標	進捗状況を報告することによって、完成のために必要な事項を確認する。	
	事前学修	自分の進捗状況を報告ができるようにノートにまとめる。	120分
	事後学修	論文完成のために必要な資料などをそろえる。予定より遅れている場合には計画を見直し、ノートにまとめる。	120分
24	卒業論文仕上げに向けての指導	卒業論文完成の前に最終確認事項などを議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を完成させるために必要な事項の確認を行う。	
	事前学修	卒業論文完成までに残された課題をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業で得られた知見から、課題への対応策をノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	個人報告：卒業論文発表①	完成した卒業論文の発表を行う。	
	この回の到達目標	卒業論文の発表を通して、最終チェックを行う。	
	事前学修	自分の卒業論文について1人10分で発表できるようパワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	卒業論文が提出する形式になっているか確認する。	120分
26	個人報告：卒業論文発表②	完成した卒業論文の発表を行う。	
	この回の到達目標	卒業論文の発表を通して、最終チェックを行う。	
	事前学修	自分の卒業論文について1人10分で発表できるようパワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	卒業論文が提出する形式になっているか確認する。	120分
27	個人報告：卒業論文発表③	完成した卒業論文の発表を行う。	
	この回の到達目標	卒業論文の発表を通して、最終チェックを行う。	
	事前学修	自分の卒業論文について1人10分で発表できるようパワーポイントを使用してまとめる。	120分
	事後学修	卒業論文が提出する形式になっているか確認する。	120分
28	卒業論文発表会の準備	卒業論文を最終成果物として発表できる形に仕上げる。	
	この回の到達目標	卒業論文の最終チェックを行い、卒業論文を提出可能な形に仕上げる。	
	事前学修	卒業論文発表で明らかになった課題などをノートにまとめ、どのように修正を行うか検討する。	120分
	事後学修	卒業論文提出に必要な修正を行う。	120分
29	卒業論文発表会	各自完成した卒業論文を発表する。	
	この回の到達目標	発表の場を通して、取り組んだテーマについて理解を深めるとともに、人前で説明することに対する自覚を持つ。	
	事前学修	卒業論文の内容をパワーポイント3枚程度にまとめ、発表するための資料を整える。	120分
	事後学修	卒業論文論文の提出前チェックを行う。卒業論文を提出する。	120分
30	総括	これまでに習得した事項を振り返る。	
	この回の到達目標	これまでに学習したことを振り返り、社会人としての心構えを整える。	
	事前学修	2年間のゼミナールを振り返り、成長したと思われること、できなかったことなどをノートに記入する。	120分
	事後学修	大学生と社会人の違いをノートにまとめる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：財務会計論の基本書を輪読して会計学の基本を身につけるとともに、学生コンペに参加して研究発表を行う。 4年次：各自で興味あるテーマの設定を行い、卒業論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：会計学の基礎を身につけ、それをもとに特定のテーマに特化した調査研究を行い、コンペでの発表を目指す。 4年次：卒業論文の執筆を通じて、各自の関心あるテーマや企業・産業に対する理解・見識を深める。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
各自が関心あるテーマについて、順次報告を行う。概ね、テーマについての導入報告→中間報告→最終報告の順で進める。それぞれの発表に対してゼミ生による質疑を行い、教員が適宜コメント・指導する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	個人による報告および全体でのディスカッションを毎回行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	会計学の基礎的知識を身につける。											
②	特定のテーマについての問題意識を持ち、研究テーマを設定することができる。											
③	設定したテーマに対して、適切な調査・研究を行うことができる。											
④	調査・研究の内容を報告し、ディスカッションすることができる。											
⑤	会計学についてのより高度な調査・研究の成果を論文としてまとめ、発表・ディスカッションすることができる。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	平時のゼミにおける報告や、それに基づくディスカッションの様子により評価を行う。ただし、評価は下記の「ゼミナール論文」の内容と合わせて、総合的に判定する。	10	10	10	10	10						50
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	卒業論文により評価を行う。ただし、評価は上記の「討論・発表等」における報告・ディスカッションの内容と合わせて、総合的に判定する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取る） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	卒業論文テーマ選定に関するガイダンス	
	この回の到達目標	卒業論文の執筆計画を立て、1年間のゼミの流れを把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読し、1年間のゼミ活動をイメージする。	120分
	事後学修	卒業論文のテーマを選定し、関連する先行研究を調査する。	120分
2	導入報告 1回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
	この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
3	導入報告 2回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
	この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
4	導入報告 3回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
	この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
5	導入報告 4回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
	この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
6	導入報告 5回目	卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する	
	この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	導入報告 6回目		卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する
	この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
8	導入報告 7回目		卒業論文のテーマと調査した先行研究の概要を報告する
	この回の到達目標	自身が選んだテーマを報告し、関連する先行研究の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	今後の卒業論文の執筆計画を立てる。	120分
9	卒論執筆 1		卒業論文の準備と執筆
	この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
10	卒論執筆 2		卒業論文の準備と執筆
	この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
11	卒論執筆 3		卒業論文の準備と執筆
	この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
12	卒論執筆 4		卒業論文の準備と執筆
	この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卒論執筆 5	卒業論文の準備と執筆	
	この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
14	卒論執筆 6	卒業論文の準備と執筆	
	この回の到達目標	卒業論文の執筆のための資料収集を行い、順次執筆を進める。	
	事前学修	当日作業のための準備をしておく。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
15	前期総括	前期の総括を行い、後期における報告順を決める。	
	この回の到達目標	前期における卒業論文の執筆状況の簡単な報告を行い、後期における中間報告の報告順を決める	
	事前学修	前期における卒業論文執筆の進捗状況を簡単にまとめる。	120分
	事後学修	後期に向けた準備を進める。	120分
16	中間報告 1回目	卒業論文の中間報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
17	中間報告 2回目	卒業論文の中間報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
18	中間報告 3回目	卒業論文の中間報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	中間報告 4回目	卒業論文の中間報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
20	中間報告 5回目	卒業論文の中間報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
21	中間報告 6回目	卒業論文の中間報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
22	中間報告 7回目	卒業論文の中間報告と最終報告の準備	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。また、次回以降の最終報告に向けて報告順を決定する。	
	事前学修	発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、執筆作業を進める。	120分
23	最終報告 1回目	卒業論文の最終報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	全体の8割程度を完成させたうえで、発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
24	最終報告 2回目	卒業論文の最終報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	全体の8割程度を完成させたうえで、発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	最終報告 3回目	卒業論文の最終報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
26	最終報告 4回目	卒業論文の最終報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
27	最終報告 5回目	卒業論文の最終報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
28	最終報告 6回目	卒業論文の最終報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
29	最終報告 7回目	卒業論文の最終報告を行う	
	この回の到達目標	報告時点における卒業論文の概要を報告する。	
	事前学修	全体の8割程度を完成させたいうえで、発表の準備をする。	120分
	事後学修	指導内容を踏まえて、完成に向けて執筆作業を進める。	120分
30	2年間の振り返り	2年間のゼミ活動を振り返る	
	この回の到達目標	卒業論文の執筆経験を踏まえ、2年間のゼミ活動で得たものを振り返る	
	事前学修	卒業論文を完成させ、提出を済ませておく。	120分
	事後学修	ゼミでの経験を振り返り、今後の人生に活かせるよう、まとめておく。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	小林 義寛	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア文化を中心に現代文化、とりわけポップカルチャーに焦点をあて、わたしたちの生活の諸側面における文化事象の諸様態とその意義を理解する。その上で、日常生活におけるわたしたちの文化実践について考える。そのために必要な視座あるいはフレームワークに関しては、現代的な諸理論を基盤に学習し、「文化」事象を理解するための基礎を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ポップカルチャーを研究するために必要な視座あるいはフレームワークを学習し、「文化」事象を理解するための基礎を修得する。 とくに4年次においては、テキスト輪読、発表、ディスカッションを通して、文化研究に関わる諸理論を理解する。それらを通して、具体的な文化事象への、現象論ではないアプローチを実践し、理論的アプローチに基づいた卒業論文を作成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
テキスト輪読、発表、ディスカッションをおこなう。卒業論文にむけての報告と議論をおこなう。 卒業論文における研究に関しては、サブゼミにおいても展開する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テキスト輪読および卒業論文作成にあたって、発表、議論、レジュメ作成、報告資料作成などをおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	現代文化に関するアプローチを学ぶことで、文化事象を考察するための基本的概念や理論を修得し、理論的フレームワークに基づいて議論ができるようになる。											
②	異なる社会や文化におけるそれぞれの社会構造、文化構造との関係で、特定の文化事象にアプローチできるようになる。											
③	既存の制度、社会を所与のものとせず、「当たり前」を疑い、疑問をもち、考察できるようになる。											
④	身の回りの具体的な文化事象を取り上げ、それに対して理論的なアプローチができるようになる。											
⑤	自明視された事象に対し、異なった視点、新たな態度で臨めるようになる。											
⑥	卒業論文作成における研究やお互いの議論を通じて、問題に関して深く理解するとともに、他者に対して寛容に議論ができる。											
⑦	卒業論文作成における研究やお互いの議論を通じて、他の受講生の研究への助言や協力を通じて指導力を発揮し、研究活動ができる。											
⑧	具体的な事象に対し、現象論ではなく、理論的、方法的なアプローチを通じて、深く考察することができる。											
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	15	15	10	10	10	15	15	10			100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	10	10	10	15	15	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】	
報告、議論、レポート、論文指導を通じて適宜講評する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業時や共同研究の進行に合わせて指示する。				

【オフィスアワー】	
火曜5限、研究室にてkobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	卒業論文のテーマ①	卒業論文のテーマに関する検討。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	卒業論文のテーマに関係する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を通じて、研究テーマの問題点を確認し、研究計画の変更をおこなう。	120分
2	卒業論文のテーマ②	卒業論文のテーマに関する検討。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	前回の問題点を修正し、具体的なテーマへつなげる報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を通じて、研究テーマの問題点を確認し、研究計画の変更をおこなう。	120分
3	卒業論文のテーマ③	卒業論文テーマの決定	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、研究テーマを報告と議論を通じて決定する。	
	事前学修	前2回の問題点をふまえ、具体的な研究テーマとなる報告資料を作成する。	120分
	事後学修	具体化された報告テーマを基にした研究計画の修正をおこなう。	120分
4	テキスト輪読1-①	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
5	テキスト輪読1-②	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
6	テキスト輪読1-③	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テキスト輪読 1-④	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
8	テキスト輪読 1-⑤	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
9	テキスト輪読 1-⑥	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
10	テキスト輪読 1-⑦	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
11	テキスト輪読 1-⑧	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
12	テキスト輪読 1-⑨	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	テキスト輪読 1-⑩	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
14	卒業論文中間報告①	卒業論文の進行に合わせた中間報告。 問題点と修正	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマに対するアプローチの現状報告をおこない、その報告と議論を通じて、考察と修正をおこなう。	
	事前学修	研究テーマの中間報告のための資料の作成をする。	120分
	事後学修	議論を通じて、卒業論文作成までの展開を構想する。	120分
15	卒業論文中間報告②	卒業論文の進行に合わせた中間報告。 問題点と修正	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、前回の修正と考察を基にして、卒業論文作成までの今後の展開と方向性について、議論を通じて構成する。	
	事前学修	前回の議論を基に今後の展開に関する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を通じて、卒業論文作成に向けて展開と方向性などを修正する。	120分
16	テキスト輪読 2-①	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
17	テキスト輪読 2-②	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
18	テキスト輪読 2-③	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	テキスト輪読 2-④	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
20	テキスト輪読 2-⑤	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
21	テキスト輪読 2-⑥	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
22	テキスト輪読 2-⑦	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
23	テキスト輪読 2-⑧	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
24	テキスト輪読 2-⑨	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	テキスト輪読 2-⑩	研究テーマに関連した文献を輪読し、理論、方法論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑧に関連し、文化事象に対するアプローチを修得する。	
	事前学修	テキストを読み、内容を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	授業時の議論を基にテキスト内容を把握するとともに、研究テーマへの応用の可能性を考察する。	120分
26	共同研究報告①	共同研究の成果の報告。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、共同研究の成果をまとめ、報告する。	
	事前学修	共同研究の成果を報告するための報告資料を作成する。	120分
	事後学修	報告書作成のために、報告に対する議論を基に問題点等を把握する。	120分
27	共同研究報告②	報告書作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧に関連し、前回の報告と議論に基づいて報告書を作成する。	
	事前学修	前回の議論を基に、報告書作成のための展開に関する報告資料を作成する。、	120分
	事後学修	これまでの議論を基に報告書を作成する。	180分
28	卒業論文完成へ向けて①	卒業論文作成作成の最終テック。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文を報告と議論を通じて最終的な検討をし、チェックをおこなう。	
	事前学修	卒業論文に関する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を基に問題点等を把握し、最終段階の問題点の解消へ向けて検討をする。	120分
29	卒業論文完成へ向けて②	卒業論文作成作成の最終テック。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	卒業論文に関する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を基に問題点等を把握し、最終段階の問題点の解消へ向けて検討をする。	120分
30	卒業論文完成へ向けて③	卒業論文作成作成の最終テック。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑦⑧に関連し、卒業論文のテーマやアプローチ、を報告と議論を通じて検討する。	
	事前学修	卒業論文に関する報告資料を作成する。	120分
	事後学修	議論を基に問題点等を把握し、最終段階の問題点の解消へ向けて検討をする。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	坂本 力也	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
英米法に関する興味のある分野を自発的に選び、その分野の判例につき報告と質疑応答・議論を行い、論文のテーマを選定し、計画的にリサーチを継続して行い、当該論文のテーマについて法律論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
一次的法源と二次的法源を調査し要約して発表する能力、英米法の法律専門用語を正確に理解しそれらを用い分かりやすく聞き手や読み手に説明する能力、調査に基づく論理的かつ批判的な視点から論文を執筆する能力、を修得する。

【履修条件】
英米法の基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が英米法の分野において自発的に選択する論文のテーマにつき行った発表に対して質疑応答を行う。また、学修効果を高めるため、合宿や課外活動（例えば、大学対抗仲裁・交渉コンペティションへの参加やフォーラム等）を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	判例発表と質疑応答を含む授業中の議論における積極的な発言を行う。ゼミナール論文のテーマを自発的に決定し計画的に執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英米法の法律専門用語を正確に理解し、専門演習や判例報告において、これらを適切に用いて議論することができる。				3	3				3		
②	英米法を学ぶ際に大前提となる諸制度を深く理解し、専門演習や判例報告において、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3	3	3		
③	他の履修生からの意見や質問を尊重し相互に新たな課題を発見しながら論文執筆作業や課外活動に取り組むことができる。								3	3	3	3
④	③で発見した新たな課題を含め計画的に客観的論証を示す論文の執筆を進めることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	判例報告と質疑応答に基づく中間のレポート課題につき、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	判例報告と質疑応答において他の履修者に向けた有益な意見を述べることができたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	自発的に選んだテーマについて一次的法源と二次的法源が正確に引用され、客観的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
判例発表は発表後に講評を行う。レポート課題とゼミナール論文については準備段階ごとに質疑応答を行い講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
水曜日12:30-13:00 研究室（9号館2階9201研究室） Colnetのメールで予約を取る（メールアドレス：sakamoto.rikiya@nihon-u.ac.jp）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ニューヨーク州弁護士（アメリカ）と外国法事務弁護士（日本）として国際契約、国際訴訟、国際商事仲裁、国際商事調停の実務に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		判例法の法域に特有の法的及び実務的問題点を学修する授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの報告 (1)	各履修生が選定した論文のテーマを報告し、担当教員が質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、設定した論文テーマの内容につき適切な議論を展開できる。	
	事前学修	設定した論文のテーマについてその設定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での質疑応答や助言を踏まえて論文のテーマを確定する。	120分
2	論文テーマの報告 (2)	各履修生が選定した論文のテーマを報告し、担当教員が質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
	事前学修	設定した論文のテーマについてその設定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での質疑応答や助言を踏まえて論文のテーマを確定する。	120分
3	論文テーマの報告 (3)	各履修生が選定した論文のテーマを報告し、担当教員が質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、英米法に特有の概念、制度、法律専門用語を正確に理解し、これらを適切に用いて特定の設問について議論できる。	
	事前学修	設定した論文のテーマについてその設定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での質疑応答や助言を踏まえて論文のテーマを確定する。	120分
4	論文テーマの報告 (4)	各履修生が選定した論文のテーマを報告し、担当教員が質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、当該専門領域に関する基本用語・概念・諸制度・諸規定を深く理解し、これらを適切に用いて議論できる。	
	事前学修	設定した論文のテーマについてその設定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での質疑応答や助言を踏まえて論文のテーマを確定する。	120分
5	資料の収集（一次的法源と二次的法源）	確定した論文のテーマ毎に、一次的法源と二次的法源となる資料の収集の仕方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、一次的法源と二次的法源となる資料収集の方法について説明することができる。	
	事前学修	一次的法源と二次的法源となる資料の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえてさらに一次的法源と二次的法源を収集する。	120分
6	資料の収集と内容の確認（一次的法源と二次的法源） (1)	確定した論文のテーマ毎に、収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、確定した論文のテーマに関して収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を説明することができる。	
	事前学修	収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での内容確認を踏まえてさらに一次的法源と二次的法源を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	資料の収集と内容の確認（一次的法源と二次的法源）（2）		確定した論文のテーマ毎に、収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を確認する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、確定した論文のテーマに関して収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を説明することができる。	
	事前学修	収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での内容確認を踏まえてさらに一次的法源と二次的法源を収集する。	120分
8	資料の収集と内容の確認（一次的法源と二次的法源）（3）		確定した論文のテーマ毎に、収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を確認する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、確定した論文のテーマに関して収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を説明することができる。	
	事前学修	収集した一次的法源と二次的法源となる資料の内容を検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での内容確認を踏まえてさらに一次的法源と二次的法源を収集する。	120分
9	判例の確認・検討（1）		収集した判例の先例拘束性を確認・検討し、他の判例との関係が十分説明されているかを学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、判例の先例拘束性が他の判例との関係で保持されているかどうかについて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	使用する判例を整理し、その相関関係をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえて判例の相関関係をさらに検討する。	120分
10	判例の確認・検討（2）		収集した判例の先例拘束性を確認・検討し、他の判例との関係が十分説明されているかを学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、判例の先例拘束性が他の判例との関係で保持されているかどうかについて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	使用する判例を整理し、その相関関係をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえて判例の相関関係をさらに検討する。	120分
11	判例の確認・検討（3）		収集した判例の先例拘束性を確認・検討し、他の判例との関係が十分説明されているかを学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、判例の先例拘束性が他の判例との関係で保持されているかどうかについて、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	使用する判例を整理し、その相関関係をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえて判例の相関関係をさらに検討する。	120分
12	課題の確認・検討（1）		これまでの作業をとおして発見した課題を確認・整理し、不足があれば指示する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題の確認・検討(2)	これまでの作業をとおして発見した課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	課題の確認・検討(3)	これまでの作業をとおして発見した課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	ゼミナール論文の執筆とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、文献の引用の仕方を含む注意事項を説明する。これまでの判例研究を踏まえゼミナール論文で自らが主張したい内容を各自発表する。自分のゼミナール論文についてこれまでの研究を5000字で要約したものを教員に前日までに提出する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	論文の第一次報告(7)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
23	論文の第一次報告(8)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
24	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	論文の第二次報告(3)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	論文の第二次報告(4)	レポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
社会学およびメディア研究のテキストクリティークを通して、研究の基礎的なトレーニングを行う。個人研究に加え、共同研究をフィールド調査などを通して行い、その結果をプレゼンテーションする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会学およびメディア研究の基礎理論、方法論について修得するとともに、各自の問題意識・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワーク・共同研究を通して他者との協働性の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミ入室試験に合格したもの

【授業方法】
テキストのレジュメとディスカッションを基本軸とし、定期的に映像分析を行う。共同研究では、研究計画を立て、それに沿って協働で研究を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像分析 レジュメや資料を作成した、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	テキストの基本的読解とレジュメ等で再構成・発表することができる				4	4	4			4		
②	映像を主にディスコース分析の手法で分析することができる				4	4	4	4				
③	現代社会の諸現象から、テーマを立て、研究を企画することができる				4			4	4			
④	研究テーマにもとづき、関連文献や資料を探索・収集することができる						4	4				
⑤	研究データを的確に収集・まとめることができる				4				4	4	4	
⑥	研究対象やデータを的確に分析し考察することができる					4	4	4				4
⑦	研究結果を論文として構成することができる				4	4	4	4	4	4		4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	共同研究での報告書の作成		5	5			5	5				20
討論・発表等	テキストや映像分析のレジュメ作成とプレゼンテーション	5	5				5					15
授業への参画度	毎回の出席とフィールド調査への参加	10				5						15
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文			10	10		10	10				40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	10	15	10	5	20	15				90

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール論文、発表、課題についての応答は、講義内で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期のガイダンスおよび導入講義	ゼミナールのスケジュールを確認し、進め方や評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、ゼミナール論文の企画・計画を立てることができる	
	事前学修	シラバスを確認し、ゼミナール論文のテーマを構想する	120分
	事後学修	講義の内容を整理し、復習する	120分
2	パンデミックの映像分析①	新型インフルエンザを題材にしたドキュメンタリー番組を視聴し、分析・ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を理解することができる	
	事前学修	新型コロナウイルスに関するこれまでの経緯について、報道関係の資料を収集しておく	120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
3	パンデミックの映像分析②	新型インフルエンザを題材にしたドラマ作品を視聴し、分析・ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を医療や社会政策の観点から理解することができる	
	事前学修	新型コロナウイルスに関するこれまでの経緯について、行政関係の資料を収集しておく	120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
4	個人研究発表①	ゼミナール論文の「テーマ」「目的」「方法」「目次」「参考文献」についての発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連し、聞き手が分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
	事前学修	発表レジュメを作成する	180分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
5	個人研究発表②	ゼミナール論文の「テーマ」「目的」「方法」「目次」「参考文献」についての発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連し、聞き手が分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
	事前学修	発表レジュメを作成する	180分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
6	個人研究発表③	ゼミナール論文の「テーマ」「目的」「方法」「目次」「参考文献」についての発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連し、聞き手が分かりやすいように発表レジュメを作成することができる	
	事前学修	発表レジュメを作成する	180分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	個人研究発表④		ゼミナール論文の「テーマ」「目的」「方法」「目次」「参考文献」についての発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連し、聞き手が分かりやすいように発表レジュメを作成することができる		
	事前学修	発表レジュメを作成する		180分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと		120分
8	自己と生権力		表象作品『夏物語』（川上未映子）を読解し、生殖と生権力について議論する	
	この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる		
	事前学修	『夏物語』を読んでくること		120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと		120分
9	家族と生権力		表象作品『夏物語』（川上未映子）を読解し、家族と生権力について議論する	
	この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる		
	事前学修	『夏物語』を読んでくること		120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと		120分
10	コミュニケーションと自己		表象作品『某』（川上弘美）を読解し、自己とコミュニケーションについて議論する	
	この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる		
	事前学修	『某』を読んでくること		120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと		120分
11	生と死と自己のあり方		表象作品『某』（川上弘美）を読解し、生と死をめぐる自己のあり方について議論する	
	この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる		
	事前学修	『某』を読んでくること		120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと		120分
12	感染症と文学①		『ペスト』（カミュ）を読解し、感染症と社会の不条理について議論する	
	この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる		
	事前学修	『ペスト』を読んでくること		120分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コレラを題材にした映像分析	映像作品『コレラ時代の愛』を視聴し、分析・ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、映像テキストを分析することができる	
	事前学修	原作『コレラ時代の愛』を読んでくること	180分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
14	感染症と文学②	文学作品『コレラ時代の愛』（G・マルクス）を読解する	
	この回の到達目標	到達目標①、⑤、⑥に関連し、文学作品のテキスト分析をすることができる	
	事前学修	『コレラ時代の愛』を読んでくること	180分
	事後学修	分析・ディスカッションした論点を整理しなおすこと	120分
15	前期講義のまとめ	前期の講義を振り返り、感染症と表象との関係、およびゼミナール論文の各自の課題を確認する	
	この回の到達目標	到達目標、①、②、③、④、⑤、⑥に関連し、理論や方法論の活かし方を修得することができる	
	事前学修	前期の講義ノート、レジュメ、資料を復習する	120分
	事後学修	ディスカッションした内容を整理する	120分
16	後期のガイダンスと導入講義	後期のスケジュールを確認し、評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、ゼミナール論文の執筆の計画を立てることができる	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆計画を企画する	120分
	事後学修	執筆計画を再構成すること	120分
17	個人研究発表⑤	ゼミナール論文のテーマに基づき、目次および一つの章の草稿を発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
18	個人研究発表⑥	ゼミナール論文のテーマに基づき、目次および一つの章の草稿を発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	個人研究発表⑦	ゼミナール論文のテーマに基づき、目次および一つの章の草稿を発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
20	個人研究発表⑧	ゼミナール論文のテーマに基づき、目次および一つの章の草稿を発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
21	パンデミック映画の分析	『アウトブレイク』を視聴し、分析ディスカッションする	
	この回の到達目標	到達目標②、④に関連し、感染症のパンデミックと現代社会の課題を理解することができる	
	事前学修	感染症について、文献を探索し読んでおくこと	180分
	事後学修	ディスカッションの論点を整理すること	60分
22	個人研究発表⑨	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（3分の1程度の分量）を発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
23	個人研究発表⑩	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（3分の1程度の分量）を発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
24	個人研究発表(11)	ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（3分の1程度の分量）を発表（2名）	
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	個人研究発表(12)		ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（3分の1程度の分量）を発表（2名）
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
26	個人研究発表(13)		ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（7～8割程度の分量）を発表（2名）
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
27	個人研究発表(14)		ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（7～8割程度の分量）を発表（2名）
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
28	個人研究発表(15)		ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（7～8割程度の分量）を発表（2名）
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
29	個人研究発表(16)		ゼミナール論文のテーマに基づき、草稿（7～8割程度の分量）を発表（2名）
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の草稿を執筆すること	200分
	事後学修	指摘された事柄、ディスカッションの論点を整理しなおし、草稿の執筆を進める	180分
30	講義全体のまとめ		講義全体を振り返り、ゼミナール論文の社会的位置づけ、各自の問題意識を明確にする
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤、⑥、⑦に関連し、論旨が明確な論文を書くことができる	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を進めること	200分
	事後学修	ゼミナール論文の「目的」の原稿を復習しなおすこと	180分

科目名	ゼミナール4年	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：メディア、情報流通に関する諸問題についてグループ毎に研究を行い、その成果を法桜祭で発表する。メディア系5大学合同ゼミに参加し、1月の合同発表会で研究成果を披露する。 4年次：3年次に学習した内容を参考に、自分の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナールでのディスカッションを通じて、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：1年次、2年次に学修した基礎的知識を発展させるために、メディア、情報流通に関する現代的な諸問題について理解する能力を修得する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、メディア、情報流通に関する諸問題への理解を深め、自分自身であるべき姿を提案できる能力を修得する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗状況の発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記、授業方法を参照。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、情報流通に関する基本概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。						3			3	3	
③	メディア、情報流通の現代的な諸課題に対し、であるべき姿を提案することができる。							3	3	3		3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての各能力が身についているかを、毎回のレポートにより評価する。	10	10									20
討論・発表等	到達目標①②③について各能力が身についているかを、発表およびディスカッションの発言内容により評価する。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。		15	35								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	35	45								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミの進め方	ゼミナール論文研究の進め方、論文の書き方など。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の研究テーマを考える。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
2	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
3	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
4	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
5	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
6	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説		
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。		120分
8	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説		
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。		120分
9	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説		
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。		120分
10	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説		
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。		120分
11	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説		
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。		120分
12	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説		
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。		
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
14	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
15	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
16	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
17	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
18	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
20	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
21	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
22	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
23	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
24	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
26	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
27	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
28	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
29	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分
30	発表・ディスカッション	発表・ディスカッション・解説	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、メディア、情報流通に関し、現代的な諸課題を理解し、説明することができる。	
	事前学修	各自の発表に備え書物等を読んでまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に得た気づきや学んだことをノートに整理する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	澤田 康広	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：課題に関するレポート作成等を通じて刑事訴訟法の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。
4年次：3年次に学習した内容及び新たな課題への取組を通じて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
課題に関するレポート作成等を通じて刑事訴訟法の諸問題について学習し、問題解決能力を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：事前に出題した課題に関するレポートに基づいて、担当の学生が説明・報告し、その内容をもとにグループディスカッションを行い、適宜教員が解説する。		
4年次：事前に出題した課題に関するレポート作成、発表等を通じて各自が研究テーマを決定し、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、適宜教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションを行いながら、適宜、教員が解説して進める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	捜査手続から判決に至るまでの各手続を理解し、各手続の適法性の基準を説明することができる。				3	3	3	3	3		3	
②	刑事手続の適法性を、具体的事例に即して即して適用し、判断することができる。						3	3	3	3		3
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければ ならない。 評価にあたっては、研究内容とゼミナール論文の内容のみ ならず、ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する。	40	60									100
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑事訴訟法判例百選（第10版）	井上 正仁ほか編	有斐閣	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
随時（sawada.yasuhiro@nihon-u.ac.jp） 火曜昼休み又は午後6時以降研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	23年間検事として勤務。
実務経験に基づく実践的教育の内容		元検事として、自ら経験した具体的事例を紹介しながら解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
2	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
3	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
4	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
5	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
6	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
8	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
9	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
10	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
11	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
12	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
14	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
15	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
16	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
17	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
18	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
20	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
21	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
22	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
23	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
24	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
26	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
27	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
28	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
29	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分
30	公判・証拠法		公判・証拠法に関する課題（事例問題）に対するレポートに基づき、発表・グループディスカッション	
	この回の到達目標	事例から刑事手続上の問題点を発見し、判例・学説等を用いて同問題点を解決することができる。		
	事前学修	事前に課題を出題するため、同課題に現れた刑事手続上の問題点について教科書や判例等を調査し、レポートを作成する。		120分
	事後学修	ディスカッションの内容を踏まえ、刑事手続上の問題点について整理しておくこと。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	柴田 秀一	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の既存メディアをはじめ、WebやSNSから発信された事柄と、実社会との関係、その事柄が実社会に与える影響やその責任について分析する。 3年時は、グループでテーマを決め研究をし、11月のゼミフォーラムでの発表とその発表を冊子化する。4年次は卒業論文のテーマを自主的に決定しゼミナール講座では中間発表と、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員の指導等のアドバイスを受け、卒業論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代は、マスメディア個人から発信される動画、言葉などの「情報」が瞬時に世界を駆け巡り、その反応も早く、時には数時間のうちに世界情勢は大きな変化を見せる。そのただ中で「情報」が与える社会への影響、発信者の役割、責任を解明、学修する。

【履修条件】
新聞学科のみではなく他の4学科に在籍し、既存メディアに強い関心があり、Web、コミュニケーション、ジャーナリズムにも関心と研究心を持つ者。

【授業方法】
学生の自主性に基づき、3年次は教員の助言や、先輩ゼミ生のアドバイスを受けながら討論をし、年間の研究テーマを決め、講座毎に研究調査のやり方を討論し、最終的に研究発表をし、その成果を冊子にまとめる。 4年次は、卒業論文を自主的に研究課題を選び、教員の助言等アドバイスを受けながら研究を進め、論文作成をし提出する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	映像資料（映画/テレビ番組等）を見せ、その分析と考察をレポートさせる。また、グループワークで映像表現について討論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	①メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、映像資料を見て、その内容について説明することができる。【知識】				4	4						
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、映像資料を見て、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。【知識】【技能】				4			4				
③	メディアで取り上げられた文字・文章、音声、映像等作品等資料を見て、その内容を踏まえて、自らの意見を述べる事が出来る。【態度】							4		4		
④	メディアで取り上げられた文字・文章、音声、映像等作品を見て、その内容を踏まえて、自らの意見を文章や映像等にまとめる事が出来る。【技能】							4		4		
⑤	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。【態度】								4	4		
⑥	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に進行やまとめ役をすることが出来る。【態度】									4	4	
⑦	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。【技能】								4			4
⑧	文字資料・映像資料を読み解き、その表現、事実の提示を理解し、法規範や社会常識に照らしての評価、意見表明や、考察ができる。【知識】【態度】									4		4
⑨	Webメディアと既存メディアが併存する中で、情報の偏りを防ぎながら広く情報を収集する意思と能力がある。【技能】					4	4					4
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標にかかわる能力が身についているかを、映像表現等についてのグループワークにおいて、自分の意見を述べる ことができたか等の評定尺度により受講生同士がお互いに 評価する。(ピア評価)				4	4	4	4	4	8		28
授業への参画度	授業毎に書かせるリアクションペーパーで、参画度を評価 する	1	1	1	1	1	1	1				7
その他(ゼミナル 論文)	4年次に出される卒業論文の内容が中間発表とアドバイスの 結果、書式の指定とともに、充実したものとなっている かの評価をする。	5	10	5	5	10	5	5	5	15		65
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	11	6	10	15	10	10	9	23		100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中間、まとめのレポート提出について、授業内で解説を行う。また、リアクションペーパーに書かれた疑問点については、適宜授業内で 触れる。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア [新版]		藤竹 暁	NHKブックス 1196	2018	参考書	推奨
メディアと日本人		橋元良明	岩波新書1298	2011	参考書	推奨
メディア社会		佐藤卓己	岩波新書1022	2006	参考書	推奨
もうダメされないための「科学」講義		菊池誠 他	光文社新書541	2011	参考書	推奨
社会の真実の見つけ方		堤 未果	岩波ジュニア文庫673	2011	参考書	推奨
街場のメディア論		内田 樹	光文社新書474	2010	参考書	推奨
備考	教科書は特に使用しないが、上記参考書は読んでおくことが望ましい。					

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	放送局におけるニュース取材から放送までの実務について
実務経験に基づく実践的教育の内容		日々流れるニュースで、授業日迄に流された特徴的なニュース、分かりにくいニュースについて、 特にメディアと社会の関係で取り上げられているものは、解説を加え講座で触れる。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション～メディアとは何か～		イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	2月合宿で話し合われた4年次卒論課題を調査、精査して、執筆可能な課題を2～3に絞る。		150分
	事後学修	個人・社会・メディアの関わりについて考える。講座の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
2	現代社会とメディアの関係①		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	2月合宿で話し合われた3年次課題を調査、精査して、執筆可能な課題を2～3に絞る。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
3	現代社会とメディアの関係②		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	メディア研究の入り口を理解する。到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	2月合宿で話し合われた4年次卒論課題を調査、精査して、執筆可能な課題を2～3に絞る。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
4	現代社会とメディアの関係③		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	2月合宿で話し合われた4年次課題を調査、精査して、執筆可能な課題を2～3に絞る。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
5	現代社会とメディアの関係④		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メディアと社会にの関連について考察できる。		
	事前学修	前月を受けて絞られた4年の卒論課題を調査し、資料を収集する。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分
6	現代社会とメディアの関係⑤		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。		
	事前学修	前月を受けて絞られた4年の卒論課題を調査し、資料を収集する。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあたっての、問題意識を身に付ける。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	現代社会とメディアの関係⑥		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。		
	事前学修	前月を受けて絞られた4年の卒論課題を調査し、資料を収集する。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあつての、問題意識を身に付ける。		90分
8	現代社会とメディアの関係⑦		現代社会とメディアの関係について、到達目標①～⑩に関して達成できるよう、3年、4年生で本年の研究課題について、討論する。また、以降第8講までは3年・4年合同開催とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。		
	事前学修	前月を受けて絞られた本年の研究課題を調査し、資料を収集する。		150分
	事後学修	講座・討論の内容を受け、自分の感じたことや思うことをノートに記述し整理し、今後メディア研究を行うにあつての、問題意識を身に付ける。		90分
9	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題		卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。3年・4年と別れて個別講義、討論とする また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。		
	事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。		150分
	事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。		90分
10	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題		卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。		
	事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。		150分
	事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。		90分
11	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題		卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。		
	事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。		150分
	事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。		90分
12	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題		卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。		
	事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。		150分
	事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題		卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。		
	事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。		150分
	事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。		90分
14	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題		卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。		
	事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。		150分
	事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。		90分
15	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題		卒業論文について、自主的に決めたテーマについてこれまでの調査研究で得た内容を中間報告し（3～4人ずつ）、ゼミ生同士の質疑応答等で問題点や、あいまいな点をを補いブラッシュアップする。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する。	
	この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論テーマの中間報告を分かりやすく説明できる。		
	事前学修	自らの卒論テーマを、非研究者に対して分かりやすく短時間で説明するためにレジュメ、パワーポイントを使用するなど工夫をした発表を準備する。		150分
	事後学修	講座を経て、ゼミ生や教員から指摘された内容を再度検討し、必要があれば資料を調べ直し、文章を練り直す。		90分
16	卒論中間発表・指導・質疑 メディアと社会の今日的問題		卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄4か月半になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
17	卒論終盤段階発表 A班 発表事前相談		卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄4か月半になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
18	卒論終盤段階発表 A班発表		卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する	
	この回の 到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄4か月半になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
19	卒論終盤段階発表 B班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄4か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する。		90分
20	卒論終盤段階発表 B班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄4か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
21	卒論終盤段階発表 A班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄4か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
22	卒論終盤段階発表 A班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄4か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
23	卒論終盤段階発表 B班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄3か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
24	卒論終盤段階発表 B班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄3か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
25	卒論終盤段階発表 A班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄3か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
26	卒論終盤段階発表 A班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄3か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
27	卒論終盤段階発表 B班 発表事前相談	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄2か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
28	卒論終盤段階発表 B班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄2か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
29	卒論終盤段階発表 A班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。 また、メディアと社会の今日的問題について講義・討論する		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出迄2か月になったので、より具体的な疑問点、理論上や、調査上の不足点等をよく相談した上で、より分かりやすく、詳しく内容を吟味する。		150分
	事後学修	ゼミ生同士の質疑応答、担当教員からの指導、意見等を総合し、不足情報等を入れるために更に調査が必要な場合は加え、表現等を工夫する		90分
30	卒論終盤段階発表 B班発表	卒業論文について、個々のテーマの論文進捗状況について発表する。 A班、B班に分かれ、1週おきに発表し合い、ゼミ生同士の質疑応答、担当教員は内容等の指導する。		
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して卒論の中間報告を分かりやすく詳しく説明できる。		
	事前学修	卒論提出直前だったので、書かれた内容の誤字脱字等の確認、点検をきちんとし、丁寧な装丁や提出締め切りを間違得ることなく提出する。		150分
	事後学修	提出締め切りを間違得ることなく確認し確実に提出する。		90分

科目名	ゼミナール4年	担当者	清水 恵介	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法（財産法）に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法（財産法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ選択したテーマに関する高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（財産法）に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、合宿や法律討論会、他のゼミナールとの合同勉強会など、学修効果を高めるための創意工夫を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法（財産法）に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3						
②	民法（財産法）に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3					
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。					3				3	3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。					3		3	3	3	3	3	3
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	杉本 純子	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ゼミナール論文の作成を通し、倒産法における現代の諸問題への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
3年次のゼミナールを受講していること。倒産法Ⅰを受講していること。

【授業方法】
各自が決定した研究テーマについて、ゼミナール論文の作成に向けて随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行いながら、各自の研究テーマについて情報を共有する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、担当者から報告される研究テーマについてグループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産処理制度について、社会における必要性和役割を説明することができる。【知識】				3	3						
②	倒産法における現代の諸問題について、文献や書籍等を用いながら調べることができる。【技能】				3		3	3				
③	倒産法に関連する諸問題の中から、自分の研究テーマを選択することができる。【知識】				3	2	3	3				2
④	選択した研究テーマについて、文献等を調べながら、ゼミナール論文の内容を構想することができる。【技能】				2	3	2	3				
⑤	ゼミナール論文を執筆し、研究テーマについて自分の意見を記述することができる。【知識】				3	3	3	3				3
⑥	選択した研究テーマについて、問題意識や自分の意見を説明することができる。【知識】				3	3	3	3				3
⑦	研究テーマに関する報告を聞いて、ディスカッションを行いながら、自分の意見を述べる。【知識】				3	3	3	2		3		
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ゼミナール論文を執筆する。	10	10	10	10	10	10	10				70
討論・発表等	自分の研究テーマについての発表を行う。また、他のゼミ生の発表を聞きながら、そのテーマについてディスカッションも行う。						10	10				20
授業への参画度	ゼミナール活動への積極的な参加等も評価する。							10				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	20	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の講義時に、報告やディスカッションについて講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日12：00～13：00（事前にメールにてアポイントメントをとること）研究室：4号館413研究室 sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ゼミナール論文執筆のスケジュール確認		ゼミナール論文の執筆に向けたスケジュールや、テーマの選定方法などについて説明をする。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、1年間かけて執筆していくゼミナール論文のスケジュールを把握し、テーマの選定方法について認識することができる。		
	事前学修	3年次の倒産法の講義レジュメや、ゼミナールで行ったグループディスカッションのテーマや判例研究などを見直しながら、倒産法の知識の復習をする。		120分
	事後学修	ゼミナール論文執筆に関して、今後のスケジュールを確認し、自分の研究テーマについてインターネットや図書館などを利用しながら調査を始める。		120分
2	論文の執筆方法		これからのゼミナール論文執筆に関して、論文の執筆方法や文献の引用方法、脚注の付け方などを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関し、論文を執筆する上での基本的な作法を習得することができる。		
	事前学修	3年次で作成したグループワークの報告レジュメや、判例研究で作成した報告レジュメを見直し、文献の引用や脚注の付け方を復習しておく。		120分
	事後学修	論文の執筆方法や文献の引用方法、脚注の付け方を復習し、関心のある研究テーマに関する文献について、その構成や文献、脚注等を意識しながら読んでみる。		120分
3	研究テーマの選定①		ゼミナール論文を執筆するための研究テーマについて、自分の関心あるテーマ候補を報告しながら、研究テーマの選定を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を説明し、議論することができる。		
	事前学修	自分の関心ある研究テーマについて、図書館やインターネットなどを利用しながら調査を行い、問題意識を明確にする。		120分
	事後学修	研究テーマについて講義時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文のテーマとして、どのように展開していくか検討する。		120分
4	研究テーマの選定②		ゼミナール論文を執筆するための研究テーマについて、自分の関心あるテーマ候補を報告しながら、研究テーマの選定を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を説明し、議論することができる。		
	事前学修	自分の関心ある研究テーマについて、図書館やインターネットなどを利用しながら調査を行い、問題意識を明確にする。		120分
	事後学修	研究テーマについて講義時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文のテーマとして、どのように展開していくか検討する。		120分
5	研究テーマの選定③		ゼミナール論文を執筆するための研究テーマについて、自分の関心あるテーマ候補を報告しながら、研究テーマの選定を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を説明し、議論することができる。		
	事前学修	自分の関心ある研究テーマについて、図書館やインターネットなどを利用しながら調査を行い、問題意識を明確にする。		120分
	事後学修	研究テーマについて講義時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文のテーマとして、どのように展開していくか検討する。		120分
6	研究テーマの選定④		ゼミナール論文を執筆するための研究テーマについて、自分の関心あるテーマ候補を報告しながら、研究テーマの選定を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を説明し、議論することができる。		
	事前学修	自分の関心ある研究テーマについて、図書館やインターネットなどを利用しながら調査を行い、問題意識を明確にする。		120分
	事後学修	研究テーマについて講義時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文のテーマとして、どのように展開していくか検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	研究テーマの選定⑤		ゼミナール論文を執筆するための研究テーマについて、自分の関心あるテーマ候補を報告しながら、研究テーマの選定を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を説明し、議論することができる。		
	事前学修	自分の関心ある研究テーマについて、図書館やインターネットなどを利用しながら調査を行い、問題意識を明確にする。		120分
	事後学修	研究テーマについて講義時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文のテーマとして、どのように展開していくか検討する。		120分
8	研究テーマの選定⑥		ゼミナール論文を執筆するための研究テーマについて、自分の関心あるテーマ候補を報告しながら、研究テーマの選定を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を説明し、議論することができる。		
	事前学修	自分の関心ある研究テーマについて、図書館やインターネットなどを利用しながら調査を行い、問題意識を明確にする。		120分
	事後学修	研究テーマについて講義時に指摘や指導を受けた点、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文のテーマとして、どのように展開していくか検討する。		120分
9	目次の作成①		ゼミナール論文の研究テーマを確定させた上で、論文の構成を示す目次を作成していく。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を明確にし、論文の構成となる目次を作成して説明することができる。		
	事前学修	自分の研究テーマを確認し、その問題意識を明確にした上で、論文の構成となる目次を作成してみる。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文の目次を再構成してみる。		120分
10	目次の作成②		ゼミナール論文の研究テーマを確定させた上で、論文の構成を示す目次を作成していく。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を明確にし、論文の構成となる目次を作成して説明することができる。		
	事前学修	自分の研究テーマを確認し、その問題意識を明確にした上で、論文の構成となる目次を作成してみる。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文の目次を再構成してみる。		120分
11	目次の作成③		ゼミナール論文の研究テーマを確定させた上で、論文の構成を示す目次を作成していく。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関し、自分の関心ある研究テーマについて、その問題意識等を明確にし、論文の構成となる目次を作成して説明することができる。		
	事前学修	自分の研究テーマを確認し、その問題意識を明確にした上で、論文の構成となる目次を作成してみる。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通して気付いた点を復習し、ゼミナール論文の目次を再構成してみる。		120分
12	「問題の所在」の執筆①		ゼミナール論文の研究テーマについて、その問題意識を文章でわかりやすく執筆する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、研究テーマの問題意識を明確にし、文章で表現して説明することができる。		
	事前学修	自分の研究テーマの問題意識を確認し、文章で明確に表現できるよう執筆してみる。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、「問題の所在」を修正して完成させる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「問題の所在」の執筆②	ゼミナール論文の研究テーマについて、その問題意識を文章でわかりやすく執筆する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、研究テーマの問題意識を明確にし、文章で表現して説明することができる。	
	事前学修	自分の研究テーマの問題意識を確認し、文章で明確に表現できるよう執筆してみる。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、「問題の所在」を修正して完成させる。	120分
14	「問題の所在」の執筆③	ゼミナール論文の研究テーマについて、その問題意識を文章でわかりやすく執筆する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、研究テーマの問題意識を明確にし、文章で表現して説明することができる。	
	事前学修	自分の研究テーマの問題意識を確認し、文章で明確に表現できるよう執筆してみる。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、「問題の所在」を修正して完成させる。	120分
15	「問題の所在」の執筆④	ゼミナール論文の研究テーマについて、その問題意識を文章でわかりやすく執筆する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、研究テーマの問題意識を明確にし、文章で表現して説明することができる。	
	事前学修	自分の研究テーマの問題意識を確認し、文章で明確に表現できるよう執筆してみる。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、「問題の所在」を修正して完成させる。	120分
16	ゼミナール論文の進捗状況報告①	各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。	120分
17	ゼミナール論文の進捗状況報告②	各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。	120分
18	ゼミナール論文の進捗状況報告③	各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	ゼミナール論文の進捗状況報告④		各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。		120分
20	ゼミナール論文の進捗状況報告⑤		各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。		120分
21	ゼミナール論文の進捗状況報告⑥		各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。		120分
22	ゼミナール論文の進捗状況報告⑦		各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。		120分
23	ゼミナール論文の進捗状況報告⑧		各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。		120分
24	ゼミナール論文の進捗状況報告⑨		各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。		120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文の進捗状況報告⑩	各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。	120分
26	ゼミナール論文の進捗状況報告⑪	各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。	120分
27	ゼミナール論文の進捗状況報告⑫	各自が進めているゼミナール論文の執筆の進捗状況を報告し、執筆内容について指導を受け、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、各自のゼミナール論文の執筆状況を報告し、執筆するうえで生じた疑問点等を説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の執筆を各自で進め、疑問点や問題点などを確認しておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正する。	120分
28	ゼミナール論文完成に向けたまとめ①	これまで執筆してきたゼミナール論文の完成に向けて、まとめ作業を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、ゼミナール論文の完成に向けて、これまでの執筆内容を確認し、研究テーマに対する自分の私見を明確に説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて各自執筆を進め、研究テーマに対する私見をまとめておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正して、ゼミナール論文を完成させる。	120分
29	ゼミナール論文完成に向けたまとめ②	これまで執筆してきたゼミナール論文の完成に向けて、まとめ作業を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、ゼミナール論文の完成に向けて、これまでの執筆内容を確認し、研究テーマに対する自分の私見を明確に説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて各自執筆を進め、研究テーマに対する私見をまとめておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正して、ゼミナール論文を完成させる。	120分
30	ゼミナール論文完成に向けたまとめ③	これまで執筆してきたゼミナール論文の完成に向けて、まとめ作業を行っていく。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑦に関し、ゼミナール論文の完成に向けて、これまでの執筆内容を確認し、研究テーマに対する自分の私見を明確に説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて各自執筆を進め、研究テーマに対する私見をまとめておく。	120分
	事後学修	講義時に指摘を受けた点や、ディスカッションを通してふう気付いた点を復習し、執筆内容を修正して、ゼミナール論文を完成させる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政治学、政治思想および政治哲学に関する専門的な学修・研究を行う。 政治思想・政治哲学や政治理論の研究を通して、個人の自由と人格を尊重し、公共性への配慮を忘れず、弱者に対する共感と適切な批判精神を備えた市民の育成を目標とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学・政治思想・政治哲学に関する知識や社会人に求められるスキルだけでなく、良識と良心をそなえた市民として必要とされる規範意識を身につけることも目的とする。 3年次においては、3年次に決定したテーマにもとづき、ゼミナール論文を完成させる。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格した者のみを対象とする。

【授業方法】
課題図書 の 輪読 を 基礎 と し な が ら、学 生 に よ る 発 表 ・ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 中 心 に 授 業 を 行 う。その際、学生は積極的に議論を行う。 また、法桜祭の際に行われる「学生フォーラム」（学生による研究発表）の準備を、学生間の議論を

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生による発表・プレゼンテーション、また議論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。					4	4	4	4	4	4	4	4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	10	15									25
授業への参画度	ゼミナール内で実施する議論に積極的かつ主体的に参加し、論理的な発表を行うことができているかを評価する。	10	15									25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	政治学・政治思想史・政治哲学などの方法論や理論、またそれらに関する基本的概念を理解した上で、適切なテーマ・課題設定と論証を行い、論理的に結論を導き出すことに成功しているかを評価する。	25		15	10							50
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	30	15	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じて指定する。				

【オフィスアワー】
火曜日16:20-17:00 研究室（本館8階1808研究室） sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	100分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	140分

科目名	ゼミナール4年	担当者	高橋 雅夫	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
担当教員の専門領域に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また、学修効果を高めるため合宿やフィールドワークなどを行うほか、履修者からの要望も考慮しつつ授業を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3				
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3						
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。									3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。								3			3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	適宜指定する				

【オフィスアワー】
月曜日12:10～13:00（事前にメールでアポイントメントを取る） 研究室（本館6階1609） takahashi.masao@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	課題の確認・検討(1)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	高畑 英一郎	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：憲法の主要判例を読み込むことによって、現在の憲法的現実を理解する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法に関連する現代の諸問題について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定できるようになることを目標とする。また、憲法的素養の向上とともに、論理的思考力、問題発見能力、問題分析能力、衡平（バランス）感覚の養成を目指す。 4年次：憲法に関する現代の諸問題への理解を深め、自らの意見をゼミナール論文にまとめる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：報告担当者が割り当てられた憲法判例の内容・関連判例・学説状況などを報告する。他のゼミ生は、担当者の報告に対して質問することが求められる。そして、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。夏合宿において、中間発表を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年次、4年次ともに、ゼミ生は担当する課題やゼミナール論文の内容について報告するとともに、他のゼミ生との質疑応答をしなければならない。報告することとともに、他の参加者とともに議論を展開することが求められる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	憲法の基本的内容の理解					3	3	3	3	3	3	3
②	基本的な憲法判例の内容の理解					3	3	3	3	3	3	3
③	判例が説示する判例法理の理解					3	3	3	3	3	3	3
④	論理的思考力、問題発見能力、問題分析能力、衡平（バランス）感覚の体得					3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミ生は担当する課題を調査し、ゼミに置いて報告することが求められる。	5	5	5	10							25
授業への参画度	報告担当ではないゼミ生は、積極的に質疑応答に参加することが求められる。	5	5	5	10							25
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール4年次にゼミナール論文の提出が求められる。	10	10	10	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミの時間において各報告に対して講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
月曜18:00～ 9号館3階 高畑研究室（9303室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミナール論文テーマ発表	ゼミナール論文のテーマを各自が発表する。この講義はZoom面談式で実施する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文のテーマを各自が発表して、論文提出までのスケジュールを確認する。	
	事前学修	ゼミナール論文のテーマについて、概要を用意する。	120分
	事後学修	論文の作成と提出までのスケジュールを再確認する。	120分
2	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
3	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
4	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
5	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
6	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
8	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
9	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
10	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
11	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
12	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
14	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
15	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
16	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
17	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
18	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	ゼミ論進捗報告		各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
	この回の到達目標	憲各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
20	ゼミ論進捗報告		各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
21	ゼミ論進捗報告		各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
22	ゼミ論進捗報告		各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
23	ゼミ論進捗報告		各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
24	ゼミ論進捗報告		各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
26	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
27	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
28	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
29	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分
30	ゼミ論進捗報告	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告する。	
	事前学修	各自のゼミ論に関する調査、作成の進捗状況を報告できるように準備する。	120分
	事後学修	ゼミでの質疑応答や教員からのコメントを反芻し、論文作成に活用する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
特許法を中心として、知的財産法全般について、法律的な制度や判例などの考え方を学ぶとともに、現代的な課題についても発表を行い、ディスカッションを行うことで理解を深めていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作権法を中心として、知的財産法に関して、その制度の内容や現代的な問題を指摘し、これらを説明できるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
各テーマに基づいてグループごとに調べてきた内容を発表し、これに対してディスカッションをすることを中心とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	テーマの発表とそれに対するディスカッション及びフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	著作権法の基礎を理解し、説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	著作権法の各制度について理解を深め、説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	著作権に関する現代的な問題点について理解を深め、説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③について、ゼミナール論文により評価する。	10	20	20								50
討論・発表等	到達目標①②③について、ポイントを押さえた発表が行えているかについて評価する。	10	10	10								30
授業への参画度	到達目標②③について、積極的に授業にかかわり発言を行っているかについて評価する。		10	10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	40	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回のプレゼン発表の内容に基づいて適宜フィードバックを行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 著作権法第4版	高林龍	有斐閣	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12時10分～13時 教員研究室（事前に連絡のこと）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	知的財産法の概要	
	この回の到達目標	到達目標①について、知的財産法の概要を理解する。	
	事前学修	知的財産法の概要を調べてくる。	120分
	事後学修	知的財産法の概要を整理する。	120分
2	著作権の目的	著作権法第1条の目的について議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②について、著作権法第1条の法目的の内容を理解する。	
	事前学修	著作権法第1条について調べてくる。	120分
	事後学修	著作権法の法目的について整理する。	120分
3	著作権の客体 1	著作権の客体について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、著作物の内容を理解する。	
	事前学修	「著作物」の内容について調べてくる。	120分
	事後学修	「著作物」の内容について整理する。	120分
4	著作権の客体 2	著作権の客体について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、表現形式による著作物の分類について理解する。	
	事前学修	表現形式による著作物の分類について調べてくる。	120分
	事後学修	表現形式による著作物の分類について整理する。	120分
5	著作権の客体 3	二次的著作物について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、二次的著作物について理解する。	
	事前学修	二次的著作物を調べてくる。	120分
	事後学修	二次的著作物を整理する。	120分
6	著作権の客体 4	編集著作物，データベースの著作物について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、編集著作物，データベースの著作物について理解する。	
	事前学修	編集著作物，データベースの著作物について調べてくる。	120分
	事後学修	編集著作物，データベースの著作物について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	著作権の主体（１）		著作者について
	この回の到達目標	到達目標①②③について、著作者について理解する。	
	事前学修	著作者について調べてくる。	120分
	事後学修	著作者について整理する。	120分
8	著作権の主体（２）		共同著作について
	この回の到達目標	到達目標①②③について、共同著作について理解する。	
	事前学修	共同著作について調べてくる。	120分
	事後学修	共同著作について整理する。	120分
9	著作権の主体（３）		職務著作について
	この回の到達目標	到達目標①②について、職務著作について理解する。	
	事前学修	職務著作について調べてくる。	120分
	事後学修	職務著作について整理する。	120分
10	著作権の主体（４）		映画の著作者・著作権者について
	この回の到達目標	到達目標①②③について、映画の著作者・著作権者について理解する。	
	事前学修	映画の著作者・著作権者について調べてくる。	120分
	事後学修	映画の著作者・著作権者性について整理する。	120分
11	著作権の効力（１）		支分権について
	この回の到達目標	到達目標①②③について、支分権について理解する。	
	事前学修	支分権について調べてくる。	120分
	事後学修	支分権について整理する。	120分
12	著作権の効力（２）		侵害とみなす行為について
	この回の到達目標	到達目標①②③について、侵害とみなす行為について理解する。	
	事前学修	侵害とみなす行為について調べる。	120分
	事後学修	侵害とみなす行為について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	権利の制限（１）	著作権法の保護を受けない著作物について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、著作権法の保護を受けない著作物について理解する。	
	事前学修	著作権法の保護を受けない著作物更について調べてくる。	120分
	事後学修	著作権法の保護を受けない著作物更について整理する。	120分
14	権利の制限（２）	時間的限界について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、時間的限界について理解する。	
	事前学修	時間的限界を調べてくる。	120分
	事後学修	時間的限界を整理する。	120分
15	権利の制限（３）	著作権の制限規定について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、著作権の制限規定について理解する。	
	事前学修	著作権の制限規定について調べてくる。	120分
	事後学修	著作権の制限規定についてまとめる。	120分
16	権利の利用	権利の利用について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、権利の利用について理解する。	
	事前学修	権利の利用について調べてくる。	120分
	事後学修	権利の利用について整理する。	120分
17	著作者人格権	著作者人格権について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、著作者人格権について理解する。	
	事前学修	著作者人格権について調べてくる。	120分
	事後学修	著作者人格権について整理する。	120分
18	公表権	公表権について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、公表権について理解する。	
	事前学修	公表権について調べてくる。	120分
	事後学修	公表権について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	氏名表示権		氏名表示権について
	この回の到達目標	到達目標①②について、氏名表示権について理解する。	
	事前学修	氏名表示権について調べてくる。	120分
	事後学修	氏名表示権について整理する。	120分
20	同一性保持権		同一性保持権について
	この回の到達目標	到達目標①②について、同一性保持権について理解する。	
	事前学修	同一性保持権について調べてくる。	120分
	事後学修	同一性保持権について整理する。	120分
21	名誉声望を害する方法での利用の禁止		名誉声望を害する方法での利用の禁止について
	この回の到達目標	到達目標①②について、名誉声望を害する方法での利用の禁止について理解する。	
	事前学修	名誉声望を害する方法での利用の禁止について調べてくる。	120分
	事後学修	名誉声望を害する方法での利用の禁止について整理する。	120分
22	著作隣接権		著作隣接権について
	この回の到達目標	到達目標①②③について、著作隣接権について理解する。	
	事前学修	著作隣接権について調べてくる。	120分
	事後学修	著作隣接権について整理する。	120分
23	著作権と著作隣接権の関係		著作権と著作隣接権の関係) について
	この回の到達目標	到達目標①②③について、著作権と著作隣接権の関係) について理解する。	
	事前学修	著作権と著作隣接権の関係について調べてくる。	120分
	事後学修	著作権と著作隣接権の関係について整理する。	120分
24	実演家		実演家について
	この回の到達目標	到達目標①②③について、実演家について理解する。	
	事前学修	実演家について調べてくる。	120分
	事後学修	実演家について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	実演家人格権	実演家人格権について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、実演家人格権について理解する。	
	事前学修	実演家人格権について調べてくる。	120分
	事後学修	実演家人格権について整理する。	120分
26	レコード製作者	レコード製作者について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、レコード製作者について理解する。	
	事前学修	レコード製作者について調べてくる。	120分
	事後学修	レコード製作者について整理する。	120分
27	放送事業者・有線放送事業者	放送事業者・有線放送事業者について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、放送事業者・有線放送事業者について理解する。	
	事前学修	放送事業者・有線放送事業者について調べてくる。	120分
	事後学修	放送事業者・有線放送事業者について整理する。	120分
28	差止請求	差止請求について	
	この回の到達目標	到達目標①②③について、差止請求について理解する。	
	事前学修	差止請求について調べてくる。	120分
	事後学修	差止請求について整理する。	120分
29	損害賠償請求	損害賠償請求に関する手続について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、損害賠償請求に関する手続について理解する。	
	事前学修	損害賠償請求に関する手続について調べてくる。	120分
	事後学修	損害賠償請求に関する手続について整理する。	120分
30	著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否	著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否について	
	この回の到達目標	到達目標①②について、著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否について理解する。	
	事前学修	著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否について調べてくる。	120分
	事後学修	著作物性が否定される場合と不法行為責任の成否について整理する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：公共経済学と行動経済学における基礎理論を身につけるためにテキストの輪読とディスカッションを行う。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを見つけ、グループでゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：経済学、特に公共経済学と行動経済学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
3年次：演習形式で行う。各回の担当者を決め、担当者が担当箇所について説明を行う。すべての履修者が少なくとも1回は担当するように割り当てる。詳しい方法は第1回もしくは第2回授業で説明する。 4年次：グループで研究テーマを見つけ、それに対する調査・分析・論文作成を協働して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、ディスカッションを行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済学、特に公共経済学と行動経済学に関する基礎概念や基礎知識について理解し、説明できる。					3	3						
②	政治や経済に関する事項について考察を通して諸問題を発見し、自らの意見を述べることができる。							3	3	3	3		
③	積極的に議論に参加し、政治や経済に関する他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止めることができる。										3	3	3
④	解決すべき現代の社会問題に関する問いを自ら見つけることができる。					4	3		3	4			
⑤	上記問いに対して経済学に基づいた解決策を発信することができる。						4	4	4	4	4		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告等によって、到達目標①②に関わる能力が身についているかを評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	10	10									20
授業への参画度	到達目標②③について、授業内での質問や意見の発表、討論への積極的な参加、レポート等を通して評価を行う。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。		10	10								20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文によって、到達目標④⑤についてに関わる能力が身についているかを評価する。				20	40						60
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	20	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の報告に対して、授業中に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	第1回もしくは第2回授業の際に指示する。				

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取ること）研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	授業の進め方や成績評価の方法について説明を行う。	
	この回の到達目標	ゼミナールで学ぶことの意義について認識できる。	
	事前学修	ゼミナール論文作成の計画を立てる。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容を再確認し、ゼミナール論文作成の計画について再検討する。	120分
2	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
3	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
4	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
5	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
6	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆		120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。		120分
8	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆		120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。		120分
9	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆		120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。		120分
10	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆		120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。		120分
11	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆		120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。		120分
12	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆		120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
14	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
15	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
16	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
17	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
18	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
20	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
21	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
22	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
23	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
24	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文に関するディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の進捗状況とここまでの内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の内容の検討と執筆	120分
	事後学修	ゼミナール論文について授業で指摘された点を検討する。	120分
26	ゼミナール論文の報告	ゼミナール論文の内容について報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の報告の準備	120分
	事後学修	ゼミナール論文の完成に向けて授業で指摘された点を検討する。	120分
27	ゼミナール論文の報告	ゼミナール論文の内容について報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の報告の準備	120分
	事後学修	ゼミナール論文の完成に向けて授業で指摘された点を検討する。	120分
28	ゼミナール論文の報告	ゼミナール論文の内容について報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の報告の準備	120分
	事後学修	ゼミナール論文の完成に向けて授業で指摘された点を検討する。	120分
29	ゼミナール論文の報告	ゼミナール論文の内容について報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の報告の準備	120分
	事後学修	ゼミナール論文の完成に向けて授業で指摘された点を検討する。	120分
30	ゼミナール論文の報告	ゼミナール論文の内容について報告を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文の内容について説明することができる。	
	事前学修	ゼミナール論文の報告の準備	120分
	事後学修	ゼミナール論文の完成に向けて授業で指摘された点を検討する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
立福ゼミナール（経済政策論）は、根拠に基づく政策立案（EBPM）について学び、現実の社会課題についてそのどこが問題か、それを解決するための政策介入について考える。具体的には、少子高齢化、教育、医療、貧困・格差、まちづくり、環境、国際協力など、身近な社会課題を取り上げ、データ分析、議論の作法、論文執筆方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政策研究における基礎的な手法について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で、他のメンバーとの協働の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミのメンバーとの議論を通じて論文としてまとめていく。そうした活動を通じて、政策研究の奥深さに気づき、データ分析、論理的思考を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可

【授業方法】		
3年次：統計手法と論文執筆に関する講義と、パソコンを使った実習を終えたのち、グループ論文について発表し討論を行い作成する。合宿も開催する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時、発表を行い、ゼミ論文をまとめる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3年次：グループ論文についての報告とそれに対する討論をおこなう。 4年次：ゼミ論文についての報告とそれに対する討論を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済政策に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3						
②	計量分析に関する手法や留意点を深く理解し、これを適切に用いて研究を進めることができる。							4	4	4			
③	プレゼンテーションについての技術や方法について理解し、自分の研究について論理的に報告することが出来る。									3	3	3	
④	他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働してグループ論文執筆作業に取り組むことができる。										4	4	4
⑤	他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、課題を解決しながら段階的にゼミ論文の執筆を進めることができる。										4	4	4
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次に作成されるグループ論文について、学術論文としての形式を守ったうえで、論理的な記述を行っているかを評価する。				20							20
討論・発表等	グループ論文やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する議論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	3	4	3								10
授業への参画度	講義での積極的な発言、ゼミ全体に対する貢献を評価する。	3	4	3								10
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文について、学術論文としての形式を守ったうえで、論理的な記述を行っているかを評価する。					60						60
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		6	8	6	20	60						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題提出後にその都度対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
計量経済学の第一歩-実証分析のススメ-	田中隆一	有斐閣	2015	参考書	推奨
EBPMの経済学：エビデンスを重視した政策立案	大橋弘 編	東京大学出版会	2020	参考書	任意
「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法	中室牧子・津川友介	ダイヤモンド社	2017	参考書	任意
「家族の幸せ」の経済学 データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実	山口慎太郎	光文社	2019	参考書	任意
備考	教科書は用いない				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		ゼミの方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。また、根拠に基づく政策立案（EBPM）について日本及び各国の取り組みについて紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミ活動の全体像を把握すると共に、根拠に基づく政策立案（EBPM）について学び、学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、1年間の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認する。		120分
2	ゼミ論文の検討①		先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。		120分
3	ゼミ論文の検討②		先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		60分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。		180分
4	ゼミ論文の検討③		先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		60分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。		180分
5	ゼミ論文の検討④		先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		60分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。		180分
6	ゼミ論文の検討⑤		先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		180分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゼミ論文の検討⑥	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
8	ゼミ論文の検討⑦	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
9	ゼミ論文の検討⑧	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
10	ゼミ論文の検討⑨	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
11	ゼミ論文の検討⑩	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分
12	ゼミ論文の検討⑪	先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ゼミ論文の検討⑫		先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。		120分
14	ゼミ論文の検討⑬		先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。		120分
15	ゼミ論文の検討⑭		先行研究やデータのサーチを開始し、分析を行い、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、先行研究やデータについてサーチした結果を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントに対して、検討を行う。		120分
16	ゼミ論文の執筆①		論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。		
	事前学修	夏休みの取り組みを踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。		120分
17	ゼミ論文の執筆②		論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。		120分
18	ゼミ論文の執筆③		論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。		
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。		120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミ論文の執筆④	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
20	ゼミ論文の執筆⑤	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
21	ゼミ論文の執筆⑥	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
22	ゼミ論文の執筆⑦	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
23	ゼミ論文の執筆⑧	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
24	ゼミ論文の執筆⑨	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミ論文の執筆⑩	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
26	ゼミ論文の執筆⑪	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
27	ゼミ論文の執筆⑫	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
28	ゼミ論文の執筆⑬	論文を作成し、その経過を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
29	ゼミ論文の執筆⑭	論文を作成し、報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、論文執筆経過を報告し、議論することができる。	
	事前学修	前回の報告を踏まえ、進捗報告用の資料を作成する。	120分
	事後学修	ゼミで出されたコメントを踏まえ、ゼミ論文の執筆を行う。	120分
30	まとめ	ゼミ論文の提出に向けた最後の検討を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤に関連して、ゼミ論文がほぼ出来上がっている。	
	事前学修	ゼミ論文の執筆を行う。	120分
	事後学修	ゼミ論文の最終確認を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	田中 夏樹	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法に関する理論や重要判例を学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法に関する重要な理論について理解し、4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し、民法に関する理論への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：少人数のグループに分かれて重要判例を検討・報告する。報告された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3	3						
②	民法における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				3	3						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察し、他者と意見交換ができる。				4	4	4	4		3	3	3
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、民法における課題を自ら探求することができる。				4	4	4	4	4		3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	重要判例に関する報告や事例問題における討論の内容に応じて評価する。	5	5	10	10							30
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を執筆し、それを評価対象とする。	10	10	25	25							70
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール論文の執筆経過に応じて講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、授業において適宜指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	ゼミの進め方や課題について説明を行う	
	この回の到達目標	①②に関連し、民法の体系を理解し、民法が社会で果たす機能を説明できるようにする。	
	事前学修	事前に民法の中で興味のある分野や研究してみたい項目をあげておく。	120分
	事後学修	指定された課題について、グループで検討を行う。	120分
2	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
3	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
4	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
5	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分
6	判例報告	各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。	
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。	120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
8	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
9	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
10	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
11	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
12	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
14	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
15	判例報告		各グループで割り当てられた判例について報告する。	
	この回の到達目標	①②③に関連し、重要判例の理論構成を理解し、また判例の問題点を指摘し、それぞれについて説明できるようにする。		
	事前学修	該当する判例を各自調べてくる。		120分
	事後学修	当日扱った判例について、関連する学説や判例を踏まえ、位置づけを理解する。		120分
16	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
17	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
18	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分	
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分	
20	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分	
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分	
21	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分	
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分	
22	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分	
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分	
23	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分	
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分	
24	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。	120分	
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
26	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
27	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
28	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
29	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分
30	事例検討		検討対象の事例について、各グループに割り当てられた当事者の立場からの主張を考え、それぞれの立場に応じた理論的説得力のある主張を検討する。	
	この回の到達目標	①②③④に関連し、一方当事者からの主張を検討するだけでなく、他方当事者からなされた主張に対して、どのように反論するかを検討し、それぞれの理論構成を説明できるようにする。		
	事前学修	事前に各グループにおいて、割り当てられた当事者の法的主張を検討し、併せて相手方からの主張に対する反論を準備する。		120分
	事後学修	当日解答できなかった、あるいは論理的根拠が不十分だった点について、再度検討を行う。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代の憲法学・比較憲法学における重要トピックについて学ぶとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、これに関する研究論文を作成する。 3年次ゼミで取り扱うテーマについては、受講生と相談の上で決定する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：憲法学・比較憲法学における重要トピックを学ぶとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、これを研究する手法を身に付ける。また、グループワークの中で他者との協働の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容にもとづいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
とくになし。

【授業方法】
ゼミ受講生によるゼミ論文に関する報告・ディスカッションを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションによる憲法問題に関する討論	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代の憲法問題を考察することで、現代社会に関する深い知識を修得し、社会問題に対するアプローチを見出すことができる。					3	3	3	3				
②	比較憲法学の知見を修得し、「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。						3	3	3	3			
③	自己の研究について、内容や手法を含めて、他者に明確に説明し、また他の者の研究発表に対しても質疑・コメントができる。									3	3	3	
④	興味をもった憲法問題について、アカデミックな研究手法を用いて、研究論文が執筆できる。						4	4	4	4			4
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	各自の報告発表における準備のよさや報告のクオリティを総合的に評価する。	10	10	20								40
授業への参画度	自分以外のゼミ生の報告に対する質疑などを総合的に評価する。			10								10
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の完成度や独自性を総合的に評価する。				50							50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
各ゼミ回での教員による解説・評価	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回のゼミで指示する				

【オフィスアワー】	
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館1607） tamamushi.yuki@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ゼミナールの意義や今後のスケジュール、ゼミの進行などについて概説する。	
	この回の到達目標	今後のゼミ論文執筆の進行やゼミ論文の準備の仕方を理解し、次回以降のゼミの準備ができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	120分
	事後学修	次回以降のゼミで発表する報告レジュメ・原稿を作成する。	120分
2	論文テーマの個別報告①	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
3	論文テーマの個別報告②	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
4	論文テーマの個別報告③	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
5	論文テーマの個別報告④	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分
6	論文テーマの個別報告⑤	各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	論文テーマの個別報告⑥		各自の論文テーマに関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文テーマについて報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文テーマをより深めることができる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	論文テーマを再検討し、論文構成を作っておく。		150分
8	論文構成案の個別報告①		各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。		150分
9	論文構成案の個別報告②		各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。		150分
10	論文構成案の個別報告③		各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。		150分
11	論文構成案の個別報告④		各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。		150分
12	論文構成案の個別報告⑤		各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。		
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。		90分
	事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	論文構成案の個別報告⑥	各自の論文の具体的な構成および内容に関する報告およびそれに対する質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	各自の論文構成案について報告をし、これに対する質疑を受けることで、論文構成を洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文構成を再検討し、本格的な執筆に取り掛かる。	150分
14	論文の書き方①	論文の執筆にあたって必要となる引用ルールや参照方法などを具体的に解説する。	
	この回の到達目標	具体的な論文の執筆方法を学び、論文執筆に反映できる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	120分
	事後学修	これまで書いた文章について、執筆ルールに則った修正を施す。	120分
15	論文の書き方②	論文の執筆にあたって必要となる引用ルールや参照方法などを具体的に解説する。	
	この回の到達目標	具体的な論文の執筆方法を学び、論文執筆に反映できる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	120分
	事後学修	これまで書いた文章について、執筆ルールに則った修正を施す。	120分
16	論文内容の個別報告①	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
17	論文内容の個別報告②	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
18	論文内容の個別報告③	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文内容の個別報告④	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
20	論文内容の個別報告⑤	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
21	論文内容の個別報告⑥	夏季休暇中に執筆した論文について、中間報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、完成に向けて執筆を継続する。	150分
22	ゼミ論文の最終個別報告①	論文の最終案について、報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
23	ゼミ論文の最終個別報告②	論文の最終案について、報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
24	ゼミ論文の最終個別報告③	論文の最終案について、報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミ論文の最終個別報告④	論文の最終案について、報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
26	ゼミ論文の最終個別報告⑤	論文の最終案について、報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
27	ゼミ論文の最終個別報告⑥	論文の最終案について、報告を行う。	
	この回の到達目標	論文内容についての最終報告を行い、質疑を受けることで、論文内容をより洗練させることができる。	
	事前学修	事前配布資料を読んでおく。	90分
	事後学修	論文内容を再検討し、提出に向けて執筆を継続する。	150分
28	論文公聴会①	各自のゼミ論文を公聴会形式で発表する。	
	この回の到達目標	自分の見解を示した学術論文をプレゼンすることができる。	
	事前学修	ゼミ論文の内容をまとめてプレゼン資料を作成する。	120分
	事後学修	プレゼンの内容を文書化して、論文要旨を作成する。	120分
29	論文公聴会②	各自のゼミ論文を公聴会形式で発表する。	
	この回の到達目標	自分の見解を示した学術論文をプレゼンすることができる。	
	事前学修	ゼミ論文の内容をまとめてプレゼン資料を作成する。	120分
	事後学修	プレゼンの内容を文書化して、論文要旨を作成する。	120分
30	ゼミ論文に対する講評	各自のゼミ論文に対する教員の講評を行う。	
	この回の到達目標	これまでの論文執筆活動を総括し、ゼミ論文の内容に対する客観的評価を聞くことで、更なる課題を見つけることができる。	
	事前学修	自分のゼミ論文をもう一度よく読み返しておく。。	120分
	事後学修	講評を参考にして、修正可能な点については修正を施す。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	塚本 晴二郎	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
新聞学に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，新聞学の関心領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
新聞学に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ関心領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
新聞学に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，学生フォーラムへの参加，新聞学に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，ゼミナールごとに学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと考えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミ ナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判 的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	論文テーマの確定(1)		選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
2	論文テーマの確定(2)		選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。		120分
3	文献の収集(1)		確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。		120分
4	文献の収集(2)		確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。		120分
5	文献の収集(3)		確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。		120分
6	文献の確認・整理(1)		収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。		120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	文献の確認・整理(2)		収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	文献の確認・整理(3)		収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	学説等の確認・検討(1)		整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討(2)		整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討(3)		整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討(1)		まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	課題の確認・検討(2)		整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。		120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。		120分
14	課題の確認・検討(3)		整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。		120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。		120分
15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説		夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。		
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
16	論文の第一次報告(1)		ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
17	論文の第一次報告(2)		ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
18	論文の第一次報告(3)		ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	論文の第一次報告(4)		ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
20	論文の第一次報告(5)		ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
21	論文の第一次報告(6)		ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。		120分
22	論文の第二次報告(1)		第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。		120分
23	論文の第二次報告(2)		第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。		120分
24	論文の第二次報告(3)		第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。		120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	友岡 史仁	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
経済行政法をテーマとした研究課題を、関連する設問や討論会を通じて深め、リーガルマインドの形成とあわせて、履修者同士の問題発見や討論方法などを学んでいきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：経済行政法におけるさまざまな課題について、与えられた設問からいかなる法律問題が存在するかを発見する能力を身に付けます。その応用として、討論会の準備を通じてグループワークの大切さを学ぶと同時に、社会に出た際の不可欠な能力をあわせて取得することを目指します。
4年次：3年次に習得したリーガルマインドに基き、経済行政法に関連した各自の興味・関心に沿う研究テーマを選択したうえで、ゼミナール論文（卒業論文）に関わる中間報告やレポート等の提出を行い、個別の指導を受けたうえで完成を目指します。

【履修条件】
本ゼミナールでの入室試験（面接試験）合格者のみを受講可とします。可否の大まかな判断基準としては、自分の言葉で意思表示できること、2年間継続する強い意思、積極的なゼミ活動への参加意欲などです。

【授業方法】
担当者が事前準備した課題を全員が予習し、授業時にその成果を報告し全体で討論します。このほか、他大学のゼミナールとの討論会を予定します。あわせて、ゼミナール論文（卒業論文）の作成にかかわる研究テーマの設定を報告や討論を通じて行い、その完成途中での個別指導などを行います。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	復習レポートの提出、討論会に向けたシラバス等の作成を個人またはグループで行うほか、ゼミナール論文（卒業論文）の作成にあたり、都度担当者がチェックをし、ゼミ内または個別に指摘をすることで、リーガルマインドの素養を取得していきます。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	履修者が課題を通じて「行政上の規制」のさまざまな現象を現実具体的に理解できるようにする。						3	3			3	3	3	3
②	履修者が法的な言葉遣いでゼミナール内で習得した知識を説得的に語れるよう説明する。								3	3	3	3	3	3
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	3年次は履修者全員が前期中は毎回出される課題に対する復習レポートの作成・提出を求める。4年次もゼミナール論文(卒業論文)の作成に当たり発見したテーマについてレポート等にまとめる。	20	10									30
討論・発表等	3年次は履修者全員が後期中は予定される討論会時に利用されるレジュメの作成とその他のための論点整理等の報告を求める。4年次はゼミナール論文(卒業論文)に関する自ら決定した研究テーマを深めるための報告を行い、それに基づき完成させる。	20	10									30
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートがあれば全体または個別に講評し、グループ学習の場合は問題点を担当者が先に指摘したうえで、全体で再度検討の機会を設ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
経済行政法	友岡史仁	弘文堂	2015	教科書	必携
NBS行政法	下山＝友岡＝筑紫	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜昼休み、9号館210研究室（事前のアポをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【前期オリエンテーション】ゼミナール論文（卒業論文）の重要性を確認する	ゼミナール論文（卒業論文）に関連したテーマを選べるよう、より精度を増した情報検索の方法や判例の読み方、引用方法などの論文作成のノウハウについて説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論文を作成することの意味を理解することを目指します。	
	事前学修	3年次に学習した内容を踏まえて、自分がゼミナール論文（卒業論文）論文作成時に当たり関心をくださいテーマをどのように深掘したらよいのかについて、あらかじめ検討します。	120分
	事後学修	テーマ選定を行う上での指針を自分自身でたてます。	120分
2	ゼミナール論文（卒業論文）作成のためのテーマ設定①	テーマ選定にあたり、どのような視角から検討するかを学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、検討する場合の論点抽出方法を理解できることを目指します。	
	事前学修	ゼミ当日にできる限り関心のある時事問題を選んできます。	120分
	事後学修	ゼミ時に指摘された内容に従い、多数の論点が含まれているかについて再検討します。	120分
3	ゼミナール論文（卒業論文）作成のためのテーマ設定②	第2回目で学んだ方法と事後学修に照らして準備した内容を踏まえて、精度を上げたテーマ内容になるよう、絞り込む作業をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テーマの絞り方でどのような問題が各種文献やさまざまな情報源で取り上げられているかを発見することを目指します。	
	事前学修	第2回目で学んだ論点抽出方法について、関連する各種文献や情報源を探索します。	120分
	事後学修	ゼミ時に指摘された内容に従い、第4回目でテーマの絞り込むを行う準備をするための文献・情報検索を行います。	120分
4	ゼミナール論文（卒業論文）作成のためのテーマ設定③	ゼミナール論文（卒業論文）で実際に取り上げるテーマを絞り込み、できる限り論文の完成につながるように検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第3回目までに調べた内容を精査したうえで、それらが論文作成に当たり正しいものとなっているかが理解できることを目指します。	
	事前学修	第3回目までに多様な方法で取得した情報に照らして、自ら設定したテーマに考察すべき論点を含んでいるのかを検討します。	120分
	事後学修	次回からの本格的な情報収集作業のために、自ら選択したテーマにどのような諸文献があるのかを検索し、必要に応じて読了します。	120分
5	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための情報収集方法の学習①	第4回目までにテーマの絞り込みに際し必要となった情報の存在を確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第4回目まで調べた内容を裏付ける情報の存在が何であるのかを発見することを目指します。	
	事前学修	第4回目までに習得した情報が錯綜していないかを、確認していきます。	60分
	事後学修	情報収集作業の第1回目を通じて得られた情報を、自ら選択したテーマとどの程度関わり合いがあるのかを精査しながら、それに不足している情報を発見します。	180分
6	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための情報収集方法の学習②	引き続き関連する情報の存在を確認する作業とあわせて、その情報の正確性を別の情報と照合する作業を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、一つの情報だけでなく他の情報と照らし合わせる作業を通じて、自ら選択したテーマに多様性を持たせるようにします。	
	事前学修	前回までに整序できた情報を、より系統立てるための縦軸を意識した整理を試みます。	60分
	事後学修	多様性を持たせることで発見できた新たな情報を深められる論点を発見します。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための情報収集方法の学習③	前回までにある程度情報収集を行ったことで発見し整序できた論点について、肉付けをする作業を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、論点の多様化によって得られた知識を具体的に活用するための方策を発見します。	
	事前学修	情報収集を通じて得られた情報源をたどりながら、肉付けできそうな他の情報を文献のみならず、実際に関連組織や人的関係をたどることができるかを発見していきます。	60分
	事後学修	具体的方策を発見できたら、それを文章に落とし込む前のメモ等の作成を行います。	180分
8	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための情報収集方法の学習④	これまでテーマの多様化や発見した情報の整合性などの作業を通じて、多数の情報に接したことで、次の論点整理の作業にかかわる情報収集作業の集大成を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、収集できた情報源が正しいものであるのか、学術的に信頼が置けるのかといった第三者の視点に立つ必要性を学びます。	
	事前学修	第7回目までに得られた情報のリストアップを行います。	60分
	事後学修	信頼性に足る情報源であることの確認を引き続き怠ることなく、社会的に還元できるための情報源の習得に引き続き励みます。	180分
9	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための論点整理①	前回までに十分に情報収集作業ができたことを前提にして、自ら選択したテーマについて賛否が分かれる視点を整理します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、収集した情報を賛否に分けて整理する能力を身につけます。	
	事前学修	作成したリストアップをもとに賛成と反対の考え方がそれぞれあるかについて、検討します。	120分
	事後学修	整理できた論点が正しいかを、さらに収集できた情報に照らして精査します。	120分
10	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための論点整理②	賛否に分かれた論点がさらに枝分かれてしているかを、改めて検証します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、枝分かれする際にも新しい論点であることを発見する能力を身につけます。	
	事前学修	収集できた情報に照らした情報がどの程度枝分かれするかを、自らの頭で検証してみます。	120分
	事後学修	枝分かれした論点が最初の論点とどの程度整合的であるかを、再度検証します。	120分
11	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための論点整理③	最初の起点と枝分かれした支点との整合性を確認したうえで、それを法的に説明し得るかについて、検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自ら発見した論点に照らし合わせながら、その法的解決策を見出すための思考能力の育成を図ります。	
	事前学修	多数の論点を出せる場合はその集約、少数の論点しか存在しない場合は選択したテーマそのものの妥当性を、この時点で検証します。	120分
	事後学修	確信を得た論点をフローチャート等で起こすなどの作業を心がけます。	120分
12	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための論点整理④	第13回目の作業に向けて、これまで発見したさまざまな論点を文字化し、そこに適切なタイトルを付すことを学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、錯綜する論点を集約する力を身につけたうえで、それを総括できる思考力を養います。	
	事前学修	思考の整理をするため、改めて関連する文献を読了するなどします。	120分
	事後学修	第13回目以降の目次作成に向けた作業のためにレジュメ等を作成し、報告準備をします。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための目次作成①	選定したテーマに係る主副の各論点を交えて、自分の伝えたい内容を検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第12回までに整理した諸論点が適切に体系化できるための思考能力を養います。	
	事前学修	伝えたい内容をレジュメに起こし、それらを口頭でいえるよう準備します。	120分
	事後学修	伝えられているかを確認したうえで、それができていなかった場合、不足している場合などを、各自顧みたうえで、第16回目からの中間報告会に向けた準備を行います。	120分
14	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための目次作成②	第13回目までには伝えられなかった選定したテーマに係る主副の各論点について、検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、他の履修者との議論を通じて得られた内容を踏まえて、諸論点を適切に体系化できるための思考能力を養います。	
	事前学修	伝えたい内容をレジュメに起こし、それらを口頭でいえるよう準備します。	120分
	事後学修	第14回目までに伝えられているかを確認したうえで、それができていなかった場合、不足している場合などを、各自顧みたうえで、第16回目からの中間報告会に向けた準備を行います。	120分
15	ゼミナール論文（卒業論文）作成のための目次作成③と方針確定	第14回目までには伝えられなかった選定したテーマに係る主副の各論点について、検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、他の履修者との議論を通じて得られた内容を踏まえて、諸論点を適切に体系化できるための思考能力を養います。	
	事前学修	伝えたい内容をレジュメに起こし、それらを口頭でいえるよう準備します。	120分
	事後学修	第15回目までに伝えられているかを確認したうえで、それができていなかった場合、不足している場合などを、各自顧みたうえで、第16回目からの中間報告会に向けた準備を行います。	120分
16	【後期オリエンテーション】経過報告のための準備	第15回目までにできあがった目次案を検討することの妥当性を確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第15回目までに作業してきた一連の内容について、その正当性が第三者に説明できる思考能力を身につけます。	
	事前学修	目次案に照らしてタイムラグのある情報について、改めて収集を心がけます。	60分
	事後学修	第三者に正当性を説明できることが分かったことから、できる限り文字化してゼミナール論文（卒業論文）の体裁に近づけていく作業を始めます。	180分
17	中間報告会①	各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、全体で討論できるに値するプレゼンテーションの仕方を学びながら、履修者全員から納得が得られる表現力を身につけます。	
	事前学修	報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	120分
	事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行います。	120分
18	中間報告会②	第17回目と同様に、各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第17回目と同様に、全体で討論できるに値するプレゼンテーションの仕方を学びながら、履修者全員から納得が得られる表現力を身につけます。	
	事前学修	第17回目と同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。	120分
	事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行うのは、第17回目と同様です。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	中間報告会③		前回と同様に、各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回と同様に、全体で討論できるに値するプレゼンテーションの仕方を学びながら、履修者全員から納得が得られる表現力を身につけます。		
	事前学修	前回までと同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。		120分
	事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行うのは、前回までと同様です。		120分
20	中間報告会④		前回と同様に、各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回と同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。		
	事前学修	前回までと同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。		120分
	事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行うのは、前回までと同様です。		120分
21	中間報告会⑤		前回と同様に、各回2～3名程度に分かれて、目次案に照らした各章立てに照らした文章をできるだけ執筆したうえで、その内容を3年生を含めたゼミナール全体で共有し、討論を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前回と同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。		
	事前学修	前回までと同様に、報告予定者は自ら選択したテーマに照らし、自ら執筆中の文章が説得力ある内容であることを全体に公表できるよう準備します。		120分
	事後学修	プレゼンテーション担当者は討論で得られた思考力を文字に反映し、以降の担当者はその様子に刺激を受けたことにより自らの報告予定内容に一層の磨きをかける作業を行うのは、前回までと同様です。		120分
22	卒論作成時の文書チェック①		第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。		
	事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。		120分
	事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みます。		120分
23	卒論作成時の文書チェック②		第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。		
	事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。		120分
	事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みます。		120分
24	卒論作成時の文書チェック③		第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。		
	事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。		120分
	事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みるのは、前回と同様です。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	卒論作成時の文書チェック④	第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。	
	事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。	120分
	事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みるのは、前回までと同様です。	120分
26	卒論作成時の文書チェック⑤	第21回目まででタイトル、目次案、そしてそれに沿って起こした文章について、各回2から3名に分かれて、担当者からの内容面での指導とその反映作業を反復継続を行い、必要に応じて再度の中間報告を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、執筆した言語として論文の体裁となっているのかなどの、論文作成のイロハに立ち返って第三者に公表できる高いレベルの研究内容になることを目指します。	
	事前学修	第21回目までの内容を踏まえて、できるだけ分析を加えたものになるよう執筆します。	120分
	事後学修	文書チェックを受けた内容次第で、最新情報等の収集が必要な場合はそれも踏まえて、タイムラグで古くなった情報をアップデートなものにするなどを試みるのは、前回までと同様です。	120分
27	卒論完成の最終確認①	第26回までに執筆作業を行ってきたことを、担当者から反復継続的にチェックを受け、最終的な体裁を整えます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自ら選定したテーマに対する分析能力、文章能力を通じてリーガルマインドが育成されることを目指します。	
	事前学修	第26回目までの内容を踏まえて、論文としての体裁を整えられるよう、本文のほかにも引用の形式なども踏まえて、担当者のチェック前に入念に自らもチェックします。	120分
	事後学修	チェックを受けたうえで、誤りなアップデートしきれていない内容、引用の方法などを再度確認します。	120分
28	卒論完成の最終確認②	第26回までに執筆作業を行ってきたことを、担当者から反復継続的にチェックを受け、最終的な体裁を整えます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自ら選定したテーマに対する分析能力、文章能力を通じてリーガルマインドが育成されることを目指します。	
	事前学修	第26回目までの内容を踏まえて、論文としての体裁を整えられるよう、本文のほかにも引用の形式なども踏まえて、担当者のチェック前に入念に自らもチェックします。	120分
	事後学修	チェックを受けたうえで、誤りなアップデートしきれていない内容、引用の方法などを再度確認するのは、前回と同様です。	120分
29	卒論完成の最終確認③	第26回までに執筆作業を行ってきたことを、担当者から反復継続的にチェックを受け、最終的な体裁を整えます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自ら選定したテーマに対する分析能力、文章能力を通じてリーガルマインドが育成されることを目指します。	
	事前学修	第26回目までの内容を踏まえて、論文としての体裁を整えられるよう、本文のほかにも引用の形式なども踏まえて、担当者のチェック前に入念に自らもチェックします。	120分
	事後学修	チェックを受けたうえで、誤りなアップデートしきれていない内容、引用の方法などを再度確認するのは、前回までと同様です。	120分
30	【ゼミ全体の総括】卒論完成・2年間の反省と展望	最終確認を受け体裁が整った卒論を提出し、改めて3年次から自らを振り返る作業をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自らの言葉で第三者に説得的に物事を語ることで社会に還元できるリーガルマインドの育成を試みます。	
	事前学修	卒論作成以外にも、3年次の課題や討論会の内容を踏まえたうえで、何が不足していたか、何が成長していたかを自らの言葉で履修者全員に公表できるよう準備します。	120分
	事後学修	2年間を通じて得られた経験を、できるだけ社会に還元できるようにします。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
受講生は、自らの興味関心に関連するジャーナリズム、またはメディア分野についての高度な知識の学修に努めつつ、他の受講者との協働を通じて互いの能力を高め合いながら、ゼミナール論文を執筆する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生は、3年次のゼミナールで見出した自らの興味関心に関連する研究テーマに取り組み、自らの学修状況を自己分析しつつその研究テーマに関する高度な知識を身につけ、社会学的なメソッドを用いてゼミナール論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
3年次のゼミナール入室試験合格者のみ受講可とする。

【授業方法】
受講生は、ゼミナール論文の進行状況について発表する。その発表をもとに、ゼミナール受講者でディスカッションする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者による発表を聞き、それにともなうディスカッションに参加することで、問題意識に対する考察を深めることを通じてその解決を目指す（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	研究テーマに関する基本用語や概念について深く理解し、それらを適切に用いてディスカッションすることができる。				4							
②	研究テーマに関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いてディスカッションすることができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的にゼミナール論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	研究テーマに関する高度な知識をもとに、より良い社会の構築に寄与しようと思えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の受講者の意見を謙虚に受け入れ、積極的に生産性のあるディスカッションに参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の受講者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	研究テーマの発表とそれにもなうディスカッションにおいて、高度な知識に基づいた論理的な発表、ディスカッションができているかを基準として、到達目標①②③④⑥⑦⑧に関する能力が修得できているかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度	自らの発表担当に真摯に取り組んでいるか、発表後に実施されるディスカッションに積極的に参画しているか等を基準として、到達目標①②③④に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文において、論理的かつ批判的な観点から論文を執筆できているかを基準として、到達目標①②③④⑤に関する能力が獲得できているかを評価する。	5	5	5	5	10						30
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール時のディスカッションを通じて課題に対するフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの概要や進め方について説明し、受講する準備を整える。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、講読文献に対する理解を深める。	
	事前学修	シラバスを読み、ゼミナールの概要や進め方について概観する。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を確認して、自らが取り組む課題について検討する。	120分
2	研究経過の発表（1-1）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
3	研究経過の発表（1-2）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
4	研究経過の発表（1-3）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
5	研究経過の発表（1-4）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
6	研究経過の発表（1-5）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	研究経過の発表（1-6）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
8	研究経過の発表（1-7）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
9	研究経過の発表（2-1）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
10	研究経過の発表（2-2）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
11	研究経過の発表（2-3）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
12	研究経過の発表（2-4）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	研究経過の発表（2-5）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
14	研究経過の発表（2-6）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
15	研究経過の発表（2-7）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
16	研究経過の発表（3-1）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
17	研究経過の発表（3-2）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
18	研究経過の発表（3-3）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究経過の発表（3-4）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
20	研究経過の発表（3-5）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
21	研究経過の発表（3-6）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
22	研究経過の発表（3-7）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
23	研究経過の発表（4-1）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
24	研究経過の発表（4-2）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究経過の発表（4-3）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
26	研究計画の発表（4-4）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
27	研究経過の発表（4-5）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
28	研究経過の発表（4-6）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
29	研究経過の発表（4-7）	ゼミナール論文について、その研究テーマに即して研究の進行状況について発表する。	
	この回の到達目標	ディスカッションを通じて、ゼミナール論文の内容を検討する。	
	事前学修	発表担当者は、卒業論文のテーマと内容についてレジュメにまとめる。	120分
	事後学修	発表担当者は、ディスカッションを通じて得られた知見を卒業論文に反映する。	120分
30	ゼミナール論文の最終検討	受講生相互でゼミナール論文の内容を検討する。	
	この回の到達目標	受講生相互にゼミナール論文の内容を検討し、その改善を模索する。	
	事前学修	受講生は、自らのゼミナール論文を推敲して可能な限り完成度を上げる。	120分
	事後学修	受講生は、相互検討で指摘されたコメントを参考として、ゼミナール論文を改善する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
・ 近現代の日本政治に関わる文献・資料を読み、それに基づく発表と討議を通じて、学問・研究の方法を学修する。 ・ 日本政治史に関して自分の研究課題を選定し論文を書く。そのために必要な方法を学び、能力を身につける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・ 大人の基礎能力として、社会科学的なものの見方・考え方（客観性・論理性）を身につける。 ・ 社会人の基礎能力として、文献の読解方法や事実の捉え方・調べ方を修得する。 ・ 社会人の基礎能力として、「誰が読んでも理解できる説明文」を書けるようになる。

【履修条件】
入室試験（面接）の合格者。地道な修学・研究作業の継続、ゼミ活動全般への主体的参加を求める。

【授業方法】		
①【文献に基づく発表と討議】文献の読み方、史実の捉え方と調べ方、研究発表の方法等を、実践を通じて指導する。 ②【研究と論文作成】学問的な研究課題の設定、文献の探索・選択・読解方法、史実の扱い方と説明方法、説明文の執筆法等を、論文構想と執筆の実践を通じて指導する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミナールの諸活動はすべて学生が主体です。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会事象に関する客観的・論理的な捉え方・考え方を身につける				4	4	4	4				4
②	近現代日本の国家・政治・社会に関する歴史的知識を得て、自らが生きる現代日本の成り立ちを理解する				4	4	4	4				4
③	学問的な文献の適切な探し方・選び方を修得し、文献を正しく読解できるようになる				4	4	4	4	4	4		4
④	日本語能力を高める（語彙の増加、用語法と適確な文章表現の修得、他者への伝達意識の向上等）				4	4	4	4	4	4	4	4
⑤	物事を客観的・論理的に説明し、正確に伝達できるようになる（口頭および文章で）				4	4	4	4	4	4	4	4
⑥	他者の発表や論文の論旨を理解し、論理的で公正な検討・批判ができるようになる				4	4	4	4	4	4	4	4
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	文献の読解と発表の質、討議（他者の研究に対する批判的 検討）の参加度と質	5	10	5		5	10					35
授業への参画度	文献読解、討論、その他ゼミ活動に対する主体的参加 学問と他者の研究に対する敬意、事実の究明に対する真摯 で公正な態度	5		5			5					15
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文：研究作業（論文作成プロセス）の質と 量、論文の達成度	10	5	10	10	15						50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	20	10	20	15					100

【課題に対するフィードバックの方法】
直接伝える

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
講読発表用の共通文献（開講後、相談の上で決定）				教科書	必携
発表および論文作成のための参考文献				参考書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ゼミ始動準備 導入講義		ゼミの運営法・日程、共通文献、発表担当等を相談し、決定する ※以下に示す計画日程は人数等により適宜変更する（大枠は不変）	
	この回の 到達目標	協力してゼミ運営について考え、意見を述べ、決定する。自分たちのゼミだという自覚を持つ。		
	事前学修	共同で講読する文献について要望をまとめる。		90分
	事後学修	決定事項に従って、なすべき準備をする。		120分
2	発表の要領 文献に関する説明		共通文献に基づく発表の要領、文献と調査方法について説明する。	
	この回の 到達目標	学術文献の種類と見方（選択判断の手掛り）、検索の方法について学ぶ。		
	事前学修	共通文献を入手し目を通しておく。		120分
	事後学修	文献検索を実践してみる（想定する研究対象に関わる参考文献を探し、適切性の判断をして、読むべき文献をリストアップする）		180分
3	日本政治史研究の概説		日本政治史研究の概要、時期区分と代表的論題、題材への接近方法等を説明する。	
	この回の 到達目標	日本政治史研究の概要を把握し、自己の研究対象（題材や接近法）を見出す手掛りをつかむ。		
	事前学修	自分の研究対象を何にするか、関係文献を検索・読書しつつ思案する。 （次回発表担当者は準備に着手する）		120分
	事後学修	説明をふまえて、自己の研究対象の思案、参考文献の検索・読解を続ける。		180分
4	共通文献に基づく発表Ⅰ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分
5	共通文献に基づく発表Ⅰ②		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分
6	共通文献に基づく発表Ⅰ③		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の 到達目標	発表者：準備作業と発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法等を、実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	研究計画検討Ⅰ①		研究（論文）の題材・接近法・参考文献等の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、研究題材の選択・参考文献選択等の方法と適否を学ぶ。		
	事前学修	研究の題材を選定し、関係文献を検索・選定し、選定理由を含めて文書にまとめる。		180分
	事後学修	検討・指導をふまえて、研究作業の方法と適否を省察し、研究課題の思案につなげる。		60分
8	研究計画検討Ⅰ②		研究（論文）の題材・接近法・参考文献等の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、研究題材の選択・参考文献選択等の方法と適否を学ぶ。		
	事前学修	研究の題材を選定し、関係文献を検索・選定し、選定理由を含めて文書にまとめる。		180分
	事後学修	検討・指導をふまえて、研究作業の方法と適否を省察し、研究課題の思案につなげる。		60分
9	研究発表Ⅰ①		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。		90分
10	研究発表Ⅰ②		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。		90分
11	研究発表Ⅰ③		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の中核部分を発表して検討を受け、研究の内容・作業方法を省察し、研究の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて研究方法の適否を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）		240分
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の研究内容・方法等の適否を省察し、研究作業に反映する。		90分
12	共通文献に基づく発表Ⅱ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	共通文献に基づく発表Ⅱ②		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の設定・構成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分
14	研究計画検討Ⅱ①		研究（論文）の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定（題材・接近法の見直し）・参考文献読解等の方法と適否を学ぶ。		
	事前学修	現時点までの研究作業をふまえて、論題の設定、論題が持つ意味の文章化（序文執筆）、論題に即した参考文献の再考・補充を行い、文書にまとめる。		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、研究の題材・課題や方法を省察し、研究課題の明確化につなげる。		90分
15	研究計画検討Ⅱ②		研究（論文）の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定（題材・接近法の見直し）・参考文献読解等の方法と適否を学ぶ。		
	事前学修	現時点までの研究作業をふまえて、論題の設定、論題が持つ意味の文章化（序文執筆）、論題に即した参考文献の再考・補充を行い、文書にまとめる。		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、研究の題材・課題や方法を省察し、研究課題の明確化につなげる。		90分
16	中間論文の講評		提出した中間論文の講評を行う。	
	この回の到達目標	論文を書くという行為の意味と、それに必要な作業・方法・留意点等を認識し、自己の研究作業・文章表現等の適否を自覚する。		
	事前学修	提出した中間論文を読み直し、問題点・疑問点等を抽出しておく。		180分
	事後学修	講評をふまえて、研究の内容・方法、論文構想を再考し、改善につなげる。		90分
17	共通文献に基づく発表Ⅲ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分
18	共通文献に基づく発表Ⅲ②		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	発表と討議・指導をふまえて、読解・論題・発表等の方法と適否を省察し、次回の改善につなげる。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	論文計画検討Ⅰ①		論文の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定とその説明方法、文献読解等を省察し、論文構想を明確化する。		
	事前学修	中間論文の添削・講評とその後の研究作業をふまえて論文構想を立て、それに即して参考文献を更新し、文書化する。	210分	
	事後学修	検討・指導をふまえて、論文構想の練り直し、知識・理解不足の補充（文献の補充・読解）を行い、論文構想の具体化と改善につなげる。	90分	
20	論文計画検討Ⅰ②		論文の課題設定・論点整理・参考文献更新の案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、課題設定とその説明方法、文献読解等を省察し、論文構想を明確化する。		
	事前学修	中間論文の添削・講評とその後の研究作業をふまえて論文構想を立て、それに即して参考文献を更新し、文書化する。	210分	
	事後学修	検討・指導をふまえて、論文構想の練り直し、知識・理解不足の補充（文献の補充・読解）を行い、論文構想の具体化と改善につなげる。	90分	
21	研究発表Ⅱ①		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分	
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分	
22	研究発表Ⅱ②		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分	
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分	
23	研究発表Ⅱ③		研究内容の一部を発表し、討議と指導を受ける。	
	この回の到達目標	研究の重点部分・補充部分を発表して検討を受け、内容・方法を省察し、論文の改善と進展に役立てる。発表者以外は他者の研究の概要・要旨を理解し、討議・指導を通じて論文構想・執筆の要点を学ぶ。		
	事前学修	発表の準備（論題設定、発表内容の構成・原稿執筆、レジュメ作成等）	240分	
	事後学修	討議・指導をふまえて自己の論文構想・研究作業の適否を省察し、改善につなげる。	90分	
24	共通文献に基づく発表Ⅳ①		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）	240分	
	事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	共通文献に基づく発表Ⅳ②		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。		60分
26	共通文献に基づく発表Ⅳ③		文献の読解と関連調査に基づく発表を行い、討議・検討する。	
	この回の到達目標	発表者：研究発表を実践し、質疑応答・討議と指導を通じて、適切な方法を学ぶ。 その他：文献読解、論点・疑問点の抽出、質疑・討議の方法を実践して学ぶ。		
	事前学修	発表と討議の準備（文献読解と要点・論旨・疑問点等の抽出、参考文献検索→事実関係の調査、発表論題の選定、内容の構成・原稿作成・レジュメ作成等）		240分
	事後学修	この間の文献発表全体をふまえて、読解・調査、論題設定・発表等の方法と適否を省察し、自己の研究作業の改善につなげる。		60分
27	論文計画検討Ⅱ①		論文の課題設定・章節構成・参考文献の最終案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、論文の構想・構成を明確化・具体化し、執筆が可能な計画を立てる。		
	事前学修	論文の最終構想（執筆可能な計画）を文書にまとめる：課題設定（序文執筆）・章節構成（各部分の論点の具体化）・参考文献		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、構想・構成を練り直し、不足は補充し、改善する。		210分
28	論文計画検討Ⅱ②		論文の課題設定・章節構成・参考文献の最終案を提示し、検討と指導を受ける。	
	この回の到達目標	自他の検討・指導を通じて、論文の構想・構成を明確化・具体化し、執筆が可能な計画を立てる。		
	事前学修	論文の最終構想（執筆可能な計画）を文書にまとめる：課題設定（序文執筆）・章節構成（各部分の論点の具体化）・参考文献		210分
	事後学修	検討・指導をふまえて、構想・構成を練り直し、不足は補充し、改善する。		210分
29	論文執筆相談		論文計画再考・執筆作業につき指導を受ける。	
	この回の到達目標	論文の執筆が可能な状態に到達する。		
	事前学修	論文計画の練り直し、文献の再読・確認等		210分
	事後学修	論文（下書）の執筆にかかる。		990分
30	下書修正相談		提出した論文下書の修正につき指導を受ける。	
	この回の到達目標	論文を完成させるための注意点、必要な補充作業を認識する。		
	事前学修	下書に付したコメント・添削を熟読し理解した上で、修正作業を進め、残る問題点・疑問点を抽出しておく。		990分
	事後学修	完成稿を仕上げる。		990分

科目名	ゼミナール4年	担当者	中村 進	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際私法と国際民事訴訟法及び国際取引法に関する様々な問題を学修する。具体的には、国際的な契約・不法行為、婚姻・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（＝準拠法）を決定する国際私法に関する問題、その様な国際的な私的生活関係に関する紛争が裁判になった場合の裁判手続きについての問題、及び企業間で国際的に発生する契約や不法行為を中心とする取引紛争に関する問題に適用される法規定や裁判例についての研究を行う。

【授業の目的】（General Instructional Objective：GIO 一般目標）
3年次：国際私法の主たる法源である「法の適用に関する通則法」、国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する規定を中心とする国際民事手続法規定、国際取引において適用されるインコタームズや荷為替信用状統一規則を中心に、国際的な私的紛争が発生した場合に適用さえる様々な法（条約や援用可能統一規則を含む）について、想定的事例や裁判例・判例を通じて学修し、規定の適切な解釈・適用の方法を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得するとともに、研究報告を通じて、学問的探究心、問題に対する積極的な考察と解決策の模索を行う意識を醸成する。また、研究テーマを論文としてまとめる方法についても学修する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は、講義と判例・裁判例の研究報告に分かれる。講義については、教科書に沿って講義を行うが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。研究報告は、グループ又は個人で、選択した判例・裁判例について調査・検討し、それをパワーポイントを使用して報告を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	研究報告において、判例・裁判例についての報告を行うとともに、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	国際私法の基本的構造と通則法の総則上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。												
②	通則法の総則法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。												
③	国際私法の各論上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。												
④	国際私法の各論上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。												
⑤	国際私法の総論上・各論上の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。												
⑥	国際民事手続法上の諸規定の内容を理解し、説明することができる。												
⑦	国際民事訴訟法上の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。												
⑧	国際取引のシステムを理解し、そこで適用される法や統一規則の内容を理解し、説明することができる。												
⑨	国際取引法上の諸規定・統一規則の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定・統一規則を適切に当てはめることができる。												
⑩													
【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)													
小テスト等													
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文について、テーマに対する文献資料の調査力、考察力、オリジナリティ、豊かな視野、論理的展開力を中心に評価する。		10	12	10	12	12	10	12	10	12		100
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			10	12	10	12	12	10	12	10	12		100
【課題に対するフィードバックの方法】													
授業内で講評と解説を行う。													

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際私法（第7版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章	有斐閣	2020年	教科書	必携
『国際関係私法講義[改題補訂版]』	松岡博・高杉直	法律文化社	2015年	参考書	推奨
『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）	櫻田嘉章・道垣内正人	有斐閣	2012年	参考書	必携
『六法』（種類は特に指定しない）			2021年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】	
金曜日16:20~17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（9号館2階206号）nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【前期授業ガイダンス】【導入講義】	前期授業のスケジュールについて説明する。また、卒論の提出までの一般的な流れを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、卒論の提出までの一般的な流れを理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、3年次に学修した内容を復習し、興味・関心のある国際私法・国際民事手続法・国際取引法のテーマについてノートに整理し、報告できるように準備する。	100分
	事後学修	講義ノートを確認して、卒論の提出までの流れ、興味・関心のあるテーマについてノートに分類・整理する。	100分
2	【研究テーマ策定から卒論作成まで】	国際私法・国際民事手続法・国際取引法の分野の中より、各自が興味・関心のある研究テーマを発見する手法とそれを卒論としてまとめる方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、国際私法・国際民事手続法・国際取引法の分野の中より、各自が複数の興味・関心のある研究テーマの中から卒論テーマを発見する手法とそれを論文としてまとめる方法について理解し、説明することができる。	
	事前学修	3年次に学修した内容を復習し、興味・関心のある国際私法・国際民事手続法・国際取引法のテーマについて幾つかの候補を選びノートにまとめ、報告できるように準備する。	100分
	事後学修	講義ノートを確認して、卒論の提出までの流れを分類・整理した上で、複数の興味・関心のあるテーマの中から、卒論にまとめるテーマを一つに絞る。	100分
3	【研究テーマ報告(1)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどの様な議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどの様な論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
	事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	100分
	事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	100分
4	【研究テーマ報告(2)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどの様な議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどの様な論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
	事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	120分
	事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	120分
5	【研究テーマ報告(3)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどの様な議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどの様な論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
	事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	120分
	事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	120分
6	【研究テーマ報告(4)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどの様な議論が行われ、判例・裁判の実務上でどの様に解釈・適用されているかについて調べ、そこにどの様な論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どの様な点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
	事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	120分
	事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【研究テーマ報告(5)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどのような議論が行われ、判例・裁判の実務上でどのように解釈・適用されているかについて調べ、そこにどのような論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どのような点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
	事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	100分
	事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	100分
8	【研究テーマ報告(6)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどのような議論が行われ、判例・裁判の実務上でどのように解釈・適用されているかについて調べ、そこにどのような論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どのような点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
	事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	130分
	事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	130分
9	【研究テーマ報告(7)】	3年次に学修した内容に基づいて、各自が興味・関心のある研究テーマについて、学説上でどのような議論が行われ、判例・裁判の実務上でどのように解釈・適用されているかについて調べ、そこにどのような論点があるかについて個人研究報告を行う。また、その報告を受けて、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、研究テーマ報告とその後のディスカッションを通じて、興味・関心のある幾つかあるテーマの中から、どのような点を考慮して卒論のテーマを策定するかについて理解することができる。	
	事前学修	これまで学修した教科書や判例・裁判例、講義ノートや整理ノートに目を通し、卒論のテーマの候補として興味・関心のあるテーマを選び、論点について整理し授業に備える。また、報告担当者は、候補の中から一つを選び、そのテーマに関する学説・判例上の議論についての報告の準備をする。	130分
	事後学修	報告担当者は、報告後のディスカッションを踏まえ、報告テーマを卒論のテーマとする検討する。卒論テーマとしない場合、別の興味・関心のあるテーマについて論点を検討する。報告者以外は、ディスカッションの内容を踏まえて、複数の興味・関心のあるテーマの候補について再検討を行う。	130分
10	【卒業論文のまとめ方(1)】	卒業論文のまとめ方として、論文の構成、書き方、考え方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、自身が策定したテーマに沿って、論文の論文の実質的・形式的な要件について理解する。	
	事前学修	卒論のテーマを複数の候補の中から一つに確定し、そのテーマにおける中心的な論点を確認する。	130分
	事後学修	講義ノートを参考にしながら、策定した卒論テーマに沿って、論文の構成、書き方、考え方についてノートに整理する。	130分
11	【卒業論文のまとめ方(2)】	卒業論文のまとめ方として、論文作成の具体的な手順について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、自身が策定したテーマに沿って、論文作成のための具体的な手順について理解する。	
	事前学修	策定した卒論テーマについて、教科書や判例・裁判例とそれに関する評釈を調べ、中心的な論点をノートにまとめ授業に備える。	130分
	事後学修	講義ノートを参考にしながら、策定した卒論テーマに沿って論文を作成するための具体的なプログラムを組み、それをノートに整理する。	130分
12	【卒業論文のまとめ方(3)】	卒業論文のまとめ方として、図書館棟において、日本語文献と欧文文献の収集方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、オンラインとオフラインで、論文に関する様々な日本語・欧文の文献の収集方法を知ることができる。	
	事前学修	策定した卒論のテーマに関し、どのような文献を収集すべきかについて調べ、ノートにまとめ授業に備える。	130分
	事後学修	オンラインとオフラインで、論文に関する様々な日本語・欧文の文献の収集方法を知ることができる。	130分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【卒業論文のまとめ方(4)】		卒業論文のまとめ方として、図書館棟において、日本語文献と欧文文献の収集方法を学修し、実際に収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、オンラインとオフラインで、自身の卒論に関する必要な日本語・欧文の文献を調べ、収集を行うことができる。		
	事前学修	策定した卒論テーマに沿って論文を作成するために必要な文献をリストアップし、図書館における収集に備える。		130分
	事後学修	講義ノートを参考にしながら、論文の収集方法を確認するとともに、自宅からオンラインで収集できる文献を実際に収集する。		130分
14	【卒業論文のまとめ方(5)】		卒業論文のまとめ方として、日本語文献・欧文文献の引用方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、論文を作成する際に必要となる日本語文献・欧文文献の引用方法について理解することができる。		
	事前学修	前回の授業の講義ノートを参考にしながら収集した文献に目を通し、どれの文献がどの様にして参考文献を引用しているかを確認するとともに、不明な点がある場合には、質疑事項をノートに記述し授業に備える。		130分
	事後学修	講義ノートを参考にしながら、論文の引用方法を確認するとともに、自宅からオンラインによる文献の収集を続ける。		130分
15	【質疑応答】		前期の講義内容と判例・裁判例についての小括を行うとともに、疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、前期授業を小括と質疑応答を通じて、卒業論文の具体的な手順と文献の引用方法について理解することができる。		
	事前学修	これまでの講義ノートを参考にしながら、策定した卒論のテーマにおける論点、論文としてまとめるための具体的な手順及び収集すべき文献を確認する。また、不明な点があれば、それをノートに記述し、質問できるように準備する。		130分
	事後学修	既に入手した文献に目を通しながら、休暇中に収集すべき文献をリストアップする。		130分
16	【後期ガイダンス】 【導入講義】		後期の授業の進め方、卒論の提出までのスケジュールについてのガイダンスを行い、論文のまとめ方について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連し、論文の書き方と・考え方についての理解を最終的に確認することができる。		
	事前学修	夏季休暇中に収集した文献に目を通し、卒論のテーマの論点を確認する。		120分
	事後学修	授業内で示されたスケジュールに沿って、卒論の作成までの自分なりのスケジュールを作成する。		120分
17	【収集文献の確認(1)】		卒論をまとめる際に必要な文献の有無を確認するとともに、図書館で未収集の文献を探す様々な方法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連し、卒論に必要な参考文献を確認するとともに、未収集の文献を様々な検索方法について理解し、文献を収集することができる。		
	事前学修	既に収集した卒論用の参考文献を確認するとともに、未収集の文献をリストアップし、授業に備える。		120分
	事後学修	収集した文献に目を通して、収集すべき更なる文献の有無を確認する。		120分
18	【収集文献の確認(2)】		卒論をまとめる際に必要な文献の有無を確認するとともに、図書館で未収集の文献を探す様々な方法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連し、卒論に必要な参考文献を確認するとともに、未収集の文献を様々な検索方法について理解し、文献を収集することができる。		
	事前学修	収集した卒論用の参考文献を確認するとともに、未収集の文献をリストアップし、授業に備える。		120分
	事後学修	収集した文献に目を通して、収集すべき更なる文献の有無を確認する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	【論文の書き方に関する質疑応答(1)】		10月末締切の一次提出用の卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問についての質疑応答を行い、問題をゼミナール内で共有するとともに、論文の書き方・考え方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連し、論文の執筆の際して生じた、論文の書き方・考え方、文献の引用方法に関する様々な疑問を解消することができる。		
	事前学修	卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問をノートに整理・記述し、授業内で質問できる様に準備する。		120分
	事後学修	質疑応答を受けて、執筆を終えた箇所の見直しと、執筆の継続を行う。		120分
20	【論文の書き方に関する質疑応答(2)】		10月末締切の一次提出用の卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問についての質疑応答を行い、問題をゼミナール内で共有するとともに、論文の書き方・考え方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、論文を執筆する際に生じる様々な問題についての疑問を解消することで、論文のまとめ方を理解することができる。		
	事前学修	卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問をノートに整理・記述し、授業内で質問できる様に準備する。		120分
	事後学修	質疑応答を受けて、執筆を終えた箇所の見直しと、執筆の継続を行う。		120分
21	【論文の書き方に関する質疑応答(3)】		10月末締切の一次提出用の卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問についての質疑応答を行い、問題をゼミナール内で共有するとともに、論文の書き方・考え方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、論文を執筆する際に生じる様々な問題についての疑問を解消することで、論文のまとめ方を理解することができる。		
	事前学修	卒論の執筆を開始し、その中で生じた疑問をノートに整理・記述し、授業内で質問できる様に準備する。		120分
	事後学修	質疑応答を受けて、執筆を終えた箇所の見直しと、執筆の継続を行う。		120分
22	【論文の書き方に関する質疑応答(4)と一次提出用卒論の進捗状況の確認】		卒論の第一次提出を控え、執筆中に生じた疑問について、個別相談を通じて解消し、論文の書き方・考え方、参照すべき文献の存在について学修する。また、一次提出用卒論の進捗状況についての確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆中に生じた疑問を解消し、参照すべき文献の有無を確認することができる。		
	事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認する。		120分
	事後学修	個別相談の結果を受けて、執筆を終えた箇所の見直しを行い、10月末の締め切りに向けて第一次提出用の卒論の執筆を行う。		120分
23	【一次提出用卒論の内容確認(1)】		提出した第一次卒論について、個別指導による添削指導を受け、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の有無について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。		
	事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。		120分
	事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆中の卒論に必要な修正を行い、次の第二次提出に向けて論文の執筆を継続する。		120分
24	【一次提出用卒論の内容確認(2)】		提出した第一次卒論について、個別指導による添削指導を受け、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の有無について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。		
	事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。		120分
	事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆中の卒論に必要な修正を行い、次の第二次提出に向けて論文の執筆を継続する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	【一次提出用卒論の内容確認(3)と二次提出用卒論の進捗状況の確認】		提出した第一次卒論についての添削指導と、第二次提出に向けて論文執筆中に生じた疑問についての個別相談によって、執筆上で生じた疑問を解消するとともに、論文の書き方・考え方と文献の引用方法、更なる参考文献の有無について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導と個別相談を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。		
	事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、質疑応答を行うための準備を行う。		120分
	事後学修	個別指導による添削と質疑応答を受けて、執筆中の卒論に必要な修正を行い、次の第二次提出に向けて論文の執筆を継続する。		120分
26	【二次提出用卒論の内容確認(1)】		提出した第二次卒論について、個別指導による添削指導を受け、新たに生じた執筆上の疑問を解消し、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の存在について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。		
	事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。		120分
	事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆中の卒論に必要な修正を行い、卒論の最終提出に向けて執筆を継続する。		120分
27	【二次提出用卒論の内容確認(2)】		提出した第二次卒論について、個別指導による添削指導を受け、新たに生じた執筆上の疑問を解消し、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の存在について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。		
	事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。		120分
	事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆箇所の修正を行い、卒論の最終提出に向けて執筆を継続する。		120分
28	【二次提出用卒論の内容確認(3)】		提出した第二次卒論について、個別指導による添削指導を受け、論文の書き方・考え方、文献の引用方法と更なる参考文献の有無について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や参照すべき文献の有無を確認することができる。		
	事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。		120分
	事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆箇所の修正を行い、卒論の最終提出に向けて論文の執筆を継続する。		120分
29	【二次提出用卒論の内容確認(4)と最終提出用卒論の進捗状況の確認】		提出した第二次卒論についての添削指導と、最終提出に向けて論文執筆中に生じた疑問についての個別相談によって、執筆上で生じた疑問を解消するとともに、論文の書き方・考え方と文献の引用方法、更なる参考文献の有無について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、執筆した論文について、添削指導を通じて、論文のまとめ方と文献引用方法を理解することができる。また、欠けていた論点や更なる参考文献の有無を確認することができる。		
	事前学修	卒論の執筆の中で生じた疑問をノートに整理・記述し、参照すべき文献の有無について確認し、添削指導を受けるための準備を行う。		120分
	事後学修	個別指導による添削を受けて、執筆箇所の修正を行い、卒論の最終提出に向けて論文の執筆を継続する。		120分
30	【最終提出用卒論の内容確認】		個別指導を通じて、提出用卒論の形式についての最終チェックを行い、卒論を完成させる方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関して、提出用卒論の形式についての最終チェックを行い、論文の形式的要件を理解し、論文を完成させることができる。		
	事前学修	提出用卒論について、未完成箇所を執筆し、完成させて、最終チェックを受ける準備を行う。		120分
	事後学修	最終チェックで指摘を受けた箇所の手直しを行い、卒論を完成させる。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	西原 雄二	部 別	第一部 第二部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループワーク等を通じて行政法の諸問題について深く学修するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマについてゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法における基礎理論について学修するとともに、個人の研究発表及びグループディスカッションを通じ、また個別の添削指導を受けながら、ゼミナール論文を作成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
輪読を行い、各自担当箇所の発表およびグループ・ディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 ゼミナール論文の部分原稿を発表・提出し、教員の添削を受けた原稿を互いに講評し合うことを通じて、ゼミナール論文を作成する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	行政法の諸問題について、グループ・ディスカッションやディベートを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修から得られた知識に基づき、行政法の現状や課題について総合的に理解し、説明することができる。				3	3						
②	行政法の課題や問題を提示し、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する解決策を示すことができる。						3	3	3			
③	様々な人とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、学修状況の自己分析による評価を、今後に活かすことができる。									4	4	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	卒業論文の完成に向けて、個人発表・講評を行う。その中で、到達目標①②③に関わる課題の論理的考察力、意見の明確性・論理性、他人の意見への傾聴、討論に向けての事例問題の調査・分析が適切にできているか等を評価する。	20	20	10								50
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	3・4年次に継続して履修し、ゼミナール論文を提出しなければならない。 到達目標①②③に関連し、当該研究テーマに対する積極的な取り組み、発表状況、ゼミナール論文の内容等について評価する。	20	20	10								50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各発表に対して講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
行政法（第3版）	池村正道編	弘文堂	2017年	教科書	必携
行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀・交告・山本編	有斐閣	2017年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
1部は火曜日 12：10 に、2部は木曜日 21：10 に研究室にて質問を受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 行政事件訴訟の仮の救済	4年のゼミナール授業内容についての概説と卒業論文に関するテーマを決定する。 行政事件訴訟の仮の救済について発表・討論・講評をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行政事件訴訟の仮の救済について説明できる。	
	事前学修	各ゼミ生は、卒業論文のテーマを決めておくこと。発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
2	行政事件訴訟の終了	行政事件訴訟の終了について発表・討論・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
3	教示制度	教示制度について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
4	取消訴訟以外の訴訟類型の訴訟要件	取消訴訟以外の訴訟類型の訴訟要件について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
5	国家賠償制度	国家賠償制度の概要について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
6	公権力責任（1条責任）	国家賠償法の1条責任の意義、要件、効果について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	営造物責任(2条責任)	国家賠償法の2条責任の意義、要件、効果について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
8	賠償責任者	賠償責任者の意義、内容、求償権について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
9	損失補償制度	損失補償制度の意義、根拠、内容、方法について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
10	国家補償の谷間	国家補償の谷間の問題点と対応策について発表・討議・講評する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該箇所について理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はレジュメ・資料等を準備し、他のゼミ生は当該発表箇所について教科書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理すること。	120分
11	ゼミナール卒業論文指導	自分が選んだ卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
12	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
14	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
15	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
16	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
17	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
18	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
20	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
21	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
22	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
23	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
24	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
26	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
27	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
28	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
29	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分
30	ゼミナール卒業論文指導	卒業論文の研究テーマについて発表・討議・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、当該テーマについて理解し、ディスカッションを行うことができる。	
	事前学修	発表担当者はゼミナール論文に関するテーマについて発表の準備をしておくこと。	120分
	事後学修	授業中に得られた気づきや学んだことをノートに整理して論文に反映させること。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	西山 智之	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミナール全体としては、犯罪を予防・鎮圧するためにはどのような政策を行えば良いのか、そうした問を解決する能力を身につけるため、犯罪の事前予防・犯罪者の更生・犯罪被害者支援策等についてグループで調査・研究を行い、それに基づいて全員で議論を行う。ゼミナール4年では、3年次に学修した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマについてのゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ゼミナール全体としては、犯罪現象について分析を行い解決策を検討することにより、問題解決のための思考能力を養うことを目的としている。ゼミナール4年では、3年次に学修した内容を基に、学術論文として認められるレベルのゼミナール論文を作成することを目的とする。

【履修条件】
ゼミナール入室試験合格者のみ履修可能

【授業方法】		
ゼミナール4年では、各自が興味をもったゼミナール論文のテーマに沿って各自で調査研究を行い、研究した内容はを全員の前で発表し、質疑応答を行う。ゼミナールのメンバー担当教員からの指摘に基づいて、各自がゼミナール論文を作成する。また担当教員は個別にゼミナール論文指導を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワーク・ディスカッションの他、刑事施設や警視庁の見学等、校外での活動も予定している。 ※社会の状況によっては実施できない場合がある。その際には他の方法によってアクティブ・ラーニングを実施する予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本における現行の刑事司法システムについて、なぜそのような仕組みとなっているかを正しく理解し、説明することができる。【知識】					3	3						
②	犯罪白書・警察白書等の資料に基づいて、今後どのような対応が必要なのかを調査することができる。【技能】							3	3				
③	犯罪対策について考えるディスカッションにおいて、参加メンバーに配慮しつつ、新しい理論に関して論理的に議論を行うことができる。【態度】							4	4	3	3		
④	グループで行う調査・研究・発表・質疑応答において、他のメンバーと助け合い、より良い研究発表の内容を作りあげていくことができる。【態度】										4	4	4
⑤	ゼミナールでメンバーと協力し学修したことについて、自らの反省や振り返りを行い、4年間の集大成であるゼミナール論文を学術論文の作法に基づき完成させることができる。【知識】【技能】【態度】					3	3	4	4	4			
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④に関連して、グループの発表・ディスカッションにおいて、適切な調査・研究ができていたか、他のメンバーの意見を良く聞いていたか、論理的に自分の意見を述べることができたか、発表後の担当教員からの質問に適切に応えていたか等の評定尺度に照らして評価を行う。	5	10	10	10							35
授業への参画度	到達目標②③④に関連して、講義の時間だけでなく、グループでの勉強会や施設見学等も含めたゼミナール活動全般において、他のメンバーと協力し、お互いに切磋琢磨することによって能力の向上を行っていたかという積極性を基準として評価を行う。		5	5	5							15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	4年終了時にゼミナール論文を提出してもらう。到達目標①②⑤に関連して、刑事政策学の基礎が身につけているか、取り組んだ問題について適切に分析した上で、自らの意見を説得的に述べているかを基準に評価を行う。	10	10			30						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	15	15	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の終盤に講評を行う。この他適時、全体・グループ別・個別に、調査・研究・発表・議論の方法について、講堂若しくは研究室において指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
令和2年版 犯罪白書	法務総合研究所	昭和情報プロセス	2020	その他	任意
令和2年版 警察白書	国家公安委員会・警察庁	日経印刷	2020	その他	任意
備考	教科書は使用しない。適宜、各人が論文で取り扱っているテーマについて最適な文献を紹介する。				

【オフィスアワー】
適宜指導を行います。質問等は、nishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	4年次オリエンテーション・授業の進め方の説明・研究方法の説明。	4年次のゼミナールの進め方について説明を行い、担当教員によるゼミナール論文を執筆する際に注視しておくべき調査・研究の方法に関する説明を行う。	
	この回の到達目標	受講生が4年次のゼミナール概要を理解し、次回以降に備えられるようにする。受講生がこのオリエンテーションを通じて、どのように到達目標①②③④⑤を達成していくのかを理解し説明できる。	
	事前学修	自らが取り組みたいゼミナール論文のテーマについて調査したものを、担当教員に説明できるようにノートに400文字程度に記述し持参する。	60分
	事後学修	第1回の授業で確認した調査・研究方法に基づき、ゼミナール論文の早期完成に向けて調査・研究を始める。	180分
2	学術論文の作法①【論文の構成】	担当教員が、学術論文とは何か、どういったものが学術論文として認められ、どういったものが学術論文として認められないかを詳しく説明する。その上で、学術論文には何を書かなければならないかを受講生に解説し、学術論文の構成の一例を示す。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、受講生が学術論文というものがどんなものであるのかを理解し、その構成について理解し、自分が取り組みたいテーマについてどのようにゼミナール論文をつくっていくのか理解し、説明することができる。	
	事前学修	学術論文と、エッセイ・就職試験や入学試験等で課される小論文・作文は、どう違うかを考え、ノートに300文字程度で列記してくる。	30分
	事後学修	授業で聞いた内容に基づき、自らの取り組みたいテーマで、ゼミナール論文を作った場合にどのような構成となりうるかを考え、自らのゼミナール論文の構成をノートに1000文字程度で記述してくる。	210分
3	学術論文の作法②【註の表記方法】	担当教員が、学術論文における註の重要性について解説を行い、その上で学術論文における註の付け方を具体例を用いて説明する。また註にはどのような資料を記載すべきなのか等、資料の選別方法についても解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤に関連して、受講生が学術論文における註の重要性について理解し、正しい註の付け方を習得し説明することができる。また註に記載すべき資料の選別方法を理解した上で、それを説明することができる。	
	事前学修	「剽窃」とは何かについて、調査しその問題の重大性についてノートに400文字程度で列記してくる。	120分
	事後学修	第2回授業の事後学習で作成した自らのゼミナール論文の構成について、註をつけた場合にどの程度の註をつける必要があるかを大まかに想定し、ノートのゼミナール論文の構成の横に註についての記載を行う。	120分
4	ゼミナール論文の構成の発表【1】	指定された受講生が、ゼミナール論文の構成を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール論文の構成を作成・発表・質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進み始めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、ゼミナール論文の構成を考え、構成の内容を列記した資料を作成し全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとにゼミナール論文の構成に関する改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文の構成を今一度再考し、改善したものをノートに記述する。	30分
5	ゼミナール論文の構成の発表【2】	指定された受講生が、ゼミナール論文の構成を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール論文の構成を作成・発表・質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進み始めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、ゼミナール論文の構成を考え、構成の内容を列記した資料を作成し全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとにゼミナール論文の構成に関する改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文の構成を今一度再考し、改善したものをノートに記述する。	30分
6	ゼミナール論文の構成の発表【3】	指定された受講生が、ゼミナール論文の構成を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール論文の構成を作成・発表・質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進み始めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、ゼミナール論文の構成を考え、構成の内容を列記した資料を作成し全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとにゼミナール論文の構成に関する改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文の構成を今一度再考し、改善したものをノートに記述する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゼミナール論文の構成の発表【4】	指定された受講生が、ゼミナール論文の構成を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール論文の構成を作成・発表・質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進み始めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、ゼミナール論文の構成を考え、構成の内容を列記した資料を作成し全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとにゼミナール論文の構成に関する改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文の構成を今一度再考し、改善したものをノートに記述する。	30分
8	ゼミナール論文の途中経過の発表【1】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
9	ゼミナール論文の途中経過の発表【2】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
10	ゼミナール論文の途中経過の発表【3】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
11	ゼミナール論文の途中経過の発表【4】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	ゼミナール論文の途中経過の発表【5】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
13	ゼミナール論文の途中経過の発表【6】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
14	ゼミナール論文の途中経過の発表【7】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	120分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	120分
15	ゼミナール論文の途中経過の発表【8】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	120分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	120分
16	ゼミナール論文の途中経過の発表【9】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
17	ゼミナール論文の途中経過の発表【10】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
18	ゼミナール論文の途中経過の発表【11】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
19	ゼミナール論文の途中経過の発表【12】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
20	ゼミナール論文の途中経過の発表【13】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分
21	ゼミナール論文の途中経過の発表【14】	指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。	
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。	210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
22	ゼミナール論文の途中経過の発表【15】		指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。		
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。		210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。		30分
23	ゼミナール論文の途中経過の発表【16】		指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。		
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。		210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。		30分
24	ゼミナール論文の途中経過の発表【17】		指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。		
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。		210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。		30分
25	ゼミナール論文の途中経過の発表【18】		指定された受講生は、執筆中のゼミナール論文の途中経過を全員の前で発表し、その内容について全員で議論をした上で、担当教員が指導を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が執筆中のゼミナール論文を発表し、質疑応答を行うことにより、ゼミナール論文の構成について深く考え、質の高いゼミナール論文の完成に向けて、進めることができる。		
	事前学修	発表の担当となった受講生は、執筆中のゼミナール論文の内容を記述した資料を作成し、全員に配付できるように準備する。発表の担当となっていない受講生は適切な質問を行い、その後の議論が円滑に行えるように発表担当の受講生の取り扱うテーマについて調査をしてくる。		210分
	事後学修	発表の担当であった受講生は、他の受講生からの質問や担当教員の講評をもとに執筆中のゼミナール論文の改善点をノートに列記する。発表の担当ではなかった受講生は、発表の担当であった受講生の指摘された内容を参考とし、自らのゼミナール論文を今一度再考し、改善点をノートに記述する。		30分
26	ゼミナール論文の最終確認【1】		指定された受講生は、完成したゼミナールを持参し、全員に配布する。全員で内容をチェックし、誤字脱字や論理矛盾がないかを確認し、最終提出できる状態にする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール論文を完璧な状態で完成させ、提出することができる。		
	事前学修	指定された受講生は、当日までに必ずゼミナール論文を完成させ、全員分持参する。その他の受講生は、自らのゼミナール論文をより高い完成度にもっていけるように自分でチェックを行っておく。		100分
	事後学修	ゼミナール論文の最終チェックが終わった受講生は、ゼミナール論文を大学に提出する。その他の受講生は、他の受講生の内容確認を参考に、自らのゼミナール論文について自分でより高い完成度のものにしておく。		140分
27	ゼミナール論文の最終確認【2】		指定された受講生は、完成したゼミナールを持参し、全員に配布する。全員で内容をチェックし、誤字脱字や論理矛盾がないかを確認し、最終提出できる状態にする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール論文を完璧な状態で完成させ、提出することができる。		
	事前学修	指定された受講生は、当日までに必ずゼミナール論文を完成させ、全員分持参する。その他の受講生は、自らのゼミナール論文をより高い完成度にもっていけるように自分でチェックを行っておく。		100分
	事後学修	ゼミナール論文の最終チェックが終わった受講生は、ゼミナール論文を大学に提出する。その他の受講生は、他の受講生の内容確認を参考に、自らのゼミナール論文について自分でより高い完成度のものにしておく。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
28	ゼミナール論文の最終確認【3】	指定された受講生は、完成したゼミナールを持参し、全員に配布する。全員で内容をチェックし、誤字脱字や論理矛盾がないかを確認し、最終提出できる状態にする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール論文を完璧な状態で完成させ、提出することができる。	
	事前学修	指定された受講生は、当日までに必ずゼミナール論文を完成させ、全員分持参する。その他の受講生は、自らのゼミナール論文をより高い完成度にもっていけるように自分でチェックを行っておく。	100分
	事後学修	ゼミナール論文の最終チェックが終わった受講生は、ゼミナール論文を大学に提出する。その他の受講生は、他の受講生の内容確認を参考に、自らのゼミナール論文について自分でより高い完成度のものにしておく。	140分
29	ゼミナール論文の最終確認【4】	指定された受講生は、完成したゼミナールを持参し、全員に配布する。全員で内容をチェックし、誤字脱字や論理矛盾がないかを確認し、最終提出できる状態にする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール論文を完璧な状態で完成させ、提出することができる。	
	事前学修	指定された受講生は、当日までに必ずゼミナール論文を完成させ、全員分持参する。その他の受講生は、自らのゼミナール論文をより高い完成度にもっていけるように自分でチェックを行っておく。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の最終チェックが終わった受講生は、ゼミナール論文を大学に提出する。その他の受講生は、他の受講生の内容確認を参考に、自らのゼミナール論文について自分でより高い完成度のものにしておく。	120分
30	ゼミナールの総括	全員がゼミナール論文を提出した後、ゼミナールの2年間で得たものを各自が振り返り、全員の前で発表し合い、全員で省察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生がゼミナール活動が自分にどのような良い影響を与えたかを振り返り、それを今後の人生の糧とし、卒業後に社会で活躍することができる。	
	事前学修	ゼミナールの2年間で得たものについて、ノートに800文字程度で記述してくる。	120分
	事後学修	ゼミナールで修得したものを社会に出た際に役立てることができるように、ノートに列記し心に刻んでおく。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	野中 貴弘	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民法（財産法）に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，民法に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法（財産法）に関する論文を完成させるために，自らの学修状況を自己分析しつつ当該専門領域の高度な知識を身につけ，研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。

【履修条件】
民法（財産法）に関する基礎的知識を備えていること。

【授業方法】
履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，法律討論会やフォーラムへの参加，民法に関する他のゼミナールとの合同勉強会など，学修効果を高めるための創意工夫がなされることを妨げない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。												
②	民法に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。												
③	教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。												
④	教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。												
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	10								20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則ったうえで、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	30							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
水曜日の10時00分から18時00分

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所において法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		民事紛争について検討する際には学説の検討だけでなく、当該紛争における裁判例の検討や評価、さらには当該紛争類型の背景などについても立ち入って考察を深める。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討(1)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
17	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
18	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
20	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
22	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
刑法総論および刑法各論の重要論点について、判例を素材に研究し、判例や学説を批判的に検討することにより、あるべき刑法の姿を探究する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学説や判例を調査し、そこから得た情報に検討を加え分析し、説得的な私見を構築し、他者との質疑応答や議論に真摯に向き合う姿勢を身につける。

【履修条件】
ゼミの選考試験に合格していることを条件とする。

【授業方法】
研究ペアが選択した判例について、調査研究をしてもらい、レジュメを用意したうえで発表してもらおう。その後、質疑応答および議論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表、質疑応答、討論。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例について、その論拠を調査し、前例とも比較しながら、その判例の射程範囲を探る。					3	3	3	3	3	3	3	3
②	学説について、もれなく渉猟し、その文献を調査及び研究し、議論状況を整理することができる。					3	3	3	3	3	3	3	3
③	レジュメを作成し、それをもとに明晰な言葉で発表を行うことができる。					3	3	3	3	3	3	3	3
④	質疑応答や議論に積極的に向き合い、相互にコミュニケーションを図ることができる。					3	3	3	3	3	3	3	3
⑤	研究ペア同士が互いに協力し、①～④を達成するよう努力する。					3	3	3	3	3	3	3	3
⑥	他者が発表する際に、その質疑応答および議論に積極的に参加する。					3	3	3	3	3	3	3	3
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表の内容のわかりやすさ、質疑応答や議論へ真摯に臨む姿勢がある。	7	7	7	7	6	6					40
授業への参画度	他者の発表に耳を傾け、質疑応答に積極的に参加する。	5	5	5	5	5	5					30
その他(ゼミナール論文)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。4年次に作成するゼミナール論文の成績も加味して行う。	5	5	5	5	5	5					30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		17	17	17	17	16	16					100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミ時に随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
刑法総論判例インデックス	井田・城下	商事法務	2011	教科書	必携
刑法各論判例インデックス	井田・城下	商事法務	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業時に対応します。Googleクラスルームからのメールによるお問い合わせにも対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	研究発表の割り当てを決定し、ゼミの運営について話し合う。	
	この回の到達目標	研究への士気を高めるとともに、ゼミ活動に主体的に参加する。	
	事前学修	研究ペアと担当課題について最終確認をする。	120分
	事後学修	各自、担当する研究を進める。	120分
2	調査及びプレゼンテーションの仕方	研究発表のための技術を学ぶ。	
	この回の到達目標	判例および学説を分析する力を身につけ、法的に重要な事実の見極めの必要性を認識し、こうした技術を通じて私見をつくりあげ、発表し、質疑応答・討論する基礎力を身につける。	
	事前学修	発表のためにどのような作業が必要か考察する。	120分
	事後学修	各自の研究発表にどう生かせるか考察する。	120分
3	法律データベースの使い方	第一法規の担当者をお呼びし、D1-Lawの使い方について学ぶ。	
	この回の到達目標	法律情報を効率的および確実に収集する方法を身につけ、実践できるようにする。	
	事前学修	どのような法情報を集める必要があるのか、それをどのように集めるとよいのか、事前に予想を立てる。	120分
	事後学修	今後の研究にどう生かせるか、考察する。	120分
4	発表のデモンストレーション	ゼミの担当者が発表および質疑応答の模範をみせる。	
	この回の到達目標	担当者の姿を通じて、学んだ点、修正が必要な点は何かを整理し、自分の発表に役立てるようにする。	
	事前学修	よい発表の仕方はどのようなものか、各自が事前に考察する。	120分
	事後学修	担当者の姿を通じて、生かせる点と改善点について整理し、自分の発表に応用する。	120分
5	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
6	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	研究発表		担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。		
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。		120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。		120分
8	研究発表		担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。		
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。		120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。		120分
9	研究発表		担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。		
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。		120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。		120分
10	研究発表		担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。		
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。		120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。		120分
11	研究発表		担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。		
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。		120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。		120分
12	研究発表		担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。		
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。		120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
14	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
15	研究発表、前期総括	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
16	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
17	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
18	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
20	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
21	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
22	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
23	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
24	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
26	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
27	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
28	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
29	研究発表	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分
30	研究発表、後期総括	担当するテーマについて発表してもらう。	
	この回の到達目標	判例を素材とした検討を通じて、あるべき解決策について互いに知恵を出し合い、探究する。	
	事前学修	担当項目について教科書などを事前に読み、論点を整理する。	120分
	事後学修	発表および質疑応答・討論を振り返り、自分なりの考え方をまとめる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
社会保障法制度について理解し、現制度における課題・判例について検討し、解決案を提示する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：社会保障法における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
3年次：グループごとにテーマを設定し、担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表グループの報告を受けて、質問や意見を述べ、グループディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会保障法制度について、説明することができる。				3	4				1		
②	社会保障法制度における課題を発見し、その解決策を提示することができる。							4	4	4	4	4
③	社会保障法制度における課題と解決策について、批判的に考察し、議論することができる。						4	3	3	4	3	4
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	報告グループは、各テーマについて発表し、それを基に議論をする。	10	20	20								50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	現制度について分析し、その課題を抽出した上で、独自の解決策を提示する。	10	30	10								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	50	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業において、課題についてのフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ストゥディア社会保障法	黒田 有志弥、柴田洋二郎、島村 暁代、橋爪 幸代、永野 仁美	有斐閣	2019	教科書	必携
社会保障法判例百選 第5版	岩村正彦編	有斐閣	2016	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜17：00～18：00 本館9階 1906研究室 hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーションーゼミナール論文の進め方	ゼミナール論文の書き方等について学習する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の書き方について理解する。	
	事前学修	ゼミナール論文で取り上げる制度について調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文で取り上げる制度について、調べたことをまとめる。	120分
2	ゼミナール論文テーマについての議論・指導①	ゼミナール論文テーマについて発表し、議論・指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの概要について理解し、議論する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
3	ゼミナール論文テーマについての議論・指導②	ゼミナール論文テーマについて発表し、議論・指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの概要について理解し、議論する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
4	ゼミナール論文テーマについての議論・指導③	ゼミナール論文テーマについて発表し、議論・指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの概要について理解し、議論する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
5	ゼミナール論文テーマについての議論・指導④	ゼミナール論文テーマについて発表し、議論・指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの概要について理解し、議論する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
6	論文進捗発表①制度分析	ゼミナール論文テーマについて発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマについて発表し、現時点での問題点を把握し、今後の研究方針を決める。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論文進捗発表②制度分析	ゼミナール論文テーマについて発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマについて発表し、現時点での問題点を把握し、今後の研究方針を決める。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
8	論文進捗発表③制度分析	ゼミナール論文テーマについて発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマについて発表し、現時点での問題点を把握し、今後の研究方針を決める。。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
9	論文進捗発表④制度分析	ゼミナール論文テーマについて発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマについて発表し、現時点での問題点を把握し、今後の研究方針を決める。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
10	論文進捗発表①課題	ゼミナール論文テーマの課題について発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの課題の発表と、それに対する議論を踏まえ、現時点での課題を把握する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
11	論文進捗発表②課題	ゼミナール論文テーマの課題について発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの課題の発表と、それに対する議論を踏まえ、現時点での課題を把握する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
12	論文進捗発表③課題	ゼミナール論文テーマの課題について発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの課題の発表と、それに対する議論を踏まえ、現時点での課題を把握する。。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	論文進捗発表④課題	ゼミナール論文テーマの課題について発表し、それを踏まえて議論を行い、今後の方向性について指導する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの課題の発表と、それに対する議論を踏まえ、現時点での課題を把握する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマについて調べる。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題について調べ、その解決策を考える。	120分
14	ゲストスピーカー	社会保険制度にかかわる実務家又はNP0などの活動家を招聘し、現場で生じている課題について聞き、議論を行う。＊なお、ゲストの招聘日については、ゲストの予定により変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	社会保険制度にかかわる課題を理解し、私見を述べることができる。	
	事前学修	社会保険制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	ゲストスピーカーの講演についてまとめ、課題に対する私見を論理的に説明できるようにする。	120分
15	前期のまとめ	ゼミナール論文テーマにおける制度とその課題について整理する。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける、今後の方向性を確認する。	
	事前学修	ゼミナール論文執筆において、現時点での、課題を確認する。	120分
	事後学修	他の受講者の意見を参考に、今後の進め方を考える。	120分
16	論文進捗発表①解決策の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策の提示をし、それを基に議論をする。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を考える。	120分
	事後学修	卒業論文テーマにおける課題の解決策試案への批判を受け、改善策を考える。	120分
17	論文進捗発表②解決策の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策の提示をし、それを基に議論をする。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を考える。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案への批判を受け、改善策を考える。	120分
18	論文進捗発表③解決策の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策の提示をし、それを基に議論をする。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を考える。	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案への批判を受け、改善策を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文進捗発表④解決策の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策の提示をし、それを基に議論をする。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
	事前学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案を考える	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案への批判を受け、改善策を考える。	120分
20	論文進捗発表①改善案の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善案を示し、それを基に議論をする	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善策を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
21	論文進捗発表②改善案の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善案を示し、それを基に議論をする	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善策を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
22	論文進捗発表③改善案の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善案を示し、それを基に議論をする	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善策を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
23	論文進捗発表④改善案の提示	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善案を示し、それを基に議論をする。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマにおける課題の解決策試案の改善策を示し、それに対する批判を受け、問題点を把握する。	
	事前学修	制度における課題について調べる。	120分
	事後学修	課題について出された政策提案の有効性を分析する。	120分
24	政策提案のまとめ	これまでの議論を踏まえて改善した政策提案について、発表する。	
	この回の到達目標	改善された政策について、説得的に提案する。	
	事前学修	各政策提案について、改善策を考え、まとめる。	120分
	事後学修	提案に対して出された批判的な意見への説得的な応答を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゲストスピーカー	社会保障にかかわる職業についている人からの講演を聞く。＊なお、ゲストスピーカーの予定により、日程が変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	社会保障にかかわる職業とそのやりがい・経験について、私見を述べることができる。	
	事前学修	社会保障にかかわる職業について調べる。	120分
	事後学修	社会保障にかかわる職業について、私見及び他の受講生の意見をまとめる。	120分
26	最終報告①	ゼミナール論文について、最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文について、最終的な報告を行い、指導を受け、修正点を確認する。	
	事前学修	最終的な報告の準備をする。	120分
	事後学修	指導を受けて修正し、まとめる。	120分
27	最終報告②	ゼミナール論文について、最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文について、最終的な報告を行い、指導を受け、修正点を確認する。	
	事前学修	最終的な報告の準備をする。	120分
	事後学修	指導を受けて修正し、まとめる。	120分
28	最終報告③	卒業論文について、最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	卒業論文について、最終的な報告を行い、指導を受け、修正点を確認する。	
	事前学修	最終的な報告の準備をする。	120分
	事後学修	指導を受けて修正し、まとめる。	120分
29	最終報告④	ゼミナール論文について、最終的な報告を行う。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文について、最終的な報告を行い、指導を受け、修正点を確認する。	
	事前学修	最終的な報告の準備をする。	120分
	事後学修	指導を受けて修正し、まとめる。	120分
30	論文の最終確認	提出するゼミナール論文の最終指導を行う。	
	この回の到達目標	ゼミナール論文を最終的にまとめるにあたって、修正すべき点を確認する。	
	事前学修	ゼミナール論文を書き上げる。	120分
	事後学修	修正点を論文に反映させる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	長谷川 貞之	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。 担当教員の弁護士としての実務経験に基づき、理論と実務の両面から指導を行う。 対面授業を予定しているが、事情によりZoomミーティングに切り替わることもある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。 民法学における基礎理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。 市民法の原理や法解釈の多様性、民事立法学、および比較法的な視点に立った諸外国の民法典について、基本的な知識を習得する。 ゼミナール論文の作成を通し、民法学における現代の諸問題への理解を深め、自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】		
任意に選択したテーマについて、随時、進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。また、当該テーマに関連して、基本書・必読文献の輪読を行い、グループディスカッションを行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。考える授業をモットーとする。対面授業を予定しているが、事情によりZoomミーティングに切り替わることもある。参考文献等の調査については、基本的なリーガル・リサーチを指導する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	到達目標：民法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						3	3						
②	到達目標：民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。								3	3	3			
③	到達目標：授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。										4	4	4	4
④	到達目標：授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。													4
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを，討論・発表，ディスカッションなどにより評価する。			20	10							30
授業への参画度	研究内容とゼミナール論文の内容のみならず，ゼミナール活動への積極的な参加なども評価する。	10	10	10	10							40
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③および④に関連して、前期・後期の2回レポートを作成し，提出する。また，3・4年次に継続して履修し，4年次にはゼミナール論文を提出しなければならない。				30							30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	30	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
とくに使用しない。必読文献、基本書等は、適宜指示する。					
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所の家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション／ガイダンス (前期) 導入講義		私法の一般法である民法はについて、また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、教科書・参考文献などの紹介を行う。これにより、受講性は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③および④に関連して、任意に選択したテーマについてディスカッションを行い、ゼミナール論文の作成に至るまでの過程を説明し、学修計画を立てることができる。		
	事前学修	ゼミナール論文の作成を通し、民法学における現代の諸問題への理解を深め、自分自身で説明出来るように、ゼミナール論文のテーマを選定しておく。民法等の教科書や基本書などを参照し、テーマ選定のための理解を深める。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。		120分
2	テーマ1－1：テーマの選定と作業 方針——概要		3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、当該テーマを選んだ理由・背景を説明することができる。		
	事前学修	あらかじめ教科書や基本書、新聞記事などを精読し、研究テーマをいくつか選定する。各自が決定した研究テーマについて発表の準備をしておく。リーガル・リサーチは必要不可欠である。		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。		120分
3	テーマ1－2：テーマの選定と作業 方針——文献調査		選定した研究テーマについて、リーガル・リサーチの仕方を学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、選定した研究テーマについて、リーガル・リサーチの仕方を学び、基本文献等を収集することができる。		
	事前学修	リーガル・リサーチの基本を修得しておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
4	テーマ1－3：テーマの選定と作業 方針——参考文献父欄の作成		選定した研究テーマについて、リーガル・リサーチの仕方を学び、参考文献一覧の作成を学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、リーガル・リサーチの仕方を学び、参考文献の一覧を作成し、主要文献を紹介することができる。		
	事前学修	リーガル・リサーチの仕方を学び、参考文献の一覧を作成しておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
5	テーマ2－1：論文の概要と章立て		任意に選択したテーマについて、基本文献等を収集し、整理するとともに、論文の骨格となる章や節を組み立て、全体の構想を学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、任意に選択したテーマについて、基本文献等を収集し、整理するとともに、論文の骨格となる章や節を組み立て、全体の構想を説明することができる。		
	事前学修	選定した研究テーマについて、基本文献等を収集し、整理する。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
6	テーマ2－2：論文の構想と得られる 研究成果		任意に選択した研究テーマについて、得られる結果（成果）とテーマとの整合性を学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、任意に選択した研究テーマについて、作成した基本文献等の一覧を参照しながら、得られる結果（成果）を予想し、研究の意義を説明することができる。		
	事前学修	あらかじめ基本書や概説書、収集した基本文献等を読み、研究の意義を明らかにしておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	テーマ2－3：論文の構想と研究 テーマの検討方法	論文の構想と任意に選択した研究テーマについて、具体的な研究方法を学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、任意に選択した研究テーマについて、何を・どこまで・どのような方法で検討するの か、また、そのためには、どのような文献を読めばよいのかを、説明することができる。	
	事前学修	問題点や課題となる不動産売買に関する民法上の規定や基本文献を調べて、整理しておく。	120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつ き、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
8	テーマ3－1：進捗段階における発 表①――全体の構想と序章の概要	研究テーマの全体構想と序章について、学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、研究テーマの全体構想と序章について、収集した基本文献等を参照しながら、説明する ことができる。	
	事前学修	あらかじめ教科書や概説書などを通読する。作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、全体の構想と序章の内 容を整理しておく。	120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつ き、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
9	テーマ3－2：進捗段階における発 表①――序章の論点整理	進捗段階における発表①（序章）について、問題点や課題を学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表①（序章）について、問題点や課題を挙げて説明することができ る。	
	事前学修	これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、全体の構想と序章の内容を整理 しておく。	120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつ き、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
10	テーマ3－3：進捗段階における発 表①――序章のグループディスカッ ション・解説	進捗段階における発表①（序章）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グ ループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③および④に関連して、進捗段階における発表①（序章）について、自分の考え方を説明することができる。	
	事前学修	進捗段階における発表①（序章）に関する論点を整理し、問題点や課題について自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつ き、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
11	テーマ4－1：進捗段階における発 表②――第2章の概要	進捗段階における発表②（第2章）について、概要を明らかにし、問題点や課題を学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表②（第2章）について、収集した基本文献等を参照しながら、問題 点や課題を挙げて、説明することができる。	
	事前学修	あらかじめ教科書や概説書など通読する。これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等 を参照し、進捗段階における発表②（第2章）の主要論点を調べて、整理しておく。	120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつ き、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分
12	テーマ4－2：進捗段階における発 表②（第2章）――論点整理	進捗段階における発表②（第2章）について、問題点や課題を学修する。	
	この回の 到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表②（第2章）について、問題点や課題挙げて説明することができ る。	
	事前学修	作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表②（第2章）の主要論点を調べて、整理して おく。	120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつ き、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
13	テーマ4－3：進捗段階における発表①（第2章）——グループディスカッション・解説	進捗段階における発表②（第2章）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、進捗段階における発表②（第2章）について、自分の考え方を説明することができる。		
	事前学修	進捗段階における発表②（第2章）に関する論点を整理し、問題点や課題について自分の考え方をまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
14	課題と質問の整理（前期）	これまでの報告内容を、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめる。		
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容について、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめたうえで、説明することができる。		
	事前学修	これまでの報告内容を、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
15	中間レポートの作成・提出／講評（前期）	これまでの報告を振り返り、任意のテーマ（序章・第2章）について、レポートを作成する。事前に作成したレポートを提出した場合には、これに基づきプレゼを行い、ディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、任意のテーマ（序章・第2章）について、主要論点を中心に整理し、論文の概要をレポートの形でまとめ、発表することができる。		
	事前学修	事前に論文の概要（序章・第2章）をレポートの形でまとめ、参考文献の一覧を作成し、提出できる準備をする。		120分
	事後学修	後期の授業に向けて、関心のなる任意のテーマ（第3章・第4章）について文献調査を行い、参考文献一覧を作成する。		120分
16	オリエンテーション／ガイダンス（後期）——今後の課題と進捗状況の報告導入講義	前期の学修を踏まえて、研究テーマの全体構想と進捗状況の報告、進捗段階における発表③（第3章）について、学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、研究テーマの全体構想と進捗段階における発表③（第3章）について、収集した基本文献等を参照しながら、説明することができる。		
	事前学修	これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、全体の構想と序章の内容を整理しておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。また、これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定する。（2時間）		120分
17	テーマ5－1：進捗段階における発表③——第3章の概要	進捗段階における発表③（第3章）について、概要を明らかにし、問題点や課題を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、収集した基本文献等を参照しながら、問題点や課題を挙げて、説明することができる。		
	事前学修	あらかじめ教科書や概説書など通読する。これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表③（第3章）の主要論点を調べて、整理しておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
18	テーマ5－2：進捗段階における発表③（第3章）——論点整理	進捗段階における発表③（第3章）について、問題点や課題を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、問題点や課題挙げて説明することができる。		
	事前学修	作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表③（第3章）の主要論点を調べて、整理しておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
19	テーマ5－3：進捗段階における発表③（第3章）——グループディスカッション・解説	進捗段階における発表③（第3章）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、自分の考え方を説明することができる。		
	事前学修	進捗段階における発表③（第3章）に関する論点を整理し、問題点や課題について自分の考え方をまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
20	テーマ6－1：進捗段階における発表④——第4章の概要	進捗段階における発表④（第4章）について、概要を明らかにし、問題点や課題を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表④（第4章）について、収集した基本文献等を参照しながら、問題点や課題を挙げて、説明することができる。		
	事前学修	あらかじめ教科書や概説書など通読する。これから研究するテーマについて、作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表③（第3章）の主要論点を調べて、整理しておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
21	テーマ6－2：進捗段階における発表④（第4章）——論点整理	進捗段階における発表④（第4章）について、問題点や課題を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、問題点や課題挙げて説明することができる。		
	事前学修	作成した参考文献一覧から基本文献等を参照し、進捗段階における発表④（第4章）の主要論点を調べて、整理しておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
22	テーマ6－3：進捗段階における発表④（第4章）——グループディスカッション・解説	進捗段階における発表④（第4章）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②④および③に関連して、進捗段階における発表④（第4章）の主要論点について、自分の考え方を説明することができる。		
	事前学修	到達目標①②③および④に関連して、進捗段階における発表③（第3章）について、自分の考え方を説明することができる。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
23	テーマ7－1：進捗段階における発表⑤——補遺1の概要	これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、論文の完成に向けて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、遺漏などがあれば補い、修正点などを分かりやすく説明することができる。		
	事前学修	これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、遺漏などの点を明らかにしておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
24	テーマ7－2：進捗段階における発表⑤（補遺1）——論点再整理	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺1）について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺1）などについて、分かりやすく説明することができる。		
	事前学修	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺1）などについて、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に、調べておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	テーマ7－3：進捗段階における発表⑤（補遺1）——グループディスカッション・解説		再整理した論点や課題（補遺1）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、再整理した主要論点や課題（補遺1）について、自分の考え方を説明することができる。		
	事前学修	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）などについて、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に調べ、自分の考え方をまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
26	テーマ8－1：進捗段階における発表⑥——補遺2の概要		これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、論文の完成に向けて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、遺漏などがあれば補い、修正点などを分かりやすく説明することができる。		
	事前学修	これまでの報告内容を振り返り、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に再整理し、遺漏などの点を明らかにしておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
27	テーマ8－2：進捗段階における発表⑥（補遺2）——論点再整理		これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）などについて、分かりやすく説明することができる。		
	事前学修	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）などについて、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に、調べておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
28	テーマ8－3：進捗段階における発表⑥（補遺2）——グループディスカッション・解説		再整理した論点や課題（補遺2）について、教科書・概説書や基本文献などの購読、発表・グループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、再整理した主要論点や課題（補遺2）について、自分の考え方を説明することができる。		
	事前学修	これまでの報告内容を振り返り、再整理した主要論点や課題（補遺2）などについて、教科書・概説書や基本文献、および配布プリントなどを参考に調べ、自分の考え方をまとめておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。		120分
29	課題と質問の整理（後期）		これまでの報告内容を、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、これまでの報告内容について、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめたうえで、説明することができる。		
	事前学修	これまでの報告内容を、教科書や概説書、基本文献、および配布プリントなどを参考に整理し、まとめておく。		120分
	事後学修	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。また、これまでの授業を振り返り、任意のテーマを選定する。		120分
30	レポートの作成・提出／講評&総括		ゼミナール論文を完成し、提出する。これに基づきプレゼを行い、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、ゼミナール論文を完成し、論文の概要等を分かりやすく説明することができる。		
	事前学修	事前に論文を作成し、推敲したうえで、完成させる。併せて、参考文献一覧を作成し、提出できる準備をする。		120分
	事後学修	授業終了後、教室にて、個々の論文について解説を行う。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
行政法の領域における理論と判例を1年間掛けて学修していく。各自が作成するゼミナール論文を見据えて、理論的な分析・調査を実施し合理的な考察を行える素養・知見を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政救済法・行政作用法・行政組織法等の行政法の各分野を適切に学修するために必要となる基本構造を理解し、これらの基本構造及び他の法領域の骨組みとの相互関連性を修得する。理解・修得したこれらの基礎事項を踏まえて、実際の行政運営における法律上の問題点や判例・裁判例で問題となった事象を分析する。一連の分析に基づいて、口頭及び論文による正確な叙述が行う能力を体得する。

【履修条件】
ゼミナールの入室審査に合格した者が受講可能である。

【授業方法】
各回の報告担当者が、所定の題材について発表を行う。ゼミ生の人数に応じて、報告発表はディスカッサント方式で行う。ゼミ生の希望等に基づいて、年に1回程度任意で、裁判所見学・傍聴を予定している。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	対象とするテーマや希望に沿って、グループディスカッションやディベートを実施する予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中学校・高等学校から大学教養課程までの過程で修得したコモンセンスとこれまで2年間の法律専門科目で体得した事柄を基盤に、行政法・公法領域の各種判例・問題項目等を理解し、理論的に説明できるようにする。						3	3	3	4	3	3	1	3
②	到達目標①で理解した事象に基づいて、現実の社会で発生している行政上の課題や議論を適切に認識し、将来に向けてどのような解決方法があるか等の具体的・現実的な考察を行い、問題解決を行えるようにする。						2	2	2	3	1	3	3	3
③	到達目標①・②で培った様々な能力を土台に、他者と積極的に議論を行い正確な問題把握と意見交換を実施するとともに、綿密な調査・分析によって自らの意見を適時に形成した上で、口頭及び論文で正しく叙述できるようにする。						4	4	4	4	3	4	4	4
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	担当した題材の報告発表におけるレポート書面を評価の対象とする。	5	5	10								20
討論・発表等	分担した報告における発表の状況及び他のゼミ生の報告発表における質疑応答を評価の対象とする。	5	5	15								25
授業への参画度	質疑における積極性や正確性を評価の対象とする。	5	5	15								25
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告発表等の際に、ゼミ生に対して質疑と解説を行いフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
デイリー六法 2021年版	大石真ほか編修	三省堂	2020	その他	必携
ポケット六法 2021年版	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2020	その他	必携
行政法（第6版）	櫻井敬子・橋本博之	弘文堂	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
事前にメールでアポイントメントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政法領域に関係して弁護士として実際に携わった事例や見聞した事柄について、守秘義務に抵触しない範囲で解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・行政法の概要	ゼミ生がこれまで積み重ねてきた修得内容を踏まえ、今後2年間のゼミナールにおける学修への架橋を行うとともに、学部卒業後の社会生活・職務執行と行政法・公法の学修事項との関連を理解・体得する。 なお、ゼミナールで取り扱う課題・テーマや進め方は、ゼミ生と相談して決定するが、以下では学期開始前の時点での計画を掲げる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、これまで自分自身が体得してきたコモンセンスと法律専門科目の学修事項を適切に思い出し、述べるができる。これらの既習事項と今後修得する行政法・公法領域の事項がどのように関連するかを正しく理解し、述べるができる。学部卒業後の職務や社会生活と行政法・公法がどのように関連するかを具体的に確知し、述べるができる。	
	事前学修	第1回の到達目標を踏まえて、自分自身が学修してきた様々な事柄を正確に思い出してキーワードや重要事項を書き出しておくこと。それらの事柄が、行政法・公法とどのように関連するかを考察し、説明できるようにしておくこと。社会における行政法・公法の存在意義と将来へ向けた役割が何かを考え、述べるができるようにしておくこと。 小型六法は毎回持参しなければならないから、必ず準備して携行すること。	120分
	事後学修	イントロダクションとして説明した行政法の基礎事項を踏まえ、今後の学修計画を各自で一場面に応じて他のゼミ生と意見交換してもよい―策定すること。次回以降の研究発表テーマに沿って、自分が何を準備するべきかを点検し取り組んでおくべき事柄を定めた上で、その事柄を実行すること。	120分
2	行政法の重点事項の解説	ゼミナールの初年度でありゼミ生の準備期間が短いことから、第4回までは主に講義形式で進める。個別の報告発表とディスカッションは、5月から開始する。体系書・六法・判例集などに基づいて、行政法の基礎的な解説を実施する。解説で取り上げるテーマは、初回のゼミの際に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の概括的な枠組みを正確に理解する。到達目標②との関係で、行政法の分野における従来の議論や判例が、現実の社会でどのような役割を果たしているかを修得する。	
	事前学修	初回に指定した題材について、六法・体系書などの資料に沿って各自で調査する。場面に応じてゼミ生同士で意見交換や情報交換をしてもよい。	120分
	事後学修	第2回のゼミにおける議論や説明において自分が理解した事柄を文字化してノートを作成すること。ノート作成は手書きを推奨するが、Word等の電子媒体での作成を認める。また、配付資料や自分で探索した資料についても、責任を持ってファイリングすること。このファイリングもプリント・紙媒体での編綴を推奨するが、PDF等での電子記録も認める。ゼミの進行や次年度の卒業論文作成に応じて、これらのノートやファイリングの提示を求め、ゼミ生各自の学修・研鑽状況を確知する機会を設定するから、積極的にノート作成とファイリングを継続すること。	120分
3	行政法の重点事項の解説	体系書・六法・判例集などに基づいて、行政法の基礎的な解説を実施する。解説で取り上げるテーマは、初回のゼミの際に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の概括的な枠組みを正確に理解する。到達目標②との関係で、行政法の分野における従来の議論や判例が、現実の社会でどのような役割を果たしているかを修得する。	
	事前学修	初回に指定した題材について、六法・体系書などの資料に沿って各自で調査する。場面に応じてゼミ生同士で意見交換や情報交換をしてもよい。	120分
	事後学修	先週から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。次々週（第5回）から各ゼミ生持ち回りの報告発表が始まることから、自分の担当する題材と日程を改めて確認すること。日程と題材に沿って、自分自身の学修計画を策定すること。自分自身の報告発表でない場合でも、ディスカッサント（報告・質疑の運営係）を担当する際は、報告者と事前に打ち合わせを行うこと。報告担当者・ディスカッサントでない場合でも、ゼミでの質疑応答を準備すること。	120分
4	行政法の重点事項の解説	体系書・六法・判例集などに基づいて、行政法の基礎的な解説を実施する。解説で取り上げるテーマは、初回のゼミの際に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の概括的な枠組みを正確に理解する。到達目標②との関係で、行政法の分野における従来の議論や判例が、現実の社会でどのような役割を果たしているかを修得する。	
	事前学修	初回に指定した題材について、六法・体系書などの資料に沿って各自で調査する。場面に応じてゼミ生同士で意見交換や情報交換をしてもよい。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。次週（第5回）から各ゼミ生持ち回りの報告発表が始まる。先週自ら策定した学修計画を再度点検し、計画を実行すること。自分自身の報告発表でない場合でも、ディスカッサント（報告・質疑の運営係）を担当する際は、報告者と事前に打ち合わせを行うこと。報告担当者・ディスカッサントでない場合でも、ゼミでの質疑応答を準備すること。	120分
5	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 第5回以降、前期の各回で取り扱う題材の候補を、以下各回のシラバスに記載する。 ◆「訴訟要件」の概要	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆処分性の要件	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
7	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆原告適格	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
8	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆訴えの利益	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
9	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆国家賠償請求の概要	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
10	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆東京高判平成15年5月21日（0-157集団食中毒原因公表事件）	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
11	報告発表・ディスカッション		報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆最判平成27年3月3日（処分基準の性質と効果）	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。		
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。		
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。		
12	報告発表・ディスカッション		報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆最判平成30年10月23日（議会裁量と「総合考慮」審査）	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。		
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。		
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。		
13	報告発表・ディスカッション		報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆広島地判平成21年10月1日（埋立免許の差止訴訟と景観利益の保護）	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。		
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。		
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。		
14	報告発表・ディスカッション		報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆最大判平成17年12月7日（小田急高架化訴訟と周辺住民の原告適格）	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。		
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。		
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。		
15	報告発表・ディスカッション		報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 ◆最判平成25年3月26日（国家賠償訴訟における反射的利益論）	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。		
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。		
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。7月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
16	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。 なお、後期に取り扱うテーマについては、前期の早い時機に確定させて情報共有する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
17	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
18	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
19	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
20	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
21	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
22	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
23	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
24	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
25	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
26	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
27	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
28	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
29	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分
30	報告発表・ディスカッション	報告者1名が、担当の題材について発表を行う（30分～40分程度）。報告発表に続いて、当該題材についてゼミ生全員でディスカッションを行う（40分～50分程度）。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法領域の重要項目や主要判例の概要を理解する。到達目標②との関係で、これらの重要事項が具体的場面や条文解釈においてどのような問題点を持つかを学修する。到達目標③との関係で、こうした理解・学修の経過で各自が考察・分析した事項についての的確に自ら検証し、正確に説明・叙述する。	
	事前学修	報告者は、担当する題材について精密に調査を行い、報告レポートを作成する。報告発表の事前練習も実施する。事前の調査・準備に際しては、ディスカッサントと協力し、相互に意見交換をすること。ディスカッサントは、報告担当者と協力して報告の準備を行うこと。報告者・ディスカッサント以外のゼミ生は、各日程における題材・テーマについて、自ら事前に調査をして、当日の質疑応答・ディスカッションに備えること。	120分
	事後学修	第2回から着手したノート作成・資料のファイリングを実施すること。後期は12月を目途にゼミ生と個別面談を行い、ノートや資料の整理状況も含めて各自の学修状況を確認するので、ノート作成とファイリングを必ず継続すること。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミナール論文の作成に向けて、各自の研究テーマについて前学期・後学期ともにそれぞれ最低2回の発表を行うこと。また、ゼミナール論文については、後学期中に（11月・12月）に個別指導を行う。個別指導を受けないで論文を提出した場合、不合格とすることもあるので注意すること。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に各自が学修した内容をさらに深め、その成果を報告し、ゼミナール参加者の間で議論することにより、学修成果の共有と一層の研究の発展につなげる。それによって憲法に対する理解を深めると共に、様々な課題を発見し、それに対し自ら調査し、考察し、そして解決策を説得的に提示できる能力を養成する。

【履修条件】
3年次にゼミナールを履修登録し、出席氏、3回以上発表を行った者。

【授業方法】
各自レジュメと資料を用意して発表し、質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	課題を発見することができる。							3	3			
②	課題の解決に必要な資料（情報）を収集することができる。				3							
③	資料（情報）を正確に読み取り分析することができる。				3							
④	課題の解決策を立案できる。						3	3	3		3	
⑤	解決策を正確かつ説得力のある文章で表現できる。					3	4	3	3	3		3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	所定の回数の発表を行うこと。積極的に質問すること。(20点)	4	4	4	4	4						20
授業への参画度	年間を通じて授業回数の3分の2以上出席すること。ただし、出席回数には個別指導を含む。(20点)	4	4	4	4	4						20
その他()	2年間の平常点を80点×0.5=40点、ゼミ論文を60点として100点満点で評価する。											
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文(60点)を作成し、指定の期日までに提出すること。なお、個別指導を受けないで提出した場合、合格点を保証しない。	12	12	12	12	12						60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
発表時の講評および個別指導の際のコメントによる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・テキストブック 日本国憲法	下條芳明・東裕ほか	嵯峨野書院	2015	参考書	推奨
Next教科書シリーズ 比較憲法	東裕・玉蟲由樹ほか	弘文堂	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日・3時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
2	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
3	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
4	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
5	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
6	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。		
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。		360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。		120分
8	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。		
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。		360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。		120分
9	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。		
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。		360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。		120分
10	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。		
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。		360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。		120分
11	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。		
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。		360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。		120分
12	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。	
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。		
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。		360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
14	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
15	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
16	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
17	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
18	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
20	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
21	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
22	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
23	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
24	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
26	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
27	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
28	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
29	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分
30	研究発表		発表担当者2名による研究発表と質疑応答。
	この回の到達目標	各自のテーマに即してレジュメ・資料を作成して発表し、質疑応答もあわせて30分～40分の持ち時間を余すことなく対応できる。	
	事前学修	テーマについて文献・資料を調査し、レジュメにまとめる。	360分
	事後学修	質問に答えられなかった点を調べる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	平井 智尚	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：情報コミュニケーション分野の文献や論文の講読を通じて、専門的な知識の修得を図っていきます。また、共同研究を通じて、論文執筆の方法を学び、ゼミナール論文の執筆に向けた基礎固めを行っていきます。
4年次：ゼミナール論文の執筆に向けた個人の研究報告が中心となります。また、必要に応じて、ゼミナール論文の執筆に関連する文献や論文の講読を行います。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：情報コミュニケーション分野の基礎的な概念や理論について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する方法を身につける。また、共同研究を通じて、テーマ設定、調査、論述といった論文執筆のプロセスを身につける。
4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識の向上をはかり、論理的、批判的、科学的な考察をできるようにする。そうした活動を通じて、学問的探求心を高め、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：文献講読を実施し、報告が割り当てられた担当者は指定箇所のレジュメを作成し、発表を行っていただきます。また、発表された内容をもとにグループディスカッションを実施します。あわせて、共同研究の報告やゼミナール論文に関連する個人の研究報告も実施します。
4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における報告を行っていただきます。また、発表された内容をもとにしたグループディスカッションを実施します。必要に応じて文献講読を実施します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼンテーション、グループディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	情報コミュニケーションにかかる社会科学の知識を習得し、高い倫理観を身につける					3							
②	現代社会における情報コミュニケーションをめぐる問題のメカニズムを理解し、その問題を説明できる						3						
③	情報コミュニケーションに関する基礎的・専門的な知識を基にして、論理的、科学的、合理的な考察ができる							3					
④	現代社会における事象を注視し、さまざまな営みへと積極的に関与し、自ら問題を発見する								3				
⑤	より良い社会の創造という観点から問題設定を行う									4			
⑥	他者とのコミュニケーションを通じて、自らの研究活動の発展を図る										4		
⑦	社会・共同体における様々なアクターとの協働を促進する											4	
⑧	研究活動を通じて自己の向上や社会貢献を実現する												4
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	12	13	12	13	12	13	12	13			100
その他()												
到達目標別の比率(%)		12	13	12	13	12	13	12	13			100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール時間内および随時の指導

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
つながりっぱなしの日常を生きる：ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの	ダナ・ボイド	草思社	2014	教科書	必携
インターネット・デモクラシー：拡大する公共空間と代議制のゆくえ	ドミニク・カルドン	トランスビュー	2012	教科書	必携
#リパブリック：インターネットは民主主義になにをもたらすのか	ギャス・サンス ディーン	勁草書房	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
必要に応じて随時対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミナールの運営、スケジュール、文献講読の割り当て	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール活動への理解を深める	
	事前学修	自らの興味・関心に則した文献を読む	120分
	事後学修	輪読予定の文献に目を通しておく	120分
2	文献1-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
3	文献1-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
4	文献1-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
5	文献1-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
6	文献1-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	共同研究報告1	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジュメの作成、報告に関する打ち合わせ	120分
	事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
8	文献2-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
9	文献2-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
10	文献2-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
11	文献2-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
12	文献2-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジュメを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	共同研究報告2		進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、報告に関する打ち合わせ	120分
	事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
14	論文報告1		ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆	120分
	事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
15	論文報告2		ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆	120分
	事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
16	文献3-1		文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
17	文献3-2		文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
18	文献3-3		文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	文献3-4	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
20	文献3-5	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
21	共同研究報告3	進捗報告：口頭発表、ディスカッション、次回の報告に向けた打ち合わせ	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の方向性を互いに確認し、課題を共有する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆、報告に関する打ち合わせ	120分
	事後学修	今後の課題を確認し、文献収集等につとめる	120分
22	文献4-1	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
23	文献4-2	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
24	文献4-3	文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説	
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	文献4-4		文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
26	文献4-5		文献講読：口頭発表、問題提起、ディスカッション、解説
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、範囲として指定した個所の内容を把握する。また、文献中の概念や理論について理解する	
	事前学修	口頭発表を実施する者はレジюмеを作成する。その他の者は指定された文献を読み、論点等を整理しておく	120分
	事後学修	文献中の概念や理論をノートにまとめる。ディスカッションの論点をまとめる	120分
27	共同研究報告4		成果報告：口頭発表
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、共同研究の成果を互いに共有する	
	事前学修	各種調査の実施、報告に関する打ち合わせ、論文執筆	120分
	事後学修	校正を実施し、論文を完成させる	120分
28	論文報告3		ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆	120分
	事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
29	論文報告4		ゼミナール論文の執筆に向けた個人の進捗報告：口頭発表、ディスカッション
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール論文の方向性、および課題を確認する	
	事前学修	各種調査の実施、口頭報告用のレジюмеの作成、論文執筆	120分
	事後学修	研究計画の確認、文献収集、論文執筆	120分
30	まとめ		1年間の振り返り：ゼミナール運営および研究活動の改善点や課題等について
	この回の到達目標	到達目標①～⑧に関連し、ゼミナール運営および研究活動のさらなる発展に向けて意識の共有を図る	
	事前学修	ゼミナール運営および研究活動の改善点や課題等を各自で整理する	120分
	事後学修	確認された課題の改善を図る	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	福島 康仁	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
都市政策に関する高度な知識につき，他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに，その学修状況を自己分析しつつ，その成果として，都市政策に関する専門領域に関する卒業論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
公共政策および都市政策における基礎理論について修得するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。地方分権社会における各地域が抱える諸問題について学習するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。また，グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】		
文献研究を行い，各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い，最後に教員が解説する。後半は履修者各自が選択する論文のテーマにつき質疑応答を行う。また，合宿やフィールドワーク，フォーラムへの参加など，学修効果を高めるための創意工夫がなされる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか，自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3		
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					3	3	3	3	3		
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。						3	3	3	3	3	
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。						3	3	3	3		3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学 修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を 解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる 報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益 な意見を述べることをできたかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者 倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われてい るかを評価する。	20	30	10	10							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
面談、討論、相談、レポートなどの添削により随時おこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
fukushima/yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員としての知見と経験により情報を提供する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	論文テーマの確定(2)	当選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	あ確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	課題の確認・検討(3) 課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させる。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
4年次は、3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文の制作をする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
4年次：ゼミナール論文の制作を通して、知的財産法の法的問題点の分析能力を養い、自ら紛争解決や提言を行えるようにする。

【履修条件】
当ゼミナール・入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとに全員でディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	研究テーマに沿って材料を集めることを主体的に行っていく。文献調査，企業ヒアリングなどの結果を予め定めたスケジュールにしたがって報告・発表する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				4	4	4					
②	商標権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				4	4	4					
③	不正競争防止法に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				4	4	4					
④	研究テーマとなっている法的問題点について、立法、契約モデル等の具体的な解決方法、提言をする。							4	4	4	4	4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分の研究テーマに関する判例研究などの発表方法，内容を評価する。 自分のテーマではない仲間の研究活動について，他者の発表に対する質問，問題提起など，ディスカッションへの参画度を評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の内容を評価する。	10	10	20	20							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システム等を通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail: akiko_fujita@lapinrose.jp 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士，特許庁工業所有権審議会委員，財務省専門委員（知的財産）
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての19年間の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法律論文の書き方講座	法律論文の特徴，書き方，構成の仕方	
	この回の到達目標	法律論文の書き方，構成の仕方を習得する。	
	事前学修	興味のあるテーマの論文を1つ見つけて読んでおく。	120分
	事後学修	法律論文の書き方に則った方法でテーマを探す。	120分
2	研究発表①	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを探索する。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
3	研究発表②	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
4	研究発表③	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
5	研究発表④	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
6	研究発表⑤	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	研究発表⑥	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
8	研究発表⑦	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
9	研究発表⑧	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
10	研究発表⑨	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
11	研究発表⑩	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
12	研究発表⑪	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	研究発表⑫	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
14	研究発表⑬	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
15	研究発表⑭	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
16	研究発表⑮	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
17	研究発表⑯	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
18	研究発表⑰	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	研究発表⑮	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
20	研究発表⑯	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
21	研究発表⑰	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
22	研究発表 2 1	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
23	研究発表 2 2	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
24	研究発表 2 3	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	研究発表 2 4	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
26	研究発表 2 5	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
27	研究発表 2 6	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
28	研究発表 2 7	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
29	研究発表 2 8	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分
30	研究発表 2 9	担当者各自の研究テーマ発表，プレゼン。	
	この回の到達目標	担当者各自の研究テーマを発表し，問題の所在，構成，材料を検討する。	
	事前学修	報告担当者が自分の研究テーマを進める。	120分
	事後学修	ゼミナールでの指摘やディスカッションをふまえて，さらに研究を進める。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学習した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミ生全員で共有する。そうした活動を通じて、学問的探究心を養い、身近な問題に対しても積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
3年次にゼミに所属していたこと

【授業方法】
各自が決定した研究テーマについて、随時、進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとに全員で議論し、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、学生からの発表が主体となるので、それ自体がアクティブ・ラーニングの形態となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法財産法の基本的な知識を身につける。				3	3						
②	具体的な裁判例における論理展開を理解する。						3	3	3			
③	裁判例を素材とする議論において他者の意見を汲み上げ、自己の見解を確固たるものとする。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	ゼミナール論文。	20	20	30								70
討論・発表等	ゼミナールにおける発表、議論への参加の度合い。	10	10	10								30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナールの最後の回に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日13時～14時（事前にアポイントメントをとること）、メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミナール論文	ゼミナール論文テーマの策定・指導	
	この回の到達目標	ゼミナール論文のテーマ策定	
	事前学修	ゼミナール論文テーマの候補を考える	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマの候補を絞る	120分
2	ゼミナール論文	ゼミナール論文テーマの策定・指導	
	この回の到達目標	ゼミナール論文のテーマの策定	
	事前学修	ゼミナール論文テーマの候補を考える	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマの候補を絞る	120分
3	ゼミナール論文	ゼミナール論文テーマの策定・指導	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの策定	
	事前学修	ゼミナール論文テーマの候補を考える	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマの候補を絞る	120分
4	ゼミナール論文	ゼミナール論文テーマの策定・指導	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの策定	
	事前学修	ゼミナール論文テーマの候補を考える	120分
	事後学修	ゼミナール論文テーマの候補を絞る	120分
5	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文テーマの進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
6	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
8	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
9	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
10	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
11	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
12	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
14	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
15	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
16	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
17	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
18	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
20	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
21	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
22	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
23	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
24	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
26	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
27	ゼミナール論文	ゼミナール論文の進捗状況の発表	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の進捗状況の確認	
	事前学修	ゼミナール論文の構想を練る	120分
	事後学修	ゼミナール論文の構想を練り直す	120分
28	ゼミナール論文	ゼミナール論文の最終指導	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の完成	
	事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて	120分
	事後学修	ゼミナール論文の内容確認	120分
29	ゼミナール論文	ゼミナール論文の最終指導	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の完成	
	事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて	120分
	事後学修	ゼミナール論文の内容確認	120分
30	ゼミナール論文	ゼミナール論文の最終指導	
	この回の到達目標	ゼミナール論文の完成	
	事前学修	ゼミナール論文の完成に向けて	120分
	事後学修	ゼミナール論文の内容確認	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	松島 雪江	部別	第一部 第二部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
法学の基礎的知識を共有した上で、法哲学的に扱いうる事象につき、個人研究発表、相互の議論、論文の作成を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法哲学、法思想を通じた法的問題の探求を目的とする。

【履修条件】
3、4年連続して受講すること。

【授業方法】		
法学の基礎知識を共有する時は、テキストの輪読を行う。各学生が担当箇所をまとめて発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。その後個人研究のテーマを見つけ、各学生が個人研究を行う。授業内で発表し、教員及び他学生が質問やコメントを行う。論文執筆にあたっては、執筆方法や論文の構成などの指導を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生の発表に基づき、相互に意見交換を行い、講評する。それを元に、次回の研究発表を作成していく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学の基本的知識を得た上で、それを活用することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	個人研究のテーマを見つけ、それを発展的に研究することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	学生相互間で議論を行うことができる。				3	3	3	3	3	3	3
④	個人研究テーマにつき、形式的に整ったレポートや論文を執筆することができる。				3	3	3	3	3	3	3
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	自分の見解を言語化し、論理的に示すことができる。	5	10	10	25							50
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	5	10	10	25							50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	50							100

【課題に対するフィードバックの方法】
研究発表に関しては、授業内で講評を行う。論文やレポートに関しては、事後的にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	その都度必要な文献を利用する。				

【オフィスアワー】
火曜12:20-12:50、研究室1713にて。訪問につき事前に連絡のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	1年間のゼミ活動計画、研究計画を立てる。	
	この回の到達目標	これから1年間で何をするのか、どのように活動するのか理解し、実行可能な研究計画を立てられるようにする。	
	事前学修	研究発表のための資料収集、レジュメの作成、発表準備を行うにあたり、1年間の流れを確認しておく。	120分
	事後学修	ゼミの活動計画、研究計画に基づき、自分の研究を進める。	120分
2	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
3	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
4	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
5	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分
6	個人研究発表	各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。	
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持つておく。	120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
8	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
9	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
10	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
11	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
12	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
14	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
15	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
16	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
17	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
18	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
19	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
20	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
21	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
22	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
23	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
24	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
26	研究発表個人		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
27	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
28	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
29	個人研究発表		各自が決めたテーマにつき、個人研究発表を行う。発表者以外は、質問、意見を行う。	
	この回の到達目標	自分の決めた研究テーマにつき、問題の状況を整理して、レジュメを作成し、発表を行うことができるようにする。発表者以外は質問、意見など積極的に発言を行えるようにする。		
	事前学修	個人研究発表のために必要な資料収集を行い、問題状況を整理する。他の学生の発表テーマにも関心を持っておく。		120分
	事後学修	研究発表で指摘された点を踏まえ、改善できる箇所の調査、探求を深める。		120分
30	口頭試問		4年生の論文口頭試問に出席し、コメントを述べる。	
	この回の到達目標	4年生の発表を理解し、それに質問や意見を行うことができる。		
	事前学修	4年生のこれまでの発表を理解しておく。		120分
	事後学修	口頭試問で4年生が指摘されたことを受け、自分の研究に活かせる点を模索する。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	松元 雅和	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：政治哲学における現代の諸問題について学修するとともに，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 4年次：3年次に学修した内容に基づき，各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し，ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政治哲学における現代の諸問題について理解し，4年次に作成するゼミナール論文の研究テーマを決定出来るようになることを目標とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通し，政治哲学における現代の諸問題への理解を深め，自分自身で説明出来るようになる。

【履修条件】
政治や社会について理論的かつ論理的に考える姿勢を求める。

【授業方法】
各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。発表された内容をもとにディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	発表を担当し、ディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	政治哲学の文献購読を通じて、現代の諸問題について理解する。						3	3	3	3				
②	各自の興味・関心に沿った研究テーマを探求する。										4	4	4	4
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	発表の充実度・精確性を評価する。	30										30
授業への参画度	積極的な発言を評価する。	30										30
その他(ゼミナール 論文)	研究テーマの進展を評価する。		40									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で随時行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握する。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	報告1	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
3	報告2	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
4	報告3	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
5	報告4	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
6	報告5	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	報告6	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
8	報告7	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
9	報告8	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
10	報告9	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
11	報告10	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
12	報告11	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	報告12	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
14	報告13	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
15	報告14	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
16	報告15	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
17	報告16	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
18	報告17	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	報告18	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
20	報告19	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
21	報告20	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
22	報告21	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
23	報告22	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
24	報告23	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	報告24	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
26	報告25	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
27	報告26	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
28	報告27	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
29	報告28	各自が決定した研究テーマについて、発表・ディスカッション・解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、授業内容に関する政治哲学の知識について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	発表担当者は資料を作成・準備する。	180分
	事後学修	報告・解説内容を振り返る。	60分
30	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	輪読文献全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ヨーロッパ諸国の政治について、理論的な検討を加えることによって、日本や世界各国の政治に応用可能な知識を身につける。そのために、受講生が主体となって研究発表やディスカッションを行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
政治学における理論を理解し、活用することで、ヨーロッパ各国の政治を把握し説明することができる。また説明にあたっては、適切な資料等を準備し、他者に対して説得的なプレゼンテーションが行える。

【履修条件】
積極的にゼミナール活動に参加すること。

【授業方法】
指定のテキストの輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとに質疑応答を行い、最後に教員がコメント等をする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講生の発表を中心としたディスカッション形式	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	政治学の基礎理論を説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
②	ヨーロッパ各国の政治を説明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
③	政治に対して、理論的に自己の意見を表明することができる。				3	3	3	3	3	3	3
④	自身の意見を他者に分かりやすく伝えることができる。				3	3	3	3	3	3	3
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①、②、③、④について、発表に際しては、基本的な文献の内容を把握して、論点を明確に示しているか、適切な資料等が準備されているかを評価する。また、発表者にかかわらず、ゼミナール参加者は積極的に自身の意見を表明することで評価を受ける。	5	5	5	5							20
授業への参画度	到達目標①、②、③、④について、ゼミナールにかかわる様々な活動への積極的な参加の有無によって評価する。参加には、自身の意見を述べるなど主体的なかわりが必須となる。	5	5	5	5							20
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①、②、③、④について、ゼミナール論文で、適切な文献が用いられているか、基本的な論文の書き方を理解しているかを評価する。	10	10	20	20							60
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の発表後に適宜、教員がコメントを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文献については、授業の進行に応じて、適宜、紹介する。				

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）①	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナールの全体像を把握すると共に、ヨーロッパ政治を学ぶことやゼミナールという知的共同体で学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
2	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）②	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
3	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）③	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
4	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）④	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
5	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）⑤	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治学方法論の基礎を理解するとともに、それぞれの方法の利点と問題点を説明できる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	69分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。。	180分
6	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）⑥	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゼミナール論文進捗状況報告（第一回）⑦	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
8	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）①	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
9	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）②	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
10	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）③	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
11	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）④	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ統合の歴史を理解するとともに、戦後ヨーロッパの国際秩序を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
12	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）⑤	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）⑥	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
14	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）⑦	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
15	ゼミナール論文進捗状況報告（第二回）⑧	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
16	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）①	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ各国の政治を理解するとともに、各国の政治史および政治システムを説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
17	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）②	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
18	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）③	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）④	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
20	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）⑤	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
21	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）⑥	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
22	ゼミナール論文進捗状況報告（第三回）⑦	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
23	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）①	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
24	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）②	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）③	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
26	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）④	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各発表者が行った発表内容を理解するとともに、その内容を説明することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
27	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）⑤	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
28	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）⑥	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
29	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）⑦	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分
30	ゼミナール論文進捗状況報告（第四回）⑧	ゼミナール論文の進捗状況を報告する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、論文の基本構造を理解するとともに、自身の研究内容に合致した研究手法を選択することができる。	
	事前学修	発表者が事前にまとめたリサーチペーパーを読み、その内容を確認する。	60分
	事後学修	研究発表に伴うディスカッションを踏まえて、自身のゼミナール論文を修正する。	180分

科目名	ゼミナール4年	担当者	三谷 文栄	部 別	第一部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：政治コミュニケーションの理論的枠組みを学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見してもらう。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：政治コミュニケーションの観点からのゼミナール論文作成に向けて、基礎的な考え方を理解するとともに、問題関心を深めることを目的とする。 4年次：ゼミナール論文の作成を通じて、現代社会の諸問題を政治コミュニケーション論の観点から、分析、判断、評価できるようになることを目的とする。

【履修条件】

【授業方法】		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無		
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	現代社会の諸問題に対する関心を高める				3	3							
②	他者の意見に耳を傾けながら、研究を進めていく									3	3		
③	政治コミュニケーションの観点から、各自の研究テーマを掘り下げ、ゼミナール論文を作成する							3	3	3			3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①に関連して、研究内容とゼミナール論文が基準に達しているかで評価する。	30										30
授業への参画度	到達目標②に関連して、ゼミナール活動への積極的な参加やコメント内容も評価する。		30									30
その他(ゼミナール論文)	到達目標③に関連して、ゼミナール論文の内容で評価する。			40								40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無		実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
2				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
3				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
4				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
5				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
6				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
8				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
9				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
10				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
11				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
12				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
14			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
15			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
16			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
17			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
18			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
20			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
21			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
22			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
23			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
24			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
26				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
27				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
28				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
29				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			
30				
	この回の到達目標			
	事前学修			
	事後学修			

科目名	ゼミナール4年	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
説得ディベートやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における公共政策及びその形成過程の特質を検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：公共政策に関する基礎理論を修得するとともに、社会問題を解決するための政策オプションについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解します。 4年次：3年次に学修した内容に基いて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをゼミ内で共有・考察します。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成しつつ、最終的に卒業論文を完成させます。

【履修条件】
ゼミナールの入室試験に合格することが必要です。

【授業方法】
毎回、公共政策に関する説得ディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	説得ディベート、グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。				3	3		3				
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				3	3	3	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		3	4	4	3
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。							3	3	3	3	
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	20	20							60
授業への参画度	毎回、説得ディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他(ゼミナル論文)	4年次に提出される卒業論文が、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	20	20									40
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回の説得ディベートに関する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	卒業論文執筆の方法論	卒業論文執筆に関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、卒業論文執筆の方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)	各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
9	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
10	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
12	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	まとめ		前期の授業で指摘された諸政策の問題や課題について確認、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
16	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
17	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
18	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
20	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
21	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
22	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
23	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論報告)		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
24	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション (卒論中間報告)		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論中間報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
26	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
27	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論最終報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
28	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論最終報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
29	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション（卒論最終報告）		各自の問題関心を明らかにしながら、取り上げる社会問題の公共政策上の意義や課題について、履修者全員で討論しながら、学修していく。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
30	まとめ		後期の授業で指摘された諸政策の問題や課題について確認、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
このゼミナールでは、商法（商取引法・会社法・運送法）に関する裁判例の知識や基礎的な理論をベースに、商法分野における体系的知識を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商法・会社法・運送法における判例及び学説に関する基礎的な知識について修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に付ける。また、グループワークやディスカッションの中で他の受講者との協働意識の重要性を理解する。

【履修条件】
ゼミナールの選考を通過したもの

【授業方法】		
判例や事例問題を素材に商法分野についての検討を行い、ゼミナール内において報告し、質疑応答を行うという演習形式で行う。そのため、各自報告する判例や事例問題について検討して、レジュメを作成し、ゼミナール内にて報告をするとともに、担当外の学生についても積極的にディスカッションに参加する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	一方的な講義形式ではなく、受講生が予め検討した商法に関連する判例及び事例問題について、自ら教科書や体系書・論文等を参照しつつ、レジュメを作成して報告を行い、参加者同士でディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法・会社法の制度の全体構造について説明することができる。					3	3						
②	商法・会社法に関する主要な論点に関する判例・学説を調査し、その内容について説明することができる。							3	3	3			
③	商法・会社法に関する論点について判例・学説を踏まえた上で、適切な法的紛争の解決方法を、自らの意見を述べながら考察することができる。									4	4	4	4
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	商法・会社法に関する判例及び事例問題について予め検討した上で、レジュメを作成し、ゼミナール内において積極的に自らの意見を述べながら報告しているかどうかによって評価を行う。	10	10	10								30
授業への参画度	自分の担当外の判例及び事例問題においても、予め自分なりに検討を重ね、ゼミナール内において質疑応答に積極的に参加しているかどうかによって評価を行う。	10		10								20
その他(ゼミナール論文)	自らの興味関心のある論点等について従来の判例や学説等を踏まえた上で、自らの意見を適切に表現されているかによって評価を行う。			50								50
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	10	70								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ゼミナール内における質疑応答や課題作成等の場合には、適宜、課題への添削という形でフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しないが、自らが持っている商法・会社法の教科書と六法は必ず持参すること。				

【オフィスアワー】
水曜日の午後1時00分～午後2時30分。ただし、在室中は原則対応する。研究室（本館9階1919研究室） メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び受講生の興味関心のある判例・事例問題の検討方法		ゼミナールの運営方法に関するガイダンスと自ら興味のある判例や事例問題の検討方法について説明する。	
	この回の到達目標	受講生が興味のある判例や事例問題の検討方法に関して、到達目標①に関連して、その分析手法を知った上で、判例や事例問題についての検討を行うことができるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、学修者自身が持っている法律学等の教科書を読んでおき、どのような判例や論点があるのかを予め確認する。		120分
	事後学修	判例研究や事例問題の分析の方法について自分なりにまとめておく。		120分
2	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
3	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
4	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
5	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
6	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
8	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
9	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
10	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
11	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
12	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
14	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
15	ゼミナール論文作成の準備	第14回までのゼミナールを踏まえて、ゼミナール論文を作成するために、自分自身の興味関心を報告し、ゼミナール論文の書き方について学修する。	
	この回の到達目標	3年次及び4年次のゼミナールを通じて、受講生自身の興味関心のある判例・事例問題等について説明し、ゼミナール論文の書き方を身につけることができる。	
	事前学修	受講生自身が興味関心のある判例・事例問題等についてレジュメを作成し、ゼミナール論文の作成の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
16	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
17	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分
18	会社法に関する判例及び学説の分析	会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。	120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
20	会社法に関する判例及び学説の分析		会社法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	受講生が興味関心のある判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
21	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
22	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
23	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
24	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
26	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
27	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
28	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
29	商法総則・商行為法に関する判例及び学説の分析		商法総則・商行為法に関する判例や事例問題について従来の判例及び学説を踏まえた上で、自らの意見を形成できるように受講生同士でディスカッションする。	
	この回の到達目標	商法総則・商行為法に関する判例・事例問題について検討し、到達目標②についてはその内容を説明することができるようになり、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	判例・事例問題の事実関係をまとめ、関連する判例や文献を調査し、レジュメを作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したレジュメをブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分
30	ゼミナール論文の作成		これまでのゼミナールを通じて検討してきた判例・事例問題等について最終的にゼミナール論文という形で報告をする。	
	この回の到達目標	会社法・商法総則・商行為法等に関する判例・事例問題等について検討し、自分の意見を述べることができるようになる。		
	事前学修	受講生自身が興味関心のある判例・事例問題等について、関連する判例や文献を調査し、ゼミナール論文を作成して報告の準備を行う。		120分
	事後学修	ゼミナール内において出た教員や他の受講者の意見を踏まえて、改めて自らが作成したゼミナール論文をブラッシュアップして、意見をきちんと形成できるようにまとめる。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	南 由介	部 別	第一部 第二部	期 間	通 年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：関心のあるテーマを選択し、報告を行った後、ゼミ生全員で批判・検討し、議論を行う。 4年次：ゼミナール論文の題材とするテーマについて中間報告を行い、問題点を批判・検討し、内容を深化させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：刑法総論および各論における様々な問題から各自の関心のあるテーマを選択し、刑法学の探究をはかる。 4年次：3年次で学修した知識・思考力を前提に、ゼミナール論文の題材を決め、さらなる刑法学の探究をはかる。

【履修条件】
履修を許可された学生であること。

【授業方法】		
あらかじめ決めておいた担当者が、担当する問題に関する学説の検討・批判や判例の分析・検討を内容とする報告を行い、ゼミ生全員で、さらに相互に検討・批判することを通して、刑法学の学修を図りたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	あらかじめ決めた担当者に報告をしてもらい、その後にゼミ生全員で議論をしてもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	刑法の基礎的知識を修得する。				3	3	3	3	3	3	3
②	刑法総論・各論における重要な論点について、判例および学説を理解する。				3	3	4	3	3	3	4
③	刑法総論・各論における重要な論点について、判例・学説を批判的に検討した上で、自説を展開できるようにする。				3	3	4	4	4	4	4
④	刑法学の学修を通して、法的・論理的思考を涵養し、矛盾なく自分の言葉で自己の考えを示すことができるようにする。				3	3	4	4	4	4	3
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	3年次・4年次継続して履修し、報告をしなければならない。特に到達目標①②の点が重視される。	10	10	6	6							32
授業への参画度	ただゼミに出席するのみでは足りず、積極的に報告者に質問等を行うなどの発言が求められる。到達目標①の点が問われる。	10	6	6	6							28
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の提出が必要である。特に到達目標②③④の点が重視される。	10	10	10	10							40
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う。											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	26	22	22							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日14：40～16：10（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室9号館4階 minami.yusuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・導入講義	ゼミの運営方針について。	
	この回の到達目標	刑法学を概観する。	
	事前学修	刑法総論・各論を復習する。	120分
	事後学修	刑法総論・各論の文献を読み、報告する題材を探す。	120分
2	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する	120分
3	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
4	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
5	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
6	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
8	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
9	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
10	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
11	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
12	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
14	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
15	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
16	オリエンテーション・導入講義	ゼミナール論文についての現状報告。	
	この回の到達目標	刑法学を概観する。	
	事前学修	刑法総論・各論に関する文献を読み、題材を探す。	120分
	事後学修	題材探しに関し、十分でないところを調べ、さらに探す。	120分
17	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
18	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
20	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
21	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
22	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
23	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
24	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
26	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
27	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
28	報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
29	ゼミナール論文の報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分
30	ゼミナール論文の報告、議論（批判・検討）	報告者による報告および議論。	
	この回の到達目標	報告テーマについて理解し、自己の考えをまとめて、説明できるようにする。	
	事前学修	報告のテーマについて予習をする。	120分
	事後学修	報告のテーマについて、理解が十分でない箇所を復習する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
担当教員の専門領域に関する高度な知識につき、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修するとともに、その学修状況を自己分析しつつ、その成果として、当該専門領域に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：日本における知的財産権（主に特許を中心）における現代の諸問題について学習するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する。 また、実際にアメリカに特許出願を行うことを通して、勉強の成果を確認する。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見し、ゼミナール論文を作成する。また、米国における特許権の諸問題を研究する。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
3年次：日本の判例の輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。 また、3～4人にグループに分け、各班が興味のある題材を自ら決定し発表し、教員がコメントする。 4年次：米国の判例の輪読を行い、各自担当箇所の発表を行う。又、各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。 輪読・判例の発表された内容をもとにグループディスカッションを行い、最後に教員が解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	米国特許庁へ出願を行う。そのため、出願に必要な書類を学生自ら作成し、インターネットにて出願を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担当教員の専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
②	担当教員の専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
③	担当教員や他の履修者を尊重し、信頼関係を構築しながら協働して論文執筆作業に取り組むことができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
④	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。				3	3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	専門演習の成果を踏まえた中間のレポート課題につき、授業中の質疑応答を含め、適切な論証が行われたかを評価する。	5	5									10
討論・発表等	レポート課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論につき、他の履修者に向けた有益な意見を述べることであったかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他(ゼミナール論文)	4年次終了段階で提出されるゼミナール論文につき、研究者倫理に則った上で、論理的かつ批判的な論証が行われているかを評価する。	20	30	10	10							70
その他(留意事項)	ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う											
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用なし。				
【オフィスアワー】					
火曜昼休み 9号館9408 三村淳一研究室					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	米国弁理士としての米国特許出願や、米国企業との特許ライセンス交渉		
実務経験に基づく実践的教育の内容		机上の勉強を、実際の特許出願として実践する。			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	論文テーマの確定(1)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
2	論文テーマの確定(2)	選定した論文のテーマについて適切な射程範囲を設定し、テーマを確定するため、質疑応答や助言を行う。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文テーマの設定や確定にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマの候補について確認し、その選定理由をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマや射程範囲についてさらに検討を加える。	120分
3	文献の収集(1)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、全体に共通する一般的な注意事項を説明する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、一般的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	文献の収集(2)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
5	文献の収集(3)	確定した論文のテーマに関する文献の収集にあたり、個別的な注意事項を説明する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の収集につき、個別的な注意事項を説明できる。	
	事前学修	定した論文のテーマに関する文献の収集方法について検討し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
6	文献の確認・整理(1)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献の確認・整理(2)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
8	文献の確認・整理(3)	収集した文献や文献リストを確認・整理し、不足があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な文献の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関して文献を収集し、文献リストを作成する。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
9	学説等の確認・検討(1)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
10	学説等の確認・検討(2)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
11	学説等の確認・検討(3)	整理された学説等を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文執筆に必要な学説等の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	収集した文献を読み込んで、論文のテーマに関する学説等を整理し、レジюмеにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
12	課題の確認・検討(1)	まとめられた課題を確認・整理し、不足があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や整理にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	論文のテーマに関する残された課題を列挙し、まとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題の確認・検討(2)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
14	課題の確認・検討(3)	整理された課題を確認・検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、米国の重要判例に対し、争点の整理を行い、端的に解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、論文のテーマに関する残された課題の確認や検討にあたり、適切な議論を展開できる。	
	事前学修	残された課題についての文献や学説等を整理し、レジュメにまとめる。	120分
	事後学修	授業での確認・検討や指示を踏まえてさらに整理する。	120分
15	夏期休暇中の課題（ゼミナール論文執筆）とその解説	夏期休暇中に取り組むゼミナール論文の執筆につき、研究倫理等の一般的な注意事項や個別的な注意事項を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ゼミナール論文を執筆するための注意事項を説明できる。	
	事前学修	ゼミナール論文を執筆する上での注意事項を確認し、質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
16	論文の第一次報告(1)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
17	論文の第一次報告(2)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
18	論文の第一次報告(3)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	論文の第一次報告(4)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
20	論文の第一次報告(5)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
21	論文の第一次報告(6)	ゼミナール論文につき担当者が第一次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの整理・検討等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文を修正する。	120分
22	論文の第二次報告(1)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
23	論文の第二次報告(2)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
24	論文の第二次報告(3)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	論文の第二次報告(4)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
26	論文の第二次報告(5)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
27	論文の第二次報告(6)	第一次報告の際の講評を踏まえて修正したゼミナール論文につき担当者が第二次報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文につき、他の履修者の報告に対する質疑応答を含めて、適切に議論できる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
28	論文の全体的講評	第二次報告を踏まえ、全体の講評を行う。また、その後の修正を踏まえた個別のゼミナール論文に対する追加の質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文の完成度を高めるにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	これまでの講評等を踏まえて、現段階でのゼミナール論文を作成する。	120分
	事後学修	授業での講評を踏まえて、ゼミナール論文をさらに修正する。	120分
29	論文提出に向けた最終調整(1)	推敲された論文を検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
	事後学修	論文の完成に向けて推敲する。	120分
30	論文提出に向けた最終調整(2)、全体の振り返り	推敲された論文をさらに検討し、不足や不十分な箇所があれば指示する。また、2年間のゼミナール活動を振り返り、その学修成果を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ゼミナール論文を推敲するにあたり、適切な質疑応答ができる。	
	事前学修	論文の完成に向けて推敲を重ねる。	120分
	事後学修	授業での検討や指示を踏まえて、これを論文に反映させるとともに、提出の準備を行う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	宮崎 裕介	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
商法に関する判例・裁判例・その他の事例を素材として、法的問題点を探求し、その解決策を自ら考える力を涵養する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商法に関する判例・裁判例・その他の事例を通じて法的問題を探求し、その解決策を自ら提示することができる。 商法の学修を通じて社会・経済が直面する問題を自ら抽出し、分析・考察することができる。

【履修条件】
ゼミナール入室試験に合格すること。

【授業方法】
発表者の発表をもとに履修者と教員が互いにディスカッションをする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	発表者の発表に対して教員と履修者が対話をする。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法に関する判例・裁判例・その他の事例を通じて法的問題点を探求する。						3	3						
②	自ら抽出した商法に関する法的問題点について解決策を自らの力で提示する。								3	3	3			
③	ビジネスと商法との接点を理解する。											4	4	4
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	対話型のゼミにおける質疑応答	15	15	15								45
授業への参画度	ゼミへの積極的な参加	5	5	15								25
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文	10	10	10								30
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーやウェブサイトなどを用いてフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
会社法判例40	久保田安彦＝舩津浩 司＝松元暢子	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
未定（決定したらゼミでアナウンスする）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ゼミの概要を説明する。研究素材などを提示する。	
	この回の到達目標	ゼミの概要を把握することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	日経新聞等で商法に関する現代的問題点を知る。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	120分
	事後学修	ゼミの概要で理解したことをもとに、改めて日経新聞等を読み返す。	120分
2	事例研究	実際の事例を研究する。	
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
3	事例研究	実際の事例を研究する。	
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
4	事例研究	実際の事例を研究する。	
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
5	事例研究	実際の事例を研究する。	
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
6	事例研究	実際の事例を研究する。	
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
8	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
9	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
10	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
11	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
12	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
14	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
15	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
16	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
17	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
18	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	予め事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
20	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
21	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
22	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
23	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
24	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
26	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
27	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
28	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
29	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分
30	事例研究		実際の事例を研究する。
	この回の到達目標	事例研究を通じて商法に関する法的問題点を理解することができる。 テーマに関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	事例研究の内容を予習する。	120分
	事後学修	事例研究の内容を再確認する。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
3年次：民法の基礎及び判例の解釈の仕方を学修する。そこで前期は、判例研究を行う上で必要な知識（条文・判例の読み方、文献・資料の調べ方）を学んだ後、グループで判例研究を行い、それを順次発表する。また、後期はゼミナール論文の作成を目指して、各自の興味・関心に沿った研究テーマの発見にも取り組む。
4年次：3年次に学修した内容及び3年次に選定したゼミナール論文のテーマにつき、深く掘り下げ、ゼミナール論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：民法の基礎及び判例の解釈の仕方を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身に着ける。さらに、グループワークを通して、他者との協働意識の重要性を理解する。
4年次：3年次に学修した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を正しく修得し、それをグループで共有・考察するかような活動を通じて、学ぶことの面白さを知り、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索する意識を醸成する。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。

【授業方法】
3年次：指定された教科書を輪読後、グループに分かれ、家族法の判例等を各グループで選び、判例研究を行う。さらに、学習の理解度に応じて、事例問題の演習なども随時行うこととする。
4年次：各自が決定したゼミナール論文のテーマにつき、随時、中間報告、発表を行い、これに対する講評を行う。なお、後期は、個別の論文指導も実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	判例研究、ゼミナール論文の執筆を進めていく中で、複数回にわたり、グループ発表、ゼミナール論文等の中間報告を実施する。その際は、個別、グループ問わず、事前に報告予定者は、課題・指示に基づき、入念な報告準備を行い、その報告内容に基づき、授業内で皆でディスカッションを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法に関する基本用語・概念につき、正確に理解し、説明することができる。				3	3						
②	民法における諸制度・諸規定につき、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				3	3						
③	授業で学修した知識に基づき、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						3					
④	グループワークを通じて、授業で学修した知識に基づき、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						3					
⑤	グループワークを通じて、他者との協働意識の重要性を理解し、仲間と共に、その分野の課題を探究することができる。									3	3	
⑥	授業で学修した知識に基づき、その分野の法的課題を探究し、ゼミナール論文をテーマを自ら決定できる。							3	3			
⑦	授業で学修した知識に基づき、ゼミナール論文を完成させることができる。						3	3	3			3
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業中のグループ及び個別の報告・発表を通じて、到達目標①②③④⑤⑥についての理解度を把握する。	10	10	10	10	5	10					55
授業への参画度	授業中のグループ及び個別の報告・発表を通じて、到達目標⑤の協働意識の重要性を理解し、積極的に行動できているかを確認する。					10						10
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文の完成により、到達目標⑥⑦を評価する。						5	30				35
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	15	15	30				100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（本館1720研究室） yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・判例研究	履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバスに沿って授業の概要、授業目的、到達目標、授業スケジュール、成績基準等を説明する。それにより、次回以降、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。さらに、春合宿で途中となった判例研究の発表の続きを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ゼミナール論文のテーマ及び今後の進め方を確認するとともに、ゼミナール論文作成にあたり必須となってくる判例研究の方法についての復習を行う。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、判例研究報告の準備を行う。	120分
	事後学修	各自、ゼミナール論文作成の計画を完成させる。	120分
2	判例研究	前回に続き、卒業論文作成にあたって必要な技術といてよい判例研究について班ごとに研究発表を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、卒業論文作成にあたり必要な技術といてよい判例研究の方法について確認し、卒業論文の前提となる基礎的な知識を深める。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、判例研究報告の準備を行う。	120分
	事後学修	各自、ゼミナール論文の概要及び作成計画を完成させ、次回の報告に備える。	120分
3	ゼミナール論文の概要及び作成計画の報告	事前に準備してきてもらったゼミナール論文の概要及び作成計画を報告し、今後、どのような流れでゼミナール論文を進めていけばよいのかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、ゼミナール論文の進め方を理解し、今後のゼミナール論文の準備をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	各自、ゼミナール論文の概要及び作成計画を完成させ、次回の報告に備える。	120分
	事後学修	ゼミナール論文の報告会で指摘された点につき、修正を行うとともに、資料収集のための準備を行う。	120分
4	ゼミナール論文の概要及び作成計画の報告	前回に続き、事前に準備してきてもらったゼミナール論文の概要及び作成計画を報告し、今後、どのような流れで卒業論文を進めていけばよいのかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、ゼミナール論文の進め方を理解し、今後の卒業論文の準備をスムーズに行うことができる。	
	事前学修	各自、ゼミナール論文の概要及び作成計画を完成させ、次回の報告に備える。	120分
	事後学修	卒業論文の報告会で指摘された点につき、修正を行うとともに、資料収集のための準備を行う。	120分
5	資料収集及び文献リストの作成（第一次）	ゼミナール論文のテーマ内容にしたがい、二つの班に分かれて、ゼミナール論文作成作業を進めていく。班分けをした後、各自のゼミナール論文計画に従って資料収集を進めていく。なお、それにあたり、資料収集の仕方などを再度確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、ゼミナール論文作成の第一歩として資料収集を実施する。	
	事前学修	効率的に資料収集を行うため、めばしい資料等のあたりをつけておく。	120分
	事後学修	収集した資料を整理し、集めた文献資料をよみこんでおく。	120分
6	資料収集及び文献リストの作成（第一次）	ゼミナール論文のテーマ内容にしたがい、分かれた班ごとにゼミナール論文作成作業を進めていく。各自、ゼミナール論文計画に従って資料収集を進めていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成の第一歩として資料収集を実施する。	
	事前学修	効率的に資料収集を行うため、めばしい資料等のあたりをつけておく。	120分
	事後学修	収集した資料を整理し、集めた文献資料をよみこんでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献資料の読み込み及び文献リストの作成（第一次）	ゼミナール論文計画に従い、引き続き、文献収集を行うとともに、収集した資料の読み込みを行う。なお、その際は、文献リストの作成を同時並行で行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、収集した文献を読み、テーマへの理解を深める。	
	事前学修	収集した資料を整理し、集めた文献資料の読み込みを始める。	120分
	事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料収集の準備を行う。	120分
8	文献資料の読み込み及び文献リストの作成（第一次）	各自、文献資料の読み込みを行い、さらに必要となった文献資料の収集を行う。なお、その際は、文献リストの作成を同時並行で行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、収集した文献の読み込みを進めながら、さらなるテーマへの理解を深める。	
	事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
	事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分
9	資料収集及び文献リストの作成（第二次）	第一次で収集した文献に加え、当該テーマにまつわる領域の文献も広く収集する。その際は、文献リストの作成も同時に進める。なお、順次、文献リストのチェックを受ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、より範囲を広げて文献の収集を行い、論文の質を高める。	
	事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
	事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分
10	資料収集及び文献リストの作成（第二次）	引き続き、第一次で収集した文献に加え、当該テーマにまつわる領域の文献を広く収集する。その際は、文献リストの作成も同時に進める。なお、文献リストのチェックを受ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、より範囲を広げて文献の収集を行い、論文の質を高める。	
	事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
	事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分
11	文献資料の読み込み及び文献リストの作成（第二次）	引き続き、第一次で収集した文献に加え、当該テーマにまつわる領域の文献をより範囲を広げて収集し、読み込みを行う。その際は、文献リストの作成も同時に進める。また、収集した文献の内容で重要なものについてはメモも作成する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、より範囲を広げて文献の収集・読み込み作業を行い、論文の質を高める。	
	事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
	事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分
12	文献資料の読み込み及び文献リストの作成（第二次）	引き続き、第一次で収集した文献に加え、当該テーマにまつわる領域の文献をより範囲を広げて収集し、読み込みを行う。その際は、文献リストの作成及び、収集した文献の内容で重要なものをまとめていく。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥に関連して、ゼミナール論文作成のため、より範囲を広げて文献の収集・読み込み作業を行い、論文の質を高める。	
	事前学修	収集した文献の読み込みをさらに進めるとともに、文献リストの作成を行う。	120分
	事後学修	文献を読み込む中で新たに必要となった文献資料の収集を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	ゼミナール論文の進捗状況の報告 (財産法グループ)		ゼミナール論文の目次及び概要について各自報告するとともに、報告内容についてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、ゼミナール論文作成のため、中間報告会を行うことで、有益な意見を互いに出しあい、テーマへの理解をさらに深め、論文の質を高める準備を進める。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次及び論文の概要の報告準備を行う。		120分
	事後学修	授業内で指摘されたことについての検討を行うとともに、引き続き、資料収集等を行う。		120分
14	ゼミナール論文の進捗状況の報告 (家族法グループ)		前回に続き、ゼミナール論文の目次及び概要について各自報告するとともに、報告内容についてディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、卒業論文作成のため、中間報告会を行うことで、有益な意見を互いに出しあい、各自のテーマへの理解をいっそう深め、論文の質を高める準備を進める。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次及び論文の概要の報告準備を行う。		120分
	事後学修	授業内で指摘されたことについての検討を行うとともに、引き続き、資料収集等を行う。		120分
15	資料収集及び夏合宿時のゼミナール論文の中間報告会についてのガイダンス		夏合宿時におけるゼミナール論文の中間報告会までにやっておくべき作業の確認を行う。確認後は、各自、文献資料の収集、読み込みなどを行うとともに、必要な場合には、ゼミナール論文の目次内容等について個別指導を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、論文執筆に向けて重要な時期である夏合宿時の中間報告会に向けてのガイダンスを行うことで、やるべきことを明確にし、夏合宿時の中間報告会を有益なものとする。		
	事前学修	授業内で指摘された有益なアドバイスを従い、ゼミナール論文の目次等の書き直し及び収集した文献の読み込みをさらに進め、文献リストの作成も行う。		120分
	事後学修	夏合宿時のゼミナール中間報告会に向けての報告準備を行う。		120分
16	ゼミナール論文執筆の進め方の確認及び資料収集		論文執筆に向け、必要な基本的事柄（注の作成の仕方など）について再度確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑥⑦に関連して、ゼミナール論文の執筆に向け、目次構成を再度確認し、執筆に向けた準備を行う。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成の見直しを行う。		120分
	事後学修	修正したゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
17	論文作成指導：論文執筆作業		班ごとに、2週に1回、教員から個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。なお、論文指導を受けない週は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
	事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。		120分
18	論文作成指導：論文執筆作業		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
	事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	論文作成指導：論文執筆作業		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
	事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。		120分
20	論文作成指導：論文執筆作業		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
	事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。		120分
21	論文作成指導：論文執筆作業		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
	事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。		120分
22	論文作成指導：論文執筆作業		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
	事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。		120分
23	論文作成指導：論文執筆作業		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
	事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。		120分
24	論文作成指導：論文執筆作業		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。		120分
	事後学修	個別指導及び仲間との論文検討のなかで指摘された点を修正しつつ、さらに、論文執筆を進める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	論文作成指導：第一章、最終章の確認		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。なお、論文完成に向け、すでに一度、書き上げてある第一章について見直し、私見及び最終章との対応について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。すでに書き上げている第一章の検討を行う。		120分
	事後学修	個別指導等で指摘を受けた点を踏まえて第一章の加筆修正を行うとともに、ゼミナール論文の完成を目指して書き進める。		120分
26	論文作成指導：第一章、最終章の確認		前回個別指導を受けなかった班が、今回は個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で執筆した論文の検討を行う。また、論文指導を受けない班の学生は、論文執筆、文献資料の読み込み、資料収集を行う。なお、論文完成に向け、すでに一度、書き上げてある第一章について見直し、私見及び最終章との対応について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文の目次構成に従い、論文執筆を進めていく。すでに書き上げている第一章の検討を行う。		120分
	事後学修	個別指導等で指摘を受けた点を踏まえて第一章の加筆修正を行うとともに、ゼミナール論文の完成を目指して書き進める。		120分
27	論文作成指導：論文の概要報告		ひとまず最後まで書き上げた論文の推敲作業に入る前に、論文の目次、概要について報告会を行い、論文の質を高めるための準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、論文執筆作業を進めていく。		
	事前学修	報告会に向けて、論文の概要等を作成する。		120分
	事後学修	報告会で指摘された点を踏まえて、論文の推敲作業を進めていく。		120分
28	論文作成指導：推敲		班ごとに引き続き2週に1回、教員から個別に論文指導を受けるとともに、テーマ内容が近い者同士で推敲を重ねた論文の検討を行う。なお、論文指導を受けない班は、推敲作業を進める。	
	この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、推敲作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文提出に向け、推敲作業を進めていく。		120分
	事後学修	ゼミナール論文提出に向け、個別指導で指摘された点を中心に推敲作業を進めていく。		120分
29	論文作成指導：推敲		前回個別指導を受けなかった班が、今回は、個別論文指導を受け、また、テーマ内容が近い者同士で引き続き推敲を重ねた論文の検討を行う。なお、論文指導を受けない班は、推敲作業を進める。	
	この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、個別論文指導を受けながら、推敲作業を進めていく。		
	事前学修	ゼミナール論文提出に向け、推敲作業を進めていく。		120分
	事後学修	ゼミナール論文提出に向け、個別指導で指摘された点を中心に推敲作業を進めていく。		120分
30	論文作成指導：注・参考文献及び提出様式等の確認		注・参考文献及び、卒業論文提出に向けて提出様式等の最終確認を行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑦に関連して、注・参考文献を含め推敲作業を進め、論文を完成させる。		
	事前学修	注・参考文献を含めて推敲作業を進める。		120分
	事後学修	ゼミナール論文を完成させ、印刷し、期限内に卒業論文を提出する。		120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	山口 仁	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア・ジャーナリズム理論に関する高度な知識にもとづいて、他の履修者との協働により互いの力を高め合いながら深く学修する。そしてその学修状況を自己分析しつつ、メディア・ジャーナリズム理論に関する論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自らの学修状況を自己分析しつつメディア・ジャーナリズム理論の高度な知識を身につけ、研究者倫理に則って論理的かつ批判的な論文を執筆する能力を修得する。既存のジャーナリズム論を批判的に乗り越え、新たな理論枠組みのもとで現代のメディア社会を考察できるようになること。

【履修条件】
担当教員の専門領域に関する基礎的知識を備えていることが望ましい。

【授業方法】
メディア・ジャーナリズム理論に関する文献の講読、履修者各自が選択する論文の執筆に向けた発表および議論を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中の議論における積極的な発言を求めるほか、自発的なテーマ選定に基づいたゼミナール論文を執筆する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	専門領域に関する基本用語や概念を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。				4							
②	専門領域に関する諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を深く理解し、これを適切に用いて議論することができる。					4						
③	考察の対象を客観的かつ批判的に捉え、論理的に結論を導き出すことができる。						4					
④	自己の学修状況を客観的に分析した上で課題を発見し、その課題を解決しながら段階的に論文の執筆を進めることができる。							4				
⑤	専門領域に関するな知識を基に、より良い社会の構築に寄与しようと考えることができる。								4			
⑥	担当教員や他の履修者の意見を謙虚に受け容れ、積極的に生産性のある議論に参加することができる。									4		
⑦	担当教員や他の履修者との信頼関係を構築しながら、協働して研究活動に取り組むことができる。										4	
⑧	自ら立てた研究計画を実践することができ、折々に自らの研究活動を振り返ることで修正を施し、自己目標を実現させることができる。											4
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	課題やゼミナール論文のテーマについて行われる報告とそれに対する討論において、到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べる ことができたかを評価する。	5	5	5	5		10	10	10			50
授業への参画度												
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標①～⑤に関連し、4年次終了段階で提出されるゼミ ナール論文において、研究者倫理に則り、論理的かつ批判 的な論証が行われているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の報告に対し講評するほか、ゼミナール論文につき、その執筆段階ごとに適宜講評を加える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実	山口仁	勁草書房	2018	参考書	推奨
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために	大井真二他編	世界思想社	2018	参考書	推奨
マス・コミュニケーション理論 上・下	スタンリー J. バラ ン、デニス K. デイビ ス著	新曜社	2007	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜4限（法学部本館9階1914研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，専門演習の基礎	各自の自己紹介を行い，諸行事を含めた今後のスケジュールを確認する。また，担当教員の専門領域につき，演習を行う上での注意事項等，基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して，論文執筆作業に着手するための前提事項を説明できる。	
	事前学修	論文の執筆に向けたスケジュールを把握し，ゼミナールの概要・目的・到達目標を理解する。	120分
	事後学修	授業での説明を踏まえて，具体的なスケジュールを立てる。	120分
2	専門演習(1)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
3	専門演習(2)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
4	専門演習(3)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
5	専門演習(4)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
6	専門演習(5)	メディア・ジャーナリズム理論に関して，具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し，議論の準備を行う。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	専門演習(6)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
8	専門演習(7)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
9	専門演習(8)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
10	専門演習(9)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
11	専門演習(10)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
12	専門演習(11)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。		
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	専門演習 (12)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	あらかじめ提示された課題について検討し、議論の準備を行う。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
14	4年次前期のまとめ		これまでの専門演習を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
15	夏期休暇中の課題（レポート課題）とその解説		夏期休暇中に取り組むレポート課題につき、その意図やレポート作成上の注意事項等を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題に取り組むための前提事項を説明できる。		
	事前学修	レポート課題に取り組む上での前提事項を確認し、質問等をまとめておく。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
16	前期の振り返り、課題報告の基礎		前期の学修事項を振り返るとともに、レポート課題につき報告を行う上での注意事項等、基礎的な前提事項を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。		
	事前学修	到達目標④に関連して、レポート課題につき報告を行うための前提事項を説明できる。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
17	専門演習 (13)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
18	専門演習 (14)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	専門演習 (15)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
20	専門演習 (16)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
21	専門演習 (17)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
22	専門演習 (18)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
23	専門演習 (19)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分
24	専門演習 (20)		メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べるができる。		
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。		120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	専門演習 (21)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
26	専門演習 (22)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
27	専門演習 (23)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
28	専門演習 (24)	メディア・ジャーナリズム理論に関して、具体的設問を用いた演習を実施する。 またレポート課題につき担当者が報告を行い、他の履修者を交えて質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して専門知識に基づいた論理的な議論を行うことができ、到達目標⑥～⑧に関連して他の履修者に向けた有益な意見を述べることができる。	
	事前学修	報告担当者は、所定の時間内に報告ができるように準備する。他の履修者は、あらかじめ開示された報告予定内容について検討し、質問事項等を用意する。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
29	4年次後期のまとめ	これまでの課題報告を振り返り、事後学修の成果も踏まえて補足的な議論を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、レポート課題のテーマを深く理解し、適切な論証を行うことができる。	
	事前学修	事後学修を行った中から、補足的な議論や質問を行いたいものを選択し、まとめておく。	120分
	事後学修	授業での議論を踏まえてさらに検討を加える。	120分
30	卒業論文の完成と提出	卒業論文を完成させ、提出し、議論を行う。	
	この回の到達目標	卒業論文を完成させ、それに基づいた議論を行う。	
	事前学修	論文に関する議論ができるように要約をしておく。	120分
	事後学修	執筆した論文、議論を振り返る。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	山田 孝紀	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミ論文の作成のための文献収集・読解、執筆作業を行う。またゼミ論文の進捗状況を報告し、ゼミ生間、ゼミ生と教員間で意見交換を行いながら問題点を発見・解決することによってゼミ論文を完成させる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマを検討し、適宜報告する。その活動を通じて、法的問題点を指摘し、議論状況を的確にまとめたうえで問題に対する説得的かつ妥当な解決策を提示できる力、プレゼン能力を修得する。また論文執筆作業を通じて文献収集能力、読解力、文章表現力、考察力を修得する。

【履修条件】
3年ゼミナールの履修者

【授業方法】		
各自で決定したゼミナール論文を作成する。研究の進捗状況に応じて随時、研究報告を行い、担当者はこれに対して講評を行う。論文の進行状況に応じて個別指導も行う予定である。なお、論文の執筆計画は、各自の扱うテーマによって異なるため、シラバスに記載の計画は一応の予定である。シラバスの計画に拘らずに、各自で計画を立て、論文を完成させてもらいたい。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	数回のオリエンテーション、判例研究・事例研究の方法、文献調査方法の説明を除いて、授業のほとんどは学生による報告・質疑応答から成る。他の学生に対して難しい事項や自分の意見を分かりやすく伝え、他の学生の意見を聴くことでコミュニケーション能力を養成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	【自ら学び、他者と協働する】民法の知識をもとに、ゼミにおける自らの役割を認識し、他者との協働作業の中で課題を解決できるようになる。				3						3	
②	【説明する力・コミュニケーション能力】判例の争点・意義、事例問題の争点・議論状況を理解し、他者に対して自らの意見を分かりやすく伝える。他者の意見を聴き・尊重し、積極的にコミュニケーションを実践することができる。					3				4		
③	【考察力・問題解決能力】ゼミでの議論やゼミ論文の作成を通じて法的問題を発見し、当該問題に関する法状況をふまえ、批判的な視点を持ちつつ、当事者の利益を考慮した妥当・公平な解決を示すことを示すことができるようになること。						4	4				
④	【挑戦力・省察力】レジュメ・ゼミ論文の作成を通じて、自ら設定した課題に取り組む。そして、他者の評価を謙虚に受け止めたうえで、問題の改善に努め、課題を解決できるようになること。								4			4
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	3年次：ゼミでのグループ報告。レジュメの内容、報告内容、質疑応答などを評価する。 4年次：論文の進捗状況の報告を行う。	5	10	10	5							30
授業への参画度	報告準備においてゼミ生と協働して積極的に活動しようとしているかどうか、報告に対する積極的に意見・疑問を述べているかどうかを評価する。質問が著しく少ない場合は、評価が低くなる。また出席が3回以下の学生には、別途レポートの提出を要求することもある（もちろん病気・就活などの事情には一定の配慮をする）。無断欠席は厳禁！	5	10	5								20
その他(ゼミナル論文)	卒業論文を作成する。論文では、形式的要件として文献の引用が正しくされており、盗作・捏造がないことなど研究者倫理に則っていることは大前提である。そのうえで、実質的な中身として、問題の所在が的確に指摘されているか、従来の法状況が正確にまとめられているか、論理的かつ説得的に自己の見解が述べられているかを評価の基準とする。	5	10	15	20							50
その他(留意事項)	【ゼミナルは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次を行う】											
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	30	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業ごとに講評を行うほか、

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リーガル・リサーチ&リポート ― 法学部の学び方〔第2版〕	田高＝原田＝秋山	有斐閣	2019	参考書	推奨
学術論文の作法〔第2版〕	近江幸治	成文堂	2016	参考書	推奨
民法研究ハンドブック	大村＝道垣内＝森田＝山本	有斐閣	2000	参考書	推奨
Start Up 判例30！の各シリーズ		有斐閣	2018	参考書	任意
判例百選Ⅰ総則・物権、債権〔各第8版〕、親族・相続〔第2版〕、消費者判例百選〔第2版〕		有斐閣	2018-2020	参考書	任意
備考	上記参考書は、各自の学修目的に応じて用意してください。詳細は授業の中で説明するので、それまで特に購入しなくてよいです。				

【オフィスアワー】
水曜お昼休み（事前にメールでアポイントメントをとってください。その他の時間でも適宜対応します）yamada.takanori★nihon-u.ac.jp 上記の「★」記号を「@」記号に置き換えて下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・論文テーマの確定①	対面となるので、改めて簡単に自己紹介をしたのち、1年間の予定、前期の報告の順序を決めていく。先行研究をふまえて論文テーマの問題点、テーマの射程をもう一度確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、ゼミ生と対面でコミュニケーションする。今後の計画を立てること。 到達目標③・④に関連して、論文のテーマ選定に関して、明確に理由を説明できること。	
	事前学修	春休み中に、論文テーマの問題点・先行研究の議論状況をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマについてさらに検討を加える。	120分
2	論文の報告の方法 論文テーマの確定②	担当者が研究テーマについて報告を行い、論文の第一次報告の方法を理解してもらう。 先行研究をふまえて論文テーマの問題点、テーマの射程をもう一度確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、論文のテーマ選定に関して、明確な理由を説明できること。またどのように報告を行えばよいのか、レジュメをまとめればよいのかを理解すること。	
	事前学修	前回の授業を受けて、論文テーマの問題点・先行研究の議論状況をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での検討を踏まえて論文のテーマについてさらに検討を加える。	120分
3	文献収集・文献の確認	論文の第一次報告に向けて、先行研究・関連論文の文献リストを見直し、読んでいない文献があればそれを熟読し、理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①・③に関連して、論文を執筆するにあたり必要となる文献のリストをまとめ、当該文献を熟読し（これは春休み中に行っておくこと）、読んでいない文献があれば熟読して、自己の研究との位置づけを考えること。	
	事前学修	確定した論文のテーマに関する文献を収集し、文献収集の方法に関して質問等をまとめておく。	120分
	事後学修	授業での確認・整理や指示を踏まえてさらに文献を収集する。	120分
4	論文の第一次報告①	論文のテーマを報告する。まず冒頭に、テーマのタイトル案、目次を載せる。次に、「はじめに」または「第1章」において問題の所在を明らかにし、検討の方法を説明する。そのうえで、各章で何をするのか（まだこの段階では各章で明らかになったことまで示さなくてよい）を簡単にまとめる。最後に、可能ならばどのような結論を示すのか、今後の方向性を示す。報告に対して、学生及び教員から質疑を行い、全員で疑問点を共有し、解決策を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分
5	論文の第一次報告②	論文のテーマを報告する（報告方法については第4回目と同様）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分
6	論文の第一次報告③	論文のテーマを報告する（報告方法については第4回目と同様）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	論文の第一次報告④	論文のテーマを報告する（報告方法については第4回目と同様）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分
8	論文の第一次報告⑤	論文のテーマを報告する（報告方法については第4回目と同様）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分
9	論文の第一次報告⑥	論文のテーマを報告する（報告方法については第4回目と同様）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分
10	論文の第一次報告⑦	論文のテーマを報告する（報告方法については第4回目と同様）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分
11	論文の第一次報告⑧	論文のテーマを報告する（報告方法については第4回目と同様）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分
12	論文の第一次報告（予備日）	論文のテーマを報告する（報告方法については第4回目と同様）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の研究発表を行うための計画を立て、準備を進める。そのうえで、研究テーマの選定理由・研究手法・論文の構成・各章の目的・今後の方向性を分かりやすく報告するよう努め、質疑応答を通して今後論文を作成するにあたっての課題を発見する。	
	事前学修	報告者は、自己の研究発表の準備を進め、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	報告者は、質疑応答をふまえ、論文の目的・構成に問題あればそれを見直す。今後の研究の方向性を固めたうえで、自己の裁量で研究を進めておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	執筆作業の注意事項の確認と第1章（はじめ）の執筆準備など	執筆作業の前に、研究者倫理の基本である文献の引用方法・脚注のあげ方を確認する。またデータのバックアップの方法も今一度確認しておく。そのうえで、『民法研究ハンドブック』を参考に、第1章「はじめに」ではどのようなことを書くことが求められているのかを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、文献の引用方法・脚注のあげ方を確認する。データのバックアップの取り方も改めて理解しておく。そのうえで、『民法研究ハンドブック』を参考に、第1章「はじめに」ではどのようなことを書くことが求められているのかを理解する。	
	事前学修	参考文献の『学術論文の作法』『民法研究ハンドブック』の該当箇所を読んでみる。	120分
	事後学修	文献の引用方法・脚注のあげ方を理解し、word機能を使って作成してみる。第1章で書くべきポイントを整理したうえで、文章を書いてみる。 【重要】データのバックアップ方法（パソコン本体・Dropboxに保存、USBメモリ、自分あてのメールにデータを送るなど）を確認しておくこと！	120分
14	第1章の執筆	第1章を執筆するために必要な文献を精読し、文章を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、教員の指摘やゼミ生との意見交換を踏まえたうえで、第1章の執筆を自分で行うことができる。	
	事前学修	第1章で書くべきポイントを整理したうえで、執筆を進めておく。	240分
	事後学修	授業での指摘を踏まえ、執筆を進める。	240分
15	第1章の振り返りと第2章以降の計画	第1章を書いた原稿を読み直すとともに、他のゼミ生にも読んでもらうことで不足点がないかを確認し、文章を整える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の原稿の問題点を発見し、改善する。また他のゼミ生の原稿を読み、修正点を指摘する。	
	事前学修	第1章をひとまず書きあげて、レビューを行ってもらうために自己の原稿を印刷しておく。	120分
	事後学修	夏季休暇期間中の予定を決める。第2章以降の執筆に必要な文献を再度確認したうえで、第2章で書くべきポイントを整理し、執筆を進めておく。	120分
16	第2章の振り返り（第2章に限らず、進んだ所までの振り返り）	夏休み中までに進んだところ（最低限第2章まで）の他のゼミ生にも読んでもらうことで不足点がないかを確認し、第2章の文章を整える。第2章と第3章との関係性を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の原稿の問題点を発見し、改善する。また他のゼミ生の原稿を読み、修正点を指摘する。	
	事前学修	夏季期間中に第2章をひとまず書きあげて、レビューを行ってもらうために自己の原稿を印刷しておく。	360分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、第2章の修正点をなおしておく。	120分
17	第3章の執筆準備	第3章を執筆するために必要な文献を精読し、この章で書くべきことを整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、第3章で書くべき点を整理すること。	
	事前学修	第3章で書くべきポイントを整理する。	120分
	事後学修	第3章で書くべきポイントを整理したうえで、執筆を進めておく。	120分
18	第3章の執筆	第3章を執筆するために必要な文献を精読し、文章を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、教員の指摘やゼミ生との意見交換をふまえたうえで、第3章の執筆を自分で行うことができる。	
	事前学修	第3章で書くべきポイントを整理したうえで、執筆を進めておく。	240分
	事後学修	授業での指摘を踏まえ、執筆を進める。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	第3章の振り返り		第3章を書いた原稿を読み直すとともに、他のゼミ生にも読んでもらうことで不足点がないかを確認し、文章を整える。第3章と第4章との関係性を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の原稿の問題点を発見し、改善する。また他のゼミ生の原稿を読み、修正点を指摘する。		
	事前学修	第3章をひとまず書きあげて、レビューを行ってもらうために自己の原稿を印刷しておく。		360分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、第3章の修正点をなおしておく。		120分
20	第4章の執筆準備		第4章を執筆するために必要な文献を精読し、この章で書くべきことを整理する。特に『民法研究ハンドブック』を参考に、論文の最後でどのようなことを書くべきなのかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、第4章で書くべき点を整理すること。また各自の論文によって異なるが、第4章や第5章などでは、これまでの議論状況を単に整理するだけでなく、分析し、自己の見解を示すことになると思われる。そこで、改めて自己の見解の方向性について考えることが目標となる。		
	事前学修	到達目標①・②・③・④に関連して、第4章で書くべき点を整理すること。論文の結論の方向性を考えておくこと。		120分
	事後学修	第4章で書くべきポイントを整理したうえで、執筆を進めておく。		120分
21	第4章の執筆		第4章を執筆するために必要な文献を精読し、文章を書いてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、教員の指摘やゼミ生との意見交換をふまえたうえで、第4章の執筆を自分で行うことができる。		
	事前学修	第4章で書くべきポイントを整理したうえで、執筆を進めておく。		240分
	事後学修	授業での指摘を踏まえ、執筆を進める。		120分
22	第4章の振り返り		第4章を書いた原稿を読み直すとともに、他のゼミ生にも読んでもらうことで不足点がないかを確認し、文章を整える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、自己の原稿の問題点を発見し、改善する。また他のゼミ生の原稿を読み、修正点を指摘する。		
	事前学修	第4章をひとまず書きあげて、レビューを行ってもらうために自己の原稿を印刷しておく。		360分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、第4章の修正点をなおしておく。		120分
23	第二次報告①（卒論報告会）		論文の全体を仕上げたうえで、論文の概要をレジュメにまとめる。具体的には、第一回目の報告と同様に問題点・問題の所在で示したのち、この報告会では各章で明らかにしたことを要約する。そのうえで、最初に示した問題点に対してどのような解決が得られたのかまでを明らかにする。なお、スケジュールが合えば3年のゼミ生の前で報告をしてもらう。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、論文の目的・問題の所在・検討方法・構成を示し、各章で明らかになった点、問題に対する自己の解決策を自分の言葉で示すことができるようになること。また教員やゼミ生からの質疑を受け、適切な議論が展開できるようになること。		
	事前学修	第二次報告会（卒論報告会）に向けて論文をひとまず最後まで書きあげてみる。		120分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、論文の全体的な修正点をなおし、論文を完成させていく。		120分
24	第二次報告②（卒論報告会）		論文の全体を仕上げたうえで、論文の概要をレジュメにまとめる。具体的には、第一回目の報告と同様に問題点・問題の所在で示したのち、この報告会では各章で明らかにしたことを要約する。そのうえで、最初に示した問題点に対してどのような解決が得られたのかまでを明らかにする。なお、スケジュールが合えば3年のゼミ生の前で報告をしてもらう。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、論文の目的・問題の所在・検討方法・構成を示し、各章で明らかになった点、問題に対する自己の解決策を自分の言葉で示すことができるようになること。また教員やゼミ生からの質疑を受け、適切な議論が展開できるようになること。		
	事前学修	第二次報告会（卒論報告会）に向けて論文をひとまず最後まで書きあげてみる。		120分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、論文の全体的な修正点をなおし、論文を完成させていく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	第二次報告③（卒論報告会）	論文の全体を仕上げたうえで、論文の概要をレジュメにまとめる。具体的には、第一回目の報告と同様に問題点・問題の所在で示したのち、この報告会では各章で明らかにしたことを要約する。そのうえで、最初に示した問題点に対してどのような解決が得られたのかまでを明らかにする。なお、スケジュールが合えば3年のゼミ生の前で報告をしてもらう。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、論文の目的・問題の所在・検討方法・構成を示し、各章で明らかになった点、問題に対する自己の解決策を自分の言葉で示すことができるようになること。また教員やゼミ生からの質疑を受け、適切な議論が展開できるようになること。	
	事前学修	第二次報告会（卒論報告会）に向けて論文をひとまず最後まで書きあげてみる。	120分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、論文の全体的な修正点をなおし、論文を完成させていく。	120分
26	論文の最初と最後の確認①	論文の最初と最後の原稿が対応しているかどうかを改めて確認する。自分で気づいた点及び他のゼミ生からの指摘を受けて修正点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、論文の目的・問題の所在と論文の最後の結論が一致しているかどうか、文章の表現方法が適切か、参考文献に不足がないかを確認する。	
	事前学修	論文の最初と最後をもう一度読み、完成させる。レビューを行ってもらうために自己の原稿を印刷しておく。	120分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、論文の最初と最後の修正点をなおし、論文を完成させていく。	120分
27	論文の最初と最後の確認②・各章の小括の確認①	論文の最初と最後の修正点がなっているかを確認する。 この回では各章の小括を読み返し、各章がそれぞれ一本の線で話が論理的につながっているのかを確認する。自分で気づいた点及び他のゼミ生からの指摘を受けて修正点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、論文の目的・問題の所在と論文の最後の結論が一致しているかどうかを最終確認する。また各章の小括において、その章で言いたいことが上手く要約されているか、文章の表現方法が適切か、を確認する。	
	事前学修	各章の小括をもう一度読み、完成させる。レビューを行ってもらうために自己の原稿を印刷しておく。	120分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、各章の小括の修正点をなおし、論文を完成させていく。	120分
28	各章の小括の確認②・全体の推敲①	前回確認した修正点がなっているかを確認する。 そのうえで、論文の本文について内容面および形式面に修正すべき点がないかどうか確認する。 できればゼミ生にも自分の論文を読んでもらい、意見をもらうだけでなく、自分も他のゼミ生の論文を読み、修正点を指摘する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、各章の小括をもう一度確認する。そのうえで、論文の全体を通して、文章の表現方法が適切か、論旨が一貫しているか、判例・学説などの議論が正確にまとめられているか、説得的かつ妥当な根拠を示したうえで結論が示されているか、参考文献・注が適切にあげられているかなどを確認する。	
	事前学修	論文の全体的な見直しを行う。レビューを行ってもらうために自己の原稿を印刷しておく。	240分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、論文を全体を通して見直し、論文を完成させていく。	240分
29	全体の推敲②	もう一度、本論の内容面・形式面の修正点を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、論文の全体を通して、文章の表現方法が適切か、論旨が一貫しているか、判例・学説などの議論が正確にまとめられているか、説得的かつ妥当な根拠を示したうえで結論が示されているか、参考文献・注が適切にあげられているかなどを確認する。	
	事前学修	再度、論文の全体的な見直しを行う。	240分
	事後学修	自分で気づいた点、教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえて、論文を全体を通して見直し、論文を完成させていく。	240分
30	最終チェック（誤字・脱字・参考文献の確認）	誤字・脱字・参考文献の確認を行い、論文を提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、誤字・脱字・参考文献の確認を行い、論文を提出する。	
	事前学修	論文提出前にデータがとんだ…、プリンターが壊れたなどの事故が発生したなんてことをしばしば聞くので…データをこまめにバックアップしたうえで、締め切り余裕をもって論文を提出すること（自戒の念を込めて）。	240分
	事後学修	論文提出おめでとう！頑張った自分をほめましょう！	60分

科目名	ゼミナール4年	担当者	山村 りつ	部 別	第一部	期 間	通年	単 位 数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
山村ゼミナールでは、社会的な課題に対する政策的対応あるいは政策による影響を卒論の主題とし、それに沿って各自が興味あるテーマを4年次までに決め、最終的な卒論執筆を目指します。3年生では卒論の執筆に必要な論理的思考と社会的課題の分析の方法、さらに自分の意見をいかに言語化するかをグループワークを通じて学び、それをもとに各自が決めた課題について、課題の分析と仮説の設定を行い、実証研究もしくは論証を通じて自らの考えを論文の結論としてまとめます。本ゼミナールにおいては、個人的でかまいませんが問題意識を前提とした積極的参加が非常に重要となります。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：さまざまな社会的課題を題材として、問題の理解と説明のための論理力と、論証に必要な研究の手法を身につける。 4年次：3年次に学習した内容に基づき、各自の興味・関心に沿った研究テーマに基づいてゼミナール論文を作成する。また、4年生は3年生のメンターとして指導を通じて、論理力や表現力を高めていく。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者。

【授業方法】
3年次：前期は課題図書等についてのグループワーク、後期の進め方は夏合宿中に自分たちで決めてもらいます。 4年次：各自が決定した研究テーマについて、随時進捗段階における発表を行う。また、担当する3年生（メンティー）のアドバイスを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会的課題について、その問題性（何が問題であるのか）を言語化できるようになる。					3	3	3	3	3	3	3
②	選択した課題について、自らの考察をもとに仮説を立てること（問いの言語化）ができるようになる。					3	3	3	3	3	3	3
③	設定した仮説に対して、検証のための適切な方法を選択することができるようになる。					3	3	3	3	3	3	3
④	論文執筆のための考察を通じて、自らの考えを適当な手法を用いてプレゼンテーションできるようになる。					3	3	3	3	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	半期に2回程度のグループもしくは個人による発表の機会を設ける。そこで、事前に提示された発表課題に沿った発表を行えているか。また、他の人の発表に対してコメントや質問を提示することができるか。	10	10	5	5							30
授業への参画度												
その他(卒業論文)	4年次修了時に卒業論文の提出を求める。卒業論文の評価については、①指定された形式に従っているか、②内容が一貫しているか、③論理の妥当性および整合性をもとに評価を行う。	15	20	20	15							70
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	25	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業の中でコメントとしてフィードバックを行い、必要に応じて個別指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
火曜4限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	今後の卒業論文執筆の進め方についての説明を行う。 また、卒業論文に必要な問いの立て方と論証の方法についての指導を行う。	
	この回の到達目標	卒論執筆にあたり、自分に足りないものをリストアップし示すことができるようになる。	
	事前学修	卒論のテーマ設定にあたり、必要な情報の収集と整理を行っておく。	180分
	事後学修	授業での説明を受けて、自分の卒論執筆に必要なものを考察する。	60分
2	卒論執筆計画①の確認	各自の卒論執筆計画①についてコメントと指導を行う。	
	この回の到達目標	卒論執筆計画①を踏まえて、次の発表までに必要な課題を具体的に提示できるようになる。	
	事前学修	卒論執筆計画①を作成しておく。そのために必要な情報収取を行う。	180分
	事後学修	自分の卒論執筆計画①を見直し、必要があれば修正を行う。	60分
3	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
	この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。 発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分
4	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
	この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。 発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分
5	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
	この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。 発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分
6	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。	
	この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。	
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。 発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。		
	この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。		
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。		180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。		60分
8	卒業論文・発表（1巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。卒業論文のテーマを確定させ、自らの問題意識と問いを明確にする。		
	この回の到達目標	他の人からのコメントに対して、自分の意見や回答を示すことができるようになる。		
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。		180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて、卒論のテーマと問題意識について考察し、自分の考えを整理する。		60分
9	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。		
	この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。		
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。		180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。		60分
10	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。		
	この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。		
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。		180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。		60分
11	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。		
	この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。		
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。		180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。		60分
12	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。		
	この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。		
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。		180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。		60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。	
	この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。	
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。	60分
14	卒業論文・発表（2巡目）	2～3名の卒業論文の内容についての個人発表を行い、ディスカッションとコメントの共有ののち、指導を行う。自らの選択したテーマについての情報を通じて現状の把握を行い、論文の仮説の設定のための基盤づくりをする。	
	この回の到達目標	自分の問題意識を構成している要素を図式化できるようになる。	
	事前学修	発表のための資料を作成と、発表に対するコメントを想定して、必要な情報収集を行っておく。発表者の進捗状況を踏まえて自分の卒論発表についての考察を行っておく。	180分
	事後学修	発表やそれに対するコメント、および指導を踏まえて考察し、自分の卒論の仮説を検討する。	60分
15	前期のまとめ	これまでの卒業論文発表について総括を行い、卒論執筆計画②の確認と、今後に向けた指導を個別に行う。	
	この回の到達目標	本格的な卒論執筆に向けて、夏休み中にすべきことを提示できるようになる。	
	事前学修	前期までの卒論に係る発表および収集資料をまとめ、卒論執筆計画②を完成させておく。	180分
	事後学修	授業内で受けた指導を踏まえて、卒論執筆を進める。	60分
16	今後の卒論指導について	今後の卒論指導の進め方についての説明と、卒論執筆における基本的な注意事項・確認事項を説明し、卒論執筆に向けた個々の計画の確認を行う。	
	この回の到達目標	卒業論文提出までの具体的な執筆計画を立てる。	
	事前学修	指導を受けるにあたり、これまでの執筆分の整理と質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
17	卒業論文・個別指導（1巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。卒論の仮説の設定と論理構造の整理、全体の構成の作り方などについて指導し、2巡目までの構成の完成をめざす。	
	この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、課題と必要な修正箇所、加えて完成に向けた具体的な計画を提示できるようになる。	
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
18	卒業論文・個別指導（1巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。卒論の仮説の設定と論理構造の整理、全体の構成の作り方などについて指導し、2巡目までの構成の完成をめざす。	
	この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、課題と必要な修正箇所、加えて完成に向けた具体的な計画を提示できるようになる。	
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
19	卒業論文・個別指導（1巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 卒論の仮説の設定と論理構造の整理、全体の構成の作り方などについて指導し、2巡目までの構成の完成をめざす。		
	この回の到達目標	卒業論文の仮説（問い）および論証のための方法を提示する。またその理由を言語化できるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分	
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分	
20	卒業論文・個別指導（1巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 卒論の仮説の設定と論理構造の整理、全体の構成の作り方などについて指導し、2巡目までの構成の完成をめざす。		
	この回の到達目標	卒業論文における自分の主張を概念図として提示できるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分	
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分	
21	卒業論文・個別指導（2巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 論理構成に従って論証のために必要な情報の収取および調査を行い、それぞれの言語化を進める。		
	この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、完成に向けた自らの課題を提示できるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分	
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分	
22	卒業論文・個別指導（2巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 論理構成に従って論証のために必要な情報の収取および調査を行い、それぞれの言語化を進める。		
	この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、完成に向けた自らの課題を提示できるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分	
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分	
23	卒業論文・個別指導（2巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 論理構成に従って論証のために必要な情報の収取および調査を行い、それぞれの言語化を進める。		
	この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、完成に向けた自らの課題を提示できるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分	
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分	
24	卒業論文・個別指導（2巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 論理構成に従って論証のために必要な情報の収取および調査を行い、それぞれの言語化を進める。		
	この回の到達目標	自分の卒業論文の進捗状況を確認し、完成に向けた自らの課題を提示できるようになる。		
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分	
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	卒業論文・個別指導（3巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。	
	この回の到達目標	卒論の最終的な構成と内容を確定させる。	
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
26	卒業論文・個別指導（3巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。	
	この回の到達目標	卒業論文を40%程度まで文章化する。	
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
27	卒業論文・個別指導（3巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。	
	この回の到達目標	卒業論文を60%程度まで文章化する。	
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
28	卒業論文・個別指導（3巡目）	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。	
	この回の到達目標	卒業論文を80%程度まで文章化する。	
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認、質問および検討事項の整理と提示のための準備をしておく。	180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
29	卒業論文・個別指導（3巡目） 卒業論文（下書き）完成	4名程度の学生に対し、それぞれの卒業論文についての個別指導を行う。 これまでの収集データおよび言語化された内容をまとめ、最終的な論文の完成を目指す。また、これまでに卒業論文の下書きを完成させ、提出前の最終指導を行う。	
	この回の到達目標	卒業論文の下書きを完成させる。	
	事前学修	指導を受けるにあたり、前回からの修正点の整理と確認をし、最終指導のための準備をしておく。	180分
	事後学修	指導を受けて必要な修正を行い、卒論執筆を進める。	60分
30	卒論の最終確認	卒論の内容に関する最終的な確認と、提出に向けた準備等について指導を行う。	
	この回の到達目標	体裁等の軽微な修正の必要を残し、卒論を完成させる。	
	事前学修	前回からの修正点の整理と確認をし、卒論の下書きを完成させておく。	180分
	事後学修	最後に体裁その他の軽微な修正を行い、卒論の提出に臨む。	60分

科目名	ゼミナール4年	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際政治学をゼミナール形式で学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：国際政治学の基礎理論を修得するとともに、各自の興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。また、グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループで共有・考察する。そうした活動を通じて、学問的探究心を知ることや、身近な問題に対して積極的に思考し、解決策を模索できる意識を醸成する。

【履修条件】
積極的に参加する姿勢を求める。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。

【授業方法】
卒業論文の提出に向けて履修者が報告を行い、その内容を議論する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	卒業論文についての報告と議論は、履修者が主体となって進める。小グループで自発的な勉強会を開くことがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	国際政治学の基礎理論を修得できる。				3	4	3					
②	自らの興味・関心に沿った研究テーマを発見する手法を身につける。							3	4	3		
③	グループワークの中で他者との協働意識の重要性を理解する。										4	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	要件を満たしたレポートを期日までに提出する。	20										20
討論・発表等	要件を満たした報告を行う。	20										20
授業への参画度	議論に積極的に参加する。			30								30
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間連続して履修し、成績 評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	要件を満たしたゼミナール論文を期日までに提出する。		30									30
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
履修者による報告とレポートの内容について書面または口頭でコメントする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レポート・論文の書き方入門：第4版	河野哲也	慶應義塾大学出版会	2018年	教科書	必携
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み。4号館415研究室にて。他の曜日・時限も調整できます。事前にアポイントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ゼミナールを始めるにあたって（前学期） 導入講義	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認する。	
	この回の到達目標	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認することができる。	
	事前学修	シラバスを読む。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
2	卒業論文の中間報告（1）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
3	卒業論文の中間報告（2）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
4	卒業論文の中間報告（3）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
5	卒業論文の中間報告（4）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
6	卒業論文の中間報告（5）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	卒業論文の中間報告（6）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
8	卒業論文の中間報告（7）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
9	卒業論文の中間報告（8）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
10	卒業論文の中間報告（9）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
11	卒業論文の中間報告（10）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
12	卒業論文の中間報告（11）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卒業論文の中間報告（12）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
14	卒業論文の中間報告（13）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
15	卒業論文の中間報告（14）	卒業論文の進捗を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文の進捗を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
16	ゼミナールを始めるにあたって（後学期）	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認する。	
	この回の到達目標	ゼミナールを始めるにあたり、進め方と学び方を確認することができる。	
	事前学修	前学期のゼミナールの内容をふりかえり、あらためてシラバスを読む。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
17	卒業論文の最終報告（1）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
18	卒業論文の最終報告（2）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	卒業論文の最終報告（3）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
20	卒業論文の最終報告（4）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
21	卒業論文の最終報告（5）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
22	卒業論文の最終報告（6）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
23	卒業論文の最終報告（7）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
24	卒業論文の最終報告（8）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	卒業論文の最終報告（9）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
26	卒業論文の最終報告（10）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
27	卒業論文の最終報告（11）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
28	卒業論文の最終報告（12）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
29	卒業論文の最終報告（13）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分
30	卒業論文の最終報告（14）	卒業論文を報告し、その内容を議論する。	
	この回の到達目標	卒業論文を報告することができる。報告の内容を議論することができる。	
	事前学修	前回のゼミナールの内容を確認したうえで準備と予習を行う。	120分
	事後学修	ゼミナールの内容を復習しノートに書きとどめる。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
国際経済論について理解を深め、国際経済に関する問題点を見つけ出していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国際経済に関する問題について、説明ができるようになる。

【履修条件】
経済学ⅠⅡ、国際経済論ⅠⅡ、国際金融論ⅠⅡの履修を終えていると、履修の助けとなる。

【授業方法】
文献講読と文献内容の報告。卒業研究の執筆と発表。卒業研究の添削や報告・発表へのコメント。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	文献内容の報告と卒業研究の発表。 それらに対するコメントや添削。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済活動を観察し、その本質を把握することができる。				3	4	4			3	3	3
②	日本と外国の経済の現状を分析し、説明することができる。				3	4	4			3	3	3
③	社会の現状を観察し、経済に関する問題を発見することができる。				3		4	4		3	3	3
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦できる。				3				4	3	3	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	5	5	5	5							20
授業への参画度	到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	5	5	5	5							20
その他(ゼミナール論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。到達目標①②③④について、日本や外国の経済の現状を分析する力がついているかを確認する。	15	15	15	15							60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
各自の卒業研究のテーマに応じて決める。				その他	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:20～12:50(事前にアポイントメントをとること) 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	卒業研究	卒業研究テーマ案を挙げる	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案を挙げる	
	事前学修	卒業研究テーマ案を挙げる	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案を再度考える	120分
2	卒業研究	卒業研究テーマ案を挙げる	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案を挙げる	
	事前学修	卒業研究テーマ案を挙げる	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案を再度考える	120分
3	卒業研究	卒業研究テーマ案の説明	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案の説明	
	事前学修	卒業研究テーマ案の説明	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案の説明を再度考える	120分
4	卒業研究	卒業研究テーマ案の説明	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案の説明	
	事前学修	卒業研究テーマ案の説明	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案の説明を再度考える	120分
5	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
6	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
8	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を探す	120分
9	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
10	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
11	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
12	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
14	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
15	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献と分析に必要な資料とデータを探す	120分
16	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
17	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
18	卒業研究	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	この回の到達目標	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	
	事前学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分
	事後学修	卒業研究テーマ案に関連する文献を読み、内容を纏める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	卒業研究	卒業研究の章立てする	
	この回の到達目標	卒業研究の章立てする	
	事前学修	卒業研究の章立てする	120分
	事後学修	卒業研究の章立てする	120分
20	卒業研究	卒業研究の章立てする	
	この回の到達目標	卒業研究の章立てする	
	事前学修	卒業研究の章立てする	120分
	事後学修	卒業研究の章立てする	120分
21	卒業研究	卒業研究執筆	
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分
22	卒業研究	卒業研究執筆	
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分
23	卒業研究	卒業研究執筆	
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分
24	卒業研究	卒業研究執筆	
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	卒業研究		卒業研究執筆
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分
26	卒業研究		卒業研究執筆
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分
27	卒業研究		卒業研究執筆
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分
28	卒業研究		卒業研究執筆
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分
29	卒業研究		卒業研究執筆
	この回の到達目標	卒業研究執筆	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究執筆	120分
30	卒業研究		卒業研究提出前最終確認
	この回の到達目標	卒業研究提出前最終確認	
	事前学修	卒業研究執筆	120分
	事後学修	卒業研究提出前最終確認	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	吉田 純平	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
民事訴訟法の重要な問題に関する調査、報告、及び議論を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民事訴訟法の重要問題の検討を通して、法律問題に関する調査能力、情報発信能力、ディベート能力を身につける。

【履修条件】
民事訴訟法や民法関連の授業を履修していることが望ましい。

【授業方法】
グループや個人による研究報告とそれに基づく議論を行う。課題は原則として前の授業時に決定する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	毎授業、学生が研究報告行い、そのための調査を行うことで、法律調査能力及び情報発信スキルを身に着ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事訴訟法における原則や判例の準則を理解し、事案に適用できる。				3	3	3					
②	判例の論点を理解し、自分なりの意見を持つ。						3	3	3	3		
③	グループで調査し、議論することができる。									3	3	3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	ゼミでの発表および討論への積極性を評価する。			40								40
授業への参画度												
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文について、論理性、調査の量及び質、独自 性に基づき評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日12：00～13：00 研究室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法人でない団体の当事者能力	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
2	当事者適格	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
3	債権者代位訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
4	法人の内部紛争	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
5	確認の利益	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
6	申立事項と判決事項	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	二重起訴の禁止	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
8	弁論主義	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
9	釈明権	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
10	文書提出命令	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
11	訴訟物	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
12	争点効	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基準時後の形成権の行使	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
14	基準時後の損害拡大	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
15	一部請求	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
16	既判力の主観的範囲	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
17	法人格否認の法理	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
18	反射効	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	和解	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
20	通常共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
21	固有必要的共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
22	類似必要的共同訴訟	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
23	独立当事者参加	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
24	補助参加	テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。	
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	訴訟承継		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
26	上訴の利益		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
27	不利益変更禁止の原則		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
28	再審		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
29	審判権の限界		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分
30	境界確定訴訟		テーマに関する判例について、報告者が発表を行い、発表を基に出席者全員で議論する。
	この回の到達目標	判例の議論の前提となる知識を修得したうえで、判例の趣旨を理解し、自分なりの意見を持つ。	
	事前学修	判例と読み、前提となる知識を教科書で学習する。 報告者は、グループで報告の準備をする。	120分
	事後学修	関連判例の調査をする。 報告者は、報告方法の見直しをグループで話し合う。	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	吉野 篤	部 別	第一部	期 間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
ゼミ4年生はゼミナール論文作成を目指して、各自の論文のテーマと構成をできるだけ早い段階で決めて、それを完成させるべく個別に研究報告を行い、論理構成をブラッシュアップしてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学の学びの集大成として、論文作成という形でそれを具体化させる。特に重視されるのは論理構成を明確に示すための目次作成であり、この作業を通じて、自らの問題意識を明確に提示させ、それを具体的に論文で展開することで、学生としてのアイデンティティを自覚させることを目的とする

【履修条件】
3年次の活動を発展的に展開できる態勢を整える

【授業方法】
個人的な研究報告をレジュメをもとに行う。それを受けて質疑応答し、論点を明確化し、論文の構成を明らかにしてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ゼミはアクティブ・ラーニングそのものであり、質疑応答はそのまま学生と教員の相互作用となる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	政治学の対象領域を明確に意識できることができる				3	3	3	3	3	3	3
②	質疑応答を通じて、自らの問題意識や考え方を明確化することができる				3	3	3	3	3	3	3
③	報告することを通じて、自分の考え方、論理を自覚的に提示して、それを論文目次を通じて明らかにできる				3	3	3	3	3	3	3
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	実施しない											
小テスト等	研究報告に含まれる											
レポート等	研究報告に含まれる											
討論・発表等	研究報告が圧倒的な比重を占める											
授業への参画度	就活で支障がある場合を除き、参加は必須											
その他(ゼミナール 論文)	ゼミナール論文を作成し、到達目標にかかわる能力が身についているかを評価する。	30	30	40								100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
報告のたびごとに個別具体的に議論し、問題にたいする認識を深められるように丁寧に指導する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	ゼミ論作成が使命なので使用できない				

【オフィスアワー】
火曜日2時限目 研究室(1807)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	報告の日程、担当者を確定して、今後の展開を議論して、次回以降の報告について概説する	
	この回の到達目標	とくに①に関連して、政治学のゼミ論文の位置づけ、内容的な適否などを伝えて、それを十分理解させ、それを通じて具体的な論題の設定を考察することができる	
	事前学修	あらかじめ、問題関心について各自考察し、それをゼミの時間に概説できるように準備すること	120分
	事後学修	各自のテーマ設定に沿って、参考文献などをあらかじめ収集、チェックしておくこと	120分
2	研究報告①	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
3	研究報告②	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
4	研究報告③	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
5	研究報告④	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
6	研究報告⑤	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	研究報告⑥		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
8	研究報告⑦		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
9	研究報告⑧		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
10	研究報告 ⑨		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
11	研究報告⑩		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
12	研究報告⑪		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	研究報告⑫		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
14	研究報告⑬		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
15	研究報告⑭		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
16	研究報告⑮		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
17	後学期研究報告①		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分
18	後学期研究報告②		報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる		
	事前学修	入念に報告を準備を進めること		120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	後学期研究報告③	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
20	後学期研究報告④	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
21	後学期研究報告⑤	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
22	後学期研究報告⑥	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
23	後学期研究報告⑦	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
24	後学期研究報告⑧	報告計画に沿って具体的な報告をする	
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	後学期研究報告⑨		報告計画に沿って具体的な報告をする
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
26	後学期研究報告⑩		報告計画に沿って具体的な報告をする
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
27	後学期研究報告⑪		報告計画に沿って具体的な報告をする
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
28	後学期研究報告⑫		報告計画に沿って具体的な報告をする
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
29	後学期研究報告⑬		報告計画に沿って具体的な報告をする
	この回の到達目標	①、②、③に関連して、自らの報告を客観的に吟味し、修正点などを次回の報告に活かすことができる	
	事前学修	入念に報告を準備を進めること	120分
	事後学修	質疑応答によって明らかになった問題点や課題を自省し、内容を修正、再構成すること	120分
30	後学期研究報告の総括		これまでの研究報告を振り返り、目次の微調整などがあれば行い、ゼミ論文提出に向けて具体的に執筆を加速させる
	この回の到達目標	各自のゼミ論の論題、論点、目次構成を改めて総点検し、併せてゼミ活動を総括することができる	
	事前学修	改めて自らの論文について考察を深め、論文の微調整に務める	120分
	事後学修	ゼミ活動を各自総括して、互いの親善・交流を振り返る	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
テレビを中心とした映像ジャーナリズムが現代社会においてどのような役割・機能を果たしているのか、送り手、受け手、コンテンツの各レベルについて研究を行なう。研究は、内容分析、フィールドワーク、アンケート調査など、複数の方法論を組み合わせで行う

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
3年次：映像ジャーナリズムについての基礎文献などの講読を行なって基礎知識を習得するとともに、各自の興味・関心に沿ってグループ研究を行ない、研究結果をグループで共有・考察する。 4年次：3年次に学修した内容に基づいて、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する知識を修得し、それをグループ内で共有・考察する。また、そうした活動を通じて課題設定や課題解決策を模索する問題意識を醸成する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
文献講読、番組の映像視聴と内容分析、フィールドワーク

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	映像視聴を通じたディスカッション、分析内容・研究成果のプレゼンテーションとディスカッション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	映像ジャーナリズムについての基礎的理論、概念、歴史などについて説明することができる		3	3					
②	映像ジャーナリズムの制作過程について理解し、その内容や問題点などについて述べるることができる			3	3	3	3		
③	映像ジャーナリズムを対象にしてオリジナリティのある研究のある研究を実践し、成果を共有することができる				3	3	3	3	3
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	到達目標①②に関連し、課題文献や映像資料についての確 に分析し、その結果を共有することができるかどうかを評 価する。	20	15									35
授業への参画度	到達目標①②③に関連し、質疑応答・ディスカッションに 積極的に参画しているかどうかを評価する。	5	5	5								15
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、 成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール 論文)	到達目標②③に関連し、設定した課題・テーマを対象に、 適切な方法論を用いて有意義な研究成果を出すことができ たかどうかを評価する。		25	25								50
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	45	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に適宜フィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新放送論	米倉律・島崎哲彦編	学文社	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 放送局での番組の企画・制作
実務経験に基づく実践的教育の内容	放送局での報道番組のディレクターとしての経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題などについて実践的に解説する	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業の進め方、評価の仕方を説明するとともに、卒業研究の導入を行なう	
	この回の到達目標	1年間の活動内容と目標を理解し説明することができる	
	事前学修	教科書、シラバスに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理する	120分
2	卒業研究のアイデア検討①	卒業研究のテーマについてのブレインストーミング	
	この回の到達目標	卒業研究にふさわしいテーマとはどのようなものかについて説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
3	卒業研究のアイデア検討②	卒業研究のテーマについてのブレインストーミング	
	この回の到達目標	卒業研究にふさわしいテーマとはどのようなものかについて説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
4	卒業研究の対象、方法論の検討①	卒業研究の対象、方法論の検討	
	この回の到達目標	パイロット研究のテーマについて、適切な対象と方法論を説明することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
5	卒業研究の対象、方法論の検討②	卒業研究の対象、方法論の検討	
	この回の到達目標	対象となるデータ収集と分析を的確に遂行できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
6	中間報告1－①	各自の研究計画の報告	
	この回の到達目標	自ら研究計画を立て共有することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間報告 1－②	各自の研究計画の報告	
	この回の到達目標	自ら研究計画を立て共有することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
8	中間報告 1－③	各自の研究計画の報告	
	この回の到達目標	自ら研究計画を立て共有することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
9	中間報告 1－④	各自の研究計画の報告	
	この回の到達目標	自ら研究計画を立て共有することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
10	中間報告 2－①	先行研究のレビュー結果の報告	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関する先行研究を収集し、そのレビュー結果を説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
11	中間報告 2－②	先行研究のレビュー結果の報告	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関する先行研究を収集し、そのレビュー結果を説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
12	中間報告 2－③	先行研究のレビュー結果の報告	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関する先行研究を収集し、そのレビュー結果を説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中間報告 2－④	先行研究のレビュー結果の報告	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関する先行研究を収集し、そのレビュー結果を説明できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
14	中間報告 3－①	研究計画の策定と報告	
	この回の到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を策定し共有できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
15	中間報告 3－②	研究計画の策定と報告	
	この回の到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を策定し共有できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
16	中間報告 3－③	研究計画の策定と報告	
	この回の到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を策定し共有できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
17	中間報告 3－④	研究計画の策定と報告	
	この回の到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を策定し共有できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
18	中間報告 4－①	データ収集と分析の報告	
	この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	中間報告 4－②	データ収集と分析の報告	
	この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
20	中間報告 4－③	データ収集と分析の報告	
	この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
21	中間報告 4－④	データ収集と分析の報告	
	この回の到達目標	関連データを収集し、適切に分析することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
22	中間報告 5－①	分析結果のまとめと考察	
	この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
23	中間報告 5－②	分析結果のまとめと考察	
	この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
24	中間報告 5－③	分析結果のまとめと考察	
	この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	中間報告5－④	分析結果のまとめと考察	
	この回の到達目標	分析した結果を的確にまとめ、それについて多角的に考察することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
26	最終報告①	論文の構成と主要部分、結論の報告	
	この回の到達目標	研究結果を論文として論理的かつ分かりやすく作成し共有できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
27	最終報告②	論文の構成と主要部分、結論の報告	
	この回の到達目標	研究結果を論文として論理的かつ分かりやすく作成し共有できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
28	最終報告③	論文の構成と主要部分、結論の報告	
	この回の到達目標	研究結果を論文として論理的かつ分かりやすく作成し共有できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
29	最終報告④	論文の構成と主要部分、結論の報告	
	この回の到達目標	研究結果を論文として論理的かつ分かりやすく作成し共有できる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分
30	総括	年間の研究活動の総括	
	この回の到達目標	一年間の研究成果を整理し説明することができる	
	事前学修	教科書、関連文献などに目を通しておく	120分
	事後学修	ノート等を用いて内容を整理し振り返る	120分

科目名	ゼミナール4年	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	通年	単位数	8
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
<3年次> 教員が指定した西洋政治史に関する課題や、法桜祭学生フォーラム共同研究テーマについて、各自エッセイやレジュメを作成・配布し、調べてきた内容の報告(プレゼン)を行う。後期は、各自の個人研究報告内容に関する質疑応答やディスカッション、ディベートなどを行い、最後に教員が講評して総括(フィードバック)する。 <4年次> 3年次に決定したゼミナール論文テーマに基づき、各自教員の前で報告(プレゼン)を行い、その後、教員が今後の課題や修正点などを指導(フィードバック)する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
<3年次> 西洋政治史に関する課題や共通テーマについて研究し、その成果を自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることに加え、各自の興味・関心に沿った具体的な研究テーマを発見してもらうことを到達目標とする。 <4年次> ゼミナール論文の作成を通じて歴史的見地から政治の本質を理解できるようになることに加え、それを自分の言葉と文章で説明できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
当該ゼミナール入室試験合格者のみ受講可。政治と歴史に興味をもって、いわゆる反知性主義を克服しようとする積極的な姿勢を求めたい。

【授業方法】
上記「授業の概要」に基づき、ゼミナリスTenの自主的かつ積極的なアクティブ・ラーニング(下記参照)を原則とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	初回のオリエンテーション以外は、課題や共通テーマ(3年次)、あるいは各自のゼミナール論文テーマ(4年次)に関連した「研究調査ならびにそれをまとめたエッセイ、レジュメ等の提出」を義務づける。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋政治史の共通テーマに関する概要と問題点を理解し説明することができる。						3	3		3				
②	各自の研究テーマに関する知見を論理的に説明することができる。						4	4	4					
③	各自の研究テーマを踏まえて、現代社会を批判的に分析することができる。								3	4	4			
④	各自の研究テーマに基づく自分の調査報告・調査結果に対する他者の評価や見解を尊重し、受け容れることができる。						4		4	3		4	3	3
⑤	ゼミナリスTen同士でゼミナール行事の難題に挑戦したり、コミュニケーションを取ったり、協働したりすることができる。									3	4	4	4	4
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各自の報告論文が書式等の要件を満たし、アクティブ・ラーニングの課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④に関する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑤を踏まえて、ゼミナール行事等への参加度も重視する。					5						5
その他(留意事項)	【ゼミナールは3年次と4年次の2年間継続して履修し、成績評価は4年次に行う】											
その他(ゼミナール論文)	到達目標①②③④⑤に関する力が総合的に身についているかを普段の授業でチェックするとともに、その成果は「ゼミナール論文」の内容で最終評価する。	15	15	15	15	15						75
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業(3年次：討論・発表、4年次：論文個別指導)の中で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書は使用しない。参考文献等は、必要に応じて授業中に紹介する。				

【オフィスアワー】
水曜日13：00－14：30 研究室（9号館2階 9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	学業と就職活動の両立の仕方について考える。	
	この回の到達目標	大学4年生としての自覚をもつようになること。到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文作成をイメージできるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
2	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文作成をイメージできるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
3	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文作成をイメージできるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
4	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文作成をイメージできるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
5	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
6	ゼミナール論文の目次決定	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ゼミナール論文の目次決定		ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。		
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。		120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。		120分
8	ゼミナール論文の目次決定		ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。		
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の目次案を準備しておく。		120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。		120分
9	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。		
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。		120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。		120分
10	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。		
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。		120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。		120分
11	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。		
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。		120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。		120分
12	ゼミナール論文の作成		ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。		
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。		120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
14	ゼミナール論文の作成	ゼミナール論文の目次や、研究方法・論文作成方法等の個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を作成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
15	ゼミナール論文に関する中間報告	各自作成したゼミナール論文内容に関する中間報告と、それを踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を最後まで作成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告に活かせるようにしておく。	120分
16	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
17	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
18	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
20	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
21	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
22	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
23	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
24	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノートを振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
26	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
27	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
28	ゼミナール論文の完成	各自作成したゼミナール論文内容に関する問題点の指摘を踏まえた個別指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ゼミナール論文を完成できるようになること。	
	事前学修	ゼミナール専用ノート振り返り、ゼミナール論文の草稿を準備しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、次回の報告と論文の完成に活かせるようにしておく。	120分
29	完成したゼミナール論文の点検	完成したゼミナール論文の最終点検指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、完成したゼミナール論文をもう一度見直し、不備のない状態で提出できるようになること。	
	事前学修	完成したゼミナール論文を、提出前に再度熟読しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や今後の課題などを整理して、論文の提出に備えておく。	120分
30	完成したゼミナール論文の点検	完成したゼミナール論文の最終点検指導。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、完成したゼミナール論文をもう一度見直し、不備のない状態で提出できるようになること。	
	事前学修	完成したゼミナール論文を、提出前に再度熟読しておく。	120分
	事後学修	授業中に示された修正点や反省点などを各自振り返りながら、完成したゼミナール論文を期日前に教務課へ提出する。	120分

科目名	選挙制度論	担当者	小島 勇人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
代議制民主主義は、選挙で選出された国民の代表である政治家のもと様々な意思決定を行う政体である。したがって選挙に関するルール、すなわち選挙制度は代議制民主主義において根幹的な制度であるといえる。そこで本講座では、民主主義における選挙制度の役割を導入部分として、学生が主として選挙制度の類型やその影響について政治学者に関する議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門基幹科目（V群）で学習した政治学に関する基礎的知識を発展させるために、生徒が選挙制度の概要やその役割を理解・説明し、選挙制度の視角から現代政治を捉える能力を習得する。

【履修条件】
我が国の選挙制度について理解する意欲を求める。

【授業方法】		
教科書を使用しつつ、必要に応じて各講義で資料を配布する。教科書や配布資料にない事例等を話す場合があるので、ノートへの筆記も必要となる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力			
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力			
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力			
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	選挙制度に関する主要な構成要素を理解することができる。					3				
②	選挙制度に関する政治学者の主要な理論を説明することができる。					3	3			
③	選挙制度が現実政治に及ぼす影響を評価することができる。						3	3		
④	選挙制度が現実政治に及ぼす影響に対する自分なりの評価を説明できる。							3		
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての能力が身についているかを、 筆記試験により評価する。	30	20	25	25							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
前学期末の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実務と研修のためのわかりやすい公職選挙法 第15次改訂版	選挙制度研究会	ぎょうせい	平成27 年度		
備考					

【オフィスアワー】
質問等については、授業時間中もしくは終了後に対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	地方公務員として選挙管理実務に4 4年間、携わる。総務省選挙部管理執行アドバイザー、総務省研究会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		4 4年に及ぶ実務経験と総務省選挙部管理執行アドバイザー、総務省投票環境向上方策に関する研究会委員などの成果を踏まえ、実践的かつ我が国の現実の選挙制度について、講義する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・これからの選挙制度論講義の概要について		オリエンテーション、シラバスによる講義計画、我が国の選挙制度の基本となる憲法における選挙の基本原則について説明し、今後の講義への前提として理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の講義計画を理解し、履修の有無を決められるようにする。		
	事前学修	シラバスの内容を確認し、我が国の選挙制度の基本となる憲法における選挙に関する基本原則を理解しておく。		120分
	事後学修	今回なされた講義内容である我が国の憲法における選挙の基本原則について、復習する。また、次回の講義内容（我が国の現行選挙制度のあらまし）を予習する。		120分
2	我が国の現行選挙制度のあらまし		我が国の民主主義の基本となる主に公職選挙法に基づく選挙制度のあらまし（全体像）について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、我が国の民主主義の基本となる主に実定法である公職選挙法に基づく選挙制度のあらまし（全体像）について講義を行う。		
	事前学修	前回の講義内容（我が国の選挙制度の基本となる憲法における選挙に関する基本原則）を復習するとともに、教科書により我が国の現行選挙制度を概観しておく。		120分
	事後学修	今回の講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の講義内容（選挙制度の源流と我が国の選挙制度の沿革）を予習する。		120分
3	選挙制度の源流と我が国の選挙制度の沿革		選挙制度の源流とともに、我が国の選挙制度の沿革から現在の選挙制度への進化による現状について、理解を深める講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度の源流とともに、我が国の選挙制度の沿革から現在の選挙制度への進化による現状について、理解する。		
	事前学修	教科書の該当部分を読み、選挙制度の源流とともに、我が国の選挙制度の沿革から現在の選挙制度への進化による現状について理解しておく。		120分
	事後学修	今回の講義内容と配布資料に基づき、選挙制度の源流とともに、我が国の選挙制度の沿革から現在の選挙制度への進化による現状について復習する。また、次回の講義内容（諸外国の選挙制度等）を予習する。		120分
4	諸外国の選挙制度等		主要な諸外国の上院、下院など国政に係る選挙制度等を概観し、我が国の選挙制度のあり方を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主要な諸外国の上院、下院など国政に係る選挙制度等を理解し、我が国の選挙制度のあり方を考察できるようにする。		
	事前学修	教科書の主要な諸外国の上院、下院など国政に係る選挙制度等の該当部分を読み、概要を理解しておく。		120分
	事後学修	主要な諸外国の上院、下院など国政に係る選挙制度等に関する今回の講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）に関する講義内容を予習する。		120分
5	多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）		選挙制度理論の基本である多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度理論の基本である多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）について、説明し、選挙制度全般の理解に資する。		
	事前学修	選挙制度理論の基本である多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）に係る教科書の該当部分を読み、理解しておく。		120分
	事後学修	今回の講義内容と配布資料に基づき選挙制度理論の基本である多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）に係る内容を復習する。また、次回の小選挙区比例代表制の種類とその仕組みに関する講義内容を予習する。		120分
6	小選挙区比例代表制の種類とその仕組み		我が国の衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表制の種類とその仕組みについて、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、我が国の衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表制の種類とその仕組みについて、理解し、今後の選挙制度のあり方を考察できるようにする。		
	事前学修	我が国の衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表制の種類とその仕組みに関する教科書の該当部分を読み、理解しておく。		120分
	事後学修	今回の講義内容と配布資料に基づき我が国の衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表制の種類とその仕組みについて復習する。また、次回の定数配分と投票価値の平等に関する講義内容を予習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	定数配分と投票価値の平等		憲法で保障された法の下での平等の基本たる定数配分と投票価値の平等に関して、我が国の数値的現状をした上で、これまでの最高裁の判例などにより定数配分と投票価値の平等について理解できるよう説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、憲法で保障された法の下での平等の基本たる定数配分と投票価値の平等に関して、我が国の数値的現状をした上で、これまでの最高裁の判例などにより定数配分と投票価値の平等について理解できるようにする。		
	事前学修	憲法で保障された法の下での平等の基本たる定数配分と投票価値の平等に関して、教科書の該当部分を読み、理解しておく。		120分
	事後学修	今回の講義内容と配布資料に基づき憲法で保障された法の下での平等の基本たる定数配分と投票価値の平等に関して、我が国の数値的現状とともに、これまでの最高裁の判例などにより定数配分と投票価値の平等について復習する。また、次回の選挙権と被選挙権に関する講義内容を予習する。		120分
8	選挙権と被選挙権		選挙で投票するための基本的要件となる選挙権と候補者となるための被選挙権について、我が国の選挙制度の沿革による資格要件の変遷と現行公職選挙法による制度について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙で投票するための基本的要件となる選挙権と候補者となるための被選挙権について、我が国の選挙制度の沿革による資格要件の変遷と現行公職選挙法による制度についての理解に資する。		
	事前学修	選挙で投票するための基本的要件となる選挙権と候補者となるための被選挙権について、我が国の選挙制度の沿革による資格要件の変遷と現行公職選挙法による制度について、教科書の該当部分を読み、理解しておく。		120分
	事後学修	選挙で投票するための基本的要件となる選挙権と候補者となるための被選挙権について、我が国の選挙制度の沿革による資格要件の変遷と現行公職選挙法による制度について、今回の講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の講義内容である選挙の執行プロセス(1)を予習する。		120分
9	選挙の執行プロセス(1)		選挙の執行プロセス(1)として、選挙人名簿、投票、開票、投票の効力を現行の実務について公職選挙法に基づき概説し、選挙執行の実際について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙の執行プロセス(1)として、選挙人名簿、投票、開票、投票の効力を現行の実務について公職選挙法に基づいた概説から、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を理解する。		
	事前学修	選挙の執行プロセス(1)として、選挙人名簿、投票、開票、投票の効力を現行の実務について教科書の該当部分を読み、理解しておく。		120分
	事後学修	選挙の執行プロセス(1)として、選挙人名簿、投票、開票、投票の効力を現行の実務について公職選挙法に基づいた概説から、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を今回の講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の選挙の執行プロセス(2)として解説する立候補の届出、当選人などの講義内容を予習する。		120分
10	選挙の執行プロセス(2)		選挙の執行プロセス(2)として、立候補の届出、当選人の決定、選挙公営制度などの実務について公職選挙法に基づき概説し、選挙執行の実際について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙の執行プロセス(2)として、立候補の届出、当選人の決定、選挙公営制度などの実務について現行の公職選挙法に基づき概説し、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を理解する。		
	事前学修	選挙の執行プロセス(2)として、立候補の届出、当選人の決定、選挙公営制度などの実務について現行の公職選挙法に基づく、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を教科書の該当部分を読み、理解しておく。		120分
	事後学修	選挙の執行プロセス(2)として、立候補の届出、当選人の決定、選挙公営制度などの実務について現行の公職選挙法に基づく、選挙執行の実際について、選挙制度と有権者と候補者のあり方を今回の講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の選挙運動と政治活動に関する講義内容を予習する。		120分
11	選挙運動と政治活動		候補者が有権者に発信する当選するための政策、公約を周知するために行う選挙運動と選挙運動に当たらない政策の普及宣伝などのために行う政治活動の実際について、現行の公職選挙法に基づき実際の問題事例を加味しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、候補者が有権者に発信する当選するための政策、公約を周知するために行う選挙運動と選挙運動に当たらない政策の普及宣伝などのために行う政治活動の実際について、現行の公職選挙法に沿って理解する。		
	事前学修	候補者が有権者に発信する当選するための政見、公約を周知するために行う選挙運動と選挙運動に当たらない政策の普及宣伝などのために行う政治活動の実際について、教科書の該当部分を読み、理解しておく。		120分
	事後学修	候補者が有権者に発信する当選するための政見、公約を周知するために行う選挙運動と選挙運動に当たらない政策の普及宣伝などのために行う政治活動の実際について、今回の講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の選挙の管理執行に関する問題事例と選挙争訟に係る講義内容を教科書等により予習する。		120分
12	選挙の管理執行に関する問題事例と選挙争訟		これまでに実際に起きた各種選挙における選挙の管理執行に関する問題事例と選挙無効、当選無効を訴える選挙争訟の制度について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでに実際に起きた各種選挙における選挙の管理執行に関する問題事例と選挙無効、当選無効を訴える選挙争訟の制度について説明し、有権者にとって適正な選挙執行のあり方を理解する。		
	事前学修	選挙無効、当選無効を訴える選挙争訟の制度について教科書の該当部分を読み、選挙の規定違反を是正するための選挙人等が提起する争訟制度について理解しておく。		120分
	事後学修	選挙無効、当選無効を訴える選挙争訟の制度について教科書の該当部分を読み、選挙の規定違反を是正するための選挙人等が提起する争訟制度について今回の講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の講義内容である選挙犯罪と制裁について、予習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	選挙犯罪と制裁		選挙運動、政治活動に関する公職選挙法に規定するルールの違反する選挙犯罪の内容とその結果として科せられる罰則と公民権停止や連座制などの制裁について、実際に起きた事例などを踏まえ解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動、政治活動に関する公職選挙法に規定するルールに違反する選挙犯罪の内容とその結果として科せられる罰則と公民権停止や連座制などの制裁について、実際に起きた事例などを踏まえ、選挙に関するコンプライアンスについて、考え理解する。	
	事前学修	選挙運動、政治活動に関する公職選挙法に規定するルールに違反する選挙犯罪の内容とその結果として科せられる罰則と公民権停止や連座制などの制裁について、実際に起きた事例などを踏まえ、選挙に関するコンプライアンスについて、教科書の該当部分を読み、理解しておく。	120分
	事後学修	選挙運動、政治活動に関する公職選挙法に規定するルールに違反する選挙犯罪の内容とその結果として科せられる罰則と公民権停止や連座制などの制裁について、実際に起きた事例などを踏まえ、選挙に関するコンプライアンスについて、今回の講義内容と配布資料に基づき復習する。また、次回の政治資金の規正に関する講義内容を予習する。	120分
14	政治資金の規正		政治資金の規正の目的である政治団体の届出、政治団体に係る政治資金の収支の流れの公開と、政治資金の授受の規正その他について、現行政治資金規正法に基づき、問題事例を踏まえ、説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政治資金の規正の目的である政治団体の届出、政治団体に係る政治資金の収支の流れの公開と、政治資金の授受の規正その他について、現行政治資金規正法に基づき、問題事例を踏まえ、政治とカネの問題について、理解し、政治のあり方について理解する。	
	事前学修	政治資金の規正の目的である政治団体の届出、政治団体に係る政治資金の収支の流れの公開と、政治資金の授受の規正その他について、教科書の該当部分を読み、報道された問題事例にも目を配り、理解しておく。	120分
	事後学修	政治資金の規正の目的である政治団体の届出、政治団体に係る政治資金の収支の流れの公開と、政治資金の授受の規正その他について、講義内容と配布資料に基づき復習する。また、最終回となる次回の講義のためにこれまでの講義内容について振り返りをしておく。	120分
15	これまでの講義の振り返り		これまでに講義した我が国の選挙制度の全体像と課題などについて、解説し、試験に備える。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでに講義した我が国の選挙制度の全体像と課題などについて、解説し、理解を固める。	
	事前学修	これまでの一連の講義内容を教科書とこれまでに配布した資料を踏まえ選挙制度のあり方と意義を考える。	120分
	事後学修	これまでの講義内容を再確認し、期末試験に備える。	120分

科目名	選挙制度論	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
現代民主主義では、選挙で選出された国民の代表である政治家のもと様々な意思決定を行う。したがって選挙に関するルール、すなわち選挙制度は、現代民主主義において根幹的な制度であるといえる。そこで本講座では、民主主義における選挙制度の役割を導入部分として、学生が主として選挙制度の類型やその影響について政治学者に関する議論を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
専門基幹科目(V群)で学習した政治学に関する基礎的知識を発展させるために、生徒が選挙制度の概要やその役割を理解・説明し、選挙制度の視角から現代政治を捉える能力を習得する。

【履修条件】
特になし。ただし選挙制度について理解する姿勢を求める。

【授業方法】
プレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は電子媒体で配布する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義期間中、リアクション・ペーパー（電子媒体など）の提出を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	選挙制度に関する主要な構成要素を理解することができる。						3						
②	選挙制度に関する政治学者の主要な理論を説明することができる。						3	3					
③	選挙制度が現実政治に及ぼす影響を評価することができる。							3	3				
④	選挙制度が現実政治に及ぼす影響に対する自分なりの評価を説明できる。								3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての能力が身に付いているかを、授業内試験により評価する。	20	20	15	5							60
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④に関連し、学生が講義ごとに解説される選挙制度に関する議論の内容が定着しているのかどうかを、理解しているのかどうかを、レポートを通じて評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関連し、学生が講義ごとに解説される選挙制度に関する議論の内容を理解しているのかどうかを、リアクションペーパーにて確認する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	25	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
前期末の講義にて行う

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教材については、受講者との相談のうえで決定する。				

【オフィスアワー】
火曜の昼休憩時に研究室にて（12時～13時まで）。事前の予約が必要。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・選挙制度論の概要について	授業目的、講義の概要、成績評価の方針について説明する。また民主主義の問題について、簡単な事例を示し、以降の講義への理解度を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後の授業計画について理解し、履修の有無を決定できる。履修する場合は、ガイダンスで提示される民主主義固有の問題について自分なりに評価できる。	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、講義の流れについて確認する。	120分
	事後学修	シラバスの内容や講義の内容をもとに、自分なりの民主主義に対する考え方を整理しておくこと。	120分
2	民主主義と選挙制度	近代以降の社会的発展なかで民主主義及び選挙制度が重要性を持った歴史的背景、選挙制度の機能と構成要素について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主主義と選挙制度の関係、選挙制度の機能と構成要素について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを読み、自分の考えを練っておくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
3	選挙の基本原則と普通選挙制の拡大	とくにイギリスを中心として選挙の基本的原理として選挙権拡大の歴史的背景について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、普通選挙制の歴史的展開とその意義について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
4	平等選挙と一票の格差	選挙の基本的原理として、平等選挙の原理と一票の格差の問題を取り扱う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、一票の格差問題やゲリマンダーについて説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
5	選挙制度の類型：小選挙区制	狭義の「選挙制度」の類型について説明し、そのなかでも、小選挙区制及びそれから派生する制度について、諸外国の事例をふまえて講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度の構成要素と小選挙区制の内容について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
6	選挙制度の類型：比例代表制	選挙制度の類型のなかでも、比例代表制とその議席配分の方式の差異について、諸外国の事例をふまえて講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比例代表制の比例配分の具体的方法について配分方式ごとに説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	選挙制度の種類：その他選挙制度	小選挙区制及び比例代表制以外の重要な選挙制度として、混合制及び中選挙区制の内容について、とくにドイツおよび日本を事例としつつ解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、比例代表制の比例配分の具体的方法について配分方式ごとに説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
8	選挙制度と政党システム	選挙制度と政党組織との関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度と政党システムの関連性について理解し、その主要な議論を説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
9	選挙制度と政党組織	選挙制度と政党組織との関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙制度と政党組織の関連性について理解し、その主要な議論を説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
10	選挙制度と選挙キャンペーン	選挙制度と選挙キャンペーンの関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主要な選挙キャンペーンの手段について理解し、それらと選挙制度との関係性について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
11	日本の選挙制度：中選挙区制から並立制へ	55年体制下で用いられていた中選挙区制下での政治の特徴と94年の政治改革で小選挙区比例代表並立制が導入されるまでの経緯について、それまでの講義で提示した枠組みをふまえつつ、講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、主要な政治コミュニケーションの手段について理解し、それらと選挙制度との関係性について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
12	日本の選挙制度：政治改革と並立制	94年の政治改革で小選挙区比例代表並立制が導入されるまでの経緯、およびその後の日本政治の展開について、それまでの講義で提示した枠組みをふまえつつ、講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、並立制下の政治の特徴について理解し、説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の選挙制度：公職選挙法の問題点	日本の公職選挙法の抱える問題点について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本における公職選挙法やその周辺にある制度の現状と問題点について説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
14	日本の選挙制度：ドキュメンタリー映画の鑑賞	今までの講義を踏まえつつ、日本における選挙の実態に関するドキュメンタリー映画を鑑賞し、日本政治に対する理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、映画の内容について、今までの講義内容と関連付けながら評価し、説明できる。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。	120分
15	授業内試験および解説	この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その後試験問題に関する解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前期で学んだことについて、試験を通じて定着を図る。	
	事前学修	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。	120分
	事後学修	本講義の内容を再度確認し、期末試験に備えること。	120分

科目名	専門演習A	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義、グループワーク、個人ワークを混合して実施する。各グループごとに調査対象の公共的問題を設定し、授業内で学修した分析視角を活用し、実際に文献の調査収集から、最終的には政策分析・提言を報告する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを複数回実施する。 教員が説明した講義内容を、学生が主体的に応用・実践し政策課題の分析を行う。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥									4			
⑦									3			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業内あるいは翌週の授業時に個別にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政策リサーチ入門	伊藤修一郎	東京大学出版会	2011	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義概要の説明、グループ課題の決定	授業の概要説明を行った上で、グループ分けを行い、グループの調査課題を議論し、大まかな方向性を決定する。	
	この回の到達目標	講義で取り組む内容を理解した上で、グループごとのテーマを大まかなレベルで決定する。	
	事前学修	シラバスをよく確認し、自らの学修段階、技能水準に適した内容であるかどうかを確認する。	120分
	事後学修	グループで研究調査するテーマを決定するため、自分が興味関心のある公共的問題をいくつか考えておく。	120分
2	グループディスカッション	各グループが研究調査の対象として決めたテーマに関して、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	調査研究の初期段階として、各グループがテーマに設定した公共的問題について、ディスカッションを通じて、多様な意見が存在することを理解する。	
	事前学修	自分たちの選んだ研究テーマに関して、インターネット等で簡単な事前調査を行っておく。	120分
	事後学修	ディスカッションを通じて触れた様々な意見を参考に、自分たちの研究調査の方向性を再検討する。	120分
3	文献の探し方の基本	文献の探し方の基本を復習した上で、各グループが調査する公共的問題を具体的に決定する。	
	この回の到達目標	文献の探し方の基本を習得し、課題調査に活用できるようになる。	
	事前学修	自分たちの選んだ研究テーマに関して、インターネット等で簡単な事前調査を行っておく。	120分
	事後学修	自分のグループの担当する公共的問題について、関係があると思われる資料を探して翌週の授業で報告できるよう目を通し準備しておく。	120分
4	情報共有・KJ法によるブレインストーミング	各自で調べた情報をグループ内で共有した後、KJ法を活用し、各グループの公共的問題を取り巻く様々な論点、問題の原因、解決案などを列挙・整理し、次の段階の調査の準備を進める。	
	この回の到達目標	KJ法を習得するとともに、各グループの担当する公共的問題を巡る論点、問題の原因、リサーチクエスションを見定めるための準備を整える。	
	事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、今後追加的な調査が必要だと思われる疑問点や、その問題の解決策、関連する諸問題などを思いつくままに列挙しておく。	120分
	事後学修	ブレインストーミング、グループでのディスカッションを通じて登場した新たな調査項目、疑問点などについて改めて検討し、さらに追加の調査が必要な問題は何かを検討する。	120分
5	特性要因図を用いた原因の追究	QC7つ道具の一つである特性要因図の使い方を学び、複雑な要因の因果関係を整理する。	
	この回の到達目標	各グループの担当する公共的問題を引き起こす原因と考えられる要因を列挙し、特性要因図を用いて複雑な構造を整理する。	
	事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、その問題の原因と考えられる要因を列挙しておく。	120分
	事後学修	特性要因図を用いて整理した結果を元に、調査が必要な部分は何かを検討する。	120分
6	資料整理・参考文献の記載方法	集めた資料の整理、参考文献の記載方法を学修するとともに、各グループで調査・報告準備を進める。	
	この回の到達目標	引用、脚注の付け方など、文献情報の整理・報告技法を理解し、実際に情報の整理・要約に活用することができるようになる。	
	事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、調査・報告の準備を進める。	120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、中間報告に向けて準備を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	プレゼンテーション・報告資料作成の技法		これまでに集めた情報を他人に伝達・報告する技法について学修するとともに、各グループで調査・報告準備を進める。	
	この回の到達目標	自分たちのグループがこれまでに調査した内容を、他のグループの学生にも理解できるように伝達することができるようになる。		
	事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、調査・報告の準備を進める。		180分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、中間報告に向けて準備を進める。		60分
8	中間報告		各グループが担当する公共的問題を取り巻く状況、論点、今後の調査の方向性を、グループごとに報告する。	
	この回の到達目標	自分たちのグループがこれまでに調査した内容を、他のグループの学生にも理解できるように伝達することができるようになる。		
	事前学修	授業内でスムーズに報告ができるよう、各グループの中で報告準備を進める。		120分
	事後学修	他のグループの報告を聞いて、良かったところ、わかりにくかったところなどを確認し、次以降の自らの報告に活用できるようまとめておく。		120分
9	政策実施の現状分析		公共政策の体系的・階層性を学修した上で、各グループのテーマに関して、現在実施されている政策を、国内・国外問わず調査し現状の分析を行う。	
	この回の到達目標	各グループのテーマに関して、現在実施されている政策を、国内・国外問わず調査し現状の分析を行う。		
	事前学修	自分たちの研究テーマについて、現在実施されている政策を調べてみる。		120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、最終報告に向けて準備を進める。		120分
10	政策効果の検証		担当教員が実際に政策の効果検証を行った事例を参考にしつつ、各グループのテーマに関して政策の効果を検討・検証する。	
	この回の到達目標	政策の効果検証には厳密な評価分析が必要であることを理解しつつ、各グループのテーマに関する政策の効果を検討する。		
	事前学修	前週に調査した政策が効果を発揮しているかどうか、どのようなポイントを調べれば効果が確認できるか考える。		120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、最終報告に向けて準備を進める。		120分
11	因果推論の考え方		担当教員が行った政策提言の事例を参考にしつつ、各グループのテーマに関して政策オプションを検討する。	
	この回の到達目標	計量的なデータ分析に基づいた政策提言の実例を学修し理解する。各グループのテーマに関する政策オプションを挙げることができるようになる。		
	事前学修	自分たちの研究テーマに関して、どのような政策提言（代替案となる政策オプションの提案）ができるか考えておく。		120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、最終報告に向けて準備を進める。		120分
12	政策オプションの検討		担当教員が実際に行った政策提言の事例を参考にしつつ、各グループのテーマに関して政策オプションを検討する。	
	この回の到達目標	成功事例の分析など、少数の事例を比較する際の技法を学修し理解する。各グループのテーマに関する政策オプションを挙げることができるようになる。		
	事前学修	自分たちの研究テーマに関して、どのような政策提言（代替案となる政策オプションの提案）ができるか考えておく。		120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、最終報告に向けて準備を進める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	報告内容の検討		パワーポイントのまとめ方について学修した上で、各グループで最終報告のための資料作成を行う。
	この回の到達目標	最終報告に向けて、報告内容案の骨子を確定させ、次週以降は報告資料の作成に取り掛かれるように準備を完了させる。	
	事前学修	グループ内で、最終的な報告に向けてどのような報告を行うか相談・検討する。	120分
	事後学修	グループ内で、担当を分担し、それぞれが文献レビューで取り上げる内容の要約・整理を行う。	120分
14	報告資料の作成		パワーポイントのまとめ方について学修した上で、各グループで最終報告のための資料作成を行う。
	この回の到達目標	報告のストーリーを明確に固めた上で、最終報告のためのパワーポイントを完成させる。	
	事前学修	グループ内で、最終報告のストーリー仕立てを相談しておく。	120分
	事後学修	グループ内で、パワーポイントの品質向上に取り組む。	120分
15	最終報告		各グループで、これまで調査した成果を報告する。
	この回の到達目標	これまで調査した成果を、学術的な観点から整理・要約するとともに、それぞれの公共的問題における研究課題を提示できるようになる。	
	事前学修	グループ内で、パワーポイントの品質向上に取り組む。	120分
	事後学修	他のグループの報告を聞いて、良かったところ、わかりにくかったところなどを確認し、今後の自らの報告に活用できるようまとめておく。	120分

科目名	専門演習A	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
毎回グループディスカッション、プレゼンテーション等を行うので、授業への出席が必要。

【授業方法】
グループディスカッション、プレゼンテーションを中心に学修する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥									4			
⑦									3			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、課題発見力など到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
2	労働政策と平成の労働事情		労働政策の背景にある平成年間の労働事情を、経済指標の推移を見ながら俯瞰的に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、平成年間の労働事情（性、年齢階層別失業率、労働力率、産業別労働時間、男女別賃金、勤続年数）と基本的出来事（バブル崩壊、不良資産、金融不況、リーマンショック）の関係について、理解し、課題を発見することができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
3	労働政策（働き方改革）と平成の労働事情		働き方改革の内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、政策（働き方改革）と前回授業で発見した課題との関係について理解し、説明することができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、次回グループワークの題材を考える。		120分
4	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回の授業を復習し、グループワークの題材を考えておく。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
5	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
6	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	労働政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	労働政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働政策の効果と課題（グループワーク）	グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	労働政策の効果と課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、労働政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	労働政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、労働政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	専門演習A	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥									4			
⑦									3			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
課題解決の7step	一般財団法人コード・フォー・ジャパン	ぎょうせい	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休みとする。事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	データの基礎知識	公共政策におけるデータの基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策における目標、問題、課題の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	データ分析の収集	公共政策におけるデータの収集と活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策における目標、問題、課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	データ分析の基礎知識	公共政策におけるデータ分析の基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	データ分析の活用	公共政策におけるデータ分析の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策における目標、問題、課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
6	データ分析手法の基礎知識	公共政策におけるデータ分析手法の基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析手法の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	データ分析手法の活用		公共政策におけるデータ分析手法の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策におけるデータ分析の手法について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
8	データ分析類型の基礎知識		公共政策におけるデータ分析類型に関する基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析の類型を理解でき、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
9	データ分析類型の活用		公共政策におけるデータ分析類型の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策におけるデータ分析の類型について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
10	データ評価の基礎知識		公共政策におけるデータ評価についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析結果の評価の意味を理解でき、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
11	データ評価の活用		公共政策におけるデータ評価の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策におけるデータ分析結果の評価の活用について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
12	政策立案の基礎知識		公共政策における政策立案についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策における政策立案の意味を理解でき、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策立案の活用	公共政策における政策立案の活用を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策における政策立案について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
14	データ分析の効果・指標についての基礎知識	公共政策におけるデータ分析の効果・指標についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析の効果・指標の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
15	データ分析の効果・指標の活用・総括	公共政策におけるデータ分析の効果・指標の活用を学修し、授業の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策におけるデータ分析の効果・指標の活用について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

科目名	専門演習A	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥									4			
⑦									3			
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
課題解決の 7 step	一般財団法人コード・フォー・ジャパン	ぎょうせい	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休みとする。事前にメールでアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	データの基礎知識	公共政策におけるデータの基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策における目標、問題、課題の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	データ分析の収集	公共政策におけるデータの収集と活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策における目標、問題、課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	データ分析の基礎知識	公共政策におけるデータ分析の基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	データ分析の活用	公共政策におけるデータ分析の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策における目標、問題、課題について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
6	データ分析手法の基礎知識	公共政策におけるデータ分析手法の基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析手法の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	データ分析手法の活用		公共政策におけるデータ分析手法の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策におけるデータ分析の手法について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
8	データ分析類型の基礎知識		公共政策におけるデータ分析類型に関する基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析の類型を理解でき、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
9	データ分析類型の活用		公共政策におけるデータ分析類型の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策におけるデータ分析の類型について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
10	データ評価の基礎知識		公共政策におけるデータ評価についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析結果の評価の意味を理解でき、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
11	データ評価の活用		公共政策におけるデータ評価の活用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策におけるデータ分析結果の評価の活用について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
12	政策立案の基礎知識		公共政策における政策立案についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策における政策立案の意味を理解でき、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政策立案の活用	公共政策における政策立案の活用を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策における政策立案について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
14	データ分析の効果・指標についての基礎知識	公共政策におけるデータ分析の効果・指標についての基礎知識を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共政策におけるデータ分析の効果・指標の意味を理解でき、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
15	データ分析の効果・指標の活用・総括	公共政策におけるデータ分析の効果・指標の活用を学修し、授業の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、公共政策におけるデータ分析の効果・指標の活用について、グループで検討し、プレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基本原理及び公共政策に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

科目名	専門演習A	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2021	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

科目名	専門演習A	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2021	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

科目名	専門演習A	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
【重要】第2回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。

【授業方法】
受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には演習形式をとりながら、基本的には講義とグループワークを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された課題について、自ら（グループもしくは個人）でテーマ及び研究対象の選定を行い、最終的な課題提出に向けた活動を行う。そのため、各自が授業に向けて情報収集と整理を行うとともに、授業内で示される次の授業までの段階的タスクのためのワークを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の最終回に発表の結果についての公表と、希望者には個別にその詳細を提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション	・授業の進め方、課題、目的などについて説明する。 ・授業において重要となる基本的な語句および概念についての説明と整理を行う。	
	この回の到達目標	この授業の目的と意図について理解し、受講の判断をする。 授業のテーマとなる行政計画について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを熟読をし、行政計画の意味について考察をする。	120分
	事後学修	授業での課題設定を踏まえて、今後の自分の課題を大まかに決めておく。	120分
2	さまざまな行政計画	・行政計画について説明する。	
	この回の到達目標	さまざまな行政計画から自分を取り上げたい行政計画を選択する。	
	事前学修	さまざまな行政計画についてリスアップしておく。	60分
	事後学修	授業での説明を踏まえて行政計画の意義を文章化する。	180分
3	班分けとウォーミングアップ	・受講生の状況をみて班分けを行う。 ・ウォーミングアップとグループディスカッション（自分たちの班の対象と問題意識を共有する）。	
	この回の到達目標	グループ内で行政計画について共通理解を獲得し、それを踏まえて自分たちの題材となる行政計画について集めてきた情報を共有する。	
	事前学修	自分を取り上げたい行政計画について、班のメンバーに説明するための準備をする。	60分
	事後学修	授業の学びを受けて、班の候補にあがった行政計画の概要をまとめる。	180分
4	計画と政策評価の概要	・政策評価の方法と概要について説明する。 ・グループディスカッション（自分たちの対象の計画と評価の方向性を決定する）	
	この回の到達目標	自分たちが題材とする行政計画を決定する。	
	事前学修	前回の授業で共有した情報について、さらなる情報収集を行い、自分の希望を明確にする。	120分
	事後学修	授業内でのグループの作業を振り返り、計画に必要な情報を集める。	120分
5	計画の詳細の確認	・各自で対象とする行政計画の詳細を確認する。	
	この回の到達目標	対象とする行政計画の基本的理解に必要な情報を一通りそろえ、その概要を説明できるようになる。。	
	事前学修	計画の理解に必要な情報をリストアップする。	120分
	事後学修	計画の確認作業を振り返り、足りない部分をリストアップし、必要な情報を集める。	120分
6	評価に必要なデータの収集	・政策評価における課題について講義を行う。 ・グループディスカッション（評価の方法とそのために必要なデータおよび情報について班内で共有し、必要な情報収集を行う）	
	この回の到達目標	自分たちが選択した行政計画について、どのような評価を行うかを決め、班内で必要な情報のリスト化と分担の決定をする。	
	事前学修	前回の授業で選択した計画の評価ため、必要な情報を集め、どのような方法があるかを考えてくる。	120分
	事後学修	授業内でのグループの作業を振り返り、中間発表に向けて必要な情報を集める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	中間発表・講評	中間発表・講評	
	この回の到達目標	他班の発表および講評を受け、発表に向けての今後の課題を具体的に示す。	
	事前学修	中間発表の準備（資料収集・練習）および中間発表で指摘されそうな点について考え、その対策を練る。	180分
	事後学修	中間発表に対する講評等を参考に発表テーマを最終的に決定する。もしくは決定のために必要な情報収集を行いグループディスカッションの準備をする。	60分
8	アウトプットとアウトカム	・評価におけるアウトプットとアウトカム、および論理的評価について説明。 ・グループディスカッション（評価の作業および内容の深化）	
	この回の到達目標	自班の発表の論理性を高めるうえでの課題を指摘できるようになる。	
	事前学修	中間発表を受けて、発表までに今後必要なことをリストアップする。	60分
	事後学修	授業内容を踏まえて班の発表の課題を考察し、ほかのメンバーと共有する。	180分
9	評価の活用	・政策評価の活用方法について説明。 ・グループディスカッション（評価の作業および内容の深化）	
	この回の到達目標	自班の政策評価が完成したあとの活用方法を具体的に示すことができるようになる。	
	事前学修	中間発表および講義を通じて明らかになった発表の課題について、文章化しておく。	60分
	事後学修	発表の課題を整理し、それを踏まえた発表までの具体的計画を立てる。	180分
10	評価の提示方法	・評価の提示方法について講義を行う。 ・グループディスカッション（発表の全体像の確定）	
	この回の到達目標	発表のなかで行う評価の提示の流れを具体的にしめす。	
	事前学修	プレゼンテーションを完成させるために必要なことをリストアップする。	120分
	事後学修	最終的なプレゼンテーションを想定して、課題がないかを考察する。またその課題克服のための計画を立て、グループ内で共有する。	120分
11	発表準備	・発表に必要なプレゼンテーションおよびPPTについての知識と技術の講義。 ・グループ作業	
	この回の到達目標	プレゼンテーションにおける重要な要素を知り、より良いプレゼンテーションのための自分なりの作業手順を作成する。	
	事前学修	発表のためのプレゼンテーションをおおむね完成させておく。	120分
	事後学修	授業を通じて、最終的なプレゼンテーションのチェックと必要な修正を行い、完成させる。	120分
12	課題発表1回目	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3班の発表を行う。	
	この回の到達目標	他班の発表に対して、ポジティブフィードバックと同時に課題の指摘をし、文章化する。	
	事前学修	発表に向けた最終確認と、他の班発表の講評にむけた情報収集をしておく。	60分
	事後学修	他班の発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	課題発表2回目	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3班の発表を行う。	
	この回の到達目標	他班の発表に対して、ポジティブフィードバックと同時に課題の指摘をし、文章化する。	
	事前学修	発表に向けた最終確認と、他の班の発表の講評にむけた情報収集をしておく。	60分
	事後学修	他の班の発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。	180分
14	課題発表3回目	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3班の発表を行う。	
	この回の到達目標	他班の発表に対して、ポジティブフィードバックと同時に課題の指摘をし、文章化する。	
	事前学修	発表に向けた最終確認と、他の班の発表の講評にむけた情報収集をしておく。	60分
	事後学修	他の班の発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。	180分
15	まとめと振り返り	・発表に対する個人の講評 ・教員による発表の総括と総評（講義）	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	講義とプレゼンを通して班の発表に対して自分なりの改善および修正を加えて、個人としてのプレゼンテーションを完成させる。	180分
	事後学修	授業を通じての学びを今後の生活にどう生かすかについての目標を1つ以上設定する。	60分

科目名	専門演習B	担当者	小田 勇樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義、グループワーク、個人ワークを混合して実施する。各グループごとに調査対象の公共的問題を設定し、授業内で学修した分析視角を活用し、実際に文献の調査収集から、最終的には政策分析・提言を報告する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークを複数回実施する。 教員が説明した講義内容を、学生が主体的に応用・実践し政策課題の分析を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業内あるいは翌週の授業時に個別にフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
政策リサーチ入門	伊藤修一郎	東京大学出版会	2011	参考書	任意
備考	各講義回の参考資料は、パワーポイント・配布資料に全て記載する。				

【オフィスアワー】
火曜日12:20～12:50 ※事前に必ず連絡・予約すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義概要の説明、グループ課題の決定	授業の概要説明を行った上で、グループ分けを行い、グループの調査課題を議論し、大まかな方向性を決定する。	
	この回の到達目標	講義で取り組む内容を理解した上で、グループごとのテーマを大まかなレベルで決定する。	
	事前学修	シラバスをよく確認し、自らの学修段階、技能水準に適した内容であるかどうかを確認する。	120分
	事後学修	グループで研究調査するテーマを決定するため、自分が興味関心のある公共的問題をいくつか考えておく。	120分
2	グループディスカッション	各グループが研究調査の対象として決めたテーマに関して、ディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	調査研究の初期段階として、各グループがテーマに設定した公共的問題について、ディスカッションを通じて、多様な意見が存在することを理解する。	
	事前学修	自分たちの選んだ研究テーマに関して、インターネット等で簡単な事前調査を行っておく。	120分
	事後学修	ディスカッションを通じて触れた様々な意見を参考に、自分たちの研究調査の方向性を再検討する。	120分
3	文献の探し方の基本	文献の探し方の基本を復習した上で、各グループが調査する公共的問題を具体的に決定する。	
	この回の到達目標	文献の探し方の基本を習得し、課題調査に活用できるようになる。	
	事前学修	自分たちの選んだ研究テーマに関して、インターネット等で簡単な事前調査を行っておく。	120分
	事後学修	自分のグループの担当する公共的問題について、関係があると思われる資料を探して翌週の授業で報告できるよう目を通し準備しておく。	120分
4	情報共有・KJ法によるブレインストーミング	各自で調べた情報をグループ内で共有した後、KJ法を活用し、各グループの公共的問題を取り巻く様々な論点、問題の原因、解決案などを列挙・整理し、次の段階の調査の準備を進める。	
	この回の到達目標	KJ法を習得するとともに、各グループの担当する公共的問題を巡る論点、問題の原因、リサーチクエスションを見定めるための準備を整える。	
	事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、今後追加的な調査が必要だと思われる疑問点や、その問題の解決策、関連する諸問題などを思いつくままに列挙しておく。	120分
	事後学修	ブレインストーミング、グループでのディスカッションを通じて登場した新たな調査項目、疑問点などについて改めて検討し、さらに追加の調査が必要な問題は何かを検討する。	120分
5	特性要因図を用いた原因の追究	QC7つ道具の一つである特性要因図の使い方を学び、複雑な要因の因果関係を整理する。	
	この回の到達目標	各グループの担当する公共的問題を引き起こす原因と考えられる要因を列挙し、特性要因図を用いて複雑な構造を整理する。	
	事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、その問題の原因と考えられる要因を列挙しておく。	120分
	事後学修	特性要因図を用いて整理した結果を元に、調査が必要な部分は何かを検討する。	120分
6	資料整理・参考文献の記載方法	集めた資料の整理、参考文献の記載方法を学修するとともに、各グループで調査・報告準備を進める。	
	この回の到達目標	引用、脚注の付け方など、文献情報の整理・報告技法を理解し、実際に情報の整理・要約に活用することができるようになる。	
	事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、調査・報告の準備を進める。	120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、中間報告に向けて準備を進める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	プレゼンテーション・報告資料作成の技法		これまでに集めた情報を他人に伝達・報告する技法について学修するとともに、各グループで調査・報告準備を進める。	
	この回の到達目標	自分たちのグループがこれまでに調査した内容を、他のグループの学生にも理解できるように伝達することができるようになる。		
	事前学修	自分のグループの担当する公共的問題について、調査・報告の準備を進める。		180分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、中間報告に向けて準備を進める。		60分
8	中間報告		各グループが担当する公共的問題を取り巻く状況、論点、今後の調査の方向性を、グループごとに報告する。	
	この回の到達目標	自分たちのグループがこれまでに調査した内容を、他のグループの学生にも理解できるように伝達することができるようになる。		
	事前学修	授業内でスムーズに報告ができるよう、各グループの中で報告準備を進める。		120分
	事後学修	他のグループの報告を聞いて、良かったところ、わかりにくかったところなどを確認し、次以降の自らの報告に活用できるようまとめておく。		120分
9	政策実施の現状分析		公共政策の体系的・階層性を学修した上で、各グループのテーマに関して、現在実施されている政策を、国内・国外問わず調査し現状の分析を行う。	
	この回の到達目標	各グループのテーマに関して、現在実施されている政策を、国内・国外問わず調査し現状の分析を行う。		
	事前学修	自分たちの研究テーマについて、現在実施されている政策を調べてみる。		120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、最終報告に向けて準備を進める。		120分
10	政策効果の検証		担当教員が実際に政策の効果検証を行った事例を参考にしつつ、各グループのテーマに関して政策の効果を検討・検証する。	
	この回の到達目標	政策の効果検証には厳密な評価分析が必要であることを理解しつつ、各グループのテーマに関する政策の効果を検討する。		
	事前学修	前週に調査した政策が効果を発揮しているかどうか、どのようなポイントを調べれば効果が確認できるか考える。		120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、最終報告に向けて準備を進める。		120分
11	因果推論の考え方		担当教員が行った政策提言の事例を参考にしつつ、各グループのテーマに関して政策オプションを検討する。	
	この回の到達目標	計量的なデータ分析に基づいた政策提言の実例を学修し理解する。各グループのテーマに関する政策オプションを挙げることができるようになる。		
	事前学修	自分たちの研究テーマに関して、どのような政策提言（代替案となる政策オプションの提案）ができるか考えておく。		120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、最終報告に向けて準備を進める。		120分
12	政策オプションの検討		担当教員が実際に行った政策提言の事例を参考にしつつ、各グループのテーマに関して政策オプションを検討する。	
	この回の到達目標	成功事例の分析など、少数の事例を比較する際の技法を学修し理解する。各グループのテーマに関する政策オプションを挙げることができるようになる。		
	事前学修	自分たちの研究テーマに関して、どのような政策提言（代替案となる政策オプションの提案）ができるか考えておく。		120分
	事後学修	授業で学修した内容を活用し、最終報告に向けて準備を進める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	報告内容の検討		パワーポイントのまとめ方について学修した上で、各グループで最終報告のための資料作成を行う。
	この回の到達目標	最終報告に向けて、報告内容案の骨子を確定させ、次週以降は報告資料の作成に取り掛かれるように準備を完了させる。	
	事前学修	グループ内で、最終的な報告に向けてどのような報告を行うか相談・検討する。	120分
	事後学修	グループ内で、担当を分担し、それぞれが文献レビューで取り上げる内容の要約・整理を行う。	120分
14	報告資料の作成		パワーポイントのまとめ方について学修した上で、各グループで最終報告のための資料作成を行う。
	この回の到達目標	報告のストーリーを明確に固めた上で、最終報告のためのパワーポイントを完成させる。	
	事前学修	グループ内で、最終報告のストーリー仕立てを相談しておく。	120分
	事後学修	グループ内で、パワーポイントの品質向上に取り組む。	120分
15	最終報告		各グループで、これまで調査した成果を報告する。
	この回の到達目標	これまで調査した成果を、学術的な観点から整理・要約するとともに、それぞれの公共的問題における研究課題を提示できるようになる。	
	事前学修	グループ内で、パワーポイントの品質向上に取り組む。	120分
	事後学修	他のグループの報告を聞いて、良かったところ、わかりにくかったところなどを確認し、今後の自らの報告に活用できるようまとめておく。	120分

科目名	専門演習B	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
毎回グループディスカッション、プレゼンテーション等を行うので、授業への出席が必要。

【授業方法】
グループディスカッション、プレゼンテーションを中心に学修する。人口構造を仔細に観察し、そこから将来の課題を予測、発見し、労働政策の方向性を探る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、課題発見力など到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	人口構造と公共政策	公共政策の背景にある人口構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、日本の人口構造（高齢化率、人口ボーナスとオーナス、合計特殊出生率等）を理解し、課題を発見することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	諸外国の人口構造	諸外国、国内各地域の人口構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、諸外国、国内各地域の人口構造を理解し、課題を発見することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料（各地域の人口ピラミッド等）を収集する。	120分
	事後学修	前回と今回の授業で扱ったテーマについて復習し、次回グループワークの題材を考える。	120分
4	政策の効果、課題（グループワーク）	2回目、3回目の授業で発見した課題を題材としたグループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回の授業を復習し、過去の政策などグループワークに必要な資料を用意する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	政策の効果、課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政策（労働分野）の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	政策（労働分野）の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	政策（労働分野）の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策（出生数回復、外国人受入れ、UIJターン等、以下同じ。）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	専門演習B	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
毎回グループディスカッション、プレゼンテーション等を行うので、授業への出席が必要。

【授業方法】
グループディスカッション、プレゼンテーションを中心に学修する。人口構造を仔細に観察し、そこから将来の課題を予測、発見し、労働政策の方向性を探る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、課題発見力など到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッション、プレゼンテーション、討議に際し、適宜講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスで授業の目的、進め方について説明を受けた後、公共政策（この授業では労働政策を中心に扱う）を取り巻く社会情勢について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、講義の目的、進め方及び授業で扱う公共政策（労働政策）をとりまく社会情勢について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	人口構造と公共政策	公共政策の背景にある人口構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、日本の人口構造（高齢化率、人口ボーナスとオーナス、合計特殊出生率等）を理解し、課題を発見することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	諸外国の人口構造	諸外国、国内各地域の人口構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関し、諸外国、国内各地域の人口構造を理解し、課題を発見することができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料（各地域の人口ピラミッド等）を収集する。	120分
	事後学修	前回と今回の授業で扱ったテーマについて復習し、次回グループワークの題材を考える。	120分
4	政策の効果、課題（グループワーク）	2回目、3回目の授業で発見した課題を題材としたグループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回の授業を復習し、過去の政策などグループワークに必要な資料を用意する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	政策の効果、課題（プレゼンテーション）	グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
6	政策の効果と課題（討議）	プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	政策（労働分野）の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
8	政策（労働分野）の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	政策（労働分野）の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策（労働分野）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、労働政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
10	政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策（出生数回復、外国人受入れ、UIJターン等、以下同じ。）の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、労働政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。		
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
12	政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。		
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめ、テーマに関連する参考資料を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	政策の効果と課題（グループワーク）		グループディスカッションとその内容のとりまとめを通じ、政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、他者と協働し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
14	政策の効果と課題（プレゼンテーション）		グループディスカッションの内容のプレゼンテーションを通じ、政策の効果、課題等について学修する
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、政策の効果、課題等について、説得力のある説明をすることができる。	
	事前学修	テーマに関連する参考資料を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	政策の効果と課題（討議）		プレゼンテーションを題材とした討議を通じ、政策の効果、課題等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、批判的視点も交えながら積極的に議論を展開し、政策の効果、課題等について、理解を深めることができる。	
	事前学修	前回授業の他グループのプレゼンテーションに対する自分の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

科目名	専門演習B	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。P Cを使用することがあるので、準備をしておくこと。また、必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方創生ビジネスの教科書	増田寛也	文藝春秋	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休みです。事前にメールでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基礎知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	グループワークの手法	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループワークやプレゼンテーションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱ったグループワーク及びプレゼンテーションの手法に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	事例研究1：山形県鶴岡市（基礎編）	地方創生の事例として、大学ベンチャーの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	事例研究2：宮城県山元町	地方創生の事例として、ITベンチャーの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	事例研究3：福井県鯖江市	地方創生の事例として、オープンデータの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
6	事例研究4：栃木県宇都宮市	地方創生の事例として、活用困難資源の観光資源化マーケティングの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	事例研究 5：熊本県山江村		地方創生の事例として、マーケティングの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分	
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分	
8	事例研究 6：和歌山県北山村		地方創生の事例として、「小ささ」をいかした取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分	
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分	
9	事例研究 7：岡山県西栗倉村		地方創生の事例として、村の総合商社の取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分	
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分	
10	事例研究 8：北海道ニセコ町		地方創生の事例として、観光協会の株式会社化の取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分	
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分	
11	事例研究 9：愛媛県今治市		地方創生の事例として、有名デザイナーを活用した取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分	
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分	
12	事例研究 10：島根県海士町		地方創生の事例として、持続可能な離島づくりの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分	
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	事例研究 1 3：徳島県上勝町		地方創生の事例として、高齢者を活用したビジネスの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
14	事例研究 1 4：地方創生		地方創生のとちまとめとして、これまでの事例研究から、地方自治の新しいビジネスが成功する要素について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
15	総括		これまでの授業で扱った公共政策の現状と課題を整理し、今後の地方自治の展望について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方創生の現状と課題をグループで検討し、公共政策と関連づけながらプレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分

科目名	専門演習B	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。P Cを使用することがあるので、準備をしておくこと。また、必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。							3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。					2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。							3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。									3	3	3	2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方創生ビジネスの教科書	増田寛也	文藝春秋	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休みです。事前にメールでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基礎知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	グループワークの手法	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループワークやプレゼンテーションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱ったグループワーク及びプレゼンテーションの手法に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	事例研究1：山形県鶴岡市（基礎編）	地方創生の事例として、大学ベンチャーの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	事例研究2：宮城県山元町	地方創生の事例として、ITベンチャーの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	事例研究3：福井県鯖江市	地方創生の事例として、オープンデータの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
6	事例研究4：栃木県宇都宮市	地方創生の事例として、活用困難資源の観光資源化マーケティングの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事例研究5：熊本県山江村	地方創生の事例として、マーケティングの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
8	事例研究6：和歌山県北山村	地方創生の事例として、「小ささ」をいかした取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
9	事例研究7：岡山県西栗倉村	地方創生の事例として、村の総合商社の取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
10	事例研究8：北海道ニセコ町	地方創生の事例として、観光協会の株式会社化の取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
11	事例研究9：愛媛県今治市	地方創生の事例として、有名デザイナーを活用した取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
12	事例研究10：島根県海士町	地方創生の事例として、持続可能な離島づくりの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	事例研究 1 3：徳島県上勝町		地方創生の事例として、高齢者を活用したビジネスの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
14	事例研究 1 4：地方創生		地方創生のとちまとめとして、これまでの事例研究から、地方自治の新しいビジネスが成功する要素について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
15	総括		これまでの授業で扱った公共政策の現状と課題を整理し、今後の地方自治の展望について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方創生の現状と課題をグループで検討し、公共政策と関連づけながらプレゼンテーションで説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分

科目名	専門演習B	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2021	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

科目名	専門演習B	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						3	3				2
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				2		2	3				3
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						3		2	3	3	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								3	3	3	2
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2021	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

科目名	専門演習C	担当者	中山 明広	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
授業名：『企業活動と福祉』：この授業では、講義による知識・情報の提供とそれを活用してのプレゼンテーションを行う。そのプロセスを通じて、企業活動や市場といったこれまで福祉とは相容れないと思われてきた領域について、新たな視点と現在の社会政策の観点から考えていくことを目的とする。また、公共政策が与える影響または受ける影響や、公共政策との関わりについての思索を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的：個々の学生が興味関心をもつ領域の企業による社会福祉実践と公共政策について、その現状とそこにみられる関係性や課題、重要な理念を理解し、具体的な問題解決案の提示を通じて、それらの情報を活用できるようになること。企業とのかかわりにおける公共政策のあり方について各自の見解をもち、それを表現できるようになること。

【履修条件】
なし

【授業方法】
事前に示した題材に沿ってグループディスカッション、プレゼンテーション、全体討議を行い、担当教員から総括の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業による福祉実践の制度的および社会的構造について理解し、図示できるようになる。						2		3	2	2	1	1	2
②	個別のテーマについて、企業による福祉実践を通じた課題解決の方法について具体的に提示する。						2		2	3	3	3	3	3
③	公共政策の新たな資源としての企業活動の活用における課題を言語化する。						2		3	1	2	2	1	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	20	20									40
討論・発表等	グループディスカッション、プレゼンテーションを通じ、到達目標③④に関し、協働した取組ができているか、わかりやすく説明できているかを評価する。	10	10	20	20							60
授業への参画度	グループディスカッションとプレゼンテーションを行うため、授業への参加が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループディスカッションの内容をプレゼンテーションする際に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	白書等の読み方等、授業の概要、目的についてについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、授業の概要、目的等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
2	雇用政策研究会報告書	雇用政策研究会報告書（平成31年）についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、雇用政策研究会報告書（平成31年）の内容について理解し、グループディスカッションの場で説明し、フローチャート等を活用してまとめることができる。	
	事前学修	参考資料を読み、グループディスカッションに必要な情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
3	雇用政策研究会報告書	雇用政策研究会報告書についてプレゼンテーション、全体討議を通じ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標に①②④関し、グループディスカッションの内容をわかりやすく、図表も活用してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて担当教員の講評も参考に復習し、理解を深める。	120分
4	男女共同参画白書	男女共同参画白書についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、男女共同参画白書の内容について理解し、グループディスカッションの場で説明し、フローチャート等を活用してまとめることができる。	
	事前学修	参考資料を読み、グループディスカッションに必要な関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
5	男女共同参画白書	男女共同参画白書についてプレゼンテーション、全体討議を通じ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標に①②④関し、グループディスカッションの内容をわかりやすく、図表も活用してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて担当教員の講評も参考に復習し、理解を深める。	120分
6	少子化対策白書	少子化対策白書についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、少子化対策白書の内容について理解し、グループディスカッションの場で説明し、フローチャート等を活用してまとめることができる。	
	事前学修	参考資料を読み、グループディスカッションに必要な関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	少子化対策白書		少子化対策白書についてプレゼンテーション、全体討議を通じ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標に①②④関し、グループディスカッションの内容をわかりやすく、図表も活用してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて担当教員の講評も参考に復習し、理解を深める。		120分
8	過労死等防止対策白書		過労死等防止対策白書についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、過労死等防止対策白書の内容について理解し、グループディスカッションの場で説明し、フローチャート等を活用してまとめることができる。		
	事前学修	参考資料を読み、グループディスカッションに必要な関連分野の情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
9	過労死等防止対策白書		過労死等防止対策白書についてプレゼンテーション、全体討議を通じ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標に①②④関し、グループディスカッションの内容をわかりやすく、図表も活用してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて担当教員の講評も参考に復習し、理解を深める。		120分
10	自殺対策白書		自殺対策白書についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、自殺対策白書の内容について理解し、グループディスカッションの場で説明し、フローチャート等を活用してまとめることができる。		
	事前学修	参考資料を読み、グループディスカッションに必要な関連分野の情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分
11	自殺対策白書		自殺対策白書についてプレゼンテーション、全体討議を通じ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標に①②④関し、グループディスカッションの内容をわかりやすく、図表も活用してわかりやすく説明することができる。		
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて担当教員の講評も参考に復習し、理解を深める。		120分
12	コロナ禍のもたらした影響		コロナ禍のもたらした影響についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、コロナ禍のもたらした影響について理解し、グループディスカッションの場で説明し、フローチャート等を活用してまとめることができる。		
	事前学修	参考資料（目下のところは「雇用政策研究会報告書（令和2年）」）を読み、グループディスカッションに必要な関連分野の情報を収集する。		120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コロナ禍のもたらした影響	コロナ禍のもたらした影響についてプレゼンテーション、全体討議を通じ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標に①②④関し、グループディスカッションの内容をわかりやすく、図表も活用してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて担当教員の講評も参考に復習し、理解を深める。	120分
14	令和4年度政府予算原案	令和4年度政府予算原案についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、令和4年度政府予算原案の内容について理解し、グループディスカッションの場で説明し、フローチャート等を活用してまとめることができる。	
	事前学修	参考資料を読み（政府原案発表が間に合えば）、グループディスカッションに必要な関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて復習し、理解を深める。	120分
15	令和4年度政府予算原案	令和4年度政府予算原案についてプレゼンテーション、全体討議を通じ学修する。	
	この回の到達目標	到達目標に①②④関し、グループディスカッションの内容をわかりやすく、図表も活用してわかりやすく説明することができる。	
	事前学修	参考資料を読み、関連分野の情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で扱ったテーマについて担当教員の講評も参考に復習し、理解を深める。	120分

科目名	専門演習C	担当者	林 紀行	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
授業名：『企業活動と福祉』：この授業では、講義による知識・情報の提供とそれを活用してのプレゼンテーションを行う。そのプロセスを通じて、企業活動や市場といったこれまで福祉とは相容れないと思われてきた領域について、新たな視点と現在の社会政策の観点から考えていくことを目的とする。また、公共政策が与える影響または受ける影響や、公共政策との関わりについての思索を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
授業目的：個々の学生が興味関心をもつ領域の企業による社会福祉実践と公共政策について、その現状とそこにみられる関係性や課題、重要な理念を理解し、具体的な問題解決案の提示を通じて、それらの情報を活用できるようになること。企業とのかかわりにおける公共政策のあり方について各自の見解をもち、それを表現できるようになること。

【履修条件】
授業の内容は、公共政策学科の学生を念頭において行うが、真剣に取り組む他学科の学生の受講も歓迎する。

【授業方法】
基礎知識の講義、グループワークやプレゼンテーションを実施する。P Cを使用することがあるので、準備をしておくこと。また、必ず毎回授業に出席すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人発表、グループワーク、ICTを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業による福祉実践の制度的および社会的構造について理解し、図示できるようになる。						2		3	2	2	1	1	2
②	個別のテーマについて、企業による福祉実践を通じた課題解決の方法について具体的に提示する。						2		2	3	3	3	3	3
③	公共政策の新たな資源としての企業活動の活用における課題を言語化する。						2		3	1	2	2	1	3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	グループワーク、ディスカッションを行うため、授業への積極的な参加が必要である。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
グループワークの発表、ディスカッション、レポートについては、その都度、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本の地方議会	辻陽	中央公論新社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の昼休みです。事前にメールでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員の経験を参考に行政の実態を解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的、スケジュール等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認すること。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の基礎知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること	120分
2	地方創生	地方創生の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループワークやプレゼンテーションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った地方創生に関する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
3	事例研究1：山形県鶴岡市（基礎編）	地方創生の事例として、大学ベンチャーの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
4	事例研究2：宮城県山元町	地方創生の事例として、ITベンチャーの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
5	事例研究3：福井県鯖江市	地方創生の事例として、オープンデータの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
6	事例研究4：栃木県宇都宮市	地方創生の事例として、活用困難資源の観光資源化マーケティングの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	事例研究 5：熊本県山江村		地方創生の事例として、マーケティングの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
8	事例研究 6：和歌山県北山村		地方創生の事例として、「小ささ」をいかした取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
9	事例研究 7：岡山県西栗倉村		地方創生の事例として、村の総合商社の取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
10	事例研究 8：北海道ニセコ町		地方創生の事例として、観光協会の株式会社化の取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
11	事例研究 9：愛媛県今治市		地方創生の事例として、有名デザイナーを活用した取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分
12	事例研究 10：島根県海士町		地方創生の事例として、持続可能な離島づくりの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。		120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	事例研究 1 3：徳島県上勝町		地方創生の事例として、高齢者を活用したビジネスの取り組みの概要をとりまとめ、発表することで、地方自治の新しいビジネスについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
14	事例研究 1 4：地方創生		地方創生のとちまとめとして、これまでの事例研究から、地方自治の新しいビジネスが成功する要素について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策における現状と課題について、グループディスカッションで分析を進めながら、プレゼンテーションでとりまとめ、説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分
15	総括		これまでの授業で扱った公共政策の現状と課題を整理し、今後の地方自治の展望について学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、地方創生の現状と課題をグループで検討し、公共政策と関連づけながらプレゼンテーションで説明することができる。	
	事前学修	指定された文献の該当部分の学習を行うことに加えて、公共政策関連のテキストの該当部分の学習を行い、自分の考え方と疑問点を整理しておくこと。	120分
	事後学修	授業で扱った公共政策の原理及び関連する知識を整理し、自分の考えを再検討し、整理すること。	120分

科目名	専門演習C	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、公共政策の基本的な構造を理解し、現代社会における諸問題に対する役割や機能について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の諸問題とそれに対する公共政策を題材として、公共政策についての基本的知識を政策提案などに活用することができるようになる。

【履修条件】
【重要】第3回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。

【授業方法】
受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には講義とグループワークを中心に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提示された課題について、自ら（グループもしくは個人）でテーマ及び研究対象の選定を行い、最終的な課題提出に向けた活動を行う。そのため、各自が情報収集と整理、授業内で示される	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現代社会の問題や課題を的確に把握するための情報を収集することができるようになる。						2		3	2	2	1	1	2
②	現代社会の問題を解決するために採られている政策について、その役割と意義を自分の言葉で表現できるようになる。						2		2	3	3	3	3	3
③	他者との協調を通じて、一つの課題に取り組むことができるようになる。						2		3	1	2	2	1	3
④	社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。													
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業の最終段階で求められるプレゼンテーションの、内容 (課題への妥当性、具体性、実現可能性)および技術(プ レゼンテーションスキル、PPT作成スキル)。	10	30	20								60
授業への参画度	グループ作業への参加度および授業内で示される段階に 沿った課題達成プロセスとの一致度。		20	10								30
その他(グループ内 評価)	同じグループ内でのポジティブフィードバックを収集。		10									10
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	60	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回に発表の結果についての公表と、希望者にはその詳細を個別に提示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
火曜3限（それ以外は要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション・イントロダクション 導入講義	・授業の進め方、課題、目的などについて説明する。	
	この回の到達目標	この授業の目的と意図について理解し、受講の判断をする。	
	事前学修	シラバスを熟読し、企業と福祉の関わりについて自分なりのイメージをまとめておく。	60分
	事後学修	授業中の説明にしたがって、自分がどのようなテーマに取り組むかを考えておく。	180分
2	社会政策における企業の役割	・社会政策における企業の役割について講義を行う。 ・発表のグループおよび日程を決める（受講人数によっては個人発表とする）	
	この回の到達目標	社会政策において企業とその活動があたえる影響を理解し、プロバイダーとしての企業の具体的な活動を挙げることができるようになる。	
	事前学修	自分が取り組みたいと考えているテーマについて、基本的な情報を集めておく。	120分
	事後学修	自分が取り組みたいと考えているテーマについて、グループメンバーにどのように説明するかを考えておく。（2時間）	120分
3	社会問題と企業活動の関わり	・社会問題と企業活動の関わりについて講義を行う。 ・グループディスカッション（発表テーマの決定）	
	この回の到達目標	グループの発表テーマを決める。企業活動における倫理的動機について理解し、企業責任との関係を説明できるようになる。	
	事前学修	発表のテーマについてのグループでの議論のための準備をする。	180分
	事後学修	グループの発表テーマに対する自分の動機付け（なぜ・どのような目的で取り組むのかの明確化）を行っておく。	60分
4	企業のCSRと慈善活動	・企業のCSRと慈善活動についての講義を行う。 ・グループディスカッション（発表のテーマから最終的な課題、仮説を設定する）	
	この回の到達目標	自分のグループで決定したテーマについて、慈善活動とCSRのそれぞれの違いと具体的な活動を示す。	
	事前学修	グループの発表テーマについて情報を集めておく。	120分
	事後学修	グループの発表テーマに沿って、慈善活動とCSRのそれぞれの活動について調べ、自分の発表内容を精査する。	120分
5	社会政策領域における企業の参入	・社会政策領域における企業の参入について講義を行う。 ・グループディスカッション（次回の中間発表の準備）	
	この回の到達目標	なぜ社会政策のファクターに営利企業が取り込まれたのかを理解し、その利点と課題について説明できるようになる。	
	事前学修	前回の考察を踏まえて、発表に必要な情報を集め、グループ作業の準備をする。	120分
	事後学修	グループの発表テーマの分野について、営利企業参入の問題点を調べ、自分の発表内容を精査する。	120分
6	中間発表	各グループの発表の内容と現在の状況について発表を行い、それに対する講評を行う。	
	この回の到達目標	自分たちの発表テーマとこの時点での進捗状況を客観的に把握し、発表までの具体的な行動計画を立てる。	
	事前学修	中間発表の準備を整えておく。	120分
	事後学修	中間発表への講評を踏まえてグループの発表を改善点と、今後の発表準備の計画を立てる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	発表に必要な枠組み・要素	仮説検証型の研究について、発表との関係と発表に必要な枠組み・要素について講義を行う。 グループディスカッション（発表までの計画の共有）	
	この回の到達目標	プレゼンテーションを行う上での重要な要素と技術について知り、自分たちの発表に反映させる。 各自の発表までの計画をまとめ、グループとしての統一された計画を共有する。	
	事前学修	中間発表での講評とその改善点を踏まえてグループの発表に必要な情報を集める。	180分
	事後学修	発表までのグループの計画に従って、自分の発表に向かう計画を立てる。	60分
8	市場型福祉とは	・市場型福祉についての講義を行う。 ・グループディスカッション（発表内容の精緻化）	
	この回の到達目標	福祉における市場的要素と、市場型福祉の違いを説明できるようになる。	
	事前学修	グループ発表に向けて必要な情報を集める。	120分
	事後学修	授業での学びに引き付けて、グループの発表の問題点や修正点を明らかにし、考察しなおす。	120分
9	事例検討①	・企業が行う福祉活動についての事例の提示と検討を行う。 ・グループディスカッション（事例を受けてグループの発表内容を再考する）	
	この回の到達目標	挙げられた事例をもとに、自分たちが進める発表内容の課題点を指摘する。	
	事前学修	グループ発表に向けて必要な情報を集める。	120分
	事後学修	授業で指摘した課題点について、必要な修正を行う。	120分
10	事例検討②	・企業が行う福祉活動についての事例の提示と検討（講義） ・グループディスカッション（事例を受けてグループの発表内容を再考する）	
	この回の到達目標	挙げられた事例をもとに、自分たちが進める発表内容の課題点を指摘する。	
	事前学修	グループ発表に向けて必要な情報を集める。	120分
	事後学修	授業で指摘した課題点について、必要な修正を行う。	120分
11	政策による誘導と規制	・社会政策における政策による企業の誘導と規制について講義を行う。 ・グループディスカッション（発表に向けた最終準備）	
	この回の到達目標	社会政策における企業の誘導の方法を具体的に挙げるができるようになる。	
	事前学修	グループの発表を完成させるために必要なものをすべて揃えて授業に臨む。	120分
	事後学修	自分のグループ発表に向けた準備と練習。	120分
12	成果発表①	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	成果発表②	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
14	成果発表③	・事前に決定したスケジュールに従い、2～3グループの発表を行う。	
	この回の到達目標	発表全体を通じて、自らのグループの発表の優れている点と今後の課題について示すことができるようになる。	
	事前学修	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。	60分
	事後学修	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。	180分
15	まとめと振り返り	・全発表を通じた総評と、結果の公表を行う。 ・希望者および希望グループには、個別の評価内容について伝達する。	
	この回の到達目標	自らのグループの発表とその評価について、疑問点があれば質問をし、今後に向けた課題を提示できるようになる。	
	事前学修	これまでの授業内を振り返り、自分のグループの発表の評価を行う。	180分
	事後学修	授業で得た学びや成果を今後の生活においてどのように活用するかを考察し、目標を立てる。	60分

科目名	専門演習D	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
国語辞典（電子辞書も可）を持参すること。授業内で各自の文章の相互批評も行う。目的意識（社会人として相応しい文書作成能力、各種試験等での文章作成能力の上達）を持つ学生の履修を望む。

【授業方法】
課題演習とその解説を繰り返しながら授業を進める。継続して参加することが重要なので、欠席は厳禁。完成課題の相互批評も行うので、積極的な発言も要求する。提出課題は次の時間に添削して返却し、その講評も口頭で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各自の作成した課題を講評する際に、全員によるディスカッションを行う。ほぼ隔週で実施する。積極的な参加を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4								
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。						4						
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。							4					
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。								4				
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。									4			
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。										4		
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。												4
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内課題を小テストとして評価する。その際に②③④⑥の到達目標に留意した課題作成がなされているかを評価する。		10	10	10	10						40
レポート等	課題に対する更なる検討を家庭学習として要求する。その際に②③④⑥⑦の到達目標に留意したレポート作成がなされているかを評価する。		5	5	10	10		10				40
討論・発表等	全員によるディスカッションの際に、①⑥に関して評価する。	10					10					20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	15	15	20	20	10	10				100

【課題に対するフィードバックの方法】
次回の授業で解説する。また、15回目の授業でも全体の振り返りと総括を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。プリント資料を用いる。				

【オフィスアワー】
メール「onoq@hotmail.co.jp」で受け付ける。口頭での質問は、授業の後、または水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館 8 階の小野研究室前のロビーで対応する。なお必ず、メールでアポをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】専門演習Dが目的とすること	〔1〕授業概要の説明（授業計画・成績評価の方法などを詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること）。〔2〕小論文作成上の形式的留意点について。	
	この回の到達目標	専門演習Dの授業がが目的とすることを理解し、到達目標①～⑦が講義とどのように連関するかを説明できるようになる。	
	事前学修	〔1〕シラバスを精読して授業の概要をつかんでおく。〔2〕国語便覧（高校の時に使用したもの）やネットで原稿用紙の使い方に関して再確認しておく。	120分
	事後学修	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、文章作成上の留意点を確認しておく。	120分
2	作文型小論文への対応1「自己を客観的に捉える」	「自己を客観的に捉える」に関する文章作成（比較的短い文字数での論作文演習1）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけた自己を作文として表現できることを目標とする。	
	事前学修	前回の授業内容と事後学習を踏まえて、小論文作成の形式上の留意点を再確認しておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「自己を客観的に捉える」に関する文章作成の理解の徹底を図る。	120分
3	作文型小論文への対応2「自己を客観的に捉える」作文のバージョンアップ	第2回の「自己を客観的に捉える」に関する課題の添削返却と講評・概説・注意点の説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、よりよい文章表現能力を身に付けるとともに、ディスカッションによって各自の意見を参照しながらより良いものへと文章を練り上げていくことができるようになることを目的とする。	
	事前学修	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。	120分
	事後学修	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「自己を客観的に捉える」小論文が作成できるようになることに努める。	120分
4	論作文型小論文への対応1「自己と社会との関係」	「自己と社会との関係」に関する文章作成（比較的短い文字数での論作文演習2）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけた自己を作文として表現できることを目標とする。	
	事前学修	各自のこれまでの歩みを振り返りシートとして事前に作成しておき、小論文の課題として出されたときに戸惑わないようにしておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「自己と社会との関係」に関する文章作成の理解の徹底を図る。	120分
5	論作文型小論文への対応2「自己と社会との関係」論作文のバージョンアップ	第4回の「自己と社会との関係」に関する課題の添削返却と講評・概説・注意点の説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、よりよい文章表現能力を身に付けるとともに、ディスカッションによって各自の意見を参照しながらより良いものへと文章を練り上げていくことができるようになることを目的とする。	
	事前学修	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。	120分
	事後学修	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「自己と社会との関係」に関する小論文が作成できるようになることに努める。	120分
6	論作文型小論文への対応3「政策課題型小論文」	「政策課題型小論文」の作成（やや長い文字数での論作文演習1）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけた自己を作文として表現できることを目標とする。	
	事前学修	第2回から第5回までの授業を振り返り、比較的短い文字数での論作文作成のポイントをまとめておく。	120分
	事後学修	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「政策課題型小論文」の作成の理解の徹底を図る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	論文型小論文への対応4「政策課題型小論文」のバージョンアップ		第6回の「政策課題型小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、よりよい文章表現能力を身に付けるとともに、ディスカッションによって各自の意見を参照しながらより良いものへと文章を練り上げていくことができるようになることを目的とする。		
	事前学修	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。		120分
	事後学修	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「政策課題型小論文」が作成できるようになることに努める。		120分
8	論文型小論文への対応1「政策提言型小論文」		「政策提言型小論文」の作成（やや長い文字数での論文演習2）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、資料を厳密に解説し、思考力・洞察力・問題の解決力を基とした小論文作成ができるようになることを目標とする。		
	事前学修	第6回の添削に書かれた注意事項に留意し、今回の文章作成に活かすようにする。		120分
	事後学修	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「政策提言型小論文」の作成の理解の徹底を図る。		120分
9	論文型小論文への対応2「政策提言型小論文」のバージョンアップ		第8回の「政策提言型小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、よりよい文章表現能力を身に付けるとともに、ディスカッションによって各自の意見を参照しながらより良いものへと文章を練り上げていくことができるようになることを目的とする。		
	事前学修	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。		120分
	事後学修	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「政策提言型小論文」が作成できるようになることに努める。		120分
10	論文型小論文への対応3「公務員像に関する小論文」		「公務員像に関する小論文」の作成（やや長い文字数での論文演習3）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、資料を厳密に解説し、思考力・洞察力・問題の解決力を基とした小論文作成ができるようになることを目標とする。		
	事前学修	第8回の添削に書かれた注意事項に留意し、今回の文章作成に活かすようにする。		120分
	事後学修	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「公務員像に関する小論文」の作成の理解の徹底を図る。		120分
11	論文型小論文への対応4「公務員像に関する小論文」のバージョンアップ		第10回の「公務員像に関する小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、よりよい文章表現能力を身に付けるとともに、ディスカッションによって各自の意見を参照しながらより良いものへと文章を練り上げていくことができるようになることを目的とする。		
	事前学修	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。		120分
	事後学修	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「公務員像に関する小論文」が作成できるようになることに努める。		120分
12	論文型小論文への対応5「資料解説と立論型小論文」		「資料解説と立論型小論文」の作成（複雑な条件を伴う論文演習1）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、資料を厳密に解説し、思考力・洞察力・問題の解決力を基とした小論文作成ができるようになることを目標とする。		
	事前学修	第10回の添削に書かれた注意事項に留意し、今回の文章作成に活かすようにする。		120分
	事後学修	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「資料解説と立論型小論文」の作成の理解の徹底を図る。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	論文型小論文への対応6〔資料解説と立論型小論文〕のバージョンアップ	第12回の「資料解説と立論型小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦に関連して、よりよい文章表現能力を身に付けるとともに、ディスカッションによって各自の意見を参照しながらより良いものへと文章を練り上げていくことができるようになることを目的とする。	
	事前学修	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。	120分
	事後学修	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「資料解説と立論型小論文」が作成できるようになることに努める。	120分
14	論文型小論文への対応7〔資料要約と立論型小論文〕	「資料要約と立論型小論文」の作成（複雑な条件を伴う論作文演習2）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤に関連して、資料を厳密に解説し、思考力・洞察力・問題の解決力を基とした小論文作成ができるようになることを目標とする。	
	事前学修	第12回の添削に書かれた注意事項に留意し、今回の文章作成に活かすようにする。（2時間）	120分
	事後学修	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「資料要約と立論型小論文」の作成の理解の徹底を図る。（2時間）	120分
15	論文型小論文への対応8〔資料要約と立論型小論文〕のバージョンアップ	第14回の「資料要約と立論型小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。授業全体の振り返りもおこなう。	
	この回の到達目標	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「資料解説と立論型小論文」が作成できるようになることに努める。	
	事前学修	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。	120分
	事後学修	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「資料要約と立論型小論文」が作成できるようになることに努める。	120分

科目名	専門演習D	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。コンピュータ・リテラシーを履修済みであることが望ましいが、受講生のスキルに応じてMicrosoft Execlによるデータ分析やグラフ化、Word等へのでータ転用など基礎から学習する時間を設ける。

【授業方法】
PC教室での講義やグループワーク、個々の調査研究成果をもとにプレゼンテーションやレポート作成を行う。 あるいはWebでオンデマンド型の講義と実習を行う。 なお出欠確認は、毎回の課題の提出状況を基本とし、並行して出欠管理システム（レスポ）を利用して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第8回、第9回の間発表後に受講生を隣接領域ごとにグループ分けして相互に検討・評価する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。						4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。							4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。								4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。									4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。										4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。											4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	30	20							70
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5			5	5					20
授業への参画度	グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。				5			5				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	25	5	5	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
PC教室での講義やグループワーク、個々の調査・研究成果を次回の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。 また期末レポート含めた総合的なフィードバックもポータルサイトより行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。講義時に適宜資料を配付する。				

【オフィスパワー】
原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	企業や官公庁等の組織のトレンド分析		・授業ガイダンス ・法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について
	この回の到達目標	企業や官公庁等について経営資源を基軸としたトレンド分析の重要性について理解を深める。 COLNetの各種ツールへの理解を再確認する。	
	事前学修	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・インターネット上に公開された企業や官公庁の経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に関する情報や業界・企業研究サイト等を閲覧・検討しておくこと。 (2時間)	120分
2	組織（企業・官公庁）とは何か？		・組織（企業・官公庁）とは・・・（目的・戦略・経営行動・情報開示） ・利害関係者と情報要求、Accountability、CSR
	この回の到達目標	組織（企業・官公庁）等の社会的組織について、ヒト・モノ・カネ・情報・ブランドやナレッジ等の経営資源を基軸とした分析方法と利害関係者集団とのアカウンタビリティの重要性を理解する。	
	事前学修	・資料（企業とは何か）を熟読し、A4一枚にまとめ、指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
	事後学修	・企業や官公庁等の各組織の利害関係者を挙げて情報ニーズを考察しWordにまとめる。 ・資料（Excel入門1）を熟読しておく。 (2時間)	120分
3	各種組織情報の収集		・HP上の企業（官公庁）情報の収集1（財務情報の収集・評価）
	この回の到達目標	財務情報を中心としたデータの収集と分析技法を習得する。	
	事前学修	・企業や官公庁のHP等に公開されている各種情報から財務情報を中心にデータをダウンロードしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
4	各種組織情報の分析		・HP上の企業（官公庁）情報の収集2（財務情報の収集・評価）
	この回の到達目標	財務情報以外のデータの収集と分析技法を習得する。	
	事前学修	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲を広げる。 (2時間)	120分
	事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
5	各種組織情報の評価		・HP上の企業（官公庁）情報の収集3（その他情報の収集・評価）
	この回の到達目標	各種組織について経営資源を基軸とした総合的なデータの分析・評価の技法を習得する。	
	事前学修	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲をさらに広げる。 (2時間)	120分
	事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
6	データ分析の技法再入門		・Microsoft Excelによるデータ分析1（合計・平均の計算、各種グラフ作成）
	この回の到達目標	データの分析ツールとしてMicrosoft Excelの表作成・各種計算。グラフ作成など基本的な技法を習得する。	
	事前学修	・資料（Excel入門2）を熟読しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・Excelデータの集計を指定課題で復習する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	データ分析の最新技法		・ Microsoft Excelによるデータ分析2（ピボットテーブルによるクロス集計と分析）	
	この回の到達目標	クロス集計への理解を深め、さらにデータの分析の最新ツールとしてMicrosoft Excelのピボットテーブル技法を習得する。		
	事前学修	・ Excelデータの集計結果をWordにまとめる。 (2時間)		120分
	事後学修	・ ExcelデータをMicrosoft Wordに転用する技法を課題で予習する。 (2時間)		120分
8	調査・研究成果の再検討		・ 企業「（官公庁）研究の成果の中間発表 1	
	この回の到達目標	各自が進める調査・研究について中間発表によって間主観的な修正を行う。		
	事前学修	・ 調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)		120分
	事後学修	・ 発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)		120分
9	調査・研究成果の再検討		・ 企業（官公庁）研究の成果の中間発表 2	
	この回の到達目標	各自が進める調査・研究について中間発表によって間主観的な修正を行う。		
	事前学修	・ 調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)		120分
	事後学修	・ 発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)		120分
10	時系列的データ分析の重要性		・ 企業（官公庁）情報の分析（時系列的財務分析と企業評価）	
	この回の到達目標	各種データについて時系列的分析の重要性を理解して各自のレポートで発展させる。		
	事前学修	・ 資料（利益の算出過程）を一読して損益計算書の構造を理解しておく。 (2時間)		120分
	事後学修	・ 各種財務データを時系列的にExcelにセイルしておく。 (2時間)		120分
11	各種組織の最新・最重要課題		・ 企業（官公庁）情報の分析（戦略的経営行動と企業評価）	
	この回の到達目標	企業や官公庁、個々の組織が直面する課題の多様性を理解する。		
	事前学修	・ 有価証券報告書の概要や各種白書の概要についてサンプルを一読しておく。 (2時間)		120分
	事後学修	・ Excelデータの集計を課題で復習し、指定フォルダへ提出する。 (2時間)		120分
12	プレゼンテーション技法の習得		・ PowerPointによるプレゼンテーション方法について実習	
	この回の到達目標	PowerPointと副次的なツールや資料を利用したプレゼンテーション技法を習得する。		
	事前学修	・ 資料（PowerPoint入門講座）を一読してプレゼン資料作成の基本を学習しておく。 (2時間)		120分
	事後学修	・ プレゼンテーション資料の作成と発表準備 (2時間)		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	調査・研究の成果発表	・企業（官公庁）研究の成果発表 1	
	この回の到達目標	各自が取り組んだ調査・研究テーマを発表し議論することで問題点を明らかにして質的な向上を図る。	
	事前学修	・プレゼンテーションの準備 (2時間)	120分
	事後学修	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)	120分
14	調査・研究の成果発表	・企業（官公庁）研究の成果発表 2	
	この回の到達目標	各自が取り組んだ調査・研究テーマを発表し議論することで問題点を明らかにして質的な向上を図る。	
	事前学修	・プレゼンテーションの準備 (2時間)	120分
	事後学修	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)	120分
15	組織研究の重要性のレポート作成の課題再確認	・プレゼンテーションの講評と経営トレンド分析の概要について講評	
	この回の到達目標	経営資源と利害関係者の情報ニーズを基軸とした組織研究の重要性とレポート作成技法を理解する。	
	事前学修	・プレゼンテーション評価集計表を各自集計しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・各自のプレゼンテーション資料をまとめて指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分

科目名	専門演習D	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
現代社会の構造について理解を深化したうえで、その課題を明らかにし、その解決に向けて思考方法や手法を体験する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
官公庁や企業の資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。コンピュータ・リテラシーを履修済みであることが望ましいが、受講生のスキルに応じてMicrosoft Execlによるデータ分析やグラフ化、Word等へのでータ転用など基礎から学習する時間を設ける。

【授業方法】
PC教室での講義やグループワーク、個々の調査研究成果をもとにプレゼンテーションやレポート作成を行う。 あるいはWebでオンデマンド型の講義と実習を行う。 なお出欠確認は、毎回の課題の提出状況を基本とし、並行して出欠管理システム（レスポん）を利用して行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第8回、第9回の間中間発表後に受講生を隣接領域ごとにグループ分けして相互に検討・評価する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	公共政策プレイヤーに必須の規範意識を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。					4							
②	公共課題として認知し公共的な解決の規範的判断が必要とされるのか理解し説明できる。							4					
③	施策遂行のための資源配分はどうあるべきか公共政策規範の枠組みに基づいて説明できる。								4				
④	様々な政策課題に積極的に取り組み、具体的な方策を提案できる。									4			
⑤	意見が対立する者に対しても規範論を駆使して納得を得られるよう説得できる。										4		
⑥	社会にとって最も良い解決策を見出せるよう規範的な議論をリードできる。											4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が他者との議論を通じて自らを振り返ることができる。												4
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10	30	20							70
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	5	5			5	5					20
授業への参画度	グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。				5			5				10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	30	25	5	5	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
PC教室での講義やグループワーク、個々の調査・研究成果を次回の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。 また期末レポート含めた総合的なフィードバックもポータルサイトより行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。講義時に適宜資料を配付する。				

【オフィスアワー】
原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	企業や官公庁等の組織のトレンド分析	・授業ガイダンス ・法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について	
	この回の到達目標	企業や官公庁等について経営資源を基軸としたトレンド分析の重要性について理解を深める。 COLNetの各種ツールへの理解を再確認する。	
	事前学修	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・インターネット上に公開された企業や官公庁の経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に関する情報や業界・企業研究サイト等を閲覧・検討しておくこと。 (2時間)	120分
2	組織（企業・官公庁）とは何か？	・組織（企業・官公庁）とは・・・（目的・戦略・経営行動・情報開示） ・利害関係者と情報要求、Accountability、CSR	
	この回の到達目標	組織（企業・官公庁）等の社会的組織について、ヒト・モノ・カネ・情報・ブランドやナレッジ等の経営資源を基軸とした分析方法と利害関係者集団とのアカウンタビリティの重要性を理解する。	
	事前学修	・資料（企業とは何か）を熟読し、A4一枚にまとめ、指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分
	事後学修	・企業や官公庁等の各組織の利害関係者を挙げて情報ニーズを考察しWordにまとめる。 ・資料（Excel入門1）を熟読しておく。 (2時間)	120分
3	各種組織情報の収集	・HP上の企業（官公庁）情報の収集1（財務情報の収集・評価）	
	この回の到達目標	財務情報を中心としたデータの収集と分析技法を習得する。	
	事前学修	・企業や官公庁のHP等に公開されている各種情報から財務情報を中心にデータをダウンロードしておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
4	各種組織情報の分析	・HP上の企業（官公庁）情報の収集2（財務情報の収集・評価）	
	この回の到達目標	財務情報以外のデータの収集と分析技法を習得する。	
	事前学修	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲を広げる。 (2時間)	120分
	事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
5	各種組織情報の評価	・HP上の企業（官公庁）情報の収集3（その他情報の収集・評価）	
	この回の到達目標	各種組織について経営資源を基軸とした総合的なデータの分析・評価の技法を習得する。	
	事前学修	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲をさらに広げる。 (2時間)	120分
	事後学修	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)	120分
6	データ分析の技法再入門	・Microsoft Excelによるデータ分析1（合計・平均の計算、各種グラフ作成）	
	この回の到達目標	データの分析ツールとしてMicrosoft Excelの表作成・各種計算。グラフ作成など基本的な技法を習得する。	
	事前学修	・資料（Excel入門2）を熟読しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・Excelデータの集計を指定課題で復習する。 (2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	データ分析の最新技法		・ Microsoft Excelによるデータ分析2（ピボットテーブルによるクロス集計と分析）	
	この回の到達目標	クロス集計への理解を深め、さらにデータの分析の最新ツールとしてMicrosoft Excelのピボットテーブル技法を習得する。		
	事前学修	・ Excelデータの集計結果をWordにまとめる。 (2時間)		120分
	事後学修	・ ExcelデータをMicrosoft Wordに転用する技法を課題で予習する。 (2時間)		120分
8	調査・研究成果の再検討		・ 企業「（官公庁）研究の成果の中間発表 1	
	この回の到達目標	各自が進める調査・研究について中間発表によって間主観的な修正を行う。		
	事前学修	・ 調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)		120分
	事後学修	・ 発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)		120分
9	調査・研究成果の再検討		・ 企業（官公庁）研究の成果の中間発表 2	
	この回の到達目標	各自が進める調査・研究について中間発表によって間主観的な修正を行う。		
	事前学修	・ 調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)		120分
	事後学修	・ 発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)		120分
10	時系列的データ分析の重要性		・ 企業（官公庁）情報の分析（時系列的財務分析と企業評価）	
	この回の到達目標	各種データについて時系列的分析の重要性を理解して各自のレポートで発展させる。		
	事前学修	・ 資料（利益の算出過程）を一読して損益計算書の構造を理解しておく。 (2時間)		120分
	事後学修	・ 各種財務データを時系列的にExcelにセイルしておく。 (2時間)		120分
11	各種組織の最新・最重要課題		・ 企業（官公庁）情報の分析（戦略的経営行動と企業評価）	
	この回の到達目標	企業や官公庁、個々の組織が直面する課題の多様性を理解する。		
	事前学修	・ 有価証券報告書の概要や各種白書の概要についてサンプルを一読しておく。 (2時間)		120分
	事後学修	・ Excelデータの集計を課題で復習し、指定フォルダへ提出する。 (2時間)		120分
12	プレゼンテーション技法の習得		・ PowerPointによるプレゼンテーション方法について実習	
	この回の到達目標	PowerPointと副次的なツールや資料を利用したプレゼンテーション技法を習得する。		
	事前学修	・ 資料（PowerPoint入門講座）を一読してプレゼン資料作成の基本を学習しておく。 (2時間)		120分
	事後学修	・ プレゼンテーション資料の作成と発表準備 (2時間)		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	調査・研究の成果発表	・企業（官公庁）研究の成果発表 1	
	この回の到達目標	各自が取り組んだ調査・研究テーマを発表し議論することで問題点を明らかにして質的な向上を図る。	
	事前学修	・プレゼンテーションの準備 (2時間)	120分
	事後学修	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)	120分
14	調査・研究の成果発表	・企業（官公庁）研究の成果発表 2	
	この回の到達目標	各自が取り組んだ調査・研究テーマを発表し議論することで問題点を明らかにして質的な向上を図る。	
	事前学修	・プレゼンテーションの準備 (2時間)	120分
	事後学修	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)	120分
15	組織研究の重要性のレポート作成の課題再確認	・プレゼンテーションの講評と経営トレンド分析の概要について講評	
	この回の到達目標	経営資源と利害関係者の情報ニーズを基軸とした組織研究の重要性とレポート作成技法を理解する。	
	事前学修	・プレゼンテーション評価集計表を各自集計しておく。 (2時間)	120分
	事後学修	・各自のプレゼンテーション資料をまとめて指定フォルダへ提出する。 (2時間)	120分

科目名	専門演習E	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政策立案や実施段階での政府と国民との双方向性コミュニケーションや国民相互のコミュニケーションの促進が、政策の有効性を確保するために重要になってきていることを自らで調べ、グループワークによる作業を行うことで、日本におけるPublic Relations（広報・広聴）活動の実態の分析・整理・課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策の担い手としての基本的な素養を獲得するために、学修者は広報の実態を把握し、今後の在り方を専門的に検討できる能力を養成することを目的とする。そこで過去の様々な文献・理論の学習や、具体的事例に基づいた議論を通して、その考え方を身につけるとともに、メディア使用や方法論を学ぶことにより、これらを具体的ケースに即して適用できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式に加え、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る）出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行います。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	将来の政策担当者・NPO職員など公共政策における広報手法を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。				4							
②	各種の政策課題が何をもって公共課題として認知されるのか、また、何故、公共的な解決に当たって広報が必要とされるのか理解し説明できる。						4					
③	解決が求められる様々な課題の優先順位はどうつけるべきか、施策遂行のための資源配分はどうあるべきか広報の枠組みに基づいて説明できる。							4				
④	これまで利害対立等で解決が進まなかった政策課題に対する具体的な広報方策を提案できる。								4			
⑤	なぜ特定の課題解決に当たっては私権が制限されるのか、「良い」政策とは何かなど、意見が対立する者に対して広報を駆使して納得を得られるよう説得できる。									4		
⑥	公共政策課題解決のため、多くのステークホルダーと積極的に議論し、社会にとって最も良い解決策を見出せるよう広報方策をリードできる。										4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が独善的なものになっていないか、真に公益に寄与するものになっているか、広報を基礎としつつ他者との議論を通じ自らを振り返ることができる。											4
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について行政広報の基礎が自分の言葉で説明できているか等をレポートにより評価する。	5	5	10								20
小テスト等	グループワークにおいて議論をまとめることができたか、自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標④⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。				10	10	5					25
レポート等	到達目標⑤⑥⑦について、多くの者が参加する場において、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度が身についているか等を評価する。					10	5	5				20
討論・発表等	到達目標①②③④⑤に関して、各広報対象の立場、考え方が異なる中で、どのように最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できているか評価する。	5	5	5	10	10						35
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	15	20	30	10	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しないが、学修者各人にアドバイスを行う。				

【オフィスアワー】
水曜日、3時限目（13：30～14：30）尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください（他の学修者の相談などあり）。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	行政機関審議委員、行政機関外郭団体研究員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議委員、並びに研究員の経験を活かし、実際の政策や行政実務に基づいて学修者それぞれに行政広報の理論と実践を指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、広報のキーワード		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報のキーワードや研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①～⑦に関連して、授業全般の構成について把握するとともに、行政広報というものの全体的イメージを理解し、その概要や方法論を説明することができる。		
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で行政にはなぜ広報が必要か、それがないと行政運営はどうか考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
2	広報の概念		広報の概念について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、課題の解決のための政策決定に当たって、なぜ広報の概念が必要となるのか説明できる。		
	事前学修	自治体の広報紙・ホームページを見て、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
3	広報の理論		広報の理論について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、政策と広報の在り方を自分の言葉で説明することができる。		
	事前学修	民間企業の広報活動を調べておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
4	広報の対象		広報対象について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、広報の意義、その今日的広報対象の重要性について考察 し説明できる。		
	事前学修	行政の広報と民間の広報を比較検討しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
5	広報と社会構造		社会構造分析と広報について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、対象の細分化の必要性を理解し、説明することができる。		
	事前学修	市町村と都道府県の広報の違いを見ておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
6	広報メディアの種類		メディアの種類と双方向性、住民参加について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、住民参加考え方が政策等にどのように影響を 与えているか考察し、説明できる。		
	事前学修	一般的な行政学の教科書を読み、住民参加について理解しておくこと。		120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	住民参加と広報	住民参加手法と広報メディアの関連について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、住民参加と広報メディアの関係を、具体例に沿って考察し、説明できる。	
	事前学修	一般的な行政学の教科書を読み、住民参加手法について理解しておくこと。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
8	グループ・ワークとディスカッション①	調査対象メディア別にグループ分けを行い、ディスカッションを行いつつ調査計画をたてる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、メディア別のメリット、デメリットを説明することができる。	
	事前学修	自分が調査分析したい、広報メディアについて検討しておく。	120分
	事後学修	自分で書いた講義内容のノートと事前学習、講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、自分の関心領域を、さらに深く理解しておく。	120分
9	グループ・ワークとディスカッション②	研究対象メディアの調査・分析を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、広報メディアを分析し、自分の言葉で説明できる。	
	事前学修	メディア別の課題の整理を行い、発表の構成をそれぞれで考える。	120分
	事後学修	それぞれのグループでの分担を確認し、自分の担当分野を調査・分析する。	120分
10	グループ・ワークとディスカッション③	各グループごとに選定した広報メディアに関し、担当箇所のグループワーク及びディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。	
	事前学修	各自でメディア別の課題の整理を行い、自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	それぞれのグループでの分担を確認し、自分の担当分野を調査・分析する。	120分
11	グループ・ワークとディスカッション④	各グループごとに選定した広報メディアに関し、担当箇所のグループワーク及びディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。	
	事前学修	各自で自分の担当箇所の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分
12	発表①	それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）	
	この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
	事前学修	発表に向けての準備。	120分
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	発表②		それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）
	この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
	事前学修	発表に向けての準備。	
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。	
14	発表③		それぞれのグループの発表（各発表時間30分、質疑応答15分）
	この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
	事前学修	発表に向けての準備。	
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理し、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。	
15	まとめと課題発見		これまでの講義・討議などを通じて得られた広報に関する知見をベースに、学修者たちが各グループで選択したテーマの研究発表の反省点を共有し、参加者全員で広報の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。
	この回の到達目標	発表については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。	
	事前学修	書く発表テーマに基づいて自分の反省点を整理し、これまでの学修内容も振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。	
	事後学修	発表内容、及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見などを再整理し、自分なりの課題をみつ	
	け、克服に向けた計画をたてる。		

科目名	専門演習E	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
政策立案や実施段階での政府と国民との双方向性コミュニケーションや国民相互のコミュニケーションの促進が、政策の有効性を確保するために重要になってきていることを自らで調べ、グループワークによる作業を行うことで、日本におけるPublic Relations（広報・広聴）活動の実態の分析・整理・課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策の担い手としての基本的な素養を獲得するために、学修者は広報の実態を把握し、今後の在り方を専門的に検討できる能力を養成することを目的とする。そこで過去の様々な文献・理論の学習や、具体的事例に基づいた議論を通して、その考え方を身につけるとともに、メディア使用や方法論を学ぶことにより、これらを具体的ケースに即して適用できる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
①講義形式に加え、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション等を行う（それぞれの時間配分は受講者数に応じて変わり得る） ②上記①と並行して論文・レポート執筆の基本的技法・ルールを講義し、それに基づいて提出されたレポート等の批評・添削をグループ等で実施する（具体的な実施方法は受講人数に応じて調整する）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、個人研究発表、グループワーク、ディスカッション、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	将来の政策担当者・NPO職員など公共政策における広報手法を身に付け、実際の場面でこれに沿った行動ができる。					4							
②	各種の政策課題が何をもって公共課題として認知されるのか、また、何故、公共的な解決に当たって広報が必要とされるのか理解し説明できる。							4					
③	解決が求められる様々な課題の優先順位はどうつけるべきか、施策遂行のための資源配分はどうあるべきか広報の枠組みに基づいて説明できる。								4				
④	これまで利害対立等で解決が進まなかった政策課題に対する具体的な広報方策を提案できる。									4			
⑤	なぜ特定の課題解決に当たっては私権が制限されるのか、「良い」政策とは何かなど、意見が対立する者に対して広報を駆使して納得を得られるよう説得できる。										4		
⑥	公共政策課題解決のため、多くのステークホルダーと積極的に議論し、社会にとって最も良い解決策を見出せるよう広報方策をリードできる。											4	
⑦	自分の考え方・価値観・規範意識が独善的なものになっていないか、真に公益に寄与するものになっているか、広報を基礎としつつ他者との議論を通じ自らを振り返ることができる。												4
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について行政広報の基礎が自分の言葉で説明できているか等をレポートにより評価する。	5	5	10								20
小テスト等	グループワークにおいて議論をまとめることができたか、自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標④⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。				10	10	5					25
レポート等	到達目標⑤⑥⑦について、多くの者が参加する場において、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度が身についているか等を評価する。					10	5	5				20
討論・発表等	到達目標①②③④⑤に関して、各広報対象の立場、考え方が異なる中で、どのように最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できているか評価する。	5	5	5	10	10						35
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	15	20	30	10	5				100

【課題に対するフィードバックの方法】
受講者の発表・発言内容、ディスカッション、レポート等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
正義論	宇佐美 誠 他	法律文化社	2019	参考書	推奨
公共政策規範	佐野 亘	ミネルヴァ書房	2010	参考書	推奨
これからの正義の話をしよう	M. サンデル	早川書房	2011	参考書	推奨
公共哲学とはなんだろう	桂木 隆夫	勁草書房	2016	参考書	推奨
正義とは何かー現代政治哲学の6つの視点	神島 裕子	中公新書	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 12:10-13:00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び公共政策規範の概容		①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②公共政策規範とはなにかについて学習する。	
	この回の到達目標	授業全般の構成について把握するとともに、公共政策規範というものの全体的イメージを理解し、その概要及び哲学・倫理学とどのように違うのかを説明することができる。		
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②各自で公共政策にはなぜ規範が必要か、それがないと行政運営はどうなるか考えをまとめ、授業内で発言できるようにしておく。		180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		180分
2	正義論の系譜①（正義とは何か）		①様々な正義の考え方を具体的事例に即して学習する。 ②学術論文の基本的ルール・技法を学習する。”	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、公共課題の解決のための政策決定に当たって、なぜ正義の概念が必要となるのか説明できる。また、学術論文のルール・技法に基づいたレポート執筆を開始できるようになる。		
	事前学修	指定された文献等により様々な正義論の類型を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
3	正義論の系譜②（アリストテレス、カントから現代まで）		①なぜ公共政策規範の中心概念が「正義」とされてきたのか、過去の思想家たちの考えに基づいて学習する。②論文執筆に必須の先行研究の探し方・引用の方法などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、どのような場合にも通用する一般的「正義」があり得るのか。正義の考え方の違いによってどのように政策の在り方が変わるのかを自分の言葉で説明することができる。併せて適切な先行研究の探索方法・引用手法を駆使できる。		
	事前学修	指定された文献等により、特にカント、アリストテレスなどに言及した部分を読み込み、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
4	自由主義①（古典的自由主義）		”①公共政策規範における自由の意義について学習する。 ②論文執筆に必要なリサーチ・クエスチョンの立て方、仮説設定方法等を学習する。”	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、正義論において自由が強調されるようになった歴史的背景や、古典的自由主義の3原則である価値中立原則、他者危害原則及び自己責任原則の意義、その今日的意義について考察し説明できる。併せて、適切な問題意識のもとで首尾一貫した論文を執筆できる。		
	事前学修	指定された文献等によりジョン・ロックやミルの思想などについて、その概要を把握し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
5	自由主義②（リバタリアン等の思想）		”①徹底的な自由主義者であるリバタリアンの主張及びその功罪を学習する。 ②論文の素材集めに必要な実地調査・フィールドワークの技法を学習する。”	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、リバタリアンの思想が経済政策・社会施策などに及ぼした影響について考察できる。また、パタナリズム的な政府の介入を支持する立場とリバタリアンの主張とが米国政治等に深刻な亀裂を引き起こしている現状などについても理解し、説明することができる。併せて実際に行政の現場等での調査を開始できる。		
	事前学修	指定された文献等により、リバタリアンの思想傾向の概容、その特徴・問題点などを把握し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分
6	功利主義①（ベンサムの思想）		”①現代の公共政策において、いまだ衰えない影響力を持つ功利主義の基礎的な概念について学習する ②文献調査・実地調査等で収集したデータの処理方法等について学習する。”	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、古典的功利主義における効用最大化の考え方が現代の経済・福祉政策等にどのように影響を与えているか考察し、説明できる。また、収集したデータから意味のある結論を引き出すことができる。		
	事前学修	指定された文献等により、ベンサムの思想を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	功利主義②（現代的展開）		前回授業の内容を踏まえ、功利主義の発想が現代社会科学等に与えた影響等について具体的事例に即して学習する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、「最大多数の最大幸福」という原理は、少数者の権利利益の侵害につながらないか、これを防止するためにはどうすれば良いか、さまざまな思想家の言説を紹介しつつ、具体例に沿って考察し、説明できる。		
	事前学修	指定された文献等により「最大多数の最大幸福」という原理のメリット・デメリットを考察し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分	
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分	
8	ロールズの正義論①		功利主義に対抗してロールズ理論が登場してきた背景事情及び同理論のエッセンス について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、功利主義のメリットと限界を踏まえてし、ロールズの思想が登場する思想史の流れ及びその背景にある社会経済事情を理解し、説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等にロールズ思想のエッセンスを学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分	
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分	
9	ロールズの正義論②		前回講義で学んだ「原初状態」、「無知のヴェール」、「格差原理」等の概念は、現実の政策課題に応用が可能であるか、具体的な政策課題に即して学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、いわゆる「正義の二原理」を具体的事例に適用して分析し、自分の言葉で説明できる。		
	事前学修	ロールズ思想を具体的事例に適用する場面について各自考察し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分	
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	120分	
10	グループワーク及びディスカッション①（自由とは何か）		公共政策分野において個人の「真の自由」はあり得るかをメインテーマとして、各グループごとに具体的事例を選びグループワーク及びディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。		
	事前学修	各自で当該テーマに関する自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分	
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分	
11	グループワーク及びディスカッション②（平等とは何か）		公共政策分野における「平等」とは何を意味するか、すべての人々が「幸福」となる政策はあり得るかについてをメインテーマとして、各グループごとに具体的事例を選びグループワーク及びディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。		
	事前学修	各自で当該テーマに関する自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分	
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分	
12	グループワーク及びディスカッション③（機会均等論について）		生まれながらの不平等（家庭環境、豊かさ、能力、容姿、性格など）をどう考えるべきか。公共政策はこれをどこまでカバーすべきか、受講者が選んだ題材を基にグループワーク及びディスカッションを行う。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥⑦⑧に関し、グループワークにおいて議論をまとめる能力、意見が対立する中で自分の主張を展開できる能力、議論をリードする力、他人の意見を聞いて自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度などを身に付け、実践できる。		
	事前学修	各自で当該テーマに関する自分の考えをまとめ、グループ内・クラス内で積極的に発言できるようにしておく。	120分	
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	個人研究発表①（自由テーマ）		これまでの講義・討議などを通じて得られた公共政策規範に関する知見をベースに、学修者が各自選択したテーマの研究発表を行い、参加者全員で公共政策規範の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。		
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は100分を超える）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。		120分
14	個人研究発表②（自由テーマ）		これまでの講義・討議などを通じて得られた公共政策規範に関する知見をベースに、学修者が各自選択したテーマの研究発表を行い、参加者全員で公共政策規範の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。		
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は100分を超える）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	発表内容及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。		120分
15	個人研究発表③（自由テーマ）		これまでの講義・討議などを通じて得られた公共政策規範に関する知見をベースに、学修者が各自選択したテーマの研究発表を行い、参加者全員で公共政策規範の観点からどのような論点があり、どうすれば社会的合意を得て解決に至るのかできるのかを議論する。	
	この回の到達目標	発表者については到達目標①②③④⑤に関して、立場・考え方が異なる問題について、どうすれば最も納得性のある選択肢を選ぶことができるか具体例に即して説明できる。その他の参加者も含め到達目標⑤⑥⑦に関し、自分と異なる意見を理解しつつ、複雑な問題をどう解決に導くかの能力及び自分自身の考えに改善点があればそれを改め向上させる態度を身に付け、実践できる。		
	事前学修	発表担当者は、その準備を行う（当該準備時間は100分を超える）。それ以外の者は、あらかじめ告知された発表テーマに基づいて、これまでの学修内容を振り返り、積極的に質問・発言・討議等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	発表内容、及び他の発言者から出た質問・意見などを踏まえ、自分の意見を再整理する。		120分

科目名	専門演習F	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
グループディスカッションやプレゼンテーション等の手法を用いつつ、現代社会における諸問題を解決するための政策オプションを検討し、政策の持つ意味やその課題について学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会を深く観察しながら、現代の諸問題を把握し、その解決のための適切な方策について理解します。

【履修条件】
授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること

【授業方法】
政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション、プレゼンテーション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、現代社会の問題や課題を的確に把握し、説明できるようになる。						4	4				3
②	学生が、現代社会の問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。				4		3	4				4
③	学生が、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、政策課題について議論できるようになる。						4		3	4	4	
④	学生が、社会における諸問題やその解決のための政策について、他者の前で分かりやすくプレゼンテーションできるようになる。								4	4	4	3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、主に到達目標①②にかかわる政策分析の視点が身についているかを評価する。	10	10									20
討論・発表等	グループワークやプレゼンテーションを通じ、主に到達目標③④にかかわる政策分析上の態度が身についているかを評価する。	10	10	30	30							80
授業への参画度	毎回、グループディスカッションやプレゼンテーションを行うため、授業への積極的な参加が必要です。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、政策に対する理解及びコミュニケーション力の向上に努めます。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治（第3版）	加藤秀治郎、水戸克典	慈学社出版	2021	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：15～12：55（研究室） ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、目的等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業の狙いや内容、方法について理解することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること	120分
2	グループワークの方法論	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、グループディスカッション及びプレゼンテーションの方法や意義を理解できる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
3	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
4	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
5	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション	グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分
6	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション	現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。	
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと	120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
8	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		公共政策の現状と課題に関して、プレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
9	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
10	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
11	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
12	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション		現代日本における公共政策の概要を理解するとともに、その問題や課題についてグループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他者と協調し、またリーダーシップを発揮しながら、グループ内で積極的に議論を展開し、公共政策の問題や課題についての理解を深めることができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
14	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション		グループディスカッションを通じて明らかとなった現代日本における公共政策の意義及び問題・課題について、グループごとにプレゼンテーションを行いながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、根拠を明示しながら、公共政策の意義や課題について、履修者全員の前で説得力のある説明を行うことができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分
15	まとめ		これまでの授業で扱った諸政策の問題や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共政策及びその形成過程に関する主要な論点を修得することができる。		
	事前学修	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと		120分
	事後学修	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること		120分

科目名	ソーシャル・キャピタル論	担当者	小藪 明生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
この授業では近年注目を浴びている「ソーシャル・キャピタル（Social Capital・社会関係資本）」の概念とそれを用いた分析の実際について論じる。この議論は幅広い領域に応用されているが、さまざまな目標変数（経済発展、治安、健康など）の向上に効果を持つことから、それ自体の育成が「政策目標」とされる。さらにソーシャル・キャピタルがどのように形成されるのか、どのように目的変数の向上がなされるのかについてのメカニズムを体系的に説明する必要があるという点で「社会理論」ともなっている。本授業では、このような理論、実証、実践にまたがるソーシャル・キャピタル論を体系的に学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ソーシャル・キャピタル論について現時点までの議論の整理を行い、その概念と議論全体の特徴と、それを用いた分析の実際について学んで行く。ソーシャル・キャピタル論の特色は、相互に関連しあう社会科学の諸分野の人々が同じ土俵で議論に参加していること、新しい社会指標として政策担当者からも注目されていること、指標と目的変数との関連性が実証研究によりある程度確認されているなどの点にある。本講義では、SCの内容とその影響、及びそれに影響を与える要因を分析することを目的とし、最終的にはこのソーシャル・キャピタルの政策含意を明らかにできることを目標としている。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
講義形式、配付の資料に基づき講義を行う。適宜映像資料を視聴する。購入が必須の教科書はないが、予習復習・理解の深化のために参考書を適宜参照することを推奨する。 2021年度はオンラインにて授業を行う予定である。Google Classroomにて授業資料ファイル・授業動画のリンクを配付、動画閲覧後に出席確認としてレスポンスシートの提出を求める。ただし授業の形態、利用するWebサービスなどは変更する場合がありますので、事務所からの連絡ほか、初回講義の説明を必ず確認するようにしてください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ソーシャル・キャピタル概念とそれに関連する概念を理解し、説明することができる。【知識】				2		2	2	2			
②	ソーシャル・キャピタルが豊かである（不足している）と社会にどのような影響をもたらすのか、ソーシャル・キャピタルはどのようにして育成・蓄積されるのか、その社会科学的メカニズムについて理解し、説明することができる。【知識】				2		2	2	2			
③	ソーシャル・キャピタルの概念やその測定がどのような事例に適応・応用されているのかこれまでの事例や研究を調べることができる。【技能】				2		2	2	2			
④	ソーシャル・キャピタルの概念やその測定方法を自分の身近な事例に適応・応用し、ある特徴を持った集団・社会がどのようなアウトカムを生み出すのか、またそのような結果がどのようにして生じるのか、社会科学的メカニズムを説明することができる。【技能】				2		2	2	2			
⑤	ソーシャル・キャピタルに関連する討議において、現実・現代の社会の諸条件にも配慮しながら冷静に対象集団・社会の状態を評価し、自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				2		2	2	2			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)	
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験／ 授業内試験)														
小テスト等														
レポート等	期末レポート提出：25% 内容理解問題（①・②）と論述問題（①～⑤）からなる期末レポート提出を行う。この論述には、概念の知識的理解に加え、自分なりの事例分析の視点を踏まえた内容（④・⑤）が含まれる。		5	5	5	5	5						25	
討論・発表等														
授業への参画度	平常点評価：75% 授業内容に関連するコメントシートを提出してもらい、その記入内容（①・②・④）および提出回数をもって、出席への積極的関与（⑤）の評価に加える。		15	15	15	15	15						75	
その他()														
その他()														
その他()														
			到達目標別の比率(%)	20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、前回提出のコメントシートに対する講評を行い、受講者の疑問やさらなる応用事例の紹介に努める。

【教科書・参考書等】

書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ソーシャル・キャピタル入門	稲葉陽二	中央公論新社	2011	参考書	任意
社会関係資本の地域分析	埴渕知哉	ナカニシヤ出版	2018	参考書	任意
ソーシャル・キャピタルと社会—社会学における研究のフロンティア	佐藤嘉倫・編著	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
リーディングス ネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本	野沢慎司・翻訳	勁草書房	2006	参考書	任意
備考	購入が必須の教科書はありません。概略を理解したい場合は、価格が手ごろで読みやすい『ソーシャル・キャピタル入門』稲葉陽二を推奨します。				

【オフィスアワー】

メールにて相談すること。（アドレスは授業資料に記載）

【実務経験を活かした実践的教育について】

担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。	
	この回の到達目標	授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができるようになる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認する。	120分
	事後学修	授業で使用了資料（学生教員共有ドライブにアップする予定）で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
2	ソーシャル・キャピタル論登場の時代背景、資本という考え方	ソーシャル・キャピタルという概念がどのような時代背景のもとで登場したのか、この概念を使用し測定を試みる研究者達がどんな目的をもっていたのか、なぜ資本という用語を用いているのか、解説する。（キーワード：ソーシャル・キャピタル、人的資本、第三の道）	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連し、ソーシャル・キャピタル概念とその社会科学のなかでの位置づけについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
3	経済発展・治安とSC	ソーシャル・キャピタル概念を理解するための具体的応用事例・研究例として、開発・経済発展の分野と治安に関する研究を概観する。（開発経済学、マイクロクレジット、地域社会と治安）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、経済学や犯罪心理学分野におけるソーシャル・キャピタル概念の適用事例について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
4	格差と健康とSC	ソーシャル・キャピタル概念を理解するための具体的応用事例・研究例として、公衆衛生学と格差に関する議論と具体的研究事例を解説する。（公衆衛生学、イチロー・カワチ、ウィルキンソン、格差と再生産）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、健康・公衆衛生学分野におけるソーシャル・キャピタル概念の適用事例について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
5	ミクロなソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタル概念のをおもにミクロ（個人）レベルで解釈・適応している研究者の例としてナン・リン、ブルデューを取り上げ、その議論と分析を解説する。（ナン・リン、ブルデュー、文化資本）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、個人レベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
6	メゾレベルのソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタル概念のをおもにメゾ（中間集団・地域等の小～中規模社会）レベルで解釈・適応している研究者の例としてJ.S. コールマンを取り上げ、その議論と分析を解説する。（社会学者J.S. コールマン、「コールマン・レポート」）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、メゾレベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
	弱い紐帯の強さと構造的隙間論		ソーシャル・キャピタル概念のをミクロ～メゾレベルにまたがって、集団間をブリッジ・重複所属することの効果や影響を分析している研究者の例としてグラノヴェッターとパートを取り上げ、その議論と分析を解説する。（人脈とは、弱い紐帯の強さ、構造的隙間）	
7	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、強い紐帯・弱い紐帯の区別やそれがもたらす意義について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
8	マクロレベルのソーシャル・キャピタル		ソーシャル・キャピタル概念のをおもにマクロレベル（大規模集団・広域社会）レベルで解釈・適応している研究者の例としてパットナムを取り上げ、そのイタリア研究と米国研究の議論と分析を解説する。（パットナム、『Making Democracy Work（哲学する民主主義）』、『孤独なボウリング』）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、マクロレベルで測定されるソーシャル・キャピタル概念とその関連研究の内容について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
9	社会的ジレンマ		ソーシャル・キャピタルの豊かさによって影響される重要な問題として社会的ジレンマの基本構造について解説する。また、具体的事例研究としてオストロムらの研究を紹介する。（社会的ジレンマ、フリーライダー問題、エリノア・オストロム）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、社会的ジレンマ（集合行為のジレンマ）について検討する基本的な視座と、エリノア・オストロムらの具体的研究事例について、およびなぜこの分野における研究がソーシャル・キャピタル論と関連してくるのか、について解説する。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
10	ゲーム理論と繰り返し囚人のジレンマゲーム		ゲーム理論とアクセルロッドの繰り返し囚人のジレンマゲームについて基礎的な部分、およびなぜこの分野における研究がソーシャル・キャピタル論と関連してくるのか、について解説する。（ロバート・アクセルロッド、繰り返し囚人のジレンマゲーム）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、ソーシャル・キャピタルが豊かな社会が、どのようにして個人の協力的態度を引き出し、社会的ジレンマを解決しうるのかを理解し、ゲーム理論の研究成果を応用して説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
11	ソーシャル・キャピタルの豊かさと個人の特性：信頼		ソーシャル・キャピタルの豊かさと信頼の関係について、また人々が一般的信頼を持つことがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、さまざまな先行研究と、特に山岸俊男の議論を取り上げつつ解説する。（山岸俊男、安心社会と信頼社会）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、一般的信頼という概念やその測定方法が持つ意義と欠点、およびそれがもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分
12	ネットワークの構造・社会参加とソーシャル・キャピタル		ソーシャル・キャピタルの豊かさと社会構造の特徴および自発的社会参加（草の根民主主義）の関係について、また人々が活発に社会参加することがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、パットナムや関連するさまざまな先行研究を取り上げつつ解説する。（社会参加、草の根活動、トクヴィル『アメリカンデモクラシー』）	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、ネットワークの構造特性および自発的社会参加やその測定方法が持つ意義と欠点、およびそれがもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。		120分
	事後学修	授業で使用了資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	規範・文化的特性とソーシャル・キャピタル	ソーシャル・キャピタルの豊かさとそれを支える規範・文化的特性について、どのような文化的特性や規範となる社会観・人間観を中心に示えることがどのようにして社会の効率性に影響を与えるのか、関連する先行研究を取り上げつつ解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連し、その社会が持っている規範や文化的特性がもたらす社会への影響について、およびソーシャル・キャピタル概念との関連性について理解し、説明することができる。（政治文化論、文化資源と地域）	
	事前学修	シラバスにて紹介されているキーワードについて、参考文献を探す、参考文献の該当部分を読む、ニュース記事やWebで関連情報を検索するなどして、漠然とで構わないので事前に問題意識を養っておく。	120分
	事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
14	まとめ「社会関係資本が豊かな社会」とは、および試験説明	これまで紹介してきた先行研究の議論を総合し、内向きの関係性と開放的な関係性、ミクロなレベルの分析からマクロなレベルがリンクする社会科学的なメカニズムについてまとめる。また、次週に行う授業内試験の内容や準備・対策について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤全てに関連し、内向きの関係性と開放的な関係性のそれぞれの利点と欠点、ミクロレベルで分析することとマクロレベルで分析することの視点の違い、およびそれらを総合した視座について総合的に理解し、柔軟な発想で社会を分析することができる。（ミクロ・マクロリンク）	
	事前学修	これまで授業で使用した資料を全体的に復習し概念と各回相互の関係性についての理解に努める。	120分
	事後学修	授業で使用した資料で復習する。また、授業資料にて適宜紹介される参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分
15	まとめ期末レポートの説明	基本概念を理解しているか（①②）、基本概念を用いて事例分析が論理的になされているか（③④）、自分の意見が体験に基づき記述されているか（⑤）について、論述課題を課す。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤全てに関連し、知識の理解、分析する技能、冷静に評価する態度を養う。	
	事前学修	これまで授業で使用した資料を全体的に復習し概念の理解に努める。また、論述問題として出題される自分に身近な事例を使った論考の準備する。	120分
	事後学修	期末レポート作成において自分の理解の浅かった部分やうまく論述できなかった内容について、授業で使用した資料と参考文献の当該部分を読み、理解を深める。	120分

科目名	男女共同参画論	担当者	神尾 真知子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
男女共同参画とは、どのような理念に基づいているのか、どのようなことをめざしているのかを、女性差別撤廃条約の考え方、男女共同参画社会基本法の考え方から解明する。そして、国や地方自治体が、どのような男女共同参画政策を行っているのかを具体的に理解するために、男女共同参画計画とそのための事業を取り上げ、学習する。公務員をめざしている学生にとって、意義ある授業である

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
男女共同参画とは何かを理解し、説明できるようになることを目標とする。そして、具体的に国や地方自治体の男女共同参画政策の仕組みと事業を学習することによって理論を具体化する政策能力を養成することや、これからの男女共同参画政策の課題に対する解決策を提示できる能力も養成することを目的とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4

【履修条件】
男女共同参画に関心のあること。

【授業方法】		
講義形式を予定しているが、男女共同参画にかかわる具体的な問題について議論する機会を持ちたいと考えている。毎回のアクションペーパーは次の回にコメントする。人数的に可能であれば、グループに分かれてディスカッションを行い、地方自治体の男女共同参画政策の調査発表を行う。毎回のアクションペーパー、ディスカッション、調査発表、レポート等で評価する。以下のシラバスは、ディスカッションや調査報告が可能な人数の場合のものである。人数が多ければ、授業内試験を行い、シラバスの内容を変更する可能性がある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	人数的に可能であれば、グループに分かれてディスカッションを行う。地方自治体の男女共同参画政策の調査発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	男女共同参画はどのような理念に基づくのかについて理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	男女共同参画に関する現在の日本の法政策を批判的に考察できる。【論理的・批判的思考力】							2					
③	現在の日本社会に生起する男女共同参画に関連する問題を発見し、指摘することができる。【問題発見・解決力】								2				
④	どのように現在の男女共同参画政策を改革し、より男女共同参画が可能な社会を作ることができるのかを構想することができる。【挑戦力】									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①について、毎回の授業終了時に実施するアクションペーパーにより、男女共同参画に関する基礎知識が身についているかを確認する。	40										40
レポート等	到達目標②③④について、レポートにより各地方自治体の男女共同参画政策を理解し、批判的に考察し、よりよい社会を作るための法政策を提言できるかを確認する。		10	10	10							30
討論・発表等	到達目標②③④について、グループディスカッションにおいて、男女共同参画に関わるテーマを議論し、自分の意見を述べることができる。また、地方自治体の男女共同参画政策について調査し、発表し、自分の意見を述べるができる。		10	10	10							30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回のアクションペーパーに対するコメントは、次の回にコメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ジェンダー六法（第2版）	山下・辻村・浅倉・二宮・戒能編集	信山社	2015年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること）場所は適宜指定する。kamio.machiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		神奈川県や目黒区の男女共同参画条例の制定にかかわった。また、神奈川県、埼玉県、目黒区、港区の男女共同参画審議会委員をつとめた。 男女共同参画条例はどのように作るのか、地方自治体の具体的な男女共同参画政策について解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス「男女共同参画論」とは何か	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献や情報収集方法を含めて、男女共同参画論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関して、男女共同参画論を学ぶ意義を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	女性の法的地位の歴史	近代以降の日本の女性の法的地位の歴史を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、日本の女性の法的地位の歴史の基礎的知識を身につける。	
	事前学修	日本の女性の法的地位の歴史的変遷についての文献を読み、おおよその歴史を理解しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、日本の女性の法的地位の歴史の変遷を確認する。	120分
3	女性差別撤廃条約の理念	女性差別撤廃条約はなぜ制定されたのか。その理念は何かを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、女性差別撤廃条約の理念を理解する。	
	事前学修	教科書「Ⅰ条約・国際基準」の説明部分を読み、女性差別撤廃条約の制定の経緯、理念、内容を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、女性差別撤廃条約の制定の経緯と理念を考察する。	120分
4	女性差別撤廃条約批准のための日本の課題	女性差別撤廃条約を批准するための日本の課題は何だったかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、女性差別撤廃条約を批准するための日本の課題を理解する。	
	事前学修	女性差別撤廃条約の条文を読んでおく。また、日本の課題となった国籍法と男女雇用機会均等法の条文も確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、日本が女性差別撤廃条約批准のための課題をどのように政府が解決したのかを説明できるようにする。	120分
5	ディスカッション①	日本社会の男女共同参画の現状について議論する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、日本社会の男女共同参画の現状から問題を指摘し、批判的に考察し、問題解決の方向性を提示できる。	
	事前学修	新聞や文献等で日本社会の男女共同参画の現状にはどのような問題があるのかについて、情報を収集し、考察する。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得た視点を基に、さらに男女共同参画の現状に対する考察を深める。	120分
6	男女共同参画基本法の制定の経緯と理念	男女共同参画社会基本法はなぜ制定されたのか、その理念は何かを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、男女共同参画基本法の制定の経緯と理念を理解する。	
	事前学修	教科書「Ⅱ憲法と男女共同参画」の説明部分を読み、男女共同参画社会基本法の制定の経緯と理念を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、男女共同参画社会基本法に基づく男女共同参画政策が、公共政策のなかでどのように位置づけられているのか、その理念は何かを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	男女共同参画社会基本法の内容と取組み体制	男女共同参画社会基本法はどのような内容なのか、その取組み体制はどのようなものを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、男女共同参画社会基本法の内容と取組み体制を理解する。	
	事前学修	男女共同参画社会基本法は、国や地方自治体に何を求めているのか、その取組み体制はどのようなものを条文や内閣府男女共同参画局のホームページで確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、日本の現在の男女共同参画政策を説明できるようにする。	120分
8	男女共同参画基本計画の内容	第5次男女共同参画基本計画はどのような内容なのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、第5次男女共同参画基本計画の内容を理解する。	
	事前学修	内閣府男女共同参画局のホームページで、現在の第5次男女共同参画基本計画の内容を確認する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、第5次男女共同参画基本計画の特色と課題を考察する。	120分
9	ディスカッション②	国の男女共同参画政策のあり方について議論する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、国の男女共同参画政策のあり方について、的確に把握し、批判的に考察することができる。	
	事前学修	これまでの授業を復習し、国の男女共同参画政策のあり方に関する文献を収集し、考察する。	120分
	事後学修	ディスカッションを通して得た視点を基に、さらに国の男女共同参画政策のあり方に対する考察を深める。	120分
10	地方自治体の男女共同参画政策①	目黒区の男女平等・共同参画条例、政策の理念、取組み体制はどのようなものを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、目黒区の男女平等・共同参画政策の内容や取組みを理解する。	
	事前学修	目黒区役所のホームページで目黒区の男女平等・共同参画政策に関する情報を収集する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、目黒区の男女平等・共同参画政策の内容や取組みの理解を確認する。	120分
11	地方自治体の男女共同参画政策②	目黒区の男女平等・共同参画政策の事業評価はどのようなものか、どのような意義があるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、目黒区の男女平等・共同参画政策の事業評価の仕組みや意義を理解する。	
	事前学修	目黒区役所のホームページで目黒区の男女平等・共同参画政策の事業評価報告書を読んでおく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、公共政策における事業評価の意義を考察する。	120分
12	調査発表①	自分の関心のある地方自治体の男女共同参画政策について調べて、パワーポイントで発表する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、地方自治体の男女共同参画政策を理解し、批判的に検討し、報告することができる。	
	事前学修	自分の関心のある地方自治体の男女共同参画政策について調べて、パワーポイントで発表するための準備を行う。	360分
	事後学修	自分の発表の内容が、他の学生に十分に伝わったのかについて振り返る。	80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	調査発表②		自分の関心のある地方自治体の男女共同参画政策について調べて、パワーポイントで発表する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、地方自治体の男女共同参画政策を理解し、批判的に検討し、報告することができる。		
	事前学修	自分の関心のある地方自治体の男女共同参画政策について調べて、パワーポイントで発表するための準備を行う。		360分
	事後学修	自分の発表の内容が、他の学生に十分に伝わったのかについて振り返る。		80分
14	調査発表③		自分の関心のある地方自治体の男女共同参画政策について調べて、パワーポイントで発表する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、地方自治体の男女共同参画政策を理解し、批判的に検討し、報告することができる。		
	事前学修	自分の関心のある地方自治体の男女共同参画政策について調べて、パワーポイントで発表するための準備を行う。		360分
	事後学修	自分の発表の内容が、他の学生に十分に伝わったのかについて振り返る。		80分
15	意見発表		どのような男女共同参画社会になったらよいのかについて、各自の意見を発表する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関して、男女共同参画社会の構想を自分の言葉で述べることができる。		
	事前学修	これまで学習した内容を復習し、どのような男女共同参画社会を希望するかについての自分の意見をまとめておく。		120分
	事後学修	これまでの学習した内容を振り返り、学修の達成度を自分なりに評価する。		120分

科目名	地域開発論	担当者	小原 文明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
本授業では、現在の日本を形成してきたさまざまな地域開発の内容や経緯、成果、問題点などについて学び、考えていきます。とりわけ、国土総合開発法に基づいて展開された全国総合開発計画（第1次～第5次）や産業面（農業・工業）の開発、居住面の都市開発・都市計画について学びます。また、それらの開発・政策によって生じてきたさまざまな問題点を整理し、それら問題点の是正に向けた取り組み（過疎地域対策、地域振興、まちづくりなど）についても、具体的な事例を基に学び、考えていきます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業を通じて、これまでに日本で展開されてきたさまざまな地域開発の経緯や内容、成果、問題点などについて正しく理解するとともに、それらの開発の関係性についても把握できるようになることを目標とします。また、それらの開発や問題点の是正に向けた取り組みに対する自身の意見・考えや解決策を提示することができるようになることを目標とします。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
本科目は講義形式で授業を行うので、基本的には授業担当者からの話題提供が中心となります。授業のコンテンツはパワーポイントによるスライドの内容、配布資料（レジュメ、図表等資料）、口頭説明からなります。なお、特定の教科書は使用しません。授業においては、適宜、授業内小レポート課題や授業外レポート課題を出します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内小レポート課題や授業外レポート課題、さらに事前学修や事後学修を通じて、受講者自らが資料を集め、内容を検討し、自身の意見・考えを示すことで主体的な学びについて取り組んでいきます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域開発論における主要な概念や理論を識別できる。						2		2				
②	地域開発論に関連する日本の社会システムにおける主要な概念や理論を識別できる。						2		2				
③	地域開発論に関連する事象を教訓として現代社会における問題を理解し、自分なりの意見・考えを提示できる。						2		2	2			
④	地域開発論に関連する現代社会の問題に対して、新たな考えおよび従来示されてこなかった政策案を提示することができる。								2	2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	筆記試験により，到達目標の①・②・③に関して正しく理解できているかを評価する。	25	25	20								70
小テスト等												
レポート等	授業内小レポート課題や授業外レポート課題により，到達目標の①・②・③・④について正しく理解できているかを評価するとともに，自分なりの意見・考えを示すことができるかを評価する。	5	5	10	10							30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内小レポート課題や授業外レポート課題では受講者の意見や考えを問うことになるので，それらの意見・考えの全体的傾向や個別意見について，授業の中でフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書は使用しません。参考書等については，授業にて適宜紹介します。				

【オフィスアワー】
質問等については授業後に対応します。事前にメールにて，アポイントメントを取ってください。担当教員のメールアドレスは以下の通りです。take-kohara@hosei.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション／概念整理		イントロダクションとして、本授業の狙いや進め方等について説明を行う。また、本授業に関連するさまざまな概念や用語について整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、地域開発とはどのような事象であるのか説明することができる。また、地域開発に関連する概念についても整理して理解することができる。		
	事前学修	シラバス等を参照し、授業の全体像を把握しておく。また、地域開発とはどのような事象であり、どのような開発がなされてきたのか調べておく。		90分
	事後学修	地域開発に関わる概念や用語について確認し、理解を深めておく。また、授業で扱った概念・用語以外で地域開発に関連すると思われる概念・用語について調べておく。		150分
2	日本の国土総合開発の展開①		第二次世界大戦以前、および戦後の復興期～1960年代における日本の国土総合開発および地域開発について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、全国総合開発計画（第一次・第二次）の背景や内容、成果、問題点について説明することができる。		
	事前学修	全国総合開発計画とはどのようなものであるのか、その概要を調べておく。		90分
	事後学修	全国総合開発計画および新全国総合開発計画の理念や狙い、成果、問題点について整理しておく。		150分
3	日本の国土総合開発の展開②		1970年代および1980年代における日本の国土総合開発および地域開発について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、全国総合開発計画（第三次・第四次）の背景や内容、成果、問題点について説明することができる。		
	事前学修	第三次全国総合開発計画および第四次全国総合開発計画の概要、背景、成果について調べておく。		90分
	事後学修	第三次全国総合開発計画および第四次全国総合開発計画における地方都市圏や農村部の位置づけについて整理しておく。		150分
4	日本の国土総合開発の展開③		1990年代および2000年代における日本の国土総合開発および地域開発、それ以降の国土形成計画について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、第五次全国総合開発計画や国土形成計画の背景や内容、成果、問題点について説明することができる。		
	事前学修	第五次全国総合開発計画、および全国総合開発計画の後継である国土形成計画の概要、背景、成果について調べておく。		90分
	事後学修	これまでの全国総合開発計画（第一次～第五次）および国土形成計画によって形作られてきた日本（とくに地方都市圏や農村部）の現状について、統計データ等から把握しておく。		150分
5	産業面からみた地域開発の展開①		農業振興の観点から、日本における農業政策や地域開発の展開について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、日本における農業政策の展開について説明することができる。また、それぞれの農業政策や地域開発の成果や問題点について整理して理解することができる。		
	事前学修	これまでにどのような農業振興策が行われてきたのか、その概要をまとめておく。		90分
	事後学修	個々の農業政策や地域開発の内容を整理しておく。		150分
6	産業面からみた地域開発の展開②		工業振興の観点から、日本における工業政策や地域開発の展開について考える。特に、新産業都市や工業整備特別地域について採り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、日本における工業振興政策の展開について説明することができる。また、工業振興政策の成果や問題点について整理して理解することができる。		
	事前学修	これまでにどのような工業振興策が行われてきたのか、その概要をまとめておく。また、新産業都市や工業整備特別地域について概略を調べておく。		90分
	事後学修	新産業都市や工業整備特別地域として開発された都市・地域について、具体的な事例を一つ選び、その開発・発展の展開について調べておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	産業面からみた地域開発の展開③		工業振興の観点から、日本における工業政策や地域開発の展開について考える。特に、産業クラスター政策について採り上げる。	
	この回の到達目標	日本における産業クラスター政策の概要や具体的な事例について説明することができる。		
	事前学修	到達目標①・②・③に関連して、産業クラスター政策とはどのような政策であるのか、登場の背景や内容について調べておく。		90分
	事後学修	産業クラスター政策の成果について整理しておく。また、その問題点についても考えておく。		150分
8	居住面からみた都市計画ならびに地域開発の展開①		居住の観点から、第二次世界大戦後の日本における住宅政策・住宅開発について考える。特に、公的住宅について採り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、第二次世界大戦後の日本の住宅政策について説明することができる。また、住宅政策に関連する都市計画の諸事項について整理して理解することができる。		
	事前学修	第二次世界大戦後における日本の住宅政策について、その概要を調べておく。		90分
	事後学修	公的住宅の開発展開について、その特徴をまとめておく。		150分
9	居住面からみた都市計画ならびに地域開発の展開②		居住の観点から、第二次世界大戦後の日本における住宅政策・住宅開発について考える。特に、民間住宅について採り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、日本における公的な住宅開発と民間による住宅開発の類似点や相違点について説明することができる。		
	事前学修	民間の住宅開発の動向について調べておく。		90分
	事後学修	民間住宅開発の成果と問題点について整理しておく。		150分
10	過疎地域対策からみた地域開発の展開		第二次世界大戦後の日本における過疎地域対策の展開について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、日本の過疎地域対策の展開について説明することができる。また、その政策の問題点について正しく理解し、その是正のための方策を提示することができる。		
	事前学修	過疎地域の概念について整理しておく。また、関連する概念（限界集落など）についても調べておく。		90分
	事後学修	過疎地域の拡大過程についてまとめておく。また、日本における過疎地域対策の問題点について考えておく。		150分
11	地域開発の問題とその是正①		第二次世界大戦後の日本において実施されてきた地域開発の問題点について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、日本の地域開発の問題点や弊害について説明することができる。また、その是正のための方策を提示することができる。		
	事前学修	第二次世界大戦後、日本においてどのような地域開発が行われてきたのか調べておく。		90分
	事後学修	日本における地域開発の成果と問題点について整理しておく。		150分
12	地域開発の問題とその是正②		地域開発の問題点を是正する内発的発展の動向について、具体的な事例を基に考える。特に、産業の側面からのまちおこし・村おこし・地域活性化・地域振興を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、内発的発展論について説明することができる。また、産業面からのまちおこし・地域活性化などについて、その要点や問題点について自身の意見・考えを提示することができる。		
	事前学修	内発的発展論およびそれに基づく各地の動向について調べておく。		90分
	事後学修	授業で扱った事例（産業面からのまちおこし・地域活性化など）について、その成果と問題点を整理しておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地域開発の問題とその是正③	地域開発の問題点を是正する内発的発展の動向について、具体的な事例を基に考える。特に、居住の側面からのまちおこし・村おこし・地域活性化・地域振興を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、日本における地域格差について正しく理解することができる。また、居住の側面からのまちおこし・地域活性化などについて、その要点や問題点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	地方都市圏と大都市圏，農村部と都市部の人口格差について調べておく。	90分
	事後学修	授業で扱った事例（居住面からのまちおこし・地域活性化など）について、その成果と問題点を整理しておく。	150分
14	地域開発の問題とその是正④	地域開発の問題点を是正する内発的発展の動向について、具体的な事例を基に考える。特に、観光の側面からのまちおこし・村おこし・地域活性化・地域振興を取り上げる。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、観光によるまちおこしや地域活性化などの実態について説明することができる。具体的には、それらの成果や問題点について自身の意見・考えを提示することができる。	
	事前学修	観光の側面からのまちおこし・地域活性化などについて、どのような事例があるのか調べておく。	90分
	事後学修	観光の側面からのまちおこし・地域活性化の成果と問題点についてまとめておく。	150分
15	授業内試験／まとめ／振り返り	授業内試験を行うとともに、試験内容や関連事項について振り返りを行う。また、それまでに実施した授業内小レポート課題や授業外レポート課題の結果を踏まえ、再度、本授業のポイントについてまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、これまでの授業で学んだ事柄を正しく、整理して理解することができる。また、その学習の成果を試験において発揮することができる。	
	事前学修	授業内試験に向けて、これまでに授業で扱った事項について整理しておく。	180分
	事後学修	授業内試験の内容を再確認しておく。また、授業で示されたまとめを基に、本授業の要点を整理しておく。	60分

科目名	地域コミュニケーションA	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
戦後東アジアの視聴覚メディアは、各地域と密接な関係を取り結びながら、さらに、様々なメディアと多層的に連関し、発展していた。本授業は、20世紀後半の東アジアにおける視聴覚メディア（本授業ではテレビとラジオを取り上げる）の歴史的展開を把握し、それぞれの地域で、それぞれのメディアが、どのように相互連関していたのかについて学ぶものである。それは、20世紀後半のメディアのグローバルな展開について、東アジアの地域連関とメディア連関の側面から理解を試みるものとなる。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
本授業では、次の到達目標が設定されている。 ①東アジアのメディア状況に対する知識の獲得と理解の促進 ②東アジア社会に対する知識の獲得と理解の促進 ③国民国家を越える歴史的視点の獲得

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。

【授業方法】
教師による講義形式を中心とするが、受講者には随時、リアクションペーパーを記入し、提出してもらい、教師が、それに応答することで、教師-学生の双方向性を確保する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーを通じた質問の提出、それに対する教師からの応答	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	東アジア地域の歴史や文化、政治、経済、社会について説明できる。				3							
②	東アジアの地域連関について説明できる。					3						
③	東アジアのメディア連関について説明できる。						3					
④	東アジア地域における諸問題を発見し、解決にむけた方策をデザインすることができる。							3				
⑤	「他者」の論理に配慮しながら、事実と自らの知見に基づき、議論を組み立てることができる。									3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤に関する知識が身につき、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③④の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	2	2	2	2							8
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているのかを評価する。			12								12
討論・発表等												
授業への参画度	課題文を読んで作成するペーパーの提出について、読解の深さと、十分に練られたコメントの内容によって到達目標①②③④⑤に関わる知識と洞察力について評価する。	6	6	6	6	6						30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		18	18	30	18	16						100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業で講評するほか、成績評価のための課題に関してはポータルシステムなどを活用して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で適宜、指示する。				

【オフィスアワー】
原則として、水曜日12時20分から13時。研究室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・導入講義	授業のテーマや進め方を説明したうえで、東アジアのメディアを学ぶことの意味について講述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、韓国や北朝鮮について学ぶことの意味を把握し、社会科学的な思考形式の重要性を認識したうえで、今後の能動的に学修していくための方法を習得することができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	日本におけるテレビ放送体制の成立	日本において、テレビというメディア、放送の形式は、どのように成立したのかについて、主として「教育型テレビ放送」の観点から、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日本におけるテレビ放送の成立について、説明することができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
	事後学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	120分
3	日本におけるテレビ放送の歴史とアメリカの存在	日本のテレビ放送成立期について、アメリカという切り口から説明し、テレビと冷戦の結びつきについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、アメリカが、どのように日本のテレビ放送に関与していたのかについて、冷戦との関係のなかで述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	新中国のラジオ放送①	中華人民共和国におけるラジオ放送の成立について、上海人民広播電台を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国のラジオ放送が開始されたプロセスと、歴史的背景について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	新中国のラジオ放送②	中華人民共和国におけるラジオ放送の展開について、上海人民広播電台を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国のラジオ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	新中国のテレビ放送	中華人民共和国の初期電視事業について、上海におけるテレビ放送開始の時期を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	台湾のテレビ放送①	台湾におけるテレビ放送の歴史的展開を学ぶうえで必要な前提（歴史、文化、社会など）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、台湾に関する知識を獲得する。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
8	台湾のテレビ放送②	台湾におけるテレビ放送の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、台湾のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
9	香港のテレビ放送	香港におけるテレビ放送の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、香港のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	新授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
10	韓国のテレビ放送	韓国のテレビ放送史について、導入期（放送開始期）の焦点をあてて、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、韓国のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
11	北朝鮮のテレビ放送①	北朝鮮のテレビ放送史について、導入期を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、北朝鮮のテレビ放送の展開について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
12	北朝鮮のテレビ放送史②	北朝鮮のテレビ放送が展開していく過程について1970年代を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、北朝鮮のテレビ放送と、南北分断体制および冷戦との関わりについて説明できる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。1	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	視聴覚メディアと冷戦①	冷戦期に東アジアにおいて、視聴覚メディアが、どのように冷戦を戦い抜くための「武器」として活用されたかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、視聴覚メディアと冷戦の関係について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	視聴覚メディアと冷戦②	冷戦と視聴覚メディアの展開が有する政治的な意味について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、メディアという視点から、冷戦の重層性と多元性について述べることができる。	
	事前学修	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、東アジアに関するニュースに触れておくこと。日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。	180分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	まとめ	東アジアのメディア、とりわけ地域の連関、メディア間の連関に着目すると、何が見えるのか。この点について説明し、東アジアの多様な姿を看取すべく今後の課題について講述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、東アジアのメディアが有する歴史的、構造的特質と、欧米との同質性や相違点を説明することができる。	
	事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	地域コミュニケーションA	担当者	張 新慧	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
メディアを通じて、おびただしい量の韓国や北朝鮮情報が流布されている。だが、このことは、韓国を見つめるまなざしが豊かであること、あるいは知識の広がりや思考の奥行きを、かならずしも担保していない。本授業は、地域研究や国際政治学、歴史学、メディア研究の知の蓄積を援用しながら、韓国とは何かという本質的かつ根源的な問いに向かい合おうとするものである。なお、随時、北朝鮮についても触れるものとする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、韓国の歴史や文化、政治や経済などについて包括的に学び、メディア報道を批判的に読み解くための力＝リテラシーの養成を目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
毎回ではPPTを使い、配布資料を参考にしつつ講義を進める。これと同時に授業内容と関連する文献、映像や新聞記事を活用する。授業内発表やレポートに対する講評と解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回講義の最後にリアクションペーパーを提出し、次回の講義内で解説と応答を行う。また、期末に履修生全員で話し合い（プレゼンテーション）、お互いに感想や知見を共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	朝鮮半島の歴史や文化、政治、経済、社会について説明できる。				3							
②	日韓、日朝関係について説明できる。					3						
③	韓国社会に内在する論理を把握することができる。						3					
④	日韓（および日朝）関係における諸問題を発見し、解決にむけた方策をデザインすることができる。							3				
⑤	「他者」の論理に配慮しながら、事実と自らの知見に基づき、議論を組み立てることができる。									3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑥にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているかを評価する。	10	10	10	10	10						50
討論・発表等	プレゼンテーションにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標③⑥に関わる能力が身につけているかを評価する。			10		10						20
授業への参画度	授業内のリアクションペーパーの内容によって、到達目標①②③④に関わる積極的な学習態度が身につけているかを評価する。	2	2	2	2	2						10
その他(感想文)	授業内で視聴する2回のビデオに対する感想文を提出し、感想文の内容によって、到達目標①②③④に関する知識が、身につけているかを確認する。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		17	17	27	17	22						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内及びポータルシステムを使用する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)	山本 賢二	学生教員共有フォルダに掲載	2019	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12：00～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）研究室とメールアドレスは追ってお知らせします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義	本講義についての説明、コミュニケーション研究概説、中国研究概説。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、授業の内容や進め方を理解し、中国について学ぶことの意味を把握し、今後、能動的な学修を進めていく方法を身につけることができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、参考文献に目を通し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、他の履修科目との関係を考える上で、自分の学習計画を作成する。	120分
2	近現代日中関係概説Ⅰ	日中国交正常化以前の両国の関係を概観し、日中関係の重要性と複雑性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日中国交正常化以前の日中関係の構造について説明することができる。	
	事前学修	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
3	近現代日中関係概説Ⅱ	日中国交正常化以降の両国関係の変遷を概観し、日中関係の重要性と複雑性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日中国交正常化以降の日中関係の構造について説明することができる。	
	事前学修	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
4	日中相互イメージの構図Ⅰ	世論に関連する概念を理解し、日中両国に関する世論調査結果について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、「世論」と「輿論」についての基礎概念、及び国際的な世論調査の状況について、説明することができる。	
	事前学修	日中世論調査に関するマス・メディアの報道について調べる。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
5	日中相互イメージの構図Ⅱ	日中世論調査結果から見える日中相互イメージを理解し、その背景について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、世論調査データを読む力を習得し、データに基づいた分析的思考を獲得することができる。	
	事前学修	日中世論調査に関するマス・メディアの報道について調べる。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
6	ビデオ視聴及び議論	NHKドキュメンタリーを視聴し、番組が伝える中国のメディア環境を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ドキュメンタリーに反映される中国のマス・メディアの構造や現状について記述することができる。	
	事前学修	『激流中国』単行本(2008)NHKスペシャル取材班(著)に目を通すこと。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	日中コミュニケーション・ギャップを考えるⅠ		コミュニケーション・ギャップに関する基礎概念を理解し、その表現と背景について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、言語の相違から生まれるコミュニケーション・ギャップについて説明することができる。		
	事前学修	自分の異文化交流経験から考えることをメモし、異文化交流に関するマス・メディアの報道について調べる。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
8	日中コミュニケーション・ギャップを考えるⅡ		コミュニケーション・ギャップに関する基礎概念を理解し、その表現と背景について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、価値観の相違から生まれるコミュニケーション・ギャップについて説明することができる。		
	事前学修	自分の異文化交流経験から考えることをメモし、異文化交流に関するマス・メディアの報道について調べる。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
9	中国のマス・メディアの構造		中国のマス・コミュニケーションについての基本的構造についての知識を得る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、今の中国のマス・コミュニケーションについての基本的構造について説明することができる。		
	事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
10	中国のマス・メディアにおける対日報道		日本に駐在した中国人記者の回想録を手がかりとして、中国のマス・メディアに描かれる日本像について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国のマス・メディアがどのように日本の出来事を報道していたかについて説明することができる。		
	事前学修	最近の中国のマス・メディア(英語版、日本語版をあわせて利用する)における日本関連報道に目を通すこと。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
11	日本のマス・メディアにおける対中報道		メディア・フレームの観点から、時系列的に日本のマス・メディアに描かれる中国像について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、日本のマス・メディアがどのように中国の出来事を報道してきたかについて説明することができる。		
	事前学修	最近の日本のマス・メディアにおける中国関連報道に目を通すこと。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。		120分
12	ビデオ視聴及び議論		NHKドキュメンタリーを視聴し、当時の米国のジャーナリズムについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、ベトナム戦争をめぐるアメリカのメディアの報道について記述することができる。		
	事前学修	米国の憲法修正第一条を確認しておく。		120分
	事後学修	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日中相互理解とメディアリテラシー I	メディアリテラシーに関する基礎概念を把握し、中国の対外発信の展開過程とその背景を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国の国外向けの情報発信はどのようにスタートし、進行しているかについて説明することができる。	
	事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
14	日中相互理解とメディアリテラシー II	中国側から発信される情報をどのように受け止め、我々が身につけるべきメディアリテラシーについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、中国の対外発信強化の取り組みについて説明し、どのようにメディアリテラシーを身につけるかについて説明することができる。	
	事前学修	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の中の関連するところを読む。	120分
	事後学修	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。	120分
15	期末発表	これまでの授業で扱ったトピックやその中で考えたことを纏め、履修生全員で話し合う（プレゼンテーション）。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連し、自主学習や調査で分かったことを議論することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を整理し、学んだ知識や考えたことを纏めておく。プレゼンテーションの内容を準備する。	120分
	事後学修	中国のマスコミュニケーション環境に関する知識を再確認する。	120分

科目名	地域政策	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
地方分権時代を迎え、地域社会における自治体の役割と責任は増大している。この授業では、「住民」と「都市自治体」「他のアクター」との関係性に注目しながら、都市自治体を取り巻く環境、政策過程に関する基本的な事項、政策形成の基本的な考え方を学修する。都市問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材としてその解決策を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として身についておくべき、地域政策に関する基礎的知識を習得し、その知識をもとに諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ説明でき、主体的に行動できる。

【履修条件】
特にないが、併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「行政学Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。講義にでること前提としているので、地域課題の解決について考えることができること。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地域政策に関する主要な概念や理論を識別することができる。				4							
②	地域政策で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						4					
③	地域策に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						4	4	4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	30								90
小テスト等	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
必携自治体職員ハンドブック	公職研編集部	公職研	2021	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
場所は本館 6 階の研究室。fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	都市自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	地域政策の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
	この回の到達目標	地域における地方自治体の役割について説明できる	
	事前学修	地方自治体の構成要素や役割について地方自治論の参考書などで調べる	120分
	事後学修	地方自治体の役割について考えて、国との役割の違いを検討する	120分
2	地方分権化時代の地域づくり	地方分権化時代の地域づくりの特徴について学修する。	
	この回の到達目標	地方分権化時代の地域づくりの特徴について説明できる。	
	事前学修	地方分権下の地域における自治体の役割変化や求められることについて検討する	120分
	事後学修	地方分権法の意義について考える	120分
3	ローカルガバナンス	ローカルガバナンスとはなにかについて学修する。	
	この回の到達目標	ローカルガバナンスの概念について説明できる	
	事前学修	ローカルガバメントとの違いについて考える	120分
	事後学修	ローカルガバナンスの主役（主体）はなにか考える	120分
4	国土計画と地域政策の関係	地域からみた国土計画の歴史について学修する。	
	この回の到達目標	地域からみた国土計画について自分なりに説明できる	
	事前学修	国土計画法の概要について調べる	120分
	事後学修	国土計画の歴史を整理する	120分
5	国土計画と地域政策の諸相	国土計画の半化による地域政策のあり方について学修する。	
	この回の到達目標	国土計画の考え方の転換点と地方自治体の役割について説明できる	
	事前学修	国土計画の歴史とそれぞれの計画の概要について整理してくる	120分
	事後学修	国土計画の考え方の転換点についてまとめる	120分
6	地域づくりのと公民連携の概要と課題	地域づくりを公民連携によってどのように課題を解決し、新たな地域社会を実現するか学修する。	
	この回の到達目標	地域づくりを公民連携する方法を説明できる	
	事前学修	公民連携の必要性について考える	120分
	事後学修	公民連携の形態について整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地域づくりと公民連携の形態	地域づ地域における公民連携の在り方について学修する。	
	この回の到達目標	地域づくりを公民連携する方法とそのメリットとデメリットについて説明できる	
	事前学修	PPPとはなにか整理する	120分
	事後学修	PPPの種類と選択方法について整理する	120分
8	地域づくりの限界と観光政策	地域づくりにおける観光政策の意義と位置づけについて学修する	
	この回の到達目標	定住人口の政策の限界について説明でき観光政策の意義について説明できる	
	事前学修	定住人口と交流人口の違いについて検討する	120分
	事後学修	交流人口政策の意義について整理する	120分
9	地域づくりと観光	地域づくりと観光についてその類型と課題について学修する。	
	この回の到達目標	定住人口政策から交流人口政策としての観光政策の類型と課題について説明できる	
	事前学修	定住人口の限界について学習する	120分
	事後学修	観光政策の手法について整理する	120分
10	国際化と地域の課題	地域の国際化の現状と課題について学修する	
	この回の到達目標	地域の国際化、とりわけ外への国際化について学修する。	
	事前学修	日本の在住外国人の人数や出身国と変化について調べる	120分
	事後学修	諸外国と自治体の関係について考える	120分
11	国際化と地域政策	地域の国際化に対応する政策展開について学修する	
	この回の到達目標	外なる国際化と内なる国際化政策について説明できる	
	事前学修	在住外国人の生活問題について考える	120分
	事後学修	自治体にとって、なぜ国際化が必要なのか整理する	120分
12	ICTの発展と地域政策	ICTを活用した地域づくりの方向性について学修する	
	この回の到達目標	ICTを活用した地域づくりについて説明できる	
	事前学修	ICTとはなにか、その意義について検討する	120分
	事後学修	ICTを活用した地域づくりについて先進例を復習する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ICTを活用した地域づくり	ICTが自治体の住民サービスと運営改革について学修する	
	この回の到達目標	ICTが自治体の住民サービスと運営改革に関して説明できる	
	事前学修	ICTの有効的な手法について考える	120分
	事後学修	ICTの課題について整理する	120分
14	空き家と地域	人口減少時代の空き家問題について学修する。	
	この回の到達目標	空き家に関する解決策について説明できる	
	事前学修	空き家の将来推計について調べる	120分
	事後学修	空き政策の課題と限界を整理する	120分
15	統括と政策思考方法	これまでの授業で扱った政策の考え方について学修する。	
	この回の到達目標	これまでの授業で扱った地域政策の基本的な視点について他人に説明できる。	
	事前学修	自分の調べた先進的な地域政策について他人にプレゼンできる準備をすること。	120分
	事後学修	他人からの質問や意見をまとめて整理しておくこと。	120分

科目名	知的財産英語	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
本講義では、知的財産英語における基本的な英語表現について説明したうえで、特許法、意匠法、商標法、著作権法それぞれの事例を紹介して、具体的な英語表現についてわかりやすく解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
知的財産権のグローバル化に伴い、知的財産に関わる法務では、英語を用いる機会が増加している。そこで、本講義では、知的財産に関する基本的な英語表現について習得することを目的とする。また、本講義では、知的財産英語の基本的な英語表現について理解し、英語で知的財産法務を行えるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法に関する基礎科目の履修は、本講義の履修条件とはしない。本講義の中で、知的財産法の基本事項を確認しながら講義を進める。）

【授業方法】
講義形式とする。毎回、英語辞書を持参のこと。（知的財産法に関する時事問題として、英語ニュースや英文記事などを題材とする。）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産英語の基本を理解することができる。						4					
②	知的財産英語の実務の基本を説明することができる。						4					
③	知的財産英語（事例）の主要な論点を説明することができる。							4	4			
④	知的財産英語（事例）を巡る諸問題について自分の意見を述べることができる。							4	4			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての知的財産英語のスキルを習得しているかについてレポート試験により評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにおいて、質問に対する解答を評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。毎回、レジメを配布する。（知的財産法に関する時事問題として、英語ニュースや英文記事など）				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	知的財産英語とは何か	知的財産英語とは何かについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産英語の重要性について理解する。	
	事前学修	知的財産英語とは何かについて考えてきてください。	120分
	事後学修	知的財産英語とは何かについて整理しておいてください。	120分
2	特許法に関する事例（１）	特許法に関する事例（１）について講義します。（事例１：パテントロール）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（１）について理解する。（事例１：パテントロール）	
	事前学修	事例（１）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（１）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
3	特許法に関する事例（２）	特許法に関する事例（２）について講義します。（事例２：強制ライセンス）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（２）について理解する。（事例２：強制ライセンス）	
	事前学修	事例（２）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（２）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
4	特許法に関する事例（３）	特許法に関する事例（３）について講義します。（事例３：WIPO Green）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許法に関する事例（３）について理解する。（事例３：WIPO Green）	
	事前学修	事例（３）を読んで、特許法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（３）を整理して、特許法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
5	意匠法に関する事例（１）	意匠法に関する事例（１）について講義します。（事例１：Green Design）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（１）について理解する。（事例１：Green Design）	
	事前学修	事例（１）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（１）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
6	意匠法に関する事例（２）	意匠法に関する事例（２）について講義します。（事例２：Universal Design）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（２）について理解する。（事例２：Universal Design）	
	事前学修	事例（２）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（２）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	意匠法に関する事例（３）	意匠法に関する事例（３）について講義します。（事例３：IP and Development）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、意匠法に関する事例（３）について理解する。（事例３：IP and Development）	
	事前学修	事例（３）を読んで、意匠法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（３）を整理して、意匠法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
8	まとめ（１）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	まとめを行いますので、しっかり復習してきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	商標法に関する事例（１）	商標法に関する事例（１）について講義します。（事例１：商標の管理①）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（１）について理解する。（事例１：商標の管理①）	
	事前学修	事例（１）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（１）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
10	商標法に関する事例（２）	商標法に関する事例（２）について講義します。（事例２：商標の管理②）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（２）について理解する。（事例２：商標の管理②）	
	事前学修	事例（２）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（２）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
11	商標法に関する事例（３）	商標法に関する事例（３）について講義します。（事例３：地域ブランド）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、商標法に関する事例（３）について理解する。（事例３：地域ブランド）	
	事前学修	事例（３）を読んで、商標法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（３）を整理して、商標法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
12	著作権法に関する事例（１）	著作権法に関する事例（１）について講義します。（事例１：マンガ・アニメ）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（１）について理解する。（事例１：マンガ・アニメ）	
	事前学修	事例（１）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（１）を整理して著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	著作権法に関する事例（２）	著作権法に関する事例（２）について講義します。（事例２：グーグルブック）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（２）について理解する。（事例２：グーグルブック）	
	事前学修	事例（２）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（２）を整理して、著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
14	著作権法に関する事例（３）	著作権法に関する事例（３）について講義します。（事例３：芸術家によるベンチャー）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法に関する事例（３）について理解する。（事例３：芸術家によるベンチャー）	
	事前学修	事例（３）を読んで、著作権法の基本的な英語表現について考えてきてください。	120分
	事後学修	事例（３）を整理して、著作権法の基本的な英語表現について復習しておいてください。	120分
15	まとめ（２）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	まとめを行いますので、しっかり復習してきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】		
講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に試験解説を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	特許庁のデータベースへのアクセスによる調査学習を行い、その結果をレポートにて報告。教員からはレポートに対するフィードバックを行う。また、講義内容に基づいて明細書等を作成しレポートとする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				3		3					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				3		3	3				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						3	3				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				3		3	3				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12時10分～13時 研究室（本館8階1812研究室） takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許明細書の書き方、特許調査など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論	知的財産権法の概要について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考える。	120分
	事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理する。	120分
2	特許法の目的	特許法の歴史と制度の目的について	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法の目的について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許法の歴史とその制度の目的（特許法1条）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許法の目的について復習し、発明の保護と利用の関係について整理する。	120分
3	特許の保護対象	特許上の発明（保護対象）について	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許法上の発明について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許の発明（特許法2条1項）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許の発明（保護対象）について復習し、特許法2条1項の解釈を整理する。	120分
4	特許要件（1）	産業上の利用可能性について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、産業上の利用可能性について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、産業上の利用可能性（特許法29条1項柱書）について考えてくる。	120分
	事後学修	産業上の利用可能性について復習し、その内容を整理する。	120分
5	特許要件（2）	新規性の要件について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、新規性の要件について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、新規性の要件（特許法29条1項各号）について考えてくる。	120分
	事後学修	新規性の要件について復習し、その内容を整理する。	120分
6	特許要件（3）	進歩性の要件について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、進歩性の要件について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、進歩性の要件（特許法29条2項）について考えてくる。	120分
	事後学修	進歩性の要件について復習し、進歩性に関する事例を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特許要件（４）	先願主義（特許法３９条）、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、明細書等の記載要件について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、先願主義（特許法３９条）について考えてくる。	120分
	事後学修	先願主義（特許法３９条）について復習し、内容を整理する。	120分
8	特許要件（５）	拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	参考書を読んで、拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について考えてくる。	120分
	事後学修	拡大された先願の地位(特許法２９条の２)について復習し、内容を整理する。	120分
9	権利の主体（１）	発明者・出願人について	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、発明者・出願人について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、発明者と出願人について考えてくること。	120分
	事後学修	発明者・出願人について復習し、発明者、出願人、特許を受ける権利について整理する。	120分
10	権利の主体（２）	職務発明制度について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、職務発明制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、職務発明制度（特許法３５条）について考えてくる。	120分
	事後学修	職務発明制度について復習し、その要件や制度の内容を整理する。	120分
11	特許出願手続き（１）	特許出願書類、明細書等の記載要件（特許法３６条、３７条）について	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許出願書類を準備することができること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許出願書類（特許法３６条、第３７条）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許出願書類について復習し、特許出願書類（特許法３６条、第３７条）について整理する。	120分
12	特許出願手続き（２）	出願公開制度について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願公開制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、出願公開制度（特許法６４条、６５条）について考えてくる。	120分
	事後学修	出願公開制度について復習し、制度の内容（制度趣旨時期や公開内容）について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	特許出願手続き（３）	審査請求制度、特許審査手続きについて	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、審査請求制度、特許審査手続きについて理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、審査請求制度、特許審査の手続きについて理解すること。	120分
	事後学修	審査請求制度の内容、審査手続きについて復習し、内容を整理する。	120分
14	出願・審査手続（４）	出願分割・出願変更制度について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、出願分割・出願変更制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、出願分割・出願変更について考えてくる。	120分
	事後学修	出願分割・出願変更について復習し、制度の趣旨、要件などを整理する。	120分
15	出願・審査手続（５）	国内優先権制度、外国語出願制度について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国内優先権制度、外国語出願制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、国内優先権制度・外国語出願制度について考えてくる。	120分
	事後学修	国内優先権制度・外国語出願制度について復習し、制度の趣旨、要件などを整理する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案) I	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、J-PLATPATの基本的な操作も行えるようになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識を身に付けるため、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できる能力を習得する。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】		
講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	特許庁のデータベースへのアクセスによる調査学習を行い、その結果をレポートにて報告。教員からはレポートに対するコメントを講義。また、講義内容に従った仮想出願書類作成の体験学習を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許法の存在の意義及び特質を識別することができる。【知識】				1		1					
②	特許出願にはどのような手続きが必要であることを説明することができる。【知識】				2		2	2				
③	講義を行った主題に関連する主要な知財高裁判例を独自に調査することができる。【技能】						2	2				
④	講義を行った主題に関連する出願済みアイデアを独自に調査することができる。【技能】				2		2	2				
⑤	特許出願にはどのような書類が必要であることを具体的に示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑥	法律上の発明とはどのような要件が必要であることを具体例を用いて示すことができる。【態度】				3		3	3				
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②についての特許法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(調査学習成果)	到達目標①③④⑥について、「実際に特許出願されたアイデアが、法上の発明要件を備えているか否か」をテーマとした調査学習により（１）特許庁のデータベースを適切に使用できているかをチェックリストを基準に評価。また、（２）提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に評価する。	5		5	5		5					20
その他(体験学習成果)	特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるかを各自が考えたうえで、仮想特許出願書類作成書類を作成する体験学習において、提出されたレポートが、講義で示した書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標②⑤にかかわる手続書類が実践できるかを評価する。		15			5						20
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	45	5	5	5	5					100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版		高林龍	有斐閣	2017	教科書	必携
産業財産権法 逐条解説		特許庁編	発明協会	2017	参考書	推奨
特許判例百選 第5版		小泉・田村編	有斐閣	2019	参考書	任意
備考	上記教科書は最新改正法を網羅していないので、以下の参考書①にて最新改正法をフォローアップする。					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（９号館４階9４０8研究室） mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許出願実務経験を通じ、例えば、学生個々に実際に特許庁のデータベースにアクセスさせ、特定の発明特許法上の発明要件の充足性について考える等を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総説（１）	知的財産権法の概要及び現状 知的財産権を構成する法律（特許法・実用新案法・意匠法・種苗法・半導体チップ保護法・著作権法・商標法・不競法）の保護対象及び法の制定趣旨を説明し、それぞれの関連を解説する。また、世界で起きている知的財産権に関するトラブル（侵害・模倣・海賊版）の現状を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産権にほどの様な法律があるのか説明できる。	
	事前学修	以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、知的財産権を構成する法律について、どの様な法律があるのかを教科書で調べノートに列記する。授業時には、それぞれの関連性について説明を行う。 https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/seidogaiyo/chizai02.html	180分
	事後学修	今まで自己が考えてきた無体財産はどの様な法律で守られているのか認識する。また、知財の現状を理解し、今後、日本はどの様な方向に進むべきか考え、ノートに書き出しておく。知的財産権について、問題意識を持って欲しい。尚、以下、特に重要な部分については特記しているが、基本的には、参考書にて対応する講義主題を確認する。	60分
2	総説（２）	特許法の目的及び特許権成立までの概略 特許法の目的を規定する第1条を解説する。この1条では、特許法の究極目的を「産業の発達」としており、この目的を理解することで、今後講義を行う各制度の意義を理解できるようにする。また、特許権は、発明の着想に始まり特許査定により成立するため、一連の過程を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許法が制定された理由及び発明から特許成立までの流れを説明できる。	
	事前学修	教科書P1-22を事前に読んでおき、なぜ特許法が制定されたのか理解し、ノートに書きだしておく。以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、特許成立までの流れを調べ、ノートに列記する。 https://faq.inpit.go.jp/industrial/faq/search/result/10409.html?event=FE0006	180分
	事後学修	特許法1条の各用語の意味を再確認し、ノートに列記する。特許成立までの流れにおいて、各段階での手続きの内容をノートに書きだすとともに、参考書で確認する。	60分
3	特許要件（１）	客体要件（発明、産業上の利用性） 「発明」及び「産業上利用可能性」を規定する特許法2条・29条を正確に理解する。「発明」要件を正確に理解しているか確認するため、受講者は、特許庁のデータベースであるJ-platpatを使用し、実際に出願された発明が法上の「発明要件」を満足するか、調査学習を行う。調査学習の成果をレポートにて提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、どのようなアイデアが法の保護対象となっているか説明でき、また、到達目標②③④に関連して、特許法の目的とからめて、特許要件である産業上の利用可能性について説明できる。	
	事前学修	教科書P23-48を事前に読んでおき、一般的に使用されている「発明」と特許法で規定する「発明」の意味の相違を理解し、ノートに書きだしておく。また、特許成立に必要である「産業上の利用性」を理解、ノートに書きだしておく。次回授業で発明、産業上の利用性について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	講義で説明した発明要件を再確認し、ノートに列挙する。授業内で説明した特許庁データベース（Jplatpat）を各自が利用し、その調査手法を身につける。その上で、各自が調査し、抽出した特許庁に実際に出願されているアイデアが、自己が作成したノートに照らし、法上の発明にあたるか否かをレポートする宿題を実施する。	140分
4	特許要件（２）	客体要件（新規性、進歩性） 特許を取得するための要件である「新規性」の場所・時間・内容の基準を講義する。また、発明が当業者から見て、従来の技術から容易に発明できる場合（進歩性がない場合）は特許にはならない。この進歩性の判断基準について講義する。また、前回講義の発明性に関する調査学習に関する講評をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、特許法の要件である新規性・進歩性の要件を説明できる。	
	事前学修	教科書P48-52、56-61を事前に読んでおき、新規であるとはどういう状況をいうのか理解し、また、新しい発明をしても、従来のものから容易に発明できるものは特許とはならないという進歩性の判断基準を理解し、ノートに書きだしておく。次回授業で新規・進歩性について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	講義で説明した新しさの時間的・地域的基準や公然の意味など、ノートに列挙し、参考書で確認する。	140分
5	特許要件（３）	新規性喪失の例外 発明者の意に反して自己の発明が公開されてしまったり、自己の発意に基づいて自己の発明が公開した場合に、新規性を失い、特許を取得できないとすることは発明者保護の欠けるので、このような場合の一定の例外規定を講義し、その法的効果についても言及する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、新規でない場合であっても新規であると擬制して取り扱う理由について説明でき、その場合の法的な取り扱いについても説明できる。	
	事前学修	教科書P53-56を事前に読んでおき、新規ではない状態となっても一定条件のもと、新規性を失わない場合はどの様な場合であるか、理解をし、ノートに列挙する。次回授業で新規性喪失の例外規定について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	通常、新規性を喪失した発明は特許化が不可能であることは、研究者は知っているはずであるが、どの様な場合に、この規定の適用を受けることになるのか、考察し、その考えをノートに列挙し、参考書で確認する。	140分
6	特許要件（４）	客体要件（不特許事由） 新規性・進歩性を有していても、産業政策上・公益上の理由から特許すべきではない場合がある。それら不特許事由について講義するとともに、最近の裁判例についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、公益を目的として特許の対象から外されている発明にはどのようなものがあるか、なぜそのように取り扱われているかを説明できる。	
	事前学修	教科書P67-70を事前に読んでおき、上記の要件を満足しても、特許化すべきではない発明（例えば犯罪目的の発明など）を具体的にノートに列挙する。そして、その列挙した発明をグループ化し、その理由をノートに書きだしておく。次回授業で 不特許事由について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	事前に考えた特許すべきではない発明が、授業で取り上げなかった場合、講義で説明する不特許事由の趣旨に照らし、自己の考えの正当性についてノートに書きだすとともに、他の受講者と意見交換を行う。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特許要件（５）	先願主義 同一の発明が2以上競合した場合、二重特許を排斥する手段として先に出願した人に権利を付与するとした先願主義を講義する。この場合、同日出願と異日出願では手続きが異なるので、その理由や制度自体を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、二重特許を排斥する手段として日本がなぜ先願主義を採用したのか、また、その制度の内容について説明できる。	
	事前学修	教科書P61-63を事前に読んでおき、先願主義とは何かを理解し、ノートに書き出しておく。同一の発明が同日に時間を異にして出願された場合の取り扱いが、異日出願の場合と異なる点を十分に理解し、ノートに列記する。次回授業で先願主義について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	先願主義と先発明主義に比べ、日本が採用する先願主義には、どのような利点があるかを考察し、ノートに列記する。また、先発明主義を採用していた国の制度の詳細をノートに書きだすとともに、参考書で確認する。	140分
8	特許要件（６）	拡大された先願範囲の地位 本規定の定義及び制度趣旨（準知知・審査請求制度導入・防衛出願排除）を講義し、規定の内容としては、先願主義との比較を中心に、同日出願の場合、実用新案法下での出願との関係発明者同一／出願人同一による例外規定の講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、29条の2の規定を3つの制度趣旨を説明できる。	
	事前学修	教科書P64-67及び参考書①P83-92（本規定は特に理解が難しため）を事前に読んでおき、規定の内容をノートに書き出しておく。次回授業で「拡大先願」について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	本規定の条文である29条の2について、授業後、再度読み返し、規定の内容と条文の文言を確認し、ノートに書き出しておく。	140分
9	出願・審査手続（１）	出願書類・明細書及び請求項の記載要件／発明の単一性 特許出願で提出する書類（願書・明細書。必要な図面。要約書）及びその内容（実施可能要件・発明明確要件）を講義する。その後、体験学習として、特定の治具を学生に見せて、その治具が何の発明であるか各自が考えたうえ、前述の要件にあった出願書類を作成し、次週提出する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、特許出願書類を準備することができ、また、到達目標②③④に関連して、1つの出願で特許出願が行える発明の範囲に関し説明できる。	
	事前学修	以下に示す特許庁のHPを事前に読んでおき、出願書類にはどのような記載をすべきであると法が規定しているか理解し、ノートに列記する。また、1つの出願で権利の請求が行える発明の範囲についてもノートに列記する。 https://www.inpit.go.jp/blob/archives/pdf/patent.pdf	100分
	事後学修	物の発明と方法の発明では、その記載方法や記載すべき内容も異なる点を参考書で確認し、ノートに列記する。さらに、この回の講義では、体験学習として仮想特許出願書類作成の課題を行うので、自己が作成したノートを参照しつつ、書類を作成し、次週に提出する。	140分
10	出願・審査手続（２）	優先権（パリ条約による優先権・パリ条約の例による優先権、国内優先権） 発明者の権利保護を目的として、第1国の出願にもとづいて優先権を主張して第2国へ出願をする と、後の出願について、一定事項（特許要件等）については、最初の出願の時を基準として判断される優先権制度での設立趣旨、規定の内容を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、パリ条約の同盟国民及びWTOに加盟する国民が日本に特許出願するに際して、不利な取り扱いを受けない制度である優先権制度を説明できる。	
	事前学修	教科書P326-327、238-240を事前に読んでおき、外国において特許を取得する理由や取得するための手続きについて理解し、ノートに書き出しておく。次回授業で優先権一般について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	優先権の種類や利用場面を考え、ノートに列挙する。この講義はパリ条約4条に基づき規定された国内法であるため、パリ条約4条を読み理解を深めるとともに、参考書①143-162も読み、ノートに書き出しておく。	140分
11	出願・審査手続（３）	補正 特許庁への手続（特許出願・請求その他特許に関する手続：3条2項）について、その内容の補充又は訂正をすることを意味する補正について、講義する。特に明細書や特許請求の範囲の補正ができる内容的制限や時期的制限に関し、その理由及び規定の内容を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、補正をする目的や補正の制約を説明できる。	
	事前学修	第2回講義の特許取得までのフローをを思い出しながら、P232-235を事前に読み、手続きの補正とは何か、何故、その様な補正を行うのかについて十分理解し、ノートに書きだす。また、そのような補正が何時、どのような範囲で行うことができるのかをノートに列挙する。	100分
	事後学修	補正は、その補正時期により、制限事項が異なることを参考書で確認し、ノートに書きだす。	140分
12	出願・審査手続（４）	出願分割及び出願変更 一の出願に二以上の発明が含まれている場合、その出願の一部を抜き出して別出願とする分割出願制度や意匠や実用新案登録出願から特許出願に変更を認める出願変更制度の制度趣旨や規定の内容を講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、出願分割及び出願変更に関し、制度内容や目的、法上の取り扱いを説明できる。	
	事前学修	教科書P235-237を事前に読んでおき、出願分割や変更は、どのような制度であるか、なぜ認められているのか、どのような状況での利用となるのか、理解し、ノートに書きだす。次回授業で出願分割及び出願変更について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	出願分割は、パリ条約でも同盟国民に認められている権利であることから、パリ条約4条Fについても、参考書を読んで、日本の分割・変更制度と内容の同一性に関して確認し、相違点があればノートに列挙する。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	出願・審査手続（５）	外国語書面出願 外国語により作成された書類での特許出願を認めるに至った制度趣旨や規定の内容を講義する。 最終的には日本語の翻訳文を提出するが、誤訳訂正や補正の範囲についても講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、外国語書面で特許出願した場合のその後の手続きについて説明できる。	
	事前学修	参考書内の36条の2及びその解説を事前に読んでおき、日本語に加え一部の言語にて、日本では特許出願が可能であることを理解した上で、外国語出願した出願人がその後取るべき手続やその内容を理解し、ノートに書き出す。	100分
	事後学修	外国語書面出願の場合、翻訳ミスがあった場合の訂正は、通常の手続補正書では行わないため、どのような手法で誤訳を訂正するのか、講義での内容を確認し、ノートに書き出す。また、補正の範囲は翻訳の範囲など、通常の日本語出願とは大きく異なる点があるので、相違点を理解し、箇条書きにしてノートに書き出す。	140分
14	出願・審査手続（６）	特許庁の行為１（出願公開及び補償金請求権） 出願後、一定期間経過したこと又は出願公開の請求があったことを条件に、審査の段階の如何にかかわらず、特許出願の内容を公衆に知らせる公開制度の意義、公開による仮保護となる補償金請求権の規定（権利行使の時期や手法）について講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、早期に発明内容を公開する意義、公開による出願人の保護を行う補償金請求権の内容について説明できる。	
	事前学修	教科書P227-229を事前に読んでおき、出願公開の要件及び出願公開に伴い発生する補償金請求権の要件及び内容を理解し、ノートに書き出す。次回授業で出願公開及び補償金請求権について説明するので、調べた内容と答え合わせができるようにしておく。	100分
	事後学修	参考書の第三章の二（64条-65条）にある出願公開制度、補償金制度、早期公開制度の解説を読み、講義内容、規定の内容、条文の文言を確認し、ノートに書き出しておく。	140分
15	出願・審査手続（７）	特許庁の行為２（拒絶理由通知、査定と登録） 特許要件を具備する・具備しない発明に対する特許庁のアクションについて講義する。 尚、上記講義終了後、学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連して、特許要件を満たしていない出願に対し、どのような行為をなされるかを説明でき、その対応により、審査部での最終判断としての処分がどのようなものになるか説明できる。	
	事前学修	教科書P231、241-242を事前に読んでおき、拒絶理由通知を受けた出願人の対応手法を理解し、ノートに書き出す。特に最終回の講義では、今まで講義した内容全般から知識を問う形で出題するため、今までまとめてきたノートを繰り返し読み返す	100分
	事後学修	参考書の49条（拒絶査定）、50条（拒絶理由通知）、51条（特許査定）にて講義内容を確認し、ノートに追記する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認し、全体としてのまとめを書き出す。	140分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を知得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。授業内試験を実施し、フィードバックは、授業時間内に実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドを用い、講義中に制度や司法判断の問題点などをQ&Aを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				3		3					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				3		3	3				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						3	3				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施し、フィードバックは、授業時間内に実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	参考書	推奨
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日12時10分～13時 研究室（本館8階1812研究室） takeuchi.toshio@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁理士、企業知的財産部
実務経験に基づく実践的教育の内容		企業・特許事務所での特許権等に関する訴訟・ライセンスの経験を通じ、これらに関する実践的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	特許権の効力と制限（１）	特許権の存続期間について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の存続期間について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、特許権の存続期間について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権の存続期間について復習し、内容を整理する。	120分
2	特許権の効力と制限（２）	特許権の効力と制限について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許権の効力と制限（特許法６８条、６９条）について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権の効力と制限について復習し、特許法６８条、６９条の解釈について整理する。	120分
3	特許権の効力と制限（３）	特許発明の技術的範囲について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権の効力と制限について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許発明の技術的範囲（特許法７０条）について考えてくること。	120分
	事後学修	特許発明の技術的範囲について復習し、特許法７０条の解釈について整理する。	120分
4	特許権の効力と制限（４）	権利の共有について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、権利の共有について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、権利の共有（特許法７３条）について考える。	120分
	事後学修	参考書を読んで、権利の共有（特許法７３条）について考えてくる。	120分
5	特許権の活用（１）	実施権（専用実施権・通常実施権）について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、実施権について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、実施権（特許法７７条、７８条）について考えてくる。	120分
	事後学修	実施権の内容を復習し、各実施権の内容整理する。	120分
6	特許権の活用（２）	法定実施権、裁定実施権について	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法定実施権、裁定実施権について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、法定実施権（７９条）、裁定実施権（８３条）について考えてくる。	120分
	事後学修	法定実施権、裁定実施権について復習し、権利の趣旨・内容を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特許権と他の権利との関係	利用・抵触関係(72条)について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	参考書を読んで、利用抵触関係(72条)について考えてくる。	120分
	事後学修	利用抵触関係(72条)について復習し、規定の趣旨・内容を整理する。	120分
8	特許権の侵害と救済(1)	特許権侵害の成立要件について	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権侵害の成立要件について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許権侵害の成立要件について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権侵害の成立要件について復習し、関連する条文の解釈について整理する。	120分
9	特許権の侵害と救済(2)	特許権の間接侵害について	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許権の間接侵害について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許権の間接侵害(101条)について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権の間接侵害について復習し、その趣旨と内容を整理する。	120分
10	特許権の侵害と救済(3)	特許権侵害に対する救済について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権侵害に対する救済(差止請求、損害賠償請求等)について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許権侵害に対する救済(100条、その他)について考えてくる。	120分
	事後学修	特許権侵害に対する救済について復習し、特許法100条、その他関連する条文の解釈について整理する。	120分
11	審判制度(1)	拒絶査定不服審判・審査前置について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒絶査定不服審判・審査前置制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、拒絶査定不服審判・審査前置制度について考えてくる。	120分
	事後学修	拒絶査定不服審判・審査前置制度について復習し、制度趣旨及び手続について整理する。	120分
12	審判制度(2)	特許無効審判制度・特許異議申立制度について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許無効審判制度・特許異議申立制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、特許無効審判制度・特許異議申立制度について考えてくる。	120分
	事後学修	特許無効審判制度・特許異議申立制度について復習し、制度趣旨及び手続について整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	特許訴訟		審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について考えてくる。	120分
	事後学修	審決取消訴訟を中心に特許に関する訴訟について復習し、関連する条文の解釈について整理する。	120分
14	実用新案法（１）		実用新案権の登録手続きについて
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案制度について理解すること。	
	事前学修	参考書を読んで、実用新案権の登録手続きについて考えてくる。	120分
	事後学修	実用新案制度の登録手続きについて、特許制度の違いを中心に復習し整理する。	120分
15	実用新案法（２）		実用新案権の行使について
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案権の行使について考えてくる。	
	事前学修	参考書を読んで実用新案権の行使について考えてくる。	120分
	事後学修	実用新案権の行使について、特許権との違いを中心に復習し整理する。	120分

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
特許権の効力に関する知識及び、特許権者が取得する権利の具体的な内容を習得するために、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。

【履修条件】
特に無し

【授業方法】
パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドを用い、講義中に制度や司法判断の問題点などをQ&Aを実施する	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特許権の存在の意義及び特質を識別することができる。				1		1					
②	特許権の行使に必要な手続や制度を説明することができる。				2		2	2				
③	特許に関する主要な知財高裁判例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。						2	2				
④	特許めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての特許権に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身につけているかを、筆記試験により評価する。	25	25	20	20							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②について、適宜授業では、質問を行い、質問に対する自己の考えを発表させ、自己の考えが的確な根拠に基づくものかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。レポートについても授業内で解説する

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
標準 特許法 第6版	高林龍	有斐閣	2017	教科書	必携
産業財産権法 逐条解説	特許庁編	発明協会	2017	参考書	推奨
特許判例百選 第5版	小泉・田村編	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館4階9408研究室） mimura.junichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特許ライセンス実務経験を通じ、例えば、特許ライセンス手法について考える等を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	特許を受ける権利	権利対象、権利侵害に対する救済、権利の利用	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、特許を受ける権利の発生・消滅・主体変動を説明できる。	
	事前学修	教科書P73-79、参考書②33-34条及びそれらの解説を事前に読んでおく。	120分
	事後学修	共有に係る場合の特則や訴訟提起の場合の単独性について教科書を利用し理解する。	120分
2	職務発明制度	職務発明の従業員の権利及び使用者の権利	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、青色LED事件を用いて法改正がなされた理由や改正により権利の原始的帰属がどのように変わったのかを説明できる。	
	事前学修	教科書P80-97を事前に読んでおく。現行法下での権利の原始的帰属や使用者の権利を理解する。	120分
	事後学修	旧法との比較を行い、改正点を整理するとともに、改正法の課題を考える。	120分
3	特許権の効力（1）	効力範囲	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許権者の権利（即ち侵害者の行為）を説明できる。	
	事前学修	教科書P98-118を事前に読んでおく。特に特許権者はどのようなことを独占排他的に行えるのか理解する。	120分
	事後学修	特に、消尽説を教科書102-114を利用し理解する。	120分
4	特許権の効力（2）	効力の制限、拡張的効力	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の積極的・消極的効力の制限がなされる具体的な状況を説明できる。	
	事前学修	教科書189-191（効力制限）、教科書174-186（間接侵害）を事前に読んでおく。	120分
	事後学修	「グアニジノ安息香酸誘導体III上告審」 平成10（受）153を読み、69条1項の理解を深める。	120分
5	特許権の存続期間	特許権及び延長特許権の期間の算出方法や延長の手続	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許権の始期及び周期を説明でき、さらに後発医薬品にかかる問題で69条1項との関係を説明できる。	
	事前学修	教科書118-122を事前に読んでおく。特許が延長される場合について理解する。	120分
	事後学修	「パシーフカプセル事件」（最高裁判所第1小法廷平成21年（行ヒ）第326号 平成23年4月28日）を読み、講義の理解を深める。	120分
6	特許権侵害（1）	成立要件（技術的範囲の判断、均等論）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、68条及び70条の規定を説明しつつ、特許侵害の判断手法を説明し、さらに拡張的な例外（均等論）の内容及び要件を説明できる。	
	事前学修	教科書127-173を事前に読んでおく。特許侵害はどのように判断されるのか理解する。	120分
	事後学修	「ボールスプライン軸受」 平成6（オ）1083 を読み、均等の5要件の意味を理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	特許権侵害（２）		民事的救済（差止請求権、損害賠償請求権）	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許侵害の場合に差し止め請求はどこまで認められるのか、損害賠償は、特許法上の規定を利用する場合、どの様に算出されるのか説明できる。		
	事前学修	教科書279-316を事前に読んでおく。損害賠償にかかる特別規程の内容を理解する。		120分
	事後学修	講義にて簡単な事例問題を提示するので、各自賠償額を計算する。		120分
8	権利の変動（１）		専用実施権／許諾による通常実施権	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、専用実施権／許諾による通常実施権の内容及び独禁法との境界線や問題点を説明できる。		
	事前学修	教科書193-207を事前に読んでおく。専用と通常の相違点を理解する。		120分
	事後学修	企業間の実施契約を非独占的なものであるため、この契約をする上で必要となる要素を考える。		120分
9	権利の変動（２）		法定通常実施権及び裁定通常実施権常実施権	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、すべての法定実施権、裁定による通常実施権を説明でき、また、強制実施権である裁定に関し、その制度存在の是非について説明できる。		
	事前学修	教科書207-218を事前に読んでおく。各実施権の内容を理解する。特に裁定の場合、実施権種類により判断主体が異なる点、その理由を含めて理解する。		120分
	事後学修	国家間で問題となっている国家による強制実施権について考える。		120分
10	権利の変動（３）		権利の移転／仮専用実施権及び仮通常実施権	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、特許を受ける権利に基づくライセンスについて、また、特許権取得後にはそれらがどのように法上で取り扱われるかについて説明できる。		
	事前学修	教科書P218（移転）、参考書②34条の2及び34条の3及びそれらの解説（仮実施権）を事前に読んでおく。		120分
	事後学修	仮実施権と実施権の相違、特許権成立後の仮実施権の取り扱いについて理解する。		120分
11	審判（１）		審判手続	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、審判の種類及び共通する審判手続きの流れを説明できる。		
	事前学修	教科書P245-247を事前に読んでおく。審判手続きは、各種審判に共通する部分が多い。まず、本講義でおこなわれる一般的な審判の流れや共通する手続き、特定の審判にのみ用いられる手続きなどを理解する。		120分
	事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf		120分
12	審判（２）		拒絶査定不服審判／前置審査	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、拒絶査定不服審判の手続き及び意義について説明でき、さらに審判請求時の補正による前置審査制度について説明できる。		
	事前学修	教科書P245-247を事前に読んでおく。拒絶査定不服審判請求時に補正を行う場合と行わない場合で、審判手続きに差異が生じる点を理解する		120分
	事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	審判（３）	特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判の手続き及び意義について説明できる。	
	事前学修	教科書P247-257を事前に読んでおく。類似手続きである訂正審判と訂正請求の相違を理解する。	120分
	事後学修	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf	120分
14	訴訟	異議申立制度及び審決取消訴訟・その他の訴訟	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特許事件に関し、司法で争う場合の手続きや主体要件など、当事者系と査定系に分けて説明できる。また、繰り返し改正される異議申し立て制度の内容及び改正理由（改正ごとに異なる趣旨）を説明できる。	
	事前学修	教科書P257-259（異議）及びP260-278（訴訟）を事前に読んでおく。異議制度と無効審判の相違を理解する。	120分
	事後学修	審決取消訴訟は、査定系と当事者系があるが、請求主体が異なると考えられているため、その点を参考書①を利用して理解を深める。	120分
15	実用新案登録制度	実用新案制度及び実用新案技術評価書 学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に３０分程度の試験解説を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、実用新案制度の存在意義、特許法との相違、その相違から規定されることになった特殊な評価制度の意義を説明できる。	
	事前学修	教科書P317-324を事前に読んでおく。特に、権利行使に必要な技術評価書はどのようなものであるか理解する	120分
	事後学修	特許制度との相違を理解する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認する。	120分

科目名	知的財産法B(意匠)	担当者	加藤 暁子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
魅力的な工業デザインは、今日の企業活動における重要な財産である。それらを保護する意匠法を中心に、商標法、及び、両法を補完する関係にある不正競争防止法にも目配りしながら、企業活動におけるこれらの法制度の活用の重要性について理解し、活用手法を案出する姿勢を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
意匠法及び関連知的財産法の概要を理解し、その活用を考える姿勢を養うことを目的とする。 意匠制度をはじめとする知的財産法の法体系を理解し、官民間問わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
意匠法に加えて商標法、不正競争防止法について理解を深めるために、知的財産法C(商標・不正競争防止) も併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
基本的には講義形式で行う。資料を配布して事例判例や時事を紹介する。履修者は法令集等を持参して法条文を参照すること。数回に一度記入させるリアクション・ペーパーにつき次回講義でコメントする。試験の解説はポータルサイトで行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	意匠法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。					3	3	3	3	3			
②	意匠法及び関連知的財産法の概要に関する理解に基づいて、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができる。					3	3	3	3	3			
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①及び②に関して、期末レポートにおける記述内容により評価する。	30	20									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	出席の有無、及び、リアクションペーパーの記載内容において自己の見解が示されているかから評価する。	30	20									50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時にリアクションペーパーにより寄せられる質問、コメントに対して、次回講義時に解説等を加える。期末試験を含む成績の講評を学期末にポータルサイトで行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
意匠法 第2版	茶園成樹	有斐閣	2020年	教科書	必携
事例から学ぶ意匠制度活用ガイド（以下「ガイド」とする）	特許庁		2017年	教科書	必携
備考	『事例から学ぶ意匠制度活用ガイド』は特許庁HPにおける全文閲覧を案内します。				

【オフィスアワー】
水曜15時～16時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。 メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産に関するシンクタンク勤務時における国内外の調査研究を含む制度改正準備作業 知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	知的財産法の体系		知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明した上で、本講義で扱う対象について、概要と進め方を説明する。
	この回の到達目標	到達目標①について、知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書(茶園)の1章1節「知的財産法と意匠法」、及び、参考書(土肥著作、序論)に目を通す。	120分
	事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習する。(以下毎回同じ) 講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧し、疑問点について自身で調べる。	120分
2	知的財産法における意匠法の位置づけ		前回説明した知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中における意匠法の特徴を考察する。 「知財ミックス」の概念とその重要性について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①について、知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中における意匠法の特徴を説明できる。「知財ミックス」の概念とその重要性について説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園)1章、および、参考書(土肥著作3章1節)に目を通す。	120分
	事後学修	講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧する。「知財ミックス」の事例について調べる。	120分
3	意匠法の沿革、意義		日本の意匠制度がどのようなニーズのもとに誕生し、産業の発達とともに制度化が進んだのかについて講義する。 意匠法が抱える今日的な問題点についても、概要を説明し、以降の各論への導入とする。
	この回の到達目標	到達目標①及び②について、日本の意匠制度がどのようなニーズのもとに誕生し、産業の発達とともに制度化が進んだのか説明できる。意匠法が抱える今日的な問題点について概要を説明できる。	
	事前学修	前回の事前学習対象(教科書1章、参考書(土肥著作3章1節))に再度目を通す。	60分
	事後学修	特許庁HP掲載書籍「意匠制度120年の歩み」に目を通し、講義内容について理解を深める。興味をひかれた意匠登録事例について調べてみる。	180分
4	意匠法上の意匠		意匠法上で保護される意匠(意匠法上の意匠)とはどのようなものか(物品性、視覚性等)について、事例を踏まえて講義する。近時、保護のニーズが指摘されて法改正により保護が始まった、技術革新により生まれた意匠についても解説する。
	この回の到達目標	到達目標①について、意匠法上で保護される意匠(意匠法上の意匠)とはどのようなものか(物品性、視覚性等)について、事例を踏まえて説明できる。近時、保護のニーズが指摘されて法改正により保護が始まった、技術革新により生まれた意匠についても説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園)2章「意匠」、及び、参考書(土肥著作3章2節)に目を通す。	120分
	事後学修	講義内容について特許庁HP(特に意匠審査基準)を参照して、現状の制度で保護されるための要件について理解を深める。また、新たな保護対象とすべきニーズは無いか、考えてみる。	120分
5	意匠の登録要件		前回学んだ意匠法上の意匠であることに加えて、意匠権を登録する上で満たすべき登録要件(工業上利用可能性、新規性等)について、事例を踏まえて講義する。
	この回の到達目標	到達目標①について、前回学んだ意匠法上の意匠であることに加えて、意匠権を登録する上で満たすべき登録要件(工業上利用可能性、新規性等)について、事例を踏まえて説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園)4章「意匠登録要件」、及び、参考書(土肥著作3章3節1～2)に目を通す。	120分
	事後学修	講義内容について特許庁HP(特に意匠審査基準)を参照して、現状の制度で保護されるための要件について理解を深める。また、新たな保護対象とすべきニーズは無いか、考えてみる。	120分
6	意匠権に係る手続き(含む 国際条約)		前回までで学んだ要件を満たす意匠について、特許庁に登録出願をする際の手続きについて、特許権等、他の産業財産権とも比較しつつ解説する。複数の国における意匠権の保護を受けるためのハーグ協定に基づく国際登録出願も説明する。
	この回の到達目標	到達目標①について、特許庁に意匠登録出願をする際の手続きについて、特許権等、他の産業財産権とも比較しつつ説明できる。複数の国における意匠権の保護を受けるためのハーグ協定に基づく国際登録出願について理解する。	
	事前学修	教科書(茶園)6章「意匠登録出願手続き」、1章5節「意匠に関する国際条約」、15章「ハーグ協定のジュネーブ改正協定に基づく特例」、及び、参考書(土肥著作3章3節3、7章5節)に目を通す。	120分
	事後学修	特許庁HP掲載の「出願の手続」第四章「意匠登録出願の手続」の概要を把握する。国際登録出願についても、特許庁の関連サイトを閲覧しておく。 教科書8章「審判制度」、9章「審決等取消訴訟」を通読する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特別な意匠登録制度（１）秘密意匠、組物の意匠等	ユーザーのニーズにきめ細かに応える制度的な仕組みのうち、秘密意匠、組み物の意匠について、事例を含めて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、秘密意匠、組み物の意匠について、事例を含めて説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園) 7 章 3 節「組物の意匠制度」、4 節「秘密意匠制度」、及び、参考書(土肥著作 3 章 3 節 7、8)に目を通す。	120分
	事後学修	特許庁HP掲載の上記意匠制度に関する記事を読む。秘密意匠、組み物の意匠を活用した事例について、『ガイド』を読む。	120分
8	特別な意匠登録制度（２）部分意匠、関連意匠等	ユーザーのニーズにきめ細かに応える制度的な仕組みのうち、部分意匠、関連意匠について、事例を含めて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、部分意匠、関連意匠について、事例を含めて説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園) 7 章 1 節「部分意匠制度」、2 節「関連意匠制度」、及び、参考書(土肥著作 3 章 2 節 3、3 節 9)に目を通す。	120分
	事後学修	特許庁HP掲載の上記意匠制度に関する記事を読む。部分意匠、関連意匠を活用した事例について、『ガイド』を読む。	120分
9	意匠権	前回講義した手続きを経て登録される意匠権とはどのような排他的効力を有するのか、効力の範囲について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、意匠権とはどのような排他的効力を有するのか、効力の範囲について説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園)10章「意匠権」に目を通し、意匠権の排他的効力のあらましについて理解する。	120分
	事後学修	配布資料及び教科書に基づいて講義内容を復習し、意匠権の時間的、空間的な効力について整理してみる。	120分
10	意匠権の制限	前回講義した意匠権の効力を想起しながら、その制限や権利の消尽、他者による無効の抗弁等、排他的効力が制限される場面と、なぜそうした制限が設けられているのかについて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、意匠権の制限や権利の消尽、他者による無効の抗弁等、排他的効力が制限される場面と、なぜそうした制限が設けられているのかについて説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園)12章「侵害主張に対する防御手段」、及び、参考書(土肥著作 3 章 2 節 8)に目を通す。	120分
	事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習し、意匠権の効力が制限される場面、および、その必要性について自身で説明してみる。	120分
11	意匠権の類似の判断と侵害	意匠権を侵害したか否かを決する意匠の類似は、どのような点において判断されているのか、そのデザインが用いられているところの物品と、デザインそのものについて、事例を踏まえて検討する。意匠権侵害の類型にも触れる。	
	この回の到達目標	到達目標①について、意匠権を侵害したか否かを決する意匠の類似は、どのような点において判断されているのか、そのデザインが用いられているところの物品と、デザインそのものについて、事例を踏まえて説明できる。意匠権侵害の類型を説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園) 5 章「意匠の類似」、11 章「意匠権侵害」に目を通す。	120分
	事後学修	『判例百選』に掲載されている類似が判断された事案に関する記事を読み、より具体的に調べてみる。	120分
12	意匠権の侵害に対する救済（１）民事	権利侵害に対してとりえる民事的な措置(差止請求、損害賠償請求等)について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、権利侵害に対してとりえる民事的な措置(差止請求、損害賠償請求等)について説明できる。	
	事前学修	教科書(茶園)13章「侵害に対する救済」に目を通す。	120分
	事後学修	講義で紹介された事例について、より具体的に調べる。知的財産高等裁判所HPを閲覧して、裁判所の機能や知財関連の民事事件の傾向を把握する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	意匠権の侵害に対する救済（２）行政：水際措置、刑事		意匠権を含む知的財産の侵害物品について規制している税関による水際措置と刑事手続きについて、権利者も利用可能な水際の輸出入差止申立て等も含めて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、意匠権を含む知的財産の侵害物品について規制している税関による水際措置と刑事手続きについて、権利者も利用可能な水際の輸出入差止申立て等も含めて説明できる。		
	事前学修	教科書(茶園)13章「侵害に対する救済」に再度目を通す。		60分
	事後学修	講義で紹介された税関、警察庁のHPを自身でも閲覧して、国内や水際における知的財産侵害物品の規制の仕組みと、近時の傾向を理解する。輸出入差止を申し立てている企業の具体的な事例について調べてみる。		180分
14	意匠権の活用		意匠権が財産権として移転(譲渡)や他者に対するライセンス(実施権)の設定、質権等の設定が可能であることについて講義する。各企業におけるそれら活用の事例も可能な限り紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、意匠権が財産権として移転(譲渡)や他者に対するライセンス(実施権)の設定、質権等の設定が可能であることについて説明できる。各企業におけるそれら活用の事例を紹介できる。		
	事前学修	教科書(茶園)14章「意匠権の利用」に目を通す。		120分
	事後学修	配布資料及び『ガイド』、参考書に基づいて講義内容を復習する。『特許行政年次報告書』における意匠権の変動(譲渡、ライセンス等)に関する記事及び統計を確認する。		120分
15	講義のまとめ		これまでの講義を総括し、期末レポート作成に向けて要点を確認する。	
	この回の到達目標	これまでの講義を総括し、期末レポート作成に向けて要点を確認する。		
	事前学修	前回までの配布資料を見返す。		120分
	事後学修	期末レポート課題に取り組む。		120分

科目名	知的財産法C(商標・不正競争)	担当者	加藤 暁子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
自社ブランドを体現する商標の保護に係る商標法や、競業者による不正な競争行為を封じることのできる不正競争防止法は、今日の企業活動における重要な法領域であり、とりわけ、ブランドの形成と維持においてこれら標識法の果たす役割は大きい。これらの法の概要と、企業活動におけるこれらの法制度の活用の重要性について理解し、活用手法を案出する姿勢を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
商標法、不正競争防止法及び関連知的財産法の概要を理解し、その活用を考える姿勢を養うことを目的とする。 知的財産法の体系を理解し、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
商標法、不正競争防止法に加えて意匠法についても理解を深めるために、知的財産法B(意匠法) も併せて履修することが望ましい。

【授業方法】
基本的に講義形式で行う。資料を配布して事例判例や時事を紹介する。履修者は法令集等を持参して法条文を参照すること。数回に一度記入させるリアクション・ペーパーにつき次回講義でコメントする。期末レポートの解説をGoogle Classroom又はポータルサイトを通じて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商標法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。				3	3	3	3	3			
②	不正競争防止法及び関連知的財産法の概要について、説明することができる。				3	3	3	3	3			
③	商標法、不正競争防止法及び関連知的財産法の概要に関する理解に基づいて、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができる。				3	3	3	3	3			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②及び③に関して、期末レポートにおける内容により評価する。	30	20									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	出席の有無、及び、リアクションペーパーの記載内容において自己の見解が示されているかから評価する。	30	20									50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義時のリアクションペーパーにおける質問やコメントに対して、次回講義時に解説する。期末レポートの講評を学期末に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産法入門 第16版	土肥一史	中央経済社	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜15時～16時、研究室にて(本館1718)。事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。 メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 知的財産関連シンクタンク勤務時の国内外の調査研究を含めた制度改正準備作業
実務経験に基づく実践的教育の内容	知的財産法制度が企業等事業体及び社会のニーズとの間で双方向的に変化する有様を積極的に紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	知的財産法の体系		知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明したうえで、2つの法律を扱う本講義の概要と進め方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②について、知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書(序論)に目を通す。		60分
	事後学修	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習する。(以下毎回同じ) 講義で紹介した特許庁HP(特に『事例から学ぶ 商標活用ガイド』)の内容、及び、商標制度を紹介する動画を自身で閲覧し、疑問点を自身で調べてみる。		180分
2	知的財産法における商標法、不正競争防止法の位置づけ		前回説明した知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中で標識法の中心をなす商標法及び不正競争防止法の位置づけを考察する。「知財ミックス」の概念とその重要性について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②について、標識法の中心をなす商標法及び不正競争防止法の位置づけを説明できる。「知財ミックス」の概念とその重要性について説明できる。		
	事前学修	教科書(序論)に再度目を通し、商標法及び不正競争防止法の特徴を書き出しておく。		60分
	事後学修	講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧し、講義内容と照合する。「知財ミックス」の事例について調べる。		180分
3	商標法の沿革と意義		現代的な商標制度の発祥と我が国における導入、改正の経緯について、その背景にある産業上のニーズも想起しながら講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、現代的な商標制度の発祥と我が国における導入、改正の経緯について、その背景にある産業上のニーズも含めて説明できる。		
	事前学修	教科書(2章1節「商標の沿革」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	講義で紹介した特許庁HP掲載の資料を閲覧して、興味をひかれた歴史的事実や事例について調べてみる。		120分
4	商標の機能、商標法上の商標(商標法上の商品・役務、商標の使用概念)		現代的な商標が有する基本的な機能と、それが必要となるのはどのような社会状況かという、その前提条件、さらに、商標法で保護される商標(商標法上の商標)とはどのようなものかについて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、現代的な商標が有する基本的な機能と、それが必要となるのはどのような社会状況かという、その前提条件、さらに、商標法で保護される商標(商標法上の商標)とはどのようなものかについて説明できる。		
	事前学修	教科書(2章2～5節)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	講義内容を踏まえて、一般にいわれる商標と商標法上の商標とはどのように異なるのか、自身で説明してみる。非伝統的な商標の保護に関する特許庁HP掲載の動画を視聴する。J-Platpatにおいて様々な商標について検索してみる。		120分
5	商標の登録要件		商標登録に当たっては、商標法上の商標であるだけでなく、商標法上の数々の登録要件を満たすことも求められる。それらの要件について、商標登録の可否が争われたパロディ商標の事例等も踏まえながら講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、商標法上の数々の登録要件について、商標登録の可否が争われたパロディ商標の事例等も踏まえながら説明できる。		
	事前学修	教科書(2章6節「商標の登録要件」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	講義で紹介した特許庁HP掲載動画、および、商標審査基準を自身で閲覧して、どのような商標が登録可能なのか、具体例を挙げて説明してみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べる。		120分
6	商標権に係る手続き(含む マドリッド協定及びマドリッド協定附属議定書)		前回までに学んだ要件を満たす商標について、特許庁に登録出願をする際の手続きを、他の産業財産権とも比較しながら解説する。グローバルな事業展開に必須である、マドリッド協定議定書に基づく商標の国際登録手続きも学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①について、特許庁に商標登録出願をする際の手続きを、他の産業財産権とも比較しながら説明できる。マドリッド協定議定書に基づく商標の国際登録手続きを理解する。		
	事前学修	特許庁HP掲載「出願の手続」の5章「商標登録出願の手続」に目を通す。教科書(7章4節「商標に関する国際条約」)に目を通す。		120分
	事後学修	特許庁HP掲載「出願の手続」の5章「商標登録出願の手続」、及び、「国際出願」の「マドリッド協定議定書…」に目を通す。仮に自身がある標章を用いて事業を展開するとして、どのような標章についてどのような措置を講ずるか、説明してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	商標権		前回講義した手続きを経て登録できる商標権とは権利者にどのような排他的効力を授けるのか、その効力の範囲について、意匠権など他の知的財産権とも比較しながら講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①について、商標権とは権利者にどのような排他的効力を授けるのか、その効力の範囲について、意匠権など他の知的財産権とも比較しながら説明できる。		
	事前学修	教科書(2章10節「商標権」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	教科書を再読して、商標権の時間的、空間的な効力について整理しておく。		120分
8	商標権の制限(実施権の設定を含む)と活用		前回講義した商標権の効力を念頭に置きながら、その制限や権利の消尽、無効の抗弁といった排他的効力が制限される場面について解説し、それら制限の意義を検討する。さらに、譲渡や実施権(ライセンス)、質権の設定を通じた商標権の財産権としての活用、地域経済の活性化を目的とする地域団体商標制度について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①及び③について、商標権の効力の制限や権利の消尽、無効の抗弁といった排他的効力が制限される場面と、それらを設ける意義を説明できる。商標件の譲渡や実施権(ライセンス)、質権の設定を通じた商標権の財産権としての活用、地域経済の活性化を目的とする地域団体商標制度について説明できる。		
	事前学修	教科書(2章10節2～11、7節「団体商標制度と地域団体商標制度」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	特許庁HP掲載の『特許行政年次報告書』で商標権の変動に関する統計・解説を読む。特許庁HP「事例から学ぶ商標活用ガイド」で紹介している事例に目を通す。特許庁HP「地域団体商標について」に目を通し、特許庁HP掲載の地域団体商標制度を紹介する動画を視聴する。		120分
9	不正競争防止法の目的、沿革		明治以来の不正競争防止法の制定に至る経緯をもとに、知的財産法が社会の或いは産業上のニーズに応じて制定されてきたことを概観する。さらに、日本の不正競争防止法の特色について、諸外国との比較や、他の法領域との関係の整理を通じて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、明治以来の不正競争防止法の制定に至る経緯、及び、知的財産法が社会の或いは産業上のニーズに応じて制定されてきたことを説明できる。日本の不正競争防止法の特色について、諸外国との比較や、他の法領域との関係を整理して説明できる。		
	事前学修	教科書(「1章1節「不正競争防止法の歴史」、2節「不正競争防止法の目的」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	経済産業省HPの「政策について」>「不正競争防止法」の掲載内容を把握しておく。		120分
10	不正競争行為の類型(1)商品・営業主体混同行為、著名商品等表示の無断使用行為(冒用行為)、商品形態の隸属的模倣行為		不正競争防止法が規制する不正競争行為の中でも、特に標識法にあたる3類型について事例判例を踏まえて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、不正競争防止法が規制する不正競争行為のうち、特に標識法にあたる3類型について事例判例を踏まえて説明できる。		
	事前学修	教科書(1章3節「不正競争行為の種類」)の1～3に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」掲載の解説資料において、3類型に関する情報をみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べてみる。		120分
11	不正競争行為の類型(2)営業秘密及び限定提供データに係る不正競争行為		技術情報から営業情報までを含む営業秘密、さらに有用な情報(限定提供データ)に関する不正競争行為は、度々の法改正を通じて厳しく規制されている。それら規制の背景と留意事項を確認し、行為類型別に規制の在り方を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、営業秘密及び限定提供データに関する不正競争行為の背景と留意事項、行為類型別の規制の在り方について説明できる。		
	事前学修	教科書(1章3節4「営業秘密に関する不正競争行為」、5「限定提供データに関する不正競争行為」)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」の営業秘密、限定提供データに関する記事を読む。講義で紹介した判例について調べる。仮に自分が所属する営業主体において、営業秘密や有用な情報の保護に関する措置を採る立場に置かれた場合にどうするか、説明してみる。		120分
12	不正競争行為の類型(3)技術的制限手段無効化装置等の提供行為、ドメイン名にかかる不正行為、品質等誤認惹起行為、信用毀損行為、代理人等の商標無断使用行為		古典的といえるものから技術革新を通じて規制対象に加わったものまで、不正競争行為の多様な類型とその規制の意義について、事例判例を踏まえて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標②について、不正競争行為の多様な類型とその規制の意義について、事例判例を含めて説明できる。		
	事前学修	教科書(1章3節6～10)に目を通し、不明な点を調べる。		120分
	事後学修	経済産業省HP「政策について」>「不正競争防止法」の上記類型に関する情報をみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べてみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	不正競争防止法の適用除外、商標法・不正競争防止法の違反にかかる救済（１）民事	不正競争行為に対する適用除外の類型を整理した上で、これまで学んだ2つの法律規定に反する行為に直面した権利者がどのような措置を講ずることが可能か、権利者が権利行使をしやすいよう配慮されているか、まず民事的措置から解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①ないし③について、不正競争行為に対する適用除外の類型、商標法及び不競法の規定に反する行為に直面した権利者が講じることのできる民事的な措置について説明できる。	
	事前学修	教科書（１章7節「適用除外」、４節「不正競争行為に対する救済」）に目を通い、不明な点を調べる。	120分
	事後学修	知的財産高等裁判所のHPを閲覧して、裁判所の機能や知的財産に関する民事事件の傾向を把握する。講義で紹介された事例についてさらに調べる。	120分
14	商標法・不正競争防止法の違反にかかる救済（２）行政、刑事	知的財産侵害物品を規制する、税関による水際措置、及び、刑事手続きの概要と利用の現状について、権利者が利用可能な水際の輸出入差止申立てを含めて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①ないし③について、水際の輸出入差止申立てを含む税関による水際措置、及び、刑事手続きについて、概要と利用の現状を説明できる。	
	事前学修	教科書（１章８節）に目を通し、不明な点を調べる。税関HP＞知的財産侵害物品の取締り、警察庁HP＞内部部局から＞生活安全局 を閲覧する。	120分
	事後学修	講義で触れた税関、警察庁HPの関連ページを閲覧する。さらに、これまでに学んだ不正競争行為と並んで不正競争防止法が規制している外国・政府間国際機関の紋章等の使用制限、及び、外国公務員等に対する不正利益供与等の禁止に関して、教科書（１章５、６節）に目を通しておく。	120分
15	講義のまとめ	これまでの講義内容を概観し、期末レポート作成に向けて要点を確認する。	
	この回の到達目標	これまでの講義内容を概観し、期末レポート作成に向けて要点を確認する。	
	事前学修	教科書及びこれまでの資料類を整理し、見返しておく。	120分
	事後学修	期末レポートを作成する。	120分

科目名	知的財産法D(著作権) I	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富，多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても，個人の社会生活においても，身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため，前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な不可欠な基礎知識を修得するために，著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして，著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い，と実感してほしい。

【履修条件】
著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。基本の民法・民事訴訟法の基礎知識が著作権法の理解のベースとなることに留意すること。

【授業方法】
パワーポイントを使用して講義を進め，毎回復習資料をアップする。期間中に小テストを1回行う。定期試験の解説を後日解説する。基本的に講義形式であるが，受講生も積極的に手を挙げて発言してほしい。、試験問題解答のフィードバックは、後日答案構成を解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドにより，積極的な発言を促す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し，わかりやすく説明することができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④への進度を測るため、著作権法に関する条文、裁判例、事例問題の分析の3つの角度から、講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	到達目標①②への進度を測るため、期間中1回、著作権法の条文知識が習得されているかを判定する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③④への進度を測るため、質問を行い、質問に対する発言など授業への参加度・受講態度を評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を、後日、発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法判例百選 第6版	小泉直樹，他3名	有斐閣	2019	教科書	必携
標準 著作権法 第4版	高林龍	有斐閣	2019	教科書	推奨
「著作権法 第3版」	中山信弘	有斐閣	2020	参考書	任意
復習レジュメ	藤田 晶子		2021	その他	推奨
備考	各回復習レジュメをアップする。				

【オフィスアワー】
火曜日 16:30pm～17:30pm 研究室にて 事前にメールで予約を取ること。 e-mail : akiko_fujita@lapinrose.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士，財務省専門委員（知的財産），特許庁工業所有権審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての19年の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	著作権法制の概要	オリエンテーション，我が国の知的財産法および著作権法制の概要	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法および著作権法の概要について説明できる。	
	事前学修	教科書を購入して全体の目次に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
2	著作物性 (1) 書体，キャラクター	「著作物」とは何か。裁判例は最判平12.9.7（書体），最判平9.7.17（キャラクター）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「著作物」とは何か，様々なバリエーションや論点があることを理解する。書体やキャラクターに関する判例を通じて「著作物」の本質を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
3	著作物 (2) 応用美術，編集著作物，データベースの著作物	「応用美術」とは何か，「編集著作物」，「データベースの著作物」とは何か。裁判例は仙台高判平14.7.9（ファービー人形），東京地判平12.3.23（色見本帳），東京地判平12.3.17（データベース）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「応用美術」や「編集著作物」，「データベースの著作物」の特徴・論点を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
4	著作物 (3) 「二次的著作物」，「共同著作物」	「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か。裁判例は知高判平18.9.26（考古学研究事典），最判平13.10.25（キャンディ・キャンディ）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か，両者の特徴，相違点をなどを理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
5	「著作者」	「著作者」とは何か。映画の著作物の「著作者」はどのようなものか。裁判例は最判平5.3.30（智恵子抄），東京地判平10.10.29（雑誌のインタビュー記事）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、様々な事件の著作権の帰属主体に関する認定や、映画の著作物の場合の特殊性を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
6	「職務著作」	「職務著作」とは何か，裁判例は最判平15.4.11（RGBアドベンチャー），知高判平18.10.19（計装士学会）等 を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「職務著作」と条文，具体的論点についての解釈を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	著作権・「複製権」	「複製」とは何か、翻案との違い。裁判例は東京高判平14. 2. 18（雪月花），最判昭53. 9. 7（ワシ・レイニー・ナイト・イン・トーキョー）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「複製」とは何か、複製の要件、翻案との違い等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
8	「翻案権」 者の権利	・二次的著作物の原著作者の権利	「翻案」とは何か。裁判例は最判平13. 6. 28（江差追分），東京高判平14. 9. 6（記念樹）等を検討する。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「翻案」とは何か、判例の規範や二次的著作物の原著作者との関係を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
9	「公衆送信権」・「上演権」・「頒布権」等の支分権	複製権，翻案権以外の権利の内容。裁判例は東京高判平17. 3. 3（2ちゃんねる），最判平14. 4. 25（中古ソフト）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、複製権・翻案権以外の「支分権の束」と具体的判例を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
10	著作権の「制限」	私的複製，引用等の著作権の「制限」。裁判例は東京高判昭60. 10. 17（藤田嗣治），東京地判平9. 9. 5（ダリ）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法律上設けられている著作権の「制限」規定，論点，判例等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
11	権利譲渡・利用許諾	著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件，電子書籍関連。裁判例は知高判平20. 3. 27（VonDutch）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権のライセンス契約の実務，登録と対抗要件，出版権設定行為等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
12	「著作者人格権」，「著作隣接権」	著作者人格権の内容・条文。裁判例は東京地判平12. 2. 29（中田英寿），大阪地判平17. 1. 17（セキスイツーユーホーム）等を検討する。「著作隣接権」とは何か。著作権と著作隣接権の関係。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）の内容・条文，論点を理解する。著作隣接権とは何かを理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，「間接侵害」	各種知的財産権の保護期間，著作権の保護期間，著作権侵害に基づく差止請求。裁判例は東京高判平成17.3.31（P2Pファイル交換），最判平23.1.18（まねきＴＶ）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、保護期間，著作権侵害に基づく差止請求の構成や判例法理を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
14	侵害と救済し侵害等	著作権侵害に基づく損害賠償請求，損害額の算定方法。裁判例は最判平13.3.2（ビデオメイツ），東京地判平13.5.16（東京リーガルマインド）等を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権侵害に基づく損害賠償請求の算定方法，論点・解釈等を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
15	刑事罰，国際関係	著作権法の罰則規定の理解，国際裁判管轄，裁判例は実際の刑事事件を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法の罰則規定の理解，国際関係の論点を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

科目名	知的財産法D(著作権) I	担当者	齋藤 崇	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富、多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても、個人の社会生活においても、身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため、前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために、著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして、著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い、と実感してほしい。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
資料を配布して講義を行います。また、授業内容の定着度を確認したり、質問や要望等に応えたりしますので、リアクションペーパーを記入していただきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。		3		3	3			
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。		3		3	3			
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。		3		3	3			
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明することができる。		3		3	3			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、著作権法の基礎的知識について理解し、考察し、自己の見解として説明することができているのかを、試験により評価します。	10	20	20	20							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③④に関連して、各回の授業内容に関する自己の見解をリアクションペーパーに記入していただき、その内容から総合的に評価します。		10	10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の場合は試験後において、リアクションペーパーの場合は各回の授業の冒頭において行います。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法入門〔第3版〕	島並良・上野達弘・ 横山久芳	有斐閣	2021	参考書	任意
備考	使用しません。毎回、資料を配布します。				

【オフィスアワー】
木曜日の5時限目に設定します。研究室は、9号館1階9105研究室です。なお、事前にアポイントメントをいただけると対応しやすいです。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび総論	本授業のガイダンスおよび著作権法の総論について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の内容および著作権法の総論について理解しましょう。	
	事前学修	新聞やインターネットなどを利用して、著作権に関する話題について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権法の総論について復習し、整理しておいてください。	120分
2	著作物（1）	著作物の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作物の概要について理解しましょう。	
	事前学修	著作物について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作物の概要について復習し、整理しておいてください。	120分
3	著作物（2）	著作物の例示について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作物の例示について理解しましょう。	
	事前学修	第2回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作物の例示について復習し、整理しておいてください。	120分
4	著作物（3）	二次的著作物について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、二次的著作物について理解しましょう。	
	事前学修	第2回目・第3回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、二次的著作物について復習し、整理しておいてください。	120分
5	著作物（4）	編集著作物、データベースの著作物および応用美術と著作権法の関係について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、編集著作物、データベースの著作物および応用美術と著作権法の関係について理解しましょう。	
	事前学修	第2回目・第3回目・第4回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、編集著作物、データベースの著作物および応用美術と著作権法の関係について復習し、整理しておいてください。	120分
6	著作者・著作権者（1）	著作者・著作権者の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作者・著作権者の概要について理解しましょう。	
	事前学修	第2回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作者・著作権者の概要について復習し、整理しておいてください	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	著作者・著作権者（2）		職務著作制度の概要および当該制度の著作者・著作権者ならびに映画の著作物の著作者・著作権者について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、職務著作制度の概要および当該制度の著作者・著作権者ならびに映画の著作物の著作者・著作権者について理解しましょう。		
	事前学修	第2回目・第6回目の講義資料を確認しておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、職務著作制度の概要および当該制度の著作者・著作権者ならびに映画の著作物の著作者・著作権者について復習し、整理しておいてください。		120分
8	著作権（1）		著作権の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、著作権の概要について理解しましょう。		
	事前学修	第2回目・第3回目・第4回目・第5回目・第6回目・第7回目の講義資料を確認しておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権の概要について復習し、整理しておいてください。		120分
9	著作権（2）		複製権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、複製権について理解しましょう。		
	事前学修	第8回目の講義資料を確認しておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、複製権について復習し、整理しておいてください。		120分
10	著作権（3）		二次的著作物に関する権利の翻案権等について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、二次的著作物に関する権利の翻案権等について理解しましょう。		
	事前学修	第4回目・第8回目・第9回目の講義資料を確認しておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、二次的著作物に関する権利の翻案権等について復習し、整理しておいてください。		120分
11	著作権（4）		上演権・演奏権、上映権、公衆送信権等および口述権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、上演権・演奏権、上映権、公衆送信権等および口述権について理解しましょう。		
	事前学修	第3回目・第8回目の講義資料を確認しておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、上演権・演奏権、上映権、公衆送信権等および口述権について復習し、整理しておいてください。		120分
12	著作権（5）		展示権、頒布権、譲渡権および貸与権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、展示権、頒布権、譲渡権および貸与権について理解しましょう。		
	事前学修	第3回目・第8回目の講義資料を確認しておいてください。		120分
	事後学修	講義資料を確認して、展示権、頒布権、譲渡権および貸与権について復習し、整理しておいてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	著作権人格権（1）	著作権人格権の概要、公表権および氏名表示権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権人格権の概要、公表権および氏名表示権について理解しましょう。	
	事前学修	第2回目・第3回目・第4回目・第5回目・第6回目・第7回目・第8回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権人格権の概要、公表権および氏名表示権について復習し、整理しておいてください。	120分
14	著作権人格権（2）	同一性保持権、名誉声望保持権および著作者の死後の人格的利益の保護について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、同一性保持権、名誉声望保持権および著作者の死後の人格的利益の保護について理解しましょう。	
	事前学修	第2回目・第6回目・第8回目・第10回目・第13回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、同一性保持権、名誉声望保持権および著作者の死後の人格的利益の保護について復習し、整理しておいてください。	120分
15	まとめ	前期の内容のまとめおよび試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、著作権法の基礎的知識について理解し、考察し、自己の見解として説明してみましょう。	
	事前学修	各回の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	理解があやふやなところについて復習し、整理しておいてください。	120分

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅱ	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富、多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても、個人の社会生活においても、身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため、前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために、著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして、著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い、と実感してほしい。

【履修条件】
著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。基本の民法・民事訴訟法の基礎知識が著作権法の理解のベースとなることに留意すること。

【授業方法】
後期は毎回、初見の演習問題を配付する。パワーポイントを使用して講義を進め、毎回復習資料をアップする。期間中に小テストを1回行う。基本的に講義形式であるが、受講生にも積極的発言を促す。、試験問題解答のフィードバックは、後日答案構成を解説する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ソクラテスメソッドにより、積極的な発言を促す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し、わかりやすく説明するだけでなく、問題の解決能力を養うことができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④への進度を測るため、著作権法に関する条文、裁判例、事例問題の分析の3つの角度から、講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	到達目標①②への進度を測るため、期間中1回、著作権法の条文知識が習得されているかを判定する。	5	5									10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標③④への進度を測るため、質問を行い、質問に対する発言など授業への参加度・受講態度を評価する。			5	5							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
筆記試験の解説・講評を，後日，発表する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法判例百選 第6版	小泉直樹，他3名	有斐閣	2019	教科書	必携
標準 著作権法 第4版	高林龍	有斐閣	2019	教科書	推奨
「著作権法 第3版」	中山信弘	有斐閣	2020	参考書	任意
復習レジュメ	藤田 晶子		2021	その他	推奨
備考	各回復習レジュメをアップする。				

【オフィスアワー】
火曜日 16：30pm～17：30pm 研究室にて 事前にメールで予約を取ること。 e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士，特許庁工業所有権審議会委員，財務省専門委員（知的財産）
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての20年の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	著作権法制の概要	オリエンテーション，我が国の知的財産法および著作権法制の概要	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、著作権法制の概要，著作権法制全体の概要，条文構造を説明できる。	
	事前学修	教科書を購入して全体の目次に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
2	著作物性 (1) 書体，キャラクター	「著作物」に関する知識の確認と演習問題の分析をする。「著作物」とは何か，判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権法上の客体としての「著作物」に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
3	著作物 (2) 応用美術，編集著作物，データベースの著作物	「応用美術」，「編集著作物」，「データベースの著作物」に関する知識の確認と演習問題の分析をする。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「応用美術」や「編集著作物」，「データベースの著作物」の特徴・論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
4	著作物 (3) 二次著作物，「共同著作物」	「二次著作物」，「共同著作物」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、二次著作物，共同著作物に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
5	「著作者」	「著作者」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。「著作者」とは何か。映画の著作物の「著作者」はどのようなものか。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、権利の帰属主体に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
6	「職務著作」	「職務著作」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。「職務著作」とは何か，判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「職務著作」に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	著作権・「複製権」	「複製権」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。「複製」とは何か、翻案との違い。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「複製」に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
8	「翻案権」・二次的著作物の原著者の権利	「翻案権」・二次的著作物の原著者の権利に関する知識の確認及び演習問題を検討する。「翻案」とは何か。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「翻案」，二次的著作物の原著者との関係に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
9	「公衆送信権」・「上演権」・「頒布権」等の支分権	公衆送信権・上演権・頒布権・出版権等の支分権に関する知識の確認及び演習問題を検討する。複製権，翻案権以外の権利の内容。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、複製権・翻案権以外の支分権に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
10	著作権の「制限」	著作権の「制限」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。私的複製，引用等の著作権の「制限」。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、法律上設けられている著作権の「制限」に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
11	権利譲渡・利用許諾	著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件に関する知識の確認及び演習問題を検討する。著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件，電子書籍関連。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作権のライセンス契約の実務，登録と対抗要件に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
12	「著作者人格権」，「著作隣接権」	「著作者人格権」，「著作隣接権」に関する知識の確認及び演習問題を検討する。著作者人格権の内容・条文。「著作隣接権」とは何か。著作権と著作隣接権の関係。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，「間接侵害」	保護期間，侵害と救済（１）差止請求，間接侵害に関する知識の確認及び演習問題を検討する。各種知的財産権の保護期間，著作権の保護期間，著作権侵害に基づく差止請求。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，保護期間，著作権侵害に基づく差止請求に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
14	侵害と救済し侵害等	損害賠償請求，みなし侵害等に関する知識の確認及び演習問題を検討する。著作権侵害に基づく損害賠償請求，損害額の算定方法。判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，著作権侵害に基づく損害賠償請求に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分
15	刑事罰，国際関係	刑事罰，国際関係に関する知識の確認及び演習問題を検討する。著作権法の罰則規定の理解，国際裁判管轄，判例知識を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して，著作権法の罰則規定の理解，国際関係に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所および復習レジュメを読んでおくこと。	120分

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅱ	担当者	齋藤 崇	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
知的財産法の中でも我が国の著作権法上の「著作物」は創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富，多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。企業法務においても，個人の社会生活においても，身近で役立つ法律知識である著作権法の基礎を学修する。前期後期の1年を通じて社会で使いこなせる実践的な著作権法のマスターを目指すため，前期後期のセット履修が望ましい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
著作物の保護と利用に必要な基礎知識を修得するために，著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして，著作権法の条文の構造と法的論点を理解する。著作権法は面白い，と実感してほしい。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
資料を配布して講義を行います。また、授業内容の定着度を確認したり、質問や要望等に応えたりしますので、リアクションペーパーを記入していただきます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産の保護に関する法制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
②	著作権の保護に関する制度の概要及び目的を説明できるようになる。				3		3	3				
③	著作権に関するリーディング・ケースとなっている重要な裁判例の事実の概要、争点、判旨を説明することができる。				3		3	3				
④	著作権に関する法的問題を考察、分析し，わかりやすく説明するだけでなく，問題の解決能力を養うことができる。				3		3	3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関連して、著作権法の基礎的知識について理解し、考察し、自己の見解として説明することができているのかを、試験により評価します。	10	20	20	20							70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標②③④に関連して、各回の授業内容に関する自己の見解をリアクションペーパーに記入していただき、その内容から総合的に評価します。		10	10	10							30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	30	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の場合は試験後において、リアクションペーパーの場合は各回の授業の冒頭において行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
著作権法入門〔第3版〕	島並良・上野達弘・ 横山久芳	有斐閣	2021	参考書	任意
備考	使用しません。毎回、資料を配布します。				

【オフィスアワー】
木曜日の5時限目に設定します。研究室は、9号館1階9105研究室です。なお、事前にアポイントメントをいただけると対応しやすいです。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび総論	本授業のガイダンスおよび著作権法の総論について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業の内容および著作権法の総論について理解しましょう。	
	事前学修	新聞やインターネットなどを利用して、著作権に関する話題について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権法の総論について復習し、整理しておいてください。	120分
2	著作権の制限（1）	著作権の制限規定のうち、私的使用のための複製など主要なものについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権の制限規定のうち、私的使用のための複製など主要なものについて理解しましょう。	
	事前学修	著作権の制限について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権の制限規定のうち、私的使用のための複製など主要なものについて復習し、整理しておいてください。	120分
3	著作権の制限（2）	著作権の制限規定のうち、引用について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権の制限規定のうち、引用について理解しましょう。	
	事前学修	引用について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権の制限規定のうち、引用について復習し、整理しておいてください。	120分
4	著作権の制限（3）	著作権の制限規定のうち、その他実社会において知っておくべきものについて講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権の制限規定のうち、その他実社会において知っておくべきものについて理解しましょう。	
	事前学修	第2回目・第3回目の講義資料を確認して、これら以外の著作権の制限には何があるのかについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権の制限規定のうち、その他実社会において知っておくべきものについて復習し、整理しておいてください。	120分
5	著作隣接権（1）	著作隣接権の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作隣接権の概要について理解しましょう。	
	事前学修	著作隣接権について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作隣接権の概要について復習し、整理しておいてください。	120分
6	著作隣接権（2）	実演家の権利について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、実演家の権利について理解しましょう。	
	事前学修	第5回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、実演家の権利の権利について復習し、整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	著作隣接権（3）	レコード製作者の権利および放送・有線放送事業者の権利について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、レコード製作者の権利および放送・有線放送事業者の権利について理解しましょう。	
	事前学修	第5回目・第6回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、レコード製作者の権利および放送・有線放送事業者の権利について復習し、整理しておいてください。	120分
8	著作権の活用（1）	著作権の譲渡について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権の譲渡について理解しましょう。	
	事前学修	著作権の譲渡について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権の譲渡について復習し、整理しておいてください。	120分
9	著作権の活用（2）	著作物の利用許諾について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作物の利用許諾について理解しましょう。	
	事前学修	著作物の利用許諾について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作物の利用許諾の特徴について復習し、整理しておいてください。	120分
10	著作権の活用（3）	出版権について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、出版権について理解しましょう。	
	事前学修	出版権について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、出版権について復習し、整理しておいてください。	120分
11	著作権の侵害と救済（1）	著作権侵害の成立および侵害主体の考え方について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権侵害の成立および侵害主体の考え方について理解しましょう。	
	事前学修	どのような場合に著作権侵害が成立し、どのように侵害主体が認定されるのかについて調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権侵害の成立および侵害主体の考え方について復習し、整理しておいてください。	120分
12	著作権の侵害と救済（2）	みなし侵害について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、みなし侵害について理解しましょう。	
	事前学修	みなし侵害について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、みなし侵害について復習し、整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	著作権の侵害と救済（3）	著作権侵害に対する差止請求権および損害賠償請求権などにの救済手段について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権侵害に対する差止請求権および損害賠償請求権などの救済手段について理解しましょう。	
	事前学修	第11回目の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権侵害に対する差止請求権および損害賠償請求権などの救済手段について復習し、整理しておいてください。	120分
14	著作権の侵害と救済（4）	著作権侵害に対する刑事罰について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、著作権侵害に対する刑事罰について理解しましょう。	
	事前学修	新聞やインターネットなどを利用して、著作権侵害に対する摘発事例について調べておいてください。	120分
	事後学修	講義資料を確認して、著作権侵害に対する刑事罰について復習し、整理しておいてください。	120分
15	まとめ	後期の内容のまとめおよび試験を行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、著作権法の基礎的知識について理解し、考察し、自己の見解として説明してみましょう。	
	事前学修	各回の講義資料を確認しておいてください。	120分
	事後学修	理解があやふやなところについて復習し、整理しておいてください。	120分

科目名	知的財産法E(関連条約) I	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
知的財産法の国際的なルールについて講義する。具体的には、知的財産法の基本条約として、パリ条約について講義し、また、知的財産法の各論として、特許法に関する条約、意匠法に関する条約について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年、知的財産権を巡る国際的な争いや模倣品被害が増加する中、企業においては、知的財産制度の国際的なルールを理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産法に関する条約（国際法）の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、知的財産法に関する基本条約（パリ条約）のほか、特許法に関する条約、意匠法に関する国際条約の主要な論点を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）

【授業方法】
講義プリントを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。 レポート試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	知的財産関連条約の意義及び特質を説明することができる。		3		3				
②	国際出願にはどのような手続きが必要であるかを説明することができる。		3		3	3			
③	知的財産条約に関する主要な論点について説明することができる。				3	3			
④	知的財産条約をめぐる諸問題について自分の意見を述べることができる。。		3		3	3			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	到達目標①②③④について、知的財産条約に関する基礎的な制度や問題点などを理解しているか、レポート試験により評価する。	15	15	15	15								60
討論・発表等													
授業への参画度	リアクションペーパーにおいて、質問に対する解答を評価する。		20		20								40
その他()													
その他()													
その他()													
		到達目標別の比率(%)	15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産関係条約基本解説	奥田百子	法学書院	2017	教科書	任意
知的財産関係条約	茶園成樹	有斐閣	2015	教科書	任意
備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
	事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	W I P O 設立条約	W I P O 設立条約の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、W I P O 設立条約の概要について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、W I P O 設立条約の概要について考えてきてください。	120分
	事後学修	W I P O 設立条約の概要について復習し、W I P O の目的（W I P O 設立条約 3 条）、任務（W I P O 設立条約 4 条）などについて整理しておいてください。	120分
3	パリ条約（1）	パリ条約における「内国民待遇の原則」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、パリ条約の「内国民待遇の原則」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「内国民待遇の原則」（パリ条約 2 条、3 条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約の「内国民待遇の原則」について復習し、パリ条約第 2 条、第 3 条の解釈について整理しておいてください。	120分
4	パリ条約（2）	パリ条約における「優先権制度」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の「優先権制度」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「優先権制度」（パリ条約 4 条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約の「優先権制度」について復習し、パリ条約 4 条の解釈について整理しておいてください。	120分
5	パリ条約（3）	パリ条約における「各国独立の原則」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の「各国独立の原則」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の「各国独立の原則」（パリ条約第 4 条の 2、第 6 条 3 項）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約の「各国独立の原則」について復習し、パリ条約第 4 条の 2、第 6 条 3 項の解釈について整理しておいてください。	120分
6	パリ条約（4）	パリ条約における「不実施・不使用」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約における「不実施・不使用」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約における「不実施・不使用」（パリ条約 5 条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約における「不実施・不使用」について復習し、パリ条約 5 条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	パリ条約（５）	パリ条約における「各論」（特許・意匠・商標など）について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、パリ条約の各論（特許、意匠、商標など）について理解すること、	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、パリ条約の各論（特許、意匠、商標など、パリ条約５条の２以降）について考えてきてください。	120分
	事後学修	パリ条約の各論（特許、意匠、商標など、パリ条約５条の２以降）について整理しておいてください。	120分
8	まとめ（１）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をしてきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	特許に関する条約（１）	特許協力条約における「国際出願・国際公開」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許協力条約における「国際出願・国際公開」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国際出願・国際公開」（PCT第３条、第２１条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許協力条約における「国際出願・国際公開」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
10	特許に関する条約（２）	特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」（PCT第１５条、第３３条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
11	特許に関する条約（３）	特許協力条約における「国内段階」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、特許協力条約における「国内段階」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、特許協力条約における「国内段階」（PCT第２２条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	特許協力条約における「国内段階」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
12	意匠に関する条約（１）	ハーグ協定における「国際出願・国際登録」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「国際出願」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「国際出願」（ハーグ協定３条～９条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	ハーグ協定における「国際出願」について復習し、ハーグ協定３条～９条の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	意匠に関する条約（２）	ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「国際登録・国際公開」（ハーグ協定１０条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	ハーグ協定における「国際登録・国際公開」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	意匠に関する条約（３）	ハーグ協定における「拒絶の通報」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ハーグ協定における「拒絶の通報」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ハーグ協定における「拒絶の通報」（ハーグ協定１２条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	ハーグ協定における「拒絶の通報」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	まとめ（２）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をしてきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産法E(関連条約)Ⅱ	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
知的財産法の国際的なルールについて講義する。具体的には、知的財産法の基本条約として、TRIPS協定について講義し、また、知的財産法の各論として、商標法に関する条約、著作権法に関する条約について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近年、知的財産権を巡る国際的な争いや模倣品被害が増加する中、企業においては、知的財産制度の国際的なルールを理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産法に関する条約（国際法）の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、知的財産法に関する基本条約（TRIPS協定）のほか、商標法に関する条約、著作権法に関する国際条約の主要な論点を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）

【授業方法】
講義プリントを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、提供する。 レポート試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	知的財産関連条約の意義及び特質を説明することができる。		3		3				
②	国際出願にはどのような手続きが必要であるかを説明することができる。		3		3	3			
③	知的財産条約に関する主要な論点について説明することができる。				3	3			
④	知的財産条約をめぐる諸問題について自分の意見を述べることができる。		3		3	3			
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④について、知的財産条約に関する基礎的な制度や問題点などを理解しているか、レポート試験により評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーにおいて、質問に対する解答について評価する。		20		20							40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	15	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート試験の解説は、授業内又はポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
知的財産関係条約基本解説	奥田百子	法学書院	2017	参考書	推奨
知的財産関係条約	茶園成樹	有斐閣	2015	参考書	任意
備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。				

【オフィスアワー】
水曜日 5 時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 経済産業省の行政官、特許庁の審査官・審判官、弁理士
実務経験に基づく実践的教育の内容		国際出願書類の作成など、実務的な演習を授業に取り入れている。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	総論	知的財産権法の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、知的財産法の概要について理解すること。	
	事前学修	事前に参考書などを読んで、知的財産法の概要について考えてきてください。	120分
	事後学修	知的財産法の概要について復習し、それぞれの知的財産法の違いについて整理しておいてください。	120分
2	商標に関する条約（１）	マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について考えてきてください。	120分
	事後学修	マドリッド協定議定書の「国際出願、国際登録」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
3	商標に関する条約（２）	マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について考えてきてください。	120分
	事後学修	マドリッド協定議定書の「領域指定、拒絶の通報」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
4	商標に関する条約（３）	マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について考えてきてください。	120分
	事後学修	マドリッド協定議定書の「セントラル・アタック」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
5	著作権法に関する条約（１）	ベルヌ条約の概要について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ベルヌ条約について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ベルヌ条約の論点について考えてきてください。	120分
	事後学修	ベルヌ条約の概要について復習し、ベルヌ条約の論点について整理しておいてください。	120分
6	著作権法に関する条約（２）	ローマ条約、レコード保護条約について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、ローマ条約、レコード保護条約について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、ローマ条約、レコード保護条約の論点について考えてきてください。	120分
	事後学修	ローマ条約、レコード保護条約について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	著作権法に関する条約（３）	W I P O 著作権条約、W I P O 実演・レコード条約について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、W I P O 著作権条約、W I P O 実演・レコード条約について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、W I P O 著作権条約、W I P O 実演・レコード条約の論点について考えてきてください。	120分
	事後学修	W I P O 著作権条約、W I P O 実演・レコード条約について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
8	まとめ（１）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をしてきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分
9	T R I P S 協定（１）	T R I P S 協定における「一般規定・基本原則」（１条～８条） について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、T R I P S 協定における「一般規定・基本原則」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S 協定における「一般規定・基本原則」（T R I P S 協定１条～８条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	T R I P S 協定における「一般規定・基本原則」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
10	T R I P S 協定（２）	T R I P S 協定における「保護規範」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、T R I P S 協定における「保護規範」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S 協定における「保護規範」（T R I P S 協定９条～４０条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	T R I P S 協定における「保護規範」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
11	T R I P S 協定（３）	T R I P S 協定における「権利行使」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、T R I P S 協定における「権利行使」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S 協定における「権利行使」（T R I P S 協定４１条～６１条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	T R I P S 協定における「権利行使」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
12	T R I P S 協定（４）	T R I P S 協定における「知的所有権の取得・維持」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、T R I P S 協定における「知的所有権の取得・維持」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、T R I P S 協定における「知的所有権の取得・維持」（T R I P S 協定４２条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	T R I P S 協定における「知的所有権の取得・維持」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	TRIPS 協定（５）	TRIPS 協定における「紛争処理」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、TRIPS 協定における「紛争処理」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、TRIPS 協定における「紛争処理」（TRIPS 協定６３条、６４条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	TRIPS 協定における「紛争処理」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
14	TRIPS 協定（６）	TRIPS 協定における「経過措置」について講義します。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、TRIPS 協定における「経過措置」について理解すること。	
	事前学修	参考書、授業プリントを読んで、TRIPS 協定における「経過措置」（TRIPS 協定６５条～６７条）について考えてきてください。	120分
	事後学修	TRIPS 協定における「経過措置」について復習し、関連条文の解釈について整理しておいてください。	120分
15	まとめ（２）	これまでのまとめを行います。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を整理すること。	
	事前学修	これまでの授業の復習をしてきてください。	120分
	事後学修	正しく理解できなかったところをしっかりと確認しておいてください。	120分

科目名	知的財産政策	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			

【授業の概要】
知的財産は、経済・産業・社会の諸活動に深くかかわっており、国の発展、企業の競争力、暮らしの安全と安心の向上、文化の発展等に不可欠なものとなっている。本授業では、知的財産に関して講じられている政策を概観し、それらが講じられる背景、政策の内容、政策推進上の課題等について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
知的財産政策をめぐる今日的な課題とそれへの対応方法を学ぶことにより、知的財産を創造・保護・活用する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を獲得することを目的とする。より具体的には、知的財産政策に関わる法体系、推進体制等に関する知識を習得するとともに、知的財産政策の枠組、政策の現況、主要な政策課題の概要と対応策等について理解を深めることにより、企業等において創造的な活動に取り組む力を養成する。

【履修条件】
特に設けない。知的財産の活用を活発にすることに関心を持つ学生の受講を希望する。

【授業方法】
毎回配布する教材に基づき講義を行う。また、レポートの提出（授業内または課外学修）を複数回求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケート、小テスト等を行いながら理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	知的財産政策の策定・推進体制等知的財産政策に関する基本的事項を説明することができる。								2	2				
②	知的財産政策の基本理念及びその実現のための課題を説明することができる。								2	2				
③	現在推進されている知的財産政策の概要を説明することができる。								2	2	2			
④	主要な政策課題について、その概要、問題の所在及び問題解決のための取組を説明することができる。								2	2	2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	小テスト等により，到達目標①～④に関する知識と理解が身についているかを確認する。	15	15	10	10							50
レポート等	レポート等により，到達目標③～④に関する調査・分析が できているのかを評価する。			25	25							50
討論・発表等												
授業への参画度	出席回数が2/3に満たない者は採点の対象としない。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	35	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート，小テスト等の結果については，内容を取りまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない（必要な場合は授業中に指示する）				

【オフィスアワー】
特任教授室にて，水曜日13：30～14：30，事前に予約すること（kanazawa.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	経済産業省において，知的財産に関連する分野の政策立案・推進に携わった。
実務経験に基づく実践的教育の内容		知的財産をめぐって起こっている問題や課題を，事例を通じて授業に反映する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	本授業の概要、目的・到達目標、履修条件、授業方法、成績評価の方法等について説明する。また、知的財産政策に関する基本的な概念を学修する。	
	この回の到達目標	本授業の履修に必要な事項を理解する。また、到達目標①のうち、知的財産政策とは何かについて説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の概要、授業目的・到達目標、授業の進め方等を理解する。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。 知的財産政策とは何かについて自分なりの説明をまとめる。	120分
2	知的財産政策の枠組	知的財産政策の基本的な枠組である知的財産基本法、知的財産推進計画、知的財産戦略本部等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①のうち、知的財産政策の枠組について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	あらかじめ知的財産政策基本法に目を通し、その内容を把握する。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、知的財産政策の枠組について自分なりの説明をまとめる。	120分
3	知的財産政策の基本理念及び政策分野	知的財産政策の基本理念及び対象とする政策分野について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち、知的財産政策の基本理念及び対象とする政策分野について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	知的財産政策がどのような分野を対象として策定され、推進されているのかについて、あらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、知的財産政策の基本理念及び対象とする政策分野について自分なりの説明をまとめる。	120分
4	大学及び企業の活動と知的財産	大学及び企業の活動における知的財産の重要性とそれを踏まえた知的財産政策について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②のうち、大学及び企業の活動における知的財産の重要性及びそれを踏まえた政策について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	大学及び企業の活動と知的財産がどのように関わるのかについて、あらかじめ考えておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、大学及び企業の活動における知的財産の重要性及びそれを踏まえた政策について自分なりの説明をまとめる。	120分
5	知的財産政策の現況（知的財産戦略ビジョン）	2018年度に策定された知的財産戦略ビジョンを通じて知的財産政策の現況について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③のうち、知的財産戦略ビジョンを通じて知的財産政策の現況について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	あらかじめ知的財産戦略ビジョンに目を通し、その内容を把握する。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、知的財産政策の現況について自分なりの説明をまとめる。	120分
6	知的財産政策の現況（知的財産計画）	最新の知的財産推進計画を通じて知的財産政策の現況について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③のうち、最新の知的財産推進計画を通じて知的財産政策の現況について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	あらかじめ最新の知的財産推進計画に目を通し、その内容を把握する。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、知的財産政策の現況について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	主要な政策課題 1 科学技術イノベーションの推進	科学技術イノベーションにおける知的財産の役割、現況及び問題の所在、問題解決のための取組等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、科学技術イノベーションの推進について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	科学技術イノベーションとは何かについて、あらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、科学技術イノベーションの推進について自分なりの説明をまとめる。	120分
8	主要な政策課題 2 国際標準への対応	国際標準への対応について、その現況、問題の所在、問題解決のための取組等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、国際標準への対応について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	国際標準とは何かについて、あらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、国際標準への対応について自分なりの説明をまとめる。	120分
9	主要な政策課題 3 中小・ベンチャー企業、地域産業への知財支援	到達目標④のうち、中小・ベンチャー企業、地域産業に対する知財支援について、その現況、問題の所在、問題解決のための取組等について学修する。	
	この回の到達目標	中小・ベンチャー企業、地域産業に対する知財支援について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	中小・ベンチャー企業、地域産業の活性化に当たり、知的財産がどのような役割を果たすのかについて、あらかじめ考えておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、中小・ベンチャー企業、地域産業に対する知財支援について自分なりの説明をまとめる。	120分
10	主要な政策課題 4 クールジャパンの推進	クールジャパンについて、その現況、問題の所在、問題解決のための取組等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、クールジャパンについて理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	クールジャパンとは何かについて、あらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、クールジャパンについて自分なりの説明をまとめる。	120分
11	主要な政策課題 5 コンテンツ産業の振興	コンテンツ産業の振興について、その現況、問題の所在、問題解決のための取組等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、コンテンツ産業の振興について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	コンテンツ産業を振興するのに当たり、どのような政策が必要であるかについてあらかじめ考えておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、コンテンツ産業の振興について自分なりの説明をまとめる。	120分
12	主要な政策課題 6 知財教育・知財人材育成	知財教育・知財人材育成について、その現況、問題の所在、問題解決のための取組等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④のうち、知財教育・知財人材育成について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	知財教育・知財人材育成を推進するためにはどのような政策が必要であるのかについて、あらかじめ考えておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、知財教育・知財人材育成について自分なりの説明をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	主要な政策課題 7 その他の政策課題 1		知的財産推進計画の策定作業等において検討されている課題を取り上げ、その概要、問題の所在、問題解決のための取組について学修する。
	この回の到達目標	到達目標④のうち、新たな知的財産推進計画の策定作業等において検討されているその他の課題について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	授業で取り上げる課題を事前に提示するので、その概要をあらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、当該課題について自分なりの説明をまとめる。	120分
14	主要な政策課題 8 その他の政策課題 2		知的財産推進計画の策定作業等において検討されている課題を取り上げ、その概要、問題の所在、問題解決のための取組について学修する。
	この回の到達目標	到達目標④のうち、新たな知的財産推進計画の策定作業等において検討されているその他の課題について理解を深め、説明することができる。	
	事前学修	授業で取り上げる課題を事前に提示するので、その概要をあらかじめ調べておく。	120分
	事後学修	配布された教材を再確認し、当該課題について自分なりの説明をまとめる。	120分
15	授業のまとめ		本授業で学修した事項に関する振り返りとまとめを行う。
	この回の到達目標	到達目標①～④について、到達目標の達成状況を確認し、さらなる学修への課題を把握する。	
	事前学修	知的財産政策の現況、主要課題における取組等について学修したことを再確認する。	120分
	事後学修	到達目標の達成状況を自己評価し、さらなる学修への課題を明確にする。	120分

科目名	地方財政論Ⅰ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
国家財政と地方財政の違い，戦後，地方財政が経済成長のためにどのように利活用されてきたのかについて学ぶ．そのうえで，地方財政の中心的役割を担う地方交付税について国家財政との関係に鑑みながら学ぶ．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私たちの生活は地方自治体が供給するさまざまなサービスから影響を受けている．地方財政論Ⅰは，地方自治体がどのような経済活動によってサービスを提供しているのか，地方交付税を中心に学ぶ．そこから，地方財政の解決すべき問題を見つけ出すことを目的とする．地方財政の制度や仕組みを知り，また，新聞やニュース等で地方自治体が抱える問題を知ろう．そのうえで，改善策を自分の言葉で紡ぎだすことができるようになることがこの授業の最大の目標としている．

【履修条件】
特に無い．余裕があれば財政学も履修すると，より楽しく学ぶことができるだろう．また，後期に地方財政論Ⅱを履修すると，より理解が深まるであろう．

【授業方法】
【授業区分】に沿って，講義形式で進める予定である．授業の最後に質問やコメントを書いてもらい，次の授業でレスポンスするなど，双方向性を高めたいと考えている．定期試験の解説は試験終了後，ポータルシステムにて配信する．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が地方財政の制度，現状について知識を身に付け説明できるようにする．						3						
②	学生が自分の居住する地方自治体の問題点を発見し，解決方法を示せるようにする．								3				
③	学生が授業内容に対して自分の意見を述べられるようにする．									3			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が身についているかを筆記試験によって評価する.	40	45									85
小テスト等												
レポート等	到達目標③に関して，授業で学んだ内容に対し自分の意見（賛成反対など）を具体的かつ理論的に説明できているかを評価する.			15								15
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	45	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する.	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない．授業で使用する教材については，毎回ポータル等を通じて配布する.				

【オフィスアワー】	
授業後に講堂で受け付けるが，事前に下記のアドレスにメールを送ること．saito.hideaki@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 地方財政論とは.	ガイダンス ・履修上の注意. ・前期の授業では何か学ぶのか. ・財政学との違い.	
	この回の到達目標	シラバスを熟読し、授業を受ける心構えを持つ.	
	事前学修	新聞やニュースで地方財政について触れておく.	60分
	事後学修	シラバスを読み返し、履修すべきか否かをしっかりと考える. また、単位習得のための心構えをする.	180分
2	【歴史】 地方財政の過去と今を知る.	地方財政の過去と今 ・地方財政の歴史と現状.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政のこれまでにについて理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
	事前学修	全国総合開発計画を調べておく.	60分
	事後学修	地域開発政策を復習する.	180分
3	【制度】 公共財の性質を知る.	公共財の供給方法（１） ・地方公共財の定義. ・地域経済との関係.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公共財の性質を理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
	事前学修	公共財の性質を調べる.	60分
	事後学修	国家公共財と地方公共財の違いを整理する.	180分
4	【理論】 公共財の供給方法を知る.	公共財の供給方法（２） ・地方公共財の最適供給条件.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政状況を理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
	事前学修	サミュエル条件を調べる.	60分
	事後学修	地方公共財の最適供給条件を復習する.	180分
5	【理論】 公共財の供給過程を知る.	公共財の供給方法（３） ・公共財供給の決定過程.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政計画とは何かを理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
	事前学修	予算制約線と無差別曲線を確認、復習しておく.	60分
	事後学修	中央政府からの財政移転が必要な理由を説明できるようにする.	180分
6	【制度】 自治体の財政運営方法を知る.	国の財政と地方の財政（１） ・地方財政計画の決まり方. ・地方交付税の決まり方.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治体の財政依存を知る. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
	事前学修	今年度の地方財政計画を概観する.	60分
	事後学修	地方財政計画中の地方交付税の役割を説明できるようにする.	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【現象】財政運営の現状を知る。		国の財政と地方の財政（２） ・自治体の財政的依存の妥当性。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方交付税制度を理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。		
	事前学修	標準税率の意味を調べる。		60分
	事後学修	地方交付税と標準税率の効果の違いを説明できるようにする。		180分
8	【制度】地方財政計画の詳細を知る。		国の財政と地方の財政（３） ・地方財政計画の詳細。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方交付税の算定方法を理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。		
	事前学修	地方財政計画の歳出側を調べる。		60分
	事後学修	地方財政計画歳出の各項目を説明できるようにする。		180分
9	【制度】地方交付税の役割を学ぶ。		地方交付税の役割（１） ・基準財政需要額の考え方。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基準財政需要額について理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。		
	事前学修	基準財政需要額を確認する。		60分
	事後学修	基準財政需要額の考え方が妥当か否か考える。		180分
10	【制度】地方交付税と地方財政計画を結びつける。		地方交付税の役割（２） ・地方財政計画との関係。 ・簡素化の必要性。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基準財政需要額の計算方法について理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。		
	事前学修	新型交付税を調べ、個別算定の地方交付税との違いを明確にしておく。		60分
	事後学修	地方財政計画と地方交付税の関係を整理する。		180分
11	【制度】地方交付税の制度を知る。		地方交付税の役割（３） ・基準財政収入額、留保財源。 ・財源不足の場合の対処法。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、基準財政需要額の算定について理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。		
	事前学修	基準財政収入額、留保財源を調べる。		60分
	事後学修	留保財源の存在理由を復習する。		180分
12	【制度】地方交付税を算定する。		地方交付税の算定方法 ・基準財政需要額算定の方法。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方交付税の算定が妥当か否かを考える。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。		
	事前学修	基準財政需要額の算定式を調べる。		60分
	事後学修	単位費用、測定単位、補正係数を復習する。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【現状】自治体間の財政力格差と地方交付税に対する誤解について。	財政力格差と地方交付税 ・地方自治体の財政力格差. ・地方交付税に対する誤解.	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政力格差に対する地方交付税の役割を理解する. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
	事前学修	財政力格差の現状を調べる.	60分
	事後学修	格差の原因を説明できるようにする.	180分
14	【総括】前期授業の復習	前期授業のまとめと復習 ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方交付税に対する誤解を正せるようにする. 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする.	
	事前学修	第2回～第14回の内容を振り返っておく.	60分
	事後学修	授業の内容を復習し、テストに備える.	180分
15	前学期試験及び振り返り	前学期試験	
	この回の到達目標	前期授業の内容を復習し、単位を修得する.	
	事前学修	第14回までの内容を復習しておく.	60分
	事後学修	改めて前期の授業内容を振り返る.	180分

科目名	地方財政論Ⅱ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○	○			

【授業の概要】
国家財政と地方財政の違い，戦後，地方財政が経済成長のためにどのように利活用されてきたのかについて学ぶ．そのうえで，租税，公債，補助金について国家財政との関係に鑑みながら学ぶ．

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私たちの生活は地方自治体が生産するさまざまなサービスから影響を受けている．地方財政論Ⅱでは，地方財政の抱える問題を観察しながら，それらを解決するための方法を考え，自分の言葉で紡ぎだせるようにする． 地方財政の制度や仕組みを知り，また，新聞やニュース等で地方自治体抱える問題を知ろう．そのうえで，改善策を自分の言葉で紡ぎだすことができるようになることをこの授業の最大の目標とする．

【履修条件】
特に無し．余裕があれば財政学も履修すると，より楽しく学ぶことができるであろう．また，前期に地方財政論Ⅰを履修すると，より理解が深まるだろう．

【授業方法】
【授業区分】に沿って，講義形式で進める予定である．授業の最後に質問やコメントを書いてもらい，次の授業でレスポンスするなど，双方向性を高めたいと考えている．定期試験の解説は試験終了後，ポータルシステムにて配信する．

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が地方財政の制度，現状について知識を身に付け説明できるようにする．					3						
②	学生が自分の居住する地方自治体の問題点を発見し，解決方法を示せるようにする．							3				
③	学生が授業内容に対して自分の意見を述べられるようにする．								3			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②が身についているかを筆記試験によって評価する.	40	45									85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業で学んだ内容に対し自分の意見（賛成反対など）を具体的かつ理論的に説明できているかを評価する.			15								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	45	15								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を後日ポータルシステムにて配信する.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない．授業で使用する教材については，毎回ポータル等を通じて配布する．				

【オフィスアワー】
授業後に講堂で受け付けるが，事前に下記のアドレスにメールを送ること．saito.hideaki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】地方財政論とは。		授業の説明。 ・履修上の注意。 ・後期の授業では何か学ぶのか。
	この回の到達目標	シラバスを熟読し、授業を受ける心構えを持つ。	
	事前学修	新聞やニュースで地方財政について触れる。	60分
	事後学修	シラバスを読み返し、履修すべきか否かをしっかりと考える。また、単位習得のための心構えを持つ。	180分
2	【理論】地方税について。		地方税について学ぼう（１） ・租税徴収の根拠。 ・租税原則。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国税と地方税の違いを理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	身近な租税にはどのようなものがあるか調べる。	60分
	事後学修	国税と地方税の持つ役割の違いを整理する。	180分
3	【理論】地方税の問題について。		地方税について学ぼう（２） ・望ましい地方税制。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治体による徴税のメリット・デメリットを知る。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	予算制約線と無差別曲線を思い出しておきましょう。	60分
	事後学修	地方税のあるべき姿を整理しておきましょう。	180分
4	【理論】地方税と公共財の関係		地方税について学ぼう（３） ・スピルオーバー効果と解消方法。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国庫支出金の制度と意義を理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	スピルオーバー効果とは何か調べておきましょう。	60分
	事後学修	スピルオーバー効果の弊害と解消方法を整理しておきましょう。	180分
5	【制度】受益と負担の乖離		地方税について学ぼう（４） ・租税外部性、租税輸出。 ・課税競争、重複課税。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方債を含めた公債発行の弊害を理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	租税輸出とは何か調べておきましょう。	60分
	事後学修	人々の移動が自治体への税収にどう影響するか整理しておきましょう。	180分
6	【制度】国庫支出金について		国庫支出金について知ろう（１） ・国庫支出金の種類。 ・補助金の効果。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政健全化法について理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	国庫支出金の種類を整理しておきましょう。	60分
	事後学修	国庫支出金と地方交付税の違いを整理しておきましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【理論】 補助金用いた政策について		国庫支出金について知ろう（２） ・ 価格支持政策の効果.
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、健全化判断指標の相互関係、地方債発行との関係を理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	補助金の存在理由を考えておきましょう。	60分
	事後学修	補助金による政策誘導を整理しておきましょう。	180分
8	【制度】 地方債について		財源不足の対処法を考えよう ・ 地方債と国債の違い。 ・ 地方債の起債と財源調達手段.
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公営企業、第三セクターの役割について理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	公債について調べておきましょう。	60分
	事後学修	地方債の償還方法を整理しておきましょう。	180分
9	【制度】 財政健全化について		財政状況の判断材料を知ろう（１） ・ 自治体財政健全化法と旧法の違い.
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、2000年以降の地方分権の流れを理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	自治体財政健全化法を調べておきましょう。	60分
	事後学修	自治体の財政破綻はあり得るのか考えましょう。	180分
10	【制度】 財政状況の判断について		財政状況の判断材料を知ろう（２） ・ 財政健全化判断指標の関係.
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地域活性化のための経済成長理論を理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	財政健全化判断指標を整理しておきましょう。	60分
	事後学修	4つの指標の関係を整理しておきましょう。	180分
11	【制度】 行政区域を越えた事務処理方法		営利を目的とした自治体の行動を知ろう（１） ・ 一部事務組合、広域連合、第三セクター.
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業誘致とNIMBYの関係を理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	広域的な事務処理方法を調べておきましょう。	60分
	事後学修	広域行政の種類を整理しておきましょう。	180分
12	【制度】 公共料金の決定過程について		営利を目的とした自治体の行動を知ろう（２） ・ 公共料金の決定方法.
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原子力発電所誘致の効果を理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	身近な公共料金を調べておきましょう。	60分
	事後学修	公共料金設定の正当性を整理しておきましょう。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【現象】企業誘致の利用について。	自治体を成長させる方法を考えよう ・原子力発電所誘致。 ・核廃棄物処分場。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、核廃棄物処分場の立地問題を理解する。 到達目標③に関連して、自分の意見を述べられるようにする。	
	事前学修	原子力発電所が立地する地方自治体を調べてみましょう。	60分
	事後学修	原子力は地域振興の手段になるか否か考えてみましょう。	180分
14	後期授業のまとめ		後期授業のまとめと復習 ・授業内容の復習
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、費用対便益について理解する。 また、到達目標③に関連して、自分の意見を理論的に説明できるようにする。	
	事前学修	第2回～第14回の内容を振り返っておきましょう。	60分
	事後学修	授業の内容を復習し、テストに備えましょう。	180分
15	試験実施及び振り返り		後期末試験の実施
	この回の到達目標	単位修得	
	事前学修	第2回～第14回の内容を復習しておく。	60分
	事後学修	試験の出来に関わらず、後期に学んだ内容を復習する。	180分

科目名	地方自治法Ⅰ	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業では、地方自治法に関する重要な問題を取り上げて解説することで、地方自治法の理論や制度について基本的な知識や考え方を修得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地方自治法の全体像と主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて地方自治法の基本構造、地方公共団体の種類、事務、立法、財政等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに地方自治法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
オンデマンド（講義動画配信）

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治法をめぐって、どのような問題が生じているかを説明できる。						2		2					
②	地方自治法をめぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						2		2					
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①②にか かわる基礎知識が身についているかを確認する	10	10									20
レポート等	到達目標①②について、地方自治法に関する基礎的な知識 が十分に身についているかを、レポート課題により評価す る。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治法	池村好道・西原雄二 編	弘文堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室で、1部は木曜日１０：３０に、2部は水曜日１７：３０に質問を受付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 地方自治法の概説	授業のテーマや内容、成績評価の方法を含めて、地方自治法の学習方法等を学修したうえで、地方自治法の概要と重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法とはどのような法律なのか、その概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、六法で憲法と地方自治法について、ざっと目を通してみること。	120分
	事後学修	六法で憲法と地方自治法にざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。	120分
2	地方自治とは何か	地方自治の2つの要素である住民自治と団体自治の意義や内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の意義や重要性について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、感想をノートにまとめること。	120分
3	憲法上の地方自治	憲法が規定する地方自治の基本原則及び地方自治の主要なテーマが何であることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の基本原則と主要な問題について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	地方自治法の基本構造	地方自治法の基本構造と地方自治法とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学修者が地方自治法の基本構造について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
5	普通地方公共団体	普通地方公共団体の種類と特色について学修する。	
	この回の到達目標	普通地方公共団体の種類と特色について学修する。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつぎ合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
6	特別地方公共団体	特別地方公共団体の種類や内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特別地方公共団体の種類や内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつぎ合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地方公共団体の事務の歴史と特質	地方公共団体の事務の歴史と特質について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の歴史と特質について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
8	地方公共団体の事務の種類と内容	地方公共団体の事務の種類と内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の事務の種類と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
9	自治立法	地方公共団体における自治立法の意義や特色について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体における自治立法の意義や特色について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
10	条例制定権の諸問題	条例制定権をめぐる諸問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条例制定権に関する憲法と条例の問題について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。	120分
11	法律と条例	法律と条例をめぐる問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律と条例の関係について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
12	財政	地方公共団体の財政の仕組みや争点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の基本的な内容や原則について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	情報公開		情報公開制度の意義、情報公開条例、判例の展開について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、情報公開条例の意義や内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をまとめること。	120分
14	個人情報保護		個人情報保護制度の意義と概要について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、個人情報保護の重要性について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業の内容を講義ノート等で復習し、自分の考えを述べられるようにまとめること。	120分
15	授業内試験と解説		地方自治法の基本問題に関して、授業内試験（60分）を行い、残りの時間で解説をする。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の重要な論点について説明できる。	
	事前学修	教科書や講義ノート等を使って、レポート課題のための準備をする。	120分
	事後学修	レポート課題について、教科書や講義ノート等を使って復習をする。	120分

科目名	地方自治法Ⅱ	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
本授業では、地方自治法に関する重要な問題を取り上げて解説することで、地方自治法の理論や制度について基本的な知識や考え方を修得する。前期の「地方自治法Ⅰ」で取り上げなかった重要な問題を中心に解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
地方自治法の全体像と主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて地方自治法の基本構造、地方公共団体の種類、事務、立法、財政等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに地方自治法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、論理的思考を発揮する態度を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
オンデマンド

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治法をめぐって、どのような問題が生じているかを説明できる。				2		2					
②	地方自治法をめぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				2		2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①②にか かわる基礎知識が身についているかを確認する	10	10									20
レポート等	到達目標①②について、地方自治法に関する基礎的な知識 が十分に身についているかを、レポート課題により評価す る。	40	40									80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治法	池村好道・西原雄二 編	弘文堂	2019年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
研究室で、1部は木曜日１０：３０に、2部は水曜日１９：３０に質問を受付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、地方自治法の概説	授業のテーマや内容、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、地方自治法の概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の概要と重要性について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、六法で憲法と地方自治法について、ざっと目を通してみること。	120分
	事後学修	六法で憲法と地方自治法にざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。	120分
2	地方自治の歴史	地方自治の歴史と現代的意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の主要な歴史について説明できる。	
	事前学修	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
3	憲法と地方自治	憲法が規定する地方自治の基本原則と論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治の基本原則と主要な問題について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。	120分
4	地方自治法の全体像	地方自治法の全体像と主要な内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学修者が地方自治法の基本構造について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
5	地方公共団体の議会	地方公共団体の議会の特色、権限、運営等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の議会の基本的な仕組みについて説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
6	地方公共団体の執行機関	地方公共団体の執行機関の種類や内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の執行機関の基本的な仕組みについて説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	議会と執行機関の関係	地方議会と執行機関の関係について具体的に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議会と執行機関の關係の主要な特色について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
8	住民の参政権	地方公共団体の住民の参政権である選挙権、直接請求、住民投票について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の参政権の意義と種類について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。	120分
9	公の施設利用権	住民の権利の1つである公の施設利用権の意義や内容等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公の施設利用権の内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。	120分
10	住民監査請求	住民監査請求の仕組みと論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民監査請求の意義と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。	120分
11	住民訴訟	住民訴訟の仕組みと論点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民訴訟の意義と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をノートにまとめること。	120分
12	住民の義務	地方公共団体の住民の義務、行政サービス制限条例について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の義務の具体的内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地方公共団体に対する国の関与	地方公共団体に対する国の関与の意義、基本原則、手続について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国の関与の意義と基本原則について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をまとめること。	120分
14	国と地方の紛争処理制度	国と地方公共団体の紛争処理制度の意義と概要について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国と地方の紛争処理制度の重要性と内容について説明できる。	
	事前学修	事前に当該箇所について調べてみること。	120分
	事後学修	授業の内容を講義ノート等で復習し、自分の考えを述べられるようにまとめること。	120分
15	授業内試験と解説	地方自治法の基本問題に関して、授業内試験（60分）を行い、残りの時間で解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方自治法の重要な論点について説明できる。	
	事前学修	教科書や講義ノート等を使って、授業内試験のための準備をする。	120分
	事後学修	授業内試験の問題について、教科書や講義ノート等を使って復習をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】 第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。
--

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるように必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応するための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】 特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】 教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。
--

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中折をみてリアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。							1					
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。							1					
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。									1			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関して、身につけているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『地方自治を学ぶ－要点と資料－〔第2版〕』	賀来 健輔	三恵社	2019	教科書	必携
『Next教科書シリーズ地方自治論〔第2版〕』	福島 康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容			
1	ガイダンス：授業内容の説明		これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が受講の準備を具体的にできるようにする。		
	この回の到達目標	授業概要の説明において、到達目標①②③を踏まえた授業の内容であること、また講義計画、成績評価の方法、そして紹介された教科書、参考文献等を確認し、理解できる。			
	事前学修	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。		120分	
	事後学修	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。		120分	
2	1. 地方公共団体の種類(1)普通地方公共団体について①都道府県と市町村		普通地方公共団体のうち県・市町村について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。		
	この回の到達目標	県、市町村の制度的概要やその問題点などを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。			120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			120分
3	1. 地方公共団体の種類(2)普通地方公共団体について②指定都市と中核市ほか		普通地方公共団体のうち指定都市・中核市・施行時特例市について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。		
	この回の到達目標	指定都市・中核市・施行時特例市の制度的概要やその問題点を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。			120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			120分
4	1. 地方公共団体の種類(3)特別地方公共団体について①特別区と組合		特別地方公共団体のうち特別区・一部事務組合・広域連合について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。		
	この回の到達目標	特別地方公共団体のうち特別区・一部事務組合・広域連合について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。			120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			120分
5	1. 地方公共団体の種類(4)特別地方公共団体について②財産区とその他の外郭団体		特別地方公共団体の財産区と、また地方公共団体と関係性の深い外郭団体等について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。		
	この回の到達目標	特別地方公共団体の財産区と、また地方公共団体と関係性の深い外郭団体等について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。			120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			120分
6	2. 地方公共団体の区域(1)区域の変更について		市町村の区域の変更について、その制度的概要、問題点等を学ぶ。		
	この回の到達目標	市町村の区域の変更について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。			
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。			120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。			120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	2. 地方公共団体の区域(2)市町村合併について	市町村合併の制度的概要、その問題点等を学ぶ。	
	この回の到達目標	市町村合併の制度的概要、その問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
8	2. 地方公共団体の区域(3)平成の大合併とは何だったのか？	平成の大合併を検証し、その内容、意味合い、功罪等について学ぶ。	
	この回の到達目標	平成の大合併の内容、意味合い、功罪等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
9	2. 地方公共団体の区域(4)都道府県レベルの区域の問題-道州制と連邦制-	都道府県の区域の問題、具体的には道州制や連邦制について、その概要と問題点を学ぶ。	
	この回の到達目標	都道府県の区域の問題の意味するところについて理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
10	3. 地方公共団体の組織(1)首長、首長の補助機関	地方公共団体の組織のうち首長とその補助機関について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
	この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち首長とその補助機関について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
11	3. 地方公共団体の組織(2)出先機関、執行機関の付属機関	地方公共団体の組織のうち出先機関、執行機関の付属機関について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
	この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち、出先機関、執行機関の付属機関について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
12	3. 地方公共団体の組織(3)行政委員会①行政委員会とは何か？	地方公共団体の組織うち行政委員会について、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
	この回の到達目標	地方公共団体の組織のうち行政委員会について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	3. 地方公共団体の組織(4)行政委員会 ②行政委員会の有する課題	地方公共団体の組織うち行政委員会の個々の委員会について焦点を当て、その制度的概要と問題点等を学ぶ。	
	この回の到達目標	個々の行政委員会について、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
14	4. 地方公共団体の事務について	地方公共団体の事務について、その制度的概要、問題点等を学ぶ。	
	この回の到達目標	地方公共団体の事務に関して、その制度的概要、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は教科書、参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。	120分
15	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度を測るために、理解到達度試験を行う。また後半の時間を使って、試験の解説、また学期中のまとめとして、この間に行った主要な事柄に関する質問に答える。	
	この回の到達目標	半期で行った地方自治論の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	これまでの授業で学んだ事柄について、ノートや教科書、参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
	事後学修	これまでに授業でとった教科書、参考書、講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。それでも残った疑問点は教員に質問する。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	鈴木 隆志	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわきまえることを求める。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。毎回の授業の課題の提出および出席管理システム（レスポシ）を利用しての出席管理も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、身につけているかを毎回の授業内課題や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	30	30	25								85
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト、リアクションペーパーやレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論[第2版]	福島康仁編	弘文堂	2018	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例：寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。　suzuki.takashi●nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	川崎市市民オンブズマン専門調査員
実務経験に基づく実践的教育の内容		川崎市役所において市民オンブズマン専門調査員として勤務した経験から、公的オンブズマン制度をはじめ、オンブズマンの管轄である市の事務についての知識等を反映した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	地方自治とは	地方自治論について理解するために、地方自治、地方自治論とは何かについて学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治、地方自治論とは何かについて概説できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	地方政府と自治権	地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方政府と自治権について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方政府と自治権について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	明治時代の地方制度	現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代の地方制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代の地方制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、明治時代の地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	第二次世界大戦期までの地方制度	現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	日本国憲法と地方自治	現在の地方自治制度を理解するために、日本国憲法と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本国憲法と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本国憲法と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	地方公共団体の種類等	地方自治制度をを理解するために、地方公共団体の種類等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の種類等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体の種類等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の種類等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方公共団体内の諸機関		動態的に地方自治を理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体内の諸機関について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体内の諸機関について自分の意見を述べられるようになる。		120分
8	地方分権改革と地方自治		現在の地方自治をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。		120分
9	第一次地方分権改革以降の地方分権改革		現在の地方自治をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。		120分
10	地方財政制度		地方自治制度の基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政制度、歳入と歳出について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度について自分の意見を述べられるようになる。		120分
11	地方財政制度の改革等		地方自治の課題等を捉えるために、地方財政制度の改革等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方財政制度の改革等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度の改革等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
12	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政		わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の意見を述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	諸外国の中央 - 地方関係		わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	諸外国の地方自治		わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学修する。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、諸外国の地方自治制度と比較を行い、わが国の地方自治制度の特徴について考察し、意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括		地方自治の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の地方自治の歴史や制度等を考慮し、今後の地方自治のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識を確認し、今後の地方自治のあり方について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	120分

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	福島 康仁	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、オンデマンド講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 第2版	福島康仁編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員として自治体の政策形成に関与している点を生かして実際に教授する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	地方自治とは	地方自治論について理解するために、地方自治、地方自治論とは何かについて学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治、地方自治論とは何かについて概説できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
2	地方政府と自治権	地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学修し、説明できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方政府と自治権について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方政府と自治権について自分の意見を述べられるようになる。	120分
3	明治時代の地方制度	地方自治制度の成り立ちを理解するために、明治時代の地方制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代の地方制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、明治時代の地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
4	第二次世界大戦期までの地方制度	地方自治制度の成り立ちをよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分
5	日本国憲法と地方自治	現在の地方自治制度の制度保障を理解するために、日本国憲法と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本国憲法と地方自治について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、日本国憲法と地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
6	地方公共団体の種類等	地方自治制度の基本的枠組みを理解するために、地方公共団体の種類等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の種類等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体の種類等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の種類等について自分の意見を述べられるようになる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地方公共団体内の諸機関		地方自治の枠組みを理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体内の諸機関について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体内の諸機関について自分の意見を述べられるようになる。		120分
8	地方分権改革と地方自治		地方自治の改革をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。		120分
9	第一次地方分権改革以降の地方分権改革		現在の地方自治の制度改革をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の意見を述べられるようになる。		120分
10	地方財政制度		地方自治制度の財政的な基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方財政制度、歳入と歳出について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度について自分の意見を述べられるようになる。		120分
11	地方財政制度の改革等		地方自治の課題等を捉えるために、地方財政制度の改革等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、地方財政制度の改革等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方財政制度の改革等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
12	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政		わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の意見を述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	諸外国の中央 - 地方関係	わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	諸外国の地方自治	わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、諸外国の地方自治制度と比較を行い、わが国の地方自治制度の特徴について考察し、意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、諸外国の地方自治について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	前期の講義の総括	地方自治の制度的な課題等について理解するために、これまでの講義の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の地方自治の歴史や制度等を考慮し、今後の地方自治のあり方、自らの行動について考え、意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識を確認し、今後の地方自治のあり方について考察する。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『地方自治を学ぶ－要点と資料－〔第2版〕』	賀来 健輔	三恵社	2019	教科書	必携
『Next教科書シリーズ地方自治論〔第2版〕』	福島 康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日12時10分～13時。また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールで面談の予約を取ること。研究室：本館7階1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	5. 地方議会の組織と機能(1)議会の基本的性格		議会の基本的性格、議会の組織と運営について、その制度的概要と問題点を学ぶ。	
	この回の到達目標	議会の基本的性格、議会の組織と運営について、その制度的概要と問題点などを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
2	5. 地方議会の組織と機能(2)議会の権限ほか		議会の権限、議会と住民との関係、地方議会の諸問題等について学ぶ。	
	この回の到達目標	議会の権限、議会と住民との関係、地方議会の諸問題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
3	6. 地方公共団体への住民参加(1)住民参加とは何か？		地方公共団体への住民参加について、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
	この回の到達目標	地方公共団体への住民参加について、その制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
4	6. 地方公共団体への住民参加(2)「統制」の観点から住民参加を理解する		地方公共団体への住民参加について、政治や行政への「統制」という観点から焦点を当て、その制度的概要やその問題点等を学ぶ。	
	この回の到達目標	地方公共団体への住民参加について、政治や行政への「統制」という観点からを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
5	6. 地方公共団体への住民参加(3)直接請求制度とは何か？		地方公共団体への住民参加のうち、直接請求制度の制度的概要やその問題点等について学ぶ。	
	この回の到達目標	地方公共団体への住民参加のうち、直接請求制度の制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分
6	6. 地方公共団体への住民参加(4)住民投票制度について		地方公共団体への住民参加のうち、条例に基づく住民投票の制度的概要やその問題点等について学ぶ。	
	この回の到達目標	地方公共団体への住民参加のうち、条例に基づく住民投票の制度的概要やその問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。		120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	7. 地方公共団体に対する統制(1)情報公開制度について①制度的概要	情報公開制度の概要、変遷、制度の仕組みについて学ぶ。		
	この回の到達目標	情報公開制度の概要、変遷、制度の仕組みを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
8	7. 地方公共団体に対する統制(2)情報公開制度について②制度に有する論点と課題	情報公開の「範囲」をめぐる論点、その課題等について学ぶ。		
	この回の到達目標	情報公開の「範囲」をめぐる論点、その課題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
9	7. 地方公共団体に対する統制(3)オンブズマン制度について①制度的概要	オンブズマン制度の概要、変遷、制度の仕組みについて学ぶ。		
	この回の到達目標	オンブズマン制度の概要、変遷、制度の仕組みを理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
10	7. 地方公共団体に対する統制(4)オンブズマン制度について②事例研究	川崎市のオンブズマン制度を事例として、その制度と実態、課題等について学ぶ。		
	この回の到達目標	川崎市のオンブズマン制度を事例として、その制度と実態、課題等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
11	8. 地方公共団体の基本原理(1)憲法から見た地方自治	日本国憲法から地方自治について、その概要と問題点等を学ぶ。		
	この回の到達目標	日本国憲法から地方自治について、その概要と問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	
12	8. 地方公共団体の基本原理(2)地方自治に関する所論について	地方自治に関する所論を取り上げ、その概要を紹介すると共に課題、問題点等について学ぶ。		
	この回の到達目標	地方自治に関する所論を取り上げ、その概要を紹介すると共に課題、問題点等を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。		
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分	
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	9. 地方公共団体の歴史的変遷(1)戦前の地方制度	戦前の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性について学ぶ。	
	この回の到達目標	戦前の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
14	9. 地方公共団体の歴史的変遷(2)戦後の地方制度	戦後の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性について学ぶ。	
	この回の到達目標	戦後の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的文脈での理解することの重要性を理解し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。	120分
	事後学修	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。	120分
15	授業のまとめ～理解の到達度を測る	授業全体を通した理解度は測るために、理解到達度試験を行う。後半の時間を使って、試験の解説、また期間のまとめとして、この間行った主要な事柄について質問に答える。	
	この回の到達目標	半期で行った地方自治論の全体像を有機的に理解し直し、到達目標①②③を自分のものとすることができる。	
	事前学修	これまでの授業で学んだ事柄について、教科書、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。	120分
	事後学修	これまでに授業でとった教科書、参考書、講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。それでも残った疑問点は教員に質問し、期末試験の準備を行う。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなどの基本的なマナーをわかまえていることを求める。

【授業方法】		
教科書を指定し、講義形式により行う。授業の流れ、評価方法、参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。毎回の授業の課題の提出および出席管理システム（レスポん）を利用しての出席管理も行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、身につけているかを毎回の授業内課題や小テスト等により評価する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	30	30	25								85
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身につけているかを確認する。なお、授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論[第2版]	福島康仁編	弘文堂	2018	教科書	
政治学〔第2版〕	吉野篤編	弘文堂	2018	参考書	
備考	その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例：寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）				

【オフィスアワー】
火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。　suzuki.takashi●nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	川崎市市民オンブズマン専門調査員
実務経験に基づく実践的教育の内容		川崎市役所において市民オンブズマン専門調査員として勤務した経験から、公的オンブズマン制度をはじめ、オンブズマンの管轄である市の事務についての知識等を反映した教育を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	地方自治制度と自治体	地方自治論についてよりよく理解するために、地方自治制度について確認し、自治体のあり方等について学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治制度における自治体のあり方について概説できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。	120分	
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治制度における自治体のあり方について自分の意見を述べられるようになる。	120分	
2	新たな自治体経営の手法	自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PFIや指定管理者制度について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。	120分	
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、新たな自治体経営の手法等について自分の意見を述べられるようになる。	120分	
3	自治体経営の具体例	自治体経営の手法等について理解するために、行政評価等について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政評価等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、行政評価等について自分の考えをまとめる。	120分	
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政評価等について自分の意見を述べられるようになる。	120分	
4	自治体の行政統制（監査制度）	地方自治を動的に理解するために、自治体の監査制度等について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の監査制度等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。	120分	
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、監査制度等について自分の意見を述べられるようになる。	120分	
5	自治体の行政統制（公的オンブズマン制度）	地方自治を動的に理解するために、公的オンブズマン制度等について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公的オンブズマン制度等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、公的オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。	120分	
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公的オンブズマン制度について自分の意見を述べられるようになる。	120分	
6	自治体の広報・公聴活動	地方自治の現状について理解するために、自治体の広報・公聴活動について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の広報・公聴活動について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。	120分	
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の広報・公聴活動について自分の意見を述べられるようになる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	自治体の情報化		地方自治の現状について理解するために、自治体情報化と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体情報化と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の情報化について自分の意見を述べられるようになる。		120分
8	住民の役割や協働		地方自治を動的に理解するために、住民の役割や協働について学修する。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の役割や協働について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民の役割や協働について自分の意見を述べられるようになる。		120分
9	住民参加の制度やコミュニティ		地方自治を動的に理解するために、住民参加の制度やコミュニティについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民参加の制度やコミュニティについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民参加の制度やコミュニティについて自分の意見を述べられるようになる。		120分
10	住民運動や自治基本条例		地方自治を動的に理解するために、住民運動や自治基本条例等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民運動や自治基本条例等について説明できる		
	事前学修	教科書を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民運動や自治基本条例等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
11	自治体の行政組織及び特徴		地方自治の行政、執行について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の行政組織及び特徴等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の行政組織及び特徴等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の行政組織及び特徴等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
12	持続可能な発展と地方自治		地方自治における課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、持続可能な発展と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治における持続可能な発展等について自分の意見を述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自治体における政策	地方自治を動的に理解するために、自治体における政策過程や体系について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体における政策過程や体系について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体における政策過程や体系について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	自治体の政策の事例	地方自治の現状や課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、環境政策等について、自治体における政策過程や国や住民との関係について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	これまでの講義の総括	わが国の自治体内の組織や運営、政策の特徴や課題等について説明できるようになるために、これまでの講義の総括を行う。これまでの授業についての確認も行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の自治体の現状や課題を理解し、今後の自治体のあり方、自らの行動について考え、意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	わが国の自治体内の組織や運営、政策について、初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、講義内容についての理解を深める。	120分

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○				

【授業の概要】
第一次地方分権改革以降、地域社会における地方自治体の役割は飛躍的に増大している。この授業では、地域社会における主人公である「住民」と「地方自治体」、そして「その他のアクター」との関係性に注目しながら、地方自治の制度、歴史、機能、そして政策過程に関する基本的な事項を学修する。特に地方自治に関わる諸問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材として授業内容に取り入れていくことに力を注ぐ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として必要な能力を身につけるために、地方自治に関する基礎的知識を修得する。また、その知識をもとに地方自治における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ主体的に行動できるために、必要な能力を修得する。加えて地方公務員試験の受験志望者にあつては、専門試験に対応できるための基礎的知識、思考（考え方）を修得する。

【履修条件】
特にないが、併せて、「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方財政論Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】		
教科書を指定し、オンデマンド講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地方自治に関する主要な概念や理論を識別することができる。						1						
②	地方自治で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						1						
③	地方自治に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。								1				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関して、身についているかを筆記試験により評価する。	30	30	25								85
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクションペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身についているかを確認する。	5	5	5								15
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論 〔第2版〕	福島 康仁 編	弘文堂	2018	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（本号館1603）（事前にメールでアポイントメントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		自治体審議会委員として自治体の政策形成に関与している。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	地方自治制度と自治体		地方自治論についてよりよく理解するために、地方自治制度について確認し、自治体のあり方等について学修する。また、地方自治論について適切に学修するために授業テーマや受講の際の注意点、評価方法等について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方自治制度における自治体のあり方について概説できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。」		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治制度における自治体のあり方について自分の意見を述べられるようになる。		120分
2	新たな自治体経営の手法		ニューパブリックマネジメントにもとづくあたらしい自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度ついて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、PFIや指定管理者制度ついて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、新たな自治体経営の手法等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
3	自治体経営の具体例		市場原理が機能しないため、行政に導入された自治体経営の手法等について理解するために、行政評価等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政評価等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、行政評価等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、行政評価等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
4	自治体の行政統制（監査制度）		アカウンタビリティと地方自治を動的に理解するために、自治体の監査制度等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の監査制度等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、監査制度等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
5	自治体の行政統制（公的オンブズマン制度）		行政責任と行政統制を理解するために、公的オンブズマン制度等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公的オンブズマン制度等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、公的オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、公的オンブズマン制度について自分の意見を述べられるようになる。		120分
6	自治体の広報・公聴活動		行政の外への発信と住民との信頼確保の方策ついて理解するために、自治体の広報・公聴活動について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の広報・公聴活動について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の広報・公聴活動について自分の意見を述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	自治体の情報化		地方自治の内部管理と外部との情報管理について理解するために、自治体情報化と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体情報化と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の情報化について自分の意見を述べられるようになる。		120分
8	住民の役割や協働		地域におけるアクターの役割分担とちいきづくりに理解するために、住民の役割や協働について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民の役割や協働について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民の役割や協働について自分の意見を述べられるようになる。		120分
9	住民参加の制度やコミュニティ		住民参加に理解するために、住民参加の制度やコミュニティについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民参加の制度やコミュニティについて説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民参加の制度やコミュニティについて自分の意見を述べられるようになる。		120分
10	住民運動や自治基本条例		地域の自立的運営について理解するために、住民運動や自治基本条例等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、住民運動や自治基本条例等について説明できる		
	事前学修	教科書を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、住民運動や自治基本条例等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
11	自治体の行政組織及び特徴		自治の運営主体である自治体について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体の行政組織及び特徴等について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、自治体の行政組織及び特徴等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の行政組織及び特徴等について自分の意見を述べられるようになる。		120分
12	持続可能な発展と地方自治		持続可能な地域課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、持続可能な発展と地方自治について説明できるようになる。		
	事前学修	教科書を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。		120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、地方自治における持続可能な発展等について自分の意見を述べられるようになる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自治体における政策	自治体の政策過程について理解するために、自治体における政策過程や体系について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自治体における政策過程や体系について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体における政策過程や体系について自分の意見を述べられるようになる。	120分
14	自治体の政策の事例	地域課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、環境政策等について、自治体における政策過程や国や住民との関係について説明できるようになる。	
	事前学修	教科書を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	教科書、授業ノート、関連文献等を参照し、自治体の政策について自分の意見を述べられるようになる。	120分
15	後学期の講義の総括	わが国の自治体内の組織や運営、政策の特徴や課題等について説明できるようになるために、これまでの講義の総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、わが国の自治体の現状や課題を理解し、今後の自治体のあり方、自らの行動について考え、意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	わが国の自治体内の組織や運営、政策について、初回から学修してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、自分の考えをまとめる。	120分
	事後学修	これまで配布した資料や教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。	180分

科目名	調査ジャーナリズム	担当者	石井 育子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
近年の「放送と通信の融合」の中で、放送ジャーナリズムのあり方も変化を余儀なくされている。ここでは特に音声メディアであるラジオを中心に、災害報道、市民との関係など、メディア特性を生かした表現方法や独自のジャーナリズムの可能性と課題について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
変革期にあるラジオのジャーナリズム機能について 歴史や産業構造を含めて知識を身につけ、音・声のメディア＝ラジオをめぐる現状と課題、可能性を考察する力を修得する。

【履修条件】
特にありません。音声メディアに関心があれば十分です。

【授業方法】
講義形式で行う。また期間中、授業内レポートを数回実施。必要に応じて現場記者、制作者などの話を聞く機会を持つ。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	当該テーマに関する音声（ラジオ・ネット番組等）を全員で聴いたのちに、内容に関するグループディスカッションや質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ラジオのジャーナリズム機能についてどのようなものか、番組ジャンルの表現、成り立ちなど特徴について基礎知識を身につける。【知識】				3							
②	海外も含めた音声メディアに関する産業構造を理解する【知識・技能】					3						
③	ラジオジャーナリズムがどのように成立しているのか歴史的背景をも含めて理解を深める。【知識・技能】						3					
④	ラジオの報道的役割、ジャーナリズム性が今後増加するデジタルコンテンツの中でどのような可能性を持ちうるか考察する能力を持つ。【技能】							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義最終回に 授業全体についての理解度、背景を含めた知識の定着度、並びにテーマに関する論理的思考力を問うことを目的とした授業内レポートを実施する。	20	20	10	20							70
討論・発表等												
授業への参画度	授業の進展に応じて、最新ニュースを中心にやり取りし、 個々人の社会的な関心の深まりを検証していく。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
期間中に実施した授業内レポートについては、採点基準を説明するとともに内容の講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要な場合は適宜指定する。				

【オフィスアワー】
授業後に質問を受け付ける。必要な時はメールで対応していく（ishii195.edu@gmail.com）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	在京ラジオ局に３０年以上勤務。報道、CM制作、番組制作、出版事業などに携わる。
実務経験に基づく実践的教育の内容		経験を踏まえ、制作現場の現状、背景、問題などについて実践的に解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 放送メディア概観	放送メディアの概況。本講義の主旨、概要などについて説明する。	
	この回の到達目標	放送メディアの中でも特に音メディアに絞り検討する意義を理解する。	
	事前学修	シラバスを読み講義内容を把握しておく	120分
	事後学修	ガイダンス内容を再確認する	120分
2	ラジオ概論①	ラジオとは何か、ラジオに関わる仕事とは？ ＊ラジオとジャーナリズム ＊特性	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、ラジオというメディアの特徴を理解する。	
	事前学修	興味ある番組を探し調査対象として聴いてみる。	120分
	事後学修	講義を踏まえラジオ業界について復習する。	120分
3	ラジオ概論②	ラジオ史概観 時代背景と社会への影響 ＊ラジオとジャーナリズム 新聞とは異なるジャーナリズム性	
	この回の到達目標	到達目標①③に関して、メディア史の中の変容を理解する	
	事前学修	放送史の中でラジオがどう扱われているか調べる	120分
	事後学修	講義の復習と整理	120分
4	ラジオ概論③	様々なコンテンツ 番組、事業 番組の形態（録音・生番組、ワイド、エンタメ、報道、ドラマ）	
	この回の到達目標	到達目標①③に関して、音声のみでの表現の特性を知る	
	事前学修	興味ある番組を探し調査対象として聴いてみる。	120分
	事後学修	講義の復習	120分
5	ラジオ産業①	産業構造 一民放を成り立たせているもの（ネットワーク、編成、広告、聴取率など）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ラジオ産業全般を理解する	
	事前学修	配布された資料を読んでおく	120分
	事後学修	講義の整理とノートの確認	120分
6	ラジオ産業②	地域とラジオ 県域の構造と特徴 県域、ネットワーク、コミュニティFM 仕組みと関係性	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ローカルメディアとしてラジオの役割を理解する。	
	事前学修	記事などでラジオのローカル番組について調べておく。	120分
	事後学修	ラジオローカルならではの特色をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ラジオ報道論①	ニュース、情報番組はどう作られるか ラジオとジャーナリズム リスナーとのコミュニケーション	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、テレビ報道との違いを理解する。	
	事前学修	ラジオの報道番組を聴いておく。	120分
	事後学修	講義の復習と整理	120分
8	ラジオ報道論②	災害報道への取り組み（１）（地震、台風、有事） キー局 日常の準備と災害時の動き	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、有事のラジオの役割と業務を理解する。	
	事前学修	指定した情報を調べておく。	120分
	事後学修	講義の復習と整理	120分
9	ラジオ報道論③	災害報道への取り組み（２） ローカル局 日常の準備と災害時の動き	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、地域メディアとしてローカルラジオの役割を理解する。	
	事前学修	指定した情報を調べておく。	120分
	事後学修	前回も含めた講義の整理	120分
10	ラジオドキュメンタリー	主に報道ドキュメンタリーについて	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、テレビとは異なる表現を理解する。	
	事前学修	指定した作品を聴いておく。	120分
	事後学修	講義の復習と整理	120分
11	ラジオドラマ論①	歴史と現場概観 制作者を通じて見たラジオドラマの変遷	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、ラジオドラマの歴史的変化について理解する。	
	事前学修	興味のあるラジオドラマを研究対象として聴いておく。	120分
	事後学修	いくつかの作品について制作された時代背景をまとめる。	120分
12	ラジオドラマ論②	ドラマ制作について ※ゲスト	
	この回の到達目標	到達目標③④に関して、音のみの特性におけるドラマの制作過程を理解する	
	事前学修	配布された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	講義内容をノートに整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ラジオの未来像①	放送と通信、国の政策、海外動向 誕生する様々な音声コンテンツ	
	この回の到達目標	到達目標②④に関して、海外も含めラジオ周辺動向と課題を理解する。	
	事前学修	指定された資料を読んでおく。	120分
	事後学修	講義を復習して課題整理を行う。	120分
14	ラジオの未来像②	デジタルコンテンツの試み ラジオ局が制作するネットコンテンツにはどのような特色があるのか	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関して、現状と課題を理解し、考えることができる。	
	事前学修	関係資料を調べておく（聴いておく）	120分
	事後学修	講義を復習して課題整理を行う。	120分
15	総括・振り返り	まとめ 質問	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して 理解度を確認するとともに音メディアの役割について説明することができる	
	事前学修	これまでの講義内容についてノートを活用して再確認する。	120分
	事後学修	学修したことを総括する。	120分

科目名	倒産法Ⅰ	担当者	杉本 純子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この講義では、日本の倒産法制のうち、清算型倒産手続の一つである破産法を学ぶ。さらに、各々の倒産手続の流れを学ぶとともに、倒産手続の開始に伴う契約関係の処理や相殺権の行使など倒産実体法についても理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における倒産処理手続の必要性を理解するために、破産手続を中心とする一連の倒産法制の概要や手続きの流れ、相違点や論点等を修得する。

【履修条件】
担保物権、債権総論・各論の知識がある方が望ましい。六法は最新のものを持参すること。

【授業方法】
事前にレジュメを配布して講義を行う。講義では、スライド（パワーポイント）も使用しながら、配布レジュメに沿って進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産処理制度の概要について説明することができる。				3		3					
②	破産手続の基本的な流れを説明することができる。				3		3					
③	倒産実体法の内容について、民法と比較して説明することができる。				3		3					
④	破産手続における担保権の役割について説明することができる。				3		3					
⑤	破産手続における双方未履行双務契約の取扱いについて説明することができる。				3		3					
⑥	破産手続における相殺権の取扱いについて、相殺の担保的機能とともに説明することができる。				3		3					
⑦	詐害行為取消権と否認権の制度について、比較することができる。				3		3					
⑧	消費者破産手続の必要性について説明することができる。				3		3					
⑨	消費者破産における免責手続について説明することができる。				3		3					
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④⑤⑥⑦⑧に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20					10			70
小テスト等												
レポート等	提出されたリアクションペーパー等の小レポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④⑤⑥⑦にかかわる基礎知識が身についているかを評価する				5	5	5	5				20
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見をどれだけ活発にできたかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	5	5	5	5	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
倒産処理法入門（第5版）	山本 和彦	有斐閣	2018	参考書	推奨
有斐閣ストゥディア 倒産法	倉部真由美ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
現代倒産手続法	中島弘雅＝佐藤鉄男	有斐閣	2013	参考書	推奨
倒産判例百選（第6版）	松下淳一ほか編	有斐閣	2021	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:00－13：00（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（4号館1階413研究室） sugimoto. junko@nihon-u. ac. jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 倒産処理制度の概要 導入講義	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、倒産処理制度の概要について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、倒産処理制度とはどのような制度なのか、その概要と必要性について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、倒産手続や企業倒産に関する新聞記事やニュースなどを調べておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、倒産処理制度の必要性和概観について復習する。	120分
2	破産手続の基本的な流れ	破産手続の基本的な流れの概観を学習するとともに、実際の企業倒産の事例にも接しながら破産手続の社会における必要性について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産手続の基本的な流れを説明することができる。	
	事前学修	前回のレジュメを復習しながら、倒産処理制度の中で破産手続はどのような役割を担っているか確認しておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の基本的な流れについて復習する。	120分
3	破産手続の申立てから開始決定	破産手続の申立てから開始決定に至るまでの流れを学習する。破産法の条文を参考に、破産手続開始原因や申立ての要件、開始決定の要件を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産手続の申立てから開始決定に至るまでの手続きの流れを説明することができる。	
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続の申立てから開始決定までの流れを予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の申立てから開始決定までの流れや保全措置について復習する。	120分
4	破産手続における破産財団の範囲・債権の種類と優先順位	破産手続における破産財団の範囲、債権の種類と優先順位について学習する。破産法の条文を参考に、破産財団の固定主義や自由財産、破産債権・財団債権の性質等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、破産手続における債権の種類と優先順位について説明することができる。	
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産財団の定義と破産手続における債権の種類と優先順位について予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産財団の定義・範囲と破産手続における債権の種類と優先順位について復習する。	120分
5	破産手続における担保権の取扱い	破産手続における別除権の取扱いについて学習する。平時における担保権の性質や役割が、破産手続においてどのように反映されているのかについて、各担保物権の知識の再確認とともに学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、破産手続における担保権の取扱いについて、平時における担保権の性質や役割とともに、説明することができる。	
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続における別除権の取扱いについて予習するとともに、民法における担保物権の種類や各々の担保物権の性質について復習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における別除権の定義やその取扱いについて復習する。	120分
6	多数債務者関係と破産債権	破産手続における多数債務者関係と破産債権について学習する。平時における保証契約や連帯保証契約が、破産手続においてどのように取り扱われるのか、破産手続における保証人や連帯保証人の地位と債権者の権利について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、破産手続における保証人や連帯保証人の役割と取扱いについて、説明することができる。	
	事前学修	民法を参考にしながら、保証契約や連帯保証契約について復習しておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における多数債務者関係について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	破産手続における双方未履行双務契約（１）		破産手続における双方未履行双務契約の処理について学習する。売買契約を中心にしながら、契約の一方当事者に破産手続が開始した場合、双方未履行状態の双務契約がどのように取り扱われるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、破産手続における双方未履行双務契約の取扱いについて、売買契約を中心にその基本的処遇を説明することができる。		
	事前学修	民法を参考に、売買契約や請負契約を中心とする双務契約について復習しておく。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、双務契約の性質を確認するとともに、破産手続における双方未履行双務契約の処理について復習する。		120分
8	破産手続における双方未履行双務契約（２）		破産手続における双方未履行双務契約の基本的な取扱いを復習するとともに、請負契約や雇用契約等の破産手続における取扱いについても、さらに理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、破産手続における双方未履行双務契約の取扱いについて、請負契約や雇用契約などの各種個別契約についてもその取扱いを説明することができる。		
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続における双方未履行双務契約の基本的な取扱いについて復習しておく。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、各々の双方未履行双務契約の処理について、民法の条文も再確認しながら復習する。		120分
9	破産手続における取戻権・相殺権		破産手続における取戻権の取扱いと相殺権について学ぶ。特に、相殺の担保的機能が破産手続においてどのように反映されているのかについて、債権者平等原則とともに理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標③⑥に関連して、破産手続における取戻権と相殺権の取扱いについて説明することができる。		
	事前学修	民法を参考にしながら、相殺制度とは何かについて復習しておく。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における取戻権と相殺権の行使について復習する。特に、民法における相殺の要件を再確認しながら、破産法における相殺権の行使と限界について復習をしておく。		120分
10	破産手続における否認権（１）		破産手続における否認権の制度について学習する。否認制度の趣旨や民法における詐害行為取消権との相違点、さらには基本的な否認類型である詐害行為否認と偏頗行為否認について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②⑦に関連して、破産手続における否認制度の趣旨や、否認権の基本的類型について説明することができる。		
	事前学修	民法を参考にしながら、詐害行為取消権の制度について復習する。債権法改正に伴って、詐害行為取消権は大きく変容したことから、破産法の否認権の条文と民法の詐害行為取消権の条文を比較してみる。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、否認権の制度趣旨と基本類型（詐害行為否認・偏頗行為否認）について復習する。		120分
11	破産手続における否認権（２）		引き続き、破産手続における否認権の制度について学習する。対抗要件否認や転得者に対する否認など、特殊な否認類型について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②⑦に関連して、破産手続における否認制度の中で、対抗要件否認や転得者に対する否認など特殊な否認類型について、その趣旨とともに説明することができる。		
	事前学修	破産法の条文を参考に、否認権の基本的類型（詐害行為否認・偏頗行為否認）と否認制度の趣旨について復習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、対抗要件否認や転得者に対する否認等の要件やその効果等を復習する。		120分
12	破産手続における訴訟の中断と受継		破産手続開始決定前に既に係属していた訴訟等の取扱いについて学習する。破産管財人の権限を改めて理解するとともに、既に継続していた訴訟の中断と受継の手続きについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、破産管財人の第三者性を改めて理解するとともに、破産手続開始後の民事訴訟の取扱いについて説明することができる。		
	事前学修	破産法の条文を参考に、破産手続開始決定に伴う破産者の取扱いと破産管財人の権限について復習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続開始による係属中の民事訴訟手続等の処理について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	破産債権の届出・調査・確定	破産手続における破産債権の届出・調査・配当までの手続きの流れを学習する。さらに、配当後から破産手続の終了までについても、手続きの流れを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、破産手続における債権の届出・調査・確定の流れについて説明することができる。	
	事前学修	破産法の条文や配布資料等を参考に、破産債権の届出・調査・確定までの流れについて予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産債権の確定手続・配当・終了までの手続きの流れを復習する。	120分
14	消費者破産手続の流れ	消費者破産制度について、その目的や趣旨を理解する。法人の破産手続との相違点を学び、消費者破産手続における免責制度について理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①⑧⑨に関連して、消費者破産手続の概要や手続きの基本的な流れについて説明することができる。	
	事前学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の社会における必要性について復習するとともに、消費者破産に関する報道やニュース記事等を自分で検索してみる。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、消費者破産手続の特徴と免責制度について復習する。	120分
15	破産手続まとめ	破産手続の流れを復習するとともに、契約関係の処理や否認権の制度等、倒産実体法の復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑨に関連して、破産手続の基本的な流れを確認するとともに、倒産法実体法の内容についても説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義レジュメや講義ノートを参考にしながら、破産手続について復習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の流れを確認するとともに、倒産実体法の理解を深める。	120分

科目名	倒産法Ⅱ	担当者	杉本 純子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
この講義では、日本の倒産法制のうち、主に再建型倒産手続の一つである民事再生法を学ぶ。 さらに、各々の倒産手続の流れを学ぶとともに、倒産手続の開始に伴う契約関係の処理や相殺権の行使など倒産実体法についても理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会における倒産処理手続の必要性を理解するために、民事再生手続を中心とする再建型倒産法制の概要や手続きの流れ、相違点や論点等を修得する。

【履修条件】
担保物権、債権総論・各論の知識がある方が望ましい。六法は最新のものを持参すること。

【授業方法】
事前にレジュメを配布して講義を行う。講義では、スライド（パワーポイント）も使用しながら、配布レジュメに沿って進めていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	倒産処理制度の概要について説明することができる。					3		3					
②	民事再生手続の基本的な流れを説明することができる。					3		3					
③	民事再生法における倒産実体法の内容について、破産法と比較することができる。					3		3					
④	民事再生手続における担保権の役割について説明することができる。					3		3					
⑤	民事再生手続における双方未履行双務契約の取扱いについて説明することができる。					3		3					
⑥	民事再生手続における相殺権の取扱いについて、相殺の担保的機能とともに説明することができる。					3		3					
⑦	詐害行為取消権と否認権の制度について、比較することができる。					3		3					
⑧	会社更生手続と民事再生手続の相違点について、説明することができる。					3		3					
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③⑧に関する基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20					10			70
小テスト等												
レポート等	提出されたリアクションペーパー等の章レポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④⑤⑥⑦にかかわる基礎知識が身についているかを評価する				5	5	5	5				20
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見をどれだけ活発にできたかを基準に、到達目標①②にかかわる積極的な学修態度が身についているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	20	5	5	5	5	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
倒産処理法入門〈第5版〉	山本 和彦	有斐閣	2018	参考書	推奨
有斐閣ストゥディア 倒産法	倉部真由美ほか	有斐閣	2018	参考書	推奨
現代倒産手続法	中島弘雅＝佐藤鉄男	有斐閣	2013	参考書	推奨
民事再生法入門〈第2版〉	松下淳一	有斐閣	2014	参考書	推奨
倒産判例百選〈第5版〉	伊藤眞ほか編	有斐閣	2013	その他	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:00－13：00 （事前にメールでアポイントをとること） 研究室（4号館1階413研究室） sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス 再建型倒産処理手続の概要 導入講義		講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、再建型倒産手続の概要について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再建型倒産手続とはどのような制度なのか、その概要と必要性について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、事業再生や企業再建に関する新聞記事やニュースなどを調べておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再建型倒産手続の必要性和概観について復習する。	120分
2	民事再生手続の基本的な流れ		民事再生手続の基本的な流れの概観を学習するとともに、事業譲渡も含めた事業再生概念の拡大について、実際の事業再生事例も参考にしながら学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民事再生手続の基本的な流れを説明することができる。	
	事前学修	民事再生法の条文や講義レジュメを参考にしながら、再建型倒産手続の概要について復習し、事業再生と破産とはどのような相違があるのかについて、実際の事業再生事例などを自分で調べておく。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の基本的な流れと事業再生の概念について復習する。	120分
3	民事再生手続の申立てから開始決定		民事再生手続の申立てから開始決定に至るまでの流れを学習する。民事再生法の条文を参考に、再生手続開始原因や申立ての要件、開始決定の要件について破産法と比較しながら学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民事再生手続の申立てから開始決定に至るまでの手続きの流れを説明することができる。	
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の申立てから開始決定までの流れを予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の申立てから開始決定までの流れや保全措置について復習する。	120分
4	再生手続における各種機関		民事再生手続における機関について、主に再生債務者の法的地位、監督委員の役割と職務、債権者の手続参加を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、民事再生手続における再生債務者・監督委員・債権者等の各機関について説明することができる。	
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の機関となる再生債務者、監督委員、債権者の役割について予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生債務者の第三者性や公平誠実義務、監督委員の役割、債権者集会や債権者委員会について復習する。	120分
5	再生手続における債権の種類と優先順位		再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続との比較を中心に、その相違点を学習する。再生債権と再生計画との関係についても理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続と比較しながらその相違点を説明することができる。	
	事前学修	民事再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続の場合と比較して予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続との比較を再確認しながら復習する。	120分
6	再生債権の届出・調査・確定		再生手続における再生債権の届出・調査・確定の手続について、破産手続との比較をしながら学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生手続における再生債権の届出・調査・確定の手続について、破産手続と比較しながら説明することができる。	
	事前学修	民事再生手続における債権の届出・調査・確定手続について、破産手続と比較して予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生債権の届出・調査・確定までの手続について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	再生手続における担保権の取扱い		再生手続における担保権の処遇について学習する。破産手続における別除権との相違や、担保権消滅請求制度の役割についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、再生手続における担保権の取扱いについて、破産手続と比較しながら説明することができる。		
	事前学修	民事再生手続における担保権の取扱いについて、破産手続と比較しながら予習する。改めて、民法における担保物権の復習もしておく。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続における別除権の取扱いについて、破産手続との比較も行いながら復習する。		120分
8	債務者財産の調査と確保（１）		再生手続における債務者財産の調査と確保について学習する。特に、再生債務者による財産の調査や報告、双方未履行双務契約の処理について、破産手続との比較を行いながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥⑦に関連して、再生債務者の財産の調査や確保の方法について、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の知識を復習をしながら、その概要を説明することができる。		
	事前学修	破産法の条文や講義レジュメを参考に、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の行使について復習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における双方未履行双務契約の処理や否認権、相殺権の行使について復習する。その際には、破産手続との相違点についても復習しておく。		120分
9	債務者財産の調査と確保（２）		第8回に続き、再生手続における債務者財産の調査と確保について学習する。特に、再生手続における否認権や相殺権の行使について、破産手続との比較を行いながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥⑦に関連して、再生債務者の財産の調査や確保の方法について、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の知識を復習をしながら、その概要を説明することができる。		
	事前学修	再生手続と破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の行使について、類似性や相違点について復習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における否認権や相殺権の行使について復習する。その際には、破産手続との相違点についても復習しておく。		120分
10	再生計画案の立案・認可		再生手続における再生計画案の立案・認可について学習する。再生債務者による再生計画の立案について、その要件や再生方針の決定など、実際の事業再生事例も参考にしながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画案の立案・認可に関して、計画案の内容や認可のための要件等を条文で確認しながら説明することができる。		
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の立案要件や権利変更等について予習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画立案の要件や時期、再生方針の多様性について復習する。		120分
11	再生計画案の決議・認可		再生手続における再生計画の立案と認可について学習する。再生計画案に対する再生債権者の決議と計画案認可の可決要件について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画案に対する再生債権者の決議方法と認可のために必要な可決要件について、条文で確認しながら説明することができる。		
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の決議と認可の方法について予習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画の決議方法や認可の要件等について復習する。		120分
12	再生計画の履行確保		再生手続において、再生計画認可後の再生計画の履行確保について学習する。再生計画の遂行における監督委員の役割についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生計画認可後の履行方法について、監督委員の役割とともに説明することができる。		
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、再生計画の履行確保の方法について予習する。		120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画の履行確保の方法等について復習する。再生手続における監督委員の役割と職務についても復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	再生手続の終了・廃止	民事再生手続の終結決定と、破産手続へ移行する場合の手続きの流れや各債権の移行について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生手続の終了・廃止と破産手続への移行について、条文を確認しながら説明することができる。	
	事前学修	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の終了や破産手続への移行について予習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の終了方法や破産手続の移行、その場合の各債権の取扱いについて復習する。	120分
14	個人再生手続の概要	消費者のための再建型倒産手続である個人再生手続について、その概観と手続きの基本的な流れについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、個人再生手続の概要や手続きの基本的な流れについて、消費者破産制度と比較しながら説明することができる。	
	事前学修	個人再生手続の特徴や必要性について、破産手続と比較しながら予習する。消費者や破産手続ではなく、再生手続を利用する場合のメリットについても自分で考えてみる。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、個人再生手続の流れや特徴について、消費者破産手続と比較しながら復習する。	120分
15	再建型倒産手続まとめ	民事再生手続と中心とした再建型倒産手続のまとめとして、破産手続との比較を行いながら、再確認していく。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑧に関連して、破産手続や会社更生手続と比較しながら、民事再生手続の流れについて説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義レジュメや講義ノートを参考にしながら、民事再生手続を中心とする再建型倒産手続について復習する。	120分
	事後学修	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続を中心に再建型倒産手続の流れを理解し、破産手続との相違点を確認する。	120分

科目名	東洋法制史Ⅰ	担当者	田中 俊光	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義では、朝鮮半島における法制史を学修する。 前期では、朝鮮史を上古から近代まで通史的に概観しながら、時代ごとの法の特徴や、法典編纂の沿革を知ること、比較法的視野から現代日本の法制度を深く理解する。 史料の比較的豊富な朝鮮時代、なかでも14世紀末から19世紀末にかけての法について、実際の法典・法令集や法律書の具体的内容を知ること、理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
朝鮮半島の法制度に関する体系的な変遷の理解を通じて、法制度が制定される背景や法典編纂の影響など、東洋法制史に関する基本的な知識を身につける。 前近代の朝鮮半島の法は中国の歴代王朝の法の単なる模倣ではなく、多くの独自の法が制定され、運用されていたことを認識する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オンライン（オンデマンド型）で実施する。事前に配布する授業レジュメの内容に沿って講義し、理解確認のためのレポート課題を出す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	朝鮮半島の法の体系的変遷を説明できる。【知識】						2						
②	朝鮮時代の法の性格、中国法との関係について説明できる。【知識】							2					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義内容の理解度および課題を適切に論ずる能力を見る。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式などの所定の要件を満たし、 毎回の授業での配布レジュメの内容を理解しているかを確認する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評について、ポータルシステム上で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
李朝法典考	中枢院調査課編	朝鮮総督府中枢院	1936	参考書	任意
朝鮮法制史稿	浅見倫太郎	大空社	2001	参考書	任意
朝鮮法制史(朝鮮史講座<分類史>所収)	花村美樹	朝鮮史学会	1924	参考書	推奨
朝鮮社会法制史研究	京城帝国大学法学会編	岩波書店	1937	参考書	推奨
《世界歴史大系》朝鮮史 1 先史～朝鮮王朝	李成市ほか編	山川出版社	2017	参考書	推奨
《世界歴史大系》朝鮮史 2 近現代	李成市ほか編	山川出版社	2017	参考書	推奨
コリアの法と社会	尹龍澤ほか編著	日本評論社	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
NUメールアドレス

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション，導入講義	基礎法学としての法制史の意味や方法、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の解説を行う。	
	この回の到達目標	法制史とはどんな学問か、東洋という領域、なかでも朝鮮を扱う意味について理解し、説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、高校の世界史教科書などで朝鮮の歴代王朝の大まかな変遷を確認しておく。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。法制史とはどんな学問かについて理解する。	120分
2	三国時代以前の法	氏族時代の法制度と部族時代の法制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	氏族時代の法制度と部族時代の法制度について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、三国時代以前の朝鮮半島について確認しておく。	120分
	事後学修	古朝鮮の法制度のあり方について理解する。	120分
3	三国時代の法	高句麗・百済・新羅の三国の法制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	高句麗・百済・新羅の三国の法制度について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、高句麗・百済・新羅の国家体制について確認する。	120分
	事後学修	高句麗・百済・新羅の法制度と中国法の関係について理解する。	120分
4	統一新羅時代の法	7世紀後半から10世紀前半の朝鮮半島における新羅の法制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	統一新羅時代の法制度について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮半島が新羅で統一された時代の中国との関係や渤海との関係について確認する。	120分
	事後学修	「村落文書」などの文献から、統一新羅時代の法制度の姿を理解する。	120分
5	高麗時代の法（1）	10世紀前半から13世紀前半までの高麗王朝の法の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	高麗前期の法の形成過程と特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、唐や宋などの外交関係と高麗の国家体制の整備について確認する。	120分
	事後学修	唐や宋の法制が高麗の法に与えた影響について理解する。	120分
6	高麗時代の法（2）	13世紀後半の事元期から14世紀末までの高麗王朝の法の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	事元期および高麗末期の法の特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、元の支配下での高麗の国家体制、元の衰退と明の台頭といった情勢下における高麗の政治的対立について確認する。	120分
	事後学修	事元期においてモンゴルの法制が高麗に与えた影響と、元の衰退が高麗末期における法の混乱を招いたことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	朝鮮時代の法（１）	朝鮮初代王の李成桂による『経済六典』と続典の編纂について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮建国当初の法典編纂のあり方について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、高麗から朝鮮への政権交替における政治的状況について確認する。	120分
	事後学修	高麗末期から実権を掌握した李成桂が、これまで継承されてきた高麗の法と李成桂みずから下した命令を集成して『経済六典』が編纂されたことを理解する。	120分
8	朝鮮時代の法（２）	15世紀に成立した『経国大典』の編纂経緯と、その構成や内容について学ぶ。	
	この回の到達目標	『経国大典』の編纂経緯と、その構成や内容について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、15世紀の成宗代に中央集権的な国家体制が完成し、法令の集大成としての法典編纂が行われたことを確認する。	120分
	事後学修	世祖による王位篡奪から法典編纂がはじまり、度重なる改正の後に成宗代に『経国大典』が完成したことを理解する。	120分
9	朝鮮時代の法（３）	『経国大典』施行以降、16世紀末までに編纂された法令集や法典の編纂経緯や意味について学ぶ。	
	この回の到達目標	『経国大典』施行以降の朝鮮前期の法令集や法典の編纂経緯や意味について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、『経国大典』以降に編纂された法典について確認する。	120分
	事後学修	『経国大典』以降に相次いで制定された法令をどのように整理し法典として編纂していったのかを理解する。	120分
10	朝鮮時代の法（４）	17世紀から朝鮮末期の19世紀後半までに編纂された法令集や法典の編纂経緯や意味のほか、私撰の法律書について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮後期に編纂された法令集や法典、私撰の法律書の編纂経緯や意味について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮後期に編纂された法令集や法典や、私撰の法律書にどんなものがあるのか確認する。	120分
	事後学修	英祖代の『続大典』編纂により、朝鮮の独自法の法源は、『経国大典』と『続大典』、そして以降の王による単行法令によったことを理解する。	120分
11	朝鮮時代の法（５）	朝鮮王朝における『大明律』の継受のあり方や、法の存在形態と立法の特色について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮王朝における『大明律』の継受のあり方や、法の存在形態と立法の特色について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、明の刑罰法である大明律がどのようにして編纂されたのかを確認する。	120分
	事後学修	朝鮮が大明律を刑事法の一般法として継受し、朝鮮の事情に合わない部分は独自の特別法で修正して運用したことを理解する。	120分
12	近代の法（１）	1895年の甲午改革以降に進められた開化期の法制について学ぶ。	
	この回の到達目標	甲午改革以降に進められた開化期の法制について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、開国後に改革を標榜して文物の西欧化を推し進めるなかで、法制度の改革にはどのようなものがあったのかを確認する。	120分
	事後学修	朝鮮の近代化は、欧米列強のアジア進出の思惑のなか、とりわけ日本の干渉のなかで移植され、高まる民族意識のなかで強い違和感や葛藤を生んだことを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	近代の法（２）	植民地期の法制の体系と特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	植民地期の法制の体系と特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、植民地朝鮮の立法における総督府の機能について確認する。	120分
	事後学修	日本の植民地支配における武断統治、同化政策のなかで法がどのように利用されてきたかを理解する。	120分
14	現代の法	現代の大韓民国の法制度の特徴について学ぶ。	
	この回の到達目標	現代の大韓民国の法制度の大まかな特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、植民地解放後まもなく分断国家となった韓国の国家体制について確認する。	120分
	事後学修	東西イデオロギー対立のなかでの分断、軍事独裁政権時代を経て民主化へと向かった韓国が指向する法制の特徴について理解する。	120分
15	授業内テストおよび総括	授業内テストの実施ならびに授業の総括を行う。	
	この回の到達目標	前期の講義内容を理解し、課題を適切に論ずることができる。	
	事前学修	授業を総括すること。	120分
	事後学修	授業内容全体の理解を深めること。	120分

科目名	東洋法制史Ⅱ	担当者	田中 俊光	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義では、朝鮮半島における法制史を学修する。 後期では、前近代の王朝の中で比較的多くの資料が残り、法と社会の実態を知ることができる朝鮮王朝における法意識、身分と法的能力、家族関係と財産相続、取引法、刑罰論、裁判制度といった側面から、前近代の朝鮮半島の法と社会について認識するとともに、比較法的な視野から現代日本の法制度を深く理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
朝鮮半島の法制度に関するある程度応用的な知識を獲得し、そこでのさまざまな法制度やその背景を理解する。 朝鮮半島の前近代の家族法、財産法、刑法、裁判手続法の各分野における様々な法理について、何故そのような仕組みとなっているのか、その背景も含めて知ることができる。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
オンライン（オンデマンド型）で実施する。事前に配布する授業レジュメの内容に沿って講義し、理解確認のためのレポート課題を出す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	前近代の朝鮮半島における各分野の法制度の特徴について説明できる。【知識】				2							
②	朝鮮時代の法理を知ること、比較法的視野から現代日本の法制度に内在する東アジア的要素を説明できる。【知識】					2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義内容の理解度および課題を適切に論ずる能力を見る。	30	30									60
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式などの所定の要件を満たし、 毎回の授業での配布レジュメの内容を理解しているかを確認する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評について、ポータルシステム上で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
李朝の財産相続法	中枢院調査課編	朝鮮総督府中枢院	1936	参考書	任意
朝鮮田制考	中枢院調査課編	以文社	1977	参考書	任意
《世界歴史大系》朝鮮史 1 先史～朝鮮王朝	李成市ほか編	山川出版社	2017	参考書	推奨
《世界歴史大系》朝鮮史 2 近現代	李成市ほか編	山川出版社	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
NUメールアドレス

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション，朝鮮王朝の法典	基礎法学としての法制史の意味や方法、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の解説を行う。 朝鮮王朝で編纂された法典についての概説を行う。	
	この回の到達目標	法制史とはどんな学問か、東洋という領域、なかでも朝鮮を扱う意味について理解し、説明できる。 朝鮮王朝で編纂された法典について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、高校の世界史教科書などで朝鮮の歴代王朝の大まかな変遷を確認しておく。 前期の受講生は、前期の内容を復習しておくこと。	120分
	事後学修	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。法制史とはどんな学問かについて理解する。 朝鮮王朝の法典の特徴について理解する。	120分
2	法思想と法意識（１）	朝鮮時代の立法者の思想について、その理想とする法のあり方について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の立法者の思想について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の法思想の視角、朝鮮時代に理想とされた法のあり方について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮時代の立法者の理想とする法のあり方について理解する。	120分
3	法思想と法意識（２）	朝鮮時代の民衆の一般的な法意識、裁判と権利、所有権に対する意識について学ぶ。 あわせて、開化期、植民地期、解放後の韓国の法意識についても概観する。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の民衆の一般的な法意識および権利意識について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の民衆の法意識や権利意識について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮時代の民衆の一般的な法意識、裁判と権利、所有権が、開化期および植民地期をへた現代にどのような影響を与えているのかについて理解する。	120分
4	身分制度と法的能力	朝鮮時代における身分制度のしくみと、身分にともなう法的能力について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の身分制度と法的能力について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の身分制度と法的能力について確認しておく。	120分
	事後学修	両班、中人、常民、賤民という身分により、法的能力が異なっていたことについて理解する。	120分
5	戸籍制度	高麗時代までの戸籍制度が、朝鮮時代にどのように代わり、開化期以後へと変化していくのかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮半島における戸籍制度の変遷について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮半島における戸籍制度の沿革について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮時代の戸籍制度は、高麗時代のものを継承し、開化期以後近代的な戸口調査によって作成されたことについて理解する。	120分
6	宗族法	朝鮮の伝統社会における家と宅、宗族結合、墓山と位土、家長権について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮の伝統社会における宗族法の概要を説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮の家のあり方について確認しておく。	120分
	事後学修	朝鮮の伝統社会における身分階層的地縁結合（宗法型の班村型結合と非宗法型の民村型結合）について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	家族生活の法（１）		朝鮮における親族の範囲と喪服制の史的変遷、婚姻・離婚の要件と法的効果について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮における親族の範囲、婚姻・離婚の要件と法的効果について説明できる。		
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮における親族の範囲や喪服制の史的変遷、婚姻・離婚の形態について確認しておく。		120分
	事後学修	朝鮮における親族観念、率壻婚俗、婚姻による身分的・経済的効果、離婚の形態について理解する。		120分
8	家族生活の法（２）		朝鮮時代における親子の法的関係、養子制度、家系継承と祭祀継承、財産相続について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代における親子の法的関係、家系・祭祀継承と財産相続の関係について説明できる。		
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、親生子女の種類、養子の形態について確認しておく。		120分
	事後学修	親に対する子の法的強制、養子制度の発展過程、朝鮮時代の朱子家礼に基づく祭祀相続と財産相続の関係について理解する。		120分
9	土地法		朝鮮時代の土地所有権、小作について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の土地所有、小作に関する法的根拠について説明できる。		
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮における土地制度の私的変遷について確認しておく。		120分
	事後学修	王土思想と土地所有権の関係、土地所有の立証方法、所有と占有、小作の法的形態について理解する。		120分
10	取引生活の法		朝鮮時代における売買とその登記、買戻特約および売買担保について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代における不動産・奴婢の売買、担保制度の形態について説明できる。		
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、売買契約の形式、消費貸借、担保制度について確認しておく。		120分
	事後学修	朝鮮における売買の法的性格と形式、「立案」手続、買戻特約付売買である「権売」、消費貸借、退賭地売買、売渡担保、質について理解する。		120分
11	刑法（１）		朝鮮における刑事法の特徴として、明律の名例律の主たる内容について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮が継受した中国の刑罰法である律の総則的特徴について説明できる。		
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、律の総則的特徴について確認しておく。		120分
	事後学修	明律における刑種、刑の加重・減軽方法、十悪、老少・障害者の責任能力、自首の扱い、併合罪、共犯における首従区分、親族相盗例、違令、不応為について理解する。		120分
12	刑法（２）		朝鮮における刑事法の運用のあり方について、明律の各論的内容と、それらを規準として朝鮮の独自法が制定される過程を具体的な事例を挙げて学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮が継受した中国の刑罰法である律の各論的内容と、それらを規準として朝鮮の独自法が制定される過程について説明できる。		
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、律で定める犯罪にどのようなものがあったのかについて確認しておく。		120分
	事後学修	朝鮮時代の刑事一般法であった明律の規定のうち、構成要件や法定刑が朝鮮の事情にそぐわない場合、朝鮮の独自法がそれを補完する機能をもっていたことを理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	裁判制度（１）	朝鮮時代の民事的裁判である詞訟について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の民事的裁判の特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の民事的裁判の概要について確認しておく。	120分
	事後学修	当事者主義的に進行する民事的裁判における当事者能力、訴えの提起の方法、弁論手続、親着決折法、判決後の三度得伸法について理解する。	120分
14	裁判制度（２）	朝鮮時代の刑事的裁判である刑獄について学ぶ。	
	この回の到達目標	朝鮮時代の刑事的裁判の特徴について説明できる。	
	事前学修	配布レジュメなどを参考に、朝鮮時代の刑事的裁判の概要について確認しておく。	120分
	事後学修	職権主義的に進行する刑事的裁判における検驗、決獄日限、いわゆる必要的覆審制、三覆啓、再審請求について理解する。	120分
15	授業内テストおよび総括	授業内テストの実施ならびに授業の総括を行う。	
	この回の到達目標	前期の講義内容を理解し、課題を適切に論ずることができる。	
	事前学修	授業を総括すること。	120分
	事後学修	授業内容全体の理解を深めること。	120分

科目名	都市政策	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
地方分権時代を迎え、地域社会における都市自治体の役割と責任は増大している。この授業では、「住民」と「都市自治体」「他のアクター」との関係性に注目しながら、都市自治体を取り巻く環境、政策過程に関する基本的な事項、政策形成の基本的な考え方を学修する。都市問題は日々生起している点を考慮し、豊富な事例を素材としてその解決策を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講生が地域社会の住民（＝主体）として身についておくべき、都市政策に関する基礎的知識を習得し、その知識をもとに都市における諸課題に積極的に関わり、その解決方法を見つけ説明でき、主体的に行動できる。

【履修条件】
特にないが、講義中私語をする者は他の者の迷惑となるので履修を遠慮すること。講義に出席が難しい場合、単位の取得は難しいので注意すること。併せて、「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」、「行政学Ⅰ・Ⅱ」などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。

【授業方法】
教科書を指定し、講義形式により行う。参考書、資料配布等に関しては、第1回目の授業における担当教員の指示に従うこと。受講状況を見ながら小テストやレポートを課し、その講評を加えることもありうる。期末試験に関しては、後日ポータルサイトにおいて、解説・講評を加える。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	期間中リアクションペーパーを配布しそれに答えることで、学生の能動的かつ本質的な理解の助けとなるように努める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	都市政策に関する主要な概念や理論を識別することができる。				4							
②	都市政策で生起する諸問題について、主要な概念や理論を用いて論理的に説明できる。						4	4				
③	都市政策に生起する諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。						4	4	4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③に関して、小テスト（含むリアクション ペーパー）やレポート、積極的な質問、意見等を通じて身 についているかを確認する。	10	10	10								30
レポート等	到達目標①②③に関して、身についているかを授業内課題 により評価する。	25	25	20								70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイトを利用して適宜課題に対するフィードバックをおこなう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地方自治論	福島康仁編	弘文堂	2018	参考書	推奨
備考	テキストは使用しない				

【オフィスアワー】
fukushima.yasuhito@nihon-u.ac.jp 研究室本館 6 階

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	都市自治体審議会委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		審議会の委員としての経験を生かした講義をする。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	都市政策の講義の展開、評価方法、学習の技法について学修する	
	この回の到達目標	まちづくりという用語の意味とその背景について説明できる。都市政策とまちづくりの関係を説明できる。	
	事前学修	「まちづくり」とはなにか、どのような場面で使われているか考えてくる	120分
	事後学修	「街づくり」と「まちづくり」の違いを理解できたか考える	120分
2	都市の様相の変化と都市政策	新時代の都市の様相、都市の再生、成熟化する都市について学修する。	
	この回の到達目標	新時代の都市の様相をとらえたうえで、都市の再生、成熟化する都市について説明できる。	
	事前学修	時代ごとに都市はどのような変化について考える	120分
	事後学修	成熟化した都市の住民の考え方について学習する	120分
3	都市形成の歴史	歴史のなかでの都市とはなにかについて学修する。	
	この回の到達目標	都市の機能の移り変わりについて説明できる	
	事前学修	都市の定義について調べてみる	120分
	事後学修	都市の時代ごとの役割を復習する	120分
4	都市の原理	都市をつくる指針について学修する。	
	この回の到達目標	都市をつくる指針とはなにかを自分なりに説明できる	
	事前学修	都市をつくる指針とはなにかを自分なりに考えてくる	120分
	事後学修	自分の住む自治体の長期構想を読んでみる	120分
5	都市の機能と時代	都市と時代背景について学修する。	
	この回の到達目標	都市の時代背景について説明できる	
	事前学修	都市の時代背景の関係について、各国で比較してみる	120分
	事後学修	都市の時代背景とその誕生について整理してみる	120分
6	都市の主体と都市の構造	都市の主体はなにか、都市の構造はどのようなになっているかを学修する。	
	この回の到達目標	都市の構造とそのなかで都市の主体が果たす役割について説明できる	
	事前学修	新しい公共とはなにか考える	120分
	事後学修	都市と新しい公共についてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	都市の法規		都市を形成するための法規について学修する。
	この回の到達目標	都市を形成する法規について、主要なものについては説明できる	
	事前学修	都市を形成する法規について調べてくる	120分
	事後学修	都市を形成する法規の役割と機能についてまとめる	120分
8	都市計画		都市計画制度について学修する
	この回の到達目標	用途地域について説明できる	
	事前学修	都市計画法を読んでくる	120分
	事後学修	用途地域について事例を考えながらまとめる	120分
9	都市計画		都市計画区域について学修する。
	この回の到達目標	都市計画域の構造について学修する	
	事前学修	都市計画区域について調べてくる	120分
	事後学修	都市計画区域について概要を再認する	120分
10	都市をまもる；安全安心な都市		都市をまもる；安全安心な都市について学修する
	この回の到達目標	体感治安とまちづくりの関係について学修する。	
	事前学修	日本の犯罪率について考える	120分
	事後学修	体感治安とまちづくりに与える影響について検討する	120分
11	安心なまち		安心と安全の違いを学修し、町づくりとの関係について学修する
	この回の到達目標	犯罪をなくす取り組みについて説明できる	
	事前学修	犯罪をなくす先進的な取り組みについて考える	120分
	事後学修	犯罪のない街の特徴を整理する	120分
12	コミュニティ政策		コミュニティとまちづくりの関係について学修する
	この回の到達目標	まちづくりにとってコミュニティの再生が必要なことを説明できる	
	事前学修	コミュニティの定義について過去のものを調べてくる	120分
	事後学修	コミュニティの在り方について整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	コミュニティ政策と町の形成	現代のコミュニティについて学修する	
	この回の到達目標	現代街づくりに必要なコミュニティについて説明できる	
	事前学修	ソーシャルキャピタルの定義について調べてみる	120分
	事後学修	自治体のコミュニティ政策の変化について整理する	120分
14	環境政策	都市の環境政策の手法について学修する	
	この回の到達目標	都市の環境政策の手法について説明できる	
	事前学修	都市自治体の環境政策について、市町村レベルと都道府県レベルの相違を調べる（2時間）	120分
	事後学修	環境政策の有効性と住民との関係について考える	120分
15	シビックプライド	シビックプライドについて政策との関係を学修する。	
	この回の到達目標	都市のシビックプライドの手法について説明できる	
	事前学修	シビックプライドの概念について調べる	120分
	事後学修	シビックプライドの課題について整理する	120分

科目名	日本経済論Ⅰ	担当者	竹本 亨	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
日本経済の現状について、財政・金融面から産業、国際面まで幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に捉え、日本経済が抱える課題について学修する。しばらく議論されてきたバブル崩壊以降の失われた20年といった経済成長の問題だけでなく、最近特に注目されている格差問題や少子高齢化、環境問題と経済・産業との関係についても取り上げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本経済の現状について幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の日本経済が抱える課題を認識することができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式（オンデマンド方式のオンライン授業）で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本経済の現状について歴史・制度面から把握し、理解することができる。						2	2					
②	日本経済の現状について経済理論とデータ面から把握し、理解することができる。						2	2					
③	現代の日本経済が抱える課題を認識することができる。							2					
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、日本経済の現状と課題に対する理解と認識が身についているかを評価する。	20	20	30								70
小テスト等	到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、Google Classroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本経済読本（第21版）	大守隆	東洋経済新報社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・停滞する日本経済 ・デフレ	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、日本経済の現状と課題を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	課題先進国になった日本		・長期停滞要因に関する様々な仮説 ・なお残る優位 ・「課題先進国」	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本経済の長期停滞について説明できる。		
	事前学修	教科書 第1章 第3節～第5節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
3	日本経済の歩み(1)		・戦前の経済発展 ・戦後復興 ・高度経済成長	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、戦前から高度経済成長までの日本経済の大まかな流れについて説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
4	日本経済の歩み(2)		・石油危機（オイルショック） ・円高 ・バブル経済とその崩壊	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、オイルショック以降の日本経済の大まかな流れについて説明できる。		
	事前学修	教科書 第2章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
5	日本の経済政策(1)		・経済政策の分類 ・効率性と公平性 ・バブル経済までの経済政策	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の経済政策について説明できる。		
	事前学修	教科書 第3章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
6	日本の経済政策(2)		・バブル経済崩壊後の経済政策 ・国際経済政策	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、最近の日本の経済政策について説明できる。		
	事前学修	教科書 第3章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	試験(1)		前半の内容の確認
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本経済の現状と課題、日本経済の歩み、日本の経済政策について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の1章から3章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分
8	財政赤字の拡大と再建への取組み(1)		・財政の3機能 ・財政政策の効果 ・日本の財政制度
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財政の役割と日本の財政制度について説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章 第1節の全部と第2節の2を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
9	財政赤字の拡大と再建への取組み(2)		・日本の税制 ・財政の現状 ・財政再建
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日本財政の現状について説明できる。	
	事前学修	教科書 第4章 第2節の3と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
10	異次元の金融政策の効果とリスク(1)		・金融の役割 ・日本の金融システム ・金融政策
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の金融制度と金融政策について説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
11	異次元の金融政策の効果とリスク(2)		・伝統的な金融政策の限界 ・非伝統的な金融政策 ・バブルと金融危機
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、非伝統的な金融政策について説明できる。	
	事前学修	教科書 第5章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
12	創生に取り組む地方経済		・補論：地域別人口 ・地方経済の現状 ・地方財政
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、地方経済の現状と地方交付税制度について説明できる。	
	事前学修	教科書 第6章 第1節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	国際的な競争環境の変化と企業行動(1)	・比較優位 ・日本の比較優位の変化 ・アジア域内での国際分業	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、比較優位について説明できる。	
	事前学修	教科書 第7章 第1節と第2節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
14	国際的な競争環境の変化と企業行動(2)	・海外生産の増加 ・高付加価値化への対応の遅れ	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国際的な競争環境と日本の産業構造について説明できる。	
	事前学修	教科書 第7章 第3節と第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
15	試験(2)	後半の内容の確認	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の財政の現状と課題、日本の金融政策、日本の地方経済、日本を取り巻く国際的な競争環境の変化について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の4章から7章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分

科目名	日本経済論Ⅱ	担当者	竹本 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
日本経済の現状について、財政・金融面から産業、国際面まで幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に捉え、日本経済が抱える課題について学修する。しばらく議論されてきたバブル崩壊以降の失われた20年といった経済成長の問題だけでなく、最近特に注目されている格差問題や少子高齢化、環境問題と経済・産業との関係についても取り上げる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本経済の現状について幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の日本経済が抱える課題を認識することができるようになる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式（オンデマンド方式のオンライン授業）で行う。基本的に教科書に従って授業は進む。授業後のノートの整理が必要である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本経済の現状について歴史・制度面から把握し、理解することができる。					2	2				
②	日本経済の現状について経済理論とデータ面から把握し、理解することができる。					2	2				
③	現代の日本経済が抱える課題を認識することができる。					2	2				
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③について、日本経済の現状と課題に対する理解と認識が身についているかを評価する。	20	20	30								70
小テスト等	到達目標①と②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、Google Classroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本経済読本（第21版）	大守隆	東洋経済新報社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:10～12:55（休暇中を除く。必ずその週の水曜日までにメールでアポイントメントを取る） 研究室（4号館5階451研究室） メールアドレス（takemoto.toru、なおアットマーク以下はNUメールアドレス（nihon-u.ac.jp））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション及び導入講義	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は必ず出席するように。 さらに、導入として以下について講義する。 ・労働市場 ・人手不足		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、日本経済の現状と課題を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、セメスター中の講義内容の全体像を把握する。		120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		120分
2	人口減少のなかでの雇用とその二極化	・非正規雇用の増加 ・日本的雇用慣行 ・働き方の変化		
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、日本の雇用について説明できる。		
	事前学修	教科書 第8章 第2節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
3	国民生活の現状と格差問題	・家計の消費、貯蓄の動向 ・家計保有資産の現状 ・所得格差と貧困		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、家計消費と貯蓄の動向、所得格差、貧困問題について説明できる。		
	事前学修	教科書 第9章 第1節～第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
4	少子高齢化時代の社会保障(1)	・高齢化と社会保障 ・補論：保険と年金のしくみ		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の高齢化と社会保障について説明できる。		
	事前学修	教科書 第10章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
5	少子高齢化時代の社会保障(2)	・公的年金制度 ・医療・介護保険制度 ・子育て支援		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の年金・医療・介護保険制度と子育て支援制度について説明できる。		
	事前学修	教科書 第10章 第2節～第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分
6	増加した所得収支黒字とインバウンド(1)	・国際収支とは ・日本の経常収支の動向 ・日本の貿易構造の変化		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本の国際収支の変化について説明できる。		
	事前学修	教科書 第11章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。		120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	増加した所得収支黒字とインバウンド(2)	・固定相場制から変動相場制へ ・円レートの推移	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、円の為替レートと日本経済の関係について説明できる。	
	事前学修	教科書 第11章 第2節と第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
8	試験(1)	前半の内容の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本の労働市場と所得格差、日本の社会保障制度、日本の国際収支について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の8章から11章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分
9	資源エネルギー戦略の再構築(1)	・原発事故までのエネルギー ・原発事故 ・今後の原子力発電	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、原発事故と日本のエネルギー政策について説明できる。	
	事前学修	教科書 第12章 第1節～第3節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
10	資源エネルギー戦略の再構築(2)	・再生可能エネルギー ・資源・エネルギーをめぐる新しい動き	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、これからのエネルギー政策について説明できる。	
	事前学修	教科書 第12章 第4節～第6節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
11	経済との関係が強まる環境問題(1)	・日本の環境問題の歴史 ・環境基本法	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、これまでの日本の環境問題について説明できる。	
	事前学修	教科書 第13章 第1節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
12	経済との関係が強まる環境問題(2)	・循環型社会と経済 ・生物多様性の保全と経済 ・気候変動対策と経済	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、循環型社会と生物多様性の保全、気候変動問題について説明できる。	
	事前学修	教科書 第13章 第2節～第4節の全部を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	回復が続く世界経済の現状と主要課題(1)	・世界経済の動向 ・リーマン・ショック ・アジア経済の動向	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、世界金融危機とアジア経済の動向について説明できる。	
	事前学修	教科書 第14章 第1節の全部と第2節の1を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
14	回復が続く世界経済の現状と主要課題(2)	・アメリカ経済の動向 ・欧州経済の動向	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、アメリカ経済と欧州経済の動向について説明できる。	
	事前学修	教科書 第14章 第2節の2と3を読んでその内容を大まかに理解し、疑問点をノートにまとめる。	120分
	事後学修	教科書を読みなおして、ノートを整理する。	120分
15	試験(2)	後半の内容の確認。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本経済の現状と課題について総合的に説明できる。	
	事前学修	教科書の12章から14章までを読み直して、その内容を理解する。	120分
	事後学修	試験の内容を復習する。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」では幕末期から大正前期、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
とくになし。本講義は新聞学科の必修科目だが、学ぶ熱意があれば他学科の学生も歓迎する。なお、「Ⅰ」の単位を修得していない者は「Ⅱ」を履修することはできないので注意すること。

【授業方法】
授業前に課す課題には必ず取り組んでおくこと。講義はオンデマンド方式で実施した上で、リアクションペーパーをもとに解説を加える。学修方略上、ノートテイクを重視しているため、受講の際には必ずノートを用意すること（スライド資料の配布は行わない）。他の受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合は、翌週回以降に解説と質問に対する回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部で取り入れる。また、形成的評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	史料実証主義に基づいた叙述に配慮することができる				2							
②	新聞の「中立性」といった概念がいかなる歴史的過程のなかで形成されたのかを説明することができる				2							
③	主要な新聞や関連法規などの特徴を述べるすることができる					2						
④	新聞の近代化の要件を具体例をあげて説明することができる					2						
⑤	歴史的出来事のなかで、新聞が果たした役割（ないしは果たし得なかったこと）について説明することができる					2						
⑥	復刻版やデータベースを使用して、過去の出来事に関する新聞記事の収集を実践することができる						2					
⑦	過去の新聞記事などのメディア史料を読み解き、解釈することができる						2					
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①の技能および態度と、②③④⑤⑦についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。総括的評価のためのテストは、中盤（実施回は進捗状況による）と最終回（第15回）の計2回実施する。	10	15	15	15	15		15				85
小テスト等	小問形式の授業内課題により、②③④⑤の知識がどの程度身についているかを形成的評価として判断する。		1	2	1	1						5
レポート等	記述形式の授業内課題により、到達目標①⑥⑦にかかわる史料の扱い方が身についているかを形成的評価として判断する。	2					5	3				10
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、授業に参加することに対する加点は存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		12	16	17	16	16	5	18				100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーに対する回答やテストの解説は、Google Classroomを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考	各授業回において、参考となる文献を随時紹介する。				

【オフィスアワー】
【2021年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜12:15～12:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	メディア史およびジャーナリズム史の射程	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる	
	事前学修	シラバスに目を通してくること。中等教育（中学・高校）までに習った日本史（近代）の知識を整理しておく。	120分
	事後学修	ノートの整理。	120分
2	西洋新聞略史	人類の歴史における新聞の誕生から現在までを概観し、近代新聞の成立の要件について考える	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、近代新聞の成立要件について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
3	揺籃期の新聞①	江戸時代の情報伝達 外字新聞の発行とその影響	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連し、デジタルアーカイブを利用することができる。 到達目標②③④⑤⑦に関連し、「日本で最初の新聞」について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
4	揺籃期の新聞②	戊辰戦争と新聞 幕末期のジャーナリスト	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、幕末の日本における新聞の特徴について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
5	黎明期の新聞①	明治政府の新聞規制政策 明治政府の新聞保護育成政策	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治新政府（為政者）が新聞をどのように利用したかを、述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
6	黎明期の新聞②	民権運動と新聞 新聞恐怖時代	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治期の言論関連法規について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	成長期の新聞①		報道機関としての新聞 明治14年の政変と新聞
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、新聞が有する「報道」と「言論」、それぞれの機能と特性について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
8	成長期の新聞②		新聞の政党機関紙化 「小新聞」の発生とその発展 明治初期のジャーナリスト
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、大新聞と小新聞について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
9	商業新聞への転換①		編集と経営の改革 言論第一主義の復活
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、条約改正論争における新聞の役割について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
10	商業新聞への転換②		「政論新聞」の没落と新興新聞の台頭 三面記事新聞の台頭
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、平民主義と日本主義による新聞雑誌について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
11	戦争と新聞①		日清戦争と新聞 新聞の近代化
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日本において近代新聞が成立する過渡期の出来事について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
12	戦争と新聞②		日露戦争と新聞 日露講和条約と新聞
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日露開戦過程における新聞の役割について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	憲政擁護運動と新聞①	大正の政変と新聞 シーメンス事件と新聞	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、倒閣運動と新聞の関わりについて述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
14	憲政擁護運動と新聞②	第1次世界大戦と新聞 白虹事件と新聞の商業化	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、白虹事件がもたらした影響について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
15	総括	日本の近代化と新聞 営利企業としての新聞と「中立性」	
	この回の到達目標	到達目標①⑥⑦に関連し、メディア史料を調べて読み解くことができる。 本講義の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業を受けてきた中で疑問点があれば整理しておくこと。	120分
	事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」では幕末期から大正前期、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
とくになし。本講義は新聞学科の必修科目だが、学ぶ熱意があれば他学科の学生も歓迎する。なお、「Ⅰ」の単位を修得していない者は「Ⅱ」を履修することはできないので注意すること。

【授業方法】
授業前に課す課題には必ず取り組んでおくこと。講義はオンデマンド方式で実施した上で、リアクションペーパーをもとに解説を加える。学修方略上、ノートテイクを重視しているため、受講の際には必ずノートを用意すること（スライド資料の配布は行わない）。他の受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合は、翌週回以降に解説と質問に対する回答を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部で取り入れる。また、形成的評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	史料実証主義に基づいた叙述に配慮することができる				2							
②	新聞の「中立性」といった概念がいかなる歴史的過程のなかで形成されたのかを説明することができる				2							
③	主要な新聞や関連法規などの特徴を述べることができる					2						
④	新聞の近代化の要件を具体例をあげて説明することができる					2						
⑤	歴史的出来事のなかで、新聞が果たした役割（ないしは果たし得なかったこと）について説明することができる					2						
⑥	復刻版やデータベースを使用して、過去の出来事に関する新聞記事の収集を実践することができる						2					
⑦	過去の新聞記事などのメディア史料を読み解き、解釈することができる						2					
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①の技能および態度と、②③④⑤⑦についての知識が身についているかを、筆記試験により評価する。総括的評価のためのテストは、中盤（実施回は進捗状況による）と最終回（第15回）の計2回実施する。	10	15	15	15	15		15				85
小テスト等	小問形式の授業内課題により、②③④⑤の知識がどの程度身についているかを形成的評価として判断する。		1	2	1	1						5
レポート等	記述形式の授業内課題により、到達目標①⑥⑦にかかわる史料の扱い方が身についているかを形成的評価として判断する。	2					5	3				10
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、授業に参加することに対する加点は存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		12	16	17	16	16	5	18				100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーに対する回答やテストの解説は、Google Classroomを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考	各授業回において、参考となる文献を随時紹介する。				

【オフィスアワー】
【2021年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜12:15～12:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	メディア史およびジャーナリズム史の射程	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる	
	事前学修	シラバスに目を通してくること。中等教育（中学・高校）までに習った日本史（近代）の知識を整理しておく。	120分
	事後学修	ノートの整理。	120分
2	西洋新聞略史	人類の歴史における新聞の誕生から現在までを概観し、近代新聞の成立の要件について考える	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、近代新聞の成立要件について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
3	揺籃期の新聞①	江戸時代の情報伝達 外字新聞の発行とその影響	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連し、デジタルアーカイブを利用することができる。 到達目標②③④⑤⑦に関連し、「日本で最初の新聞」について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
4	揺籃期の新聞②	戊辰戦争と新聞 幕末期のジャーナリスト	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、幕末の日本における新聞の特徴について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
5	黎明期の新聞①	明治政府の新聞規制政策 明治政府の新聞保護育成政策	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治新政府（為政者）が新聞をどのように利用したかを、述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
6	黎明期の新聞②	民権運動と新聞 新聞恐怖時代	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、明治期の言論関連法規について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	成長期の新聞①	報道機関としての新聞 明治14年の政変と新聞	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、新聞が有する「報道」と「言論」、それぞれの機能と特性について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
8	成長期の新聞②	新聞の政党機関紙化 「小新聞」の発生とその発展 明治初期のジャーナリスト	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、大新聞と小新聞について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
9	商業新聞への転換①	編集と経営の改革 言論第一主義の復活	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、条約改正論争における新聞の役割について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
10	商業新聞への転換②	「政論新聞」の没落と新興新聞の台頭 三面記事新聞の台頭	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、平民主義と日本主義による新聞雑誌について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
11	戦争と新聞①	日清戦争と新聞 新聞の近代化	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日本において近代新聞が成立する過渡期の出来事について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
12	戦争と新聞②	日露戦争と新聞 日露講和条約と新聞	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、日露開戦過程における新聞の役割について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	憲政擁護運動と新聞①	大正の政変と新聞 シーメンス事件と新聞	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、倒閣運動と新聞の関わりについて述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
14	憲政擁護運動と新聞②	第1次世界大戦と新聞 白虹事件と新聞の商業化	
	この回の到達目標	到達目標②③④⑤⑦に関連し、白虹事件がもたらした影響について述べることができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
15	総括	日本の近代化と新聞 営利企業としての新聞と「中立性」	
	この回の到達目標	到達目標①⑥⑦に関連し、メディア史料を調べて読み解くことができる。 本講義の個別具体目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業を受けてきた中で疑問点があれば整理しておくこと。	120分
	事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」で扱った幕末期から大正前期の内容を踏まえて、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、ジャーナリズムの社会的意義について考察する力を身につけるために、日本におけるジャーナリズムの発達過程を理解し、メディア史料の調べ方を身につけ、自ら文献や史料にあたって考える力を修得する。

【履修条件】
「日本ジャーナリズム史Ⅰ」の単位を修得していること。

【授業方法】
授業前に課す課題には必ず取り組んでおくこと。講義はオンデマンド方式で実施した上で、リアクションペーパーをもとに更なる解説を加える。学修方略上、ノートテイクを重視しているため、受講の際には必ずノートを用意すること（スライド資料の配布は行わない）。他の受講者に迷惑となる行為は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合は、翌週回以降に解説と質問に対する回答を行う。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 授業前に課題に取り組んでから講義に参加し、講義内の解説と質疑によって理解を深める形式（反転授業）を一部に取り入れる。また、形成評価のためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ジャーナリズムの発達と歴史的出来事の関わりを解釈することができる。						3						
②	ジャーナリズムが近代社会の形成過程において、いかなる役割を果たしてきたのかを説明することができる。							3					
③	歴史的出来事の原因と結果を考え、論理的に説明することができる。								3				
④	歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について議論することができる。									3			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③に関わる知識および技能が身についているかを、総括的評価のためのテストによって評価する。総括的評価のためのテストは、第8回（進捗状況によって前後することがある）と最終回（第15回）の計2回実施する。	30	30	30								90
小テスト等	小問形式の授業内課題により、到達目標④に係る技能がどの程度身についているかを、形成的評価として判断する。				5							5
レポート等	記述形式の授業内課題により、到達目標④に係る技能が身についているかを、形成的評価として判断する。				5							5
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は学修の大前提であるため、授業に参加することに対する加点は存在しない。なお、授業総数の3分の1を超える欠席があった場合には成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーに対する回答やテストの解説は、Google Classroomを用いて実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
日本のジャーナリズム	黒川貢三郎・石川徳幸	櫻門書房	2013年	参考書	任意
日本新聞通史 四訂版	春原昭彦	新泉社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
【2021年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	ジャーナリズムの歴史を学ぶ意義	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、ジャーナリズム史を学ぶ意義を理解し、学修の方略を知ること、能動的に今後の学修をすすめることができるようになる	
	事前学修	日本ジャーナリズム史Ⅰの内容の振り返り。	120分
	事後学修	ノートの整理。	120分
2	国際会議と新聞①	補論1：日本のジャーナリズムと国際通信の歴史 パリ講和会議と新聞	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
3	国際会議と新聞②	軍縮条約交渉と新聞 新聞争議と流言飛語	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
4	国際会議と新聞③	大正期における編集と経営の変化	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
5	『朝毎』全盛時代①	政党政治の腐敗墮落と新聞 大阪系新聞の東京制覇	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
6	『朝毎』全盛時代②	東京各紙の没落 新聞の軍部批判	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	『朝毎』全盛時代③		軍部による言論統制と二・二六 補論２：日本における通信社の歴史	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和前期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。		120分
8	小括 総括的評価テスト①		大正後期から昭和期（戦前）までのジャーナリズムの歴史の小括 テストと解説	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期から昭和期（戦前）の日本のジャーナリズムについて説明することができる。		
	事前学修	自筆のノートの振り返り。		120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。		120分
9	大日本帝国の崩壊と新聞①		日中戦争と新聞 第２次世界大戦の開幕と新聞	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。		120分
10	大日本帝国の崩壊と新聞②		新聞の統廃合	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。		120分
11	大日本帝国の崩壊と新聞③ 占領期の新聞①		敗戦と新聞 GHQの新聞政策	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、戦時期・占領期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。		120分
12	占領期の新聞②		新聞の民主化運動 取材源証言拒否事件と捏造報道	
	この回の 到達目標	到達目標①②③に関連し、占領期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。		
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。		120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	飛躍する新聞①		対日講和条約と新聞 激化する販売競争
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
14	飛躍する新聞②		新聞界の技術革新と報道協定 安保問題と新聞
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、昭和後期の日本のジャーナリズムについて理解し、解釈することができる。 到達目標④に関連し、歴史的出来事に考察を踏まえて、ジャーナリズムに関する諸問題について説明することができる。	
	事前学修	Google Classroomに予習用の資料を提供するので、目を通しておくこと。	120分
	事後学修	ノートの整理。復習用資料（授業内容に関する質問へのフィードバック）に目を通しておくこと。	120分
15	まとめ 総括的評価テスト②		大正後期から昭和期までのジャーナリズムの歴史のまとめ テストと解説
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、大正後期から昭和期（戦後）の日本のジャーナリズムについて説明することができる。	
	事前学修	自筆のノートの内容の振り返り。	120分
	事後学修	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。	120分

科目名	日本政治過程論	担当者	浅井 直哉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
この授業は、日本を対象としたケーススタディを取り扱う。1993年の非自民連立政権から第2次安倍政権に至るまでの政権においてどのような政治過程が観察されてきたのかに関して、日本政治の流れや各政権の特徴について学修する。日本では、長らく自民党が単独で政権を担っていたが、1990年代に入ると、複数の政党が協力して政権を担当する様子がみられるようになった。このような変化を踏まえると、現代の日本政治を考えるには、連立政権という視点に立つことが重要となる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
1990年代以降の日本政治の特徴を理解するために、連立政権という分析視角を修得し、各政権に適用することができるとともに、政権ごとの特色や政権間の共通点および相違点を理解する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
主として、PowerPointを使用した講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度、リアクション・ペーパーの記入を実施する。 出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本政治における連立の形態を識別し，説明することができる。						2	2					
②	日本政治における連立政権の形成について理解し，説明することができる。						2	2					
③	日本政治における連立政権の変化について理解し，説明することができる。						2	2					
④	日本政治における連立政権の実績について理解し，その後への影響と結びつけて説明できる。						2	2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標④に関して説明することができるかについて評価する。				20							20
レポート等	到達目標①～④について求められる学力が身についているかを，学期末レポートにより評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の授業においてレポートの講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の連立政権』	岩渕美克・岩崎正洋編	八千代出版	2018	教科書	必携
『現代日本政治史』	薬師寺克行	有斐閣	2014	参考書	推奨
『現代の政党と選挙〔新版〕』	川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子	有斐閣	2011	参考書	推奨
『ドキュメント平成政治史1 崩壊する55年体制』	後藤謙次	岩波書店	2014	参考書	任意
『ドキュメント平成政治史2 小泉劇場の時代』	後藤謙次	岩波書店	2014	参考書	任意
『ドキュメント平成政治史3 幻滅の政権交代』	後藤謙次	岩波書店	2014	参考書	任意
『永田町政治の興亡 権力闘争の舞台裏』	星浩	朝日新聞出版	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 12:15～12:45 あらかじめ、メールで連絡をしてください。 asai.naoya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	イントロダクション：日本における連立政権		第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、1993年以降の日本政治の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本政治過程論を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。		
	事前学修	1993年以前の日本政治に関する知識や情報を整理し、授業前にノートにまとめる。		60分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
2	連立政権の理論的枠組み		連立政権とは何か、連立政権を考えるための枠組みにはどのようなものがあるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、連立政権の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
3	細川政権		細川政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、細川政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
4	羽田政権		羽田政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、羽田政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
5	村山政権		村山政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成と実績を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、村山政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
6	橋本政権		橋本政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、橋本政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	小渕・森政権	小渕政権・森政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、小渕政権・森政権の発足から終焉について説明することができる。	
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	小泉政権	小泉政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、小泉政権の発足から終焉について説明することができる。	
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	第1次安倍政権	第1次安倍政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、第1次安倍政権の発足から終焉について説明することができる。	
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	福田・麻生政権	福田政権・麻生政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、福田政権・麻生政権の発足から終焉について説明することができる。	
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	鳩山政権	鳩山政権期の政治過程や特徴について、連立政権の形成を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、鳩山政権の発足から終焉について説明することができる。	
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	菅政権	菅政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化と実績を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、菅政権の発足から終焉について説明することができる。	
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	野田政権		野田政権期の政治過程や特徴について、連立政権の変化を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、前後の政権とのつながりを踏まえつつ、野田政権の発足から終焉について説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
14	第2次安倍政権		第2次安倍政権におけるこれまでの政治過程や特徴について、連立政権の形成・変化・実績をそれぞれ説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、前の政権とのつながりを踏まえつつ、第2次安倍政権の発足から現時点までを説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		120分
15	日本の連立政権における展望と課題		日本政治を題材として、連立政権の枠組みを援用する際の手続き・流れを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、各政権の特徴を理解するとともに、政権同士の比較を通じて共通点や差異点を導き出し、説明することができる。		
	事前学修	教科書・参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。		120分
	事後学修	授業中に紹介した文献・資料にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。		180分

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
後期の「日本政治史Ⅱ（中静担当）」と合わせて受講することが望ましい。【1年生は可能な限り[木曜1限]で受講してください】

【授業方法】
講義の音声とレジュメ（講義各回の構成と概要を示した文書）に基づいて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義の大きなまとまりごとに、講義内容の復習となる課題を提示し、回答に対する講評と解説をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる						1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる							1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる						1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる						1		1					1
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	講義期間中に数回出題する課題への回答を通じて、到達目標①②③④の能力が得られたかを評価する。課題形式は説明文の記述（講義で教えた歴史的事実に関する説明）。評価の基準は、課題の問いに対する応答になっていること、歴史的事実の正しい理解、説明の論理構成と文章表現。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題ごとに、回答の講評と解説を行う（Classroomに配信＋希望者には個別講評も行う）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の近代』第2・3・4巻	坂本多加雄ほか	中公文庫	2012-13	参考書	推奨
『シリーズ日本近現代史』②③④	牧原憲夫ほか	岩波新書	2006-07	参考書	推奨
レジュメに各回ごとの参考文献を記載する				参考書	推奨
備考					

【オフィスパワー】
水曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の案内 序論 歴史の捉え方 1 学問としての歴史 2 時代区分について	案内：シラバスと講義の捉え方、学問領域と科目の位置、本講義の学修手順 序論：歴史的な「事実」の捉え方、時代区分の意味、近代と現代の区分	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、「事実」に対する認識の仕方と、それに基づく歴史の捉え方を理解し説明できる。 【これは本講義の聴き方、講義内容の理解の仕方でもあると認識してください】	
	事前学修	受講全体の準備：中高で学んだ日本史の近代・現代（明治維新から太平洋戦争終結あたりまで）を復習してください。その際、教科書や参考書の「部」「章」等の区分（目次で一覧できます）がどのように立てられているかも確認してください。	180分
	事後学修	学問上の「事実」の捉え方が解りましたか。中高の教科書や本講の参考書等で、時代区分がどのようになされているかを確認してみてください。「近代国家」の定義が意味する内容を改めて考えてみてください。	60分
2	1. 明治国家の形成 (1) 明治維新と新政府 (2) 統治体制の構築	(1) 明治維新の政治的な意味、統一国家の形成と新政府の確立 (2) 権力中枢の機構、権力行使の機構、憲法制定の経過 以上を概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、明治維新の政治的な意味と新政府の構成、統一国家形成に必要な政策例、明治国家の権力機構を理解し、説明できる。	
	事前学修	前回講義で話した近代国家の定義と、「政府」「統治」「三権（分立）」という語が持つ意味をふまえて、近代国家を作るためにどのような制度やしくみが必要かを、具体的に考えてみてください。	90分
	事後学修	明治維新は要するに何だったのか。どんな人々が新政府を構成したか。近代的な統一国家と統治の体制を作るには何が必要だったか。このように、講義を論題（レジュメの見出し部分）ごとに捉え、その中に細部の説明事項を位置づけると理解しやすくなるはずです。	150分
3	1. 明治国家の形成 (3) 大日本帝国憲法下の政治構造 ①「天皇主権」の規定と運用	(3) 明治国家の政治構造は、帝国憲法と関係法令が規定した政治機構とその運用によって定まる。その主要点について説明する。 ①では、憲法に規定された天皇の地位と権限、天皇の権限の運用方法（大権行使の要件）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、天皇の権限（大権）を天皇の一存では発動できないようにした仕組み（他の国家機構が持つ権限との関係）を理解し、明治国家の政治体制が「親政」ではない理由を具体的に説明できる。	
	事前学修	「大日本帝国憲法」に目を通してください（法律の授業で使う六法に載っています）。特に、条文の前にある「告文」「憲法発布勅語」と、第一章（天皇）・第四章（国务大臣及枢密顧問）の各条文は念入りに読んでください。	90分
	事後学修	大権の種類ごとに設定された権限行使の要件が重要です（それが「親政ではない」状態を作るからです）。それは天皇の権限と他の国家機関（内閣、元老、軍、議会）が持つ権限との対抗関係と捉えることができます。その仕組みと論理を理解してください。	150分
4	1. 明治国家の形成 (3) 大日本帝国憲法下の政治構造 ②「政治」の力量と限界（議会と内閣）	(3)②では、帝国議会[立法府]の構成・権限と、内閣制度[行政府]の特質について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、帝国議会に付与された権限とその力量を、内閣・天皇が持つ権限との関係で理解し説明できる（立法府と行政府の制度上の力関係）。また当時の内閣制度の特質と、それが政治運営にもたらす影響（弱点）を理解し説明できる。	
	事前学修	立法府（立法権）と行政府（行政権）の役割と違いを理解していますか。これは近代以降現在に至るまで、政治の基本的な概念であり仕組みですから、理解は必須です（高校までの社会科で教わったはず）。わからなければ勉強すること。	90分
	事後学修	貴族院は身分制議会、衆議院の選挙権は資産制限あり（どちらも当時世界的に存在した仕組みです）。議会の権限は天皇や内閣の権限と対抗関係にある。現在の議会制度（国会）・内閣制度との違いは解りますか。枢密院は天皇主権国家ならではの機関。政治機構は今後の講義全体の前提となるので、くれぐれもよく理解してください。	150分
5	2. 明治国家の確立過程 (1) 初期議会期 (2) 日清日露戦争期 ①日清戦争	(1) 議会政治開始後（初期議会期）の政治の動きについて、内閣（藩閥政府）と衆議院（民党勢力）との関係に焦点を絞って概説する。 (2) ①近代日本初の大戦争・日清戦争について、開戦前の日清関係、開戦の経緯と帰結を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、内閣と衆議院勢力の関係とその変化を通じて、日本の議会政治の運営手法の形成過程を理解し、説明できる。到達目標③に関連して、当時の日本にとって朝鮮半島がどのような意味を持っていたか（それが戦争の原因=目的であること）を理解し説明できる。	
	事前学修	議会政治の運営は第4講で話した議会制度を前提に成り立つので、理解を確認しておいてください。「日清日露戦争期」は時期区分の一つです（戦争が時代を画する変化をもたらしたため）。戦争が政治や経済・社会にどんな影響を与え得るか、考えてみてください。	60分
	事後学修	内閣と衆議院の関係が、政治課題をめぐる試行錯誤のうちに「変化していく過程」を理解してください。各動向が生じた理由を知ると共に、時期毎の変化を大きく捉える視点も持つこと。	180分
6	2. 明治国家の確立過程 (2) 日清日露戦後期 ②日清戦後の内閣と議会	(2) ②日清戦後期の政治運営の変化の過程を、「縦断的提携関係」の形成から地租増徴案をめぐる対立、さらに藩閥政治家が結成した政党（立憲政友会）の成立と変質を通じて、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、内閣と衆議院勢力の関係とその変化を通じて、日本の議会政治の運営手法の形成過程を（初期議会期と日清戦後期の違いを認識して）理解し、説明できる。	
	事前学修	第5講で説明した初期議会期の藩閥政府と民党勢力の関係とその変化を、復習しておいてください。第6講の説明内容は、その続き（さらなる変化）になるからです。	60分
	事後学修	「縦断的提携」「横断的提携」という語は、藩閥内閣と衆議院勢力の関係を把握するための政治史学の概念用語です。レジュメの図示も参考に理解してください。「地租増徴」が対立原因になる理由や、藩閥政治家間に政党に対する考え方の違いがあることも理解してください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	2. 明治国家の確立過程 (2) 日清日露戦後期 ③ 日清戦後外交～日露戦争 まとめ：明治国家の確立	(2) ③ 日清戦争と同様に、朝鮮半島をめぐる利害関係から、今度はロシアとの戦争に至る経緯と戦争の帰結を説明する。 終りに、ここまでの講義のまとめとして、日清日露戦争期を経て明治国家が確立すると共に、この後の日本を左右する新たな課題が生じたことを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、当時の日本に朝鮮半島が持った意味を理解し説明できる。 到達目標①②③に関連して、明治維新～日露戦争終結までの近代日本政治を大きく捉えて理解し、説明できる。	
	事前学修	第5講で話した日清戦争の原因と帰結について、復習しておいてください。また第2講 1-(1)で説明した、明治維新の目的（必要性）とは何だったかを思い出しておいてください。	60分
	事後学修	戦争を行った理由については、戦争目的（日本にとっての利害）と帰結（講和条約に反映する）を結びつけて、理解するようにしてください。「明治国家の確立」は第2講以降の内容をふまえて理解してください。近代日本が置かれた状況と政治の展開を大きく捉えることになるはずです。	180分
8	3. 明治国家体制の動揺 (1) 日露戦後の政局と外交 ① 桂園時代の政局	(1) 日露戦後期に現れた政治運営体制（桂園体制）の下で展開された政治・外交の動向を説明する。 ①では、「桂園時代」とその政治体制の意味を説明したのち、政局の具体的推移（政権委譲の開始＝第1次西園寺内閣から第2次桂内閣まで）を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、桂園時代は単に首相の交代ではなく、桂と西園寺が各々率いる「2つの政治勢力の拮抗状態」が根幹にあること、その2勢力の妥協の手段が政権委譲という手法であったことを、理解し説明できる。	
	事前学修	ここからは、維新の想定を超えた新たな政治課題に対処する過程で、政権の構造が変化していく局面に入ります。新たな政治課題は前回説明した「帝国化」と「大衆化」に概括できますが、それが意味する内容を復習しておいてください。	60分
	事後学修	桂園時代を生んだ2勢力の対抗と妥協の関係は、2-(1)と(2)の②で説明した「内閣と衆議院の関係」が発展したものです。そのつながりを含めて理解するようにしてください。	180分
9	3. 明治国家体制の動揺 (1) 日露戦後の政局と外交 ①の続き ② 桂園時代の外交	(1) ①政局の推移の続き（第2次西園寺内閣）を説明する。②では、桂園体制期の主要な外交問題を日露戦果の確保と維持と捉え、韓国、満州、列強との権益の相互承認に分けて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、維新以来外交の焦点だった朝鮮半島問題が植民地化に帰結したことと、それが外交を通じて為されたこと、また満州権益はこの時点では必要性の乏しい戦果にすぎず、対策も当面の措置に留まったことを、理解し説明できる。	
	事前学修	朝鮮半島には現在2つの国家が存在しますが、それはいつからか。また「満州」という地域（現在は「中国東北部」と呼ばれる）はどこにあるか。調べて知っておいてください。	60分
	事後学修	植民地や権益（租借地等）を持つことの得失を、長期的・世界的な視野で考えてみてください。日本でも他国でも、この時代（帝国主義時代）に為したことの影響は現在も様々な形で存在しますから、現代の問題でもあります。日本におけるその影響は何かを調べて考えてみてください。	180分
10	3. 明治国家体制の動揺 (2) 「民衆的示威運動」の時代 ① 大正政変	第3次桂内閣成立前後に憲政擁護運動が起きた経緯と理由、それが惹起した最初の政変（大正政変）の経過を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、民衆を巻き込んだ運動の高揚によって政変（倒閣）が生じた経緯と、その政治史的な意味を、理解し説明できる。	
	事前学修	「大正デモクラシー」という語が何を指すものか、日本史辞典等で調べてみてください。多義的・多面的であるはずですが（講義では、それが政治の動向として現われた局面を話します）。	60分
	事後学修	世論が政治に反映して具体化する過程は見えにくいものですが、大正政変はそれがよくわかる事例です。経過だけでなく、それが日本政治の「民主化」という点で画期的な出来事だという歴史的評価の意味を理解するようにしてください。	180分
11	3. 明治国家体制の動揺 (2) 「民衆的示威運動」の時代 ② 政府批判運動の再起	大正政変後に元老が選択した山本内閣の成立経緯とその施政、シーメンス事件を機に憲政擁護運動が再び起きる経過と、二度の政変の性格の違いを説明する。	
	この回の到達目標	憲政擁護運動の批判・要求の内容（元老はそれに抵抗する）が持つ政治的な意味と、二度の政変の違い（政界内の対抗図式の違い、それによる政変経過の違い）を理解し、説明できる。	
	事前学修	「政治の民主化」という抽象語の意味を、前回説明した憲政擁護運動の主張内容に当てはめて具体的に捉え、考えてみてください。	60分
	事後学修	運動勢力が「憲政擁護」と唱えたことの意味内容が理解できれば、その後の元老の政権選択が持つ意味がわかるはずです（次回の講義にも続く問題なので、よく理解してください）。また二つの政変の違いがどこにあったかを理解してください。	180分
12	3. 明治国家体制の動揺 (3) 第一次大戦期の政治 ① 大隈内閣の成立 ② 大戦外交 ③ 政局の推移	政党内閣を求める世論に対する元老ら政界中枢の抵抗が、第2次大隈・寺内の2代の内閣を成立させた経緯と、第一次大戦期に加藤高明外相が主導した外交について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、第一次大戦期の政治・外交の事実経過と、世論が直ちに政治に反映するわけではない政治の性質を、具体的事実に基づいて理解し説明できる。	
	事前学修	大隈重信がどういう立場で何をした人だったかを調べてみてください（本講義では1-(1)と2-(2)に登場）。また第一次世界大戦は、欧州諸国と日本とではずいぶん様相が違います。大戦全体の概要を調べてみてください。	60分
	事後学修	護憲運動の要求がすぐには政治に反映されない事実（政界内の力関係に左右される側面）と共に、それでも世論は政治に影響し変化をもたらす側面があること、その両面を理解してください。また大戦中の日本の対中外交は、この後の日本の外交関係に影響を残すので、よく理解してください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	3 (3)④寺内内閣 4. 第一次大戦後の政治 (1) 政党内閣の成立と施政 ①原内閣成立②原内閣の内政	(3)④大隈内閣総辞職～寺内内閣成立の経緯、シベリア出兵、大戦期の社会情勢を説明する。 4 (1) 本格的な政党内閣＝原政友会内閣の成立と、その内政・外交の主要政策を説明する。 ①は原内閣の成立経緯、②は原が主導した内政政策をその政治的意図（党利）と関係づけて、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、原内閣の内政を通じて、政策（社会の諸問題への対処）と権力追求（政治的利益の獲得、権力争奪）が表裏の関係にあることを理解し、説明することができる。	
	事前学修	第一次大戦期の日本の「大戦景気」がどんな様相だったか、それが日本社会にどのような変化をもたらしたかを、調べてみてください。	60分
	事後学修	原敬は、公益にも適う政策手段を駆使して自らの政治目的を実現していく有能な政治家でした。その政治手腕の理解とともに、彼がめざしたものと世論が期待した「デモクラシー」は必ずしも一致しなかったことを理解してください。	180分
14	4. 第一次大戦後の政治 (1) ③原内閣の外交 ④高橋内閣とワシントン会議 (2) 「中間内閣」の継続	(1)③では原内閣の外交をパリ講和会議への対応を中心に説明し、④は原暗殺による高橋内閣の成立とワシントン会議について説明する。(2)は、原死後の政友会の状況とそれによる内閣の崩壊と、その後「中間内閣」が3代続いた経緯を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、大戦後に成立した国際的ルールの概要、それと関わる日本の外交路線と権益の関係、政党を基盤とする内閣の特質・政党内閣が続かなかった要因を、理解し説明することができる。	
	事前学修	第一次大戦の経験は世界各国に多大な影響を残し、世界秩序（国家間ルール）の組替えをもたらします。パリ講和会議や、引き続き開かれたワシントン会議の概要を調べ、大戦後の日本が向き合った世界の状況を知ってください。	90分
	事後学修	大戦後の日本外交と新しい世界秩序との関係はその後の日本国の行方に大きく影響しました。よく理解してください。高橋内閣の総辞職は、政党を基盤とする政権が党の内紛によって倒れた例で、ようやく実現した政党内閣が続かなかった理由につながります。	150分
15	課題の解説 講義のまとめ	課題の解説とまとめを通じて、講義の重要点を復習し、理解を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に即して講義内容を理解し、その説明を論理的な文章で記述することができる。	
	事前学修	本講では明治～大正期の日本政治の推移を概説しました。レジュメのタイトル（時期区分と主題を示す）や各部分の見出しを手掛りにして、時期ごとの政治の特質と変化を大きく捉え、その枠組ごとに個別説明の要点を押さえるようにすると、理解しやすくなるはずです。	240分
	事後学修	興味を引かれた時期や事柄を扱った本を探して読んでみてください（参考書欄やレジュメに記した書籍でもよいです）。講義は概説に留まりますが、歴史の本当の面白さは細部にあり、具体的な事実を知るほど面白くなるものです。	120分

科目名	日本政治史Ⅱ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
来年度開講予定の「日本政治史Ⅰ」（浅野担当分）を受講することがのぞましい。なお、定期試験の答案作成にあたっては黒のボールペンを使用すること。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とするが、折りにふれ、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、授業であつかうテーマと関連した、ホットな政治的事象が発生したときにはその問題についても議論をするため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性があることを付言しておく。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の形態は、あくまでも、講義形式を基本とするが、機会をみつけては、時事的な事象について、ディスカッションの要素をとり入れる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる				1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる					1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる				1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる				1		1					1
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④の理解と能力が得られたか、論述形式の筆記試験により評価する。答案作成時に留意すべき点は、問い（問題文）に対する応答にすること、論理的な記述、日本語表現の正しさ。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『増補版 民主党政権下の日本政治－鳩山・菅・野田の対米観－』	浅野一弘	同文館出版	2016	教科書	必携
『日米首脳会談と「現代政治」』	浅野一弘	同文館出版	2000	参考書	推奨
『日米首脳会談の政治学』	浅野一弘	同文館出版	2005	参考書	推奨
『日米首脳会談と戦後政治』	浅野一弘	同文館出版	2009	参考書	推奨
『日本政治史－現代日本を形作るもの－』	清水唯一朗・瀧井一博・村井良太	有斐閣	2020	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、かならず事前に購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
火曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	戦後政治史のなかの政権交代	われわれは、政権交代の意味について理解をしているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、戦後政治史の流れのなかで、政権交代の特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後史のなかの政権交代の意味を把握することができる。	
	事前学修	高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、政権交代の意味をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
2	戦後政治史のなかの民主党政権の位置づけ	われわれは、民主党政権について理解をしているようで、じつは理解していないともいわれる。そこで、戦後政治史の流れのなかで民主党政権を位置づけ、その特質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後政治史の流れをふまえ、民主党政権の特質を説明することができる。	
	事前学修	高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」などの教科書で、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。そうした作業をつうじて、民主党政権の位置づけをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
3	戦後政治史のなかの日米関係	民主党政権下の日米関係を考察するにあたり、自民政権下における米国とのかかわりについてとらえる。くわえて、両政権による対米観のちがいにしても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、戦後史のなかの日米関係の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書107頁～130頁を精読し、自民政権下の日米関係の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
4	鳩山由紀夫の思想と行動－戦後政治史のなかの鳩山政権－	鳩山由紀夫の政治哲学の特徴を学修する。くわえて、その政治理念にもとづいて、どのような行動様式がもたらされたのかについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、鳩山由紀夫の思想と行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書25頁～33頁を精読し、鳩山由紀夫の政治思想をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
5	鳩山由紀夫の考えた日米関係－戦後政治史のなかの鳩山政権－	鳩山政権下における日米関係の実態を学修する。くわえて、鳩山由紀夫の著作に着目し、その対米観についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、対米追従外交の観点もふまえ、自民政権と鳩山政権との日米関係の相違を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書34頁～43頁上から9行目を精読し、鳩山由紀夫の考えた日米関係の実態をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
6	戦後政治史のなかの鳩山政権の意味	戦後政治史の流れのなかで、鳩山政権がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、鳩山政権のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書43頁上から10行目～47頁を精読し、戦後政治史における鳩山政権の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	菅直人の思想と行動－戦後政治史のなかの菅政権－	菅直人の政治哲学の特徴を学修する。くわえて、その政治理念にもとづいて、どのような行動様式がもたらされたのかについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、菅直人の思想と行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書49頁～58頁上から8行目を精読し、菅直人の政治思想をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
8	菅直人の考えた日米関係－戦後政治史のなかの菅政権－	菅政権下における日米関係の実態を学修する。くわえて、菅直人の著作に着目し、その対米観についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、対米追従外交の観点もふまえ、自民党政権と菅政権との日米関係の相違を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書58頁上から9行目～68頁上から7行目を精読し、菅直人の考えた日米関係の実態をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
9	戦後政治史のなかの菅政権の意味	戦後政治史の流れのなかで、菅政権がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、菅政権のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書68頁上から8行目～74頁を精読し、戦後政治史における菅政権の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
10	野田佳彦の思想と行動－戦後政治史のなかの野田政権－	野田佳彦の政治哲学の特徴を学修する。くわえて、その政治理念にもとづいて、どのような行動様式がもたらされたのかについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、野田佳彦の思想と行動の特質を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書75頁～92頁下から7行目を精読し、野田佳彦の政治思想をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
11	野田佳彦の考えた日米関係－戦後政治史のなかの野田政権－	野田政権下における日米関係の実態を学修する。くわえて、野田佳彦の著作に着目し、その対米観についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、対米追従外交の観点もふまえ、自民党政権と野田政権との日米関係の相違を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書92頁下から6行目～96頁を精読し、野田佳彦の考えた日米関係の実態をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分
12	戦後政治史のなかの野田政権の意味	戦後政治史の流れのなかで、野田政権がどのように位置づけられるのか、その意味について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、リーダーシップの視点もふまえ、野田政権のはたした役割を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書97頁～101頁を精読し、戦後政治史における野田政権の特徴をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「地域主権」の意味	歴史的流れのなかで、「地域主権」ということばが登場した背景を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、地方分権改革の流れをふまえ、「地域主権」の意味を的確に説明することができる。	
	事前学修	教科書133頁～147頁を精読し、「地域主権」の意味をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
14	マニフェストにみる「地域主権」	マニフェストが登場した背景を考えるとともに、マニフェストにみられる「地域主権」の変容についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マニフェストのなかで、「地域主権」がどのように位置づけられてきたのを説明することができる。	
	事前学修	教科書148頁～175頁を精読し、マニフェストのなかの「地域主権」の流れをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分
15	民主党政権と「地域主権」	民主党政権がかかげた「地域主権」が日本の地方自治において、どのようなインパクトをあたえたのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民主党政権下における「地域主権」の特質を説明することができる。	
	事前学修	教科書176頁～183頁を精読し、民主党政権と「地域主権」の関連をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとす。	120分

科目名	日本政治史Ⅱ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
近現代日本政治の歴史的展開を概説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・近現代の日本政治に関する基本的な知識を得ることを、様々な人々と関わる社会人の基礎教養として認識し修得する。 ・時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力を身につけるため、歴史の見方（過去の事実を客観的に捉え理解すること）を修得する。

【履修条件】
中静担当の「日本政治史Ⅰ」を履修していること。

【授業方法】
講義の音声とレジュメ（講義各回の構成と概要を示した文書）に基づいて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義の大きなまとまりごとに、講義内容の復習となる課題を提示し、回答に対する講評と解説をする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	近現代日本の国家・政治の成り立ちと仕組みを理解し解答することができる				1	1						
②	日本の行政・立法の過去の動向を知り、政治に関する理解の深化に応用できる					1	1					
③	近現代日本の国家的行為を客観的に捉え、当時の国際社会における意味を評価できる				1	1	1					1
④	事実を客観的に捉える歴史学的な見方・考え方を修得し、社会事象の理解に応用できる				1		1					1
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義期間中に数回出題する課題への回答を通じて、到達目標①②③④の能力が得られたかを評価する。課題形式は説明文の記述（講義で教えた歴史的事実に関する説明）。評価の基準は、課題の問いに対する応答になっていること、歴史的事実の正しい理解、説明の論理構成と文章表現。	30	30	20	10							90
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	講義内容に関する疑問点の解消に努める質問等の積極的姿勢を評価する（到達目標では特に①②③に関わる）	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題ごとに、回答の講評と解説を行う（Classroomに配信＋希望者には個別講評も行う）

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『日本の近代』第4・5巻	有馬学、北岡伸一	中公文庫	2013	参考書	推奨
『シリーズ日本近現代史』④⑤⑥	成田龍一ほか	岩波新書	2007	参考書	推奨
レジュメに各回ごとの参考文献を記載する				参考書	推奨
備考					

【オフィスパワー】
水曜昼休み(12:10-12:50、事前にメール等で予約して下さい) 研究室（9号館4階9405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の案内 前史の概観	案内：履修上の注意、学習の手順 前史：日本政治史Ⅰで扱った時代と概要を、大きな時期区分で概括して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、本講の前提となる明治・大正期の日本政治に関する理解を再確認し、昭和戦前期の政治の理解につなげることができる。	
	事前学修	日本政治史Ⅰの講義内容を思い出しておいてください。	120分
	事後学修	Ⅱで扱う時期（昭和戦前期）も国家機構や政治運営の仕組みは基本的にⅠの時代と同じですから、その理解がⅡの講義を理解する土台になります。理解の足りない点は十分に復習しておいてください。	120分
2	1. 政党内閣の時代 序 政党内閣期と元老西園寺 (1) 憲政党内閣の内政と政党 ①護憲三派内閣②単独内閣	序では「政党内閣期」とその時期の政権選定を行った唯一人の元老・西園寺公望について説明する。(1)①は政党内閣期の最初の加藤高明内閣（憲政会優位の護憲三派内閣）期、②は憲政会単独内閣となった第2次加藤内閣期について、施政と同時期の政党の動向を概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政権を事実上選定する元老という存在と、政党内閣期が元老の下に存立したこと、また政友会以外の政党の伸張と政党間の対抗関係を、理解し説明することができる。	
	事前学修	時代は政党内閣の最盛期に入ります。明治期以来の主要政党について、結党時とその後の系統関係を確認しておいてください（Ⅰでその都度説明しましたし、日本史辞典等には「政党系統図」等の資料も載っています）。	90分
	事後学修	政党内閣期は各政党の動向が政治を左右する主因になるので、政界状況の説明が増えて話がやや複雑になります。権力獲得をめざす政党の行動は、政治が持つ重要な特質の一つですから、理解に努めてください。	150分
3	1. 政党内閣の時代 (1) ③若槻内閣と政党対立 (2) 政友党内閣の内政と政党 ①田中内閣 ②政党と普選	(1)③は前回に続く憲政会の若槻内閣期、(2)は政友会の田中内閣期について、成立事情、内政の概要、各期の政党の動向を説明する。この間に、立憲民政党結成による二大政党体制の成立と、男子普通選挙の初の実施がある。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、昭和期の政友会の性格の形成要因、政友本党の分裂的消滅により二大政党制が成立した経緯、また拮抗関係にある政党間の権力争奪のあり方と各政党の違いを、理解し説明することができる。	
	事前学修	田中義一はⅠの原内閣期に陸相として登場しましたが、この回で政友会の総裁として党外から迎え入れられまもなく首相になります。田中義一の経歴を調べてみてください（日本史辞典にも人名辞典にも載っているはずです）。	90分
	事後学修	田中内閣は歴史上あまり評判がよくないが、一因は内相の鈴木喜三郎にある。田中も鈴木も新参党員ながらすぐ党幹部となり、昭和期の政友会を形作った人物です。復習に際しては、憲政会-民政党と政友会の違いという対比の視点も持って、理解するようにしてください（次回の外交も同様）。	150分
4	1. 政党内閣の時代 (3) 両党内閣の外交 ①中国問題 ②幣原外交 ③田中外交	(3)②加藤-若槻内閣の外相・幣原喜重郎の外交と、③田中内閣（兼任外相田中+外務政務次官森恪）の外交を、対中外交・大陸政策を中心に対比的に説明する。①はその前提説明として、当時の日本にとっての「中国問題」の意味を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、一般に「幣原外交＝協調外交」「田中外交＝積極外交」と称される各外交の特徴と差異を理解し、対比的に説明することができる。	
	事前学修	辛亥革命(1912-1913年)と以後の中国の国内情勢について調べ、概要を知っておいてください。	90分
	事後学修	「幣原協調外交」「田中積極外交」の語で済むほど現実には単純ではないと理解してください。違いの焦点は満州権益をめぐる対応ですが、それも当該期に関しては程度の違いと見なし得るものです。そのように捉えて復習してください。	150分
5	1. 政党内閣の時代 (4) 民政党内閣の内政と外交 ①浜口内閣成立 ②内政 ③政界の動向	(4) 田中義一の辞任に続く浜口民政党内閣期について、①内閣の成立経緯、②主要政策として推進された金解禁政策、③同時期の政界動向について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、金解禁（金本位制復帰）政策の意図と概要、同時期の政党の動向について、理解し説明することができる。	
	事前学修	「金本位制」とはどのような仕組みかを調べ、知っておいてください。	80分
	事後学修	時代が進むにつれ経済政策の重要性が高まる。浜口内閣は井上準之助を蔵相に据えて金解禁を実行しますが、後に判断の誤りとされる結果をもたらすことになります。経済政策は難しいかも知れませんが理解に努めてください。	160分
6	1. 政党内閣の時代 (4) 民政党内閣の内政と外交 ④浜口内閣の外交⑤ロンドン条約問題	浜口内閣の外交（第2次幣原外交）の概要と、ロンドン海軍軍縮条約をめぐる政治問題の発生と展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、第2次幣原外交を第1次期と異なる中国情勢の難度をふまえて理解する。軍縮条約問題は政友会が内閣批判に利用したため拡大したことを、その批判の論理（「統帥権干犯」の意味内容）と共に理解し、説明することができる。	
	事前学修	再任の幣原外相が直面した中国情勢は以前と違います。国民政府成立(1927年)以降の中国国内情勢を調べてください。また条約問題にはⅠで説明した軍令・軍政の区別の論理(憲法第11・12条)が関係するので、復習しておいてください。	90分
	事後学修	ロンドン軍縮条約問題は、条約自体（外交問題）ではなく国内の政治問題として説明していることに注意。問題の経過と合わせて、条約支持派と反対派の争点となった「論理」を理解してください。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	2.「非常時」の政治 (1) 恐慌・事変・テロリズム ①昭和恐慌 ②満州事変勃発	複合的な要因で発生した「昭和恐慌」と、「非常時」の引き金を引いた満州事変の発生と初期の経過について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、満州事変の事実経過とともに、1930年代の政治的困難は軍部によるものだけではないという多角的な理解をし、説明することができる。	
	事前学修	世界恐慌（大恐慌）について概要を調べて知っておいてください。	60分
	事後学修	恐慌の実態、特に農村部の惨状は想像しにくいと思います。レジュメの参考文献『労働者と農民』は、近現代日本に生きた「普通の人々」の状態を知りうる好著です。「窮乏の農村」の章だけでも読んでみるように。	180分
8	2.「非常時」の政治 (1) 恐慌・事変・テロリズム ③政界動向 ④満州事変の展開	「非常時」を受けた政界の動向、満州事変の拡大と「満州国」の出現、テロリズムの発生（血盟団事件、五・一五事件）について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、恐慌・事変とテロリズムが連動して発生したこと、政治の側の対処と困難な状況を、理解し説明することができる。	
	事前学修	満州事変の首謀者・石原莞爾は昭和日本のダークヒーロー。関心が高いので関係書も多いです。どんな人物だったか調べてみてください。	60分
	事後学修	この時期の政治（特に軍との関係）を理解するには、テロリズムの恐怖が政治家の身に迫るものとして存在したことを考えに含める必要があります。恐慌と軍の暴走に直面した内閣の動揺と苦難の実態を、具体的に理解してください。	180分
9	2.「非常時」の政治 (2) 挙国一致内閣の成立 ①事件後の後継首相選定 ②満州国承認・国際連盟脱退	五・一五事件後の後継首班選定（政党内閣の途絶）、斎藤「挙国一致」内閣下の恐慌対策（高橋財政）と外交（満州国承認と国際連盟脱退）について、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、「政党内閣の途絶」が迷った末の選択であり、政党内閣が以後途絶するとは考えられていなかったこと、高橋財政の意味と意義、「満州国」の成立と承認が意味することを理解し、説明することができる。	
	事前学修	斎藤内閣の蔵相・高橋是清はこの時期の財政指揮で名を残したが、自らの命を賭すことにもなった。国際連盟脱退時の連盟総会代表・松岡洋右は、後に外相として日本国の運命を導く一人となる。二人の人物について調べてみてください。	60分
	事後学修	満州事変の推移、後継首相選定の経過など、やや細部にわたる事実経過の説明が続きますが、詳細な事実を知らなければ理解できない事があります。十分に復習して理解に努めてください。	180分
10	2.「非常時」の政治 (2) ③斎藤内閣下の政党 (3) 挙国一致内閣の継続 ①岡田内閣 ②政党と革新勢力	斎藤・岡田両内閣期の政党の動向（小党の形成・政民連携運動、革新勢力との接近）と、その状況下で引き起こされた天皇機関説問題・国体明徴運動について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、政権奪取や党の維持存続のための手段が国家・社会に重大な影響をもたらすに至った事実（天皇機関説問題）を、政治が持つ性質の一面として理解し、説明することができる。	
	事前学修	美濃部達吉の憲法学説である国家法人説（「天皇機関説」）の概要を調べ、知っておいてください。	80分
	事後学修	無産政党の結集や既成政党の分裂によって小政党が増え、大政党の方も党内派閥が独自の動きをするなど、政党関係が錯綜する時期なので、十分に復習して理解に努めてください。	160分
11	3.「革新」の政治 (1) 二・二六事件 (2) 事件後の組閣と施政 (3) 「革新」をめぐる政界動向	(1) 二・二六事件の経過概要、(2) 事件後に成立した広田内閣の組閣状況と施政、(3) 政界内の「革新」をめぐる思惑と動きについて、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、二・二六事件の経緯と背後の状況要因をふまえて、「軍部の台頭」「軍の政治介入」と言われる事態の具体的様相を知り、その影響が政界内「革新派」の台頭という形で表れることを、理解し説明することができる。	
	事前学修	政治が軍の存在抜きに語れなくなる時期に入ってきています。政治機構上の軍の位置づけ、軍の組織（「省」と「部」の2つの組織区分と役割分担）について、改めて理解を確認しておいてください。	80分
	事後学修	広田内閣が陸軍の強い圧力の下に成立し政策にもそれが反映していること、「革新」色が弱まった林内閣をはさんで、軍・政界の「革新派」の動きが次の近衛擁立を準備する、という事態の推移を、大きく捉えて理解してください。	160分
12	3 (4) 近衛内閣の成立 4. 戦時下の政治 (1) 日中戦争 ①勃発と拡大②戦時体制構築	近衛「革新」内閣の下で、偶発的に起きた盧溝橋事件から日中間の全面戦争に拡大する経緯と、「国家総動員法」に象徴される国内戦時体制の構築について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、日中戦争の発生・拡大の事実経過から「するつもりのない戦争も起こりうる」ことを知る。それを具体的な事実の積み重ねとして理解し説明することができる。	
	事前学修	近衛文麿について人物や経歴を調べてみてください。1945年の敗戦後までカリスマ性を持ち続けた人物ですが、そのことと政治家として現実に為したこととのギャップが謎でもあります。	60分
	事後学修	全面戦争への拡大を導いた重大な要因は、当時の日本に（政界・軍にも国民にも）広く存在した、中国に対する軽侮の意識です。満州事変以降の対中関係は現在に至る日中関係の根底にある問題ですから、事実を正しく学んでください。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	4. 戦時下の政治 (1) ③ 和平の試み (2) 対外関係の混迷 (3) 欧州戦争の下で ① 情勢		(1) ③ で日中戦争を終わらせる和平の試みと挫折を説明した後、(2) でこの時期(近衛・平沼・阿部内閣期)の対外関係のうち、日独伊防共協定の強化問題・対米関係の悪化・ノモンハン事件をとりあげて各概略を説明する。(3) ① では欧州情勢の急転が日本政治にもたらした影響を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日中戦争が解決できないまま、国際情勢の変化や出先の駐留軍・外交官が起した諸問題にに振り回される外交と軍の様相を理解し、説明することができる。		
	事前学修	この時期の対米関係の要因はⅠで話した第一次大戦後の国際法(九ヵ国条約・不戦条約)にあるので、内容を復習しておいてください。またこの時期の日本に大きな影響を与えた国はアメリカと共にドイツです。1930年代のドイツ(特 に外交)について調べてみてください。		
	事後学修	「出先の暴走」は外交官にもあったことを知ってください。また日中戦争が米国との関係悪化をもたらす淵源(米国が主張する国際的原則の論理)を理解した上で、講義内容を復習してください。		
14	4. 戦時下の政治 (3) 欧州戦争の下で ① 統(阿部・米内期の内政) ② 南進論浮上 ③ 近衛新体制		(3) ① の続きで阿部・米内内閣期の国内情勢と政治の動向を説明した後、②③で欧州戦争勃発・ドイツ軍の快進撃を受けて生じた外交・軍事方針の変化(対独接近論・南進論の浮上)、それに連動して動き出した「近衛新体制」のなりゆきについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、国際情勢(欧州戦争の戦況)に乗じた外交・軍事方針の決定、それに連動して再活性化した「革新」政治(近衛新体制)など、戦時期の政治の判断と選択を、具体的な事実に基づいて理解し説明することができる。		
	事前学修	「フランス領インドシナ(仏印)」「オランダ領東インド(蘭印)」が現在のどこに位置するかを調べ、地図上で確認しておいてください。この時期に本格化する「南進」の行き先です。		
	事後学修	平沼・阿部・米内と短命内閣が続いた後、近衛がまたも輿望を担って登場する。「大政翼賛会」の名はよく知られるが、それが何をめざした末の帰結だったかを理解してください。また欧州戦争の推移と南進論や国内政治の連動について理解してください。		
15	4. 戦時下の政治 (4) 太平洋戦争開戦に至る経緯 ① 松岡外交 ② 南進と米国の対応 ③ 開戦方針の推移		松岡外交(日独伊三国同盟・南進推進・日ソ中立条約締結)と米国の対応、対米交渉と開戦に向う方針決定の推移について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、米英との戦争決定を、政治選択を積み重ねた具体的な事実として理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本を幻惑したドイツ軍の快進撃。1939年以降ドイツ軍が侵攻し占領した国々と範囲を地図上で確認してください。		
	事後学修	本講では、政党内閣期、その崩壊と「革新」政治(軍を含む)の台頭、止められない対中戦争とそれが要因となった対米英開戦まで、昭和戦前期の政治の推移を説明しました。現実の事象は様々な要因が作用して発生し進展します。「なぜそうなったのか」という視点を持って復習してください。		

科目名	日本政治思想史Ⅰ	担当者	上地 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
19世紀半ばから20世紀初期を対象に、西洋の衝撃（ウェスタンインパクト）の前と後でなにがどう変わったのか、国家の樹立・国民の創出とは何を意味するのか、日本の（東）アジアや世界に対する認識はどのように変化したのか、といった問題意識のもと、東アジアという空間のなかで日本列島の政権が近代国家を樹立して行く過程で生じたさまざまな思想を、同時代の文脈に位置づけつつ学んでいく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「西洋の衝撃」以降の「常識」を相対化し、現在の政治社会制度を多元的に想像し直す思考の「くせ」の取得および育成を目的とする。①「西洋の衝撃」以前と以後の秩序観の対比を理解し、明治維新以降の政治思想を説明できること、②社会科学的方法論を意識化し、教科書読解の過程で実践すること、③現在の政治社会制度を相対化する思考の「くせ」の取得と育成を到達目標とする。

【履修条件】
歴史一般に対する関心を持っている方が望ましい。また必須条件ではないが、対象時期が連続し内容も関連するため、可能であれば後期「日本政治思想史Ⅱ」と併せて受講することが望ましい。

【授業方法】		
前週のレビューシートへの応答と講義の二つのパートに分けて行う。前週のレビューシートのまとめファイルと授業スライドのファイルをGoogle Classroomに、講義動画をYoutubeにアップロードする。質問は、①応答が次週で良い場合、他の履修生と共有して構わない場合はレビューシートの自由記述で、②比較的早い応答を希望する場合、また個人間でのやりとりを希望する場合はGoogle Classroomの限定コメントやメールで受け付ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生がレビューシートで寄せたコメントや質問をレジュメで共有し、授業内で応答する。コメントや質問、講師の応答に対する他の学生のリアクション（レビューシートのコメント）も次回のレジュメで共有し、双方向のコミュニケーションを確保する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ウェスタンインパクト以降に東アジア（日本）で生じた諸思想の特徴を理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	前近代から近代にかけての東アジアにおける世界秩序の変容を、グローバルな視座から説明することができる。【知識】						2						
③	歴史的視座から批判的に現在を見つめ直し、「国民」など一般概念の普遍性を疑うことができる。【態度・習慣】							2					
④	思想（家）を同時代の政治社会的文脈において理解し、思想と社会を全体として構想することができる。【技能】												2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②④に関する知識や技能が身に付いているかを、期末レポートにより評価する。	25	15		15							55
討論・発表等												
授業への参画度	レビューシートへの質問や意見を基準に評価する。授業で得た知見（到達目標①②）を現代社会に当てはめ、普通を疑う態度（到達目標③）が身についているかを評価する。	15	15	15								45
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は後日、Google Classroomにコメントファイルをアップロードする形で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『近代日本思想案内』	鹿野政直	岩波書店	1999年	教科書	必携
備考	石田徹、2012年、「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」飯田泰三・李曉東編『「転形期」における日本と中国―その苦悩と展望―』国際書院を併用する（PDF配布）。その他、関連した資料や論文を配布し使用することがある。				

【オフィスアワー】
特に設けません。対面での質問を希望する場合は随時、メールにて日時を調整したのち、zoomミーティングを介して行うことにします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】【日本政治思想史を学ぶということ】		前期ガイダンス（授業目的、講義の概要、成績評価の説明）ののち、「日本政治思想史を学ぶということ」について教科書「はじめに一思想と向き合う」の内容に沿って確認する。
	この回の到達目標	思想を学ぶことは現在と過去をどのような関係にあるかを理解し、一般的・普遍的と思われる身近な概念を疑ってみる。（到達目標③）	
	事前学修	シラバスを確認し講義全体を概観する。Google Classroomより教科書「はじめに一思想と向き合う」PDF（および関連資料）を取得し事前に読む。	120分
	事後学修	シラバスおよび講義スライドを確認し、自分の学習計画や他の理由科目との関係について検討する。	120分
2	華夷秩序と万国公法体制①：西洋の衝撃と対外認識		明治維新以前の東アジアの国際秩序観、世界観を学び、日本列島の政権が有していた対外認識が「西洋の衝撃」の前と後とでどのように変化していったのかを考察する。
	この回の到達目標	近代以前と以後の国際秩序の違い、幕末から明治にかけての対外認識の変化について理解を深め説明することができる。（到達目標②）	
	事前学修	石田徹「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」（Google Classroomにアップロード）を読み、華夷秩序下と現在の外交関係における国家概念の違いについて予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、華夷秩序の特徴と現在の外交関係の違い、華夷秩序時代の徳川幕府の外交について理解した点と不明点をまとめる。	120分
3	華夷秩序と万国公法体制②：西洋の衝撃と国際関係		「西洋の衝撃」がもたらした秩序観の変化が徳川幕府／明治政府と東アジア諸国のそれまでの国際関係に与えた影響について考える。
	この回の到達目標	近代以前の国際秩序（華夷秩序）から国際秩序（万国公法）への変化が生みだした政治的摩擦を学び、その背景を説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	石田徹「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」（Google Classroomにアップロード）を読み、「西洋の衝撃」以降の徳川幕府／明治政府と東アジア諸国の外交上の変化とその原因について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、徳川幕府／明治政府と東アジアとの国際関係が変化した背景と原因について理解した点と不明点をまとめる。	120分
4	華夷秩序と万国公法体制③：西洋の衝撃と近代的国家観		華夷秩序のなかの国家観と万国公法体制のなかの国家観を比較し、近代国家という存在が過去数百年の間に構築されてきたものであることを再確認する。
	この回の到達目標	華夷秩序と万国公法の国際関係観の違いを比較し、近代国家がなぜ普遍的な概念ではないのかを説明することができる。（到達目標②③）	
	事前学修	石田徹「華夷秩序をめぐって―国際関係史的思考」（Google Classroomにアップロード）を読み、「西洋の衝撃」以降の徳川幕府／明治政府と東アジア諸国の外交上の変化とその原因について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、万国公法体制の歴史性について理解した点と不明点をまとめる。	120分
5	「西洋」の発見、中国観の転換、「日本」の発見①：「西洋」の受けとめ方		ペリー来航を契機として人々がどのように「西洋」を知ろうとし、受けとめたのかについて考察する。
	この回の到達目標	幕末の志士や知識人の「西洋」に対する認識を学び、接触の衝撃を同時代的視座から説明することができる。（到達目標④）	
	事前学修	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」が徳川幕府時代の人々にもたらした影響について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、「西洋の衝撃」の影響について理解した点と不明点をまとめる。	120分
6	「西洋」の発見、中国観の転換、「日本」の発見②：アヘン戦争の影響		アヘン戦争の衝撃、西洋の探索などが前近代・華夷秩序時代の中国観を変えていき、同時に「日本」が意識化されていく様子をたどる。
	この回の到達目標	アヘン戦争が日本を含めた東アジア諸国に与えた衝撃と影響について同時代的視座から説明することができる。（到達目標②④）	
	事前学修	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」が東アジアと徳川幕府／明治政府時代の人々の中国観、日本観に与えた影響について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、徳川幕府／明治政府時代の人々の中国観、日本観の変化について理解した点と不明点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「西洋」の発見、中国観の転換、 「日本」の発見③：幕末の変化	「日本」の意識化により、幕藩体制を超える視野と身分制打破の意識が生じた過程を確認し、幕末のこうした動きの上に近代日本思想が展開していった様子を確認する。	
	この回の到達目標	「西洋」の発見が、幕末の人々の社会秩序認識に与えた影響を理解し、説明することができる。（到達目標①②）	
	事前学修	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」以降、徳川幕府／明治政府の制度や思想に生じた変化について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、徳川幕府／明治政府の制度や思想に生じた変化が明治維新以降の社会に与えた影響について理解した点と不明点をまとめる。	120分
8	啓蒙思想家が目指したもの①：啓蒙思想とは何か	明治維新、日本という国家を建設しようと意図した「文明開化」の流れの中で、その国の住人（国民）を造り上げることを目指した啓蒙思想の諸相について学ぶ。	
	この回の到達目標	啓蒙思想が目的としていたものについて理解を深め、国民を造り上げるとはどういうことか説明することができる。（到達目標①③）	
	事前学修	教科書「2 啓蒙思想」を読み、啓蒙思想家の危機感と目的、およびその国際政治的背景について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、国民を作るとはどういうことか、自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
9	啓蒙思想家が目指したもの②：明六社と福沢諭吉	啓蒙思想家がどのように「西洋」の導入を試み、人々の気風の改革を目指したのかについて明六社や福沢諭吉を中心に理解を深める。	
	この回の到達目標	明六社の多様性と、福沢諭吉の国家と「国民」に対する考え方を理解し、説明することができる。（到達目標①③）	
	事前学修	教科書「2 啓蒙思想」を読み、明六社と福沢諭吉の思想と活動について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、明六社の多様性、福沢諭吉の思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
10	啓蒙思想家が目指したもの③：「文明」と翻訳の問題	啓蒙思想によって歴史の見方に文明という尺度が取り入れられたこと、また思想の導入の過程で翻訳の問題が生じたことなどを確認する。	
	この回の到達目標	「文明」がなぜ新しい歴史の見方になるのか、翻訳の問題とはなにか、理解し説明することができる。（到達目標③）	
	事前学修	教科書「2 啓蒙思想」を読み、文明からみた歴史観および翻訳という行為の含意について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、文明からみた歴史観とそうでない歴史、翻訳の孕む問題と可能性について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
11	自由民権運動①：植木枝盛を中心に	自由民権運動がどのような政治状況から生まれ、何を主張し、のちにどのような影響を与えたのかについて植木枝盛の主張と著書を中心に学ぶ。	
	この回の到達目標	植木枝盛の主張のポイントを理解し、説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	教科書「3 自由と平等」を読み、自由民権運動の概要および植木枝盛という人物について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、自由民権運動と植木枝盛の問題意識と思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分
12	自由民権運動②：中江兆民を中心に	引き続き自由民権運動について中江兆民の主張と著書を中心に学ぶ。	
	この回の到達目標	中江兆民の主張のポイントを理解し、説明することができる。（到達目標①）	
	事前学修	教科書「3 自由と平等」を読み、中江兆民の人物と思想について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、中江兆民の問題意識と思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	自由民権運動③：天皇制との関係		自由民権思想における「西洋」と「東洋」について、また同思想が天賦人権説と天皇制にどのような向き合ったか、確認する。	
	この回の到達目標	天皇制や天賦人権説と自由民権思想の間の思想的・論理的関係を理解し、説明することができる。（到達目標①③④）		
	事前学修	教科書「3 自由と平等」を読み、自由民権思想と「西洋」と「東洋」の問題、および天皇制との関係について予習する。		120分
	事後学修	講義スライドを確認し、自由民権思想における「西洋」と「東洋」の問題、天皇制の問題について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。		120分
14	自由民権運動とアジア主義		自由民権運動から国粋主義、アジア主義的な運動が生まれた思想的背景を確認し、朝鮮半島および中国大陆の知識人が近代どのように向き合ったのか概観する。	
	この回の到達目標	「アジア主義」について理解を深め、明治日本と東アジアの思想を同時代的な文脈から理解し、比較することができる。（到達目標①④）		
	事前学修	アジア主義に関する事前配布資料（授業中に指示）を読み、自由民権運動から国粋主義、アジア主義的な運動へ続く系譜について予習する。		120分
	事後学修	講義スライドを確認し、アジア主義が孕むナショナリズムと東アジアの知識人の移動について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。		120分
15	【全体の解説】		西洋の衝撃前後の時代から20世紀初期という時間、東アジアという空間の中で、日本が近代以前の国際秩序観から近代国家化へ動き出す過程をもう一度振り返る。	
	この回の到達目標	「近代」が日本（および東アジア）の人々の社会観や世界観にもたらした質的な変化を理解し、説明することができる。（到達目標①②③④）		
	事前学修	初回からの教科書の各章、講義ノートと配布レジュメを復習し、近代化前後の東アジアおよび日本における世界観、思想上の変化について考察する。		120分
	事後学修	前期授業と試験をふりかえり「分からないこと」を把握し、ノートにまとめる。		120分

科目名	日本政治思想史Ⅱ	担当者	上地 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					○

【授業の概要】
国家形成を達成し、ナショナリズムの昂揚、帝国主義化を経験していく「日本」において展開していく思想を、「国体論」「社会主義」「フェミニズム」の側面から理解を深める。それぞれの思想が同時代的状況への応答であり、直面する政治社会との往還のなかで生み出されてきていることを確認したうえで、そうした思想の多面性、帰結、影響、可能性、陥穽についてもできるかぎり学んでいく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「国体論」「社会主義」「フェミニズム」に対する理解を深め、現在の政治社会制度に対する多様な視座の育成を目的とする。①上記4つの思想潮流について理解を深め説明できること、②社会科学的方法論を意識化し、教科書読解の過程で実践すること、③現在の政治社会制度とこれらの思想の関係を捉え直し、幅広い理解力の取得と育成を到達目標とする。

【履修条件】
歴史一般に対する関心を持っている方が望ましい。また必須条件ではないが、対象時期が連続し内容も関連するため、可能であれば前期「日本政治思想史Ⅰ」と併せて受講することが望ましい。

【授業方法】		
前週のレビューシートへの応答と講義の二つのパートに分けて行う。前週のレビューシートのまとめファイルと授業スライドのファイルをGoogle classroomに、講義動画をYoutubeにアップロードする。質問は、①応答が次週で良い場合、他の履修生と共有して構わない場合はレビューシートの自由記述で、②比較的早い応答を希望する場合、また個人間でのやりとりを希望する場合はGoogle Classroomの限定コメントやメールで受け付ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学生がレビューシートで寄せたコメントや質問をレジュメで共有し、授業内で応答する。コメントや質問、講師の応答に対する他の学生のリアクション（レビューシートのコメント）も次回のレジュメで共有し、双方向のコミュニケーションを確保する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ウェスタンインパクト以降に東アジア（日本）で生じた諸思想の特徴を理解し、説明することができる。【知識】					2							
②	前近代から近代にかけての東アジアにおける世界秩序の変容を、グローバルな視座から説明することができる。【知識】						2						
③	歴史的視座から批判的に現在を見つめ直し、「国民」など一般概念の普遍性を疑うことができる。【態度・習慣】							2					
④	思想（家）を同時代の政治社会的文脈において理解し、思想と社会を全体として構想することができる。【技能】												2
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②④に関する知識や技能が身に付いているかを、期末レポートにより評価する。	25	15		15							55
討論・発表等	レビューシートへの質問や意見を基準に評価する。授業で得た知見（到達目標①②）を現代社会に当てはめ、普通を疑う態度（到達目標③）が身についているかを評価する。	15	15	15								45
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の講評は後日、Google Classroomにコメントファイルをアップロードする形で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『近代日本思想案内』	鹿野政直	岩波書店	1999年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
特に設けません。対面での質問を希望する場合は随時メールにて日時を調整したのち、zoomミーティングを介して行うことにします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】【日本政治思想史を学ぶということ】【前期の確認】		後期ガイダンス（授業目的、講義の概要、成績評価の説明）ののち、「日本政治思想史を学ぶということ」について教科書「はじめに一思想と向き合う」の内容に沿って確認する。併せて前期の授業内容を確認する。
	この回の到達目標	思想を学ぶことは現在と過去をどのような関係にあるかを理解し、一般的・普遍的と思われる身近な概念を疑ってみる。前期の授業内容の大枠を説明することができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	シラバスを確認し講義全体を概観する。Google classroomより教科書「はじめに一思想と向き合う」および関連資料を取得し事前に読む。	120分
	事後学修	シラバスおよび講義スライドを確認し、自分の学習計画や他の理由科目との関係について検討する。	120分
2	国体を巡る思想①：「国体」概念の歴史		明治日本が近代国家化を進める過程において、人々の思想と行動に対する影響力を強めていった「国体」観念について概観する。明治維新以前の水戸学から帝国憲法・教育勅語までの時期を対象に「国体」の含意を確認する。
	この回の到達目標	「国体」概念の発展と特徴について理解を深め、説明することができる。（到達目標①②④）	
	事前学修	教科書「6 国体論」を読み、「国体」概念の特徴と歴史的背景について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、日本独自の「国体」概念が発達してきた背景について理解した点と不明点をまとめる。	120分
3	国体を巡る思想②：北一輝と幸徳秋水の挑戦		19世紀末までに定着した「国体」思想に対して挑戦した北一輝と幸徳秋水の思想について学ぶ。
	この回の到達目標	北一輝と幸徳秋水がどのような思想や論理で「国体」に対して反対したのか、説明することができる。（到達目標①④）	
	事前学修	教科書「6 国体論」を読み、北一輝と幸徳秋水の思想について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、北一輝と幸徳秋水が「国体」概念に挑戦した思想的・理論的方法について理解した点と不明点をまとめる。	120分
4	国体を巡る思想③：農本思想と「国体」		「国体」思想を支えた思想としての農本主義について理解を深め、第二次世界大戦以前の昭和において「国体」概念がどのように使用されて、どのような知的・言論的風土を築いたのかを学ぶ。
	この回の到達目標	「農本主義」の基本的な考え方を理解し、歴史的事件の思想背景について説明することができる。（到達目標①④）	
	事前学修	教科書「6 国体論」を読み、農本主義の思想と背景、昭和における「国体」概念の機能について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、農本主義と「国体」の論理的繋がり、昭和における「国体」の機能について理解した点と不明点をまとめる。	120分
5	国体を巡る思想④：戦時期の「国体」		第二次世界大戦以前の昭和において「国体」概念がどのように使用されて、どのような知的・言論的風土を築いたのかを学ぶ。
	この回の到達目標	昭和期において「国体」概念が引き起こした言論関連事件について理解し、「国体」との関係において説明することができる。（到達目標③④）	
	事前学修	教科書「6 国体論」を読み、昭和における「国体」概念の機能について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、昭和における「国体」の機能について理解した点と不明点をまとめる。	120分
6	日本における社会主義思想の位置①：初期社会主義と帝国主義		社会主義思想が近代日本にもたらした歴史観・世界観の重要性を確認し、初期社会主義の思想上の意義（幸徳秋水の帝国主義批判、平民社と非戦論、アナキズム）を考察する。
	この回の到達目標	初期社会主義者の活動によって示された帝国主義批判と非戦論について理解をふかめ、説明することができる。（到達目標①④）	
	事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、社会主義思想黎明期の言論活動と初期社会主義の思想上の意義について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、初期社会主義の多様性と思想上の意義について理解した点と不明点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本における社会主義思想の位置 ②：初期社会主義と非戦論、アナキズム	初期社会主義の思想上の意義（幸徳秋水の帝国主義批判、平民社と非戦論、アナキズム）について引き続き考察をすすめる。	
	この回の到達目標	幸徳秋水、大杉栄、石川三四郎の思想について理解をふかめ、説明することができる。（到達目標①④）	
	事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、社会主義思想黎明期の言論活動と初期社会主義の思想上の意義について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、引き続き初期社会主義の思想上の意義について理解した点と不明点をまとめる。	120分
8	日本における社会主義思想の位置 ③：マルクス主義と三木清	昭和におけるマルクス主義の影響力を確認し、三木清の思想を概観する。	
	この回の到達目標	日本のマルクス主義に対する三木清の思想上の貢献について理解し、説明することができる。（到達目標①④）	
	事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、マルクス主義の概要と三木清の思想について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、マルクス主義の世界観と三木清の思想の概要について理解した点と不明点をまとめる。	120分
9	日本における社会主義思想の位置 ④：講座派と戸坂潤	マルクス主義の諸相として講座派の思想と戸坂潤の「日本イデオロギー」論を概観する。	
	この回の到達目標	講座派と労農派の議論のポイント、「日本イデオロギー」で戸坂潤が主張したことを理解し、説明することができる。（到達目標①④）	
	事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、講座派の思想活動と戸坂潤の思想について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、マルクス主義の世界観と戸坂潤の思想の概要について理解した点と不明点をまとめる。	120分
10	日本における社会主義思想の位置 ⑤：昭和期のマルクス主義（者）	治安維持法下の言論活動と昭和期の弾圧、転向の問題について考察する。また中野重治の詩をもとに、当時の社会主義者の視座の広がりと限界を確認する。	
	この回の到達目標	治安維持法の言論界に対する影響を理解し、転向の問題をどのように考えればよいか、説明することができる。中野重治の詩のどこが「限界」なのか説明することができる。（到達目標①②④）	
	事前学修	教科書「10 社会主義」を読み、治安維持法と転向の問題、植民地と社会主義の関係について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、「転向」の問題について理解した点と不明点をまとめる。また中野重治の詩を読んだ感想を書いてみる。	120分
11	女性にとっての近代（＝男性にとっての近代）①：与謝野晶子について	自由民権運動から大正期までを中心に、女性をとりまく政治・社会・言論の変化のなかで、女性という立場の視座と主張を確認する。与謝野晶子の思想と行動を中心に理解を深める。	
	この回の到達目標	与謝野晶子の思想について理解し、説明することができる。（到達目標①④）	
	事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読み、女性という視座とこれまで見てきた思想史の関係、および与謝野晶子について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、女性という視座からみた歴史とこれまで知っていた歴史との差異について、また与謝野晶子の思想について理解した点と不明点をまとめる。	120分
12	女性にとっての近代（＝男性にとっての近代）②：平塚らいてうと青鞥社	平塚らいてうと青鞥社の活動を中心に当時のフェミニズム思想の理解を深める。	
	この回の到達目標	青鞥社の活動と平塚らいてうの思想について理解し、説明することができる。（到達目標①④）	
	事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読み、平塚らいてうと青鞥社について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、平塚らいてうの思想について理解した点と不明点をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	女性にとっての近代（＝男性にとつての近代）③： 高群逸枝の思想、三つの論争	高群逸枝の思想を概観する。貞操論争、堕胎論争、公娼（廃止）論争を学び、議論の焦点となった問題について理解を深める。	
	この回の到達目標	高群逸枝の思想の特徴について説明することができる。貞操論争、堕胎論争、公娼（廃止）論争が生じた社会背景について説明することができる（到達目標①③④）。	
	事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読み、高群逸枝について、および三つの論争について予習する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、高群逸枝の思想と三つの論争の社会背景について理解した点と不明点をまとめる。	120分
14	女性にとっての近代（＝男性にとつての近代）④： 三つの論争（続き）と「男らしさ」の問題	貞操論争、堕胎論争、公娼（廃止）論争を学び、議論の焦点となった問題について理解を深める（続き）。「男らしさ」という概念について理解を深める。	
	この回の到達目標	貞操論争、堕胎論争、公娼（廃止）論のそれぞれの主張について理解し、論争のポイントを説明することができる。「男らしさ」について自分の意見をまとめて説明することができる。（①③④）	
	事前学修	教科書「12 フェミニズム」を読み、三つの論争について予習する。配布資料をもとにフェミニズムと「男らしさ」概念の関係について事前に考察する。	120分
	事後学修	講義スライドを確認し、三つの論争の争点について、およびフェミニズムと「男らしさ」概念の関係について理解した点と不明点をまとめる。	120分
15	【全体の振り返り】	近代国家樹立以降から第二次世界大戦前の昭和という時間、東アジアのなかの日本という社会・言論空間の中で国内的、対外的にどのような思想が胚胎されたのかをもう一度概観する。	
	この回の到達目標	近代以降の「日本」における「国体」、「社会主義」、「フェミニズム」といった思想の内容を、社会的背景とともに理解し、説明することができる。（到達目標①②③④）	
	事前学修	初回からの教科書の各章、講義ノートと配布レジュメを復習し、明治から昭和期にかけての「国体論」「社会主義」「フェミニズム」について考察する。	120分
	事後学修	後期授業をふりかえり「分からないこと」を把握し、ノートにまとめる。	120分

科目名	日本政治特殊講義B(選挙運動論)	担当者	小島 勇人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
選挙時において候補者が有権者に自らの政見や公約などを訴え、投票を獲得するために行う選挙運動とともに平常時乃至選挙時の政治活動の実際について現行の公職選挙法等に基づくルールを実践的に学ぶ。平常時・選挙時における現実の政治活動と選挙運動は微妙に交錯する場面が多く、公正な選挙運動の実践に向けた判断力を養うため、それぞれの規制を理解するために、現行法によるルールの基本を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
選挙は、民主政治の基礎であり基盤をなすものである。選挙時において候補者が有権者に自らの政見や公約などを訴え、投票を依頼するために行う選挙運動とともに平常時乃至選挙時の政治活動の実際について現行の公職選挙法等に基づくルールを実践的に学び、正しい選挙・政治のあり方とは何かを考える力を養成する。平常時・選挙時における現実の政治活動と選挙運動は微妙に交錯する場面が多く、それぞれの規制を理解するために、現行法によるルールの基本を習得し、公正な政治活動と選挙運動の実践に向けた判断力を養うことを目標とする。

【履修条件】
特にないが、日本政治の重要な仕組みとなっている政治活動と選挙運動に関する法的ルールについて理解する意欲を求めたい。

【授業方法】
教科書を使用しつつ、必要に応じて授業区分ごとに参考資料を配布する。教科書や資料にない具体的事例等を交えて講義するので、ノートへの筆記も必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	現行公職選挙法等に基づく政治活動と選挙運動の基本的構成要素を理解することができる。							3					
②	日本政治における政治活動と選挙運動を規制する公職選挙法等の役割を説明することができる。						3	3	3				
③	実際界での公職の候補者等の諸活動の公職選挙法等が与える影響を評価することができる。							3	3				
④	実際の選挙において、候補者等が行う政治活動と選挙運動について、公正的確に判断できるようにする。							3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に係る能力が習得されているかを、筆記試験により評価すること。	30	20	20	30							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
後学期末の講義にて行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実務と研修のためのわかりやすい公職選挙法 第15次改訂版	選挙制度研究会	ぎょうせい	2017		
備考					

【オフィスアワー】
質問等については、授業時間中もしくは終了後に授業講堂にて対応する。（水曜3限）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 地方公務員として選挙管理委員会の現場実務に44年間、携わる。その間に旧自治省選挙課で公職選挙法の解釈などに係る勤務経験や現総務省の管理執行アドバイザー、総務省選挙部研究会委員等
実務経験に基づく実践的教育の内容		44年に及ぶ選挙管理の第一線における実務経験と総務省選挙部管理執行アドバイザー、総務省研究会委員などの成果を踏まえ、現行公職選挙法等による日本政治における政治活動と選挙運動を実践的に講義する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション、授業概要、講義計画等の説明、現行法の政治活動・選挙運動の概念等について		オリエンテーション、シラバスによる授業概要、講義計画等の説明、現行公職選挙法における政治活動・選挙運動の理解の前提となる選挙運動の概念の解説	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、今後進められる授業の概要、講義計画等を理解し、履修の有無を決められるようにする。		
	事前学修	選挙運動論の中心的命題である「選挙運動」の概念を配布資料と教科書により掴んでおく。		120分
	事後学修	講義計画の内容、選挙運動の概念を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。		120分
2	選挙運動の期間、事前運動		選挙運動をする側の基本的ルールである選挙運動の期間制限の意義、事前運動の禁止と政治活動との関係を事例を示して考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動をする側の基本的ルールである選挙運動の期間設定の意義、事前運動の禁止と政治活動との関係について理解する。		
	事前学修	教科書の選挙運動の期間、事前運動に関する該当部分を読み、選挙運動の期間設定の意義、事前運動の禁止について理解しておく。		120分
	事後学修	選挙運動をする側の基本的ルールである選挙運動の期間設定の意義、事前運動の禁止と政治活動との関係について配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。		120分
3	選挙運動の主体に関する規制		選挙運動の主体となり得ない選挙事務関係者等及び特定公務員の選挙運動の禁止及び公務員等の地位利用による選挙運動等の禁止に係る現行法における内容とともに、具体的事例について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動の主体となり得ない選挙事務関係者等及び特定公務員の選挙運動の禁止及び公務員等の地位利用による選挙運動等の禁止に係る現行法における内容について理解する。		
	事前学修	選挙運動の主体となり得ない選挙事務関係者等及び特定公務員の選挙運動の禁止及び公務員等の地位利用による選挙運動等の禁止に係る現行法における内容について教科書の該当部分を読み、選挙運動の主体について理解しておく。		120分
	事後学修	選挙運動の主体となり得ない選挙事務関係者等及び特定公務員の選挙運動の禁止及び公務員等の地位利用による選挙運動等の禁止に係る現行法における内容について配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。		120分
4	選挙運動の方法に関する規制（１） 文書図画による選挙運動		選挙運動の方法に関する規制（１）は、一般的な選挙運動の方法とされる文書図画による選挙運動について頒布、掲示による個々の方法の現行規定の内容とともに、具体的事例について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動の方法に関する規制（１）として、基本的な選挙運動の方法とされる文書図画による選挙運動について頒布、掲示による個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。		
	事前学修	最も基本的な選挙運動の方法とされる文書図画による選挙運動について頒布、掲示による個々の方法の現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動における文書図画について理解しておく。		120分
	事後学修	最も基本的な選挙運動の方法とされる文書図画による選挙運動について頒布、掲示による個々の方法の現行規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。		120分
5	選挙運動の方法に関する規制（２） 言論による選挙運動		選挙運動の方法（２）は、文書図画による選挙運動と並んで最も基本的な選挙運動の方法とされる言論による選挙運動について、演説会、街頭演説、連呼行為等個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動の方法（２）として、文書図画による選挙運動と並んで最も基本的な選挙運動の方法とされる言論による選挙運動について、演説会、街頭演説、連呼行為等個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。		
	事前学修	文書図画による選挙運動と並んで最も基本的な選挙運動の方法とされる言論による選挙運動について、演説会、街頭演説、連呼行為等個々の方法の現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、言論による選挙運動について理解しておく。		120分
	事後学修	文書図画による選挙運動と並んで最も基本的な選挙運動の方法とされる言論による選挙運動について、演説会、街頭演説、連呼行為等個々の方法の現行規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。		120分
6	選挙運動の方法に関する規制（３） その他の方法による選挙運動の制限		選挙運動の方法（３）は、その他の方法による選挙運動の制限として、選挙事務所、自動車、拡声機、戸別訪問、署名運動の禁止、人気投票の禁止、飲食物の提供の禁止その他の規制等個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動の方法（３）として、その他の方法による選挙運動の制限について、選挙事務所、自動車、拡声機、戸別訪問、署名運動の禁止、人気投票の禁止、飲食物の提供の禁止その他の規制等個々の方法の現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。		
	事前学修	その他の方法による選挙運動の制限について、選挙事務所、自動車、拡声機、戸別訪問、署名運動の禁止、人気投票の禁止、飲食物の提供の禁止その他の規制等個々の方法の現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、その他の選挙運動について理解しておく。		120分
	事後学修	その他の方法による選挙運動の制限について、選挙事務所、自動車、拡声機、戸別訪問、署名運動の禁止、人気投票の禁止、飲食物の提供の禁止その他の規制等個々の方法の現行規定の内容配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	選挙運動に関する費用に関する制限	選挙の公正を図るため公職選挙法は、選挙運動の支出額の最高額やその定め方とそれを支出する権限を有する出納責任者などについて定めているが、これらの現行規定の内容を具体的事例に基づき解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙の公正を図るため公職選挙法は、選挙運動の支出額の最高額やその定め方とそれを支出する権限を有する出納責任者などについて定めているが、これらの現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。	
	事前学修	選挙の公正を図るため公職選挙法は、選挙運動の支出額の最高額やその定め方とそれを支出する権限を有する出納責任者などについて定めている現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動に関する費用に関する制限について理解しておく。	120分
	事後学修	選挙の公正を図るため公職選挙法は、選挙運動の支出額の最高額やその定め方とそれを支出する権限を有する出納責任者などについて定めている現行規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
8	選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給	選挙の公正確保と費用抑制の観点から、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について公職選挙法は、厳格に規定しているが、これらの現行規定の内容を具体的事例に基づき解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙の公正確保と選挙運動の費用抑制の観点から、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について公職選挙法は、厳格に規定しているが、これらの現行規定の内容を具体的事例に基づき理解する。	
	事前学修	選挙の公正確保と選挙運動の費用抑制の観点から、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について厳格に規定する現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について趣旨や規定の内容を理解しておく。	120分
	事後学修	選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について厳格に規定する現行規定の内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について趣旨や規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
9	政治資金の規正	政党その他の政治団体や政治家の政治活動に伴う政治資金の規正について主に現行の政治資金規正法の内容について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政党その他の政治団体や政治家の政治活動に伴う政治資金の規正について、主に現行の政治資金規正法の内容について、同法の政治活動の公明と公正を確保するための規定の内容を理解し、わが国の政治のあり方を考える。	
	事前学修	政党その他の政治団体や政治家の政治活動に伴う政治資金の規正について、主に現行の政治資金規正法の内容について、同法の政治活動の公明と公正を確保するための規定の内容を教科書の該当部分を読み、政治資金の規正について理解しておく。	120分
	事後学修	政党その他の政治団体や政治家の政治活動に伴う政治資金の規正について、主に現行の政治資金規正法の内容について、同法の政治活動の公明と公正を確保するための規定の内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
10	公職の候補者等やその後援団体等の寄附の禁止	すべてにわたって身辺を清潔にし、きれいな選挙、金のかからない選挙の実現を図る目的のために選挙に関すると否とにかかわらず、およそ公職の候補者等やその後援団体等は、一定の場合を除き、選挙区内にある者に対してする寄附が禁じられていることを中心に、公職選挙法に規定する寄附の禁止規定を具体的事例を含めて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公職の候補者等やその後援団体等は、一定の場合を除き、選挙区内にある者に対してする寄附が禁じられていることを中心に、公職選挙法に規定する寄附の禁止規定の内容と目的とする趣旨を理解し、きれいな選挙、金のかからない選挙の実現を図るための政治とカネの問題を考える。	
	事前学修	公職の候補者等やその後援団体等は、一定の場合を除き、選挙区内にある者に対してする寄附が禁じられていることを中心に、公職選挙法に規定する寄附の禁止規定の内容について、教科書の該当部分を読み、これらのする寄附の禁止の規定について理解しておく。	120分
	事後学修	公職の候補者等やその後援団体等は、一定の場合を除き、選挙区内にある者に対してする寄附が禁じられていることを中心に、公職選挙法に規定する寄附の禁止規定の内容について、配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分
11	政治活動の概念・平常時における政治活動の規制	広義の政治活動の概念と公職選挙法で規定する政治活動の概念及び政党その他の政治団体の意義を明らかにし、公職選挙法に規定する平常時における政治活動の規制の内容について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、広義の政治活動の概念と公職選挙法で規定する政治活動の概念及び政党その他の政治団体の意義を明らかにし、公職選挙法に規定する平常時における政治活動の規制の内容について理解し、学生が有権者としてみた政治団体や政治家の政治活動のあり方を考えられるようにする。	
	事前学修	広義の政治活動の概念と公職選挙法で規定する政治活動の概念及び政党その他の政治団体の意義を明らかにし、公職選挙法に規定する平常時における政治活動の規制の内容について、教科書の該当部分を読み、政治活動の概念・平常時における政治活動について理解しておく。	120分
	事後学修	広義の政治活動の概念と公職選挙法で規定する政治活動の概念及び政党その他の政治団体の意義を明らかにし、公職選挙法に規定する平常時における政治活動の規制の内容について、配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
12	選挙時における政治活動の規制（１）		選挙時における政治活動の規制（１）として、一定の政治活動が選挙時に規制される趣旨、選挙の種類、政治活動規制の時間的場所的範囲について、現行公職選挙法に規定する内容を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙時における政治活動の規制（１）として、一定の政治活動が選挙時に規制される趣旨、選挙の種類、政治活動規制の時間的場所的範囲について、現行公職選挙法に規定する内容を理解する。		
	事前学修	選挙時における政治活動の規制（１）として、一定の政治活動が選挙時に規制される趣旨、選挙の種類、政治活動規制の時間的場所的範囲について、教科書の該当部分を読み、選挙時における政治活動について理解しておく。	120分	
	事後学修	選挙時における政治活動の規制（１）として、一定の政治活動が選挙時に規制される趣旨、選挙の種類、政治活動規制の時間的場所的範囲について、配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分	
13	選挙時における政治活動の規制（２）		選挙時における政治活動の規制（２）として、政談演説会の開催など言論によるもの、ポスターの掲示、ビラの頒布、機関紙など文書図画によるもの等の規制される政治活動の方法について、個々の公職選挙法に規定する内容と具体的事例を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙時における政治活動の規制（２）として、政談演説会の開催など言論によるもの、ポスターの掲示、ビラの頒布、機関紙など文書図画によるもの等の規制される政治活動の方法について、個々の公職選挙法に規定する内容を理解する。		
	事前学修	選挙時における政治活動の規制（２）として、政談演説会の開催など言論によるもの、ポスターの掲示、ビラの頒布、機関紙など文書図画によるもの等の規制される政治活動の方法について、個々の公職選挙法に規定する内容を教科書の該当部分を読み、選挙時における政治活動について理解しておく。	120分	
	事後学修	選挙時における政治活動の規制（２）として、政談演説会の開催など言論によるもの、ポスターの掲示、ビラの頒布、機関紙など文書図画によるもの等の規制される政治活動の方法について、個々の公職選挙法に規定する内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分	
14	選挙運動・政治活動の規制違反と罰則・制裁		選挙運動・政治活動の規制違反とそれに対する罰則、公民権の停止制度、連座制などの制裁について、現行の公職選挙法に規定する内容を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、選挙運動・政治活動の規制違反と罰則、公民権の停止制度、連座制などの制裁について、現行の公職選挙法に規定する内容を理解する。		
	事前学修	選挙運動・政治活動の規制違反と罰則、公民権の停止制度、連座制などの制裁について、現行の公職選挙法に規定する内容を教科書の該当部分を読み、選挙運動・政治活動の規制違反と制裁について理解しておく。	120分	
	事後学修	選挙運動・政治活動の規制違反と罰則、公民権の停止制度、連座制などの制裁について、現行の公職選挙法に規定する内容を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して更に理解を深める。	120分	
15	現行公職選挙法における政治活動・選挙運動のまとめ		これまでの講義を振り返り、現行公職選挙法における政治活動・選挙運動の規制等の全体像や課題などについてまとめの解説を行い、試験に備える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義を振り返り、現行公職選挙法における政治活動・選挙運動の規制等の全体像や課題などについて理解し、試験に備える。		
	事前学修	これまでの講義内容を教科書とこれまでに配布した資料を踏まえ、政治活動・選挙運動の在り方を考察し、自分なりに整理して理解を深める。	120分	
	事後学修	これまでの講義内容を再確認し、期末試験に備える。	120分	

科目名	日本政治論Ⅰ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
配当年次が1年生であるということもふまえ、新聞に登場する日本政治に関する用語（キーワード）に対する理解を深め、日本政治（内政・外交）の特色をおさえる。さらに、「密約」ということばに着目し、さまざまな密約が日本政治史上に有した意味についても学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本政治の実像をより深く理解するために、戦後政治史の流れをふまえ、政党、利益集団といった政治的アクターの存在とその役割について学修する。

【履修条件】
「日本政治論Ⅱ」とあわせて受講することがのぞましい。なお、筆記試験などの関係で、Google Classroomへの登録を必須とするので、注意すること（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	占領・改革の理念や日本国憲法の意義を説明することができる。【知識】					1	1						
②	日本政治の特徴を理解し、論理的に説明することができる。【知識】						1						
③	戦後日本政治史上の事象をふまえて、現代日本がかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】						1						
④	日本政治の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】					1	1						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	10	15	20	3							48
小テスト等	到達目標①②③④に関する一定の能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	5	15	20	2							42
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に説明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学3』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『現代政治の争点－日米関係・政治指導者・選挙－』	浅野一弘	同文館出版	2013	参考書	推奨
『現代政治論－解釈改憲・TPP・オリンピック－』	浅野一弘	同文館出版	2015	参考書	推奨
『増補 「解散」の政治学－戦後日本政治史－』	藤本一美	第三文明社	2009	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、各自事前に購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
火曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	アルファベットで読む日本政治	日本政治の特質を理解するためには、日々、新聞に目をとおすことが緊要である。そこで、日本政治（内政・外交）に関連する新聞記事を読むうえで、必要最低限知っておくべきアルファベットの略語のいくつか（GDP、TAGなど）を修得し、日本政治をみる目をやしなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、必要最低限のアルファベットの略語の意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
	事前学修	教科書1頁～19頁の下から5行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、GDP、MOF担といったことばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
2	カタカナで読む日本政治	日本政治の特質を理解するためには、日々、新聞に目をとおすことが緊要である。そこで、日本政治（内政・外交）に関連する新聞記事を読むうえで、必要最低限知っておくべきカタカナのいくつか（レームダック、アナウンスメント効果など）を修得し、日本政治をみる目をやしなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、必要最低限のカタカナの意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
	事前学修	教科書48頁～55頁および143頁～150頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、コンプライアンス、ナショナル・インタレストといったことばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
3	「亥年現象」ということば	12年ごとにみられるとされる、いわゆる「亥年現象」ということばを手がかりに、日本の選挙の特質（投票率、無党派層など）について考える。可能であれば、外国の選挙の事例との比較をこころみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な「亥年現象」ということばの意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書72頁～79頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「亥年現象」ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
4	「衆参ダブル選挙」ということば	「衆参ダブル選挙」（＝「衆参同日選挙」）ということばを手がかりに、内閣総理大臣の解散権などについて考える。可能であれば、英国の首相の解散権との比較もおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、ひんばんに登場する「衆参ダブル選挙」ということばの意味と過去の事例について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書80頁～87頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「衆参ダブル選挙」ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
5	吉田茂と鳩山一郎との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、占領期にかわされた、吉田と鳩山との「密約」に着目することで、吉田政治から鳩山政治への路線転換の意味について探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な吉田と鳩山との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書88頁～91頁の上から9行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、吉田と鳩山の関係を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	岸信介と大野伴睦・河野一郎との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、岸と大野、岸と河野とのあいだでかわされた「密約」に着目することで、岸の権力への執着と安保改定にかける意気ごみの一端について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な岸と大野・河野との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書91頁の上から10行目～97頁の下から9行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、岸と大野・河野との関係を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
7	福田赳夫と大平正芳との「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、福田と大平とのあいだでかわされた、「密約」に着目することで、自由民主党内の40日抗争への萌芽について検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な福田と大平との「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書97頁の下から8行目～103頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、福田と大平との関係を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
8	沖縄返還をめぐる「密約」	日本政治史上、さまざまな「密約」がかわされている。ここでは、「核ぬき・本土なみ」ということばの意味を意識しつつ、沖縄返還をめぐる、日米間でかわされた、「密約」に着目する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な沖縄返還をめぐる「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の動向にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書135頁～142頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、沖縄返還をめぐる政治過程を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
9	ヤルタ協定という「密約」	国際政治史上においても、さまざまな「密約」がかわされてきた。ここでは、現在の北方領土問題の根源ともいべき、ヤルタ協定という「密約」に着目する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要なヤルタ協定という「密約」の内容を理解し、当該密約がその後の北方領土交渉にどれほどの意味をもったのかを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書104頁～110頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「世界史」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、ヤルタ協定の内容を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
10	北方領土問題	日本外交にとっての懸案の一つである北方領土問題の経緯について検証するとともに、現在の交渉状況にも配慮する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な北方領土問題の内容を理解し、課題解決の方策を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書24頁～39頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、北方領土問題の基本を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	国際連合と日本	国際連合の組織にくわえ、日本の国連分担金や旧敵国条項などについて検証したうえで、湾岸危機・戦争によってわきおこった日本と国連との関連についての議論にも着目する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な国際連合の役割を理解し、国連と日本とのかかわりを意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書19頁の下から4行目～23頁および56頁～63頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、国際連合と日本のかかわりに関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	米国と日本	日米経済摩擦の実態について検証したうえで、ドナルド・トランプ政権下でよりいっそう求められている在日米軍駐留経費の負担増の問題の現状などにも着目する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な米国との関係を理解し、日米関係という側面から、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書42頁の上から7行目～47頁および115頁の上から13行目～118頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、米国と日本とのかかわりに関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	「施政方針演説」ということば	施政方針演説のことばの意味を探り、その重要性を認識すると同時に、所信表明演説とのちがいについても考える。可能であれば、米国大統領による一般教書演説との比較などもこころみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な「施政方針演説」ということばの意味とその内容を概観し、そこでの理解をもとに、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書119頁～127頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、施政方針演説の有する基本的意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	地方政治の現状	国政選挙と同様に、統一地方選挙の投票率も低下の一途をたどっている。そこで、こうした現状について、代議制デモクラシーという観点から考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方政治の現状を理解し、今後の方向性を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書151頁～158頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方政治をとりまく実状を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	地方議会の課題	地方議会をめぐるっては、議員のなり手不足という問題が深刻化しているにもかかわらず、有効な解決策がみいだされていないのが現状である。そこで、議員のなり手不足解消のための方策について考えてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて深刻な地方議会の課題を理解し、その解決方法を意識しつつ、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書159頁～166頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方議会がかかえる問題の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本政治論Ⅱ	担当者	浅野 一弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
15のトピックに注目し、日本政治のしくみと戦後の日本政治の流れをおさえる。もちろん、それぞれのトピックをより深く掘りさげる過程で、関連する事象も数多く登場するので、そうした概念を整理し、体系的に学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本政治の実像をより深く理解するために、戦後政治史の流れをふまえ、政党、利益集団といった政治的アクターの存在とその役割について学修する。

【履修条件】
「日本政治論Ⅰ」とあわせて受講することがのぞましい。なお、筆記試験などの関係で、Google Classroomへの登録を必須とするので、注意すること（詳細は、ポータルシステムにおいて連絡する）。

【授業方法】
授業の形態は、講義形式を基本とする。なお、教科書は毎時間使用するので、かならず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業であつかうトピックについて、時間の許すかぎり、ディスカッションをとり入れ、アクティブ・ラーニング的な内容となることをめざす。また、ホットな政治的事象が発生したときには、その問題についても議論するため、もしかすると、若干、シラバスの内容が前後する可能性もあることを付言しておく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	占領・改革の理念や日本国憲法の意義を説明することができる。【知識】					1	1						
②	日本政治の特徴を理解し、論理的に説明することができる。【知識】						1						
③	戦後日本政治史上の事象をふまえて、現代日本がかかえる課題を発見し、その解決策を示すことができる。【技能】						1						
④	日本政治の特質について議論した折り、他者の考え方を尊重することができる。【態度・習慣】					1	1						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④に関する総合的な能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	10	15	20	3							48
小テスト等	到達目標①②③④に関する一定の能力が身についているかどうか、筆記試験によって評価する。	5	15	20	2							42
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④の能力をみるため、ディスカッションをおこなったときに、他者の意見を聞いたうえで、自分の意見を的確に説明できるかどうかを評価する。			5	5							10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	30	45	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評については、後日、ポータルシステムにおいて配信する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ラジオで語った政治学2』	浅野一弘	同文館出版	2019	教科書	必携
『現代日本政治の現状と課題』	浅野一弘	同文館出版	2007	参考書	推奨
『日米首脳会談の政治学』	浅野一弘	同文館出版	2005	参考書	推奨
『日米首脳会談と政治過程－1951年～83年－』	藤本一美・浅野一弘	龍溪書舎	1994	参考書	任意
備考	教科書は毎時間使用するので、事前にならず購入しておくこと。				

【オフィスアワー】
火曜日・お昼休み（休暇中をのぞく）に実施する。希望者は研究室までくること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	地名で読む日本政治	日本政治と密接な関係にある地名がある。そこで、「永田町」「霞が関」といったことばを手がかりに、日本の権力構造の基盤について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、知っておくべき地名の意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。くわえて、新聞を読むための意欲をたかめる。	
	事前学修	教科書1頁～10頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、「永田町」「霞が関」といったことばのもつ意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
2	世襲議員	報道でもよく耳にする「世襲議員」（＝「二世議員」）ということばがある。では、この世襲議員は、どのような点で、優位な立場にあるのかについて、“三パン”という視点から、考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な世襲議員ということばの意味について理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書23頁～32頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、世襲議員ということばの基本的な意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
3	自由民主党総裁選挙のしくみ	最新の自由民主党総裁選挙を例にとり、同党の総裁選挙のしくみがどのようになっているのかを検討する。時間が許せば、ほかの政党の代表選出選挙についても言及する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な自由民主党総裁選挙のしくみについて理解し、それらをもちいて日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書85頁～95頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、自由民主党総裁選挙の基本的なしくみをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
4	自由民主党総裁選挙の歴史	自由民主党の総裁選挙の歴史は、金権選挙の歴史であるともいわれる。その起源がどこにあるのか、そして、総裁選挙と派閥との関連などについて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な自由民主党総裁選挙の歴史について理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書97頁～106頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、自由民主党総裁選挙の歴史的な流れをおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
5	内閣改造・自由民主党役員人事	内閣改造と自由民主党の役員人事をめぐるのは、派閥間で活発なかけひきがみられた。そうした歴史をふりかえるとともに、最新の内閣改造と党役員人事の特徴についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な内閣改造・自由民主党役員人事の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書107頁～117頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分があれば、当該箇所を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、内閣改造・自由民主党役員人事についての基本事項をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	閣議の実態	「内閣総理大臣がこれを主宰する」（内閣法・第4条2項）とされる閣議のしくみについて考えるだけでなく、その特質についても検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な閣議の実態を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書119頁～129頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、閣議についての知識の基本事項をおさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
7	冷戦と日本政治	冷戦のはじまりと終わりの時期について検討するとともに、冷戦が日本の政治にあたえた影響について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治に大きな影響をあたえた冷戦の実態を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書11頁～21頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「世界史」「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、冷戦の意味と冷戦が日本政治におよぼした影響の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
8	旧日米安全保障条約と吉田茂	日本国内では、旧日米安全保障条約の締結に批判的な声があったものの、なぜ、吉田は、同条約を結ぶことを決断したのか、その政治過程について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な旧日米安全保障条約をめぐる政治過程を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書33頁～38頁の上から6行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、旧日米安全保障条約締結までの政治過程を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
9	旧日米安全保障条約の問題点	旧日米安全保障条約には、さまざまな問題点があったとされている。そこで、同条約がかかえていた問題点を整理し、なぜ、そのような問題点をのこしたまま、条約が締結されたのかについても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な旧日米安全保障条約のもつ問題点を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書38頁の上から7行目～42頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、旧日米安全保障条約の問題点を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
10	池田・ロバートソン会談	日米関係史上、きわめて重要とされる池田・ロバートソン会談をめぐる政治過程をおさえ、MSA（日米相互防衛援助）協定締結の意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な池田・ロバートソン会談の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書43頁～45頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本政治史上における池田・ロバートソン会談の意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	重光・ダレス会談	旧日米安全保障条約の改定をめざした重光葵は、ジョン・ダレスとのあいだで会談をおこない、要望を伝えたものの、ダレスはまったくとりあわなかったとされる。そこで、同会談でなにが話しあわれたのかに着目すると同時に、この会談と55年体制成立の関連についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な重光・ダレス会談の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書46頁～53頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、重光・ダレス会談の意味と同会談と保守合同とのかかわりについての基本的知識を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
12	安保改定の実像	“片務性”のあった旧日米安全保障条約が、“双務性”をもつ新日米安全保障条約へと改定される政治プロセスを詳細に検証する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な安保改定の内容を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書55頁～60頁の下から5行目を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、安保改定に関する基本的知識を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
13	安保闘争	岸信介による安保改定への批判がたかまり、岸内閣は崩壊する。安保闘争とよばれる、その反対運動の特質と意味についても考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な安保闘争の意味を理解し、そこで得た知識をもとに、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書60頁の下から4行目～64頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「政治経済」や「日本史」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本政治史上、安保闘争の有する基本的意味を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
14	日本国憲法のなかの地方自治	日本国憲法のなかで規定されている地方自治の内容と現実との乖離について、「地方自治の本旨」ということばをキーワードに考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な地方自治のしくみに関して、日本国憲法との関連で理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書79頁の上から10行目～84頁および151頁～161頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、地方自治をとりまく実状を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分
15	危機管理	1995年の阪神・淡路大震災以来、「危機管理」ということばがさかんにさげられるようになった。ここでは、2018年におこった北海道胆振東部地震を例にとり、危機管理の意味について考えてみたい。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本政治を考察するうえで、きわめて重要な危機管理の実状を理解し、そこで得た知識をもちいて、日本政治の特色について説明することができる。	
	事前学修	教科書65頁～74頁を精読する。なお、高等学校で使用していた「現代社会」や「政治経済」の教科書をもっている場合、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、日本における危機管理の現状と課題の一端を的確におさえておく。	120分
	事後学修	教科書の該当部分を再読するとともに、書きこみを読み返し、浅野が授業中に指摘した事項が、あたまのなかに完璧に浮かぶようにすること。また、さらに学修を深めるため、授業中に紹介した参考文献についても、精読してみる。可能であれば、関連する新聞記事も検索し、目をとおす。	150分

科目名	日本法制史Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義は、近代を中心に日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを修得するために、明治前期を中心に近代法の成立過程を中心にして政治・経済・外交等、法律と隣接する領域との関連性と合わせて理解する。

【履修条件】
日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。

【授業方法】
テキストに沿って、講義形式で進める。板書を行いながら講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	明治初期の国家機構について説明することができる。				2	2						
②	明治初期の刑事法の内容について説明することができる。				2	2						
③	明治初期の民事法の内容について説明することができる。				2	2						
④	明治初期の司法制度について説明することができる。				2	2						
⑤	大日本帝国憲法の内容と権力機構について説明することができる。				2	2						
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての基本的な知識が身について いるかを，筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・日本近代法論	山中永之佑編	法律文化社	2002年	教科書	任意
日本近代法案内	山中 永之佑 編	法律文化社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本法制史の基本的な考え方	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法制史を学習・研究する方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	法制史という学問の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	時代区分とそれぞれの法の特色～古代・中世～	大化の改新以前の法、律令法・鎌倉幕府法・室町幕府法の概要と特徴的な事象について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
	事前学修	図書館等で、古代・中世の法に関する文献を一読しておくこと。	120分
	事後学修	律令制と初期武家法の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
3	時代区分とそれぞれの法の特色～近世～	戦国家法と江戸幕府法の概要と特徴的な事象について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
	事前学修	図書館等で、戦国期・江戸幕府の法に関する文献を一読しておくこと。	120分
	事後学修	戦国家法と江戸期の法の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	時代区分とそれぞれの法の特色～明治期～	明治期を三期に分けて、それぞれの時期の法の概要と特徴的な事象について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が日本法制史の全体像を把握することができるようにする。	
	事前学修	テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	明治期の法体系の全体像を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	明治初期の国家機構～太政官制～	明治初期の国家機構である太政官制の発足・改正の流れを追いながら、太政官制という統治システムの特色を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が、太政官制の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	太政官制の特徴と意義を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	明治初期の国家機構～廃藩置県～	中央集権国家体制構築にあたり、従来の体制を解体する過程とこれらの改革から発生した様々な問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が、太政官制の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	封建体制の解体過程と派生した問題点について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	明治初期の刑事法と治安法制	明治初期に施行された律型刑法典の内容と特徴および言論統制法を中心とした治安立法の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が、律型刑法典の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第1節「明治初期刑法と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	律型刑法典の特色と各種治安法制の内容・目的を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	明治初期の民事法	明治初期における統一的民事法の作成作業の流れと現実に発生していた民事事件の解決策の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が、明治初期の民事事件の解決法の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第11章「財産法制」第2節「明治前期における諸立法」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	統一的民法典作成の動きと現実に発生した民事事件の対処策の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	明治初期の司法制度	司法制度の近代化に向けた江藤新平の司法改革・大審院の設置・司法官の養成・代言人制度の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が、明治初期の司法制度の内容を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第9章「司法制度」第1節「太政官制下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	近代的司法制度構築へ向けての動きと法曹養成の方法ついてを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	旧刑法の成立と治安法制	本格的な近代的法典の嚆矢である旧刑法の成立過程とその内容・特徴と自由民権運動対策としての治安立法の整備・強化の内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が、旧刑法の内容と特徴を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第2節「旧刑法の成立と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	近代的法典の嚆矢である旧刑法の特徴と自由民権運動取締の動きについて自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	大日本帝国憲法の制定～制定前史～	明治初期の憲法制定に向けたさまざまな動きの内容と特徴、自由民権運動の拡大に伴う様々な私擬憲法草案の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、大日本帝国憲法制定に至る過程を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章「大日本帝国憲法の制定と展開」第1節「大日本帝国憲法制定にいたるまでの経過」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	明治初期の憲法制定へ向けての動きや各種私擬憲法草案の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	大日本帝国憲法の制定～制定過程と内容・特色～	大日本帝国憲法の制定過程の流れと大日本帝国憲法の内容と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、大日本帝国憲法の内容と特徴を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第3章「大日本帝国憲法の制定と展開」第1節「大日本帝国憲法制定にいたるまでの経過」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	大日本帝国憲法の制定過程とその内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	内閣と枢密院		内閣制度の発足当初の特徴と憲法制定に伴い制定された内閣官制の内容、枢密院の組織・権限、元老の役割について説明する。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、内閣と枢密院の内容と特徴を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	内閣および枢密院の構成・権限を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	帝国議会		帝国議会の組織・各種権限について説明する。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が、帝国議会の構成と権限を説明することができる。	
	事前学修	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	帝国議会の構成・権限を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	前期のまとめ		前期をふりかえり、補充説明などを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の内容の再確認を行えるようにする。	
	事前学修	テキストなどを参照しながら、これまでのノート等を整理しておく。	120分
	事後学修	テキストなどを参照しながら、ノート等の不備な箇所を補充しておく。	120分

科目名	日本法制史Ⅱ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
この講義は、近代を中心に日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
近代法の成立過程を中心にして政治・経済・外交等、法律と隣接する領域との関連性を合わせて法律学を考える能力を養成することを目的とし、現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。

【履修条件】
日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。

【授業方法】
テキストに沿って、講義形式で進める。板書を行いながら講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	明治憲法下の司法制度について説明することができる。				2	2						
②	民法、商法の編纂の過程を説明することができる。				2	2						
③	戦前の民事・刑事裁判手続の内容について説明することができる。				2	2						
④	条約改正と日本の対外政策の変化について説明することができる。				2	2						
⑤	大正期の法の再編と戦時立法について説明することができる。				2	2						
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についての基本的な知識が身について いるかを，筆記試験により評価する。	20	20	20	20	20						100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・日本近代法論	山中永之佑編	法律文化社	2002年	教科書	任意
日本近代法案内	山中永之佑編	法律文化社	2003年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	明治後期から大正・昭和期それぞれの法の特徴	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法制史を学習・研究する方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読し、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	法制史という学問の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	明治憲法下の司法制度～裁判所構成法の制定～	近代的司法制度の根拠法である裁判所構成法の制定過程と内容・特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が裁判所構成法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第9章「司法制度」第2節「明治憲法下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	裁判所構成法の内容と特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
3	明治憲法下の司法制度～司法官の任用と弁護士制度～	近代的な司法官養成制度の内容と旧世代の司法官との人事の入れ替え、弁護士制度の発足と発展の内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が司法官養成制度と弁護士制度の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第9章「司法制度」第2節「明治憲法下の司法制度」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	近代的な法曹養成制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	民法典の編纂と法典論争～民法典の編纂過程～	旧民法の編纂過程とその内容と法典論争後の民法典の編纂過程と民法典の特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が民法の編纂課程と内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第1章「条約改正と諸法典の編纂」第2節「諸法典の編纂」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	旧民法と新民法の相違点を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	民法典の編纂と法典論争～法典論争の動きと評価～	民法典の編纂をめぐって起こった法典論争の流れとこの論争をめぐる歴史的評価について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が法典論争の展開とその評価を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第1章「条約改正と諸法典の編纂」第2節「諸法典の編纂」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	法典論争における延期派・断行派の主張の内容と特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	商法の成立	旧商法の成立過程とその内容、施行延期を受けて新たな商法の成立過程と商法の特徴、施行延期のきっかけとなった商法典論争の動きについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が商法の編纂過程とその特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第14章「商事・産業法制」第1節「明治商法の成立」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	商法の成立過程と商法典論争の動きを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	刑事訴訟法の成立		明治初期の刑事裁判手続の内容と治罪法・明治刑事訴訟法における刑事裁判手続の内容と特徴について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が明治刑事訴訟法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第2節「刑事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	治罪法・明治刑事訴訟法における訴訟手続の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	民事訴訟法の成立		明治初期の民事裁判手続の内容と民事訴訟法の成立過程とその特徴について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が民事訴訟法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第3節「民事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	明治初期の民事訴訟手続の内容と民事訴訟法の成立過程・特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	条約改正と日本の対外政策		条約改正実現に向けての流れと日清・日露戦争を経た日本の対外政策の変化について説明する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が条約改正までの過程と対外政策の変化を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第16章「近代日本の対外的軌跡と国際法制」第1節「明治維新以後の日本の対外政策の基調と日清戦争」・第2節「日露戦争と日本帝国主義の確立」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	条約改正の流れと日本帝国主義の確立の過程を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	現行刑法の成立と治安法制		現行刑法の成立過程とその特徴と労働・農民運動対策の治安法制の内容について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が現行刑法の制定過程と治安立法の変化の背景を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第8章「刑法と治安法制」第3節「現行刑法の成立と治安法制」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	刑法の成立過程と労働・農民運動対策の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	臨時法制審議会		大正期における法の再編作業のために設置された臨時法制審議会の組織・諮問事項・影響について説明する。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が大正期の法の再編の背景を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第13章「家族法制」第3節「民法改正の動き」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	大正期における法の再編・強化の流れを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	刑事訴訟法の改正と陪審制		大正刑事訴訟法の成立過程とその特徴と日本における陪審制度の導入とその問題点について説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が大正刑事訴訟法と陪審法の内容と特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第10章「訴訟法制」第2節「刑事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	刑事訴訟法の改正内容と陪審制の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	普通選挙法と治安維持法の成立	普通選挙法の成立に向けた流れと治安維持法の内容・運用上の特徴と昭和期の改正の内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が普通選挙導入の背景と治安維持法の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト序章「日本近代法総論」第2節「日本近代国家の法構造の変容」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	普通選挙法の内容と治安維持法の内容・運用の変化を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	国家総動員法の成立と戦時立法	国家総動員法の内容・統制の実際と主要な戦時特別法の内容について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、学修者が準戦時・戦時体制下の法の特徴を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第14章「商事・産業法制」第4節「国家総動員法の制定と一九三八年の商法改正」の部分を一読しておくこと。	120分
	事後学修	国家総動員法による統制の内容と戦時特別法の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	後期のまとめ	後期をふりかえり、補充説明などを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、学修者が授業の内容の再確認を行えるようにする。	
	事前学修	テキストなどを参照しながら、これまでのノート等を整理しておく。	120分
	事後学修	テキストなどを参照しながら、ノート等の不備な箇所を補充しておく。	120分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	石黒 穰	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
日本語の主要新聞を毎日読む。中上級者向けの英和や和英の時点（電子辞書やスマホの辞書アプリを含む）を授業に持参する。

【授業方法】
授業で使う資料を数日前までにポータルサイトの共有ファイルに掲げる。学生はこれをよく読んだ上で授業に臨む。授業では黒板とパワーポイントを使う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の冒頭、最新ニュースの英語音声を読み、聞き取った内容を学生に説明してもらう。また、最新ニュースのさわりを短い英文で示し、学生にニュースの全体像や今後の展開を説明してもらう。挙手した学生に優先的に答えてもらうが、指名することもある。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。					2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を試験直後に解説し、正答例をポータルシステムで配信する。次回の授業で講評する。定期試験の解説と講評を同システムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	日本語の主要紙を毎日読むことが履修条件であるから新聞を「教科書」あるいは「参考書」と位置付ける。				

【オフィスアワー】
授業終了直後に直接、授業講堂で質問できる

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 報道機関に勤務し、３５年間ニュースを日英両語に加え、仏、西語などで取材、執筆、編集
実務経験に基づく実践的教育の内容		取材、執筆、編集の現場で積んだ体験をもとに、ニュース報道がどのように作られていくのか立体的に解説する。英語圏の報道と日本の報道の違いや特徴について説明する。日英両語だけでなく、仕事を通じて仏、西語なども習得して首脳インタビューなどもばりばりこなした経験から、外国語を身につけるコツのようなものも伝授する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ニュース英語とは		①「ニュース英語」とは何か②なぜ「和訳」が大切か③なぜ「英訳」が大切か④どのように授業を進めていくか——解説する。	
	この回の到達目標	時事英語を学ぶ意味を理解し、新聞や書籍、ネットの情報を自身の英語の上達に活用することができる。		
	事前学修	シラバスを読んで授業を概観する。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、最新ニュースの背景や影響の広がりや頭の中で整理する		120分
2	主要演説を英語で読む		主要国の首脳らの演説を読んで理解し、日本や世界に与える影響に考えをめぐらす。関連する時事英語表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	主要国首脳の演説を英語で読み、世界情勢に関するホットな話題が英語でどう表現されるか知り、理解できる。		
	事前学修	主要国首脳らが行った最新演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容や背景を頭の中で整理する。		120分
3	主要演説を英語で読む		主要国の首脳らの演説を読んで理解し、日本や世界に与える影響に考えをめぐらす。関連する時事英語表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	主要国首脳の演説を英語で読み、世界情勢に関するホットな話題が英語でどう表現されるか知り、理解できる。		
	事前学修	主要国首脳らが行った最新演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容や背景を頭の中で整理する。		120分
4	新型コロナウイルス報道を読む		新型コロナウイルス関連のニュースを英語で読み、関連する英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	この1年、世界中の人々の暮らしや経済活動に大きな影を落とした新型コロナウイルスについて、英語でどう伝えられ、どのような議論が行われたか知り、関連の文書から大意を読み取ることができる。		
	事前学修	WHO（世界保健機関）の報告書や、テドロス事務局長の記者会見に関するニュース記事、各国政府の声明などを共有ファイルからダウンロードし、わからない単語などを調べ、内容を理解しておく。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
5	新型コロナ5イルス報道を読む		新型コロナウイルス関連のニュースを英語で読み、関連する英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	この1年、世界中の人々の暮らしや経済活動に大きな影を落とした新型コロナウイルスについて、英語でどう伝えられ、どのような議論が行われたか知り、関連の文書から大意を読み取ることができる。		
	事前学修	WHO（世界保健機関）の報告書や、テドロス事務局長の記者会見に関するニュース記事、各国政府の声明などを共有ファイルからダウンロードし、わからない単語などを調べ、内容を理解しておく。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
6	授業内試験と解説		授業内で小テストを行う。小テストを解説する。	
	この回の到達目標	時事英語と最新ニュースを読み解くために必要な知識とはどのようなものか理解し、活用することができる。		
	事前学修	過去5回の授業を復習する。		120分
	事後学修	小テストの解説をしっかりと振り返る。今後どのように勉強していくか自分の頭で考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	授業内容の講評。地球温暖化問題の英語		前の週に行った小テスト（採点済み）を返却し、講評する。新型コロナウイルスのようなパンデミックが起こる要因ともなっている地球温暖化の問題を取り上げ、温暖化がもたらす影響や、再エネ普及をはじめ温室効果ガス削減の取り組みに関連するニュースで使われる英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	温暖化がもたらす影響や、温室効果ガス削減、再生エネルギーに関連する英語表現を知り、関連の文書の大意を読み取ることができる。		
	事前学修	地球温暖化問題に関連する英語ニュース記事や報告書を共有ファイルからダウンロードし、わからない表現を辞書で調べるなどして理解しておく。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
8	地球温暖化問題の英語		地球温暖化の問題を取り上げ、温暖化がもたらす影響や、再エネ普及をはじめ温室効果ガス削減の取り組みに関連するニュースで使われる英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	温暖化がもたらす影響や、温室効果ガス削減、再生エネルギーに関連する英語表現を知り、関連の文書の大意を読み取ることができる。		
	事前学修	地球温暖化問題に関連する英語ニュース記事や報告書を共有ファイルからダウンロードし、わからない表現を辞書で調べるなどして理解しておく。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
9	地球温暖化問題の英語		地球温暖化の問題を取り上げ、温暖化がもたらす影響や、再エネ普及をはじめ温室効果ガス削減の取り組みに関連するニュースで使われる英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	温暖化がもたらす影響や、温室効果ガス削減、再生エネルギーに関連する英語表現を知り、関連の文書の大意を読み取ることができる。		
	事前学修	地球温暖化問題に関連する英語ニュース記事や報告書を共有ファイルからダウンロードし、わからない表現を辞書で調べるなどして理解しておく。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
10	G 7サミットの英語		6月11日～13日に開かれる「先進7か国（G 7）による首脳国首脳会議」にかかわる英語表現を学び、今年のG 7サミットの意義や日本にとっての重要性を考える。	
	この回の到達目標	今年のG 7サミットの主要議題を日英両語で知る。世界情勢を把握するうえで欠かせない表現を日英両語で習得し、活用できる。		
	事前学修	G 7サミットに関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
11	G 7サミットの英語		6月11日～13日に開かれる「先進7か国（G 7）による首脳国首脳会議」にかかわる英語表現を学び、今年のG 7サミットの意義や日本にとっての重要性を考える。	
	この回の到達目標	今年のG 7サミットの主要議題を日英両語で知る。世界情勢を把握するうえで欠かせない表現を日英両語で習得し、活用できる。		
	事前学修	G 7サミットに関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
12	G 7サミットの英語		6月11日～13日に開かれる「先進7か国（G 7）による首脳国首脳会議」にかかわる英語表現を学び、今年のG 7サミットの意義や日本にとっての重要性を考える。	
	この回の到達目標	今年のG 7サミットの主要議題を日英両語で知る。世界情勢を把握するうえで欠かせない表現を日英両語で習得し、活用できる。		
	事前学修	G 7サミットに関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	イノベーションの英語		日本の競争力を左右するといわれるイノベーションに関連する英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	E V、燃料電池、量子コンピューターなど先端技術に関連する英語表現を知る。技術用語にとどまらず、イノベーション政策に関連する英語表現を習得し、活用できる。		
	事前学修	イノベーションに関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
14	イノベーションの英語		日本の競争力を左右するといわれるイノベーションに関連する英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	E V、燃料電池、量子コンピューターなど先端技術に関連する英語表現を知る。技術用語にとどまらず、イノベーション政策に関連する英語表現を習得し、活用できる。		
	事前学修	イノベーションに関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分
15	五輪の英語		7月23日開幕の東京五輪・パラリンピックに向けて、関連する英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	東京五輪パラリンピック開催（状況次第では開催中止も）に向けて、政界や経済界、スポーツ界で繰り広げられた議論が英語でどのように表現されたか知り、活用できる。		
	事前学修	五輪パラリンピックに関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、話題のニュースの要点を押さえる。		120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。		120分

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	古川 貴久	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
どんなことでも良いので、関心のあるニュースについて考え、表現することに挑戦してもらう。授業内での英和・和英辞書、電子辞書、スマートフォン の辞書アプリの使用は許可する。

【授業方法】
当日あるいは事前に配布・提示する資料やニュース記事などをもとに、英⇒日、日⇒英の翻訳実習や解説を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。パワーポイントを用いて行うこともある。基本的にニュースや時事問題を取り上げるため、その時々 の出来事や大きなニュースを題材とする。そのため、シラバスに記載された内容と異なり、より時節に相応しいテーマに変更することがあり得る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	双方向の意見交換、および課題に関する事前・事後学習型授業。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。					2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で扱う課題などについては、翌週にフィードバックを行い、誤りが多かったところなどを指摘するとともに関連する知識を深める。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書等はない。話題になっているニュースや出来事を取り上げるため、テレビ・新聞・ネットで参照可能な日・英の各種メディア、たとえばNHK WORLD。BBC、CNNなどで、関心のある分野のニュースに接することが望ましい。				

【オフィスアワー】
授業内および授業終了後に質問を受ける。メールによる質問も応じる（アドレスは別途連絡）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	長年、英語ニュースや国際会議、通訳などに従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		異文化コミュニケーションの観点から、日本語と英語の伝え方の違いや、効果的なプレゼンテーションのあり方、文章の整理の仕方や話し方などを指導するとともに、生徒の皆様と意見交換する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション及び導入授業	授業のオリエンテーションを行う。自己紹介をするとともに、授業の目的と進め方を説明し、評価に関する説明も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関する正しい理解と、今後求められること、双方向で進めて行くことなどについて理解してもらう。	
	事前学修	事前にシラバスを読んでくること。	120分
	事後学修	伝えた課題を翌週までに準備してくること。	120分
2	メディア英語導入①	ニュースとは何か？	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ニュースとは何かということに関する基本的な考え方を理解することで、ニュースに対する親しみを持ってもらう。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
3	メディア英語導入②	日本語ニュースと英語ニュースの比較	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、比較を通じて英語ニュースの伝え方の基本（＝文化的背景の違い等）を理解する。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
4	社会ニュース事例	コロナウィルス 関連報道	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、身近なコロナウィルスについての多面的な話題を通じて社会ニュースへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
5	社会ニュース事例	オリンピック 関連報道	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、世界的関心事であるオリンピックに関する国内外の話題を通じて社会ニュースへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
6	社会ニュース事例	SDG' S 関連報道	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、国連を中心に国際社会が取り組んでいるSDG' Sの話題を通じて社会ニュースへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	経済ニュース事例	個人投資家VSヘッジファンド 関連報道	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、投資の世界で存在感を増す個人投資家に関する話題を通じて経済ニュースへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
8	経済ニュース事例	中央銀行の金融政策 関連報道	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、各国の中央銀行総裁が発するメッセージや市場の反応などの話題を通じて経済ニュースへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
9	国際ニュース事例	アメリカ大統領選 関連報道	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、アメリカの政治の仕組みや過去の大統領選などを基に、アメリカが世界に果たす役割やアメリカが抱える課題などについての話題を通じて、国際ニュースへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
10	国際ニュース事例	米中関係 関連報道	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政治・経済・軍事の面で世界で存在感を増す中国、そして緊張が続く米中関係などについての話題を通じて、国際ニュースへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
11	政治ニュース事例	国会・選挙 関連報道	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本国内の政治がどのように伝えられているか、また隣接する中国・韓国との関係などについて等の話題を通じて、政治ニュースへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
12	生徒が興味あるニュース①	文化・伝統・芸能を含む	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、生徒が関心を抱くニュースを取り上げ、英語でどのように外国人に伝えればよいか理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。愛	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	生徒が興味あるニュース②	文化・伝統・芸能を含む	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、生徒が関心を抱くニュースを取り上げ、英語でどのように外国人に伝えればよいか理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
14	国際会議の英語	世界のメディアが抱える今日的課題	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、多国間の国際会議の枠組みや、会議進行の英語、会議の終わりに出される声明文などについて理解を深める。また、放送と通信が融合し、誰もがニュースの発信者となれる今日において必要とされるリテラシーについて、実例を基に解説し、意見交換しながら知見を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、生徒から意見を聞くとともに、一番伝えたいことをあらためて説明する。後期授業での目的について概要を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、これまでの授業を振り返り、分からない点などについてあらためて説明するとともに、意見交換する。	
	事前学修	ニュースに接すること。これまでの授業を反芻し、疑問点や意見を整理すること。	120分
	事後学修	気付きを体系的に整理するとともに、後期の授業目的を説明するので、自らの関心に即して課題を設定し、取り組むこと。	120分

科目名	ニュース英語 I	担当者	森野 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するため、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を学ぶことを目的とする

【履修条件】
授業中のPC、スマートフォンなどの情報機器の使用は教員の指示のある場合のみ許可する。

【授業方法】		
各回、New York Times (US)・Times (UK) などから教員が選んだ新聞記事を教材として配布する。取り上げた記事について、まず、ヘッドラインとリードから報道内容の概要を大きくつかんだ上で、その内容がどのように展開されているのかを読み解いていく。ニュース英語で使われる時事的語彙や文章スタイルについて適宜、解説を行うとともに、日本のニュースとは異なるアプローチや切込み方、問題意識などについても考察する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							2				2		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業終了後。事前にメール等でアポイントメントをとることが望ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスおよび導入授業		前半は、授業目標・方法・評価等についてのガイダンスを行う。後半は英語の新聞記事の構造、ヘッドラインとリードの役割について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースを読む際に何が求められるのかを理解できる。		
	事前学修	シラバスを確認し、授業の到達目標を理解するとともに、インターネット等で英語のニュースを視聴・閲覧し、自分の英語リテラシーや時事問題についての知識を確認する。		120分
	事後学修	授業で配布された記事を読み、報道スタイルの違いを整理する。日本の新聞で、同じような例がないかを捜してみる。		120分
2	ニュース英語のスタイル		英語の新聞にはquality papers と呼ばれるものとタブロイドと呼ばれるものがあり、同じ事象についても、取り上げ方や使われる表現・スタイルが大きく異なることを具体例とともに理解する。それを踏まえ、授業で取り上げる新聞の特徴を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ターゲット・オーディエンスにより報道スタイルが異なることを理解できる。		
	事前学修	日本の新聞について、日刊紙のほかにはどのような種類があるのか、報道スタイルの違いや、それぞれの購読者数についても調べてくる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
3	ニュース英語の構造		英語の新聞記事の構造について、具体例をもとに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ある事象についての報道が、新聞記事のなかでどのように展開されるのかが理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概要を読み取る。		120分
4	ニュース記事を精読する①		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
5	ニュース記事を精読する②		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
6	ニュース記事を精読する③		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ニュース記事を精読する④		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースに内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
8	授業の振り返り		これまでの授業を踏まえ、ニュース英語の読み方を整理する。また、ニュースの背景についても確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、現段階での達成度が把握できる。		
	事前学修	これまでの授業内容を振り返り、質問等を整理する。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
9	ニュース記事を精読する⑤		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
10	ニュース記事を精読する⑥		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
11	ニュース記事を精読する⑦		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
12	ニュース記事を精読する⑧		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ニュース記事を精読する⑨	前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
14	ニュース記事を精読する⑩	前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
15	期末テストと振り返り	期末テストを実施するとともに、これまでの授業内容のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が達成できているかを確認する。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習する。	120分
	事後学修	期末テストでできなかったところを復習する。	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	石黒 穰	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
日本語の主要新聞を毎日読む。中上級者向けの英和や和英の時点（電子辞書やスマホの辞書アプリを含む）を授業に持参する。

【授業方法】
授業で使う資料を数日前までにポータルサイトの共有ファイルに掲げる。学生はこれをよく読んだ上で授業に臨む。授業では黒板とパワーポイントを使う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	授業の冒頭、最新ニュースの英語音声を読み、聞き取った内容を学生に説明してもらう。また、最新ニュースのさわりを短い英文で示し、学生にニュースの全体像や今後の展開を説明してもらう。挙手した学生に優先的に答えてもらうが、指名することもある。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。					3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。				3	3						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができるのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を試験直後に解説し、正答例をポータルシステムで配信する。次回の授業で講評する。定期試験の解説と講評を同システムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	日本語の主要紙を毎日読むことが履修条件であるから新聞を「教科書」あるいは「参考書」と位置付ける。				

【オフィスアワー】
授業終了直後に直接、授業講堂で質問できる

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 報道機関に勤務し、３５年間ニュースを日英両語に加え仏、西語などで取材、執筆、編集
実務経験に基づく実践的教育の内容		取材、執筆、編集の現場で積んだ体験をもとに、ニュース報道がどのように作られていくのか立体的に解説する。英語圏の報道と日本の報道の違いや特徴について説明する。日英両語だけでなく、仕事を通じて仏、西語なども習得して首脳インタビューなどもばりばりこなした経験から、外国語を身につけるコツのようなものも伝授する

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	「ニュースの英語」とは。	①「ニュース英語」とは何か②なぜ「和訳」が大切か③なぜ「英訳」が大切か④どのように授業を進めていくかについて、前期を踏まえおさらいの解説を簡単にする。9月21日からの国連総会の主要テーマに関連する英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	時事英語を学ぶ意味を確認し、新聞や書籍、ネットの情報を自身の英語の上達に生かすことができる。国連総会の主要テーマにまつわる英語表現を知り、活用できる。	
	事前学修	シラバスを読んで授業を概観する。国連総会に向けた各国の動きに関する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要を押さえる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、最新ニュースの背景や影響の広がりや頭の中で整理する	120分
2	国連総会の主要演説を英語で読む	国連総会での主要国の首脳らの演説を読んで理解し、日本や世界に与える影響に考えをめぐらす。関連する時事英語表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	国連総会での主要国首脳の演説を英語で読み、世界情勢に関する話題が英語でどう表現されるか知り、関連の文書の大意を理解できる。	
	事前学修	国連総会で主要国首脳らが行った演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要を押さえる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容と背景を頭の中で整理する。	120分
3	国連総会の主要演説を英語で読む	主交連総会での要国の首脳らの演説を読んで理解し、日本や世界に与える影響に考えをめぐらす。関連する時事英語表現について学ぶ。	
	この回の到達目標	国連総会での主要国首脳の演説を英語で読み、世界情勢に関する話題が英語でどう表現されるか知り、関連の文書の大意を理解できる。	
	事前学修	国連総会で主要国首脳らが行った演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの概要を押さえる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容と背景を頭の中で整理する。	120分
4	核問題を英語で読む	9月の国際原子力機関（IAEA）総会で、日本にとっても切実なイランや北朝鮮の核問題について、英語でどんな議論がされたか知る。	
	この回の到達目標	イランや北朝鮮の核問題をめぐる英語表現を習得し、関連の文書の大意を読み取ることができる。	
	事前学修	IAEA総会や、イラン核問題、北朝鮮核問題に関するニュース記事、報告書などを共有ファイルからダウンロードし、わからない単語などを調べ、内容を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
5	核問題を英語で読む	9月の国際原子力機関（IAEA）総会で、日本にとっても切実なイランや北朝鮮の核問題について、英語でどんな議論がされたか知る。	
	この回の到達目標	イランや北朝鮮の核問題をめぐる英語表現を習得し、関連の文書の大意を読み取ることができる。	
	事前学修	IAEA総会や、イラン核問題、北朝鮮核問題に関するニュース記事、報告書などを共有ファイルからダウンロードし、わからない単語などを調べ、内容を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
6	授業内試験と解説	授業内で小テストを行う。小テストを解説する。	
	この回の到達目標	時事英語と最新ニュースを読み解くために必要な知識とはどのようなものか理解し、活用することができる。	
	事前学修	過去5回の授業を復習する。	120分
	事後学修	小テストの解説をしっかりと振り返る。今後どのように勉強していくか自分の頭で考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	授業内容の講評。アメリカ政治の英語		前の週に行った小テスト（採点済み）を返却し、講評する。バイデン政権発足から10か月となる米国情勢を取りあげ、関連するニュースの英語表現を学ぶ。
	この回の到達目標	アメリカ政治や外交にまつわる英語表現を習得し、活用できる。	
	事前学修	アメリカ情勢に関連する英語ニュース記事や報告書を共有ファイルからダウンロードし、わからない表現を辞書で調べるなどして理解しておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
8	アメリカ政治の英語		バイデン政権発足から10か月となる米国情勢を取りあげ、関連するニュースの英語表現を学ぶ。
	この回の到達目標	アメリカ政治や外交にまつわる英語表現を習得する。日米関係に絡む英語表現も習得し、英文の外交文書の大意をスムーズに読み取ることができる。	
	事前学修	アメリカ情勢に関連する英語ニュース記事や報告書を共有ファイルからダウンロードし、わからない表現を辞書で調べるなどして理解しておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
9	アメリカ政治の英語		バイデン政権発足から10か月となる米国情勢を取りあげ、関連するニュースの英語表現を学ぶ。
	この回の到達目標	アメリカ政治や外交にまつわる英語表現を習得する。日米関係に絡む英語表現も習得し、英文の外交文書の大意をスムーズに読み取ることができる。	
	事前学修	アメリカ情勢に関連する英語ニュース記事や報告書を共有ファイルからダウンロードし、わからない表現を辞書で調べるなどして理解しておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
10	アジア情勢に関する英語		11月にブルネイで開かれる東アジア首脳会議にかかわる英語表現を学び、アジアと日本の関係を考える。
	この回の到達目標	東アジア首脳会議の主要議題を日英両語で知る。対中関係を表す上で欠かせない表現を日英両語で習得し、アジア絡みの英文の文書をすばやく読み取ることができる。	
	事前学修	東アジア首脳会議に関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
11	アジア情勢に関する英語		11月にブルネイで開かれる東アジア首脳会議にかかわる英語表現を学び、アジアと日本の関係を考える。
	この回の到達目標	東アジア首脳会議の主要議題を日英両語で知る。対中関係を表のに欠かせない表現を日英両語で習得し、アジア絡みの英文の文書をすばやく読み取ることができる。	
	事前学修	東アジア首脳会議に関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
12	アジア情勢に関する英語		11月にブルネイで開かれる東アジア首脳会議にかかわる英語表現を学び、アジアと日本の関係を考える。
	この回の到達目標	東アジア首脳会議の主要議題を日英両語で知る。対中関係を表のに欠かせない表現を日英両語で習得し、アジア絡みの英文の文書をすばやく読み取ることができる。	
	事前学修	東アジア首脳会議に関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	科学技術の英語	日本のGDPの底上げに欠かせない最先端の科学技術に関連する英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	科学技術に関連する英語表現を習得する。科学技術振興の現場で使われる英語表現を習得し、活用できる。	
	事前学修	先端技術や技術開発奨励策に関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
14	科学技術の英語	日本のGDPの底上げに欠かせない最先端の科学技術に関連する英語表現を学ぶ。	
	この回の到達目標	科学技術に関連する英語表現を習得する。科学技術振興の現場で使われる英語表現を習得し、活用できる。	
	事前学修	先端技術や技術開発奨励策に関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、わからない個所を明確にしておく。日本語の新聞を毎日読み、最新ニュースの要点を押さえる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を再び読み、内容を頭の中で整理する。	120分
15	使える英語	前期、後期の授業を踏まえ、これから英語力を一層上達させ、使いこなしていくための方法論を確かめる。	
	この回の到達目標	前期、後期の授業で学んだ主要な英語表現を再確認し、類似の表現を確実に理解できる。	
	事前学修	過去の授業で使った一連の文書を再度読み直し、頭の中で自分なりの短い英語表現で言い直してみる。	120分
	事後学修	授業で取り上げた英文を最初から読み返し、内容を頭の中で整理する。	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	古川 貴久	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
どんなことでも良いので、関心のあるニュースについて考え、表現することに挑戦してもらおう。授業内での英和・和英辞書、電子辞書、スマートフォン の辞書アプリの使用は許可する。

【授業方法】
当日あるいは事前に配布・提示する資料やニュース記事などをもとに、英⇒日、日⇒英の翻訳実習や解説を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。パワーポイントを用いて行うこともある。基本的にニュースや時事問題を取り上げるため、その時々 の出来事や大きなニュースを題材とする。そのため、シラバスに記載された内容と異なり、より時節に相応しいテーマに変更することがあり得る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	双方向の意見交換、および課題に関する事前・事後学習型授業。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。					3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。				3	3						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができているのかを基準に評価する。	35	35									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業で扱う課題などについては、翌週にフィードバックを行い、誤りが多かったところなどを指摘するとともに関連する知識を深める。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書等はない。話題になっているニュースや出来事を取り上げるため、テレビ・新聞・ネットで参照可能な日・英の各種メディア、たとえばNHK WORLD。BBC、CNNなどで、関心のある分野のニュースに接することが望ましい。				

【オフィスアワー】
授業内および授業終了後に質問を受ける。メールによる質問も応じる（アドレスは別途連絡）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	長年、英語ニュースや国際会議、通訳などに従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		異文化コミュニケーションの観点から、日本語と英語の伝え方の違いや、効果的なプレゼンテーションのあり方、文章の整理の仕方や話し方などを指導するとともに、生徒の皆様と意見交換する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期振り返り		前期の総括を行う。後期に向けて、どのようなニュースに接してきたか、課題を確認し、後期に向けた導入を図る。
	この回の到達目標	到達目標①②に関する正しい理解と、前期の総括および疑問点の整理、後期に求められることなどについて理解してもらう。	
	事前学修	前期の最後に伝えた課題に取り組むこと。	120分
	事後学修	次の回の課題に取り組むこと。	120分
2	メディア英語の書き方 実例①		主観と客観を分けて事実を伝える
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ジャーナリズムは事実を伝えることが使命であるが、英語メディアでは、日本語以上に主観と客観の使い分けが厳密に求められる。実例を基に理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次の回の課題に取り組むこと。	120分
3	メディア英語の書き方 実例②		時制の使い分け
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、ニュースにおける基本的な時制のあり方を学んだ上で、文章の主旨に応じた時制の使い分けなどについて、実例を基に理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次の回の課題に取り組むこと。	120分
4	メディア英語の書き方 実例③		能動態と受動態の使い分け
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、メディア英語を作成する際の主語のたて方や、能動態と受動態の使い分けなどについて、もともと英語の文章と、日本語から英語に翻訳した文章を比較しながら理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次の回の課題に取り組むこと。	120分
5	メディア英語の書き方 実例④		読み易い英語の極意
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、読み手が文章を読み返すことなく、左から右、上から下にスムーズに読んでもらうために必要な工夫について、主旨を絞った短い文章や、主語と述語の配置などの観点から理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次の回の課題に取り組むこと。	120分
6	メディア英語の書き方 実例⑤		日本語ニュース原稿と英語ニュース原稿の比較
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、メディア英語において日本語以上に重要となる論理的展開の重要性について、日本語原稿と英語に翻訳された文章を比較しながら理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次の回の課題に取り組むこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	メディア英語の書き方 実例⑥	新聞・雑誌で用いられる文章と放送で用いられる文章の比較	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、一つの文章の長さや、込められている情報量、使用される用語などに着目し、文字メディアと放送メディアで異なる文章の作成方法について理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
8	メディア英語の書き方 実例⑦	伝わらないと意味がない	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本のニュースを海外に発信する際、日本人では当たり前のことを付加しないと伝わらないことが多々ある。逆に、日本人には必要でも、海外の受け手には不要となる情報も多い。相手のニーズに応じて情報を取捨選択し、きちんと判断して原稿を作成することの重要性について理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
9	メディア英語の書き方 実例⑧	最後まで読ませる文章	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、メディア英語においては、導入部分の表現が鍵を握る。最初から冗長な文章を読まされると、受け手は、「いったい何が言いたいのだろう」と疑念を抱き、その瞬間、読む/視聴するのをやめる。短く、パンチーに、でもセンセーショナルではないリードの作り方について理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
10	スピーチ文章の書き方 実例①	海外のメディア首脳のスピーチ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、BBCなど英語を母国語とするメディアの首脳のスピーチを実例に、難しいことをいかに平易に伝えていくかを体得し、スピーチを題材に異文化コミュニケーションへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
11	スピーチ文章の書き方 実例②	日本のメディア首脳のスピーチ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、日本のメディア首脳のスピーチは、オリジナルの日本語からどのような英語にして伝えられているか。英語でスピーチをする際に、何が必要で何が不要か。スピーチを題材に異文化コミュニケーションへの理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
12	放送外の英語 実例①	取材要請の依頼	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、初めての相手に取材を申し込む際、簡潔で分かりやすく、そして相手の胸を打つような文章は、どのように書けば良いか。実際の手紙やメールを題材に理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。愛	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	放送外の英語 実例②		首脳どうしの手紙
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、放送メディアの首脳は様々な課題を抱え、その解決に向けて、日々、様々なやり取りをしている。実例を基に、良好な関係を築くための文章作成のあり方や、意見に相違があった場合の相手への伝え方などについて理解を深める。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
14	演習		英語文章のリライト
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、これまで学んできた点を踏まえて、一つのまとまったメディア英語の文章を、相手に伝わるような文章に書き換えて（＝リライト）してもらい、様々な点について再確認するとともに、疑問点を整理する。	
	事前学修	ニュースに接すること。事前課題に取り組むこと。疑問点を整理すること。	120分
	事後学修	授業内容を基に自ら好きなテーマで再確認し、気付きを整理すること。次回の課題に取り組むこと。	120分
15	まとめ		英語文章のリライトをもう一つ実演した上で、最後にこれまでの授業を振り返り、生徒から意見を聞くとともに、一番伝えたいことをあらためて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、これまでの授業を振り返り、分からない点などについてあらためて説明するとともに、意見交換する。	
	事前学修	ニュースに接すること。これまでの授業を反芻し、疑問点や意見を整理すること。	120分
	事後学修	気付きを体系的に整理するとともに、	120分

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	森野 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地のメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この授業ではニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成するために、英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景を学ぶことを目的とする。

【履修条件】
授業中のPC、スマートフォンなどの情報機器の使用は教員の指示のある場合のみ許可する。

【授業方法】

各回、New York Times (US)・Times (UK) などから教員が選んだ新聞記事を教材として配布する。取り上げた記事について、まず、ヘッドラインとリードから報道内容の概要を大きくつかんだ上で、その内容がどのように展開されているのかを読み解いていく。ニュース英語で使われる時事的語彙や文章スタイルについて適宜、解説を行うとともに、日本のニュースとは異なるアプローチや切込み方、問題意識などについても考察する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	英語のニュースを読むことができるようになる。							3				3		
②	ニュースの背景を理解することができるようになる。						3	3						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②に関連して授業内試験を行い、授業で取り上げた英語のニュースを読み解き、理解することができているのかを基準に評価する。	30	40									70
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標①②が達成できているのかに関して、質疑応答する。	30										30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	40									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
授業終了後。事前にメール等でアポイントメントをとることが望ましい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスおよび導入授業		前半は、授業目標・方法・評価等についてのガイダンスを行う。後半は英語の新聞記事の構造、ヘッドラインとリードの役割について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ニュースを読む際に何が求められるのかを理解できる。		
	事前学修	シラバスを確認し、授業の到達目標を理解するとともに、インターネット等で英語のニュースを視聴・閲覧し、自分の英語リテラシーや時事問題についての知識を確認する。		120分
	事後学修	授業で配布された記事を読み、報道スタイルの違いを整理する。日本の新聞で、同じような例がないかを捜してみる。		120分
2	ニュース英語のスタイル		英語の新聞にはquality papers と呼ばれるものとタブロイドと呼ばれるものがあり、同じ事象についても、取り上げ方や使われる表現・スタイルが大きく異なることを具体例とともに理解する。それを踏まえ、授業で取り上げる新聞の特徴を把握する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ターゲット・オーディエンスにより報道スタイルが異なることを理解できる。		
	事前学修	日本の新聞について、日刊紙のほかにもどのような種類があるのか、報道スタイルの違いや、それぞれの購読者数についても調べてくる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
3	ニュース英語の構造		英語の新聞記事の構造について、具体例をもとに理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、ある事象についての報道が、新聞記事のなかでどのように展開されるのかが理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概要を読み取る。		120分
4	ニュース記事を精読する①		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
5	ニュース記事を精読する②		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分
6	ニュース記事を精読する③		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。		
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。		120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	ニュース記事を精読する④		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースに内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
8	授業の振り返り		これまでの授業を踏まえ、ニュース英語の読み方を整理する。また、ニュースの背景についても確認する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、現段階での達成度が把握できる。	
	事前学修	これまでの授業内容を振り返り、質問等を整理する。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
9	ニュース記事を精読する⑤		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
10	ニュース記事を精読する⑥		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
11	ニュース記事を精読する⑦		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
12	ニュース記事を精読する⑧		前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ニュース記事を精読する⑨	前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
14	ニュース記事を精読する⑩	前回配布した記事について、ドピックの展開のされ方を追いながら、報道の視点や問題意識を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、取り上げられたニュースの内容や背景が理解できる。	
	事前学修	配布された記事について、わからないことや質問を整理するとともに、報道された事象について日本の新聞等で調べる。	120分
	事後学修	配布された記事を読み、ヘッドラインとリードから記事の概略を読み取る。	120分
15	期末テストと振り返り	期末テストを実施するとともに、これまでの授業内容のフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②が達成できているかを確認する。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習する。	120分
	事後学修	期末テストでできなかったところを復習する。	120分

科目名	犯罪心理学	担当者	水田 一彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
犯罪心理学が扱う分野は幅広いが、本講義では、①各種犯罪とその心理、②犯罪捜査と心理学、③少年非行の心理の三つに絞って授業を進める。①においては、暴力犯罪、殺人罪、性犯罪等を扱う。②においては、目撃証言の信頼性、虚偽自白等を扱う。③においては、児童虐待等の不適切な養育と少年非行の関連について扱う。授業を通して、犯罪・非行の心理は一般的な心理からも了解可能であること、犯罪・非行には環境面の問題も大きく影響していることなどについて学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
犯罪心理学の基礎的な知識や考え方を学ぶとともに、新聞等で報道されるような具体的な事例を検討することにより、犯罪・非行を行う者の心理を行動科学的観点から理解し説明できる力を身につける。 対応DP及びCP:公共政策学科1，3，4

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。スライドの内容については、原則として授業前日までにポータルシステムにて配信する。初回授業から毎回、授業終了時に小テストを実施する。出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	犯罪を研究対象とする人間科学の中での犯罪心理学の位置及び犯罪心理学が扱う範囲について説明できる。					4							
②	我が国における犯罪・非行の動向について、統計等の客観的な情報に基づいて説明できる。					4							
③	犯罪・非行を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて罪種別に説明できる。					4							
④	刑事司法手続きが直面する問題の解決に心理学の知見がどのように活かされているか説明できる。					4							
⑤	児童虐待等の不適切な養育が子供のパーソナリティ形成に与える影響及び非行・犯罪との関係について説明できる。					4							
⑥	犯罪心理学が扱う分野に関する事項について、自ら問いを設定して考察し、その結果を発表できる。							4	4				
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤の達成度を筆記試験により総合的に評価する。	10	10	10	10	10						50
小テスト等	毎回の授業終了時に実施する小テストにより、到達目標①②③④⑤に関わる基礎知識が身についているか確認する。	6	6	6	6	6						30
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑥の達成度を評価する。						20					20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		16	16	16	16	16	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の授業終了時に実施する小テストの結果については、次の授業時に説明する。レポートの結果については、最終授業時に説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Progress & Application 司法犯罪心理学	越智啓太	サイエンス社	2020	参考書	推奨
ケースで学ぶ犯罪心理学	越智啓太	北大路書房	2013	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 16:20～17:00（事前にメールでアポイントメントを取る）授業講堂 メールアドレス:mizuta.kazuhiko11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 心理技官として法務省所管の矯正施設(少年鑑別所，刑務所)に30年以上勤務した。
実務経験に基づく実践的教育の内容		心理技官として少年鑑別所，刑務所等に勤務した経験を活かし，犯罪者・非行少年の心理等について講義する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】【犯罪心理学の概略】	①授業の内容、進め方、評価方法等について説明する。②犯罪心理学の人間科学における位置及び犯罪心理学が扱う範囲について学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、犯罪心理学の人間科学における位置及び犯罪心理学が扱う範囲について説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認し、講義全体を概観する。		80分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、犯罪心理学の人間科学における位置及び犯罪心理学が扱う範囲についてノートに整理する。		80分
2	【犯罪心理学の学び方】	①犯罪心理学の学習方法について、過去の事例から学ぶことの重要性について学修する。②犯罪心理学の学習方法について、統計資料から学ぶことの重要性について学修する。③犯罪統計を読む上で必要となる統計用語の意味などについて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、犯罪統計を読む上で必要となる統計用語の意味等を説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、犯罪統計を読む上で必要となる統計用語の意味についてノートに整理する。		80分
3	【罪種別に見た犯罪①窃盗の心理】	窃盗の動向及びそれを行う者の心理について、これまでの研究成果に基づいて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、窃盗を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分
4	【罪種別に見た犯罪②暴力犯罪の心理】	暴行、傷害等の暴力犯罪を行う者の心理について、攻撃行動に関する研究知見に基づいて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、暴力犯罪を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分
5	【罪種別に見た犯罪③殺人の心理(単数殺人)】	親族間での殺人等、我が国における殺人の特徴及び殺人を行う者の内、単数殺人の心理について、これまでの研究成果に基づいて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、我が国における殺人の特徴及び単数殺人を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分
6	【罪種別に見た犯罪④殺人の心理(複数殺人)】	到達目標③に関連して、連続殺人及び大量殺人を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて学修する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、連続殺人及び大量殺人を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【罪種別に見た犯罪⑤性犯罪の心理】		性犯罪の動向及びそれを行う者の心理について、これまでの研究成果に基づいて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、性犯罪を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分
8	【罪種別に見た犯罪⑥子供に対する性犯罪】		子供を対象に性犯罪を行う者の心理について、これまでの研究成果に基づいて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、子供を対象に性犯罪を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分
9	【罪種別に見た犯罪⑦薬物犯罪】		我が国における薬物犯罪の特徴及び薬物犯罪を行う者の心理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、薬物犯罪を行う者の心理的特徴について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分
10	【目撃証言の心理】		目撃証言の信用性を左右する要因について、人間の認知特性に関する研究知見に基づいて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、目撃証言の信用性を左右する要因について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分
11	【子供の目撃証言】		子供の目撃証言の信用性について、認知発達に関する研究知見等に基づいて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、子供の目撃証言の信用性を左右する要因について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分
12	【虚偽自白と取調べ】		虚偽自白に至る心理について、同調行動に関する研究知見等に基づいて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、虚偽自白に至る心理について、これまでの研究成果に基づいて説明できる。		
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。		80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。		80分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【プロファイリング】	犯罪捜査を支援する道具としてのプロファイリングについて、行動科学の知見に基づいて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、プロファイリングについて、これまでの研究成果に基づいて説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
14	【児童虐待等と非行・犯罪】	児童虐待等の不適切な養育と非行・犯罪との関連について、愛着研究の知見等に基づいて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、児童虐待等の不適切な養育が子供のパーソナリティ形成に与える影響及び非行・犯罪との関係について説明できる。	
	事前学修	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。	80分
	事後学修	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、参考書等の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。	80分
15	【講義のまとめ】	犯罪心理学の研究成果に基づいて犯罪・非行を論理的に考察することの重要性について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、犯罪心理学が扱う分野に関する事項について、自ら問いを設定して考察し、その結果を発表できる。	
	事前学修	初回からの講義資料と講義ノートを見直し、学修した犯罪心理学の知見について復習する。	80分
	事後学修	初回からの講義資料と講義ノートを見直した上でレポートを作成する。また、期末試験に向けて準備をする。	80分

科目名	比較行政論	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
米英独仏の行政制度を概観し、それぞれの行政と議会との関係、官僚制度、行政運営方式の違い等について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
将来の公共政策課題解決の担い手として必須の素養を涵養するために、各国間の行政システム・官僚制度の差異が、それぞれの国の政体・政治文化、歴史的経緯、国民意識を反映したものであるとの理解の上に、我が国の現行システムの成立理由・特質等を踏まえて課題に積極的に取り組むことができる能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講人数に応じ、グループワーク、ディバート、ITを活用した議論等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各国の行政制度の成り立ちが、それぞれ固有の歴史的経緯に根差すものであることを理解し、いたずらに外国制度を賛美・称揚せずに我が国行政組織を分析できる。						2						
②	日米欧各国の行政組織の差異を歴史的経緯や政治文化、国民意識など照らし、論理的に説明できる。					2		2					
③	世界の先進事例を学び、我が国行政の改善策を提案できる。								2				
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について自分の言葉で説明できているか等を筆記試験により評価する。	40	40									80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	第15回の授業におけるグループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたかを基準に、到達目標②③にかかわる説明能力が身についているかを評価する。		15	5								20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	55	5								100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。グループワークでの発言内容等については、その都度講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
公務員人事改革：最新 米・英・独・仏の動向を踏まえて	村松 岐夫 他	学陽書房	2018	参考書	推奨
アメリカの政治	岡山 裕 他	弘文堂	2019	参考書	任意
ドイツの政治	平島 健司	東京大学出版会	2017	参考書	任意
フランスの行政	下條 美智彦	早稲田大学出版部	1999	参考書	任意
フランスの政治制度	大山 礼子	東信堂	2013	参考書	任意
フランス法	滝沢 正	三省堂	2013	参考書	任意
古代ローマの帝国官僚と行政	新保 良明	ミネルヴァ書房	2016	参考書	任意
ローマ教皇庁の歴史	B・シンメルペニツヒ	刀水書房	2017	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12:10-13:00 研究室（本館6階1604研究室） kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	総務省等における行政の実務経験
実務経験に基づく実践的教育の内容		米英独仏各国政府関係者との実務交渉や情報交換等の経験に基づく素材を適宜提供する。	
		米英独仏各国政府関係者との実務交渉や情報交換等の経験に基づく素材を適宜提供する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び政治行政体制区分	①授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。②政治行政体制の大まかなカテゴリーを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、大統領制と議院内閣制の差異、国ごとの政官関係の違い等につき概括的に説明することができる。	
	事前学修	①シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する。②あらかじめ配布するレジュメに目を通し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	180分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく	180分
2	アメリカの政治行政体制	アメリカ特有の厳格な三権分立制度の成立経緯・実際の運用状況ホワイトハウス、各省などの組織体制等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、アメリカ政治行政の歴史的背景、そのメリット・デメリット、我が国システムとの比較等を説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等によりアメリカ政治行政の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
3	アメリカの官僚制度	アメリカ公務員制度等の歴史的発展経緯、幹部公務員職制度（SES）、政治任用制などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、日英独仏とアメリカの官僚制度の主な違いは何か、また違いの生まれる理由は何か説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等によりアメリカ官僚制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
4	英国の政治行政体制	英国王室・議会・内閣・各省庁・自治体等について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して英国と他国の内閣・省庁関係の違いについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により英国政治行政制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
5	英国の官僚制度	政官接触禁止など英国特有の官僚制度・運営を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、英国官僚制度の形成過程・政官の分離などについて説明することができる。	
	事前学修	指定された文献等により英国行政制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
6	ドイツの政治行政体制	ドイツ連邦制の成立経緯・現状、政府の構成などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ドイツの連邦―州関係が成立した理由を歴史的背景を含めて説明することができる。	
	事前学修	行政学テキスト等によりドイツ政治行政体制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	ドイツの官僚制度		ラウフバーン制度・政治的官吏などドイツ特有の官僚システムを学習する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ドイツ官僚制と日英米仏の制度との異同及びその理由を説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等によりドイツ官僚制の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
8	フランスの国家と社会		今日のフランス社会、国家制度、フランス人の意識構造を形作ってきた歴史的展開、気候風土、社会文化、隣国との関係などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスという国は何を指すのか、フランス人とはどういう人たちなのか説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等によりフランス国家社会の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
9	フランスの憲法・統治構造		フランス第5共和政の特徴である立法府に対する行政府の圧倒 的な優越等を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスの強力な大統領制・行政の立法府に対する優越はどのような経緯で成立 し、具体的にどのように運営されているのか説明することができる。		
	事前学修	世界史教科書等により第2次大戦後にフランスの置かれた状況と、アルジェリア動乱の経緯を学習しし、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
10	フランスのライシテ		フランス革命の遺産として今日まで引き継がれた政教分離原則や現代フランスが直面するイスラム教との関係などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、ヨーロッパ各国政治行政の歴史におけるカトリック教会の影響力の理解にたつて政教分離原則の意義を説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等によりフランスのライシテについて学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
11	フランスの行政制度①		”ナポレオンの確立した近代フランス行政制度の成立背景・特徴などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、近代フランス行政制度の特徴を王政下の行政体制と比較して説明することができる。		
	事前学修	世界史教科書等で皇帝ナポレオン1世が政治・行政体制確立の上で果たした事績について学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分
12	フランスの行政制度②		フランス行政組織の特徴である国務院（コンセイユデタ）、憲法院などの制度を始め、各省庁の構成・組織編成方式 などについて我が国制度と対比させつつ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、国務院等の組織の特徴を王政下での歴史的起源も援用しつつ説明することができる。		
	事前学修	指定された文献等により現代フランスの行政システムについて学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。		120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	フランスの官僚制度	現代フランス官僚制に特徴的なコール制度（職団制度）、ENA卒業生を中核とする極端なエリート主義、政官の結節点である大臣キャビネ（官房）制度、高級公務員の政治化・民間企業の支配状況などについて学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランス官僚制の特徴を日米英独と対比しつつ説明することができる。	
	事前学修	指定された文献によりフランス公務員制度の概要を学習し、授業内で質問・発言等ができるようにしておく。。	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
14	フランスの地方制度	中世以来の歴史的・文化的地域区分である「州」と大革命期以降に創設された人為的行政区画である「県」が混在した地方制度について学習する。ミッテラン政権時代の分権改革で県が国の機関から「自治体」への変貌した経緯等を学習する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して、フランスの地方制度の変遷について我が国の地方分権改革と対比させて説明することができる。	
	事前学修	世界史教科書等で「キューバ危機」の概要を把握し、可能であれば米映画「13デイズ」をDVD等で視聴しておくことが望ましい	120分
	事後学修	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく。	120分
15	グループワーク等	これまでの講義内容について学修者相互間で意見交換等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関して、積極的な討論・意見交換等を行うことにより、これまでの学習成果をより強固なものとするとともに、様々な意見等を踏まえて、自分の考えをより豊かに説得力をもって説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を復習し、積極的に討論等に参加できるように自分の考えを整理しておく。	120分
	事後学修	他の学修者から出された意見を踏まえ、自分の考えを再整理する。	120分

科目名	比較憲法 I	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
異なる文化や歴史的状況から展開されてきた現代の諸国家の憲法体制を比較し、それぞれの特質を分析するための基本的な知識や方法論を学修する。比較憲法Iでは、国家組織・統治機構に関する比較憲法学を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における憲法体制の多様性を理解し、それらの比較研究ができるようにするために、各国の憲法体制の特徴を知り、それらを特定の観点において比較する方法論を会得するとともに、広い視野で世界の憲法体制を見ることのできる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法Ⅱ（統治機構）」を履修済みであるか、現在、履修中であることが望ましい。

【授業方法】		
主として講義形式にて行う。 講義は単元ごとに配布するレジュメに従って進行する。 指定教科書は事前学修・事後学修で用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の多様な憲法体制と、そこにおける国家組織・統治機構のあり方を客観的視点で比較し、現代憲法が直面する問題を説明できる。				2							
②	「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。						2					
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について，比較憲法学に関する基本的知識及び比較方法論の応用方法が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
比較憲法	東裕・玉蟲由樹編	弘文堂	2019	教科書	必携
新解説世界憲法集〔第4版〕	初宿正典・辻村みよ子編	三省堂	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	比較憲法とは何か		比較憲法とは何かを、比較憲法学の方法論や対象範囲を概説することによって明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、比較憲法学の方法論や比較の対象となる事柄を説明できる。		
	事前学修	教科書第1章「比較憲法とは何か」を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、自分なりの講義ノートを作っておく。		150分
2	日本国憲法と比較憲法学		日本にとって比較憲法学がいかなる意味をもつものであるかを、歴史的・現代的観点から概説する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、日本における比較憲法学の意義を説明できる。		
	事前学修	教科書第2章「日本の憲法学と比較憲法」を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、日本の憲法体制の展開、憲法学の展開の流れがわかるような講義ノートを作っておく。		150分
3	近代立憲主義の展開		日本国憲法との比較対象とされることの多い近代立憲主義の憲法体制について、歴史的展開を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、近代立憲主義という憲法体制について説明できる。		
	事前学修	教科書第3章「現代憲法の特徴」を読んでおく。		90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、比較のキーワードとなる近代立憲主義についての自分なりの講義ノートを作っておく。		150分
4	現代の憲法体制の展開		現代の憲法体制の特徴について、特にイギリス、アメリカ、フランス、ドイツを中心に概説する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、イギリス、アメリカ、フランス、ドイツの憲法体制について説明できる。		
	事前学修	教科書第4章「各国憲法の概観（1）イギリス」～第7章「各国憲法の概観（4）ドイツ」を読んでおく。		150分
	事後学修	それぞれの国の憲法体制について、その特徴を理解できるようなノートを作っておく。		90分
5	民主制の2つの類型		民主制に関する「多数派支配型デモクラシー」と「協調型デモクラシー」との違いを、憲法体制の観点から概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、多くの憲法体制で採用される民主制のあり方を比較憲法学的手法で説明できる。		
	事前学修	教科書第11章「民主制」を読んでおく。		90分
	事後学修	民主制の類型についての理解を、事前学修で得た知識と合わせて整理しておく。		120分
6	議会制民主主義と選挙制度		民主制の具体的な形態としての議会制民主主義と、それを支える選挙制度について比較憲法的手法により概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、議会制民主主義のあり方が選挙制度と強く結びついていることを各国の憲法体制の比較から説明できる。		
	事前学修	教科書第11章「民主制」を読んでおく。		90分
	事後学修	特に各国の選挙制度のあり方に関するノートを作っておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	政治部門の権力分立	統治構造における立法府と行政府との権力分立を、比較憲法学的な見地から概説する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、大統領制、議院内閣制などの具体的な権力分立制度を説明できる。	
	事前学修	教科書第12章「権力分立」を読んでおく。	90分
	事後学修	特に大統領制と議院内閣制との違い（民主的正当化のプロセスの違い）をまとめたノートを作っておく。	150分
8	権力分立と「法律の留保」	議会を中心とした権力分立にとっての重要な理念である「法律の留保」が各国憲法においてどのように位置づけられているのかを概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、各国の憲法条文・憲法実例を素材として「法律の留保」の位置づけを説明できる。	
	事前学修	事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	各国の憲法判例を整理して、法律の留保についての各国のスタンスの違いをまとめたノートを作っておく。	150分
9	裁判制度	各国の裁判制度について、比較憲法的手法により、それぞれの特徴を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、一元的裁判所システムや多元的裁判所システムなどの各国の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第13章「裁判制度」を読んでおく。	90分
	事後学修	講義で取り扱った国の裁判制度について、システムの違いを中心として整理したノートを作っておく。講義中で取り扱えなかった国については、追加資料を参照しておく。	150分
10	司法権と違憲審査権	各国における「司法権」と「違憲審査権（憲法裁判権）」との関係性に関する理解を概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、司法権と違憲審査権との関係性が違憲審査制の具体的システムに大きな影響を与えることを説明できる。	
	事前学修	教科書第14章「違憲審査制」を読んでおく。	90分
	事後学修	違憲審査制の類型がどのような憲法理解と結びついているかに関するノートを作っておく。	150分
11	付随的違憲審査制の特徴	各国における具体的な違憲審査制度について、付随的違憲審査制を中心に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、付随的違憲審査制の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第14章「違憲審査制」と第4章～第10章の違憲審査該当部分を読んでおく。	150分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、付随的違憲審査制の具体的構成に関するノートを作っておく。	90分
12	抽象的違憲審査制の特徴	各国における具体的な違憲審査制度について、抽象的違憲審査制を中心に概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、抽象的違憲審査制の特徴を説明できる。	
	事前学修	教科書第14章「違憲審査制」と第4章～第10章の違憲審査該当部分を読んでおく。	150分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、抽象的違憲審査制の具体的構成に関するノートを作っておく。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	憲法保障	憲法保障の意義と制度について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、各国の憲法における憲法保障がもつ意義を説明できる。	
	事前学修	教科書第21章「憲法保障」を読んでおく。	90分
	事後学修	講義で述べたことを参考に、憲法保障が憲法体制の維持にとってどのような意味をもっているのかを、具体的な事例との関係で整理したノートを作っておく。	150分
14	憲法改正	憲法保障の一環としての「憲法改正」について、各国の改正制度や改正実例を比較する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、憲法改正の手續や改正実例についての各国の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第21章「憲法保障」を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、憲法改正についての具体的論点をまとめたノートを作っておく。	150分
15	まとめ	国家組織に関する各国比較についてのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、国家組織及び国家統治に関する憲法体制の違いを全体的に俯瞰して説明できる。	
	事前学修	これまで自分で作成したノートを読んでおく。	90分
	事後学修	講義での全体的まとめを参考に、ノートを再度修正したり、記述を追加したりしておく。	150分

科目名	比較憲法Ⅱ	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
異なる文化や歴史的状況から展開されてきた現代の諸国家の憲法体制を比較し、それぞれの特質を分析するための基本的な知識や方法論を学修する。比較憲法Ⅰでは、国家組織・統治機構に関する比較憲法学を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における憲法体制の多様性を理解し、それらの比較研究ができるようにするために、各国の憲法体制の特徴を知り、それらを特定の観点において比較する方法論を会得するとともに、広い視野で世界の憲法体制を見ることのできる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法Ⅰ（人権）」を履修済みであることが望ましい。

【授業方法】		
主として講義形式にて行う。 講義は単元ごとに配布するレジュメに従って進行する。 指定教科書は事前学修・事後学修で用いる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	世界の多様な憲法体制と、そこにおける国家組織・統治機構のあり方を客観的視点で比較し、現代憲法が直面する問題を説明できる。					2							
②	「国家」や「憲法体制」に関する理解の仕方が一通りのものではないことを正しく理解し、様々な見地から現代の憲法問題の解決にアプローチできる。							2					
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②について，比較憲法学に関する基本的知識及び比較方法論の応用方法が身についているかを，筆記試験により評価する。	50	50									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
比較憲法	東裕・玉蟲由樹編	弘文堂	2019	教科書	必携
新解説世界憲法集〔第4版〕	初宿正典・辻村みよ子編	三省堂	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 研究室（本館6階1607研究室）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	各国の人権保障の展開	憲法上の人権が世界の国々においてどのように保障されてきたかを歴史的な展開を通じて論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、比較憲法学における人権保障の理解を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、各国での人権保障の特徴に関するノートを作っておく。	150分
2	現代の人権保障の特徴	現代の憲法体制が共通に抱える人権保障の課題について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、人権保障に関する共通の問題性を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」を読んでおく。	90分
	事後学修	とりわけ人権保障と国家権力の発動との関係性に関する議論について、理解を整理し、ノートを作っておく。	150分
3	包括的人権規定（イギリス・アメリカ）	英米法圏の各国における包括的人権規定の解釈やその具体化についての議論を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国の憲法体制での包括的人権規定の位置づけと解釈を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	イギリス・アメリカにおける不文の権利の保障に関する議論を整理して、ノートを作っておく。	150分
4	包括的人権規定（フランス・ドイツ）	大陸法圏の各国における包括的人権規定の解釈やその具体化についての議論を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国の憲法体制での包括的人権規定の位置づけと解釈を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	フランス・ドイツにおける不文の権利の保障に関する議論を整理して、ノートを作っておく。	150分
5	各国での平等論の変遷	平等という概念の歴史的な展開を各国憲法の条文構造なども参照しつつ概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①と関連して、平等概念が抱える解釈上の難問を比較憲法学的見地から説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	絶対的平等/相対的平等，形式的平等/実質的平等に関する理解を整理してノートを作っておく。	150分
6	現代の平等問題	各国において問題となっている具体的な平等問題を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国での具体的な平等問題とそれに対する対応を説明できる。	
	事前学修	教科書第15章「人権保障」と事前に配布する資料を読んでおく。	90分
	事後学修	特にアファーマティブ・アクションやパリテに関する議論を整理してノートを作っておく。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	信教の自由		各国における信教の自由保障及び政教分離原則のあり方について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、ヨーロッパにおけるイスラムスカーフの問題などを信教の自由の観点から説明できる。		
	事前学修	教科書第16章「精神的自由権」と事前に配布する資料を読んでおく。		90分
	事後学修	信教の自由の位置づけの違いを中心に議論を整理してノートを作っておく。		150分
8	表現の自由		各国における表現の自由保障について論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、表現の自由の保障とそれに関わる裁判所の役割論について説明できる。		
	事前学修	教科書第16章「精神的自由権」と事前に配布する資料を読んでおく。		90分
	事後学修	表現の自由に関する各国の裁判例を整理してノートを作っておく。		150分
9	職業の自由		職業活動の自由が各国の憲法体制においてどのように保障されているかを論じる。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国における職業活動の自由の保障の違いを説明できる。		
	事前学修	教科書第17章「経済的自由権」を読んでおく。		90分
	事後学修	特にアメリカのロックナー判決やドイツの薬事法判決などを整理してノートを作っておく。		150分
10	財産権保障		各国における財産権保障について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、財産権保障のあり方の違い、その具体化に関する議論を説明できる。		
	事前学修	教科書第17章「経済的自由権」を読んでおく。		90分
	事後学修	財産権保障がもつ共通の特徴に対して各国がどのような対応をしてきたかを整理しノートを作っておく。		150分
11	刑事手続と人権保障		各国における刑事手続と人権保障との関係性を論じる。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、刑事手続の重要性と人権保障とのバランスングについて説明できる。		
	事前学修	教科書第18章「人身の自由」を読んでおく。		90分
	事後学修	とりわけ現代的なテロ対策と人権保障との関係についての各国の対応を整理してノートを作っておく。		150分
12	手続的権利・受益権		各国における手続的権利・受益権の保障について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、各国での手続的権利・受益権の保障のあり方を説明できる。		
	事前学修	教科書第19章「参政権・国務請求権」を読んでおく。		90分
	事後学修	各国における手続保障の特徴について整理してノートを作っておく。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	生存保障	各国の憲法体制における生存保障のあり方について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、生存保障の諸類型について説明できる。	
	事前学修	教科書第20章「社会権」を読んでおく。	90分
	事後学修	生存保障を憲法レベルで行う国家（日本、フランスなど）と憲法レベルでは行わない国家（アメリカ、ドイツなど）との比較を整理してノートを作っておく。	150分
14	労働・教育保障	各国の憲法体制における労働・教育保障のあり方について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標②と関連して、労働・教育保障についての各国の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第20章「社会権」を読んでおく。	90分
	事後学修	事前学修した事項と講義で得た知識とを合わせて、労働・教育保障についての具体的論点をまとめたノートを作っておく。	150分
15	まとめ	人権保障に関する各国比較についてのまとめを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、人権保障に関する憲法体制の違いを全体的に俯瞰して説明できる。	
	事前学修	これまで自分で作成したノートを読んでおく。	90分
	事後学修	講義での全体的まとめを参考に、ノートを再度修正したり、記述を追加したりしておく。	150分

科目名	比較ジャーナリズム史	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本授業は、メディアと社会の諸関係に構造化された問題群について、次の二つのアプローチから考えようとする。第一に、「比較」であり、ここでは、日本、東アジア諸国、アメリカの事例を扱いながらグローバルな視野で問題群を捉える。第二に、「歴史」の観点である。そこには、過去と現在との分かちがたい結びつきのなかで、問題群を理解し、乗り越えていくべき方向性を見通しうる、一つの思考枠組みを示すねらいがある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、メディアの可能性と限界を把握し、現代社会に構造化されたメディアの諸問題を克服するために、グローバルな視野と歴史的視点を獲得する。それは、異なる地域における歴史的展開を比較し、歴史の重層性、複数性（histories）を感知しながら、現在の問題を立体的に考えることのできる思考枠組を培おうとするものである。

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情に興味を持ち、歴史的な観点から考えることに関心をもつ学生を、特に歓迎する。

【授業方法】
海外のメディアやジャーナリズム、国際政治、日本史や世界史などの歴史に関する授業もあわせて受講することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内での課題やレポートに対して、次回の授業でフィードバックを行うことで理解を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアの歴史的展開について、社会との関係性を踏まえながら、説明することができる。				1							
②	日本を含む東アジア諸国やアメリカにおけるメディアと社会の関係性について、歴史的な観点から、その特徴と構造、メカニズムを説明することができる。					1						
③	現代社会におけるメディアの諸問題について、歴史的な観点から、把握し、その克服の方案を示すことができる。						1					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識が身につき、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	5	5	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているのかを評価する。	5	5	10								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評するほか、成績評価のための課題についてはポータルシステムなどを活用し、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グローバル・ヒストリー：批判的歴史叙述のために	セバスティアン・コンラート	岩波書店	2021	参考書	任意
感情史とは何か	バーバラ・H・ローゼンワイン	岩波書店	2021	参考書	任意
21世紀を生きるための社会学の教科書	ケン・プラマー	ちくま学芸文庫	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（本館9階小林（聡））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		授業の目的や進め方などについて説明する。 グローバルに、かつ、歴史的に、物事を捉えることとは、どのようなことなのか。こうした授業を貫く「軸」について概要を述べ、受講生が次回以降の授業に入っていくやすくするための心構えを伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史から現在を問い、未来を考えるための思考的枠組みを獲得し、能動的に学修をすすめていくうえでの方法を習得できる。		
	事前学修	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	リアクションペーパーの作成（テーマは授業内で指示する） 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
2	「教養とは何かーなぜ関心のない授業を受講しなければならないのか」		<過去>を見つめるために、私たちは、何をどのように、なすべきなのか。ここでは、歴史学的思考を深めるために、教養の意味を考え、歴史を学ぶことの意義を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、教養を身につけることの意味と、歴史を学ぶことの意義を自らの言葉で説明することができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
3	私たちは、どのような<問題>を考えるのかーローカルに研究し、グローバルに思考する		どのように過去を捉えるのか。そのための方法論について説明する。 【参考文献】 キャロル・グラック『歴史で考える』岩波書店、2007年 E.H. カー『歴史とは何か』岩波書店、1965-2015年 「はじめに」『歴史学の思考法』東京大学教養学部歴史学会編、2020年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、説明し、歴史学のアプローチについて説明し、その有効性と限界を説明することができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
4	どのように<過去>を描くのかー作法・現状・課題		過去の捉え方と描き方について、史料に基づいたアプローチの重要性を指摘しながら、具体的に説明する。 【参考文献】第2章「過去の痕跡をどうとらえるのかー歴史学と史料」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史学の多面的な手法と史料の重要性について述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
5	ジャーナリズム史研究の現状と課題		ジャーナリズム史研究が、どのように展開されてきたのか、そのプロセスにおける、いくつかの重要な研究を挙げながら、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ジャーナリズム史研究の蓄積を把握し、何が達成され、何が達成されていないか、今後の同研究領域における課題について述べることができる。 【参考文献】 佐藤卓己『現代メディア史』新版、岩波書店、2018年 根津朝彦『戦後日本ジャーナリズムの思想』東京大学出版会、2019年 林香里『マスメディアの周縁、ジャーナリズムの核心』新曜社、2002年		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
6	歴史研究の問題点と新たな潮流		グローバルに過去を捉えるための方法論の一つとして、「比較」という視点からの歴史叙述について説明する。 【参考文献】 第4章「人びとの「まとまり」をとらえなおす」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史研究の潮流を掴み、比較（史）の意義と限界について述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グローバル・ヒストリー①		グローバル・ヒストリーという研究の視座と実践について説明する。 参考文献：第5章「現代社会の成り立ちを考えるーグローバル化の歴史的展開」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーという視座からメディアの歴史をまなぐすことの意味について述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
8	グローバル・ヒストリー②		グローバル・ヒストリーの視座に基づいた具体的な研究例を紹介し、その手法や特徴などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーとしてのメディア史、ジャーナリズム史の叙述可能性について説明することができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
9	「近代」の知を問いなおす		グローバル・ヒストリーと近代主義について、批判的考察を交えながら、説明する。 【参考文献】第10章「近代」の知を問いなおすー歴史学・歴史叙述をめぐる問い」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、「近代」とは、いかなるものか。この根源的な問いについて、自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
10	課題へのフィードバック		本の読み方、レポートの書き方などを教授したうえで、どのようにオリジナルな議論を組み立てることができるのか。グローバル・ヒストリーに関する論文を取り上げながら、内在的なコメントの仕方を含めて、これらの点について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーの議論に立脚し、自ら問いをたて、それを論理的に論じることができるようになる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
11	メディアと記憶：8月15日をめぐって		メディアと記憶の関係について比較の観点を導入しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、日本と東アジアとの歴史的関係性を理解し、そこに残置される記憶の問題について、メディアの観点から述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
12	歴史とは何か、記憶とは何か		立場の違い、世代の違いは、歴史認識や、記憶の形成に、どのような影響を与えるのかについて説明する。 【参考文献】1「歴史とは何か」、「記憶」とは何か」キャロル・グラック『戦争の記憶ーコロンビア大学特別講義ー学生との対話』講談社、2019年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史認識や記憶の形成が、現在の社会において、いかなる問題として顕在化されているのかについて述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	記憶の形成メカニズムとメディアの役割	2「戦争の記憶」はいかに作られるか」キャロル・グラック『戦争の記憶ーコロンビア大学特別講義ー学生との対話』講談社、2019年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、記憶の形成において、メディアが、いかなる役割を有しているのかに対する批判的な考察を行うことができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	メディアの戦争責任	メディアが、どのように戦争に関わってきたのかについて説明し、その責任を問うてきたこと/問うてこなかったことの意味について説明する。 【参考文献】『東アジアの終戦記念日ー敗北と勝利のあいだ』佐藤卓己、孫安石編	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアと戦争との関係について、歴史、そして比較の観点から述べることができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	まとめ	グローバルに、そして、歴史的に考えることの意義について、あらため説明し、得られた知識の確認と定着、そして、それを応用するための思考枠組みの再提示を試みる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史的な視座で現在を考え、グローバルに、その思考を深めることができる。	
	事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	比較ジャーナリズム史	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
本授業は、メディアと社会の諸関係に構造化された問題群について、次の二つのアプローチから考えようとする。第一に、「比較」であり、ここでは、日本、東アジア諸国、アメリカの事例を扱いながらグローバルな視野で問題群を捉える。第二に、「歴史」の観点である。そこには、過去と現在との分かちがたい結びつきのなかで、問題群を理解し、乗り越えていくべき方向性を見通しうる、一つの思考枠組みを示すねらいがある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業は、メディアの可能性と限界を把握し、現代社会に構造化されたメディアの諸問題を克服するために、グローバルな視野と歴史的視点を獲得する。それは、異なる地域における歴史的展開を比較し、歴史の重層性、複数性（histories）を感知しながら、現在の問題を立体的に考えることのできる思考枠組を培おうとするものである。

【履修条件】
国際政治や海外メディア事情に興味を持ち、歴史的な観点から考えることに関心をもつ学生を、特に歓迎する。

【授業方法】
海外のメディアやジャーナリズム、国際政治、日本史や世界史などの歴史に関する授業もあわせて受講することが望ましい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内での課題やレポートに対して、次回の授業でフィードバックを行うことで理解を深める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアの歴史的展開について、社会との関係性を踏まえながら、説明することができる。				1							
②	日本を含む東アジア諸国やアメリカにおけるメディアと社会の関係性について、歴史的な観点から、その特徴と構造、メカニズムを説明することができる。					1						
③	現代社会におけるメディアの諸問題について、歴史的な観点から、把握し、その克服の方案を示すことができる。						1					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関する知識が身につき、それらをもとにして、どのような独創性のある思考を生みだすことができるのかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施する小テストにより、①②③の知識が、どの程度身についているのかを、評価する。	5	5	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③にかかわる知識が身につき、独創的な思考を展開できているのかを評価する。	5	5	10								20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で講評するほか、成績評価のための課題についてはポータルシステムなどを活用し、フィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グローバル・ヒストリー：批判的歴史叙述のために	セバスティアン・コンラート	岩波書店	2021	参考書	任意
感情史とは何か	バーバラ・H・ローゼンワイン	岩波書店	2021	参考書	任意
21世紀を生きるための社会学の教科書	ケン・プラマー	ちくま学芸文庫	2021	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（本館9階小林（聡））

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の目的や進め方などについて説明する。グローバルに、かつ、歴史的に、物事を捉えることとは、どのようなことなのか。こうした授業を貫く「軸」について概要を述べ、受講生が次回以降の授業に入っていくやすくなるための心構えを伝える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史から現在を問い、未来を考えるための思考的枠組みを獲得し、能動的に学修をすすめていくうえでの方法を習得できる。	
	事前学修	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	リアクションペーパーの作成（テーマは授業内で指示する） 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
2	「教養とは何かーなぜ関心のない授業を受講しなければならないのか」	<過去>を見つめるために、私たちは、何をどのように、なすべきなのか。ここでは、歴史学的思考を深めるために、教養の意味を考え、歴史を学ぶことの意義を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、教養を身につけることの意味と、歴史を学ぶことの意義を自らの言葉で説明することができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
3	私たちは、どのような<問題>を考えるのかーローカルに研究し、グローバルに思考する	どのように過去を捉えるのか。そのための方法論について説明する。 【参考文献】 キャロル・グラック『歴史で考える』岩波書店、2007年 E.H.カー『歴史とは何か』岩波書店、1965-2015年 「はじめに」『歴史学の思考法』東京大学教養学部歴史学会編、2020年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、説明し、歴史学のアプローチについて説明し、その有効性と限界を説明することができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
4	どのように<過去>を描くのかー作法・現状・課題	過去の捉え方と描き方について、史料に基づいたアプローチの重要性を指摘しながら、具体的に説明する。 【参考文献】第2章「過去の痕跡をどうとらえるのかー歴史学と史料」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史学の多面的な手法と史料の重要性について述べることができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
5	ジャーナリズム史研究の現状と課題	ジャーナリズム史研究が、どのように展開されてきたのか、そのプロセスにおける、いくつかの重要な研究を挙げながら、説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、ジャーナリズム史研究の蓄積を把握し、何が達成され、何が達成されていないか、今後の同研究領域における課題について述べることができる。 【参考文献】 佐藤卓己『現代メディア史』新版、岩波書店、2018年 根津朝彦『戦後日本ジャーナリズムの思想』東京大学出版会、2019年 林香里『マスメディアの周縁、ジャーナリズムの核心』新曜社、2002年	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
6	歴史研究の問題点と新たな潮流	グローバルに過去を捉えるための方法論の一つとして、「比較」という視点からの歴史叙述について説明する。 【参考文献】 第4章「人びとの「まとまり」をとらえなおす」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史研究の潮流を掴み、比較（史）の意義と限界について述べることができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	グローバル・ヒストリー①		グローバル・ヒストリーという研究の視座と実践について説明する。 参考文献：第5章「現代社会の成り立ちを考えるーグローバル化の歴史的展開」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーという視座からメディアの歴史をまなぐすことの意味について述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
8	グローバル・ヒストリー②		グローバル・ヒストリーの視座に基づいた具体的な研究例を紹介し、その手法や特徴などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーとしてのメディア史、ジャーナリズム史の叙述可能性について説明することができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
9	「近代」の知を問いなおす		グローバル・ヒストリーと近代主義について、批判的考察を交えながら、説明する。 【参考文献】第10章「近代」の知を問いなおすー歴史学・歴史叙述をめぐる問い」『歴史学の思考法』	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、「近代」とは、いかなるものか。この根源的な問いについて、自らの意見を述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
10	課題へのフィードバック		本の読み方、レポートの書き方などを教授したうえで、どのようにオリジナルな議論を組み立てることができるのか。グローバル・ヒストリーに関する論文を取り上げながら、内在的なコメントの仕方を含めて、これらの点について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、グローバル・ヒストリーの議論に立脚し、自ら問いをたて、それを論理的に論じることができるようになる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
11	メディアと記憶：8月15日をめぐって		メディアと記憶の関係について比較の観点を導入しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、日本と東アジアとの歴史的関係性を理解し、そこに残置される記憶の問題について、メディアの観点から述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分
12	歴史とは何か、記憶とは何か		立場の違い、世代の違いは、歴史認識や、記憶の形成に、どのような影響を与えるのかについて説明する。 【参考文献】1「歴史とは何か」、「記憶」とは何か」キャロル・グラック『戦争の記憶ーコロンビア大学特別講義ー学生との対話』講談社、2019年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史認識や記憶の形成が、現在の社会において、いかなる問題として顕在化されているのかについて述べることができる。		
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。		120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	記憶の形成メカニズムとメディアの役割	2「戦争の記憶」はいかに作られるか」キャロル・グラック『戦争の記憶ーコロンビア大学特別講義ー学生との対話』講談社、2019年	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、記憶の形成において、メディアが、いかなる役割を有しているのかに対する批判的な考察を行うことができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
14	メディアの戦争責任	メディアが、どのように戦争に関わってきたのかについて説明し、その責任を問うてきたこと/問うてこなかったことの意味について説明する。 【参考文献】『東アジアの終戦記念日ー敗北と勝利のあいだ』佐藤卓己、孫安石編	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、メディアと戦争との関係について、歴史、そして比較の観点から述べることができる。	
	事前学修	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分
15	まとめ	グローバルに、そして、歴史的に考えることの意義について、あらため説明し、得られた知識の確認と定着、そして、それを応用するための思考枠組みの再提示を試みる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、歴史的な視座で現在を考え、グローバルに、その思考を深めることができる。	
	事前学修	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと	120分
	事後学修	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。	120分

科目名	比較政治学	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
比較政治学の基本的な知識を幅広く，体系的に正確に学修する。そのために，初めて比較政治学を学修しようとする場合に「最低限これだけ知っておけば，比較政治学の入門レベルをおさえることができるとともに，これから先の学修に役立つ」という内容を取り扱う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
比較政治学の基本的な理論の検討を通して，世界各国における政治現象を理論と現実の両方の側面から把握できるようになるために，比較政治学の代表的な理論，モデル，概念などを修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
主として，講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中に数回程度，リアクション・ペーパーの記入を実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	比較政治学に関する基礎的な知識について説明することができる。					2	2	2				
②	比較政治学における基本的な理論や概念を識別することができる。					2	2	2				
③	現代の世界各国の政治が抱える問題について具体的な解決方法を批判的かつ論理的に考察することができる。					2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③について求められる学力が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20								80
小テスト等	セメスター中，数回行うリアクション・ペーパーにより，到達目標③に関する学力を評価する。	5	5	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験後に，ポータル・システムを利用してフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『比較政治学入門』	岩崎正洋	勁草書房	2015	教科書	必携
『現代政治学の理論（上）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1981	参考書	推奨
『現代政治学の理論（下）』	白鳥令編	早稲田大学出版部	1982	参考書	推奨
『現代政治学の理論（続）』	白鳥令	早稲田大学出版部	1985	参考書	推奨
『現代世界の民主主義理論』	白鳥令・曽根泰教編	新評論	1984	参考書	推奨
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019	参考書	任意
『政党システム』	岩崎正洋	日本経済評論社	2020	参考書	任意
『政治発展と民主化の比較政治学』	岩崎正洋	東海大学出版会	2006	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12：10～12：50 研究室（4号館2階425研究室） iwasaki.masahiro62@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション：比較政治学とは何か	第一回目の授業にあたり、イントロダクションとして、比較政治学の特徴を説明するとともに、授業のテーマ、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、比較政治学を学修する際の問題意識や、当該学問分野の射程を説明することができる。	
	事前学修	教科書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
2	政治システム	政治と国家、政治システムとは何か、政治システム論の広がりについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治システム論の基本的な概念と枠組みについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第1章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
3	政治発展	政治発展とは何か、政治発展論の主な論点、政治発展論の限界について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政治システム論および系譜について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第2章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
4	政治文化	政治システム論、政治発展論とのかかわりから政治文化論に注目し、古典的な政治文化論と現在の政治文化論について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治文化の違いを分析する方法について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第3章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
5	政治体制	政治体制（民主主義体制、権威主義体制、全体主義体制）の類型化を説明するとともに、民主主義体制と非民主主義体制とを分ける点とは何かについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政治体制の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
6	ポリアーキー	ダール（Robert A. Dahl）によって提示された民主主義体制を分析した概念である「ポリアーキー」論の内容について具体的な事例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義を捉える主要な分析枠組みである「ポリアーキー」論について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	多極共存型民主主義		レイプハルト（Arend Lijphart）による多極共存型民主主義（consociational democracy）論について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、多極共存型民主主義論について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第4章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
8	民主化		民主化そのものを理解するために、「民主化の第三の波」と、民主主義体制への移行（transition）について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主化とは何かについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第5章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
9	民主主義の定着		民主化における体制移行後に民主主義体制が定着する（consolidation）過程について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主化にかかわる一連の過程について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第5章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
10	民主主義		現代における「民主主義」とは何か、民主主義理論の系譜をふまえながら解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主主義とは何かについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第6章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
11	民主主義の二つのモデル		レイプハルト（Arend Lijphart）による民主主義の二つのモデル（Majoritarian Model of Democracy vs. Consensus Model of Democracy）について、世界各国の状況を示しながら説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民主主義の二つのモデルについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第6章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
12	選挙		現代民主主義における選挙の機能、選挙制度の類型、選挙制度と政党システムとの関連を取り扱った「デュベルジェ（Maurice Duverger）の法則」について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における選挙の意味や問題点について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第7章および参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政党と政党システム	政党と政党システムについて、デュベルジェ（Maurice Duverger）やサルトーリ（Giovanni Sartori）による代表的な議論を中心に世界の事例を挙げながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代民主主義における政党と政党システムとのかかわりについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の第8章，第9章および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
14	政治の大統領制化	議院内閣制と大統領制の比較，議院内閣制における政治の大統領制化について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，議院内閣制と大統領制の違い，大統領制化について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第10章および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	120分
15	比較政治学の課題と展望	各国の政治を分析する際には，政治システム論や民主主義論の研究蓄積をふまえつつ，政策決定過程論やガバナンス論といった視点からのアプローチが可能であることを総括として解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，比較政治学の主たる理論，モデル，概念などの相互関係について説明することができる。	
	事前学修	教科書の第11章，第12章および参考書の該当部分を読み，授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。	120分
	事後学修	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり，授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。	180分

科目名	東アジア経済論	担当者	陳 文孝	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
21世紀はアジアの時代だと言われており、中国やASEAN諸国等アジア新興国の台頭により東アジア地域のみならず、世界の政治経済、国際貿易、環境エネルギー、安全保障などは構造的に変化する。本講義では経済発展の一般理論に基づいて、東アジア地域経済発展の歴史、発展の過程、発展の原動力、産業構造、人口と労働移動、国際貿易、経済統合等諸問題について学習し、当地域政治経済の変動に対する理解を深め、分析力を高めていく。また、現在世界第2位の経済規模を有する中国について、日中関係を含め、当地域にどのような影響を与えるかを最新の資料を用いながらダイナミック的に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
昨今、国際政治経済における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域経済の重要性、多様性、複雑性、可能性等について立体的な視点から考察することは、東アジア経済論の基礎知識を修得するだけでなく、東アジア地域実体経済変動の規律を把握することにとって重要である。本講義は講義全体の学習を通じて学生諸君が東アジア地域経済の学問的基礎知識を習得することを目的とし、東アジア地域経済発展に対する考察力、理解力、分析力、そして説明力を高めることを目標とする。

【履修条件】
特に要求しない。

【授業方法】
基本的にはシラバスに沿ってパワーポイントによる講義を行う。時々、講義内容の補足として動画を視聴し、理解を深める。また、最新の経済動向を把握するため、新聞・雑誌等の参考資料を配布することもあり、参考してもらおう。時には、リアクションペーパーを書いてもらい、授業内容に対する理解の状況を確認する。オンライン授業の場合は、主にZoom方式で行う。詳しくは、その都度に説明する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	経済発展論の基礎、東アジア経済発展の歴史、制度的要因、原動力、日本との関わりなどを理解し、説明できる。（知識）						2		2		2		
②	中国経済の発展とその影響、日中・米中関係とその影響について理解、説明できる。（知識）						2		2		2		
③	図表やデータを活用して東アジア地域の経済事象を説明できる。（技能）						2		2		2		
④	実際の経済問題（例えば米中貿易紛争、新型肺炎のショックが経済に与える影響）について分析、説明できる。（知識・技能）						2		2		2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験をしないが、代わりに期末レポートを求める。											
小テスト等	第8回目の授業の後半により、前半到達目標①、②、③、④を確認するために、小テストを行う。	5	5	5	5							20
レポート等	提出されたレポートが作成要項の要件を満たし、課題に適切にこたえる内容になっているかを基準に、到達目標①、②、③、④に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明を推奨し、到達目標①、②、③、④に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する	5	5	5	5							20
その他(リアクション ペーパー)	毎回の講義内容を簡単にまとめ、理解し、質問できるかを評価する	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義最初にリアクションペーパーや課題、宿題などについて共通問題を解説し、講義最後に個別問題に対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アジア経済とは何か―躍進のダイナミズムと日本の活路	後藤健太	中公新書	2019	参考書	推奨
現代東アジア経済論	三重野文晴・深川由起子	ミネルヴァ書房	2017	参考書	推奨
東アジアの論理―日中韓の歴史から読み解く	岡本隆司	中公新書	2020	参考書	推奨
備考	本講義は「経済発展論」、「東アジア経済論」、「中国経済論」等諸学問分野を総合し、最新資料、最新の経済動向分析を行うため、教科書を固定せず、事前・事後の学習には参考書を活用してほしい。				

【オフィスアワー】
水曜昼休み（事前にメールでアポイントメントを取ることをお願いしたい。メール：chin.bunkyo@nihon-u.ac.jp）場所：10号館2階講師室。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス（東アジア経済論とは）	講義内容、研究テーマ、スケジュール、学習方法、講義ノートの取り方などについて紹介し、成績評価を説明する。また、質問を応答する。	
	この回の到達目標	東アジア経済論を履修する意義、学習範囲、勉強方法、単位取得の必要条件等について理解できる。	
	事前学修	図書館やWebサイトから「東アジア経済論」について調べてみる。講義全体について概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの確認、東アジア経済についての学習意識を明確にし、学習計画を検討する。	120分
2	現代経済社会の仕組み	現代経済社会の仕組みについて学習し、生産活動の主役（生産者、消費者、政府）とそれぞれの役割を明確にする。経済成長、経済発展の原動力を説明する。また、経済学の源流、諸学派の基本的考え方の違いを紹介する。	
	この回の到達目標	経済活動の主役、政治経済制度、経済成長の原動力および経済学の諸学説の源流等について理解できる。	
	事前学修	現代経済社会の仕組みについて予習する。特に、人類文明の転換、生産活動の歴史について調べてみる。	120分
	事後学修	生産活動に必要な3要素（資本、労働、技術）について復習し、技術進歩の重要性を検討する。	120分
3	産業革命との東アジア地域の経済発展の初期条件	近代アジア経済発展の歴史を研究する。英国産業革命のアジアに与えた影響について、「アヘン戦争」および日本明治維新の歴史研究を通じて明確にし、近代経済発展における西欧や日本の植民地政策の功罪について検討する。	
	この回の到達目標	産業革命は如何に発生したのか。中国の「アヘン戦争」、日本の「明治維新」発生の歴史、経済背景、西欧列強の植民政策の功罪について理解できる。	
	事前学修	イギリス産業革命及び世界経済に与える影響、そして帝国主義時代の植民政策について調べてみる。	120分
	事後学修	日中両国の近代化の過程および相違について比較し、まとめてみよう。	120分
4	「緑の革命」と東アジア地域の農業発展	アジア農業の発展と「緑の革命」について学習する。農業生産の特性、品種改良、機械化、大規模農業の形成、資本集約的農業と技術集約的農業の違いについて日本と途上国農業の実態を比較しながら説明する。	
	この回の到達目標	「緑の革命」発生の原因、東アジア農業の発展に与える影響、アジア地域および世界の食糧問題の解決について理解できる。	
	事前学修	東西「冷戦」、計画経済、市場経済の特徴について調べる。需要の価格弾力性の概念を予習しておく。	120分
	事後学修	農業生産における「豊作貧乏」問題に対する処方箋、遺伝子組み換え農産品の食安全の問題について考える。	120分
5	人口問題について考える	アジアの経済発展と人口問題について学習する。人口発展の3つの段階や人口爆発、中国の「一人っ子政策」および日本の少子高齢化問題について「機会費用」概念を用いて考えてみる。	
	この回の到達目標	経済社会において生産活動に欠かせない「費用」、「機会費用」の概念を理解し、人口爆発問題、少子高齢化問題について説明できる。	
	事前学修	人口問題について調べ、マルサス人口論や「算数級数」、「対数級数」の概念を予習しておく。	120分
	事後学修	中国の一人っ子政策の廃止後の人口動向を調べ、日本政府の少子化対策の問題点についてまとめる。	120分
6	経済発展と産業構造変換	産業構造変化と労働移動について学習する。その中で産業の分類、ペティ・クラークの法則、雁行形態、産業移転、労働移動、インフォーマル部門の形成要因等を探る。	
	この回の到達目標	経済発展に伴い産業構造も大きく変換することは先進国、途上国を問わず起きていることを理解し、産業移転や空洞化などの現象を説明できる。	
	事前学修	最新『日経業界地図』から日本の業界分類、注目企業、労働雇用および業界別賃金水準について調べる。	120分
	事後学修	東アジアの過剰都市化問題、スラム街の形成と現状を調べて、非正規労働形成の原因を考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	東アジア地域の貧困と格差問題	中国を中心に東アジア地域農村地帯における貧困、農村と都市間の経済格差、農業労働移動の実態について事例研究を通じて考察する。貧困と格差問題を解決するためには、農村地域の経済を如何に発展させるかを考える。	
	この回の到達目標	経済発展に取り残された農村地域の貧困問題、都市農村間経済格差問題について理解し、これらの問題を解決する有効な政治経済的な手法を考え出す。	
	事前学修	東アジア地域において国民経済（GDP）に占める農業の割合、総労働人口に占める農業労働者の割合のデータを入手し、エクセルでその時系列推移を観察する。	120分
	事後学修	日本や中国では農村から都市への出稼ぎ労働が多く、それぞれの実態を調べ、比較してみよう。	120分
8	グローバル経済	分業、比較優位性および国際貿易について学習し、経済効率性や経済グローバル化の理論背景を説明する。	
	この回の到達目標	古典派経済学の基礎知識、絶対優位性、比較優位性および国際貿易の必要性、グローバル経済の基本を身に付けることができる。	
	事前学修	「重農主義」、「重商主義」、リカードの比較優位仮説について調べる。	120分
	事後学修	リカードの比較優位性仮説についてExcelを使って具体的な数値によって確認する。また、比較劣位性はどのような場合に発生するのかをも検証する。	120分
9	東アジアの工業化	東アジアの工業化について学習する。「脱植民地」に成功した東アジア地域経済の事例を用いて、「輸入代替」から「輸出振興」に発展戦略の変換の重要性を検討する。	
	この回の到達目標	政治の独立を果たした東アジア地域の経済は如何に経済の独立を実現したかを理解し、経済連携やグローバル化の必要性を説明できる。	
	事前学修	国民経済（GDP）計算式を予習しておく。輸出入の拡大と経済成長の関係を考察してみる。	120分
	事後学修	貿易依存度を用いて、日本、韓国、シンガポール、ASEAN諸国の経済国際化の度合いを計測し、比較する。	120分
10	中国経済 1：社会主義建国	中国建国、社会主義計画経済の実施とその成果および教訓について学習し、現代中国形成の歴史とその歩みを明らかにする。	
	この回の到達目標	中国は如何に社会主義計画経済を選択、実行したか、戦前戦後および冷戦の歴史を理解し、1950年代の中国の経済発展を説明できる。	
	事前学修	中国の建国、朝鮮戦争および「朝鮮特需」と日本経済復興について調べておく。	120分
	事後学修	毛沢東はなぜ「大躍進」戦略をとったのか、またその失敗の後、どのように責任を取ったのかをまとめる。	120分
11	中国経済 2：計画経済	中国の「改革・開放」の歴史経緯について学習する。「文化大革命」運動の悪影響、米中・日中国交回復によって明示された中国と先進国との経済格差、毛沢東の死去、極貧状態の中国農村部の反抗、「トップ・タウン」と「ボトムアップ」との改革方式の違いについて検討する。	
	この回の到達目標	中国の計画経済の実施状況、政治経済の激動と混乱、後に改革開放政策の実施の歴史経緯を理解できる。	
	事前学修	中国の「文化大革命」運動、米中・日中国交回復について調べ、政治と経済の関係を考えてみる。	120分
	事後学修	1970年代末期に中国改革・開放政策実施の諸初期条件について考えてまとめる。	120分
12	中国経済 3：改革開放	中国の農業生産制度改革、郷鎮企業の興隆、外資の導入および世界工場の形成について学習し、経済発展の初期条件および諸要因を探る。	
	この回の到達目標	中国の改革開放政策の実施、中国農業の実態、政策変更により経済の激変および農業と工業の相互関係について理解できる。	
	事前学修	「緑の革命」を復習し、中国農業生産の拡大、余剰労働の発生、世界工場形成の条件などについて調べる。	120分
	事後学修	中国経済の成功における制度改革の重要性について農業の自由化、外資導入、貿易促進政策などの面から確認し、まとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	中国経済 4：工業発展	中国の企業成長と経済の発展について企業レベルから考察し、改革開放後 40 年の間に生まれた中国を代表する著名企業の成長、発展の経緯を検討する。	
	この回の到達目標	「世界の工場」と言われる中国工業の発展の歴史、制度改革、成長の原動力などについて事例研究を通じて理解できる。	
	事前学修	ファーウェイ (Huawei)、アリババ (Alibaba)、ハイアール (Haier)、吉利汽車 (Geely) という中国を代表する企業について調べる。	120分
	事後学修	米中貿易紛争におけるファーウェイ問題について調べ、先端技術における米中熾烈な競争の実態をまとめる。	120分
14	地域経済協力	東アジア地域経済統合について検討する。その中で、ASEAN地域経済協定の締結、日中韓FTAの動向、環太平洋パートナーシップ (TPP)、東アジア地域包括的経済連携 (RCEP) などの地域経済連携の最新状況について解説し、行方を探る。	
	この回の到達目標	国際貿易、地域経済協力によって東アジア地域にどのような政治経済効果をもたらすかを理解し、説明できる。	
	事前学修	世界の地域経済協定についてWTO、EU、ASEAN、FTA、TPPについて調べる。	120分
	事後学修	産業構造の変換、「雁行形態」の理論を復習し、日本企業の中国から東南アジア地域への産業移転について調べ、まとめる。	120分
15	まとめと期末レポート作成要領	前半期講義の要点をまとめ、確認するうえ期末レポート作成要領、評価の仕方、提出方法、フィードバックについて説明する。	
	この回の到達目標	半期の講義内容を取りまとめ、理論体系、実際政治経済の動向を通じて要点がよく説明できる。	
	事前学修	半期の学習の要点をまとめ、確認をする。半期授業のポイントを整理したうえ、自分の学習目標の達成状況、基礎知識の修得状況、そして分析力、説明力の向上状況を確認する。	120分
	事後学修	期末レポートを作成、提出する。	120分

科目名	東アジア政治論Ⅰ	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義では、学術的な思考様式や分析手順を学びながら、アジアにおける政治動態を概観する。特に、複数の国家、地方自治体、社会集団、また個人などの政治的アクター・単位を比較対象としながら、政治（・経済・社会）現象に関する因果関係の解明を試みる。本講義では現象を規定する幅広い要因を考察の対象としていることから、本学における他の社会科学関連、あるいは地域研究の科目を補完するものとなっている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義の目標は、アジア政治論で議論されてきた理論や分析方法を理解し、現実政治における問題の発見とその検討を学術的な手順に従って行うことができるようになることである。ここでは学生が自ら様々な政治（・経済・社会）現象を捉え、そこから国家や社会といった政治単位ごとの相違・類似点を見抜く洞察力を養うことを目指すことにする。こうした問題の発見や適切な分析方法の応用が出来る能力は、本学における卒業論文その他の知的プロジェクトへの取り組みの際だけでなく、大学卒業後も社会人として不可欠なものとなる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義では先行研究に関する内容の理解を促進するため、リーディングに関するリアクション・ペーパーやプレゼンテーションを行う。また、そうした知識を他の事例に応用し、テーマの全体像を把握するためにグループ・ディスカッションを行う。これらに加えて、自ら現実政治に関する問いを設定し、それに対する答えを提示する能力を習得することを目的に、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマ・事例について研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリスティックなどの仕組みを専門的観点から説明することができる。							2					
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察することができる。									2			
③	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践することの重要性を認識することができる。											2	
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	リーディングに関するリアクション・ペーパー、グループ・ディスカッションに関するレポート		8		8		8					24
レポート等	研究論文		15		15		15					45
討論・発表等	リーディングに関するプレゼンテーション、研究計画発表・最終発表		7		7		7					21
授業への参画度	(出席を前提とした) 講義中の積極的な発言		3		3		4					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)			33		33		34					100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に示す。				

【オフィスアワー】
月曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション（シラバスの説明、アジア政治論のテーマ）	授業の目的、内容、進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスや授業に関連する文献に目を通し、事前知識を得る。	120分
	事後学修	授業の概要について振り返るとともに、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	分析の手順	リサーチ・クエスチョン、仮説検証、比較の意味と方法	
	この回の到達目標	実証的な政治分析の方法について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。	120分
	事後学修	授業で示された分析の手順に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
3	（比較）政治学の歴史とアジア政治論	比較政治学を中心とした政治研究の潮流・動向とアジアの地理的特性、政治動態の歴史・特徴	
	この回の到達目標	比較政治学を中心とした政治研究の潮流や動向について理解する。また、アジアという地域の特性やそこにおける政治の特徴について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された政治学の歴史とアジア政治論に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
4	政治制度	執政・立法の制度	
	この回の到達目標	執行府や議会関係に関する理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された政治制度に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
5	民主主義体制	民主主義に関する概念、国家―社会関係に関する諸制度	
	この回の到達目標	民主主義体制に関する概念や国家―社会関係に関する諸制度について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された民主主義体制に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
6	非民主主義体制	非民主主義体制に関する概念、国家―社会関係に関する諸制度	
	この回の到達目標	非民主主義体制に関する概念や国家―社会関係に関する諸制度について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された非民主主義体制に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	研究計画発表		受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
8	研究計画発表		受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
9	民主化		民主化の条件とプロセス
	この回の到達目標	民主化の条件とプロセスに関する諸理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された民主化に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
10	政治と経済		政治と経済の相互関係に関する理論と思想
	この回の到達目標	政治と経済の相互関係に関する理論と思想について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された政治と経済に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
11	福祉国家		福祉国家に関する理論と思想
	この回の到達目標	福祉国家に関する理論と思想について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された福祉国家に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
12	エスニシティ、ナショナリズム		エスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と理論
	この回の到達目標	エスニシティ、ナショナリズムをめぐる現状と理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示されたエスニシティ、ナショナリズムに関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	紛争・内戦		紛争・内戦をめぐる現状と理論
	この回の到達目標	紛争・内戦をめぐる現状と理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された紛争・内戦に関する論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
14	最終発表		受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
15	最終発表		受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

科目名	東アジア政治論Ⅱ	担当者	窪田 悠一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義では、地域研究の学術的な思考様式や分析手順を学ぶ。特に、ここではアジアにおける国内武力紛争と社会を題材に、政治暴力の傾向やパターン、紛争発生メカニズム、紛争の国家や人々に対する影響、平和構築などについて考察する。本講義ではこうした特定のテーマを取り上げるものの、それらを規定する幅広い要因を考察の対象としていることから、本学における他の専門科目を補完するものとなっている。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義の目標は、アジアにおける紛争と社会をめぐる議論されてきた理論や分析方法を理解し、当該テーマに関する問題の発見とその検討を学術的な手順に従って行うことができるようになることである。ここでは学生が自ら現象を捉え、そこから国家、社会、個人といった分析単位ごとの相違・類似点を見抜く洞察力を養うことを目指すことにする。こうした問題の発見や適切な分析方法の応用が出来る能力は、本学における卒業論文その他の知的プロジェクトへの取り組みの際だけでなく、大学卒業後も社会人として不可欠なものとなる。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義では先行研究に関する内容の理解を促進するため、リーディングに関するリアクション・ペーパーやプレゼンテーションを行う。また、そうした知識を他の事例に応用し、テーマの全体像を把握するためにグループ・ディスカッションを行う。これらに加えて、それぞれの問題に関して自ら問いを設定し、それに対する答えを提示する能力を習得することを目的に、担当教員との相談のもと学生自らが選んだテーマ・事例について研究論文を作成し、これを報告する研究発表会を設ける。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本及び世界の法、政治、行政、経済、経営、ジャーナリスティックなどの仕組みを専門的観点から説明することができる。												
②	社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察することができる。												
③	多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践することの重要性を認識することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	リーディングに関するリアクション・ペーパー、グループ・ディスカッションに関するレポート		8		8		8					24
レポート等	研究論文		15		15		15					45
討論・発表等	リーディングに関するプレゼンテーション、研究計画発表・最終発表		7		7		7					21
授業への参画度	(出席を前提とした) 講義中の積極的な発言		3		3		4					10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)			33		33		34					100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	初回授業時に示す。				

【オフィスアワー】
月曜3限

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション（シラバスの説明、本講義のテーマ）	授業の目的、内容、進め方などについて説明する。	
	この回の到達目標	授業の概要について理解する。	
	事前学修	シラバスや授業に関連する文献に目を通し、事前知識を得る。	120分
	事後学修	授業の概要について振り返るとともに、履修するかどうかを決める。また疑問点があれば、担当教員に確認する。	120分
2	地域研究の方法	地域研究の方法に関する理論と具体例	
	この回の到達目標	地域研究の方法に関する理論と具体例について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
3	世界における紛争の傾向とパターン	世界における紛争の傾向・パターンとその背景	
	この回の到達目標	世界における紛争の傾向・パターンとその背景について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
4	アジアにおける紛争の傾向とパターン	アジアにおける紛争の傾向・パターンとその背景	
	この回の到達目標	アジアにおける紛争の傾向・パターンとその背景について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
5	個人レベルでみる紛争の要因	個人レベルでみる紛争の要因とその影響	
	この回の到達目標	個人レベルでみる紛争の要因とその影響について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
6	集団レベルでみる紛争の要因	集団レベルでみる紛争の要因とその影響	
	この回の到達目標	集団レベルでみる紛争の要因とその影響について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	研究計画発表		受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
8	研究計画発表		受講生それぞれの研究計画を報告し、議論する。
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
9	国家と紛争		国家と紛争に関する理論と具体例
	この回の到達目標	国家と紛争に関する理論と具体例について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
10	紛争と反乱軍組織		紛争と反乱軍組織に関する理論と具体例
	この回の到達目標	紛争と反乱軍組織に関する理論と具体例について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
11	紛争後社会		紛争が社会にもたらす影響に関する理論と具体例
	この回の到達目標	紛争が社会にもたらす影響に関する理論と具体例について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
12	リベラル平和構築の理論		紛争後社会の復興に向けたリベラル平和構築の試みとその理論
	この回の到達目標	紛争後社会の復興に向けたリベラル平和構築の試みとその理論について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	リベラル平和構築の批判と実践	紛争後社会の復興に向けたリベラル平和構築の批判と実践	
	この回の到達目標	紛争後社会の復興に向けたリベラル平和構築の批判と実践について理解する。	
	事前学修	事前に指定される文献に目を通し、疑問点や論点を確認する。また発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究テーマに置き換えながら考える。	120分
14	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分
15	最終発表	受講生それぞれの研究論文を報告し、議論する。	
	この回の到達目標	自らの研究テーマに関連する研究動向の紹介と論文の理論・仮説、データ・資料について理解し、説明する。	
	事前学修	発表担当者はプレゼンテーションの準備をする。	120分
	事後学修	授業で示された論点を振り返り、自らの研究に置き換えながら考える。	120分

科目名	ビジネスロー文献講読Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
この講座では、欧米のビジネスローの専門書や報告書の原文を使用して、国際ビジネスや国際金融に関する内容を学習する。主として英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード、さらに国際的に活動する金融機関に関する規制であるバーゼル規制を題材として理論とプラクティスを学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスローに関する外国専門書（英語）について理解、修得することを目的とする。サブプライム金融危機以後の国際金融法規制、コーポレート・ガバナンス（企業統治）等の重要テーマを中心にG20のバーゼル銀行監督委員会、英国コーポレート・ガバナンス・コードなど最新の文献を題材に進める。欧米のガバナンス、取締役会など法的スキームを学び、概要など説明できるようになることを目標とする。英語が苦手な者も、だからこそ是非参加してほしい。大歓迎する。国際ビジネス法に関する専門の英語文献について学び、それに基づき専門書を読むことに慣れることを学習する。細かい法知識の修得もさることながら、専門書講読が苦にならなくなることが眼目である。英語習得は今や必須である。

【履修条件】
特にない。学科を問わず広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。また2年生も広く大歓迎する。

【授業方法】
政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、わかりやすく解説する。講義形式を基本とするが、一方的な授業にならないようにアクティブラーニングを組み合わせ、事例を用いて課題解決型学習により関心と理解を深める。期末に課題を示し、レポートを作成・提出していただきたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業のビジネスにおいて必要な米国や英国の法制度について、英語の原文で法的知識を理解し、説明することができる。【知識】				3			3		3		
②	他の法律とは異なる欧米のビジネス法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】				3			3		3		
③	国際ビジネスに関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】				3			3		3		
④	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】				3			3		3		
⑤	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑥	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑦	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑧	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑨	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】				3			3		3		
⑩	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】				3			3		3		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。							5	5	5	5	20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。					

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話にきてください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験があり、米国経営大学院においてCEOプログラム研修を受けている。米国ロースクールの客員研究員の経験も有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		欧米のビジネス法制度に関して、経営などとリンクした原書（英語）による講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】 【導入講義】	G20のバーゼル銀行監督委員会とサブプライム金融危機後のコーポレート・ガバナンスを強化するための諸原則 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	①②に関連して、ビジネス法に関して原書で学習し知識を得ることの意義を理解する。以下、全て原書によって理解できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【OECDコーポレート・ガバナンス原則】	OECD（経済協力開発機構）のコーポレート・ガバナンス(Corporate Governance)原則	
	この回の到達目標	①②に関連して、OECDコーポレート・ガバナンス原則を理解する。	
	事前学修	コーポレート・ガバナンスに関して、概要を把握して考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、OECD（経済協力開発機構）のコーポレート・ガバナンス原則の内容を復習する。	120分
3	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】	バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度の概観 バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスに関する報告書などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。	
	事前学修	バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスについて考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、バーゼル銀行監督委員会のコーポレート・ガバナンス原則の内容を復習する。	120分
4	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】 【取締役会の責務と実務】	銀行のコーポレート・ガバナンス（1） 取締役会の責務と実務 バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスに関する報告書をもとに、取締役会の責務と実務などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、取締役会の責務と実務を理解する。	
	事前学修	銀行の取締役会の責務と実務について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、銀行の取締役会の責務と実務の内容を復習する。	120分
5	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】 【戦略と目標、リスク許容度】	銀行のコーポレート・ガバナンス（2） 銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、戦略と目標、リスク許容度を理解する。	
	事前学修	銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、銀行の戦略と目標などの内容を復習する。	120分
6	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】 【取締役会議長、独立社外取締役】	銀行のコーポレート・ガバナンス（3） 取締役会議長（Chairman）、独立社外取締役（Outside Independent Director） バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、取締役会議長、独立社外取締役について学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、取締役会議長、独立社外取締役を理解する。	
	事前学修	取締役会議長、独立社外取締役について考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、取締役会議長、独立社外取締役の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【企業価値基準と行動規範】		銀行のコーポレート・ガバナンス（４） 企業価値基準と行動規範(Code of Conduct) バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、企業価値基準と行動規範について学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、企業価値基準と行動規範を理解する。		
	事前学修	企業価値基準と行動規範について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、企業価値基準と行動規範の内容を復習する。		120分
8	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【取締役会の監視機能、取締役の資質】		銀行のコーポレート・ガバナンス（５） 上級管理職(Senior Management)に対する監視、取締役の資質 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、上級管理職(Senior Management)という業務執行機能に対する取締役会の監視機能、取締役の資質について学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、取締役会の監視機能、取締役の資質を理解する。		
	事前学修	上級管理職(Senior Management)に対する監視について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、上級管理職(Senior Management)に対する監視、取締役の資質の内容を復習する。		120分
9	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【支配株主、指名・報酬・監査委員会】		銀行のコーポレート・ガバナンス（６） 取締役会の構造と機能、支配株主、指名・報酬・監査委員会 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、取締役会の構造と機能、支配株主などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、支配株主、指名・報酬・監査委員会を理解する。		
	事前学修	取締役会の構造と機能について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、取締役会の構造と機能、支配株主などを復習する。		120分
10	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【グループ構造、持株会社】		銀行のコーポレート・ガバナンス（７） グループ構造、持株会社、親子会社の支配・権利義務・少数株主関係 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、持株会社、親子会社の支配・権利義務関係などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、一ツ構造、持株会社を理解する。		
	事前学修	持株会社、親子会社の支配・権利義務について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、持株会社、親子会社関係の権利義務などを復習する。		120分
11	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【上級管理職の役割と責任】		銀行のコーポレート・ガバナンス（８） 上級管理職の役割と責任、規律付け バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、上級管理職の役割と責任などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、上級管理職の役割と責任を理解する。		
	事前学修	上級管理職の役割と責任、規律付けについて考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、上級管理職の役割と責任などを復習する。		120分
12	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】【リスク管理】		健全なコーポレート・ガバナンスの原則（１） リスク管理 (Risk Management) と内部統制 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、銀行のリスクマネジメント、内部統制などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、リスク管理について理解する。		
	事前学修	リスクマネジメント、内部統制について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、リスクマネジメント、内部統制などを復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】 【報酬規制】		健全なコーポレート・ガバナンスの原則（２） 新しい報酬規制と対応など バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、報酬規制と対応などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、報酬規制について理解する。		
	事前学修	役員の報酬規制について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、報酬規制などを復習する。		120分
14	【銀行のコーポレート・ガバナンス法制度】 【情報開示】		健全なコーポレート・ガバナンスの原則（３） 複雑または不透明な組織構造、情報開示（Disclosure）と透明性、銀行の監督当局の役割、健全なコーポレート・ガバナンスを支える環境の育成など バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、情報開示と透明性、規制環境などを学習する。	
	この回の到達目標	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度を理解する。特に、情報開示と透明性について理解する。		
	事前学修	情報開示と透明性について考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、情報開示と透明性などを復習する。		120分
15	【前期の総まとめ】		前期の総まとめを行い、体系的な学習を行う。レポートの解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、前期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。		
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、前期の全体の体系を考察する。		120分
	事後学修	授業内試験と解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。		120分

科目名	ビジネスロー文献講読Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○		○		

【授業の概要】
この講座では、欧米のビジネスローの専門書や報告書の原文を使用して、国際ビジネスや国際金融に関する内容を学習する。主として英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード、さらに国際的に活動する金融機関に関する規制であるバーゼル規制を題材として理論とプラクティスを学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスローに関する外国専門書(英語)について理解、修得することを目的とする。サブプライム金融危機以後の国際金融法規制、コーポレート・ガバナンス(企業統治)等の重要テーマを中心にG20のバーゼル銀行監督委員会、英国コーポレート・ガバナンス・コードなど最新の文献を題材に進める。欧米のガバナンス、取締役会など法的スキームを学び、概要など説明できるようになることを目標とする。英語が苦手な者も、だからこそ是非参加してほしい。大歓迎する。国際ビジネス法に関する専門の英語文献について学び、それに基づき専門書を読むことに慣れることを学習する。細かい法知識の修得もさることながら、専門書講読が苦にならなくなることが眼目である。英語習得は今や必須である。

【履修条件】
特にない。学科を問わず広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。また2年生も広く大歓迎する。

【授業方法】
政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、わかりやすく解説する。講義形式を基本とするが、一方的な授業にならないようにアクティブラーニングを組み合わせ、事例を用いて課題解決型学習により関心と理解を深める。期末に課題を示し、レポートを作成・提出していただきたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	各授業において適宜、具体的なテーマを与え、学生各自で考えていただき、簡単にコメントや意見を述べていただきたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)				
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力

達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	グローバルな展開をはかる企業のビジネスにおいて必要な米国や英国の法制度について、英語の原文で法的知識を理解し、説明することができる。【知識】		3			3		3		
②	他の法律とは異なる欧米のビジネス法制度について、その基本的構造と概要、仕組みなどを理解し、説明することができる。【知識】		3			3		3		
③	国際ビジネスに関する法制度の諸規定が、どのように解釈され、事例に応用・適用されているかを調べることができる。【技能】		3			3		3		
④	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の実際上の運用を理解し、与えられた事例に対して規定を適切に当てはめることができる。【技能】		3			3		3		
⑤	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議に積極的に参加し、自己の意見を述べるることができる。【態度・習慣】		3			3		3		
⑥	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の見解も配慮しながら、自己の見解を系統立て述べるることができる。【態度・習慣】		3			3		3		
⑦	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、自己の見解に対して他の受講生から寄せられた質問や意見に対して、適切かつ柔軟に自己の見解を述べるることができる。【態度・習慣】		3			3		3		
⑧	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を十分理解することができる。【態度・習慣】		3			3		3		
⑨	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議において、他の受講生同士の討議における内容を理解したうえで、討議に加わることができる。【態度・習慣】		3			3		3		
⑩	国際ビジネスに関する法制度の諸規定の解釈・運用に関する討議における内容を踏まえて、課題とそれに対する自己の見解をまとめてレポートとし、発表できる。【態度・習慣】		3			3		3		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、与えられた課題に適切に答える内容となっているか、到達目標①、②、③、④にかかわる説明ができるようになっているか、を中心に評価する。	15	15	15	15							60
討論・発表等	授業において他の受講生を交えた討議に参加し、自己の見解と他の受講生の考え方などについて、異同点をまとめ、グループを代表して発表するなどを評価の対象とする。					10	10					20
授業への参画度	授業において積極的に課題などに取り組み、自己の見解などを示して質問など行っているかについて、評価する。							5	5	5	5	20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	15	15	15	10	10	5	5	5	5	100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の授業内において、レポートに関する解説を行う。今後の理解が一層容易にできるようになる。

【教科書・参考書等】						
書名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
未定						
備考	レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。					

【オフィスアワー】
授業の内容に関する質問や勉強方法などと共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、授業の前後に、直接、お話にきてください。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業に関する質問は、ぜひご相談下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	政府系金融機関においてグローバル企業を長年担当した経験があり、米国経営大学院においてCEOプログラム研修を受けている。米国ロースクールの客員研究員の経験も有する。
実務経験に基づく実践的教育の内容		欧米のビジネス法制度に関して、経営などとリンクした原書（英語）による講義を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【英国におけるスチュワードシップ・コード】		英国におけるスチュワードシップ・コード（機関投資家向けの規律）と株主責任の概要 スチュワードシップ・コードの概要について、学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるスチュワードシップ・コードの概要を理解する。		
	事前学修	英国におけるスチュワードシップ・コードについて、概要を把握して考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードの概要について復習する。		120分
2	【英国におけるスチュワードシップ・コード】 【課題と展望】		英国スチュワードシップ・コード(Stewardship Code)の課題と展望 スチュワードシップ・コードの課題と展望について、比較法的に学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるスチュワードシップ・コードの概要を理解する。課題と展望について、比較法的に学習することで理解が深まる。		
	事前学修	英国スチュワードシップ・コードの課題について、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードの課題と展望について復習する。		120分
3	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】		英国コーポレート・ガバナンス・コード（企業経営者向けの規律）の概要と課題 コーポレート・ガバナンス・コードについて、概要などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。		
	事前学修	英国コーポレート・ガバナンス・コードについて、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンス・コードについて概要などを復習する。		120分
4	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【コーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（1） コーポレート・ガバナンスおよびコード(Code)の概説 英国のコーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要およびコードの内容について学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。コーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要について、理解が深まる。		
	事前学修	英国のコーポレート・ガバナンスおよびコードの概要について、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、英国のコーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要およびコードの内容などを復習する。		120分
5	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【プリンシプル・ベース】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（2） プリンシプル（原則）・ベースの意義 英国のコーポレート・ガバナンス・コードにおけるプリンシプル・ベースの意義などを学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。プリンシプル・ベースについて、理解が深まる。		
	事前学修	プリンシプル・ベースの意義について、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、英国のコーポレート・ガバナンス・コードにおけるプリンシプル・ベースの意義などを復習する。		120分
6	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【コンプライ・オア・エクスプレイン】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（3） コンプライ・オア・エクスプレイン(遵守せよ、さもなければ説明せよ) 原則 プリンシプル・ベースに関するコンプライ・オア・エクスプレインの内容を学習する。	
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。コンプライ・オア・エクスプレインについて、理解が深まる。		
	事前学修	コンプライ・オア・エクスプレインの意義などについて、考察する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、プリンシプル・ベースに関するコンプライ・オア・エクスプレインの内容を復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】【リーダーシップと経営戦略】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（４） 経営陣のリーダーシップと経営戦略 コーポレート・ガバナンス・コードにおける経営陣のリーダーシップと経営戦略の役割、機能などを学習する。
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。リーダーシップと経営戦略について、理解が深まる。	
	事前学修	経営陣のリーダーシップと経営戦略などについて、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、経営陣のリーダーシップと経営戦略の内容を復習する。	120分
8	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】【取締役会の有効性と取締役会評価】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（５） 取締役会の有効性と取締役会評価 (Evaluation) コーポレート・ガバナンス・コードにおける取締役会の有効性と取締役会評価などを学習する。
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。取締役会の有効性と取締役会評価について、理解が深まる。	
	事前学修	取締役会の有効性と取締役会評価について、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、取締役会の有効性と取締役会評価の内容を復習する。	120分
9	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】【説明責任と透明性】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（６） 説明責任と透明性(Transparency) コーポレート・ガバナンス・コードにおける説明責任と透明性などを学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。説明責任と透明性について、理解が深まる。	
	事前学修	説明責任と透明性について、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、説明責任と透明性の内容を復習する。	120分
10	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】【対話とエンゲージメント】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（７） 機関投資家との関係、対話とエンゲージメント (Engagement)作り コーポレート・ガバナンス・コードにおける機関投資家、対話とエンゲージメントなどを学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。対話とエンゲージメントについて、理解が深まる。	
	事前学修	機関投資家、対話とエンゲージメントについて、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、機関投資家、対話とエンゲージメントの内容を復習する。	120分
11	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】【報酬規制】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（８） 報酬規制とコードの役割 コーポレート・ガバナンス・コードにおける報酬規制などを学習する。
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。報酬規制について、理解が深まる。	
	事前学修	報酬規制について、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、報酬規制の内容を復習する。	120分
12	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】【業務執行取締役に対する業績連動型報酬】		英国のコーポレート・ガバナンス・コード（９） 業務執行取締役に対する業績連動型報酬の設計など コーポレート・ガバナンス・コードにおける業務執行取締役に対する業績連動型報酬などを学習する。
	この回の到達目標	①②に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。業務執行取締役に対する業績連動型報酬規制について、理解が深まる。	
	事前学修	業務執行取締役について、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、業務執行取締役に対する業績連動型報酬の内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【開示のあり方】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（10） コーポレート・ガバナンスにかかる開示 (Disclosure) コーポレート・ガバナンス・コードにおける開示のあり方などを学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。開示のあり方について、理解が深まる。	
	事前学修	コーポレート・ガバナンスにかかる開示について、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスにかかる開示の内容を復習する。	120分
14	【英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード】 【非業務執行取締役の役割】	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（11） 非業務執行取締役 (Non Executive Director)の役割、取締役の研鑽・研修 (Training) など コーポレート・ガバナンス・コードにおける非業務執行取締役の役割などを学習する。	
	この回の到達目標	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、英国におけるコーポレート・ガバナンス・コードの概要を理解する。非業務執行取締役の役割について、理解が深まる。	
	事前学修	非業務執行取締役について、考察する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、非業務執行取締役の役割の内容を復習する。	120分
15	【後期総まとめ】	解説等を行う。総まとめを行い、体系的な学習を行う。レポートの解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、後期総まとめを行う。レポートの解説などにより、今後の学習、理解が深まる。	
	事前学修	最初からの講義ノートを見直し、講義全体の体系を考察する。	120分
	事後学修	授業内試験と解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。	120分

科目名	福祉契約論	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
この講義では、少子高齢化が家族や社会にもたらす影響やその法的問題について扱う。具体的には、高齢化が進展し、家族の姿が変容する中、高齢者がどのような問題を抱え、高齢期の暮らしを誰がいかに支えていくのかについて考えていく。高齢者の話は、学生の皆さんにとってはまだ先のことに思えるかもしれませんが避けては通れない。問題の本質を理解し、その難問につきいかなる解決手段があるのかを考えてみる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、現行民法には規定のない、福祉サービスの提供に関する契約（いわゆる福祉契約）の観点から検討してみることを第一の目的とする。福祉契約は、自由競争・市場原理の世界における手段としての契約とは異なり、契約の新たな一面を感じさせるものであり、発展途上にある学問である。あまり気負うことなく、高齢者問題を考える1つのきっかけになるというくらいの気持ちで、ゆっくりと学んでいきたいと思う。 契約、高齢者福祉の基本的な考え方を身につけることを到達目標とする。

【履修条件】
講義には必ず出席すること、最新の六法を持参すること、わからないことができたときは、面倒がらずに調べるか、もしくは、質問をすること。

【授業方法】
基本的には、レジュメを配布し講義形式で進めていく。ただし、現場の最新情報につき専門家から話を伺うこととする。また、講義の中で、認知症サポーター養成講座も開催し、皆さんには認知症サポーターになってもらう予定である。 なお、出席管理システム（レスポん）を利用して出欠管理を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるのかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。その際は、出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケート等を行いながら、理解の定着を図ることとする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	福祉契約に関する基本用語及び概念を正確に理解し、適切に用いることができる。					2							
②	高齢者福祉の諸制度、民法、消費者法について、その制度や規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					2		2					
③	授業で学んだ知識を用いて、高齢者をとりまく諸問題につき、法的観点から合理的かつ批判的に考察することができる。					2		2	2	2			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業中に実施する小テスト等により、到達目標①②に関する基本概念や制度趣旨などを理解し、正しく身につけているかどうかを確認する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切にこたえる内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる問題の考察力が身につけているかを評価する。	10	10	20								40
討論・発表等	授業中における質疑応答を通じて、自分の意見を述べることができたか、また、あらかじめ準備してもらったテーマに関する発表を基準に、到達目標③にまつわる解答能力を身に着けたかを評価する。	10	10	20								40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を、後日Classroom等を通じて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
家族と高齢社会の法	川島志保・関ふ佐子	放送大学教育振興会	2017	教科書	必携
備考	認知症サポーター養成講座のテキストが必要となるが、これについては講義内で説明を行う予定。				

【オフィスアワー】
水曜日の12:15～12:50（あらかじめメールでアポイントメントをとること）研究室（本館 7 F 1720）yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・条文の見方		履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバスにそって授業の概要、目的、到達目標、授業成績、成績評価基準等について説明、確認する。さらに、条文の見方などについても確認しておく。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、福祉契約というものがどのような概念かを理解するとともに、今後の授業の前提となる、六法の見方を理解する。	
	事前学修	テキストを購入し、まえがきを読んでもくること	120分
	事後学修	レジュメを読み、条文の見方等について復習しておくこと	120分
2	家族とは何か？（家族の定義、多様化する家族像）		変容する家族が直面する課題について理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、家族にまつわる基本的概念について正確に説明することができる。	
	事前学修	テキストの該当頁（1、2、4、5章）を読んで、家族の意義、多様化する家族の現在についてまとめること。	120分
	事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書の該当箇所を復習すること	120分
3	契約の基本①－契約とは何か		民法の基礎となる重要な制度でもある契約の基本について理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の基礎である契約にまつわる基本的概念について正確に説明することができる。	
	事前学修	事前に配布するレジュメを読んで、契約とは何かということについてまとめること	120分
	事後学修	レジュメの該当箇所をよく復習しておくこと	120分
4	契約の基本②－消費者契約法と高齢者の取引トラブル		民法の特別法である消費者契約法の基礎について理解を深める。なかでも、高齢者の取引トラブルについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物権の意義、種類、客体といった基本的概念について正確に説明することができる。	
	事前学修	家族、消費者契約法にまつわる新聞記事等の収集を行い、どのような消費者トラブルがあるのかを調べるとともに、事前に配布してあるレジュメに目を通して置くこと	120分
	事後学修	レジュメを参考にしつつ、消費者契約法についてしっかりと復習しておくこと	120分
5	福祉契約とは何か一定義、特徴、課題		福祉契約という概念を知り、さらにその法的課題について理解を深める。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、福祉契約とはどのような契約なのかにつき、その特徴を知り、正確に説明することができる。	
	事前学修	前回につづき、高齢者の消費者トラブルについてどのようなものがあるのかを調べて置くこと。なお、その際は、消費者庁、国民生活センターのHPなども参考にすること。	120分
	事後学修	レジュメを参考にしつつ、教科書等の該当箇所を復習すること	120分
6	超高齢社会の現状、高齢社会を支える法理念		超高齢社会の現状を知り、高齢社会を支える法理念について理解を深める。さらに、レポートの書き方の基本についても学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、超高齢社会の現状、高齢社会を支える法理念について正確に説明することができる。	
	事前学修	高齢者にまつわる新聞記事を収集し、また、高齢社会白書などを読んで置くこと。テキストの7章に目を通して置くこと。	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	老いじたくを支える法制度①－成年後見制度	老いじたくを支える法制度として、成年後見制度についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、成年後見制度の意義、種類、効果、法的課題について正確に説明することができる。	
	事前学修	テキストの8章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメなどを参考にしつつ、教科書の該当箇所を復習すること	120分
8	老いじたくを支える法制度②－相続と遺言	老いじたくを支える法制度として、相続と遺言の基本を学修する。 レポート課題の詳細について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相続や遺言制度について正確に説明することができる。	
	事前学修	レポートテーマ（自由テーマ）について考えてくること、テキストの9章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること	120分
9	公的年金と社会的扶養、介護保険制度の仕組み	公的年金と社会的扶養とはどのような制度なのかについて学修する。 さらに、介護保険制度の基本的な仕組みを理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、公的年金、扶養、介護保険制度について正確に説明することができる。	
	事前学修	レポート課題のテーマにまつわる資料収集、参考文献を作成してくること テキストの10、11章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること	120分
10	縮小する家族と介護 高齢者虐待	現代の家族が抱える介護にまつわる法的課題について理解を深める。それに関連して、高齢者虐待の実状についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族介護の限界と、介護にまつわる法的課題について正確に説明することができる。	
	事前学修	前回に続き、レポート課題のテーマの資料収集、参考文献を作成してくること テキストの6、13章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること	120分
11	高齢者の住まいとケア－終の住まいの選び方と契約問題	家族介護が厳しい現状の下での高齢期の住まい選びについて学修する。とりわけ、契約トラブルの多い高齢者すまいの問題を中心に理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連し、高齢期の住まいの種類や特徴を知り、かつ、その契約上の問題点について正確に説明することができる。	
	事前学修	レポートテーマの第一章（問題の所在）を書いてみること、テキストの12章を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること レポート作成を本格的に進めること	120分
12	高齢期の医療と法、看取りと地域包括ケア レポート課題の公表	高齢期の医療と法の問題、また、看取りと地域包括ケアに関する現状についての理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、高齢期の医療、看取りと地域包括ケアシステムとの関係や問題点について正確に説明することができる。	
	事前学修	レポートテーマの第2章以降を書き進めること、テキストの14、15章をよんでくること	120分
	事後学修	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習すること 前回に続き、レポート課題の作成を進めること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	高齢者向け住まい、介護の専門家に話をきこう！		高齢者向け住まいにまつわる専門家（の話を伺い、その現状や問題点についてさらなる理解を深める。（ゲストスピーカー）	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、高齢者向け住まいにまつわる専門家の話をきき、その現状や問題点についてさらなる理解を深める。物権の意義、種類、客体といった基本的概念について正確に説明することができる。		
	事前学修	11回の講義を振り返り、レジュメをよく復習しておくこと、専門家に質問してみたいことを考えておくこと		120分
	事後学修	レジュメを参考にしつつ、講義の感想をまとめる。専門家の話などを参考にしつつ、レポートの完成を進めること		120分
14	認知症サポーターになろう！		認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の理解とその支援の在り方について学修する。（ゲストスピーカー）	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、認知症サポーターになることで、認知症およびその支援の在り方について正確に説明することができる。		
	事前学修	認知症及び認知症サポーター制度にまつわる新聞記事等を収集し、読んでくること		120分
	事後学修	講義の感想をまとめるとともに、引き続きレポート作成を進めること		120分
15	総まとめ、質問受付、レポート課題の解説・講評		第14回までの講義でまとめたノート（レジュメ）及び教科書を用いて、総まとめを行う。さらに、自由テーマ以外のレポート課題の解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら発信することができる。		
	事前学修	講義の感想をまとめるとともに、レポートを完成させ、提出すること		120分
	事後学修	レジュメなどを参考にし、講義全体の復習をすること		120分

科目名	福祉政策	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
社会福祉に関する政策について講義を行う。社会福祉についての概観とともに、それに関連する政策を、歴史的な動向と、その背景にある思想や理念の変化とともに考察していく。その後、現代の福祉政策において重要となる個別の理論や思想について整理するとともに、個別領域にも目を向け、実際の政策策定およびその運用における現実的課題との対応を捉え、今後の福祉政策における考察に必要な知識的理解の基礎を得る。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
福祉政策の要素と基礎となる概念、拠って立つべき理念を養成することを目的とし、現在の福祉政策に対する自分の意見を持ち、表明できるようにする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義方式を取る。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	福祉政策の要素をあげ、全体像を図示できるようになる。				4		4	4	4			
②	福祉政策の理念と公共政策との関係について自分の言葉で説明できるようになる。				4		4	4	4			
③	現在の福祉政策の課題を説明するとともにその解決策についての自らの意見を表明できるようになる。				4		4	4	4			
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験による評価。試験の詳細については授業内で受講生全体に対して伝達する。	10	20	30								60
小テスト等	各授業回の終わりにコメントカードを配布する。その内容によって一定の点数を加算する。	15	15	10								40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	35	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業回のコメントに対しては、次の授業でリプライを行う。また最終回の後に、それまでのコメントおよび質問に対する総合的リプライを行う。試験終了後には模範解答と解説を受講生に対して提示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門 障害者政策	山村りつ編著	ミネルヴァ書房	2019	参考書	任意
社会保障法令便覧2019	社会保障法令便覧編集委員会	労働調査会	2019	参考書	推奨
社会福祉政策 第4版	坂田周一	有斐閣アルマ	2020	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜4限（それ以外是要相談）研究室※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション／社会福祉と福祉政策	授業の進め方や評価方法についての説明を行う。 また、社会福祉と福祉政策の関係について説明を行う。	
	この回の到達目標	社会福祉における福祉政策の位置づけを自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを熟読し、「福祉政策」とは何かについて考える。	60分
	事後学修	授業で得た知識と事前に考察した「福祉政策」の理解について相違点を整理しておく。	180分
2	福祉政策の形成と役割	福祉政策の形成過程と現代の福祉政策の役割について説明する。	
	この回の到達目標	福祉政策の役割とその意義を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
3	福祉政策の射程	福祉政策が対象とするものは何か、その理解における基本的理論について説明する。	
	この回の到達目標	福祉政策における「社会関係への着目」について、自らの言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
4	現代社会福祉の生活課題	現代の福祉政策における重要な 이슈として、代表的な生活課題について説明する。	
	この回の到達目標	それぞれの生活課題の問題性とそれに対する福祉政策の働きかけの方法について、自らの言葉で説明できるようになる。。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
5	現代福祉政策におけるキーワード	現代の福祉政策に関連して頻出するキーワードについて説明する。	
	この回の到達目標	それぞれのキーワードの意味と関連する社会的背景を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
6	社会福祉のニーズ論	福祉政策において重要となる福祉ニーズの考え方について説明する。	
	この回の到達目標	社会福祉におけるさまざまなニーズの意味と政策との関係を説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会福祉制度の構造	日本における社会福祉関連制度の構造について説明する。	
	この回の到達目標	社会福祉関連制度の全体像を自らの言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
8	福祉サービス供給における組織と構造	福祉サービスの供給システムを構造的に説明する。	
	この回の到達目標	福祉サービスの供給システムの概要を図に書いて説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
9	福祉政策の策定過程	福祉政策が策定されるプロセスについて説明する。	
	この回の到達目標	福祉政策策定の全体の流れを図示できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。)	120分
10	福祉サービスの供給過程	福祉サービスの供給におけるさまざまなプロセスを説明する。	
	この回の到達目標	福祉サービスの供給の流れと形式の違いについて説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
11	社会問題と個別領域①：貧困と社会的排除	福祉政策の中心的課題の一つである貧困と社会的排除について、それぞれの個別領域の例を題材に説明する。	
	この回の到達目標	貧困と社会的排除に係る問題について、その社会的背景と福祉政策のアプローチについて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
12	社会問題と個別領域②：ケアを取り巻く課題	福祉政策の中心的課題の一つであるケアの不在と不適切なケアの問題について、それぞれの個別領域の例を題材に説明する。	
	この回の到達目標	ケアの保障に係る問題について、その社会的背景と福祉政策のアプローチについて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	社会問題と個別領域③：労働を取り巻く課題		福祉政策の中心的課題の一つである労働を取り巻く課題について、それぞれの個別領域の例を題材に説明する。
	この回の到達目標	労働の保障に係る福祉的課題について、その社会的背景と福祉政策のアプローチについて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
14	関連領域との連携		福祉政策において実際に発生している関連領域との連携について説明する。
	この回の到達目標	関連領域との連携において生じている課題について自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメで事前に示されたテーマや語句について調べ、自分なりの考えや回答を記録しておく。	120分
	事後学修	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。	120分
15	まとめと振り返り		授業を総評と、まとめを行う。
	この回の到達目標	与えられた課題について回答を行う。	
	事前学修	これまでの授業を振り返り疑問点を整理しておく。	120分
	事後学修	今後の課題について、文章化しておく。	120分

科目名	物権・担保物権法	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典の第2編「物権」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、所有権の意義や効力の他、こうした所有権をはじめとする物権が複数に譲渡等された場合の優先関係に関するルールや、お金を借りるにあたって設定される抵当権についてのルールなどを学ぶことになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法総則の知識を前提に、所有権や抵当権を典型とした物権・担保物権法の基礎的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
前期の「民法総則」の単位を修得済みであることが望ましい。

【授業方法】		
授業は、下記授業区分のとおりに、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。演習回においては、学生を適宜指名のうえ発言を求めたり、リアクションペーパーの提出を求める。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり定期的に演習を行う。演習問題のうちでも事例問題については、（受講者数にもよるが）グループディスカッションのうえ、その成果を発表したり、リアクションペーパーにまとめることを求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権・担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2						
②	物権・担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						2						
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。						2						
④	物権・担保物権法に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。						2						
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④が達成されているかどうかを、筆記試験により評価する。	30	30	10	10							80
小テスト等	授業中の小テストや演習、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④の達成度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回に行う授業内試験について、解説を第15回講義時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
物権〔第2版〕エッセンシャル民法2	永田眞三郎ほか	有斐閣	2019年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13：00－17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義案内、民法における物権法の位置付け、物権・担保物権法とは何か	後期に扱う物権・担保物権法を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法の中でも物権・担保物権法というのはどのような場面を取り扱うものなのかを説明することができる。	
	事前学修	事前にオンライン上で配付される第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 教科書1－4頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 本講座と並行して履修することで効率的に学修を進められる講座を探すなど、半年間の学修計画を立てる	120分
2	所有権①（所有権の内容・対象・制限）	所有権はどのような内容を持っていて、何について成立し、どのような制限を受けるのかを学ぶ。所有権がどのような内容を持っているのかを学ぶにあたっては、所有権を典型とした物権が債権とどう異なるのかを意識する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、所有権（物権）の内容につき、債権と比較をしながらその特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の5－19頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 物権と債権の違いについてレジュメ1頁目の表を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第4回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
3	所有権②（物権的請求権）	所有権が侵害された場合にどう保護されるのか、具体的には物権的請求権と呼ばれる権利の性質や、この物権的請求権が衝突する場面での調整の在り方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、所有権が侵害された場合における保護として物権的請求権を学び、両当事者の行為によらないで侵害状態が生じた場合にどちらの費用負担により回復がなされるべきかについて、自身の考えをのべることができる。	
	事前学修	教科書の20－25頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと そもそもどういった論理の流れにより「物権的請求権の衝突」があるとされてきたのか説明できるようにしておくこと。 第4回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
4	所有権③（所有権の取得方法）、演習（第1回）	前回学んだ所有権が侵害された場合におけるルールについて引き続き学ぶとともに、そもそも所有権はどのように取得されるか、さらには複数人が共同で所有権を有する場合等の規律について学ぶ。また、これまでの復習を兼ねた演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物を返さざる得なくなった返還債務者が有する諸権利についてその要件とともに整理して説明することができる。また、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の26－32頁を読んでおくこと あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討しておくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
5	物権変動①（所有権の移転時期や不動産の物権変動）	物権はどのように移転するのか、不動産についての物権変動の公示はどのようになされるのか等を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、物権の移転の方法や時期について日本民法はどのような態度をとっているかを説明できるとともに、不動産が二重に譲渡された場合の優劣関係についての民法の基準を説明できる。	
	事前学修	教科書の45－62頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の移転方法と移転時期について区別して整理する。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
6	物権変動②（177条の物権変動の範囲）	登記がなければ対抗できない物権変動とはいかなる範囲かを学ぶ。具体的には、「取消しと登記」「遺産分割と登記」「時効と登記」と呼ばれる論点における判例の議論を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記授業内容について、判例がどのような理由からそうした解釈をしているのかを論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書の62－70頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で扱った3つの論点についての判例の態度はどういった点で共通するかをまとめておくこと。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	物権変動③（177条の「第三者」の範囲）	177条の「第三者」となるための要件を学ぶ。どのような関係に立つ者が「登記の欠缺を主張する正当な利益を有する者」なのかを分析することになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、上記授業内容につき、判例多数説と有力説との対立は、どういった考え方から生じているかを理論的に説明でき、そのうえでこの問題につき自身の考えを述べることができる。	
	事前学修	教科書の70－76頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第三者の主観的要件として、悪意者排除説と背信的悪意者排除説とが対立する。それぞれの論拠をまずおさえること。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
8	物権変動④（動産、即時取得も含む）	今回は、不動産ではなく、動産の所有権が移転する場合を想定して、不動産の場合と同様に、「動産の物権変動の公示はどのようになされるのか」等を知ったうえで、動産物権変動に特有の「即時取得制度」を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、動産の公示制度としての4種類の引渡しについて説明したうえで、無権利者から取得した場合にも例外的に所有権を取得しうる制度としての即時取得につき、その典型場面と限界事例とをイメージしながら、要件を説明することができる。	
	事前学修	教科書の76－92頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 動産物権変動の対抗要件である「引渡し」には4種類あるとされる。それぞれ自分で説明できる状態にしておくこと。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
9	演習（第2回）、用益物権、占有	物権変動①～④の復習を兼ねた演習をするとともに、地上権や地役権といった用益物権、さらには占有に付与される法的効果を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の93－122頁を読んでおくこと あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくること	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 地上権と地役権はどこが異なるか整理すること。 演習問題の回答を整理する	120分
10	抵当権①（基本）	担保物権の基本型としての抵当権について、その枠組みや基本用語をおさえたうえで、優先弁済権を持つとされる抵当権の効力を中心に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権者、抵当権設定者、物上保証人、第三取得者、被担保債権、物上代位などの用語の意味を説明することができる。また、担保の設定を受けずとも債務名義を取得して強制執行することもできるわけだが、こうした場合と抵当権を有している場合との相違を体系的に説明することができる。	
	事前学修	教科書の123－141頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 物上代位とはどのようなものであり、なぜ抵当権にはこのような効力が認められるのか考える。 第13回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
11	抵当権②（発展）	抵当権の実行の在り方、不動産利用権との調整の在り方、さらには抵当不動産の第三取得者を保護する制度などについて簡単に学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抵当権を実行する場合も必ずしも競売手続だけでないこと、また第三取得者をはじめとした第三者との権利の調整の見地から様々な制度があることを、簡単にでも説明することができる。	
	事前学修	教科書の142－178頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 授業レジュメを踏まえ、出てきた条文を六法で読んでおくこと。 第13回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
12	抵当権以外の担保物権	抵当権以外の担保物権、すなわち抵当権と同じ「約定担保物権」として質権、「法定担保物権」として留置権・先取特権、さらには民法典に規定のない「非典型担保物権」と呼ばれるものとして、譲渡担保や仮登記担保、所有権留保などといった物権について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、上記授業内容について、抵当権以外の担保物権につき、それぞれ世の中でどのような場面において用いられているか具体的にイメージをすることができるようになる。	
	事前学修	教科書の179－221頁を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと（2時間） 債権質はどのようなものであり、なぜ実際に使われるのかをまとめておくこと。 第13回講義の際に扱う演習（後期第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	演習（第3回）	用益物権・占有および抵当権をはじめとした担保物権について、復習を兼ねた演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくる	120分
	事後学修	これまでのレジュメを全て整理し、次回の授業内試験に備える。分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する	120分
14	質疑応答と授業内試験	質疑応答を30分した後、授業内試験を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになったかを確認する。	
	事前学修	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく	120分
	事後学修	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする	120分
15	授業内試験の解説・講評	第14回に実施した授業内試験について解説・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内試験で自身が不十分であったところを確認し、自身が得意なところと苦手なところを認識し、春休み中において何をより深く勉強すべきかを理解する。	
	事前学修	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく	120分
	事後学修	これまでのレジュメを整理するとともに、物権・担保物権法の総復習をする	120分

科目名	物権・担保物権法	担当者	山田 孝紀	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典の第2編「物権」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、所有権の意義や効力の他、こうした所有権をはじめとする物権が複数に譲渡等された場合の優先関係に関するルールや、お金を借りるにあたって設定される抵当権についてのルールなどを学ぶことになる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法総則の知識を前提に、所有権や抵当権を典型とした物権・担保物権法の基礎的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法総則の単位を修得済みであることが望ましい。民法総則の単位を修得していない場合は教科書を読むなどして基礎知識をおさえておくこと。

【授業方法】
講義形式により配布レジュメに沿って授業を進める。物権・担保物権法では抽象的な概念が多いため、具体的な設例（簡単な教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。レジュメには空欄があるが、受講生は空欄を補充するだけでなく、事例の関係図を書いたり、大事な部分についてメモを取ったりして授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	オンデマンド講義を予定している。オンデマンドでは一方通行になってしまう可能性があるので、学生の理解度をはかるために、Google Classroomまたは出席管理システム（レスポん）を用いて課題に取り組む。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権・担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2						
②	物権・担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2						
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。					2						
④	物権・担保物権法に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。					2						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④の達成度を確認するために、適宜、Google Classroomまたは出席管理システム（レスポ）での課題に取り組む。なお、課題の提出状況が著しく悪い場合は、成績評価不能と判断することがある（第1回目の授業にて説明する）。	15	15	15	5							50
レポート等	到達目標①②③④が達成されているかどうかを、zoomでのオンラインの課題またはGoogle Classroomにて提示する期末課題（論述式）により評価する。	10	15	15	10							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	30	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題に対する解説をGoogle Classroomにて配布するほか、メールでも適宜質問に対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
物権 2ーエッセンシャル民法2〔第2版〕	永田＝松本＝松岡＝ 中田＝横山	有斐閣	2019	教科書	推奨
新ブリメール民法2 物権・担保物権法	今村＝張＝鄭＝中谷＝ 高橋	法律文化社	2018	教科書	推奨
民法Ⅱ 物権〔第3版〕	石田＝武川＝占部＝ 田高＝秋山	有斐閣	2019	教科書	任意
講義 物権・担保物権法〔第3版〕	安永正昭	有斐閣	2019	教科書	任意
最新版の六法（改正民法が含まれているもの）		各自の好みで選んで ください			必携
備考	上記は参考です。各自の学修目的に応じて、「物権」と「担保物権法」の両方の内容が含まれている教科書を選んでください。詳しくは第1回目の授業で説明します。				

【オフィスアワー】
水曜お昼休み（事前にメールでアポイントメントをとってください。その他の時間でも適宜対応します）yamada.takanori★nihon-u.ac.jp 上記の「★」記号を「@」記号に置き換えて下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の前半では、授業の目的と内容、授業の進行方法、教科書の使い方、成績評価方法について説明します。 授業の後半では、民法とは何か、民法における物権・担保物権法の重要性について学びます。	
	この回の到達目標	この授業の目的、到達目標を理解すること。物権・担保物権法の民法における位置づけについて理解すること。	
	事前学修	履修を希望する学生は、必ずガイダンスを見て、授業の方法や成績評価方法を理解した上で履修登録をしてください。なぜこの授業をとるのかを考えること。物権・担保物権法を効果的に学習するために他にどのような授業を取った方が良いのかを考え、時間割を組むこと。	120分
	事後学修	自身の学修目的にあった教科書を購入し、はしがきや目次を読んでみる。教科書のページ数につき、「エッセンシャル民法」はES、「ブリームール民法」はPMと表す。ES1～4頁、PM1～22を読むこと。	120分
2	物権の意義、物権の効力①	物権は債権とどのような点で違うのか、物権にはどのような種類のものがあるのかについて学びます。その後、物権が侵害された場合に生じる物権的請求権の概要を具体例を通して学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、物権と債権の異同、物権の種類、物権的請求権について具体例を通して説明できるようになること。	
	事前学修	ES5～12・19～22頁、PM24～31頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	物権の効力②、物権変動総論	物権的請求権についてその性質と費用負担の問題について考えます。その後、次回以降の授業で学ぶ「物権変動」「公示の原則」「公信の原則」の意義を学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、物権的請求権の性質と費用負担の問題について具体例を通して、判例・学説の内容をふまえ、自分の見解を述べられるようになること。到達①・②に関連して、物権変動・公示の原則・公信の原則について具体例をふまえてその意義を説明できるようになること。	
	事前学修	ES22～25頁・52～54頁、PM31～33・36～38・54頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	不動産物権変動①ー不動産登記の効力、177条の第三者	授業の前半では、不動産物権変動の公示手段としての登記について詳しくみていきます。授業の後半では、不動産物権変動と対抗問題を学びます。例えば、Aが、自身が所有する甲土地をBに売却し、Bが所有権移転登記をしていなかったところ、AがCにも甲土地を売却し、Cが所有権移転登記を行ったとします。このような場合を不動産の二重譲渡といいます。二重譲渡に関する民法177条の制度趣旨、同条の「第三者」とはどのような者をいうのか、について具体例を通して学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、不動産登記の意義、民法177条の「第三者に対抗できない」とはどのような意味をいうのかについて具体例をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	ES70～75頁、PM45～58・69～75頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	不動産物権変動②ー取消しと登記、時効と登記①	授業の前半では、取消しと登記の問題を学びます。例えば、AがBから詐欺を受けて自己所有の甲土地を売却しました。AがAB間の売買契約を取り消したのちに、BがCに甲土地を転売し、BからCへの移転登記を行った場合、Cは甲土地を取得できるのか、という問題です。その後、時間の許す範囲で、「時効と登記」の問題について判例法理を学びます。例えば、Aの甲土地をBが善意・無過失で10年間占有し、時効が完成しました。この時効完成前にCがAから甲土地を買い受けて所有権移転登記を経由しました。CがBに対して甲土地の明渡しを求めた場合、Bは時効による所有権取得をCに主張できるか、Cの買受けがBの取得時効の成立後だとどうなるのかということを検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、取消しと登記について問題の所在、判例と主な学説の立場をふまえて自分の見解を示すことができるようになること。到達目標①・②に関連して、時効と登記の問題の所在、判例の立場を説明できるようになること。	
	事前学修	ES62～67頁、PM58～59・64～66頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
6	不動産物権変動③ー時効と登記②、相続と登記	前回の授業に続いて、時効と登記の問題（特に判例の問題点・学説の考え方）を学びます。その後、相続と登記の問題を学びます。例えば、Aが死亡し、子のBとCがA所有の甲土地を共同相続したのち、Bが遺産分割協議書を偽造して、甲土地の単独相続の登記を行い、甲土地をDに売却したとします。このとき、CはDに対していかなる主張ができるか（共同相続と登記）という問題を学びます。時間の許す範囲で、相続放棄と登記、遺産分割と登記についてもみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、時効と登記の問題に関する主な学説の立場を理解し、前回の授業で学んだ判例の立場もふまえて、自分の見解を示すことができるようになること。到達目標①・②・③・④に関連して、相続と登記の問題に関する判例の立場、改正法による規律を説明できるようになること。	
	事前学修	ES66～70頁、PM64～69・60～64頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	動産物権変動――178条の意義、即時取得		この回の授業では、動産の物権変動について学びます。まずは、動産の「引渡し」にはどのような種類があるのかを具体例をみていきます。その後、即時取得制度を学びます。例えば、Aが所有していたパソコンをBに貸したところ、BがそのパソコンをCに売却したとします。では、AはCからパソコンを取り戻すことができるでしょうか。この場合、「即時取得」が認められると、残念ながらAはCからパソコンを取り戻すことができません。この回では、即時取得がなぜ認められるのか、いかなる要件の下で成立するのかをみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、どのような者が民法178条の第三者にあたるのかについて具体例をふまえて説明できるようになること。到達目標①・②・③・④に関連して、具体例をふまえて即時取得制度の意義、制度趣旨、要件、効果について説明できるようになること。	
	事前学修	ES76～89頁、PM78～89頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
8	所有権		この回では、まず所有権の意義についてみます。その後、所有権の制限を簡潔にふれ、隣地する土地相互間の法律関係を調整するために設けられた相隣関係、所有権の取得を概観します。時間があれば、区分所有について各種規定の内容も概観します。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、所有権の意義とは何か、所有権の制限にはどのようなものがあるのか、相隣関係に関する規定の内容はどのようなもので、なぜそのような規定が設けられているのか、（時間があれば）マンションの一部屋を所有する場合などの区分所有にはどのような規律があるのかなどについて、具体例をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	ES6～18・28～44頁、PM93～114頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
9	占有権、物権のまとめ		人が物を事実上支配している場合に、その事実に基づいて様々な効果を発生させる権利を「占有権」といいます。この回では、占有権が侵害された場合の効力、占有権の取得、占有者と所有者間の利益調整がいかなる考え方に基づきどのように規定されているのかについて具体例を通して学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、占有権の意義とは何か、占有権が侵害された場合にその回復のために法はどのような手段を設けているのか、占有権の取得に関してどのような規律があるのか等について具体例をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	ES107～122頁、PM131～153頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
10	担保物権の概要		物的担保とは何か、物的担保にはどのような種類があるのか、抵当権、質権、留置権、先取特権の概要を具体例を通して学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、担保とは何か、人的担保、物的担保の違い、約定担保物権、法定担保物権の意義・異同について具体例をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	ES123～133・192～194・212～219頁、PM15～22・156～161頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
11	抵当権の設定・効力		抵当権の設定方法、抵当権の優先弁済の効力、抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲、抵当権侵害に対する効力について具体例を通してその基礎を学びます。例えば、①債務者Sが債権者Gから3000万円を借り、その担保として自己所有の甲不動産に抵当権を設定しました。その後、Dが甲を放火し、甲が焼失しました。Sは火災保険に入っていましたが、このとき抵当権の効力は火災保険金にも及ぶか。②債権者Gが債務者Sの所有する土地に抵当権の設定を受けていました。その後、Sがお金を返さなかったため、Gが抵当権を実行したところ、第三者DがSの土地を占有していたとします。このとき、GはDに対していかなる請求ができるか、という問題をみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、抵当権の及ぶ範囲、効力について具体例をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	ES133～143・152～155頁、PM161～186頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
12	法定地上権①		例えば、Sが土地と建物を有しており、Gからお金を借りる際に建物に抵当権を設定しました。その後、抵当権が実行されて、Aが建物を買収しました。SはAが土地の利用権を持っていないことを理由に建物を壊して出ていけ！と言えるでしょうか。このとき「法定地上権」が成立していると、Sの主張は認められません。この回では、こうした法定地上権の意義と制度趣旨、成立要件について学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、法定地上権とは何か、なぜそのような制度があるのかについて、どのような要件を満たした場合に法定地上権が認められるのかについて具体例をふまえて説明できるようになること。また法定地上権が認められる場合と認められない場合について具体例を検討できるようになること。	
	事前学修	ES144～147頁、PM186～193頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	法定地上権② 抵当権者と第三取得者、抵当権者と 利用権者		前回の授業に続いて、法定地上権の説明を行います。 その後、代価弁済と抵当権消滅請求の意義と異同、抵当権がつけられた建物を借りている賃借人 を保護するための引渡猶予制度について学びます。
	この回の 到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、法定地上権の制度趣旨をふまえて具体例において法定地上権の成否を検討できるよう になること。 到達目標①・②に関連して、代価弁済、抵当権消滅請求、建物賃借人の引渡猶予制度について具体例をふまえて説明できる ようになること。	
	事前学修	ES148～152頁、PM202～207頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
14	非典型担保		例えば、GがSにお金を貸そうとしていますが、その担保として提供できるのはSの工場で使用して いる機械くらいであるとしします。このとき、質権を利用することは理論的にはできますが、実際 上は行われません。なぜなら、機械に質権が設定されると、機械はSの元を離れてしまい、工場で 使用できなくなるからです。そこで、質権に代わって「譲渡担保」が利用されます。この譲渡担 保とは、民法が予定していない「非典型担保」と呼ばれるものです。この回では、非典型担保の 中でも譲渡担保を中心に学び、その法的構成と具体的事例における帰結を考えます。
	この回の 到達目標	到達目標①・②に関連して、非典型担保がなぜ必要とされるのか、譲渡担保とは何か、どのような目的のために用いられる のかについて具体例をふまえて説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、譲渡担保の法律構成にはどの ようなものがあるのかを説明できるようになること。	
	事前学修	ES177～189頁、PM248～260頁を読むこと。物権法で学んだ民法94条2項類推適用、民法177条について復習をしておく とわかりやすくなると思います。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
15	まとめ（期末課題）		期末課題（オンライン試験）に取り組みます。なお、シラバスの都合上、1 5 回目に期末課題と なっていますが、1 2 月に実施することもあります。いずれにせよ、正式な日程は授業内で周知 します。また課題の採点后に当該課題に対する解説も行います。
	この回の 到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、物権・担保物権法の基本用語・概念の意義、物権・担保物権法の各種規定の制度趣旨 が理解できているのか、事例から法的問題点を見つけだし、その問題点に関する法的根拠（条文・判例・学説）をふまえて 説得的かつ妥当な見解が述べられているかを確認する。	
	事前学修	物権・担保物権法全体を通して分からなかったことが何か振り返り、疑問点を試験前までに解消しておくこと。レ ジュメ・教科書を復習し、説明問題・論述問題の準備をしておくことを推奨する。 体調を万全にしておくこと！	600分
	事後学修	課題の講評と自身の答案を比較して理解できた点、理解できなかった点を確認する。とくにできなかった点は放置せ ずに、復習すること。	180分

科目名	平和学	担当者	松元 雅和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○		

【授業の概要】
本授業では、国際社会の倫理という観点から、戦争と平和、環境と開発、領土と移民など、「平和」にまつわる思想的・哲学的諸問題を論じていく。現代の国際社会では、各国の経済的・社会的相互依存が深まる一方で、「自国第一主義」が目立つようになっている。この授業では、他国民に対する不偏的配慮と自国民に対する偏向的配慮の相克を理論的柱として、現代の国際社会における平和問題とその分析・評価視点を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになるために、平和学の諸概念について理解し、現実の決定や判断について分析・評価する。

【履修条件】
なし

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパー、グループ討議・発表を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。						2	2				
②	得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。								2	2		
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30									60
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②に関わる基礎知識を評価する。	15	15									30
レポート等												
討論・発表等	討論・発表等、到達目標①②に関する積極的な学習態度が身についているか評価する。	5	5									10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
ポータル・システムを通して実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】	
水曜日昼休み 研究室（本館8階） matsumoto.masakazu49@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	国際社会の倫理という観点から平和学の諸問題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、本科目を学ぶ意味と意義を認識できる。	120分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	120分
2	国際倫理の二面性	世界に対する一般義務と自国に対する特別義務のあいだのジレンマを紹介・検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	パーマストン英国首相について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
3	自国第一主義の論理	自国に対する特別義務の妥当性を、本人＝代理人関係や連带的責務から考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	トランプ大統領について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
4	貧困	グローバル正義の観点から、南北の格差・貧困問題に対処すべき理由を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ODA大綱について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
5	貿易	貿易の「公平性」がもつ複数の意味と、そこから支持される貿易体制を分析する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	WTO交渉について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
6	環境	地球温暖化を例として、先進国が率先して環境問題に取り組むべき理由を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	京都議定書について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第2～6回についての討議	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
	事前学修	第2～6回の授業内容を振り返る。	180分
	事後学修	討議内容を振り返る。	60分
8	移民	自由および平等の観点から、国境を解放／閉鎖する様々な理由を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	スウェーデンの移民政策について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
9	領土	歴史的・現在の観点から、各国が主張する領有権の妥当性および限界を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	イギリスの植民地政策について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
10	戦争	自国の勝利のために何ができる／できないかを、正戦論の観点から考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	国際人道法について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
11	介入	人道的危機に対する国際社会による軍事介入の妥当性および限界を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	ソマリア介入について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
12	映像教材上映	授業内容に関する映像教材を上映・鑑賞する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
	事前学修	ルワンダ介入について調べる。	180分
	事後学修	教材内容を振り返る。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際倫理の理想と現実	規範の軽視を招きやすい国際社会で、なお国際倫理を遵守すべき理由を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業内容に関する平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。	
	事前学修	国連気候変動会議について調べる。	180分
	事後学修	配付プリントを読み直す。	60分
14	第8～13回についての討議	これまでの授業内容に関する質疑応答およびグループ討議・発表を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。	
	事前学修	第8～13回の授業内容を振り返る。	180分
	事後学修	討議内容を振り返る。	60分
15	期末総括	これまでの授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、セメスター内の講義の全体像を総括できる。	
	事前学修	配付プリント全体を振り返る。	120分
	事後学修	授業全体を振り返る。	120分

科目名	法医学Ⅱ	担当者	奥田 貴久	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法医学は、法学の分野に医学の知識と原則を適用し、問題解決の一助となることで社会的使命と責任を果たすことを目的としています。特に死因究明は主要業務であり、死因を決定するために法医学解剖を通じたエビデンスの収集を行います。また、薬毒物やアルコール、生命倫理、医療安全など法医学に関連したさまざまな研究も行っています。法に関連する医学的諸問題を解決するための基本的な事柄を学生諸君に医学的知識がないことを前提にわかりやすく解説します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 法医学が医学に属し自然科学を基礎としていることを理解し、社会における様々な事件事故に法医学が果たしている役割を理解することを目的とする。 【到達目標】 法医学の基本的事項を習得し、回答できる。法医学の各事例についてそれぞれ問題点を指摘できる。 関連DP及びCP：法律学科1，2 公共政策学科1，3，4

【履修条件】
講義内容は他言しない。SNS等で講義内容を拡散させることは厳禁。講義で用いる写真や動画等の撮影は禁止。解剖などの写真を用いることもあるので、これらを閲覧してめまいをおこす可能性がある学生は、履修を遠慮していただきたい。

【授業方法】
パワーポイントを用いて講義する。毎回授業前プリントを前日までにポータルサイトにアップロードする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法医学とは何か、死因、死因の種類について説明できる。		1	1					
②	死の判定、心臓死、脳死、臓器移植法について説明できる。		1	1					
③	種々の内因死、外因死について成因や受傷機転を理解し、説明できる。		1	1					
④	交通事故関連法規や交通事故の現状、交通外傷について説明できる。		1	1					
⑤	わが国の死因究明について、実務面と法的側面から説明できる。		1	1					
⑥	違法薬物に関連する法律、薬物依存について説明できる。		1	1					
⑦	医療関連法規や薬害について説明できる。		1	1					
⑧	美容医療がもたす問題について、倫理面や実務面から説明できる。		1	1					
⑨	飲酒がもたらす社会問題について、依存や健康被害の観点から説明できる。		1	1					
⑩	北米の銃、薬物依存、人種差別などの社会問題について理解し、説明できる。本邦の死因究明との違いについて説明できる。		1	1					

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	受講者数にもよるが、基本的には試験の成績で評価する。	5	5	5	10	10	10	5	10	10	30	100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	10	10	10	5	10	10	30	100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説、講評を後日、ポータルシステムで配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
NEWエッセンシャル法医学 第6版	高取 健彦（監修）， 長尾 正崇（編集）	医歯薬出版（株）	2019	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜～金曜 14：00～17：00 医学部社会医学系法医学分野に電話連絡

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 法医解剖100件/年、臨床医としての10年以上の診療経験、メリーランド州での解剖実務経験、動物を用いた分子生物学研究10年以上
実務経験に基づく実践的教育の内容		国内外の法医解剖はもちろんのこと、アルコール医学の基礎研究も行っています。臨床医としての病院勤務経験や専門医資格も有しますので、学生諸君が社会に出てから法学の専門家として必要となる医学的事柄をわかりやすく指導します。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法医学概論	法医学と関連領域、法医鑑定、死因、死因の種類などについて解説する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
2	生命徴候と死	生命徴候、心臓死、脳死、臓器移植法などについて、医療倫理の側面と実務面から考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
3	死体現象	早期、晚期、特殊死体現象について、これらが死後経過時間のみならず死因の推定にも役立つことを解説する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
4	損傷と受傷機転	鑑定事項として求められる損傷と受傷機転について、創傷の種類と鑑別、致命傷になりやすい頭部外傷の種類や成因、高エネルギー外傷などを解説する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
5	交通事故と法医学	交通関連法規、交通事故の現状、交通外傷の法医鑑定事例について解説する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
6	日本の死因究明	死体検案と異状死体について、異状死体の届け出義務について、死因究明等推進基本法についてなど、わが国の死因究明の在り方を考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	薬物依存と法医学	覚せい剤、大麻などの違法薬物、向精神薬・眠剤などの処方薬の大量摂取に関連する事故・中毒・自殺の鑑定事例について紹介する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
8	窒息・溺水	縊頸・絞頸・扼頸の違いの解説、気道内異物・溺水・浴槽内死亡の鑑定事例について紹介する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
9	異常温度による外因死・内窒息	焼死・CO中毒・広範囲熱傷・熱中症・凍死・硫化水素などの成因や鑑定事例について解説する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
10	内因性急死	法医学で扱う自然死について、鑑定事例を紹介する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
11	医療の質と安全の確保	医療関連法規について、医療安全の取り組みについて、薬害について考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
12	美容医療に関する諸問題	美容医療における自己決定権、説明義務について。医療を病気の治療目的以外に用いることについての倫理面の考察。美容医療後遺症について実務経験を元に解説する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	飲酒と社会問題	酒類はアルコールを主成分とする嗜好品であるとともに、依存症を引き起こす薬物でもある。アルコール依存症は飲酒運転・家庭内暴力などの社会問題及び肝疾患・突然死などの健康被害をもたらす。飲酒と社会問題について考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
14	オートプシーイメージング	本邦では、近年、死因究明に画像診断を用いることが多い。死亡時画像診断の実務的、法的問題について考察する。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分
15	アメリカの法医学	アメリカの法医学はアメリカの社会問題を映し出す鏡に他ならない。薬物依存・銃・人種差別についての実務経験を元にして解説する。アメリカの死因究明制度にも触れる。	
	この回の到達目標	本講義の内容についておおよそ説明できる。	
	事前学修	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。Webなどで検索してみる。	70分
	事後学修	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。不明な点は次週の講義終了後に質問を受付する。	170分

科目名	防衛政策	担当者	藤重 博美	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			

【授業の概要】
日本の安全保障にとっての主要な政策ツール（手段）である自衛隊の役割に着目し、終戦後直後から現代までの安全保障政策の歴史と現状、今後への課題について学ぶ。基本的にオンライン（オンデマンド）での授業を想定しているが、授業実施時の状況に合わせ、変更する可能性もある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自衛隊の役割の変遷に特に注目しつつ、戦後日本の防衛政策についての理解を深める。また、現在の日本の防衛政策について主体的に考察する能力の育成を目指す。

【履修条件】
防衛政策に関心を持っていること。

【授業方法】
教員が行う講義（オンデマンド式）が中心となる講義は、前半（戦後日本における自衛隊の役割の変化についての歴史）と後半（時事問題）に分かれる。時事問題についての講義案はその時に注目を集めている防衛政策上のトピックがあれば、柔軟に取り入れる。もう1つの重要な柱は、教科書に基づくレポート作成である。一冊の教科書をじっくりと読み、理解して自分の文章で表現することで、論理的な読解力・文章力の養成を目指す。教科書の内容は、講義の内容を密接に関連しているが、主に「自衛隊に期待される役割が、冷戦後、どのように変わったか」ということに焦点を当てたものである。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	Google classroom を通じて、随時、受講生の質問を受け付ける。教員からの回答は、Google classroomを通じてメール発信の形で行う、あるいは講義中に口頭で回答する。また、第9、14週に、受講生からの質問を集中的に受け付ける機会を設ける。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の防衛政策に関する基本的な（歴史的な流れ、重要用語、現在の課題などについての）理解を獲得する。				4	4	4	4	4			
②	現状の問題について、なぜそうなったのか、どうすれば解決できるか、今後の見通しはどのようなものであるかについて、主体的に考える力を強化する。				4	4	4	4	4			
③	時事ニュースに注意を払い、最新の情勢が本講義で学んだことと関連付けながら考察する分析力を養う。				4	4	4	4	4			
④	教科書を1冊読み通し、また、それに基づいてレポートを書くことで、論理的な読解力・文章力を育てる。				4	4	4	4	4			
⑤	授業で学んだことに対して、積極的にフィードバックを行う。				4	4	4	4	4			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	最終週（第１５週）に授業内試験を実施。詳細は授業内に指示。	20	10	10		10						50
小テスト等												
レポート等	教科書を読んだ上でのレポート。提出期限は12月後半～1月初めの予定。詳細は授業内に指示。	5	5	10	20	10						50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	15	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートについて、特に興味深い考察や重要な疑問に対してGoogle Classroomを通じてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
冷戦後における自衛隊の役割とその変容〔改訂版〕	藤重博美	内外出版	2021	教科書	必携
国際平和協力入門:国際社会への貢献と日本の課題	上杉勇司・藤重博美(編)	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
新訂第5版 安全保障学入門	防衛大学校安全保障学研究会（編）	亜紀書房	2018	その他	任意
国際関係・安全保障用語辞典[第2版]	小笠原高雪他（編）	ミネルヴァ書房	2018	参考書	任意
自衛隊史：防衛政策の七〇年	佐道明広	筑摩書房	2015	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
質問などがある場合、Google Classroomで問い合わせをする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	自衛隊の訓練等への参加・視察
実務経験に基づく実践的教育の内容		自衛隊関係者と直接関わった経験を元に授業を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスと導入		なぜ、日本の安全保障政策について考える必要があるのか、その中でも、なぜ自衛隊の役割について理解する必要があるのか、第2回以降、本格的に授業を行う前の導入的な講義を行った上で、授業の実施や評価の方法について説明する。	
	この回の到達目標	日本の安全保障政策について考える意義と必要性を理解する。		
	事前学修	日本の安全保障政策や自衛隊に関する書籍やニュースに触れておく。		100分
	事後学修	授業の内容を振り返る。		100分
2	戦後（1）：日本の敗戦と占領時代～非軍事化から再軍備へ～		敗戦後の日本の安全保障政策がどのように方向付けられたか、当時の吉田茂首相が導入した基本的な方向性（吉田ドクトリン）を中心に歴史的に検討する。	
	この回の到達目標	「吉田ドクトリン」の意味を十分に理解する。		
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。		100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。		100分
3	戦後（2）：安保闘争		1950年代末、日本を揺るがせた日米安保条約改定をめぐる大騒動（いわゆる「安保闘争」）を経て、日本の安全保障政策に与えたインパクトを考える。	
	この回の到達目標	「安保闘争」が日本の安全保障政策に与えた影響を理解する。		
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。		100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。		100分
4	戦後（3）：自衛隊に課せられた様々な制約		1960年代以降、自衛隊の役割に課せられた多くの制約について検討する。	
	この回の到達目標	安保闘争後、自衛隊の役割がなぜ、また、どのように抑制されていったかを理解する。		
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。		100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。		100分
5	レポート課題についての説明		教科書に基づいてレポート課題に取り組むための説明・教科書概要についての講義	
	この回の到達目標	レポート課題を書くために必要な基礎知識の獲得		
	事前学修	教科書を事前に入手し、どのような内容か、大まかに把握しておく。		100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。		140分
6	冷戦後（1）：「湾岸ショック」と「国際貢献論」の高まり		冷戦の終結直後の1990年代、日本の安全保障政策が大きく揺れ動くことになった要因とその後の変化についてみていく。	
	この回の到達目標	冷戦により、日本の安全保障政策がなぜ、また、いかに急激な方向転換を迫られたかを理解する。		
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。		100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	冷戦後（２）：流動する東アジアの戦略環境と「日米同盟の再定義」		冷戦後、日米同盟が直面した試練とその克服の過程について、１９９０年代前半～末の時期について学ぶ。
	この回の到達目標	冷戦後に生じた日米同盟の役割の変化を理解する。	
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。	100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。	140分
8	冷戦後（３）「テロとの戦い」と「北朝鮮の脅威」との交錯点		２０００年代に入り、国際的には、9.11テロとアフガニスタンでの対テロ戦争、イラク戦争が立て続けに発生し、近隣では北朝鮮の脅威が先鋭化する中、日本の安全保障政策がどのように変化していったかを確認する。
	この回の到達目標	国際的なテロとの戦いと東アジアの戦略環境の悪化が、いかに絡み合って日本の安全保障政策を変化させていったかを理解する。	
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。	100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。	140分
9	前半のまとめと質問に対する回答		前半の歴史部分を最初から振り返り、受講生からの質問にに答える
	この回の到達目標	前半の歴史部分の理解を確実にする。	
	事前学修	歴史部分の復習をし、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。	100分
	事後学修	授業内の解説を聞いてもわからなかった点は、Google Classroomから質問する。	140分
10	時事問題（１）：中国の軍事的台頭と日本の対応		時事問題の週は、２０１０年代以降の状況について学ぶ。この週は、過去１０年間に飛躍的に顕著になった中国の軍事的台頭に対応するため、日本の安全保障政策がどのような対応を迫られてきたかをみていく。
	この回の到達目標	軍事大国・中国の台頭という深刻な状況に対し、日本の安全保障政策がどのような対応を迫られてきたか、今後、どのような対策が必要かを考える。	
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。	100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。	140分
11	時事問題（２）：基地問題～普天間問題に解決策はあるか？		日本の安全保障政策の基盤は日米同盟だが、一方、米軍基地の沖縄への集中という問題を招いてきた。その中でも、住宅地に近接する普天間基地の問題解決は急を要する問題にも関わらず、なかなか実現していない。その背景と今後の見通しを概観する。
	この回の到達目標	日米同盟の重要性の背後で、沖縄が過重な基地受け入れ負担に苦しんできたこと、それにもかかわらず、その解決が容易でないことを理解する。	
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。	100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。	140分
12	時事問題（３）：自衛隊の新しい役割：国際貢献と災害派遣		冷戦後の自衛隊は、伝統的な国防の役割以外に、国内外で「人助け」を目的とした国際貢献や災害派遣の任務を行うようになってきた。どうしてそのような任務が増えたのか、その課題は何かを検証する。
	この回の到達目標	自衛隊が、なぜ、どのように「人助け」の任務を行うようになったのか、また、今後の課題はなにかを理解する。	
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。	100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。	140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	時事問題（４）自由で開かれたインド太平洋（FOIP）と防衛政策	安倍政権が掲げたFOIPが、日本周辺の安全保障環境や日本の防衛政策に与える影響を考える。	
	この回の到達目標	FOIPが日本周辺の安全保障環境や日本の防衛政策に与える影響を理解する。	
	事前学修	Google Classroomから授業資料をダウンロードし、あらかじめ目を通す。わからない点があれば、可能な範囲で自分で事前に調べる。	100分
	事後学修	授業の内容を振り返り、わからない点があれば、Google Classroomから質問する。	200分
14	試験についての説明・授業内容についての質疑応答	第１５回に実施する試験についての説明。また、受講生から提出された質問に対して教員が回答したり、補足説明を行う。	
	この回の到達目標	この授業を通じて抱いた疑問が解消される。	
	事前学修	疑問に思ったことについて、自分なりに調べてみる。	100分
	事後学修	授業の内容を振り返る。試験準備をする。	200分
15	授業内試験と解説	本授業の内容を十分理解できたことを授業内試験で確認する。終了後、試験のポイントを解説する。	
	この回の到達目標	期末に試験を実施することによって、本授業で学んできた内容の定着を目指す。試験後の解説によって、より理解を深める。	
	事前学修	第１４週で説明した試験内容に基づいて準備する。	200分
	事後学修	この授業を通じて何を学んだか、振り返ってみる。	80分

科目名	法学Ⅰ	担当者	出雲 孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
新型コロナウイルスの現況に鑑みて、原則的にオンデマンド方式とする。動画の配信およびレジュメの配布をおこなう。また、到達目標①②③④⑤⑥に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	法学とはなにか		法学とはどのような学問領域であり、私たちの社会に対してどのような役割を果たしているのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法学の学問性とその意義を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
2	リーガル・マインド		それぞれの学問領域に固有の思考法があるように、法学においてもリーガル・マインドという思考法があることを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、リーガル・マインドとはなにかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
3	民事訴訟の構造		リーガル・マインドの例として、民事訴訟におけるものの考え方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、民事訴訟の構造を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
4	要件事実論		民事訴訟におけるリーガル・マインドの根幹である要件事実論を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、要件事実論とはなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
5	攻撃防御の仕組み		要件事実論にもとづく原告と被告の攻撃防御の仕組みを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、原告の被告の攻撃防御がどのようにおこなわれるのかを簡潔に説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
6	契約		リーガル・マインドの実践として、契約とはなにであるか、またそれはどのように履行されるのかを、その経済的意義とともに学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法的な意味での契約とはなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	債務不履行		契約は、常に履行されるとは限らない。この授業では、契約が適切に履行されなかったとき、どのような救済方法が与えられているのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、債務不履行が起こったときの対応方法を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
8	所有権		国民の経済活動の根幹にあるものは、財産権である。この授業では、財産権の意義とその保障制度について、所有権を中心に学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、所有権がなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
9	不動産取引		財産権と契約との関係の一例として、不動産取引を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、日本国における不動産取引の制度を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
10	刑事訴訟の構造		刑事訴訟は、民事訴訟とならぶ代表的な訴訟制度のひとつである。犯罪とはどのような事態を意味し、どのような取り扱いがなされるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、刑事訴訟の構造を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
11	経済犯罪		第9回の授業における不動産取引を素材として、横領罪などのいわゆる経済犯罪の例を学び、刑事訴訟における具体的な考え方を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、不動産取引から発生しうる刑事事件について説明をすることができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
12	人権とはなにか		民事訴訟も刑事訴訟も、その基盤は近代国家制度における人権という考え方に根付いてる。この授業では、人権とはなにであるかを、歴史的経緯も踏まえつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、人権概念の意義を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	経済活動と憲法①（国家と国民との衝突）		国家活動は、その性格からして、国民の人権と衝突することがある。この授業では、国家が国民の経済活動の自由を制限しようとするとき、そこにどのような問題点が生じるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国民の経済活動が国家に規制されている例、およびその例における憲法学上の問題点を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
14	経済活動と憲法②（国民間での衝突）		人権は、国家の規制と衝突するだけでなく、他の国民の人権と衝突することもある。この授業では、国民同士のあいだで人権の衝突が起こったとき、それがどのように調整されるのかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、国民間の人権が衝突する例、およびその例における憲法学上の問題点を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
15	法学と私たちの生活		法学とはなにか、またリーガル・マインドとはどのような思考法であるかをふりかえり、実生活に対してどのような応用が可能であるかを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法学と実生活とのつながりを理解し、法的思考を実生活に応用する基礎的なスキルを身につける。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	上野 幸彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
基本的に教科書によりながら講義の形式で行う。しかし、多様な意見に接することも、法学の学修においては大切であり、大勢の受講者がいるクラスの授業では制約も大きいですが、できるだけ受講者の意見を共有しながら議論できるチャンスを設けたい。なお、法律について学ぶ授業なので、学習の道具として「六法」は欠かせない。毎時間、必ず六法を持参のこと。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】						1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】						1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】						1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】						1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】						1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】						1				1			
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④⑤に関して、ポータルの「小テスト」を利用して、択一式による客観テストにより、基礎知識の定着度についてチェックする。	5	5	5	5	5						25
レポート等	基本的な考え方や理解の適切性という観点から評価を行い、到達目標①②③④⑤に照らして十分に説明できる知識・能力が身についているかを判定するとともに、到達目標⑥に関連して思考プロセスの合理性、ロジカルシンキングの定着度をチェックする。	15	10	15	10	15	10					75
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	15	20	15	20	10					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト実施後、採点を行い授業で解説する。レポート回収後、授業の中でポイント等について説明する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国家と社会の基本法（第4版）	上野幸彦・古屋等	成文堂	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業終了後、教室にて10分程度応接する。これ以外に、メールによる質問等を随時受け付ける。メルアド：ueno.yukihiko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【法律の条文】		法律の学習を始める出発点として、まず法律にはどのようなことが記述されているのかを、実際に具体的な条文（規定）に触れながら理解し、条文の基本的な読み方、法律の分野における表現上の決まり、法律用語の使い方などについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法律の条文を実際に読み、「六法」に収録されている法律の分け方について理解し、その理由を説明することができる。		
	事前学修	六法（ポケット六法）を手にとって、「日本国憲法」，「民法」，「刑法」というタイトルの法律の条文を読んで、どんなことが書かれているのか確認する。	120分	
	事後学修	六法の引き方・使い方を再確認し、一般の用法とは異なる法令上の用語法について復習する。	120分	
2	【法律の規定の意味について】		法律の条文の記述を通じて、その規定の意味について考える。条文の構造を分析しながら、その条文から導きだされる具体的な意味・内容を明確に理解し、法規定と規範的特質との関係について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、実定法の規定構造を理解することにより、法の規範的な性質とその機能について説明することができる。		
	事前学修	法律の条文には、さまざまな指図が含まれている。そこで、刑法199条・177条・179条1項、民法709条・415条1項・4条、憲法13条・21条1・2項・25条1・2項・41条・66条1項・76条1項の各規定について、指図（ないしルール）の内容を確認するとともに、その指図が、誰による、誰に対するものなのかを考える。	120分	
	事後学修	法律用語等につき、ポータル上の「演習問題1」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次回の授業時に行う。	120分	
3	【法の分類】		法は、さまざまな観点から分類・整理することができる。ここでは、存在形式、法律関係の対象、規定の内容などを基準として整理し、法のさまざまな種類について知ることにより、法の多様性について理解する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法をどのような仕方でも認識でき、またどのような基準で分類されているのかを知り、法の存在形式および主要な分類について説明することができる。		
	事前学修	教科書214-216頁を読み、（1）国内法と国際法の特徴的な違いと国際法の法源、（2）公法と私法とを区別する一般的な基準とそれぞれに属する代表的な法律、（3）社会法に分類される典型的な法律をチェックしてくる。	120分	
	事後学修	規範的構造、法の分類につき、ポータル上の「演習問題2」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次回の授業時に行う。	120分	
4	【国家法の体系的構造】		主権者自身が制定した「憲法」を頂点とする国家法の段階的構造を中心に、憲法と条約との関係、国家法と自治体の自主法との関係、さらに制定法と慣習法との関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法の形式的効力による分類を理解し、一国の法体系が階層構造に基づき成立していることを説明することができる。		
	事前学修	「日本国憲法」，「法律」，「命令」の制定主体は誰か、そしてこれらの形式的効力の優劣関係、さらに制定法である法律と不文法である慣習法との関係について、教科書221-225頁を参照して予習しておく。	120分	
	事後学修	制定主体による法の分類について再確認するとともに、国家主権との関連における憲法と条約をめぐる優劣の問題や国の法令とは別個独立した条例を制定する場合の限界などの問題について復習する。	120分	
5	【法と道徳】		法と道徳との関係や異同に関する伝統的な見解について説明するとともに、道徳に反する法の有効性や道徳に違反しているという理由だけに基づいて法によって強制することの正当性の問題について議論し、考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、社会規範として法と同様の性質を有する道徳との比較を通じ、法と道徳それぞれの妥当領域を理解し、法と道徳との違いと関連について説明することができる。		
	事前学修	法と道徳との関係や違いについて、教科書206-211頁を参照して整理するとともに、現在、欧米では同性婚を認める国が増えているが、婚姻の成立を異性婚に限っている日本の法制度について、その根拠を調べるとともに、問題点を指摘する。	120分	
	事後学修	制定法の種類や相互関係、法と道徳に関する問題について、ポータル上の「演習問題3」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次回の授業時に行う。	120分	
6	【法と裁判】		法と裁判との相互関係について歴史的に分析したうえで、日本の司法システムについて、日本国憲法及び裁判所法に基づいて説明するとともに、民事及び刑事事件に関する手続の概要について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、法と裁判との歴史的・機能的な結びつきと裁判の手続きを理解し、両者の関係と裁判手続の概要を説明することができる。		
	事前学修	日本の司法システムについて、（1）裁判所の組織・権限（教科書89-91頁参照），（2）民事及び刑事手続の概要（教科書231-236頁，240-244頁参照）を予習しておく。	120分	
	事後学修	公正な裁判を支える一般的な原則を確認し、日本の裁判システムにおいて、具体的にどのような形で表れているのかをチェックする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	【実際の裁判例と法の解釈・適用（１）】		夫婦が生殖補助医療により代理母に出産させた場合における親子関係が問題となった裁判例を取り上げて、新たな問題に対する現行法上の解釈の限界や立法的措置の必要性等について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。		
	事前学修	最高裁判所平成19年3月23日決定を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。		120分
	事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。		120分
8	【実際の裁判例と法の解釈・適用（２）】		従来の判例の傾向とは異なる判断を下した裁判例として注目される事件を取り上げて、変更に至った背景や実質的な考慮を探り、「解釈する」という営みの中にどのような価値判断が控えているのかを明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。		
	事前学修	最高裁判所平成27年4月9日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。		120分
	事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、裁判官がこのような結論を採用するにあたってどのような事情を考慮したと推測できるかを分析し、このような結論が社会に及ぼす影響やその判断の是非を検討する。		120分
9	【実際の裁判例と法の解釈適用（３）】		刑罰法規における解釈の特徴について理解するとともに、法廷意見と反対意見とを比較しながら、理論的な問題点について分析する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑥に関連して、実際の裁判例に基づいて裁判とは何かを理解し、その特徴や問題について説明することができ、法的判断のプロセスに触れ、自らも法的思考によって議論することができる。		
	事前学修	最高裁判所昭和60年10月23日判決を読み、（１）事実関係、（２）当事者の主張、（３）争点、（４）裁判所の判断とその理由について、事前に学習する。		120分
	事後学修	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。		120分
10	【解釈の技法と法の適用】		法律の規定を適用する際の解釈の方法について、これまで授業で取り上げた裁判例を含め、具体的な事例を素材にしながら、解釈を通じた適用の在り方を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、法の適用における法解釈の方法を理解し、解釈の技法と法解釈の特徴について説明することができる。		
	事前学修	教科書225-228頁を読み、法解釈の一般的な方法について予習しておく。		120分
	事後学修	司法システム、裁判手続、法の解釈・適用につき、ポータル上の「演習問題4」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次回の授業時に行う。		120分
11	【法の紛争解決機能】		社会的な紛争解決の諸方式と裁判とを対比させながら、法と裁判の特徴を理解するとともに、司法及び裁判システムについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①④に関連して、裁判の紛争解決機能の特徴について理解し、法機能の一部である紛争解決機能について説明することができる。		
	事前学修	教科書218-219頁、229-230頁を参照しながら、紛争を解決する方式について、裁判による場合とそれ以外の方式（ADR）とを比較し、それぞれの方式のメリットとデメリットを指摘し、裁判の特徴について説明できるようにしておく。		120分
	事後学修	日本の司法システムにつき、日本国憲法及び裁判所法の規定を参照しながら、裁判所の組織・権限を整理し、また民事・刑事に関する裁判手続の概要についてまとめる。		120分
12	【社会システムとしての法】		社会の秩序化を図る法という観点から、法の社会統合・秩序化機能と関連させながら、法と国家との関係や法と強制との結合について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、社会における法の機能について理解し、法の社会的機能を説明することができる。		
	事前学修	法が存在しない社会を仮定したうえで、その状態と法の必要性ないし存在根拠について考える。		120分
	事後学修	社会的機能や社会システムという観点から、法の特徴を分析し、法の構造的な特質について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【法の理念】	法の価値に関する側面に焦点を当て、とくに正義と法的安定性という価値について、実定法と関連させながら学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法に内在する価値的側面に注目し、法理念としての正義や法が果たしている規範的正当化機能について説明することができる。	
	事前学修	教科書211-214頁を読み、法の理念に関するこれまでの考え方について予習し、実定法の中に正義あるいは法的安定性の理念が具体的にどのような形で表れているのか、確認する。	120分
	事後学修	法の構造及び理念に関して、ポータル上の「演習問題5」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。この解説は、次の授業時に行う。	120分
14	【日本法の特徴】	日本法の理解のために、歴史的な形成過程を振り返り、欧米の法システムと比較しながらその特徴を明らかにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、日本の法制度の歴史を踏まえつつ、欧米の法との関連を理解したうえで、日本法の特徴について説明することができる。	
	事前学修	明治期における近代国家の確立のための近代法整備の歴史を調べ、また第2次大戦後における法変革に関し、日本国憲法の制定とその後の影響について考える。	120分
	事後学修	近代日本における法の継受とその後の展開について復習し、グローバル化する日本法の現在について理解する。	120分
15	【法とは何か】	これまでの授業と学修の積み重ねに基づき、「法とは何か」というテーマで議論する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、各自の意見を法的に表現し、法的思考によりながら自分の主張を述べることができる。	
	事前学修	「法とは何か」、あらためて各自考えてくる。	120分
	事後学修	他の受講者の意見や議論を振り返り、自分の意見と比較しながら再検討し、もう一度各自の見解を見直す。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
シラバスに従って教科書の該当箇所を読んできていることを前提に、毎回動画とPDFファイルを配信して、オンデマンドで授業を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションやディベートもZoomによるライブで試みる	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】					1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】					1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】					1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】					1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】					1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】					1				1			
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、毎回課題を出し、コメントを付けて評価する。	10	10	20	20	20	20					100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出された課題に対し、毎回コメントを付けて、評価し返却する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ホーンブック法学原理	沢木・荒木・南部	北樹出版	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp を利用し、随時行う。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	日本BBS連盟顧問、警視庁留置施設視察委員会委員、さいたま市精神医療審査会委員、東京家裁ボランティア等
実務経験に基づく実践的教育の内容		司法機関や施設の見学を予定しているが、コロナの状況による	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	法の技術性と価値判断について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、法文化と一般常識の差異について説明できる	
	事前学修	教科書の序章を読んでおく	120分
	事後学修	法文化と一般常識の差異について理解しする	120分
2	法とは何か（1）	規範としての法とその目的について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連し、法の目的について説明することができる	
	事前学修	教科書の19～32ページを読んでおく	120分
	事後学修	規範の種類についてまとめておく	120分
3	法とは何か（2）	行為規範の種類と相互の関係について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、法と道徳の関係を説明することができる	
	事前学修	教科書の32～39ページを読んでおく	120分
	事後学修	法と道徳の関係を整理しておく	120分
4	法とは何か（3）	権利義務の内容と権利の乱用について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②関連し、権利義務の内容と権利の乱用について説明することができる	
	事前学修	教科書の40～59ページを読んでおく	120分
	事後学修	権利義務の内容とその分類、及び権利の乱用についてまとめる	120分
5	法と実力	法的制裁の内容と種類について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②関連し、法的制裁の役割について説明することができる	
	事前学修	教科書の59～71ページを読んでおく	120分
	事後学修	法的制裁の役割についてまとめておく	120分
6	法と言語	法的な言語の意味と解釈の種類について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連し、解釈の種類と内容について説明することができる	
	事前学修	教科書の72～90ページを読んでおく	120分
	事後学修	解釈の種類と方法について、その差異をまとめておく	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法の目的と理念	具体的妥当性と秩序維持について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、法の目的である具体的妥当性と秩序維持について説明することができる	
	事前学修	教科書90～103ページを読んでおく	120分
	事後学修	法の目的としての具体的妥当性と秩序維持の関係についてまとめる	120分
8	法系と法の継受	日本の法の成り立ちと形式について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、日本法の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書104～114ページを読んでおく	120分
	事後学修	大陸法と英米法のミックスされた法体系である日本法を理解する	120分
9	法源（1）	制定法から附合契約についてまでを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、制定法の役割について説明することができる	
	事前学修	教科書114～129ページを読んでおく	120分
	事後学修	成文法と不文法、とりわけ制定法に関する事項についてまとめる	120分
10	法源（2）	慣習法、判例法、学説、通説、条理について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①に関連し、制定法以外の法源について説明することができる	
	事前学修	教科書129～150ページを読んでおく	120分
	事後学修	制定法以外の法源の効力や社会生活における適用事例について整理しておく	120分
11	裁判制度の基礎	裁判制度の歴史と一般原則について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、裁判制度の歴史と一般原則について説明することができる	
	事前学修	教科書151～158ページを読んでおく	120分
	事後学修	現行裁判制度に至る歴史的な発展についてまとめる	120分
12	民事紛争の解決	紛争解決制度の種類とその効力について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、紛争解決制度の種類について説明できる	
	事前学修	教科書159～169ページを読んでおく	120分
	事後学修	民事に関する紛争解決の制度の違いについてまとめる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	裁判制度とその理念	裁判制度と公正かつ公平な裁判を担保する理念について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、紛争解決制度の種類について説明できる	
	事前学修	教科書159～169ページを読んでおく	120分
	事後学修	民事に関する紛争解決の制度の違いについてまとめる	120分
14	裁判の基本原則	当事者主義に基づく裁判とは何かについて学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、当事者主義の裁判構造について説明ができる	
	事前学修	教科書181～205ページを読んでおく	120分
	事後学修	当事者主義、自由心証主義、挙証責任について整理し、まとめておく	120分
15	まとめ	具体的な社会問題をテーマとして、第1講～14講で学んだ知識をベースに検討する。	
	この回の到達目標	1 4 回の講義で取り扱った基本的な知識を有しているかについて評価する	
	事前学修	1 4 回の講義で取り扱った基本的知識を整理し、PDFファイルで示された事例検討をしておく。	120分
	事後学修	検討を踏まえ、自分の解決策をまとめてみる。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
六法（令和3年[2021年]版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。また、対面授業の際は授業の妨げとなる行為（私語、スマートフォン等の電子機器の使用）を禁ずる。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代法学入門[第4版]	伊藤正己・加藤一郎編	有斐閣	2005年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【イントロダクション】【導入講義】	法学の全体像、法と常識、法と社会生活を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、法学の理解を深めるための必要事項、法と常識、法と社会生活を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の1頁から11頁までを読み、社会生活において法の果たす役割を説明できるように準備する。	120分
	事後学修	ガイダンスを踏まえ、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、法と社会生活との関係を整理する。	120分
2	【法とは何か】	法と道徳、法と強制、法の目的等を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と道徳との違い、法と強制（国家的サンクションを含む）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の7頁から32頁までを読み、法と道徳（法と強制を含む）との関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法と道徳（法と強制を含む）との関係を整理する。	120分
3	【裁判の基準となるもの－法源】	紛争解決ルールという観点から、法源（法の存在形式）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法源の種類（制定法、慣習法、判例等）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の49頁から65頁までを読み、法源の種類を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、裁判の基準という観点から、制定法・慣習法・判例の違いを整理する。	120分
4	【法の分類】	制定法である公法と私法との関係、実定法の体系を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、公法と私法の分類のほか、実定法の体系を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の83頁から93頁までを読み、公法と私法の関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、裁判の基準という観点から、公法と私法の関係（公法と私法の融合を含む）を整理する。	120分
5	【国家と法－憲法】	公法に属し、国の基本法である憲法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、日本国憲法の概要を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の94頁から109頁までを読み、近代憲法の特質、日本国憲法の基本原理を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、日本国憲法の基本原理を整理する。	120分
6	【犯罪と法－刑法】	犯罪と刑罰に関する刑法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、犯罪と刑法、刑法の機能、犯罪の成立要件を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の111頁から127頁までを読み、刑法の機能、犯罪の成立要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、犯罪の成立要件を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【財産関係と法Ⅰ－民法（総則・物権法・債権法）】	財産法の全体像、取引の主体・客体、取引の手段たる契約を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、法と権利義務、財産法の基本原則、権利能力・行為能力、物の分類のほか、契約（契約の諸類型、売買契約、賃貸借契約等）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の26頁から31頁、141頁から155頁までを読み、財産法の基本原則、権利能力・行為能力、物の分類のほか、契約の諸類型・締結を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、権利能力と行為能力との違い、物権と債権との関係を整理する。	120分
8	【財産関係と法Ⅱ－民法（債権法）】	契約と不法行為との違い、債務不履行・不法行為による損害賠償を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、債務不履行による損害賠償と不法行為による損害賠償、過失責任の原則とその適用範囲を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の146頁から155頁までを読み、契約と債務不履行との関係、債務不履行・不法行為による損害賠償の要件の比較、債務不履行と不法行為との関係を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、契約と債務不履行との関係、債務不履行・不法行為による損害賠償の要件の比較、債務不履行と不法行為との関係を整理する。	120分
9	【家族生活と法Ⅰ－民法（親族法）】	家族法の意味（財産法との対比）、婚姻・離婚、親子関係を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、家族法の全体像、婚姻・離婚、親子（嫡出子・非嫡出子、親権と後見）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の128頁から136頁までを読み、婚姻・離婚の要件、嫡出子・非嫡出子との違いを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、婚姻・離婚の要件、嫡出子・非嫡出子との違いを整理する。	120分
10	【家族生活と法Ⅱ－民法（相続法）】	相続制度の概要のほか、扶養を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、相続制度の概要（遺言、遺留分、相続人、遺産分割）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の128頁から139頁までを読み、遺言、遺留分、相続人、遺産分割を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、遺言、遺留分、相続人、遺産分割相互の関係を整理する。	120分
11	【法の適用Ⅰ】	具体的事件への法の適用、裁判制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、民事事件・刑事事件の各裁判制度を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の33頁から42頁までを読み、民事事件・刑事事件の各裁判制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、具体的事件への法適用の理解を踏まえて、民事事件・刑事事件の各裁判制度の違いを整理する。	120分
12	【法の適用Ⅱ】	裁判制度、訴訟手続の諸原則、強制執行を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、裁判制度の概要を踏まえて、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の36頁から47頁までを読み、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、訴訟手続（民事・刑事）の諸原則を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【法の解釈Ⅰ】	事実認定と法の解釈を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、法的三段論法、事実認定、適用法規の解釈を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の66頁から76頁までを読み、法的三段論法（事実、法規、結論）、を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法的三段論法（事実、法規、結論）を踏まえて、事実認定、適用法規の解釈を整理する。	120分
14	【法の解釈Ⅱ】	法の解釈の性質・方法を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連して、法の解釈の性質・方法を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の66頁から80頁までを読み、法の解釈の性質・方法を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、法の解釈の性質・方法を整理する。	120分
15	【総合】	これまでの授業における学修項目の理解、項目相互間の関連性を踏まえ、発展的・応用的な観点からの検討内容を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べ、説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業で配布したレジュメを参考に、教科書の1頁から155頁までを読み、各学修項目のポイントを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、これまでの授業における学修項目の理解を踏まえて、項目相互間の関連性を整理する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
なるべく出席し、あらかじめ図書館等で下調べをして講義に参加することを望む。また、六法は必ず持参のこと。

【授業方法】
板書を中心とした講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ法学 [第3版]	高橋雅夫編	弘文堂	2017年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義の方針についての説明	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法律学の学習方法や研究方法について説明し、受講者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、学修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	テキスト第1章「法の学び方」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法の学び方について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
2	法の目的について	法の目的である正義・合目的性・法的安定性とは、それぞれどういうことであるかを具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が法の目的の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	正義、合目的性、法的安定性について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
3	法の社会的機能について	法の伝統的な三つの機能に加え、法の機能の拡大化によって注目されるようになった機能について具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、学修者が法の社会的機能の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法の伝統的機能に加え、新しく注目される機能について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
4	法とその隣接領域について	法と緊密に隣接する領域である道徳・政治・経済との関係について具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、学修者が法と隣接する領域の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法と道徳、政治、経済との関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
5	法源（成文法）について	成文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、それぞれの関係はどのようなになっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が成文法の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	成文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
6	法源（不文法）について	不文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、成文法との関係はどのようなになっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が不文法の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	不文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法の分類（公法・私法・社会法、実体法と手続法）について		公法・私法・社会法および実体法・手続法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の分類の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	公法・私法・社会法の内容と実体法と手続法の関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
8	法の分類（強行法と任意法、一般法と特別法、固有法と継受法）について		強行法と任意法・一般法と特別法・固有法と継受法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の分類の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	強行法と任意法の内容、一般法と特別法の関係、固有法と継受法の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
9	法の効力範囲について		法の時間的・場所的・人的効力範囲とはどのようなことを言うのか、具体例を挙げて説明する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、学修者が法の効力範囲の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第2章「法の内容」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法の時間的、場所的、人的効力について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
10	法と裁判について		日本の裁判制度はどのようなシステムになっているのかについて具体例を挙げて説明する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が日本の裁判制度の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	日本の裁判制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
11	裁判の特質について		裁判には様々な制約原理がある。また、裁判という紛争解決システムには制約からくる限界がある。これらはどのようなことなのか、そして限界を避けるために色々なシステムが構築されている。これらについて具体例を挙げて説明する。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、学修者が日本の裁判制度の内容を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	裁判をめぐる制約原理とシステムの限界について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
12	法的事実の認定方法について		裁判における事実認定の方法＝証拠をめぐる問題とさまざまな事情で事実認定が不可能になった場合どのような方法をとるのかについて具体例を挙げて説明する。
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、学修者が事実認定の方法を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	事実認定の方法と事実認定が不可能な場合の方法について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法解釈の意義について	認定された事実について法を適用するために、解釈という作業を行う。この法解釈はなぜ必要なのか、また法解釈は誰が行うのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、学修者が法解釈の意義を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	法解釈の必要性、法解釈の機関について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
14	法解釈の技法について	法解釈にはさまざまなテクニックがある。これらについて具体例を挙げて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、学修者が法解釈の意義を説明することができるようにする。	
	事前学修	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。	120分
	事後学修	各種の法解釈の技法の内容と具体例について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。	120分
15	半年間の総括	半年間をふりかえり、補充説明等を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、学修者が授業の総括を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	テキストなどを参照して、ノート等を整理する。	120分
	事後学修	テキストなどを参照して、ノート等の不備な箇所を補充する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特に指定しないが、六法を持参すること。

【授業方法】
実務や学界の動向，最新判例，債権関係法改正の動向なども視野に入れつつ講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し，どのように考えるかを口頭で表現してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学入門	早川吉尚	有斐閣	2016	教科書	推奨
リーガル・リサーチ&レポート 第2版	田高寛貴	有斐閣	2019	教科書	推奨
実定法学入門 第3版	田中英夫	東京大学出版会	1974	教科書	任意
備考	基本的にレジュメを配布して授業を行うが、各自自分に合った教科書を準備することが好ましい。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取る） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、法学で学ぶ規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業内容、授業の進行方法、授業スケジュール、成績評価の方法、教科書の紹介を行い、これから学習する法学の導入部分や学習方法について説明し、今後の学習準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法学が実社会においてどのような地位を占めているかが説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、六法の条文を読むなどして、法律の文に慣れておく。	120分
	事後学修	授業で扱った法学についての説明を確認し、法の必要性や社会的意義を踏まえ、法学がどういった事柄を対象としたものかを理解し、自分なりに説明できるようにする。	120分
2	法とは何か1	形式的な「法律」以外にも様々な社会的規範としての「法」が存在する。それぞれの性質が異なっているが、どのような社会規範としての「法」が存在するのか、各社会規範の役割等について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、「法律」及びその他の社会規範について説明できる。	
	事前学修	各自の教科書を読み、社会規範としての法にはどのような形式のものが存在するか確認する。	120分
	事後学修	「法律」以外にもどのような社会規範が存在するのか、また、なぜそのような社会的規範が存在し、その社会規範は法にどのような影響を与えるものかについて、自分なりに説明できるようにし、疑問点を質問できるようにする。	120分
3	法とは何か2	形式的には同じ「法律」として扱われるものにも「私法」や「公法」といった分類がなされることがあるが、どのような目的によるものか、またその性質がどのように異なるものであるかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公法と私法の分類及び解釈の仕方について説明できる。	
	事前学修	各自の教科書を読み、法の構造について、公法・私法・国際法とは何かを確認し、それぞれがどのような定義であるかを確認する。	120分
	事後学修	各法がどのような分野を規律しているものか整理し、それぞれの役割の違いを理解し、それぞれの特徴について説明ができるようにしておく。	120分
4	法学の学習について	実際に条文を読み、法律の適用の仕方を学ぶ。前回までに学んだ法律の分類(公法、私法、刑法等)がどのように反映されているかについて実感できることを目的とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤⑥に関連して、法律の分類と適用の仕方の関係について説明できる。	
	事前学修	前回までの授業で扱った法の社会における役割を確認し、法学が学ぶ対象としている法律がどいったものかについて確認する。	120分
	事後学修	実際に授業で扱った条文の読み方や適用の仕組みについて、法律の分類に気を付けながらなぜそのような適用がなされるのか自分の言葉で説明できるようにする。	120分
5	法源1	法源とは何かについて、具体的な例を交えながら解説を行う。また、そのような法源がどのような機能を有しているか解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法源の機能について説明できる。	
	事前学修	各自の教科書で、法源という概念がどのようなものか確認し、どのような機能を有しているかを確認する。	120分
	事後学修	法源としての法の機能がどのようなものか、授業中に扱った分類の仕方とその性質について自分なりに説明できるようにする。	120分
6	法源2	制定法の法源と判例法の法源について、どのように役割が異なっているかを考え、具体的な事例をもとにその機能を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、制定法と判例法の機能の違いについて説明できる。	
	事前学修	各自の教科書で、制定法と判例法がどのように異なり、どのような機能を営むか確認する。	120分
	事後学修	制定法と判例法の機能の違いを理解し、具体的な事例において、どのような適用関係となるか検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法の分類1		強行法規や任意法規について、法律を分類する意義ないし必要性を理解し、どのような立法趣旨が存在するのかについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤に関連して、強行法規と任意法規の機能の違いについて説明できる。	
	事前学修	各自の教科書で、強行法規、任意法規の概念を調べ、どのような機能を有しているかを確認する。	120分
	事後学修	各法の分類を行う意義及び各法の性質の違いを理解し、どのような制度趣旨が存在するのかを説明できるようにする。	120分
8	法の分類2		実体法と手続法という概念の区別があるが、初学者にとっては非常にわかりにくい概念であり、それぞれの定義と実際に営んでいる機能について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑥に関連して、実体法と手続法の違いについて説明できる。	
	事前学修	前回の授業の復習をするとともに、各自の教科書で、実体法と手続法についてそれぞれの定義を確認する。	120分
	事後学修	具体的な実体法と手続法にはどのような法律が分類されるのかを確認し、それぞれの特色について説明ができるようにする。	120分
9	私人間における法適用1		私人間に適用される法は、どのような解釈ないし適用がなされており、そのような法解釈ないし法適用はどのような目的の下に行われているのか解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、私人間の法適用について説明できる。	
	事前学修	各自の教科書で、私人間に適用される法律としてどのような法律が存在するのかを確認しておく。	120分
	事後学修	私人間における法適用の特徴がどのようなものであり、当事者の利害関係についてどのような配慮をしているか説明できるようにする。	120分
10	私人間における法適用2		私人間における法適用と公法の適用では、どのような点が異なっており、考え方がどのように異なるのかについて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、私人間の法適用に関して公法の適用との相違について説明できる。	
	事前学修	各自の教科書で、私人間における法の適用と公法の適用ではどのような差異があるか確認しておく。	120分
	事後学修	私人間における法の適用では、どのような特徴があるか、公法の場合と比較して理解できるようにし、その特色を説明できるようにする。	120分
11	解釈論と立法論1		法学では解釈論を学ぶことが多いが、立法的な対応がなされることもあり、従来どのような内容が立法的に解決されてきたのかを解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、解釈論と立法論の概要について説明できる。	
	事前学修	不明確な条文があった場合にはどのような問題が生じるか、また、新たに立法が必要になるのはどのような場合か考えてみる。	120分
	事後学修	解釈論の限界と立法論の必要性について、具体的な例を踏まえて説明できるようにする。	120分
12	解釈論と立法論2		実際に裁判になった事案であり、解釈論の限界を超え、実質的に立法に近いと批判されることのある事案を紹介し、解釈論について考えてもらう。
	この回の到達目標	到達目標①②③⑤⑥に関連して、解釈論の限界について説明できる。	
	事前学修	前回の授業を復習し、解釈論と立法論がどのように異なるか理解できているか確認する。	120分
	事後学修	授業内で扱った事案について、裁判所が行った判断がどのようにして正当化できるのか、あるいは、正当化できないのかそれぞれ検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	法の実現		実体法上認められた権利は、実際に実現されなければ意味がないが、法律はどのような手段を用意しているのか、及び法の実現のために実際の裁判所がどのような対応をしており、どのような制度が用意されているのかについて説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、法の実現と裁判手続について説明できる。	
	事前学修	実際に裁判所のホームページなどを確認し、裁判所の手続を確認してみる。	120分
	事後学修	裁判所における手続を具体的に理解し、各段階でどのような意義があるのか考え、実体法上の権利をどのようにすれば実現できるか説明できるようにする。	120分
14	まとめ及び授業内試験		前期の授業内容のまとめをするとともに、前期の授業内容を俯瞰し、大きなシステムとしての法がどのような機能を営んでいるかを解説し、授業内試験を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、法学の機能について説明できる。	
	事前学修	前期の授業をまとめ、それぞれの制度を自分の言葉で説明ができるか確認し、不明点を確認しておく。	120分
	事後学修	今後の学ぶ具体的な法律の予習の際に、法的思考能力が身につき、論理的に考えられているかを実践する。	120分
15	試験講評		前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、試験の講評を踏まえて、今後の法律の学習に必要な法学の機能について説明できる。	
	事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
	事後学修	全15回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	西山 智之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式を中心とするが、受講生から意見を聴く機会を多く設ける予定である。是非、積極的に自分の考えや授業への要望を述べて欲しい。毎回の授業で、授業で学んだことや要望等を記入するリアクションペーパーを提出してもらう予定である。		
※なお、社会の状況により授業計画の一部が変更になることがある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】						1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】						1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】						1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】						1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】						1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】						1				1			
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④⑤⑥について、レポート等の提出物が要件を満たし、かつ課題に適切に答える内容になっているかを前提に、基礎知識が身についているか、課題を適切に考察した上で説得的に述べられているかを基準として評価する。	10	10	15	15	15	15					80
討論・発表等												
授業への参画度	到達目標⑥について、授業時の担当教員からの問に適切かつ積極的に対応しているか等の評定尺度に照らして、法的思考能力が身についているかを評価する。						20					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	15	15	15	35					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業終了時に毎回、課題やコメントカードを提出してもらい、その次の回に記載されていた意見や質問に対応する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next教科書シリーズ [第3版]	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
備考	必要に応じて、授業時に補足の資料を配布します。				

【オフィスアワー】
水曜日16：20～17：50に研究室又はオンラインで行います。事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。他の曜日・時間でも対応できます。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス【授業の進め方、勉強の仕方についての説明】		授業の目的、到達目標、授業の方法、評価方法等について受講生に説明した上で、法を学ぶとはどのようなことなのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が次回以降の授業の準備を円滑に行うことができる。		
	事前学修	法に関するものならば何でも良いので、自らの関心のある法に関係したテーマを見つけて学習意欲を高め、ノートに記述してくる。		120分
	事後学修	授業で配布したレジュメを見直し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、法学の社会での役割について確認し、ノートに300文字程度で記述する。		120分
2	法に関する情報の探し方		インターネット上の判例検索システムや雑誌記事索引データベース等を中心に、法に関する学術論文や判例はどのように探せば良いのかについて解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、受講生が今後、大学での学習を進めるうえで自ら必要な法情報を収集することができる。		
	事前学修	インターネットや図書館等で法に関する情報源にはどのようなものがあるのかについて調査し、ノートに列記してくる。		120分
	事後学修	自分が関心のある法に関するテーマの文献等を、実際にインターネット上のデータベースで検索する。そしてその論文や判例を読み、ノートに500文字程度で要約してみる。		180分
3	社会と秩序と法		社会において、法がなぜ必要なのかについて身近な事例を用いて解説し、法の存在理由について理解を深めてもらう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受講生が法の存在理由について正確に理解し、説明することができる。		
	事前学修	教科書の12頁、23～26頁を読み、なぜ社会には法が必要なのかについて考え、自分なりの意見をノートに300文字程度で列記してくる。		120分
	事後学修	社会における法の存在理由について、他学部の友人や家族に説明できるように、ノートに500文字程度で整理し、実際に他学部の友人や家族に説明してみる。		180分
4	法の存在形式		法と呼ばれるものには、「法律」の他、「条約」「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等様々なものが存在する。そうした法の存在形式について、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が「法」と「法律」の違いや、「命令」「条例」「慣習法」「判例法」等の社会に多く存在する法について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書の35～43頁を読み、生活する上で自分たちの周りにはどのような法が存在するのかを確認してノートに列記してくる。		120分
	事後学修	授業で取り扱った「憲法」「法律」「命令」「条例」「条約」について、どのような関係性にあるのかを図式化してみる。		180分
5	法の分類		自然法と実定法、公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法等、法の分類方法とその具体例について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、受講生が法の分類方法とその具体例について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書の45～53頁を読み、第4回で取り扱った法はどれに分類されるかを考え、ノートに列記してくる。		100分
	事後学修	配付したレジュメを確認し、法の分類について具体例を含めてまとめを行い、改めて自分でノートに図式化してみる。		140分
6	法と道徳		法と道徳の関係性について、具体例を挙げながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生が法と道徳の関係性について正しく理解し、法と道徳の違いについて説明することができる。		
	事前学修	教科書の12～17頁を読み、法と道徳の関係性について図にまとめ、その説明をノートに300文字程度で記述してくる。		100分
	事後学修	授業で解説した内容について、具体例も含め、法と道徳について自分はどのように考えるのかをノートに500文字程度に列記しておく。		140分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法と正義		正義とは何かについて、法哲学における正義を取り上げ解説を行う。そして受講生に事例に沿いながら正義とは何かについての意見を求める。
	この回の到達目標	到達目標①②⑥に関連して、受講生がこれまで人類で議論されてきた正義の考え方について理解した上で、自らの意見を他の受講生が納得できるように論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書の26～29頁を読み、正義とは何かについて考え、自分の考えをノートに列記してくる。	100分
	事後学修	アリストテレスの正義論について、どのような分類がなされているのか、各300文字程度で解説をノートに記述する。	140分
8	条文の読み方		具体的な条文を使用し、条文の基本的な読み方、そして法令用語としての「並びに」と「及び」、「又は」と「若しくは」等の使い方について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として今後法律を学修する上で問題がないレベルに条文のつくりを理解し、条文を読むことができる。	
	事前学修	教科書の5～7頁、62～63頁を読み、法令用語について確認しておく。 配付されている六法を開き、関心のある法律の条文を声に出して読んでみる。	60分
	事後学修	授業で解説した条文の読み方を踏まえて、事前学習で読んだ条文を再び声に出して読んでみる。 「並びに」と「及び」、「又は」と「若しくは」等の使い方についてノートにそれぞれ200文字程度で記述しておく。	180分
9	裁判と法		我が国の裁判の種類や裁判所の構成、裁判の原則、法曹三者、裁判員制度等について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、受講生が日本の裁判システムについて正確に理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の213～232頁を読み、法曹三者とは誰の事をいうのか、その三者はどのような仕事をするのかをそれぞれ200文字程度でノートに記述してくる。	80分
	事後学修	ノートに、裁判所の種類とその構成について図式化し、裁判の種類とその概要をそれぞれ300文字程度にまとめ記述しておく。	160分
10	判例の読み方		判例とは何か、判例の構造について解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として今後学修する上で問題がないレベルに判例のつくりを理解し、判例を読みこなすことができる。	
	事前学修	教科書の8～9頁、218～224頁を読み第9回の内容をもう一度復習しておく。 「判例」と「裁判例」の違いを調べノートに200文字程度で記述してくる。	100分
	事後学修	「最大判昭和50年4月30日民集29巻4号572頁」という標記の中にどのような情報が入っているのか、ひとつひとつ書き出し30～100文字でノートに列記しておく。	140分
11	法の解釈と適用		拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈等の解釈方法について、具体例を用いながら解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が様々な法解釈の方法について正確に理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書55～66頁を読み、66頁のコラム「「車馬」の解釈について」はどのようなことを言っているのか、ノートに300文字程度でまとめて記述してくる。	60分
	事後学修	拡大解釈・縮小解釈・反対解釈・類推解釈の各解釈方法について、ノートに自分の言葉で例を挙げながら解説を書いておく。	180分
12	重要な法(律)用語の解説		「人権」「基本的人権」「基本権」、「法律行為」「法律要件」「法律効果」、「科する」「課する」等の、良く法(律)文献に登場するが意味が曖昧になりがちなものについて解説を行う。
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、受講生が法学部生として今後学修する上で問題がないレベルに法(律)用語を理解し、法(律)文献を読みこなすことができる。	
	事前学修	刑法の「一般予防」と「特別予防」はどのような意味か、それぞれ300文字程度でまとめノートに記述してくる。	80分
	事後学修	授業中に話した重要な法(律)用語の意味内容について、忘れないようにカード等にまとめ、何度も復習を行い完璧に暗記する。	160分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	日本国憲法		日本国憲法の構成や基本的人権・統治機構等について、基本的事項を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が日本国憲法について、構造や基本事項をおおまかに理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書67～106頁を読み、日本国憲法の前文+1条～99条までを声に出して読んでくる。		80分
	事後学修	日本国憲法とは何か、小学生にも理解できるようにノートに解説を400文字程度で記述しておく。		160分
14	刑事司法制度		刑法の基本原理や犯罪の成立要件、刑罰の意義、刑罰の種類等について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が刑法の機能や刑罰の役割について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書151～170頁を読み、その後、刑法の全ての条文に目を通してくる。		80分
	事後学修	罪刑法定主義から導かれる原則を4つ挙げ、それぞれ300文字程度でノートに解説を記述しておく。		160分
15	情報と法、行政と法		行政の概念や法律による行政の原理等の行政法に関する事項、また個人情報保護法や特定秘密保護法などの情報に関する法について、解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受講生が、行政に関する法の基本や情報に関する法の基本について正しく理解し説明することができる。		
	事前学修	教科書233～272頁を読み、「行政法」とは何を指しているのかについてノートに200文字程度で記述してくる。また個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）の条文に目を通してくる。		80分
	事後学修	法律による行政の原理に関する3つの原則を挙げ、それぞれ自分の言葉で200文字程度でノートに記述しておく。特定秘密保護法の問題点についてノートに300文字程度で記述しておく。		160分

科目名	法学Ⅰ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関する簡単なアンケートを行い、次の授業でフィードバックする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の最初に、そのフィードバックを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルを通して、課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編著	弘文堂	2017年 度		必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日17時～18時 研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	法の社会における機能について学ぶ。	
	この回の到達目標	法の社会における機能について説明することができる。	
	事前学修	六法や法学の教科書等をざっと目を通してみること。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
2	法の学び方	六法の使い方や法律データベースの使い方について学ぶ。	
	この回の到達目標	法律の検索や判例の検索をすることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
3	法の概念①	法と社会秩序、法と道徳について学ぶ。	
	この回の到達目標	法と社会秩序、法と道徳について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
4	法の概念②	法と強制、権利と義務について学ぶ。	
	この回の到達目標	法と強制、権利と義務について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
5	法の目的・機能①	法の意義、目的・正義、法的安定性について学ぶ。	
	この回の到達目標	法の意義、目的・正義、法的安定性について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
6	法の目的・機能②	行為規範、裁判規範について学ぶ。	
	この回の到達目標	行為規範、裁判規範について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法の存在形式	成文法と不文法、成文法の法源、不文法の法源について学ぶ。	
	この回の到達目標	成文法と不文法、成文法の法源、不文法の法源について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
8	法の分類	自然法と実定法、公法と私法について学ぶ。	
	この回の到達目標	自然法と実定法、公法と私法について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
9	法の分類	実体法と手続法、国内法と国際法について学ぶ。	
	この回の到達目標	実体法と手続法、国内法と国際法について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
10	法にかかわる職業	弁護士、検察官、裁判官などの法にかかわる職業について学ぶ（ゲスト講師）。なお、ゲスト講師については、予定調整により変更となる場合がある。	
	この回の到達目標	法にかかわる職業について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。法にかかわる職業について、調べておく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
11	裁判制度	裁判制度について学ぶ。	
	この回の到達目標	裁判制度について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
12	法の解釈の意義	法の解釈の意義について学ぶ。	
	この回の到達目標	法の解釈の意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	事実認定と法の解釈	具体的な事例や判例を素材に、事実認定と法の解釈について学ぶ。	
	この回の到達目標	事実認定と法の解釈について説明し、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	法の解釈の方法	具体的な事例や判例を素材に、法の解釈の方法について学ぶ。	
	この回の到達目標	法の解釈の方法について説明し、法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	前学期のまとめ試験及び振り返り	1～14回の内容を確認し、フィードバックを行う。	
	この回の到達目標	法学の基礎知識を習得できているか確認し、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	前学期講義内容を確認する。	120分
	事後学修	前学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心とする。資料はプリントないしデジタルデータで配布する。 六法は、持参するか、スマホ等で「e-GOV法令データ提供」を利用してもよい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回に、出題した全ての設問に関して解説する。また試験問題を含め、法学に関する質問に答える。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学(教材コード 000515)		通信教育部教材			
備考	テキストは、通信教育部教材の「法学」とする。このテキストは、丸沼書店にて購入することになります。ガイダンスの際に説明します。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンスを中心に進める。法学Ⅰの全体としての講義内容について説明し、テキスト、参考文献、成績評価方法などについて説明する。また、「e-Gov法令検索」、「判例検索」、法律関係データベースの使用方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の定義を大まかに理解し、その定義を簡単に説明する。	
	事前学修	法学を学ぶことの意味を考えてみること。テキスト「法学Ⅰ第1章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	論理的思考と論理的説明の重要性をよく理解すること。	120分
2	法とは何か	法とはどのようなものであり、なぜ必要なのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法の必要性を理解し、その必要性を説明する。	
	事前学修	法という言葉から何を連想するか確かめる。テキスト「法学Ⅰ第8章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	法は社会的生活を営む人が作り出すものであることを理解すること。テキスト第1章と第8章を合わせて理解する。	120分
3	日本の法制度 継受法 固有法	法がどのように形成されてきたか、おもに日本における法制度について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、日本における法制度が明治期に大きく変わることを理解し、現代につながる法制度を説明する。	
	事前学修	日本の法制度を日本史から考えてみる。テキスト「法学Ⅰ第3章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	他国との関係から日本の法制度がどのように変化し現代に至っているかをまとめておくこと。	120分
4	法と他の社会規範1 法と道德の違い	社会規範である法と道德とは全く別のものとして分類されるのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と道德の違いについて理解し、説明する。	
	事前学修	我々の生活を律するものは法以外に存在するのか考えてみる。テキスト「法学Ⅰ第2章、法学Ⅰ第6章(刑法の基本原則)」部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	法と道德の区別ができるようにまとめておくこと。	120分
5	法と他の社会規範2 法と宗教、法と慣習(習俗)との違い	社会規範である法と宗教、慣習(習俗)とは全く別のものとして分類されるのか考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法と宗教、慣習(習俗)との違いについて理解し、説明する。	
	事前学修	法と他の社会規範との違い。テキスト「法学Ⅰ第2章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	法と宗教、慣習(習俗)との区別ができるようにまとめておくこと。	120分
6	法の目的 法と正義	法の目的としての正義とはどのようなものであるか、法は人を平等に扱うが、例えば、大人と子供を対等に扱うことが平等な扱いなのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、法のいう正義、平等を正しく理解し、その理解に基づいて系統立てて説明する。	
	事前学修	法は何を実現しようとするのか。テキスト「法学Ⅰ第11章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	法のいうところの正義とはどのようなものかを理解すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法源 1 法源とは何か 成文法と不文法の特徴	現代社会における法を発見する手掛かりになるものとして、「成文法」と「不文法」との特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、成文法と不文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての的確に説明できる。	
	事前学修	法を知る手がかりとなるものは何であるか。テキスト「法学 1 第8章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	現代は成文法が中心的役割を担っていること。成文法の種類と特徴、不文法の種類と特徴を理解すること。	120分
8	法源 2 法源としての成文法	現代社会における法を発見する手掛かりになるものとしての「成文法」と種類と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、各成文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての的確に説明できる。	
	事前学修	成文法について、テキスト「法学 1 第8章」、「法学 2 (日本国憲法)第21章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	法の解釈・適用において重要であるから、各成分法の関係を理解すること。	120分
9	法源 3 法源としての不文法	現代社会における法を発見する手掛かりになるものとしての「不文法」と種類と特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、各不文法の特徴、各分類の相互関係を理解し、それらについての的確に説明できる。	
	事前学修	不文法について、テキスト「法学 1 第8章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	裁判所の判決が、不文法とされる理由を説明できるようにすること。	120分
10	法の分類 普通法(一般法)と特別法、強行法と任意法、公法、私法、社会経済法 など	各法の相互の関係について説明する。例えば、一般法(普通法)と特別法、任意法と強硬法、公法と私法と社会経済法、など	
	この回の到達目標	到達目標②⑤に関連して、各法の関係を理解し、法の適用においてその関係に従った説明をする。	
	事前学修	法の適用には順番があることを確認する。テキスト「法学 1 第 4 章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	法の適用には順番があること、どの法(条文)が優先するのか正しく理解すること。	120分
11	法の効力範囲 時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲	法(日本の国内法)の効力範囲(時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲)について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①④⑤に関連して、現代法の大原則と各効力範囲に関して理解し、法の適用範囲を説明する。	
	事前学修	日本の法律はどのような範囲に効力が及ぶのか確かめる。テキスト「法学 1 第6章(刑法の基本原則)」部分を読んでおくこと。日本の法律はどのような範囲に効力が及ぶのか確かめる。	120分
	事後学修	国境のないインターネットの世界では、どこの国の法律が適用されるのかを考えまとめておくこと。	120分
12	法の解釈と適用 1 事実認定 推定、擬制	法の解釈と適用について、法を適用する事実をどのように発見するのかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、事実認定、推定、擬制について理解し、それらに基づき法を適用し結論を導くことを説明する。	
	事前学修	脳死と判定されたドナーの心臓にナイフを刺して心停止にすると何罪になるか考える。テキスト「法学 1 第9章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	どの条文が推定の規定か、犠牲の規定か確認しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	法の解釈と適用 2 有権解釈 学理解釈 論理解釈 拡張解釈と類推解釈など		法の解釈と適用について、具体的な事実に対し抽象的な法律を適用する為の法の解釈方法について考える。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、現代法の大原則と各解釈方法に基づく結論の導き方を理解し、具体的事実に対し解釈に基づく法の適用により結論を導くことを説明する。 14		
	事前学修	テキスト「法学 1 第9章」を読んでおくこと。		120分
	事後学修	解釈のそれぞれの分類の意味を正しく理解しまとめておくこと。		120分
14	試験(授業内評価) 授業の振り返り		これまでの講義内容に関する質問に答えたうえで、講義の範囲内からの出題で論述式試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、出題された選択肢から一問を選び、問題に関して十分に理解し、的確に十分に説明(解答)する。		
	事前学修	今期の講義内容を復習しておく。		120分
	事後学修	解答が十分であったか否かについて復習しておくこと。		120分
15	試験に関する解説		出題した全ての設問に関して解説する。また試験問題を含め、法学に関する質問に答える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関連して、出題された全選択肢について十分に理解し、的確に十分に説明(解答)する。		
	事前学修	試験の解答が十分であったか否かについて、他の選択肢の解答について復習しておくこと。		120分
	事後学修	十分に解答できなかったところは、復習すること。		120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	三隅 諒	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義の動画をオンデマンド配信するので、それを視聴してもらう。 予習用に簡単なレジュメを出す予定なので、視聴する前に各自で考えてみてほしい（提出する必要はない）。また、復習用に課題を出すことがあり、こちらは何回か提出してもらう予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】						1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】						1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】						1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】						1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】						1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べる。【態度・習慣】						1				1			
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
Google Classroom上にてコメント付きのファイルを返却するか、又はコメントを直接入力する。メールでの質問にはメールで回答する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法を学ぼう	三上威彦ほか	信山社	2020	教科書	推奨
学生生活の法学入門	山下純司ほか	弘文堂	2019	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜14:00～15:30（休暇中を除く） 可能な限り、事前にアポを取ること（misumi.ryo@nihon-u.ac.jp） 研究室（9号館2階）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	法学とは	法学とは何かについて、簡単な事例問題に対するアプローチを見ながら、イメージを修得する。担当者の関心上、実社会で現在通用している法律を、どのように使いこなすかということを重点的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、法学（特に実定法）を学ぶことのイメージを習得する。	
	事前学修	シラバスを読むとともに、推奨された教科書を手に取り、興味・関心の湧く箇所を一読してみる。また、予習レジュメの問題について考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再び考えるとともに、教科書を（わからないところがあってもいいので）一読してみる。	120分
2	刑事法①	法解釈の技法を学ぶ一助として、犯罪論の基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関して、犯罪の成否に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える	120分
3	刑事法②	法解釈の技法を学ぶ一助として、犯罪論の基本的な考え方を具体的に表現する方法を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関して、犯罪の成否が問題となる基本的事例を、法的な思考手順に即して処理し、それを言語で表現できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える	120分
4	民事法①	法解釈の技法を学び、かつ法分野ごとの考え方の差異を理解するため、民事法のうち契約法に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関して、契約に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える	120分
5	民事法②	法解釈の技法を学び、かつ法分野ごとの考え方の差異を理解するため、民事法のうち不法行為法と物権法に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関して、不法行為と物権に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える	120分
6	日本の訴訟システム①	実体法と手続法の差異を理解し、手続法の固有の発想を学ぶため、主として民事訴訟に関する考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関して、民事訴訟に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出題した復習課題を考える	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	日本の訴訟システム②	実体法と手続法の差異を理解し、手続法の固有の発想を学ぶため、主として刑事訴訟に関する考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関して、刑事訴訟に関する基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える	120分
8	公法①	日本の法制度の理解、及び法解釈の技法を学ぶ一助として、憲法における人権論に関する基本的な考え方を修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤に関して、人権論の基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える	120分
9	公法②	法解釈の技法を学ぶ一助として、行政法の基本的な考え方を習得する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関して、行政法の基本的な考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える	120分
10	法の基礎理論	法の存在形式や一般法と特別法の関係などについて、前回までの学習も踏まえて理解を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関して、法の存在形式や一般法と特別法の関係を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える	120分
11	判例と法解釈	法解釈の在り方や判例の法諺性などについて、前回までの学習も踏まえて理解を整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑤⑥に関して、法解釈のあり方や判例の法諺性を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える	120分
12	問題解決と諸法	1つの問題に対する問題解決の在り方について、特に法学の内部の観点から、法分野の違いに応じてどのような解決がありうるかを整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①③⑤⑥に関して、法分野の違いに応じた考え方の差異を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	法と隣接領域	1つの問題に対する問題解決の在り方について、特に法学と他の諸科学の対比という観点から、どのような解決がありうるかを整理する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、法と隣接分野での考え方の差異を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える	120分
14	法律文献の調べ方	法学を今後学ぶ上で、自学自習を進めるための基礎的な技法を修得・整理する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関して、法学を学ぶ上での自学自習の方法を理解する。	
	事前学修	教科書の該当箇所を一読し、予習レジュメの問題を考えてみる。	120分
	事後学修	予習レジュメの問題を再度考えるとともに、講義中に出题した復習課題を考える	120分
15	授業内試験・講評	授業内試験を行い、試験後に解説を行う。また、やや時間を開けて講評の機会を設ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥に関して、法学を学ぶ上で必要な知識を整理する。	
	事前学修	試験勉強として、講義全体の予習レジュメ・復習課題を再度考えてみる。	120分
	事後学修	講評の内容を自分なりにまとめる。	120分

科目名	法学Ⅰ	担当者	長谷川 福造	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。

【履修条件】
指定教科書と2021年版の小型六法（ポケット六法〔有斐閣〕又はデイリー六法〔三省堂〕）を必ず毎回持参すること。

【授業方法】		
指定教科書の順序に沿ってオンデマンド形式で行う。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。講義の進展状況に応じて、小テストで理解度の点検を実施する。指定教科書と2021年版の小型六法を毎回持参すること。2019年版より前の六法を使用してはならない。教科書又は六法を持参し忘れて各種テストに回答できない場合、評価を減点するので注意すること。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の社会における機能を説明することができる。【知識】				1				1			
②	法と隣接する他の領域の内容について説明することができる。【知識】				1				1			
③	法の存在形式や分類方法について説明することができる。【知識】				1				1			
④	日本の裁判のシステムやその問題点について説明することができる。【知識】				1				1			
⑤	法解釈の技法について説明することができる。【知識】				1				1			
⑥	法的思考の方法に基づいて自己の見解を系統立てて述べることができる。【態度・習慣】				1				1			
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤⑥についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	20	20	20	20					100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での解説及び前期終了後のポータルシステムでの配信によってフィードバックを実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第3版）Next教科書シリーズ	高橋雅夫 編	弘文堂	2020	教科書	必携
ポケット六法（2021年版）	佐伯仁志・大村敦志	有斐閣	2020	教科書	必携
デイリー六法（2021年版）	大石眞ほか編修	三省堂	2020	教科書	必携
ブレップ法学を学ぶ前に（第2版）	道垣内弘人	弘文堂	2018	参考書	推奨
法律の条文解釈入門（新版）	小室百合	信山社	2018	参考書	推奨
超約 ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト著	東京書籍	2019	その他	任意
備考	ポケット六法2021年版とデイリー六法2021年版は、どちらか1冊を必ず毎回持参すること。法学（第3版）Next教科書シリーズと六法を必ず毎回持参すること。六法、教科書及び参考書を購入する際は、何版かに注意すること。『超約ヨーロッパの歴史』は、法学の系譜・経緯を理解する手助けとなる書籍の一つである。				

【オフィスアワー】
原則としてメールで対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士として実際に経験・見聞した事例に基づいて、法学の教材に関連する事柄を守秘義務に抵触しない範囲で具体的に説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・大学で法を学ぶこととは	高等学校までの12年間に設定されている各科目（社会科や国語だけでなく、英語・数学・理科なども含む）の学修事項と、法学の理解・体得は密接に関連している。また、法学部の4年間で修得する法学・法律・法の仕組みは、今後の就職活動・各種資格試験準備や卒業後の職務執行にダイレクトに繋がっている。初回のイントロダクションにおいて、大学で法を学ぶ意義を体得し、今後の大学生活と社会人としての人生の歩み方の重要性を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①及び②に関連して、高等学校までの学修と法学の連続性を理解し説明できるようになるとともに、法学部卒業後の社会生活と法学の密接不可分性を理解し説明することができる。到達目標③に関連して、前期15回の講義の展開を理解し、具体的に正しく説明することができる。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法学部での4年間の学修における法学の位置づけと重要性を体得し、正しく明確に説明することができる。	
	事前学修	必ず指定教科書と六法を講義前日までに購入し、当日の講義に持参すること。シラバスに書かれている事項を全て読んだ上で、7月下旬までの15週間で自分が何をしなければならないか、執り行わなければならない各種の義務を具体的に正確に理解しておくこと。高等学校までに自己が学んできた事柄について、社会科や国語だけでなく、英語・数学・理科での学修事項を思い出して、これらの学修事項と法学部での学修がどのように関連しているかを具体的に考え、述べることができるようにしておくこと。	120分
	事後学修	第1回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせて、7月下旬までの15週間の学修計画を具体的に策定すること。到達目標を必ず正確に達成すること。1年生を対象とした前期の講義科目であることに配慮して、受講する学生の利便性向上・サポートのため、各回の事前・事後学修事項を丁寧に工夫して叙述しました。また、紙幅の関係でこのシラバスに記載していない受講生の義務も沢山あります。自分自身が実行すべき事柄を正しく確知して着実に実行し、大学生活最初の学期15週間を乗り切るものにしましょう。	120分
	法の学び方	指定教科書第1章「法の学び方」を題材とする。法と論理的思考、法律や判例の読み方・探し方を体得し、実行することができる。なお、シラバス作成時点で、教科書第3版が刊行前であるため、このシラバスは第2版に準拠して章立てと講義回を組み合わせている。第3版の構成が第2版と異なる場合は、適宜第3版に対応して内容を補訂する。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
2	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法と論理的思考を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法律や判例の読み方を正しく体得し、実行できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第1章「法の学び方」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。5月以降の講義時に質疑応答やリアクションペーパー作成を行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
	事後学修	第2回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせて、法をどのように学ぶことが適切かを理解し実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
3	法の目的・機能	指定教科書第3章「法の目的・機能」を題材とする。講義回数に対応させて章立てを配分したことから第2章を配当していないが、第2章で説明のある事項については、第3回～第15回までの間に適切に工夫して解説する。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法が存在することの意味を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、行為規範・裁判規範としての法を正しく理解し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第3章「法の目的・機能」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。5月以降の講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
	事後学修	第3回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の目的・機能を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今後2か月間の当期の学修計画を再点検し、必要に応じて修正して、再構成した計画に基づいて学修と鍛錬を実行する。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
4	法の存在形式（法源論）	指定教科書第4章「法の存在形式（法源論）」を題材として、講義・説明を実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、法が存在形式を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、成文法源と不文法源を正しく理解し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第4章「法の存在形式（法源論）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。次週以降の講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、この4月の段階から毎回この両方を持参することを習慣化して実行すること。	120分
	事後学修	第4回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の存在形式（法源論）を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
5	法の分類	指定教科書第5章「法の分類」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、自然法と実定法の関係を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、公法・私法の識別、実体法・手続法の識別、及び国内法・国際法の識別を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第5章「法の分類」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。今回以降、講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
	事後学修	第5回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の分類を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今期が始まって1か月が経過したことから、この1か月間で法学及び法律専門科目で修得してきた事項が何かを詳細に点検するとともに、1か月間で到達すべき水準に達していない事柄を特定した上で、今後2か月間でどのように充足・向上させていくかの計画を正しく策定する。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
6	法の解釈と適用	指定教科書第6章「法の解釈と適用」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、事実認定と法の解釈の関係を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法の解釈の性質と方法を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第6章「法の解釈と適用」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
	事後学修	第6回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。法の解釈と適用を理解し、既に始まっている他の法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
7	日本国憲法（人権）	指定教科書第7章「日本国憲法（人権）」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、人権の特質、享有主体、及び基本的人権の限界を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、包括的基本権、法の下での平等、自由権、社会権、及び国務請求権・参政権を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第7章「日本国憲法（人権）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた憲法に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
	事後学修	第7回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。日本国憲法（人権）を理解し、既に始まっている憲法の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
8	日本国憲法（統治）	指定教科書第8章「日本国憲法（統治）」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、統治の基本構造を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、国会、内閣、裁判所、及び財政・地方自治を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第8章「日本国憲法（統治）」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた憲法に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
	事後学修	第8回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。日本国憲法（統治）を理解し、既に始まっている憲法の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
9	家族と法	指定教科書第9章「家族と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、家族法の理念を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、婚姻と離婚、親子、扶養、及び相続を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第9章「家族と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。高等学校まで学修してきた家族に関連する事項を網羅的・具体的に思い出して、自分の記憶においてどのような事柄がアウトプットできるかを書き出しておくこと。	120分
	事後学修	第9回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。家族と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。今期の期末まで約1か月になっていることから、これから先の1か月間で、各講座における法律の学修の到達目標の実現度合いを必ず点検すること。この点検に基づいて、7月下旬までどのように学修を進捗させていくべきか、取り組むべき事項、優先順位、及び具体的なスケジュールを詳しく計画化すること。策定した計画を必ず実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
10	財産と法	指定教科書第10章「財産と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、私法の構造を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、民法総則、物権、及び債権を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第10章「財産と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
	事後学修	第10回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。財産と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。第9回の事後学修において策定した計画について、この1週間どの程度実行できたか、実行できなかった事項が何かを各自で具体的に必ず点検すること。この点検に基づいて、今期末までの1か月間、どのように学修を実施するかを明確に計画化すること。策定した計画を必ず実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分
11	犯罪と刑罰	指定教科書第11章「犯罪と刑罰」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、犯罪と刑法、及び刑罰の内容と本質を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、刑法の基本原理解、及び犯罪の成立要件を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第11章「犯罪と刑罰」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
	事後学修	第11回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。犯罪と刑罰を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
12	企業と法	指定教科書第12章「企業と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。講義は基本的に教科書の叙述の順序に沿って進めることから、進捗に応じてシラバスの各回配当事項と前後して展開する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、企業の意義を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、法人企業、非法人企業、及び企業の活動（商取引）を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第12章「企業と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
	事後学修	第12回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。企業と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
13	雇用と法	指定教科書第13章「雇用と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。また、7月に入った後13回目から15回目においては、場面に応じて今期の「法学」の講座に関する総括的な解説・説明を、受講者の理解状況に照応して実施する予定である。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、労働法の原理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、個別的労働関係法、集団的労働関係法、及び労働市場法を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第13章「雇用と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
	事後学修	第13回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。雇用と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。必要に応じて、学修計画自体を点検し、自己の状況に沿って改訂すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	120分
14	裁判と法	指定教科書第14章「裁判と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、裁判の意義・種類を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、裁判所の構成、三審制度、裁判公開の原則、法曹三者、及び裁判員制度を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第14章「裁判と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テストを行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
	事後学修	第14回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。裁判と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
15	行政と法		指定教科書第15章「行政と法」を題材として、講義・説明を実施する。受講者数と理解の進捗状況に対応して、適宜テストを実施する。必要に応じて進捗を告知するので適時に確認・点検すること。必ず毎回、六法と指定教科書を持参すること。指定教科書第16章については、講義回数に対応してテーマとして配当していないが、必要に応じて各回で工夫して解説する。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、行政の意義、及び法律による行政の原理を正しく理解し説明できるようにする。到達目標④・⑤・⑥に関連して、行政救済、行政手続、及び市民参加と行政を正しく体得し、具体的に叙述・説明できるようにする。	
	事前学修	指定教科書第15章「行政と法」を講義前日までに読んでおくこと。指定教科書と六法の両方を持参することが義務である。講義時に各種テスト行う場面で、どちらか一方又は両方を持参し忘れたことによって各種テストが滞った場合は評価を減点するので、何を講義に持参しなければならないかを必ず点検し、指定教科書と六法を必ず持参すること。	120分
	事後学修	第15回の講義で説明の有った事柄について、講義時に自分で書き取った手控え・メモと各教材と照らし合わせる。行政と法を理解し、受講している法律専門科目の講義で説明を受けて自己が理解を進捗させている事項と照らし合わせる。既に策定した期末までの学修計画を的確に実行すること。到達目標を必ず正確に達成すること。	150分

科目名	法学Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】
新型コロナウイルスの現況に鑑みて、原則的にオンデマンド方式とする。動画の配信およびレジュメの配布をおこなう。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1			
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。								1	
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての基礎知識が身についているかを、 WEB上の提出物により評価する。	50	50									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	日本の法制と私たちの生活	私たちの日常生活において、法制度はどのようなところに見出されるのであろうか。この授業では、身近な法律問題から、私たちの生活と法制度との関係を考察する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、私たちの生活における法制度の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。	120分	
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。	120分	
2	不動産取引	日本における不動産取引をめぐる法制度を紹介する。とりわけ、登記制度を中心に解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不動産取引に関する法制度を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。	120分	
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。	120分	
3	借地借家法	借地借家法は、日本における不動産賃貸の枠組みを決める重要な法律である。この授業では、借地借家法の基本部分について、ケーススタディを交えながら解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、借地借家法の基本事項を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。	120分	
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。	120分	
4	都市計画法・建築基準法	日本の大都市は、都市計画法や建築基準法などの特別な法令によって、さまざまな開発規制・建築規制をかけられている。この授業では、道路幅などのとりわけ重要な項目に焦点をしばって解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、都市計画法および建築基準法の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。	120分	
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。	120分	
5	区分所有法	区分所有法は、分譲マンションの住人たちの権利義務を定める特別法である。この授業では、ケーススタディを交えながら、分譲マンションにおける住人間の利害調整の仕組みについて解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、区分所有法の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。	120分	
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。	120分	
6	社会保障制度（年金）	年金は、日本における老後資金の重要な財産項目である。この授業では、現状の年金制度について、その大枠を解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、年金制度の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。	120分	
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会保障制度（保険）		日本には、公的医療保険などを始めとするさまざまな社会保険制度が存在する。この授業では、医療保険および失業保険に焦点をしばって、その枠組みを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会保険制度を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
8	債券		現代社会において、企業も公共団体も、大規模な資金調達を迫られることがある。この授業では、債券という資金調達方法について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債券とはなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
9	株式		前回の授業に引き続き、株式という資金調達方法について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、株式とはなにであるかを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
10	金融商品に関する法令		現代においては、さまざまな金融商品が溢れており、その複雑性から、これを厳格に規制する立法が相次いでいる。この授業では、金融商品に関する法令をいくつか取り上げ、その内容について解説を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融商品に関する法令をいくつか挙げて説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
11	税法		租税は、近代国家の重要な歳入項目であり、日本に住むひとびともさまざまなかたちで租税を納めている。この授業では、とりわけ代表的な税制にいくつか注目し、これに解説を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の税制の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
12	家族法		家族は、社会的制度であるとともに、法的制度でもある。家族関係は、民法等によってその権利義務関係を設定されるからである。この授業では、日本における家族制度の大枠について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の家族制度を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	相続法		人は出生によって権利主体となり、死亡によってその地位を失う。人が生前に有していた財産は、その帰属関係をめぐって法的な規律に服することになる。その最も中心的な枠組みが、相続制度である。この授業では、日本における相続制度の大枠について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相続制度の概略を説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
14	現代における人権の諸相		人権は、現代における最も基礎的かつ重要な権利であるが、その内容と実現については、世界情勢と相俟ってさまざまな問題に直面している。この授業では、現代における人権問題のいくつかを取り上げ、解説を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代における人権問題をいくつか挙げ、これを説明することができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分
15	法学と21世紀の社会		古代、中世、近世、近代の法学が、現代社会とは異なる枠組みで営まれていたように、21世紀においても法学のかたちは変遷するであろう。この授業では、21世紀において新たに発生した問題と、法学との関わりについて考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、21世紀における法学の役割を理解し、その将来的な方向について自分なりの意見を持つことができる。		
	事前学修	配布されたレジュメを読み、ノートにまとめる。分からない箇所についてはあらかじめ調べ、自分なりの理解を示す。		120分
	事後学修	授業内容をふりかえり、事前に作成したノートと照らし合わせて理解を整理する。		120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
六法を持参すること。

【授業方法】
講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関するリアクションペーパーを書いてもらい、次の授業でフィードバックする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1			
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や 論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはポータルを通じて、課題のフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学（第2版）	高橋雅夫編著	弘文堂	2017年 度		必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日17時～18時 研究室にて（事前にメールにてアポイントをとること）hashidume.sachiyo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	本授業で取り扱う法の各分野（公法・私法・社会法）の全体像について学ぶ。	
	この回の到達目標	法の各分野について説明することができる。	
	事前学修	法学の教科書等をざっと目を通してみること。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
2	憲法（基本原理）	憲法の基本原理について学ぶ。	
	この回の到達目標	憲法の基本原理について説明することができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
3	人権（精神的自由）	精神的自由について、判例を素材にしつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	精神的自由について説明し、判例について、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
4	人権（経済的自由）	経済的自由について、具体的な判例を素材にしつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	経済的自由について説明し、判例について、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
5	憲法（統治機構）	統治機構について学ぶ。	
	この回の到達目標	統治機構について説明することができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
6	行政法の基礎	行政法の役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	行政法の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行政法（行政行為）	行政行為について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	行政行為について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
8	行政法（行政救済法）	行政救済制度について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	行政救済制度について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
9	民法の基礎	民法の役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	民法の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
10	契約法	契約法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	契約法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
11	家族法	家族法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	家族法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
12	社会法の基礎	社会法の役割について学ぶ。	
	この回の到達目標	社会法の役割について説明することができる。	
	事前学修	教科書等を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	労働法	労働法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	労働法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書等を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
14	社会保障法	社会保障法について、具体的な事例や判例を素材にしつつ学ぶ。	
	この回の到達目標	社会保障法について説明し、事例や判例について、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	教科書等の該当部分を読んでおく。	120分
	事後学修	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと。	120分
15	後学期のまとめ試験及び振り返り	1～14回の内容を確認し、フィードバックを行う。	
	この回の到達目標	法学の基礎知識を習得できているか確認し、論理的に私見を述べることができる。	
	事前学修	後学期講義内容を確認する。	120分
	事後学修	後学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する。	120分

科目名	法学Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○				○			

【授業の概要】
本授業は、法学Ⅰで学んだ法学的素養をベースに、各法律専門分野（憲法や民法など）を学ぶことによって、今後、受講生が進級するに連れて履修することになる専門性の高い法的内容・法的課題に取り組む土台を形成することになります。また、各担当者の研究内容を踏まえ、受講生にとっても身近に感じることができるテーマ（憲法問題、社会保障問題など）も取り上げることによって、法学により一層関心を持って貰いたいと考えています。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
各法律専門分野の基礎的・基本的な思考枠組みの一端を広く浅く取り上げることによって、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することが授業目的となります。

【履修条件】
法学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義が中心となる。参考資料を必要に応じプリント又はデジタルデータで配布する。 六法は、持参するか、「e-GOV法令データ提供」を利用しても構わない。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	各法律専門分野の思考枠組みを踏まえて、法の適用・解釈ができる。						1			
②	社会で生じた諸問題について、各法律専門分野の知識を使って、問題解決の手段を示すことができる。									1
③										
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②にかかわる理解度を考査するため、記述式や 論述式の授業内試験により評価する	80	20									100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	20									100

【課題に対するフィードバックの方法】
第15回の講義の際、試験問題の全選択肢について解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法学 通信教育部教材	通信教育部	通信教育部教材		参考書	推奨
インターネット法	松井茂紀	有斐閣	2015年	参考書	推奨
備考	テキストは、通信教育部教材の「法学」を使用する。法学Ⅰを履修する際に用意したものでよい。				

【オフィスアワー】
木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。E-Mail：mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業方針の説明を行う。インターネットやコンピュータの領域への現行法の適用を考えてみる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な授業の準備ができるようになる。	
	事前学修	テキスト第9章を読んで法の適用と解釈についてもう一度復習しておくこと。	120分
	事後学修	現に行われている法の解釈の範囲で法が執行されることの理由を理解し、法の適用の限界をまとめる。	120分
2	権利の主体	権利の主体になることができるのは、誰なのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、権利について説明できるようになる。	
	事前学修	権利の主体とは何であるか、テキスト「法学1第5章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	誰が権利の主体となり得るのか、理解すること。	120分
3	日本国憲法の成立過程	日本国憲法の成立過程について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法の成立の過程について説明できるようになる。	
	事前学修	日本国憲法の成立過程を調べてみること。テキスト「法学2(日本国憲法)第2章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	日本国憲法の成立過程を、法的、論理的に説明できるようにすること。	120分
4	日本国憲法と条約	日本国憲法と条約との関係について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、日本国憲法と条約との関係について説明できるようになる。	
	事前学修	日本国憲法と条約の関係について、テキスト「法学2(日本国憲法)第21章」を読んでおくこと。	120分
	事後学修	前期に学んだ法の適用と解釈により解釈を实践して、論理的に説明できるようにすること。	120分
5	通信の秘密	他人のスマホに保存されているメールを見るのは刑法133条違反または通信の秘密の侵害に当たるかどうかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、通信の秘密の意義について説明できるようになる。	
	事前学修	他人のスマホに保存されているメールを見るのは刑法133条違反または通信の秘密の侵害に当たるか考え、テキスト「法学2(日本国憲法)第7章(7)」、刑法各論のテキスト刑法133条(信書開封罪)部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	手紙や有線電話の時代と異なり、盗み見ができる時代の通信の秘密を正しく理解できるよう復習すること。	120分
6	インターネットからの忘れられる権利	インターネット検索エンジンと個人情報の削除について考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、個人情報の取り扱い方について説明できるようになる。	
	事前学修	インターネット検索エンジンと個人情報の削除。「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」日本法学82巻1号(https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law82_1.pdf)を読んでおくこと。	120分
	事後学修	インターネット上で自己のプライバシーを侵害されないための方法を理解し実践できるよう、復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	特定商取引ー通信販売		現実社会で取引に適用される法律以外に、インターネット上の契約に適用される法律にはどのようなものがあるか考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネット上の契約について説明できるようになる。		
	事前学修	参考書「インターネット法 第7章3(電子契約をめぐる私法的な問題)」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	インターネット上の契約に適用される法律を理解し、違法サイトを見抜くことができるよう復習する。		120分
8	電子マネーとサービスポイント		電子マネー(例えば、Suica)とサービスポイント(例えば、航空会社のマイル)の違いについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、電子マネーとサービスポイントの違いについて説明できるようになる。		
	事前学修	電子マネー(例えば、Suica)とサービスポイント(例えば、航空会社のマイル)は同じものなのか確認する。参考書「インターネット法第8章3(電子マネーをめぐる法的問題)」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	電子マネーとサービスポイントの保護の違いを理解すること。		120分
9	インターネットと著作権(ホームページの著作権、いわゆる自炊)		図書館から借りた本をデジタルデータにすることは許されるか考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネットと著作権について説明できるようになる。		
	事前学修	図書館から借りた本をデジタルデータにすることは許されるか考える。(法学部学内LAN 学生教員共有→ま→水野正→法学→「いわゆる自炊行為」)を読んでおくこと。		120分
	事後学修	HPを公開することは頒布にあたる。どこまでデジタル化が可能か正しく理解し、安易なコピー行為により著作権を侵害しないよう復習し実践する。		120分
10	フィルタリングとブロッキング		未成年者が携帯電話(スマホを含む)を利用する場合のフィルタリングとすべての者の利用に適用されるブロッキングとはどういうことなのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、フィルタリングとブロッキングについて説明できるようになる。		
	事前学修	スマホで接続できないサイトがあるか確認する。新聞などでブロッキングについて確認する。参考書「インターネット法第5章」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	青少年の保護と政治的な目的によるブロッキングや知る権利との境界線を正しく理解できるよう復習する。		120分
11	インターネット上の名誉毀損		インターネット上の名誉毀損とは、どのような行為が該当するかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、インターネット上の名誉毀損行為について説明できるようになる。		
	事前学修	名誉毀損罪(刑法230条、230条の2)を確認しておく。 参考書「インターネット法第3章」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	自分が加害者、被害者とならないようネチケットとして捉え、理解し、実践できるようまとめる。		120分
12	デジタル万引き		本屋で雑誌のあるページを写真に撮り雑誌を買わずに帰った場合、犯罪になるのかどうか考える。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、デジタル万引きがどういうことかについて説明できるようになる。		
	事前学修	本屋で雑誌のあるページを写真に撮り雑誌を買わずに帰った。万引き?「いわゆるデジタル万引きと犯罪の成否」国士舘法学45号(法学部学内LAN 学生教員共有→ま→水野正→法学→「デジタル万引き」)を読んでおく。		120分
	事後学修	法学Ⅰ「法の適用と解釈」を復習し具体的な法の適用と解釈としてまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用は、法律上どのようなようになるかを考える。	
	この回の到達目標	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用は、法律上どのようなようになるかを説明する。	
	事前学修	大学のパソコンのIDやPWを友達に教え使わせるのは？「イマドコサーチ」アプリはコンピュータウイルス？ 参考書「インターネット法第9章4 ネットワークセキュリティの保護」部分を読んでおくこと。	120分
	事後学修	ネット社会を保護するための法律について、その解釈と適用の難しさを理解する。	120分
14	試験(授業内評価)授業の振り返り	今学期の講義内容に関して試験直前の質問に答えたいので、今学期「法学Ⅱ」の講義内容の範囲で論述方式の試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な解答ができるようになる。	
	事前学修	今学期の法学Ⅱでの講義内容を復習する。	120分
	事後学修	解答した内容が正しく十分であったか、他の選択肢についてみも十分に解答できるよう復習する。	120分
15	試験問題の解説。	試験問題中の全ての選択肢について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、全ての選択肢に関して十分な解答ができるようになる。	
	事前学修	解答した内容が正しく十分であったか、他の選択肢についてみも十分に解答できるか復習し、疑問点を質問できるように準備をする。(2時間)	120分
	事後学修	十分に解答できなかったところ、理解不足であったところを復習すること。(2時間)	120分

科目名	法学演習A I（憲法基礎演習）	担当者	岡田 俊幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
この授業の目的は、法学一般の基礎的事項を理解することにあるが、演習の素材としては、憲法の「基本的人権」の分野の判例を取り上げ、教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する（「憲法」を通した法学入門）。この授業は、演習形式（事例問題について報告者を指定し、報告者は、在宅にて起案等を作成して指定日までに提出した上で、起案の内容を授業で発表する。この発表に基づいて、事例問題に含まれる問題点について議論する。）も行う。（授業をオンデマンドの形態で実施する場合、学生による発表は行わない。各授業において学生に課題の提出を求め、それに対して担当教員がコメントをするという形式で授業を行う。）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回以降、質問事項と事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた議論を行う。また、学生が自宅で起案した課題を授業で発表し、この発表に基づいて、他の学生も含めて受講生の間で議論する。（授業をオンデマンドの形態で実施する場合、学生が課題の作成に取り組み、課題に対して担当教員がコメントするという形態で実施する。）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。						1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。											1	
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。(授業をオンデマンドの形態で実施する場合、授業内課題を作成する。授業をオンデマンドの形態で実施する場合、成績評価は、課題 (100%) によって行う。)	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。(授業をオンデマンドの形態で実施する場合、学生による報告発表は実施しない。各授業において課題の提出を求める。)	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。(授業をオンデマンドの形態で実施する場合、学生による報告発表は行わない。各授業において課題の提出を求める。)		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。(授業をオンデマンドの形態で実施する場合、質疑応答は、課題の提出を通して行う。)		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法第7版	芦部信喜	岩波書店	2019	教科書	推奨
憲法判例百選 I 第7版	長谷部恭男ほか	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
(前期) 月曜日18：00～18：30、20：00～20：30 （後期）月曜日18：00～17：00 13号館（法科大学院）5階 研究室1352

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス：憲法とは何か。	この授業は、「憲法」を素材とした法学入門である。まず、憲法と立憲主義について解説するとともに、公法と私法の区別などの法学の基礎事項についても説明する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「立憲の意味の憲法」（近代的意味の憲法）の意義について、説明することができる。また、権利と義務の関係、公法と私法の違い、法的三段論法について説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認を確認するとともに、憲法の講義（後期）で使用する予定の教科書その他のテキストを読み、憲法がどのような内容をもつ法律であるかを調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
2	事例問題の解き方及び判例の読み方	事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解することが必要不可欠だからである。	
	この回の到達目標	事例問題の解き方及び判例の読み方について理解する。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	表現の自由（１－１）：憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制	憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、説明できる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	表現の自由（１－２）：憲法21条2項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制	どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、説明できる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	表現の自由（２）：明確性の理論	明確性の理論について、判例を踏まえて検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明確性の理論について、判例を踏まえて説明できる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	表現の自由（３）：違憲審査基準	違憲審査基準について検討する。「表現の自由を規制する立法の合憲性は、経済的自由を規制する立法よりも厳しい基準によって審査されなければならない」という見解や、表現の内容に着目した規制と表現内容に中立的な規制を区別する見解について、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、二重の基準及び内容規制・内容中立規制二分論について説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	表現の自由（４－１）：報道の自由、取材の自由		報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について説明することができる	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	表現の自由（４－２）：報道の自由、取材の自由		報道の自由及び取材の自由について、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合や、記者に国家公務員法上の秘密漏えい罪の責任が問われた場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、報道の自由及び取材の自由について、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合や、記者に国家公務員法上の秘密漏えい罪の責任が問われた場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	表現の自由（５）：ビラ配布、パブリックフォーラム		ビラ配布等の表現行為の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ビラ配布等の表現行為の制約について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	表現の自由（６）：受刑者及び未決拘禁者の人権		受刑者及び未決拘禁者の人権について、閲覧の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、受刑者及び未決拘禁者の人権について、閲覧の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	幸福追求権（１）		憲法13条後段の定める「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」の権利としての性格について、判例を踏まえて、検討する。「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」を母体とし、そこに根拠付けられる特定の具体的な権利について、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法13条後段の定める「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」の権利としての性格について、判例を踏まえて、検討する。「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」を母体とし、そこに根拠付けられる特定の具体的な権利について、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	幸福追求権（２）		プライバシーに対する権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、プライバシーに対する権利の内容と法的効果について、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
13	政教分離（１）	どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、目的効果基準に照らして考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	政教分離（２）	どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、砂川・空知太神社訴訟等の新しい判例を踏まえて、検討する。また、政教分離規定違反の判断枠組みについての学説を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、砂川・空知太神社訴訟等の新しい判例を踏まえて、説明することができる。また、政教分離規定違反の判断枠組みについての学説を説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	総復習	前期の授業の総復習として、事案解決能力は何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事案解決能力は何かについて説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅠ	担当者	横山 裕一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
原則として講義形式で実施し、受講者数やテーマに応じて演習形式を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式の授業においても適宜発言を求める。演習形式の授業では、グループディスカッションや報告発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説・講評を実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書等は指定しないが、六法を用意すること。				

【オフィスアワー】
水曜日18:00～19:30（オンライン面接の方法で行う。希望者は、授業終了時又はメールで事前に申し出ること。） yokoyama.yuichi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で取り扱った訴訟等の実務経験に基づき、具体的紛争において民事実体法がどのような役割を果たすのかを説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	この授業で学修する内容と進行方法について説明する。法を学ぶとは何か、法が社会においてどのような役割を果たしているのか等を解説、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、法学の基礎的事項を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認し、自分が「法」に対してどのようなイメージを持っているのか、この授業を通してどのようなことを学びたいのかを検討しておく。	120分
	事後学修	ガイダンスでの説明を基に、今期の学修計画を作成する。	120分
2	基本的な法概念	憲法と法律の関係や、公法と私法、実体法と手続法、一般法と特別法といった各種分類等の法の仕組み及び基本的な法律用語の解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、基本的な法概念や法律用語を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
3	民法の基本的な仕組み	民法典の構造、民法の基本原則（権利能力平等の原則、私的自治の原則、所有権絶対の原則）について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、日本の民法典がどのような構造を採用しているか、民法の基本原則とは具体的にどのような内容を意味するのかを説明することができるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
4	民法総則（１）	権利主体、権利能力、意思能力、行為能力等について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、権利主体、権利能力、意思能力、行為能力の意味内容を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
5	民法総則（２）	意思表示の瑕疵（心理留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、心理留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
6	民法総則（３）	代理制度と時効制度について、具体的な事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、代理制度と時効制度について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	物権、担保物権		物権の基本的事項（物権と債権の違い、物権法定主義）、担保物権の基本的事項（「担保」の意味、担保物権の種類と性質）について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、物権と担保物権の基本的事項について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
8	債権総論		債権の性質、債務不履行、債権の消滅事由、保証について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、債権の性質、債務不履行、債権の消滅事由、保証について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
9	契約各論の概説、贈与契約、売買契約		契約の成立、契約自由の原則、典型契約と非典型契約、贈与契約の意義と性質、売買契約の意義と性質について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、契約各論の概説、贈与契約、売買契約について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
10	消費貸借契約、使用貸借契約、賃貸借契約		消費貸借契約の意義と性質、使用貸借契約の意義と性質、賃貸借の意義と性質について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、消費貸借契約、使用貸借契約、賃貸借契約について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
11	請負契約、委任契約		請負契約の意義と性質、委任契約の意義と性質について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、請負契約、委任契約について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分
12	家族法（親族法と相続法）		民法が親族法と相続法についてどのような制度を定めているかについて、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、家族法の基本的な制度について、自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備をしておく。		120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	法定債権		事務管理、不当利得、不法行為について、具体的事例を用いて解説する。
	この回の到達目標	到達目標①に関して、事務管理、不当利得、不法行為について、具体的な事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
14	総括・復習（1）		前期授業で取り扱った内容の総括と復習として、再解説や追加解説を希望する事項を募り、適宜解説と質疑応答を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法学の基礎的な事項について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	前期授業で取り扱った内容を振り返り、自分の理解が十分ではない事項や、さらに理解を深めたい事項を確認し、解説を希望する旨を報告する。	120分
	事後学修	授業の解説や質疑応答の内容を復習し、理解を深める。	120分
15	総括・復習（2）		前期授業で取り扱った内容の総括と復習として、再解説や追加解説を希望する事項を募り、適宜解説と質疑応答を行う。また、前期の初めに作成した学修計画の達成状況について報告をする。
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法学の基礎的な事項について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	前期授業で取り扱った内容を振り返り、自分の理解が十分ではない事項とさらに理解を深めたい事項を確認し、解説を希望する旨を報告する。当初の学修計画の達成状況を確認する。	120分
	事後学修	前期授業での学修に基づいて、後期授業への取り組み方を検討する。	120分

科目名	法学演習A I	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法令・判例を学ぶために必要な基礎的知識、理解力、思考力及び表現力を備えるために、法学一般の基礎的事項を説明し、適切に質疑応答・報告発表する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を説明することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験（レポート）	30	20									50
小テスト等												
レポート等	特定のテーマに関してレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内での講評その他	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】	
土曜日10:30～ 授業終了後。希望者は授業終了後に申し出ること。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を踏まえて実際のベンチャー企業における法務の対応状況等について言及する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	学習する内容や授業の進行予定等	
	この回の到達目標	今後の学習内容、学習計画等の確認	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	今後の学習予定を考えること。	120分
2	ベンチャー企業と法令	ベンチャー企業が法令を意識すべきであること等について説明する。	
	この回の到達目標	ベンチャー企業と法令の関わり合いについて理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	ベンチャー企業と設立①	ベンチャー企業を設立する際の留意事項、手続き等について説明する。	
	この回の到達目標	会社を設立する際の留意事項、手続き等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	ベンチャー企業と設立②	ベンチャー企業を設立する際の留意事項、手続き等について説明する。	
	この回の到達目標	会社を設立する際の留意事項、手続き等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）	120分
5	ベンチャー企業が知っておきべき基本法令①	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	ベンチャー企業が知っておきべき基本法令②	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ベンチャー企業が知っておきべき基本法令③	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	ベンチャー企業が知っておきべき基本法令④	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が知っておきべき民法、会社法の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	ベンチャー企業と利用規約①	ベンチャー企業がサービスを提供する際に利用されることの多い利用規約について概観する	
	この回の到達目標	利用規約の関わる法令、判例等を理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	ベンチャー企業と利用規約②	ベンチャー企業がサービスを提供する際に利用されることの多い利用規約について概観する	
	この回の到達目標	利用規約の関わる法令、判例等を理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	ベンチャー企業と景品表示法①	ベンチャー企業が広告等を用いる際の規制内容等について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が広告等を用いる際の規制内容等について理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	ベンチャー企業と景品表示法②	ベンチャー企業が広告等を用いる際の規制内容等について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が広告等を用いる際の規制内容等について理解する	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ベンチャー企業と業務委託契約等①	ベンチャー企業が業務を外部に委託する際の契約内容等について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が業務を外部に委託する際の契約内容等について理解する	
	事前学修	事前に配布するレジメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	ベンチャー企業と業務委託契約等②	ベンチャー企業が業務を外部に委託する際の契約内容等について概観する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が業務を外部に委託する際の契約内容等について理解する	
	事前学修	事前に配布するレジメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	全体の復習当	前期授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等	
	この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	岡田 俊幸	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
この授業の目的は、法学一般の基礎的事項を理解することにあるが、演習の素材としては、憲法の「基本的人権」の分野の判例を取り上げ、教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する（「憲法」を通した法学入門）。この授業は、演習形式（事例問題について報告者を指定し、報告者は、在宅にて起案等を作成して指定日までに提出した上で、起案の内容を授業で発表する。この発表に基づいて、事例問題に含まれる問題点について議論する。）も行う。（授業をオンデマンドの形態で実施する場合、学生による発表は行わない。各授業において学生に課題の提出を求め、それに対して担当教員がコメントをするという形式で授業を行う。）		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第3回以降、質問事項と事例問題に関する課題を与え、翌週の授業内で、それに基づいた議論を行う。また、学生が自宅で起案した課題を授業で発表し、この発表に基づいて、他の学生も含めて受講生の間で議論する。（授業をオンデマンドの形態で実施する場合、学生が課題の作成に取り組み、課題に対して担当教員がコメントするという形態で実施する。）	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。					1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。										1	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。(授業をオンデマンドの形態で実施する場合、授業内課題を作成する。授業をオンデマンドの形態で実施する場合、成績評価は、課題 (100%) によって行う。)	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。(授業をオンデマンドの形態で実施する場合、学生による報告発表は実施しない。各授業において課題の提出を求める。)	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。(授業をオンデマンドの形態で実施する場合、学生による報告発表は行わない。各授業において課題の提出を求める。)		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。(授業をオンデマンドの形態で実施する場合、質疑応答は、課題の提出を通して行う。)		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の講評を授業中に行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
憲法第7版	芦部信喜	岩波書店	2019	教科書	推奨
憲法判例百選 I 第7版	長谷部恭男ほか	有斐閣	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
(前期) 月曜日18：00～18：30、20：00～20：30 （後期）月曜日18：00～17：00 13号館（法科大学院）5階 研究室1352

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス： 導入講義	この授業は、「憲法」を素材とした法学入門である。まず、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準について、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認を確認するとともに、憲法の講義（後期）で使用する予定の教科書その他のテキストを読み、人権の分類、人権と公共の福祉の関係、二重の基準を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
2	事例問題の解き方及び判例の読み方	事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解することが必要不可欠だからである。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事例問題の解き方及び判例の読み方について理解する。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	職業の自由（１）	職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、説明する。職業選択の自由の制約について、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	職業の自由（２）	職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	集会の自由（１）	集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。また、これに関連して、届出制や許可制などの規制態様に関する問題及び「敵意ある聴衆の法理」について、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。また、届出制や許可制などの規制態様に関する問題及び「敵意ある聴衆の法理」について、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	集会の自由（２）	集会の自由の保障の制約について、道路交通の安全を確保する場合及び公共の秩序を維持する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、集会の自由の保障の制約について、道路交通の安全を確保する場合及び公共の秩序を維持する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	良心の自由（１）	思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合及び学校が内申書に政治活動歴を記載する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合及び学校が内申書に政治活動歴を記載する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	良心の自由（２）	思想及び良心の自由の制約について、公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、思想及び良心の自由の制約について、公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	財産権（１）	財産権に対する制約について、共有物の分割請求権を制限する場合及び金融商取引におけるインサイダー情報の不当な利用の防止に係る規制を課す場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、財産権に対する制約について、共有物の分割請求権を制限する場合及び金融商取引におけるインサイダー情報の不当な利用の防止に係る規制を課す場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	財産権（２）	憲法29条3項の定める「公共のために用ひる」の意味について検討する。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかについて、判例を踏まえて、検討する。憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、憲法29条3項の定める「公共のために用ひる」の意味及び憲法29条3項の定める「正当な補償」の意味を説明することができる。財産権に対する制約のうち、どのような場合に補償を行う必要があるかについて、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	信教の自由	信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	平等（１）	どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、尊属に対する犯罪を特に重く処罰する規定及び日本国民の父と外国籍の母との間に出生し、その後、父から認知された子に対して、帰化と準正の場合を除き日本国籍の取得を認めない規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、日本国民の父と外国籍の母との間に出生し、その後、父から認知された子に対して、帰化と準正の場合を除き日本国籍の取得を認めない規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	平等（２）		どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の２分の１とする規定及び女性の再婚禁止期間を定める規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の２分の１とする規定及び女性の再婚禁止期間を定める規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	平等（３）		どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、夫婦同氏制の合憲性などの新しい判例を素材として、検討する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、夫婦同氏制の合憲性などの新しい判例を踏まえて、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	総復習		後期の授業の総復習として、事案解決能力は何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事案解決能力は何かについて説明することができる。	
	事前学修	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	横山 裕一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
原則として講義形式で実施し、受講者数やテーマに応じて演習形式を実施する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義形式の授業においても適宜発言を求める。演習形式の授業では、グループディスカッションや報告発表を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。				1							
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。										1	
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	講義中に小テストを実施する。	20										20
レポート等	報告発表の際にレポートを提出する。	15	15									30
討論・発表等	特定のテーマに関して個別に報告発表を行う。		30									30
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	65									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で解説・講評を実施する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書等は指定しないが、六法を用意すること。				

【オフィスアワー】	
水曜日18:00～19:30（オンライン面接の方法で行う。希望者は、授業終了時又はメールで事前に申し出ること。） yokoyama.yuichi@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で取り扱った訴訟等の実務経験に基づき、具体的紛争において民事実体法がどのような役割を果たすのかを説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス及び導入講義	この授業で学修する内容と進行方法について説明し、民法や刑法等の実体法と、実体法の内容を実現する手段として手続法との関係について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、法学の基礎的事項を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、これまで学修してきた実体法上の権利義務が訴訟においてどのように実現されるのかをイメージする。	120分	
	事後学修	ガイダンスでの説明を基に、今期の学修計画を作成する。	120分	
2	訴訟制度概説	日本の訴訟制度について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、日本がどのような訴訟制度を採用しているのかを説明することができるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	
3	民事訴訟概説	民事訴訟制度、調停・審判制度、訴訟によらない紛争解決手続等の民事の紛争解決手段について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、民事訴訟制度、調停・審判制度、訴訟によらない紛争解決手続等の民事の紛争解決手段について、基礎的事項を説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	
4	民事訴訟（１）	民事訴訟手続の概観と訴えの提起について、具体的事例を用いて解説する。受講者数と授業の進行度合によっては、原告役、被告役、裁判官役にグループ分けをしてグループディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、民事訴訟がどのような仕組みとなっているのか、訴えの提起はどのような方法で行うのかを説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	
5	民事訴訟（２）	民事訴訟の審理がどのように進行するのかについて、具体的事例を用いて解説する。受講者数と授業の進行度合によっては、原告役、被告役、裁判官役にグループ分けをしてグループディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、民事訴訟がどのような審理を経て進行していくのかを説明することができるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	
6	民事訴訟（３）	民事訴訟の終了（主に判決と和解）、上訴について、具体的事例を用いて解説する。受講者数と授業の進行度合によっては、原告役、被告役、裁判官役にグループ分けをしてグループディスカッションを行う。		
	この回の到達目標	到達目標①に關係して、判決・和解による訴訟の終了と上訴について、基礎的な事項を説明できるようになる。		
	事前学修	シラバスと事前配布のレジメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分	
	事後学修	レジメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	刑事訴訟概説	刑法、犯罪捜査、刑事訴訟制度について、民事法分野との違いを踏まえて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、実体法である刑法と手続法である刑事訴訟法の関係について、基礎的な事項を説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
8	刑法概説	刑法の意義、刑法の基本原則、犯罪の成立要件について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、刑法の基礎的な事項について、基礎的な事項を説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
9	刑事手続（捜査）	犯罪の捜査と身柄拘束手続（逮捕勾留）について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、犯罪の捜査と身柄拘束手続について、具体的事例を交えて自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
10	刑事手続（刑事訴訟）	刑事訴訟手続について、具体的事例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関係して、刑事訴訟の基礎的な事項を説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスと事前配布のレジュメの内容を確認し、必要に応じて手持ちの教科書等で予習をして授業中の理解が捗るように準備しておく。	120分
	事後学修	レジュメを読み直して授業内容が思い起こせるかを確認し、理解が十分でない点については重点的に復習をする。	120分
11	報告発表の準備	これまで取り扱った法分野またはこれに隣接する分野について、特に関心を持った問題を各自報告し、次回以降に報告発表するテーマを決定する。あわせて報告発表の方法を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、自身が関心を持った法的問題について、論理的に説明できる表現力を身につける。	
	事前学修	これまでの学修内容を振り返り、自身が興味を持ち掘り下げたいと思うテーマを（できれば複数）準備しておく。	120分
	事後学修	報告発表するテーマについて、調査・検討を行う。	120分
12	報告発表（１）	各自興味のある法律問題についてレポートを作成し、報告発表と質疑応答を行う。受講者数に応じて、個人発表、グループ発表のいずれかの方法とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、対象テーマについて他者への報告を前提とする調査・検討の方法及び表現力を身につける。	
	事前学修	発表者は、取り扱うテーマについて事前に調査・検討を行い、適宜資料等を作成して発表の準備を行う。	120分
	事後学修	質疑応答を通じて、自分の調査・検討と表現力が十分であったかどうかを確認し、十分でない点について再検討をして今後の機会に生かす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	報告発表（2）	各自興味のある法律問題についてレポートを作成し、報告発表と質疑応答を行う。受講者数に応じて、個人発表、グループ発表のいずれかの方法とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、対象テーマについて他者への報告を前提とする調査・検討の方法及び表現力を身につける。	
	事前学修	発表者は、取り扱うテーマについて事前に調査・検討を行い、適宜資料等を作成して発表の準備を行う。	120分
	事後学修	質疑応答を通じて、自分の調査・検討と表現力が十分であったかどうかを確認し、十分でない点について再検討をして今後の機会に生かす。	120分
14	総括・復習（1）	後期授業で取り扱った内容の総括と復習として、再解説や追加解説を希望する事項を募り、適宜解説と質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法学の基礎的な事項について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	後期授業で取り扱った内容を振り返り、自分の理解が十分ではない事項や、さらに理解を深めたい事項を確認し、解説を希望する旨を報告する。	120分
	事後学修	授業の解説や質疑応答の内容を復習し、理解を深める。	120分
15	総括・復讐（2）	後期授業で取り扱った内容の総括と復習として、再解説や追加解説を希望する事項を募り、適宜解説と質疑応答を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②との関係で、法学の基礎的な事項について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	
	事前学修	後期授業で取り扱った内容を振り返り、自分の理解が十分ではない事項や、さらに理解を深めたい事項を確認し、解説を希望する旨を報告する。	120分
	事後学修	後期授業での学習に基づいて、今後の法学の学修に対する取り組み方を検討する。	120分

科目名	法学演習AⅡ	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力を発展させるために、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	法学一般の基礎的事項を理解することができる。				1						
②	法学一般の基礎的事項の理解に基づいて適切に質疑応答・報告発表ができる。									1	
③											
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験（レポート）	30	20									50
小テスト等												
レポート等	特定のテーマに関してレポートを提出する	15	15									30
討論・発表等												
授業への参画度	法学の理解に関して質疑応答を行う。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		45	55									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内での講評その他	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】	
土曜日10:30～ 授業終了後。希望者は授業終了後に申し出ること。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士業務
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を踏まえて実際のベンチャー企業における法務の対応状況等について言及する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	ガイダンス:学習する内容や授業の進行予定等	
	この回の到達目標	今後の学習内容、学習計画等の確認	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	今後の学習予定を考えること。	120分
2	前期で扱った内容の確認	前期授業の総復習	
	この回の到達目標	前期で扱った内容の概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
3	ベンチャー企業の資金調達①	ベンチャー企業における資金調達の概要について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業における資金調達の概要について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
4	ベンチャー企業の資金調達②	ベンチャー企業が資金調達をする際の投資契約書等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が資金調達をする際の投資契約書等について概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
5	ベンチャー企業の資金調達③	ベンチャー企業が資金調達をする際の投資契約書等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が資金調達をする際の投資契約書等について概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
6	ベンチャー企業の資金調達④	ベンチャー企業が資金調達をする際の種類株式等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が資金調達をする際の種類株式等についての概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ベンチャー企業の資金調達⑤	ベンチャー企業が資金調達をする際の種類株式等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業が資金調達をする際の種類株式等についての概要を理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
8	ベンチャー企業の資金調達⑥	ベンチャー企業における新株予約権の利用等の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業における新株予約権の利用等の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
9	ベンチャー企業のM&A①	ベンチャー企業のM&Aのスキームの概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業のM&Aのスキームの概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
10	ベンチャー企業のM&A②	ベンチャー企業のM&Aにおける留意点等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業のM&Aにおける留意点等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
11	ベンチャー企業と知的財産権①	ベンチャー企業の著作権等の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業の著作権等の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
12	ベンチャー企業と知的財産権②	ベンチャー企業の商標権等の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業の商標権等の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ベンチャー企業と労務①	ベンチャー企業における労務の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業における労務の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
14	ベンチャー企業と労務②	ベンチャー企業におけるストックオプションの活用の概要等について説明する	
	この回の到達目標	ベンチャー企業におけるストックオプションの活用の概要等について理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分
15	全体の復習	後記授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等	
	この回の到達目標	授業で扱った内容について復習し、各内容をより理解すること	
	事前学修	事前に配布するレジュメをよく読むこと。	120分
	事後学修	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。	120分

科目名	法学演習BⅠ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
この講座は、私法である民法・公法である行政法を素材として、当該法分野に関する基本的知識を提供するとともに、その基本的知識を土台として、当該法分野に関する具体的諸問題について解説するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の一般法である民法を学修するために必要となる民法（財産法）に関する基本的事項を理解する。より具体的には、民法総則、物権法（担保物権を含む）、債権法（主に契約・不法行為）の規定が社会生活・紛争解決のためにどのように役立っているかを学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
六法（令和3年[2021年]版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法（財産法）の全体像を踏まえて、権利義務の主体を前提とし、債権の発生原因である契約の要件を整理・分類し、説明することができる。【知識】					1						1	
②	債務不履行の要件と効果、売主の担保責任のほか、責任財産の保全の必要性を説明することができる。【知識】					1						1	
③	債権担保の重要性のほか、所有権に関する基本的知識（特に物権的請求権、物権変動）を説明することができる。【知識】					1						1	
④	債権の発生原因である不法行為の全体像を説明することができる。【知識】					1						1	
⑤	民法の諸規定の内容を理解し、与えられた事例に対し諸規定を適切にあてはめることができる。【技能】					1						1	
⑥	民法の解釈論上の意見交換に積極的に参加し、そこにおいて、お互いを尊重することができる。【態度・習慣】					1						1	
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	20	20					80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発に行ったかを基準に、到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。					10	10					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オリエンテーション民法	松久三四彦・遠山純弘・林誠司	有斐閣	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい（上記以外の時間を希望される場合についてもメールにて相談されたい）。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【イントロダクション】【導入講義】	民法の意義を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を把握し、授業の準備をスムーズに行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法の意義、財産法の全体像（財産権の種類、家族法との関係）を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の3頁から30頁（7頁から23頁までは最初は飛ばしてもよい）までを読み、民法の位置づけ、財産権の種類（物権と債権）、パンデクテン体系の意味を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。※余裕があれば、教科書の33頁から49頁も読んでおきたい。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、民法の位置づけ、財産法の鳥観図を整理する。	120分	
2	【権利義務の主体（自然人・法人）】	権利・義務の主体、権利能力・意思能力・行為能力、法人を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、権利・義務の主体、権利能力・意思能力・行為能力の違い、法人制度を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の51頁から88頁までを読み、権利能力・意思能力・行為能力の違いを整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、権利能力・意思能力・行為能力の区別、行為能力制度（制限行為能力者制度）の概要を整理する。	120分	
3	【契約の成立要件と有効要件①－心裡留保、虚偽表示】	契約の成立要件と有効要件との関係、心裡留保、虚偽表示の各制度を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の成立要件と契約の有効要件①（心裡留保、虚偽表示）を理解し、説明することができる。を		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の89頁から102頁までを読み、契約の成立要件と有効要件の関係、心裡留保、虚偽表示の各制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、契約の成立要件と有効要件の関係、心裡留保、虚偽表示の各制度の概要を整理する。	120分	
4	【契約の有効要件②－錯誤、詐欺・強迫】	錯誤、詐欺・強迫の各制度を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の有効要件①（錯誤、詐欺・強迫）を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の103頁から112頁までを読み、契約の有効要件①（錯誤、詐欺・強迫）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、錯誤の要件・効果、詐欺・強迫の要件・効果を整理する。	120分	
5	【契約の有効要件③－代理制度】	契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）と、代理制度の全体像を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）のほか、代理制度全体を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の92頁から112頁のほか、40・41頁、120頁から124頁までを読み、契約の有効要件のまとめ（第3回・第4回）のほか、代理の要件・効果、無権代理、表見代理を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、代理の要件・効果、無権代理、表見代理を整理する。	120分	
6	【契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁、危険負担）】	契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁、危険負担）を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、契約の分類、同時履行の抗弁権を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の127頁から137頁まで、192頁から195頁までを読み、契約の分類と契約の効力（同時履行の抗弁、危険負担）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、契約の分類（双務・片務契約、有償・無償契約）、同時履行の抗弁権が用いられる場面を整理する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	【債権の消滅原因（弁済・相殺の概説、消滅時効の概説）】	債権の消滅原因（弁済・相殺の概説、消滅時効の概説を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、債権の消滅原因（弁済、相殺、消滅時効等）を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の137頁から158頁までを読み、弁済、相殺、消滅時効を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、債権の消滅原因という観点から、弁済、相殺、消滅時効を整理する。	120分	
8	【債務不履行①－損害賠償請求、解除】	債務不履行による損害賠償請求、債務不履行による解除を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、債務不履行に対する救済手段、債務不履行による損害賠償請求、解除制度を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の160頁から181頁までを読み、債務不履行に対する救済手段（損害賠償請求、解除）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、債務不履行に対する救済手段（損害賠償請求、解除）を整理する。	120分	
9	【債務不履行②－売主の担保責任】	売主の担保責任を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、売主の担保責任の全体像を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の181頁から189頁までを読み、売主の担保責任の全体像を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、契約不適合給付に対する買主の救済手段を整理する。	120分	
10	【強制履行と債権者代位権】	強制履行と債権者代位権を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、強制執行による債権回収、責任財産の保全制度である債権者代位権を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の161頁から165頁まで、197頁から202頁までを読み、強制執行の種類、強制執行と債権者代位権との関係、債権者代位権の要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、強制執行の種類、債権者代位権の要件を整理する。	120分	
11	【債権の担保（抵当権、保証）】	債権の担保（抵当権、保証）を学修する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の205頁から228頁までを読み、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、物的担保と人的担保の特徴、抵当権、保証制度を整理する。	120分	
12	【所有権①（物権的請求権、物権変動の仕組み前編）】	物権的請求権、不動産の物権変動の仕組みを学修する。		
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、物権的請求権、占有、不動産の物権変動を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の233頁から255頁までを読み、物権的請求権の種類、占有の意義と占有訴権の内容、不動産の物権変動の対抗要件を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、物権的請求権の種類、占有の意義と占有訴権の内容、不動産の物権変動の対抗要件を整理する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【所有権②（物権変動の仕組み後編、即時取得、取得時効）】	動産の物権変動の仕組み、即時取得、取得時効を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、物権変動の仕組み、即時取得、取得時効を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の255頁から268頁までを読み、動産の物権変動の対抗要件、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、動産の物権変動の対抗要件、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理する。	120分
14	【不法行為①（一般の不法行為）】	一般の不法行為（709条以下）全般を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、不法行為Ⅰ（総論、成立要件、効果等）を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の270頁から293頁までを読み、不法行為の成立要件と効果を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、不法行為の成立要件とその効果、消滅時効を整理する。	120分
15	【不法行為②（特殊の不法行為[監督者責任・使用者責任]）】	特殊の不法行為（特に責任無能力者の監督者責任・使用者責任）を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、特殊の不法行為（責任無能力者の監督者責任、使用者責任）の概要を理解する。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の293頁から300頁までを読み、責任無能力者の監督者責任、使用者責任を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、責任無能力者の監督者責任、使用者責任の各制度の概要を整理する。	120分

科目名	法学演習B I	担当者	平 裕介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
行政法に関する諸問題について扱い、学生自身に考えてもらう。 研究者であるとともに現役弁護士でもある担当教員が、研究活動のみならず専門分野において実際に事件等を担当した経験等に照らしつつ、行政法等に関係する諸問題について解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法に関する諸問題についての知識を養成することを目的とする。この授業では、行政法の分野で議論のある部分を中心に扱っていく。その中で行政法の問題について自己の意見を固め、そこから行政法や憲法、法学にかかわる諸問題について考察し、説明できるようになることを目標とする。更にその上で、学生が主体的に、参考文献を検索するなどしてレジュメを作成し、一定の時間内に発表できるようになることや、自らの立ち位置と異なった意見とも柔軟に向き合って議論できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特に、法曹（裁判官・検察官・弁護士）など法律の解釈・適用に携わる職業を志望する学生に、この授業を通じてリーガルマインドを養っていただきたい。

【授業方法】		
本授業は、オンライン（オンデマンド）の方法で実施する。 講義・説明を踏まえ、基本的には担当者となる学生が各テーマに関連する問題（基本的には事例問題であり、遅くとも当該授業の1回前の授業で次回（以降に）扱う事例問題等の問題を示すこととする。）について検討してもらう。検討に際しては、適宜、質疑応答を行ったり、報告担当者から報告してもらうなどの方法を採用。 さらに、毎回ではないが、法文書（レポート）を作成（起案）していただき、その講評・解説を行うことも予定しているが、履修者の学習水準に応じて（履修者と協議し）、起案の回数などについて可能な限り柔軟に対応する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の解決に向けたレポート等を課す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政法に関する諸問題についての知識を説明できる。					1							
②	養成した行政法領域の知見に基づいて適切に報告発表ができる。											1	
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	行政法の理論的・実務的テーマについてレポートを作成する。	15	25									40
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。	15	25									40
授業への参画度	授業中に質疑応答を行う。	10	10									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	60									100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートあるいは法文書の講評・解説を基本的には授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本行政法 第3版	中原茂樹	日本評論社	2018年	参考書	推奨
行政法 第6版	櫻井敬子＝橋本博之	弘文堂	2019年	参考書	推奨
行政判例ノート 第4版	橋本博之	弘文堂	2020年	参考書	任意
判例フォーカス 行政法	村上裕章＝下井康史 (編著)	三省堂	2019年	参考書	任意
行政判例百選Ⅰ・Ⅱ	宇賀克也ほか(編)	有斐閣	2017年	参考書	任意
自治体職員のための ようこそ行政法	高橋信行	第一法規	2017年	参考書	任意
公務員を目指す人に贈る 行政法教科書	板垣勝彦	法律文化社	2018年	参考書	任意
事例研究行政法 第3版	曾和俊文ほか(編 著)	日本評論社	2016年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業（5限）終了後の曜日の17：50～あるいはメールなどで時間を調整し、相談等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政法に関する実務経験に基づく説明と演習によって理論と実務の架橋を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 導入講義	法学の重要事項を確認するとともに、行政法の位置づけを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の役割と位置づけを理解する。	
	事前学修	シラバスをよく確認しておくこと。	120分
	事後学修	ガイダンスを踏まえて今後の学習予定を考えること。	120分
2	法律による行政の原理	講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、法律による行政の原理を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
3	法律による行政の原理	－前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、法律による行政を説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
4	比例原則	講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、比例原則を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
5	比例原則	－前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、比例原則を説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
6	信義則	－講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、信義則を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	信義則	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、信義則について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
8	行政情報の公開	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政情報の公開を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
9	行政情報の公開	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政情報の公開について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
10	行政裁量	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政裁量を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
11	行政裁量	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政裁量について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
12	行政行為の瑕疵	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政行為の瑕疵を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	行政行為の瑕疵	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政行為の瑕疵について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
14	行政契約	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政契約を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
15	行政契約	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政契約について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

科目名	法学演習BⅡ	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
この講座は、私法である民法・公法である行政法を素材として、当該法分野に関する基本的知識を提供するとともに、その基本的知識を土台として、当該法分野に関する具体的諸問題について解説するものである。なお、本講座は、法学演習BⅠ（BⅠで民法を履修した者は、引き続きBⅡでも民法を履修することが望ましい。また、BⅠで行政法を履修した者は、引き続きBⅡでも行政法を履修することが望ましい）を履修していることを前提とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の一般法である民法を学修するために必要となる民法（財産法）に関する基本的事項を理解する。より具体的には、民法総則、物権法（担保物権を含む）、債権法（主に契約・不法行為）の規定が社会生活・紛争解決のためにどのように役立っているかを学修し、規定の適切な適用方法を理解する。

【履修条件】
六法（令和3年[2021年]版であれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

【授業方法】
指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に行う質疑応答に際して、積極的な発言を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法学演習BⅠで学んだことを整理して、説明することができる。【知識】					1						1	
②	意思表示に関する重要論点、無権代理・表見代理に関する重要論点を説明することができる。【知識】					1						1	
③	債権総論に関する重要事項（弁済、相殺、詐害行為取消権、債務不履行、受領遅滞、債権譲渡・債務引受）、債権各論に関する重要事項（同時履行の抗弁、危険負担、売主の担保責任）を説明することができる。【知識】					1						1	
④	債権の担保（担保物権、連帯債務・連帯保証）、所有権に関する重要事項、法定債権（事務管理、不当利得、不法行為）を説明することができる。【知識】					1						1	
⑤	民法の諸規定の内容を理解し、与えられた事例に対し諸規定を適切にあてはめることができる。【技能】					1						1	
⑥	民法の解釈論上の意見交換に積極的に参加し、そこにおいて、お互いを尊重することができる。【態度・習慣】					1						1	
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	10	10	10	20	20					80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中に質問や意見表明をどれだけ活発に行ったかを基準に、到達目標⑤⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。					10	10					20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	30	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
オリエンテーション民法	松久三四彦・遠山純弘・林誠司	有斐閣	2018年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい（上記以外の時間を希望される場合についてもメールにて相談されたい）。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として、訴訟・調停対応、各種申立て、交渉業務、顧問先へのアドバイス等を経験してきた。
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記経験を活かして、豊富な具体例、法解釈・法適用の実際等を授業に盛り込んでいきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【法学演習BⅠの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度】		法学演習BⅠで学んだことの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を学修する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。これによって、受講生は授業計画を把握し、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①⑤⑥に関連して、法学演習BⅠで学んだことの総復習、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の358頁から373頁、53頁から56頁、59頁から77頁までを読み、法学演習BⅠで学んだことの総復習を踏まえ、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、胎児の権利能力、制限行為能力者制度の内容を整理する。		120分
2	【心裡留保・虚偽表示の事例演習、法人制度】		心裡留保・虚偽表示の具体的事例、法人制度の概要を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、心裡留保・虚偽表示の事例、法人制度の概要を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の97頁から102頁、77頁から88頁までを読み、心裡留保・虚偽表示の要件・効果、法人制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、心裡留保・虚偽表示の事例、法人制度の概要を整理する。		120分
3	【錯誤、詐欺・強迫】		錯誤、詐欺・強迫の事例・論点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、錯誤、詐欺・強迫の事例・論点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の102頁から112頁までを読み、錯誤、詐欺・強迫の事例・論点を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、錯誤、詐欺・強迫の事例・論点を整理する。		120分
4	【表見代理、無権代理】		表見代理・無権代理の制度・諸論点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連して、表見代理・無権代理の制度・諸論点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の121頁から124頁までを読み、表見代理・無権代理の制度・諸論点を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、表見代理・無権代理の制度を整理する。		120分
5	【同時履行の抗弁権、危険負担】		同時履行の抗弁権・危険負担に関する事例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、同時履行の抗弁権・危険負担に関する事例を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の128頁から137頁、192頁から195頁までを読み、同時履行の抗弁権・危険負担の事例を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、同時履行の抗弁権・危険負担の概要と事例を整理する。		120分
6	【弁済、相殺】		弁済・相殺の制度・諸論点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、弁済・相殺の制度・諸論点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の137頁から152頁までを読み、弁済・相殺の制度を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、弁済・相殺の制度・諸論点を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【債務不履行、受領遅滞】	債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の165頁から181頁まで、189頁から191頁までを読み、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、債務不履行（損害賠償請求・解除）の諸論点、受領遅滞を整理する。	120分
8	【売主の担保責任】	売主の担保責任の具体的事例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、売主の担保責任の具体的事例を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の181頁から189頁までを読み、売主の担保責任の類型・具体例を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、契約不適合給付に対する買主の救済手段を具体的な事例を用いて整理する。	120分
9	【詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受】	詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤⑥に関連して、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の202頁から205頁まで、212頁から216頁までを読み、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、詐害行為取消権、債権譲渡・債務引受を整理する。	120分
10	【債権の担保①－留置権・先取特権・質権・譲渡担保】	抵当権以外の典型担保物権（留置権・先取特権・質権）、譲渡担保を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の216頁から231頁までを読み、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、留置権・先取特権・質権、譲渡担保を整理する。	120分
11	【債権の担保②－連帯債務、連帯保証）】	債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の208頁から211頁までを読み、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、債権担保の観点から、連帯債務・連帯保証を整理する。	120分
12	【所有権①－物権変動の諸論点】	物権変動の諸論点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、物権変動（176条、177条、178条）に関する諸論点を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の244頁から258頁までを読み、物権変動の仕組み（176条、177条、178条）を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、物権変動の仕組み（176条、177条、178条）全体を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【所有権②ー即時取得、取得時効】	即時取得の諸論点、取得時効の諸論点を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、即時取得の諸論点、取得時効の諸論点を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の258頁から268頁までを読み、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果を整理する。	120分
14	【事務管理、不当利得】	事務管理、不当利得を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、事務管理・不当利得の概要を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の45頁（欄外のnotes参照）、282頁から283頁までを読み、事務管理・不当利得の概要を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、事務管理・不当利得の概要、他の制度との関係を整理する。	120分
15	【不法行為②ー特殊の不法行為（工作物責任、共同不法行為）】	工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤⑥に関連して、工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為の概要を理解する。	
	事前学修	シラバスを理解するとともに、教科書の300頁から305頁までを読み、工作物責任、動物占有者の責任、共同不法行為の概要を整理し、それを講義内容と比較できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、工作物責任と共同不法行為の要件・効果を整理する。	120分

科目名	法学演習BⅡ	担当者	平 裕介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
行政法に関する諸問題について扱い、学生自身に考えてもらう。 研究者であるとともに現役弁護士でもある担当教員が、研究活動のみならず専門分野において実際に事件等を担当した経験等に照らしつつ、行政法等に関係する諸問題について解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
行政法に関する諸問題についての知識を養成することを目的とする。この授業では、行政法の分野で議論のある部分を中心に扱っていく。その中で行政法の問題について自己の意見を固め、そこから行政法や憲法、法学にかかわる諸問題について考察し、説明できるようになることを目標とする。更にその上で、学生が主体的に、参考文献を検索するなどしてレジュメを作成し、一定の時間内に発表できるようになることや、自らの立ち位置と異なった意見とも柔軟に向き合って議論できるようにすることを目標とする。

【履修条件】
特に、法曹（裁判官・検察官・弁護士）など法律の解釈・適用に携わる職業を志望する学生に、この授業を通じてリーガルマインドを養っていただきたい。

【授業方法】		
本授業は、オンライン（オンデマンド）の方法で実施する。 講義・説明を踏まえ、基本的には担当者となる学生が各テーマに関連する問題（基本的には事例問題であり、遅くとも当該授業の1回前の授業で次回（以降に）扱う事例問題等の問題を示すこととする。）について検討してもらう。検討に際しては、適宜、質疑応答を行ったり、報告担当者から報告してもらうなどの方法を採用。 さらに、毎回ではないが、法文書（レポート）を作成（起案）していただき、その講評・解説を行うことも予定しているが、履修者の学習水準に応じて（履修者と協議し）、起案の回数などについて可能な限り柔軟に対応する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	課題の解決に向けたレポート等を課す。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	行政法に関する諸問題についての知識を説明できる。					1							
②	養成した行政法領域の知見に基づいて適切に報告発表ができる。											1	
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	行政法の理論的・実務的テーマについてレポートを作成する。		15	25									40
討論・発表等	作成したレポートに基づいて報告発表を行う。		15	25									40
授業への参画度	授業中に質疑応答を行う。		10	10									20
その他()													
その他()													
その他()													
			到達目標別の比率(%)	40	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートあるいは法文書の講評・解説を基本的には授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本行政法 第3版	中原茂樹	日本評論社	2018年	参考書	推奨
行政法 第6版	櫻井敬子＝橋本博之	弘文堂	2019年	参考書	推奨
行政判例ノート 第4版	橋本博之	弘文堂	2020年	参考書	任意
判例フォーカス 行政法	村上裕章＝下井康史（編著）	三省堂	2019年	参考書	任意
行政判例百選Ⅰ・Ⅱ	宇賀克也ほか（編）	有斐閣	2017年	参考書	任意
自治体職員のための ようこそ行政法	高橋信行	第一法規	2017年	参考書	任意
公務員を目指す人に贈る 行政法教科書	板垣勝彦	法律文化社	2018年	参考書	任意
事例研究行政法 第3版	曾和俊文ほか（編著）	日本評論社	2016年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業（5限）終了後の曜日の17：50～あるいはメールなどで時間を調整し、相談等に応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		行政法に関する実務経験に基づく説明と演習によって理論と実務の架橋を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション 導入講義	法学の重要事項を確認するとともに、行政法の位置づけや次回以降の授業のテーマに関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政法の役割と位置づけを理解する。	
	事前学修	シラバスをよく確認しておくこと。	120分
	事後学修	ガイダンスを踏まえて今後の学習予定を考えること。	120分
2	行政指導	講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政指導の要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
3	行政指導	－前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政指導について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
4	行政立法	講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政立法の要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
5	行政立法	－前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政立法について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
6	行政手続	－講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政手続の要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行政手続	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政手続について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
8	行政上の不服申立て	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政上の不服申立ての要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
9	行政上の不服申立て	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政上の不服申立てについて説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
10	行政訴訟（行政事件訴訟）	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、行政訴訟（行政事件訴訟）、特に取消訴訟の訴訟要件の要点を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
11	行政訴訟（行政事件訴訟）	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、行政訴訟（行政事件訴訟）、特に取消訴訟の訴訟要件について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
12	国家賠償	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、国家賠償請求訴訟の要件を理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家賠償	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、国家賠償請求訴訟について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
14	損失補償	－ 講義と問題の検討	
	この回の到達目標	到達目標①との関係で、損失補償請求訴訟の要件について理解する。	
	事前学修	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
	事後学修	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分
15	損失補償	－ 前回のテーマに関する報告と検討	
	この回の到達目標	到達目標②との関係で、損失補償請求訴訟について説明できるようにする。	
	事前学修	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。	120分
	事後学修	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。	120分

科目名	法学演習E I	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
訴訟における憲法論について演習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法論を訴訟に即して考察できる力を養成することを目的とする。 自衛官合祀拒否訴訟最高裁判決（主題判例）に含まれる憲法論について他者と議論できるようになることを目標とする。

【履修条件】
この演習を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】
授業形態は音声データ（録音）の聴取によるオンデマンド方式とする予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	訴訟における憲法論について全体的な見通しを持って考察することができる。						3						3	
②	憲法判例について精密に読むことができる。						3						3	
③	自衛官合祀拒否訴訟について批判的に議論することができる。						3						3	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	毎回の課題に加え、レポート等で行う予定である。	30	40	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で行う予定である。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。主題判例以外の判例については授業で指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日の19：00～20：00とします。事前に法務研究科事務課（13号館1階）にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	開講の辞		訴訟における憲法論とは何かを考察する。
	この回の到達目標	①② 憲法訴訟についての問題意識を持つことができる。	
	事前学修	憲法訴訟を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと（2時間）	120分
	事後学修	事前の想像と開講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）	120分
2	自衛官合祀拒否訴訟とは		自衛官合祀拒否訴訟最高裁判決を本演習の対象（主題判例）とする。
	この回の到達目標	①②③ 自衛官合祀拒否訴訟とは何かについて問題意識を持つことができる。	
	事前学修	自衛官合祀拒否訴訟とは何かについて考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	次回以下のこの演習の展開を予測すること（2時間）	120分
3	多数意見を読む		多数意見を読む。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の概要を理解することができる。	
	事前学修	多数意見を読んでおくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
4	多数意見の考察 1		多数意見について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点を説明することができる。	
	事前学修	多数意見の争点について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
5	多数意見の考察 2		多数意見について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点を説明することができる。	
	事前学修	多数意見の争点について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
6	多数意見の考察 3		多数意見について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の争点を説明することができる。	
	事前学修	多数意見の争点について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	多数意見の考察 4	多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見の構造をを説明することができる。	
	事前学修	多数意見をその構造に留意しつつ読んでおくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
8	多数意見の考察 5	多数意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見のテキスト分析をすることができる。	
	事前学修	多数意見のテキストのなかに脈絡不明な内容が含まれていないかに注意しながら多数意見を読んでおくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
9	原判決を読む	主題判例の原判決を読む。	
	この回の到達目標	①②③ 原判決の内容を説明することができる。	
	事前学修	原判決を読んでおくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
10	多数意見と原判決 1	多数意見と原判決の関係について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見と原判決の関係を説明することができる。	
	事前学修	多数意見が原判決から何を採り何を捨てたかについて考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
11	多数意見と原判決 2	多数意見と原判決の関係について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見と原判決の関係を説明することができる。	
	事前学修	多数意見が原判決から何を採り何を捨てたかについて考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
12	多数意見と原判決 3	多数意見による原判決への向き合い方について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見による原判決への向き合い方を分析する。	
	事前学修	民事訴訟法の観点から多数意見の問題点を考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	多数意見と原判決 4	多数意見による原判決への向き合い方について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見による原判決への向き合い方を分析する。	
	事前学修	民事訴訟法の観点から多数意見の問題点を考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
14	多数意見と一審原告の請求	多数意見と一審原告の請求の関係について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 多数意見と一審原告の請求の関係を説明することができる。	
	事前学修	一審原告の請求がどのようなものであったかについて考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
15	閉講の辞	訴訟における憲法論とは何でないかを考察する。	
	この回の到達目標	①② 憲法訴訟についての踏み込んだ問題意識を持つことができる。	
	事前学修	事前の想像とこの演習との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）	120分
	事後学修	事前の想像と閉講の辞との間にギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること（2時間）	120分

科目名	法学演習EⅡ	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○						○	

【授業の概要】
「高度な政治性」を有する問題に関する裁判所の憲法判断について演習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「高度な政治性」を有する問題に関する裁判所の憲法判断について考察できる力を養成することを目的とする。 砂川事件最高裁判決（主題判例）に含まれる憲法解釈上の問題について他者と議論できるようになることを目標とする。

【履修条件】
この演習を楽しむ意欲のある学生であること。

【授業方法】
授業形態は音声データ（録音）の聴取によるオンデマンド方式とする予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	訴訟における憲法論について全体的な見通しを持って考察することができる。						3						3	
②	砂川事件最高裁判決を精密に読むことができる。						3						3	
③	統治行為論について批判的に議論することができる。						3						3	
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	毎回の課題に加え、レポート等で評価する予定である。	30	30	40								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内で行う予定である。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。ただし、文献等は事前および授業内に指示する。				

【オフィスアワー】
木曜日の18：00～19：00とします。事前に法務研究科事務課（13号館1階）にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	開講の辞		「高度な政治性」を有する問題に関する裁判所の憲法判断とは何かについて考察する。	
	この回の到達目標	①③ 「高度な政治性」を有する問題に関する裁判所の憲法判断とは何かについて考察することができる。		
	事前学修	「高度な政治性」を有する問題に関する裁判所の憲法判断を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと（2時間）		120分
	事後学修	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること（2時間）		120分
2	砂川事件とは		砂川事件最高裁判決を本演習の対象（主題判例）とする。	
	この回の到達目標	①②③ 砂川事件とは何かについて問題意識を持つことができる。		
	事前学修	砂川事件とは何かについて考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	次回以下のこの演習の展開を予測すること（2時間）		120分
3	判決理由を読む		主題判例の判決理由を読む。	
	この回の到達目標	①②③ 判決理由の概要を理解することができる。		
	事前学修	判決理由について読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
4	判決理由の考察 1		判決理由について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 判決理由の争点を説明することができる。		
	事前学修	判決理由の争点について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
5	判決理由の考察 2		判決理由について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 判決理由の争点を説明することができる。		
	事前学修	判決理由の争点について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
6	判決理由の考察 3		判決理由について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 判決理由の構造を説明することができる。		
	事前学修	判決理由をその構造に留意しつつ読んでおくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	個別意見の考察 1		個別意見Aについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 個別意見Aの内容を説明することができる。		
	事前学修	個別意見Aの内容について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
8	個別意見の考察 2		個別意見Bについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 個別意見Bの内容を説明することができる。		
	事前学修	個別意見Bの内容について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
9	個別意見の考察 3		個別意見Cについて考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 個別意見Cの内容を説明することができる。		
	事前学修	個別意見Cの内容について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
10	個別意見の考察 4		個別意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 個別意見Dの内容を説明することができる。		
	事前学修	個別意見Dの内容について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
11	個別意見の考察 5		個別意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 個別意見Eの内容を説明することができる。		
	事前学修	個別意見Eの内容について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分
12	個別意見の考察 6		個別意見について考察する。	
	この回の到達目標	①②③ 個別意見Fの内容を説明することができる。		
	事前学修	個別意見Fの内容について考えておくこと（2時間）		120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	統治行為論 1		統治行為論について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 統治行為論の内容を説明することができる。	
	事前学修	統治行為論の内容について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
14	統治行為論 2		統治行為論について考察する。
	この回の到達目標	①②③ 統治行為論の内容を説明することができる。	
	事前学修	統治行為論の内容について考えておくこと（2時間）	120分
	事後学修	この回の授業について500字前後で表現できるようになること（2時間）	120分
15	閉講の辞		「高度な政治性」を有する問題に関する裁判所の憲法判断とは何かを考察するに当たって必要なことを考察する。
	この回の到達目標	①②③ 「高度な政治性」を有する問題に関する裁判所の憲法判断とは何かを考察するに当たって必要なことを考察することができる。	
	事前学修	「高度な政治性」を有する問題に関する裁判所の憲法判断とは何かを考察するに当たって必要なことについて想像をめぐらしておくこと（2時間）	120分
	事後学修	統治行為論と砂川事件最高裁判決の関係、ひいては「高度な政治性」を有する問題に関する憲法判断を裁判所が行うための条件について考えをめぐらせること（2時間）	120分

科目名	法学特殊講義(ジェンダーと法)Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				

【授業の概要】
「正義の実現」を目的の一つに掲げる法を、ジェンダーの視点から分析することが、この「ジェンダーと法」の授業である。私たちの社会には、伝統的な慣習や認知バイアスなどから、差別構造を含む法の条文や法システムを、不変的な既定のものとして捉えることがある。またそのような法規範が存在することにより、妥当とは言えない規範意識が再生産され、生き辛さに結びつくことがある。こうした「法のゆがみ」をジェンダーという視点から見直してみたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法の目的の一つである「正義の実現」のために、法がどのような機能を果たし、また果たす可能性を持つのか、もしくはいかに法により操作され事実上の正義の実現が阻害されているのかを、ジェンダーの見地から検証することで、現代法に潜む構造的、機能的な問題点を認識し、かつ表現する力を育成することが、この授業の目的である。 ジェンダーに関する基礎的知識を前提として、法をジェンダーの視点から見たとき、どのような問題があるのかを理解し、それを多角的な視点から論理的に表現・説明する力をつけることを、到達の目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的事項を講義した後、リアクションペーパーの作成を行う。 リアクションペーパーは次回以降の授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	ジェンダーとは何かを理解し、説明することができる。		2			2			
②	ジェンダーに関係する法律上の問題について理解し、説明することができる。		2			2			
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関し、授業内で試験を行う。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクションペーパー)	到達目標①②に関し、授業内でリアクションペーパーを作成する。	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回以降の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レクチャージェンダー法（シラバスではAと表記）	犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編	法律文化社	2012年	教科書	推奨
セクシュアリティと法（シラバスではBと表記）	谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編	法律文化社	2017年	教科書	推奨
ジェンダー法学入門	三成美保、笹沼朋子、立石直子、谷田川知恵	法律文化社	2019年	参考書	任意
備考	なし				

【オフィスアワー】
対面の場合は火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館 7階1713研究室。zoom面談の場合は、事前にメールで相談してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期オリエンテーション及び導入講義	ジェンダーと法を学ぶ意義	
	この回の到達目標	ジェンダーとは何か、それが法とどう関係するかにつき理解できるようにする。	
	事前学修	「ジェンダー差別」という言葉から想起される事例を各自考えた上で、教科書Aの序章を読んでおく。	120分
	事後学修	「ジェンダー・ステレオタイプ」の例を挙げる。自分の問題として、ジャンダーがどう関わっているのか、具体例を挙げて考える。	120分
2	ジェンダー法を学ぶ基礎 1	ジェンダーと憲法・民法・刑法	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A0章Ⅰ～Ⅲを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
3	ジェンダー法を学ぶ基礎 2	ジェンダーと社会法・国際法	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A0章Ⅳ、Ⅴを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
4	日本における性差別	歴史的、法的に存在する性差別	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A1章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
5	フェミニズム法学の展開	フェミニズムの主張、フェミニズムが法学に与えてきた影響	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A3章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
6	学校教育に見るジェンダーバイアス	ジェンダーバイアスとはどのようなものか、学校のカリキュラムに潜むジェンダーバイアス	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A4章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	家族と平等	婚姻の成立、夫婦同姓、親子関係	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A5章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
8	家族と自由	標準的家族モデル、「家族」の保護	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A6章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
9	逸失利益	失われたものの「値段」の男女差	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A7章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
10	雇用とジェンダー	雇用におけるジェンダー問題、ワーク・ライフ・バランス	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A8章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
11	社会保障とジェンダー	社会保障におけるジェンダー問題、第三号被保険者	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A9章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
12	政治・行政、立法、司法分野とジェンダー	三権におけるジェンダーバランスとポジティブ・アクション	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A15、16章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	男性にとってのジェンダー法	男らしさの代償	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A17章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
14	授業内試験及び講評	前期に扱ったテーマの振り返り	
	この回の到達目標	前期の内容について理解し、様々な立場や見解を踏まえた上で、より妥当なあり方について論理的に論じられるようにする。	
	事前学修	前期の内容につき、要点を整理しておく。現状や法的扱いなどを理解し、それを論理的に示せるように準備しておく。	120分
	事後学修	講評に基づき、自分の作成した解答を検討する。次回に備えて、問題点等を明確にしておく。	120分
15	前期まとめ	ジェンダー法学の応用	
	この回の到達目標	前期の内容・要点について理解した上で、相互にディスカッションできるようにする。	
	事前学修	これまでの授業の要点につき、再度確認しておく。教科書A18章を読んでおく。	120分
	事後学修	これまでの学びが、実生活でどのように活用されうるか整理する。またジェンダーの問題が他の領域に与える影響について考察する。	120分

科目名	法学特殊講義(ジェンダーと法)Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				

【授業の概要】
「正義の実現」を目的の一つに掲げる法を、ジェンダーの視点から分析することが、この「ジェンダーと法」の授業である。私たちの社会には、伝統的な慣習や認知バイアスなどから、差別構造を含む法の条文や法システムを、不変的な既定のものとして捉えることがある。またそのような法規範が存在することにより、妥当とは言えない規範意識が再生産され、生き辛さに結びつくことがある。こうした「法のゆがみ」をジェンダーという視点から見直してみたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
法の目的の一つである「正義の実現」のために、法がどのような機能を果たし、また果たす可能性を持つのか、もしくはいかに法により操作され事実上の正義の実現が阻害されているのかを、ジェンダーの見地から検証することで、現代法に潜む構造的、機能的な問題点を認識し、かつ表現する力を育成することが、この授業の目的である。 ジェンダーに関する基礎的知識を前提として、法をジェンダーの視点から見たとき、どのような問題があるのかを理解し、それを多角的な視点から論理的に表現・説明する力をつけることを、到達の目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的事項を講義した後、リアクションペーパーの作成を行う。 リアクションペーパーは次回以降の授業内で解説・講評し、さらに理解を深める材料とする。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	ジェンダーとは何かを理解し、説明することができる。		2			2			
②	ジェンダーに関係する法律上の問題について理解し、説明することができる。		2			2			
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②に関し、授業内で試験を行う。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクションペーパー)	到達目標①②に関し、リアクションペーパーを作成する。	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーは、次回以降の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
レクチャージェンダー法（シラバスではAと表記）	犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編	法律文化社	2012年	教科書	推奨
セクシュアリティと法（シラバスではBと表記）	谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編	法律文化社	2017年	教科書	推奨
ジェンダー法学入門	三成美保、笹沼朋子、立石直子、谷田川知恵	法律文化社	2019年	参考書	任意
備考	なし				

【オフィスアワー】
対面の場合は火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館 7階1713研究室にて。zoom面談を希望される場合も事前にメールで相談して下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	オリエンテーション及び導入講義		ジェンダーとは何か、「ジェンダーと法」が明らかにするもの	
	この回の到達目標	ジェンダーとは何か、ジェンダーの視角を法に取り入れることにより、何が明らかになり得るかを理解する。		
	事前学修	ジェンダーと何か、ジェンダーを巡ってどのような問題があるのかを、自分に引きつけて具体的に考えておく。教科書Aを概観し、ジェンダーと法に関してどのような問題があるのか、把握しておく。		120分
	事後学修	自分に起きたジェンダーに関する具体的問題を、ジェンダー中立的見地から眺めるとどのように考えられるか、挙げておく。		120分
2	セクシュアル・ハラスメント		セクハラ概念、類型、特徴、法により規制可能な範囲	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A11章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
3	ドメスティック・バイオレンス、ストーカー		ドメスティック・バイオレンス、ストーカー概念、類型、特徴、法により規制可能な範囲	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A12章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
4	性犯罪をめぐる問題		強姦性交等の性犯罪の特徴、強姦神話、法により規制可能な範囲	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A10章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
5	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		性に関する自己決定のあり方、中絶におけるプロライフとプロチョイス	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A13章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
6	性表現とジェンダー		性表現の自由とその規制のあり方、限界	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A14章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法的性別の根拠		性的マイノリティの多様性、性的に「ノーマル」とは	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B1章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
8	性同一性障がいと法		性的指向と性自認	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B2章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
9	性的マイノリティの親子関係		性的マイノリティは親子関係を持てるのか	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B4章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
10	同性婚と法		異性婚の根拠、同性婚を取り巻く環境	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B5章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
11	性的マイノリティと労働		性的マイノリティからみる労働環境とその問題	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B7章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分
12	性的マイノリティと学校教育		学校教育とジェンダーバイアス、性的ノーマティヴィティ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B8章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	人権の多様性	クイア理論、法が守る少数派の権利とは	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B9章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。	120分
14	授業内試験及び講評	後期の内容全般の振り返り	
	この回の到達目標	後期の内容について理解し、様々な立場や見解を踏まえた上で、より妥当なあり方について論理的に論じられるようにする。	
	事前学修	後期の内容につき、要点を整理しておく。現状や法的扱いなどを理解し、それを論理的に示せるように準備しておく。	120分
	事後学修	講評に基づき、自分の作成した解答を検討する。次回に備えて、問題点等を明確にしておく。	120分
15	後期まとめ	「セクシュアリティと法」のゆくえ	
	この回の到達目標	ジェンダーやセクシュアリティの視点から、社会的弱者が法により守られるとはどういうことか、その限界はどこにあるか、理解できるようにする。	
	事前学修	後期の内容につき、再度確認しておく。教科書B12章を読んでおく。それについてディスカッションできるように準備しておく。	120分
	事後学修	これまでの学びが、実生活でどのように活用されうるか整理する。またジェンダーの問題型の領域に与える影響について考察する。	120分

科目名	法思想史Ⅰ	担当者	井上 琢也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
各回授業前に配布するプリントに沿って、講義を行います。Google Classroomを通じたオンデマンド方式を採用しますので、動画を視聴しながらノートをしっかりとってください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。						2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関連して、授業時毎に小テストを出題し、各回の内容がおおむね理解出来ているか確認する。	35	30									65
レポート等	到達目標①②に関連して、前学期終盤に「まとめレポート」を作成してもらい、本講義の内容を全体的に理解出来ているか確認する。	20	15									35
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	上記「まとめレポート」の提出を前提とし、毎授業時に出題する小テストの点数の積算にレポートの点数を合算して、小テスト(65%)とレポート(35%)の比率で評価する。詳細は初回の授業時に説明する。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	45									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業時に、授業全体を振り返りながら、レポート等に関する講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『法思想史』（有斐閣アルマシリーズ）	中山竜一他	有斐閣	2019年	参考書	任意
『法思想史 第二版』（有斐閣Sシリーズ）	田中成明他	有斐閣	1997年	参考書	任意
『法思想史 新版』	三島淑臣	青林書院	1993年	参考書	任意
『政治思想史講義』	小野紀明	岩波書店	2015年	参考書	任意
『政治思想の源流―ヘレニズムとヘブライズム』	古賀敬太	風行社	2010年	参考書	任意
『世界哲学史 1 ないし 4』（ちくま新書）	山内・納富他	筑摩書房	2020年	参考書	任意
『哲学がわかる 自由意志』	トーマス・ピンク	岩波書店	2017年	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
Google Classroomを通じて質問等に応じる。inoue.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	<プレリユード>「自然」という言葉について		開幕にあたり、授業で何を話すか、授業をどう進めていくか評価方法も含めて説明します。その上で、古代から中世にかけての「自然法」論の流れを辿る本授業において「船頭」的役割を果たす「自然」という言葉の意味について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、nature＝自然・本性という言葉が通時的に持っている重層的な意味を説明することができるようになる。		
	事前学修	「自然」という言葉の意味を辞典で調べておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自然」という言葉がもつ複数の意味について整理しておいて下さい。		120分
2	<古代ギリシアの法思想と女神達>西洋「法」思想の源流を訪ねて		「自然法」論を検討するための前提となる材料を確保するために、戯曲『オイディプス王』等を参照しながら、テミスやディーケ等の女神たちとギリシア法思想が契った関係について概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の舞台でも体感できる古代ギリシアの演劇の中に、法や正義の多様な姿がすでに現れていることを説明できるようになる。		
	事前学修	ソボクレス作『オイディプス王』のあらすじについて調べておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、アルカイック期における「自然と人為」の関係性の变化について整理しておいて下さい。		120分
3	<ピュシスとノモス>その出会いと別れについて		プラトンのソフィスト批判に注目して、「自然法」論のはじまりに立てられた「ピュシスとノモス」という二つの旗の意味について考察しながら、古代ギリシアを規定した客観的な正義・法観念を支えた「自然本性」のふるまいを追跡します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代正義論の範型となるソフィストの議論を精確に理解し、プラトンのアイデア論が「自然」概念を媒介として国家論、法理論とどのようにつながっているか説明できるようになる。		
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、紀元前6世紀から前4世紀にかけてのギリシアの状況を確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、プラトンが「ピュシス」と「法」の関係についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。		120分
4	<アリストテレスと自然、正義（1）>「幸福」という言葉について		万学の祖とされるアリストテレスの「目的」論的世界観を、「自然」、「運動」、「最高善」といった言葉に寄り添って概観し、ポリス＝国家と徳、幸福との関係性について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アリストテレスの「ポリス的動物」という概念を精確に理解し、現在流行中の「徳倫理学」とアリストテレスの議論がどうつながっているか説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アリストテレスが提示した「ポリス的動物」という言葉の意味を確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、アリストテレスが「目的」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。		120分
5	<アリストテレスと自然、正義（2）>「全体的正義」あるいは「不随意的行為」について		アリストテレスが「正義」について試みた基本的かつ複合的整理を紹介するとともに、彼の「行為」論の中から、「自由意志」や「責任」について考える手がかりを探し出してみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「配分的正義」等の種々の正義概念の概要を説明し、現代の刑法理論等で展開されている責任論の底流にある「行為」概念を的確に操作できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アリストテレスが「徳」という言葉をどのように使用していたか、確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「遵法的正義」、「選択」、「無知」等の重要概念の意味を整理しておいて下さい。		120分
6	<ストア派周辺の人々と自然法>法体系論と運命論について		「自然法」について考えるとき準拠される枠組みをほぼ完成させたストア派周辺の議論を整理し、キケロらが提示した「自然法則」「万民法」「運命」等の概念の意味について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然法」論の土台には理性＝ロゴス概念が存在することを精確に提示し、現代においても議論が白熱している、「自由意志」をめぐる「両立論」について説明できるようになる。		
	事前学修	3回目に配布したプリントに基づいて、ソフィストが「ノモス」をどう批判したか、確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自然法」や「運命」という言葉がもつ多層的な意味について、慎重に整理しておいて下さい。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	<アウグスティヌスと自然法>「神の光」と「悪」について		「地上の国」の位置付けや「照明」説にも当然目配りしながら、「永久法」概念等に基づくアウグスティヌスのキリスト教的「自然法」論について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アウグスティヌスが「悪」と国家、理性、意志との関係をどのように考えていたかを整理した上で、正義や法をめぐる「主意主義」・「主知主義」的理解について説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、アウグスティヌスが「秩序」の形成についてどう考えていたか、確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、アウグスティヌスが「神の光」や「神と悪の関係」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。		120分
8	<トマス・アクィナスと自然法（１）>理性と永久法と自然法について		中世スコラ学を体系化し、その後の「法」の見方についても決定的な影響を与えた教会人トマスの「自然法」論について、人間の理性や神の理性との関わりに留意して、アリストテレスやアウグスティヌスの思想と比較しながら検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「理性的被造物の永久法への参与」と自然法が定義されることの意味を提示し、現代自然法論においても重要な論点となっている自然法と理性との関係性について説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、トマスが「超自然」と「自然」との関係についてどう考えていたか、確認しておいてください。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、トマスが正義や人間の理性についてどう考えていたか、慎重に整理しておいて下さい。		120分
9	<トマス・アクィナスと自然法（２）>「自然の光」と「神の恩恵」について		トマスが国家や法についてどう考えていたか、「自然本性」や「主知主義」といった言葉に立ち戻って包括的に検討した上で、「意志は誤ることはない」といったフレーズを手がかりに「意志と自由意志」論についても考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トマスが人間を「政治的・社会的動物」とみなしたことの意味を説明し、「意志」と「自由意志」概念を区別しながら、真の自由と選択の自由について説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、「主意主義」や「恩恵」という言葉に与えられた意味について確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「恩恵は自然を廃さず、むしろそれを完成する」や「善にも悪にも向かい得る自由意志」等のフレーズの意味について整理しておいて下さい。		120分
10	<『薔薇の名前』の法思想史>オッカムの正義論と「神の意志への服従」「自由意志による服従」について		14世紀の哲学者オッカムには主意主義者や唯名論者という属性が通常付与されるのですが、聖書や教会に潜む難題について彼が与えた解答の意味を「神への憎悪は悪ではない」というフレーズや「認容的自然法」というカテゴリー等の枠組に依拠して考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、オッカムが「倫理的に正しい行為」をどう定義づけたか精確に提示し、「主意主義」的法実証主義者としてのオッカムが展開した自然法論の概要を説明できるようになる。		
	事前学修	『薔薇の名前』という小説・映画について調べておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「イサクを殺す命令」や「教皇の任命権」を正当化する理由についてオッカムがどう考えたか、整理しておいて下さい。		120分
11	<「清貧論争」におけるオッカム>墮罪前の「支配の権能」と「使用の権能」について		中世末の教会を震撼させた「清貧論争」において、オッカムが「所有していなくても使用できる」と考えた論拠について、墮罪前と墮罪後、カインによる財産分割の前と後等に分けて、詳細に紹介した上で、「共用」、「共有」、「私的所有」等の概念を整理します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「天使的支配権」や「私的所有のライセンス」といった言葉を効果的に使いながら、現在もなお「私的所有」論の典拠とされる、オッカムの自然法上の「使用の権能」論について説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、オッカムが「使用の権能」についてどう考えたか、確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、トマスとオッカムが「私的所有」と「緊急使用权」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。		120分
12	<グロティウスにおける「所有」と「嘘」>「共用される海」と「悪でない嘘」、そして「自由意志」について		16歳で弁護士になった早熟の天才グロティウスの主著『戦争と平和の法』が含む膨大な論点の中から、「先占」を発端とする「私的所有」成立論や「知る権利」を前提とした「嘘」に関する新しい考え方について紹介します。さらに、これまでの授業の各所で登場した「自由意志」という言葉について、その内容を整理してみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、トマスやグロティウス等を比較しながら西洋における「所有」にも自然本性的に「共用」が内在していることや民法で登場する「心裡留保」には神学的背景があることを説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、グロティウスが「私的所有」についてどう考えたか、確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「嘘」と「悪」と「心裡留保」の関係について整理しておいて下さい。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	<「死者」の法思想史>「自殺」をめぐる法手続について		ヨーロッパ社会において、「死者」がどのように扱われてきたか、「自殺者」へのサンクションや「自殺」の原因論等に注目しながら、法思想史の立場から考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、西欧近代が「自殺」を峻別し「病理化」「脱犯罪化」するに至ったプロセスについて説明することができるようになる。		
	事前学修	「自殺」と「自死」の違いについて確認するとともに、江戸時代以前の日本で「自殺者」はどう扱われていたか調べてみて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自殺者」の峻別について整理した上で、現代を生きるあなたが「自死」者としてどう対するか考えてみて下さい。		120分
14	<「異形」の法思想史>「あやかし」は「自然」の中にあるのかという問いについて		これまでの授業で紹介した古代・中世「自然法」論を踏まえて、ヨーロッパ社会において、「異形なるもの」が法的にどのように扱われてきたか、アリストテレス、アウグスティヌス、プラトン等を例に挙げて概観してみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代・中世の自然法論が、ルソーらの「一般意志」論を通じて、現代の法理論に接続していることを説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、西欧古代・中世において「異形なるもの」は「自然」の内部にいたか否か、確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、マルブランシュが「一般意志」と「自然の法」と「異形なるもの」をどう結びつけていたか、整理しておいて下さい。		120分
15	<授業を振り返って。そして、その向こう側にあるものについて。>		「まとめレポート」出題のねらい等について説明します。レポートや小テストの内容と結びつけながら、これまで紹介した様々な自然法論の内容を整理し、「悪」や「自由意志」に関する、いにしえ人の思索の中に、皆さんが現在を生き抜くヒントを見いだしてみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアから中世にいたる自然法論の流れを整理して、現代とのつながりを説明できるようになる。		
	事前学修	「自然」や「悪」について、授業で紹介した各思想家がどう語っていたか、整理しておいてください。		120分
	事後学修	レポート等でうまく表現できなかった箇所を反省しながら、自然法論の概略を改めて整理し直して下さい。		120分

科目名	法思想史Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式を基本としつつ、一定のテーマを扱った後、それについてリアクションペーパーを作成する。5回に1回、それまでの授業を内容踏まえた上で、現代的問題とも通底する課題（責任、権利、法の支配）について提示し、検討して、レポートを作成する。リアクションペーパーやレポートは授業内で解説・講評し、さらに理解を深めるための素材とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。					2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関連して、5、10、15回目にレポートを作成する	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	到達目標①②に関し、毎時リアクションペーパーを作成する	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーやレポートは、次回以降の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想の水脈（シラバスではAと標記）	森村進編	法律文化社	2016年	教科書	任意
はじめて学ぶ法哲学・法思想（シラバスではBと標記）	竹下賢・角田猛之他編	ミネルヴァ書房	2010年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
対面では火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館7階1713研究室。zoom面談を希望される方も、まずメールで連絡をしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期オリエンテーション及び導入講義	法思想史とはなにか	
	この回の到達目標	法思想を学ぶ意義を考え、そもそも法とは何か、法的な正しさと社会的な正しさとは同じなのかについて理解し、要点を示すことができるようにする。	
	事前学修	社会的な正しさと、法的な正しさとの異同を考えておく。教科書A0章を読んでおく。	120分
	事後学修	法思想史における様々なアプローチを大まかに整理し、法思想史を学ぶ意義を押さえておく。	120分
2	古代ギリシアの法思想 1	ソクラテス、プラトンの法思想	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの11～19ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	古代ギリシアの法思想 2	アリストテレス	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの19～26ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
4	神学的自然法論	アウグスティヌス、トマス・アクィナス	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの2章を読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)	120分
5	現代の中で考える法思想 1	なぜ責任を問えるのか？ アリストテレスとカントから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	1～4回の内容について確認したうえで、教科書Bの40～51ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)	120分
6	法の支配	クック、ベンサム、ミル	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの42～57ページを読み、時代背景も把握しておく。(2時間)	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	社会契約論 1		ホッブズ、ロック	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの58～65ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）		120分
8	社会契約論 2		ルソー	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの66～73ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）		120分
9	ドイツ観念論		カント、ヘーゲル	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの5章を読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
10	現代の中で考える法思想 2		権利とは何か？ ホッブズとイエーリングから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	6～9回の内容について確認したうえで、教科書Bの16～27ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
11	概念法学		サヴィニー、プフタ、イエーリング	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの96～122ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
12	法社会学の形成		エールリッヒ、ウェーバー	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの123～137ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	プラグマティズム		ホームズ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の34～35ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
14	価値相対主義の法哲学		ラートブルフ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Bの205～218ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
15	現代の中で考える法思想3		法の支配とは何か ホップズとロックから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	11～14回の内容について確認したうえで、教科書Bの89～102ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。全体を概観したうえで、どのような問題があったかを確認する。（2時間）		120分

科目名	法思想史Ⅱ	担当者	井上 琢也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
各回授業前に配布するプリントに沿って、講義を行います。Google Classroomを通じたオンデマンド方式を採用しますので、動画を視聴しながらノートをしっかりとってください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。						2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関連して、授業時毎に小テストを出題し、各回の内容がおおむね理解出来ているか確認する。	35	30									65
レポート等	到達目標①②に関連して、後学期終盤に「まとめレポート」を作成してもらい、本講義の内容を全体的に理解出来ているか確認する。	20	15									35
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()	上記「まとめレポート」の提出を前提とし、毎授業時に出题する小テストの点数の積算にレポートの点数を合算して、小テスト(65%)とレポート(35%)の比率で評価する。詳細は初回の授業時に説明する。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		55	45									100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終授業時に、授業全体を振り返りながら、レポート等に関する講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『法思想史』（有斐閣アルマシリーズ）	中山竜一他	有斐閣	2019年	参考書	任意
『法思想史 第二版』（有斐閣Sシリーズ）	田中成明他	有斐閣	1997年	参考書	任意
『法思想史 新版』	三島淑臣	青林書院	1993年	参考書	任意
『政治思想史講義』	小野紀明	岩波書店	2015年	参考書	任意
『世界哲学史 6』（ちくま新書）	山内・納富他	筑摩書房	2020年	参考書	任意
『例外状態』	ジョルジュ・アガンベン	未来社	2007年	参考書	任意
『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）	木島泰三	講談社	2020年	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
Google Classroomを通じて質問等に応じる。inoue.takuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	<インターミッション>「契約」という言葉について		この授業でどのようなことを話すか、どのように進めていくか、評価方法も含めて説明します。その上で、近世の「社会契約論」について念入りに復習する本授業を貫く鍵概念としての「契約」という言葉がもつ多様な意味を「信約」や「合意」等の言葉と対比しながら確認します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法学部生なら当然知っているべきなのにあやふやな理解にしばしば留まっている、「契約」の基本的な枠組みについて、その歴史的・社会的背景も踏まえて説明できるようになる。		
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、ヨーロッパで「近世」と呼ばれる時代のイメージをつかんでおいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「契約」という言葉がどんな意味で使われてきたか整理しておいて下さい。		120分
2	<グロティウスと近世自然法論>アベルとカルネアデスをめぐる物語について		グロティウスが「自然法」や「自然本性」に与えた複数の属性等を説明しながら「近世自然法論」の基本的な枠組みを確認するとともに、『戦争と平和の法』に登場するカルネアデス批判を通じて「正義」と「社会性」の関係について、アベル殺しの物語を通じて「刑罰権」の起源について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グロティウスの「自然法論」について「社会性」等に注目して説明できるようになるとともに、「緊急避難」等について語るための語彙を増やす。		
	事前学修	「自然法」という言葉の意味を辞典やインターネット等で再度確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、新旧の「自然法」論の違いについて整理しておいて下さい。		120分
3	<ホッブズと社会契約 総論（１）>「熟慮する人間」と「あらゆるものに対する権利」について		ホッブズの「社会契約論」の基層にある「自然権」「自然法」という概念の意味について、情念、意志、理性等の言葉やホッブズの人間観、運動論にも留意しながら詳論してみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホッブズが使った「意志的行為」という言葉の意味や「人権」概念を擁護するあるいは批判しようとする際に不可欠な「自然権」という言葉の意味を精確に説明できるようになる。		
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、ピューリタン革命前後のイングランドの状況をつかんでおいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「情念」の一つとしての「恐怖」を出発点として、ホッブズが人間をどう描こうとしたか確認した上で、ホッブズが提示した「自然法」の属性や「社会契約」案について整理しておいてください。		120分
4	<ホッブズと社会契約 総論（２）>「役者としての主権者」と「法を命じる主権者」について		「信約によって作り出された合一を担う主権者」等の「社会契約」に関するホッブズ固有の考え方を手がかりに、国家成立後に登場した「法」や「外的障害がないこと」と定義づけられた「自由」について彼がどう考えていたか紹介します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「自然法が法となった」プロセスについて精確に語り、法・義務と権利・自由の関係についての古典的議論を説明できるようになる。		
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ホッブズが「自然法」や「自然権」をどう意味づけたか確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、契約の担い手や合一、代表等について、ホッブズがどのように捉えていたか整理しておいて下さい。		120分
5	<ホッブズと社会契約 各論>「ホッブズ問題」と「主権者としてのモーセ」について		聖書解釈等と関連づけられて進化し続けている、ホッブズ「社会契約論」に関する研究の最先端を、「片方未履行信約」がもつ拘束力という論点や17世紀イングランドと古代イスラエルの政治状況を対比するという視角にも留意しながら紹介します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「囚人のジレンマ」等を引用しながらホッブズの社会契約論が孕む矛盾の解決策の一例を提示し、モーセを巡る契約を相互契約として社会契約の源流とみなす考え方を説明できるようになる。		
	事前学修	「囚人のジレンマ」ゲームの概略を調べるとともに、旧約聖書でモーセがどのように登場するか、確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「ホッブズ問題」や「主権的預言者」概念について、内容を整理しておいて下さい。		120分
6	<ロックと社会契約（１）>「固有物としてのproperty」と「固有権としてのproperty」について		経験主義的認識論の紹介や「自然的権力」や「固有権」等の語義確認をした上で、ロックの「社会契約論」について、何を譲渡するのかということにとりわけ注意を払いながら検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロックが使用する「自然法」「自然権」「自然的権力」等の言葉の意味を精確に提示し、「自己所有権」等をめぐる現代的議論に参加する際にロックのproperty概念を適切に使用できるようになる。		
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、名誉革命前後のイングランドの状況をつかんでおいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「自然法」が付与した複数の「自然的権力」および固有なものに対する権利としての「自然権」に関するロックの言説の中味を慎重に整理しておいて下さい。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	<ロックと社会契約（２）> 「governmentの中核としての立法部」と「governmentの解体」について	「信託」や「同意」といった言葉に依拠してロックの「社会契約論」に登場するgovernmentについて分析するとともに、彼が法、自由、父権についてどう考えていたか、ホッブズやフィルマーと比較しながら検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「信託」違反行為が発生した際の帰結についてロックがどのように考えていたか精確に示すとともに、法と自由、父権と自由の関係性に関する言説に依拠してロックの「自由」論がもつ「可能性」と「限界」についても説明できるようになる。	
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ロックが「信託」という言葉をどのように使用したか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ロックが「同意」としての「社会契約」において「立法部」をどう位置づけていたか整理しておいて下さい。	120分
8	<ルソーと社会契約 総論（１）> 「自然的感情」と「理性」の相克について	ルソーが展開した論理的シミュレーションとしての『不平等起源論』を出発点として、「憐れみ」や「自己愛」等の概念に注目しながら、彼の「社会契約論」を裏で支えている「理性を具えた人間への批判的視線」について考察します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「純粋な自然状態」には戻れない人間が直面している不平等を生んだ原因についてルソーがどう考えていたか、現代社会にある「不都合な現実」を意識しながら説明できるようになる。	
	事前学修	世界史の教科書等を参照して、ルソーが生きた１８世紀フランスのイメージをつかんでおいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーが提示した複数の「自然状態」について、それらの異同を整理しておいて下さい。	120分
9	<ルソーと社会契約 総論（２）> 「自分自身との契約」と「自分で自分を支配する自由」について	「自律ファースト」を旨とするルソーの「社会契約論」について、誰と誰の契約なのか、何を譲渡するのか、市民が享有する自由とは何なのか、等の普遍的な論点に留意しながら、慎重に検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「公共」について考える際に今なお参照を余儀なくされる、「共同体全体」と「個人」という二つの名宛人を前提としたルソーの「社会契約論」について、「自然的自由から市民的自由へ」や「法は誤らない」等のフレーズを用いながら精確に説明できるようになる。	
	事前学修	前回配布したプリントに基づいて、ルソーが「一般意志」という言葉をどう意味づけていたか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーが個人と共同体全体が結んだ関係性についてどのように考えていたか確認した上で、「一般意志」や「自律」と結びつけて「市民的自由」「道徳的自由」の中味を整理しておいて下さい。	120分
10	<ルソーと社会契約 各論>「本来的自然法」と「理性的自然法」について	理性を自明的前提とした既存の「自然法論」に対するルソーの鋭敏な批判を紹介した上で、原典を参照しながらグロティウスやホッブズの議論を確認して、近世「社会契約論」の整理をします。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代人も享有する「不平等は自然法に反する」という考え方をいち早く提示したルソーが「自然法論」の批判者でもあったことの意味を説明できるようになる。	
	事前学修	これまで配布したプリントに基づいて、ルソーが「憐れみの情」について、ホッブズが「リヴァイアサン」について、どのように発言していたか確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーが「自然法」や「理性」に与えた複数の評価について整理しておいて下さい。	120分
11	<「敵を罰することは可能か」という問いを巡る法思想史>「市民としての犯罪者」と「敵としての犯罪者」について	ホッブズやルソー等の「社会契約論」は刑罰や犯罪者をどう位置付けていたか確認した上で、ルソーの戦争論や9/11以来賑やかになっている「対敵刑法」を巡る議論に基づいて、「敵を罰すること」と「法」との関係について検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ルソーの戦争論やヤコブスの対敵刑法論等に基づくならば、戦場の兵士やテロリストはどのような理由で罰することができるのか、あるいは罰することができないか、現状を批判的に眺めながら説明できるようになる。	
	事前学修	３回目や８回目等に配布したプリントに基づいて、ホッブズやルソーの「自然状態」論について復習しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、現代ドイツの犯罪学者ヤコブスの議論を参照しながら、これまで紹介してきた各思想家の「刑罰権」、「戦争」、「市民」の位置付け方の違いを整理しておいて下さい。	120分
12	<「例外状態にどう対すればいいのか」という問いを巡る法思想史> 「法から排除された存在」かつ「法に包含された存在」について	現代イタリアの思想家アガンベン「ホモ・サケル」をめぐる言説を手がかりに、カール・シュミットらが定義づけた「例外状態」という存在がもつ二面性について考察し、「例外状態」が遍在化している現代を生きるヒントを提供したい。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホッブズの「自然状態」論等を用いて、「境界線上にある存在」としての「例外状態」が現代社会において日常的に顕在化する仕組みを説明できるようになる。	
	事前学修	「緊急事態」等の言葉を巡ってどのような議論が存在するのか、憲法の教科書等を参照して確認しておいて下さい。	120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、古代ローマの「ホモ・サケル」という人間類型やホッブズの「狼」概念に注目して展開された、アガンベン「例外状態」論について整理しておいて下さい。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
13	<「主権者」に注目した「社会契約論」回顧>「リアルに生きている群衆」かつ「不可視な群衆」について		アガンベンの『スタシス』に依拠して、『リヴァイアサン』の扉絵や「君主制において臣民たちは群衆であり王は人民である」というホッブズの発言を手がかりに、「社会契約論」の鍵となる「主権者」の属性について再度確認してみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カール・シュミットの「例外状態」論について説明するとともに、「群衆」や「人民」という言葉を的確に使用して、「主権者」や「社会契約」について説明できるようになる。		
	事前学修	4回目に配布したプリントに基づいて、ホッブズが「合一」についてどう考えていたか確認しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、ルソーやホッブズが社会契約において「主権者」をどう位置づけたか、整理しておいて下さい。		120分
14	<「独裁」と「同一性」を巡る法思想史>ルソーにおける「ディクトール」とロックにおける「テセウスの船」について		コロナ禍の現在、再評価されるべきルソーの「独裁」論について確認するとともに、射程の広さが際立つ思想家であったロックが「人格の同一性」という枠組みのもとに展開した法的責任論について紹介します。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「同一性」についての様々な考え方を整理して、「解離性障害を抱える者に刑事責任を問えるか」等の問いについて自分なりの答えを的確に表現できるようになる。		
	事前学修	7回目と9回目に配布したプリントに基づいて、ロックやルソーが「自由」についてどう考えていたか、復習しておいて下さい。		120分
	事後学修	配布したプリント等に基づいて、「同一性」に関するロックの「意識」説を参照しながら、「酩酊中の行為に関する法的責任」について自分なりの解答を作成して下さい。		120分
15	<授業を振り返って。そして、その向こう側にあるものについて。>		「まとめレポート」出題のねらい等について説明します。レポートや小テストの内容と結びつけながら、これまで紹介した様々な社会契約論の内容を整理し、「自由」や「義務」に関する、いにしえ人の思索の中に、皆さんが現在を生き抜くヒントを見いだしてみます。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の様々な法概念とのつながりを意識しながら、近世の様々な社会契約論の異同を精確に記述できるようになる。		
	事前学修	「権利」と「法」の関係性について、各思想家がどう説明したか、その違いを整理しておいてください。		120分
	事後学修	レポート等でうまく表現できなかった箇所を反省しながら、社会契約論の全体像について改めて整理し直して下さい。		120分

科目名	法思想史Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
実定法学と対をなす基礎法学から法を考えると、法の歴史、法をどう見るか、法に特有な思考方法などが主たるテーマとしてあるが、それらを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対比、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものかといった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現行の法制度についてより深く理解し考察を深めるために、法思想を通じて古典的教養を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
講義形式を基本としつつ、一定のテーマを扱った後、それについてリアクションペーパーを作成する。5回に1回、それまでの授業内容を踏まえた上で、現代的問題とも通底する課題（法的人格、デモクラシーと多数決、自由の規制）について提示し、検討して、レポートを作成する。リアクションペーパーやレポートは授業内で解説・講評し、さらに理解を深めるための素材とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法の成り立ちやその思想的背景を理解し、説明することができる。					2	2						
②	法思想を現代的課題の中で理解し、それを説明することができる。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②に関連して、5回に1回レポートを作成する	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクション ペーパー)	到達目標①②に関連して、毎回リアクションペーパーを作成する	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーやレポートは、次回以降の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想の水脈（シラバスではAと標記）	森村進編	法律文化社	2016年	教科書	任意
はじめて学ぶ法哲学・法思想（シラバスではBと標記）	竹下賢・角田猛之他編	ミネルヴァ書房	2010年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
対面の場合は火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館7階1713研究室。zoom面談を希望される場合も、事前にメールで連絡をしてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後期オリエンテーション導入講義	法的妥当性と正義	
	この回の到達目標	法、正義、国家とは何か、それぞれどのような関係にあるのかについて検討し、要点を示すことができるようにする。	
	事前学修	法的な正しさと国家との関係について考えておく。参考書の2、3ページ及び46、47ページを読んでおく。	120分
	事後学修	正義と国家とがどのように関係しているのか、論点を整理しておく。	120分
2	国法学と立憲主義 1	イエリネク	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Bの77～88ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	国法学と立憲主義 2	天皇機関説	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの138～152ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
4	法実証主義 1	ケルゼン、シュミット	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの153～165ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
5	現代の中で考える法思想 1	法的な人格とは何か？ ケルゼンから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	16～19回の内容について確認したうえで、教科書Bの28～39ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
6	法実証主義	H. L. A. ハート	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの170～183ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	再生自然法論		ハート・フラー論争	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの184～202ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
8	正義論 1		ロールズ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの203～216ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
9	正義論 2		ドゥオーキン	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの138～152ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
10	現代の中で考える法思想 2		デモクラシーと多数決 ルソー、トクヴィルから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	20～24回の内容について確認したうえで、教科書Bの176～189ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
11	正義論 3		A. セン	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。参考書の182～183ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分
12	正義論 4		リバタリアニズム	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの217～228ページを読み、時代背景も把握しておく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	正義論 5	コミュニタリアニズム、フェミニズム	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の120～123ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
14	正義論 6	多文化主義	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の124～125ページを読み、時代背景も把握しておく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。	120分
15	現代の中で考える法思想 3	自由の規制 ミルとバーリンから	
	この回の到達目標	これまでの内容を踏まえつつ、与えられたテーマについて検討し、レポートに自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	26～29回の内容について確認したうえで、教科書Bの251～262ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。全体を概観したうえで、どのような問題があったかを確認する。	120分

科目名	法情報学Ⅰ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○			

【授業の概要】
コンピュータネットワークやインターネットを通して、データベースを利用するなどし、法律学のレポートを作成するための情報、資料の収集を学ぶとともに、インターネットやコンピュータに関する諸問題とその法律関係を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
少なくとも法学部図書館から利用できるデータベースを通して、様々な情報を検索する。インターネット上に生ずる様々な問題を現行法を通してどのように解決できるのか、また現行法上の問題点を考え、諸問題の解決方法を正しく習得させること。 インターネット上の商取引の問題点を正しく理解し、解決の方向性を見出せるようになること。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。 必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	1回、2回、インターネットを利用して、各種データベースにアクセスし、必要な情報を発見、収集することを行う。 毎回、e-GAV法令検索システムを利用して関連法令を検索、確認する。諸種の資料を検索、収集する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ある問題を法律に基づいて解決するために、必要とされる様々な情報を収集し、分類する。						2						
②	収集した様々な情報から問題解決のための情報を対比、選択し、情報の要素を発見し、結論を導く。						2						
③	国境を越えた問題を解決するために、問題に対する世界の情報を収集し、グローバルスタンダードを発見し、問題解決のために、応用、適用する。							2					
④	既存の法律を単純に適用できないインターネット上に現れる様々な問題の解決方法を指摘し、各人の権利が守られるルールを提案する。										2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義で取り上げたテーマの中からレポートの課題を決め、学期末にレポートを提出し、そのレポートにより成績を評価する。	10	20	10	60							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	60							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
講義の最終回にレポート課題の解説を行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
インターネット法	松井・鈴木・山口	有斐閣	2015年	教科書	推奨
情報ネットワークの法実務		第一法規	1999年	参考書	推奨
備考	コンピュータ、インターネットに関する問題は多様で、このテキストに講義内容の全ての項目が記載されているわけではない。				

【オフィスアワー】	
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		インターネットやコンピュータに関して、社会でどのような問題が生じているのか考えてみる。本講義で学ぶ内容に関して、講義計画、成績評価、参考文献等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット、コンピュータに関わる問題点を整理し、その問題点は本来どうあるべきかを理解し説明できる。		
	事前学修	コンピュータやインターネットに関する法的問題にはどのようなものがあるか事前に考えてみる。テキスト第1章を読んでおくこと。	120分	
	事後学修	毎日の新聞にどのような事件として、記事として掲載されているかを読み、コンピュータやインターネット上で起こる問題と法の適用を整理する。	120分	
2	インターネットの概念とコンピュータの活用法		インターネットやコンピュータ、AIを利用し、作業効率を上げる方法を考える。例えば、翻訳ソフトの利用で作業効率は向上するのか考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネットやコンピュータの利用がもたらすメリット、デメリットを理解し、利用できる。		
	事前学修	コンピュータ、インターネットを利用することでどのように時間を節約できるかを考える。利用できるデータベースシステムを検索する。	120分	
	事後学修	コンピュータ、インターネットを学習のために利用し、時間の節約、有効利用を実践してみる。図書館のデータベースを利用する。ネット上の翻訳ソフトを使用する。e-GOV法令検索を利用する。	120分	
3	デジタル経済社会の進展と競争政策		インターネットとコンピュータを利用すれば人、物、時間に関して効率的なビジネスモデルを構築することができそうであるが、そのために人は何を失う可能性があるのか考える。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、サイバービジネスとビックデータの結びつきと、プライバシーとの関係を理解し、説明できる。		
	事前学修	コンピュータ、インターネットの利用がもたらす経済効果と情報の支配を考える。参考書「情報ネットワークの法実務第8章15(デジタル経済社会の進展と競争政策)部分を読んでおくこと。	120分	
	事後学修	コンピュータ、インターネットがもたらす省資源化とプライバシーの関係を考え、その調和の妥協点を説明できるようにまとめる。	120分	
4	電子決済1 (クレジットカード決済)		インターネット上の取引における場合と、対面販売における場合のクレジットカード決済の違いについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、インターネット上と対面販売における場合のクレジットカード決済の違いを理解し、説明できる。		
	事前学修	店舗での対面販売の際のクレジットカード決済について調べておくこと。テキスト第8章「1電子商取引の支払いと決済の仕組み」、「6クレジットカードをめぐる法的問題」部分を読んでおくこと。(2時間)	120分	
	事後学修	通常の店舗でのクレジットカード決済とインターネットにおけるクレジットカード決済の違いを十分に理解し、説明できるようにまとめる。(2時間)	120分	
5	電子決済2 (電子マネー、プリペイドカード)		インターネット上の取引に利用される電子マネーとはどのようなものなのか。暗号資産との違いはあるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、電子マネーに関連する法律を理解し、電子マネーについての的確に説明する。		
	事前学修	電子マネー、プリペイドカードとはどういうものなのか、自らが利用しているか調べておくこと。テキスト第8章「1電子商取引の支払いと決済の仕組み」、「2電子マネーをめぐる法的問題」部分を読んでおくこと。	120分	
	事後学修	電子マネー、プリペイドカードの法的保護について正しく理解し、説明できるようにまとめる。	120分	
6	サービスポイント制度の問題点		様々な販売形態その他により付与されるサービスポイントとはどのようなもので、法律上どのようなものなのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、サービスポイントの性格を理解し、電子マネーとの違いを説明する。		
	事前学修	マイレージやサービスポイントとはどういうものなのか？ 参考書「情報ネットワークの法実務第5章12(ポイントサービス)部分を読んでおくこと。	120分	
	事後学修	サービスポイントの法的性格を正しく理解し、電子マネーの保護との違いを説明できるようにまとめる。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	インターネットオークションサイトの問題点		インターネットオークションサイトの主催者、出店者と落札者の権利義務はどのような関係にあるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、関係者それぞれについてその権利と義務に関して理解し、説明する。		
	事前学修	インターネットオークションサイトに関わる事件を調べておくこと。テキスト「第7章電子契約をめぐる私法的な問題」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	インターネットオークションサイトの主催者やサイトの責任について正しく理解し、説明できるようにまとめる。		120分
8	インターネット上の古物営業と盗品の譲渡		インターネットの特性を利用した盗品の販売に関して理解し、適用される法律について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、インターネットの特性と盗品販売に関する法律について理解し、説明する。		
	事前学修	盗品の譲渡について理解しておくこと。刑法256条以下、古物営業法について確認しておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第4章15(インターネット・オークションと古物営業法)部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	現実社会とインターネット上での取引との違いに関して、法の改正と適用の違いについて説明できるようまとめる。		120分
9	インターネット上での売買		個人がインターネット上のサイトに商品を掲載し販売する場合に適用される法律について考える。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、一般法、特別法が適用される場合を区別して理解し、的確に説明できる。		
	事前学修	インターネット上の取引に関して適用される法律である特定商取引法を事前に確認しておくこと。テキスト第7章「電子商取引と契約」を読んでおくこと。		120分
	事後学修	法律に則った店舗であるか否かを見極めることができるよう、問題点を整理しまとめる。		120分
10	ネットワーク上の悪質商法		インターネット上で見かけられる悪徳商法について、問題点と適用できる法を考える。例、「販売預託商法」、「紙幣販売」	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、規制の必要の是非を理解し、適用すべき法律の理由を的確に説明できる。		
	事前学修	マルチ商法、業務提携誘引販売取引、販売預託商法について調べておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第4章6(ネットワーク上の悪質商法(1))部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	インターネットを利用することによる悪徳商法が行われやすいことを理解し、対策、問題点を説明できるようまとめる。		120分
11	電子消費者契約及び電子承諾通知に関する民法の特例に関する法律について		インターネット上の取引に関する消費者の保護に関する法律が何故必要となったのか、及び、その適用について考える。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、インターネット上の取引における消費者の保護について理解し、その保護の効果についての的確に説明できる。		
	事前学修	民法526条(隔地者間の契約の成立時期)および民法95条(錯誤)と、電子消費者契約及び電子承諾通知に関する民法の特例に関する法律の違いについて確認しておく。テキスト第7章4部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	民法の特例に関する法律がネット上の取引にどのように適用されているかを確認し、説明できるようにまとめる。		120分
12	アフィリエイトとドロップ SHIPPING		インターネット上のアフィリエイト、ドロップ SHIPPING と「ネット広告詐欺」について考える。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、アフィリエイト、ドロップ SHIPPING の内容と、ネット広告詐欺に利用される場合を理解し、その問題点と解決法を説明する。		
	事前学修	インターネット上のオークションサイトに同一商品を販売する店舗が多いのか考えてみる。参考書「情報ネットワークの法実務第4章20(アフィリエイトとドロップ SHIPPING)部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	契約の当事者が誰であるのかを明確にし、契約について説明できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	電気通信事業者の電話勧誘行為		電気通信事業者による通信回線に関する電話勧誘行為について電気通信事業法、個人情報保護法の適用も含めて考える。広告メールが規制されるのに電話勧誘行為が許される理由を考える。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、電気通信事業者による電話勧誘行為について理解し、諸法の適用範囲を理解し、電話勧誘行為の規制についての的確に説明する。		
	事前学修	電話勧誘に関する法律(特定商取引法)と電気通信事業法を確認しておくこと。特定商取引法の参考書の「電話勧誘」の部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	電話勧誘行為を規制する諸国との違いを知り、どのような規制が望ましいか、その考えをまとめる。		120分
14	個人情報の保護		ネットワーク、コンピュータを利用した個人情報取得の許容範囲について考える。収集されたBigデータの利用とプライバシーの保護を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の収集とBigデータの利用について理解し、どのような観点から、何を保護すべきなのかを的確に説明する。		
	事前学修	日頃、個人情報がどのように収集されているか調べておくこと。テキスト第11章「インターネット上の個人情報の保護」を読んでおくこと。		120分
	事後学修	わが国における個人情報の集中化とその利用、漏洩と自らの情報の管理と提供の状況を説明できるようにまとめる。		120分
15	今学期のレポート課題についての解説		今学期のレポート課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、課題に対して、的確に情報が収集し、利用し、理解し、説明し、結論を導く。		
	事前学修	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。		120分
	事後学修	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。		120分

科目名	法情報学Ⅱ	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○			○			

【授業の概要】
コンピュータネットワークやインターネットを通して、データベースを利用するなどし、法律学のレポートを作成するための情報、資料の収集を学ぶとともに、インターネットやコンピュータに関する諸問題とその法律関係を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
少なくとも法学部図書館から利用できるデータベースを通して、様々な情報を検索する。インターネット上に生ずる様々な問題を現行法を通してどのように解決できるのか、また現行法上の問題点を考え、諸問題の解決方法を正しく習得させること。 データベース等の利用がスムーズに行えること。インターネット上の商取引の問題点を正しく理解し、解決の方向性を見出せるようになること。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。 必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	1回、インターネットを利用して、各種データベースにアクセスし、必要な情報を発見、収集することを行う。 毎回、e-GAV法令検索システムを利用して関連法令を検索、確認する。諸種の資料を検索、収集する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ある問題を法律に基づいて解決するために、必要とされる様々な情報を収集し、分類する。				2							
②	収集した様々な情報から問題解決のための情報を対比、選択し、情報の要素を発見し、結論を導く。				2							
③	国境を越えた問題を解決するために、問題に対する世界の情報を収集し、グローバルスタンダードを発見し、問題解決のために、応用、適用する。					2						
④	既存の法律を単純に適用できないインターネット上に現れる様々な問題の解決方法を指摘し、各人の権利が守られるルールを提案する。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	講義で取り上げたテーマの中からレポートの課題を決め、学期末にレポートを提出し、そのレポートにより成績を評価する。	10	20	10	60							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	60							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最終回にレポート課題の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
インターネット法	松井・鈴木・山口	有斐閣	2015年	教科書	推奨
情報ネットワークの法実務		第一法規	1999年	参考書	推奨
備考	コンピュータ、インターネットに関する問題は多様で、このテキストに講義内容の全ての項目が記載されているわけではない。				

【オフィスアワー】
授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜２・３・４限）事前にメールでアポイントを取ることE-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンスと前期講義内容に関する質問と回答		インターネットやコンピュータに関して、社会でどのような問題が生じているのか考えてみる。本講義で学ぶ内容に関して、講義計画、成績評価、参考文献等について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、インターネット、コンピュータに関わる問題点を整理し、その問題点は本来どうあるべきかを理解し説明できる。		
	事前学修	コンピュータやインターネットに関する法的問題にはどのようなものがあるか事前に考えてみる。例えば、毎日の新聞にどのような事件として、記事として掲載されているか見てみる。		120分
	事後学修	コンピュータやインターネット上で起こる問題と現実世界で起こる問題の違いを説明できるようにまとめる。		120分
2	情報ネットワーク利用に関する著作権		SNSなどで情報を提供する場合や、ブログなどのサイト画面を作成する場合の著作権は誰にあるのか考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、著作権について理解し、SNSやサイト画面の作成の際の著作権関係を説明する。		
	事前学修	ブログやフェイスブックのサイトを作成する際のソースの著作権は誰にあるのか考えてみる。		120分
	事後学修	公衆送信権と複製の私的使用の違いを正しく理解し、それを説明できるようにまとめる。		120分
3	自炊と著作物の私的利用		本や雑誌をまるごと電子化することは、著作物の私的使用の為の複製といえるのか考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、著作物の私的使用の為の複製について理解し、電子化の是非について説明する。		
	事前学修	書籍のデジタル化に関して、最高裁平成23年1月20日第一小法廷判決を読んでおく。		120分
	事後学修	書籍のデジタル化に関し、代行業者に依頼する場合と自ら行う場合の違いを理解し、説明できるようにまとめる。		120分
4	ソフトウェアの利用許諾		パソコン用ソフトウェアを購入した場合、そのソフトウェアの所有権は誰にあるのか。ソフトウェアの利用許諾契約とはどのような権利義務関係の契約なのか考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ソフトウェア利用許諾契約の権利義務関係を理解し、説明する。		
	事前学修	物品の購入と所有権について知識を確認しておく。最判平成14年4月25日を読んでおく。		120分
	事後学修	利用許諾契約と売買契約の違いについて正しく理解し、説明できるようにまとめる。		120分
5	情報通信装置を利用した従業員の監視		情報通信機器を利用し従業員の職務専念義務や業務上のミスを監視することや、タクシー運転手の位置情報の取得の是非について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、使用者と雇用者の関係に基づいた、情報通信機器を利用したあるいは利用情報による雇用者の監視について理解し、適否を説明する。		
	事前学修	電子メールのモニタリングやGPS機能を利用した位置情報の取得が許される場合と許されない場合を考える。参考書「情報ネットワークの法実務第7章15(IT機器を利用した従業員の監視の在り方)」部分を読んでおく。		120分
	事後学修	種々のケースに当てはめ、プライバシーの保護の境界線を考え説明できるようにまとめる。		120分
6	仮想通貨の諸問題		暗号資産と電子マネーの違いについて理解し、暗号資産の流通によるメリット、デメリットを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、暗号資産とは何なのか、メリット、デメリットを理解し、流通による効果を的確に説明する。		
	事前学修	仮想通貨を利用するメリット、デメリットを調べておく。テキスト第8章7(仮想通貨をめぐる法的問題) 部分を読んでおく。		120分
	事後学修	仮想通貨が主流となった場合のメリット、デメリットを比較して説明できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	検索エンジンの問題点		検索エンジンを利用する際に「サジェスト」と「スニペット」が表示されることの是非について考える。「スニペット」とは要約の意味であり、承諾なしに要約することは許されるのか考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、検索エンジンとはどのように定義されるものか、諸法との関連を理解し、その合法性、違法性を説明する。		
	事前学修	検索エンジンを利用する際に表示される検索語や結果の要約と著作権、名誉毀損との関係を確認する。テキスト第11章(インターネット上の個人情報の保護) 部分を読んでおく。		120分
	事後学修	検索結果が諸権利を侵害しない理由を説明できるようにまとめる。		120分
8	放送受信料制度をめぐる問題点		番組のインターネット同時配信の開始により、スマートフォンは「放送を受信することのできる受信設備」に該当するのか。放送受信料制度について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、放送法の各条を理解し、放送受信料制度について説明する。		
	事前学修	最高裁H29年12月6日判決を読んでおく。		120分
	事後学修	NHKに放送受信料を支払わなくてよい場合、諸外国の公共放送とを比較して説明できるようまとめる。		120分
9	コンサートチケットの転売		コンサートチケットの転売とマスクの高額転売を比較し、転売の是非を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、いわゆる「チケット不正転売禁止法」、「ダフ屋行為」について理解し、様々な物の高額転売について説明する。		
	事前学修	コンサートチケットの高額転売は許されるのか考える。不正転売規制法について検索し、その趣旨を理解しておく。		120分
	事後学修	コンサートチケットの転売の有効な対策はあるのか、主催者側、消費者側の立場から説明できるようまとめる。		120分
10	ポケモンGOの法的諸問題		日本で配信される前に、他国で配信され、その利用者による様々な違法な問題が起きていたアプリを、問題に対する対策をとることなく日本国内に配信し、他国と同様な問題が生じた場合の配信者の責任について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、配信後に日本国内で生じた違法な問題に対する配信者の責任を問うことができるか否かを理解し、結論を的確に説明する。		
	事前学修	ポケモンGOの社会現象がもたらした法的な問題点を考える。刑法61条、62条、未必の故意、概括的故意について刑法のテキストを読んでおく。		120分
	事後学修	法の解釈、適用の範囲を考え、(例えば、教唆、幫助)各法条が適用できるのか説明できるようにまとめる。		120分
11	バイオメトリクス個人認証		バイオメトリクス認証システムを利用した社会のメリット、デメリットとプライバシーの保護を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、バイオメトリクス認証について理解し、その運用により守られる利益とプライバシーの保護について説明する。		
	事前学修	顔認証システムはどのように利用されているか確認すること。参考書「情報ネットワークの法実務第7章6(バイオメトリクス個人認証)」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	バイオメトリクス情報の利用とプライバシー侵害の境界線を説明できるようにまとめる。		120分
12	IoTの法的課題		すべての機器がインターネットに接続され、管理されることのメリット、デメリットについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、IoT社会とユビキタス社会の相違について、IoT社会のもたらす社会について理解し、プライバシーの保護の範囲を説明する。		
	事前学修	IoTの意味を調べ、問題点を考える。参考書「情報ネットワークの法実務第7章17(IoTの法的課題)」部分を読んでおくこと。		120分
	事後学修	IoTにより集積されるデータの保護とプライバシーの保護を比較し説明できるようにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	検索エンジンサイト、プロバイダー、SNS等の自主規制	検索エンジン、SNSでは、違法な発信がなされる場合があるが、検索エンジン、SNS主催者、インターネットサービスプロバイダ(ISP)が発信、通信内容に関して自主規制を行うことの是非を考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、検索エンジンサイト運営者、SNS主催者、インターネットサービスプロバイダは、発信、送信内容に関して責任を負うべきなのか否かを理解し、その責任の存否について説明する。	
	事前学修	インターネットにおける自主規制の必要性について調べる。テキスト第2章「インターネットにおける表現の自由」部分を読んでおく。	120分
	事後学修	インターネットとは何なのかを再考して、規制の可否を考え十分な説明ができるようまとめる。	120分
14	不正アクセス禁止法の諸問題	大学のパソコンを利用する為のIDとパスワードを学生(A)友人(B)に教え、その友人(B)に大学のパソコンを利用させる行為や、その友人(B)が友人(C)に学生(A)のID、パスワードを教え、大学のパソコンを使わせる行為は許されるのかを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、不正アクセス禁止法と、パソコンの利用規約を正しく理解し、不正アクセス行為、規約違反について説明する。	
	事前学修	コルネットのIDやパスワードを友人に使わせると、違法か否か考える。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおく。	120分
	事後学修	不正アクセス行為が国により違うことを理解し、その理由を説明できるようにまとめる。	120分
15	今学期のレポート課題についての解説	今学期のレポートについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、課題に対して、的確に情報が収集し、利用し、理解し、説明し、結論を導く。	
	事前学修	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。	120分
	事後学修	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。	120分

科目名	法哲学Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
履修条件はないが、法思想史と併せて受講するとより理解が深まる。

【授業方法】		
講義形式を基本としながら、それを踏まえてリアクションペーパーの作成を行う。リアクションペーパーは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。						2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクションペーパー)	到達目標①②について、講義内容の理解を毎回リアクションペーパーで確認する。	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2016年	教科書	推奨
はじめて学ぶ法哲学・法思想	竹下賢他編	ミネルヴァ書房	2010年	参考書	任意
よくわかる法哲学・法思想	深田三徳、濱真一郎編著	ミネルヴァ書房	2011年	参考書	任意
レクチャー法哲学	那須耕介、平井亮輔	法律文化社	2020年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
対面の場合は火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館7階1713研究室。zoom面談を希望される場合も、事前にメールにて連絡してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	前期オリエンテーション及び導入講義	法とは何か？	
	この回の到達目標	法と正義の異動について検討し、自分の考えをまとめることができるようにする。	
	事前学修	法とは何か、正義とは何かについて自分の考えをまとめておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』の46・47ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
2	ドーピングは禁止すべきか？ 1	ドーピングをめぐる現在の状況	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の1章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
3	ドーピングは禁止すべきか？ 2	パターナリズムとフェアプレイ	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』90、91ページ及び156ページ「パターナリズムの拒絶と自己責任」を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）	120分
4	自己の臓器を売ることは許されるべきか？ 1	自己所有権の意義と正当化	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の2章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
5	自己の臓器を売ることは許されるべきか？ 2	ドゥオーキン、ノージックに見る権利概念	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』194、195ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
6	犯罪者を薬物で改良して良いか？ 1	化学的去勢、刑罰の条件	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の3章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	犯罪者を薬物で改良して良いか？ 2	ミルの危害原理	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』88、89ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
8	ダフ屋を規制すべきか？ 1	法規制の根拠	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の4章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
9	ダフ屋を規制すべきか？ 2	功利主義	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』104～107ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
10	チンパンジーは監禁されない権利を持つか？ 1	動物の権利	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の5章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
11	チンパンジーは監禁されない権利を持つか？ 2	自然の権利訴訟	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』164～165ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
12	女性専用車両は男性差別か？ 1	差別はなぜ許されるのか？/許されないのか？	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の6章を読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	女性専用車両は男性差別か？ 2	フェミニズムと人権の普遍性	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』122、123ページ及び132、133ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
14	授業内試験及び解説	前期の内容に関して	
	この回の到達目標	与えられたテーマに関して、対立し合う論点を整理し、どのような見方ができるのかを検討し、法的に妥当と思われる合理性について論理的に記述できるようにする、	
	事前学修	前期の内容につき、要点をまとめ、論理的な記述が行えるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内試験で扱ったテーマにつき、解説を踏まえた上で自分の解答を振り返る。	120分
15	法と正義	前期内容のまとめ	
	この回の到達目標	前期の内容につき、論点を踏まえつつ、論理的に自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前期の内容について要点を再度確認し、それぞれの要点について議論する準備をしておく。	120分
	事後学修	これまで扱った問題を踏まえた上で、法・正義について自分の考えをまとめる。	120分

科目名	法哲学Ⅰ	担当者	西村 清貴	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式(オンデマンド授業方式)で行う。Google classroomを利用して、資料および講義を配信する。 主たる成績評価は、学期末に提出してもらうレポートによる。 また、各回ごとに講義内容の理解度を確認するための簡単な課題(穴埋め式のものを)を提出してもらう。 毎回の課題提出については、直接は成績評価の対象とせず、学期末レポートの出来が芳しくなかった場合、成績評価の考慮材料とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。				2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②について、毎回の講義内容が身についているかを確認する。	5	5									10
レポート等	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、レポートにより評価する。	45	45									90
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストにつき、模範解答を示すほか、レポートについて、全体的な講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想史入門	西村清貴	成文堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Google classroomを利用する。担当教員のメールアドレス： knishimura18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび講義の概要	授業・評価の方法の説明を行い、シラバスに沿って講義内容の概要について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法哲学がどのような対象を取り扱う学問であるかを理解し、説明することができるようになる	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
2	古代ギリシアの法思想(1)	ソクラテス、プラトンの法思想を見る。とりわけ、彼らが人間の目的をどのように捉えたかを見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ソクラテスやプラトンの哲学と法との関係について理解し、説明ができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
3	古代ギリシアの法思想(2)	アリストテレスの法思想を見る。とりわけ、徳と人間の自然本性の関係について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、アリストテレスの思想が自然法論に与えた影響について理解し、説明ができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
4	ストア派の法思想	古代ギリシア・ローマの哲学者であるストア派の法思想を見る。とりわけ、自然法論と宇宙観がどのような関係にあるかを見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ストア派の自然法論の背景にある宇宙観・人間観について理解し、説明ができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
5	古代キリスト教の法思想	アウグスティヌスの自然法論を見る。とりわけ、アウグスティヌスの悲観的な人間観と自然法論がどのような関係にあるかを見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代キリスト教と自然法論との関係について理解し、説明ができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
6	中世キリスト教の法思想	トマス・アクィナスの自然法論を見る。とりわけ、トマスにおいてキリスト教とアリストテレス哲学がどのように結びついているかを見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キリスト教における自然法論の意義の転換について理解し、説明ができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	ここまでの振り返り		これまでの講義内容を振り返る
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義内容を自身が理解していることを確認する	
	事前学修	これまでの講義内容につき、教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
8	社会契約論(1)		トマス・ホッブズの社会契約論を見る。とりわけ、ホッブズが自然法を理性のアドヴァイスとして理解したことの意義を見る
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ホッブズがもたらした、アレストテレス以来の人間観および自然法論の転換について理解し、説明ができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。	120分
9	社会契約論(2)		ジョン・ロックの社会契約論を見る。とりわけ、勤労を神に与えられた人間の使命と捉えるロックの思想が法の理解とどのように関わるかを見る
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ロックのキリスト教的人間観と自然法の関係について理解し、説明することができること。	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
10	社会契約論(3)		J・J・ルソーの社会契約論を見る。とりわけ、ルソーが重視した人間の自由が法とどのような関係にあるかを見る
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民主的に制定された法こそが人間の自由に不可欠であるというルソーの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
11	カントの法思想(1)		イマニエル・カントの道徳思想を見る。とりわけ、道徳的自律こそが人間の自由を可能とするというカントの議論を見る
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、人間の正しい生き方は道徳法則に従うことにあるというカントの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
12	カントの法思想(2)		イマニエル・カントにおける法と道徳の関係について見る。とりわけ、国家の設立が人間の道徳的義務であるとするカントの議論を見る
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、道徳的義務と区別された法的義務に関するカントの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヘーゲルの法思想(1)	G・W・F・ヘーゲルの思想について見る。とりわけ、カント哲学批判について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自由な意思の自己展開というヘーゲルの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
14	ヘーゲルの法思想(2)	G・W・F・ヘーゲルの市民社会論および国家論について見る。とりわけ、国家の実現と自由の実現が重なっていることを見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市民社会および国家に関するヘーゲルの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
15	全体の振り返り	講義全体の振り返りを行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義内容を自身が理解していることを確認する	
	事前学修	これまでの講義内容につき、教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
	事後学修	これまでの講義内容を整理した上で、学期末レポート作成に取りかかること	120分

科目名	法哲学Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
履修条件はないが、法思想史と併せて受講するとより理解が深まる。

【授業方法】
講義形式を基本としながら、授業内でリアクションペーパーの作成を行う。リアクションペーパーは次回以降の授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 無
アクティブ・ラーニングの形態

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。					2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25									50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(リアクションペーパー)	到達目標①②について、講義内容の理解をリアクションペーパーで確認する。	25	25									50
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で作成したリアクションペーパーは、次回の授業で紹介、解説し、検討を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2016年	教科書	推奨
はじめて学ぶ法哲学・法思想	竹下賢他編	ミネルヴァ書房	2010年	参考書	任意
よくわかる法哲学・法思想	深田三徳、濱真一郎編著	ミネルヴァ書房	2011年	参考書	任意
レクチャー法哲学	那須耕介、平井亮輔	法律文化社	2020年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
対面の場合は火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp本館7階1713研究室。zoom面談を希望される場合も、事前にメールで相談してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	後期オリエンテーション及び導入講義		法的な正しさの作られ方	
	この回の到達目標	正義とは何か、これまでどのように捉えられてきたのかについて理解し、自分の見解をまとめられるようにする。		
	事前学修	正義とは何か、これまでに正義観はどのように把握されてきたのかを整理する。参考書『よくわかる法哲学・法思想』94～101ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
2	相続制度は廃止すべきか？ 1		相続制度の存在理由	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の8章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
3	相続制度は廃止すべきか？ 2		ロールズの格差原理	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』108～111ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。(2時間)		120分
4	児童手当は独身者差別か？ 1		児童手当の意義、善に対する正義の優位	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の9章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
5	児童手当は独身者差別か？ 2		リベラリズムとコミュニタリアニズム	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』96、97ページ及び120、121ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
6	年金は世代間の助け合いであるべきか？ 1		世代間正義	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の10章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	年金は世代間の助け合いであるべきか？ 2		法と経済学、財・資源・潜在能力の平等	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』144、145ページ及び183ページ「センの潜在能力アプローチ」を読んでおく。(2時間)		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
8	女性議席を設けるべきか？ 1		議会の正統性	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の12章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
9	女性議席を設けるべきか？ 2		ポジティブ・アクション	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』166～167ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
10	悪法に従う義務はあるか？ 1		自然法論と法実証主義	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の13章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
11	悪法に従う義務はあるか？ 2		ラートブルフ、ハート、フラー	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』48～53ページを読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分
12	国家は廃止すべきか？ 1		最小国家論、国家民営化論	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。		
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の14章を読んでおく。		120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国家は廃止すべきか？ 2	ハイエク、ノージック	
	この回の到達目標	テーマ、内容を理解し、要点や問題点を論理的に提示することができるようにする。またそれに関して、自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』112～117ページを読んでおく。	120分
	事後学修	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。	120分
14	授業内試験及び解説	後期の内容に関して	
	この回の到達目標	与えられたテーマに関して、対立し合う論点を整理し、どのような見方ができるのかを検討し、法的に妥当と思われる合理性について論理的に記述できるようにする、	
	事前学修	後期の内容につき、要点をまとめ、論理的な記述が行えるようにしておく。	120分
	事後学修	授業内試験で扱ったテーマにつき、解説を踏まえた上で自分の解答を振り返る。	120分
15	法的な正しさの考え方	後期のまとめ	
	この回の到達目標	後期の内容につき、論点を踏まえつつ、論理的に自分の見解を示せるようにする。	
	事前学修	後期の内容について要点を再度確認し、それぞれの要点について議論する準備をしておく。	120分
	事後学修	これまで扱った問題を踏まえた上で、法的な正しさについて自分の考えをまとめる。	120分

科目名	法哲学Ⅱ	担当者	西村 清貴	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法思想や法的思考を検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
哲学的知見を用いて法という現象をより深く理解し、法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を修得することを目的とする。 実定法をより深く理解するための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、平等、正義といった諸概念について、その思想的背景を含めて受講者が理解し、説明できるようにすることを目的とする。

【履修条件】
可能であれば法哲学Iを履修することが望ましいが、必須ではない。

【授業方法】		
講義形式(オンデマンド授業方式)で行う。Google classroomを利用して、資料および講義を配信する。 主たる成績評価は、学期末に提出してもらうレポートによる。 また、各回ごとに講義内容の理解度を確認するための簡単な課題(穴埋め式のもの)を提出してもらう。 毎回の課題提出については、直接は成績評価の対象とせず、学期末レポートの出来が芳しくなかった場合、成績評価の考慮材料とする。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	法哲学における基礎的諸概念について、十分に理解することができる。						2	2						
②	法に関する基礎的知識を前提として、法哲学上の課題を説明することができる。						2	2						
③														
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②について、毎回の講義内容が身についているかを確認する。	5	5									10
レポート等	到達目標①②について、講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを、レポートにより評価する。	45	45									90
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストにつき、模範解答を示すほか、レポートについて、全体的な講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
法思想史入門	西村清貴	成文堂	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
Google classroomを利用する。担当教員のメールアドレス： knishimura18@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび講義の概要	授業・評価の方法の説明を行い、シラバスに沿って講義内容の概要について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法哲学がどのような対象を取り扱う学問であるかを理解し、説明することができるようになる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。	120分
2	功利主義の法思想	ジェレミー・ベンサム の法思想を見る。とりわけ法典と幸福の関係について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明確な内容を有した法典こそが人々の幸福に資するというベンサムの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
3	歴史法学の法思想(1)	F・C・v・サヴィニーの法思想について見る。とりわけ法典編纂反対論について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民族の確信から生まれる法こそが真の法であるというサヴィニーの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
4	歴史法学の法思想(2)	F・C・v・サヴィニーの法思想について見る。とりわけ実定法と法律の関係について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律や慣習法は民族精神から生まれた実定法を明示するものにすぎないというサヴィニーの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
5	サヴィニー以後のドイツ法思想	サヴィニー以後のドイツ法学、とりわけゲルマニストと社会学的法学の議論について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ゲルマニストや社会学的法学がサヴィニーの議論といかなる関係にあるかについて理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
6	ケルゼンの法思想	ハンス・ケルゼンの法思想について見る。とりわけ、法を純粋法学という観点から捉えようとすることの意義について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法学は純粋法学という独自の学問とならねばならないというケルゼンの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ラートブルフの法思想	グスタフ・ラートブルフの法思想について見る、とりわけ正義および法的安定性という法理念について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、正義と法的安定性の関係について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
8	ここまでの振り返り	これまでの講義内容を振り返る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義内容を自身が理解していることを確認する	
	事前学修	これまでの講義内容につき、教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
9	再生自然法論	ナチスに対する反省ののち、戦後現れた再生自然法論を見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、再生自然論が出現した背景およびその意義について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
10	ハートの法思想	H・L・A・ハートの法思想について見る。とりわけ、法を社会的ルールという観点から捉えることの意義について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法を主権者の命令ではなく社会的ルールとして捉えるハートの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
11	ドゥオーキンの法思想	ロナルド・ドゥオーキンの法思想について見る。とりわけ、裁判論について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、裁判が純一性という理念に従って行われなければならないとするドゥオーキンの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
12	リベラリズムの思想	ジョン・ロールズの思想を見る。とりわけ、正義の二原理について見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、原初状態から導き出された原理を正義として取り扱うロールズの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	リバタリアニズムの思想	ロバート・ノージックの思想を見る。とりわけ最小国家論についてみる	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国家や法の役割を可能な限り縮減しようとするノージックの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
14	コミュニタリアニズムの思想	マイケル・サンデルの思想を見る。とりわけロールズ批判を見る	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法や政治を論じるために人間観を踏まえる必要があるとするサンデルの思想について理解し、説明することができること	
	事前学修	事前に配布するレジュメおよび教科書の指定箇所を確認し、不明点を確認しておくこと	120分
	事後学修	教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
15	全体の振り返り	講義全体の振り返りを行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義内容を自身が理解していることを確認する	
	事前学修	これまでの講義内容につき、教科書、レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること	120分
	事後学修	これまでの講義内容を整理した上で、学期末レポート作成に取りかかること	120分

科目名	法律外国語A I【経営法学科】	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
法律実務は言語に基づいており、かかる言語をどのように解釈又は理解するかに基づいている。国境を越えて繋がっている世界では、その法律実務に関わる専門用語に加え、国際ビジネスのリーダーが身に付けるべき重要なスキルとして、英語を追加的言語として使用する能力が求められる。本講義では、国際ビジネスで使用される法律の専門用語について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、以下の4点を目的とする。(1)主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(2)国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(3)特定の国を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。(4)国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。

【履修条件】
特に履修条件は設けないが、国際契約・国際ビジネスに興味のある学生であればなお良い。 This course will be taught in English.

【授業方法】
事前学修の内容を前提に、配布資料をもとに、英語と日本語（主に英語）で講義を行う。 Students may form study groups to present (1) Legal Terminology and (2) Country Presentations. This course will be taught in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書と配布する資料に基づいたグループディスカッションやグループでのプレゼンテーションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
②	国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。				1					1		
③	特定の国を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。				1					1		
④	国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。				1					1		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内に行う2回の小テストにより、到達目標① ②及び④についてそれぞれ理解し、自らの言葉で簡潔な説明と正確な記述ができているかを評価する。	10	10		10							30
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④についてグループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。			15	10							25
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から④について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(Homework)	到達目標①から④について、法律専門用語を理解し、例文を書く練習を評価する。 Create a weekly journal and write 3 sentences using the assigned legal terminology.	5	5	5	10							25
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	25	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、実施した回の次の授業において講評する。Other assignments will be evaluated and graded via the online classroom.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際交渉の法律英語－そのまま文書化できる戦略的表現』	中村秀雄 ・野ロジュ ディー	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
予約制とし、授業を行った教室で授業後に相談を受ける。予約のための連絡先: michael.abe@nihon-u.ac.jp。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Over 25 years managing legal affairs in Asia and the U.S.
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Class Overview. Introduction to U.S. Legal System (General). 【授業の概要】 【アメリカの法制度とは(概要)】	各回の授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、及び参考文献について理解する。その理解に基づき、授業の準備を効率的に行うことができるようになる。アメリカの法制度について基本的な知識を学修する。また、教科書のsection <1> “assert” から section <3> “emphasize” までの専門用語の法的意味について学修し、それらの専門用語を使用しコミュニケーションする。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、アメリカの法制度の概要について基本的知識を獲得し、同制度の基本的な概念について説明できるようになる。教科書の指定部分を事前学修することにより、法律専門用語の語彙を増やす。 Please read section <1> “assert” to section <3> “emphasize.”	
	事前学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using your legal vocabulary. Research and summarize in your class notes a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国について調べ授業ノートに要約する。	120分
	事後学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using your legal vocabulary. Research and summarize in your class notes a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国について調べ授業ノートに要約する。	120分
2	Introduction to the American Legal System (Stare Decisis and Court System). 【アメリカの法制度とは(司法制度(判例、先例拘束性の原理と裁判制度)】	Jurisprudence. Introducing Stare Decisis and the U.S. Court System. 判例、先例拘束性の原理、及び裁判制度について基本的な知識を学修する。教科書のsection <4> “communicate” から <6> “intend” の専門用語の法的意味について学修する。Legal Terminology, Country Presentation のためのチーム分けを行う。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、アメリカの裁判所の構成に関する基本的事項を説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をとおして、法律専門用語の使用を練習し身に付ける。	
	事前学修	Read section <4> “communicate” から <6> “intend” and practice using these terms. Choose a country that you would like to study. 教科書のsection <4> “communicate” から <6> “intend” を読み、これらの専門用語の使用を練習し身に付ける。ビジネスの文化的、人材的、及び特徴的な側面について考察したい国を選択する。Think of a law you would like to create.	120分
	事後学修	Review and organize the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。今回の授業で学修した新たな法律専門用語を次回の授業において積極的に使用するための準備を行う。	120分
3	Jurisdiction, Dual Court System. 【管轄権、連邦裁判所と州裁判所の二重構造】	Mandatory vs. Persuasive Authority. State Law vs. Federal Law. アメリカ法のリサーチの際に必要な強制的/拘束力を有する法源 (Mandatory/Binding Authority) と説得的法源、連邦裁判所と州裁判所の二重構造 (Dual Court System) 及び州法と連邦法 (State Law and Federal Law) の関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、be able to explain Mandatory vs. Persuasive Authority and State Law vs. Federal Law. Please read section <7> “agree” to section <9> “reject.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms in class. 教科書のsection <7> “agree” から section <9> “reject” の法的意味について理解し、説明できるようになる。クラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。	
	事前学修	Read section <7> “agree” to section <9> “reject.” Practice using these terms. Read and study any handouts provided earlier. 教科書のsection section <7> “agree” から section <9> “reject” を読む。これらの専門用語の使用を練習し身に付ける。これまでに配布した資料を読み学修する。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。これまでの授業で使用できるようになった法律専門用語を次回の授業において積極的に使用するための準備を行う。	120分
4	Legal Systems. Common Law vs. Civil Law. 【法制度】 【コモンロー (英米法 対 シヴィルロー (大陸法)】	コモンローとシヴィルローの特徴を比較してその相違点を学修する。 Discuss section <10> “disapprove” to section <12> “backtrack.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms in class. 教科書のsection <10> “disapprove” からsection <12> “backtrack” の法的意味について学修する。クラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、be able to explain key concepts of Common Law vs Civil Law. 教科書のsection <10> “disapprove” からsection <12> “backtrack” の専門用語の法的意味について理解、説明できるようになる。コモンローとシヴィルローの特徴を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の section <10> “disapprove” からsection <12> “backtrack” を読み、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。これらの法律専門用語の使用を練習し身に付ける。これまでに配布した資料を読み復習する。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
5	Negotiations. Culture. 【交渉とは】 【交渉に影響を及ぼす文化とは】	コモンローとシヴィルローについて交渉と交渉に影響を及ぼす文化における相違点を比較し学修する。契約交渉スキル (アメリカ型交渉に共通の誤り) について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③及び④に関連して、アメリカ型交渉の問題点を理解し、説明できるようになる。 Discuss the vocabulary in section <13> “go back on” to section <15> “deem.” Discuss the legal meaning of these terms and practice using these terms in class. 教科書の section <13> “go back on” から section <15> “deem” の法的意味を理解し、説明できるようになる。クラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。	
	事前学修	Read text section <13> “go back on” to section <15> “deem.” Section <13>からsection<15>を読む。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
6	Negotiations. Culture (continued). 【交渉とは】 【交渉に影響を及ぼす文化とは（続き）】 Quiz #1 【小テスト(1回目)】	コモンローとシヴィルローについて交渉と交渉に影響を及ぼす文化における相違点を比較し学修する（続き）。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③及び④に関連して、アメリカ型交渉の問題点を理解し、説明できるようになる（続き）。グループディスカッションをとおしてそれらの概念を理解し、説明・使用できるようになる。教科書のsection <16> “distinguish” から section <18> “provide” の法的意味を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	Prepare for Quiz #1. シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み契約の成立のための各要件が果たしている役割について調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。 Read text section <16> to section <18>. 教科書のsection <16> “distinguish” から section <18> “provide” までを読む。小テスト（1回目）の準備をする。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
7	Contracts. General Terms. 【契約】 【一般条項】	Contracts. We will study the general terms and conditions found in contracts. 契約の基本的な条項と契約書の構造について学修する。 Feedback on Quiz #1. 前回の授業で行った小テスト(1回目)についてフィードバック（講評）を行う。	
	この回の到達目標	到達目標の①②及び④に関連して、契約の基本的な条項と契約書の構造について理解し、説明できるようになる。Become familiar with and be able to explain the general terms and conditions found in contracts. 教科書のsection <19> “apply” から section <21> “fail” の法的意味を理解し、説明できるようになる。Legal Terminology 発表の準備を続ける。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み契約の基本的な条項について学修する。 Read text section <19> to section <21>. Continue working on your presentation. 教科書のsection <19>から<21>を読む。Legal Terminology についての発表の準備を続ける。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
8	Contracts. Basics of Nondisclosure Agreements (NDA). 【契約】 【秘密保持契約の基本的知識】	秘密保持契約に関する基本的知識（Basics of Nondisclosure Agreements (NDA)）と、NDAの理解に必要な法律専門用語を学修する。 Legal Terminology group presentations.	
	この回の到達目標	到達目標の②③及び④に関連して、秘密保持契約について理解し、説明できるようになる。NDAの理解に必要な法律専門用語を学修する。教科書のsection <22> “amend” からsection <24> “compromise” の法的意味を理解し、説明できるようになる。各グループのプレゼンテーションをとおして Legal Terminology を理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み秘密保持契約（NDA）の役割を調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。 Continue with group presentations. Read text section <22> “amend” to section <24> “compromise.” 教科書のsection <22> “amend” からsection <24> “compromise” を読む。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。次回の授業でこれまで学修し使用してきた専門用語を積極的に使用できるように準備をする。	120分
9	Contracts. Nondisclosure Agreements (continued). 【契約】 【秘密保持契約の交渉の流れ（続き）】	Nondisclosure Agreements (continued). 前回に続き、NDAの交渉の流れをとおして学修する。 Legal Terminology group presentations.	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、典型的な秘密保持契約に見られる基本的条項を理解しそれらの内容を説明することができる。教科書のsection <25> “suffer” から section <27> “incur” までを読み、理解し、自らの意見を示すことができる。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み様々な産業セクターで国際秘密保持契約がどのような役割を果たしているのかについて調べ、その結果をノートに整理し、講義内容と比較・検討できるように準備する。教科書のsection <25> “suffer” からsection <27> “incur” を読む。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
10	Contracts. Basics of Sales Agreements. 【契約】 【売買契約の基本的知識】	Overview of Sales Agreements. 売買契約に関する基本的知識を学修する。 Legal Terminology group presentations.	
	この回の到達目標	到達目標②③及び④に関連して、売買契約の基本的な知識を理解し、説明できるようになる。教科書のsection <28> “acquire” から section <30> “confer” の法的意味について理解し、説明できるようになる。クラスディスカッションをとおしてそれらの使用を練習し身に付ける。	
	事前学修	Review your notes, the text and handouts. 授業ノート、教科書、及び配布資料を見直す。教科書のsection <28> “acquire” から section <30> “confer” を読む。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
11	Contracts. Sales Agreements (continued). Quiz #2. 【契約】 【売買契約(続き)】 【小テスト(2回目)】	前回の授業に続き、基本的な国際売買契約を学修する。第6回目から第10回目までの授業内容について小テスト(2回目)を実施する。Legal Terminology group presentations.	
	この回の到達目標	到達目標の②③及び④に関連して、基本的な国際売買契約を理解し、説明できるようになる。基本的な売買契約への理解を深め、クラスディスカッションで自らの意見を示すことができるようになる。	
	事前学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Prepare for Quiz #2. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。Countryの詳細について発表の準備を続ける。小テスト(2回目)の準備をする。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your country presentation. Meet with your team and decide which slides you will present. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。Country Presentationの詳細について発表の準備を続ける。	120分
12	Contracts. Sales Agreements (continued). 【契約】 【売買契約(続き)】	Sales Agreements. 売買契約について継続して学修する。教科書のsection <34>から<36>の法的意味を学修し、授業でのディスカッションでそれらの使用を身に付ける。Feedback on Quiz #2. 前回の授業で行った小テスト(2回目)についてフィードバック(講評)を行う。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③及び④に関連して、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。Understand and explain section <34> to section <36> of the text. 教科書のsection <34>から<36>の法的意味を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、教科書やその他の資料を読み国際売買契約がどのような役割を果たしているのかについて調べ、ノートに整理し、それを講義内容と比較・検討できるように準備する。Continue working on your country presentation. 教科書のsection <34>から<36>までを読む。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare to actively use your expanding legal vocabulary during the next class. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。次回の授業でこれまで学修し使用してきた専門用語を積極的に使用できるように準備をする。	120分
13	Contracts. Case Study. 【契約】 【判例研究】	Contracts. Case Study 1. (handout) 国際契約に関するアメリカの判例について配布資料を使用して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の②③及び④に関連して、be able to explain key points about the case. What do you think about the holding/conclusion? 配布資料にある判例について目立った特徴を説明することができるようになる。判決について自らの考えを示すことができるようになる。	
	事前学修	Read the handouts. Review your notes. Finalize your country presentation.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
14	Group Presentations. 【グループ発表】	Group Presentation and feedback. グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック(講評)を行う。	
	この回の到達目標	到達目標の②③及び④に関連して、create, design and deliver your country presentation. Pay attention to pronunciation, delivery and the design of your presentation.	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、これまで学んだ各国の国際契約へのアプローチの特徴をノートに整理し、各グループの発表内容と比較・検討できるように準備する。Continue working on your country presentation.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Prepare for your group presentation. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
15	Group Presentations. 【グループ発表】	Group Presentation (continued). グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック(講評)を行う。	
	この回の到達目標	到達目標の②③及び④に関連して、create, design and deliver your country presentation. Pay attention to pronunciation, delivery and the design of your presentation. グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック(講評)を行う。	
	事前学修	シラバスを確認すると同時に、これまで学んだ各国の国際契約へのアプローチの特徴をノートに整理し、各グループの発表内容と比較・検討できるように準備する。Continue working on your class presentations.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分

科目名	法律外国語AⅡ【経営法学科】	担当者	マイケル・アベ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○					○		

【授業の概要】
法律実務は言語に基づいており、かかる言語をどのように解釈又は理解するかに基づいている。国境を越えて繋がっている世界では、その法律実務に関わる専門用語に加え、国際ビジネスのリーダーが身に付けるべき重要なスキルとして、英語を追加的言語として使用する能力が求められる。本講義では、国際ビジネスで使用される法律の専門用語について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、以下の4点を目的とする。(1)主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(2)国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。(3)特定の国を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。(4)国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。

【履修条件】
特に履修条件は設けないが、国際契約・国際ビジネスに興味のある学生であればなお良い。This course will be taught in English.

【授業方法】
事前学修の内容を前提に、配布資料をもとに、英語と日本語（主に英語）で講義を行う。Students will form study group teams to create, design and deliver presentations. This course will be taught in English.

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教科書と配布する資料に基づいたグループディスカッションやグループでのプレゼンテーションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	主に英語で、アメリカ型交渉と日本型の交渉の相違点や問題点について基本的知識を学修し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。						1				1		
②	国際契約の実務における基本的な法律知識と法律問題を理解し、それらを口頭及び記述で説明できるようになる。						1				1		
③	特定の国を選び、その国で事業を行う際の文化的、人材的、及び特徴的な側面を考察し客観的に理解することができる。						1				1		
④	国際ビジネスにおける法律専門用語の内容を理解し、口頭及び記述で説明することができる。						1				1		
⑤							1				1		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)												
小テスト等	授業内に行う2回の小テストにより、到達目標① ②及び④についてそれぞれ理解し、自らの言葉で簡潔な説明と正確な記述ができているかを評価する。	10	10		10							30
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④についてグループでのプレゼンテーションの準備とプレゼンテーションを実施し、各国のビジネスの特徴を日本との比較において位置づけ、効果的な資料を作成・使用し、自らの言葉で簡潔に説明し、客観的な意見を示す能力が身についているかを評価する。			15	10							25
授業への参画度	授業中に事前学修に基づく質問や意見表明をどれだけ活発にしたかを基準として、到達目標①から④について、積極的に学修する能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(Homework)	到達目標① ②及び④について、法律専門用語を理解し、例文を書く練習を評価する。 Create a weekly journal and write 3 sentences using the assigned legal terminology.	5	5		15							25
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストは、実施した回の次の授業において講評する。Other assignments will be evaluated and graded in the online classroom.

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『国際交渉の法律英語ーそのまま文書化できる戦略的表現』	中村秀雄 ・野ロジュディー	日本評論社	2017	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
予約制とし、授業を行った教室で授業後に相談を受ける。予約のための連絡先: please email me at michael.abe@nihon-u.ac.jp.

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	Over 25 years managing legal affairs in Asia and the U.S.
実務経験に基づく実践的教育の内容		アメリカの複数の企業の企業弁護士として活動してきた実務経験に基づき、契約の交渉から実際の契約文書の作成、契約締結までのプロセスにおいて、アメリカのビジネス事情も合わせた授業を展開する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	Class Overview. American Jurisprudence. 【授業の概観】 【アメリカ法学】	Class Overview. アメリカの法学と国際ビジネスの関係について学修する。また、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、アメリカの法学と国際ビジネスとの関係を理解し、説明することができる。 Gain an understanding of the American legal system and be able to explain key concepts. Build your legal vocabulary through group practice, discussion and negotiations. グループでの練習、ディスカッション、及び交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。		
	事前学修	Please study textbook section <36> to section <38> and write 3 samples sentences to discuss in class. 教科書の<36>から<38>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。	120分	
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Practice using legal vocabulary. Think of a country you would like to study. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。法律専門用語の使用になれるために練習する。考察したい国について調べ授業ノートに要約する。	120分	
2	Contracts. Distributor Agreements. Grant of Distribution Rights, Non-exclusivity, Territory. 【契約】 【販売店契約】 【販売権の付与、非独占性、販売地域】	販売店契約についてGrant of Distribution Rights, Non-exclusivity, Territory（販売権の付与、非独占性、販売地域）に関する合意に関して学修する。		
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、販売店契約の基本的知識を理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。 Gain an understanding of and explain the basic features of a distributor contract. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and negotiations.		
	事前学修	Read section <39> to section <41> and write 3 sentences to discuss in class. 教科書の<39>から<41>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。	120分	
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分	
3	Contracts. Distributor Agreements (continued). Sub-distributors. Agents. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【副販売、代理店】	Overview of Distributor Agreements (2) Sub-distributors. Agents. 販売店契約について副販売と代理店販売に関して引き続き学修する。		
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、販売店契約における副販売と代理店販売について理解し、これらの法律専門用語について説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。 Gain an understanding of and explain Sub-distribution Rights and Agents. Be able to discuss these concepts with your group. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations.		
	事前学修	Please study textbook section <42> to section <44> and write 3 samples sentences to discuss in class. 教科書の<42>から<44>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。	120分	
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分	
4	Contracts. Distributor Agreements (continued). Minimum Purchase Requirements, Incentives, Inventory. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【最低注文数量要件、販売手数料、在庫（のリスク）】	Overview of Distributor Agreements (3) Minimum Purchase Requirements, Incentives, Inventory. 販売店契約について最低注文数量要件、販売手数料、在庫（のリスク）に関する交渉も含め引き続き学修する。		
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、販売店契約を交渉する能力を身に付けて説明できるようになる。会グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。		
	事前学修	Please study textbook section <45> to section <47> and write 3 samples sentences to discuss in class. 教科書の<45>から<47>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。	120分	
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
5	Contracts. Distributor Agreements (continued). International Negotiations. 【契約】 【販売店契約の概要（続き）】 【国際交渉】	Distributor Agreements. Sales Promotions, Competing Products. 販売店契約について販促活動、競合製品に関する交渉も含め引き続き学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③及び④に関連して、be able to explain Sales Promotions and Competing Products. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 会社のために販売店契約を交渉し、販促活動と競合製品に関する条項について交渉するための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
	事前学修	Please study textbook section <48> to section <50> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<48>から<50>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で代理を希望する仮想の会社とその製品の販売の内容を創造し交渉の準備を行う。	120分
	事後学修	Prepare for Quiz #1. 小テスト（1回目）の準備をする。Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate the legal terms and conditions of the agreement. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、その会社のために法律専門用語を使用して交渉する準備を行う。	120分
6	Contracts. 【契約】 Distributor Arrangements. Quiz #1. 【販売店契約の概要（続き）】 【小テスト（1回目）】	Distributor Agreements. Intellectual Property, Audit, Compliance with Laws. 販売店契約について知的財産権、監査、法の順守に関する交渉も含め引き続き学修する。授業の終わりに、第1回目から第5回目までの授業内容について小テスト（1回目）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、販売店契約に関する知的財産権、監査、及び法の遵守を理解し、説明できるようになる。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。Prepare for Quiz #1.	
	事前学修	Prepare for Quiz #1. Please study textbook section <51> to section <53> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<51>から<53>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で代理を希望する仮想の会社とその製品の販売について引き続き詳細を詰め交渉の準備を行う。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。	120分
7	Contracts. 【契約】 Distributor Arrangements (continued). 【販売店契約の概要（続き）】 Compliance with Laws, Foreign Corrupt Practices Act. 【法の順守 海外不正行為防止法、 契約の終了】	Distributor Agreements. Compliance with Laws, FCPA, Termination. 販売店契約について法の順守、海外不正行為防止法、契約の終了に関する交渉も含め引き続き学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②及び④に関連して、evaluate and explain the Foreign Corrupt Practices Act and Termination. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 交渉を完結し、海外不正行為防止法及び契約の終了に関する条項を交渉する知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
	事前学修	Please study textbook section <54> to section <56> and write 3 samples sentences to discuss in class. Continue to work on your hypothetical company and its distribution of products. 教科書の<54>から<56>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。模擬国際交渉で自分が代理をしたい仮想の会社とその製品の販売について詳細を詰め引き続き交渉の準備を行う。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Work on your company details and prepare to negotiate legal terms. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。仮想の会社の詳細について発表の準備を続け、交渉の対象となる法的内容（契約の内容）について準備をする。	120分
8	Contracts. OEM. Manufacturing Agreements. Specification and Processes. 【契約】 【OEM】 【製造契約】 【仕様と工程】	OEM、製造、仕様と工程についての契約について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、OEM契約と製造契約について理解し、説明できるようになる。Become familiar with OEM and manufacturing agreements and be able to explain the benefits of such an arrangement. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations.	
	事前学修	Please study textbook section <57> to section <59> and write 3 samples sentences to discuss in class. 教科書の<57>から<59>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができていないかを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
9	Contracts. Manufacturers. Manufacturing Agreements. Subcontractors. Intellectual Property. 【契約】 【製造者】 【製造契約】 【下請人】 【知的財産権】	製造契約における下請人と知的財産権に関する合意の交渉について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の②④に関連して、be able to explain key points of various types of OEM arrangements. Evaluate and explain Subcontractors and Intellectual Property Rights. 会社のためにOEM契約を交渉するための知識と能力を身に付ける。下請人と知的財産権の利用について交渉するための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の使用を身に付ける。	
	事前学修	Please study textbook section <60> to section <63> and write 3 samples sentences to discuss in class. 教科書の<60>から<63>を読み、授業で議論する3つの例文を書く。	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
10	International Negotiations. Manufacturing Agreements. Competing Products, Payment, Quality. 【国際交渉】 【製造契約】 【競合製品、支払、質】	製造契約に関する国際交渉における競合製品、支払、及び質に関する合意の交渉について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②及び④に関連して、be able to explain Competing Products, Payments and Quality. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. OEM契約の交渉を継続し、競合製品と品質標準について自社の利益を守るための知識と能力を身に付ける。グループでの練習、ディスカッション、及び模擬交渉をととして、法律専門用語の仕様を身に付ける。	
	事前学修	Please study textbook pages 239-249. Congratulations. We have completed the text! Review the text and prepare for Quiz #2 next week.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. Please prepare for Quiz #2. 授業中の課題、教科書、配布書類、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容の理解ができているかを確認する。	120分
11	International Negotiations. General Provisions. Governing Law, Venue, Language. 【国際交渉】 【一般条項】 【準拠法、法廷地、言語】Test #2. 【小テスト(2回目)】	国際交渉における一般条項について学修し、一般条項として定められる準拠法、法廷地、準拠言語に関する合意の内容を学修する。授業の終わりに、第6回目から第10回目(前回)までの授業内容について小テスト(2回目)を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②及び④に関連して、be able to explain Governing Law, Venue and Governing Language. Evaluate and explain the benefits of each. 契約交渉で、一般条項として、準拠法、法廷地、準拠言語についてあらかじめ合意する理由を理解し、説明できるようになる。法廷地と準拠法を選択する際の便益を理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	Please review your notes, the text and handouts. Please review the materials from Classes 6-10. Prepare for Test #2.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
12	International Negotiations. Force Majeure, Assignment, Indemnity. 【国際交渉】 【不可抗力、譲渡、補償】	国際交渉における一般条項について、不可抗力、譲渡、補償に関する合意の内容を学修する。Feedback on the Quiz #2. 前回の授業で行った小テスト(2回目)についてフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標の②③及び④に関連して、国際契約に定める不可抗力条項、譲渡条項、及び補償条項について基本的な知識を理解し、説明できるようになる。かかる条項を交渉するための能力を身に付ける。チームのメンバーとこれらの条項の重要性について議論し、自らの意見を述べるができる。	
	事前学修	Please review the handouts on Contract Negotiations. Review the class assignment, text, handouts and class notes. Continue to work on your country presentations.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered.	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	Case Study. Litigation. Settlement of Disputes, Arbitration, Jurisdiction. 【判例研究】 【訴訟】 【和解、仲裁、管轄権】	訴訟における和解、仲裁、管轄権に関する判例を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③及び④に関連して、evaluate and explain the salient points presented in the case study. Be able to argue your opinion even if it differs from the holding. Build and improve your legal vocabulary through group practice, discussion and mock negotiations. 研究した判例に示された目立った特徴を要約し説明することができるようになる。たとえ判決の見解と異なっていたとしても自らの立場を論じることができるようになる。	
	事前学修	Review the handouts. Please study general concepts of litigation, settlement of disputes, arbitration and jurisdiction.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
14	Group Presentations.	Group Presentations. グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック(講評)を行う。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③及び④に関連して、finalize your country presentation and develop a strategy with your teammates to present your research materials. Compare salient features of your country with practices in Japan. Continue to work on your presentation skills and focus on pronunciation, delivery and content.	
	事前学修	Finalize your country presentation and develop a strategy with your teammates to present your research materials. Compare salient features of your country with practices in Japan. Continue to work on your presentation skills and focus on pronunciation, delivery and content.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. Confirm your understanding of the topics covered. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直し、学んだ内容を整理する。学修した内容の理解ができているかを確認する。	120分
15	Group Presentation (continued). 【グループ発表】	Group Presentations (continued). グループ発表を実施し、各グループに対するフィードバック(講評)を行う。	
	この回の到達目標	到達目標の①②③及び④に関連して、finalize your country presentation and develop a strategy with your teammates to present your research materials. Compare salient features of your country with practices in Japan. Continue to work on your presentation skills and focus on pronunciation, delivery and content.	
	事前学修	Finalize your country presentation and develop a strategy with your teammates to present your research materials. Compare salient features of your country with practices in Japan. Continue to work on your presentation skills and focus on pronunciation, delivery and content.	120分
	事後学修	Review the class assignment, text, handouts and class notes. 授業中の課題、教科書、配布資料、及び自分の授業ノートの内容を見直す。	120分

科目名	法律外国語BⅠ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ法（憲法・不法行為法・財産法・契約法）の代表判例を用い、その判決要旨を解説する。尚、全ての講義は、英語にて実施するが、極めて重要な箇所は、日本語と英語にて解説を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
憲法・不法行為法・財産法・契約法の法域で用いられている法律英語の意味を理解し、それらの用語を用いて受講者同士で、英語にて法的な論点について英語で会話できることを目標とし、後期開講の法律外国語BIIを合わせて、授業終了後には、米国のロースクールに入学しても講義についていくことができ、最終的に、米国人弁護士とリーガル・ディベートを行いうる人材を育成することを目的とする。

【履修条件】
特に無いが、法律外国語Aや米国法の授業を受講済み又は受講中であることが望ましい。また、英語での講義を予定しているので、ある程度の英語力が必要である。

【授業方法】
講義形式と演習形式の融合。講義は基本的に英語で行い。受講者は、教員から与えられた事例を読み、事実関係・争点・判決概要を英語で発表する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者全員に判例を割り当て、その判例を講義内にて英語及び日本語で発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各法域で使用される法律英語の意味や内容を説明することができる。					3	1				3		
②	米国憲法・米国不法行為法・米国契約法に関する主要な判例例につき, 事実, 争点, 判旨を説明することができる。					3	3				3		
③	米国憲法・米国不法行為法・米国契約法めぐる諸問題について考察し, 自分の意見を述べる ことができる。					3	3				3		
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての米国憲法・米国不法行為法・ 米国契約法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点 など身についているかを, レポート評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	適宜授業では, 受講者に判例を1つ担当させ, 事実関係及び判 旨を英語で発表させ, その内容を評価する。	10	15	15								40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教科書は使用しない				教科書	
判例要約を受講者に配布				その他	必携
教員の作成したレジメ				その他	必携
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国での契約実務経験等を通じ, 契約書文言での企業間のトラブルについての考察を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Orientation & Constitutional Law(1)	米国憲法が規定する政府の3つのブランチ（立法権、執行権、司法権）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて米国憲法で規定される2つのブランチを説明できる。	
	事前学修	事前に配布する資料（判例要旨及びレジメ）の米国憲法 Article I - III に該当する箇所を読んでおき、詳細をノートに書きだしておく。	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
2	Constitutional Law(2)	連邦議会が制定する連邦法が合衆国憲法に違反した場合の最高裁の違法立法審査権に有無に関する上記判例を用いて解説するとともに、大統領もまた法の支配に服することをNIXON事件を用いて解説する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて連邦憲法が最高法規であることを判例を用いて説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Marbury v. Madison, 5 U.S. 137 (1803) United State v. Nixon, 418 U.S. 683 (1803)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
3	Constitutional Law (3)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、手続的デュー・プロセスや実体的デュー・プロセスを講義した後、基本的な権利として中絶に関する権利や同性婚、死ぬ権利などについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて個人の権利を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Roe v. Wade, 410 U.S. 113 (1973), Lawrence v. Texas, 539 U.S. 558 (2003) Washington v. Glucksberg, et al	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
4	Constitutional Law (4)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、表現や結社の自由、出版の自由などを名誉棄損との関係で解説する。また、平等による保護と黒人差別について米国での流れについて解説する。まずは、奴隷の開放について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて黒人の歴史や法上の取り扱いを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 New York Times v. Sullivan, 376 U.S. 254 (1964)) Dred Scott v. Stanford, 60 U.S. 393 (1857)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
5	Constitutional Law (5)	米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、奴隷の開放から平等による保護と黒人差別について上記判例を用いて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてSegregation とDiscrimination の相違を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業み、詳細をノートに書きだしておく。 Plessy v. Ferguson, 163 U.S. 537 (1896) Brown v. Board of Education, 347 U.S. 483 (1954)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
6	Torts Law(1)	子供による不法行為の責任、故意による不法行為の成立要件、故意による不法行為(1)：暴行及び不法監禁について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて米国の不法行為の一般概念を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Van Camp v. McAf0os, 261 Iowa 1124 (1968), Garratt v. Dailey, 46 Wn.2d 197(1955)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Torts Law(2)	故意による不法行為(2)：不法侵入、土地又は動産への不法侵害、精神的加害による故意の迷惑行為について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて不法行為の種類を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Coblyn v. Knnedý's Inc, 359 Mass. 319 (1971), Katko v. Briney, 183 N.W. 2d 657 (1971)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
8	Torts Law(3)	過失による不法行為の要件（4要件）を解説する。即ち、a. Duty of care, b. Breach of this duty by negligence, c. Actual damages, d. Causationを判例を用いで確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて不法行為の要件を説明できる。	
	事前学修	過失による不法行為に関する箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Wilkinson v. Downton, 2 Q.B. 57 (1897) ※イギリス判決	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
9	Torts Law(4)	過失による不法行為の各要件に関する意味を判例を用いで確認する。特に、過失推定論については、Res Ipsa Loquiturという言葉で表現されるので、その意味を十分理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて過失推定論とは何かを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Byrne v. Boadle, 2 H. & C. 722(1863) ※イギリス判決 Summers v. Tice, 33 Cal. 2d 80 (1948)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
10	Torts Law(5)	製造物責任及び動物の不法行為に関する米国での取り扱いを題材に講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてPL訴訟の法的根拠や自己管理課の家畜と野生動物が原因の不法行為の取り扱いに関して説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Lee v. Crookston Coca-Cola Bottling Co, 290 Minn. 321(1971) Gehrts v. Batteen, 620 N.W. 2d 775(S.D.2001)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
11	Contract Law(1)	契約法の概略、契約法を管理する法律を解説した後、契約の種類、契約の成立について講義する。 特に、契約の成立には、米国特有のConsideration（約因）が必要であるため、判例を用いて、約因の有無で効力が異なることを理解する。また、Shrinkwrap Licenseも学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約の種類や成立要件を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Lucy v. Zehmer, 196 Va 493(Va.1954) ProCD, Inc v. Zeidenberg, 96 F.3d 1447(7th Cir. 1996) Mills v. Wyman, 20 Mass. 207(Mass. 1825)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	Contract Law(2)	契約の成立で重要な相互合意の成立とはどういうことか、また、Parol Evidence Ruleとななにか、契約成立に対する抗弁にはどのようなものがあるかについて学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約内容に当事者の見解の齟齬が発生した場合の解決法について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Webb v. McGowin, 27 Ala.App. 82(Ala.App. 1935) Mitchill v. Lath, 247 N.Y. 377 (N.Y. 1928) Taylor v. Caldwell, 3 Best & S. 826(1863)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
13	Contract Law(3)	義務の放免（履行不能による放免・履行実行困難性による放免）について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約を履行しないでいい場合について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Jacob & Young v. Kent, 230 N.Y. 239(N.Y. 1921) Walker & Co. v. Harrison, 347 Mich. 630(Mich. 1957) Hadley v. Baxendale, 9 Exch. 341(1854)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
14	Contract Law(4)	重大な契約違反をした場合、些細な契約違反をした場合の相違及び救済について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約違反の場合の救済について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Johnson v. M’Intosh, 21 U.S. 543(1823) Armory v. Delamirie, 1 Strange 505(1722) McAvoy v. Medina, 93 Mass 548(1866)&Mannillo v. Gorski, 54 N.J. 378(1969)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
15	Contract Law(5)	契約違反をした場合の救済について講義する。また、レポート課題に対し、30分程度の解説を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて契約違反の場合の賠償の算出手法を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Swartzbaugh v. Sampson, et al, 11 Cal App.2d 451(1936) In re Marriage of Graham, 574 P.2d 75(1978) Berg v. Wiley, 264 N.W.2d 145(Minn1978)	120分
	事後学修	自己がまとめた課題レポートにおいて言及が足りなかった部分について、再度判決文を読み返し、今まで半期で習ってきた法律用語を見直し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

科目名	法律外国語BⅡ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○				○		

【授業の概要】
アメリカ法（証拠法・刑法・捜査法）の代表判例を用いながら、基本的な知識を身につける。尚、全ての講義は、英語にて実施するが、極めて重要な箇所は、日本語と英語にて解説を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
証拠法、刑法、捜査法の法域で用いられている法律英語の意味を理解し、それらの用語を用いて受講者同士で、英語にて法的な論点について英語で会話できることを目標とし、前期開講の法律外国語BIと合わせて、授業終了後には、米国のロースクールに入学しても講義についていくことができ、最終的に、米国人弁護士とリーガル・ディベートを行いうる人材を育成することを目的とする。

【履修条件】
特に無いが、法律外国語A、BIや米国の法の授業を受講済み又は受講中であることが望ましい。また、英語での講義を予定しているので、ある程度の英語力が必要である。

【授業方法】
講義形式と演習形式の融合。講義は基本的に英語で行い。受講者は、教員から与えられた事例を読み、事実関係・争点・判決概要を英語で発表する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	受講者全員に判例を割り当て、その判例を講義内にて英語及び日本語で発表する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各法域で使用される法律英語の意味や内容を説明することができる。				3	1				3		
②	米国財産法・米国証拠法・米国刑法・米国捜査法に関する主要な判例例につき、事実、争点、判旨を説明することができる。				3	3				3		
③	米国財産法・米国証拠法・米国刑法・米国捜査法めぐる諸問題について考察し、自分の意見を述べることができる。				3	3				3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての米国財産法・米国証拠法・米国刑法・米国捜査法に関する基礎的な制度・裁判例・現在の問題点など身についているかを，レポート評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	適宜授業では，受講者に判例を1つ担当させ，事実関係及び判旨を英語で発表させ，その内容を評価する。	10	15	15								40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	35	35								100

【課題に対するフィードバックの方法】
最終回の講義の時間で行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教科書は使用しない				教科書	
判例要約を受講者に配布				その他	必携
教員の作成したレジメ				その他	必携
備考	教科書は使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	企業における知的財産権部 及び 米国法人の知財代表（企業内米国弁理士）
実務経験に基づく実践的教育の内容		米国での契約実務経験等を通じ，契約書文言での企業間のトラブルについての考察を授業に取り入れている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	Property Law(1)	財産権法の概要について説明した後、インディアン土地所有権について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて財産の取得手段を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Johnson v, M' Intosh, 21 U, S, 543(1823),	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
2	Property Law(2)	不動産の時効取得やLost Item とMislaid itemにおける発見者及び発見場所のオーナー及び元の所有者の権利関係を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて遺失物と置き忘れの法的効果について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Mannillo v, Gorski, 54 N,J, 378(1969), Armory v, Delamirie, 1 Strange 505(1722), McAvoy v, Medina, 93 Mass 548(1866)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
3	Property Law(3)	資格の共有財産、土地の共有財産（Joint Tenancy, the tenancy by the entirety, the tenancy in common）を講義する。。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて離婚時の財産分与の際、医師資格や弁護士資格の取り扱いや共有で土地を取得した場合の共有財産形態を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Swartzbaugh v, Sampson, et al, In re Marriage of Graham, 574 P,2d 75(1978),	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
4	Property Law(4)	テナント／大家の関係、土地の収用を講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてテナントの権利及び大家の権利を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Berg v, Wiley, 264 N,W,2d 145(Minn1978, Hilder v, St, Peter,144 Vt 150 (1984), Pennsylvania Coral Co, v, Mahon, 260 U,S, 393(1922)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
5	Evidence (1)	証拠法において、証拠は事件と関連性があるものでなければならないが、関連性とは何を意味するのか？	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて証拠にはどのようなものがあるかを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Michelson v, United States, 335 U,S, 469(1948)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
6	Evidence (2)	証拠法における性格証拠とは何かを講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてキャラクターエビデンスの民事上と刑事上の取り扱いの相違を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 State v, Cassidy, 3 Conn,App 374 (1985) United States v, Cunningham, 103 F,3d 553(7th Cir,1996)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	Evidence (3)	物的証拠, 文書証拠, 証人の資格（特に幼児の証人適格）について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてベストエビデンスルールを説明し、コンフリクトする証拠の取り扱いを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Sirico v, Cotto, 67 Misc,2d 636 (NY 1971) Hill v, Skinner, 81 Ohio App 375 (NY 1947)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
8	Evidence (4)	証人への信ぴょう性の攻撃, 証言特権（特に弁護士特権, 医師特権, 配偶者特権, 聖職者特権について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、証言拒否ができる場合はどのような場合であることを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 United States v, Owens21 M,J, 117 (NY 1985), United States v, Woodruff, 383 F,Supp 696(Penn 1974), Clark v, State, 159 Texas Cr,R, 187 (1953)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
9	Evidence (5)	伝聞証拠について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、証言拒否ができる場合はどのような場合であることを説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Estate of Murdock, 32 Muc, 352 (1983), United States v, English, 201 N,C, 295 (1931), Truck Ins, Exchange v, Michling, 364 S,W,2d 172(1963)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
10	Criminal Law(1)	刑法の管轄権や犯罪の分類, 犯罪の吸収など概略について講義する。また, 犯罪の本質的要素としてであるactus reus及びmens reaについて講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて犯罪を構成する「犯罪行為」と「犯意」について説明でき, 犯意により分類された様々な犯罪を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 People v, Newton, 340 N,Y,S, 77(1973), Regina v, Prince, L,R, 2 Crim, Cas, Res, 154(CCCR 1875) United States v, Diaz, 864 F,2d 544 (7th Cir, 1988)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
11	Criminal Law(2)	共犯者責任（正犯・従犯）・未完全犯罪・犯罪能力に関し講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて未完成犯罪の種類や, 犯罪能力について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業み、詳細をノートに書きだしておく。 United States v, Diaz, 864 F,2d 544 (7th Cir, 1988) McQuirter v, State, 63 So,2d 388(Ala, App,1953)	120分
	事後学修	配布資料(レジメ) を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
12	Criminal Law(3)	無罪の基本原理（正当防衛、脅迫の抗弁、同意）について講義する。また、人に対する犯罪、性犯罪（強姦・法定強姦・重婚他）について講義する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて暴行、重傷害、殺人、不当監禁、誘拐、性犯罪について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 People v, La Voie, , Rowland v, State, People v, Hickman, People v, Liberta, Brown v, State, State v, Colvin,	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
13	Criminal Procedure(1)	被疑者の権利としてどのような規定があるか、概略を説明する。特に、修正4～6条、修正8条を含めて講義を行う。 まずは証拠排除即として、「毒樹の果実の法理」を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて証拠排除則について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Mapp v, Ohio, 367 U,S, 643(1961)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
14	Criminal Procedure(2)	逮捕（相当な理由がある場合や令状が不要な場合）の講義をし、証拠の搜索や押収の手法について講義する。捜査法や刑事訴訟等を扱った米国のメディアを視聴し、各場面でどのような手続きが行われているのか確認し、課題レポートとして最終回の授業までに提出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にて令状不要な6事情を説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Illinois v, Gates, 462 U,S, 213(1983), United States v, Watson, 423 U,S, 411(1976) United States v, Robinson, 414 U,S, 218 (1973)	120分
	事後学修	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されているか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分
15	Criminal Procedure(3)	自白（特に、自己に不利な証言を強要されないミランダ警告）、ラインナップ手続きに代表される同一性の確認、プリトライアルや一事不再理について講義する。課題レポートに関しフィードバックを行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、英語にてミランダ事件について説明できる。また捜査により行われる各種の手続きの法的根拠について説明できる。	
	事前学修	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読み、詳細をノートに書きだしておく。 Miranda v, Arizona, 384 U,S, 436 (1966), United States v, Wade, 388 U,S, 218 (1967), Batson v, Kentucky, 476 U,S, 79 (1986), Oregon v, Kennedy, 456 U,S, 667 (1982)	120分
	事後学修	通常の事後学習に加え、再度メディアを見返して、教員のフィードバックの箇所を確認し、ノートに列挙し、自己学習で確認する。	120分

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記原理Ⅱとあわせて履修することが望ましい。

【授業方法】
授業内容の理解を深めるため、適宜問題演習を織り交ぜながら、講義を行う。なお、簿記の問題演習には電卓が必要となるので、受講の際は電卓を用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標についての総合的な理解が身についているかを、 毎回の授業課題（小テスト）によって評価する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で全体講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記〔改訂版〕	大野智弘 編著	創成社	2020	教科書	必携
検定簿記ワークブック 3 級	渡部裕亘、片山覚、 北村敬子（編著）	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスおよび簿記一巡の手続き	全体の授業計画の説明と、教科書Chapter1より簿記の全体像を学ぶ	
	この回の到達目標	半期の授業計画を把握し、簿記手続きの全体像を理解する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、教科書Chapter1を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、簿記の全体像を説明できるようにする。	150分
2	勘定科目と分類	教科書Chapter2より勘定科目と分類を学ぶ	
	この回の到達目標	簿記で用いる勘定科目とはどのようなものであり、具体的にどのような科目・分類があるかを把握する。	
	事前学修	教科書Chapter2を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、勘定科目と分類の全体像を説明できるようにする。	150分
3	取引と仕訳	教科書Chapter3より取引と仕訳を学ぶ	
	この回の到達目標	簿記上の取引にはどのような経済事象が該当するかを理解し、それが仕訳という手続きによって表現される過程を理解する。	
	事前学修	教科書Chapter3を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、仕訳の基本的な形式を理解し、取引を仕訳できるようにする。	150分
4	転記	教科書Chapter4より転記を学ぶ	
	この回の到達目標	簿記上の取引は、仕訳されたのちに仕訳で使用された各勘定科目へと、転記される。この基本的な手続きの流れを把握する。	
	事前学修	教科書Chapter4を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、仕訳から転記に至るまでの基本的な手続きの流れを身につける。	150分
5	試算表の原理	教科書Chapter5より試算表の原理を学ぶ	
	この回の到達目標	仕訳と転記の正確性を検証するために作成される試算表について、その基本的な構造を理解する。	
	事前学修	教科書Chapter5を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、試算表作成のための基本的な手続きを身につける。	150分
6	精算表の仕組み	教科書Chapter6より精算表の仕組みを学ぶ	
	この回の到達目標	精算表は、試算表から財務諸表作成までの一連の流れをシミュレートするために作成する表である。この精算表の基本的な構造を理解する。	
	事前学修	教科書Chapter6を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、試算表作成のための基本的な手続きを身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	損益計算書と貸借対照表の様式	教科書Chapter7より財務諸表の様式と基本的な作成の仕組みを学ぶ	
	この回の到達目標	損益計算書と貸借対照表という、主要な財務諸表の様式を把握し、それらの作成方法を身につける。	
	事前学修	教科書Chapter7を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、損益計算書および貸借対照表の作成手続きを身につける。	150分
8	現金預金	教科書Chapter8より現金預金取引の簿記処理を学ぶ	
	この回の到達目標	現金取引、普通預金取引および当座預金取引の仕訳と転記ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter8を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、現金預金取引の簿記処理を身につける。	150分
9	現金過不足と小口現金	教科書Chapter9より現金過不足と小口現金の簿記処理を学ぶ	
	この回の到達目標	現金過不足勘定を用いた処理と、インプレストシステムにおける小口現金取引の仕訳と転記ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter9を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、現金過不足および小口現金の簿記処理を身につける。	150分
10	商品売買：記帳方法	教科書Chapter10より商品売買の記帳方法を学ぶ	
	この回の到達目標	分記法と三分法の記帳方法を理解し、両者の違いを把握する。	
	事前学修	教科書Chapter10を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、分記法および三分法による簿記処理を身につける。	150分
11	手付、商品券、クレジット販売	教科書Chapter11より手付、商品券、クレジットによる商品販売の簿記処理を学ぶ	
	この回の到達目標	手付の授受による商品売買や、商品券・クレジットカードによる商品販売の仕訳と転記ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter11を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、手付、商品券・クレジット販売の簿記処理を身につける。	150分
12	約束手形と電子記録債権	教科書Chapter12より約束手形取引および電子記録債権取引の簿記処理を学ぶ	
	この回の到達目標	約束手形の振出や決済、電子記録債権の発生や決済の仕訳と転記ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter12を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、約束手形取引・電子記録債権取引の簿記処理を身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	貸倒れと貸倒引当金		教科書Chapter13より貸倒れと貸倒引当金の簿記処理を学ぶ
	この回の到達目標	債権の貸倒れや貸倒引当金設定時の仕訳と転記ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter13を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、貸倒れおよび貸倒引当金の簿記処理を身につける。	150分
14	有形固定資産		教科書Chapter14より有形固定資産の簿記処理を学ぶ
	この回の到達目標	有形固定資産の取得や売却、減価償却時の仕訳と転記ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter14を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、有形固定資産の取得・売却や減価償却の簿記処理を身につける。	150分
15	前期総括		複式簿記の基本から有形固定資産までの学修内容の確認とポイントの解説
	この回の到達目標	簿記の基本的事項から、各論における具体的な簿記処理の内容を把握する。	
	事前学修	前期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、前期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	船越 洋之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。電卓を用意できる者。

【授業方法】		
教科書を使用する講義形式（オンデマンドによる授業事前録画配信形式）だが、問題演習も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。教科書にある問題は予習・復習に使うことができるようになっている。質問は金曜日の授業から3日間メール（funakoshi.hiroyukil1@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。専任教員ではないので回答は少し遅くなる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを，筆記試験により評価する。70%の評価割合とする。	17	17	18	18							70
小テスト等	Google Formsを用いたミニテストをほぼ毎回行う予定。 30%の評価割合とする。	7	7	8	8							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		24	24	26	26							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニュースステップアップ簿記（第2版）	大野智弘編著	創成社	2020年	教科書	必携
備考	初版は使用できません。第2版を購入してください。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日授業終了後にメールにて3日間のみ受け付ける。メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス（簿記と会計の世界）、 簿記検定、電卓	簿記と会計の世界を説明することによってこの科目を学ぶ意義を理解することができる。今後取得できる各種簿記検定について理解することができる。簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sを紹介することによって、電卓の重要性を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④と関連して、学問としての簿記や会計について理解することができる。	
	事前学修	シラバスをよく読むこと。教科書のはしがきを読むことで、簿記の学習で大切なことを把握できるよう準備すること。	90分
	事後学修	履修を決定したら、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。教科書の目次を見て自分なりの学習計画を検討すること。	150分
2	簿記一巡の手続き	複式簿記の基本前提と一連の手続きの流れについて学ぶ。この授業で扱う日商簿記初級についてその内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、複式簿記の基本前提と簿記一巡の流れについて理解することができる。日商簿記初級について、その位置づけと設定目標について理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter1の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
3	勘定の分類	勘定（資産・負債・資本・収益・費用）について、その役割を学ぶ。さらに日商簿記初級で出てくる勘定についてもその内容を理解する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、勘定の意味と役割について理解することができる。日商簿記初級で出てくる勘定について説明することができる。	
	事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
4	取引と仕訳の基礎	簿記上の取引と仕訳について、基本的な問題を解くことで知識の定着を図ることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、簿記上の取引について説明することができる。さらに、仕訳の基本的な考え方を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
5	取引と仕訳の応用	日商簿記初級レベルの仕訳について、応用的な問題を解くことで理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記初級レベルの仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
6	転記のしくみ	総勘定元帳への転記についてそのしくみを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、転記のやり方を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter4の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	試算表の原理		試算表の意義と役割について学ぶとともに、実際に問題を解くことで知識の定着を図る。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、試算表の意義と役割を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter5の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
8	損益計算書と貸借対照表の様式		財務諸表である損益計算書と貸借対照表の構造について学ぶ。当期純利益の2つの計算方法について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、損益計算書と貸借対照表の構造を理解することができる。当期純利益の計算方法について理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter7の学習のポイントを読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
9	普通預金、定期預金、小切手		普通預金、定期預金、小切手に関して、その概念と仕訳を中心に基本的処理のみ学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、普通預金、定期預金、小切手に関する基本的な仕訳について理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter8の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
10	商品売買（三分法と返品）		商品売買の基本的処理方法である三分法に関して、その概念を学ぶ。さらに、返品処理も含めた仕訳について基本的処理のみ学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、三分法のしくみを理解することができる。さらに、返品処理を含めて仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter10の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
11	商品売買（諸掛、内金・手付金、クレジット決済）		仕入や売上に付随して発生する諸掛、内金・手付金、クレジットカードによる決済ついて、その概念を学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、仕入諸掛、売上諸掛、前払金・前受金、クレジット売掛金についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter10と11の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
12	約束手形と電子記録債権債務		約束手形と電子記録債権債務について、そのしくみを学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、受取手形・支払手形及び電子記録債権・電子記録債務についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter12の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有形固定資産と税金	有形固定資産と税金について、そのしくみを学ぶ。さらに、それに関する仕訳について基本的処理のみ学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、未収入金・未払金、有形固定資産の取得、有形固定資産の売却、減価償却、租税公課、消費税についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter14と17の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことで復習しておくこと。	120分
14	月次合計残高試算表	日商簿記初級で出てくる月次合計残高試算表について、そのしくみと構造を学ぶ。この回のみ補助プリントを配付し、そこにある問題を解くことで理解を深める。授業内試験について伝達する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記初級レベルの月次合計残高試算表を解くことができる。	
	事前学修	教科書Chapter18の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	配付したプリントを解くことで復習しておくこと。（2時間）	120分
15	授業内試験実施とその解説	日商簿記初級レベルの授業内試験の実施（45分）及び試験の解説実施（30分）さらに成績評価と簿記原理Ⅱの説明（15分）。授業内試験は電卓のみ持込可とする。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、前期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
	事前学修	授業内試験に向けた復習を行うこと。	180分
	事後学修	授業内試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。	60分

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
座学による講義および問題演習

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	簿記に関する基本的な用語を理解し、説明することができる。					1	1					
③	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
④	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。					1	1					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末レポートにより到達目標についての総合的な理解が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	オンデマンド講義のため必要に応じて講義内課題を課す。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で解説

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
検定簿記ワークブック／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	必携
検定簿記講義／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後および電子メールにより対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	簿記の意義 講義の進め方		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財務諸表論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	簿記を学ぶ意義と講義の狙いについて理解する。		
	事前学修	シラバスに目を通すとともに、教科書の各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	簿記の意義としくみ（1）		(1) 簿記の意義、(2) 簿記の基礎、(3) 貸借対照表について説明し、簿記の基礎について学習する。	
	この回の到達目標	簿記学習の基礎的前提を理解する。		
	事前学修	教科書・第1章の「簿記の意義」、「簿記の基礎」、「貸借対照表」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分
3	簿記の意義としくみ（2）		(1) 損益計算書、(2) 貸借対照表と損益計算書の関係について説明し、簿記の基礎について学習する。	
	この回の到達目標	主要財務諸表の意義と相互の関連性について理解する。		
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分
4	仕訳と転記（1）		(1) 勘定、(2) 取引の意義と種類、（3）取引の8要素と結合関係について説明し、複式簿記の基礎について学習する。	
	この回の到達目標	仕訳と元帳への転記の仕組を理解する。		
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分
5	仕訳と転記（2）		(1) 仕訳と転記について説明し、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。	
	この回の到達目標	仕訳と元帳への転記が実際に行えるようになる。		
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分
6	仕訳帳と総勘定元帳		(1) 帳簿の種類、（2）仕訳帳への記入、（3）仕訳帳から総勘定元帳への転記について説明し、前回に引き続き、複式簿記の基礎となる仕訳と転記について学習する。	
	この回の到達目標	主要簿と補助簿の関係について簿記の構造及び複式記入の優位性について理解する。		
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。		120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	決算（１）		(1)試算表の作成について説明するとともに、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。
	この回の到達目標	継続記録と決算の関係について理解する。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
8	決算（２）		(1)決算の概要、（２）決算の手続、（３）帳簿決算の手順について説明し、帳簿上での決算について学習する。
	この回の到達目標	簿記について決算が果たす役割について理解する。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
9	決算（３）		(1)財務諸表の作成について説明し、帳簿決算から財務諸表の作成への手順について学習する。
	この回の到達目標	簿記一巡の流れを理解し、実際に決算の手続きを行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
10	現金と預金（１）		「現金」、「現金過不足」について説明し、現金勘定に関わる会計処理について学習する。
	この回の到達目標	簿記における現金と預金の意義について理解する	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
11	現金と預金（２）		「当座預金と当座借越」、「小口現金」について説明し、当座預金勘定および小口現金勘定に関わる会計処理について学習する。
	この回の到達目標	現金と預金に関する記録が行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
12	商品売買（１）		商品売買取引に係る会計処理について説明し、特に３分法について学習する。
	この回の到達目標	3分法の意義を理解し、記録が行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	商品売買（２）	商品売買取引に係る補助簿について説明し、補助簿について学習する。	
	この回の到達目標	主要簿と補助簿の関係について理解し、実際に記録が行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
14	決算（４）	決算手続における精算表の位置づけについて説明し、精算表の作成について学習する。	
	この回の到達目標	精算表の作成が行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
15	講義のまとめ	講義全体の内容を復習し簿記一連の手続きについて確認する。	
	この回の到達目標	簿記一連の手続きを理解する。	
	事前学修	前回講義で指定された教科書の範囲について熟読し、キーワードおよび専門用語について確認し、考察しておく。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う 定期試験に向けて講義全体を振り返り、十分に準備する。	120分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記原理Ⅰとあわせて履修することが望ましい。

【授業方法】
授業内容の理解を深めるため、適宜問題演習を織り交ぜながら、講義を行う。なお、簿記の問題演習には電卓が必要となるので、受講の際は電卓を用意すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標についての総合的な理解が身についているかを、 毎回の授業課題（小テスト）によって評価する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜授業内で全体講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記〔改訂版〕	大野智弘 編著	創成社	2020	教科書	必携
検定簿記ワークブック 3 級	渡部裕亘、片山覚、 北村敬子（編著）	中央経済社	2019	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日16：30～18：00 本館 8 階1820研究室にて実施（事前にメールにてアポを取ること） Email：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	簿記原理Ⅰの学修内容の確認および簿記原理Ⅱの全体像の確認	簿記原理Ⅰにて学修した内容を復習しつつ、簿記原理Ⅱで扱う論点の全体像を概観する	
	この回の到達目標	簿記原理Ⅰにおける学修内容を再確認し、半期の授業計画を把握する。	
	事前学修	シラバスを熟読するとともに、教科書Chapter1～14を通読して、前期の学修内容を確認する。	90分
	事後学修	教科書Chapter1～14までの内容を、説明できるようにする。	150分
2	その他の債権と債務	教科書Chapter15より様々な債権債務に関する諸取引の簿記処理を学ぶ	
	この回の到達目標	簿記で用いる勘定科目とはどのようなものであり、具体的にどのような科目・分類があるかを把握する。	
	事前学修	教科書Chapter15を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、各種債権債務取引の簿記処理を身につける。	150分
3	株式会社の資本金と繰越利益剰余金	教科書Chapter16より資本金や繰越利益剰余金の増減に関する取引の簿記処理を学ぶ	
	この回の到達目標	株式会社の資本金や繰越利益剰余金の増減に関する取引の仕訳と転記ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter16を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、設立時や増資時、配当時の簿記処理を身につける。	150分
4	税金の処理および訂正仕訳	教科書Chapter17より株式会社における諸税金の処理と誤処理の修正仕訳を学ぶ	
	この回の到達目標	費用として処理される諸税金や、法人税等の利益を課税標準とする税金に関する取引の仕訳と転記ができるようになる。また、誤って行われた仕訳の修正仕訳ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter17を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、各種税金の納付に関する簿記処理と、訂正仕訳の方法を身につける。	150分
5	試算表と掛明細表	教科書Chapter18より試算表と掛明細表の作成方法を学ぶ	
	この回の到達目標	期中の取引内容を反映した試算表の作成ができるようになる。また、掛明細表による取引先別の掛代金残高が把握できるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter18を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、実践的な試算表の作成方法と掛明細表の作成方法を身につける。	150分
6	試算表の演習	教科書Chapter19より演習を通じて試算表の作成方法を修得する	
	この回の到達目標	問題演習を通じて、検定試験レベルの試算表の作成ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter19を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベル試算表の作成能力を身につける。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	売上原価と売上総利益の計算		教科書Chapter20より売上原価および売上総利益の計算構造を学ぶ	
	この回の到達目標	三分法による決算整理仕訳と、それによって売上原価が導出される過程を理解するとともに、売上総利益の計算構造を把握する。		
	事前学修	教科書Chapter20を通読して、疑問点を整理しておく。		90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、三分法の決算整理と売上総利益を計算する仕組みを身につける。		150分
8	費用・収益の前払・前受・未払・未収		教科書Chapter21より費用・収益の繰延や見越の簿記処理を学ぶ	
	この回の到達目標	費用や収益の各項目について、前もって受払された部分を取り消す処理や、まだ受払されていない部分を追加計上する処理ができるようになる。		
	事前学修	教科書Chapter21を通読して、疑問点を整理しておく。		90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、費用・収益の前払・前受、未収・未払の簿記処理を身につける。		150分
9	決算整理事項と決算整理仕訳		教科書Chapter22より決算整理手続きの全体を概観する	
	この回の到達目標	これまで扱ったChapterに登場した決算整理手続きをひとまとめにして整理し、一連の決算整理仕訳ができるようになる。		
	事前学修	教科書Chapter22を通読して、疑問点を整理しておく。		90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、一連の決算整理事項の簿記処理を身につける。		150分
10	決算整理事項と八桁精算表		教科書Chapter23より八桁精算表における決算整理手続きを学ぶ	
	この回の到達目標	一連の決算整理仕訳を、八桁精算表の上で表現する方法を学び、精算表の基本構造が理解できるようになる。		
	事前学修	教科書Chapter23を通読して、疑問点を整理しておく。		90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、八桁精算表における決算整理仕訳の表現方法を身につける。		150分
11	八桁精算表の作成		教科書Chapter24より実践的な八桁精算表の作成方法を学ぶ	
	この回の到達目標	問題演習を通じて、検定試験レベルの精算表が作成できるようになる。		
	事前学修	教科書Chapter24を通読して、疑問点を整理しておく。		90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベルの精算表の作成能力を身につける。		150分
12	財務諸表の作成		教科書Chapter25より財務諸表の作成方法を学ぶ	
	この回の到達目標	問題演習を通じて、決算整理を踏まえて財務諸表が作成できるようになる。		
	事前学修	教科書Chapter25を通読して、疑問点を整理しておく。		90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、検定試験レベルの財務諸表の作成能力を身につける。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	帳簿決算（英米式決算法による締切）	教科書Chapter26より帳簿決算の方法（締切まで）を学ぶ	
	この回の到達目標	年間の帳簿記入の締めくくりとして、帳簿の締切手続きと次期における開始記入ができるようになる。	
	事前学修	教科書Chapter26を通読して、疑問点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、帳簿の締切手続きを身につける。	150分
14	決算整理手続きの総復習	演習問題を通じて精算表における決算整理手続きを修得する	
	この回の到達目標	問題演習を通じて、精算表による決算整理手続きの実施を完全に修得する。	
	事前学修	第10回および第11回の内容を復習して、理解が不十分な点を整理しておく。	90分
	事後学修	授業内で扱った問題を復習して、有形固定資産の取得・売却や減価償却の簿記処理を身につける。	150分
15	後期総括	その他の債権と債務から帳簿決算までの学修内容の確認とポイントの解説	
	この回の到達目標	簿記の全体的な手続きの流れを把握する。	
	事前学修	後期の学修内容を概観する。	120分
	事後学修	期末試験に向けて、後期の学修ポイントを包括的に復習する。	120分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	船越 洋之	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。簿記原理Ⅰを学習済みであること。

【授業方法】		
教科書を使用する講義形式（オンデマンドによる授業事前録画配信形式）だが、問題練習も行うので、毎回、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。科目の性格上、続けて休むと理解することが困難になります。そのような場合には、早めに各自で授業内容のフォローをしておいてください。質問は金曜日の授業から3日間メール（funakoshi.hiroyuki11@nihon-u.ac.jp）で受け付ける。専任教員ではないので回答は少し遅くなる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。						1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。						1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。								1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。								1	1				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標すべてについての総合的な理解が身についているかを、筆記試験により評価する。70%の評価割合とする。	18	18	17	17							70
小テスト等	Google Formsを用いたミニテストをほぼ毎回行う予定。30%の評価割合とする。	8	8	7	7							30
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		26	26	24	24							100

【課題に対するフィードバックの方法】
テスト実施後に講評・解説を実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ニューステップアップ簿記 （第2版）	大野智弘編著	創成社	2020月	教科書	必携
備考	前期の簿記論Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。				

【オフィスアワー】
非常勤講師ゆえ、金曜日授業終了後にメールにて3日間のみ受け付ける。メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期の復習と帳簿決算	夏休みをはさんだので、簿記の知識を思い出してもらう目的で前期の復習を確認する。帳簿上で行われる決算手続きに関して学習する。	
	この回の到達目標	前期に学習した内容の振り返りを行うことができる。帳簿決算において行われる振替仕訳について理解することができる。	
	事前学修	到達目標①～④に関連して、教科書Chapter26の学習のポイントを読んでおくこと。さらに、前期学習した箇所を再度読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
2	当座預金、現金過不足、小口現金	当座預金の銀行別管理、当座借越への振替え、現金過不足、小口現金に関して、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、当座預金〇〇銀行、当座借越、現金過不足、小口現金についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter8と9の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
3	発送費の立替え、他者発行商品券、人名勘定	売上時の発送費の立替え、他者発行商品券、人名勘定に関して、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、発送費の立替え、受取商品券、〇〇商店勘定についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter10と11の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
4	電子記録債権債務、貸倒引当金	債務者請求方式による電子記録債権債務と貸倒引当金に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、債務者請求方式、貸し倒れ、貸倒引当金についての概念と仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter12と13の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
5	有形固定資産に関する応用処理	定額法による減価償却、月割計算、有形固定資産の売却、改良と修繕に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、定額法の計算、有形固定資産の売却、改良と修繕についての概念と仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter14の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
6	その他の債権と債務	仮払い・仮受け、立替え・預かり、金融手形、法定福利費、差入保証金に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、仮払金・仮受金、立替金・預り金、手形貸付金・手形借入金、法定福利費、差入保証金についての仕訳を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter15の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	株式会社純資産、法人税等、訂正仕訳		株式会社の純資産構成、法人税等、訂正のための仕訳に関して、その概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、資本金、繰越利益剰余金、利益準備金、法人税等、訂正仕訳についての仕訳を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter16と17の学習のポイントの該当箇所を読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。		120分
8	日商簿記3級レベルの試算表		日商簿記3級でよく出題される合計残高試算表に関して、その作成方法を学習する。実際に問題を解くことでさらなる理解を深めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの合計残高試算表の作成方法を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter18と19の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。		120分
9	売上原価と売上総利益の計算		三分法特有の売上原価に関する決算処理についての考え方を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、売上原価算定のための振替処理と売上総利益の計算について理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter20の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。		120分
10	費用収益の繰延と見越		期間損益計算に従って生じる費用と収益の期間帰属に関してその考え方を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、費用収益の前払・前受・未払・未収についての概念と仕訳を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter21の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。		120分
11	決算整理事項のまとめ		今まで学習した決算整理に関する事項の総復習を行うとともに、決算整理後残高試算表作成問題を解いていくことでさらなる理解を深めることができる。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、決算整理事項の確認と決算整理後残高試算表の作成を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter22の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。		120分
12	日商簿記3級レベルの財務諸表の基本		日商簿記3級レベルの財務諸表の作成に関して、基本問題を基にその解き方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの財務諸表の作成方法の基本を理解することができる。		
	事前学修	教科書Chapter25の学習のポイントを読んでおくこと。		120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日商簿記3級レベルの財務諸表の応用	日商簿記3級レベルの財務諸表の作成に関して、応用問題を基にその解き方を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、日商簿記3級レベルの財務諸表の作成方法の応用を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter25の学習のポイントを讀んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
14	伝票式会計	伝票式会計に関してその概念を学ぶと同時に、簿記上の処理について学習する。授業内試験について伝達する。	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、伝票を用いた会計システムのしくみと簿記上の処理を理解することができる。	
	事前学修	教科書Chapter27の学習のポイントを讀んでおくこと。	120分
	事後学修	教科書の問題を解くことにより復習しておくこと。	120分
15	授業内試験の実施とその解説	授業内試験実施（60分、教科書・ノート・電卓持込可）、試験の解説（30分）	
	この回の到達目標	到達目標①～④に関連して、後期授業内容の総合的理解を確認することができる。	
	事前学修	授業内試験に向けた復習を行うこと。	180分
	事後学修	授業内試験について自己採点し、今後の学習（将来の日商簿記3級受験も含めて）に役立てること。	60分

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	古市 雄一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この授業では、企業の財務諸表を作成するための技術である複式簿記を学修する。複式簿記とは、企業の営む経営活動を記録・計算・整理するための技術であり、授業では、特に商業を営む小規模株式会社における記帳技術を中心に学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
企業の経営活動の実態を理解するとともに、企業経営における課題を発見する力を修得するために、財務情報の提供手段である財務諸表の構造を理解し、その作成技術を身につける。

【履修条件】
特にないが、最低限の簿記会計の専門用語に触れたことがあることが望ましい。

【授業方法】
座学による講義および問題演習。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	問題演習	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	企業の財務情報の伝達手段である財務諸表の構成と内容を説明できる。				1	1						
②	帳簿記録の対象となる取引の個別的な理解を積み重ねることで、企業活動の実態を理解できる。				1	1						
③	各種取引の正しい簿記処理を身につけることで、会計情報から企業活動をイメージできる。						1	1				
④	会計情報の内容から、企業の経営上の課題点を見出すことができる。						1	1				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末レポートにより到達目標についての総合的な理解が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(講義内課題)	オンデマンド講義のため、必要に応じて講義内課題を課す。	5	5	5	5							20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説授業を行います。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
検定簿記講義／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	推奨
検定簿記ワークブック／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 覚・北村敬子編著	中央経済社	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
木曜日授業終了後および電子メールにより対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前期科目の振返りと講義の概要説明。	前期末の定期試験の講評を行う。また、前期に学習した内容について概観し、講義の進行方法や成績評価等について説明を行う。	
	この回の到達目標	講義の意義を理解する。	
	事前学修	学習予定の教科書の範囲について読み、後期の講義全体を俯瞰する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、理解できていない部分について教科書、講義ノートを読み返す。	120分
2	債権と債務（１）	売掛金と買掛金、前払金と前受金について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	簿記・会計における売掛金と買掛金の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
3	債権と債務（２）	受取手形と支払手形について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	簿記・会計における手形の処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
4	債権と債務（３）	その他の債権と債務について説明し、各々の債権と債務の会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	売掛金、買掛金、手形以外の簿記処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
5	債権と債務（４）	債権の譲渡（クレジット売掛金）、電子記録債権・債務について説明し、各々の会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	簿記・会計における電子債権等の処理の意義について知り、実際に記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
6	債権と債務（５）	債権の回収に係る貸倒れと貸倒損失、貸倒の見積もりと貸倒引当金の設定について説明し、会計処理について学習する。	
	この回の到達目標	貸倒引当金の意義を理解し、実際の記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	固定資産（１）		有形固定資産の取得、売却および減価償却について説明し、有形固定資産の会計処理について学習する。
	この回の到達目標	簿記・会計における固定資産の処理の意義について理解する。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
8	固定資産（２）		前回の基本的な会計処理を踏まえて、有形固定資産の減価償却後の売却などについて学習する。
	この回の到達目標	固定資産の処理に伴う各種記録を行えるようにする。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
9	株式会社会計		株式会社会計の基礎となる資本金、利益剰余金、剰余金の配当について説明し、会計処理について学習する。
	この回の到達目標	資本金の基本的な意義を理解し実際の記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
10	収益と費用		収益と費用、収益および費用の見越し・繰延べ、消耗品費の処理について説明し、会計処理について学習する。
	この回の到達目標	収益及び費用の意義を知り、実際の記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
11	税金		固定資産税など、法人税・住民税・事業税、消費税について説明し、会計処理について学習する。
	この回の到達目標	簿記・会計における税金の意義を知り、実際の記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
12	伝票		伝票会計について説明し、伝票を用いた会計処理について学習する。
	この回の到達目標	伝票を用いた記録が行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	決算（５）	決算と決算手続について説明し、決算整理事項について学習する。	
	この回の到達目標	決算の意義について理解する。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
14	決算（６）	決算と決算手続にかかる試算表の作成、財務諸表の作成、精算表の作成の総合問題について説明し、答案練習を行う。	
	この回の到達目標	決算手続きが行えるようになる。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う。	120分
15	講義のまとめ	講義全体を振り返り、情報記録システムとしての簿記が果たす役割について説明する。	
	この回の到達目標	簿記一巡の手続き及び決算の手続きを理解し、実際にそれを記録する事が出来る。	
	事前学修	前回講義で指定した教科書の範囲についてテキストを読み、専門用語については事前に確認をする。	120分
	事後学修	講義全体の内容を確認し、定期試験の準備を行う。	180分

科目名	マーケティング戦略論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○	○	

【授業の概要】
海外市場の開拓における理論と実践について理解を深め、国際マーケティング計画（戦略）を評価し、立案するための知識と能力について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、企業による国際マーケティング活動の内容を説明できる能力、国際マーケティング計画（戦略）を立案する能力の修得を目指す。

【履修条件】
原則として「マーケティング論ⅠとⅡ」の単位取得を条件とする。単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にすること。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また受講生各自が独自に考案する国際マーケティング計画（戦略）をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員がディスカッションに参加する演習形式で実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の企業が直面している国際マーケティング問題について説明できる					2	2	2				
②	海外市場参入戦略について説明できる					2	2	2				
③	国際マーケティング環境について説明できる					2	2	2				
④	標準化と適応化戦略について説明できる					2	2	2				
⑤	他者へ国際マーケティング計画を説明できる						3	3		3	3	
⑥	他者の国際マーケティング計画を批判的に検討できる						3	3		3	3	
⑦	成功した企業の国際マーケティング実践について説明できる					3	3	3		3		
⑧	国際マーケティング計画（戦略）を立案できる					4	4	4		4	4	
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約5,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身で国際マーケティング計画を立案する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	5	5	5	5	5	5	10	20			60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義，個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。	5	5	5	5	5	5	5	5			40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	15	25			100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際マーケティング・ケイパビリティ	諸上茂登著	同文館出版	2019	教科書	必携
備考	本書は第8回以降の講義にて使用する。「国際マーケティング論Ⅱ（マーケティング戦略論Ⅱ）」の講義でも使用する。				

【オフィスアワー】
水曜11：00～12：00 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	本講義の目的と課題		ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	海外市場参入戦略①		企業が海外市場へ参入する動機、手順、方法（参入モード）について体系的に理解する
	この回の到達目標	①，②，③の関連において，企業が海外市場へ参入する動機について説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	海外市場参入戦略②		企業が海外市場へ参入する動機、手順、方法（参入モード）について体系的に理解する
	この回の到達目標	①，②，③の関連において，企業が海外市場へ参入する手順について説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）		海外市場参入戦略における標的国市場を分析する
	この回の到達目標	①，②，③，⑤，⑥，⑦，⑧の関連において，グループのメンバーと協力して，ケース事業の海外市場参入について分析し，報告する	
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
5	海外市場参入戦略③		企業が海外市場へ参入する動機、手順、方法（参入モード）について体系的に理解する
	この回の到達目標	①，②，③の関連において，企業が海外市場へ参入する方法について説明できる。	
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
6	海外市場参入戦略④		企業が海外市場へ参入する動機、手順、方法（参入モード）について体系的に理解する
	この回の到達目標	①，②，③の関連において，企業が海外市場へ参入する方法について説明できる。	
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	アクティブ・ラーニング②（グループ演習2）		海外市場参入戦略における参入モードを分析する	
	この回の到達目標	①，②，③，⑤，⑥，⑦，⑧の関連において，グループのメンバーと協力して、ケース事業の海外市場参入について分析し，適切な参入モードを提案する		
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集		120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備		120分
8	標準化と適応化戦略①		現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において，現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について説明できる		
	事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備。レポート準備		120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備。レポート準備		120分
9	標準化と適応化戦略②		現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において，現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について説明できる		
	事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備。レポート準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備		120分
10	標準化と適応化戦略③		現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において，現地市場における国際マーケティング計画の方法と実際について説明できる		
	事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備。（レポート提出日）		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習。		120分
11	アクティブ・ラーニング③（グループ演習3）		実在の製品に関して標準化と適応化戦略を立案する	
	この回の到達目標	④，⑤，⑥，⑦，⑧の関連において，グループのメンバーと協力して、実在の製品の標準化と適応化について分析し，適切な戦略を提案する		
	事前学修	教科書を予習。レポート準備。		180分
	事後学修	講義ノートの整理と復習。		60分
12	ケーススタディ		成功ケースないしは失敗ケースを取り上げ，その原因を分析する。	
	この回の到達目標	⑤，⑥，⑦の関連において，国際マーケティングの成功ケースないしは失敗ケースの原因を分析し，説明できる。		
	事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブ・ラーニング④（個人演習1）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑧すべての到達目標において、国際マーケティング計画を立案し、提案できる。	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備。	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備。	120分
14	アクティブ・ラーニング④（個人演習2）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論	
	この回の到達目標	①～⑧すべての到達目標において、国際マーケティング計画を立案し、提案できる。	
	事前学修	講義ノートの準備。リアクションペーパーの準備。	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備。	120分
15	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
	この回の到達目標	①～⑧すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する 自身の理解度に関する振り返り	
	事前学修	自身の理解度に関する振り返り	240分
	事後学修	振り返り	60分

科目名	マーケティング戦略論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○		○	○	

【授業の概要】
戦略経営論の基礎と戦略的国際マーケティング論について理解を深め，優れた国際マーケティング組織の能力を分析する知識について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は，急変を繰り返す環境要因を所与としながらも，「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では，教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより，受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて，企業による国際マーケティング活動の内容を説明できる能力，国際マーケティング計画（戦略）を立案する能力の修得を目指す。

【履修条件】
原則として「マーケティング論ⅠとⅡ」並びに「国際マーケティング論Ⅰ（マーケティング戦略論Ⅰ）」の単位取得を条件とする。単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にくること。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために，本授業は，講義と教科書，そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから，毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	3名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	戦略の発生原理について説明できる					2	2	2				
②	競争市場の構造について説明できる					2	2	2				
③	ポジショニング・アプローチについて説明できる					2	2	2				
④	資源ベース・ビューについて説明できる					2	2	2				
⑤	マーケティング・ケイパビリティについて説明できる					3	3	3				
⑥	国際マーケティング・ケイパビリティについて説明できる					3	3	3				
⑦	理論やフレームワークに基づき、戦略的マーケティング計画を立案できる					3	3	3		3	3	
⑧	他者へ戦略的国際マーケティング計画を説明できる						3			3	3	
⑨	他者の戦略的国際マーケティング計画を批判的に検討できる						3	3		3	3	
⑩	優れた戦略的国際マーケティングを立案し、他者へ説明できる					4	4	4		4	4	

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施する。講義内で学習した内容の理解度を筆記試験を用いて測定する。	5	5	5	5	5	5	10	5	5	10	60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義などが含まれる。							10	10	10	10	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	5	5	20	15	15	20	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
国際マーケティング・ケイパビリティ	諸上茂登著	同文館出版	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜11：00～12：00 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	本講義の目的と課題	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	マーケティング戦略とは何か	そもそも企業はなぜ戦略を必要とするのだろうか。マーケティングと戦略の異同と関係性について理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、マーケティングと戦略の異同と関係性について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。現実の戦略問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	ポジショニング・アプローチ①	外部環境と企業の戦略の関係について理解する	
	この回の到達目標	②と③の関連において、外部環境と企業の戦略の関係について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。現実の戦略問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習。グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
4	ポジショニング・アプローチ②	外部環境と企業の戦略の関係について理解する	
	この回の到達目標	②，③の関連において，航空業界の魅力度について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習。グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
5	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	航空業界の市場構造分析を行う	
	この回の到達目標	②，③，⑦，⑧，⑨の関連において，グループのメンバーと協力して、航空業界の魅力度について分析し，報告する	
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
6	資源ベース・ビュー①	企業が内部に保有する経営資源と戦略の関係性を理解する	
	この回の到達目標	④の関連において，企業が内部に保有する経営資源と戦略の関係性を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	資源ベース・ビュー②		企業が内部に保有する経営資源と戦略の関係性を理解する	
	この回の到達目標	④の関連において、企業が内部に保有する経営資源と戦略の関係性を説明できる		
	事前学修	講義ノートの準備。		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		120分
8	アクティブ・ラーニング②（グループ演習2）		資源ベース・ビューに基づき事業戦略を立案する	
	この回の到達目標	②，④，⑦，⑧，⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、戦略を立案し、報告する		
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集		120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備		120分
9	マーケティング・ケイパビリティ①		優れたマーケティング計画立案し、実行する組織能力であるマーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について理解する	
	この回の到達目標	⑤の関連において、マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について説明できる		
	事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		120分
10	マーケティング・ケイパビリティ②		優れたマーケティング計画立案し、実行する組織能力であるマーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について理解する	
	この回の到達目標	⑤の関連において、マーケティング・ケイパビリティの概念とフレームワーク、実践について説明できる		
	事前学修	教科書を予習。講義ノートの準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		120分
11	アクティブ・ラーニング③（グループ演習③）		教科書のケーススタディを用いてマーケティング・ケイパビリティの内容を分析する	
	この回の到達目標	⑤，⑦，⑧，⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたプロモーションを立案する		
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集		120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備		120分
12	国際マーケティング・ケイパビリティ①		国際マーケティング・ケイパビリティ概念について理解する	
	この回の到達目標	⑥の関連において、国際マーケティング・ケイパビリティの内容とその期待される成果を説明できる。		
	事前学修	講義ノートの準備		120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	国際マーケティング・ケイパビリティ②	国際マーケティング・ケイパビリティの活用方法について理解する	
	この回の到達目標	⑥の関連において、国際マーケティング・ケイパビリティの活用方法について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
14	授業内試験	授業内試験を通じて理解度を測定する	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標を授業内試験を通じて確認する	
	事前学修	試験の準備	120分
	事後学修	振り返り	120分
15	フィードバック	フィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標を授業内試験を通じて確認する	
	事前学修	復習	240分
	事後学修	振り返り	60分

科目名	マーケティング論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング活動の内容につき体系的に講じる。とくにSTPと4Pを用いたマーケティング計画の具体的手順と実践につき理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを通じて、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。2年次以降に履修が可能となる「国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」の履修には本単位の取得が条件となるため、本単位を1年次で履修することを推奨する。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	市場の形成の歴史的経緯について説明できる				2	2	1				
②	マーケティングの発生原理について説明できる				2	2	1				
③	製品・サービス戦略について説明できる				2	2	1				
④	価格デザインについて説明できる				2	2	1				
⑤	マーケティング・チャネル戦略について説明できる				2	2	1				
⑥	プロモーション戦略について説明ができる				2	2	1				
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる						2				
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる						2				
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる						2				
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる				2	2					

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施する。講義内で学習した内容の理解度を筆記試験を用いて測定する。	5	5	5	5	5	5	15	5	5	5	60
小テスト等	特に予定していない。											
レポート等												
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを4回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義などが含まれる。							10	10	10	10	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	5	5	25	15	15	15	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・余田著	日本経済新聞社	2013	参考書	任意
備考	本書は参考書であり，講義内で毎回の使用はしない。				

【オフィスアワー】
水曜11：00～12：00 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	マーケティングを大学で学ぶことの意義と本講義の目標	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる	
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する	120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する	120分
2	マーケティングの発生、定義、原理	なぜそもそも企業においてマーケティング活動が必要なのだろうか。市場の形成とマーケティングの発生原理について理解する	
	この回の到達目標	①と②の関連において、市場の形成とマーケティングの発生原理について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	マーケティング・マネジメント	企業内部におけるマーケティング活動の基本である4Pについて、その概要を理解する	
	この回の到達目標	②と⑧の関連において、マーケティング・マネジメントの必要性と内容について説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	コンセプトと製品・サービス(Product)	製品とサービスの開発手順に関して理解する。また顧客に提供する価値の中心を表現する「コンセプト」について理解する	
	この回の到達目標	③の関連において、とサービスの開発手順と「コンセプト」を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。自身の考えるヒット製品、サービスについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	実在する製品・サービスのコンセプトを立案する	
	この回の到達目標	③，⑦，⑧，⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたコンセプトを立案する	
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
6	価格のデザイン(Price)	価格のデザインの論理と手順について理解する	
	この回の到達目標	④の関連において、価格デザインの論理と手順を説明できる	
	事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	マーケティング・チャネル(Place)	チャネル開発と管理の論理と実際について理解する。	
	この回の到達目標	⑤の関連において、価格デザインの論理と手順を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。コンビニの棚割りを確認しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
8	プロモーション(Promotion)①	プロモーション（広告等を使った販売促進方法）の論理と手順について理解する。とくにデジタル・マーケティングについて解説する	
	この回の到達目標	⑥の関連において、プロモーションの論理と手順を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。優れたプロモーションの事例を確認しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
9	プロモーション(Promotion)②	プロモーション（広告等を使った販売促進方法）の論理と手順について理解する。とくにデジタル・マーケティングについて解説する	
	この回の到達目標	⑥の関連において、プロモーションの論理と手順を説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備。優れたプロモーションの事例を確認しておく	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
10	消費者行動の理解①	消費者行動のメカニズムにつき、既存の複数のフレームワークを理解する	
	この回の到達目標	⑦と⑩に関連し、消費者行動のメカニズムを説明できる	
	事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
11	消費者行動の理解②	消費者行動のメカニズムにつき、既存の複数のフレームワークを理解する。	
	この回の到達目標	⑦と⑩に関連し、消費者行動のメカニズムを説明できる	
	事前学修	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
12	アクティブ・ラーニング②（グループ演習②）	消費者行動に基づきプロモーションを立案する	
	この回の到達目標	⑥，⑦，⑧，⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたプロモーションを立案する	
	事前学修	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備（2.0時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブ・ラーニング③（ケーススタディ演習）	ケーススタディ：実在の企業ケースを用いた演習を行う。	
	この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる	
	事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	アクティブ・ラーニング④（ゲスト講義）	ケーススタディ：ゲストスピーカーによる講義（予定）	
	この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる	
	事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	授業内試験とフィードバック	授業内試験を実施し、フィードバックを通じて自身の理解度を確認する	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標を授業内試験を通じて確認する	
	事前学修	試験の準備	240分
	事後学修	振り返り	60分

科目名	マーケティング論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング行動、流通のしくみなどにつき体系的に講じる。とくにブランド論と小売業の業態と戦略について講じる。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成し、市場の形成、企業によるマーケティング活動の内容を説明できる能力の修得を目指す。

【履修条件】
特になし。2年次以降に履修が可能となる「マーケティング戦略論」の履修には本単位の取得が条件となるため、本単位を1年次で履修することを推奨する。

【授業方法】
教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。学修効果を高めるために、本授業は、講義と教科書、そしてアクティブ・ラーニングが一体となって構成されていることから、毎回の出席が必要となる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	4～5名程度のメンバーで構成するグループでディスカッションを行う。また各自が独自に考案するマーケティング計画をレポートとしてまとめ、優秀者はプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションでは受講者全員が質疑応答に参加する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	セグメント，ターゲティング，ポジショニング（STP）について説明できる				2	2	1					
②	STPと4Pの関係について説明できる				2	2	1					
③	市場調査の方法について説明できる				2	2	1					
④	ブランドについて説明できる				2	2	1					
⑤	流通のしくみについて説明できる				2	2	1					
⑥	多様な小売業態の特徴について説明ができる				2	2	1					
⑦	理論やフレームワークに基づき、マーケティング計画を立案できる						2					
⑧	他者へマーケティング計画を説明できる						2					
⑨	他者のマーケティング計画を批判的に検討できる						2					
⑩	成功した企業のマーケティング実践について説明できる				2	2						

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	約5,000文字のレポート課題（個人演習）がある。自身でマーケティング計画を立案する演習である。レポートの課題の内容の詳細については講義内で提示する。	5	5	5	5	5	5	15	5	5	5	60
討論・発表等	アクティブ・ラーニングを5回程度実施する。アクティブ・ラーニングでは参画・貢献・そしてアウトプット（提案書）の内容を評価する。アクティブ・ラーニングにはグループ演習（グループ・ディスカッション），ケーススタディ，ゲスト講義，個人演習（プレゼンでの討論への参画）などが含まれる。	5	5	5	5	5	5		5		5	40
授業への参画度												
その他()	リアクションペーパーを不定期に実施し、教員が講義の内容の理解度を把握し、形成的評価（講義内で、学修の到達度に関する途中経過を伝える）に役立てる。											
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	15	10	5	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験実施時に併せてフィードバックも行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・余田著	日本経済新聞社	2013	参考書	推奨
備考	本書は参考書であり，講義内で毎回の使用はしない。				

【オフィスアワー】
水曜11：00～12：00 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 起業，マーケティング・リサーチ，マーケティング・コンサルティングなど
実務経験に基づく実践的教育の内容		理論やフレームワークに基づき講義は展開するが、すべては優れた戦略構想とその実現力の育成を目的としている

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	マーケティングを大学で学ぶことの意義と本講義の目標	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）	
	この回の到達目標	受講生自身が本講義における個人目標を設定できる。	
	事前学修	シラバスの熟読ならびに自身の目標を予め設定しておく。自身の目標については、初回の講義内で受講生へランダムに質問する。	120分
	事後学修	ガイダンス資料に基づき、年間の学修スケジュールと目標を再度理解する。	120分
2	STP①	セグメント、ターゲティング、ポジショニング（STP）について説明できる。	
	この回の到達目標	①と②の関連において、STPについて説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
3	STP②	企業内部におけるマーケティング活動の基本である4PとSTPの関係ならびに市場調査の方法について理解する。	
	この回の到達目標	①、②、③の関連において、STPと4Pの関係ならびに市場調査の方法について説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
4	アクティブ・ラーニング①（グループ演習1）	STPを立案する。	
	この回の到達目標	①、②、⑦、⑧、⑨の関連において、グループのメンバーと協力して、時間内に優れたSTPを立案する。	
	事前学修	講義ノートの準備。有名な製品・サービスのSTPについて新聞記事等を読んで理解しておく	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
5	ブランド・マネジメント①	ブランドの機能と管理方法のついて理解する。	
	この回の到達目標	④の関連において、ブランドの機能と管理方法のついて説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集。レポート準備	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備。レポート準備	120分
6	ブランド・マネジメント②	ブランドの機能と管理方法のついて理解する。	
	この回の到達目標	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集	
	事前学修	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集。レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集。レポート準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	アクティブ・ラーニング②（グループ演習2）	実在のブランドに関してその強みを分析する。	
	この回の到達目標	④，⑦，⑧，⑨の関連において，グループのメンバーと協力して、時間内に当該ブランドを分析する。	
	事前学修	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集。レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
8	流通のしくみ①	社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について理解する。	
	この回の到達目標	⑤の関連において，社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備。レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
9	流通のしくみ②	社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について理解する。	
	この回の到達目標	⑤の関連において，社会的なしくみとしての物的流通の役割と歴史的な発展について説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備。レポート準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習。レポート準備	120分
10	小売業態の発展と競争①	様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき理解する。	
	この回の到達目標	⑥ に関連し、様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備。レポート準備（レポート提出日）	180分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	60分
11	小売業態の発展と競争②	様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき理解する。	
	この回の到達目標	⑥ に関連し、様々な小売業態の特徴とその歴史的な発展につき説明できる。	
	事前学修	講義ノートの準備	120分
	事後学修	講義ノートの整理と復習	120分
12	アクティブ・ラーニング③（ゲスト講義）	ケーススタディ：ゲストスピーカーによる講義（予定）。	
	この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，グループのメンバーと協力して、時間内に優れたプロモーションを立案する。	
	事前学修	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング企業の取り組みを説明できる。	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アクティブ・ラーニング④（個人演習）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論。	
	この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング計画を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
14	アクティブ・ラーニング⑤（個人演習）	レポート優秀者によるプレゼンテーション並びに全体での討論。	
	この回の到達目標	⑦，⑧，⑨，⑩の関連において，優れたマーケティング計画を理解し説明できる。	
	事前学修	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認	120分
	事後学修	リアクションペーパーの準備	120分
15	フィードバックと総括	個人演習（レポート）に関する個別のフィードバックを通じて自身の理解度を確認する。	
	この回の到達目標	①～⑩すべての到達目標をフィードバックを通じて確認する。	
	事前学修	自身の理解度に関する振り返り	120分
	事後学修	振り返り	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）によりリアクションペーパー（小テスト）を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2					
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2					
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2					
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アセモグル / レイブソン / リスト マクロ経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2019年	教科書	必携
アセモグル/レイブソン/リスト 入門経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2020年	参考書	任意
備考	教科書および参考書については、初回授業で詳しく説明する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週月曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】 マクロ経済学の対象と方法と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるミクロ経済学との違いを示しながら、マクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	【国の富】	マクロ経済の範囲、GDP算出のフレームワークについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、GDP算出のアプローチ（生産＝支出＝所得）説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1、2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の復習問題1～8について説明をまとめること。	120分
3	【生計費の計算】	消費者物価指数の計測、インフレ率、生産者物価指数、実質値と名目値の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物価指数、インフレ率の算出方法を説明できる。	
	事前学修	教科書第5章3、4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の復習問題9～17について説明をまとめること。	120分
4	【総所得】	生産性と経済成長の関係について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、豊かな国と貧しい国がなぜ生じるのか説明できる。	
	事前学修	教科書第6章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の復習問題について説明をまとめること。	120分
5	【経済成長の要因】	成長性を高めるための政府の政策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済成長を規定する要因について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の復習問題について説明をまとめること。	120分
6	【豊かな国と貧しい国】	なぜ貧しい国はそのまま、豊かな国は豊かになれたのかについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地理的要因と制度的要因の意味について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第8章の復習問題について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【雇用と失業の測定】	失業率と労働市場均衡について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、失業率と労働市場の性質について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章1． 2． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第9章の復習問題1～7について説明をまとめること。	120分
8	【失業の性質】	失業が生じる理由と失業の種類について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、失業の性質について説明でき、雇用政策について議論できる。	
	事前学修	教科書第9章3． 4． 5． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第9章の復習問題8～12について説明をまとめること。	120分
9	【クレジット市場】	クレジット市場について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、クレジット市場の均衡、実質金利と名目金利について説明できる。	
	事前学修	教科書第10章1． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の復習問題1～4について説明をまとめること。	120分
10	【銀行と金融仲介機関】	マクロ経済における銀行と金融仲介の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、信用創造と金融仲介機関の役割について説明できる。	
	事前学修	教科書第10章2． 3． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の復習問題5～9について説明をまとめること。	120分
11	【貨幣】	マクロ経済における貨幣の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貨幣数量説について説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1． 2． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第11章の復習問題1～4について説明をまとめること。	120分
12	【インフレーションと中央銀行】	中央銀行の役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中央銀行と政策金利について説明でき、金融政策の基礎について議論できる。	
	事前学修	教科書第11章3． 4． の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の復習問題5～13について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【開放経済の基礎】	財の国際フローについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貿易の基本的な理論について説明できる。	
	事前学修	教科書第14章の1．部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第14章の復習問題1～3について説明をまとめること。	120分
14	【経常収支と金融収支】	金融の国際フローについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経常収支と金融収支について説明でき、貿易政策について議論できる。	
	事前学修	教科書第14章の2．3．部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第14章の復習問題4～12について説明をまとめること。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、マクロ経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
	事後学修	期末試験に向けて準備をする。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次回の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2				
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷 巖	日本評論社	2007年		推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】マクロ経済学の対象と方法と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目であるミクロ経済学との違いを示しながら、マクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	90分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	150分
2	GDPと物価指数(1)： GDPとGNP、付加価値、名目と実質、フローとストックについて	マクロ経済学におけるもっとも重要な経済指標である国内総生産（GDP）の計算方法について説明する。また、統計を理解するうえで重要である名目と実質、フローとストックという概念について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国内総生産を含む国民経済計算の仕組みを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「GDP」と「付加価値」の概念を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、GDPの概念およびGDPとGNPの違いについてまとめること。	120分
3	GDPと物価指数(2)： GDPの計算における消費と投資の違いについて	国内総生産の計算過程における民間「消費」と民間「投資」の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関連して、国内総生産の計算過程における民間「消費」と民間「投資」の違いについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPを計算する上で「消費」「投資」という概念がどのように異なるかを理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、内閣府のホームページにある統計データを実際に確認してみる。	120分
4	GDPと物価指数(3)： 三面等価（生産・分配・支出）の原則の理解	国内総生産を生産面・分配面・支出面から確認し、これらが等価になる原則（三面等価の原則）について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、三面等価の原則について理解し、説明ができる。	
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPを考える上で「生産」「分配」「支出」といった異なる側面があることを理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、「生産」「分配」「支出」面から確認するGDPの値が一致することをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
5	GDPと物価指数(4)： 三面等価の原則と現実の世界について（統計としてのGDPと現実世界の乖離）	三面等価の原則について再度説明し、現実の世界との違いについて説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、三面等価の原則と現実世界がどのように乖離しているかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような場合にマクロ経済学におけるGDPの分析枠組みが有用かを理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、GDPに含まれていないが重要な要素をまとめる。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
6	GDPと物価指数(5)： 物価水準の指標とGDPデフレーターとの計算	経済指標を比較する場合に大きく影響する「物価水準」を意味する指標として、GDPデフレーター及び消費者物価指数に関する説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、GDPデフレーター及び消費者物価指数の計算方法及び解釈を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPデフレーターと消費者物価指数の計算式および計算式に含まれる各要素の意味を理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、物価水準に関する各指標の特徴をまとめること。また、練習問題の内容及び計算方法を再度確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	所得の決定メカニズム(1)： 財市場における数量調整と価格調整の違いについて	短期モデルと長期モデルの違いを説明したうえで、供給者の販売戦略として「数量調整」及び「価格調整」について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、マクロ経済学における短期と長期の概念及び数量調整と価格調整について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような時にモノを販売する財市場において「価格」又「数量」が調整されるのかを理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、総需要曲線と総供給曲線の概念をまとめること。また、練習問題の内容を再度確認し、ミクロ経済学との考えの違いについてまとめること。	120分
8	所得の決定メカニズム(2)： 消費関数と投資関数について（人々の消費行動又は投資行動は何によって決定されているのか）	人々の行動を表す「消費関数」及び「投資関数」について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学における家計の消費行動及び企業の投資行動について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、関数の考え方と、「消費」及び「投資」を決定する要素について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、「限界概念」「消費性向」「投資の効率」について正確に理解できるよう自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
9	所得の決定メカニズム(3)： 45度線モデルと所得の決定	国民所得の水準を決定するメカニズムを三面等価の原則及び45度線モデルによって説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、45度線モデル及び三面等価の原則について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、総需要曲線が上にシフトする要因と45度線が意味するものについて理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、45度線モデルによってどのように所得が決定されるかを自分で作図することで確認することで。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
10	所得の決定メカニズム(4)： 乗数波及効果とデフレギャップ、インフレギャップについて	政府の公共投資の効率性を乗数効果によって説明する。また、デフレギャップ及びインフレギャップについても説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、政府支出乗数及び乗数波及効果について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、政府「乗数効果」の概念及び計算方法について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、政府支出乗数の計算方法及びその意味についてまとめること。また、練習問題の内容を再度確認し、再度計算問題を解くこと。	120分
11	貨幣の需給バランスと利子率(1)：ストック（貨幣）市場におけるワルラスの法則について	貨幣市場における需要と供給のバランスについて、ワルラスの法則を用いて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣市場における需給バランスとワルラスの法則について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、貨幣市場の定義およびそこで取引される「貨幣以外」の資産について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、ワルラスの法則を示している数式(3)について、自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
12	貨幣の需給バランスと利子率(2)：貨幣の3つの機能と割引現在価値	貨幣が有する3つの機能と割引現在価値の概念について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、貨幣の3つの機能及び割引現在価値について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、貨幣の機能及び貨幣に対する需要の種類について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、割引現在価値の概念とその計算方法について、自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	貨幣の需給バランスと利子率(3)： 債券価格と利子率の関係	利子率の変動と債券価格及び流動性選好の関係について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、利子率の変動が債券価格及び貨幣需要に与える影響を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、債券価格の決定要因としての利子率の役割について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、利子率が上昇（低下）した場合の債券価格の動きをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
14	貨幣の需給バランスと利子率(4)： 貨幣の供給と政策について	貨幣市場の需給バランスと中央銀行による金融政策の関係について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央銀行の金融政策及びその意義について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、日本銀行の役割と金融政策について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、金融政策とその効果についてまとめること。現在の日本において、そのような金融政策が必要であるかを考えること。	120分
15	マクロ経済学Iのまとめ及び試験内容の確認	マクロ経済学Ⅰの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。	
	事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	120分
	事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	日隈 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド型で行う。 質問等のフィードバックは、Google Classroomで行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2					
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2					
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。					2	2					
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。					2	2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題により、到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	30	30	20	10							90
討論・発表等												
授業への参画度	質問や意見などをどれだけ述べることをできたかを基準に、到達目標①にかかわる積極的な学修態度を評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは、Google Classroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷巖	日本評論社	2007	教科書	必携
基本経済学	大淵三洋ほか	八千代出版	2018	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
質問、要望などがあれば、Google Classroomに投稿していただきたい。higuma.shinobu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		他学部にて、マクロ経済分析の授業、兼任校にて、社会学概論のスクーリング、本務校にて、経営学総論、経営管理基礎・応用理論の授業を担当している。 ミクロ経済学だけでなく、資本主義システムと関連して、社会学や経営学など、社会科学の周辺領域のなかで、マクロ経済学の位置づけを意識できるように工夫している。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会科学のなかでのマクロ経済学とは	この授業のガイダンス（受講方法、授業方針などの解説）を行った後、マクロ経済学の概要、ミクロ経済学との関係、周辺領域との関係について解説する。履修希望者は、必ず出席すること。	
	この回の到達目標	社会科学全体のなかで、マクロ経済学の位置づけについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第1回に行った解説の内容（マクロ経済学の概要、ミクロ経済学との関係、周辺領域との関係を復習しておくこと。（2時間）	120分
2	世界経済のなかでの日本経済	世界経済との関連で、日本経済の動向と今後の展望について解説する。	
	この回の到達目標	世界経済との関連で、日本経済の動向について理解することができる。	
	事前学修	第2回に行われる第1章を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第2回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
3	国民所得統計とGDP	フローとストック、名目と実質、静学と動学など、マクロ経済学を学習するためのいくつかの概念を解説したうえで、国民所得統計としてのGDPの概念について解説する。	
	この回の到達目標	国民所得統計とGDPの概念について理解することができる。	
	事前学修	第3回に行われる第2章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第3回になった解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
4	マクロ経済の循環	三面等価の原則、ISバランスおよび物価水準について解説したうえで、簡単な数値例を基に、物価水準に関する簡単な計算問題を行う。	
	この回の到達目標	マクロ経済の循環について理解することができる。	
	事前学修	第4回に行われる第2章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第4回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
5	短期とは	マクロ経済学の枠組みとして、日常生活における「歴史的時間」とマクロ経済学における「抽象的時間」の違いを解説したうえで、「短期」と「長期」の違い、「総供給曲線」と「総需要曲線」の関係について解説する。	
	この回の到達目標	マクロ経済学の短期モデルの概要について理解することができる。	
	事前学修	第5回に行われる第3章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第5回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
6	長期とは	マクロ経済学の枠組みとして、「短期」における総供給曲線と「長期」における総供給曲線の違いから、「有効需要の原理」と「セイの法則」について解説する。その後、「短期」と「長期」のそれぞれにおける物価水準と産出量の決定過程について解説する。	
	この回の到達目標	マクロ経済学の長期モデルの概要について理解することができる。	
	事前学修	第6回に行われる第3章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第6回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	財市場の分析（消費と投資）	財市場の分析として、消費や投資といった総需要を構成する経済変数に関連して、消費関数、投資の限界効率、投資関数から、国民所得決定の過程について解説する。	
	この回の到達目標	国民所得決定の仕組みについて理解できる。	
	事前学修	第7回に行われる第4章前半を整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第7回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
8	財市場の分析（財政政策と金融政策）	財市場の分析として、財市場の均衡式から、財政政策の有効性と乗数について解説する。その後、簡単な数値例を基に、均衡国民所得や乗数に関連する計算問題を行う。	
	この回の到達目標	財政政策の効果と乗数について理解できる。	
	事前学修	第8回に行われる第4章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第8回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
9	資産市場の分析（貨幣需要）	資産市場の分析として、資産の特性とワルラスの法則について解説したうえで、貨幣の機能、債券価格と利子率の関係から、貨幣の保有動機（貨幣の需要）について解説する。	
	この回の到達目標	貨幣保有動機と貨幣需要について理解できる。	
	事前学修	第9回に行われる第5章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第9回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
10	資産市場の分析（貨幣供給）	資産市場の分析として、貨幣の種類と乗数について解説したうえで、貨幣の供給について解説する。その後、貨幣市場の均衡と利子率の決定や金融政策の有効性について解説する。	
	この回の到達目標	貨幣供給と金融政策について理解できる。	
	事前学修	第10回に行われる第5章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第10回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
11	IS-LM分析（IS曲線とLM曲線の導出）	財市場のモデルからIS曲線、貨幣市場のモデルからLM曲線を導出し、IS-LMモデルの基本的な枠組みについて解説する。	
	この回の到達目標	IS曲線とLM曲線とIS-LMモデルの基本的な枠組みについて理解できる。	
	事前学修	第11回に行われる第6章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第11回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
12	IS-LM分析（財政政策と金融政策）	IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性について解説する。	
	この回の到達目標	財政政策、金融政策および物価水準の下落によるIS曲線やLM曲線がシフトする仕組みを理解できる。	
	事前学修	第12回に行われる第6章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第12回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	IS-LM分析（財政政策と金融政策の効果を妨げる現象）	財政政策と金融政策の効果を妨げる現象（クラウディング・アウト効果、流動性のわな、投資の利子非弾力性）について解説する。簡単な数値例を基に、IS曲線、LM曲線、IS-LMモデルに関連する簡単な計算問題を行う。	
	この回の到達目標	財政政策と金融政策の効果を妨げる現象（クラウディング・アウト効果、流動性のわな、投資の利子非弾力性）について理解できる。	
	事前学修	第13回に行われる第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第13回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
14	短期モデル（財市場、貨幣市場およびIS-LMモデル）の総復習	マクロ経済学Ⅱ（国際マクロ経済学および長期モデル）に繋げる（対応させる）ために、財市場の分析、貨幣市場の分析およびIS-LM分析など、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の総復習を行う。	
	この回の到達目標	財市場、貨幣市場およびIS-LMモデルの仕組みから、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の全体像を理解できる。	
	事前学修	第14回に行われる第4章から第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第14回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
15	マクロ経済学Ⅱ（長期モデル）へ向けて	授業内試験および前期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	IS-LMモデルの仕組みを理解することによって、国際マクロ経済学および長期モデルを単元とするマクロ経済学Ⅱへと繋げることができる。	
	事前学修	これまでの単元を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）、特に、IS-LMモデルの基本的な枠組みを十分復習し、マクロ経済学Ⅱ（国際マクロ経済学および長期モデル）の受講準備をしておくこと。（2時間）	120分

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	武縄 卓雄	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
数学の予備知識は必要としないが、割り算の意味を理解していないと単位修得は難しい。また、経済学もしくは経済学Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい。

【授業方法】
オンライン形式。毎週出される「課題」を提出してもらいます。提出された課題は、原則として提出時の翌週以内に、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	マクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	マクロ経済学の各指標の算出過程を説明することができる。						2	2				
④	個々のマクロ経済指標に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、毎回準備される「課題」により評価する。	80										80
レポート等	提出されたレポートが、書式などの要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかどうかを基準に、到達目標②、③および④にかかわる説明ができているかを評価する。		6	7	7							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	6	7	7							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出時から1週間以内に添削・返却します。さらに、翌週の講義時に解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
マクロ経済学 第4版	吉川洋	岩波書店	2017/3/3	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
takenawa1953@yahoo. co. jp宛てに、メールで問い合わせてください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第1章 マクロ経済学の諸概念	(目次xi～P. 3) ストックとフロー、財市場、貨幣市場、労働市場	
	この回の到達目標	経済活動の測度対象としてのストック概念とフロー概念を理解する。 マクロ経済学の分析対象となる財市場におけるGDPを理解する。	
	事前学修	テキストとノートを準備する。事前にシラバスを確認しておく。	105分
	事後学修	準備されている「課題1」を提出する。	135分
2	第1章 マクロ経済学の諸概念	(P. 3～P. 22) GDPとその統計原則、名目GDPと実質GDP	
	この回の到達目標	フロー概念の代表的経済指標であるGDPの定義と、統計上の測定法を理解する。実際の経済活動値が名目値、推測値が実質であることを理解し、名目値GDPと実質GDPとの関連を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題2」を提出する。	135分
3	第1章 マクロ経済学の諸概念	(P. 22～P. 33) GDP統計の限界、貯蓄・投資バランス	
	この回の到達目標	GDP統計値が豊かさの尺度としては役割不足であることを理解する。 マクロ経済モデルの財市場における均衡条件式、財の総供給（貯蓄）＝財の総需要（投資）の導出法を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題3」を提出する。	135分
4	まとめ (1)	(P. 1～P. 33) 第1章のまとめ	
	この回の到達目標	GDP統計値の定義・特徴を理解する。 マクロ経済モデルの財市場における均衡条件式（財の総供給＝財の総需要）の導出法を理解する。	
	事前学修	第1回～第3回のノートを再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題4」を提出する。	135分
5	第2章 GDPの決定	(P. 35～P. 47) 有効需要の原理、消費関数、平均消費性向、限界消費性向	
	この回の到達目標	有効需要の原理およびケインズの消費関数を理解する。	
	事前学修	返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題5」を提出する。	135分
6	第2章 GDPの決定	(47～P. 55) 財市場におけるマクロの需給均衡とGDPの決定、	
	この回の到達目標	投資関数概論および財市場の需給を均衡させる所得（GDP）の決定法を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題6」を提出する。	135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ		内 容	
7	第2章 GDPの決定		(P. 93～P. 99) ケインズの投資関数、資本の限界効率、投資曲線	
	この回の到達目標	ケインズの投資関数を理解する。		
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。		105分
	事後学修	準備されている「課題7」を提出する。		135分
8	第2章 GDPの決定		(P. 54～P. 57) 投資乗数、インフレギャップとデフレギャップ、完全雇用 企業・家計・政府の三部門による財市場の均衡条件式	
	この回の到達目標	需要サイドの投資増加により、それ以上の供給側の所得（GDP）が増加する仕組みを理解する。 企業・家計のに部門モデルに政府を加えた均衡条件式を理解する。		
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。		105分
	事後学修	準備されている「課題8」を提出する。		135分
9	第2章 GDPの決定		(P. 57～P. 60) 財政乗数と租税乗数	
	この回の到達目標	需要サイドの政府支出増加、もしくは減税により、それ以上の供給側の所得（GDP）が増加する仕組みを理解する。		
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。		105分
	事後学修	準備されている「課題9」を提出する。		135分
10	第3章 資産市場		(P. 65～P. 70) 資産の特性と貨幣、貨幣の取引需要と資産需要、貨幣の取引需要関数、貨幣需要曲線	
	この回の到達目標	資産を債券と貨幣に二分されると仮定して、貨幣が取引需要と資産需要で構成されることを理解する。		
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。		105分
	事後学修	準備されている「課題10」を提出する。		135分
11	第3章 資産市場		(P. 80～P. 89) 貨幣の供給源、貨幣の供給メカニズム(貨幣供給関数)、貨幣	
	この回の到達目標	貨幣の供給メカニズムを理解する。		
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。		105分
	事後学修	準備されている「課題11」を提出する。		135分
12	第3章 資産市場		貨幣供給曲線、利子率の決定 (P. 78～P. 80)	
	この回の到達目標	利子率の決定および、金融政策と利子率の関係を理解する。		
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。		105分
	事後学修	準備されている「課題12」を提出する。		135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第4章 財市場と貨幣市場	財政政策、金融政策、ポリシー・ミックス	
	この回の到達目標	貨幣市場を均衡させる利率と、財市場を均衡させる所得が、どのように関連して決定されるかを理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題13」を提出する。	135分
14	第4章 財市場と貨幣市場	マクロ経済学の計算問題	
	この回の到達目標	計算問題を解くことを通じて、これまでの講義内容を、別の角度から理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題14」を提出する。	135分
15	まとめ (2)	第2章から第4章までのまとめ (P. 35～P. 99)	
	この回の到達目標	第2章以降の講義を整理すること通じて、ケインズの景気拡大政策の概略を理解すると共に、各自が今の状況を打破する経済政策を説明できる力を修得する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題15」を提出する。	135分

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
マクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（履修は必須ではないが、マクロ経済学Ⅰの内容は理解している前提で講義を進める。）

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、リアクション・ペーパー（小テスト）を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	マクロ経済政策の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	I S-LM分析をはじめとする各モデルの算出過程を説明することができる。						2	2				
④	個々のマクロ経済政策に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アセモグル / レイブソン / リスト マクロ経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2019	教科書	必携
アセモグル / レイブソン / リスト 入門経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2020	参考書	任意
備考	教科書および参考書については、初回授業で詳しく説明する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】 マクロ経済政策とは何か。	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、マクロ経済学Ⅰでの内容の復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	教科書のマクロ経済学Ⅰの部分を復習しておくこと	120分
	事後学修	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する	120分
2	【景気変動と景気循環】	景気変動の特徴について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、景気変動と景気循環を説明できる。	
	事前学修	教科書第12章 1. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書第12章の復習問題 1 ～ 4 について説明をまとめること。	120分
3	【マクロ経済均衡】	経済ショックの与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、経済ショックによる均衡の移動を説明できる。	
	事前学修	教科書第12章 2. 3. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書第12章の復習問題 5 ～ 12 について説明をまとめること。	120分
4	【IS曲線の導出】	IS曲線の導出方法及び性質について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財市場均衡を用いてを説明できる。	
	事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
5	【LM曲線の導出】	LM曲線の導出方法及び性質について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、金融市場均衡を説明できる。	
	事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
6	【IS-LM分析】	IS-LM分析の基礎、その拡張（動学的効果、名目利子率と実質利子率）について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済政策の効果について I S - L M 分析を用いてを説明できる。	
	事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【為替レート】	名目為替レートと変動為替相場制について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、名目為替レートと変動為替相場制について説明できる。	
	事前学修	教科書第15章 1. 2. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書第15章の復習問題 1～8 について説明をまとめること	120分
8	【開放経済における為替の影響】	マンデル・フレミングモデルと、それに為替レートの与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、為替政策のマクロ経済に与える影響について説明できる。	
	事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
9	【実質為替レートと輸出】	実質為替レートが純輸出に与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、為替政策のマクロ経済に与える影響について議論できる。	
	事前学修	教科書第15章 3. 4. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書第15章の復習問題 1～8 について説明をまとめること	120分
10	【総需要曲線】	総需要曲線の性質について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総需要曲線の導出について説明できる。	
	事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
11	【総需要・総供給モデル】	総供給曲線の性質、総需要・総供給の均衡、シフトについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マクロ経済政策の基礎的なモデルについて説明できる。	
	事前学修	講義ノートを事前に読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	授業の内容について説明をまとめること。	120分
12	【マクロ経済政策①：金融】	中央銀行による金融政策がインフレ率と失業率に与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、金融政策の内容について説明できる。	
	事前学修	教科書第13章 1. 2. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書第13章の復習問題 1～11について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【マクロ経済政策②：財政】	政府による財政政策がインフレ率と失業率に与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、政府の役割や財政政策について議論できる。	
	事前学修	教科書第13章 3. 4. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書第13章の復習問題12～15について説明をまとめること。	120分
14	【マクロ経済政策③：貿易】	現在の開放経済におけるマクロ経済政策について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、開放経済におけるマクロ経済政策について議論できる。	
	事前学修	教科書第15章 4. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書第15章の復習問題12について説明をまとめること。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、マクロ経済学、マクロ経済政策を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、マクロ経済学、マクロ経済政策を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	120分
	事後学修	期末試験に向けて準備しておくこと。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	マクロ経済政策の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	I S-LM分析をはじめとする各モデルの算出過程を説明することができる。						2	2				
④	個々のマクロ経済政策に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷 巖	日本評論社	2007年		推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【オリエンテーション】マクロ経済政策とは何か		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、マクロ経済学Ⅰでの内容の復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。		90分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		150分
2	IS-LM分析(1)： IS-LM分析の考え方とIS曲線の導出		財市場を均衡させる利子率と国民所得の組み合わせを意味するIS曲線について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、財市場におけるIS曲線の意味を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「IS曲線」と「LM曲線」の概念を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、IS曲線とLM曲線の違いについてまとめること。また、IS曲線の導出方法についても自分なりにまとめること。		120分
3	IS-LM分析(2)： IS-LM分析の考え方とLM曲線の導出		貨幣市場を均衡させる利子率と国民所得の組み合わせを意味するLM曲線について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、貨幣市場におけるLM曲線の意味を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「LM曲線」がどの市場を対象としており、そのように導出できるかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、LM曲線の導出方法についてまとめる。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
4	IS-LM分析(3)： IS曲線とLM曲線の交点とその意味		財市場と貨幣市場を同時に均衡させられるような利子率と国民所得の組み合わせをIS曲線とLM曲線を使用して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、IS曲線とLM曲線の交点で財市場と貨幣市場の均衡を同時に達成できることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、IS曲線とLM曲線が交わる点は何を意味するかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、IS曲線とLM曲線の交点とその意味についてまとめる。また、練習問題の内容を確認し、どのようにIS曲線とLM曲線を導出するかを再確認すること。		120分
5	IS-LM分析と財政政策・金融政策(1)： 財政政策・金融政策とIS-LM曲線のシフト		労働市場における均衡を達成させるために有効な手段として財政政策と金融政策があることを説明する。さらに、これらの政策がいずれの曲線をシフトさせるかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、完全雇用GDPを達成させるための有効な政策として財政政策及び金融政策が存在することを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、財政政策と金融政策には何が含まれるかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、それぞれの政策がどちらの曲線をどの方向にシフトさせるかをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。		120分
6	S-LM分析と財政政策・金融政策(2)： クラウディングアウト、金融政策が機能しないケースについて		クラウディングアウト及び中央銀行による金融政策が機能しないケースについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、金融政策が機能しないケースなどの特殊な例に関して理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、金融政策が機能しない状況について重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、金融政策が機能しないケースに関して、日本がどのような経験をしてきたかをまとめること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	国際マクロ経済の理解(1)： 国際収支表の理解と為替制度の歴史	国際収支表のシステムについて説明を行う。また第二次世界大戦後の世界の為替制度の変遷についての説明も行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際収支表から読み取れる情報及びその内容を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、国際収支表の概念とその構成要素について重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、為替制度の歴史と講義日時点での（例えば日本円とアメリカドル）の為替レートを確認すること。また、実際の日本の国際収支表についても確認すること。	120分
8	国際マクロ経済の理解(2)： マンデル＝フレミングモデルについて	IS-LM分析の発展形として、国際貿易を含んだ理論モデルであるマンデル＝フレミングモデルについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、IS-LM分析とマンデル＝フレミングモデルの違いを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、IS-LM分析に海外部門が加わる意味と為替レートについて重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、海外部門がある時とない時のIS-LM分析の違いをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
9	国際マクロ経済の理解(3)： 固定相場制と変動相場制におけるマンデル＝フレミングモデル	為替制度の違いによってマンデル＝フレミングモデルの結果がどのように変化するかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マンデル＝フレミングモデルにおける各為替制度の意味を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、固定相場制と変動相場制における中央銀行の役割および為替レートの決定方法について再確認すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、マンデル＝フレミングモデルにおいて、固定相場制又は変動相場制であるかによって各政策の効果が異なることをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
10	マクロ経済学における短期モデルと長期モデルの違いとその応用	マクロ経済学における短期と長期の概念を確認し、どのように経済モデルに応用するかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、マクロ経済学における長期と短期の違い及び経済モデルへの応用方法を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3・8章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、マクロ経済学における「短期」「長期」の概念について再確認すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、「長期」におけるIS-LM分析の意味についてまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
11	物価水準の決定メカニズム(1)： ケインズと古典派の総供給曲線	古典派経済学とケインズの総供給曲線について再確認し、物価水準との関係を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、総供給曲線の概念について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第9章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「総供給曲線」について再確認すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、「古典派」が何を意味するかを再確認すること。また、これらの学派における「総供給曲線」についてもまとめること。	120分
12	物価水準の決定メカニズム(2)： 現実的な短期の総供給曲線と価格の調整速度について	短期の総供給曲線と価格調整について、現実的な問題を含めて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、現実的な短期の総供給曲線と企業の価格調整について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第9章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「価格調整」と「数量調整」について再確認すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、理論的な概念である「短期」と現実の「短期」の違いを再確認すること。また、「短期」という概念を絶対的な時間で理解するのではなく、概念的な時間として考えることで経済学的な思考を試みることを。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インフレーションとデフレーション (1): インフレとデフレを理解する	物価水準が変化することの意味と、インフレーションとデフレーションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、物価変動を意味するインフレーションとデフレーションについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第10章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、物価変動の指標及び物価が変動することの直感的な意味について再確認すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、インフレとデフレの違い及びそれぞれが景気とどのように連動しているかをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
14	インフレーションとデフレーション (2): 合理的期待形成とインフレ及びデフレの社会的費用	合理的期待仮説と物価変動がもたらす社会的費用について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、合理的期待の概念と物価変動がもたらす社会的費用について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第10章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、物価変動の指標及び物価が変動することの直感的な意味について再確認すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、合理的期待形成の概念と物価変動が経済などに与える社会的費用についてそれぞれまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。	120分
15	マクロ経済学Ⅱのまとめ及び試験内容の確認	マクロ経済学Ⅱの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、マクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。	
	事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	120分
	事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること。	120分

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	日隈 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、その分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
オンデマンド型で行う。 質問等のフィードバックは、Google Classroomで行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マクロ経済政策における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	マクロ経済政策の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	I S-LM分析をはじめとする各モデルの算出過程を説明することができる。						2	2				
④	個々のマクロ経済政策に対する自分なりの評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート課題により、到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	30	30	20	10							90
討論・発表等												
授業への参画度	質問や意見などをどれだけ述べることをできたかを基準に、到達目標①にかかわる学修態度が身についているかを評価する。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは、Google Classroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
入門マクロ経済学 第5版	中谷巖	日本評論社	2007年	教科書	必携
基本経済学	大淵三洋他	八千代出版	2018年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
質問、要望などがあれば、Google Classroomに投稿していただきたい。higuma.shinobu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 他学部にて、マクロ経済分析、本務校にて、経営学総論、経営管理基礎・応用理論を担当している。
実務経験に基づく実践的教育の内容		ミクロ経済学だけでなく、資本主義経済の誕生、経営学や社会学など、他の社会科学との関連で、マクロ経済学の位置づけを意識できるように工夫している。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の復習	この授業のガイダンス（受講方法、授業方針などの解説）を行った後、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の概要について復習する。履修希望者は、必ず出席すること。	
	この回の到達目標	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の全体像について理解できる。	
	事前学修	シラバスを読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第1回に行った解説の内容（マクロ経済学Ⅰ《短期モデル》）を復習しておくこと。（2時間）	120分
2	IS-LMモデルの枠組み	財市場と貨幣市場のモデルからIS曲線とLM曲線を導出し、IS-LMモデルの基本的な枠組みを復習する。	
	この回の到達目標	IS-LMモデルの基本的な枠組みについて理解できる。	
	事前学修	第2回に行われる第6章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第2回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
3	財政政策と金融政策の有効性	IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性について解説する。	
	この回の到達目標	財政政策と金融政策の有効性、IS曲線、LM曲線の動きについて理解できる。	
	事前学修	第3回に行われる第6章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第3回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
4	IS-LMモデルと計算問題	財政政策と金融政策の効果を妨げる現象について解説する。	
	この回の到達目標	IS-LMモデルの理解を深めることができる。	
	事前学修	第4回に行われる第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第4回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
5	国際収支の仕組み	国際収支の構造と外国為替制度について解説する。	
	この回の到達目標	国際収支の仕組みと外国為替制度について理解することができる。	
	事前学修	第5回に行われる第7章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第5回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
6	IS-LMモデルとマンデル＝フレミング・モデル	固定為替相場制、変動為替相場制のそれぞれの制度におけるマンデル＝フレミング・モデルについて解説する。	
	この回の到達目標	固定為替相場制、変動為替相場制のそれぞれの制度における財政政策や金融政策の流れと有効性について理解することができる。	
	事前学修	第6回に行われる第7章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第6回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	マンデル＝フレミング・モデルと計算問題	国際マクロ経済学のポイントを整理したうえで、簡単な計算問題を行う。	
	この回の到達目標	国際マクロ経済学の理解を深めることができる。	
	事前学修	第7回に行われる第7章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第7回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
8	長期モデル	短期モデルと長期モデルの枠組みについて解説する。	
	この回の到達目標	短期モデルとの関連で長期モデルの仕組みについて理解できる。	
	事前学修	第8回に行われる第8章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第8回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
9	海外部門と長期モデル	海外部門を考慮した短期モデル（マンデル＝フレミング・モデル）と海外部門を考慮した長期モデルの枠組みについて解説する。	
	この回の到達目標	海外部門との関連で長期モデルの仕組みについて理解できる。	
	事前学修	第9回に行われる第8章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第9回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
10	フィッシャー方程式とインフレ率	名目利子率と実質利子率に関連したフィッシャー方程式、インフレ率を考慮したIS-LMモデルについて解説する。	
	この回の到達目標	利子率とフィッシャー方程式との関係、インフレ率とIS-LMモデルとの関係について理解できる。	
	事前学修	第10回に行われる第8章のポイントを整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第10回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
11	総供給曲線（短期と長期）	ケインジアン総供給曲線と古典派総供給曲線について解説する。	
	この回の到達目標	短期（ケインジアン）モデルと長期（古典派）モデルとの関連で総供給曲線の仕組みについて理解できる。	
	事前学修	第11回に行われる第9章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第11回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
12	物価水準と総需要管理政策	物価水準の決定と総需要管理政策の有効性について解説する。	
	この回の到達目標	物価水準と総需要管理政策の関係について理解できる。	
	事前学修	第12回に行われる第9章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第12回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	総供給曲線と総需要曲線	総供給曲線から、インフレ供給曲線、フィリップス曲線について、総需要曲線から、インフレ需要曲線について解説する。	
	この回の到達目標	インフレーションとの関連で総供給曲線と総需要曲線の関係について理解できる。	
	事前学修	第13回に行われる第10章前半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第13回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
14	合理的期待形成と自然失業率仮説	合理的期待形成と自然失業率仮説について解説する。	
	この回の到達目標	合理的期待形成と自然失業率仮説の概念について理解できる。	
	事前学修	第14回に行われる第10章後半を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	第14回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
15	マクロ経済学と現実の経済	授業内試験および後期学習内容の振り返り	
	この回の到達目標	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）とマクロ経済学Ⅱ（長期モデル）で習得した知識や理論を基に、現実の経済問題について考えることができる。	
	事前学修	これまでの単元を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）とマクロ経済学Ⅱ（長期モデル）で習得した知識や理論を基に、現実の経済問題を考え、自分の考えで積極的に議論に臨んでいくこと。（2時間）	120分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、リアクション・ペーパー（小テスト）を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。					2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2020年	教科書	必携
アセモグル/レイブソン/リスト 入門経済学	D. アセモグル / D. レイブソン / J. リスト	東洋経済新報社	2020年	参考書	任意
備考	教科書および参考書については、初回授業で詳しく説明する。				

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】 ミクロ経済学の対象と方法と理論体系	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるマクロ経済学との違いを示しながら、ミクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。	120分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。	120分
2	【経済学の原理と実践】	最適化、均衡、経験主義について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最適化、均衡、経験主義について説明できる。	
	事前学修	教科書第1章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第1章の演習問題1. 4. について説明をまとめること。	120分
3	【経済学の方法と問い】	経済モデルの役割と相関と因果の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済モデルの役割と相関と因果の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書第2章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第2章の演習問題1. 5. について説明をまとめること。	120分
4	【最適化】	水準による最適化と差分による最適化について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、水準による最適化と差分による最適化の違いが説明できる。	
	事前学修	教科書第3章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第3章の演習問題2. 3. について説明をまとめること。	120分
5	【市場と需要】	完全競争市場について説明した後に、買い手の行動から需要曲線の導出について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、完全競争市場と需要の性質について説明できる。	
	事前学修	教科書第4章1. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第4章の復習問題3. 4. について説明をまとめること。	120分
6	【供給と均衡】	売り手の行動から供給曲線の導出を説明した後に、市場の均衡について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、供給の性質と均衡について説明できる。	
	事前学修	教科書第4章3. 4. 5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第4章の演習問題10. 12. について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【消費者行動】	消費者行動の基礎について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、消費者行動の基礎について説明できる。	
	事前学修	教科書第5章1．2．補論の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の演習問題3と補論の練習問題2について説明をまとめること。	120分
8	【消費者余剰と需要の弾力性】	消費者余剰と需要の弾力性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消費者余剰と需要の弾力性について説明できる。	
	事前学修	教科書第5章3．4．5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第5章の演習問題8．10について説明をまとめること。	120分
9	【生産者行動】	生産者行動の基礎について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生産者行動について説明できる。	
	事前学修	教科書第6章1．2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の演習問題7．10について説明をまとめること。	120分
10	【生産者余剰と短期・長期】	生産者余剰、企業活動の短期と長期の違いについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生産者余剰生産、企業活動の短期と長期の違いについて説明できる。	
	事前学修	教科書第6章4．5．6の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の演習問題2．4について説明をまとめること。	120分
11	【市場の効率性】	社会的余剰とパレート効率性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会的余剰とパレート効率性について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章1．2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の演習問題1．3について説明をまとめること。	120分
12	【公平性と効率性】	死荷重と公平性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、死荷重と公平性の基準について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章4．5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の演習問題12について説明をまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【独占の基礎】	独占が生じるメカニズム、独占企業の行動、について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、独占が生じるメカニズムとその問題点について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章 1. 2. 3. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第12章の演習問題 1. 5について説明をまとめること。	120分
14	【独占のコスト】	独占による費用、価格差別戦略について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、独占による費用、価格差別戦略について議論できる。	
	事前学修	教科書第12章 5. 6. 7の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第12章の演習問題 6. 12について説明をまとめること。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、ミクロ経済学を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	60分
	事後学修	期末試験に向けて準備しておくこと。	180分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。					2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『入門ミクロ経済学第2版』	井堀利宏	新世社	2004		推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【【オリエンテーション】 ミクロ経済学の対象と方法と理論体系		講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、関連科目であるマクロ経済学との違いを示しながら、ミクロ経済学を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	このシラバスを確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。		90分
	事後学修	ガイダンス・講義内容を再確認すると共に、この時点で可能であれば教科書を入手の上、全体の流れを把握しておく。		150分
2	需要と供給について1： 需要曲線と供給曲線		需要曲線と供給曲線の概念と導出方法について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、需要曲線と供給曲線の意味及び導出方法を理解し、説明及び導出できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、需要曲線と供給曲線は何を表しているかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、需要曲線と供給曲線の違いについてまとめること。		120分
3	需要と供給について2： 弾力性と市場価格の決定		価格変化と需要量の関係を示す需要の価格弾力性と市場における価格決定メカニズムについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、需要の価格弾力性及び市場の価格決定メカニズムについて理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、弾力性の概念と「市場価格」がいかに決定されるかを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、弾力性の計算方法及び市場価格の決定メカニズムについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
4	消費（需要）の理論1：効用関数と限界効用		家計の幸福度を表す効用の概念を説明し、効用関数及び限界効用について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、効用関数と限界効用の意味を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「効用」及び「限界」概念を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、例を参考に効用と限界概念についてうまくイメージしながらまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
5	消費（需要）の理論2：予算制約、無差別曲線、（限界代替率）		効用最大化行動を理解するための準備段階として、予算制約線及び無差別曲線によって説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、予算制約線及び無差別曲線について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、無差別曲線の考え方を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、予算政策と無差別曲線の解釈について、特に図を書くことでまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
6	消費（需要）の理論3：均衡点及び所得変化の影響		家計の主体的均衡点の導出方法及び所得変化が主体的均衡点に与える影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、主体的均衡点と所得効果について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、所得変化が効用に与える影響を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、所得が変化することによってどのように効用個人の均衡点が変わるかについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	企業（供給）の理論1：生産関数、限界・平均生産		企業の行動を理解するために、生産関数及び限界生産・平均生産の概念を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、生産関数及び限界生産・平均生産の意味を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、生産関数の構成要素及び限界概念を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、消費者側の考え方との違いについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
8	企業（供給）の理論2：等生産量曲線と等費用曲線		生産要素の組み合わせと産出量の関係を理解するために、等生産量曲線及び等費用曲線の概念について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、等生産量曲線と等費用曲線の意味及び違いを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、それぞれの曲線について、その意味及び導出方法を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、図を用いながら2つの曲線の意味と導出方法について再度まとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
9	企業（供給）の理論3：限界費用・平均費用曲線と費用最小化問題		企業の生産費用に関して、限界費用、平均費用について説明した上で、企業の費用最小化問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、各費用曲線の意味及び企業の費用最小化問題を理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、企業の行動と費用との関係を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、費用の種類及びその考え方についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
10	生産の決定1：完全競争市場、利潤最大化行動		完全競争市場の概念及び完全競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完全競争市場の設定及び企業の利潤最大化行動について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争の仮定を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争下における企業の利潤最大化（費用最小化）行動についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
11	生産の決定2：損益分岐点、操業停止点、市場供給曲線		企業の戦略を説明するために、損益分岐点、操業停止点、市場供給曲線について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、企業は生産活動をどこまで行うか、そして市場の供給曲線はどのように表せるかを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、企業がどこまで操業を続けるかを理解するためには何が必要かを重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、どの点に達した時に企業は生産をストップさせるか、改めてそのメカニズムについてまとめること。また、練習問題も再確認すること		120分
12	市場の均衡1：価格調整メカニズム		完全競争市場における価格調整メカニズムについて説明し、資源配分の効率性について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、価格調整メカニズム及び市場の効率性について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、需要曲線と供給曲線が「シフト」する意味を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、各曲線がシフトする要因及びシフトする方向についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	市場の均衡2：余剰分析、死荷重、政府の介入		余剰分析の概念及び完全競争市場において政府の市場への介入が死荷重を発生させることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、余剰分析を行うことで政府の介入が死荷重を発生させることを理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、生産者余剰及び消費者余剰を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争市場において、政府の介入は死荷重を発生させてしまうことについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
14	市場の均衡3：パレート最適		パレート最適について説明を行い、資源配分の効率性改善について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、パレート最適の概念について理解し、説明できる。		
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ボックスダイアグラムの見方を重点的に理解すること。		120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、パレート最適に成立についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。		120分
15	ミクロ経済学Iのまとめ及び試験内容の確認		ミクロ経済学Ⅰの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ミクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済問題に対する判断ができる。		
	事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。		90分
	事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること		150分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	丸田 利昌	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式。受講者は、ノートをとること。オンデマンド講義。ただし、第14回・第15回講義は、ZOOMライブで行う。都合10回程度、Googleclass room/form を用いて宿題が課される。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。					2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。					2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。					2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。					2	2				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	10回程度宿題が課される。これにより，到達目標①～④についての理解度を評価する。	50										50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	10回程度宿題が課される。この提出回数より，授業への参画度を測る。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	10	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の講義にて解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学の第一歩	安藤至大	有斐閣	2013	教科書	必携
備考	受講者の手元に教科書があるという前提で講義を行う。この前提が満たされない場合，講義は理解不能となろう。				

【オフィスアワー】
火曜15:00～16：00 日本大学経済学部8号館321室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	授業のテーマや内容，授業スケジュール，成績評価の方法，参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し，受講生が事業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	授業のテーマや内容，授業スケジュール，成績評価の方法，参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し，受講生が事業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，教科書各章の冒頭部に目を通し，講義全体を概観する。高等学校「政治経済」「現代社会」における経済の学習を復讐する。	120分
	事後学修	講義ノート（受講者自身がとったもの，本シラバス「授業方法」を参照。以下同様）を確認して，自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	ミクロ経済学とは（その1）	価格，価値，財・サービス，交換など，経済学の基本語をその日常の意味との異同に留意しつつそれらを理解するとともに，相互の関連を学ぶ。あわせて，ミクロ経済学の目的を明らかにする。	
	この回の到達目標	価格，価値，財・サービス，交換など，経済学の基本語をその日常の意味との異同に留意しつつそれらを理解するとともに，相互の関連を説明できるようにになる。あわせて，ミクロ経済学の目的を説明できるようにになる。	
	事前学修	教科書第1章，1「価格と価値の違い」2「財・サービスを買う」3「合意に基づく交換」を通読し，導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。	120分
3	ミクロ経済学とは（その2）	利益，便益，余剰，価格価格，価値，財・サービス，交換など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ。また資源配分と所得分配の違いを学び，ミクロ経済学の目的を資源配分の効率性という視点から明らかにする。	
	この回の到達目標	利益，便益，余剰，価格価格，価値，財・サービス，交換など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようにになる。また資源配分と所得分配の違いを学び，ミクロ経済学の目的を資源配分の効率性という視点から説明できるようにする。	
	事前学修	教科書第1章，4「交換の利益と余剰」5「価格の決まり方」6「ミクロ経済学の目的」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，「ミクロ経済学にとって，資源配分とは何か」と自問し，自答してみよう。	120分
4	個人の選択を考える（その1）	効用，効用最大化，インセンティブ，誘因，トレードオフなど，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ。特に，報酬体系の違いに人々はどのように反応するかを考える。	
	この回の到達目標	効用，効用最大化，インセンティブ，誘因，トレードオフなど，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようにになる。特に，報酬体系の違いに人々はどのように反応するかを説明できるようにになる。	
	事前学修	教科書第2章，1「個人の選択と効用の最大化」2「人はインセンティブに反応する」3「人々はトレードオフに直面している」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。授業で議論した報酬体系の事例，トレードオフの事例それぞれについて，同様の考察が成立する類似の事例を自分の生活の中から探してみよう。	120分
5	個人の選択を考える（その2）	機会費用，限界効用，限界利潤，限界便益など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ。特に，経済学で頻出する「限界〇〇」について，その背後に潜む数学的考え方にも踏み込んで考察する。	
	この回の到達目標	機会費用，限界効用，限界利潤，限界便益など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を説明できるようにになる。特に，経済学で頻出する「限界〇〇」について，その背後に潜む数学的考え方にも踏み込んで説明できるようにになる。	
	事前学修	教科書第2章，4「機会費用に着目する」5「人は限界的な部分を見て意思決定を行う」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に「「限界〇〇」と「〇〇」の関連を述べよ」と自問し，自答してみよう。また，機会費用という考え方がうまくあてはまる事例を自分の生活の中から探してみよう。	120分
6	需要曲線と供給曲線（その1）	完全競争市場，需要曲線，また「与件」とは何かを学ぶ。特に，数量-価格平面において競争市場における消費者の行動を集約して表示するものとしての需要曲線を構成する。加えて，「与件」の変化がどのような変化を需要曲線に及ぼすかを学ぶ。	
	この回の到達目標	完全競争市場，需要曲線，また「与件」とは何かを説明できるようにになる。特に，数量-価格平面において競争市場における消費者の行動を集約して表示するものとして需要曲線を説明できるようにになる。加えて，「与件」の変化がどのような変化を需要曲線に及ぼすかを説明できるようにになる。	
	事前学修	教科書第3章1「完全競争市場とは」2「財・サービスと市場」3「需要曲線」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，与件のどのような変化が需要曲線のどのような変化に対応するか，あらゆる場合を考えて復習しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	需要曲線と供給曲線（その2）		完全競争市場における生産者の利潤最大化行動を考える。それを数量-価格平面において集約して表示するものとしての供給曲線を構成する。加えて、「与件」の変化がどのような変化を供給曲線に及ぼすかを学ぶ。
	この回の到達目標	完全競争市場における生産者の利潤最大化行動を説明できるようになる。それを数量-価格平面において集約して表示するものとして説明できるようになる。加えて、「与件」の変化がどのような変化を供給曲線に及ぼすかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第3章4「供給曲線」を通読し、需要曲線との異同、関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が供給曲線のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。	120分
8	市場均衡と効率性（その1）		需要曲線が描かれている数量-価格平面において、消費者余剰がどのような領域としてあらわされるかを学ぶ。また、供給曲線が描かれている数量-価格平面において、生産者余剰がどのような領域としてあらわされるかを学ぶ。
	この回の到達目標	需要曲線が描かれている数量-価格平面において、消費者余剰がどのような領域としてあらわされるかを説明できるようになる。また、供給曲線が描かれている数量-価格平面において、生産者余剰がどのような領域としてあらわされるかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第4章1「需要と供給の組み合わせ」2「需要曲線と消費者余剰」3「供給曲線と生産者余剰」を通読し、それぞれの「余剰」の意味と、その数量-価格平面における表示を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、数量-価格平面において各余剰を描いてみよう。	120分
9	市場均衡と効率性（その2）		需要曲線と供給曲線がともに描かれている数量-価格平面において、市場均衡点とは何かを理解する。また、その点の特徴づける最も重要な性質を学ぶ。さらには、与件の変化に対応する均衡点の変化を学習する。
	この回の到達目標	需要曲線と供給曲線がともに描かれている数量-価格平面において、市場均衡点とは何かを説明できるようになる。また、その点の特徴づける最も重要な性質を説明できるようになる。さらには、与件の変化に対応する均衡点の変化を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第4章4「完全競争市場の効率性」5「市場均衡点の変化」6「ここまでのまとめ」を通読し、均衡が効率的であるとはどのようなことを意味するかを考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が均衡点のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。	120分
10	問題演習		これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、教科書章末問題、宿題問題類題に取り組む。
	この回の到達目標	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、教科書章末問題、宿題問題類題が解けるようになる。	
	事前学修	教科書章末問題、宿題問題を復讐しよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
11	完全競争市場への政府介入と死荷重の発生（その1）		価格規制について、経済学的考察を行う。その功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。
	この回の到達目標	価格規制について、経済学的考察ができるようになる。価格規制の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第5章1「価格規制」を通読し、価格規制のメリットとデメリットは何かを、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、価格規制の例を自分の身の回りから探し、そのメリットとデメリットを再考してみよう。	120分
12	完全競争市場への政府介入と死荷重の発生（その2）		参入規制、税金、補助金について、経済学的考察を行う。これらの政策の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。
	この回の到達目標	参入規制、税金、補助金について、経済学的考察ができるようになる。これらの政策の功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第5章2「参入規制」3「税金と補助金」を通読し、参入規制や税金・補助金のメリットとデメリットは何かを、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、税金・補助金の議論が、「大きな政府vs小さな政府」の議論に与える影響を考えてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	市場の失敗と政府の役割	市場の失敗とは何かを、完全競争市場との関連に注意して学ぶ。また、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを考える。	
	この回の到達目標	市場の失敗とは何かを、完全競争市場との関連に注意して説明できるようになる。また、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第6章1「市場の失敗とは」2「市場の失敗と政府による介入の例」を通読し、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを考える。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、身近な市場を考え、それは完全競争市場であるかどうか、市場の失敗が認められるかどうかを考えてみよう。	120分
14	問題演習	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、教科書章末問題、宿題問題類題に取り組む。	
	この回の到達目標	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、教科書章末問題、宿題問題類題が解けるようになる。	
	事前学修	教科書章末問題、宿題問題を復讐しよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
15	講義内試験及び振り返り	これまでの学習内容の理解度を測るため、試験を行う。	
	この回の到達目標	これまでの学習内容を用いて、各章末練習問題や宿題問題類題を解けるようになる。	
	事前学修	教科書章末問題、宿題問題を復習しよう。	120分
	事後学修	試験後に開示される模範解答と自分の解答を比較して、理解の定着を図ろう。	120分

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	武縄 卓雄	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○					

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
数学の予備知識は必要としないが、割り算の意味を理解していると単位修得が容易である。また、経済学もしくは経済学Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい。

【授業方法】
オンライン形式。毎週出される「課題」を提出してもらいます。 課題などの提出物は、原則として提出時の翌週に、返却します。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	消費者行動、生産者行動について説明することができる。						2	2				
④	厚生分析に対する評価を論理的に説明できる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、毎回準備される「課題」により評価する。	80										80
レポート等	提出されたレポートが、書式などの要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかどうかを基準に、到達目標②、③および④にかかわる説明ができているかを評価する。		6	7	7							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	6	7	7							100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出時から1週間以内に添削・返却します。さらに、翌週の講義時に解説します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
グラフィックミクロ経済学 第2版	金谷貞男吉田真理子	新世社	2008年		
備考					

【オフィスアワー】
メールで問い合わせてください。takenawa.takuo@nihon-u.ac.jp 時間調整をします。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	第1章 はじめに	経済学、ミクロ経済学およびマクロ経済学の特徴 基本概念 財	
	この回の到達目標	経済学、ミクロ経済学およびマクロ経済学の特徴を理解する。 関数の仕組みを理解する。	
	事前学修	テキストとノートを準備する。事前にシラバスを確認しておくこと。	105分
	事後学修	経済学の定義、ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを中心にノートを整理する。 準備されている「課題1」を提出する。	135分
2	第2章 基本概念	基本概念 経済主体、行動原理、財・用益の市場と経済循環、完全競争、 需要と供給、需要量と供給量、需要曲線と供給曲線	
	この回の到達目標	企業、家計という経済主体の行動原理を理解する。 市場と経済循環の関係を描いた経済循環図を理解する。 需要と需要との相違、供給と供給量との相違を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	行動原理を中心にノートを整理する。 準備されている「課題2」を提出する。	135分
3	第3章 市場均衡	均衡概念	
	この回の到達目標	市場均衡を成立させる仮定、市場均衡が成立する過程を理解する。 需要曲線と供給曲線の描き方を習得する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	市場均衡成立を中心にノートを整理する。 準備されている「課題3」を提出する。	135分
4	第3章 市場均衡	需要曲線のシフトと均衡分析	
	この回の到達目標	需要の増減と売上高の変化との関係を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	需要の変化要因を中心にノートを整理し、 準備されている「課題4」を提出する。	135分
5	第3章 市場均衡	供給曲線のシフトと均衡分析	
	この回の到達目標	供給の増減と売上高の変化との関係を理解する。 需要の価格弾力性の定義を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	供給の変化要因を中心にノートを整理し、 準備されている「課題5」を提出する。	135分
6	第3章 市場均衡 第4章 家計の行動	図解：需要の価格弾力性、需要の価格弾力性と売上高の変化、 家計の行動原理、効用、効用関数と効用曲線、	
	この回の到達目標	需要の価格弾力性の図解法を理解する。 効用曲線の導出法を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	効用曲線の導出法を中心にノートを整理する。 準備されている「課題6」を提出する。	135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第4章 家計の行動	限界効用とその特徴、限界効用曲線の導出、 二財モデルの効用関数と無差別曲線	
	この回の到達目標	限界効用曲線の導出法と無差別曲線の導出法を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	限界効用曲線の導出法と無差別曲線の導出法を中心にノートを整理する。 準備されている「課題7」を提出する。	135分
8	第4章 家計の行動	予算制約線とグラフ化、 最適消費量の決定、 加重限界効用均等	
	この回の到達目標	予算線のシフトによって、新たな均衡点に移動する際の、代替効果と所得効果を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	最適消費量の決定を中心にノートを整理する。 準備されている「課題8」を提出する。	135分
9	第4章 家計の行動	消費者均衡の例外：コーナー解、 予算線の移動と所得消費曲線、 予算線の移動と価格消費曲線、 個別需要曲線の導出、	
	この回の到達目標	個別の需要曲線の導出方法について理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	個別需要曲線の導出法を中心にノートを整理する。 準備されている「課題9」を提出する。	135分
10	第4章 家計の行動	代替効果と所得効果	
	この回の到達目標	代替効果と所得効果を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	準備されている「課題10」を提出する。	135分
11	第5章 企業の行動	企業の行動原理、一財モデルの生産関数と生産物曲線、 平均生産力と限界生産力、 限界生産力逓減の法則、	
	この回の到達目標	限界生産力が逓減する論理過程を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	限界生産力の特徴を中心にノートを整理する。 準備されている「課題11」を提出する。	135分
12	第5章 企業の行動	一財モデルの生産関数を用いた $\max \pi$ 企業の個別需要曲線の導出 二財モデルの生産関数と等生産量曲線 技術的限界代替率	
	この回の到達目標	企業の個別需要曲線の導出過程を理解する。 等生産量曲線と技術的限界代替率の関係を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	企業の個別需要曲線の導出を中心にノートを整理する。 準備されている「課題12」を提出する。	135分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第5章 企業の行動	等費用線、生産関数を用いた最適投入量の決定：費用一定における $\max \pi$ および生産量一定における $\max \pi$ 、拡張経路、費用関数の導出、費用曲線の導出	
	この回の到達目標	生産関数を用いた最適投入量の決定を理解する。 費用関数および費用曲線の導出法を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	費用関数の導出法を中心にノートを整理する。 準備されている「課題13」を提出する。	135分
14	第5章 企業の行動	各種費用曲線の導出、最適生産量の決定：費用関数を用いた $\max \pi$ 価格＝限界費用	
	この回の到達目標	最適生産量の決定基準が、価格＝限界費用であることを理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	最適生産量の決定法を中心にノートを整理する。 準備されている「課題14」を提出する。	135分
15	第5章 企業の行動	企業の個別供給曲線	
	この回の到達目標	企業の個別供給曲線の導出過程を理解する。	
	事前学修	前回のノートと、返却された課題を再確認する。	105分
	事後学修	企業の個別供給曲線の導出法を中心にノートを整理する。 準備されている「課題15」を提出する。	135分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論をはじめとする発展的な内容について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ゲーム理論をはじめとする基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。それらを習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（履修は必須ではないが、ミクロ経済学Ⅰの内容は理解している前提で講義を進める。）

【授業方法】
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出席管理システム（レスポん）により、リアクション・ペーパー（小テスト）を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	独占・寡占など不完全競争市場について、論理的に説明することができる。						2	2				
④	ゲーム理論をはじめとする各理論を説明することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学 戦略的アプローチ	梶井厚志、松井彰彦	日本評論社	2002年	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける。また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【オリエンテーション】 ゲーム理論とは何か	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。 また、ゲーム理論について簡単な紹介を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、 Semester 内の講義の全体像を把握すると共に、マクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	教科書の第 1 章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	【戦略と均衡】	戦略形表現と支配戦略、最適反応、ナッシュ均衡について学説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適反応戦略について説明できる。	
	事前学修	教科書の第 2 章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第 2 章の練習問題を解くこと。	120分
3	【裁量ルールか】	展開形表現とバックワード・インダクションについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、バックワード・インダクションの解き方について説明できる。	
	事前学修	教科書の第 3 章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第 3 章の練習問題 3. 1、3. 4 を解くこと。	120分
4	【情報とゲーム（ベイズ完全均衡）】	ベイズ完全均衡について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の非対称性があるときの最適反応戦略について説明できる。	
	事前学修	教科書の第 5 章 5. 1、5. 2、5. 3 の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第 5 章の練習問題 5. 1 を解くこと。	120分
5	【シグナリング】	混在型均衡について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、情報の非対称性があるときのシグナリング効果について説明できる。	
	事前学修	教科書の第 5 章 5. 4、5. 5 の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第 5 章の練習問題 5. 5 を解くこと。	120分
6	【交渉ゲーム】	最後通牒ゲーム、2 段階の交渉、n 段階の交渉について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、交渉ゲームの基本について説明できる	
	事前学修	教科書の第 4 章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第 4 章の練習問題 4. 1 を解くこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【公共財供給】	公共財のフリーライダー問題、集団意思決定のインセンティブについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公共財供給についてインセンティブの視点から説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章7. 1、7. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の練習問題7. 2を解くこと。	120分
8	【メカニズムデザイン】	Groves-Clarkeメカニズムについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メカニズムデザインについて説明できる。	
	事前学修	教科書の第7章7. 3、7. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第7章の練習問題7. 1を解くこと。	120分
9	【オークションの基礎理論】	オークションの種類について学び、それぞれの最適戦略について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、オークションルールが最適戦略にどう影響を与えるかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章6. 1、6. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の練習問題6. 4を解くこと。	120分
10	【オークションの比較】	売り手にとって望ましいオークションルール、最低入札価格の意味、オークションのくり返しゲームについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、オークションルールが価格にどう影響を与えるかについて説明できる。	
	事前学修	教科書の第6章6. 3、6. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第6章の練習問題6. 2、6. 5を解くこと。	120分
11	【寡占市場】	クールノー競争について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、クールノー競争の反応戦略について説明できる。	
	事前学修	教科書の第10章10. 1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の練習問題10. 1を解くこと。	120分
12	【寡占市場の性質】	寡占市場における最適企業数、談合の効果について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適な企業規模について議論できる。	
	事前学修	教科書の第10章10. 1. 1～10. 1. 4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第10章の練習問題10. 3を解くこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【製品差別化の基礎理論】	ホテリング・モデルについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、製品差別化が生じる場合と生じない場合について説明できる。	
	事前学修	教科書の第13章13. 1. ～13. 1. 2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第13章の練習問題13. 1を解くこと。	120分
14	【製品差別の応用】	集積効果、価格競争のある場合の製品差別について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、複雑な市場での製品の差別化戦略について議論できる。	
	事前学修	教科書の第13章13. 2. ～13. 3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。	120分
	事後学修	教科書の第13章の練習問題13. 3を解くこと。	120分
15	まとめ	ここまでの講義全体の総括と、ミクロ経済学（ゲーム理論）を学ぶ意味の再確認をおこなう。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を理解し、ミクロ経済学（ゲーム理論）を学ぶ意味と意義を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。	60分
	事後学修	期末試験に向けて準備しておくこと。	180分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	羽田 翔	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論をはじめとする発展的な内容について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ゲーム理論をはじめとする基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。それらを習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
なし

【授業方法】
講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次回の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。						2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。						2	2				
③	独占・寡占など不完全競争市場について、論理的に説明することができる。						2	2				
④	ゲーム理論をはじめとする各理論を説明することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が 身についているかを，筆記試験により評価する。	30	30	20	10							90
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、 到達目標①に関わる基礎知識を評価する。	10										10
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	20	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『入門ミクロ経済学第2版』	井堀利宏	新世社	2004		推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ミクロ経済学Ⅰの復習1： 講義概要と成績評価方法の説明	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ミクロ経済学を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	ミクロ経済学Ⅰに関する内容を確認するために講義ノートを読み熟読すること。また、シラハースの内容を確認すること。	90分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、前期に学んだミクロ経済学の理解に必要な基礎知識をまとめること	150分
2	ミクロ経済学Ⅰの復習2： 完全競争市場の理論	復習として、完全競争市場の概念及び余剰分析について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、完全競争市場及び余剰分析の意味について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を読み熟読しておくこと。特に、を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争の仮定及び各プレイヤーの行動についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
3	独占市場1：完全競争市場と不完全競争市場	完全競争以外の市場形態として不完全競争の概念を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、独占市場、寡占市場、独占的競争について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を読み熟読しておくこと。特に、不完全競争市場の中でも独占市場について重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、独占市場の特徴についてまとめ、どのような歪みが発生するかを理解すること。また、練習問題も再確認すること。	120分
4	独占市場2：独占企業の利潤最大化問題	独占市場における企業の利潤最大化行動について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、独占企業の利潤最大化行動について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を読み熟読しておくこと。特に、完全競争企業との違いを重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、特に独占度の概念についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
5	独占市場3：価格差別化及び余剰分析	独占企業の価格差別化行動及び独占市場の余剰分析について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、独占企業の価格差別化行動及び独占市場においては死荷重が発生することを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を読み熟読しておくこと。特に、独占企業の弊害がどこに現れるかを重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、完全競争市場における余剰分析の結果と比較し、独占企業の弊害についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
6	ゲーム理論1：囚人のジレンマ、ナッシュ均衡	ゲーム理論1：囚人のジレンマ、ナッシュ均衡	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、 囚人のジレンマ及びナッシュ均衡について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を読み熟読しておくこと。特に、ナッシュ均衡の直感的な意味を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、囚人のジレンマとナッシュ均衡についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ゲーム理論2：繰り返しゲーム（動学的分析）	前回は静学的分析ではなく、動学的分析である繰り返しゲームについて説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、静学と動学の違い及び繰り返しゲームについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、静学と動学の違いを重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、繰り返しゲームの性質と現実への応用についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
8	寡占市場1：屈折需要曲線	不完全競争の1つである寡占市場について理解するために、屈折需要曲線について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、寡占市場の意味及び屈折曲線について説明でき、理解できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争市場、独占市場との違いを重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、屈折需要曲線の考え方についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
9	寡占市場2：クールノー・モデルと独占的競争	クールノーモデル及び独占的競争について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、クールノーモデル及び独占的競争について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、独占的競争モデルを重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、独占的競争モデルについてまとめ、現実の世界ではどの産業が当てはまるかをまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
10	外部性の問題1：外部経済・外部不経済及びピグー課税	市場の失敗の例として外部性について説明を行い、その解決方法としてピグー税について紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、外部経済・外部不経済及びピグー税について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、市場の失敗には何が含まれるかを重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、ピグー課税の考え方について図を使用しながらまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
11	外部性の問題2：コースの定理、公共財	外部性の内部化を説明するために、コースの定理を説明する。また、市場の失敗の例として公共財の性質について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、コースの定理及び公共財の特徴について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、コースの定理及び公共財の特徴について重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、市場が失敗した時の政府の役割についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
12	不確実性の問題：リスク、期待効用、リスクに対する選好	ミクロ経済学における不確実性の概念について説明し、期待効用及びリスク選好について確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リスク、期待効用、リスクへの選好について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、リスク（危険）と期待値の考え方を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、リスクに対する選好についてまとめ、自身はどのタイプかについて考えてみる。また、練習問題も再確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	不完全情報（情報の非対称性）1：モラルハザード	市場の失敗の例として、情報の非対称性の問題を取り上げる。その中でも、モラルハザードについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、情報の非対称性及びモラルハザードについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、情報の非対称性及びモラルハザードを重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、市場が失敗する原因の一つとしてモラルハザードがあることについてまとめ、現実世界ではどうかを考えること。また、練習問題も再確認すること。	120分
14	不完全情報（情報の非対称性）2：逆選択	情報の非対称性が逆選択を発生させることを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、逆選択の発生及びその解消方法について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「情報の重要性」を重点的に理解すること。	120分
	事後学修	講義資料及びノートを確認し、情報の非対称性が存在することで市場が歪んでしまうこと、そして政府の対応についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。	120分
15	ミクロ経済学Ⅱのまとめ及び試験内容の確認	ミクロ経済学Ⅱの内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ミクロ経済学における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済問題に対する判断ができる。	
	事前学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。	90分
	事後学修	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること	150分

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	丸田 利昌	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○				

【授業の概要】
ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論をはじめとする発展的な内容について学修する。なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
経済現象や市場メカニズムを解明するために、ゲーム理論をはじめとする基本的なモデルと考え方の基礎力を修得する。それらを習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになる力を身につける。

【履修条件】
ミクロ経済学Ⅰの学習を前提とする。

【授業方法】
オンデマンド講義。ただし、第14回・第15回講義は、ZOOMライブ（または教室対面）で行う。都合10回程度、Googleclass room/form を用いて宿題が課される。受講者は、ノートをとること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ミクロ経済学における主要な概念や理論を識別することができる。							2	2				
②	ミクロ経済学の概念や経済事象の意義を、論理的に説明することができる。							2	2				
③	独占・寡占など不完全競争市場について、論理的に説明することができる。							2	2				
④	ゲーム理論をはじめとする各理論を説明することができる。							2	2				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを，筆記試験により評価する。	10	10	10	10							40
小テスト等	10回程度宿題が課される。これにより，到達目標①～④についての理解度を評価する。	50										50
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	10回程度宿題が課される。この提出回数より，授業への参画度を測る。	10										10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	10	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
翌週の講義においてフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ミクロ経済学の第一歩	安藤至大	有斐閣	2013	教科書	必携
備考	受講者の手元に教科書があるという前提で講義を行う。この前提が満たされない場合，講義は理解不能となろう。				

【オフィスアワー】
火曜15：00～16:00 日本大学経済学部8号館321室

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	復習：完全競争市場の効率性		需要曲線，供給曲線，消費者余剰，生産者余剰，市場均衡の効率性，完全競争市場などについて，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復習する。
	この回の到達目標	需要曲線，供給曲線，消費者余剰，生産者余剰，市場均衡の効率性，完全競争市場などについて，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復説明できるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに，教科書各章の冒頭部に目を通し，講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノート（受講者自身がとったもの，本シラバス「授業方法」を参照。以下同様）を確認して，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復習する。また，自分の学習計画と他の履修科目との関係についても検討する。	120分
2	独占（その1）		独占企業，独占市場，独占市場の利潤最大化行動を学ぶ。特に，独占企業の利潤最大化の必要条件として，「限界収入＝限界費用」条件が導かれることを理解する。
	この回の到達目標	独占企業，独占市場，独占市場の利潤最大化行動を説明できるようになる。特に，独占企業の利潤最大化の必要条件として，「限界収入＝限界費用」条件が導かれることを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第7章1「独占とは」2「独占の定義」3「独占企業による利潤最大化行動」を通読し，導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，「限界収入＝限界費用」条件を適切に図示できるかどうかを再確認する。	120分
3	独占（その2）		独占市場における消費者余剰・生産者余剰・社会的余剰を，完全競争市場におけるそれらと比較する。この比較を，数量－価格平面において適切に図示できるようにする。
	この回の到達目標	独占市場における消費者余剰・生産者余剰・社会的余剰を，完全競争市場におけるそれらと比較できるようになる。特に，数量－価格平面において適切に図示を用いて比較できるようになる。	
	事前学修	教科書第7章4「独占はなぜ問題なのか」を通読し，独占市場における余剰分析について考える。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，各種余剰を適切に図示できるかどうかを再確認する。	120分
4	独占（その3）		章末の練習問題を精査するとともに，需要曲線や費用曲線の形状がより一般的な場合を，独自の練習問題を通じて考察する。
	この回の到達目標	章末の練習問題を精査するとともに，需要曲線や費用曲線の形状がより一般的な場合を，独自の練習問題を通じて考察できるようになる。	
	事前学修	教科書第7章1～4節を通読し，独占市場の理解の定着を図る。また，章末の練習問題に取り組む。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は，あらためて模範解答を書くこと試みる。また，類似の練習問題を自ら作成し，自答してみよう。	120分
5	外部性（その1）		経済学独特の概念・用語である「外部性」について，その意味を事例を通じて理解する。さらに，それが引き起こす問題の解決法としての「交渉」と，「理想的な交渉」のもとで期待される結果を述べる「コースの定理」について学ぶ。
	この回の到達目標	経済学独特の概念・用語である「外部性」について，その意味を事例を通じて説明できるようになる。さらに，それが引き起こす問題の解決法としての「交渉」と，「理想的な交渉」のもとで期待される結果を述べる「コースの定理」を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第8章1「外部性とは」2「コースの定理と効率的な結果の実現」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察しよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。また，自分の身の回りから外部性の事例となるものを探してみよう。さらには，それにコースの定理を適用してその含意を導いてみよう。（2時間）	120分
6	外部性（その2）		正の外部性・負の外部性など，様々な外部性のあり方について説明できるようになる。余剰を比較し，効率的状態の実現手段としての課税・補助金のあり方について説明できるようになる。
	この回の到達目標	正の外部性・負の外部性など，様々な外部性のあり方について考える。余剰を比較し，効率的状態の実現手段としての課税・補助金のあり方について考察する。	
	事前学修	教科書第8章3「波及効果による外部性」4「生産の正の外部性と消費の正・負の外部性」5「外部性の問題を解決・軽減するための取り組み」を通読し，各図示の理解に努めよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。また，正負様々な外部性について，課税・補助金による問題解決を適切に図示できるかどうかを確認しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	外部性（その3）	外部性問題の理解の定着のため、独自の練習問題を考察する。	
	この回の到達目標	外部性問題の理解の定着のための練習問題を解けるようになる。	
	事前学修	教科書8章全体を通読し、外部性問題の理解の再確認しよう。また、章末問題に取り組もう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
8	非対称情報の経済学（その1）	経済学独特の概念・用語である「情報の非対称性」について、その意味を事例を通じて理解する。また、それがどのような問題を引き起こすのかを考える。特に「逆淘汰」「モラルハザード」について焦点を当てて考察する。	
	この回の到達目標	経済学独特の概念・用語である「情報の非対称性」について、その意味を事例を通じて説明できるようになる。また、それがどのような問題を引き起こすのかを説明できるようになる。特に「逆淘汰」「モラルハザード」について焦点を当てて説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第10章1「情報の非対称」を通読し、それが何を意味し、どのような問題を引き起こすかを考えよう。特に、経済学における「情報」という語の意味・用法、またそれが「非対称」とはどのようなことかを考えよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「逆淘汰」「モラルハザード」について、その主題を他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分
9	非対称情報の経済学（その2）	「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて学ぶ。特に、これらの異同を「事前・事後」「情報を持つもの・持たざる者」との対比において適切に理解する。	
	この回の到達目標	「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて説明できるようになる。特に、これらの異同を「事前・事後」「情報を持つもの・持たざる者」との対比において適切に説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第10章2「当事者による情報の非対称への対策」3「情報の非対称に対処するための政府の取り組み」を通読し、「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて、大まかな理解を得ることを目指そう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「スクリーニング」「シグナリング」について、その主題を他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分
10	ゲーム理論（その1）	ゲーム理論とは何か、また戦略型ゲームとは何かを学ぶ。有名な事例である「囚人のジレンマ」をその類似例とともに考察する。また、ナッシュ均衡の定義と、その求め方を学ぶ。	
	この回の到達目標	ゲーム理論とは何か、また戦略型ゲームとは何かを説明できるようになる。有名な事例である「囚人のジレンマ」をその類似例とともに説明できるようになる。また、ナッシュ均衡の定義と、その求め方を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第12章1「ゲーム理論とは何か」2「ゲームの構成要素」3「銀行行動の容疑者たち」4「ナッシュ均衡」5「司法取引と囚人のジレンマ」を通読し、ゲーム理論とはどのような「理論」であるかの大まかな理解を得ることを目指そう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、ナッシュ均衡の求め方を再確認しよう。	120分
11	ゲーム理論（その2）	「囚人のジレンマ」とは本質的に異なるゲーム的状况である「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について考察する。特に、それらのゲームのナッシュ均衡に注目する。	
	この回の到達目標	「囚人のジレンマ」とは本質的に異なるゲーム的状况である「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について説明できるようになる。特に、それらのゲームのナッシュ均衡を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第12章全体をあらためて通読し、前回の議論を思い起こそう。特に、ナッシュ均衡の求め方を再確認しよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「囚人のジレンマ」「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について、そのナッシュ均衡の性質の違いを復習しよう。	120分
12	公共財	「非競合性」「非排除性」という財・サービスの性質から、公共財を定義する。公共財供給に際して発生するフリーライダー問題について、ゲーム理論的考察を与える。	
	この回の到達目標	「非競合性」「非排除性」という財・サービスの性質から、公共財を定義できるようになる。公共財供給に際して発生するフリーライダー問題について、ゲーム理論的に説明できるようになる。	
	事前学修	教科書第9章1「公共財とは」2「公共財の効率的な活用」3「公共財供給の決定」を通読し、公共財とは何か、その実現に際し何が問題となるのかについて、大まかな理解を得ることを試みよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、公共財の定義を、その実例とともに他者に説明できるかどうかを確認しよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	取引費用・全体のまとめ	「取引費用」という観点から、本講義で扱った主な話題をまとめて概観する。また、理解の定着のため、各章末問題に取り組む。	
	この回の到達目標	「取引費用」という観点から、本講義で扱った主な話題をまとめて説明できるようになる。また、各章末問題を解けるようになる。	
	事前学修	教科書第11章1「取引費用とは？」2「政府による取引費用の削減策」を通読し、「取引費用」とは何かについて、大まかな理解を得ることを目指そう。また、各章末問題に取り組もう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、章末問題の解答が納得できるものであるかを再確認しよう。	120分
14	まとめの練習問題	これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、各主題について独自の練習問題に取り組む。	
	この回の到達目標	各主題についての練習問題を解けるようになる。	
	事前学修	教科書・講義ノートを初回から再読し、まとめの練習問題に備えよう。	120分
	事後学修	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。	120分
15	講義内試験	講義内試験（60分）を実施し、さらにその解説を与える。	
	この回の到達目標	試験問題に取り組み、さらにその解説を聞くことによって、問題とその解答を解説できるようになる。	
	事前学修	教科書・講義ノートを初回から再読し、講義内試験に備えよう。	120分
	事後学修	本講義を履修して学んだことは何か、自問自答してみよう。	120分

科目名	民事執行・保全法	担当者	吉田 純平	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事執行法および民事保全法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事執行制度および民事保全制度を有効かつ適切に利用・運営するため、民事執行および民事保全における様々な場面において適切な法規を適用することができ、また、民事執行法および民事保全法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる能力を修得する。

【履修条件】
民法科目（特に担保物権法）及び民事訴訟法を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式によるが、授業後には小テストで授業内容を復習し、または、応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事執行制度・民事保全制度の概要を理解して説明することができる。				3	3						
②	民事執行法および民事保全法における主要な原則の内容を説明することができる。				3	3	3					
③	民事執行および民事保全に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。					3	3					
④	民事執行法および民事保全法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べることができる。					3	3		3			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	民事執行制度および民事保全制度の概要や民事執行法および民事保全法おける原則の基礎的知識を問う（①および②）。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の開始前に前回の小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9305研究室）yoshida.junpei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	民事執行・民事保全の意義	民事手続の各分野における民事執行と民事保全が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	民事執行手続の構造と執行の主体	金銭執行の基本的な構造と執行裁判所および執行官について解説する。	
	この回の到達目標	金銭執行の基本的な流れを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	強制執行の実施要件	債務名義の意義と種類について解説する。	
	この回の到達目標	債務名義の意義を説明し、および種類を複数挙げることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	執行文	執行文の意義、および種類とそれぞれの役割を解説する。	
	この回の到達目標	執行文の種類を挙げ、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	民事執行における救済	民事執行における救済制度の種類、およびそれぞれの性質を解説する。	
	この回の到達目標	執行異議、執行抗告、請求異議の訴え、第三者異議の訴えについて意義を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	執行手続の進行	執行手続の申立てから終了までの流れを説明する。	
	この回の到達目標	執行手続の当事者がそれぞれの場面でどのような申立てをしなければならないかを理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不動産執行（１）	不動産執行における差押えの意義を解説する。	
	この回の到達目標	不動産に対する差押えの効力を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	不動産執行（２）	不動産競売の準備について解説する。	
	この回の到達目標	３点セットの意義について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	不動産執行（３）	不動産競売における売却手続の流れを解説する。	
	この回の到達目標	不動産競売における買受人の地位について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	不動産執行（４）	不動産執行における配当の方法について解説する。	
	この回の到達目標	不動産執行において複数の債権者がいる場合にどのように配当するするか説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	動産執行	動産執行の手続を解説する。	
	この回の到達目標	不動産執行と比較して動産執行の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	権利執行（１）	権利執行の意義と債権執行における差押えの効力について解説する。	
	この回の到達目標	不動産執行等と比較して債権執行の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	権利執行（２）	債権執行における差押えの効力に関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	債権執行における差押えの効力について判例を意義を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	権利執行（３）	債権執行における換価の方法について解説する。	
	この回の到達目標	取立てと転付命令の取得の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	非金銭執行	非金銭執行の種類とそれぞれの手続について解説する。	
	この回の到達目標	非金銭請求権の実現方法について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	担保権実行（１）	担保権実行の総論的解説をする。	
	この回の到達目標	強制執行と担保権実行の違いについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	担保権実行（２）	不動産担保権実行と債権担保権実行について手続を解説する。	
	この回の到達目標	賃料債権に対する物上代位について判例の流れを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	形式競売・財産開示手続	形式的競売および財産開示制度の手続を解説する。	
	この回の到達目標	財産開示の要件を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	民事保全の意義	民事保全の種類とそれぞれの意義を解説する。	
	この回の到達目標	挙げられた事案に必要な保全処分を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	保全命令手続	保全命令手続の概要を解説する。	
	この回の到達目標	保全命令手続の特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	仮差押え	仮差押命令の発令および執行について、関連する判例とともに解説する。	
	この回の到達目標	仮差押えが必要な場合と、仮差押えの効力について解説することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	占有移転禁止の仮処分	占有移転禁止の仮処分命令の発令と執行について関連する判例とともに解説する。	
	この回の到達目標	どのような場合に占有移転禁止の仮処分が必要となるか説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	処分禁止の仮処分	処分禁止の仮処分命令と執行について関連する判例とともに解説する。	
	この回の到達目標	どのような場合に処分禁止の仮処分が必要となるか説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	仮の地位を定める仮処分	仮の地位を定める仮処分について関連する判例とともに解説する。	
	この回の到達目標	どのような場合に仮の地位を定める仮処分が必要となるか挙げることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	民事保全における不服申立て（１）	保全異議の申立て、および保全取消しの申立てについて解説する。	
	この回の到達目標	保全異議と保全取消しの違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	民事保全における不服申立て（２）	保全抗告の意義について解説する。	
	この回の到達目標	民事保全における不服申立ての流れについて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	民事保全における不服申立て（３）	違法な保全があった場合の損害賠償請求について解説する。	
	この回の到達目標	違法な保全があった場合の損害賠償請求の性質について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	民事保全の現代的課題	インターネットをめぐる民事保全など、民事保全に関する比較的新しい問題を紹介し、検討する。	
	この回の到達目標	授業内で挙げられた社会問題と民事保全の関係を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	民事執行法総合演習	民事執行法に関する総合問題を基に、民事執行法における諸原則の意義を検討する。	
	この回の到達目標	具体的な事案において適用されるべき民事執行法の法規を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業内で出題された問題を復習する。	120分
30	民事保全法総合演習	民事保全法に関する総合問題を基に、民事保全法における諸原則の意義を検討する。	
	この回の到達目標	授業で挙げられた事案について、どのような保全処分を求めるのが適切か挙げることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	授業内で出題された問題を復習する。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	小田 司	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
授業内容を復習するため、15回目と30回目の授業終了後に小テストを行う。また、授業内容について応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。				2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。				2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。				2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。				2		2		2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	筆記試験により、事案に際して適用する法規と争点を指摘する能力(③)を問い、判例・学説の立場を基に自己の見解を説明することができる(④)かを問う。			35	35							70
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識が身についているかを確認する(①および②)。	10	10									20
レポート等	レポートを課し、民事訴訟法に関する判例について、関連する文献を自ら調査して、論理的に評することができるかを確認する(④)。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	45	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施した試験、小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法（第2版）	小田司編	弘文堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
	この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
	この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
	この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
	この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
	この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
	この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
	この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
	この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
	この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
	この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	訴訟行為		訴訟行為についての規範を説明する。
	この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	証拠法総論		事実認定の方法の基本的な概念を説明する。
	この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	証拠調べの手続き		証拠調べのルールを説明する。
	この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	書証・文書提出命令		書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。
	この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	自白		自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。
	この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	訴訟の終了		訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。
	この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
	この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
	この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
	この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	共同訴訟（１）		通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。
	この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	補助参加		補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。
	この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	独立当事者参加		独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。
	この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	上訴・再審		上訴・最新の種類と性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	特別訴訟		少額訴訟や手形訴訟などの特別訴訟について、その性質を解説する。
	この回の到達目標	特別訴訟がそれぞれ通常訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	小田 司	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
授業内容を復習するため、15回目と30回目の授業終了後に小テストを行う。また、授業内容について応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。				2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。				2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。				2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。				2		2		2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	筆記試験により、事案に際して適用する法規と争点を指摘する能力(③)を問い、判例・学説の立場を基に自己の見解を説明することができる(④)かを問う。			35	35							70
小テスト等	2回の授業内の小テストにより、民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識が身についているかを確認する(①および②)。	10	10									20
レポート等	レポートを課し、民事訴訟法に関する判例について、関連する文献を自ら調査して、論理的に評することができるかを確認する(④)。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	45	35							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の開始前に実施した小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法（第2版）	小田司編	弘文堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9302研究室）oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
	この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
	この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
	この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
	この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
	この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
	この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
	この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
	この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
	この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
	この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	訴訟行為		訴訟行為についての規範を説明する。
	この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	証拠法総論		事実認定の方法の基本的な概念を説明する。
	この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	証拠調べの手続き		証拠調べのルールを説明する。
	この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	書証・文書提出命令		書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。
	この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	自白		自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。
	この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	訴訟の終了		訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。
	この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
	この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
	この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
	この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	共同訴訟（１）		通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。
	この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	補助参加		補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。
	この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	独立当事者参加		独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。
	この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	上訴・再審		上訴・最新の種類と性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	特別訴訟		少額訴訟や手形訴訟などの特別訴訟について、その性質を解説する。
	この回の到達目標	特別訴訟がそれぞれ通常訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事訴訟法	担当者	吉田 純平	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な概念や制度を解説するとともに、重要な論点について判例等を基に検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
当事者、又は法曹として民事訴訟を有効かつ適切に利用・運営するために、民事訴訟に関する基本的な知識を修得し、国民に奉仕する法曹としての態度を身につけ、また、民事訴訟おける様々な場面において適切な法規を適用しながら、民事訴訟法に関する重要な論点について自らの意見を論理的に述べる。

【履修条件】
民法科目を履修したこと、又は履修していることが望ましい。

【授業方法】
原則として講義形式によるが、授業後には小テストで授業内容を復習し、または、応用的な学習をするためのレポートを課す。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の司法制度・民事訴訟制度の概要を理解して説明することができる。						2	2						
②	民事訴訟法における主要な原則の内容を説明することができる。						2	2						
③	民事訴訟に関する具体的な事案に際して適用する法規と争点を指摘することができる。						2	2	2					
④	民事訴訟法に関する判例に対して学説等を参考に批判的な意見を論理的に述べる ことができる。						2		2		2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	民事訴訟制度の概要や民事訴訟法における原則の基礎的知識を問う (①②③④)。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回授業の開始前に前回の小テストの解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民事訴訟法（第2版）	小田司編	弘文堂	2016	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（9号館3階9305研究室）yoshida.junpei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	紛争解決と民事手続	民事手続の各分野が民事紛争の解決という観点からどのような役割を有するかを説明する。	
	この回の到達目標	民事保全、民事訴訟、民事執行、倒産の意義を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
2	ADR・民事訴訟法の法源	ADRと民事訴訟を比較してそれぞれの特徴を検討する。民事訴訟法の法源を説明する。	
	この回の到達目標	ADRと民事訴訟を比較したときのそれぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
3	裁判所	日本の裁判所および裁判官に関する制度、管轄について解説する。	
	この回の到達目標	日本の裁判所・裁判官制度を理解し、ある事件について管轄権のある裁判所を指摘することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
4	民事裁判権の範囲	民事裁判権の限界について、宗教法人に関する判例等を基に検討する。	
	この回の到達目標	判例が民事裁判権の限界について示した規範を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
5	当事者	当事者の確定や当事者の各種能力について解説する。	
	この回の到達目標	当事者能力、訴訟能力等の有無の判断をすることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
6	訴訟代理人	訴訟代理人に関するルールを解説する。	
	この回の到達目標	訴訟代理人がいかなる行為をすることができるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	訴訟の開始・請求	訴訟を開始するために必要な手続きと訴訟物概念について説明する。	
	この回の到達目標	訴状に記載する内容や、訴訟物の識別方法を理解することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
8	二重起訴の禁止	訴えの提起の効果と二重起訴の禁止の原則を解説し、これに関する判例を検討する。	
	この回の到達目標	二重起訴禁止の趣旨を説明し、それを基に関連判例を検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
9	訴えの利益	訴えの利益について、給付の訴え、確認の訴え、形成の訴えについてそれぞれ解説する。	
	この回の到達目標	確認の利益の有無の判断基準を理解して、事案に適用することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
10	当事者適格	当事者適格の有無の判断基準と訴訟担当について解説する。	
	この回の到達目標	事案において誰が当事者適格を有しているかを適切に説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
11	訴訟の進行・争点整理	どのような手順で訴訟手続が進行していくか、また争点整理に方法について解説する。	
	この回の到達目標	訴訟進行の手順について説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
12	裁判資料の収集・弁論主義	裁判資料の収集に関するルール（弁論主義）について解説し、弁論主義に関する判例の検討を行う。	
	この回の到達目標	弁論主義の3つの命題について理解したうえで、具体的な事案を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	訴訟行為		訴訟行為についての規範を説明する。
	この回の到達目標	訴訟行為と私法行為の違いを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
14	証拠法総論		事実認定の方法の基本的な概念を説明する。
	この回の到達目標	どのように事実認定がされるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
15	証拠調べの手続き		証拠調べのルールを説明する。
	この回の到達目標	自由心証主義や違法収集証拠の取り扱いについて判例をもとに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
16	書証・文書提出命令		書証の意義や文書提出命令が認められる範囲について判例をもとに検討する。
	この回の到達目標	ある文書について文書提出命令が認められるか否かを判例の規範をもとに検討することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
17	自白		自白の要件と効果を、判例等とともに解説する。
	この回の到達目標	ある事案について自白が成立するかどうかを要件に照らして説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
18	訴訟の終了		訴訟の終了の仕方（当事者による訴訟の終了と判決による訴訟の終了）について解説する。
	この回の到達目標	様々な訴訟の終了の仕方について、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	既判力の客観的範囲	既判力の客観的範囲に関する諸問題について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	既判力の作用、およびその客観的範囲について具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
20	一部請求	一部請求における残部請求の可否について、判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	一部請求における残部請求が認められる根拠を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
21	既判力の主観的範囲（１）	既判力が誰に及ぶかについて、原則と例外に関する規定を中心に解説する。	
	この回の到達目標	既判力は誰に及ぶか、その根拠とともに説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
22	既判力の主観的範囲（２）	判決が対世効を有する場合について解説するとともに、反射効の議論を検討する。	
	この回の到達目標	反射効が何かを具体的な事例を挙げて説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
23	既判力の時的限界	既判力の時的限界についての基礎知識、および形成権の基準時後の行使について判例をもとに検討する。	
	この回の到達目標	形成権の基準時後の行使について判例の立場を理解したうえで、自分の意見を理論的に述べることができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
24	複数請求訴訟	訴えの併合や反訴などの複数請求訴訟の処理を解説する。	
	この回の到達目標	訴えが併合された場合の審理のルールを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	共同訴訟（１）		通常共同訴訟について、その審理の仕方を解説する。
	この回の到達目標	共同訴訟人独立の原則についてその内容を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
26	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟の性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合が固有必要的共同訴訟または類似必要的共同訴訟に当たるかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
27	補助参加		補助参加が認められる要件とその効果を判例をもとに解説する。
	この回の到達目標	参加的効力について、その性質を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
28	独立当事者参加		独立当事者参加の意義と要件・効果について判例を基に検討する。
	この回の到達目標	独立当事者参加の種類を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
29	上訴・再審		上訴・最新の種類と性質について解説する。
	この回の到達目標	どのような場合に上訴の利益が認められるか、また、不利益変更禁止の原則を説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分
30	特別訴訟		少額訴訟や手形訴訟などの特別訴訟について、その性質を解説する。
	この回の到達目標	特別訴訟がそれぞれ通常訴訟と比較してどのような特徴を有しているかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を読む。	120分
	事後学修	教科書の「知識を確認しよう」の該当問題を解く。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	担当者	井上 哲男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法に関する基本的かつ典型的な事例問題を事前に検討してもらい、これを素材として、要件事実についての基本的な理解及びその理解の説明が可能になるよう、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心とした演習を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法の基礎的な理解を踏まえ、要件事実の考え方が民事裁判実務にどのように生かされ、機能しているかについて理解し、説明できる力を修得する。

【履修条件】
法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、又はそれと同等以上に民法等を勉強しようとする意欲を有する者 を歓迎する。

【授業方法】
司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題を素材として、授業を進める。原則的には講義形式を採るが、質疑応答、起案練習等を盛り込み、一方的な授業にならないようにしたい。レジュメを事前に配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	理解度の検証・理解の定着化のために、授業内で練習問題の即日起案を行い、添削指導を行う。質疑応答や議論をする機会を多くする。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					3							
②	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					3							
③	要件事実に関連する法適用上の問題につき、判例を含めて論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。								3				
④	要件事実に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。								3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。												3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質疑応答の内容，練習問題の起案に反映された理解度等を基準に，到達目標にかかわる能力が身に付いているかどうかを総合的に評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
実施した練習問題の答案は採点して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新問題研究 要件事実 付一民法（債権関係）に伴う追補一	司法研修所編	法曹会	2020	教科書	必携
改訂 紛争類型別の要件事実	司法研修所編	法曹会	2006	参考書	推奨
10訂民事判決起案の手引（補訂版）※	司法研修所編	法曹会	2020	参考書	推奨
備考	※10訂民事判決起案の手引（補訂版）に合冊されている「事実摘示記載例集一民法（債権関係）改正に伴う補訂版一」を使用する。				

【オフィスアワー】
授業終了後，講堂又は研究室にて（17時30分ころまで）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		元裁判官（東京地裁・東京高裁など，司法研修所教官，新旧・予備司法試験委員） 実際の民事裁判において要件事実が果たしている役割を踏まえながら，分かり易い説明をしたい。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	導入講義	要件事実と法律要件分類説の概要を理解する。	
	この回の到達目標	請求の趣旨や訴訟物の意義を確認するとともに、要件事実の基礎である法律要件分類説を理解する。また、具体的事例を踏まえて、要件事実がどのようなものかを理解する。	
	事前学修	教科書の第一章（１～１８頁）を読み込み、内容の理解に努める。理解できないところは、授業で質問ができるように準備しておく。また、レジュメにも目を通しておき、質疑応答ができるように準備しておく。	120分
	事後学修	教科書の該当箇所の内容が完全に理解できるように復習する。	120分
2	売買代金支払請求をめぐる要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	売買代金支払請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。教科書の該当箇所（１９～４６頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
3	貸金返還請求をめぐる要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	貸金返還支払請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。教科書の該当箇所（３６～５２頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
4	所有権に基づく不動産明渡請求をめぐる要件事実（１）	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	所有権に基づく不動産明渡請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。教科書の該当箇所（５３～８４頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
5	所有権に基づく不動産明渡請求をめぐる要件事実（２）	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	所有権に基づく不動産明渡請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。教科書の該当箇所（５３～８４頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
6	不動産登記手続請求をめぐる要件事実（１）	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	不動産登記手続請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。教科書の該当箇所（８５～１１９頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	不動産登記手続請求をめぐる要件事実（2）	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	不動産登記手続請求をめぐる要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。教科書の該当箇所（85～119頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
8	賃貸借契約終了に基づく不動産明渡請求の要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	賃貸借契約終了に基づく不動産明渡請求の要件事実を理解する。	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。教科書の該当箇所（120～131頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
9	動産引渡請求の要件事実	事例問題を使って、テーマの理解を図る。	
	この回の到達目標	動産引渡請求の要件事実を理解する	
	事前学修	事例問題を検討し、質疑応答ができるように準備しておく。教科書の該当箇所（132～146頁）を参考にする。	120分
	事後学修	到達目標を意識し、教科書等を参照しながら、理解を完璧なものにする。	120分
10	総合問題（1）	言い分方式の総合問題を使って、要件事実の総合的な理解を図る。	
	この回の到達目標	法律要件分類説及び実体法（民法）の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した範囲について理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
11	総合問題（2）	言い分方式の総合問題を使って、要件事実の総合的な理解を図る。	
	この回の到達目標	法律要件分類説及び実体法（民法）の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した範囲についての理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
12	総合問題（3）	言い分方式の総合問題を使って、要件事実の総合的な理解を図る。	
	この回の到達目標	法律要件分類説及び実体法（民法）の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した範囲についての理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	総合問題（４）	言い分方式の総合問題を使って、要件事実の総合的な理解を図る。	
	この回の到達目標	法律要件分類説及び実体法（民法）の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した範囲についての理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
14	総合問題（５）	言い分方式の総合問題を使って、要件事実の総合的な理解を図る。	
	この回の到達目標	法律要件分類説及び実体法（民法）の理解を踏まえて、総合問題に対応できるようにする。	
	事前学修	これまで学習した範囲についての理解を深めておく。	120分
	事後学修	理解不十分であったところについて、レジュメ、要件事実の教科書等、民法の教科書等を参照しながら、補強しておく。	120分
15	総復習	これまでの学習の総括を行う。	
	この回の到達目標	学習した全範囲について理解を万全なものにする。	
	事前学修	これまでに学習した範囲を振り返り、理解の有無・程度を確認し、疑問点等について発言できるように準備しておく。	120分
	事後学修	授業の結果を踏まえ、理解不十分であったところを中心に総復習を行う。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	担当者	中野 哲弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法に関する基本的かつ典型的な事例問題を事前に検討してもらい、これを素材として、要件事実についての基本的な理解及びその理解の説明が可能になるよう、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心とした演習を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法の基礎的な理解を踏まえ、要件事実の考え方が民事裁判実務にどのように生かされ、機能しているかについて理解し、説明できる力を修得する。

【履修条件】
法職課程（含む法職コース）に在籍する者、もしくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者を歓迎する。

【授業方法】
司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題（民法）を素材として、授業を進める。 授業内レポートの解説を行うことも行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				3							
③	要件事実に関連する法適用上の問題につき、判例を含めて論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。							3				
④	要件事実に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。							3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。											3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(平常評価)	授業中の質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づき、到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているか否かを評価する。 レポートの提出を求めた場合や小テストを実施した場合には、その内容を踏まえ、到達目標①②③④についての各能力が身についているか否かを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートへの講評は授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日 14：30～15：30 授業講堂にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	40年間裁判官として実務を行った。
実務経験に基づく実践的教育の内容		民法を裁判でどのように使うかを説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	オリエンテーション。	
	この回の到達目標	事例問題と民法各編の関係につき一定の理解ができる。	
	事前学修	民法の法文を手元に置くこと。新民法を中心とする。事前にシラバスを確認しておくこと。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
2	事例問題の解き方と説明	事例問題（１）（総則・物権）。	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
3	事例問題の解き方と説明	事例問題（２）（総則・物権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
4	事例問題の解き方と説明	事例問題（３）（総則・物権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
5	事例問題の解き方と説明	事例問題（４）（総則・物権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
6	事例問題の解き方と説明	事例問題（５）（総則・物権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	事例問題の解き方と説明	事例問題（6）（総則・物権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
8	事例問題の解き方と説明	事例問題（7）（債権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
9	事例問題の解き方と説明	事例問題（8）（債権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
10	事例問題の解き方と説明	事例問題（9）（債権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
11	事例問題の解き方と説明	事例問題（10）（債権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
12	事例問題の解き方と説明	事例問題（11）（債権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	事例問題の解き方と説明	事例問題（１２）（債権）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
14	事例問題の解き方と説明	事例問題（１３）（総合）	
	この回の到達目標	事例問題の解き方につき一定の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
15	全体を振り返って	授業内レポートの作成と解説	
	この回の到達目標	民法各編と事例問題の関係につき理解ができる。	
	事前学修	これまでの資料を予め検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）B	担当者	中野 哲弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
後学期である本講義では，民事訴訟実務の基礎について修得してもらうため，訴訟物と要件事実を中心に，事例問題の演習と解説を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法の基礎的な理解を踏まえ，要件事実の考え方が民事裁判実務にどのように生かされ，機能しているかについて理解し，説明できる力を修得する。

【履修条件】
法職課程（含む法職コース）に在籍する者、もしくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者。

【授業方法】
司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題（法律実務基礎・民事）を素材として、授業を進める。授業内レポートの解説も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					3							
②	要件事実に関連する民法・民事訴訟法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。					3							
③	要件事実に関連する法適用上の問題につき、判例を含めて論理的かつ批判的に解釈し、結論づけることができる。								3				
④	要件事実に関する単純な事例につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。								3				
⑤	授業で学修した知識に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。												3
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標⑤にかかわる課題の探求能力が身についているかを評価する。					80						80
討論・発表等	授業中の質疑応答において自分の意見を述べることができたかを基準に、到達目標③④にかかわる事例問題の解答能力が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		5	5	5	5	80						100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出されたレポートへは、コメントを付して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
問題研究 要件事実	司法研修所	法曹会	2003年	参考書	推奨
紛争類型別の要件事実	司法研修所	法曹会	2006年	参考書	推奨
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜日 14：30～15：30 授業講堂にて 。 オンライン方式であったときは随時

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	40年間裁判官として実務を行った。
実務経験に基づく実践的教育の内容		裁判実務における民法要件事実の使い方を理解できるように説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション（1）及び導入講義	民法と要件事実（1）	
	この回の到達目標	要件事実の意義を理解できる。	
	事前学修	民事訴訟法について出来るだけ学習してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
2	オリエンテーション（2）	民法と要件事実（2）	
	この回の到達目標	前回と同じ	
	事前学修	民事訴訟法について出来るだけ学習してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
3	問題文の読み方（1）	事例研究（1）（貸金）	
	この回の到達目標	事実関係の分析ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
4	問題文の読み方（2）	事例研究（2）（貸金）	
	この回の到達目標	事実関係の分析ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
5	訴訟物の理解（1）	事例研究（3）（貸金）	
	この回の到達目標	問題文から訴訟物の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
6	訴訟物の理解（2）	事例研究（4）（売買）	
	この回の到達目標	問題文から訴訟物の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	請求原因事実の理解（1）	事例研究（5）（売買）	
	この回の到達目標	問題文から請求原因事実の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
8	請求原因事実の理解（2）	事例研究（6）（売買）	
	この回の到達目標	問題文から請求原因事実の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
9	請求原因事実の理解（3）	事例研究（7）（登記）	
	この回の到達目標	問題文から請求原因事実の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
10	請求原因事実の理解（4）	事例研究（8）（登記）	
	この回の到達目標	問題文から請求原因事実の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
11	抗弁事実の理解（1）	事例研究（9）（登記）	
	この回の到達目標	問題文から抗弁事実の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
12	抗弁事実の理解（2）	事例研究（10）（明渡し）	
	この回の到達目標	問題文から抗弁事実の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	抗弁事実の理解（3）	事例研究（1 1）（明渡し）	
	この回の到達目標	問題文から抗弁事実の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
14	再抗弁事実の理解	事例研究（1 2）（明渡し）	
	この回の到達目標	問題文から再抗弁事実の理解ができる。	
	事前学修	予め配付する事例問題につき検討してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分
15	全体を振り返って	授業内レポートの作成と解説をする。	
	この回の到達目標	具体例において要件事実を理解できる。	
	事前学修	これまでの資料を復習してくること。	120分
	事後学修	受講内容をノートに記載し、復習をすること。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅱ(判例演習)A	担当者	大段 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法上の基本的な問題点に関する事例を素材とした問題と、これに関連する基本的な判例を事前に検討し、授業では、その検討結果を踏まえ、自らの考え方を述べるとともに、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に問題点を整理して考察しながら、法的問題の解決方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における民法の役割を理解し、基本的な知識を踏まえてこれを説明することのできる力、各種事案に含まれる法的問題点を抽出し、その解決策を見出すことのできる力、これを的確に他者に伝えることのできる力を養成することを目的とし、民法の基本的な知識、理解を踏まえ、論理的かつ合理的な思考のもと、設例における事案に即した問題点を発見し、その具体的な解決方法を検討してこれを他者に的確に伝えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
履修条件は特に定めないが、法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、若しくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者が望ましい。

【授業方法】		
民法上の基本的な問題点に関する事例問題を素材として、その検討結果を踏まえた各自の意見を述べてもらい、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に授業を進めるが、その際、当該部分に関する民法理論の基本的な理解や判例の到達点等を併せて振り返ることとする。なお、場合により、レポートの提出を求めたり、小テストを実施する可能性がある。その場合には、その内容を添削して返却する予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回の授業時に、次回の授業で取り扱う事例問題を提供し、事前に問題点及び関連する判例を検討してもらい、授業では、当該設例に含まれる法的問題点を中心に、教師と学生間、学生同士で質疑応答や議論をしてもらうことになる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例を中心とした民法の基本用語及び概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	判例を中心とした民法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				3							
③	民法判例に関連する法適用上の問題につき、論理的かつ批判的に考察し、結論づけることができる。							3				
④	民法判例に関する事例問題につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。							3				
⑤	授業で学修した知識や法的問題の解決方法に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。											3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(平常評価)	授業中の質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づき、到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているか否かを評価する。 レポートの提出を求めた場合や小テストを実施した場合には、その内容を踏まえ、到達目標①②③④についての各能力が身についているか否かを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの提出を求めた場合又は小テストを実施した場合には、その内容を添削して返却する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の午後2時から午後4時までの間、大学院法務研究科の当職の研究室（1342研究室）で対応する。odan.toru@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 改正民法の概要	オリエンテーションとして、授業の進め方や方針,受講に際しての心構え等について説明するとともに、令和2年4月に施行された債権法に関する改正民法のうちの重要な部分についてその概要を簡単に説明する。	
	この回の到達目標	債権法に関する改正民法の主要な部分について、基本的なコンセプトや主な改正内容を説明することができる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認して授業で取り扱う分野の概要を把握するとともに、債権法に関する改正民法の概要についても勉強しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
2	契約とは何か（単なる合意との異同） 契約の拘束力	契約とは何か（単なる合意との異同），また、契約の拘束力について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	契約と単なる合意との異同や契約の拘束力について、事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
3	契約の当事者（買主の特定、預金者の特定）	買主の特定、預金者の特定に関する事例を素材として、契約の当事者について考察する。	
	この回の到達目標	契約の当事者について、事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
4	契約締結の能力（意思能力、行為能力）	契約締結の能力（意思能力、行為能力）について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	意思能力、行為能力について、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
5	契約と意思表示（1） 通謀虚偽表示、詐欺	通謀虚偽表示、詐欺について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	通謀虚偽表示、詐欺に関して、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
6	契約と意思表示（2） 錯誤	錯誤（表示の錯誤、動機の錯誤）について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	錯誤（表示の錯誤、動機の錯誤）について、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	契約の無効 暴利行為，強行法規違反	暴利行為，強行法規違反に関する事例を素材として，契約の有効・無効について事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	暴利行為，強行法規違反に関する事例に即して，契約の有効・無効について説明し，適切な解決策を検討することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
8	契約の取消しと追認	詐欺や未成年者であることを理由とする意思表示取消しの事例を素材として，契約の取消しと追認について考察する。	
	この回の到達目標	詐欺取消し，未成年者取消しに関する事例を素材として，契約の取消し及び追認の意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
9	契約と代理（1） 有権代理 民法109条の表見代理	有権代理及び民法109条の表見代理について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	有権代理及び民法109条の表見代理に関して，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
10	契約と代理（2） 民法110条の表見代理	民法110条の表見代理について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	民法110条の表見代理について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
11	契約と無権代理（1） 無権代理行為と追認 無権代理行為と相続	無権代理行為と追認，無権代理行為と相続について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	有権代理と無権代理との関係について，また，無権代理行為と追認，無権代理行為と相続に関して事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
12	契約と無権代理（2） 無権代理の効果 無権代理人の責任	無権代理の効果，無権代理人の責任について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	無権代理の効果，無権代理人の責任について事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	契約の効力 双務契約（原始的不能，同時履行の 抗弁権，危険負担）	契約の効力，双務契約（原始的不能，同時履行の抗弁権，危険負担）について，事例に即して考 察する。	
	この回の 到達目標	契約の効力，双務契約（原始的不能，同時履行の抗弁権，危険負担）について，その意義や要件，効果等を事例に即して説 明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の 該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事 後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
14	契約の付款 条件と期限 条件成就の妨害	契約の付款，条件と期限，条件成就の妨害について，事例に即して考察する。	
	この回の 到達目標	契約の付款，条件と期限，条件成就の妨害について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の 該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事 後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
15	手付契約 受領遅滞	手付契約，受領遅滞について，事例に即して考察する。	
	この回の 到達目標	手付契約，受領遅滞について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の 該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事 後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅱ(判例演習)B	担当者	大段 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民法上の基本的な問題点に関する事例を素材とした問題と、これに関連する基本的な判例を事前に検討し、授業では、その検討結果を踏まえ、自らの考え方を述べるとともに、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に問題点を整理して考察しながら、法的問題の解決方法について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代社会における民法の役割を理解し、基本的な知識を踏まえてこれを説明することのできる力、各種事案に含まれる法的問題点を抽出し、その解決策を見出すことのできる力、これを的確に他者に伝えることのできる力を養成することを目的とし、民法の基本的な知識、理解を踏まえ、論理的かつ合理的な思考のもと、設例における事案に即した問題点を発見し、その具体的な解決方法を検討してこれを他者に的確に伝えることができるようになることを目標とする。

【履修条件】
履修条件は特に定めないが、法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、若しくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者が望ましい。

【授業方法】
民法上の基本的な問題点に関する事例問題を素材として、その検討結果を踏まえた各自の意見を述べてもらい、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に授業を進めるが、その際、当該部分に関する民法理論の基本的な理解や判例の到達点等を併せて振り返ることとする。なお、場合により、レポートの提出を求めたり、小テストを実施する可能性がある。その場合には、その内容を添削して返却する予定である。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業時に次回の授業で取り扱う事例問題を提供するので、事前に問題点及び関連判例を検討してもらい、授業では、当該設例に含まれる法的問題点を中心に、教師と学生間、学生同士で質疑応答や議論をしてもらうことになる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	判例を中心とした民法の基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				3							
②	判例を中心とした民法の諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明することができる。				3							
③	民法判例に関連する法適用上の問題につき、論理的かつ批判的に考察し、結論づけることができる。							3				
④	民法判例に関する事例問題につき、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。							3				
⑤	授業で学修した知識や法的問題の解決方法に基づいて、残された課題に積極的に取り組むことができる。											3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験は実施しない。											
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(平常評価)	授業中の質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づき、到達目標①②③④⑤についての各能力が身についているか否かを評価する。 レポートの提出を求めた場合や小テストを実施した場合には、その内容を踏まえ、到達目標①②③④についての各能力が身についているか否かを評価する。	20	20	20	20	20						100
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの提出又は小テストを実施した場合には、その内容を添削して返却する予定である。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は指定しない。				

【オフィスアワー】
金曜日の午後2時から午後4時までとし、大学院法務研究科の当職の研究室（1342研究室）で対応する。odan.toru@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーション 履行請求権 原始的不能と後発的不能	オリエンテーションとして、授業の進め方や方針，受講に際しての心構え等について説明するとともに，履行請求権，原始的不能と後発的不能について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	履行請求権，原始的不能，後発的不能について事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
2	債権者代位権	債権者代位権について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	債権者代位権について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
3	詐害行為取消権	詐害行為取消権について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	詐害行為取消権について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
4	特定物債権，種類債権（種類債権の特定） 受領遅滞 危険負担	特定物債権，種類債権（種類債権の特定），受領遅滞，危険負担について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	特定物債権，種類債権，種類債権の特定，受領遅滞，危険負担について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
5	第三者の弁済 弁済の提供	第三者の弁済，弁済の提供について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	第三者の弁済，弁済の提供について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
6	同時履行の抗弁権 不安の抗弁権	同時履行の抗弁権，不安の抗弁権について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	同時履行の抗弁権，不安の抗弁権に関して，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	契約解除	契約解除について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	契約解除について、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
8	債権譲渡 譲渡制限特約 債務者及び第三者対抗要件	債権譲渡（譲渡制限特約、債務者及び第三者対抗要件）について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	債権譲渡（譲渡制限特約、債務者及び第三者対抗要件）について、その意義や要件、効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
9	契約自由の原則 契約の成立要件 契約締結過程における紛争	契約自由の原則、契約の成立要件、契約締結過程における紛争について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	契約自由の原則、契約の成立要件、契約締結過程における紛争について、事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
10	契約と物権変動 売買の予約	契約と物権変動、売買の予約について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	契約と物権変動、売買の予約について、事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
11	売買契約 売主の契約不適合責任	売買契約、売主の契約不適合責任について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	売買契約、売主の契約不適合責任に関して、その意義や要件等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
12	賃貸借契約 賃借権の対抗要件 賃借権に基づく妨害排除請求権	賃貸借契約、賃借権の対抗要件、賃借権に基づく妨害排除請求権について、事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	賃貸借契約、賃借権の対抗要件、賃借権に基づく妨害排除請求権について、事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	請負契約	請負契約（仕事の完成，請負人の契約不適合責任，所有権の帰属）について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	請負契約（仕事の完成，請負人の契約不適合責任，所有権の帰属）について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
14	不当利得	不当利得について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	不当利得について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分
15	不法行為	不法行為について，事例に即して考察する。	
	この回の到達目標	不法行為について，その意義や要件，効果等を事例に即して説明することができる。	
	事前学修	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。	120分
	事後学修	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅳ(商法)A	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
この講義では、運送法の特殊形態である海上運送に関する法的問題について取り扱う。商法と呼ばれる分野のうち、運送法に関する部分について、平成30年に商法制定以来の大改正が行われ、陸上運送・航空運送・海上運送に関する規定の現代化が行われた。この講義は、運送営業のうち海上運送に特化して、その特殊性や実態等について、文献や判例を素材に学習するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、運送法のうち海上運送に関する法的問題や法理論の修得を目的とする。運送法と呼ばれる分野でも海上運送については、その特殊性から、実務的な議論も少なくないことから理解が難しく、この講義では、海上運送関連法令の基本を修得するとともに、船舶が関係する法的諸問題について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
商法Ⅴ（運送法）を（同時に・既に）受講していることが望ましいが、特に条件を求めない。

【授業方法】
受講生が指定した教科書と商法判例百選で扱われている海上運送に関する裁判例及び同百選で紹介されている裁判例以外の近時の海上運送法に関する裁判例を読み込み、30分程度プレゼンテーションを行ったうえで、質疑応答を行う演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	この講義は、すべての受講生が指定教科書及び裁判例を読んできたうえで、演習形式で行われ、受講生との対話・質疑応答により、理解や知識を深めていく方法で行われる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	海上運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。						3			3				
②	海上運送法制に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。									3				
③	海上運送法制に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。									3				3
④														
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業の最後に課すレポートにより、到達目標①に関わる知識が身についているかを確認する。	50										50
討論・発表等	毎回の授業におけるレジュメの作成や報告において、到達目標③が身についているかを評価する。			30								30
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②が身についているかを評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイト等を通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本講義現代海商法（第3版）	箱井崇史	成文堂	2018年	教科書	必携
商法判例百選	神作裕之ほか	有斐閣	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 5 限を設定するが、事前にアポイントメントがあれば、随時受け付ける。minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・海商法概論		授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献（運送法の概説書）の紹介をし、運送法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が講義の準備を具体的に行えるようにする。
	この回の到達目標	ガイダンスによって学修者が講義の全体像を理解することができる。 海上運送法に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	シラバスを確認すると共に、指定教科書の序論のⅠの部分を読んでおき、海上運送法令にはどのようなものがあるのかをあらかじめ確認する	120分
	事後学修	海上運送に関する法令の特殊性について自分なりにまとめ、他の運送モードとの違い等について把握しておく。	120分
2	海上運送法序論		海商法がどのような運送形態を対象としているのか、海商法の意義や法源について学修する。
	この回の到達目標	海商法総論に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	指定教科書を読み、海商法とはどのような法分野であるのか全体を概観する。	120分
	事後学修	海商法の特異性等について自分なりにまとめておく。	120分
3	船舶		海上運送において用いられる船舶とはどのようなものであるのか法的な視覚から学修する。
	この回の到達目標	船舶に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第2章 船舶」を読み、船舶の意義や船舶に関する法律上の規定について把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	実際に、船舶の概念等について、他の文献等を利用しながらまとめておく。	120分
4	船舶の運航の主体と補助者		船舶運航の主体である船舶所有者とその補助者としての船員についての法的問題について講義する。
	この回の到達目標	船舶運航の主体と補助者に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第3章 船舶運航の主体と補助者」を読み、船舶所有者の概念や船員に関する法制度等について把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	船舶所有者の責任や船員等の法的問題について他にどのようなものがあるのか、他の文献等も読みながらまとめておく。	120分
5	船舶所有者等の責任制限		船舶所有者の責任については船主責任制限制度が用意されているが、その特殊な法制度について、その概要と背景について講義する。
	この回の到達目標	船主責任制限制度に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第4章 船舶所有者等の責任制限」を読み、船主責任制限制度の概要等について把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	近時、発生した船舶事故によってその法的問題がどのように処理されているのかについて調べてまとめておく。	120分
6	海上物品運送契約の意義と種類		海上物品運送契約が他の運送契約とどのような点で違うのか、海上物品運送契約の種類にはどのようなものがあるのかについて講義する。
	この回の到達目標	海上物品運送契約の意義と種類に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第5章 海上物品運送契約の意義と種類」を読み、海上物品運送契約の概要とその種類を把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	海上物品運送契約の種類には、個品運送契約のほか、航海傭船契約や複合運送契約といったものがあるので、それが具体的にどのように用いられているのかについてまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	船荷証券の意義と発行		船荷証券とはどのような有価証券であるのか等についてその概要を講義する。	
	この回の到達目標	船荷証券に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第6章 船荷証券の意義と発行」を読み、船荷証券の意義や制度について把握し、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	船荷証券の効力には様々あることから、それぞれの効力がどのような意味を有しているのかなどについてまとめておく。		120分
8	船荷証券の効力		船荷証券にはいくつかの効力が認められており、それが実務上どのような形で問題となるのかについて講義する。	
	この回の到達目標	船荷証券の効力に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第7章 船荷証券の効力」を読み、船荷証券の効力には具体的にどのような効力があるのかなどについて把握しておく。		120分
	事後学修	船荷証券が実務上どのような形で問題となるのかなどについて、自分なりにまとめる。		120分
9	海上物品運送契約の履行		海上物品運送契約を履行するに当たり、海上運送人（船舶所有者）はどのような義務を負うのか、船積から荷受人への引渡しまでどのような行為が行われるのかなどについて講義する。	
	この回の到達目標	海上物品運送契約の履行に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第8章 海上物品運送契約の履行」を読み、運送品の船積みから荷揚げ及び荷受人への引渡しについて把握し、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	海上物品運送契約がどのように履行されているのか時系列に沿って自分なりにまとめる。		120分
10	海上物品運送人の責任		海上物品運送人の責任について講義する。	
	この回の到達目標	海上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第9章 海上物品運送人の責任」を読み、海上物品運送人の責任制度の概要とその特殊性について把握し、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	海上物品運送人の責任について、自分なりにまとめ、どのような特殊性があるのかなども確認しておく。		120分
11	海上物品運送人の責任制限と免責		海上物品運送人の責任制限と免責について講義する。	
	この回の到達目標	海上物品運送人の責任制限と免責に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第10章 海上物品運送人の責任制限と免責」を読み、他の運送人との違い等について把握し、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	海上物品運送人の責任制限と免責に関する他の法的問題について確認しておく。		120分
12	海上旅客運送契約		海上旅客運送契約の概要及び海上旅客運送人の責任について講義する。	
	この回の到達目標	海上旅客運送契約に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	教科書の「第11章 海上旅客運送契約」を読み、海上旅客運送契約と物品運送契約との違い等を意識しながら、旅客運送契約について把握し、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	海上旅客運送人の責任が問題となるような事例を調べて、自分なりにまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	船舶の衝突		船舶衝突法制について海事公法及び海事私法の両方について講義する。
	この回の到達目標	船舶衝突に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第12章 船舶の衝突」を読み、船舶衝突法制について把握し、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	船舶衝突法制には海事私法のほか、その過失判断に関連して各種海事公法が定められていることから、それについて自分なりにまとめておく。	120分
14	海難救助・共同海損		海商法上の特殊な制度として位置づけられている海難救助及び共同海損について講義する。
	この回の到達目標	海難救助及び共同海損に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第13章 海難救助・共同海損」を読み、海商法上特有の制度であると位置づけられる海難救助料請求債権や共同海損の分担の計算等についてレジュメを作成する。	120分
	事後学修	海難救助や共同海損ではどのような法的問題があるのかなどについて自分なりに調べておく。	120分
15	船舶先取特権・船舶抵当権		民法上の先取特権や抵当権とは異なり、海商法においては船舶先取特権や船舶抵当権が存在しており、その概要について講義する。
	この回の到達目標	船舶先取特権及び船舶抵当権について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第14章 船舶先取特権・船舶抵当権」を読み、船舶に特有の各担保物権がどのような効力を有するのかなどを調べて、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	船舶先取特権や船舶抵当権が問題となるような事例にはどのようなものがあるのかについて自分なりに調べてまとめる。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅳ(商法)B	担当者	南 健悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
この講義では、運送法の特殊形態である海上運送に関する法的問題について取り扱う。商法と呼ばれる分野のうち、運送法に関する部分について、平成30年に商法制定以来の大改正が行われ、陸上運送・航空運送・海上運送に関する規定の現代化が行われた。この講義は、運送営業のうち海上運送に特化して、その特殊性や実態等について、文献や判例を素材に学習するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、運送法のうち海上運送に関する法的問題や法理論の修得を目的とする。運送法と呼ばれる分野でも海上運送については、その特殊性から、実務的な議論も少なくないことから理解が難しく、この講義では、海上運送関連法令の基本を修得するとともに、船舶が関係する法的諸問題について受講生が説明できることを目標とする。

【履修条件】
商法Ⅴ(運送法)を(同時に・既に)受講していることが望ましいが、特に条件を求めない。

【授業方法】
受講生が指定した教科書と商法判例百選で扱われている海上運送に関する裁判例及び同百選で紹介されている裁判例以外の近時の海上運送法に関する裁判例を読み込み、30分程度プレゼンテーションを行ったうえで、質疑応答を行う演習形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	この講義は、すべての受講生が指定教科書及び裁判例を読んできたうえで、演習形式で行われ、受講生との対話・質疑応答により、理解や知識を深めていく方法で行われる。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	海上運送法の全体構造を把握し、その特質について識別することができる。					3			3				
②	海上運送法制に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を調査し、その内容について、その概要を説明することができる。								3				
③	海上運送法制に関する法的問題の主要な論点に関する学説・判例を踏まえたうえで、その論点について自分の意見を述べることができる。								3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業の最後に課すレポートにより、到達目標①に関わる知識が身についているかを確認する。	50										50
討論・発表等	毎回の授業におけるレジュメの作成や報告において、到達目標③が身についているかを評価する。			30								30
授業への参画度	毎回の授業における質疑応答において到達目標②が身についているかを評価する。		20									20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルサイト等を通じて、または講義中に課題に対するフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本講義現代海商法（第3版）	箱井崇史	成文堂	2018年	教科書	必携
商法判例百選	神作裕之ほか	有斐閣	2019年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 5 限を設定するが、事前にアポイントメントがあれば、随時受け付ける。minami.kengo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	海商法の総復習		前期の海商法の全体像を総復習して、海上運送法の特殊性等について講義する。
	この回の到達目標	海商法の全体に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	前期15回分を振り返り、ノートやレジュメなどを確認しておく。	120分
	事後学修	講義で配布された海上運送関連訴訟に一通り目を通しておく。	120分
2	船舶所有者の責任に関する訴訟		船舶所有者の責任に関する裁判例を検討する。
	この回の到達目標	船舶所有者の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	船舶所有者の責任に関する最判昭和48年2月16日民集27巻1号132頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、船舶所有者の責任についてまとめる。	120分
3	船主責任制限制度に関連する訴訟		船主責任制限制度に関する裁判例を検討する。
	この回の到達目標	船主責任制度の訴訟に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	船主責任制限の対象となる債権の範囲が争われた最判昭和60年4月26日民集39巻3号899頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、船主責任制限制度についてまとめる。	120分
4	定期傭船者と衝突責任に関する訴訟		定期傭船者の衝突責任に関する裁判例を検討する。
	この回の到達目標	定期傭船者と衝突責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	定期傭船者の衝突責任が争われた最判平成4年4月28日判時1421号122頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、定期傭船者の衝突責任についてまとめる。	120分
5	定期傭船された船舶の船長が発行した船荷証券に関する訴訟		定期傭船された船舶の船長が発行した船荷証券について裁判例を素材に検討する。
	この回の到達目標	定期傭船船舶の船長の船荷証券の発行に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	定期傭船船舶の船長が発行した船荷証券に関する最判平成10年3月27日民集52巻2号527頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、定期傭船船舶の船長が発行した船荷証券についてまとめる。	120分
6	海陸相次運送に関する訴訟		海陸相次運送の概要とそれが争われた裁判例について検討する。
	この回の到達目標	海陸相次運送に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べることができるようになる。	
	事前学修	海陸相次運送に適用される法律が争われた大判明治44年9月28日民録17輯535頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、海陸相次運送についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	堪航能力担保義務に関する訴訟		堪航能力担保義務に関する裁判例について検討する。	
	この回の到達目標	堪航能力と国際海上物品運送人の責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	国際海上物品運送人の堪航能力担保義務について争われた東京地判平成22年2月16日判タ1327号232頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめて、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、堪航能力担保義務についてまとめる。		120分
8	船荷証券上の記載の意味に関する訴訟		外観上良好に船積された旨の船荷証券上の記載について検討する。	
	この回の到達目標	船荷証券上の記載に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	船荷証券上の記載の意味が争われた最判昭和48年4月19日民集27巻3号527頁と判例評釈を読み、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、船荷証券上の記載についてまとめる。		120分
9	国際取引と譲渡担保に関する訴訟		海上運送が関連する国際取引とその譲渡担保との関係について検討する。	
	この回の到達目標	国際取引と譲渡担保の効力に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	海上運送が関係する国際取引が問題となった最判平成29年5月10日民集71巻5号789頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめて、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、海上運送が関係する国際取引法分野の問題についてまとめる。		120分
10	双方過失の船舶衝突に関する訴訟		双方過失によって生じた船舶の衝突の損害賠償責任について検討する。	
	この回の到達目標	双方過失による船舶衝突事故の損害賠償責任に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	双方過失による船舶衝突により生じた損害賠償責任が争われた東京地判昭和40年7月20日判時426号41頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、船舶衝突に関する法的問題についてまとめる。		120分
11	双方過失による船舶衝突と積荷損害		双方過失による船舶衝突によって生じた積荷損害について検討する。	
	この回の到達目標	船舶衝突と積荷損害の関係に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	双方過失による船舶衝突によって生じた積荷損害について争われた大判明治44年11月6日民録17輯627頁を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	講義で出た質問を踏まえ、船舶衝突によって生じた積荷損害に対する責任についてまとめる。		120分
12	海難救助における海難の意義に関する訴訟		海難救助法制がどのようになっているのか、海難救助における海難とは何かについて検討する。	
	この回の到達目標	海難救助におけるカンナン委の意義に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。		
	事前学修	海難救助が争われた大判昭和11年3月28日民集15巻565頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。		120分
	事後学修	講義で出た質問を踏まえ、海難救助法制がどのようになっているのかについてまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	曳船行為と海難救助に関する訴訟	曳船行為中に海難に遭遇した場合に、海難救助はどうなるのかについて検討する。	
	この回の到達目標	曳船行為中の海難救助に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	曳船行為中に海難に遭遇した場合、船舶を救助したときに海難救助が成立するかについて争われた最判昭和49年28巻6号1331頁と判例評釈を読んで、事実・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、曳船行為中の海難救助についてまとめる。	120分
14	船舶先取特権を生ずる債権の範囲に関する訴訟	船舶先取特権がどの範囲で認められるかなどについて検討する。	
	この回の到達目標	船舶先取特権の成立範囲について、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	船舶先取特権の成立範囲が争われた最判昭和59年3月27日判時1116号133頁と判例評釈を読んで、事実・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、船舶先取特権の成立範囲についてまとめる。	120分
15	船舶先取特権と民法上の先取特権の関係に関する訴訟	船舶先取特権と民法上の先取特権の関係について検討する。	
	この回の到達目標	船舶先取特権と民法上の先取特権との関係に関して、到達目標①についてはその内容を識別し、到達目標②についてはそれを簡潔に説明し、到達目標③についてはこれに関して自分の意見を述べるができるようになる。	
	事前学修	船舶賃貸借がなされていた場合の船舶先取特権と民法上の先取特権の関係が争われた最判平成14年2月5日判時1787号157頁と判例評釈を読んで、事実・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。	120分
	事後学修	講義で出た質問をふまえ、船舶先取特権と民法上の先取特権の関係についてまとめる。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅴ（不動産登記法）	担当者	堀江 泰夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
「不動産の現況と権利関係を登記簿に記録して公示する制度」である不動産登記について、登記簿の概要、登記業務を行う官庁である登記所と登記官、実際の登記申請方法等を具体的な素材（登記簿謄本、登記記録例、申請情報・添付情報等）を用いて講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
不動産物権変動の対抗要件である不動産登記（民法177条）について、不動産登記法の基礎理論及び基礎知識の習得を目的とする。不動産登記法は、司法書士はもとより、弁護士、企業法務等の法律実務にとっても重要である。法曹・準法曹（司法書士等）及び企業法務等の法律関連業務へ進んだ場合に、また一般企業・官庁へ進んだ場合にも役立つ不動産登記の知識・能力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，4，8

【履修条件】
・民法の物権・担保物権の基本を理解していることが前提。

【授業方法】
・毎回レジュメ・資料を配布して講義を行う。六法必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法の特別法（手続法）である不動産登記法の特徴を理解したうえで、不動産登記法の概略を説明することができる。					3			3				3
②	不動産登記法は、不動産の物権変動を登記簿に反映するために、どのような手続をとっているかを理解し、手続の概略を説明することができる。					3			3				3
③						3			3				3
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	最終講義内で提出された課題レポートが、書式等の要件を満たしたうえで、課題に適切に答える内容となっているかを基準に、到達目標①②に関わる説明ができるようになっているかを評価する。	20	20									40
討論・発表等												
授業への参画度	授業中の質問・意見表明・聴講態度を基準に到達目標①②に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。	30	30									60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムを利用して、レポートの講評・解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
集中講義 不動産登記法 [第3版補訂版]	齋藤隆夫	成文堂	2019	参考書	任意
法務六法2021 令和3年版	判例六法編修委員会〔編〕	三省堂	2020	その他	任意
詳細 登記六法 2021年版	山野目 章夫 他	きんざい	2020	その他	任意
備考	適宜レジュメ・参考資料を配布して講義を行う。				

【オフィスアワー】
メールにより授業内容に関する質問・相談を随時受け付ける。質問・相談は、授業内容以外の司法書士、企業法務等に関するものも可。 e-mail:horiey@r2.dion.ne.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	司法書士登録後16年。企業法務経験31年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		・不動産登記法の基礎について、実務と関連させながら、また常に最新的话题を提供して授業を進めていく（講師は組織内司法書士として、企業法務部門に長年勤務している）。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】【登記法とは何か】	不動産登記法・商業登記法等、登記法の全体像と当該業務を行う法務局（登記所）等の組織について説明する。	
	この回の到達目標	不動産登記法・商業登記法等、登記法の全体像を理解すること。	
	事前学修	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ＞業務のご案内）。 (http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html)	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
2	不動産登記制度の概要	不動産登記制度概要－登記簿、登記所、登記官等	
	この回の到達目標	不動産登記制度の概要（登記簿、登記所、登記官等）を理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
3	登記の種類及び順位	不動産登記法総論（１）－登記の種類・登記の順位	
	この回の到達目標	不動産登記にはどのような種類があるか、優劣の順位はどのように定まるかを理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
4	申請原則と申請方法	不動産登記法総論（２）－共同申請の原則、登記の申請方法・処理①	
	この回の到達目標	不動産登記の申請原則と申請方法について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
5	申請方法とその後の処理	不動産登記法総論（２）－共同申請の原則、登記の申請方法・処理②	
	この回の到達目標	不動産登記の申請方法とその後の登記所内での処理について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
6	登記申請書（申請情報）	不動産登記法総論（３）－登記申請書（申請情報）	
	この回の到達目標	登記申請書の記載内容について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	登記原因証明情報及び登記識別情報		不動産登記法総論（４）－添付情報①（登記原因証明情報、登記識別情報）
	この回の到達目標	登記申請に必要な登記原因証明情報と登記識別情報について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
8	印鑑証明書と住所証明書等		商不動産登記法総論（５）－添付情報②（印鑑証明書、その他の添付情報）
	この回の到達目標	印鑑証明書、住所証明書、委任状等について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
9	権利の登記の各種類		不動産登記法総論（６）－権利に関する登記の手續上の分類（移転登記、変更・更正登記、抹消登記）
	この回の到達目標	権利の登記について、各種の類型について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
10	所有権保存登記		不動産登記法各論（１）－所有権に関する登記①（所有権保存）
	この回の到達目標	所有権保存登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
11	所有権移転登記		不動産登記法各論（２）－所有権に関する登記②（所有権移転）
	この回の到達目標	所有権移転登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
12	抵当権設定登記		不動産登記法各論（３）－抵当権等に関する登記①
	この回の到達目標	抵当権に関する登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	根抵当権設定登記	不動産登記法各論（４）－抵当権等に関する登記②	
	この回の到達目標	根抵当権に関する登記について理解すること。	
	事前学修	・ 事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
14	相続登記	不動産登記法各論（５）－単独申請の登記（相続登記）	
	この回の到達目標	単独申請である相続登記について理解すること。	
	事前学修	・ 事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分
15	その他単独申請の登記（判決による登記、抵当権等抹消登記等）	不動産登記法各論（６）－単独申請の登記（判決による登記、抵当権等抹消登記等）	
	この回の到達目標	単独申請である判決による登記、抵当権等抹消登記について理解すること。	
	事前学修	・ 事前に教科書の講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。	40分

科目名	民法法特殊講義Ⅵ(商業登記法)	担当者	堀江 泰夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
商業登記制度は、取引の安全等のために「会社について、一定事項を登記簿に記録して公示する制度」である。会社のうち株式会社について、登記簿の概要、登記申請方法等を具体的な素材（登記簿謄本、登記記録例、申請書・添付書類）を用いて講義する。その他、司法書士業務である供託、債権譲渡登記及び動産譲渡登記についても簡単に解説する。なお、最終講義で企業法務業務と契約業務の概要を説明する予定である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
・商業登記法は、司法書士はもとより、弁護士、企業法務等の法律実務にとっても重要である。本講義では、実体法である商法・会社法の理解を深めるために最低限必要となる商業登記（株式会社に限定）の基礎理論及び基礎知識の習得を目的とする。 ・法曹・準法曹（司法書士等）及び企業法務等の法律関連業務へ進んだ場合に、また一般企業・官庁へ進んだ場合に役立つ商業登記の知識・能力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，4，8

【履修条件】
・商法・会社法の基本を理解していることが前提。

【授業方法】
・配布するレジュメ・資料をもとに講義を行う。六法必携。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	商法・会社法等の特別法（手続法）である商業登記法の特徴を理解したうえで、商業登記法の概略を説明することができる。				3			3				3
②	商業登記法は、企業の情報を公示することにより取引の安全と円滑に資することを目的とするが、そのためにどのような手続をとっているかを理解し、手続の概略を説明することができる。				3			3				3
③					3			3				3
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】			到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)													
小テスト等													
レポート等	最終講義までに提出された課題レポートが、書式等の要件を満たしたうえで、課題に適切に答える内容となっているかを基準に、到達目標①②に関わる説明ができるようになっているかを評価する。		20	20									40
討論・発表等													
授業への参画度	授業中の質問・意見表明・聴講態度を基準に到達目標①②に関わる積極的な学習態度が身についているかを評価する。		30	30									60
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)			50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】	
講義最終日に又は後日ポータルシステムを利用して、レポートの講評・解説を行う。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
商業登記ハンドブック〔第3版〕	松井 信憲	商事法務	2015	参考書	任意
法務六法2021 令和3年版	判例六法編修委員会〔編〕	三省堂	2021	その他	任意
詳細 登記六法 2021年版	山野目 章夫他	きんざい	2021	その他	任意
備考	・教科書は使用しない。レジュメ・資料を配布して講義を行う。				

【オフィスアワー】	
メールにより授業内容に関する質問・相談を随時受け付ける。質問・相談は、授業内容以外の司法書士、企業法務等に関するものも可。 e-mail:horiey@r2.dion.ne.jp	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	司法書士登録後16年。企業法務経験31年。
実務経験に基づく実践的教育の内容		・商業登記法の基礎について、実務と関連させながら、また常に最新的话题を提供して授業を進めていく（講師は組織内司法書士として、企業法務部門に長年勤務している）。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	会社法と商業登記法の関係		会社法と商業登記法の関係について全体像を説明する。	
	この回の到達目標	会社法と商業登記法の全体像を理解すること。		
	事前学修	・ 法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ＞業務のご案内）。 (http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html)		60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを復習すること。		40分
2	商業登記制度の概要		商業登記法総論（１）①商業登記制度とは ②登記所・登記官・登記簿	
	この回の到達目標	商業登記制度の概要（登記簿、登記所・登記官）を理解すること。		
	事前学修	・ 事前に商法及び会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。		60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを復習すること。		40分
3	登記申請手続概論		商業登記法総論（２）①登記申請手続概論 ②印鑑届出制度・商業登記電子証明書	
	この回の到達目標	登記申請手続の概要について理解すること。		
	事前学修	・ 事前に商法及び会社法の教科書で、講義該当部分を読んでおくこと。		60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを復習すること。		40分
4	株式会社設立登記		商業登記法各論―株式会社の設立の登記（１）	
	この回の到達目標	株式会社設立登記の概要を理解すること。		
	事前学修	・ 事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。		60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを復習すること。		40分
5	株式会社設立登記		商業登記法各論―株式会社の設立の登記（２）	
	この回の到達目標	株式会社設立登記の概要を理解すること。		
	事前学修	・ 事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。		60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを復習すること。		40分
6	商号変更・目的変更・公告方法の変更登記		商業登記法各論一定款記載事項と登記（１）①商号変更 ②目的変更 ③公告方法の変更	
	この回の到達目標	商号変更、目的変更、公告方法の変更登記について理解すること。		
	事前学修	・ 事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。		60分
	事後学修	・ 授業において配布するレジュメを復習すること。		40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	本店移転登記	商業登記法各論―定款記載事項と登記（２）本店移転	
	この回の到達目標	本店移転の登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
8	役員変更登記	商業登記法各論―役員に関する登記（１）	
	この回の到達目標	役員変更登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
9	役員変更登記	商業登記法各論―役員に関する登記（２）	
	この回の到達目標	役員変更登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
10	募集株式の発行登記手続	商業登記法各論―増資（募集株式発行）の登記	
	この回の到達目標	募集株式の発行手続と登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
11	資本減少の登記手続	商業登記法各論―減資（資本減少）の登記	
	この回の到達目標	資本減少の手続と登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
12	吸収合併の登記手続	商業登記法各論―吸収合併に関する登記	
	この回の到達目標	吸収合併の手続と登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	新設合併の登記手続	商業登記法各論―新設合併に関する登記	
	この回の到達目標	新設合併の手続と登記について理解すること。	
	事前学修	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
14	供託法、動産譲渡登記、債権譲渡登記	供託法、動産譲渡登記（法人がする動産の譲渡について登記によって公示）、債権譲渡登記（法人の行う債権譲渡のための簡便な対抗要件制度）	
	この回の到達目標	供託法、動産譲渡登記、債権譲渡登記の各手続について理解すること。	
	事前学修	・民法の教科書で、供託及び動産・債権譲渡登記について読んでおくこと。	60分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	40分
15	企業法務・契約	企業法務概論・契約講義	
	この回の到達目標	企業法務全般と契約業務について理解すること。	
	事前学修	・特になし。	0分
	事後学修	・授業において配布するレジュメを復習すること。	60分

科目名	民事法特殊講義Ⅶ(民事手続法)A	担当者	中西 茂	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な論点について一定の時間をかけ、多くの平易な事例を用いて議論、検討、説明等を行う。講義は、初学者にも理解できるようにできるだけ噛み砕いた内容にしたいと考えている。授業の中で、学生からの質問に対して丁寧に説明を行い、授業内容を発展させたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
訴訟の実際を踏まえつつ、民事訴訟の基本的な事項についての理解及び応用力を養成することを目的とする。具体的な事例の中で、これらの法理が、どのように働くのかを受講生が説明できることを目標とする。 なお、講義資料はできるだけ理解しやすいものにして、学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的に講義形式をとるが、できるだけ多くの具体的な事例問題に基づき議論、起案等を行う。レポートの提出等は求めないが、事前にレジュメを読み込んでおくことが予定されている。授業の中で起案を行う場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例や設問を適宜出題し、議論や起案を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事裁判手続の概括的な流れを理解し、説明することができる。【知識】 【態度・習慣】				3			3				3
②	民事裁判の実際を知り、民訴法が適正な紛争解決にどのように機能しているかを理解し、議論ができる。【態度・習慣】 【倫理観】				3			3				3
③	民事裁判の基本構造や原理（処分権主義、弁論主義、既判力等）を理解し、具体的事例の結論を導き出すことができる。【知識】 【技能】				3			3				3
④	具体的事例について検討した法律上の論点や結論とその理由を、簡潔で分かりやすく説明し、文章にまとめることができる。【技能】				3			3				3
⑤	学習した知識を使って、具体的事例について、民事手続上の問題点を抽出し、説明し、議論ができる。【態度・習慣】 【技能】				3			3				3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	議論に参加し、自己の意見を明瞭、的確に述べる事ができたか、簡潔で分かりやすい文章を作成できたか等の評価する。				10	20						30
授業への参画度	十分な予習をして、到達目標①から⑦までに関わる学習に取り組み、授業において積極的に発言したか、発言内容は適正なものであったか等の評価する。起案をさせる場合は、その評価も含める。	10	10	50								70
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	50	10	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
起案は解説をした上、添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる民事訴訟法	和田吉弘	商事法務	2012	参考書	推奨
民事訴訟法判例百選 [第5版]	高橋宏志ほか編	有斐閣	2015	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日14:00～15:30 研究室 (13号館5階1355号)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	裁判官（東京高裁、東京地裁等）として裁判実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を活かし、裁判実務の実態を説明しながら、民事訴訟の理論とその実際について理解できるような授業をしていきたい。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	民事訴訟のイメージ（訴えの提起から判決までの流れ）（１）		典型的な民事訴訟事件（貸金返還訴訟）の提示、一連の手続の流れ（１） 訴訟物、請求の趣旨、訴えと請求、「口頭弁論終結日」の重要性
	この回の到達目標	裁判手続の概括的流程を理解する。 訴訟物、請求の趣旨、請求の意味と実際の訴訟での機能、役割を理解し、説明ができるようになる。 口頭弁論終結の意義を理解する。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
2	民事訴訟のイメージ（訴えの提起から判決までの流れ）（２）		典型的な民事訴訟事件（貸金返還訴訟）の提示、一連の手続の流れ（２） 主張立証責任の概要、法律要件分類説、請求原因、抗弁などの意味、本証と反証、管轄
	この回の到達目標	裁判手続の概括的流程を理解する。 主張立証責任を理解し、簡単な事例に関して説明ができるようになる。 請求原因、抗弁などの意味と働きを理解する。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
3	当事者の確定、当事者能力、訴訟能力、当事者適格、法定代理人（１）		人違いと被告の確定 当事者能力（権利能力なき社団等）
	この回の到達目標	当事者の確定の必要性と方法を理解する。 当事者能力を理解し、具体的な事例で説明ができるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
4	当事者の確定、当事者能力、訴訟能力、当事者適格、法定代理人（２）		訴訟能力（未成年者や意思能力を欠く者の訴訟行為） 当事者適格（給付訴訟、確認訴訟、形成訴訟） 法定代理の制度
	この回の到達目標	訴訟能力及びこれを欠く場合の訴訟遂行の方法（法定代理人の制度）を理解する。 当事者適格を理解し、各訴訟類型ごとに説明ができるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
5	訴訟要件、訴えの利益（１）		訴訟要件の類型と職権調査・職権探知 抗弁事項、本案前の抗弁
	この回の到達目標	訴訟要件の意義とその審理を理解する。 被告の応訴としての抗弁を理解する。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
6	訴訟要件、訴えの利益（２）		訴えの利益（特に確認の利益）
	この回の到達目標	訴えの利益（特に確認の利益）について、具体的な事例をもとに理解し、説明ができるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	重複起訴の禁止		重複起訴の判断基準・機能 重複起訴と反訴 重複起訴と相殺の抗弁
	この回の到達目標	重複起訴禁止の意義、趣旨、機能を理解する。 重複起訴と反訴、相殺等との関係を理解する。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
8	処分権主義と弁論主義（１）		処分権主義の意味と内容 弁論主義の第１～第３テーゼの内容と民訴法１７９条
	この回の到達目標	処分権主義の意味と内容を理解する。 弁論主義の第１～第３テーゼを理解し、具体的事例を用いて説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
9	処分権主義と弁論主義（２）		弁論主義の機能 弁論主義と裁判所の釈明権・釈明義務、消極的釈明と積極的釈明
	この回の到達目標	具体的事例における弁論主義の機能、特に裁判所の釈明権と釈明義務について理解する。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
10	既判力（１）		既判力の客観的範囲 訴訟物と既判力 既判力の消極的作用と積極的作用
	この回の到達目標	既判力の意味を理解する。 既判力の客観的範囲について、訴訟物との関係も含めて、具体的に説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
11	既判力（２）		具体的事例における既判力の作用（訴訟物の同一性、先決関係、矛盾関係） 相殺と既判力
	この回の到達目標	具体的事例における既判力の作用を説明できるようになる。 相殺と既判力の関係を理解する。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
12	既判力（３）		既判力の主観的範囲
	この回の到達目標	民訴法１１５条１項各号について、事例を挙げて説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	証明と証拠（１）		証明と疎明 本証と反証 法律上の推定と事実上の推定 暫定真実
	この回の到達目標	証明の意味について理解する。 本証と反証を具体的に説明できるようになる。 法律上の推定と事実上の推定を理解し、具体的事例を挙げて説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
14	証明と証拠（２）		文書の証拠調べ 書証の成立、形式的証拠力と実質的証拠力 具体的事例における二段の推定
	この回の到達目標	文書の証拠調べの実際と役割を理解し、説明できるようになる。 書証の成立を理解する。 二段の推定を理解し、具体的事例で説明できるようになる。	
	事前学修	レジュメ、参考書等を読み、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ、参考書等に基づき、授業内容を復習すること。	120分
15	まとめ		民事裁判の一連の流れの中で、１回から１４回までのまとめを行う。
	この回の到達目標	民事裁判の一連の流れの中でどのように機能しているかを理解する。	
	事前学修	これまでの学習を振り返り、授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。	120分
	事後学修	授業内容を復習し、理解が不足している箇所は、参考書等を用いて学習を深めること。	120分

科目名	民事法特殊講義Ⅶ(民事手続法)B	担当者	中西 茂	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○			○				○

【授業の概要】
民事訴訟法の基本的な論点について一定の時間をかけ、多くの平易な事例を用いて議論、検討、説明等を行う。講義は、初学者にも理解できるようにできるだけ噛み砕いた内容にしたいと考えている。授業の中で、学生からの質問に対して丁寧に説明を行い、授業内容を発展をさせたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
訴訟の実際を踏まえつつ、民事訴訟の基本的な事項についての理解及び応用力を養成することを目的とする。 具体的な事例の中で、これらの法理がどのように働くのかを受講生が説明できることを目標とする。 なお、講義資料はできるだけ理解しやすいものにして、学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
基本的に講義形式をとるが、できるだけ多くの具体的な事例問題に基づき議論，起案等を行う。レポートの提出等は求めないが，事前にレジュメを読み込んでくることが予定されている。授業の中で起案を行う場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	簡単な事例や設問を適宜出題し，議論や起案を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民事裁判手続の概括的な流れを理解し、説明することができる。【知識】【態度・習慣】				3			3				3
②	民事裁判の実際を知り、民訴法が適正な紛争解決にどのように機能しているかを理解し、議論ができる。【態度・習慣】【倫理観】				3			3				3
③	民事訴訟の基本的構造や原理（共同訴訟、参加、和解等）を理解し、具体的事例の結論を導き出すことができる。【知識】【技能】				3			3				3
④	具体的事例について検討した法律上の論点や結論とその理由を、簡潔で分かりやすく説明し、文章にまとめることができる。				3			3				3
⑤	学習した知識を使って、具体的事例について、民訴手続上の問題点を抽出し、説明し、議論ができる。【態度・習慣】【技能】				3			3				3
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	議論に参加し，自己の意見を明瞭，的確に述べる事ができたか、簡潔でわかりやすい文章を作成できたか等				10	10						20
授業への参画度	十分な予習をして，到達目標に関わる学習に取り組み，授業において積極的に発言したか，発言内容は適正なものであったか等	10	10	50								70
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	50	10	10						90

【課題に対するフィードバックの方法】
起案は解説した上，添削して返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基礎からわかる民事訴訟法	和田吉弘	商事法務	2012	参考書	推奨
民事訴訟法判例百選〔第5版〕	高橋宏志ほか編	有斐閣	2015	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日 16時20分～18時

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		裁判官（東京高裁，東京地裁等）として，民事事件を中心に裁判実務に従事した。 裁判実務の経験を活かし，裁判の実際を紹介しながら，具体的な事例を使って説明・議論をして，民事訴訟法の論点についての理解が進むようにしていきたい。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	一部請求（１）		一部請求の意義 明示的一部請求，一部請求と外側説，一部請求の既判力，後遺症の発生と既判力	
	この回の到達目標	一部請求の意義を理解し，その機能や問題点を説明することができる。外側説の概要を説明することができ，具体的な事例の中で結論を導き出すことができる。一部請求の既判力について，後遺症との関係で，その問題点を議論できる。		
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。		120分
2	一部請求（２）		一部請求に対する相殺と既判力	
	この回の到達目標	一部請求に対する相殺の抗弁に関する諸問題を説明することができ，具体的事例の中での確な議論ができる。		
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。		120分
3	請求の客観的併合，訴えの変更		請求の客観的併合，単純併合，予備的併合，選択的併合，訴えの変更の要件	
	この回の到達目標	請求の併合等から生じる特有の問題について理解し，説明することができる。また，これらの論点について，具体的な事例の中で議論することができる。		
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。		120分
4	反訴，中間確認の訴え，中間判決		反訴の要件，予備的反訴，中間確認と中間判決の異同	
	この回の到達目標	反訴，中間判決，中間確認の訴え等の異同，要件，機能について，的確な説明をすることができる。		
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。		120分
5	共同訴訟（１）		通常共同訴訟と共同訴訟人独立の原則，共同訴訟人と主張共通の原則，主観的予備的併合，同時審判の申出	
	この回の到達目標	共同訴訟における基本原則や機能を理解し，説明することができる。		
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。		120分
6	共同訴訟（２）		固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟，必要的共同訴訟における当事者の訴訟行為の効果	
	この回の到達目標	具体的な事例の中で，共同訴訟の特有な論点について議論することができる。		
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。		120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	参加（１）	共同訴訟参加，訴えの主観的追加的併合	
	この回の到達目標	共同訴訟参加等の要件，機能について説明することができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
8	参加（２）	補助参加，訴訟告知，参加的効力，独立当事者参加の要件・具体例	
	この回の到達目標	補助参加及び独立当事者参加の要件，問題点等を具体的な事例の中で議論することができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
9	訴訟承継（１）	当然承継と特定承継，訴訟承継主義	
	この回の到達目標	訴訟承継の種類，基本原則等について理解し，説明することができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
10	訴訟承継（２）	承継の基準，紛争の主体たる地位の承継と具体的事案	
	この回の到達目標	訴訟承継に関する著名事件を教材として多角的に検討し，議論することができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
11	裁判によらない訴訟の完結（１）	取下げ，請求の放棄・認諾	
	この回の到達目標	判決以外による紛争解決手段の実際を知り，その社会的機能について説明することができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
12	裁判によらない訴訟の完結（２）	和解の既判力，和解の無効	
	この回の到達目標	和解の瑕疵，効力等について，判例等の事例に基づいて議論することができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	上訴（１）	確定遮断効と移審，附帯控訴，上訴不可分の原則，上訴の利益	
	この回の到達目標	上訴制度の意義，機能，基本原則等について説明することができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
14	上訴（２）	控訴棄却，取消し，自判・差戻し，不利益変更の禁止，上告	
	この回の到達目標	上訴から生じる問題点について，具体的事例の中で議論し，結論を導き出すことができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。	120分
15	総復習	重要論点の確認・復習	
	この回の到達目標	これまでの学習内容を踏まえ，重要論点について議論し，自己の意見を述べることができる。	
	事前学修	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。	120分
	事後学修	授業を踏まえた総復習をすること。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する(ポータルサイト)。 なおオンライン講義実施の場合には、毎回Googleclassroom上で出席を確認するとともに、中間レポート・期末レポートを実施致します(詳細につきましては、初回講義時にご案内いたします)。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び開設を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『新ハイブリッド民法Ⅰ 民法総則』	小野秀誠、良永和隆 他3名	法律文化社	2018年	教科書	必携
『民法判例百選Ⅰ 総則・物権[第8版]』	潮見佳男・道垣内弘 人編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日 12：10～13：00 研究室(4号館3階431研究室)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス、民法の体系と概要		民法の体系を概観し、私法の一般法・民法の体系・民法の各編の概要と関係について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の体系について簡単に説明することができる。	
	事前学修	教科書序「民法を学ぶあたって 民法の体系の概観」を読んで、民法の体系について内容を確認しておく。	120分
	事後学修	民法の各編の概要についてまとめ、各編の関係についてノートにまとめておく。	120分
2	民法の法源		民法の法源：民法典、民法の特別法、民法の口語化、慣習法・判例法・条理、民法の解釈：解釈基準、民法の効力について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の解釈基準の基礎的な考え方について説明し、簡単な文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法の法源、民法の解釈、民法の効力」を読んで、慣習法・判例法・条理の違いについてまとめておく。	120分
	事後学修	講義中に示された判例の事案と判旨をまとめ、民法の解釈基準についての考え方をノートにまとめておく。	120分
3	民法上の権利		民法上の権利：権利の体系、私権の種類、私権の行使・信義則・権利の濫用の禁止、民法の指導原理と効力：民法の基本原則・指導原理、民法1条について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法における権利の種類について説明することができる。	
	事前学修	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法上の権利、民法の指導原理と効力」を読んで、民法の基本原則と指導原理についてまとめておく。	120分
	事後学修	私権の種類についてノートにまとめ、民法1条の基本的な考え方について整理しておく。	120分
4	民法における能力		権利能力：権利能力の意義、権利能力の始期、胎児、権利能力の終期、意思能力と行為能力(制限行為能力者制度)：意思能力、制限行為能力者制度、未成年者について解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法における能力の種類につき説明し、文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第2章人「権利能力、意思能力と行為能力(意思能力、制限行為能力者制度の意義と行為能力、未成年者)を読んで、権利能力・意思能力・行為能力の違いについてまとめておく。	120分
	事後学修	未成年者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
5	意思能力と行為能力		意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)を解説する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思能力と行為能力の違いについて文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第2章人「意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)を読んで、成年後見制度についてまとめておく。	120分
	事後学修	高齢者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
6	失踪宣告		住所：住所、居所・仮住所、不在者の財産管理、失踪宣告：失踪宣告の意義・失踪宣告の要件・失踪宣告の効果・失踪宣告の取消しと遡及効について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、住所、居所・仮住所、失踪宣告などについて説明することができる。	
	事前学修	教科書第2章人「住所、不在者の財産管理、失踪宣告」を読んで、失踪宣告の手続きについてまとめておく。	120分
	事後学修	失踪宣告が必要とされる場面について整理をし、簡単な説明ができるようにまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法律行為		法律行為の意義：法律行為の意味、法律行為の分類、法律行為の成立、準法律行為、法律行為の解釈：当事者の真意の探求と信義則、事実たる慣習、任意法規について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の法的考え方について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第5章法律行為「法律行為の意義、法律行為の解釈」を読んで、法律行為とは何かについて考えてみる。		120分
	事後学修	法律行為の意味、法律行為の分類についてノートにまとめ、具体的な事例にどのようなものがあるかについて考える。		120分
8	公序良俗		法律行為の限界－強行規定および公序良俗：法律行為の限界、公序良俗、公序良俗の分類、強行規定、取締規定、脱法行為について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、公序良俗の考え方について説明し、事例をあげることができる		
	事前学修	教科書第5章法律行為「法律行為の限界－強行規定および公序良俗」を読んで、強行規定と任意法規の違いについて考えてみる。		120分
	事後学修	公序良俗が適用される具体的な場面について、教科書を復習しつつノートにまとめる。		120分
9	意思表示		意思表示の意義と構造：意思表示とは何か、意思の不存在と瑕疵ある意思表示を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の不存在と瑕疵ある意思表示の違いについて具体的な事例を挙げながら説明することができる、		
	事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の意義と構造、意思表示の意義」を読んで、意思表示の構造について内容を確認する。		120分
	事後学修	意思表示の基本的な考え方について整理するとともに、具体的な事例をあげて基礎的な説明ができるようにしておく。		120分
10	心裡留保、虚偽表示		意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、心裡留保と虚偽表示について具体的な事例をあげながら説明することができる。		
	事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示」を読んで、心裡留保と虚偽表示の違いについて考えてみる。		120分
	事後学修	心裡留保と虚偽表示の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく。		120分
11	錯誤・脅迫		意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤・詐欺・脅迫について具体的な事例をあげながら説明することができる。		
	事前学修	教科書第6章「意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫」を読んで、詐欺と強迫の違いについて整理する。		120分
	事後学修	詐欺と強迫の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく。		120分
12	意思表示の効力		意思表示の効力発生時期：問題点、問題へのアプローチ、民法が採用する考え方、表意者の死亡・意思能力の喪失・行為能力の制限、意思表示の受領能力について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示の効力発生時期について具体的に文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第6章意思表示「意思表示の効力発生時期」を読んで、何が問題となっているのかについて整理する。		120分
	事後学修	意思表示の効力発生時期について、具体的な場面を想定して、その解決方法を整理しておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	前半講義まとめ	第1回講義から第12回講義までのまとめをするとともに、前期振り返りのための確認テストを実施し、あわせて解説を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの講義の内容を理解することができる。	
	事前学修	これまでの授業で分からなかったところを書き出しておく。	120分
	事後学修	振り返り確認テストにつき講義で解説されたことをノートにまとめる。	120分
14	代理の意義	序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為(代理既定の適用範囲)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理の基本的考え方について説明することができる。	
	事前学修	教科書第7章代理「序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる。	120分
	事後学修	代理の意義、代理の種類について整理し、具体的な契約の場面で想定される代理についてインターネットで検索する。	120分
15	代理の法律関係	代理の法律関係：代理権(本人・代理人間)、代理行為(代理人・相手方間)、代理行為の効果(本人・相手方間)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理権・代理行為・代理行為の効果について具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第7章代理「代理の法律関係：代理権、代理行為、代理行為の効果」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる。	120分
	事後学修	代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する。	120分
16	復代理	復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理と復代理の違いについて具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第7章代理「復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係」を読んで、復代理の法律関係について図式化してみる。	120分
	事後学修	復代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する。	120分
17	無権代理の意義	無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権」を読んで無権代理の仕組みについて整理しておく。	120分
	事後学修	無権代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、無権代理の法律関係が説明できるようにまとめる。	120分
18	無権代理と相続	無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理の発展的事例について具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理」を読んで無権代理人の責任について整理しておく。	120分
	事後学修	無権代理人と相続について、講義で紹介された判例について事案と判旨をまとめておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	表見代理の意義		表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の基本的考え方について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第7章表見代理「表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理」を読んで表見代理の仕組みについて整理しておく。		120分
	事後学修	表見代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、表見代理の法律関係が説明できるようにまとめる。		120分
20	表見代理の類型		表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の類型について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第7章表見代理「表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係」を読んで代理権消滅後の表見代理について法律関係を整理しておく。		120分
	事後学修	表見代理の法律関係について整理したうえで、無権代理と表見代理の関係について説明できるようにまとめる。		120分
21	無効と取消し		無効と取消し：無効取消しの概念(2つの効果の相違、無効と取消しの二重効、無効または取消しの効果)、無効、取消しについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無効と取消しの違いについて具体的事例をあげながら説明することができる。		
	事前学修	教科書第8章「無効と取消し：無効取消しの概念、無効、取消し」を読んで、無効と取消しの違いについて整理しておく。		120分
	事後学修	具体的な契約事例ごとに、無効と取消しの法的効果がいずれが該当するかについて整理する。		120分
22	条件と期間		付款の意義、条件(条件の意義、停止条件と解除条件、条件に親しまない行為、条件付き法律行為の効力、特殊な条件)、期限(期限の意義、条件と不確定期限、期限に親しまない行為、期限付き法律行為の効力、期限の利益)、期間(期間の意義、期間の計算方法)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件と期間の基本的考え方について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第9章条件と期限、期間「付款の意義、条件、期限、期間」を読んで、契約に条件が付けられる場合について具体的な事例をあげてみる。		120分
	事後学修	条件付き契約の類型について整理するとともに、具体的な契約の場面について書き出してみる。		120分
23	時効制度の意義		時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄(時効の援用と援用権者、時効利益の放棄)、時効の完成猶予と時効の更新(時効障害事由の再構成、時効の完成猶予と完成猶予事由、時効の更新、時効の完成猶予または時効の更新の及ぶ者の範囲)について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第10章時効「時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄、時効の完成猶予と時効の更新」を読んで、時効の存在理由についてまとめる。		120分
	事後学修	時効の援用と利益の放棄、完成猶予と更新について、具体的な事例をあげて考え方を整理する。		120分
24	取得時効		取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書第10章時効「取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効」を読んで、取得時効の類型について整理する。		120分
	事後学修	取得時効について考え方を整理したうえで、具体的事例をあげて考え方を整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	消滅時効	消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効の基本的考え方について文章にまとめることができる。	
	事前学修	教科書第10章時効「消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度」を読んで、消滅時効を類型別に整理する。	120分
	事後学修	消滅時効について、具体的事例をあげて要件・効果をノートに整理する。	120分
26	法人の種類	序説：法人の種類、法人の設立について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の種類について具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第3章法人「序説：法人の種類、法人の設立」を読んで、法人の種類を整理しておく。	120分
	事後学修	興味のある法人を選んで、当該法人の種類を調べるとともに、法人の設立について整理しておく。	120分
27	法人の能力	法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の能力について具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第3章法人「法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人」を読んで、法人の能力であげられる具体的事例を整理する。	120分
	事後学修	一般法人と公益法人の違いについて整理するとともに、法人の能力について類型別に整理する。	120分
28	権利の客体	権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、権利の客体について具体的事例をあげながら説明することができる。	
	事前学修	教科書第4章物「権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実」を読んで、それぞれの類型別に整理する。	120分
	事後学修	権利の客体である「物」を具体的事例をあげて再度整理をし直す。	120分
29	判例解説	講義のまとめと、民法改正、最近の判例についての解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義で解説された判例について文章にまとめることができる。	
	事前学修	これまでの講義についてよくわからなかったところを書き出しておく。具体的事例に対する条文の適用で不明確な点を整理しておく。	120分
	事後学修	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う。	120分
30	民法総則のまとめ	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 オンライン講義実施の場合：Googleclassroom上でのレポート提出といたします。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでわからなかったことが理解でき、ノートに文章をまとめることができる。	
	事前学修	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第29回の講義での解説で残された疑問点を整理し、事後学習の成果をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）【法職課程】	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
対面方式での授業を原則とする。 教科書および講義資料（ポータルシステムを通じて配布予定）を用いて講義を進める。 出席管理システム（レスポん）を利用して、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・出席管理システム（レスポん）により、適宜アンケートを行いながら、理解の定着を図る。 ・教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	10	10	10	10							40
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験について、採点後の答案を返却した上で解説講義を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔補訂版〕	原田昌和、寺川永、 吉永一行]	日本評論社	2018	教科書	必携
民法の基礎 1 総則〔第5版〕	佐久間毅	有斐閣	2020	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日16:20~17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（4号館2階423研究室） kato.masayuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，民法総説	授業の進め方および成績評価方法について説明する。 民法とはどのような法律かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法典の中で民法総則がどのような位置を占めているかが説明できる。	
	事前学修	授業の対象となる領域を確認しておく。	120分
	事後学修	民法とはどのような法律か，および，そのうち民法総則はどのような問題を扱うか，について答えられるようにする	120分
2	法体系における民法の位置，民法の全体像	民法総則の基本事項の確認，民法の全体像	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，民法総則の基本事項や民法の全体像について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
3	意思表示・法律行為総説，心裡留保および虚偽表示	意思表示・法律行為総説，心理留保，虚偽表示について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，意思表示・法律行為の意義や心裡留保，虚偽表示について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
4	意思表示に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，意思表示・法律行為概念の意義および解釈上の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，意思表示・法律行為という概念に関する解釈上の問題とそれに対する見解を具体的に説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
5	錯誤，詐欺・強迫	錯誤，詐欺・強迫に関する規定の内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，錯誤，詐欺，強迫に基づく意思表示について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
6	錯誤と詐欺に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて，錯誤および詐欺に関する解釈上の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，錯誤または詐欺による意思表示の効力に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み，疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	法律行為の有効要件	法律行為の内容の確定と有効要件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律行為の内容の確定と有効要件について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
8	法律行為の有効要件に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、法律行為の有効要件に関する解釈上の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の有効要件に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
9	条件・期限、無効・取消し	条件・期限の付された法律行為の効力および無効・取消しの相違について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、条件・期限の意義、無効と取消しの相違について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
10	条件・期限に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、条件・期限に関する解釈上の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、条件・期限に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
11	権利の主体としての入	権利主体としての入に関する権利能力、意思能力および行為能力について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利能力、意思能力および行為能力について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
12	意思能力・行為能力に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、意思能力および行為能力に関する解釈上の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思能力および行為能力に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	小括－基本事項の確認	これまでの内容に関する理解度を確認するために、基本的事項に関する試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの内容に関する基本的事項を説明することができる。	
	事前学修	これまでの講義内容を振り返り、民法の規定を中心に基本的事項の理解を確認する。	120分
	事後学修	小テストの解説を参考にして、自らの解答を振り返り、理解が足りない部分を補っておく。	120分
14	小括－解釈上の問題の検討	これまでの内容に関する発展的な事例を題材として、質疑応答やグループワークにより各自の理解度を高める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する解釈上の問題とそれに対する見解を説明できる。	
	事前学修	これまでの講義内容を振り返り、解釈上の問題を確認する。	120分
	事後学修	授業で得た知見を基に、解釈上の問題について自分なりの考えをまとめる。	120分
15	代理総説、有権代理	代理制度の基本構造について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理の内部関係・外部関係について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
16	代理に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、代理に関する解釈上の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
17	無権代理・表見代理	無権代理の法律関係および表見代理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無権代理行為が行われた場合の法律関係について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
18	表見代理に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、無権代理に関する解釈上の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	無権代理と相続	無権代理と相続に関する問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理と相続に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
20	時効総説	時効制度の基本について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効制度の概要について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
21	時効に関する具体的事例の検討	具体的事例の検討を通じて、取得時効および消滅時効について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
22	時効の完成	時効の完成を妨げる事由、時効の援用について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効の完成を妨げる事由、時効の援用について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
23	時効に関する具体的事例の検討	法具体的事例の検討を通じて、時効に関する解釈上の問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効に関する解釈上の問題とそれに対する見解について説明できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
24	第三者保護に関する具体的事例の検討 - 意思表示の取消しと第三者の関係	具体的事例の検討を通じて、第三者保護の問題に関する判例法理とその問題点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、第三者保護をめぐる論点について考察し、課題を探究できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	第三者保護に関する具体的事例の検討 - 9 4 条 2 項類推適用法理	具体的事例の検討を通じて、第三者保護の問題に関する判例法理とその問題点について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、法律行為の無効・取消しと第三者の保護をめぐる論点について考察し、課題を探究できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
26	私権の行使に対する制限	私権の行使を制限する規定の内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、信義則および権利濫用の禁止をめぐる論点について考察し、課題を探究できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
27	一般原則に関する具体的事例の検討	具体的事例を通じて、民法の一般原則に関する解釈の問題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、一般条項の適用および関係する論点について考察し、課題を探究できる。	
	事前学修	講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。	120分
	事後学修	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。	120分
28	まとめと授業内試験	民法総則に関する理解度を確認するために筆記試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する総合的問題について考察し、課題を探究できる。	
	事前学修	対象範囲全体について、教科書、講義資料およびノートを参考にして、重要と思われる点を確認しておく。	120分
	事後学修	試験問題をノートや教科書等を参考に再検討する。	120分
29	授業内試験の解説	授業内試験の解説をするとともに、質疑応答等により理解度を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則に関する総合的問題について考察し、課題を探究できる。	
	事前学修	授業内試験について、自分なりの模範解答を準備する。	120分
	事後学修	解説講義を受けて、自らの理解度を確認し、足りない部分を補う。	120分
30	民法の現代的課題	現代的問題を題材に、民法が直面する課題について検討する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の現代的課題を説明し、それに対する解決策を探究することができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を復習し、不明な点があれば、あらかじめまとめておくこと。	120分
	事後学修	授業全体を通じて得られたものを再確認しておくこと。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
教科書と六法を手元に用意し、Google Classroomにて配信する講義資料（レジュメと講義動画）を用いて講義を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義動画を視聴しながらレジュメの穴埋めを行い、また、毎回課される小テストにおいて、授業で得た知識をアウトプットしてもらう。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内容を踏まえた毎回の小テストにより，到達目標①②③④についての理解度を確認する。	25	25	25	25							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト解答後に問題の解説文を表示するほか，基礎編と発展編の各まとめにおいて，誤答の多かった問題を講義動画において説明する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔第2版〕	中舎寛樹	日本評論社	2018	教科書	必携
民法入門・総則〔第5版〕	永田眞三郎ほか	有斐閣	2018	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室（4号館4階442研究室） shimizu.keisuke@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス，基礎①前半：民法の構造と歴史	履修条件を満たし得ることを確認した上で，シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標，授業方法，成績評価の基準，教科書・参考書について説明し，次回以降，受講生が授業に参加できるよう，その準備や心構えを促すとともに，民法の構造と歴史について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法の構造と民法の歴史について説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認し，授業概要を踏まえつつ，各回の授業内容を読み込む。	120分
	事後学修	授業での説明内容を確認し，教科書・参考書・六法・ノートの購入等，受講に向けた具体的準備を行うとともに，教科書第1章・第2章（1～26頁）を読み，授業のテーマについて再検討する。	120分
2	基礎①後半：民法における権利の主体と客体	民法における権利の主体と客体について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して，民法における権利の主体と客体について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章・第4章（27～59頁）を読み，特に，民法における権利の主体と客体について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
3	基礎②前半：法律行為の構造と解釈	権利変動の原因と法律行為，法律行為の種類，準法律行為，法律行為の成立要件・有効要件について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法律行為の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第5章・第6章（60～87頁）を読み，法律行為の基本的仕組みについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
4	基礎②後半：法律行為の効力の発生時期	法律行為・意思表示の効力発生時期，契約の成立時期，条件，期限について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，契約の成立，条件・期限について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章（88～111頁）を読み，契約の成立，条件・期限について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
5	基礎③前半：契約の無効原因，意思能力，行為能力①	法律行為遵守の原則を説明した上で，法律行為の実現不可能性，法律行為の不完全性について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，契約の無効原因について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章（112～126頁）を読み，契約の無効原因について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
6	基礎③後半：行為能力②，意思能力	意思無能力，制限行為能力者制度，成年後見制度，任意後見制度について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，意思能力，行為能力について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章（127～152頁）を読み，意思能力，行為能力について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	基礎④前半：虚偽表示	意思表示の意義・構造・基本原理について説明した上で、心裡留保、虚偽表示について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、虚偽表示について説明できる。	
	事前学修	教科書第10章～第12章（153～191頁）を読み、特に、虚偽表示について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
8	基礎④後半：錯誤	錯誤の意義・要件・効果、基礎事情錯誤について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、錯誤について説明できる。	
	事前学修	教科書第13章（203～222頁）を読み、錯誤について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
9	基礎⑤前半：詐欺・強迫	詐欺、強迫、第三者の保護について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、詐欺・強迫について説明できる。	
	事前学修	教科書第14章（223～231頁）を読み、詐欺・強迫について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
10	基礎⑤後半：公序良俗	強行法規違反、公序良俗違反の意義・効果について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、強行法規、公序良俗について説明できる。	
	事前学修	教科書第16章（246～270頁）を読み、強行法規、公序良俗について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
11	基礎⑥前半：無効・取消し	無効の多様化、無効行為の転換、取消後の法律関係、二重効について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無効・取消しについて説明できる。	
	事前学修	教科書第17章（271～297頁）を読み、無効・取消しについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
12	基礎⑥後半：代理総論	他人による法律行為の諸態様、代理の意義・要件、代理権の授与、代理権濫用、代理行為について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代理の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち298～333頁を読み、代理の基本的仕組みについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	基礎⑦前半：無権代理，表見代理	無権代理，表見代理の意義・効果，代理権授与表示による表見代理，権限外行為の表見代理，代理権消滅後の表見代理について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，無権代理について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち333～379頁を読み，無権代理について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
14	基礎⑦後半：時効総論	時効制度の存在理由を，時効の法律構成，時効の完成，時効援用，時効利益の放棄について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，時効の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第19章のうち380～400頁を読み，時効の基本的仕組みについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
15	基礎⑧前半：取得時効，消滅時効	所有権の取得時効，所有権以外の財産権の取得時効，消滅時効の対象となる権利，消滅時効の期間・起算点，消滅時効に類似する制度について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，取得時効と消滅時効の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第19章のうち400～429頁を読み，取得時効，消滅時効について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
16	基礎⑧後半：団体の法理	法人の意義・必要性・種類，法人制度の改革，法人の設立・組織，法人の能力・代表，法人制度と実体との調整について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，法人制度の基本的仕組みについて説明できる。	
	事前学修	教科書第20章（430～470頁）を読み，団体の法理について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
17	基礎⑨前半：一般条項	私権行使の基本原則，信義誠実の原則，権利濫用の禁止について説明し，理解させるとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，一般条項について説明できる。	
	事前学修	教科書第21章（471～491頁）を読み，一般条項について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
18	基礎⑨後半：まとめ（基礎編）	全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させるとともに，基礎編全体を対象とする中間の小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して，これまでの学修内容をまとめ，その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	教科書の各章のうち，無受講等により理解が不十分であった箇所を読み直し，中間テストに向けて学習事項をまとめる。	120分
	事後学修	中間テストやその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について，教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	発展①前半：民法の解釈と契約の解釈	民法の解釈，法律行為の解釈，法律行為の補充・修正について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，民法の解釈と契約の解釈について説明できる。	
	事前学修	教科書第6章（74～87頁）を読み，民法の解釈と契約の解釈の違いについて考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
20	発展①後半：民法94条2項類推適用	不動産取引と登記の公信力，判例による民法94条2項類推適用の発展過程，類推適用の要件・射程範囲，権利概観法理について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，民法94条2項の類推適用法理について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章のうち191～200頁を読み，民法94条2項の類推適用法理について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
21	発展②前半：取消後の第三者	基礎編で扱った，詐欺による意思表示の取消前に出現した第三者の保護のあり方（取消前の第三者）を踏まえて，取消後に出現した第三者の保護のあり方（取消後の第三者）について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，取消後の第三者について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章のうち200～202頁を読み，取消後の第三者について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
22	発展②後半：消費者契約法	消費者契約法の目的・対象を説明した上で，誤認取消し，困惑・過量取引取消し，不当条項規制について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，消費者契約法について概括的に説明できる。	
	事前学修	教科書第15章（232～245頁）と第16章のうち255～258頁を読み，消費者契約法について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
23	発展③前半：名義貸し・なりすまし	代理に関連し，他人による法律行為をめぐる諸問題として，「名義貸し」と「なりすまし」が行われた場合の民事法的処理について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，「名義貸し」と「なりすまし」について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち358～360頁を読み，名称の使用許可について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分
24	発展③後半：無権代理と相続	無権代理人相続型，本人相続型，共同相続型，二重相続型，追認拒絶後相続型，後見人兼任型について説明し，理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して，無権代理と相続の問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち344～349頁を読み，無権代理と相続の問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	発展④前半：白紙委任状の濫用	白紙委任状の濫用の問題について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の諸問題のうち、特に、白紙委任状の濫用の問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち349～362頁をもう一度読み、表見代理の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
26	発展④後半：民法110条の諸問題	権限外の行為の表見代理に関する民法110条の諸問題について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理規定のうち、特に、民法110条の諸問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第18章のうち362～379頁をもう一度読み、表見代理の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
27	発展⑤前半：取得時効と登記	取得時効と登記の問題について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理の諸問題のうち、特に、取得時効と登記の問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第19章のうち400～411頁をもう一度読み、取得時効の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
28	発展⑤後半：時効の援用権者	時効の援用権者について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効の諸問題のうち、特に、時効の援用権者について説明できる。	
	事前学修	教科書第19章のうち411～429頁をもう一度読み、消滅時効の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
29	発展⑥前半：成年後見制度の諸問題	障害者権利条約と意思決定支援、法定後見制度の問題点、任意後見制度の問題点について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、成年後見制度の諸問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章のうち135～152頁をもう一度読み、成年後見制度の諸問題について考察する。	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。	120分
30	発展⑥後半：まとめ（発展編）	全体のまとめとなるポイントを説明し、理解させるとともに、発展編全体を対象とする最終の小テストを実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	教科書の各章のうち、無受講等により理解が不十分であった箇所を読み直し、最終テストに向けて学習事項をまとめる。	120分
	事後学修	最終テストやその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について、教科書や参考書等を確認した上で再検討する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
六法を持参すること。なお、法改正を踏まえ、最新のものを用意すること。

【授業方法】
講義形式によって行う。あらかじめ、パワーポイントによって資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
リーガルベイス民法入門 第3版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	教科書	推奨
備考	教科書はあくまで参考であり、授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため、第1回授業開始前に準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典の中で民法総則がどのような位置を占めているかが説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。	120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。	120分
2	民法の体系と位置づけ	民法は、一般に民法総則・物権・債権・親族・相続に分けられるが、それぞれの意義や機能が異なっている。これらの民法の体系について解説するとともに、特別法との関係など民法以外の法分野との関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の体系について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法には総則以外にどのような内容の条文が存在し、どのような意味を有するのか確認しておく。	120分
	事後学修	民法が営む機能について、公法や刑事法の分野とはどのように異なるのかを確認し、民法の位置づけについての理解を深め、自分なりに説明できるようにする。	120分
3	民法の基本原則	民法総則には、民法全体に及ぶ基本原則である信義則や権利濫用の禁止といった概念が規定されている。しかし、このような概念は抽象的であるため、判例などを通じて具体的にはどのように認められるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の基本原則について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法総則の中でも信義則や権利濫用の禁止といった概念がどのようなものかを調べておく。	120分
	事後学修	授業内で言及した判例以外の関連判例を調べ、信義則・権利濫用の禁止等の基本原則が判例上どのように扱われているのかを調べる。	120分
4	自然人の権利主体性	民法を学ぶ上では、権利能力・行為能力・意思能力といった各概念を理解する必要がある。これらの能力について具体例や判例を交えながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、権利能力・行為能力・意思能力の関係性について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、権利義務の主体という概念がどのようなものであるか調べ、権利能力という用語の意味を調べておく。	120分
	事後学修	授業内で学習した内容を踏まえ、権利能力・行為能力・意思能力の意味内容のみならず、それぞれの関係について自分なりに説明できるようにする。	120分
5	行為能力の制限	一定の場合に行為能力が制限され、成年被後見人・被保佐人・被補助人といった制度が民法上規定されている。各概念の目的や内容について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、行為能力が制限されることの趣旨や機能について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、行為能力が制限される必要性としてどのような場合か調べておく。	120分
	事後学修	行為能力の制限について、意思能力との関係がどのようなものであるか、例えば、行為能力の制限を受けていながら意思能力を有している場合がありえるかなどを検討する。	120分
6	不在者の財産管理	不在者が財産を有している際には、これを管理する必要がある。しかし、特に数年に及ぶ行方不明である場合には不在者の権利関係がそのまま残り、不都合が生じる場合がある。この場合に利用される失踪宣告について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不在者の財産を管理する必要性や制度について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、不在者の財産を管理する必要性が生じるのはいかなる場合であり、その場合にどのような問題が生じるのかを確認する。	120分
	事後学修	失踪宣告がなされ、不在者が死亡したものと扱われたのちに、不在者の生存が確認された場合にはどのように扱われるのか、調べ、検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	法人の権利能力		法人は現在の社会では欠くことのできない存在であるが、その性質上自然人とは異なった法理が適用される。法人に関する民法の規定を踏まえ、法人の権利能力に関して解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法人の行為能力について、自然人の場合と比較しながら説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法人と自然人の概念の違いを確認し、法人を制度の趣旨を調べておく。		120分
	事後学修	法人にも類型が存在するが、民法上にはどのような類型の法人が存在するのかを確認したうえで、それぞれの制度趣旨の相違について検討する。		120分
8	権利の客体		権利の客体としての「物」に関し、動産・不動産の区別や主物・従物の区別を解説し、民法上の扱いを説明する。また、債権の客体についてもこの授業内で取り上げたい。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利の対象としての客体やその性質について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、権利の客体としてはどのような具体例が存在するのか調べ、該当する条文を確認しておく。		120分
	事後学修	財産権には物権と債権が存在するが、物権の客体と債権の客体とではその性質がどのように異なるか、授業内容を踏まえて、自分なりに説明できるようにする。		120分
9	法律行為概説		法律行為に共通することとして、法律行為の有効性や法律行為の概念がどのように扱われているかについて解説を行い、次週以降に解説する予定の意思表示との関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法律行為の概念と体系について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、法律行為がどのような概念であるかを調べ、法律行為の類型を調べておく。		120分
	事後学修	法律行為と事実行為との関係について、それぞれの概念がどう異なっているか、法律上はどのように扱われるかを検討する。		120分
10	意思表示の意義・構造		意思表示は、動機・内心的効果意思・表示意思といった構造を有しており、その構造を解説するとともに、そのような構造を観念することの意義について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思表示の仕組みと位置づけについて説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、意思表示が法律行為との関係においてどのような位置づけにあるのかを確認し、その意義を調べておく。		120分
	事後学修	意思表示の構造について、実際に自分が法律行為を行う場面を想定し、自分の行為がどの段階にあたるのかを確認し、法的な意味を考える。		120分
11	法律行為の無効と取消し		法律行為は無効あるいは取消される場合が存在するが、それぞれの法的な効果は異なっている。無効と取消しの意義を説明するとともに、法的な効果の違いを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、取消しと無効の相違について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、無効と取消しの概念がどのような意義を有し、法的な効果がどのようなものであるかを確認する。		120分
	事後学修	法律行為の無効と取消しは、法律行為の構造と関係しており、無効原因と取消し原因が法律行為の構造との間ではどのような関係にあるかをまとめ、説明ができるようにする。		120分
12	意思の欠缺1		心裡留保及び虚偽表示に関して、法律行為の構造との関係を踏まえながら解説を行う。また、関連する判例が多く存在するため、判例の事実関係を踏まえながら解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、意思の欠缺に関連して、心裡留保や虚偽表示の趣旨や制度について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、意思の欠缺が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。		120分
	事後学修	心裡留保及び虚偽表示に関しては、意思の欠缺の問題ではあるが、各規定の趣旨が異なっている。法律行為の構造との関係を踏まえながらも、それぞれの規定が当事者の利害関係をどのように調停しているのかを検討する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	意思の欠缺2	錯誤及び錯誤に起因する各種の問題点について、昨今の議論を踏まえて解説する。特に、錯誤は第三者の保護との関係で重要な議論があり、第三者の保護の在り方を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤の趣旨や制度について説明ができるとともに、改正前後の違いを説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、前回の授業の復習をするとともに、錯誤が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。	120分
	事後学修	錯誤の効果については、無効と取消しの相違に関連して重要な議論があり、各自の教科書等においてそれぞれの立場からの考え方を説明ができるようにする。	120分
14	瑕疵ある意思表示1	瑕疵ある意思表示として、詐欺及び強迫の条文解説から始め、瑕疵ある意思表示が意思の欠缺とはどのように異なるのか、及び、その違いが要件や効果にどのような影響を与えるものであるかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思の欠缺と瑕疵ある意思表示の相違を説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、法律行為の構造との関係では、どの段階の問題であるかを確認する。	120分
	事後学修	詐欺及び強迫に関し、瑕疵ある意思表示はその効果が取消しとされているが、これはどのような考慮によるものか。例えば、詐欺は刑法でも処罰対象となっているが、民法上の契約は当事者の意思に委ねられている理由は何か、検討する。	120分
15	瑕疵ある意思表示2	詐欺及び強迫は、同一の条文に規定されていながら、第三者の保護に関しては異なる取り扱いをしている。法が第三者を含めた各当事者の利害関係をどのように調整しているのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺及び強迫について、錯誤等の他の制度と比較しながら説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、第三者の保護に関してはどのような取り扱いがなされ、そこから読みとれる法の趣旨を考えておく。	120分
	事後学修	意思の欠缺及び瑕疵ある意思表示において、それぞれ各当事者の利害関係が異なっているが、法律効果にどのような影響を及ぼしているのか、整理し、自分なりに説明できるようにする。	120分
16	代理制度概説	代理制度は、私的自治を拡充する目的であるが、通常の契約に比べて代理人が介在することにより、考慮すべき事由が増えており、代理の要件・効果を解説するとともに、代理人を含めた利害関係を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理制度一般に関して説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代理制度がどのような構造であるか、登場する当事者を確認し、条文を調べる。	120分
	事後学修	代理の要件について、一般的に3つの要件が必要であるが、これらの要件についてそれぞれが必要とされる趣旨及び欠けた場合の法律関係に関して検討する。	120分
17	無権代理	代理には3要件が存在するが、それぞれの要件が欠けた場合の法律関係は異なっている。無権代理となるのはどの要件が欠けた場合、また、そのような場合に相手方及び本人をいかに保護するのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無権代理の制度及び無権代理がどのような位置づけであるかについて説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代理の要件のうち、いずれが欠けると無権代理となるのか、また、それはなぜか確認しておく。	120分
	事後学修	無権代理となるのは、代理人が勝手に代理人を名乗った場合だけでなく、代理人が過失なく代理権を証明できない場合も含むが、この場合に代理人を保護する方法はないか、検討する。	120分
18	表見代理1	前提となる、表見代理一般の法理論や制度趣旨について解説する。表見代理が相手方保護の法理であることや本人の利益をどの範囲で保護しようとしているかを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、表見代理一般について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、表見代理がどのような概念か、無権代理との関係を調べておく。	120分
	事後学修	表見代理の成否によって、無権代理の地位はどのような影響を受けるか検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	表見代理2		表見代理の一類型である、代理権授与表示の表見代理について解説する。どのような場合に本人の犠牲のもと相手方の保護が認められるのかを意識して学習してほしい。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法109条の表見代理に関して、どのような制度であるか説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法109条を調べ、表見代理の一類型を知るとともに、要件を確認しておく。		120分
	事後学修	代理権授与表示というものは、実際の判例ではどのようにして認められているのか、授業中に言及した判例の事実関係を意調べ、理解する。		120分
20	表見代理3		表見代理の一類型である、権限外行為の表見代理について解説する。また、民法110条は拡張されて適用される傾向にあり、民法110条が適用される特殊な場面として日常家事代理についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法110条の表見代理に関して、どのような制度であるか説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法110条を調べ、基本権限の概念を踏まえて、要件を確認しておく。		120分
	事後学修	民法110条の基本権限としてどのようなものが含まれるのか、授業中に言及した判例をもとに、検討する。特に、事実行為に関する権限が基本権限に含まれるかについて、関連判例を調べる。		120分
21	表見代理4		表見代理の一類型である、代理権消滅後の表見代理について解説する。また、民法109条と民法110条、民法110条と民法112条の重畳適用についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法112条の表見代理に関して、どのような制度であるか、民法109条及び民法110条との関係性について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、民法112条を調べ、代理権消滅後の表見代理の事実関係を把握し、要件を確認しておく。		120分
	事後学修	重畳適用について、授業中に言及した判例の事実関係を調べ、どのような事実が認められる場合に適用ができるかを検討する。		120分
22	条件・期限		停止条件、解除条件・停止期限、解除期限の概念について解説し、それぞれの機能や期限の利益喪失等といった関連する法律関係について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各条件・期限について制度の仕組みを説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、条件・期限の概念を調べ、契約においてどの段階で問題となる概念かを考えておく。		120分
	事後学修	条件・期限がそれぞれ契約に付与された場合にどのような意義を有するのか、検討し、説明できるようにする。		120分
23	時効制度1		事実状態に即した権利関係を確定させる時効制度について解説する。そのうち、特に時効制度一般に共通する制度趣旨や機能について解説を行う予定である。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、時効制度一般の趣旨について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、時効制度について、条文を調べ、その意義及び制度趣旨を確認する。		120分
	事後学修	時効制度の趣旨を復習し、時効によって不利益を受ける当事者が存在する場合に、それが正当化されるのか検討する。		120分
24	時効制度2		時効制度のうち、取得時効について要件及び効果を中心に解説する。また、所有権以外の取得時効についても、制度趣旨の相違を踏まえて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、取得時効の要件及び効果について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、取得時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。		120分
	事後学修	時効制度の趣旨を踏まえ、債権の時効取得がなぜ可能か検討し、関連する判例を調べておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	時効制度3	時効制度のうち、消滅時効について要件及び効果を中心に解説する。消滅時効が、取得時効とはどのように異なり、制度趣旨や機能の相違を踏まえながら解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、消滅時効の要件及び効果について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、消滅時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。	120分
	事後学修	時効の更新や完成猶予について、時効制度全体の趣旨との関連を踏まえて、どのような機能を有しているのか、説明できるようにする。	120分
26	時効制度4	時効と登記の問題や除斥期間について解説する。特に除斥期間は、時効とは異なった制度趣旨を有している類似した制度であり、注意する必要があるため、制度趣旨及びそこから導かれる機能を中心に解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効から派生する問題について、その問題点と適用条文等について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、除斥期間の概念を調べ、時効とはどのように異なる概念かを確認しておく。	120分
	事後学修	改正前の民法724条を調べ、時効と除斥期間のいずれであるかを検討し、説明できるようにする。	120分
27	複合的問題について	これまでに解説してきた総則の内容は、それぞれが完全に独立しているものではなく、複合的な問題となって生じる場合がある。簡単な事例問題を題材にし、今までに学習してきた知識を用いて法律関係を理解できるように講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、民法総則の各制度がどのように関係しているかについて説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、これまでに学習してきた内容が相互に関係することを理解し、今までに扱った判例等が複合的な問題を有していることを理解する。	120分
	事後学修	授業内で扱った事例や判例について、どのような条文が適用されているのか適用関係を検討し、実際に条文を引く条文操作を行う。	120分
28	債権法改正	債権法改正の作業が行われ、今後施行される予定であるが、民法総則の分野でも法律行為や時効の範囲において改正が行われている。それぞれの改正がどのような趣旨で行われ、運用に影響を及ぼすものかについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権法改正によって民法総則の規定がどのように影響を受けたのか説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法改正によって、民法総則のうちどの分野が改正されるのかを確認する。また、新旧の条文を確認することが望ましい。	120分
	事後学修	新旧の条文を比較し、どのように改正がなされたのかを確認し、授業で扱った判例の結論や論理構成に影響を与えるものであるか検討する。	120分
29	授業内試験及びまとめ	授業内にて民法総則の試験を行い、併せてまとめとなる授業を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、これまでに扱った内容を復習し、疑問点が残らないようにする。	120分
	事後学修	授業内試験やこれまでの授業で扱った内容のうち、解消できなかった疑問点を整理し、最終授業にて質問ができるようにする。	120分
30	授業内試験の解説	前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、試験の講評を踏まえて課題を発見し、その解決方法を探求できる。	
	事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
	事後学修	全30回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	長谷川 貞之	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
1年次および2年次以降の学生を対象とする。学習効果を上げるために、憲法・刑法を学んでいることが望ましい。

【授業方法】
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問&検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。授業の方法がオンデマンド方式によるビデオ録画による場合には、試験に代わるレポートをもって評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答、課題など（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅰ——総則〔第4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	山田卓生ほか	有斐閣	2018	教科書	必携
民法（債権関係）改正法新旧対照条文	商事法務（編）	商事法務	2017	参考書	推奨
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】民法総則を学ぶ意義／民法とは？		私法の一般法である民法はについて、また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、教科書・参考文献などの紹介を行う。これにより、受講性は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法とはどのような法律か、また、民法典がどのような理念に基づいて編纂されたを理解し、説明することができる。	
	事前学修	六法を手に取り、ポイントとなる民法典の規定を人の一生という観点から概観する。併せて、教科書の全体を2・3回ほど通読する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
2	民法の基本原理、民法典の編別とパンデクテン体系		民法典の基本原理、理念と基本原理、民法典の編別などについて、民法が理念として掲げる自由と平等という観点から、学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が権利の主体である人の権利・義務を、その誕生から死亡に至るまでを5つの編に分けながら、パンデクテン方式をもって体系化していることについて、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、近代私法の諸原則——法律行為自由・所有権絶対・過失責任の各原則、および法的人格の平等——を把握しておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
3	権利能力・意思能力・制限能力		権利能力・意思能力・制限能力と相互の関係について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、権利の主体である人の能力について、権利能力・意思能力・制限能力のそれぞれの意義と相互の関係について、ポイントとなる民法典の規定を挙げて、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、権利の主体である人（自然人）とは何か。人は出生から死亡に至るまでどのような法的地位を有するのかを、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
4	住所と失踪宣告、同時死亡の推定		権利の主体に関して、住所、失踪宣告、同時死亡の推定
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生活の本拠である住所の意義と、最後の住所地を去って行方が知れない者の法律関係について、不在者の財産管理、失踪宣告による身分・財産関係の整理という観点から、説明することができる。また、併せて、所有者不明の不動産について、不在者の財産管理の観点から、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、人が活動する生活の本拠「住所」とは何か、人が行方不明になった場合の取扱いなどについて把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
5	制限行為能力者・成年後見制度——未成年者・事理弁識能力が欠如する者		到達目標①②に関連して、未成年者と事理弁識能力が欠如する者について、権利の主体の観点から、制限行為能力者制度および成年後見制度を学修する。
	この回の到達目標	制限行為能力者制度について、未成年者とそれ以外の事理弁識能力が欠如する者（3類型）を区別したうえで、民法典の規定を挙げながら、その概要を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、未成年者や事理弁識能力が欠如する者について、民法上、どのような処遇がなされるのかを、民法典の規定に即して把握しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
6	法人制度概説		法人制度の意義と概略、その基本的な仕組みについて学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、自然人と並ぶ権利の主体である法人について、その意義を明らかにししたうえで、社団と財団、営利と非営利などに分類しながら、法人格を取得する手続を説明することができる。また、民法上の法人として、公益法人の設立、法律関係などを説明することができる。	
	事前学修	教科書を熟読し、自然人以外で権利能力の帰属主体となりうる法人について、公益・営利の観点から分類するとともに、法人制度の意義・内容について、その概要を理解しておこう。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	権利の客体		権利の客体に関して、物の分類・種類、不動産と動産、土地の定着物と従物・付合物・付加物の区別について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、有体物を不動産と動産に区別する意義、不動産の定着物と従物・付合物・付加物との関係、地上建物（マンションを含む）などについて、民法典の規定を挙げながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、権利の客体である「物」について、不動産・動産の観点から把握する。民法典には、不動産・動産と並んで、定着物・従物・付合物・付加物や果実などの分類もあるので、相互の関係に注意が必要である。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
8	権利の客体と無体物、知的財産		無体物と知的財産について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、無体物は民法上どのように扱われるのか、民法と特許・発明などの知的財産とはどのような関係にあるのか、民法その他の法律の規定を挙げながら、説明することができる。また、有体物主義の問題点を挙げて、無体物に関する権利のあり方について、議論することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、物理的に触知しえない物（無体物）について、民法典はどのような取扱いをしているかを把握しておく。あわせて、無体物に対する権利にはどのようなものがあるか、これについても調べておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
9	法律行為制度——概説		意思表示における意思主義と表示主義、任意法規と強行法規について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思の自律と私的自治の原則の観点から、法律行為の意義を明らかにし、法律行為の種類・内容について、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
10	公序良俗、強行法規		公序良俗違反の法律行為とその解釈などについて、法律行為の有効・無効という観点から学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、公序良俗違反の法律行為が無効とされる場合とはどのようなことをいうのか、法律行為の自由に対する制限について、わが国の裁判例を整理したうえで、具体的に説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
11	意思表示と法律行為——民法典における意思主義と表示主義		意思表示の意義、契約と法律行為との関係、意思表示における意思主義と表示主義について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、意思表示の意味を明らかにしたうえで、契約と法律行為との関係について、意思主義と表示主義という観点から、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
12	心裡留保と通謀虚偽表示		法律行為を構成する意思が欠如する場合に、民法典にはどのような規定が設けられているかを理解し、意思表示論の観点から、心裡留保と通謀虚偽表示について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法が規定する心裡留保・通謀虚偽表示とはどのようなことをいうのか、典型例を挙げながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	錯誤		法律行為に関する錯誤の意義と種類、動機の錯誤について、意思表示論の観点から、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為のの錯誤を内心的効果意思を中心に分類したうえで、動機などの前提条件に関する錯誤がどのように扱われるか、民法典の規定に即して、説明することができる。／また、近時の債権法改正に伴って改正された錯誤規定について、その概要を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
14	詐欺・強迫と消費者契約法		民法上の詐欺・強迫、および、沈黙による詐欺、不退去などを規定する消費者契約法について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法上の詐欺・強迫の意義、要件・効果を明らかにしたうえで、裁判例を検討し、また、その不備ないし限界を補うために消費者契約法に設けられた誤認・困惑などを理由とする取消しについて、その制度趣旨を理解し、民法上の詐欺・強迫との関係を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、消費者関連基本三法の1つである消費者契約法についても調べておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
15	法律行為の無効・取消と第三者の保護		法律行為の無効・取消に関して、第三者の保護が問題となる場面を取り上げて、善意者保護制度の観点から学修する。、	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為が錯誤や詐欺・強迫などを理由に取り消された場合に、その事情を知らないで取引関係に入った第三者を保護するために民法典にはどのような規定が設けられているか、争われた裁判例の事案を紹介しながら、具体的に説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、法律行為が無効・取消となった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
16	代理制度——総論		代理制度の意義、代理の種類と類似する他の制度（委任、間接代理、信託など）について、私的自治の補充・拡張という観点から、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、代理制度の意義、代理の種類と構造について、民法典が定める代理は直接代理であることを理解し、他の類似する制度と比較・対比しながら、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理制度の意義について理解を深める。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
17	代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理		代理制度に関して、代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理の問題を取り上げ、これについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、代理権の濫用とはどのようなことをいうのか、また、代理権が濫用された場合の効果について、基本となる裁判例を挙げて、問題点を整理したうえで、具体的に説明し、または議論することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理権が濫用された場合の本人保護と相手方の関係について検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
18	表見代理		代理における無見代理に関して、表見代が成立する場面を、表見代理の3種類の即して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法典が定める表見代の意義、要件・効果について、過去の裁判例に現れた事案を整理し、説明するとともに、問題点について議論することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、適法かつ有効な有権代理と無権代理、および表見代理との関係について検討する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	代理をめぐる解釈上の諸問題		代理をめぐる解釈上の問題のうち、代理と相続の問題を取り上げ、判例・学説の議論を踏まえながら学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、相続と代理をめぐる問題の3類型を整理しながら、その問題点を明らかにし、解決法理について説明し、議論することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、代理をめぐる解釈上の諸問題について検討する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
20	法律行為の無効・取消し		法律行為の無効・取消しに関し、その意義と効果、取消しの遡及効、出費節約の法理、原状回復などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為が無効となり、あるいは、取消権の行使により遡及的に無効とされる場合に、当事者間の法律関係と第三者との関係を、民法典の規定に即しながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、法律行為が無効・取消しとなった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
21	無効行為の転換		法律行為の無効に関し、無効の意味と無効行為の転換について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法律行為の効力が全部または一部否定される場合に、無効な法律行為が他の目的のために存続する例を、教科書に挙げられた基本的裁判例を紹介しながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、無効行為の転換とはどのようなことをいうのか、無効行為の転換によって無効な法律行為が一定の要件のもとに有効とされる場合があるかを、検討する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
22	条件・期限、期間		民法典が定める条件・期限、および期間の意義と民法上の原則について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、民法典が定める条件・期限、および期間について、法律行為の効力発生要件という観点から、売買や金銭消費貸借などの基本となる契約を例に挙げながら、具体的に説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、法律行為の効力発生要件である条件・期限、および期間について検討する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
23	時効一総論		時効の意義、時効制度が設けられた意義（存在理由）などについて、民法典の規定に即して、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効の意義、時効制度の存在理由について、時効の援用の意義を明らかにしながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効制度について調べてみよう。なぜこのような制度が必要とされるのか、時効制度の存在理由はどこにあるのか。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
24	時効と類似するその他の制度		時効と類似するその他の制度、時効と除斥期間との関係について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、時効と類似するその他の制度として、どのような制度があるか、また、時効期間と除斥期間はどのように区別して扱われるのかについて、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効と類似する除斥期間などの制度を調べ、違いを検討してみよう。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	取得時効		時効制度のうち、取得時効の意義、要件・効果について、学修する。、
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、取得時効の意義、要件と効果について、自主占有の意義、起算点と遡及効、所有権の原始取得などの点に留意しながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、取得時効について理解を深める。（2時間）	120分
	事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
26	取得時効と即時取得		取得時効と即時取得との関係について、動産取引を例に挙げながら、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、取得時効の目的物が動産である場合に、即時取得を定めた民法192条との関係について、判例・学説を整理し、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、取得時効と関連する即時取得について、理解を深める。（2時間）	120分
	事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）	120分
27	消滅時効		時効制度のうち、消滅時効の意義、要件・効果について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消滅時効の意義、要件と効果について、各種の債権を整理・分類しながら、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、消滅時効について理解を深める。（2時間）	120分
	事後学修	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
28	時効制度と民法改正		債権法改正に関連して、時効制度の改正点と問題点、課題について整理し、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、時効制度が債権法改正に際してどのように改正されたのか、主要な改正点を理解し、その概要と問題点について、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、時効制度の問題点などを検討する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
29	一般条項と民法典		民法典が定める一般条項につき、公共の福祉、信義則、権利の濫用を取り上げ、学修する。併せて、民法典を取り巻く私法の現状と課題について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、公共の福祉、信義則、権利の濫用の意義・概念を理解し、これらをめぐる代表的な裁判例を挙げて、具体的に説明することができる。	
	事前学修	教科書を熟読し、公共の福祉、信義則、権利の濫用のそれぞれの意義・概念について、基礎知識を得ておく。併せて、教科書に掲載の基本判例を調べてみる。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
30	総括と質疑応答		これまで学んできた授業を振り返り、民法総則の意義・内容を整理し、総括する。 (受講者数によっては、最終授業回において、定期試験に代えて授業内試験を行う)
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、民法に関する基礎知識を総則の規定を中心に整理し、民法が理念として掲げる自由と平等という観点から私法の基本原理について、説明することができる。	
	事前学修	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）	120分
	事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。 「課題と質問」を整理する。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義中心となるが、適宜、質疑も交え、受講生の理解度を確認しながら講義を進める。試験の講評、解説はポータルサイトで行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記授業方法の中で学生の主体的な意見の表明を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						1	1						
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										1			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムによる

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則	藤村和夫	信山社	2018年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること）、メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を素材として講義に盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	民法の意義	授業の進め方の説明、基本的事項（１）	
	この回の到達目標	民法の意義を説明できる。	
	事前学修	教科書～18頁を読んでおく（以下、同様）。	120分
	事後学修	民法とは、およそどういうものであるかに思いを致してみる。	120分
2	民法の基本原則	基本的事項（2）	
	この回の到達目標	民法の基本原則を説明できる。	
	事前学修	18頁～23頁。	120分
	事後学修	近代私法の三大原則および民法上の基本原則とはどういうものかを理解する。	120分
3	権利主体	権利主体としての自然人	
	この回の到達目標	民法上の権利主体について説明できる。	
	事前学修	25頁～30頁。	120分
	事後学修	権利能力についての理解を確かなものにする。	120分
4	権利能力	権利能力、制限行為能力者（１）	
	この回の到達目標	制限行為能力者について説明できる。	
	事前学修	30頁～39頁。	120分
	事後学修	制限行為能力者の意義について理解する。	120分
5	制限行為能力者	制限行為能力者（２）	
	この回の到達目標	複数の制限行為能力者に関する関係を説明できる。	
	事前学修	39頁～45頁。	120分
	事後学修	制限行為能力者の種類とその違いを理解する。	120分
6	任意後見制度	制限行為能力者（３）	
	この回の到達目標	任意後見制度について説明できる。	
	事前学修	45頁～54頁。	120分
	事後学修	任意後見制度等についての理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	制限行為能力者	制限行為能力者の相手方の保護	
	この回の到達目標	制限行為能力者の相手方の保護について説明できる。	
	事前学修	54頁～61頁。	120分
	事後学修	制限行為能力者の相手方がどのように保護されるかについて理解する。	120分
8	不在者	失踪宣告、住所	
	この回の到達目標	失踪宣告について説明できる。	
	事前学修	61頁～70頁。	120分
	事後学修	失踪宣告の意義について理解する。	120分
9	権利の客体	権利の客体としての物	
	この回の到達目標	権利の客体について説明できる。	
	事前学修	71頁～75頁。	120分
	事後学修	権利の客体にはどのようなものがあるかを確認する。	120分
10	法律行為	法律行為一般	
	この回の到達目標	法律行為の意義を説明できる。	
	事前学修	77頁～85頁。	120分
	事後学修	法律行為の意義を確認する。	120分
11	意思表示	意思表示（1）	
	この回の到達目標	意思表示の意義を説明できる。	
	事前学修	86頁～92頁。	120分
	事後学修	意思表示の意義を理解する。	120分
12	意思表示	意思表示（2）	
	この回の到達目標	無効な意思表示のうち、虚偽表示について説明できる。	
	事前学修	92頁～110頁。	120分
	事後学修	虚偽表示とは何かを理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	意思表示	意思表示（３）	
	この回の到達目標	錯誤について説明できる。	
	事前学修	110頁～120頁。	120分
	事後学修	錯誤についての理解を確実なものにする。	120分
14	意思表示	意思表示（４）	
	この回の到達目標	瑕疵ある意思表示について説明できる。	
	事前学修	121頁～132頁。	120分
	事後学修	瑕疵ある意思表示とは何かを理解する。	120分
15	意思表示	意思表示（５）	
	この回の到達目標	消費者契約法による取消について説明できる。	
	事前学修	132頁～139頁。	120分
	事後学修	消費者契約法ではどのような規制があるのかを理解する。	120分
16	代理	代理総説	
	この回の到達目標	代理の意義について説明できる。	
	事前学修	139頁～143頁。	120分
	事後学修	代理の意義と法的構成について理解する。	120分
17	代理	代理権	
	この回の到達目標	代理権について説明できる。	
	事前学修	143頁～154頁。	120分
	事後学修	代理権を巡る基礎的な理解を確実にする	120分
18	代理	代理行為（１）	
	この回の到達目標	代理権の濫用について説明できる。	
	事前学修	154頁～158頁。	120分
	事後学修	代理権の濫用と消滅について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	代理	代理行為（２）	
	この回の到達目標	代理行為について説明できる。	
	事前学修	158頁～164頁。	120分
	事後学修	代理行為についての理解を深める。	120分
20	無権代理	無権代理と表見代理	
	この回の到達目標	無権代理とは何かを説明できる。	
	事前学修	164頁～174頁。	120分
	事後学修	無権代理と表見代理の意義を理解する。	120分
21	無権代理	狭義の無権代理	
	この回の到達目標	協議の無権代理について説明できる。	
	事前学修	175頁～192頁。	120分
	事後学修	無権代理人の責任等について理解する。	120分
22	無効と取消	無効および取消	
	この回の到達目標	無効と取消の意義を説明できる。	
	事前学修	192頁～206頁。	120分
	事後学修	無効と取消の意義と効果について理解する。	120分
23	条件と期限	条件および期限	
	この回の到達目標	条件と期限の意義を説明できる。	
	事前学修	206頁～216頁。	120分
	事後学修	条件と期限の意義と効力について理解する。	120分
24	期間	期間、時効総説	
	この回の到達目標	期間計算ができる。	
	事前学修	217頁～222頁。	120分
	事後学修	期間の意義と時効制度の存在理由について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	時効	時効（１）	
	この回の到達目標	時効制度の存在理由を説明できる。	
	事前学修	223頁～242頁。	120分
	事後学修	取得時効の意義と効果を理解する。	120分
26	時効	時効（２）	
	この回の到達目標	債権の消滅時効について説明できる。	
	事前学修	242頁～260頁。	120分
	事後学修	債権および債権以外の消滅時効について理解する。	120分
27	時効	時効（３）	
	この回の到達目標	消滅時効類似の制度について説明できる。	
	事前学修	260頁～279頁。	120分
	事後学修	消滅時効類似の制度と時効中断について理解する。	120分
28	時効	時効（４）	
	この回の到達目標	時効の援用と放棄について説明できる。	
	事前学修	279頁～302頁。	120分
	事後学修	時効の援用と時効利益の放棄について理解する。	120分
29	法人	権利主体としての法人（１）	
	この回の到達目標	法人とは何かを説明できる。	
	事前学修	303頁～338頁。	120分
	事後学修	法人の意義と種類、法人の設立について理解する。	120分
30	法人	権利主体としての法人（２）	
	この回の到達目標	法人の権利主体について説明できる。	
	事前学修	338頁～356頁。	120分
	事後学修	法人の能力等について理解する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	蓮田 哲也	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義形式で行う。 講義に際しては、各回レジュメを配布することを予定している。 第30回講義にて授業内試験を行い、直後に解説等を述べる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対して、どのように考えるのかを口頭で表現してもらうことを予定している。 また、場合によっては出席管理システム（レスポ）を用いて問題の投げかけに答えてもらうことがあ る。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の小テストに関しては翌回の授業にて解説を行い、第30回講義にて実施する授業内試験に関しては直後に解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則〔補訂版〕日評ベーシック・シリーズ	原田政和　ほか	日本評論社	2018	教科書	推奨
別冊ジュリスト237号 民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第8版〕	潮見佳男　ほか編	有斐閣	2018	参考書	推奨
民法の基礎1　総則〔第5版〕	佐久間毅	有斐閣	2020	教科書	推奨
備考	第1回授業にて説明するため、第1回授業までに準備する必要はない。				

【オフィスアワー】
火曜日 14：40～16：10（事前にアポイントメントを取ること）　研究室()　メールアドレス：

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び民法総則の位置付け	ガイダンスとして、授業の進め方や成績評価の方法、参考文献の紹介などについて説明する。その後、民法における民法総則の位置づけについて講義を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則の民法上の位置づけについて説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の民法総則の導入部分を読み、民法総則の民法上の位置づけについて確認する。	120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、民法総則に関する内容を整理する。	120分
2	基本的な法制度と法律用語	民法に限らず、法律学を学ぶ上で法律にかかる専門用語の知識が不可欠となる。ここでは、民法総則を学ぶ上で不可欠と考えられる制度や法律用語について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の基本的な制度や法律用語について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、民法の基本的な制度(無効・取消し・解除)及び法律用語(善意・悪意、及び・並びに、又は・若しくは、適用・準用・類推適用など)について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。	120分
3	民法の基本原則	民法の基本原則の多くは、民法総則(民法第1編)に定められているが、そこに定められているもののみに限られるのではない。ここでは、民法総則に限らず民法全体にかかる基本原則の概要を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法の基本原則について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、民法の基本原則について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。	120分
4	権利能力1	民法における権利の主体である人には、自然人と法人とがいる。ここでは、自然人に着目して人の能力の一種である権利能力について、その意義、自然人の出生と権利能力との関係について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、自然人の意義、権利能力の意義及び出生と権利能力との関係について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、人、権利能力の意義、出生及び胎児について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。	120分
5	権利能力2、意思能力	前回学修した自然人の権利能力に関連して、胎児と権利能力との関係及び権利能力の喪失について学修し、住所とは何か、自然人の意思能力とは何かについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、胎児と権利能力との関係、権利能力の喪失、住所及び意思能力について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、胎児と権利能力との関係、権利能力の喪失、住所及び意思能力について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。	120分
6	行為能力1	人の能力の一種である行為能力とは一体何であるかについて学修するとともに、この行為能力が制限される類型の内、未成年及び成年後見について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、行為能力、未成年者及び成年後見について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、行為能力、未成年者及び成年後見について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める(教員に質問することも可能である)。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	行為能力2	前回学修した制限行為能力者の別類型である保佐及び補助並びに制限行為能力者に民法がどのような保護を与えているのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保佐、補助及び任意後見制度について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、保佐及び補助について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
8	任意後見制度、法人1	近時着目されている任意後見制度について学修した後、人の一類型である法人の意義、法人格及び法人の設立について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、任意後見制度、法人の意義、法人格及び法人の設立について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、任意後見制度、法人の意義、法人格及び法人の設立について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
9	法人2	前回学修した法人について、法人の終了について学修した後、法人に関連する制度である権利能力なき社团及び法人格否認の法理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法人の終了、権利能力なき社团、法人格否認の法理について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、法人の終了、権利能力なき社团、法人格否認の法理について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
10	物	権利の客体のほとんどは物であり、民法総則に物に関する規定が存在する。そもそも物とは何かとった基本的なことから、民法上の条文に沿って物について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、物について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、物について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
11	法律行為1	法律行為とは何かについて概観し、法律行為の有効要件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律行為の意義及び有効要件について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、法律行為の意義及び有効要件について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
12	意思表示1	法律行為に不可欠である意思表示の意義について学修し、意思表示に問題がある意思の不存在の一種である心裡留保について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示の意義及び心裡留保について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、意思表示の意義及び心裡留保について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	意思表示2	意思の不存在の一種である虚偽表示について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、虚偽表示及び周辺法制度について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、心裡留保及び周辺法制度について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
14	意思表示3	意思表示に問題がある瑕疵ある意思表示の一種である錯誤について定めた民法95条1項および2項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤の基本類型について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、錯誤の基本類型について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
15	意思表示3	錯誤について定めた95条3項および4項について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、錯誤と第三者との関係について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、錯誤と第三者との関係について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
16	意思表示4	意思表示に問題がある瑕疵ある意思表示の一種である詐欺及び強迫について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、詐欺及び強迫について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、詐欺及び強迫について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
17	代理1	代理制度は、私的自治を拡充する目的であるが、通常の契約に比べて代理人が介在することにより、考慮すべき事由が増えており、代理の要件・効果を解説するとともに、代理人を含めた利害関係を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理制度一般について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、代理制度一般について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
18	代理2	代理の要件が欠けた場合の法律関係は異なっている。無権代理となるのはどの要件が欠けた場合、また、そのような場合に相手方及び本人をいかに保護するのかを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、無権代理制度について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、無権代理制度（無権代理人の責任や無権代理人の地位の相続を含む）について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	代理3	本質的には無権代理であるにもかかわらず、場合によっては、本人への効果帰属が認められることがある。これを認める制度を表見代理といい、どのような場合に表見代理が認められるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、表見代理について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、表見代理について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
20	代理4	一見すると、代理の要件を充足していることから有権代理として取り扱われるはずであるが、場合によっては、これが否定される場合がある。こおkでは、民法に定められている代理権の濫用及び利益相反行為（自己契約・双方代理）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理権の濫用及び利益相反行為について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、代理権の濫用及び利益相反行為について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
21	代理5	民法に定められた代理行為の瑕疵とは何か、代理人の代理人といえる復代理とは何か、どのような場合に代理が終了のかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理行為の瑕疵、復代理、代理の終了について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、代理行為の瑕疵、復代理、代理の終了について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
22	付款1	付款とは一体何を意味するのかについて概観した後、付款の一類型である条件について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、付款の概要及び条件について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、付款の概要及び条件について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
23	付款2	付款の一類型である期限について学修するとともに、期限に関連する期間の計算について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、期限及び期間の計算について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、期限及び期間の計算について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
24	時効制度1	事実状態に即した権利関係を確定させる時効制度のうち、特に時効制度一般に共通する制度趣旨や機能について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効制度の概要について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、時効制度の概要について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	時効制度2	時効制度のうち、取得時効について要件及び効果を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、取得時効について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
26	時効制度3	時効制度のうち、消滅時効について要件及び効果を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、消滅時効について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
27	時効制度4	時効制度において問題となる時効完成の障害事由（完成猶予と更新）について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効完成の障害事由について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、時効完成の障害事由について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
28	時効制度5	時効制度について、時効の援用及び時効の利益放棄について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、時効の援用及び時効の利益放棄について説明できる。	
	事前学修	教科書などを通じて、時効の援用及び時効の利益放棄について調べ、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
29	民法総則の全体像	これまで学修してきた民法総則の全体像を概観するとともに、他の民法領域とどのように関連してくるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法総則と他の民法領域との関係性について説明できる。	
	事前学修	これまで学習した内容について振り返り、疑問点を抽出し、講義を通じて確認できるよう準備する。	120分
	事後学修	配布したレジュメや板書内容と事前学修の内容とを比較し、自らの疑問点が解消されているかについて確認するとともに、更に疑問点が生じていないかを確認し、教科書等を用いてその疑問点の解消に努める（教員に質問することも可能である）。	120分
30	授業内試験及び解説	授業内にて試験を行い、また、民法総則の授業のまとめとなるよう試験の解説を合わせて行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、試験の解説等を踏まえ、試験で問われた内容及び民法総則全体の概要について理解し、説明できる。	
	事前学修	授業内にて試験を行うためこれまで学習した内容を復習する。	120分
	事後学修	民法総則と民法との関係を考え、民法総則の役割について検討する。	120分

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	山田 孝紀	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学修する。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学修する。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
民法全体の理解の基礎とするために、民法総則に関する基本的知識を理解し、その知識を用いて問題を解決する能力を修得する。

【履修条件】
なし。ただし、できれば前期の民法基礎演習を履修しておくこと。また、授業に継続的に出席し、授業後に復習ができること。

【授業方法】		
配布レジュメに沿って授業を進める。民法総則では抽象的な概念が多いため、具体的な設例（簡単な教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。レジュメには空欄があるが、受講生は空欄を補充するだけでなく、事例の関係図を書いたり、大事な部分についてメモを取ったりして授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	新型コロナウイルスの感染状況に留意をしつつ、可能な範囲で、教員と学生との質疑応答、学生間での意見交換も行いたい。また出席管理システム（レスポンス）を用いて、理解度の確認も適宜行う予定である。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。		1	1					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。		1	1					
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。				1				
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。						1		
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力・考察力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	15	25	10							70
小テスト等	授業中に実施する小テストにより、到達目標①②にかかわる基本概念や制度趣旨が身についているかを確認する。小テストの実施形式については対面での実施を予定しているが、Google Classroomまたは出席管理システム（レスポ）を使用する可能性もある。詳細が決まり次第、授業の中で説明する。	10	10									20
レポート等	到達目標①②③④についての説明力・考察力が身についているかを、授業内で実施する記述式の問題により評価する。		5	5								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内でのレスポによる理解度確認と解説、小テストの解説、レポートの添削、授業内試験の解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ユーリカ民法1 民法入門・総則	田井監修、大中編	法律文化社	2019	教科書	推奨
民法総則（日評ベーシックシリーズ）〔補訂版〕	原田＝寺川＝吉永	日本評論社	2018	教科書	推奨
民法1 総則 有斐閣ストゥディア	山本監修 香川＝竹中＝山城	有斐閣	2021	教科書	任意
新ブリメール民法1 民法入門・総則〔第2版〕	中田＝後藤＝鹿野	法律文化社	2020	教科書	任意
民法判例百選 総則・物権〔第8版〕	潮見＝道垣内編	有斐閣	2018	参考書	任意
START UP！民法1 総則 判例30！	原田＝秋山＝山口	有斐閣	2017	参考書	任意
最新版の六法		各自の好みで選んでください	2021	その他	必携
リーガルベイス民法入門〔第3版〕	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	参考書	任意
備考	上記はあくまでも参考です。自身の学修目的に応じた教科書1冊と六法を購入してください。教科書の選定・使用方法については第1回目の授業で説明します。				

【オフィスアワー】
水曜お昼休み（事前にメールでアポイントメントをとってください。その他の時間でも適宜対応します）yamada.takanori★nihon-u.ac.jp 上記の「★」記号を「@」記号に置き換えて下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、民法とは何か①民法総則の位置づけ	まずガイダンスとして、受講上の注意、授業の進行方法、教科書・参考書の使用法、成績評価方法について説明します。そのため、第1回目から出席してください！その後、民法総則とは何か、民法における民法総則の位置づけについて学びます。	
	この回の到達目標	履修を希望する学生は、必ずガイダンスに出席して、授業の方法や成績評価方法を理解した上で履修登録をしてください。この授業の到達目標を確認し、単位を修得するためにはどのような学修が必要であるのかを理解する。	
	事前学修	なぜ民法Ⅰを履修するのか、ほかにどのような科目を履修すれば効果的に学習することができるのか授業計画を立てること。	120分
	事後学修	各自の学修目的に応じた教科書を購入すること。以下の教科書は、ユーリカ民法〔シラバス作成時点では初版〕のページ数を記載している（第1回ガイダンスにて教科書の説明をするので、購入はそのあとで良いです）。教科書3～24頁を読み、民法の全体像、基礎知識を復習しておくこと。	120分
2	民法とは何か②	第1回に引き続き、民法とはどのような法であるのかを概観します。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、民法総則の意味、法源、民法の解釈の手法について具体例と合わせて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書25～44頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	権利能力、物	この回では、権利能力について学びます。権利能力とは、私法上の権利を有したり、義務を負ったりする資格のことです。民法3条1項では、「私権の享有は、出生に始まる」とされます。それでは、まだ出生していないが、お腹の中では生きている胎児には権利能力が認められるのでしょうか。認められるとすれば、それはどのような場合でしょうか。またこの回では、今後の民法の授業において登場する「物」、動産と不動産についても学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利能力の意義、権利能力制度が設けられた趣旨、民法上の「物」の意義を理解し、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書269～272頁、253～261頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	失踪宣告 意思能力	前回に続いて、権利能力制度をみたのち、失踪宣告制度の概要について学びます。その後、重度の認知症を患った高齢者が持っていた指輪を売却してしまった場合を例にあげて「意思能力」について学びます。まず、意思能力制度の問題点をみます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利能力制度や失踪宣告制度の趣旨、意思能力の意義、意思能力制度の問題点について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書272～279頁、105～107頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	行為能力①	前回の意思能力制度の問題点を踏まえて、「制限行為能力」制度の必要性やその概要について学びます。例えば、未成年者が親の同意を得ずにバイクを購入してしまった場合に契約の効力はどうかをみていきます。また被後見人・被保佐人・被補助人が保護者の同意を得ずにできる行為・できない行為について具体例と合わせて説明します。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に関連して、制限行為能力制度がなぜ必要なのか、制限行為能力制度にはどのような類型があるのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書108～116頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
6	行為能力② 制限行為能力者の問題演習 意思表示・法律行為	前回の授業を踏まえて、未成年者が契約をする際にその相手方に対して「自分が成人である」と偽っていた場合などの事例をあげて、制限行為能力制度の相手方の保護について学びます。この回では、制限行為能力制度を題材に論述演習をする予定です。その後、次回以降の授業で必要となる「意思表示」「法律行為」の意義をみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、未成年者が保護者の同意を得ずに契約をした場合やその場合の相手方の保護の規律について具体例を用いて説明できるようになること。また、事例問題の検討方法（論述問題の作成方法）について理解できるようになること。 到達目標①・②に関連して、「意思表示」「法律行為」について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書116～120頁、53～58頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。事例問題の検討方法を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	心裡留保、通謀虚偽表示	この回では、法律行為の具体例として、まず心裡留保を学びます。例えば、Aが自身が所有するパソコンをBに売るつもりがないのに、「5万円で売ってあげる」とBに冗談で言った場合に契約の効力はどうなるのか、またBがこのパソコンをCに転売する契約を締結していた場合はどうなるのか、ということのみていきます。 次に虚偽表示について学びます。例えば、AはGから1000万円を借りていますが、返済の目途が立ちません。このままでは、自分が所有する甲土地がGに差し押さえられてしまう…。そう考えたAは、Bに相談して、甲土地をBに売ったことにしました。その後、Bは、甲土地をCに売ってしまいました。このとき、Aは、甲土地をCから取り戻せるのかという問題を考えます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、心裡留保・通謀虚偽表示の具体例、その場合に民法は「なぜ」「どのような」規律を設けているのか（制度趣旨）を説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、民法94条2項の第三者の保護要件として「登記」や「無過失」まで必要かどうかについて検討できるようになること。	
	事前学修	教科書 7 1～7 5 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
8	虚偽表示の応用——94条2項類推適用、94条2項の第三者からの転得者	Aから甲土地を買い受けたBが、自己名義ではなく、Aから直接Cへと甲の移転登記を行いました。その後、Cは甲をDに売却しました。このような場合は、94条2項を適用できません。そこで、94条2項を「類推適用」することでDを保護することができるか、ということが問題となります。この回では、上記例を題材に、「類推適用」とは何か、民法94条2項の制度趣旨を踏まえて、どのような場合に94条2項の類推適用が認められているかということを学びます。また民法94条2項の第三者からの転得者は保護されるのかという問題も学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、類推適用とは何か、なぜ民法94条2項を直接適用できないのか、民法94条2項の制度趣旨（権利外観法理）をふまえて類推適用ができるのか、「登記に公信力がない」こととの関係でどこまでの範囲で類推適用が認められるのかについて、具体的な事例を題材に自分の意見を述べられるようになること。	
	事前学修	教科書 7 5～7 9 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
9	錯誤	「100,000円」で売却するはずのパソコンを「10,000円」で売却してしまった…とある有名な画家の本物の絵画であると信じて絵画甲を高値で買ったが甲は実際には偽物だった…。このような事例を対象として、「錯誤」について学びます。改正民法によると、前者のパソコンの事例は「意思欠缺錯誤」、後者の絵画の事例は「基礎事情錯誤」と呼ばれるところ、その要件が異なっていますので、各要件の内容を詳しく学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、錯誤が認められるためにはどのような要件が必要か、なぜ各要件が必要となるのか、なぜ効果は取消しなのか、を説明できるようになること。また到達目標③・④に関連して、判例を参照しつつ錯誤の各要件をどのように解釈するのかを踏まえ、錯誤の事例問題に対して、法的根拠に基づき自己の意見（錯誤取消しの成否）を示すことができるようになること。	
	事前学修	教科書 8 0～8 5 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
10	詐欺・強迫、意思表示の取消しと第三者	成人式の着物の着付けについて「万全のサポート」とチラシに書いていたのに式の当日に着物の着付けをしてくれなかった…。この回では、このような例をあげて、詐欺や強迫による契約の取消しについてみていきます。また、AがBに騙されて甲土地を売却したが、契約を取消す前に、甲がBからCに売却されてしまった場合、Aは甲をCから取り戻せるのかという問題も検討します。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、詐欺や強迫が認められるためにはどのような要件が必要か、なぜ各要件が必要となるのかを説明できるようになること。到達目標③・④に関連して、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺の第三者が条文上異なっている理由を説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 8 6～9 4 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
11	公序良俗と契約の解釈	民法では、当事者間で自由に契約内容を決めることができます。しかし、殺人契約や麻薬の売買契約、金銭を得て不倫関係をやめる契約は、認められません。公序良俗（民法90条）に反するからです。それでは、どのような行為が公序良俗にあたり、無効となるのでしょうか。例えば、愛人の生活を保全するためになされた遺贈は無効か、食品衛生法に違反するアラレを販売したことは民法上どのように評価されるのでしょうか。この回では、こうした例をあげて、公序良俗について学びます。 またこの回では、時間があれば、当事者の契約内容の意味が不明確である場合にどのように合意した内容を確定していくのか（契約の解釈）という問題もみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、公序良俗にはどのような具体例があるのか、取締規定に違反した場合の効力はどうなるのか、について具体例を用いて説明できるようになること。契約の解釈の手法について具体例をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 1 2 5～1 3 4 頁、6 4～6 7 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
12	契約解釈の続き 消費者契約法		まず、前回の授業に続いて、契約の解釈の方法を具体例を用いて説明していきます。その後、民法の特別法である消費者契約法についてみていきます。まず消費者契約法の目的やその対象をみます。その上で、甲マンションの売買契約の際に、販売業者が甲の隣に乙マンションが建設されることを知りながら「日当たり抜群！」とお客さんに説明をした場合や、スポーツクラブが「このクラブの利用に際して一切の損害賠償責任を負わない」という条項を定めていた場合などを例にあげて、消費者契約法による契約締結過程や不当条項規制を学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、契約の解釈の手法について具体例をふまえて説明できるようになること。消費者契約法がなぜ制定され、どのような範囲を対象にしているのか、具体例を題材に消費者契約法の規律を説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 67～70 頁、95～104 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
13	消費者契約法の続き 第2回目～第13回目までの復習①		まず、前回の授業に続いて、消費者契約法の内容を具体例を用いて説明していきます。第2回目～第13回目までの内容を択一型の小テストを用いて確認します（なお、授業の進行速度により予定を変更する可能性は大いにありますので、あくまでも目安の予定です）。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できているのか・できていないのかを確認する。	
	事前学修	教科書 134～141 頁を読むこと。 今までの範囲をレジュメや教科書を用いて復習する。	360分
	事後学修	小テストの内容を復習する。	120分
14	第2回目～第13回目までの復習②		前回の小テストの解説を行います。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できているのか・できていないのかを確認する。	
	事前学修	小テストの問題をもう一度解いてみる。	240分
	事後学修	小テストの解説をふまえ、権利能力、法律行為の授業内容を復習する。	120分
15	代理制度の意義 有権代理		未成年者は、原則として自分で有効に契約を締結することができません。そのため、未成年者の代わりに契約をしてくれる人が必要です。また、自分で有効に契約を締結することができる人であっても、専門的知識がある他人に契約をしてもらった方が良いことがあります。このような場合に、「代理制度」が使われます。この回では、代理制度の必要性とその社会的役割、代理制度の種類をみた後、代理が有効に成立するための要件と代理が成立した場合の効果について学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、代理制度とは何か、なぜ代理制度が必要なのか、代理が有効に成立するためにはどのような要件が必要なのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 142～161 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
16	無権代理の基礎、無権代理とみなされる行為		前回の授業で学習したように、代理の効果が本人に有効に帰属するためには、本人が代理人に代理権を授与することが必要です（任意代理の場合）。それでは、代理権を有していない人が、本人の代理人と称して相手方と契約をした場合、その効果はどうなるでしょうか。この回では、このような「無権代理」が行われた場合の効果や無権代理人が負う責任の内容、利益相反行為、代理権の濫用について学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、無権代理行為が行われた場合の効果、相手方を保護するためにいかなる規律があるのかを説明できるようになること。また到達目標①・②・③・④に関連して、利益相反行為や代理権の濫用とは何か、両者の違い、改正民法で規定された効果の意味について、改正前の判例法理をふまえつつ説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 162～167 頁、183～191 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
17	無権代理の応用——無権代理と相続		例えば、Aの子どもであるBがAの代理人と勝手に称して、Aの有する甲土地をCに売却したとします。このとき、本人Aは、Cに対して「Bが勝手に甲土地を売っただけであり、そんな契約は認められない」と主張できます。これを追認拒絶といいます（前回の授業で学びます）。それでは、上記事例においてBの無権代理行為の後に、Aが死亡して、その地位をBが相続した場合、Bは追認を拒絶できるでしょうか。逆に、Bの無権代理行為の後に、Bが死亡し本人Aがその地位を相続した場合、Aは追認を拒絶できるでしょうか。この回では、こうした無権代理と相続の問題を学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、無権代理と相続の各種事例について、まずは判例及び学説の立場を理解できるようになること、その上で判例の問題点をふまえつつ、判例と学説のいずれの考え方が良いのかを検討し、自分の意見を述べられるようになること。	
	事前学修	教科書 191～198 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
18	表見代理の基本——表見代理の意義と具体例（109条1項・110条・112条1項・重量適用）	な無権代理の効果は原則として本人や相手方に帰属しません。しかし、例外的に無権代理行為を代理権のある代理行為と同様に扱い、本人や相手方に効果を帰属させることがあります。それが表見代理です。この回では、なぜ民法では表見代理制度があるのか、どのような表見代理の種類があるのかについて具体例を題材に学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ表見代理制度が認められているのか、なぜ各条文はそのような要件を規定しているのかについて、表見代理制度の制度趣旨をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 168～178 頁を読むこと（172～175頁の詳細は除く）。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
19	表見代理の応用①——白紙委任状と表見代理、110条の基本代理権・正当の理由	AがC銀行からお金を借りる際に、自己が所有する甲土地に抵当権を設定しようと考えました（C銀行はAから債権を回収するために抵当権を設定します）。その際、Aは、Bに抵当権設定の代理権を与え、必要な書類や「白紙委任状」をBに渡しました。しかし、Bは委任状をDに交付しました。その後、Dが空欄の委任事項欄に「甲土地の処分に関する一切の権限」と書き入れ、甲土地をEに売却しました。では、Eは甲土地を取得できるのでしょうか。こうした例を題材に、「白紙委任状と表見代理」の問題を学びます。 また民法110条の基本代理権とは何か、正当な理由をどのように判断するのかという問題について判例を簡略化した事案を対象にしてみています。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、白紙委任状を用いて代理人や他人が代理権の範囲外の行為をした場合に、なぜ民法109条1項や110条が問題となるのか、表見代理はどの範囲まで認められるのか（認められないのか）について判例や学説に基づき考察し、表見代理の成否を考察できるようになること。民法110条の基本代理権とは何か、正当な理由をどのように判断するのかについて具体例と合わせて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 178～180 頁、172～175 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
20	表見代理の応用②——権限外の行為の表見代理の応用事例	夫Aが妻Bから代理権を与えられていないのに、代理人としてBが持っている土地を勝手にCに売却してしまいました。この場合、無権代理となるのが原則ですが、表見代理は成立する可能性はないのでしょうか。こうした事例を対象に日常家事債務と表見代理の問題をみます。 また表見代理の応用事例として、民法94条2項と110条の重量適用の事例についても考えます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、日常家事債務と表見代理について判例や学説に基づき、どのような場合に表見代理が認められうるのかについて説明できるようになること、また94条2項と110条の類推適用について、なぜ重量適用が問題となるのか、第三者の保護要件はどうあるべきかについて判例や学説に基づき考察し、自分の意見を述べられるようになること。	
	事前学修	教科書 180～182 頁を読むこと、民法94条2項について復習をしておくこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
21	条件・期限、取消し・無効	「3年以内に結婚したらご祝儀で10万円あげるわ」と友達に約束した、「留年したらもう仕送りを送らない」と親に言われてしまった、20歳の誕生日が来たら御祝いをもらう。こうした例を参考に、法律用語としての「条件」「期限」について学びます。また授業の後半では、これまでの授業で登場してきた「無効」「取消し」に関する規律をもう少し詳しく学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、条件・期限の意義について具体例を用いて説明できるようになること、取消しと無効の違いについて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 199～217 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
22	時効制度の意義、時効の存在理由、取得時効（1）	時効とは何でしょうか。例えば、時効制度によると、Aが甲土地を一定期間占有すると、たとえ甲が本当はBが有する土地であっても、Aは甲土地を取得できる可能性があります。またCがDに対して貸金債権乙を有していたが、乙の返還請求権を長年の間行使しないでいると、Cは乙の返還を求めることができない可能性があります。それでは、なぜこのような制度が認められているのでしょうか。この回では、時効制度の存在理由、時効制度の全体像を概観したのち、AがBの甲土地を取得できるような場合（取得時効）について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ時効という制度があるのか、時効にはどのような種類があるのか、取得時効制度の要件・効果はどのような規律であるのかについて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 220～225 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
23	取得時効（２）・消滅時効（１）		まず前回からの続きとして、取得時効について、時効の存在理由を踏まえて自己の物の取得時効などを学びます。 その後、授業の後半では、消滅時効の起算点や時効期間について学びます。債権は①債権者が権利を行使できることを知った時から５年間、②権利を行使することができる時から１０年間で消滅するところ、「権利を行使することができる時」とはどのような意味なのかを具体的にみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、取得時効制度の要件と効果、消滅時効制度の意義と要件と効果について説明できるようになること。	
	事前学修	教科書２２５～２３２頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
24	消滅時効（２）		前回に続いて、消滅時効を学びます。例えば、判例を題材に、保険金請求権の起算点や、じん肺にり患した場合の起算点はどうかという問題を学びます。その他、改正民法による除斥期間説の不採用、人の生命や身体に関する損害賠償の時効期間の改正についてもみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、判例では消滅時効の起算点はどのように判断されているのかについて説明できるようになること。また到達目標①・②に関連して、改正前民法724条後段の除斥期間説にはどのような問題があり、改正民法においてどのような規律へと変更したのか、人の生命や身体に関する損害賠償の消滅時効がどのように改正されたのかについて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書２３２～２３６頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
25	時効の完成猶予・更新		まず、時効の完成猶予・更新について学びます。例えば、AがBに対して100万円を弁済期（お金を返す日）を１年後として貸した。だが、１年後にBはお金をAに返さない。そこで、①Aは、Bに裁判外で100万円を返すように求めた、②この求めに対してBは「１か月以内に返すからもう少し待って」と言った。しかし、Bがお金をまったく返さないで、③Aは100万円とその利息の返還請求訴訟を提起した。これら①～③のような事象は、時効の完成にどのような影響を及ぼすのか、という問題を学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、時効の完成猶予・更新の意義、具体例を用いてなぜこの場面では完成猶予や更新が問題となるのか、について時効制度の趣旨を踏まえつつ、説明できるようになること。	
	事前学修	教科書２３６～２４４頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
26	時効の援用、時効利益の放棄、債務承認後の援用		時効が完成するためには、当事者が時効により利益を受ける旨の意思表示をすることが必要です。これを時効の援用といいます。例えば、100万円を借りている借主が貸主に対して「時効が成立しているから100万円は払わない！」という意思表示をしなければなりません。またこの回では、債務者がいったん債務を承認しながら、「やっぱり時効の完成に必要な期間が経過しているからお金を返さない」といえるのかという問題についても学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、時効の援用とは何か、時効利益の放棄、債務承認後に時効の援用が認められるのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書２４４～２４９頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
27	法人・試験のこと		学校法人、財団法人、NPO法人、株式会社といった言葉を聞いたことがあると思います。この回では、人の集合や財産の集まりである「法人」について、法人とは何か、なぜ法人制度が必要なのか、法人はどのように成立し、どのような種類があるのか、権利能力なき社団とは何かということを学びます。 その後、そろそろ試験が近づいてきたので、この回では、論述試験においてどのような答案を作成する必要があるのか、論述試験の勉強をどのように行えばよいのか、を説明します。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、法人制度がなぜ必要なのか、法人制度にはどのような種類があるのか、権利能力なき社団とは何かについて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書２８０～２９８頁を読むこと（細かい記述は読み飛ばしてよい）。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。冬休み中に論述問題の対策を計画的に行い、実際に答案を書いてみる。	360分
28	第１５～２７回の復習①		第１５回目～第２７回目までの内容（代理、時効制度、法人）について択一型の小テストを用いて確認します（なお、授業の進行速度により予定を変更する可能性は大いにありますので、あくまでも目安の予定です）。
	この回の到達目標	到達目標①・②・③に照らして、これまでの授業の中でどのような点が理解できているのか・いないのかを確認する。	
	事前学修	今までの範囲をレジュメや教科書を用いて復習する。	120分
	事後学修	小テストの内容を復習する。論述問題の対策を計画的に行い、実際に答案を書いてみる。	240分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
29	第15～27回の復習② 授業内試験	前回の小テストの残りの解説をします。 その後、授業内試験を行います。なお、あくまでも目安であり、授業の進行度合い・休講によって日程が変わることもあります。実際の日程は授業中に指示しますので注意しておいてください。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④が修得できているかどうかを、主に記述式の試験によって確認する。	
	事前学修	今までの範囲についてレジュメや教科書を用いて復習すること。試験に向けて猛勉強！ 一番大切なことは、体調に気を付けること！	360分
	事後学修	試験問題を見直してみる。	120分
30	授業内試験の解説	前回の試験の解説をします。なお、授業の進行度合いによって最終回に試験をした場合には、講評は採点后に配信します。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④を修得できているかどうかを確認する。	
	事前学修	試験問題を見直してみる。	120分
	事後学修	解説を聴き、特にできなかった部分について理解すること。また民法Ⅱ以降の授業では、民法Ⅰを理解していることを前提に授業が進むので、民法Ⅰの内容を全体的に振り返っておくこと。	240分

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	益井 公司	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第2編物権のうち、第175条～第294条について学ぶ。近年、所有者不明土地問題に端を発し、物権関連の規定の見直しに向けた動きがある。そこで、本講義では、新たな動きについても紹介していくことにする。ただ何より、物権法の基礎的な事柄の理解を深めてもらうことが一番の目的であるので、具体例を示しつつ、丁寧に解説を行っていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者自らが物権に関する問題を認識し、理解するために、物権に関する規定を正確に理解するとともに、近年の物権関連規定の見直しという新たな問題にも関心を持ち、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
講義には必ず出席すること。

【授業方法】
講義形式で進めるが、必要に応じて資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義において疑問が生じたときにはただちに質問していただきたい。また学生が理解しているか否かにつき質問をするので積極的に答えていただきたい。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					1	1						
②	物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									1			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	15	15							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては文章または口頭で答える。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
物権法講義（第3版）	山川一陽	日本評論社	2012年		推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日の12時15分より13時15分までの時間帯で授業講堂にてオフィスアワーを行う（講義のあとで予約を入れるようにしていただきたい）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	物権法をいかに学ぶか。	講義のガイダンス 物権の意義と特質	
	この回の到達目標	物権法の学習方法につき理解してもらう。	
	事前学修	民法総則で民法の学習の仕方を習っていたものと思われるので、それをもう一度出して読んでおいていただきたい。以下すべての事前学習では教科書の該当部分を必ず読んでおくことが必要であり、そのことは繰り返して書かないで、その際注意すべき点など留意すべきことのみを簡単に指摘しておくことにした。（2時間）	120分
	事後学修	物権・債権の違い、なぜ両者を峻別しているのか等についてもう一度検討しておくこと。120分の復習をする（以下各授業の事後学習として120分の復習をする）（2時間）（なお、その時間が取れない場合でも、少なくとも各60分は学習時間をとること。横の時間はそれを示している。）	120分
2	物権法定主義	物権の種類 ①物権法定主義 ②慣習法上の物権	
	この回の到達目標	物権法定主義につき理解する。	
	事前学修	物権法定主義にした理由をよく考えながら教科書を読み、慣習法上の物権で物権法定主義に反するものとそうでないものが生じるのはなぜかを考えてみる。120分の予習をすること（以下各授業ごとに事前学習をして120分の予習をすること）（2時間）	120分
	事後学修	譲渡担保が認められる理由について、よく検討すること。（2時間）	120分
3	物権の客体	物権の客体	
	この回の到達目標	物権の客体につき理解する	
	事前学修	特定性、独立性を必要とし、一物一権主義をとっている理由を考えてください。そうすれば必然的に集合物についてどうするかということが理解できるはずである。（2時間）	120分
	事後学修	集合物に関する最判昭和54年2月15日民衆33巻1号51頁、最判昭和62年11月10日民衆41巻6号1559頁をもう一度よく検討すること。（2時間）	120分
4	物権の効力	物権の効力 ①優先的効力 ②物権的請求権	
	この回の到達目標	物権の効力につき理解する。	
	事前学修	物権・債権を分けたことの意味が物権の効力を検討することで分かるようになります。物権的請求権がなぜ認められているのかの理由を考えながら、教科書の該当部分をよく読んでおくことが必要である。（2時間）	120分
	事後学修	物権的請求権の性質、費用負担の問題は重要である。さらには、物権的請求権の相手方は誰になるのかについての最判平成6年2月8日民衆48巻2号373頁の判例を検討しておくこと。（2時間）	120分
5	物権変動	物権変動 ①序説 i 物権変動の意義 ii 公示の原則と公信の原則	
	この回の到達目標	i 物権変動の意義 ii 公示の原則と公信の原則につき理解する。	
	事前学修	物権の得喪・変更・喪失が物権変動ですが、それを公示する必要があるのか、公示されているものを信頼して取引した場合どうなるのかを考えること。（2時間）	120分
	事後学修	不動産登記簿はどのようにできているかを見ることによってどのような形で公示されているかを見ること。民法94条2項の類推適用の意味を検討すること。（2時間）	120分
6	物権変動	②物権変動を生じる法律行為 i 物権行為と債権行為 ii 意思主義と形式主義 iii 物権行為の独自性 iv 無因性	
	この回の到達目標	物権変動を生じる法律行為 i 物権行為と債権行為 ii 意思主義と形式主義 iii 物権行為の独自性 iv 無因性につき理解する。	
	事前学修	フランス法、ドイツ法、日本法の物権変動の法的構造を考えながら教科書を読むこと。日本法の条文をドイツ法がとっているように解釈することもできるが、かなり無理があり、意思主義、對抗要件主義になっていることを理解すること。（2時間）	120分
	事後学修	物権行為の独自性を認める意味があるのか否かを検討すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	物権変動		③物権変動の時期
	この回の到達目標	物権変動の時期につき理解する。	
	事前学修	契約時、代金支払い時、登記時のどこで所有権が移転するか考えてみよ。所有権移転時期を議論する実益はどの点にあるのか。（2時間）	120分
	事後学修	有償性理論で説明することができるのか、さらには段階的の所有権移転説（鈴木禄弥）をとることができるか検討せよ。（2時間）	120分
8	物権変動		不動産物権変動における公示 ①序説 ②公示方法としての登記
	この回の到達目標	不動産物権変動における公示について理解してもらう。	
	事前学修	物権の特質から公示する必要性が出てくることを考えながら教科書を読むこと。（2時間）	120分
	事後学修	なぜ公示の原則がとられているのか、公示の原則は徹底しているかを考えてみよ。（2時間）	120分
9	物権変動		②不動産物権変動と対抗 i 対抗とは何か
	この回の到達目標	不動産物権変動と対抗の問題につき理解してもらう。	
	事前学修	無権利者法理による第三者保護と対抗要件主義による第三者保護の関係を考えよ。さらに、「対抗できない」ということの法的意味について考えること。（2時間）	120分
	事後学修	176条で売買の意思表示だけでAからBに所有権が移転しているのならその時点で、すでにAは無権利者のはずなのに、さらにAがCに所有権を移転しCが先に登記するとなぜCが勝つのはなぜかをどう説明するか。（2時間）	120分
10	物権変動		ii 取消と登記 iii 解除と登記
	この回の到達目標	取消と登記および解除と登記の問題について理會してもらう。	
	事前学修	不動産売買契約が取り消されたり解除された場合にその不動産が第三者にすでに売られていたとか、取り消し、解除されたのにそののちに第三者に売られた場合の法的処理について考えよ。民法総則でやった取消の問題と関連させながら理解することが必要である。（2時間）	120分
	事後学修	大審院昭和17年9月30日民衆21巻911頁、最判昭和25年11月29日民衆14巻13号2869頁の判例をよく読むこと。こうした復帰的物権変動説をとるか、遡及的無効説（無権利説）をとるべきか検討せよ。（2時間）	120分
11	物権変動		iv 相続と登記
	この回の到達目標	相続と登記の問題について理會してもらう。	
	事前学修	①共同相続人の登記の冒用、②相続放棄、③遺産分割協議、④遺贈、死因贈与、さらには、⑤相続させる旨の遺言があった場合のケースなどで登記なくして第三者に対抗できるか否かを検討せよ。（2時間）	120分
	事後学修	①最判昭和38年2月22日民集17巻1号235頁、②最判昭和42年1月20日民集21巻1号16頁、③最判昭和46年1月26日民集25巻1号90頁、④最判昭和39年3月6日民集18巻3号437頁、⑤最判平成3年4月19日民集45巻4号477頁をよく読んでみるこ と。（2時間）	120分
12	物権変動		v 時効と登記
	この回の到達目標	時効と登記の問題につき理解してもらう。	
	事前学修	他人Aの不動産を時効取得したBはAに対してだけでなく、Aからの譲り受け人Cに対しても登記なくしてその取得を対抗できるであろうかについて検討せよ。（2時間）	120分
	事後学修	①占有開始時における所有者との関係（最判昭和42年7月21日民集21巻6号1653頁）、②時効完成前の第三取得者との関係（最判昭和41年11月22日民集20巻9号1901頁）、時効完成後の第三取得者との関係（最判昭和33年8月28日民集12巻12号1936頁）、さらには、最判昭和46年11月5日民集25巻8号1087頁の判例についても検討せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	物権変動	④第三者の範囲 悪意者の問題（背信的悪意者）	
	この回の到達目標	177条における第三者の問題について理會してもらう。	
	事前学修	民法177条にいう「第三者」とはいかなる者をいうか。無制限説をとるか、制限説をとるか、不法占有者に新所有者は登記なくして自分が所有者といえるか、また賃借人に対し新所有者は登記なくして賃料を請求できるかなどを考えよ。177条の第三者には悪意者も含まれるか考えよ。（2時間）	120分
	事後学修	①大連判明治41年12月15日民録14輯1276頁（制限説を採用）、②最判昭和25年12月19日民集4巻12号660頁（不法占拠者）、③最判昭和49年3月19日民集28巻2号325頁（賃料請求）、④最判平成18年1月17日民集60巻1号27頁（背信的悪意者）⑤最判平成8年10月29日民集50巻9号2506頁（背信的悪意者からの転得者）の判例につき検討せよ。（2時間）	120分
14	物権変動	登記の推定力と公信力（94条2項の類推適用） 仮登記の効力	
	この回の到達目標	登記の推定力と公信力（94条2項の類推適用）について理會してもらう。	
	事前学修	登記の効力と順位について考えよ。対抗力、推定力、公信力について検討せよ。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和34年1月8日民集13巻1号1頁（登記の推定力）、登記には公信力がないが94条2項の類推適用により公信力があるのに近い運用がなされている。これらのことにつき整理しておくこと。（2時間）	120分
15	物権変動	登記手続 登記請求権、登記の有効要件（中間省略登記、登記の流用）	
	この回の到達目標	登記手続 登記請求権、登記の有効要件（中間省略登記、登記の流用）について理會してもらう。	
	事前学修	登記の申請手続き、登記請求権、登記の有効要件についてみておくこと。特に中間省略登記、登記の流用が重要である。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和40年9月21日民集19巻6号1560頁（中間省略登記）最判昭和49年12月24日民集28巻10号2117頁（登記の流用）について検討せよ。この問題については不動産判例百選を参照のこと。（2時間）	120分
16	物権変動	明認方法等	
	この回の到達目標	明認方法につき理解してもらう。	
	事前学修	なぜ明認方法のような対抗要件が必要とされるのかを考えてみること。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和36年5月4日民集15巻5号1253頁の判例を検討すること。（2時間）	120分
17	物権変動（動産）	動産物権変動と対抗要件（178条）	
	この回の到達目標	動産物権変動と対抗要件（178条）について理會してもらう。	
	事前学修	動産物権変動における対抗要件である引き渡しは、現実の引き渡し以外に観念的な引き渡しも認められていることに注意する必要がある。（2時間）	120分
	事後学修	間接占有下にある動産の譲渡と「対抗」の関係について、大判大正8年10月16日民録25輯1824頁、最判昭和29年8月31日民集8巻8号が追う1567頁を参考に考えてみよ。（2時間）	120分
18	物権変動（動産）	動産の即時取得	
	この回の到達目標	即時取得について理會してもらう。	
	事前学修	なぜ即時取得制度が必要とされるのか、その要件効果はどうなっているのかを事前に教科書で確認しておくこと。占有改定でも即時取得は成立するかについてよく見ておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和35年2月11日民集14巻2号168頁（占有改定と即時取得）、最判平成12年6月27日民集54巻5号1737頁（194条に該当する善意占有者の使用収益権）をよく検討すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	物権の消滅	物権の消滅	
	この回の到達目標	物権の消滅について理會してもらう。	
	事前学修	混同、目的物の滅失、消滅時効、放棄、公用徴収などについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	混同の問題・海没した土地の所有権の問題・抵当権についての396条などについて検討すること。（2時間）	120分
20	占有権	占有権 ①占有と占有権 ②占有権の取得	
	この回の到達目標	①占有と占有権 ②占有権の取得に理解してもらう。	
	事前学修	占有権が成立するための所持と意思についてみておくこと、相続は新たな権限か、占有承継（187条）の問題についてよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和58年3月24日民集37巻2号131頁（占有意思）、最判昭和32年2月15日民集11巻2号270頁（法人の代表機関と占有）、最判平成8年11月12日民集50巻10号2591頁（相続と新たな権原）、最判昭和53年3月6日民集32巻2号135頁（前主の無過失と10年の取得時効[占有の承継の問題]）につき検討すること。（2時間）	120分
21	占有権	③占有権の効力、占有権の消滅。準占有	
	この回の到達目標	占有権の効力、占有権の消滅、準占有について理會してもらう。	
	事前学修	占有訴権（占有訴権の種類、交互侵奪の問題、占有訴権と本権の訴え）、権利の推定機能、占有者と回復者との関係（果実の取得等不当利得との関係）について見ておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	大判大13年5月22日民集3巻224頁（交互侵奪の問題）、最判昭和40年3月4日民集19巻2号197頁（占有訴権と反訴による本権の訴え）について検討すること。（2時間）	120分
22	所有権	所有権 ①所有権の意義と性質 ②所有権の内容	
	この回の到達目標	①所有権の意義と性質 ②所有権の内容について理會してもらう。	
	事前学修	近代的所有権の性質、所有権の内容、所有権行使の制限、土地所有権の及ぶ範囲（土地の上下、地中の鉱物、地下水、海面下の土地）（2時間）	120分
	事後学修	大判昭和10年10月5日民集14巻1965頁（宇奈月温泉事件）等権利の濫用事件、最判昭和52年12月12日判時878号65頁・最判昭和61年12月16日判時1221号3頁（海面下の土地）について検討すること。（2時間）	120分
23	所有権	③相隣関係 ④所有権の取得	
	この回の到達目標	相隣関係、所有権の取得（附合等）について理會してもらう。	
	事前学修	隣地通行権や境界付近の工作物に関する相隣関係を中心に教科書の該当部分を、所有権の取得については附合・加工を中心とし他所有権の取得の部分を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成2年11月20日民集44巻8号1037頁・最判平成18年3月16日民集60巻3号735頁（通行券の問題）、最判昭和54年1月25日民集33巻1号26頁（建築途中の建物への第三者の工事と所有権の帰属）、最判平成6年1月25日民集48巻1号18頁（建物が合体した場合、抵当権はどうなるか）の判例を検討すること。（2時間）	120分
24	所有権（共有）	⑤共有	
	この回の到達目標	共有について理會してもらう。	
	事前学修	共有・合有・総有について理解するとともに、共有物の管理、共有物の分割について教科書の該当部分を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和31年5月10日民集10巻5号487頁（共有物の管理）、最判昭和41年5月19日民集20巻5号947頁（共有者相互間の明渡し請求）、最判平成8年10月31日民集50巻9号2563頁（全面的価格賠償を認めた判例）を検討すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	区分所有		⑥建物の区分所有（教科書の記述は簡単すぎるのでもう少し詳しく説明する）	
	この回の到達目標	建物の区分所有について理會してもらう。		
	事前学修	いわゆるマンション法に關しての概要を簡単に説明するので、教科書の該当部分は必ず読んでくること。（2時間）		120分
	事後学修	この部分については、皆さんにとっても重要となることが考えられるので、区分所有法に關するいくつかの本を紹介するので、さらに勉強したい人はそれを読んでください。（2時間）		120分
26	地上権		地上権、区分地上権	
	この回の到達目標	地上権について理會してもらう。		
	事前学修	以下用益物権についての概略を説明し、地上権に入っていく、賃借権の物権化との関係も考えながら、該当箇所を読んでおくこと。（2時間）		120分
	事後学修	借地借家法による修正を検討しておくこと。（2時間）		120分
27	永小作権		永小作権	
	この回の到達目標	永小作権についてして理解してもらう。		
	事前学修	小作権の歴史や農地法の制定との関係で永小作権のことを考えるとともに、日本の農政をどうするかということを考えていただきたい。（2時間）		120分
	事後学修	農地法が大きく変わっていることとの関係を考えて、日本の農政がどうあるかを再検討すること。（2時間）		120分
28	地役権		地役権	
	この回の到達目標	地役権について理會してもらう。		
	事前学修	地役権とは何かを理解するとともに、地役権の対抗力については、重要な判例がいくつかあるのでそれを読んでおくこと（その一つは爾後学習の欄に示している）。（2時間）		120分
	事後学修	最判平成10年2月13日民集52巻1号62頁（未登記地役権の対抗力）について再検討すること。（2時間）		120分
29	入会権		入会権	
	この回の到達目標	入会権について理解してもらう。		
	事前学修	入会権の社会的意義、法的性質、入会権の内容、入会権の変動、入会権の近代化事業等について該当部分を読みながら考えること。（2時間）		120分
	事後学修	最判昭和48年3月13日民集27巻2号272頁（官地編入によっても入会権は消滅しない）、最判平成6年5月31日民集48巻4号1065頁（入会団体による総有権確認請求権）について検討すること。（2時間）		120分
30	質問受付		まとめと質問受付（事前学習をした結果わからないことがあった場合質問を受け付け、それにこたえとともに、法律の答案の書き方等について説明する）	
	この回の到達目標	物権に關し分からない点がないようにするために質問を受け付け、理會を深める。		
	事前学修	これまで学習したことでよくわからない点について質問できるよう、自分のノート等を整理してみること。（2時間）		120分
	事後学修	質問の回答を基によりさらに自分で考えてみること。（2時間）		120分

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	根本 晋一	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第2編物権のうち、第175条～第294条について学ぶ。近年、所有者不明土地問題に端を発し、物権関連の規定の見直しに向けた動きがある。そこで、本講義では、新たな動きについても紹介していくことにする。ただ何より、物権法の基礎的な事柄の理解を深めてもらうことが一番の目的であるので、具体例を示しつつ、丁寧に解説を行っていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学修者自らが物権に関する問題を認識し、理解するために、物権に関する規定を正確に理解するとともに、近年の物権関連規定の見直しという新たな問題にも関心を持ち、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義形式（オンデマンドを含む）を採用し、板書事項をしっかりと示す。なお、シラバス（学習計画）は凡その目安である。社会情勢の変化や法改正があった場合、新判例や新論点を追加した場合には、シラバスと進行に齟齬が生じる場合もある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	物権法に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。				1	1						
②	物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				1	1						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						1					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								1			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	25	25	15	15							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確 認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	20	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業内もしくはポータルサイトにて行う。	

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業開始後に紹介をする。				

【オフィスアワー】	
水道橋における出講は前期土曜日の午前中のみなので、原則として授業の前後の休み時間に対応をする。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の進め方と成績評価の方法、民法学における物権の位置づけ、など。	ガイダンス、民法学における物権法の位置づけなど。	
	この回の到達目標	物権法は民法学の一部なので、民法典における物権編の位置づけを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
2	物権法総論	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）①	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
3	物権法総論	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）②	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
4	物権法総論	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）③	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
5	物権法総論	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）①	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
6	物権変動総論	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）②	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	物権変動総論	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）③	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
8	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）①	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
9	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）②	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
10	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）③	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
11	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）④	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
12	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑤	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑥	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
14	不動産物権変動	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑦	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
15	動産物権変動	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）①	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
16	動産物権変動	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）②	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
17	動産物権変動	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）③	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
18	物権法各論・占有権	占有権（意義と効力、占有訴権、準占有など）	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	物権法各論・所有権	所有権総論（意義と効力、完全物権と制限物権、不動産所有権に関する相隣関係など）	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
20	所有権の取得原因	所有権の取得（取得原因、無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、附合、混和、加工、など）①	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
21	所有権の所得原因	所有権の取得（取得原因、無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、附合、混和、加工、など）②	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
22	所有権の態様・共有	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）①	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
23	所有権の態様・共有	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）②	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
24	所有権の態様・共有	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）③	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	物権法各論・用益物権・地上権	地上権（意義と効力、区分地上権、不動産賃借権との相違、とくに借地借家法の適用を受ける建物所有を目的とする借地について）①	
	この回の到達目標	既往の説明事項について理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
26	物権法各論・用益物権・地上権	地上権（意義と効力、区分地上権、不動産賃借権との相違、とくに借地借家法の適用を受ける建物所有を目的とする借地について）②	
	この回の到達目標	物権法各論・用益物権・地上権	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
27	物権法各論・用益物権・永小作権、地役権、入会権など	永小作権、地役権、入会権など①	
	この回の到達目標	永小作権、地役権、入会権など	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
28	物権法各論・用益物権・永小作権、地役権、入会権など	永小作権、地役権、入会権など②	
	この回の到達目標	物権法各論・用益物権・永小作権、地役権、入会権など	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
29	補遺など	補遺・調整・まとめ①	
	この回の到達目標	やり残したと思われる箇所について説明するので、それを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分
30	おさらい・まとめ	補遺・調整・まとめ②	
	この回の到達目標	30回分の授業全体を概観し、おさらいをなし、まとめるので、それを理解し、説明できるようになる。	
	事前学修	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅲ（担保物権法）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
条文上は、民法第2編物権のうち、第295条から第398条の22までが対象領域であるが、金融実務に促される形で日々発展を遂げている非典型担保の諸類型も、担保物権法の重要な領域の1つを構成している。全体として、債権の回収を容易にするための様々な物的保護手段を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会で生じる問題に対して妥当な解決を見出すことができるようになるために、一般に理解が困難とされる担保法の仕組みやその社会的意義を理解し、的確に説明することができる力を修得する。

【履修条件】
民法総則は履修済みであること。物権法の基礎理論については履修していることが望ましいが、本講義でも復習を兼ねて講義をする。債権法総論と各論は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【授業方法】
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問＆検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。授業の方法がオンディマンド方式によるビデオ録画による場合には、試験に代わるレポートをもって評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答、課題など（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等	授業の方法がオンディマンド方式によるビデオ録画による場合には、定期試験に代わるレポートをもって評価する。											
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅱ——物権〔題4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	淡路剛久ほか	有斐閣	2018	教科書	必携
新基本法コンメンタール 物権	鎌田薫・松岡久和・松尾弘	日本評論社	2020	参考書	推奨
論点体系 判例民法3〔第3版〕	能見義久・加藤慎太郎	第一法規	2019	参考書	任意
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】担保物権法を学ぶ意義：担保物権とは？		これから学ぶ“担保”とは何か、担保物権とはどのような権利であるかを学修する。また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典における担保物権がどのようなものであるか、担保物権の概要ないし輪郭を担保の視点から把握し、民法典の体系に即して説明することができる。	
	事前学修	あらかじめ教科書を２・３回通読する。併せて、これから学ぶ民法典の担保物権に関する規定（民法２９５条―３９８条の２）を音読しておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。物的担保の概要および民法典における担保物権の輪郭を把握し、整理する。（２時間）	120分
2	担保物権の意義と基本的特徴		民法典の物権編における担保物権の意義、位置付けについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「物」を「直接に」「債権」の「担保にあてる」法律上の手段とは何かを理解し、担保物権の基本的性質を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める４種類の担保物権（典型担保）の特徴を把握しておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
3	担保物権の種類		担保物権の種類を民法典の条文に即して整理し、典型担保・非典型担保との区別、法定担保物権・約定担保物権の違いなどを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、担保物権の種類とその内容を、優先弁済の効力・留置的効力・収益的効力の観点から把握し、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、担保物権の種類ごとに法的性質を調べておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（２時間）	120分
4	担保物権の効力と性質		担保物権の基本的な効力と性質を、民法典の規定に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、担保物権の効力を付従性・随伴性・不可分性・物上代位性の観点から整理し、担保物権の種類に応じて説明することができる。また、担保物権の性質を付従性・随伴性・不可分性・物上代位性の観点から整理し、各種の担保物権に備わる性質を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、担保物権の効力を調べておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
5	留置権の意義・法的性質		法定担保物権の１つである留置権の社会的意義、種類、性質について、民法典の規定に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、留置権とは何か、どのような機能を有しているのかを、留置権の社会的意義、種類、性質から説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、留置権の沿革を調べておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。留置権の意義・性質を整理するとともに、同時履行の抗弁権との異同を整理する。（２時間）	120分
6	留置権の成立要件		留置権が成立する要件を、民法典の規定に即して学習する。また、留置権の成立要件に関して争われた基本的な裁判例を整理し、その内容を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、留置権の成立要件を挙げて、その内容を説明することができる。また、成立要件のうち、「物と債権との牽連関係」をめぐる裁判例について、論点を整理し、判例の意味するところを説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、留置権の成立要件を確認しておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。とくに、物と債権と牽連関係について裁判例を整理し、理解を深める。「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	留置権の消滅		留置権の消滅について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、留置権の消滅を、物権および担保物権一般の消滅原因との関係で理解するとともに、固有の消滅原因について説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、留置権の効果を確認しておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
8	先取特権の意義・性質		法定担保物権の1つである先取特権の社会的意義、種類、性質について、民法典の規定に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、先取特権とは何か、どのような機能を有しているのかを、先取特権の社会的意義、種類、性質から説明することができる。また、先取特権が担保される目的物の違いにより、一般の先取特権と特別の先取特権に分類され、後者はさらに動産の先取特権と不動産の先取特権に分けられることを、具体例を挙げながら説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、先取特権の沿革、先取特権が担保目的物に着眼してどのように分類されるかを調べておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
9	先取特権の順位・効力と消滅		先取特権の種類と効力について、民法典の規定に即して学習する。民法典が定める先取特権は一般先取特権と特別の先取特権を合わせて15種類あり、相互の順位関係がどのように規律されているかを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、総財産の上に成立する一般の先取特権と特別の先取特権との区別、および相互の順位関係について、説明することができる。また、動産の先取特権のうち、不動産質貸の先取特権は借家内のすべての動産に及ぶかどうかについて、教科書に従って判例・学説を整理し、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、先取特権の効果を確認しておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
10	質権の意義・性質		約定担保物権の1つである質権について、民法典の規定に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、質権とは何か、質権が社会の中でどのように用いられ、いかなる機能を有しているかを、説明することができる。また、質権がその対象となる目的物に応じて動産質・不動産質・債権質の3つに分けられることについて、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、質権の沿革、現代社会における質権の役割・機能を調べておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
11	質権の設定の要件と効力		質権設定の要件と効果について、民法典の規定に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、質権の意義を踏まえて、質権設定の要件と効果について、一般的に説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、質権設定の一般的要件および効果を確認しておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
12	各種の質権と成立要件・効力		質権の目的物の違いに応じて、動産質権・不動産質権・権利質のそれぞれの特色と、その成立要件・効力について、民法典の規定に即して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、動産質権・不動産質権・権利質のそれぞれにつき、その成立要件と効力について、説明することができる。また、動産質につき、質物を第三者に奪われたり詐取された場合を例に挙げながら、質物返還請求の当否について、明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、質権が設定される目的物に即して、質権設定の要件および効果を確認しておく。 質物を第三者に奪われたり詐取された場合の事例を、事前に検討する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	抵当権の意義・性質、近代抵当制度と日本の抵当権		約定担保物権の中心をなす抵当権について、民法典の規定に即して、その意義・法的性質を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権がわが国の社会の中でどのように利用され、機能しているのか、説明することができる。また、わが国の抵当権が近代抵当制度の観点から見て、どのような特徴を有しているのか、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の沿革、取引社会における抵当権の機能・役割、近代抵当制度という観点から、わが国の抵当制度がどのような特徴を有しているかをなどを確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
14	抵当権の効力の及ぶ範囲（その0）——目的物の範囲		抵当権の効力の及ぶ範囲のうち、抵当権の目的物となり得るものについて、民法典の規定に即して学修する	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、抵当権の効力の及ぶ目的物の範囲につき、従物と付加物に関する過去の裁判例を踏まえながら、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権が不動産に設定されることの意味、抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲を確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
15	抵当権の効力の及ぶ範囲（その2）——被担保債権		抵当権の効力の及ぶ範囲うち、抵当権のによって担保される被担保債権について、民法典の規定に即して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権のによって担保される被担保債権はどの範囲で認められるのか、質権と対比しながら、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の実行によって担保される債権の範囲を確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
16	抵当権の実効手続と民事執行法		抵当不動産の競売を概観し、抵当権の物上代位、担保不動産収益執行について、民法および民事執行法の規定に即して学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当不動産の競売手続の概略を理解し、その内容を、抵当権の物上代位、担保不動産収益執行との関連において、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の実効手続としてどのようなものがあるかを把握しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
17	抵当権と利用権との関係（その1）——抵当不動産の第三取得者と代価弁済・抵当権消滅請求		抵当不動産が売却された場合の法律関係について、第三取得者の法的地位と代価弁済・抵当権消滅請求について、抵当権と利用権との関係という観点から、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権と利用権との関係、抵当不動産の第三取得者の地位、および、それをめぐる代価弁済・抵当権消滅請求との関係につき、民法典の規定に即して説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当不動産に対する抵当権者と利用権者との利害の対立とその調整方法、抵当不動産の第三取得者の地位などについて確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
18	抵当権と利用権との関係（その2）——法定地上権の意義・成立要件		抵当不動産が売却された場合の法律関係について、法定地上権の意義とその成立要件・効果について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、法定地上権とはどのような権利で、それが認められる理由や成立要件・効果について、基本的な裁判例を参照し、整理したうえで、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、抵当権者と利用権者との利害調整として、法定地上権がどのような機能を有しているかを確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	抵当権の処分		抵当権の処分として、民法典が認める転抵当、抵当権の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、抵当権の処分とは何か、抵当権の処分の意義・目的を理解したうえで、どのような行為が抵当権の処分に当たるかを説明することができる。また、抵当権の処分として、民法典が定める転抵当、抵当権の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡について、説明することができる。		
	事前学修	抵当権の処分とは何かを、民法典の規定および教科書を読み、確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
20	共同抵当		共同抵当の意義と種類、共同抵当における配当法について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、1つの債権を担保するために複数の目的物に抵当権が設定された場合の法律関係につき、共同抵当における同時配当と異時配当という観点から、具体例を挙げて説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、共同抵当の意義、配当方法における同時配当と異時配当の関係を確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
21	根抵当の意義		普通抵当と区別される根抵当権の意義と性質について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、わが国の根抵当がどのように利用され、今日の形を取るに至ったのか、説明することができる。また、普通抵当と区別される根抵当の特徴を、民法典の規定に即して説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、極度額と元本確定という観点から根抵当の仕組みを確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
22	根抵当権の内容の変更と処分		根抵当における極度額とその変更、被担保債権の譲渡・質入れ、根抵当権の譲渡などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、根抵当を構成する基本概念である極度額の意味を理解したうえで、被担保債権の譲渡・質入れ、根抵当権の譲渡などについて、民法典の規定に即して説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、根抵当権の内容の変更と処分をめぐる問題について確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
23	非典型担保総論：非典型担保の意義と種類		民法典が定める担保権以外の担保（非典型担保）について、譲渡担保、仮登記担保、所有権留保について、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、非典型担保の意義を明らかにして、どのような担保が非典型担保とされるのか、民法典以外にどのような非典型担保があるのか、非典型担保の特色と機能を説明することができる。		
	事前学修	教科書を熟読し、民法典が定める典型担保以外にどのような担保があるか、その特徴について確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
24	譲渡担保の意義		非典型担保としての譲渡担保について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②おに関連して、譲渡担保という担保制度が必要とされる理由と意義について、民法典の規定、とりわけ質権との関係を明らかにしながら、説明することができる。		
	事前学修	教科書を熟読し、譲渡担保の沿革、譲渡担保の意義と特色について確認しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
25	譲渡担保の効力		譲渡担保の効力について、目的物の動産・不動産・権利に留意しながら、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、譲渡担保にはどのような効力があるのか、目的物（動産・不動産・債権など）の違いを踏まえて、譲渡担保の対内関係と対外関係を整理し、具体的に明することができる。		
	事前学修	教科書を熟読し、譲渡担保の効力について、裁判例を参照し、対内的関係と対外的関係の観点から確認しておく。（2時間）	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分	
26	仮登記担保		非典型担保の1つである仮登記担保について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、仮登記担保とはどのような非典型担保なのか、代物弁済の予約、停止条件付売買との関係に留意しながら、仮登記担保法の構造を明らかにし、規定に即して説明することができる。		
	事前学修	教科書を熟読し、仮登記担保の意義と特色、立法上の手続について確認しておく。（2時間）	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分	
27	所有権留保		非典型担保の1つである所有権留保について、学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、所有権留保とはどのような非典型担保なのか、所有権留保付き自動車の売買を例に挙げて、裁判例を参照し、その法律関係を説明することができる。		
	事前学修	教科書を熟読し、所有権留保の意義と特色について確認しておく。（2時間）	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分	
28	特殊の担保		特殊の担保として、工場抵当法における工場財団、その他の財団抵当制度、企業担保などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が定める抵当権の不動産中心主義を補充するために認められてきた各種の財団抵当制度、企業担保などを理解し、その概要について説明することができる。		
	事前学修	教科書を熟読し、工場財団を中心とした各種の財団抵当制度、企業担保などの仕組みを確認しておく。（2時間）	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）。	120分	
29	その他の非典型担保		債権担保のために用いられる債権制度としては、どのようなものがあるか。ここでは、代理受領、再売買予約、相殺などを取り上げて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③および③に関連して、代理受領、再売買予約や相殺などの債権法に根拠を置く民法上の制度が、非典型担保として債権担保の機能を有することを理解し、問題となる各場面につき、具体的に説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法における非担保制度としての担保的利用としてどのようなものがあるか確認しておく。（2時間）	120分	
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分	
30	総括と質疑応答		これまで学んできた授業を振り返り、担保物権の意義内容を整理し、総括する。（受講者数によっては、最終授業回において、授業内試験を行う）	
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、現代社会で用いられる様々な物的担保について、抵当権を中心に整理し、債権の履行を確保する法的手段という観点から、その概要を説明することができる。		
	事前学修	教科書のページ之余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）	120分	
	事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。「課題と質問」を整理する。（2時間）	120分	

科目名	民法Ⅲ（担保物権法）	担当者	峯川 浩子	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
条文上は，民法第2編物権のうち，第295条から第398条の22までが対象領域であるが，金融実務に促される形で日々発展を遂げている非典型担保の諸類型も，担保物権法の重要な領域の1つを構成している。全体として，債権の回収を容易にするための様々な物的保護手段を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会で生じる問題に対して妥当な解決を見出すことができるようになるために，一般に理解が困難とされる担保法の仕組みやその社会的意義を理解し，的確に説明することができる力を修得する。

【履修条件】
民法総則を履修済みであること。物権・債権総論を履修済みないし履修中であることが望ましい。

【授業方法】
講義形式による。出席管理システム（レスポ）を利用して出欠確認を行う。毎回レジュメを配布しそれにも基づいて授業を進める。2コマ続きとなるので、練習問題を解くなど気分転換をはかりつつ効率よく授業をすすめたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	担保物権法に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	担保物権法における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	3回の小テストにより、到達目標①②③④についての説明 力が身についているかを確認する。	30	30	30	10							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解答と解説を配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
担保物権法〔第3版〕	山川一陽	弘文堂	平成23年	教科書	必携
担保物権法〔第3版〕	道垣内弘人	有斐閣	平成27年	参考書	任意
民法判例百選Ⅰ総則・物権第8版	潮見佳男ほか	有斐閣	平成30年	参考書	推奨
備考	レジュメを配布するので、教科書は事前・事後学習で活用してもらいたい。				

【オフィスアワー】
メールにて質問を受け付ける（minekawa.hiroko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、担保物権とは何か	ガイダンス。担保の意義、担保の必要性、物的担保と人的担保について学修する。	
	この回の到達目標	担保の意義、担保の必要性、物的担保と人的担保について理解し説明できる。	
	事前学修	シラバスの確認。担保物権に関する規定（民法295条～398条の22）と教科書に目を通し、担保物権法とはどのような法律かを把握しておく。	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
2	担保物権の意義、種類、機能からみた効力	法定担保物権と約定担保物権、民法上の典型担保物権、特別法上の典型担保物権、非典型担保物権、機能からみた効力について学修する。	
	この回の到達目標	法定担保物権と約定担保物権、民法上の典型担保物権、特別法上の典型担保物権、非典型担保物権、機能からみた効力について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書7頁～16頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
3	担保物権に共通して認められる性質	担保物権に共通して認められる性質（附従性、随伴性、不可分性、物上代位性）、民法の定める担保物権の機能について学修する。	
	この回の到達目標	担保物権に共通して認められる性質（附従性、随伴性、不可分性、物上代位性）、担保物権と物権的請求権について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書16頁～24頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
4	留置権（1）意義、法的性格、成立要件	留置権の意義と内容、法的性格について学修する。	
	この回の到達目標	留置権の意義と内容、法的性格について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書25頁～31頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
5	留置権（2）成立要件、効力、消滅	留置権の成立要件、債権と物との牽連性、留置権の効力、消滅、同時履行の抗弁権との相違について学修する。	
	この回の到達目標	留置権の成立要件、債権と物との牽連性、留置権の効力、消滅、同時履行の抗弁権との相違について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書32頁～49頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
6	先取特権（1）意義、法的性質、種類	先取特権の意義、内容、法的性格、種類について学修する。	
	この回の到達目標	先取特権の意義、内容、法的性格、種類について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書51頁～67頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	先取特権（2）順位、効力、消滅	先取特権の順位、効力、消滅について学修する。	
	この回の到達目標	先取特権の順位、効力、消滅について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書67頁～74頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
8	質権（1）質権の概要、質権の設定	質権の意義と機能、質権の機能の限界、法的性格、質権の対象、種類について学修する。	
	この回の到達目標	質権の意義と機能、質権の機能の限界、法的性格、質権の対象、種類について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書75頁～81頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
9	質権（2）質権の効力、転質	質権の効力・転質について学修する。	
	この回の到達目標	質権の効力・転質についてについて理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書82頁～98頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
10	質権（3）動産転質と不動産質権	動産転質、不動産質権について学修する。	
	この回の到達目標	動産転質、不動産質権について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書90頁～99頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
11	質権（4）権利質	権利質の意義、権利質権の成立、債権質権の効力について学修する。	
	この回の到達目標	権利質の意義、権利質権の成立、債権質権の効力について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書99頁～105頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
12	抵当権（1）抵当権の意義と機能、法的性質	抵当権の意義と機能、法的性質について学修する。	
	この回の到達目標	抵当権の意義と機能、法的性質について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書107頁～132頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	第1回小テスト及び解説	第1回～第11回まで学修したことについて小テストを実施し解説を行う	
	この回の到達目標	第1回～第11回まで学修したことが理解できているかを確認し、不確かな部分を明らかにし補修する。	
	事前学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて試験範囲について学修する	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて、学修した内容を確認し復習する	120分
14	抵当権（2） 抵当権の設定、対象	抵当権の設定、対象について学修する。	
	この回の到達目標	抵当権の設定、対象についてについて理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書133頁～137頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
15	抵当権（3） 抵当権の効力	抵当権の効力の及ぶ目的物の範囲について学修する。	
	この回の到達目標	抵当権の効力の及ぶ目的物の範囲について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書138頁～155頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
16	抵当権（4） 法定地上権①	抵当権の用益権の関係、法定地上権の意義、成立要件について学修する。	
	この回の到達目標	抵当権の用益権の関係、法定地上権の意義、成立要件について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書166頁～177頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
17	抵当権（5） 法定地上権②	土地と建物が存在するのに、土地のみ・建物だけに抵当権が設定された場合、土地と建物についてともに抵当権が設定された場合の法定地上権について学修する。	
	この回の到達目標	土地と建物が存在するのに、土地のみ・建物だけに抵当権が設定された場合、土地と建物についてともに抵当権が設定された場合の法定地上権について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書169頁～182頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
18	抵当権（6） 実行前の抵当権の効力／抵当権の効力	実行前の抵当権の効力、抵当権侵害、抵当不動産の第三取得者の地位（第三者弁済、代価弁済、抵当権消滅請求、抵当権の処分等について学修する。	
	この回の到達目標	実行前の抵当権の効力、抵当権侵害、抵当不動産の第三取得者の地位（第三者弁済、代価弁済、抵当権消滅請求、抵当権の処分等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書195頁～214頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	根抵当権（１）根抵当権の意義、特徴	根抵当権の意義、特徴、根抵当権の設定、変更、元本確定前の当事者の変更について学修する。	
	この回の到達目標	根抵当権の意義、特徴、根抵当権の設定、変更、元本確定前の当事者の変更について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書219頁～226頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
20	根抵当権（２）根抵当権の処分、元本の確定	根抵当権の処分、元本の確定について学修する。	
	この回の到達目標	根抵当権の処分、元本の確定について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書226頁～232頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書226頁～232頁に目を通しておく	120分
21	根抵当権（３）共同根抵当、共有根抵当	共同根抵当、共有根抵当について学修する。	
	この回の到達目標	共同根抵当、共有根抵当について学修する。について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書232頁～233頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
22	抵当権・根抵当権のまとめ	第12回～第21回まで学修したことについて総括する。	
	この回の到達目標	第12回～第21回まで学修した内容について理解し、説明することができる	
	事前学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて学修する	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習する	120分
23	第２回小テスト及び解説	第12回～第21回まで学修したことについて小テストを実施し、解説を行う。	
	この回の到達目標	第12回～第21回まで学修したことが理解できているかを確認し、不確かな部分を明らかにし補修する。	
	事前学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて試験範囲について学修する	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて、学修した内容を確認し復習する	120分
24	非典型担保の概要、所有権留保、譲渡担保（１）	非典型担保の種類、機能、所有権留保、譲渡担保の意義について学修する。	
	この回の到達目標	非典型担保の種類、機能、所有権留保、譲渡担保の意義について理解し、説明することができる。	
	事前学修	非典型担保の種類、機能、所有権留保、譲渡担保の意義について理解し、説明することができる。	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	譲渡担保（２）設定、対抗要件、効力	譲渡担保権の法的構成、設定、対抗要件、効力について学修する。	
	この回の到達目標	譲渡担保権の法的構成、設定、対抗要件、効力について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書244頁～252頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
26	譲渡担保（３）目的物の利用関係、処分、実行	譲渡担保権が設定された目的物の利用関係、担保目的物の処分、譲渡担保権の実行について学修する。	
	この回の到達目標	譲渡担保権が設定された目的物の利用関係、担保目的物の処分、譲渡担保権の実行について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書252頁～263頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
27	譲渡担保（４）集合譲渡担保	集合譲渡担保の意義、分析論と集合物論、流動譲渡担保権の設定と被担保債権、対抗要件について学修する。	
	この回の到達目標	集合譲渡担保の意義、分析論と集合物論、流動譲渡担保権の設定と被担保債権、対抗要件について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書263頁～272頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
28	仮登記担保（１）意義、基本的構造	仮登記担保の意義、性格論、所有権の移転時期、清算義務、仮登記担保権と後順位担保権者の保護、仮登記担保契約の手續の構造、抵当権規定の準用について学修する。	
	この回の到達目標	仮登記担保の意義、性格論、所有権の移転時期、清算義務について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書272頁～298頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
29	仮登記担保（２）仮登記担保権と後順位担保権者の保護	仮登記担保権と後順位担保権者の保護、仮登記担保契約の手續の構造、抵当権規定の準用について学修する	
	この回の到達目標	仮登記担保権と後順位担保権者の保護、仮登記担保契約の手續の構造、抵当権規定の準用について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書286頁～298頁に目を通しておく	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノートを用いて復習	120分
30	第３回小テスト及び解説	第24回～第29回まで学修したことについて小テストを実施し、解説を行う。	
	この回の到達目標	第24回～第29回まで学修したことが理解できているかを確認し、不確かな部分を明らかにし補修する。	
	事前学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて試験範囲について学修する	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて、学修した内容を確認し復習する	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）【法職課程】	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法Ⅰ・Ⅱ（民法総則・物権法）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
実務や学界の動向、最新判例、債権関係法改正の動向なども視野に入れつつ講義を行う。また、事前に授業範囲のパワーポイントを配布する予定。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を行った後、最終授業にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
債権総論	石田剛 他	日本評論社	2018	教科書	推奨
リーガルベイス民法入門 第3版	道垣内弘人	日本経済新聞出版社	2019	教科書	推奨
債権総論 第3版	中田裕康	岩波書店	2014	教科書	任意
備考	最新版の六法を持参すること。また教科書については初回の授業で補足説明する。				

【オフィスアワー】
水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験に基づき、民法において定められている規定や制度の実務上の扱いや裁判上での扱いについて説明を行う予定。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典の中で債権法総論がどのような位置を占めているかが説明できる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。		120分
	事後学修	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。		120分
2	民法の体系と債権法の位置づけ		債権法は民法の一分野であり、債権法が民法上どのような位置づけにあり、どのような性質を有しているかを物権法等と比較しながら学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法の体系と債権法の位置づけについて説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法が同じ財産法である物権法と位置づけがどのように異なっているかを確認し、不明点を明らかにする。		120分
	事後学修	特に物権法とどのように役割や機能が違うかについて、何故違うのか、何故そのような役割が与えられているかを自分なりに検討し、事前学習の疑問点を解消できたか確認する。		120分
3	債権の種類		債権の中にも種類物債権や特定物債権など様々な種類の債権が存在し、それぞれ性質が異なっている。これらの債権の分類と性質について解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、特定物債権、種類債権について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権の中でもどのような種類の債権が存在し、どのような性質を有しているのかを理解し、教科書の該当範囲に目を通しておく。		120分
	事後学修	何故そのような分類をする必要があり、分類にはどのような意味があるのかについて具体的な債権と関連付けて説明ができるようにする。		120分
4	債務不履行1		債務不履行について、なぜそのような制度が必要であるか、制度が機能するのはどのような場面かについて解説し、債務不履行制度の概要について理解することを目的とする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行制度の概要について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行について制度の目的や要件を理解し、教科書の該当範囲に目を通し、授業前に不明点を明らかにしておく。		120分
	事後学修	債務不履行制度はいくつかの類型に分類されるが、何故そのような必要があるのか、制度趣旨等と関連付けて説明ができるようにする。		120分
5	債務不履行2		債務不履行について、前回の授業で扱った類型に応じて異なる要件が求められており、類型ごとの性質を踏まえてなぜそのような要件が必要となるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行の意義・種類・効果についてその概要を説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行制度について、制度の目的を踏まえ、どのような法律上の要件が求められているか、分類によって要件がどう異なるのかを確認する。		120分
	事後学修	債務不履行の要件について、何故そのような理解となるのか、制度趣旨や債務不履行の類型ごとの性質と関連させて説明ができるようにする。		120分
6	債務不履行3		債務不履行について、債務不履行はその効果として契約そのものを遡及的に無効にする手段や契約が存在することを前提として損害賠償請求を行う手段など複数の手段が存在しており、各手段の性質を比較しながら説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行の効果について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、前回までに扱った類型や要件についての理解を確認するとともに、債務不履行の効果について、なぜそのような効果が認められるのかを検討する。		120分
	事後学修	債務不履行の効果について、そのような効果がなぜ認められるのか、複数の効果を選択できる場合には、どのような目的の違いが認められるのかを説明できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	受領遅滞		受領遅滞は、債権者側の責任の問題であり、一般的な債務不履行が債務者の責任であることと区別される。債務不履行制度との比較を通じて受領遅滞制度を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、受領遅滞の要件と効果について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、一般的な債務不履行制度と受領遅滞制度がどのように異なるか、制度趣旨や目的について確認をする。		120分
	事後学修	受領遅滞という概念の必要性や法的性質について、債務不履行制度との相違を説明できるか確認し、何故そのような理解が求められるのか確認する。		120分
8	履行の強制		契約の不履行の際に、履行を強制することができるが、債権の性質が異なるように履行の強制の方法も異なっている。債権の性質と関連付けて履行の強制について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行の効果としての履行の強制について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務者が債務不履行に陥った場合に、履行の強制の種類としてどのようなものがあるか、どのような性質を有しているかを確認する。		120分
	事後学修	債務不履行との連続性を意識し、かつ、債権の性質を踏まえ、債権が最終的にどのように実現されるかを説明できるようにする。		120分
9	損害賠償1		損害賠償制度について、日本の損害賠償制度の趣旨がどのようなものであるかを解説し、損害とは何か、どのように算出されるのかなどを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損害賠償制度に関して損害の意義について説明できるようにし、日本の損害賠償制度における問題点を明らかにする。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、損害賠償制度について、どのような目的の制度であるかなどの制度趣旨を確認する。		120分
	事後学修	債務不履行に基づく損害賠償制度の目的や機能について、不法行為に基づく損害賠償制度との違いを踏まえながら理解し、説明できるようにする。		120分
10	損害賠償2		損害賠償の損害額を算出するにあたっては、当事者の公平を保つため、債権者側、債務者側に特殊事情が存在する場合にはそれを考慮する必要があるが、どのような理論的根拠に基づいて行われるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損害賠償制度における損害額の算出方法について説明できるようにし、損害額に影響を及ぼす諸制度についての妥当性に問題意識を持てるようにする。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、損害賠償の際に考慮しなければならない特殊事情としてどのようなものが存在するのかを確認する。		120分
	事後学修	損害額を算出するにあたって、どのような事由が考慮され、また、考慮されないのかについてそれぞれの論理的な根拠を自分なりに説明ができるようにする。		120分
11	責任財産の保全1		債務者から資金を回収する際に、債務者に財産がなければ空振りしてしまうため、民法上どのような債務者の責任財産を保つ仕組みが用意されているのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、責任財産の概念について説明できるようにし、責任財産がどのような意義を持っているかを説明できるようにする。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、責任財産とは何か、責任財産を保全する目的は何かといった概要を確認しておく。		120分
	事後学修	責任財産を保全する必要性と債権者代位権の制度趣旨や機能について具体的な事例を念頭に説明ができるようにする。		120分
12	責任財産の保全2		責任財産の保全には、債権者代位権と詐害行為取消権とが民法上存在しているが、それぞれ適用場面が異なっており、どのような事情があればいずれの手段を選択するべきであるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権者代位権と詐害行為取消権とが責任財産の保全に関してどのような位置づけにあるかについて説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権者代位権と詐害行為取消権の機能や目的の違いを予め確認し、どのような場面で機能するのかを考えてみる。		120分
	事後学修	責任財産の保全について、債権者代位権と詐害行為取消権を念頭に置き、法的な手段の区分と要件及び効果を制度趣旨と関連させて説明ができるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	多数当事者の債権関係	今までは基本的に当事者は債権者と債務者の関係を念頭に置いていたが、一方あるいは双方の当事者が複数人存在する法律関係も存在し、どのような場合にそのような法律関係が生じるのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、多数当事者の場合における特殊性について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、多数当事者とはどういった事実関係で問題となるのか、今まで学習してきた事実関係と対比させて、問題点を確認しておく。	120分
	事後学修	多数当事者という制度が必要な理由を考え、二当事者の場合と比べてどのような点に影響があるのかを確認し、説明ができるようにする。	120分
14	連帯債務1	多数当事者の中で最も重要な概念の一つである連帯債務について、債務者が複数人存在し、かつ、連帯して債務を負っている場合にどのような影響関係があるかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連帯債務の要件・効果について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、連帯債務とはどのような当事者が登場し、どのような債権関係に立っているか概要を確認する。	120分
	事後学修	連帯債務は、債権者にとってどういったメリットのある制度であり、どのような制度設計が念頭に置かれているかを理解し、債権者の権利の拡張を説明できるようにする。	120分
15	連帯債務2	連帯債務の場合には、当事者が複数人存在するため、一人に特定の事情が生じた場合、他の債務者や債権者との関係でどのような影響が生じるのかを理解する必要がある、理論的根拠とともに解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、連帯債務において各当事者間の関係性について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、連帯債務者の一人に生じた事情が他の債務者に影響を及ぼす場合と及ぼさない場合が存在することを確認し、どのようにして分類できるのかを考えてみる。	120分
	事後学修	授業で扱った各事情がなぜ他の債務者に影響を及ぼすのか、逆になぜ他の債務者に影響を及ぼさないのか、分類を暗記するのではなく、論理的根拠から説明ができるようにする。	120分
16	保証債務1	保証制度は主として債権者の債権を強化する目的で利用されるが、他方で保証人が不当に害されることを防ぐ必要がある。民法が各当事者の利害関係にどのような配慮をした制度を用意しているかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保証制度の概要について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、保証債務の場合に、連帯債務とどのように異なるかを意識して、保証制度の機能や目的を確認しておく。	120分
	事後学修	保証債務について、制度趣旨の違いを踏まえ、連帯債務者の場合と比較してどのような立法的な保護がなされているのかを理解し、説明ができるようにする。	120分
17	保証債務2	保証債務には、連帯保証債務というより債権者の債権を強化した類型が存在するが、保証債務に比して非常に債権者の債権が強化されており、保証人の権利が制限されている。これらの制度趣旨を解説し、かつ、保証人の保護について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保証債務と連帯保証債務の相違について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、保証債務の中に連帯保証債務という類型が存在することを確認し、通常の保証債務とどのような点で異なり、制度趣旨がどのようなものか確認しておく。	120分
	事後学修	連帯保証債務について、保証債務及び連帯債務とどのように異なっており、どのような場面で使い分けがなされているのか、債権者との関係を踏まえて考え、説明ができるようにする。	120分
18	債権譲渡1	債権譲渡はかつては否定されていた制度であるが、近代に近づくにつれて積極的に活用されるようになった制度であり、債権譲渡を活用することの利点と不都合性としてどのようなものがあるかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡制度の概要について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡の制度について、どのような目的の制度であるか、どのような場面で活用される制度であるかを確認する。	120分
	事後学修	債権譲渡がどのような目的で行われる制度であるか、債権譲渡のやり方にはどのような類型があるのかを理解し、債務者・債権者・第三者の状況に応じてどのような手法が妥当であるかを考えられるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
19	債権譲渡2	債権譲渡の対抗要件は債務者に対するものと第三者に対するものでは異なった条文が用意されている。それぞれの特色及び債権譲渡の対抗関係特有の問題について解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡の対抗要件制度の特殊性について、物権の対抗要件制度と比較しながら説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡の対抗要件として、どのような制度が用意されているのかを確認する。この際、債務者と第三者ではどのように異なっているかを特に意識する。	120分	
	事後学修	債権譲渡の対抗要件と物権法の対抗要件との制度の相違を確認し、なぜそのような相違が生じるのかを考え、それぞれの法的性質や制度趣旨を理解し、説明ができるようにする。	120分	
20	債務引受等	債権が移転するのが債権譲渡であるが、債務や契約上の地位が移転する制度も存在する。しかし、各当事者の利害関係は債権譲渡とは異なっており、異なる考察が必要であることから、各当事者の利害関係を中心に解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務引受について、債権譲渡と比較しながら説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡に隣接した制度として債務引受、契約上の地位の移転が存在することを確認し、制度の構造がどのようなものか確認する。	120分	
	事後学修	契約上の地位の移転には、賃貸借契約上の地位の移転等、それぞれの契約類型に応じて問題点が異なっており、具体的な事案との関係で各当事者の利害関係を考えてみる。	120分	
21	債務消滅 - 弁済1	発生した債権がどのようにして消滅するのかについて、総論的な解説を行う。債権の消滅に関しては、債権者と債務者の利害関係が対立するため、どのような調整がなされるのかといった観点から解説を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務の消滅一般について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債務が消滅するのはどのような類型が存在するか確認し、弁済についての該当箇所を確認する。	120分	
	事後学修	債務が消滅する法制度間の差異を理解し、各制度ごとの論点や特徴としてどのようなものがあるか、なぜそのような問題が生じるのかといったことを順序立てて説明できるようにする。	120分	
22	債務消滅 - 弁済2	弁済がどのような場合に有効であるのか、また、誤った弁済を行ってしまった場合にどのような処理がなされるのかを解説し、債権者と債務者間の利害関係がどのように調整されているのかを学ぶ。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、弁済の概要について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、弁済の要件及び効果について理解し、弁済が否定される場合や誤った弁済の取り扱いについてどのような問題が存在するのかを確認する。	120分	
	事後学修	誤った弁済がなされた場合にどのような例外が認められるか、その後の求償関係の処理はどのようになされるのかについて、事例設定から結論までの順序を説明できるようにする。	120分	
23	債務消滅 - 弁済による代位	第三者が弁済を行った場合には、第三者が債務者に対して求償権を取得する。この場合には、債権者、債務者に加えて第三者の存在をも考慮した検討が必要となる。利害関係が複雑になるが、法がどのような調整を図っているかを解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、弁済による代位について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、第三者が弁済をすることによって債務が消滅した際に、当該第三者が債務者に対してどのような権利を有するのか、求償権について確認する。	120分	
	事後学修	第三者が一部しか弁済していない場合と第三者が全額を弁済した場合には、当然各当事者の利害関係の程度が異なっており、第三者の弁済の程度によって検討事項や結論に影響を及ぼすか考える。	120分	
24	債務消滅 - 代物弁済	代物弁済は、通常の弁済と比べて債権者との合意が必要であり、代物弁済契約として扱われ、通常の弁済とは異なった法理論に服することになる。代物弁済の特色を解説し、弁済との相違を解説する。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、代物弁済について説明できる。		
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、代物弁済という類型が弁済とはどのように異なった制度化を確認し、要件・効果の相違を確認する。	120分	
	事後学修	代物弁済がなされたのち、代物として引き渡されたものに瑕疵が存在していた場合や当事者に錯誤が生じていた場合、どのような扱いになるのか、既に学習してきた知識を利用して検討する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	債務消滅 - 供託	供託は、供託所に目的物を引き渡すことによって債務を免れる行為であり、債権者が弁済を受け入れない場合等に利用される制度である。供託は、供託所を介することによって通常の弁済とは異なった制度が用意されており、これを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、供託について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、供託制度の概要を確認し、供託を行う場合の手順を理解しておく。	120分
	事後学修	今まで学習してきた範囲を含めて供託制度がどのような事例で用いられるかを調べ、供託制度を他の法律関係と有機的に結び付け、全体像を理解でき、説明ができるようにする。	120分
26	債務消滅 - 相殺1	相殺は、双方の当事者が相手方に対して債権を有している際に対等額を消滅される制度である。債務を消滅されるものであるが、双方の債務を消滅されるものである以上、通常の弁済よりも利害関係が複雑であり、相殺が制限される場合もある。これらの制度を相殺の類型に応じて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相殺制度一般について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、相殺制度についてどのような当事者間の関係で用いられる制度かを確認する。	120分
	事後学修	債権譲渡や責任財産の保全の分野でも相殺は重要な機能を有しており、相殺の機能を理解するとともに、他の法制度ではどのように適用がなされるのかをパワーポイントの復習をしながら確認する。	120分
27	債務消滅 - 相殺2	相殺を行おうとした債権ないし債務が第三者によって差押えられる場合がある。しかし、相殺を望む当事者の利益を法は強く保護しており、第三者との間でどのような利害関係の調整しているのかを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相殺と差押えについて説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、相殺と差押えの問題について、どのような当事者が存在し、どのような利害関係を有しているのかを確認する。	120分
	事後学修	相殺と差押えはいくつかの類型に場合分けをすることができるが、各場合において各当事者の利害関係が異なっており、それぞれの当事者の利害関係が結論にどのように影響を与えるのか自分で説明ができるようにする。	120分
28	債権法改正について	債権法が改正されたが、単に個々の条文を改正したのではなく、大きな改正の趣旨が存在しており、各制度や条文を理解するうえで必要な知識となっている。改正の目的やどのように条文化したかなどの解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債権法改正の影響等について説明できる。	
	事前学修	配布したパワーポイントを確認し、債権法改正について、どのような目的のもと、どの分野が改正されたのかおおよそ確認する。	120分
	事後学修	改正された条文がなぜそのように改正されたのか等、条文から直ちに読み取ることができない改正の目的を理解し、有機的な条文のつながりを説明ができるようにする。	120分
29	授業内試験及びまとめ	授業内で試験を行った後、債権法総論のまとめとなる解説を合わせて行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	授業内試験を行うため、配布したパワーポイントを確認し、復習を行う。	120分
	事後学修	授業内試験で扱った内容のうち、不明点を整理し、次の授業までに質問ができるようにする。	120分
30	授業内試験の解説	前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、試験の講評を踏まえて課題を発見し、その解決方法を探求できる。	
	事前学修	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。	120分
	事後学修	全30回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得済みであること。

【授業方法】
授業は、下記授業区分のとおり、講義回と演習回（課題解説回）とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり、講義回後には事後課題を提出することになる。事後課題としては、選択肢問題のほか、事例問題についての検討結果をレポートでまとめることも求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③④についての理解度および説明力が身についているかを，選択肢問題への回答とレポートにより評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期的に行う演習回において、それまでの事後課題に対する解説をするとともに、どのような間違いが多かったかも含めたフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
有斐閣ストゥディア民法4 債権総論	山本敬三監修	有斐閣	2018年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日 13：00－17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義案内、債権法総論の概観	講義テーマやスケジュール、講義方法、成績評価の方法、教科書の紹介を含めて、債権法総論の学修方法について説明し、そのうえで債権法総論を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法における債権法総論の位置づけを説明することができるようになる。	
	事前学修	事前にオンライン上で配付される第1回講義レジュメを読んでおくこと。 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる	120分
2	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像）	民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権総論の前提となる民法総則や物権法の知識を復習し、説明することができるようになる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
3	民法の全体像②（民法の基本概念）	民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債権総論の前提となる民法総則や物権法の知識を復習し、説明することができるようになる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
4	契約の履行①（弁済、第三者による弁済）	弁済権者や弁済受領権者、弁済の方法、弁済の充当を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、弁済における各種の原則と例外を整理した後、478条がいかなる理由から債権者ではない者に対する弁済をも例外的に有効としているかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
5	契約の履行②（多数当事者の債権債務関係 i）	分割債権・分割債務、連帯債権・連帯債務、不可分債権・不可分債務について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権者や債務者が多数になる場合にもいくつかのパターンがあることを認識し、分割債務の原則には不合理な場面も多いことからその例外が広く解されていることを体系的に説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
6	契約の履行③（多数当事者の債権債務関係 ii）	単なる保証と異なる連帯保証、共同保証、根保証を学ぶ。それぞれ、通常の保証とどこが異なるのかを意識しながら学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、保証契約とはそもそも誰との間の契約であるのか、他にも保証人がいると信じて契約した場合には契約をなかったことにできるのかといったことも含めながら、保証債務の性質を説明することができる。また、通常の保証と連帯保証や保証連帯との相違を説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	契約の履行④（多数当事者の債権債務関係iii）		保証債務の過大な負担により破産等の事態が拡大した過去を背景に、我が国における保証人保護の法理について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの保証人保護のあり方だけでなく、2017年改正により新たに導入された保証人保護規定について説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
8	契約の履行⑤（弁済による代位、決済システム）		「弁済による代位」の意味、および代物弁済の実際における用いられ方、さらには供託制度を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、保証人や連帯債務者が一定の弁済をすれば主債務者や他の連帯債務者に求償をすることができるにもかかわらず、それに加えてなぜ弁済による代位という制度が用意されているのかを論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
9	演習（第1回）		民法の全体像、契約の履行①②③④⑤を終えて、これらを復習しながら事後課題の解説をし、フィードバックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する事後課題を振り返り、間違えた箇所を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
10	契約の不履行①（債務履行の強制i）		債務不履行の種類をおさえたうえで、債務者に債務不履行があった場合に債権者が選択できる手段を学ぶ。また、履行不能の場合には履行請求ができないことから、履行不能とはどのようなものを学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務不履行がある場合、債権者は履行請求ができるのが原則であるが、これができない場合もある。それがどのような場合であるのか理解し、条文に即して説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
11	契約の不履行②（債務履行の強制ii）		履行方法と関連して、「弁済の提供」の制度を学ぶ。
	この回の到達目標	弁済の提供という制度がなぜ必要なのかを確実に理解したうえで、その要件と効果を説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
12	契約の不履行③（債務履行の強制iii）		履行強制の方法を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、債務の性質に応じてどのような履行強制が用意されているのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	契約の不履行④（契約の解除 i）		そもそも契約の解除とはどのようなものなのかから始まり、解除が認められるための要件を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、解除の種類を理解したうえで、民法改正により法定解除が認められる要件がどのように整備されたのかを条文に即して説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
14	契約の不履行⑤（契約の解除 ii）		契約が解除できた場合の効果としての原状回復について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約が解除された場合の原状回復につき、買主が受領物を返還できない場合の法的処理などの未だ解決をみない問題についても近時の有力説を意識しながら自身の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
15	演習（第2回）		履行の強制と契約の解除を終え、これらを復習しながら事後課題の解説をし、フィードバックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する事後課題を振り返り、間違えた箇所を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
16	契約の不履行⑥（損害賠償請求の要件）		債務不履行による損害賠償の要件を学ぶ。いかなる場合には債務者は免責されるのかを意識して学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債務者の帰責事由につき、改正の前後により解釈がどのように変わり得るのかを、事例に即して説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
17	契約の不履行⑦（損害賠償請求の効果）		損害賠償の範囲、損害の金銭的評価、さらには過失相殺や違約金の定めなどについて学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、損害賠償の範囲につき、判例多数説と有力説とはどのような考え方の対立であり、具体的にどのような事例において差が生じるのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
18	契約の不履行⑧（第三者による債権侵害・受領遅滞など）		債権が債務者ではなく第三者により侵害され得るかどうかも含め、この議論の特殊性を理解するとともに、近時の議論の動きを学ぶ。また、受領遅滞についても改正による影響を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権侵害と受領遅滞につき、改正により明文化された部分とそうでない部分を意識しながら、近時の学説の到達点を説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	事例問題に対するレポート作成回		課題提示方式により行う。具体的には事前に提示済みの事例問題につき、これまでの学習内容を踏まえて民法上の問題点を発見し、そのうえでどのように考えるべきか検討し、レポートを実際に作成していく。
	この回の到達目標	これまでよりも長文かつ複雑な事例問題を前提に、要件と効果を検討し、その過程で民法上問題となる点を見つけ、自身の考えを論理的に展開することができるようになる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	提出したレポートを読み直し、次の解説講義に備える。	120分
20	演習（第3回）		損害賠償の要件・効果、さらには第三者による債権侵害や受領遅滞を終え、これらを復習しながら事後課題の解説をし、フィードバックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する事後課題を振り返り、間違えた箇所を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
21	不良債権の回収①―責任財産の保全（総論）		責任財産という概念を理解したうえで、こうした責任財産が減少しようとしている場合における債権者保護の在り方について、債権者の予めの手立ても含め、総合的に学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務者が任意に支払いをしない場合、債権者はどのような手順により債務者の責任財産に対して強制執行をしていくのかをおさえたうえで、こうした強制執行を頼りにするのでは不安な点があるという見地から、物的担保や人的担保の必要性や責任財産保全制度の意義を説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
22	不良債権の回収②―責任財産の保全（債権者代位権）		債権者代位権の要件・効果・転用事例を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、責任財産保全のための制度である債権者代位権が債権回収のために用いられているというのはどういうことかを理解し、こうした法運用をどう評価すべきか自身の意見を述べることができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
23	不良債権の回収③―責任財産の保全（詐害行為取消権）		詐害行為取消権の要件・効果を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、民法改正では、破産法上の否認権との逆転現象を回避すべく詐害行為取消権がどのように改正されたのかという観点から説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
24	演習（第4回）		責任財産の保全総論、債権者代位権、詐害行為取消権を終えて、これらを復習しながら事後課題の解説をし、フィードバックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する事後課題を振り返り、間違えた箇所を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	不良債権の回収④―変則的な債権回収（相殺 i）		相殺の一般的要件・方法・効果を学んだうえで、相殺が制限・禁止される場面を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、相殺制度に独特の法律用語をおさえたうえで、相殺の要件を説明することができる。また、相殺が制限・禁止される場合については、なぜ制限・禁止されるのかを論理的に説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
26	不良債権の回収⑤―変則的な債権回収（相殺 ii・代物弁済）		相殺と差押えについて、具体的事例を挙げながら、2017年改正前における判例・学説の主張とその論拠をそれぞれ学び、こうした判例学説が改正法においてどのような変化を受けるのかを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相殺と差押えを中心として、改正前の重要判例が改正でどう取り込まれたのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
27	不良債権の回収⑥―変則的な債権回収（債権譲渡 i）		世の中でなぜ債権譲渡が行われるのかをおさえたうえで、譲渡制限特約や債権譲渡の成立要件を学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡とはどのような場合に行われるものであり、なぜ譲渡制限特約なるものがなされ、その効果は改正によりどう変更されたのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
28	不良債権の回収⑦―変則的な債権回収（債権譲渡 ii）		債権譲渡の対抗要件や、その他の発展的問題として債権譲渡と相殺について学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡では第三者対抗要件についても債務者に対する通知承諾が中核に据えられている理由を論理的に説明したうえで、債権譲渡と相殺といった発展的問題についても概要を説明することができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
29	不良債権の回収⑧―変則的な債権回収（債権譲渡 iii）		抗弁の承継や将来債権譲渡について学修する。抗弁の承継をめぐっては、2017年改正により廃止された「異議なき承諾制度」と今後の取扱いについても応用的に学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡がなされた場合に債務者が既に有していた抗弁権がどのように取り扱われるのか、また2017年改正で債務者の異議なき承諾制度が廃止された理由を論理的に説明したうえで、今後の債務者と債権者との利益調整のあり方について自身の考えを述べることができる。	
	事前学修	教科書あるいはレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
	事後学修	レジュメを読み返して復習したうえで、事後課題に取り組んで提出する。	120分
30	演習（第5回）		相殺、代物弁済、債権譲渡を終え、これらを復習しながら事後課題の解説をし、フィードバックを行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	上記テーマに関する事後課題を振り返り、間違えた箇所を中心に復習をしておく。	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する 来年度における民法やその延長線上の科目の履修計画を立てる	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	益井 公司	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方(仕組み)を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例(現代社会が直面している問題)の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
講義には必ず出席すること。

【授業方法】
講義形式で進めるが、必要に応じて資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	講義においてわからないことがあれば積極的に質問すること。また講義中に学生が理解しているか質問をするので積極的に答えるようにしてもらいたい。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を 確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
抗議内容が理解できているかを短時間で書いてもらう。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新・マルシェ債権総論	宮本健蔵編著	嵯峨野書院	2019年		必携
備考	債権総論は大きく改正されたが、まだ施行されていないため、新法と旧法の両方を説明する。新法についてはプリントを配布する予定である。4月の講義のときまでに新法の内容をもった適切な教科書が見つければ講義の初めに教科書を変更したことをお知らせする。				

【オフィスアワー】
火曜日の12時20分より13時20分までの時間帯で授業講堂にてオフィスアワーを行う（講義の終わりに予約を入れておいていただきたい）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	いかに民法を学習するか。	講義のガイダンス	
	この回の到達目標	債権総論の学習の仕方を習得する。	
	事前学修	第一回目の講義なので、債権法総論に関し予習する必要はないが、民法総則、物権法をすでに学んでいるので、それら全体をもう一度見ておいていただきたい。（2時間）以下かっこ内の時間は詳細に学習するとそれくらいかかるということを示している。	120分
	事後学修	民法の学び方に関し、プリントを配布するので、それをもう一度よく読んでおくこと。120分の復習をすること（以下各授業の終わりには必ず120分の復習をすること）。（2時間）	120分
2	債権の意義	1 債権法の意義 ①債権の基本概念 ②債権と物権 債権法の特質	
	この回の到達目標	債権の基本概念を理解する。	
	事前学修	債権の基本概念 債権と物権 債権法の特質に関する教科書簿部分をあらかじめ読んでくること。120分の予習をすること（以下各授業の初めに120分の予習をすること）。（2時間）	120分
	事後学修	債権と物権の峻別にどのような意味があるのか、債権法の普遍的性質等についてももう一度考えること。（2時間）	120分
3	債権の目的	債権の目的 ①特定物債権 ②種類債権 旧規定による特定物ドグマの否定（新483条）、特定物と機変負担等との関係が新法では改正されていることに注意する必要がある。	
	この回の到達目標	特定物債権・種類債権について理解する。	
	事前学修	教科書の特定債権、種類債権の部分を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和30年10月18日民集9巻11号1642頁、この部分に関する改正法の内容についてももう一度確認しておくこと。（2時間）	120分
4	債権の目的	③金銭債権 ④利息債権 ⑤選択債権 ⑥任意債権	
	この回の到達目標	金銭債権・利息債権につき理解する。	
	事前学修	金銭債権、利息債権、選択債権、任意債権の箇所をあらかじめ学習しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成22年4月20日民衆64巻3号921頁、最判平成20年6月10日民集62巻6号1488頁をよく読んでみること。（2時間）	120分
5	債権の効力	2 債権の効力 ①序説（債権の対内的効力、債権の保全的効力、債権の対外的効力） i 不完全債務（自然債務）	
	この回の到達目標	債権の効力につき理解する。」	
	事前学修	債権の対内的効力、債権の保全的効力、債権の対外的効力、不完全債務（自然債務）について、あらかじめ読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	自然債務という概念が、必要か否を検討すること。（2時間）	120分
6	債券侵害	ii 第三者による債権侵害（不法行為の成立と妨害排除）	
	この回の到達目標	第三者による債券侵害につき理解する。	
	事前学修	第三者による債権侵害と不法行為、債権に基づく妨害排除請求の部分を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	大審院大正4年3月10日刑録21輯279頁（第三者の債権侵害と不法行為）、最判昭和30年5月31日民集9巻6号774頁（2重譲渡）、東京地判平成20年12月10日判時2035号70頁（引き抜き）、最判昭和28年12月18日民集7巻12号1515頁（妨害排除）、最大判昭和61年6月11日民集40巻4号872頁（人格権）を検討すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	現実的履行の強制	②現実的履行の強制	
	この回の到達目標	履行の強制につき理解する。	
	事前学修	債務の履行の強制の部分を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	大決昭和10年12月16日民集14巻2044頁（謝罪広告）、幼児の引き渡し請求の問題について整理しておくこと。（2時間）	120分
8	債務不履行責任の拡大現象	③損害賠償の請求（債務不履行の種類、債務不履行責任の拡大）	
	この回の到達目標	債務不履行責任の拡大現象につき理解する。	
	事前学修	債務不履行責任の拡大（客観的拡大、人的拡大、時間的拡大）、つまり、安全配慮義務、契約交渉破棄における責任、説明義務違反に基づく損害賠償について、あらかじめ教科書等で見ておくこと（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和50年2月25日民集29巻2号143頁（判然配慮義務）、最判昭和59年9月18日判時1137号51頁（契約交渉破棄における責任）、最判平成23年4月22日民集65巻3号1405頁（契約締結説明義務違反）（2時間）	120分
9	債務不履行の種類と要件	i 債務不履行の種類と要件（履行不能、履行遅滞、不完全履行）	
	この回の到達目標	債務不履行に一般的形態につき理解する。	
	事前学修	履行不能、履行遅滞、不完全履行について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	債務者の帰責事由（帰責事由か免責事由か）履行補助者の故意・過失（どのような形で債務を履行するかという契約内容の問題か）など自分でもう一度整理しておくこと。（2時間）	120分
10	債務不履行による損害賠償	ii 債務不履行による損害賠償（損害賠償の範囲を中心に） 損害の概念 損害の種類、損害賠償の範囲、損害賠償の調整（損益相殺、過失相殺）、損害賠償の予定、代償請求権の新法での明文化	
	この回の到達目標	債務不履行の効果（損害賠償の範囲等）につき理解する。	
	事前学修	債務不履行の効果の部分を読んでおくこと。（2時間）	120分
	事後学修	損害賠償の範囲を中心として、最判平成21年1月19日民集63巻1号97頁（損害回避減少措置）、大審院大正7年8月27日民集24巻1658頁（416条2項の予見時期）、最判昭和28年12月18日民集7巻12号1448頁および最判昭和47年4月20日民集26巻3号520頁（損害算定時期）をもう一度整理しておくこと。（2時間）	120分
11	受領遅滞	④受領遅滞	
	この回の到達目標	受領遅滞につき理解する。	
	事前学修	受領遅滞に関し教科書等を使い勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	新法による受領遅滞における効果の明文化、受領不能か履行不能か争われるケース（最判昭和62年7月17日民集41巻5号1350頁）を検討すること。また受領遅滞の解消に関し最判昭和45年8月20日民集24巻9号1243頁を検討すること。（2時間）	120分
12	債権者代位権	3 責任財産の保全 ①債権者代位権 その1（意義と機能、債権者代位権の要件、債権者代位権の対象となる権利）	
	この回の到達目標	債権者代位権の意義・要件につき理解する。	
	事前学修	債権者代位権の意義・機能と要件の部分教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和55年7月11日民集34巻4号628頁（内容確定前の金銭債権）、最判昭和50年3月6日民集29巻3号203頁（債務者の無資力）、最判平成13年11月22日民集55巻6号1033頁（遺留分減殺請求）、最判昭和58年10月6日民集37巻8号1041頁（慰謝料請求）、最判昭和43年9月26日民集22巻9号2002頁（時効の援用権）について検討すること。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	債権者代位権	その2（行使方法、行使の効果、債権者代位権の転用）	
	この回の到達目標	債権者代位権の行使方法・行使の効果。債権者代位権の転用につき理解する。	
	事前学修	債権者代位権の行使方法、行使の効果、債権者代位権の転用につき教科書等を使い勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和44年6月24日民集23巻7号1079頁（行使できる範囲）、大判明治43年7月6日民録16輯537頁（登記請求権の代位行使）、大判昭和4年12月16日民集8巻944頁、最判昭和29年9月24日民集8巻9号1658頁（不動産賃借権の保全）、最判昭和50年3月6日民集29巻3号203頁（金銭債権の特定債権としての保全）を検討すること。（2時間）	120分
14	詐害行為取消権	2 詐害行為取消権 その1（意義、法的性質、詐害行為取消権の要件①[詐害行為]） 相対的取消を否定し絶対的取消を新法では認める。要件は相関的判断による。	
	この回の到達目標	詐害行為取消権の意義・要件につき理解する。	
	事前学修	詐害行為取消権の意義、その法的性質、詐害行為取消権の要件（①詐害行為）について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	時価相当価額での不動産の売却、一部の債権者への弁済または担保の供与等につき新法および旧法での議論を整理しておくこと。（2時間）	120分
15	詐害行為取消権	その2（詐害行為取消権の要件②[被保全債権の要件]、詐害行為取消権の行使方法、行使の効果、行使期間等）	
	この回の到達目標	詐害行為取消権の効果につき理解する。	
	事前学修	詐害行為取消権の要件②[被保全債権の要件]、詐害行為取消権の行使方法、行使の効果について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	対抗要件を具備させる行為は詐害行為となるか、相続の放棄・遺産分割の合意・離婚に際しての財産分与等は詐害行為になるか検討しておくこと。特定債権でも被保全債権となるか、被保全債権の成立時期さらには取消権の範囲および内容について整理しておくこと。（2時間）	120分
16	多数当事者の債権関係	4 多数当事者の債権関係 ①序説 ②分割債権関係、③不可分債権関係	
	この回の到達目標	多数当事者の債券関係のうち、分割債券関係、不可分債権関係、連隊債権関係につき理解する。	
	事前学修	多数当事者の債権関係の①意義、②分割債権関係、③不可分債権関係について教科書などで勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	平成17年9月8日民集59巻7号1931頁、最判昭和42年8月25日民集21巻7号1740頁の判例を検討すること。不可分的給付の対価の支払い義務は不可分債務か検討せよ（大判対象1年11月24日民集1巻670頁、大判昭和7年6月8日裁判例6巻民179頁）。（2時間）	120分
17	多数当事者の債権関係（連帯債務）	④連帯債務関係 その1（意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力（連帯債務の対外的効力、連帯債務の一人について生じた事由））	
	この回の到達目標	連帯債務の意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力につき理解する。	
	事前学修	連帯債務の意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	債務者の一人についての無効・取消し、連帯債務の一人について生じた事由につき絶対的効力事由差応対的効力事由について整理しておくこと。（2時間）	120分
18	連帯債務の対内的効力	その2（連帯債務の対内的効力（求償関係）、不真正連帯債務、連帯債権）	
	この回の到達目標	連帯債務の対内的効力である求償関係、不真正連帯債務につき理解する。	
	事前学修	連帯債務の対内的効力である求償関係、不真正連帯債務、連帯債権について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	大判昭和7年9月30日民集11巻2008頁（有効とみなす効果の法的構成（相対的效果説））、最判平成22年10月8日民集64巻7号1719頁、最大判平成28年12月19日民集70巻8号2121頁を検討せよ。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
19	保証債務		⑤保証債務 その1（意義と性質、保証債務の成立）
	この回の到達目標	保障債務の意義と性質、保証債務の成立につき理解する。	
	事前学修	保障債務の意義と性質、保証債務の成立について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和40年6月30日民集19巻4号1143頁、最判平成28年1月12日民集70巻1号1頁を検討しておくこと。（2時間）	120分
20	保証債務		その2（保証債務の内容、保証債務の対外的効力）
	この回の到達目標	保証債務の内容、保証債務の対外的効力につき理解する。	
	事前学修	保証債務の内容、保証債務の対外的効力について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和40年6月30日民集19巻4号1143頁・最判昭和47年3月23日民集26巻2号274頁、最判昭和20年5月21日民集24巻9頁を検討のこと。（2時間）	120分
21	保証債務		その3（主たる債務者または保証人に生じた事由の効力）
	この回の到達目標	主たる債務者または保証人に生じた事由の効力につき理解する。	
	事前学修	主たる債務者または保証人に生じた事由の効力を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成15年3月14日民集57巻3号286頁、最判昭和46年10月26日民集25巻7号1019頁、最判昭和43年10月17日判時540号34頁、大判昭和20年9月10日民集24巻82頁を検討すること。（2時間）	120分
22	保証債務		その4（保証債務の内部関係、特殊な保証）
	この回の到達目標	保証債務の内部関係、特殊な保証（特に根保証）につき理解する。	
	事前学修	保証債務の内部関係、特殊な保証を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成2年12月18日民集44巻9号1686頁、最判昭和60年2月12日民集39巻1号89頁、最判平成27年11月19日民集69巻7号1988頁、平成24年12月14日民集66巻12号3559頁を検討のこと。（2時間）	120分
23	債権・債務の移転		5 債権・債務の移転 ①序説 ②債権譲渡 その1（債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限など）
	この回の到達目標	債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限につき理解する。	
	事前学修	債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和53年12月15日判時916号25頁、最判平成11年1月29日民集53巻1号151頁、最判平成13年11月22日民集55巻6号1059頁を検討すること。譲渡制限に関しては新法でかなり内容が変わっているので注意すること。（2時間）	120分
24	債権・債務の移転		その2（債権譲渡の債務者および第三者対抗要件）
	この回の到達目標	債権譲渡の債務者および第三者対抗要件につき理解する。	
	事前学修	債権譲渡の債務者および第三者対抗要件のぶぶんを教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和49年3月7日民集28巻2号174頁、最判昭和55年1月11日民集34巻1号42頁、最判平成5年3月30日民集47巻4号3334頁を検討のこと。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	債権・債務の移転	③債務引き受け・契約上の地位の移転	
	この回の到達目標	債務引き受け・契約上の地位の移転につき理解する。	
	事前学修	債務引き受け・契約上の地位の移転について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和41年12月20日民集20巻10号2139頁、最判昭和46年4月23日民集25巻3号388頁を検討すること。（2時間）	120分
26	債権の消滅	6 債権の消滅 ①序説 ②弁済	
	この回の到達目標	債権の消滅（弁済）につき理解する。	
	事前学修	債権の消滅 ①序説 ②弁済の部分を教科書等で勉強しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和63年7月1日判時1287号63頁、最判昭和37年8月21日民集16巻9号1809頁、最判昭和59年2月23日民集38巻3号445頁、平成15年4月8日民集57巻4号337頁を検討のこと。（2時間）	120分
27	債権の消滅（弁済者代位）	弁済者代位	
	この回の到達目標	弁済者代位につき理解する。	
	事前学修	弁済者代位の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判昭和59年5月29日民集38巻7号885頁、平成7年3月23日民集49巻3号987頁、最判平成23年11月22日民集65巻8号3165頁、最判昭和61年11月27日民集40巻7号1205頁を検討のこと。（2時間）	120分
28	債権の消滅（相殺）	③相殺	
	この回の到達目標	総裁について理解する。	
	事前学修	相殺の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成25年2月28日民集67巻2号343頁、最判昭和45年6月24日民集24巻6号587頁を検討すること。（2時間）	120分
29	債権の消滅（代物弁済・供託、更改・免除・混同）	④代物弁済・供託、更改・免除・混同	
	この回の到達目標	代物弁済・供託、更改・免除・混同につき理解する。	
	事前学修	代物弁済・供託、更改・免除・混同について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	最判平成24年9月4日金判1413号46頁、最判昭和46年10月14日民集25巻7号933頁を検討すること。（2時間）	120分
30	質問受付	まとめと質問受付（事前学習をした結果わからないことがあった場合質問を受け付け、それにこたえとともに、法律の答案の書き方等について説明する）	
	この回の到達目標	債権法は大幅な改正がなされているのでその点に注意しながら、債権総論で良くわからなかった点につき質問を受け、理解を深めてもらう。	
	事前学修	これまでの講義においてよくわからなかった点を自分で整理しておくこと。（2時間）	120分
	事後学修	質問に対する説明を受けたはずなのでそれを整理しておくこと。（2時間）	120分

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	清水 恵介	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権法総論の講義では、債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を学修する。具体的には、契約等によって成立した債権に基づき履行を請求する場面(債権の目的・多数当事者の債権等)、債務者が契約に基づいた義務を履行しない場合に債務者に対して何らかの請求をする場面(債務不履行等)、債務者の行為によって債権が消滅する場面(弁済・相殺等)のように場面に応じた法の適用を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。また、本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
債権法が大幅に改正されたため、必ず最新版の六法を持参すること。また、民法Ⅰ・Ⅱ（民法総則・物権法）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
実務や学界の動向、最新判例、債権関係法改正の動向なども視野に入れつつ講義を行う。授業内試験の講評及び解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	教員の問いかけに対し、どのように考えるかを口頭で表現してもらう。単に、知識の有無を問うものではない。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法総論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法総論における主要判例・諸制度・諸規定について、そのような判例の趣旨や制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験の実施後に、その採点結果を踏まえた講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法4債権総論（有斐閣ストゥディア）	山本敬三監修	有斐閣	2018年	教科書	必携
備考	最新版の六法を用意すること。				

【オフィスアワー】
当該授業に関する質問を、授業期間中の火曜日12時～13時に研究室で受け付ける。ただし、オフィスアワーを利用した質問を希望する学生は、ガイダンスの際に教示するメールアドレス宛てに、質問の概要及び希望日を事前に通知し、希望者の競合等により対応不能である旨の回答がない場合であることを条件とする。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、債権総論の位置づけ	履修条件を満たし得ることを確認した上で、シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書・参考書について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促す。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、債権総論の位置づけについて説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。（2時間）	120分
	事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書・参考書・六法・ノートの購入等、受講に向けた具体的準備を行う。（2時間）	120分
2	債権の意義、債権総論の意義	本講義の中核概念である「債権」とは何かを説明するほか、債権をもつことの法的意義、債権と並ぶ主要な財産権である物権との違いを説明し、併せて、債権総論という科目の意義についても、債権法全体の中での位置付けという視点から説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、債権の意義について説明できる。	
	事前学修	巻頭にある教科書の使い方や「民法の全体像と本巻の位置付け」を読んだ上で、教科書第1章、1～11頁を読み、債権の意義や債権総論という科目の意義について考察する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第1章のPOINT（11頁）を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）	120分
3	債権の目的（1）：特定物債権、種類債権	債権総論の最初のパートであり、多義性のある「債権の目的」という概念について説明するほか、その規定群に含まれる数種の債権のうち、特定物債権と種類債権を採り上げ、両者の違いに留意しながら、その法的意義について具体例を踏まえつつ説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、特定物債権・種類債権について説明できる。	
	事前学修	教科書第2章のうち、12～23頁を読み、「債権の目的」という言葉の意味のほか、特定物債権と種類債権について考察する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2章のPOINT（35頁）1～7を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）	120分
4	債権の目的（2）：金銭債権、利息債権、選択債権	「債権の目的」の規定群に含まれる数種の債権のうち、金銭債権と利息債権と選択債権、とりわけ、利息債権に関して高金利規制を行う特別法である利息制限法や貸金業法等について説明し、理解させる。また、教科書を超える内容として、貸金業法に関する判例をきっかけに全国で多発した過払金返還請求訴訟についても説明を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金銭債権・利息債権・選択債権について説明できる。	
	事前学修	教科書第2章のうち、23～35頁を読み、金銭債権、利息債権、選択債権について考察する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第2章のPOINT（35頁）8～11を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）	120分
5	債務不履行総論	「債権の効力」に関する規定の中核概念であり、債権各論にも射程が及ぶ「債務不履行」について、その詳細を検討する前に、意義・種類・効果の概要を説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務不履行の意義・種類・効果について説明できる。	
	事前学修	教科書第3章、36～46頁を読み、債務不履行の意義・種類・効果について、その全体像を考察する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第3章のPOINT（46頁）を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）	120分
6	履行請求権・履行の強制	債務不履行を理解する上で要となる「履行」に関し、実体法上も重要な履行請求権につき、履行不能や代償請求権の概念とともに説明し、併せて、手続法とも連続性を有する履行の強制（強制執行）についても、その具体的方法である直接強制・代替執行・間接強制を中心に説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、履行請求権と履行の強制について説明できる。	
	事前学修	教科書第4章、47～61頁を読み、履行請求権と履行の強制について考察する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書第4章のPOINT（61頁）を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	債務不履行による損害賠償の要件 (1)：意義，成立要件		債務不履行の重要な効果である損害賠償について，具体例とともにその意義を説明するとともに，その成立要件を1つずつ分解しながら説明し，理解させる。	
	この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して，債務不履行による損害賠償の成立要件について説明できる。		
	事前学修	教科書第5章のうち，62～73頁を読み，債務不履行による損害賠償の意義と成立要件について考察する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書第5章のPOINT（78頁）1・2を読み，授業中の理解が正しいことを確認するとともに，レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。（2時間）		120分
8	債務不履行による損害賠償の要件 (2)：免責事由，填補賠償／債務不履行の 効果としての損害賠償(1)：意義		債務不履行による損害賠償責任の免責事由である「債務者の責めに帰することができない事由」について，履行補助者を用いた場合等の諸問題を含めて解説し，「債務の履行に代わる損害賠償」（填補賠償）の要件について解説するとともに，債務不履行による損害賠償の効果論のうち，「損害賠償」と「損害」の意義についても解説し，理解させる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して，債務不履行による損害賠償の免責事由と填補賠償，損害賠償と損害の意義について説明できる。		
	事前学修	教科書第5章のうち，73～78頁を読み，債務不履行による損害賠償の免責事由と填補賠償について考察するとともに，教科書第6章のうち，79～83頁を読み，債務不履行による損害賠償の効果である「損害賠償」と「損害」の意義についても考察する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書第5章のPOINT（78頁）3～5と第6章のPOINT（100頁）1を読み，授業中の理解が正しいことを確認するとともに，レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。（2時間）		120分
9	債務不履行の効果としての損害賠償 (2)：賠償範囲の確定，損害の金銭的 評価ほか		債務不履行による損害賠償の効果に関する諸問題として，通常損害と特別損害の区別を含む損害賠償範囲の確定の問題，損害賠償額算定の基準時を含む損害の金銭的評価の問題，過失相殺や違約金の定めを含む損害賠償額の算定に関する特則の問題，損害賠償による代位の問題を採り上げて説明し，理解させる。	
	この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して，賠償範囲の確定，損害の金銭的評価について説明できる。		
	事前学修	教科書第6章のうち，83～101頁を読み，債務不履行による損害賠償の効果に関する諸問題として，前回の授業内容以外のものについて考察する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書第6章のPOINT（100・101頁）2～8を読み，授業中の理解が正しいことを確認するとともに，レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。（2時間）		120分
10	債権者代位権(1)：意義，要件		教科書第7章・第8章を読み解く上で重要な「責任財産」の概念について説明し，これらの章で扱う債権者代位権と詐害行為取消権とがいずれも責任財産保全の制度であることを理解させるとともに，前者の債権者代位権について，その意義と一般的要件について説明し，理解させる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して，債権者代位権の意義と要件について説明できる。		
	事前学修	教科書第7章のうち，102～111頁を読み，責任財産保全の制度について概観するとともに，その制度の1つである債権者代位権のうち，その意義と一般的要件について考察する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書第7章のPOINT（122頁）1～6を読み，授業中の理解が正しいことを確認するとともに，レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。（2時間）		120分
11	債権者代位権(2)：行使，転用		前回の授業に引き続き，債権者代位権をめぐる諸問題のうち，事実上の優先弁済機能を含む債権者代位権の行使の問題と，登記請求権の代位行使を中心とする債権者代位権の転用の問題を採り上げて説明し，理解させる。	
	この回の 到達目標	到達目標②③④に関連して，債権者代位権の行使と転用の問題について説明できる。		
	事前学修	教科書第7章のうち，111～122頁を読み，前回の授業内容を踏まえつつ，債権者代位権の行使と転用をめぐる諸問題について考察する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書第7章のPOINT（122頁）7～11を読み，授業中の理解が正しいことを確認するとともに，レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。（2時間）		120分
12	詐害行為取消権(1)：意義，要件		責任財産保全の制度の1つである詐害行為取消権について，その意義と一般的要件を説明し，理解させる。	
	この回の 到達目標	到達目標①②③④に関連して，詐害行為取消権の意義と要件について説明できる。		
	事前学修	教科書第8章のうち，123～133頁を読み，詐害行為取消権の意義と一般的要件について考察する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書第8章のPOINT（152・153頁）1を読み，授業中の理解が正しいことを確認するとともに，レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	詐害行為取消権(2)：詐害行為の類型による特則	前回の授業に引き続き、詐害行為取消権の一般的要件を踏まえつつ、相当の対価を得てした財産の処分行為や特定の債権者に対する担保の供与等の偏頗行為など、詐害行為の類型による特則について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐害行為取消権における詐害行為の類型による特則について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章のうち、133～143頁を読み、詐害行為の類型による特則について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第8章のPOINT(153頁)2～5を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
14	詐害行為取消権(3)：行使	前回の授業に引き続き、詐害行為取消権の行使の方法や、受益者・転得者の権利を含めた詐害行為取消権の効果、詐害行為取消権の期間制限について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、詐害行為取消権の行使について説明できる。	
	事前学修	教科書第8章のうち、143～153頁を読み、詐害行為取消権の行使について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第8章のPOINT(153頁)6～8を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
15	多数当事者の債権および債務(1)：分割債権、分割債務、連帯債権	このパートの主題である多数当事者の債権関係(債権者複数と債務者複数)一般について説明し、その一連の類型のうち、原則類型である分割債権・分割債務を説明するとともに、連帯債権についても、新設の規定に基づいて説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、分割債権・分割債務・連帯債権について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章のうち、154～162頁を読み、多数当事者の債権関係一般について考察するとともに、その一類型である分割債権・分割債務から連帯債権までを考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第9章のPOINT(175頁)1～4を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
16	多数当事者の債権および債務(2)：連帯債務、不可分債権、不可分債務	多数当事者の債権関係の諸類型のうち、連帯債務、不可分債権、不可分債務について、連帯債務者の1人について生じた事由の効力(相対的効力・絶対的効力)や債務者間の求償関係を中心に説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、連帯債務・不可分債権・不可分債務について説明できる。	
	事前学修	教科書第9章のうち、162～175頁を読み、多数当事者の債権関係の一類型である連帯債務から不可分債権、不可分債務までを考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第9章のPOINT(175頁)5～9を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
17	保証(1)：保証債務	多数当事者の債務の一類型でもある保証債務について、その成立・性質(付従性・随伴性・補充性等)・内容等を説明するとともに、保証人の求償権についても説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、一般的な保証債務について説明できる。	
	事前学修	教科書第10章のうち、176～191頁を読み、多数当事者の債権関係の一類型としても位置付けられる保証債務一般について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第10章のPOINT(199頁)1～7を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
18	保証(2)：連帯保証、共同保証、根保証	前回の授業に引き続き、保証の諸類型である連帯保証・共同保証・根保証について、一般の保証との違いを踏まえながら説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、連帯保証・共同保証・根保証について説明できる。	
	事前学修	教科書第10章のうち、191～199頁を読み、保証の諸類型である連帯保証・共同保証・根保証について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第10章のPOINT(199頁)8～10を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	債権譲渡(1)：要件	債権譲渡の意義・目的について説明するとともに、その要件として、とりわけ債務者及び第三者に対する各対抗要件につき、その制度趣旨のほか、通知の同時到達・先後不明といった特殊な事例を紹介しつつ説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、債権譲渡の要件について説明できる。	
	事前学修	教科書第11章、200～215頁を読み、債権譲渡の要件について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第11章のPOINT(215頁)を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
20	債権譲渡(2)：効果、譲渡性	前回の授業に引き続き、抗弁の対抗を含む債権譲渡の効果について説明するとともに、将来債権を含めた債権の譲渡性と、その例外としての譲渡制限、とりわけ譲渡制限特約の効力について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、債権譲渡の効果と債権の譲渡性について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章のうち、216～227頁を読み、債権譲渡の効果と譲渡性について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第12章のPOINT(236頁)1～3を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
21	債務引受	債権譲渡に関連する制度として規定が新設された債務引受について、併存的債務引受と免責的債務引受に分けてその要件・効果一般を説明するとともに、免責的債務引受による担保の移転を特に採り上げて説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、債務引受について説明できる。	
	事前学修	教科書第12章のうち、227～236頁を読み、債務引受について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第12章のPOINT(236頁)4を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
22	弁済(1)：弁済者	債権の本来的な消滅原因としての弁済の意味や基本的効果を確認させるとともに、弁済をする権限をもつ者としての弁済者について、第三者弁済を中心に説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、弁済一般について説明できる。	
	事前学修	教科書第13章のうち、237～247頁を読み、弁済の意味のほか、弁済者が誰かについて考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第13章のPOINT(268頁)1・2を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
23	弁済(2)：弁済による代位	前回の授業に引き続き、弁済に関する諸規定のうち、弁済による代位の制度について、それが求償権を確保するために原債権と担保権を移転させるものであることを具体例とともに説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、弁済による代位の制度について説明できる。	
	事前学修	教科書第13章のうち、247～254頁を読み、弁済による代位の制度について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第13章のPOINT(268頁)3を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
24	弁済(3)：相手方、充当、方法／代物弁済、供託	前回の授業に引き続き、弁済に関する諸規定のうち、受領権者としての外観を有する者(表見受領権者)への弁済を有効とする民法478条を中心とした弁済の相手方の問題のほか、弁済の充当、弁済の方法について説明するとともに、弁済に関連する債権の消滅原因としての代物弁済と、供託一般を含めた弁済供託の制度について説明し、理解させる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、弁済の相手方・充当・方法、代物弁済、供託について説明できる。	
	事前学修	教科書第13章のうち、254～268頁を読み、弁済の相手方、弁済の充当、弁済の方法について考察するとともに、代物弁済と弁済供託についても併せて考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第13章のPOINT(268頁)4を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	相殺(1)：意義、要件、方法、効果		弁済以外の債権消滅原因を説明した上で、その中で最も重要な相殺について、その意義・要件・方法・効果一般を順次説明し、理解させる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、相殺の意義・要件・方法・効果について説明できる。	
	事前学修	教科書第14章のうち、269～279頁を読み、相殺の意義・要件・方法・効果について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第14章のPOINT(300頁)1～3を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
26	相殺(2)：制限・禁止、相殺と差押え		前回の授業に引き続き、相殺に関する諸規定のうち、相殺の制限・禁止について説明する。とりわけ、民法511条が定める相殺と差押えとの優劣関係について、具体例とともに説明し、理解させる。
	この回の到達目標	到達目標②③④に関連して、相殺の制限・禁止、相殺と差押えの問題について説明できる。	
	事前学修	教科書第14章のうち、279～288頁を読み、相殺の制限・禁止に関する諸規定、とりわけ、相殺と差押えの優劣関係について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
27	弁済の提供・受領遅滞		債権の消滅原因ではないものの、弁済に関連する制度としての弁済の提供と受領遅滞について具体例とともに説明し、理解させる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、弁済の提供・受領遅滞について説明できる。	
	事前学修	教科書第14章のうち、288～300頁を読み、弁済の提供と受領遅滞について考察する。(2時間)	120分
	事後学修	教科書第14章のPOINT(300頁)4～6を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。(2時間)	120分
28	授業内試験及びまとめ(1)		授業内試験を実施するとともに、残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し、理解させる。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	教科書の各章のうち、欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し、授業内試験に向けて学習事項をまとめる。(2時間)	120分
	事後学修	授業内試験やその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について、教科書や参考書等を確認した上で再検討する。(2時間)	120分
29	授業内試験(予備日)及びまとめ(2)		これまでの授業内容に対する質問を受け付けるとともに、やむを得ない事由により前回の授業内試験を受験できなかった者のための追試験を実施する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学修内容をまとめ、その全体を概括的に説明できる。	
	事前学修	前回の授業まででなお理解が不十分であった箇所について考察し、授業内での質問事項をまとめる。(2時間)	120分
	事後学修	自分や他の学生が行った質問やそれに対する教員の回答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し、再検討する。(2時間)	120分
30	試験の講評		授業内試験の採点結果を踏まえ、特に誤りがちであった点を中心に講評し、随時質問を受け付ける。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内試験の問題について考察し、課題を探究できる。	
	事前学修	授業内試験で扱われたテーマについて、再度教科書等に当たって考察する。(2時間)	120分
	事後学修	試験の講評内容やその後の質疑応答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し、再検討する。(2時間)	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
2年次以降の学生を対象とする。民法総則は履修済みであること。あわせて債権総論を履修する（している）ことが望ましい。

【授業方法】
教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業中に配布した教材プリントに記載の「質問＆検討」、「前提となる法律知識」、「法律知識の整理」などにつき、翌週の授業内で解説、および質疑応答を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。				2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。				2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。						2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。								2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。授業の方法がオンデマンド方式によるビデオ録画による場合には、試験に代わるレポートをもって評価する。	20	20	20	20							80
小テスト等	授業中の小テスト、質疑応答、課題など（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④についての理解度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等	授業の方法がオンデマンド方式によるビデオ録画による場合には、定期試験に代わるレポートをもって評価する。											
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。最終授業回試験を実施する場合には、試験終了後、教室にて解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法Ⅳ——債権各論〔第4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	藤岡康宏ほか	有斐閣	2019	教科書	必携
民法（債権関係）改正法新旧対照条文	商事法務（編）	商事法務	2017	参考書	推奨
講座：現代の契約法 各論1・2・3	内田貴・門口正人（編）	青林書院	2019	参考書	任意
改正民法[債権法]における判例法理の射程	伊藤進（監修）	第一法規	2020	参考書	推奨
備考	六法は必携である。				

【オフィスアワー】
木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 弁護士、家庭裁判所家事調停委員
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士および家事調停委員の実務経験に基づき、理論と実務の架橋となる考える授業を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【ガイダンス】債権法各論を学ぶ意義：債権法とは？／付・近時の債権法改正と民法典		これから学ぶ“債権法”とは何か、債権と物権の違い、債権法総則と各論の区別、近時の債権法改正の意義などを理解し、債権法各論を学ぶ意義と目的を学修する。また、各回の授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献等の紹介を行う。これによって、受講生は授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が定める債権法とはどのような法律で、何を規律し、どのような意味を持っているかを、近時の債権法改正を視野に入れながら、その要点ないしポイントを、民法典の体系に即して説明することができる。		
	事前学修	あらかじめ教科書の全体を2・3回ほど通読する。併せて、これから学ぶ民法典の債権各論に関する規定（民法521条―724条）を音読しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
2	契約法総論―契約の意義、契約の種類と性質、契約の分類		契約法総論として、契約の意義、契約の種類と性質について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典に規定された13種類の典型契約について、契約の意義、契約の種類と性質を理解し、諾成・要物、様式・不様式、有償・無償、双務・片務の観点から、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、債権が売買や賃貸借などの各種の契約を主たる原因として発生すること、契約の一般的ルールがどのようなものであるかを、民法典の規定に即して整理しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
3	契約自由の原則とその制限、約款取引		契約自由の原則とその制限、約款取引／現代社会における契約の特色―契約の多角的法律関係、複合的給付などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約自由の原則とその制限、約款取引について、その実態を知り、説明することができる。また、現代社会における契約の特質を明らかにし、契約の多角的法律関係という観点から、現代契約の意義ないし特徴を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約に共通する契約の一般的ルールについて、理解を深めておく。併せて、現代社会における契約の特色を調べておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
4	契約の成立と効力（その1）：申込と承諾―契約の成立時期		契約の成立と効力（その1）――申込と承諾、契約の成立時期、契約と信義則、事情変更の原則について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、契約の成立を申込と承諾の観点から把握するとともに、各種の契約について、何時・どの段階で契約が成立するのかを説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、契約が成立するための要件について、申込と承諾、承諾機関の有無、対話者・隔地者間の取引の違いなどを考慮し、検討しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
5	契約の成立と効力（その2）：双務契約と牽連関係		契約の成立と効力（その2）――双務契約と牽連関係、契約締結上の過失理論について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、契約が成立した後の効力について、売買などの双務契約を中心に、牽連関係という観点から整理し、説明することができる。また、双務契約と牽連関係に関連して、契約締結上の過失理論とは何かを明らかにし、民法典の規定に即して、その意味内容を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
6	契約の成立と効力（その3）：危険負担、債務不履行		契約の成立と効力（その3）――危険負担、債務不履行について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、売買や請負などの契約締結後、目的物が引き渡されるまでの間に、当該目的物が滅失・損傷した場合の法律関係について、契約の牽連関係という観点から、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	契約の成立と効力（その４）：契約の解除、解除と第三者		契約の成立と効力（その４）——契約の解除、解除と第三者について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、契約の締結後、履行期が到来したにもかかわらず、自己の債務を履行しない債務者について、どのような責任が生じるのかについて、説明することができる。また、契約が解除された場合の契約当事者間および第三者との間の法律関係について、判例・学説の見解ないし議論を整理し、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
8	贈与の意義・種類、成立と効力、特殊の贈与		財貨移転型契約：贈与の意義と種類、成立と効力／特殊の贈与——負担付贈与、死因贈与、定期贈与などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、社会における贈与の意義を理解し、贈与が成立する場合の要件と効力を、動産・不動産の区別に従って、説明することgできる。また、死因贈与、負担付き贈与などの特殊な贈与について、社会における活用と問題点について、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、贈与の社会的意義を知ったうえで、贈与がどのような場合に成立し、いかなる効力を有するかをを学習しておく。併せて、贈与の種類についても、理解を深めておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
9	売買：意義と性質、売買の成立		売買の意義と性質、売買の成立と効力、手付の意義・種類、買戻・再売買の予約
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、典型契約の中心となる売買について、その特徴を諾成・不様式・有償・双務の観点から明らかにし、動産と不動産とでどのような取引法理の違いが生ずるのか、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、現代社会の取引の根幹をなす売買について、消費者取引の観点から、売買の意義・性質、売買が成立するに至るプロセスを調べておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
10	売買の効力：売主の契約不適合責任		売買における売主の契約不適合責任について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、売買契約において種類・品質・数量に関して不適合が生じた場合に、売主にどのような責任が生じるかについて、買主の権利という観点から、民法典の規定に即して説明することができる。また、近時の債権法改正において、どのような改正が行われたかを、民法典の規定に即して説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、引き渡された給付の目的物に欠陥・瑕疵があった場合の処理につて、動産売買と不動産売買とを対比しながら、売主の責任を検討しておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
11	特殊の売買——割賦販売・訪問販売／交換		特殊の売買——消費者契約補、割賦販売・訪問販売など／交換について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、特殊の売買として、消費者契約法や割賦販売法、特定商取引法が制定されている意義、および、これらの特別法が民法とどのような関係に立つのかを、消費者保護の観点か、らその内容を明らかにし、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める売買と異なる取引類型である割賦販売と訪問販売について、消費者取引の観点から理解を深めておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
12	消費貸借意義、成立と効力、金利と利息に関する規制		貸借型契約：消費貸借の意義、成立と効力、利息に関する法規制——金利と利息制限、刑罰などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代の消費貸借が金銭を中心に営まれていることを理解したうえで、金銭消費貸借をめぐる法律関係について、金利と利息、刑罰などの観点から、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、金銭などの消費物の借入がどのような仕組みで行われるかについて学習しておく。金銭の消費貸借は売買と並んで現代社会で最も重要な契約である。併せて、利息に関する法規制についても調べておこう。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	使用貸借の意義、成立と効力／賃貸借の意義		使用貸借の意義、成立と効力、使用貸借の終了／賃貸借の意義について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、無償契約としての使用貸借契約のわが国における利用について、具体例を挙げながら、説明することができる。／賃借型契約の中核となる賃貸借について、その特徴を諾成・不様式・有償・双務の観点から明らかにし、動産と不動産とでどのような取引法理の違いが生ずるのか、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、物の貸し借りの中核をなす賃貸借について、意義、成立と効力などを学習しておく。売買と同様に、賃貸借も多様な目的物を対象としているから、注意を要する。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
14	賃貸借の成立と効力		賃貸借の成立と効力―賃貸借の存続期間・更新、賃貸借の終了、賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃借人の第三者に対する関係について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不動産に関する賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認し、基本的な法律関係を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、賃貸借が成立した後の当事者間の権利・義務関係について、学習しておく。併せて、賃貸中の不動産の譲渡、賃借権の譲渡や賃借物の転貸などの第三者に対する関係についても、理解を深めておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
15	特殊の賃貸借―借地借家契約		特殊の賃貸借―借地借家契約（その1）
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、土地を中心とした賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認するとともに、これらの法律関係が借地借家法によりどのように修正されているかを、説明することができる。併せて、宅地以外の農地などの賃貸借関係についても、農地法などの規定を挙げて、説明することができる。	
	事前学修	教科書を熟読し、宅地・建物・農地の賃貸借に関する法律関係について事前に学習しておく。生活の基盤である不動産の賃貸借はますます重要性を増してきており、借地借家法などの特別法の理解が不可欠である。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
16	特殊の賃貸借―借地借家		特殊の賃貸借―借地借家（その2）について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、建物を中心とした賃貸借について、成立・効力・終了の観点から、民法上の原則を確認するとともに、これらの法律関係が借地借家法によりどのように修正されているかを、説明することができる。併せて、区分所有法が対象とする区分所有建物（マンション）の賃貸借関係についても、説明することができる。	
	事前学修	教科書を熟読し、宅地・建物・農地の賃貸借に関する法律関係について事前に学習しておく。生活の基盤である不動産の賃貸借はますます重要性を増してきており、借地借家法などの特別法の理解が不可欠である。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分
17	雇用の意義、成立と効力／請負の意義、成立と効力		労務提供型契約：雇用の意義、成立と効力、雇用の終了／請負の意義、成立と効力、請負人の担保責任、特殊の解除権などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が定める雇用について、労働基準法や労働者派遣法、労働契約法などの規定を参照しながら、成立と効力、雇用の終了などの基本原則を確認し、特別法によってどのように修正されているかを、労働者保護の観点から、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める雇用・請負について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）	120分
18	請負人の契約不適合責任／委任の意義、成立と効力		請負人の契約不適合責任／委任の意義、委任と準委任、サービス契約などについて、学修する
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、請負契約における請負人の契約不適合責任を、売買における契約不適合責任と対比しながら、到達目標①②および③に関連して、瑕疵修補・代金減額・損害賠償・契約解除の観点から、説明することができる。／現代社会におけるサービス契約の基礎となる委任契約について、法律行為の委任と事務処理の委託（準委任）を区別しながら、その概要および問題点を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める請負・委任について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
19	委任における受任者の善管注意義務、専門家の責任／寄託の意義、成立と効力、消費寄託と特殊の寄託		委任における受任者の善管注意義務、専門家の責任寄託の意義、成立と効力、消費寄託、特殊の寄託	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、委任における受任者の義務を整理したうえで、受任者の善管注意義務、専門家の責任との関係について、説明することができる。／民法上の寄託の意義について、商事寄託と対比しながら、成立と効力、消費寄託、特殊の寄託などを、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める委任・寄託について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
20	組合・終身定期金・和解		組合・終身定期金・和解について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法典が規定する13種類の典型契約のうち、その他の典型契約として組合・終身定期金・和解の各契約が民法典に定められている意義を理解し、それぞれの契約が規律する内容を、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める組合・終身定期金・和解について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）		120分
21	不法行為法——概説		法定債権：不法行為制度の意義と目的、民事責任における不法行為法の現状などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為とは何かについて、法定債権に属する事務管理・不当利得との異同を明らかにしたうえで、民事責任の観点から、不法行為の意義と制度趣旨、機能を説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、契約以外の債権の主たる発生原因である不法行為について、民事責任の観点から事前に学習しておく。現代社会における不法行為は、自動車事故に限らず幅広いものが対象となるから、注意を要する。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
22	一般的不法行為の成立要件		不法行為における成立要件：故意・過失、権利侵害と違法性、因果関係、損害の発生などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為を一般的不法行為と特殊的不法行為に分類したうえで、一般的不法行為が成立する要件につき、故意・過失、権利侵害と違法性、因果関係、損害の発生などの観点から、代表的な裁判例を挙げて、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為制度の沿革、あらゆる不法行為に共通する不法行為の成立要件について、事前に学習しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
23	不法行為の効果		金銭賠償の原則、損害賠償の請求権者、損害の種類と損害賠償の範囲、過失相殺、損益相殺などについて、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為が成立した場合の効果として、金銭賠償の原則を挙げたうえで、損害賠償の請求権者、損害の種類と損害賠償の範囲、過失相殺、損益相殺などの基本項目を、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為が成立した場合の賠償責任について、賠償の基本的ルールを事前に学習しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。「課題と質問」に取り組む。（2時間）		120分
24	特殊の不法行為：法定監督者の責任、使用者責任		特殊の不法行為（その1）：責任無能力者の不法行為と監督者の責任、使用者責任について、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為の加害者が未成年者などの事理弁識能力のない者であった場合、あるいは、不法行為が加害者の業務執行中に起こった場合、賠償責任は誰に・どのような手続で求めて行くことになるのかについて、基本的な裁判例を挙げて、説明することができる。		
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、一般の不法行為に対して、特別の要件で不法行為の成立が認められるものにはどのようなものがあるかを学習しておく。（2時間）		120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
25	特殊の不法行為：注文者の責任、土地工作物責任、動物占有者責任		特殊の不法行為（その２）：注文者の責任、工作物責任、動物占有者責任について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不法行為の加害者が請負関係にある請負人、土地工作物の設置者（背入社・所有者）、または、動物の占有者（飼主）と認められる場合に、賠償責任は誰に・どのような手続で求めて行くことになるのかについて、基本的な裁判例を挙げて、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、一般の不法行為に対して、特別の要件で不法行為の成立が認められるものにはどのようなものがあるかを学習しておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
26	特殊の不法行為：共同不法行為責任／民法典以外のその他の不法行為		共同不法行為／民法典以外の特別法上の不法行為——運行供用者責任、製造物責任、医療過誤責任、原子力損害賠償責任などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、共同して生じた１つの不法行為から損害が発生した場合に、誰に・どのような償責任を求めることができるかについて、共同不法行為の観点から、説明することができる。／民法典以外の特別法が定める運行供用者責任、製造物責任、医療過誤責任、原子力損害賠償責任などについて、その概要を説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不法行為が競合する場合の複数主体による賠償責任について学習しておく。あわせて、民法典以外のその他の不法行為についても、現代社会における民事責任の観点から理解を深めておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
27	不当利得の意義と目的、不当利得の類型		不当利得の意義と目的、不当利得の類型について、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不当利得とは何か、不当利得を学ぶ意義を理解するとともに、不当利得を利得の不当性という観点から、給付利得・侵害利得・費用利得などに分類して、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不当利得の意義と目的、不当利得の類型を学習しておく。不当利得において類型論的处理が必要とされる理由・根拠をしっかりと理解することが重要である。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。（２時間）	120分
28	不当利得の要件と効果		不当利得の要件と効果 騙取金による弁済、転用物訴権、多数当事者間の不当利得
	この回の到達目標	到達目標①②および③に関連して、不当利得が成立する場合の要件と効果を明らかにし、不当利得で議論されることの多い事例——騙取金による弁済、転用物訴権、多数当事者間の不当利得など——について、議論の状況や問題点などを明らかにし、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、不当利得における給付利得にはどのような問題があるのかを理解する。あわせて、多数当事者間の不当利得の問題についても、理解を深めておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
29	事務管理		事務管理の意義、要件と効果、代理との関係などについて、学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、事務管理とは何か、なぜ事務管理に関する規定が民法上必要であるかを理解するとともに、他人の事務の意味内容を明らかにし、事務管理の要件と効果について、説明することができる。	
	事前学修	民法典の規定および教科書を読み、事務管理がどのような場合に成立し、事務管理者はいかなる範囲で本人に対して費用の償還を請求することができるのか、他人の事務の要件・成立範囲、その効果を学習しておく。（２時間）	120分
	事後学修	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（２時間）	120分
30	総括と質疑応答		これまで学んできた授業を振り返り、契約法および不法行為法などの債権法各論に関する講義内容を整理し、総括する。（受講者数によっては、最終授業回において、授業内試験を行う）
	この回の到達目標	到達目標①②③および④に関連して、現代社会における契約の意義および特質を明らかにし、民法等が定める取引法理を挙げて、その内容を説明することができる。また、現代型の不法行為について、自動車事故、医療過誤、製造物責任などの責任関係を明らかにしながら、説明することができる。	
	事前学修	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて３段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（２時間）	120分
	事後学修	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。 「課題と質問」を整理する。（２時間）	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）【法職課程】	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】		
講義中心となるが、適宜、質疑も交え、受講生の理解度を確認しながら講義を進める。 試験の講評、解説はポータルシステムで行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	上記授業方法の中で学生からの主体的な意見表明を求める。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。						2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。						2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。								2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。										2			
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、筆記試験により評価する。	30	30	30	10							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムによる。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
契約法	藤村和夫	信山社	2018年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること）、メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士
実務経験に基づく実践的教育の内容		弁護士業務で経験した事件を素材として授業に盛り込む。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	民法の基本構造	民法の構造、民法における契約法の位置づけ	
	この回の到達目標	民法の基本構造を説明できる。	
	事前学修	教科書～13頁を読んでおく（以下、同様）。	120分
	事後学修	民法とは、およそどのようなものかの復習をする。	120分
2	契約法の基礎	契約法の原理	
	この回の到達目標	契約の意義を説明できる。	
	事前学修	17頁～24頁。	120分
	事後学修	契約の意義と種類についての理解を確かなものにする。	120分
3	契約の成立	契約の成立	
	この回の到達目標	契約の成立要件について説明できる。	
	事前学修	25頁～30頁。	120分
	事後学修	契約の成立要件と契約締結上の過失についての理解を確実なものにする。	120分
4	契約の成立	各種の契約成立方法	
	この回の到達目標	契約の成立の仕方を説明できる。	
	事前学修	30頁～43頁。	120分
	事後学修	契約が成立する際の仕組みについて理解する。	120分
5	契約の効力	契約の効力（1）	
	この回の到達目標	契約の一般的有効要件について説明できる。	
	事前学修	45頁～58頁。	120分
	事後学修	同時履行の抗弁権とはどのようなものであるか理解する。	120分
6	契約の効力	契約の効力（2）	
	この回の到達目標	危険負担制度の変遷について説明できる。	
	事前学修	58頁～70頁。	120分
	事後学修	危険負担とはどのようなものか理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第三者のためにする契約	第三者のためにする契約	
	この回の到達目標	第三者のためにする契約の意義を説明できる。	
	事前学修	70頁～82頁。	120分
	事後学修	第三者のためにする契約とはどのようなものかの理解を深める。	120分
8	解除	解除（1）	
	この回の到達目標	解除の意義と機能について説明できる。	
	事前学修	82頁～90頁。	120分
	事後学修	解除の意義と機能について理解する。	120分
9	解除	解除（2）	
	この回の到達目標	法定解除について説明できる。	
	事前学修	90頁～104頁。	120分
	事後学修	法定解除権の種類とその発生原因を確認する。	120分
10	解除	解除（3）	
	この回の到達目標	法定解除の効果について説明できる。	
	事前学修	104頁～120頁。	120分
	事後学修	法定解除の効果等について理解する。	120分
11	解除	解除（4）	
	この回の到達目標	約定解除について説明できる。	
	事前学修	120頁～131頁。	120分
	事後学修	約定解除、解除契約、定型約款について理解する。	120分
12	贈与	贈与	
	この回の到達目標	贈与の意義と効力について説明できる。	
	事前学修	135頁～140頁。	120分
	事後学修	贈与一般について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	売買	売買（1）	
	この回の到達目標	売買の意義を説明できる。	
	事前学修	141頁～146頁。	120分
	事後学修	売買の意義と成立についての基礎的な事柄を理解する。	120分
14	売買	売買（2）	
	この回の到達目標	売買の効力を説明できる。	
	事前学修	146頁～164頁。	120分
	事後学修	売主の担保責任に関する内容に関する変遷を理解する。	120分
15	売買	売買（3）	
	この回の到達目標	買い主の義務について説明できる。	
	事前学修	164頁～171頁（2時間）	120分
	事後学修	特殊の売買にはどのようなものがあるかを理解する（2時間）	120分
16	買戻	買戻	
	この回の到達目標	買戻しの意義等を説明できる。	
	事前学修	172頁～176頁。	120分
	事後学修	買戻の意義、効力等を理解する。	120分
17	交換、消費貸借	交換、消費貸借	
	この回の到達目標	交換の意義と消費貸借の成立について説明できる。	
	事前学修	177頁～190頁（2時間）	120分
	事後学修	消費貸借の意義と効力についての理解を確かなものにする（2時間）	120分
18	使用貸借	使用貸借	
	この回の到達目標	使用貸借の意義と効力について説明できる。	
	事前学修	191頁～198頁（2時間）	120分
	事後学修	使用貸借の意義と効力について理解する（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	賃貸借	賃貸借（1）	
	この回の到達目標	賃貸借の意義を説明できる。	
	事前学修	199頁～207頁。	120分
	事後学修	賃貸借の意義と存続期間についての理解を深める。	120分
20	賃貸借	賃貸借（2）	
	この回の到達目標	賃貸借当事者ノ義務について説明できる。	
	事前学修	207頁～222頁。	120分
	事後学修	賃貸借の効力について理解する。	120分
21	賃貸借	賃貸借（3）	
	この回の到達目標	賃借権の譲渡・転貸について説明できる。	
	事前学修	222頁～233頁。	120分
	事後学修	賃借権の譲渡・転貸についての規制を理解する。	120分
22	雇用	雇傭	
	この回の到達目標	雇用の意義について説明できる。	
	事前学修	235頁～244頁。	120分
	事後学修	雇傭の意義と効力について理解する。	120分
23	請負	請負	
	この回の到達目標	請負について説明できる。	
	事前学修	245頁～254頁。	120分
	事後学修	請負の意義と効力について理解する。	120分
24	委任	委任	
	この回の到達目標	委任について説明できる。	
	事前学修	255頁～263頁。	120分
	事後学修	委任の意義と効力について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	寄託	寄託	
	この回の到達目標	寄託について説明できる。	
	事前学修	265頁～276頁。	120分
	事後学修	寄託の意義と効力について理解する。	120分
26	組合	組合（１）－組合の意義・性質、その規制	
	この回の到達目標	組合の意義を説明できる。	
	事前学修	277頁～286頁。	120分
	事後学修	組合の意義と業務執行について理解する。	120分
27	組合	組合（２）－組合の財産関係、解散と清算	
	この回の到達目標	組合の財産関係について説明できる。	
	事前学修	286頁～296頁。	120分
	事後学修	組合の財産関係について理解する。	120分
28	終身定期金と和解	終身定期金、和解についての概説	
	この回の到達目標	終身定期金と和解の意義を説明できる。	
	事前学修	297頁～300頁。	120分
	事後学修	終身定期金と和解の意義を確かめる。	120分
29	不法行為	不法行為（１）	
	この回の到達目標	不法行為に義と成立要件について説明できる。	
	事前学修	配布するレジュメを熟読する。	120分
	事後学修	不法行為の成立要件についてその基礎を理解する。	120分
30	不法行為	不法行為（２）	
	この回の到達目標	不法行為の効果について説明できる。	
	事前学修	配布するレジュメを熟読する。	120分
	事後学修	不法行為の効果についてその基礎を理解する。	120分

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	峯川 浩子	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
				授業時間数	90分×30回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを学修する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会生活を円滑に営んでいくために、各種の契約の内容がどのようなものであるのか、紛争が生じた場合にどのように解決を図るかを理解する。

【履修条件】
民法総則を受講済みであることが望ましい。

【授業方法】
講義形式による。出席管理システム（レスポ）を利用して出欠管理を行う。2コマ続きとなるので、気分転換をはかりつつ効率よく授業をすすめたい。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	債権法各論に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。					2	2						
②	債権法各論における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。					2	2						
③	授業で学修した知識に基づいて、法適用上の問題を論理的、合理的かつ批判的に考察することができる。							2					
④	授業で学修した知識や考察に基づいて、その分野の課題を探究することができる。									2			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④についての説明力が身についているかを、小テストにより評価する。	30	30	30	10							100
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	30	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
解説を配布する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
基本講義 債権各論 〈1〉 契約法・事務管理・不当利得	潮見佳男	新世社；第3版	2017年	教科書	必携
基本講義 債権各論 〈2〉 不法行為法	潮見佳男	新世社；第3版	2017年	教科書	必携
新標準講義 民法債権各論 第2版	池田真朗	慶應義塾大学出版会	2019年	参考書	任意
民法（全）	潮見佳男	有斐閣	2018年	参考書	任意
民法判例百選Ⅱ 債権第8版	中田裕康ほか	有斐閣	2018年	参考書	推奨
備考	授業はレジュメを配布して進めるので、教科書は事前・事後学習で活用してもらいたい。				

【オフィスアワー】
メールにて質問を受け付ける（minekawa.hiroko11@nihon-u.ac.jp）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・債権法の基礎	債権法の構造、債権の概念と債権の特色、債権の発生原因、給付の内容に応じた債権の分類について学修する。	
	この回の到達目標	債権法の構造、債権の概念と債権の特色、債権の発生原因、給付の内容に応じた債権の分類について理解し説明できる	
	事前学修	シラバス確認、教科書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
2	契約の成立	隔地者間の契約、申込みと承諾以外の方法による契約の成立について学修する。	
	この回の到達目標	隔地者間の契約、申込みと承諾以外の方法による契約の成立について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
3	同時履行の抗弁権	同時履行の抗弁権の意義、留置権との対比、要件、効果、適用範囲、不安の抗弁権について学修する。	
	この回の到達目標	同時履行の抗弁権の意義、留置権との対比、要件、効果、適用範囲、不安の抗弁権について理解し説明できる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
4	危険負担/第三者のためにする契約	危険負担の意義、要件、効力、解除との関係、第三者のためにする契約の意義、契約の構造、成立と効力について学修する。	
	この回の到達目標	危険負担の意義、要件、効力、解除との関係、第三者のためにする契約の意義、契約の構造、成立と効力について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
5	契約の解除（1）	解除の意義、解除に類似した制度との区別、法定解除の成立要件・効果について学修する。	
	この回の到達目標	解除の意義、解除に類似した制度との区別、法定解除の成立要件・効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
6	契約の解除（2）	解除の方法、効果、解除の効果をめぐる問題、解除権の消滅について学修する。	
	この回の到達目標	解除の方法、効果、解除の効果をめぐる問題、解除権の消滅について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所を目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	売買契約（１）売主の契約不適合責任	売買契約の成立、売主・買主の義務、権利に関する契約不適合と買主の救済について学修する。	
	この回の到達目標	売買契約の成立、売主・買主の義務、権利に関する契約不適合と買主の救済について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
8	売買契約（２）売買の予約、手付、買戻し、再売買の予約	売買の予約、手付、買戻し、再売買の予約について学修する。	
	この回の到達目標	売買の予約、手付、買戻し、再売買の予約について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
9	贈与契約、使用貸借契約	贈与契約の意義、成立、書面によらない贈与、特殊の贈与、使用貸借契約の成立と効力について学修する。	
	この回の到達目標	贈与契約の意義、成立、書面によらない贈与、特殊の贈与、使用貸借契約の成立と効力について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
10	賃貸借契約（１）賃貸借契約の成立、効果	賃貸借契約の成立、賃貸人・賃借人の権利義務について学修する	
	この回の到達目標	賃貸借契約の成立、賃貸人・賃借人の権利義務について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
11	賃貸借契約（２）賃貸借契約の終了・効果、賃貸人の地位の移転	賃借権の終了と効果、賃貸人の地位の移転について学修する	
	この回の到達目標	賃借権の終了、効果、賃貸人の地位の移転について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
12	賃貸借契約（３）賃借権の譲渡、目的物の転貸	賃借権の譲渡、目的物の転貸について学修する	
	この回の到達目標	賃借権の譲渡、目的物の転貸について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	消費貸借契約		消費貸借契約の成立と効力、消費貸借契約の予約、諾成的消費貸借契約、消費者信用について学修する。
	この回の到達目標	消費貸借契約の成立と効力、消費貸借契約の予約、諾成的消費貸借契約、消費者信用について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
14	請負契約		請負契約の意義、請負契約と雇用契約・委任契約との違い、請負契約の効果（所有権の帰属、目的物の滅失・損傷による危険の移転、請負人の契約不適合責任）について学修する
	この回の到達目標	請負契約の意義、請負契約と雇用契約・委任契約との違い、効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
15	委任契約		委任契約の成立と効力、委任と解除について学修する。
	この回の到達目標	委任契約の成立と効力、委任と解除について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
16	寄託契約/和解契約		寄託契約の成立と効果、和解契約の成立と効果について学修する。
	この回の到達目標	寄託契約の成立と効果、和解契約の成立と効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
17	組合契約		組合契約の意義、組合の内部関係、外部関係、組合の財産関係について学修する。
	この回の到達目標	組合契約の意義、組合の内部関係、外部関係、組合の財産関係について学修する。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
18	事務管理/不当利得概説		事務管理の成立要件と効力、不当利得の意義、不当利得制度の本質論について学修する
	この回の到達目標	事務管理の成立要件と効力、不当利得の意義、不当利得制度の本質論について理解し説明することができる	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
19	第1回小テストと解説	。第1回～第17回まで学修したことについて小テストを実施し解説を行う	
	この回の到達目標	第1回～第17回まで学修したことが理解できているかを確認し、不確かな部分を明らかにし補修する	
	事前学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて試験範囲について学修する	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて、学修した内容を確認し復習する	120分
20	一般不当利得	給付利得、侵害利得、三当事者の不当利得について学修する。	
	この回の到達目標	給付利得、侵害利得、三当事者の不当利得（転用物訴権）について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
21	三当事者の不当利得/特殊の不当利得	三当事者の不当利得（騙取金による不当利得、誤振込み）、特殊の不当利得（非債弁済、弁済期前の債務の弁済、他人の債務を自己の債務と誤信して弁済した場合、不法原因給付）について学修する。	
	この回の到達目標	三当事者の不当利得（騙取金による不当利得、誤振込み）、特殊の不当利得（非債弁済、弁済期前の債務の弁済、他人の債務を自己の債務と誤信して弁済した場合、不法原因給付）について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
22	不法行為制度概説	不法行為制度の意義、目的、構造、不法行為制度と債務不履行制度との関係について学修する。	
	この回の到達目標	不法行為制度の意義、目的、構造、不法行為制度と債務不履行制度との関係について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
23	一般不法行為の成立要件（1）	故意・過失、権利侵害と違法性について学修する。	
	この回の到達目標	故意・過失、権利侵害と違法性について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
24	一般不法行為の成立要件（2）	損害の発生、因果関係、責任能力について学修する。	
	この回の到達目標	損害の発生、因果関係、責任能力について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
25	不法行為の効果（１）	損害の金銭的評価、損害賠償の方法、賠償の範囲について学修する。	
	この回の到達目標	損害の金銭的評価、損害賠償の方法、賠償の範囲について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
26	不法行為の効果（２）	損害賠償請求権者、損害賠償額の調整（損益相殺、過失相殺）、消滅時効について学修する。	
	この回の到達目標	損害賠償請求権者、損害賠償額の調整（損益相殺、過失相殺）、消滅時効について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
27	特殊な不法行為（１）監督義務者の責任	責任主体、監督義務者と代理監督者の責任関係、行為者に責任能力がある場合の保護者の損害賠償責任について学修する。	
	この回の到達目標	責任主体、監督義務者と代理監督者の責任関係、行為者に責任能力がある場合の保護者の損害賠償責任について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
28	特殊な不法行為（２）使用者責任	使用者責任の意義、責任の性質、成立要件と効果について学修する。	
	この回の到達目標	使用者責任の意義、責任の性質、成立要件と効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
29	特殊な不法行為（３）共同不法行為	制度趣旨、意義、共同不法行為の要件・効果について学修する。	
	この回の到達目標	制度趣旨、意義、共同不法行為の要件・効果について理解し説明することができる。	
	事前学修	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書・参考書を用いて復習	120分
30	第２回小テストと解説	第18回～第29回まで学修したことについて小テストを実施し解説を行う	
	この回の到達目標	まで学修したことが理解できているかを確認し、不確かな部分を明らかにし補修する	
	事前学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて試験範囲について学修する	120分
	事後学修	教科書とレジュメ、講義ノート等を用いて、学修した内容を確認し復習する	120分

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、家族をめぐる状況を理解し、社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができるために必要となる民法第4編(親族)の規定を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ(民法総則)の単位を修得していることが望ましい。

【授業方法】		
講義で指定した教科書に沿って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。 なおオンライン講義実施の場合には、毎回Googleclassroom上で出席を確認するとともに、中間レポート・期末レポートを実施致します(詳細は、初回講義時にご案内いたします)。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についている かを筆記試験により評価する。	50	20	10	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『みんなの家族法入門』	本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月	信山社	2021	教科書	推奨
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』	水野紀子・大村敦志	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、家族法とは		家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍(婚姻後の実家の戸籍の記載)、日本の家族(過去・現在・未来)について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍に関する基本用語・概念について説明することができる。		
	事前学修	教科書Ⅰ総則「家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍、日本の家族：過去・現在・未来」について解説する。		120分
	事後学修	教科書コラムⅠ「性別適合手術と戸籍」を読んで、戸籍の特徴についてまとめておく。		120分
2	婚姻届の意味		婚約の意味・婚姻するために必要なこと・婚姻届を出せない(1)：婚姻の形式的要件、婚姻届を出せない(2)：婚姻の実質的要件、婚姻届を出せない(3)：近親婚の禁止について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚約の意味・婚姻するために必要なこと(婚姻の形式的要件、実質的要件)について説明することができる。		
	事前学修	教科書Ⅱ婚姻「婚約の意味・婚姻するために必要なこと・婚姻届を出せない(1)(2)(3)」を読んで、婚姻届を出せない場合についてまとめておく。		120分
	事後学修	教科書資料②戸籍の記載例、資料③婚姻届の様式を確認し、記載事項についてまとめておく。		120分
3	夫婦の役割分担		夫婦の役割分担、マイホームの購入：夫婦の財産関係、夫婦の別居について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、夫婦のお財布事情について法的視点から説明することができる。		
	事前学修	教科書Ⅱ婚姻「夫婦の役割分担、マイホームの購入、夫婦が別居したら」を読んで、夫婦のお財布事情について考えてみる。		120分
	事後学修	マイホームを購入する際の夫婦の金銭的負担のあり方について自らの意見を述べられるようにまとめておく。		120分
4	子どもの出生と親子関係		子どもの出生と名前、婚姻と親子関係、できちゃった結婚と子ども、子どもが夫の子でないとき、認知について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、法律上の親子関係について説明することができる。		
	事前学修	教科書Ⅲ親子「子どもの出生と名前、婚姻と親子関係、できちゃった結婚と子ども、子どもが夫の子でないとき、未婚の母と子ども：認知しますか、させますか」を読んで、親子の法律関係の類型についてまとめておく。		120分
	事後学修	子どもの名前を付ける権利は誰にあるか、親の命名権について具体的事例を調べて自らの意見を述べられるようにまとめておく。		120分
5	生殖補助医療、養子縁組		生殖補助医療で生まれた子ども：人工授精と体外受精、代理母とその問題、他人の子どもを養子にする：普通養子、特別養子について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生殖補助医療、養子制度について説明することができる。		
	事前学修	教科書Ⅲ親子「生殖補助医療で生まれた子ども(1)(2)、他人の子どもを養子する(1)(2)」を読んで、要旨の法的類型についてまとめておく。		120分
	事後学修	生殖補助医療の現状をインターネットで調べて、親子関係をどのように認めるべきかについて自らの意見を述べられるようにまとめておく。		120分
6	親子の権利義務		子育てと親の義務、だれが親権者か、中学生で母？ 親の体罰と教師の体罰について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、親子の権利義務について説明することができる。		
	事前学修	教科書Ⅳ親子間の権利義務「子育てと親の義務、だれが親権者か、中学生で母？親の体罰と教師の体罰」を読んで、親子の法的関係についての法律の考え方をまとめておく。		120分
	事後学修	子どもを育てるにあたり、法律では親にどのような義務を課しているのかについて、具体的事例を述べられるようにまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	子ども虐待	子どものものは親のもの？子ども虐待、医療と子ども虐待、親権の喪失と制限について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親権及び子ども虐待について説明することができる。	
	事前学修	教科書Ⅳ親子間の権利義務「子どものものは親のもの？子ども虐待、医療と子ども虐待、親権の喪失と制限、親権者がいなくなったら」を読んで、虐待の具体的事例についてマスコミで報道された事例を調べておく。	120分
	事後学修	子ども虐待、医療ネグレクトをインターネットで調べて、虐待を減少させるための具体的政策について意見を述べられるようにまとめる。	120分
8	離婚届と離婚原因	離婚届の意味(1)：協議離婚、離婚届の意味(2)：離婚と戸籍、離婚届を出せない(1)：離婚の種類、離婚届を出せない(2)：具体的離婚原因、離婚届を出せない(3)：抽象的離婚原因について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、離婚届の意味、具体的離婚原因、抽象的離婚原因について説明することができる。	
	事前学修	教科書Ⅴ離婚「離婚届の意味(1)(2)、離婚届を出せない(1)(2)」を読んで、離婚の種類についてまとめる。	120分
	事後学修	有責配偶者からの離婚請求についての考え方をまとめ、離婚原因の具体的事例について、まとめる。	120分
9	財産分与	離婚後の生活はどうなる(1)：財産分与の法的性質、離婚後の生活はどうなる(2)：財産分与の対象と方法、内縁について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財産分与について説明することができる。	
	事前学修	教科書Ⅴ離婚「離婚後の生活はどうなる(1)(2)」を読んで、財産分与の法的性質についてまとめる。	120分
	事後学修	財産分与の手続きと支払い基準について、家庭裁判所のHPを閲覧してまとめる。	120分
10	親権と面会交流	父母共同親権から単独親権へ、子ども争奪戦、別れて暮らす家族に会いたい：面会交流、それでも合わせてくれないとき、離婚後の子どもの養育費について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、親権のあり方について自らの意見を述べるができる。	
	事前学修	教科書Ⅵ離婚と子ども「父母共同親権から単独親権へ、子ども争奪戦、別れて暮らす家族に会いたい(1)(2)、離婚後の子どもの養育費(1)(2)」を読んで、離婚後の親子関係についてまとめる。	120分
	事後学修	子どもの手続き代理人、養育費・婚姻費用算定表をHPで調べて具体的な手続きについて説明できるようにまとめる。	120分
11	国際結婚、国際離婚	国際結婚、国際結婚から生まれた子どもの国籍、国際養子縁組、国際離婚、国境を越えた子の連れ去りとハーグ条約について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関連して、子の連れ去りに関するハーグ条約の内容について問題意識を持つことができる。	
	事前学修	教科書Ⅶ国際結婚と子ども「国際結婚、国際結婚から生まれた子どもの国籍、国際養子縁組、国際離婚、国境を越えた子の連れ去りとハーグ条約」を読んで、国際結婚から発生する家族関係の法ルールについてまとめる。	120分
	事後学修	インターネットでハーグ条約について調べ、具体的事例について説明できるようにしておく。	120分
12	扶養と後見	老親扶養の義務は誰に(1)(2)：扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法、新しい成年後見制度、成年後見人の選任と職務について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関連して、成年後見制度の概要について説明することができる。	
	事前学修	教科書Ⅷ扶養と後見「老親扶養の義務は誰に(1)(2)：扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法、新しい成年後見制度、成年後見人の選任と職務」を読んで、成年後見の制度についてまとめる。	120分
	事後学修	成年後見制度と任意後見制度の違いについてまとめる。成年後見制度の特徴と問題点について考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	老親扶養	老親扶養、親族法と相続法のかかわりについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、老親扶養の法的仕組みについて理解し、問題意識を持つことができる。	
	事前学修	教科書Ⅷ扶養と後見「老親を看取る」を読んで、老親扶養の特徴と問題点についてまとめる。	120分
	事後学修	親族法と相続法のかかわりについてまとめておく。老親扶養の問題について自らの意見を述べられるようにまとめておく。	120分
14	最新の家族法判例	講義のまとめ、最新の家族法判例についての解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、親族法と相続法のかかわりについて理解することができる。	
	事前学修	これまでの講義をよく復習し、よくわからなかったところを書き出しておく。第12回・第13回の講義で支持された判例を読んで、事案と判旨をまとめておく。	120分
	事後学修	講義で解説した内容をノートにまとめ、判例については事案・争点・判旨についてまとめ、関連する社会的課題について追加調査を行う。	120分
15	親族法のまとめと授業内試験	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 オンライン講義を実施する場合：Googleclassroom上でのレポート提出といたします。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまで学修したことを理解し、自ら述べることができる。	
	事前学修	第14回の講義でまとめたノートをもとに、主要判例の解説を行う。授業内試験を実施する場合には、講義時間中に試験と解説を行う。14回の講義をもとに、第15回の講義で行われる判例をまとめておく。	120分
	事後学修	これまでの学修内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅵ（親族法）	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、親族法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
テキストに沿って授業を行うが、必要に応じて授業に関連するレジュメを配布する。なお、六法は必ず手元に用意しておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを小テスト等により評価する。	30	10		10							50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、③、④にかかわる説明をすることができているかを評価する。	20		10	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	10	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を、後日Classroom等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ユーリカ民法5 親族・相続	小川富之他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（本館1720研究室） yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス：条文の読み方・家族法総論		履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバス、レジュメに沿って、授業の概要、授業目的、到達目標、授業方法、成績評価基準、教科書等について説明する。それにより、受講生は、授業計画を理解し、次回以降の授業の準備をスムーズに行うことができる。さらに、次回以降の授業のために、条文の読み方の基本についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での家族法の位置づけ、概要を理解するとともに、条文の読み方を再確認する。		
	事前学修	シラバスを確認し、授業内容をふまえつつ、各回の授業内容を読み込む。最新の六法を購入し、初回授業に持参すること。		120分
	事後学修	授業での説明内容を確認し、教科書を購入するとともに、条文の見方について説明したレジュメを参考にしながら、親族法の条文の見出し及び条文を確認し、次回以降の授業に備える。		120分
2	家族法序論、親族とは何か		民法典の中で第4編親族の位置づけを学修するとともに、家族紛争の処理手続きについて理解し、説明することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族法の意義及び構成、親族、相続法の沿革と基本原則、家族紛争の処理手続きといった家族法の基本を正確に理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の序論（1-7頁）を読んでくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書7頁のチェック問題を解いてみること。		120分
3	親族の範囲、戸籍		親族の範囲として、親族の種類、親等などの基礎概念を学修する。さらに、親族関係の発生、消滅を中心に、親族関係の変動を概観し、加えて、氏名、戸籍制度についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、家族法を学ぶ上で必須となる概念の1つである親族の種類、親等など親族の範囲、氏名や戸籍制度などを理解し、説明できる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の第1部第1章総則（11-17頁）を読んでくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書17頁のチェック問題を解いてみること。併せて関連条文を見直しておくこと		120分
4	夫婦関係（1） 婚姻の成立		婚姻の成立には、実質的要件と形式的要件をみとす必要がある。なかでも、重要なのが、実質的要件としての婚姻意思の合致と婚姻障碍事由の不存在であるので、それを中心に学修する。また、婚姻意思を理解する判例として、子を嫡出子にするための婚姻の有効性が問われた有名な事案があるので、それを素材に判例の読み方についても学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻の成立要件、なかでも実質的要件を正確に理解し、説明できる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び教科書の第1部2章（18-27頁）読んでくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書26、27頁のチェック問題を解いてみること。あわせて関連条文を見直しておくこと		120分
5	夫婦関係（2） 婚姻の無効・取消し、婚姻の一般的効果・財産的效果（夫婦財産制）		婚姻の無効、取消原因について学修するとともに、婚姻の一般的効果、財産的效果について広く学修していく。婚姻破綻後の不倫と慰謝料をめぐる判例、日常家事債務と表見代理の判例など重要判例が複数存在するので、それらの説明も併せて行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、婚姻の一般的効果、財産的效果を正確に理解し、説明できる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び関連条文を確認しておくとともに、教科書の第1部2章（27-43頁）を読んでくること		120分
	事後学修	教科書43頁のチェック問題を解いてみること、その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめること。		120分
6	夫婦関係（3） 離婚の成立		離婚の方法、種類について学修する。なかでも、自ら婚姻が破たんする原因を作り出した配偶者を有責配偶者というが、この者から離婚請求できるかという有責配偶者からの離婚請求に関する判例法理の展開、諸外国の立法例を含めた議論状況を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離婚の成立、効果につき、正確に理解し、説明できる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び、教科書の第1部2章（54-65頁）を読んでくること		60分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書65頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめること。		180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	夫婦関係（４） 離婚の効果	離婚の効果、なかでも財産分与制度について学修する。具体的には、財産分与の内容とその問題点、慰謝料と財産分与との関係に関する判例理論、財産権としての財産分与請求権、年金分割などについて理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、離婚の効果、なかでも財産分与制度の意義や問題点を理解し、説明できる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所及び、教科書の第１部２章（66-76頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書76頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめておくこと。	120分
8	婚姻外の関係（婚約、内縁・事実婚）、DV	婚約の成立要件と保護の内容、内縁保護法理、内縁の効果、同性婚との同棲カップルの法的保護の状況について学修する。あわせて、夫婦関係にまつわる現代的課題について理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、婚姻外の関係を中心に、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を読んておくのとともに、教科書の第１部２章（44-52頁）を読んてくること	120分
	事後学修	教科書52頁のチェック問題を解いてみること。その際は、事例問題の下敷きとなっている実際の裁判例を調べてまとめておくこと。	120分
9	親子関係（１） 実親子関係①：嫡出子	実子のうち、父母が婚姻関係にある場合の嫡出子をめぐる問題を概観する。嫡出子には、推定を受ける嫡出子、推定を受けない嫡出子、さらに、推定の及ばない子がいるので、これらにつき学修する。併せて、近年問題となっている無戸籍児の問題についても取り上げ、理解を深めることにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親子関係の中でも実親子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（80-83頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、教科書94頁のチェック問題を解いてみること	120分
10	親子関係（２） 実親子関係②：非嫡出子	実子のうち、父母が婚姻関係にない場合の非嫡出子をめぐる問題を概観する。具体的には、認知制度、準正といった制度について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、前回に続く、親子関係の中でも実親子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（88-90頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、実親子にまつわる関連条文を見直しておくこと	120分
11	親子関係（３） 養親子関係：普通養子、特別養子、里親	普通養子制度、さらには法改正されたばかりの特別養子制度の意義につき、養子の実態、特別養子制度導入の経緯も含めて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、親子関係の中でも法定親子、養子の法律関係につき、これまでの裁判例や学説の議論状況等を理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（90-94頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのとともに、実親子にまつわる関連条文を見直しておくこと	120分
12	親子関係（４） 生殖補助医療	近年、医学の発展に伴い、従来、法が予定していなかった問題が生じており、生殖補助医療で誕生した子の法的親子関係の在り方も問われているところである。そこで、代理母に関する重要判例も含め、広く生殖補助医療を巡る法的動向につき、学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生殖補助医療で誕生した子の親子関係についての法的課題につき、理解し、説明することができる。	
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのとともに、教科書の第１部３章（84-88頁）を読んてくること	120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのとともに、教科書94頁のチェック問題を解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	親子関係（5） 親権①：親権に服する者、親権者、親権の内容		児童虐待が増える中、親権とは何かについて改めて問われている。親権の意義、親権の当事者、親権行使のルール、親権の具体的内容について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、生殖補助医療で誕生した子の親子関係についての法的課題につき、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第1部4章（95-121頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのと同時に、教科書121頁のチェック問題を解いてみること		120分
14	親子関係（6） 親権②：児童虐待・医療ネグレクト		前回に続き、親権の意義、親権の当事者、親権行使のルール、親権の具体的内容について学修するが、とりわけ児童虐待と親権制限を中心に理解を深める。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、児童虐待を巡る法的課題につき、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第1部4章（95-121頁）を読んでもくること		140分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのと同時に、教科書121頁のチェック問題を解いてみること		100分
15	後見・保佐・補助、扶養 レポート課題の解説・講評		未成年者や認知症高齢者など判断能力が十分でない人を法的に保護するための民法上の制度である後見制度の意義、趣旨、内容及び扶養の問題について学修する。 さらに、レポート課題の解説・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、後見・保佐・補助、扶養についての意義、趣旨、内容について、正確に理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第1部5、6、7章（122-152頁）を読んでもくること。さらに最後の授業となるので、授業全体を通して質問すべき点がないかを考えてくること		140分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノートを整理するのと同時に、教科書135、143、152頁のチェック問題を解いてみる。また、配布したレジュメ、教科書などを全体的に復習すること。その際は、間違えた箇所のレポート課題の解説なども参照にすること。		100分

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	武田 政明	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第4編(親族編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、親族法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、親族法に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
子ども、男女、夫婦、親子、高齢者、広く家族・親族関係に関する諸問題に関心のある者に受講してもらいたい。

【授業方法】
教科書に即して講義方式で行う。必要に応じて配布する資料に基づいた講義も行う。 試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	親族編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	親族編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	家族のなりたちや、家族の法的仕組みについて、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、自らの意見を述べることができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	50	20		20							90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる説明をすることができているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を試験後に実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
親族法・相続法講義 第7版	山川一陽	日本加除出版	2021年	教科書	推奨
民法判例百選Ⅲ 親族・相続 第2版	水野紀子・大村敦編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
新・コンダクト民法	宮本健蔵編著	嵯峨野書院	2020年	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
希望する場合には、授業の際にあらかじめ相談の上、火曜授業の前後に時間をとり可能な限り応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	憲法と家族法		男女平等の本質、就労・社会・家族生活における具体的意義。	
	この回の到達目標	到達目標①の実現との関係で、家族法の実現目的を憲法規定との関係から理解し、解説することができる。		
	事前学修	シラバスを確認する。教科書「第1部家族法の基礎知識 第1章家族法の構造と特質」を読む。憲法の理念を現行家族法がどの程度実現しているかを考察する。		120分
	事後学修	講義記録を読み直し、講義内容を確認する。日本国憲法の理念と家族法の関係、家庭内における男女の平等の法的意義を検討する。		120分
2	親族の種類と範囲		家族法が規定する血族、配偶者、姻族の意義。	
	この回の到達目標	到達目標①④の実現との関係で、家族法が定める親族の種類と範囲の根拠と問題点を理解し、解説することができる。		
	事前学修	教科書の「第2部親族法 第1章親族とその機能」を読む。親族の種類と範囲について考察する。		120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。親族の範囲を条文で定めることの問題点を検討する。		120分
3	親族関係の発生、終了		自然血族関係と法定血族関係の発生・終了事由と問題点。	
	この回の到達目標	到達目標①④の実現との関係で、自然血族関係について家族法上と生物学上とで異なること、法定血族関係である普通養子縁組について実方との親族関係が存続することについて理解し、解説することができる。		
	事前学修	教科書の「3親族関係の発生と限界」を読む。自然血族関係と法定血族関係について考察する。		120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。法律上の親子関係と生物学上の親子関係について整理・検討する。		120分
4	家族法と戸籍		家族法上の身分関係の変動と戸籍簿記載の原則。	
	この回の到達目標	到達目標①③④の実現との関係で、戸籍編製の原則に基づいた家族法上の身分関係の変動の記載を具体的事例を通して理解し、解説することができる。		
	事前学修	教科書の「第2章家族関係とその公示」を読む。戸籍の機能と基本構造を考察する。		120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。戸籍記載の基本原則、入籍と除籍の記載実例、現代社会における戸籍制度のあり方を検討する。		120分
5	婚姻制度、婚約、内縁		家族法の婚姻、婚約、内縁に対する基本的法的立場。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、家族法が婚姻をどのような法的関係と捉えているか、また婚約や内縁にどの程度の婚姻の効果を与えているかを理解し、解説することができる。		
	事前学修	教科書の「第2章婚姻」を読む。婚姻制度の変遷、現代社会における婚姻の意義を諸外国とも比較して考察する。		120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。婚姻の歴史、婚約の成立要件、内縁の効果を整理・検討する。2時間		120分
6	婚姻の成立要件		家族法が婚姻が成立するために定める要件。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、家族法が婚姻が成立するために定めるそれぞれの要件の具体的内容と問題点を理解し、解説することができる。		
	事前学修	教科書の「3婚姻の成立 第3婚姻の無効と取消」を読む。婚姻の成立要件を考察する。		120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。形式成立要件、実質的成立要件、無効と取消の効果の差異、各問題点を整理・検討する。2時間		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	婚姻の効力	家族法が夫婦に定める権利と義務。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、家族法が夫婦に定める権利と義務を、一般的効力と財産的効力の両面で具体的に理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第4 婚姻の効力」を読む 婚姻の効力全般について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。一般的効力、財産的効力について整理・検討する。	120分
8	婚姻の解消	死亡と失踪による婚姻の解消、離婚制度と手続。	
	この回の到達目標	到達目標①②④の実現との関係で、法的な死亡の意義、協議離婚、家庭裁判所における調停と審判離婚について理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第3 章婚姻の解消」を読む。死亡と失踪による解消、離婚による解消、離婚制度の変遷、現代社会における離婚の意義を諸外国とも比較して考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。死亡と失踪による婚姻解消の要件、協議離婚、調停離婚、審判離婚、それぞれの問題点を整理・検討する。2 時間	120分
9	離婚原因	裁判離婚における離婚事由。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、裁判離婚に適用される法定離婚事由の内容と問題点を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「4 判決離婚制度」を読む。離婚原因の意義、離婚原因を諸外国とも比較して考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。離婚原因の解釈、有責配偶者からの離婚請求、破綻主義について諸外国とも比較検討して整理・検討する。	120分
10	離婚の効果	離婚に際して家族法が定める効果。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、離婚に際しての一般的効果、身分上の効果、財産上の効果とそれぞれが有する問題点を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「5 離婚の効果」を読む。一般的効果 身分上の効果、財産上の効果について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。復氏、親権者の指定・変更、監護権者、財産分与請求権について整理・検討する。	120分
11	嫡出子	嫡出子の親子関係に関する法。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、嫡出子について、母子関係の成立、父子関係の成立を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第4 章親子」を読む。夫婦間の子について、父との親子関係を考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。推定を受ける嫡出子、推定の及ばない嫡出子、推定を受けない嫡出子、親子関係の否定と確定について整理・検討する。	120分
12	嫡出でない子	嫡出でない子の親子関係に関する法。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、嫡出でない子について、母子関係、父子関係の成立を理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の「3 嫡出でない子」を読む。母子関係、認知制度について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。母の認知、任意認知、認知の無効と取消、強制認知、認知の効果、準正について整理・検討する。2 時間	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	養子縁組	普通養子縁組、特別養子縁組に関する法。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、普通養子縁組と特別養子縁組について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第3養子縁組」を読む。普通養子縁組、特別養子縁組について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。普通養子縁組、特別養子縁組の成立要件と問題点を整理・検討する。	120分
14	親権と扶養	親権、後見、保佐、補助、扶養に関する法。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、子どもの権利の尊重を踏まえた親権の意義内容、成年後見制度、扶養の原則について理解し、説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第5章親権・後見・保佐・補助について 第6章扶養について」を読む。親権の内容、成年後見制度について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。現代社会における親権制度の意義からの親権に関する法制度の見直し、成年後見制度の利用促進のための要件、公的扶養と私的扶養の新たな関係、扶養義務者、扶養の方法と程度について整理・検討する。	120分
15	これからの家族法	少子高齢者社会に対応する家族法。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、少子高齢社会で生ずる家族法上の諸問題を理解し、必要とされる解決方法を解説することができる。	
	事前学修	初回からの教科書の各箇所と講義記録を見直す。憲法の理念、家族法の指導原理からの不適合箇所を考察する。	120分
		初回からの教科書の各箇所および講義記録を読み直し、憲法の理念、家族法の指導原理により適合することが求められてい制度、条文を検討する。2時間	
	事後学修	初回からの講義記録を読み、全講義内容を確認して、これからの家族法に求められている社会における機能を検討する。	120分

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第5編(相続)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、財産承継に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すために必要となる民法第5編(相続)の規定を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を習得する。

【履修条件】
なし

【授業方法】		
テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する(ポータルサイト)。なおオンライン講義実施の場合には、毎回Googleclassroom上で出席を確認するとともに、中間レポート・期末レポートを実施致します(詳細は、初回講義時にご案内いたします)。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。							2					
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に解答することができる。								2				
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。						2	2					
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。						2				2		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についての基礎知識等が身についている かを筆記試験により評価する。	50	20	10	20							100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『みんなの家族法入門』	本澤巳代子、大杉麻 美他2名	信山社	2021	教科書	推奨
『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』	水野紀子・大村敦志	有斐閣	2018	参考書	推奨
備考	最新版の六法を持参すること。				

【オフィスアワー】
火曜日12:10-13:00 研究室(4号館3階431研究室)。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス、相続の歴史・根拠		死を迎えたとき：相続のしくみ、『死者』をおくるとのこと、『相続』は何のためにあるのか：相続の歴史・根拠について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明する。それによって受講生は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の基本的考え方について文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書IX相続の開始と相続人「死を迎えたとき、『死者』をおくるとのこと、『相続』は何のためにあるのか」を読んで現代の相続の特徴について考えてみる。		120分
	事後学修	わが国の葬儀の特徴についてまとめるとともに、葬儀契約のトラブル事例についてインターネットで検索する。		120分
2	子どもの相続分		子どもはどれくらい相続できるのか、親が結婚していない子の相続分について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、子どもの相続分について具体的事例をあげながら説明することができる		
	事前学修	教科書IX相続の開始と相続人「子どもはどれくらい相続できるのか、親が結婚していない子の相続分」を読んで、相続できる相続人の範囲についてまとめておく。		120分
	事後学修	相続人の確定に関連する法律にはどのようなものがあるかについて講義の説明をもとにまとめておく。		120分
3	相続欠格と相続人の廃除		相続人になれない子ども：相続欠格、親の意思で相続人を決定するのか：相続人の廃除について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続欠格と相続人の廃除の違いについて文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書IX相続の開始と相続人「相続人になれない子ども、親の意思で相続人を決定するのか」を読んで、相続欠格と廃除の違いについてまとめておく。		120分
	事後学修	相続廃除に関する判例の事例を確認し、それに対する自らの意見を述べられるようにノートにまとめておく。		120分
4	相続人の不存在		相続人が存在しないとき：身寄りのない者の財産と国庫帰属、相続財産を取り戻せ：相続回復請求について解説する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続人が存在しないときの相続の考え方について説明することができる。		
	事前学修	教科書IX相続の開始と相続人「相続人が存在しないとき、相続財産を取り戻せ」を読んで、相続人がいないとはどのような事例であるかについて考えてみる。		120分
	事後学修	相続人が存在しない場合の相続手続きについてノートにまとめておく。		120分
5	相続財産		相続できるもの・できないもの、相続の対象とならない財産、特殊な相続財産(1)：親の「遺骨」は誰のものか、特殊な相続財産(2)：保険契約の受取人について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続できる財産・相続できない財産について説明することができる。		
	事前学修	教科書X相続財産の確定「相続できるもの・できないもの、相続の対象とならない財産、特殊な相続財産(1)(2)」を読んで、相続の対象とすることができる財産の種類についてまとめておく。		120分
	事後学修	講義で取り上げられた事例のうち、最も興味を持った事例についての法的規制について自らの意見を述べられるようにオートにまとめておく。		120分
6	相続財産の共有		相続財産の共有、相続財産は誰か『管理』するのか、相続財産の名義を移す：相続登記について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続財産の所有形態に関する基本的な考え方について説明することができる。		
	事前学修	教科書X相続財産の確定「相続財産の共有、相続財産は誰か『管理』するのか、相続財産の名義を移す：相続登記」について読んで、相続財産の共有に関する法律の考え方をまとめておく。		120分
	事後学修	相続財産に関する登記が行われる事例を整理して、それぞれの解決策について簡単に結論が述べられるようにノートにまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	遺言の種類・性質		遺言のスタイル：意義・性質、『遺言書』を書く：自筆証書遺言、誰にも知られたくない『遺言書』、遺言ができる人・できない人について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺言の種類について具体的事例をあげながら説明することができる		
	事前学修	教科書XI遺言「遺言のスタイル、『遺言書』を書く、誰にも知られたくない『遺言書』、遺言ができる人・できない人」を読んで、遺言書の書式事例をインターネットで調べておく。		120分
	事後学修	遺言書に関するトラブルを減少させるための具体的政策について意見を述べられるようにノートにまとめておく。		120分
8	遺言内容の実現		遺言内容の実現：遺言の効力、遺言による贈与(1)：遺贈・包括遺贈、遺言による贈与(2)：その他の遺贈、遺言内容の実現：遺言の執行について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺贈・包括遺贈、遺言の執行に関し簡単に説明することができる。		
	事前学修	教科書XI遺言「遺言内容の実現、遺言による贈与(1)(2)、遺言内容の実現」を読んで、遺言による贈与の類型についてまとめておく。		120分
	事後学修	遺言による遺贈の具体的事例についてインターネットで調べておく。		120分
9	相続の承認・放棄		相続の承認と放棄、「借金」の相続：限定承認について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の承認と放棄の違いについて文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書XII遺産分割「相続の承認・放棄、『借金』の相続」を読んで、相続・承認の類型についてまとめておく。		120分
	事後学修	相続の承認と放棄の違いについて、ノートににまとめておく。		120分
10	特別受益・寄与分		特別受益、寄与分について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、特別受益と寄与分の違いについて文章にまとめることができる。		
	事前学修	教科書XII遺産分割「親からの援助：特別受益、介護は報われるか：寄与分」を読んで、特別受益と寄与分の違いについてまとめておく。		120分
	事後学修	教科書コラムー13「長男の嫁」問題についてHPで調べて具体的な問題点について説明できるようにまとめておく。		120分
11	遺産分割の種類・方法		遺産分割の流れ、遺産分割の種類・方法について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の基本的な考え方について説明することができる。		
	事前学修	教科書XII遺産分割「遺産分割の流れ、遺産分割の種類・方法」について読んで、遺産分割の流れについてまとめておく。		120分
	事後学修	教科書資料⑮遺産分割協議書、登記申請書についてインターネット調べ、具体的に説明できるようにしておく。		120分
12	遺留分		最低限は保障されるか：遺留分、遺留分額侵害請求権、遺留分減殺の『順序』について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分の基本的な考え方について説明することができる。		
	事前学修	教科書XII遺産分割「遺留分、遺留分減殺請求権、遺留分減殺の『順序』」を読んで、遺留分減殺の制度についてまとめておく。		120分
	事後学修	講義中に解説した遺留分減殺請求権の内容につき、ノートにまとめておく。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	相続法改正	相続法改正の経緯・内容について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続法改正の経緯・内容について簡単に説明することができる。	
	事前学修	相続法改正について法務省のHPにアクセスして、講義で指示される資料をダウンロードし、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	相続法改正についてまとめておく。現行法との違いについてまとめておく。	120分
14	最新の判例	講義のまとめと、最新の家族法判例についての解説を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、講義で解説された判例の事案と判旨をまとめることができる。	
	事前学修	これまで配布された資料を見直し、よくわからなかったところを書き出しておく。第12回・第13回の講義で指示された判例を読んで、事案と判旨をまとめておく。	120分
	事後学修	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う。	120分
15	相続法のまとめと授業内試験	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 オンライン講義実施の場合：Googleclassroom上でのレポート提出といたします。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまで学んだことを文章にまとめ、簡単に説明することができる。	
	事前学修	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第14回の講義で解説された判例について、事後学習の成果をノートにまとめておく。	120分
	事後学修	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく。	120分

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】
民法第5編(相続編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、相続法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】
民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。

【授業方法】
教科書に沿って授業を行うが、必要に応じて授業に関連するレジュメを配布する。なお、六法は必ず持参すること。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを小テスト等により評価する。	30	10		10							50
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①、③、④にかかわる説明をすることができているかを評価する。	20		10	20							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	10	10	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート課題の解説・講評を後日Classroom等にて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ユーリカ民法5 親族・相続	小川富之他	法律文化社	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
水曜日の12:15～12:50（メールでアポイントメントをとること）研究室（本館 7 F 1720）yata.naoko@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス（条文の読み方、法律用語の確認）、家族法入門		履修条件を満たしうることを確認したうえで、シラバス、レジュメに沿い、授業の概要、授業目的、到達目標、授業方法、成績評価基準、教科書等についての説明を行う。それにより、受講生は、授業計画を理解し、次回以降の授業準備をスムーズに行うことが可能となる。さらに、次回以降の授業のために、条文の読み方の基本についても復習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での家族法（相続法）の位置づけ、概要を理解するとともに、条文の読み方を理解し、条文を素早く引けるようになる。		
	事前学修	シラバスを確認し、授業内容を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。最新の六法を購入し、初回授業に持参すること		120分
	事後学修	授業で説明された内容を確認し、教科書を購入するとともに、条文の見方について説明したレジュメを参考にしながら、相続法の条文の見出し及び条文を確認し、次回以降の授業に備える。		120分
2	「相続」総論：相続制度の歴史的沿革、意義		民法典の中での第5編相続の位置づけを確認するとともに、相続制度の歴史的沿革、日本と欧米諸国の相続制度の違い、相続制度の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、民法典の中での第5編相続の位置づけを歴史的沿革も踏まえたうえで、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部8章（155－163頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書163頁のチェック問題を解いてみる		120分
3	総則：相続の開始原因、相続回復請求権、相続財産に関する費用		相続の開始原因、さらに、相続が開始した場合に、それに要する費用、自分の相続権が侵害された場合の対応について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の開始原因、相続回復請求権の意義等につき、正確に理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部9章（164－171頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書171頁のチェック問題を解いてみる		120分
4	相続人と相続分(1) 意義、相続人の種類と順位		ここから数回にわたり、法定相続の基本原則について学修する。具体的には、同時存在の原則、相続の種類と順位について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、同時存在の原則、相続の種類と順位につき、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章（172－175頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書181頁のチェック問題を解いてみる		120分
5	相続人と相続分(2)：相続欠格、廃除		前回に続き、法定相続の基本原則について学ぶ。具体的には、相続欠格、廃除について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、相続欠格、廃除につき、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章（177－181頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書181頁のチェック問題を解いてみる		120分
6	相続人と相続分(3)、相続の効力(1)：代襲相続人の相続分、相続財産の範囲		前回に続き、法定相続の基本原則及び新たに相続の効力について学修する。具体的には、代襲相続、相続財産の範囲について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続の基本原則のうち、代襲相続人の相続分、相続財産の範囲につき、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部10章、11章（175-176、182－190頁）を読んでもくること		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ここまでの授業のノート整理をしっかりと行うこと		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	相続の効力(2)：相続分		前回に続き、相続の効力について学ぶ。具体的には、法定相続分、指定相続分、特別受益者、寄与者の相続分について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、法定相続分、指定相続分、特別受益者、寄与者の相続分の意義、算定方法について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章(190－198 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書214頁のチェック問題を解いてみる		120分
8	相続の効力(3)：共同相続		前回に続き、相続の効力について学ぶ。具体的には、遺産共有の意義、法的性格、共有中の相続財産の管理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産共有の意義、法的性格、共有中の相続財産の管理について理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章(198－205 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連箇所についてもしっかりと復習を行うこと。		120分
9	遺産分割(1)：意義、実行、分割の基準と方法		相続法の重要な論点の1つである遺産分割について学ぶ。具体的には、遺産分割の意義、基準、具体的実行方法について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の意義、実行、分割の基準と方法について、理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章(205－209 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連箇所についてもしっかりと復習を行うこと。		120分
10	遺産分割(2)：効果、共同相続人間の担保責任		前回に続き、遺産分割の理解を深める。この回では、遺産分割の効果、共同相続人間の担保責任などについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺産分割の効果、共同相続人間の担保責任について、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部11章(205－210頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をしっかりと行うこと。なお、この回は、財産法に関する知識がとりわけ求められてくるので、併せて財産法の関連箇所についてもしっかりと復習を行うこと。		120分
11	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在		当然相続主義と自己責任の原則とを調和させるために規定されている相続の承認・放棄という制度を扱うとともに、財産分離、相続人の不存在の場合における残された財産の行方について広く学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在について、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部12、13、14章(215－230 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書222、226、230頁のチェック問題を解いてみる		120分
12	遺言(1)：意義、法的性格、遺言事項、遺言の種類と方式、遺言の撤回・取消し		財産処分に関する自己決定の尊重を人の死後も実現するために認められてきた制度が遺言制度である。この授業では、近年、利用者が増えている遺言の基礎知識について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺言制度の意義、法的性格、遺言事項、遺言の種類と方式、遺言の撤回・取消しにつき、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所を目を通しておくのと同時に、教科書の第2部15章(231－242 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書252頁のチェック問題を解いてみる		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	遺言(2)：遺贈、遺言の執行		前回に続き、遺言についての理解を深める。今回の授業では、遺贈、遺言の執行について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺贈、遺言の執行について、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのと同時に、教科書の第2部15章(242-252 頁)を読むこと		120分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書252頁のチェック問題を解いてみること		120分
14	遺留分(1)：意義・目的、遺留分権利者と遺留分割合、遺留分の算定		遺留分とは、被相続人の財産処分の自由と遺された一定範囲の遺族の利益との調整を図ることを目的に用意された制度である。今回は、遺留分制度の基礎について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分制度の意義・目的、遺留分権利者と遺留分割合、遺留分の算定の仕方について、正しく理解し、説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのと同時に、教科書の第2部16章(253-258 頁)を読むこと		140分
	事後学修	レジュメ及び教科書の該当箇所を復習し、ノート整理をするのと同時に、教科書264頁のチェック問題を解いてみること		100分
15	遺留分(2)：遺留分侵害額請求権、遺留分の放棄 レポート課題の解説・講評		前回に続き、遺留分制度の理解を深める。今回は、遺留分侵害額請求権の意義、趣旨、算定の仕方、及び遺留分の放棄について学修する。さらに、レポート課題の解説・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遺留分侵害額請求権、遺留分の放棄につき、理解し、正しく説明することができる。		
	事前学修	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくのと同時に、教科書の第2部16章(258-264 頁)を読むこと。さらに、最後の授業となるので、授業全体を通して質問事項がないかを考えてくること		140分
	事後学修	授業の内容をレジュメを参考にしながらノート整理するのと同時に、教科書264頁のチェック問題を解いておくこと。講義終了後、レポート課題の解説・講評を行うので、その解説も参照しながら、間違えた箇所を中心に相続法全体の復習を行うこと。		100分

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	武田 政明	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 政経 新聞 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○		○			

【授業の概要】 民法第5編(相続編)について学修する。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、相続法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解決策を導き出すことができる能力を養う。
--

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標) 自ら家族に関する問題を認識し、理解するために、相続に関する法を理解するとともに、日々社会で起こる家族問題を注視し、それに対する解決策を提示することができる能力を修得する。

【履修条件】 相続に関する争い事、これからの相続法はどのようにあるべきかに関心のある者に受講してもらいたい。
--

【授業方法】 教科書に即して講義方式で行う。必要に応じて配布する資料に基づいた講義も行う。 試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	相続編に関する基本用語及び概念について、正確に理解し説明することができる。					2						
②	相続編で想定することができる簡単な事例について、法律の規定に基づいて論理的に考察することができる。						2					
③	財産承継のシステムや考え方について、理解し、説明することができる。				2	2						
④	現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2				2			
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②④についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	50	20		20							90
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標③にかかわる説明をすることができているかを評価する。			10								10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	20	10	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説・講評を、試験後にする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
親族法・相続法講義 第7版	山川一陽	日本加除出版	2021年	教科書	推奨
民法判例百選Ⅲ 親族・相続 第2版	水野紀子・大村敦志編	有斐閣	2018年	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
希望する場合には、授業の際にあらかじめ相談の上で、授業の前後に時間をとり可能な限り応じる。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	日本相続法の特色	日本相続法の歴史と特色、相続の根拠	
	この回の到達目標	到達目標①②④の実現との関係で、相続法の歴史と存在意義から日本相続法の目的と特色を理解し、解説することができる。	
	事前学修	シラバスを確認する。教科書の「第3部相続法 第1章相続の歴史とその意義」を読む。戦前の相続法と現行相続法の基本理念、達成目標の根本的違いを考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。現行相続法が家族生活における個人の尊重という憲法の理念をどの程度達成しているか、またこれからの相続法はどのようにあるべきかについて、整理・検討する。	120分
2	相続の開始と相続回復請求権	相続の開始原因とその時期、相続回復請求権	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、相続の開始原因と特別な措置規定が適用される場合、現代における相続回復請求権の意義と機能を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第2章相続の開始 1 相続の開始原因とその時期 2 その意義と同時存在の原則 3 相続回復請求権」を読む。相続の開始について大規模自然災害の場合を考察する。相続回復請求権の法的存在意義等を考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続開始原因としての死亡の法的意義、同時存在の原則、当然開始の原則等を検討する。相続回復請求権の意義、判例、行使の当事者、遺産分割請求権との関係、消滅等の問題を整理・検討する。 2 時間	120分
3	相続人の意義	配偶者相続人、血族相続人、相続人の二重資格、相続順位	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、各法定相続人の意義、胎児についての特則、相続順位を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第3章相続人と相続分」を読む。配偶者相続人、血族相続人、相続順位、相続人の二重資格等について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。配偶者の意義、血族相続人の意義、相続順位、胎児の相続権、相続人の二重資格等について現行相続法規が抱える問題点を整理・検討する。	120分
4	法定相続と相続分	法定相続分、代襲相続	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、法定相続における相続人の順位、代襲相続の意義、相続人の順位に応じた相続分を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「2 法定相続分 3 代襲相続」を読む。相続人と法定相続分、代襲相続人の資格要件等について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。代襲相続も含めて相続人となる場合とそのときの相続分の割合の関係を整理・検討する。	120分
5	配偶者相続人	配偶者の相続に関する諸規定	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、配偶者の相続に関して、新たに配偶者保護のために定められた規定の意義を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「4 配偶者相続の諸問題」を読む。相続法の改正条文から配偶者の相続権に係る部分を考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。配偶者居住権、遺産分割における配偶者保護のための方策等を整理・検討する。	120分
6	相続人となれない者	欠格、廃除制度	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、欠格、廃除の意義、要件を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「5 相続欠格 6 相続人の廃除」を読む。制度の目的、それぞれの事由と効果等を考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。欠格・廃除制度の事由を現在の親子・家族生活を踏まえて整理・検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	指定相続分と特別受益者	相続分の指定があるときの相続分、特別受益制度	
	この回の到達目標	到達目標①②③④との関係で、相続分の指定があるときの相続、特別受益の意義と相続分の算定方法を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第2 指定相続分 第3 特別受益者の相続分」を読む。相続分の指定がなされた場合、相続人の中に特別受益者がいる場合の相続人各自の相続分等を考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続分の指定方法、指定の解釈、遺留分や相続債務との関係等について整理・検討する。特別受益の意義・評価、特別受益者がいる場合の相続分の算定方式等を具体的事例に則して整理・試算・検証する。	120分
8	寄与分と相続分取戻権	寄与分、相続分取戻権	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、寄与分の意義と算定方法、相続分の取り戻しの意義と方法、相続分の譲渡と登記について理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第4 寄与分 第5 相続分の取戻権について」を読む。寄与分の要件、相続分の譲渡、取り戻し権の行使等について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。寄与分制度の意義と問題点、寄与分の算定方式等を具体的事例に則して整理・試算・検証する。相続分取戻権の意義、相続分の遺産分割前の譲渡と登記、譲渡を受けた者の法的立場等について整理・検討する。	120分
9	遺産分割	遺産分割の意義と具体的方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、遺産分割の意義、基準、方法、効果等を理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第6 遺産分割について」を読む。遺産分割に関する諸問題、代償財産の取扱い、遺産分割の基準・方法、遺産分割の禁止、遺産分割の効果等について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。遺産分割に関する諸問題を整理し、さまざまな場合を想定した遺産分割協議書を実際に作成してみよう問題点を検証する。	120分
10	相続財産	遺産共有の法的性質、相続財産の管理	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、相続財産の意義、遺産共有の法的性質、相続財産の管理について理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第4 章相続財産」を読む。相続財産の意義、無権代理と相続、遺産共有の法的性質、共同財産の管理等に関する諸問題について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続財産の範囲、無権代理と相続の類型、合有説と共有説、共同相続財産の管理、相続と登記等に関する諸問題を整理・検討する。	120分
11	相続の承認と放棄	熟慮期間、相続の承認、相続放棄の要件と効果	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、熟慮期間の意義と算定、相続放棄の要件と効果について理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第5 章相続の承認と放棄」を読む。承認・放棄の法的性格、熟慮期間、相続放棄の方式等について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。熟慮期間の起算点と特則、熟慮期間と特別事情、相続放棄の方式と効果等について整理・検討する。	120分
12	相続の承認と財産分離	単純承認、法定単純承認、限定承認、財産分離	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、法定単純承認、限定承認、財産分離の意義、要件、効果について理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第3 相続の承認 第6 章財産分離」を読む。法定単純承認、限定承認、財産分離の機能について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。法定単純承認となる場合、限定承認の意義と効果、財産分離の意義と効果等について整理・検討する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	相続人の不存在、遺言	相続人の不存在と手続、遺言事項と遺言能力	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、相続人が不存在のときの手続、遺言事項、遺言能力について理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「第7章相続人の不存在 第8章遺言制度について」を読む。相続人不存在の意義と手続き、遺言能力、遺言事項等について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続人不存在の場合の手続の進め方、特別縁故者の意義と財産分与、国庫帰属について問題点を整理し検討する。遺言制度の意義と機能から遺言能力、遺言事項について検討する。	120分
14	遺言の方式と執行	遺言の方式、要件、効力、執行方法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、遺言の各種方式、それぞれの要件、遺言の執行方法について理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「4 遺言の方式から9 遺言の執行について」までを読む。遺言の種類と方式、遺言の効力、遺贈、遺言の執行等について考察する。	120分
	事後学修	講義記録を読み、講義内容を確認する。各方式の遺言方法、効力、遺言の無効・取消し等について実際に遺言書を作成し、各遺言方式の問題点を整理・検討する。受遺者と遺贈義務者の法的関係、包括遺贈と特定遺贈、負担付贈与等の諸問題についても検討する。	120分
15	配偶者居住権、遺留分、これからの相続法	配偶者の居住の権利、遺留分制度、 これからの相続法	
	この回の到達目標	到達目標①②③④の実現との関係で、配偶者居住権の意義、遺留分制度の意義と具体的算定方法について理解し、またこれからの相続法のために改正されるべき規定について理解し、解説することができる。	
	事前学修	教科書の「配偶者居住権と遺留分制度」を読む。配偶者居住権と遺留分制度を考察する。また、初回からの教科書の各箇所と講義記録を読み直し、憲法の理念から、これからの相続法において改めるべきところを考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各箇所と講義記録を確認する。社会においてこれからの相続法に求められている機能、その実現方法をを検討する。	120分

科目名	民法総則	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典第1編「総則」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、民法がどのような場面に適用されるのかをおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示をしてしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を中心に学ぶ。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学修に必要な法的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
授業は、下記授業区分のとおり、講義回と演習回とに分かれる。講義回は、レジュメを使用して進める（教科書の購入は任意となる）。演習回においては、学生を適宜指名のうえ発言を求めたり、リアクションペーパーの提出を求める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	下記授業区分にあるとおり定期的に演習を行う。演習問題のうちでも事例問題については、（受講者数にもよるが）グループディスカッションのうえ、その成果を発表したり、リアクションペーパーにまとめることを求める。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。			2					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。			2					
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。			2					
④	民法総則に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。			2					
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④が達成されているかどうかを、筆記試験により評価する。	30	30	10	10							80
小テスト等	授業中の小テストや演習、質疑応答等（形式は履修者数等に応じて異なる）により、到達目標①②③④の達成度を確認する。	5	5	5	5							20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	15	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第14回に行う授業内試験について、解説を第15回講義時に行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法入門・総則〔第5版〕エッセンシャル民法1	永田眞三郎ほか	有斐閣	2018年	教科書	任意
備考					

【オフィスアワー】
火曜日13：00－17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること）研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	弁護士として法律事務所にて法律実務に従事
実務経験に基づく実践的教育の内容		担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における民法総則の位置づけ	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような法律かを説明することができる。	
	事前学修	事前にオンライン上で配付される第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおく 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる	120分
2	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像）	民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、民法がどのような場面に適用される法律かを理解したうえで、民法典の構造、契約においてどのような形で債権債務が発生し、物権が移転するのかを説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて読んでみる	120分
3	民法の全体像②（民法の基本概念）	民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、民法の3大原則を説明できるようになるとともに、所有権の移転方法における民法の原則と例外の考え方を理解する。	
	事前学修	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み返してから講義に臨むこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の取得方法として、原始取得と承継取得の意味を自分の言葉で具体例を挙げて説明できるようにしておくこと。 第5回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
4	権利の主体（人）	権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学び、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いていた法律行為の効力をおさえる。また、行為能力が十分でない者を保護する制度としての制限行為能力者制度についても学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取引をするうえで十分な能力を有さない者に対し、民法はどのような保護の方法をとっているのか説明をすることができるようになる。また、そうして保護をする一方で、相手方にも配慮して一定の制度があることも理解する。	
	事前学修	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 制限行為能力制度につき、民法が用意している4つの類型をおさえるとともに、こうした制限行為能力者と取引をした相手方保護の必要性とその手段について一連の流れでおさえる。 第5回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
5	権利の客体（物）、演習（第1回）	民法上の権利の客体となる物概念について学んだあと、第2回以降の講義内容の復習を兼ねた演習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第5章 物」を読んでおくこと あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する	120分
6	法律行為と意思表示①（法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈、心裡留保）	隔地者間における意思表示はいったいいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にすれ違いがあった場合にはどのような内容で効力が生じるのか、一方当事者が相手をだますつもりで契約の申込みをし、相手方が信じ切っている場合にその契約の効力は生じるのか、といったことを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、意思表示や契約の成立時期を理解するとともに、成立した契約の内容について両当事者の認識が異なっていた場合にはすぐに錯誤を検討するのではなく、まずは契約内容の確定という契約解釈がなされる必要があることを理解し、その方法を説明することができる。	
	事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈、心裡留保の箇所を読んでく	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 意思表示や契約の解釈に関し、講義中で紹介した客観的解釈説と規範的解釈説の相違を整理する。 第8回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	法律行為と意思表示②（通謀虚偽表示、錯誤）		契約当事者が、真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか。契約締結にあたり、一方当事者に勘違いがあった場合はどうか。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、通謀虚偽表示や錯誤があった場合における当事者間の細やかな利益調整がどういった形でなされているかを条文に即して説明をすることができる。	
	事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、通謀虚偽表示と錯誤の箇所を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で出てきた94条2項の類推適用とは、94条2項が直接適用される場面とどこが異なるか考えてみること。 第8回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
8	法律行為と意思表示③（詐欺、強迫）、演習（第2回）		契約締結にあたり契約の相手方が詐欺または強迫をしていた場合、詐欺や強迫の被害者はどのような主張が可能か。第三者が詐欺していた場合に何か違いがあるか。詐欺と強迫で差があるか。
	この回の到達目標	詐欺および強迫を学んだ後、到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、詐欺と強迫の箇所を読んでくること あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 96条2項と96条3項を読んだだけで、当事者関係図が書けるように整理する。 演習問題の回答を整理する	120分
9	法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限		取締規定に反する契約は全て効力が生じないか。そもそも無効と取消しは、どのような違いがあるのか。条件と期限にはどのような差があるか。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、契約自由の原則がどういった理由からどのような形で修正されているのか、また無効と取消しとではどのような差異があるのか、条件と期限はどのような観点から区別されるのかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第7章 法律行為の自由と制約」「第8章 無効と取消し」「第9章 条件・期限」を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと これまで学んできた民法の条文がそれぞれ強行規定なのか任意規定なのか考えてみること。 第11回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
10	代理①（代理の基本的仕組みと機能、代理権、代理行為）		第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、代理とはそもそもどのような場合に利用され、その場合にはどういった要件を満たすと、代理として認められるのかを説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでくること	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと なぜ署名代理も顕名として許されているのかにつき、顕名が求められている趣旨に遡って考えてみること。 第11回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること	120分
11	代理②（無権代理、表見代理）、演習（第3回）		代理行為の効果は本人に帰属するのが原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には、例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方について学ぶ。
	この回の到達目標	代理の後半を学んだ後、到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて、事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書の「第10章 代理」のうち、第4節および第5節を読んでくること あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくる	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 109条の表見代理は、どのような場面で相手方を保護するものか。条文を見て具体例が挙げられるようにしておくこと。 演習問題の回答を整理する	120分
12	時効①（取得時効）		永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効について、その法的仕組みを学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、取得時効制度について、世の中での実際の登場場面も含めイメージができるようになる。	
	事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第1節を読んでくること	120分
	事後学修	レジュメを再度読み直しておくこと 自分の身の回りにある物で、実は取得時効が完成している物がないか考えてみる	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	時効②（消滅時効、時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度）		「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効について、2017年の民法改正での影響も含め学習する。また、前回の取得時効にも共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度についても学ぶ。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、消滅時効制度における諸論点についての判例の理解をめぐる多様性を理解し、事例が少し変わっただけで結論が変わり得ることを理解する。	
	事前学修	教科書の「第12章 時効」のうち、第2節～第4節を読むこと	120分
	事後学修	日本民法では、時効の効果を享受するには時効の援用が必要だが、この援用はなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 これまでのレジュメを全て整理し、次回の授業内試験に備える。分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する	120分
14	質疑応答と授業内試験		質疑応答を30分した後、授業内試験を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、これまでの学習内容につき正確な形でインプットできているかを確認するとともに、事例問題を通じて事例の中から問題を発見し、それについての民法での対処法を説明できるようになったかを確認する。	
	事前学修	これまでのレジュメを読み返し、理解の不十分な箇所をあらかじめ明らかにして質問できるようにしておくこと	120分
	事後学修	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする	120分
15	授業内試験の解説・講評		第14回に実施した授業内試験について解説・講評を行う。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業内試験で自身が不十分であったところを確認し、自身が得意なところと苦手なところを認識し、夏季休暇中において何をより深く勉強すべきかを理解する。	
	事前学修	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく	120分
	事後学修	これまでのレジュメを整理するとともに、民法総則の総復習をする	120分

科目名	民法総則	担当者	山田 孝紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○						

【授業の概要】
民法典第1編「総則」（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）に定められたルールについて学修する。具体的には、民法がどのような場面に適用されるのかをおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示をしてしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を中心的に学ぶ。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学修に必要な法的知識を理解し、法的思考方法を修得することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できる力を身につけること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。

【履修条件】
なし（ただし、授業ごと・試験前に適宜復習ができる人の履修を希望します。一夜漬けで対処できる科目ではありません。）

【授業方法】		
配布レジュメに沿って授業を進める。民法総則では抽象的な概念が多いため、具体的な設例（簡単な教科書事例や判例の事案を簡略化した設例）に即して説明する。レジュメには空欄があるが、受講生は空欄を補充するだけでなく、事例の関係図を書いたり、大事な部分についてメモを取ったりして授業に真剣に取り組む姿勢が求められる。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	オンデマンド講義を予定している。オンデマンドでは一方通行になってしまう可能性があるので、学生の理解度をはかるために、Google Classroomまたは出席管理システム（レスポん）を用いて課題に取り組む。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	民法総則に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができる。							2					
②	民法総則における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できる。							2					
③	紛争当事者の言い分の対立を想像し、その利益調整の必要性を理解し、民法がそれにどのように対処しているのかを説明できる。							2					
④	民法総則に関する諸問題について考察のうえで自身の意見を述べるができる。							2					
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②③④の達成度を確認するために、適宜、Google Classroomまたは出席管理システム（レスポ）での課題に取り組む。なお、課題の提出状況が著しく悪い場合は、成績評価不能と判断することがある（第1回目の授業にて説明する）。	15	15	15	5							50
レポート等	到達目標①②③④が達成されているかどうかを、zoomでのオンラインの課題またはGoogle Classroomにて提示する期末課題（論述式）により評価する。	10	15	15	10							50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	30	15							100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題に対する解説をGoogle Classroomにて配布するほか、メールでも適宜質問に対応する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
民法総則（補訂版）日評ベーシックシリーズ	原田＝寺川＝吉永	日本評論社	2018	教科書	必携
最新版の六法（改正民法が記載されているもの）		各自の好みで選んでください。			
新ブリメール民法1 民法入門・総則〔第2版〕	中田＝後藤＝鹿野	法律文化社	2020	教科書	推奨
ユーリカ民法1 民法入門・総則	大中有信編	法律文化社	2019	教科書	推奨
備考	上記教科書は参考です。各自の学修目的に応じて教科書を選んでください。教科書・参考書の内容、使い方については第1回目の授業で説明します。				

【オフィスアワー】
水曜お昼休み（事前にメールでアポイントメントをとってください。その他の時間でも適宜対応します）yamada.takanori★nihon-u.ac.jp 上記の「★」記号を「@」記号に置き換えて下さい。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の前半では、授業の目的と内容、授業の進行方法、教科書の使い方、成績評価方法について説明します。 授業の後半では、法体系における民法の位置づけ、民法の沿革と体系、民法における民法総則の位置づけについて学びます。	
	この回の到達目標	民法の全体像、民法総則の位置づけについて学ぶ。	
	事前学修	履修を希望する学生は、必ずガイダンスを見て、授業の方法や成績評価方法を理解した上で履修登録をしてください。なぜ民法総則を履修するのかについて考えておくこと。民法を学修するにあたって他にどのような科目を履修した方が良いのか（例えば債権総論、後期の物権・担保物権法など）についても考えて授業計画を考えること。	120分
	事後学修	各自の学修目的に応じた教科書を購入すること。今回の事後学修および第2回目以降の事前学習の教科書は、民法総則（日本評論社ベーシックシリーズ）のページ数を記載している。 教科書1～16頁を読んで授業内容を復習すること。	120分
2	民法の基本原則、権利能力、物の要件・分類	まず初めに、民法の基本原則（私的自治の原則、権利能力平等の原則）を学びます。次に、権利の主体となる人、民法上の物の概要をみます。そのうえで、権利能力を学びます。権利能力とは、私法上の権利を有したり、義務を負ったりする資格のことです。民法3条1項では、「私権の享有は、出生に始まる」とされます。それでは、まだ出生していないが、お腹の中では生きている胎児には権利能力が認められるのでしょうか。認められるとすれば、それはどのような場合でしょうか。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、権利の主体である人、物の要件・分類について学ぶ。特に権利能力とは何かについて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書214～216、74～78頁を読む。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
3	未成年者と成年後見制度	重度の認知症を患った高齢者が持っていた指輪を売却してしまった場合や、未成年者が親の同意を得ずに高価な時計を購入した場合、契約の効力はどうなるのでしょうか。この回では、こうした問題を解決するにあたり重要な概念として、まず「意思能力」をみていきます。次に、意思能力制度の問題点をみたのち、「制限行為能力」制度の必要性やその概要について学びます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、意思能力・行為能力の概念の意義・必要性を学び、具体例を用いて説明できるようになること	
	事前学修	教科書85～102頁を読む。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
4	制限行為能力者と詐術 法律行為・意思表示概論	前回の制限行為能力制度の続きとして、制限行為能力者が詐術を用いた場合の法律行為の取消しについて具体例を通してみます。そのうえで、詐術を題材に、事例問題を検討していきます。その後、第5回目以降の重要な概念として「意思表示」「法律行為」をみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、制限行為能力者の相手方を保護するための制度の趣旨について説明できるようになること。また到達目標①・②・③・④に関連して、具体的な事例から法的問題点を指摘し、条文・判例・学説を考慮した上で説得的な解決策を示す手法を理解する。 到達目標①・②に関連して、意思表示・法律行為の意義を具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書103～106頁、17～20頁を読む。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
5	意思の不存在①	法律行為の具体例として、心裡留保・通謀虚偽表示について簡単な具体例をあげて、制度の概要を理解します。その後、民法94条2項の類推適用について、類推適用とは何か、同条の趣旨である権利外観法理をふまえてどんな場合に類推適用できるのか・できないのか、ということを考えていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、心裡留保・通謀虚偽表示について具体例をあげて説明できるようになること。 到達目標①・②に関連して、そもそも類推適用とは何か、なぜ民法94条2項を直接適用できないのか、権利外観法理をふまえてどんな場合に類推適用できるのかについて具体例をあげて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書23～33頁を読む。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
6	意思の不存在②、瑕疵ある意思表示①	錯誤について意思欠缺錯誤、基礎事情錯誤の各要件と効果について学びます。たとえば、100,000円で売るはずのパソコンを10,000円で売却してしまった場合、絶好の眺望を期待してマンションを購入したが、マンションの前に高層ビルが建ち、眺望が遮られてしまった場合、契約の効力はどうなるのか、という問題をみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、意思欠缺錯誤や基礎事情錯誤はどのような事例であり（両者の異同をおさえ）、その要件と効果は何かについて、なぜその要件が定められているのか、その要件をどのように解釈すべきなのかを説明できるようになること。	
	事前学修	教科書33～40頁を読む。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	瑕疵ある意思表示②、法律行為と第三者保護規定		相手方や第三者から詐欺や強迫を受けて契約を締結してしまった場合に契約の効力はどうなるのか、という問題を学びます。その後、いわゆる錯誤や詐欺取消前に登場した善意・無過失の第三者について、心裡留保・通謀虚偽表示の善意の第三者との違いもふまえて学びます（主に詐欺の事例を中心に説明していきます）。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、詐欺と強迫の具体例と要件・効果につき説明できるようになること。 到達目標①・②に関連して、「95条4項・96条3項」の善意・無過失の第三者とはどのような者をいうのか、なぜ善意に加えて無過失が必要とされているのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 40～49 頁を読む。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
8	公序良俗、契約の解釈		契約を締結したとしても社会的に妥当でないもの（例：殺人をしたら報酬をもらう契約、麻薬の取引、不倫の継続の維持を目的としてなされた贈与）は認められません。この回では、こうした公序良俗違反の事例の概要をみていきます。その後、当事者の契約内容の意味が不明確である場合にどのように合意した内容を確定していくのか（契約の解釈）という問題をみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、公序良俗の具体例を説明できるようになること。 到達目標①・②に関連して、契約の解釈の手法について具体例をふまえて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 51～58 頁を読む。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
9	代理①		本人が自分の代わりに他人に契約をしてもらう制度として「代理」があります。この回では、代理とは何か、なぜ代理制度が必要なのか、代理が有効に行われるために必要な要件は何か（有権代理）について学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、代理制度の具体例・代理制度の必要性、要件と効果について説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 107～125 頁を読むこと（なお細かい記述は読み飛ばしてよい）	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
10	代理②		代理人と称する者が本人から代理権を与えられていないにもかかわらず、勝手に代理行為をしてしまった…。こうした場合に問題となる無権代理の効果、無権代理人の責任、無権代理とみなされる行為について学びます。その後、無権代理と相続に関する基本事例をみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、無権代理の規律、無権代理とみなされうる行為、無権代理と相続について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 125～135 頁を読むこと	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
11	代理③		前回の授業で学んだように、無権代理の効果は原則として本人や相手方に帰属しません。しかし、例外的に無権代理行為を代理権のある代理行為と同様に扱い、本人や相手方に効果を帰属させることがあります。それが表見代理です。この回では、表見代理についてなぜそのような制度が認められるのか（制度趣旨）、どのような事例があるのか、ということ的具体例を通じて学びます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、表見代理の意義・必要性・要件と効果について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 135～142 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
12	無効と取消し、条件・期限		これまで度々登場した「無効」「取消し」、「条件」「期限」についてもう一度概要を確認するとともに、これまでの授業では紹介してこなかった規律について具体例を通してみていきます。
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、無効・取消しの違い、条件・期限の違い、なぜ法律行為の各場面で「無効」「取消し」という規律がなされているのかなどを説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 58～71 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	時効①	時効とはどのような制度か、なぜ時効という制度が存在しているのかということについて学びます。その後、取得時効制度の基礎を学びます（なお、取得時効は後期の物権・担保物権法でも扱う予定ですので、時間の関係上、省略することがあります。その場合は、消滅時効の説明に入ります）。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、時効制度の意義・時効の存在理由、取得時効制度の要件について具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 143～150 頁を読むこと。	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
14	時効②	前回の授業の事項の存在理由をふまえたうえで、消滅時効の要件の原則的な規律・例外的な規律、時効の完成猶予・更新、時効の援用についてみていきます。	
	この回の到達目標	到達目標①・②に関連して、なぜ消滅時効があるのか、消滅時効の規律、時効の完成猶予、更新、援用とはどのような制度でなぜ存在するのかについて具体例を用いて説明できるようになること。	
	事前学修	教科書 150～177 頁を読むこと（なお細かい記述は読み飛ばしてよい）	120分
	事後学修	レジュメ・教科書を用いて授業内容を復習する。	120分
15	まとめ（期末課題）	期末課題（オンライン試験）に取り組みます。なお、シラバスの都合上、15 回目に期末課題となっていますが、7 月上旬に実施することもあります。いずれにせよ、正式な日程は授業内で周知します。また課題の採点後に当該課題に対する解説も行います。	
	この回の到達目標	到達目標①・②・③・④に関連して、民法総則の基本用語・概念の意義、民法総則の各種規定の制度趣旨が理解できているのか、事例から法的問題点を見つけだし、その問題点に関する法的根拠（条文・判例・学説）をふまえて説得的かつ妥当な見解が述べられているかを確認する。	
	事前学修	期末課題に向けてこれまでの授業を総復習する。レジュメ・教科書を復習し、説明問題・論述問題の準備をしておくことを推奨する。 体調を万全にしておくこと！	600分
	事後学修	課題の講評と自身の答案を比較して理解できた点、理解できなかった点を確認する。とくにできなかった点は放置せずに、復習すること。	180分

科目名	メディア演習Ⅰ	担当者	高木 強	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
新聞メディアを中心にジャーナリズム活動の現状と社会的・法的・経済的環境、およびそれらの理解を通じて、ジャーナリズム活動の構造や社会的な意義・役割について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
社会の中でのジャーナリズム、メディアの構造、制度への理解を深め、メディア、情報に接する主体的判断力を養うことを目的とする。そのため、ジャーナリズム・メディア・言論の自由の問題をさまざまな観点から考察し、ジャーナリズム活動の現状・構造や社会的役割や意義、課題を理解する。

【履修条件】
ジャーナリズム、言論・表現の自由に関心を有していること。

【授業方法】
主に講義形式で行う。質疑応答、討論の時間を適宜設ける。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ジャーナリズムをめぐるトピックについてディベートを実施する（1回）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会の中でのジャーナリズムの活動に関連する法制度や倫理の知識を習得し、社会人として情報の受け手や発信者としての役割、倫理観を身に着ける。					3							
②	日本と諸外国におけるメディアの位置づけや制度の違いを理解、説明することができる。						3						
③	日頃のマスメディアの報道を客観的、批判的に考察し、情報の流れ、世論の動向などに対する自分の意見をもつことができる。							3					
④	メディアやジャーナリズムの活動における課題や問題点を見つけ、どのような解決策があるかを提示することができる。								3				
⑤	メディアやジャーナリズムをめぐるさまざまな意見が存在すること、メディアの実態を理解したうえで、ジャーナリズムのあり方について自分の考えを説得性、合理性をもって伝えることができる。										3		
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業内レポートが、自分の意見を論理的に説明できているかを基準に、到達目標②、③、④、⑤にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。		10	20	20	20						70
討論・発表等	ディベートにおいて、自分の意見を説得的、理論的に述べることができたかを基準に、到達目標①、②、⑤にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10			10						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	20	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内リポートのフィードバックを最終回で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。授業ごとに適宜、資料を配布する。				

【オフィスアワー】
授業内で質問を受け付ける。問い合わせ先：takagi.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス	全体の授業計画の流れ、概要、評価方法などを説明する。ジャーナリズムやメディアの活動に関する疑問や関心テーマに関する質疑応答をする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、日ごろのメディアによる報道に対する自分の考えを説明できるようにする。	
	事前学修	シラバスを熟読し、授業概要、目的について理解しておく。自分が疑問、関心をもっているジャーナリズムやメディアに関するテーマを考えておく。	120分
	事後学修	新聞を熟読する。新聞あるいは新聞社に対するイメージを考える。	120分
2	新聞メディアの活動と構造 1（組織）	新聞社がどのような組織体であり、どのような構造となっており、どのような活動を行っているのかを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②、⑤に関して、新聞を中心とするメディアの組織的な構造を理解し、説明することができる。	
	事前学修	新聞あるいは新聞社に対するイメージをまとめておく。	120分
	事後学修	新聞以外に自分が関心を持っているメディアの組織・構造について考える。	120分
3	新聞メディアの活動と構造 2（活動）	新聞社の中心的活動である取材と報道の基本的な流れ、構造について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③に関連して、取材・報道の仕組み、流れを理解し、説明することができる。	
	事前学修	新聞の取材・報道について日頃気になっていることをまとめておく。	120分
	事後学修	新聞以外の他のメディアの取材や報道の仕組みについて考える。	120分
4	新聞メディアの活動と構造 3（産業）	新聞産業・経営の概要、構造について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、ジャーナリズム活動を支える経営構造を理解し、説明することができる。	
	事前学修	新聞社の経営がどのように成り立っているのかについて想像しておく。	120分
	事後学修	新聞以外の他のメディアの経営構造について考える。	120分
5	ジャーナリズムの倫理 1（新聞倫理綱領）	新聞を中心に、取材・報道倫理について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、ジャーナリズム活動における倫理について理解し、説明することができる。	
	事前学修	日頃の報道の中で倫理上、疑問に感じたことをまとめておく。	120分
	事後学修	倫理綱領などに照らして、日々の新聞やテレビなどの報道について考える。	120分
6	ジャーナリズムの倫理 2	諸外国での取材・報道倫理やその向上のための活動について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標②、④、⑤に関連して、日本と諸外国のメディアをめぐる制度的な違いを理解し、説明することができる。	
	事前学修	倫理について考えをまとめておく。	120分
	事後学修	日本の報道倫理と比較し考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	メディアと法制度 1		取材・報道に関連する法制度の概要について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズムにかかわる日本の法制度を理解し、説明することができる。	
	事前学修	刑法・民法の違いを整理しておく。	120分
	事後学修	名誉毀損訴訟など報道に関わる判決文を読んでみる。	120分
8	メディアと法制度 2：		取材・報道に関連する法制度の概要について説明する。（前回続き）
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、ジャーナリズムにかかわる日本の法制度を理解し、法制度の問題点を客観的に認識し、説明することができる。	
	事前学修	法律と倫理の違いについて考えておく。	120分
	事後学修	日頃の報道を、報道する側と報道される側の立場になって考えてみる。	120分
9	言論の自由をめぐる問題 1		言論の自由の意義、戦前・戦中と戦後の比較について説明する。
	この回の到達目標	到達目標②、⑤に関連して、言論の自由の意義を認識し、説明できるようにする。	
	事前学修	言論の自由の必要性について考えをまとめておく。	120分
	事後学修	戦前の言論統制に関する書籍を読んでみる。	120分
10	言論の自由をめぐる問題 2		組織的ジャーナリズムにおける言論の自由について説明する。
	この回の到達目標	到達目標②、⑤に関連して、個人のジャーナリズム活動と組織的（企業内）ジャーナリストの活動との違いを理解し、説明できるようにする。	
	事前学修	フリーのジャーナリストと企業のジャーナリストはどちらがより自由かについて考えをまとめておく。	120分
	事後学修	仮に自分がジャーナリストになるとして、フリーと企業のどちらを選択するかを考えてみる。	120分
11	言論の自由をめぐる問題 3		ヘイト・スピーチ規制の是非を具体的なテーマとして、討論する。
	この回の到達目標	到達目標①、③、④、⑤に関連して、ヘイト・スピーチの法的規制の是非をテーマに、言論の自由と人権との関係の在り方について自分の考えを相手に理解できるように伝えることができる。	
	事前学修	ヘイト・スピーチ規制の是非について考えをまとめておく。	120分
	事後学修	自分が組織内ジャーナリストになったと想定し、言論の自由と組織の論理、人権、法律、読者・視聴者との関係で、どのように行動するかを考えてみる。	120分
12	民主主義とジャーナリズムの役割		民主主義社会におけるジャーナリズムの役割について説明する。
	この回の到達目標	到達目標①、④に関連して、民主主義社会におけるジャーナリズムの役割を理解し、その役割を果たすうえでの課題などについて自分の考えを説明できるようにする。	
	事前学修	民主主義の仕組み、意義を整理しておく。	120分
	事後学修	民主主義と自由が対立した場合にジャーナリズムはどうあるべきかを考えてみる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディアの社会的責任・公共性	メディアの社会的責任や期待される役割について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①、④、⑤に関連して、メディア、ジャーナリズムの社会的責任や役割を理解し、課題の解決策について自分の考えを説明できるようにする。	
	事前学修	社会はマスメディアに何を求めているのかについて考えをまとめておく。	120分
	事後学修	現在のマスメディアの役割や責任について考えてみる。	120分
14	まとめと授業内レポート	事前に告知するテーマについて、授業内でレポートを執筆する。レポート作成の要点、理論的な書き方についても説明する。	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連して、論理的に自分の考えを相手に伝えることができる。	
	事前学修	事前に告知するレポートテーマについて考えを整理し、執筆構成を準備しておく。	120分
	事後学修	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問などをまとめておく。	120分
15	まとめ	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問をもとに質疑応答する。前回レポート内容などについて講評、フィードバックする。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連し、日ごろのメディアの報道などを疑問視し、その理由を説明できるようにする。	
	事前学修	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問などをまとめておく。	120分
	事後学修	今後のジャーナリズム、メディアの役割について考える。120	120分

科目名	メディア演習Ⅱ	担当者	黒井 克行	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
「〇〇論」をぶつものではない。学問としてはともかく、実際のメディアの現場を再現した中での、既存の屁の役にも立たない理屈を一切排除した講義となろう。これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどのように活かしていくか。すでに報じられ歴史的に定着をみている事象の再検証とメディアの功罪と意義を問うものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今、現実には起こっている出来事やメディアで報じられている事をそのまま鵜呑みにすることなく、その行間に潜む本質を的確に捉え、自分なりの考えを加えて発信し伝える力を養成することを目的とする。 これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどのように活かしていくか、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1，4，8

【履修条件】
「新聞学科を極めたい」「3年間学んできたけど物足りない」「もっと刺激が欲しい」「気が付けば4年になっていた」という諸兄。

【授業方法】
担当講師の活動現場での体験やそれに裏付けされた理論や認識をほとんどのマシンガントークと、残された時間は「演習」と名のつくかぎり、授業内レポートや発言を求めたい。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業の冒頭で政治、経済から事件、スポーツ、芸能に至るまでタイムリーな話題の中から各自が関心を抱く話題をフリートークする。例えば、「日大アメフト問題」が提案されたら、各自どう考えるか？ 就活への影響や大学スポーツのあり方等、報じられている身近な出来事をテーマに議論する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	今日までのメディアの足跡を検証し、現代社会が直面、内包、さらに予測される問題を的確に捉え、分析することができる。〔知識〕				3	3		3				
②	発信されているニュース・情報の意図や思惑を推論し、行間に隠された情報の価値や意義を再考する。〔技能〕						3	3				
③	いかなるニュース・情報にも柔軟な思考で対応・理解することができる。〔態度・習慣〕						3	3				
④	形成されている世論にとらわれることなく、自分の中で自分流にダイジェストし、自分の言葉で表現することができる。〔技能〕									3		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業を通して得た知識、思考方法、鍛錬された創造力をスキルとして身につけ、最終的な発表として評価する。				40							40
討論・発表等												
授業への参画度	90分間集中して授業を面白がり、講師との間でソフトな丁々発止で交わされる対話を通じ、言葉足らずでも課題に積極的に向き合う姿勢を評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポートの講評	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。強いて挙げれば日常の新聞か。				

【オフィスアワー】	
講義のある日（金曜3限）は、その1時間前後は講師控室にて面談可能。予めメールにてアポイントを取ることが望ましいが、他日でも都合が折り合えば対応する。他、メールのやりとりにてコミュニケーションをはかることにも積極的に応じる。メルアドは教室にて告知。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版、映像現場での取材・執筆・評論活動（現在続行中）
実務経験に基づく実践的教育の内容		上記の実務経験を活かし、机上では果たせぬ“生の現場”を教壇から発信し、「リアルな再現」を心がける。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の進め方やテーマ、成績評価の方法等、受講生が授業の準備にあたってのオリエンテーション。	
	この回の到達目標	日常のニュースや情報に対する問題意識を高め、習慣化する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	120分
2	「時代とメディア」	かつて、生活必需品だったラジオ。「風呂屋から女性が消えた」時代があったが、その背景にラジオがあった。	
	この回の到達目標	ラジオはメディアの化石か？ 災害時の存在感等、今にも息づくラジオというメディアを再考し、足跡を検証する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
3	「時代とメディア」	街頭テレビ。「プロレスが戦後復興」の狼煙だった。	
	この回の到達目標	最近までメディアの主役だったテレビ。テレビが社会に及ぼしてきた役割を検証する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
4	「時代とメディア」	娯楽は映画。「映画館の扉が閉まらない」。映画が国民の心のよすがだった時代があった。	
	この回の到達目標	映像文化においてはビデオやスマホに席巻されようとしている映画。日本文化の中心の一つを担った映画に明日はあるのか？ 果たしてきた役割を検証する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
5	「時代とメディア」	青春のバイブル。「左手に朝日ジャーナル、右手に平凡パンチ」。若者御用達のメディアがあった。それは一つの時代の象徴だった。	
	この回の到達目標	活字文化は知的生活の象徴であり、青春の道標だったが、学生街から消してはならぬ活字文化を問う。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
6	「スポーツとメディア」	1964年東京オリンピック。メディアが果たした役割。	
	この回の到達目標	メディアはスポーツ文化の大演出装置。1964年はそれを証明した。実績を検証する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「時代とメディア」		テレビ黄金時代。三種の神器と高度経済成長。テレビなくしてそれは語れない。	
	この回の到達目標	高度経済成長期、テレビが社会を動かし、時代のフロントランナーたらんとしていた。時代の寵児だったテレビ再考。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
8	「時代とメディア」		テレビの曲がり角。選ばれるメディア、そして視聴率との攻防。	
	この回の到達目標	社会の変容とメディアの関係。メディアは社会の変化に従うのか。上から目線のテレビの驕りと商業メディアとしてのあり方。メディアは誰のものかを問う。		
	事前学修	各メディアをアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
9	「メディアの権力」		調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～田中金脈	
	この回の到達目標	メディアが第四の権力といわれる所以を示す事件から学ぶ。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
10	「調査報道」		調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～リクルート事件	
	この回の到達目標	メディアの社会的役割を再認識された事件から学ぶ。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
11	「調査報道」		調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～ロス疑惑	
	この回の到達目標	調査報道という取材手法と、ブームを作り出すメディアの特質を学ぶ。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
12	「スキャンダル報道」		スキャンダル報道のあり方と功罪	
	この回の到達目標	メディアはどこまで報じるべきか？ タブーはあるのか？ 報道倫理を最近の出来事から検証する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「メディアの暴力」	メディアの暴力～何度も殺された松下幸之助	
	この回の到達目標	報道被害や情報操作による社会的混乱。大きな影響力を持つメディアゆえに常に危うさを併せ持つが、特に今の時代に求められているのは何かを問う。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
14	「スポーツとメディア」	コロナ禍下における東京五輪開催を巡るメディアの右往左往。	
	この回の到達目標	オリンピックの歴史はメディアの歴史でもあるが、その意義を問われることになった騒動に対するメディアの取るべき立場。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
15	総括	レポート提出と総括	
	この回の到達目標	半期のまとめと、“時代を映す鏡”である「メディア」を身近なものとして再認識する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分

科目名	メディア演習Ⅲ	担当者	黒井 克行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
「〇〇論」をぶつものではない。学問としてはともかく、実際のメディアの現場を再現した中での、屁の役にも立たない理屈を一切排除した講義となろう。これまでにメディアが取り上げてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどう活かしていくか。すでに報じられ歴史的に定着をみている事象の再検証とメディアの功罪と意義を問うものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
今、現実起こっている出来事やメディアで報じられている事をそのまま鵜呑みにすることなく、その行間に潜む本質を的確に捉え、自分なりの考え方を加えて発信し、伝える力を養成することを目的とする。 これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどのように活かしていくか、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科1，4，8

【履修条件】
前期「メディア演習Ⅱ」を履修した者の引き続きの取り組みが望ましい。この「Ⅲ」を持って、新聞学科の集大成として、最終的な成果を掴み取って欲しい。

【授業方法】
担当講師の活動現場での体験やそれに裏付けされた理論や認識をほとんどのマシンガントークと、残された時間は「演習」と名の付く限り授業内レポートや発言を求めたい。フィードバックは授業内において行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	毎回、授業の冒頭で各自が政治や経済、さらに事件やスポーツ、芸能にいたるまで関心を抱くタイムリーな話題を提案してフリートーク。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	今日までのメディアのの足跡を検証し、社会が直面、内包、予測される問題を的確に捉え、分析することができる。〔知識〕					4	4		4				
②	発信されているニュース・情報の行間に隠された意図や思惑を推論し、その価値や意義を再考する。〔技能〕							4	4				
③	いかなるニュース・情報にも柔軟な思考で対応し理解することができる。〔態度・習慣〕							4	4				
④	形成されている世論にとらわれることなく、自分の中で自分流にダイジェストし、自分の言葉で表現できる。〔技能〕										4		
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業を通して得た知識や思考方法、創造力を駆使した最終的な発表を評価する。				40							40
討論・発表等												
授業への参画度	90分間集中して授業を面白がり、講師との間でソフトな 丁々発止で交わされる対話を通じ、言葉足らずでも課題に 積極的に向き合う姿勢を評価する。	20	20	20								60
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	40							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
レポートの講評	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。強いて挙げれば、日常の新聞か。				

【オフィスアワー】
講義のある日は、その1時間前後は講師控室にて面談可能。予めメールにてアポイントを取ることが望ましいが、他日でも都合が折り合えば対応する。他、メールのやりとりにてコミュニケーションをはかることにも積極的に応じる。メルアドは教室内にて告知。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版、映像現場における取材、評論、執筆活動（現在続行中）
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験を活かし、机上ではかなわぬ“生の現場”を教壇から発信し、「リアルな現場」を再現する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		授業の進め方やテーマ、成績評価の方法等、受講生が授業の準備にあたってのオリエンテーション。
	この回の到達目標	日常のニュースや情報に対する問題意識を高め、習慣化する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	120分
2	「皇室報道」		『玉音放送』と戦後民主主義
	この回の到達目標	戦後復興の最初の第一歩は『玉音放送』から始まった。どのようにして伝えられたのか。歴史的イベントでもあった。メディアと戦後民主主義の歩みとの関係を検証し、メディアの歴史的役割を検証する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
3	「皇室報道」		『昭和天皇崩御と報道のあり方』
	この回の到達目標	戦後、新憲法下、「開かれた皇室」として国民と共に歩んできた皇室だが、間を取り持つメディアのあり方を学ぶ。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
4	「紙文化」		紙からネットへ
	この回の到達目標	今、熱心に新聞を読んでいる学生は果たしてどれだけいるのか？ 紙文化からネット時代への移行を考える。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分
5	「芸能ニュース」		芸能エンターテインメントに果たしてきたメディアの役割の変遷。トイレ不倫や覚醒剤スキャンダル報道等々、メディアの功罪。
	この回の到達目標	芸能ニュースも新聞の一面を飾るのも珍しくなくなった。その社会的影響は小さくないキラコンテンツにもなる。芸能ニュースとは？ 検証を試みる。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける	105分
6	「昭和の事件史」		『日航ジャンボ機墜落事故』
	この回の到達目標	史上最大の航空機事故。当時の災害現場を再現し、報道のあり方を検証する。	
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	「昭和の事件史」		『グリコ森永事件』	
	この回の到達目標	これほど奇怪な事件はない。企業恐喝事件だが、死者も被害金もない。日本中が翻弄され、怪人21面相を名乗る犯人に対し、一億総探偵になった。報道の混乱ぶりが奇怪さを物語るが、検証する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
8	「平成のスポーツ史」		『野茂英雄から大谷翔平まで 日本人メジャー』	
	この回の到達目標	スポーツニュースも社会に大きな影響を与えるキラーコンテンツの時代になった。メディアをグローバル化するきっかけとなったメジャーリーグ報道を検証する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
9	「平成のスポーツ史」		『ゆとり世代の世界的活躍』	
	この回の到達目標	スポーツシーンに見られる「ゆとり世代」の活躍を検証する。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
10	「スポーツメディア」		『スポーツメディア』の可能性	
	この回の到達目標	各メディアが扱うスポーツへのウエイトが大きくなっている。経済的にもスポーツを取り巻く環境に光が差し込んでいることにあるのだろうが、スポーツをビジネスチャンスとするメディアの可能性を探る。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
11	「政治とメディア」		『大統領選挙とメディア戦略』	
	この回の到達目標	フェイクニュース、ネガティブキャンペーン等、米大統領選における当落を左右するメディアの役割を考える。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	
12	「災害報道		『2つの大震災に見るメディアの社会的意義と役割』	
	この回の到達目標	阪神淡路大震災と東日本大震災で果たしたメディアの役割と今後の可能性を探る。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。	135分	
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。	105分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	「メディアのあり方」		『メディアの社会的影響力の変遷と未来』	
	この回の到達目標	今やネット社会。メディア環境の変換と、今後、活字やテレビ・ラジオの行方は？ 未来のメディアのあり方を考える。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。		135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		105分
14	「インタビュー術」		情報収集のノウハウ	
	この回の到達目標	良質な情報あつてのメディア。いかにそれを掴むか？ そのノウハウの伝授と演習。情報発信側の立場を学ぶ。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。		135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		105分
15	総括		レポート提出と総括	
	この回の到達目標	半期を総括。ニュースや情報に流されず、自分の中で自分流に自分の言葉で表現できる。		
	事前学修	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。		135分
	事後学修	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。		105分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学A	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
現代社会でマス・コミュニケーションはどのような役割を有しているのだろうか。この講義では、マス・コミュニケーション論の代表的な研究を取り上げつつ、マス・コミュニケーションと社会との関係を検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
マス・コミュニケーション論の中でも代表的な効果研究や分析モデルを紹介することを通じて、知識を養成することを目的とする。マス・コミュニケーション、メディア・コミュニケーションに関する最も基礎的な視点を学ぶことを通じて、政治や社会問題に対するメディアとの関係性について、自ら考え、判断できるようになることを目標とする。

【履修条件】
コミュニケーションの科学A Bの履修を終えていることが望ましい。

【授業方法】
授業は講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マス・コミュニケーション論の基本的な思考枠組みが理解できるようになる。				3	3	3				
②	マス・コミュニケーションという社会過程を理解できるようになる。				3	3	3				
③	マス・コミュニケーションと現代社会との関係を分析し、検討できるようになる。				3	3	3				
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関連して授業内試験を行い、マス・コミュニケーション論を理解できているのかを基準に評価する。	10	10	50								70
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して小レポートを課す。マス・コミュニケーション論を理解できているのかを基準に評価する。	10	10	10								30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問があれば、授業後のリアクションペーパーで受け付ける。リアクションペーパーへの回答は、Google Classroom内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で必要な文献を提示するので、各自で確認するように。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） 事前にメールでアポイントメントを取ること。mitani.fumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義内容の確認とマス・コミュニケーション研究の基礎的な概念について。第一回目は必ず出席するように。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・コミュニケーション研究の基礎的な概念を学ぶ。	
	事前学修	シラバスを確認すること	120分
	事後学修	授業内で配布した資料を読むこと	120分
2	マス・コミュニケーションの機能	マス・コミュニケーションの機能について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・コミュニケーションの機能について学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
3	近代国家の成立とマス・コミュニケーション（1）	近代国家の成立過程におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、近代国家の成立過程を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
4	近代国家の成立とマス・コミュニケーション（2）	近代国家の成立過程におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、近代国家の成立過程を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
5	これまでのまとめと小レポート（1）	これまでの講義内容（第1回～4回）をまとめて、小レポートを提出すること	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、マス・コミュニケーションの機能や近代国家の成立にマス・コミュニケーションが果たした役割について理解し、論じることができるようになる	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
6	大衆社会論とマス・コミュニケーション	大衆社会とマス・コミュニケーションについて学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、初期の効果研究を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	弾丸効果モデルと大衆社会	初期の効果研究を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、限定効果モデルとその批判を学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
8	限定効果モデルと多元社会	限定効果モデルを学ぶ	
	この回の到達目標	これまでの授業で取り上げたマス・コミュニケーションの機能や、効果研究の皮下注射モデルと限定効果モデルを理解できているか再確認する。	
	事前学修	これまでの復習	120分
	事後学修	小テストでできなかったところを復習する。	120分
9	強力効果モデルとメディア社会	強力効果モデルを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、強力効果モデルが登場した社会的背景を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
10	これまでのまとめと小レポート（2）	マス・コミュニケーション論の効果研究（第6回～9回）をまとめつつ、その全体の流れを把握する	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、マス・コミュニケーション論の効果研究をまとめつつ、その全体の流れを把握できるようになる	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
11	戦争とマス・コミュニケーション	戦争におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、戦争におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
12	グローバリゼーションとマス・コミュニケーション	グローバリゼーションの深化とマス・コミュニケーションの関係について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、グローバリゼーションの深化とマス・コミュニケーションの関係について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	デジタル社会におけるマス・コミュニケーション	デジタル社会におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、デジタル社会におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
14	これまでのまとめと小テスト（3）	現代社会におけるマス・コミュニケーションの役割について検討する（第11回～13回）	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、現代社会におけるマス・コミュニケーションの役割について検討し、論じることができるようになる	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
15	講義の振り返り	これまでの講義の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、マス・コミュニケーション論の理論を用いて、現状を分析的に見ることができるようになる	
	事前学修	これまでの復習。	120分
	事後学修	これまでの授業を見直し、抱いた疑問が解消されたのかを再確認すること	120分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学A	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
現代社会でマス・コミュニケーションはどのような役割を有しているのだろうか。この講義では、マス・コミュニケーション論の代表的な研究を取り上げつつ、マス・コミュニケーションと社会との関係を検討する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
マス・コミュニケーション論の中でも代表的な効果研究や分析モデルを紹介することを通じて、知識を養成することを目的とする。マス・コミュニケーション、メディア・コミュニケーションに関する最も基礎的な視点を学ぶことを通じて、政治や社会問題に対するメディアとの関係性について、自ら考え、判断できるようになることを目標とする。

【履修条件】
コミュニケーションの科学A Bの履修を終えていることが望ましい。

【授業方法】
授業は講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	マス・コミュニケーション論の基本的な思考枠組みが理解できるようになる。				3	3	3				
②	マス・コミュニケーションという社会過程を理解できるようになる。				3	3	3				
③	マス・コミュニケーションと現代社会との関係を分析し、検討できるようになる。				3	3	3				
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③に関連して授業内試験を行い、マス・コミュニケーション論を理解できているのかを基準に評価する。	10	10	50								70
小テスト等												
レポート等	到達目標①②③に関連して小レポートを課す。マス・コミュニケーション論を理解できているのかを基準に評価する。	10	10	10								30
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	60								100

【課題に対するフィードバックの方法】
質問があれば、授業後のリアクションペーパーで受け付ける。リアクションペーパーへの回答は、Google Classroom内で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で必要な文献を提示するので、各自で確認するように。				

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） 事前にメールでアポイントメントを取ること。mitani.fumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義内容の確認とマス・コミュニケーション研究の基礎的な概念について。第一回目は必ず出席するように。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・コミュニケーション研究の基礎的な概念を学ぶ。	
	事前学修	シラバスを確認すること	120分
	事後学修	授業内で配布した資料を読むこと	120分
2	マス・コミュニケーションの機能	マス・コミュニケーションの機能について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マス・コミュニケーションの機能について学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
3	近代国家の成立とマス・コミュニケーション（1）	近代国家の成立過程におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、近代国家の成立過程を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
4	近代国家の成立とマス・コミュニケーション（2）	近代国家の成立過程におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、近代国家の成立過程を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
5	これまでのまとめと小レポート（1）	これまでの講義内容（第1回～4回）をまとめて、小レポートを提出すること	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、マス・コミュニケーションの機能や近代国家の成立にマス・コミュニケーションが果たした役割について理解し、論じることができるようになる	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
6	大衆社会論とマス・コミュニケーション	大衆社会とマス・コミュニケーションについて学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、初期の効果研究を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	弾丸効果モデルと大衆社会	初期の効果研究を学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、限定効果モデルとその批判を学ぶ。	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
8	限定効果モデルと多元社会	限定効果モデルを学ぶ	
	この回の到達目標	これまでの授業で取り上げたマス・コミュニケーションの機能や、効果研究の皮下注射モデルと限定効果モデルを理解できているか再確認する。	
	事前学修	これまでの復習	120分
	事後学修	小テストでできなかったところを復習する。	120分
9	強力効果モデルとメディア社会	強力効果モデルを学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、強力効果モデルが登場した社会的背景を学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
10	これまでのまとめと小レポート（2）	マス・コミュニケーション論の効果研究（第6回～9回）をまとめつつ、その全体の流れを把握する	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、マス・コミュニケーション論の効果研究をまとめつつ、その全体の流れを把握できるようになる	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
11	戦争とマス・コミュニケーション	戦争におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、戦争におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
12	グローバリゼーションとマス・コミュニケーション	グローバリゼーションの深化とマス・コミュニケーションの関係について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、グローバリゼーションの深化とマス・コミュニケーションの関係について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	デジタル社会におけるマス・コミュニケーション	デジタル社会におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、デジタル社会におけるマス・コミュニケーションの役割について学ぶ	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
14	これまでのまとめと小テスト（3）	現代社会におけるマス・コミュニケーションの役割について検討する（第11回～13回）	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、現代社会におけるマス・コミュニケーションの役割について検討し、論じることができるようになる	
	事前学修	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること	120分
	事後学修	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること	120分
15	講義の振り返り	これまでの講義の振り返り	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連し、マス・コミュニケーション論の理論を用いて、現状を分析的に見ることができるようになる	
	事前学修	これまでの復習。	120分
	事後学修	これまでの授業を見直し、抱いた疑問が解消されたのかを再確認すること	120分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学B	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
規範的な研究に対するカルチュラル・スタディーズの批判的な研究を概観し、その後、オーディエンス研究、メディア・スタディーズとりわけメディア・テクノロジー研究の基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身の回りのメディア・コミュニケーション現象を理解する。 1980年代から現在までのメディア研究のアプローチを理解し、その現代的課題を前提にメディアについて考察する。

【履修条件】
メディア・コミュニケーションの科学Aを先修していることが望ましい。

【授業方法】
基本的には講義形式。授業資料はColネット共有フォルダー(Y：小林義寛：)にpdfとしておいておくので、事前事後及び授業時参照できるようにしておくこと。小レポートの講評等を授業内に授業と関連させて、おこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポートおよび身近なメディア現象に関して、講評と議論をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	21世紀のメディア研究の課題と問題点を理解する。				3							
②	現代のメディア研究における、構造主義以降の現代思想の影響と関係を説明する。				3							
③	世界と日本のメディア研究の相違点と問題点を理解する。					3						
④	生活世界とメディアとの関連を説明する。					3						
⑤	これまでの規範的研究の問題点と課題について説明する。						3					
⑥	これまでのメディア研究の問題点を認識し、これからのメディア研究について思考する。						3					
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②③④⑤に関連し、小レポートを2回以上課す。課題に適切に答え、議論を構成できているかを基準に評価する。		10	10	10	10						40
レポート等	到達目標①⑥に関連し、提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、現代のメディア研究について理解できているかを評価する。	30					30					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	10	10	10	10	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小レポートの内容に関して、授業時に講評をおこない、議論をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業資料はColネット共有フォルダーにpdfとしておいておく。参考書は、当資料および授業時に適宜、指示する。				

【オフィスアワー】
火曜5限、研究室にて kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の概要	授業のテーマ、スケジュール、評価方法、資料などを説明するとともに、他の科目、とくにマスコミュニケーション論との関係などを位置づける。前学期のレポートの問題点の解説。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、規範的研究（効果研究）を中心に、その問題点を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	授業の流れを理解しておくこと。 コミュニケーション論の授業内容（効果論を中心とした規範的研究）の復習。	240分
2	規範的な研究へのホールの批判①	規範的研究を中心としたコミュニケーション研究の問題点	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、効果研究を中心にしたメディア研究の問題点を認識し、ホールの問題提起を説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究とくに効果研究の復習。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 規範的研究の問題点を確認しておく。	60分
3	規範的な研究へのホールの批判②	ホールのコミュニケーション図式の内容 3つの社会的条件－技術的基盤・生産関係（生産諸関係）・知識の枠組み TV=映像メディア→「映像=真実」の誤謬；遠近法（ルネサンス）、近代における視覚の優位性etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの提起した社会的条件の具体的な内容を説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究の問題点の確認。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 身近な事例から社会的条件を理解する。	180分
4	規範的な研究へのホールの批判③	デコーディングに関する仮説的モデル 3つの立場－優先的（支配的＝ヘゲモニック）な立場・交渉的（折衝的）な立場・対抗的な立場	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの仮説的なモデルを実例を使って説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 社会的条件を復習しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 3つの立場を事例を通して理解する→課題レポート予定。	180分
5	オーディエンス研究①	ホールの議論の確認－レポートの解説と提出レポートの講評を通して。 ホールの研究の理論的前提－創造的受容行為、バルトのテキスト理論（「作者の死」など）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、ホールの提起した問題の意義を理解する。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールの問題提起を理解しておく。提出したレポートの内容を確認しておく。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 提出したレポートの問題点を確認し、ホールの仮説的モデルを再確認する。	60分
6	オーディエンス研究②	エスノグラフィックなアプローチ エスノグラフィーとは何か、フィールドワークの思想と文化相対主義、エチックとイーミク、外在的理解と内在的理解、厚い記述、オリエンタリズムの衝撃etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホール以降のオーディエンス研究への理論的基盤を理解する。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 言語相対仮説を調べておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。オーディエンス研究におけるエスノグラフィックなアプローチとエスノグラフィーの相違点を確認する。レヴィ＝ストロースについて調べておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	オーディエンス研究③	モーレイのオーディエンス研究 アン（アング）のオーディエンス研究	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、CSのオーディエンス研究とホールの議論との関連について説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールの社会的条件を再度確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の研究はホールの社会的条件のどこに焦点をあてているか、確認し、理解する。	120分
8	オーディエンス研究④	モーレイの利用と満足研究への批判、アンの利用と満足研究への批判 両者の前提としてのポスト構造主義 ←言語論的転回・構造革命（構造論的転回）→構造主義とは	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、CSを中心にしたオーディエンス研究の意義とこれまでの規範的研究との相違点を説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 効果影響研究を復習し、モーレイ、アンの研究と特に利用と満足研究との類似点を確認しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。両者の批判を確認しておく。 →ポスト構造主義、その前提として構造主義に関する（テキスト指定）レポート予定。	180分
9	オーディエンス研究⑤	フィスクのオーディエンス研究 テキスト概念、日常的実践、テキスト密猟、テレビと日常生活etc	
	この回の到達目標	到達目標②④⑤⑥に関連し、メディアを生活世界との関連で捉える必要性を理解する。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 指定テキストを講読しつつ、構造主義への理解をすすめつつ、バルトのテキスト理論を復習。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。バルトのテキスト理論と関連させ、フィスクの概念を復習。ポスト構造主義の一環として、「実践」の概念を復習する。	180分
10	ハートレイのオーディエンス研究への疑義①	ハートレイの提起したフィクションとしてのオーディエンス 想像の共同体、国民的テレビジョンー近代の理念としての国民国家etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ハートレイの問題提起の意義を説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 3者のオーディエンス研究の特徴を確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの議論を前提に、ハートレイがなぜオーディエンス概念に疑義を提示したか、理解しておく。	120分
11	ハートレイのオーディエンス研究への疑義②	オーディエンスを必要とする3つの機関 3つの機関がオーディエンスを必要とする理由etc	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連し、ハートレイの議論の意義を理解し、その議論を日本の場合に応用して説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 オーディエンス研究がホールの社会的条件のどこに焦点をあてているかを確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 モーレイとアン批判（8回）とハートレイの疑義との類似点を確認しておく。	120分
12	メディア・テクノロジー研究①	ホールの社会的条件の復習 →シルバーストーンらによるドメスティケーション・モデル 言語論的転回→唯物論的転回あるいは存在論的転回	
	この回の到達目標	到達目標②④⑥に関連し、生活世界との関係でこれまでのメディア研究の欠落点を認識する。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 これまでの展開において、ホールの社会的条件のどこが欠落しているかを確認しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。メディアとモノおよびテクノロジーとの関係をホールを前提に理解する。構造主義の展開とリミットを考える。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディア・テクノロジー研究②	ドメスティケーション・モデルとは－社会決定論と技術決定論 日常生活とテクノロジー、ジェンダーとの関連etc →ホールの仮説的モデルの応用－社会決定論	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連し、ドメスティケーション・モデルを用いて日本の身近な事例について説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールのデコーディングに関する仮説的モデルを復習しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ドメスティケーション・モデルを理解する。	180分
14	メディア・テクノロジー研究③	ドメスティケーション・モデルの問題点 12回の内容とも関連させてモデルの問題点を考える →ヒト、モノ、テクノロジーの探求へ向けて	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、これまでのメディア研究の限界点を認識し、それを批判的に検討することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ドメスティケーション・モデルの問題点を検討する。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの問題提起、特に社会的条件との関連で問題点を理解する。	120分
15	全体のまとめ	これからのメディア研究に必要な視点とは？ レポートの課題提示	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、21世紀以降のメディア研究に必要な視点を展望することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 授業全体の流れと内容を確認しておく。	60分
	事後学修	授業内容、授業資料、参考文献などをもとにレポートを作成する。	480分

科目名	メディア・コミュニケーションの科学B	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
規範的な研究に対するカルチュラル・スタディーズの批判的な研究を概観し、その後、オーディエンス研究、メディア・スタディーズとりわけメディア・テクノロジー研究の基礎を学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
身の回りのメディア・コミュニケーション現象を理解する。 1980年代から現在までのメディア研究のアプローチを理解し、その現代的課題を前提にメディアについて考察する。

【履修条件】
メディア・コミュニケーションの科学Aを先修していることが望ましい。

【授業方法】
基本的には講義形式。授業資料はColネット共有フォルダー(Y：小林義寛：)にpdfとしておいておくので、事前事後及び授業時参照できるようにしておくこと。小レポートの講評等を授業内に授業と関連させて、おこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポートおよび身近なメディア現象に関して、講評と議論をおこなう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	21世紀のメディア研究の課題と問題点を理解する。				3							
②	現代のメディア研究における、構造主義以降の現代思想の影響と関係を説明する。				3							
③	世界と日本のメディア研究の相違点と問題点を理解する。					3						
④	生活世界とメディアとの関連を説明する。					3						
⑤	これまでの規範的研究の問題点と課題について説明する。						3					
⑥	これまでのメディア研究の問題点を認識し、これからのメディア研究について思考する。						3					
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標②③④⑤に関連し、小レポートを2回以上課す。課題に適切に答え、議論を構成できているかを基準に評価する。		10	10	10	10						40
レポート等	到達目標①⑥に関連し、提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、現代のメディア研究について理解できているかを評価する。	30					30					60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	10	10	10	10	30					100

【課題に対するフィードバックの方法】
小レポートの内容に関して、授業時に講評をおこない、議論をする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。授業資料はColネット共有フォルダーにpdfとしておいておく。参考書は、当資料および授業時に適宜、指示する。				

【オフィスアワー】
火曜5限、研究室にて kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	授業の概要	授業のテーマ、スケジュール、評価方法、資料などを説明するとともに、他の科目、とくにマスコミュニケーション論との関係などを位置づける。前学期のレポートの問題点の解説。	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、規範的研究（効果研究）を中心に、その問題点を理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておく。	30分
	事後学修	授業の流れを理解しておくこと。 コミュニケーション論の授業内容（効果論を中心とした規範的研究）の復習。	240分
2	規範的な研究へのホールの批判①	規範的研究を中心としたコミュニケーション研究の問題点	
	この回の到達目標	到達目標⑤⑥に関連し、効果研究を中心にしたメディア研究の問題点を認識し、ホールの問題提起を説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究とくに効果研究の復習。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 規範的研究の問題点を確認しておく。	60分
3	規範的な研究へのホールの批判②	ホールのコミュニケーション図式の内容 3つの社会的条件－技術的基盤・生産関係（生産諸関係）・知識の枠組み TV=映像メディア→「映像=真実」の誤謬；遠近法（ルネサンス）、近代における視覚の優位性etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの提起した社会的条件の具体的な内容を説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究の問題点の確認。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 身近な事例から社会的条件を理解する。	180分
4	規範的な研究へのホールの批判③	デコーディングに関する仮説的モデル 3つの立場－優先的（支配的＝ヘゲモニック）な立場・交渉的（折衝的）な立場・対抗的な立場	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホールの仮説的なモデルを実例を使って説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 社会的条件を復習しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 3つの立場を事例を通して理解する→課題レポート予定。	180分
5	オーディエンス研究①	ホールの議論の確認－レポートの解説と提出レポートの講評を通して。 ホールの研究の理論的前提－創造的受容行為、バルトのテキスト理論（「作者の死」など）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、ホールの提起した問題の意義を理解する。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールの問題提起を理解しておく。提出したレポートの内容を確認しておく。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 提出したレポートの問題点を確認し、ホールの仮説的モデルを再確認する。	60分
6	オーディエンス研究②	エスノグラフィックなアプローチ エスノグラフィーとは何か、フィールドワークの思想と文化相対主義、エチックとイーミク、外在的理解と内在的理解、厚い記述、オリエンタリズムの衝撃etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ホール以降のオーディエンス研究への理論的基盤を理解する。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 言語相対仮説を調べておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。オーディエンス研究におけるエスノグラフィックなアプローチとエスノグラフィーの相違点を確認する。レヴィ＝ストロースについて調べておく。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	オーディエンス研究③	モーレイのオーディエンス研究 アン（アング）のオーディエンス研究	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤⑥に関連し、CSのオーディエンス研究とホールの議論との関連について説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールの社会的条件を再度確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の研究はホールの社会的条件のどこに焦点をあてているか、確認し、理解する。	120分
8	オーディエンス研究④	モーレイの利用と満足研究への批判、アンの利用と満足研究への批判 両者の前提としてのポスト構造主義 ←言語論的転回・構造革命（構造論的転回）→構造主義とは	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、CSを中心にしたオーディエンス研究の意義とこれまでの規範的研究との相違点を説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 効果影響研究を復習し、モーレイ、アンの研究と特に利用と満足研究との類似点を確認しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。両者の批判を確認しておく。 →ポスト構造主義、その前提として構造主義に関する（テキスト指定）レポート予定。	180分
9	オーディエンス研究⑤	フィスクのオーディエンス研究 テキスト概念、日常的実践、テキスト密猟、テレビと日常生活etc	
	この回の到達目標	到達目標②④⑤⑥に関連し、メディアを生活世界との関連で捉える必要性を理解する。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 指定テキストを講読しつつ、構造主義への理解をすすめつつ、バルトのテキスト理論を復習。	180分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。バルトのテキスト理論と関連させ、フィスクの概念を復習。ポスト構造主義の一環として、「実践」の概念を復習する。	180分
10	ハートレイのオーディエンス研究への疑義①	ハートレイの提起したフィクションとしてのオーディエンス 想像の共同体、国民的テレビジョンー近代の理念としての国民国家etc	
	この回の到達目標	到達目標②⑤⑥に関連し、ハートレイの問題提起の意義を説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 3者のオーディエンス研究の特徴を確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの議論を前提に、ハートレイがなぜオーディエンス概念に疑義を提示したか、理解しておく。	120分
11	ハートレイのオーディエンス研究への疑義②	オーディエンスを必要とする3つの機関 3つの機関がオーディエンスを必要とする理由etc	
	この回の到達目標	到達目標②③⑤⑥に関連し、ハートレイの議論の意義を理解し、その議論を日本の場合に応用して説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 オーディエンス研究がホールの社会的条件のどこに焦点をあてているかを確認しておく。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 モーレイとアン批判（8回）とハートレイの疑義との類似点を確認しておく。	120分
12	メディア・テクノロジー研究①	ホールの社会的条件の復習 →シルバーストーンらによるドメスティケーション・モデル 言語論的転回→唯物論的転回あるいは存在論的転回	
	この回の到達目標	到達目標②④⑥に関連し、生活世界との関係でこれまでのメディア研究の欠落点を認識する。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 これまでの展開において、ホールの社会的条件のどこが欠落しているかを確認しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。メディアとモノおよびテクノロジーとの関係をホールを前提に理解する。構造主義の展開とリミットを考える。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディア・テクノロジー研究②	ドメスティケーション・モデルとは－社会決定論と技術決定論 日常生活とテクノロジー、ジェンダーとの関連etc →ホールの仮説的モデルの応用－社会決定論	
	この回の到達目標	到達目標①③④⑥に関連し、ドメスティケーション・モデルを用いて日本の身近な事例について説明することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ホールのデコーディングに関する仮説的モデルを復習しておく。	60分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ドメスティケーション・モデルを理解する。	180分
14	メディア・テクノロジー研究③	ドメスティケーション・モデルの問題点 12回の内容とも関連させてモデルの問題点を考える →ヒト、モノ、テクノロジーの探求へ向けて	
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、これまでのメディア研究の限界点を認識し、それを批判的に検討することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 ドメスティケーション・モデルの問題点を検討する。	120分
	事後学修	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの問題提起、特に社会的条件との関連で問題点を理解する。	120分
15	全体のまとめ	これからのメディア研究に必要な視点とは？ レポートの課題提示	質疑応答と最終
	この回の到達目標	到達目標①②④⑥に関連し、21世紀以降のメディア研究に必要な視点を展望することができる。	
	事前学修	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーション論)にある授業資料を確認しておく。 授業全体の流れと内容を確認しておく。	60分
	事後学修	授業内容、授業資料、参考文献などをもとにレポートを作成する。	480分

科目名	メディア史	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディアの歴史は、人びとの言語や記号とコミュニケーションの歴史であり、社会との相互関係の歴史でもある。古代から中世、中世から近代、そして19世紀以降の近・現代のメディアの歴史的展開を追うことで、メディアと社会との歴史的関係を浮き彫りにする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講する学生が、メディアに対する歴史的パースペクティブを身につけるために、通史的な歴史的知識を修得したうえで、学説的なフレームから歴史的変容を説明する力を修得し、さらに具体的な事例研究やケーススタディ研究を学生自らが行う力を修得する。

【履修条件】
V群Ⅲ星の必修科目「メディアと歴史」を既習しておくことが望ましい

【授業方法】
基本的には講義形式で行うが、適宜、視聴覚資料や歴史資料を活用する。講義で用いる資料は、ネットワーク・ドライブにアップするので、予習する際に事前に各自ダウンロードしておくこと。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	予習課題に対する講義での解説・分析（反転授業）や、学生自らが行った資料分析をセレクトし、それに対して解説・コメントを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアの文明史的な通史を説明することができる。				3							
②	19世紀以降のメディアの近現代史を地域や国の違いをふまえ、特徴を説明することができる					3						
③	学説を用いて、メディアの歴史的変容を説明することができる						3					
④	歴史的資料を自ら分析し、レポートとしてまとめることができる							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③が身についているか、筆記試験によって評価する。	20	20	30								70
小テスト等	小テストにより、到達目標①、②が身についているか評価する	5	5									10
レポート等	到達目標④の分析する力が身についているか、レポートで評価する				10							10
討論・発表等												
授業への参画度	予習として示した課題の提出度合いによって評価する		5	5								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	30	35	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
予習課題、レポート、小テストについては講義内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
現代メディア史 新版	佐藤卓己	岩波書店	2018	教科書	必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
水曜日昼休み

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	メディア史の学問的位置づけを確認し、講義の進め方や到達目標、評価方法・基準を説明する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しメディア史の通史的な概要を理解し、説明することができる	
	事前学修	シラバスを読み、確認すること。教科書の第1章を読んてくること	120分
	事後学修	ノートの整理し、教科書第1章を再読すること。	120分
2	メディア史の射程	世界史の通史的な流れをふまえ、メディア史との重層的な関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、②に関連しメディア史の通史的な概要とメディアとの関係を理解し、説明することができる	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
3	声の文化から文字の文化	オングの議論通して、コミュニケーションの歴史とメディアの歴史との関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアとコミュニケーションとの関係を理解し、説明することができる)	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
4	メディアのシステムと文明	イニスの議論を通して、メディア（＝記号システムと物質性）と文明の政治的システムとのダイナミズムを把握する	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアと政治システムとの関係を理解し、説明することができる)	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
5	中世から近代へ	マクルーハンの議論を通して、印刷技術とメディアの近代を把握する	
	この回の到達目標	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
6	中世のメディアと権力	映像資料『薔薇の名前』に対して、第3講および第4講の講義内容から分析を行う	
	この回の到達目標	到達目標①、③に関連しメディアと権力との関係を理解し、説明することができる)	
	事前学修	ColNET共有フォルダーの資料を事前に目を通しておくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	メディアと都市の形成	メディアが近代社会、とりわけヨーロッパ都市の形成と不可分な関係にあることを議論する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー都市ー近代の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第2章を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
8	国民国家と出版資本主義	アンダーソンの議論を媒介にして、出版資本主義と国民国家との関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー出版ー国民国家の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第3章を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
9	小テスト	第3講～8講の範囲で小テストを前半（45分）で行い、後半（45分）で小テストの解説を行う	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③が実際に身についているかを自ら評価する。	
	事前学修	第3講～第8講までの復習	120分
	事後学修	小テストの結果をふまえ、講義の内容を復習する	120分
10	民主主義とメディア	近代の政治的統治システムである民主主義とメディアとの関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディアー市民ー民主主義の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第4章を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
11	映画と表象のテクノロジー	19世紀後半に登場する映画を通して、表象とテクノロジーの関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、映画ー表象ーテクノロジーの関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第5章を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
12	プロパガンダとメディア	ラジオが登場し浸透するなかで駆使された、宣伝と動員について考える	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、ラジオープロパガンダーテクノロジーの関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第6章を読んでくること	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディア・イベントとプロパガンダ	第二次世界大戦時のプロパガンダ映画を通して、トーキー映画の社会的役割と機能を検討する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、映画－プロパガンダ－戦争の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第7章を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
14	戦後日本社会とメディア	テレビ、ラジオだけでなく、家電、電話等のテクノロジーと戦後社会の歴史との関係を把握する	
	この回の到達目標	到達目標②、③に関連し、メディア－戦後社会－生活の関係構造を把握し、説明することができる	
	事前学修	教科書・第9章を読んでくこと	120分
	事後学修	ノートの整理と講義で提示した課題を行うこと	120分
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返り、現在の情報社会の歴史的位置づけを考える	
	この回の到達目標	到達目標①、②、③、④に関連し、情報社会と歴史との関係を把握し、説明することができる	
	事前学修	レポートの作成（テーマは第13講時に提示する）	180分
	事後学修	講義全体を教科書、ノートを通じて復習する	120分

科目名	メディア／情報産業Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
新聞、放送など私たちが普段接しているメディアの産業としての成り立ち方や、インターネットの登場によってメディア産業が抱える課題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大きな変革期にあるメディア産業を考察する力を身につけるために、メディアの産業構造、社会的意義を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内でレポート課題を2回行う。レポート課題の解説も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディアとして社会に受容された過程を説明することができる。					3	3						
②	メディアの媒体特性を説明することができる。					3	3						
③	メディアの産業構造の特徴を説明することができる。					3	3						
④	広告の役割について説明することができる。					3	3						
⑤	インターネットの登場により、メディアが抱える課題について説明することができる。							3	3				
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤が身についているか評価する。	20	20	20	20	20						100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア[新版]	藤竹暁ほか	NHK出版	2018	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜、プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。 放送だけでなく、新聞、出版の業界団体との交流もあった経験を活かし、マスメディアの産業活動の実態や各業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、メディア産業を概観	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディアとは何か、メディアの自由度と露出度関連などを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、メディア産業を学ぶ意義を理解することで、能動的に今後の学修を進めることができるようにする。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	ガイダンスで紹介されたメディアに興味を持ったものについてその役割を調べる。	120分
2	メディア産業の全体像	日本のメディアの産業の全体像を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、産業としてのメディアの基本構造を説明することができる。	
	事前学修	電通ホームページ内の「2020年 日本の広告費」を読み、ポイントをまとめる。	120分
	事後学修	授業を踏まえ、自分の各メディアに対する自分の評価を再度、まとめる。	120分
3	新聞の歴史	パンフレットから新聞へ。新聞産業と大衆。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、新聞が大衆社会に受け入れられた過程を説明することができる。	
	事前学修	コーヒーハウスの起源について調べる。	120分
	事後学修	どのようにしてマス広告が誕生したのかをまとめる。	120分
4	新聞産業の概況	新聞媒体の種類と特徴、宅配と再版制度を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、新聞媒体の特徴を説明することができる。	
	事前学修	新聞にはどのような種類があるかを調べる。	120分
	事後学修	なぜ、再版制度が必要なのかについてまとめる。	120分
5	放送の誕生過程	通信の発達から放送の誕生までを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、放送の特徴を説明することができる。	
	事前学修	電気を使った通信が始まる前は、どのような手段で通信を行っていたかを調べる。	120分
	事後学修	放送の誕生した理由をまとめる。	120分
6	民放テレビの営業概論 I	民放テレビのビジネスモデル、ネットワークの役割、CMの種類について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、放送の媒体として特徴を説明することができる。	
	事前学修	テレビ、ラジオのネットワークについて調べる。	120分
	事後学修	民放テレビのビジネスモデルについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	民放テレビの営業概論Ⅱ	テレビ営業の仕組みと実態、視聴率と視聴質を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標舞②③④⑤に関連し、テレビCMの特徴を説明することができる。	
	事前学修	ビデオリサーチのホームページで視聴率の調査放送を調べる。	120分
	事後学修	他のサービス産業と放送産業の構造の違いをまとめる。	120分
8	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
9	出版メディアⅠ	出版メディアの特徴、文庫本革命、ベストセラーなどについて考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連し、出版の特徴を説明することができる。	
	事前学修	1990年以降の書籍、雑誌の売り上げの推移について調べる。	120分
	事後学修	文庫本の歴史をまとめる。	120分
10	出版メディアⅡ	出版の流通（販売、取次）、再販制度、出版のデジタル化について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④⑤に関連し、出版流通の特徴を説明することができる。	
	事前学修	電子書籍を読む。	120分
	事後学修	出版のデジタル化のメリットをまとめる。	120分
11	映画産業Ⅰ	サイレント映画から映画のデジタル化まで。	
	この回の到達目標	達成目標①に関連し、サイレント映画から現在までの映画産業の発展過程を説明することができる。	
	事前学修	エジソンとリュミエール兄弟が発明したものを調べる。	120分
	事後学修	サイレント映画、活動写真、トーキー映画の特徴と違いを整理する。	120分
12	映画産業Ⅱ	興行収入、入場者数の変遷、映画ビジネスの収益配分、映画興行事業の現状を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③④⑤に関連し、映画産業の構造を説明することができる。	
	事前学修	過去10年間の映画の興行収入1位～10位を調べ、特徴をまとめる。	120分
	事後学修	映画ビジネスの収益配分方法についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	広告会社とは	広告会社の役割、種類、総合広告会社の組織。	
	この回の到達目標	達成目標④⑤に関し、広告会社の役割を説明することができる。	
	事前学修	どのような広告会社があるのかを調べる。	120分
	事後学修	広告会社の種類とそれぞれの役割をまとめる。	120分
14	これからのメディア	動画配信サービスの特徴、動画視聴方法の変化、既存メディアの対応などを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標⑤に関し、メディア環境の変化について説明することができる。	
	事前学修	さまざまな動画配信サービスの特徴をまとめる。	120分
	事後学修	既存メディアの今後についてまとめる。	120分
15	授業内レポート課題、解説	後半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア調査	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
新聞、テレビ、そしてインターネットをはじめとするメディアからもたらされる情報を的確に収集、分析、そして解釈する能力は、情報化社会において非常に重要である。以上のような前提のもと、本科目では①メディア調査の方法、②データ解釈の方法、そして③メディア調査の実例について学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
受講者は、メディアを社会調査の技法を用いて調査するために、社会調査についての知識と方法論およびメディア調査特有の視点を修得する。また、その過程を通じて、メディアから得られる情報を的確に理解、分析、そして解釈するための能力を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
スライドを用いて講義を実施する。適宜、授業内容に合わせた資料を配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	提出された課題のチェックを通じて受講生の講義の理解度を測る。また、課題及び筆記試験の解説を通じて受講生は理解を深める（反転授業）。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア調査に関する基本的な知識および方法論を理解し、適切に用いることができる。				2	2	2	2				
②	メディア調査の意義を理解し、その調査方法について立案できる。				2	2	2	2				
③	メディア調査の技法を、調査対象となるメディアの特性に応じて使い分けることができる。				2	2	2	2				
④	メディア調査から得られたデータを、適切に解釈し、読み解くことができる。				2	2						
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③④についての各能力が修得できているかを、筆記試験により評価する。	15	15	15	15							60
小テスト等												
レポート等	書式等の要件を満たしているか、課題の意図を正しく理解しているかを基準として、到達目標①④に関わる能力が修得できているかを評価する。	15			15							30
討論・発表等												
授業への参画度	リアクションペーパーを提出させることによって、講義を適切に理解しているか、理解を深めるような工夫をしているのかを基準として、到達目標①②に関わる能力が修得できているかを評価する。	5	5									10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	20	15	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
第9回の講義において、第8回の授業で実施した筆記試験に対して解説する。第15回の授業で実施した筆記試験及びこれまでの課題に対しては、COLnetを通して解説する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
新版 マス・コミュニケーションの調査研究法	鈴木裕久・島崎哲彦	創風社	2006	参考書	任意
社会調査のための統計学	神林博史・三輪哲	技術評論社	2011	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	授業の概要、授業の目的、到達目標、成績評価の方法等について説明し、講義を受講する準備を整える。	
	この回の到達目標	講義の内容を理解し、事前・事後の学修の仕方を把握する。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。	120分
	事後学修	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	メディア調査の視点	メディア調査の考え方、およびメディア研究の類型について学習する。ついで、メディア調査の効用と限界について考察する。	
	この回の到達目標	メディア調査の考え方やメディア研究の類型について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	第1回目の授業「ガイダンス」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
3	メディア研究と調査（1）	メディア研究における統制者分析、内容分析、そしてメディア分析の視点とその課題について学習する。また、その実例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	メディア研究の種類について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	第2回目の授業「メディア調査とは視点」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
4	メディア研究と調査（2）	メディア研究における受け手分析、効果分析の視点とその課題について学習する。また、その実例についての理解を深める。	
	この回の到達目標	メディア研究の種類について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	第3回目の授業「メディア研究と調査（1）」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
5	メディア研究と調査（3）	メディア研究における効果分析の視点とその課題について学習する。また、メディア研究における調査法について、複数の視点から理解を深める。	
	この回の到達目標	メディア研究の種類について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	第4回目の授業「メディア研究と調査（2）」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
6	メディア調査の手順	メディア研究を定量的な手法で実施するにあたり必要な知識について学習する。また、実際にメディア調査を実施する手順についての理解を深める。	
	この回の到達目標	メディア調査の方法と手順について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	第5回目の授業「メディア研究と調査（3）」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	調査票をめぐる過程	メディア研究を定量的な手法で実施するにあたり調査票の設計、集計、そして統計に至るまでの過程について学習する。同時に、データを構成する要素についての理解を深める。	
	この回の到達目標	メディア調査の方法と手順について学習することで、メディア調査についての基本的なリテラシーを獲得する。	
	事前学修	第6回目の授業「メディア調査の手順」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
8	総括（1）	第2回から第7回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第2回から第7回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、メディア調査への総合的な理解を深めておく。	120分
	事後学修	第2回から第7回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、筆記試験の内容を省察する。	120分
9	統制者分析	メディア調査における統制者分析の方法論について、実際の調査事例を参照しつつ学習する。ついで、統制者分析の意義について考察する。	
	この回の到達目標	統制者分析の方法論を事例を通じて学習することを通じて、メディア調査を実施するための基本的なリテラシーを修得する。	
	事前学修	第2回目から第7回目の授業の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
10	内容分析	メディア調査における内容分析の方法論を学習する。ついで、内容分析の意義について考察する。	
	この回の到達目標	メディア調査における内容分析の方法論について、実際の調査事例を参照しつつ学習する。	
	事前学修	第9回目の授業「統制者分析」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
11	メディア分析	メディア調査におけるメディア分析の方法論について、実際の調査事例を参照しつつ学習する。	
	この回の到達目標	メディア分析を実際の調査事例を参照しつつ学習することで、メディア調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	第10回目の授業「内容分析」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
12	受け手分析	メディア調査における受け手分析の方法論について、その基本的な考え方を中心に学習する。特に、効果分析について考察する。	
	この回の到達目標	受け手分析の方法論について学習することで、メディア調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	第11回目の授業「メディア分析」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	効果分析（1）	メディア調査における効果分析の方法論について、その基本的な考え方を中心に学習する。特に接触と知覚に関する研究について、実際の調査事例を参照しつつ考察する。	
	この回の到達目標	効果分析の方法論について学習することで、メディア調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	第12回目の授業「受け手調査」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
14	効果分析（2）	メディア調査における効果分析の方法論について、その基本的な考え方を中心に学習する。特に受け手の態度変容について、実際の調査事例を参照しつつ考察する。	
	この回の到達目標	効果分析の方法論について学習することで、メディア調査を実施する基礎的な能力を修得する。	
	事前学修	第13回目の授業「効果分析（1）」の内容を復習し、十分に理解を深めておく。	120分
	事後学修	講義ノートの復習を通じて、授業の内容について理解を深める。	120分
15	総括（2）	第9回から第14回までの講義の理解度を測るための筆記試験を実施する。	
	この回の到達目標	筆記試験への取り組みから、授業で修得した社会調査に関する基本的な知識と理論を省察する。	
	事前学修	第9回から第14回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、メディア調査への総合的な理解を深めておく。	120分
	事後学修	第9回から第14回までの授業スライドおよび講義ノートを見直し、筆記試験の内容を省察する。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○	○			○

【授業の概要】
学部1年生を対象にした少人数制の科目で、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各領域についての学問的基礎、認識、方法論について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本講義では、新聞学科での4年間の学びの基礎を身につけるため、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各領域についての学問的基礎、認識、方法論を習得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義内の解説、関連動画の視聴などを行い、それをめぐる質疑によって理解を深める	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野についての基礎的な概念や方法論について説明することができる				1							
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関連する社会の各分野、業界等の特徴や問題点などについて述べることができる					1						
③	メディア史研究や地域研究などの基礎知識や方法論について説明することができる。						1					
④	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野で学んでいくために基礎的な資料や文献を収集し、解釈することができる							1				
⑤	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの各研究分野で学んでいくために、今後の研究の目標を立てることができる								1			
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤に関わる能力がみについているかを確認する	20	20	18	18	18						94
討論・発表等	基礎的知識や方法に関する質疑応答において自分の意見を的確に述べることができるかどうかを基準に、到達目標③④に関わる能力や態度が身についているかを評価する			2	2	2						6
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題発表時に授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
図説 日本のメディア（新版）	藤竹暁 竹下俊郎	NHK出版	2018	教科書	推奨
よく分かるメディア・スタディーズ	伊藤守編著	ミネルヴァ書房	2015	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション、及び導入講義	新聞学科での学びの概要と方法について	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、新聞学科での学びの概要や特徴などについて説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通しておく	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、シラバスや教科書などを用いて復習する	120分
2	メディア・コミュニケーション①	メディア研究の基礎概念、方法論	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、メディア研究に関する基礎概念や方法論について述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
3	メディア・コミュニケーション②	コミュニケーション研究の基礎概念、方法論	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コミュニケーション研究に関する基礎概念や方法論について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
4	メディア・コミュニケーション③	メディア研究、コミュニケーション研究の射程	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、コミュニケーション研究にどのような意義や可能性があるかについて述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
5	ジャーナリズム①	ジャーナリズム研究の基礎概念、方法	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズム研究に関する基礎概念や方法論について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
6	ジャーナリズム②	ジャーナリズムとは何か、その役割と意義	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、ジャーナリズムの存在意義や社会的役割について述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ジャーナリズム③	ジャーナリズムと現代社会	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代社会におけるジャーナリズムの諸相、問題点について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
8	ジャーナリズム④	ジャーナリズムと政治	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、現代政治とジャーナリズムの関わりについて述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
9	放送①	放送メディアの基本的特徴	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、放送メディアの基本的なメディア特性について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
10	放送②	放送産業の構造と特徴	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、放送産業の基本的な特徴や現状、問題点などについて述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
11	放送③	放送③	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、放送ジャーナリズムの特徴、社会的役割について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
12	メディア史①	日本におけるメディアの歴史	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、日本におけるメディア、ジャーナリズムの歴史的展開について述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	メディア史②	メディア史研究の射程と可能性	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ディア史研究の意義や可能性について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
14	地域研究	東アジア地域におけるメディア研究	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、東アジア地域におけるメディアを取り巻く現状や課題について述べることができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分
15	総括とレポート	15回の講義を総括し、授業内レポートを作成、提出する	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新聞学科で扱われる学問・研究領域の特徴について説明することができる	
	事前学修	教科書、参考書に目を通す	120分
	事後学修	講義の内容を踏まえて、ノートを整理する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講する。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中した場合には、希望のクラスではなく振り分けが行われる場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で指示をする（新書２～３冊程度）。教科書代としては総額で2,000～3,000円程度を予定しておいてもらいたい。				

【オフィスアワー】
【2021年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何を目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する (学修方略上グループワークを中心とするため、履修人数によって以下の授業計画に調整が生じる場合がある。変更が生じた場合は履修者に資料を配布し、授業において随時説明を行う)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション① (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ①②=1回目)	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション② (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ③④=1回目)	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③ (文献)	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション (グループ⑤⑥=	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。ディスカッションおよびプレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力							
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力							
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力							
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル								
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2						
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2					
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2				
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1			
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。											2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。												1
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	授業に積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内で適宜、指示する。				

【オフィスアワー】
水曜日12:10～13：00 事前にメールでのアポイントメントをとること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①2=2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④=2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥=2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業内にて適宜指示する。				

【オフィスアワー】
授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約（火曜・木・土曜日の午後）が条件。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べるができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室）※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）／連絡は大学メールアドレスを用いること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											2
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する				

【オフィスアワー】
当科目は学生番号によるクラス別授業のため、各担当者のオフィスアワーは学内掲示およびホームページ等を参照のこと。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】
毎週火曜日の昼休み。研究室（本館9階1915研究室） 事前にメールでアポイントメントを取ること。mitani.fumie@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	山口 仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○	○	○	○

【授業の概要】
メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションの研究に必要な「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うため、受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行う能力を習得することを目標とする。

【履修条件】
新聞学科のみ。1年生は学生番号で指定されたクラスで受講すること。編入生・再履修生は任意のクラスで構わないが、特定のクラスに受講希望者が集中する場合には振り分けを行う場合がある。

【授業方法】
新聞学科で学び、研究するための基礎的なアカデミック・スキルに関する講義。および、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどによる学生の実践。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループワークの中で、自ら課題を設定し、ディスカッションし、プレゼンテーションする	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容について説明することができる。						2					
②	メディア、ジャーナリズム、コミュニケーションに関する基礎的文献を読み、その内容を踏まえて、自ら研究課題を発見・設定することができる。							2				
③	グループワークやディスカッションにおいて、積極的に発言することができる。								2			
④	自ら発見・設定した課題に複数のメンバーで取り組み、協業によって解決の方向性を探索することができる。									1		
⑤	協業によって得た成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。										2	
⑥	討議の結果を受けて、次の課題や方法を検討・考察することができる。											1
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①～⑥にかかわる能力が身についているかを評価する。	10	10	10	10	5	5					50
討論・発表等	グループワークに積極的、主体的に参画できたか、その成果を適切に発表できたかどうか基準に、到達目標⑤⑥⑦⑧にかかわる能力が身についているかを評価する。			10	10	15	15					50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	20	20	20	20					100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
					必携
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	講義全体で何をを目指すのか、また取り組むテーマや方法について説明する	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、本授業のねらいを把握し、テーマの方向性について述べることができる	
	事前学修	参考書に目を通して本授業における自らの目標などについて検討しておく	120分
	事後学修	授業計画を踏まえ、テーマや方法について振り返っておく	120分
2	クラス別講義と討議	クラスとして取り組むテーマや方法について説明したうえで、討議を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、授業のねらいについての理解を深め、自ら取り組むテーマや方法について説明できる	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて取り組みたいテーマについて考え、関連の情報・資料を収集する	120分
3	テーマ検討	グループに分かれて取り組むテーマを決定し、関連する文献の収集を行う	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、グループとして取り組むテーマを決定し、系統的な文献収集を行うことができる。	
	事前学修	参考書の内容等を踏まえて取り組みたいテーマについて考える	120分
	事後学修	テーマに関連する文献を読み、その内容を把握する	120分
4	グループワークとプレゼンテーション①（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝1回目）	
	この回の到達目標	文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	到達目標①②に関連して、課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
5	グループワークとプレゼンテーション②（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝1回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
6	グループワークとプレゼンテーション③（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	グループワークとプレゼンテーション④（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ①②＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
8	グループワークとプレゼンテーション⑤（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ③④＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
9	グループワークとプレゼンテーション⑥（文献）	関連文献の内容、論点についてのプレゼンテーション（グループ⑤⑥＝2回目）	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、文献の内容、論点についての的確に把握し、説明することができる。	
	事前学修	課題文献を読んでその内容、論点についてまとめる	120分
	事後学修	課題文献についてのプレゼンテーション内容、議論の内容を振り返る	120分
10	プレゼンテーションとディスカッション①	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ①）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
11	プレゼンテーションとディスカッション②	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ②）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
12	プレゼンテーションとディスカッション③	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ③）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	プレゼンテーションとディスカッション④	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ④）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
14	プレゼンテーションとディスカッション⑤	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑤）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	各グループの発表と討議の内容を振り返る	120分
15	プレゼンテーションとディスカッション⑥	グループ毎に設定したテーマについての研究成果の発表とディスカッション（グループ⑥）	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、遂行した研究成果の発表と討議を行い、その内容や課題について説明することができる。	
	事前学修	グループ毎に設定したテーマについての研究成果のプレゼンテーションを準備する	120分
	事後学修	授業全体の内容を踏まえてレポートを作成、提出する	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	石井 育子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの効果的な方法を理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
時事的なニュース・話題の記事に触れながら前半は講義形式、後半は実践と適宜フィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	・通信社、放送局の制作者、記者の話を聞くなど、リアルな現場を知る機会を持つ	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
次週に解説する。必要によっては対面で指導を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	参考となる図書は講義内で適宜指示する。				

【オフィスアワー】
授業後、質問を受け付ける。その他必要な場合はメール対応します（ishii195.edu@gmail.com）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	ラジオ局に30年以上勤務 C M、出版、番組制作、報道部門
実務経験に基づく実践的教育の内容		文章の基本、伝わるためのノウハウ、媒体による特性の違いなど基本的な知識を蓄え、実践している現場の取材も行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス メディアの文章	講義の概要、目的、スケジュール、評価方法などについて説明する	
	この回の 到達目標	講義の概略と、何を軸に進めるか理解する。	
	事前学修	シラバスを確認して概要を把握しておくこと。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容から自分の志望先をイメージし、学習計画を検討する。	120分
2	文章の基本①	文章表現の違い メディアにおける文章概観	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、読んで理解する、文章を感じることを意味を確認する。	
	事前学修	新聞から興味のある記事をできるだけ読んでみる。	120分
	事後学修	ニュースを理解するために知っておくべき用語などの確認	120分
3	文章の基本②	伝わる文章 の工夫はどんなされているのか考える。 新聞記事他を例に文章の基本構成を理解する	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、ポイントを読み取り基本構成を理解する。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	指示されたテーマについて講義内容を踏まえて読んでおく。	120分
4	文章の基本③	文章作成にあたり 構想し構成すること、視点を持つ大切さを学ぶ。	
	この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、考察力を養う。伝える楽しさや意味を理解する。	
	事前学修	指示されたテーマについて準備しておく。	120分
	事後学修	復習と指示された参考資料を読んでおく。	120分
5	文章の基本④	伝わる表現力とは 文章作成のトレーニング	
	この回の 到達目標	到達目標①②④に関連して、感情などの表現力を探すきっかけを作る事ができる。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	昨今のニュースについて情報収集しておく。	120分
6	文章の表現①	伝えるための表現力の実践	
	この回の 到達目標	到達目標①②に関連して、基本を踏まえながら、自分ならではの表現力を養う方法を知る。	
	事前学修	前回までの復習	120分
	事後学修	復習と指示された参考資料を読んでおく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文章の表現②	媒体による文章表現の違い ニュース原稿の基本的構成を学びながら媒体によって異なる表現があることを知り、要点をまとめながら考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、伝える側の立場の表現によって‘伝わる’‘深度が異なることを理解する。	
	事前学修	前回の復習	120分
	事後学修	今回の講義を参考に媒体による表現の違いをリサーチしておく。	120分
8	文章の表現③	コロナ状況が許せば通信社あるいは放送局現場を訪ねる。難しければニュース現場からゲストをお招きし、原稿の作成について話を聞く。いずれも設問内容を事前検討する。	
	この回の到達目標	取材をする姿勢、表現の工夫などを学ぶ。	
	事前学修	日々のニュースを確認しておく。設問内容をまとめる。	120分
	事後学修	自分なりに取材後のレポートをまとめる。	120分
9	文章力を蓄える	テーマをもって書くということ あるテーマを設定されたとき必要な要素とはどう構成するのか 何を言いたいのか等々 基本的な準備要素となることを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関して自然体で書く行為に臨めるようになること。	
	事前学修	これまでの講義内容から必要な要素を抽出しておく。	120分
	事後学修	講義で学んだポイントの復習と次回への準備	120分
10	文章力を蓄える	課題テーマについて基本を踏まえながら原稿を書く。評価とディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、視点も留意しながら書く能力を養う。	
	事前学修	前回の復習と課題整理	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
11	文章力を蓄える	課題テーマについて基本を踏まえながら原稿を書く。評価とディスカッション	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連し、視点も留意しながら書く能力を養う。	
	事前学修	前回の復習と課題整理	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
12	時事・話題へのアプローチ	世の中のニュース、記事、関心事を読み解き、文章作成時の盛り込み方を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連し、政治・経済・社会の動向に関心を持つきっかけを作る	
	事前学修	日々のニュースから関心のあるテーマについて調べる。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現場の文章 プロたちの書面	「企画書」について 業界により違いはあるものの「企画書」を書く機会がある。誰に向けて何を提案企画するのか、その表現事例を示しながら基本的な構造を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、時代、環境に応じた着想と表現を知る。	
	事前学修	日々のニュースから関心のあるテーマについて調べる。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
14	文章の推敲	原稿作成後に必要な推敲、後半は自分をPRする際の原稿作成の展開・表現について。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して仕上げ段階で必要事項を確認する。	
	事前学修	提示された参考資料を読んでおくこと。	120分
	事後学修	講義中に学んだポイントを確認する。	120分
15	講義のまとめ・質問	これまでの振り返りをディスカッション形式で確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、まとめと理解促進	
	事前学修	これまでの講義内容を整理する。	120分
	事後学修	あらためて全講義の復習をして自分の文章を検証する。	120分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	岸本 裕紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの効果的な方法を理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
毎回、シラバスに沿って授業を行う。 まず、その回ごとにポイントを話し、その後、実際の文章を書いて提出してもらう。文章提出は、7回。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の最後の方に個人面談の時間を設けており、提出してもらった文章について、長所、問題点などを指摘する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用せず				

【オフィスアワー】
火曜日14:00～15:00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	この講義の目的、講義時間の概要、注意事項、全体の流れとシラバスの説明を行う。 そののち、書くこととは何か、具体的には書く内容と書く技術について解説する。	
	この回の到達目標	書くことについての理解を得ることを目的とする。	
	事前学修	シラバスの確認とともに、メディアテキストⅠ、Ⅱの復習をする。	115分
	事後学修	書くことの意味を復習する。	125分
2	文章表現 好き・嫌いの軸	自分が好きなこと、得意とすることについて効果的に相手に理解してもらうには、どのような要素を入れた文章がいかについて解説。主観的なことについての書き方を学ぶ。 そののちテーマを与え、それらの要素を入れて文章を書いてもらう。800字。	
	この回の到達目標	好きなことについての的確に書くことは、就活にもつながるので、独りよがりにならず、要点を抑える練習をする。	
	事前学修	ガイダンスの復習をする。	115分
	事後学修	授業中に書いたものの他に好きなことがあったら、まとめてみる。	125分
3	文章表現 好き・嫌いの軸	自分が苦手とすること、嫌いなことについて相手が理解できるように書くには、どのような要素を入れた文章がいかについて解説。主観的なことについての書き方を学ぶ。 そののちテーマを与え、それらの要素を入れて文章を書いてもらう。800字。	
	この回の到達目標	嫌いなことは個人的なことだが、独りよがりにならず、的確に表現できるようにする。	
	事前学修	好きなことの文章を復習する。	115分
	事後学修	授業中に書いたものの他に嫌いなことがあったら、まとめてみる。	125分
4	社会現象のとらえ方 良い・悪いの軸	ここからは客観的に見てどうか、についての書き方を学習する。 良い・悪いについて同のように書けばいいか。	
	この回の到達目標	それまでの主観的な文章とは違う客観的な文章は、どう書けば説得力を持たせられるかについて学ぶ。 そののち、テーマにつて書いてもらう。800字。	
	事前学修	新聞を読み、一つの現象について自分なりの意見を持つようにしてみる。	115分
	事後学修	社会的な現象の良い・悪いの論点を見つける復習をする。	125分
5	社会現象のとらえ方 古い・新しいの軸	今、ブームになっていることについて、古い・新しいの観点から分析・考察する。	
	この回の到達目標	客観的な文章な中でも、社会分析についてのやり方を学び、それを文章にする。 そののちテーマについて書いてもらう。800字。	
	事前学修	新聞を読み、一つの現象について自分なりの意見を持つようにしてみる。	115分
	事後学修	ブームになっていることについて、自分なりに分析してみる。	125分
6	これまでのまとめ 書き方の疑問点を整理	ここまでの授業についてまとめるとともに、書くことについて、疑問点にこたえる。 いきなり知らないテーマが出てきたときにはどうすればよいかなどについても学ぶ。	
	この回の到達目標	文章表現、社会現象のとらえ方についての文章のポイントを整理する。 4つの文章を書き、そのうえで出てきた疑問・課題を整理する。	
	事前学修	これまでのノートを見直し、各々、書き方のポイントを整理しておく。 疑問点があれば、書き出しておく。	120分
	事後学修	まとめをさらに復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	企画を立てて、取材して、まとめる		自分の頭の中にあるものではなく、人に取材してまとめるやり方を学ぶ。 また、取材テーマの立て方についても学ぶ。
	この回の到達目標	一つの現象でも、どのようなアプローチで取材するか、取材テーマの立て方によって内容が異なってくる。 そのやり方を実例を見ながら学ぶ。	
	事前学修	新聞を読み、最近話題の事例について、考えてみる。 その中の自分は何に興味があるか、について考えてみる。	105分
	事後学修	テーマをもとに取材して、文章にまとめる。1200字くらい。	135分
8	企画を立てて、取材して、まとめる		実際の取材の仕方、準備、まとめ方について学ぶ。 実際取材して、文章を書いてもらう。
	この回の到達目標	取材は行き当たりばったりではありえないので、何を聞くか、どう準備するかについて、取材の場ではどうするかなども学ぶ。	
	事前学修	実際、取材現場を想像して、準備などを考えてみる。	105分
	事後学修	テーマをもとに取材して、文章にまとめる。1200字くらい。	135分
9	報道を読み解く		ここから、社会評論の書き方を学ぶ。 その前段階として、報道にどう接するか、報道記事、ニュースなどの特徴について学習する。
	この回の到達目標	報道の特徴について学んだ後、それをもとに自分がどうそれを評価し、解釈するかなどを学ぶ。	
	事前学修	新聞を読み、テレビのニュースを観ておく。	120分
	事後学修	授業で学んだことをもとに、再び新聞を読み、ニュースを観る。	120分
10	論文の書き方		論文の書き方の型を学ぶ。
	この回の到達目標	論文の効果的な書き方のパターンを学ぶ。	
	事前学修	新聞を読み、自分の意見を持つように努める。	120分
	事後学修	論文を効果的な書き方をもとに、新聞の記事について、どう書けるかを考えてみる。	120分
11	論文の書き方		実際に書いてもらう論文のテーマ（課題）を出す。 また、そのテーマについて、背景、ポイントなどを解説する。
	この回の到達目標	論文のテーマについて、その背景や重要性を理解し、自分は何についてポイントを置きたいかなどを考えてもらう。	
	事前学修	前回の論文の書き方について復習する。	115分
	事後学修	テーマをもとに、その中で何にポイント置くかを考える。	125分
12	論文の書き方		論文の書き方の復習。 また、参考文献、統計資料、取材の意見などの使い方などについても学ぶ。
	この回の到達目標	論文の書き方を復習し、自分のものとする。	
	事前学修	10回、11回のノートを見直す。	115分
	事後学修	実際に論文を書いてもらう。2000字くらい。提出は7月13日。	125分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	個人面談		一人、10分くらいの時間をかけ、これまでに提出してもらった文章（論文以外）をもとに、文章の傾向、長所、問題点などを話し合う。 他の学生は、論文の作成。
	この回の到達目標	一人一人について、文章をフィードバックし、より良いものを書けるようにヒントを与える。 個人の質問にも答える。	
	事前学修	これまで提出した文章を思い出してみる。	120分
	事後学修	指摘された部分を再考、修正してみる。	120分
14	個人面談		一人、10分くらいの時間をかけ、これまでに提出してもらった文章（論文以外）をもとに、文章の傾向、長所、問題点などを話し合う。 他の学生は、論文の作成。
	この回の到達目標	一人一人について、文章をフィードバックし、より良いものを書けるようにヒントを与える。	
	事前学修	これまでに提出した文章を思い出してみる。	120分
	事後学修	指摘された部分を再考、修正してみる。	120分
15	自分論		自己分析を文章にしてみる。 実際書いてもらうが、提出はない。
	この回の到達目標	自分論を書くことで、自己アピールなど、就活にも役立つ。	
	事前学修	自分とは、を考えてみる。	105分
	事後学修	これまでのノートを見て、復習する。	135分

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	新田 直子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
			○	○	○			○

【授業の概要】
文章を書くためには、「内容」と「技術」が肝要である。毎回の課題をとおして、そうした文章を書く技術について学修するとともに、読み手にとって価値のある文章とは何かを、自ら探求できるようになることを期す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
文章を書くうえでの効果的な方法を理解し、社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を修得する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
隔週程度の頻度で、講義時間内に実際に課題文を書いて提出してもらう。それ以外の時間には、前回課題の講評、注意点を述べたり、文章作成上の注意点や論の組み立て方など、基本的なことを解説する。必要に応じて資料を配布する。課題あるいは質問票などの提出を以て、出欠確認を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	さまざまな課題を与え、講義時間内に文章を作成する。課題は、前以て示す場合と、その場で示す場合とがある。課題提出のない日にも、アンケートや質問票など、何かしらの文章を書いて提出してもらう。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	与えられたテーマに関する文章を制限時間内に書くことができる。						3					
②	社会人として適切な言葉で文章を書くことができる。							3				
③	誤字脱字などに注意して適切な文章を書くことができる。								3			
④	他人に読んでもらうための文章を書くために推敲を行うことができる。											3
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内での文章指導を受ける態度等で、達成目標①②③④を身につけようとする積極性があるかどうかを評価する。	5	5	5	5							20
その他(提出課題)	毎回の提出文章によって達成目標①②③④が身についているかを評価する。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】	
文章は添削し、返却する。	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	文章課題となる図書については講義中に指示する。				

【オフィスアワー】	
授業（水曜3限）終了時にアポイントを取ること。その翌週の授業後に時間をもうける。文章作成に関する質問には可能な限り応じる。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	出版会社編集部勤務
実務経験に基づく実践的教育の内容		読みやすい文章と読みにくい文章の違いはどこにあるのか、「読者」側を意識した文章作成を考える。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	【ガイダンス】表現について	何を目的として、どう書くか、その際に必要な「表現」について考える。 / 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標①を念頭に、臆せずに自分の言葉で表現することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、講義を概観しておくこと。	60分
	事後学修	ガイダンス及び第1回講義内容の復習。各自、再度各自課題文章を作成し、問題点を確認すること。	180分
2	文章作成の基本（1）文法・文型	適切な表現のために必要な基礎を学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、文章の基礎的なルールを学ぶ再確認できる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第2回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
3	文章作成の基本（2）読みやすい文章・読みにくい文章	ほんの少し書き方が違うだけで、読みやすくも、読みにくくなる。他者に内容が過不足なく伝わる表現を学ぶ。 / 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、引き続き文章の基礎的なルールを習得することができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第3回講義内容の復習を求める。	120分
4	文章作成の基本（3）書き手の〈視点〉	一人の書き手でも、〈視点〉を変えることができる。そこから別のものの捉え方ができる。文章も同様である。ここでは、〈視点〉を変えることを学ぶ。 / 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標②③を踏まえ、引き続き文章の基礎的なルールを学びつつ、表現の幅を広げることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第4回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
5	文章作成の基本（4）思考法について	さまざまな思考法を駆使し、別の〈視点〉を持つことを学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連し、実際に用いられている思考法について知識を得ることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第5回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
6	文章作成の基本（5）思考法の応用	書き手の興味と、読み手の要求について考えながら、前回に学んだ思考法を応用し、実際に文章を作成する。 / 課題文作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、与えられた課題に対し、思考し、文章を作成することができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第6回講義内容の復習を求める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	創作文（１）ストーリーを考える	だんだん書くことに慣れてきたら、思いきって創作文にも挑戦したい。その際の注意点について学ぶ。	
	この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、プロットの組み立て方を学び、自分の想像したストーリーを作り上げることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第7回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
8	創作文（２）ストーリーの文章化	前回の授業で得た知識をもとに、ストーリーを制限字数内で文章化する。／ 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③を踏まえ、自在に自分の思い描く世界を文章化できる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第8回講義内容の復習を求める。	120分
9	発想を広げ、文章力を蓄える	一口に「文」「文章」と言っても、新聞記事のような文章もあれば、詩や小説など、それぞれ特徴が異なるものが存在する。それぞれのスタイルや特長について考える。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連し、自己の目的とする表現にはどのようなスタイルが適切かを知ることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第9回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
10	さまざまな課題への対応（１）	具体的には将来、読み手からどのような文章を要求されるのか、また、その要求に対してどう応えればより効果的なのかを、その要求から考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、他からの要求にどう応じたら良いか、選択する能力を得ることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第10回講義内容の復習を求める。	120分
11	さまざまな課題への対応（２）	キセル文・三題漸について学ぶ。／ 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、特異な課題にも対応できる能力を養うことができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第11回講義内容の復習を求める。	120分
12	さまざまな課題への対応（３）	抽象的な課題に対して、どう取り組んでいけば良いかを考える。／ 課題文の作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、特異な課題にも対応できる能力を養うことができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第12回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	さまざまな課題への対応（４）	前回2回の課題文について、特に問題となるような点について取り上げ、より良い文章表現とは何かを探る。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、より洗練された文章力を身につけることができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。	120分
	事後学修	第１３回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分
14	さまざまな課題への対応（５）時事問題へのアプローチ	「自分の意見」とは何か今一度確認し、説得力ある意見とはどういうものなのかを考える。／課題文作成	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連し、「意見文」を作成する能力を養うことができる。	
	事前学修	指示された課題について予備知識を得ておくこと。	120分
	事後学修	第１４回講義内容の復習をすること。	120分
15	校正・推敲について	基本的な校正方法、自分で行う推敲の方法を学ぶ。。質疑に応ずる。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連し、より洗練された文章力を身につけることができる。	
	事前学修	推敲・校正について講義するので、予備知識を得ておくこと。講義全体について確認し、不明な点を書き出しておくこと。	120分
	事後学修	第１５回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。	120分

科目名	メディア・ビジネス	担当者	公野 勉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
講師はメディア・ビジネス実務者の立場として“ナマの声”で講義する。 コンテンツ産業のエポックメイキングとビジネス実態の概説を展開し、様々なエンターテインメントビジネスの成功ケース・特異ケースを例示する。さらにエンターテインメントビジネスの基礎構造を解説し、具体的なエンターテインメントビジネスの施作が立案スキルを学修する。(担当教員は映画会社日活で製作・配給担当取締役、アニメ会社タツノコプロの取締役を務めた後、VFX企業・白組のコンテンツスーパーバイザー、劇団飛行船 映劇ライヴエンターテインメント社顧問の現任中。映画プロデューサー・映画監督)。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
コンテンツ産業における経済構造とクリエイティヴとプロデュースの関係性実態、各種ビジネスモデル群の把握から、それらを第三者へ説明できるようになる事、さらにはコンテンツ制作組織の機能を他者に説明する事が出来るようになる事を目的とする。 到達目標A： コンテンツビジネスの構造と実態、さらに当該産業の会計基準等の商習慣を第三者に説明できるようになる。 到達目標B： 制作現場編成と興行リテール等の経済的成果や、市場に対するコンテンツマーケティングを含めた企画を第三者にプレゼンテーションできるようになる。

【履修条件】
2年生以上。

【授業方法】		
コンテンツ関連の時事情報を例示、学生との意見交換により講義を展開。フィードバックについては質問等を講義内およびメールにて受け付け、返信・回答するが受講者全員の前でレビューした方が良いと判断した場合は講義内で行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	コンテンツ閲覧を行い、ディスカッション等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。					3	3	3	3				
②	日本及び世界の各種コンテンツ及びそのビジネスの仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。					3	3	3	3				
③	コンテンツ技術の基礎的知識を基に、高いクリエイティビティで、市場的、倫理的かつ歴史承継的な視点を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。					3	3	3	3				
④	社会・共同体のさまざまな営みに自ら参加したコンテンツにより積極的ににかかわる中で、社会や市場を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。					3	3	3	3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	1. 評価ウェイト＝「①積極的な授業参加度80%」:「②提出レポート課題20%」 2. 出席のみでは評価せず、①では毎回の質疑量を参加度として評価する。 3. ②は講義最終前回に課題を出し、最終回にて回収、完成度によって評価する 【以下：具体例】 積極的な授業参加 最終課題 合計 到達目標A 40 10 50 到達目標B 40 10 50 合 計 80 20 100											
小テスト等												
レポート等	(※以下、上記「試験（定期試験／授業内試験）」を受けて詳述) 当該講義の基本的な目的である、スキル確立の到達(他者に説明できるスキル獲得)を講義最終回に提出を求める企画書を講義内試験として測る予定(評価ウェイト20%)。最終講義前回に課題を掲示し質疑応答によって、企画書作成の為の材料・情報を講師から付与する予定。	5	5	5	5							20
討論・発表等	毎											
授業への参画度	毎回、受講者との質疑量の積算を「積極的な参加度」(評価ウェイト80%)とする予定。基本的に出席者全員と質疑する予定。	20	20	20	20							80
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
毎回の質疑応答、講師メールアドレス開示による随時的な質問の受付を行う。最終回前の企画書作成課題に対する総括を最終回で行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コンテンツ製造論	公野 勉	風塵社	2016	教科書	推奨
備考	可能であれば持参の事。				

【オフィスアワー】
講義設定日の前後休み時間に講義室にて。メールによる受け付けも可能(kuno.tom@gmail.com)

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	93年より㈱円谷プロダクションでマーチャンダイジング、95年より映画製作。99年より㈱ギャガで全国配給作品『バトルロワイアルⅡ』製作。05年より日活㈱製作・買付・配給担当取締役、全国配給作品『レディ・ジョーカー』『ユメ十夜』等製作。06年、㈱GONZOにて『AFRO SAMURAI』等配給、07年よりタカラトミー社のコンテンツアドバイザー・タツノコプロ取締役。
実務経験に基づく実践的教育の内容		映画メディアの実製作者の立場から、各種の制作現場の解説・ビジネスモデル群を例示。トレンドにより知財側面からもアップデート行い、現場視点で講義する事によって受講者にメディア制作の疑似的な体感をさせる事を方法論としている。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	講師紹介およびメディア産業界概観①	講師自己紹介およびガイダンス、メディア業界概説	
	この回の到達目標	講師の紹介と業界概説からメディア産業の構造把握を学修する。この質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は自身の修学目的を定める事が出来る。	
	事前学修	講師の事歴をインターネット等で検索、熟読しておくこと。	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと。	120分
2	メディア産業界概観②(前年例※変更有)	大手メディアの勢力関係解説	
	この回の到達目標	メディア——メジャー大手マスコミを中心とした解説。その構造を把握、学修する。質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は自身の就職目的に向けた技法の学修を定める事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
3	メディア産業界ビジネス構造外観③(前年例※変更有)	映像業界の構造解説	
	この回の到達目標	メディア——特に映像業界の構造について解説。その勢力関係等の産業構造把握を学修する。質疑応答によって講師と受講生の間で将来の就活先等の目標の明確化を行う。その結果、受講生は映像業界を目指した修学目的を定める事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
4	興行概説(前年例※変更有)	映画興行について(コンテンツ・リテール)	
	この回の到達目標	映画興行の構造について解説。映画の利益構造を学修する。興収・配収・配給手数料、P&A等宣伝費等の拠出・回収の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のビジネス構造を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
5	配給概説(前年例※変更有)	映画配給について(コンテンツ・ディストリビューション)	
	この回の到達目標	映画配給の具体的なタスクについて解説。映画のマーケティングを学修する。劇場編成やP&A等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の配給構造を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
6	映画宣伝(前年例※変更有)	映画宣伝について(コンテンツ・マーケティング)	
	この回の到達目標	映画宣伝の具体的なタスクについて解説。映画の配給宣伝を学修する。そのコンセプトワークやP&A等宣伝の予算配分等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のマーケティング構造を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	二次セールス(前年例※変更有)	劇場公開終了後のビジネス(ライセンス・ビジネス)	
	この回の到達目標	映画公開後の具体的な二次販売について解説。映画のライセンス・ビジネスを学修する。そのライセンス先やマーチャンダイジングの収益の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の二次セールス構造を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
8	海外販売(前年例※変更有)	邦画の海外戦略について(ワールド・セールス)	
	この回の到達目標	映画等の具体的な海外での展開について解説。映画の二次販売のさらなる深化を学修する。そのセールス先や翻案権利等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等の海外展開の戦略例を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
9	ライセンス・ビジネス(前年例※変更有)	映像版權について(知的財産権的観点)	
	この回の到達目標	映画等のマーチャンダイジング展開等について解説。二次販売から発する更なる二次制作等、コンテンツ・ビジネスのさらなる展開を学修する。そのメディア・チェンジの方法や権利切り出し等の解説を行う。その結果、受講生はメディア等のライセンス・ビジネスの構造を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
10	コンテンツ企業運営(前年例※変更有)	コンテンツ企業のメカニズム解析(トレンド企業のエポックメイキング解説)	
	この回の到達目標	メディアにおけるコンテンツのエポックメイキング等について解説。時代を変えたようなコンテンツの誕生と経緯、エポックとなった理由を学修する。そのヒットの解説や分析を行う。その結果、受講生はコンテンツのヒット構造のモデル例を理解し、説明する事が出来る。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
11	コンテンツの知的財産現況概説(前年例※変更有)	キャラクターコンテンツ企業のメカニズム解析(知財展開例：アニメーション等)	
	この回の到達目標	コンテンツにおける知的財産権の現状について解説。トレンドと判例の移り変わる事例を学修する。その判例や係争の解説や分析を行う。その結果、受講生はコンテンツの知的財産権に対する意識を喚起する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
12	コンテンツの知的財産保全技法概説(前年例※変更有)	玩具企業のマーチャンダイジングメカニズム解析(知財保全技法例等)	
	この回の到達目標	コンテンツにおける知的財産権の保全方法について解説。移り変わる法事情や著作人格権法理を学修する。その事例から創出される著作権保全法の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの知的財産権における保全方法を獲得する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	企画書作成(前年例※変更有)		企画書の作り方.(その項目等条件の解説)
	この回の到達目標	コンテンツにおける企画書の作成方法について解説。変遷するトレンドやタレント素材編成の方法等を学修する。実際の企画書事例から創出された作品を閲覧し、その相違点等の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの企画書作成におけるビジネス・プランニングやプレゼンテーション技能を獲得する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)	120分
14	収支計画(前年例※変更有)		収支計画の作り方.(主にPL的視点とCF的事情の解説)
	この回の到達目標	コンテンツにおける収支計画について解説。変質する市場や金融環境に対する収支立案方法等を学修する。実際の予算策定事例から創出された作品を閲覧し、その相違点等の解説を行う。その結果、受講生はコンテンツの収益計画作成におけるプレゼンテーション技能を獲得する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)	120分
	事後学修	最終講義回収予定のテーマのレポートを作成しておくこと(120分)	120分
15	総括(前年例※変更有)		総括. レポート回収
	この回の到達目標	前回に提示された企画書課題の回収とポイントの作成解説。また講義の総括を行い、メディア・ビジネスのその時点からの未来与作を行う。トレンド・コンテンツ、事件、問題点等の解説を行う。その結果、受講生はメディア・ビジネスに対する修学意識や具体的なビジネス感覚を獲得する事が出来るようになる。	
	事前学修	前回講義末提示のテーマのレポートを作成しておくこと(120分以上)	120分
	事後学修	講義内提示の事案をインターネット等で確認するおくこと(120分)	120分

科目名	メディア文化演習Ⅰ	担当者	玉川 博章	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
文化社会学やカルチュラルスタディーズの先行研究を参照し、現代におけるグローバル化や流動化（リキッドモダニティ）などの状況を踏まえて、文化やメディアのあり方を考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代における文化とメディアの関係性を捉える教養と問題発見、さらにディスカッションによる問題解決や省察能力の涵養を目的とする。基本的な概念や文献を学び、各自が文化やメディアを多角的に捉え考察するための知識取得、議論などのインプットとアウトプットの訓練を行うことを目的とする。メディアや文化を政治や社会との関連から分析し、考察できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義と学生によるグループディスカッションや発表などを併用する演習形式（半分程度はディスカッションや発表）。学術文献を予習として事前に一読することが必須。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションや発表	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	文化研究やメディア論などにおける文化のグローバル化や国家との関係について理解し説明できる				3	3						
②	メディアや文化を政治や社会との関連から分析し、考察できる						3	3				
③	メディアや文化を政治や社会との関連から議論し意見を述べる事が出来る						3	3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末に課すレポートにより、文化分析の基礎的知識やメディアと社会・政治との関係性の理解を確認し評価する	20	20									40
討論・発表等	授業内で実施するグループディスカッションや発表の参加、それに付随するコメントペーパーの提出によって評価する	20	20	20								60
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題は授業内での総評やコメントによりフィードバックする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『越境するポピュラーカルチャー』	谷川・王・呉編	青弓社	2009	教科書	必携
『文化の対話力』	岩淵功一	日本経済新聞出版社	2007	参考書	推奨
『サブカルで読むナショナリズム』	谷川・王・呉編	青弓社	2010	参考書	任意
『「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー』	高井編	人文書院	2011	参考書	任意
『アニメの社会学ーアニメファンとアニメ制作者たちの文化産業論』	永田・松永編	ナカニシヤ出版	2020	参考書	任意
備考	演習の対象とする文献は、受講生の人数等を鑑み変更する可能性もある（そのため教科書購入は決定後に各自で）。				

【オフィスアワー】
授業前後(1230-1300など)に講義教室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション・導入講義	近代・モダニティの基本概念の導入	
	この回の到達目標	授業の背景・趣旨を理解する。「近代」の概念を再検討する	
	事前学修	シラバスをよむ	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
2	グローバル化とリキッドモダニティ	グローバル化とリキッドモダニティの概念・理論の説明	
	この回の到達目標	グローバル化とリキッドモダニティの概念を理解する	
	事前学修	近代化の歴史についてインターネットや世界史の教科書で調べる。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
3	文化研究の基本概念①	文化研究の学説史	
	この回の到達目標	文化研究・カルチュラルスタディーズの概要を理解する。岩淵功一『文化の対話力』の概略を理解する。	
	事前学修	カルスタについてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
4	文化研究の基本概念②	岩淵功一『文化の対話力』について	
	この回の到達目標	岩淵功一『文化の対話力』における文化と国家のあり方、メディアにおける「外国人」の問題を理解する	
	事前学修	外国人タレント・番組についてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
5	文化研究の基本概念③	発表・ディスカッション等	
	この回の到達目標	文化と国家のあり方を考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
6	メインストリーム×サブカルチャー①	発表・ディスカッション等	
	この回の到達目標	文化の動態について考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	メインストリーム×サブカルチャー ②	発表・ディスカッション等	
	この回の到達目標	文化の動態について考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
8	メインストリーム×サブカルチャー ③	メディアと文化 ポストコロニアリズム	
	この回の到達目標	アジア等の戦前の占領下・植民地時代、戦後などの国家とメディア・文化との関係を理解する	
	事前学修	ポストコロニアリズムについてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
9	様々なサブカルチャーの事例考察①	発表・ディスカッション等	
	この回の到達目標	文化と消費・経済の関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
10	様々なサブカルチャーの事例考察②	発表・ディスカッション等	
	この回の到達目標	文化と消費・経済の関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
11	様々なサブカルチャーの事例考察③	発表・ディスカッション等	
	この回の到達目標	文化と消費・経済の関係を考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献を読んでくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
12	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本①	クールジャパン政策	
	この回の到達目標	コンテンツの海外展開、クールジャパン政策について理解する	
	事前学修	「クールジャパン」についてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本②	発表・ディスカッション等	
	この回の到達目標	東アジア等における1990-2010年年代の日本コンテンツの展開、クールジャパン政策について考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献を読んでき。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。	120分
14	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本③	発表・ディスカッション等	
	この回の到達目標	東アジア等における1990-2010年年代の日本コンテンツの展開、クールジャパン政策について考察・分析し意見を述べられるようになる	
	事前学修	事前に指示された関連文献を読んでき。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する	180分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。	240分
15	まとめ	文化と国家の関係性、社会との関係性の総括	
	この回の到達目標	アジア等における文化と国家の関係性、社会との関係性を理解する	
	事前学修	海外のオタクについてインターネットで調べる。これまでの授業資料を一読する。	120分
	事後学修	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。	240分

科目名	メディア文化演習Ⅱ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
メディア文化の世界を、社会のトレンドから分析をおこなう。とくに、流行やファッションを対象に進めていく。メディア文化演習Ⅱでは、流行という現象がどのように発生するのか。なぜ、人びとは流行を選択するのか、その動機、目的などを探る。そして流行が発生する社会とは、社会的条件とは、そこにある時代の世相や風俗をみる。1960年代から2018年、その歴史的過程をたどりながら、今日のトレンドを明らかにしていきたい。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
流行とファッションを理解する基礎的な前提を教科書から探ってみる。人びとの動機や目的を知り、それを実現する社会的条件を考えてみる。流行が発生するメディア環境を整理することで、流行のメカニズムが明らかになり、時代の流れと流行発生の関係性を理解してもらうことを目的とする。 時代に応じたさまざまなトレンドの意味を、考えることで、その時代精神や時代性を正確によみとるための基本的思考を理解し、説明できるようになることを目的とする。
関連DP及びCP：新聞学科1，4，8

【履修条件】
とくにありません

【授業方法】		
基礎的な部分は教科書を用いた講義からはじめる。つぎに、教科書の要点から、学生にレポートし、発表し、意見などを求めながら進めていく時間にしたい。演習科目という正確から、学生の主体的な取り組みを期待したい。 授業内発表の際は都度講評を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)																	
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観					A-5	挑戦力									
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力					A-6	コミュニケーション力									
	A-3	論理的・批判的思考力					A-7	リーダーシップ・協働力									
	A-4	問題発見・解決力					A-8	省察力									
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル										
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8			
①	マス・メディアの視点から自己の関心を比較し、より知識と教養を高めます。そして自己の考えを述べることができます。(知識)						3										
②	マス・メディアのコンテンツを理解し、それが登場した社会のシステムを理解し、説明することができます。(知識)							3									
③	個人研究の過程で、論理的・批判的思考力を高めます。そして創造することができます。(技能)								3								
④	個人研究の過程で、問題発見能力と解決力を養います。それを発表し、見せることができます。(態度・習慣)									3							
⑤	個人研究発表により、コミュニケーション力が高まり、協働することができます。(態度・習慣)										3						
⑥																	
⑦																	
⑧																	
⑨																	
⑩																	
【成績評価の方法・基準・割合】							到達目標						評価方法別の比率(%)				
成績評価方法	評価基準						①	②	③	④	⑤	⑥		⑦	⑧	⑨	⑩
試験(定期試験／授業内試験)																	
小テスト等																	
レポート等																	
討論・発表等	授業内の課題に応じた意見や報告を参考にする。到達目標①②にかかわる課題の論理的理解力、積極的な意見をもとにした参加度を評価する。						30	30									60
授業への参画度	授業テーマへの理解と他人へ向けた的確な意見③④⑤を参考にする。授業への積極的参加、意見などの発言内容などを評価する。								7	7	6						20
その他()																	
その他()																	
その他()																	
到達目標別の比率(%)							30	30	7	7	6						80
【課題に対するフィードバックの方法】																	
報告内容・報告資料への講評・解説、振り返りを実施します。																	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『H・ブルーマーの集合行動論―流行理論を軸として―』	仲川秀樹	学文社	2015		
備考					
【オフィスアワー】					
原則授業（月曜2限）終了後、講堂にて授業中に詳細を指示します					
【実務経験を活かした実践的教育について】					
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容			
実務経験に基づく実践的教育の内容					

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	メディア文化演習Ⅱ紹介	メディア文化演習Ⅱの進め方と評価方法について説明。	
	この回の到達目標	演習科目の性格を知り、メディア文化の領域についてテーマ設定と講義部分を理解し、説明することができます。	
	事前学修	シラバス内容と使用教科書を事前に確認してください。	120分
	事後学修	教科書の講読範囲を確認し、ノートに確認部分をまとめてください。	120分
2	理論的な理解とは	集合行動としての流行を考えます。メディア文化のフレームから流行の理論的背景に進みます。	
	この回の到達目標	集合行動論の全体を理解し、人が集まる状況を説明することができます。	
	事前学修	教科書の第2章を、事前に読んでおいてください。	120分
	事後学修	流行の位置づけを明確に理解してください。	120分
3	基礎理論を知る	流行の基礎理論1（流行の基本的性格）として、流行現象のメカニズムを考えます。	
	この回の到達目標	流行という用語、流行に関する類似概念を整理し、理解することで、流行現象の構造と機能を説明することができます。	
	事前学修	教科書の第3章Ⅰを、読んでおいてください。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分
4	流行選択の個人的動機とは	流行の基礎理論2（流行を採用する個人の動機）について考えます。	
	この回の到達目標	人びとは流行やトレンドに関心を示すのか、その選択動機を理解します。流行を選択する個人の動機を説明することができます。	
	事前学修	教科書の第3章Ⅱを、読んでおいてください。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分
5	流行を選択するパターンとは	流行の基礎理論3（流行を選択するパターン）について考えます。	
	この回の到達目標	人びとが流行を選択する過程について理解し、説明することができます。	
	事前学修	教科書の第3章Ⅱを、読んでおいてください。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分
6	流行が発生する社会とは	流行の基礎理論4（流行の発生する社会）について考えます。	
	この回の到達目標	どのような条件のもとで流行は発生するのか、その社会的条件を理解し、流行の発生する社会構造を説明することができます。	
	事前学修	教科書の第3章Ⅲを、読んでおいてください。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	流行発生の時代性とは	流行の基礎理論5（流行と社会変動）について考えます。	
	この回の到達目標	世相と風俗から流行をみることができます。社会変動過程において流行はどのように推移するのか、流行が発生する時代性を理解し、説明することができます。	
	事前学修	教科書の第3章Ⅲを、読んでおいてください。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートの整理につとめてください。	120分
8	流行をテーマに発表をはじめる	学生のレポートと報告準備に入ります。	
	この回の到達目標	流行現象に関する個人発表のための準備をします。学生レポート作成する意味を理解し、流行に関して説明することができます。	
	事前学修	これまでの教科書内容を整理しておいてください。	120分
	事後学修	レポートと報告のための資料作成	120分
9	学生個人発表①	学生のレポートと報告①に入ります。	
	この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
	事前学修	レポートと報告学生のテーマを事前に把握してください。	120分
	事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
10	学生個人発表②	学生のレポートと報告②に入ります。	
	この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
	事前学修	レポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。	120分
	事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
11	学生個人発表③	学生のレポートと報告③	
	この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
	事前学修	レポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。	120分
	事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
12	学生個人発表④	学生のレポートと報告④	
	この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
	事前学修	レポートと報告学生のテーマを事前に把握してください。	120分
	事後学修	レポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	学生個人発表⑤		学生のリポートと報告⑤
	この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
	事前学修	リポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。	120分
	事後学修	リポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
14	学生個人発表⑥		学生のリポートと報告⑥
	この回の到達目標	個人別に発表してもらいます。発表をとおして流行現象を理解し、分析し、説明することができます。	
	事前学修	リポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。	120分
	事後学修	リポート内容を振り返り自分の報告のための準備	120分
15	メディア文化演習Ⅱの総括		メディア文化演習Ⅱ総括とレポートの提出。
	この回の到達目標	メディア文化の理解、個人発表から得た視点を集合行動としての把握につとめます。流行発生のシステムを理解し、その現象を説明することができます。	
	事前学修	これまでリポートした内容を、まとめて提出する準備をしてください。	120分
	事後学修	メディア文化演習Ⅱを振り返り、実践的な取り組みに進めるようつとめてください。	120分

科目名	メディア文化演習Ⅲ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
メディア文化演習Ⅲでは、マス・メディアと流行をテーマにする。1970年代『an・an』『non-no』の登場から、『JJ』『CanCam』『ViVi』『Ray』の4大女性誌創刊の1980年代。1990年代に入り、『Popteen』からギャル系雑誌の全盛。2015年以降、女性誌からSNSへと、女性誌読者層のファッション選択は大きな変化を遂げた。メディアとファッションの関係を女性誌を中心（女性誌だけを限定せず他の媒体も参照）に歴史的連続性から探ってみたい

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
時代の流れ、歴史的過程を、マス・メディアである女性誌に求める。現在（いま）のファッションを探るには、時代をさかのぼり、連続的にみるが必要となる。メディア文化演習Ⅲでは、雑誌と流行の関係を時代の流れから探り、そこに発生したさまざまなスタイルから、社会の変動を理解していくことを目的とする 上記のことから、社会の変動を理解し、説明できるようになることを目標とする

【履修条件】
メディア文化演習Ⅱの履修者が望ましい

【授業方法】
マス・メディアと流行の関係について概観を論じる。つぎに、学生たちから雑誌の分析、トレンドに影響を与える媒体をマス・メディアからSNSと変化する様子を探ってもらう。それをレポートし、報告し、意見交換の場としたい 授業内発表の際は都度講評を行う

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マス・メディアから得る知識とそれを応用することで、教養が高まり、その内容を説明することができます。(知識)				4							
②	社会の構造を理解するためメディアのコンテンツを理解し、社会のシステムに影響を与えていることを述べることができます(知識)					4						
③	個人研究レポートの準備を進めながら、論理的にテーマを調べることができます。(技能)						4					
④	研究報告から独自の問題を発見し、解決する能力を養い、個人研究に応えることができます。(態度・習慣)							4				
⑤	個人発表により、コミュニケーション力の高まり、協働することができます。(態度・習慣)									4		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業内の個人発表および討論などを参考にします。到達目標①②にかかわるマス・メディアから得る知識と教養の内容を評価します。	30	30									60
授業への参画度	個人研究レポートおよび研究報告内容、意見交換等を参考にします。到達目標③④⑤にかかわる問題解決能力やコミュニケーション力の向上などを評価します。			14	13	13						40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	30	14	13	13						100

【課題に対するフィードバックの方法】
個人発表への講評・評価の振り返りを実施します。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
H・ブルーマーの集合行動論－流行理論を軸として－	仲川秀樹	学文社	2015	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
原則授業（月曜2限）終了後、講堂にて。授業中に詳細を指示します

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	メディア文化演習Ⅲの概観	メディア文化演習Ⅲの進め方について説明します。	
	この回の到達目標	メディア文化のカテゴリーから個人発表のテーマ設定について理解し、自己のテーマを説明することができます。	
	事前学修	関心のある雑誌をピックアップしておいてください。	120分
	事後学修	講義ノートを参考にメディア文化演習Ⅲに関する資料を集めてください。	120分
2	女性誌とトレンドについて	1970年代『an・an』『non-no』登場と女性のライフ・スタイル①を説明します。	
	この回の到達目標	女性誌の登場が社会に与えたものを	
	事前学修	女性誌誕生と女性のライフ・スタイルの変化を考える。	120分
	事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
3	女性のライフ・スタイルとは	1970年代『an・an』『non-no』登場と女性のライフ・スタイル②を説明します。	
	この回の到達目標	雑誌が女性の日常に与えた影響について考えます。マス・メディアが女性のライフ・スタイルを確立した事情を理解し、その背景を説明することができます。	
	事前学修	『an・an』『non-no』創刊がもたらした女性文化を考える。	120分
	事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
4	女子学生キャンパス・ファッションとは	『JJ』創刊とキャンパス・ファッション①の登場について説明します。	
	この回の到達目標	『JJ』創刊がもたらした、女学生のライフ・スタイルの変化について考えます。雑誌の編集意図とトレンドの関係について理解し、説明することができます。	
	事前学修	キャンパス・ファッションとは何かを事前に考えてください。	120分
	事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
5	マス・メディアの教科書化とは	『JJ』創刊とキャンパス・ファッション②から、女子学生に与えた影響について説明します。	
	この回の到達目標	女子学生のライフ・スタイルをカバーする女性誌の存在を考えます。『JJ』がキャンパス・ファッションの教科書となった背景について理解し、説明することができます。	
	事前学修	女性誌がファッションの教科書になった背景を考えてください。	120分
	事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分
6	4大女性誌とは	『CanCam』『ViVi』『Ray』の4大女性誌時代①について説明します。	
	この回の到達目標	4大女性誌が登場した時代背景を考えます。景気高揚とブランド選択との関係を理解し、景気と雑誌の関係を説明することができます。	
	事前学修	景気高揚とブランド至上主義の時代背景を追ってください。	120分
	事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	バブル景気と時代とは		『C a n C a m』『V i V i』『R a y』の4大女性誌時代②全盛がもたらした社会現象について説明します。	
	この回の到達目標	バブル時代を理解し、説明することができます。		
	事前学修	景気高揚とバブル時代を考えてください。		120分
	事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。		120分
8	ギャルとは		『P o p t e e n』『B L E N D A』からギャル世代の登場について説明します。	
	この回の到達目標	時代の変化とマス・、メディアの変化について考えます。4大女性誌からギャルの登場によって、ファッションン変化を理 解し、説明することができます。		
	事前学修	ギャル登場の時代背景を考えてください。（2時間）		120分
	事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。		120分
9	マス・メディアのセグメンテーショ ン化とは		『m i n a』『Z i p p e r』『C U T i E』ストリート・カジュアルの浸透について説明しま す。	
	この回の到達目標	女性誌の分化がもたらした社会のファッド化について考えます。時代の変化とファッド化を理解し、セグメンテーション化 を説明することができます。		
	事前学修	景気後退から時代の変化を考えてください。		120分
	事後学修	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。		120分
10	個人発表の進め方とは		雑誌とファッション分析の進め方について説明します。	
	この回の到達目標	個人テーマを設定し、報告要旨作成、発表方法について考えます。報告要旨の内容を理解し、説明することができます。		
	事前学修	事前に雑誌を選択し、その内容を理解してください。		120分
	事後学修	マス・メディアと流行の関係を、講義ノートから整理してください。		120分
11	個人研究発表①		マス・メディアとファッション分析レポート報告①を実施します。	
	この回の到達目標	個人発表から、研究内容を理解し、説明することができます。		
	事前学修	レポート報告の資料作成の準備。		120分
	事後学修	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。		120分
12	個人研究発表②		マス・メディアとファッション分析レポート報告②を実施します。	
	この回の到達目標	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。		
	事前学修	レポート報告の資料作成の準備。		120分
	事後学修	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	個人研究発表③		マス・メディアとファッション分析レポート報告③を実施します。
	この回の到達目標	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	
	事前学修	レポート報告の資料作成の準備。	120分
	事後学修	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	120分
14	個人研究発表④		マス・メディアとファッション分析レポート報告④を実施します。
	この回の到達目標	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	
	事前学修	レポート報告の資料作成の準備。	120分
	事後学修	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。	120分
15	メディア文化演習Ⅲの総括		メディア文化演習総括と総括レポート提出を実施します。
	この回の到達目標	個人発表内容のレポートを作成し、本テーマを理解し、説明することができます。	
	事前学修	メディア文化演習Ⅲの提出用報告レポートをまとめてください。	120分
	事後学修	マス・メディアとファッションの歴史的連続性から、時代の世相や風俗をよみとってください。	120分

科目名	メディア法 I	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
メディア法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とする。それらの法について、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的問題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内でレポート課題を2回行う。レポート課題の解説も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	報道の機能を説明できる。				3							
②	報道の自由の意義を説明できる。				3							
③	マスメディアと法を巡ってどのような問題が生じているかを説明できる。				3	3						
④	マスメディアと法を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べるができる。						3					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④が身についているか評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「メディア判例百選」第2版	長谷部 恭男ほか	有斐閣	2018	参考書	任意
「法とジャーナリズム」第3版	山田 健太	学陽書房	2017	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜、プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。 各法律がマスメディアの報道活動に与える影響の実態や放送業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、メディアを取り巻く法	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディア、ジャーナリストに適用される法を概説。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、メディアと法の関係を学ぶ意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができようにする。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した法律で関心を持ったものを調べる。	120分
2	表現の自由と報道の自由	表現の自由はなぜ憲法で保障されているのか、表現の自由と報道の自由・取材の自由の関係について考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、報道の自由が保障されている意義を説明することができる。	
	事前学修	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
3	検閲の禁止と報道の自由	検閲の禁止の意味を具体例を通じて考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、検閲の禁止とはどのようなことなのかを説明することができる。	
	事前学修	北方ジャーナル事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
4	知る権利とは何か	アメリカのジャーナリストが提唱した「The Right to Know」や博多駅テレビフィルム提出命令事件を通じて、知る権利について考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、知る権利の重要性を説明することができる。	
	事前学修	ケント・クーパーについて調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
5	裁判の公開と報道の自由	法廷における取材、裁判員制度について考える。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、司法取材の特徴を説明することができる。	
	事前学修	最高裁判所のホームページにアクセスし、どのような情報が公開されているかについて調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
6	取材源の秘匿	証言拒否、ビデオテープの証拠採用、押収、差し押さえについて考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、取材源の開示の強制やビデオテープの証拠採用がその後の報道活動に与える影響を説明することができる。	
	事前学修	日本テレビ・リクルートテープ押収事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	名誉棄損と報道の自由	名誉毀損とは、その成立要件と免責要件を考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②④に関連し、名誉毀損と報道の自由の関係について説明することができる。	
	事前学修	月刊ペン事件、夕刊和歌山時事事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
8	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
9	プライバシーの侵害と報道の自由	プライバシー権の確立と発展過程と報道を考える。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、犯罪報道とプライバシーの関係を説明することができる。	
	事前学修	イエロージャーナリズムについて調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
10	少年法と報道の自由	少年法61条の意義と概要、小松川高校女子生徒殺害事件、徳山高専生殺害事件など実際の報道を検証する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、少年保護と報道の自由のバランスを説明することができる。	
	事前学修	過去の少年事件の報道について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
11	わいせつの概念と表現	わいせつの3要件を修得するとともに、チャタレー事件、悪徳の栄え事件、四畳半襖の下張事件など判例を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、社会変化・時代の変化とともにわいせつの捉え方が変わることを説明することができる。	
	事前学修	COLNe tにある資料を読んで疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
12	放送の自由 I	放送法と放送の自由を考える。なぜ放送は規制されるのか。放送法以外の法律による制約はどのようなものかを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、法律によって放送が規律される理由を説明することができる。	
	事前学修	放送メディアと印刷メディアの媒体特性の違いをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	放送の自由Ⅱ	「番組編集準則」と政府解釈の変遷を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、番組編集準則の解釈が時代とともにどのように変化したかを説明することができる。	
	事前学修	放送法第1章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
14	放送の自由Ⅲ	自主自律と放送倫理。放送局のガイドラインの考察。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、放送における自主自律の重要性を説明することができる。	
	事前学修	放送倫理・番組向上機構（ＢＰＯ）ホームページ内の「ＢＰＯについて」と3つの委員会の役割を読んで、概要をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
15	授業内レポート課題、解説	後半の授業業の振り返りとレポート作成、解説	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア法Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○					

【授業の概要】
メディア法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とする。それらの法について、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的問題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を修得する。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内でレポート課題を2回行う。レポート課題の解説も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	報道の機能を説明できる。						3						
②	報道の自由の意義を説明できる。						3						
③	マスメディアと法を巡ってどのような問題が生じているかを説明できる。						3	3					
④	マスメディアと法を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べるができる。								3				
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④が身についているか評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「情報法概説」 第2版	曾我部真裕ほか	弘文堂	2019	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、情報通信とは何か	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。情報の生産・流通・消費に関する法とは何かを説明する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④⑤に関連し、大きな変革期にある情報社会における政策・法を考察する意義を理解し、能動的に今後の学修をすすめることができるようにする。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
2	表現の自由 I	検閲の歴史を概観。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、検閲の歴史から表現の自由を獲得してきた経緯を説明することができる。	
	事前学修	憲法第21条の内容を確認するとともに、大日本帝国憲法第29条との違いを調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
3	表現の自由 II	思想の自由市場論、二重の基準論、優越的地位などを考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、表現の自由の優越的地位について説明することができる。	
	事前学修	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
4	放送制度 I	戦前の放送法制を概観する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、戦前の放送制度の特徴を説明することができる。	
	事前学修	放送メディアと印刷メディアの違いについて整理する。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
5	放送制度 II	電波 3 法制定過程と民放の誕生について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、放送制度の概要を説明することができる。	
	事前学修	放送にはどのような種類があるか調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
6	放送制度 III	放送法の構造。	
	この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、放送の規制根拠を説明することができる。	
	事前学修	放送法第 1 章、2 章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	電気通信政策の変遷Ⅰ	電話から携帯、そしてインターネットへ。	
	この回の到達目標	達成目標②③に関連し、電気通信技術の発達と政策の変遷について説明することができる。	
	事前学修	1985年の「通信の自由化」について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
8	電気通信事業の変遷Ⅱ	ブローバンドとスマートフォンの時代へ。	
	この回の到達目標	達成目標②③④に関連し、高度情報通信ネットワーク社会の形成に向けた政策を説明することができる。	
	事前学修	Society 5.0について調べる	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
9	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
10	通信の秘密	通信の秘密の保障根拠、通信の秘密への制約を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、通信の秘密について説明することができる。	
	事前学修	電気通信事業法、電波法の通信の秘密、検閲の禁止規定を調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
11	情報通信法構想	情報通信法構想で示されたコンテンツ規制に対する反対意見の内容、2010年の放送法改正について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、政府が提案したコンテンツ規制に関する根拠を説明することができる。	
	事前学修	「通信・放送の総合的な法体系に関する研究会」報告書を読む。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
12	インターネットとは何か	インターネットが、これまでのメディアと異なる独自の特徴。	
	この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、インターネットの光と陰を説明することができる。	
	事前学修	日常でのインターネットの利用方法についてまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターネットにおける表現の自由	インターネット上の表現の功罪。	
	この回の到達目標	達成目標③④⑤に関連し、インターネットにおける表現の自由に関する新たな課題を説明することができる。	
	事前学修	講義「表現の自由Ⅰ、Ⅱ」の授業ノート、事後学習のまとめを改めて読む。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
14	インターネット法はどうあるべきか	印刷メディアの法、放送メディアの法、コモンキャリアッジの法。	
	この回の到達目標	達成目標①④⑤に関連し、インターネットを包括する法律が必要か必要ではないか意見を述べることができる。	
	事前学修	電気通信事業者の役割についてまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んで、ノートを整理する。	120分
15	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア法Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 新聞 経営法	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
メディア法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とする。それらの法について、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的問題を学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を修得する。

【履修条件】
メディア法Ⅰの単位取得者。

【授業方法】
パワーポイントを使用し講義形式で行う。また、授業内でレポート課題を2回行う。レポート課題の解説も授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)														
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	報道の機能を説明できる。						3			3				
②	報道の自由の意義を説明できる。						3			3				
③	マスメディアと法を巡ってどのような問題が生じているかを説明できる。						3	3		3				
④	マスメディアと法を巡る諸問題について考察し、自分の意見を述べるができる。								3	3				
⑤														
⑥														
⑦														
⑧														
⑨														
⑩														

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④が身についているか評価する。	25	25	25	25							100
討論・発表等												
授業への参画度	授業への出席は修学の大前提である。授業総数の3分の1を超える欠席があった場合、成績評価の対象としないので注意すること。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	25	25							100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に合わせ、授業内で解説を行う

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
「メディア判例百選」第2版	長谷部 恭男ほか	有斐閣	2018	参考書	任意
「法とジャーナリズム」第3版	山田 健太	学陽書房	2017	参考書	任意
備考	特に指定しない。適宜、プリントを配付する。				

【オフィスアワー】
月曜日12:10-12:50 研究室（本号館9階1913研究室）※事前にメール（sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp）にて予約を取ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当。 各法律がマスメディアの報道活動に与える影響の実態や放送業界全体の取り組みなどを踏まえた講義を行う。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、メディア法とは	本科目の趣旨、授業運営の方法を説明する。メディア、ジャーナリストに適用される法を説明。	
	この回の到達目標	達成目標①②③④に関連し、メディアと法の関係を学ぶ意義を理解し、能動的に今後の学修を進めることができる。	
	事前学修	シラバスを読み、講義内容を把握するとともに、疑問点があればメモをしておく。	120分
	事後学修	授業で紹介した法律に関心を持ったものを調べる。	120分
2	国家秘密と報道の自由 I	公務員の職務上の秘密、防衛上の秘密について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③に関連し、国家秘密と国民の知る権利について説明することができる。	
	事前学修	外務省沖縄密約事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
3	秘密国家秘密と報道の自由 II	特定秘密保護法を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、特定秘密保護法の問題点を説明することができる。	
	事前学修	特定秘密保護法の概要を調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
4	選挙と報道の自由	公職選挙法の概要とともに、政見放送、政党スポットについて考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、テレビの選挙報道における公平性の考え方を説明することができる。	
	事前学修	政見放送について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
5	国民投票法と報道の自由	国民投票運動、広報活動、メディア規制について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、国民投票における広告の問題点について説明することができる。	
	事前学修	総務省のホームページ「国民投票制度」 (https://www.soumu.go.jp/senkyo/kokumin_touhyou/) を読んで、概要を把握する。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
6	メディアと人権	国内機構の地位に関する原則。人権擁護法案。集团的過熱取材。	
	この回の到達目標	達成目標①②③に関連し、メディアスクラムに対する新聞・放送界の取り組みに至る経緯を説明することができる。	
	事前学修	パリ原則（国内機構の地位に関する原則）を読んで、概要をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	社会秩序の維持と表現の自由	ヘイト・スピーチとは何かを考えるとともに、ヘイトスピーチ解消法について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関し、ヘイト・スピーチと表現の自由に関する課題を説明することができる。	
	事前学修	外務省のホームページで「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinshu/conv_j.html)を読んで概要をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
8	授業内レポート課題、解説	前半の授業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分
9	オンブズマン制度	苦情処理機関、プレス評議会について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標③④に関連し、苦情処理機関が抱える課題を説明することができる。	
	事前学修	名古屋テレビ「オンブス6」、関西テレビ「オンブスカンテレ委員会」について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
10	報道被害と救済	報道被害による損害賠償、謝罪広告、記事の事前差止など具体例を通じて考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、報道の自由と人権のバランスのとり方について説明することができる。	
	事前学修	サンケイ新聞事件について調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
11	公共放送と民間放送Ⅰ	NHKの法的位置づけ、業務内容について考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、受信料をめぐる議論について説明することができる。	
	事前学修	NHKのホームページで「NHK経営計画（2021-2023年度）修正版」を読んで、ポイントをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
12	公共放送と民間放送Ⅱ	放送における構造規制、内容規制、参入規制、資本規制を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①③④に関連し、放送法の規制概要（内容規制以外）の説明することができる。	
	事前学修	放送法の第1章、2章を読んで、どのような規定があるかをまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	記者クラブ	記者クラブの閉鎖性、発表ジャーナリズム問題を考察する。	
	この回の到達目標	達成目標①②に関連し、記者クラブが抱える問題点について説明することができる。	
	事前学修	記者クラブにはどのようなものがあるか調べる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
14	広告の自由と規制	さまざまな広告規制。	
	この回の到達目標	達成目標③に関連し、広告の規制構造の概要について説明することができる。	
	事前学修	日本新聞協会のホームページで「新聞広告倫理綱領/新聞広告掲載基準」を、日本民間放送連盟のホームページで「放送基準（広告に関する部分）」を読んで、概要をまとめる。	120分
	事後学修	配付した資料を読んでノートを整理する。	120分
15	授業内レポート課題、解説	後半の授業業の振り返りとレポート作成、解説。	
	この回の到達目標	本講義の個別具体的目標を振り返り、一般目標を達成する。	
	事前学修	授業ノートおよび事後学修でまとめたものを読んでおく。	120分
	事後学修	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。	120分

科目名	メディア理論	担当者	山口 仁	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
ジャーナリズムとは（メディア・）コミュニケーションの一機能である。したがって、ジャーナリズムを根源的に理解し、調査・研究を行うためには、メディア・コミュニケーションに関する理論の理解は欠かせない。この授業ではそうしたジャーナリズムを理解するのに有用と思われる社会理論を学修していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
メディア理論をジャーナリズム研究の点から理解できるようになること。そのうえで、所定の時間内にそれらに関する基本的概念を用いて、社会的事例・出来事について分析的な論述ができるようになること。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
講義形式

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	事前学習と小レポート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	メディア理論に関する概念について説明することができる。				3							
②	メディア理論に基づいて、現代社会のジャーナリズムについて考察し論じることができる。					3						
③	既存のジャーナリズム研究をメディア理論に基づいて批判的に考察し論じることができる。						3					
④	既存のジャーナリズム、ジャーナリズム研究の問題点を認識し、明確に説明することができる。							3				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	論述問題を出題し、①②③④に関する到達度を評価する。	25	20	20	10							75
小テスト等	なし											
レポート等	期末レポート実施する。		5	5	5							15
討論・発表等	14回目の授業でディスカッションを行う。	1	1	1	2							5
授業への参画度	適宜行うリアクションペーパーで参画度を評価する。	1	1	1	2							5
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		27	27	27	19							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
コミュニケーション研究 第4版	大石裕	慶應義塾大学出版会	2016	参考書	推奨
メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実	山口仁	勁草書房	2018	参考書	必携
マス・コミュニケーション研究	デニス・マクウェール	慶應義塾大学出版会	2010	その他	任意
よくわかる社会学史	早川洋行編	ミネルヴァ書房	2011	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜2限 研究室 ※事前にメール、手紙等で連絡するように。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	イントロダクション及び導入講義	メディア理論とジャーナリズムに関する議論の射程について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、メディア理論とジャーナリズム研究の広範さについて理解することができる。	
	事前学修	シラバスを熟読してくること。	120分
	事後学修	授業内で解説したことを振りかえり、理解を深めること。	120分
2	メディアと社会問題①	社会問題の構築主義について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、社会問題の構築主義について理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
3	メディアと社会問題②	社会的構築主義と「客観的」な現実について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、モラル・パニック論の問題点について理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
4	メディアと社会問題の構築主義	社会問題の構築主義のメディア論的応用について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、社会問題の構築主義のメディア論的応用についてについて理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
5	メディアと社会問題報道①	初期水俣病事件報道について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、初期水俣病事件報道の問題点について理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
6	メディアと社会問題報道②	転換期以降の水俣病事件報道について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、転換期以降の水俣病事件報道の問題点について理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	メディアと社会問題報道③	ダイオキシン問題報道について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、ダイオキシン問題の問題点について理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
8	メディアと社会問題報道④	「ダイオキシン報道問題」に関する報道について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「社会問題化されていくダイオキシン問題報道」の問題点について理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
9	メディア・ジャーナリズム理論①	論評主体から論評対象へ転換するジャーナリズムについて解説する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「マスコミ批判」の一般化という現象を理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
10	メディア・ジャーナリズム理論②	「メディア・レファレンス（メディア言及）」という概念を用いて、論評対象としてのジャーナリズムを考察する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、「マスコミ批判」の一般化の事例を理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
11	世論とメディア理論①	ジャーナリズムは世論を「形成」し「構築」できるのか、構築主義的観点から考察する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、構築主義的観点にもとづく世論現象の問題を理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
12	世論とメディア理論②	世論と社会の分断について現代社会の議論を中心に考察する。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、現代の社会理論にもとづいて世論現象の今日の問題を理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インターネット社会とメディア理論	現代のインターネット社会におけるメディア・ジャーナリズム理論の困難について論じる。	
	この回の到達目標	授業目標①②③④に関して、自己反省的な視点から、現代のジャーナリズム研究の問題を理論的に理解することができる。	
	事前学修	事前に指示した資料を熟読し問題点・疑問点を明確にしておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
14	メディア理論によるジャーナリズム研究の批判的相対化	今までの授業を振り返り、現代のジャーナリズム研究が持つ問題性について解説する。	
	この回の到達目標	授業目標③④に関して、自己反省的な視点から、現代のジャーナリズム研究の問題を理論的に理解することができる。、ジャーナリズム研究の相対化の視点を持つための契機となる議論が出来るようになる。	
	事前学修	今までの資料全般を振りかえり、ジャーナリズム研究の問題点について理解を深めておくこと。	120分
	事後学修	授業前の疑問点が解消したか確認すること。	120分
15	総括と授業内試験	授業のまとめを行い、授業内試験を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②と関連して、新聞学（メディア・ジャーナリズム研究）の基礎を理解できるようになる。	
	事前学修	授業内試験の準備	190分
	事後学修	授業内の解説にもとづいて自己採点。	50分

科目名	ヨーロッパ経済論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本講義においてはミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学等の手法を用い、主に政治と経済政策に焦点を当てる形でヨーロッパ経済について学修する。最終的に、他国との関係や時事問題を理解する力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ヨーロッパ経済について包括的に研究するために必要な世界の経済・社会システムについて説明する力及び日本を含む世界とヨーロッパ諸国に 関係する経済的問題及び解決策を提示そして相手に伝えることができる力（コミュニケーション能力）を習得するために、ヨーロッパ経済の 歩んできた道に関する考えを経済学及び政治学の考えを理解する。

【履修条件】
特にないが、政治学及び経済学の基礎的知識を有することが望ましい。

【授業方法】		
教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、グループでのディスカッション及びリアクション・ペーパーを数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヨーロッパ諸国の経済及び政治システムにおける主要な概念や理論を識別できる。					2						
②	ヨーロッパ諸国の経済及び政治に関する出来事についての専門用語を理解できる。					2						
③	ヨーロッパ諸国の経済及び政治に関連する出来事を教訓として、現代社会を批判的に分析することができる。					2		2				
④	ヨーロッパ経済論に関する他者の評価や意見を尊重することができる。							2		2		
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	30								70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標①②③に関わる基礎知識を評価する。	5	5	5								15
レポート等												
討論・発表等	到達目標③④についての能力が身についているかを、グループディスカッション及びグループ発表により評価する。			5	10							15
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		25	25	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『ヨーロッパ経済の基礎知識 2020』	川野祐司	文眞堂	2019	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
火曜日12:15-13:45（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（本館1818）メールアドレス：haneda.sho@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ヨーロッパ経済論を学ぶ意味：ヨーロッパ経済論の枠組みと授業概要について	講義の方針や内容の他、成績評価方法の概要について説明を行う。受講を希望する学生は出席するように求める。また、関連科目である経済学・政治学の基礎的知識を示しながら、ヨーロッパ経済論を学ぶ意味について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ヨーロッパ経済論を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバス及び教科書の第1章を熟読し、ヨーロッパ経済論を学ぶためのフレームワークを理解すること。	90分
	事後学修	講義資料を確認し、ヨーロッパ経済を学ぶための視点をまとめること。また、それぞれの項目ごとにヨーロッパ経済の特徴もまとめること。	150分
2	EUの経済政策1：EUの仕組み	EUの設立背景からその現代的意義について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、EUがどのように設立され、現代のヨーロッパ経済の経済政策にとって重要であるかを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第2章を熟読しておくこと。特に、EU設立に背景と経済政策について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、現代のヨーロッパ経済にとっていかにEUが重要であるかをまとめること。	120分
3	EUの経済政策2：欧州2020と地域政策	EUの主要な成長戦略であった欧州2020を中心に説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、欧州2020の内容とその成果を理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、欧州2020の内容について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、欧州2020の特徴及びその成果についてまとめること。	120分
4	EUの経済政策2：EUの経済ガバナンス	経済政策協調のためのEUの経済ガバナンスに関して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、EUにおける経済政策の協調について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第4章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、いかに経済政策の協調を達成しているかについて理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、経済政策協調の内容とその効果・課題についてまとめておくこと。	120分
5	ヨーロッパの国々1：ドイツとフランス	ドイツとフランスにおける経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ドイツ・フランスの経済・政治体制及びEUにおける両国の位置付けについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、EUにおけるドイツ・フランスの位置付けについて理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ドイツ・フランスがEUにおいていかにリーダーシップを発揮しているか、そして今後どのように対応すべきかをまとめておくこと。	120分
6	ヨーロッパの国々2：ベネルクス・アイルランド・イギリス	ベネルクス・アイルランド・イギリスにおける経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各国の経済・政治体制について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、各国の経済・政治体制について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、各国の経済・政治体制の特徴やイギリスのEU脱退についてまとめておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ヨーロッパの国々3：北欧諸国	北欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、各国の経済・政治体制について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、各国の経済・政治体制について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、各国の経済・政治体制の特徴やEUにおける位置付けをまとめておくこと。	120分
8	ヨーロッパの国々4：南欧諸国	南欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、南欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第8章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、南欧諸国における経済・政治体制について理解すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、南欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについてまとめること。	120分
9	ヨーロッパの国々5：中欧・バルカン諸国	中欧・バルカン諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中欧・バルカン諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第9章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、中欧・バルカン諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについて確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、中欧・バルカン諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについてまとめること。	120分
10	ヨーロッパの国々6：東欧諸国	東欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けを説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、東欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについて理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第10章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、東欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについて確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、東欧諸国における経済・政治体制及びEUにおける位置付けについてまとめること。	120分
11	ユーロ通貨1：ユーロに関する基礎知識	ユーロ導入の背景やその内容について説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ユーロ導入の背景・意義や導入国・非参加国への影響について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第11章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ユーロ導入の背景やその内容について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ユーロ導入の背景・意義や導入国・非参加国への影響についてまとめること。	120分
12	ユーロ通貨2：ユーロの金融政策	ユーロ導入後の金融政策に関して説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、ユーロ導入後の金融政策の内容とその影響について理解し、説明できる。	
	事前学修	教科書第12・13章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、金融政策の経済学的な意味とその効果について確認すること。	120分
	事後学修	講義資料を確認し、ユーロ導入後の金融政策の内容とその影響についてまとめること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	イギリスのEU離脱と日本への影響		イギリスのEU脱退について、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関するグループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、イギリスのEU離脱及びその意味を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグループとしての意見を発表できる。		
	事前学修	事前に配布する資料を熟読すること。特に、イギリスがEUを離脱することとなった背景について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。		180分
	事後学修	講義資料を確認し、イギリスのEU離脱の背景とその意味についてまとめること。		60分
14	日本とEUの経済連携協定		日本とEUの経済連携協定について、簡単な説明を行う。その上で、各テーマに関するグループディスカッション及びグループの意見発表を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、日本-EU経済連携協定の内容と問題点を理解し、説明できる。さらに、他者と協調することによりグループとしての意見を発表できる。		
	事前学修	事前に配布する資料を熟読すること。特に、日本-EU経済連携協定の特徴について確認すること。また、事前に配布する資料を参考にグループディスカッションの準備すること。		180分
	事後学修	講義資料を確認し、今後のEUの通称政策について経済学的な意味をまとめること。		60分
15	ヨーロッパ経済論のまとめ及び定期試験の説明		ヨーロッパ経済論の内容を総括し、理論的メカニズム及び経済指標に関する諸問題を確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、ヨーロッパ経済論における理論的メカニズム及び指標作成時の注意点等を理解でき、説明できる。さらに、自身で経済指標に対する判断ができる。		
	事前学修	これまでの講義資料を確認し、重要と思われるポイントを確認してくる。特に政治及び経済的な要素について確認すること。		90分
	事後学修	これまでの講義資料を確認し、定期試験の準備を進めること。		150分

科目名	ヨーロッパ政治論Ⅰ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本授業は、近年のヨーロッパ各国でみられる共通の現象を理論的に検討するとともに、その理論を用いて各国事例を説明する。その際のキーワードは、デモクラシー、大統領制化、ポピュリズム、極右勢力である。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ヨーロッパの各国政治に対する理解を深めるとともに、理論と事例を検討することで、演繹的思考能力、帰納的思考能力を身につける。また、ヨーロッパ政治への理解を深めることで、その知見を日本政治へと応用できるよう能力を修得する。

【履修条件】
履修条件は特に設けないが、他の学生の学習の妨げになるような行為には厳しく対応する。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	ヨーロッパ各国の政治制度を理解し説明することができる。					2					
②	ヨーロッパ各国を分析するための分析枠組み、理論、モデル等を理解し説明することができる。					2					
③	ヨーロッパ各国を分析するための分析枠組み、理論、モデル等で説明できない逸脱事例の有無を検討することができる。					2		2			
④	ヨーロッパ政治の知識を応用して、自身の国の政治システムを相対化することができる。					2		2			
⑤	民主主義社会における政治システムの多様性を理解することで、他者との違いに配慮した議論ができる。					2		2		2	
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	30	20	10							70
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標⑤に関わる基礎知識を評価する。					10						10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評価する。	5	5	5	5							20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	35	25	15	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『大統領制化の比較政治学』	岩崎正洋編	ミネルヴァ書房	2019年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス及び導入講義		講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、ヨーロッパ政治を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ヨーロッパ政治を学ぶ意味と意義を認識できる。		
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。民主主義、大統領制化、ポピュリズムといった各キーワードを調べ、講義全体を概観する。		120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。		120分
2	多数代表型民主主義と多極共存型民主主義		A. レイプハルトの“Patterns of Democracy”を基に多数代表型民主主義と多極共存型民主主義を構成する10個の変数の特徴を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多数代表型民主主義と多極共存型民主主義を構成する10個の変数の特徴を説明することができる。		
	事前学修	政治学で学んだ政治制度を振り返り、それぞれの特徴をまとめておく。		90分
	事後学修	多数代表型民主主義と多極共存型民主主義のメリットとデメリットを比較検討してみる。		150分
3	イギリスにおける民主主義		多数代表型民主主義の典型例といわれるイギリスの民主主義が変容してきていることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多数代表型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。		
	事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、イギリス政治の現状を確認しておく。		60分
	事後学修	レイプハルトの理論を基にして、イギリスが民主化した過程を調べてみる。		180分
4	ドイツにおける民主主義		コンセンサス型民主主義といわれているドイツの民主主義が変容してきていることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多極共存型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。		
	事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、ドイツ政治の現状を確認しておく。		60分
	事後学修	レイプハルトの理論を基にして、ドイツが民主化した過程を調べてみる。		180分
5	フランスにおける民主主義		イギリスやドイツと異なり、半大統領制を採用しているフランスの民主主義が変容してきていることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、多極共存型民主主義を構成する10個の変数のうち、何に変化が生じたのかを説明することができる。		
	事前学修	本、雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど媒体を通じて、フランス政治の現状を確認しておく。		60分
	事後学修	レイプハルトの理論を基にして、フランスが民主化した過程を調べてみる。		180分
6	大統領制化の理論		執政制度の変更を伴わないにもかかわらず、首相のリーダーシップ様式が大統領制におけるリーダーシップに近づいてきていることを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、大統領制化の理論を説明することができる。		
	事前学修	政治学で学んだ議院内閣制、大統領制、半大統領それぞれの特徴を整理しておく。		120分
	事後学修	大統領制化の理論に修正すべき点がないかを検討してみる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	イギリスにおける大統領制化	大統領制化の典型例と言われるサッチャーやブレアの検討を行うとともに、その後、首相においても大統領制化の現象が見られるかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ブレア後の大統領制化について、自身の考えを述べることができる。	
	事前学修	サッチャーやブレアの政治を自ら調べて、それぞれの特徴を整理しておく。	90分
	事後学修	現在のイギリス首相のリーダーシップについて検討してみる。	150分
8	ドイツにおける大統領制化	大統領制化の典型例と言われるシュレーダーの検討を行うとともに、その後、首相においても大統領制化の現象が見られるかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、メルケル時代のドイツの大統領制化について、自身の考えを述べることができる。	
	事前学修	シュレーダーの政治を自ら調べて、その特徴を整理しておく。	150分
	事後学修	現在のドイツ首相のリーダーシップについて検討してみる。	90分
9	フランスにおける大統領制化	議院内閣制下の大統領制化だけではなく、半大統領制を採用するフランスにおいても大統領制化現象が見られるのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、第五共和憲法下における大統領権限の変化を説明することができる。	
	事前学修	第五共和憲法の特徴を第五共和制成立過程とともにまとめる。	120分
	事後学修	現在のフランス大統領のリーダーシップについて検討してみる。	120分
10	ポピュリズムの理論	多義的な意味を付与され、ネガティブな現象として語られることが多いポピュリズムに関する定義を説明するとともに、議会制民主主義との関係を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ポピュリズムの理論を説明することができる。	
	事前学修	ポピュリズムという言葉が様々な媒体で、どのような文脈の下で使われているかを調べておく。	120分
	事後学修	ポピュリズムの理論を基にして、日本の政治にポピュリズムが見られるかを検討してみる。	120分
11	イギリスにおけるポピュリズム	2016年に実施されたEU離脱の是非を問う国民投票とイギリス独立党のファラージを事例として、イギリスのポピュリズムを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、EUをめぐるイギリス政治の分断を説明することができる。	
	事前学修	1975年に行われたEC加盟の是非を問う国民投票を調べ、それまでの過程をまとめる。	150分
	事後学修	2016年国民投票以後のイギリスとEUとの関係を整理してみる。	90分
12	ドイツにおけるポピュリズム	2017年総選挙を事例に極右政党AfD（ドイツのための選択）が躍進したことによって、政党システムに変化が生じたのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、ドイツの政党システムの変化について、自身の考えを述べることができる。	
	事前学修	西ドイツ建国から2017年総選挙までのドイツの政党システムをまとめる。	150分
	事後学修	左派党（Die Linke）が政党システムに与える影響を検討してみる。	90分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	フランスにおけるポピュリズム	2017年大統領選挙を事例に、極右政党の候補者ルペンとマクロンが決選投票を戦ったことで、二大政党ブロックによるフランス政治が変化したのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、2017年大統領選挙の決選投票における対立軸を説明することができる。	
	事前学修	第五共和制下で行われた大統領選挙の決選投票の結果についてまとめる。	150分
	事後学修	マクロンと既成政党との連続性について検討してみる。	90分
14	前期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を考える際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	ヨーロッパ政治論Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○		○		○		

【授業の概要】
本授業は、ヨーロッパ政治を理解する上で必要不可欠であるEUについて、その歴史、制度およびヨーロッパ統合の理論を説明するものである。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
EUの歴史や制度、ヨーロッパ統合の理論を検討することで、国家の存在を相対化することができる能力を修得する。また、EUを多角的な視点から分析することで、ヨーロッパ統合の現在を理解し、国家の在り方を考察できるための能力を修得する。

【履修条件】
履修条件は特に設けないが、他の学生の学習の妨げになるような行為には厳しく対応する。

【授業方法】
PowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。履修者にはレジュメ等の資料を印刷して配布する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	セメスター中、リアクション・ペーパーを用いた履修者との双方向の学修を数回実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	ヨーロッパ各国とEUの制度的つながりを理解し説明することができる。					2						
②	ヨーロッパ統合の歴史を理解し説明することができる。					2						
③	ECSC、EEC、EC、EUの制度を理解し説明することができる。					2		2				
④	ヨーロッパ統合を説明するための理論を理解し説明することができる。					2		2				
⑤	ヨーロッパ統合の知見を活かし地域統合について自身の考えを述べるができる。					2		2		2		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③④⑤についてのリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを、筆記試験により評価する。	10	20	20	10	5						65
小テスト等	セメスター中、数回行うリアクション・ペーパーにより、到達目標⑤に関わる基礎知識を評価する。					10						10
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標①②③④⑤にかかわるリテラシーおよび知的姿勢が身についているかを評	5	5	5	5	5						25
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		15	25	25	15	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータル・システムを通して実施する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特定の教科書は使用しない。				

【オフィスアワー】
原則として、月曜12時10分から12時50分まで（研究室）。事前にアポイントメントをとることが望ましい。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、ヨーロッパ統合を学ぶ意味と意義について考える。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、セメスター内の講義の全体像を把握すると共に、ヨーロッパ統合を学ぶ意味と意義を認識できる。	
	事前学修	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。	120分
	事後学修	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明を振り返り、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	ヨーロッパ統合への道	第一次世界大戦から第二次世界大戦までの間に展開したヨーロッパの統合を訴える主張とその時代的背景を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、クーデンホーフ＝カレルギーの『パン・ヨーロッパ』の内容を説明することができる。	
	事前学修	第一次世界大戦と第二次世界大戦がヨーロッパに与えた影響をまとめておく。	90分
	事後学修	「西洋の没落」と米ソが台頭したことによる国際関係の変容を検討する。	150分
3	ECSCの誕生	第二次世界大戦後、経済、軍事、規範の面で西ヨーロッパ諸国の協調が進んだことを基礎にしてECSCが誕生していったことを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECSCが経済的な目的だけでなく政治的な目的を有していたことを説明することができる。	
	事前学修	東西冷戦構造を自ら調べて、ヨーロッパの分裂を招いたことを整理しておく。	90分
	事後学修	現在のEUとECSCを比較することで、主権の共有範囲がいかに異なるかを考えてみる。	150分
4	統合の深化	石炭と鉄鋼に限定されていたヨーロッパ統合が経済の全般的な統合を目指してEECを設立していった過程、関税同盟の形成と共通農業政策の実施について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECSCとEECの質的な違いを説明することができる。	
	事前学修	1950年代には、統合の深化を狙って複数のプランが発表されていたことを調べておく。	60分
	事後学修	授業で取り扱った時期において、ヨーロッパでは、ECSC、EEC、EURATOMの3機関が併存していたことを整理する。	180分
5	統合の深化と拡大	ECSC、EEC、EURATOMの3機関がECに収束し、統合の深化が進んでいくのと同時に加盟国の拡大が行われていったこと検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ヨーロッパ統合が経済分野だけでなく政治分野にも広がりを見せようとしていたことを説明することができる。	
	事前学修	「ルクセンブルク妥協」がヨーロッパ統合にもたらした影響についてまとめておく。	60分
	事後学修	イギリスのEC加盟の経緯を調べ、現在のBREXIT問題との関係を考える。	180分
6	EUの誕生	ヨーロッパ統合の性質を決定的に変化させたEUの誕生とマーストリヒト条約の下での問題点を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ECとEUの違いについて説明することができる。	
	事前学修	ヨーロッパ統合における「民主主義の赤字」についてまとめておく。	60分
	事後学修	EUの誕生によって、ヨーロッパ諸国で、アンチEUの政党や政治勢力が結成されたことを調べる。	180分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	リスボン条約の締結とEUの現在	マーストリヒト条約以降に締結されたアムステルダム条約、ニース条約、リスボン条約による変化と残された課題について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関連して、ギリシア危機がヨーロッパ統合に与えた影響を説明することができる。	
	事前学修	ユーロ導入の経緯とEUのガバナンスの問題について整理しておく。	90分
	事後学修	現在のEUと国家のあり方どのような方向性に進んでいくのかを考えてみる。	150分
8	新機能主義	ヨーロッパ統合を説明する理論的枠組みとして新機能主義を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、ハースの新機能主義を説明することができる。	
	事前学修	第2回から第7回までの授業を基に、ヨーロッパ統合の歴史を整理しておく。	150分
	事後学修	新機能主義の問題点を検討してみる。	90分
9	リベラル政府間主義	ヨーロッパ統合を説明する理論的枠組みとしてリベラル政府間主義を検討する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、モラフチクのリベラル政府間主義を説明することができる。	
	事前学修	政治学における合理的選択論の考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	リベラル政府間主義の問題点を検討してみる。	120分
10	連邦主義	ヨーロッパ統合における共同体の形成、発展に関して、連邦主義の立場から検討する。	
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して、モネやスピネッリが検討した連邦的統合とは何かを説明することができる。	
	事前学修	ドゴールに代表される「諸祖国からなるヨーロッパ」という考え方をまとめておく。	120分
	事後学修	EUにおける連邦的統合が進展するの可否かを検討してみる。	120分
11	欧州委員会	国家における政府と形容される欧州委員会がもつ権限や役割について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州委員会の権限や役割を説明することができる。	
	事前学修	国家における政府の権限や役割を整理しておく。	150分
	事後学修	国家における政府と欧州委員会の違いについてまとめておく。	90分
12	欧州理事会	ヨーロッパ統合の指針を決定する欧州理事会がもつ権限や役割について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州理事会の権限や役割を説明することができる。	
	事前学修	統合の拡大の歴史をまとめると同時に、特定多数決制度を調べておく。	180分
	事後学修	EUにおける欧州理事会の位置付けと国益との関係について考えてみる。	60分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	欧州議会	欧州市民の声を代表する欧州議会がもつ権限や役割について検討する。	
	この回の到達目標	到達目標③⑤に関連して、欧州議会の権限や役割を説明することができる。	
	事前学修	国家における議会の権限や役割を整理しておく。	120分
	事後学修	「民主主義の赤字」と欧州議会の関係について検討してみる。	120分
14	後期の振り返り	学期期間中に授業で扱った基礎的な概念や分析枠組み、理論、モデル等を振り返り、それらが現実の政治を考える際に、どのような形で役立つのかを検討する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業で学んだ知識と現実政治を結び付けて説明できる。	
	事前学修	学期期間の授業で扱った内容を復習し、自身の理解を整理しておく。	120分
	事後学修	筆記試験に備えて、授業で学んだ内容を自身の言葉で説明できるようにする。	120分
15	授業内試験および解説	本講義で説明してきた内容について正確に習得できているか否か、試験を行い、その解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して、授業内で説明した内容についての試験問題に的確に解答することができる。	
	事前学修	第14回目までの授業内容を確認して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを整理する。	180分
	事後学修	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのかを確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。	60分

科目名	リサーチ・ペーパー（メディアと社会）	担当者	安達 周	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
テレビ、ラジオ、新聞、ネットなど、情報を広く伝える手段がメディアだ。これらメディアと社会との関係について学修する。新聞やテレビ、ラジオなどのマスメディアの歴史的発展過程、マスメディアの果たしてきた役割と功罪（功績と罪過）、フェイクニュースや誹謗中傷の発信と拡散によって社会を脅かすソーシャルメディア、権力の不正を暴く調査報道、映像と報道写真の力、大勢の報道陣が現場に押しかけ人権侵害を引き起こすメディアスクラム、情報を読み解くメディアリテラシー、地震など災害時のメディアの役割などをテーマとする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
欧米と日本のマスメディアの発展過程、マスメディアの果たしてきた役割と功罪、私たちの日常生活に深く浸透し影響力を増すソーシャルメディアの特性と問題点などを理解することにより、民主主義社会におけるメディアの重要性とあるべき姿を修得する。

【履修条件】
原則としてゼミに入らない学生が対象。

【授業方法】
講義形式で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	マスメディアの発展過程と特性を理解し、説明することが出来る。 【知識】				3	3	3	3		3		
②	メディアの役割と功罪を理解し、説明することが出来る。【知識】				3	3	3	3		3		
③	SNSに代表されるソーシャルメディアの利便性とフェイクニュースの拡散などの問題点を理解し、説明することが出来る。【知識】				3	3	3	3		3		
④	メディアの情報を鵜呑みにせずに批判的に読み解くメディアリテラシーを理解し、実践出来るようにする。【知識 技能】				3	3	3	3		3		
⑤	積極的な姿勢で授業に臨むことが出来る。 【態度・習慣】				3	3	3	3		3		
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	授業外課題（期末レポート課題）を出す。 課題提出により到達目標①②③④の達成度を評価する。	20	20	20	20							80
討論・発表等												
授業への参画度	各授業ごとに授業内課題を出す。 課題提出により到達目標⑤の達成度を評価する。					20						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
ポータルシステムにて開示する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。				

【オフィスアワー】
個人メールアドレス meguru@arion.ocn.ne.jp 宛か adachi.meguru11@nihon-u.ac.jp 宛にて随時受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】【欧米の新聞の発展と役割】		授業方法、成績評価方法、授業計画などを説明した後、欧米の新聞の発祥と発展過程、そこで果たした役割を学修する。近代の新聞の発展過程は「国家権力との闘い」「検閲との闘い」であることを理解する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、表現の自由、メディアによる権力の監視の重要性を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、新聞が「第4の権力」といわれる理由を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、欧米の新聞が果たした役割を整理する。	120分
2	【日本の新聞の発展と役割】		日本は近代化が遅れたことにより、新聞は欧米と違う発展を見せる。時に政府と対峙した新聞だが、やがては国家権力の補完装置となってしまうことを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治・大正・昭和期における新聞の発展過程を理解し、そこでの新聞の役割と功罪を説明することが出来る。	
	事前学修	明治初期に現れ政府批判を展開した「政論新聞」、新聞が国家権力に屈する転換点となった大正時代の「白虹事件」、太平洋戦争中の「大本営発表」について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、日本の新聞の歴史的役割と功罪を整理する。	120分
3	【ラジオの発展と役割】		日本のラジオは国民に娯楽を与えるメディアであったが、「国家のプロパガンダ装置」として利用されたこと、ナチスドイツの巧みなプロパガンダ方法などを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本とナチスドイツのラジオ、広告媒体として利用されたアメリカのラジオについて理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	ナチスドイツがプロパガンダを目的に導入した「国民ラジオ」について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、日本とドイツ、アメリカのラジオの役割の違いを整理する。	120分
4	【テレビの巨大な影響力】		テレビは20世紀が生んだ最強のメディアだ。テレビは人々の生活に深く入り込み、生活様式をも変えてしまった。テレビの巨大な影響力と功罪を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テレビの社会的政治的影響について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	ウォルター・リップマンの「疑似環境の環境化」はじめ、テレビの影響について言及した学説を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、テレビが社会に及ぼした功罪を整理する。	120分
5	【ソーシャルメディアの威力 脅かされる民主主義】		現代は「個人がメディアになれる」時代だ。SNSなどソーシャルメディアを利用することで誰もが不特定多数に情報を発信し拡散することができる。フェイクニュースの発信・拡散によって民主主義が脅かされる実態を学修する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、民主主義制度にフェイクニュースが巧みに入り込んで影響を与えている実態を理解し、説明することができる。	
	事前学修	トランプ大統領によるフェイク情報の発信が、米国社会に与えた影響を考察しておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、客観的な事実より、虚偽であっても個人の感情に訴えるものの方が強い影響力を持つ「ポストトゥルース」について整理する。	120分
6	【ソーシャルメディアの威力 人権侵害の温床】		ソーシャルメディア、特にSNSは、プライバシーの侵害、名誉棄損など人権侵害の温床となっている。時には殺人に利用されることもある。「忘れられる権利」も含め、ソーシャルメディアによる人権侵害の実態を学修する。
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、ソーシャルメディアの中の書き込みと拡散が原因となって起こる人権侵害について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	人権侵害事例を調べておく。また、過去の犯罪履歴がいつまでもネットに掲示され続けることにより人権侵害が起こる場合がある。この場合に生じる「忘れられる権利」と憲法21条が保障する「表現の自由」の関係についても調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、ソーシャルメディアによる人権侵害事例のパターンを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	【メディアの功績 米国の調査報道】		新聞による調査報道によって権力の不正、社会の不公平が暴かれることがある。調査報道の成果は「権力の監視機能」としてのメディアの功績だ。ジャーナリストの世界的連携による調査報道、米国の代表的な調査報道事例を考察することにより、メディアの重要性を学修する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、調査報道によって暴かれた権力の不正、社会の不公平の事例を学び、メディアの果たすべき役割を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	ジャーナリストの世界的連携による「パナマ文書」報道、米国を揺るがした「ウォーターゲート事件」「ペンタゴンペーパーズ」報道について調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、「国益」と「報道の自由」の関係について整理する。	120分
8	【メディアの功績 映像と写真の力】		映像と報道写真の力について学修する。戦争や飢餓、難民危機などの場合、現場の映像や報道写真は、時に数百行の記事に勝る力を持ち、世論を変化させることがある。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、映像と報道写真の持つ力を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	アメリカが敗北したベトナム戦争が「テレビに負けた戦争」といわれる意味を調べておく。	120分
	事後学修	ジャーナリズムの永遠の課題といえる「人命優先か報道優先か」について考察し、自分の意見を整理する。	120分
9	【メディアの功績 日本の調査報道】		権力の不正を暴いた日本の新聞による調査報道を、代表的な事例に基づいて学修する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、日本のメディアによる調査報道の功績を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	大規模な企業犯罪を暴くことにより、内閣総辞職に至った「リクルート事件」報道を調べておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた事例以外の調査報道を調べ、その意義を考察する。	120分
10	【メディアリテラシー】		メディアリテラシーについて学修する。メディアリテラシーは、メディアの情報を鵜呑みにするのではなく、何が事実かを意識しながら情報を読み解く能力のこと。フェイクニュースや偏った情報があふれる時代、その重要性は増すばかりだ。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、ネット情報の正確性の問題点、テレビの「ねつ造番組」、同じニュースでも各新聞社、各テレビ局の考え方の違いによって切り口や扱い方が違うことなどを考察し、メディアリテラシーを理解し、実践することが出来る。	
	事前学修	メディアの情報によって人々がだまされ、社会問題となった事例を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、メディアリテラシーを養うポイントを整理する。	120分
11	【メディアスクラムによる人権侵害】		報道被害であるメディアスクラムを学修する。大事件や大事故の発生時、現場に取材陣が多数押しかけ、事件事故の関係者、近隣住民などに取材攻勢をかけることによって人権侵害が発生する。
	この回の到達目標	到達目標②に関連して、メディアスクラムによる人権侵害の実態を理解し、メディアが抱える構造的な問題点を説明することが出来る。	
	事前学修	「和歌山カレー毒物混入事件」「松本サリン事件」で発生したメディアスクラムと「推定無罪の原則」を調べておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた事例以外のメディアスクラムによる人権侵害事例を調べる。	120分
12	【災害時のメディアの役割】		日本は地震や台風、大雨など自然災害に頻繁に見舞われる国だ。こうした災害時に、テレビ、ラジオ、新聞、ソーシャルメディアが果たす役割を学修する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、災害時のメディアの役割を、各メディアの長所と短所を考察することによって理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	災害時、SNSなどのソーシャルメディアによるデマの発生と拡散による被害の事例を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、災害時、自身はどのメディアをどのように利用したか（利用するか）を考え、各メディアの短所と長所を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【メディアによる差別表現】	メディアは時に人権差別的な表現を使い批判されることがある。身分、障害、性差などに対する偏見差別と闘うことはメディアの使命の一つだが、何気なく書いた記事やテレビ番組により、差別や偏見を助長し固定化する場合があることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標②④に関連して、メディアによる人権差別表現の問題点と、差別が生まれる歴史的背景を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	人権差別表現としてメディアが批判され、炎上するなどした事例を調べておく。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、身分、職業、性差、LGBT、心身障害などに対するメディア表現の問題点を整理する。	120分
14	【広告の法律規制】	広告の法律規制について学修する。広告もメディアから発信される情報であり、憲法の「表現の自由」保障の対象となっている。しかし広告は虚偽・誇大な「不当表示」によって消費者に被害を与える場合があり、メディアリテラシーが必要となる。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して、広告の虚偽・誇大表現、法律による規制を理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	不当表示を規制する法律「景品表示法」が規定する優良誤認、有利誤認表示を調べておく。	120分
	事後学修	授業で取り上げた事例以外の、最近の景品表示法違反事例を、消費者庁のホームページや報道記事によって調べる。	120分
15	【授業のまとめ】	授業を振り返ることによって、メディアの役割を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、メディアが社会に及ぼす役割と影響について理解し、説明することが出来る。	
	事前学修	これまでの講義ノートを確認し、授業内容を復習しておく。	120分
	事後学修	講義ノート、授業の振り返りにより、各授業のポイントを整理する。	120分

科目名	リサーチ・ペーパー（情報と社会）	担当者	小林 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
情報と社会に関する調査・研究を実施していくための方法を学習します。 リサーチペーパーの作り方。事例の調査。事例への評価の調査。分析可能な概念や理論の理解。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
情報と社会に関連する事象を実際に調査・分析し、レポートが作成できるようになることを目的とします。受講者自身が関心を持つ情報社会の事象を調査・分析し、レポートを作成できるようになることが到達目標となります。

【履修条件】
科目履修に関連する条件等は各自で確認してください。

【授業方法】
演習形式を想定していますが受講者数に応じて調整します。実際取り扱うテーマは受講者の関心を掬い上げたいと思います。例えば、最近話題になっている「バイトテロ」を取り上げるということもあり得ます。レポートの講評・解説を授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内で具体的に指示	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	レポート作成能力				3	2	3	3		3		
②	調査能力				3	3	3	3		3		
③	対話する力、姿勢				3	3	3	3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	試験の代わりにレポート作成	80										80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等	授業内で適宜指示		10									10
授業への参画度	当然重要			10								10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		80	10	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業における対話や発表がこれに当たる

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
指定なし	指定なし	指定なし	指定なし		
備考	教科書は指定しませんが授業に関連する文献を使用します。最初の講義で言及します。その他、適宜資料を配布します。				

【オフィスアワー】
希望者は水曜3限授業後に授業講堂にて申し出ること。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	テーマを考える	ガイダンス：情報と社会に関する調査・分析の進め方。授業の姿勢。テーマに関して相談	
	この回の到達目標	テーマを考える	
	事前学修	情報と社会に関する事象に興味を持って接する（2時間）	120分
	事後学修	レポートの執筆に向け全体的な構想を考える（2時間）	120分
2	テーマを理解する	情報と社会の基礎：講義を進めるにあたって参考となる資料の紹介	
	この回の到達目標	問題を理解する	
	事前学修	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）	120分
	事後学修	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する（2時間）	120分
3	テーマを理解する	情報と社会の基礎：講義を進めるにあたって参考となる資料の紹介	
	この回の到達目標	問題を理解する	
	事前学修	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）	120分
	事後学修	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）	120分
4	テーマを理解する	具体的にどのような事例であるのか報告や確認	
	この回の到達目標	問題を理解する	
	事前学修	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）	120分
	事後学修	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）	120分
5	テーマを理解する	具体的にどのような事例であるのか報告や確認	
	この回の到達目標	問題を理解する	
	事前学修	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）	120分
	事後学修	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）	120分
6	文献調査	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認	
	この回の到達目標	調査方法を身につける	
	事前学修	リサーチ対象について下調べを行う（2時間）	120分
	事後学修	リサーチ（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	文献調査	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認	
	この回の到達目標	調査方法を身につける	
	事前学修	リサーチを通じて収集した情報を整理（2時間）	120分
	事後学修	リサーチ（2時間）	120分
8	文献調査	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認	
	この回の到達目標	調査方法を身につける	
	事前学修	リサーチを通じて収集した情報を整理（2時間）	120分
	事後学修	これまで調べたことを整理する（2時間）	120分
9	文献調査	事例を分析できる社会学やメディア論の考えについて取り上げる	
	この回の到達目標	調査方法を身につける	
	事前学修	これまで調べたことを整理する（2時間）	120分
	事後学修	授業で取り上げた理論や概念の理解（2時間）	120分
10	文献要約	事例を分析できる社会学やメディア論の考えについて取り上げる	
	この回の到達目標	調査方法を身につける	
	事前学修	指定した文献および配布資料を読んでおく（2時間）	120分
	事後学修	授業で取り上げた理論や概念の理解（2時間）	120分
11	文献要約	取り上げた理論や概念の応用について考察	
	この回の到達目標	調査方法を身につける	
	事前学修	指定した文献および配布資料を読んでおく（2時間）	120分
	事後学修	取り上げた理論や概念の応用について考察を再度行う（2時間）	120分
12	文献要約	リサーチ中間報告（1）：リサーチにおける進捗を報告	
	この回の到達目標	プレゼンテーションを行う	
	事前学修	中間報告の準備（2時間）	120分
	事後学修	指摘やコメントをふまえて今後のリサーチの進め方を改めて確認する（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	文献要約	リサーチ中間報告（1）：リサーチにおける進捗を報告	
	この回の到達目標	プレゼンテーションを行う	
	事前学修	中間報告の準備（2時間）	120分
	事後学修	指摘やコメントをふまえて今後のリサーチの進め方を改めて確認する（2時間）	120分
14	要約を整理	リサーチペーパー作成 1	
	この回の到達目標	リサーチペーパーを作成する	
	事前学修	リサーチペーパーについて準備（2時間）	120分
	事後学修	リサーチペーパー作成の準備（2時間）	120分
15	リサーチ作成	リサーチペーパー作成 2	
	この回の到達目標	リサーチペーパーを作成する	
	事前学修	リサーチペーパーの準備（2時間）	120分
	事後学修	授業内容をふまえた情報と社会に関する事象を把握、復習（2時間）	120分

科目名	リサーチ・ペーパー（政治行動論）	担当者	水野 泰志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
政治全般についてジャーナリズムの視点から考察し、日常的な政治への興味から、ニュースの入手、政治問題に関する調査研究、署名やデモの政治活動、選挙における投票行動にいたるまで、さまざまな政治行動の実情や課題について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
ゼミに相当するリサーチペーパー・演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲと続く一連の科目を履修するための基礎力を身につける。政治全般、とくに政治行動の基礎的知識を習得するとともに可能な限り実践し、初歩的な論文（レポート）をまとめることを修得する。関連DP及びCP：新聞学科1・2・3・4・6

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
個々の受講生が興味を持つ政治行動に関するテーマを選び、論文（レポート）としてまとめる。受講者のプレゼンを踏まえ、受講者全員で討議する（ゼミ形式）。論文（レポート）は、中間報告を含め発表の都度、講評や解説を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	プレゼン、討論、選挙学修など	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	基本的な論文（レポート）を作成することができる。【技能】				3	3	3	3				
②	論文（レポート）を作成するためのノウハウを修得できる。【技能】 政				3	3	3	3				
③	論文（レポート）を作成するための調査研究を実践できる。【技能】				3	3	3	3				
④	作成した論文（レポート）を、簡潔に要領よくプレゼン（発表）することができる【態度】						3	3		3		
⑤	さまざまなプレゼン（発表）に対し、自身の考えをまとめて述べる【態度】						3	3		3		
⑥	政治全般について関心をもち、議論することができる【知識】				3	3	3	3		3		
⑦	治行動全般について理解し、説明することができる【知識】				3	3	3	3		3		
⑧	政治行動の具体例を列挙し、詳述することができる【知識】				3	3	3	3		3		
⑨	政治参加の意義を理解し、討議することができる【知識】				3	3	3	3		3		
⑩	政治参加を実践し、自身の考えをまとめる【態度】						3	3		3		

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	各々が設定したテーマに基づき、論文（レポート）を作成する	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
討論・発表等												
授業への参画度	プレゼン（発表）された、さまざまな論文（レポート）について、内容を理解し、自身の考えや見解を明らかにする	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポートの講評・解説

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特になし。				

【オフィスアワー】
火曜日18:00～19:00（事前にメールでアポイントメントをとること）図書館L302 メールアドレス：aei03021@nifty.com

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	新聞記者（政治、情報通信、メディア）
実務経験に基づく実践的教育の内容		政治全般	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス及び導入講義		講座の趣旨、テーマ、内容、スケジュール、論文（レポート）作成、成績評価の方法などについて説明する。それにより、受講者は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、リサーチペーパーの講座の位置づけなどを理解するとともに、到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、政治全般および政治行動について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、政治全般および政治行動全般について、自らの考えを整理する。	120分
	事後学修	とくに、政治行動全般について整理する。	120分
2	政治行動の類型		政治行動の類型について学修する。
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、政治行動の類型について理解し、説明することができる。	
	事前学修	政治行動の類型について調べて準備する。	120分
	事後学修	政治行動の類型について整理する。	120分
3	政治行動に関する論文（レポート）の事例研究		政治行動に関する研究テーマの事例について研究する。
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、政治行動の研究テーマの事例について理解し、説明することができる。	
	事前学修	自らが研究する政治行動に関するテーマについて検討する。	120分
	事後学修	検討した政治行動のテーマについて整理する。	120分
4	政治行動に関する論文（レポート）の研究テーマの設定		個々の受講者が論文（レポート）作成のための政治行動に関する個々の研究テーマを設定する。
	この回の到達目標	到達目標⑥⑦⑧⑨に関連して、自らが取り組む政治行動に関する研究テーマについて、選択の理由、背景、内容などについて説明することができる。	
	事前学修	自らが研究する政治行動に関するテーマを決定する。	120分
	事後学修	次回以降、受講者はそれぞれ決定した研究テーマについて、順次、プレゼンするので、それぞれ準備にとりかかる。	120分
5	政治参加の意義と概要		政治参加の意義と概要について学修する。受講者がそれぞれ設定した論文（レポート）の研究テーマの概要と研究の進め方を報告する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、政治参加について理解を深めるとともに、受講者が自ら設定した研究テーマの概要について説明することができる。	
	事前学修	自ら設定した研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。	120分
6	新聞メディアと政治行動		新聞メディアが政治行動に及ぼす影響などについて学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
	事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	放送メディアと政治行動		放送メディアが政治行動に及ぼす影響などについてを学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。		
	事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。		120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。		120分
8	ネットメディアと政治行動		ネットメディアが政治行動に及ぼす影響などについて学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。		
	事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。		120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。		120分
9	選挙における投票行動		政治行動の最終段階といわれる選挙における投票行動を学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。		
	事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについて論文（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。		120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。		120分
10	選挙におけるネットの活用		選挙におけるネットの活用について学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。		
	事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。		120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。		120分
11	18歳選挙権の導入		18歳選挙権の導入について学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（レポート）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。		
	事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。		120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。		120分
12	ネット時代の政治と政権		ネット時代の政治を政権を中心に学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（政治行動）の中間報告を行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。		
	事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。		120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ネット時代の政治と国民	ネット時代の政治を国民を中心に学修する。また、該当のプレゼン担当者が論文（政治行動）の中間報告行い、当該研究テーマについて受講者全員で討議する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
	事前学修	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。	120分
	事後学修	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての中間報告や討議を受け、知見を深める。	120分
14	国政選挙や地方選挙における投票行動	国政選挙や地方選挙において究極の政治行動である投票の意義を学修するとともに、さまざまなメディアの報道を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマの中間報告について説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
	事前学修	都知事選教について基本的知識を身につける。	120分
	事後学修	参院選の投票・開票における体験を踏まえ、政治行動について知見を深める。	120分
15	まとめ	リサーチペーパー（政治行動論）における、政治行動に関する論文（レポート）をまとめる	
	この回の到達目標	到達目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩に関連して、受講者が自らの研究テーマについて説明することができる。また、受講者全員が当該テーマについて討議することができる。	
	事前学修	受講者全員が提出する最終論文（レポート）を作成する。	120分
	事後学修	講座全般の内容について、知見を深める	120分

科目名	リサーチ・ペーパー(メディアと文化)	担当者	玉川 博章	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
メディアと文化、そして社会との関係について、メディアの歴史とのサブカルチャーを事例に分析する。授業前半では、メディアの発達とプロパガンダの関係、アニメ・マンガの歴史をみながら表現（サブカルチャーの生産）と社会・政治との関連を考察する。後半では、現在のグローバル化した生産・消費をテーマとし、産業、受容者、政策等の側面が絡み合ったサブカルチャーについて学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現代における文化とメディアの関係性を捉える教養を育成すること及び問題発見を目的とする。アニメーションやマンガの歴史的経緯とプロパガンダの関係性、メディアと政治の関係やグローバル化の流れ、そしてアニメやマンガを中心とした文化の特徴とを理解し、政治や社会との関係性を踏まえたサブカルチャーの捉え方ができるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。ただし、授業で紹介する資料に英語資料・英語のWEBサイト、動画等を含むため、英語への抵抗感がないことが望ましい

【授業方法】
配付資料を参照しながら講義形式を中心に行う。必要に応じ視聴覚資料を利用する。適宜、自宅で処理する課題・ミニレポートを課し、授業ではその講評も行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	アニメーションやマンガの歴史的経緯とプロパガンダの関係性を理解する				3	3	3					
②	メディアと政治の関係やグローバル化の流れ、文化の特徴を理解する				3	3	3					
③	政治や社会との関係性を踏まえたサブカルチャーの分析をし、文章で表現ができる				3	3	3	3		3		
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	期末に課すレポートによって、サブカルチャー分析の基礎的知識や社会との関係性の理解を確認し到達目標の達成度を評価する	15	15	20								50
討論・発表等												
授業への参画度	授業内で指示し、その場ないし自宅作業による提出するコメントやミニレポートによる評価	20	20	10								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業期間中提出課題については授業内での総評やコメントによりフィードバックを行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか』	大塚英志・大澤信克	角川書店		参考書	推奨
『ミッキーの書式』	大塚英志	角川書店		参考書	推奨
『キャラクターとは何か』	小田切博	筑摩書房		参考書	推奨
『アジア海賊版文化』	土佐昌樹	光文社		参考書	推奨
『メイン・ストリーム』	フレデリック・マルテル	岩波書店		参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
授業前後(1230-1300など)に講義教室で対応する。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	メディア産業に関する調査・コンサルティング
実務経験に基づく実践的教育の内容		グローバル化する各国地域のメディア産業の実態や日本コンテンツの海外展開についての調査実務経験も踏まえ、授業でそれら事象について説明、および調査分析手法の指導を行う	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	メディアと文化：「サブカルチャー」についての基礎知識の導入	
	この回の到達目標	授業全体の全体知識の確認と理解	
	事前学修	シラバスをよむ。サブカルチャー、文化の概念を調べる	120分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
2	エンターテインメントメディアと戦争	娯楽メディアと戦争の関係について	
	この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
	事前学修	前回授業で指示した資料を一読する。または19世紀のメディアについてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
3	エンターテインメントメディアと戦争	20世紀前半の戦争とプロパガンダの実例	
	この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
	事前学修	前回授業で指示した資料を一読する。または第一次大戦当時の映画についてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
4	キャラクター文化とリアリズム	日本に開ける戦前・戦中のメディア状況とキャラクターブーム	
	この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
	事前学修	日本の第二次世界大戦時のメディア状況についてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
5	キャラクター文化とリアリズム	戦時中日本のアニメーション、マンガにみるリアリズムと科学	
	この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
	事前学修	日本の第二次世界大戦時のメディア状況についてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分
6	現代のエンターテインメントメディアと国家	戦後のプロパガンダの実例	
	この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解	
	事前学修	前回授業で指示した資料を一読する	120分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	現代のエンターテインメントメディアと国家	戦争とアニメ・コミックの変質		
	この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解		
	事前学修	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。	180分	
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
8	現代のエンターテインメントメディアと国家	キャラクターとプロパガンダ・広告		
	この回の到達目標	到達目標①に関するメディアとプロパガンダに関する歴史的理解		
	事前学修	原子力博覧会、行政のマスコットキャラについてインターネットで調べる。	120分	
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
9	グローバル化するメディア産業	メディア産業グローバル化の象徴としてのメディアコングロマリッド		
	この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解		
	事前学修	メディアコングロマリッドについてインターネットで調べる。	120分	
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
10	メディアの世界市場と政策	国境を越える映像コンテンツ流通とそのハブ		
	この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解		
	事前学修	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。	180分	
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
11	メディアの世界市場と政策	グローバル化するメディア産業		
	この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解		
	事前学修	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。	180分	
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める	120分	
12	メディアの世界市場と政策	海賊版と著作権の国際的調和		
	この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解		
	事前学修	海賊版についてインターネットで調べる。	120分	
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。提示した参考書を読む。	240分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	グローバリズムとサブカルチャー	文化とナショナリティの関係性	
	この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解	
	事前学修	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。	180分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。提示した参考書を読む。	240分
14	グローバリズムとサブカルチャー	「クールジャパン」とファン：海外での受容	
	この回の到達目標	到達目標②に関するメディアのグローバル化とそれに付随する政治や文化に関する理解	
	事前学修	海外のアニメ受容者についてインターネットで調べる。	120分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。	240分
15	まとめ	これまでの授業内容を総括した文化とメディアの議論を整理し、学術的な意義を確認する	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関する総合的なメディアと政治、文化の関係性を分析することができる	
	事前学修	提示した参考書を読む。	240分
	事後学修	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。	300分

科目名	リスク・コミュニケーション	担当者	中森 広道	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
非常時や緊急時などの人々の生命や生活に影響を与える状況の中での情報、メディアの機能、人々の意識・行動・コミュニケーションならびに報道などについて、社会学、社会心理学、社会情報論、マス・コミュニケーションの観点から考えていく。主な内容は、パニック・流言・デマ、災害時の情報と避難、災害報道とメディア、災害とジャーナリズムなどについて講義をし、これらを踏まえて、主に災害に関する、リスク・コミュニケーションの特性と課題について検討していく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「リスク・コミュニケーション」とは、人々に危険を与える可能性があり生命・健康・生活等を脅かす現象や事態について、その被害や影響を最小限に食い止めるために行われる情報の対応や合意形成等のことである。ここでは、事例を挙げながら、リスク・コミュニケーションに関する問題について検討し、情報の混乱への対応、災害報道・メディアの機能、災害などの非常時の対策につなげていく課題を再考する能力を養成することを目的に授業を進めていく。 そして、各自が、リスク・コミュニケーションの課題を抽出し、問題と解決策を提示できるようになることを目標とする。
関連DP及びCP：新聞学科 1， 2， 6

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
オンデマンド方式で行う。状況によっては、対面授業を実施することもある。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	リスク・コミュニケーションの意味と概要について理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3	3				
②	社会学、社会心理学ならびにマス・コミュニケーション論の視点からの災害を中心としたリスクコミュニケーションについて理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3	3				
③	マス・メディアの特性を理解し、災害情報を扱うために、それぞれのメディアがどのような役割を果たすかを理解し、説明することができる。【知識】					3	3	3	3				
④	災害報道の歴史と機能について理解し、今日の災害報道の特性について考察する。【知識】					3	3	3	3				
⑤	災害における人々の行動や意識について、社会心理学の視点から理解し、その特性を説明できる。【知識】					3	3	3	3				
⑥	情報の混乱や誤情報について、社会的な背景と関連づけて理解し、その特性を説明できるようにする。【知識】					3	3	3	3				
⑦	アンケートをはじめとする社会調査について理解し、調査データを読みとる能力を高める。【能力】					3	3	3	3				
⑧	災害と情報に関する問題点を挙げ、その解決に導くための方策を検討する力を養う。【能力】					3	3	3	3				
⑨	受講学生自身が災害情報を伝える立場、または、ジャーナリストとして災害について報道する立場になった際に、どのような調査を行い、どのような工夫をするのか、などについて考える。【能力】					3	3	3	3				
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	定期試験により、授業内容を理解し到達目標①～⑨に達しているのかを確認し、評価する。	10	20	10	10	10	10			10		80
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメント)	授業内で不定期にコメントシートを配布し、到達目標①～⑥についてどの程度達しているのか、⑦～⑨についてどの程度能力が養われているのかを確認し、評価する。							10	10			20
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	10	10	10	10	10	10	10		100

【課題に対するフィードバックの方法】
フィードバックは授業内もしくはポータルサイト、またはGoogleClassroomにて行う。

【教科書・参考書等】						
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。参考書などは授業内に紹介する。					

【オフィスアワー】	
GoogleClassroom、またはEメールで対応する（nakamori.qa@gmail.com）。	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	気象大学校専門科目「防災社会学」講師・気象庁職員研修講師・NHKアナウンサー研修講師
実務経験に基づく実践的教育の内容		災害情報ならびに避難行動についての講義・指導	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス 授業の概要（以下、予定。状況によって内容を変更することもある）。	シラバスに基づいて、授業内容と授業計画の説明を行う。受講生は、授業の概要を理解し、学習目標を立てることや、今後の授業の準備を円滑に行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、リスク・コミュニケーションや災害研究の概要を理解し、説明することができるようにする。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業の概要を理解しておく。	120分
	事後学修	リスク・コミュニケーションや災害社会学・災害の社会心理学に関連する書籍・資料等を読む。	120分
2	情報の社会的混乱（1）流言・うわさ・デマ①	一般的には同じような意味で使用されている「流言」「うわさ」「デマ」の、それぞれの意味と、それぞれの特性について説明する。受講生は、「流言」「うわさ」「デマ」の本来の意味と使い方を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、流言・うわさ・デマの意味を理解し、説明することができるようにする。	
	事前学修	流言・うわさ・デマについて、それぞれが思いつく事例を整理しておくこと。	120分
	事後学修	流言・うわさ・デマに関する基本的な文献を読み、授業内容を復習すること。	120分
3	情報の社会的混乱（2）流言・うわさ・デマ研究の展開	これまでの、流言・うわさ・デマに関する研究について、社会学・社会心理学・心理学が、それぞれどのような視点から行われているのかを説明する。受講生は、流言・うわさ・デマ研究の事例から、社会学・社会心理学・心理学の違いと特性を理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑧に関連して、流言・うわさ・デマの研究方法について説明することができるようにする。	
	事前学修	前回の授業をもとに、あらためて、流言・うわさ・デマについての事例を整理しておくこと。	120分
	事後学修	社会学・社会心理学等の専門書（入門書レベル）の中で、流言・うわさ・デマ関連の項目を読んでおくこと。	120分
4	情報の社会的混乱（3）流言・うわさ・デマの事例	これまでの、流言・うわさ・デマに関する事例を紹介する。受講生は、流言・うわさ・デマについての代表的な具体例を説明することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑧に関連して、流言・うわさ・デマの事例を通じて、それぞれの特性を説明できるようにする。	
	事前学修	流言・うわさ・デマに関する文献等を読んでおくこと。	120分
	事後学修	事例として挙げた出来事背景を、歴史に関する資料や当時の報道に関する資料から再考すること。	120分
5	情報の社会的混乱（4）流言・うわさ・デマとメディア	これまでの、流言・うわさ・デマとメディアの関わりについて事例をもとに説明する。受講生は、流言・うわさ・デマとメディアの関わりを学ぶことにより、メディアの機能について理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑧に関連して、メディアの機能と特性を説明できるようにする。	
	事前学修	マス・メディア論やメディア論に関する専門書を読んでおくこと。	120分
	事後学修	メディアが関係する情報の混乱についての事例を調べておくこと。	120分
6	情報の社会的混乱（5）情報パニック	情報によって引き起こされた社会的混乱について事例をもとに説明する。受講生は、この内容を通じて、パニックについて理解することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③⑧に関連して、パニックの意味と特性を説明できるようにする。	
	事前学修	社会学・社会心理学・心理学の専門書の中の「パニック」に関する項目を読んでおくこと。	120分
	事後学修	「パニック」の日常の使われ方と学問における使い方の違いを確認しておく。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	災害とメディア（１）情報ニーズ		災害時における情報ニーズについて、事例調査を踏まえて説明する。受講生は、災害発生の際の情報ニーズと復旧の際の情報ニーズの近いを理解することができるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①から⑧に関連して、災害情報のニーズとその扱い方について再考することができる、		
	事前学修	メディアの特性について考えておくこと。		120分
	事後学修	災害時に、各自がどのような情報が必要になるのかについて考えておくこと。		120分
8	災害とメディア（２）災害報道の展開①		災害報道の変遷を辿る。この回は、昭和の災害報道について説明する。受講生は、災害報道がどのように展開していったのかを理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標④⑧に関連して、災害報道の特性を理解することができる。		
	事前学修	近現代史の年表等を読んでおくこと。		120分
	事後学修	報道史に関する資料を参照しながら、授業内容を復習する。		120分
9	災害とメディア（３）災害報道の展開②		災害報道の変遷を辿る。この回は、平成の災害報道について説明する。受講生は、災害報道がどのように展開していったのかを理解できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標④⑧に関連して、災害報道の特性を理解することができる。		
	事前学修	現代史の年表等を読んでおくこと。		120分
	事後学修	報道史に関する資料を参照しながら、授業内容を復習する。		120分
10	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（１）災害情報と避難①		予報・警報などの災害情報の展開と避難などの対応について、昭和の災害情報を中心に説明する。受講生は、災害情報のと人々の対応との関連について理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、災害の経験が、災害情報の改善や新設、人々の意思決定についてどのように関わっていくのかを説明できるようになる。		
	事前学修	人的被害の多い災害についての資料を読む。		120分
	事後学修	災害時の人々の避難の事例についてまとめる。		120分
11	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（２）災害情報と避難②		予報・警報などの災害情報の展開と避難などの対応について、平成の災害情報を中心に説明する。受講生は、災害情報のと人々の対応との関連について理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、人々が避難しない理由について説明できるようになる。		
	事前学修	人的被害の多い災害についての資料を読む		120分
	事後学修	災害時の人々の避難の事例についてまとめる		120分
12	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（３）災害情報と避難③		「東日本大震災」をもとに、災害情報と避難について説明する。受講生は、災害情報のと人々の対応との関連について理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、「東日本大震災」とリスク・コミュニケーションについて理解できるようになる。		
	事前学修	東日本大震災における情報と避難の問題について整理しておく		120分
	事後学修	災害時の人々の対応の特性についてまとめる		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（４）災害情報と避難④	「東日本大震災」以降の災害情報と避難などの対応について説明する。受講生は、災害情報のと人々の対応との関連について理解することができる。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、近年の災害における災害情報と避難に関する問題について理解できるようになる。	
	事前学修	「東日本大震災」以降の災害情報と避難の問題についてまとめておく	120分
	事後学修	授業で紹介したデータを整理しておく	120分
14	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（５）新しい災害情報	「緊急地震速報」「特別警報」など、新しい災害情報について解説する。受講生は、あらたな災害情報が設けられる上での課題を再考できる。	
	この回の到達目標	到達目標③～⑨に関連して、近年の災害における災害情報に関する課題について理解できるようになる。	
	事前学修	最近の災害における問題点を整理しておくこと	120分
	事後学修	授業で紹介したデータを整理しておくこと	120分
15	まとめ	これまでの授業をもとに、今後の課題について解説する。受講生は、これまでの授業の復習と再整理をしながら、リスク・コミュニケーションに関する問題提起を行う。	
	この回の到達目標	⑨に関連して、授業内容からリスク・コミュニケーションに関する問題提起や立案ができるようになる。	
	事前学修	これまでの授業の内容をまとめておくこと	120分
	事後学修	定期試験に備えること	120分

科目名	立法過程論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	政経新聞	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
		○	○	○				

【授業の概要】
周知の通り、わが国の国会は「国権の最高機関」として位置付けられています。しかしその実態については、ほとんどの国民に理解されているとは言い難い状況です。本講義では、国会について指摘される様々な特質を解説しながら、その問題と課題を多面的に検討し、国会や立法過程についての基礎的な知識を学修します。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
国会の抱える諸問題や、その課題及び改革の方向性に関して理解します。

【履修条件】
履修条件は特にありませんが、現代の日本政治に関心のある学生の履修が望ましいと思われます。

【授業方法】
原則として、講義を軸に授業を進めます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	出来る限り、授業の中に対話形式を取り入れます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、国会や立法過程に興味を持ち、メディアの報道内容を理解できるようになる。						2	2				
②	学生が、国会の諸問題や課題を的確に把握し、他者に説明できるようになる。					2	2	2				
③	学生が、国会の抱える諸問題を解決するための具体的方策について、自分の言葉で表現できるようになる。					2	2	2				
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③の観点から、国会や政策形成過程の特質やその問題について、十分に理解できているかを評価する。	10	30	40								80
小テスト等	到達目標②③の観点から、授業中に実施される小テストにおいて、立法過程を分析する視点が身についているかを評価する。		10	10								20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回、授業に出席することが求められる。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	40	50								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の解説、講評を、後日、ポータルシステムにて配信します。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
議会政治 第3版	加藤秀治郎・水戸克典	慈学社出版	2021	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 1 2 : 1 5 ～ 1 2 : 5 5 (研究室) ※事前にメール (mito.katsunori@nihon-u.ac.jp) で必ず連絡・予約してください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の 実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	国会に関する「常識」と「非常識」について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国会の通説に関する真偽を自分で判断することができる。	
	事前学修	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）	120分
	事後学修	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）	120分
2	現代の政治と議会	現代社会における議会の存在意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、行政国家化現象と議会の役割について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
3	政治制度と議会	議院内閣制と大統領制を取り上げ、制度によって立法過程の意味が大きく変わることを学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、議院内閣制下においては、議員立法が少なくなる仕組みを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
4	議会の諸類型	ポルスビーの用いた「変換機能」と「アリーナ機能」に触れながら、議会の基本的な役割を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ポルスビーのモデルを用いながら、議会の役割を理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
5	帝国議会と戦後の国会	戦前の帝国議会と戦後の国会の異同について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、戦前と戦後で、立法府の何がどう変わったのかを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
6	国会の制度と慣行	国会の運営は制度だけではなく、様々な慣行によっても規定されている。その仕組みについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、具体的な慣行を示しながら、国会の運営を理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	国会―内閣提出法案と議員立法		法案の種類を説明しつつ、議員立法の少ないことが必ずしも国会機能の低下を招いているわけではないことを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本では、なぜ内閣提出法案が多くなるのかについて理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
8	国会―会期制と会期不継続の原則		国会の特質の一つである会期の断片化や会期不継続の原則に触れ、審議・審査が活性化しない背景を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、会期の断片化が立法過程にもたらす影響について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
9	国会―委員会における審査と本会議における審議		戦前の本会議中心主義と戦後の委員会中心主義を比較しながら、その両者の特徴を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、読会制や定例日制に触れながら、戦前と戦後の議会の相違について理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
10	国会―わが国の二院制と参議院		二院制の類型に言及しながら、日本の参議院の特殊性について学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、他国の二院制と日本のそれがどのように異なるのかを理解し、自分の言葉で説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
11	与・野党の立法行動		国会内における主たるアクターである政党（会派）に焦点を当て、その行動パターンを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、与党と野党に特有の行動パターンを理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
12	議院運営委員会と国会対策委員会		議院運営委員会と国会対策委員会に焦点を当て、なぜ国会の運営が分かりにくくなるのかを学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、議院運営委員会と国会対策委員会の違いを理解しつつ、それが立法過程に及ぼす影響を理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	政党の党議決定と党議拘束	政党による党議拘束に触れながら、国会機能の問題と課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、政党内意思決定の仕組みを理解しつつ、党議拘束の問題・課題を他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
14	国会無能論と国会機能論	日本の国会の評価については、相反する「国会無能論」と「国会機能論」が存在している。何がどう異なるのかについて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、無能論と機能論の相違を理解しつつ、それらが立法過程の何を評価しているのかを他者に説明することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分
15	まとめ	前期の授業内容を振り返りつつ、国会の特質や課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、わが国の国会及び政策形成過程に関する主要な論点を理解することができる。	
	事前学修	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）	120分
	事後学修	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）	120分

科目名	労働事情	担当者	中山 明広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○				

【授業の概要】
労働問題の背景にある社会構造を俯瞰的に捉え、その上で個別分野について学修し、多角的な視点から活用できる基礎知識を身に着ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
現在の労働事情について理解することを授業目的とし、主要なテーマを一通り取り上げる。それぞれのテーマは密接に関連しており、積極的に参加することで労働問題の背景にある社会構造の全体像が理解できるようになる。

【履修条件】
特にない。

【授業方法】
担当教員の講義を中心に行うが、いくつかのテーマについては、関心を高め知識の定着を図るためグループディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッション	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	労働問題の背景にある社会構造を俯瞰的に捉え、説明することができる。				2		2	2				
②	労働市場、雇用就業について、問題点を理解し、説明することができる。				2		2	2				
③	労働環境とそれに関連するテーマについて、問題点を理解し、説明することができる。				2		2	2				
④	少子化対策、ワークライフバランス実現策について、自分の考えを説明することができる。						2	2				
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内で小テスト行い、到達目標にかかわる基礎知識が身についているかを評価する。	10			10							20
レポート等	労働事情に関する課題についてのレポートの提出により、 所定の様式を満たしているか、論理的・批判的思考力、問題 発見・解決力が認められるかを評価する。	10	10	10	10							40
討論・発表等	グループディスカッションを通じ、思考力、問題発見力等 について評価する。	10	10	10	10							40
授業への参画度	授業はオムニバス形式だが、それぞれの授業は前後の授業 と密接に関連していることに留意が必要。											
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	20	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テストについては解答例を題材に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	必要に応じ指示する。				

【オフィスアワー】
講義終了後、研究室 ※事前にメールで予約すること

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	旧労働省、厚生労働省等で30年以上にわたり労働行政に従事。
実務経験に基づく実践的教育の内容		自らの経験で役に立つものがあれば具体例として紹介する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンスと導入講義（経済構造の変化）	授業の目的、概要等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し経済構造の変化について理解するとともに、授業の目的、概要等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	シラバスを読んで、必要な情報収集を行う。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
2	コロナ禍と雇用調整	コロナ禍で生じた雇用調整と雇用調整助成金について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、コロナ禍が及ぼした影響と雇用調整助成金の仕組みについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
3	外国人労働者と技能実習生	外国人労働者と技能実習生について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、外国人労働者、技能実習生が増加した背景と現状について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
4	就職氷河期世代とワーキングプア問題	就職氷河期世代とワーキングプア問題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、就職氷河期世代と発生した理由、現状、フリーターについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
5	少子化の原因と影響、課題（グループディスカッション）	少子化の原因と影響、その解決にむけた課題について、グループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②④に関し、少子化の原因とそのことが経済社会に及ぼす影響、解決すべき課題について理解し、他の受講生の前で説明することができる。	
	事前学修	前回授業の復習をはじめ、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
6	超高齢社会と高齢者雇用	超高齢社会において高齢者雇用はどのような意味を持つのか学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、超高齢社会において高齢者雇用がどのような意味を持つのか理解し、説明することができる。	
	事前学修	担当教員の論文を事前に読み、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	高齢者の社会参加	高齢者雇用の推進策、高齢者の社会参加の事例等について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関し、高齢者雇用の推進策、高齢者の社会参加の事例等について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
8	超高齢社会と働き方改革	超高齢社会における働き方改革の意義について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関し、超高齢社会における働き方改革の意義、賃金、労働時間の実情について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
9	過労死とワークライフバランス	過労死の現状とワークライフバランス実現に向けた課題について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、過労死の現状とワークライフバランス実現に向けた課題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	「過労死防止対策月間」の取り組み等授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
10	ワークライフバランス実現の方策（グループディスカッション）	ワークライフバランスを実現させるための課題について、グループディスカッションを通じて学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③④に関し、ワークライフバランスを実現させるための課題について、理解し、他の受講生に対し説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
11	女性の活躍と両立支援	女性労働者をとりまく環境について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、女性の活躍促進とファミリーフレンドリーについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
12	女性労働者の就労環境と個別労働紛争処理	女性労働者の就労環境と個別労働紛争処理について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、女性労働者の就労環境とハラスメントの現状、個別労働紛争処理制度について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	非正規雇用労働者	非正規雇用労働者について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、非正規雇用労働者の置かれている状況、課題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	第2回の授業を復習し、授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
14	テクノロジーの進化と人材育成	テクノロジーの進化と人材育成について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①③に関し、テクノロジーの進化と人材育成の現状と課題について、理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業テーマに関連する情報を収集する。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分
15	総括	労働問題の背景にある社会構造の全体像について学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関し、授業で取り上げた個別分野の課題を踏まえつつ、労働問題の背景にある社会の全体構造を俯瞰的に捉えることができる。	
	事前学修	これまでの授業で扱ったテーマについて復習し、これからの課題について考えてくる。	120分
	事後学修	授業で取り上げたテーマについて、復習し理解を深める。	120分

科目名	労働政策	担当者	岡崎 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現在の労働事情・労働法制度を理解したうえで、労働政策の考え方、今後の方向について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働事情・労働法制度の現状や労働政策の考え方・今後の方向性を理解しておくことは、就職活動において、さらに大学卒業後に仕事をしていく上で必須である。これらを理解することによって、社会経済の変化が予想される中で、豊かで実りある職業人生の実現に資する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
パワーポイントの資料に基づいて、各回のテーマに関して現行の制度・状況を簡単に説明したうえで、それにかかわる政策の経緯、考え方、課題、今後の方向性などについて説明します。教科書「実務に関する労働法制度」の指定部分事前に読んでいることを前提に説明します。厚生労働省で37年間労働政策に携わった経験を踏まえて、実態の即した説明をします。また、講義において、参加者から問題意識、意見を表明していただくことを期待します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	現在の労働事情・労働法制度について理解し、説明できる。（知識）						4						
②	労働事情に関して、統計や事例によって調べることができる。（技能）								2	2			
③	現在の労働事情や労働法制度の問題点・課題について自分の考えを表明できる。（態度・習慣）								4	4			
④	今後の労働政策に関してあるべき方向性を示し、議論することができる。（態度・習慣）								4	4			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	任意の労働政策分野について到達目標①～③に関わる政策課題を提示したうえで、到達目標④に関わる今後の政策の方向性について実態を踏まえて自分の考えを提示できるか確認する。	10	10	20	30							70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(小レポート)	期間中に任意の労働政策分野に関する小レポートを3回提出していただき、到達目標①～③に関わる現行制度を踏まえた政策課題の提示ができるか確認する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の中で適宜コメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実務のための労働法制度	岡崎淳一	日本経済新聞出版	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後質問に対応します。そのほか、メールでの質問に対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	厚生労働省において37年間労働政策の企画・立案に携わった
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義の中で、労働政策の現場でどのように政策が企画・立案されてきたか、また、どのように考えていたかなどについて触れたいと思います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス 労働政策の基本的視点		授業のテーマ・内容、授業のスケジュール、成績評価方法、教科書について説明する。 労働政策全体を通じて妥当する基本的な視点について説明する。	
	この回の 到達目標	到達目標③④に関連して、その前提となる労働政策の基本的視点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、報道等によって最近の労働関係の事象（コロナ禍における雇用問題など）について関心を深める。		120分
	事後学修	講義を振り返って、労働政策の基本的視点について整理をする。 また、シラバスを踏まえて、小レポートのテーマ3つ及び最終レポートの対象テーマ1つを選定する。 （テーマは、講義を踏まえて適宜変更してかまいません）		120分
2	労働に関わる構造変化		人口構造や産業構造の変化が労働環境にどのように影響してきたか、また、将来の変化にどのように対応すべきかについて考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①～③に関連して、人口構造・産業構造の変化が労働環境に与える影響について理解し説明できるとともに、構造変化に関わる労働政策の課題について提示できる。		
	事前学修	第2次世界大戦後から現在までの我が国の人口構造と産業構造の変化について調べる。		120分
	事後学修	雇用政策研究会報告書「人口減少・社会構造の変化の中で、ウェル・ビーイングの向上と生産性向上の好循環、多様な活躍に向けて」を読んで、政府の考え方を理解する。		120分
3	景気変動に関する雇用対策		景気変動は雇用にどのように影響を及ぼすか、雇用の悪化に対してどのように対処すべきかについて考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①～③に関連して、景気変動が労働市場に与える影響について理解し説明できるとともに、景気変動に関わる雇用政策の課題について提示できる。		
	事前学修	第2次世界大戦後から現在までの我が国の景気変動について調べる。		120分
	事後学修	「2020年度雇用政策研究会報告書～コロナ禍における労働市場のセーフティネット機能の強化とデジタル技術を活用した雇用政策・働き方の推進～」を読んで、現下の政府の雇用対策の考え方を理解する。		120分
4	雇用慣行		日本型雇用慣行について説明し、雇用対策の基本的な考え方として雇用維持と労働移動のどちらに重点を置くべきか、また、解雇規制はどうあるべきかについて考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①～③に関連して、日本型雇用慣行について理解し説明できるとともに、今後の雇用慣行がどうあるべきかについて自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第1章第5節、第6節を読んで日本型雇用慣行と我が国の教育訓練制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、雇用慣行に関する自分の考えを整理する。		120分
5	労働時間・休暇		労働時間・休暇の現状、政策の経緯を説明し、今後の労働時間・休暇に関わる政策の在り方について考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①～③に関連して、労働時間・休暇の現状と政策の推移について理解し説明できるとともに、今後の労働時間・休暇に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第3章を読んで、労働時間・休暇制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、労働時間・休暇に関する自分の考えを整理する。		120分
6	賃金水準		賃金水準、賃金制度に関して説明をし、賃金引き上げの余地はないのか、賃金引き上げには何が必要か、また最低賃金政策はどうあるべきかについて考える。	
	この回の 到達目標	到達目標①～③に関連して、賃金制度・水準、最低賃金制度について理解し説明できるとともに、今後の賃金に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第2章第1節及び第5節を読んで、賃金制度と最低賃金制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、賃金に関する自分の考えを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働者の健康確保		労働者の健康の状況、健康確保に関する制度について説明し、企業は労働者の健康にどこまで責任を持つべきか、安全配慮義務との関係、産業医の役割などについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、労働者の健康状況、健康確保制度について理解し説明できるとともに、今後の労働者の健康確保に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第5章第1節、第2節及び第5節を読んで、労働者の健康状況と健康確保制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、労働者の健康確保に関する自分の考えを整理する。		120分
8	ハラスメント防止		現在の職場におけるハラスメント防止対策について説明し、ハラスメント対策は十分か、ほかに対応すべきハラスメント問題はないかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、ハラスメントの現状とハラスメント防止対策について理解し説明できるとともに、今後のハラスメント防止対策の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第4章第3節を読んで、ハラスメント防止対策について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、職場のハラスメント対策に関する自分の考えを整理する。		120分
9	女性活躍		男女間の賃金格差の現状、男女雇用機会均等制度について説明し、いまだに格差がある原因は何か、どうすれば格差がなくなるか、さらなる法整備が必要かについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、男女間の賃金格差の現状と男女雇用機会均等制度について理解し説明できるとともに、今後の女性活躍促進の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第4章第1節及び第6章第1節を読んで、男女雇用機会均等、女性活躍に関する制度及び職場の子育て支援制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、女性活躍に関する自分の考えを整理する。		120分
10	若者雇用		若者に対する雇用対策の現状について説明するとともに、キャリアデザインの重要性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、若者の雇用及び雇用対策の現状について理解し説明できるとともに、自分のキャリアデザインの重要性を理解する。		
	事前学修	教科書第6章第2節を読んで、若者に対する雇用制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、若者の雇用に関する自分の考えを整理する。 また、自分のジョブカードを作成してみる。		120分
11	高齢者雇用		高齢者雇用の現状と高齢者雇用に関する制度について説明し、高齢期の働き方はどうあるべきか、70歳まで働けるようにする政策についてどうみるか、高齢者雇用と若者との関係などについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、高齢者雇用の現状と高齢者雇用制度について理解し説明できるとともに、今後の高齢者雇用対策の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第6章第3節を読んで、高齢者に対する雇用制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、高齢者の雇用に関する自分の考えを整理する。		120分
12	障害者雇用		障害者雇用の現状と障害者雇用に関する制度について説明し、障害者雇用率制度の役割、見直しの必要性、障害者が働き続けるために必要な配慮、雇用以外の働き方の評価、雇用と福祉の連携の在り方などを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、障害者雇用の現状と障害者雇用制度について理解し説明できるとともに、今後の障害者雇用対策の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第6章第4節を読んで、障害者に対する雇用制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、障害者の雇用に関する自分の考えを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	外国人雇用		外国人の就労状況、外国人受け入れ制度について説明し、今後の外国人受け入れをどうすべきか、国際競争対応、人手不足対応、人口減少対応などの視点から考える。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、外国人就労の現状と外国人受け入れ制度について理解し説明できるとともに、今後の外国人労働者受け入れの在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	教科書第6章第5節を読んで、外国人受け入れ制度について理解する。	120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、外国人受け入れに関する自分の考えを整理する。	120分
14	非正規雇用労働者対策		非正規雇用労働者の雇用状況、処遇の現状、同一労働同一賃金制度に関して説明し、働き方改革法による改正の効果はどうか、そもそも非正規雇用はどのように位置づけるべきか、その待遇はどうすべきかなどについて考える。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、非正規雇用労働者の現状と同一労働同一賃金制度について理解し説明できるとともに、今後の非正規雇用の在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	教科書第6章第6節を読んで、非正規雇用労働者に関する制度について理解する。	120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、非正規雇用の在り方に関する自分の考えを整理する。	120分
15	雇用類似の働き方		雇用類似の働き方の現状、法制度の適用関係について説明し、労働政策・労働法規の適用をすべきか、別の政策・法規が必要かについて考える。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、雇用類似の働き方の現状と法制度の適用関係について理解し説明できるとともに、今後の雇用類似の働き方に対する政策・制度の在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	教科書第1章第1節を読んで、労働者と雇用類似の働き方の相違を理解する。	120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、雇用類似の働き方に関する自分の考えを整理する。	120分

科目名	労働政策	担当者	岡崎 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○	○	○			

【授業の概要】
現在の労働事情・労働法制度を理解したうえで、労働政策の考え方、今後の方向について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働事情・労働法制度の現状や労働政策の考え方・今後の方向性を理解しておくことは、就職活動において、さらに大学卒業後に仕事をしていく上で必須である。これらを理解することによって、社会経済の変化が予想される中で、豊かで実りある職業人生の実現に資する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】		
パワーポイントの資料に基づいて、各回のテーマに関して現行の制度・状況を簡単に説明したうえで、それにかかわる政策の経緯、考え方、課題、今後の方向性などについて説明します。教科書「実務に関する労働法制度」の指定部分事前に読んでいることを前提に説明します。厚生労働省で37年間労働政策に携わった経験を踏まえて、実態の即した説明をします。また、講義において、参加者から問題意識、意見を表明していただくことを期待します。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	現在の労働事情・労働法制度について理解し、説明できる。（知識）						4						
②	労働事情に関して、統計や事例によって調べることができる。（技能）								2	2			
③	現在の労働事情や労働法制度の問題点・課題について自分の考えを表明できる。（態度・習慣）								4	4			
④	今後の労働政策に関してあるべき方向性を示し、議論することができる。（態度・習慣）								4	4			
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	任意の労働政策分野について到達目標①～③に関わる政策課題を提示したうえで、到達目標④に関わる今後の政策の方向性について実態を踏まえて自分の考えを提示できるか確認する。	10	10	20	30							70
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(小レポート)	期間中に任意の労働政策分野に関する小レポートを3回提出していただき、到達目標①～③に関わる現行制度を踏まえた政策課題の提示ができるか確認する。	10	10	10								30
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	30	30							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義の中で適宜コメントする。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
実務のための労働法制度	岡崎淳一	日本経済新聞出版	2020	教科書	必携
備考					

【オフィスアワー】
講義終了後質問に対応します。そのほか、メールでの質問に対応します。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	厚生労働省において37年間労働政策の企画・立案に携わった
実務経験に基づく実践的教育の内容		講義の中で、労働政策の現場でどのように政策が企画・立案されてきたか、また、どのように考えていたかなどについて触れたいと思います。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	ガイダンス 労働政策の基本的視点	授業のテーマ・内容、授業のスケジュール、成績評価方法、教科書について説明する。 労働政策全体を通じて妥当する基本的な視点について説明する。		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して、その前提となる労働政策の基本的視点を理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、報道等によって最近の労働関係の事象（コロナ禍における雇用問題など）について関心を深める。		120分
	事後学修	講義を振り返って、労働政策の基本的視点について整理をする。 また、シラバスを踏まえて、小レポートのテーマ3つ及び最終レポートの対象テーマ1つを選定する。 (テーマは、講義を踏まえて適宜変更してかまいません)		120分
2	労働に関わる構造変化	人口構造や産業構造の変化が労働環境にどのように影響してきたか、また、将来の変化にどのように対応すべきかについて考える。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、人口構造・産業構造の変化が労働環境に与える影響について理解し説明できるとともに、構造変化に関わる労働政策の課題について提示できる。		
	事前学修	第2次世界大戦後から現在までの我が国の人口構造と産業構造の変化について調べる。		120分
	事後学修	雇用政策研究会報告書「人口減少・社会構造の変化の中で、ウェル・ビーイングの向上と生産性向上の好循環、多様な活躍に向けて」を読んで、政府の考え方を理解する。		120分
3	景気変動に関する雇用対策	景気変動は雇用にどのように影響を及ぼすか、雇用の悪化に対してどのように対処すべきかについて考える。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、景気変動が労働市場に与える影響について理解し説明できるとともに、景気変動に関わる雇用政策の課題について提示できる。		
	事前学修	第2次世界大戦後から現在までの我が国の景気変動について調べる。		120分
	事後学修	「2020年度雇用政策研究会報告書～コロナ禍における労働市場のセーフティネット機能の強化とデジタル技術を活用した雇用政策・働き方の推進～」を読んで、現下の政府の雇用対策の考え方を理解する。		120分
4	雇用慣行	日本型雇用慣行について説明し、雇用対策の基本的な考え方として雇用維持と労働移動のどちらに重点を置くべきか、また、解雇規制はどうあるべきかについて考える。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、日本型雇用慣行について理解し説明できるとともに、今後の雇用慣行がどうあるべきかについて自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第1章第5節、第6節を読んで日本型雇用慣行と我が国の教育訓練制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、雇用慣行に関する自分の考えを整理する。		120分
5	労働時間・休暇	労働時間・休暇の現状、政策の経緯を説明し、今後の労働時間・休暇に関わる政策の在り方について考える。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、労働時間・休暇の現状と政策の推移について理解し説明できるとともに、今後の労働時間・休暇に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第3章を読んで、労働時間・休暇制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、労働時間・休暇に関する自分の考えを整理する。		120分
6	賃金水準	賃金水準、賃金制度に関して説明をし、賃金引き上げの余地はないのか、賃金引き上げには何が必要か、また最低賃金政策はどうあるべきかについて考える。		
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、賃金制度・水準、最低賃金制度について理解し説明できるとともに、今後の賃金に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第2章第1節及び第5節を読んで、賃金制度と最低賃金制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、賃金に関する自分の考えを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	労働者の健康確保		労働者の健康の状況、健康確保に関する制度について説明し、企業は労働者の健康にどこまで責任を持つべきか、安全配慮義務との関係、産業医の役割などについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、労働者の健康状況、健康確保制度について理解し説明できるとともに、今後の労働者の健康確保に関する政策の方向性について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第5章第1節、第2節及び第5節を読んで、労働者の健康状況と健康確保制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、労働者の健康確保に関する自分の考えを整理する。		120分
8	ハラスメント防止		現在の職場におけるハラスメント防止対策について説明し、ハラスメント対策は十分か、ほかに対応すべきハラスメント問題はないかについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、ハラスメントの現状とハラスメント防止対策について理解し説明できるとともに、今後のハラスメント防止対策の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第4章第3節を読んで、ハラスメント防止対策について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、職場のハラスメント対策に関する自分の考えを整理する。		120分
9	女性活躍		男女間の賃金格差の現状、男女雇用機会均等制度について説明し、いまだに格差がある原因は何か、どうすれば格差がなくなるか、さらなる法整備が必要かについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、男女間の賃金格差の現状と男女雇用機会均等制度について理解し説明できるとともに、今後の女性活躍促進の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第4章第1節及び第6章第1節を読んで、男女雇用機会均等、女性活躍に関する制度及び職場の子育て支援制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、女性活躍に関する自分の考えを整理する。		120分
10	若者雇用		若者に対する雇用対策の現状について説明するとともに、キャリアデザインの重要性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、若者の雇用及び雇用対策の現状について理解し説明できるとともに、自分のキャリアデザインの重要性を理解する。		
	事前学修	教科書第6章第2節を読んで、若者に対する雇用制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、若者の雇用に関する自分の考えを整理する。 また、自分のジョブカードを作成してみる。		120分
11	高齢者雇用		高齢者雇用の現状と高齢者雇用に関する制度について説明し、高齢期の働き方はどうあるべきか、70歳まで働けるようにする政策についてどうみるか、高齢者雇用と若者との関係などについて考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、高齢者雇用の現状と高齢者雇用制度について理解し説明できるとともに、今後の高齢者雇用対策の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第6章第3節を読んで、高齢者に対する雇用制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、高齢者の雇用に関する自分の考えを整理する。		120分
12	障害者雇用		障害者雇用の現状と障害者雇用に関する制度について説明し、障害者雇用率制度の役割、見直しの必要性、障害者が働き続けるために必要な配慮、雇用以外の働き方の評価、雇用と福祉の連携の在り方などを考える。	
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、障害者雇用の現状と障害者雇用制度について理解し説明できるとともに、今後の障害者雇用対策の在り方について自分の考えを提示できる。		
	事前学修	教科書第6章第4節を読んで、障害者に対する雇用制度について理解する。		120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、障害者の雇用に関する自分の考えを整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	外国人雇用		外国人の就労状況、外国人受け入れ制度について説明し、今後の外国人受け入れをどうすべきか、国際競争対応、人手不足対応、人口減少対応などの視点から考える。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、外国人就労の現状と外国人受け入れ制度について理解し説明できるとともに、今後の外国人労働者受け入れの在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	教科書第6章第5節を読んで、外国人受け入れ制度について理解する。	120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、外国人受け入れに関する自分の考えを整理する。	120分
14	非正規雇用労働者対策		非正規雇用労働者の雇用状況、処遇の現状、同一労働同一賃金制度に関して説明し、働き方改革法による改正の効果はどうか、そもそも非正規雇用はどのように位置づけるべきか、その待遇はどうすべきかなどについて考える。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、非正規雇用労働者の現状と同一労働同一賃金制度について理解し説明できるとともに、今後の非正規雇用の在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	教科書第6章第6節を読んで、非正規雇用労働者に関する制度について理解する。	120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、非正規雇用の在り方に関する自分の考えを整理する。	120分
15	雇用類似の働き方		雇用類似の働き方の現状、法制度の適用関係について説明し、労働政策・労働法規の適用をすべきか、別の政策・法規が必要かについて考える。
	この回の到達目標	到達目標①～③に関連して、雇用類似の働き方の現状と法制度の適用関係について理解し説明できるとともに、今後の雇用類似の働き方に対する政策・制度の在り方について自分の考えを提示できる。	
	事前学修	教科書第1章第1節を読んで、労働者と雇用類似の働き方の相違を理解する。	120分
	事後学修	教科書と講義内容を踏まえて、雇用類似の働き方に関する自分の考えを整理する。	120分

科目名	労働法Ⅰ	担当者	新谷 真人	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
日頃から労働問題に関心をもち、新聞報道等に注意してほしい。なお、労働法Ⅱを履修すると労働法の全体を学習することができる。

【授業方法】
ほぼテキストの順序どおりに講義する。毎回パワーポイントを使用する。スライドは事前又は事後に「学生教員共有ホルダー」にアップする。必要に応じ、新聞記事、DVD等を使用する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	60	20	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜質問を受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
労働法・第2版	新谷真人編著	弘文堂	2019年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日9:30～10:30 araya.masato@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	労働法の体系	
	この回の到達目標	労働法体系の全体像を理解する。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容を復習しておく。	120分
2	労働法の原理	労働法の法的特色	
	この回の到達目標	労働法の特質と労働法の歴史について理解する。	
	事前学修	テキスト第1章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
3	日本国憲法と労働法	労働法の歴史と団結権保障の意義。	
	この回の到達目標	わが国における労働法の展開と憲法の労働基本権保障について理解する。	
	事前学修	テキスト第1章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
4	労働契約の意義	労働契約の成立，労働憲章	
	この回の到達目標	労働契約の重要性と労働基準法の原理を理解する。	
	事前学修	テキスト第2章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
5	労働契約の入口規制	採用内定、試用期間	
	この回の到達目標	採用内定及び試用期間の法的性質を理解する。	
	事前学修	テキスト第2章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
6	就業規則の意義	就業規則とその変更	
	この回の到達目標	就業規則と労働契約の関係を理解する。	
	事前学修	テキスト第3章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	就業規則の懲戒規定	企業秩序と懲戒	
	この回の到達目標	使用者の懲戒権とその濫用基準を理解する。	
	事前学修	テキスト第3章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
8	配転・出向・転籍	企業社会における人事異動と法的諸問題。	
	この回の到達目標	配転・出向・転籍の法的違いを説明できる。	
	事前学修	テキスト第4章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
9	賃金の保護	賃金の定義、賃金請求権。	
	この回の到達目標	賃金の法的な定義を理解する。	
	事前学修	テキスト第5章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
10	賃金支払いの留意点	最低賃金、賃金支払いの原則	
	この回の到達目標	最低賃金の意義、賃金支払いの4原則を説明できる。	
	事前学修	テキスト第5章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
11	労働時間とは何か	法定労働時間と規制緩和	
	この回の到達目標	法定労働時間を説明できる。	
	事前学修	テキスト第6章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
12	時間外労働の法律問題	時間外・休日労働と割増賃金	
	この回の到達目標	罰則付き上限規制という働き方改革を理解する。	
	事前学修	テキスト第6章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	休憩・休日・年次有給休暇	休憩・休日・年次有給休暇と働き方改革	
	この回の到達目標	年次有給休暇の改正点を説明できる。	
	事前学修	テキスト第7章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
14	労働災害の予防と補償	労働安全衛生法、労災保険法の基礎知識。	
	この回の到達目標	安衛法、労災保険法の仕組みを理解する。	
	事前学修	テキスト第8章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
15	前学期末試験及び振り返り	論述式試験	
	この回の到達目標	なし	
	事前学修	これまでのノート、教科書に目を通しておく。	120分
	事後学修	試験を振り返る。	120分

科目名	労働法Ⅰ	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法」及び民法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書やレジュメに沿って講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマについて予めインターネット、新聞等を通じて時事問題を把握し、講義において法適用と課題とを学び、それについて発言する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	オンデマンド授業の場合は、毎回授業テーマに沿った課題を出す。受講生が決められた方法で課題に回（解）答したものに対して、その都度評価する（点数をつける）。総合成績評価は、これらを積算し100点満点に換算して行う。	40	30	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	30	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては個別にコメント等を付して返却し、次の授業において解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ労働法	新谷真人編	弘文堂	2019年	教科書	推奨
ジュリスト労働判例百選9版		有斐閣	2014	参考書	推奨
備考	その他、講義中に適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
火曜日3時限研究室にて（メールでアポイントメントをとること）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	ガイダンス・労働法の概要		講義の進め方、評価方法等についての説明。労働法の概要を解説する。	
	この回の到達目標	日本の法体系の中で労働法がどのように位置づけられるのかを説明できる。		
	事前学修	憲法上の社会権と労働者の権利を概観する		120分
	事後学修	社会権および労働者の権利が憲法上承認されている意義を確認する。		120分
2	戦後社会の変容と労働法		戦後社会における労働法の機能と変化を概説し、現代における問題状況を考察する。	
	この回の到達目標	社会状況の変化に対応する労働法の機能とともに、現状における労働法の課題を説明できる。		
	事前学修	高校の「現代社会」もしくは「政治・経済」を復習し戦後日本社会の変容を学習する。		120分
	事後学修	紹介した裁判例を通じて、労働法の史的展開の意義と役割を理解する。		120分
3	労働関係の成立		どのようにして労働関係が成立するのか、また労働関係の意義を解説する。	
	この回の到達目標	労働関係成立のプロセスそれぞれの場合における問題がどのように処理されるのか説明できる。		
	事前学修	教科書の当該箇所の導入部分を読んでおく		120分
	事後学修	労働関係に関わる法文・裁判例等について知識を確実にする。		120分
4	労働関係の当事者		労働関係とは、労働者、労働組合、使用者を基本的形成されることを解説する	
	この回の到達目標	「労働者」「使用者」の概念は各法律の目的によって異なり、その画定作業が重要であることを説明できる。		
	事前学修	労働者概念が問題となる理由・背景を調べる。		120分
	事後学修	「労働者」「使用者」を画定するための実体的要素と法適用の効果を理解する。		120分
5	労働条件の決定と変更		労働条件の決定・変更について、労働契約・就業規則・労働協約それぞれの機能を解説する。	
	この回の到達目標	労働契約・就業規則・労働協約が労働条件決定・変更についてそれぞれの関係性を説明できる。		
	事前学修	教科書などを通じて就業規則の意義を調べる		120分
	事後学修	就業規則で労働条件の決定・変更を行う場合の要件を確認する		120分
6	賃金について		労働関係において重要な賃金に関する法規制について解説する。	
	この回の到達目標	賃金の定義、法規制の意義について説明できる。		
	事前学修	各地域の最低賃金を調べ、教科書の当該テーマ部分を読む。		120分
	事後学修	賃金に関する法規制の原則を確認し、将来、これがどのように変化するのかを考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	労働時間	労働時間の意義と規制方法について解説する	
	この回の到達目標	労働時間は賃金や労働災害の場面だけではなくワークライフバランスの観点からも重要な検討課題であることを説明できる。	
	事前学修	日本における長時間労働問題を調べる。	120分
	事後学修	労働時間の原則的な法規制のあり方を確認する。	120分
8	変形労働時間・裁量労働制	原則的労働時間とは別に変形労働時間や裁量労働制が容認されている背景と課題を説明する。	
	この回の到達目標	変形労働時間制・裁量労働制が認められる要件と実体的課題を説明できる。	
	事前学修	変形労働時間制・裁量労働制について身近な例を考えてみる。	120分
	事後学修	変形労働時間制・裁量労働制に関する法規制の意義を役割を再検討する。	120分
9	休憩時間・有給休暇・休日	労働時間ではない労働者の時間に関する法規制を解説する。	
	この回の到達目標	労働者が労働から解放される時間とはどのような意義を有するのか、法規制のあり方を説明できる。	
	事前学修	有給休暇取得に関する統計データ等を官公庁のウェブサイトで入手し読んでおく。	120分
	事後学修	実効性のあるワークライフバランスを確立するために何が必要か考える。	120分
10	配転・出向について	使用者の配転・出向命令の権限と制限に関して解説する。	
	この回の到達目標	労働契約法や裁判例を通して、配転・出向の有効要件を説明できる。	
	事前学修	配転・出向を労働者のワークライフバランスという観点から検討しておく。	120分
	事後学修	従来の判例法理の課題を踏まえ、今後の展開について考えをまとめる。	120分
11	使用者の懲戒権	使用者の懲戒権とは何か、その根拠と限界について解説する。	
	この回の到達目標	懲戒権に関する判例法理の整理と課題について説明できる。	
	事前学修	懲戒処分に関する基本的事項について教科書等で学習する。	120分
	事後学修	裁判例で出される懲戒権の根拠について整理する。	120分
12	労働関係の終了	労働者による退職、使用者による解雇、それぞれに対する法規制のあり方について説明する。	
	この回の到達目標	使用者の解雇権に対する制約法理を労働契約法や裁判例をとおして説明できる。	
	事前学修	合意解約、退職、解雇、それぞれの法的相違を調べる。	120分
	事後学修	解雇無効の場合における金銭的解決制度の導入の課題をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	有期労働契約の終了	非典型雇用である有期労働契約の期間満了と使用者による更新拒絶の場合について、更新拒絶ができない要件を説明する。	
	この回の到達目標	有期労働契約を締結した場合に生じる法的問題を、労働契約法や裁判例を通して説明できる。	
	事前学修	非正規雇用（有期労働契約、パートタイム労働者、派遣労働者等）の現状について官公庁の調査結果を調べる。	120分
	事後学修	法文・裁判例等についての知識を確実にする。	120分
14	非典型雇用と法規制	派遣労働者、パートタイマー、有期契約労働者などに関する法的保護はどのようなになっているのかを説明する。	
	この回の到達目標	非典型雇用で働く労働者の状況と法的保護の課題を説明できる。	
	事前学修	三者間構成される派遣労働の法的関係を整理しておく。	120分
	事後学修	非典型雇用ともに個人事業主やフリーランサーの法的保護のあり方を考える。	120分
15	労働者の人格権の保護	労働者は使用者の指揮命令に従って働くが、その際にも労働者の人格権は保護されなければならない、労働現場において労働者の人格権保護がどのような形で問題となるかを説明する。	
	この回の到達目標	職場におけるハラスメントや服務規律と労働者の自己決定権の問題を裁判例等を通して説明できる	
	事前学修	憲法13条の幸福追求権を学習する。	120分
	事後学修	労働者としての人格権、一個人としての人格権、それぞれの異同と制約論理をまとめる。	120分

科目名	労働法Ⅱ	担当者	新谷 真人	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
集团的労働法分野と新たな労働法領域を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働組合法など集团的分野を中心に、労働組合、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争、労使紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
日頃から労働問題に関心をもち、新聞報道等に注意してほしい。労働法Ⅰから継続して履修するのが望ましい。

【授業方法】
ほぼテキストの順序どおりに講義する。毎回パワーポイントを使用する。スライドは事前又は事後に「学生教員共有ホルダー」にアップする。必要に応じ、新聞記事、DVD等を使用する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	集团的働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④					2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基礎知識等が身についているかを筆記試験により評価する。	60	20	20								100
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		60	20	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
適宜質問を受け付ける。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
労働法・第2版	新谷真人編著	弘文堂	2019年	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
月曜日9:30～10:30 araya.masato@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	後学期は、均等法、解雇などの個別的労働法と、労働組合法を中心とした集団的労働法を扱う。	
	この回の到達目標	残された労働問題にはどのようなものがあるかを理解する。	
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。	120分
	事後学修	ガイダンスの内容を復習しておく。	120分
2	男女雇用機会均等法	男女雇用機会均等法の概要。	
	この回の到達目標	男女雇用機会均等法の概要を説明できる。	
	事前学修	テキスト第9章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
3	セクシュアルハラスメント	セクシュアルハラスメントの防止義務（DVD使用予定）	
	この回の到達目標	何がセクハラに当たるかを理解する。	
	事前学修	テキスト第9章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
4	有期労働法制	非正規労働者の法律問題	
	この回の到達目標	無期転換制度、同一労働同一賃金などの考え方を説明できる。	
	事前学修	テキスト第9章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
5	雇用の終了	退職と解雇	
	この回の到達目標	解雇予告制度、解雇権濫用の法理を説明できる。	
	事前学修	テキスト第10章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
6	特殊な雇用終了	整理解雇、定年制	
	この回の到達目標	高年齢者雇用確保措置について説明できる。	
	事前学修	テキスト第10章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	団結権保障と労働組合法	団結権保障、公務員の労働基本権	
	この回の到達目標	憲法28条の団結権保障の意義を理解する。	
	事前学修	テキスト第11章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
8	労働組合法	労組法上の労働組合、組合活動の正当性	
	この回の到達目標	労組法上の労働組合の定義と組合活動の正当性の限界を理解する。	
	事前学修	テキスト第11章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
9	不当労働行為制度	不当労働行為制度の概要	
	この回の到達目標	不当労働行為制度の沿革について説明できる。	
	事前学修	テキスト第12章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
10	不当労働行為の救済	不当労働行為の類型と法的救済	
	この回の到達目標	労働組合はどのように不当労働行為から保護されているかを理解する。	
	事前学修	テキスト第12章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
11	団体交渉	団体交渉の当事者、交渉事項など。	
	この回の到達目標	団体交渉のルールを理解する。	
	事前学修	テキスト第13章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
12	労働協約	労働協約の効力	
	この回の到達目標	労働協約の構造と効力について説明できる。	
	事前学修	テキスト第13章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	争議行為		争議行為の意義
	この回の到達目標	争議権保障の重要性を理解する。	
	事前学修	テキスト第14章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
14	争議行為の正当性		争議行為の種類と正当性
	この回の到達目標	争議行為の正当性の判断基準を説明できる。	
	事前学修	テキスト第14章を読んでおく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分
15	復習		後学期の内容を復習する。
	この回の到達目標	団結権、労働組合の法的位置付けを再確認する。	
	事前学修	これまでの教科書、ノートに目を通しておく。	120分
	事後学修	スライドを確認する。	120分

科目名	労働法Ⅱ	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律 経営法 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○		○					

【授業の概要】
個別的労働法分野を中心に講義する。近年雇用や働き方が大きく変化しつつある。本講義では、労働基準法など個別の分野を中心に、労働者、使用者それぞれの権利・義務について理解を深めるとともに、労働紛争が生じた場合に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
労働関係当事者のそれぞれが法律を遵守した社会経済活動を行えるようにするために、労働法や労働判例の知識を修得するとともに、変化していく社会情勢において生じる雇用・労働問題を注視し、それに対する解決策を提示できる能力を身につける。

【履修条件】
「憲法」及び民法を履修していることが望ましい。

【授業方法】
講義で指定した教科書やレジュメに沿って講義を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	講義テーマについて予めインターネット、新聞等を通じて時事問題を把握し、講義において法適用と課題とを学び、それについて発言する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	個別的労働分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
②	雇用・労働分野における現代的課題について理解し、問題意識を持つことができる。				2		2					
③	労働法の歴史的意義と機能について理解し、説明することができる。				2		2					
④	新たな労働法分野における基本的な法解釈・裁判例を正確に理解し説明できる。				2		2					
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	オンデマンド授業の場合は、毎回授業テーマに沿った課題を出す。受講生が決められた方法で課題に回（解）答したものに対して、その都度評価する（点数をつける）。総合成績評価は、これらを積算し100点満点に換算して行う	20	30	30	20							100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	20							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験を実施する場合には、授業内試験及び解説を授業期間中に実施するとともに、解説・講評をポータルシステムにて配信する。定期試験を実施する場合は、定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ労働法	新谷真人編	弘文堂	2019年	教科書	推奨
ジュリスト労働判例百選9版		有斐閣	2014	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
火曜日3時限研究室にて（メールでアポイントメントをとること）。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	ガイダンス・労働法の概要		講義の進め方、評価方法等についての説明。特に集团的労働法の概要を解説する。
	この回の到達目標	日本の法体系の中で労働法がどのように位置づけられるのかを説明できる。	
	事前学修	憲法上の社会権と労働者の権利を概観する。	120分
	事後学修	社会権および労働者の権利が憲法上承認されている意義を確認する。	120分
2	労働災害の予防		労働災害に関し事前予防のための労働安全衛生法について概要を説明する。
	この回の到達目標	労働災害を防止するために労働安全衛生法が果たしている役割を説明できる。	
	事前学修	どのような労働災害が発生しているのか厚労省の発表資料など基に調べる。	120分
	事後学修	労働者のメンタルヘルスケアについて企業が行うべき措置を考える。	120分
3	労働災害に対する補償		法律上、労働災害とは何か、また不幸にして労働災害が発生した場合、被災労働者あるいは遺族に対してどのような補償があるのか、これらを説明する。
	この回の到達目標	労働災害として労働災害補償保険法の適用を受ける場合の業務上外の認定基準について説明できる。	
	事前学修	教科書の当該箇所の導入部分を読んでおく。	120分
	事後学修	労災民訴と労災保険との関係を整理する。	120分
4	育児介護への労働者の関わり		労働者のライフステージには育児や介護にかかわる場合が生じる。労働者が働きながら育児介護に携わるための法律である育児介護休業法を説明する。
	この回の到達目標	労働者が育児介護休業等を取得する場合の要件や使用者に不利益取り扱い禁止などについて説明できる。	
	事前学修	育児や介護で休業している労働者が周辺にいる場合、実態の聞き取りをする。	120分
	事後学修	現行法の課題と改善策について考えをまとめる。	120分
5	雇用における均等・均衡待遇問題		雇用機会均等法を中心に雇用における両性の平等、雇用形態を理由とした差別的取扱いの禁止等を説明できる。
	この回の到達目標	合理的な理由ない差別が労働現場において禁止されていることを立法や裁判例を通じて説明できる。	
	事前学修	現代社会における雇用差別とはどのようなものがあるか、調べる。	120分
	事後学修	今後、雇用機会均等法がどのように展開していくと予想されるか、考える。	120分
6	労働組合とは		憲法28条で保障されている労働三権に基づき、労働者は労働組合を結成し活動することができる。労働組合に関する歴史的展開と労働組合が直面する課題について説明する。
	この回の到達目標	労働組合の意義と機能について考え、「刑事免責」「民事免責」が認めらる労働組合は単なる結社ではないこと、また憲法上保障された労働者の権利が公務員については制約されていることも説明できる。	
	事前学修	現在労働組合がどのような活動をしているのかを労働組合のホームページなどで調べる。	120分
	事後学修	これまでの企業別労働組合が直面している課題は何か、また新たな労働組合運動の課題は何かを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	労働組合法上の労働者と使用者	誰が労働組合を結成することができるのか、また誰が労働組合の相手方となる使用者となるのかについて説明する。	
	この回の到達目標	労働組合法上の労使関係当事者の決定するためには、それぞれどのような事情が必要となるのか裁判例を通して説明できる。	
	事前学修	新聞、テレビ、ウェブサイトのニュースなどで労使紛争の断面を理解する。	120分
	事後学修	労働組合法上保護を受ける前提として労働組合の組織運営等について調べる。	120分
8	不当労働行為（不利益取り扱い）	使用者は労働者が労働組合員であることなどをもって解雇などの不利益取り扱いをすることは不当労働行為として法的に禁じられている。不当労働行為制度の概要について解説する。	
	この回の到達目標	行政救済としての不当労働行為制度と司法救済を裁判例などを通じて説明できる。	
	事前学修	行政救済と取消のための行政訴訟手続きについて調べて理解しておく。	120分
	事後学修	不当労働行為制度の意義と課題について考える。	120分
9	不当労働行為の種類態様	不当労働行為の種類と態様について裁判例などを通じて説明し、不当労働行為についてはどのような救済がなされるのかを説明する。	
	この回の到達目標	不当労働行為の種類と態様によってそれぞれ救済方法も異なることなどを説明できる。	
	事前学修	労組法上の使用者概念と労働者概念についてあらためて調べる。	120分
	事後学修	不当労働行為制度の意義と課題について考える。	120分
10	団体交渉	労働組合と使用者との団体交渉の意義、団体交渉事項、使用者が団体交渉を拒否した場合などについて説明する。	
	この回の到達目標	使用者の団体交渉拒否と団体交渉応諾義務の内容について説明できる。	
	事前学修	労働者個人の労働条件決定システムについて復習する。	120分
	事後学修	団体交渉が認められてきた歴史的経緯を踏まえ、労働組合の権能について考えてみる。	120分
11	労働協約	労働組合と使用者は、労働条件などについて労働協約を締結することができる。労働協約の効力などについて説明する。	
	この回の到達目標	労働協約の形式、効力、法的性質について説明できる。	
	事前学修	労働条件決定システムにおける労働協約の位置づけを調べる。	120分
	事後学修	労働協約の効力について一般的拘束力と少数組合の独立性について考える。	120分
12	労働協約変更による労働条件の不利益変更	使用者と労働組合は労働協約を変更することにより労働組合員等の労働条件を不利益に変更することもできる。この場合の要件等について説明する。	
	この回の到達目標	労使自治、協約自治の原則により労働条件の不利益変更は可能であるが、一方で協約自治にも限界があることを説明できる。	
	事前学修	就業規則の不利益変更の場合における、有効要件を労働契約法や裁判例で確認する。	120分
	事後学修	労働協約と就業規則の役割の違いと理解したうえで、労働条件の不利益変更が認められる場合の要件を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	組合活動	労働組合は、争議行為とは別に情宣活動など通常様々な活動をしている。これらの活動が場合によっては使用者との対立事項となることもある。これらが法的に保護されるための要件について説明する。	
	この回の到達目標	判例上、正当な労働組合活動とはどのような形態をいうのか、様々な事例から説明できる。	
	事前学修	ニュースなどで労働組合活動と法的トラブルについて調べる。	120分
	事後学修	労働組合活動の意義と現代的展開について考えてみる。	120分
14	争議行為	労働組合は自らの要求を使用者に認めさせるためにストライキを行う権利を有している。こうした争議行為について説明する。	
	この回の到達目標	争議行為の意義、正当性、使用者による対抗手段等について説明できる。	
	事前学修	ニュースなどで過去日本において行われた争議にはどのようなものがあったかを調べる。	120分
	事後学修	争議行為が認められた歴史的経緯を踏まえたうえで、争議行為の現代的な意味を考えてみる。	120分
15	個別的労使紛争と救済制度	個別的労使紛争については、司法救済だけではなく行政が関与することによって問題解決を図る制度が用意されている。これについて説明する。	
	この回の到達目標	自らが労使紛争の当事者となった場合、いかなる	
	事前学修	ウェブサイト上で公的機関が設けている労働相談窓口等の種類を調べる。	120分
	事後学修	自らの権利を守るためにどのような手段を取りうるのか制度等を整理しておく。	120分

科目名	ローカル／コミュニティ・メディアⅠ	担当者	桶田 敦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	新聞	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○		○		

【授業の概要】
地域におけるコミュニケーション手段として重要な役割を果たしている、放送メディア特に地方民放（テレビ、ラジオ）や新聞、コミュニティFM等による情報発信の現況を把握する。特に、東北地方太平洋沖地震から10年となる、今年の被災地の復興と地域再生と向き合う「ローカル／コミュニティ・メディア」の取り組みを、中央メディアとの対比も交えて俯瞰する。加えてネット社会がもたらす既存メディアの変容も把握し、急速に進む日本の少子高齢化と地方の人口減、東京一極集中が問われる中、地方からの視座を堅持しつつ、地域からの情報発信を続ける地方メディアの現場主義を再評価する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
地方における世論形成を担う地方メディアの課題と使命を全国メディアの姿と併せて説明できる人材を養成することを目的とする。地方が取り組む地域再生等の報道内容を吟味し、特に、ローカル放送において、いかに地方の課題に取り組んでいるかのかを、中央目線では発信し得ないコンテンツの重要性を学修する。ジャーナリズムやメディアに係る現場などの実社会で、適切かつ積極的なコミュニケーションを実践できるようになることを目標とする。また、受講生のメディアリテラシー向上に資する。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
Zoomを使ったリアルタイムオンライン授業。 地域メディアの特徴を、過去や現在おきている事象をメディアがどう伝えていたのかを放送された番組や記事をもとに確認することを毎回の授業で行っていく。また、出来るだけ、現場の記者や担当者にオンラインで話しを聞ける機会を作る予定。 時事的な問題を扱うことが多いため、シラバスにある授業の進め方を変更する場合がある。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	グループディスカッションと発表 Responを利用したリアルタイムアンケート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中央目線では発信し得ない地方メディアならではの情報内容（コンテンツ）の重要性を説明することができる。【知識】					3	3	3	3		3		
②	ジャーナリズムやメディアに係る現場などの実社会において、適切かつ積極的なコミュニケーションを実践できるようになる。【技能】					3					3		
③	授業で関心を抱いたテーマに対し、自ら様々な報道内容や文献を調査して更なる問題発見を重ねる積極的な学修態度が備わるようになる。【問題解決】								3	3			
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	数回にわたって授業の内容に関連したレポートの提出を求める。 特に、最終課題は試験に代わるものとして重視し、到達目標③に関わる説明が出来ているのかを評価する。 提出されたレポートが書式等の要件を満たし、課題に適切に回答・考察しているかを基準に到達目標に照らして評価する。	20		40								60
討論・発表等	グループディスカッションにおける発表や討論で、自らの意見を述べられているかを基準に評価する			20								20
授業への参画度	授業後のリアクションペーパー提出を必ず行ってもらい、そこでの質問や意見表明を基準に評価する。			20								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20		80								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題やリアクションペーパーに対しては、適宜、講評、解説を行っていく。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
地域ジャーナリズム	畑中哲雄	勁草出版	2014年	その他	推奨
新版地域メディア	竹内郁郎ほか編著	日本評論社	1989年	その他	任意
災禍をめぐる記憶と語り	標葉龍馬編著	ナカニシヤ	2021年	その他	必携
備考					

【オフィスアワー】
非常勤なのでメールでの対応とする atsushi.oketa@gmail.com

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		TBSテレビ報道局解説委員 テレビユー福島報道制作局長 キー局と地方局での取材経験を通じたそれぞれの役割と違いについて

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	【ガイダンス】メディアとは		授業の目的である「そもそもメディアとは何か？」を概観し、地方におけるメディアの種類を学修する。その上で、授業全体のテーマや内容、授業計画のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、地方メディアとは何かを概論的に理解する。	
	事前学修	シラバスを確認しておくこと。	60分
	事後学修	メディアとは何か？について、講義ノートを確認する。	180分
2	地方放送メディアとは①		地方メディア、そのなかでも放送メディアの特徴について
	この回の到達目標	放送における地方局の位置づけ、キー局との関係、役割について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
3	地方放送メディアとは②		災害時における地方の放送メディアの役割 阪神淡路大震災・東日本大震災を事例に
	この回の到達目標	阪神淡路大震災や東日本大震災など大きな災害時における地方の放送メディアの役割について理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
4	地方放送メディアとは③		原発事故における地方放送メディアの役割 福島第一原発事故を事例に
	この回の到達目標	福島第一原発事故の時の放送メディアの役割、出来たこと、出来なかったことを理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
5	地方放送メディアとは④		実際に地方の放送局の記者もしくはアナウンサーにオンラインで話しをしてもらい、現場の生の声を聞く
	この回の到達目標	地方放送局に勤務する記者もしくはアナウンサーに、実体験を聞き、どんな苦労があるのか？何が視聴者から求められているのかを理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
6	地方新聞とは①		地方紙、ブロック紙、地方紙それぞれの違いと役割
	この回の到達目標	全国紙、ブロック紙、地方紙の概念を理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地方新聞とは②	地方紙とローカル放送局の違いと役割	
	この回の到達目標	地方紙と地方のローカル放送局との連携、あるいは役割の違いについて理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
8	地方新聞とは③	実際に地方の新聞社の記者にオンラインで話しをしてもらい、現場の生の声を聞く	
	この回の到達目標	地方新聞社に勤務する記者に実体験を聞き、どんな苦労があるのか？何が読者から求められているのかを理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
9	地方発信のSNS	地方におけるSNSを利用した情報発信	
	この回の到達目標	地方におけるSNSの利用にはどんなものがあるのかを知り、どんな情報が求められているのかを理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
10	地方におけるコミュニティFM①	コミュニティFMの役割	
	この回の到達目標	コミュニティFMは地域ならではの放送局であること。地域密着型のラジオ局の役割を理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
11	地方におけるコミュニティFM②	実際に地方における地域コミュニティFMの担当者にオンラインで話しをしてもらい、現場の生の声を聞く	
	この回の到達目標	コミュニティFMを運営している担当者に実体験を聞き、どんな苦労があるのか？聴取者は何をもとめているのかを理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
12	地方からの発信①	地方の放送局における全国への情報発信の仕組みと役割	
	この回の到達目標	地方の放送局の役割の一つである、全国あるいは世界に地域で起こっていることの情報を発信する機能があるが、その仕組みと役割を理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地方からの発信②	地方におけるドキュメンタリー制作	
	この回の到達目標	ドキュメンタリーは地方局で盛んに制作されているが、その現状と作品内容を理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
14	地方からの発信③	地方でドキュメンタリーを制作しているディレクターに話を聞く	
	この回の到達目標	地方局ならではのドキュメンタリー制作者、その仕事にふれ、地方の課題解決のためにドキュメンタリーが持つ役割を理解する。	
	事前学修	事前に配布した資料に目を通しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分
15	まとめ	授業全体のまとめ、地方メディアの役割を再度確認	
	この回の到達目標	授業全体をレビューしながら、地域メディアの役割を再度整理し、理解する	
	事前学修	これまでの資料を見返しておくこと。	120分
	事後学修	講義ノートを確認する。リアクションペーパーに与えられたテーマで感想を書くこと。	120分

科目名	ローマ法 I	担当者	出雲 孝	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
新型コロナウイルスの現況に鑑みて、原則的にオンデマンド方式とする。動画の配信およびレジュメの配布をおこなう。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての西洋法制史に関する基礎的な知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	50									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ物権法講義	ゲオルク・クリンゲンベルク（著）＝瀧澤栄治（訳）	大学教育出版	2007	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	物の種類と分類		古典期ローマ法における物の種類とその分類を学修する。物概念は財産法の基礎であり、どのような物が規律の対象となるかは、財産法全体の構造を規定する問いである。この問いを導きの糸として、古代社会と現代日本社会との比較を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における物概念と日本の民法における物概念との異同を理解し、現代日本社会における物概念の特徴を記述することができる。		
	事前学修	日本の民法典における物の定義、種類、分類を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における物概念と日本の民法典における物概念との異同を整理し、現代日本社会における物の特徴をまとめる。		120分
2	占有（総論）		古典期ローマ法における占有の基本ルールを学修する。占有はローマ法の中でも難解な部類に属しており、現在においてもその社会的実像は強い関心を引いている。この講義では、その最も基礎的な部分を学修し、ローマ占有法の全体像を把握するための手がかりを提供する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の基本概念を理解し、日本法における占有概念と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有制度を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有制度と日本の民法典における占有制度との異同を整理し、現代日本社会における占有制度の概要をまとめる。		120分
3	占有（占有の取得・継続・喪失）		古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失に関するルールを学修する。占有の取得等の方法は多様であり、必ずしも画一的な基準に服するものではない。この講義では、その多様な占有の取得等を網羅的に紹介し、個々の具体的態様についても解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失に関するルールを理解し、日本法における占有の取得等のプロセスと比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有の取得、継続および喪失に関するルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有の取得、継続および喪失と日本の民法典におけるそれらとの異同を整理し、日本法における占有の取得等のプロセスをまとめる。		120分
4	占有（占有の保護）		古典期ローマ法における占有の保護に関するルールを学修する。ローマ法における占有保護手段の中核は「特示命令（interdictum）」と呼ばれるものであり、この講義では、当該制度を中心に解説を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における占有の保護に関するルールを理解し、日本法における占有保護の諸制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における占有の保護に関するルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における占有の保護と日本の民法典における占有の保護との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
5	所有（総論）		古典期ローマ法における所有の基本ルールを学修する。所有は近代法と最も密接な関連のある制度のひとつであるが、ローマ法上の「所有（dominium）」概念は、必ずしも近代法のそれと一致するわけではない。この講義ではその異同に注目しつつ、近代法の基盤である私的所有権制度の前身としてのローマ所有法を解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有の基本ルールを理解し、日本法における所有権概念と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有制度を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有制度と日本の民法典における所有制度との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
6	所有（相隣関係）		古典期ローマ法における相隣関係のルールを学修する。相隣関係は、所有権の絶対性を破る重要な例外のひとつであり、古代ローマにおいても無思慮な建設等は社会的制約を受けた。この講義では、古代ローマ人たちが相隣関係をどのように規律して生活していたのか、その一端を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における相隣関係のルールを理解し、日本法における相隣関係法と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における相隣関係のルールを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における相隣関係のルールと日本の民法典における相隣関係のルールとの異同を整理し、日本法における相隣関係の特徴をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	所有（原始取得）		古典期ローマ法における所有権の原始取得のルールを学修する。日本法においても原始取得と承継取得の区別は維持されており、この講義では、原始取得から順番に紹介を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の原始取得のルールを理解し、日本法における所有権の原始取得のルールと比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有権の原始取得を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の原始取得と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
8	所有（承継取得）		古典期ローマ法における所有権の承継取得のルールを学修する。この講義では、前回の原始取得の学修を踏まえた上で、所有権の承継的な取得について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の承継取得のルールを理解し、日本法における所有権の承継取得と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有権の承継取得を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の承継取得と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
9	所有（所有権の保護）		古典期ローマ法における所有権の保護制度を学修する。ローマ法上の所有権の保護は、いわゆる「所有物取戻し請求（rei vindicatio）」をはじめとして多岐に渡る。この講義では、日本法との異同に注意しつつ、これらの所有権保護制度を概観する。古典期ローマ法における所有権の保護制度を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における所有権の保護制度を理解し、日本法における所有権の保護制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における所有権の保護制度を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における所有権の保護制度と日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
10	役権		古典期ローマ法における「役権（servitus）」を学修する。役権は日本法においても地役権等の制度に名残をのこしているが、必ずしも同一の法制度であるとはいえない。この講義では、古代ローマ社会において重要な役割を果たしてきた役権について、日本法との異同に注意しつつ紹介を行なう。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における役権を理解し、日本法における類似制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における地役権を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における役権と日本の民法典における地役権との異同を整理し、日本法における地役権との違いをまとめる。		120分
11	用益権		古典期ローマ法における「用益権（ususfructus）」を学修する。用益権は旧民法では認められていたものの、現行民法の編纂過程で削除された経緯がある。日本では馴染みのない概念であるけれども、比較法上は重要な地位を占める。この講義では、ローマ法上の用益権の紹介を通じて、日本法の特徴について考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における用益権を理解し、説明することができる。		
	事前学修	日本の旧民法の編纂過程において用益権が削除された理由を調べる。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における用益権を踏まえた上で、日本の民法典が用益権を採用していないことによって生じている論点を整理し、考察する。		120分
12	担保権		古典期ローマ法における担保権を、「質（pignus）」を中心に学修する。現代日本においても「質」という用語は民法典に明確に規定されているけれども、歴史的には日本法における意味が普遍的に妥当するわけではない。この講義では、質契約についても踏まえつつ、古代ローマにおける担保制度を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における担保権を、質を中心に理解し、日本法における担保権と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の民法典における担保権を復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における担保権と日本の民法典における担保権との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	盗		古典期ローマ法における「盗（furtum）」を学修する。現代法においては私法と公法とが明確に区別されており、窃盗罪と窃盗によって生じた財産権侵害の私法上の救済（例えば損害賠償請求）とは分けて規律される。この講義では、私法と公法の区別が明確ではない古代ローマ法における盗の取り扱いを紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における盗を理解し、日本法における諸制度と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の法制度では窃盗に対して私法・公法上どのようなルールがあるかを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における盗に対するルールと日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
14	不法損害		古典期ローマ法における「不法損害（injuria）」を学修する。日本法もそうであるように、他人の名誉を傷つけることは、公法上のみならず私法上も救済の対象となる。この講義では、古代ローマ法における「不法損害」という概念を通じて、人格侵害に対する救済を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における不法損害を理解し、現代日本における人格権の保護と比較して説明することができる。		
	事前学修	日本の法制度では他人の人格を貶めた場合に私法・公法上どのようなルールがあるかを復習する。		120分
	事後学修	古典期ローマ法における人格侵害に対するルールと日本の民法典におけるそれとの異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。		120分
15	まとめ（ローマ物権法の有機的理解）		この講義では、古典期ローマ法における物権法および不法行為法をまとめ、現代法との異同を確認し、その歴史的発展について反省を加える。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義において扱われてきたテーマを総体的に理解し、相互に関連づけた上で、現代法との比較を行なうことができる。		
	事前学修	第14回までの講義で扱われたテーマを整理し、その相互連関を考察する。		120分
	事後学修	法の歴史的発展について、物権という観点から考察を加えた上で、現代の日本法にどのような示唆を与えることができるかを考える。		120分

科目名	ローマ法Ⅰ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
主として、講義形式（オンデマンド形式）で行なう。毎回の課題とその講評を通じて、講義内容の理解の深化をはかる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。				2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。				2	2						
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①②に関連して、ローマ法に関する基礎的な知識の修得度及び理解度を各回の課題提出によって評価する。	25	25									50
レポート等	到達目標①②に関連して、ローマ法に関する基礎的な知識の修得度及び理解度をs最終レポート課題の提出によって評価する。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
各回の次週の授業後に解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ法の歴史	マンテ著田中・瀧澤訳	ミネルヴァ書房	2008	参考書	推奨
歴史の中の民法－ローマ法との対話	ベーレンツ著 河上正二訳	日本評論社	2001	参考書	推奨
新ローマ法案内	木庭 顕	勁草書房	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室 yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	前学期のオリエンテーション・ローマ法史概説	授業の進め方や成績評価について説明するとともに、ローマ法の歴史を概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、十分な授業の準備ができるようになる。	
	事前学修	参考書を手がかりに、ローマ法史及び日本近代法史についての基礎的な知識を修得しておくこと。	120分
	事後学修	参考書を手がかりに、ローマ法史及び日本近代法史についての理解を確認しておくこと。	120分
2	日本民法典と西欧的法伝統（１）	明治期の西欧法継受・法典編纂史及び学説継受について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、明治期の西欧法継受・法典編纂史及び学説継受について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	日本近代法史について、ベーレンツ著河上正二訳著『歴史の中の民法ーローマ法との対話』補講１などを参考に基礎的な知識を修得しておくこと。	120分
	事後学修	上参考書を手がかりに、日本近代法史についての理解を深めておくこと。	120分
3	日本民法典と西欧的法伝統（２）	日本民法典とローマ法との関係について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本民法典とローマ法との関係について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	日本近代法史について、ベーレンツ著河上正二訳著『歴史の中の民法ーローマ法との対話』補講１などを参考に基礎的な知識を修得しておくこと。	120分
	事後学修	参考書を手がかりに、日本近代法史についての理解を深めておくこと。	120分
4	ローマ古代 十二表法以前（１）	最古の所有権訴訟・神聖賭金による対物的法律訴訟について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、最古の所有権訴訟・神聖賭金による対物的法律訴訟について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりにローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。	120分
5	ローマ古代 十二表法以前（２）	握取行為による儀式的所有権移転・ネクスムについて説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、握取行為による儀式的所有権移転・ネクスムについて基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりにローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。	120分
6	ローマ古代 十二表法とその社会（１）	家族法・家長権・婚姻について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、家族法・家長権・婚姻について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、家族制度の歴史をどのように考えるか、理解を深めておくこと。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ローマ古代 十二表法とその社会 (2)	共和政期の国制・十二表法の成立について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、共和政期の国制・十二表法の成立について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、十二表法以後のローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。	120分
8	ローマ共和政期(1)	古代ローマにおける法学の誕生・神官法学について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマにおける法学の誕生・神官法学について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、古代ローマにおける法学の誕生・神官法学について基本的な理解を修得しておくこと。	120分
9	ローマ共和政期(2)	法学の形成に関するギリシア思想の影響について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、法学の形成に関するギリシア思想の影響について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、法学の形成に関するギリシア思想の影響について基本的な理解を確認すること。	120分
10	ローマ古典期(1)	ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。	120分
11	ローマ古典期(2)	ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。	120分
12	ローマ古典期以後の時代	テオドシウス法典をはじめ、ローマ古典期以後の時代めぐる諸問題について概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、テオドシウス法典をはじめ、ローマ古典期以後の時代めぐる諸問題について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、テオドシウス法典をはじめ、ローマ古典期以後の時代めぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ユスティニアヌスの時代	ユスティアヌス法典の成立・ビザンツ帝国と法について説明する。	
	この回の到達目標	ユスティアヌス法典の成立・ビザンツ帝国と法について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ユスティアヌス法典の成立・ビザンツ帝国と法について基本的な理解を確認すること。	120分
14	前学期の総復習	前学期の総復習を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの理解を再確認する。	
	事前学修	配布された資料をもとに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
	事後学修	試験をふまえつつ、配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
15	最終レポートび解説	授業全般からレポート課題を課し、提出されたについての解説・講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、試験を通してローマ法についての理解を深める。	
	事前学修	配布された資料をもとに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、前学期の講義内容の全般を復習し理解を深めるとともに、現代法との接続を考えること。	120分

科目名	ローマ法Ⅱ	担当者	出雲 孝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
特にありません。

【授業方法】		
新型コロナウイルスの現況に鑑みて、原則的にオンデマンド方式とする。動画の配信およびレジュメの配布をおこなう。また、到達目標①②に関連して、各テーマについてケース・スタディを通じた知識確認とその応用にも取り組む。学修したテーマに関する課題提出を定期的におこない、到達目標の達成度を確認する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①②についての西洋法制史に関する基礎的な知識が身についているかを、WEB上の提出物により評価する。	50	50									100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物や質問等につき、次回の講義冒頭で講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ債権法講義	ゲオルク・クリンゲンベルク（著）＝瀧澤栄治（訳）	大学教育出版	2001	参考書	任意
備考	教科書は使用しません。				

【オフィスアワー】
水曜日14:40-16:10（Zoomで行うことも考えられるので、事前にizumo.takashi@nihon-u.ac.jpへ連絡してください）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	訴権法体系の基礎	古典期ローマ法における訴権の概念を学修する。日本法はドイツ法の影響から、請求権を中心とする私法体系を構築している。この講義では、それとは異なる「訴権（actio）」概念を用いた古典期ローマ法の体系を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、訴権を基礎とする古典期ローマ法と請求権を基礎とする現代法との差異を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における請求権の概念を復習する。	120分
	事後学修	講義で扱った訴権法体系と現代の請求権との違いを整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
2	債務関係の分類	古典期ローマ法における様々な債務関係について、契約を中心に学修する。日本の民法典にも契約カタログが準備されているように、古典期ローマ法においても有名契約という概念が存在した。そこではいわゆる類型強制という仕組みが重要な役割を果たす。この講義では、契約自由の原則が妥当しない古代ローマ法における債務関係の基礎を紹介する。古典期ローマ法における様々な債務関係について、契約を中心に学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ法における債務関係が現代法の基礎になっていることを理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における債務関係にはどのようなものがあるかを調査する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における債務関係と日本法における債務関係との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
3	要物契約（消費貸借）	この回からは、順次、古典期ローマ法における契約カタログを、個々の類型ごとに概観していく。まず最初に要物契約から取り掛かり、古典期ローマ法における「消費貸借（mutuum）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における消費貸借と日本の民法典における消費貸借との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における消費貸借とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における消費貸借と日本の民法典における消費貸借との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
4	要物契約（寄託・使用貸借・プレカリウム）	古典期ローマ法における「寄託（depositum）」「使用貸借（commodatum）」「プレカリウム（precarium）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における寄託および使用貸借と日本の民法典における寄託および使用貸借との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における寄託および使用貸借とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における寄託および使用貸借と日本の民法典における寄託および使用貸借との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。また、古典期ローマ法で認められていたプレカリウムという法制度がなぜ現代法では消失しているのかを考える。	120分
5	要物契約（質・信託）	古典期ローマ法における「質（pignus）」および「信託（fiducia）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における質および信託と日本の民法における質および信託との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における質および信託とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における質および寄託と日本法における質および信託との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
6	言語契約（問答契約）	古典期ローマ法における「問答契約（stipulatio）」のあり方を学修する。問答契約は、契約内容自由の原則が妥当しない古代ローマ法において、契約に付随的な条項を追加する重要な手段のひとつであった。この講義では、契約内容自由の原則の意義を再確認する文脈で、問答契約の仕組みを解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における問答契約とその社会的機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	現代日本における契約が文言上の要式性を求められていない理由を考える。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における問答契約は、現代日本におけるどのような制度によって代替されているのかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	諾成契約（売買：総論）	古典期ローマ法における「売買（emptio venditio）」のあり方を、成立要件および効果の面から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における売買の成立要件と効果を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における売買とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における売買と日本の民法典における売買との異同を、その成立要件および効果の観点から整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
8	諾成契約（売買：担保責任）	古典期ローマ法における「売買（emptio venditio）」のあり方を、担保責任の面から学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における売買がどのような担保責任によって支えられていたかを理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における売買にはどのような担保責任があるのかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における売買と日本の民法典における売買との異同を、担保責任の観点から整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
9	諾成契約（賃約）	古典期ローマ法における「賃約（locatio conductio）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における賃約とその社会的機能を理解し、説明することができる。	
	事前学修	賃約は日本法におけるどの契約類型に対応しているかを調査する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における賃約が日本の民法典においてどのようなかたちで現れているかを整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
10	諾成契約（委任）	古典期ローマ法における「委任（mandatum）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における委任と日本の民法典における委任との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における委任とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における委任と日本の民法典における委任との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
11	諾成契約（組合）	古典期ローマ法における「組合（societas）」のあり方を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における組合と日本の民法典における組合との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における組合とはどのような契約類型であるかを復習する。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における組合と日本の民法典における組合との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
12	無名契約	古典期ローマ法における無名契約のあり方を学修する。契約内容自由の原則が妥当する現代法においては、ある契約が有名契約であるかそれとも無名契約であるかは、民法典の規定の直接的な規律に服するか否かという点において、どちらも有効な契約であることに変わりはない。しかし、古代ローマにおいては、無名契約であることは救済対象にならないというリスクに晒されていた。この講義では、そのような状況下における無名契約の救済手段を紹介する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における無名契約と日本の民法典における無名契約との異同を理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における無名契約とはどのような概念であるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における無名契約と日本法における無名契約との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	無方式合意		古典期ローマ法における「無方式合意（pactum）」のあり方を学修する。契約内容自由の原則が妥当する現代法においては、当事者は何ら方式によらずに自由に付随的な合意をなすことができる。しかし、古代ローマ法においては、無方式合意は訴権を発生させず、そのままでは履行を貫徹させられないという構造があった。この講義では、そのシステムと救済手段について紹介する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における無方式合意を理解し、日本法におけるどのような制度と対応関係があるのかを説明することができる。	
	事前学修	日本の契約実務における付随的な合意にはどのようなものがあるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における無方式合意と、日本法における付随的な合意との異同を整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
14	準契約		古典期ローマ法における準契約のあり方を学修する。この講義で扱う準契約とは、いわゆる事務管理や不当利得に類する制度であり、日本法と比較してさまざまな異同を有していた。この講義ではそれらの異同を踏まえつつ、古代ローマ法上の準契約という概念を解説する。古典期ローマ法における準契約のあり方を学修する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古典期ローマ法における準契約を、事務管理およびコンディクチオを中心に理解し、説明することができる。	
	事前学修	日本法における準契約とはどのような概念であるかを調べる。	120分
	事後学修	古典期ローマ法における準契約と、日本の民法典における準契約との異同を、事務管理およびコンディクチオを中心に整理し、日本法の特徴をまとめる。	120分
15	まとめ（ローマ債権法の有機的理解）		この講義では、古典期ローマ法における債務法をまとめ、現代法との異同を確認し、その歴史的発展について反省を加える。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、これまでの講義において扱われてきたテーマを総体的に理解し、相互に関連づけた上で、現代法との比較を行なうことができる。	
	事前学修	第14回までの講義で扱われたテーマを整理し、その相互連関を考察する。	120分
	事後学修	法の歴史的発展について、債権という観点から考察を加えた上で、現代の日本法にどのような示唆を与えることができるかを考える。	120分

科目名	ローマ法Ⅱ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択	法律	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○						

【授業の概要】
民法典の淵源としての古代ローマ法の契約法と不法行為法という考え方がいかに生まれそしてそれが現代のそれとつながっているか、具体的なローマ法文の読解を通じて解説する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきた民法典の淵源であるローマ法における契約法と不法行為法の考え方の基礎を学修することにより、自ら考えぬく法律的思考の習慣を修得する。

【履修条件】
とくにありません。

【授業方法】
主として、講義形式(オンデマンド形式の予定)で行なう。各回の課題の提出と講評を通じて、講義内容の理解の深化をはかる。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学修者が、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざす。					2	2						
②	学修者が、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識する。					2	2						
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	ローマ法に関する基礎的な知識の習得度及び理解度を毎回の課題提出その講評を通じて評価する。	25	25									50
レポート等	ローマ法に関する基礎的な知識の習得度及び理解度を最終レポート課題の提出と講評を通じて評価する。	25	25									50
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内試験終了後、解説を行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
ローマ法の歴史	マンテ著田中・瀧澤 訳	ミネルヴァ書房	2008	参考書	推奨
歴史の中の民法－ローマ法との対話	ベーレンツ著 河上正 二訳	日本評論社	2001	参考書	推奨
新ローマ法案内	木庭 顕	勁草書房	2017	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
金曜日 12：10～13：00（事前にメール yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp までアポイントメントをとってください。） 研究室 無

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	後学期のオリエンテーション・ローマ民事訴訟法概説	ローマ民事訴訟法の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ民事訴訟法についてについて基本的な理解を修得する。	
	事前学修	参考文献などを手がかりに、後期の講義内容についての基礎的な理解を修得しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ民事訴訟法についてについて基本的な理解を確認すること。	120分
2	ローマ刑事法	ローマ刑法・刑事訴訟の歴史的展開について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ刑法・刑事訴訟の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ刑法・刑事訴訟の歴史的展開について基本的な理解を確認する。	120分
3	ローマ所有権法（１）	ローマ所有権法について概説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ所有権法について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりにローマ所有権法についてについて基本的な理解を確認すること。	120分
4	ローマ所有権法（２）	資料を講読しながらローマ所有権法の基本的な考え方を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ所有権法について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ法史料を読みつつ、ローマ所有権法の考え方についての理解を深めておくこと。	120分
5	契約法（１）－ローマ契約法の歴史概説	ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。	120分
6	ローマ契約法（２）－問答契約	ローマ契約法の歴史的展開として、とくに問答契約について基本的な理解を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ローマ契約法（３）－諾成契約・売買	ローマ契約法の歴史的展開のうち諾成契約及び売買について基本的な理解を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。	120分
8	ローマ契約法（４）－諾成契約・賃約	ローマ契約法の歴史的展開のうち諾成契約及び賃約について基本的な理解を説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。	120分
9	ローマ不法行為法（１）－市民法上の不法行為	主としてローマ法における市民法上の不法行為法について説明修得する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主としてアクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、アクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を確認すること。	120分
10	ローマ不法行為法（２）－不法損害	主としてアクィリウス法に基く不法損害について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主としてアクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、アクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を確認すること。	120分
11	ローマ不法行為法（３）－不法行為の歴史的展開・中世	不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、不法行為法の歴史的展開として、民法719条前史について基本的な理解を確認すること。	120分
12	ローマ不法行為法（４）－不法行為法の歴史的展開－近世	不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、不法行為法の歴史的展開として、民法709条前史について基本的な理解を確認すること。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ローマ家族法の諸問題	家父長制・婚姻・相続に関する法的問題について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、家父長制・婚姻・相続に関する法的問題について基本的な理解を修得する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、家父長制・婚姻・相続に関する法的問題について基本的な理解を確認すること。	120分
14	後学期のまとめ	後学期の内容を振り返る。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後学期の内容を確認する。	
	事前学修	配布された資料をもとに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
	事後学修	試験をふまえつつ、配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。	120分
15	後学期全般の復習及び最終レポート課題について講評	後学期全般の復習及び最終レポート課題について講評を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、後学期の内容を確認する。	
	事前学修	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。	120分
	事後学修	配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めるとともに、現代法との接続を考えること。	120分

VIII群

教職課程科目

VIII群

教職課程科目

科目名	教育課程論	担当者	奥田 智	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。その際、全国学力・学習状況調査結果等から生徒の学習課題を明らかにするとともに、カリキュラム・マネジメントをはじめとする教育課程編成に関わる全国の事例研究を行う。また、過去の学習指導要領の改訂の歴史的な変遷にも触れながら、教育課程編成の意義についても理解する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。 【到達目標】 1. 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、説明できるようになること。 2. 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、説明できるようになること。 3. 学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、説明できるようになること。 4. 学習指導要領改訂にある背景及び要点を理解し、説明できるようになること。

【履修条件】
教員免許の取得を目指す者

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な教育課程編成の事例研究などについては原則は講義形式で行うが、必要に応じて演習形式も随時取り入れ、対話的・協働的な学びの場とする。レポートの講評を授業内にて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第5回以降、事例研究に関する課題に関わる演習及びディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	教育課程の基本概念について説明できる。【知識】								
②	新学習指導要領のねらいについて説明できる。【知識】								
③	カリキュラム・マネジメントについて説明できる。【知識】								
④	学校における教育課程編成の手続きと内容について調査及び説明することができる。【知識】【技能】								
⑤	教育課程の意義について積極的に意見を述べることができる。【態度・習慣】【技能】								
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第3回の授業内において到達目標①②③に関わる内容が理解できているか、レポート等の作成を通して確認する。	20	20	20								60
討論・発表等	第7回及び15回の授業内において到達目標④⑤に関わる事例を踏まえてディスカッション等を行い理解度を確認する。				20	20						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート等及びディスカッション後に講評を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校学習指導要領解説総則編		文部科学省	平成30年度		任意
中学校学習指導要領解説総則編		文部科学省	平成29年度		任意
備考					

【オフィスアワー】
メールで質問を受け付ける。okuda.satoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員 教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員・教育委員会指導主事の経験を生かして学習指導案作成及び模擬授業指導においてより学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	教育課程	教育課程の基本概念について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して教育課程の基本概念について理解し説明することができる。	
	事前学修	教育課程の基本概念について事前に調べる。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
2	学習指導要領	学習指導要領の変遷と時代背景について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して学習指導要領の変遷と時代背景について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
3	学習指導要領	新学習指導要領のねらいについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して新学習指導要領のねらいについて理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
4	教育課題	国際学力調査及び全国学力学習状況調査結果からわかる教育課題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して教育課題について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
5	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。1	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
6	教育課程編成	教育課程編成の事例研究を行う。2	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	教育課程編成		教育課程編成の事例研究を行う。3	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程編成について理解し説明することができる。		
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。		120分
	事後学修	授業中に指示する。		120分
8	カリキュラム・マネジメント		カリキュラム・マネジメントの重要性について説明する。	
	この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。		
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。		120分
	事後学修	授業中に指示する。		120分
9	カリキュラム・マネジメント		総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(調査等による課題把握)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。		
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。		120分
	事後学修	授業中に指示する。		120分
10	カリキュラム・マネジメント		総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(課題の対応策検討)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。		
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。		120分
	事後学修	授業中に指示する。		120分
11	カリキュラム・マネジメント		総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(評価及び更なる改善)	
	この回の到達目標	到達目標③に関連してカリキュラム・マネジメントの重要性について理解し説明することができる。		
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。		120分
	事後学修	授業中に指示する。		120分
12	教育課程編成の手続きと内容		学校における教育課程編成の手続きと内容について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して学校における教育課程編成の手続きと内容について理解し説明することができる。		
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。		120分
	事後学修	授業中に指示する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	教育課程の意義		教育課程の意義について解説する。(授業改善の重要性)
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
14	教育課程の意義		教育課程の意義について解説する。(学校改善の重要性)
	この回の到達目標	到達目標④に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分
15	総括		教育課程の意義について総括する。
	この回の到達目標	到達目標④⑤に関連して教育課程の意義について理解し説明することができる。	
	事前学修	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。	120分
	事後学修	授業中に指示する。	120分

科目名	教育原論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教育を人類の歴史の中に位置づけ、教育を人類の営みと考えるて教育の原理を考察する。多くの教育論の中から、教育学の成立と発展に大きな影響を与えた人々の教育観に注目して教育について考察する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人間と教育の関係、学校の成立とそれを支える教育思想、を歴史的な視点から理解することを目的とし、これからの教育の在り方を自ら考察することができるようになることを目標とする。

【履修条件】
教員採用試験の受験を考えている学生。

【授業方法】
講義だけでなく、教員採用試験対策問題等を行いながら、解説を加えていく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	BYODを用いた資料検索を通して、自ら考え、自らの意見をまとめられる学生の育成	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育政策の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の教育政策が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	「子どもの貧困」はどこに原因があるのか、問題点を明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現在の教育政策の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。											
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。				10	10						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポートの模範例を示すとともに、ABCの3段階で評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育政策・行政	安藤忠・壽福隆人監修	弘文堂	平成25年3月		必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	人類と教育	人類のいとなみと教育の関係について	
	この回の到達目標	人類史の中で教育をとらえられるようになる。	
	事前学修	各自の教育歴を自ら振り返り、今の自分という人格がはどのようにして形成されたのかを考える。それをもとに人がどのよう成長していくか、人の人格はどのように形成されていくのかについて考える。	120分
	事後学修	文献やインターネットを利用して、人の営みと教育が深くどのように深く関連しているのかを説明する事例を収集する。その中から、各自が各自の言葉で教育について表現できるようにする。	120分
2	教育現象の分類	教育現象の分類について（海後宗臣の教育論紹介を例として）	
	この回の到達目標	教育現象は単純な現象ではなく、分類して検討できることを理解する。	
	事前学修	あらゆる生活現場で起きている教育現象の中から、人格の形成において、人類に共通する問題に注目して、その事例を収集整理する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「陶冶」「教化」「形成」という教育現象の分類を通して教育を考え整理する。この三つの教育現象のそれぞれの特徴をまとめる。	120分
3	「子ども」文化とはなにか	「子ども」文化の成立と教育の発達について（久木幸男の教育論紹介を例として）	
	この回の到達目標	子どもが子どもの自身の文化を持ち始めたことについて理解する。	
	事前学修	「子どもの遊び」について考える。子どもが子ども時代しか使わない玩具、子どもの時代しか遊ばない遊びの収集を通して、子どもの文化が成立する時代を考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、文明の発達が「子ども」を生み出したという理論を理解する。同時に「青年期」も文明の発達の所産であることを確認し、子どもや青年期について、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
4	学校の定義	学校の定義について考える	
	この回の到達目標	学校とは何か、なぜ人類は学校を発展させたかについて理解する。	
	事前学修	学校とは何か、学校の発生はいつかという問題に答えることができる文献や記事を収集する。同時に、庶民が学校に通うようになったのはいつ頃かについても考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学校が持つ教育機能について知見を広める。同時に庶民のための学校が存在しない時代でも、庶民は教育を受けていた事実を理解する。	120分
5	古代ギリシャの教育	近代教育学成立以前の教育・学校（古代ギリシャの教育の紹介）	
	この回の到達目標	アテネとスパルタの古代ギリシャの教育を比較して、教育の本質を考える。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目で学んだことを手掛かりに、古代ギリシャの歴史を調べ、アテネとスパルタの国家体制の違いに注目する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、社会体制の違いが教育のありかたに強く影響することを古代ギリシャの諸ポリスの例から確認することができることを、自らの表現で説明できるようにする。	120分
6	ルソーの教育思想	ルソーの教育思想 ― 子どもの発見とは何か ―	
	この回の到達目標	教育学成立の源流としてルソーの教育思想について理解する。	
	事前学修	第3回目の講義を手掛かりに、子どもの発見者と呼ばれるルソーについての知見を広める。高等学校や大学講義を手掛かりにして、18世紀のヨーロッパの歴史を調べる。	120分
	事後学修	教育学の成立・発展にルソーが果たした役割についてまとめる。『エミール』を読む。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	新教育運動	新教育運動の展開	
	この回の到達目標	近代中部ヨーロッパで展開した教育活動を理解する。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、16世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。とくに、宗教改革について注目し、スイス、チェコ、ドイツなど中部ヨーロッパの歴史を理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コメニウスの生涯と彼の著作『大教授学』及び「世界図絵」が今日の学校教育に及ぼした影響についてまとめる。	120分
8	ペスタロッチの教育思想	近代教育学の成立（1）ペスタロッチの教育思想	
	この回の到達目標	ペスタロッチの教育思想を学び、近代教育学成立の源流を理解する。	
	事前学修	ナポレオン戦争などを通して多くの孤児が生まれた18世紀前後のヨーロッパの歴史を調べる。当時の社会福祉政策がどのようなものであったかなど混乱したヨーロッパの状況を調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ペスタロッチの生き方と後に「直観教授」と呼ばれる教授法の開発についてまとめ、各自が自らの言葉でペスタロッチの業績を説明できるようにする。	120分
9	ヘルバルトの教育思想	近代教育学の成立（2）ヘルバルトの教育思想	
	この回の到達目標	ヘルバルトの生涯を理解し、教育学成立の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、18世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ヘルバルトとペスタロッチの出会いや教育学成立に果たした役割についてまとめ、自らの言葉でその意義を説明できるようにする。	120分
10	デューイの教育思想	進歩主義教育運動の展開	
	この回の到達目標	プラグマティズムとデューイの教育思想を理解し、アメリカでの教育学発達の意味を理解する。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、新教育運動がアメリカに伝わって、進歩主義教育といわれるようになった経緯を明らかにし、デューイ主義が世界に及ぼした影響についてまとめる。	120分
11	コアカリキュラム	デューイ主義とコアカリキュラム	
	この回の到達目標	コアカリキュラムとは何かを理解する。	
	事前学修	教育学用語としての「コアカリキュラム」、近年文科省が指摘している「コアカリキュラム」の意味について、教育学辞典や書籍を検索してまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、コアカリキュラムの意味を理解し、自らの言葉で説明できるようにする。	120分
12	日本近代教育史	わが国近代公教育の成立と発展	
	この回の到達目標	わが国の学校教育発展の過程から教育の意義や意味を理解する。	
	事前学修	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、近代日本の教育政策について調べる。とくに、富国強兵政策と教育政策の関係についてまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、戦前の学校教育が国家主義教育と呼ばれる理由についてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	戦後教育改革	戦後教育改革と学習指導要領の変遷	
	この回の到達目標	戦後教育改革の理念を理解して、現代教育の原点を知る。	
	事前学修	戦後教育改革とはどのようなものであったかを理解するために、高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、終戦と戦後史について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、戦後教育改革が目指したものについてまとめる。とくに、GHQが示した日本の教育改革への指令が意味していたものとは何かまとめる。	120分
14	現代教育の原点	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育	
	この回の到達目標	ゆとり教育成立の背景を理解し、現代の教育の原点を知る。	
	事前学修	1970年代後半から日本の学校教育が直面した「いじめ」、「非行」、「校内暴力」という言葉について、文献や記事さらにインターネットで調べる。	120分
	事後学修	1970年代後半から1980年代にかけて日本の教育界が目指したものとは何であったか。そこから試行されてきた「ゆとり教育」の導入がもたらしたものとは何だったか、講義ノートを確認して、まとめる。	120分
15	現代の教育	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育	
	この回の到達目標	新学力観による学校教育の意味を理解し、これからの教育を展望できるようになる。	
	事前学修	「ゆとり教育」の時代から新しい価値観の教育へと変遷した経過について、文献や記事さらにインターネットで調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、これからの学校が求められるものとは何か、どのような改革が必要か、各自が自らの言葉で表現できるようにする。	120分

科目名	教職実践演習(中・高)	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
これまでの教職課程での学びを総括するかたちで学習を進めていきます。学校教育現場の実践知を客観的に分析することを目的とします。 【文部科学省「教職実践演習」設置の意向に沿うように、学校教育現場の教師を外部講師として招聘し、教育実践家から学びます】

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
学校教育現場の実践知を客観的に分析することを目的とします。受講者の多数が介護等体験や教育実習を経験していることを踏まえ、これまで学び得た知見をグループによる発表と討議をもって、共有、相対化できることを最終的な到達目標とします。

【履修条件】
教職を志望する学ぶ4年生を対象とします。

【授業方法】		
個人報告を中心に進めます。報告内容には、授業ごとに講評いたします。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～14回のいずれかを予定）。なお、予習復習の時間は、あくまで目安であり、個々人の生活状況に応じて調整してください。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	教職の歴史的意義と、現代における多様な課題について理解し、自己の見解を叙述できる。												
②													
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	口頭報告の内容に関するレポート（50%）。	50										50
討論・発表等	個々人による口頭報告（50%）。	50										50
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
		到達目標別の比率(%)										100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業ごとの口頭報告に対するリプライ。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定いたしません。				

【オフィスアワー】
金曜日14時30分～16時。研究室にて。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・導入講義	授業の進め方についての説明とグループ分け。	
	この回の到達目標	授業の目的について理解する。	
	事前学修	新聞をチェックし、教職に関する話題に目を向ける。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
2	公教育と教育実践	学生による発表報告（1）学校教育現場の構造について学ぶ。	
	この回の到達目標	公教育と教育実践について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
3	学校教育現場と教職の意義	学生による発表報告（2）学校教育現場の「実践知」について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教職の意義について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
4	学校教育現場と生活指導	学生による発表報告（3）学校教育現場における生活指導について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と生活指導の意義について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
5	学校教育現場と教科教育	学生による発表報告（4）学校教育現場における教科教育について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教科教育の関係について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
6	学校教育現場と授業実践	学生による発表報告（5）学校教育現場における授業実践について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と授業実践の関係について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	学校教育現場と教育実践	学生による発表報告（6）学校教育現場における教育実践について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教育実践の関係について学ぶ	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
8	学校教育現場と教育行政	学生による発表報告（7）学校教育現場と教育行政の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教育行政の相関について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
9	学校教育現場と教育政策	学生による発表報告（8）学校教育現場と教育政策の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と教育政策の相関について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
10	学校教育現場と社会問題	学生による発表報告（9）学校教育現場と社会問題の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育現場と社会問題の構築について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
11	青少年文化と学校教育	学生による発表報告（10）青少年文化論と学校教育の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	近年の青少年文化と学校教育の関係について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
12	学校表象と教育課題	学生による発表報告（11）表象文化論と学校教育の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校表象と教育課題相関について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	逸脱と非行	学生による発表報告（12）逸脱と非行について学ぶ。	
	この回の到達目標	逸脱と非行と教育課題について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
14	学校教育と犯罪	学生による発表報（13）学校教育と犯罪の関係について学ぶ。	
	この回の到達目標	学校教育を分析対象とする犯罪社会学と教育社会学の知見について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。	120分
15	教職の歴史と現代日本	まとめ（総括討議）	
	この回の到達目標	教職の歴史と現代日本について理解する。	
	事前学修	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。	120分
	事後学修	教職課程での学習を振り返る。	120分

科目名	教職実践演習(中・高)	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教職課程での学びと、教育実習の経験、成果を通して、教育者として必要な知識、技法等を確認して、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的能力と態度を身に付け、心構えや使命感を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
大学の教職課程での学びと教育実習を振り返り、教職や教科に関する専門的知識、理論、技能等を実践するための基礎を確認して不足を補う。学校実務に携わるための基礎知識や技能などの獲得を確認して、学校経営、学級経営等の教育活動の理解をすすめる。これらを総合して、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等を理解して、不足を補う。

【履修条件】
教育実習を修了していること（コロナの影響で未履修、履修中の場合は報告してください）。教職に関する特別講義（3回）に出席すること（日程は授業中に通知する）。講義形式はコロナの影響によって変更することもある。

【授業方法】		
ZOOMによる講義演習を行う予定である。コロナの影響で変更可能性がある。 学生各自の教職課程での学びを振り返り、それに基づいて集団討議や特別講義への参加、課題レポートの提出を行う。また、法学部教職課程特別講義（年3回程度、教育委員会、附属高等学校等教職員と連携済み）に出席して、そのテーマについてレポートし、討議する（日程は別途指示する）。 なお、第8回から10回の授業において、外部講師を招聘して教育現場の実情や教育問題等に関連するテーマによる講義を行う予定である。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	各講義におけるリフレクションペーパーの提出、課題討議等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育者としての愛情と使命感を深めて、教員になる上での能力や適性、課題を自覚する。												
②	教育実習から得られた成果と課題等を省察して、教員免許取得までに、不足している知識や技能等を自覚する。												
③	児童、生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。												
④	学校経営方針や教育活動を含めた組織体制のもとで、学級担任や教科担任等の教育活動、および学校実務の課題と内容を理解できる。												
⑤	大学での教科、教職に関する専門的知識、理論、技術等を、教科や教科外の指導場面で実践するために、学習指導案の作成と授業実施、情報機器を含む学習指導に必要な技術を活用することができる。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標1、2、3、4、5について、各自の課題を設定して学術書、資料等からレポートを行い、その内容、表現等から到達度を評価する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等	到達目標1、2、3、4、5について、討議や発表のための事前準備や発表態度、発表の方法、資料の使い方等から、到達度を評価する。	8	8	8	8	8						40
授業への参画度	到達目標1、2、3、4、5について、各授業のリフレクションペーパーから、授業への参画度を評価する。	4	4	4	4	4						20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業中に行う	

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	授業中に配布する資料、文科省HPからのダウンロードした資料、文献検索による資料を用いる。				

【オフィスアワー】	
月曜日 12時20分から13時まで。9号館501研究室	

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	教育者としての自分を意識する		授業の計画と評価方法の説明。資料の点検を行う。
	この回の到達目標	到達目標1 教員免許を取得して教育者として実践する自分を意識して、大学での学びおよび教育実習で獲得した知識、技能を説明できる。	
	事前学修	「教育実習ノート」、実習中の資料等を用意する。授業計画の中で、特別講義の日程を確認する。	120分
	事後学修	教育実習だけではなく、教職課程での学びを振り返る。グループでそれらを分かち合う。	120分
2	教職過程での学びをふりかえる		大学の教職課程での学びのふりかえり：教職過程で得た知識、理論、技能について確認して、不足点をまとめる。
	この回の到達目標	到達目標1、2 教員免許を取得するために、現在の自分に不足している知識、技能等を説明できる。	
	事前学修	教職課程の学びをまとめて文章にする。2時間の予習。	120分
	事後学修	自分と他者の学びの共通点、相違点を考えて記述する。グループでそれを分かちあう。2時間の復習。	120分
3	教育実習での学びをふりかえる1		教育実習で何を学んだか：個人の学びのまとめと、教師の日常の業務を振り返り、集団討議する。
	この回の到達目標	到達目標3、4、5 教育実習での学習指導案の作成と授業実施の振り返りから、不足点を指摘して、今後の課題を説明できる。	
	事前学修	教職課程での学びの中で、教育実習での学びをまとめて、実習校の先生方、指導の先生、他の実習生等との関わりについて、記述する。2時間の予習。	120分
	事後学修	教師の1日がどのように進んでいくのかについて、まとめる。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。	120分
4	教育実習での学びをふりかえる2		教育実習で何を学んだか：個人の発表と全体の討議1：授業のための学習指導案の作成、授業展開、授業方法について、工夫した点と改善点についてグループで議論する。
	この回の到達目標	到達目標3、4、5 教育実習での授業の改善点を意識して、「授業」を実施できる。	
	事前学修	実際の授業で使用した授業案、資料を基に、再度「授業」を行うための改善点を列記する。2時間の予習。	120分
	事後学修	授業案等から、自分の教育実習での授業の作り方、展開、振り返りについて、改善点をまとめて記述する。2時間の復習。	120分
5	児童生徒との関わりと実態と課題の把握と対処		教師と生徒との「距離の取り方、距離感」について、各自の経験と知識や技能等をいかした対処について考え、グループで討議する。
	この回の到達目標	到達目標3、4、5 教師と生徒との距離感とは何か、について経験を振り返り、「適度な距離」と「距離の取り方」を説明できる。	
	事前学修	「教師と生徒」という関係について、実習での経験を振り返り、問題点と課題をまとめる。2時間の予習。	120分
	事後学修	教師と生徒との関係について、経験から学んだことをまとめる。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。	120分
6	学級経営と教師の役割		学級経営における「教師」の役割と仕事について、教育実習での各自の経験を基にグループで討議する
	この回の到達目標	到達目標3、4、5 学級経営について、教師としていつ、なにを、どのように行うのか、について、計画を提示できる。	
	事前学修	「学級経営」について、教育実習での経験をまとめて記述する。2時間の予習。	120分
	事後学修	教師として学級経営で自分が行ったこと、課題等をまとめて、グループで分かち合う。2時間の復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	組織としての学校		「組織としての学校」について、何を学んだかを、各自の経験を基にグループで討議する。
	この回の到達目標	到達目標3、4、5、 組織としての学校とは何か、具体的な意味と内容を理解して、「教師」として要求される業務内容を理解して説明できる。	
	事前学修	「組織としての学校」について、教育実習での経験をまとめて記述する。2時間の予習。	120分
	事後学修	組織として学校がいかに機能しているのか、その中での教師の役割、等について、配布資料、自分の経験をまとめて記述する。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。	120分
8	特別講義1		特別講義について：第1回特別講義の内容について、討議する。
	この回の到達目標	到達目標1、2 教員となるための能力や適性を考えて、自分の不足点や今後の課題を指摘できる。	
	事前学修	第1回特別講義について、テーマに関する配布資料等をまとめる。2時間の予習。	120分
	事後学修	第1回特別講義について、テーマに関するレポートを作成する。2時間の復習。	120分
9	特別講義2		特別講義について：第2回特別講義の内容について、グループ、全体で討議する
	この回の到達目標	到達目標1、2 教員となるための能力や適性を考えて、自分の不足点や今後の課題を指摘できる。	
	事前学修	第2回特別講義について、テーマに関する配布資料をまとめる。2時間の予習。	120分
	事後学修	第2回特別講義について、レポートを作成する。2時間の復習。	120分
10	特別講義3		特別講義について：第3回特別講義の内容について、グループおよび全体で討議する。
	この回の到達目標	到達目標1、2 教員となるための能力や適性を考えて、自分の不足点や今後の課題を指摘できる。	
	事前学修	第3回特別講義について、資料やノートをまとめる。2時間の予習。	120分
	事後学修	第3回特別講義について、レポートを作成する。2時間の復習。	120分
11	職業としての教師		教師という職業について考える： 教師という職業の特殊性を、他の職業との比較から考えてグループで討議する。
	この回の到達目標	到達目標1、2 「教師の分業化」について、メリット、デメリットを指摘して、自分の意見を説明できる。	
	事前学修	教教師という職業：教師という職業の特殊性と実際についてまとめる。2時間の予習。	120分
	事後学修	教師という職業と他の職業の相違点をまとめて記述する。2時間の復習。	120分
12	教師になる、とは		教師という職業について考える： 教師という職業を自分が選択することの意味について考える。
	この回の到達目標	到達目標1、2 教師という職業をなぜ自分が選択するのか、教師になるための不足点と今後の課題とその解消方法について説明できる。	
	事前学修	自分の将来計画において、教師という職業を選択する意味を考えて記述する。2時間の予習。	120分
	事後学修	教師という職業が自分にとって適している点と不適な点を記述する。2時間の復習。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	模擬授業	模擬授業：1人20分程度の模擬授業を行い、その内容や方法等をグループで討議する。	
	この回の到達目標	到達目標3、4、5 これまでの議論を踏まえて、各自学習指導案を作成して、模擬授業を行うことができる。	
	事前学修	授業計画、資料の準備、等を行い、模擬授業実施の準備をする。2時間の予習。	120分
	事後学修	自分の授業方法のよかった点と改善点を確認して記述する。2時間の復習。	120分
14	理想の教師、期待される教師	自分の理想の教師、皆から期待される教師とはどのような教師か？全体で討議する。	
	この回の到達目標	達成目標1、2 理想の教師とはなにか、期待される教師とはなにか、現実の自分はどのような教師となるのか、を説明できる。	
	事前学修	これからの教師になる人間に期待されることについて、考えをまとめて記述する。グループで分かち合う。2時間の予習。	120分
	事後学修	自分の理想の教師像、皆から期待される教師像、現在の自分の何がどの様に不足しているのかをまとめて記述する。2時間の復習。	120分
15	教師となる	総合的なまとめ：大学での教職課程における学びと教師となる自分	
	この回の到達目標	到達目標1、2、3、4、5 全体的なまとめを行い、自分にとって教師になることの意味を説明できる。	
	事前学修	配布資料、まとめ等を再度確認する。2時間の予習。	120分
	事後学修	自分が教師という職業を選択して、教師になることの意味、自分の人生における位置づけを再度確認して、今後の課題設定と遂行計画を記述する。2時間の復習。	120分

科目名	教育制度論	担当者	李 吉魯	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学校教育においては、その目的とそれに関わる者の範囲（児童、生徒、教師など）が教育制度によって規定されており、目的達成のための方法・手段（学校制度、学校経営、学校組織、教育内容、教材など）にも共通性が認められる。この授業では、教育に関する社会的、制度的および経営的事項についての基礎的知識を習得するとともに、今日に抱えている様々な教育問題や教育動向などに関する理解を深める。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
- 授業目的 教育に関する基礎的知識、概念、また法規や制度について学び、学校教育のあり方や国民の教育を受ける権利などを理解する力を養成することを目的とする。 - 到達目標 教育に関する社会的、制度的および経営的事項について学び、それに基づき今日の教育改革や学校運営の取り組みなど、直面している様々な教育問題を理解し、説明できることを目標とする。

【履修条件】
学生諸君は気持ちを引き締めて、教職への強い志をもって受講してほしい。

【授業方法】
授業方法は講義形式であるが、必要に応じてグループ・ディスカッション、ディバート、グループワークなどのアクティビティを用いる。また授業時に使用する資料等は適宜配布しながら、授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第8回以降、現代の教育問題に関する課題を与え、次回の授業で、それに基づいたディスカッションを行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学校と教育の歴史・思想について基礎知識を知り、幅広く理解を深めることができる。（知識）										
②	専門知識を系統的に習得し、得られた知識を理解し、説明することができる。（知識）										
③	自ら教職への適性について考え、自己を高めることができる。（技能）										
④											
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	8回目（中間テスト）および15回目（授業内試験）により、到達目標①②に関する知識（基礎及び応用）が身についているか、及び到達目標②③に関する専門知識や今日に抱えている教育問題などを幅広く理解しているかについて確認する。	30	30									60
小テスト等	授業内（2回）に実施する小テストにより、1回目は到達目標①にかかわる基礎知識が身についているか、2回目は到達目標②にかかわる基礎知識が身についているかを確認する。	10	10									20
レポート等	提出されたレポート課題が、適切に求められている内容になっているか、到達目標③にかかわる説明ができるようになっているかを評価する。			10								10
討論・発表等	グループワークにおいて自分の意見を述べる事ができたか、到達目標③にかかわる能力が身についているかを評価する。			10								10
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】	
授業時に作成したリアクションペーパーを含め、試験（授業内試験・小テスト）やレポート課題などについてはフィードバックを行う（例えば、テストの解説・レポートの講評・採点後の返却など）。	

【教科書・参考書等】					
書 名		著者名	出版社名	発行年	種別
格差・秩序不安と教育		広田照幸	世織書房	2009年	参考書
新訂版『わかりやすく学ぶ教育制度―課題と討論による授業の展開―』		北野秋男編	啓明出版	2012年	参考書
教育動向		武田明典編	北樹出版	2017年	参考書
現代教育概論		佐藤晴雄	学陽書房	2017年	参考書
不登校論の研究		山岸竜治	批評社	2018年	参考書
法規で学ぶ教育制度		古田薫編	ミネルヴァ書房	2020年	参考書
備考	教職は厳しい側面もあるが、何よりも人も育て、人間同士の関係を育てていく仕事である。それは未来を育てる仕事でもある。この授業を通して、学校と教育制度との関連について興味を持ってもらえればいいと思う。				

【オフィスアワー】
土曜日12:20～13:00 授業講堂にて（事前にメールでアポイントメントを取ること）。メールアドレス：lee.giro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	【学校と教育制度】		授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法などを説明し、参考資料の紹介を行う。また、学校や社会と教育との関係について学修する。それによって受講生は授業計画を知り、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、教育制度が何を意味するのか、またその学校と教育の関係について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教育及び教育制度の定義などについて調べ、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、自分の学習計画と他の教職科目との相互関連性についてノートに分類・整理する。		120分
2	【近代学校教育の制度化】		学校のはじまり、近代学校の制度化過程、学校教育制度発展の道筋などについて学修する。それによって受講生は教育を目的として設立された学校、あるいは学校教育制度を理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、学校教育制度が先行して実施された欧米における学校教育の歴史を概観してその制度を理解し、明治維新以降、欧米の教育制度に学びながら急速に近代化を果たした日本の学校教育制度について説明することができる。		
	事前学修	近代化と学校との関係について整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認するとともに、欧米と日本の近代学校制度の流れについてノートに分類・整理する。		120分
3	【公教育の仕組み】		公教育の原理（義務制、無償性、中立性）、及び公教育の理念「教育を受ける権利」と「教育の機会均等」などについて学修する。それによって受講生は公教育の仕組みを知り、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公教育の原理及び理念について幅広く理解し、説明することができる。		
	事前学修	公教育制度をめぐる課題についてノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する		120分
	事後学修	授業内容を確認して、公教育の基本原則及び公教育制度をめぐる課題などについて整理する。		120分
4	【教育法規】		教育法規の種類や内容を説明し、教育法規が教育の機会均等と教育水準の維持向上に果たしている役割について学修する。また、教育基本法の改正と教育行政の責任の明確化などについて検討する。それによって受講生は教育法規の特徴を知り、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、公教育の原理及び理念について幅広く理解し、説明することができる。		
	事前学修	教育法規の中心となる教育基本法及び学校教育法の内容やその特徴について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、教育法規の種類や内容について検討する。また、教育基本法と改正教育基本法の相違点についてノートに分類・整理する。		120分
5	【教育政策と教育行政】		中央（国）及び地方の教育政策形成過程の特徴や教育行政の役割について学修する。また、中央と地方の教育行政制度相互の関係について検討するとともに、教育行政制度の今日的課題についても言及する。それによって受講生は教育政策と教育行政制度の仕組みを理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教育政策と教育行政制度の仕組みを理解し、教育改革の今日的課題について説明することができる。		
	事前学修	教育政策の形成過程及び教育行政制度の特徴について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、教育政策の形成過程及び教育行政制度の特徴や、中央と地方の教育行政制度相互の関係についてノートに分類・整理する。		120分
6	【教育行政機関の役割】		教育の目標に重要な役割を果たす文部科学省及び教育委員会の組織と役割について学修する。また、その教育目標を実現させるための教育行政全体構造を検討する。それによって受講生は教育行政の仕組みを理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、中央及び地方の教育行政機関の組織と役割について理解し、説明することができる。		
	事前学修	文部科学省と教育委員会の役割について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。		120分
	事後学修	授業内容を確認して、文部科学省の役割と権限、及び都道府県と市町村の教育委員会の組織と権限などについてノートに分類・整理する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【教育制度と学校経営】	教育活動における学校経営、学校改善に資する学校評価システム、学校と家庭・地域との連携・協働を促す動向などについて学修する。また、学級と教育内容・方法に関する制度の今日的課題について検討する。それによって受講生は学校経営と学級経営の概念及び内容を理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校経営と学級経営の概念及び内容を理解し、また、学級と教育内容・方法に関する制度の今日的課題について説明することができる。	
	事前学修	学校経営と学級経営の内容について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、新しい学校づくりを推進する学校経営の在り方についてノートに分類・整理する。	120分
8	【中間テストおよび解説】	これまでの授業内容を振り返り、到達目標①②③に示される知識（基礎及び応用）が身についているかについて確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎及び専門知識が身についているか、またその現代の教育問題との関連性について理解し、説明することができる。	
	事前学修	これまでの授業内容を見直し、試験に向けて準備する。	120分
	事後学修	これまでの授業内容を見直し、試験の結果についてノートに整理する。	120分
9	【学校と家庭・地域の連携】	家庭教育とその支援、地域のなかの多様な学びの機会、学校と家庭・地域の連携と協働などについて学修する。また、近年の学校・家庭・地域の連携に関わる法制度の改正について検討する。それによって受講生は学校教育において家庭と地域との連携の重要性を知り、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、学校・家庭・地域の連携に関わる具体的な内容を理解し、説明することができる。	
	事前学修	近年の学校・家庭・地域の連携に関わる法改正について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、学校と家庭・地域社会との連携の重要性についてノートに分類・整理する。	120分
10	【教員養成】	教員養成の仕組み、教職課程の具体像、教員免許状の種類、教員免許制度改革の動向について学修する。また、教師教育における研修の形態や研修施策の展望などについて検討する。それによって受講生は教職員の研修システムを理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、教職員の法定研修としての初任者・10年経験者研修の目的や実施状況などを知り、説明することができる。	
	事前学修	教育公務員には研修を行う義務があり、研修の機会が保障されている。教職員の研修にかかわる条文（例えば、教育基本法、教育公務員特例法、地方公務員法など）を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、初任者研修と10年経験者研修の具体的な実施状況を理解し、「学び続ける教員」を支える仕組みについてノートに整理する。	120分
11	【学校保健及び安全教育】	学校保健及び学校安全の中心となる児童・生徒及び職員の健康診断と食品の安全性の確保、事件・事故や災害時の安全対策などについて学修する。それによって受講生は保健管理及び安全管理の在り方を理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、学校保健では健康診断の時期や実施者、感染症予防の措置など、また、安全管理に関して安全計画や対策を理解し、説明することができる。	
	事前学修	学校保健及び学校安全にかかわる条文を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、災害に対する備えと発生時及び発生後の対応策について整理する。	120分
12	【教育活動と学校評価】	教育活動における学校評価の在り方について学修する。具体的には、児童生徒の管理および指導、学校評価の導入の経緯とその目的と意義、学校評価の内容と実施方法などを検討する。それによって受講生は学校評価の目的及び実施方法などを理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、学校評価の考え方と進め方などについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	第三者評価の内容を策定し、「2010（平成22）年3月に改訂された「学校評価ガイドライン」について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分
	事後学修	授業内容を確認して、学校評価の基本的な考え方についてノートに分類・整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	【諸外国の学校制度と教育動向】		諸外国に行われる学校制度は、それぞれの国の歴史的事情、社会的条件などを背景として成立したものであり、国によって異なっている。ここでは、アメリカ・イギリス・ドイツ・フランスなどの学校教育制度などについて学修する。それによって受講生は諸外国の教育制度と日本のそれとの違いを理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、諸外国の学校体系や教育制度の仕組みなどを理解し、説明することができる。		
	事前学修	学校体系（複線型、単線型、分岐型）のそれぞれの特徴を調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する。	120分	
	事後学修	授業内容を確認して、諸外国の教育制度と日本の教育制度の共通点と相違点についてノートに分類・整理する。	120分	
14	【現代日本の教育制度改革】		子どもの貧困や教育格差、大学入試制度の改革など、現在抱えている教育問題について学修する。また、「格差」と公教育の役割について検討する。それによって受講生は現代の教育改革の動きを理解し、授業の準備を行うことができる。	
	この回の到達目標	到達目標②③に関連して、家庭の経済力や教育力の格差が子どもの学力の格差に結びつき、それらがさらに進学や雇用の機会に影響することを理解し、説明することができる。		
	事前学修	公教育の役割について調べ、ノートに整理し、それを授業内容と比較・検討できるように準備する	120分	
	事後学修	授業内容を確認して、「格差」と公教育の役割についてノートに整理する。	120分	
15	【授業内試験】		授業のまとめとして、これまでの授業内容を振り返り、到達目標①②③に示される知識（基礎及び応用）が身についているか、及び今日に抱えている教育問題などをも含めて理解しているかについて総合的に確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、基礎及び専門知識が身についているか、またその現代の教育問題との関連性について理解し、説明することができる。		
	事前学修	これまでの授業内容を見直し、授業内試験を準備する。	120分	
	事後学修	これまでの授業内容を見直し、授業内試験の解説についてノートに整理する。	120分	

科目名	教育相談	担当者	和田 万紀	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
オムニバス形式で3名の担当者が講義中心で行う。講義ごとに、関連したエクササイズまたは知識の確認のための質問を取り入れる。これにはグループ討議、ロールプレイング、心理検査（性格検査等）、事例研究等を含み、最後に討議などを行い、リフレクションペーパーを作成して提出する。文科省等のHPからダウンロードした資料を使用して、グループ討議等行う。最後に課題についてのレポート提出を行う。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
幼児、児童、生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団で適応的に生活する力を育み、個性や人格の成長を支援する。発達状況に即して心理的特質や教育課題をとらえて支援する基礎知識や、カウンセリングの意義、理論、技法の知識を身に着ける。そのために、①教育相談の基本的知識を養成することを目的とし、その実践のために、②組織内外や専門家と、また教員同士と「連携」をしながら、③教師自らがカウンセリングの理論と技術の基礎、基本的態度を身につけ、心理教育的援助の実践に寄与できる知識と資質を得ることを目標とする。そして、教師としての教育相談のあり方を考え、学ぶこととする。

【履修条件】
心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、発達と学習、を履修済みまたは履修中であること。精神分析学を履修することが望ましい。

【授業方法】
3名の担当によるオムニバス形式の授業となる。講義形式を中心として、技法などを実習する。そのために授業中にロールプレイングや場面想定法、検査実習などを行い、、集団討議等を行う。それぞれのフィードバックは授業内に行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	ロールプレイング、検査実習、集団討議等	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力				
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力				
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力				
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力				
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学校における教育相談の意義と課題を理解している。										
②	教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。										
③	幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。										
④	学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。										
⑤	受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。										
⑥	職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。										
⑦	いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。										
⑧	教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。										
⑨	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。										
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	各授業ごとに、その授業でのキーワードなどの理解度を評価する。また復習としてそれまでの授業でのキーワードなどに関して、知識の定着度を評価する。 10%	1	1	1	1	1	1	1	1	1		9
レポート等	授業全体を通して、「教育相談」に対する各自の考えや興味等に関連する学術文献等を読み、レポートを提出する。文献等の選択、理解度、文章表現等を評価する。	8	8	8				8		8		40
討論・発表等	カウンセリングの意義、理論、技法等の基礎的知識の獲得、ロールプレイングや検査実習等の結果、及び心理学的知識に基づくカウンセリングの理論、基礎的技法の獲得などを評価する。		7	7	7	7	7	7				42
授業への参画度	心理検査実習やロールプレイなどのまとめと各授業でのレフレクションペーパーの内容、提出等から、参画度を評価する。10%	1	1	1	1	1	1	1	1	1		9
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	17	17	9	9	9	17	2	10		100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業においてフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
				その他	
備考	文科省HPからダウンロードした資料等を使用する。また、授業中に資料を配布する。				

【オフィスアワー】
月曜日昼休み研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	大学附属特別支援学校 教諭 特別支援教育コーディネーター（森澤亮介）
実務経験に基づく実践的教育の内容		特別支援教育コーディネーターとして地域の幼稚園・小学校・中学校の巡回を行ってきた。また教員や職員向けの特別支援に関する研修の講師を行ってきた。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	教育相談の授業の進め方と受講の注意点を理解する		授業の進め方、評価の方法等の説明と集団討議、心理検査実習、ロールプレイング等のグループ分けの実施、及び、評価の方法について（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1 「教師という職業」にとって、なぜ教育相談が必要なのか、どの様に学ぶのかを理解して説明できる。		
	事前学修	授業形式、授業概要、評価の方法、各授業の内容の概要を読み、受講のための注意事項を確認する。		120分
	事後学修	本授業は、3人の担当者によるオムニバス形式であること、実習を含むこと、授業日程（特別指定された日程は別途示す）に注意して、自分の学修計画全体の中の位置づけを確認する。		120分
2	教育相談の歴史		教育相談総論：（1）歴史と理念を理解する （教育相談とは、日本の教育相談の歴史と特徴、諸外国の教育相談の例等）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1 教育相談の歴史を日本と日本以外の国々から学び、現代日本における意義と必要性を理解して説明できる。		
	事前学修	「教育相談」のイメージ、自分の経験の中での教育相談について、まとめる。		120分
	事後学修	「教育相談」のイメージが、授業前後でどのように変化したのか（しなかったのか）、それはなぜか、をまとめる。		120分
3	教育相談のシステム		教育相談総論：（2）理論と方法を理解する （学校という組織、校内相談システムと専門機関との連携、協働、SC、SSWRとの連携と協働、教育相談における予防、治療、開発の側面）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1、8、9 教育相談の理論と方法について、「学校という組織」「連携」という視点から知識を獲得して理解して説明できる。		
	事前学修	「学校という組織」そして「連携」とはどのような意味か。教育相談は、誰が、どのような方法で、だれに対して行うのか、についてまとめる。		120分
	事後学修	学校という組織として「協働」を基本として教育相談が行われるのはなぜか、をまとめる。		120分
4	教育相談の実際		教育相談総論：（3）教育相談の課題と解決のための学校等組織の取り組みを理解する。 （教育相談の年間計画と運営、形態、展開、評価と活用、教育相談担当者に求められる基本的態度、保護者の理解と対応）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 6 児童、生徒、さらに保護者に対する教育相談において、具体的にどのような内容を計画、実施するのかを理解して説明できる。		
	事前学修	学校組織における教育相談の実際を考え、教師として行う行動計画を具体的にまとめる。		120分
	事後学修	学校組織の中で、教育相談の具体的過程を知り、組織の一員としての教師に求められる行動をまとめる。		120分
5	児童生徒にとっての教育相談とは		教育相談総論：（4）児童生徒にとっての教育相談の意味を理解し、援助の方法を理解する。 心理検査等の実習等を行い、アセスメントの理解を深める。（自己開示、悩みと相談、児童生徒の発達課題と教育相談、アセスメントと方法）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 3 児童生徒にとっての教育相談とは何か、について理解して、援助方法を理解して説明できる。		
	事前学修	児童生徒にとって、悩みとは何か。誰に相談するのか、その後の経過について、自分の経験等を通して考えてまとめる。		120分
	事後学修	児童生徒の悩みは、教育相談を通じてどのような過程を経るのか。その際のアセスメントとは何か、その方法についてまとめる。		120分
6	カウンセリングの基礎理論と技法： カウンセリングマインド		カウンセリングのための心理学的基礎理論と技法 1：カウンセリングマインドの意味と意義を実習をもとに理解を深める。（カウンセリングマインド、カウンセリングにおける人間関係、傾聴、共感リフレーミング）（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標 2、4、5 カウンセリングマインドとは何か、カウンセリングの基礎理論と技法について理解して説明できる。		
	事前学修	教師が教育相談を行う際に求められる資質とは何かを考えてまとめる。		120分
	事後学修	教師にとってなぜカウンセリングマインドが必要であるのか、基礎的な理論と技法をまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	カウンセリングの心理学的基礎理論		カウンセリングのための心理学的基礎理論と技法2：カウンセリングの心理学的基礎理論と技法を理解する。（フロイト、ロジャースの理論、学習理論と認知行動療法） (担当：伊藤令枝)	
	この回の到達目標	到達目標 2、4、5 フロイト、ロジャースの理論、学習理論、認知行動療法について、理解して説明できる。		
	事前学修	参考書などから、臨床心理学についての知識を得て、カウンセリングの基礎理論と技法をまとめる。		120分
	事後学修	フロイト、ロジャース、学習理論、認知行動療法、について、その特徴と相違点をまとめる。		120分
8	教育相談の予防、開発的側面		予防、開発的取り組み：ソーシャルスキルトレーニングを中心にしてその理論と技法を理解する。ロールプレイングを行いその理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標 2、3、7 教育相談における予防、開発的側面とは何か、具体的に理解してその理論と技法を説明できる。		
	事前学修	上手な人間関係の築き方に必要なスキルについてまとめる。		120分
	事後学修	社会的スキルとは何か、また自分の社会的スキルの自己評価と人間関係について振り返り、まとめる。		120分
9	問題行動と教育相談 1 暴力といじめ		「問題行動」と教育相談 1：問題行動とはなにかについて、暴力、いじめ問題を中心にして理解する。ロールプレイングを行いその理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標 2、3、7 具体的な問題行動、暴力といじめについて、ロールプレイングを行い、理解して説明できる。		
	事前学修	暴力といじめに関する統計や事例、最近の資料（文科省のHP等よりダウンロード）をまとめる。		120分
	事後学修	暴力、いじめなどについて、加害者と当事者及び教師の立場から、教育相談の関連をまとめる。		120分
10	問題行動と教育相談 2 不登校		「問題行動」と教育相談 2：不登校を中心にして、ロールプレイングを行い、その理解を深める。（担当：伊藤令枝）	
	この回の到達目標	到達目標 2、3、7、 不登校について、ロールプレイングを行い、理解して説明できる。		
	事前学修	不登校についての統計や事例、最近の資料（文科省のHP等よりダウンロード）をまとめる。		120分
	事後学修	不登校の事例について、教師としての立場から教育相談の関連と展開をまとめる。		120分
11	「学力問題」という問題		「問題行動」と教育相談 3：「学力問題」という問題について理解する。ロールプレイングを行い、その理解を深める。（学習意欲、学習習慣、学級崩壊等）（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 6 児童生徒、教師、保護者のそれぞれの視点から、「学力問題」とは何かを事例をもとにしながら理解して説明できる。		
	事前学修	なぜ学ぶことに積極的になれないのか、なぜ子供の学力が問題なのか、教師にとって児童、生徒の学力問題とは何か、学級崩壊とは何か、等についてまとめる。		120分
	事後学修	学ぶことに消極的な児童生徒に、教師として、保護者として、また教師が保護者に対して、どのような教育相談が考えられるかをまとめる。		120分
12	発達障害と教育相談		発達障害と教育相談；発達障害のとらえ方と対応、アセスメント、認知発達、社会情動発達 言語発達とその支援、保護者への支援について、集団討議等を行い理解する。（担当：森澤亮介）	
	この回の到達目標	到達目標 2、3、6、8、9 発達障害の定義、児童生徒及び保護者への教育支援の実際について、事例から理解して説明できる。		
	事前学修	「発達障害」の定義と教育相談の事例を調べてまとめる。		120分
	事後学修	発達障害と教育相談の実際について教師と保護者の視点からまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	インクルーシブ教育と教育相談	インクルーシブ教育と教育相談：インクルーシブ教育の基本的概念、インクルーシブ教育の必要条件について検討し、教員への支援、保護者への支援について集団討議等を行い理解する。 (担当：森澤亮介)	
	この回の到達目標	到達目標 2, 3, 6, 8, 9 インクルーシブ教育の基本的概念と実際、教員と保護者への支援について、事例から理解して説明できる。	
	事前学修	「インクルーシブ教育」の定義を調べて、日本の現状についての資料等からまとめる。	120分
	事後学修	インクルーシブ教育の実際について、教師と保護者の視点からまとめる。	120分
14	教師のメンタルヘルス	教師の支援と教育相談：感情労働とバーンアウト、教師のメンタルヘルス、教師支援と教育相談、休職と職場復帰とそのサポートについて、理解をする。（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1, 4 教師のメンタルヘルスについて、教師支援という視点から理解して説明できる。	
	事前学修	感情労働、バーンアウト、メンタルヘルス、職場復帰、について定義を調べてまとめる。	120分
	事後学修	教師のストレスとは何かを記述して、自分のストレスに対する対処法の特徴から具体的な対処の例を記述する。、	120分
15	教育相談とは何か	総合的なまとめを行う（担当：和田万紀）	
	この回の到達目標	到達目標 1 教育相談の意義、理論、方法、展開について、理解して説明できる。	
	事前学修	授業での資料等をまとめて、理解不足の点をまとめる。	120分
	事後学修	教育相談のを履修した自己評価と、今後の学修計画への展開をまとめる。	120分

科目名	教育の方法・技術論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
教育方法学は教育学の基礎を形成していて、簡単に言うと、学び方、教え方を探求する学問である。本講義では教育方法学の研究領域と研究方法の基礎を学ぶとともに、具体的な教育技術にも言及して、教育実践力を身につけた教員の養成を目指す。私の実務経験を紹介しながら、教育実践力を身に付けられるような講義を展開する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
これからの子どもに求められる資質・能力を育成するために、情報機器を活用した授業展開ができるようになることを目的とし、教育方法学、教育技術論の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
教職に強い関心がある学生、プレゼンテーション技術を学びたい学生。

【授業方法】
講義を中心に展開するが、適宜レポートを提示して、学生自らが情報機器を利用して教材・資料制作を行う機会を設ける。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	教育方法学・教育技術論の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	教育方法学・教育技術論が現代の学校教育や社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代学校の問題点はどこに原因があるのか、教育方法学の立場から明らかにして、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現在の学校教育の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような挑戦力を身につける。											
⑤	資料収集の力を身につけ、教育問題を広く考える力を身につける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	20	20								60
小テスト等	授業終了時に実施するラーニングリフレクションにより、第4回目の講義までは到達目標①にかかわる基本知識が身についているか、第5回から10回までは到達目標②③論理性・問題発見力が身についているかを確認する。		10	10								20
レポート等	提出されたレポートが、書式等の要件を満たし、課題に適切に答える内容になっているかを基準に、到達目標④にかかわる発信力やリーダーシップ力が身についているかを評価する。				10	10						20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	30	30	10	10						100

【課題に対するフィードバックの方法】
小テスト・レポートの模範例を示すとともに、ABCの3段階で評価し、返却する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
歴史教育の課題と教育の方法・技術	壽福隆人	DTP出版	平成27年4月		必携
中学校学習指導要領（最新版）					
高等学校学習指導要領（最新版）					
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け教育政策の説明を担当 学校教育の担当経験を生かして、教育政策実現にむけてどのような活動をしているのかを具体的に解説する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	教育方法学とは何か	教育学における教育方法学の位置について	
	この回の到達目標	教育学における教育方法学の位置や意義を理解して、教育方法学的重要性を理解する。	
	事前学修	各自の教育歴・学校歴の中から、わかりやすい授業とはどのような授業であったか、興味関心が高まる授業とはどんな授業であったかを思いおこしてまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教育方法学研究が教育学の成立を促したことをまとめる。教育学研究のなかで、教育方法学の意味について自らの言葉で表現できるようにする。	120分
2	教育方法学の歴史	教育方法学に寄与した教育家の理論と実践	
	この回の到達目標	近代教育学成立に寄与した教育方法学研究を理解する。	
	事前学修	教育原論で学習した「教育学の成立」についてふりかえる。講義ノートを確認して、ペスタロッチやヘルバルトの教育論、教育方法論をまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、「直観教授」の理論、「訓育的教授」の理論をまとめて、各自が自らの言葉で表現できるようにする。	120分
3	わが国の教育方法学研究	わが国近代公教育の成立と教授法の紹介（古典的教授理論の紹介）	
	この回の到達目標	わが国の公教育発展の歴史から教育方法学研究導入の過程を理解し、教育方法学とはどのような研究か理解する。	
	事前学修	日本の近世末期の手習塾の教授方法を調べる。近代公教育で一般的に用いられている「一斉教授」との違いを明確にするために、教育学事典や文献を調査する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、近代公教育の教授法についてまとめる。教育機器やメディアを用いた最新の教育方法の基礎を形成する古典的な教授法の理解に努める。	120分
4	一斉教授法	一斉教授法の成立と問題点	
	この回の到達目標	学校教育で最もポピュラーな教授法「一斉教授」の発展を理解し、そこにどのような問題点があるのか理解する。	
	事前学修	高等学校での学習や大学での学習を基礎として、イギリス産業革命期の歴史について学ぶ。とくに、年少労働者が過酷な環境のなかで、資本主義の発達を支えた問題に注目して文献検索をおこなう。	120分
	事後学修	産業革命期の庶民教育の方法として、安価で合理的な教授法として「一斉教授」が普及した事実を、講義ノートから確認する。また、この教授法が基本的に無理な教授法であったことに理解を深める。	120分
5	学習集団	学習集団の編成と学習集団に適した指導法の紹介	
	この回の到達目標	学習集団は重層的な構造をもつてることを理解し、学習集団の編成が学習指導において重要な問題であることを理解する。	
	事前学修	学校教育において、学習は集団を編成して行われる。この集団の種類や編成方法について、各自の教育歴・学校歴の中から経験をまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習集団編成の理論と方法についてまとめる。学習集団の編成とは深い関係があることを理解し、自らの言葉で表現できるようにする。	120分
6	教具・教育機器（1）	教具・教育機器を用いたバズ学習の実践方法	
	この回の到達目標	学習活動を豊かにする物的手段についてその種類と利用方法について理解する。	
	事前学修	小集団学習、いわゆるグループ学習の経験を各自の教育歴・学校歴の中から抽出してまとめる。各自の経験の中で、どのような学習集団が望ましかったか考え、その理由についてまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、バズセッションの理想的な編成方法と意義についてまとめる。また、バズ学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	教具・教育機器（2）	教具・教育機器を用いた完全習得学習の実践方法		
	この回の到達目標	学習活動を豊かにする物的手段についてその種類と利用方法について理解する。		
	事前学修	各自お教育歴・学校歴の中から、形成テスト（ドリル・小テストなど）の経験についてまとめる。		120分
	事後学修	完全習得学習の実践方法についてまとめる。また、完全習得学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。		120分
8	ティームティーチング	ティームティーチングでの教具・教育機器の利用		
	この回の到達目標	ティームティーチングの進め方を理解して、ティームティーチングに必要な教材開発、それにともなう教具・教育機器について理解する。		
	事前学修	フィンランドなど北欧諸国の教育を紹介したサイトをインターネットで検索し、それらの国の授業風景との日本の教室での授業風景との違いについて感じるところをまとめる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ティームティーチングの方法について自らの言葉でその意義を表現できるようにする。		120分
9	学習指導案	学習指導案とは何か（種類と目的）		
	この回の到達目標	学習指導案の種類や目的について理解し、学習指導案作成の重要性を理解する。		
	事前学修	インターネットで文部科学省のホームページを検索して、学習指導案や各種解説の入手方法について学ぶ。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導案の意義と目的について理解する。また、各都道府県が示している学習指導案のモデルの入手方法についてまとめる。		120分
10	教材研究	学習指導案作成のための教材研究の方法		
	この回の到達目標	学習指導案作成には十分な教材研究が必要であることを理解する。		
	事前学修	インターネットで紹介されているさまざまな学習指導案を検索し、それらの特徴や注目点について考える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導案作成には十分な教材研究が必要であることを理解する。また、教材研究の方法について考える。		120分
11	古典的教具	教具・教育機器の発達（1）古典的教具		
	この回の到達目標	学校教育成立時から用いられ、今日でも重要な教具・教育機器=古典的教具にはどのようなものがあるかを理解したうえで、その利用方法について理解する。		
	事前学修	各自の教育歴・学校歴の中から、経験したことがある教具、教育機器についてまとめ、それらがそのような教育効果を上げたか、各自の考えをまとめる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、掛け図や紙媒体の資料を実際にPC上で作成してみる。その過程で、教材作成の難しさや煩雑さを体験する。		120分
12	映像メディア	教具・教育機器の発達（2）映像メディア		
	この回の到達目標	映像を用いた教育の効果を理解したうえで、その使い方、教材作成の方法を理解する。		
	事前学修	各自の教育歴や学校歴の中から経験したことがある映像提示機器についてまとめる。また、映像教材が学習課題の理解にどのように役立ったかを説明できるようにする。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、各自のテーマにしたがって、映像教材を作成してみる。また、映像教材の背景にある制作者の意図と学習課題との関係適切であったかどうかを考える必要性についてまとめる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ICT	教具・教育機器の発達（3）ICTを用いた教育	
	この回の到達目標	ICTを用いた教育の現状を調査し、その教育効果を理解する。	
	事前学修	インターネットを検索して、明らかにフェイクニュース・情報であると思われるものを探し、講義の中で紹介できるように準備する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、インターネットを用いて教材を作るときの問題点を明らかにし、ICT教育の実践において留意しなければならないことを明らかにする。	120分
14	評価法	評価法の種類と歴史及び意義	
	この回の到達目標	教育評価の重要性とその方法について理解する。	
	事前学修	通知表や調査書など教育評価の方法を考える。各自の教育歴・学校歴の中から、教育評価を示す資料にはどのようなものがあるか、どのような方法が用いられているかまとめる。	120分
	事後学修	課題として示すあるクラスの成績をもとに5段階評価と各生徒に伝えるコメントを実際に作成してみる。一覧表をレポートとして提出する。	120分
15	移動要録	通知表・指導要録作成の意義と方法	
	この回の到達目標	通知表・指導要録の違いを理解して、教育評価の記録と通知方法について理解する。	
	事前学修	各自の教育歴・学校歴の中で、各自が通知表や調査書を受け取った経験をまとめる。通知表は子どもや青年にどのような心理的影響を与えるか考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認するとともに、テキストに紹介されている指導要録を見て、教師にとって成績評価の重要性について考え、各自が各自の言葉でこのことを表現できるようにする。	120分

科目名	現代教職論	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
(1) 日本における学校教育や教職の社会的意義を学習します。(2) 教育界の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を学習します。(3) 教員の職務内容の全体像や教員の服務上・身分上の義務を学習します。(4) 学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について学習します。(以上、文部科学省「コアカリキュラム」から引用)

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
日本における学校教育や教職の社会的意義を学習し、教育界の動向を踏まえ、今日の教職員に求められる役割や資質能力を養成することを目的とします。また、学校教育現場の実情や教育実践を理解できることを目標とします。

【履修条件】
教育学分野、教育社会学分野に関心のある学生が対象になります。なお、予習と復習の時間は、あくまでも目安になっています。

【授業方法】
講義形式。毎回、受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、そのつど応答をします。また、学校教育現場に勤務する教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～14回のいずれかを予定）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	日本教育史と戦後史のなかの教職の位置づけを理解し、自己の見解を叙述できる。												
②	教職教育学の知見から教育実践の意義を理解し、自己の見解を叙述できる。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート (60%)。	30	30									60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他(コメントペー パー)	コメントペーパー (40%)。	20	20									40
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に応答いたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定いたしません。				

【オフィスアワー】
授業後に受けつけます。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	被教育体験と教育体験	被教育経験を相対化する試み	
	この回の到達目標	被教育体験と教育体験の差異について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	教職課程ガイダンス内容について振り返る。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
2	公教育システムと教職	教職についての概論：公教育システムの構造と教職の役割とは？	
	この回の到達目標	公教育システムと教職について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
3	戦前の教師像	教師観の歴史的変遷：戦前の公教育システムと教師像「ビンボーの時代と曙の時代？」	
	この回の到達目標	戦前の教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
4	戦後初期の教師像	教師観の歴史的変遷：戦後の公教育システムと教師像 管理教育と民間教育研究運動「押さえつけと、たたかいの時代？」	
	この回の到達目標	戦後初期の教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
5	教師の身分と服務	教師の身分と服務（1）：教師の身分保障「どうしたらクビになる？」	
	この回の到達目標	教師の身分と服務について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
6	教師の身分と服務	教師の身分と服務（2）：体罰と懲戒の区別「殴られたら、やりかえす？」	
	この回の到達目標	体罰の位置づけについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	学校教育における教育実践	教師の役割と仕事（1）：学習指導（授業実践）、生活・生徒指導（教育実践）「頭髪検査に意味はあるか？」	
	この回の到達目標	学校教育における教育実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
8	学校教育と保護者	教師の役割と仕事（2）：校務分掌、学校経営、保護者と地域社会「PTAは、なんのため？」	
	この回の到達目標	学校教育と保護者の関係の意義について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
9	教師の専門性	教師の資質・能力：教職の専門性の輪郭「プロか、職人か、公務員か？」	
	この回の到達目標	教師の専門性について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
10	教員研修	教師の研修：教員研修の種別と内実	
	この回の到達目標	教員研修について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
11	テレビドラマのなかの教師像	多様な教師像 テレビドラマ「金八先生」から「鈴木先生」へ	
	この回の到達目標	テレビドラマのなかの教師像について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
12	教職と多忙化	教師の多忙化と教育労働「教職はブラックか？」	
	この回の到達目標	教職と多忙化について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	学校教育と地域	チームとしての学校：「開かれた学校」と「コミュニティ・スクール」	
	この回の到達目標	学校教育と地域について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
14	教師像の多様さ	教師の理想と現実「教師の価値＝バレンタインのチョコの数か？ 卒業式の色紙の数か？」	
	この回の到達目標	教職像の多様さについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分
15	近代教育と教職	近代教育のなかの教師意義と限界	
	この回の到達目標	近代教育と教職の関係について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。	120分
	事後学修	配布資料を読みなおす。	120分

科目名	自然地理学概論Ⅰ	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
近年，中・長期的時間スケールで発生する環境変動とこれに関する人間社会の対応が大きな注目を浴びている。このような自然－人間環境間の問題を理解するためには，分野を超えた幅広い教養が必要とされており，包括的理解の手段として自然地理学は有用である。この授業では，教育職員として地理歴史科を教える上で必要とされる自然地理学の基礎的知識とこの知識を用いた自然地理学的なものの見方・考え方の修得を目的とする。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業では，教育職員として地理歴史科を教える上で必要とされる自然地理学の基礎的知識とこの知識を用いた自然地理学的なものの見方・考え方の修得を目的とする。

【履修条件】
なし

【授業方法】
スライド及び配布プリント（PDF等で配布）を用いた講義形式。参考となる書籍や映像資料については適宜紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また，リアクションペーパーへの回答や課題に対するリアクションなどは、各回の冒頭に共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって自然現象の発生過程やその時間的変化要因について理解・説明できるようになる。												
②	学生が、主体性をもって自然地理学的課題を見つけることが出来るようになる。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施し、各講義内容のテーマやその繋がりに関する理解度を評価する。	30	30									60
小テスト等	ランダムに実施する小テストにて、各回にて説明をおこなった理論や現象の詳細に関する理解度を評価する。	20										20
レポート等	作成されたレポート課題にて、自然地理学的視座の理解と現象の説明能力の習得度合いを評価する。		20									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業におけるリアクションペーパーや課題等への返答は、提出回の次の授業内にて適宜説明や情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	必要な場合は、適宜指示をおこなう。				

【オフィスアワー】
月曜日14:30～16：00/水曜日14:30～16：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	講義の概要と半期の流れ、評価方法の解説、心構え	
	この回の到達目標	前学期の講義内容を理解し、学習計画を立てられるようになる。（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	シラバス内容の理解	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
2	自然地理学の基礎①	地理学・自然地理学とはどのような学問か、基礎的概念について	
	この回の到達目標	地理学とはどのような学問であるかを理解し、自然地理学、人文地理学、統合領域（地理学）に関して理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
3	自然地理学の基礎②	自然地理学の研究対象とその性質、視座と研究方法	
	この回の到達目標	自然地理学的視座の特徴とその研究対象を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
4	自然地理学の基礎③	地域概念、様々な自然の捉え方	
	この回の到達目標	自然地理学的な地域概念と自然環境の捉え方を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
5	宇宙の中の地球	太陽系と地球、地球の形成史	
	この回の到達目標	惑星としての地球の特徴や地球の成り立ちを理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
6	地球の姿	地体構造、地質時代、プレートテクトニクス	
	この回の到達目標	地球の地質構造と現在に至る過程に関する諸学説を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	地形①		地形の定義や地形形成にかかわる営力の基礎	
	この回の到達目標	地形とは何であるか、また地形の形成にかかわる様々な営力に関する基礎的知識を理解し説明できるようになる（SBOs①）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
8	地形②		地形の形成過程、様々な地形とその成因	
	この回の到達目標	実際に存在する様々な地形の形成過程を理解し説明できるようになる（SBOs①②）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
9	気候①		気候の基礎的概念、気候要素と気候因子	
	この回の到達目標	気候とは何であるか、また気候を形成する様々な要素や、これを変化させる様々な要因について理解し説明できるようになる（SBOs①）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
10	気候②		気候の区分方法、日本の気候など	
	この回の到達目標	地球上に存在する様々な気候とこれを分類する方法を理解し説明できるようになる（SBOs①②）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
11	植生①		植生区分方法と森林帯、日本の森林帯	
	この回の到達目標	植生・森林帯の区分方法と日本の森林帯の分類方法を理解し説明できるようになる（SBOs①②）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分
12	植生②		森林と土壌	
	この回の到達目標	森林帯と土壌の関係および土壌帯に区分方法を理解し説明できるようになる（SBOs①②）		
	事前学修	前回の授業内容の復習		120分
	事後学修	今回の授業内容の復習		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	課題学習		身近な自然環境を調べる
	この回の到達目標	第7回～第12回の授業内容および授業中に説明する作図方法を理解した上で、各自が設定した地域の自然環境や現象を調べ、その成り立ちや現状を説明することができるようになる（SBO s②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	各自の設定した地域における自然環境・現象を調べ、レポートをまとめる	120分
14	前学期授業の総括		前学期授業内容のまとめ
	この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s①②）	
	事前学修	前回までの授業内容の復習	120分
	事後学修	前学期授業内容の復習	120分
15	授業内試験及び解説		授業内試験、試験内容の解説
	この回の到達目標	前学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s①②）	
	事前学修	前学期の授業内容を確実に理解する	120分
	事後学修	講義ノートの整理	120分

科目名	自然地理学概論Ⅱ	担当者	田代 崇	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地球温暖化など環境変化の人間社会に対する影響や人間活動による自然環境への影響の理解を十分なものとするために、自然地理学的知識は有用と考えられる。本授業では、環境変化とその人間社会への影響や人間活動による自然環境への影響に主眼を置いた地理学的諸トピック挙げて、その時空間分布と影響について学ぶ。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
本授業では、教育職員として地理歴史科を教える上で必要とされる自然地理学の基礎的知識とこの知識を用いた自然地理学的なものの見方・考え方の修得を目的とする。

【履修条件】
自然地理学概論Ⅰを履修・単位取得されていることが望ましい

【授業方法】
スライド及び配布プリント（PDF等で配布）を用いた講義形式。参考となる書籍や映像資料については適宜紹介する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内において取り扱ったテーマ毎にリアクションペーパーの提出を課す。また、リアクションペーパーへの回答や課題に対するリアクションなどは、各回の冒頭に共有する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学生が、主体性をもって自然現象の発生過程やその時間的変化要因について理解・説明できるようになる。											
②	学生が、主体性をもって自然地理学的課題を見つけることが出来るようになる。											
③												
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内試験を実施し、各講義内容のテーマやその繋がりに関する理解度を評価する。	30	30									60
小テスト等	ランダムに実施する小テストにて、各回にて説明をおこなった理論や現象の詳細に関する理解度を評価する。	20										20
レポート等	作成されたレポート課題にて、自然地理学的視座の理解と現象の説明能力の習得度合いを評価する。		20									20
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		50	50									100

【課題に対するフィードバックの方法】
各授業におけるリアクションペーパーや課題等への返答は、提出回の次の授業内にて適宜説明や情報の共有をおこなう。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
なし					
備考	必要な場合は、適宜指示をおこなう。				

【オフィスアワー】
月曜日14:30～16：00/水曜日14:30～16：00

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス及び導入講義	後学期講義の概要，評価方法の解説，心構えなど	
	この回の到達目標	後学期の講義内容を理解し、学習計画を立てられるようになる。（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	シラバス内容の理解	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
2	自然地理学の概要①	前学期に学習した授業内容の復習、基礎的概念、自然地理学の研究対象	
	この回の到達目標	地理学とはどのような学問であるかを理解し、自然地理学、人文地理学、統合領域（地理学）に関して理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
3	自然地理学の概要②	環境問題とその地域的差異	
	この回の到達目標	自然地理学的視座基にした環境問題の捉え方を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
4	環境問題Ⅰ	世界の環境問題	
	この回の到達目標	世界における様々な環境問題やこれに係わる自然環境の変化を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
5	環境問題Ⅱ	気候変動，地球温暖化など	
	この回の到達目標	気候変動に関する現在の理解を学習し、地球温暖化の発生過程を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
6	環境問題Ⅲ	森林破壊，砂漠化など	
	この回の到達目標	森林破壊や砂漠化などに係わる環境変化を理解し説明できるようになる（ＳＢＯｓ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地理学の基礎的研究手法	地図作成とその利用について	
	この回の到達目標	課題作成に係る地図資料の描画やG I Sの利用方法について理解し、各自で作図ができるようになる（S B O s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業中に学習した地図の描画方法やG I Sの利用方法を実践する	120分
8	課題学習①	環境問題に係わるテーマの設定と課題の作成	
	この回の到達目標	第4回～第7回における環境問題とそこに内在する自然と人間の関係性を理解し、各自で問題設定し説明ができるようになる（S B O s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	授業内容の復習と提出課題の作成	120分
9	自然災害Ⅰ	地震，地震に伴う諸現象	
	この回の到達目標	地震発生のメカニズムや地震に伴い発生する諸現象について理解し説明できるようになる（S B O s ①）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
10	自然災害Ⅱ	火山に係わる自然災害	
	この回の到達目標	火山噴火のメカニズムやこれに伴い発生する自然災害について理解し説明できるようになる（S B O s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
11	自然災害Ⅲ	気象災害，水害など	
	この回の到達目標	気象現象に係わる自然災害等を理解し説明できるようになる（S B O s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
12	課題学習②	身近な自然災害を知る	
	この回の到達目標	各々の身近な地域に存在する自然災害のリスクを探し、対応方法を選択できるようになる（S B O s ①②）	
	事前学修	第9回～第11回までの授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習と身近な自然災害やその発生リスク・対策について調べ、課題を作成する	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	自然地理学的ケーススタディ	自然地理学的な事例研究の紹介	
	この回の到達目標	自然地理学的視座を基にした問題設定、解決方法の選択、結果の提示までの研究の流れを理解し説明することができるようになる（SBO s ①②）	
	事前学修	前回の授業内容の復習	120分
	事後学修	今回の授業内容の復習	120分
14	後学期授業の総括	後学期授業内容のまとめ	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	前回までの授業内容の復習	120分
	事後学修	後学期授業内容の復習	120分
15	授業内試験及び解説	授業内試験、試験内容の解説	
	この回の到達目標	後学期を通して学んだ内容への理解を深め、個々人の知識として実践できるようになる（SB0 s ①②）	
	事前学修	後学期の授業内容を確実に理解する	120分
	事後学修	講義ノートの整理	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	担当者	奥田 智	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
授業の前半は新学習指導要領の改訂の背景及び改訂のポイント及び、中学校社会科公民分野に関わる学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取り扱い」及び「学習評価」についての理解を深めるとともに、事例研究等を行いながら「思考力」「判断力」「表現力」等々を高める学習指導の在り方について学習する。授業の後半は、指導案作成及び模擬授業を行い、受講者相互に批評する形式をとり、実践的な授業構想力及び授業展開力を身に付ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 中学校社会科担当教員として必要な知識・技能及び実践力の養成を目的とする。 【到達目標】 学習指導要領に示されている中学校社会科のと「目標」や「内容とその取扱い」等を理解し、指導計画や指導案を作成するとともにそれらを実践できるようになることを目標とする。

【履修条件】
中学校社会科の教員免許取得に必修である。また、高等学校公民科・地理歴史科の教員免許取得希望者も履修することが望ましい。

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な授業に関わる事例研究などについては原則は講義形式で行う。受講者による学習指導案の作成及び模擬授業等については演習形式で行う。演習後、指導案及び模擬授業の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学習指導案の作成及び発表を行う。 模擬授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成についてについて説明できる。【知識】								
②	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいについて説明できる。【知識】								
③	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた学習指導案を作成することができる。【知識】【技能】								
④	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を展開することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】								
⑤	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を批評することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】								
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第7・8回の授業において「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた学習指導案を作成させ到達目標①②③に関わる内容が理解できているか評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	第9～14回の授業において「中学校社会科公民分野」のねらいを踏まえた授業を展開させ到達目標④⑤に関わる内容が習得できているか評価する。				20	20						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
学習指導案作成及び模擬授業後講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版	年1月 一部改		任意
備考					

【オフィスアワー】
メールで質問を受け付ける okuda.satoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員及び教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員及び教育委員会指導主事の経験を生かしてより学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	新学習指導要領	新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて理解及び説明することができる。	
	事前学修	学習指導要領とはどのような性格を有するものか事前に調べる。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて復習する。	120分
2	新学習指導要領	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について確認する。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について復習する。	120分
3	新学習指導要領	学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について、「思考力・判断力・表現力とは何か」「思考力・判断力・表現力はどのようにすれば育むことができるのか」という視点で解説する。①	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領において「思考力・判断力・表現力」の育成についてどのように記されているか確認する。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方について考える。	120分
4	新学習指導要領	学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について、「思考力・判断力・表現力とは何か」「思考力・判断力・表現力はどのようにすれば育むことができるのか」という視点で解説する。②	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領において「思考力・判断力・表現力」の育成についてどのように記されているか確認する。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方について考える。	120分
5	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開（中学校社会科公民分野）に関わる事例研究①を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
6	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開（中学校社会科公民分野）に関わる事例研究②を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	学習指導案作成		グループ毎に学習指導案（政治分野・経済分野・国際分野）を作成する。 ※グループ毎に担当分野を指定する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して学習指導案を作成することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された単元（政治分野・経済分野・国際分野）の教科書記述を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
8	学習指導案作成		グループ毎に学習指導案（政治分野・経済分野・国際分野）を作成する。 ※グループ毎に担当分野を指定する。
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して学習指導案を作成することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された単元（政治分野・経済分野・国際分野）の教科書記述を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り改善を加える。	120分
9	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（政治分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
10	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（政治分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする	120分
11	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（経済分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
12	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（経済分野）を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（国際分野）を行う。1 グループ 30 分× 2 グループ 受講者同士で批評する。
	この回の 到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
14	模擬授業		指定されたグループは模擬授業（国際分野）を行う。1 グループ 30 分× 2 グループ 受講者同士で批評する。
	この回の 到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	模擬授業を行う内容を理解しておく。	120分
	事後学修	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
15	総括		生徒の学習意欲を高める授業に必要な要件についてレポートにまとめる 生徒の学習意欲を高める学習指導という観点で授業を総括する。
	この回の 到達目標	到達目標①②③④⑤に関連して新学習指導要領において求められている授業のあり方について理解及び説明することができる。	
	事前学修	生徒の学習意欲を高める授業に必要な要件について自身の考えをまとめる。	120分
	事後学修	学習意欲を高める授業の在り方について振り返る。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成を目指す。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	社会科地理歴史科教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。												
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。												
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかに、その解決策を自ら発信できるような力をつける。												
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点と自ら立案した解決策を社会に訴えることができるような力を身につける。												
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①②③についての基本的知識、問題発見力、論理性が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					30						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	10	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	芦書房	2019		必携
中学校学習指導要領（最新版）					必携
高等学校学習指導要領（最新版）					必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当 学習指導要領に沿った教材の作成を実践的に指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	社会科の成立		19世紀末から20世紀初頭のNEAを中心としたアメリカのカリキュラム改革運動に注目し、社会科成立の背景を理解して社会科教育の意義・意味を理解する。アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。	
	この回の到達目標	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。		
	事前学修	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。		120分
2	社会科の目標と内容		学習指導要領とは何か、どのような記述があるのかから初めて、中学校社会科および高等学校公民科に関する記述を理解する。	
	この回の到達目標	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。		
	事前学修	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。		120分
3	教育課程と社会科・公民科		教育課程全体のなかで、社会科・公民科教育の位置について理解するために、カリキュラム・教育課程について学ぶ。	
	この回の到達目標	教育課程の意義と編成方法について理解する。		
	事前学修	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。		120分
	事後学修	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。		120分
4	中学校社会科公民的分野（1）		中学校社会科公民的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科公民的分野の学習範囲と教材構成を理解して、公民的分野が目指す教育について理解する。		
	事前学修	中学校社会科公民的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。		120分
	事後学修	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科が目指す「公民的資質」についてまとめる。		120分
5	中学校社会科公民的分野（2）		中学校社会科公民的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科公民的分野の学習範囲と教材構成を理解して、公民的分野が目指す教育について理解する。		
	事前学修	中学校社会科公民的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、中学校社会科公民的分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。		120分
6	中学校社会科の構造		中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて考える。	
	この回の到達目標	中学校社会科の3分野の構造と学習における関連性について理解する。		
	事前学修	中学校社会科地理的分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。		120分
	事後学修	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	高等学校教育と公民科	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。	
	この回の到達目標	高等学校公民科が目指す教育目標を明らかにし、公民科学習が現代の青年の育成にいかに関与かを理解する。	
	事前学修	高等学校公民科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
	事後学修	講義ノートと高等学校王民家の教科書から、高等学校公民科が扱う学習課題を理解する。	120分
8	高等学校現代社会（公共）	高等学校現代社会（公共）の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校現代社会（公共）が扱う学習範囲と意義について理解する。	
	事前学修	高等学校現代社会（公共）の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校現代社会（公共）の学習課題をまとめる。とくに、政治的分野と経済的分野および青年論的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校現代社会についての理解を深める。	120分
9	高等学校政治経済	高等学校政治経済の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ英二経済の学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校政治経済の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校政治経済の学習課題をまとめる。とくに、政治と経済の学習がどのように配置されているかに注目して政治経済学習の今後のあり方を考える。	120分
10	高等学校倫理	高等学校員りの背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ倫理の学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校倫理の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校員りの学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。	120分
11	公民科指導の工夫（1）	暗記教科とにならないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	公民科教育における「工夫」にはどのようなものがあるのかを知り、生徒の学習力や興味・関心を引き付ける教育活動の実態を理解する。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。	120分
	事後学修	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型公民科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。	120分
12	公民科指導の工夫（2）	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	生徒が自ら学ぶ公民科教育を目指したこれまでの教育実践を調査する力をつける。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、公民科の形成テストも大きく変わっていかねばならないことについて考える。	120分
	事後学修	デベートやグループによる発表を指導する社会科公民科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	公民科と評価	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）	
	この回の到達目標	評価法と公民科の関係について考え、公民科にふさわしい評価とは何かを理解する。	
	事前学修	これからの高等学校教育や公民科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。	120分
	事後学修	「思考力」と「表現力」を求める社会科公民科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。	120分
14	教材研究の方法（1）	発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性	
	この回の到達目標	教材研究の基礎が各学問領域との密接な関係から生まれることを理解する。	
	事前学修	文献やインターネットを調べて、新しい社会科公民科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。	120分
	事後学修	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかとを講義ノートや文献研究から理解する。	120分
15	教材研究の方法（2）	発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目	
	この回の到達目標	生徒の興味関心と学問の発展との関係について考える力を身につける。	
	事前学修	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。	120分
	事後学修	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	担当者	奥田 智	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
授業の前半は新学習指導要領の改訂の背景・ポイント、高等学校公民科に関わる学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取り扱い」及び「学習評価」についての理解を深めるとともに、ディベート学習等の事例研究等を行いながら生徒の学習意欲を高める学習指導の在り方について学習する。授業の後半は、指導案作成及び模擬授業を行い、受講者相互に批評する形式をとり、実践的な授業構想力及び授業展開力を身に付ける。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
【授業目的】 高等学校公民科担当教員として必要な知識・技能及び実践力の養成を目的とする。 【到達目標】 学習指導要領に示されている高等学校公民科のと「目標」や「内容とその取扱い」等を理解し、指導計画や指導案を作成するとともにそれらを実践できるようになることを目標とする。

【履修条件】
高等学校公民科の教員免許取得に必修である。また、高等学校地理歴史科及び中学校社会科の教員免許取得希望者も履修することが望ましい。

【授業方法】
学習指導要領等に関わる解説及び先進的な授業に関わる事例研究などについては原則は講義形式で行う。受講者による学習指導案の作成など演習形式で行う。演習後、指導案等の講評を行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	学習指導案の作成及び発表、ディベート	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	学習指導要領における「公民科」の内容構成についてについて説明できる。【知識】												
②	学習指導要領における「公民科」のねらいについて説明できる。【知識】												
③	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた学習指導案を作成することができる。【知識】【技能】												
④	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた授業を展開することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】												
⑤	学習指導要領における「公民科」のねらいを踏まえた授業を批評することができる。【知識】【技能】【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	第8・9回の授業において「公民科」のねらいを踏まえた学習指導案を作成させ到達目標①②③に関わる内容が理解できているか評価する。	20	20	20								60
討論・発表等	8～14回の授業において「公民科」のねらいを踏まえた模擬授業を実施させ到達目標④⑤に関わる内容が習得できているか評価する。				20	20						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
学習指導案の作成後に評論する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	教育出版	平成22 年6月		任意
備考					

【オフィスアワー】
メールで質問を受け付ける okuda.satoshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高校教員及び教育委員会指導主事
実務経験に基づく実践的教育の内容		高校教員及び教育委員会指導主事の経験を生かして学校現場にそくした指導を行う。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	新学習指導要領	新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて理解及び説明することができる。	
	事前学修	新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて事前に調べる。	120分
	事後学修	講義の内容を受けて、新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて復習する。	120分
2	新学習指導要領	新学習指導要領における新科目「公共」の設置の背景など新教育課程における公民科が果たす役割について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して新科目「公共」の設置の背景など新教育課程における公民科が果たす役割について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	公民としての資質とは何かについてまとめる。	120分
3	新学習指導要領	公民科「現代社会」「政治経済」「倫理」の内容構成について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して公民科「現代社会」「政治経済」「倫理」の内容構成について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	「現代社会」「政治経済」「倫理」の目標等をまとめる。	120分
4	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開「現代社会」に関わる事例研究を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
5	事例研究	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開「政治経済」「倫理」に関わる事例研究を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連して生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開について理解及び説明することができる。	
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。	120分
	事後学修	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。	120分
6	ディベート理論	公民科におけるディベート学習の有効性について解説するとともに、グループ別に「我が国においては『大きな政府』に関わる政策を推進すべきである」という論題でディベート準備を行う。	
	この回の到達目標	到達目標③④に関連してディベート学習の有効性について理解及び説明することができる。	
	事前学修	ディベート学習について事前に調べる。	120分
	事後学修	ディベート準備を継続する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
7	ディベート理論	公民科におけるディベート学習の有効性について解説するとともに、グループ別に「我が国においては『大きな政府』に関わる政策を推進すべきである」という論題でディベート準備を行う。		
	この回の到達目標	到達目標③④に関連してディベート学習の有効性について理解及び説明することができる。		
	事前学修	ディベートに必要な基礎資料を用意する。		120分
	事後学修	公民科におけるディベート学習の有効性を整理する。		120分
8	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。		
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された科目「現代社会」「政治経済」「倫理」の教科書記述を理解しておく。		120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。		120分
9	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。		
	事前学修	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された科目「現代社会」「政治経済」「倫理」の教科書記述を理解しておく。		120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。		120分
10	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。		
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。		120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。		120分
11	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。		
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。		120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。		120分
12	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。		
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。		
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。		120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。	120分
	事後学修	学習指導案を振り返り成果と課題を明らかにする。	120分
14	学習指導案作成	学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して授業展開及び批評することができる。	
	事前学修	学習指導案の内容を理解しておく。	120分
	事後学修	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。	120分
15	総括	公民科における課題追究学習の重要性についてレポートにまとめる。 公民科における課題追究学習の重要性の観点で授業を総括する。	
	この回の到達目標	到達目標③④⑤に関連して公民科における課題追究学習の重要性について理解及び説明することができる。	
	事前学修	公民科における課題追究学習の重要性について自身の考えをまとめる。	120分
	事後学修	公民科の授業の在り方について振り返る。	120分

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科公民科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際 to 実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が優先される。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからを身につける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					40						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	足書房	2019年		必携
中学校学習指導要領（最新版）					必携
高等学校学習指導要領（最新版）					必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 11号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当 学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	資料検索の方法（1）	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法		
	この回の到達目標	NDL-OPACの資料検索方法を体験し、利用できるようになる。		
	事前学修	文献や記事、授業で使う資料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。	120分	
	事後学修	教科教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。	120分	
2	資料検索の方法（2）	資料検索の方法（2）Read & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法		
	この回の到達目標	研究者から資料を検索していく方法を身に付け、実際に検索してみる。		
	事前学修	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。	120分	
	事後学修	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。	120分	
3	教材作成と知的財産権	資料収集と知的財産権の問題		
	この回の到達目標	教材作成における知的財産権に抵触する可能性を理解する。		
	事前学修	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。	120分	
	事後学修	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。	120分	
4	中学生・高校生のの学力判断	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義		
	この回の到達目標	「生徒観」を正確に記入することができるようになるため、生徒を理解することを学ぶ。		
	事前学修	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバート授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。	120分	
	事後学修	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。	120分	
5	中学生・高校生に合わせた教材作り	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法		
	この回の到達目標	生徒の学力にあった教材作りとは何かを理解し、実践してみる。		
	事前学修	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。	120分	
	事後学修	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。	120分	
6	教育工学	教育の工学的方法について		
	この回の到達目標	教育工学の考え方を理解し、教材作成の方法を実際に用いる。		
	事前学修	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	紙媒体の資料（プリント）作成		紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	プリントを用いた授業を実践して、留意点を見つける。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。		120分
	事後学修	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		120分
8	映像資料を用いた授業		映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	映像資料を作成方法を理解し、実際に作成して授業を展開してみる。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。		120分
	事後学修	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		120分
9	インターネットを用いた授業		インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	インターネット用いた授業を実際に構成して実施し、留意点を身に付ける。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。		120分
	事後学修	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		120分
10	教科書の利用		教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	教科書を授業で用いるための方法を理解し、実践して、留意点を見つける。		
	事前学修	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。		120分
11	ディベートを用いる授業（1）		討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。		
	事前学修	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。		120分
12	ディベートを用いる授業（2）		討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。		
	事前学修	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。		120分
	事後学修	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	バズセッションを利用する授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	生徒のグループ学習に必要なバズセッションの構成方法を理解し、留意点を考える。	
	事前学修	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。	120分
	事後学修	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすのための資料および指導案を作成する。	120分
14	グループ発表を用いた授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	生徒のグループ発表を用いた授業の難しさを理科し、指導方法を考える。	
	事前学修	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。	120分
	事後学修	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。	120分
15	校外教育	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法	
	この回の到達目標	校外教育における実施調査・実地見学の方法を理解し、留意点についてまとめる。	
	事前学修	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。	120分
	事後学修	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからをみにつける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					30						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	10	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	芦書房	2019		必携
中学校学習指導要領（最新版）					必携
高等学校学習指導要領（最新版）					必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当 学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	社会科の成立	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。	
	この回の到達目標	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。	
	事前学修	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。	120分
2	社会科の目標と内容	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。	
	この回の到達目標	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。	
	事前学修	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。	120分
3	教育課程と社会科・地歴科	教育課程の意義と編成方法について考える。	
	この回の到達目標	教育課程の意義と編成方法について理解する	
	事前学修	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。	120分
	事後学修	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。	120分
4	中学校社会科歴史科分野	中学校社会科地理的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科地理的分野の指導目標と教材構成を理解して、地理的分野が目指す教育について理解する。	
	事前学修	中学校社会科地理的分野・歴史的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
	事後学修	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科地理的分野・歴史的分野が扱う学習課題を理解する。	120分
5	中学校社会科歴史的分野	中学校社会科歴史的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科歴史的分野の学習範囲と教材構成を理解して、歴史的分野が目指す教育について理解する。	
	事前学修	小学校の地理的分野・歴史的分野があつかう教材、高等学校地歴科があつかう教材と中学校社会科があつかう教材を比較して、その違いを検討し、中学校地理的分野・歴史的分野が目的とする学習課題を明確にする。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、中学校社会科地理的分野・歴史的分野分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。	120分
6	中学校社会科の構造	中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて。	
	この回の到達目標	中学校社会科の3分野と学習における関連性について理解する。	
	事前学修	中学校社会科地理分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。	120分
	事後学修	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	高等学校教育と地歴科	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。	
	この回の到達目標	高等学校地歴科が目指す教育目標を明らかにし、地歴科学習が現代の青年の育成がいかに重要か理解する。	
	事前学修	高等学校地歴科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
	事後学修	講義ノートと高等学校地歴科の教科書から、高等学校地歴科が扱う学習課題を理解する。	120分
8	高等学校地理	高等学校地理の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校地理が扱う学習範囲と意義について理解する。	
	事前学修	高等学校地理の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校地理の学習課題をまとめる。とくに、人文地理学的分野と自然地理学的分野および経済地理学的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校地歴科についての理解を深める。	120分
9	高等学校日本史	高等学校日本史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ日本史学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校日本史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校日本史の学習課題をまとめる。とくに、政治・経済と文化史の学習がどのように配置されているかに注目して日本史学習の今後のあり方を考える。	120分
10	高等学校世界史	高等学校世界史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ世界史の学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校世界史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校世界史の学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。	120分
11	地理歴史指導の工夫（1）	暗記教科とならないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	地歴教育における「工夫」にはどのようなものがあるのかを知り、生徒の学習力や興味・関心をひきつける教育活動の実態を理解する。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。	120分
	事後学修	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型地歴科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。	120分
12	地理歴史指導の工夫（2）	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	生徒が自ら学ぶ地理歴史教育を目指したこれまでの教育実践を調査する力をつける。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、地歴科の形成テストも大きく変わっていかねばならないことについて考える。	120分
	事後学修	デベートやグループによる発表を指導する社会科地歴科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地歴科と評価	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）	
	この回の到達目標	評価法と地歴科の関係について考え、地歴科にふさわしい評価とは何かを理解する。	
	事前学修	これからの高等学校教育や地歴科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。	120分
	事後学修	「思考力」と「表現力」を求める社会科地歴科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。	120分
14	教材研究の方法（1）	教材研究の方法（1）発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性	
	この回の到達目標	教材研究の基礎が各学問領域との密接な関係から生まれることを理解する。	
	事前学修	文献やインターネットを調べて、新しい社会科・地歴科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。	120分
	事後学修	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかとを講義ノートや文献研究から理解する。	120分
15	教材研究の方法（2）	教材研究の方法（2）発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目	
	この回の到達目標	生徒の興味関心と学問の発展との関係について考える力を身に付ける。	
	事前学修	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。	120分
	事後学修	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ【新課程】	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。

【授業方法】
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無 有
アクティブ・ラーニングの形態 図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからをみにつける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	20	10	10								40
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					30						30
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	10	30						100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中の発表や討論を通じて論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	芦書房	2019		必携
中学校学習指導要領（最新版）					必携
高等学校学習指導要領（最新版）					必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日 特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	社会科の成立		アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。	
	この回の到達目標	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。		
	事前学修	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。		120分
2	社会科の目標と内容		学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。	
	この回の到達目標	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。		
	事前学修	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。		120分
3	教育課程と社会科・地歴科		教育課程の意義と編成方法について考える。	
	この回の到達目標	教育課程の意義と編成方法について理解する		
	事前学修	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。		120分
	事後学修	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。		120分
4	中学校社会科歴史科分野		中学校社会科地理的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科地理的分野の指導目標と教材構成を理解して、地理的分野が目指す教育について理解する。		
	事前学修	中学校社会科地理的分野・歴史的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。		120分
	事後学修	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科地理的分野・歴史的分野が扱う学習課題を理解する。		120分
5	中学校社会科歴史的分野		中学校社会科歴史的分野の指導目標と指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	中学校社会科歴史的分野の学習範囲と教材構成を理解して、歴史的分野が目指す教育について理解する。		
	事前学修	小学校の地理的分野・歴史的分野があつかう教材、高等学校地歴科であつかう教材と中学校社会科があつかう教材を比較して、その違いを検討し、中学校地理的分野・歴史的分野が目的とする学習課題を明確にする。		120分
	事後学修	講義ノートを確認し、中学校社会科地理的分野・歴史的分野分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。		120分
6	中学校社会科の構造		中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて。	
	この回の到達目標	中学校社会科の3分野と学習における関連性について理解する。		
	事前学修	中学校社会科地理分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。		120分
	事後学修	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	高等学校教育と地歴科	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。	
	この回の到達目標	高等学校地歴科が目指す教育目標を明らかにし、地歴科学習が現代の青年の育成がいかに重要か理解する。	
	事前学修	高等学校地歴科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。	120分
	事後学修	講義ノートと高等学校地歴科の教科書から、高等学校地歴科が扱う学習課題を理解する。	120分
8	高等学校地理	高等学校地理の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校地理が扱う学習範囲と意義について理解する。	
	事前学修	高等学校地理の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校地理の学習課題をまとめる。とくに、人文地理学的分野と自然地理学的分野および経済地理学的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校地歴科についての理解を深める。	120分
9	高等学校日本史	高等学校日本史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ日本史学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校日本史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校日本史の学習課題をまとめる。とくに、政治・経済と文化史の学習がどのように配置されているかに注目して日本史学習の今後のあり方を考える。	120分
10	高等学校世界史	高等学校世界史の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。	
	この回の到達目標	高等学校で学ぶ世界史の学習範囲と学習の意義について理解する。	
	事前学修	高等学校世界史の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。	120分
	事後学修	講義ノートを確認し、高等学校世界史の学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。	120分
11	地理歴史指導の工夫（1）	暗記教科とならないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	地歴教育における「工夫」にはどのようなものがあるのかを知り、生徒の学習力や興味・関心をひきつける教育活動の実態を理解する。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。	120分
	事後学修	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型地歴科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。	120分
12	地理歴史指導の工夫（2）	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）	
	この回の到達目標	生徒が自ら学ぶ地理歴史教育を目指したこれまでの教育実践を調査する力をつける。	
	事前学修	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、地歴科の形成テストも大きく変わっていかねばならないことについて考える。	120分
	事後学修	デベートやグループによる発表を指導する社会科地歴科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	地歴科と評価	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）	
	この回の到達目標	評価法と地歴科の関係について考え、地歴科にふさわしい評価とは何かを理解する。	
	事前学修	これからの高等学校教育や地歴科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。	120分
	事後学修	「思考力」と「表現力」を求める社会科地歴科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。	120分
14	教材研究の方法（1）	教材研究の方法（1）発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性	
	この回の到達目標	教材研究の基礎が各学問領域との密接な関係から生まれることを理解する。	
	事前学修	文献やインターネットを調べて、新しい社会科・地歴科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。	120分
	事後学修	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかとを講義ノートや文献研究から理解する。	120分
15	教材研究の方法（2）	教材研究の方法（2）発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目	
	この回の到達目標	生徒の興味関心と学問の発展との関係について考える力を身に付ける。	
	事前学修	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。	120分
	事後学修	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が優先される。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからを身につける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					40						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	足書房	2019年		必携
中学校学習指導要領（最新版）					必携
高等学校学習指導要領（最新版）					必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限　1 1 号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当
実務経験に基づく実践的教育の内容		学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	資料検索の方法（1）	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法		
	この回の到達目標	NDL-OPACの資料検索方法を体験し、利用できるようになる。		
	事前学修	文献や記事、授業で使う考古学的史料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。	120分	
	事後学修	驚異か教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。	120分	
2	資料検索の方法（2）	資料検索の方法（2）Read & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法		
	この回の到達目標	研究者から資料を検索していく方法を身に付け、実際に検索してみる。		
	事前学修	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。	120分	
	事後学修	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。	120分	
3	教材作成と知的財産権	資料収集と知的財産権の問題		
	この回の到達目標	教材作成における知的財産権に抵触する可能性を理解する。		
	事前学修	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。	120分	
	事後学修	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。	120分	
4	中学生・高校生の学力判断	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義		
	この回の到達目標	「生徒観」を正確に記入することができるようになるために、生徒を理解することを学ぶ。		
	事前学修	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバートを授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。	120分	
	事後学修	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。	120分	
5	中学生・高校生に合わせた教材作り	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法		
	この回の到達目標	生徒の学力にあった教材づくりとはなにかを理解し、実践してみる。		
	事前学修	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。	120分	
	事後学修	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。	120分	
6	教育工学	教育の工学的方法について		
	この回の到達目標	教育工学の考え方を理解し、教材作成の方法に実際に用いる。		
	事前学修	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	紙媒体の資料（プリント）作成	紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	プリントを用いた授業を実践して、留意点を見つける。	
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。	120分
	事後学修	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。	120分
8	映像資料を用いた授業	映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	映像資料の作成方法を理解し、実際に作成して授業を展開してみる。	
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。	120分
	事後学修	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。	120分
9	インターネットを用いた授業	インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	インターネットを用いた授業を実際に構成して実施し、留意点を見つける。	
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。（2時間）	120分
	事後学修	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）	120分
10	教科書の利用	教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	教科書を授業で用いるための方法を理解し、実践して、留意点を見つける。	
	事前学修	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。	120分
11	ディベートを用いる授業（1）	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。	
	事前学修	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。	120分
12	ディベートを用いる授業（2）	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。	
	事前学修	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。	120分
	事後学修	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	バズセッションを利用する授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	生徒のグループ学習に必要なバズセッションの構成方法を理解し、留意点を考える。	
	事前学修	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。	120分
	事後学修	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすための資料および指導案を作成する。	120分
14	グループ発表を用いた授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	グループ学習を用いた授業の難しさを理解し、指導方法を考える。	
	事前学修	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。	120分
	事後学修	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。	120分
15	校外教育	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法	
	この回の到達目標	校外教育における実地調査・実地見学の方法を理解し、留意点についてまとめる。	
	事前学修	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。	120分
	事後学修	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。	120分

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ【新課程】	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
社会科地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。

【履修条件】
教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が優先される。

【授業方法】		
講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を实践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	図書館での資料検索、コンピュータ教室での資料検索、巡検などを用いて、自ら教材を開発する作業を実施する。また、作成した教材を発表して討論し、より進化した教材の作成をめざす。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	社会科地理歴史科の教育法の学修を通して教育問題と社会の関係に関する基本的な知識教養を身に付ける。											
②	現代の地理・歴史科教材が社会に及ぼす影響を論理的に説明し、そこに存在する問題点を批判できる思考力を身に付ける。											
③	現代の地理歴史科教材の問題点はどこにあるのかを明らかにし、その解決策を自ら発信できるような力をつける。											
④	発見した現代の地理歴史科教育の問題点を自ら立案した解決を社会に訴えることができるようなちからを身につける。											
⑤	自ら作成した教材を用いて新たな教育のあり方を提案できるような挑戦力を身に付ける。											
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	教育目標①②③について基本的知識、問題の発見力、論理性が身についているかを筆記試験により評価する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	作成した教材の質を吟味して評価する。		10	10	10							30
討論・発表等	作成した教材の発表する態度を評価する。					40						40
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	20	20	10	40						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中の発表や討論を通じて、論評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人	足書房	2019年		必携
中学校学習指導要領（最新版）					必携
高等学校学習指導要領（最新版）					必携
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2限　1 1 号館特任教授室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		学習指導要領説明会のリーダーの一人として学校教員向け社会科地歴科教育の説明を担当 学指導要領に沿った教材を実践的に指導する。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	資料検索の方法（1）	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法		
	この回の到達目標	NDL-OPACの資料検索方法を体験し、利用できるようになる。		
	事前学修	文献や記事、授業で使う考古学的史料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。	120分	
	事後学修	驚異か教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。	120分	
2	資料検索の方法（2）	資料検索の方法（2）Read & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法		
	この回の到達目標	研究者から資料を検索していく方法を身に付け、実際に検索してみる。		
	事前学修	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。	120分	
	事後学修	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。	120分	
3	教材作成と知的財産権	資料収集と知的財産権の問題		
	この回の到達目標	教材作成における知的財産権に抵触する可能性を理解する。		
	事前学修	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。	120分	
	事後学修	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。	120分	
4	中学生・高校生の学力判断	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義		
	この回の到達目標	「生徒観」を正確に記入することができるようになるために、生徒を理解することを学ぶ。		
	事前学修	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバートを授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。	120分	
	事後学修	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。	120分	
5	中学生・高校生に合わせた教材作り	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法		
	この回の到達目標	生徒の学力にあった教材づくりとはなにかを理解し、実践してみる。		
	事前学修	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。	120分	
	事後学修	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。	120分	
6	教育工学	教育の工学的方法について		
	この回の到達目標	教育工学の考え方を理解し、教材作成の方法に実際に用いる。		
	事前学修	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。	120分	
	事後学修	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。	120分	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	紙媒体の資料（プリント）作成		紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	プリントを用いた授業を実践して、留意点を見つける。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。		120分
	事後学修	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		120分
8	映像資料を用いた授業		映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	映像資料の作成方法を理解し、実際に作成して授業を展開してみる。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。		120分
	事後学修	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。		120分
9	インターネットを用いた授業		インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	インターネットを用いた授業を実際に構成して実施し、留意点を見つける。		
	事前学修	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。（2時間）		120分
	事後学修	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）		120分
10	教科書の利用		教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	教科書を授業で用いるための方法を理解し、実践して、留意点を見つける。		
	事前学修	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。		120分
11	ディベートを用いる授業（1）		討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。		
	事前学修	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。		120分
	事後学修	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。		120分
12	ディベートを用いる授業（2）		討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業	
	この回の到達目標	ディベートの方法を理解し、留意点を明らかにするとともに、実際に実施してみる。		
	事前学修	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。		120分
	事後学修	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	バズセッションを利用する授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	生徒のグループ学習に必要なバズセッションの構成方法を理解し、留意点を考える。	
	事前学修	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。	120分
	事後学修	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすのための資料および指導案を作成する。	120分
14	グループ発表を用いた授業	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導	
	この回の到達目標	グループ学習を用いた授業の難しさを理解し、指導方法を考える。	
	事前学修	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。	120分
	事後学修	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。	120分
15	校外教育	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法	
	この回の到達目標	校外教育における実地調査・実地見学の方法を理解し、留意点についてまとめる。	
	事前学修	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。	120分
	事後学修	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。	120分

科目名	人文地理学概論Ⅰ	担当者	品田 光春	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地表面における人間の存在や活動の在り方を地域的差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について、その基本的なものの見方・考え方を各種の事例を通じて学修する。本授業では特に人文地理学の教材としての地図の利用法に重点を置く。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人文地理学に関する諸概念や教材としての地図類の利用法などについて学び、教職にとって必要とされる人文地理学的な知識・視点および技能の基礎を習得し、中学・高校で教える「地理」に関する人文地理的内容の理解力を養成することを目的とする。 本授業では特に人文地理学の教材としての地図の利用法を理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義資料（プリント）を中心とした講義形式。関連する動画教材も多用する。また、毎回の小テスト・課題についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地理教育における人文地理学の位置付けや他分野との関連性について理解し、説明することができる。【知識】												
②	人文地理学の学問的特質と基礎概念や関連する地理学用語を正確に理解し、具体的に説明することができる。【知識】												
③	地形図をはじめとする地図資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について読解することができる。【技能】												
④	地理写真や統計・グラフなどの地理資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について調べることができる。【技能】												
⑤	具体的な人文地理学的事象とその要因について客観的に考察し、それをふまえて自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についているかを、毎回の授業後の小テストまたは提出課題により評価する。	4	4	4	4	4						20
レポート等	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についているかを、期末レポートにより評価する。	16	16	16	16	16						80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはgoogle classroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
shinada.mitsuharu11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	本授業の進め方、受講上の注意について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、本授業の全体の内容や進め方、受講上の注意について理解する。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理学および人文地理学の概要について調べる。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（地理学の学問的特性など）について復習する。	120分
2	地理学の体系と人文地理学、地域と地域スケール	地理学の体系と人文地理学および系統地理学と地誌学の関係性、さらに地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、地理学の体系と人文地理学および系統地理学と地誌学の関係性、さらに地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（系統地理学、地誌学、地域、地域スケール、縮尺など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（地理学の体系における人文地理学の位置づけ、系統地理学と地誌学の関係性、地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係など）について復習する。	120分
3	人文地理学的資料・教材としての地図	地図の分類と身近な地図としての「住宅地図」について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②⑤に関して、地図の分類と身近な地図としての「住宅地図」について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（地図、住宅地図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（地図、住宅地図など）について復習する。	120分
4	地形図の読み方（1） 地形図の概要	地形図の概要（種類、記載内容、作成法など）について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、地形図の概要（種類、記載内容、作成法など）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（地形図の種類、記載内容、作成法など）について復習する。	120分
5	地形図の読み方（2） 地形図読解の基本ルール	地形図読解の基本ルール（地図記号・等高線などについて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地形図読解の基本ルール（種類、記載内容、作成法など）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（地図記号・等高線など）について復習する。	120分
6	沖積平野の地形と農業的土地利用・集落立地の関係（1） 平野の分類	平野の分類（侵食平野、堆積平野、沖積平野など）について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関して、平野の分類（侵食平野、堆積平野、沖積平野など）について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（堆積平野、沖積平野など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（堆積平野、沖積平野など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	沖積平野の地形と農業的土地利用・集落立地の関係（2） 扇状地		扇状地の地形特性と農業的土地利用・集落立地の関係について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、扇状地の地形特性と農業的土地利用・集落立地の関係について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（扇状地など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（扇状地の地形と農業的土地利用・集落立地の関係の読図など）について復習する。		120分
8	沖積平野の地形と農業的土地利用・集落立地の関係（3） 氾濫原		氾濫原の地形特性と農業的土地利用・集落立地の関係について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、氾濫原の地形特性と農業的土地利用・集落立地の関係について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（氾濫原など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（氾濫原の地形と農業的土地利用・集落立地の関係の読図など）について復習する。		120分
9	交通地理学における旧版地形図の利用		交通地理学における旧版地形図の利用法とその事例として旧版地形図から鉄道廃線を読む方法について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、交通地理学における旧版地形図の利用法とその事例として旧版地形図から鉄道廃線を読む方法について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（交通地理学、旧版地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（交通地理学、旧版地形図の利用法、鉄道廃線の読図など）について復習する。		120分
10	都市化の地理（1） 浦安の都市化		地理学における都市化の概念と、事例として千葉県浦安市の都市化の実態について新旧地形図や地理写真、映像を用い詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地理学における都市化の概念と、千葉県浦安市の都市化の実態について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（都市化など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（浦安の都市化の実態とその読図など）について復習する。		120分
11	都市化の地理（2） 多摩ニュータウン		ニュータウンの概要と、事例として多摩ニュータウンの都市化の実態について新旧地形図や地理写真、映像を用い詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、ニュータウンの概要と、多摩ニュータウンの都市化の実態について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（ニュータウンなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（多摩ニュータウンの特徴とその変遷についての読図など）について復習する。		120分
12	戦争と地図 旧版地形図における戦時改描		旧版地形図における戦時改描について事例を取り上げて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、戦時改描の概要と改描の実態について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（戦時改描など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（旧版地形図における戦時改描の実態など）について復習する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	分布論 分布の一致から地理的事象を読む		地理学における「分布の一致」の概念と、その事例として犯罪地図とハザードマップについて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地理学における「分布の一致」の概念と、その事例として犯罪地図とハザードマップについて理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（分布の一致、ハザードマップなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（分布図の事例からみた分布の一致の意義・有用性など）について復習する		120分
14	古地図と歴史地理		歴史地理学的資料として様々な古地図から過去の地理を読む方法について、詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、歴史地理学的資料として様々な古地図から過去の地理を読む方法について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（古地図、歴史地理学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（歴史地理学的資料としての古地図の利用法など）について復習する。		120分
15	まとめと補足		授業全体のまとめと、授業内容の補足説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前回までの全学習内容について理解し、説明することができる。		
	事前学修	前回までの授業内容を復習し、期末レポート作成の準備をする。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。		120分
	事後学修	授業全体の重要要事項について復習する。		120分

科目名	人文地理学概論Ⅱ	担当者	品田 光春	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地表面における人間の存在や活動の在り方を地域的差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について、その基本的なものの見方・考え方を各種の事例を通じて学修する。本授業では特に地域概念・メンタルマップ・環境・景観に重点を置く。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
人文地理学に関する諸概念や教材としての各種地理資料の利用法などについて学び、教職にとって必要とされる人文地理学的な知識・視点および技能の基礎を習得し、中学・高校で教える「地理」に関する人文地理的内容の理解力を養成することを目的とする。 本授業では特に地域概念・メンタルマップ・環境・景観に関する諸概念と具体的事例を理解し、説明できるようになることを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義資料（プリント）を中心とした講義形式。関連する動画教材も多用する。また、毎回の小テスト・課題についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	地理教育における人文地理学の位置付けや他分野との関連性について理解し、説明することができる。【知識】												
②	人文地理学の学問的特質と基礎概念や関連する地理学用語を正確に理解し、具体的に説明することができる。【知識】												
③	主題図・メンタルマップをはじめとする地図資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について読解することができる。【技能】												
④	地理写真や統計・グラフなどの地理資料を利用して、地域における人間活動の実態とその要因について調べることができる。【技能】												
⑤	具体的な人文地理学的事象とその要因について客観的に考察し、それをふまえて自己の見解を述べることができる。【態度・習慣】												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についているかを、毎回の授業後の小テストまたは提出課題により評価する。	4	4	4	4	4						20
レポート等	到達目標①～⑤に関する基礎知識・技能が身についているかを、期末レポートにより評価する。	16	16	16	16	16						80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内またはgoogle classroomで行う。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない				

【オフィスアワー】
shinada.mitsuharu11@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス、導入授業	本授業の進め方、受講上の注意本授業の進め方、受講上の注意について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①に関して、本授業の全体の内容や進め方、受講上の注意について理解する。	
	事前学修	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理学および人文地理学の概要について調べる。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（人文地理学における本授業の位置づけなど）について復習する。	120分
2	等質地域と機能地域の概念	等質地域・機能地域とは何か、ケッペンの気候区分とホイットルセーの世界農業地域区分について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、等質地域・機能地域とは何か、ケッペンの気候区分とホイットルセーの世界農業地域区分について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（等質地域、機能地域など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（等質地域と機能地域の概念、ケッペンの気候区分とホイットルセーの世界農業地域区分など）について復習する。	120分
3	機能地域からみた商業地理	機能地域としての商圏の形成と変容について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、機能地域としての商圏の形成と変容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（商業地理学、商圏など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（商圏の定義、商圏の形成と変容の実態など）について復習する。	120分
4	実質地域と形式地域の関係からみた政治地理	実質地域と形式地域の関係からみた政治地理について、県境と国境の事例を取り上げて詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、実質地域と形式地域の関係、県境と国境の設定に関する政治地理について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（実質地域、形式地域、政治地理学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（実質地域と形式地域の定義、県境と国境をめぐる地域問題の実例など）について復習する。	120分
5	メンタルマップ（1） 頭の中の世界像	メンタルマップの概念、世界地図を対象としたマクロスケールのメンタルマップの研究事例について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、メンタルマップの概念、世界地図を対象としたマクロスケールのメンタルマップの研究事例について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（メンタルマップなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（メンタルマップの定義。手書き世界地図の分析、子どもの成長と世界像など）について復習する。	120分
6	メンタルマップ（2） 都市のイメージ	都市のイメージに関するミクロスケールのメンタルマップの研究事例について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、都市のイメージに関するミクロスケールのメンタルマップの研究事例について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（リンチの「都市のイメージ」など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（リンチなど都市のメンタルマップ研究の事例など）について復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	地理学における環境概念	地理学における環境概念、環境決定論と環境可能論について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地理学における環境概念、環境決定論と環境可能論について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（環境、環境決定論、環境可能論など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（環境の定義と分類、環境決定論と環境可能論など）について復習する。	120分
8	現代の開発と環境問題（1） アラル海の砂漠化	現代の開発と環境問題の事例として、アラル海の砂漠化について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、アラル海の砂漠化の実態とその要因について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（砂漠化など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（砂漠化の定義、アラル海の縮小問題の実態とその要因など）について復習する。	120分
9	現代の開発と環境問題（2） アマゾンの熱帯林破壊	現代の開発と環境問題の事例として、アマゾンの熱帯林破壊について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、アマゾンの熱帯林破壊の実態とその要因について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（熱帯林、森林破壊など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（アマゾンの熱帯林破壊の実態とその要因など）について復習する。	120分
10	地理学における景観概念と景観保全	地理学における景観概念、景観法と日本の景観保全について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、地理学における景観概念、景観法と日本の景観保全について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（景観、自然景観、文化景観、風景、景観法など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事（景観の定義と分類、景観法の意義など）について復習する。	120分
11	文化的景観としての石見銀山	石見銀山の文化的景観の特徴と世界遺産としての評価について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、石見銀山の文化的景観の特徴と世界遺産としての評価について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（文化的景観、世界遺産など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（石見銀山の文化的景観の特徴と世界遺産としての価値など）を復習する。	120分
12	足尾銅山の環境破壊と景観	足尾銅山における環境破壊と景観修復の問題について解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、足尾銅山における環境破壊と景観修復の問題について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（足尾銅山、鉱害など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（足尾銅山における環境破壊と景観修復の経緯など）を復習する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	近代化産業遺産の保全と活用	長崎県端島（軍艦島）の景観的特徴と近代化産業遺産の保全・活用の実態について詳しく解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、長崎県端島（軍艦島）の景観的特徴と近代化産業遺産の保全・活用の実態について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（近代化産業遺産、鉱山集落など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（長崎県端島の景観的特徴と近代化産業遺産の保全・活用の実態値など）について復習する。	120分
14	身近な文化景観とツーリズム	身近な文化景観を活用したツーリズムに、事例をあげて解説する。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、身近な文化景観を活用したツーリズムの特徴と実態について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容に関する地理学用語（ツーリズムなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	配布プリントの重要事項（身近な文化景観を活用したツーリズムの特徴・実態など）について復習する。	120分
15	まとめと補足	授業全体のまとめと、授業内容の補足説明を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①～⑤に関して、前回までの全学習内容について理解し、説明することができる。	
	事前学修	前回までの授業内容を復習し、期末レポート作成の準備をする。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。	120分
	事後学修	授業全体の重要事項について復習する。	120分

科目名	生徒指導・進路指導論	担当者	山田 智之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
学校教育は、すべての児童生徒の人格の健全な育成を図ることを目的に存在している。時代の変化の中で、表面化する問題への対処の仕方にも違いが出てくるが、生徒指導・進路指導には不易な部分がある。この不易な部分を学び、なおかつ現実を知ることが必要である。本講義では、学校教育現場で起こっている現実を見据え、児童生徒の個性の伸長や自己実現、自立を援助するための生徒指導、進路指導の在り方や具体的な方策について取り組みについて考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
上記の知識を養成することを目的とする。 中学校・高等学校における生徒の発達に即した生徒指導及び進路指導・キャリア教育の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義とアクティブラーニングによる授業を行う。フィードバックは授業内もしくはポータルサイトにて行う。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第5・6・9・10・12・13回等の授業の中でディスカッション、プレゼンテーションを実施する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	中学校・高等学校における生徒の発達に即した生徒指導の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。												
②	中学校・高等学校における生徒の発達に即した進路指導・キャリア教育の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。												
③													
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験（１回×４０点）	20	20									40
小テスト等												
レポート等	題材系統図の作成（１回×１５点）	5	10									15
討論・発表等	討論への参加状況　リアクションペーパー（１５回×１点）	7	8									15
授業への参画度	授業への参加状況　リアクションペーパー（１５回×２点）	15	15									30
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		47	53									100

【課題に対するフィードバックの方法】
各課題に対する解説・講評を授業内で行う。

【教科書・参考書等】					
書　名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	特に指定しない。資料を随時配布する。				

【オフィスアワー】
授業（金曜４・５限）終了後、講堂にて。メールでも対応する。tomoyuki@juen.ac.jp jpyamada.tomoyuki@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	中学校教諭、主幹教諭、副校長
実務経験に基づく実践的教育の内容		実務経験に基づき理論と実践をリアルに解説する。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	【ガイダンス】 【進路指導・キャリア教育の意義と課題】	ガイダンス及び、進路指導・キャリア教育の意義と課題について学習する。		
	この回の到達目標	本科目の授業展開などを理解し、進路指導・キャリア教育の意義と課題について説明することができる。		
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）		30分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）		30分
2	【進路指導・キャリア教育の歴史的経緯】	進路指導・キャリア教育の歴史的経緯について学習する。		
	この回の到達目標	進路指導・キャリア教育の歴史的経緯について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）		30分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）		30分
3	【進路指導・キャリア発達理論】	進路指導・キャリア発達理論（克蘭ボルツ、スーパー、シャイン等）について学習する。		
	この回の到達目標	進路指導・キャリア発達理論について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）		30分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）		30分
4	【ガイダンスとカウンセリング】	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング機能について学習する。		
	この回の到達目標	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング機能について理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）		30分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）		30分
5	【自己理解】	【AL】自己理解に関わる授業事例の検討し学習する。 人生双六<金の糸>		
	この回の到達目標	自己理解に関わる授業事例の検討・理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）		30分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）		30分
6	【職業観・勤労観】	【AL】職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討し学習する。		
	この回の到達目標	職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討・理解し、説明することができる。		
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）		30分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）		30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	【これからの時代の進路指導・キャリア教育】	これからの時代の進路指導・キャリア教育について学習する。	
	この回の到達目標	これからの時代の進路指導・キャリア教育について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
8	【進路指導・キャリア教育の組織と体制】	進路指導・キャリア教育の組織と体制について学習する。（課題提示）	
	この回の到達目標	進路指導・キャリア教育の組織と体制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
9	【職場体験とキャリア教育】	【AL】 職場体験とキャリア教育について学習する。	
	この回の到達目標	職場体験とキャリア教育について理解し、説明することができる。	
	事前学修	ワークシートを用いて授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
10	【三者面談とキャリア教育】	【AL】 三者面談とキャリア教育について学習する。	
	この回の到達目標	三者面談とキャリア教育について理解し、説明することができる。	
	事前学修	ワークシートを用いて授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
11	【生徒指導の組織と体制】	生徒指導の組織と体制について学習する。	
	この回の到達目標	生徒指導の組織と体制について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
	事後学修	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
12	【リーダーシップ】	【AL】 リーダーシップの育成に関わる授業事例について検討し学習する。	
	この回の到達目標	リーダーシップの育成に関わる授業事例について検討・理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	【いじめ問題】	【AL】いじめ問題に関連する教育課題と解決策について学習する。	
	この回の到達目標	いじめ問題に関連する教育課題と解決策について理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
14	【学校現場におけるリスクマネジメント】	学校現場におけるリスクマネジメントについて学習する。	
	この回の到達目標	学校現場におけるリスクマネジメントについて理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	30分
	事後学修	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）	30分
15	【まとめ】	まとめの学習	
	この回の到達目標	本講義全体について。そのポイントを理解し、説明することができる。	
	事前学修	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）	200分
	事後学修	半期の学びを整理する。（2時間）	30分

科目名	西洋史概論Ⅰ	担当者	馬淵 彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
西洋の歴史を、古代オリエントから古代ギリシア・古代ローマを経てカール大帝の時代に至るまでの通史を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校・高等学校での歴史関連科目の指導に必要とされる西洋史に関する歴史理解を確かなものとするために、政治社会・文化共同体としての「ヨーロッパ」がどのように形成され、またどのように変容してきたのかについて理解したうえで、古代オリエントの時代から現代までの通史の説明ができることを目標とする。

【履修条件】
少なくとも高校世界史の教科書や資料集などを用いて予習、復習すること。自分の専門分野や好きな事項に視野を狭めず、人間に関わるあらゆる事柄に関心を持つよう努めること。そうしないと、過去の世界は把握できない。

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価など。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	古代オリエントからカール大帝の時代に至るまでのヨーロッパに関する通史を説明できる。											
②	①を踏まえながら、「ヨーロッパ」とは何かに関する自らの見解を論述することができる。											
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述試験(参照不可)により評価する。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後、どのような点に気をつけて論じるべきだったかなどについての解説をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養のための西洋史入門	中井 義明ほか	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕	服部 良久ほか	ミネルヴァ書房	2006	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔近現代〕	小山 哲ほか	ミネルヴァ書房	2011	参考書	任意
ヨーロッパ論Ⅱ	澤田 昭夫ほか	放送大学教育振興会	1996	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
Google Classroomのコメント機能を介して、質問・相談等を受ける。〔対面授業に移行した場合〕授業終了後、質問・相談等を受付ける。一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ヨーロッパ（西洋）とは何か	ヨーロッパの通史を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパ（西洋）史の通史を扱うこの講義が、どのような独特な二つの視点に立って展開されていくのかを説明できる。	
	事前学修	「ヨーロッパ（西洋）とは何か」との問いへの答えを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
2	超民族的文化共同体としてのヨーロッパ	超民族的文化共同体としてのヨーロッパを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、超民族的文化共同体を説明できる。	
	事前学修	ヨーロッパとは、どのような文化を持った世界なのかを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	ヨーロッパの歴史的構造	ヨーロッパの歴史的構造：時代区分問題を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、講義で学んだ、時代五区分について要点を説明できる。	
	事前学修	ヨーロッパの通史が、なぜ「古代」「中世」「近代」と分けられているのかを考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	ヨーロッパの語源	ヨーロッパの語源についての諸説を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパの語源について、どのような説があるかを説明できる。	
	事前学修	古代アッシリア、新バビロニア、アケメネス朝ペルシア、古代ギリシアについて調べ、政治・社会・文化などの特徴を調べ、ノートに整理しておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	地理的表現および価値表現としてのヨーロッパ	地理的表現および価値表現としてのヨーロッパを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、地理的表現および価値表現として「ヨーロッパ」という語がどのように用いられていたのか、その理由を説明できる。	
	事前学修	歴史地図を探し、古代ギリシア人が活動した地域がどこまで及んでいたのかを調べておく。また、ペルシア戦争、アテネの民主政、アレクサンドロス大王の功績について調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合	古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合が、どのようになされたかを説明できる。	
	事前学修	古代ギリシアの建築、学問、娯楽がどのようなものであったのか、また、「ルネサンス」と古代ギリシアがどのように関係しているか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	教養理念（パイディア）と民主主義（デモクラシー）	教養理念（パイディア）と民主主義（デモクラシー）を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ギリシアの教育方法がどのように現代にまで引き継がれてきたのか、また古代ギリシアと現在のデモクラシーとはどのように異なるのかを説明できる。	
	事前学修	教養教育とは何か、また、古代アテネの民主政がどのように誕生したかについて調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
8	「国々」を支配したローマ共和国	「国々」を支配したローマ共和国を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、皇帝のいないローマ共和国も帝國的支配をしていたとはどういうことなのかを説明できる。	
	事前学修	共和政期のローマが、どのように周辺の国々や地域を支配下に置いたのか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	ローマ共和国を支配した人々	ローマ共和国を支配した人々を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ローマ共和国がどのような人々によって支配されていたのかを説明できる。	
	事前学修	共和政期の古代ローマの元老院や民会がどのようなものであったのか、またローマの支配者たちがどのようにローマ市民たちを治めていたのか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	都市（キヴィタス）建設による地中海世界のローマ化	都市（キヴィタス）建設による地中海世界のローマ化を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマに支配された地域が、どのようにしてローマの文化的影響を受けたのかを説明できる。	
	事前学修	古代ローマがどの地域まで支配下に置いていたのか、そして今日その地域において古代ローマのどのような遺跡が存在するか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	地中海世界に浸透したローマの「文明」	地中海世界に浸透したローマの「文明」：「自由な帝国」を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマの支配者たちがなぜ教養教育を重視したのかを説明できる。	
	事前学修	古代ローマにおいて支配者たちがどのような教育を受けていたのか調べてみる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	政治社会としての「ヨーロッパ」の誕生	政治社会としての「ヨーロッパ」の誕生を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、「ヨーロッパ」という言葉が、文化共同体的な意味でどのように使われ始めたかを説明できる。	
	事前学修	ゲルマン民族による民族大移動と西ローマの崩壊の流れを、フランク王国のクローヴィスの時代まで学んでおく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヨーロッパの王カールとキリスト教帝国建設プラン	ヨーロッパの王カールとキリスト教帝国建設プランを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、カール大帝がなぜキリスト教帝国を建設しようとしたのか、またどのような政治・社会・文化政策を推進したのかを説明できる。	
	事前学修	フラン王国カロリング朝の王たちの功績や、イギリスの七王国とその文化を調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
14	「西洋史概論Ⅰ」に関する講義総括、期末レポート（あるいは授業内試験）	講義を総括し、期末レポート（あるいは授業内試験）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。	
	事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。	120分
	事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。	120分
15	全体のまとめ	アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。	
	事前学修	これまでの授業の中で理解しきれていない箇所をまとめる。	120分
	事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。	120分

科目名	西洋史概論Ⅱ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
西洋の歴史を、カール大帝の時代から現在に至るまでの通史を講義する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
中学校・高等学校での歴史関連科目の指導に必要とされる西洋史に関する歴史理解を確かなものとするために、政治社会・文化共同体としての「ヨーロッパ」がどのように形成され、またどのように変容してきたのかについて理解したうえで、古代オリエントの時代から現代までの通史の説明ができることを目標とする。

【履修条件】
少なくとも高校世界史の教科書や資料集などを用いて予習、復習すること。自分の専門分野や好きな事項に視野を狭めず、人間に関わるあらゆる事柄に関心を持つよう努めること。そうしないと、過去の世界は把握できない。

【授業方法】
具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	小レポート・ピア評価など。受講者数などの状態を見て、適切な形態を適宜用いる。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	カール大帝の時代から現在に至るまでのヨーロッパに関する通史をを説明できる。											
②	①を踏まえながら、「ヨーロッパ」とは何かに関する自らの見解を論述することができる。											
③	講義についての自らの学びや取り組みを振り返り、自らの達成について説明することができる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	到達目標①②③が達成できているかについて、論述試験(参照不可)により評価する。また、場合によって期末レポートに代えることもある。	30	30	20								80
小テスト等	到達目標①②に関わって講義中に課す小レポートやリアクションペーパー、ピアレビューの成果を評価する。	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	20								100

【課題に対するフィードバックの方法】
試験の後、どのような点に気をつけて論じるべきだったかなどについての解説をポータルシステムにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教養のための西洋史入門	中井 義明ほか	ミネルヴァ書房	2007	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕	服部 良久ほか	ミネルヴァ書房	2006	参考書	任意
大学で学ぶ西洋史〔近現代〕	小山 哲ほか	ミネルヴァ書房	2011	参考書	任意
ヨーロッパ論Ⅱ	澤田 昭夫ほか	放送大学教育振興会	1996	その他	任意
備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。				

【オフィスアワー】
Google Classroomのコメント機能を介して、質問・相談等を受ける。〔対面授業に移行した場合〕授業終了後、質問・相談等を受付ける。一部の学生は火曜日の昼休み、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	キリスト教社会（西洋）とは何か（ガイダンス）	カール大帝によって形成された政治社会とはどのようなものであったか概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、キリスト教社会がどのように形成され、またどのような特徴があるかを説明できる。	
	事前学修	フランク王国がどのように発展したのか、そしてカール大帝がどのようなことを行なったのかを調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
2	キリスト教社会の拡充	キリスト教社会の拡充：ベネディクトから托鉢修道会までの発展を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国境や民族の壁を越えて、修道院が文化共同体を各地で広め、キリスト教社会を支え、発展させていたこと、また、キリスト教社会の崩壊の危機を生み出したことを説明できる。	
	事前学修	ベネディクト修道会、クリューニ修道院、シトー会、フランシスコ会、ドミニコ会がどのような修道会であるか調べておく。また、「中世ヨーロッパの都市」がいつ頃からどのように発展した、インノケンティウス3世とはどんな人物であったのか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
3	大学の登場とその成果	大学の登場とその成果：討論とスコラ哲学を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国境や民族の壁を越えて、大学が知的権威を発揮して分析的・批判的精神を有する人材を輩出し、キリスト教社会を支えていたこと、またキリスト教社会崩壊の危機を生み出したことを説明できる。	
	事前学修	いつ頃から大学がヨーロッパに登場したのか、また、大学で何がどのように学ばれていたのか、またスコラ学とは何かについて調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
4	民族王権の台頭とキリスト教社会の動揺	民族王権の台頭とキリスト教社会の動揺を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス国王などの民族王権の台頭と、ローマ教皇権の衰退がどのように生じたのかを説明できる。	
	事前学修	教皇ボニファティウス8世以降、カペー朝とヴァロア朝のフランス国王たちが教皇権に対抗してどのように王権を強めていったか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
5	世界像の変容	世界像の変容：新たな地理的知識を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、古代ローマの文化やキリスト教を通じてヨーロッパに継承されてきた世界像が、どのように変容したのか、また、その変容によって、ヨーロッパ人のアイデンティティがどのようなものになったのかを説明できる。	
	事前学修	ヨーロッパが、セルジューク朝トルコ、モンゴル帝国、中国の元朝、オスマン朝トルコとどのような関係にあったか調べておく。また、北方ゲルマン（ノルマン人やデーン人）の移動やイベリア半島でのレコンキスタについて調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
6	キリスト教社会から再びヨーロッパへ	キリスト教社会から再びヨーロッパへ：ヒューマニストによる「ヨーロッパ」の復活を概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヒューマニストたちによって、「ヨーロッパ」がどのような意味で用いられ始めたかを説明できる。	
	事前学修	ヒューマニストとは何か、またその作品や業績にどんなものがあるのか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパ（前半）		宗教改革と何か、また宗教改革がキリスト教社会に与えた影響を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、宗教改革とはどのようなものであり、その影響によりキリスト教社会がどのように変容し始めたかを説明できる。	
	事前学修	ルターとカルヴァンによる宗教改革、およびイギリス国教会とはどのようなものか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
8	主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパ（後半）		主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパを概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、主権国家の形成がどのようになされたのか、また、皇帝権や教皇権に代わって新たな国際秩序形成の力となったものがなんだったのかを説明できる。	
	事前学修	絶対王政、三十年戦争、名誉革命とはどのようなものか調べておく。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
9	啓蒙と世俗化のヨーロッパ&平和の模索		啓蒙と世俗化のヨーロッパを概観した後、ヨーロッパの平和の模索がなされた事例としてさまざまな統合案・平和案を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ヨーロッパにおいて、信仰（恩寵の光）ではなく理性の重視へとなぜ変わったのか、また、「理性の時代」にもそれに沿わない、あるいは反する文化が力を伸ばしていたことを説明でき、さらに18世紀末までに、ヨーロッパの平和への多種多様な案が唱えられていたことを説明できる。	
	事前学修	アリストタルコス、ブトレマイオス、コペルニクス、ケプラー、ガリレオ、ニュートンが天文学とどのように関係していたのか調べ、さらに啓蒙思想とは何か、その思想に関係する人物にどのような人々がいるか調べておく。また、教皇権や皇帝権がヨーロッパ世界秩序の要として機能しなくなったこの時代、ヨーロッパ世界の平和を実現するのにどんな方法があるか考えてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
10	ナショナリズムのヨーロッパ		ナショナリズムのヨーロッパ：フランス革命とナポレオンを概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、フランス革命とナポレオンによって、どのようにナショナリズムがヨーロッパに広まったのかを説明できる。	
	事前学修	フランス革命、ナポレオンによる支配によってヨーロッパがどのように変容したか調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
11	反ナポレオンの「愛欧心」		反ナポレオンの「愛欧心」：ウィーン体制とメッテルニヒを概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ナポレオン帝国崩壊後のヨーロッパ新秩序がどのようにつくられたのか、また、その新秩序はなぜ不安定となったのかを説明できる。	
	事前学修	ナポレオンがなぜ失脚したのか、ウィーン体制とは何か、メッテルニヒとはどのような人物であったのか調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分
12	ヨーロッパ世界の世界的拡大		ヨーロッパ世界の世界的拡大：産業革命および帝国主義を概観する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、世界がヨーロッパ化されていく過程と、ヨーロッパそのもののが他の文化との接触で変容することを説明できる。	
	事前学修	「産業革命」とはどのように始まったのか、また、「帝国主義時代」とはどのようなものなのか調べてくる。	120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	「偉大なる社会」の凋落		さまざまヨーロッパ像が共存するヨーロッパ、および、二つの世界大戦を経て共同体形成の模索にいたるヨーロッパを概観する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ナショナリズム、リベラリズム、社会主義、民族主義、帝国主義などに基づく新たな理想像が登場したこと、および、ヨーロッパの「近代」に登場した体制や思想・理想が発展し衝突支配ながら、ヨーロッパ列強（主権国家）間の争いが世界規模で戦争を引き起こしたことを説明できる。		
	事前学修	19世紀末のヨーロッパの人々の間にどのような理想的な国家像や世界像があったのか考え、また、第一次世界大戦と第二次世界大戦について、それぞれ原因と経過と結果について調べてくる。		120分
	事後学修	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からないものを、図書館などで調べてノートにまとめる。		120分
14	「西洋史概論Ⅱ」に関する講義総括、期末レポート（あるいは授業内試験）		講義を総括し、期末レポート（あるいは授業内試験）を実施する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、これまでの受講によって、自分自身にどのような能力が付き、また今後どのような学修が自分に必要かを説明できる。		
	事前学修	これまでにこの授業で学んだことの要点を理解できるまで復習する。		120分
	事後学修	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。		120分
15	全体のまとめ		アクティブ・ラーニングの方法により、講義全体を貫いていたテーマと、各回の内容がどのように関連していたかを確認する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、講義全体を貫いていた「問い」に対して、どのような「解答」が可能であるかを説明できる。		
	事前学修	これまでの授業の中で理解しきれっていない箇所をまとめてくる。		120分
	事後学修	授業内において紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。		120分

科目名	地誌学概論Ⅰ	担当者	落合 康浩	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
地誌学は、具体的な地域に焦点をあて、その地域の構造的な特色を総合的にとらえ理解する地理学の一分野である。本講義では、地誌学研究の方法論や中等教育の地理における地誌学の位置づけや役割等を解説した上で、自然環境や社会、文化などについて、日本全体と、日本の中における具体的な地域を事例に整理・紹介し、地域の特色に関する理解を促す。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
自然環境から産業、社会、文化にいたるまで様々な事象についてとりあげ、それらを関連づけて総合的に地域をとらえるのが地誌学の視点である。そこでこの授業では、具体的な地域をあらゆる視点でとらえ、それら諸事象の特徴を関連づけることで地域のもつ構造的な特色について理解し、説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】
特になし

【授業方法】
資料、教材を提示しながら基本的に講義形式で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地誌学の研究と学修の視点、方法論について整理し説明できる。											
②	日本および国内各地域を地誌学の視点で分析し、その地域的特色を整理することができる。											
③	具体的な地域の特徴を関連づけて、地域の構造をまとめ、説明することができる。											
④	中等教育の授業の地誌において、内容を的確に整理し授業を構成することができる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内容を的確に理解し、整理して論理的にまとめることが出来ているか検証し、評価する。	10	10	30	10							60
小テスト等	授業中に実施する小テストなどへの解答状況等を評価する	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参加状況、質疑応答の内容について評価する	10		10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内容及び小テストなどに関する質疑について応答、講評する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。配布資料、提示教材に沿って授業を行う。なお、高等学校使用の地図帳を用意し適宜参照すること。				

【オフィスアワー】
授業終了後の休み時間。 ochiai.yasuhiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
1	地誌学による地域の見方		地域を総合的に理解する地誌学の概念と、その研究・学修の視点および、方法について整理する。
	この回の到達目標	地誌学の概念と具体的地域について理解できる。	
	事前学修	シラバスで授業内容を確認する。	90分
	事後学修	地誌学の概念と研究・学修の視点・方法について整理する。	150分
2	地理学が扱う「地域」と「地域区分」		地域の語の意味と地域区分の視点・方法について整理する。
	この回の到達目標	地域概念と地域区分の方法について理解できる。	
	事前学修	地域という語をどのようなときに使うか考えておく。	120分
	事後学修	地域の語の意味するところを整理し、地域区分の仕方について理解する。	120分
3	中等教育の地理であつかう地誌		中学校社会科、高等学校地理歴史科の中で取り扱う地誌について整理する。
	この回の到達目標	中等教育の中で扱う地誌の内容について理解できる。	
	事前学修	中学校の地理的分野・高等学校の地理の教科書の内容を整理しておく。	120分
	事後学修	中等教育の授業で扱う地誌の内容について理解する。	120分
4	世界における日本の地域性1（地体構造と地形）		世界の地体構造における日本列島の位置と、日本の地形について解説する。
	この回の到達目標	世界における日本の地形的な特徴について理解できる。	
	事前学修	日本にみられる地形について概観し整理しておく。	120分
	事後学修	日本における地形の種類とそれぞれの位置、要因について理解する。	120分
5	世界における日本の地域性2（気候の特徴）		日本の気候の特徴と、その地域的な特徴・因子について解説する。
	この回の到達目標	世界における日本の気候的な特徴について理解できる。	
	事前学修	日本の気候について概観し整理しておく。	120分
	事後学修	日本における気候の特徴とその地域性について理解する。	120分
6	世界における日本の地域性3（宗教観と伝統文化）		日本の宗教観と環境との関係を整理し、伝統文化との関連について解説する。
	この回の到達目標	日本的な宗教観と伝統文化との関連性について理解できる。	
	事前学修	日本人の宗教観について整理しておく。	120分
	事後学修	日本における宗教観と伝統文化との関係について理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	世界における日本の地域性4（農業生産と食文化）		日本の農業生産とその問題点、地域性と食文化との関係について解説する。
	この回の到達目標	日本の農業生産および農業と食文化の関係について理解できる。	
	事前学修	日本の農業生産について概観しておく。	120分
	事後学修	日本の農業の現状とその地域性、および食文化との関係を理解する。	120分
8	世界における日本の地域性5（環境と集落・家屋）		日本における集落や家屋の特徴とその地域性に関わる要因について解説する。
	この回の到達目標	集落・家屋の地域性とその要因について理解できる。	
	事前学修	日本の家屋に関する基礎知識を整理しておく。	120分
	事後学修	日本の家屋の地域差と自然環境との関係を考える。	120分
9	日本の事例地域1 沖縄県		沖縄県における環境と社会、文化の特色について解説する。
	この回の到達目標	沖縄県独特の文化的な特色に関わる要因について理解できる。	
	事前学修	沖縄県の位置、自然環境について概観しておく。	120分
	事後学修	沖縄県の地域的特色とその要因について整理し理解する。	120分
10	日本の事例地域2 静岡県		静岡県における環境と社会、産業等の特色について解説する。
	この回の到達目標	静岡県の社会・産業等の特色に関わる要因について理解できる。	
	事前学修	静岡県の位置、自然環境について概観しておく。	120分
	事後学修	静岡県の地域的特色とその要因について整理し理解する。	120分
11	日本の事例地域3 新潟県		新潟県における環境と社会・産業等の特色について解説する。
	この回の到達目標	新潟県の社会・産業等の特色に関わる要因について理解できる。	
	事前学修	新潟県の位置、自然環境について概観しておく。	120分
	事後学修	新潟県の地域的特色とその要因について整理し理解する。	120分
12	日本の事例地域4 東京大都市圏(1)		東京および周辺地域の自然環境とその変化について解説する。
	この回の到達目標	東京および周辺地域の地形・気候の特徴について理解できる。	
	事前学修	東京および周辺地域の自然環境について概観しておく。	120分
	事後学修	東京および周辺地域の地形・気候の特色について整理し理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	日本の事例地域 5 東京大都市圏 (2)	東京（江戸）の都市構造について成立から現代までをたどりながら解説する。	
	この回の到達目標	江戸・東京の都市構造を歴史的変遷の中で理解できる。	
	事前学修	東京中心部にある街や各施設の配置を概観しておく。	120分
	事後学修	現代の東京の都市構造を歴史的な経緯を踏まえて整理し理解する。	120分
14	日本の事例地域 6 東京大都市圏 (3)	東京大都市圏の広がりや構造を人口と都市機能の側面から解説する。	
	この回の到達目標	東京を事例に日本の大都市の拡大・成長の過程を理解できる。	
	事前学修	東京とその周辺地域における街や各施設の配置を概観しておく。	120分
	事後学修	東京大都市圏の拡大・成長の過程とその要因について整理し理解する。	120分
15	理解度の確認と総括	授業内試験（レポート提出に代替する可能性あり）を実施し、授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	日本と国内各地の地域構造の特色およびその規定要因について説明できる。	
	事前学修	日本および国内の事例地域の地域構造およびその規定要因について整理し理解しておく。	200分
	事後学修	授業全体の内容を再整理して理解する。	40分

科目名	地誌学概論Ⅱ	担当者	落合 康浩	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】 地誌学は、具体的な地域に焦点をあて、その地域の構造的な特色を総合的にとらえ理解する地理学の一分野である。本講義では、地誌学研究の方法論や地域を比較する視点などを理解した上で、自然環境や社会、文化等について、ユーラシア大陸にある各地域、すなわち東南アジア、南アジア、中央アジア、ヨーロッパにおける具体的な地域を事例に整理、紹介し、地域の特色に関する理解を促す。

【授業の目的】 (General Instructional Objective:GIO 一般目標) 自然環境から産業、社会、文化にいたるまで様々な事象についてとりあげ、それらを関連づけて総合的に地域をとらえるのが地誌学の視点である。そこでこの授業では、具体的な地域をあらゆる視点でとらえ、それら諸事象の特徴を関連づけることで地域のもつ構造的な特色について理解し、説明できるようになることを目的とする。

【履修条件】 特になし

【授業方法】 資料、教材を提示しながら基本的に講義形式で授業を進める。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	質問票・小レポート等にもとづいて質疑応答を行うなど双方向的な授業を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	地誌学の研究と学習の視点、方法論について整理し説明できる。											
②	世界およびユーラシア大陸の各地域を地誌学の視点で分析し、その地域的特色を整理することができる。											
③	具体的な地域の特徴を関連づけて、地域の構造をまとめ、説明することができる。											
④	中等教育の授業の地誌において、内容を的確に整理し授業を構成することができる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	授業内容を的確に理解し、整理して論理的にまとめることが出来ているか検証し、評価する。	10	10	30	10							60
小テスト等	授業中に実施する小テストへの解答状況等を評価する	10	10									20
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業への参加状況、質疑応答の内容について評価する	10		10								20
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	20	40	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内容及び小テストなどに関する質疑について応答、講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	教科書は使用しない。配布資料、提示教材に沿って授業を行う。なお、高等学校使用の地図帳を用意し適宜参照すること。				

【オフィスアワー】
授業終了後の休み時間。ochiai.yasuhiro@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	世界の国々と地域区分		世界の国々の位置関係と自然環境や社会条件による地域区分について解説する。	
	この回の到達目標	世界の国々の位置関係と世界の地域区分について理解できる。		
	事前学修	シラバスで授業内容を確認するとともに世界地図を概観する。		90分
	事後学修	世界の国々の位置と世界を地域区分する方法について整理する。		150分
2	ユーラシア大陸における東西の地域差		ユーラシア大陸の東にある日本と西にあるヨーロッパなどの地域的差異について具体的な項目ごとに比較し解説する。	
	この回の到達目標	日本とヨーロッパの様々な地域差と環境的な要因について理解できる。		
	事前学修	日本とヨーロッパの違いについて概観し整理しておく。		120分
	事後学修	日本とヨーロッパにおける地域差とその要因について整理し理解する。		120分
3	東南アジアの自然環境と社会		東南アジアの地形や気候、社会、経済等について解説する。	
	この回の到達目標	東南アジアの地域的特色について理解できる。		
	事前学修	東南アジアの自然環境や国々などについて地図帳で確認しておく。		120分
	事後学修	東南アジアの地域構造とその特色について整理し理解する。		120分
4	東南アジアの事例地域1（カンボジアの自然と社会）		カンボジアにおける自然環境や略史、現代の社会について解説する。	
	この回の到達目標	カンボジアの地域的特色について理解できる。		
	事前学修	カンボジアの位置や基本データを地図帳等で確認しておく。		120分
	事後学修	カンボジアの産業や経済、現在に至る社会の事情を整理し理解する。		120分
5	東南アジアの事例地域2（カンボジアにおける観光開発と地域社会）		カンボジアにおける観光の拠点、シェムリアップ州の観光開発の実態と地域社会の変容、問題点等について解説する。	
	この回の到達目標	カンボジアにおける観光開発の現状と問題点を理解できる。		
	事前学修	カンボジアの観光資源について確認しておく。		120分
	事後学修	シェムリアップ州の観光開発の実情と問題点を整理し理解する。		120分
6	南アジアの自然環境と社会		南アジアの地形や気候、社会、経済等について解説する。	
	この回の到達目標	南アジアの地域的特色について理解できる。		
	事前学修	南アジアの自然環境や国々などについて地図帳で確認しておく。		120分
	事後学修	南アジアの地域構造とその特色について整理し理解する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	南アジアの事例地域1（パキスタンの自然と社会）		パキスタンにおける自然環境や略史、現代の社会について解説する。
	この回の到達目標	パキスタンの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	パキスタンの位置や基本データを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	パキスタンの産業や経済、現在に至る社会の事情を整理し理解する。	120分
8	南アジアの事例地域2（パキスタン北部の生活と開発）		パキスタン北部の山岳地域ゴジャール地区の開発実態と地域社会の変容、問題点等について解説する。
	この回の到達目標	パキスタン辺境地域における開発の現状と問題点を理解できる。	
	事前学修	パキスタン北部山岳地域の自然環境について確認しておく。	120分
	事後学修	ゴジャール地区の開発の実情と問題点を整理し理解する。	120分
9	中央アジアの環境と社会1（キルギスの事例）		キルギス アライ谷における自然環境や略史、現代の社会について解説する。
	この回の到達目標	キルギスの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	キルギスの位置や基本データを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	アライ谷の産業や経済、現在に至る社会の事情を整理し理解する。	120分
10	中央アジアの環境と社会2（タジキスタンの事例）		タジキスタンワハン地区における自然環境や略史、社会について解説する。
	この回の到達目標	タジキスタンの地域的特色について理解できる。	
	事前学修	タジキスタンの位置や基本データを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	ワハン地区の産業や経済、現在に至る社会の事情を整理し理解する。	120分
11	ヨーロッパの自然環境（地形と気候・植生）		ヨーロッパにおける地形や気候・植生について解説する。
	この回の到達目標	ヨーロッパの自然環境とその地域差について理解できる。	
	事前学修	ヨーロッパの自然環境や国々などについて地図帳で確認しておく。	120分
	事後学修	ヨーロッパの地形や気候・植生の特色について整理し理解する。	120分
12	ヨーロッパの人文環境（民族と略史）		ヨーロッパにおける民族、宗教などの特色や地域差などについて解説する。
	この回の到達目標	ヨーロッパの民族・宗教などの地域差について理解できる。	
	事前学修	ヨーロッパの民族や宗教などについて確認しておく。	120分
	事後学修	ヨーロッパの民族や宗教とその地域的分布について整理し理解する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ヨーロッパの事例地域 1（ドイツの農業と食文化）	ドイツを事例にヨーロッパの農業の特色や食文化の特徴について解説する。	
	この回の到達目標	ヨーロッパの農業と食文化の関係について理解できる。	
	事前学修	ドイツの位置や農業に関するデータを地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	ドイツにおける農業の特徴と食文化との関係を整理し理解する。	120分
14	ヨーロッパの事例地域 2（ドイツの交通政策と環境対策）	ドイツを事例にヨーロッパの交通政策と環境対策の特色について解説する。	
	この回の到達目標	ヨーロッパの交通政策と環境対策について理解できる。	
	事前学修	ドイツの都市や交通路線について地図帳等で確認しておく。	120分
	事後学修	ドイツの交通や環境に関わる地域政策の特徴を理解する。	120分
15	理解度の確認と総括	授業内試験（レポート提出に代替する可能性あり）を実施し、授業内容を総括する。	
	この回の到達目標	ユーラシア大陸各地の地域構造の特色およびその規定要因について説明できる。	
	事前学修	アジアおよびヨーロッパの事例地域の地域構造およびその規定要因について整理し理解しておく。	200分
	事後学修	授業全体の内容を再整理して理解する。	40分

科目名	哲学概論Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「哲学とは何か」という問題を焦点にし、古代から近代に至るまで西洋哲学が歩んできた思考の道筋をたどる。自然観としての存在論の変遷という点を大きなテーマに据えて、ソクラテス以前の自然観が、ソクラテスを経てプラトンに始まり、近代にまで至る形而上学的な自然観によってどのように変貌してゆくのか、その展開の意味を問い、考えてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な問題について哲学的に考えることができる姿勢を身につけることを通して、人間教育にとって不可欠な総合的視野を修得する。その過程のなかで、1．古代から近代までの西洋哲学における主要な哲学的概念を抽出し、その背景にある問題意識や問いの動機を理解すること、2．様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解すること、3．時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	西洋哲学における主要な哲学的概念を抽出し、その背景にある問題意識や問いの動機を理解し、説明することができる。												
②	様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解し、説明することができる。												
③	時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解し、説明することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	35	35	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
反哲学史（講談社学術文庫）	木田元	講談社	2000年4月10日	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。）研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
2	哲学は何を問うてきたのか	常識や科学知と哲学との違いや関係について考える。	
	この回の到達目標	常識や科学知と哲学との違いや関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
	事前学修	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。哲学と科学との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	常識や科学知と哲学との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	「哲学」の誕生	ソクラテスの「知を愛すること（フィロソフィア）」の意味と役割について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテスの「知を愛すること（フィロソフィア）」の意味と役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ソクラテスのいう「無知の知」について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ソクラテスのいうフィロソフィアについてその意味と役割について確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	アイロニーとしての哲学	ソクラテスの「皮肉（アイロニー）」の意味や目的について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテスの「皮肉（アイロニー）」の意味や目的について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	皮肉と嘘の違いや共通点について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ソクラテスのアイロニーについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	ソクラテス裁判	ソクラテスの「無限否定性」という生き方とその政治的立場との関係について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテスの「無限否定性」という生き方とその政治的立場との関係について考える。理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ソクラテス裁判について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ソクラテスの無限否定性についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	ソクラテス以前の自然観	ソクラテス以前の思想家たちにとっての「自然（フュシス）」の意味と役割について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテス以前の思想家たちにとっての「自然（フュシス）」の意味と役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	自然について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ソクラテス以前のフュシスについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
7	授業の前半部の総括		授業の前半部の内容を振り返り、ソクラテス以前の自然観という点からソクラテスのフィロソフィアの意味や役割について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテス以前の自然観という点からソクラテスのフィロソフィアの意味や役割について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ここまでの授業内容を振り返り、自然観という点から見たソクラテスの役割についてノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	自然観という点から見たソクラテスの役割についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
8	プラトンのイデア論		プラトンのイデア論の真意を探り、イデア論と物質的自然観との関係について考える。	
	この回の到達目標	プラトンのイデア論と物質的自然観との関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	プラトンのイデア論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	イデア論と物質的自然観との関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
9	アリストテレスの形而上学		アリストテレスによるイデア論の批判的継承と、形而上学的思考様式の普及について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	アリストテレスによるイデア論の批判的継承と、形而上学的思考様式の普及について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	プラトンとアリストテレスとの哲学の違いや関係性について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	形而上学的思考様式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
10	プラトン・アウグスティヌス主義の復興		デカルト哲学への影響という点からスコラ哲学の動向について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルト哲学への影響という点からスコラ哲学の動向について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	スコラ哲学について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	スコラ哲学のデカルト哲学への影響についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
11	デカルトと近代哲学の創建		デカルトによる量的自然観の基礎づけについて、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトによる量的自然観の基礎づけについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	デカルトとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	デカルトによる量的自然観の基礎づけについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
12	近代哲学の構図		デカルトに始まる近代哲学の構図について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトに始まる近代哲学の構図について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	科学的世界観について思い、考えることをノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	近代哲学の構図についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	授業の全体の総括		授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。	
	この回の到達目標	ソクラテス以前からデカルトに至るまでの自然観の変遷について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	授業内容の全体を振り返り、ソクラテス以前からカントに至るまでの自然観の変遷について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ソクラテス以前からカントに至るまでの自然観の変遷について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
14	哲学とは何かを振り返る		ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認する。	
	この回の到達目標	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	ソクラテスからデカルトに至るまでの自然観の変遷を通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
15	リアクションペーパーの講評・解説、授業全体の総括		リアクションペーパーの講評・解説を踏まえ、授業全体を総括する。	
	この回の到達目標	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	哲学とは何か、という問いをめぐって、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分

科目名	哲学概論Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修 選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「哲学とは何か」という問題を焦点にし、近代から現代に向けて西洋哲学が歩んできた思考の道筋をたどる。自然観としての存在論の変遷という点を大きなテーマに据えて、近代哲学において形而上学的な自然観がどのように完成されてゆくのか、現代哲学に向かって、近代哲学の自然観の限界がどのように克服されてゆくのか、その展開の意味を問い、考えてゆく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
様々な問題について哲学的に考えることができる姿勢を身につけることを通して、人間教育にとって不可欠な総合的視野を修得する。その過程のなかで、1．近代哲学における主要な哲学的概念の可能性や限界を抽出し、現代哲学の源流としてその克服を目指す主要な哲学的立場とその概念を理解すること、2．様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解すること、3．時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解することを目標とする。

【履修条件】
特になし。

【授業方法】
講義を中心に進めてゆく。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパーや小レポート等を提出する機会を設け、その講評や解説をするなど、対話的要素を講義に取り入れてゆく。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	近代哲学における主要な哲学的概念の可能性や限界の意味を理解し、説明することができる。								
②	様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解し、説明することができる。								
③	時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解し、説明することができる。								
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、リアクションペーパーの提出状況により評価する。	35	35	30								100
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
リアクションペーパーの講評を授業内やポータルシステム等で発表する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
反哲学史（講談社学術文庫）	木田元	講談社	2010年4月10日	教科書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
原則として土曜日12:00~13:00（休暇期間は除く。事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館6階1612） okayama.keiji@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス/「哲学とは何か」	ガイダンスとして、授業内容や評価方法なども含め履修上の注意事項を説明したあと、講義の目的や意図の確認として、「哲学とは何か」について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	ガイダンスの内容を理解する。「哲学とは何か」について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①	
	事前学修	シラバスの内容を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性の確認に加えて、「哲学とは何か」について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
2	哲学は何を問うてきたのか	常識や科学知と哲学との違いや関係について考える。	
	この回の到達目標	常識や科学知と哲学との違いや関係について理解し、説明することができる。：関連SB0s①②	
	事前学修	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。哲学と科学との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	常識や科学知と哲学との違いや関係について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
3	近代哲学の構図	デカルトに始まる近代哲学が招いた問題について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	デカルトに始まる近代哲学が招いた問題について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	科学の可能性と限界について思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	近代哲学が招いた問題についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
4	カントと近代哲学の完成	カントのコペルニクスの転回とは何か。直観の形式と思考のカテゴリーという発想について、その意味を考える。	
	この回の到達目標	直観の形式と思考のカテゴリーという発想について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	カントとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	カントのコペルニクスの転回についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
5	ヘーゲルと近代哲学の完成	ヘーゲルの弁証法の意味を確認し、形而上学的思考様式の完成について考える。	
	この回の到達目標	ヘーゲルの弁証法の意味を確認し、形而上学的思考様式の完成について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ヘーゲルの弁証法について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ヘーゲルの弁証法、および形而上学的思考様式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
6	後期シェリングと実存哲学	後期シェリングの実存主義について考える。	
	この回の到達目標	後期シェリングの実存主義について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ヘーゲルとシェリングとの哲学の違いや関係性について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	後期シェリングの実存という概念についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	授業の前半部の総括	授業の前半部の内容を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について考える。	
	この回の到達目標	授業の前半部の内容を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ここまでの授業を振り返り、近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	近代哲学の展開と完成をめぐる可能性や限界について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
8	実存とは	「実存」をめぐって、後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いと関係について考える。	
	この回の到達目標	「実存」をめぐって、後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いと関係について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	実存主義について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	実存についての後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
9	マルクスの自然主義	マルクスの『経済学・哲学草稿』における労働の弁証法と自然主義という考え方について。	
	この回の到達目標	マルクスの『経済学・哲学草稿』における労働の弁証法と自然主義という考え方について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	マルクスの労働概念について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	マルクスのいう自然主義についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
10	ニーチェのニヒリズム	ヨーロッパのニヒリズムという点からニーチェの文化批判について考える。	
	この回の到達目標	ヨーロッパのニヒリズムという点からニーチェの文化批判について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ニヒリズムについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	ニーチェのいう「ヨーロッパのニヒリズム」についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
11	ニーチェと「力への意志」の哲学	「力への意志」という点からニーチェの自然観について考える。	
	この回の到達目標	力への意志」という点からニーチェの自然観について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	ニーチェのいう「力への意志」について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	「力への意志」という考えにおけるニーチェの自然観についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分
12	近代から現代へ	近代哲学にまで至る自然観の変遷を振り返る。	
	この回の到達目標	近代哲学にまで至る自然観の変遷について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③	
	事前学修	近代哲学にまで至る自然観の変遷についてその意味をノートに整理しておくこと。	90分
	事後学修	近代哲学にまで至る自然観の変遷についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。	150分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
13	授業の全体の総括		授業の全体の内容を振り返り、その哲学的な意味について考える。	
	この回の到達目標	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	授業内容の全体を振り返り、近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界、克服の歩みについて、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
14	哲学とは何かを振り返る		近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認する。	
	この回の到達目標	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	近代哲学の自然観をめぐる可能性と限界とその克服の歩みを通して、哲学とは何かを振り返り、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分
15	リアクションペーパーの講評・解説、授業全体の総括		リアクションペーパーの講評・解説を踏まえ、授業全体を総括する。	
	この回の到達目標	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を理解し、説明することができる。：関連SB0s①②③		
	事前学修	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味をノートに整理しておくこと。		90分
	事後学修	哲学とは何か、という問いをめぐる、授業全体で考察してきた哲学的な基礎知識について、その意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。		150分

科目名	道徳教育の理論と方法	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
道徳教育の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育実践の目標や内容、指導計画等を理解します。また、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけることを目的とします。（以上、文部科学省「コアカリキュラム」より引用：一部改）

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を養成することを目的とします。道徳教育実践を構想し、計画、立案、実践できることを到達目標とします。

【履修条件】
おもに、教職を志望する学生を対象とします。なお、教職を志望していない学生は、基本的には模擬授業の実施の必要はありません。また、予習と復習の時間は、あくまで目安であり、個々人で学習計画を立案してください。

【授業方法】
講義、学生による模擬授業を中心に進めます。模擬授業に対する講評は、そのつど実施します。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～15回のいずれかを予定）。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力			
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力			
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力			
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力			
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル					
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
①	道徳教育の歴史的変遷について理解し、自己の見解を叙述できる。									
②	天皇制公教育の歴史的変遷について理解し、自己の見解を叙述できる。									
③	戦前における「教育勅語」の位置づけについて理解し、自己の見解を叙述できる。									
④	道徳教育の諸実践の意義と課題について理解し、自己の見解を叙述できる。									
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等												
レポート等	レポート (30%)	10	10	5	5							30
討論・発表等	模擬授業 (60%)。	20	20	10	10							60
授業への参画度	コメントペーパー (10%)。	3	3	2	2							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		33	33	17	17							100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中に講評いたします。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
いのちに触れる	鳥山敏子	太郎次郎社エディタ ス	2011	教科書	必携
からだといのちと食べものと	鳥山敏子	自然食通信社	2003	参考書	任意
ブタまるごと一頭食べる	鳥山敏子	フレーベル館	1987	参考書	任意
備考					

【オフィスアワー】
授業後に受けつけます。連絡先：kagawa.nanami [アットマーク] nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	被教育体験と道徳教育	被教育体験のなかの道徳教育	
	この回の到達目標	被教育体験と道徳教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	教科書や参考文献に目を通しておく。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
2	人間の育ちと道徳性	「道徳」の輪郭 哲学における道徳性の発達と概念の定義をめぐって	
	この回の到達目標	人間の育ちと道徳性について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
3	日本道徳教育史①	日本における戦前の道徳教育史 江戸時代の通俗道徳から修身教育まで	
	この回の到達目標	日本道徳教育史について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。（2時間）	120分
4	日本道徳教育史②	日本における戦後の道徳教育史 敗戦後から「教科化」まで	
	この回の到達目標	日本道徳教育史について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
5	教育実践史と学校教育①	具体的な戦後の道徳教育実践（1）「いのち」の授業：黒田恭史を事例として	
	この回の到達目標	教育実践史と学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
6	教育実践史と学校教育②	具体的な戦後の道徳教育実践（2）「いのち」の授業：鳥山敏子を事例として	
	この回の到達目標	教育実践史と学校教育について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	道徳教育の授業実践①	道徳教育の学習指導案 作成と方法	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
8	道徳教育の授業実践②	模擬授業の検討（1） 教材研究	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
9	道徳教育の授業実践③	模擬授業の実際（1） 各グループによる小授業	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
10	道徳教育の授業実践④	模擬授業の検討（2） 各グループへの意見交流	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
11	道徳教育の授業実践⑤	模擬授業の実際（2） 各グループによる授業実践（小学校）	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
12	道徳教育の授業実践⑥	模擬授業の実際（3） 各グループによる授業実践（中学校）	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	道徳教育の授業実践⑦	模擬授業の実際（3） 各グループによる授業実践（高等学校）	
	この回の到達目標	道徳教育の授業実践について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
14	道徳教育と教育評価	各グループの教育評価のあり方をめぐって	
	この回の到達目標	道徳教育と教育評価の関係について理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分
15	道徳教育と公教育システム	総合討議。	
	この回の到達目標	道徳教育と公教育システムについて理解し、自己の見解を説明できるようになる。	
	事前学修	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。	120分
	事後学修	配布資料をもとに復習をする。	120分

科目名	東洋史概論Ⅰ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
先史時代から13世紀にいたる、東ユーラシアと中央ユーラシアの歴史的な展開、中国の歴史を中心に中央ユーラシア・朝鮮半島・ベトナムなどの諸地域の歴史を講義する。高等学校での教員経験をふまえて、高等学校「世界史」を教えるにあたって、教科書の内容と留意事項について適宜ふれていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高等学校「世界史」の授業を行うにあって、その学習による深い理解や、実際の授業準備に必要な知識やポイントを把握できることを目的に授業を展開する。先史時代から13世紀にいたるまでの東ユーラシア・中央ユーラシアの歴史的な展開を概述・説明できることを目標とする。

【履修条件】
向上心のある学生に限る。授業内容が分かるまで自律的／自立的に学修しなければ、良い成績はとれません。辛抱づよく取り組んでほしい。また、常日頃から「教える側」に求められものは何かを追究してもらいたい。無礼な方お断り。

【授業方法】
オンデマンド授業です。各回の授業では「レジュメ」を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「小テスト」（授業内課題）では、次の授業において確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	東洋史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。											
②	①を踏まえながら、古代から現代までの東洋史の歴史的展開のなかで、歴史的な事項を位置づけ、その意味・意義を把握し、自らの見解を明らかにできる。											
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。											
④	①②③を踏まえて、中学校の社会科「歴史分野」、高等学校の「世界史」・「日本史」（一部）に関する授業の組み立てができる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10	10									20
レポート等	3回のレポート（授業外課題）を課します。レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものを基準に、到達目標①②③④の能力が身についているかを評価する。	30	30	10	10							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート（授業外課題）は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、小テスト（授業内課題）は返却時に解説、不正解者にはコメントを付す。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国の歴史	岸本美緒	ちくま学芸文庫（筑摩書房）	2015年	教科書	必携
遊牧民から見た世界史 増補版	杉山正明	日経ビジネス文庫（日経新聞社）	2011年	参考書	推奨
朝鮮思想全史	小倉紀蔵	ちくま新書（筑摩書店）	2017年	参考書	推奨
教養の中国史	津田資久ほか編	ミネルヴァ書房	2018年	参考書	推奨
中国経済史	岡本隆司編	名古屋大学出版会	2013年	参考書	推奨
中華の成立 唐代まで 〈シリーズ 中国の歴史①〉	渡辺信一郎	岩波書店（新書）	2019年	参考書	推奨
江南の発展 南宋まで 〈シリーズ 中国の歴史②〉	丸橋充拓	岩波書店（新書）	2020年	参考書	推奨
世界史年表	歴史学研究会編	岩波書店	2017年	参考書	任意
備考	教科書（『中国の歴史』）は必ず用意して下さい。参考資料として「遊牧民の歴史」、「朝鮮前近代史」を配布します。				

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	人類の誕生 旧石器時代の中国	〔中国史1〕 授業内容やスケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介をするとともに、人類の誕生、ホモ・サピエンスの登場、さらに中国における人類の足跡やと旧石器時代について概述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「人類の誕生」「旧石器時代の中国」を説明できる。	
	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の導入部分を読み、授業にそなえる。	120分
	事後学修	「人類の誕生・ホモ・サピエンスの登場・中国における人類の足跡・旧石器時代の中国」についてまとめてみよう。	120分
2	中国文明の多元性	〔中国史2〕 中国文明の誕生 中国文明の多元性について	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国文明の多元性を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「2 中国初期王朝の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
	事後学修	中国文明の多元性についてまとめてみよう。	120分
3	殷周時代	〔中国史3〕 中国初期王朝の形成―殷周時代	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、殷周時代を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「2 中国初期王朝の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
	事後学修	殷周時代についてまとめてみよう。	120分
4	春秋から秦の統一	〔中国史4〕 春秋戦国 秦の統一	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、春秋から秦の統一を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「3 春秋・戦国から秦の統一へ」を読んで春秋戦国時代から秦の統一についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「春秋戦国 秦の統一」についてまとめてみよう。	120分
5	漢王朝の時代	〔中国史5〕 漢帝国の成立と発展 王莽の新と漢の再興	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、漢王朝の時代を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「4 漢帝国と周辺地域」を読んで漢帝国と周辺地域についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「漢帝国の成立と発展 王莽の新と漢の再興」についてまとめてみよう。	120分
6	魏晋南北朝時代	〔中国史6〕 中国の分裂 三国の鼎立 南北朝時代 中国における胡漢融合と六朝政権	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、魏晋南北朝時代を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「5 分裂と融合の時代」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「中国の分裂 中国における胡漢融合と六朝政権」についてまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	隋唐律令国家	〔中国史7〕 隋唐律令国家の登場 唐と周辺諸地域	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、隋唐律令国家を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「6 隋唐帝国の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「隋唐律令国家の登場 唐と周辺諸地域」についてまとめてみよう。	120分
8	東アジア文化圏の成立 隋唐の国際関係と文化	〔中国史8〕 東アジア文化圏の成立、隋唐の国際関係	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「東アジア文化圏の成立」「隋唐の国際関係と文化」を説明できる。	
	事前学修	配布プリントの「羈縻政策」を読んでまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「東アジア文化圏の成立 隋唐の国際関係と文化」についてまとめてみよう。	120分
9	スキタイと匈奴	〔中央ユーラシア史1〕 騎馬遊牧民の誕生 遊牧国家の発生 スキタイ 匈奴の時代	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、スキタイと匈奴を説明できる。	
	事前学修	参考資料「遊牧民の歴史」を参考にして、スキタイ、匈奴を把握してみよう。。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「騎馬遊牧民の誕生 遊牧国家の発生 スキタイ 匈奴の時代」についてまとめてみよう。	120分
10	草原世界の「民族大移動」と北アジアの展開	〔中央ユーラシア史2〕 草原世界の「民族大移動」 鮮卑 五胡十六国時代 高車と柔然	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、草原世界の「民族大移動」と北アジアの展開を説明できる。	
	事前学修	参考資料「遊牧民の歴史」を参考にして、五胡、柔然、高車、「カンカハンカ」について把握してみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「草原世界の「民族大移動」 鮮卑 五胡十六国時代 高車と柔然についてまとめてみよう。	120分
11	古テュルク時代からウイグル遊牧国家の成立まで	〔中央ユーラシア史3〕 古テュルク時代 突厥の勃興と隋・唐等の関係 唐の羈縻政策と東突厥 ウイグル遊牧国家 オアシス世界の展開 オアシス世界への中華文化の流入	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、古テュルク時代からウイグル遊牧国家の成立までを説明できる。	
	事前学修	参考資料「遊牧民の歴史」を参考にして、突厥についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「古テュルク時代 突厥の勃興と隋・唐等の関係 唐の羈縻政策と東突厥 ウイグル遊牧国家」についてまとめてみよう。	120分
12	古代朝鮮から朝鮮三国の抗争	〔朝鮮史1〕 朝鮮の神話と伝承 朝鮮三国以前ー古朝鮮・漢の四郡・三韓 高句麗・百済・新羅・伽耶諸国、朝鮮三国の抗争に	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、古代朝鮮から朝鮮三国の抗争までを説明できる。	
	事前学修	参考資料「朝鮮前近代史」を参考にして、古代朝鮮から朝鮮三国の抗争を把握してみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて古代朝鮮から統一新羅と渤海の成立までをまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	統一新羅と渤海	〔朝鮮史2〕 中国の王朝と朝鮮 煬帝の高句麗遠征 唐と新羅の連合 百済と高句麗の滅亡 新羅の「朝鮮半島の統一」 渤海の成立	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、新羅による「朝鮮半島の統一」と渤海の成立を説明できる。	
	事前学修	参考資料「朝鮮前近代史」を参考にして、新羅による「朝鮮半島の統一」と渤海の成立までを把握してみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて古代朝鮮から統一新羅と渤海の成立までをまとめてみよう。	120分
14	「唐の滅亡と東アジア世界の変容・中央ユーラシアの変容	〔中国史9／中央ユーラシア史4〕 唐の滅亡と東アジア世界の変容、中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク化について概述し、その後、朝鮮史と中央ユーラシア史の小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、「唐の滅亡と東アジア世界の変容」「中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク」を説明できる。	
	事前学修	参考資料「遊牧民の歴史」を参考にして、唐滅亡後の東アジア、ウイグル崩壊後の中央ユーラシアのイスラーム化とテュルク化についてまとめてみよう。	180分
	事後学修	授業内容をふまえて「唐の滅亡と東アジア世界の変容 中央ユーラシアの変容－イスラーム化とテュルク化」についてまとめてみよう。	60分
15	授業外課題解説、「東洋史概論Ⅰ」に関する講義総括	授業外課題解説、講義総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国については旧石器時代から唐の滅亡まで、朝鮮については古朝鮮から統一新羅・渤海まで、中央ユーラシアについてはスキタイ・匈奴から中央ユーラシアの変容までを説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度、授業外課題を解く。	120分

科目名	東洋史概論Ⅱ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
12世紀から近現代にいたる、東ユーラシアと中央ユーラシアの歴史的な展開、中国の歴史を中心に中央ユーラシア・朝鮮半島・ベトナムなどの諸地域の歴史を講義する。高等学校での教員経験をふまえて、高等学校「世界史」を教えるにあたって、教科書の内容と留意事項について適宜ふれていく。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
高等学校「世界史」の授業を行うにあって、その学習による深い理解や、実際の授業準備に必要な知識やポイントを把握できることを目的に授業を展開する。先史時代から近現代にいたるまでの東ユーラシア・中央ユーラシア、東南アジアの歴史的な展開を概述・説明できることを目標とする。

【履修条件】
向上心のある学生に限る。授業内容が分かるまで自律的／自立的に学修しなければ、良い成績はとれません。辛抱づよく取り組んでほしい。また、常日頃から「教える側」に求められものは何かを追究してもらいたい。無礼な方お断り。

【授業方法】
オンデマンド授業です。各回の授業では「レジュメ」を配布し、授業内容を確認してもらいます。適宜、授業内課題を課し、授業内容を確認し、事後学習やレポート作成に役立ててもらいます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	「小テスト」（授業内課題）では、次の授業において確認をおこない、不正解者にはコメントを付して返却します。レポートでは、各自にコメントを付し、さらに振り返りの際に活用できるように、留意事項を加えます。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	東洋史の基本的な事項や概念について論理的に説明できる。											
②	①を踏まえながら、12世紀から現代までの東洋史の歴史的展開のなかで、歴史的な事項を位置づけ、その意味・意義を把握し、自らの見解を明らかにできる。											
③	講義や自立的な取り組みを通じて、学んだことを振り返り、自らの達成について説明できる。											
④	①②③を踏まえて、中学校の社会科「歴史分野」、高等学校の「世界史」・「日本史」（一部）に関する授業の組み立てができる。											
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	到達目標①に関わり講義中に課す小テストにより、（１）講義内容が把握できているか、（２）講義内容が深化されているかを評価する。	10	10									20
レポート等	3回のレポート（授業外課題）を課します。レポートが、書式等の要件を満たし、課題に的確に答えたものかを基準に、到達目標①②③④の能力が身についているかを評価する。	30	30	10	10							80
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	40	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】
レポート（授業外課題）は返却時に解説・講評、成績評価の基準を明確にし、小テスト（授業内課題）は返却時に解説、不正解者にはコメントを付す

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
中国の歴史	岸本美緒	ちくま学芸文庫（筑摩書房）	2015年	教科書	必携
教養の中国史	津田資久ほか編	ミネルヴァ書房	2018年	参考書	推奨
中国経済史	岡本隆司編	名古屋大学出版会	2013年	参考書	推奨
江南の発展 南宋まで 〈シリーズ 中国史②〉	丸橋充拓	岩波書店（新書）	2020年	参考書	推奨
草原の制覇 大モンゴルまで 〈シリーズ 中国史③〉	古松崇志	岩波書店（新書）	2020年	参考書	推奨
陸海の交錯 明朝の興亡 〈シリーズ 中国史④〉	檀上 寛	岩波書店（新書）	2020年	参考書	推奨
「中国」の形成 現代への展望 〈シリーズ 中国の歴史⑤〉	岡本隆司	岩波書店（新書）	2020年	参考書	任意
世界史年表	歴史学研究会	岩波書店	2017年	参考書	任意
備考	教科書（『中国の歴史』）は必ず用意して下さい。参考資料として「朝鮮近代史」を配布します。				

【オフィスアワー】
saito.fuminori@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	高等学校教員
実務経験に基づく実践的教育の内容		「世界史」担当教員	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	宋朝の成立と中国の統一	〔中国史 8〕 宋朝の成立と中国の統一 「唐宋変革」	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、宋朝の成立と中国の統一を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」を参考にして宋朝についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「宋朝の成立と中国の統一 「唐宋変革」」についてまとめてみよう。	120分
2	遼と西夏、金－北方民族の台頭	〔中国史 9／中央ユーラシア史 5〕 遼と西夏、金－北方民族の台頭 「征服王朝論」	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、遼と西夏、金について説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」、『遊牧民から見た世界史』（p322～p338）を参考に遼、西夏、金についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「遼と西夏、金－北方民族の台頭 「征服王朝論」」についてまとめてみよう。	120分
3	モンゴル帝国の成立と元朝の中国統治	〔中央ユーラシア史 6／中国史10〕 モンゴル帝国の成立 元朝の中国統治	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、モンゴル帝国の成立と元朝の中国統治について説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「7 宋と北方民族」「8 元から明へ」、『遊牧民から見た世界史』（p358～p374）を参考にモンゴル帝国の成立と元朝についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「モンゴル帝国の成立 元朝の中国統治」についてまとめてみよう。	120分
4	明朝の成立・発展と周辺諸地域	〔中国史11〕 明朝の成立・発展と周辺諸地域	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、明朝の成立・発展と周辺諸地域を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「8 元から明へ」を参考にして、明朝についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「明朝の成立・発展と周辺諸地域」についてまとめてみよう。	120分
5	清朝支配の成立と広域統治	〔中国史12〕 清朝支配の成立と広域統治	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、清朝支配の成立と広域統治を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』 「9 清朝の平和」を参考にして、清朝についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「清朝支配の成立と広域統治」についてまとめてみよう。	120分
6	チベット仏教国家・高麗と朝鮮王朝	〔中央ユーラシア史 8／朝鮮史 4〕 チベット仏教国家 チベット仏教国家と中国王朝 高麗の歴史	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、チベット仏教国家・高麗と朝鮮王朝について説明できる。	
	事前学修	配布プリントを参考にして、チベットの歴史について、『朝鮮思想全史』（p105～p108）を参考にして、「高麗の歴史」についてまとめてみよう。まとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「チベットの歴史」と「高麗の歴史」についてまとめてみよう	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	清朝の動揺と社会の変容	〔中国史13〕 清朝の動揺と社会の変容 二つのアヘン戦争 太平天国 朝貢国の喪失	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、清朝の動揺と社会の変容を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「10清末の動乱と社会の変容」を参考にして、二つのアヘン戦争と太平天国ついてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「清朝の動揺と社会の変容 二つのアヘン戦争 太平天国 朝貢国の喪失」についてまとめてみよう。	120分
8	中国ナショナリズムの形成	〔中国史14〕 中国ナショナリズムの形成 日清戦争から戊戌変法へ 辛亥革命元朝の支配	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国ナショナリズムの形成を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「11中国ナショナリズムの形成」を参考にして、日清戦争から辛亥革命までをまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「中国ナショナリズムの形成 日清戦争から戊戌変法へ 辛亥革命」についてまとめてみよう。	120分
9	五・四運動から「国民政府」による中国統一まで	〔中国史15〕 五・四運動と社会の変容 第一次世界大戦と中国 五・四運動 北伐と「国民政府」による中国統一	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、五・四運動から「国民政府」による中国統一までを説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「12五・四運動と社会の変容」を参考にして、第一次世界大戦と中国ついてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「五・四運動と社会の変容 第一次世界大戦と中国 五・四運動 北伐と「国民政府」による中国統一」についてまとめてみよう。。	120分
10	抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立	〔中国史16〕 抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、抗日戦争と中国革命、中華人民共和国の成立について説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「13抗日戦争と中国革命」を参考にして、抗日戦争の展開と人中華人民共和国の成立についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立」についてまとめてみよう。	120分
11	社会主義国家の建設の時代	〔中国史17〕 社会主義国家の建設 冷戦のなかの中国 プロレタリア文化大革命 現代中国の課題	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、社会主義国家の建設の時代を説明できる。	
	事前学修	『中国の歴史』「14社会主義国家の建設の時代」を参考にして、人民共和国成立後の中国の歴史をまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「社会主義国家の建設 冷戦のなかの中国 プロレタリア文化大革命 現代中国の課題」についてまとめてみよう。	120分
12	近代の朝鮮王朝から大韓帝国まで	〔朝鮮史5〕 近代の朝鮮王朝から大韓帝国までを、中国・ロシア・日本との関係に留意して概述する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、近代の朝鮮王朝から大韓帝国までを説明できる。	
	事前学修	参考プリント「朝鮮近代史」を参考にして、朝鮮王朝の時代をまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「近代の朝鮮王朝から大韓帝国まで」についてまとめてみよう。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	韓国併合と日本統治下の朝鮮	〔朝鮮史6〕 韓国併合から日本統治下の朝鮮について概述し、その後朝鮮王朝の成立から日本統治下の朝鮮に関する小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、韓国併合・日本統治下の朝鮮を説明できる。	
	事前学修	参考プリント「朝鮮近代史」を参考にして、韓国併合・日本統治下の朝鮮についてまとめてみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて「韓国併合・日本統治下の朝鮮」についてまとめてみよう。	120分
14	東南アジア略史	〔東南アジア史〕 前近代東南アジア史のなかの「中国」／中国の歴代王朝と東南アジアの諸国家の交流／朝貢冊封関係と東南アジア／中国文化の受容－仏教と儒教／ベトナムの独立王朝について概述し、その後東南アジア史に関する小テストをおこない、同時に別紙にピア評価をおこなう。小テストは解説をする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、東南アジア史を説明できる。	
	事前学修	配布プリントを参考にして、中国と東南アジアとの関係を概述してみよう。	120分
	事後学修	授業内容をふまえて東南アジア諸地域の歴史についてまとめてみよう。	120分
15	授業外課題解説、「東洋史概論Ⅱ」に関する講義総括	授業外課題解説、講義総括を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、中国については五代から現代まで、朝鮮については高麗から近代まで、中央ユーラシアについてはモンゴル・チベットに関連する歴史的展開、さらに東南アジア史について説明できるとともに、自らの見解を述べることできる。	
	事前学修	再度、教科書・参考書にあたって本講義全体の復習し、要点をノートに整理しておくこと。	120分
	事後学修	解説を踏まえ、教科書・参考書にあたって振り返りながら、再度、授業外課題を解く。	120分

科目名	特別活動論	担当者	宮島 健次	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
特別活動という言葉が学校で聞く機会はありません。しかし、実はホームルーム、生徒会、学校行事など実に幅広い領域をカバーしており、それぞれの内容も多岐にわたっています。また、道徳教育とも深く関連しています。ある意味、多くの事が入りすぎている感もありますが、逆に、工夫次第では生徒の自立に関わるおもしろい取り組みも可能です。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この講義では、やっかいでもあり、楽しくもある「特別活動」について「何をやるのか」「なぜやるのか」「どんな指導方法があるのか」「問題点は何か」などといったことを学生のみなさんとともに考えていきたいと思っています。また、最近話題になることが多い特別活動と深い関係のある部活動についても最新事情を踏まえながら考えてみようと思っています。

【履修条件】

【授業方法】		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無		
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	特別活動の意義について理解できる。											
②	特別活動の歴史について理解できる。											
③	特別活動の各分野の現状と課題について知り、課題の解決について議論し考察することができる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	講義の中でまとめの試験を行う。	70										70
小テスト等												
レポート等	グループ討議後にワークシートを提出する。		10									10
討論・発表等	グループ討議で分担を決めて発表をする。			10								10
授業への参画度	毎時間のリアクションペーパーにより確認する。				10							10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		70	10	10	10							100

【課題に対するフィードバックの方法】

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考					

【オフィスアワー】

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無		実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ		内 容	
1	特別活動とは何か～学習指導要領に見る特別活動の扱い		・本授業の目的、到達目標、授業計画等を説明する。 ・次に、受講者の過去の体験をふりかえり、特別活動の意義を考える。そののち、学習指導要領における特別活動の扱いを確認する。	
	この回の到達目標	・特別活動の意義を「体験」をもとに考え、理解する。		
	事前学修	・小学校、中学校、高校の各教育段階における自らの教育体験をふりかえり、特徴的なことをノートにまとめておく。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
2	特別活動が内包する問題～実施状況から考える		特別活動の実施状況調査から、特別活動が内包する問題を解説する。	
	この回の到達目標	特別活動が内包する問題点を理解するとともに、それらの発生原因や解決方法などを説明できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
3	現代社会における特別活動の意義を考える（１）21世紀の子ども観・学習観		特別活動が抱える問題の根源を、21世紀の子ども観・学習観をキーワードに探っていく。	
	この回の到達目標	21世紀の子ども観・学習観の特徴を理解するとともに、自分が教職についたらどのように対応したらいいか当事者意識をもって想像できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
4	現代社会における特別活動の意義を考える（２）21世紀の人間観		特別活動が抱える問題の根源を、21世紀の人間観をキーワードに探っていく。	
	この回の到達目標	21世紀の人間観の特徴を理解するとともに、自分が教職についたらどのように対応したらいいか当事者意識をもって想像できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
5	現代社会における特別活動の指導法を考える（１）指導の在り方		特別活動が抱える問題を意識しつつ、その指導の在り方を解説する。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえた特徴を持つ学び手に対し、自分が教職についたらどのように対応していくのか当事者意識をもって想像できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分
6	現代社会における特別活動の指導法を考える（２）集団活動		特別活動が抱える問題を意識しつつ、集団活動の指導の在り方を解説する。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえた特徴を持つ学び手や集団に対し、自分が教職についたらどのように対応していくのか当事者意識をもって想像できる。		
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。		120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	現代社会における特別活動の指導法を考える（３）家庭・地域との連携	特別活動が抱える問題を意識しつつ、家庭・地域との連携の在り方を解説する。	
	この回の到達目標	これまでの授業を踏まえた特徴を持つ学び手や家庭・知己に対し、自分が教職についたらどのように対応していくのか当事者意識をもって想像できる。	
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。	120分
	事後学修	講義を受けて得た気づきや学びをリアクション・ペーパーにまとめる。リアクション・ペーパーの形式については授業中に指示する。	120分
8	これまでのまとめ	これまでの講義をまとめ、改めてこの授業での学習ポイントを提示する。	
	この回の到達目標	自分が教職についたらどのように対応していくのか当事者意識をもって想像できる。	
	事前学修	前回の授業サブノートに目を通し、授業内容を反芻し、さらに理解する。	120分
	事後学修	まとめレポートを作成する。	120分
9			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
10			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
11			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
12			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
13			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
14			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		
15			
	この回の到達目標		
	事前学修		
	事後学修		

科目名	特別支援教育概論	担当者	森澤 亮介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
				授業時間数	90分×8回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
講義形式中心で行われる。講義には簡単な障害疑似体験、障害の実態についてのVTR、事例検討、グループでの事例検討等を含み、その後にリフレクションペーパーを作成して提出する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
支援を必要としている幼児、児童、生徒に関する特性について基礎的な知識を身につける。また「適応行動の問題」を踏まえて個別の教育的ニーズに応じた支援、対応、教育方法について考え例示することができる。その際、他の教員や、関係機関と連携するといった周囲の資源を活用し、組織的に対応していく方法を学習する。

【履修条件】
教員免許状の取得を希望する者

【授業方法】		
講義形式中心で行われる。講義には簡単な障害疑似体験、障害の実態についてのVTR視聴などを含む第7回、第8回では、これまでの講義内容を踏まえて授業の指導案をグループに分かれて作成する。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	第7回、第8回では、これまでの講義内容を踏まえて授業の指導案をグループに分かれて作成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	各種障害の概要や定義についての知識を身につけ説明することができる。【知識】												
②	特別支援教育に関する教育課程や、インクルーシブ教育システムについて、講義を通して基礎的な知識を身につける。【知識】												
③	発達障害を伴うもしくは発達障害の診断がない幼児・児童・生徒への支援方法について考えまとめることができる。【態度・習慣】												
④	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。その際、具体的な支援方法等を明示する様に促す。【技能】												
⑤	「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」に関する基礎的な知識を、講義を通して身につける。さらにこれらが、どのように活用されているのか、現場の実践から考える。 また、架空事例をもとに、「個別の指導計画」を作成する。【技能】												
⑥	実際の連携、また校内委員会等の事例を通して、携わり方の基本的な知識や技能、態度について考える。【態度・習慣】												
⑦	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。授業づくり2ではチームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。【態度・習慣】												
⑧	「特別支援教育コーディネーター」についての役割や立場など、チームでの連携を見通した、基本的な知識を身につけ説明することができる。【知識】												
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	架空事例を対象とした個別の指導計画の作成や授業の指導案作成を通して、到達目標④、⑤に関わる能力が身についているのか評価をする。				20	20						40
レポート等	授業ごとに各授業に即したレポート課題を出し、到達目標①②⑧に関する知識が身についているか確認する。 また授業後のリフレクションペーパーにより到達目標③⑥について積極的な学習態度が身についているかどうか評価する。	10	10	10			10	10	10			60
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		10	10	10	20	20	10	10	10			100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業ごとのレポートや作成した課題を取り上げ講評する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	参考書等は、各講義の配布資料で紹介します。				

【オフィスアワー】
授業後、講堂にて行う

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 大学附属特別支援学校 教諭 特別支援教育コーディネーター
実務経験に基づく実践的教育の内容		特別支援教育コーディネーターとして地域の幼稚園・小学校・中学校の巡回を行ってきた。 また教員や職員向けの特別支援に関する研修の講師を行ってきた。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	障害の状態像の理解	特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性および心身の発達の理解	
	この回の到達目標	到達目標①に関連して、障害の特性について理解し説明することができる。	
	事前学修	シラバスを確認し、自身の障害観について説明することができる。	120分
	事後学修	特別な支援を必要とする子どもの特性についてまとめる。	120分
2	発達障害・特別な教育的ニーズの理解	発達障害及び発達障害に関わらない特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の特性および心身の発達の理解	
	この回の到達目標	到達目標③に関連して、障害の有無にかかわらず支援が必要な幼児・児童及び生徒の支援方法について考えまとめるができる。	
	事前学修	障害のない支援が必要な子どもとはどういうことか資料を確認する。	120分
	事後学修	障害の有無に関わらず、支援が必要な子どもと判断する要因についてまとめる。	120分
3	特別支援教育に関する教育課程、特別支援教育に関する制度	「通級による指導」「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容 インクルーシブ教育システムについての理解	
	この回の到達目標	到達目標②に関連して特別支援教育に関する教育課程や、インクルーシブ教育システムについて、講義を通して基礎的な知識を身につけ、説明することができる。	
	事前学修	特別支援教育に関する教育課程について最新の学習指導要領を確認する。	120分
	事後学修	インクルーシブ教育システムについてまとめる。	120分
4	個別の指導計画及び個別的教育支援計画の作成とその意義	個別的教育支援計画・個別の指導計画に関する基礎的な知識を身につける 架空事例をもとに個別の指導計画を作成する	
	この回の到達目標	到達目標⑤に関連してこれまでの講義で身につけた知識や技能をもとに架空事例から個別の指導計画を作成する。	
	事前学修	個別の指導計画について文部科学省のHP等や書籍を確認してまとめる。	120分
	事後学修	作成した個別の指導計画について振り返り、別の事例でも作成する。	120分
5	特別支援教育コーディネーターの理解Ⅰ	特別支援教育コーディネーターについて役割や立場などチーム連携を見通した基本的な知識を身につける	
	この回の到達目標	到達目標⑧に関連して特別支援教育コーディネーターについて基本的な知識を身につけその役割について説明することができる	
	事前学修	特別支援教育コーディネーターとは何か書籍や文部科学省のホームページを確認してまとめる。	120分
	事後学修	特別支援教育コーディネーターの役割や仕事についてまとめることができる。	120分
6	特別支援教育コーディネーターの理解Ⅱ	架空の校内委員会の事例から連携について考える	
	この回の到達目標	到達目標⑥に関連して実際の連携、また校内委員会等の事例を通して、携わり方の基本的な知識や技能、態度について考える。	
	事前学修	校内委員会について事前に確認しまとめることができる。	120分
	事後学修	特別支援教育コーディネーターの役割などを踏まえて校内委員会についてまとめることができる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	特別支援の視点を取り入れた授業づくりⅠ	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する	
	この回の到達目標	到達目標④に関連して特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。その際、これまでの講義の内容を踏まえて具体的な支援方法等を明示する。	
	事前学修	これまでに自身が作成した学習指導案について確認する。	120分
	事後学修	本講義で作成した学習指導案を振り返り、チームで授業を進めるために必要な指導案の内容について考え、まとめる	120分
8	特別支援の視点を取り入れた授業づくりⅡ	チームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。	
	この回の到達目標	到達目標⑦に関連して特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の架空事例を基に、クラスにいることを想定した、授業の指導案を作成する。チームティーチングを想定し、グループで一つの指導案を作成する。	
	事前学修	7回で作成した学習指導案をもとに、特別支援学校で授業を行うことを想定した学習指導案についてまとめる。	120分
	事後学修	チームで授業を行うために共有すべき必要な要素についてまとめる。	120分

科目名	日本史概論Ⅰ	担当者	大岡 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【歴史学入門＆日本前近代史概論】将来中学や高校の日本史を教育する教員として教壇に立つものを想定して、必要な素養を養うことを目的とする。歴史教師は「もの知り」や「歴史ファン」というだけでは勤まらない。高校レベルの内容を教育するためには、自ら歴史の探究者である必要がある。そのための基礎を築くべく、前半では歴史学入門を、後半では日本前近代史概説を講義する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史学という学問の特徴について、基本的な理解をもつこと、③日本史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、④日本前近代史の骨格を理解すること、⑤教科書的な「日本史」の向こう側にアプローチできるようになること、⑥以上のような事柄を中心に、日本史を教える教員としての素養を育成することを目的とし、オリジナルな日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職への熱意や歴史への関心の高い学生を歓迎する。講義外でも積極的・主体的に勉強する意欲が必要。単位のためだけに安易に履修しないで欲しい。課外活動やオリンピックを理由とする不勉強は認めない。初回に必ず出席のこと。

【授業方法】
レジュメと史料、パワーポイントを使い、一話完結式で進める。毎回授業内課題の提出を課す。教材の配布、学生への連絡、課題の提出などはすべてClassroomを利用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力						
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力						
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力						
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	歴史学という学問の特徴について、基本的な理解を獲得する。												
②	日本史という教科の存在理由や問題点を理解する。												
③	各時代の基本的特徴・時代像を把握する。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	期末課題により、到達目標が達成されているかについて判定する。	10	10	10								30
小テスト等												
レポート等	中間レポート（レポート試験）により、到達目標が達成されているかについて判定する。	10	10	10								30
討論・発表等												
授業への参画度	毎回の授業内課題・リアクションペーパーにより、内容の理解とともに授業への参加度を評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Classroomにフィードバック・レポート試験の講評を掲示する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
歴史学ってなんだ？	小田中直樹	PHP新書	2012	参考書	推奨
日本の歴史をよみなおす	網野善彦	ちくま学芸文庫	2005	参考書	推奨
備考	使用しない。なお、中学社会科歴史分野又は高校日本史Bの教科書（会社は指定しない）は用意しておくこと。				

【オフィスアワー】
火曜16:20～17:30。講義とは直接関係のない質問や相談にも応対します。メールでアポイントを取ると確実です。9604室。メールはohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。

【実務経験を活かした実践的教育について】		
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容 歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		社会教育における歴史学の意味について。歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について。

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	ガイダンス・イントロダクション 講義の目的などの説明	講義の目的・履修案内・注意事項・文献紹介・講義計画	
	この回の到達目標	本講義の目的や講義概要について理解し、履修を決めることができる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。遅刻・欠席しないように準備を整える。	120分
	事後学修	ガイダンス資料を熟読し、注意事項を守って受講できるかどうかを考え、履修登録するかどうかを良く検討する。	120分
2	よく生きるための歴史 ——なぜ歴史を学ぶのか？	自分の過去を振り返るのはなぜか？を考えることを端緒に、歴史を学ぶことを意義について考える。	
	この回の到達目標	歴史学を学ぶことの意義について、答えを持つことができるようになる。	
	事前学修	これまでの日本史・世界史の学習歴を振り返りつつ、「なぜ歴史を学ぶのか」について自分なりの答えを考えてくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。「なぜ歴史を学ぶのか」について考えをまとめる。	120分
3	過去の痕跡としての史料	史料とは何か？ 史料をめぐる諸問題や史料批判の重要性について考える。	
	この回の到達目標	史料保存の重要性や公文書の作成・保存・公開の重要性について理解する。	
	事前学修	地元の歴史博物館や郷土史料館に足を運んで、史料を見てくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。特に「史料批判」の意義についてまとめる。	120分
4	「歴史」が生まれる ——歴史学という営み	学問としての歴史学とはどういうものか、「歴史」の客観性や科学性について考える。	
	この回の到達目標	歴史学という学問の特徴について、基本的な認識を獲得する。	
	事前学修	「「歴史」とは何か」について、自分なりの答えを考えてくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。歴史学という学問の特徴についてまとめる。	120分
5	「日本史」とはなんだろうか——「日本史」の歴史	古代以来の歴史書編纂の歴史を概観し、その歴史認識の特徴や、歴史と政治との関係について考える。	
	この回の到達目標	日本史教育の意義や問題点について、考える視点を獲得する。	
	事前学修	学校教育で、なぜ「日本史」を学習させられるのだろうか？を考えてくる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。「「日本史」の歴史」の特徴と問題点をまとめる。	120分
6	歴史を教えるということ ——歴史教育と歴史学	歴史学が大きく変化していく中で、既存の「日本史」教育では見えてこなかった問題や「日本史」を相対化する視点が指摘されてきている。一方、学校教育では「歴史離れ」も指摘されている。歴史学の成果を活かした歴史教育の可能性について考える。	
	この回の到達目標	既存の歴史教育の問題点を認識し、それを克服する歴史教育を構想する力を獲得する。	
	事前学修	自らが受けてきた「日本史教育」の問題点を挙げてみる。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。既成のスタイルを壊して、どんな歴史の授業をしてみたいかを考える。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	ヤマト王権の形成と東アジア —原始から古代へ	東アジア世界の影響の中で王権の形成が進んでいく過程を検討する。	
	この回の到達目標	東アジアとの関係を重視しながら、この時代の歴史過程の基本事項と時代像を獲得する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、原始・古代の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
8	「日本」の誕生 —律令制国家の確立と東アジア	律令制の整備とともに、「日本」「天皇」という語が生まれたり、歴史書編さんが始まったこと、「蝦夷」の制圧が進んだことなどに着目しながら、「日本」という古代国家の誕生について検討する。	
	この回の到達目標	東アジア世界との関係を含みこみながら、古代国家形成過程の基本事項と当該期の歴史像を獲得する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、古代の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
9	中世の政治と社会 —分権と多元性	権力の分立と社会の多元性という中世社会の特徴について検討する。	
	この回の到達目標	中世の政治社会の特徴を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、中世前期の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
10	いくつもの「日本」 ——中世の西と東・北と南	西国と東国、蝦夷と琉球など、相対的に異なった文化の重層・複合として、日本列島の歴史見ることの重要性を考える。	
	この回の到達目標	日本列島の多元性とその背景について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、中世後期の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
11	戦争と平和 ——中世から近世へ	「自力救済」を基本とする分権的な中世から、「惣無事」を実現する集権的な権力（幕藩体制）が誕生する近世への時代の転換をたどる。	
	この回の到達目標	中世社会の特徴を克服していく過程から近世という時代が始まっていくことについて理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、戦国時代の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
12	鎖国とは何か—近世の対外関係	近世の特徴の一つである「鎖国」と呼ばれる幕府の対外政策について検討する。	
	この回の到達目標	東アジア世界のなかでの「鎖国」の意義を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、幕府の対外関係の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	幕藩体制と社会秩序 ―安定支配のしくみと正統性	幕藩体制の仕組みと支配の正統性について検討する。	
	この回の到達目標	幕藩体制の安定の基礎にある正統性について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、近世前半の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
14	近世社会の成熟と動揺 ―近代への序章	商品経済の拡大や町人文化の発達が見られる一方で、一揆や打ちこわしなどによる秩序の動揺が見られた幕末の社会を論じ、近代への転換を展望する。	
	この回の到達目標	一揆や打ちこわしがいかなる意味で危機であるのかを構造的に理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、近世後半の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
15	期末課題と振り返り	前期の講義内容の理解を問う期末課題に取り組む。これと併せて、講義の学びの振り返りを行う。	
	この回の到達目標	本講義の目標に到達したか否かを問う問題について、適切に解答できる。また、自己の達成について振り返り、今後の課題を見出すことができる。	
	事前学修	全講義を復習して期末課題に備える。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

科目名	日本史概論Ⅰ	担当者	武廣 亮平	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【歴史学入門＆日本前近代史概論】将来中学や高校の日本史を教育する教員として教壇に立つものを想定して、必要な素養を養うことを目的とする。歴史教師は「もの知り」や「歴史ファン」というだけでは勤まらない。高校レベルの内容を教育するためには、自ら歴史の探究者である必要がある。そのための基礎を築くべく、前半では歴史学入門を、後半では日本前近代史概説を講義する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史学という学問の特徴について、基本的な理解をもつこと、③日本史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、④日本前近代史の骨格を理解すること、⑤教科書的な「日本史」の向こう側にアプローチできるようになること、⑥以上のような事柄を中心に、日本史を教える教員としての素養を育成することを目的とし、オリジナルな日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職（中学社会・高校地歴）の必修科目である

【授業方法】
講義形式で実施する

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	歴史学という学問の特徴について、基本的な理解を獲得する。												
②	日本史という教科の存在理由や問題点を理解する。												
③	各時代の基本的特徴・時代像を把握する。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	学期末授業内試験により、到達目標が達成されているかについて判定する。	20	20	20								60
小テスト等	授業理解度を確認する課題の提出状況により、到達目標が達成されているかについて判定する。	10	10	10								30
レポート等	課題レポートにより、到達目標が達成されているかについて判定する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題レポートの講評・解説

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	中学校、高等学校で使用した教科書などは補助教材として活用して欲しい。参考書については適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
金曜日16:20～17:50（メールやGoogle Meetによる） アドレス takehiro.ryouhei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーションと時代概観	授業スケジュールと課題提出方法などの確認、対外関係を中心とした日本史概観	
	この回の到達目標	日本史の時代区分と時代概要、対外関係の確認	
	事前学修	中学校または高等学校で使用していた歴史教科書の通読	120分
	事後学修	日本史における時代区分と各時代の特徴	120分
2	日本列島における政治権力の発生	1世紀頃の小国の分立から邪馬台国まで	
	この回の到達目標	日本における国家権力の成立過程の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	『魏志倭人伝』など中国史料の内容の確認	120分
3	ヤマト政権の成立と東アジア世界	ヤマト政権の支配と中国・朝鮮半島との関係	
	この回の到達目標	ヤマト政権の政治構造と対外関係の特徴の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	古墳文化と渡来人の文化	120分
4	律令国家の成立と展開	律令国家の成立とその統治構造（行政・税制など）と唐との関係	
	この回の到達目標	律令国家の統治構造の理解、遣唐使を中心とした対外関係の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	奈良時代の政治と天平文化	120分
5	律令国家の変質と東アジア情勢の変化	9～11世紀の政治・経済と唐滅亡後の東アジア情勢	
	この回の到達目標	摂関政治の展開と10世紀以降の対外関係の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	国風文化と浄土教	120分
6	院政と平氏政権	院政の成立から平氏政権までの政治と日宋貿易	
	この回の到達目標	院政、平氏政権の特質と日宋貿易の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	保元・平治の乱の歴史的意義	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	鎌倉幕府と蒙古襲来	鎌倉幕府の成立・展開とモンゴルの侵攻	
	この回の到達目標	鎌倉幕府と朝廷との関係、モンゴルの伸張の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	12～13世紀の東アジアの遊牧民族の動向	120分
8	中間のまとめ	受講生による中間総括	
	この回の到達目標	ここまでの授業内容と要点の理解	
	事前学修	1～7回目の授業内容の復習	120分
	事後学修	中間総括の自己評価	120分
9	室町幕府と日明貿易	室町幕府の成立・展開と日明貿易	
	この回の到達目標	倭寇の活動と明・朝鮮との関係の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	南北朝と室町幕府の政治	120分
10	戦国時代とヨーロッパの来航	戦国時代の展開とヨーロッパ勢力との関係	
	この回の到達目標	ヨーロッパが戦国時代の日本にもたらした影響の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	織田信長と豊臣秀吉の統一事業	120分
11	江戸幕府の成立と「鎖国」	江戸幕府の成立と鎖国政策にいたる経緯	
	この回の到達目標	江戸初期の外交から「鎖国」体制の成立までの理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	幕藩体制の構造と17世紀前半までの対外関係	120分
12	幕藩体制の展開と対外関係	17～19世紀の幕府政治と対外関係	
	この回の到達目標	三大改革を中心とした幕府政治と「四つの口」における外交の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	三大改革の特徴と問題点	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	幕藩体制の動揺と対外関係	18後半～19世紀の幕府政治と列強諸国の接近	
	この回の到達目標	ヨーロッパ列強との関わりと幕府の対応、対外思想などの理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	19世紀の東アジア情勢	120分
14	開国と通商	ペリー来航から通商条約の締結までと幕末の政治	
	この回の到達目標	通商条約の内容と課題、幕末の朝幕関係などの理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	19世紀後半の世界情勢	120分
15	まとめ	試験	
	この回の到達目標	古代～江戸時代の日本の歴史と対外関係の理解	
	事前学修	この授業の内容のまとめ	120分
	事後学修	試験の自己採点と振り返り	120分

科目名	日本史概論Ⅱ	担当者	大岡 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【世界史のなかの近現代日本】 将来高校日本史を担当する教員として教壇に立つものを想定して、それに必要な素養を養うことにする。Ⅱでは「世界史のなかの近現代日本」と題して、日本近現代史を概論する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、③日本近現代の歴史過程とその特質について基本的な認識を持つこと、④政治・外交の推移や社会変容を構造的に理解できるようになること、⑤教科書的な「日本史」像の向こう側にアプローチできるようになること、以上のような素養を中心に、日本史教員としての基礎力を育成することを目的とし、オリジナルの日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職への熱意や歴史への関心の高い学生を歓迎する。講義外でも積極的・主体的に勉強する意欲が必要。単位のためだけに安易に履修しないで欲しい。課外活動やオリンピックを理由とする不勉強は認めない。初回に必ず出席のこと

【授業方法】
レジュメと史料、パワーポイントを使い、一話完結式で進める。毎回授業内課題・リアクションペーパーの提出を課す。教材の配布、学生への連絡、課題の提出はすべてClassroomを使用する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	リアクションペーパー	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5 挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6 コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7 リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力	A-8 省察力						
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7 A-8
①	日本の近現代の歴史に関する基礎的な知識を獲得する。								
②	世界史との連関で日本近現代史の展開を理解する。								
③	日本の近現代史に関するオリジナルな授業を構想できる。								
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	中間課題・期末課題により、到達目標①②③の達成度を評価する。	20	20	20								60
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	授業内課題・リアクションペーパーにより、授業内容の理解とともに授業への参加度合いを評価する。	15	15	10								40
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
Classroomにおける講評。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	使用しない。読書リストは講義中に配布。なお、中学社会科歴史分野・高校日本史の教科書（会社は指定しない）は用意し、知識の確認に使用すること。				

【オフィスアワー】
火曜16:20~17:30。メールでアポイントを取ることが望ましい。講義とは直接関係のない質問や相談にも応ずる。試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談には答えられない。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	有	実務経験の内容	歴史博物館での展示企画。千代田区史等の自治体史編纂・執筆。
実務経験に基づく実践的教育の内容		社会教育における歴史学の意味について。歴史的資料や公文書の保存・公開の重要性について。	

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	世界史のなかの近現代日本・イントロダクション	前半で講義の趣旨と概要、履修条件・注意事項・文献紹介 後半で「世界史の中の近現代日本」というテーマ設定の含意を説明する。	
	この回の到達目標	本講義の目的や講義概要について理解し、履修を決めることができる。	
	事前学修	シラバスを熟読する。遅刻・欠席しないように準備を整える。	120分
	事後学修	ガイダンス資料を熟読し、注意事項を守って受講できるかどうかを考え、履修登録するかどうかを良く検討する。	120分
2	世界史のなかの「開国」	19世紀の世界のなかでのいわゆる「開国」の歴史的意義について、世界資本主義システムや国民国家体系への包摂という観点から説明する。	
	この回の到達目標	「開国」の歴史的意義について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「開国」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
3	「文明国」になるということ——<文明化>と<国民化>	明治維新政府の政策を<文明化>と<国民化>という観点から説明し、「文明国」になるという目標の意味について考察する。	
	この回の到達目標	「文明国」になるという目標から展開された明治新政府の政策の両義性について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「明治維新」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
4	「民権」と「国権」——明治憲法体制の形成	自由民権運動から大日本帝国憲法制定までの過程をたどりつつ、<文明化>と<国民化>の観点から、その意義と限界を分析する。	
	この回の到達目標	明治憲法制定に至る過程、および憲法制定の意義と限界について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「自由民権運動」「明治憲法」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
5	明治政府の外交と東アジア国際秩序の再編	明治政府の東アジア外交の展開による近隣との関係再編過程を考察する。	
	この回の到達目標	明治政府による東アジア外交の歴史的意義について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「明治政府の外交」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
6	日清・日露戦争——帝国主義と東アジア	日清・日露戦争期に東アジアに帝国主義が本格的に展開していく過程を扱う。	
	この回の到達目標	日本と東アジアにおける帝国主義との関係を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「日清戦争」「日露戦争」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	「帝国」日本と植民地主義	日本の帝国主義的拡大の過程と植民地主義の特質を考察する。	
	この回の到達目標	日本の帝国主義的拡大の過程と植民地主義の特質について説明することができる。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「韓国併合」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
8	第一次世界大戦後の世界の変容と日本の針路	第一次世界大戦後の国際秩序の変化と日本の対外政策との関わりについて考察する。	
	この回の到達目標	1920年代の日本外交のあり方について、世界の変容との関わりで説明できる。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「第一次世界大戦」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
9	政治的・社会的デモクラシーと政治体制の民主化	大正デモクラシー期における政治的・社会的デモクラシーの傾向と1920年代の政治体制の民主化との関わりについて考察する。	
	この回の到達目標	1920年代の政治・社会の変容を構造的に理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「大正デモクラシー」「政党政治の実現」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
10	「帝国」の再膨張 ——満州事変から日中戦争へ	満州事変を契機として中国侵略の本格化と立憲政治の後退が進んでいく過程を考察する。	
	この回の到達目標	満州事変以降の日本の動きが当時の世界にもった意味を理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「満州事変」「華北分離工作」「日中戦争」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
11	アジア・太平洋戦争論	アジア・太平洋戦争の性格について、日中戦争との連続性、開戦決定過程の特質、「大東亜共栄圏」の実態などの側面から考える。	
	この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の基本的性格について説明できる。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「日中戦争」「太平洋戦争」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
12	「大日本帝国」の崩壊	総力戦体制下の国民生活の実態、絶望的抗戦における兵士の無残な死、敗戦を引き延ばしたがゆえに拡大した民間人の戦争被害など、内部崩壊していく「大日本帝国」を考える。	
	この回の到達目標	アジア・太平洋戦争の実態、および敗戦過程の特質について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「太平洋戦争」の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	非軍事化と民主化 ——焼跡からの再出発	非軍事化と民主化を基調とする戦後改革とその成果について検討する。	
	この回の到達目標	戦後デモクラシーの意義と限界について理解する。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、戦後改革の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
14	冷戦下の日本の現代 ——高度成長から経済大国へ	冷戦下の東アジア情勢を背景とした復興・高度成長・経済大国化の進展とその問題点を考える。	
	この回の到達目標	環境破壊や人権軽視、戦後処理の不十分さなどの問題点を抱えた日本の現代について批判的に思考できる。	
	事前学修	自分が持っている中学・高校教科書のうち、高度成長・経済大国の部分を読んでおく。	120分
	事後学修	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。	120分
15	期末課題と振り返り	本講義の目標を達成できているかどうかをレポート試験により考査する。また、自己の達成を確認し今後の課題を発見する振り返りを行う。	
	この回の到達目標	本講義における自己の達成を適切に評価し、今後の課題について説明できる。	
	事前学修	全講義を復習してレポート試験に備える。	150分
	事後学修	これまでの学びを振り返り、獲得したものと足りないものを確認する。	90分

科目名	日本史概論Ⅱ	担当者	武廣 亮平	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
【世界史のなかの近現代日本】 将来高校日本史を担当する教員として教壇に立つものを想定して、それに必要な素養を養うことにする。Ⅱでは「世界史のなかの近現代日本」と題して、日本近現代史を概論する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、③日本近現代の歴史過程とその特質について基本的な認識を持つこと、④政治・外交の推移や社会変容を構造的に理解できるようになること、⑤教科書的な「日本史」像の向こう側にアプローチできるようになること、以上のような素養を中心に、日本史教員としての基礎力を育成することを目的とし、オリジナルの日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。

【履修条件】
教職（中学社会・高校公民）の必修科目である

【授業方法】		
講義形式で実施する		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)												
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観			A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力			A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力			A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力			A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動					関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
					A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本の近現代の歴史に関する基礎的な知識を獲得する。											
②	世界史との連関で日本近現代史の展開を理解する。											
③	日本の近現代史に関するオリジナルな授業を構想できる。											
④												
⑤												
⑥												
⑦												
⑧												
⑨												
⑩												

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／授業内試験)	学期末授業内試験により、到達目標が達成されているかについて判定する。	20	20	20								60
小テスト等	コメントカードや授業中の課題の提出状況により、到達目標が達成されているかについて判定する。	10	10	10								30
レポート等	中間レポート（レポート試験）により、到達目標が達成されているかについて判定する。		10									10
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		30	40	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題レポートの講評・解説

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
備考	中学校、高等学校で使用した教科書などは補助教材として活用して欲しい。参考書については適宜紹介する。				

【オフィスアワー】
金曜日16:20～17:50（メールやGoogle Meetによる） アドレス takehiro.ryouhei@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	オリエンテーションと近現代史概観	日本の近現代史と世界情勢の概観	
	この回の到達目標	日本近現代史の展開と世界情勢との関係の理解	
	事前学修	幕末の政治と外交の復習	120分
	事後学修	19世紀後半の欧米諸国と東アジア	120分
2	近代国家の成立	日本における近代国家の成立と明治初期の対外関係	
	この回の到達目標	近代国家成立期の国内政治と新たな外交関係の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	「征韓論」の歴史的経緯	120分
3	「脱亜論」と条約改正	日本近代国家の針路と条約改正交渉の展開	
	この回の到達目標	「脱亜論」と条約改正交渉の関係の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	法学部所蔵の『万国公法』について	120分
4	立憲国家の成立と日清戦争	立憲国家の成立過程における日清の対立と日清戦争	
	この回の到達目標	日本近代史上における日清戦争の歴史的意義の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	日清戦争の賠償金の使途	120分
5	日英同盟と日露戦争	日露戦争とその前後の国際関係	
	この回の到達目標	日英同盟成立までの経緯と日露戦争後の日本の立場の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	日露戦争前後の近代産業の発達	120分
6	韓国併合	韓国併合までの過程と関連諸国の動向	
	この回の到達目標	近代日本の植民地支配とその特徴の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	日本の支配下における朝鮮	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	第一次世界大戦と国際協調体制	第一次世界大戦後のヴェルサイユ＝ワシントン体制下における日本	
	この回の到達目標	ヴェルサイユ＝ワシントン体制下における日本の立場の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	国際連盟の性格と軍縮条約の内容	120分
8	中間のまとめ	受講生による中間総括	
	この回の到達目標	ここまでの授業内容と要点の理解	
	事前学修	1～7回目の授業内容の復習	120分
	事後学修	中間総括の自己評価	120分
9	恐慌の時代と軍国主義への傾倒	1920年代の恐慌の時代から満州国建国、国際連盟の脱退まで	
	この回の到達目標	軍部の台頭の背景にある国内、国外の要因の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	近代日本の政党政治とその崩壊	120分
10	中国侵攻と三国軍事同盟	日中戦争の勃発、拡大とファシズム国家への接近	
	この回の到達目標	戦争の長期化と米英対決路線の成立との関係の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	ヨーロッパにおけるファシズム勢力の台頭	120分
11	太平洋戦争と敗戦	対日包囲網形成から太平洋戦争の敗戦まで	
	この回の到達目標	太平洋戦争を中心としたいわゆる「十五年戦争」の被害と加害	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	「私の町の戦争」を調べる	120分
12	占領下の日本と民主国家への道	アメリカによる占領政策の推移と国内の諸改革	
	この回の到達目標	民主国家としての再生をめざす日本の理念と実態の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	大日本帝国憲法と日本国憲法の比較	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	冷戦体制と講和条約	冷戦体制の成立とサンフランシスコ平和条約・日米安保条約	
	この回の到達目標	サンフランシスコ平和条約の内容とその問題点の理解	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	日米安保条約と米軍基地問題	120分
14	近現代の「領土」問題	明治初期から現在に至るまでの日本の領土問題	
	この回の到達目標	領土問題を通じた近現代日本と近隣諸国との関係の再確認	
	事前学修	事前配布の授業資料（講義ノート等）の通読と語句調べ	120分
	事後学修	領土問題の現在	120分
15	まとめ	まとめ課題	
	この回の到達目標	近現代の日本の歴史と国際関係の理解	
	事前学修	この授業の内容のまとめ	120分
	事後学修	課題の自己採点と振り返り	120分

科目名	発達と学習【新課程】	担当者	和田 万紀	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
人間の発達と学習の過程について、その基礎を主に心理学を中心として講義する。そして、実際の教育指導との関連性を講義して、基本的な知識と教育実践でのその応用可能性を考える。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を養成することを目的とする。 各発達段階の心理的特性を踏まえて、学習成立の基礎過程と学習活動を支える教育指導の基礎となる考え方を理解し、講義内の心理検査実習等を通じて、実際の知識の獲得と応用を可能にすることを目標とする。

【履修条件】
心理学を履修済み、または履修中であることが望ましい。

【授業方法】		
講義を中心とする。知識の確認等について、リフレクションペーパーを提出する。また、講義中に検査実習を含めた様々なエクササイズを取り入れる。レポート（テーマは授業中指示）を提出する。試験を行う。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	心理検査実習、グループ討議、リフレクションペーパー提出等を行う。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力						
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力						
	A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力						
	A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力						
達成されるべき具体的行動						関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
						A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。												
②	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。												
③	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。												
④	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。												
⑤	幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。												
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	定期試験を行う。到達目標①から⑤までの到達度を評価する。	8	8	8	8	8						40
小テスト等	授業ごとにキーワードに関する小テストを行い、キーワードの理解度を評価する。	2	2	2	2	2						10
レポート等	課題（授業中指示する）について学术论文、資料等を選択して、その内容をレポートとして提出する。	8	8	8	8	8						40
討論・発表等												
授業への参画度	授業ごとのリフレクションペーパーの内容について、授業の参画をもとにした理解度を評価する。	2	2	2	2	2						10
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		20	20	20	20	20						100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業中またはポータルサイトによってフィードバックする

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
教育心理学	和田万紀	弘文堂	2014		
備考					

【オフィスアワー】
月曜日2時限目昼休み研究室にて

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	発達と教育	発達の概念及び理論と教育における発達理解の意義を考える	
	この回の到達目標	到達目標1 発達の概念と定義、教育における発達理解の意義を理解して説明できる。	
	事前学修	発達の定義について、教科書、参考書等からまとめる。この科目を履修する意義をまとめる。	120分
	事後学修	実践的な教育現場で、発達と学習の知識をもつことの重要性、意義についてまとめる。	120分
2	発達の理論	発達の一般的特徴と過程についての理論（遺伝と環境、発達の原理、生涯発達等）	
	この回の到達目標	到達目標1 人間の発達の一般的特徴と過程について理解して説明できる。	
	事前学修	人間の心身の発達の特徴をどのようにとらえるのかについて、他の動物等との比較や内的外的要因の相互作用、現代日本の現状についての資料から具体的例を考える。	120分
	事後学修	生涯発達という観点から、自分の現在の発達の特徴はどこにあるのかをまとめる。	120分
3	発達の各時期の特徴と理論	発達の各時期の特徴と理論（ピアジェ、ビゴツキー、バルテス、エリクソン等）	
	この回の到達目標	到達目標1 発達に関する代表的理論から、発達の具体的特徴と容を理解して説明できる。	
	事前学修	教科書の発達に関連する章を読み、疑問点をまとめる。	120分
	事後学修	発達に関する各理論から、発達の特徴と内容の説明を比較してまとめる。	120分
4	乳児期、青年期の発達の特徴	発達の各時期の特徴を具体的に理解する（運動、言語、認知の発達、社会性の発達等）	
	この回の到達目標	達成目標2 乳児期、青年期の発達の特徴を運動、言語、認知、社会性の発達等から理解して説明できる。	
	事前学修	教科書の発達に関連する章を読み、理論等をまとめる。	120分
	事後学修	発達の各時期における運動、言語、認知、社会性の発達の特徴をまとめる。	120分
5	青年期の心身発達	青年期の心身発達の特徴を理解する（第2の誕生、エリクソンの理論等）	
	この回の到達目標	到達目標2 青年期の心身の発達の特徴について、理解して説明できる。	
	事前学修	教科書の青年期の発達の特徴に関する章を読み、各発達理論についてまとめて比較する。	120分
	事後学修	青年期の発達の特徴と教育場面での具体的な支援の例をまとめる。	120分
6	学習成立の基礎と理論	学習の成立過程を理解する（記憶の過程、ワーキングメモリー、知識等）	
	この回の到達目標	到達目標3 学習の形態や概念、過程に関する基礎知識と、発達を踏まえた学習指導の考え方を理解して説明できる。	
	事前学修	学習成立過程について、教科書、参考書から該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	学習成立過程について、基礎的理論と実際の学習指導の具体例を対応させながらまとめる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ		内 容
7	学習成立の基礎：知識の獲得と問題解決		知識の獲得と問題解決の過程について理解して説明できる（メタ認知、直感、アルゴリズム等）
	この回の到達目標	到達目標3 知識の獲得と問題解決の過程について、認知過程から説明を理解して説明できる。	
	事前学修	知識の獲得と問題解決の過程について、教科書、参考書の該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	知識の獲得と問題解決の過程について、教育場面での支援をの例を具体的にまとめる。	120分
8	学習行動と動機づけ		学習の動機づけと行動（外発的、内発的動機づけ、自律性、報酬と阻害効果等）
	この回の到達目標	到達目標4 学習行動について、動機、動機付けの観点から、基礎理論を理解して説明できる。	
	事前学修	学習行動と動機づけについて、教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	学習行動と動機づけの関係について、教育場面での具体例をについて基礎理論からまとめる。	120分
9	学習行動と認知過程		認知と学習行動（原因帰属、統制感、学習性無力感、目標設定等）
	この回の到達目標	到達目標5 学習行動について、認知過程から基礎理論を理解して説明できる。	
	事前学修	学習行動と認知過程について、教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	学習行動と認知過程について、教育場面での具体例について基礎理論からまとめる。	120分
10	知的能力と学力観		知的能力と学力（知能とは何か、知能検査の歴史、教師期待効果等）
	この回の到達目標	到達目標4 頭の良さとは何か、それを測ることはできるのか、どの様に測るのか、について、知能の定義、知能検査の歴史、学力観等について理解して、説明することができる。	
	事前学修	測定と評価に関する教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	頭の良さとは何か、について、自分の考えをまとめて考察する。	120分
11	学習行動の形成		学習行動の形成（古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化等）
	この回の到達目標	到達目標5 学習行動の形成に関する基礎理論を理解して、教育場面での具体的な指導へと応用できる。	
	事前学修	学習行動の形成に関する教科書の該当章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	学習行動の形成を支援する指導の具体例を、基礎理論に基づいて説明してまとめる。	120分
12	教授法と学習行動		教授法と学習行動（発見学習、仮説実験授業、意味受容学習、適正処遇効果等）
	この回の到達目標	到達目標5 教授法の基礎理論と種類等について理解して、個人に適した学習指導法について提案できる。	
	事前学修	教授法に関する教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	教授法の基礎理論と方法、また適正処遇効果という観点から、自分の学習行動に適した教授法はどれか、それはなぜかを説明する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	評価と学習行動	評価と学習行動（評価目的、評価基準、形成的評価等）	
	この回の到達目標	到達目標4 学習行動の結果としての評価について、評価の目的、基準、種類等を理解して、説明できる。、	
	事前学修	測定と評価についての教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	「測定」と「評価」は、どのような効果、意味を持つのかについて、教師と生徒の各視点から考えてまとめる。	120分
14	発達障害とインクルーシブ教育	発達障害とインクルーシブ教育（発達障害の定義、インクルーシブ教育等）	
	この回の到達目標	到達目標5 発達障害の定義と教育の支援について、インクルーシブ教育という観点から理解して、説明できる。	
	事前学修	文科省HPから発達障害に関する資料をダウンロードして、現代日本のインクルーシブ教育の現状についてまとめるとともに、教科書の該当の章を読む。	120分
	事後学修	インクルーシブ教育が一般の児童生徒に対して持つ影響を考えてまとめる。	120分
15	学級という社会	学級という社会（教師のリーダーシップ、学級雰囲気、生徒の人間関係等）	
	この回の到達目標	到達目標4 学級という社会の特徴について、生徒個人の視点、生徒個人と学級という集団という視点から理解して、教師として学級運営、教育支援等の提案ができる。	
	事前学修	学級という社会の特徴について、教科書の該当の章を読み、まとめる。	120分
	事後学修	「学級という社会」の特徴と、その特徴が教師と児童生徒に与える影響をまとめる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅰ	担当者	上野山 晃弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得する。具体的には、倫理学に関する幅広い知識と思考力を修得するために、主に西洋思想と日本思想における主要な倫理学説の意味とその現代的意義について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得するために、主に西洋思想と日本思想における主要な倫理学説の意味を深く理解し、さらに自主創造の理念のもとで現代社会の諸問題について倫理的な観点から自ら考察できるようになる。

【履修条件】
教職をめざす学生、または倫理学に深い関心と学修意欲をもつ学生。この授業では、毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出を重視するため、積極的な参加が求められる。

【授業方法】
講義形式を中心に行う。また、授業内課題（リアクションペーパー）への取り組みも重視する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題（リアクションペーパー）への能動的な取り組みと解答例の紹介・解説等を通じて、自主的な思考力の養成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学説の知識を修得した上で、その意味を深く理解し、説明することができる。【知識】												
②	現代社会の諸問題を倫理的な観点から考察し、問題解決に向けて独自の考えを創造することができる。【技能】												
③	現代社会の諸問題について深い関心をもち、議論することができる。【態度・習慣】												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内課題（リアクションペーパー）により、到達目標①に関わる倫理学説の知識を修得できているか、到達目標②③に関わる現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	15	15	15								45
レポート等	レポート課題により、到達目標①に関わる倫理学説の知識を修得できているか、到達目標②③に関わる現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	20	20	15								55
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に課題の出題意図の説明や解答例の解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『もういちど読む山川倫理』	小寺聡（編）	山川出版社	2011	参考書	推奨
備考	授業時に資料を配布する。				

【オフィスアワー】
時間帯：水曜14:30～15:10（事前にアポイントメントを取ること）、場所：授業講堂（またはオンライン）。メールアドレス：uenoyama.akihiro11■nihon-u.ac.jp（■は@に置き換えて送信して下さい）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	導入 倫理学を学ぶ意義について	倫理学を学ぶ意義について学修する。また、シラバスの内容について詳しい解説を行う。それによって受講生は、授業計画を把握し、授業準備をスムーズに行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倫理学がどのような学問か、また倫理学を学ぶ意義について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、現代社会において生じている倫理的諸問題について調査・考察する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、倫理学を学ぶ意義についてさらに深く考察する。		120分
2	西洋思想と倫理（１）ソクラテス・プラトン	ソクラテス・プラトンの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
3	西洋思想と倫理（２）アリストテレス	アリストテレスの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
4	西洋思想と倫理（３）デカルト	デカルトの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
5	西洋思想と倫理（４）カント	カントの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
6	西洋思想と倫理（５）ヘーゲル	ヘーゲルの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	西洋思想と倫理（６）ニーチェ	ニーチェの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
8	西洋思想と倫理（７）ハイデガー	ハイデガーの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
9	日本思想と倫理（１）親鸞	親鸞の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
10	日本思想と倫理（２）道元	道元の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
11	日本思想と倫理（３）西田幾多郎	西田幾多郎の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
12	日本思想と倫理（４）和辻哲郎	和辻哲郎の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現代社会の倫理的課題	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
14	理解度の確認とまとめ	理解度の確認と解説を行う。それによって受講生は、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義を明確に表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
15	総括	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、議論を通して自らの考察をさらに深めることができる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅰ	担当者	金子 佳司	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
この授業では、倫理学という学問を生んだ古代ギリシア哲学の中の倫理思想、西洋倫理に大きな影響を与えたキリスト教の倫理思想、それらを継承しつつも新たな展開を見せた西洋近代の倫理思想を学びます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、高校公民科および中学社会科公民的分野の指導に必要な倫理学の知識を身につけ、倫理学上の問題を理解することを目的としています。また、それらの問題に関する学説を説明することができるとともに、自分でもそれらの問題について考えることができるようになることが目標です。

【履修条件】
高校公民科および中学社会科の教職を目指す学生。または、それと同等の能力を身につけたいと考えている学生。

【授業方法】		
毎回、授業の動画ファイルを配信しますが、それと同時に文書のファイルも配信しますので、まず、文書ファイルを読んで予習し、その上で動画の授業を受けてください。また、毎回、簡単な課題を出しますので、授業後には、授業内容を踏まえて課題に答え、提出してください。この課題の解答の提出をもって出席と見なします。		
アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)													
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力					
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力					
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力					
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
							A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学上の問題についての様々な考えや基本的な知識を理解し、説明することができる。												
②	倫理学上の問題について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。												
③	様々な倫理的立場を比較検討し、倫理学上の問題を自ら考察することができる。												
④													
⑤													
⑥													
⑦													
⑧													
⑨													
⑩													

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回課す課題の解答の提出をもって評価する。	20	10	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解答については、必要がある場合には随時個々に、GoogleClassroom上でコメントする。また、試験の解説・講評を、後日、GoogleClassroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書 名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もういちど読む山川倫理	小寺聡	山川出版	2011	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
GoogleClassroomのコメント欄で随時受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	公民と倫理学	「公民とは誰か」を考える。また、倫理学(ethica/ethics)という学問の成立について学ぶ。	
	この回の到達目標	公民とはどういう人間のことであるか、倫理学(ethica/ethics)という学問がどのようにして成立したかを理解する。	
	事前学修	このシラバス全体を読み、授業の概要を理解する。また、予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
2	ソフィストとソクラテス	古代ギリシアのソフィストとソクラテスの考え方と生き方を比較する。	
	この回の到達目標	ソフィストとソクラテスの考え方と生き方の違いを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
3	プラトンの国家論	プラトンが理想の国家をどのようなものだと考えたかを学ぶ。	
	この回の到達目標	プラトンの正しい国家こそが人々を幸福にするという考えを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
4	アリストテレスの倫理思想	「倫理学」という学問を成立させたアリストテレスの倫理思想を学ぶ。	
	この回の到達目標	アリストテレスの考える幸福とは何か、徳（人間としての優秀性）とは何かを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
5	エピクロスとストア派の倫理思想	エピクロスの快楽主義とストア派の禁欲主義を学ぶ。	
	この回の到達目標	エピクロスの求めた快楽とはどのようなものか、ストア派がなぜ幸福を得るために欲望や感情を抑えようとしたのかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
6	キリスト教の倫理思想	キリスト教のアガペー(愛)の思想を学ぶ。	
	この回の到達目標	キリスト教が求めたアガペーとはどのような愛であるかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	キリスト教の宗教改革	ルターとカルヴァンによるキリスト教の宗教改革について学ぶ。	
	この回の到達目標	ルターやカルヴァンの宗教改革の背後にある宗教思想を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
8	デカルトの人間観	デカルトの近代的人間観を学ぶ。	
	この回の到達目標	デカルトの「我思うゆえに我あり(＝私は思考する、だから私は存在する)」という言葉の中の「我（私）」とはどのような人間なのかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
9	ホッブズとロックの社会契約説	ホッブズとロックの社会契約説に見られる人間観と国家観を学ぶ。	
	この回の到達目標	ホッブズとロックのそれぞれの人間観とそれに基づくそれぞれの国家観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
10	ルソーの社会契約説	ホッブズとロックとは異なるルソーの社会契約説を学ぶ。	
	この回の到達目標	ルソーの近代文明社会への批判と彼の目指す理想国家を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
11	カントの義務論	カントの幸福主義批判と彼の義務論を学ぶ。	
	この回の到達目標	カントがどんな理由で幸福主義（人生の目的を幸福の追求だと考える立場）を批判し、義務（人間としてなすべきこと）を中心とした倫理学説を唱えたかを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
12	ベンサムとミルの功利主義	ベンサムとミルの「最大多数の最大幸福」の実現を目指す功利主義を学ぶ。	
	この回の到達目標	ベンサムとミルの功利主義思想を理解すると同時に、この思想に含まれる問題点（「最大多数の最大幸福」を追求することの問題点）も理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	アダム・スミスの道徳感情論	道徳的判断は理性ではなく感情に基づくと考えるアダム・スミスの道徳感情論を学ぶ。	
	この回の到達目標	アダム・スミスの理性主義（善悪は理性で判断するという立場）への批判を理解し、道徳的判断は感情に基づくと考える彼の立場を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
14	ヘーゲルの人倫思想	ヘーゲルの人間と共同体（家族・市民社会・国家）の関係についての考えを学ぶ。	
	この回の到達目標	ヘーゲルの考える家族・市民社会・国家のあり方を、人間の生き方との関係において理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
15	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
	この回の到達目標	この授業全体を振り返って、西洋の倫理思想の概要と主要な学説を理解する。	
	事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分

科目名	倫理学概論Ⅱ	担当者	上野山 晃弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP＝ディプロマ・ポリシー：学位授与に関する方針) (CP＝カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得する。具体的には、倫理学に関する幅広い知識と思考力を修得するために、主に社会思想と宗教思想における主要な倫理学説の意味とその現代的意義について学修する。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
「中学校社会」および「高等学校公民」の指導に必要な倫理的な基礎知識と思考力を修得するために、主に社会思想と宗教思想における主要な倫理学説の意味を深く理解し、さらに自主創造の理念のもとで現代社会の諸問題について倫理的な観点から自ら考察できるようになる。

【履修条件】
教職をめざす学生、または倫理学に深い関心と学修意欲をもつ学生。この授業では、毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出を重視するため、積極的な参加が求められる。

【授業方法】
講義形式を中心に行う。また、授業内課題（リアクションペーパー）への取り組みも重視する。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有	
アクティブ・ラーニングの形態	授業内課題（リアクションペーパー）への能動的な取り組みと解答例の紹介・解説等を通じて、自主的な思考力の養成する。	

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)									
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力					
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力					
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力					
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力					
達成されるべき具体的行動			関連するルーブリック評価項目の達成レベル						
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7
①	倫理学説の知識を修得した上で、その意味を深く理解し、説明することができる。【知識】								
②	現代社会の諸問題を倫理的な観点から考察し、問題解決に向けて独自の考えを創造することができる。【技能】								
③	現代社会の諸問題について深い関心をもち、議論することができる。【態度・習慣】								
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)												
小テスト等	授業内課題（リアクションペーパー）により、到達目標①に関わる倫理学説の知識を修得できているか、到達目標②③に関わる現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	15	15	15								45
レポート等	レポート課題により、到達目標①に関わる倫理学説の知識を修得できているか、到達目標②③に関わる現代社会の倫理的諸問題に対する独自の考察を表現できているかについて確認する。	20	20	15								55
討論・発表等												
授業への参画度												
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		35	35	30								100

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内に課題の出題意図の説明や解答例の解説等を行う。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
『もういちど読む山川倫理』	小寺聡（編）	山川出版社	2011	参考書	推奨
備考	授業中に適宜資料を配布する。				

【オフィスアワー】
時間帯：水曜14:30～15:10（事前にアポイントメントを取ること）、場所：授業講堂（またはオンライン）。メールアドレス：uenoyama.akihiro11■nihon-u.ac.jp（■は@に置き換えて送信して下さい）

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。				
回数	テーマ	内 容		
1	導入 倫理学を学ぶ意義について	倫理学を学ぶ意義について学修する。また、シラバスの内容について詳しい解説を行う。それによって受講生は、授業計画を把握し、授業準備をスムーズに行うことができる。		
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、倫理学がどのような学問か、また倫理学を学ぶ意義について理解し、説明することができる。		
	事前学修	シラバスの内容を熟読し、現代社会において生じている倫理的諸問題について調査・考察する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、倫理学を学ぶ意義についてさらに深く考察する。		120分
2	社会思想と倫理（１）ミル	ミルの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
3	社会思想と倫理（２）アーレント	アーレントの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
4	社会思想と倫理（３）ハーバーマス	ハーバーマスの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
5	社会思想と倫理（４）ロールズ	ロールズの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分
6	宗教思想と倫理（１）ユダヤ教	ユダヤ教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。		
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。		
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。		120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。		120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	宗教思想と倫理（２）キリスト教	キリスト教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
8	宗教思想と倫理（３）イスラーム	イスラームの倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
9	宗教思想と倫理（４）仏教	仏教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
10	宗教思想と倫理（５）儒教	儒教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
11	宗教思想と倫理（６）道教	道教の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
12	宗教思想と倫理（７）神道	神道の倫理学説について学修する。また、授業内課題（リアクションペーパー）を通じて、その現代的意義について考察を行う。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今回学修する倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する。	120分
	事後学修	授業内容について復習し、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	現代社会の倫理的課題	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
14	理解度の確認とまとめ	理解度の確認と解説を行う。それによって受講生は、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義を明確に表現できるようになる。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、倫理学説の要点とその現代的意義について説明できるようになる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分
15	総括	今学期に学修した知識を活用しながら、現代社会の倫理的課題について分析・考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③に関連して、今学期の学修内容をふりかえり、議論を通して自らの考察をさらに深めることができる。	
	事前学修	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する。	120分
	事後学修	今学期の授業全体をふりかえり、授業内課題に対する自分自身の考えをさらに発展させる。	120分

科目名	倫理学概論Ⅱ	担当者	金子 佳司	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
				授業時間数	90分×15回		必修選択		

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8

【授業の概要】
この授業では、仏教や儒教などの東洋の倫理思想、それらの東洋思想や西洋思想の影響を受けた日本の倫理思想、マルクス主義や実存主義に代表される現代の倫理思想を学びます。

【授業の目的】(General Instructional Objective:GIO 一般目標)
この授業では、高校公民科および中学社会科公民的分野の指導に必要な倫理学の知識を身につけ、倫理学上の問題を理解することを目的としています。また、それらの問題に関する学説を説明することができるとともに、自分でもそれらの問題について考えることができるようになることが目標です。

【履修条件】
高校公民科および中学社会科の教職を目指す学生。または、それと同等の能力を身につけたいと考えている学生。

【授業方法】
授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	無	
アクティブ・ラーニングの形態		

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives:SBOs 個別行動目標)										
ルーブリック評価項目の内容		A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観				A-5	挑戦力		
		A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力				A-6	コミュニケーション力		
		A-3	論理的・批判的思考力				A-7	リーダーシップ・協働力		
		A-4	問題発見・解決力				A-8	省察力		
達成されるべき具体的行動							関連するルーブリック評価項目の達成レベル			
							A-1	A-2	A-3	A-4
①	倫理学上の問題についての様々な考えや基本的な知識を理解し、説明することができる。									
②	倫理学上の問題について、実生活や実社会との接点を把握し、その有効性や問題点を指摘し、説明することができる。									
③	様々な倫理的立場を比較検討し、倫理学上の問題を自ら考察することができる。									
④										
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の 比率(%)
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
試験(定期試験／ 授業内試験)	到達目標①、②、③の能力が身についているかを、筆記試験により評価する。	20	10	20								50
小テスト等												
レポート等												
討論・発表等												
授業への参画度	毎回課す課題の解答の提出をもって評価する。	20	10	20								50
その他()												
その他()												
その他()												
到達目標別の比率(%)		40	20	40								100

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の解答については、必要がある場合には随時個々に、GoogleClassroom上でコメントする。また、試験の解説・講評を、後日、GoogleClassroomにて配信する。

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
もういちど読む山川倫理	小寺聡	山川出版	2011	参考書	推奨
備考					

【オフィスアワー】
GoogleClassroomのコメント欄で随時受け付ける。

【実務経験を活かした実践的教育について】			
担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容	
実務経験に基づく実践的教育の内容			

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
1	仏教の世界観	仏教の世界観について学ぶ。	
	この回の到達目標	仏教の因縁生起の世界観（すべての物事は関係によって成り立っているという世界観）を理解する。	
	事前学修	このシラバス全体を読んで、授業の概要を理解する。また、予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
2	仏教の人生観	仏教の人生観について学ぶ。	
	この回の到達目標	仏教では人生は苦しいものだと考えられているが、なぜ人間は苦しむのか、またどうしたら苦しみから逃れられるのかという問題に対する仏教の考えを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
3	儒教思想と老荘思想	古代中国の儒教思想と老荘思想について学ぶ。	
	この回の到達目標	人々をまとめ国を治めようとした孔子の思想を理解した上で、孟子の性善説と荀子の性悪説の違いを理解する。自然に従うことを大切だと考えた老子と荘子の思想を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
4	朱子学と陽明学	朱子学と陽明学の思想を比較する。	
	この回の到達目標	朱子学の理気二元論と陽明学の朱子学批判を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
5	日本古来の思想と古代日本の仏教思想	日本古来の思想と古代日本の仏教思想を学ぶ。	
	この回の到達目標	外来思想が伝わる以前の日本固有の思想と奈良・平安時代の仏教思想を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
6	鎌倉仏教	鎌倉時代の仏教思想を学ぶ。	
	この回の到達目標	法然や親鸞の浄土信仰の思想、栄西や道元の禅宗の思想、日蓮の思想を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
7	儒教と国学	江戸時代の儒教と国学について学ぶ。	
	この回の到達目標	江戸時代に日本に広まった朱子学と陽明学の思想と国学の思想を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
8	近代日本の思想	近代日本の思想について学ぶ。	
	この回の到達目標	仏教や儒教などの東洋思想を受け継ぎながらも、新たに西洋思想を受け入れた福沢諭吉や和辻哲郎などの近代日本の思想を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
9	マルクス主義	マルクスの社会主義について学ぶ。	
	この回の到達目標	現代社会に大きな影響を与えたマルクスの社会観と歴史観を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
10	実存主義	サルトルの「実存は本質に先立つ」「人間は自由の刑に処せられている」という言葉の意味を考え、実存主義に基づく人生観を学ぶ。	
	この回の到達目標	マルクス主義とともに現代社会に大きな影響を与えたサルトルの実存主義思想を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
11	アーレント	アーレントの公共論について学ぶ。	
	この回の到達目標	アーレントの近代社会への批判と彼女の公共論を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
12	ロールズ	ロールズのリベラリズム（自由主義）について学ぶ。	
	この回の到達目標	ロールズの功利主義批判と彼の正義論を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。			
回数	テーマ	内 容	
13	ロールズ批判	ノージックとサンデルによるロールズ批判を学ぶ。	
	この回の到達目標	ロールズのリベラリズムの問題点を理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
14	生命倫理学	科学技術の進歩による新たな倫理問題を学ぶ。	
	この回の到達目標	科学技術が進歩すると新たな倫理問題が生まれることを理解する。	
	事前学修	予習用の文書ファイルを読む。	120分
	事後学修	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、課題に答えるとともに、次回の授業につなげる。	120分
15	総まとめ	授業の総まとめと理解の確認	
	この回の到達目標	この授業全体を振り返って、東洋思想、日本思想、現代思想の概要を理解する。	
	事前学修	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。	120分
	事後学修	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。	120分